

授業テーマ:	新約聖書概論		
授業の概要:	キリスト教の思想と信仰内容は、現代を生きる私たちにとってどのような意味を持っているのでしょうか。「聖書A」という科目は、「聖書B」と共に、同志社女子大学の建学の精神であるキリスト教思想の内容を、本学における導入期教育(カリキュラム)の一環として提供し、その底に流れる中心的メッセージについて、現代の視点から考えようとする科目です。同志社の創立者である新島襄や、彼と共に「一国の良心」たる人物の養成のために働いた初期卒業生たちの思想と行動の意味についても触れることとなります。同志社の礎を築いた人々の精神的遺産を大切に、これを適切に継承することは同志社のこれからの歴史に関わろうとする学生にとって意味深いものとするからです。		
到達目標:	(1) 現代人にとっての宗教とは何か、宗教の意味とは何かについて考察します。 (2)新島襄と同志社建学の精神について理解します。 (3)「聖書」とはどのような書物か、聖書の時代史と風土や文化など成立の背景について理解します。 (4)新約諸文書の成立経緯を理解します。 (5)福音書に描かれたイエスとその思想の今日的意味について考察します。		
授業方法:	原則として講義が中心となります。ただし、できるだけ講義に沿ったテーマについて受講生との対話ができるように工夫します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. 現代人と宗教1	日常生活と宗教との関わりについて考えてくる	
	3. 現代人と宗教2	宗教が関わる世界のニュースを調べてくる	
	4. 同志社建学の精神1	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	5. 同志社建学の精神2	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	6. 同志社建学の精神3	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	7. 同志社建学の精神4	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	8. 聖書の時代史	「聖書A: 参考文献表」から事前に指示された箇所について理解を深めてくる	
	9. 聖書の背景	「聖書A: 参考文献表」から事前に指示された箇所について理解を深めてくる	
	10. 新約諸文書の成立とその内容	「聖書A: 参考文献表」から事前に指示された箇所について理解を深めてくる	
	11. 福音書に描かれた「イエス像」1	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく	
	12. 福音書に描かれた「イエス像」2	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく	
	13. 福音書に描かれた「イエス像」3	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく	
	14. 福音書に描かれた「イエス像」4	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	同志社でのキリスト教教育は、たんなる社会的規範を教える教育ではありません。同志社は、その創立の当初から、責任を伴った自由の教育を「同志社のリベラリズム」としてその理念の柱に据え、神のもとでの良心を涵養することを大切にしてきました。こうした同志社のリベラリズムは、基本的には聖書の学びの方法論に由来するものだったと思われます。本学の「聖書」は、このような同志社の建学の理念と精神を念頭に置きながら、聖書と時代史、風土との関わり、文化との接点等、人間をめぐる諸問題について、聖書のメッセージがどのように受けとめられてきたか、それが現代に生きる私たちにどのような意味を持ちうるのか、といった点に焦点を当てて考察を進めます。受講生には、聖書の時代史が語りかけるメッセージを現代の視点から問い直す作業が期待されます。心の問題も含めて、人間や歴史や世界に対する幅広い問題意識をもって授業に臨んでください。		
	なお、各回の授業内容の詳細は各担当者が初回の授業で説明します。また、担当者の関心や専門性、受講生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説するか、あるいは可能な範囲でコメントを共有します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	50	到達目標(1)～(5)に関する知識や理解度により評価する。
	平常点	50	クラスへの出席とレポート授業への積極的参加度により評価する 具体的な運用は担当教員が決めますが、おおむね以上のような形で総合的に評価します。なお詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します。
教科書:	『聖書』(『新共同訳聖書』が望ましい)		
参考書:	春学期始めに配布される「聖書 A科目 参考文献表」の中から2冊以上を読了し、授業内容の理解を深めてください。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、		
教員との連絡方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します。		

授業テーマ:	旧約聖書概論		
授業の概要:	「聖書B」は、新約聖書を生み出した思想的背景としての旧約聖書の内容について考察する科目です。旧約聖書の思想は、古代イスラエル民族の歴史から生み出された思想です。紀元前千数百年という時代に、中近東に位置した時間的にも空間的にも遠く隔たった民族の思想と歴史から、私たち現代人がいったい何を学び取ることができるでしょうか。旧約聖書の文学的スタイルには散文あり詩あり、格言や比喩、物語、恋歌、哀歌あり、多種多様ですが、そこに主張され問いかけられているメッセージには、意外なほど現代的なセンスがあつて私たち現代人が見失っている視点を再認識させてくれるところがたくさんあります。旧約聖書が語るメッセージを、物語や法文書、預言や黙示、詩編といった各ジャンルから選び出し、現代の視点から考察することをこの授業の課題とします。		
到達目標:	(1)旧約聖書の「聖書」における位置と意味について考察します。 (2)旧約聖書を生み出した古代オリエントの歴史的、風土的背景について考えます。 (3)旧約聖書の人々の歴史観や世界観、人間観について触れ、現代に生きる私たちとの思想的接点について考察します。		
授業方法:	原則として講義が中心となります。ただし、できるだけ講義に沿ったテーマについて受講生との対話ができるように工夫します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	2. 聖書における「旧約聖書」	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	3. 旧約聖書と新約聖書Ⅰ	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	4. 旧約聖書と新約聖書Ⅱ	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	5. 旧約聖書の風土	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	6. 旧約聖書の歴史的背景Ⅰ	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	7. 旧約聖書の歴史的背景Ⅱ	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる	
	8. 旧約聖書の歴史観・世界観・人間観Ⅰ	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく	
	9. 旧約聖書の歴史観・世界観・人間観Ⅱ	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく	
	10. 旧約聖書の歴史観・世界観・人間観Ⅲ	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく	
	11. 預言者の思想・歴史観・人間観Ⅰ	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく	
	12. 預言者の思想・歴史観・人間観Ⅱ	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく	
	13. 旧約聖書と諸宗教	キリスト教以外の宗教にも関心を深めてくる	
	14. 旧約聖書と現代	現代世界における諸問題と聖書の世界観との関係について考察を深めてくる	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	同志社でのキリスト教教育は、たんなる社会的規範を教える教育ではありません。同志社は、その創立の当初から、責任を伴った自由の教育を「同志社のリベラリズム」としてその理念の柱に据え、神のもとでの良心を涵養することを大切にしてきました。こうした同志社のリベラリズムは、基本的には聖書の学びの方法論に由来するものだったと思われます。本学の「聖書」は、このような同志社の建学の理念と精神を念頭に置きながら、聖書と時代史、風土との関わり、文化との接点等、人間をめぐる諸問題について、聖書のメッセージがどのように受けとめられてきたか、それが現代に生きる私たちにどのような意味を持ちうるのか、といった点に焦点を当てて考察を進めます。受講生諸姉には、聖書の時代史が語りかけるメッセージを現代の視点から問い直す作業が期待されます。心の問題も含めて、人間や歴史や世界に対する幅広い問題意識をもって授業に臨んでください。		
	なお、各回の授業内容の詳細は各担当者が初回の授業で説明します。また、担当者の関心や専門性、受講生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説するか、あるいは可能な範囲でコメントを共有します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	50	到達目標(1)～(3)に関する知識や理解度により評価する
	平常点	50	クラスへの出席とレポート、授業への積極的参加度により評価する。 具体的な運用は担当教員が決めますが、おおむね以上のような形で総合的に評価します。なお詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します。
教科書:	『聖書』(『新共同訳聖書』が望ましい)		
参考書:	学期始めに配布される「聖書B: 参考文献表」の中から2冊以上を読了し、授業内容の理解を深めてください。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します。		

授業テーマ:

20世紀におけるユダヤ教・キリスト教思想家たちの生涯とその思想

授業の概要:

20世紀に生きた6名の人物の生涯と思想を紹介する。彼ら前世紀のユダヤ教・キリスト教の思想家たちの思想は、今日の私たちにとても、さまざまな重要性を持っている。彼らの思索の後を辿ることは、21世紀に生きる私たちに対して、多くの示唆を与えてくれることになるであろう。また聖書を多用することで、一回生の諸君にも、気軽に聖書の思想にも親しんでもらいたいと考えている。

到達目標:

20世紀のユダヤ教・キリスト教の思想家たちの思想を理解し、その今日的意義を知ることを目標にしている。

授業方法:

担当者が準備したハンドアウトなどをもとに、講義形式で行う。基本的に毎回の授業では視聴覚教材等を用い、授業内容をより理解していただくことを考えている。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	フェミニスト神学 1 旧約聖書におけるジェンダーの問題	シラバスを読み、関心事や問題点などを整理しておくこと
2.	フェミニスト神学 2 新約聖書におけるジェンダーの問題	今回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
3.	フェミニスト神学 3 エリザベス・シュスラー・フィオルンツァ(1938-)の視点	今回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
4.	フェミニスト神学 4 今日における課題	今回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
5.	ルドルフ・ブルトマン(1884-1976)の思想 1 新約聖書における「非神話化」と史的イエスの問題	今回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
6.	ルドルフ・ブルトマンの思想 2 「共観福音書伝承史」における問題	今回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
7.	カール・バルト(1886-1968)の生涯とその神学的特徴について	紹介するテーマについて考察し、問題点などを整理しておくこと
8.	カール・バルトの思想 「教会教義学」より三一論(三位一体)について	今回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
9.	ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタイン(1889-1951)の生涯と思想的特徴	紹介するテーマについて考察し、問題点などを整理しておくこと
10.	ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインの思想 「論理哲学論考」、「哲学探究」より「言語ゲームSprachspiel」の意味など	今回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
11.	ハンナ・アーレント(1906-1975)の生涯と思想的特徴	紹介するテーマについて考察し、問題点などを整理しておくこと
12.	ハンナ・アーレントの思想 1 「アウグスティヌスの愛の概念」における愛の問題	紹介するテーマについて考察し、問題点などを整理しておくこと
13.	ハンナ・アーレントの思想 2 「全体主義の起源(起源)」、「イェルサレムのアイヒマン」などにおける全体主義、悪の問題	紹介するテーマについて考察し、問題点などを整理しておくこと
14.	マーティン・ルーサー・キング(1929-1968)の生涯と思想 「私には夢がある!」、非暴力・不服従	今回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
15.	まとめ	問題点などを整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

20世紀のユダヤ教・キリスト教の思想家たちの思想は、今日の私たちにとても、さまざまな重要性を持っている。半年間、前世紀の思想家たちの思索の世界を、共に旅しましょう。

フィードバックの方法:

授業中はもちろん、感想のレポートなどに示された疑問、質問などに答えるかたちでしっかりとフィードバックしたいと考えている。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	学期末試験	50	紹介した思想家たちの思想に関する知識や理解度により評価する。
	授業レポート	30	授業内容に関しての意見・質問等をしっかりと記すこと。
	宿題レポート	20	授業で指示した内容に関して、しっかりと準備していただきたい。

教科書:

日本聖書協会訳 「新共同訳聖書」(日本聖書協会)

参考書:

絹川 久子(著) 「ジェンダーの視点で読む聖書」 日本基督教団出版局 2002年

フィリス・トリブル(著), 絹川 久子その他 (翻訳) 「フェミニスト視点による聖書読解入門」(新教新書) 新教出版社 2002年
E.S.フィオルンツァ(著), 山口 里子(翻訳) 「彼女を記念して―フェミニスト神学によるキリスト教起源の再構築」 日本基督教団出版局 1990年

R.ブルトマン(著), 飯 峯明, 橋本 滋男(翻訳) 「史的イエスとキリスト論」(宗教思想選書5) 理想社 1965年
カール バルト (著), 天野 有(翻訳) 「教会と国家(1)『赤い牧師』・『弁証法神学』時代から反ナチズム・教会闘争時代へ」(バルト・セレクション) 文庫 新教出版社 2011年
鬼界 彰夫(著) 「ウィトゲンシュタインはこう考えた―哲学的思考の全軌跡1912-1951」(講談社現代新書) 講談社 2003年
ハンナ・アーレント(著), 千葉 真(翻訳) 「アウグスティヌスの愛の概念」 みすず書房 2002年
仲正 昌樹 (著) 「今こそアーレントを読み直す」(講談社現代新書) 新書 講談社 2009年
M.L.キング(著), クレイボーン・カーソン, クリス・シェパード(編集), 梶原 寿(翻訳) 「M.L.キング説教・講演集『私には夢がある』」 新教出版社 2003年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

連絡に関しては、メールアドレスを授業初回にお知らせする。

授業テーマ:

20世紀キリスト教世界を舞台として活躍した、世の良心たる人々の群像

授業の概要:

予習よりも復習を第一に考えてください。講義配布の資料の熟読だけでなく、講義でとりあげた書物、講義中の案内に従って関係する文献に必ず目通ししておいてください。

到達目標:

20世紀は、二度の世界大戦を通じ、世界秩序が一大転換をとげた時代でした。同時に、世界規模の経済危機・国家間の対立と交通・情報社会の加速的発展に伴い、キリスト教も一国家・一地域に留まらず、国際的な展望の下での平和的連帯と諸宗教との共存を一層要請されるにいたりました。その影響は、21世紀の現在にも深く及んでいます。本講義では、そのような「大転換の時代」にあって、キリスト教と関わりながら、人間の生き方をめぐる新しい地平の開拓にあたって貢献した、7名の人物の生涯と思想を概観します。本講義担当者は、各々の著作を紹介することを通じて、学生諸姉が実社会へ漕ぎ出すにあたり、人としての歩みを見失わないための、いわば「希望の星」を示したいと考えています。具体的目標としては、担当者が紹介する書物の幾つかを、受験生自らが進んで手にとり、単なる思想の受容に留まらず、生き方に触れる点が、本講義の目標です。

授業方法:

担当者が準備した資料レジュメに則しつつ、キーワードを適宜板書するという、至極一般的な講義形式で行う。場合によっては視聴覚教材を用い、講義内容を、一層リアルに体感して頂くことも考えている。レジュメには紹介した思想家の一次文献を可能な限り紹介し、学生諸姉の主体的な事後学習を支援する。受講生は必ずノートと配布資料保存のファイルを準備すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ルドルフ・ブルトマン(1884-1976)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
	2. ブルトマンの思想-新約聖書の「非神話化」の試み-	プリントおよび指定図書の熟読。
	3. カール・バルト(1886-1968)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
	4. バルトの思想-弁証法神学思想からイエス・キリストへの凝視と服従にいたる道-	プリントおよび指定図書の熟読。
	5. シモーヌ・ヴェーユの生涯(1909-1943)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
	6. ヴェーユの思想-『工場日記』他を通じて-	プリントおよび指定図書の熟読。
	7. ディートリッヒ・ボンヘッファー(1906-1945)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
	8. ボンヘッファーの思想-『共に生きる生活』他を通じて-	プリントおよび指定図書の熟読。
	9. ハンナ・アーレント(1906-1975)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
	10. アーレントの思想-『全体主義の起源』他を通じて-	プリントおよび指定図書の熟読。
	11. マーティン・ルーサー・キング(1929-1968)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
	12. キングの思想-「私には夢がある!」非暴力・不服従への道-	プリントおよび指定図書の熟読。
	13. マザー・テレサ(1910-1997)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
	14. マザー・テレサの思想-「愛が行為で示されるならば、私の愛をどうやって見せたらよいでしょう?」-	プリントおよび指定図書の熟読。
	15. 講義で扱った思想家の生き方に共通する事柄をめぐって話し合い(予定)	プリントおよび指定図書の熟読。

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義の内容が難しいといって受講を諦めるのではなく、不明な点や質問があれば教員に食い下がってでも質問してください。

フィードバックの方法:

レポートには教室で解説をいたします。出席カードに質問を書いてくだされば、講義の中で回答します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	記述式にて行う。400字の問題を二題。60分以内に作成。講義を踏まえておらず、かつ日本語として成立していなければ大幅に減点する。
	レポート	20	提出期日厳守の上で教務課まで表紙をつけて提出。2000字以上で講義を踏まえていることが前提。関連書籍を少なくとも一冊は熟読した上で作成のこと。

教科書:

聖書、新共同訳。
講義の最中に配布するオリジナルの資料をもって教科書とする。

参考書:

笠井恵二著、「ブルトマン」、『人と思想46』、清水書院、1991。
クーピッシュ著、宮田光雄、村松恵二訳、「カール・バルト」、『現代思想の源泉2』、新教出版社、1994。
富原真弓著、「ヴェーユ」、『人と思想107』、清水書院1992。
村上伸著、「ボンヘッファー」、『人と思想92』、清水書院1991。
太田哲男著、「ハンナ＝アーレント」、『人と思想180』、清水書院2001。
梶原壽著、「マーティン＝ルーサー＝キング」、『人と思想104』、清水書院1991。
和田町子著、「マザー＝テレサ」、『人と思想44』、1994。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

電子メールにてお願いします。 reisberg1223@gmail.com

授業テーマ:

どっちかと言えば教会音楽史に関する講義である。
キリスト教の歴史を音楽の面から見つめ直す試み。初代教会音楽から掘り起こし、現在まで連綿と続く流れを映像や音響機器を用いて眺めていく。

授業の概要:

歌うことは祈ることであるというグレゴリオ聖歌以来の伝統を受け継いだ教会音楽について取り扱う。
キリスト教の母体であるユダヤ教の音楽から、オーソドクス、カトリック、さらにはプロテスタントや聖公会の教会音楽への流れを時代ごとにどのように変遷していったかを概観する。

到達目標:

せめてミサ通常文とミサ固有文の違いについて認識してもらいたい。

授業方法:

資料が多数に渡るので、配布された資料を確認しつつ授業を進めていく。
資料はペーパーだけではなく、音源なども駆使していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	宗教について	キリスト教についての解説
2.	三大宗派(オーソドクス、カトリック、プロテスタント)の違いについて	各宗派の儀式、聖職者の衣服、言語などについて
3.	カトリックのミサ	通常文と固有文 聖務日課
4.	ミサの構造	通常文と固有文の内容
5.	グレゴリオ聖歌	成立、旋律、言語、読み方
6.	中世のミサ曲	単旋律聖歌 ノートルダム楽派
7.	ルネッサンス時代のミサ曲1.	フランドル楽派
8.	ルネッサンス時代のミサ曲2.	ローマ楽派
9.	バロック時代のミサ曲	声楽と器楽
10.	プロテスタントの教会音楽	讃美歌
11.	反宗教改革の動き	カトリック教会の活動
12.	もうひとつの宗教改革	イングランドの教会音楽
13.	古典派のミサ曲1	演奏会用のミサ曲
14.	古典派のミサ曲2	ハイドンの教会音楽
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

講義内で説明する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席日数	60	一回出席で4点
	レポート	40	レポートの長さ、内容进行评估。毎回提出。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	賛美歌の役割と賛美の効用		
授業の概要:	賛美歌は「讃美歌21」だけでも、数百年前から現代までの24原語からなる約600曲が収録されており、現在も作り続けられています。キリスト教(特にプロテスタント)では賛美歌を歌うことを大切にしていますが、なぜでしょうか？ 賛美歌は歌わなければ、本当の意味を知ることができません。この授業では、賛美歌を実際に歌い親しみながら、それぞれの賛美歌の持つ歴史的、文化的背景を探ります。そして、賛美することを通して得られる心への効用についても考えます。 また、CDや実演を通して、賛美歌に関連する音楽や楽器(主にパイプオルガン)についても学びます。		
到達目標:	・賛美歌を通して、キリスト教を理解する。 ・それぞれの賛美歌の背景を知ることにより、キリスト教のみならず音楽、歴史等、様々な文化について関心を深め、見識を広げる。 ・賛美歌を歌えるようになる。また共に歌うことによって得られる効用を感じ取る。		
授業方法:	各回のテーマや取り上げる賛美歌に関する講義に加え、関連するCD等を聴く。毎回数曲の賛美歌を練習し、出来るだけパイプオルガンの伴奏で歌う。基本的には「讃美歌21」を用いるが、必要に応じてプリントを配布する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 賛美歌とは？: 讃美歌21について 2. これも賛美歌だった: どこかで聞いたことがある賛美歌 3. クラシックの名曲と賛美歌 4. 邦人の作詞や作曲による賛美歌 5. コラールと賛美歌 6. 詩編による賛美歌 7. キリスト教諸式(主に結婚式)と賛美歌及び歌唱発表の準備 8. 歌唱発表: 今までに歌った賛美歌の中から、パイプオルガン伴奏でグループごとに発表する 9. キリスト教教会歴と賛美歌(1) 10. キリスト教教会歴と賛美歌(2) 11. キリスト教教会歴(3)と行事歴の賛美歌 12. 共同体の賛美歌 13. アジア、アフリカの民謡等による賛美歌、アフロ・アメリカン・スピリチュアル 14. 新しい賛美歌の潮流 15. 歌唱発表とまとめ	「讃美歌21」のまえがきを読んでおく 初回の授業での指示に従って、「讃美歌21」の概要を知っておく 授業で取り上げた曲を整理する ・クラシックの曲→賛美歌 ・賛美歌→クラシックの曲 授業での指示に従い、邦人の作者について調べる ルターの宗教改革について最低限の知識をもっておく 詩編とは何か、簡単に知っておく 次回の発表に備えて、歌いたい賛美歌をテーマごとに整理して復習しておく 発表のための練習 ・アドヴェントとクリスマスの賛美歌で知っているものを挙げておく。 ・関連する聖書の記事を読んでおく(マタイ、ルカの両福音書) キリストの受難と復活に関する聖書箇所を読む 指示された箇所(使徒言行録等)を読む テゼ共同体について簡単に調べる これまでに採り上げた賛美歌の中から、関連する賛美歌を探して整理しておく。 次週の発表に備えて、歌いたい賛美歌をテーマごとに整理して復習しておく 発表のための練習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	賛美歌には歌詞と曲の作者がいます。作者やその賛美歌が作られた背景などを知った上で歌うと、違った世界が見えてくるかもしれません。従ってこの授業では賛美歌を歌うことを大切にしていますが、それは必ずしも上手に歌うことではなく、積極的に歌うことが求められます。また礼拝等に出席し、実際にはどのように賛美歌が用いられ、歌われているかを考えることが望ましいです。場合によって、クラスでの賛美礼拝への参加を検討します。 今出川キャンパスと京田辺キャンパスとでは、授業内容や順序を一部変更することがあります。		
フィードバックの方法:	授業内容に関するミニ・レポートは、原則として添削またはコメントをした上、教室で返却する。 感想等のコメントは、希望により教室で返却する。 レポートは教室でまとめてコメントの予定。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	70%	出席を含む授業への積極的参加態度及び内容に関するミニ・レポート
	歌唱発表	10%	
	レポート	20%	独自の視点で書かれているかを重視する
教科書:	「讃美歌21」 日本基督教団出版局		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応します。 必要に応じてEメールを利用します。		

授業テーマ:

ヨーロッパの文化とキリスト教の結びつき

授業の概要:

「聖書」は人類にとって深く研究するに値する重要な文献である。ヨーロッパのキリスト教文化を通して「聖書」に親しむという授業にしたい。

到達目標:

「聖書」に親しみ、キリスト教およびキリスト教文化に関する初歩的な知識を身に着け、またそれを人に説明できることを到達目標として目指したい。

授業方法:

各講義はパワーポイントを用いての授業となる。ヨーロッパの文化を通して「聖書」に親しむという授業にしたい。従って授業の中で聖書を一緒に読む予定である。それによりまた「ヨーロッパの文化」に対する理解も深まるというようになればと思っている。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. キリスト教の始まり(1)(ヘロデとイエス)	
	2. キリスト教の始まり(2)(ローマ帝国におけるキリスト教)	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
	3. ヨーロッパの文化とキリスト教(1)(天使の意味)	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
	4. キリスト教の始まり(3)(教会の誕生)	
	5. キリスト教の始まり(4)(キリスト教の伝道)	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
	6. 西欧の新興諸国とイタリア(含む「第五章カール大帝」)	
	7. ドイツ中世都市の形成	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
	8. ヨーロッパの文化とキリスト教(2)(ケルン大聖堂)	
	9. 中世のキリスト教世界(「巡礼とは」)	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
	10. ヨーロッパの文化とキリスト教(3)(南西ドイツの教会)	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
	11. ヨーロッパの文化とキリスト教(4)(聖ニコラウスとクリスマス)	
	12. ヨーロッパの文化とキリスト教(5)(聖シュテファン教会)	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
	13. 北西ヨーロッパ都市の形成	
	14. 宗教改革の時代	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

ヨーロッパの歴史に関心があるか、学習済みであることが推奨される。プリントに付された課題(指定された聖書の箇所を読んだうえで)を授業中にこなしてゆく。その課題が自宅学習になった場合は、レポートとして提出することが求められる。従って、聖書を読み解く訓練をしておくことが必要となる。最後に定期試験において授業内容を理解したかを確認する試験をするので、授業中に使用したプリントを毎回復習しておく必要がある。

フィードバックの方法:

レポートおよびコメントペーパーについては、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50%	キリスト教およびキリスト教文化に関する初歩的な知識を身に着けたかどうか、またそれを人に説明することができるかどうかを評価する
	授業への参加度	50%	「聖書」を一緒に読み、内容について考え、キリスト教およびキリスト教文化に関して理解するように授業内で努力したかどうかを判断する

教科書:

プリントを配布する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

000900

キリスト教世界の探求A

高橋 聖子

授業テーマ:

キリスト教と音楽

授業の概要:

現在私達が親しんでいるヨーロッパ音楽の歴史を語るには、どうしてもキリスト教との関係を見逃す事が出来ません。もしキリスト教という背景が無ければ、これらの音楽は今日の形とは随分異なるものとなっていたと考えられます。この授業では、ヨーロッパ各地のキリスト教文化に触れながら、音楽との関わりを見て行きます。また、同志社ならではのパイプオルガンに関する知識も深めます。

到達目標:

キリスト教は自分の日常生活に全く関係ないと思いがちですが、いかに今日の日本文化の中に混在しているかに気付き、理解することから始めます。ヨーロッパキリスト教文化を学習した後、最終的には同志社女子大学ならではのキリスト教主義の教育理念を、音楽を通して認識出来るようになることを目標とします。

授業方法:

毎回課題に沿ったプリント・資料を配布し、それを用いて授業を進めます。その都度必要な映像を見たり、音楽を原語や日本語訳のテキストを見ながら聴くことにより、より理解度を深めて行きます。また、授業の進行度を見ながら、ミニテストを行い、ミニレポートを提出することにより、それぞれの意見や理解度を確認します。一方では、他学部の学生同志での意見交換が出来るよう配慮したいと思います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 導入:キリスト教における音楽の役割。	予備知識として必ず礼拝に出席しておいて下さい。
2. 宗教改革と音楽について(カトリックとプロテスタントの音楽の相違)。	同上。
3. 教会歴とコラールについて。	讃美歌がどのように書かれているか、歌詞を読んで理解しておいて下さい。
4. 宗派によって異なる式次第について(イタリア・ドイツ・フランス・イギリス)。	同上。
5. 教会建築とオルガンについて(オルガンの歴史:楽器と礼拝における役割の変遷)。	教会建築に於いて予備知識を得ておいて下さい。
6. J.S.バッハとバッハの教会音楽について(1)。	J.S.バッハ作曲の教会音楽を聴いて来て下さい(授業中に説明します)。
7. J.S.バッハとバッハの教会音楽について(2)。	同上。
8. オラトリオについて(オペラとの相違)。	学習後は、ヘンデル作曲「メサイア」を聴いておいて下さい。
9. クリスマスの音楽について。	同上。
10. 救世主の受難と復活の音楽について。	聖書に於ける救世主の受難と復活の記事に目を通しておいて下さい。
11. 聖母マリアへの賛歌について(アヴェ・マリア)。	「アヴェ・マリア」に関するグレゴリア聖歌を聴いておいて下さい。
12. レクイエムについて。	レクイエムにはどのような作曲家の作品があるか、実際に聴いて来て下さい。
13. 黒人霊歌とゴスペル・ソングについて。	「黒人奴隷制度」の予備知識を得ておいて下さい。
14. 日本におけるキリスト教伝来、「おらしょ」について。	「隠れキリシタン」の予備知識を得ておいて下さい。
15. 総括。	定期試験を行わない場合は意見交換、及び研究発表をしてもらいますので、準備して下さい(詳細は授業中に説明します)。

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の課題の中から自分なりに興味深い事を見つけ、自分の専攻課題に関連付けながら学生生活に活かせる授業となるよう願っています。

フィードバックの方法:

授業内でのミニテストや、ミニレポート提出に関しては、必ず全員の解答に目を通して授業にて解説します。

「成績評価方法」・「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験又はレポート	40	授業参加態度を見て定期試験を実施するか、レポート課題で評価するかを判断します。授業内容の理解度を基準として評価します。
出席及び授業への積極的態度	60	ミニテスト及びミニレポートの内容、日常的に提出される自分の意見等より、積極性を評価します。

教科書:

参考書:

金澤正剛著「キリスト教と音楽」音楽の友社
辻莊一著「キリスト教音楽の歴史」日本基督教団出版局
秋元道雄著「パイプオルガンの本」東京音楽社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:

音楽から読み取るキリスト教

授業の概要:

現在私達が親しんでいるヨーロッパ音楽は、キリスト教と密接な関わりの中で発展してきたと言っても過言ではありません。この授業では、特に聖書やキリスト教のテキストに基づき作曲された主要な音楽作品を選び、その作品をより深く分析しながらテキストを読み解いて行きます。作曲家自身の信仰感や環境、時代背景にも触れつつ、あらゆる角度からキリスト教音楽を理解して行きます。また、同志社ならではのパイプオルガンに関する知識も深めます。

到達目標:

授業の前半では、ヨーロッパにおける主なキリスト教音楽作品を取り上げますが、それに関連して「日本における明治時代の音楽教育」を学習することにより、最終的に同志社女子大学の「キリスト教主義教育」の理念を「音楽」という観点から捉えることを目標とします。

授業方法:

毎回課題に沿ったプリント・資料を配布し、それを用いて授業を進めます。その都度必要な映像を見たり、CDを聴きながらより理解力を深めます。他学部の学生同志の交流も含めて意見交換を行う一方で、必要に応じてミニテストを行い、またミニレポートを授業内にて提出してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 導入:キリスト教と音楽の関係	予備知識として必ず礼拝に出席しておいて下さい。
	2. 教会歴、及び宗教改革におけるコラールについて。パイプオルガンについて。	宗教改革とは何か、予備知識を得ておいて下さい。
	3. J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」より学ぶ(1)。	聖書における受難の箇所を全般的に目を通して来て下さい(詳細は授業にて説明します)。
	4. J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」より学ぶ(2)。	同上。
	5. J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」より学ぶ(3)。	同上。
	6. J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」より学ぶ(4)。	同上。
	7. J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」より学ぶ(5)。	同上。
	8. モーツァルト作曲「レクイエム」より学ぶ(1)。	他の作曲家の「レクイエム」を、復習として聴いてもらいます(詳細は授業にて説明します)。
	9. モーツァルト作曲「レクイエム」より学ぶ(2)。	同上。
	10. モーツァルト作曲「レクイエム」より学ぶ(3)。	同上。
	11. ベートーヴェン作曲「ミサ・ソレムニス」(荘厳ミサ)より学ぶ(1)。	ミサの形態を復習しておいて下さい。
	12. ベートーヴェン作曲「ミサ・ソレムニス」(荘厳ミサ)より学ぶ(2)。「交響曲第9番『歓喜の歌』」による考察。	同上。
	13. 明治時代の音楽教育とキリスト教、唱歌と讃美歌について(1)。	唱歌と関連性のある讃美歌について調べてもらいます。
	14. 明治時代の音楽教育とキリスト教、唱歌と讃美歌について(2)。	同上。
	15. 総括。	定期試験を実施しない場合は、研究発表及び意見交換のための準備をしてもらいます(詳細は授業にて説明します。)

受講者へのメッセージやアドバイス:

学部や専攻を問わず、キリスト教音楽に関心のある学生が受講出来るように、解り易い解説を心掛けています。特にJ.S.バッハの課題はブルーレイにて映像を使用しながら進める予定です。

フィードバックの方法:

ミニテストやミニレポート提出の際には、必ず次回の授業で内容に関して解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験又はレポート	40	授業の参加態度を見て、定期試験を実施するか課題レポートで評価するかを判断します。授業に対する理解度を基準に評価します。
	出席及び積極的参加度	60	授業内での提出物(ミニテスト・ミニレポート)の内容、及び日常的意見記述内容等を基準とします。

教科書:

参考書:

金澤正剛著「キリスト教と音楽」音楽之友社
金澤正剛著「新版 古楽のすすめ」音楽之友社
磯山雅「マタイ受難曲」東京書籍

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。

001060

キリスト教世界の探求B

松田 央

授業テーマ:	キリスト教の主要な思想		
授業の概要:	キリスト教の主要な思想を主題とする。キリスト教は2000年以上前から多くの教えを形成してきた。その中で特に根本的な思想を考察しつつ、それらが現代の人間にとってどのような意味を持つのかということを検討する。 またキリスト教思想を身近に感じるために広く人生論、人間論、死生観などの視点からも考察する。そのために聖書や伝統的な神学思想のほかに西洋哲学、仏教、東洋思想、美術作品などもモチーフとして用いる。		
到達目標:	キリスト教思想の基礎的な知識の修得。		
授業方法:	講義形式。座席指定のため人数を制限する場合もある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンスと人生論	シラバスを熟読して、関心のあるテーマを選ぶ。	
	2. 仏教の人生論	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	3. 神との出会い	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	4. 三位一体	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	5. 罪の概念	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	6. 悪の問題	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	7. 十字架と復活	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	8. キリストと聖霊	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	9. 信仰の本質	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	10. 現代の死の問題	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	11. 人間の復活	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	12. 洗礼と聖餐	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	13. 祈りと黙想	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	14. 聖書による黙想	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
	15. まとめ	あらかじめ指定された聖書の箇所を熟読する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	キリスト教思想を自分の生き方と結び付けてください。 私語と携帯電話は厳禁です。 講義ノートをしっかりとることが重要です。		
フィードバックの方法:	質問については毎回の授業でまとめて回答する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	到達目標であるキリスト教思想の基礎的な知識の理解度により評価する。
	ミニレポート	20%	毎回の授業内容の理解度により評価する。
教科書:	新共同訳聖書(日本聖書協会)		
参考書:	授業で紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール		

001100

キリスト教の歴史C

小崎 眞

授業テーマ:	キリスト教の歴史と21世紀の私たち																																		
授業の概要:	この講義ではキリスト教の歴史を概観し、その歴史からの問いかけに向き合うことを目指します。過去を問い、今と向き合い、将来への指針を探ります。「現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話」(E. H. カー『歴史とは何か』)を通し、キリスト教の歴史に内在する精神に触れ、その精神を生きる今日的意義を追究します。																																		
到達目標:	1. 初期キリスト教会の成立過程を概観し、教会共同体の本質を学びます。 2. 中世キリスト教史において培われた精神世界を学び、その現代的意義を考察します。 3. 宗教改革の歴史に学びつつ、その今日的意義を探求します。																																		
授業方法:	主に講義形式で行いますが、クラス内でのディスカッション等も状況に応じ、尊重していきます。映像資料を提供する予定です(数回)。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション 本講義の目的等の説明</td><td>シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する</td></tr><tr><td>2. 歴史とは何か</td><td>配布プリントにより、歴史観に関する学びを深める。とくに、聖書における歴史観への疑問を整理する。</td></tr><tr><td>3. 教会の始まり1</td><td>教会の歩みがどのように始まったか、配布資料により確認する。</td></tr><tr><td>4. 教会の始まり2</td><td>教会の発展に関して、配布資料により確認する。</td></tr><tr><td>5. 復活伝承を巡り1</td><td>いわゆるイエスの死を巡る理解を配布資料により整理する。</td></tr><tr><td>6. 復活伝承を巡り2</td><td>配布資料により、復活伝承に関して理解を深め、整理する。</td></tr><tr><td>7. カトリック教会を巡り1</td><td>古カトリック教会の成立に関して、配布資料を通し、学びを深め整理する。</td></tr><tr><td>8. カトリック教会を巡り2</td><td>古カトリック教会の足跡に関して、配布資料を通し、学びを深め、整理する。</td></tr><tr><td>9. 東西教会の分離1</td><td>教会の分裂に関して配布資料を通し、学びを深め、整理する。</td></tr><tr><td>10. 東西教会の分離2</td><td>教会分裂の影響に関して配布資料を通し、学びを深め、整理する。</td></tr><tr><td>11. 宗教改革を巡り1</td><td>配布資料を通し、宗教改革の背景に関する理解を深め、整理する。</td></tr><tr><td>12. 宗教改革を巡り2</td><td>配布資料を通し、宗教改革の影響史の学びを深め、整理する。</td></tr><tr><td>13. 日本の教会1</td><td>配布資料を通し、日本社会におけるキリスト教(カトリック)を学びを深め、整理する。</td></tr><tr><td>14. 日本の教会2</td><td>配布資料を通し、日本のプロテスタント教会の足跡に関する学びを深め、整理する。</td></tr><tr><td>15. 全体まとめ</td><td>講義全体を通し、レポート課題に関して思索を深め、構成を考える。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション 本講義の目的等の説明	シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する	2. 歴史とは何か	配布プリントにより、歴史観に関する学びを深める。とくに、聖書における歴史観への疑問を整理する。	3. 教会の始まり1	教会の歩みがどのように始まったか、配布資料により確認する。	4. 教会の始まり2	教会の発展に関して、配布資料により確認する。	5. 復活伝承を巡り1	いわゆるイエスの死を巡る理解を配布資料により整理する。	6. 復活伝承を巡り2	配布資料により、復活伝承に関して理解を深め、整理する。	7. カトリック教会を巡り1	古カトリック教会の成立に関して、配布資料を通し、学びを深め整理する。	8. カトリック教会を巡り2	古カトリック教会の足跡に関して、配布資料を通し、学びを深め、整理する。	9. 東西教会の分離1	教会の分裂に関して配布資料を通し、学びを深め、整理する。	10. 東西教会の分離2	教会分裂の影響に関して配布資料を通し、学びを深め、整理する。	11. 宗教改革を巡り1	配布資料を通し、宗教改革の背景に関する理解を深め、整理する。	12. 宗教改革を巡り2	配布資料を通し、宗教改革の影響史の学びを深め、整理する。	13. 日本の教会1	配布資料を通し、日本社会におけるキリスト教(カトリック)を学びを深め、整理する。	14. 日本の教会2	配布資料を通し、日本のプロテスタント教会の足跡に関する学びを深め、整理する。	15. 全体まとめ	講義全体を通し、レポート課題に関して思索を深め、構成を考える。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション 本講義の目的等の説明	シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する																																		
2. 歴史とは何か	配布プリントにより、歴史観に関する学びを深める。とくに、聖書における歴史観への疑問を整理する。																																		
3. 教会の始まり1	教会の歩みがどのように始まったか、配布資料により確認する。																																		
4. 教会の始まり2	教会の発展に関して、配布資料により確認する。																																		
5. 復活伝承を巡り1	いわゆるイエスの死を巡る理解を配布資料により整理する。																																		
6. 復活伝承を巡り2	配布資料により、復活伝承に関して理解を深め、整理する。																																		
7. カトリック教会を巡り1	古カトリック教会の成立に関して、配布資料を通し、学びを深め整理する。																																		
8. カトリック教会を巡り2	古カトリック教会の足跡に関して、配布資料を通し、学びを深め、整理する。																																		
9. 東西教会の分離1	教会の分裂に関して配布資料を通し、学びを深め、整理する。																																		
10. 東西教会の分離2	教会分裂の影響に関して配布資料を通し、学びを深め、整理する。																																		
11. 宗教改革を巡り1	配布資料を通し、宗教改革の背景に関する理解を深め、整理する。																																		
12. 宗教改革を巡り2	配布資料を通し、宗教改革の影響史の学びを深め、整理する。																																		
13. 日本の教会1	配布資料を通し、日本社会におけるキリスト教(カトリック)を学びを深め、整理する。																																		
14. 日本の教会2	配布資料を通し、日本のプロテスタント教会の足跡に関する学びを深め、整理する。																																		
15. 全体まとめ	講義全体を通し、レポート課題に関して思索を深め、構成を考える。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	尚、受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じ、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。																																		
フィードバックの方法:	毎回の授業内で、講義の学びを深めるコメントペーパーの作成する。 学生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。																																		
「成績評価方法」: 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>クラスへの出席及び関与</td><td>40</td><td rowspan="2">授業ごとに実施するコメントペーパーへの記述内容に基づく講義の理解度。 講義を通して与えられる問題意識。 3つの講義目標を理解した上で、自分自身の課題として歴史的事象を分析し探求しているかを基準とする。</td></tr><tr><td>講義に関するレポート</td><td>60</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	クラスへの出席及び関与	40	授業ごとに実施するコメントペーパーへの記述内容に基づく講義の理解度。 講義を通して与えられる問題意識。 3つの講義目標を理解した上で、自分自身の課題として歴史的事象を分析し探求しているかを基準とする。	講義に関するレポート	60																										
評価方法	割合	評価基準																																	
クラスへの出席及び関与	40	授業ごとに実施するコメントペーパーへの記述内容に基づく講義の理解度。 講義を通して与えられる問題意識。 3つの講義目標を理解した上で、自分自身の課題として歴史的事象を分析し探求しているかを基準とする。																																	
講義に関するレポート	60																																		
教科書:	『新共同訳 聖書』(日本聖書協会)																																		
参考書:	教室にて指示します。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力																																		
教員との連絡方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します(オフィスアワー、Eメールなど)。																																		

授業テーマ:	死や悲しみなどの人生の危機を通してキリスト教の人間観を学ぶ		
授業の概要:	私たちが生きていく上で、死や喪失体験などの人生の危機は避けて通ることができません。日本の文化や現代社会の価値観では、それらはマイナスのこととして否定されがちですが、古来宗教は、そのような人生の苦しみ悲しみを通して人は成熟してゆくのだと考えて来ました。また東日本大震災以来、生と死の問題や宗教について改めて考える人が増えたとも言われています。 この授業では、私たちはどのように死や悲しみなどと向き合ってゆけばよいのか、キリスト教においてそのような問題がどうとらえられているかを学び、私たち一人一人がそこからどのように学んでゆけるかについて考えます。 具体的には、今日の日本における自殺や医療化された死の問題、キリスト教や日本人の死生観、葬送儀礼について学び、また生の終末期にある人々や大切な人を失って悲しんでいる人々を支えるにはどうしたらよいかを考えます。		
到達目標:	(1)今日の日本における自殺や医療化された死などの問題を理解します (2)自分の死生観や喪失体験について振り返ってみます (3)生の終末期にある人々や大切な人を失って悲しんでいる人々を支えるにはどうしたらよいかを考察します (4)キリスト教や日本人の死生観、葬送儀礼について理解します		
授業方法:	各回のテーマについての講義のほか、学生同士のディスカッション、教員への質問とそれへの回答などによって授業を進めます。ビデオ教材を活用します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 序論 現代日本社会における死、医療化した死	自分が経験した死や喪失体験について考えてくる いのちと死を描いた絵本の中で自分が好きなものを紹介できるようにしてくる	
	2. わたしたちの身の回りの死と喪失体験		
	3. 絵本で学ぶいのちと死		
	4. 死別・喪失のストレスとセルフケア	セルフケアの例を考えて実際にやってくる	
	5. 医療における人生の終末期のケア	授業中に与えられた課題について小レポートを書く	
	6. グリーフの心理学	指定資料を読み、内容を理解しておく	
	7. 子どもの喪失体験とグリーフ	指定資料を読み、内容を理解しておく	
	8. 悲しんでいる人を支えるには	悲しんでいる人を支える有効な方法について、家族や友人と話し合ってみる	
	9. キリスト教の死生観(1)聖書における苦難と死	指定された聖書箇所を読んでくる	
	10. 日本人の死生観・葬儀・死後の世界	指定資料を読み、内容を理解しておく	
	11. キリスト教の死生観(2)聖書におけるゆるし・希望	指定された聖書箇所を読んでくる	
	12. キリスト教の葬儀・死後の世界	指定された聖書箇所を読んでくる	
	13. 現代日本における自殺の問題	日本の自殺の状況について調べてくる	
	14. 苦しみ悲しみを乗り越える(1)映画「おくりびと」を見て話し合う	映画の感想について小レポートを書く	
	15. 苦しみ悲しみを乗り越える(2)映画「おくりびと」を見て話し合う		
受講者へのメッセージやアドバイス:	死や悲しみ、看取りに関するさまざまなトピックについて、講義、ビデオ視聴、詩や美術作品の鑑賞、グループディスカッションなどを通じて学びます。「死」と「悲しみ」、「看取り」について考えることは、わたしたちの人生の究極の問題について考えることです。この授業では、解答を性急に求めるのではなく、一人ひとりが自分の体験と関心に照らし合わせて考える過程を重視し、学生の主体的な参加を求めます。できれば受講者自身の死生観や身近な死の体験などについても、振り返る機会をもちたいと思います。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説するか、出席カードに書かれた質問やコメントに教室で答えます。また授業の前後に質問に答えます。		
「成績評価方法」および「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	60	クラスへの出席と出席カードのコメント、小レポートの提出、授業への積極的参加度により評価する。
	期末レポート(A4×2枚)	40	授業中に与えられた課題に適切な知識と理解度をもって答えているかどうかによって評価する。
教科書:	特になし。プリントを配布します。		
参考書:	ロバート・A・ニーメヤー(鈴木剛子訳)『大切なものを失ったあなたに―喪失をのりこえるガイド』春秋社、2006年 リンダ・ゴールドマン(天貝由美子訳)『子どもの喪失と悲しみを癒すガイド―生きること・失うこと』創元社、2005年 島蘭進・竹内整一編『死生学―死生学とは何か』東京大学出版会、2008年 J・W・ウオーデン『悲嘆カウンセリング』誠信書房、2008年 キャロル・シュート・ダッシャー(大原健士郎監修)『悲しみを超えて』創元社、2000年 この他、授業中に適宜提示します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	教員のオフィスアワーで対応するほか、メールcsaito@dw.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。		

授業テーマ:	現代社会の諸問題をキリスト教的視点で捉える																																		
授業の概要:	ここ数年で起こっている社会の変化を経験するなかで、21世紀が激動の時代になる予感を我々は感じているのではないだろうか。そして、世界で起こるあらゆる問題が直接、我々に降りかかってくる時代を生きているといえよう。世界の様々な問題は、アフリカで起こっているように、南米で起こっているように、それらは我々の問題であるということを認識し始めている。この授業では、まず、世界ではどのような問題が存在し、それを我々はどうに理解してきたかを認識することから始めたい。そして、それらをどのように自分の問題としてとらえていくのか、グループディスカッションを通して方法を見つけたい。その後、キリスト教はそれらの問題にどのようなアプローチが可能なのか、聖書やキリスト教的視点を足がかりに議論していく。																																		
到達目標:	・我々の社会を取り巻く問題や矛盾を見出す能力を磨く ・それらの問題や矛盾がどうして発生しているのかを歴史的経緯を踏まえて理解する ・グループディスカッションを通して、多様な意見が存在することを認識する ・我々の社会を取り巻く問題や矛盾に対して宗教、特にイエスがどのように向き合ったかを理解する																																		
授業方法:	授業は、講義とビデオ映像、配付資料などを使いながら行う。毎回の授業では聖書を持参すること。ゲスト講師を招く授業もあり得る。グループに分かれてのディスカッション、教室全体でのディスカッション、発表などもある。この授業は構成主義的なアプローチで行われる。構成主義では知識とは一人で形成するものではなく、社会との関わりのなかで形成するものと捉えるので、グループでの宿題や課題もかなりあるので、それを踏まえて登録するように注意すること。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 授業のガイダンス1</td><td>特になし</td></tr><tr><td>2. 授業のガイダンス2</td><td>内容の確認と復習</td></tr><tr><td>3. 現代の諸問題考察1</td><td>グループで内容を分析をし、発表のための準備</td></tr><tr><td>4. 現代の諸問題考察1のディスカッション1</td><td>グループで内容を分析をし、発表のための準備</td></tr><tr><td>5. 現代の諸問題考察1のディスカッション2</td><td>グループで内容を分析をし、発表のための準備</td></tr><tr><td>6. 現代の諸問題考察1のディスカッション3</td><td>グループで内容を分析をし、発表のための準備</td></tr><tr><td>7. 現代の諸問題考察1の発表1</td><td>グループで内容を分析をし、発表のための準備</td></tr><tr><td>8. 現代の諸問題考察1の発表2</td><td>グループで内容の確認と復習</td></tr><tr><td>9. 現代の諸問題考察2</td><td>内容の確認と復習</td></tr><tr><td>10. 現代の諸問題考察2のディスカッション1</td><td>グループで内容を分析をし、発表のための準備</td></tr><tr><td>11. 現代の諸問題考察2のディスカッション2</td><td>グループで内容を分析をし、発表のための準備</td></tr><tr><td>12. 現代の諸問題考察2の発表1</td><td>グループで内容を分析をし、発表のための準備</td></tr><tr><td>13. 現代の諸問題考察2の発表2</td><td>グループで内容の確認を復習</td></tr><tr><td>14. まとめ1</td><td>内容の確認と復習</td></tr><tr><td>15. まとめ2と振り返り</td><td>特になし</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 授業のガイダンス1	特になし	2. 授業のガイダンス2	内容の確認と復習	3. 現代の諸問題考察1	グループで内容を分析をし、発表のための準備	4. 現代の諸問題考察1のディスカッション1	グループで内容を分析をし、発表のための準備	5. 現代の諸問題考察1のディスカッション2	グループで内容を分析をし、発表のための準備	6. 現代の諸問題考察1のディスカッション3	グループで内容を分析をし、発表のための準備	7. 現代の諸問題考察1の発表1	グループで内容を分析をし、発表のための準備	8. 現代の諸問題考察1の発表2	グループで内容の確認と復習	9. 現代の諸問題考察2	内容の確認と復習	10. 現代の諸問題考察2のディスカッション1	グループで内容を分析をし、発表のための準備	11. 現代の諸問題考察2のディスカッション2	グループで内容を分析をし、発表のための準備	12. 現代の諸問題考察2の発表1	グループで内容を分析をし、発表のための準備	13. 現代の諸問題考察2の発表2	グループで内容の確認を復習	14. まとめ1	内容の確認と復習	15. まとめ2と振り返り	特になし		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 授業のガイダンス1	特になし																																		
2. 授業のガイダンス2	内容の確認と復習																																		
3. 現代の諸問題考察1	グループで内容を分析をし、発表のための準備																																		
4. 現代の諸問題考察1のディスカッション1	グループで内容を分析をし、発表のための準備																																		
5. 現代の諸問題考察1のディスカッション2	グループで内容を分析をし、発表のための準備																																		
6. 現代の諸問題考察1のディスカッション3	グループで内容を分析をし、発表のための準備																																		
7. 現代の諸問題考察1の発表1	グループで内容を分析をし、発表のための準備																																		
8. 現代の諸問題考察1の発表2	グループで内容の確認と復習																																		
9. 現代の諸問題考察2	内容の確認と復習																																		
10. 現代の諸問題考察2のディスカッション1	グループで内容を分析をし、発表のための準備																																		
11. 現代の諸問題考察2のディスカッション2	グループで内容を分析をし、発表のための準備																																		
12. 現代の諸問題考察2の発表1	グループで内容を分析をし、発表のための準備																																		
13. 現代の諸問題考察2の発表2	グループで内容の確認を復習																																		
14. まとめ1	内容の確認と復習																																		
15. まとめ2と振り返り	特になし																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	この授業は現代の諸問題を核に、哲学的、社会的、宗教学的な議論を真剣にしたい学生の受講を希望する。また、宿題や課題もかなりあるので、それを踏まえて登録するように注意すること。																																		
フィードバックの方法:	授業内で学生の疑問に逐次回答する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席率</td><td>50</td><td>出欠</td></tr><tr><td>期末中課題</td><td>20</td><td>課題内容の評価</td></tr><tr><td>期末課題</td><td>30</td><td>課題内容の評価</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席率	50	出欠	期末中課題	20	課題内容の評価	期末課題	30	課題内容の評価																						
評価方法	割合	評価基準																																	
出席率	50	出欠																																	
期末中課題	20	課題内容の評価																																	
期末課題	30	課題内容の評価																																	
教科書:	適宜指示																																		
参考書:	適宜指示																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、思いやる力																																		
教員との連絡方法:	授業でアポイントメントを入れることができる。																																		

授業テーマ:

日本の近代の歴史のなかで、同志社のキリスト教がどのように貢献してきたかを明確にする。

授業の概要:

同志社について知ろうとすると、歴史的な視点や理解は大変大切な意味をもっています。わたしたちが学んでいる現在の同志社について理解しようとするとき、それらの歴史的経緯や社会的背景をあわせて知ることが必要で、それによって同志社に対する理解がより客観的で深いものになるといえるでしょう。日本の近代化の歴史とプロテスタント・キリスト教の歴史に対する理解と認識は、わたしたちの視野を大きく広げてくれることを確信しています。授業では、近代日本の成立とその過程におけるキリスト教の受容の諸相を説明しながら、新島襄によって設立された同志社がどのような歩みをしたか、日本近代史の各時代との関連で、その思想と実践の現代的な意味や意義を探究します。また原則として、毎回、資料を配布します。

到達目標:

同志社で学ぶ意味と意義を、受講生一人一人が自覚できるようになることを目指します。

授業方法:

講義を中心としますが、DVD利用などをおこないます。なお毎回、授業に関するペーパーを配布する予定です。また授業の進展状況に応じて計画を変更することがあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	2. 同志社のルーツ(1) (宗教改革、イギリスの宗教改革、アメリカ)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	3. 同志社のルーツ(2) (東アジア・日本・キリスト教)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	4. 最初にキリスト教を信じた日本人 (3つのバンド)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	5. 同志社の創立者・新島(1) (DVD)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	6. 同志社の創立者・新島(2) (年表を中心に)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	7. 初期同志社で学んだ人たち(1) (小崎弘道、海老名弾正)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	8. 初期同志社で学んだ人たち(2) (安部磯雄、柏木義円)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	9. 同志社のキリスト教の特徴(1) (留岡幸助、山室軍平)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	10. 同志社のキリスト教の特徴(2) (賀川豊彦とSCM)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	11. 同志社のリベラリズム(1) (湯浅八郎総長の時代)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	12. 同志社のリベラリズム(2) (湯浅八郎総長の時代)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	13. 同志社女学校で学んだ女性 (井深八重、清水美穂)	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	14. 定期試験	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
	15. まとめ	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業を通して、同志社人としての自覚、理解をもてることができるようにと願っています。単なる知識の集積を目指すのではなく、受講性一人一人の人間理解、世界理解に寄与することができたらと願っています。

フィードバックの方法:

毎回、出席カードを配布します。それを授業に対するリアクション・ペーパーとして用い、次の回に可能な限り、応答します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点(出席点)	50	毎回、出席カードを配布します。
	期末試験	50	授業の中で語られたことが出題範囲です。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プ、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

必要に応じて、メールでコンタクトをとってください。
mhara@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	学際的な視点から同志社女子教育の歩みをとらえなおす		
授業の概要:	同志社女子大学が、創設以来発展を続け優れた人材を社会に送り出してきたゆえんは、新島襄がかかげた建学の精神と教育理念の普遍性と卓越性にあります。 前半(第2回～第7回才藤担当)および第8～9回(岡山担当)では、まず同志社の創立者である新島襄の生涯をたどりま す。江戸末期から明治に至る激動の時代に一途に生きた新島の生涯について学び、彼の思想や信仰の現代的意義について 検討することは、現代に生きる皆さんにも大きな示唆を与えることでしょう。また、新島ら日本人と外国人宣教師の協力で設立 された「同志社女学校」や「京都看病婦学校」の創設期の歴史と、その設立の意義を考察します。 後半(第10～14回 三宅担当)は、まず、新島八重が同志社女学校創設期の変遷にどのように関わったのか、そのリーダ ーシップ発揮の源となった八重の資質は何かについて考察します。次に、戦後の女子教育をめぐる社会背景の中で、本学がど のようにリベラルアーツ教育の基礎を築き今日に至ったのかについて教育学とジェンダー研究の学際的視点から本学の歩み をとらえなおします。		
到達目標:	1. 同志社女学校開校の歴史と同志社精神について理解できていること。 2. 戦後の新制同志社女子大学発足の歴史とリベラルアーツ教育について理解できていること。 3. 同志社女子大学で学ぶ意義が理解できていて、それに基づいてどのように社会貢献できる女性になるのか、自己の将来 像とビジョンが描けるようになること。		
授業方法:	原則として講義が中心ですが、随時ビデオなどの視聴覚教材を使用し、ディスカッション、グループワークを取り入れて進めま す。なお詳細は初回に説明します。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション:ビデオ『新島襄』視聴		
	2. 新島襄の誕生から脱国までー新島襄が育った時代 と環境、受けた教育(才藤)	『現代語で読む新島襄』の指定箇所を読み、内容を理解して おく	
	3. アメリカでの留学生活とニューイングランド地方のキ リスト教(才藤)	『現代語で読む新島襄』の指定箇所を読み、内容を理解して おく	
	4. 教育者としての新島襄ー「同志社大学設立の旨意」	『現代語で読む新島襄』の指定箇所を読み、内容を理解して おく	
	5. 同志社女学校開校とその歴史①ー19世紀アメリカの 宣教政策と宣教師たちの働き(才藤)	『現代語で読む新島襄』の指定箇所を読み、内容を理解して おく	
	6. 同志社女学校開校とその歴史②ー同志社女学校と 山本覚馬、新島八重(才藤)	『現代語で読む新島襄』の指定箇所を読み、内容を理解して おく	
	7. 前半まとめ(中間テスト) (才藤)	前半部分の知識をよく復習しておく	
	8. 同志社病院と京都看病婦学校① 新島襄と医療(岡 山)	事前配布資料を読む	
	9. 同志社病院と京都看病婦学校② その足跡(岡山)	事前配布資料を読む	
	10. 新島八重の生涯と同志社 ①ー「ハンサムウーマン」 として(三宅)	『同志社の母・新島八重』の指定箇所を読み、内容を理解し ておく	
	11. 新島八重の生涯と同志社 ②ー「日本のナイチン ゲール」・「茶人」として(三宅)	『同志社の母・新島八重』の指定箇所を読み、内容を理解し ておく	
	12. 新制同志社女子大学の歩み ①(三宅)	事前配布資料を読み、概要を理解しておく	
	13. 新制同志社女子大学の歩み ②(三宅)	事前配布資料を読み、概要を理解しておく	
	14. 女子大学の存続意義ー今後求められる女性像 ("Always rising to a new challenge")(三宅)	事前配布資料を読み、概要を理解しておく	
	15. 後半まとめ(期末テスト) (岡山・三宅)	後半の授業内容をよく復習しておく	
受講者への メッセージや アドバイス:	この授業を通して、同志社精神と同志社女子大学で教育を受ける意義への理解が深まり、皆さんが受講する他の授業との相 乗効果によって、大学4年間の学びがより高い次元で全人教育に結実することを願っています。		
フィードバックの 方法:	出席カードに書かれた質問やコメントに対して、教室でまとめて解説します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	50	授業出席、出席カードのコメントなどによって評価します。
	中間テスト(才藤担当部 分)	25	前半の授業内容についての知識や理解度によって評価します
	期末テスト(三宅/岡山担 当部分)	25	後半の授業内容についての知識や理解度によって評価します。
教科書:	学校法人同志社(編)『現代語で読む新島襄』丸善、2000年 同志社女子大学・新島八重研究会(編)『同志社の母・新島八重』同志社女子大学 広報課、2012年 (上記2冊とも入学時に無料で配布されます)		
参考書:	新島襄編集委員会(編)『新島襄の手紙』岩波文庫、2005年 同志社同窓会(編)『新島八重 ハンサムな女傑の生涯』淡交社、2012年 吉海 直人『新島八重 愛と闘いの生涯』角川学芸出版、2012年 川廣中・本井康博『増補改訂 新島八重と夫、襄一会津・京都・同志社ー』思文閣出版、2012年 F.B.クラブ『ミス・デントンー「同志社の宝」と呼ばれた女性の60年』同志社女子大学・同志社同窓会、2007年 『エスタ・L.ヒバド自伝ーある宣教師っ子の思い出』(増補改訂版)同志社女子大学・同志社同窓会、1999年 『主の恵みは尽きることがないーエスター・L.ヒバード先生追悼記念集』ヒバード先生追悼記念集編集委員会、 2002年 本井康博・岡山寧子・石川立『鼎談 同志社医学教育の歩みー同志社病院と京都看病婦学校ー』同志社時報139 号、8-23頁、2015年		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	思いやる力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	メールで連絡を取れるようにします。		

授業テーマ:	新島襄の思想に出会う ―先人とその後に続く人たち―																																		
授業の概要:	同志社が創立以来キリスト教主義を教育の根本におき、様々な困難を乗り越えつつ、近代日本の各分野において担ってきた先駆的役割は小さくありません。この科目では、同志社と同志社女学校、女子専門学校、女子大学の歩みを、日本近代史の各時代とかかわらせながら、日本の女子教育に果たしたその役割と意義を追求します。特に、創立者新島襄の建学の志を学んだ後、同志社女子部の歴史を概観しつつ、同志社で学んだ人々(卒業生等)に焦点を当て、その思想と実践の現代的意義を探究します。																																		
到達目標:	1. 創立者新島襄の思想に関して考察します。 2. 創立者新島襄の女子教育観に関して考察します。 3. 同志社女子部の歴史を概観しつつ、女子教育を受けた人々(卒業生)に焦点を当て、その思想と実践の現代的意義を探究します。																																		
授業方法:	講義を中心としますが、討論、ビデオ利用等も取り入れる予定です。なお詳細は初回の講義で説明します。講義資料をその都度配布する予定です。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する。新島襄に関する既知の事実を確認する。</td></tr><tr><td>2. 新島襄とその時代</td><td>配布プリントにより、新島襄が生きた時代背景に関する学びを深める。とくに、日本の近代史と合わせて時代状況を整理する。</td></tr><tr><td>3. 新島襄の思想1</td><td>配布プリントにより、新島襄が生きた時代背景に関する学びを深める。とくに、日本の近代史と合わせて時代状況を整理する。</td></tr><tr><td>4. 新島襄の思想2</td><td>配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代日本の思想潮流と合わせて整理する。</td></tr><tr><td>5. 新島襄の良心理解を巡り1</td><td>配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代合理主義との相違点などを整理する。</td></tr><tr><td>6. 新島襄の良心理解を巡り2</td><td>配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代合理主義との相違点などを整理する。</td></tr><tr><td>7. 新島襄の教育観1</td><td>配布プリントや参考文献により、新島襄の教育観に関する学びを深める。とくに、近代日本の教育観との相違点などを整理する。</td></tr><tr><td>8. 新島襄の教育観2</td><td>配布プリントや参考文献により、新島襄の教育観に関する学びを深める。とくに、近代日本の教育観との相違点などを整理する。</td></tr><tr><td>9. ゲストスピーカーによる歴史的証言を通し</td><td>ゲストスピーカーの歴史的背景に関する学びを深め、本学の建学の精神とのつながりを整理する。</td></tr><tr><td>10. 新島襄と女子教育</td><td>配布プリントや参考文献により、新島襄の女子教育に関する学びを深める。とくに、近代日本の女子教育観との相違点などを整理する。</td></tr><tr><td>11. 女子教育を巡り1 卒業生の歩みから 井深八重</td><td>配布資料や参考文献により、井深八重の足跡に関する学びを深め、整理する。</td></tr><tr><td>12. 女子教育を巡り2 卒業生の歩みから 清水美穂</td><td>配布資料や参考文献により、清水美穂の足跡に関する学びを深め、整理する。</td></tr><tr><td>13. 女子教育を巡り3 戦争体験を通し</td><td>配布プリントや参考文献により、戦時中の思想や教育に関する学びを深め、整理する。</td></tr><tr><td>14. 女子教育を巡り4 今日的意義</td><td>今日の時代状況を見つめつつ、現在、本学にて学ぶ意義を自分なりに分析し、整理する。</td></tr><tr><td>15. 将来へ向け 建学の精神からの問い</td><td>講義全体をふりかえり、自分なりの問題意識を整理する。レポート構成を考え、まとめる。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する。新島襄に関する既知の事実を確認する。	2. 新島襄とその時代	配布プリントにより、新島襄が生きた時代背景に関する学びを深める。とくに、日本の近代史と合わせて時代状況を整理する。	3. 新島襄の思想1	配布プリントにより、新島襄が生きた時代背景に関する学びを深める。とくに、日本の近代史と合わせて時代状況を整理する。	4. 新島襄の思想2	配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代日本の思想潮流と合わせて整理する。	5. 新島襄の良心理解を巡り1	配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代合理主義との相違点などを整理する。	6. 新島襄の良心理解を巡り2	配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代合理主義との相違点などを整理する。	7. 新島襄の教育観1	配布プリントや参考文献により、新島襄の教育観に関する学びを深める。とくに、近代日本の教育観との相違点などを整理する。	8. 新島襄の教育観2	配布プリントや参考文献により、新島襄の教育観に関する学びを深める。とくに、近代日本の教育観との相違点などを整理する。	9. ゲストスピーカーによる歴史的証言を通し	ゲストスピーカーの歴史的背景に関する学びを深め、本学の建学の精神とのつながりを整理する。	10. 新島襄と女子教育	配布プリントや参考文献により、新島襄の女子教育に関する学びを深める。とくに、近代日本の女子教育観との相違点などを整理する。	11. 女子教育を巡り1 卒業生の歩みから 井深八重	配布資料や参考文献により、井深八重の足跡に関する学びを深め、整理する。	12. 女子教育を巡り2 卒業生の歩みから 清水美穂	配布資料や参考文献により、清水美穂の足跡に関する学びを深め、整理する。	13. 女子教育を巡り3 戦争体験を通し	配布プリントや参考文献により、戦時中の思想や教育に関する学びを深め、整理する。	14. 女子教育を巡り4 今日的意義	今日の時代状況を見つめつつ、現在、本学にて学ぶ意義を自分なりに分析し、整理する。	15. 将来へ向け 建学の精神からの問い	講義全体をふりかえり、自分なりの問題意識を整理する。レポート構成を考え、まとめる。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション	シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する。新島襄に関する既知の事実を確認する。																																		
2. 新島襄とその時代	配布プリントにより、新島襄が生きた時代背景に関する学びを深める。とくに、日本の近代史と合わせて時代状況を整理する。																																		
3. 新島襄の思想1	配布プリントにより、新島襄が生きた時代背景に関する学びを深める。とくに、日本の近代史と合わせて時代状況を整理する。																																		
4. 新島襄の思想2	配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代日本の思想潮流と合わせて整理する。																																		
5. 新島襄の良心理解を巡り1	配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代合理主義との相違点などを整理する。																																		
6. 新島襄の良心理解を巡り2	配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代合理主義との相違点などを整理する。																																		
7. 新島襄の教育観1	配布プリントや参考文献により、新島襄の教育観に関する学びを深める。とくに、近代日本の教育観との相違点などを整理する。																																		
8. 新島襄の教育観2	配布プリントや参考文献により、新島襄の教育観に関する学びを深める。とくに、近代日本の教育観との相違点などを整理する。																																		
9. ゲストスピーカーによる歴史的証言を通し	ゲストスピーカーの歴史的背景に関する学びを深め、本学の建学の精神とのつながりを整理する。																																		
10. 新島襄と女子教育	配布プリントや参考文献により、新島襄の女子教育に関する学びを深める。とくに、近代日本の女子教育観との相違点などを整理する。																																		
11. 女子教育を巡り1 卒業生の歩みから 井深八重	配布資料や参考文献により、井深八重の足跡に関する学びを深め、整理する。																																		
12. 女子教育を巡り2 卒業生の歩みから 清水美穂	配布資料や参考文献により、清水美穂の足跡に関する学びを深め、整理する。																																		
13. 女子教育を巡り3 戦争体験を通し	配布プリントや参考文献により、戦時中の思想や教育に関する学びを深め、整理する。																																		
14. 女子教育を巡り4 今日的意義	今日の時代状況を見つめつつ、現在、本学にて学ぶ意義を自分なりに分析し、整理する。																																		
15. 将来へ向け 建学の精神からの問い	講義全体をふりかえり、自分なりの問題意識を整理する。レポート構成を考え、まとめる。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。																																		
フィードバックの方法:	毎回の授業内で、講義の学びを深めるコメントペーパーを作成します。時には、受講生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを用います。学生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>クラスへの出席・関与</td><td>50</td><td rowspan="2">授業ごとのコメントシート(リアクションペーパー)の提出。3つの到達目標に関する理解度及び自身の問題意識により評価します。 的確なテーマ設定、3つの到達目標に関する理解度、自身の課題としての論理構成力により評価します。</td></tr><tr><td>学期末レポート</td><td>50</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	クラスへの出席・関与	50	授業ごとのコメントシート(リアクションペーパー)の提出。3つの到達目標に関する理解度及び自身の問題意識により評価します。 的確なテーマ設定、3つの到達目標に関する理解度、自身の課題としての論理構成力により評価します。	学期末レポート	50																										
評価方法	割合	評価基準																																	
クラスへの出席・関与	50	授業ごとのコメントシート(リアクションペーパー)の提出。3つの到達目標に関する理解度及び自身の問題意識により評価します。 的確なテーマ設定、3つの到達目標に関する理解度、自身の課題としての論理構成力により評価します。																																	
学期末レポート	50																																		
教科書:	『現代語で読む新島襄』 丸善 2000年																																		
参考書:	初回の講義において、参考文献表配布し、主要文献を紹介します。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力																																		
教員との連絡方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で説明します(オフィスアワー、Eメールなど)。																																		

授業テーマ:

新島襄の手紙を読む

授業の概要:

近年、新島研究は長足の進展を遂げつつあるが、このクラスでは、それらの成果を参看しながら、新島の理想と人となりを書簡によって検証することを目的とする。いわば原典による新島研究である。その語彙、文体、思想に接することで独自の言葉遣い、視点、人柄、そして理想に触れて、新島と対話をするようにして理解を深めたい。かれの書簡はじつに多様な人びとに宛てられており、たんなる個人的消息のみならず、青春文学、学問論、信仰論、異文化論、教育論、神学論など多様な側面を有している。同志社設立者の珠玉の言葉に出会って欲しい。

到達目標:

1)新島襄の畢生の事業が同志社設立にとどまらず、近代日本に自由の概念を移植し、自由を理念として行動する人びとを育て、自由自治の社会を形成することにあつたことを時代背景とともに理解すること(知識・理解)。
2)本学建学の精神が内包する理想と受講者各人の大学生活との関係を主体的に思考すること(関心・意欲・態度・発展)。

授業方法:

講義を中心とし、テーマに応じて小グループでの討議を併用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入ー書簡文学としての新島研究ー	配布資料などにより、新島が生きた時代について理解を深める。
2.	新島襄とその時代	配布資料などにより、新島の生涯について理解を深める。
3.	新島襄の交友	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。あわせて幕末期の日本についても知識を整理しておくことが望まれる。
4.	幕末から脱国	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。とくに青年新島がとらえた米国の生活とおして異文化理解について考えておくことが望まれる。
5.	欧米の発見ー1	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。留学中の新島の葛藤とはなんであったのか、関心を整理しておくことが望まれる。
6.	欧米の発見ー2	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。留学はどのように新島に影響を与えたのか、関心を整理しておくことが望まれる。
7.	帰国	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。新島が理想とした教育とはどのようなものであったのか、関心を整理しておくことが望まれる。
8.	同志社の設立ー1	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。同志社の設立にはどのような人びとがかかわったのか、新島の協力者にも注目して関心を整理しておくことが望まれる。
9.	同志社の設立ー2	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。新島が描くキリスト教教育の理想について関心を整理しておくことが望まれる。
10.	教育と教会の理想ー1	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。新島が描くキリスト教の理想について関心を整理しておくことが望まれる。
11.	教育と教会の理想ー2	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。教師であり宗教者であった新島についてそのイメージを整理しておくことが望まれる。
12.	教育と教会の理想ー3	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。新島の後継者とはだれか、関心を整理しておくことが望まれる。
13.	夢を託して	これまでの授業について総合的に復習をしておくこと。
14.	新島襄と現代	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

第1回～第3回までは、本講義全体と新島襄にかんする総合的なガイダンスであるが、第4回からは、実際に新島襄の手紙を読み、その背景のみならず言葉遣いなどを通して新島の聲咳と人柄に触れながら、新島の思想を検討する。毎回、事前の予習をしておくことと授業期間終了時までに関連書籍の読了を目標として欲しい。

フィードバックの方法:

毎回、前回のコメントシートのうち代表的なコメントを紹介し、担当者から応答するなどによって、受講生の関心を共有しながら講義を進めます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	55%	ふたつの到達目標にどの程度達しているかを基準として評価します。
	授業への参加度	45%	毎回の出席とコメントシートへの積極的記入によって評価しますが、多数の受講生が予測されるため、小グループでの討議は評価対象とはしません。

教科書:

同志社編『新島襄の手紙』岩波文庫、2005年(必携)

参考書:

同志社編『新島襄自伝』岩波文庫、2013年
同志社編『新島襄 教育宗教論集』岩波文庫、2010年
現代語で読む新島襄編集委員会編『現代語で読む新島襄』丸善、2001年
新島襄全集編集委員会編『新島襄全集』同朋舎、1884～2000年
他は教室で指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、自己実現力、洞察力

教員との連絡方法:

直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	新島襄とその時代		
授業の概要:	近代世界における日本文明にとって同志社とは何なのでしょう。この授業では新島襄がしたためた手紙を主たる歴史資料として新島襄とその時代にアプローチしていきます。新島の、家族や弟子たちへの手紙は、彼の人間味あふれる魅力にせまることのできる最短の道であるとかんがえるからです。		
到達目標:	・新島襄による文語体の手紙を読解できる力をやしなう。 ・同志社の歴史を基軸として近代日本文明について考究する力をやしなう。		
授業方法:	講義。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション		
	2. 千里の志(1)	指示された課題にとりくむ。	
	3. 千里の志(2)	指示された課題にとりくむ。	
	4. 米欧世界にいきる(1)	指示された課題にとりくむ。	
	5. 米欧世界にいきる(2)	指示された課題にとりくむ。	
	6. 米欧世界にいきる(3)	指示された課題にとりくむ。	
	7. 米欧世界にいきる(4)	指示された課題にとりくむ。	
	8. 創業の日々(1)	指示された課題にとりくむ。	
	9. 創業の日々(2)	指示された課題にとりくむ。	
	10. 創業の日々(3)	指示された課題にとりくむ。	
	11. 創業の日々(4)	指示された課題にとりくむ。	
	12. 創業の日々(3)	指示された課題にとりくむ。	
	13. 新島襄と女子教育	指示された課題にとりくむ。	
	14. 新島襄と日本語	指示された課題にとりくむ。	
	15. まとめ	新島襄の手紙をよむことの意義を自分のことばでまとめる。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	文語体の手紙を読解することは、最初は困難かもしれませんが、よみなれていけるように配慮します。「新島襄とその時代」を出発点として日本(特に教育・学問・宗教・言語・家庭・京都)について総合的に考究することのおもしろさをみなさんとわかちあいたいとおもっています。		
フィードバックの方法:	みなさんからの質問や提出物については、基本的には教室でまとめて解説します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加	60	毎回のコメント内容によって授業への参加度を評価する。
	学期末テスト	40	二つの到達目標に関する知識や理解度によって評価する。
教科書:	同志社編、『新島襄の手紙』、岩波書店。		
参考書:	適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、		
教員との連絡方法:	基本的には授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

新島襄ゆかりの地を巡るニューイングランド研修

アメリカ合衆国北東部のニューイングランド。この地名は、17世紀初頭にピルグリムファーザーズ達が、キリスト教徒にとって理想的な社会の建設をめざしてイギリスから渡ってきたことに由来する。
それからおよそ250年、新島襄は封建社会の日本を脱国し、彼にとつての理想の土地、「福音が自由に宣(の)べ伝えられていて、神の御言葉を教える教師たちが派遣されてくる」ニューイングランドの中心都市ボストンに到着した。その後、幸いにもボストン在住の養父母の支援を得て、約8年間この地方に滞在し学校に通うことができたのは周知のとおりである。同志社精神の礎は、このニューイングランドで築かれたことに疑う余地はない。
この授業では、ニューイングランド、特にマサチューセッツ州の新島ゆかりの地を巡りながら、同志社教育の源流をたどる。そして、ニューイングランドの社会と文化が、いかに新島の教育観や生涯を形作つたか、また新島がどのような大学の設立を目指したのかを、学生と教職員が共に学び、語り合う機会にしたいと願う。

授業方法:

この授業は、事前授業での学生発表とディスカッション、研修旅行、そして事後レポート作成の流れで進める。参加学生の主体的で積極的な取り組み姿勢を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 第1回事前授業(11月) オリエンテーション、プログラム概要説明、渡航に向けての諸手続きの説明、新島襄の生涯と研修での訪問地の紹介	第1回事前授業で指示するテキストや資料を指定日までに読んでおきましょう。 第3回の研究発表に向けてグループで話し合い、協力し準備を進めておきましょう。出発前のよい準備が2週間の研修をよりよいものにします。 毎回の事前授業の後、その授業で学んだ内容や考察をノートに記録しておきましょう。 そのノートは、研修後の(振り返り)レポートの作成にも役立ちます。
	2. 第2回事前授業(11月) 女子大学史料室・Neesima Room・新島旧邸等の見学	
	3. 第3回事前授業(12月) 本研修のテーマに関する講義、学生による研究発表(同志社びわこリトリートセンターでの1泊研修)	
	4. 第4回事前授業(2月) 出発前Q&A、危機管理など	
	5. 研修旅行(2月24日(土)から3月9日(金)までの14日間) アメリカ、ニューイングランドを中心とした研修旅行 新島襄ゆかりの地として、マサチューセッツ州のボストン、アンドーヴァー、アーモスト、そしてバーモント州ラットランドを訪問するほか、周辺地域の史跡・美術館見学や文化体験、ニューヨークなどでの自由行動あり	
	6. 事後レポート(3月下旬) 事前授業での研究発表と研修旅行(実地視察)を踏まえた事後(振り返り)レポートの作成	

受講者へのメッセージやアドバイス:

テキストとして挙げられている『新島襄と建学精神』の「おわりに」で、著者の本井康博先生がこのように書かれています。
「自分の青春と将来の人生を託したこの大学が、いったいどういう人物によって、何を願って建てられたのか。それを掴み取ることができれば、大学で学ぶ意欲と誇りが自ずから湧いてくるに違いない。今後の人生に変化が生じるかもしれない」と。若き新島が自由を求めたどり着いたアメリカのニューイングランドで、大学生のみなさんは「何を」感じ「何を」夢に描くでしょう。この研修に参加することがこれからの人生のターニングポイントになるかもしれません。

新島襄ゆかりの地を巡る研修ですが、アメリカの歴史・文学・芸術に興味のある方にも大変魅力的なプログラムです。

フィードバックの方法:

事前授業:参加者各自が研究テーマについて学び、調べ、発表する
研修旅行中:実施視察および体験による学びを記憶・記録に残す
研修後:事前授業での研究発表と研修旅行(実地視察)を踏まえた振り返りレポートを作成し提出

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	事前授業での評価	20	振り返りレポートが提出されない場合「近代日本と同志社D」の単位は 付与されない。
	研修期間中の協調性、積極性あるいはグループ全体に対する貢献度を中心とした評価	60	
	振り返りレポートの評価	20	

教科書:

井上勝也・北垣宗治共編『ニューイングランドにおける新島襄ゆかりの場所』(学校法人同志社, 2005年)
同志社大学編『マンガで読む新島襄 自由への旅立ち』(英語版)((株)コトコト, 2008年)
本井康博著『新島襄と建学精神』(思文閣出版, 2005年)

※1~3の教科書は、最初の事前授業で配布する。
現代語で読む新島襄編集委員会編『現代語で読む新島襄』(丸善, 2001年)

※4は入学時に配布されたものを事前授業に持参すること。

参考書:

最初の事前授業で参考文献リストを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィス・アワー(火曜日4限目)およびemailで連絡を取り合う。

授業テーマ:

授業の概要: 授業1回目のオリエンテーションで決めた種目ごとにテニスコート、アリーナ、卓球室、トレーニングルームなどで実技の授業を進める。視聴覚教材などを使用したダンスの動作習得、球技などの技術練習とゲームを組み合わせた形式で行なう。また、体力測定を実施し、各自の現在の体力を分析して適切な運動の必要性を理解する。

到達目標: 人間のすべての活動の基盤である健康の保持・増進のために適度な運動は不可欠であり、機械化された現代社会において、特に重要な生活の構成要素になってきている。この授業では、人間の生活を豊かにするために作り上げられたものである各種スポーツを中心に、実技を行っていく中で、各受講者が生涯にわたって、それぞれのライフスタイルに応じた適切な運動を行うための知識と技能を修得し、定期的な運動習慣を身につけることを目指す。

授業方法: 種目ごとに実技を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、実施種目の決定 (受講者の興味関心などを考慮して実施する種目を決定する) 実施する種目の例:テニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ダンス、フィットネス等	
	2. 種目の基本的理解(特性、歴史、技術体系など)	決定した種目について調べる
	3. 基本的技術の理解と練習1	各自が個人的な目標を決める
	4. 基本的技術の練習2	各自が個人的な目標を決める
	5. 基本的技術のドリルと基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式やルールを調べる
	6. 基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス2	種目のゲーム形式やルールの復習をする
	7. 体力測定	
	8. 体力測定結果の解説と分析	実施した体力測定の内容を振り返る
	9. 応用的技術の理解と練習1	各自が課題設定する
	10. 応用的技術の練習2	各自が課題設定する
	11. 複合的技術の理解と練習1	種目のゲーム形式で応用的な方法を考える
	12. 複合的技術の練習2とゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
	13. ゲーム・パフォーマンス2	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
	14. ゲーム・パフォーマンス3	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
	15. 種目に対する理解の再確認	種目の特性、歴史、技術体系などを復習する

受講者へのメッセージやアドバイス: 1年次の体育実技Aは指定されたクラスで履修すること。

フィードバックの方法: 担当教員の指示に従う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加・態度	60	授業への参加状況を評価する
	技術・技能	20	学習による向上も含めて評価する
	積極的取り組み	20	健康・体力や当該種目についての認識の深まりも含めて評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法: 担当教員の指示に従う。

授業テーマ:

授業の概要: 授業1回目のオリエンテーションで決めた種目ごとにテニスコート、アリーナ、卓球室、トレーニングルームなどで実技の授業を進める。視聴覚教材などを使用したダンスの動作習得、球技などの技術練習とゲームを組み合わせた形式で行なう。また、体力測定を実施し、各自の現在の体力を分析して適切な運動の必要性を理解する。

到達目標: 人間のすべての活動の基盤である健康の保持・増進のために適度な運動は不可欠であり、機械化された現代社会において、特に重要な生活の構成要素になってきている。この授業では、人間の生活を豊かにするために作り上げられたものである各種スポーツを中心に、実技を行っていく中で、各受講者が生涯にわたって、それぞれのライフスタイルに応じた適切な運動を行うための知識と技能を修得し、定期的な運動習慣を身につけることを目指す。

授業方法: 種目ごとに実技を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、実施種目の決定 (受講者の興味関心などを考慮して実施する種目を決定する) 実施する種目の例:テニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ダンス、フィットネス等	
	2. 種目の基本的理解(特性、歴史、技術体系など)	決定した種目について調べる
	3. 基本的技術の理解と練習1	各自が個人的な目標を決める
	4. 基本的技術の練習2	各自が個人的な目標を決める
	5. 基本的技術のドリルと基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式やルールを調べる
	6. 基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス2	種目のゲーム形式やルールの復習をする
	7. 体力測定	
	8. 体力測定結果の解説と分析	実施した体力測定の内容を振り返る
	9. 応用的技術の理解と練習1	各自が課題設定する
	10. 応用的技術の練習2	各自が課題設定する
	11. 複合的技術の理解と練習1	種目のゲーム形式で応用的な方法を考える
	12. 複合的技術の練習2とゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
	13. ゲーム・パフォーマンス2	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
	14. ゲーム・パフォーマンス3	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
	15. 種目に対する理解の再確認	種目の特性、歴史、技術体系などを復習する

受講者へのメッセージやアドバイス: 1年次の体育実技Bは指定されたクラスで履修すること。

フィードバックの方法: 担当教員の指示に従う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加・態度	60	授業への参加状況を評価する
	技術・技能	20	学習による向上も含めて評価する
	積極的取り組み	20	健康・体力や当該種目についての認識の深まりも含めて評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法: 担当教員の指示に従う。

授業テーマ:			
授業の概要:	授業1回目のオリエンテーションで決めた種目ごとにテニスコート、アリーナ、卓球室、トレーニングルームなどで実技の授業を進める。視聴覚教材などを使用したダンスの動作習得、球技などの技術練習とゲームを組み合わせた形式で行なう。また、体力測定を実施し、各自の現在の体力を分析して適切な運動の必要性を理解する。		
到達目標:	生涯を通して運動に親しむ健康的なライフ・スタイルを身につけるために、スポーツ種目の技術はもちろんのこと、自主的なスポーツへの取り組み、練習計画やゲーム運営等を含めた自律的なスポーツ実践に必要な知識や能力を養うことを目的とする。		
授業方法:	種目ごとに実技を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、実施種目の決定 (受講者の興味関心などを考慮して実施する種目を決定する) 実施する種目の例:テニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ダンス、フィットネス等	決定した種目について調べる	
	2. 種目の基本的理解(特性、歴史、技術体系、練習計画の作成原理など)	各自が個人的な目標を決める	
	3. 基本的技術の理解と練習1	各自が個人的な目標を決める	
	4. 基本的技術の練習2	種目のゲーム形式やルールを調べる	
	5. 基本的技術のドリルと基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式やルールの復習する	
	6. 基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス2		
	7. 体力測定	実施した体力測定の内容を振り返る	
	8. 体力測定結果に対応した各自の運動処方の作成	各自が課題設定する	
	9. 応用的技術の理解と練習1	各自が課題設定する	
	10. 応用的技術の練習2	種目のゲーム形式で応用的な方法を考える	
	11. 複合的技術の理解と練習1	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する	
	12. 複合的技術の練習2とゲーム・パフォーマンスの計画・運営1	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する	
	13. ゲーム・パフォーマンスの計画・運営2	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する	
	14. ゲーム・パフォーマンスの計画・運営3	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する	
	15. 種目に対する理解の再確認	種目の特性、歴史、技術体系などを復習する	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	担当教員の指示に従う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加・態度	60	授業への参加状況を評価する
	技術・技能	20	学習による向上も含めて評価する
	積極的取り組み	20	健康・体力や当該種目についての認識の深まりも含めて評価する
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	リーダーシップ、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	担当教員の指示に従う。		

授業テーマ:			
授業の概要:	授業1回目のオリエンテーションで決めた種目ごとにテニスコート、アリーナ、卓球室、トレーニングルームなどで実技の授業を進める。視聴覚教材などを使用したダンスの動作習得、球技などの技術練習とゲームを組み合わせた形式で行なう。また、体力測定を実施し、各自の現在の体力を分析して適切な運動の必要性を理解する。		
到達目標:	生涯を通して運動に親しむ健康的なライフ・スタイルを身につけるために、スポーツ種目の技術はもちろんのこと、自主的なスポーツへの取り組み、練習計画やゲーム運営等を含めた自律的なスポーツ実践に必要な知識や能力を養うことを目的とする。		
授業方法:	種目ごとに実技を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、実施種目の決定 (受講者の興味関心などを考慮して実施する種目を決定する) 実施する種目の例:テニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ダンス、フィットネス等	決定した種目について調べる	
	2. 種目の基本的理解(特性、歴史、技術体系、練習計画の作成原理など)	各自が個人的な目標を決める	
	3. 基本的技術の理解と練習1	各自が個人的な目標を決める	
	4. 基本的技術の練習2	種目のゲーム形式やルールを調べる	
	5. 基本的技術のドリルと基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式やルールの復習する	
	6. 基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス2		
	7. 体力測定	実施した体力測定の内容を振り返る	
	8. 体力測定結果に対応した各自の運動処方の作成	各自が課題設定する	
	9. 応用的技術の理解と練習1	各自が課題設定する	
	10. 応用的技術の練習2	種目のゲーム形式で応用的な方法を考える	
	11. 複合的技術の理解と練習1	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する	
	12. 複合的技術の練習2とゲーム・パフォーマンスの計画・運営1	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する	
	13. ゲーム・パフォーマンスの計画・運営2	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する	
	14. ゲーム・パフォーマンスの計画・運営3	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する	
	15. 種目に対する理解の再確認	種目の特性、歴史、技術体系などを復習する	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	担当教員の指示に従う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加・態度	60	授業への参加状況を評価する
	技術・技能	20	学習による向上も含めて評価する
	積極的取り組み	20	健康・体力や当該種目についての認識の深まりも含めて評価する
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	リーダーシップ、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	担当教員の指示に従う。		

授業テーマ:

身体のしくみを学び健康について考える

授業の概要:

日常生活であり意識されていないからだのメカニズムを学ぶ。健康であるとは身体的にも精神的にも気持ちよくさわやかに生きることである。体力があるとは行動体力つまり運動能力が高いこと、そしてさまざまな環境におけるストレスから身体を守る防衛体力つまり免疫などの健康維持能力が高いことである。このようなからだのしくみの基本的な構造と機能を生理学的な観点から学び、身体運動や環境と健康の関係について考察する。

到達目標:

身体のしくみや環境との関わりについて知見を広める。授業への積極的取り組みや課題に対する提出物において理解した知識をまとめ、各自の発表において表現力を高める。

授業方法:

講義を中心とし、各自の発表も含めた方法で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	日常生活と健康の関係について	日常生活における行動を健康面から振り返っておく
2.	飲酒と健康	飲酒の良い面と悪い面について調べておく
3.	喫煙と健康	喫煙の害について調べておく
4.	薬物乱用と健康	薬物乱用の害について調べておく
5.	女性のからだの特徴	自分自身の健康につて女性の立場から考えておく
6.	妊娠・出産と健康	妊娠・出産の時期に配慮しなければならない事を調べておく
7.	環境と健康	空気、水、土などの汚染について調べておく
8.	食生活と健康	食生活を振り返っておく
9.	運動と健康	身体運動と健康との関係について調べておく
10.	心とからだの健康	心のありようが健康状態に影響している事を考えてみる
11.	高齢社会と健康	高齢者の身体的特徴や高齢社会について調べておく
12.	応急手当と健康	外傷などの日常的な応急手当と命を救うAEDなどによる応急手当について調べておく
13.	免疫機能を健康	免疫のしくみについて『生物』などの科目で学んだ事の復習をしておく
14.	身体の適応能力	健康的な生活のための取り組みをまとめておく
15.	現代の感染症と健康	インフルエンザ、その他の感染症について調べ、それらに罹患しない健康的な休暇の過ごし方を考えてみよう

受講者へのメッセージやアドバイス:

今回の授業までに関連書物による定説やインターネット等による最新情報をまとめておく。

フィードバックの方法:

提出物は教室で返却しまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加・態度	40	授業への参加状況を評価する
	提出物・テスト	40	予習、授業の取り組み、テストにおける理解を評価する
	発表	20	各自の発表時の資料や表現力を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:

ウエルネスの理論と実践

授業の概要:

総合的な健康の概念としてのウエルネスの目標である幸福で充実した人生をおくるために、各自が自分の生活習慣をどのように改善したらよいかについて、その理論と方法を学んでいく。

到達目標:

ウエルネスに生きるための理論と方法を学び、積極的にグループワークに参加し、体験学習を通して各自の価値観、気づき等についての振り返りを行い、将来に向けてのウエルネス実践へとつなげていくことを目標とする。

授業方法:

講義、体験学習を主にグループにおける話し合い、発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業に関するオリエンテーション	シラバスを確認しておく
2.	コミュニケーション実習としての体験学習	コミュニケーションとは何かを調べておく
3.	ウエルネス概念、キーワードについての学び	健康とは何か、また健康に関する情報を調べておく
4.	自分の現在のウエルネス度についてのチェック	どのような生活習慣を送っているか考えておく
5.	行動変容における生活習慣改善についての学びと行動変容とものの見方、考え方についての体験学習	行動変容とは何かを調べておく
6.	デス・ラーニング	死の準備教育とは何か考えておく
7.	死の受容とライフプランニングについての学ぶ	どのような人生を送りたいか考えておく
8.	ライフプランニングとタイムマネジメントについて学ぶ	時間管理について考えておく
9.	余暇とタイムマネジメントの体験学習	余暇とは何か考えておく
10.	価値観についての学びと体験学習	価値観について考えておく
11.	ストレスについての学びとストレス度チェック及びストレスマネジメントとその実習	ストレスに関する情報を調べておく
12.	リラクセーション方法の体験	リラクセーションに関する情報を調べておく
13.	食と食行動についての学び	食に関する情報を調べておく
14.	ウエルネス保養地と健康保養地についての学び	保養に関する情報を調べておく
15.	まとめと振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:

体験学習を主にグループワーク時では、積極的に参加発表することと、振り返りレポート提出が評価の対象となりますので、体調管理に心掛けて授業参加してください。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説、返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	振り返りレポート	70%	到達目標ウエルネスの理論を理解した上で、どの程度独自の視点があるかを基準とする。
	発表、話し合い	15%	グループ発表での自分の役割とその達成度、積極的に参加しているか態度・意欲を評価する。
	授業への参加度	15%	積極的に授業に参加し、将来ウエルネス実践につなげることができるようになったかを評価する。

教科書:

参考書:

野崎泰明、ウエルネスマネジメント、メッツ出版

野崎泰明、ウエルネスの理論と実践、メッツ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業後教室にて

授業テーマ:	健康と食にまつわる理論を学び、近年の社会的問題について考える		
授業の概要:	日常生活を快適に過ごすためには、身体的にも精神的にも健康であることが前提となる。しかし、現代社会は便利になった反面、飽食による食生活の乱れや運動不足による生活習慣病の発症、また精神的なストレスによる摂食障害など、不健康な人が増加している。 本講では、食と健康について、運動とも関連づけながら理論を学修するとともに自身の日常生活について、課題を考える。		
到達目標:	・健康を維持し、体力を向上させるために必要な栄養と運動について理解する ・食と健康に関する近年の社会的な問題について理解する ・自身の身体活動状況と食事のバランスについて把握し、課題を考える ・身体活動と食事に関する女性特有の健康問題について考える		
授業方法:	・基本的には講義形式で授業を進める ・授業内容の理解を深めるために簡単な計算作業をする場合がある ・各授業の最後に授業に関するコメント等を課す		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 基礎理論:エネルギー系、三大栄養素のはたらきについて		
	2. 身体組成を把握する方法と現状：体格指数(BMI)、インピーダンス法	身体状況と健康状態について、自己評価する	
	3. 健康づくりのための運動と栄養について：身体活動強度、にこにこベース、摂取タイミング		
	4. 身体づくりと食事について：筋肉づくり、タンパク質、エネルギーの摂取	タンパク質の摂取状況について、自己評価する	
	5. 生活習慣病の原因と対策について：肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病	ライフスタイルについて、自己評価する	
	6. ウェイトコントロールとダイエットについて：エネルギーの収支、食事制限、リバウンド	ダイエットの経験について、自己評価する	
	7. 疲労の原因と回復法について：適度な運動の実施、代謝の促進	運動の実施状況について、自己評価する	
	8. 疲労の回復と食事について：炭水化物、エネルギー源、抗酸化ビタミン	食生活の状況について、自己評価する	
	9. ストレスの原因と食事について：摂食障害(拒食と過食)、自律神経系、五感	ストレスの経験について、自己評価する	
	10. 貧血症と低血圧の相違と食事の効果について：ヘム鉄、ヘモグロビン、吸収促進と阻害	貧血症と低血圧の状況について、自己評価する	
	11. ライフスタイルと骨づくりについて：骨粗しょう症、月経不順、カルシウム、インスタント食品	骨密度の状況について、自己評価する	
	12. 発育発達期の食事について：食育、スキヤモンの成長曲線、インスタント食品	発育発達期の食生活について、自己評価する	
	13. サプリメントの種類と課題について：野菜ジュース、特定保健用食品、食事バランスガイド	サプリメント、および野菜ジュースの摂取状況について、自己評価する	
	14. 食の安心、安全について：添加物、ADI	添加物の摂取状況について、自己評価する	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	・翌週の授業の内容について、事前準備すること。 ・授業で配布した資料、および下記に示した参考図書等を参考にして復習すること。		
フィードバックの方法:	授業で提出されたコメントペーパーの内容は、適宜、授業等で紹介する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60	到達目標の「健康を維持し、体力を向上させるために必要な栄養と運動」、「食と健康に関する近年の社会的な問題」について、理解度を評価する
	コメントペーパーの内容	40	授業にて課すテーマに対し、真摯に考察しているかを評価する
教科書:			
参考書:	岡村 浩嗣 編、『市民からアスリートまでのスポーツ栄養学』、八千代出版 前田 如夫、田中 喜代次 編、『健康の科学』、金芳堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール		

授業テーマ:	文化社会史的観点からスポーツの意義をとらえ直す		
授業の概要:	スポーツはそれぞれの時代・社会の価値観を反映して作り上げられた文化である。また同時にスポーツは現在では世界共通の文化として多くの人がさまざまなレベルでこれに関わっている。この授業ではどのような人間の夢や願いがスポーツを生み出し、変化させてきたのか。また、どのような時代や社会がそれに影響を与えていたのか等についてみていく。そしてそのことを通して、人間の文化とスポーツを捉え直し、新たな発展を導く視点を探求する。		
到達目標:	スポーツの成立から現在までの文化的発展や変遷を認識し、スポーツを通して時代や社会の変化や違いを理解することによって、グローバルな視点でスポーツの今後の在り方を構想できるようになることが目標である。		
授業方法:	講義を中心として授業を進めるが、出来る範囲で分担した課題の発表やディスカッションをする機会を設けて、受講者が主体的に取り組める授業にしたい。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	はじめに スポーツ文化論の射程	自分自身のスポーツ体験やスポーツ観をまとめて授業に臨む
	2.	スポーツとはどのような文化か	授業期間を通して、マスコミなどに報じられるスポーツイベントなどを確認する(以降毎週)
	3.	イギリス貴族の生活文化とスポーツの成立	イギリスの概要(地理的特徴、面積、人口、歴史など) イギリスの生まれのスポーツ種目(20以上)
	4.	イギリス・スポーツの特徴	映画「炎のランナー」視聴と内容理解
	5.	アメリカの社会・文化とアメリカ・スポーツ	アメリカ合衆国の概要(面積、人口、州の数、歴史的特徴など) アメリカンフットボールのルール
	6.	アメリカ・スポーツの特徴	映画「フィールド・オブ・ドリームス」視聴と内容理解
	7.	スポーツを通してみるイギリスとアメリカの文化比較	映画「エニイ・ギヴン・サンデー」の視聴してそこに見られるスポーツ価値づけの特徴を確認する
	8.	ヨーロッパ大陸におけるスポーツ	ヨーロッパの国々を確認しておく
	9.	日本的スポーツの歴史と特徴 野球に見る日米文化比較	柔道と剣道のルールと内容
	10.	スポーツの国際化とオリンピック	世界的スポーツ大会のリストアップ
	11.	オリンピックの理念と歴史的変遷	オリンピックで印象に残っていることを確認しておく
	12.	健康とスポーツ1 健康観の歴史	健康のために心掛けていることを箇条書きにしておく
	13.	健康とスポーツ2 健康法としてのスポーツの文化的意義	事後課題: 毎日の運動量を記録(一週間)、評価し、今後の改善方計画を立てる。
	14.	現代社会とスポーツ	ドーピングについて調べておく
	15.	文化論的観点から見たスポーツの歴史と問題点	授業資料や内容を全体的に確認して、文化論的観点から現代の課題と、今後の方向性を考えておく
	受講者へのメッセージやアドバイス:	知的な好奇心を持って授業に出席し、自分自身の現在と今後のスポーツ活動などをより健康の維持増進と生活を豊かにするものとする意義あるものにする糧としてほしい。	
フィードバックの方法:	基本的に次の授業時間にコメントシート等の内容を報告して前回授業の振り返りと今回授業のイントロダクションとして用いる。また必要に応じて返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加	50	授業への取り組みと毎回のコメントシート
	授業課題	20	課題の達成度
	授業内容の主体的把握	30	最終コメントシートの内容
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力、コミュニケーション力、変化対応力、		
教員との連絡方法:	yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	英語読解力の養成
授業の概要:	この授業では、主に二つの活動を行う。一つは、各学科の専門領域と関連した英語のテキストを読み、その内容について、英語や日本語を使って口頭で発表したり、レポートにまとめたりする。テキストを読む際には、内容の深い理解を心がけ、その社会的、文化的背景についても考えていく。もう一つは、TOEIC (Test of English for International Communication) の読解力を高める訓練をする。TOEICは、英語を母語としない人のための、英語によるコミュニケーション能力を測るものであり、大学生の英語力を測定するために現在最もよく使われている標準テストである。1年次の秋学期には全員にTOEICを受験してもらう予定である。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム (ALC Net Academy2、Super英語、ATR CALL BRIX) を積極的に利用する。
到達目標:	1.各学科の専門領域と関連した英語のテキストを正確に読み取る。2. テキストの内容について、英語や日本語で話し合い、各自の意見を口頭やレポートの形で的確に表現する。3. TOEICの読解力を高める。
授業方法:	授業は演習形式で行う。英文テキストの読解を中心に行うが、読み取った後に、内容について、話し合ったり、各自の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の1であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
2.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
3.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
4.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
5.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
6.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
7.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
8.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
9.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
10.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
11.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
12.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
13.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
14.	英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:	
フィードバックの方法:	具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験(定期試験、小テスト等)	60%	学習内容の理解度により、評価する。
	平常点(授業中の意欲的な態度、課題提出、発表等)	40%	授業中の意欲的な態度:積極的に授業に参加し、学習内容を理解しようと努力しているかを評価する。課題提出:与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が表現できているかを評価する。発表:グループまたは個人で、与えられた課題についての的確に発言しているかを評価する。
教科書:	各担当者により異なる。		
参考書:			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡 方法:	各担当者より連絡方法を伝える。		

授業テーマ:

Reading for International Communication

授業の概要:

Reading is the one of the keys to academic success in any language. This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. This course will focus on reading skills necessary for understanding conversations as well as short talks/lectures and news reports. This will include weekly practice of reading skills necessary to increase vocabulary and improve grammar and reading for overall meaning and content to strengthen other communication skills, such as listening, speaking, and writing.

到達目標:

This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to skim and read for main ideas in a variety of English texts and understand and produce information and opinions on academic topics about what they read. They should also be able to read and quickly understand basic work-type situations using English.

授業方法:

Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
2. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
3. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
4. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
5. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
6. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
7. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
8. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
9. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
10. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
11. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
12. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
13. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
14. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
15. Self-reflection; Wrap-up	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a skills class. That means students will be asked to do some reading preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyable classroom experience. Students should check Manabi and their DWC e-mail every week.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Participation & Attendance	30%	Active participation in class and group work
Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work
Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects
M-Reader Activities	10%	M-Reader Progress

教科書:

Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	TOEIC試験	20%	TOEIC試験結果により評価する。
	試験(定期試験、小テスト等)	50%	学習内容の理解度により、評価する。
	平常点(授業中の意欲的な態度、課題提出、発表等)	30%	授業中の意欲的な態度:積極的に授業に参加し、学習内容を理解しようと努力しているかを評価する。課題提出:与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が表現できているかを評価する。発表:グループまたは個人で、与えられた課題についての的確に発言しているかを評価する。
教科書:	担当者によって異なる。		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	各担当者から連絡方法を伝える。		

授業テーマ:

Reading for International Communication

授業の概要:

Reading is the one of the keys to academic success in any language. This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. This course will focus on reading skills necessary for understanding conversations as well as short talks/lectures and news reports. This will include weekly practice of reading skills necessary to increase vocabulary and improve grammar and reading for overall meaning and content to strengthen other communication skills, such as listening, speaking, and writing.

到達目標:

This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to skim and read for main ideas in a variety of English texts and understand and produce information and opinions on academic topics about what they read. They should also be able to read and quickly understand basic work-type situations using English.

授業方法:

Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
	2. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	3. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	4. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	5. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	6. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	7. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	8. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	9. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	10. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	11. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	12. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	13. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	14. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	15. Self-reflection; Wrap-up	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a skills class. That means students will be asked to do some reading preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyable classroom experience. Students should check Manabi and their DWC e-mail every week.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class Participation & Attendance	30%	Active participation in class and group work
	Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work
	Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects
	M-Reader Activities	10%	M-Reader Progress

教科書:

Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

授業テーマ:	英語読解力の養成	
授業の概要:	この授業では、1年次の「英語講読ⅠA」「英語講読ⅠB」に引き続き、さらに高度な読解力を養うため、主に二つの活動を行う。一つは、各学科の専門領域と関連した英語のテキストを読み、その内容について、英語や日本語を使って口頭で発表したり、レポートにまとめたりする。テキストを読む際には、内容の深い理解を心がけ、その社会的、文化的背景についても考えていく。もう一つは、1年次に受験したTOEIC(Test of English for International Communication)の読解力を更に高める訓練をする。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム(ALC Net Academy2、Super英語、ATR CALL BRIX)を積極的に利用する。	
到達目標:	1.各学科の専門領域と関連した英語のテキストを正確に読み取る。2. テキストの内容について、英語や日本語で話し合い、各自の意見を口頭やレポートの形で的確に表現する。3. TOEICの読解力を高める。	
授業方法:	授業は演習形式で行う。英文テキストの読解を中心に行うが、読み取った後に、内容について、話し合ったり、各自の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の1であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	2. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	3. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	4. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	5. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	6. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	7. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	8. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	9. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	10. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	11. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	12. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	13. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	14. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
	15. まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:		
フィードバックの方法:	具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。	

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法		評価基準
	試験(定期試験、小テスト等)	割合	学習内容の理解度により、評価する。
	平常点(授業中の意欲的な態度、課題提出、発表等)	40%	授業中の意欲的な態度:積極的に授業に参加し、学習内容を理解しようと努力しているかを評価する。課題提出:与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が表現できているかを評価する。発表:グループまたは個人で、与えられた課題についての的確に発言しているかを評価する。
教科書:	担当者によって異なる。		
参考書:			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡 方法:	各担当者より連絡方法を伝える。		

授業テーマ:	英語読解力の養成		
授業の概要:	この授業では、「英語講読ⅡA」に引き続き、更に高度な読解力を養うため、主に二つの活動を行う。一つは、各学科の専門領域と関連した英語のテキストを読み、その内容について、英語や日本語を使って口頭で発表したり、レポートにまとめたりする。テキストを読む際には、内容の深い理解を心がけ、その社会的、文化的背景についても考えていく。もう一つは、1年次に受験したTOEIC (Test of English for International Communication) の読解力を更に高める訓練をする。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム (ALC Net Academy2、Super英語、ATR CALL BRIX) を積極的に利用する。		
到達目標:	1.各学科の専門領域と関連した英語のテキストを正確に読み取る。2. テキストの内容について、英語や日本語で話し合い、各自の意見を口頭やレポートの形で的確に表現する。3. TOEICの読解力を高める。		
授業方法:	授業は演習形式で行う。英文テキストの読解を中心に行うが、読み取った後に、内容について、話し合ったり、各自の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の1であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	2. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	3. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	4. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	5. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	6. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	7. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	8. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	9. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	10. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	11. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	12. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	13. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	14. 英文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験(定期試験、小テスト等)	60%	学習内容の理解度により、評価する。

平常点(授業中の意欲的な態度、課題提出、発表等)

40%

授業中の意欲的な態度:積極的に授業に参加し、学習内容を理解しようと努力しているかを評価する。課題提出:与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が表現できているかを評価する。発表:グループまたは個人で、与えられた課題についての的確に発言しているかを評価する。

教科書: 担当者によって異なる。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 各担当者より連絡方法を伝える。

授業テーマ：	英語のリスニングとスピーキング能力の養成
授業の概要：	この授業では、英語のリスニングとスピーキング能力を養成するため、主として二つの活動を行う。一つは、総合教材テキストを用いて、「話す、聞く、読む、書く」という英語の4技能の中のリスニングとスピーキングの技能を養う。もう一つは、TOEIC (Test of English for International Communication)に関連するリスニング中心の活動を行う。TOEICは、英語を母語としない人のための、英語によるコミュニケーション能力を測るものであり、大学生の英語力を測定するために現在最もよく使われている標準テストである。1年次の秋学期には全員にTOEICを受験してもらう予定である。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム (ALC Net Academy2、Super英語、ATR CALL BRIX)を積極的に利用する。
到達目標：	1. 英語のコミュニケーション力(特にリスニングとスピーキング能力)を養う。2. 異文化間コミュニケーションに対する積極的な態度を養う。3. TOEICのリスニング能力を高める。
授業方法：	授業は演習形式で行う。英語での対話、簡単な討論、発表を通して、リスニングとスピーキングの力を養成する。TOEICに関する聞き取りの訓練も実施する。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の1であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
2.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
3.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
4.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
5.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
6.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
7.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
8.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
9.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
10.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
11.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
12.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
13.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。

14.

英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)

授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学习システムを活用する。
15.

英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)

授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学习システムを活用する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験(小テスト等)	60%	学習内容の理解度により、評価する。
	平常点(授業中の意欲的な態度、発表、課題提出等)	40%	授業中の意欲的な態度: 積極的に授業に参加し、学習内容を理解しようと努力しているかを評価する。発表: グループまたは個人で、与えられた課題についての的確に口頭発表できているかを評価する。課題提出: 与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が表現できているかを評価する。

教科書: 担当者によって異なる。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 各担当者より連絡方法を伝える。

授業テーマ:

International Communication

授業の概要:

This course will teach students English skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. While students will practice all 4 skills, reading, writing, listening and speaking, the skills focused upon will depend on the level of the student.

At intermediate level, this course will focus on listening skills necessary for understanding conversations as well as short talks/lectures and news reports. This will include a balance of “micro-skills” such as the ability to recognise and deal with reduced forms of words and recognise individual words as well as “top-down” skills such as the ability to use real world knowledge to identify speakers reasons for speaking their goals.

At advanced level, this course will focus on the writing skills needed to write short texts and later essays. These will include a consideration of the importance of audience (the readers) and the writers reasons for writing as well the appropriate language. It will deal with the structure of both paragraphs and essays and writing skills such as the use of transitions as well as the examining the grammar of the written language.

到達目標:

This course will teach students English skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to understand and produce information and opinions on academic topics. They should also be able to manage basic work-type situations using English.

授業方法:

Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
	2. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	3. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	4. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	5. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	6. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	7. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	8. Assessment focusing on specific listening, speaking, reading and writing skills.	Preparation for assessment and other relevant homework set by the instructor.
	9. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	10. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	11. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	12. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	13. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	14. Assessment focusing on specific listening, speaking, reading and writing skills.	Preparation for assessment and other relevant homework set by the instructor.
	15. Wrap-up	Reflect upon what the student learned and other relevant homework set by the instructor.

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a skills class. That means students will be asked to do some preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyable classroom experience.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class Participation & Attendance	40%	Active participation in class and group work
	Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work
	Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects

教科書:

Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

授業テーマ：	英語のリスニングとスピーキング能力の養成
授業の概要：	この授業では、「英語コミュニケーションⅠA」での授業内容を引き継ぎ、英語のリスニングとスピーキング能力を養成するため、主として二つの活動を行う。一つは、総合教材テキストを用いて、「話す、聞く、読む、書く」という英語の4技能の中のリスニングとスピーキングの技能を養う。もう一つは、TOEIC(Test of English for International Communication)に関連するリスニング中心の活動を行う。日常の英語力の研鑽の結果を確認するとともに、さらなる飛躍の契機とするため、この科目の受講者全員には、秋学期後半に学内で実施されるTOEICの受験が義務付けられている。この試験結果は、この授業科目の成績に加味されるとともに、2年次科目「英語コミュニケーションⅡA・ⅡB」がある学部学科については、そのクラス分けにも使われる。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム(ALC Net Academy2、Super英語、ATR CALL BRIX)を積極的に利用す
到達目標：	1. 英語のコミュニケーション力(特にリスニングとスピーキング能力)を養う。2. 異文化間コミュニケーションに対する積極的な態度を養う。3. TOEICのリスニング能力を高める。
授業方法：	授業は演習形式で行う。英語での対話、簡単な討論、発表を通して、リスニングとスピーキングの力を養成する。TOEICに関する聞き取りの訓練も実施する。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の1であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
2.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
3.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
4.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
5.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
6.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
7.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
8.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
9.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
10.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
11.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
12.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
13.	英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。

14. 英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)
15. 英語コミュニケーション(英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等)
- 授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学习システムを活用する。
- 授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学习システムを活用する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
TOEIC試験	20%	TOEIC試験結果により評価する。
試験(小テスト等)	40%	学習内容の理解度により、評価する。
平常点(授業中の意欲的な態度、発表、課題提出等)	40%	授業中の意欲的な態度:積極的に授業に参加し、学習内容を理解しようと努力しているかを評価する。発表:グループまたは個人で、与えられた課題についての確に口頭発表できているかを評価する。課題提出:与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が表現できているかを評価する。

教科書: 担当者によって異なる。

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

各担当者より連絡方法を伝える。

授業テーマ:

International Communication

授業の概要:

This course will teach students English skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. While students will practice all 4 skills, reading, writing, listening and speaking, the skills focused upon will depend on the level of the student.

At intermediate level, this course will focus on listening skills necessary for understanding conversations as well as short talks/lectures and news reports. This will include a balance of “micro-skills” such as the ability to recognise and deal with reduced forms of words and recognise individual words as well as “top-down” skills such as the ability to use real world knowledge to identify speakers reasons for speaking their goals.

At advanced level, this course will focus on the writing skills needed to write short texts and later essays. These will include a consideration of the importance of audience (the readers) and the writers reasons for writing as well the appropriate language. It will deal with the structure of both paragraphs and essays and writing skills such as the use of transitions as well as the examining the grammar of the written language.

到達目標:

This course will teach students English skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to understand and produce information and opinions on academic topics. They should also be able to manage basic work-type situations using English.

授業方法:

Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
2. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
3. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
4. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
5. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
6. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
7. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
8. Assessment focusing on specific listening, speaking, reading and writing skills.	Preparation for assessment and other relevant homework set by the instructor.
9. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
10. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
11. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
12. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
13. Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
14. Assessment focusing on specific listening, speaking, reading and writing skills.	Preparation for assessment and other relevant homework set by the instructor.
15. Wrap-up	Reflect upon what the student learned and other relevant homework set by the instructor.

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a skills class. That means students will be asked to do some preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyable classroom experience.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Participation & Attendance	40%	Active participation in class and group work
Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work
Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects

教科書:

Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

The goal is to develop students' English communication skills under the guidance of a native-English-speaking teacher.

Of the four skills (speaking, listening, reading, and writing), speaking and listening are emphasized.

Visual audio learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, have discussions, and conduct mini-debates in class. They need to communicate positively in English during class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	Depends on teacher
	2. English Communication 1	Depends on teacher
	3. English Communication 2	Depends on teacher
	4. English Communication 3	Depends on teacher
	5. English Communication 4	Depends on teacher
	6. English Communication 5	Depends on teacher
	7. English Communication 6	Depends on teacher
	8. English Communication 7	Depends on teacher
	9. English Communication 8	Depends on teacher
	10. English Communication 9	Depends on teacher
	11. English Communication 10	Depends on teacher
	12. English Communication 11	Depends on teacher
	13. English Communication 12	Depends on teacher
	14. English Communication 13	Depends on teacher
	15. English Communication 14	Depends on teacher

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Depends on teacher

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Tests/quizzes	40	Depends on teacher
	Other factors (e.g. class participation, presentations, assignments, communication skills):	60	Depends on teacher

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

palmore7@yahoo.com

授業テーマ:

薬剤師のための基礎英会話を習得、OTC薬品の服用指導を目的とする。

授業の概要:

薬薬学の専門用語や表現方法を調剤における会話を通して習得する。OTC薬の譲渡時に必要な服薬指導、薬物の作用、副作用、禁忌など基本的英語表現の習得を中心とする。読む、聞く、話す、発表、レポート作成(病気&薬物)およびロールプレーなどを含む対話的&能動的な講義内容とする。

到達目標:

服薬指導の目的で、薬学英語におけるコミュニケーション、OTC薬品の分類、剤形、用法/用量、副作用の表現法の習得。病気の基本的症状の表現法を習得する。

授業方法:

講義、発表、ロールプレイを含む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	学生ケーススタディー(CS)1 学生自身が自らの英語能力の自己評価を実施する。	翌週の発表内容の割り当てをする。担当者以外も予習をする。CS1の予習。CS2アップデートの発表割り当て。
2.	セクションA: OTC薬の分類と扱い方および販売法の説明と発表。CS2のアップデートの発表。CS2の会話内容を聞いて説明する。	CS1の復習。CS2の予習復習。CS3の発表割り当て。
3.	CS2のアップデートの発表、会話の聞き取り、書き取り。	CS2の復習(CDを聴く)、Q&Aについて自分で復習する。スピードラーニングのため、会話の割り当て。CS3の発表割り当て。
4.	CS2読解と説明。会話の内容を繰り返し音読し、用語、正しい発音を指導する。	CS2の復習。CS3アップデート発表者は準備をし、発表者でない人も予習をする。CS4アップデート発表割り当て。
5.	CS3のアップデートの発表および会話文の聞き取りと説明。	CS3の発表者は準備をし、発表者でない人も準備をする。スピードラーニングのための会話の割り当て。ロールプレー練習の組み合わせを決める。
6.	CS3の読解と説明。ロールプレー練習。	CS4の割り当て。発表者は準備をし、発表者でない人も準備をする。CS3の復習。中間試験の準備。ロールプレー試験用組み合わせ決める。
7.	CS1～3までの中間試験を筆記試験として実施する。	ロールプレー試験の準備。CS4の予習復習。CS5アップデートの発表割り当て。
8.	ロールプレー試験。CS4のアップデートの発表、会話の聞き取り、書き取り。	CS4の復習。スピードラーニングのための会話の割り当て。ロールプレー練習(組み合わせを決める)。CS5アップデートの発表者は準備をし、発表者でない人も予習をする。
9.	CS4の読解と説明。会話の内容を繰り返し音読し、用語、正しい発音を指導する。	CS5の発表者は準備をし、発表者でない人も準備をする。
10.	CS5のアップデートの発表、会話の聞き取り、書き取り。	CS5の復習。スピードラーニングのため、会話の割り当て。OTC関連のロールプレー練習(組み合わせを決める)。
11.	CS5の読解と説明。会話の内容を繰り返し音読し、用語、正しい発音を指導する。	CS5の復習。OTC関連のロールプレー準備。期末試験の準備。
12.	CS5の読解と説明。	ロールプレー試験の組み合わせを決める。期末試験準備。
13.	OTC薬についてのロールプレーの練習。	期末試験(CS4-5)準備。
14.	期末筆記試験(CS4-5)を筆記試験として実施する。	OTC薬販売と服薬指導のロールプレー試験準備。
15.	ロールプレー試験。	秋期の準備ため、セクションB: 処方箋付き薬品の扱い方および服薬指示の説明と発表の割り当て。

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習と復習が必要。CDを聴くことによりListening能力の上達する。OTC薬品服用指導できるように努力する。

フィードバックの方法:

発表およびロールプレーの練習後に文法、用語、内容表現などについて、コメントをする。また、授業終了後にアンケートの書き込みからのフィードバックをする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	10	OTC薬の譲渡時に必要な服薬指導、病気&薬物、薬物の作用、副作用、禁忌などの基本的英語表現と基礎の理解度と習得度とレポート作成。
	中間試験	30	到達目標(CS1-3)の専門用語や表現方法、基礎知識の理解度により評価。
	期末試験	30	到達目標(CS4-5)の専門用語や表現方法、基礎知識を聞く、書く能力の理解度により評価。
	ロールプレー試験	30	専門用語や表現方法を調剤での会話を通して習得する。OTC薬の譲渡時に必要な服薬指導をロールプレーを含む対話的&能動的方法を通して習得。

教科書:

Anthony FW FOONG & 笹 征史 薬剤師のための基礎英会話II Imex Japan Co. Ltd.

参考書:

教科書にまとめてある。必要であれば、講義中に教える。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

何か疑問があれば、授業前後、教員に直接聞いて下さい。また、放課後、メールでお問い合わせして下さい。アンソニーフォン(78imexfw@gmail.com)、中井久郎(hisaotakako@yahoo.co.jp)。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

Of the four skills (speaking, listening, reading, and writing), speaking and listening are emphasized.

The goal is to develop students' English communication skills under the guidance of a native-English-speaking teacher.

Visual audio learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, have discussions, and conduct mini-debates in class. They need to communicate positively in English during class. Before class students are required to prepare by reading designated parts of the text, preparing handouts for presentations, and other items such as pre-learning vocabulary in order to enjoy communicating in English and to improve their communication skills. After class they also need to reflect on their communication skills.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	Depends on teacher
	2. English Communication 1	Depends on teacher
	3. English Communication 2	Depends on teacher
	4. English Communication 3	Depends on teacher
	5. English Communication 4	Depends on teacher
	6. English Communication 5	Depends on teacher
	7. English Communication 6	Depends on teacher
	8. English Communication 7	Depends on teacher
	9. English Communication 8	Depends on teacher
	10. English Communication 9	Depends on teacher
	11. English Communication 10	Depends on teacher
	12. English Communication 11	Depends on teacher
	13. English Communication 12	Depends on teacher
	14. English Communication 13	Depends on teacher
	15. English Communication 14	Depends on teacher

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Depends on teacher

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Tests / quizzes	40%	Depends on teacher
	Other factors (e.g. class participation, presentations, assignments, communication skills)	60%	Depends on teacher

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

palmore7@yahoo.com

授業テーマ:

薬剤師のための基礎英会話を習得、処方箋薬の服用指示を目的とする。

授業の概要:

薬学の専門用語や表現方法を調剤における会話を通して習得する。処方箋薬の譲渡時に必要な服薬指示、薬物の作用、副作用、禁忌など基本的英語表現の習得を中心とする。読む、聞く、話す、発表、レポート作成(病気&薬物)およびロールプレーなどを含む対話的&能動的な講義内容とする。

到達目標:

薬品服用指示の目的で、薬学英语におけるコミュニケーション、処方箋薬の分類、基礎知識、剤形、用法/用量、副作用の表現法の習得。病気の基本的症状の表現法を習得する。

授業方法:

講義、発表、スピードラニングによる会話、ロールプレイ練習を含む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	指名された学生が処方箋薬(セクションB)についての基礎知識、薬剤師と患者との面接、服薬指示、薬品の用量/用法、副作用、禁忌事項などの発表。	翌週のCS6発表内容の割り当てをする。担当者以外も予習をする。CS6会話内容の予習、および、話す、聞き取り、発音能力を高めるため2-3回はCDを聞くこと。
2.	ケーススタディー(CS)6の発表、説明。学生が英語能力(聞き取り)の自己評価をする。会話の音読、発音、用語などの指導。	CS6のの英語会話と服薬指示について復習。再度CDを聞くこと。CS7アップデートの発表割り当て。
3.	CS6の会話内容の説明。病気の基礎知識と薬物の用量/用法、副作用、禁忌事項などについて習得。会話内容の音読、用語、正しい発音の指導。	CS6の会話と服薬指示について再度復習。話す、聞き取りと発音の能力を高めるため、CS7について2-3回はCDを聞くこと。CS7アップデート発表の準備。
4.	CS7の発表、説明。病気の基礎知識と薬物の用量/用法、副作用、禁忌事項などについて習得。学生が英語能力(聞き取り、読むなど)の自己評価を実施する。	CS7のの会話と服薬指示について復習。再度CDを聞くこと。CS8アップデートの発表割り当て。
5.	CS7の会話内容について、音読、用語、正しい発音を指導。	CS7ついて復習。話す、聞き取りの能力を高めるため、再度CDを聞くこと。スピードラニングのための会話の割り当て。ロールプレー練習のための組み合わせ。
6.	CS7の会話内容について、音読、用語、正しい発音の指導。	中間試験(セクションB、CS6-7)のために復習。何度もCDを聞くこと。ロールプレー試験のための組み合わせ。
7.	中間試験(セクションB、CS6-7)として筆記試験を実施する。ロールプレー練習	CS8アップデートを発表する学生は、準備する。ロールプレー試験の準備。
8.	ロールプレー試験。CS8のアップデートの発表。	CS8のの英語会話と薬品服用指示について予習・復習。話す、聞き取りと発音の能力を高めるため、CS8について2-3回ほどCDを聞くこと。
9.	CS8の発表、説明。病気の基礎知識と治療用薬物の用量・用法、副作用、禁忌事項などについて習得。学生自身が自らの英語能力(聞き取り、読むなど)の習得を実施する。	CS8のの会話と服薬指示について復習、2-3回CDを聞く。CS10あるいはCS12アップデートの発表割り当て。ロールプレー練習のための組み合わせ。
10.	CS8の会話内容について、音読、用語、正しい発音を指導。会話内容の音読、用語、正しい発音を指導。	CS8ついて復習。話す、聞き取りの能力を高めるため、再度CDを聞くこと。スピードラニングのため、会話の割り当て。
11.	CS10アップデートの発表。ロールプレー練習。	CS10会話の予習・復習。話す、聞き取りの能力を高めるため、2-3回ほどCDを聞くこと。
12.	CS10の発表、説明。病気の基礎知識と薬物の用量/用法、副作用、禁忌などについて習得。学生が英語能力(聞き取り、読むなど)の自己評価を実施する。	CS10会話の復習。話す、聞き取りの能力を高めるため、2-3回CDを聞くこと。スピードラニングのための会話の割り当て。ロールプレー試験のための組み合わせを決める。
13.	CS10の会話内容について、音読、用語、正しい発音を指導。	期末筆記試験(CS8、CS10)の準備。
14.	期末試験(CS8、CS10)を筆記試験として実施する。	処方箋薬販売について、薬剤師と患者のロールプレー試験の準備
15.	ロールプレー試験	

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習と復習が必要。CDを聴くことによりListening能力の上達する。処方箋付き薬品服用指導できるように努力する。

フィードバックの方法:

発表、ロールプレー練習後に文法、用語、内容表現などについて、コメントをする。また、授業終了後、アンケートの書き込みからのフィードバックをする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	10	処方箋薬の譲渡時に必要な服薬指示、薬物の作用、副作用、禁忌などの基本的英語表現の習得。
	中間試験	30	処方箋扱い基礎、疾病および治療用薬品指示についての専門用語や表現方法を調剤における会話を通して習得すること。
	期末試験	30	薬学、疾病および治療用薬品の専門用語や表現方法を調剤における会話を通して習得すること。
	ロールプレー試験	30	聞く、話す、発表、レポート作成(病気&薬物)および患者に対する服薬指導ができること。

教科書:

Anthony FW FOONG & 笹 征史 薬剤師のための基礎英会話II Imex Japan Co. Ltd.

参考書:

教科書に記載されている。必要な場合、参考資料を教える。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

何か疑問があれば、授業中、授業前後、直接教員に聞いて下さい。また、放課後、メールでお問い合わせして下さい。
アンソニーフオン(78imexfw@gmail.com)、中井久郎(hisaotakako@yahoo.co.jp)

授業テーマ:

授業の概要:

フランス語の文法の前半部分を学習する。フランス語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従ってその理解はとても重要であると言える。

到達目標:

簡単なフランス語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行っていく。

授業方法:

講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション、フランス語のアルファベット、発音	フランス語のアルファベットの発音練習
2. フランス語の母音、アクセント記号	発音練習
3. 母音字の発音、子音字の発音	発音練習
4. 名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
5. 形容詞、主語人称代名詞、etreの直説法現在	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
6. avoir の直説法現在形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
7. 前置詞と定冠詞の縮約	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
8. 第一群規則動詞の現在形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
9. 疑問形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
10. aller と venir の直説法現在形、指示形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
11. 所有形容詞、疑問形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
12. 部分冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
13. 近接未来と近接過去	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
14. 第二群規則動詞の直説法現在	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの方法:

小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	フランス語の文法の前半部分に関して「簡単なフランス語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかどうかを評価する
授業への参加度	20%	フランス語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書:

担当者により異なります

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: フランス語の文法の後半部分を学習する。フランス語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従って、その理解はとても重要であると言える。

到達目標: 簡単なフランス語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行っていく。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	命令法	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2.	疑問代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
3.	非人称動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
4.	形容詞・副詞の比較級・最上級	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
5.	副詞的代名詞 en と y	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
6.	現在分詞、ジェロンディフ	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
7.	関係代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
8.	直説法複合過去1	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
9.	直説法複合過去2	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
10.	補語人称代名詞、強勢形人称代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
11.	代名動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
12.	単純未来形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
13.	指示代名詞、所有代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
14.	半過去形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	フランス語の文法の後半部分に関して「簡単なフランス語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかを評価する
	授業への参加度	20%	フランス語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者によって異なります

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

原則として初級基礎Ⅰと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標:

初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法:

演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容		準備学習等の内容
1.	ガイダンスおよび発音練習	フランス語のアルファベットの発音練習
2.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する 演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する
授業への参加度	20%	

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

原則として初級基礎Ⅱと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標:

初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法:

演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容		準備学習等の内容
1.	ガイダンスと前期の復習	
2.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する 演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する
授業への参加度	20%	

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

ドイツ語の文法の前半部分を学習する。ドイツ語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従って、その理解はとても重要であると言える。

到達目標:

簡単なドイツ語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行っていく。

授業方法:

講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション、ドイツ語のアルファベット、発音	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2. 第1課 動詞の現在人称変化(1)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3. 第1課 重要動詞 sein と haben	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4. 第1課 人称代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
5. 第2課 人称代名詞の格変化	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
6. 第2課 疑問詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
7. 第3課 名詞の性と格、不定冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
8. 第3課 名詞の複数形、定冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
9. 第4課 不規則動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
10. 第4課 命令形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
11. 第5課 不定冠詞類	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
12. 第5課 定冠詞類	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
13. 第6課 前置詞の格支配	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
14. 第6課 前置詞と定冠詞の融合形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの方法:

小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	ドイツ語の文法の前半部分に関して「簡単なドイツ語の文を辞書を引ながら読める」程度の文法理解に達したかどうかを評価する。
授業への参加度	20%	ドイツ語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書:

前田・高木「身につくドイツ文法<Leicht>」(郁文堂)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

ドイツ語の文法の後半部分を学習する。ドイツ語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従って、その理解はとても重要であると言える。

到達目標:

簡単なドイツ語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行っていく。

授業方法:

講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第7課 話法の助動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2.	第7課 未来形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3.	第8課 分離動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4.	第8課 再帰代名詞の格変化	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
5.	第8課 再帰動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
6.	第9課 形容詞の語尾変化	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
7.	第9課 形容詞・副詞の比較級と最上級	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
8.	第10課 動詞の三基本形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
9.	第10課 時称(1) 過去	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
10.	第11課 過去分詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
11.	第11課 時称(2) 現在完了	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
12.	第11課 時称(2) 現在完了	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
13.	補足1 前置詞の格支配	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
14.	補足2 前置詞と定冠詞の融合形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	ドイツ語の文法の後半部分に関して「簡単なドイツ語の文を辞書を引ながら読める」程度の文法理解に達したかどうかを評価する。
授業への参加度	20%	ドイツ語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書:

前田・高木「身につくドイツ文法<Leicht>」(郁文堂)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

原則として初級基礎Ⅰと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標:

初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法:

演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容		準備学習等の内容
1.	ガイダンスおよび発音練習	ドイツ語のアルファベットの発音練習
2.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する 演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する
授業への参加度	20%	

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

原則として初級基礎Ⅱと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標:

初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法:

演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」

授業内容

準備学習等の内容

および
「準備学習等の内
容」:

1.	ガイダンスおよび前期の復習	
2.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

イタリア語の文法の前半部分を学習する。イタリア語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従ってその理解はとても重要であると言える。

到達目標:

簡単なイタリア語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行っていく。

授業方法:

講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション、イタリア語のアルファベット、発音	イタリア語のアルファベットの発音練習
2. 不定冠詞、定冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3. 名詞の性と数	発音練習、学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4. 規則動詞(-are型)の活用	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習ご復習する
5. 規則動詞(-ere型)(-ire型)の活用	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
6. 動詞 essere, avere	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
7. 形容詞、人称代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
8. 前置詞 di、数詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
9. 所有形容詞、疑問形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
10. 前置詞 diと定冠詞の結合	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
11. 指示代名詞と指示形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
12. 疑問形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
13. 部分冠詞、前置詞 aと定冠詞の結合	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
14. 不規則動詞fare	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの方法:

小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	イタリア語の文法の前半部分に関して「簡単なイタリア語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかどうかを評価する
授業への参加度	20%	イタリア語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書:

担当者により異なります

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: イタリア語の文法の後半部分を学習する。イタリア語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従って、その理解はとても重要であると言える。

到達目標: 簡単なイタリア語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行っていく。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	命令法	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2.	疑問代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
3.	非人称動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
4.	形容詞・副詞の比較級・最上級	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
5.	現在分詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
6.	関係代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
7.	半過去形(essereを使って)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
8.	半過去形(fareを使って)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
9.	代名動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
10.	単純未来形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
11.	過去分詞と近過去(avereをとる動詞)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
12.	近過去の応用練習(avereをとる動詞)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
13.	過去分詞と近過去(essereをとる動詞)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
14.	近過去の応用練習(essereをとる動詞)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80%	イタリア語の文法の後半部分に関して「簡単なイタリア語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかを評価する
	授業への参加度	20%	イタリア語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者によって異なります

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

原則として初級基礎Ⅰと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標:

初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法:

演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」

授業内容

準備学習等の内容

および
「準備学習等の内
容」:

1.	ガイダンスおよび発音練習	イタリア語のアルファベットの発音練習
2.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する 演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する
授業への参加度	20%	

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

原則として初級基礎Ⅱと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標:

初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法:

演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容		準備学習等の内容
1.	ガイダンスと前期の復習	
2.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する 演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する
授業への参加度	20%	

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:			
授業の概要:	スペイン語の文法の前半部分を学習する。スペイン語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従ってその理解はとても重要であると言える。		
到達目標:	簡単なスペイン語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行っていく。		
授業方法:	講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション、スペイン語のアルファベット、発音	スペイン語のアルファベットの発音練習
	2.	不定冠詞、定冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
	3.	名詞の性と数	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
	4.	規則動詞の活用	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
	5.	規則動詞の活用	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
	6.	動詞ser と estar	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
	7.	形容詞、人称代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
	8.	前置詞、数詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
	9.	所有形容詞、疑問形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
	10.	前置詞と定冠詞の結合	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
	11.	指示代名詞と指示形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
	12.	疑問形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
	13.	部分冠詞、前置詞と定冠詞の結合	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
	14.	不規則動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
	15.	まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:	語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。		
フィードバックの方法:	小テスト等は採点して返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80%	スペイン語の文法の前半部分に関して「簡単なスペイン語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかどうかを評価する
	授業への参加度	20%	スペイン語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する
教科書:	担当者により異なります		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:			
授業の概要:	スペイン語の文法の後半部分を学習する。スペイン語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従って、その理解はとても重要であると言える。		
到達目標:	簡単なスペイン語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行っていく。		
授業方法:	講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	命令法	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	2.	疑問代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	3.	非人称動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	4.	形容詞・副詞の比較級・最上級	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	5.	現在分詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	6.	関係代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	7.	点過去形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	8.	点過去形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	9.	代名動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	10.	単純未来形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	11.	過去分詞と線過去(1)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	12.	線過去の応用練習(1)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	13.	過去分詞と線過去(2)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	14.	線過去の応用練習(2)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	15.	まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	小テスト等は採点の上返却します		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80%	スペイン語の文法の後半部分に関して「簡単なスペイン語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかを評価する
	授業への参加度	20%	スペイン語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する
教科書:	担当者によって異なります		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

授業の概要:

原則として初級基礎Ⅰと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標:

初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法:

演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容		準備学習等の内容
1.	ガイダンスおよび発音練習	スペイン語のアルファベットの発音練習
2.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する 演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する
授業への参加度	20%	

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

原則として初級基礎Ⅱと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標:

初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法:

演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」

授業内容

準備学習等の内容

および
「準備学習等の内
容」:

1.	ガイダンスと前期の復習	
2.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する 演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する
授業への参加度	20%	

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」

および
「準備学習等の内
容」:

発音、文字の読み方、文の構造を知るための文法を学ぶ。その前半部分である。	
ハングルの基本的な文法を理解し、辞書を用いて平易な文章が読める能力を身に着けることを目標とする。	
講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。	
授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス、発音の練習	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する 学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2. 発音、文字の読み方、文法の練習(1)	
3. 発音、文字の読み方、文法の練習(2)	
4. 発音、文字の読み方、文法の練習(3)	
5. 発音、文字の読み方、文法の練習(4)	
6. 発音、文字の読み方、文法の練習(5)	
7. 発音、文字の読み方、文法の練習(6)	
8. 発音、文字の読み方、文法の練習(7)	
9. 発音、文字の読み方、文法の練習(8)	
10. 発音、文字の読み方、文法の練習(9)	
11. 発音、文字の読み方、文法の練習(10)	
12. 発音、文字の読み方、文法の練習(11)	
13. 発音、文字の読み方、文法の練習(12)	
14. 発音、文字の読み方、文法の練習(13)	
15. まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの
方法:

小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	「簡単なハングルの文を辞書を引きながら読める」程度の言語理解に達したかどうかを評価する
授業への参加度	20%	ハングルの文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ：

授業の概要：発音、文字の読み方、文の構造を知るための文法を学ぶ。その後半部分である。

到達目標：ハングルの基本的な文法を理解し、辞書を用いて平易な文章が読める能力を身に着けることを目標とする。

授業方法：講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 発音、文字の読み方、文法の練習(1)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	2. 発音、文字の読み方、文法の練習(2)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	3. 発音、文字の読み方、文法の練習(3)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	4. 発音、文字の読み方、文法の練習(4)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	5. 発音、文字の読み方、文法の練習(5)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	6. 発音、文字の読み方、文法の練習(6)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	7. 発音、文字の読み方、文法の練習(7)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	8. 発音、文字の読み方、文法の練習(8)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	9. 発音、文字の読み方、文法の練習(9)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	10. 発音、文字の読み方、文法の練習(10)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	11. 発音、文字の読み方、文法の練習(11)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	12. 発音、文字の読み方、文法の練習(12)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	13. 発音、文字の読み方、文法の練習(13)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	14. 発音、文字の読み方、文法の練習(14)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80%	「簡単なハングルの文を辞書を引きながら読める」程度の言語理解に達したかどうかを評価する
	授業への参加度	20%	ハングルの文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書：担当者によって異なります。

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法：授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

原則として初級基礎Ⅰと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。読み、書き、聞き、話す4技能に渡っての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標:

初級基礎で学ぶ文法の応用練習をするとともに、四技能に渡っての初歩的な運用能力を身に着けることを目指す。

授業方法:

演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス、発音の練習	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2. 会話、リスニングの練習(1)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3. 会話、リスニングの練習(2)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4. 会話、リスニングの練習(3)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
5. 会話、リスニングの練習(4)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
6. 会話、リスニングの練習(5)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
7. 会話、リスニングの練習(6)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
8. 会話、リスニングの練習(7)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
9. 会話、リスニングの練習(8)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
10. 会話、リスニングの練習(9)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
11. 会話、リスニングの練習(10)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
12. 会話、リスニングの練習(11)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
13. 会話、リスニングの練習(12)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
14. 会話、リスニングの練習(13)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの方法:

小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な言語運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において、積極的に練習に加わり、初歩的な言語運用能力を身に着けるための努力をしたかどうかを判断する

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ：

授業の概要：原則として初級基礎Ⅱと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。読み、書き、聞き、話す四技能に渡っての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標：初級基礎で学ぶ文法の応用練習をするとともに、四技能に渡っての初歩的な運用能力を身に着けることを目指す。

授業方法：演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス、前半の復習	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	2. 会話、リスニングの練習(1)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	3. 会話、リスニングの練習(2)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	4. 会話、リスニングの練習(3)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	5. 会話、リスニングの練習(4)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	6. 会話、リスニングの練習(5)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	7. 会話、リスニングの練習(6)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	8. 会話、リスニングの練習(7)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	9. 会話、リスニングの練習(8)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	10. 会話、リスニングの練習(9)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	11. 会話、リスニングの練習(10)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	12. 会話、リスニングの練習(11)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	13. 会話、リスニングの練習(12)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	14. 会話、リスニングの練習(13)	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な言語運用能力を身に着けたかどうかを判断する
	授業への参加度	20%	演習授業において、積極的に練習に加わり、初歩的な言語運用能力を身に着けるための努力をしたかどうかを判断する

教科書：担当者によって異なります。

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法：授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	学生の日本語能力の向上と専門分野での学業の成就を支援する。																																		
授業の概要:	文章表現能力の向上及び、口頭表現能力(上級から超級)の向上をめざす。新聞、雑誌、映像などで扱われる社会一般の話題を中心に学習を進める。毎回の授業内容に基づき、目的に合致する文章を書いたり話したりする上で必要な構成や表現を身につける。テーマ別ディカッションを実施する。さらに、身近な話題について、独自の視点でスピーチできることをめざし、毎回5分間スピーチを実施する。スピーチ原稿作成のため、提出課題の一つである「課題ノート」を配布する。これには、いくつかの項目について、各自が経験したことや観察したことなどを独自の視点でまとめる課題が含まれる。学期末には、学習内容を踏まえ、各自の興味に基づいたテーマでの10分程度の口頭発表を実施する。																																		
到達目標:	①新聞、雑誌、映像などで扱われる社会一般の内容が理解できること。 ②構成をふまえた文章が書けること。 ③社会一般の話題についてディスカッションができること。 ④5分間スピーチで、身近な話題を独自の視点で述べられること。 ⑤各自の興味に基づくテーマで10分程度の口頭発表ができること。																																		
授業方法:	演習形式。必要に応じ視聴覚教材を使用する。毎回の授業内容で扱う基本的な表現形式の理解、運用練習を中心に進める。学習内容の定着をはかるため、毎回宿題を課す。毎回、5分間スピーチ、テーマ別ディスカッションを実施する。学期末には各自の興味に基づくテーマで10分程度の口頭発表を実施する。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 授業概要説明、場面に応じた自己紹介</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>2. 文章構成(序論、本論、結論)</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>3. 論理の展開(問題点の指摘、解決策の提案、意見の主張)</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>4. 論理の展開(問題提起、反対の立場の提示、意見の主張)</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>5. 大意要約</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>6. 引用表現</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>7. ことわざ・慣用表現の効果的な使用法</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>8. 生き生きとした描写(擬態語や擬声語の効果的な使用法)</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>9. 比喩表現</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>10. 分析して説明する</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>11. 因果関係の表現</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>12. 事実の報告(報告文の作成)</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。</td></tr><tr><td>13. 要点を述べる</td><td>宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。次回の口頭発表の準備をする。</td></tr><tr><td>14. 学期末課題の口頭発表</td><td>学習内容の総復習をする。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>学習内容全般を振り返る。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 授業概要説明、場面に応じた自己紹介	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	2. 文章構成(序論、本論、結論)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	3. 論理の展開(問題点の指摘、解決策の提案、意見の主張)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	4. 論理の展開(問題提起、反対の立場の提示、意見の主張)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	5. 大意要約	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	6. 引用表現	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	7. ことわざ・慣用表現の効果的な使用法	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	8. 生き生きとした描写(擬態語や擬声語の効果的な使用法)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	9. 比喩表現	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	10. 分析して説明する	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	11. 因果関係の表現	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	12. 事実の報告(報告文の作成)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。	13. 要点を述べる	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。次回の口頭発表の準備をする。	14. 学期末課題の口頭発表	学習内容の総復習をする。	15. まとめ	学習内容全般を振り返る。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 授業概要説明、場面に応じた自己紹介	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
2. 文章構成(序論、本論、結論)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
3. 論理の展開(問題点の指摘、解決策の提案、意見の主張)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
4. 論理の展開(問題提起、反対の立場の提示、意見の主張)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
5. 大意要約	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
6. 引用表現	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
7. ことわざ・慣用表現の効果的な使用法	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
8. 生き生きとした描写(擬態語や擬声語の効果的な使用法)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
9. 比喩表現	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
10. 分析して説明する	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
11. 因果関係の表現	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
12. 事実の報告(報告文の作成)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。																																		
13. 要点を述べる	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。次回の口頭発表の準備をする。																																		
14. 学期末課題の口頭発表	学習内容の総復習をする。																																		
15. まとめ	学習内容全般を振り返る。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	学習した内容を授業内だけでなく、授業外でも積極的に使用すること。																																		
フィードバックの方法:	毎回の宿題は、添削し返却する。提出課題は、添削しコメントをつけて返却する。スピーチ及び口頭発表については、授業内でコメントし、さらにコメントシートに詳細を記入し配布する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席を含む授業への参加度</td><td>15%</td><td>出席及び授業への積極的参加度により評価する。</td></tr><tr><td>毎回の宿題</td><td>15%</td><td>到達目標①②③④に必要な表現の理解度により評価する。</td></tr><tr><td>提出課題</td><td>20%</td><td>到達目標②の文章や到達目標④⑤の原稿の仕上がり度により評価する。</td></tr><tr><td>発表</td><td>30%</td><td>到達目標③④⑤の達成度により評価する。</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>20%</td><td>到達目標①②③に必要な表現などの理解度により評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席を含む授業への参加度	15%	出席及び授業への積極的参加度により評価する。	毎回の宿題	15%	到達目標①②③④に必要な表現の理解度により評価する。	提出課題	20%	到達目標②の文章や到達目標④⑤の原稿の仕上がり度により評価する。	発表	30%	到達目標③④⑤の達成度により評価する。	定期試験	20%	到達目標①②③に必要な表現などの理解度により評価する。																
評価方法	割合	評価基準																																	
出席を含む授業への参加度	15%	出席及び授業への積極的参加度により評価する。																																	
毎回の宿題	15%	到達目標①②③④に必要な表現の理解度により評価する。																																	
提出課題	20%	到達目標②の文章や到達目標④⑤の原稿の仕上がり度により評価する。																																	
発表	30%	到達目標③④⑤の達成度により評価する。																																	
定期試験	20%	到達目標①②③に必要な表現などの理解度により評価する。																																	
教科書:	なし																																		
参考書:	授業で適宜指示																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:

「総合日本語・日本事情Ⅰ」を受け、学生の日本語能力の向上と専門分野での学業の成就を支援する。

授業の概要:

「総合日本語・日本事情Ⅰ」の成果をふまえ、さらなる能力向上をめざす。特に、文章表現能力と口頭表現能力に重点を置く。学期前半は、論文読解練習と構成練習を通し、表現形式を理解する。最終的に、各自の興味ある内容について、論文形式に基づき、レポートを作成する。学期後半では、社会一般の話題、専門に関する内容について、わかりやすく話せることをめざす。レポートの内容についての口頭発表も実施する。社交文書の理解に必要な形式や表現を学習する。毎回のスピーチを通して、身近な話題を独自の視点で述べられることをめざす。スピーチ原稿作成のため、提出課題の一つである「課題ノート」を配布する。これには、いくつかの項目について、各自が経験したこと、観察したことを独自の視点でまとめる課題が含まれる。

到達目標:

①論文形式を理解し、論文が読めること。
②論文形式に基づきレポートが書けること。
③社会一般の話題、専門に関する内容について、わかりやすく話せること。
④社交文書が理解できること。
⑤5分間スピーチで、身近な話題を独自の視点で述べられること。
⑥レポートの内容の口頭発表ができること。

授業方法:

演習形式。必要に応じ視聴覚教材を使用する。毎回5分間スピーチを実施。学期前半は、論文読解と文章構成練習を通し、表現形式を身につけることを中心に授業を進める。論文形式に基づくレポートの提出を課す。学期後半は、さまざまな表現形式の理解と、テーマ別の口頭発表練習を中心に授業を進める。授業内容の定着をはかるため、毎回、宿題を配布し提出を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業概要説明、論文読解(序論の構成)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
2. 論文読解と文章構成練習(序論)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
3. 論文読解(本論の構成)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
4. 論文読解と文章構成練習(本論)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
5. 論文読解(結論)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
6. 論文読解と文章構成練習(結論、その他)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
7. 情景の詳細な描写(好きな映画・小説などの紹介)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。映画や小説の紹介の準備をする。
8. 相手の興味を引き付ける工夫(自国の文化・行事の紹介)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。5分間スピーチの準備をする。文化・行事の紹介の準備をする。
9. 待遇表現の適切な使用方法(相手への配慮ある表現を用いた情報提供)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
10. 社交文書に用いられる表現(内容理解・書く練習)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
11. 目的に応じたグラフや表の説明(具体的な数値を用いて社会の動きを説明する)	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
12. 抽象的な内容や複雑な仕組みをわかりやすく説明する	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
13. 複眼的視点で意見を述べる	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。次回の口頭発表の準備をする。
14. レポート内容の口頭発表	学習内容の総復習をする。
15. まとめ	学習内容全般を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:

学習した内容を授業内だけではなく、授業外でも積極的に使用すること。

フィードバックの方法:

毎回の宿題は、添削し教室内で返却する。提出課題は、添削及びコメントをつけて教室で返却する。スピーチ及び口頭発表については、授業内でコメントし、さらにコメントシートに詳細を記入し配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への積極的参加	15%	出席及び授業への積極的参加度により評価する。
毎回の宿題	15%	到達目標①②③④に必要な表現などの理解度により評価する。
提出課題	30%	到達目標②のレポートや到達目標③⑤の原稿の仕上がりに度により評価する。
発表	20%	到達目標③⑤⑥の達成度により評価する。
定期試験	20%	到達目標①②③④⑤に必要な表現などの定着度により評価する。

教科書:

なし

参考書:

授業で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

対話形式の練習を中心とした初級フランス語の復習・中級フランス語の修得。

授業の概要:

対話形式での基本的な文の練習を行いながら、初級フランス語の復習と中級フランス語の習得を目指します。日常生活でよく用いる簡単な文の練習から始め、少しずつ進んだ表現も学びます。より実践的な文が習得できるように、文法事項の説明は最小限にとどめ、発音や会話中心に授業を行います。クイズなどの形式も交えながら、楽しんでフランス語が身につけられることを目指します。

到達目標:

日常生活に必要な、実践的なフランス語の表現を身につけること。またそのために必要な最低限のフランス語の文法を理解すること。

授業方法:

テキスト各課の必要単語の発音練習の後、基本的な表現を例文に則して自分で作り、さらにそれを用いて、ペアで対話の練習をします。楽しみながら学習できるように、クイズ形式の練習も行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 物や人を指示する	授業内容の復習 授業時に指示された課題
2.	持ち物を言う(1)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
3.	持ち物を言う(2)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
4.	日程を言う(1)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
5.	日程を言う(2) 確認テスト	授業内容の復習 授業時に指示された課題
6.	好みや特技について言う(1)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
7.	好みや特技について言う(2)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
8.	買いたいものについて言う(1)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
9.	買いたいものについて言う(2) 確認テスト	授業内容の復習 授業時に指示された課題
10.	食生活について述べる(1)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
11.	食生活について述べる(2)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
12.	健康状態・体について述べる	授業内容の復習 授業時に指示された課題
13.	好きなスポーツについて述べる	授業内容の復習 授業時に指示された課題
14.	物の持ち主について言う 確認テスト	授業内容の復習 授業時に指示された課題
15.	値段について言う 全体の復習	授業内容の復習 授業時に指示された課題

受講者へのメッセージやアドバイス:

フランス語を上達するためには、声に出して練習することが重要です。積極的に授業に参加して、フランス語の発音や動詞の使い方に慣れましょう。映像なども随時鑑賞しますので、文化への関心も高めましょう。

フィードバックの方法:

初回授業でのアンケート。授業内容についての聞き取り。学期末に学習状況の確認をかねた親睦会を予定。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席・授業態度	40%	出席と授業への参加度を成績評価の対象とします。
	確認テスト	60%	授業内に行う確認テストを成績評価の対象とします。

教科書:

南館英孝他、新・ペアで学ぼうフランス文法、第三書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

email: numachiepc2@yahoo.co.jp

授業テーマ:

フランス語で話してみよう！

授業の概要:

この授業の目的はフランス語で様々な話題について話をする事です。よく、友達としゃべるとき、学校、アルバイトや休みなどについて話しをする。このクラスで友達としゃべるとき場面を想定して、必要な語彙、表現や文法のポイントを学んで、実際に会話の練習を多く行います。フランス語で話しをすることはとても自然なことになるまで、会話の練習を繰り返します！この学期に触れる主な話題は次の通りです:週末や休みの過ごし方、好きなこと(漫画、食べ物、スポーツ、音楽)、学校や仕事。

到達目標:

フランス語で基本的な会話が出来るように、必要な語彙、表現や文法のポイントを学んで、実際に会話の練習を多く行います。

授業方法:

フランス語で話しをすることはとても自然なことになるまで、会話の練習を繰り返します！

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	去年の学習。 (挨拶と自己紹介)	進み方にあわせて提出
2.	去年の学習 (挨拶と自己紹介)	進み方にあわせて提出
3.	去年の学習 (挨拶と自己紹介)	進み方にあわせて提出
4.	一日の出来事 (文法のポイント:フランク語の動詞)	進み方にあわせて提出
5.	一日の出来事 (文法のポイント:フランク語の動詞)	進み方にあわせて提出
6.	一日の出来事 (文法のポイント:フランク語の動詞)	進み方にあわせて提出
7.	一日の出来事 (文法のポイント:フランク語の動詞)	進み方にあわせて提出
8.	休みについて話をする。 (文法のポイント:半過去形)	進み方にあわせて提出
9.	休みについて話をする。 (文法のポイント:半過去形)	進み方にあわせて提出
10.	休みについて話をする。 (文法のポイント:半過去形)	進み方にあわせて提出
11.	休みについて話をする。 (文法のポイント:半過去形)	進み方にあわせて提出
12.	思い出の話をする。 (文法のポイント:半過去形)	進み方にあわせて提出
13.	思い出の話をする。 (文法のポイント:半過去形)	進み方にあわせて提出
14.	思い出の話をする。 (文法のポイント:半過去形)	進み方にあわせて提出
15.	思い出の話をする。 (文法のポイント:半過去形)	進み方にあわせて提出

受講者へのメッセージやアドバイス:

出席を毎回取る。15分以上の遅刻は出席と認めない。実際の会話を目的にする授業ですから、参加することが非常大切です。

フィードバックの方法:

クラス中

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点(出席、授業態度など)	40	授業に参加することも大切です。
	小テスト・中間試験など	60	学期中3〜5回の小テストを行う

教科書:

プリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

クラスの後

授業テーマ:

対話形式の練習を中心とした初級フランス語の復習・中級フランス語の修得とその応用。

授業の概要:

対話形式での基本的な文の練習を行いながら、中級フランス語の習得と定着を目指します。日常生活でよく用いる簡単な文の練習から始め、少しずつ進んだ表現も学びます。より実践的な文が習得できるように、文法事項の説明は最小限にとどめ、発音や会話中心に授業を行います。クイズなどの形式も交えながら、楽しんでフランス語が身につけられることを目指します。

到達目標:

日常生活に必要な、実践的なフランス語の表現を身につけること。またそのために必要な最低限のフランス語の文法を理解すること。

授業方法:

テキスト各課の必要単語の発音練習の後、基本的な表現を例文に則して自分で作り、さらにそれを用いて、ペアで対話の練習をします。楽しみながら学習できるように、クイズ形式の練習も行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 人の名前を言う 1日の行動について言う(1)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
2.	1日の行動について言う(2)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
3.	物のあるなしを言う・数量を言う(1)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
4.	物のあるなしを言う・数量を言う(2)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
5.	時刻について言う 確認テスト	授業内容の復習 授業時に指示された課題
6.	天気・天候について述べる	授業内容の復習 授業時に指示された課題
7.	人や物を比較する(1)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
8.	人や物を比較する(2)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
9.	時刻について言う 確認テスト	授業内容の復習 授業時に指示された課題
10.	過去の事柄について述べる(1)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
11.	過去の事柄について述べる(2)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
12.	未来の事柄について述べる	授業内容の復習 授業時に指示された課題
13.	道順を教える(1)	授業内容の復習 授業時に指示された課題
14.	道順を教える(2) 確認テスト	授業内容の復習 授業時に指示された課題
15.	全体の復習	授業内容の復習 授業時に指示された課題

受講者へのメッセージやアドバイス:

フランス語を上達するためには、声に出して練習することが重要です。積極的に授業に参加して、フランス語の発音や動詞の使い方に慣れましょう。映像なども随時鑑賞しますので、文化への関心も高めましょう。

フィードバックの方法:

初回授業でのアンケート。授業内容についての聞き取り。学期末に学習状況の確認をかねた親睦会を予定。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席・授業態度	40%	出席と授業への参加度を成績評価の対象とします。
	確認テスト	60%	授業内に行う確認テストを成績評価の対象とします。

教科書:

南館英孝他、新・ペアで学ぼうフランス文法、第三書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

email: numachiepc2@yahoo.co.jp

授業テーマ:

フランス語で話してみよう！

授業の概要:

この従業の目的はフランス語で様々な話題について話をする事です。よく、友達としゃべるとき、学校、アルバイトや休みなどについて話しをする。このクラスで友達としゃべるとき場面を想定して、必要な語彙、表現や文法のポイントを学んで、実際に会話の練習を多く行います。フランス語で話しをすることはとても自然なことになるまで、会話の練習を繰り返します！この学期に触れる主な話題は次の通りです:週末や休みの過ごし方、好きなこと(漫画、食べ物、スポーツ、音楽)、学校や仕事。

到達目標:

フランス語で基本的な会話が出来るように、必要な語彙、表現や文法のポイントを学んで、実際に会話の練習を多く行います。

授業方法:

フランス語で話しをすることはとても自然なことになるまで、会話の練習を繰り返します！

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	フランス人の休みの過ごし方（文法のポイント:過去形の復習）	進み方にあわせて提出
2.	フランス人の休みの過ごし方（文法のポイント:過去形の復習）	進み方にあわせて提出
3.	フランス人の休みの過ごし方（文法のポイント:過去形の復習）	進み方にあわせて提出
4.	フランス人の休みの過ごし方（文法のポイント:過去形の復習）	進み方にあわせて提出
5.	フランス人にたいるステレオタイプ（文法のポイント:代名詞）	進み方にあわせて提出
6.	フランス人にたいるステレオタイプ（文法のポイント:代名詞）	進み方にあわせて提出
7.	フランス人にたいるステレオタイプ（文法のポイント:代名詞）	進み方にあわせて提出
8.	フランス人にたいるステレオタイプ（文法のポイント:代名詞）	進み方にあわせて提出
9.	フランス人にたいるステレオタイプ（文法のポイント:代名詞）	進み方にあわせて提出
10.	フランス共和国のシンボル(文法のポイント:関係代名詞)	進み方にあわせて提出
11.	フランス共和国のシンボル(文法のポイント:関係代名詞)	進み方にあわせて提出
12.	フランス共和国のシンボル(文法のポイント:関係代名詞)	進み方にあわせて提出
13.	フランスの若者(文法のポイント:指示代名詞等)	進み方にあわせて提出
14.	フランスの若者(文法のポイント:指示代名詞等)	進み方にあわせて提出
15.	フランスの若者(文法のポイント:指示代名詞等)	進み方にあわせて提出

受講者へのメッセージやアドバイス:

出席を毎回取る。15分以上の遅刻は出席と認めない。実際の会話を目的にする授業ですから、参加することが非常大切です。

フィードバックの方法:

クラス後

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点(出席、授業態度など)	40	授業に参加することも大切です。
	小テスト・中間試験など	60	学期中3～5回の小テストを行う

教科書:

プリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

クラス後

授業テーマ:	Fit in Deutsch																																																		
授業の概要:	この授業を通しては、単にドイツ語を学ぶだけでなく、異文化への理解を深めます。コミュニケーションをとる時は、ドイツ語が話せるようになるだけでは不十分です。例えば、ボディランゲージだけでも、日本とは全く違う文化があります。そのような振る舞いやドイツの文化的背景も理解したうえで、自分の言葉でドイツ語を話し、会話ができるようになることがこの授業の目標です。また、ロールプレイや小スピーチなどの練習によってドイツ語を話す自信をつけてもらいます。同時に、日本とドイツの文化の違いを学びます。																																																		
到達目標:	聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4つの能力を高めるのが目的です。その中でも日常生活に必要な会話の要素が中心となります。しかし、しっかり文法を身につけないと会話ができませんので、そのために宿題として短い作文の練習をします。この4つの能力が調和的に身につくことが到達目標となります。																																																		
授業方法:	授業時間中はロールプレイや小スピーチの練習など、会話を中心に授業を進めます。また、宿題として短い作文を課すことで、授業で学んだことを振り返り、ドイツ語の文法を身に付けてもらいます。																																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th colspan="2">授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1.</td><td>Begrüßung 挨拶 Wiederholungen 復習</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>2.</td><td>Wohnen (1) 住まい Zimmersuche, Beschreibung von Möbeln und Wohnungen 部屋探し、家具や住まいの比較</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>3.</td><td>Wohnen (2) 住まい</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>4.</td><td>Wohnen (3) 住まい</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>5.</td><td>Essen (1) 食事 Bestellung und Bezahlen im Restaurant レストランでの注文と支払</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>6.</td><td>Essen (2) 食事</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>7.</td><td>Essen (3) 食事 internationale Küche 世界各国料理</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>8.</td><td>Einkaufen (1) 買い物</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>9.</td><td>Einkaufen (2) 買い物</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>10.</td><td>Einkaufen (3) 買い物</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>11.</td><td>Zusammenleben (1) WGでの共同生活 Arbeitsteilung 家事分担</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>12.</td><td>Zusammenleben (2) WGでの共同生活 umweltbewusstes Leben 環境に配慮した生活</td><td>授業時に渡す宿題をする</td></tr><tr><td>13.</td><td>Präsentationen vorbereiten プレゼンテーションの準備</td><td>プレゼンテーションの準備をする</td></tr><tr><td>14.</td><td>Zusammenleben (3) WGでの共同生活</td><td>授業時に渡す宿題をする プレゼンテーションの準備をする</td></tr><tr><td>15.</td><td>Mini-Präsentationen ミニプレゼンテーション</td><td></td></tr></table>	授業内容		準備学習等の内容	1.	Begrüßung 挨拶 Wiederholungen 復習	授業時に渡す宿題をする	2.	Wohnen (1) 住まい Zimmersuche, Beschreibung von Möbeln und Wohnungen 部屋探し、家具や住まいの比較	授業時に渡す宿題をする	3.	Wohnen (2) 住まい	授業時に渡す宿題をする	4.	Wohnen (3) 住まい	授業時に渡す宿題をする	5.	Essen (1) 食事 Bestellung und Bezahlen im Restaurant レストランでの注文と支払	授業時に渡す宿題をする	6.	Essen (2) 食事	授業時に渡す宿題をする	7.	Essen (3) 食事 internationale Küche 世界各国料理	授業時に渡す宿題をする	8.	Einkaufen (1) 買い物	授業時に渡す宿題をする	9.	Einkaufen (2) 買い物	授業時に渡す宿題をする	10.	Einkaufen (3) 買い物	授業時に渡す宿題をする	11.	Zusammenleben (1) WGでの共同生活 Arbeitsteilung 家事分担	授業時に渡す宿題をする	12.	Zusammenleben (2) WGでの共同生活 umweltbewusstes Leben 環境に配慮した生活	授業時に渡す宿題をする	13.	Präsentationen vorbereiten プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの準備をする	14.	Zusammenleben (3) WGでの共同生活	授業時に渡す宿題をする プレゼンテーションの準備をする	15.	Mini-Präsentationen ミニプレゼンテーション			
授業内容		準備学習等の内容																																																	
1.	Begrüßung 挨拶 Wiederholungen 復習	授業時に渡す宿題をする																																																	
2.	Wohnen (1) 住まい Zimmersuche, Beschreibung von Möbeln und Wohnungen 部屋探し、家具や住まいの比較	授業時に渡す宿題をする																																																	
3.	Wohnen (2) 住まい	授業時に渡す宿題をする																																																	
4.	Wohnen (3) 住まい	授業時に渡す宿題をする																																																	
5.	Essen (1) 食事 Bestellung und Bezahlen im Restaurant レストランでの注文と支払	授業時に渡す宿題をする																																																	
6.	Essen (2) 食事	授業時に渡す宿題をする																																																	
7.	Essen (3) 食事 internationale Küche 世界各国料理	授業時に渡す宿題をする																																																	
8.	Einkaufen (1) 買い物	授業時に渡す宿題をする																																																	
9.	Einkaufen (2) 買い物	授業時に渡す宿題をする																																																	
10.	Einkaufen (3) 買い物	授業時に渡す宿題をする																																																	
11.	Zusammenleben (1) WGでの共同生活 Arbeitsteilung 家事分担	授業時に渡す宿題をする																																																	
12.	Zusammenleben (2) WGでの共同生活 umweltbewusstes Leben 環境に配慮した生活	授業時に渡す宿題をする																																																	
13.	Präsentationen vorbereiten プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの準備をする																																																	
14.	Zusammenleben (3) WGでの共同生活	授業時に渡す宿題をする プレゼンテーションの準備をする																																																	
15.	Mini-Präsentationen ミニプレゼンテーション																																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	ドイツ語を合理的に学ぶために必要なことは以下の4つです。 1. 単語ノートを作る 2. 教科書のCDを聞く 3. ドイツ語を声に出して練習し、自分の耳で聞いて反復練習する 4. 自分の考えを文章にする																																																		
フィードバックの方法:	毎回の授業で課題と宿題を提出してもらい、採点して次回の授業で返却します。																																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>40%</td><td>文法がどれくらい身についたかを見ます。</td></tr><tr><td>課題提出</td><td>30%</td><td>書く能力がどれくらい身についたかを見ます。</td></tr><tr><td>授業態度</td><td>30%</td><td>会話練習がしっかりできたかを見ます。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	40%	文法がどれくらい身についたかを見ます。	課題提出	30%	書く能力がどれくらい身についたかを見ます。	授業態度	30%	会話練習がしっかりできたかを見ます。																																						
評価方法	割合	評価基準																																																	
定期試験	40%	文法がどれくらい身についたかを見ます。																																																	
課題提出	30%	書く能力がどれくらい身についたかを見ます。																																																	
授業態度	30%	会話練習がしっかりできたかを見ます。																																																	
教科書:	Farbkasten Deutsch 2 (CD付き 自己表現のためのドイツ語2 三修社)																																																		
参考書:																																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力																																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																																		

授業テーマ:	Fit in Deutsch		
授業の概要:	この授業を通しては、単にドイツ語を学ぶだけでなく、異文化への理解を深めます。コミュニケーションをとる時は、ドイツ語が話せるようになるだけでは不十分です。例えば、ボディランゲージだけでも、日本とは全く違う文化があります。そのような振る舞いやドイツの文化的背景も理解したうえで、自分の言葉でドイツ語を話し、会話ができるようになることがこの授業の目標です。また、ロールプレイや小スピーチなどの練習によってドイツ語を話す自信をつけてもらいます。同時に、日本とドイツの文化の違いを学びます。		
到達目標:	聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4つの能力を高めるのが目的です。その中でも日常生活に必要な会話の要素が中心となります。しかし、しっかり文法を身につけないと会話ができませんので、そのために宿題として短い作文の練習をします。この4つの能力が調和的に身につくことが到達目標となります。		
授業方法:	授業時間中はロールプレイや小スピーチの練習など、会話を中心に授業を進めます。また、宿題として短い作文を課すことで、授業で学んだことを振り返り、ドイツ語の文法を身に付けてもらいます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Partnerschaft und Familie (1) パートナーシップと家族 Traumpartner, studierende Eltern 理想のパートナー、親であり学生であり…	授業時に渡す宿題をする	
	2. Partnerschaft und Familie (2) パートナーシップと家族	授業時に渡す宿題をする	
	3. Partnerschaft und Familie (3) パートナーシップと家族	授業時に渡す宿題をする	
	4. Interkulturell leben (1) 多文化社会 Ausländer in Deutschland ドイツで暮らす外国人	授業時に渡す宿題をする	
	5. Interkulturell leben (2) 多文化社会	授業時に渡す宿題をする	
	6. Interkulturell leben (3) 多文化社会	授業時に渡す宿題をする	
	7. Stellensuche (1) 就職活動 Bewerbung und Bewerbungstipps 就職活動とそのヒント	授業時に渡す宿題をする	
	8. Stellensuche (2) 就職活動	授業時に渡す宿題をする	
	9. Stellensuche (3) 就職活動	授業時に渡す宿題をする	
	10. Besuch in Frankfurt (1) フランクフルトでの再会 Sehenswürdigkeiten in Frankfurt フランクフルトの名所	授業時に渡す宿題をする	
	11. Besuch in Frankfurt (2) フランクフルトでの再会	授業時に渡す宿題をする	
	12. Gespräch über die Zukunft 将来の展望	授業時に渡す宿題をする	
	13. Briefe und Mitteilungen schreiben (1) 手紙とメッセージを書く	手紙を書く	
	14. Reisen in Deutschland ドイツでの旅	まとめの予習	
	15. Zusammenfassung まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	ドイツ語を合理的に学ぶために必要なことは以下の4つです。 1. 単語ノートを作る 2. 教科書のCDを聞く 3. ドイツ語を声に出して練習し、自分の耳で聞いて反復練習する 4. 自分の考えを文章にする		
フィードバックの方法:	毎回の授業で課題と宿題を提出してもらい、採点して次回の授業で返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	40%	文法がどのくらい身についたかを見ます。
	課題提出	30%	書く能力がどのくらい身についたかを見ます。
	授業態度	30%	会話練習がしっかりとできたかを見ます。
教科書:	Farbkasten Deutsch 2 (CD付き 自己表現のためのドイツ語2 三修社)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

講読教材を使用してリスニングと文法・作文を学習する中国語総合の授業。

授業の概要:

初級で学習した語学知識を土台に、講読教材を使って中級中国語を総合的に学習する。この授業では最近の中国事情を理解しながら、リスニングと文型と文法に重点を置いて、中国語の多様な表現の把握に努めることを目標とする。

到達目標:

基本的な中国語の文法と文型をマスターした上で、中国語の音声と文字を一致できるようにし、中国語検定3級のリリスニングの能力のレベルまで到達できるようにする。

授業方法:

授業は文法→講読→練習問題という形式で進行し、基本的には2回の授業をかけて1課を終える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 導入 中国語と中国文化について説明し、授業の進め方について概説する。	初級文法の要点を確認する。
	2. 第1課「大学生の週末」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
	3. 第1課「大学生の週末」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
	4. 第2課「北京の交通事情」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
	5. 第2課「北京の交通事情」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
	6. 第3課「中国人の主食」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
	7. 第3課「中国人の主食」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
	8. 復習 第3課まで学んだ成語、慣用表現と重要文型を含む文章をリスニングの小テストを行うことで復習する。	第1課から第3課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。
	9. 第4課「数字についての好み」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
	10. 第4課「数字についての好み」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
	11. 第5課「大学生のアルバイト事情」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
	12. 第5課「大学生のアルバイト事情」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
	13. 第6課「集団生活のメリット」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
	14. 第6課「集団生活のメリット」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
	15. まとめ 春学期で学んだ文法、成語、慣用表現などを復習する。	第4課から第6課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

中国語の文章を翻訳し、翻訳した日本語を通して中国語を聞いただけで意味がわかるように、リスニング能力と音読力を高める。重要文型の中国語を表現できるように練習する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業での翻訳担当	10	
	授業での作文担当	10	
	2回の小テスト	30	
	期末テスト	50	授業での担当と試験により可否を判定する。

教科書:

吉田泰謙・相原里美・葛靖『知っておきたい中国事情』白水社、2014

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

kudohgz@for.aichi-pu.ac.jpに連絡すること。

授業テーマ:

電腦中国語Ⅰ

授業の概要:

教員のパソコンを使ってスクリーンに投影する方法で、はじめにパソコンやスマホでの中国語入力の仕方を学び、それからゲーム感覚の中国語学習ソフト・NHKホームページの中国語ニュース・中国のホームページ・中国映画・中国の歌・中国語検定試験練習問題などを教材として、一回生の時に学習した文法や発音の基礎をみんなでしっかりと確認しながら、読む・聞く・書くをバランスよく学んでいきます。

到達目標:

中国語をより正しく理解し、また中国の歴史や文化などに対してより多くの興味を持ってもらうために以下のような具体的な目標を設定します。
・パソコンやスマホでの中国語入力ができる。
・中国のホームページを自由に検索できる。
・辞書を頼りにNHKの中国語ホームページや中国のホームページがおおむね理解できる。

授業方法:

この授業は演習ですので、学生のみなさんの積極的発言や取り組み方が重視されます。具体的授業方法としては、一回の授業の中でいくつかのコンテンツを組み合わせることで学習していきます。五月中旬以降は中国のホームページの中から学生のみなさんがそれぞれに興味を覚えた記事(時事・芸能・歴史・経済・比較文化など)を選んで読んでもらい、それを他の学生のみなさんと一緒にじっくりとチェックすることもやります。自分の興味とレベルに合わせてホームページの記事を選んでもらいますので、決して気後れすることはありません。なお文法的事項について再点検する場合に備えて一回生時に使用した教科書と辞書は必ず持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. パソコンやスマホを使った中国語入力及び中国語メールの送受信のマスター。	
	2. NHKの中国語ホームページ及び中国・香港・台湾のホームページの紹介。	中国語メールの送受信確認。
	3. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。NHKの中国語ホームページの読解。	NHKの中国語ホームページの読解をひとり1センテンス担当。
	4. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。NHKの中国語ホームページの読解。中国の歌の紹介。	NHKの中国語ホームページの読解をひとり1センテンス担当。
	5. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。NHKの中国語ホームページの読解。中国語学習ソフトで学ぶ。中国の歌の紹介。	NHKの中国語ホームページの読解をひとり2センテンス担当。
	6. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。NHKの中国語ホームページの読解。中国語学習ソフトで学ぶ。	NHKの中国語ホームページの読解をひとり2センテンス担当。
	7. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。中国語学習ソフトで学ぶ。中国のホームページの読解。	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	8. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。中国語学習ソフトで学ぶ。中国のホームページの読解。	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	9. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。中国語学習ソフトで学ぶ。中国のホームページの読解。	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	10. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。中国映画を見る。中国のホームページの読解。	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	11. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。中国映画を見る。中国のホームページの読解。	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	12. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。中国映画を見る。中国のホームページの読解。	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	13. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。中国映画を見る。中国のホームページの読解。	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	14. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。中国語検定練習問題を解く。中国のホームページの読解。	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	15. 中国のホームページの最近のニュースの紹介。中国語検定練習問題を解く。中国のホームページの読解。	中国のホームページを担当者が翻訳する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

みなさんもご存じの通り、語学は日々の積み重ねが大事です。そしてどれだけ積極的にになれるかが飛躍的な上達のための大前提になります。よって予習と復習をしっかりとやってください。またその際、頼りになるのは辞書ですので、辞書は必ず手元に置くようにしてください。この授業の内容は難しそうに見えるかもしれませんが、わかりやすさをモットーとしていますので、みなさんの積極的な参加を期待しています。

フィードバックの方法:

授業で担当する翻訳については、教室でみんなで一緒にチェックし、年度末のレポートについては添削して返却します。添削箇所の質問や、或いは修正したレポートの再添削にも応じます(但し修正レポートは成績には反映されません)。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	30	到達目標の「辞書を頼りにNHKの中国語ホームページや中国のホームページがほぼ理解できる」を踏まえて、ホームページの翻訳などの課題がこなせているかを評価する。
	授業への参加度	20	到達目標すべてに関わるものとして、出された課題をしっかりとこなし、教員の質問に答え、予習や復習での疑問点をたずねるなどといった積極性を評価する。
	レポート		到達目標の「辞書を頼りにNHKの中国語ホームページや中国のホームページがほぼ理解できる」を踏まえて、中国のホームページの翻訳の課題がこなせているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法：Eメール・授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	基礎で勉強した知識を再確認して、更なるレベル上げを目指します。							
授業の概要:	初級外国語を勉強する時の退屈さを考えての教科書選びで、少しでも楽しく勉強できるように目指す授業です。ジョークの面白さが段々分かっていくように、単語量を増やし、文法の応用ができるように、中国語を理解する能力と応用する能力を高めていきます。							
到達目標:	楽しく、確実にレベルをあげ、中検の三級に合格できるようになりましょう。							
授業方法:	辞書を頼りにしない本文の読解をする。							
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容					
	1.	01、生年月日	検定試験の内容を授業中で指示					
	2.	02、家族	検定試験の内容を授業中で指示					
		03、登校						
	3.	05、教室に	検定試験の内容を授業中で指示					
		07、趣味						
	4.	08、誕生祝い	検定試験の内容を授業中で指示					
		09、選択						
	5.	10、体調	検定試験の内容を授業中で指示					
		11、テストの得点						
	6.	13、作文の誤字	検定試験の内容を授業中で指示					
		15、地図を見る						
	7.	16、歯の治療	検定試験の内容を授業中で指示					
		復習						
	8.	17、知っているこそ	検定試験の内容を授業中で指示					
	9.	19、弟の名前	検定試験の内容を授業中で指示					
		21、タクシーの料金						
	10.	22、お巡りさんへのお願い	検定試験の内容を授業中で指示					
		23、眠い授業						
	11.	25、飛行機の外	検定試験の内容を授業中で指示					
		26、スープが熱くない						
	12.	27、間抜け看護師	検定試験の内容を授業中で指示					
		30、薔薇を買う						
	13.	32、睡眠薬	検定試験の内容を授業中で指示					
		33、邪魔するな						
	14.	35、ケチするな	検定試験の内容を授業中で指示					
		復習						
	15.	まとめ						
受講者へのメッセージやアドバイス:	中国語のレベルを上げる事を目標にするので、中検三級合格を目指す事を要求する。							
フィードバックの方法:	受講者の要望に応じて、進み方と内容を変えること							
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準					
	平常点	10	出席だけではなく、総合判断					
	小テスト	20	二回やります					
	宿題など	10	授業中で課題を出す					
	期末テスト	60	記述とリスリング					
教科書:	中国語ジョークボックス							
	相原茂 郭雲輝	朝日出版社	ISBN978-4-255-45150-3	1, 900円				
参考書:								
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力							
教員との連絡方法:	教室で指示							

授業テーマ:	中国語の発音・読解・表現力の上達		
授業の概要:	初級中国語で修得した語彙・文法を基礎として、さらなる表現力の習得を目指し、一つの単語、一つのフレーズに注意しながら文章を読み解いていきます。		
到達目標:	初級中国語で学んだ発音および文法を基礎として、より豊かな中国語での表現力の習得を目指します。そして、中国語および中国に対する理解をさらに深めることを目標とします。		
授業方法:	授業は、本文の読解および練習問題を中心に進めます。読解は、事前に中国語の読み方、日本語訳を確認してください。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	導入:授業のガイダンス	
	2.	第一課:「日本动漫在中国」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
	3.	第一課:「日本动漫在中国」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
	4.	第二課:「中国的大学生」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
	5.	第二課:「中国的大学生」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
	6.	第三課:「网上购物」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
	7.	第三課:「网上购物」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
	8.	小テスト	復讐をよくすること
	9.	第四課:「上下班高峰」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
	10.	第四課:「上下班高峰」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
	11.	第五課:「就业」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
	12.	第五課:「就业」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
	13.	第六課:「结婚」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
	14.	第六課:「结婚」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
	15.	まとめ	復讐をよくすること
受講者へのメッセージやアドバイス:	積極的に中国語や中国に触れる機会をつくりましょう。		
フィードバックの方法:	授業で解説します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	筆記試験	60	筆記試験による授業の理解度確認
	平常点	40	授業態度、課題への取り組み等
教科書:	本間史・張明傑、『中国語読解のコツ』、金星堂		
参考書:	相原茂・石田知子・戸沼市子『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社) 張黎・佐藤晴彦『「話せる」「書ける」表現のための中国語文法』(アルク) その他、授業で適宜紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応します。		

授業テーマ:	春学期に引き続き、講読教材を使って中級中国語を総合的に学習する。この授業では最近の中国事情を理解しながら、文型と文法に重点を置いて、中国語の多様な表現の把握に努めることを目標とする。講読教材を使用してリスニングと文法・作文を学習する中国語総合の授業。																																	
授業の概要:	初級で学習した語学知識を土台に、講読教材を使って中級中国語を総合的に学習する。この授業では最近の中国事情を理解しながら、リスニングと文型と文法に重点を置いて、中国語の多様な表現の把握に努めることを目標とする。																																	
到達目標:	基本的な中国語の文法と文型をマスターした上で、中国語の音声と文字を一致できるようにし、中国語検定3級のリスキングの能力のレベルまで到達できるようにする。																																	
授業方法:	授業は文法→講読→練習問題という形式で進行し、基本的には2回の授業をかけて1課を終える。																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 導入 中国語と中国文化について説明し、授業の進め方について概説する。</td><td>春学期の学習の要点を確認する。</td></tr><tr><td>2. 第7課「北京での買い物」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。</td><td>予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。</td></tr><tr><td>3. 第7課「北京での買い物」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。</td><td>復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。</td></tr><tr><td>4. 第8課「贈り物で気をつけること」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。</td><td>予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 第8課「贈り物で気をつけること」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。</td><td>復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。</td></tr><tr><td>6. 第9課「中国式の結婚」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。</td><td>予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。</td></tr><tr><td>7. 第9課「中国式の結婚」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。</td><td>復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。</td></tr><tr><td>8. 復習 第9課まで学んだ成語、慣用表現と重要文型を含む文章をリスニングの小テストを行うことで復習する。</td><td>第7課から第9課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。</td></tr><tr><td>9. 第10課「共働きの家庭」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。</td><td>予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。</td></tr><tr><td>10. 第10課「共働きの家庭」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。</td><td>復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。</td></tr><tr><td>11. 第11課「中国人の呼称」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。</td><td>予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。</td></tr><tr><td>12. 第11課「中国人の呼称」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。</td><td>復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。</td></tr><tr><td>13. 第12課「大学生が憧れる職業」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。</td><td>予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。</td></tr><tr><td>14. 第12課「大学生が憧れる職業」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。</td><td>復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。</td></tr><tr><td>15. まとめ 秋学期で学んだ文法、成語、慣用表現などを復習する。</td><td>第10課から第12課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 導入 中国語と中国文化について説明し、授業の進め方について概説する。	春学期の学習の要点を確認する。	2. 第7課「北京での買い物」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。	3. 第7課「北京での買い物」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。	4. 第8課「贈り物で気をつけること」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。	5. 第8課「贈り物で気をつけること」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。	6. 第9課「中国式の結婚」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。	7. 第9課「中国式の結婚」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。	8. 復習 第9課まで学んだ成語、慣用表現と重要文型を含む文章をリスニングの小テストを行うことで復習する。	第7課から第9課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。	9. 第10課「共働きの家庭」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。	10. 第10課「共働きの家庭」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。	11. 第11課「中国人の呼称」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。	12. 第11課「中国人の呼称」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。	13. 第12課「大学生が憧れる職業」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。	14. 第12課「大学生が憧れる職業」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。	15. まとめ 秋学期で学んだ文法、成語、慣用表現などを復習する。	第10課から第12課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。	
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 導入 中国語と中国文化について説明し、授業の進め方について概説する。	春学期の学習の要点を確認する。																																	
2. 第7課「北京での買い物」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。																																	
3. 第7課「北京での買い物」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。																																	
4. 第8課「贈り物で気をつけること」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。																																	
5. 第8課「贈り物で気をつけること」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。																																	
6. 第9課「中国式の結婚」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。																																	
7. 第9課「中国式の結婚」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。																																	
8. 復習 第9課まで学んだ成語、慣用表現と重要文型を含む文章をリスニングの小テストを行うことで復習する。	第7課から第9課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。																																	
9. 第10課「共働きの家庭」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。																																	
10. 第10課「共働きの家庭」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。																																	
11. 第11課「中国人の呼称」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。																																	
12. 第11課「中国人の呼称」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。																																	
13. 第12課「大学生が憧れる職業」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。																																	
14. 第12課「大学生が憧れる職業」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。																																	
15. まとめ 秋学期で学んだ文法、成語、慣用表現などを復習する。	第10課から第12課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:																																		
フィードバックの方法:	中国語の文章を翻訳し、翻訳した日本語を通して中国語を聞いただけで意味がわかるように、リスニング能力と音読力を高める。重要文型の中国語を表現できるように練習する。																																	
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業での翻訳担当</td><td>10</td><td rowspan="4">授業での担当と試験により可否を判定する。</td></tr><tr><td>授業での作文担当</td><td>10</td></tr><tr><td>2回の小テスト</td><td>30</td></tr><tr><td>期末テスト</td><td>50</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業での翻訳担当	10	授業での担当と試験により可否を判定する。	授業での作文担当	10	2回の小テスト	30	期末テスト	50																					
評価方法	割合	評価基準																																
授業での翻訳担当	10	授業での担当と試験により可否を判定する。																																
授業での作文担当	10																																	
2回の小テスト	30																																	
期末テスト	50																																	
教科書:	吉田泰謙・相原里美・葛靖『知っておきたい中国事情』白水社、2014																																	
参考書:																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力																																	
教員との連絡方法:	kudohgz@for.aichi-pu.ac.jpに連絡すること。																																	

授業テーマ:

電腦中国語Ⅱ

授業の概要:

教員のパソコンを使ってスクリーンに投影する方法で、中国のホームページ(時事・芸能・旅行・歴史・経済・比較文化・政治など)・中国映画(字幕付き)・ゲーム感覚の中国語学習ソフト・中国語検定試験練習問題(四級・三級)などできるだけ活きた教材を使って、読む・聞く・書くをバランスよく学んでいきます。また学年末のレポートとして、中国のホームページを駆使して三泊四日の中国旅行のプランを作成してもらいます。

到達目標:

本学に於ける中国語履修の最終段階として、辞書があればどんなものでも読んでほぼ理解することができるという自信を身につけるために、以下のこと到達目標とします。
・中国語検定四級問題が難なくこなせる。
・辞書を頼りに中国のホームページがほぼ理解できる。
・中国を旅行するための地理的理解及び交通手段の選択ができる。

授業方法:

この授業は演習ですので、学生のみなさんの積極的発言や取り組み方が重視されます。具体的授業方法としては、一回の授業の中でいくつかのコンテンツを組み合わせる学習をしていきます。五月中旬以降は中国のホームページの中から学生のみなさんがそれぞれに興味を覚えた記事(時事・芸能・歴史・経済・比較文化など)を選んで読んでもらい、それを他の学生のみなさんと一緒にじっくりとチェックすることもやります。自分の興味とレベルに合わせてホームページの記事を選んでもらいますので、決して気後れすることはありません。なお文法的事項について再点検する場合に備えて一回生時に使用した教科書と辞書は必ず持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	中国のホームページの最近のニュースの紹介。中国旅行プラン作成のためのガイダンスⅠ(中国の地理などについて)。	
	2.	中国語メールの送受信確認。
	3.	中国のホームページの読解をひとり3センテンス担当。
	4.	中国のホームページの読解をひとり3センテンス担当。
	5.	中国のホームページの読解をひとり3センテンス担当。
	6.	中国のホームページの読解をひとり3センテンス担当。
	7.	中国のホームページの読解をひとり3センテンス担当。
	8.	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	9.	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	10.	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	11.	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	12.	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	13.	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	14.	中国のホームページを担当者が翻訳する。
	15.	中国のホームページを担当者が翻訳する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

みなさんもご存じの通り、語学は日々の積み重ねが大事です。そしてどれだけ積極的になれるかが飛躍的な上達のための大前提になります。よって予習と復習をしっかりとやってください。またその際、頼りになるのは辞書ですので、辞書は必ず手元に置くようにしてください。この授業の内容は難しそうに見えるかもしれませんが、わかりやすさをモットーとしていますので、みなさんの積極的な参加を期待しています。

フィードバックの方法:

授業で担当する翻訳については、教室でみんなで一緒にチェックし、年度末の旅行プラン作成のレポートについては添削して返却します。添削箇所の質問や、或いは修正したレポートの再添削にも応じます(但し修正レポートは成績には反映されません)。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	30	到達目表の「辞書を頼りに中国のホームページがほぼ理解できる」を踏まえて、ホームページの翻訳などの課題がこなしているか、またそれが到達目標の「中国語検定四級問題が難なくこなせる」程度のレベルに達しているかを併せて評価する。
	授業への参加度	20	出された課題をしっかりとこなし、教員の質問に答え、予習や復習での疑問点をたずねるなどといった積極さを評価する。
	レポート	50	到達目標の「辞書を頼りに中国のホームページがほぼ理解できる」及び「中国を旅行するための地理的理解及び交通手段の選択ができる」を踏まえて、中国の旅行プラン作成の課題がこなしているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

Eメール・授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	基礎で勉強した知識を再確認して、更なるレベル上げを目指します。						
授業の概要:	初級外国語を勉強する時の退屈さを考えての教科書選びで、少しでも楽しく勉強できるように目指す授業です。ジョークの面白さが段々分かっていくように、単語量を増やし、文法の応用ができるように、中国語を理解する能力と応用する能力を高めていきます。						
到達目標:	楽しく、確実にレベルをあげ、中検の三級に合格できるようになりましょう。						
授業方法:	辞書を頼りにしない中検の問題文を読解する。						
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容				
	1.	37、英会話	中検の練習を授業中で指示				
	2.	38、遅い食事	中検の練習を授業中で指示				
		39、ゴミ					
	3.	40、約束	中検の練習を授業中で指示				
		42、バスケットコーチ					
	4.	44、大雨	中検の練習を授業中で指示				
		45、旦那の特徴					
	5.	47、パイロット	中検の練習を授業中で指示				
		48、アドバイス					
	6.	49、愛情	中検の練習を授業中で指示				
		50、儲け話					
	7.	51、本になりたい	中検の練習を授業中で指示				
		復習					
	8.	52、メニュー	中検の練習を授業中で指示				
受講者へのメッセージやアドバイス:	9.	53、製品は？	中検の練習を授業中で指示				
		55、開演の後					
	10.	56、火事だ	中検の練習を授業中で指示				
		57、怖い手術					
	11.	58、を酒を止める	中検の練習を授業中で指示				
		60、説明書					
	12.	62、二台ください	中検の練習を授業中で指示				
		64、如何すればいい					
	13.	中検最終確認	中検の練習を授業中で指示				
	14.	中検最終確認	中検の練習を授業中で指示				
	15.	まとめ					
	中国語のレベルを上げる事为目标にするので、中検三級合格を目指す事を要求する。						
フィードバックの方法:	受講者の要望に応じて、進み方と内容を変えること						
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法		評価基準				
	平常点	10	出席だけではなく、総合判断				
	小テスト	20	二回する				
	宿題など	10	授業中で課題を出す				
	期末テスト	60	記述とリスリング				
教科書:	中国語ジョークボックス						
	相原茂 郭雲輝	朝日出版社	ISBN978-4-255-45150-3	1, 900円			
参考書:							
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力						
教員との連絡方法:	教室で指示						

授業テーマ:

中国語の発音・読解・表現力の上達

授業の概要:

初級中国語で修得した語彙・文法を基礎として、さらなる表現力の習得を目指し、一つの単語、一つのフレーズに注意しながら文章を読み解いていきます。

到達目標:

初級中国語で学んだ発音および文法を基礎として、より豊かな中国語での表現力の習得を目指します。そして、中国語および中国に対する理解をさらに深めることを目標とします。

授業方法:

授業は、本文の読解および練習問題を中心に進めます。読解は、事前に中国語の読み方、日本語訳を確認してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス・前期の復習	
2.	第七課:「月光族」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
3.	第七課:「月光族」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
4.	第八課:「接待培訓」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
5.	第八課:「接待培訓」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
6.	第九課:「节能环保, 低碳生活」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
7.	第九課:「节能环保, 低碳生活」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
8.	小テスト	よく復讐すること
9.	第十課:「情人节」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
10.	第十課:「情人节」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
11.	第十一課:「低头族」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
12.	第十一課:「低头族」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
13.	第十二課:「春节」本文/文法	事前に教科書に目を通しておくこと
14.	第十二課:「春节」練習問題	事前に教科書に目を通しておくこと
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業で解説します。

「成績評価方法」:	「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
		筆記試験	60	筆記試験による授業の理解度確認
		平常点	40	授業態度、課題への取り組み等

教科書:

本間史・張明傑『中国語読解のコツ』、金星堂

参考書:

相原茂・石田知子・戸沼市子『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社)
張黎・佐藤晴彦『「話せる」「書ける」表現のための中国語文法』(アルク)
その他、授業で適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応します。

032300 ラピート中国語Ⅰ(A)
032400 ラピート中国語Ⅰ(B)
032500 ラピート中国語Ⅰ(C)
032600 ラピート中国語Ⅰ(D)
032700 ラピート中国語Ⅱ(A)
032800 ラピート中国語Ⅱ(B)
032900 ラピート中国語Ⅱ(C)
033000 ラピート中国語Ⅱ(D)

朱 捷、李 テイ、大西 智之

授業テーマ： 中国語検定試験3級合格を目指す

授業の概要： ラピート中国語は年間4単位の第2外国語の授業に満足せず、本格的に中国語を勉強したい人のための特別プログラムである。読解・会話・リスニング・文法で1コマずつ、週4コマ開講し、使える中国語を身につけることをめざす。

到達目標： 中国語検定試験3級に全員合格すること。

授業方法： 理屈でわかったことを体で覚えるように練習を繰り返し、練習したものを次回で復習するようにし、ときどき小テストもはさむ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 会話・リスニング・文法・読解	1年生に習った教科書を復習してくる。
	2. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	3. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	4. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	5. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	6. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	7. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	8. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	9. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	10. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	11. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	12. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	13. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	14. 会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
	15. まとめ	復習して最終回のまとめに臨む。

受講者へのメッセージやアドバイス： 1年で中国語検定試験3級を楽々パスしましょう！

フィードバックの方法： テスト答案用紙を添削・採点の上返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	教室での練習	40	宿題をこなしたうえ授業に臨むこと、授業への積極的な参加度 学習した内容の理解度・習熟度
	小テストや期末試験	60	

教科書： 教室で指示する

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法： マナビーの掲示板

033100 ラピート中国語Ⅲ(A)
033200 ラピート中国語Ⅲ(B)
033300 ラピート中国語Ⅲ(C)
033400 ラピート中国語Ⅲ(D)
033500 ラピート中国語Ⅳ(A)
033600 ラピート中国語Ⅳ(B)
033700 ラピート中国語Ⅳ(C)
033800 ラピート中国語Ⅳ(D)

朱 捷、李 テイ、大西 智之

授業テーマ： 中国語検定試験2級合格を目指す
授業の概要： ラピートⅠ・Ⅱで3級合格に達した次のステップとして、2級合格を目標とする。
到達目標： 中国語検定試験2級に合格すること。
授業方法： 理屈でわかったことを体で覚えるように練習を繰り返し、練習したものを次回で復習するようにし、ときどき小テストもはさむ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	会話・リスニング・文法・読解	ラピートⅠ・Ⅱで習った内容を復習してくる。
2.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
3.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
4.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
5.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
6.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
7.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
8.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
9.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
10.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
11.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
12.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
13.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
14.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
15.	まとめ	復習して最終回のまとめに臨む。

受講者へのメッセージやアドバイス： 中国語検定試験2級合格は、要領よく勉強すれば、だれでも手が届きますよ！

フィードバックの方法： テスト答案用紙を添削・採点の上返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	教室での練習	40	宿題をこなしたうえ授業に臨むこと、授業への積極的な参加度 学習した内容の理解度・習熟度
	小テストや期末試験	60	

教科書： 教室で指示する

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法： マナビーの掲示板

033900 ラピートドイツ語Ⅰ(A)
034000 ラピートドイツ語Ⅰ(B)
034100 ラピートドイツ語Ⅰ(C)
034200 ラピートドイツ語Ⅰ(D)
034300 ラピートドイツ語Ⅱ(A)
034400 ラピートドイツ語Ⅱ(B)
034500 ラピートドイツ語Ⅱ(C)
034600 ラピートドイツ語Ⅱ(D)

服部 尚己、田村 萬里、R.T.Walch

授業テーマ:

授業の概要: これはドイツ語を集中的に学んで実践的な能力を身に着けることを目標に構成された特別コースです。「適性検査テスト」を受けて許可された者しか受講できません。日本人教員による授業が週2コマ(IA/IB/IIA/IIB)とnative speaker教員による授業が週2コマ(IC/ID/IIC/IID)、計週4コマの授業を2年間に渡って受講し、高度な語学力の育成を目指します。詳しくは「語学特別プログラム」の案内を読んでもください。

到達目標: ドイツ語検定試験の3級レベルを到達目標としています。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての高度な運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法: 演習授業です。それぞれ担当者がふさわしいテキスト、プリント、視聴覚教材等を利用しつつ、アクティブラーニングを含め、少人数で効果的に練習ができるように計画が立てられて授業がなされています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	3. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	4. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	5. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	6. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	7. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	8. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	9. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	10. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	11. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	12. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	13. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	14. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	15. 総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト、リスニング試験、筆記試験等はすべて採点の上返却します。そうすることによって、自分の現在の實力(検定試験の等級)を知ることが最も重要です。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	60%	四技能にわたっての高度なドイツ語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。検定試験の3級レベルを到達目標とする。
	授業への参加度	40%	演習授業において積極的に練習に加わり、高度な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

034700 ラピートドイツ語Ⅲ(A)
034800 ラピートドイツ語Ⅲ(B)
034900 ラピートドイツ語Ⅲ(C)
035000 ラピートドイツ語Ⅲ(D)
035100 ラピートドイツ語Ⅳ(A)
035200 ラピートドイツ語Ⅳ(B)
035300 ラピートドイツ語Ⅳ(C)
035400 ラピートドイツ語Ⅳ(D)

服部 尚己、田村 萬里、R.T.Walch

授業テーマ:

授業の概要: これはドイツ語を集中的に学んで実践的な能力を身に着けることを目標に構成された特別コースです。「適性検査テスト」を受けて許可された者しか受講できません。日本人教員による授業が週2コマ(ⅢA/ⅢB/ⅣA/ⅣB)とnative speaker教員による授業が週2コマ(ⅢC/ⅢD/ⅣC/ⅣD)、計週4コマの授業を2年間に渡って受講し、高度な語学力の育成を目指します。詳しくは「語学特別プログラム」の案内を読んでください。

到達目標: ヨーロッパ評議会枠の検定試験のB1レベルを到達目標としています。これは400時限の受講経験を前提としており、ラピートプログラムの二年目でこの時間数に到達します。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての高度な運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法: 演習授業です。それぞれ担当者がふさわしいテキスト、プリント、視聴覚教材等を利用しつつ、アクティブラーニングを含め、少人数で効果的に練習ができるように計画が立てられて授業がなされています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	3. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	4. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	5. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	6. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	7. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	8. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	9. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	10. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	11. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	12. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	13. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	14. ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	15. 総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト、リスニング試験、筆記試験等はすべて採点の上返却します。そうすることによって、自分の現在の實力(検定試験の等級)を知ることがもっとも重要なことです。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験	60%	ヨーロッパ評議会枠の検定試験のB1レベルを到達目標とする。四技能にわたっての高度なドイツ語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。
	授業への参加度	40%	演習授業において積極的に練習に加わり、高度な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

035500 ラピートフランス語Ⅰ(A)
035600 ラピートフランス語Ⅰ(B)
035700 ラピートフランス語Ⅰ(C)
035800 ラピートフランス語Ⅰ(D)
035900 ラピートフランス語Ⅱ(A)
036000 ラピートフランス語Ⅱ(B)
036100 ラピートフランス語Ⅱ(C)
036200 ラピートフランス語Ⅱ(D)

水野 いずみ、湊野 ゆり子、E.Faure、丸瀬 康裕

授業テーマ:

授業の概要: これはフランス語を集中的に学んで実践的な能力を身に着けることを目標に構成された特別コースです。「適性検査テスト」を受けて許可された者しか受講できません。日本人教員による授業が週2コマ(ⅠA/ⅠB/ⅡA/ⅡB)とnative speaker教員による授業が週2コマ(ⅠC/ⅠD/ⅡC/ⅡD)、計週4コマの授業を2年間に渡って受講し、高度な語学力の育成を目指します。詳しくは「語学特別プログラム」の案内を読んでください。

到達目標: フランス語検定試験の3級レベルを到達目標としています。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての高度な運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法: 演習授業です。それぞれ担当者がふさわしいテキスト、プリント、視聴覚教材等を利用しつつ、アクティブラーニングを含め、少人数で効果的に練習ができるように計画が立てられて授業がなされています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	3. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	4. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	5. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	6. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	7. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	8. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	9. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	10. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	11. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	12. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	13. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	14. フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	15. 総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト、リスニング試験、筆記試験等はすべて採点の上返却します。そうすることによって、自分の現在の実力(検定試験の等級)を知ることはもっとも重要なことです。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	60%	四技能にわたっての高度なフランス語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。検定試験の3級レベルを到達目標とする。
	授業への参加度	40%	演習授業において積極的に練習に加わり、高度な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

036300 ラピートフランス語Ⅲ(A)
036400 ラピートフランス語Ⅲ(B)
036500 ラピートフランス語Ⅲ(C)
036600 ラピートフランス語Ⅲ(D)
036700 ラピートフランス語Ⅳ(A)
036800 ラピートフランス語Ⅳ(B)
036900 ラピートフランス語Ⅳ(C)
037000 ラピートフランス語Ⅳ(D)

水野 いずみ、湊野 ゆり子、E.Faure、丸瀬 康裕

授業テーマ:

授業の概要: これはフランス語を集中的に学んで実践的な能力を身に着けることを目標に構成された特別コースです。「適性検査テスト」を受けて許可された者しか受講できません。日本人教員による授業が週2コマ(ⅢA/ⅢB/ⅣA/ⅣB)とnative speaker教員による授業が週2コマ(ⅢC/ⅢD/ⅣC/ⅣD)、計週4コマの授業を2年間に渡って受講し、高度な語学力の育成を目指します。詳しくは「語学特別プログラム」の案内を読んでください。

到達目標: ヨーロッパ評議会校の検定試験のB1レベルを到達目標としています。これは400時限の受講経験を前提としており、ラピートプログラムの二年目でこの時間数に到達します。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての高度な運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法: 演習授業です。それぞれ担当者がふさわしいテキスト、プリント、視聴覚教材等を利用しつつ、アクティブラーニングを含め、少人数で効果的に練習ができるように計画が立てられて授業がなされています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト、リスニング試験、筆記試験等はすべて採点の上返却します。そうすることによって、自分の現在の實力(検定試験の等級)を知ることはもっとも重要なことです。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	60%	四技能にわたっての高度なフランス語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。ヨーロッパ評議会校の検定試験のB1レベルを到達目標とする。
	授業への参加度	40%	演習授業において積極的に練習に加わり、高度な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	イタリア語会話に触れる		
授業の概要:	少人数のグループでいくつかの表現を実際に使用し、練習する。 まず聞き取った内容を言葉に置き換える練習。次に用法や使い方を学習する。 授業には失敗を恐れず、ともかく表現してみるといった積極的な姿勢が求められる。		
到達目標:	イタリア語の日常会話の習得。(ネイティブ・スピーカーによる授業)		
授業方法:	少人数のグループでいくつかの表現を実際に使用し、練習する。 まず聞き取った内容を言葉に置き換える練習。次に用法や使い方を学習する。 授業には失敗を恐れず、ともかく表現してみるといった積極的な姿勢が求められる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ジェルンディオ	テキストにおける該当課の下見解らない表現と単語の拾い出し
	2.	命令法1	テキストにおける該当課の下見解らない表現と単語の拾い出し
	3.	命令法2	テキストにおける該当課の下見解らない表現と単語の拾い出し
	4.	不規則動詞2	テキストにおける該当課の下見解らない表現と単語の拾い出し
	5.	不規則動詞3	テキストにおける該当課の下見解らない表現と単語の拾い出し
	6.	直接目的語の代名詞	テキストにおける該当課の下見解らない表現と単語の拾い出し
	7.	間接目的語の代名詞	テキストにおける該当課の下見解らない表現と単語の拾い出し
	8.	再帰動詞	テキストにおける該当課の下見解らない表現と単語の拾い出し
	9.	会話練習1	
	10.	比較級	テキストにおける該当課の下見解らない表現と単語の拾い出し
	11.	最上級	テキストにおける該当課の下見解らない表現と単語の拾い出し
	12.	会話練習2	
	13.	会話練習3	
	14.	復習	
	15.	まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:	基本的に毎週、宿題を出します。		
フィードバックの方法:	授業の中で、質問、会話への参加などを通して、習得する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	66	出席率、及びグループ会話練習や読み書き練習の態度を総合的に評価します。
	試験結果	34	試験の結果を100点満点に換算し、採点します。
教科書:	しっかり学ぶイタリア語 一ノ瀬俊和 著 ベレ出版 オ・カピート! Ho capito 菅野ヴェロニカ 著 白水社		
参考書:	配付プリント		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力		
教員との連絡方法:	大学の窓口を通じて、コンタクトしてください。		

授業テーマ:	イタリア語会話に触れる		
授業の概要:	少人数のグループでいくつかの表現を実際に使用し、練習する。 まず聞き取った内容を言葉に置き換える練習。次に用法や使い方を学習する。 授業には失敗を恐れず、とにかく表現してみるといった積極的な姿勢が求められる。		
到達目標:	イタリア語の日常会話の習得。(ネイティブ・スピーカーによる授業)		
授業方法:	少人数のグループでいくつかの表現を実際に使用し、練習する。 まず聞き取った内容を言葉に置き換える練習。次に用法や使い方を学習する。 授業には失敗を恐れず、とにかく表現してみるといった積極的な姿勢が求められる。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:		授業内容	準備学習等の内容
	1.	ジェルンディオ	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
	2.	命令法1	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
	3.	命令法2	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
	4.	不規則動詞2	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
	5.	不規則動詞3	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
	6.	直接目的語の代名詞	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
	7.	間接目的語の代名詞	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
	8.	再帰動詞	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
	9.	会話練習1	
	10.	比較級	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
	11.	最上級	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
	12.	会話練習2	
	13.	会話練習3	
	14.	復習	
	15.	まとめ	
受講者への メッセージや アドバイス:	基本的に毎週、宿題を出します。		
フィードバックの 方法:	授業の中で、質問、会話への参加などを通して、習得する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	66	出席率、及びグループ会話練習や読み書き練習の態度 を総合的に評価します。
	試験結果	34	試験の結果を100点満点に換算し、採点します。
教科書:	しっかり学ぶイタリア語 一ノ瀬俊和 著 ベレ出版 オ・カピート！ Ho capito 菅野ヴェロニカ 著 白水社		
参考書:	配付プリント		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力		
教員との連絡 方法:	大学の窓口を通じて、コンタクトしてください。		

授業テーマ:

Intermediate Spanish I

授業の概要:

This course introduces different aspects of the Spanish culture around the world through learning and practicing intermediate level of Spanish. Especially, it focuses on basic grammar rules, self study, and communication skills. By doing specific activities, writing assignments and oral presentations students increase their knowledge and the meaning of what has been learnt from their interaction and shared experiences with other students in class.

到達目標:

To develop in students a strong competence and ability for self management, language analysis, interactive discussion and debate in class, creative thinking, self expression in oral presentation, communication skills, leadership, and to create initiatives for learning and working harmoniously into the group context.

授業方法:

To implement teaching strategies based on the Constructive Learning Theory (CLT) and the development of divergent thinking. Also, through individual assignments, reading practices, oral presentation, and group-work collaboration in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introducción Lesson 1: Buenos días!	To prepare of self-introduction in class.
2.	Práctica y ejercicios. Self-introduction in class.	Homework 1
3.	Lesson 2: Los estudiantes nuevos	Group assignment.
4.	Práctica y ejercicios	Homework 2
5.	Lesson 3: Cómo estás?	Group assignment.
6.	Práctica y ejercicios	Homework 3
7.	Lesson 4: Hablas muy bien español!	Group assignment.
8.	Práctica y ejercicios	Homework 4
9.	Lesson 5: Vamos a pasear	To prepare for middle-term examination
10.	Práctica y ejercicios. Middle-term examination	Homework 5
11.	Lesson 6: Qué te parece?	To prepare of oral examination
12.	Práctica y ejercicios. Oral examination	Homework 6
13.	Lesson 7: Ayer fui al Cine	To prepare for final-term examination
14.	Práctica y ejercicios	Homework 7
15.	Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

For this course an enthusiastic participation and positive attitude are required, where learning takes place in an interactive context. The lecture are done in Japanese and Spanish, but it is desirable for those students who apply to express themselves in Spanish since the beginning of the course.

フィードバックの方法:

After examination, the contents of the tests are explained in class to reinforce the learning process. Interactive discussion, group-work collaboration, and sharing personal initiatives among students are highly required as a means for evaluation.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Assistence	15	Assistence, debate, individual participation and group collaboration
	Middle term test	30	Written examination
	Final therm test	30	Written examination
	Homework	15	Different types of homework (individual and into group context) to be done during the semester
	Oral presentation	10	A speech in front the classes regarded the subject studied

教科書:

Ignacio Aristimuno, et al. (2012). INTENSO: Curso Intensivo de Español. Asahi Shuppan. 101 p.
ISBN: 978-4-255-55051-0 C1087

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

ignitus@msn.com

授業テーマ:

El espanol en situaciones cotidianas
The spanish in usual situation

授業の概要:

This spanish course prepare you for used spanish in easy conversation with native

到達目標:

The main objective of this class is that students become able to communicate and sustain basic conversations in Spanish.

授業方法:

Work class in group or team
Revision and introduce new topic
Video
Game
Printed

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	week 1 Presentation and rules class Hola! iquestQue tal?	a. New topic introduce: Used text book, dictionary, picture, news papers, film, music, etc b.Main: Use text book Entre amigos 1 and prints for listen, oral and written exercises c.Review: Team or group write original dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this. d. Home work: Print, diary or other about day topic e. One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
2.	week 2 De donde eres?	New topic introduce: Used text book and other material b. Main: Text book or other material c.Review: Team or group write orignal dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this. d. Home work: Print e.One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
3.	week 3 Es alto y simpatico	a. New topic introduce: Used text book and other material b.Main: text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this d. Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
4.	week 4 Quiz (Listen, write and oral	a.Examination a. Write quizzes b. Oral presentation
5.	week 5 Conoce tu universidad	a.New topic introduce: Used text b.Main: tex book or other material c. Review;Team or group write original dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this d.Home work : Print e. One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
6.	week 6 iquestQueacute haces normalmente?	a. New topic introduce; Used text book and other material b.Main; text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day topic. PResentation or discussion about this. d.Home work; Print e. One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
7.	week 7 Test	Examination a.Write quizzes b.Oral presentation
8.	week 8 iquestTienes algun plan?	a. New topic introduce; used text book and other material b.Main; Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this d. Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
9.	week 9 Un dia normal	a. New topic introduce; Used text book and other material. b.Main; Text book, or other material c.Review; Team or group write original dialogue about topic day. Presentation or discussion about this. d; Home work e. One or two quizzes for theme f.Final semester presentation in spanish
10.	week 10 Lo conoces?	a. Newtopic introduce, used text book and other material b.Main; Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day topic.Presentation or discussion about this d.Home work: Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
11.	week 11 Exercises (Listen, write and oral)	Write; Print exercise Listen; Audio Oral: Presentation

12.	week 12 Vamos de compras	a. New topic introduce; Used text book and other material b. Main; Text book or other material c. Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this d. Home work; Print e. One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
13.	week 13 El tiempo libre	a. New topic introduce: Text book and other material b. Main: Text book or other material c. Review; Team or group write original dialogue about the day topic: Presentation or discussion about this. d. Home work; Print e. One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
14.	week 14 Quiz (Listen, write and oral)	Write; Print exercise Listen; Audio Oral; Presentation
15.	week 15 Presentation	Presentation in spanish about Spain, Latin america or Japan

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

Home work

Check in the blackboard the next class
Review about difficult point if that necessary

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
attitude and participation	30%	Class presentation and rules
attend	20%	
Mini test	25%	
Presentation	25%	

教科書:

IMAGINATELO
Masako Ura, Francisco Partida
Editorial Asahi

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡
方法:

Ask in the class room

授業テーマ:

Interactive Spanish II

授業の概要:

This course introduces different aspects of the Spanish culture around the world through learning and practicing intermediate level of Spanish. Especially, it focuses on basic grammar rules, self study, and communication skills. By doing specific activities, writing assignments and oral presentations students increase their knowledge and the meaning of what has been learnt from their interaction and shared experiences with other students in class.

到達目標:

To develop in students a strong competence and ability for self management, language analysis, interactive discussion and debate in class, creative thinking, self expression in oral presentation, communication skills, leadership, and to create initiatives for learning and working harmoniously into the group context.

授業方法:

To implement teaching strategies based on the Constructive Learning Theory (CLT) and the development of divergent thinking. Also, through individual assignments, reading practices, oral presentation, and group-work collaboration in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction. Lesson: 8: Me llamo Maria	To prepare for self-introduction in class.
2.	Práctica y ejercicios. Self-introduction in class.	Homework 1
3.	Lesson 9: Lo pasé muy bien.	Group assignment
4.	Práctica y ejercicios	Homework 2
5.	Lesson 10: Cómo se va a la estación?	Group assignment
6.	Práctica y ejercicios	Homework 3
7.	Lesson 11: Algunos son interesantes.	Group assignment
8.	Práctica y ejercicios	Homework 4
9.	Lesson 12: Algún día iré a Argentina.	To prepare for mind-term examination
10.	Práctica y ejercicios. Middle-term examination	Homework 5
11.	Lesson 13: Me alegro de que estés bien.	To prepare for oral examination
12.	Práctica y ejercicios. Oral examination	Homework 6
13.	Lesson 14: Qué tengas buen viaje.	To prepare for final-term examination
14.	Práctica y ejercicios	Homework 7
15.	Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

For this course an enthusiastic participation and positive attitude are required, where learning takes place in an interactive context. The lecture are done in Japanese and Spanish, but it is desirable for those students who apply to express themselves in Spanish since the beginning of the course.

フィードバックの方法:

After examination, the contents of the tests are explained in class to reinforce the learning process. Interactive discussion, group-work collaboration, and sharing personal initiatives among students are highly required as a means for evaluation.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Assistence	15	Assistence, debate, individual participation and group collaboration
	Middle term examination	30	Written examination
	Final term examination	30	Written examination
	Homework	15	Different types of homework (individual and into group context) to be done during the semester
	Oral presentation	10	A speech in front the classes regarded the subject studied

教科書:

Ignacio Aristimuno, et al. (2012). INTENSO: Curso Intensivo de Español. Asahi Shuppan. 101 p.
ISBN: 978-4-255-55051-0 C1087

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

ignitus@msn.com

授業テーマ:	El espantildeol en situaciones cotidianas The spanish in usual situation
授業の概要:	This course prepare you for easy conversation in any situation
到達目標:	The main objective of this class is that students become able to communicate in proper and creative way in any situation
授業方法:	Work class in group or team Revision and introduce new topic Video Game Printed

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Presentation. Class rules	a. New topic introduce: Text book, dictionary, picture, news papers, film, music, etc b.Main: Text book and other material c.Review: Team or group write original dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this. d. Home work: Print, e. One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
	2. Me gusta	a. New topic introduce; Text book and other material b.Main Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day theme. Presentation or discussion about this d. Home work; Print e.One or two quizzes for theme fFinal semester Presentation in spanish
	3. Vamos a invitar a un amigo	a. New topic introduce: Text book and other material b.Main; Text book or other material c;Review; Team or group write original dialogue about the day theme. Presentation or discussion about this. d. Home work: Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
	4. Qué haces hoy?	a. New topic introduce; Text book and other material b.Main: text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this. d. Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
	5. Test	Write; Print exercise Listen; Audio Oral; Presentation
	6. Que le regalamos?	a. . New topic introduce; Text book and other material b.Main; text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this d. Home work; Print e. One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
	7. Qué te pasa te sientes mal?	a. New topic introduce; Text book and other material b.Main; text book or other material c.Review: Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this. d.Home work; Print e.One or two quizzes for theme f.Final presentation in spanish
	8. Perdón, puede enseñarme?	a. New topic introduce; text book and other material b.Main; text book or other material c: Review: Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this. d.Home work; Print e. One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
	9. Test	Write; Print exercise Listen; Audio Oral; Presentation
	10. Vamos a hablar del pasado	a. New topic introduce; Text book and other material b.Main: Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this d.Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
	11. Hablamos de recuerdos	a.New topic introduce; Text book and other material b.Main; text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discusscion about this. d. Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish

12.	Las fiestas	a. New topic introduce; Text book and other material b.Main: Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this. d.Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
13.	Test	Write; Print exercise Listen; Audio Oral; Presentation
14.	Las vacaciones	a. New topic Introduce; Text book and other material b.Main: Text book or other material c. Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this d.Home work; Print e. One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
15.	Presentation	Team presentation Theme about Spain or Latin america culture

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

Home work
check on the blackboard the next class
Review the difficult point if that necessary

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attitude and participation	30 %	Class presentation and rules
Attend	20%	
Mini test	25%	
Presentation	25%	

教科書: NO BOOK

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡
方法:

Ask in the class room

授業テーマ:

韓国語を1年ほど履修した学生を対象に、テーマ別の文章を講読します。

授業の概要:

初級で学習した内容をもとに、「聞く」「読む」「話す」、「書く」の4つの技能を伸ばします。

到達目標:

最終的には韓国語で書かれた文章を韓国語で理解し、その内容について韓国語で表現できるようになることを目指します。

授業方法:

大まかに文章全体に目を通した後、書かれている内容の理解を深めるための問題を解きます。その後、ペアで音読練習を行います。文章全体の内容が把握できたところで、細かい文法の説明を行います。場合によっては、グループで内容に関する討論を行うこともあります。最後は、韓国語で物語のあらすじを書きます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. 授業の進め方の説明	2. 第1課 世界の名作(1) アリとキリギリス	音読練習
	3. 第1課 世界の名作(1) アリとキリギリス	音読練習
	4. 第1課 世界の名作(1) アリとキリギリス	音読練習
	5. 小テスト アリとキリギリス	音読練習、本文を写して訳をつける
	6. 第2課 世界の名作(2) 北風と太陽	音読練習
	7. 第2課 世界の名作(2) 北風と太陽	音読練習
	8. 第2課 世界の名作(2) 北風と太陽	音読練習、本文を写して訳をつける
	9. 小テスト 北風と太陽	音読練習
	10. 第3課 世界の名作(3) 三匹の子ブタ(1)	音読練習、本文を写して訳をつける
	11. 小テスト 三匹の子ブタ(1)	音読練習
	12. 第3課 世界の名作(3) 三匹の子ブタ(2)	音読練習、本文を写して訳をつける
	13. 第3課 世界の名作(3) 三匹の子ブタ(3)	音読練習、本文を写して訳をつける
	14. 小テスト 三匹の子ブタ(2)(3)	音読練習
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業は韓国語を日本語に訳すことを目的としているのではなく、音読を練習することで韓国語をそのまま理解できるようになることを目指します。そのため、各自音読練習を行うことが大切です。CDを聴きながら何度も練習してください。

フィードバックの方法:

提出物は添削して教室で返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	15	欠席1回につき1点減点
	授業態度	15	積極的に授業に参加し、授業で説明した項目を使った例文が作れるようになっているかどうかで判断する
	小テスト	10	各課の最後に小テトを実施し、理解度を評価する
	課題	10	各課の内容の理解度を評価する
	期末試験	50	各課で説明した項目を理解しているかどうか、また韓国語で表現できるようになっているかを評価

教科書:

金京子・正子・伊地知紀子、『昔話で学ぶ 韓国語リーディング 中級』、(アルク)

参考書:

『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』、小学館
『朝鮮語辞典』、小学館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

基本的に授業の前後に教室内で対応します。緊急時にはmashida@dw.doshisha.ac.jpへEメールを送ってください。

授業テーマ:

話せる韓国語

授業の概要:

初級ハングル演習・基礎で培ったコミュニケーション能力を一層高める。

到達目標:

「聞く・話す・読む・書く」のすべての面において基本的な能力をレベルアップする。
【聞く・話す】(簡単な言葉なら)話したいことがスムーズに言えるようになることを目指す。
【読む】やや長い文章の要点を読み取ることができる。
【書く】出来事を文章で表現することができる。

授業方法:

グループ会話、発表などを交えた講義形式

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ・オリエンテーション(自己紹介など) ・韓国語のおさらい(復習)	・シラバスの確認 ・初級ハングル演習・基礎の復習
2. 第1課 食べ方が違いますね。 ・動詞の現在連体形(先行動作の用法) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
3. 第2課 韓国へ行った事がありますか。 ・動詞の過去連体形(過去の経験を言う) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
4. 第3課 卒業したら何をするつもりですか。 ・動詞の未来連体形(するつもりです) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
5. 第4課 背の高い男は誰ですか。 ・形容詞の現在連体形 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
6. 第5課 お忙しいところすみません。 ・前置きの語尾(~なのですが) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
7. 第6課 熱いから気を付けてください。 ・ㄹ不規則活用(理由) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
8. ・Review ・中間テスト	・連体形のまとめ ・中間テストの実施
9. 第7課 外国語は毎日聞かなければなりません。 ・ㄷ不規則活用(~しなければなりません) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
10. 第8課 風邪はすっかり治りましたか。 ・ㄴ不規則活用(為に、~ので) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
11. 第9課 A型とO型はどう違いますか。 ・ㄹ不規則活用(付加疑問文) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
12. 第10課 赤色はありますか。 ・ㅅ不規則活用(試みを表す語尾) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
13. 第11課 私もメール送ります。 ・話者の意思・約束の語尾 ・ㄹ変則用言のまとめ ・基本文型の練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
14. 第12課 あそこに何と書いてありますか。 ・完了状態の継続 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
15. まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

欠席をしないこと。
出された宿題や課題は必ずやってくること。

フィードバックの
方法:

会話本文の暗記を行います。(日本語訳を見ながら)
授業が始まる前近況報告を行います。
単語テストを行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50%	毎回の単語テストや2回行う総合テストで文法や語彙力が到達目標に達しているかどうかを評価する。
	授業への参加度	30%	積極的に授業に参加し、課題の提出・会話の暗記などを意欲的に行うことにより段階的に目標に近づいているかどうかを評価する。
	発表	20%	毎回行う近況報告が段階的に到達目標に達しているのかどうかを評価する。

教科書:

著者名: 新大久保語学院・李志映
書名: 「できる韓国語初級Ⅱ」新装版
出版社: DEKIRU出版

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

jungrankim55@gmail.com

授業テーマ:

会話を中心に他の三技能(読む・聞く・書く)もバランスよく習得できるようにする。

授業の概要:

初級ハングル基礎・演習に続く授業である。
・テキストに沿ってさまざまな語尾や表現を学ぶ。
・文法事項の習得の後、会話練習を行う。2～3人のチームによる協働学習を導入する。
・付録を使って聴解や読解の練習をする。
・各課の本文に応じて、自己紹介や将来の夢、名所の紹介など、適宜作文の練習を行う。

到達目標:

1. 韓国人と円滑なコミュニケーションを取れる能力を習得する。
2. 韓国語の習得を通じて、人間関係を結べるコミュニケーション能力をつける。
3. 韓国文化についても学び、韓国・朝鮮とそこに住む人々に関心を持てるようにする。
4. 日本の文化や名所などを韓国語で表現する練習も行う。

授業方法:

講義と演習(実習)形態で行う。
教科書に沿って本文の音読・暗誦→文法の説明→文法事項を使った会話→付録を利用した聴解・読解の順で進めていく。
受講生のレベルによっては適宜授業の一部を韓国語で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1課前半	ヘヨ体と過去形の確認をあらかじめしておく
2.	宿題の回収 第1課後半	自分の一日の生活の紹介文を準備
3.	第1課小テスト 第2課前半	第1課小テストに向けての勉強
4.	宿題の答え合わせ 第2課後半	自己紹介のレポート(過去・現在・未来推量の語尾を入れて)
5.	第2課小テスト レポートについての講評 レポートの内容に冠する会話	第2課小テストに向けての勉強
6.	宿題の答え合わせ 第3課前半 色やさまざまな形容詞を覚える	聞いてみよう・「アリラン」(日本語訳)
7.	宿題を口頭で発表・聞き取る 第3課後半 第3課復習	好きな靴・服・カバン・アクセサリなどについての紹介
8.	中間テスト 第4課前半 P.28 ㄹ語幹	中間テストに向けての勉強
9.	4課後半 4課の復習	P.29 和訳と問題
10.	第4課小テスト 第5課前半 過去連体形についての習得	第4課小テストに向けての勉強
11.	宿題の回収 第5課後半 5課の復習	京都または京都の文化財についての紹介文を書く(現在連体形・過去連体形を用いて)
12.	第5課小テスト レポートについての講評 京都や文化財についての会話 第6課会話文	第5課小テストに向けての勉強
13.	第6課全体 尊敬表現に関する会話	P.44～45
14.	第6課小テスト 復習	第6課小テストに向けての勉強
15.	まとめ	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

・予習や復習の際には辞書が必要である。
・聴解の宿題の場合、一部をディクテーションの課題として提出を求める。
・欠席した場合はマナビーの授業報告を参照しながら勉強し、次回出席時に応分の課題を提出すること。
・協働作業を導入する。授業中はメンバーと協力するように努力すること。

フィードバックの方法:

・レポートについては添削して返却する。
・授業についての質問等はsmatsui@dw.doshisha.ac.jpまたは授業中で対応する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末テスト	30	得点
	中間テスト	20	得点の平均
	レポート	20	得点の平均
	小テスト	15	得点の平均
	授業への参加度	15	出席率と出席時の授業参加度

教科書:

李潤玉他
改訂版 韓国語の世界へ 初中級編
朝日出版社

参考書:

李昌圭
最新 すぐに役立つ韓国語の基本単語集 第2版
ナツメ社
門脇誠一 高島淑郎 松尾 勇 油谷幸利
小学館日韓辞典
小学館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡
方法:

smatsui@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

一年半程度ハングルを履修した学生を対象に、講読を行います。

授業の概要:

中級ハングルIで学んだことをもとに、「聞く」「読む」「書く」「話す」の4つの技能を高めていきます。

到達目標:

より高度な内容の文章を韓国語で読み、その内容について韓国語で表現できるようになることを目指します。

授業方法:

大まかに文章全体に目を通した後、内容の理解を深めるために問題を解きます。その後、ペアで音読練習を行います。文章全体の内容が把握できたところで、細かい文法の説明を行います。グループで文章の内容に関連したプレゼンテーションを行い、最後に韓国語で物語のあらすじを作成します。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業の進め方の説明	
	2. 第5課 日本の昔話 舌きリスズメ(1)	音読練習、本文を写して訳をつける
	3. 第5課 日本の昔話 舌きリスズメ(2)	音読練習
	4. 第5課 日本の昔話 舌きリスズメ(2)	音読練習、本文を写して訳をつける
	5. 小テスト 舌きリスズメ(1)(2)	音読練習
	第5課 日本の昔話 舌きリスズメ(3)	
	6. 第5課 日本の昔話 舌きリスズメ(3)	音読練習
	7. 第5課 日本の昔話 舌きリスズメ(3)	音読練習、本文を写して訳をつける
	8. 小テスト 舌きリスズメ(3)	音読練習
	音読コンテスト	
	9. 第6課 韓国の伝来童話 アマガエル(1)	音読練習、本文を写して訳をつける
	10. 第6課 韓国の伝来童話 アマガエル(2)	音読練習
	11. 第6課 韓国の伝来童話 アマガエル(2)	音読練習、本文を写して訳をつける
	12. 小テスト アマガエル(1)(2)	音読練習
	第6課 韓国の伝来童話 アマガエル(3)	
	13. 第6課 韓国の伝来童話 アマガエル(3)	音読練習、本文を写して訳をつける
	14. 第6課 韓国の伝来童話 アマガエル(4)	音読練習、本文を写して訳をつける
	15. まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

この授業では、音読を繰り返し練習することで日本語訳を介さずに韓国語の文章を理解できるようになることを目指しています。ですので、各自繰り返しCDを聴きながら音読練習を行ってください。

フィードバックの
方法:

添削して教室で返却します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	15	欠席1回につき1点減点
	授業態度	15	積極的に参加し、授業で説明した項目を使った例文作りで理解度を確認
	小テスト	10	各単元の終わりに実施し、授業で説明した項目の理解度を評価
	課題	10	授業で説明した項目の理解度を評価
	期末試験	50	各課の内容を理解しているか、また授業で説明した項目を使えるようになっているかを評価

教科書:

金京子・正子・伊地知紀子、『昔話で学ぶ 韓国語リーディング 中級』、アルク

参考書:

『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』、小学館
『朝鮮語辞典』、小学館

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

基本的に授業の前後に教室内で対応します。緊急時にはmashida@dw.doshisha.ac.jpへEメールを送ってください。

授業テーマ:

話せる韓国語

授業の概要:

中級ハングルIで培ったコミュニケーション能力を一層高める。

到達目標:

「聞く・話す・読む・書く」のすべての面において基本的な能力をレベルアップする。

【聞く・話す】(簡単な言葉なら)話したいことがスムーズに言えるようになることを目指す。
【読む】やや長い文章の要点を読み取ることができる
【書く】出来事を文章で表現することができる。

授業方法:

グループ会話、発表などを交えた講義形式

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ・オリエンテーション(自己紹介など) ・中級ハングルⅠの復習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
2. 第13課 雨が降りそうです。 ・過去/現在/未来の推量 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
3. 第14課 新年のあいさつをした後、お墓参りに行きます。 ・-기による慣用句(1) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
4. 第15課 辛くして食べるほうです。 ・-게 副詞化 ・-이/가 되다 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
5. ・Review ・中間テスト	・連体形のまとめを熟知する。 ・中間テストの実施
6. 第16課 日本にいらしてからどれくらいになりますか。 ・時間の経過を表す過去連体形 ・意図を表す語尾 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
7. 第17課 こうすれば探しやすいです。 ・-기による慣用句(2) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
8. 第18課 運転お上手でしょうね。 ・予測・推測の語尾 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
9. 第19課 私がお持ちしましょうか。 ・～てあげる/～てくれる ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
10. 第20課 何を召し上がりますか。 ・意思・意向を表す語尾 ・願望の語尾 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
11. 第21課 気分が良くなりました。 ・変化を表す語尾 ・過去回想の- ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
12. ・Review ・小テスト	・17課-21課までのまとめを熟知する。 ・小テストの実施
13. 第22課 また会えるかと聞きました。 ・間接話法(1)-疑問文 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
14. 第23課 韓国の男性はみんな軍隊に行くそうです。 ・間接話法(2)-平叙文 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
15. まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

欠席をしないこと。
出された宿題や課題は必ずやってくること。

フィードバックの
方法:

会話本文の暗記を行います。(日本語訳を見ながら)
授業が始まる前近況報告を行います。
単語テストを行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50%	毎回の単語テストや2回行う総合テストで文法や語彙力が到達目標に達しているかどうかを評価する。
	授業への参加度	30%	積極的に授業に参加し、課題の提出・会話の暗記などを意欲的に行うことにより段階的に目標に近づいているかどうかを評価する。
	発表	20%	毎回行う近況報告が段階的に到達目標に達しているのかどうかを評価する。

教科書:

著者名: 新大久保語学院・李志映

書名: 「できる韓国語初級II」新装版

出版社: DEKIRU出版

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

jungrankim55@gmail.com

授業テーマ:

聴解を中心に他の三技能(読む・話す・書く)もバランスよく習得できるようにする。

授業の概要:

中級ハングルⅠに続く授業である。
・テキストに沿ってさまざまな語尾や表現を学ぶ。
・文法事項の習得の後、会話練習を行う。2～3人のチームによる協働学習を導入する。
・付録を使って聴解や読解の練習をする。
・聴解のトレーニングを実施する。

到達目標:

1. 韓国人と円滑なコミュニケーションを取れる能力、特に聴解力を習得する。
2. 韓国語の習得を通じて、人間関係を結べるコミュニケーション能力をつける。
3. 韓国文化についても学び、韓国・朝鮮とそこに住む人々に関心を持てるようにする。

授業方法:

講義と演習(実習)形態で行う。
教科書に沿って本文の音読・暗誦→文法の説明→教科書または別教材を用いた聴解練習→付録を利用した聴解・読解の順で進めていく。
受講生のレベルによっては適宜授業の一部を韓国語で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 第7課前半	第6課までの復習
	2. 宿題の答え合わせ 第7課後半	聴解教材『食べ物と味』
	3. 第7課小テスト 第8課前半	第7課小テストに向けての勉強
	4. 宿題の答え合わせ 第8課後半	聴解教材『都市と生活』
	5. 第8課小テスト 第9課前半	第8課小テストへ向けての勉強
	6. 宿題の答え合わせ 第9課後半	聴解教材『テレビと情報』
	7. 中間テスト	中間テストへ向けての勉強
	8. 宿題の答え合わせ 第10課前半	P.72～P.73
	9. 宿題の答え合わせ 第10課後半	聴解教材『交通と生活』
	10. 第10課小テスト 第11課前半	第10課小テストに向けての勉強
	11. 宿題の答え合わせ 第11課後半	聴解教材『趣味と余暇生活』
	12. 第11課小テスト 第12課前半	第11課小テストに向けての勉強
	13. 第12課後半	聴解教材『職業と適性』
	14. 第12課小テスト 復習	第12課小テストに向けての勉強
	15. まとめ	これまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

・予習や復習の際には辞書が必要である。参考書に挙げた辞書・スマホのアプリ・電子辞書を購入し、活用すること。ネット上の辞書(<http://dic.naver.com/>)を使ってもかまわない。
・進度も速く、課題も多い授業なので、GPAも念頭において受講申請すること。
・欠席した場合はマナビーの授業報告を参照しながら勉強し、次回出席時に応分の課題を提出すること。

フィードバックの方法:

・レポートについては添削して返却する。
・授業についての質問等はsmatsui@dwc.doshisha.ac.jpまたは授業中で対応する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末テスト	30	得点
	中間テスト	20	得点の平均
	レポート	20	得点の平均
	小テスト	15	得点の平均
	授業への参加度	15	出席率と出席時の授業参加度

教科書:

李潤玉他
改訂版 韓国語の世界へ 初中級編
朝日出版社

参考書:

李昌圭
最新 すぐに役立つ韓国語の基本単語集 第2版
ナツメ社
門脇誠一 高島淑郎 松尾 勇 油谷幸利
小学館日韓辞典
小学館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

smatsui@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ：

フランス語を使えるようになろう！

授業の概要：

フランス語の初級を学んだ学生さんを対象としていますが、初級の復習から始めます。
練習問題がふんだんに盛り込まれたテキストを使って、読む、聞く、書く、話すをバランスよく学習します。同時に『星の王子さま』、『ムーミン』などの有名な一節、またはフランスの時事ニュースなどを適宜、授業に取り入れたいと考えています。

到達目標：

フランス文化に関心を持ち、文化の多様性を理解する。
フランス語で会話のシチュエーションや会話の流れを感じ取る。
間違いを気にせずに積極的に表現する。

授業方法：	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容		準備学習等の内容
	1. ガイダンスと発音の総復習	レッスン1	
	2. レッスン1 疑問文	レッスン2	
	3. レッスン2 冠詞 指示形容詞	レッスン3	
	4. レッスン3 否定文 所有形容詞	レッスン4	
	5. レッスン4 目的の表現 前置詞と定冠詞の縮約 否定の冠詞de	レッスン5	
	6. レッスン5 疑問形容詞 目的語人称代名詞 強勢形人称代名詞	レッスン6	
	7. レッスン6 命令形 部分冠詞 代名詞en	レッスン7	
	8. レッスン7 間接目的語人称代名詞 間接話法 代名詞y	レッスン7	
	9. レッスン7 間接目的語人称代名詞 間接話法 代名詞y	レッスン8	
	10. レッスン8 複合過去1 近接過去	レッスン8	
	11. レッスン8 複合過去2	レッスン9	
	12. レッスン9 命令形と目的語人称代名詞 近接未来	レッスン9	
	13. レッスン9 代名動詞	レッスン10	
	14. レッスン10 代名動詞の命令形 間接話法	レッスン10	
	15. レッスン10 ジェロンディフ	総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：

提出物はすべて添削して教室で返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」：	授業への参加度	100	間違いを気にせずに積極的に発言する

教科書：

倉方秀憲, ティエリー・トルード、セルジュ・ジュンタ共著　セラヴィ　1　早美出版社

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：

Eメール

授業テーマ：

フランス語を使えるようになろう！

授業の概要：

前期で初級フランス語を多角的に復習しましたので、フランス語をさらに一歩深める学習がよいよ始まります。前期に続いて練習問題がふんだんに盛り込まれたテキストを使って、読む、聞く、書く、話すをバランスよく学習します。ただし、前期の進度がまだ未定ですので、テキストはプリントで配布します。同時に『星の王子さま』、『ムーミン』などの有名な一節、またはフランスの時事ニュースなどを適宜、授業に取り入れたいと考えています。

到達目標：

フランス語を聞き、話し、読み、書く、楽しみを実感する。
フランス文化への理解を深め、価値の多様性とその豊かさを知る。

授業方法：	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	1.	授業内容	準備学習等の内容
	2.	ガイダンス レッスン1	
	3.	レッスン1 不定代名詞	レッスン1
	4.	レッスン1 演習	レッスン1
	5.	レッスン2 単純未来	レッスン2
	6.	レッスン2 演習	レッスン2
	7.	レッスン3 接続法 中性代名詞 le	レッスン3
	8.	レッスン3 演習	レッスン3
	9.	レッスン4 関係代名詞 指示代名詞	レッスン4
	10.	レッスン4 強調構文 演習	レッスン4
	11.	レッスン5 比較級と最上級	レッスン5
	12.	レッスン5 演習	レッスン5
	13.	レッスン6 半過去1	レッスン6
	14.	レッスン6 指示代名詞	レッスン6
	15.	レッスン7 半過去2	レッスン7
		レッスン7 関係代名詞 dont 関係副詞 où	レッスン7

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：

提出物はすべて添削して教室で返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」：	授業への参加度	100	間違いを気にせずに積極的に発言、発表する

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：

Eメール

授業テーマ:

生きたドイツ語に触れる

授業の概要:

初級ドイツ語で習ったことの活用をします。また辞書を使わずに目と耳で表現を理解する訓練をします。ドイツ語圏の文化にも触れたいと思います。

到達目標:

ドイツ語検定試験の4級レベルを到達目標としています。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての運用能力を身に付けることを目標としています。

授業方法:

演習授業です。聞き取りは「話す」ことの準備段階です。CDを使い、楽しく聞取りの練習が続けられるようにしたいと思います。テキストは、「聞く」「話す」「書く」「読む」が並行して練習できるようになっています。各能力の平均的な力の涵養を目指したいと思っています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス、数の練習	
	2. 時刻の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	3. 道案内、プレーメンの説明文そして聞き取り練習、返却答え合わせをする	学習するテキストの部分の予習復習をする
	4. 前置詞の練習、それと聞き取り練習をする	学習するテキストの部分の予習復習をする
	5. 週末の予定を言う、それと聞き取り練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	6. 形容詞変化の練習、Thomasの予定を言う等	学習するテキストの部分の予習復習をする
	7. きっぷ売り場での会話、話法の助動詞の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	8. ホテルを探す、聞き取りの練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	9. 「週末の出来事」を述べる、現在完了形の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	10. 「ミュンヘンで何をしていたの」現在完了形の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	11. メールを読む、過去分詞の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	12. 「プレーメンの音楽隊」を読む、過去形の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	13. 「サイクリングに行く」関係代名詞の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	14. 「メルヘン街道」を読む、接続法の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	15. 総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

単語の習得には、多く「読む」ことが極めて重要です。普段からそのような生活習慣を身に付けてください。それが語学の上達の早道です。

フィードバックの方法:

聞き取りテスト、筆記試験はすべて授業中に返却、答え合わせをします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	50%	四技能にわたってのドイツ語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。検定試験の4級レベルを到達目標とする。
	授業への参加度	50%	演習授業において積極的に練習に加わり、4級レベルの運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書:

近藤、小林他「Dialog ドイツ語へのキックオフ Ver.5」(郁文堂)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

生きたドイツ語に触れる

授業の概要:

初級ドイツ語で習ったことの活用をします。また辞書を使わずに目と耳で表現を理解する訓練をします。さらに中級レベルの文の読解を練習します。ドイツ語圏の文化にも触れたいと思います。

到達目標:

ドイツ語検定試験の3級レベルを到達目標としています。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法:

演習授業です。聞き取りは「話す」ことの準備段階です。CDを使い、楽しく聞取りの練習が続けられるようにしたいと思います。テキストは、「聞く」「話す」「書く」「読む」が並行して練習できるようになっています。各能力の平均的な力の涵養を目指したいと思っています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス、自己紹介	
	2. 日付の言い方、誕生日の招待状	学習するテキストの部分の予習復習をする
	3. 休暇中の体験を語る、聞き取り練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	4. いろいろな住まい、場所の前置詞	学習するテキストの部分の予習復習をする
	5. 賛成意見、反対意見を述べるそれと聞き取り練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	6. 市場で食料品を買う、料理の作り方	学習するテキストの部分の予習復習をする
	7. ごみ処理の仕方、デュアルシステムの文を読む	学習するテキストの部分の予習復習をする
	8. ベルリンと東京を比較する、比較表現の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	9. WGでの生活、それと聞き取り練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	10. 過去の体験を述べる、「ドイツの教育制度、職業教育」についての文を読む	学習するテキストの部分の予習復習をする
	11. 「akademische Hilfskraft への応募」の聞き取り練習、履歴書を読む	学習するテキストの部分の予習復習をする
	12. 「ドイツの兵役と代替勤務について」の文を読む、勤務内容、期間など。	学習するテキストの部分の予習復習をする
	13. 丁寧な言い方、風景を描写する、接続法の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
	14. 「ユーロについて」の文を読む、「夢を語る」練習、それと聞き取り	学習するテキストの部分の予習復習をする
	15. 総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

単語の習得には、多く「読む」ことが極めて重要です。普段からそのような生活習慣を身に着けてください。それが語学の上達の早道です。

フィードバックの方法:

聞き取りテスト、筆記試験はすべて授業中に返却、答え合わせをします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	50%	四技能にわたってのドイツ語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。検定試験の3級レベルを到達目標とする。
	授業への参加度	50%	演習授業において積極的に練習に加わり、3級レベルの運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書:

近藤、小林他「Dialog ステップアップ版」(郁文堂)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

中国語によるコミュニケーション能力の習得

授業の概要:

初級中国語・中級中国語のクラスで習得した中国語の運用能力を出発点として、日本で中国人と中国語で基本的なコミュニケーションができる運用能力を習得する。特に聴解と発音に重点を置いて学習を行う。

到達目標:

日本で中国人と中国語で基本的なコミュニケーションができる。

授業方法:

演習:テキストを使用して聴解と発音に重点を置いて学習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 発音の確認1	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	2. 発音の確認2	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	3. 比較表現	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	4. 可能表現1(助動詞)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	5. 結果補語	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	6. 様態補語	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	7. 方向補語	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	8. 可能表現2(可能補語)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	9. 使役文	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	10. 受動文	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	11. 存現文	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	12. 強調表現	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	13. 複文1(原因・理由)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	14. 複文2(仮定)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
	15. 春学期の学習内容の復習	学習内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

課題を出した場合には、添削して教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常試験	50	到達目標の達成度により評価する。
	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標が達成されているかどうかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

Eメール:mizuno@kit.jp

授業テーマ:

中国語によるコミュニケーション能力の習得

授業の概要:

初級中国語・中級中国語のクラスおよび上級中国語Ⅰで習得した中国語の運用能力を出発点として、日本で中国人と中国語で基本的なコミュニケーションができる運用能力を習得する。

到達目標:

日本で中国人と中国語で基本的なコミュニケーションができる。

授業方法:

演習:テキストを使用して、聴解・発音に重点を置いて練習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	文法の復習1(主な文型とテンス・アスペクト)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
2.	文法の復習2(補語と複文)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
3.	大学にて(1)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
4.	大学にて(2)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
5.	大学にて(3)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
6.	動物園にて(1)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
7.	動物園にて(2)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
8.	動物園にて(3)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
9.	故宮にて(1)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
10.	故宮にて(2)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
11.	故宮にて(3)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
12.	西安にて(1)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
13.	西安にて(2)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
14.	西安にて(3)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
15.	秋学期の学習内容の復習	学習内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

課題を出した場合には、添削して教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常試験	50	到達目標の達成度により評価する。
	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標がどの程度達成されているかによって評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

Eメール:mizuno@kit.jp

授業テーマ:

薬学英語(化学系薬学英語、生物系薬学英語、医療系薬学英語)

授業の概要:

医療および医薬学研究の国際化に伴って専門分野での英語力習得の必要性が益々高まっている。本講義では国際化薬剤師として、医師等の他の医療従事者や患者様との十分なコミュニケーションを取るために必要な専門性の高い薬学英語力の習得を目指す。特に、有機化学・生物学・医療薬学の3つの分野に重点を置き、薬学専門英単語の十分な習得と理解を目指す。 薬学準備教育(3)①～③

到達目標:

薬学専門英単語の習得および英語文読解による薬学専門知識の収集力の獲得。

授業方法:

講義、英語読解演習を中心とした授業を行う。
授業プリントを使用し、適宜、板書及びPower Pointを用いて説明する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	化学系薬学(1):原子、分子、イオンや化学結合に関する英単語の習得およびそれらの解説文の読解	事前に配布した授業プリントの単なる和訳だけではなく、薬学のおよび化学的内容も調べた上で授業に臨むこと
2.	化学系薬学(2):有機化合物の性質と立体化学に関する英単語の習得およびそれらの解説文の読解	事前に配布した授業プリントの単なる和訳だけではなく、薬学のおよび化学的内容も調べた上で授業に臨むこと
3.	化学系薬学(3):化学物質の反応と合成に関する英単語の習得およびそれらの解説文の読解	事前に配布した授業プリントの単なる和訳だけではなく、薬学のおよび化学的内容も調べた上で授業に臨むこと
4.	化学系薬学(4):生体分子と医薬品の化学に関する英単語の習得とそれらの解説文の読解	事前に配布した授業プリントの単なる和訳だけではなく、薬学のおよび化学的内容も調べた上で授業に臨むこと
5.	化学系薬学(5):化学実験操作法の英文読解	事前に配布した授業プリントの単なる和訳だけではなく、薬学のおよび化学的内容も調べた上で授業に臨むこと
6.	生物系薬学(1):細胞内小器官・分化細胞の関連英単語の習得と解説文の読解	生物薬学に関する英語プリントを講義に使用するので、単純全訳でなく、生物学の専門書などを参考に、英語で生物学の知識を習得できるような予習を心掛けて欲しい
7.	生物系薬学(2):生体成分(脂質、糖)の関連英単語の習得と解説文の読解	生物薬学に関する英語プリントを講義に使用するので、単純全訳でなく、生物学の専門書などを参考に、英語で生物学の知識を習得できるような予習を心掛けて欲しい
8.	生物系薬学(3):生体成分(アミノ酸、核酸)の関連英単語の習得と解説文の読解	生物薬学に関する英語プリントを講義に使用するので、単純全訳でなく、生物学の専門書などを参考に、英語で生物学の知識を習得できるような予習を心掛けて欲しい
9.	生物系薬学(4):遺伝子と遺伝情報発現の関連英単語の習得と解説文の読解	生物薬学に関する英語プリントを講義に使用するので、単純全訳でなく、生物学の専門書などを参考に、英語で生物学の知識を習得できるような予習を心掛けて欲しい
10.	生物系薬学(5):タンパク質の構造及び機能の関連英単語の習得と解説文の読解	生物薬学に関する英語プリントを講義に使用するので、単純全訳でなく、生物学の専門書などを参考に、英語で生物学の知識を習得できるような予習を心掛けて欲しい
11.	医療系薬学(1):医学・薬学に関連する一般的な英単語の習得、ならびに、その成り立ちの理解	何度も教科書に目を通し、多くの単語の習得を目指す
12.	医療系薬学(2):科学英語を理解する上での注意すべき英文法	多くの科学英文を通し、論理的文章と英文法の関係性の習得を目指す
13.	医療系薬学(3):疾患に関わる病態、治療、医薬品に関する英文(1)	プリントの英単語の予習を行う。疾患に関する知識を日本語・英語両方から同時に理解する
14.	医療系薬学(4):疾患に関わる病態、治療、医薬品に関する英文(2)	プリントの英単語の予習を行う。疾患に関する知識を日本語・英語両方から同時に理解する
15.	医療系薬学(5):疾患に関わる病態、治療、医薬品に関する英文(3)	プリントの英単語の予習を行う。疾患に関する知識を日本語・英語両方から同時に理解する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

講義中の受講生の発表内容に対して講義中にコメント・解説を実施する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む講義への参加状況・態度	25	出席度及び発表回数や発表内容の適正度により評価する。
	定期試験	75	到達度:薬学専門単語の習得度により評価する。 到達度:英語文読解による薬学専門知識の収集度により評価する。

教科書:

キクタンメディカル 6 薬剤編(医学英語シリーズ10)高橋 玲(著)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワーおよび講義の前後に対応する。(中村, 山内)
メール(knaruhas@dw.doshisha.ac.jp)にて対応する。(成橋)

授業テーマ:

薬剤師として、科学者として、適切な情報を集め、情報発信を行える英語能力を醸成する。

授業の概要:

薬剤師として、科学者として、適切な英文ソースから情報を入手し、まとめる。得た情報を、医療従事者、患者、科学者に対して英語で提供するために必要なコミュニケーション能力を高めるトレーニングを行う。新出の英語専門用語の意味を類推できるようにするトレーニングを行う。

到達目標:

医薬品の情報を信頼できる英文のソースから検索し、まとめ、医療従事者や患者、科学者に英語で情報提供できるようになること。

授業方法:

パワーポイントプレゼンテーション、ロールプレイ、演習室

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、海外研修プログラムの紹介、医療系英語の学習法解説	過去の海外研修報告書を参照しておくことが望ましい
2.	医薬品添付文書(英文)を読み解く① (演習室)	指定のオンライン動画を視聴する。1回目の講義時に指定される薬について予習する。
3.	医薬品添付文書(英文)を読み解く② 小テスト①と解説 (演習室)	指定された情報をまとめる。
4.	医薬品添付文書(英文)を読み解く③ プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備
5.	英語で書かれた処方箋を使った服薬指導① 小テスト②と解説 (演習室)	あらかじめ配られる英文処方箋の薬について調べる。
6.	英語で書かれた処方箋を使った服薬指導② ロールプレイ 小テスト③、解説 (演習室)	あらかじめ配られる英文処方箋の薬について調べ、患者に説明できるようにする。
7.	英語で書かれた処方箋を使った服薬指導③ ロールプレイ (演習室)	あらかじめ配られる英文処方箋の薬について調べ、医師に説明できるようにする。
8.	実験プロトコルを読み解く① 小テスト④、解説 (演習室)	あらかじめ配られる実験プロトコルについて調べ、理解しておく。
9.	実験プロトコルを読み解く② 小テスト⑤、解説 (演習室)	あらかじめ配られる実験プロトコルについて調べ、理解しておく。
10.	実験プロトコルを読み解く③ プレゼンテーション	実験プロトコルを英語でプレゼンテーションを行い、質疑応答を英語で行う準備を行う。
11.	論文を読み解く① 小テスト⑥、解説	あらかじめ配られる論文の概要を理解する。
12.	論文を読み解く② 小テスト⑦、解説 (演習室)	あらかじめ配られる論文の概要を理解する。
13.	論文を読み解く③ 小テスト⑧、解説 (演習室)	指定された論文の内容をプレゼンテーションできるように準備する。
14.	論文を読み解く④ プレゼンテーションおよびフィードバック	プレゼンテーションの練習
15.	最終プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

本学習内容は、5年次に行われる薬学部海外研修のための事前学習の一部ともなるので、本学期末に行われる海外研修候補者選抜試験の受験資格として、本科目を履修することが求められている。従って、海外研修を考えている学生は必ず履修登録すること。

フィードバックの方法:

プレゼンテーションの準備、課題についての添削はメール、または対面で行う。最終プレゼンテーションに向けて、それまでのプレゼンテーションについては動画を用いてフィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	専門用語の小テスト	20	計8回の小テストの平均点
	プレゼンテーション	70	最終プレゼンテーションの完成度
	授業貢献度	10	授業中の発言、積極性

教科書:

資料はその都度配布される

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

メールで連絡 turushid@dwc.doshisha.ac.jp (漆谷) yamagase@dwc.doshisha.ac.jp (天ヶ瀬)、または憩水館6階病態生理学研究室を訪問

授業テーマ:	中国語をスマートに覚えよう		
授業の概要:	発音を一通り覚えてから、その言語の文法構造の骨組みをいちはやくつかむのが、語学のスマートな学習方法であろう。文法構造の骨組みがわかれば、あとは語彙をどんどん増やしていけば、短期間にその言語を習得することが出来る。 幸い、中国語は文法がもっともシンプルな言語である。語順さえ覚えればいい。しかも語順の基本ルールはわずか4つしかない。それさえ覚えれば、中国語の骨組みが難なく理解できる。 この授業はスマート、スピーディーに中国語習得をめざす。		
到達目標:	中国語検定試験4級合格		
授業方法:	実践能力を重視し、練習・復習の繰り返しを中心に授業を進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	教科書を用意してくる。	
	2. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	3. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	4. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	5. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	6. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	7. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	8. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	9. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	10. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	11. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	12. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	13. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	14. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	15. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	中国語を楽しく、スマートに覚えましょう！		
フィードバックの方法:	採点、添削して返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	教室での練習	40	宿題をこなしたうえ授業に臨むこと、授業への積極的な参加度
	小テストや期末試験	60	学習した内容の理解度や習熟度
教科書:	朱捷・朱鳳『語順から学ぶ中国語 改訂版1』(白帝社)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板		

授業テーマ:	中国語をスマートに覚えよう		
授業の概要:	発音を一通り覚えてから、その言語の文法構造の骨組みをいちはやくつかむのが、語学のスマートな学習方法であろう。文法構造の骨組みがわかれば、あとは語彙をどんどん増やしていけば、短期間にその言語を習得することが出来る。 幸い、中国語は文法がもっともシンプルな言語である。語順さえ覚えればいい。しかも語順の基本ルールはわずか4つしかない。それさえ覚えれば、中国語の骨組みが難なく理解できる。 この授業はスマート、スピーディーに中国語習得をめざす。		
到達目標:	中国語検定試験4級合格		
授業方法:	実践能力を重視し、練習・復習の繰り返しを中心に授業を進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	教科書を用意してくる。	
	2. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	3. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	4. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	5. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	6. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	7. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	8. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	9. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	10. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	11. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	12. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	13. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	14. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
	15. 中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	中国語を楽しく、スマートに覚えましょう！		
フィードバックの方法:	採点、添削して返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	教室での練習	40	宿題をこなしたうえ授業に臨むこと、授業への積極的な参加度 学習した内容の理解度や習熟度
	小テストや期末試験	60	
教科書:	朱捷・朱鳳『語順から学ぶ中国語 改訂版2』(白帝社)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板		

039700

医療薬学海外事情

漆谷 徹郎、高橋 玲、成橋 和正、天ヶ瀬 葉子、間下 雅士

授業テーマ：アメリカ合衆国の医療薬学の理解と英語による実務実習の体験

授業の概要：授業の2/3は、米国・南カリフォルニア大学より薬剤師実務実習担当者であるMichael Z. Wincor博士を招き、4月15・16日の土・日を利用した集中講義形式で、英語による講義およびケーススタディーを行う。5年次に薬学部南カリフォルニア大学海外研修プログラムに参加した6年次生は必ず参加するように求められる。勿論海外研修に参加しなかった6年次生も履修でき

到達目標：単なる英会話ではなく、米国の医療現場で行われている服薬指導のシミュレーションを通じて、薬学英語でのコミュニケーション能力を養う。

授業方法：集中講義の前に、予備知識、特に薬学専門用語を英語で使えるための訓練を行う。集中講義はWincor博士の講義と対話で進行する。教員がチューターとして入るが、基本的にはすべて英語で行われる。グループディスカッションやプレゼンテーション、模擬患者に対する服薬指導も組み込まれている。集中講義後には、SGD形式の振り返り学習によって、理解の及ばなかった点の習得をはかり、最終的ポスターを作成して卒業研究発表会の時にポスタープレゼンテーションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション、国外の医療制度解説(薬学部教員)	テキストが指定されるので、集中講義までに各自hearing, speakingのスキルを磨いておくこと
2. 英語による医療専門用語－1(薬学部教員)	テキストが指定されるので、集中講義までに各自hearing, speakingのスキルを磨いておくこと
3. 英語による医療専門用語－2(薬学部教員)	テキストが指定されるので、集中講義までに各自hearing, speakingのスキルを磨いておくこと
4. 集中講義のオリエンテーション、米国における薬学教育の解説(Dr. Wincor)	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
5. 米国における薬剤師の役割と実務実習内容の解説(Dr. Wincor)	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
6. 講義内容に基づいたディスカッション(Dr. Wincor)	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
7. 米国における薬物治療の実際－1(Dr. Wincor)	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
8. 米国における薬物治療の実際－2(Dr. Wincor)	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
9. 米国における薬物治療の実際－3(Dr. Wincor)	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
10. 米国における薬物治療:グループ討論とプレゼンテーション(Dr. Wincor)	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
11. ケーススタディー:模擬患者を用いた服薬指導－1(Dr. Wincor)	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
12. ケーススタディー:模擬患者を用いた服薬指導－2(Dr. Wincor)	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
13. まとめフリーディスカッション(Dr. Wincor)	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
14. 集中講義内容の振り返り学習とポスター作製(薬学部教員)	ポスター作製は各自行い、講義時間ではその誤りや問題点を教員が指摘する。
15. 15.総合討論、各自のプレゼンテーション(薬学部教員)	プレゼンテーションは当然英語で行うので、各自練習のこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法：集中講義時には各教員が必要に応じて学生をサポート。最後のポスタープレゼンテーションでは、薬学部学生や教員の全員に英語による質問をすることが推奨されている。

「成績評価方法」・「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
集中講義への取り組み	30	積極的な参加・発言の態度
最終討論	30	ポスタープレゼンテーションの会話能力
ポスタープレゼンテーション	40	ポスタープレゼンテーションの内容の完成度

教科書：適宜配布

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法：履修登録時に集中講義への参加登録を行い、連絡メールを登録する。

授業テーマ:

死ぬということ—安楽死の事案をとおして—

授業の概要:

本授業では、「死とはなにか」という問いに挑んでみたい。そのとき、安楽死の問題に照準を定める。というのも、安楽死は、わたしたちに、死ぬ権利、あるいは、どのような死を選ぶのかは本人の自己決定に委ねられている、という死の自己決定をわたしたちに突きつけているからである。とくに日本で安楽死がどのように扱われているのかを検討し、死について考察を進めたい。

到達目標:

本授業の到達目標には、受講生に期待したい「態度」、「知識」、「技能」がある。授業テーマから分かるように、本授業では、「死」という哲学の基本的な課題に取りくむ。担当者も受講生も人間であるから、この問いが含んでいるのは、みずからを省みることである。だから、本授業をとおして培ってほしいのは、これまでの生き方を振りかえり、これからの生き方を見とおして、みずから死について考えようとする「態度」である。これは、担当者が拠ってたつ哲学的な観点が絶対に正しいとして、それを受けいれなければならない、という意味ではない。受講生は、担当者の見解が死の捉え方の一つでしかない、という理解のもとで、担当者の話を聞き、それをきっかけとして、それぞれに死を見つめる目の育成に努めるのである。そのためには、担当者の使うことばの意味を把握し、それを「知識」として蓄積していかなければならないし、それを使ってみずからの意見をまとめる「技能」も必要になってくる。

授業方法:

講義の形態で本授業を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 科学技術と倫理	シラバスの確認と授業内容の振りかえり
2. 死ぬ権利	小テストと授業内容の振りかえり
3. 終末期医療と安楽死	小テストと授業内容の振りかえり
4. 安楽死の事例(1)—不治の病であること	小テストと授業内容の振りかえり
5. 安楽死の事例(2)—死期が迫っていること	小テストと授業内容の振りかえり
6. 安楽死の事例(3)—苦痛が激烈であること	小テストと授業内容の振りかえり
7. 安楽死の事例(4)—苦痛の緩和が目的であること	小テストと授業内容の振りかえり
8. 安楽死の事例(5)—本人の真摯な囑託があること	小テストと授業内容の振りかえり
9. 中間のまとめ—死の自己決定権	小テストと授業内容の振りかえり
10. 安楽死の事例(6)—医師の処置によること	小テストと授業内容の振りかえり
11. 安楽死の事例(7)—社会的に容認できる処置であること	小テストと授業内容の振りかえり
12. 安楽死の事例(8)—家族の立場	小テストと授業内容の振りかえり
13. 安楽死の事例(9)—医療の本務	小テストと授業内容の振りかえり
14. 安楽死の事例(10)—司法の考え方	小テストと授業内容の振りかえり
15. まとめ	小テストと授業内容の振りかえり

受講者へのメッセージやアドバイス:

要点しか板書しないし、担当者が必要であると判断しないかぎり、補助的資料も配布しないので、受講生は、各自の耳でしっかりと担当者の話を聞き、ノートをきちんととらなければならない。

フィードバックの方法:

授業のおわりに、授業の内容が理解できているかどうかを確かめるための「小テスト」を、毎回、行う。小テストでは、担当者が授業の主題に関連する内容を問いとして出題するので、受講生は論述の形式でそれに答える。小テストに評価を付けて返すので、返却された小テストと各自のノートを照らしあわせて、授業の内容にかんする理解を深める。

「成績評価方法」・「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	安楽死にかんする「知識」、安楽死をみずからの問題として引きうけようとする「態度」、みずからの意見を論理的にまとめる「技能」を総合的に判断する。
小テスト	50	毎回の授業の理解度を確認する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

メール(satarash@mail.doshisha.ac.jp)を利用する。

授業テーマ:

ケアの本質

授業の概要:

現在、日本では、高齢化が急速に進んでいる。それゆえ、高齢者をどのように社会的に支えていくのか、という課題は、高齢化に伴う社会保障の、大きな問題である。高齢者の支援を検討するなかでしばしば用いられるのが「ケア」ということばであることは、いまさら言うまでもない。とはいえ、そのことばの表す概念には一定の哲学的視点が含まれている、という把握は、ケアということばの浸透に比して、それほど行きわたっているわけではない。本授業では、哲学的な視座から、人間がケアされケアする存在であるという事実に立脚して、ケアの本質に迫ってみたい。

到達目標:

本授業の到達目標には、受講生に期待したい「態度」、「知識」、「技能」がある。わたしたちは、だれかに支えられている。その意味では、わたしたちは、ケアされる存在である。その一方で、親は子をケアし、夫は妻をケアし、妻は夫をケアするから、わたしたちは、ケアする存在でもある。だから、ケアの本質を問うことは、人間の本質を明らかにすることである。担当者も受講生も人間であるから、授業テーマは、わたしたちがみずからを省みように促している。だから、本授業をとおして培ってほしいのは、ケアの観点から、これまでの生き方を振りかえり、これからの生き方を見とおすための視点を各自で築きあげようとする「態度」である。これは、担当者が抱えてたつ観点が絶対に正しいものとして、それを受け入れなければならない、という意味ではない。受講生は、担当者の見解がケアの捉え方の一つでしかない、という理解のもとで、担当者の話を聞き、それをきっかけとして、それぞれにみずからを見つめなおす目の育成に努めるのである。そのためには、担当者の使うことばの意味を把握し、それを「知識」として蓄積していかなければならないし、それを使ってみずからの意見をまとめる「技能」も必要になってくる。

授業方法:

講義の形態で本授業を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ケアの基本的な考え方	シラバスの確認と授業内容の振りかえり
2. ケアの受容性(1)—ケアするひとの受けいれ	小テストと授業内容の振りかえり
3. ケアの受容性(2)—ケアされるひとの受けいれ	小テストと授業内容の振りかえり
4. ケアの原初的体験	小テストと授業内容の振りかえり
5. 基本的信頼	小テストと授業内容の振りかえり
6. ケアされてあること	小テストと授業内容の振りかえり
7. 気づかいと世話で成りたつケア	小テストと授業内容の振りかえり
8. 中間のまとめ—係わりあいの世界	小テストと授業内容の振りかえり
9. いのちの尊厳	小テストと授業内容の振りかえり
10. いのちを守ること(1)—ケアするひとの視点から	小テストと授業内容の振りかえり
11. いのちを守ること(2)—ケアされるひとの視点から	小テストと授業内容の振りかえり
12. 関係性のなかにある生と死	小テストと授業内容の振りかえり
13. 生きることと死ぬことの意味—ケアの観点から	小テストと授業内容の振りかえり
14. ケアにおける責任	小テストと授業内容の振りかえり
15. まとめ	小テストと授業内容の振りかえり

受講者へのメッセージやアドバイス:

要点しか板書しないし、担当者が必要であると判断しないかぎり、補助的資料も配布しないので、受講生は、各自の耳でしっかりと担当者の話を聞き、ノートをきちんととらなければならない。

フィードバックの方法:

授業のおわりに、授業の内容が理解できているかどうかを確かめるための「小テスト」を、毎回、行う。小テストでは、担当者が授業の主題に関連する内容を問いとして出題するので、受講生は論述の形式でそれに答える。小テストに評価を付けて返すので、返却された確認テストと各自のノートを照らしあわせて、授業の内容にかんする理解を深める。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	ケアにかんする「知識」、ケアの観点からみずからのありかたを見つめなおす「態度」、みずからの意見を論理的にまとめる「技能」を総合的に判断する。
小テスト	50	毎回の授業の理解度を確認する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

メール(satarash@mail.doshisha.ac.jp)を利用する。

040300、60	西洋の思想A		石井 基博
授業テーマ:	西洋思想の伝統とキリスト教		
授業の概要:	西洋思想の伝統をなす二つの主要な流れはヘレニズムとヘブライズムである。すなわち、古代ギリシアの哲学思想とユダヤ・キリスト教思想である。授業の前半では、哲学思想の出発点となった古代ギリシアの哲学を取り上げてその原理や基本的な考え方などについて理解する。後半では、イエスの思想やそれに基づいて展開された様々なキリスト教思想の基本的な内容について思想史をたどる形で考えていきたい。		
到達目標:	この講義では、まず第一に西洋思想の根幹にある二つの潮流である古代ギリシアの哲学思想とユダヤ・キリスト教思想へと歴史を遡って、西洋思想ひいては西洋社会の基礎にある基本的な思考や世界観について知識として理解することを目指す。さらに、そのように西洋思想の原点に立ち返って思索することによって、社会への関心を高めるとともに、混迷する現代社会について自ら考える能力・態度を身につけることを到達目標とする。		
授業方法:	講義形式で行う。板書と資料でポイントを確認しながら、理解を深めるように進める。また、受講生の人数に応じて随時(授業2、3回に1回程度の割合で)授業のテーマについての4、5人ほどのグループでの受講生同士のディスカッション、およびグループ毎の発表等を探り入れる。このグループワークの実施によって、テーマについての理解を深めるとともにコミュニケーション力を高めるように配慮する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	西洋思想の展望(授業の目標・方法と概要について)	復習
	2.	西洋思想の源流(1)原理的に考えること(1)	復習と中間レポートの課題図書の通読
	3.	西洋思想の源流(1)原理的に考えること(2)	復習と中間レポートの課題図書の通読
	4.	西洋思想の源流(2)無知の知	復習と中間レポートの課題図書の通読
	5.	西洋思想の源流(3)よく生きること	復習と中間レポートの課題図書の通読
	6.	西洋思想の源流(4)徳とは何か	復習と中間レポートの課題図書の通読
	7.	西洋思想の源流(5)ヘレニズム期の思想	復習と中間レポートの課題図書の通読
	8.	キリスト教の思想(1)ヘブライズムと原始キリスト教(1)	復習と中間レポートの作成
	9.	キリスト教の思想(1)ヘブライズムと原始キリスト教(2)	復習と中間レポートの作成
	10.	キリスト教の思想(2)教父哲学	復習と中間レポートの作成
	11.	キリスト教の思想(3)スコラ哲学	復習
	12.	キリスト教の思想(4)宗教改革の思想(1)	復習
	13.	キリスト教の思想(4)宗教改革の思想(1)	復習と期末レポートの準備
	14.	キリスト教の思想(4)宗教改革の思想(2)	復習と期末レポートの準備
	15.	ルネサンス期の思想	復習と期末レポートの準備
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義と自宅での復習を中心に授業に臨んでもらいたいと思います。中間レポート作成のための課題図書の通読は、授業内容の理解にも役立つので、有効に活用してもらいたいです。中間レポートの課題図書については、2回目の授業時に他の参考文献とともに紹介します。		
フィードバックの方法:	中間レポートは、評価して教室にて返却します。各回の授業最後に書いてもらうコメントには、次回の授業冒頭で若干のものを読み上げて紹介する形で、応答したいと思います。また、授業内容についての質問にもその紹介時に回答します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末のレポート	60%	講義で考察した主要概念や論点についての理解。
	中間(課題図書)レポート	30%	課題図書の内容の基本的な理解。
	授業最後のコメントの提出	10%	授業内容(グループディスカッション実施時にはそれも含む)についての基本的な理解の記述。
教科書:			
参考書:	熊野純彦『西洋哲学史—古代から中世へ』岩波新書、2006年 原佑ほか『西洋思想の流れ』東京大学出版会、1971年。 F.M.コーンフォード、山田道夫訳『ソクラテス以前以後』岩波文庫、1995年。 竹下節子『キリスト教の真実—西洋近代をもたらした宗教思想』ちくま新書、2012年。 土井健司『キリスト教を問いなおす』ちくま新書、2003年。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業内容についての質問は、授業最後のコメントに記入してもらい、次回の授業冒頭でその質問に回答します。それ以外に、授業の前後に教室内でも対応します。		

040400、60

西洋の思想B

石井 基博

授業テーマ:

近代思想から現代思想へ

授業の概要:

西洋の近代思想は、現代社会の様々な場面での基盤となり、今なお大きな影響力を及ぼしている。現代の社会の仕組みの基礎にある、近代科学の思想や民主主義の思想、合理論といった哲学思想などを取り上げて、それら思想の基本的な思考内容や世界観について理解していく。近代初頭のルネサンス期から現代までの主要な思想を思想史をたどる形で考えていきたい。

到達目標:

この講義では、まず第一に近代科学の思想や民主主義の思想などの西洋の近代思想の多様な側面に光を当て、西洋思想ひいては西洋社会の基礎にある基本的な思考や世界観について知識として理解することを目指す。さらに、そのように現代社会を形作る原理的、根本的なものへの理解を深めることによって、社会への関心を高めるとともに、望ましい自己と社会との在り方について自ら考え、展望する能力・態度を身につけることを到達目標とする。

授業方法:

講義形式で行う。板書や資料でポイントを確認しながら、理解を深めるように進める。また、受講生の人数に応じて随時(授業2、3回に1回ほどの割合で)授業のテーマについての4、5人のグループでの受講生同士のディスカッション、およびグループ毎の発表等を探り入れる。このグループワークの実施によって、テーマについての理解を深めるとともにコミュニケーション力を高めるように配慮する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 西洋近・現代思想の展望(1)(授業の目標・方法と概要について)	復習
2. 西洋近・現代思想の展望(2)	復習と中間レポートの課題図書の通読
3. 近代自然科学の思想(1)自然支配の思想(1)	復習と中間レポートの課題図書の通読
4. 近代自然科学の思想(1)自然支配の思想(2)	復習と中間レポートの課題図書の通読
5. 合理論の確立——私とは何か——(1)	復習と中間レポートの課題図書の通読
6. 合理論の確立——私とは何か——(2)	復習と中間レポートの課題図書の通読
7. 社会契約思想(1)人権思想の出発点	復習と中間レポートの課題図書の通読
8. 社会契約思想(2)民主主義の思想	復習と中間レポートの作成
9. 理性批判の哲学——善意志と自由——(1)	復習と中間レポートの作成
10. 理性批判の哲学——善意志と自由——(2)	復習と中間レポートの作成
11. 功利主義	復習
12. 実証主義	復習
13. 現代思想(1)現代思想の源流——ニヒリズムについて——	復習と期末レポートの準備
14. 現代思想(2)責任倫理の思想	復習と期末レポートの準備
15. 現代思想(3)コミュニケーション行為	復習と期末レポートの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義と自宅での復習を中心に授業に臨んでもらいたいと思います。中間レポート作成のための課題図書の通読は、授業内容の理解にも役立つので、有効に活用してもらいたいです。中間レポートの課題図書については、2回目の授業時に他の参考文献とともに紹介します。

フィードバックの方法:

中間レポートは、評価して教室にて返却します。各回の授業最後に書いてもらうコメントには、次回の授業冒頭で若干のものを読み上げて紹介する形で、応答したいと思います。また、授業内容についての質問にもその紹介時に回答します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末のレポート	60%	講義で考察した主要概念や論点についての理解。
中間(課題図書)レポート	30%	課題図書の内容の基本的な理解。
授業最後のコメントの提出	10%	授業内容(グループディスカッション実施時にはそれも含む)についての基本的な理解の記述。

教科書:

参考書:

熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。
原佑ほか『西洋思想の流れ』東京大学出版会、1971年。
生松敬三『社会思想の歴史 ヘーゲル・マルクス・ウェーバー』岩波現代文庫、2002年。
加藤尚武『20世紀の思想 マルクスからデリダへ』PHP新書、1997年。
船木享『現代思想史入門』ちくま新書、2016年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業内容についての質問は、授業最後のコメントに記入してもらい、次回の授業冒頭でその質問に回答します。それ以外に、授業の前後に教室内でも応対します。

授業テーマ:	万延遣米使節のアメリカ体験																																		
授業の概要:	「西洋」をどう意識するかということが、近代の日本人にとってどんな意味においても一つの主題であったことは疑いないだろう。まずそれは、幕末においては漠然とした「夷狄」から明確な「敵」として意識される地になるが、やがて「敵」を学ぶことは自らの社会的地位に対する欲望(いわゆる立身出世)を充たす憧れの地へと変貌し、明治になると「文明」としての理想を託され、近代日本の基盤(プラスもマイナスも含めて)をなす政治・社会意識を形成することになる。なかでもアメリカは、ペリー来航という大事件によって幕末武士たちの世界像を大きく揺り動かし、彼らが最初に実際に経験した欧米社会(しかもその純粋培養的なもの)として強く意識された。 本講ではこのような幕末期の日本人の西洋像とくにアメリカ像に関して、いわゆる「開国」がもたらす武士の意識と行動の変容を並行させながら、とりわけそれを集約的に表現している1860(万延1)年の遣米使節(開国後初の公式の欧米渡航)という実際の渡航体験の事例から考えることにしよう(ただし幕末の政治的動乱以前の時期が話の中心になるので、通常「幕末」という言葉から想像されるような著名人物はほとんど登場しないから、そのつもりで)。そして、さらに広い意味では、文化接触や異文化体験が人間にどのような問題をもたらすかを考える手がかりにできればよいだろう。																																		
到達目標:	「異文化体験」は現在の我々にとっても留学や海外赴任というかたちで身近な問題でありつづけるばかりか、現在の日本はとくにアジア諸国の人々から「異文化体験」される存在でもあろう。その今にあって学生諸氏が過去の「異文化体験」の事例を学ぶことをとおして、それが人間の意識や心理にどのような問題を生じさせるかを考えることができればよいだろう。																																		
授業方法:	講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. イントロダクション―「鎖国」と「開国」、参考文献紹介</td><td>予復習のための参考文献:なし</td></tr><tr><td>2. 幕末―人物と風景、諸使節団―写真資料を見る</td><td>予復習のための参考文献:小沢健志編『幕末―写真の時代』ちくま学芸文庫</td></tr><tr><td>3. ペリーはなぜ日本にやってきたか</td><td>予復習のための参考文献:加藤祐三『幕末外交と開国』ちくま新書</td></tr><tr><td>4. 遣米使節派遣にいたるまで</td><td>予復習のための参考文献:同上</td></tr><tr><td>5. 幕末的状况 その1―「夷狄」の登場と徳川幕藩体制の意味</td><td>予復習のための参考文献:丸山真男「開国」(『丸山真男集』第8巻, 岩波書店)</td></tr><tr><td>6. 徳川官僚のアメリカ体験―村垣範正の場合1</td><td>予復習のための基礎史料:村垣範正「遣米使日記」,『遣外使節日記纂輯』第1巻, 日本史籍協会(復刻版, 東京大学出版会)</td></tr><tr><td>7. 徳川官僚のアメリカ体験―村垣範正の場合2</td><td>予復習のための参考文献:同上</td></tr><tr><td>8. 幕末的状况 その2―「夷情探索」の意識と行動</td><td>予復習のための参考文献:松沢弘陽『近代日本の形成と西洋経験』岩波書店</td></tr><tr><td>9. 武士のアメリカ体験―玉虫左太夫の場合1</td><td>予復習のための基礎史料:玉虫左太夫「航米日録」,『日本思想大系66 西洋見聞集』岩波書店</td></tr><tr><td>10. 武士のアメリカ体験―玉虫左太夫の場合2</td><td>予復習のための基礎史料:同上</td></tr><tr><td>11. 幕末的状况 その3―「制度的上昇」型青年武士の登場</td><td>予復習のための参考文献:広重徹『科学の社会史』中央公論社, 岩波現代文庫</td></tr><tr><td>12. 洋学者のアメリカ体験―佐野鼎の場合1</td><td>予復習のための基礎史料:佐野鼎『万延元年訪米日記』金沢文化協会</td></tr><tr><td>13. 洋学者のアメリカ体験―佐野鼎の場合2</td><td>予復習のための基礎史料:同上</td></tr><tr><td>14. 三人のその後と明治維新1―村垣範正と佐野鼎</td><td>予復習のための参考文献:高橋是清『高橋是清自伝』中公文庫</td></tr><tr><td>15. 三人のその後と明治維新2―玉虫左太夫</td><td>予復習のための参考文献:鶴見俊輔『記録現代史日本の百年1 御一新の嵐』ちくま学芸文庫</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. イントロダクション―「鎖国」と「開国」、参考文献紹介	予復習のための参考文献:なし	2. 幕末―人物と風景、諸使節団―写真資料を見る	予復習のための参考文献:小沢健志編『幕末―写真の時代』ちくま学芸文庫	3. ペリーはなぜ日本にやってきたか	予復習のための参考文献:加藤祐三『幕末外交と開国』ちくま新書	4. 遣米使節派遣にいたるまで	予復習のための参考文献:同上	5. 幕末的状况 その1―「夷狄」の登場と徳川幕藩体制の意味	予復習のための参考文献:丸山真男「開国」(『丸山真男集』第8巻, 岩波書店)	6. 徳川官僚のアメリカ体験―村垣範正の場合1	予復習のための基礎史料:村垣範正「遣米使日記」,『遣外使節日記纂輯』第1巻, 日本史籍協会(復刻版, 東京大学出版会)	7. 徳川官僚のアメリカ体験―村垣範正の場合2	予復習のための参考文献:同上	8. 幕末的状况 その2―「夷情探索」の意識と行動	予復習のための参考文献:松沢弘陽『近代日本の形成と西洋経験』岩波書店	9. 武士のアメリカ体験―玉虫左太夫の場合1	予復習のための基礎史料:玉虫左太夫「航米日録」,『日本思想大系66 西洋見聞集』岩波書店	10. 武士のアメリカ体験―玉虫左太夫の場合2	予復習のための基礎史料:同上	11. 幕末的状况 その3―「制度的上昇」型青年武士の登場	予復習のための参考文献:広重徹『科学の社会史』中央公論社, 岩波現代文庫	12. 洋学者のアメリカ体験―佐野鼎の場合1	予復習のための基礎史料:佐野鼎『万延元年訪米日記』金沢文化協会	13. 洋学者のアメリカ体験―佐野鼎の場合2	予復習のための基礎史料:同上	14. 三人のその後と明治維新1―村垣範正と佐野鼎	予復習のための参考文献:高橋是清『高橋是清自伝』中公文庫	15. 三人のその後と明治維新2―玉虫左太夫	予復習のための参考文献:鶴見俊輔『記録現代史日本の百年1 御一新の嵐』ちくま学芸文庫		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. イントロダクション―「鎖国」と「開国」、参考文献紹介	予復習のための参考文献:なし																																		
2. 幕末―人物と風景、諸使節団―写真資料を見る	予復習のための参考文献:小沢健志編『幕末―写真の時代』ちくま学芸文庫																																		
3. ペリーはなぜ日本にやってきたか	予復習のための参考文献:加藤祐三『幕末外交と開国』ちくま新書																																		
4. 遣米使節派遣にいたるまで	予復習のための参考文献:同上																																		
5. 幕末的状况 その1―「夷狄」の登場と徳川幕藩体制の意味	予復習のための参考文献:丸山真男「開国」(『丸山真男集』第8巻, 岩波書店)																																		
6. 徳川官僚のアメリカ体験―村垣範正の場合1	予復習のための基礎史料:村垣範正「遣米使日記」,『遣外使節日記纂輯』第1巻, 日本史籍協会(復刻版, 東京大学出版会)																																		
7. 徳川官僚のアメリカ体験―村垣範正の場合2	予復習のための参考文献:同上																																		
8. 幕末的状况 その2―「夷情探索」の意識と行動	予復習のための参考文献:松沢弘陽『近代日本の形成と西洋経験』岩波書店																																		
9. 武士のアメリカ体験―玉虫左太夫の場合1	予復習のための基礎史料:玉虫左太夫「航米日録」,『日本思想大系66 西洋見聞集』岩波書店																																		
10. 武士のアメリカ体験―玉虫左太夫の場合2	予復習のための基礎史料:同上																																		
11. 幕末的状况 その3―「制度的上昇」型青年武士の登場	予復習のための参考文献:広重徹『科学の社会史』中央公論社, 岩波現代文庫																																		
12. 洋学者のアメリカ体験―佐野鼎の場合1	予復習のための基礎史料:佐野鼎『万延元年訪米日記』金沢文化協会																																		
13. 洋学者のアメリカ体験―佐野鼎の場合2	予復習のための基礎史料:同上																																		
14. 三人のその後と明治維新1―村垣範正と佐野鼎	予復習のための参考文献:高橋是清『高橋是清自伝』中公文庫																																		
15. 三人のその後と明治維新2―玉虫左太夫	予復習のための参考文献:鶴見俊輔『記録現代史日本の百年1 御一新の嵐』ちくま学芸文庫																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	以上の授業内容は講義の順序を示すものであって、必ずしも一回の授業時間で区切るとはかぎらない。また時間に余裕があれば補足参考として福沢諭吉や新島襄の場合を取り上げる。																																		
フィードバックの方法:	学期末のレポートについては、レポート講評をマナビーで公表する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>学期末レポート</td><td>70%</td><td>この講義から受講者自身がいかに自分の関心と問題意識を組み立て深め、どのような事例を取り上げて考察するかを評価の最大のポイントとする。</td></tr><tr><td>小テスト</td><td>30%</td><td>講義内容の理解度や受講生諸君の関心、感想などを問うために予告なく2回程度行なう。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	学期末レポート	70%	この講義から受講者自身がいかに自分の関心と問題意識を組み立て深め、どのような事例を取り上げて考察するかを評価の最大のポイントとする。	小テスト	30%	講義内容の理解度や受講生諸君の関心、感想などを問うために予告なく2回程度行なう。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
学期末レポート	70%	この講義から受講者自身がいかに自分の関心と問題意識を組み立て深め、どのような事例を取り上げて考察するかを評価の最大のポイントとする。																																	
小テスト	30%	講義内容の理解度や受講生諸君の関心、感想などを問うために予告なく2回程度行なう。																																	
教科書:	岡林伸夫『万延遣米使節におけるアメリカ体験の諸相』、萌書房																																		
参考書:	準備学習の欄を参照、および講義当初にリストを配布。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:	近代日本における言論人の思想と行動		
授業の概要:	本授業では、近代日本の言論人の思想に焦点を当てる。 言論人は、各時代の諸課題と向き合い、それらに対する解決策(処方箋)を提示してきた。しかし解決策は決して一つではなく、多くの場合、それは複数存在している。その意味では、彼らは常に様々な選択肢から一つを選択してきたのである。その解決策は一見無原則に見えるかもしれないが、積み重ねられたそれらを追跡することにより、彼らの思想の輪郭を浮かび上がらせることができる。もちろん、言論人は時代状況に応じて微妙に立場や主張を変化させていくことから、しばしば「現状追隨的」と評価される。ただし注意しなければならないのは、なぜその解決策が選択されたのか、ということである。 そこで本授業では、以下の二点に着目したい。第一に、主要な政治的・経済的・社会的課題に対する各言論人の解決策を体系的に理解すること。第二に、その解決策を言論人同士で比較することである。課題に対する解決策が言論人間で同一の場合もあれば、異なる場合もある。特に後者の事例に注目したい。		
到達目標:	各言論人が提示した諸課題に対する様々な解決策について、今日の価値観と照らし合わせてその内容が妥当だったのか否かという視点にとどまらず、それらが選択されるまでの過程を掘り下げて理解できるようになることを本授業の目標としたい。		
授業方法:	講義形式で行う。毎回レジュメとその回で取り上げる言論人のテキストを配布する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(講義スケジュールや成績評価について)		
	2. 明治前期の課題	配布レジュメ・資料の再読	
	3. 福沢諭吉	配布レジュメ・資料の再読	
	4. 中江兆民	配布レジュメ・資料の再読	
	5. 植木枝盛	配布レジュメ・資料の再読	
	6. 明治後期の課題	配布レジュメ・資料の再読	
	7. 徳富蘇峰	配布レジュメ・資料の再読	
	8. 山路愛山	配布レジュメ・資料の再読	
	9. 陸羯南	配布レジュメ・資料の再読	
	10. 三宅雪嶺	配布レジュメ・資料の再読	
	11. 大正・昭和期の課題	配布レジュメ・資料の再読	
	12. 室伏高信	配布レジュメ・資料の再読	
	13. 長谷川如是閑	配布レジュメ・資料の再読	
	14. 石橋湛山	配布レジュメ・資料の再読	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	毎回授業で取り上げる言論人のテキストを読み、コメントペーパーに意見を記入してもらう。疑問点があれば、その旨を記入すること。次回授業の冒頭で回答する。		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	20	各言論人のテキストを読んだ上でコメントペーパーを提出してもらいその内容で評価する。
	期末試験	80	講義内容を正確に理解できているか、自らの意見がきちんと提示されているかを中心に評価する。
教科書:			
参考書:	田中浩編『近代日本のジャーナリスト』(御茶の水書房、1987年) 『思想の海へ』全31巻(社会評論社、1989～1994年) 松沢弘陽『日本政治思想』(放送大学教育振興会、1993年) 鹿野政直『近代日本思想案内』(岩波文庫、1999年) 米原謙『日本政治思想』(ミネルヴァ書房、2007年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	連絡を取る必要がある場合には、下記のアドレスにメールを送ること。 smochizu@mail.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	明治の日本人と「渡米」																																		
授業の概要:	近代の日本人にとって「外国」とはいったいどういう意味を持っていたのだろうか。たとえば明治時代を通じて人々をとらえていた価値観の一つは、「立身出世」とか「成功」などという言葉で表現された社会的上昇志向であった。そのもっとも突出した部分が「アメリカで一旗あげる」という行動であるといつてよいだろう。日本人にとってまずそこは、明治のエリートたちが「洋行」するイギリス・フランス・ドイツとはちがって、金もなく学ぶ機会もない「貧書生」たちが晴れて「洋学紳士君」になれることを夢見た地であった。さらにそこは、日本の社会のなかで金持ちになったり高い社会的地位を得ることを閉ざされた庶民が、「一攫千金」や「成功」を夢見て出稼ぎや移民に奔走した地でもあった。そして明治末期にその夢が消え去ろうとしたとき、日米双方が未来の日米戦争を妄想しはじめる……。 本講ではこういったアメリカ移民を中心としながら、またそのような移民を奨励する活動の主翼を担った社会主義者たちの意識や行動を並行させながら、明治社会が「外国」に対して持った価値観の一側面をたどってみることにする。そして受講者諸氏にはこれらを、現在の私たち自身や周囲にも厳然として存在しつづけている「人はなぜ国境を超えて動こうとするか」という問題(留学・外国人労働者・密航・民族差別問題など)と重ね合わせながら受講していただけたらよいだろう。																																		
到達目標:	現在の日本はすでに「移民社会」化に直面している。つまり過去においては「移民する」側であった日本が今や「移民される」側になっているのだ。その時にあって学生諸氏が過去の個々人の移民の事例を学ぶことをとおして、「移民」の社会構造や心理を考えていただければよいだろう。																																		
授業方法:	講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. イントロダクション—明治青年の実情、参考文献</td><td>予復習のための参考文献:なし</td></tr><tr><td>2. 近代日本のアメリカ移民史概要</td><td>予復習のための参考文献:『写真絵画集成日本人移民1 ハワイ・北米大陸』日本図書センター</td></tr><tr><td>3. 幕末から明治へ—移民の発端</td><td>予復習のための参考文献:横田順彌『明治不可思議堂』ちくま文庫</td></tr><tr><td>4. ハワイ官約移民の開始</td><td>予復習のための参考文献:猿谷要『ハワイ王朝最後の女王』文春新書</td></tr><tr><td>5. アメリカにおける東アジア系移民—中国人移民の場合</td><td>予復習のための参考文献:ロバート・G・リー『オリエンタルズ』岩波書店</td></tr><tr><td>6. 日本人アメリカ移民の開始</td><td>予復習のための参考文献:出原政雄編『歴史・思想からみた現代政治』法律文化社:岡林伸夫「人口問題と移民論—明治日本の不安と欲望」(『同志社法学』361号)</td></tr><tr><td>7. 片山潜の「留学」</td><td>予復習のための参考文献:片山潜『自伝』改造社、岩波書店(再刊)</td></tr><tr><td>8. 帰国後の片山潜—『渡米案内』から「渡米協会」へ</td><td>予復習のための参考文献:岡林伸夫『ある明治社会主義者の肖像—山根吾一覚書』不二出版</td></tr><tr><td>9. 山根吾一の登場—渡米と帰国後</td><td>予復習のための参考文献:同上</td></tr><tr><td>10. 山根吾一と「渡米協会」および『渡米雑誌』</td><td>予復習のための参考文献:同上</td></tr><tr><td>11. 『渡米雑誌』の内容—渡米者の姿</td><td>予復習のための参考文献:山根吾一編『最近渡米案内』、復刻『近代欧米渡航案内記集成 第4巻』ゆまに書房:岡林伸夫「ボストンの蔵原惟郭」(『同志社談叢』29号)</td></tr><tr><td>12. 渡米奨励論と渡米批判論</td><td>予復習のための参考文献:岡林伸夫『ある明治社会主義者の肖像—山根吾一覚書』不二出版</td></tr><tr><td>13. アメリカにおける日本人移民排斥問題</td><td>予復習のための参考文献:同上</td></tr><tr><td>14. 日米未来戦記の登場—「夢」の終焉</td><td>予復習のための参考文献:横田順彌『明治「空想小説」コレクション』PHP研究所:岡林伸夫「人口問題と移民論—明治日本の不安と欲望」(『同志社法学』361号)</td></tr><tr><td>15. その後—「在米日本人」から「日系アメリカ人」へ</td><td>予復習のための参考文献:大岡信『北米万葉集』集英社新書</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. イントロダクション—明治青年の実情、参考文献	予復習のための参考文献:なし	2. 近代日本のアメリカ移民史概要	予復習のための参考文献:『写真絵画集成日本人移民1 ハワイ・北米大陸』日本図書センター	3. 幕末から明治へ—移民の発端	予復習のための参考文献:横田順彌『明治不可思議堂』ちくま文庫	4. ハワイ官約移民の開始	予復習のための参考文献:猿谷要『ハワイ王朝最後の女王』文春新書	5. アメリカにおける東アジア系移民—中国人移民の場合	予復習のための参考文献:ロバート・G・リー『オリエンタルズ』岩波書店	6. 日本人アメリカ移民の開始	予復習のための参考文献:出原政雄編『歴史・思想からみた現代政治』法律文化社:岡林伸夫「人口問題と移民論—明治日本の不安と欲望」(『同志社法学』361号)	7. 片山潜の「留学」	予復習のための参考文献:片山潜『自伝』改造社、岩波書店(再刊)	8. 帰国後の片山潜—『渡米案内』から「渡米協会」へ	予復習のための参考文献:岡林伸夫『ある明治社会主義者の肖像—山根吾一覚書』不二出版	9. 山根吾一の登場—渡米と帰国後	予復習のための参考文献:同上	10. 山根吾一と「渡米協会」および『渡米雑誌』	予復習のための参考文献:同上	11. 『渡米雑誌』の内容—渡米者の姿	予復習のための参考文献:山根吾一編『最近渡米案内』、復刻『近代欧米渡航案内記集成 第4巻』ゆまに書房:岡林伸夫「ボストンの蔵原惟郭」(『同志社談叢』29号)	12. 渡米奨励論と渡米批判論	予復習のための参考文献:岡林伸夫『ある明治社会主義者の肖像—山根吾一覚書』不二出版	13. アメリカにおける日本人移民排斥問題	予復習のための参考文献:同上	14. 日米未来戦記の登場—「夢」の終焉	予復習のための参考文献:横田順彌『明治「空想小説」コレクション』PHP研究所:岡林伸夫「人口問題と移民論—明治日本の不安と欲望」(『同志社法学』361号)	15. その後—「在米日本人」から「日系アメリカ人」へ	予復習のための参考文献:大岡信『北米万葉集』集英社新書		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. イントロダクション—明治青年の実情、参考文献	予復習のための参考文献:なし																																		
2. 近代日本のアメリカ移民史概要	予復習のための参考文献:『写真絵画集成日本人移民1 ハワイ・北米大陸』日本図書センター																																		
3. 幕末から明治へ—移民の発端	予復習のための参考文献:横田順彌『明治不可思議堂』ちくま文庫																																		
4. ハワイ官約移民の開始	予復習のための参考文献:猿谷要『ハワイ王朝最後の女王』文春新書																																		
5. アメリカにおける東アジア系移民—中国人移民の場合	予復習のための参考文献:ロバート・G・リー『オリエンタルズ』岩波書店																																		
6. 日本人アメリカ移民の開始	予復習のための参考文献:出原政雄編『歴史・思想からみた現代政治』法律文化社:岡林伸夫「人口問題と移民論—明治日本の不安と欲望」(『同志社法学』361号)																																		
7. 片山潜の「留学」	予復習のための参考文献:片山潜『自伝』改造社、岩波書店(再刊)																																		
8. 帰国後の片山潜—『渡米案内』から「渡米協会」へ	予復習のための参考文献:岡林伸夫『ある明治社会主義者の肖像—山根吾一覚書』不二出版																																		
9. 山根吾一の登場—渡米と帰国後	予復習のための参考文献:同上																																		
10. 山根吾一と「渡米協会」および『渡米雑誌』	予復習のための参考文献:同上																																		
11. 『渡米雑誌』の内容—渡米者の姿	予復習のための参考文献:山根吾一編『最近渡米案内』、復刻『近代欧米渡航案内記集成 第4巻』ゆまに書房:岡林伸夫「ボストンの蔵原惟郭」(『同志社談叢』29号)																																		
12. 渡米奨励論と渡米批判論	予復習のための参考文献:岡林伸夫『ある明治社会主義者の肖像—山根吾一覚書』不二出版																																		
13. アメリカにおける日本人移民排斥問題	予復習のための参考文献:同上																																		
14. 日米未来戦記の登場—「夢」の終焉	予復習のための参考文献:横田順彌『明治「空想小説」コレクション』PHP研究所:岡林伸夫「人口問題と移民論—明治日本の不安と欲望」(『同志社法学』361号)																																		
15. その後—「在米日本人」から「日系アメリカ人」へ	予復習のための参考文献:大岡信『北米万葉集』集英社新書																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	以上の授業内容は講義の順序を示すものであって、必ずしも一回の授業時間で区切るとはかぎらない。																																		
フィードバックの方法:	学期末レポートについては、レポート講評をマナビーで公表する。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>学期末レポート</td><td>70%</td><td rowspan="2">この講義から受講者自身がいかに自分の関心と問題意識を組み立て、どのような事例を取り上げて考察するかを評価の最大のポイントとする。 講義内容の理解度を問うために予告なく2 回程度行なう。</td></tr><tr><td>小テスト</td><td>30%</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	学期末レポート	70%	この講義から受講者自身がいかに自分の関心と問題意識を組み立て、どのような事例を取り上げて考察するかを評価の最大のポイントとする。 講義内容の理解度を問うために予告なく2 回程度行なう。	小テスト	30%																										
評価方法	割合	評価基準																																	
学期末レポート	70%	この講義から受講者自身がいかに自分の関心と問題意識を組み立て、どのような事例を取り上げて考察するかを評価の最大のポイントとする。 講義内容の理解度を問うために予告なく2 回程度行なう。																																	
小テスト	30%																																		
教科書:	特定のテキストは使用しない。																																		
参考書:	準備学習の欄を参照、および講義当初にリストを配布。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対																																		

授業テーマ： 現代の宇宙像

授業の概要： 宇宙の観測技術の急速な進歩により、現在新しい発見が次々となされている。宇宙の観測の最新の成果を紹介し、それをもとに現代の宇宙像を描き出すのが、本講の目的である。まず、我々の住む地球の紹介から始めて、太陽、銀河系、銀河、銀河団、超銀河団、宇宙全体という宇宙の各階層について、最新の観測事実と理論を紹介する。次に、それらの基礎知識をもとに、宇宙の進化を、宇宙創成から現在にいたるまで時間を追って論じ、宇宙の全体像の把握に至る。最後に、地球外生命・文明の可能性についても考察する。

到達目標： 現代科学が明かす驚くべき宇宙の全体像を学ぶ。

授業方法： 板書による講義を主とするが、理解を助けるために、パワーポイント・スライド等も使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション、宇宙の諸階層	本授業は復習を重視する。毎回の授業で書き取ったノート
2.	地球のプロフィール	を、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
3.	太陽のプロフィール	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
4.	銀河系のプロフィール	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
5.	銀河における物質の大循環 一星からガスへ、ガスから星へー	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
6.	星の誕生 一星間雲の重力収縮ー 自由落下時間の計算	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
7.	星の進化をもたらすもの ー中心部の核融合反応ー	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
8.	巨星への進化と星の屍 白色矮星、超新星爆発、中性子星、ブラックホール	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
9.	宇宙の階層構造 銀河群・銀河団、超銀河団、宇宙の大規模構造	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
10.	宇宙の膨張の発見 アインシュタインの一般相対性理論ー重力は時空のゆがみ!?ー	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
11.	宇宙の進化 宇宙の始まり、インフレーション、ビッグバン、宇宙のく加速>膨張の発見、ダークマター・ダークエネルギー	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
12.	惑星系の形成過程(1) 原始惑星系円盤の形成、ガス・ダスト分離、微惑星誕生	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
13.	惑星系の形成過程(2) 惑星集積、木星型惑星の外層形成	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
14.	太陽系外惑星の発見、地球外生命探査・地球外文明探査	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
15.	まとめ	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。

受講者へのメッセージやアドバイス： 私たちの日常生活の経験とは時間スケールも空間スケールも大きくかけ離れた宇宙の自然現象に、大いに驚嘆してもらいたい。

フィードバックの方法： 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60	6割未満の得点は不合格。下記小テスト・授業への積極的参加度を合わせて総合的に最終評価をする。
	小テスト	20	加点方式で考慮
	授業への積極的参加度	20	加点方式で考慮

教科書： 特に指定しない

参考書： サイモン・シン著「宇宙創成」(上)(下) 新潮文庫 新潮社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法： 授業後に声がけしてください。

授業テーマ:

地球の歴史、惑星としての特徴、地震や火山などの変動とそれに伴う災害について解説する。

授業の概要:

地球科学的現象は、時間スケールが長く、空間スケールも大きいため、日常的な感覚による理解が難しい。46億年にわたる地球の歴史、プレートテクトニクスとそれに伴う地震や火山噴火などの諸現象、大気と海洋で起こる現象、それらに伴う自然災害や環境問題について、基礎的な事柄を解説する。

- 到達目標:
- (1) 地球科学的現象や地球の歴史について基礎的な知識を得る

(2) 自然災害や環境問題に関する報道を正しく理解するための基礎的な知識を得る

(3) 自然現象に興味を持ち、それを理解するための様々な視点を知る

授業方法:

基本的に板書で行う。映像資料を補助的に用いて説明する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	地球の大きさと構造	地殻、マントル、重力、アイソスタシー
2.	地球を構成する物質	岩石、鉱物、地層、地層累重の法則
3.	地球の歴史(1)	冥王代、太古代(始生代)、原生代
4.	地球の歴史(2)	顕生代(古生代、中生代、新生代)、化石
5.	プレートテクトニクス(1)	断層、海溝、海嶺、大陸移動説
6.	プレートテクトニクス(2)	付加体、構造線、美濃・丹波帯、四万十帯
7.	地震と災害(1)	地震波、初期微動、主要動、マグニチュード、震度
8.	地震と災害(2)	活断層、津波、海成段丘
9.	火山と災害(1)	成層火山、溶岩、岩脈、カルデラ
10.	火山と災害(2)	火山灰、火砕流、水蒸気爆発
11.	大気と海洋(1)	大気圏、気圧、偏西風、アルベド
12.	大気と海洋(2)	海流、潮汐、氷期、間氷期、温暖化
13.	太陽系の惑星と衛星	地球型惑星、隕石、小惑星
14.	月の歴史	月の海、ジャイアントインパクト説、クレーター
15.	まとめ	これまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

準備学習として、市販の高校地学の参考書(高校で地学を履修した者は教科書や資料集でよい)を用いて、授業の各回に示したキーワードに該当する項を参照しておく、効率よく学習できる。

フィードバックの方法:

出席カードの自由記入欄等に質問や意見を書いてほしい。それらは、次回の授業にできるだけ反映させたい。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60	到達目標(1)および(2)に関する知識と理解度を評価する。
	授業への積極的参加度	40	積極的に授業に参加し、到達目標(3)ができるようになったか評価する。

教科書:

参考書:

杵島正洋・松本直記・左巻健男,「新しい高校地学の教科書」,講談社ブルーバックス, ISBN: 978-4062575102

「ニューステージ新地学図表」, 浜島書店, ISBN: 978-4834340129

酒井治孝,「地球学入門」, 東海大学出版部, ISBN: 978-4-486-02099-8

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール: k_sato@kueps.kyoto-u.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

地球表層環境の成り立ちと、その変遷を中心に解説する。

地球科学、とくに表層環境の変遷に関する基礎知識を得ること。昨今課題となっている、地球環境問題を考えるために必要な“科学的な思考方法”を身に付けること。

講義形式。パワーポイントのスライドショー、関連する動画などを取り入れながら授業を進めるので、適宜ノートを作成してください。必要な資料はプリントにして配布します。また、半期の授業のなかで一回程度、大学周辺の地学観察に行く予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	特になし。
2.	今出川周辺の地学観察	屋外に出かける予定なので、動きやすい服装と靴で来てください。天気によっては、延期する可能性もあります。また、人数によっては、講義室での岩石試料の観察になるかもしれません。
3.	太陽系のなかの地球	特になし。
4.	気候システムと地球のエネルギー収支	前回の復習を中心に学習してください。
5.	大気と水の循環	前回の復習を中心に学習してください。
6.	気候変動の要因	前回の復習を中心に学習してください。
7.	地球の気候変動(1):氷河時代と無氷河時代	前回の復習を中心に学習してください。
8.	地球の気候変動(2):氷期-間氷期サイクル	前回の復習を中心に学習してください。
9.	地球の気候変動(3):最終氷期における急激な気候変動	前回の復習を中心に学習してください。
10.	地球の気候変動(4):最終氷期から現在まで	前回の復習を中心に学習してください。
11.	地球温暖化	前回の復習を中心に学習してください。
12.	地球の歴史(1):地球の形成と初期地球の環境	前回の復習を中心に学習してください。
13.	地球の歴史(2):地球大気と生物の進化	前回の復習を中心に学習してください。
14.	地球の歴史(3):人類による地球環境の変化	前回の復習を中心に学習してください。
15.	まとめ	講義全体の復習を中心に学習してください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

出席カードの自由記入欄に、質問・感想等があれば積極的に記入してください。それらの質問には、できる限り、授業を通して解説したいと思います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	60	地球科学に関する知識や、その理解度を評価する。
	授業への参加度	40	積極的に授業に参加し、地球科学に関する理解度を評価する。

教科書:

特になし。

参考書:

特になし。必要があれば、随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ：生命に関する科学知識を幅広く学びながら「生命とは何か？」を考えます。

授業の概要：皆さんは、科学者たちが用いている思考法をご存知ですか？
科学者は、常に客観的かつ体系的に物事を理解し、それらを矛盾なく論理的に説明しようと努めます。
現代社会においてこのような思考法を習得することは、複雑多様に情報が入り乱れる社会を生き抜く上で科学者以外の一般の人々にとっても必要なことだと思います。

生命科学者も、大学や病院、企業の研究室などで複雑な生命現象を客観的かつ体系的に理解しようと日夜奮闘しています。
本講義では、生命科学者たちがこれまでに明らかにしてきたさまざまな生命現象を幅広く紹介します。
生命について、科学の思考法を用いて学ぶことを体験すればもしかしたらあなた自身の命や人生についても見つめ直す契機となるかもしれません。

到達目標：・生命科学における基礎科学知識を習得
・生命について多角的な視点で考察する力を獲得

授業方法：講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. 細胞の進化	2. DNAの役割	授業後に、高校等で学習した生物学の基礎知識とあわせて復習すること。
		授業後に、高校等で学習した生物学の基礎知識とあわせて復習すること。
		授業後に、突然変異と進化の関係について考察してみることに。
		授業後に、突然変異と進化の関係について考察してみることに。
		授業までに、東日本大震災における福島第一原子力発電所の事故について、事故当時に報道された内容などを思い出しておくこと。
3. 染色体異常・突然変異と遺伝病の関係	4. 突然変異源としての紫外線と放射線	授業後に、さまざまな生物種が地球上に存在する意義について考察すること。
		授業後に、性別があることと地球環境との関係を考察すること。
5. 放射線利用のリスクと恩恵	6. がんとは何か	生命科学に関する事柄で、かつこれまでの講義で取り扱われなかったことについて質問があれば、授業までに質問事項を整理しておくこと。
		授業後に、生命とは何かについて、自身の言葉で考察すること。
7. 自己と他者を区別する仕組み	8. 種の多様性	
9. 雌雄と生存戦略	10. 脳の世界	
11. スーパー触媒「酵素」タンパク質	12. バイオテクノロジーの最先端	
13. 生物なんでもQ & A	14. 寿命…「人はなぜ死ななければならないのか」	
15. まとめ	16. 未来の生命科学	

受講者へのメッセージやアドバイス：受講に際しては専門的な知識は不要です。高校で生物を選択していない学生にもわかるよう基礎知識から学べるよう講義を行います。

フィードバックの方法：アンケートを実施するが、その結果については講義の中で解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験	50	到達目標「生命科学における基礎知識を習得」および「生命について多角的な視点で考察する力を獲得」について、試験を通じてこれらの達成度を評価する。
	アンケート	10	到達目標「生命について多角的な視点で考察する力を獲得」を達成する意欲の有無について、その度合いを評価する。
	授業への参加度	40	積極的に授業に参加して到達目標「生命科学における基礎知識を習得」を達成する意欲があるかどうかについて、その度合いを出席回数に応じて評価する。

教科書：

参考書：椎名隆、佐藤雅彦、角山雄一 著、
「スタートアップ生化学 わかる“生命”のしくみ」 第2版、
化学同人
田中司朗、角山雄一、中島裕夫、坂東昌子 編著、
「放射線必須データ32 被ばく影響の根拠」、
創元社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法：出席カードの自由記述欄、Eメール(アドレスは授業で告知)、授業後の教室内で対応

授業テーマ:

私たちの生活と植物: 共通性と多様性

授業の概要:

普段何気なく暮らしている私たちは、他の生物に支えられています。この講義では、私たちの身の回りの生物(とくに植物)について再認識することを試みます。生物である私たちは、生き物を摂取せずに生活することは出来ません。すなわち、食事は生物の一員であるヒトが根源的に必要とする生命活動です。同時に、食事には単に栄養の摂取とだけでは説明しきれない文化的な側面があります。
セメスターの前半で、各人が食事で摂取する生物由来の食材の調査を行います。1週間に食事で摂取した生物名を記述し、その特徴を検討します。次に、この調査の結果生じた疑問とそれに対するもっともらしい説明(仮説)を検証するための調査を自分で設計して実施します。この過程で、観察結果を科学的に考察するトレーニングをします。

到達目標:

- ・食事中の植物についてその特徴を捉える。
- ・生物の分類方法について理解する。
- ・科学的方法論について理解する。
- ・自ら仮説を立て、その仮説を検証するための調査方法を立案し実施する。

授業方法:

講義は通常の講義形式でおこない、演習とプレゼンテーションは受講者参加型のゼミ形式で行います。
・野外調査は今出川キャンパスの植生調査を行います。植物図鑑を参考にしながら、キャンパス内に生えている、とくに開花している植物を記録します。
・食物調査は、前半の1週間、後半の1週間に摂取した食物すべてを写真付きで記録していただきます。主食、副食、調味料等に含まれる生物由来の成分を枚举していただき、生物分類学的に考察を加えてもらいます。
・各受講生の食物調査の内容は、クラスの総合討論(まとめ)の資料とすることがあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義: イントロダクション(講義の進め方、課題、評価について): 生命とは? 生命科学とは?	準備はいりません
2.	野外調査: 同志社女子大学今出川キャンパス周辺の植生調査1	キャンパスの植物に興味を持ってください。今咲いている花の名前で分かるものを教えてください
3.	課題の説明: 食物の調査についての解説・問題提起	調査開始の準備をします
4.	講義: 植物の分類方法1.: 分類指標	食事の調査
5.	演習: 第1回目の食物の調査の結果の考察: 観測データの数値化	調査結果をどのようにまとめたらいいか考察
6.	演習: 第1回目の食物の調査の結果の考察: 何をどう示すか?	プレゼンテーションの準備
7.	プレゼンテーション: 第1回目の食物の調査の結果と考察	プレゼンテーションの準備
8.	講義: 植物の分類方法2.: どのように分類するか	第一回目の調査結果(自分の調査だけに限らなくて良い)から、どんなことを面白く思い、どんなことを知りたいと思ったかを箇条書きにしてみる
9.	野外調査: 同志社女子大学今出川キャンパス周辺の植生調査2	第一回目の調査結果(自分の調査だけに限らなくて良い)から、どんなことを面白く思い、どんなことを知りたいと思ったかを箇条書きにしてみる
10.	講義: 植物の分類方法3.: ゲノム情報と分類	科学的方法論に関する文献(印刷して配布)を読む
11.	演習: 第1回目の食物の調査で生じた疑問: 仮説を立ててみよう	仮説を立ててみよう
12.	演習: 第2回目の食物の調査: 仮説を検証するにはどのような調査をすればよいか?	仮説を検証するためにはどんな調査を行えばいいのか考える
13.	演習: 第2回目の食物の調査の結果の考察	第2回目調査結果の取りまとめと考察
14.	プレゼンテーション: 食物調査のまとめ	プレゼンテーションの準備
15.	プレゼンテーション: 食物調査のまとめ	プレゼンテーションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

本講義は、講義・演習・プレゼンテーション・野外調査で構成されます。講義では生物を分類する方法について概説いたします。
演習として、食物の調査を行います。受講生は、講義の前半1週間に摂取した食物のすべてを記録してもらいます。その記録に基づき、われわれが普段食べている生物由来の食物について、その分類学的特徴などについてプレゼンテーションしてもらいます。
また、前半、中盤、後半の各1回の講義時間を利用して、今出川キャンパス内の植物の野外調査を行います。春から夏への移り変わりの中での植物相の変化を調査します。
高等学校で生物を選択していることを前提として講義を行います。生物未履修者は、高校の教科書・参考書・図説で基本的知識を補習してください。
予習は特に必要ではありませんが、プロジェクト課題に積極的に取り組んでください。
PCを使ったデータのとりまとめとプレゼンテーションを行います。PCにプレゼンテーション用ソフトウェアを用意してください。また、レポート作成のため写真データのPCへの取り込み、印刷等をしてもらいます。PCの基本的な操作については自習してください。

フィードバックの方法:

プレゼンテーションに対する相互フィードバックを行います

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	プロジェクト課題(調査、プレゼンテーション)への取り組み	100	自己の課題として積極的に取り組んでいるかどうか、仮説検証の方法論に則って調査できているかなど、総合的に評価します。

教科書:

亀田龍吉著「花からわかる野菜の図鑑」 文一総合出版

参考書:

「ダイナミックワイド 図説生物」 東京書籍(高等学校の生物の図説。生物未履修者のために。)
東京大学生命科学教科書編集委員会編「生命科学」 羊土社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

電子メールアドレスを受講生に公開します。オフィスアワーは設けません。質問等がある場合には電子メールをください。

授業テーマ:

「生命」と「バイオテクノロジー」

授業の概要:

生命を構築している様々な事柄について、基礎から最先端の研究報告まで幅広い内容を網羅して学ぶことで、「生命」というモノについて様々な角度からアプローチしていきましょう。

到達目標:

複雑な生命現象を解き明かすためには、多くの知見を吸収して仮説を立て、実験によって検証・証明するというプロセスの積み重ねです。本講義では様々な先人たちの研究過程などにも触れ、論理的思考プロセスも説明していきます。このような思考法は科学研究のみならず、社会一般的な生活においても、非常に重要になってくるでしょう。さらに最新研究結果なども織り込むことで、日常の中に研究成果が多く活用されていることも知っていただきます。

授業方法:

講義形式で行う。
映像(PC・ビデオ)を多用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 生命の構成分子たち 生命を構成している要素が何かを学ぶ。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	2. 細胞とは？(1) 細胞の誕生と歴史、構造などを学ぶ。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	3. 細胞とは？(2) 代謝や研究への応用などを学ぶ。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	4. 生命の設計図DNA 遺伝と遺伝子発現、DNAの本質について学ぶ。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	5. 遺伝病と遺伝子組換え 遺伝病を通じて遺伝子の重要性を学び、現代の遺伝子組換え技術について説明する。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	6. 放射線とは？ 放射線とは何か？遺伝子への影響を含めて学ぶ。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	7. 紫外線と日焼け どうして日焼けするのか？UVから身を守る細胞の仕組みを知る。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	8. ガン ガンとは何か？どうして発生するのか？	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	9. タンパク質と酵素 生命の恒常性を維持するタンパク質と酵素の驚くべき機能を学ぶ。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	10. 免疫 体を防衛する重要な仕組みについて学ぶ。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	11. ウィルス ウィルスってなに？なぜ感染するのか？	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	12. 生物を利用したものづくり お酒や醤油など、日本の伝統技術である発酵物などのものづくりについて学ぶ。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	13. 幹細胞と再生医療 身体中に存在する体性幹細胞及びiPS細胞などについてとその応用について、近年話題になっている再生医療などを含めて学ぶ。	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	14. 質問コーナー 生物なんでもQ&A	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
	15. 生と死について なぜ人は死ぬのか？死ぬとどうなるのか？	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

高校で生物を選択していない学生でもわかるように講義を行うため、予備知識は全く必要ありません。

フィードバックの方法:

小テストの内容や講義での質問事項などは、講義の中で可能な限り取り上げて解説を行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席及びレポート	40	欠席することなく授業へ積極的に参加していたかを評価する。
	小テスト	10	到達目標である日常への生命科学技术の応用に気づけたかどうかを評価する。
	定期試験	50	到達目標である論理的思考ができるかを、講義中に説明した科学課題に対する理解度と説明によって評価する。

教科書:

椎名隆、佐藤雅彦、角山雄一
「スタートアップ生化学 わかる ”生命”のしくみ」第2版
化学同人 ISBN: 978-4759811872

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力、

教員との連絡方法:

horie.masanobu.4z@kyoto-u.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 生命の誕生からヒトに至るまでの進化は、さまざまな地球環境の変化に対する適応の歴史である。これは全ての生物についても同様であり、適応できなかった種は絶滅することになっていった。こうしたヒトにおける適応の歴史を通して、ヒトの進化はどのような過程をたどったのか、そしてヒトの特徴とはどのようなものなのかを学習することにより、ヒトの本質とは何か、私たちをとりまく自然や社会の中でどのように生きていくべきなのかについて考えを深める。

到達目標: 1. ヒトへと至る生物の進化過程についての知識を得る。
2. 現代人が世界の様々な環境に適応して生活することが可能な理由について理解する。
3. 上記の内容についての知識、理解に基づいて、ヒトの本質について考察する意欲や能力を身につける。

授業方法: 授業は講義形式で行い、板書を中心に進める予定である。内容に応じてスライドやビデオなどの映像資料を利用する。また、補助資料(図表)としてプリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	自然人類学を学ぶにあたって イントロダクションと基礎的な知識の概説	自然人類学の研究対象についての知識を得ておく。
2.	進化と進化論 ダーウィンの進化論とは	ダーウィンの業績について一般的に知られている範囲の知識を得ておく。
3.	遺伝のしくみ メンデルの法則からDNA研究まで	高校までに学習した遺伝に関する内容を復習する。
4.	ヒトの特徴 ヒトはどこが他の動物たちと違うのか	ヒトと他の動物との相違点について、様々な面から考えておく。
5.	生命の進化(1) 生命の誕生～脊椎動物の登場	動物の分類群について復習しておく。
6.	生命の進化(2) 哺乳類への進化	哺乳類の分類とその特徴について、調べておく。
7.	霊長類(1) 分類・分布と形態的特徴	霊長類とはどういう動物かについて答えられるようにする。
8.	霊長類(2) 霊長類の社会	霊長類の社会的行動について、有名な例を調べておく。
9.	霊長類(3) 霊長類の行動と心理	霊長類の知能についての研究例を調べておく。
10.	サルからヒトへ 初期人類(猿人)への進化	化石研究とはどのようなものかを調べておく。
11.	出アフリカ ホモ属(原人)の進化とユーラシア大陸への進出	アフリカでヒトが進化したとされる理由について調べておく。
12.	現代人(ホモ・サピエンス)への進化 現代人の起源について	現代人の形態的特徴についてあげることができるようにする。
13.	現代人の適応と地球全体への拡散 生活様式の発展と環境変化への対応	地球上の地域によって適応条件が異なることについて調べておく。
14.	文明への道 農耕の開始と社会、都市の発達	ヒトが現代文明を築くにはどのような過程が必要であったかを調べておく。
15.	まとめ	これまでの講義内容について復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス: ヒトの進化過程について理解し、現代人が地球のほぼ全域にまで生活域を拡げていった理由を考察することにより、ヒトに本来、備わっている性質や特長がどのような要因にもとづいて獲得されたものかを追究していってもらいたい。

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	90	到達目標1～3に関する知識や理解度により評価する。
	授業への参加度	10	授業中に行う不定期の小レポートなどにより、到達目標1についての理解度を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応、Eメール

授業テーマ:

原子、分子の振舞いから観た物質の様々な性質

授業の概要:

現在、地球上に存在すると思われる数千万種の物質が僅か118種類の元素の組み合わせで出来ている。それらを理解するには物質を作っている元素について原子や分子レベルの化学的な基礎知識が必要である。微視的には原子や分子という粒子の集合体が我々の身の回りにある物質やエネルギーとして様々な用途と特性と目的に応じて物質は材料として利用されている。本講義では原子の構造等の基礎知識を学んだ上で身の回りの“物質”や“現象”についてその本質や変化を分子レベルで理解出来るように解説する。また、その物質が示す性質はどのように理解することが出来るのか、さらに、その性質を機能として、どのように実用的に利用されているか、また、個々の材料には機能を利用するためにどのような工夫がされているか等を学び考察する事は文系・理系を問わず大変重要でありかつ興味深い事である。この講義には、原子、分子の視点で物質を捉える私たちにはなじみ深い化学的な物の見方とは異なり、原子、分子が集まって形成される凝集体の性質として現れる様々な”物”の性質を物理的な視点で理解し様々な物質の応用という新しい世界が含まれている。

到達目標:

日常生活の中で接する物質に対して科学的な知識や原理と関連付けて理解出来る様にする。
① 物質を構成する原子、分子が示す化学的な性質とそれらが凝集した時に現れる凝集体の物質の違いを理解する。
② 物質の示す機能を化学的、或は物理的な視点からに基づいて理解する。

授業方法:	5.講義/演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション、物質の科学および化学		
	2. 原子と分子とイオン	当日、配布したプリントの復習	
	3. 元素の周期表	当日、配布したプリントの復習	
	4. 電子配置 様々な化学結合と分子の極性	当日、配布したプリントの復習	
	5. 物質の三態	当日、配布したプリントの復習	
	6. 高分子化合物 ～合成高分子化合物～ 汎用性樹脂と合成ゴム	当日、配布したプリントの復習	
	7. 小テスト 合成高分子化合物 高機能性樹脂	当日、配布したプリントの復習	
	8. 天然高分子化合物 遺伝子とは	当日、配布したプリントの復習	
	9. 遺伝子組み換え作物(GMO) バイオエタノール	当日、配布したプリントの復習	
	10. 電池に利用される酸化と還元 酸化剤と還元剤について 燃料電池について	当日、配布したプリントの復習	
	11. 鉄と鉄鋼・非鉄金属・合金について レアメタルとレアアースについて	当日、配布したプリントの復習	
	12. 電気の技術と半導体について ～ LED/太陽光発電 ～	当日、配布したプリントの復習	
	13. 同位体・同素体 自然界における放射性同位元素 放射性同位元素による年代測定	当日、配布したプリントの復習	
	14. 物質とエネルギー 原子力燃料のリサイクル	当日、配布したプリントの復習	
	15. まとめ		

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テストの解答、解説については教室でまとめて行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む授業の参加・態度	50	出席カードに確認問題を解き、その出来具合数に応じて出席点を付与する。
	期末試験	50	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

nito@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

身の回りの物質の化学

授業の概要:

人類は化学物質に囲まれて生活しているとともに、すべての生物も化学物質から作られており、私たちは化学物質の中で生きていくと捉えることができる。この講義では、人類の生活と関わりの深い化学物質について説明する。まず、原子・分子レベルで、次に化合物レベルで化学物質とは何かについて考え、化学物質の構造と性質について学ぶ。そして、私たちの身の回りに存在する化学物質の具体例について、化学的観点から理解を深めることを目標とする。

到達目標:

- ・ 化学の基礎について理解する。
- ・ 身の回りの化学物質に対して関心を持ち、知識・理解を深める。
- ・ 小レポートにおいて、調査内容に対して独自の視点を持つ重要性を理解する。
- ・ グループ発表において、調査の重要性および表現の仕方を会得する。
- ・ グループ発表において、内容に関心を持ち、積極的に討論する姿勢を会得する。

授業方法:

パワーポイントファイルを用いた講義形式、およびグループ発表(1回)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション、物質の科学および化学	初回講義なので、特に準備学習は必要ない。今後の方針について説明する。
2.	「原子」と「元素」、周期律表と電子の軌道	化学の基礎について学習するため、高校レベルでの化学について、できるだけ復習して授業に臨むこと。
3.	放射線の化学	授業内容を整理して復習すること。
4.	色の化学	授業内容を整理して復習すること。
5.	「無機化学」と「有機化学」、有機化学物質の平面構造・立体構造	第1回レポート課題について説明するので、調査・準備を始めること。
6.	「毒」の定義、医薬と毒物の化学	第1回レポート提出。授業内容を整理して復習すること。
7.	化学物質の「疎水性」、疎水性と慢性毒性	グループ発表について説明するので、発表のための調査・準備を始めること。授業内容を整理して復習すること。
8.	農薬、環境ホルモン(内分泌かく乱化学物質)と化学	授業内容を整理して復習すること。グループ発表のための調査・準備。
9.	グループ発表	授業内容を整理して復習すること。グループ発表のための調査・準備をしておくこと。
10.	高分子(タンパク質、DNA)の構造	授業内容を整理して復習すること。
11.	食品の栄養と化学	第2回レポート課題について説明するので、調査・準備を始めること。
12.	酸性和塩基性、洗剤の化学	授業内容を整理して復習すること。
13.	化粧品の化学、酸化還元とパーマ処理	第2回レポート提出。授業内容を整理して復習すること。
14.	繊維の化学	授業内容を整理して復習すること。
15.	遺伝子工学と化学、遺伝子組換え技術	授業内容を整理して復習すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業を通じて、身の回りの化学について関心を持ってもらえたらと思います。授業には真摯な態度で臨んでください。

フィードバックの方法:

レポートなどはコメントを付けて教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	宿題、授業後の感想・まとめの提出	25	到達目標である化学の基礎についての理解、および身の回りの化学物質に対する関心、内容の理解度について評価する。
	小レポート2回	20	課題に対する調査結果のまとめの仕上がりの度および独自の視点について評価する。
	グループ発表	15	グループ発表での自分の役割とその達成度、表現の仕方、討論への積極的参加の度合いを評価する。
	定期試験	40	授業で説明した化学の基礎および身の回りの化学物質に関する知識の理解度により評価する。

教科書:

使用しない。適宜、プリントを配布する。

参考書:

廣瀬千秋 訳, 改訂「実感する化学(上)(下)」, 株式会社エヌ・ティー・エス, 2015
芝原寛泰, 後藤景子 著, 身の回りから見た化学の基礎, 化学同人, 2009
個別のテーマについては、講義中に参考書を紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力, 思考力, プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

E-メール(アドレスは授業で伝える)。授業中および授業後は教室で質問に対応する。

授業テーマ:

高度消費社会の生活環境問題とその原因・対策について

授業の概要:

人間活動がもたらす「自然環境の変化や地球温暖化」、現代社会の「エネルギー問題」を基礎的な科学の視点からとらえるとともに、その解決方法に関して、消費生活、人の健康、都市環境などの身近な生活環境の諸側面から、具体的かつ多面的に考察する。さらに、安全・安心、循環型社会、自然共生社会、低炭素社会という現代の環境問題の新しいとらえ方についても、国際政治や経済面からの最新情報を交えて分かりやすく解説する。

到達目標:

(1) 私たちの生活が地球環境のしくみと分かちがたく結びついていることを科学的に認識する。
(2) ミクロレベルの科学的対応策とマクロレベルの包括的政策の知識があり、理解できる。
(3) 持続可能な社会を形成するにはどうすれば良いのかを討議できる。

授業方法:

基本的に講義形式で授業を行うが、課題(テーマ)を設定し、学生による発表やディスカッションを取り入れて進める。また、理解を助け深めるため、適宜、視聴覚教材やタイムリーな新聞記事などを活用し、解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーションと環境意識チェック (授業の到達目標、具体的な進め方、成績評価の仕方、受講に関する諸注意)	
	2. 消費生活の変化と環境科学についての概観 (グループ発表のテーマについて検討する)	
	3. 現代のエネルギー事情 (既存エネルギーと代替エネルギーの開発)	
	4. 原子力発電とは (原子、核分裂と原子力、原子力発電のしくみ)	
	5. 放射能汚染 (放射線の種類、人体への影響、医療への応用)	担当する課題(テーマ)の発表の準備(配付資料の作成や論点を整理しておく)
	6. 地球温暖化にいたる反応機構(オゾン層破壊、CO2増加)と脱温暖化社会への国際的取り組み	担当する課題(テーマ)の発表の準備(配付資料の作成や論点を整理しておく)
	7. 大気汚染と酸性雨	担当する課題(テーマ)の発表の準備(配付資料の作成や論点を整理しておく)
	8. 自然災害と人間生活 (地震のメカニズム、異常気象)	担当する課題(テーマ)の発表の準備(配付資料の作成や論点を整理しておく)
	9. 四大公害病と私たちの健康 (カドミウム、有機水銀、亜硫酸ガスの影響)	担当する課題(テーマ)の発表の準備(配付資料の作成や論点を整理しておく)
	10. 水俣病発生の科学的過程と医学的被害	担当する課題(テーマ)の発表の準備(配付資料の作成や論点を整理しておく)
	11. 人体と有害物質 (農薬・食品添加物などの化学物質と毒性)	担当する課題(テーマ)の発表の準備(配付資料の作成や論点を整理しておく)
	12. 世界の水環境 (環境汚染と飲料水、パーチャルウォーターと農業)	
	13. 資源の消費と世界の人口・食糧問題	
	14. 自然環境の保全 (生物多様性に影響を与える要因と保全)	
	15. 地球市民のエシカル(倫理的)消費 (フェアトレードとは)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

教科書を使用しないので、配布するプリントや資料にしっかり目を通し、環境省のHPや環境NPO／NGOの公式HP、授業中に提示する環境科学関係のサイトをチェックし、公表された白書や報告書に親しんでおくこと。新聞や雑誌をよく読み、時事問題や環境問題に関心を持ち、クリッピングしておくこと。

フィードバックの方法:

毎回提出するコメントペーパーの質問や意見、要望には、その都度「教室でまとめて対応、解説する」。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50%	積極的な授業参加をはじめ、質問や発言などの授業への貢献度や、毎回の授業後に提出するコメントペーパーの内容により評価する。 発表の準備学習やその達成度、およびプレゼンテーションの態度・意欲を評価する。 生活環境問題に関する科学的知識の理解度と、どの程度独自の視点があるかを基準とする。
	発表	30%	
	期末レポート	20%	

教科書:

特に定めない。プリントや資料を配布する。

参考書:

環境省編「環境白書」
環境省編「図で見る環境・循環型社会・生物多様性白書」

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメールを利用

授業テーマ:

「科学と戦争・倫理」「科学の歴史」2つのテーマを取り上げることで、科学と社会のより良い関わりを考えます。
20世紀を振り返ってみると、科学技術は2つの顔を持っていることがよく理解できます。1つは、人類が生み出した最高級の知識であり、福祉や物質的豊かさ・経済発展に貢献してきたプラスの顔。もう1つは、戦争・核兵器・環境問題・公害・医療過誤・薬害・優生学・人体実験などのマイナスをもたらしてきた顔です。
また、科学史を文明ごとにとらえてみると、古代ギリシア科学、アラビア(イスラム)科学、インド科学、中国科学、さらに16、17世紀に西欧で成立した近代科学(代表的な科学者はニュートン)など、多様なテーマを持っています。
過去を知ることを通じて、みなさんのこれからの未来の社会と科学のより良い関係を模索する「科学史・科学論」の授業とさせていただきます。歴史を学ぶ意義は、「人間の優れた歩みを継承するとともに、過去の過ちを繰り返さないようにすること」にあります。

授業の概要:

本講義は、前半の「科学と戦争・倫理」で取り上げる科学の戦争利用や生命倫理(出生前診断や安楽死)、および後半の「科学の歴史」の2つのテーマを通じて、過去・現在・未来の科学と社会の関係を考えることで、科学技術のプラス面をより活かし、マイナス面をより少なくするにはどうしたら良いかを考察したいと思います。

- ◆単位取得には、出席10回以上と学期末レポートの提出が必要です。
- ・本講義では平和構築に関する基礎的な知識が必要なため、「平和学」の解説にも時間を割きます。
 - ・新しい講義テーマの導入、学生の議論の進捗状況などによって、講義内容が一部変動することがあります。
 - ・学生同士の意見交換の機会もできる範囲で多く持つので、積極的に参加してください。有志学生による発表も予定しています。

到達目標:

前半では、科学技術と戦争の関わりや平和学について学ぶことで、「科学の平和利用」について思索を深めることができるようになる。
後半では、天文学の歴史を通じて、人類が生み出してきた科学のありようや、文明の多様性について理解できるようになる。

授業方法:

講義。音楽・スライド・動画を多用します。対話式の授業もあります。希望者は学生発表もできます。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 「ガイダンス」(1) 全講義を概括した授業と、講義内容と単位の取り方などを説明。必ず出席してください。	特になし
2. 「科学と戦争・倫理(1)」科学者はなぜ軍事研究をするのか？	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
3. 「科学と戦争・倫理(2)」 -科学の平和利用を目指して- :平和学の奨め①、トランセンドほか	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
4. 「科学と戦争・倫理(3)」 平和学の奨め②、核開発	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
5. 「科学と戦争・倫理(4)」 平和学の奨め③:科学と法	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
6. 「科学と戦争・倫理(5)」 科学と戦争・まとめ	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
7. 「科学と戦争・倫理(6)」 戦争または生命倫理①	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
8. 「科学と戦争・倫理(7)」 戦争または生命倫理②	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
9. 「科学の歴史(1)」 天文学史(星座・時間・占星術史・こよみ・宇宙論)、 錬金術史からいずれかを講義	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
10. 「科学の歴史(2)」 天文学史:星座または時間	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
11. 「科学の歴史(3)」 天文学史:	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
12. 「科学の歴史(4)」 天文学史	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
13. 「科学・戦争・社会」学生発表(1) 科学技術と戦争・倫理や、社会問題などについて任意の数グループによる発表	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
14. 「科学・戦争・社会」学生発表(2) 科学技術と戦争・倫理や、社会問題などについて任意の数グループによる発表	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
15. まとめ、レポートの注意	前回の復習 学期末レポートの内容を考える

受講者への
メッセージや
アドバイス:

最初の講義で、「ガイダンスプリント」を配布するので必ず出席してください。プリントには講義内容・レポート課題などが書かれています。

フィードバックの
方法:

教室で伝えます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	1回2点×15回＝30点 講義内に感想やまとめを書く時間を設けることがあります。
	レポート2回	70	課題はガイダンスプリント参照してください。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡
方法:

授業の前後に対応します。

授業テーマ:

「性」・「生命」についての科学史
(および学問史・思想史)

授業の概要:

この講義では、「性」・「生命」を対象とし焦点とする科学・学問・思想の歴史と現状を概観する。現在、世界的(グローバル)に支配的な「性」についての学問・思想は、19世紀後半にヨーロッパで登場した。たとえば、進化論者のダーウィンもその出現過程に深く関係している。しかし、19世紀後半の見方も、実は、古代ギリシア・ローマの思想やキリスト教的観念などと拮抗しつつその影響下で展開してきたものである。別な捉え方をするならば、21世紀の日本で生きる私たちの「性」・「生命」は、新しい科学である生物学によって捉えられてはいるが、歴史的な根を持っているということである。その点についてこの講義では考えていく。

到達目標:

目標は4点設定している。
(1)「科学」とは何か、また、科学と社会との関係はどのようになっているかを理解する。
(2)私たちの「性」・「生命」についての考え方や感じ方の現段階での構図を理解する。
(3)その構図がいかに科学や思想と関るかを考える。
(4)その歴史的な系譜を理解する。

授業方法:

講義で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション。「性」・「生命」を主題とするときの問題点。	特にない。
2.	科学、技術、科学技術とは何か。「性」・「生命」を対象とする科学のあり方。科学と社会とのつながり方について。	科学とは何かについて自分なりに言葉化できるようにしておく。
3.	現在、「性」を理解するとき必須である4つの観念。「性」という記号について。①	生物に関わる自分の知識を再確認しておく。
4.	現在、「性」を理解するとき必須である4つの観念。「性」という記号について。②	前回の内容を理解し再確認しておく。
5.	古代ギリシアのエロスの哲学とエロスの神話。	前回の内容を理解し再確認しておく。 西洋の哲学の始まりについて、高校レベルの知識を確認しておく。
6.	古代ギリシア・ローマの生殖論と、体液論という生命理解。	前回の内容を理解し再確認しておく。
7.	キリスト教を軸とする性道德の形成とその内容。	前回の内容を理解し再確認しておく。
8.	「科学革命」という歴史イベントとその意味。「科学革命」と生殖・性理論の革新。	前回の内容を理解し再確認しておく。 ルネサンスについて、高校レベルの知識を確認しておく。
9.	18世紀を中心とする発生をめぐる議論。その混乱的状況と混乱の原因。	前回の内容を理解し再確認しておく。
10.	新しい社会秩序の出現と「生物学」の成立。	前回の内容を理解し再確認しておく。 生物についての知識を再確認しておく。
11.	ダーウィンと「性選択」。	前回の内容を理解し再確認しておく。
12.	クラフト＝エビングと「性倒錯」。	前回の内容を理解し再確認しておく。
13.	フロイトと「精神分析」。(あるいは「性」の発達論)	前回の内容を理解し再確認しておく。
14.	キンゼイ報告と「性の平均像」。	前回の内容を理解し再確認しておく。
15.	エイズの出現と21世紀の「性」・「生命」の構図、および、その構図と科学技術の関連性。まとめ。	前回の内容を理解し再確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

自然科学や生物学の知識を前提とはしません。主題に興味がある場合受講ください。

フィードバックの方法:

さらなる勉強を自分でできるように、関連の書籍等を出来るだけ紹介する。
コメントカードで示された質問などに関しては、次の回にフィードバックする予定。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	85	授業等の理解度。
	授業コメント	15	授業等の理解度と質問内容など。

教科書:

参考書:

廣野喜幸・市野川容孝・林真理編『生命科学の近現代史』(勁草書房)
井上章一・齋藤光・澁谷知美・三橋順子編『性的なことば』(講談社現代新書)
齋藤光『幻想の性 衰弱する身体』(洋泉社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業のある当日に講師控室等で。
また、メールアドレスをはじめに提示する。

授業テーマ:

われわれの身の回りのものを科学する

授業の概要:

私たち人間は科学技術を発展させ産業を興し、資源・エネルギーの利用化を進めるとともに、身の回りに便利な物を開発し、生活を豊かにしてきた。私たち人間にとって科学技術とは何であろうか？科学技術はどのような形でわれわれの日常生活に関わっているのだろうか？生活の中で使われている身近にあるものや、自然現象を通し、科学技術について考えるとともに、科学技術と人間の関係、そして環境への影響についても考える。また、社会で話題となった科学技術に関するテーマについても適宜解説する。

- 到達目標:
- 1 科学技術は身近なものであると認識する

2 ものごとに対して「なぜ」「どうして」と疑問をもつようにする

3 日常使うものの成り立ちやそこに含まれる成分を調べるようにする

4 宣伝やコマーシャルに惑わされずに客観的に判断できる力を身につける

授業方法:

液晶プロジェクターにより講義する。テーマによりDVDも使用する。適宜プリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	「科学と技術、科学技術」とは何か。科学と技術、科学技術の歴史	自分にとっての科学技術とは何か、考えてみよう。
2.	「光エネルギー・自然の恵み」 1.植物の光合成活動	植物の光合成が私たちの生活にどのような影響を与えているのか考えてみよう。
3.	「光エネルギー・自然の恵み」 2.デンプン：植物の贈り物	日常食べている食品でデンプン由来のものは何か調べてみよう。
4.	「光エネルギー・自然の恵み」 3.植物繊維の利用	植物由来の繊維にはどのようなものがあるのか調べてみよう。
5.	「身の回りを科学する～水～」 1.おいしい水とは何か？	水の中にはどんな成分が含まれているのか調べてみよう。
6.	「身の回りを科学する～水～」 2.石けんを科学する	毎日使っている石けんや洗剤の成分を調べてみよう。
7.	「身の回りを科学する～水～」 3.化粧品の科学	日常使っている化粧品には何が成分として含まれているのか調べてみよう。
8.	「身の回りを科学する～水～」 4.皮膚と髪科学	自分の肌や髪についてその組織や作りについて調べてみよう。
9.	「身の回りを科学する～地～」 地球の鉱物資源	身の回りにある鉱物資源は何か調べてみよう。
10.	「身の回りを科学する～色～」 光と色の科学・天然の色素	ものの見え方について調べてみよう。
11.	「身の回りを科学する～生命～」 1.酒酔いの遺伝子と日本人の歴史	アルコールが脳に与える影響について調べてみよう。
12.	「身の回りを科学する～生命～」 2.革命的な技術：PCRをめぐる話題	私たちの遺伝情報を担う細胞核とミトコンドリアについて調べてみよう。
13.	「身の回りを科学する～生命～」 3.組換え作物は安全か？	遺伝子組換え作物の成り立ちについて理解するとともに遺伝子組換え食品の安全性について考えてみよう。
14.	「身の回りを科学する～生命～」 4.未来の医療技術	私たちの体を形作る細胞について調べてみよう。
15.	「身の回りを科学する～環境～」 環境問題と再生資源の利用	日常生活の中でどれくらいのゴミを出しているのか調べてみよう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

科学や技術は決して私たちの生活と無縁のものではありません。普段使っている身の回りのものにも科学や技術が応用されていることが多く、その原理や仕組みを知ることにより一層便利になることもあります。「科学技術」と言う難しい言葉にとらわれることなく、なぜ？どうして？と言う疑問をもつことから賢く生きるための考え方を身につけてほしいと思います。

フィードバックの方法:

授業時間内の質問は次回授業のはじめにまとめて回答・解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	45%	授業を通して学んだ日常身の回りにあるものの成り立ち、そこに含まれる成分は何か、どのような長所や欠点があるのか等について理解できているか判断する。
	出席及び授業時間内でのレポート提出	55%	授業時間内での質問に対する回答、また疑問に思ったことや感想などで授業理解度を評価する。

教科書:

参考書:

竹内 啓「科学技術・地球システム・人間」(岩波書店、2001)
高月 紘・仲上健一・佐々木佳代編「現代環境論」(有斐閣ブックス、1996)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメールで対応する。

授業テーマ： パーソナリティの心理学

授業の概要： 人格(personality)とは、個人の行動の特徴を記述するための手がかりであり、主に個人の社会的・対外的な行動の側面を処理するために用いられる予測変数である。私たちは、日常生活の中で常に他人の感情状態や行動傾向を予測することで社会的な対人関係を円滑に進めている。この予測過程は、意識的に行われることは少なく、第一印象や先入観により形成されるものである。

到達目標： この講義では、人を描写するために必要とされるパーソナリティの基本的次元の概説を行うとともに、自分らしさの確立に関わるアイデンティティの諸問題を考察する。

授業方法： パーソナリティがダイナミックに形成される過程について概説するとともに、誤った測定法がもたらす問題点についても紹介する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	パーソナリティとペルソナ	S. J. グールド「人間の測りまちがい―差別の科学史」人間の測りまちがい(河出書房)、「心理テスト」はウソでした。
2.	パーソナリティの測定	地上最大のショウ [DVD]
3.	人間の測り間違い	心理学への招待 19. 状況の力, es [DVD]
4.	万人共通表現	パーソナリティを科学する(白揚社)
5.	基本的帰属錯誤	エディプス王(LD)
6.	20世紀のパーソナリティ理論	アイデンティティとライフサイクル(エリクソン)
7.	特性論(Big Five)	モラトリアム人間の時代(小此木啓吾)
8.	分析的心理学	フック(DVD)
9.	エディプス・コンプレックス	ダン・カイル「ピーター・パンシンドローム」
10.	自我防衛のメカニズム	関谷透「お母さんはもうがまんできない！」
11.	コンプレックス(複合体)	清水 将之 青い鳥症候群―偏差値エリートの末路
12.	自己同一性(Identity)	
13.	ピーター・パン・シンドローム	
14.	アイデンティティ・クライシス	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス： フィードバックの方法： パーソナリティがダイナミックに形成される過程について概説するとともに、誤った測定法がもたらす問題点についても紹介する。また、アイデンティティの形成における、人生の節目の役割を古今の文学作品における人間描写を参考にして解説する予定である。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験の結果	70	記述式問題を出題する
	積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標アイデンティティの理解ができるようになったか評価する

教科書：

参考書： グールド 『人間の測りまちがい―差別の科学史』河出書房新社
ソポクレス『オイディプス王・アンティゴネ』新潮文庫
角野栄子 『魔女の宅急便』
ディケンズ『クリスマス・キャロル』岩波少年文庫
メーテルリンク『青い鳥』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法： 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	不安とストレス		
授業の概要:	臨床心理学は、人間の「こころ」を直接の対象として、こころの健康の問題について扱う実践的な領域である。本講では、まず、こころの機能の正常と異常の概念を紹介し、その後、不安障害を中心として、こころの健康を脅かす諸問題(とくに不安とストレス)についての理論と応用について概説する。		
到達目標:	こころの健康についての認知を高める		
授業方法:	講義という性格上、臨床心理の実践面については扱うことができないので、概説的な内容が中心となる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 正常な分布とプレッシャー	臨床心理学入門シリーズ(VHS)	
	2. 心理療法の過去	ホーソーン「緋文字」 ブリューゲル「バベルの塔」	
	3. 異常心理と障害	「心理学への招待 23. 健康、精神、および行動(VHS)」	
	4. 不安を測る	奇妙な論理(早川書房)、超常現象をなぜ信じるのか(ブルーバックス)	
	5. 不安障害の基礎	パニック障害(健康ライブラリー イラスト版)	
	6. DSM-5:発達障害と臨床症状	DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』医学書院	
	7. DSM-5:人格障害など	脳の栄養失調(ブルーバックス) 僕は友達が少ない	
	8. 不安障害の臨床	西部戦線異状なし(DVD)、 レナードの朝(DVD)、アルジャーノンに花束を	
	9. 不安障害(恐怖症)	「あがり」を克服する(音楽之友社)	
	10. 不安障害(パニック障害)	悲しい本(あかね書房)	
	11. 不安障害(強迫性障害)	マクベス(DVD)、サイコ(DVD)、鳥(DVD)	
	12. PTSD 後外傷性ストレス障害	フォレスト・ガンプ(DVD)、 人質—イラク人質事件の嘘と実(ポプラ社)	
	13. 現代生活とストレス	ストレスの不思議(ナショナルジオグラフィック)	
	14. ストレスの測定と対処	現代社会とストレス(法政大学出版局)	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	異常心理を扱った文学作品は『マクベス』をはじめ数多く書かれている。また、作品に基づいて制作された映画も多数存在する。これらの必要な作品については各講義において紹介するとともに、翌週のテーマを予告する。また、AVライブラリーに所蔵されているビデオ教材についても、とくに参考文献に挙げた教材の他にEMDRや発達障害に関するものは視聴する必要がある。		
フィードバックの方法:	出席票に質問欄を用意しています。各回の疑問点については翌週に解説します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験の結果	70	記述式問題を出題する
	積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標不安障害の臨床が理解できるようになったか評価する
教科書:			
参考書:	現代社会とストレス(法政大学出版局) やさしくわかる「パーソナリティ障害」(ナツメ社) 「あがり」を克服する(音楽之友社)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	現代社会の仕組みと問題点		
授業の概要:	日常生活の中で、我々が法を直接意識することは稀です。しかし、法は日常生活のほとんどすべての領域を規制しているのであって、法についての知識は社会生活に不可欠だといえます。特に憲法は法の基本原理を定めた法であり、国のあり方を定めた法ですから、憲法について理解することはなおさら必要であるといえるでしょう。本講義では、憲法に関連する幾つかのトピックを取り上げます。憲法そのものだけでなく、関連する法律をも扱うことになるでしょう。そうすることで現在社会の全体的な仕組みや問題について学ぶことが可能になります。授業で憲法上の被疑者・被告人の権利を扱いますが、それに関連して、現実の裁判の傍聴のレポートを課す予定です。具体的な授業計画は以下に示しますが、進度などにより適宜変更はあります。また、憲法に関連する新たな社会的問題が発生した場合や重要な判決が下された場合には、それらを優先して授業で取り扱うこともあるでしょう。		
到達目標:	憲法及び法の仕組みの理解 批判的に検討する能力		
授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション(法の体系・憲法・立憲主義)		
	2. 憲法とは何か・憲法の成立をめぐる問題(1)	前回の授業内容を理解しておく必要がある	
	3. 憲法の成立をめぐる問題(2)		
	4. 憲法の基本原理(1)(9条解釈と重要影響事態安全確保法)	事前に調べておくべきことを前の授業で指示する	
	5. 憲法の基本原理(2)(国民主権と人権)	事前に調べておくべきことを前の授業で指示する	
	6. 補論:国際人権(大規模な人権侵害があった場合)(1)	事前に調べておくべきことを前の授業で指示する	
	7. 補論:国際人権(大規模な人権侵害があった場合)(2)		
	8. 捜査・裁判と憲法上の被疑者・被告人の権利(1)	立憲主義とは何か、について以前の授業内容を理解しておく必要がある	
	9. 捜査・裁判と憲法上の被疑者・被告人の権利(2)		
	10. 捜査・裁判と憲法上の被疑者・被告人の権利(3)		
	11. 捜査・裁判と憲法上の被疑者・被告人の権利(4)		
	12. 憲法における幸福追求権と家族	事前に調べておくべきことを前の授業で指示する	
	13. 憲法における平等権と家族(1)		
	14. 憲法における平等権と家族2)	事前に調べておくべきことを前の授業で指示する	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	単に大学生としての教養の為だけではなく、法は社会の動きにかかわるものですから、日常的に新聞を読むことが必要です。		
フィードバックの方法:	あまり機会はないと思うが、授業中に提出物を求めた場合には、後の授業においてまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80	憲法及び法の仕組みをどの程度理解しているか、及びどの程度正確に説明できているか 批判的に検討する能力
	レポート	20	課題に十分に応えているか否か
教科書:			
参考書:	竹下 賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也編『入門法学-現代社会に生きる法・活かす人権-(第四版)』(晃洋書房、2014年) 青井未帆『憲法を守るのは誰か』(幻冬舎ルネッサンス新書、2013年) 後藤昭『わたしたちと裁判』(岩波ジュニア新書、2006年) 木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』(星海社新書、2012年) 今村核『冤罪と裁判』(講談社現代新書、2012年) 二宮周平『家族と法』(岩波新書、2007年) 角田由紀子『性と法律』(岩波新書、2013年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

危機に立つ日本国憲法と改憲のいくえ

授業の概要:

21世紀が新たに刻まれていく中、日本国憲法が施行(1947年5月3日)されてからすでに70年が経過する。2001年9月11日のアメリカでの同時多発テロ事件以後の日本の対応の中で、2004年からのイラクへの自衛隊派遣を含め、憲法第9条がさらに空洞化し、改憲の危機に瀕している。2007年5月には憲法改正の手続についての国民投票法も成立した(2010年施行)。2014年7月1日には集団的自衛権行使の解釈変更の閣議決定がなされ、それにともない2015年9月19日安保関連法も成立した。本講は、最近の改憲論議を整理・検討するとともにこの半世紀を越える重みの中での日本国憲法の存在意識を考えることをメインテーマとしたい。と同時に、改憲のいくえや憲法を通じて私たちはこの21世紀をどう生きるかということも考えてみたい。日本国憲法は人権規定と統治機構(三権分立)に大きく分けられるが、前者を中心に講義する中から憲法の全体像に迫っていく。

到達目標:

近代欧米市民革命の成果としての近代憲法のエッセンスを日本の新・旧憲法の比較の中から把握し、改憲とは何かを考える。

授業方法:

講義形式をとって毎回授業を行うが、必要に応じて日本国憲法への理解を深めるためのビデオ教材も使用する。そのビデオ教材は一度で見せず、3回くらいに分けて解説やコメントを入れながら見せる予定である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	憲法とは？(1)近代立憲主義の歴史	憲法にかかわるニュースに注目し、テレビや新聞でチェックし、新聞記事はコピーして講義ノートに貼り付けるなど資料を自分で集める努力を行うこと。テキストは指摘箇所を中心に何度もくり返し読むこと。
2.	憲法とは？(2)日本の新・旧憲法	テキスト 第1章・プロローグの4
3.	ビデオ学習『日本国憲法を生んだ密室の9日間』(1)―なぜGHQが日本国憲法の草案を手がけなければならなかったのか？―	テキスト 第1章・2章
4.	ビデオ学習『日本国憲法を生んだ密室の9日間』(2)―象徴天皇制、そして第9条の由来は？―	テキスト 第1章・2章
5.	ビデオ学習『日本国憲法を生んだ密室の9日間』(3)―男女平等はだれが書いたのか？―	テキスト 第1章・2章
6.	日本国憲法の三大特色(国民主権・平和主義・基本的人権の尊重)	テキスト 第1章
7.	基本的人権とは？(1)人権総論・人権成立の歴史(1945以前)	テキスト 第1章
8.	基本的人権とは？(2)人権総論・人権成立の歴史(1945以後)	テキスト 第1章
9.	女性の権利(平等権を中心に)(1)ベアテ草案と14条・24条	テキスト 第1章・7章の3
10.	女性の権利(平等権を中心に)(2)条約・憲法・法律の中での女性の権利	テキスト 第1章
11.	三権分立(とりわけ司法権の独立・違憲立法審査権)(1)9条平和主義を中心に	テキスト 第1章
12.	三権分立(とりわけ司法権の独立・違憲立法審査権)(2)25条生存権を中心に	テキスト 第1章
13.	国際平和と日本(1)憲法第9条には何が書かれているか？	テキスト 第2章
14.	国際平和と日本(2)自衛隊・安保条約・PKO・日本の国際貢献	テキスト 第2章
15.	国際平和と日本(3)9条の行くえ・日本はどこへいくのか？	テキスト 第2章

受講者へのメッセージやアドバイス:

暗記ではなく、「憲法とは何か？」ということを念頭に憲法を通じて考えること。

フィードバックの方法:

講義時の理解度を含め質問や対話の時間(5分前後)を毎回設定予定。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	憲法とは何かという基本的なテーマを踏まえて、設問に的確にこたえているか、憲法の知識は正確か、論理的内容か、自分の考えをしっかりと論じているか、などの点が評価基準です。
	授業中に書ける程度のレポート(1〜2回)	20%	ビデオを通じて、内容を正確に把握しているか、そして内容に対して自分はどう考えるかを論理的に記述できているかを評価基準とします。

教科書:

竹下・沼口・角田・竹村編著『第4版入門法学-現代社会の羅針盤-』(晃洋書房、2014年)

参考書:

講義の中でその都度紹介していくが、芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第五版』(岩波書店)は好著。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

講義終了後に、勉強の仕方や説明に時間のかかる質問等に答える。

授業テーマ:

国際的人権保障の成立と展開

授業の概要:

国際社会の法的枠組として国際法が存在するが、その「国際法とは何か」ということから出発して国際法の基礎についての説明を行い、それを土台として国際人権保障の成立と展開に焦点を絞って講義を進めていく。人権の国際化(国際人権保障)は、1945年(第二次世界大戦の終了)以後国際連合を中心に推進されていくが、21世紀はとりわけ「平和と人権」の世紀であるべきである。
平和なくして人権なく、人権なくして平和もないということを心に刻んで、国際社会と法をめぐる諸問題を考えていきたい。

到達目標:

自分の基軸を発見し、国際社会を法的視点から分析したり判断する基礎力・応用力を養う。

授業方法:

講義形式をとって毎回授業を行うが、必要に応じて簡単な質問をしたりして、受講生の理解度を確認しながら進めていくこともある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに(20世紀から21世紀の世界＝国際社会へ)	講義形式をとって毎回授業を行うが、必要に応じて簡単な質問をしたりして、受講生の理解度を確認しながら進めていくこともある。
2.	国際法とは？(1): 法とは何か？	〃
3.	国際法とは？(2): 条約とは？	〃
4.	国際法の主体(1): 近代国家とは？	〃
5.	国際法の主体(2): 主権とは？	〃
6.	国際法の法源	〃
7.	国際法と国内法(条約と憲法)	〃
8.	国際人権への道(1): 人権とは？	〃
9.	国際人権への道(2): 人権の成立・発展	〃
10.	国際人権への道(3): 人権の国際化	〃
11.	国際人権への道(4): 人権の基礎にあるもの	〃
12.	国際人権の保障(1): 国際連合のしくみと働き	〃
13.	国際人権の保障(2): 国連人権理事会	〃
14.	国際人権の保障(3): 「平和と人権」の実現にむけて	〃
15.	まとめ:これからの国際社会の展望	

受講者へのメッセージやアドバイス:

現代社会のさまざまなできごとやニュースに関心を持ち、それを法の視点から考えること。

フィードバックの方法:

講義時の理解度を含め質問や対話の時間を毎回5～10分程度設定予定。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	国際法とは何かという基本的なテーマを踏まえて、設問に的確にこたえているか、国際法の知識は正確か、論理的内容か、自分の考えをしっかりと論じているか、などの点が評価基準です。
	授業中に書ける程度のレポート(1～2回)	20%	ビデオを通じて、内容を正確に把握しているか、そして内容に対して自分はどう考えるかを論理的に記述できているかを評価基準とします。

教科書:

特に指定しない。

参考書:

法や人権への導入として、竹下・沼口・角田・竹村編『第4版入門法学-現代社会の羅針盤-』(晃洋書房, 2014年)は好著。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

講義終了後に、勉強の仕方や説明に時間のかかる質問等に答える。

授業テーマ:	正義・権利・人権とは何か？		
授業の概要:	現代社会は、法という枠組によって、その市民生活が営まれている。法の役割は社会秩序の維持であり、正義の実現であり、豊かな社会の設計である。我々の市民生活にとって法の果たす役割は大きい。 本講は、「法とは何か」という法学の基本命題を軸に、法学の世界へ受講生を誘っていく。市民生活にとっていかに法が必要不可欠なものであるかを、具体的な法をめぐる諸問題をとりあつかいながら考えていきたい。		
到達目標:	法的思考方法を学び、自分の言葉で「法とは何か」を考えていく力を養う。		
授業方法:	講義形式をとって毎回授業を行うが、必要に応じて法への理解を深めるため死刑制度や裁判員制度等のビデオ教材も使用する。なお、簡単な質問をしたりして、受講生の理解度を確認しながら進めていくこともある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 法とは何か？I (六法・法と社会)	法律にかかわるニュースに注目し、新聞や雑誌のコピーなどをノートに貼って講義ノートを充実させること。テキストは指摘箇所を中心に何度もくりかえし読むこと。 テキスト プロローグの1・2	
	2. 法とは何か？II (法の定義)	テキスト プロローグの1・2	
	3. 裁判と法I (刑事裁判・刑法とは？)	テキスト プロローグの1・2	
	4. 裁判と法II (少年法・犯罪被害者基本法)	テキスト 第5章	
	5. 裁判と法III (死刑制度・冤罪)	テキスト 第4章・5章	
	6. 裁判と法IV (民事裁判・民法とは？)	テキスト 第3章・5章	
	7. 裁判と法V (裁判員制度とは？)	テキスト 第5章の3	
	8. 裁判と法VI (裁判員制度の意義)	テキスト 第5章の3	
	9. 生命と法I (生殖技術・代理母)	テキスト 第7章の1	
	10. 生命と法II (脳死・臓器移植・安楽死・尊厳死)	テキスト 第7章の1	
	11. 女性の権利I (人権とは？)	テキスト 第1章・2章・3章	
	12. 女性の権利II (改正男女雇用機会均等法)	テキスト 第1章・2章・3章・7章の3	
	13. 女性の権利III (夫婦別姓問題)	テキスト 第1章・2章・3章・7章の3	
	14. 法と正義・法と道徳(1)	テキスト プロローグの1・2・3	
	15. 法と正義・法と道徳(2)	テキスト プロローグの1・2・3	
受講者へのメッセージやアドバイス:	知識の暗記ではなく、「法とは何か」という基本テーマを念頭に法学を通じて考えることを心がけること。		
フィードバックの方法:	講義時の理解度を含め質問や対話の時間を毎回5～10分程度設定予定。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80%	法とは何かという基本的なテーマを踏まえて、設問に的確にこたえているか、法的知識は正確か、論理的内容か、自分の考えをしっかりと論じているか、などの点が評価基準です。
	授業中に書ける程度のレポート(1～2回)	20%	ビデオを通じて、内容を正確に把握しているか、そして内容に対して自分はどう考えるかを論理的に記述できているかを評価基準とします。
教科書:	竹下・沼口・角田・竹村編著『第4版入門法学-現代社会の羅針盤-』(晃洋書房、2014年)		
参考書:	講義の中で、その都度紹介していく。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	講義終了後に、勉強の仕方や説明に時間のかかる質問等に答える。		

授業テーマ:

授業の概要: 近代日本にとって最も重要とされる米国との関係の歴史を事例に、日本をとりまく国際関係の現実を論じる。幕末の開国以来150余年の我が国の対外関係の歴史は、米国及び中国と密接に関わっており、東アジアにおける日米中の相関関係の観点からとらえることに力点を置く。すなわち、ペリー来航の19世紀後半から冷戦の20世紀後半までの東アジアの国際関係に焦点をあてて、重要な内政上の変化も説明して外交と内政の関連の面から論じる。対外政策の変化と持続は内政と関連づけることで理解できるからである。

到達目標: 1、近代日本をとりまく国際関係を歴史的事実に基づいて理解すること。
2、日米関係を中国問題や内政との関連をふまえて把握すること。
3、今後の我が国の針路を近代日本の対外関係の歴史に基づいて考察すること。

授業方法: 講義形式で行うが、出席者を指名して発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. 序論: 日米関係150年の概要 2. 幕末期の日米関係: ペリー来航と条約締結 3. 幕末期の日米関係: 西欧列国と米国の対日態度 4. 明治国家の形成とアメリカ: 岩倉使節 5. 明治国家の形成とアメリカ: 条約改正交渉 6. 明治国家の形成とアメリカ: 日清戦争とアメリカ 7. 明治国家の形成とアメリカ: 文化・経済関係 8. 転換期の日米関係: 大国としての日本、米国 9. 転換期の日米関係: アジアをめぐる対立 10. 転換期の日米関係: 日本人移民問題 11. ワシントン体制の形成と動揺: 第1次大戦後の戦後体制と日米関係 12. ワシントン体制の形成と動揺: 対米協調の台頭 13. ワシントン体制の形成と動揺: 通商・金融関係の緊密化と外交関係の安定 14. ワシントン体制の形成と動揺: 移民問題のその後 15. まとめ		事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。 事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。 事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。 事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。 事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。 事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。 事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。 事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。 事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業中の入退室、飲食、私語、携帯電話・スマートフォンの使用などを控えること。広い教室の場合、着席できる範囲を前寄りの方に限定する。

フィードバックの方法: 提出物については教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	70%	到達目標1及び2に関する知識と理解度により評価する。
	授業への参加度	30%	準備学習をした上で出席して質疑応答に積極的に参加することを評価する。

教科書: 教科書はなし。レジュメと地図などの資料を事前に配布する。

参考書: 図書館に所蔵しているものとしては五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、変化対応力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

授業の概要: 近代日本にとって最も重要とされる米国との関係の歴史を事例に、日本をとりまく国際関係の現実を論じる。幕末の開国以来150余年の我が国の対外関係の歴史は、米国及び中国と密接に関わっており、東アジアにおける日米中の相関関係の観点からとらえることに力点を置く。すなわち、ペリー来航の19世紀後半から冷戦の20世紀後半までの東アジアの国際関係に焦点をあてて、重要な内政上の変化も説明して外交と内政の関連の面から論じる。対外政策の変化と持続は内政と関連づけることによって理解できるからである。

到達目標: 1、近代日本をとりまく国際関係を歴史的事実に基づいて理解すること。
2、日米関係を中国問題や内政との関連をふまえて把握すること。
3、今後の我が国の針路を近代日本の対外関係の歴史に基づいて考察すること。

授業方法: 講義形式で行うが、出席者を指名して発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論: 日米関係150年の概要	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
2.	日米対決への道: 満洲事変の発生と日米対立の深化	
3.	日米対決への道: 地域主義の台頭	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
4.	日米対決への道: 中国・南方への進出と米国	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
5.	日米対決への道: 日米交渉	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
6.	日米戦争と占領: 日米開戦と戦争の経緯	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
7.	日米戦争と占領: 敗戦と占領	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
8.	日米戦争と占領: 占領下の諸改革	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
9.	日米同盟の形成と展開: サンフランシスコ講和会議と独立	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
10.	日米同盟の形成と展開: 日米安全保障条約の締結と改訂	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
11.	日米同盟の形成と展開: 沖縄問題	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
12.	戦後日米経済関係: 日米繊維紛争	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
13.	戦後日米経済関係: ニクソン・ショックと石油危機	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
14.	戦後日米経済関係: 日米通商摩擦	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業中の入退室、飲食、私語、携帯電話・スマートフォンの使用などを控えること。広い教室の場合、着席できる範囲を前寄りの方に限定する。

フィードバックの方法: 提出物については教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	70%	到達目標1及び2に関する知識と理解度により評価する。
	授業への参加度	30%	準備学習をした上で出席して質疑応答に積極的に参加することを評価する。

教科書: 教科書はなし。レジュメと地図などの資料を事前に配布する。

参考書: 図書館に所蔵しているものとしては五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、変化対応力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

真に豊かな世界と日本の経済社会の確立をめざして

授業の概要:

欧米や日本の企業の中には、多くの国にまたがって企業活動を行う多国籍企業も多い。多国籍企業は、資金・技術・資本・制度など企業活動に有利な条件を求めて世界中に進出している。このように、「モノ・カネ・ヒト」が地球規模で移動し、各国経済の開放体制と世界経済の統合化が進む現象をグローバル化という。当現象は、人間生活を豊かにしてくれる反面、貧富の差の拡大や社会の不安定性の増大、地球環境の破壊にもつながっている。
本講義では、真に豊かな世界と日本の経済社会の確立をめざして、下記のように、(1)現代経済のしくみ、(2)現代の日本 経済の実態と課題、(3)現代の世界経済の実態と課題について明らかにする。

到達目標:

本講義を通して、世界と日本の経済問題に対する理解を深めるとともに、それに対する的確な問題意識と科学的な認識力および実践力を養う。

授業方法:

(1)講義形式で授業を行う。その際、理解を助けるため、適宜、経済社会問題関連のビデオを視聴したり、新聞記事切抜きなどの資料を配布し解説したりする。
(2)授業を前半と後半に分けて、それぞれ1回ずつ授業関連の基礎的論文を採り上げ、その内容のまとめと批評のレポート作成を課す。これは、準備・補充の主体的学習にも通じる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	* 配布し説明したシラバスおよび「レポートの課題とレポートの提出期限」の資料の復習・再確認。 * 説明しなかった就活情報関連の新聞記事の通読・予習 * 口頭での補足説明を再確認。 * 左記補講(1)～(3)関連の新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り。
2.	「国際社会と経済A」の問題意識と方法と課題 補講(1)就活状況について、(2)大学生活の過ごし方や諸注意、(3)ブラックアルバイについて	(1)授業前半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。 (2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。
3.	経済主体と経済の循環 (1)三つの経済主体	(1)授業前半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。 (2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。
4.	経済主体と経済の循環 (2)経済の循環	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
5.	世界経済社会の変容 (1)資本主義経済の特徴・資本主義の成立と発展	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
6.	世界経済社会の変容 (2)社会主義の出現・資本主義経済の変容	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
7.	現代の市場と企業 (1)市場の機能と限界	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
8.	現代の市場と企業 (2)現代の企業	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。 上記(1)の前半の課題については、次週レポートの提出。
9.	現代日本の雇用・格差労働問題とワーキングプア	(1)授業後半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。 (2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。
10.	現代日本の人手不足・長時間労働問題とワーク・ライフ・バランス社会の形成	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
11.	現代日本の女性問題(ジェンダー)と男女共同参画社会の形成	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
12.	国内産食料の安全性問題と安全・安心確保対策	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
13.	輸入食料の安全性問題と安全・安心確保対策	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
14.	現代日本の消費者問題	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
15.	総括 真に豊かな世界と日本の経済社会の確立をめざして	上記(1)の後半の課題については、当日レポートの提出。

受講者へのメッセージやアドバイス:

(1)一夜漬けで丸暗記した知識や理論は、テストで良い点を取るのに役立ちますが、思考力や創造力などの向上には繋がりません。筆記をしながら、理解する努力を積み重ねて頭に刻み込まれた知識や理論は思考力や創造力の向上に繋がるとともに、問題解決や新しいものを創造する力にもなります。そこに学びの喜びがあり楽しみがあります。時間を掛けて理解する個人的な努力を怠らないで下さい。
(2)授業では、大事なことをメモしながら聴講する習慣を身に付けて下さい。集中力を維持し居眠りも防ぐことができます。

フィードバックの方法:

成績評価した各自の2つのレポートおよびノートは、成績公表後に、研究室前に長机および表示付きのカゴを置いて一括返却いたします。当カゴは科目別・学科別・専攻別・学籍番号別に分類され設置されていますので、容易に各自の提出物を一括して取り出すことができます。
受け取りに来ずに長期間放置されている場合は、督促状を出します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	(1)2つのレポートのまとめ	30%	(1)タイトルと目次の作成、(2)まとめ(各節ごとに要点の箇条書きや模式図を用いて/文章の丸写しはダメ/まとめ用紙枚数に上限なし)、当内容の質(的確さや簡単明瞭など)と量で評価。
	(2)2つのレポのコメント・感想	20%	内容の質(的確さや独自性など)と量(文章4～5行では短すぎる。できるだけ半ページ以上。行数に上限なし。)
	(3)ノートのメモ・板書	10%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(4)ノートのビデオのメモ・感想	15%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(5)ノートの資料の線引精読	10%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(6)出席とノート提出	15%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。

教科書:

教科書は使用しない。講義資料は、適宜、授業中に配布する。

参考書:

三橋則宏・内田茂男・池田吉紀著『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社
伊藤元重著『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社

当該編集委員会編『ニュース解説室へようこそ！』清水書院
伊藤セツ・川島美保共編著『三訂 消費生活経済学』光生館、2008年
日本農業市場学会編『食料・農産物の流通と市場Ⅱ』筑波書房、2008年
藤島廣二・安部新一・宮部和幸・岩崎邦彦共著『新版 食料・農産物流通論』筑波書房、2012年

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内や研究室内で対応。

授業テーマ:

真に豊かな世界と日本の経済社会の確立をめざして

授業の概要:

欧米や日本の企業の中には、多くの国にまたがって企業活動を行う多国籍企業も多い。多国籍企業は、資金・技術・資本・制度など企業活動に有利な条件を求めて世界中に進出している。このように、「モノ・カネ・ヒト」が地球規模で移動し、各国経済の開放体制と世界経済の統合化が進む現象をグローバル化という。当現象は、人間生活を豊かにしてくれる反面、貧富の差の拡大や社会の不安定性の増大、地球環境の破壊にもつながっている。
本講義では、真に豊かな世界と日本の経済社会の確立をめざして、下記のように、(1)現代経済のしくみ、(2)現代の日本 経済の実態と課題、(3)現代の世界経済の実態と課題について明らかにする。

到達目標:

本講義を通して、世界と日本の経済問題に対する理解を深めるとともに、それに対する的確な問題意識と科学的な認識力および実践力を養う。

授業方法:

(1)講義形式で授業を行う。その際、理解を助けるため、適宜、経済社会問題関連のビデオを視聴したり、新聞記事切抜きなどの資料を配布し解説したりする。
(2)授業を前半と後半に分けて、それぞれ1回ずつ授業関連の基礎的論文を採り上げ、その内容のまとめと批評のレポート作成を課す。これは、準備・補充の主体的学習にも通じる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	* 配布し説明したシラバスおよび「レポートの課題とレポートの提出期限」の資料の復習・再確認。 * 説明しなかった就活情報関連の新聞記事の通読・予習 * 口頭での補足説明を再確認。
2.	「国際社会と経済B」の問題意識と方法と課題 補講(1)就活状況について	* 左記補講(1)の関連の新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り。 (1)授業前半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。
3.	日本経済の発展と産業構造の変化(1)戦後の復興期・高度経済成長期・第一次石油危機・低成長の時	(2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。
4.	日本経済の発展と産業構造の変化(2)産業構造の変化	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
5.	現代日本の消費者問題 「不安に付け込む就活悪質商法」について	引き続き、上記(1)(2)の課題を追求。 (3)左記関連の新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り。
6.	国際貿易と国際収支の構造(1)貿易の意義と自由貿易	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
7.	国際貿易と国際収支の構造(2)国際収支の構造と国際貿易	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
8.	国際化の進展と通商問題	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
9.	国際経済体制の成立と変容	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。 上記(1)の前半の課題については、次週レポートの提出。
10.	為替相場の格差形成と内外価格差形成の理論	(1)授業後半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。 (2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。
11.	中国等の新興諸国ではどうしてあんなにモノを超格安につくれるのか	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
12.	為替相場の格差形成による内外価格差問題と輸入食品の安全性問題との因果関係	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
13.	世界の食料・農業問題と課題・対策	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
14.	日本の食料・農業問題と課題・対策	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
15.	総括 真に豊かな世界と日本の経済社会の確立をめざして	上記(1)の後半の課題については、当日レポートの提出。

受講者へのメッセージやアドバイス:

(1)一夜漬けで丸暗記した知識や理論は、テストで良い点を取るのに役立ちますが、思考力や創造力などの向上には繋がりません。筆記をしながら、理解する努力を積み重ねて頭に刻み込まれた知識や理論は思考力や創造力の向上に繋がるとともに、問題解決や新しいものを創造する力にもなります。そこに学びの喜びがあり楽しみがあります。時間を掛けて理解する個人的な努力を怠らないで下さい。
(2)授業では、大事なことをメモしながら聴講する習慣を身に付けて下さい。集中力を維持し居眠りも防ぐことができます。

フィードバックの方法:

成績評価した各自の2つのレポートおよびノートは、成績公表後に、研究室前に長机および表示付きのカゴを置いて一括返却いたします。当カゴは科目別・学科別・専攻別・学籍番号別に分類され設置されていますので、容易に各自の提出物を一括して取り出すことができます。
受け取りに來ずに長期間放置されている場合は、督促状を出します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	(1)2つのレポートのまとめ	30%	(1)タイトルと目次の作成、(2)まとめ(各節ごとに要点の箇条書きや模式図を用いて/文章の丸写しはダメ/まとめ用紙枚数に上限なし)、まとめ内容の質(的確さや簡単明瞭など)と量で評価。
	(2)2つのレポートのコメント・感想	20%	内容の質(的確さや独自性など)と量(文章4〜5行では短すぎる。できるだけ半ページ以上。行数に上限なし。)
	(3)ノートのメモ・板書	10%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(4)ノートのビデオのメモ・感想	15%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(5)ノートの資料の線引精読	10%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(6)出席とノート提出	15%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。

教科書:

教科書は使用しない。講義資料は、適宜、授業中に配布する。

参考書:	三橋則宏・内田茂男・池田吉紀著『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社 伊藤元重著『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社 当該編集委員会編『ニュース解説室へようこそ!』清水書院 伊藤セツ・川島美保共編著『三訂 消費生活経済学』光生館、2008年 日本農業市場学会編『食料・農産物の流通と市場Ⅱ』筑波書房、2008年 藤島廣二・安部新一・宮部和幸・岩崎邦彦共著『新版 食料・農産物流通論』筑波書房、2012年
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡 方法:	e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内や研究室内で対応。

授業テーマ:	教育と家族		
授業の概要:	19世紀前半、フランスのオーギュスト・コントの実証哲学によって誕生した社会学は、21世紀を迎えた今、約150年余を経て現代社会を解明するに不可欠な研究分野となった。一方で世界のグローバル化・情報化が進展するに従い、社会学の対象はますます複雑になり細分化されている。いわゆるカール・マンハイムのいう連字符社会学(家族社会学・教育社会学etc.)と呼ばれるものがそれである。本講義ではそうした細分化された個々の社会学の分野を特に教育と家族に焦点を絞り、現代に生きる私達の日常生活とそれがどう結びつくのかを説き明かしたい。また複雑化する人間関係の中で私達がどう生きるべきなのかを模索する道を提示したいとも考えている。		
到達目標:	社会学が統計などに基づく実証的・科学的学問分野であることを理解する。		
授業方法:	視聴覚教材を使用し、問題提議として提示する他、関連資料を配布して理解を深めたい。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 社会学の対象と方法(嘉門達夫で社会学)		
	2. 家族とジェンダー(田嶋陽子の生い立ち)	gender(文化的・社会的性差)とsex(生物学的性差)の違いを、あらかじめ調べておくこと。	
	3. 韓国テレビ・ドラマのステレオ・タイプ(「冬ソナ」を例として)		
	4. 変容する家族(向田邦子のホーム・ドラマを例として)	参考文献『向田邦子と昭和の東京』を読んでおくことが望ましい。	
	5. 核家族の素粒子化(インターネットと携帯電話の功罪)		
	6. 少子・高齢化社会における日本の選択肢(移民の受け入れ?)	移民と難民の違いを調べるとともに、日本における難民認定者数の変遷を知っておくこと。	
	7. 貧富の格差を是正するには(ピケティ「21世紀の資本論」)		
	8. 日本の学校教育の歴史(津田梅子を例として)	津田梅子と大山(旧姓＝山川)捨松の生涯を、それぞれの略歴を調べて比較しておくこと。	
	9. 学歴と学校歴の社会史(特に女子高等教育を巡って)		
	10. 日本における高等教育の現在と未来(大学全入?)	日本の2018年問題とは何か?を調べておくこと。	
	11. 日本の医学の歴史と医師養成の問題点(「白い巨塔」から「ブラックジャック」によるしくへ)		
	12. 看護師・介護士が足りない! (「おひとりさまの老後」を誰が看取るのか?)	介護士不足の最大の原因は何か?を調べておくこと。	
	13. 教育者としての宮澤賢治(父と宗教＝法華経の狭間で)		
	14. 恋愛・結婚・家庭(女医第1号・荻野吟子の生涯)	荻野吟子を通して近代日本の女性の地位および医師養成制度を知っておくこと。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	質問などがあった場合は、各授業終了後に対応する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80%	到達目標の理解度と、到達目標を論理的に説明できているかを基準とする。
	授業への積極的参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標を理解しているかをチェックする。
教科書:	友枝敏雄、山田真茂留【編】『Do! ソシオロジー～現代日本を社会学で診る～[改訂版]』(有斐閣アルマ)		
参考書:	竹内洋『社会学の名著30』(ちくま新書) 鈴木りえこ『超少子化―危機に立つ日本社会』(集英社新書) 山田昌弘『モテる構造―男と女の社会学』(ちくま新書) 川本三郎『向田邦子と昭和の東京』(新潮新書) 中島さおり『なぜフランスでは子どもが増えるのか』(講談社現代新書) トマ・ピケティ【著】、山形浩生、守岡桜、森本正史【訳】『21世紀の資本』(みすず書房) 竹内 洋『立志・苦学・出世―受験生の社会史―』(講談社現代新書) 大庭みな子『津田梅子』(朝日文庫) 川嶋みどり『看護の力』(岩波新書) 渡辺淳一『花埋み』(新潮文庫、角川文庫)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

セクシュアリティとメディア・コミュニケーション(特に映像・音楽)

授業の概要:

私達の日々の生活は、家族・都市・農村・国家といった人間の集団(集合体)を軸に営まれている。一方で情報化社会と言われるように、マス・コミュニケーションの発達による情報の洪水の中で、「甲羅のない蟹」=大衆(D・リースマン)と呼ばれる私達は常に世論操作の危険性にさらされているのが実状である。ギリシアの哲学者アリストテレスの言葉「人間はポリス的(社会的)動物である」に見られるように、社会を抜きにしては生きられない私達は、どのように生きたらよいのか? 私達の身近な問題をとり上げ、VTR・DVDやCD・MDなどを使用して社会と個人との関係を解明することに重点を置いて講義を進めたい。

到達目標:

映像社会学・音楽社会学を通して、現代社会の諸問題(特にジェンダー)を考えるとともに、その解決策を見出す。

授業方法:

視聴覚教材を使用し、関連資料を配布して理解を深めたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 専業主婦かキャリア・ウーマンか(山口百恵と松田聖子)	
	2. トレンディ・ドラマに見る女性の生き方I(柴門ふみ「東京ラブ・ストーリー」をユング心理学で読み解く)	ホーム・ドラマとトレンディ・ドラマの違いを、1990年前後の日本社会の変容から理解しておくこと。
	3. トレンディ・ドラマに見る女性の生き方II(北川悦吏子「愛していると言ってくれ」を例として)	
	4. トレンディ・ドラマに見る女性の生き方III(中園ミホ「やまとなでしこ」を例として)	男女雇用機会均等法が施行された後も、女性の社会参加が先進国の中で遅れている要因について調べておくこと。
	5. セクシュアリティとセックス、ジェンダー(中原中也と長谷川泰子vs立原道造と水戸部アサイ)	
	6. 男性学とフェミニズム(高村[旧姓=長沼]智恵子の生涯)	『智恵子抄』を読み直しておくこと。
	7. 明治・大正・昭和を生きた童謡詩人(金子みすゞの生涯と世界)	
	8. 美人(美女)と美男子(井上章一の「美人論」を巡って)	長谷川真理子『オスとメス=性の不思議』(講談社現代新書)を読んでおくことが望ましい。
	9. 女は損か得か?(昔「スッチャー」、今「女子アナ」=女性の憧れの職業の変遷)	
	10. 音楽におけるコミュニケーションI(クラシック音楽[旋律・リズム・和声])	洋の東西を問わず、女性作曲家が少ない歴史の背景を知っておくこと。
	11. 音楽におけるコミュニケーションII(流行歌・歌謡曲[演歌])	
	12. 音楽におけるコミュニケーションIII(J-POPその1・アイドルグループ)	1988年に誕生したJ-POPが、日本の大衆音楽をどのように変えたかを調べておくこと。
	13. 音楽におけるコミュニケーションIV(J-POPその2・R&B)	
	14. パッケージからダウンロードへ(メディア・コミュニケーションの変遷)	21世紀になりCDのセールスが激減した原因と、歌手活動がライブ中心になった理由を考えておくこと。
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

質問などがあった場合は、各授業終了後に対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	到達目標の理解度と、到達目標を論理的に説明できているかを基準とする。
	授業への積極的参加	20%	積極的に授業に参加し、到達目標を理解しているかをチェックする。

教科書:

伊藤公雄、樹村みのり、國信潤子【著】『女性学・男性学〜ジェンダー論入門[改訂版]』

参考書:

小倉千加子『増補版 松田聖子論』(朝日文芸文庫)
上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』(文春新書)
若桑みどり『お姫様とジェンダー—アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』(ちくま新書)
上野千鶴子・小倉千加子『ザ・フェミニズム』(ちくま文庫)
駒尺喜美『高村光太郎のフェミニズム』(朝日文庫)
金子みすゞ『金子みすゞ童謡集』(ハルキ文庫)
井上章一『美人論』(朝日文芸文庫)
稲垣栄洋『オスとメスはどちらが得か?』(祥伝社新書)
宇野維正『1998年の宇多田ヒカル』(新潮新書)
佐藤良明『J・POP進化論』(平凡社新書)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	異文化が併存する社会でどのようにコミュニケーションが起こるかを考えるための概念や思考の枠組みを学ぶ。		
授業の概要:	文化的背景の異なる人々が交流する際には、様々なあつれきが経験されるとともに、新しい社会を生み出すダイナミズムが感じられることもある。また、他者とのコミュニケーションは意図しようがしまいが私たちの周りで日常的に起こっている現実である。多文化的状況が世界的に一般化していくことが予想される中、この授業では、文化の違いがどのような衝突をもたらすか、また異文化との出会いによってどのような新しい可能性が生まれつつあるかを考えるために必要な基本的な概念や思考の枠組みを学ぶ。また、多文化状況が日常化したオーストラリア社会を舞台とした小説を参照することで、多文化・異文化をめぐる主題が現実において具体的状況においてどのように表れ、また私たち自身とどのような関係をもちうるかを想像する訓練を行う。		
到達目標:	異文化間コミュニケーションを考察するために必要となる基本的な概念や思考の枠組みを学ぶ。さらに、自らの現実において異文化の存在に気づき、異文化が併存する状況を自らに引きつけて理解する心構えを身につける。		
授業方法:	教員による講義を中心に行うが、各授業中にいくつか問題を提起し、自分の意見を用紙に書いて提出してもらう。 4、7、10、13週目のオーストラリアの小説をとりあげる回では、グループを作ってもらってディスカッションも含めて進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業概要／グローバル化と多文化社会(教科書 序章pp.1-17)	異文化間コミュニケーションについての現時点での自分の考え方を整理しておく。教科書を購入し、全体を概観する。	
	2. コミュニケーションとは何か？(教科書 第1章pp.19-49)	教科書第1章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。	
	3. 文化とは何か？(教科書 第2章pp.51-83)	教科書第2章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。	
	4. オーストラリアの小説から: コミュニティと他者	教科書第1・2章を読み直す。前週配布のオーストラリアの短編を読み、教科書で学んだ概念・思考モデルがどう応用できるかを考える。	
	5. 言語的コミュニケーション(教科書 第3章pp.85-113)	教科書第3章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。	
	6. 非言語的コミュニケーション(教科書 第4章pp.115-155)	教科書第4章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。	
	7. オーストラリアの小説から: 非言語的コミュニケーションと異文化の楽しみ	教科書第1～4章を読み直す。前週配布のオーストラリアの短編を読み、教科書で学んだ概念・思考モデルがどう応用できるかを考える。	
	8. コミュニケーションとアイデンティティ(教科書 第5章pp.157-178)	教科書第5章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。	
	9. マス・コミュニケーション(メディア)と文化(教科書 第6章pp.181-204)	教科書第6章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。	
	10. オーストラリアの小説から: マイノリティとマジョリティ	教科書第1～6章を読み直す。前週配布のオーストラリアの短編を読み、教科書で学んだ概念・思考モデルがどう応用できるかを考える。	
	11. 異文化との接触(教科書 第7章pp.207-234)	教科書第7章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。	
	12. 上手い/下手なコミュニケーション(教科書 第8章pp.235-257)	教科書第8章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。	
	13. オーストラリアの小説から: 文化の衝突と混淆	教科書第1～8章を読み直す。前週配布のオーストラリアの短編を読み、教科書で学んだ概念・思考モデルがどう応用できるかを考える。	
	14. 多文化社会を生きるために(教科書 第9章pp.259-283)	教科書全体を読み、疑問点をまとめる。異文化間コミュニケーションについての意見を、受講前の自身の見解と比べながらまとめる。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	少なくとも全授業の3分の2は出席するようにする(それ以下では単位はもらえないと考えること)。遅刻・早退は3回で欠席一回と数えますが、場合によっては欠席1回と同じとする。 各回上記のスケジュールに指定された教科書の章を読んでくる。授業ではその章からさらにトピックを絞り、スライドとハンドアウトを用いて、異文化間コミュニケーションを考える際に不可欠な視点を説明していく。 授業内では、教科書で学んだ概念や思考モデルを、フィクションに当てはめて応用してもらうが、日常生活においても想像力を働かせて、自身の周りで常に起こっているはずの異文化コミュニケーションの具体例にも敏感に反応し、これまでとは違った世界の見方ができるようになってもらいたい。		
フィードバックの方法:	各回の質問の回答については、興味深いものを後の授業で口頭でとりあげて活用する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	50%	記述式の試験を行う。教科書で学んだ概念・思考モデルを使って、具体的な事象を説明できるかを判定する。「相互理解が大事」「差別はいけない」といった紋切り型を越えた回答を期待する。
	ディスカッション参加	20%	4、7、10、13週目のテーマを中心とした授業にて、積極的に議論に貢献できているかを評価します。
	積極的な授業参加	30%	授業に取り組む姿勢、毎回の質問用紙への回答を評価します。
教科書:	八島智子・久保田真弓『異文化コミュニケーション論ーグローバル・マインドとローカル・アフェクト』東京:松柏社、2012年。		
参考書:	ケイト＝ダリアン・スミス／有満保江編『ダイヤモンド・ドッグ:《多文化を映す》現代オーストラリア短編小説集』東京:現代企画室、2008年。 八代京子他『異文化トレーニングーボーダレス社会を生きる』東京:三修社、1998年。 平田オリザ『わかりあえないことからーコミュニケーション能力とは何か(講談社現代新書)』東京:講談社、2012年。 竹田いさみ他編『オーストラリア入門(第2版)』東京:東京大学出版会、2007年。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思いやる力、変化対応力		

教員との連絡
方法:

授業内で指示する。

授業テーマ:

情報社会を生き抜くための”眼力”を鍛えよう。

授業の概要:

グローバル化、情報化が激しく進展している現代世界を生きていくうえで、私たちが暮らしている社会、国家について正確な知識を身につけ、意見をもつことは極めて重要です。そのためには日々洪水のように流れている情報をどのように読み解いていけばいいのでしょうか。また情報がどのように社会の変化をうながし、また一方で近代化のなかで日本人はその情報とどのように格闘してきたのでしょうか。この講義では、日本近現代における情報をめぐる社会史をたどりながら、さまざまな人々が同時代の情報をどのように受け止め、自ら「経験」化して内面を豊かにしていったのか、現代社会を縦（歴史）と横（時事的な世界情勢）の両面から探っていきます。

到達目標:

社会の複雑で多様な問題について、多彩な視点を比較、検討しながら、自分の問題として考える習慣を身に付けてほしい。そのための情報リテラシーを獲得する方法に習熟する。

授業方法:

講義当日の新聞各紙を題材に現代世界の動きを解説。それらの諸問題を近代史を重ねながら分析し、視聴覚教材などを活用しながら、受講生のみなさんと双方向で興味深く、濃い内容のものにしていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義ガイダンス。情報社会を生き抜く力とはなにか。自分とはなにか。	当日の新聞やテレビのニュースをみて、いま何が問題になっているのか、考えてほしい。
2.	情報と世界「新聞の父」ジョセフ彦（浜田彦蔵）のまなざし。日本における新聞誕生の歴史。	江戸期の鎖国をめぐって。
3.	情報と知識日本の近代化の礎を築いた福沢諭吉の生き方と思想を考える。富国強兵をめぐって。	同志社創立者、新島襄と同じように慶応義塾の創設者でもある福沢諭吉の人物像について概要をつかむ。
4.	情報と政治”東洋のルソー”といわれる中江兆民。福沢諭吉と比較しながら、自由民権運動や日本近代化のもう一つの道について考える。民主政治となにか。	中江兆民の人物像について。
5.	情報と批評明治期のジャーナリスト、宮武外骨の格闘。滑稽新聞から明治新聞雑誌文庫へ。	宮武外骨の人物像について
6.	情報と大衆明治期の大衆紙を発行し、スキャンダル情報によって国民の意識を高めた黒岩涙香を中心に。海外文学翻訳から万朝報発行へ。	黒岩涙香の人物像について。
7.	情報と歴史アジアの壮大な歴史的なしてんから社会の動きをみつめた内藤湖南。アジアの歴史と現在、歴史からの視点について。	内藤湖南の人物像について。
8.	情報と軍事軍人からジャーナリストになった水野広徳を中心に。軍事と情報をどのように考えるか。国家と情報をめぐって。	水野広徳の人物像について
9.	情報と伝承日本の民衆の間に受け継がれてきた様々な伝承について。民俗学者、柳田国男の方法。日本人はどこからきたのか。	柳田国男の人物像について
10.	情報とマスメディアかつてメディアのご意見番といわれた大宅壮一をめぐって。無思想の思想と大宅文庫。	大宅壮一の人物像について
11.	情報と正義情報における現場学。国際事件記者といわれた大森実と時代背景を深く観察した作家、本田靖春。事件をみる目	事件報道をめぐる疑問はないか、考えてみる。
12.	情報と生活日本人の生活文化を観察した宮本常一を中心に。旅する学者の観察術。	宮本常一の人物像について
13.	3.情報と心理作家、辺見庸の視点をめぐって。見えないものをみる目、聞こえない音を聞く。	辺見庸の文学と社会観について
14.	情報とジャーナリズム立花隆と山本美香。科学的な情報リテラシーと世界紛争の現場学をめぐって。	立花隆と山本美香の仕事について
15.	情報社会の未来まとめ。高度情報化社会の光と影について考える。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回、講義日当日の新聞朝刊各紙の注目記事を取りあげ、ジャーナリスト、研究者、芸術家などの多彩な視点を通して社会の動きを考えます。受講生のみなさんでもできるだけ新聞やテレビのニュースに目を配り、自分だったらどう考えるか、と常に意識してほしい。

フィードバックの方法:

個々の提出物(コメント、質問)については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	課題についての理解し、自らの考えているかを見ます。
	コメント	30	コメント内容から積極性を評価します。
	授業への参加度	20	出席状況などから評価します。

教科書:

毎回、資料を配布します。特に教科書はありません。

参考書:

見田宗介著「社会学入門」(岩波新書)
池田知隆著「新聞記者」(実業之日本社)
池田知隆著「ほんの昨日のこと」(みずのわ出版)
岩波新書編集部編「日本の近現代史をどう見るか」(シリーズ 日本近現代史 10)」(岩波新書)
アルビン・トフラー著「第3の波」(中公文庫)
原武史著「知の訓練」(新潮新書)
三浦瑠麗著「日本に絶望している人のための政治入門」(文春新書)
細野雄一著「安保論争」(ちくま新書)
井上智洋著「人工知能と経済の未来」(文春新書)
中島岳志・島藺進著「愛国と信仰の構造」(集英社新書)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

メールで連絡してください。アドレスはikedatomotaka@nifty.com

授業テーマ:

授業の概要: 社会保障や福祉サービスは、高齢になったとき、病気になったとき、働けなくなったとき、子どもを育てるときなど、安心して暮らしていくために誰が必要とするものです。本講義では、現在の日本の社会保障制度と福祉サービスを体系的に理解し、日本が直面している様々な社会的課題をふまえながら、今後の社会保障・福祉のあり方について考えます。また、日本の現状を中心にしつつ、必要に応じて先進諸国の事例にも触れます。

到達目標: ①現代社会における社会保障の意義と概念について理解する。
②社会保障制度の全体像と各制度・サービスの仕組みについて理解する。
③日本が直面する課題をふまえて、今後の社会保障・福祉のあり方について考える。

授業方法: 講義形式で進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 社会保障とはなにか	
	3. 年金制度(1)	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	4. 年金制度(2)	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	5. 医療保険制度(1)	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	6. 医療保険制度(2)	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	7. 介護保険制度(1)	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	8. 介護保険制度(2)	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	9. 生活保護(1)	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	10. 生活保護(2)	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	11. 雇用政策	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	12. 家族政策	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	13. 社会福祉サービス(1)	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	14. 社会福祉サービス(2)	小テストに向けた前回授業の内容の復習
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 社会保障を自分や周りの人の生活と結びつけて捉え、なぜそのような形になったのか、社会保障はどうあるべきかなど、自分なりに考えながら講義に参加してください。ほぼ毎回、小テストを実施するので、授業資料・ノートを読み返し、授業内容の理解に努めるよう復習してください。

フィードバックの方法: 小テスト:教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	50%	到達目標①②③に関する理解度により評価する。
	期末レポート試験	50%	到達目標①②③を理解した上で、自分の見解を明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする。

教科書: 指定しません。

参考書: 棕野美智子、田中耕太郎(2016)『はじめての社会保障:福祉を学ぶ人へ(第13版)』有斐閣アルマ。その他(適宜紹介します)。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法: Eメールの利用、授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ：くらしに活かす社会保障と福祉の視点―学生・ボランティアが知っておきたい基礎知識―

授業の概要：福祉専門職の養成には縛られずに、社会保障と福祉に関心を持つ一般のボランティアや学生を対象とした入門授業を目指す。社会保障と福祉の基本的な枠組み(①歴史・概念、②制度・政策、③実践・方法、④分野・関連領域)は押さえて体系的に基礎理解をはかるが、その際、子ども虐待、高齢者介護、障害者地域生活支援、ボランティア・NPO活動など、身近な暮らしの問題を持ち出して、福祉専門職ではない「わたしたち」がすべきことを考察する。そして同時に、日米比較の視点から、日本の社会保障・福祉の基本課題について考えたい。今日、日本の社会保障・福祉は、自由競争・規制緩和をキーワードにアメリカ型へと移行している。日本の将来を見渡すうえで、アメリカの現状と課題を掘り起こし、それと比較する作業は極めて有効である。

到達目標：学生・ボランティアが知っておきたい社会保障と福祉の基礎知識を修得する。

授業方法：講義中心、適宜資料を配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会保障と福祉を学ぶにあたって	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	わたしたちの暮らしと社会保障・福祉	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	社会保障・福祉の歴史と発達	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	社会保障・福祉の理論と方法	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	社会保障・福祉を担う人びと	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	社会保障・福祉の法と行財政	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	社会保障・福祉の施設・機関、組織・団体	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	貧困、医療問題と社会保障・福祉	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	現代社会と子ども家庭問題	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	障害者福祉とノーマライゼーション	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	高齢者福祉と福祉改革	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	高齢者のお金とくらしのデザイン	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	家族と高齢者介護	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	これからの社会保障・福祉	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	授業のふりかえりとまとめ、補足的な説明	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法：個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する。

「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	出席を含む授業への参加・態度およびレポート内容
	定期試験	70	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書：くらしに活かす福祉の視点―学生・ボランティアが知っておきたい基礎知識(ミネルヴァ書房)

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力, 思考力, 自己管理能力

教員との連絡方法：授業前後に対応

授業テーマ:

「福祉」について学び、人間関係の中で活用していこう。

授業の概要:

「福祉とは何か」、「介護とは何か」を基本に据えて、コミュニケーション、ボディメカニクス、レクリエーション等、講義・演習を行います。介護福祉士養成を意識したものではなく、将来、自分が就く仕事や家庭で、また地域社会の中で役立つ知識・技術・観点を身につけていただきたいです。

到達目標:

1. 単元ごとの講義・演習を通して、福祉に関心を持ち、理解し、知識として身につける。
2. 「自分だったら」ではなく、「自分が相手だったら」と他者理解を通じた観点で物事を考えることができる。
3. 授業で得た知識の理解のみならず、自分の技術として活用することができる。

授業方法:

5. 講義／演習の混合：講師の福祉現場での経験をもとに、事例や新聞記事なども活用して講義・演習を進めていく。テキストはないが、毎回、資料を配布するのでファイルが必要です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス：福祉とは・介護とは何か・福祉用語解説・福祉施設事例	福祉を程遠いものとして考えず、身近なものとして、日頃から新聞記事や各種情報から興味を持っておいてほしい。
2.	コミュニケーションについて	言語的コミュニケーションのみならず、非言語的コミュニケーションにも関心を持ち、事前に調べておくこと。
3.	福祉現場における相談援助について	福祉現場において、相談援助は不可欠です。授業では、「バースティックの7原則」や「ストレングス視点」についても触れますので、自身でも調べておくこと。
4.	ポジティブシンキング	グループワークを通しての気づきを大切にしています。毎回、「やってよかった。」と好評ですが、初対面での演習に不安を感じる方もおられます。大丈夫です。楽しく参加してください。
5.	QOL(生活・生命の質)の向上に繋げるレクリエーション	福祉現場において、「生活の快」となるレクリエーションが注目されています。自分の体験等をもとに、レクリエーションについて考察しておいてください。
6.	バリアフリーとユニバーサルデザイン①	社会におけるバリア(障壁)について、どんなものがあるのか具体的に考えておくこと。
7.	バリアフリーとユニバーサルデザイン②	どうすれば高齢者も障がい者も、誰もが「あたりまえに」地域社会で生活できるのか考えましょう。
8.	ボディメカニクス	よりよい介護に向けて、身体の使い方や福祉機器の活用について考えます。ボディメカニクスについて事前に調べておくこと。
9.	プロセスレコードの活用～自己覚知に向けて～	人間関係の中で自分の考え方の傾向を知り、「自己覚知」に繋げる記録の書き方を学びます。課題として、自分の経験を記録していただきます。
10.	ストレスコーピング～バーンアウトの予防～	ストレスについてどのようなものがあるのか、自分ではどのように向き合っているのか、日頃の自分を見つめておきましょう。
11.	緊急時の支援について	震災事例などをもとに、緊急時における支援について考えます。「自分も他者も救う」支援のあり方について考えましょう。
12.	スーパービジョンについて	将来的には、リーダーシップをはかる立場に立つ自分を意識して、「ケアする人のケア」について学んでください。
13.	人の生活・生命に向き合うということ	「生命の輝き」に向き合うということについて、事例をもとに授業を進めていきます。感性を生かしてください。
14.	地域での取り組みを通して	「地域において自分ができること」をテーマに考えていただきます。事前にも考えておきましょう。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

福祉従事者不足といわれている現在。勿論、授業で興味を持っていただき、将来、福祉職に就いていただければありがたいですが、そうではなくても福祉に関心を持って、将来、自身の仕事や家庭、地域社会にて活かしていただければ嬉しいです。福祉の3Kを私は、「煌めき」、「奇跡」、「感動」だと考えていますが、授業を通して以前とは違うあなたなりの3Kを見出してください。福祉社会の次代を担うみなさまに期待しています。

フィードバックの方法:

毎回、授業に関するレポートを書いていただきます。レポートでの質問については、次回の授業の初めに解説します。また、時にみなさまの意見をまとめた資料を配り、学生間の共有にも役立てます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	到達目標である単元ごとの理解ができているか確認します。
	レポート	20%	授業での理解したことを自分の言葉で表現できるかを評価します。毎回のレポート・課題レポートがその対象です。
	授業での積極的な参加度	10%	出席は勿論のこと、積極的に参加し発言できるかも評価の参考にします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対。緊急の場合は、教務課を通して連絡を受けて早急に対応する。

授業テーマ:

近代社会に生きた女性たち

授業の概要:

現代社会は男女共生を目指しているが、なかなか目標には到達していない。とくに、少子化・育児・介護、非正規労働など、直接女性に拘わる問題も山積みである。このような時代を知り、より良き解決策を模索する一つの方法として、本講義は、現代の基礎となった近代(明治時代～)以降に焦点を当て、とくに女性の地位・役割、その背景にある法律・教育等を考察し、現代社会の様相と比較する。さらに時代に立ち向かった女性たち・流されざるを得なかった女性たちの一生についても紹介する。

到達目標:

1. 近代社会とその時代の女性たちについて歴史的な知識を得る。
2. 現代社会の女性たちと比べて、客観的な理解を深める。
3. 今後の女性のあり方について自分なりの考えを持つ。

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 現代社会と女性:今私たちが生きている日本社会 2. 現代社会と女性:「世界女性会議」と世界の現状 3. 文明化と女性:学校教育の開始と良妻賢母主義 4. 明治民法における女性の地位:夫婦同姓の始まり 5. 繊維産業を支えた少女たち:『富岡日記』を読む 6. 公娼制と廃娼運動 7. 戦争と女性:愛国婦人会と銃後の守り 8. 地域に生きる:米騒動の担い手たちと生活権 9. 「命」の近代:嬰兒殺し 10. 家族・子ども:「家」家族から「家庭」家族へ 11. 「家庭」という生活世界:若き主婦の一日 12. 新しい女たち・論じる女たち:平塚雷鳥と与謝野晶子 13. 母性保護論争:子育て中の女性の働き方をめぐって 14. 外国人の見た近代日本の女性:イギリスの旅行家イザベラ・バードの視線 15. まとめ	準備学習等の内容 新聞等に目を通し、日々の問題に関心を持つ。 同上 参考文献(B)参照 参考文献(A)参照 参考文献(E)参照 参考文献(C)(D)参照 参考文献(A)(B)(D)参照 参考文献(B)参照 参考文献(B)参照 参考文献(B)(D)参照 参考文献(B)参照 参考文献(C)参照 参考文献(C)参照 参考文献(E)参照 講義の復習をする

受講者へのメッセージやアドバイス:

歴史上の人物や社会を、好きか嫌いかではなく客観的に見るのが大切。歴史は年号を覚えることではない。そこに生きた人々を理解することである。

フィードバックの方法:

毎回提出するコメント用紙の内容を、以後の授業時間に適宜紹介し、検討する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	70%	到達目標の近代の女性に関する知識や客観的理解を論理的に説明できるかを基準とする。
	出席及びコメントペーパーの提出	15%	毎回出席を取り、授業への積極的参加度を評価する。
	コメントの内容	15%	講義内容を理解したか、社会に関心を持っているか等を評価する。

教科書:

とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書:

歴史教育者協議会編『学びあう女と男の日本史』(青木書店、2001)(A)
大門正克他編『近代社会を生きる』(吉川弘文館、2003)(B)
総合女性史研究会編『時代を生きた女たち』(朝日新聞出版、2010)(C)
折井美耶子著『近現代の女性史を考えるー戦争・家族・売買春ー』(ドメス出版、2015)(D)
その他:講義中に紹介する文献(E)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

平安の女性と社会

授業の概要:

どの時代の女性も男性も、少なからず不条理の中で生きていた。日本では古代から中世にかけて大きな転換期を迎える。例えば、婚姻の形態は今日と違い、男性が女性の家に入る婿取り婚形式であったが、中世以降、女性が男性の家に入る嫁取り婚形式に変わり、今日まで続く。このような転換期もしくはそれ以前に焦点を当て、女性たちがどのような一生を送ったのか、上層部はもちろん、庶民層や下層の人々も視野に入れて考察し、今日と比較し、今後の男女の共生を考える。

到達目標:

1. 現代とは全く異なる時代の知識を持つ。
2. 蓄積した知識をもとに別の時代の女性たちの生き方を客観的に理解する。

授業方法:

講義。絵巻物などをスライドで見る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	平安時代とは。摂関政治と女性：幼帝と母後の役割	参考文献を読む。京都という地の利を生かして、史跡をめぐってみよう
2.	女性のライフサイクル。誕生：儀礼と男女差	参考文献を読む
3.	稚児：保護（上層の子ども）と遺棄（下層の子ども）	参考文献を読む
4.	成人儀礼「裳着」：命名と期待される女性像	参考文献を読む
5.	一夫多妻制社会の結婚と離婚	参考文献を読む
6.	不婚の皇女：賀茂の斎院と伊勢の斎宮	参考文献を読む
7.	妻の役割：『新猿楽記』の三人の妻	参考文献を読む
8.	藤原道長の妻：源倫子の存在感	参考文献を読む
9.	女性と労働：「女房」という雇用労働	参考文献を読む
10.	紫式部と清少納言の仕事力：二人は宮中において顔を合わせることはなかった	紫式部の邸宅跡は廬山寺、清少納言の晩年の住居は泉涌寺付近にあったという。訪ねてみよう
11.	庶民女性の労働：多様な生業	参考文献を読む
12.	老い：老人の役割と意識。浄土を願う	参考文献を読む
13.	死：地上に現れた極楽浄土・宇治の平等院と十界曼荼羅に見る女性の地獄	参考文献を読む
14.	少女の夢と現実：菅原孝標女の文学願望と仏教意識	石山寺や長谷寺に行ってみよう
15.	まとめ	講義全体を振り返る

受講者へのメッセージやアドバイス:

平安時代や京都に関する著書は極めて多い。図書館に行って好きな一冊を搜してみよう。

フィードバックの方法:

毎回提出するコメントの内容を、必要な場合は次回以降コメントし、検討を加える。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	到達目標である平安の女性についての知識及び理解ができているかを基準とする
	出席及びコメントペーパーの提出	15%	毎回出席を取り、授業への積極的参加度を評価する
	コメント	15%	講義を理解しているかを基準とする

教科書:

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書:

服藤早苗著『平安朝女性のライフサイクル』（吉川弘文館、1998）
総合女性史研究会編『時代を生きた女性たち』（朝日新聞出版、2010）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

英語文学における女性像と女性自身による表現の開拓

授業の概要:

前半は、主に十九世紀までの英語文学に描かれた女性像をとり上げ、男性の視点からどのように女性が描かれてきたかを検討する。後半では、前半で見た男性の側からの女性像に対して、女性がどのように自らの表現を切り開いていったかを確認する。

到達目標:

フィクションに描かれる女性像がどのように変遷してきたかをたどることによって、「女性」という存在が固定されたものではなく、それぞれの時代や場所の価値観によって生み出されてきたイメージであることを理解する。そこから、現時点での「女性」についても、多面的に分析・理解できる考え方を身につけてもらいたい。

授業方法:

講義形式で作品と作者を紹介する。毎回、幾つかの質問を挟んで、授業の最後に用紙に書いた答えを提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	文学に描かれた女性、二面性と幾つかのパターン	「文学に描かれた女性」について考えてくる
2.	キリスト教文学に見る女性像:聖書とミルトン『失楽園』	当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
3.	シェイクスピア作品の女性たち:ソネットの「ダーク・レイディ」、『ヴェニスの商人』のポーシャと『マクベス』のマクベス夫人	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
4.	ロマン主義文学における女性像:ワーズワースのルーシー詩編、「ファム・ファタール」	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
5.	ゴシック・フィクションにおける女性:ホフマン、パウ、ホーソー	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
6.	ゴシック・フィクションにおける女性(2):ストーカー『ドラキュラ』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
7.	男性側からの視点まとめ／女性自身の視点へ:ウルフ『自分自身の部屋』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
8.	怪物化する女性:シェリー『フランケンシュタイン』、ギルマン「黄色い壁紙」	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
9.	女性同士の争い:ブロンテ『ジェイン・エア』とリース『サルガッソーの広い海』／中間レポート提出	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。／中間レポート(授業前半の感想)を書く。
10.	現代ゴシックに見る女性:映画『ブラック・スワン』とプラス『ベル・ジャール』(1)	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
11.	現代ゴシックに見る女性:映画『ブラック・スワン』とプラス『ベル・ジャール』(2)	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
12.	おとぎ話・バラッドとその再解釈:カーター『血染めの部屋』、セックストン『魔女の語るグリム童話替え話』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
13.	おとぎ話・バラッドとその再解釈(2):グリムとディズニーの『白雪姫』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
14.	内省の深みへ:エミリー・ディキンソンを始めとする女性による英語詩を読む	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
15.	まとめ	授業内容をふりかえり、特に興味をもった作家・作品・テーマについて調査し、自分の考えをまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

週に配布した資料があればそれに目を通しておくこと。毎回ではないが、宿題を出す可能性もある。興味をもった作家については、作品ひとつひとつを読み通すようにする。中間レポート、期末試験では、読んだ作品について論述する。細かな事実(作品の出版年など)を憶える必要はありませんので気楽に聴講して、特に興味を持ったテーマについて自分なりの見解にたどりつくように考えをめぐらせること。

フィードバックの方法:

質問用紙の回答については、興味深いものを後の授業内で口頭で活用させてもらう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	50%	記述式の試験を行う。自分の興味をもった作品を少なくともひとつは読み込み、授業内容を参考にした上で独自の見解にたどり着いているかを判定する。
	中間レポート	20%	9週目締切。8週までの授業で、特に自分が興味をもったテーマについて感想を書く。授業内容を理解しているか、その上で独自感想をもてているかを評価する。
	出席	30%	受講態度と、毎回提出してもらう質問用紙の回答を評価する。

教科書:

なし。ハンドアウトを配布します。

参考書:

授業中あるいはハンドアウトにて指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業内で指示する。

授業テーマ:	旅する女性たち		
授業の概要:	目標:旅の目的はさまざまである。開拓、冒険、外交、交易、学問、教養、巡礼、布教、観光あるいは逃避。旅の起源は古く、たとえばギリシア神話は英雄の冒険譚を語り、聖書はイスラエルの民のエジプトからの脱出と放浪の旅を語る。中世をいろいろ巡礼の旅、大航海時代の冒険と開拓・征服の旅。これらの主体の多くは男性だったが、近代になると女性も旅に出るばかりでなく、見聞や感想を記した。その多くは、故国の家族・友人への手紙という形をとっていた。彼女たちの経験と記録は、男性とは異なっていたのだろうか。講義では、近代のイギリス女性の旅の記録、また旅から生まれた物語を取り上げ、彼女たちが異境の地と自国をどのように捉えたのか、時代の文脈の中に辿る。		
到達目標:	旅をキーワードに女性作家の作品(旅行記、書簡集、小説)を読み、それらが生み出された時代と社会の文脈で理解する。講義に関連した文献を読み、要点を把握する。		
授業方法:	講義を中心に進める。理解を促すために、作品の抜粋資料ならびに映像、図版等の視角資料を用いる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイドンス(講義の進め方、課題の説明、配布資料、評価方法の説明等)	シラバスを読む。	
	2. メアリ・W・モンタギュ(1689-1762)の旅行記 (1)『トルコからの手紙』女性の見たオリентとヨーロッパの文化的記憶の「オリент」	配布資料を読む。	
	3. メアリ・W・モンタギュの旅行記 (2)『トルコからの手紙』女性の見たオリентとヨーロッパの文化的記憶の「オリент」	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	4. メアリ・W・モンタギュの旅行記 (3)「ヨーロッパからの手紙」異境流浪の旅	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	5. メアリ・ウルストンクラフト(1759-97)の旅行記 (1)「フランスからの手紙」女性の見たフランス革命	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	6. メアリ・ウルストンクラフトの旅行記 (2)『北欧からの手紙』ピクチャレスクと日常生活の記録	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	7. メアリ・ウルストンクラフトの旅行記 (3)『北欧からの手紙』ピクチャレスクと日常生活の記録	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	8. メアリ・シェリー(1797-1851)の旅行記 (1)『フランス、スイス、ドイツ、オランダの一地域をめぐる六週間の旅行記』もうひとつのグランドツアー	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	9. メアリ・シェリーの旅行記 (2)『フランス、スイス、ドイツ、オランダの一地域をめぐる六週間の旅行記』	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	10. メアリ・シェリーの旅行記 (3)『フランケンシュタイン』1816年夏、怪物を生んだ旅	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	11. 1816年夏、P・B・シェリーとバイロンのレマン湖周遊歴史と文学の記憶を辿る旅	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	12. メアリ・シェリーの旅 (4)『最後の人間』『最後の人間』の旅	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	13. イザベラ・バード(1831-1903)「日本からの手紙」女性の見たオリент ヴィクトリア朝のレディ・トラヴェラーたち	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	14. まとめと検証試験	前回の授業の復習。配布資料を読む。	
	15. 検証試験ならびに読書レポートに関するフィードバック	復習。配布資料を読む。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義を中心に進めるが、事前に資料を配布するので、それを読み、問題意識をもって意欲的に授業に臨んでもらいたい。		
フィードバックの方法:	コメントカードでの質問、提案、コメントを、次の授業で紹介し、質問に答える。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席を含めた平常点	20%	予習をふまえた授業への意欲的参加を評価する
	コメント・カード	20%	毎回の授業を問題意識をもって聞いているか評価する
	読書レポート	40%	関連文献(日本語)を読み、要約できているかを評価する
	検証試験	20%	講義の基本事項が理解できているかを評価する
教科書:			
参考書:	初回に、参考文献のリスト、授業で扱う作品の抜粋プリント、図版を配布する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業ならびにE-mail		

授業テーマ:	英語文学における女性像、および、ジェンダーの人種・民族・階級との関連		
授業の概要:	主に英語文学において女性作家がどのような女性像を描いてきたか、また女性の語り手にどのような特徴を与えてきたかを 確認し、同時に、男女のジェンダー役割とその変化が人種、民族、階級といった別のカテゴリーとどのように影響しあってきた かを考察する。		
到達目標:	フィクションに描かれる女性像が時代や場所、文化的背景によっていかに異なるかを知ることによって、「女性」という存在が 固定されたものではなく、それぞれの時代や場所の価値観によって生み出されてきたイメージであることを理解する。そこか ら、現時点での「女性」についても、多面的に分析・理解できる考え方を身につけてもらいたい。		
授業方法:	講義形式で作品と作者を紹介する。毎回、幾つかの質問を挟んで、授業の最後に用紙に書いた答えを提出する。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション:ジェンダーと人種、民族、階級	「文学に描かれた女性」について考えてくる	
	2. 映画『マイ・フェア・レディ』とショー『ピグマリオン』 (1):ジェンダーと階級	当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。	
	3. 映画『マイ・フェア・レディ』とショー『ピグマリオン』 (2):二作品の違いから	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	4. ミッチェル『風と共に去りぬ』:強い女性と恋愛	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	5. ミッチェル『風と共に去りぬ』(2):人種と階級	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	6. ウォーカー『カラーパープル』(1):二重の差別	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	7. ウォーカー『カラーパープル』(2):女性同士のつながり	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	8. アメリカ合衆国のマイノリティ女性詩人	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	9. 先住民文学に見る女性像(1):ウィティ・イヒマエラ 『クジラの島の少女』／アニメ『リロ&スティッチ』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	10. 先住民文学に見る女性像(2):モーガン『マイ・プレイ ス』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	11. タン『ジョイ・ラック・クラブ』(1):移民体験と母の希望 と呪縛	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	12. タン『ジョイ・ラック・クラブ』(2)——「葛藤」から「和 解」へ?	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	13. オーツカ『天皇が神だったころ』、オゼキ『あるときの 物語』:日系アメリカ人文学に見る女性	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	14. 最新ミュージカルに見る女性像	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについ て、自分なりに考え、調べてくる。	
	15. まとめ	授業内容をふりかえり、特に興味をもった作家・作品・テーマ について調査し、自分の考えをまとめておく。	
受講者への メッセージや アドバイス:	週に配布した資料があればそれに目を通しておくこと。毎回ではないが、宿題を出す可能性もある。興味をもった作家につい ては、作品ひとつひとつを読み通すようにする。中間レポート、期末試験では、読んだ作品について論述する。 細かな事実(作品の出版年など)を憶える必要はありませんので気楽に聴講して、興味のあるテーマについて自分なりの見解 にたどりつくように考えをめぐらせること。		
フィードバックの 方法:	質問用紙の回答については、興味深いものを後の授業内で口頭で活用させてもらう。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	50%	記述式の試験を行う。自分の興味をもった作品を少なくともひとつは読み込 み、授業内容を参考にした上で独自の見解にたどり着いているかを判定す る。
	中間レポート	20%	第9週目締切。第8週までの授業で、特に自分が興味をもったテーマについ て感想を書く。授業内容を理解しているか、その上で独自の感想をもてい るかを評価する。
	出席	30%	受講態度と、毎回提出してもらう質問用紙の回答を評価する。
教科書:	なし。ハンドアウトを配布します。		
参考書:	授業中あるいはハンドアウトにて指示する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	思考力、創造力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	授業内で指示する。		

授業テーマ:	古典文学における女性		
授業の概要:	日本古典文学、主に今日までの日本文化の礎となつた奈良、平安時代の王朝文学作品を通して、そこに描かれた女性たちについて考える。“異文化”を理解するとは、他国に関するものばかりではない。現代とは異なる時代の社会的な背景や価値観に対する知識や理解を深め、その上で与えられた環境において女性たちが、どのように生き、考え、感じ、表現してきたか。その文学的な営みを知んことは物事をいろんな視点から考える力を養うことにもなる。		
到達目標:	(1)日本文化、古典文学、歴史についての知識を深める。 (2)それぞれの時代の政治体制、社会制度の中で女性たちがどのように生き、考え、感じ、表現してきたかを学ぶ。 (3)現代社会との相違点、接点などについて考える。 (4)自らの価値観の幅を広げ、豊かにする。		
授業方法:	講義形式で進めていく。 毎回授業の感想を書いてもらい、それを次回の授業に反映していく。 小レポートなどの課題提出を求めることがある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス 奈良時代の社会背景と女性	予習・・・奈良時代の日本史の知識の確認	
	2. 万葉の歌人たち	復習・・・知識の習得	
	3. 平安時代の社会背景と女性	予習・・・平安時代の日本史の知識の確認	
	4. 女流日記文学(1) 蜻蛉日記	復習・・・知識の習得	
	5. 上流日記文学(2) 紫式部日記 更級日記	復習・・・知識の習得	
	6. 清少納言と枕草子	復習・・・知識の習得	
	7. 源氏物語(1)―源氏物語とは	復習・・・知識の習得	
	8. 源氏物語(2)―源氏物語に描かれた女性たち	復習・・・知識の習得	
	9. 源氏物語(3)―源氏物語に描かれた女性たち	復習・・・知識の習得	
	10. 源氏物語(4)―源氏物語に描かれた女性たち	復習・・・知識の習得	
	11. 源氏物語(5)―源氏物語に描かれた女性たち	復習・・・知識の習得	
	12. 虫めづる姫君(1)―こんなお姫様もありました	復習・・・知識の習得	
	13. 虫めづる姫君(2)―どう読み、理解するか	復習・・・知識の習得	
	14. 歌人・和泉式部 一恋多き女	予習・・・和歌についての知識確認 復習・・・知識の習得	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	遠い時代の話としてのみとらえるのではなく、現代社会に生きるあなたがたとの接点、関係も考えて欲しい。		
フィードバックの方法:	毎回の授業の感想、質問について、教室でまとめて解説する。 その年のクラスの興味のあり方によって、授業内容の比重を変えることがある。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	60%	授業の内容に対する理解と、それをもとに自分の意見を論理的に述べることが出来るかを基準とする
	平常点	40%	授業への出席、理解、課題提出など、積極的に授業に参加し、到達目標の(1)(2)が出来ようになったかを評価する
教科書:	プリントを配布		
参考書:	必要に応じて授業時に指示		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する		

授業テーマ:	多様性と統合のヨーロッパの歴史		
授業の概要:	ヨーロッパは現在、EUのもとで統合の道を歩んでいる。かつての古代ローマ帝国を彷彿とさせるその規模は、アメリカやロシアをも凌ぐものであり、ヨーロッパはその将来的な発展を目指しつつ、ユーロ危機や難民の流入などの山積する問題に取り組んでいる。しかし、ローマ帝国解体以降、ヨーロッパには様々な国家が形成され、それぞれの独自の歴史や文化を発展させてきた。同時に、ヨーロッパ諸国家は対立を繰り返し、覇権を争いながら勢力を拡大してきた。ではなぜ、20世紀にヨーロッパが困難を抱えながらも統合を目指したのか。その理由を探求すべく、本講義ではヨーロッパの発展を歴史的に考察する。		
到達目標:	・各テーマの内容をしっかりと理解できるようにする。 ・ヨーロッパの歴史の独自性を把握できるようにする。		
授業方法:	毎回配布するプリント(写真、地図、データなど)を使用しながら、講義形式で授業をおこなう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス ー古代ローマ帝国からヨーロッパ連合(EU)へー	授業内容の復習	
	2. ウェストファリア体制 ーヨーロッパ国際政治の誕生ー	授業内容の復習	
	3. 絶対王政 ーモデルはフランスー	授業内容の復習	
	4. アメリカの独立 ー市民社会の成立ー	授業内容の復習	
	5. フランス革命 ー自由と人権ー	授業内容の復習	
	6. ナポレオン支配とウィーン体制 ー自由主義の発展ー	授業内容の復習	
	7. 帝国主義の時代 ー大英帝国の発展ー	授業内容の復習	
	8. 第1次世界大戦 ー総力戦の時代へー	授業内容の復習	
	9. ヴェルサイユ体制 ー国際連盟の成立ー	授業内容の復習	
	10. 第2次世界大戦 ーファシズムの台頭ー	授業内容の復習	
	11. 冷戦とヨーロッパ ー東西対立ー	授業内容の復習	
	12. ヨーロッパの統合 ーヨーロッパの復活ー	授業内容の復習	
	13. ヨーロッパの拡大 ーヨーロッパはどこまでか？ー	授業内容の復習	
	14. ヨーロッパの現在	授業内容の復習	
	15. まとめ	授業内容の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	世界史＝暗記というイメージを脱して、テーマに沿ってストーリーのある歴史を解説し、ヨーロッパの歴史への理解を深める。		
フィードバックの方法:	授業内に提出され小レポートについては、教室で総評する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	90	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
	小レポート	10	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
教科書:	教科書は指定しない。		
参考書:	初回授業で参考文献リストを配布する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

ドイツの歴史を旅して学ぼう

授業の概要:

ドイツは古代から近世までの長い歴史のなかで、地域性と多様性を基盤として発展を遂げてきた。そして、19世紀になってようやく統一国家になり、ドイツ・ナショナリズムが形成されようとした。しかし、2度の世界大戦における敗戦、冷戦による国家分断、東西ドイツの再統一で、「ドイツ的なもの」の再考が迫られた。本講義では、歴史のなかでドイツが追求してきた「ドイツのナショナリズムとは何か」を考える。

到達目標:

・各テーマの内容をしっかりと理解できるようにする。
・ドイツの歴史的な特徴を把握できるようにする。

授業方法:

毎回配布するプリントを使用しながら、講義形式で授業を行う。また、ドイツ各地の歴史遺跡、記念碑、博物館などの現地写真やカタログをスクリーンで毎回紹介し、旅する感覚でドイツの歴史をよりわかりやすく解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	授業内容の復習
	2. ローマ帝国の辺境	授業内容の復習
	3. カール大帝から神聖ローマ帝国の誕生まで	授業内容の復習
	4. 宗教改革から30年戦争まで	授業内容の復習
	5. 二元対立と市民革命	授業内容の復習
	6. ドイツ統一とビスマルク	授業内容の復習
	7. ドイツ帝国と第1次世界大戦	授業内容の復習
	8. ワイマール共和国	授業内容の復習
	9. ヒトラーの政権掌握	授業内容の復習
	10. 第2次世界大戦と抵抗運動	授業内容の復習
	11. ホロコースト	授業内容の復習
	12. 冷戦と東西ドイツ	授業内容の復習
	13. ドイツの再統一と移民国家	授業内容の復習
	14. ドイツの現在	授業内容の復習
	15. まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

ドイツを旅する気分で歴史を学ぶことで、ドイツをできるだけ身近に感じて、ドイツの特徴をより深く理解できるようにする。

フィードバックの方法:

授業内に提出された小レポートについては、教室で総評する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	90	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
	授業内レポート	10	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:

教科書は指定しない。

参考書:

初回授業で参考文献リストを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業の前後で教室内で対応する。

授業テーマ:	日本仏教文化史Ⅰ ― 神仏習合の形成 ―		
授業の概要:	わが国の伝統文化の多くは、仏教をはじめとする諸宗教との密接な関連の中で醸成されてきた。故に日本文化の的確な理解には、仏教を中核とする日本宗教への視角が必須となる。本講義では、世界宗教である仏教の本質を理解した上で、その仏教が日本に伝来・定着・発展する歴史推移を解説し、日本文化の理解の深化をめざしたい。具体的には以下の二つの問題をめぐって概説する。 Ⅰ、仏教概論(仏教とは何か): インドでの釈尊による仏教の開創と、その後のアジア全土への伝播について概観し、日本に移入される世界宗教、普遍宗教たる仏教の本質について理解する。 Ⅱ、日本の仏教受容(神仏習合の形成): 仏教は6世紀頃にわが国に伝来し、日本固有の民族宗教である神祇信仰(神道)と衝突・拮抗・融合を経て日本独自の宗教として定着・展開していった。そのような日本の独特な仏教受容のあり方に焦点をあてて、日本仏教の特質について理解を深める。		
到達目標:	・世界宗教としての仏教について理解を深める ・日本の仏教受容について理解を深める ・宗教文化について関心を醸成する		
授業方法:	講義形式によって授業を進める		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 序論 講義内容の紹介と導入		
	2. 仏教概論 ① 仏教の時間的・空間的広がり	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	3. 仏教概論 ②-1 仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	4. 仏教概論 ②-2 仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	5. 仏教概論 ②-3 仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	6. 仏教概論 ②-4 仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。。	
	7. 仏教概論 ③ 釈尊以後のインド仏教の展開とアジア全土への伝播	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。。	
	8. 日本の仏教受容 ① 日本の固有信仰としての神祇信仰(神道)	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	9. 日本の仏教受容 ② 仏教伝来	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	10. 日本の仏教受容 ③ 神祇と仏教の対立	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	11. 日本の仏教受容 ④ 仏教受容の進展	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	12. 日本の仏教受容 ⑤ 神仏習合の発生	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	13. 日本の仏教受容 ⑥ 神仏習合の展開	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	14. 補 遺 講義内容の総括と補足	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	仏教を中心とする宗教文化の特質やその歴史的展開を、初心者にも理解できるようにできるだけわかりやすく解説することを心がけたいと思います。必要に応じてビデオやスライドなどの視聴覚素材も使用して授業を進めたいと思います。受講者各自が、日本文化の理解の深化をめざし、日本人である自己のアイデンティティーを再発見してもらえたらと思います。そのためにも日本の宗教文化について、各自が自分なりの興味関心に基づく問題意識を持って受講してもらいたいと思います。		
フィードバックの方法:	毎回、出席カードにその回の講義内容についてのコメントを記述して、授業の最後に提出する。提出されたカードのコメントには随時目通しして授業内容に反映させるとともに、出席状況を集計した上で、学期末に一括して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加	50%	出席カードへのコメントにより、到達目標に掲げた諸点への各自の理解度と評価する
	筆記試験	50%	到達目標に掲げた諸点への各自の理解度を筆記試験によって評価する
教科書:	特になし。 講義中に配布する資料プリントによる。		
参考書:	末木文美士『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』(新潮文庫、1996年) 『日本仏教史』古代・中世・近世・近代(全4冊、吉川弘文館) 『図説日本仏教の歴史』飛鳥奈良時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代・近代(全6冊、佼成出版社)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		

教員との連絡
方法:

授業後に教室で対応する
必要に応じてEメールによって応答する

授業テーマ:

身の回りから歴史を探る

授業の概要:

現在を生きる私たちにとって、過去の歴史を学ぶことはどういう意味をもつか？ 身の回りを見直してみると、当たり前の日常生活や、現代的と考えていたことの中にも、私たちの先祖が作り上げてきた歴史や慣習に依存していることが多い。反対に、歴史に対する関心の中に、現代の私たちが抱える人間関係や社会問題が投影されていたりする。このように具体的な日本の歴史や文化の中から、現在と過去の間を繋ぐ関係性を考え、歴史と文化を学ぶことの意味を考える。

到達目標:

身の回りの文化の中に歴史的な背景を発見し、私たち自身や生活が具体的な歴史の中にあることを自覚する。

授業方法:

講義形式で授業を進め、その都度プリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	歴史の中の私たち―はじめに―	身の回りから歴史的な物を探す。
2.	お正月の遊び―どうしてお正月だけの遊びがあるのだろうか。	正月にはどんな遊びをしたか調べる。
3.	儀礼は形式的か？―贈答することの意味―溝川家文書から	中元と歳暮について歴史を調べておく。
4.	茶道や華道だけが風流ではない―宴会芸の中の風流	現代の茶道はどんなものか調べておく。
5.	還暦のお祝いの意味―十二支は年賀状のためにあるのではない	十二支にはどんなものがあるか確認する。
6.	うどんとそうめんはどちらが古い？―日本人の食物観	麺類の種類を調べておく。
7.	旅にあれば椎の葉に盛る―食器の文化	食器の歴史を見ておく。
8.	庭は社会の自然観を反映する。	自分の見た庭園を書き出す。見ていなければ、見に行くとよい。
9.	お盆の墓参りの順番―伝統的な魂祭	お盆とは何をするものか、辞書で調べる。
10.	系図を読む―系図から何が読めるか？	系図をてみる。あるいは自分の家にないか調べてみる。
11.	伝統の嘘―歴史における女性の地位	あなたの歴史における女性観を確認する。歴史上の有名な女性を書き出す。
12.	日本デザインの源流―琳派の成立と古典	本阿弥光悦・俵屋宗達・尾形光琳の絵を見してみる。写真でもよいが、時間があれば実物を見に行く。
13.	『源氏物語』とわたしたち	高校の国語の教科書を出してきて『源氏物語』を読んでみる。
14.	祇園祭の歩き方	祇園祭の山鉾をネットで探してどんな祭礼か確認する。
15.	まとめ	身の回りの中の文化をひとつとりあげて、歴史と自分の関係を考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

質問票の中から重要なものを授業中に解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の参加度	30	授業の内容をどの程度理解したか。
	定期試験	70	問題の趣旨を正しく理解し、日本の歴史と文化について、正確に理解し、真摯に問題に向き合っているか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

e-mailで(goshima@sky.plala.or.jpで、大学名、講座名、学生名を記して連絡する。

授業テーマ:	日本仏教文化史Ⅱ ― 仏教福祉史の展開 ―		
授業の概要:	わが国の伝統文化の多くは、仏教をはじめとする諸宗教との密接な関連の中で醸成されてきた。故に日本文化の的確な理解には、仏教を中核とする日本宗教への視角が必須となる。本講義では、世界宗教である仏教の本質を理解した上で、その仏教が日本に伝来・定着・発展する歴史推移を解説し、日本文化の理解の深化をめざしたい。具体的には以下の二つの問題をめぐって概説する。 Ⅰ、仏教概論(仏教とは何か): インドでの釈尊による仏教の開創と、その後のアジア全土への伝播について概観し、日本に移入される世界宗教、普遍宗教たる仏教の本質について理解する。 Ⅱ、日本の仏教受容(仏教福祉史の展開): 日本史上、仏教的理念に基づく福祉・救済活動を推進した仏教者を取り上げて、その人物の業績とその思想を紹介する。その理解を通じて、わが国における仏教福祉の歴史的展開を把握することをめざしたい。		
到達目標:	・世界宗教としての仏教について理解を深める ・日本の仏教受容について理解を深める ・宗教文化について関心を醸成する		
授業方法:	講義形式によって授業を進める		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 序論 講義内容の紹介と導入		
	2. 仏教概論 ① 仏教の時間的・空間的広がり	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	3. 仏教概論 ②-1 仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	4. 仏教概論 ②-2 仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	5. 仏教概論 ②-3 仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	6. 仏教概論 ②-4 仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。。	
	7. 仏教概論 ③ 釈尊以後のインド仏教の展開とアジア全土への伝播	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。。	
	8. 日本の仏教受容 ① 聖徳太子と飛鳥仏教	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	9. 日本の仏教受容 ② 聖徳太子の福祉実践とその思想	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	10. 日本の仏教受容 ③ 行基菩薩と奈良仏教	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	11. 日本の仏教受容 ④ 行基菩薩の福祉実践とその思想	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	12. 日本の仏教受容 ⑤ 平安仏教の福祉実践と思想(最澄・空海)	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	13. 日本の仏教受容 ⑥ 叡尊・忍性と鎌倉仏教	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	14. 日本の仏教受容 ⑦ 叡尊・忍性の福祉実践とその思想	配付資料や参考文献に提示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	仏教を中心とする宗教文化の特質やその歴史的展開を、初心者にも理解できるようにできるだけわかりやすく解説することを心がけたいと思います。必要に応じてビデオやスライドなどの視聴覚素材も使用して授業を進めたいと思います。受講者各自が、日本文化の理解の深化をめざし、日本人である自己のアイデンティティーを再発見してもらえたらと思います。そのためにも日本の宗教文化について、各自が自分なりの興味関心に基づく問題意識を持って受講してもらいたいと思います。		
フィードバックの方法:	毎回、出席カードにその回の講義内容についてのコメントを記述して、授業の最後に提出する。提出されたカードのコメントには随時目通しして授業内容に反映させるとともに、出席状況を集計した上で、学期末に一括して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加	50%	出席カードへのコメントにより、到達目標に掲げた諸点への各自の理解度と評価する
	筆記試験	50%	到達目標に掲げた諸点への各自の理解度を筆記試験によって評価する
教科書:	特になし。 講義中に配布する資料プリントによる。		
参考書:	末木文美士『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』(新潮文庫、1996年) 『日本仏教史』古代・中世・近世・近代(全4冊、吉川弘文館) 『図説日本仏教の歴史』飛鳥奈良時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代・近代(全6冊、佼成出版社)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		

教員との連絡
方法:

授業後に教室で対応する
必要に応じてEメールによって応答する

授業テーマ:	京都の町から歴史と文化を考える																																
授業の概要:	京都は日本で最初の本格的な都市だといえる。そして、現在もお平安時代の王朝文化や室町時代の町衆文化の伝統を今に伝えている。日本各地だけでなく、世界中から多くの人々がそうした文化に憧れて観光に訪れている。しかし京都のたどってきた歴史は平坦ではなかった。京都の大学で歴史を学ぶことの利点を最大限に生かして、京都の歴史と文化を学ぶことを通して、地域にとって文化とは何か、観光とは何か、そして歴史を学ぶことの楽しさと意味を考える。																																
到達目標:	具体的に京都という地点を通して、地域が歴史の上に成り立っていることに気づく。また、文化と地域のたいせつさを認識する。																																
授業方法:	講義形式																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. はじめに—京都を勉強して京都を歩く</td><td>あらかじめ京都の地図を準備して、見ておくのがよい。</td></tr><tr><td>2. 都市の成立—平安京の場合</td><td>平安京の地図を準備して、京都地図と見比べる。</td></tr><tr><td>3. 京都御所</td><td>京都御所が江戸時代の皇居であることを理解して、どんな建物があるかを確認しておく。</td></tr><tr><td>4. 御霊信仰と神仏習合</td><td>地図で八坂神社と神泉苑がどこにあるかを確認し、2の地図での位置と合わせる。</td></tr><tr><td>5. 清水坂と五条坂</td><td>地図で清水坂と五条坂を確認し、線を引いてその沿道や行く先にどんな史跡があるかを見る。</td></tr><tr><td>6. 京都の自治組織—町組の成立</td><td>地図で京都の上京・中京・下京区の中心部を確認し、道がどうなっているかを見ておく。</td></tr><tr><td>7. 水と生活—京都の場合</td><td>鴨川と桂川の位置を地図で確認し、近くにどんな神社や寺院があるかを見ておく。</td></tr><tr><td>8. 『看聞御記』と伏見(室町時代の近郊農村)</td><td>地図で伏見を確認し、京都市の中央部とどのような位置関係にあるかを見る。また史跡を見ておく。</td></tr><tr><td>9. 能と観客</td><td>能とはどんな芸能かを予習しておく(機会があったら見ておく)。</td></tr><tr><td>10. 狂言</td><td>能と一緒に行われた狂言とはどんな芸能かを予習しておく(機会があったら見ておく)。</td></tr><tr><td>11. 茶道と工芸</td><td>茶道における茶会をネットで確認し、どんな道具が使われるかを確認しておく。</td></tr><tr><td>12. 繊維の街としての京都—西陣と室町</td><td>地図で西陣と室町街の位置を調べる。また西陣織と友禅染がどんな織物かを確認しておく。</td></tr><tr><td>13. 祇園の歴史</td><td>地図で祇園の場所を確認し、八坂神社をはじめ近くにどんな史跡があるかを見ておく。</td></tr><tr><td>14. 大京都市</td><td>地図で岡崎・蹴上の場所を確認し、平安神宮をはじめ、琵琶湖疎水がどのように流れているかを見ておく。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>地域としての京都の歴史が、現在にどのように反映されているかをまとめておく。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. はじめに—京都を勉強して京都を歩く	あらかじめ京都の地図を準備して、見ておくのがよい。	2. 都市の成立—平安京の場合	平安京の地図を準備して、京都地図と見比べる。	3. 京都御所	京都御所が江戸時代の皇居であることを理解して、どんな建物があるかを確認しておく。	4. 御霊信仰と神仏習合	地図で八坂神社と神泉苑がどこにあるかを確認し、2の地図での位置と合わせる。	5. 清水坂と五条坂	地図で清水坂と五条坂を確認し、線を引いてその沿道や行く先にどんな史跡があるかを見る。	6. 京都の自治組織—町組の成立	地図で京都の上京・中京・下京区の中心部を確認し、道がどうなっているかを見ておく。	7. 水と生活—京都の場合	鴨川と桂川の位置を地図で確認し、近くにどんな神社や寺院があるかを見ておく。	8. 『看聞御記』と伏見(室町時代の近郊農村)	地図で伏見を確認し、京都市の中央部とどのような位置関係にあるかを見る。また史跡を見ておく。	9. 能と観客	能とはどんな芸能かを予習しておく(機会があったら見ておく)。	10. 狂言	能と一緒に行われた狂言とはどんな芸能かを予習しておく(機会があったら見ておく)。	11. 茶道と工芸	茶道における茶会をネットで確認し、どんな道具が使われるかを確認しておく。	12. 繊維の街としての京都—西陣と室町	地図で西陣と室町街の位置を調べる。また西陣織と友禅染がどんな織物かを確認しておく。	13. 祇園の歴史	地図で祇園の場所を確認し、八坂神社をはじめ近くにどんな史跡があるかを見ておく。	14. 大京都市	地図で岡崎・蹴上の場所を確認し、平安神宮をはじめ、琵琶湖疎水がどのように流れているかを見ておく。	15. まとめ	地域としての京都の歴史が、現在にどのように反映されているかをまとめておく。
授業内容	準備学習等の内容																																
1. はじめに—京都を勉強して京都を歩く	あらかじめ京都の地図を準備して、見ておくのがよい。																																
2. 都市の成立—平安京の場合	平安京の地図を準備して、京都地図と見比べる。																																
3. 京都御所	京都御所が江戸時代の皇居であることを理解して、どんな建物があるかを確認しておく。																																
4. 御霊信仰と神仏習合	地図で八坂神社と神泉苑がどこにあるかを確認し、2の地図での位置と合わせる。																																
5. 清水坂と五条坂	地図で清水坂と五条坂を確認し、線を引いてその沿道や行く先にどんな史跡があるかを見る。																																
6. 京都の自治組織—町組の成立	地図で京都の上京・中京・下京区の中心部を確認し、道がどうなっているかを見ておく。																																
7. 水と生活—京都の場合	鴨川と桂川の位置を地図で確認し、近くにどんな神社や寺院があるかを見ておく。																																
8. 『看聞御記』と伏見(室町時代の近郊農村)	地図で伏見を確認し、京都市の中央部とどのような位置関係にあるかを見る。また史跡を見ておく。																																
9. 能と観客	能とはどんな芸能かを予習しておく(機会があったら見ておく)。																																
10. 狂言	能と一緒に行われた狂言とはどんな芸能かを予習しておく(機会があったら見ておく)。																																
11. 茶道と工芸	茶道における茶会をネットで確認し、どんな道具が使われるかを確認しておく。																																
12. 繊維の街としての京都—西陣と室町	地図で西陣と室町街の位置を調べる。また西陣織と友禅染がどんな織物かを確認しておく。																																
13. 祇園の歴史	地図で祇園の場所を確認し、八坂神社をはじめ近くにどんな史跡があるかを見ておく。																																
14. 大京都市	地図で岡崎・蹴上の場所を確認し、平安神宮をはじめ、琵琶湖疎水がどのように流れているかを見ておく。																																
15. まとめ	地域としての京都の歴史が、現在にどのように反映されているかをまとめておく。																																

受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	毎回の質問について、重要なものについて授業中にまとめて説明する。		

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	30	
	定期試験	70	
		客観力と独創性。	

教科書:			

参考書:	五島邦治『京都の歴史がわかる事典』(日本実業出版社)		

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	e-mail goshima@sky.plala.or.jp		

授業テーマ:

「におい」からみる日本人の美意識

授業の概要:

「匂い立つような女」という表現がある。なぜ日本人が魅力的な女性のことを嗅覚で表現するのか。本講義はここから説きはじめ、京都でのフィールドワークで得た事例を紹介しながら、日本語の嗅覚表現にどんな特徴をもっているのかを、さまざまな角度から検証しつつ、日本語の嗅覚表現と中国語の聴覚表現とのつながり、及び中国語の聴覚表現の特徴を説いていく。そのうえで、なぜ日本人が嗅覚表現を用いて人間を評価するのか、なぜ中国人が聴覚表現を用いて人間を評価するのか、その文化的背景と文化の相違を考察していく。

到達目標:

○色香を重んじる日本人の美意識を自分の言葉で語れる。
○韻を重んじる中国人の美意識との対比から、比較文化の醍醐味を味わう。
○共感覚の不思議な世界に触れる。
○グループディスカッションや発表を通して、思考力や表現力を身につける。

授業方法:

アクティブラーニング形式、すなわち履修者も一緒に授業をつくっていく参加型の講義。
プリントを配り、写真・映像資料とパワーポイントを併用して講義を進めるが、履修者の積極的な参加を求める。毎回グループディスカッションを行い、グループごとに発表してもらったうえ、講義を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	教科書を用意してくる。
	2. 小説『香水:ある人殺しの物語』の世界	『香水:ある人殺しの物語』を読む。
	3. 京都に埋もれた「におい」の興味深い使い方と匂いの神ガンダルヴァ	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	4. においと生殖の不思議な関係	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	5. 「にほひ」の語源	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	6. 源氏物語の人物評価にみる「にほひ」	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	7. 源氏物語における「にほひ」の系譜	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	8. 薫の恋・匂宮の恋	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	9. 万葉集にみる「にほひ」	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	10. 万葉集にみる「にほひ」の共感覚	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	11. 「匂」という文字の由来	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	12. 「ひびき」で人物評価する中国人の美学	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	13. 中国人の宇宙観における音楽	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	14. 中国人の求める究極の音楽	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
	15. 総括	予習用プリントを読んで、課題を調べる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

「におい」の奥深い世界や共感覚の不思議な世界へ誘うので、ともに日本人の美意識を探りつつ、感性を磨いていきましょう。

フィードバックの方法:

採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
	発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでグループディスカッションに参加しているかどうか、グループディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
	授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:

パトリック・ジュースキント著 池内紀訳『香水-ある人殺しの物語』(文春文庫、2003年)

参考書:

朱捷『においとひびき』(白水社、2001年)
コレット著 工藤庸子訳『牝猫』(岩波文庫、1988年)
鈴木隆『匂いのエロティシズム』(集英社新書、2002年)
岩崎純一『音に色が見える世界』(PHP新書、2009年)
山元大輔『男は匂いで選びなさい』(ベスト新書、2007年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板

授業テーマ:	文化創生		
授業の概要:	古いしきたりや行事の意味や、何のために行われているのか、正しく学ぶ。 人々が、いつの時点かで、願いや祈りを込めて作り上げた行事が、楽しかったから、長く続いた。 今、同志社女子大学の学生が、古きを知って現代の感性を入れた新しい文化を作り上げ、続いたら、又、新しい文化が生まれる。古きを学び新しきを作る、そんな、考える授業です。		
到達目標:	グループで作ったパワーポイントを発表してもらいます。 行事、祭り、しきたりに、意味や願いや祈りをしっかりと含んだパワーポイントの制作。 今後、どうつなげていくか、を考えます。		
授業方法:	前半は、古くからの文化しきたり行事を学びます。後半は、グループで考え、議論して制作していきます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション これからの流れ 日本人の心	今度どのように授業を進めるかと日本文化の良さを知ってもらう	
	2. 町家の暮らし 12か月の暮らしや行事	パワーポイントやDVDにて実際の行事を知る。 全てに意味がある。	
	3. 茶道	茶道の歴史や流派の違いを学び、実際に10人ほど体験してもらいます	
	4. 香道	香道とは、どういうものかを知ってもらうのと、全身体験してもらいます	
	5. 書道	手紙の書き方を学び、実際に部でペンで手紙を書いて提出してもらいます	
	6. 宗教	日本人の宗教について 考え方や心を学ぶ	
	7. 日本の和のマナー	熨斗のかけ方、風呂敷の包み方 訪問時のマナー 席順 座布団の座り方、和食のマナー	
	8. 着物	着物の着方を教え、 全員に浴衣を着せます	
	9. グループディスカッション	文化創生	
	10. グループディスカッション	文化創生	
	11. グループディスカッション	文化創生	
	12. グループディスカッション	文化創生	
	13. グループディスカッション		
	14. グループ発表会	パワーポイントなどを使ってグループの集大成	
	15. 発表の続きや今後の話し合い	この文化を どう広め続けさせるか、ディスカッション	
受講者へのメッセージやアドバイス:	文化を知りたい体験したい身につけたいと希望する学生だけ受講してください		
フィードバックの方法:	メールやsms		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席率	70	グループ制作のため欠席は迷惑をかける
	提出物	15	和文化を学ぶ時に自分で体験するものもあるので、時間内もしくは後日、提出してもらいます
	発表の内容	15	グループ各位
教科書:			
参考書:	よくわかる茶道の歴史 谷端昭夫 淡交社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	電話、メール		

授業テーマ: メディア社会における他者表象

授業の概要： 現代社会は、多種多様なメディアに取り囲まれ、ありとあらゆる種類の情報が洪水のように溢れかえっています。このため、今日わたしたちが有する「異文化」や「他民族」などのイメージは、メディアによって形作られているといっても過言ではありません。

この講義では、文化人類学的な観点に立脚し、最も影響力が強いとされるテレビを中心とした映像メディアによる「異文化」や「他民族」などの描き方・語り口を検討するなかからメディア情報を批判的に読み解くとともに、わたしたち自身が持つ「異文化」や「他民族」についての認識そのものを改めて問い直して行きたいと考えています。

到達目標:

- ・テレビなどのマスメディアが生産する「異文化」や「他民族」などの他者表象の問題点を理解する。
- ・現代社会における「異文化」や「他民族」に対する他者表象のあり方を理解する。
- ・「われわれ」とは違う「他者」とされる人びとに対する自らのイメージや認識を相対化する。

授業方法： 講義形式
 ・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
 ・また必要に応じてビデオ映像などを使用します。
 ・定期的にコミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

1. メディア社会における他者表象
2. 民族誌批判とメディア社会
3. テレビにおける異文化表象Ⅰ：
娯楽番組としての民族誌映像
4. テレビにおける異文化表象Ⅱ：
異文化のメディア・コンテンツ化
5. テレビにおける異文化表象Ⅲ：
制作者自身の視点
6. テレビにおける異文化表象Ⅳ：
テレビメディアと情報選択
7. テレビの異文化表象を批判するⅠ：
ステレオタイプ化された「未開」観
8. テレビの異文化表象を批判するⅡ：
自文化中心主義のバイアス
9. テレビの異文化表象を批判するⅢ：
映像の体験と他者表象
10. 現代社会の異文表象を批判するⅠ：
日本人の「外国人」観
11. 現代社会の異文表象を批判するⅡ：
国際支配としての他者表象
12. 電子メディア時代の異文化理解Ⅰ：
情報メディアの帝国主義体制
13. 電子メディア時代の異文化理解Ⅱ：
新しいメディア環境における異文化理解
14. 電子メディア時代の異文化理解Ⅱ：
メディアリテラシーの可能性！？
15. まとめ

準備学習等の内容

事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。

前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス： この講義を受講される皆さんには、自分自身が抱えている「異文化」や「他民族」に対するイメージを見つめ直すことを期待します。また日常の生活のなかで、異文化・他民族などに対する自らのイメージに影響を及ぼしている、各種メディアの情報をチェックするように努めてください。

フィードバックの方法:

- ・レポートは、採点し授業期間中に教室で返却します。またその際、評価基準を改めて解説します。
- ・コメントペーパーは次回の授業の際、教室で総評を加えた解説を行います。
- ・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評鑑方法」：
「成績評鑑基準」：

評価方法	割合	評価基準
定期試験	45%	論述試験では、到達目標である「現代社会における自分自身が有する他者表象を相対化」し、それを具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準とします。
レポート	45%	レポートは授業期間内に課題し、到達目標である「他者表象の形成にメディアが及ぼしている影響力」に関連する出題テーマに対して、独自の見解が明確に主張されているかを評価の基準とします。
コメントペーパー	10%	授業期間中に4～5回実施するコメントペーパーは、授業内での問いに対して、自らの理解や意見などが記述できているれば加点します。

教科書：

参考書：『電子メディアを飼いなす』飯田卓・原知章（編）せりか書房

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、批判力

教員との連絡
方法：オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ:	未開と文明(食文化一特に発酵食品を通して)		
授業の概要:	「未開」という言葉がある。英語のprimitiveを訳したものだが、未開に対応するのが文明でcivilizationがその英訳である。文化人類学とは、そうした未開と呼ばれる無文字の民族や社会にも文化があることを認め、そうした人々の風俗や習慣をフィールド・ワークによって調査し、記録する学問分野である。興味のない人にとっては、そんな研究をして何になるの？と片付けられそうだが、興味のある人にとってはとても面白い領域なのである。「イラク戦争」はなぜ起こったのか、この問いは優れて文化人類学のテーマたりうる。アメリカとイラクとの文化(宗教)の相違を双方が理解していれば、多くの死傷者は出さずにすんだのだ。人間の文化がどの様に発生し、それがどういうルートで伝播していったのか、まだまだ不明な点も多いが、できるだけ講義の中で解明をしたいと考えている。		
到達目標:	世界の様々な食文化を通して、生活様式の違いや文化の相対性を理解する。		
授業方法:	視聴覚教材を使用し、解説を加えながら、フィールドワークの重要性について考える。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 文化人類学とは何か？(アイヌ語を例として)		
	2. 民族学と民俗学の違い(舞妓誕生)	舞妓と芸妓の違いを調べておくこと。	
	3. マリノフスキーとトロブリアン諸島(フィールドワーク＝参与観察の導入)		
	4. C・レヴィストロースと文化相対主義(アマゾン源流の吹き矢で暮らす人々)	構造主義が20世紀の思想に及ぼした影響を知り、異文化を理解するために何が必要かを考えておくこと。	
	5. ソシュールの言語学とその影響(失われゆく少数民族の言語)		
	6. 世界の発酵食品(「シュールストレミング」から「くさや」まで)	日本独自の発酵食品にはどのようなものがあるか？調べておくこと。	
	7. 食の文化史I(チーズ)		
	8. 食の文化史II(カレー)	森枝卓士『カレーライスと日本人』(講談社学術文庫)を読んでおくことが望ましい。	
	9. 食の文化史III(酒)		
	10. 食の文化史IV(チョコレート)	カカオ豆の原産地と加工地の違いを知り、フェアトレードの重要性を知っておくこと。	
	11. 食の文化史V(茶)	角山栄『茶の世界史ー緑茶の文化と紅茶の社会』(中公新書)を読んでおくことが望ましい。	
	12. 食の文化史VI(コーヒー)		
	13. 食の文化史VII(ラーメン)		
	14. 文化人類学の新分野(映像人類学)	英国と日本の共通点と相違点について調べておくこと。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	質問などがあった場合は、各授業終了後に対応する。		
フィードバックの方法:			
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	到達目標の理解と、到達目標を論理的に理解できているかを基準とする。
	授業への積極的参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標を理解しているかをチェックする。
教科書:	高田公理/嗜好品文化研究会【編】『嗜好品文化を学ぶ人のために』(世界思想社)		
参考書:	知里幸恵『アイヌ神謡集』(岩波文庫) 相原恭子『京都 舞妓と芸妓の奥座敷』(文春新書) 山口昌男『文化人類学への招待』(岩波新書) デイビッド・クリスタル【著】 斉藤兆史,三谷裕美【訳】『消滅する言語:人類の知的遺産をいかに守るか』(中公新書) 丸山圭三郎『ソシュールを読む』(岩波セミナーブックス) 小泉武夫『発酵』(中公新書) 文芸春秋編『チーズ図鑑』(文春新書) 上野聡『チョコレートはなぜ美味しいのか』(集英社新書) 文芸春秋編『中国茶図鑑』(文春新書) 臼井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻るー近代市民社会の黒い血液』(中公新書)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

ローカルな現場からの環境問題の理解

授業の概要:

わたしたちが暮らす現代社会は、今日、深刻な環境問題に直面しています。さらに、環境問題の多くは、その危機感に反して十分な成果を上げるに至っておらず、今後ますます深刻になって行くことが予想されています。そうした理由のひとつとして、環境問題が政治・経済・文化などの現代社会の抱える諸問題と複雑に絡むなかで生起していることがあげられます。このような背景を考慮し、本講義では、人類学的な観点から環境問題を引き起こしている背景の理解を試みるとともに、その解決の糸口を探って行きたいと考えています。とくに、本講義では、具体的な環境問題に直面している現地の人びとの視点／立場側からの理解と解決を模索したいと考えています。

- 到達目標:
- ・環境問題に対するイメージと現実のギャップを理解する。
 - ・環境問題が政治・経済・社会などの諸問題と複雑に関連していることを学び理解する。
 - ・われわれの日々の生活に直結した問題として環境問題を考察する。

授業方法:

講義形式

- ・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
- ・また必要に応じてビデオ映像などを使用します。
- ・不定期的にコミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	環境問題の理解にむけて	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	人間と環境の関係史	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	環境史から見た現代文明の起源	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	政治・文化が形作る環境との関係：アイヌ文化の環境利用	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	景観保護のジレンマ：フィリピン・コルディリエラの棚田群の危機	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	環境保護における現地の意義：奄美の環境を支える多様な価値観	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	現地における環境保全：北タイにおける河川保全区の実践	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	地球環境問題とは？：政治・経済・社会問題としての地球環境問題	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	地球温暖化と地域社会：エコ・ポリティックスの中核と周縁	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	生物多様性はなぜ保護されるのか：グローバルエコノミーと環境保護	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	エコ・ビジネスによる環境破壊：バイオエタノールは環境保護の救世主か？	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	環境問題に関わる意思決定：普遍性と多様性のはざま	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	地域社会からの環境保護：「開かれた地域主義」による「協治」	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	現地からの合意形成の可能性：試みとしてのESDモデル	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生の皆さんには、新聞やテレビなどの情報に対するような受身の態度ではなく、わたしたち一人ひとりが直面している切実な問題であるという認識に立ち理解と考察を深めることを期待します。また日常の生活のなかで、国内外の環境問題に関連する新聞報道やTVニュースなどの各種メディアの情報をチェックするように努めてください。

フィードバックの方法:

- ・レポートは、採点し授業期間中に教室で返却します。またその際、評価基準を改めて解説します。
- ・コメントペーパーは次回の授業の際、教室で総評を加えた解説を行います。
- ・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	45%	論述試験では、到達目標である「環境問題がわれわれの日常生活と直結した政治・経済・社会問題と関連している」ことを、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
	レポート	45%	レポートは授業期間内に出题し、到達目標である「環境問題に対するイメージと現実のギャップの理解」に基づき、出題テーマに対して独自の見解が明確に主張されているかを評価の基準とします。
	コメントペーパー	10%	授業期間中に4～5回実施するコメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。

教科書:

参考書：『地球環境問題の人類学: 自然資源へのヒューマンインパクト』池谷和信(編) 世界思想社

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、批判力

教員との連絡
方法：オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ:	演劇的知とは何か？（特に歌舞伎と宝塚歌劇について）		
授業の概要:	春学期で明らかにした民族学と民俗学、フィールドワークの重要性など、文化人類学にとって軸となる要素を更に掘り下げ、それらのテーマを演劇の視点から捉え、日本の旧劇（歌舞伎）と新劇（宝塚歌劇）を通して、日本文化を世界の中に位置づける。また新しい文化と古い文化との連関性についても考察したい。学生諸姉の積極的な授業参加を求めるため、小テストの実施などを通して一方的になりがちな講義内容の検討を行うと共に、未開と位置づけられた時代の文化の諸相について関心を深めたい。消え行く伝統芸能を古いものとして葬り去るのではなく、新しい視点から捉え直し、将来への展望へつなぐことを期待する。		
到達目標:	世界の演劇について、演者と観客の関係をとりあげ、考察する。特に「歌舞伎と宝塚歌劇」の比較を通して、日本の演劇の国際的位置づけを試みる。		
授業方法:	AV教材を用いて世界の総合芸術を鑑賞し、その共通点と相違点を理解する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 「Dream Girls」(宝塚音楽学校)	「宝塚」の創設者=小林一三について調べておくこと。	
	2. 宝塚歌劇に見るレビュー(「ザッツ・レビュー」について)		
	3. 歌舞伎の歴史I(出雲の阿国について)	有吉佐和子『出雲の阿国 上・下』(中公文庫)を読んでおくことが望ましい。	
	4. 歌舞伎の歴史II(上方歌舞伎と江戸歌舞伎＝和事と荒事)		
	5. 宝塚歌劇の歴史I(「愛と青春の宝塚」を通して)	辻則彦『男たちの宝塚-夢を追った研究生の半世紀』(のじく文庫)を読んでおくことが望ましい。	
	6. 宝塚歌劇の歴史II(「ザ・タカラヅカ」を通して)		
	7. 少女マンガと宝塚歌劇(「ベルサイユのばら」について)	池田理代子「ベルサイユのばら」に目を通しておくことが望ましい。	
	8. 梨園と世襲(スーパー歌舞伎について)		
	9. 総合芸術としての京劇(歌舞伎との共通点と相違点)	日本の総合芸術には、宝塚歌劇と歌舞伎の他にどんなものがあるか？調べておくこと。	
	10. 宝塚歌劇に見るミュージカル(「ルートヴィヒII世」について)		
	11. 総合芸術としてのミュージカル(「オペラ座の怪人」を通して)	アンドルー・ロイド・ウェバーのミュージカル作品にはどんなものがあるか？調べておくこと。	
	12. オペラについて(モーツァルト「魔笛」を通して)		
	13. バレエについて(チャイコフスキー「白鳥の湖」を通して)	亀山郁夫『ロシア・アヴァンギャルド』(岩波新書)を読んでおくことが望ましい。	
	14. 「宝塚」を変えたミュージカル(「エリザベート」について)		
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	質問などがあった場合は、各授業終了後に対応する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80%	到達目標の理解度と、到達目標を論理的に説明できているかを基準とする。
	授業への積極的参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標を理解しているかをチェックする。
教科書:	和田充夫【編・著】『宝塚ファンから読み解く超高関与消費者へのマーケティング』(有斐閣) 山川静夫『歌舞伎の愉しみ方』(岩波新書)		
参考書:	津金澤聰廣『宝塚戦略』(講談社現代新書) 川崎賢子『宝塚というユートピア』(岩波新書) 小笠原恭子『出雲のおくに-その時代と芸能』(中公新書) 今尾哲也『歌舞伎の歴史』(岩波新書) 玉岡かおる『タカラジェンヌの太平洋戦争』(新潮新書) 中本千晶『宝塚(ヅカ)読本』(文春文庫) 大塚英志『「りぼん」のふろくと乙女ちっくの時代:たそがれ時にみつけたもの』(ちくま文庫) 堀内修『はじめてのオペラ』(講談社現代新書) 鈴木晶『バレエの魔力』(講談社現代新書) 永竹由幸『オペラと歌舞伎 新版』(水曜社)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:	大統領に見るアメリカ政治(鈴木) アメリカ社会における法の役割(宮川) アメリカ文学に見る移民たちの経験と世界観(湊)		
授業の概要:	本講は、アメリカを総合的に理解することを目的とする科目である。一国を理解するには、まさに人間を理解するのと同様に、多面的かつ総合的考察が要求される。とりわけアメリカ研究という学問分野は、その出発のときから、学際的研究方法が重視されている。本講では、アメリカを共通の研究対象とする各担当者が、各々の研究特色を生かし、下記の問題意識と内容で授業を行う。 ○ 著名な大統領の政治スタイルを検討しつつ、アメリカ政治に流れる固有の伝統について考察する。異色の存在感を放って登場したトランプ新大統領にも焦点を当てながら、現代に求められる大統領像がどのようなものであるかを探っていく。(鈴木) ○ アメリカ社会における法の役割を、現代の大きな法的争点であるアフーマティブ・アクション、中絶の権利、および不法移民の問題を素材にして検討する。(宮川) ○ アメリカ文学に反映されたマイノリティとしての移民たちの様々な立場を読み取り、どのように彼らが先祖からの文化をとらえ直し、アメリカの主流文化に対して自分たちを位置づけようと試みているかを考察する。(湊)		
到達目標:	1) アメリカについて、政治、法、文学という3つの観点から、基本的な事柄を理解する。 2) アメリカの現代社会に関わる事柄について、自ら関心をもって積極的に情報を得る姿勢を身に付ける。 3) アメリカに関する理解を通して、日本や世界の社会的・文化的事象について自分自身の見解を持つことができ、また文学作品に親しみをもって読むことができるようになる。		
授業方法:	講義を中心として、授業進行の中で適宜学生に質問を投げかけ、重要点への注意喚起と学生理解の確認を行う。テーマに関する映像資料等を適宜、活用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(担当者全員)	アメリカの何についてとくに関心があるかを考えておく	
	2. 合衆国大統領とは何か(鈴木)	授業内容を振り返ってまとめを書き、次週提出	
	3. 大統領選挙とアメリカ社会(鈴木)	授業内容を振り返ってまとめを書き、次週提出	
	4. ブッシュ大統領と文化戦争(鈴木)	授業内容を振り返ってまとめを書き、次週提出	
	5. オバマ大統領登場の歴史的意義(鈴木)	授業内容を振り返ってまとめを書き、次週提出	
	6. トランプ大統領と現代(鈴木)	授業内容を振り返ってまとめを書き、次週提出	
	7. アメリカ社会と法の役割―法に頼る社会(宮川)	指定参考文献を予習	
	8. 人種差別の解消と法の役割(宮川)	指定参考文献を予習	
	9. 女性差別の解消と法の役割(宮川)	指定参考文献を予習	
	10. 移民社会と法の役割(宮川)	指定参考文献を予習	
	11. 移民／先住民文学としてのアメリカ文学(湊)	10週目までの授業内容を自分なりにまとめる	
	12. アジア系移民文学の変化(湊)	前週の内容をまとめ、感想を書く	
	13. カリブ海経由のアフリカ系文化(湊)	前週の内容をまとめ、感想を書く	
	14. 先住民文化の柔軟性(湊)	前週の内容をまとめ、感想を書く	
	15. 「アメリカ人」とは誰のことか(湊)	11-14週の授業内容を自分なりにまとめる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	アメリカで今起こっていることに関心を向けて、問題意識や疑問を持って授業に臨むことで、より理解を深めることができます。(鈴木) アメリカ合衆国の従来のイメージとは違ったアメリカを紹介します。固定観念に囚われず、自由な発想で講義を聞くようにしてください。(湊)		
フィードバックの方法:	提出物は評価またはコメントを付けて、後日の授業時に、またはマナビーを通して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業内容に関するまとめ課題(鈴木)	80%	授業内容を適切に理解し、自分自身の問題意識に照らしてまとめられているか
	出席及び授業への積極的参加(鈴木)	20%	集中力をもって授業に臨み、提起される問いに対して自分自身の見解を述べられるか
	学期末レポート(宮川)	100%	課題で提示された論点を正しく把握し、自分自身の見解が明確であるか
	課題(まとめ文)(湊)	70%	授業内容を適切に理解し、自分自身のオリジナルな見解が示されているか
	受講態度(湊)	30%	授業に積極的に参加し、質問時に適切な返答ができるか
			3人の担当者が上記の方法と割合により各々個別に算出した成績を均等に用いて、一つの総合成績を算出する。
教科書:	未定		
参考書:	詳細な参考文献一覧を、初回授業で配付する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	Eメール、授業後に教室で対応		

授業テーマ:	アメリカの歴史と宗教(才藤) アメリカの言語と文化(佐伯) ハリウッドにおける小説の映画化(高平)		
授業の概要:	本講は、アメリカを総合的に理解することを目的とする科目である。一国を理解するには、まさに人間を理解するのと同様に、多面的かつ総合的考察が要求される。とりわけアメリカ研究という学問分野は、その出発のときから、学際的研究方法が重視されている。本講では、アメリカを共通の研究対象とする各担当者が、各々の研究特色を生かし、下記の問題意識と内容で授業を行う。 ○ 宗教的理念は、その建国から今日に至るまでアメリカ合衆国を導き続けてきたと言われる。この授業では、ピルグリム・ファーザーズの時代から今日に至るまでのアメリカ宗教史の中からいくつかのトピックをとりあげて考察する。(才藤) ○ アメリカの言語と文化の特性について理解する。とくに、アメリカへの移民の歴史と特徴を通して見たダイナミックなアメリカ文化とその英語への影響を考察する。(佐伯) ○ ポピュラーカルチャーという視点からハリウッドにおける小説の映画化について考察する。特に、原作と映画の変更点を比較することによって、なぜそのような変更が起きたのかを分析し、ハリウッドが描くアメリカとはどのようなものかを考察する。(高平)		
到達目標:	1) アメリカについて、宗教、言語、ポピュラーカルチャーという3つの観点から、基本的な事柄を理解する。 2) アメリカの現代社会に関わる事柄について、自ら関心をもって積極的に情報を得る姿勢を身に付ける。 3) アメリカに関する理解を通して、日本や世界の社会的・文化的事象について自分自身の見解を持つことができ、また文学作品に親しみをもって読むことができるようになる。		
授業方法:	講義を中心として、授業進行の中で適宜学生に質問を投げかけ、重要点への注意喚起と学生理解の確認を行う。テーマに関する映像資料等を適宜、活用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(担当者全員)	アメリカの何についてとくに関心があるかを考えておく	
	2. 植民地時代の宗教的状況(才藤)	指定参考文献を予習	
	3. 大覚醒:アメリカ独立の背景(才藤)	指定参考文献を予習	
	4. 公民権運動の宗教的背景(才藤)	指定参考文献を予習	
	5. 女性解放運動とキリスト教(才藤)	指定参考文献を予習	
	6. 多様化する今日のアメリカの宗教(才藤)	指定参考文献を予習	
	7. アメリカ社会の特質(佐伯)	指定参考文献を予習	
	8. アメリカ文化の多様性(佐伯)	指定参考文献を予習	
	9. アメリカの言語と言語政策(佐伯)	指定参考文献を予習	
	10. アメリカ英語とその背景(佐伯)	指定参考文献を予習	
	11. 日米言語文化とコミュニケーション(佐伯)	指定参考文献を予習	
	12. アメリカの成り立ちにみるアメリカの特徴(高平)	アメリカの特徴について思いつくことをまとめておく。／授業内容を500字から700字にまとめて次週の授業で提出する。	
	13. アメリカのポピュラーカルチャーとハリウッド(高平)	アメリカのポピュラーカルチャーとはどういうものかを考えておく。／授業内容を500字から700字にまとめて次週の授業で提出する。	
	14. 1930年代のアメリカハリウッドの成り立ち(高平)	1930年代のアメリカに対して抱いているイメージをまとめておく。／授業内容を500字から700字にまとめて次週の授業で提出する。	
	15. 『怒りの葡萄』『はつかねずみと人間』の映画化(高平)	『怒りの葡萄』『はつかねずみと人間』について事前に作品を読んでおくことが望ましい。作品を読む時間がとることができない場合は、あらすじを確認しておく。／授業内容を500字から700字にまとめて提出する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	事前に授業の内容に関して自分なりに意見をまとめておくようにしてください。(高平)		
フィードバックの方法:	提出物は評価またはコメントを付けて、後日の授業時に、またはマナビーを通して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート(2200字～2500字 A4約2枚)(才藤)	70%	到達目標を理解したうえで、自分がどのように考えるのかを明確かつ論理的に論述できるか
	出席及び授業への積極的参加(才藤)	30%	積極的に授業に参加し、到達目標が理解できたか
	レポート(佐伯)	80%	到達目標を理解したうえで、自分がどのように考えるのかを明確かつ論理的に論述できるか
	出席及び授業への積極的参加(佐伯)	20%	積極的に授業に参加し、到達目標が理解できたか
	授業内容に関するまとめ課題(高平)	100%	授業内容を適切に理解し、自分自身の問題意識に照らしてまとめられているか 3人の担当者が上記の方法と割合により各々個別に算出した成績を均等に用いて、一つの総合成績を算出する。
教科書:	未定		
参考書:	詳細な参考文献一覧を、初回授業で配付する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	Eメール、授業後に教室内で対応		

授業テーマ:

授業の概要: アジア全体の概説と並んで、西アジア・南アジア地域を中心に、自然環境、民族、文化、社会、産業、国際関係等について地理学的な観点から総合的に考察する。

到達目標: ・アジア各国に関する知識と理解力が養われる。
・マスコミ報道やインターネットからバランスのとれた情報を取捨選択する能力が養われる。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	アジアとは何か	新聞やTVニュースからアジアに関する事件を抽出しておく。
2.	アジアの国家・民族・宗教概説	教科書の民族・宗教関連ページを熟読しておく。
3.	アジアの自然環境と地域区分概説	教科書のアジア関連ページを熟読しておく。
4.	西アジアの国家と社会(1)乾燥気候と古代文明	教科書の西アジア関連ページを熟読しておく。
5.	西アジアの国家と社会(2)ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の分離と民族性	高校で習った世界史の古代史該当部分を復習しておく。
6.	西アジアの国家と社会(3)第一次世界大戦とパレスチナ問題	高校で習った世界史の近代史該当部分を復習しておく。
7.	西アジアの国家と社会(4)イラクをめぐる紛争・戦争	教科書のイラク関連ページを熟読しておく。
8.	世界の石油需給とバランス、西アジアのまとめ	教科書の石油需給関連ページを熟読しておく。
9.	南アジアの国家と社会(1)インドを中心とする多様な自然環境と農業	教科書のインド関連ページを熟読しておく。
10.	南アジアの国家と社会(2)バラモン教・仏教・ヒンドゥー教・イスラム教の重層関係	教科書の民族・宗教関連ページを熟読しておく。
11.	南アジアの国家と社会(3)カースト制度の歴史と現状	インターネットなどでカースト制度について調べておく。
12.	南アジアの国家と社会(4)植民地諸国の独立と国家再編成	高校の世界史で習ったインド該当部分を復習しておく。
13.	南アジアの国家と社会(5)近代産業の発達と中間層の台頭	教科書のインド関連ページを熟読しておく。
14.	世界の穀物需給バランス、南アジアのまとめ	教科書の穀物需給関連ページを熟読しておく。
15.	全体のまとめ	すべてのノートに目を通し、疑問点や不十分点などを抽出しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業最後に行う小テストについては、次回の授業で内容をまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	授業で紹介したアジア各国に関する知識を評価する。
	小テスト	20	毎回の授業における理解力を評価する。

教科書: 『現代地図帳2017－2018』二宮書店。(高校で使用していた地図帳で代用してもよい)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、

教員との連絡方法: 授業の前後に教室で応対。必要に応じてEメールアドレスを提示する。

授業テーマ:	アジアの地域区分とすがた		
授業の概要:	地理学的な視点から、アジア地域に関する基礎知識とらえ方について説明する。アジア全体を概観したのち、地域区分、自然環境と地域の問題、統計上に見るアジア諸国の問題について触れていく。立場やスケールをかえることによって、諸地域のすがたが見えてくるであろう。アジア地域の全体と部分を比較していきながら、さまざまな現象とその問題について受講生のみなさんと考えていく授業である。		
到達目標:	①アジアに関する基礎知識を整理しながら、複眼(全体と個々の地域)で理解する考察力を身につける。 ②地域の諸現象を潜む問題を掘り下げる洞察力を身につけ、現在のみならず将来にもつながる考察力を養う。 ③過去の事象が現代に引き継がれ、地域に根付いていることを理解する能力を身につける。		
授業方法:	講義形式であるが、地図作業をともなう。第1～7回はアジア地域全体と部分を比較対象しながら複眼的な地域の見方を理解してもらうために説明をしていく。第8～14回は個別の事例を紹介しながら地域に潜む諸問題を掘り下げていく。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 地域研究をはじめる前に	教科書として指定する地図帳を購入しておき、アジアの関する部分を確認しておく。	
	2. 地域のとらえ方	配付する資料を事前に読んでおく。	
	3. アジアの位置と地域区分	配付する資料に作業をしておく。	
	4. アジアの自然環境		
	5. アジア諸国の概観(1) 東アジア・東南アジア		
	6. アジア諸国の概観(2) 南アジア・西アジア		
	7. 地域統計からみたアジアのすがた	配付する資料を事前に読んでおく。	
	8. 日本におけるバナナの輸入と消費	配付する資料を事前に読んでおく。	
	9. 東南アジアにおけるバナナの生産と生産地域が抱える問題	配付する資料を事前に読んでおく。	
	10. 東南アジアにおけるエビの養殖と地域の変容	配付する資料を事前に読んでおく。	
	11. ドバイの産業構造と地域変容	配付する資料を事前に読んでおく。	
	12. 東南アジアの労働力移動		
	13. アジア地域にみられる文様と文様の和様化	配付する資料を事前に読んでおく。	
	14. アジア地域にみられる伝統的家屋の屋根と装飾		
	15. まとめ		
	受講者へのメッセージやアドバイス:	地理の視点にたった授業を展開する。地理が苦手な人も受講に差し支えありません。	
フィードバックの方法:	①提出されたレポートについては、コメントをつけて教室で返却する。 ②提出されたコメントペーパーについては、次回の授業時に教室で受講生全体に講評を述べる。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60%	到達目標①～③に関する理解度によって評価する。
	レポート	10%	到達目標①について、一定の水準に達したかを評価基準とする。
	授業への参加度	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①～③の取り組みができているかを評価基準とする。
教科書:	帝国書院編集部編『新詳高等地図』帝国書院。		
参考書:	必要に応じて適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	①Eメール(授業内で連絡する) ②授業の前後に教室内外で応対		

授業テーマ:

授業の概要: アジア全体の概説と並んで、東南アジア・東アジア地域を中心に、自然環境、民族、文化、社会、産業、国際関係等について地理学的な観点から総合的に考察する。

到達目標: ・アジア各国に関する知識と理解力が養われる。
・マスコミ報道やインターネットからバランスのとれた情報を取捨選択する能力が養われる。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	アジアとは何か	新聞やTVニュースからアジアに関する事件を抽出しておく。
2.	アジアの国家・民族・宗教概説	教科書の民族・宗教関連ページを熟読しておく。
3.	アジアの自然環境と地域区分概説	教科書のアジア関連ページを熟読しておく。
4.	東南アジアの国家と社会(1)多様な自然環境と農業	教科書のアジア自然環境・農業関連ページを熟読しておく。
5.	東南アジアの国家と社会(2)インドネシアの民族・宗教・文化	教科書のインドネシア関連ページを熟読しておく。
6.	東南アジアの国家と社会(3)インドネシアの政治制度と国際関係	インターネット等でインドネシアの政治制度について調べておく。
7.	東南アジアの国家と社会(4)マレーシアとシンガポールの歴史	高校で習った世界史の植民地該当部分を復習しておく。
8.	東南アジアの国家と社会(5)マレーシアとシンガポールの経済成長	教科書のシンガポール関連ページを熟読しておく。
9.	東南アジアの国家と社会(6)ベトナムの歴史とベトナム戦争	教科書のベトナム関連ページを熟読しておく。
10.	東南アジアの国家と社会(7)ベトナム戦争以後のベトナム	インターネット等でドイモイ政策について調べておく。
11.	アジアの食料需給バランス、東南アジアのまとめ	教科書で食糧需給関連ページを熟読しておく。
12.	東アジアの国家と社会(1)中国の自然環境と農業	教科書の中国関連ページを熟読しておく。
13.	東アジアの国家と社会(2)中国の開放政策と工業化	教科書の経済特区関連ページを熟読しておく。
14.	国連におけるアジアの役割・日本の役割	インターネット等で国連の組織について調べておく。
15.	全体のまとめ	すべてのノートに目を通し、疑問点や不十分点などを抽出しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業最後に行う小テストについては、次回の授業で内容をまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	授業で紹介したアジア各国に関する知識を評価する。
	小テスト	20	毎回の授業における理解力を評価する。

教科書: 『現代地図帳2017－2018』二宮書店。(高校で使用した地図帳で代用してもよい)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応。必要に応じてEメールアドレスを提示する。

授業テーマ:

観光と地域の諸問題

授業の概要:

観光の視点からアジアの諸地域と日本についてとらえ、地域の問題を明らかにしていく。ツアーパンフレットを資料として取り扱ってみると、アジア地域の観光地と日本の関係がみえてくる。また、日本を紹介した観光ガイドブック(洋書)を読み解くと、日本の観光地の意外な一面がわかってくる。受講生全員で作業や分析に取り組んでもらい、結果を導き出していきたい。この作業を通じて近年の観光動向をつかむことがこの授業の目標である。

到達目標:

①観光という視点から、アジアをとらえる探究心をもつ。
②アジア諸地域の地域性を引き出す能力を身につける。
③アジア地域の観光動向を分析する力を身につける。

授業方法:

前半は配付資料を用いて説明する講義形式である。ただし、地図・図表作成を実施する。後半は、資料整理を通じて各自報告をおこなってもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 導入:世界の中のアジアー都市間の移動ー	
	2. 観光地とは	
	3. アジアの観光地	
	4. 世界遺産からみたアジア	配付資料に作業をしておく。
	5. アジアの地域イメージ	配付資料を読んでおく。
	6. 日本からの観光ツアーとアジアの観光地(1)ーツアーパンフレットの収集ー	授業内で説明する内容にしたがって資料を収集しておく。
	7. 日本からの観光ツアーとアジアの観光地(2)ーツアーパンフレットの整理ー	
	8. 日本からの観光ツアーとアジアの観光地(3)ーツアーパンフレットの読み取り作業ー	第7回で集計したデータを整理しておく。
	9. 日本からの観光ツアーとアジアの観光地(4)ーツアーパンフレットの項目分析と地域イメージの考察ー	
	10. 観光客の動向とアジア地域	配付資料を読んでおく。
	11. 観光ガイドブックーJAPANにみる日本<概要>ー	配付資料を読んで報告資料を作成しておく。
	12. 観光ガイドブックーJAPANにみる日本<地域区分と観光地>ー	配付資料を読んで報告資料を作成しておく。
	13. 観光ガイドブックーJAPANにみる日本の観光地<項目分析>ー	
	14. 観光ガイドブックーJAPANにみる日本の観光地<総括>ー	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

①提出されたレポートについては、コメントをつけて教室で返却する。
②提出されたコメントペーパーについては、次回の授業時に教室で受講生全体に講評する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60%	授業目標①～③の理解度による評価する。
	レポート	10%	授業目標②が実践できたかどうかを評価する。
	授業への参加度	30%	到達目標①が養われたかどうかを評価する。

教科書:

帝国書院編集部『新詳高等地図』帝国書院

参考書:

参考文献は必要に応じて紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

①Eメール(連絡先アドレスは授業内で連絡する)
②授業の前後に教室内外で応対

046400

日本古典芸能A

倉橋 正恵

授業テーマ：古典芸能の魅力

授業の概要：文字資料だけでなく、画像や映像資料を用いて、日本古典芸能の基礎知識、能以前の芸能、能、狂言、歌舞伎、文楽という順で学んでいく。

到達目標：日本の古典芸能の基礎を学ぶと共に、日本独自の芸能がいかに発展し、芸能間で互いに影響を与えながら、芸能文化が人々の生活に浸透していた様子を理解する。

授業方法：講義を中心に、絵画・浮世絵・写真・ビデオ・DVDなどのヴィジュアルな教材を適宜使用して授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	古代芸能	祭祀と芸能、散楽	
	2.	猿楽・田楽	散楽から猿楽、田楽と猿楽の交流、世阿弥以前	
	3.	能	世阿弥、世阿弥以後、近世期の能	
	4.	能の鑑賞	映像鑑賞	
	5.	狂言	狂言の歴史と分類	
	6.	狂言の鑑賞	映像鑑賞	
	7.	歌舞伎の発生	風流踊り、歌舞伎踊り、遊女歌舞伎、若衆歌舞伎	
	8.	野郎歌舞伎・元禄歌舞伎	続狂言、荒事、和事	
	9.	18・19世紀の歌舞伎	写実性、生世話、鶴屋南北、歌舞伎十八番、河竹黙阿弥	
	10.	歌舞伎の鑑賞	映像鑑賞	
	11.	語りと人形浄瑠璃	古浄瑠璃、宇治加賀掾	
	12.	近松門左衛門	竹本義太夫、世話物	
	13.	近松以後	竹本座、豊竹座	
	14.	文楽の鑑賞	映像鑑賞	
	15.	まとめ	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス：観劇レポートを課するため、授業で学ぶ古典芸能に対する基礎知識に加えて、受講生自身が観劇した芸能に対する個人学習が必要となる。また、講義中に画像や映像を伴って解説するため、定期試験もその点を重視した出題となる事を考慮して受講すること。

フィードバックの方法：教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80	日本の古典芸能に対する基礎知識や、歴史、影響関係に関する理解度により評価する。
	観劇レポート	20	実際に観劇した古典芸能への理解度と、その芸能に対しての考察が論理的に説明できているかによって評価する。

教科書：

参考書：今岡謙太郎『日本古典芸能史』(武蔵野美術大学出版局、2008年)
山路興造『京都 芸能と民族の文化史』(思文閣出版、2009年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法：授業の前後に教室内で対応。

046560

日本古典芸能B

倉橋 正恵

授業テーマ:

古典芸能の魅力

授業の概要:

文字資料だけでなく、画像や映像資料を用いて、日本古典芸能の基礎知識、能以前の芸能、能、狂言、歌舞伎、文楽という順で学んでいく。

到達目標:

日本の古典芸能の基礎を学ぶと共に、日本独自の芸能がいかに発展し、芸能間で互いに影響を与えながら、芸能文化が人々の生活に浸透していた様子を理解する。

授業方法:

講義を中心に、絵画・浮世絵・写真・ビデオ・DVDなどのヴィジュアルな教材を適宜使用して授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 古代芸能	祭祀と芸能、散楽
2. 猿楽・田楽	散楽から猿楽、田楽と猿楽の交流、世阿弥以前
3. 能	世阿弥、世阿弥以後、近世期の能
4. 能の鑑賞	映像鑑賞
5. 狂言	狂言の歴史と分類
6. 狂言の鑑賞	映像鑑賞
7. 歌舞伎の発生	風流踊り、歌舞伎踊り、遊女歌舞伎、若衆歌舞伎
8. 野郎歌舞伎・元禄歌舞伎	続狂言、荒事、和事
9. 18・19世紀の歌舞伎	写実性、生世話、鶴屋南北、歌舞伎十八番、河竹黙阿弥
10. 歌舞伎の鑑賞	映像鑑賞
11. 語りと人形浄瑠璃	古浄瑠璃、宇治加賀掾
12. 近松門左衛門	竹本義太夫、世話物
13. 近松以後	竹本座、豊竹座
14. 文楽の鑑賞	映像鑑賞
15. まとめ	総括

受講者へのメッセージやアドバイス:

観劇レポートを課すため、授業で学ぶ古典芸能に対する基礎知識に加えて、受講生自身が観劇した芸能に対する個人学習が必要となる。また、講義中に画像や映像を伴って解説するため、定期試験もその点を重視した出題となる事を考慮して受講すること。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	日本の古典芸能に対する基礎知識や、歴史、影響関係に関する理解度により評価する。
観劇レポート	20	実際に観劇した古典芸能への理解度と、その芸能に対しての考察が論理的に説明できているかによって評価する。

教科書:

参考書:

今岡謙太郎『日本古典芸能史』(武蔵野美術大学出版局、2008年)
山路興造『京都 芸能と民族の文化史』(思文閣出版、2009年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	近代京都の美術		
授業の概要:	明治維新を迎えた京都は、東京遷都によって打撃を受けた。天皇家を中心とする公家社会によって支えられてきた美術・工芸の分野は、大きな意味でのパトロン(美術後援者)を失うことになった。この危機をどのように乗り越えようとしたのか。京都の「近代」をめぐる美術・工芸・建築などを取り上げ、明治以後の新たな取り組みの中で残されてきた作品について講義を行う。		
到達目標:	現在に続く近代京都の美術に対する理解を深め、新しい視線で美術の世界を味わいたい。		
授業方法:	各回テーマにそって代表作をスライドで見ながら進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. ガイダンス(授業の概要紹介、レポート用紙配布など) 2. 近代の絵画1―伝統の近代化 3. 近代の絵画2―洋画の世界 4. 近代の絵画3―大正・昭和の展開 5. 近代の染織1―キモノをたどる 6. 近代の染織2―技術の近代化 7. 近代の染織3―大正・昭和の動向 8. 近代の陶磁器1―幕末から明治へ 9. 近代の陶磁器2―京都の陶芸家 10. 近代の図案1―図案教育 11. 近代の図案2―デザインへの展開 12. 近代の建築1―明治時代 13. 近代の建築2―大正・昭和期 14. 近代の建築3―京都の建築家 15. まとめ	準備学習等の内容 できるだけ美術展覧会や近代建築などに触れ、実際の作品を鑑賞する機会を持つこと(以下同じ)。 教科書の該当ページを予習しておくことが望ましい(以下同じ)。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	わかりやすく、楽しめる授業にしたいと思います。興味を持った作品、分野についてさらに自分で学び理解を深めて下さい。授業を通して各人が美術に対する興味の巾を広げ、身近な作品に新たな視線をむけてほしいと思います。		
フィードバックの方法:	授業時間に実施するコメントペーパー。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 定期試験 展覧会鑑賞レポート 授業への参加度 ミニ・レポート	割合 75 必須 15 10	評価基準 問題に対して自分の言葉で論理的に説明できているか。 レポート用紙はガイダンスで配布(必ず提出のこと。※提出のない場合は単位取得は認められません)。鑑賞した作品について自分なりに感じたことをレポートできているか。 積極的に授業に参加できたか。 予告なしに行うレポート(詳細は授業で指示する)。
教科書:	並木誠士・青木美保子編『京都 近代美術工芸のネットワーク』思文閣出版		
参考書:	授業中に紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応します。		

授業テーマ:

西洋の近現代における絵画、写真

授業の概要:

19世紀、遠近法的世界の解体と写真という新しい視覚体験の登場とともに西洋美術は大きく変容する。かつて世界を真理として映し出す「窓」であった絵画が、近代以降に辿った変遷を追いつつ、絵画や写真のイメージを介して私たちが世界をいかに経験しうるかということについて考えていきたい。

到達目標:

1) 西洋近代における絵画や写真イメージの特質を把握する。
2) 作品を見、感じたことを自分の言葉で語る。

授業方法:

毎回、スライド等を使用して作品を提示しつつ話をすすめる。先ず見るがこの講義の基盤となる。3回ないし4回、講義内容に即した課題を出し、その講義時間中に簡単なレポートを提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション		次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	2. 遠近法の解体		次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	3. 近代絵画の出発		次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
		マネ	
	4. 純粹器官としての眼	モネ	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	5. 新たな世界経験としての絵画期印象派 ゴッホ	後	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	6. 新たな世界経験としての絵画象派 ゴーギャン セザンヌ	後期印	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	7. 写真の驚きとは真	19世紀写	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	8. モダンフォト ティーグリッツとアジェ	ス	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	9. 絵画のモダニズムから抽象絵画へ	キュビズ	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	10. <芸術>の外部へ	デュシャン	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	11. 方法としての無意識リズム	シュールリア	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	12. シュールリアリズムと映像		次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	13. 生成としてのイメージ	ポロック	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	14. マス・イメージの存在論、	ウォーホル	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
	15. アメリカン・ドキュメント・フォトの系譜		次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

質問等、必要があれば教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末レポート	50	講義目標をふまえて、印象深かった作品について論じる
	授業中の小レポート	30	講義で紹介した作品に関して自分なりの視点を述べる
	出欠席	10	
	授業への積極的な参加	10	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後の教室内での対応

授業テーマ:

音楽を多層的に見ていこうという目的であるので、興味のある学生のみが対象。講義を楽しんでもらいたい。出席重視。私語厳禁。

授業の概要:

音楽をVTR、DVD、LD、CDなどを駆使して進めていく。

到達目標:

音楽をひとつところで捉えないような耳を持って欲しい。

授業方法:

講義形式。質問もあり。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽史のエピソード	主にベートーヴェンについて
2.	ピアノ曲の魅力	楽器の成立、歴史など
3.	交響曲の話	構造や歴史
4.	第九についての考察	主に第四楽章について
5.	オペラと歌舞伎1	共通点と相違点
6.	オペラと歌舞伎2	荒事
7.	オペラと歌舞伎3	フィガロの結婚
8.	名曲とそ条件	その基準となるもの
9.	良い音楽とはその感動にほかならない	作家スタンダールの音楽観
10.	演奏—その意味と仕組み	楽譜からみる演奏の相違
11.	楽譜の話	楽譜の歴史
12.	バロック音楽の芸術	成立と条件
13.	J. S. Bachの器楽における宗教性	彼の教会音楽について
14.	作曲における見えざる聴衆	作曲家の姿勢
15.	フェルメールの描いた楽器	図象学と画中画

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

講義中に説明

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席日数	60	一回の集積で4点
	レポート	40	毎回提出。長さで内容で評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

力分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

音楽と音楽「以外」のものを繋ぐまなざし

授業の概要:

私達とはもすれば音楽を、それだけが独立して存在しているものとみなしてしまいがちである。しかし音楽は、それを取り巻く人々の営み(社会)なしには存在しない。
例えば、現代における音楽のつくられかたはテクノロジーの発達を抜きにしては考えられないだろう。あるいは19世紀のヨーロッパ芸術音楽の「伝達」には、楽譜というその時代のメディアの状況が大いに関わってくるだろう。さらに、そもそも音楽(音楽家)というものを、人々がどのようにみなし受け止めているのかという認識や行動を考えると、音楽はそれを支える社会集団とともに考察する必要があるだろう。
このように音楽は、「生産」「伝達」「受容」のどの局面においても、社会と無縁ではありえない。本講義では、音楽そのものを対象とするのではなく、音楽のどの局面においても深く関ってくる「社会」というものを広く視野に入れることを目指し、音楽が音楽「外」のものといかに関わっているのかについて広く考えてゆきたい。

- 到達目標:
- (1) 音楽研究の歴史を、文化研究としてとらえることができる。

(2) 音楽を音響それだけではなく、社会的及び歴史的背景からとらえることができる。

(3) 「異文化を理解する」ということを通して、自分自身の傾向やバイアスに気付くことができる。

(4) 音楽の好き嫌いを個人的なものとしてではなく、ある程度社会学的観点から説明できる

授業方法:

講義/演習 本授業は原則2人1組の指定席とし、授業時間内に講義内容に基づくテーマについて適宜パートナーとのディスカッションを行ってもらう。また議論の成果をミニコメントシートへ記入してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	テクノロジーの発達～激変する音楽製作のありかた	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
2.	音楽と宗教との関係	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
3.	サウンドスケープ	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
4.	多様化する音楽聴取のありかた	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
5.	「演奏会」システムの社会史	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
6.	歌詞と社会情勢～翻訳される歌詞・されない歌詞	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
7.	作られる音楽家のイメージ～バッハ・ベートーヴェンを事例に	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
8.	音楽家の社会的立場、そのイメージ	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
9.	ロックミュージックの社会的な意味	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
10.	ポピュラー音楽の3層構造	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
11.	音楽に現れる男らしさ・女らしさ	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
12.	消費社会と「クラシック音楽」	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
13.	混迷する「オリジナル」概念～音楽の著作権	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
14.	音楽学とは何か	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
15.	まとめ	これまでの内容を復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	到達目標に関する理解度により評価する。
	ディスカッションへの参加状況	20%	積極的に授業に参加しているかどうかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	現代の音楽生活をめぐる諸問題と社会に関する能動的音楽活動		
授業の概要:	現代においては、みずから足を運んでコンサートやライブに聴きに行き、音楽活動に参加し、さらには能動的にその運営に携わる機会が増えている。またメディアのデジタル化によって、以前に比べ格段に容易に音楽を体験できるようになった。本講義では、自分が聴いたり、体験したりする身近な音楽や音文化、そしてそれを取り巻く現代の多様な音楽状況を分析・考察し、人がみずから能動的に生み出す音楽活動について議論する。		
到達目標:	・音楽を受容・消費するさまざまな仕組みや、その背景となる歴史や社会についての知識を得る。 ・みずからの音楽行動について、多角的に分析・考察できるようになる。 ・公共的な音楽活動についてその役割を認識し、みずからが積極的ににかかわるための考え方を構築できるようにする。		
授業方法:	講義毎に譜例や資料を付したレジュメを配付し、視聴覚資料を使用しながら、解説を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 音楽のデジタル化(1):わたしたちの音楽生活と「MP3」	音楽におけるデジタル化の復習	
	2. 音楽のデジタル化(2):著作権をめぐる現在の問題:	音楽における著作権の復習	
	3. 音楽のデジタル化(3):クラブ音楽～レコードとDJ	デジタル化のもたらす音楽活動の変化についての復習	
	4. ポピュラー音楽と社会(1):ジャンル概念の形成	ポピュラー音楽のジャンル概念の復習	
	5. ポピュラー音楽と社会(2):歌詞と社会的関心	ポピュラー音楽と社会の関係について復習	
	6. ポピュラー音楽と社会(3):野外フェス	フェスの意味について復習	
	7. メディアと音楽(1):放送禁止歌～日本編	放送禁止歌の根本原因について復習	
	8. メディアと音楽(2):放送禁止歌～アメリカ編	メディアの責任について復習	
	9. 音楽活動の企画(1):アウトリーチと音楽教育	音楽教育の意味について復習	
	10. 音楽活動の企画(2):音楽企画の公共性～音楽祭、災害時の音楽を例に	音楽企画の公共性について復習	
	11. 音楽活動の企画(3):音楽のマネージメント	音楽マネージメントについて復習	
	12. 国の文化政策と音楽	日本の文化政策について復習	
	13. 音の現場(1):映画音楽の記号と象徴	映画音楽におけるサウンドについて復習	
	14. 音の現場(2):街とストリートの音楽	街の音環境の意味について復習	
	15. 音の現場(3):音楽コンクール	音楽と政治の関係について復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	音楽は個人それぞれにとっては私的な嗜好物にみえますが、同時に社会的な意味をもち、歴史的背景も備えています。そのような音楽に付随する意味を解きほぐし、自分の好きな音楽の意味を再確認してみましょう。		
フィードバックの方法:	毎授業後に提出するコメントペーパーについては、授業内容に対する深い理解や考察があるものは講義時にコメントしながら紹介し、意義のある質問等に対しては教室で解説を行う。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況及び授業時の提出物	50	提出を行っているか、また質・量ともにきちんと書けているか。欠席数が講義数の3分の1以上の者は失格とする。
	学期末レポート	50	知識を身につけ、自分なりに分析・考察できているか。
教科書:	講義毎に資料を配布		
参考書:	適宜提示		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	kaorumishima@gmail.com		

授業テーマ:

授業の概要:

メディア・リテラシー（映像メディアの読み解き能力と書く、表現、活用する能力）

19世紀末、エジソンら多くの発明家は、時間経過の記録・再現、“動く絵”映画の発明に努力した。「映画の誕生」は、フランスのリュミエール兄弟が、1895年パリで一般有料公開した時とされる。これが動く映像メディアの幕開けである。映画・映像は、ドラマ（劇、文学、脚本）・音楽・美術・肉体（俳優）・機器などの複層した媒体（メディア）で表現される総合芸術・アートと言われる。この表現手段は、フィルム、テレビ、ビデオ、コンピュータ、スマートフォン、インターネットへと広がりを見せ、その影響力は多大なものとなっている。映像を見ながら映画・映像の歴史、技法、国による文化の違い、時代背景、芸術と影響力について講義する。

到達目標:

この授業では、20世紀の代表的な映像文化論、表現論をベースに、その歴史と理論を内外の作品を通して知り、21世紀の現代、映画、テレビ、インターネットの発達により氾濫する映像メディアと向き合い、私達はどのように分析、発信するのかを学び、映像を理解し、活用する方法としてのメディア・リテラシーを身につけることを目標とする。

授業方法:

1: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	映画史以前 洞窟壁画 動く絵のおもちゃ 目の残像「フィルム・ビフォア・フィルムズ」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
2.	映画の誕生 日本への輸入 京都と映画について 時間経過の記録と再現 エジソン、リュミエールとメリエス、稲畑勝太郎、牧野省三、尾上松之助	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
3.	サイレント映画1 映画言語とは D. W. グリフィスとハリウッド黎明期「国民の創生」「イントレランス」「散り行く花」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
4.	サイレント映画2 映画の表現a サイレント映画音楽伴奏 D. W. グリフィス「散り行く花」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
5.	映画のスタッフ コンティニューイティとは 想像力と映像の影響力 音の影響について スタンリー・キューブリック「シャイニング」「2001年宇宙の旅」ハリウッド効果音 CM 選挙CM	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
6.	サイレント映画3 映画理論とは モンタージュ理論、ティバージュ エイゼンシュテイン「戦艦ポチョムキン」アルベール・ラモリス「赤い風船」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
7.	劇映画と記録映画 プロパガンダ（宣伝）映画とは レニ・リーフェンシュタールとヒトラー 「意志の勝利」「オリンピア」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
8.	サイレント映画4 映画の表現b チャーリー・チャップリン 映像の意味「キッド」「街の灯」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
9.	映画監督・作家について チャーリー・チャップリン メッセージとは 検閲「モダン・タイムズ」「独裁者」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
10.	映画制作者の工夫1 映画の表現c サイレントからトーキーへ 視覚の拡張、マルチ画面 アベル・ガンズ「ナポレオン」ラース・フォン・トリアー「ダンサー・イン・ザ・ダーク」「マトリックス」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
11.	映画制作者の工夫2 文学・映画の中の女性 プロデューサーの仕事「風と共に去りぬ」ミュージカル「ウエストサイド・ストーリー」 翻案・シェークスピア「ロミオとジュリエット」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
12.	日本映画（戦前・戦後）子どもと女性の描かれ方 時代の変化 小津安二郎「生まれてはみたけれど」「東京物語」溝口健二「浪華悲歌」「祇園姉妹」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
13.	日本映画（戦後）巨匠・映画監督黒澤明とカメラマン宮川一夫 「羅生門」「生きる」「七人の侍」「蜘蛛巣城」 翻案・シェークスピア「マクベス」「荒野の七人」「バグズライフ」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
14.	日本映画（現代）ヌーベル・バーグ 表現の改革者 世界の映画祭大島渚「愛と希望の街」「愛のコリーダ」「戦場のメリークリスマス」、北野武、是枝裕和、河瀬直美	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
15.	映像メディアの可能性 活用と影響・映画の未来について まとめ 「汝の敵を知れ」中国 反日映画、映画とアニメ デジタル・シネマ、3D、スマートフォン、ネット映像（YouTube, YouStream）	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業計画に記載していない作品の映像も利用する。授業で見せる作品は、短く、一部分を見せることになるので、なるべくAVライブラリー、映画館、テレビ、レンタル・ビデオなどを利用して、本編全部を見る機会を作り、全体像を把握して欲しい。参考資料として映像作品の紹介をするので、時間の作れる学生は、それらも見ることが希望する。就職活動等で欠席した場合は、配布プリントを読み、上記の方法などによって出来るだけ映像を見ること。

フィードバックの方法:

受講生多数でディスカッションのできない場合は、出席票での記述にてコミュニケーションを図る。出席票レポート、中間レポートの代表的な質問、理解の間違い等を授業においてコメントを行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席票を兼ねたレポート	10	
	レポート	10	オリジナリティー、論理的に説明できているかを基準とする。
	定期試験	80	到達目標に関する知識、理解度により評価する。 発想力、オリジナリティーと論理的に説明できているかを基準とする。
教科書:	適時プリント配布		
参考書:	映画の教科書(フィルムアート社) 映画技法のリテラシーⅠ・Ⅱ(フィルムアート社)		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力、 歴史認識、世界を見る眼、メディア・リテラシー		
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応。Eメール(kaoru828@gray.plala.or.jp)		

授業テーマ：御所人形師と学ぶ 京都と人形の魅力

授業の概要：皆さんは人形にどんなイメージを持っていますか？身近にあるにもかかわらず、意外に知らない人形の種類やその役割。本講では数ある人形の中でも最高の格式を持つとされる御所人形の歴史やその優雅な特性をはじめ、人形の起源から確立までの流れをわかりやすく解説していきます。さらに御所人形師である講師自身が実際に行っている制作工程についても講義したいと思います。また人形と結びつけながら、京都の名所や年中行事など、京都が持つ四季折々の魅力を楽しく紹介します。

到達目標：人形や京都の文化に関する基本的な知識を得る
人形や京都についてより深く学ぼうという意欲を持つ

授業方法：毎回、スクリーンを使用します。
必要に応じてDVDを観ます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 京都の春	「京都の春」とはどのような授業なのか想像しておくこと
	3. 端午の節句と五月人形	「五月人形」とはどんな人形なのか考えておくこと
	4. 葵祭の魅力	
	5. 人形の起源	「人形の原型」がどのようなものか想像しておくこと
	6. 歌舞伎と人形	「歌舞伎」と人形に何の関係があるのか考えておくこと
	7. 御所人形と伊東家(1)	講師のホームページを見ておくこと
	8. 御所人形と伊東家(2)	前回の授業内容をしっかり確認しておくこと
	9. 京都の桜	
	10. 京都の紅葉	
	11. 祇園祭と人形(1)	「祇園祭」と人形の関係について考えておくこと
	12. 祇園祭と人形(2)	前回の授業内容をしっかり確認しておくこと
	13. 桃の節句と雛人形	自分の幼い頃の「ひなまつり」を思い出しておくこと
	14. 時代祭の秘密	「葵祭」と「祇園祭」についての授業内容を復習しておくこと
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：楽しい授業になるよう心掛けています。他の受講者の迷惑になるため、授業中の私語には厳しく対処します。出席カードの自由記述欄には必ずコメントを書いてもらいます。

フィードバックの方法：出席カードに書かれたコメントや質問については次の授業で回答します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席および授業中の態度	30%	出席するだけでなく、授業へ参加する姿勢も評価します。
	出席カードに書くコメント	40%	出席カードに書かれたコメントで授業内容の理解度を評価します。
	期末試験	30%	主に「御所人形」についての理解度を評価します。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法：授業後に教室で応対
Eメール(dwcla@hisashige.net)

授業テーマ:

能楽を通して日本文化の特質を探る。

授業の概要:

能は、室町初期に大成された日本の音楽劇である。その大成の中心的存在である観阿弥、世阿弥父子は、奈良から京都に進出し、足利義満の庇護のもと、能を庶民の芸能から、より芸術性の高いものに昇華していった。北山文化の中で育てられた能には、日本文化の特質が多く含まれている。
この講義では能の概略と、表現方法を具体的に考察し、その音楽性や演出から日本文化の特性を探る。

到達目標:

能の概要を知る。
能の歴史を学ぶ。
能から日本の美意識を学ぶ。
能の音楽性を知る。
日本文化の特質を知る。
国際社会における自己のあり方を考える。
同志社における「良心」の意味を考える

授業方法:

毎回テーマを決め講義をすすめる。能面、能装束を教室に持ち込み、着付けも見せる。謡い舞う能の演技を実際に行い、身近に感じ取ってもらう。必要に応じてビデオを使い、能の鑑賞を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	能とは何か	授業ノートの確認
2.	能の歴史(1)	授業ノートの確認
3.	能の歴史(2)	授業ノートの確認
4.	能の演技空間	授業ノートの確認
5.	能面	授業ノートの確認
6.	能の囃子	授業ノートの確認
7.	能の種類(1) 神能	授業ノートの確認
8.	能の種類(2) 修羅能	授業ノートの確認
9.	能の種類(3) 鬘能	授業ノートの確認
10.	能の種類(4) 雑能	授業ノートの確認
11.	能の種類(5) 鬼能	授業ノートの確認
12.	狂言	授業ノートの確認
13.	能の主題	授業ノートの確認
14.	能の美意識	授業ノートの確認
15.	能の演技 (能装束着付け・仕舞実演)	授業ノートの確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の私語厳禁。
授業中の入退室は原則として禁止。

フィードバックの方法:

各回提出のコメントや質問に対し、次回の授業の冒頭に必要に応じて答える。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	授業に興味を持って参加し、文化を学ぶ意味を考えられたかを評価する。 各回の授業内容を理解し、日本文化を知ることによって、自己の本質を考えられたかを評価する。
	各回のコメント提出	50	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前に教室で対応する。

授業テーマ:	能楽を通して日本文化の特質を探る。		
授業の概要:	能は、室町初期に大成された日本の音楽劇である。その大成の中心的存在である観阿弥、世阿弥父子は、奈良から京都に進出し、足利義満の庇護のもと、能を庶民の芸能から、より芸術性の高いものに昇華していった。北山文化の中で育てられた能には、日本文化の特質が多く含まれている。 この講義では能の様々なレパートリーを取り上げ、そこにある思想や美意識を考察し、日本文化の一端を知ることによって、国際社会の中での日本人のあり方を考える。		
到達目標:	能の概要を知る。 能の歴史を学ぶ。 能から日本の美意識を学ぶ。 能の音楽性を知る。 日本文化の特質を知る。 国際社会における自己のあり方を考える。 同志社における「良心」の意味を考える。		
授業方法:	毎回テーマを決め講義をすすめる。能面、能装束を教室に持ち込み、着付けも見せる。謡い舞う能の演技を実際に行い、身近に感じ取ってもらう。必要に応じてビデオを使い、能の鑑賞を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	能とは何か	授業ノートの確認
	2.	能の歴史	授業ノートの確認
	3.	日本の神話と神能	授業ノートの確認
	4.	修羅能に見る社会性と人間性の葛藤	授業ノートの確認
	5.	幽曲と幽玄論	授業ノートの確認
	6.	恋慕の普遍性	授業ノートの確認
	7.	義理能と中世の倫理	授業ノートの確認
	8.	鬼の位相	授業ノートの確認
	9.	新作能と能の可能性	授業ノートの確認
	10.	能の美意識	授業ノートの確認
	11.	狂言	授業ノートの確認
	12.	能の主題	授業ノートの確認
	13.	能の演技	授業ノートの確認
	14.	能面の美	授業ノートの確認
	15.	能装束の着付けと仕舞実演	授業ノートの確認
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業中の私語厳禁。 授業中の入退室は原則として禁止。		
フィードバックの方法:	各回提出のコメントや質問に対し、次回の授業の冒頭に必要に応じて答える。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	50	授業に興味を持って参加し、文化を学ぶ意味を考えられたかを評価する。 各回の授業内容を理解し、日本文化を知ることによって、自己の本質を考えられたかを評価する。
各回のコメント提出	50		
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前に教室で対応する。		

047701

教育の原理

佐藤 光友

授業テーマ:	教育の意義・理念・思想・歴史・制度などについて学び、教師や学校に対する多角的な視点を持つために		
授業の概要:	本科目においては、教育の意義や目的、教育の理念、教育の方法、基本的な制度について考察し、教育に関わることがらを西洋あるいは日本の歴史的・思想的な観点から理解を深め、教育についてのより根源的な考察をすすめていく。そのことによって、学校教育を含めた、学校と家庭とのかかわり、地域とのかかわりについてそれぞれ概観する。		
到達目標:	教育の意義や目的、教育の理念、教育の方法、基本的な制度などについて西洋あるいは日本の歴史的・思想的な観点から理解することによって、学校教育を含めた、学校と家庭とのかかわり、地域とのかかわりについてそれぞれ考察を深めることで、現代の学校教育がかかえている課題への問題意識を高めることができる。		
授業方法:	講義を中心とするが、適宜、グループ学習による討論なども行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	事前にシラバスを読んでおくこと。	
	2. 教育の意義・目的・理念	教育についての定義を自分なりに調べておくこと。	
	3. 教育の方法と内容	教育の方法について自分なりに調べておくこと。	
	4. 西洋における古代教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における古代教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。	
	5. 西洋における中世教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における中世教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。	
	6. 西洋における近代教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における近代教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。	
	7. 西洋における現代教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における現代教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。	
	8. 日本における近世教育の歴史と思想	事前に与えた日本における近世教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。	
	9. 日本における近代教育の歴史と思想	事前に与えた日本における近代教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。	
	10. 日本における現代教育の歴史と思想	事前に与えた日本における現代教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。	
	11. 日本の教育制度	事前に与えた日本の教育制度についての資料を熟読しておくこと。	
	12. 諸外国の教育制度(英米編)	事前に与えた英米の教育制度についての資料を熟読しておくこと。	
	13. 諸外国の教育制度(独仏編)	事前に与えた独仏の教育制度についての資料を熟読しておくこと。	
	14. 現代教育の諸問題	現代の教育問題について、自分が一番関心のある事柄について調べておくこと。	
	15. まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60%	到達目標、教育の意義・目的や理念、教育方法や内容、基本的な制度に関する理解度により評価する。
	授業への参加意欲	40%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出により評価する。
教科書:	授業時に資料等を配布する。		
参考書:	授業中、適宜指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

授業の概要: 教育の理念・歴史・思想について幅広い視点から考えられるようになるために、人間や社会において教育が持つ根源的な意味、これまで教育がたどってきた栄光と苦難の歴史、私たちの教育を特徴づけている思想について学ぶ。また、それらの知識を現代の教育と有機的に結びつけて考えられるように、わが国および諸外国の教育動向についても概観する。

到達目標: (1)教職に就く上で必要な、教育や学校に関する基礎的な知識を理解している。
(2)教育や学校についての視野を広げ、多角的な視点から教育事象について捉えられる能力と態度を身につけている。

授業方法: 講義形式とし、配布するプリントにもとづいて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 教育とは何か(1)－教育の必要性－	
	2. 教育とは何か(2)－教育の分類－	
	3. 教育の歴史(1)－教育の起源－	高校レベルの地理歴史(世界史)に関する知識が必要となる。これらについて自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での準備学習をしておくこと。
	4. 教育の歴史(2)－学校の誕生－	同上
	5. 教育の歴史(3)－学校の低迷－	同上
	6. 教育の歴史(4)－学校の復活－	同上
	7. 教育の歴史(5)－近代公教育の誕生－	同上
	8. 教育の歴史(6)－すべての子どもに教育を－	同上
	9. 教育の思想(1)－近世の教育思想－	高校レベルの公民(倫理)に関する知識が必要となる。これらについて自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での準備学習をしておくこと。
	10. 教育の思想(2)－近代の教育思想・前編－	同上
	11. 教育の思想(3)－近代の教育思想・後編－	同上
	12. 教育の思想(4)－現代の教育思想－	同上
	13. 諸外国の教育動向(1)－アジア－	
	14. 諸外国の教育動向(2)－欧米－	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 本授業は講義形式ではあるが、「一人ひとりの学生が自ら考える授業」を目指す。そのため、しばしば受講者に対し授業内容に関する質疑をおこなうが、その際は受講者全員に向けて自らの考えを明確かつ簡潔に述べることが求められる。ただ聴くだけの受け身な姿勢ではなく、能動的な姿勢で授業に臨んでいただきたい。

フィードバックの方法: 毎回の授業でコメントシートを記入してもらう。コメントシートはチェックしたのち、次の回の授業に教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60	到達目標に示した知識や能力・態度をどれだけ身につけているかを総合的に評価する。
	授業内レポート	30	コメントシートをもとに毎回の授業の内容についてどれだけ理解し、能動的に考察しているかを評価する。
	授業への参加度	10	質疑への応答などをもとに、積極的に授業に参加しているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法: 原則として授業の前後に教室内で対応する。ただし、緊急の場合はEメールでの連絡も可とする(連絡先アドレスについては授業内で伝える)。

授業テーマ:	教育の原理的考察		
授業の概要:	本講義では教育の歴史、現状、未来について、教育思想、制度史、方法論、カリキュラム論、教職論のそれぞれの観点からの基礎的理解の定着を目指す。教科書は毎回持参すること。		
到達目標:	教育活動の全体像に関する理解の深化を目指す。目指す人間像は、思考力・判断力・表現力を基礎に、アクティブ・ラーニングを経てコーディネート力、リーダーシップを備えた指導的、教育的教師である。教育に関する正確な知識、主体的に課題を設定し探究する力、多様な方法で自らの考えを伝える力などの定着を目指す。		
授業方法:	1. 講義(教科書を使用して基礎的な知識理解を深める) 2. 演習(テーマを設定し、事前学習を経てアクティブ・ラーニングの手法を用いて講義を進める)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 2. ヨーロッパにおける教育思想の展開1―古代ギリシャ、中世― 3. ヨーロッパにおける教育思想の展開2―近世、現代― 4. 我が国における教育思想の展開1―明治、大正期― 5. 我が国における教育思想の展開2―昭和、平成期― 6. 教育課程と学力観1―学習指導要領の変遷と学力観― 7. 教育課程と学力観2―21世紀型学力と教育課程― 8. 「21世紀の学力を学校でどう育むか」というテーマでグループ討論を行い、相互の理解の深化を図る 9. 教育方法の歴史と展開 10. 教員養成制度の変遷 11. 教員養成制度の改革動向 12. 教育の制度と関連法規 13. 今日の我が国の教育制度と改革動向小中一貫教育、コミュニティ・スクールを中心に 14. 日本の教師像―ある高校の教師の取り組み―(DVD視聴) 15. まとめ	教科書を持参すること 教科書の第1章、2章を事前に読んでおくこと 教科書の第2章を事前に読んでおくこと、および前回の振り返り 教科書第3章を事前に読んでおくこと 教科書第4章を事前に読んでおくこと、および前回の振り返り 教科書第9章を事前に読んでおくこと 教科書第9章を事前に読んでおくこと、および前回の振り返り 各自が受けた総合学習を振り返り、レポートを作成し講義に持参する。それをもとに21世紀型学力の育成のための具体的方策を討論する 教科書第3章を事前に読んでおくこと 教科書第7章を事前に読んでおくこと 教科書第7章を事前に読んでおくこと、および前回の振り返り 教科書第4章を事前に読んでおくこと 教科書第11章を事前に読んでおくこと 大阪府立X高校の若手教員の取り組みをDVDで視聴し、その感想をレポートにまとめる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義内容は上記に記したものとなるが、講義の順番は学生の理解に応じて多少入れ替えが生じる可能性もある。		
フィードバックの方法:	レポートなどを課した場合は、その次の講義で適宜、まとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	20%	到達目標に記した主体的な課題設定がなされ、探究的なものとなっているかが重要。ネット情報のコピーなどは認めない。
	定期試験	80%	問いに対して正確な知識・基本的理解に基づいた、主体的で意欲的な内容であることが重要。
教科書:	西川信廣・長瀬美子編著「改訂版 学生のための教育学」ナカニシヤ出版		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	教務課を経由したeメールまたは教室での対応		

授業テーマ:	学習や動機づけの視点から人の行動を見ること、人の発達過程について理解すること																																		
授業の概要:	人の行動を心理学における学習理論や動機づけの視点から取りあげる。また自ら学び、考え、課題を解決していく姿勢を育むために教育場面における学習過程と記憶やメタ認知の働き、学習者の特性について考える。あわせて生涯発達の視点から人の発達過程について理解すること、発達障害と特別支援教育について基礎的知識を得ることを目指す。																																		
到達目標:	1. 人の行動を学習理論や動機づけなどの心理学的視点から理解できること 2. 教育場面における学習過程と記憶やメタ認知の働き、学習者の特性について知ること 3. 生涯発達の視点から人の発達過程について理解し、発達障害と特別支援教育について基礎的知識を得ること																																		
授業方法:	主に視覚教材を使用して講義を行う。ただし講義時間内に1回グループワークを行う。 授業に必要な資料はその都度配布する。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 学習と人の行動: 自らの直接経験による学習</td><td>「道具的条件づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>2. 学習と人の行動: 社会的学習</td><td>「観察学習・モデリング」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>3. 学習と人の行動: 古典的条件づけと学習</td><td>「古典的条件づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>4. 動機づけと人の行動: 動機づけとは</td><td>「動機づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>5. 動機づけと人の行動: 教育、学習場面における動機づけ</td><td>「内発的動機づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>6. 動機づけと人の行動: 達成動機と学習性無力感</td><td>「学習性無力感」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>7. グループ活動からコミュニケーションについて考える</td><td>授業後、資料などによりグループワークのふり返りをする</td></tr><tr><td>8. 記憶・メタ認知</td><td>「メタ認知」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>9. 学習の転移と学習過程</td><td>「転移」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>10. 学習過程・教育評価</td><td>「教育評価」について資料などで復習し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>11. 人の発達とは、乳児期の発達過程</td><td>配布資料に目を通し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>12. 幼児期、児童期の発達過程</td><td>配布資料に目を通し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>13. 青年期、中年期、老年期の発達過程</td><td>配布資料に目を通し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>14. 発達障害、学習障害と特別支援教育</td><td>配布資料に目を通し、理解を深めておくこと</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>配布資料に目を通し、理解を深めておくこと</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 学習と人の行動: 自らの直接経験による学習	「道具的条件づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと	2. 学習と人の行動: 社会的学習	「観察学習・モデリング」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと	3. 学習と人の行動: 古典的条件づけと学習	「古典的条件づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと	4. 動機づけと人の行動: 動機づけとは	「動機づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと	5. 動機づけと人の行動: 教育、学習場面における動機づけ	「内発的動機づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと	6. 動機づけと人の行動: 達成動機と学習性無力感	「学習性無力感」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと	7. グループ活動からコミュニケーションについて考える	授業後、資料などによりグループワークのふり返りをする	8. 記憶・メタ認知	「メタ認知」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと	9. 学習の転移と学習過程	「転移」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと	10. 学習過程・教育評価	「教育評価」について資料などで復習し、理解を深めておくこと	11. 人の発達とは、乳児期の発達過程	配布資料に目を通し、理解を深めておくこと	12. 幼児期、児童期の発達過程	配布資料に目を通し、理解を深めておくこと	13. 青年期、中年期、老年期の発達過程	配布資料に目を通し、理解を深めておくこと	14. 発達障害、学習障害と特別支援教育	配布資料に目を通し、理解を深めておくこと	15. まとめ	配布資料に目を通し、理解を深めておくこと		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 学習と人の行動: 自らの直接経験による学習	「道具的条件づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと																																		
2. 学習と人の行動: 社会的学習	「観察学習・モデリング」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと																																		
3. 学習と人の行動: 古典的条件づけと学習	「古典的条件づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと																																		
4. 動機づけと人の行動: 動機づけとは	「動機づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと																																		
5. 動機づけと人の行動: 教育、学習場面における動機づけ	「内発的動機づけ」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと																																		
6. 動機づけと人の行動: 達成動機と学習性無力感	「学習性無力感」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと																																		
7. グループ活動からコミュニケーションについて考える	授業後、資料などによりグループワークのふり返りをする																																		
8. 記憶・メタ認知	「メタ認知」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと																																		
9. 学習の転移と学習過程	「転移」について資料や参考文献などで復習し、理解を深めておくこと																																		
10. 学習過程・教育評価	「教育評価」について資料などで復習し、理解を深めておくこと																																		
11. 人の発達とは、乳児期の発達過程	配布資料に目を通し、理解を深めておくこと																																		
12. 幼児期、児童期の発達過程	配布資料に目を通し、理解を深めておくこと																																		
13. 青年期、中年期、老年期の発達過程	配布資料に目を通し、理解を深めておくこと																																		
14. 発達障害、学習障害と特別支援教育	配布資料に目を通し、理解を深めておくこと																																		
15. まとめ	配布資料に目を通し、理解を深めておくこと																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	グループワーク時の提出物については後日教室で返却し、まとめて解説する その他の提出物(1〜2回)については返却、フィードバックはしない																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>90</td><td>到達目標1〜3の理解度により評価する</td></tr><tr><td>授業時の提出物</td><td>10</td><td>グループワークの提出物については参加への姿勢 その他の提出物は理解度により評価する</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	90	到達目標1〜3の理解度により評価する	授業時の提出物	10	グループワークの提出物については参加への姿勢 その他の提出物は理解度により評価する																									
評価方法	割合	評価基準																																	
定期試験	90	到達目標1〜3の理解度により評価する																																	
授業時の提出物	10	グループワークの提出物については参加への姿勢 その他の提出物は理解度により評価する																																	
教科書:																																			
参考書:	発達と学習 日本認知心理学会 監修 市川伸一 編 心理学概論 岡市廣成・鈴木直人編 ナカニシヤ出版																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応																																		

授業テーマ:

子どもの心身の発達と主な学習理論を習得するとともに、発達に特徴のある子どもたちへの援助について学ぶ。

授業の概要:

子どもの心身の発達と生涯にわたる人の学習過程について、発達の諸理論、学習の原理や理論を習得する。これらの学びから、グループ討議を通して、子どもたちの発達段階に応じた教育者としての関わり方を考える。加えて、現在、指導上困難な問題とされている発達障害と思われる子どもたちについての理解と具体的な援助の視点を明確にする。

到達目標:

1. 発達という概念を理解し、発達期、発達段階によって、人がどのような発達の特徴を示すかを理解することができる。
2. 主要な学習理論を学び、それを学校教育でどのように活用するかを考えることができる。
3. 発達と学習に深く関連する「記憶、知能、心理」について理解する。
4. グループ討議において、自らの意見を他者にわかりやすく伝え、また他者の意見を傾聴することができる。

授業方法:

1: 講義 パワーポイントやDVD教材、配布資料を用いての講義が中心。毎回、その日の講義内容の定着のためのドリルを次回までの予習教材とする。
第6講義目の「発達に特徴のある子どもたちへの支援」では、発達支援学級で担任をされているゲストスピーカーを招いて、実際の援助について語っていただく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 発達、成熟、学習とはどのようなものなのか	
	2. 発達の意義と原理	(復習) 授業内容のドリル学習
	3. 発達期	(復習) 授業内容のドリル学習
	4. 発達段階—その1—ピアジェの発達理論	(復習) 授業内容のドリル学習
	5. 発達段階—その2—フロイト、エリクソンの発達理論	(復習) 授業内容のドリル学習
	6. 発達に特徴のある子どもたちへの支援—発達支援学級担任による実践報告を交えた特別授業—	(復習) 発達障害を持つ子どもたちへの適切な支援や特別支援教育に関するゲストスピーカーに提出するレポート作成
	7. 発達のまとめ—グループ討議によって、発達期、発達段階による子どもたちへの適切な学習指導法について話し合う。発達に関する小テストによって知識の定着を確認する。	
	8. 初期学習	(復習) 授業内容のドリル学習
	9. 学習理論—その1—連合理論を学ぶ—グループ討議によって、各学習方法の適切な生徒指導への導入法について考える。	(復習) 授業内容のドリル学習
	10. 学習理論—その2—認知理論を学ぶ—グループ討議によって、各学習方法の適切な授業への導入法について考える。	(復習) 授業内容のドリル学習
	11. 学習の効果—グループ討議によって、効果的な学習法の具体例を考えて、発表する。	(復習) 授業内容のドリル学習
	12. 記憶のメカニズム	(復習) 授業内容のドリル学習
	13. 知能とは	(復習) 授業内容のドリル学習
	14. 性格理論・性格検査—学習に関する小テストによって知識の定着を確認する。	(復習) 授業内容のドリル学習
	15. 学習のまとめ	

発達と学習の振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:

本授業では、発達心理学・学習心理学だけでなく、臨床心理学的な発達理論も紹介するため、臨床心理学領域の発達理論についても触れておくことが望ましい。

フィードバックの方法:

・各自の発表に関して、その授業内あるいは次回の授業内でコメントをお返しします。
・各回の課題として配布するドリルの解答は、次回の授業内に解説し正解を示します。
・小テストの解答は、翌週以降に授業内で解説し、正解を示します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	グループ討議、発表	10%	到達目標4について、適切な役割をグループ内で果たせたか、積極的な関心を示し、自分の意見を述べているかを基準とする。
	ドリル	20%	到達目標1について、各授業の内容を理解できているかを基準とする。
	小テスト	60%	到達目標1, 2, 3について、知識および理解を基準とする。
	授業への参加度	10%	到達目標1〜4について、意欲関心を評価する。

教科書:

参考書:

多鹿秀継, 竹内謙彰 編著 発達と学習の心理学 学文社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

1. 授業の前後に教室内で対応
2. メールによる(mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp)
3. 研究室訪問してください。(C444)

授業テーマ:

語学・文化研修

授業の概要:

コンコーディア大学 (Concordia University) またはドミニカン大学カリフォルニア校 (Dominican University of California) (2校のうち参加者が選択) 内の英語研修機関で約四週間の授業を受講する。ホームステイを行う。

到達目標:

・英語授業、ホームステイを通じて、英語の運用能力を高めるとともに、アメリカ文化・社会に対する理解を深める。
・引率教職員を伴わない、現地集合・現地解散を基本とする研修を通じて、参加学生の自主・自立を促す。

授業方法:

現地での研修を円滑に、かつ一層有意義なものとするよう、事前授業を実施する。
事前授業は、アメリカの文化・社会などに関する調査・発表を中心に行う。

研修先での授業は、以下のとおりである。

- ・インテンシブ一般英語プログラム
午前のクラスでは、文法、スピーキング、語彙力強化などコミュニケーション能力の基本を学び、実践的な生きた英語を使い会話力を身に付ける。午後のクラスでは、アメリカンイデオム、アメリカ映画、アメリカ時事問題、アメリカ文化を学び、四技能のスキル強化を行う。
- ・インテンシブ進学英語プログラム
午前のクラスでは、文法、スピーキング、語彙力強化などコミュニケーション能力の基本を学び、実践的な生きた英語を使い会話力を身に付ける。午後のクラスでは、リーディングとライティングを集中的に学ぶ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 事前授業 第1回(5月) オリエンテーション、留学先大学の詳細、諸手続の説明	
	2. 事前授業 第2回(6月) アメリカの文化・社会などに関する研究発表	第2回事前授業でのアメリカの文化・社会などに関する研究発表のレジュメを作成する。
	3. 事前授業 第3回(7月) プログラム・現地生活に関する質疑応答・危機管理対策	
	4. 現地研修として、コンコーディア大学またはドミニカン大学カリフォルニア校において、インテンシブ一般英語プログラムもしくはインテンシブ進学英語プログラムのいずれかの英語研修プログラムを約四週間受講する。 研修先で受講するプログラムは参加学生が選択する。 なお、滞在期間中の宿泊はホームステイである。	各自の研究計画に基づき、現地での調査結果を踏まえて事後レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

第2回事前授業でのアメリカの文化・社会などに関する研究発表について授業内で講評を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	事前授業での評価	10%	
	研修先による評価	70%	
	事後レポートの評価	20%	
			事前授業での評価、研修先による評価、事後レポートの評価に基づき、出席状況等を勘案した上で総合的に評価する。 ただし、事後レポート未提出の場合は、単位の取得を認めない。

教科書:

なし。

参考書:

随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

国際課に問い合わせる。

授業テーマ:

語学・文化研修

授業の概要:

エクセター大学(University of Exeter)で約四週間の英語研修プログラムを受講する。
フィールドトリップやホームステイを行う。

到達目標:

・英語授業、フィールドトリップ、ホームステイを通じて、英語の運用能力を高めるとともに、イギリス文化・社会に対する理解を深める。
・引率教職員を伴わない研修を通じて、参加学生の自主・自立を促す。

授業方法:

現地での研修を円滑に、かつ一層有意義なものとするよう、事前授業を実施する。
事前授業は、イギリスの文化・社会に関する調査・発表を中心に行う。
エクセター大学では、“General English”と呼ばれる英語研修プログラムに参加し、Speaking、Listening、Reading、Writingの四つの技能をバランス良く学習する英語の授業を受講する。
また、英語のスキルを高め、英語の知識を深めるだけでなく、フィールドトリップやアクティビティを通して、イギリスの生活や文化、社会についても学ぶ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 事前授業 第1回(11月) オリエンテーション、諸手続の説明、発表グループ分け	
	2. 事前授業 第2回(12月、同志社びわこリトリートセンターでの一泊研修) イギリスの文化・社会などに関する研究発表	第2回事前授業でのイギリスの文化・社会などに関する研究発表のレジュメを作成する。
	3. 事前授業 第3回(1月) 前年度参加者による研修報告および質疑応答	
	4. 事前授業 第4回(1月) 危機管理対策	
	5. この後、現地研修として、エクセター大学において約四週間英語の授業を受講するとともに、フィールドトリップを行う。なお、滞在期間中の宿泊は、ホームステイである。	各自の研究計画に基づき、現地での調査結果を踏まえて事後レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

第2回事前授業でのイギリスの文化・社会などに関する研究発表について授業内で講評を行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	事前授業での評価	10%	
	エクセター大学による評価	70%	
	事後レポートの評価	20%	
			事前授業での評価、エクセター大学による評価、および事後レポートの評価に基づき、出席状況等を勘案した上で総合的に評価する。 ただし、事後レポート未提出の場合は、単位の取得を認めない。

教科書:

なし。

参考書:

随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

国際課に問い合わせる。

授業テーマ:

語学・文化研修

授業の概要:

ワイカト大学パスウェイズカレッジ(University of Waikato Pathways College)という英語研修機関での約三週間の授業を受講する。フィールドトリップやホームステイを行う。

到達目標:

・英語授業やフィールドトリップ、ホームステイを通して、英語運用能力を高めるとともに、ニュージーランド文化・社会に対する理解を深める。

・引率教職員を伴わない研修を通じて、参加学生の自主・自立を促す。

授業方法:

現地での研修を円滑に、かつ一層有意義なものとするよう、事前授業を実施する。事前授業は、ニュージーランドの文化・社会に関する調査・発表を中心に行う。ワイカト大学パスウェイズカレッジでは“General English”と呼ばれる英語研修プログラムに参加し、Reading、Writing、Listening、Speakingの四つの技能をバランス良く学習する英語の授業を受講し、日常生活で使う英語の習得を目指す。また、フィールドトリップを通してニュージーランド文化・社会についても学習する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 事前授業 第1回(11月) オリエンテーション、諸手続の説明、発表グループ分け	
	2. 事前授業 第2回(12月、同志社びわこリトリートセンターでの一泊研修) ニュージーランドの文化・社会などに関する研究発表	第2回事前授業でのニュージーランドの文化・社会などに関する研究発表のレジュメを作成する。
	3. 事前授業 第3回(1月) 前年度参加者による研修報告および質疑応答	
	4. 事前授業 第4回(1月) 危機管理対策	
	5. 現地研修として、ワイカト大学パスウェイズカレッジにおいて約三週間英語の授業を受講するとともに、フィールドトリップを行う。なお、滞在期間中の宿泊は、ホームステイである。	各自の研究計画に基づき、現地での調査結果を踏まえて事後レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 第2回事前授業でのニュージーランドの文化・社会などに関する研究発表について授業内で講評を行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	事前授業での評価	10%	
	ワイカト大学パスウェイズカレッジによる評価	70%	
	事後レポートの評価	20%	
			事前授業での評価、ワイカト大学パスウェイズカレッジによる評価、および事後レポートの評価に基づき、出席状況等を勘案した上で総合的に評価する。 ただし、事後レポート未提出の場合は、単位の取得を認めない。

教科書: なし。

参考書: 随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

国際課に問い合わせる。

授業テーマ: Cool Japan

授業の概要: In 2013, the Japanese government budgeted hundreds of millions for a “Cool Japan” fund to promote contemporary Japanese pop culture abroad. In this class we will examine a variety of aspects of this new youth culture to try to get a better understanding of what it is and where it came from. The topics will include music, especially the “idol” phenomena, as well as fashion, film, manga, anime, games and technology. Our aim will be to reach some conclusions about the cultural, societal and political implications of this shift from traditional to popular. To add context, we will also consider some aspects of traditional culture, including traditional Japanese crafts and theatre, both of which have experienced “booms” in recent years.

到達目標: This course is a content based course designed to teach the students about modern Japanese culture. Students will also receive instruction on various academic skills such as internet research, giving academic presentations, participating in academic discussions, and media literacy. All of the course will be conducted in English. While the materials will be scaffolded for non-native speakers students are required to have a basic proficiency in English before enrolling in this class.

授業方法: Class discussions, presentations, field trips, lectures, reading activities, guided research activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	Introduction		Reading activity 1: Gross National Cool
	2.	The Roots of Japanese Cool		Reading activity 2: Modern Japan – The Old in the New
	3.	Cool Japan: Culutre and Tradition – Guest Lecture: Japanese architecture – the traditional and the modern		Visit to the Manga Museum and self study
	4.	Visit to the Manga Museum		Visit to the Manga Museum and self study
	5.	Introduction to Manga		Reading Activity 3: Manga and Anime
	6.	Introduction to Anime		Reading Activity 4: The History of Kawaii
	7.	Kawaii and its connection to Cool Japan		Preparation for Midterm Presentations
	8.	Midterm Presentations / Introduction to Takarazuaka		Takarazuka Field Trip and self study
	9.	Takarazuka Field Trip		Takarazuka Field Trip and self study
	10.	The Japanese Film and TV Industry		Video homework
	11.	Discussion of the techniques used in Japanese movies and the Japanese movie industry		Reading 6: Inside the Idol Factory
	12.	The Idol Phenomenon		Preparation for the final presentations
	13.	Preparation for final presentations		Preparation for the final presentations
	14.	Final Presentations		Self reflections
	15.	Final Presentations		Self reflections

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Students will have to turn in weekly reports that will be graded and returned. Students will also get feedback on their Presentations and Discussion performances.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法		評価基準	
		割合		
	Attendance	15	Students must attend at least 2/3 of the classes.	
	Participation	15	Evaluated all semester.	
	Homework	20	Weekly homework assignments.	
	Midterm Presentation	20	Individual presentation given at the middle of the semester.	
	Final Presentation	30	Pair presentation given at the end of the semester.	

教科書: No textbooks required – teacher will provide materials in class.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法: bgavin@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Contemporary culture, media mix and Media Geijutsu

授業の概要:

In today’s world, media technologies have permeated many categories of artistic activity: Japanese manga, anime, and video games have a significant global impact, and the dividing line between fine art and other cultural domains, especially the area conventionally referred to as popular culture, has become blurred. In this course, after clarifying concepts such as Media Geijutsu and media mix, we will explore some of the historical processes that have shaped Japanese culture by focusing on how traditional culture is adapted in a contemporary context. The course will be divided into three distinctive topics: monster culture, manga adaptation of literature, and contemporary theatre.

到達目標:

This course has 2 main aims:
1. to help students become critical readers of visual and other texts, able to interpret, and discuss them;
2. to develop students’ understanding of, and ability to discuss, the social, cultural, and political contexts of visual and other forms of representations in Contemporary Japanese Culture.

授業方法:

Typically, each class will involve a lecture, group and class discussions, and in-class writing in response to that week’s topic

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction. Media-mix and Media Geijutsu	Students are expected to complete homework reading thoroughly, coming to class prepared to take part in active discussion and analysis of the topic and texts.
	2. Manga and modern literature: Natsume Soseki	homework reading
	3. Manga and modern literature: Akutagawa Ryunosuke	
	4. Manga and modern literature: Izumi Kyoka	Searching materials for discussion
	5. Monster culture: Mizuki Shigeru’s Yokai	homework reading
	6. Monster culture: Shin-Godzilla	
	7. Monster culture: Pokemon	Searching materials for discussion
	8. Field trip: Studio Ghibli and Tokyo	Preparing the suitcase
	9. Field trip: Studio Ghibli and Tokyo	
	10. Field trip: Studio Ghibli and Tokyo	
	11. Contemporary theatre: ISHINHA	homework reading
	12. Contemporary theatre: MUM&GYPSY	Searching materials for discussion
	13. Students Presentations	Powerpoint presentation
	14. Students Presentations	Powerpoint presentation
	15. Students Presentations	Powerpoint presentation

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Email

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and active participation	30	Attendance and participation is mandatory
	In-class written work	30	
	Final presentations	40	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ivandiazsancho@hotmail.com (write your name and “Contemporary culture” in the subject box)

授業テーマ:

The culture and history of Kyoto

授業の概要:

In this class we will take a look at some of the important cultural moments in Kyoto's long history. We will discuss the religion, geography, art, literature and architecture of Kyoto. We will go and visit some of the places discussed in class. Students should understand the role of geography and the historical importance of location. Gaining an understanding of Kyoto's central position in the history and culture of Japan is the aim of this class.

到達目標:

Students should have a clear understanding of the main events that have shaped Kyoto's history. Students should be able to summarize those key events and important traditions.

授業方法:

Students will have an assigned reading each week. After reading the homework assignment, they will answer several questions. Those questions will form the core of the class's discussion. In class, there will be pair and whole class discussion. Each class the teacher will lecture on that week's topic.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Geography: Where is everything?	Assigned Reading
	2. Pre-Heian-Kyo	Assigned Reading
	3. Kammu Establishes Heian-Kyo	Assigned Reading
	4. Heian Culture, Genji	Assigned Reading
	5. Buddhism in Kyoto	Assigned Reading
	6. Heike Late Heian	Assigned Reading
	7. Zen, Zen, Zen	Assigned Reading
	8. Ashikaga Rulers	Prepare Museum Presentation
	9. Museums in Kyoto	Assigned Reading
	10. Edo Period – Art/ Design	Assigned Reading
	11. Nobunaga and Hideyoshi	Assigned Reading
	12. Meiji Renaissance	Assigned Reading
	13. Maiko and Geisha	Assigned Reading
	14. Movies in Kyoto	Prepare Final Presentation
	15. Student Presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students must read a chapter of the assigned book and answer several questions each week. They will have to devote at least an hour to homework. Students will also be required to visit a museum and write a paper on one of the topics discussed in class.

フィードバックの方法:

Students will hand in their homework each week and the teacher will give them feedback on their answers. They will also be graded on the two presentations and the final paper.

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and Participation	25	Students will be graded on how actively they speak in pair work discussions.
	Homework	25	Students will be graded on how well they answer the assigned questions for homework.
	Presentation	25	Students will be graded on their research, power point slides, and clarity of speaking.
	Final Paper	25	Students will be graded on the organization of the final paper.

教科書:

Kyoto / John Dougill/ Signal Books, Oxford 2006

参考書:

Tale of Genji, Murasaki Shikibu translation Royall Tyler, Penguin 2003
The Pillow Book, by Sei Shonagon translation Meredith McKinney, Penguin Classics 2007

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

paulcarty@gmail.com

授業テーマ:

Japanese Tea Culture Old and New

授業の概要:

This is a Japanese culture and art course in which we can enjoy reading Kakuzo Okakura's "The Book of Tea" (1906) and discuss the way in which his ideas on 'teaism'(tea philosophy) can be seen and practiced in the present Japan and also throughout the world.

- 到達目標:
1. to understand Japanese tea culture and evaluate its aesthetics and the way of living in comparison with those in their own(students') countries.

2. to train thinking & analyzing power and writing English essays on specific topics.

授業方法:

This class consist of lecture, discussion, field tours, and presentation of the textbook.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction and Power Point presentation on the author of the text	Skimming of the text
2.	Chapter 1 : 'The Cup of Humanity' and its discussion	Intensive reading of Chapter 1
3.	Chapter 2: 'The Schools of Tea' and its discussion	Intensive reading of Chapter 2
4.	Chapter 3 : 'Taoism and Zennism' and ts discussion	Intensive reading of Chapter 3
5.	Field tour to Jikoin-temple and Horyuji-temple	Preparatory reading of the temple materials (given as handouts)
6.	Field work to Jikoin-temple and Horyuji-temple	Short essay writing assignment about the tour
7.	Chapter 4 : ' The Tea-Room' and its discussion	Intensive reading of Chapter 4
8.	Chapter 5 : 'Art Appreciation' and its discussion	Intensive reading of Chapter 5
9.	Chapter 6 : 'Flowers' and its discussion	Intensive reading of Chapter 6
10.	Chapter 7 : 'Tea-Masters' and its discussion	Intensive reading of Chapter 7
11.	Field tour to Daitokuji-temple	Preparatory reading of the temple materials (given as handouts)
12.	Filed tour to Daitokuji-temple	Short essay writing assignment about the tour
13.	Guest speaker: Talk and practice by a tea master (from Ura-Sen-ke School)	Free reading of the reference books
14.	Wrap up of the course Class cancelled due to the Christmas Worship service. (A make-up class will be held later.)	Planning and organizing individual presentation
15.	Class presentation and Q & A	Finishing up presentation

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students should be interested not only in tea ceremony practices but also its history and aesthetics. They are requested to read this classic English book intensively.

フィードバックの方法:

Feedbacks to the students will be done by E-mail or comments in the class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Final presentation and essay	50	Evaluated by English level, textual understanding, and logical construction of the presentation and essay.
	Short essays and mid-term essay	30	Evaluated by summary competence of the themes given.
	Application and attitude	20	Preparations for the class and English speaking competence.

教科書:

Kakuzo Okakura, "The Book of Tea", Dover Publications, Inc., New York

参考書:

岡倉天心 『茶の本』(英文収録) 桶谷英明訳、講談社学術文庫
Daisetz Suzuki, "Zen and Japanese Culture", Kodansha International, Tokyo.
鈴木大拙、『禅と日本文化』、講談社インターナショナル (対訳版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Contact by E-mail or making appointments during the class.

050401、02、61、62

マスコミュニケーション論A

松谷 容作

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容

準備学習等の内容

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法

割合

評価基準

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

私たちは、日々の生活のなかで、テレビをつけ、雑誌を開き、インターネットで検索をしている。それら様々なマスメディアから発信される情報にもとづいて、私たちは自身の意識を形成し、社会のなかで活動している。つまりマスメディアを介した情報は、私たちの社会生活の規範のひとつとなっているのである。だが、マスメディアを介して、不特定の大衆に情報が伝達され形成されるこうしたコミュニケーションを、つまりはマスコミュニケーションを私たちは社会においてどのように位置づけ、またその社会的役割をどのようにみなしたらよいのであろうか。以上の問題意識をもって、本講義では、まず、マスメディアを代表する新聞や出版、テレビ、さらにはインターネットの諸状況を考察し、次に、そうしたメディアを介したマスコミュニケーションと社会との関係を分析する。こうした、考察と分析を通じて、私たちは、マスコミュニケーションについて理解を深め、マスコミュニケーションについて批判的に考察する力を養う。

マスコミュニケーションについて理解を深めること
マスコミュニケーションについて批判的に考察する力を養うこと

講義を中心とする。ただし、マスコミュニケーションの具体的な事例を多数あつかうので、それらに関する映像や音の資料を視聴覚メディアやインターネットをかいして、必要に応じて提示する。また受講生が能動的に講義へ参加できるよう、受講生が発言し、ディスカッションを行う機会を設ける。

1. マスコミュニケーションとマスメディア
2. 日本のマスメディアの展開
3. 新聞
4. 出版
5. 広告
6. 放送と通信
7. マスメディアと社会(1)
8. マスメディアと社会(2)
9. マスメディアと大衆文化
10. プロパガンダと情報操作
11. マスメディアと社会問題(1)
12. マスメディアと社会問題(2)
13. ニュースと私たち
14. マスメディアと私たち
15. マスコミュニケーションのこれから

参考文献で該当箇所を精読すること
第1回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第2回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第3回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第4回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第2回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第2回と第6回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第2回と第7回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第4回と第5回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第9回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第10回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第9回と第11回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第12回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第13回の資料の復習
参考文献で該当箇所を精読すること
第14回の資料の復習

教室でまとめて解説する

小レポート 60
授業内容のまとめの提出 20
授業への参加度 20

マスコミュニケーションについての理解度やマスコミュニケーションへむけた批判的な視点の有無を基準とする。
授業をつうじてマスコミュニケーションについての理解度が上がったのかを評価する。
積極的に授業に参加し、マスコミュニケーションへの批判的な考察ができるようになったかを評価する。

山口功二、渡辺武達編『メディア用語を学ぶ人のために』、世界思想社、1999年
山口功二、渡辺武達、岡満男編『メディア学の現在〔新訂〕』、世界思想社、2007年
さらに講義内でも適宜指示する

分析力、思考力、創造力

オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で応対

050501、02、61、62

マスコミュニケーション論B

吉村 誠

授業テーマ:

情報化社会を楽しく賢く生きるには、情報の背後に存在している人間に目を向けることが大切である。新聞などの活字メディアやテレビなどの電波メディアやインターネットといった電子メディアを、それぞれの表現を解析することによって理解しよう。メディアを読み解く糸口はその言語文体にある。溢れる情報を上手に使いこなして豊かな人生を送ろう。

授業の概要:

テレビ番組や劇場用映画の演出プロデュースを長年にわたって本務としてきた立場から、実際の新聞記事やテレビニュースやテレビ番組や映画を題材にして授業を進める。これまで何気なく触れてきたマスメディアを「人間の行う表現行為」と捉えることから、その本質を見抜く力を養う。

到達目標:

マスメディアを批評創造的に捉えることができるようにする。それは同時にマスメディアが存在している現代日本の社会的構造と経済的構造を捉えることにつながる。情報化社会を生きるための人間力を高めることが目標である。

授業方法:

テキストを使用すると共に毎回レジュメを配布する。またビデオ・DVDなどを使って解説してゆく。時事問題等で教材として取り上げるに相応しい問題が生じた場合には予定を前後させることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. テーマとしての「マスメディアの言語論」―発想の基本は、私の日常会話「新婚さんいらっしゃい」「踊るさんま御殿」	家族や親しい友人とどのような「ことば」を使って話しているかを自覚しておく。
2. 表現の読み解き方の例―『魔女の宅急便』のキキはなぜ飛べなくなったのか、を考える。	アニメ映画『魔女の宅急便』を事前に視聴しておく。
3. 「美しいことば」とは何か―朝日新聞「天声人語」と「野口英世の母の手紙」の比較から考える。	朝日新聞「天声人語」や読売新聞「編集手帳」などのコラムを読んでくる。
4. 「標準語」と「活字」が大きなコミュニケーションを産み出した代わりに、失ったものを考える。―寺山修司『戦後詩』から	寺山修司『戦後詩』（ちくま文庫か講談社学術文庫）の第一章を読んでくる。
5. マスメディアの基本としての新聞―ニュースとは「人間によって選択加工された事実」であることを分析する。	新聞の社会面の記事を読んでくる。
6. テレビニュースがどのように加工されているか解析する。	テレビニュースを見てくる。
7. マスコミュニケーションは大衆社会において成立している。大衆社会の特徴としての大量生産と大量消費、ブランドについて考える。	自分の身の廻りにある物で大量生産された物と、ブランド品を確認してくる。
8. 大衆社会では「情報」も「商品」として大量生産されている。産業としてのマスメディアの存在様式を認識する。	一つの新聞を表から裏まで全部に目を通してくる。
9. 情報を大量生産するための「ことば」―近代ジャーナリズムの理念に基づいた「無署名性の言語」について考える。	新聞記事で「事件」について書いた記事と、テレビニュースで「事件」を伝える文章を注意して聴いてくる。
10. 叙述の一人称の不在―情報の発信と受信に見る日本社会の特色を知る。	新聞記事を語尾に気を付けて読んでくる。
11. 「対自性を持ったことば」の復権を目指したテレビの「ワイドショー」について考える。	テレビの「ワイドショー」を見て、ニュース番組とどう違うかを考えてくる。
12. テレビの「情報番組」の比較考察をする。	テレビの「情報番組」を見てくる。
13. 新聞やテレビなどのマスコミによる情報とインターネットによる情報とを比較して、それぞれに情報の発信者が居ることを認識する。	自分がよく見るサイトの記事が誰によって書かれているか確認してくる。
14. 日本のマスコミと海外のマスコミとを比較する。「ことば」の原点、「表現」の原点からマスコミュニケーションを考える。	田中克彦『ことばと国家』（岩波新書）の第一、二章を読んでくる。
15. まとめ	テキストを熟読してくることが望ましい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業を通して「あたりまえ」のことを疑う力を身に付けて欲しいと思います。疑問を感じて考えることが素晴らしい人生を営む原動力です。

フィードバックの方法:

出席票にコメントを書いて下さい。それに授業内で答えていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加・態度	50%	出席回数・受講態度
期末試験	50%	設問に対する解答の妥当性

教科書:

吉村誠『メディアから読み解く近現代日本の言語社会(仮)』ナカニシヤ出版

参考書:

田中克彦『ことばと国家』岩波書店
寺山修司『戦後詩』筑摩書房／講談社
井上ひさし・平田オリザ『話し言葉の日本語』新潮社
他は適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

日本経済のしくみを理解する上で必須となる経済学の基礎について論じる。

日本経済のしくみを理解する上で必須となる経済学の基礎知識の修得を目標に掲げる。具体的には、企業・個人および市場について学習する「ミクロ経済学」と、一国全体の経済について学習する「マクロ経済学」の2つについて理解することを目標に掲げる。

授業方法:

板書による講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	需要と供給(教科書第2章)	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	価格メカニズム(教科書第3章)	「需要と供給」に対する理解
4.	市場の効率性(教科書第4章)	「価格メカニズム」に対する理解
5.	市場の失敗(教科書第5章)	「市場の効率性」に対する理解
6.	市場の限界(教科書第6章)	「市場の失敗」に対する理解
7.	労働市場(教科書第7章)	「市場の限界」に対する理解
8.	中間試験	「中間試験」の準備
9.	GDPとは何か(教科書第8章)	「労働市場」に対する理解
10.	何がGDPを決めるのか(教科書第9章)	「GDPとは何か」に対する理解
11.	消費需要と投資需要(教科書第10章)	「何がGDPを決めるのか」に対する理解
12.	貨幣と金融(教科書第11章)	「消費需要と投資需要」に対する理解
13.	政府の役割(教科書第12章)	「貨幣と金融」に対する理解
14.	経済成長と国民生活(教科書第14章)	「政府の役割」に対する理解
15.	まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間試験	50	到達目標に掲げたミクロ経済学についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
	期末試験	50	到達目標に掲げたマクロ経済学についての基礎的知識に関する理解度により評価する。

教科書:

中谷武・中村保(編著)『1からの経済学』碩学舎、2010年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

教員のメールアドレス:mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 日本経済に大きく関係する様々な事柄を基礎から押さえ、新聞やニュースの内容を理解できることを目指します。

到達目標: 日本経済に大きく関係する様々な事柄を自らの言葉で説明できること。

授業方法: 講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	特になし
	2. 戦後日本経済の概略・戦後の金利、為替、株価	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	3. 高度成長期・バブルの時代	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	4. 長期低迷の時代・リーマン・ショック	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	5. アベノミクス	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	6. GDP	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	7. 貿易構造の変化・日本の国際収支	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	8. 為替の変動	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	9. 財政・金融の役割	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	10. 社会保障の現状	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	11. 日本の人口構造・少子高齢化問題	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	12. 雇用	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	13. 食料問題	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	14. エネルギー・環境問題	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	15. 日本経済の実態	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:
フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	70%	日本経済に関する様々な事柄を論理的に説明できるかを基準とする。
	出席確認を兼ねた小テスト	30%	問いに対して論理的に解答できるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ： 教育の「常識」を見つめ直す

授業の概要： 本授業では、学校や教育についてもはや私たちにとっては「当たり前」のものと捉えていることをめぐって、さまざまな事例をもとに検討し、議論することを通して、教育に関する基礎的な知識を自分のものとしながらも、教育や学校の意義と役割についてこれまでとは異なる視点から見つめていくことにより、自分なりの意見を持つことができるようになることを目指す。

到達目標： (1)教育の意義、目的、教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。
(2)教育実践のさまざまな取り組みについてテキストづくりを通して具体的に考えることで、教育という営みにより一層関心をもとうとする。
(3)生涯学習社会における教育の現状と課題について考え、「当たり前」と捉えていたものを見つめ直し、自分の考えを説明できるようにする。

授業方法： 毎回の授業では資料読解や課題追究をめぐってグループディスカッションをしたり、教員からの解説を聞いたりして、テーマに対する自分の考えを明確にしていく。教育思想に関するテキストづくりではグループワークを行う。
なお、テキストづくりは授業内だけでは実現しないため、グループのメンバーと協力し、授業外でのグループワークができるように調整する必要がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 教育の原理についてのオリエンテーション、授業の進め方についてのガイダンス	本授業のシラバスを読んでくる。
	2. 教育の歴史と思想(1) 子育てと教育の歴史(1)ヨーロッパ編(その1)	前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。
	3. 教育の歴史と思想(2) 子育てと教育の歴史(2)ヨーロッパ編(その2)	前の回で考え、議論したことを見直し、提示された問いについて自分なりの考えを整理しておく。
	4. 教育の歴史と思想(3) 子育てと教育の歴史(3)日本編	前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。
	5. 教育思想家に学ぶテキストづくり(1) 子育てと教育に関する諸言説の再調査	これまでに学んできた内容の中で自分が一番関心を持ったところを、根拠をもって選び、説明できるようにしておく。
	6. 教育の歴史と思想(4) 遺伝か環境か～教育の役割を問い直す	前の回に配布された資料を読み、提示された問いについて自分なりの考えを整理しておく。
	7. 教育の歴史と思想(5) こどもが自立するとはどういうことか～児童福祉の観点から	前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。
	8. 教育思想家に学ぶテキストづくり(2) 子育てと教育に関する諸言説の整理と構造化	第5回に編成したグループでそれぞれ分担していた内容について責任をもって調べ、仲間にわかるように説明できるよう準備しておく。
	9. 教育の理念(1) 学ぶことと教えること	前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。
	10. 教育の理念(2) こども主体と教師主導は両立可能か	前の回に考え、議論したことを見返し、提示された問いについて自分なりの考えを整理しておく。
	11. 教育思想家に学ぶテキストづくり(3) テキスト編集・プレゼンテーションのミーティング	第8回以降、各グループで調査や探究を進めてきた内容について、読み手・聴き手にわかりやすく印象深くなるように編集する工夫を考えておく。
	12. 教育の理念(3) 学力調査の結果が示す日本のこどもの学力問題の本質	前の回に配布された資料を読み、グラフやデータが示すことを自分なりに仮説を立てて読み解いてみる。
	13. 教育の理念(4) 21世紀に求められる学力とは何か～生涯学習び続ける力を育てるために	前の回に考え、議論したことを見返し、提示された問いについて自分なりの考えを整理しておく。
	14. 教育思想家に学ぶテキストづくり(4) 各チームの作品の発表・批評	グループで制作していた作品を完成させ、わかりやすくプレゼンテーションするための工夫を考え、リハーサルをしておく。
	15. 全体のまとめ	これまでに学んできた内容についてノートや資料を読み返し、教育という営みについて自分の見方・考え方がどう変化したかを整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス： 学校という組織や教育の制度には長い歴史があり、私たちにとっては「あって当たり前」のもの、疑う余地のないこととして受け入れていることが往々にしてあるのではないのでしょうか。しかし、教育という営みはルーティーンを丁寧にこなしても、「本当にこれでよいのだろうか?」「このままでいいのだろうか?」と根源的な問いに直面せざるを得ないことがいくつもある、実に複雑で難解で奥深いものです。
自分たちにとって「当たり前」と捉えていたことを、仲間とともに真剣に考え議論することで問い直してみましよう。

フィードバックの方法： (1)毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
(2)授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	毎回の授業への積極的参加とリフレクションの提出	25	授業内容や問われたことに対して関連づけたリフレクションになっているかどうか
	グループによる作品の制作、発表、提出	25	授業で学んだ内容を理解した上でそれらを個性的に統合して発表内容をつくらせているか
	定期試験(論述)	50	知っておくべき基礎的な知識を相互に関連づけて理解し、それを自分なりの言葉で説明することができているか

教科書： 前年度「教育の原理」の受講者が作成したテキスト集(該当する授業の回で閲覧、配布する)
授業内で適宜配布する資料類を教科書として使用するため、ファイリングしておく

参考書： 汐見稔幸・伊東毅・高田文子ほか(2011)『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房
久富善之・田中孝彦編(2005)『希望をつむぐ学力』明石書店
梅原利夫・小寺隆幸編(2005)『習熟度別授業で学力は育つか』明石書店
重松清編(2008)『増補新版 教育とはなんだ』ちくま文庫
苅谷剛彦(2002)『教育改革の幻想』ちくま新書
佐藤学(2000)『授業を変える 学校が変わる』小学館
河合隼雄(1998)『こころの処方箋』新潮社

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡 方法:	第1回に配布する資料に教員の連絡先を配布するほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。 履修者全員とのやりとりや、グループ・受講者相互の連絡については必要に応じてマナビーを活用する。

授業テーマ:

発達と学習の心理学

授業の概要:

子どもに対する教育や保育は、教師や保育者自身と子どもの「共育」にもつながっていきます。子どもの発達段階と個人差、そして教師・保育者と子どもとの相互作用を考慮に入れながら、保育所・幼稚園・認定こども園の保育や、小学校の教育について心理学的な観点から授業を進めます。1年次の「こどもの発達心理学」で学習した発達心理学の諸理論をふまえ、さらにそれらを活用しながら発達と学習について心理学的な側面から考えていきます。そして具体的に保育実践や授業実践の中で、どのように諸理論を展開するかについて考えると共に、子どもとの関わりを通した教師や保育者の成長についても考えていきます。

到達目標:

「知識・理解」
発達心理学の諸理論の基礎と応用について理解している。
「関心・意欲・態度」
子どもの発達や保育・教育について関心を持ち、授業内の活動にも積極的に参加する。
「表現・技能・能力」
毎回行われる知識定着をはかる小テストにおいて7割以上の正答が見られ、レポート課題でも要求された内容を表記できる。

授業方法:

講義を中心に行いますが、グループ活動も行います。特に後半の「発達障害をもつ子どもの理解と支援」については、グループ毎に事前学習をした上で、ロールプレイを最後に行います。毎回授業の初めに知識定着のための小テストを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 発達と学習の心理学とは何か	1年次の発達心理学の諸理論の復習をしておくこと
2. 知能	教科書を事前に読んでおくこと
3. 動機づけ	教科書を事前に読んでおくこと
4. 授業の方法1	教科書を事前に読んでおくこと
5. 授業の方法2	教科書を事前に読んでおくこと
6. 人間形成の場の構成	教科書を事前に読んでおくこと
7. 学習指導要領の変遷と新しい学び	教科書を事前に読んでおくこと
8. 特別支援教育・保育	教科書を事前に読んでおくこと
9. 発達障害をもつ子どもの理解と支援1	配布されたプリントを事前に読んでおくこと
10. 発達障害をもつ子どもの理解と支援2	配布されたプリントを事前に読んでおくこと
11. 発達障害をもつ子どもの理解と支援3	配布されたプリントを事前に読んでおくこと 発達障害に関する本を図書館等で読んだ上で、課題をグループで取り組む
12. 発達障害をもつ子どもとの交流活動	発達障害に関する本を図書館等で読んだ上で、課題をグループで取り組む
13. 発達障害の子どもを核とした保育・授業づくり(グループ別ロールプレイ)1	グループで作成したプリント
14. 発達障害の子どもを核とした保育・授業づくり(グループ別ロールプレイ)2	グループで作成したプリント
15. まとめと振り返り	学習した内容を復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回授業の最初に行う小テストのための復習が、授業を受ける際の準備学習として不可欠です。発達障害をもつ子どもの事例に関する宿題が後半出ますので、各自文献を調べて提出してください。

フィードバックの方法:

授業に数人から受けた質問に対しては、次の授業で全体に対しても話します。
わからないところは積極的に質問に来て下さい。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	回答正答数
試験(論述式)	50%	授業で学習した内容が的確に表現されている。 具体例が必要に応じて書かれている。 わかりやすい文章で書かれている。
レポート	10%	具体例が詳細に書かれている。 わかりやすい文章で書かれている。

教科書:

宮川充司・大野久・大野木裕明編著『子どもの発達と学校』ナカニシヤ出版 2010

参考書:

宮川充司他編著『スクールカウンセリングと発達支援』ナカニシヤ出版 2008
柏木恵子『発達の心理学』萌文書林 2012

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

授業後や研究室で随時質問を受け付けます。わからないところはそのままにせずに、積極的に聞きにきてください。

053000	海外事情(カナダ)		国際部長
授業テーマ:	語学・文化研修		
授業の概要:	アルバータ大学(University of Alberta)での約三週間の英語授業を受講する。フィールドトリップやホームステイを行う。		
到達目標:	・英語授業やフィールドトリップ、ホームステイを通じて、英語の運用能力を高めるとともに、カナダ文化・社会に対する理解を深める。 ・引率教職員を伴わない研修を通じて、参加学生の自主・自立を促す。		
授業方法:	現地での研修を円滑に、かつ一層有意義なものとするよう、事前授業を実施する。事前授業は、カナダの文化・社会に関する調査・発表を中心に行う。 アルバータ大学では、午前中はListening、Speaking、ReadingおよびWritingなど総合的な英語力強化を目指した授業(本学からの参加者のみのクラス)を受講する。午後はフィールドトリップやアクティビティに参加し、カナダ文化・社会についても学習する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	事前授業 第1回(5月) オリエンテーション、諸手続の説明、発表グループ分け	
	2.	事前授業 第2回(6月、同志社びわこリトリートセンターでの一泊研修) カナダの文化・社会などに関する研究発表	第2回事前授業でのカナダの文化・社会などに関する研究発表のレジュメを作成する。
	3.	事前授業 第3回(7月) 過年度参加者による研修報告および質疑応答	
	4.	事前授業 第4回(8月) 危機管理対策	
受講者へのメッセージやアドバイス:	5.	現地研修として、アルバータ大学において約三週間英語の授業を受講するとともに、フィールドトリップを行う。なお、滞在期間中の宿泊は、ホームステイである。	各自の研究計画に基づき、現地での調査結果を踏まえて事後レポートを作成する。
フィードバックの方法:	第2回事前授業でのカナダの文化・社会などに関する研究発表について授業内で講評を行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	事前授業での評価	10%	
	アルバータ大学による評価	70%	
	事後レポートの評価	20%	
	事前授業での評価、アルバータ大学による評価、および事後レポートの評価に基づき、出席状況等を勘案した上で総合的に評価する。 ただし、事後レポート未提出の場合は、単位の取得を認めない。		
教科書:	なし。		
参考書:	随時指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	国際課に問い合わせる。		

授業テーマ:	学校における教育とはなにか			
授業の概要:	本講座では、①教育の理念並びに教育に関する歴史と思想。②教育理論や方法に関する知識と技能。③教育に関する社会的、及び、制度的な位置づけ。④学校経営と学級経営に関する理論と方法。⑤学校教育に関わる法律や今日的課題等、教育全般に関わる基礎的で基本的な学習内容を扱うことで、学校教育の総合的な理解をねらいとしている。			
到達目標:	・教育の基本的概念や理論、そして、その歴史的背景を知ること、教育の本質にふれることができる。 ・学校教育の社会的・制度的な役割を理解し、その教育的課題を明らかにすることができる。 ・学校現場で起こる様々な問題を理解し、その解決方法と栄養教諭独自の課題について説明することができる。 ・学習内容から課題を選定し、レポートを作成できる。			
授業方法:	1.講義, 2.演習, 5.講義/演習の混合			
「授業内容」 および 「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	教育の本質	教育に関わる疑問や質問等をまとめる	
	2.	現代教育諸問題（現場からの報告）	いじめ、不登校の問題について関心を持ち、教育現場における対策を経験的にまとめる	
	3.	教育を構成する基本的概念		
	4.	近代公教育思想1	前時に配布する教育史と年表を用いて、事前学習を行う	
	5.	近代公教育思想2		
	6.	教育の目的	前時に提示する参考文献や配布資料を読んでおく	
	7.	学校教育制度	前時に配布する資料を読んでおく	
	8.	学校経営1	選定した課題解決のための資料を収集する	
	9.	学校経営2	課題解決をレポートとして作成する	
	10.	教育の役割	栄養教諭独自の学習課題に対して関心を持ち、質問内容を考えておく	
	11.	学校の内部構造と社会的視点		
	12.	学力観と学校評価	絶対評価と相対評価について簡単に予習をする	
	13.	教育と新たな社会問題	今日的な教育課題を収集選択し、発表できるようにする	
	14.	教育の今日的課題と教育政策の動向	食育に関わる法律や今日的課題の情報を収集する	
15.	まとめ	全体のまとめとしてふり返る		
受講者への メッセージや アドバイス:	将来、栄養教諭として教育現場における食育の中心的存在となり、活躍するために、学校全体の仕組みや経営の方法を学びます。学習内容が非常に広く、直接栄養教諭の仕事に関わりのないものもありますが、学校教育に携わる教員として基礎基本の知識を学習します。			
フィードバックの 方法:	提出物は教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。			
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	定期試験	50	到達目標の学習内容の理解度を客観的に評価する。	
	レポート	40	到達目標のレポート課題の完成度を思考判断と表現、及び指定したフォーマットの規準に沿って評価する。	
	授業への参加度	10	到達目標の学習内容に対する関心や事前の予習の状況を自己評価と他者評価を参考に評価する。	
教科書:	プリント配布			
参考書:	授業の中で紹介する			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力			
教員との連絡 方法:	授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等			

授業テーマ:	医学・薬学・生命科学の発展を通して現代に重要な知識や経験則を習得する。	
授業の概要:	少人数のグループを構成することで、毎時間グループ内のdiscussionを行います。その後、全体discussionの場でグループ代表者に発表をしてもらい、さらにdiscussionを発展させていきます。題材は、シラバスに示した通りで、具体的な要素は時間毎に提示します。2回目以降の講義で必ず1回以上発表してください。成績の判定要素になります。	
到達目標:	講義において学習する知識だけでなく、DWCLA10に掲げられる、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップを主に向上させていくことを目標とする。(薬学準備教育(1),(2))	
授業方法:	チュートリアル方式、対話方式	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. プロローグ 講義全体の流れと、進め方を紹介します。Discussionのやり方、レポートの作成方法など具体的な例を提示して、試します。 2. 消毒(1)清潔の概念 19世紀、外傷後の死亡率の高さが大きな問題とされていきました。負傷者に対する献身的な介護が、清潔・消毒という概念に発展していきます。 3. 消毒(2)産褥熱 出産後の母体の安全性は、19世紀では現在ほど安定したものではありませんでした。それは、皮肉にも当時の医学の発展がその危険性を増していたのです。患者だけでなく医療従事者に清潔という概念の必要性が認識されます。 4. 消毒(3)無菌手術 産業革命は、様々な方面に恩恵をもたらし、文明が発展しました。無菌手術を可能にしたこの有機化合物は、後の化学合成医薬品にもつながっていきます。 5. 病原性微生物(1)ワクチン 消毒の必要性・重要性が認識され始めた頃、病原性微生物の発見がこれらを理論的に裏付けました。次々に発見されるウイルスとワクチンの作成はどのように開始されたのでしょうか？ 6. 病原性微生物(2)抗生物質 人類初の抗生物質、ペニシンの誕生は劇的なストーリーです。今では、このような展開はありえないのですが、20世紀の歴史に大きな軌跡を残しました。抗生物質の発見はその後の医薬品の開発に拍車をかけ、医療は多大な進歩を遂げました。 7. 病原微生物(3)ウイルスの脅威 インフルエンザウイルスは、どのようにしてヒトに感染するようになったのでしょうか？鳥に常在するウイルスがなぜヒトに？20世紀にパンデミックを起こしたこのウイルスは、21世紀に何を起こすのでしょうか？ 8. 痛み(1)アスピリン 人類初の化学合成医薬品、アスピリン、痛みを抑える医薬品です。20世紀の幕開けに登場したこの薬は21世紀に新たな作用を認められ、別の疾患に用いられるようになりました。この多彩な薬を紹介します。 9. 痛み(2)麻薬 ヒトの生活の中であらゆる痛みを軽減し、取り去ることができたなら？薬として使われる麻薬、一方、ヒトの生活を破壊する危険薬物として認識されています。その、歴史と現状を解説します。今、氾濫する危険ドラッグ、その実情を認識しましょう。 10. Serendipity(1)胃潰瘍 驚くべき大発見、ノーベル賞はその際たるものを賞賛し表彰します。ピロリ菌の発見、胃潰瘍の治療薬はまさにその代表で、日々の観察から始まる研究成果がもたらした結果です。潰瘍治療の歴史とともに解説します。この薬がもう少し早くできていれば、夏目漱石もノーベル賞を取れたかも？ 11. Serendipity(2)移植医療とクローン 日本での移植医療の環境は十分とは言えません。しかし、移植医療を可能にした薬は日本から生まれています。キメラ、ギリシャ神話の世界の怪物が現代に登場？生殖医療の現状とクローンの誕生から現代の状況まで、その功罪をわかりやすく説明します。 12. 脳科学 睡眠 睡眠は、ヒトの精神行動を正常に保つ上で、極めて重要な要素です。脳内を活動する様々な物質とともにヒトの睡眠を考えてみます。 13. DNAとがん(1)細胞の暴走 ヒトはなぜがんになるのでしょうか？死亡原因の第一位を占めるこの疾患の成員は、環境因子と遺伝的要素です。特に、婦人科領域の癌を中心に解説します。 14. DNAと癌(2)iPS細胞 おそらく今世紀の最大の発見となるでしょうiPS細胞。この細胞を使った研究に託された未来と将来性をわかりやすく説明します。	準備学習等の内容 今までにどのような薬を使ったことがありますか？考えてみましょう。 現代の消毒についてあなたはどのような意識を持っていますか？ナイチンゲールの誓い、知っていますか？ 産褥熱、聞いたことがありますか？現代でも決して皆無ではありません。出産時の危険性を調べてみましょう。 病院臭ってわかりますか？病院は独特な匂いを持っています。生活の中で、どのような消毒剤があるのか調べてみましょう。 ワクチンのイメージは？どのようなワクチンがあることを知っていますか？考えてみましょう。 あなたは、今までに抗生物質を服用したことがありますか？それは、どのような時でしたか？考えてみましょう。プライベートライアン(スビルバーク監督)という映画見たことがありますか？ペニシリンが登場します。 インフルエンザワクチンを毎年接種していますか？なぜ、毎年なのでしょう？ワクチン接種していれば感染しないのでしょうか？考えてみましょう。免疫について調べてみましょう。 あなたは、痛み止めを服用したことがありますか？どのくらいの期間でしたか？痛みの他に何か問題は起きませんでしたか？ 麻薬に関するイメージを自分で確かめてみましょう。あなたは、どのくらい麻薬について知っていますか？ 胃が痛い、そんな経験はありませんか？そんな時、どんな薬を飲んでいますか？ちょっと成分を見て調べてみましょう。ノーベル文学賞にも関係した大発見が？ 遺伝子改変動物って聞いたことがありますか？人工授精など、現代医療では様々な形で身近に存在しているクローン技術です。どのような場合に使われているのか考えてみましょう。 あなたの睡眠時間はどのくらいですか？1日あたり、一週間あたり、ちょっと考えてみましょう。夢はみめますか？記憶に残りますか？”君の名は”もう一つの世界が本当にあるかも？ 身近に癌を発症した方はおられますか？どのような癌ですか？わかる範囲で調べてみましょう(無理に個人情報を集める必要はありません)。 生命科学に興味のあるヒトなら、一度は手にしてみたいiPS細胞です。将来の可能性は無限大、発想こそこの細胞を生かす要素です。

15. まとめの講義

14回を通してまとめのDiscussinとレポートの提出を行います。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

講義を楽しんで、積極的に参加してください。

フィードバックの
方法:

講義時間内に問題点を解説して、discussionの回答を導く。発表者の提出されたレポートは、必要に応じて随時返却する。講義15回目に、それまでの学習成果をまとめるレポート作成を行う。これに関しては、学生の求めに応じてオフィスアワー内の時間で個別に開示し、指導を行う。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表・レポート	50	13回の講義内の発表回数、内容を加味し採点する。
15回目のレポート	50	課題を示し、レポート作成させる。key wordを設定して採点を行う。

教科書:

指定しない

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、

教員との連絡
方法:

hmatsuno@dwc.doshisha.ac.jp
内線8620(木曜日)

授業テーマ:

薬の発明と発見の歴史を縦軸に現代医薬品を科学する

授業の概要:

薬は人類の知と汗の結晶である。草根木皮や鉱石を病から解放される物質として利用し、更には、加工調整し薬として利用してきた。天然薬物が伝統医学における薬として、さらには現代医薬品や化粧品、香料の原料あるいは食品として利用されていることを知る。また、現代医薬品である合成医薬品の発明と発見のドラマを人類の英知の活動として理解する。

到達目標:

医薬品を通して現代科学の力強さを実感する

授業方法:

講義形式で、時に演習形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	「くすり」の科学	身の回りの薬を調べる
2.	合成医薬品:世界最古	身の回りの薬を調べる
3.	合成医薬品:世界で一番売れている	身の回りの薬を調べる
4.	合成医薬品:世界一合成経路が長い	身の回りの薬を調べる
5.	合成医薬品:天使と悪魔	身の回りの薬を調べる
6.	合成医薬品:競い合い	身の回りの薬を調べる
7.	合成医薬品:臓器移植	身の回りの薬を調べる
8.	合成医薬品:作用機構と生命の謎解き	身の回りの薬を調べる
9.	伝統医学:アラビア医学、インド医学、中国医学など	身の回りの薬を調べる
10.	天然薬物の利用:スパイス、ハーブ	身の回りの薬を調べる
11.	世界の薬物資源(1):南北アメリカ原産植物	身の回りの薬を調べる
12.	世界の薬物資源(2):ヨーロッパ原産植物	身の回りの薬を調べる
13.	世界の薬物資源(3):アフリカ原産植物	身の回りの薬を調べる
14.	世界の薬物資源(4):アジア原産植物	身の回りの薬を調べる
15.	世界の薬物資源(5):動物および海洋生物	身の回りの薬を調べる

受講者へのメッセージやアドバイス:

身の回りの薬が誰が、いつ、どこで、どのようにして、なんのために、創成したかを楽しんでほしい。5W1H

フィードバックの方法:

口頭、面談、メール等

「成績評価方法」:	「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
		授業への積極的参加度レポート	60 40	授業への積極的参加度提出

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業時及びオフィスアワー、メール等現代機器の使用も可

授業テーマ:

人の知覚と記憶、感情について理解する

授業の概要:

心理学は、人の心の動きや行動について、実験的研究や体系的な調査など科学的な方法によって明らかにしようとする学問である。この科目では、心理学の研究方法について簡単に紹介し、人が環境からの情報を取り入れる働きとしての知覚や、心の動きや行動を支える基礎となる記憶、感情と行動の関わりについて簡単な実験を取り入れながら講義を行う。

- 到達目標:
1. 人の知覚、特に視覚の特徴を理解すること

2. 記憶の働きや行動を支える仕組みについて理解すること

3. 感情と行動の関わりについて知ること

4. 実験とレポート作成を通してデータの正確な扱い、グラフの書き方、読み取り方、結果のまとめ方などを理解すること

授業方法:

主に視覚教材を使用して講義を行う。授業時に必要な資料はその都度配布する。
また授業時間内に3回程度、数名のグループによる簡単な実験を行い小レポートの提出を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	心理学とは・心理学研究の歴史と研究方法の簡単な紹介	自分にとっての心理学のイメージを確認しておくこと
2.	知覚: 刺激と感覚について(簡単な実験と小レポート)	グラフの書き方、レポート作成時の言葉の使い方をチェックしておく
3.	知覚: 刺激と感覚の関係(感じ取れる? 違いがわかる?)	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
4.	知覚: 視覚と知覚的体制化(人はどのように見ているのか)	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
5.	知覚: 奥行知覚と運動の知覚(奥行きや動きはどうしてわかるのか)	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
6.	知覚: 錯視について(簡単な実験と小レポート)	グラフの読み取り方、レポートの簡潔なまとめ方をチェックしておくこと
7.	知覚: 色彩の知覚(色の見え方・日常生活の中で使われる色)	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
8.	記憶: いろいろな記憶・(簡単な実験と小レポート)	グラフの読み取り方、レポートの簡潔なまとめ方をチェックしておくこと
9.	記憶: 記憶すること・忘れること	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
10.	記憶: 認知と記憶(記憶は記録ではない?)	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
11.	記憶: 日常生活と記憶・記憶の障害	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
12.	感情: 感情研究の流れから感情をみる1	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
13.	感情: 感情研究の流れから感情をみる2	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
14.	感情: 感情と人の行動	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
15.	まとめ	授業時に取り上げた内容について復習し理解を深めておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

実験の小レポートは評価の上後日教室で返却する

「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80	到達目標1～3の理解度により評価する
	小レポート	20	到達目標4. データの正確な扱い、グラフの書き方、読み取りができているか、結果について適切・簡潔にまとめられているかについて評価する

教科書:

参考書:

心理学概論 岡市廣成・鈴木直人編 ナカニシヤ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

授業テーマ:

対人認知と自己認知・他者との関係

授業の概要:

心理学は、人の心の動きや行動について、実験的研究や体系的な調査など科学的な方法によって明らかにしようとする学問である。この科目では、人の性格、対人認知や対人感情にかかわる要因や、人の態度決定、行動選択の特徴、集団内での人の行動について紹介し、簡単な実験を取り入れながら講義を行う。

- 到達目標:
1. 人の性格の形成、測定方法について知ること

2. 対人認知、対人感情にかかわる要因について理解すること

3. 態度決定や行動選択の特徴、集団内での行動など、他者とのかかわりによって人の行動が受ける影響について理解すること

4. 実験とレポート作成を通してデータの正確な扱い、グラフの読み取り方、結果のまとめ方などを理解すること

授業方法:

主に視覚教材を使用して講義を行う。授業時に必要な資料はその都度配布する。
また講義時間内に2回程度数名のグループによる簡単な実験またはグループワークを行い小レポートの提出を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	心理学とは・心理学の研究方法	自分のもつ心理学のイメージを確認しておく
2.	自己認知・パーソナリティと性格テスト	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
3.	対人認知(他者をどのようにみるか)	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
4.	対人認知の特徴(客観的にみるのは難しい)	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
5.	対人感情(他者への好感が生まれるとき)	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
6.	態度と行動(実験と小レポート)・気をつけよう！(調査データの適切さと問題点)	グラフの読み取り方、レポート作成時の言葉の使い方についてチェックしておくこと
7.	態度決定、行動選択に関するさまざまな要因	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
8.	説得的コミュニケーション(説得方法と効果)1	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
9.	説得的コミュニケーション(説得方法と効果)2	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
10.	実際に話し合ってみると(実験と小レポート)	レポート作成時の言葉の使い方についてチェックしておくこと
11.	援助行動について(他者を援助するとき)	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
12.	攻撃行動について(なぜ攻撃するのか)	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
13.	集団と人の行動(他者と一緒のとき人はどう行動するのか)1	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
14.	集団と人の行動(他者と一緒のとき人はどう行動するのか)2	授業時に取り上げた用語について参考文献その他で復習し理解を深めておくこと
15.	まとめ	授業時に取り上げた内容について復習し理解を深めておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

実験の小レポートは評価の上後日教室で返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	85	到達目標1～3の理解度により評価する
	小レポート	15	到達目標4. データの正確な扱い、グラフの読み取りができているか結果について適切・簡潔にまとめられているかについて評価する

教科書:

参考書:

心理学概論 岡市廣成・鈴木直人 編 ナカニシヤ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

授業テーマ:	女性の健康生活に必要な基礎知識を理解する。																																		
授業の概要:	女性の健康について、いろいろな面から学ぶ。まず、社会的性のジェンダーについて理解を深める。さらに、女性の健康に大きく影響する女性ホルモンであるエストロゲンの働きについて学び、エストロゲンとどのようにうまくつきあうかを考える。また、妊娠・出産に関すること、女性に多く起こる疾患や、それに対処することも学ぶ。授業全体通じて、女性の健康についての理解を深めることを目指す。 薬学準備教																																		
到達目標:	女性特有の健康課題について理解する。女性を取り巻く医療環境、ジェンダー、女性の身体的特徴・性ホルモンを概説する。そして、女性の健康・体力と、女性を取り巻く疾患について解説する。																																		
授業方法:	講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>2. ジェンダーと女性の健康</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>3. 女性の健康支援に関する社会システム・制度・法律</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>4. 女性の健康支援に関する国内外の比較</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>5. 月経にまつわる障害とその対処</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>6. 女性とセクシャルヘルス(避妊法を含む)</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>7. 女性の健康と患者学 ―産婦人科のかかり方</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>8. お産事情(安全性と快適性)</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>9. 更年期女性の健康</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>10. 女性の病気;乳がん</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>11. 女性の健康;セルフメディケーション</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>12. 女性の健康;腸の健康</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>13. 女性の健康;目の健康</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>14. 女性の健康;睡眠</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr><tr><td>15. 総括</td><td>厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	2. ジェンダーと女性の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	3. 女性の健康支援に関する社会システム・制度・法律	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	4. 女性の健康支援に関する国内外の比較	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	5. 月経にまつわる障害とその対処	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	6. 女性とセクシャルヘルス(避妊法を含む)	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	7. 女性の健康と患者学 ―産婦人科のかかり方	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	8. お産事情(安全性と快適性)	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	9. 更年期女性の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	10. 女性の病気;乳がん	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	11. 女性の健康;セルフメディケーション	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	12. 女性の健康;腸の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	13. 女性の健康;目の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	14. 女性の健康;睡眠	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照	15. 総括	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
2. ジェンダーと女性の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
3. 女性の健康支援に関する社会システム・制度・法律	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
4. 女性の健康支援に関する国内外の比較	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
5. 月経にまつわる障害とその対処	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
6. 女性とセクシャルヘルス(避妊法を含む)	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
7. 女性の健康と患者学 ―産婦人科のかかり方	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
8. お産事情(安全性と快適性)	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
9. 更年期女性の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
10. 女性の病気;乳がん	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
11. 女性の健康;セルフメディケーション	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
12. 女性の健康;腸の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
13. 女性の健康;目の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
14. 女性の健康;睡眠	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
15. 総括	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への積極的参加度</td><td>50%</td><td rowspan="2">到達目標に対する理解度で評価する。</td></tr><tr><td>レポートと小テスト</td><td>50%</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への積極的参加度	50%	到達目標に対する理解度で評価する。	レポートと小テスト	50%																										
評価方法	割合	評価基準																																	
授業への積極的参加度	50%	到達目標に対する理解度で評価する。																																	
レポートと小テスト	50%																																		
教科書:	特に指定しない。																																		
参考書:	厚生労働省HP																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思いやる力、自己管理能力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:	キャリアプランニングのための基礎的自己理解(1年生次対象)																																		
授業の概要:	自分自身を見つめ、自己理解を深める。 自分の興味関心、能力を認識し、さらに自分の置かれた環境を分析し、職業選択を含めた自分の生き方を考える。																																		
到達目標:	大学で学ぶことの意味・目標を明確にする。 自己理解を深め「働く」ということの本質について認識し、就業への関心を高める。 他者との関わりのなかから、自分の存在意義を再認識する。																																		
授業方法:	講義と演習 毎回、ワークシート記入を行う。 必要に応じてDVD・スライド学習を取り入れる。 毎回、講義の感想や自分の考えをミニレポートにまとめる。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 「大学で学ぶことの意味と目標を明確に」 大学生活を過ごす時に意識しておきたいことを探る。</td><td>今までの大学生活を振り返り、大学生活における自分の目標を再認識しておく。</td></tr><tr><td>2. 「自己認識」 ライフサイクルをイメージすることによって、自身の存在、位置を認識する。「働いて生きる」ことの意義を考える。</td><td>生きていくうえで大切にしたいと思っていることを再確認しておく。</td></tr><tr><td>3. 「キャリアとは」 「キャリア」の意義、概念を確認する。 「働く」ということの歴史的背景、意義を考え、自身のキャリア形成につなげる。</td><td>何のために働くのかを考えておく。</td></tr><tr><td>4. 「人生の計画書」 キャリアデザインを描くために、「生きる」うえで必要なこと、重要なことを認識する。</td><td>日常的に関わりのある他者を再認識しておく。</td></tr><tr><td>5. 「さまざまな働き方」 多様な働き方を知り、それぞれの働き方の特徴、リスクを認識し、自身の働き方を考える。DVDで、様々な分野で活躍する女性の様子を知る。</td><td>日常生活の中で重要と考えていること、満足度の高いことを整理しておく。</td></tr><tr><td>6. 「若年労働者問題」 働く若い世代の問題を認識し、その原因、解決方法を探る。働き続けることの意義を考える。</td><td>女性が働き続けるために意識しておきたいことについて考えておく。</td></tr><tr><td>7. 「女性を取り巻く環境の変化」 女性の生き方の変化を分析し、自身のライフスタイルを考える。 「起業」という働き方について考える。</td><td>起業のため企画書作成を体験するので、「もし、起業するならどんなことをしたいのか」を考えておく。</td></tr><tr><td>8. 「性別役割分担」 物語におけるジェンダーに関するDVDを通して、自分自身はどう生きていきたいかを考える</td><td>子ども向けの物語、童話、絵本等に触れておくこと。</td></tr><tr><td>9. 「仕事と家庭・家族」 家族の役割を再認識し、仕事と家庭(プライベート)の両立について考える。家庭内における性別役割分担について検証する。</td><td>自身の家族の役割を再確認しておく。</td></tr><tr><td>10. 「自己を知ること」 自己分析の目的、意義、方法を知る。自己分析によって自身の能力を再発見する。</td><td>自分の強み、アピールポイントを見つけておく。</td></tr><tr><td>11. 「能力発揮」 自身の能力を発揮するために必要なコミュニケーションスキルとリーダーシップ能力の向上をはかる。</td><td>自身のコミュニケーションスキルについて、分析しておく。</td></tr><tr><td>12. 「聴く力」 キャリア形成に有効なキャリアカウンセリング、メンタリングの手法を学び、他者との関わりの重要性を認識する。</td><td>自身の成長の過程で影響を受けた他者との関わりを整理し、認識しておくこと。</td></tr><tr><td>13. 「世界の女性」 外国の働く女性の姿から学ぶ。(スライド学習)</td><td>自分の能力を発揮するために、日常的に意識していることをまとめておく。</td></tr><tr><td>14. 「キャリアデザインに向けて」 授業を振り返り、キャリアデザイン、キャリアプランを描くことの必要性を認識し、その方法を学ぶ。 キャリアプラン作成の準備を実施。</td><td>過去の生活を振り返り、印象に残った出来事をまとめておく。 13回の授業の内容、毎回実施したワークシートを再確認しておくこと。</td></tr><tr><td>15. 「キャリアプラン」 大学生活に焦点を当てたキャリアプランを作成、提出。</td><td>14回目の授業で、キャリアプラン作成用紙(下書き用)を配布するので、完成しておくこと。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 「大学で学ぶことの意味と目標を明確に」 大学生活を過ごす時に意識しておきたいことを探る。	今までの大学生活を振り返り、大学生活における自分の目標を再認識しておく。	2. 「自己認識」 ライフサイクルをイメージすることによって、自身の存在、位置を認識する。「働いて生きる」ことの意義を考える。	生きていくうえで大切にしたいと思っていることを再確認しておく。	3. 「キャリアとは」 「キャリア」の意義、概念を確認する。 「働く」ということの歴史的背景、意義を考え、自身のキャリア形成につなげる。	何のために働くのかを考えておく。	4. 「人生の計画書」 キャリアデザインを描くために、「生きる」うえで必要なこと、重要なことを認識する。	日常的に関わりのある他者を再認識しておく。	5. 「さまざまな働き方」 多様な働き方を知り、それぞれの働き方の特徴、リスクを認識し、自身の働き方を考える。DVDで、様々な分野で活躍する女性の様子を知る。	日常生活の中で重要と考えていること、満足度の高いことを整理しておく。	6. 「若年労働者問題」 働く若い世代の問題を認識し、その原因、解決方法を探る。働き続けることの意義を考える。	女性が働き続けるために意識しておきたいことについて考えておく。	7. 「女性を取り巻く環境の変化」 女性の生き方の変化を分析し、自身のライフスタイルを考える。 「起業」という働き方について考える。	起業のため企画書作成を体験するので、「もし、起業するならどんなことをしたいのか」を考えておく。	8. 「性別役割分担」 物語におけるジェンダーに関するDVDを通して、自分自身はどう生きていきたいかを考える	子ども向けの物語、童話、絵本等に触れておくこと。	9. 「仕事と家庭・家族」 家族の役割を再認識し、仕事と家庭(プライベート)の両立について考える。家庭内における性別役割分担について検証する。	自身の家族の役割を再確認しておく。	10. 「自己を知ること」 自己分析の目的、意義、方法を知る。自己分析によって自身の能力を再発見する。	自分の強み、アピールポイントを見つけておく。	11. 「能力発揮」 自身の能力を発揮するために必要なコミュニケーションスキルとリーダーシップ能力の向上をはかる。	自身のコミュニケーションスキルについて、分析しておく。	12. 「聴く力」 キャリア形成に有効なキャリアカウンセリング、メンタリングの手法を学び、他者との関わりの重要性を認識する。	自身の成長の過程で影響を受けた他者との関わりを整理し、認識しておくこと。	13. 「世界の女性」 外国の働く女性の姿から学ぶ。(スライド学習)	自分の能力を発揮するために、日常的に意識していることをまとめておく。	14. 「キャリアデザインに向けて」 授業を振り返り、キャリアデザイン、キャリアプランを描くことの必要性を認識し、その方法を学ぶ。 キャリアプラン作成の準備を実施。	過去の生活を振り返り、印象に残った出来事をまとめておく。 13回の授業の内容、毎回実施したワークシートを再確認しておくこと。	15. 「キャリアプラン」 大学生活に焦点を当てたキャリアプランを作成、提出。	14回目の授業で、キャリアプラン作成用紙(下書き用)を配布するので、完成しておくこと。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 「大学で学ぶことの意味と目標を明確に」 大学生活を過ごす時に意識しておきたいことを探る。	今までの大学生活を振り返り、大学生活における自分の目標を再認識しておく。																																		
2. 「自己認識」 ライフサイクルをイメージすることによって、自身の存在、位置を認識する。「働いて生きる」ことの意義を考える。	生きていくうえで大切にしたいと思っていることを再確認しておく。																																		
3. 「キャリアとは」 「キャリア」の意義、概念を確認する。 「働く」ということの歴史的背景、意義を考え、自身のキャリア形成につなげる。	何のために働くのかを考えておく。																																		
4. 「人生の計画書」 キャリアデザインを描くために、「生きる」うえで必要なこと、重要なことを認識する。	日常的に関わりのある他者を再認識しておく。																																		
5. 「さまざまな働き方」 多様な働き方を知り、それぞれの働き方の特徴、リスクを認識し、自身の働き方を考える。DVDで、様々な分野で活躍する女性の様子を知る。	日常生活の中で重要と考えていること、満足度の高いことを整理しておく。																																		
6. 「若年労働者問題」 働く若い世代の問題を認識し、その原因、解決方法を探る。働き続けることの意義を考える。	女性が働き続けるために意識しておきたいことについて考えておく。																																		
7. 「女性を取り巻く環境の変化」 女性の生き方の変化を分析し、自身のライフスタイルを考える。 「起業」という働き方について考える。	起業のため企画書作成を体験するので、「もし、起業するならどんなことをしたいのか」を考えておく。																																		
8. 「性別役割分担」 物語におけるジェンダーに関するDVDを通して、自分自身はどう生きていきたいかを考える	子ども向けの物語、童話、絵本等に触れておくこと。																																		
9. 「仕事と家庭・家族」 家族の役割を再認識し、仕事と家庭(プライベート)の両立について考える。家庭内における性別役割分担について検証する。	自身の家族の役割を再確認しておく。																																		
10. 「自己を知ること」 自己分析の目的、意義、方法を知る。自己分析によって自身の能力を再発見する。	自分の強み、アピールポイントを見つけておく。																																		
11. 「能力発揮」 自身の能力を発揮するために必要なコミュニケーションスキルとリーダーシップ能力の向上をはかる。	自身のコミュニケーションスキルについて、分析しておく。																																		
12. 「聴く力」 キャリア形成に有効なキャリアカウンセリング、メンタリングの手法を学び、他者との関わりの重要性を認識する。	自身の成長の過程で影響を受けた他者との関わりを整理し、認識しておくこと。																																		
13. 「世界の女性」 外国の働く女性の姿から学ぶ。(スライド学習)	自分の能力を発揮するために、日常的に意識していることをまとめておく。																																		
14. 「キャリアデザインに向けて」 授業を振り返り、キャリアデザイン、キャリアプランを描くことの必要性を認識し、その方法を学ぶ。 キャリアプラン作成の準備を実施。	過去の生活を振り返り、印象に残った出来事をまとめておく。 13回の授業の内容、毎回実施したワークシートを再確認しておくこと。																																		
15. 「キャリアプラン」 大学生活に焦点を当てたキャリアプランを作成、提出。	14回目の授業で、キャリアプラン作成用紙(下書き用)を配布するので、完成しておくこと。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	自分自身を見つめ、自己理解を深めることを目的とする。自分の能力を知り、発揮すること、また、自分で考え、行動できるようになることが重要。自分で考えて得た答えが、自身にとっての正解となる。 毎回配布するワークシートに取り組むことによって、様々な観点からの自己分析ができる。「準備学習等の内容」は、ワークシート記入の参考となる。																																		
フィードバックの方法:	毎回、授業の内容に沿ったテーマでミニレポートを作成、提出。指定のテーマに関わらず、独自の意見や考え、質問等の記入も可。次回の授業で、解説、回答を行い、全員で問題提起や疑問を共有する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席およびワークシートへの取り組み状況</td><td>35</td><td>毎回配布するワークシートに取り組み、自己分析へとつなげる努力をしているかを評価する。</td></tr><tr><td>毎回提出するミニレポート</td><td>35</td><td>自身の考えを、相手に伝えられるように表現できているかを基準とする。</td></tr><tr><td>キャリアプラン作成</td><td>30</td><td>最終回で作成。自身のキャリア形成について真剣に考えているかを評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席およびワークシートへの取り組み状況	35	毎回配布するワークシートに取り組み、自己分析へとつなげる努力をしているかを評価する。	毎回提出するミニレポート	35	自身の考えを、相手に伝えられるように表現できているかを基準とする。	キャリアプラン作成	30	最終回で作成。自身のキャリア形成について真剣に考えているかを評価する。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
出席およびワークシートへの取り組み状況	35	毎回配布するワークシートに取り組み、自己分析へとつなげる努力をしているかを評価する。																																	
毎回提出するミニレポート	35	自身の考えを、相手に伝えられるように表現できているかを基準とする。																																	
キャリアプラン作成	30	最終回で作成。自身のキャリア形成について真剣に考えているかを評価する。																																	
教科書:																																			

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	キャリアプランニング(2年生次以上対象)		
授業の概要:	自分自身を見つめ、自己理解を深める。 就業に関する様々な問題について、その原因、および対応の仕方を考える。 職業に焦点を置いてキャリアプランを描く。		
到達目標:	現在の就業環境や雇用システムを知る。 働くときに直面する問題を認識し、適切な対処法を考えることにより、就業をよりの確にとらえる。 内部環境、外部環境を分析し、自己のキャリア形成につながる、キャリアデザイン、キャリアプランを描く方法を学ぶ。		
授業方法:	講義と演習 毎回、ワークシート記入を行う。 必要に応じてDVD・スライド学習を取り入れる。 毎回、講義の感想や自分の考えをミニレポートにまとめる。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 「キャリアとは」 「キャリア」の意義・概念の確認。 キャリア形成の意義について確認する。	今までの大学生生活を振り返り、今後の課題、目標を設定する。	
	2. 「女性の就業環境」 女性を取り巻く就業環境を、各種データを用いて検証する。 就業環境の変化と、現在の雇用システムを確認する。	「人間的魅力」とは何かを考える。	
	3. 「職業選択に向けて」 職業選択に向けて、様々な働き方や業種と職種の違い等を認識し、自己の能力や興味とを照合する。	職業選択する際に何を重視するのかを考える。	
	4. 「女性の就業問題」 シングルマザーの就業環境を通じて、女性の就業環境における問題点を探り、その解決方法を考える。	自分にとって、なぜ働くことが重要なのかを考える。	
	5. 「社会における女性」 税金、社会保険等、働く際に関わる制度について知る。	自分の強みを考える。	
	6. 「女性の雇用に関する法律」 女子差別撤廃条約、雇用機会均等法、育児介護休業法、労働基準法等、女性の雇用に関する法律の概要を学び、制度を知る。	過去を振り返り、印象に残ったエピソードを確認する。	
	7. 「働きやすい職場(1)」 働きやすい就業環境を作るために、DVDでセクシュアルハラスメントの定義を確認し、原因を分析し、防止対策を考える。	セクシュアルハラスメントについての認識を高める。	
	8. 「働きやすい職場(2)」 パワーハラスメント、モラルハラスメント等、様々なハラスメントが存在することを認識し、問題の本質を考え、解決の方法を探る。	(事例研究を通して、ハラスメントを考える。)	
	9. 「世界の働く女性」 アメリカの、コミュニティビジネスの分野で働く女性から学ぶ。(スライド学習) コミュニティビジネスの仕組みと特徴を知る。	自分の持つ様々なスキルを確認しておく。	
	10. 自己分析(1) 自己分析の重要性を確認する。自己分析と就職活動との関連を確認。	未来の自分の姿を思い浮かべる。	
	11. 自己分析(2) 自己分析の進め方を学ぶ。	現在の自分に関する情報をまとめる。	
	12. 自己分析(3) 自己分析を自己PRにつなげる。	過去を振り返り、印象に残る出来事をピックアップし、その時の状況を分析する。	
	13. 「能力発揮」 自己分析をすることによって確認した自分の能力を発揮するためのスキルを身につける。プレゼンテーションスキルを用いて、能力を発揮する方法を学ぶ。	将来、必ず経験してみたいこと、職業を含む理想とする生活環境等をまとめる。	
	14. 「キャリアプラン作成に向けて」 13回の授業を振り返り、キャリアデザインを描き、キャリアプラン作成につなげる。 キャリアプラン作成の準備。	人生の目標、職業上の目標、また、目標に向かうために必要なことは何かを考えておくこと。	
	15. 「キャリアプラン作成」 職業に焦点を当てたキャリアプラン(おおむね大学卒業後10年くらいまで)を作成、提出。	14回目の授業で、キャリアプラン作成用紙(下書き用)を配布するので、完成しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	自分自身を見つめ、自己理解を深めることを目的とする。自身の能力を理解し、職業選択への道筋を描く。「働く」ことについての意識を高める。 毎回配布するワークシートに取り組むことが自己分析につながり、職業選択、将来の生活設計へ展開することができる。「準備学習の内容」はワークシート記入の参考となる。		
フィードバックの方法:	毎回、授業の内容に沿ったテーマでミニレポートを作成、提出。指定のテーマに関わらず、独自の意見や考え、質問等の記入も可。次回の授業で、解説、回答を行い、全員で問題提起や疑問を共有する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席およびワークシートへの取り組み状況	35	毎回配布するワークシートに取り組む、自己分析へとつなげる努力をしているかを評価する。
	毎回提出するミニレポート	35	自身の考えを、相手に伝えられるように表現できているかを基準とする。
	キャリアプラン作成	30	最終回で作成。自身のキャリア形成について真剣に考えているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応

授業テーマ： 平安貴族と都市の人々

授業の概要： 平安京は、日本で最初の本格的な都市であった。そこで人々は農村から離れてはじめての都市生活を経験する。伝統的な王朝文化の基礎をつくった貴族たちはもちろん、そのすそ野には、それを支えた商工業に従事する多くの庶民もまた独自の生活習慣と文化をつくろうとしていた。室町時代に、京都の都市民いわゆる「町衆」たちを中心に、能や茶などの伝統的な文化を花開かせた背景もそこにある。この講座では、現代の京都文化の基礎をつくった平安時代貴族と庶民の歴史をお話する。

到達目標： 貴族の歴史ではない京都の歴史を理解し、現代の京都にどのようなつながっているかを理解する。

授業方法： 講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	京都と平安京の違い	バスの路線図を取得し、京都の地形としての概略を見ておく。
2.	平安京の成立	平安京の地図を準備して、京都地図と見比べる。
3.	平安京の住民	平安京の地図を見て、重要な施設と位置を確認しておく。
4.	王朝文化とは一梅の花から桜の花へ	雛人形の段飾りには飾られているものを見える。
5.	年中行事と王朝文化	日本の年中行事にどんなものがあるかを挙げてみる。
6.	貴族の邸宅と庶民の住まい	寝殿造の復元図があればみてほしい。
7.	平安時代の庭園と郊外	京都に残された有名な庭園を確認する。それを時代順に並べてみて、平安時代の庭園を考えてみる。
8.	歌枕と地方	歌枕とは和歌の名所である。どんな地名があるだろうか。
9.	御霊会の成立	京都の地図から「神泉苑」の場所を確認し、どんな場所だったのかを調べておく。
10.	市中の堂－霊験の仏	観音・薬師と、釈迦や阿弥陀とはどう違う仏なのか、考えておく。
11.	極楽浄土への信仰	阿弥陀如来像のある寺院を探す。たとえば平等院へ行ってみよう。
12.	都市の祭礼の成立	祇園祭はどこかの神社の祭りで、どんな祭だったのかを調べておく。
13.	都市民の生業と組織	平安時代の都市に住む人々の仕事は何か考えておく。勤め人？それとも商人？または職人？農民はいないのか？
14.	貴族の食事	平安時代の貴族は何を食べていたのかを考える。たとえば肉はどんな肉を食べたのか。
15.	まとめ	平安京の一般人のありかたをまとめておく(定期試験の課題に使われる)。

受講者へのメッセージやアドバイス： フィードバックの方法： 毎回の質問について、重要なものについて授業中にまとめて説明する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30	
	定期試験	70	客観的な知識の確認と独創性

教科書:

参考書: 五島邦治『京都の歴史がわかる事典』(日本実業出版社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: e-mail goshima@sky.plala.or.jp

授業テーマ:

町衆文化の成立

授業の概要:

室町時代になると、京都の貴族の経済的な力は衰退し、武家や「町衆」とよばれる都市民が新たに台頭する。彼らは平安時代に貴族によってつくられた王朝文化の美意識を受け継ぎ、能や絵画、工芸、茶道などの、現在の伝統文化の基礎をつくった。この講座では、そうした文化が成立する過程と、現代への継承をお話する。

到達目標:

平安時代ではなく、室町時代の京都が現代の京都の基礎になっていることを理解する。現代の京都の中から直接連続する歴史を実際に見ることによって、歴史が生きていることを理解する。

授業方法:

講義形式で授業を進め、その都度プリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	市中と郊外	あらかじめ京都の地図を準備して、見ておくのがよい。
2.	「町人」の成立	京都の地図の中心部を熟視し、どこから郊外になるのかを考える。
3.	中世の風流	祇園祭をあらかじめ見ておくとうわかりやすい。たとえば、山鉾の種類を調べる。
4.	山鉾風流を支えた人々	祇園祭の山鉾と地域の関係を考える。
5.	町堂と「町人」	地図から六角堂の場所を確認し、できれば行ってみるとよい。
6.	洛中洛外図屏風の世界	上杉本「洛中洛外図屏風」の画像を見て、今どこにあるか、何が描かれているかを調べる。
7.	能の興隆	能とは何か、できれば実際に見ておきたい。
8.	天文法華一揆と町組の成立	京都の中の日蓮宗の寺院、たとえば本能寺、本法時、立本寺などを調べたり、行ってみたりする。
9.	豊臣秀吉の京都政策	京都に於ける秀吉の遺跡、高瀬川、豊国神社・方広寺・耳塚、御土居、寺町を調べて実際に歩いてみる。
10.	床の間と畳の成立	自分の身の回りにある畳のある部屋に座って、床の間に何が懸かっているかを確認する。
11.	茶の湯から茶道へ	抹茶を体験する(茶会や和風喫茶店で)。
12.	豪商と出版事業	地図で高瀬川を探し、高瀬川に沿って歩いてみる。
13.	光悦と宗達から琳派へ	屋宗達の絵をネットで探し、実物を見てみる。
14.	京都の近代化―琵琶湖疎水と博覧会	地図で琵琶湖疎水を確認して、岡崎・蹴上にその遺構を探しに行く。
15.	まとめ	室町時代以降、京都の都市民が自分たちの町をどのように造ってきたかまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回の質問について、重要なものについて授業中にまとめて説明する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30	客観的知識の確認と独創性
	定期試験	70	

教科書:

参考書: 五島邦治『京都の歴史がわかる事典』(日本実業出版社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

e-mail goshima@sky.plala.or.jp

授業テーマ:

保育所保育の本質と目的

授業の概要:

日本の保育所保育の全体像、法的基盤、歴史的経緯を学ぶ。

到達目標:

1. 保育所保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
3. 保育の内容及方法の基本について理解する。
4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。
5. 保育の現状と課題について考察する

授業方法:

講義を基本に、受講生によるテーマに基づいた発表、実技発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、日本の保育を巡る諸問題	テキストの目次部分、各章の前文に目を通して全体像を把握しておく。
2.	保育の理念と概念、児童の最善の利益を考慮した保育	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
3.	保育の社会的意義、保育所保育指針の制度的位置づけ	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
4.	保護者との緊密な連携、保護者との協働、倫理観に裏付けられた保育士の専門性	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
5.	養護と教育の一体性	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
6.	現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うことの重要性	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
7.	生活と遊びを通して総合的に行う保育	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
8.	環境を通して行う保育、発達過程に応じた保育	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
9.	保育における個と集団への配慮	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
10.	計画・実践・記録・評価・改善の過程	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
11.	諸外国の保育の思想と歴史	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
12.	諸外国の保育の現状と課題	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
13.	日本の保育の思想と歴史	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
14.	日本の保育の現状と課題	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
15.	まとめ	ノート、資料、テキストなどに目を通し学習内容を振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	テーマにそった発表	40%	内容をよく理解し、相手に伝わりやすい工夫がなされているか
	実技発表	10%	ねらいが明確であるか、適切なパフォーマンスができているか
	試験	50%	質問の意味を理解し、的確に回答・解答ができているか

教科書:

保育所保育指針 フレーベル館
保育所保育指針解説書 フレーベル館
新保育士養成講座・第1巻 保育原理 保育士養成講座編纂委員会編

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後、教室内にて対応

授業テーマ:

講義と企業人セミナーとワークショップによる【ビジネス・業界・企業・職種・仕事研究講座】

授業の概要:

～あなたが適切な進路選択をする為に！そして、あなたの就職活動がスムーズに進む為に！～
☆進路選択や就職活動に欠かせない「経済活動やビジネス・業界や企業・職種や仕事」について詳しく講義します。
☆普段聞くことが出来ない、各業界トップ企業の役職員の方や人事担当者の方をお招きして皆さんに直接講義をしてもらいます。
☆講義とワークショップを通して「業界・企業・職種研究」の仕方やスキルを身につけてもらいます。
☆京田辺キャンパスは廣岡先生、今出川キャンパスは奥谷先生の講義となります(内容は同じです)。

到達目標:

☆「経済やビジネスの仕組み」「多様な業界とその業界の主要企業」「各業界の業務内容とビジネス構造」「様々な職種とその仕事内容」について学ぶことで皆さんの進路選択やキャリアプラン作成のベースとなることを目指します。
☆「業界や企業、職種や仕事研究」の仕方を学ぶことで、就職活動に欠かせないその方法やスキルを身につけてもらいます。
☆各業界を代表する企業の方から直接話を聞くことで、其々の業界の仕事内容や各業界で求められる人物像についてしっかりと理解を図ってもらいます。

授業方法:

講義と企業人セミナー、チームワークショップとチームプレゼンテーションで講座を構成します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. <経済活動や企業活動の仕組みを知る>・・経済活動の基本構造。株式会社とは。ホールディング会社と事業会社。親会社と子会社。企業業績が解る損益計算書の見方。他	
2. <業界を知る>・・業界とは。業界大分類と中分類と小分類。業界間の関係性。同女生が知っておくべき業界とその業界における主要企業。キーワードから見る有望業界とは。他	
3. <主要業界のビジネス構造や業務内容を知る>・・主要業界のビジネスモデル。各業界の社会的役割。主要業界の業務内容と職種。主要業界の現状と課題と将来展望。BtoB企業とBtoC企業。他	
4. <職種や仕事を知る>・・職種とは。職種と雇用形態。業界と職種。職種や雇用形態ごとのメリット、デメリット。総合職、エリア総合職、一般職、専門職について。女性活躍推進法と企業の対応。他	
5. <業界・企業・職種研究の方法を知る>・・業界・企業・職種研究のポイント。ESや面接の質問事例から考える研究視点と研究を深める為の方法。業界・企業・職種選択のポイント。他	
6. <企業人セミナー>・・製造業界、金融業界、サービス業界、情報関連業界からその業界のトップ企業の方をお招きし週替わりで講義をしてもらいます。	セミナーの最後に質問タイムを設けます。企業の方への質問を考えておいて下さい。
7. <企業人セミナー>・・同上	同上
8. <企業人セミナー>・・同上	同上
9. <企業人セミナー>・・同上	同上
10. <業界研究ワークショップ>・・製造業界、金融業界、サービス業界、流通業界、情報関連業界の5業界にチーム編成。各チームごとに業界や企業、職種や仕事について研究を行ってもらいます。	「4回の企業人セミナーを聞いて理解したことや気付いたこと」をテーマにレポートを提出してもらいます(次週講義時に提出)。 <業界研究ワークショップ>に向けて、これまでの講義内容を復習しておいて下さい。
11. <業界研究ワークショップ>・・同上	自分の担当する業界に関する情報収集を積極的に行って下さい。
12. <業界研究ワークショップ>・・同上	同上
13. <業界研究まとめ作業>・・プレゼンテーションに向けて、チームごとに研究内容や研究成果をまとめてもらいます。	
14. <チームプレゼンテーション>・・チームごとに研究内容や研究成果をプレゼンテーションしてもらいます(1回5チーム前後)。各チームの研究内容やプレゼン手法について先生よりコメントします。	他のチームに対する質問を考えておいて下さい。
15. <チームプレゼンテーション>・・同上 全チーム終了後、業界研究NO1チームを受講生の挙手で決めてもらいます。	同上 講義終了後、一週間以内にマナビースystemを使って「この講義を通して、理解したことや気づいたこと」をテーマにレポートを提出してもらいます。

受講者へのメッセージやアドバイス:

☆2～3年次生対象の講座です。就職活動を控えた3年次生はもちろんのこと、進路選択やキャリアプラン作成、近い将来に向けた就職準備の為2年次生の積極的な受講を薦めます。
☆業界選択や職種選択に対する迷いのある人、就職活動やその準備に不安のある人はぜひ受講して下さい。
☆皆さんの進路選択や就職活動準備に必要な知識やスキルを身につけていただく為の実践的講座です。
☆「キャリアのための自己表現演習(前期・後期開講)」と併せて受講されることを薦めます。
☆期末テストはありません。下記評価方法で採点します。

フィードバックの方法:

☆提出レポートは返却しません。
☆ワークショップに関しては、研究方法や進め方について必要なアドバイスと指導を行います。
☆チームプレゼンテーションに関しては、チームごとにその内容や発表方法について、受講生全員の参考となるようコメントを行います。

「成績評価方法」

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	50%	公欠と認めざるを得ない場合を除き、欠席回数は減点対象となります。
レポート	40%	レポートは内容と表現力の両面から採点します。
授業への取り組み姿勢	10%	講義の感想記入、企業人セミナーでの質問、ワークショップでの積極的な取り組み姿勢等をプラス評価します。

「成績評価基準」:

教科書:	皆さんに購入してもらおう教科書はありません。「オリジナル講義ノート」を受講生に無料で配布します。
参考書:	その都度、講義内で紹介します。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力
教員との連絡 方法:	質問や相談は授業の前後に遠慮なく申し出てください。時間が必要な質問や相談については、別途面談時間を改めて設定します(出席カードの自由記述欄に質問や相談を書かれてもお答えできません)。

授業テーマ:	講義と演習による【就活力・就業力の育成】		
	～自己表現力を高め、あなたが輝く社会人になる為に～ ～あなたの適正な進路選択と円滑な就職活動の為に～		
授業の概要:	☆進路選択やキャリアデザイン作成、就職活動やその準備の為に必要な知識・ノウハウ・スキル・能力の習得と向上を図る講座です。 ☆講義は全8回で、2回目以降は基本隔週講義となります。1回目講義の時に講義スケジュールを配布します。1回目の講義は、春学期・秋学期、各クラスとも授業開始週です。 ☆後期、今出川キャンパス木曜3講時講座は奥谷先生の講義となります。それ以外は両キャンパスとも廣岡先生の講義となります。どの講座も内容は同じです。都合の良い受講クラスを選択して下さい。		
到達目標:	☆社会人としてはもちろんのこと、就職活動に必須の能力となる「文章力」と「会話力」の向上を目指します。 ☆社会人としてはもちろんのこと、就職活動に欠かせない能力となる「自己表現力」の向上を図ります。 ☆進路選択や就職活動に必要な知識やノウハウを講義することにより、皆さんの就職活動とその準備がスムーズに進むことを目指します。		
授業方法:	講義と演習(レポート作成・面接練習・グループディスカッション・チームプレゼンテーション等)で構成		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. <就職の現状を知る>・・・同志社女子大生の就職率、就職先、就業職種。全国新卒学生の就職状況。就職戦線の厳しさ。企業や官公庁が大学生に求めるモノとは。就職活動のスケジュールとプロセス。他		
	2. <ライフプランとキャリアプランを考える>・・・ライフプランやキャリアプランと働き方。正規雇用と非正規雇用。正社員や正職員として働くこととは。就職に必要な能力や資格とは。他	最終講義日にチームでプレゼンテーションを行ってもらいますので、それまでチームごとに準備を進めて行って下さい。	
	3. <業種や職種を知る>・・・業界と企業と職種。公務員の種類と職種。総合職と一般職の違いと其々のメリット・デメリット。業界や職種の決め方。業界研究・企業研究・職種研究の方法とそのポイント。他	宿題として「新聞を読んで」というテーマで課題文を作成してもらいます。日頃から新聞を読む習慣を付け、気になった記事を見つけておいて下さい。	
	4. <自分自身を知る>・・・就職活動とは自己PR活動。自分の強みやセールスポイントを見つける為には。自分自身をアピールする表現方法とは。自分の強みとその職種が求める能力とのマッチングとは。他	宿題として「自己表現シート」を作成してもらいます。自分の強みやセールスポイントとそれが身についた活動や経験を整理しておいて下さい。	
	5. <文章力と会話力を高める>・・・社会人として求められる文章力や会話力とは。文章力や会話力を上げるポイントとは。ESや面接での質問に的確に答える文章や回答の作り方とは。他		
	6. <面接練習>・・・伝わりやすさかつ説得力のある話の内容とは。相手に好感を与える話し方のポイントとは。面接における態度やマナーとは。面接官が面接で見ているポイントとは。他	面接練習をしてもらいますので、これまでの講義内容を復習しておいて下さい。	
	7. <グループディスカッション>・・・集団の中での自己表現力と会話力を高めるポイントとは。グループディスカッションで押えておくべきポイントとは。面接官がグループディスカッションで見るポイントとは。他	数チームに分かれてグループディスカッションを行ってもらいます。集団の中で自分を際立たせる話し方やとるべき行動について考えておいて下さい。	
	8. <プレゼンテーション>・・・聞き手が理解しやすさかつ聞き手の印象に残すプレゼンテーションとは。プレゼンテーションで押さえておくべきポイントとは。面接官が見ているプレゼンテーションのポイントとは。他	チームごとにプレゼンテーションを行ってもらいますので、8回目の講義までにその準備を完了しておいて下さい。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	☆2～3年次生対象の講座です。「文章力や会話力」等の「自己表現力」は早期からの育成が重要です。2年次生の積極的な受講を薦めます。 ☆少人数授業(各講座20名前後)ですので、一人一人きめ細かくサポート、指導します。 ☆自己表現力や就職活動に不安のある人、業種選択や職種選択に悩みのある人はぜひ受講して下さい。 ☆受講生満足度の非常に高い講座です。志望の仕事や企業に就職した先輩受講生も多くいます。 ☆「大学生活とキャリアデザインⅢ」講座(後期開講)と併せて受講されることを薦めます。 ☆期末テストはありません。下記評価方法で採点します。		
フィードバックの方法:	☆レポート(課題文作成と自己表現シート作成)は、一人一人添削しコメントを添えて返却します(前期受講者は後期初めに、後期受講者は翌年度前期初めに、教務課窓口にて)。 ☆面接練習やグループディスカッション、チームプレゼンテーションに関しては個別に問題点や課題と改善方法をアドバイスします。 ☆講義内容に関する質問は当然のこと、進路選択や就職に関する個別相談にも応じます。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加	50%	公欠と認めざるを得ない場合を除き欠席回数を減点します。
	レポート	40%	内容と表現力の両面から採点します。
	取り組み姿勢	10%	講義に対する感想記入、演習での積極的な取り組み姿勢、質問・相談等の積極的姿勢をプラス評価します。
教科書:	皆さんに購入してもらう教科書はありません。「オリジナル講義ノート」を受講者に無料で配布します。		
参考書:	講義の中で、その都度紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	最初の講義で、携帯番号をお教えします。進路選択や就職に関して相談のある人は遠慮なく連絡して下さい。面談時間を設定します。		

授業テーマ:

能楽を通して日本文化の特質を探る。

授業の概要:

能は、室町初期に大成された日本の音楽劇である。その大成の中心的存在である観阿弥、世阿弥父子は、奈良から京都に進出し、足利義満の庇護のもと、能を庶民の芸能から、より芸術性の高いものに昇華していった。北山文化の中で育てられた能には、日本文化の特質が多く含まれている。この講義では、能の歴史や京都の文化との関係、能面の美術的価値と精神性、能装束と西陣との関係、楽器と日本の音楽性など、様々な角度から能を考察し、京都の文化、更に日本の文化の特質を探る。

到達目標:

能の概要を知る。
能の歴史を学ぶ。
能から日本の美意識を学ぶ。
能の音楽性を知る。
日本文化の特質を知る。
国際社会における自己のあり方を考える。
同志社における「良心」の意味を考える。

授業方法:

能について、様々なテーマを決めて講義をすすめる。一日は能舞台を使い、能面、能装束と着付け、能の演技を鑑賞する。教室ではビデオも使い、能を身近に感じとってもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 能とは何か	授業ノートの確認
	2. 能の歴史	授業ノートの確認
	3. 能の演技空間	授業ノートの確認
	4. 能面	授業ノートの確認
	5. 能装束	授業ノートの確認
	6. 能の音楽(1) 笛・太鼓	授業ノートの確認
	7. 能の音楽(2) 小鼓・大鼓	授業ノートの確認
	8. 能の演技	授業ノートの確認
	9. 能の種類(1) 神能・修羅能	授業ノートの確認
	10. 能の種類(2) 鬘能	授業ノートの確認
	11. 能の種類(3) 雑能・鬼能	授業ノートの確認
	12. 新作能	授業ノートの確認
	13. 狂言	授業ノートの確認
	14. 能の主題	授業ノートの確認
	15. まとめの授業	授業ノートの確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の私語厳禁。
授業中の入退出は原則として禁止。

フィードバックの方法:

各回提出のコメントや質問に対し、次回の授業の冒頭に必要に応じて答える。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	授業に興味を持って参加し、文化を学ぶ意味を考えられたかを評価する。 各回の授業内容を理解し、日本文化に触れて、自己の精神性を高められたかを評価する。
	各回のコメント	50	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前に教室で対応する。

授業テーマ:

京菓子を単なる食文化として捉えるのではなく、儀礼や民俗、茶の湯など伝統芸術とのかかわりの中で検証していく。京菓子がそれぞれの時代の、文化の産物であるという観点から京菓子の成り立ち、その周辺での出来事までを取り上げていく。

授業の概要:

和菓子は存在が身近なだけに普段気にとめることなく食べているが、平安時代にまでつながる文化の所産であり日本独自の食べ物であり発展し、今に伝わり生活に生き続けています。和菓子特に京都のお菓子について、歴史・由来・菓子銘・意匠・色目などを検証していくことにより、宮中をはじめ茶道・神社仏閣・美術・古典芸能にも深く結びついていることを学んでいく。

到達目標:

京菓子を単なる食べ物としてではなく、総合文化として学び意匠・色目・銘などが日本の工芸品にも影響を与えた重要性を認識していく。(尾形光琳・俵屋宗達)

授業方法:

VTR・パワーポイントの使用。美術館・ハッ橋工場などの校外学習。京菓子の実習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 「お正月に食べる雑煮」についてのレポートの作成。和菓子の歴史全般。	雑煮の中の具材。餅の種類。味噌又はすまじなのか。
	2. 京菓子の歴史(1) 平安時代から江戸時代初期	
	3. 京菓子の歴史(2) 江戸時代初期から江戸時代後期	
	4. 京菓子と京都の歳時記 1年の歳時記のお菓子の説明。	
	5. 京菓子と京の寺社 神社・寺などでお供えするお菓子の説明。	
	6. 京菓子の意匠	
	7. 京菓子と琳派 細見美術館展観	細見美術館展観し、学んだこと、感じたことをまとめておく。
	8. 細見美術館を展観して感じたことをレポート作成 砂糖と京菓子 砂糖の重要性	
	9. 京菓子の季節表現と色目 平安時代の色目	
	10. もてなしの心と京菓子	
	11. ハッ橋の歴史と工場見学	工場での見学したことの特徴をまとめておく。
	12. 工場見学を終えてレポート作成 京都の菓子屋の種類・特徴	
	13. 文化としての京菓子	
	14. 授業のまとめ 小テストの実施	
	15. 京菓子の実習(2種類)	お菓子の実習を行うのでエプロンなど持参。
受講者へのメッセージやアドバイス:	京都の歴史・風俗・食生活など広くいろいろなことに興味をもつこと。神社仏閣・美術館などに興味を持ち、拝観、展観をすること。	
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	60	遅刻・欠席がなく授業に積極的に取り組んでいる。
	レポート	20	校外学習による解説の理解度。
	小テスト	20	授業に対する理解度。到達目標に関する知識力。

教科書:

参考書:

菓子こよみ (淡交社)
京菓子歳時記 末富の十二ヶ月 (光村推古書院)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、思いやる力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	日本の色 京都の色彩	
授業の概要:	地球上の生物のなかで、人間のみが自らの意思で衣服を纏い、またそれは様々な方法で染色した布で作られています。私自身の仕事である植物による染織の技法を通して、794年から都となった京都の地で、どのような衣服が着られ、そこにどのような色が染められていたのかを学びます。また、絵画や建築物などに使われた色彩に触れ、京都における色彩感、色の歴史、文化についても学び、また、実際に染色の体験もして頂き、更なる理解を深めていきます。	
到達目標:	・ 持参した染織コレクションや植物染で古来の伝統色を復元したものに触れて更なる関心を深める。 ・ 実技を通して体験することで、技法や先人たちの知恵を知る。 ・ 自分の好きな色を見つけ、それが京都のどこにあるのか、リサーチと発表を通して、調査力と表現力をつけていく	
授業方法:	1: 講義、2: 演習、3: 学内実習、4: 学外実習	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	1日目から3日目までは講義を行い、最後に内容に沿った簡単な実技をします。 1～3日目の間に自分の好きな京都の色についてリサーチ。 4日目に映画「紫」を鑑賞後、発表をして頂きます。 5日目は染司よしおかの工房にて植物染の体験をして頂き、美しい色を生み出す技術を学びます。	
	授業内容	準備学習等の内容
	1. 色のはじまり 衣服のはじまり 絹の発明 染織技術の向上	「日本の色辞典」を読み 自分の好きな色を見つける。
	2. 五行思想とは 飛鳥天平時代の染織技術 万葉集に読まれた色	日本人がどのように色を習得していったか理解を深める。 なぜその色が好きなのかを考える。
	3. 実技 胡桃の摺り染	好きな色がどのように使われていたかを考えておく。 実際に染めてみてどのように感じたのか、書き留めておく。
	4. 奈良の都から京都へ 平安京の造営 衣装の変遷	自分の好きな色は 京都のどこにあるか (建物、絵画、御所、お寺、神社など) を探してみる。
	5. 源氏物語に出てくるかさね色 季節にあった「季(とき)の色」	自分の好きな色は 京都のどこにあるか (建物、絵画、御所、お寺、神社など) を探してみる。
	6. 奈良時代、平安時代から続く祭礼とその色	祭礼に使われる色、 実技を通して更に京都を知るきっかけをつくる。
	実技 石清水八幡宮の供花神饌を作る	
	7. 中世における京都の姿と色彩 桃山時代 南蛮文化到来とその色彩 江戸時代 友禅染の技法 武士の色	自分の好きな色について 簡単な発表が出来るように 準備
	8. 江戸時代～明治時代 町衆の色 祇園祭の色彩 化学染料の時代へ	自分の好きな色について 簡単な発表が出来るように 準備
	9. 木綿の普及 ジャパンプルーとは	今までの授業の復讐と 発表の準備
	実技 藍の摺り染	
	10. ドキュメンタリー映画「紫」鑑賞	現代に植物染を蘇らせる工房の日常を見る。
	11. 3日間のまとめ 質疑 応答など	理解ができなかった部分 不明なところはここで解決する。
	12. 「自分の好きな色」をテーマに 発表	発表を通して同じ授業を受けた人々の色彩感を共有する。
	13. 染司よしおか で染色実習	レポートの準備
	絹のスカーフを茜で染める。	本格的な染色を体験することによって先人たちの知恵と努力を学ぶ。
	14. 染司よしおか で染色実習	レポートの準備
	絹のスカーフを茜で染める。	本格的な染色を体験することによって先人たちの知恵と努力を学ぶ。
	15. 染司よしおか で染色実習	レポートの準備
	絹のスカーフを茜で染める。	本格的な染色を体験することによって先人たちの知恵と努力を学ぶ。
		レポートの準備
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎日服を選ぶとき、どのような気持ちで、どんな色を選びますか？ 色彩の歴史や文化を学んで頂きますが、その結果は皆さんの日常にも反映されていくと思います。	
フィードバックの方法:	京都は1200年以上前に都になった歴史ある地です。先人たちの残した文化や完成を色彩を通して学んで頂くと、その他の分野にも色々興味が出てくると思います。	
	授業後、教室で解説する	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席 授業への参加度	60%	基本的に全日出席、遅刻厳禁とします。 欠席、遅刻は減点対象と致します。
	レポート	30%	5日間の授業を通して感想文を書いて頂きます。 期日までの提出と5日間の授業の理解度を基準とします。
	発表	10%	自身の色彩感を深めた発表であることを評価基準とします。
教科書:	吉岡幸雄 「日本の色辞典」 紫紅社		
参考書:	吉岡幸雄 「日本の色の十二カ月」 紫紅社		
	吉岡幸雄 「源氏物語の色辞典」 紫紅社		
	吉岡幸雄 「京都の意匠」 紫紅社		
	吉岡幸雄 「京都の古社寺 色彩巡礼」 淡交社		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	香の文化史の視座から京都の文化を学ぶ		
授業の概要:	京都は、都として人々の心や意識を集め続け、四季の移ろいの楽しさと共に今なお私たちを魅了しています。1200年の時間の中でこの京都の街が熟成してきた様々な文化を見つめてみると、個性豊かな京都の風土と我が国の独自性が見えてきます。「香り」という一つのメディアに焦点をあて歴史を紐解いてみることで、私たち自身の背景を考えてみましょう。		
到達目標:	日本人としてのアイデンティティを持つ一助となることを望みます		
授業方法:	プリントを使用し、大学内での講義。 校外研修(松栄堂内での間香体験など)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション	配布プリントを事前に読み下し、問題意識を集約して授業にのぞむこと。
	2.	香の文化史-1	原始の時代から古代において、歴史にかいま見ることできる我が国の香りとはどのようなものであったのでしょうか。
	3.	香の文化史-2	唐様に会った人々が、和様の美しさを自ら表現できるようになります。香りはどのように和様化したのでしょうか。
	4.	香の文化史-3	王朝文学と香り。源氏物語や枕草子など、原文にふれながら、日本の香りを考えます。
	5.	香の文化史-4	禅宗と出会って、我が国の文化環境は大きく転換します。香りを見つめて、その時代を慮ってみましょう。
	6.	香の文化史-5	東山文化は、いかなるものだったのか。香の文化を見つめることによって、その意味を学びます。
	7.	香の文化史-6	「間香」という言葉を学びます。香道として伝わる芸道文化は、世界にもまれな香りの芸術です。
	8.	エキスカーション	香の製造現場を訪問します。
	9.	エキスカーション	間香の体験。実際に天然の香りにつれてみましょう。
	10.	香の文化史-7	茶の湯と香の関係を学びます。
	11.	香の文化史-8	香の文化を見つめることによって、江戸時代の文化的な潮流を概観します。
	12.	香の文化史-9	世界と我が国は、どのような影響を互換してきたのでしょうか。香りを見つめて考えます。
	13.	香りを学ぶ	私たちにとって香りとは何なのか、情報化社会に生きる意味と知恵を考えます。
	14.	-15. まとめ	授業中に話題にしたことを思い起こしながら、一人一人の文化的土壌を考えてほしいと願っています。
受講者へのメッセージやアドバイス:	京都で学ぶことの幸せを体感してください。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	10%	積極的に講義に参加し、感じたことを発言出来るかどうかを判断する
	試験	90%	授業内容について、理解度を計ると共に自分の言葉で表現がされているかを判断する
教科書:			
参考書:	『香が語る日本文化史・香千載』（光村推古書院） 『香三才・香と日本人のものがたり』（東京書籍） 『香清話・香に聞く、香を聞く』（淡交社）		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	メールにて		

授業テーマ:

4年間にわたる教職課程での学びを振り返り、教員としての資質能力の向上をめざす

授業の概要:

教職課程の授業や教職課程以外のさまざまな活動の記録を4年間通して綴ってきた「マイネカルテ(履修カルテ)」のふり返りや、課題に関する討議、ゲストスピーカーによる講義及びディスカッションを糸口にして、4年間の大学での学びを総合的にリフレクションし、自分の中で変化したことに関する意味づけを試みる。その中で、これまで身に付けてきた資質能力を、「ひとをケアし、育てる」仕事としての教職に必要な資質能力として有機的に統合していくと共に、教職に就く上での自己課題を見出し、不足している知識や技能に気づけるようにする。

到達目標:

(1)「ひとをケアし、育てる」仕事としての教職のあり方を理解する。
(2)これまでの4年間で身に付けてきた資質能力を、「ひとをケアし、育てる」仕事としての教職に必要な資質能力として有機的に統合するために具体的に省察する力を身につけようとする。
(3)教職に関する4年間の学びを通して自分自身の教職に対する見方・考え方がどのように変化したかを自分の言葉で具体的に説明することができる。

授業方法:

毎回、グループ・ディスカッションや事例研究、課題に対するプレゼンテーションなど、全員参加の演習を基本として授業を進めるが、外部講師や卒業生をはじめとするゲストスピーカーによる集中講義とそれに関する討議も織り交ぜる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 教職実践演習のオリエンテーション、授業の進め方に関するガイダンス、グループづくり	本演習の「シラバス」を必ず読んでくる。
2. マイネカルテ(履修カルテ)のふり返り	1年春学期から4年春学期までに記録したマイネカルテを整理し、不備がないか確認しておく。
3. 防災・安全講習会(1)【集中講義・第1時目】	文部科学省が編集した『学校防災のための参考資料―「生きる力」を育む防災教育の展開』(平成25年3月)の中で事前に指示した箇所を読んでおく。
4. 防災・安全講習会(2)【集中講義・第2時目】	同上
5. 防災・安全講習会(3)【集中講義・第3時目】	同上
6. 教育実習のふり返り	教育実習の際に作成した実習簿、ならびに実習中に用いた記録用メモなどを読み返しておく
7. 小学校の教科学習に関する学びほぐし(unlearn)～これまでの学びを新たな視点で見つめ直し、意味づける～	教職課程における各教科の学びと教育実習の際に使用した資料やノート、該当するマイネカルテを読み返し、事前に指示された視点に基づいてふり返りしておく。
8. 小学校の特別活動に関する学びほぐし(unlearn)～これまでの学びを新たな視点で見つめ直し、意味づける～	教職課程における特別活動の学びと教育実習の際に使用した資料やノート、該当するマイネカルテを読み返し、事前に指示された視点に基づいてふり返りしておく。
9. 幼児教育に関する学びほぐし(unlearn)～これまでの学びを新たな視点で見つめ直し、意味づける～	幼児教育に関する学科必修科目と教育実習の際に使用した資料やノート、該当するマイネカルテを読み返し、事前に指示された視点に基づいてふり返りしておく。
10. 保育に関する学びほぐし(unlearn)～これまでの学びを新たな視点で見つめ直し、意味づける～	保育に関する学科必修科目と教育実習の際に使用した資料やノート、該当するマイネカルテを読み返し、事前に指示された視点に基づいてふり返りしておく。
11. 子どもをめぐる諸課題～貧困・障がい・ネグレクトなど～に立ち向かうそれぞれの現場の日常を知る	児童養護施設や幼稚園・保育所、こども園、小学校などで近年問題となっている諸課題について、指示された資料を事前に読んでおく。
12. 学校・家庭・地域とのつながりの中で子どもを育てる【集中講義・第1時目】	事前に指示された資料を読み、疑問に思ったこと、議論してみたいことをカードに書き出しておく。授業時にはそのカードを持参する。
13. 学校・家庭・地域とのつながりの中で子どもを育てる【集中講義・第2時目】	同上
14. 学校・家庭・地域とのつながりの中で子どもを育てる【集中講義・第3時目】	同上
15. 全体的なまとめとレポート作成によるふり返り	教職実践演習の各回で配布された資料や自分たちの発表に用いた資料などを読み返しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

教職・保育職に就く学生はもちろん、企業や団体等で働く学生にとっても、自分が教職課程を通して学んだことを具体的にふり返り、その意味を見つめ直して、自分自身の変化を知っておくことは、これからの自分のよって立つものを明確にし、目指す姿を思い描いていく上で重要な経験です。4年間の集大成となる学びを、ともに学んできた仲間とともに新たな視点から創り上げていきましょう。

★なお、本授業は教職課程の必修科目であり、全回出席を原則とする。教育実習や就職先でのインターンシップ、研修会など、公欠が認められる場合は条件が整っている必要がある。公欠に関する説明を第1回のガイダンスで聞いて、適切な手続きをとるようにする。

フィードバックの方法:

(1)毎回の授業時に記入するリフレクションカードをもとに質問や疑問を集約し、次の回の授業に反映させて、適宜、補足説明や追加資料の配布などを通して対応する。
(2)授業内のグループ発表に対して適宜コメントし、発表のまとめ方や発表方法について真似したり見習いたい点や改善点を共有できるようにする。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の授業への出席と授業内容に関するリフレクションの提出	50	毎回のリフレクションが4年間の学びの新たな意味づけに不可欠なため、全出席を前提とし、各回のテーマに基づくりフレクションを重視する。
マイネカルテ(履修カルテ)の提出	20	教職課程の科目やその他の活動を通して学んだ内容を、質・量ともに満足できる形で、個性的に記述されているか。
最終レポート	30	4年間の自身の変化を具体的に記述することと共に、変化をもたらしたものについて分析的に捉えることができるか

教科書:

文部科学省編『小学校学習指導要領解説【総則編】』東洋館出版社、2008年
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htmよりダウンロード可
文部科学省編『幼稚園教育要領解説(平成20年10月)』フレーベル館、2008年
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019.htmよりダウンロード可
厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008年
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/hoiku/index.htmlよりダウンロード可

文部科学省による特別支援教育に関する資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htmよりダウンロード可
文部科学省編『学校防災のための参考資料―「生きる力」を育む防災教育の展開』(平成25年3月)
http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1289310.htmよりダウンロード可

参考書: 適宜指示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡
方法: 授業内容に関する質問やその他、教員への連絡が必要な場合は、授業運営のとりまとめを行う代表者(吉永)に直接、連絡する。連絡先のメールアドレスは第1回のガイダンスで知らせるほか、マナビーも有効に活用する。
なお、公欠の申請については所定の用紙に記入し、第1回のガイダンスで指定されたレターボックスに提出する。

授業テーマ:

京都の文化を多角的な視点から総合的に学ぶー理論と実践から

授業の概要:

本講義では、京都の文化のありかたの一端について、実際の美術・能・京菓子・染色・香・十二単の装いなど、京都文化を代表する芸術に関わる第一線の方々を講師陣として招き、その理論について講義するとともに、実践的な工房など現場の見学、体験を通じて、生きた京都文化の理解を深めることを目的とする。

到達目標:

京都の文化の重層性について理解を深める。

授業方法:

講義ならびにフィールドワーク、実地見学を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 京都の歴史的・地理的ななりたち(本学教員 山田邦和)本講義の全体導入	配布資料の確認
2.	京都の歴史的・地理的ななりたち(本学教員 山田邦和)本講義の全体導入2	配布資料の確認
3.	京都の美術(上田文) 京都美術の歴史と世界1	配布資料の確認
4.	京都の美術(上田文) 京都美術の歴史と世界2	配布資料の確認
5.	染色の世界(吉岡更紗) 染色の世界と実践1	配布資料の確認
6.	染色の世界(吉岡更紗) 染色の世界と実践2	配布資料の確認
7.	幽玄の世界 能の形(能楽師・観世流シテ方 河村晴道)「能」の歴史と実演見学1	配布資料の確認
8.	幽玄の世界 能の形(能楽師・観世流シテ方 河村晴道)「能」の歴史と実演見学2	配布資料の確認
9.	王朝の香り(松栄堂社長 畑 正高)「香」の歴史と現在のありかた1	配布資料の確認
10.	王朝の香り(松栄堂社長 畑 正高)「香」の歴史と現在のありかた2	配布資料の確認
11.	京菓子の世界(山口祥二)1	配布資料の確認
12.	京菓子の世界(山口祥二)2	配布資料の確認
13.	京都の文化の観光からの多様性(本学教員 天野太郎)1	配布資料の確認
14.	京都の文化の観光からの多様性(本学教員 天野太郎)2	配布資料の確認
15.	全体の総括	配布資料の確認とこれまでの学習の取りまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内で適宜フィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席/コメントペーパー	60	出席状況の確認と、内容の理解度について、到達目標と照合させながら総合的に判断する。
	テスト	40	到達目標の達成度について総合的に評価する。

教科書:

特になし。

参考書:

特になし。必要に応じて授業内で適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業内・後での教室内にて行う。

授業テーマ:			
授業の概要:	学校教育の諸制度について、その概要を理解するとともに、それらをめぐる多様な問題について事例等を取り上げながら解説する。		
到達目標:	学校教育の諸制度について理解した上で、教育をめぐる諸課題について知りそれらに対する自身なりの意見を持つことを目指す。		
授業方法:	授業は、講義と演習スタイルで実施する。適宜、クラス内でグループわけし、グループ内でのディスカッションの時間を設定し、内容に対する理解を深める。中間時に中間レポートを課す。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	シラバスに目を通す	
	2. 教育制度の基本について(1) 公教育の基本原則I	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	3. 教育制度の基本について(2) 公教育の基本原則II	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	4. 教育制度の基本について(3) 諸外国の教育制度改革	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	5. 学校制度について(1) 学校の定義・種類	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	6. 学校制度について(2) 学校の起源・系統	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	7. 学校制度について(3) 学校はどのような場所か	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	8. 教職員の制度について(1) 教職員の種類と職務	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	9. 教職員の制度について(2) 教員の研修	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	10. 教職員の制度について(3) 教員の評価制度	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	11. 教職員の制度について(4) 教員に求められているもの	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	12. 教育改革について(1) 教育委員会制度について	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	13. 教育改革について(2) 学力について	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
	14. 教育改革について(3) いじめについて	提示された資料を読み、小レポートを作成する	
15. 総括	最終課題を作成する		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	ウェブシステムを利用したフィードバックの提供		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート・中間レポート	60	分量、論理性
	最終課題	40	論理性、説得性
教科書:			
参考書:	高妻紳二郎編著『新・教育制度論』ミネルヴァ書房、2014年。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	ウェブシステム・Eメール		

授業テーマ:

授業の概要: テキストを読んで議論することを通じて、学級における児童生徒関係のダイナミズム、学級経営の課題、学力形成への学校、家庭、地域社会の影響、近年の教育改革の特徴と課題など、学校教育の制度と経営に関する基本的事項について理解する。

到達目標: 学校教育に関する諸制度について理解するとともに、学校教育について多角的に考察するための概念を獲得することを目標とする。また、テキストについて批判的に検討する力を高める。具体的な目標は次の通り。
①学校教育の基本的な制度について説明できる。
②学校教育に関わる諸問題について、基礎的な教育学専門用語を用いて議論することができる。
③学校教育についての理解に基づいて、教師のあり方について考察することができる。

授業方法: 事前にテキストの指定範囲を読み、事前レポートを作成して授業に参加する。授業では、課題について意見を出し合い全体あるいはグループでディスカッションする。また、テキスト内容に関わる重要事項について解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	自分の学校経験を振り返っておく。
2.	学級について考える ①いじめと学校空間 『教室内(スクール)カースト』はじめに～第2章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
3.	学級について考える ②児童生徒の人間関係 『教室内(スクール)カースト』第3章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
4.	学級について考える ③教室での行動戦略 『教室内(スクール)カースト』第4章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
5.	学級について考える ④学級経営と教師の戦略 『教室内(スクール)カースト』第5章、第6章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
6.	学力について考える ①学力をどうとらえるか 『学力を育てる』第1章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
7.	学力について考える ②学力の実態 『学力を育てる』第2章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
8.	学力について考える ③学力形成と家庭の役割 『学力を育てる』第3章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
9.	学力について考える ④学力形成と学校の役割 『学力を育てる』第4章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
10.	学力について考える ⑤学力形成と地域の役割 『学力を育てる』第5章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
11.	教育改革について考える ①全国一斉学力テスト 『誰のための「教育再生」か』Ⅱ-1	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
12.	教育改革について考える ②教員評価と教員免許更新制 『誰のための「教育再生」か』Ⅱ-2	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
13.	教育改革について考える ③心の教育 『誰のための「教育再生」か』Ⅱ-5	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
14.	教育改革について考える ④教育をどう改革するか 『誰のための「教育再生」か』Ⅰ、Ⅲ	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
15.	学校教育の現代的課題	前回授業の振り返りを書くとともに、事前課題に答える。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業レポートについては、とくに「前回授業の振り返り」を中心に授業内でコメントする。期末レポートについては、マナビーを通じてコメントをフィードバックする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業レポート	50	到達目標①について、教育制度の理解度を評価する。 到達目標②について、専門用語活用の妥当性を評価する。
	期末レポート	50	到達目標①について、教育制度の理解度を評価する。 到達目標②について、専門用語活用の妥当性を評価する。 到達目標③について、考察内容の独創性と論理性を評価する。

教科書: 鈴木翔『教室内(スクール)カースト』光文社新書
志水宏吉『学力を育てる』岩波新書
藤田英典編『誰のための「教育再生」か』岩波新書

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法: メールによる nmizumot@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

「信頼される学校」とは—こども・教師・保護者・地域みんなでつくる学校を目指して

授業の概要:

急激に変化する社会の中で、教育界においても新しい時代の創造に向けた教育改革が進められている。一方、時代が変わっても教育にとって変わらぬ普遍的な理論、基本や方法もある。
そこで本授業では、学校教育の制度や学校運営に関する近年のさまざまな「改革」に着目し、いまの学校教育を取り巻く状況について理解するとともに、子どもと教師、家庭・地域が一緒になって学校をつくっていくために向き合うべき問題について検討し、「信頼される学校」とはどのような学校かについて根拠をもって自分の考えが説明できるようにする。

到達目標:

(1) 学校教育に関係する諸制度と変化する社会の中で求められる学校教育の役割について理解する。
(2) 近年の教育改革に対して関心を持ち、なぜそうした改革が求められるようになったのか、経緯を知ろうとする。
(3) こども・教師・家庭・地域が一緒になってつくる「信頼される学校」に求められることを自分なりに説明することができる。

授業方法:

毎回、教員から提供されたさまざまな事例や課題についてグループや個人で分析・考察し、考えを整理・発表することを中心的な学習活動とする。それに対する教員からの解説を交えた講義をもとに理解を深める。
なお、プランづくりにおいては授業外でのグループワークを不可欠とするため、グループのメンバーと協力し、時間を調整して活動ができるようにしておく必要がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 教育の制度と経営に関するオリエンテーション、授業の進め方に関するガイダンス。 「学校」とはどのような場所か～ブレインストーミング	本授業のシラバスを読んでくる
	2. 近年の学校改革の特徴を知る(1)教育特区とは何か～公教育のあり方を考える	前の回に配布された資料を読み、わからない点を見つけ、専門的用語を調べて確かめておく。
	3. 近年の学校改革の特徴を知る(2)制度をめぐる規制緩和と自由化がもたらす光と影	前の回で考え、議論した内容を整理し、提示された問いに對する自分の考えをまとめておく。
	4. 近年の学校改革の特徴を知る(3)なぜいま「異校種連携」が求められているのか	前の回に配布された資料を読み、問われた内容について自分なりの考えを整理しておく。
	5. 近年の学校改革の特徴を知る(4)異校種連携が問いかける学校の役割とは	前の回で考え、議論した内容を整理し、自分の通っていたころの小学校教育の実際と比べて自分なりの考えをまとめておく。
	6. 歴史的変遷に学ぶ(1)学校に求められる社会的機能	前の回に配布された資料を読み、問われた内容について自分なりの考えを整理しておく。資料中のわからないことばについてはあらかじめ調べて確かめておく。
	7. 歴史的変遷に学ぶ(2)学校教育のカリキュラムは誰がどのように決めてきたのか	前の回で考え、議論した内容を整理し、配布された追加資料を読んで、問われた点についての自分の考えをまとめておく。
	8. 「信頼される学校」のモデルプランづくり(1)制度改革の事例に学ぶモデルプランを構想する	これまでに学んできた内容の中でより関心のある内容について、根拠をもって説明できるようにしておく。
	9. 地域の学校として期待される役割(1)震災、そのとき学校は～教師に何ができるか	前の回に配布された資料を読み、関心をもった箇所について図書やインターネットで調べ学習を行っておく。
	10. 地域の学校として期待される役割(2)災害・危険から子どもとコミュニティを守る防災・安全教育	前の回に視聴した映像や配布された資料をもとに、課題について自分なりの考えを整理しておく。
	11. 安心して学ぶことのできる学校づくり(1)「みんなの学校」が教えてくれること	第8回以降、グループで授業外に集まったり連絡しあったりして準備してきた内容を整理し、持参できるようにしておく。
	12. 安心して学ぶことのできる学校づくり(2)「チーム学校」が目指される歴史的・社会的背景を探る	前の回に視聴した映像を手がかりに、指示された課題について自分なりの仮説を練っておく。他の授業で学んだ内容もとにする。
	13. 「信頼される学校」のモデルプランづくり(2)学校のマネジメントに必要な条件を吟味する	グループで考えてきた内容を整理し、自分の分担したところについて責任をもって形にすることができるよう準備しておく。
	14. 「信頼される学校」のモデルプランを発信しよう	グループで考えてきた内容について発表のリハーサルをし、聴き手に対して印象深い発表にするしかけを考えておく。
	15. 全体のまとめ	これまでの全14回で使用した資料やノートを読み返し、受講前と比べて学校教育の制度や学校運営に対する自分の見方・考え方がどう変化したかを考えておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

自分が通っていたころの学校教育は「当たり前」ではないかもしれませんが、また、自分が通っていたころの学校教育で「当たり前」に行われていたことにも、あなたが知らない制度によって守られていたことがあるかもしれません。案外知らなかったことを、視点を変えてさまざまに捉え直してみることで、これまで以上に学校教育を深く考える手がかりが見つけられます。

フィードバックの方法:

(1) 毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
(2) 授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	毎回の授業への積極的参加とリフレクションの提出	20	授業内容や問われたことに対して関連づけたりリフレクションになっているかどうか
	グループ発表の制作、発表、提出	30	授業で学んだ内容を理解した上でそれらを個性的に統合して発表内容をつくらせているか
	定期試験(論述)	50	知っておくべき基礎的な知識を相互に関連づけて理解し、それを自分なりの言葉で説明することができているか

教科書:

文部科学省 小学校教育の現状、課題、改革等に関する資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htmより閲覧・ダウンロード可
授業内で適宜配布する資料類を教科書として使用するため、ファイリングしておく

参考書:

木村泰子・島沢優子(2015)『「みんなの学校」が教えてくれたこと～学び合いと育ち合いを見届けた3290日』小学館
木村泰子・出口汪(2016)『21世紀を生きる力～不登校ゼロ、モンスターペアレンツゼロの小学校が育てる』水王舎
木村泰子(2016)『「みんなの学校」流自ら学ぶ子の育て方～大人がつも子どもに寄り添い、子どもに学ぶ』小学館
品川区立小中一貫校 日野学園(2007)『小中一貫の学校づくり』教育出版

佐藤学(2012)『学校を改革する』岩波ブックレット
尾木直樹(2012)『「学び」という希望―震災後の教育を考える』岩波ブックレット
佐貫浩ほか編(2013)『講座 教育実践と教育学の再生 3. 11と教育改革』かもがわ出版
田中耕治編(2009)『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房
朝日新聞教育取材班編(2003)『転機 of 教育』朝日文庫
秋田喜代美・第一日野グループ編(2013)『保幼小連携―育ちあうコミュニティづくりの挑戦』ぎょうせい

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡
方法:

第1回に配布する資料に教員の連絡先を配布するほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。
履修者全員とのやりとりや、グループ・受講者相互の連絡については必要に応じてマナビーを活用する。

授業テーマ:

学校教育とはなにか

授業の概要:

本講座では、学校教育における現行制度と経営に関わる内容として、①学校教育に関する社会的、及び、制度的な位置づけ。②学校経営と学級経営に関する理論と方法。③学校教育に関わる法律や今日的課題等の学校教育全般に関わる基礎的で基本的な学習内容を扱う。これにより、学校教育の人的・物的構成を基盤とした運営に関わる総合的な理解をはかる。

到達目標:

・学校教育の社会的な役割を理解し、その教育的課題を説明することができる。
・学校教育の制度とその枠組みを理解し、実践の方法を明らかにすることができる。
・学校教育での経営的な手法を学び、学校現場で起こる様々な問題に対処できる資質と能力の向上をはかる。また以上の内容から課題を選定し、レポートを作成することができる。

授業方法:

1:講義, 2:演習, 5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	教育に関わる疑問や質問等をまとめ準備する
2.	現代教育諸問題（グラフから見えてくるもの）	いじめ、不登校の問題について関心を持ち、教育現場における対策を経験的にまとめる
3.	現代教育諸問題（学校教育キーワード）	配布する現代教育の諸問題から1課題を選択しレポートを作成する
4.	学校教育制度1（日本の変遷）	前時に配布する教育史と年表を用いて、事前学習を行う
5.	学校教育制度2（日本と世界）	
6.	義務教育制度（歴史とその意義）	前時に提示する参考文献や配布資料を読んでおく
7.	学校経営	前時に配布する資料を読んでおく
8.	学級経営1（要素と課題）	学級経営の課題として学級通信レポートを作成する
9.	学級経営2（実践演習）	レポートの発表準備を行う
10.	学級経営3（場面演習）	事前に配布した教職アプローチを読み、場面指導の方法と課題を確認しておく
11.	学校の内部構造	
12.	学校教育の社会的視点と学校評価	絶対評価と相対評価について簡単に予習をする
13.	学力観と学校評価	次期指導要領のまとめを読み、今後の教育課題を説明できるようにする
14.	教育の今日的課題と総括	
15.	まとめ	全体のまとめとしてふり返る

受講者へのメッセージやアドバイス:

将来、教師として教育現場で活躍する存在になるために、学校全体の仕組みや経営の方法を学びます。予習としては、例えば、文部科学省ホームページのトレンドキーワードより情報収集を行う。レポート課題に関しては、1.教育の今日的課題に関するキーワードの説明。2. 学級通信の作成を行うことから、常に教育の今日的課題に関心を持つ。可能であるなら、ボランティア等の機会をつくることで、教育現場の実態に触れることをすすめる。

フィードバックの方法:

提出物は教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	到達目標の学習内容の理解度を客観的に評価する。
	レポート	40	到達目標のレポート課題の完成度を思考判断と表現、及び指定したフォーマットの規準に沿って評価する。
	授業への参加度	10	到達目標の学習内容に対する関心や事前の予習の状況を自己評価と他者評価を参考に評価する。

教科書:

プリント配布

参考書:

授業の中で紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後で対応、オフィスアワー、Eメール等

授業テーマ:

高度な英語運用能力の獲得

授業の概要:

本科目は、国際部が提供するセメスター語学留学制度に係る科目である。
制度の詳細等については国際課で確認すること。

到達目標:

・高いレベルの自律的な語学学習者(Autonomous Learner)となること。
・外国や日本の文化・社会等について、知的関心を広げ、知的探究心を養うこと。

授業方法:

事前学習および事後学習は講義並びに口頭発表形式。留学先英語研修機関での学習は現地の機関によるが、留学期間中には月報の提出などを求める。また、留学開始前および帰国後には留学生全員にTOEICの受験とスコアの提出を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	(1)事前学習 第1回 オリエンテーション	
2.	(1)事前学習 第2回 留学先英語研修機関スタッフ及び過去の留学生との懇談	
3.	(1)事前学習 第3回 研究・学習計画の発表及び質疑応答ならびにTOEIC受験	自分の英語能力については、現状をよく把握するとともに、それを目標達成までに高める努力を日常的に行うこと。 研究テーマについては、日本国内で事前調査を行うと同時に現地ではどのようなリソースがあるのかを把握しておくこと。
4.	(2)留学先英語研修機関での学習 第4回～第14回 留学先英語研修機関での学習および月報の提出 ※現地での授業回数は留学先機関による。	
5.	(3)事後学習 第15回 研究発表	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

事前・事後学習での発表に対する講評、および、留学中は月次報告 (Monthly Report) に国際部長がコメントを付けて返却、指導する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	事前学習における発表	20%	
	月次報告 (Monthly Report)	10%	
	事後学習における発表及びレポート	40%	
	TOEICの点数	20%	留学前の点数・留学後の点数
	事前・事後学習の出席状況	10%	

教科書:

なし。

参考書:

なし。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

国際課に問い合わせる。

0901S2

Study Abroad:English I

国際部長

授業テーマ:

高度な英語運用能力の獲得

授業の概要:

本科目は、国際部が提供するセメスター語学留学制度に係る科目である。
制度の詳細等については国際課で確認すること。

到達目標:

・高いレベルの自律的な語学学習者(Autonomous Learner)となること。

・外国や日本の文化・社会等について、知的関心を広げ、知的探究心を養うこと。

授業方法:

事前学習および事後学修は講義並びに口頭発表形式。留学先英語研修機関での学習は現地の機関によるが、留学期間中には月報の提出などを求める。また、留学開始前および帰国後には留学生全員にTOEICの受験とスコアの提出を求める。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

準備学習等の内容

1.

(1)事前学習
第1回 オリエンテーション

2.

(1)事前学習
第2回 留学先英語研修機関スタッフ及び過去の
留学生との懇談

3.

(1)事前学習
第3回 研究・学習計画の発表及び質疑応答ならび
にTOEIC受験

自分の英語能力については、現状をよく把握するとともに、
それを目標達成までに高める努力を日常的に行うこと。
研究テーマについては、日本国内で事前調査を行うと同時に、
現地ではどのようなリソースがあるのかを把握しておくこと。

4.

(2)留学先英語研修機関での学習
第4回～第14回 留学先英語研修機関での学習およ
び月報の提出
※現地での授業回数は留学先機関による。

5.

(3)事後学習
第15回 研究発表

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

事前・事後学習での発表に対する講評、および、留学中は月次報告(Monthly Report)に国際部長がコメントを付けて返却、指導する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法

割合

評価基準

事前学習における発表

20%

月次報告(Mothly Report)

10%

事後学習における発表及びレポート

40%

TOEICの点数

20%

留学前の点数・留学後の点数

事前・事後学習の出席状況

10%

教科書:

なし。

参考書:

なし。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

国際課に問い合わせる。

授業テーマ:	英文を正確に読み理解する英語運用能力の基礎ストラテジーを身につける		
授業の概要:	(1) CALL教材のSuper Englishの語彙テスト(VQ)を毎回おこなう。 (2) TOEICの Grammar とReading 問題の解き方を実践的におこなう。 (3) Dialogue 1800 の昨今のアメリカの時事問題を対話形式において学ぶ。 (4) Dialogue 1800と関連したトピックの英語圏の記事をNews Flashで速読し、要約等の課題をする。		
到達目標:	(1) 読解の基礎能力を育成する(文型・文法に関する知識の確認と向上・語彙能力の向上・難解な文章でも読み進める忍耐力の育成)。 (2) 英語読解のストラテジーを身につける(類推の方法・速読の方法・パラグラフ構造の理解と活用方法・ジャンルによる特色の活用方法・文法情報や語彙情報の活用の仕方)。 (3) 多くの文章に実際に触れ、読み進める機会を増やす(授業外で、実際に原書などの英文に触れる)。		
授業方法:	(1) CALL教室で、アナライザーを使ったVQ(語彙テスト)を行い、学生に勉強の成果を確認させる。 (2) TOEIC問題集、Dialogue 1800、News Flashについては、音読、ペア・ワーク、グループ発表等を通じて、語彙知識、文法知識、速読と読解力を向上させる。 (3) 提出物には可能な限り、評価とコメントを書いて返却する。 (4) 全体としては、教員と学生との双方向の授業をこころがける。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 1 ・ Vocabulary Level Test ・ 英語学習についてのアンケート ・ シラバスの説明 ・ CALL教室の使い方のレクチャ		90分の授業の流れの把握。予習と宿題の確認。CALL教室の使い方の学習。
	2. オリエンテーション 2 ・ CALL教材のSuper English、ALC :Net Academy 2 へのアクセス ・ 速読のストラテジー学習		CALL教室の使い方とCALL教材の使い方の学習。
	3. Vocabulary Quizの練習問題 ・ TOEIC (Drill 1G) ・ Dialogue 1800 (7. Potluck party) ・ News Flash 1		Vocabulary Quiz(語彙テスト)の予習とNews Flashの課題。
	4. VQ1 ・ TOEIC (Drill 5, 9R) ・ Dialogue 1800 (16. Credit card) ・ News Flash 2		VQの予習とNFの課題。
	5. VQ2 ・ TOEIC (Drill 2G) ・ Dialogue 1800 (27. Welcome announcement) ・ News Flash 3		VQの予習とNFの課題。
	6. VQ3 ・ TOEIC (Drill 6, 10R) ・ Dialogue 1800 (33. Making appointment) ・ News Flash 4		VQの予習とNFの課題。
	7. VQ4 ・ TOEIC (Drill 3G) ・ Dialogue 1800 (43. Getting fatter?) ・ News Flash 5		VQの予習とNFの課題。
	8. VQ5 ・ TOEIC (Drill 7, 11R) ・ Dialogue 1800 (19. Casual Friday) ・ News Flash 6		VQの予習とNFの課題。
	9. VQ6 ・ TOEIC (Drill 4G) ・ Dialogue 1800 (67. Internship program) ・ News Flash 7		VQの予習とNFの課題。
	10. VQ7 ・ TOEIC (Drill 8, 12R) ・ Dialogue 1800 (88. The jury system) ・ News Flash 8		VQの予習とNFの課題。
	11. VQ8 ・ TOEIC (Drill 13G) ・ Dialogue 1800 (95. American Spanish) ・ News Flash 8 ・ CALL教材SRA導入		VQの予習とNFの課題。
	12. VQ9 ・ TOEIC (Drill 17 21R) ・ Dialogue 1800 (98. Daycare system) ・ News Flash 9		VQの予習とNFの課題。
	13. VQ10 ・ TOEIC (Drill 14G) ・ Dialogue 1800 (30. Mental Training) ・ News Flash 10		VQの予習とNFの課題。
	14. VQ11 ・ TOEIC (Drill 18, 22R) ・ CALL教材SRA導入		VQの予習とNFの課題。 夏休みの課題: ・ 英文の原書(150頁から400頁)を読み感想文を書く。 ・ SRA(20-40話)を読む。
	15. まとめ		学年末試験の準備。
受講者へのメッセージやアドバイス:	Vocabulary Quizの予習とNews Flash の要約等の課題を手を抜くことなく取り組むこと。 CALL教材を授業時間以外にも、CALL教室や自宅で自主学習すること。		

フィードバックの方法:

Vocabulary Quizの成績はアナライザーにより確認できる。
News Flash の要約等の課題には、評価とコメントを書いて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	学年末共通試験	60%	授業中に学んだ、News FlashとTOEICからの50問と応用問題10問の合計60満点で、授業内容の理解度を評価する。
	Vocabulary Quiz	15%	毎回のVQの累計により評価する。
	News Flash 等の課題の提出	10%	NFの課題を毎回きちんと提出しているかを評価する。
	受講態度(出欠を含む)	15%	授業に積極的に参加し、能動的に学んでいるかを評価する。

教科書:

Dialogue 1800 (旺文社)
TOEICテキストについては担当者によって異なる。

参考書:

必要に応じて、プリント等を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

E-mail
オフィス・アワー

授業テーマ：英文を多量に読み理解する英語運用能力のストラテジーを身につける

授業の概要：(1) CALL教材のSuper Englishの語彙テスト(VQ)を毎回おこなう。
(2) TOEICの Grammar とReading 問題の解き方を実践的におこなう。
(3) Dialogue 1800 の昨今のアメリカの時事問題を対話形式において学ぶ。
(4) Dialogue 1800と関連したトピックの英語圏の記事をNews Flashで速読し、要約等の課題をする。
(5) CALL教材のSRAを使って、速読力と読解力を向上させる。

到達目標：(1) 多くの文章に実際に触れ、読み進める機会を増やす(授業外でも、実際に原書などの英文に触れ、英語のインプットを増やす)。
(2) 読解の基礎能力を育成する、特に、語彙能力の向上をはかる。
(3) 英語読解のストラテジーを身につける(類推の方法・速読の方法・パラグラフ構造の理解と活用方法・ジャンルによる特色の活用方法・文法情報や語彙情報の活用の仕方)。

授業方法：(1) CALL教室で、アナライザーを使ったVQ(語彙テスト)を行い、学生に勉強の成果を確認させる。
(2) TOEIC問題集、Dialogue 1800、News Flashについては、音読、ペア・ワーク、グループ発表等を通じて、語彙知識、文法知識、速読と読解力を向上させる。
(3) 提出物には可能な限り、評価とコメントを書いて返却する。
(4) 全体としては、教員と学生との双方向の授業をこころがける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	- TOEIC (Drill 15G) - Dialogue 1800 (6. Information Kiosk) - News Flash 1 - SRA	夏休みの課題の提出等。
2.	- VQ1 - TOEIC (Drill 9,23R) - Dialogue 1800 (22. Rent-a-car) - News Flash 2 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
3.	- VQ2 - TOEIC (Drill 16G) - Dialogue 1800 (33. Broadway) - News Flash 3 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
4.	- VQ3 - TOEIC (Drill 20, 24R) - Dialogue 1800 (40. Cosmetic surgery) - News Flash 4 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
5.	- VQ4 - TOEIC (Drill 25G) - Dialogue 1800 (11. Dialing 911 is no joke!) - News Flash 5 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
6.	- VQ5 - TOEIC (Drill 29, 33R) - Dialogue 1800 (50. Ozone layer) - News Flash 6 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
7.	- VQ6 - TOEIC (Drill 26G) - Dialogue 1800 (60. Husband on child-care leave) - News Flash 7 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
8.	- VQ7 - TOEIC (Drill 30, 34R) - Dialogue 1800 (76. Digital Diet) - News Flash 8 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
9.	- VQ8 - TOEIC (Drill 27G) - Dialogue 1800 (84. The UN and the US) - News Flash 9 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
10.	- VQ9 - TOEIC (Drill 31, 35R) - Dialogue 1800 (94. Glass ceiling) - News Flash 10 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
11.	- VQ10 - TOEIC (Drill 28G) - Dialogue 1800 (78. I love you!) - News Flash 11 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
12.	- VQ11 - TOEIC (Drill 32, 36R) - Dialogue 1800 (20. Evaluating instructors) - News Flash 12 - SRA	VQの予習とNFの課題等。
13.	- VQ 12 - SRA	VQの予習とNFの課題等。

E-mail
オフィス・アワー

授業テーマ:

英文文を中心とした大学生にふさわしい高度な英語運用能力の習得

授業の概要:

この授業では、20名程度の少人数クラスで英語による「読み書き」の基礎固めを行う。Reading I,Speaking I, Active Listening Iとの連携をはかりながら、ライティングの基本を訓練し、英語運用能力の向上を目指す。

到達目標:

英語のライティング能力を養い、様々な種類の効果的なパラグラフが書けるようにする。

授業方法:

演習形式で授業を行う。授業中の活動内容は以下の通りである。フリーライティング(10分)、英文読解(20分)、ボキャブラリーや文法事項等に関する補足説明、パンクチュエーション・ルールの学習、質疑応答、小テストなど(30分)、英作文の指導(30分)。なお、それぞれの活動にかかる時間は、授業の進捗や内容によって適宜変化する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 1)フリー・ライティングについての解説と実践 2)パラグラフ・ライティングとは何か 3)パンクチュエーション・ルールの学習	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
2.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
3.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
4.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
5.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
6.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
7.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
8.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
9.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
10.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
11.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
12.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
13.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
14.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

英作文の課題は添削をして返却する。試験(授業中の小テストや学期末の共通試験)に関しては、可能な範囲で、採点をして返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	英作文の課題(2回)	40%	授業で学んだライティングの知識を活用し、効果的なパラグラフが書けているかを評価する。
	学期末共通試験	30%	授業で学んだ内容の理解度により評価する。
	フリー・ライティング、小テストおよび受講態度	30%	授業に積極的に参加し、授業内容を理解しているかどうか、さらには、学んだ内容を活用し、自らの能力をさらに伸ばそうと努力しているかどうかを評価する。

教科書:

担当者によって異なる。

参考書:

開講時に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

各担当者より授業時に連絡方法を伝える。

授業テーマ:

英作文を中心とした大学生にふさわしい高度な英語運用能力の習得

授業の概要:

この授業では、「Writing Skills I」に引き続き、20名程度の少人数クラスで英語による「読み書き」の基礎固めを行う。Reading II,Speaking II,Active Listening IIとの連携をはかりながら、ライティングの基本を訓練し、英語運用能力の向上を目指す。

到達目標:

英語のライティング能力を養い、様々な種類の効果的なエッセイが書けるようにする。

授業方法:

演習形式で授業を行う。授業中の活動内容は以下の通りである。フリーライティング(10分)、英文読解(20分)、ボキャブラリーや文法事項等に関する補足説明、質疑応答、小テストなど(30分)、英作文の指導(30分)。なお、それぞれの活動にかかる時間は、授業の進捗や内容によって適宜変化する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 1)フリー・ライティングのテーマを提示 2)エッセイ・ライティングの説明	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
2.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
3.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
4.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
5.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
6.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
7.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
8.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
9.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
10.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
11.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
12.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
13.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
14.	1)フリー・ライティング 2)英文読解と英文法復習 3)英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

英作文の課題は添削をして返却する。試験(授業中の小テストや学期末の共通試験)に関しては、可能な範囲で、採点をして返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	英作文の課題(2回)	40%	授業で学んだライティングの知識を活用し、効果的なエッセイが書けているかを評価する。
	学期末共通試験	30%	授業で学んだ内容の理解度により評価する。
	フリー・ライティング、小テストおよび受講態度	30%	授業に積極的に参加し、授業内容を理解しているかどうか、さらには、学んだ内容を活用し、自らの能力をさらに伸ばそうと努力しているかどうかを評価する。

教科書:

担当者によって異なる。

参考書:

開講時に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

各担当者より授業時に連絡方法を伝える。

授業テーマ:	生きた文法や語彙表現をしっかりと身につける。																																		
授業の概要:	高校までで一通り基本を学んだ英文法であるが、実践的に英語を生み出すためにはさらに深い理解と実際の用例を憶えることが重要となる。「総合英語Ⅳ」では、名詞、代名詞、関係詞などの表現を学習し、その用法を実例に則して確認し、応用範囲を広げていく。																																		
到達目標:	(1) 英語圏で日常的に使われる生きた使用例から、文法のニュアンスを知り、使えるようになる。 (2) ダイアログ(会話)を使った単語帳を使い、生きた表現を身に付ける。また、現代国際社会のトピックに触れることで、TOEICなどの資格試験に備える。 (3) イギリス英語、アメリカ英語の両方に慣れ、新TOEICに備える。																																		
授業方法:	少人数で問題を解いていくかたちで進める予定だが、受講者人数によって授業方法を変更する場合がある。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 授業のオリエンテーション / Units 74 + 75 / Dictation</td><td>教科書の Unit 73 までを軽く見直しくる</td></tr><tr><td>2. Quiz 74 + 75、Units 76 + 77 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>3. Quiz 76 + 77、Units 78 + 79 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>4. Quiz 78 + 79、Units 80 + 81 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>5. Quiz 80 + 81、Units 82 + 83 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>6. Quiz 82 + 83、Units 84 + 85 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>7. Quiz 84 + 85、Units 86 + 87 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>8. Quiz 86 + 87、Units 88 + 89 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>9. Quiz 88 + 89、Units 90 + 91 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>10. Quiz 88 + 89、Units 92 + 93 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>11. Quiz 92 + 93、Units 94 + 95 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>12. Quiz 94 + 95、Units 96 + 97 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>13. Quiz 96 + 97、Units 98 + 99 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>14. Quiz 98 + 99、Units 100 + 101 / Dictation</td><td>前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>授業内容を振り返り、特にハンドアウトにとりあげた例文と、Dictation問題のキーワードを憶えておく。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 授業のオリエンテーション / Units 74 + 75 / Dictation	教科書の Unit 73 までを軽く見直しくる	2. Quiz 74 + 75、Units 76 + 77 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	3. Quiz 76 + 77、Units 78 + 79 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	4. Quiz 78 + 79、Units 80 + 81 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	5. Quiz 80 + 81、Units 82 + 83 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	6. Quiz 82 + 83、Units 84 + 85 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	7. Quiz 84 + 85、Units 86 + 87 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	8. Quiz 86 + 87、Units 88 + 89 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	9. Quiz 88 + 89、Units 90 + 91 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	10. Quiz 88 + 89、Units 92 + 93 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	11. Quiz 92 + 93、Units 94 + 95 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	12. Quiz 94 + 95、Units 96 + 97 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	13. Quiz 96 + 97、Units 98 + 99 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	14. Quiz 98 + 99、Units 100 + 101 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。	15. まとめ	授業内容を振り返り、特にハンドアウトにとりあげた例文と、Dictation問題のキーワードを憶えておく。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 授業のオリエンテーション / Units 74 + 75 / Dictation	教科書の Unit 73 までを軽く見直しくる																																		
2. Quiz 74 + 75、Units 76 + 77 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
3. Quiz 76 + 77、Units 78 + 79 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
4. Quiz 78 + 79、Units 80 + 81 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
5. Quiz 80 + 81、Units 82 + 83 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
6. Quiz 82 + 83、Units 84 + 85 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
7. Quiz 84 + 85、Units 86 + 87 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
8. Quiz 86 + 87、Units 88 + 89 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
9. Quiz 88 + 89、Units 90 + 91 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
10. Quiz 88 + 89、Units 92 + 93 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
11. Quiz 92 + 93、Units 94 + 95 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
12. Quiz 94 + 95、Units 96 + 97 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
13. Quiz 96 + 97、Units 98 + 99 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
14. Quiz 98 + 99、Units 100 + 101 / Dictation	前週のハンドアウトおよび対応する教科書のUnitsを復習。Dictation問題のキーワードを憶える。																																		
15. まとめ	授業内容を振り返り、特にハンドアウトにとりあげた例文と、Dictation問題のキーワードを憶えておく。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	英文法の解説を理解するだけではなく、実際にどのような語がどのように使われるかを示した用例を憶えることが、実際に英語を使えるようになる早道である。教科書の自然な例文をできるだけたくさん憶えるようにしてもらいたい。																																		
フィードバックの方法:	各回のQuizや課題については採点の上、返却する。最終試験は返却しない。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>小テスト(Quiz)</td><td>40%</td><td>前週の学習の理解度を測る。</td></tr><tr><td>最終試験</td><td>60%</td><td>ハンドアウトにとりあげた例文と、Dictation問題のキーワードから主に出題する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	小テスト(Quiz)	40%	前週の学習の理解度を測る。	最終試験	60%	ハンドアウトにとりあげた例文と、Dictation問題のキーワードから主に出題する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
小テスト(Quiz)	40%	前週の学習の理解度を測る。																																	
最終試験	60%	ハンドアウトにとりあげた例文と、Dictation問題のキーワードから主に出題する。																																	
教科書:	Raymond Murphy, English Grammar in Use (Fourth Edition for intermediate students) (Cambridge: Cambridge University Press, 2012) 秋葉利治・森秀夫著『Dialogue 1800 英単語・熟語ダイアログ1800 三訂版』旺文社、2012年																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力																																		
教員との連絡方法:	授業内で指示します。																																		

授業テーマ: Speaking in English

授業の概要: Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input.

到達目標: Speaking I aims to increase students' confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 1–10 of the Impact Issues textbook series.

授業方法: Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations. There will be four assessed speaking tasks during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	2. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	3. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series. Speaking Task 1	Preparation as directed by the teacher.
	4. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	5. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	6. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series. Speaking Task 2	Preparation as directed by the teacher.
	7. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	8. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	9. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series. Speaking Task 3	Preparation as directed by the teacher.
	10. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	11. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	12. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series. Speaking Task 4	Preparation as directed by the teacher.
	13. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	14. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	15. Conclusion	Summer homework as directed by the teacher.

受講者へのメッセージやアドバイス: Students can prepare for Speaking I classes by practicing the dialogues in the text books and for the various speaking tasks included in the course. It can be useful to record one's voice and play it back to raise awareness of pronunciation issues. Listening to podcasts and English music are also very helpful.

フィードバックの方法: Methods of feedback will vary according to the teacher, but will include individual guidance on how students can improve their speaking ability.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	In-class speaking tasks	80%	To be explained by the teacher
	Participation and preparation	20%	To be explained by the teacher

教科書: Classes A,B,C: Impact Issues 1 ISBN: 9789620199301
Classes D,E,F: Impact Issues 2 ISBN: 9789620199318

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、

教員との連絡方法: dclayton@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Speaking in English

授業の概要:

Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input.

到達目標:

Speaking II aims to build on the progress students have made in Speaking I by continuing to increase students' confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 11–20 of the Impact Issues textbook series. There will be a Speaking Contest held in December, where representative pairs from each class will perform one of their assessed speaking tasks, demonstrating good pronunciation, accuracy, content and engagement with each other/the audience.

授業方法:

Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations. There will be four assessed speaking tasks during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	2. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	3. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series. Speaking Task 1	Preparation as directed by the teacher.
	4. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	5. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	6. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series. Speaking Task 2 Deadline for selecting representative pairs: 11/7	Preparation as directed by the teacher.
	7. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	8. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	9. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series. Speaking Task 3	Preparation as directed by the teacher.
	10. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	11. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	12. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series. Speaking Task 4	Preparation as directed by the teacher.
	13. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	14. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	15. Conclusion	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students can prepare for Speaking II classes by practicing the dialogues in the text books and for the various speaking tasks included in the course. It can be useful to record one's voice and play it back to raise awareness of pronunciation issues. Listening to podcasts and English music are also very helpful.

フィードバックの方法:

Methods of feedback will vary according to the teacher, but will include individual guidance on how students can improve their speaking ability.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	In-class speaking tasks	80%	To be explained by the teacher
	Participation and preparation	20%	To be explained by the teacher

教科書:

Classes A,B,C: Impact Issues 1 ISBN: 9789620199301
Classes D,E,F: Impact Issues 2 ISBN: 9789620199318

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力.

教員との連絡方法:

dclayton@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	Speaking in English		
授業の概要:	Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input.		
到達目標:	Speaking I aims to increase students' confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 1-10 of the Impact Issues textbook series.		
授業方法:	Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations. There will be four assessed speaking tasks during the course.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.	
	2. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.	
	3. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Speaking Task 1	Preparation as directed by the teacher.	
	4. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.	
	5. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.	
	6. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Speaking Task 2	Preparation as directed by the teacher.	
	7. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.	
	8. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.	
	9. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Speaking Task 3	Preparation as directed by the teacher.	
	10. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.	
	11. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.	
	12. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Speaking Task 4	Preparation as directed by the teacher.	
	13. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.	
	14. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.	
	15. Conclusion	Preparation as directed by the teacher.	
受講者へのメッセージやアドバイス:	Students can prepare for Speaking classes by practicing the dialogues in the text books and for the various speaking tasks included in the course. It can be useful to record one's voice and play it back to raise awareness of pronunciation issues. Listening to podcasts and English music are also very helpful.		
フィードバックの方法:	Methods of feedback will vary according to the teacher, but will include individual guidance on how students can improve their speaking ability.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	In-class speaking tasks	80%	To be explained by the teacher
	Participation and preparation	20%	To be explained by the teacher
教科書:	Impact Issues 3 ISBN: 978-962-01-9932-5		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、		
教員との連絡方法:	dclayton@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	Speaking in English		
授業の概要:	Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input.		
到達目標:	Speaking I aims to increase students' confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 11-20 of the Impact Issues textbook series.		
授業方法:	Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations. There will be four assessed speaking tasks during the course.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	2.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	3.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Speaking Task 1	Preparation as directed by the teacher.
	4.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	5.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	6.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Speaking Task 2	Preparation as directed by the teacher.
	7.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	8.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	9.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Speaking Task 3	Preparation as directed by the teacher.
	10.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	11.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	12.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Speaking Task 4	Preparation as directed by the teacher.
	13.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	14.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	15.	Conclusion	Preparation as directed by the teacher.
受講者へのメッセージやアドバイス:	Students can prepare for Speaking classes by practicing the dialogues in the text books and for the various speaking tasks included in the course. It can be useful to record one's voice and play it back to raise awareness of pronunciation issues. Listening to podcasts and English music are also very helpful.		
フィードバックの方法:	Methods of feedback will vary according to the teacher, but will include individual guidance on how students can improve their speaking ability.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	In-class speaking tasks	80%	To be explained by the teacher
	Participation and preparation	20%	To be explained by the teacher
教科書:	Impact Issues 3 ISBN: 978-962-01-9932-5		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、		
教員との連絡方法:	dclayton@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

Speaking in English

授業の概要:

Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input.

到達目標:

Speaking I aims to increase students' confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 1–10 of the Impact Issues textbook series.

授業方法:

Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations. There will be four assessed speaking tasks during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	2. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	3. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series. Speaking Task 1	Preparation as directed by the teacher.
	4. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	5. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	6. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series. Speaking Task 2	Preparation as directed by the teacher.
	7. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	8. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	9. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series. Speaking Task 3	Preparation as directed by the teacher.
	10. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	11. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	12. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series. Speaking Task 4	Preparation as directed by the teacher.
	13. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	14. Materials selected from Units 1–10 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
	15. Conclusion	Summer homework as directed by the teacher.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students can prepare for Speaking I classes by practicing the dialogues in the text books and for the various speaking tasks included in the course. It can be useful to record one's voice and play it back to raise awareness of pronunciation issues. Listening to podcasts and English music are also very helpful.

フィードバックの方法:

Methods of feedback will vary according to the teacher, but will include individual guidance on how students can improve their speaking ability.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	In-class speaking tasks	80%	To be explained by the teacher
	Participation and preparation	20%	To be explained by the teacher

教科書:

Day, Shaules, Yamanaka. Impact Issues 3. Pearson Longman. ISBN: 978–962–01–9932–5

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Speaking in English

授業の概要:

Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input.

到達目標:

Speaking II aims to build on the progress students have made in Speaking I by continuing to increase students' confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 11–20 of the Impact Issues textbook series. There will be a Speaking Contest held in December, where representative pairs from each class will perform one of their assessed speaking tasks, demonstrating good pronunciation, accuracy, content and engagement with each other/the audience.

授業方法:

Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations. There will be four assessed speaking tasks during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
2.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
3.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series. Speaking Task 1	Preparation as directed by the teacher.
4.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
5.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
6.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series. Speaking Task 2 Deadline for selecting representative pairs: 11/7	Preparation as directed by the teacher.
7.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
8.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
9.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series. Speaking Task 3	Preparation as directed by the teacher.
10.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
11.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
12.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series. Speaking Task 4	Preparation as directed by the teacher.
13.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
14.	Materials selected from Units 11–20 of the Impact Issues series.	Preparation as directed by the teacher.
15.	Conclusion	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students can prepare for Speaking II classes by practicing the dialogues in the text books and for the various speaking tasks included in the course. It can be useful to record one's voice and play it back to raise awareness of pronunciation issues. Listening to podcasts and English music are also very helpful.

フィードバックの方法:

Methods of feedback will vary according to the teacher, but will include individual guidance on how students can improve their speaking ability.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	In-class speaking tasks	80%	To be explained by the teacher
	Participation and preparation	20%	To be explained by the teacher

教科書:

Day, Shaules, Yamanaka. Impact Issues 3. Pearson Longman. ISBN978–962–01–9932–5

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力.

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

英語リスニング力向上をめざす

授業の概要:

本コースでは、「英語を聴き、理解するための基礎力を養成する」を目標として、特に以下の4点を重視しながら英語のリスニング訓練を行う。
(1)種々の題材を使って、多くの英語を聴き理解できるよう演習を行う。日本語の環境で生活するものにとって英語のインプットを得る機会は限られている。クラスでは、出来るだけ多くの英語を聴き、直解型の理解力の習得を目指す。
(2)英語の母音・子音について学び、英語音声聞き取るための基盤を語レベルで強化する。さらに自然な発話状態での英語の、語と語の間の音変化の法則、句における強勢やピッチ、文全体のイントネーションの理解につなげていく。音を聞き取れるということは、発音できることにつながる。
(3)英語を聞く際、短時間に、的確に聴いた内容から情報を選び取るためには、その場の状況、前後関係などから話の要点を得ることや、内容を推測することが必要である。そのためには、豊富な背景知識や情報、文法知識などが重要となる。このようなリスニングに必要なストラテジーと知識を習得し、リスニング力の向上に努める。
(4)語彙力が不足していることがリスニングを妨げている場合が多い。1年次生のうちに出来る限り語彙を増やす。

到達目標:

(課題1)Listening Navigator for the TOEIC Test を用い、TOEIC Listening partの練習問題を行い、TOEICのテスト形式に慣れるとともに、短時間のリスニングにおけるストラテジーと情報処理能力を養成する。
(課題2)Dialogue Vocabulary 1800を用い、語彙を増やすと同時にテキストの内容理解を深める。
(課題3)Sounds Make Perfectを用い、英語の母子音の理解とその聞き取り・発音練習(語レベル)
(課題4)Tacticsを用い、英語圏の文化的背景や習慣を学びながら、様々な状況や場面での英語を聴き取り理解する能力を養成する。クイズ形式も併用する。
(課題5)映画を通し、英語を正確に聴き取る力と同時に英語圏の文化理解を深める。
(自主学習課題)授業時間外にe-learningシステムによるTOEIC練習教材ALC Net Academy 2を各自行う。

授業方法:

授業はCALL教室で行う。週一回90分の授業であるが、リスニング力の養成のためには習慣的に多くの英語のインプットを得ることが必須であり、そのためにディティーションを中心とした課題を多種用意している。リスニング力を効率よく向上させるために、受講者各々が、受身ではなく、意欲的に知識を吸収し学ぶ姿勢で授業に臨むことが要求される。なお、受講生は音声教材を録音するUSBを各自で用意すること。教材の種類、授業の進行、課題の勉強方法など、授業の詳細については、第一回目と第二回目の授業で説明する。

自主学習課題:授業時間外にe-learningシステムによるTOEIC練習教材ALC Net Academy 2を各自行うものとし、春学期終了までにListening partの30%を終了していること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. CELT、オリエンテーション1(ログイン指導を含む)	特になし
	2. オリエンテーション2、ALC(診断テスト)提出課題配布 開始	ALC自主学習 Listening partの30% 開始、提出課題開始
	3. TOEIC-(1)、Dialogue-(1)、SMP-(1)、Tactics-(1)、映画-(1)	課題提出(なか日・授業時)
	4. TOEIC-(2)、Dialogue-(2)、SMP-(2)、Tactics-(2)、映画-(2)	課題提出(なか日・授業時)
	5. TOEIC-(3)、Dialogue-(3)、SMP-(3)、Tactics-(3)、映画-(3)	課題提出(なか日・授業時)
	6. TOEIC-(4)、Dialogue-(4)、SMP-(4)、Tactics-(4)、映画-(4)	課題提出(なか日・授業時)
	7. TOEIC-(5)、Dialogue-(5)、SMP-(5)、Tactics-(5)、映画-(5)	課題提出(なか日・授業時)
	8. TOEIC-(6)、Dialogue-(6)、SMP-(6)、Tactics-(6)、映画-(6)	課題提出(なか日・授業時)
	9. TOEIC-(7)、Dialogue-(7)、SMP-(7)、Tactics-(7)、映画-(7)	課題提出(なか日・授業時)
	10. TOEIC-(8)、Dialogue-(8)、SMP-(8)、Tactics-(8)、映画-(8)	課題提出(なか日・授業時)
	11. TOEIC-(9)、Dialogue-(9)、SMP-(9)、Tactics-(9)、映画-(9)	課題提出(なか日・授業時)
	12. TOEIC-(10)、Dialogue-(10)、SMP-(10)、Tactics-(10)、映画-(10)	課題提出(なか日・授業時)
	13. TOEIC-(予備)、Dialogue-(予備)、SMP-(予備)、Tactics-(予備)、映画-(予備)	課題提出(なか日・授業時)
	14. Review Test(TOEIC、Dialogue、SMP、Tactics、映画)	特になし
	15. まとめ	ALC自主学習 Listening partの30%を終了していること

受講者へのメッセージやアドバイス:

「継続は力なり」

フィードバックの方法:

授業では、各レッスンのポイントについて説明およびリスニング課題を行う。授業で扱った音声を用いてのディクテーション課題が毎週出され、課題用紙の提出が求められる(なか日、授業時)。提出された課題用紙はチェックされ返却される。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	毎回のクイズ	10%	毎回のクイズの平均点を評価に加える。
	Review Test	50%	授業で扱った内容における理解度を評価に加える。
	課題の提出	20%	毎回4種類の課題提出を評価に加える。
	CELTテスト(2回)	20%	学期はじめと学期末に行うCELTの平均点を評価に加える。 自主学習課題のALC Net Academy 2のListening partの30%を春学期最終日まで終了していない場合は、総合成績から減点する。

教科書:

江熊聡子著、Listening Navigator for the TOEIC Test、(成美堂)
秋葉利治他、Dialogue Vocabulary 1800、(旺文社)
今井由美子他、Sounds Make Perfect、(英宝社)
Richards, J.C.、Expanding Tactics for Listening、(Oxford University Press)
映画:ハンドアウト

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、自己管理力、自己実現力、英語力向上
教員との連絡 方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ：英語リスニング力向上をめざす

授業の概要：本コースでは、「春学期に続き、英語を聴き、理解するための基礎力を養成する」を目標として、特に以下の4点を重視しながら英語のリスニング訓練を行う。春学期に開講されるActive Listening Iを履修していることが望ましい。
(1) 種々の題材を使って、多くの英語を聴き理解できるよう演習を行う。日本語の環境で生活するものにとって英語のインプットを得る機会は限られている。授業では出来るだけ多くの英語を聴き、直解型の理解力の習得を目指す。
(2) 英語の母音・子音について学び、英語音声聞き取るための基盤を語レベルで強化する。さらに自然な発話状態での英語の、語と語の間の音変化の法則、句における強勢やピッチ、文全体のイントネーションの理解につなげていく。音を聞き取れるということは、発音できることにつながる。
(3) 英語を聞く際、短時間に、的確に聴いた内容から情報を選び取るためには、その場の状況、前後関係などから話の要点を得ることや、内容を推測することが必要である。そのためには、豊富な背景知識や情報、文法知識などが重要となる。このようなリスニングに必要なストラテジーと知識を習得し、リスニング力の向上に努める。
(4) 語彙力が不足していることがリスニングを妨げている場合が多い。1年次生のうちに出来る限り語彙を増やす。

到達目標：さまざまな教材を組み合わせる効果的なリスニング演習を目指す。秋学期に取り扱う内容は以下の通りである。
(課題1) Listening Navigator for the TOEIC Testを用い、TOEIC Listening partの練習問題を行い、TOEICのテスト形式に慣れるとともに、短時間のリスニングにおけるストラテジーと情報処理能力を養成する。
(課題2) Dialogue Vocabulary 1800を用い、語彙を増やすと同時にテキストの内容理解を深める。
(課題3) Sounds Make Perfectを用い、語・句・文における強勢とピッチ、文全体のイントネーションについて理解する。
(課題4) Tacticsを用い、英語圏の文化的背景や習慣を学びながら、様々な状況や場面での英語を聴き取り理解する能力を養成する。クイズ形式も併用する。
(課題5) 映画を通し、英語を正確に聴き取る力と同時に英語圏の文化理解を深める。
(自主学習課題) 授業時間外にe-learningシステムによるTOEIC練習教材ALC Net Academy 2を各自行う。

授業方法：授業はCALL教室で行う。週一回90分の授業であるが、リスニング力の養成のためには習慣的に多くの英語のインプットを得ることが必須であり、そのためにディクテーションを中心とした課題を多種用意している。リスニング力を効率よく向上させるために、受講者各々が、受身ではなく、意欲的に知識を吸収し学ぶ姿勢で授業に臨むことが要求される。なお、受講生は音声教材を保存するUSBを各自で用意すること。教材の種類、授業の進行、課題の勉強方法など、授業の詳細については、第一回目の授業で説明する。

自主学習課題：授業時間外に e-learningシステムによる TOEIC練習教材 ALC Net Academy 2を各自行うものとし、秋学期終了までに Listening part の100%を終了していること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. CELT、オリエンテーション	ALC自主学習 Listening partの残り70% 開始
	2. TOEIC-(11)、Dialogue-(11)、SMP-(11)、Tactics-(11)、映画-(11)	課題提出(なか日・授業時)
	3. TOEIC-(12)、Dialogue-(12)、SMP-(12)、Tactics-(12)、映画-(12)	課題提出(なか日・授業時)
	4. TOEIC-(13)、Dialogue-(13)、SMP-(13)、Tactics-(13)、映画-(13)	課題提出(なか日・授業時)
	5. TOEIC-(14)、Dialogue-(14)、SMP-(14)、Tactics-(14)、映画-(14)	課題提出(なか日・授業時)
	6. TOEIC-(15)、Dialogue-(15)、SMP-(15)、Tactics-(15)、映画-(15)	課題提出(なか日・授業時)
	7. TOEIC-(16)、Dialogue-(16)、SMP-(16)、Tactics-(16)、映画-(16)	課題提出(なか日・授業時)
	8. TOEIC-(17)、Dialogue-(17)、SMP-(17)、Tactics-(17)、映画-(17)	課題提出(なか日・授業時)
	9. TOEIC-(18)、Dialogue-(18)、SMP-(18)、Tactics-(18)、映画-(18)	課題提出(なか日・授業時)
	10. TOEIC-(19)、Dialogue-(19)、SMP-(19)、Tactics-(19)、映画-(19)	課題提出(なか日・授業時)
	11. TOEIC-(20)、Dialogue-(20)、SMP-(20)、Tactics-(20)、映画-(20)	課題提出(なか日・授業時)
	12. TOEIC-(21)、Dialogue-(21)、SMP-(21)、Tactics-(21)、映画-(21)	課題提出(なか日・授業時)
	13. TOEIC-(予備)、Dialogue-(予備)、SMP-(予備)、Tactics-(予備)、映画-(予備)	課題提出(なか日・授業時)
	14. Review Test(TOEIC、SMP、Tactics、映画)	特になし
	15. まとめ	ALC自主学習 Listening partの100% 終了していること

受講者へのメッセージやアドバイス：「継続は力なり」

フィードバックの方法：授業では、各レッスンのポイントについて説明およびリスニング課題を行う。授業で扱った音声を用いてのディクテーション課題が毎週出され、課題用紙の提出が求められる(なか日、授業時)。提出された課題用紙はチェックされ返却される。

「成績評価方法」成績評価基準:	評価方法	割合	評価基準
	毎回のクイズ	10%	毎回行うクイズの平均点を評価に加える。
	Review Test	50%	授業で扱った内容における理解度を評価に加える。
	課題の提出	20%	毎回4種類の課題提出を評価に加える。
	CELTテスト(2回)とTOEIC	20%	学期はじめと学期末に行うCELTの平均点および秋学期全員受験のTOEICリスニング得点を評価に加える。
			自主学習課題のALC Net Academy 2のListening partの100%(残り70%)を秋学期最終日まで終了していない場合は、総合成績から減点する。

教科書：江熊聡子、Listening Navigator for the TOEIC Test、(成美堂)
秋葉利治他、Dialogue Vocabulary 1800、(旺文社)
今井由美子他、Sounds Make Perfect、(英宝社)
Richards, J. C., Expanding Tactics for Listening、(Oxford University Press)
映画：ハンドアウト

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、自己管理力、自己実現力、英語力向上
教員との連絡 方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ:

Academic Listening in English

授業の概要:

A variety of topics and listening exercises will be included in the course. There will be a focus on developing vocabulary, note-taking skills and awareness of phonological changes in connected speech.

到達目標:

Through the course, students will listen to a variety of texts including lectures, radio shows, interviews, and news reports about a range of academic subjects, including history, communication and psychology.
Through intensive listening activities, as well as discussion about these subjects, students' ability to understand spoken English will progress beyond the general conversation level in preparation for future academic work. Each student will carry out extensive listening outside of class, and develop their academic note-taking skills.

授業方法:

Class time will focus on:
students summarizing their notes taken from another class,
Completing listening and vocabulary exercises from the textbook (Units 1-6)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction	Note taking.
	Note-taking #1	
	2. Note-taking #2	Note taking.
	International Relations 1	
	3. Note-taking #3	Note taking.
	International Relations 2	
	4. International Relations 3	Note taking.
	5. Environment 1	Note taking.
	6. Environment 2	Note taking.
	7. Environment 3	Note taking.
	8. Space 1	Note taking.
	9. Space 2	Note taking.
	10. Space 3	Note taking.
	11. Anthropology 1	Note taking.
	12. Anthropology 2	Note taking.
	13. Anthropology 3	Note taking.
	14. History 1	Note taking.
	15. History 2	Note taking.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are asked to listen to the BBC, Ted talks, YouTube and podcasts to develop their listening skills.

フィードバックの方法:

Feedback will be given on the quality and consistency of note-taking. Regular class quizzes will also show students their progress.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	In-class quizzes (3)	60%	To be explained in class
	Listening journal evaluation	40%	To be explained in class

教科書:

Graham-Marr, Academic Listening and Speaking 2, ABAX, ISBN: 978-1-896942-88-9

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Academic Listening in English

授業の概要:

A variety of topics and listening exercises will be included in the course. There will be a focus on developing vocabulary, note-taking skills and awareness of phonological changes in connected speech.

到達目標:

Through the course, students will listen to a variety of texts including lectures, radio shows, interviews, and news reports about a range of academic subjects, including history, communication and psychology.
Through intensive listening activities, as well as discussion about these subjects, students' ability to understand spoken English will progress beyond the general conversation level in preparation for future academic work. Each student will carry out extensive listening outside of class, and develop their academic note-taking skills.

授業方法:

Class time will focus on:
students summarizing their notes taken from another class,
Completing listening and vocabulary exercises from the textbook (Units 1-6)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction Note-taking review Marine Science 1	Note taking.
	2. Marine Science 2	Note taking.
	3. Marine Science 3	Note taking.
	4. Education 1	Note taking.
	5. Education 2	Note taking.
	6. Education 3	Note taking.
	7. Psychology 1	Note taking.
	8. Psychology 2	Note taking.
	9. Psychology 3	Note taking.
	10. Economics 1	Note taking.
	11. Economics 2	Note taking.
	12. Economics 3	Note taking.
	13. Engineering 1	Note taking.
	14. Engineering 2	Note taking.
	15. Engineering 3	None.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are asked to listen to the BBC, Ted talks, YouTube and podcasts to develop their listening skills.

フィードバックの方法:

Feedback will be given on the quality and consistency of note-taking. Regular class quizzes will also show students their progress.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	In-class quizzes (3)	60%	To be explained in class
	Listening journal evaluation	40%	To be explained in class

教科書:

Graham-Marr, Academic Listening and Speaking 2, ABAX, ISBN: 978-1-896942-88-9

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

This is a listening course aimed at improving your listening skills and overall communicative ability.

授業の概要:

To improve communication skills for various purposes, listening for academic purposes, and improving English listening skills in general.

到達目標:

During the semester, students will listen to interviews, lectures, and radio programs on a range of academic and challenging topics. The goal is to expand the students' listening ability beyond that required to understand general conversational English, creating a strong foundation for further academic study and improving overall communication ability. Each student will do a presentation.

授業方法:

Students will learn a number of different strategies including reflecting, activating background knowledge, predicting, listening for main ideas, and working out unknown vocabulary in order to become better listeners. Each unit of the textbook will usually take two weeks to study, with two long listening exercises covering different aspects of the same topic.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introductions and Orientation	Listening Exercises
	2. Unit 1 Sign Language	Listening Exercises
	3. If I had a million dollars	Listening Exercises
	4. Unit 2 Literacy and Reading	Listening Exercises
	5. The Amazing George Best	Listening Exercises
	6. Unit 3 Plants and Bees	Listening Exercises
	7. Emerging China	Listening Exercises
	8. Unit 4 The Brain and Memory	Listening Exercises
	9. Mid term Presentation	Listening Exercises
	10. Unit 5 Anthropology	Listening Exercises
	11. How to summarize an article from the newspaper	Listening Exercises
	12. Quiz	Listening Exercises
	13. Unit 6 Money	Listening Exercises
	14. Final Presentation	Listening Exercises
	15. Course Review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

The students should review what we did in class and do the assigned homework.

フィードバックの方法:

Students will be given results after tests. If necessary individual students will be given advice or assistance during class on an ongoing basis.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class participation	50%	Observation during class
	Quiz	20%	Tests are graded at the level the textbook
	End of term presentation	30%	Observation during class

教科書:

Blackwell, Naber
Open Forum 1: Academic Listening and Speaking
OXFORD
(Student Book 3) ISBN 9780194361132

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking ability, creativity, communication ability, compassion ability, self-management ability, self-fulfillment ability

教員との連絡方法:

davidwaddell99@yahoo.com

授業テーマ:

This a listening focused course aimed at improving your listening skills and overall communicative ability.

授業の概要:

To improve communication skills for various purposes, listening for academic purposes, and improving English listening skills in general.

到達目標:

During the semester, students will listen to interviews, lectures, and radio programs on a range of academic and challenging topics. The goal is to expand the students' listening ability beyond that required to understand general conversational English, creating a strong foundation for further academic study and improving overall communication ability. Each student will do a presentation.

授業方法:

Students will learn a number of different strategies including reflecting, activating background knowledge, predicting, listening for main ideas, and working out unknown vocabulary in order to become better listeners. Each unit of the textbook will usually take two weeks to study, with two long listening exercises covering different aspects of the same topic.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. What we eat	Listening exercises
	2. Unit 7 Fitness and Stress	Listening exercises
	3. Fast Food Part 1	Listening exercises
	4. Unit 8 Community and Social Involvement	Listening exercises
	5. Fast Food Part 2	Listening exercises
	6. Mid term presentation	Listening exercises
	7. Unit 9 Water and Weather	Listening exercises
	8. Global Warming	Listening exercises
	9. Unit 10 Explorers and Ellis Island	Listening exercises
	10. Helping the Environment	Listening exercises
	11. Quiz	Listening exercises
	12. Unit 11 Math and Computers	Listening exercises
	13. Starbucks	Listening exercises
	14. End of term presentation	Listening exercises
	15. Course Review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

The students should review what we did in class and do the assigned homework.

フィードバックの方法:

Students will be given results after tests. If necessary individual students will be given advice or assistance during class on an ongoing basis.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class participation	50%	Observation during class
	Quiz	20%	Tests are graded at the level the textbook
	End of term presentation	30%	Observation during class

教科書:

Blackwell, Naber
Open Forum 1: Academic Listening and Speaking
OXFORD
(Student Book 3) ISBN 9780194361132

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking ability, creativity, communication ability, compassion ability, self-management ability, self-fulfillment ability

教員との連絡方法:

davidwaddell99@yahoo.com

授業テーマ:

英語・英文学科の学びに必要な高度なコンピュータリタラシーを身につけよう！

授業の概要:

英語・英文学科における学び・研究には、コンピューターリテラシー(Computer Literacy, コンピュータ利用能力)は不可欠です。このコースでは英語・英文学科の4年間で必要なコンピューターの発展的運用技術の獲得を目標とします。したがって、一般的なコンピューター運用能力の獲得はこのコースの目的ではありません。あくまでも、「英語英文学科の学生のため」の「英語英文学科における学習・研究」に必要なコンピューター運用能力の養成が目的です。

到達目標:

以下の5点を主到達目標とします。

(1) 英文入力の基本となるタッチタイピングを学ぶ(基礎の基礎)

(2) 英文文書作成の秘訣を学ぶ(1年次からのあらゆる授業でレポートの作成が求められる)

(3) 英語情報検索の基礎を学ぶ(1年次からのあらゆる授業で必要)

(4) 英語口頭発表(2年次からのゼミで必要)の基礎を学ぶ

(5) 最終的には、4年次の卒業(ゼミ)論文の作成が自力のできる基礎を養う

尚、Writing Skills I, II, Performance Skills I, II の授業と連携し、英文のスタイル(Double Spacing, Indentation, APA/MLA Style)についての確認もします。

授業方法:

(1) 毎時間始め、Touch Typing 練習を10-15分各自行います。

(2) 情報処理教室で演習形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション・学内の情報環境に慣れる	授業へ期待することを考えておく
2. 英文文書作成方法-1	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
3. 英文文書作成方法-2	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
4. 英文文書作成方法-3	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
5. 英文文書作成方法-4	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
6. 英文文書作成方法-5	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
7. 英文文書作成方法-6	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
8. 英文文書作成方法-7	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
9. 英語データーの整理・分析・活用演習-1	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
10. 英語データーの整理・分析・活用演習-2	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
11. 英語データーの整理・分析・活用演習-3	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
12. 英語プレゼンテーション演習-1	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
13. 英語プレゼンテーション演習-2	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
14. 英語プレゼンテーション演習-3	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
15. 授業の振り返り	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)

受講者へのメッセージやアドバイス:

コンピュータはスキルですので練習をすれば誰でもマスターすることができます。Practice makes perfect!

高等学校「情報科」などの授業を通じて、ワードによる文書作成やエクセルに十分慣れ親しんでいる学生諸姉は「英語情報処理演習Ⅱ」を受講して下さい。

フィードバックの方法:

課題は基本的にまなばに提出、まなば上でフィードバックをおこないます。まなばを利用しない場合には提出された課題に評価をつけてフィードバックします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	60	到達目標(1)～(5)に関する知識とスキルにより評価する
スーパー英語の達成度	30	半期間で15000マイルを達成しているかどうかにより評価する
英文タイピング能力	10	但し、タイピングテスト(5回程度随時実施)で20 w.p.m.(目標は30 w.p.m.)以上のスピードを達成しない場合は単位が認定されま

教科書:

統一ハンドアウトを配布します

参考書:

授業中に提示します

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡 方法:	オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

授業テーマ:

英語・英文学科の学びに必要な質の高いコンピュータリタラシーを身につけよう！

授業の概要:

英語・英文学科における学び・研究には、コンピューターリテラシー（Computer Literacy, コンピュータ利用能力）は不可欠です。このコースでは英語・英文学科の4年間で必要なコンピューターの発展的運用技術の獲得を目標とします。したがって、一般的なコンピューター運用能力の獲得はこのコースの目的ではありません。あくまでも、「英語英文学科の学生のため」の「英語英文学科における学習・研究」に必要なコンピューター運用能力の養成が目的です。

到達目標:

以下の6点を主到達目標とします。
(1) 英文入力の基本となるタッチタイピングを学ぶ(基礎の基礎)
(2) 英文文書作成の秘訣を学ぶ(1年次からのあらゆる授業でレポートの作成が求められる)
(3) 英語情報検索の基礎を学ぶ(1年次からのあらゆる授業で必要)
(4) 英語口頭発表(2年次からのゼミで必要)の基礎を学ぶ
(5) 最終的には、4年次の卒業(ゼミ)論文の作成が自力のできる基礎を養う
(6) 英文ホームページを作成して自分の考えを全世界に発信できる能力の基礎を養う
尚、Writing Skills I, II, Performance Skills I, II の授業と連携し、英文のスタイル(Double Spacing, Indentation, APA/MLA Style)についての確認もします。

授業方法:

(1) 毎時間始め、Touch Typing練習を10-15分各自行います。
(2) 情報処理教室で演習形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション・学内の情報環境に慣れる	授業へ期待することを考えておく
	2. 英文文書作成方法-1	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	3. 英文文書作成方法-2	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	4. 英文文書作成方法-3	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	5. 英語データーの整理・分析・活用演習-1	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	6. 英語データーの整理・分析・活用演習-2	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	7. 英語プレゼンテーション演習-1	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	8. 英語プレゼンテーション演習-2	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	9. 英語ホームページ作成演習-1	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	10. 英語ホームページ作成演習-2	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	11. 英語ホームページ作成演習-3	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	12. 英語ホームページ作成演習-4	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	13. 英語ホームページ作成演習-5	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	14. 英語ホームページ作成演習-6	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)
	15. 授業の振り返り	該当のハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習(毎日15分間) スーパー英語で学習(毎日30分間)

受講者へのメッセージやアドバイス:

本コースは、高等学校「情報科」などの授業を通じて、ワードによる文書作成やエクセルに十分慣れ親しんでいる学生諸姉を対象とします。そうでない場合には、「英語情報処理演習I」を選択してください。

フィードバックの方法:

課題は基本的にまなばに提出、まなば上でフィードバックをおこないます。まなばを利用しない場合には提出された課題に評価をつけてフィードバックします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題	60	到達目標(1)～(6)に関する知識とスキルにより評価する
	スーパー英語の達成度	30	半期間で15000マイルを達成しているかどうかにより評価する
	英文タイピング能力	10	但し、タイピングテスト(5回程度随時実施)で20 w.p.m.(目標は30 w.p.m.)以上のスピードを達成しない場合は単位が認定され

教科書:

統一ハンドアウトを配布します

参考書:

授業中に提示します

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡 方法:	オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

授業テーマ:	英文を正確に読み理解する能力・ストラテジーを身につける	
授業の概要:	CALL教室を利用し、計画的な授業外学習(ALC Net Academy 2)を取り入れながら、授業内外でReading力を強化する。Active Listening IIIと共通テキスト(Dialogue Vocabulary 1800)を使用して、語彙を増やし、全般的な英語運用能力の向上を目指す。	
到達目標:	・英語読解力の強化(文型・文法に関する知識/語彙力/難解な文章でも読み進める粘り強さ) ・英語読解のストラテジー強化(類推の方法/速読の方法/パラグラフ構造の理解と活用方法/文章のジャンルに適した読み方/文法情報や語彙情報の活用方法) ・授業内外で多くの英文に触れ、読み進める、学習意欲の強化	
授業方法:	毎回の授業での学習内容は、基本的に以下の通り。 Vocabulary Quiz(15分)/初見のNews Flash読解とクイズ(40分)/ALC Net Academy 2(35分)	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ・オリエンテーション(シラバス) ・学習スタイルについてのアンケート	初回授業までにテキストを購入しておく。
	2. ・オリエンテーション(ALC Net Academy 2) ・News Flash学習 ・Dialogue 1800学習 ・ALC Net Academy 2学習	初回授業の配布物を読み直し、シラバス内容を理解しておく。
	3. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習
	4. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	5. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	6. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	7. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	8. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	9. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	10. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	11. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	12. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	13. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	14. ・Vocabulary Quiz ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
	15. まとめ	春学期授業内容の復習
受講者へのメッセージやアドバイス:	・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、授業外でも意欲的積極的に学習し、確実に実力アップしてもらいたい。 ・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。 ・Vocabulary Quizは満点を取れるように、十分な準備学習をする。 ・ALC Net Academy 2は、毎週2 Unitsのペースで計画を立て、丁寧かつ着実に学習する。 ・News Flashのクイズ結果や、ALC Net Academy 2の学習状況が良好な場合には、加点。	
フィードバックの方法:	・Vocabulary Quiz(アナライザー使用)の正答は、Quiz解答直後に1問ずつPC画面に表示される。 ・ALC Net Academy 2の学習は、各受講生に毎週Answer Sheetを提出してもらい、教員はそれをチェックして、適宜コメントを記入し、次週の授業で返却する。 ・News Flashのクイズは、各受講生に解答(授業中にPC入力し、プリントアウトしたもの)を提出してもらい、教員はそれをチェックして、適宜コメントを記入し、次週の授業で返却する。	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Vocabulary Quiz	20%	Vocabulary Quiz結果により評価。
	授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、News Flashクイズ提出や、ALC Net Academy 2の学習(データ、Answer Sheet提出)にきちんと取り組んだかを評価。
	学期末試験	60%	News Flashで学んだ内容の理解度により評価。
教科書:	秋葉利治、森秀夫(著)、Dialogue Vocabulary 1800(旺文社)		
参考書:	適宜指示する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	Emailやオフィスアワーを利用。		

授業テーマ:

自律的な学習者としての適切な読解ストラテジーを身につける

授業の概要:

CALL教室を利用し、計画的な授業外学習 (ALC Net Academy 2)を取り入れながら、授業内外でReading力を強化する。
Active Listening IVと共通テキスト(Dialogue Vocabulary 1800)を使用して、語彙を増やし、全般的な英語運用能力の向上を目指す。

到達目標:

・英語読解力の強化(文型・文法に関する知識/語彙力/難解な文章でも読み進める粘り強さ)
・英語読解のストラテジー強化
(類推の方法/速読の方法/パラグラフ構造の理解と活用方法/文章のジャンルに適した読み方/文法情報や語彙情報の活用方法)
・授業内外で多くの英文に触れ、読み進める、学習意欲の強化

授業方法:

毎回の授業での学習内容は、基本的に以下の通り。
Vocabulary Quiz(15分)/初見のNews Flash読解とクイズ(40分)/補助テキストの読解とクイズ(35分)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ・オリエンテーション(シラバス) ・学習スタイルについてのアンケート	・初回授業までにテキストを購入しておく。
	2. ・Vocabulary Quiz ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・初回授業の配布物を読み直し、シラバス内容を理解しておく。 ・Vocabulary Quizの準備 ・補助テキストの予習
	3. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	4. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	5. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	6. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	7. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	8. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	9. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	10. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	11. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	12. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	13. ・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
	14. ・Vocabulary Quiz ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業の復習
	15. まとめ	秋学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、授業外でも意欲的積極的に学習し、確実に実力アップしてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・Vocabulary Quizは満点を取れるように、十分な準備学習をする。
・ALC Net Academy 2は、毎週2 Unitsのペースで計画を立て、丁寧かつ着実に学習する。
・News Flashのクイズ結果や、ALC Net Academy 2の学習状況、11月実施のTOEICスコアが良好な場合には、加点。

フィードバックの方法:

・Vocabulary Quiz(アナライザー使用)の正答は、Quiz解答直後に1問ずつPC画面に表示される。
・ALC Net Academy 2の学習は、各受講生に毎週Answer Sheetを提出してもらい。教員はそれをチェックして、適宜コメントを記入し、次週の授業で返却する。
・News Flashや補助テキストのクイズは、各受講生に解答(授業中にPC入力し、プリントアウトしたもの)を提出してもらい。教員はそれをチェックして、適宜コメントを記入し、次週の授業で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Vocabulary Quiz	20%	Vocabulary Quiz結果により評価。
	授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、News Flashや補助テキストのクイズ提出や、ALC Net Academy 2の学習(データ、Answer Sheet提出)にきちんと取り組んだかを評価。
	学期末試験	60%	News Flashと補助テキストで学んだ内容の理解度により評価。
教科書:	秋葉利治、森秀夫(著)、Dialogue Vocabulary 1800(旺文社) 補助テキストについては未定。		
参考書:	適宜指示する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	Emailやオフィスアワーを利用。		

授業テーマ:	Developing Essay Writing Skills
授業の概要:	Teaching methods will vary according to the teacher and class. All teachers, however, should ensure regular reading and comprehension of a chosen text and regularly assign tasks in response to the reading that build a variety of particular writing skills. In reading and responding to the assigned text(s) students will develop their academic literacy by completing a variety of writing tasks such as summarizing, paraphrasing, and writing analytic compositions. Research skills such as identifying reliable sources, avoiding plagiarism and referencing effectively will be developed. In a process writing approach, students will also learn the importance of multi-drafting and proofing their compositions, thereby building awareness of common errors and good and bad practices
到達目標:	By the end of the course students should be able to read more analytically and express their understanding in well-organised, well-supported, coherent compositions. Acquire rudimentary knowledge of APA formatting.
授業方法:	Students will read an assigned text and complete a variety of academic writing tasks in response to it. The instructor will provide guidance on the requirements of each task and provide extensive feedback to student work.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction: materials, assignments and goals. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	2. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	3. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	4. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	5. Submit first essay In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	6. Feedback on first essay / In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	7. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	8. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	9. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	10. Submit second essay In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	11. Feedback on second essay / In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	12. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	13. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	14. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	15. Submit final essay / Class review	

受講者へのメッセージやアドバイス:	
フィードバックの方法:	Instructors are asked to provide extensive feedback to students in response to their writing. Individual compositions should receive individual feedback, while general concerns should be addressed before the whole class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Regular homework tasks	20	Completion of assigned tasks
	Quizzes	20	Will vary.
	Graded compositions	60	1. Demonstrating sufficient grasp of the material covered in the course. 2. Fulfilling criteria given by the instructor for each task.

教科書:	Textbooks vary according to instructor but are subject to the discretion of the co-ordinator.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:	Will vary according to the instructor

授業テーマ:	Developing Essay Writing Skills
授業の概要:	Teaching methods will vary according to the teacher and class. All teachers, however, should ensure regular reading and comprehension of a chosen text and regularly assign tasks in response to the reading that build a variety of particular writing skills. In reading and responding to the assigned text(s) students will develop their academic literacy by completing a variety of writing tasks such as summarizing, paraphrasing, and writing analytic compositions. Research skills such as identifying reliable sources, avoiding plagiarism and referencing effectively will be developed. In a process writing approach, students will also learn the importance of multi-drafting and proofing their compositions, thereby building awareness of common errors and good and bad practices.
到達目標:	By the end of the course students should be able to read more analytically and express their understanding in well-organised, well-supported, coherent compositions. They should also acquire rudimentary knowledge of APA formatting.
授業方法:	Students will read an assigned text and complete a variety of academic writing tasks in response to it. The instructor will provide guidance on the requirements of each task and provide extensive feedback to student work.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to new semester: materials, assignments and goals. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	2. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	3. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	4. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	5. Submit first essay In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	6. Feedback In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	7. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	8. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	9. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	10. Submit second essay In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	11. Feedback In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	12. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	13. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	14. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Extended writing task
	15. Class overview	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: Instructors are asked to provide extensive feedback to students in response to their writing. Individual compositions should receive individual feedback, while general concerns should be addressed before the whole class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Regular homework tasks	20	Completion of assigned tasks
	Quizzes	20	Will vary
	Graded compositions	60	1. Demonstrating sufficient grasp of the material covered in the course. 2. Fulfilling criteria given by the instructor for each task.

教科書: Textbooks vary according to instructor but are subject to the discretion of the co-ordinator.

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法: Will vary according to the instructor

授業テーマ:	Developing Essay Writing Skills		
授業の概要:	The goals of Writing Strategies I are to prepare students for the academic work they will be doing in upper division courses for the English department, to strengthen their ability to think for themselves and to express themselves in cogent written English. The course is intended to improve both reading and writing skills by having students respond in writing to assigned reading texts. This semester students will complete a number of written assignments about Oliver Twist by Charles Dickens. In the process they will learn about how to structure an essay, create a thesis and support it with citations in APA format.		
到達目標:	By the end of the course students should be able to read more analytically and express their understanding in well-organised, well-supported, coherent compositions. They will also acquire a fundamental knowledge of APA formatting and use of citations.		
授業方法:	Students will read an assigned text and complete a variety of academic writing tasks in response to it. The instructor will provide guidance on the requirements of each task and provide extensive feedback to student work.		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Introduction: materials, assignments and goals. Common writing problems. The five paragraph essay: a short example. 2. Analysis of text. Topic Sentence and Support. Transitions and signposting 3. Analysis of text. Hand in short essay Citing the text APA style 4. Analysis of text. Feedback on short essay Citing the text APA style 5. Analysis of text. Paraphrasing 6. Hand in assignment Analysis of text. Further APA formatting 7. Analysis of text. Feedback Coherence and relevancy 8. Analysis of text. Introductory Paragraphs and Thesis Statements 9. Analysis of text. Incorporating Details and Examples. 10. Analysis of text. Drafting and Proofing. 11. Analysis of text. Major themes of the novel 12. Paraphrasing practice. Thesis and outline of final paper 13. First draft due 14. Final draft due 15. Hand in final task	Create outline for short 5 paragraph essay on hometown. Read chapter 1 of Oliver Twist Short 5 paragraph essay on hometown. Read chapter 2 of Oliver Twist Read chapter 3 of Oliver Twist Complete related written assignment Profile of Fagin: writing task Read chapter 4 of Oliver Twist Complete related written assignment Profile of Fagin: writing task Read chapter 5 of Oliver Twist Complete related written assignment Read chapter 6 of Oliver Twist Complete related written assignment Read chapter 7 of Oliver Twist Complete related written assignment Read chapter 8 of Oliver Twist Complete related written assignment Read chapter 9 of Oliver Twist Complete related written assignment Read chapter 10 of Oliver Twist Complete related written assignment Preparing thesis and outline of final paper Complete first draft Revise first draft Creative writing task	
受講者への メッセージや アドバイス:			
フィードバックの 方法:	All written work will receive individual feedback. General concerns will be addressed before the class		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Homework	20	Tasks completed
	Assignments	80	Compositions fulfil criteria given for tasks and demonstrate knowledge of material covered in class.
教科書:	Oliver Twist (Oxford Bookworms Library Level 6 – Oxford University Press)		
参考書:			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、創造力、自己管理能力		
教員との連絡 方法:	tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

Developing academic and creative writing skills

授業の概要:

The goals of Writing Strategies II are congruent with those of Writing Strategies I. Throughout the semester students will have to complete and hand in several short writing assignments. However, in this semester students' studies should culminate in a research assignment of 1200-1500 words. In this final essay students should demonstrate competency at sustaining complex and detailed support of their analysis and also demonstrate competence in incorporating secondary sources, creating a Works Cited bibliographic reference and so forth. We will read and write about George Orwell's Animal Farm.

到達目標:

Increase competence in key academic writing practices, such as drafting outlines, revising, citing sources and paraphrasing.

授業方法:

Classwork will proceed in a similar fashion to Writing Strategies I with responses to required reading and structured practice of essay-writing skills.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Review of last semester Introduction to George Orwell	Read Chapter 1 and 2 of Animal Farm
2.	Analysis of text. In-class writing activity. Academic writing guidance.	Read chapter 3 and 4
3.	Analysis of text. In-class writing activity. Academic writing guidance.	Read chapter 5
4.	Analysis of text. In-class writing activity. Academic writing guidance.	Read chapter 6
5.	Analysis of text. In-class writing activity. Academic writing guidance.	Read chapter 7 and 8
6.	Analysis of text. In-class writing activity. Academic writing guidance.	Read chapter 9
7.	Analysis of text. In-class writing activity. Academic writing guidance.	Read chapter 10
8.	Analysis of text. In-class writing activity. Academic writing guidance.	Research historical parallels to the action of Animal Farm
9.	Historical parallels to the action of Animal Farm	Prepare outline of final essay
10.	Workshop on final essay	Complete first draft
11.	First draft due Autobiographical writing I	Revise first draft
12.	Second draft due Autobiographical writing II Similes, Metaphors, Figurative language in description	Autobiographical reading assignment
13.	Analysis of text. Similes, Metaphors, Figurative language in description	Autobiographical writing task
14.	Feedback on final essay Workshop on autobiographical writing	Complete autobiographical writing task
15.	Hand in final task	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

All submitted work will receive personal feedback. General concerns will be addressed before the class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Homework	20	Completing assigned work
	Assignments	80	Fulfilling criteria required. Demonstrating knowledge of material covered in class.

教科書:

Animal Farm: The Illustrated Edition (Penguin Modern Classics)
George Orwell

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Academic Writing in English

授業の概要:

The course will include writing a variety of essay types.

到達目標:

The goals of Writing Strategies I are to prepare students for the academic work they will be doing in upper division courses for the English department, to strengthen their ability to think for themselves and to express themselves in cogent written English. The course is intended to improve both reading and writing skills by having students respond in writing to assigned reading texts. The writing will have a strong focus on academic essays and research papers.

授業方法:

In reading and responding to the assigned text(s) students will develop their academic literacy by completing a variety of writing tasks such as summarizing, paraphrasing, and writing analytic compositions. Research skills such as identifying reliable sources, avoiding plagiarism and referencing effectively will be developed. In a process writing approach, students will also learn the importance of multi-drafting and proofing their compositions, thereby building awareness of common errors and good and bad practices.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction: materials, organization, assignments and goals. Expository essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	2. Expository essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	3. Expository essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	4. Classification essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	5. Classification essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	6. Classification essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	7. Process essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	8. Process essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	9. Process essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	10. Cause/effect essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	11. Cause/effect essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	12. Cause/effect essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	13. Extended definition 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	14. Extended definition 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	15. Conclusion	None.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students' first drafts will be returned with areas to improve marked according to a correction code. Students' final drafts will be returned with a grade based on the marking rubric provided to students.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Coursework	100	Essays will be graded according to a rubric that will be supplied to students at the beginning of the course.

教科書:

Oshima, A., Hogue, A. Longman Academic Writing Series 5: Essays to Research Papers (ISBN: 978-0-13-291274-7).

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	Academic Writing in English
授業の概要:	The course will include writing a variety of essay types, leading to writing a research paper.
到達目標:	The goals of Writing Strategies II are congruent with those of Writing Strategies I. There will be more emphasis given to students' independent research skills, and the course will culminate in students producing a 1,000–1,200 word research report.
授業方法:	In reading and responding to the assigned text(s) students will develop their academic literacy by completing a variety of writing tasks such as summarizing, paraphrasing, and writing analytic compositions. Research skills such as identifying reliable sources, avoiding plagiarism and referencing effectively will be developed. In a process writing approach, students will also learn the importance of multi-drafting and proofing their compositions, thereby building awareness of common errors and good and bad practices.

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction: materials, assignments and goals. Review of issues encountered in previous semester's final essay. Problem/solution essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	2. Problem/solution essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	3. Problem/solution essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	4. Summary/response essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	5. Summary/response essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	6. Summary/response essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	7. Argumentative essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	8. Argumentative essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	9. Argumentative essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	10. Research project 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	11. Research project 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	12. Research project 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	13. Research project 4.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	14. Research project 5.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
	15. Conclusion	None

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:	Students' first drafts will be returned with areas to improve marked according to a correction code. Students' final drafts will be returned with a grade based on the marking rubric provided to students.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Coursework	100	Essays will be graded according to a rubric that will be supplied to students at the beginning of the course.

教科書:	Longman Academic Writing Series 5: Essays to Research Papers (ISBN: 978-0-13-291274-7).

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力.

教員との連絡 方法:	dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	English communication skills, with emphasis on public speaking
授業の概要:	Public Speaking I continues in the mode of the first year Speaking I and II courses, with the aim to continue to build students' confidence in speaking English in different contexts and situations, on an array of different topics.
到達目標:	Students aim to increase their English fluency through group work, individual and group presentations, in order to prepare for public speaking activities in upper division courses their junior and senior years.
授業方法:	Teachers will be creative in realising the course goals through dialogue practice, pair and group work, and oral presentations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to course	Class assignment
	2. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	3. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	4. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	5. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	6. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	7. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	8. Midterm assignment (may vary depending on instructor and class)	Class assignment
	9. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	10. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	11. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	12. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	13. Textbook work/supplementary materials	Class assignment
	14. Final Assignments (may vary depending on instructor and class)	Final assignment preparation
	15. Final Assignments (may vary depending on instructor and class)	Final assignment preparation

受講者へのメッセージやアドバイス: Students are encouraged and expected to use as much English in class as possible with the class instructor and fellow classmates.

フィードバックの方法: Will be explained by the instructor in class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class preparation and participation	40%	Will be assessed by the instructor
	Graded assignments	60%	Will be assessed by the instructor

教科書: Interchange 2,4th Edition by Jack C. Richards, Cambridge, ISBN:978-1-1076-8469-2

参考書: A comprehensive English-Japanese Japanese-English dictionary

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Contact information will be given by the instructor in class.

授業テーマ:	English communication skills with emphasis on public speaking
授業の概要:	The content of Public Speaking II are congruent with those of Public Speaking I, with the continuing use of the Interchange 2 textbook.
到達目標:	Students will be expected at this point to reach for a higher level of English fluency and speaking skill in their presentations and english speaking activities in class.
授業方法:	The class format will vary depending on the instructor, but course goals will be realised through dialogue practice, pair and group work, presentations and other speaking practice activities

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	2. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	3. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	4. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	5. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	6. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	7. Mid-term assignment (may vary depending on instructor and class level)	weekly assignments
	8. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	9. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	10. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	11. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	12. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	13. Textbook work /supplementary materials	weekly assignments
	14. Final Assignments (may vary depending on instructor and class level)	Final assignment preparation
	15. Final Assignments (may vary depending on instructor and class level)	Final assignment preparation

受講者へのメッセージやアドバイス: Students are encouraged and expected to use English with their instructor and fellow classmates in this course

フィードバックの方法: Will be explained by the instructor in class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	10%	as determined by the instructor
	Class preparation and participation	30%	as determined by the instructor
	Graded Assignments	60%	as determined by the instructor

教科書: Interchange 2 (4th Edition) Jack C. Richards, Cambridge, ISBN:978-1-1076-8469-2

参考書: A comprehensive English-Japanese Japanese-English dictionary

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法: Will be specified by the instructor in class

授業テーマ:

This course focuses on improving students' listening and public speaking skills.

授業の概要:

This course hopes to further develop students' speaking and listening abilities through group discussion, oral presentations and other assignments assigned by the teacher.

到達目標:

The aim of this course is to improve students's skills in listening comprehension, public speaking, conversation, debates and oral presentations.

授業方法:

Students will do classwork in either pairs or groups, involving group discussion, group tasks, oral presentations and written assignments.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. textbook work	Weekly assignments
	2. textbook work	Weekly assignments
	3. textbook work	Weekly assignments
	4. textbook work	Weekly assignments
	5. textbook work	Weekly assignments
	6. textbook work	Weekly assignments
	7. textbook work	Weekly assignments
	8. textbook work	Weekly assignments
	9. textbook work	Weekly assignments
	10. textbook work	Weekly assignments
	11. textbook work	Weekly assignments
	12. textbook work	Weekly assignments
	13. textbook work	Weekly assignments
	14. textbook work	Weekly assignments
	15. textbook work	Weekly assignments

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expect to speak only English in class

フィードバックの方法:

Will be specified by instructor in class

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Performance	100%	As determined by the instructor

教科書:

Mosaic

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Will be informed by the instructor in class

授業テーマ:

This course focuses on improving students' listening and speaking skills through academic skill-building tasks such as group work, public speaking, conversation, debates and oral presentations.

授業の概要:

This course focuses on improving students' listening and speaking skills through academic skill-building tasks such as group work, public speaking, conversation, debates and oral presentations.

到達目標:

This course aims to further develop students' communicative and listening abilities through group discussion, oral presentations and other assignments assigned by the teacher.

授業方法:

Students will do classwork in either pairs or groups, involving group discussion, group tasks, oral presentations and written assignments.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Textbook work	Weekly Assignment
	2. Textbook work	Weekly Assignment
	3. Textbook work	Weekly Assignment
	4. Textbook work	Weekly Assignment
	5. Textbook work	Weekly Assignment
	6. Textbook work	Weekly Assignment
	7. Textbook work	Weekly Assignment
	8. Textbook work	Weekly Assignment
	9. Textbook work	Weekly Assignment
	10. Textbook work	Weekly Assignment
	11. Textbook work	Weekly Assignment
	12. Textbook work	Weekly Assignment
	13. Textbook work	Weekly Assignment
	14. Textbook work	Weekly Assignment
	15. Textbook work	Weekly Assignment

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to speak English in every class

フィードバックの方法:

to be specified by instructor

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Performatnce	100%	as determined by the instructor

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

to be informed by instructor

授業テーマ:

授業の概要:

This course is to practice English listening and speaking skills.

到達目標:

To build student ability to comprehend spoken English
 To build student ability to converse extemporaneously
 To build student ability to plan English presentation

授業方法:

Teacher instruction; use of textbook reading and drill activities; opportunity to speak with conversation partners in class;
 homework based on textbook or handouts

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内
 容」:

授業内容

準備学習等の内容

1.	1st unit listening activities and speaking response	Pre-listening activities; text follow up
2.	1st unit listening activities and speaking response	Pre-listening activities; text follow up
3.	Quiz on unit 1	Pre-listening activities; text follow up
	2nd unit listening activities and speaking response	
4.	2nd unit listening activities and speaking response	Pre-listening activities; text follow up
5.	Quiz on unit 2	Pre-listening activities; text follow up
	3rd unit listening activities and speaking response	
6.	3rd unit listening activities and speaking response	Pre-listening activities; text follow up
7.	3rd unit listening activities and speaking response	Pre-listening activities; text follow up
8.	Quiz on unit 3	Pre-listening activities; text follow up
	4th unit listening activities and speaking response	
9.	4th unit listening activities and speaking response	Pre-listening activities; text follow up
10.	4th unit listening activities and speaking response	Pre-listening activities; text follow up
11.	Quiz on unit 4	Pre-listening activities; text follow up
	5th unit listening activities and speaking response	
12.	5th unit listening activities and speaking response	Pre-listening activities; text follow up Plan presentation
13.	5th unit listening activities and speaking response	Pre-listening activities; text follow up Plan presentation
14.	Quiz on unit 5	Pre-listening activities; text follow up Plan presentation
	presentations	
15.	presentations	finished

受講者への
 メッセージや
 アドバイス:

You cannot improve your English by only participating in class and even by doing all your homework. You must do extra work to improve your English. You must be independently motivated and find ways to practice and drill outside of class almost every day.

フィードバックの
 方法:

Quiz marks and in-class input

「成績評価方法」
 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quizzes	55	These will be oral and reflect in-class work.
Participation in class	15	This does not only include attendance. Students must talk in class, offer answers in whole-class group and small groups, and must speak English at all times.
Presentations	30	This criteria will be detailed in class.

教科書:

参考書:

獲得が期待される
 基礎的・汎用的能
 力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
 方法:

awillis@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: Speaking skills in English, particularly presentations

到達目標: To build student abilities to speak extemporaneously
To build student abilities to plan and deliver presentations

授業方法: Teacher instruction and textbook activities along with practice and drill

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Unit 1	Unit 1 textbook activities
2.	Unit 1 Quiz	Unit 1 and Unit 3 textbook activities
3.	Unit 3 Review Unit 1 and Unit 3	Unit 3 and Unit 6 textbook activities
4.	Unit 6 Quiz	Unit 6 textbook activities
5.	Unit 6 Possible Quiz	Unit 6 and Unit 7 textbook activities
6.	Unit 7 Possible Quiz	Unit 7 textbook activities
7.	Unit 7 Possible Quiz	Unit 7 and Unit 8 textbook activities
8.	Unit 8 Review Units 6 and 7 Possible Quiz	Unit 8 textbook activities
9.	Unit 8 Possible Quiz	Unit 8 and Unit 9 textbook activities
10.	Unit 9 Possible Quiz	Unit 9 textbook activities
11.	Unit 4 Review Units 8 and 9 Possible Quiz	Unit 4 textbook activities Presentation preparation
12.	Unit 4 Presentation Practice	Unit 4 textbook activities Presentation preparation
13.	Unit 4 Presentation Practice	Unit 4 textbook activities
14.	Unit 5 Presentations	Unit 5 textbook activities
15.	Unit 5 Presentations Possible Quiz	finished

受講者へのメッセージやアドバイス: Your English will not improve substantially if the only English practice you have is this class and its homework. You must motivate yourself to do other drills and practices and study daily. .

フィードバックの方法: Quizzes, presentation comments and grades

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Quizzes	55	Quizzes on textbook activities and teacher instruction
	Participation in class	15	This includes more than just attending class.
	Presentations	30	Instructions will be detailed in class.

教科書: Charles LeBeau and David Harrington, Speaking of Speech New Edition, Macmillan

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法: awillis@dwc.doshisha.ac.jp

</

教員との連絡
方法:

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ:

英語リスニング力向上をめざす

授業の概要:

本コースの目的は、Active Listening III で養われた英語リスニング力をさらに伸ばすことである。授業では、主教材として、
(1)TOEIC-style Listening Practice
(2)英語音声の理解(音変化、強勢、リズムなど)
(3)Note-taking Practice
(4)Topic Listening Practice
(5)映画
を用い、様々な話題と状況を背景とした生の英語に触れ、標準的な英語だけでなく、方言を含めた多様な英語(World Englishes)に対応できるリスニング力の習得を目指す。英語を「聞いて理解する」ためには、さまざまなハードルを超えなくてはならない。本コースではこの点を踏まえ、Active Listening III 同様、英語を聴くためのストラテジー(背景知識、文法力、音変化法則等の応用等)の養成に努める。語学上達のための必要条件は、毎日の「積み重ね」を「継続」すること、そして学習者自身の「積極的な姿勢」である。それぞれが自分の苦手な分野を克服し、リスニング力を伸ばすことができるよう、各種の演習に取り組んでもらいたい。

到達目標:

さまざまな教材を組み合わせる効果的なリスニング演習を目指す。春学期に取り扱う内容は以下の通りである。
(課題1)A New Threshold for the TOEIC Test Listeningを用い、毎回異なる学習ポイントについてクイズを行なう。限られた時間内で解答することに慣れ、標準テストのリスニング・スコアを伸ばすことに役立てていく。
(課題2)Sounds Greatを用い、自然な速さで話される英語における語間の音変化、機能語・内容語の捉え方、強勢とピッチ、文全体のイントネーションについて理解する。
(課題3)English Sound Boxを用い、幅広い分野から興味のあるなしにかかわらず、必要な情報を得ることができるようになることを目指す。英語音声から聴き取った情報をまとめ、内容理解へとつなげる練習を行う。
(課題4)English Sound Boxを用い、英語音声の特徴を理解するためにさまざまな場面を想定し、リスニング・スキルを磨く。
(課題5)一年を通して1本の映画をリスニング学習の題材として取り上げる。映画の中から約20シーンを選び、ストーリーの中での英語表現、音変化、背景知識の理解を試みる。映画特有の表現などにも触れながら、「英語で映画を理解する」楽しさを実感してもらいたい。
(授業外自主学習課題)e-learningシステムによる TOEIC練習教材 ATRを自主学習の課題とする。
なお、受講生は各自のリスニング力の伸びを、学期の初めと終わりに行なう2回の標準テスト(CELT)で確認する。また、語彙テスト(VLT, LTPV)により語彙力の伸びを確認する。

授業方法:

TOEIC:600点以上、TOEFL:PBTで500、CBTで173、iBT:61以上の得点を目標とする。
授業はCALL教室で行う。週一回90分の授業であるが、リスニング力の養成のためには習慣的に多くの英語のインプットを得ることが必須であり、そのためにディクテーションを中心とした課題を多種用意している。リスニング力を効率よく向上させるために、受講者各々が、受身ではなく、意欲的に知識を吸収し学ぶ姿勢で授業に臨むことが要求される。なお、受講生は音声教材を保存するUSBを各自用で意すること。教材の種類、授業の進行、課題の勉強方法など、授業の詳細については、第一回目の授業で説明する。
自主学習課題:授業時間外に e-learningシステムによる ATRのTOEIC練習教材を各自行うものとし、秋学期最終日には指示された課題の100%を終了していること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	CELT、オリエンテーション	ATR自主学習 指示された課題を開始
2.	VLT(語彙テスト) 次回授業準備	課題提出(なか日・授業時)
3.	TOEIC-(11)、SG-(11)、ESB-(6-1)、映画-(11)	課題提出(なか日・授業時)
4.	TOEIC-(12)、SG-(12)、ESB-(6-2)、映画-(12)	課題提出(なか日・授業時)
5.	TOEIC-(13)、SG-(13)、ESB-(7-1)、映画-(13)	課題提出(なか日・授業時)
6.	TOEIC-(14)、SG-(14)、ESB-(7-2)、映画-(14)	課題提出(なか日・授業時)
7.	TOEIC-(15)、SG-(15)、ESB-(8-1)、映画-(15)	課題提出(なか日・授業時)
8.	TOEIC-(16)、SG-(16)、ESB-(8-2)、映画-(16)	課題提出(なか日・授業時)
9.	TOEIC-(17)、SG-(17)、ESB-(9-1)、映画-(17)	課題提出(なか日・授業時)
10.	TOEIC-(18)、SG-(18)、ESB-(9-2)、映画-(18)	課題提出(なか日・授業時)
11.	TOEIC-(19)、SG-(19)、ESB-(10-1)、映画-(19)	課題提出(なか日・授業時)
12.	TOEIC-(20)、SG-(20)、ESB-(10-2)、映画-(20)	課題提出(なか日・授業時)
13.	Review Test 1(TOEIC、SG、ESB、映画)	特になし
14.	VLT(語彙テスト)、LTPV(語彙テスト)	特になし
15.	まとめ	ATR自主学習で指示された課題の100%を終了していること

受講者へのメッセージやアドバイス:

「継続は力なり」

フィードバックの方法:

授業では、各レッスンのポイントについて説明およびリスニング課題を行う。授業で扱った音声を用いてのディクテーション課題が毎週出され、課題用紙の提出が求められる(なか日、授業時)。提出された課題用紙はチェックされ返却される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回のクイズ	10%	毎回行うクイズの平均点を評価に加える。
Review Test	50%	授業で扱った内容における理解度を評価に加える。
課題の提出	20%	毎回の課題提出を評価に加える。
CELTテスト(2回)とTOEIC	20%	学期はじめと学期末に行うCELTの平均点と秋学期に全員受験するTOEICリスニング得点を評価に加える。 自主学習課題のATRの指示された課題の100%を秋学期最終日までを終了していない場合は、総合成績から減点する。

教科書:

倉田誠他、A New Threshold for the TOEIC Test Listening、(成美堂)
今井由美子他、Sounds Great、(英宝社)
大塚朝美他、English Sound Box、(金星堂)
映画:ハンドアウト

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、自己管理力、自己実現力、英語力向上
教員との連絡 方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

To improve communication skills for various purposes, listening for academic purposes, and improving English listening skills in general.

During the semester, students will listen to interviews, lectures, and radio programs on a range of academic and challenging topics. The goal is to expand the students' listening ability beyond that required to understand general conversational English, creating a strong foundation for further academic study and improving overall communication ability. Each student will do a presentation.

Students will learn a number of different strategies including reflecting, activating background knowledge, predicting, listening for main ideas, and working out unknown vocabulary in order to become better listeners. Each unit of the textbook will usually take two weeks to study, with two long listening exercises covering different aspects of the same topic.

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Unit 1. COMMUNICATION. Talk on recycling	Listening Exercises
	2. Unit 1 Ch. 4. Radio program about biodiesel	Listening Exercises
	3. Unit 2. VISUAL ART. Conversation about art forgery	Listening Exercises
	4. Unit 2 Ch. 4. Museum talk about camera obscura	Listening Exercises
	5. Unit 3. SOCIOLOGY. Conversation about cell phones	Listening Exercises
	6. Unit 3 Ch. 4. Radio commentary on the internet and relationships	Listening Exercises
	7. Test Units 1-3. Unit 4. MEDICINE. Radio interview about cochlear implants	Listening Exercises
	8. Unit 4 Ch. 4. Conversation about bio-chip implants	Listening Exercises
	9. Unit 5. HISTORY. Listening to student presentations on Nobel Prizes	Listening Exercises
	10. Unit 5 Ch. 4. Lecture about Kim Dae Jung	Listening Exercises
	11. Unit 6. EARTH SCIENCE. Lecture about desertification	Listening Exercises
	12. Unit 6 Ch. 4. Interview about hurricanes	Listening Exercises
	13. Test Units 4-6 Ted Talks TBA	Listening Exercises
	14. Ted Talks TBA	Listening Exercises
	15. Course Review	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

The students should review what we did in class and do the assigned homework.

フィードバックの
方法:

Students will be given results after tests. If necessary individual students will be given advice or assistance during class on an ongoing basis.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Classwork	40%	Observation during class
	Two Tests (25 points each)	50%	Tests are graded at the level the textbook
	Class participation and punctuality	10%	Observation during class

教科書:

Duncan, Janie; Parker, Amy
Open Forum 3: Academic Listening and Speaking
OXFORD
(Student Book 3) ISBN 9780194361132

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking ability, creativity, communication ability, compassion ability, self-management ability, self-fulfillment ability

教員との連絡
方法:

riolini@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

To improve communication skills for various purposes, listening for academic purposes, and improving English listening skills in general.

uring the semester, students will listen to interviews, lectures, and radio programs on a range of academic and challenging topics. The goal is to expand the students' listening ability beyond that required to understand general conversational English, creating a strong foundation for further academic study and improving overall communication ability. Each student will do a presentation.

Students will learn a number of different strategies including reflecting, activating background knowledge, predicting, listening for main ideas,and working out unknown vocabulary in order to become better listeners. Each unit of the textbook will usually take two weeks to study, with two long listening exercises covering different aspects of the same topic.

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Unit 7. LIFE SCIENCES. Introduction to the Fall term / Radio interview	Listening exercises
	2. Unit 7 Ch. 4. Television program / Key phrases to introduce important facts	Listening exercises
	3. Unit 8. PSYCHOLOGY. College lecture	Listening exercises
	4. Unit 8. Ch. 4. Conversation about visualization	Listening exercises
	5. Unit 9. HEALTH. Listening for comparisons and contrasts	Listening exercises
	6. Unit 9. Ch 4. Radio program	Listening exercises
	7. Test Unit 7 – 9. Unit 10. BUSINESS. Interview / using paraphrase to work out meaning	Listening exercises
	8. Unit 10. Ch. 4. Unit Lecture on management principles	Listening exercises
	9. Unit 11. SPACE SCIENCE. Radio report on space tourism	Listening exercises
	10. Unit 11. Ch. 4. Identifying technical language / On the street survey	Listening exercises
	11. Unit 12. ARCHAEOLOGY. Radio interview about forensic archaeology	Listening exercises
	12. Unit 12. Ch. 4. College lecture about ancient Egypt	Listening exercises
	13. Test Unit 10 – 12. Ted Talks TBA	Listening exercises
	14. Ted Talks TBA	Listening exercises
	15. Course Review	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

The students should review what we did in class and do the assigned homework.

フィードバックの
方法:

Students will be given results after tests. If necessary individual students will be given advice or assistance during class on an ongoing basis.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Classwork	40%	Observation during class
	Two Tests (25 points each)	50%	Tests are graded at the level the textbook
	Class participation and punctuality	10%	Observation during class

教科書:

Duncan, Janie; Parker, Amy
Open Forum 3: Academic Listening and Speaking
OXFORD
(Student Book 3) ISBN 9780194361132

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking ability, creativity, communication ability, compassion ability, self-management ability, self-fulfillment ability

教員との連絡
方法:

riolini@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Improving listening skills and note-taking skills for academic purposes

授業の概要:

During the semester students will listen to lectures on a range of academic topics. The goal is to expand the students' listening ability beyond that required to understand conversational English, creating a strong foundation for further academic study and improving overall communication ability. Each student will do a presentation in class and carry out extensive listening outside of class. Topics will usually be split between three classes. In order to motivate students and further develop their contact with a wide variety of spoken English, they will be encouraged to keep an extensive listening journal that will be checked at the end of the semester. They will also give one presentation based on independent listening.

到達目標:

1. Improve listening skills.
2. Improve note-taking skills.
3. Improve intonation and public speaking skills though listenings focused on speakers' vocal delivery.
4. Improve self-study skills.

授業方法:

Students will listen to lectures for content and carry out note-taking exercises. They will then do further listenings focusing on the intonation and vocal delivery of the speaker and carry out in-class discussions on the subjects covered. Very active participation is necessary.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Topic 1: Names (Unit 1) Intro: Describing Japanese names	Prepare vocabulary for Unit 1 listening Independent listening
2.	Topic 1: Names Lecture: Listening exercises	Review vocabulary Independent listening
3.	Topic 1: Names Review lecture Dialogue: Listening exercises Test on vocabulary	Independent listening
4.	Topic 1: Names Paraphrase lecture based on notes Focus on intonation Discussion	Prepare for Unit 1 intonation test Prepare vocabulary for Unit 3 Independent listening
5.	Test on Unit 1 lecture intonation Topic 2: Phobias (Unit 3) Lecture: Listening exercises	Review vocabulary Independent listening
6.	Topic 2: Phobias Review lecture Dialogue: Listening exercises Test on vocabulary	Independent listening
7.	Topic 2: Phobias Paraphrase lecture based on notes Focus on intonation Discussion	Prepare for Unit 3 intonation test Prepare vocabulary for Unit 4 Independent listening
8.	Test on Unit 3 lecture intonation Topic 3: The restaurant industry (Unit 4) Lecture: Listening exercises	Review vocabulary of Unit 4 Independent listening
9.	Topic 3: The restaurant industry Review lecture Dialogue: Listening exercises Test on vocabulary	Independent listening
10.	Topic 3: The restaurant industry Paraphrase lecture based on notes Focus on intonation Discussion	Prepare for Unit 4 intonation test Independent listening
11.	Test on Unit 4 lecture intonation Intonation patterns in public speaking	Independent listening
12.	Intonation patterns in public speaking	Prepare for presentation Optional independent listening
13.	Presentations	Prepare for presentation Optional independent listening
14.	Presentations	Independent listening
15.	Course review Hand in listening journal	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback for regular in-class listening exercises will be dealt with orally in class. For presentations students will receive individual comments in writing. Independent listening journals will be returned with comments.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	10	Attentiveness and Active Interaction
	Tests and Graded listenings	40	Fill in the blank with the correct answer
	Presentation	25	Content, Fluency, Clarity, Comprehensibility, Rhythm, Varied pitch
	Journal	25	Required number of topics covered. Required number of words per topic. Quality of English.

教科書:

Contemporary Topics 2: Academic Listening and Note-Taking Skills 3rd Edition
Author: Ellen Kisslinger
Publisher: Pearson Longman

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、

教員との連絡
方法:

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Improving listening skills and note-taking skills for academic purposes

授業の概要:

During the semester students will listen to lectures on a range of academic topics. The goal is to expand the students' listening ability beyond that required to understand conversational English, creating a strong foundation for further academic study and improving overall communication ability. Each student will do a presentation in class and carry out extensive listening outside of class. Topics will usually be split between three classes. In order to motivate students and further develop their contact with a wide variety of spoken English, they will be encouraged to keep an extensive listening journal that will be checked at the end of the semester. They will also give one presentation based on independent listening.

到達目標:

1. Improve listening skills.
2. Improve note-taking skills.
3. Improve intonation and public speaking skills though listenings focused on speakers' vocal delivery.
4. Improve self-study skills.

授業方法:

Students will listen to lectures for content and carry out note-taking exercises. They will then do further listenings focusing on the intonation and vocal delivery of the speaker and carry out in-class discussions on the subjects covered. Very active participation is necessary.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Unit 5 (Multiple Intelligences) Lecture: Listening exercises	Prepare for vocabulary test Independent listening
2.	Unit 5: Vocabulary test Review lecture Dialogue: Listening exercises	Prepare for assessed listening Independent listening
3.	Unit 5: Focus on intonation Discussion	Prepare for intonation test Independent listening
4.	Unit 5: Intonation test Unit 8 (Architecture) Lecture: Listening exercises	Independent listening
5.	Unit 8 Review lecture Dialogue: Listening exercises Focus on intonation	Famous buildings research task Independent listening
6.	Unit 8: Student to student listening task Example presentation on architecture	Prepare for presentations Optional independent listening
7.	Unit 7 (Team Building) Lecture: Listening exercises Dialogue: Listening exercises	Prepare for presentations Optional independent listening
8.	Unit 7: Review lecture Focus on intonation Discussion	Optional independent listening
9.	Presentations	Optional independent listening
10.	Presentations	Independent listening
11.	BBC: From Our Own Correspondent	Independent listening
12.	BBC: From Our Own Correspondent	Independent listening
13.	BBC: From Our Own Correspondent	Independent listening
14.	BBC: From Our Own Correspondent	Independent listening
15.	Course review Hand in listening journal	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback for regular in-class listening exercises will be dealt with orally in class.
For presentations students will receive individual comments in writing.
Independent listening journals will be returned with comments.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Participation	10	Attentiveness and Active Interaction
	Tests and Graded listenings	50	Fill in the blank with the correct answer
	Presentation	20	Content, Fluency, Clarity, Comprehensibility, Rhythm, Varied pitch
	Journal	20	Required number of topics covered. Required number of words per topic. Quality of English

教科書:

Contemporary Topics 2: Academic Listening and Note-Taking Skills 3rd Edition
Author: Ellen Kisslinger
Publisher: Pearson Longman

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、

Varies according to instructor.

授業テーマ:	The development of academic skills through historical study
授業の概要:	This course is intended to further the student's command of fundamental academic skills in English, such as note-taking, summarising and paraphrasing, oral presentation and research report writing, for which students should demonstrate improved competency at citing secondary resources. The academic skills work will focus on aspects of the social history of the US in order for students to better understand and appreciate some of the major episodes in the evolution of American society. Teachers will focus on a single (or overlapping) era(s) in order to encourage understanding of the social forces at work at the time.
到達目標:	1. Develop proficiency in writing research papers in APA style including citations of supplementary resources. 2. Improve academic presentational skills. 3. Improve research methods. 4. Improve note-taking skills. 5. Deepen cultural understanding of a major Anglophone country through understanding of broad historical changes in that country's history.
授業方法:	Using selected readings and presentations each teacher will focus on a distinct era of American history to provide a broad understanding of the period. This background work will then serve as a basis for closer investigation of certain themes by students in presentations and research reports.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course. Outline of objectives and topics.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
2.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance and practice	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
3.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance and practice	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
4.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance and practice	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
5.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance and practice	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
6.	1st Report (Oral or Written)	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
7.	1st Report (Oral or Written)	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
8.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance and practice	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
9.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance and practice	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
10.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance and practice	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
11.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance and practice	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
12.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance and practice	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
13.	2nd Report (Oral or Written)	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
14.	Report (Oral or Written)	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
15.	Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:	
フィードバックの方法:	Individual instructors will vary but are asked to provide individual feedback, comments and grades for all oral and written reports and to return all quizzes with students' grades and any comments or corrections where appropriate.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	10	Attentiveness and active participation
	Oral and Written Reports	50	Instructors' criteria will vary but should acknowledge rigorous preparation and organisation of materials, as well as effective presentation skills for oral reports and appropriate requirements for written reports such as coherency, relevancy, citations e
	Quizzes	20	Instructors' criteria will vary but may test material covered in class or the results of research questions.
	Homework	20	Instructors' criteria will vary.

教科書:	Teachers may use their own materials. Textbooks may also be chosen at the discretion of the co-ordinator. Guides to APA style may be found online, though teachers are urged to compile the most important APA requirements themselves for easy comprehension by students.

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、

Varies according to instructor.

授業テーマ:

Social History and Culture of Canada

授業の概要:

Students will learn about the contemporary history and culture of Canada while developing academic skills in listening, reading, speaking and writing

到達目標:

The aim of this course is to learn more about Canadian society and culture while increasing academic skills in listening, reading, speaking and writing

授業方法:

All lectures and class work will be conducted in English through the use of textbook, supplementary materials and media sources. Students will learn through comprehension work, group discussion, weekly assignments and group/individual presentations in class

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to course, goals and expectations	Weekly assignments
	2. Early beginnings	Weekly assignments
	3. Early beginnings	Weekly assignments
	4. Arts and education	Weekly assignments
	5. Multiculturalism in Canada	Weekly assignments
	6. Multiculturalism in Canada	Weekly assignments
	7. Mid-term assignment	Weekly assignments
	8. Pacific Region	Weekly assignments
	9. Pacific Region/Prairie Provinces	Weekly assignments
	10. Central Canada	Weekly assignments
	11. Central Canada	Weekly assignments
	12. Atlantic Provinces	Weekly assignments
	13. Atlantic Provinces	Weekly assignments
	14. Final Assignments	Preparations for Final Assignment
	15. Final Assignments	Preparations for Final Assignment

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are not only encouraged but expected to speak English with the instructor and fellow students in every class. A high level of motivation is required to do well in this class.

フィードバックの方法:

Will be explained by the instructor in class

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20%	as determined by the instructor
	Group Work	20%	as determined by the instructor
	Presentations and Assignments	60%	as determined by the instructor

教科書:

Gateway to Canada (2nd edition) Virginia Sauve (Oxford) ISBN 978-0-19-544335-6

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

will be notified to students by the instructor in class

授業テーマ:

Social history of the United States of America

授業の概要:

This course is intended to introduce students to some major events in American social history, while increasing students's academic skills in listening and reading comprehension, writing and speaking.

到達目標:

The aim of this course is to further the students' command of fundamental academic skills in English in reading and listening comprehension, English fluency and writing skills while deepening their understanding of American social history.

授業方法:

Lectures will be conducted in English, as well as group discussion, comprehension exercises, and skill building activities such as scanning, summarising, group/pair presentations, role-playing and in-class writing assignments.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to course, goals and expectations	Weekly Assignments
	2. Early Immigrants to the "New Land"	Weekly Assignments
	3. Native Americans	Weekly Assignments
	4. Native Americans	Weekly Assignments
	5. Slavery	Weekly Assignments
	6. Slavery/Civil War	Weekly Assignments
	7. Mid-term Assignment	Weekly Assignments
	8. The West I	Weekly Assignments
	9. The West II	Weekly Assignments
	10. Immigration in the 1900's	Weekly Assignments
	11. The Social Revolution	Weekly Assignments
	12. The Civil Rights Movement	Weekly Assignments
	13. Counter Culture of the US	Weekly Assignments
	14. Final Presentations	Final assignment preparation
	15. Final Presentations	Final assignment preparation

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are encouraged and expected to speak English with the instructor and fellow students every class. High motivation is required in this class in order to do well.

フィードバックの方法:

Will be specified by the instructor in class

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	20%	as determined by the instructor
	Group work	20%	as determined by the instructor
	Assignments and Presentations	60%	as determined by the instructor

教科書:

Christine Root, Karen Blanchard, American Roots, Pearson Education ESL; (1st edition),2000
ISBN-13: 978-0201619959

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Will be informed by the instructor in class

授業テーマ:

Developing academic skills through selective historical study

授業の概要:

This course is intended to further the student’s command of fundamental academic skills in English, such as note-taking, summarising and paraphrasing, oral presentation and research report writing, for which students should demonstrate improved competency at citing secondary resources. Using selected readings and presentations we will focus on a distinct era of British history to provide a broad understanding of the period. This background work will then serve as a basis for closer investigation of certain themes by students in presentations and research reports

到達目標:

1. Develop proficiency in writing research papers in APA style including citations of supplementary resources.
2. Improve academic presentational skills.
3. Improve research methods.
4. Improve note-taking skills.
5. Deepen cultural understanding of Britain through understanding of broad historical changes in the country’s history.

授業方法:

Students will listen to lectures and practice note-taking and paraphrasing in class, discuss and review materials in group work, undertake research tasks outside of class and teach each other through oral presentations as the result of research tasks.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the course. Outline of objectives and topics. Early history.	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	2. The Georgians. The Growth and Price of Empire I	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	3. The Growth and Price of Empire II	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	4. The Growth and Price of Empire III	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	5. Paraphrasing workshop based on supplementary sources	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	6. Introduction to APA	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	7. 1st Oral / Written Report	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	8. 1st Oral / Written Report	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	9. The Growth of Civic Freedoms I	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	10. The Growth of Civic Freedoms II	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	11. The Growth of Civic Freedoms III	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	12. Academic Skills Case Study: Bath: City of Pilgrimage and Aspiration	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	13. 2nd Oral / Written Report	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	14. 2nd Oral / Written Report	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare for a report.
	15. Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

No background knowledge of British history at all is required.

フィードバックの方法:

Oral and written reports will receive individual comments and corrections.
Tests will be returned with grades clearly marked.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Oral and Written Reports	50	Rigorous preparation and organisation of materials. Effective presentation skills for oral reports and academic writing skills for written reports, such as coherence, relevancy, transitions, and use of supplementary materials with citations and a list of references.
	Homework	25	The completion of required tasks
	Quizzes	25	Recalling selected core material of the course.

教科書:

None

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Developing academic skills through selective historical study

授業の概要:

This course is intended to further the student’s command of fundamental academic skills in English, such as note-taking, summarising and paraphrasing, oral presentation and research report writing, for which students should demonstrate improved competency at citing secondary resources. Using selected readings and presentations we will focus on a distinct era of American history to provide a broad understanding of the period. This background work will then serve as a basis for closer investigation of certain themes by students in presentations and research reports

- 到達目標:
1. Develop proficiency in writing research papers in APA style including citations of supplementary resources.

2. Improve academic presentational skills.

3. Improve research methods.

4. Improve note-taking skills.

5. Deepen cultural understanding of America through understanding of broad historical changes in the country’s history.

授業方法:

Students will listen to lectures and practice note-taking and paraphrasing in class, discuss and review materials in group work, undertake research tasks outside of class and teach each other through oral presentations as the result of research tasks.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Looking for America I	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	2. Looking for America II	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	3. The Search for Freedom I	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	4. The Search for Freedom II	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	5. Slavery	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	6. Slavery	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	7. 1st Oral / Written Report	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	8. 1st Oral / Written Report	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	9. The Civil War I	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	10. The Civil War II	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	11. The West I	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	12. The West II	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	13. 2nd Oral / Written report	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	14. 2nd Oral / Written report	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
	15. Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

No background historical knowledge is required other than what is covered in the first semester.

フィードバックの方法:

Oral and written reports will receive individual comments and corrections.
Tests will be returned with grades clearly marked.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Oral and written reports	50	Rigorous preparation and organisation of materials. Effective presentation skills for oral reports and academic writing skills for written reports, such as coherence, relevancy, transitions, and use of supplementary materials with citations and a list of references.
	Quizzes	25	Recalling selected core material of the course.
	Homework	25	The completion of required tasks

教科書:

None

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

TOEICテスト対策

授業の概要:

TOEICとは、Test of English for International Communication の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。このTOEICは、和文英訳、英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションできるかということを測ります。この授業では、TOEICのテスト対策を通して、英語によるコミュニケーション能力の習得とTOEICのスコアアップを目指します。

到達目標:

(1) 英語によるコミュニケーション能力の習得
(2) 入学直後に受けたTOEICのスコアから、1年間で100点以上のスコアアップ

授業方法:

授業は毎回、「小テスト、listening section、reading section、今日のまとめ」という順番で進めます。詳しくは、第1回目の授業で説明します。

予習と復習の内容

円滑に授業ができるように、受講生は、必ず決められた箇所の復習と予習をする必要があります。具体的な復習と予習の内容については、毎回の授業時に指示します。

そして、毎回、前回の授業での学習内容についての小テストを行います。その小テストのための学習も必要です。言うまでもありませんが、定期試験のための学習も必要です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
2.	小テスト TOEIC演習1	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
3.	小テスト TOEIC演習2	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
4.	小テスト TOEIC演習3	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
5.	小テスト TOEIC演習4	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
6.	小テスト TOEIC演習5	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
7.	小テスト TOEIC演習6	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
8.	小テスト TOEIC演習7	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
9.	小テスト TOEIC演習8	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
10.	小テスト TOEIC演習9	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
11.	小テスト TOEIC演習10	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
12.	小テスト TOEIC演習11	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
13.	小テスト TOEIC演習12	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
14.	小テスト TOEIC演習13	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
15.	まとめ	指示された箇所の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回の小テストに関しては、テスト後すぐに、解答、そして解説します。
受講生からの質問、コメント等に関しては、内容により、教室でまとめて、あるいは、個別に返事をします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	35	評価項目の具体的な割合は、担当教員が決めますが、授業への参加・態度、小テストなどが65%、定期試験35%を基本とします。詳しくは第1回目の授業で説明します。
授業への参加・態度、小テストなど	65	定期試験に関しては、到達目標(1)を基準とします。 到達目標(2)を踏まえた上で、積極的に授業に参加し、毎回の小テストなどに真剣に取り組めたかを評価します。

教科書:

担当教員より指示します。

参考書:

授業中に適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

担当教員より指示します。

授業テーマ:

TOEICテスト対策

授業の概要:

TOEICとは、Test of English for International Communication の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。このTOEICは、和文英訳、英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションできるかということを測ります。この授業では、TOEICのテスト対策を通して、英語によるコミュニケーション能力の習得とTOEICのスコアアップを目指します。

到達目標:

(1) 英語によるコミュニケーション能力の習得
(2) 入学直後に受けたTOEICのスコアから、1年間で100点以上のスコアアップ

授業方法:

授業は毎回、「小テスト、listening section、reading section、今日のまとめ」という順番で進めます。詳しくは、第1回目の授業で説明します。

予習と復習の内容

円滑に授業ができるように、受講生は、必ず決められた箇所の復習と予習をする必要があります。具体的な復習と予習の内容については、毎回の授業時に指示します。

そして、毎回、前回の授業での学習内容についての小テストを行います。その小テストのための学習も必要です。言うまでもありませんが、定期試験のための学習も必要です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
2.	小テスト TOEIC演習1	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
3.	小テスト TOEIC演習2	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
4.	小テスト TOEIC演習3	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
5.	小テスト TOEIC演習4	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
6.	小テスト TOEIC演習5	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
7.	小テスト TOEIC演習6	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
8.	小テスト TOEIC演習7	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
9.	小テスト TOEIC演習8	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
10.	小テスト TOEIC演習9	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
11.	小テスト TOEIC演習10	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
12.	小テスト1 TOEIC演習1	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
13.	小テスト TOEIC演習12	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
14.	小テスト TOEIC演習13	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
15.	まとめ	指示された箇所の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回の小テストに関しては、テスト後すぐに、解答、そして解説します。
受講生からの質問、コメント等に関しては、内容により、教室でまとめて、あるいは、個別に返事をします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	35	評価項目の具体的な割合は、担当教員が決めますが、授業への参加・態度、小テストなどが65%、定期試験35%を基本とします。詳しくは第1回目の授業で説明します。
	授業への参加・態度、小テストなど	65	到達目標(2)を踏まえた上で、積極的に授業に参加し、毎回の小テストなどに真剣に取り組めたかを評価します。

教科書:

担当教員より指示します。

参考書:

授業中に適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

担当教員より指示します。

授業テーマ:

The last chance to develop higher English communicative proficiency!

授業の概要:

(1)英語基礎能力を確認する(語彙能力の向上)。
(2)読解力の発展的能力を育成する(多様なReading Strategiesを選択的に活用)。
(3)聴解の発展的能力を育成する(多様なListening Strategiesを選択的に活用)。
(4)統合的能力を育成する(Writing-Speaking能力の向上)。
(5)多くの英語に実際に触れる(読む・聴く)機会を増やす。
この授業は、1・2年次生のReading I-IV, Active Listening I-IV, Writing I-IV, Speaking I-IVを発展的に統合したものと位置づけられている。

到達目標:

必修英語スキル科目としては、このコースが総仕上げとなる。英語英文学科の応用・各論(専門)科目で必要となる発展的英語運用能力の確認・養成を目標とする。

授業方法:

(1)最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速読力をつける(News Flash)。
(2)最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速解力をつける(News Flash)。
(3)読解・聴解の発展的能力の向上をはかるため、CALL教材(インターネット上の教材を含む)をフル活用する。利用予定CALL教材:ATR CALL BRIX, スーパー英語, ALC NetAcademy, SRAなど。
(4)語彙能力の向上:語彙テストを適宜実施し、語彙能力の定着をはかる。
(5)個人の特徴に応じた学習効果を上げるため、CALL教室で授業を行う。
基本的には上記の通り授業を行うが、この授業は2016年度より3年次必修科目となったため、受講人数やクラスに応じて、授業内容や授業方法を柔軟に工夫していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	予習は不要だが、『Dialogue1800』を毎回予習をしておくことと授業への理解が早くなる。授業では復習は必須である。また、授業内で学習する「スーパー英語」については、授業外での自学自習が強く求められる。ワークシートも利用して、教員の指示に従って、適宜授業中に提出する。
2.	読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
3.	読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
4.	読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
5.	読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
6.	第1回語彙テスト 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第1回語彙テストに備えて準備をする。
7.	読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
8.	読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
9.	読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
10.	第2回語彙テスト 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第2回語彙テストに備えて準備をする。
11.	読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
12.	読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
13.	読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
14.	第3回語彙テスト	第3回語彙テストに備えて準備をする。
15.	まとめ	

フィードバックの方法：補助教材のワークシートを適宜返却する。また学期末×切りの提出物は秋学期の授業などで返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	3回のVocabulary Quiz	15%	News Flashの理解度を基準にする。
	学期末×切りの「スーパー英語」のTraining Bankと My Portfolio, 併せてワークシート(提出済み分も含む)を提出。	35%	「スーパー英語」の達成度を基準にする。
	定期試験	50%	授業内の学習を土台にした語彙力、および応用的な読解力と聴解力を問う。

教科書：秋葉利治・森秀夫著『Dialogue 1800 英単語・熟語ダイログ1800』(三訂版)(中・上級編) 東京、旺文社、2012。(1・2年次のReading, Active Listening, Writingの各授業と共通テキスト) その他、ハンドアウトを配布。

参考書：授業の中で提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法：Eメールの連絡、および授業の前後で対応する。

授業テーマ:

The last chance to develop higher English communicative proficiency!

授業の概要:

(1)英語基礎能力を確認する(語彙能力の向上)。
(2)読解力の発展的能力を育成する(多様なReading Strategiesを選択的に活用)。
(3)聴解の発展的能力を育成する(多様なListening Strategiesを選択的に活用)。
(4)統合的能力を育成する(Writing-Speaking能力の向上)。
(5)多くの英語に実際に触れる(読む・聴く)機会を増やす。
この授業は、1・2年次生のReading I-IV, Active Listening I-IV, Writing I-IV, Speaking I-IVを発展的に統合したものと位置づけられている。

到達目標:

必修英語スキル科目としては、このコースが総仕上げとなる。英語英文学科の応用・各論(専門)科目で必要となる発展的英語運用能力の確認・養成を目標とする。

授業方法:

(1)最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速読力をつける(News Flash)。
(2)最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速解力をつける(News Flash)。
(3)読解・聴解の発展的能力の向上をはかるため、CALL教材(インターネット上の教材を含む)をフル活用する。利用予定CALL教材:ATR CALL BRIX, スーパー英語, ALC NetAcademy, SRAなど。
(4)語彙能力の向上:語彙テストを適宜実施し、語彙能力の定着をはかる。
(5)個人の特徴に応じた学習効果を上げるため、CALL教室で授業を行う。
基本的には上記の通り授業を行うが、この授業は2016年度より3年次必修科目となったため、受講人数やクラスに応じて、授業内容や授業方法を柔軟に工夫していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業オリエンテーション	予習は不要だが、『Dialogue1800』を毎回予習をしておくこと授業への理解が早くなる。授業では復習は必須である。また、授業内で学習する「スーパー英語」については、授業外での自学自習が強く求められる。ワークシートも利用して、教員の指示に従って、適宜授業中に提出する。
	2. 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	3. 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	4. 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	5. 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	6. 第1回語彙テスト 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第1回語彙テストに備えて準備をする。
	7. 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	8. 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	9. 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	10. 第2回語彙テスト 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第2回語彙テストに備えて準備をする。
	11. 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	12. 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	13. 読解演習と聴解演習:テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	14. 第3回語彙テスト 「スーパー英語」の学習	第3回語彙テストに備えて準備をする。
	15. まとめ	

フィードバックの方法：補助教材のワークシートを適宜返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	3回のVocabulary Quiz	15%	News Flashの理解度を基準にする。
	学期末×切りの「スーパー英語」のTraining Bankと My Portfolio, 併せてワークシート(提出済み分も含む)を提出。	35%	「スーパー英語」の達成度を基準にする。
	定期試験	50%	授業内の学習を土台にした語彙力、および応用的な読解力と聴解力を問う。
教科書:	秋葉利治・森秀夫著『Dialogue 1800 英単語・熟語ダイログ1800』(三訂版)(中・上級編) 東京、旺文社、2012。(1・2年次のReading, Active Listening, Writingの各授業と共通テキスト) その他、ハンドアウトを配布。		
参考書:	授業の中で提示する。		

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法：E メールでの連絡、および授業の前後で対応する。

授業テーマ:

The last chance to develop higher English communicative proficiency!

授業の概要:

(1) 英語基礎能力を確認する(語彙能力の向上)。
(2) 読解力の発展的能力を育成する(多様なReading Strategiesを選択的に活用)。
(3) 聴解の発展的能力を育成する(多様なListening Strategiesを選択的に活用)。
(4) 統合的能力を育成する(Writing-Speaking能力の向上)。
(5) 多くの英語に実際に触れる(読む・聴く)機会を増やす。
この授業は、1・2年次生のReading I-IV, Active Listening I-IV, Writing I-IV, Speaking I-IVを発展的に統合したものとして位置づけられている。

到達目標:

必修英語スキル科目としては、このコースが総仕上げとなる。英語英文学科の応用・各論(専門)科目で必要となる発展的英語運用能力の確認・養成を目標とする。

授業方法:

(1) 最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速読力をつける(News Flash)。
(2) 最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速解力をつける(News Flash)。
(3) 読解・聴解の発展的能力の向上をはかるため、CALL教材(インターネット上の教材を含む)をフル活用する。利用予定CALL教材: ATR CALL BRIX, スーパー英語, ALC NetAcademy, SRAなど。
(4) 語彙能力の向上: 語彙テストを適宜実施し、語彙能力の定着をはかる。
(5) 個人の特徴に応じた学習効果を上げるため、CALL教室で授業を行う。
基本的には上記の通り授業を行うが、この授業は2016年度より3年次必修科目となったため、受講人数やクラスに応じて、授業内容や授業方法を柔軟に工夫していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業オリエンテーション	予習は不要だが、『Dialogue 1800』を毎回予習をしておくことと授業への理解が早くなる。授業では復習は必須である。また、授業内で学習する「スーパー英語」については、授業外での自学自習が強く求められる。ワークシートも利用して、教員の指示に従って、適宜授業中に提出する。
	2. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	3. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	4. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	5. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	6. 第1回語彙テスト 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第1回語彙テストに備えて準備をする。
	7. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	8. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	9. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	10. 第2回語彙テスト 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第2回語彙テストに備えて準備をする。
	11. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	12. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	13. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	14. 第3回語彙テスト 「スーパー英語」の学習	第3回語彙テストに備えて準備をする。
	15. まとめ	

フィードバックの方法： 補助教材のワークシートを適宜返却する。また学期末×切りの提出物は秋学期の授業などで返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	3回のVocabulary Quiz	15%	News Flashの理解度を基準にする。
	学期末×切りの「スーパー英語」のTraining Bankと My Portfolio, 併せてワークシート(提出済みも含む)を提出。	35%	「スーパー英語」の達成度を基準にする。
	定期試験	50%	授業内の学習を土台にした語彙力、および応用的な読解力と聴解力を問う。

教科書： 秋葉利治・森秀夫著『Dialogue 1800 英単語・熟語ダイローク1800』(三訂版)(中・上級編) 東京、旺文社、2012。(1・2年次のReading, Active Listening, Writingの各授業と共通テキスト) その他、ハンドアウトを配布。

参考書： 授業の中で提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法： Eメールの連絡、および授業の前後で対応する。

授業テーマ:

The last chance to develop higher English communicative proficiency!

授業の概要:

(1) 英語基礎能力を確認する(語彙能力の向上)。
(2) 読解力の発展的能力を育成する(多様なReading Strategiesを選択的に活用)。
(3) 聴解の発展的能力を育成する(多様なListening Strategiesを選択的に活用)。
(4) 統合的能力を育成する(Writing-Speaking能力の向上)。
(5) 多くの英語に実際に触れる(読む・聴く)機会を増やす。
この授業は、1・2年次生のReading I-IV, Active Listening I-IV, Writing I-IV, Speaking I-IVを発展的に統合したものとして位置づけられている。

到達目標:

必修英語スキル科目としては、このコースが総仕上げとなる。英語英文学科の応用・各論(専門)科目で必要となる発展的英語運用能力の確認・養成を目標とする。

授業方法:

(1) 最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速読力をつける(News Flash)。
(2) 最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速解力をつける(News Flash)。
(3) 読解・聴解の発展的能力の向上をはかるため、CALL教材(インターネット上の教材を含む)をフル活用する。利用予定CALL教材: ATR CALL BRIX, スーパー英語, ALC NetAcademy, SRAなど。
(4) 語彙能力の向上: 語彙テストを適宜実施し、語彙能力の定着をはかる。
(5) 個人の特徴に応じた学習効果を上げるため、CALL教室で授業を行う。
基本的には上記の通り授業を行うが、この授業は2016年度より3年次必修科目となったため、受講人数やクラスに応じて、授業内容や授業方法を柔軟に工夫していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業オリエンテーション	予習は不要だが、『Dialogue 1800』を毎回予習をしておくこと授業への理解が早くなる。授業では復習は必須である。また、授業内で学習する「スーパー英語」については、授業外での自学自習が強く求められる。ワークシートも利用して、教員の指示に従って、適宜授業中に提出する。
	2. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	3. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	4. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	5. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	6. 第1回語彙テスト 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第1回語彙テストに備えて準備をする。
	7. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	8. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	9. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	10. 第2回語彙テスト 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第2回語彙テストに備えて準備をする。
	11. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	12. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	13. 読解演習と聴解演習: テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash(新聞記事)を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
	14. 第3回語彙テスト 「スーパー英語」の学習	第3回語彙テストに備えて準備をする。
	15. まとめ	

フィードバックの方法： 補助教材のワークシートを適宜返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	3回のVocabulary Quiz	15%	News Flashの理解度を基準にする。
	学期末×切りの「スーパー英語」のTraining Bankと My Portfolio, 併せてワークシート(提出済み分も含む)を提出。	35%	「スーパー英語」の達成度を基準にする。
	定期試験	50%	授業内の学習を土台にした語彙力、および応用的な読解力と聴解力を問う。
教科書:	秋葉利治・森秀夫著『Dialogue 1800 英単語・熟語ダイログ1800』(三訂版)(中・上級編) 東京、旺文社、2012。(1・2年次のReading, Active Listening, Writingの各授業と共通テキスト) その他、ハンドアウトを配布。		
参考書:	授業の中で提示する。		

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法： 授業の中で提示する。

授業テーマ:

イギリス文化に関する基礎知識の修得

授業の概要:

イギリスの歴史、地理、民族、社会など、イギリス文化に関する基礎知識を身につけ、本格的な研究のための準備とする。現代のイギリス事情を正しく認識すると共に、日本やアメリカなど、他国との比較を通して異文化理解を深める。

到達目標:

・イギリスの地理に関する基礎知識の修得

・イギリスの民族的成り立ちに関する基礎知識の修得

・イギリスの重要な歴史(16～20世紀初頭)に関する基礎知識の修得

・現代イギリス社会に関する基礎知識の修得

授業方法:

パワーポイントや教材提示機を用い、テキストの内容に沿って、イギリス文化の諸相について講義する。補足プリント(年表やマップなど)を参照し、適宜AV機器を用いることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ・オリエンテーション(シラバス確認) ・講義:イギリス」とは?	初回授業までにテキストを購入しておく。
	2. 講義:イギリス民族的成り立ち:まとめ	前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	3. 講義:イギリス民族的成り立ち:まとめ	前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	4. 講義:イギリスの食文化	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	5. 講義:イギリスの住環境	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	6. 講義:イギリスの君主制&階級	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	7. 講義:イギリスの政治形態	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	8. 講義:イギリスの歴史:宗教改革(16世紀)	前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	9. 講義:イギリスの歴史:ピューリタン革命(17世紀)と 合理主義の時代(18世紀)	前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	10. 講義:イギリスの歴史:ヴィクトリア時代(19世紀)と大 英帝国の終焉(20世紀初頭)	前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	11. 講義:イギリスの教育制度	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	12. 講義:イギリスの言語	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	13. 講義:イギリスの芸術	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
	14. 講義:補足説明	春学期授業内容の復習
	15. まとめ	春学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。

・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。

・やむを得ず欠席した場合は、次回授業までに小山研究室に出向き、欠席回のプリントを受け取って、読んでおくこと。

フィードバックの方法:

大クラスの講義科目であり、出欠用のマークシートを配布する。その備考欄に授業内容への質問やコメントが書かれていることがあるが、口頭での質問と同様、全体で共有すべき内容だと判断した場合には、翌週の授業冒頭で紹介し、必要な説明を加える。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
	学期末試験	80%	春学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:

Tim Knight, Welcome to Britain(音羽書房鶴見書店)

参考書:

必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Emailやオフィスアワーを利用。

授業テーマ:

アメリカ合衆国文化の多面的な理解

授業の概要:

アメリカ合衆国文化の特質を多様な側面から考える。アメリカ合衆国および世界で起きていることについてヒントとなる知識を獲得し、過去・現状を認識したうえで、将来に向けての可能性をイメージするための基礎を身につける。

到達目標:

さまざまな分野を広く見渡ししながらアメリカ合衆国の文化を自分なりに概括し、アメリカ合衆国および世界で起きている事象に文化的な説明を加えるための基礎を身につける。

授業方法:

講義を中心に行う。ハンドアウトとスライドを用意するので、気楽に聴きながら、様々に思いを巡らせるようにする。授業中にいくつか問題を提起して、意見を用紙に書いて提出してもらう。アメリカ合衆国という国のことをざっくりと、ただし、これまで知らなかった面に注意を払いつつ、想像力を働かせて理解するようにしてもらいたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:「アメリカ文化」とは何か	アメリカ合衆国についての歴史書や参考書、新書などを少なくとも1冊読んでおく。
2.	言語:英語の歴史と特質／アメリカではどのような言語が話されているか	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
3.	宗教(1):キリスト教と「市民宗教」―宗教国家アメリカ?	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
4.	宗教(2):参照枠としてのキリスト教／それ以外の宗教	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
5.	民族(1):「アメリカ人」とは誰か／先住民はどこへ行ったか	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
6.	民族(2):「黒人」とは?―文化的貢献と社会的格差	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
7.	民族(3):日系人、ラティーノ／アファーマティブ・アクションからカラー・ブラインド政策へ	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
8.	音楽(1):民衆音楽から大衆音楽へ、現代音楽の展開	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
9.	音楽(2):アメリカ音楽に見る社会批評	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
10.	ハリウッド映画とブロードウェイ・ミュージカル:「夢の工場」	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
11.	最新ミュージカル紹介	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
12.	企業文化とスポーツ:自由参加とエリート主義	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
13.	戦争:デモクラシー、メディアと戦争	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
14.	自然:ヨーロッパ人入植以降の変化／地域ごとの違い／エコロジー思想	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
15.	まとめ	授業内容を振り返って、興味をもった分野については独自に情報を調べ、自分の見解をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

人名や年代などの詳細な情報を試験で問うことはないので、アメリカ合衆国という国のことをざっくりと、ただし、これまで知らなかった面に注意を払いつつ、想像力を働かせて理解するようにしてもらいたい。また、興味をもった分野については独自に情報を調べ、授業で紹介されなかった新しい事象を見つけておくこと。

フィードバックの方法:

質問用紙は返却しない。興味深い回答については、後の授業で口頭でとりあげる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	60%	記述式の試験を行う。授業内容を参照した上で自分の見解をまとめ、また独自に新しい事象を調べて情報を準備してのぞむこと。
	授業参加	40%	出席、受講態度、および、質問用紙の答えを基準とする。

教科書:

なし。ハンドアウトを配布する。

参考書:

授業内あるいはハンドアウトで指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業内で指示する。

授業テーマ:	「ことば」について考える。		
授業の概要:	私たちが生きる社会において、言語は人が学び、考え、成長し、他者と交流するために欠かせないもののひとつである。言語学への第一歩として本コースでは、言語の成り立ちと役割、言語習得に焦点をあてる。日常生活でおこるさまざまなエピソードをとおして、ことばにまつわる「なぜ？」について一緒に考える。		
到達目標:	言語学及び応用言語学の基礎的事柄について理解できることを目標とする。特に英語の特徴を理解し、日本語との比較を通して言語に興味を持つ。また、言語にまつわるステレオタイプをとりあげ、批判的思考を身につけることを目指す。		
授業方法:	基本的に講義形式で授業を進める。視聴覚教材も適宜利用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション: 言語とは何か	なし	
	2. 言語の発達: 動物に言語はあるのか	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	3. 言語と人間: 言語と思考の関係	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	4. 世界の言語: 言語の分類、言語か方言か	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	5. 英語の歴史: 英語の発展と国際語としての英語	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	6. 英語の基本(1): 英語の語源	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	7. 英語の基本(2): 和製英語は通じるか	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	8. 英語の基本(3): 英語の発音の特徴	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	9. 英語の基本(4): 英語にも敬語はあるのか	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	10. 第一言語習得論: 幼児の言語習得	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	11. 第二言語習得論: 語学学習と教授法	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	12. 言語と社会: 言語とジェンダー	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	13. 言語の危機: 言語の消滅、保存、再生	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	14. 多言語社会としての日本	翌週学習予定チャプターのリーディング	
	15. まとめ	既習チャプターの復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	教科書を予め読んでくること。受講態度が悪い場合には授業の進行妨害とみなして退出を求める場合があるので注意すること。		
フィードバックの方法:	授業内でコメント		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	30%	出席
	定期テスト	70%	学期末に実施する最終テスト
教科書:	加藤重広著、『ことばの科学(まなびのエクササイズ2)』、ひつじ書房・2007年刊、ISBN9784894763364		
参考書:	町田健著、『言語学が好きになる本』、研究社出版・1999年刊、ISBN4327376744 佐久間順一、加藤重広、町田健著、『言語学入門』、研究社・2004年刊、ISBN4327401382		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	Eメール(メールアドレスは初回授業で配布予定)		

授業テーマ:

「コミュニケーション」について考える。

授業の概要:

前期に学習した言語についての知識を背景に、私たちの日常生活でおこるさまざまなエピソードをととして、コミュニケーションについて考えていく。

到達目標:

1. 日米におけるコミュニケーションの特徴や差異を例にコミュニケーションとは何かを理解する。
2. 無意識に持つステレオタイプに気づき、多様な社会における人間関係の構築に必要な態度について理解する。

授業方法:

基本的に講義形式で授業を進める。視聴覚教材も適宜利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: コミュニケーションとは何か	なし
2.	You and I are Equals	翌週学習予定チャプターのリーディング
3.	You and I are Close Friends	翌週学習予定チャプターのリーディング
4.	You and I are Relaxed	翌週学習予定チャプターのリーディング
5.	You and I are Independent	翌週学習予定チャプターのリーディング
6.	People as Individuals	翌週学習予定チャプターのリーディング
7.	Being Original	翌週学習予定チャプターのリーディング
8.	Questions, Questions!	翌週学習予定チャプターのリーディング
9.	Answer to the Point!	翌週学習予定チャプターのリーディング
10.	Conversational Ballgames	翌週学習予定チャプターのリーディング
11.	Don't Apologize!	翌週学習予定チャプターのリーディング
12.	Nobody Told Me!	翌週学習予定チャプターのリーディング
13.	復習(1): Polite Fictions	翌週学習予定チャプターのリーディング
14.	復習(2): 異文化間コミュニケーション	翌週学習予定チャプターのリーディング
15.	まとめ	既習チャプターの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

教科書を予め読んでくること。受講態度が悪い場合には授業の進行妨害とみなして退出を求める場合があるので注意すること。

フィードバックの方法:

授業内でコメント

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	30%	出席
	定期テスト	70%	学期末に実施する最終テスト

教科書:

Nancy Sakamoto, Shiyo Sakamoto著、『Polite Fictions in Collision―異文化との出会い・誤解・理解―』、金星堂・2008年刊、ISBN9784764737785

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール(メールアドレスは初回授業で配布予定)

授業テーマ:

英語音声を客観的・分析的に観察してみよう。

授業の概要:

英語の基本的な音体系、調音の方法を学び、英語音声学の基礎を養う。講義中心に進められるが、理論的な知識を背景に実際の発音練習も随時取り入れていく。

到達目標:

各母音・子音の発音記号を読み、それを正しく発音できるようになる。また、聴いた単語を発音記号で表記できるようになることを目指す。

授業方法:

講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	・オリエンテーション ・音について ・呼吸法 ・発音器官	・初回授業までにテキストを購入しておく。 ・Quizの準備
2.	・Quiz 1 ・母音と子音 ・母音の調音(1)	・前回授業で学んだ学習内容の復習
3.	・母音の調音(2)	・Quizの準備 ・前回授業で学んだ学習内容の復習
4.	・Quiz 2 ・母音の調音(3)	・前回授業で学んだ学習内容の復習
5.	・母音の調音(4)	・Quizの準備 ・前回授業で学んだ学習内容の復習
6.	・Quiz 3 ・子音の調音(1)	・前回授業で学んだ学習内容の復習
7.	・子音の調音(2)	・Quizの準備 ・前回授業内容の復習
8.	・Quiz 4 ・子音の調音(3)	・前回授業内容の復習
9.	・子音の調音(4)	・Quizの準備 ・前回授業内容の復習
10.	・Quiz 5 ・音節と語強勢	・Quizの準備 ・前回授業内容の復習
11.	・Quiz 6 ・文強勢	・Quizの準備 ・前回授業内容の復習
12.	・Quiz 7 ・プロジェクト	・Quizの準備 ・プロジェクトの準備(ワークシート) ・前回授業内容の復習
13.	・Quiz 8 ・プロジェクト	・Quizの準備 ・プロジェクトの準備(ワークシート) ・前回授業内容の復習
14.	・プロジェクト発表	・前回授業内容の復習
15.	・まとめ ・ワークシート提出	・春学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義は週1回の限られた時間であるため、理論の復習と継続的な発音練習を充分に行ってもらいたい。

フィードバックの方法:

・次回の授業で、Quizの正答を確認する。
・教員が提出物をチェックし、適宜コメントを記入後、返却する。
・教員、または学生同士で発音をチェックする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Quiz	20	8回行われるQuiz結果により評価。
	課題提出	10	課題内容の理解度により評価。
	プロジェクト	10	発表とワークシートの内容により評価。
	学期末試験	60	春学期の学習内容の理解度により評価。

教科書:

今井由美子他(著)、Sounds Make Perfect: 英語音声学への扉(英宝社)

参考書:

適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

Email、オフィスアワー

授業テーマ:

英語音声を客観的・分析的に観察してみよう。

授業の概要:

英語の基本的な音体系(リズムやイントネーションを含めた)を学び、英語音声学の基礎を養う。講義中心に進められるが、理論的な知識を背景に実際の発音練習も随時取り入れていく。英語音声学Iを履修済みであることが望ましい。

到達目標:

春学期に学習した母音・子音の知識を踏まえつつ、音のつながり・強勢・イントネーションについて習得し、コミュニケーション能力の向上を目指す。

授業方法:

講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	・オリエンテーション ・英語音声学Iの復習	・英語音声学Iを履修していない方は、初回授業までにテキストを購入しておくこと。
2.	・英語音声学Iの復習 ・ピッチとイントネーション	・Quizの準備 ・前回授業内容の復習 ・前回授業内容の復習
3.	・Quiz 1 ・音のつながり(1)	
4.	・音のつながり(2)	・Quizの準備 ・前回授業内容の復習
5.	・Quiz 2 ・音のつながり(3)	・Quizの準備 ・前回授業内容の復習 ・前回授業内容の復習
6.	・Quiz 3 ・イントネーション(列挙・選択疑問文・付加疑問文)	・前回授業内容の復習
7.	・文強勢の復習 ・機能語の弱形と強形	・Quizの準備 ・前回授業内容の復習
8.	・Quiz 4 ・句動詞	・Quizの準備 ・前回授業内容の復習 ・前回授業内容の復習
9.	・Quiz 5 ・話者の意図と強勢	・前回授業内容の復習
10.	合成語	・Quizの準備 ・前回授業内容の復習 ・前回授業内容の復習
11.	・Quiz 6 ・名詞連続	
12.	・プロジェクト(Oral Interpretation)	・Quizの準備 ・プロジェクトの準備(ワークシート) ・前回授業内容の復習 ・前回授業内容の復習 ・プロジェクトの準備(ワークシート)
13.	・Quiz 7 ・プロジェクト	・前回授業内容の復習 ・プロジェクトの準備(ワークシート)
14.	・プロジェクト発表	・前回授業内容の復習
15.	まとめ ・ワークシート提出	・秋学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義は週1回の限られた時間であるため、理論の復習と継続的な発音練習を充分に行ってもらいたい。

フィードバックの方法:

・次回の授業で、Quizの正答を確認する。
・教員が提出物をチェックし、適宜コメントを記入後、返却する。
・教員、または学生同士で発音をチェックする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Quiz	20	7回行われるQuiz結果により評価。
	課題提出	10	課題内容の理解度により評価。
	プロジェクト	10	発表とワークシートの内容により評価。
	学期末試験	60	秋学期の学習内容の理解度により評価。

教科書:

今井由美子他(著)、Sounds Make Perfect: 英語音声学への扉(英宝社)

参考書:

適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Email、オフィスアワー

授業テーマ:	英語教育のための英語学		
授業の概要:	外国語である英語を効果的に教えることは易しいことではありません。学習者の意欲を高めるような教授法に加え、英語という言語に対する広い見識と深い知識が求められます。この授業では、「英語とはどのような言語なのか」という問題について、英語学の知見を通して、学生のみなさんと一緒に考えます。		
到達目標:	英語教育という視点から英語学的知見を捉え、「日本人にとって効果的な英語の教え方・学び方とはどのようなものか」について考えることができるような、言語学的知識を構築することが、この授業の目標です。		
授業方法:	講義形式中心で授業を行います。適宜プリントを配布し、プリントに従って授業を進めます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション(英語教育のための英語学とは)	テキスト(第1章)	
	2. 音声学・音韻論 (1)発声と調音	テキスト(第1章)	
	3. 音声学・音韻論 (2)母音と子音、音素	テキスト(第1章)	
	4. 音声学・音韻論 (3)音節、語アクセント	テキスト(第1章)	
	5. 形態論 (1)語の特徴	テキスト(第2章)	
	6. 形態論 (2)語形成の過程	テキスト(第2章)	
	7. 形態論 (3)語形成の特徴	テキスト(第2章)	
	8. 英語の歴史 (1)古英語	テキスト(第7章)	
	9. 英語の歴史 (2)中英語	テキスト(第7章)	
	10. 英語の歴史 (3)近代英語	テキスト(第7章)	
	11. 英語の歴史 (4)様々な英語(World Englishes)	テキスト(第7章)	
	12. コーパス言語学	配付資料	
	13. 英語学と英語教育 (1)発音指導、リスニング指導	配付資料	
	14. 英語学と英語教育 (2)語彙指導	配付資料	
	15. まとめ	配付資料	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業中の質疑応答でフィードバックを行います。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト・レポート	10	各テーマに関する理解度により評価する。
	期末試験	90	英語学の知見に関する基本的な理解と、英語教育における応用という観点より、評価する。
教科書:	「日英語対照による英語学概論(増補版)」 西光義弘 他(著) くろしお出版		
参考書:	適宜、授業中に指示します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	nakamats@mail.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

英語教育のための英語学

授業の概要:

外国語である英語を効果的に教えることは易しいことではありません。学習者の意欲を高めるような教授法に加え、英語という言語に対する広い見識と深い知識が求められます。この授業では、「英語とはどのような言語なのか」という問題について、英語学の知見を通して、学生のみなさんと一緒に考えます。

到達目標:

英語教育という視点から英語学的知見を捉え、「日本人にとって効果的な英語の教え方・学び方とはどのようなものか」について考えることができるような、言語学的知識を構築することが、この授業の目標です。

授業方法:

講義形式中心で授業を行います。適宜プリントを配布し、プリントに従って授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション(英語教育のための英語学とは)	テキスト(第3章)
	2. 統語論 (1)言語習得、生成文法	テキスト(第3章)
	3. 統語論 (2)句構造	テキスト(第3章)
	4. 統語論 (3)文構造	テキスト(第3章)
	5. 意味論 (1)意味論観(客観主義と認知主義)	テキスト(第5章)
	6. 意味論 (2)語の意味	テキスト(第5章)
	7. 意味論 (3)文の意味	テキスト(第5章)
	8. 認知言語学 (1)認知言語学とは	配付資料
	9. 認知言語学 (2)認知意味論	配付資料
	10. 認知言語学 (3)認知文法	配付資料
	11. 語用論 (1)対人的機能	テキスト(第6章)
	12. 語用論 (2)脈絡的機能	テキスト(第6章)
	13. 英語学と英語教育 (1)文法指導	配付資料
	14. 英語学と英語教育 (2)語彙指導	配付資料
	15. まとめ	配付資料

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中の質疑応答でフィードバックを行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト・レポート	10	各テーマに関する理解度により評価する。 英語学の知見に関する基本的な理解と、英語教育における応用という観点より、評価する。
	期末試験	90	

教科書:

「日英語対照による英語学概論(増補版)」 西光義弘 他(著) くろしお出版

参考書:

適宜、授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

nakamats@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

外国語教育(教授・学習)のメカニズムについて理解を深めよう: 早期英語教育は効果があるのだろうか？

授業の概要:

このコースでは、以下にあげる3点を目標とします。
(1) 第一・第二言語習得理論 (SLA) から外国語習得のメカニズムについて理解と関心を深める。
(2) 特に年齢が外国語学習に与える影響について理解を深める。
(3) 特に外国語学習における学習動機 (Motivation) の役割について理解を深める。

到達目標:

(1) 外国語学習の基本概念を知り、学んだ知識を自分自身の英語学習に活かすことが出来る。
(2) 応用言語学にさらに興味関心を持つ。
(3) 協働学習の重要性が理解できる。

授業方法:

授業計画のテーマに沿い、授業をすすめます。いくつかのパターンが想定されますが、講義に加えてグループを中心に、自ら考え・意見交流ができるようなActive Learningの形を目指します。いずれにせよ、このコースでは、予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることが求められます。ManabaやMoodleなどのインターネットLMSの利用も検討します。できる限り、ビデオなど視聴覚教材およびコンピュータを利用し、わかりやすい授業を心がけます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション、Applied Linguistics、応用言語学とは？(1)	授業への期待することを考える
2. グループ・ワーク、コースへの期待、応用言語学とは？(2)	授業への期待することを考える
3. Section 1. 母語習得 (L1)・第二言語習得理論 (SLA) 習得理論:「言語の習得に賞味期限はあるの？」—年齢の影響—臨界期・敏感期	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
4. 年齢の影響 —1st language acquisition (Genie/Victorの場合)(1) Natural Experiment	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
5. 年齢の影響 —1st language acquisition (Genie/Victorの場合)(2) Input	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
6. 年齢の影響 —1st language acquisition (Genie/Victorの場合)(3) Language Acquisition Device	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
7. 年齢の影響 —1st language acquisition (Genie/Victorの場合)(4) Universal Grammar	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
8. 年齢の影響 —2nd language acquisition (Patkowskyの研究)(1) Immigrants	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
9. 年齢の影響 —2nd language acquisition (Patkowskyの研究)(2) Is younger better?	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
10. 年齢の影響 —2nd language acquisition (Snow達の研究) (Section 1のまとめ)	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
11. Section 2. 学習者要因「なぜ個人差があるのか？」—英語を学ぶ動機は影響する？Motivation(1)	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
12. 英語を学ぶ動機は影響する？Motivation(2)	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
13. 文化やパーソナリティは影響する？Culture and Personality	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
14. 世界における英語使用「国際共通語？」—世界の英語 (World Englishes) ESL, EFL, EIL	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
15. まとめ	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する

受講者へのメッセージやアドバイス:

将来、教職に就きたいと考えている学生(英語・日本語教育)だけでなく、英語教育副専攻の日本語日本文学科の学生、外国語教育(英語・日本語教育)に一般的な興味・関心がある(例えば、自分自身の英語学習をさらに発展させたらよいか、将来子供を持ったときどのような外国語教育を自分の子供に受けさせるかなど)、または塾講師など何らかの形で外国語教育に関わる仕事に就きたいと考えている学生など、幅広い学生の受講を歓迎します。また、将来、オーストラリアなど国内外で日本語を教える(ATJ Program)といった、日本語教育に関心のある学生にとっても有益な情報が得られると思います。

フィードバックの方法:

ManabaまたはMoodleへの投稿は授業中に紹介する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	40	到達目標(1)～(3)に関する知識により評価する
授業中のディスカッション態度	10	Active Learningに参加しているかどうかにより評価する
ファイナルテスト	50	到達目標(1)～(3)に関する知識により評価する

教科書:

使用しない。ハンドアウトを配布する。

参考書:

授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

授業テーマ:

外国語教育(教授・学習)のメカニズムについて理解を深めよう:日本の英語教育は間違っている?

授業の概要:

(1)効果的な外国語の教え方について理解を深める。
(2)第二言語習得理論からの知見について理解を深める。
(3)よくいわれるコミュニケーション能力の実体について理解を深める。

到達目標:

(1)外国語教授法の背景と代表的な教え方についての理解が深まる。
(2)代表的な第二言語習得理論について理解が深まる
(3)コミュニケーション能力について理解が深まる。
(4)今後、外国語をどのように自らが学び、または職業として教えればいいのか、興味が深まる。

授業方法:

授業計画のテーマに沿い、授業をすすめます。いくつかのパターンが想定されますが、講義に加えてグループを中心に、自ら考え・意見交流ができるようなActive Learningの形を目指します。いずれにせよ、このコースでは、予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることが求められます。ManabaやMoodleなどのインターネットLMSの利用も検討します。できる限り、ビデオなど視聴覚教材およびコンピュータを利用し、わかりやすい授業を心がけます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション(1)	授業に期待することを考える
	2. イントロダクション(2) グループ・ワーク	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	3. Section 3.「効果的な外国語の教え方とは?」― 文法訳読法(Grammar Translation Method)	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	4. コミュニティブアプローチ(Communicative Language Teaching)・イマージョン教育(Immersion)	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	5. 直接法アプローチ(Direct Method)	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	6. 小学校外国語活動から高校の英語の授業まで	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	7. Section 4.「第二言語習得理論は何を教えてください?」― インプット仮説(Input Hypothesis)	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	8. 自然習得順序仮説(Natural Order Hypothesis)・情意フィルター仮説(Affective Filter Hypothesis)	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	9. アウトプット仮説(Output Hypothesis)	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	10. 相互作用仮説(Interaction Hypothesis)	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	11. Section 5.「コミュニケーション能力とは?」― コミュニケーション能力(Communicative Competence) 1	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	12. コミュニケーション能力(Communicative Competence) 2	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	13. コミュニケーション能力(Communicative Competence) 3	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	14. これから私達はどうか外国語を学び・教えればいいのか?	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する
	15. まとめ	課題についてManaba又はMoodleへ投稿する

受講者へのメッセージやアドバイス:

多くの皆さんが春学期のIのコースを受講しているとは思いますが、コース参加者が特に何かの先行知識を持っていることは想定しないで授業をすすめます。教科書は英語で書かれたものですが、高い英語能力がなくとも授業についてゆけるように工夫します。

ただし、外国語教育(英語・日本語教育)に興味・関心を持ち、いろいろなアクティビティーに積極的に参加する・学ぶ姿勢を持つことが望まれます。また過去の学習体験や塾・家庭教師(おしえた・教えてもらった)などの経験をうまく活用してください。

フィードバックの方法:

ManabaまたはMoodleへの投稿は授業中に紹介する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題	40	到達目標(1)~(4)に関する知識により評価する
	授業中のディスカッション態度	10	Active Learningに参加しているかどうかにより評価する
	ファイナルテスト	50	到達目標(1)~(4)に関する知識により評価する

教科書:

使用しない。ハンドアウトを配布。

参考書:

授業中に提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

授業テーマ:

翻訳への理解のアプローチ(英語から日本語へ)

授業の概要:

翻訳は、単に単語を置き換えていく作業ではない。ことばは、数字や記号のように抽象的なものではなく、そのことばが話されている社会にのみ共通な、文化固有の経験の概念化、構造化である。したがって、言語それ自体が一つの「文化」、「社会制度」なのである。よって翻訳は、翻訳者自身が、自分の文化とは異なる、新しいものの見方と、異文化における新しいスタイルを身につけていくということでもある。授業は、翻訳未経験者向けの初級レベルであるが、こうした翻訳の基本を踏まえ、実際に様々なジャンルの翻訳作業をしながら、翻訳の基礎を学んでいく。

到達目標:

異なったジャンルの翻訳を体験しながら、翻訳の仕方の違いを学ぶ。そこから翻訳の難しさと奥深さ、その楽しさを実際に味わってもらふ。また、日本語と英語の構造の違いや発想の違いを学びながら、これまでやってきた英文和訳と翻訳との違いを、体得してもらふ。

授業方法:	講義・演習の混合
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	
授業内容	準備学習等の内容
1. Course Introduction -人称代名詞の翻訳を例に- 1. Newspaper Articles: 新聞記事を読む (1) ハードニュースとソフトニュース (2) 重複を嫌う英語特有の言い換えと翻訳	Newspaper Articlesの予習問題 Assignment #1
2. 1. Newspaper Articles: (3) 挿入構文の翻訳 (4) 原文の流れを乱さない翻訳	Newspaper Articles-(2),(3),(4)の復習問題 Assignment # 2
3. 訳してきた新聞記事(Assignment #1)を、3-4名のグループになって、再考し提出 (Group Work #1) 1. Newspaper Articles: Assignment #2 提出 Group Work #1の比較 (5) Headlineに特徴的な述語動詞の使われ方とその翻訳 (6) Headlineに特徴的な他の語法とその翻訳	Headline-(5),(6)の復習問題 Assignment # 3
4. 2. Magazine Articles: Assignment # 3(発表形式で答えあわせ、その解説) (1)長文の訳し方になれる 関係代名詞、分詞、不定詞を使った文章の翻訳 順送と逆送り 雑誌を訳す(Group Work #2)	Magazine-(1) の復習問題 Assignment #4
5. 2. Magazine Articles Assignment #4 提出 Group Work # 2の比較 (1)英語特有の構文、関係代名詞とその翻訳 (2)名詞中心(もの中心)の英語と動詞中心(ことがら中心)の日本語-名詞の中に動詞を読む	Magazine-(2)の復習問題 Assignment #5
6. 3. Novels: Assignment #5 (発表形式で答えあわせ、その解説) (1)品詞の転換 (2)文化背景の違いとその翻訳	Magazine- (3) 、Novels-(1)の復習問題Assignment #6
7. 3. Novels: Assignment #6(発表形式で答えあわせ、その解説) (3)英文の句読法と和文の句読法 小説を訳す	Novels-(1),(2)の復習-小説(部分)を訳す Assignment #7
8. 3. Novels: 訳してきた小説(Assignment #7)を、グループで、再考し提出 (Group Work #3) 複数の訳者による異なった翻訳の比較	
9. 3. Novels: Group Work #3の比較 4. Movie Subtitles: (1)決められた字数に合わせて訳す (2)会話の流れの中で訳す 映画(部分)観ながら、映画に字幕をつける	Movie Subtitles (1),(2)の復習-映画(部分)に字幕をつける Assignment #8
10. 4. Movie Subtitles: 訳してきた映画(Assignment #8)を、グループで、再考し提出 (Group Work #4)	
11. 4. Movie Subtitles: Group Work #4の比較	
12. 身体・言葉・表現 -DVD鑑賞と講義- (1)NHK「シリーズ 授業」DVD女優・演出家岡輝子の授業-宮沢賢治を読む (2)身振りと表現 -演出家竹内敏晴著『ことばが劈かれるとき』-	DVDを観て「身体・言葉・表現」についてのレポート作成
13. レポート提出 5. Children's Books: (1)分かち書き (2)絵との協調で訳す 絵本を訳す	Children's Books-(1),(2)の復習 絵本を訳す Assignment #9
14. 5. Children's Books: Assignment #9を提出 絵本を訳す (3)英語と日本語の擬音語と擬態語の違い	
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

翻訳に正しい答えはありません。そこに翻訳の難しさもあるのですが、同時に翻訳者の独自性を発揮する余地もそこにあります。作者との対話、読者への配慮、そして自分との対話。これらを通して、初めて可能になる翻訳は、そうした意味においても非常に人間的な作業です。

フィードバックの方法：提出物は基本的に添削して返却します(教室で返却)。課題によっては、授業で発表してもらいながら、その場で解説していく場合もあります。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60%	到達目標でもある、ジャンルによって異なる翻訳の違いについて、また言語の違いが文化の違い、発想の違いであることへ理解がどれほど習得できているかを基準にして評価する。
	提出物(課題、レポート)	20%	授業でしたことがどれくらい理解できているかを基準に評価する。
	発表, 授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標への理解を深めようとどれくらい努めているかを基準に評価する。

教科書：

参考書：竹内敏晴『ことばが劈かれるとき』ちくま文庫
イバン・イリイチ『オルターナティブズ』新評論
安西徹雄『英語の発想』ちくま学芸文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法：tyoshie@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ: 翻訳へのアプローチ(英語から日本語へ)

授業の概要: 単語ひとつひとつの訳語を辞書で調べて、それを総合してみても全体の意味にはならない。「翻訳は常に全体から、生まれてくるもの。全体を見て愛さなければ一つ一つを理解できない。文章全体を自分の中に取りこんで心と一体化する。」これはロシア出身の名翻訳家スヴェトラナ・ガイヤの言葉である。「全体」の意味が明確になって、初めてふさわしい訳語が確定できる。しかしさあたつては「部分」から出発するほかない、という矛盾が「翻訳」にはある。この矛盾を自覚的に遂行していくことが「翻訳」でもある。翻訳法Ⅱでは、翻訳法Ⅰで学んだことを踏まえ、こうしたことを、一定の長さのテキストを読み、実際翻訳しながら体験していく。

到達目標: 一つの閉じられたテキストを翻訳するうえで、全体と部分がいかに密接に結びついているかを理解し、一つの単語のふさわしい訳語は、「全体」と「部分」との関係からしか確定されえないことを体得する。そして異なる文化、異なるスタイル、異なるジャンルの文字を読み解いていくことの難しさを身をもって体験する。そうすることで、豆單で習得する単語習得とは異なった、身振りを通した含蓄に富んだ言葉(英語および日本語)の習得を目指す。

授業方法: 演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction - ナイチンゲール『看護の覚書き-まえがき-』を例に- 歴史的背景、背後にある伝統、英語の歴史、作者が目指す世界等を考慮にいれ翻訳すること	skimming (pp.73-77) 話の全体像を捉えるassignment #1
2.	作品1.Yuki-Onna by Lafcadio Hearn-日本を舞台にした怪談物語を読む- 作品1. Yuki-Onna by Lafcadio Hearn-日本を舞台にした怪談物語を訳す- 段落ごとに、内容を確認(発表) close reading (pp.73-pp.75/1.9) 人称代名詞と指示代名詞(日本語と英語の違い) 翻訳(部分)作業	close reading (pp.75/ 1.10-pp.77)
3.	作品1. Yuki-Onna by Lafcadio Hearn-日本を舞台にした怪談物語を訳す- 翻訳(発表) close reading (pp.75/ 1.10-pp.77) 翻訳作業(部分)	翻訳(部分)assignment #2 The Laird O'Co reading assignment (pp.158-pp.159 /1.18)
4.	Assignment #2 提出 作品2.The Laird O'Co -スコットランドのおとぎ話を読む- スコットランドの文化と時代背景の理解 登場人物のイメージをつかむ 内容の確認 close reading (pp.158-pp.159 /1.18) 翻訳作業(部分)	close reading (pp.159 /1.19-pp.161/1.2)
5.	作品2.The Laird O'Co -スコットランドのおとぎ話を訳す- 内容の確認(発表) close reading (pp.159 /1.19-pp.161/1.2) -原文の流れをできるだけ乱さずに訳す、名詞の中に動詞を読む練習を中心に- 翻訳作業(部分)	close reading (pp.161/1.2-pp.163)
6.	作品2.The Laird O'Co -スコットランドのおとぎ話を訳す- 内容の確認(発表)close reading (pp.161/1.2-pp.163) 翻訳作業(部分)	練習問題「無生物主語の訳し方」assignment #3 The Laird O'Co 翻訳(部分)assignment #4
7.	assignment #3(発表形式で答えあわせ、解説) assignment #4 提出 作品3. The Nice Cup of Tea by Anthony Glyn-イギリス人のエッセイを読んで訳す- Paragraph 1. 2を翻訳するにあたって- 文化的歴史的背景の理解 言葉が担う歴史の理解 イギリス史と紅茶の関係等を見る	reading (paragraph15-23)後半部分を日本語で読み、全体の予想を立てる。reading assignment (paragraph 3-6)
8.	作品3. The Nice Cup of Tea by Anthony Glyn-イギリス人のエッセイを訳す- paragraph 3-6 内容の確認(発表) 翻訳作業	reading assignment (paragraph 7-9) & 翻訳(部分)assignment #5 (paragraph 1~6の中から)
9.	作品3. The Nice Cup of Tea by Anthony Glyn-イギリス人のエッセイを訳す- assignment #5 提出 paragraph 7-9 内容の確認(発表) 翻訳作業:直訳から意訳へ	reading assignment (paragraph 10-14)
10.	作品3. The Nice Cup of Tea by Anthony Glyn-イギリス人のエッセイを訳す- paragraph 10-14内容の確認(発表)	翻訳(部分)assignment #6 (paragraph 7-14の中から)
11.	assignment #6 提出 作品4. The Doctor And The Soul by Viktor E. FranklのIntroductionを訳す。 全体像の把握 technical terms の確認 paragraph 1-4 確認	reading assignment paragraph 5-9
12.	作品4. The Doctor And The Soul by Viktor E. FranklのIntroductionを訳す。 内容の確認(発表) close reading (paragraph 5-9) 翻訳作業	reading assignment paragraph 10-15

13.	作品4. The Doctor And The Soul by Viktor E. Frankl のIntroductionを訳す。 内容の確認(発表) close reading (paragraph 10-15) 翻訳作業	reading assignment paragraph 16-22
14.	作品4. The Doctor And The Soul by Viktor E. Frankl のIntroductionを訳す。 内容の確認(発表) close reading (paragraph 16-22) 翻訳作業	reading assignment paragraph 23-30
15.	作品4. The Doctor And The Soul by Viktor E. Frankl のIntroductionを訳す。 まとめ レポート作成	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

英語には英語の、フランス語にはフランス語の、日本語には日本語でしか言い表せない分野が存在します。それをどのように翻訳するのか。それは翻訳者が作者に同調しながら、作者と一緒に同じステップを踏んで踊ってみるしかありません。作者(他者)のステップを学び、他者の文化を自分が一緒に演じてみる。良い翻訳はそこから、初めて生まれてきます。

フィードバックの
方法:

提出物は基本的に添削して返却します(教室で返却)。課題によっては、授業で発表してもらいながら、その場で解説していきます。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物、レポート	70%	授業でしたことがどれくらい理解できているかを基準に評価する。
授業への参加度	30%	積極的に授業に参加しているかどうか、また到達目標への理解を深めようとどれくらい努めているかを基準に評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡
方法:

tyoshie@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	色々なジャンルの基本的な英文・和文を翻訳してみよう！																																		
授業の概要:	翻訳とは一字一句正確に訳することが翻訳なのだろうか？また、一字一句訳したものがその言語を話す人たちに正確に伝わるのだろうか？感動を伝えることができるのだろうか？文化の違い、思考の違い、価値観の違いが二つの言語の間に介在する限り、翻訳家の苦勞と工夫は限りない。その違いに留意しながら、まずは、原文の解釈をグループでディスカッションを通して徹底的に行い、翻訳を行う。																																		
到達目標:	基本的な英文・和文の文章を色々なパターンでパラフレーズング訳出し、それぞれの文章が持つイメージや響きを比較検討できるようにしたい。																																		
授業方法:	グループディスカッションによる原文の分析→イメージに合う単語の選出→パラフレーズング→比較検討																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 翻訳と通訳の違い</td><td>課題の文章を自分なりに翻訳し、工夫した点などをレポート</td></tr><tr><td>2. 日本語と英語の違い * 名詞化による情報の圧縮 * 物質主語と他動詞 * 英語は解凍しなくっちゃ！ * 主語はどこへ？ * 代名詞はどうしよう</td><td>同上</td></tr><tr><td>3. 絵本 ピーターラビット 英日</td><td>同上</td></tr><tr><td>4. 絵本 ピーターラビット 日英 パラフレーズングとは？</td><td>同上</td></tr><tr><td>5. 絵本 日本の童話 英日</td><td>同上</td></tr><tr><td>6. 絵本 日本の童話 日英</td><td>同上</td></tr><tr><td>7. プレゼンテーション1</td><td>同上</td></tr><tr><td>8. 日本のマンガ1 英日</td><td>同上</td></tr><tr><td>9. 日本のマンガ1 日英</td><td>同上</td></tr><tr><td>10. 日本のマンガ2 英日</td><td>同上</td></tr><tr><td>11. 日本のマンガ2 日英</td><td>同上</td></tr><tr><td>12. 生活冊子 英日</td><td>同上</td></tr><tr><td>13. 生活冊子 日英</td><td>同上</td></tr><tr><td>14. プレゼンテーション2A</td><td>同上</td></tr><tr><td>15. プレゼンテーション2B</td><td>同上</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 翻訳と通訳の違い	課題の文章を自分なりに翻訳し、工夫した点などをレポート	2. 日本語と英語の違い * 名詞化による情報の圧縮 * 物質主語と他動詞 * 英語は解凍しなくっちゃ！ * 主語はどこへ？ * 代名詞はどうしよう	同上	3. 絵本 ピーターラビット 英日	同上	4. 絵本 ピーターラビット 日英 パラフレーズングとは？	同上	5. 絵本 日本の童話 英日	同上	6. 絵本 日本の童話 日英	同上	7. プレゼンテーション1	同上	8. 日本のマンガ1 英日	同上	9. 日本のマンガ1 日英	同上	10. 日本のマンガ2 英日	同上	11. 日本のマンガ2 日英	同上	12. 生活冊子 英日	同上	13. 生活冊子 日英	同上	14. プレゼンテーション2A	同上	15. プレゼンテーション2B	同上		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 翻訳と通訳の違い	課題の文章を自分なりに翻訳し、工夫した点などをレポート																																		
2. 日本語と英語の違い * 名詞化による情報の圧縮 * 物質主語と他動詞 * 英語は解凍しなくっちゃ！ * 主語はどこへ？ * 代名詞はどうしよう	同上																																		
3. 絵本 ピーターラビット 英日	同上																																		
4. 絵本 ピーターラビット 日英 パラフレーズングとは？	同上																																		
5. 絵本 日本の童話 英日	同上																																		
6. 絵本 日本の童話 日英	同上																																		
7. プレゼンテーション1	同上																																		
8. 日本のマンガ1 英日	同上																																		
9. 日本のマンガ1 日英	同上																																		
10. 日本のマンガ2 英日	同上																																		
11. 日本のマンガ2 日英	同上																																		
12. 生活冊子 英日	同上																																		
13. 生活冊子 日英	同上																																		
14. プレゼンテーション2A	同上																																		
15. プレゼンテーション2B	同上																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	基本的に難易度の中程度のものを扱う。グループでディスカッションしながら進めるので、英語に自信がなくても参加可能。																																		
フィードバックの方法:	授業内で解説																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート 5回</td><td>50</td><td rowspan="3">翻訳のレベルよりも原文と翻訳文の比較分析した内容を主に評価</td></tr><tr><td>プレゼンテーション1</td><td>20</td></tr><tr><td>プレゼンテーション2</td><td>30</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート 5回	50	翻訳のレベルよりも原文と翻訳文の比較分析した内容を主に評価	プレゼンテーション1	20	プレゼンテーション2	30																								
評価方法	割合	評価基準																																	
レポート 5回	50	翻訳のレベルよりも原文と翻訳文の比較分析した内容を主に評価																																	
プレゼンテーション1	20																																		
プレゼンテーション2	30																																		
教科書:	なし																																		
参考書:	授業内で紹介																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に対応																																		

授業テーマ:	色々なジャンルのやや難易度の高い英文・和文を翻訳してみよう！																																		
授業の概要:	翻訳とは一字一句正確に訳することが翻訳なのだろうか？また、一字一句訳したものがその言語を話す人たちに正確に伝わるのだろうか？感動を伝えることができるのだろうか？文化の違い、思考の違い、価値観の違いが二つの言語の間に介在する限り、翻訳家の苦労と工夫は限りない。その違いに留意しながら、まずは、原文の解釈をグループでディスカッションを通して徹底的に行い、翻訳を行う。																																		
到達目標:	ビジネスの場面で使う英文・和文の文章を色々なパターンでパラフレーズ訳出し、それぞれの文章が持つイメージや響きを比較検討できるようにしたい。																																		
授業方法:	グループディスカッションによる原文の分析→イメージに合う単語の選出→パラフレーズ→比較検討																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 翻訳と通訳の違い</td><td>課題の文章を自分なりに翻訳し、工夫した点などをレポート</td></tr><tr><td>2. 日本語と英語の違い * 名詞化による情報の圧縮 * 物質主語と他動詞 * 英語は解凍しなくっちゃ！ * 主語はどこへ？ * 代名詞はどうしよう</td><td>同上</td></tr><tr><td>3. 観光パンフレット 英日</td><td>同上</td></tr><tr><td>4. 観光パンフレット 英日</td><td>同上</td></tr><tr><td>5. 観光パンフレット 日英 パラフレーズとは？</td><td>同上</td></tr><tr><td>6. 観光パンフレット 日英</td><td>同上</td></tr><tr><td>7. プレゼンテーション1</td><td>同上</td></tr><tr><td>8. メーカ企業 ホームページ 英日 企業説明</td><td>同上</td></tr><tr><td>9. メーカ企業 ホームページ 日英 企業説明</td><td>同上</td></tr><tr><td>10. メーカ企業 ホームページ 日英 企業説明</td><td>同上</td></tr><tr><td>11. メーカ企業 ホームページ 英日 商品説明</td><td>同上</td></tr><tr><td>12. メーカ企業 ホームページ 日英 商品説明</td><td>同上</td></tr><tr><td>13. メーカ企業 ホームページ 日英 商品説明</td><td>同上</td></tr><tr><td>14. プレゼンテーション2A</td><td>同上</td></tr><tr><td>15. プレゼンテーション2B</td><td>同上</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 翻訳と通訳の違い	課題の文章を自分なりに翻訳し、工夫した点などをレポート	2. 日本語と英語の違い * 名詞化による情報の圧縮 * 物質主語と他動詞 * 英語は解凍しなくっちゃ！ * 主語はどこへ？ * 代名詞はどうしよう	同上	3. 観光パンフレット 英日	同上	4. 観光パンフレット 英日	同上	5. 観光パンフレット 日英 パラフレーズとは？	同上	6. 観光パンフレット 日英	同上	7. プレゼンテーション1	同上	8. メーカ企業 ホームページ 英日 企業説明	同上	9. メーカ企業 ホームページ 日英 企業説明	同上	10. メーカ企業 ホームページ 日英 企業説明	同上	11. メーカ企業 ホームページ 英日 商品説明	同上	12. メーカ企業 ホームページ 日英 商品説明	同上	13. メーカ企業 ホームページ 日英 商品説明	同上	14. プレゼンテーション2A	同上	15. プレゼンテーション2B	同上		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 翻訳と通訳の違い	課題の文章を自分なりに翻訳し、工夫した点などをレポート																																		
2. 日本語と英語の違い * 名詞化による情報の圧縮 * 物質主語と他動詞 * 英語は解凍しなくっちゃ！ * 主語はどこへ？ * 代名詞はどうしよう	同上																																		
3. 観光パンフレット 英日	同上																																		
4. 観光パンフレット 英日	同上																																		
5. 観光パンフレット 日英 パラフレーズとは？	同上																																		
6. 観光パンフレット 日英	同上																																		
7. プレゼンテーション1	同上																																		
8. メーカ企業 ホームページ 英日 企業説明	同上																																		
9. メーカ企業 ホームページ 日英 企業説明	同上																																		
10. メーカ企業 ホームページ 日英 企業説明	同上																																		
11. メーカ企業 ホームページ 英日 商品説明	同上																																		
12. メーカ企業 ホームページ 日英 商品説明	同上																																		
13. メーカ企業 ホームページ 日英 商品説明	同上																																		
14. プレゼンテーション2A	同上																																		
15. プレゼンテーション2B	同上																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	やや難易度の高い翻訳に挑戦するため基本的文法力は必要。グループでディスカッションしながら進めるので、いろんな表現方法が身に付き、仕事場での翻訳業務の基礎を習得可能。																																		
フィードバックの方法:	授業内で解説																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート 4回</td><td>40</td><td>翻訳のレベルよりも原文と翻訳文の比較分析した内容を主に評価</td></tr><tr><td>プレゼンテーション1</td><td>20</td><td>同上</td></tr><tr><td>プレゼンテーション2</td><td>40</td><td>同上</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート 4回	40	翻訳のレベルよりも原文と翻訳文の比較分析した内容を主に評価	プレゼンテーション1	20	同上	プレゼンテーション2	40	同上																						
評価方法	割合	評価基準																																	
レポート 4回	40	翻訳のレベルよりも原文と翻訳文の比較分析した内容を主に評価																																	
プレゼンテーション1	20	同上																																	
プレゼンテーション2	40	同上																																	
教科書:	なし																																		
参考書:	授業内で紹介																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に対応																																		

授業テーマ:

通訳の基礎訓練法を取り入れ、英語の運用能力を高める

授業の概要:

通訳トレーニング法の目的、効用を理解し、練習方法を身につけ、トレーニングの反復により英語の運用能力を高める。

到達目標:

クイック・リスponsやシャドーイング、サイトトランスレーションなど、実用的な英語力習得のための練習法を身に着ける。

授業方法:

Call 教室の設備を使ったトレーニングを中心とした授業(ペアワークやグループワーク、通訳パフォーマンスの発表等を含む)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業で紹介されたメソッドの確認・反復
2.	Unit 1 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
3.	Unit 1 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
4.	Unit 2 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
5.	Unit 2 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
6.	Unit 3 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
7.	Unit 3 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
8.	Unit 4 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
9.	Unit 4 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
10.	Unit 5 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
11.	Unit 5 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
12.	Unit 6 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
13.	Unit 6 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
14.	まとめのテスト	春期の総復習
15.	Review	テストの見直し

受講者へのメッセージやアドバイス:

通訳訓練には単語の暗記や反復練習など根気のいる作業が多く含まれるため、単調な反復トレーニングに耐えられるもののみ受講すること。

フィードバックの方法:

毎回の授業のパフォーマンスに対して適宜コメントを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業参加・姿勢	30	授業に積極的に参加しているか
	パフォーマンス(または小テスト)	30	前回の授業で扱った語彙、通訳課題等が定着しているか
	まとめのテスト	40	前期の授業内容の定着度および実力評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

通訳の基礎訓練法を取り入れ、英語の運用能力を高める

授業の概要:

通訳訓練メソッドの目的、効用を理解し、訓練の方法を身につけ、トレーニングを通じて英語力の向上をめざす。

到達目標:

クイック・リスponsやシャドーイング、サイトトランスレーションなど、実用的な英語力習得のための練習法を身に着ける。

授業方法:

Call 教室の機能を使ったトレーニングを中心とした授業（ペアワーク、グループワーク、通訳パフォーマンスの発表等を含む）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	授業で紹介されたメソッドの確認・反復
	2. Unit 7 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	3. Unit 7 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	4. Unit 8 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	5. Unit 8 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	6. Unit 9 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	7. Unit 9 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	8. Unit 10 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	9. Unit 10 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	10. Unit 11 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	11. Unit 11 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	12. Unit 12 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	13. Unit 12(2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	14. まとめのテスト	秋期の復習
	15. Review	テストの見直し

受講者へのメッセージやアドバイス:

通訳訓練には単語の暗記や反復練習など根気のいる作業が多く含まれるため、単調な反復トレーニングに耐えられるもののみ受講すること。

フィードバックの方法:

毎回の授業のパフォーマンスに対して適宜コメントを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業参加・姿勢	30	授業に積極的に参加しているか
	パフォーマンス(または小テスト)	30	前回の授業で扱った語彙、通訳課題等が定着しているか
	まとめのテスト	40	前期の授業内容の定着度および実力評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で応対

授業テーマ:	現代に生きる、ファンタジー文学の多彩な魅力		
授業の概要:	「ファンタジー」という文学ジャンルには「子供向きの荒唐無稽な物語」というイメージが先行するが、優れたファンタジー文学とは、子供ばかりか大人にも社会や人生を語り、夢と勇気を与えてくれるものである。アメリカでは1970年代以降「伝統のおとぎ話」へのフェミニストの批判が活発になり、フェミニスト・フェアリーテイル(再話・創作)の出現につながった。また古来、著名なファンタジー作家を輩出してきたイギリスでは、一流の知識人がファンタジー文学をライフワークとし、大人向きの優れた文学作品にも、ファンタジー嗜好がみられることが多い。彼らが執着したファンタジー文学の魅力とは何だろう？また私たちは今、これらの作品から何を読み取るべきだろう？ 本講座では、代表的作品をいくつか分析し、そこにみられる欧米の社会や歴史、風俗や国民性について論じたい。関連する映画や図版なども参照する。ファンタジー文学の多彩な魅力を実感し、知識と理解を深めてもらいたい。		
到達目標:	・代表的ファンタジー文学に関する知識(概略、登場人物、作者、時代背景など)の修得 ・「伝統のおとぎ話」へのフェミニストの批判(1970年代)と、フェミニスト・フェアリーテイル(再話・創作)に関する知識の修得 ・ファンタジー文学の魅力に関する、理解力の育成		
授業方法:	パワーポイントや教材提示装置を利用し、各種の資料(美術も含む)を参照しつつ、担当者(小山)が講義する。受身でなく、知的好奇心と意欲をもって、積極的に学んでもらいたい。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業オリエンテーション	初回授業までにテキストを購入しておく。	
	2. 講義:おとぎ話に秘められたメッセージ —男女のステレオタイプをめぐって	前回授業の重要点を復習しておく。	
	3. 講義:おとぎ話とフェミニズム —シンデレラ・コンプレックスをめぐって	前回授業の重要点を復習しておく。	
	4. 講義:PC(政治的に正しい)時代の、フェミニストによるおとぎ話	前回授業の重要点を復習しておく。	
	5. 講義:伝承童謡(マザーグース)にみるイギリス	前回授業の重要点を復習しておく。	
	6. 講義:イギリスの妖精	前回授業の重要点を復習しておく。	
	7. 講義:ファンタジー文学の背景 —光と影のヴィクトリア時代	前回授業の重要点を復習しておく。	
	8. 講義:「子供は大人の父である」 —ワーズワースと湖水地方	前回授業の重要点を復習しておく。	
	9. 講義:『ピーター・ラビット』の故郷 —ビアトリクス・ポターと湖水地方	前回授業の重要点を復習しておく。	
	10. 講義:ファンタジー作家とモデル —『不思議の国のアリス』をめぐって	前回授業の重要点を復習しておく。	
	11. 講義:ディケンズのクリスマス物語 —「家庭の天使」をめぐって	前回授業の重要点を復習しておく。	
	12. 講義:『メアリー・ポピンズ』にみるイギリス—社会・家庭・子供	前回授業の重要点を復習しておく。	
	13. 講義:ファンタジー文学のメッセージ —ピーター・パンからハリー・ポッターへ	前回授業の重要点を復習しておく。	
	14. 補足説明	春学期授業内容の復習	
	15. まとめ	春学期授業内容の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。 ・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。 ・やむを得ず欠席した場合は、次回授業までに小山研究室に出向き、欠席回のプリントを受け取って、読んでおくこと。		
フィードバックの方法:	大クラスの講義科目であり、出欠用のマークシートを配布する。その備考欄に授業内容への質問やコメントが書かれていることがあるが、口頭での質問と同様、全体で共有すべき内容だと判断した場合には、翌週の授業冒頭で紹介し、必要な説明を加える。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
	学期末試験	80%	春学期授業で学んだ内容の理解度により評価。
教科書:	本田英明、桂宥子、小峰和子(編著)『たのしく読める英米児童文学』(ミネルヴァ書房)		
参考書:	必要に応じて、授業中に紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Emailやオフィスアワーを利用。		

授業テーマ:

授業の概要:

「幻想文学にみる善と悪の対立―「魔性の女性」をめぐる」

「幻想の民」ケルト人を先住民とするイギリスには、今も社会のすみずみに妖精伝承や幽霊伝承が根強く残り、詩歌や小説、戯曲などさまざまな形で「幻想文学」の傑作が生まれてきた。これらの作品の多くに、いわゆる「魔性の女性」(ファム・ファタール)が登場することに注目したい。

本講座では、1)シェイクスピア、バーンズ、キーツなどの詩にみられる妖精(魔女、妖女)伝承、2)『ドラキュラ』『フランケンシュタイン』などの怪奇小説、3)ミルトン作品にみられる異界伝承(善と悪の対立)等を取りあげ、そこに描かれた女性像を分析すると共に、それぞれの時代や社会、作品のメッセージについて考察したい。フェミニスト神学についても紹介し、関連する映画や図版なども参照する。ファンタジー文学の幅の広さと内容の深さを実感し、知識と理解を深めてもらいたい。

到達目標:

- ・ファンタジー文学のジャンルと特徴に関する知識の修得
- ・「魔性の女性」(ファム・ファタール)に関する知識の修得
- ・代表的「幻想文学」に関する知識(概略、登場人物、作者、時代背景など)の修得
- ・キリスト教文化における「女性蔑視」の伝統と、中世の「マリア崇拜」に関する知識の修得
- ・ミルトン『失樂園』における、ポジティブなイーヴ像に関する知識の修得
- ・ファンタジー文学における、キリスト教的主題に関する知識の修得

授業方法:

パワーポイントや教材提示装置を利用し、各種の資料(美術も含む)を参照しつつ、担当者(小山)が講義する。受身でなく、知的好奇心と意欲をもって、積極的に学んでもらいたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業オリエンテーション ・講義:「魔性の女性」(ファム・ファタール)とは？	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	講義:魔女と聖女	前回授業の重要点を復習しておく。
3.	講義:シェイクスピア劇にみる魔性の女性―三人の魔女とマクベス夫人	前回授業の重要点を復習しておく。
4.	講義:詩に歌われた魔性の女性―J・キーツ / R・バーンズ	前回授業の重要点を復習しておく。
5.	講義:小説に描かれた魔性の女性―E・ブロンテ『嵐が丘』	前回授業の重要点を復習しておく。
6.	講義:怪奇小説にみる女性―B・ストーカー『ドラキュラ』	前回授業の重要点を復習しておく。
7.	講義:怪奇小説にみる女性―M・シェリー『フランケンシュタイン』	前回授業の重要点を復習しておく。
8.	講義:ミソジニイ(女嫌い)の伝統とフェミニスト神学―原罪をめぐる	前回授業の重要点を復習しておく。
9.	講義:歪曲された女性像―中世のVirgin Mary(聖母マリア)信仰	前回授業の重要点を復習しておく。
10.	講義:ピューリタン詩人J・ミルトンに向けられた、女性蔑視という誤解	前回授業の重要点を復習しておく。
11.	講義:ミルトン『失樂園』―<人類再生の鍵>としてのイーヴ像(1)	前回授業の重要点を復習しておく。
12.	講義:ミルトン『失樂園』―<人類再生の鍵>としてのイーヴ像(2)	前回授業の重要点を復習しておく。
13.	講義:ファンタジー文学にみる、キリスト教的主題	前回授業の重要点を復習しておく。
14.	補足説明	秋学期授業内容の復習
15.	まとめ	秋学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。

・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。

・やむを得ず欠席した場合は、次回授業までに小山研究室に出向き、欠席回のプリントを受け取って、読んでおくこと。

フィードバックの方法:

大クラスの講義科目であり、出欠用のマークシートを配布する。その備考欄に授業内容への質問やコメントが書かれていることがあるが、口頭での質問と同様、全体で共有すべき内容だと判断した場合には、翌週の授業冒頭で紹介し、必要な説明を加える。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
	学期末試験	80%	秋学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:

参考書:

必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Emailやオフィスアワーを利用。

授業テーマ:	「ジェンダー」の基礎を学ぼう		
授業の概要:	「ジェンダー」。本講義では、カタカナ語として市民権を得るようになったこの言葉が示すものは何かを考えていきます。私たちの周りにある「ジェンダー」にまつわる事象を検証しながら、各自がジェンダー問題をどうとらえ、どう向き合うのかを考えていきます。「女子～」「～女子」という表現があふれる今日、「女子であること」とはどういうことなのか、本講座を通して自分の立ち位置をしっかりと見つめなおすきっかけをつかんでもらいたいと思います。		
到達目標:	1)「ジェンダー」の考え方や視点について基本的な知識を習得する。 2)社会の出来事について、ジェンダーの視点から客観的な分析ができる能力を養う。		
授業方法:	本講座は、1回90分の講義で半期の授業です。授業計画で挙げた項目について、テキストをもとに身近な例を検証しながら進めていきます。また、学期末には「ジェンダー」に関わるテーマについての課題プロジェクトをグループで発表をします。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション: 授業の進め方、評価方法、課題プロジェクトについての詳細説明	受講者は必ずテキストを購入しておくこと。	
	2. 「ジェンダー」とは何か プロジェクト:グループの決定	授業計画に従って、各章に目を通して授業にのぞむこと。 テキスト第1章	
	3. 教育とジェンダー【1】	テキスト第4章	
	4. 教育とジェンダー【2】	テキスト第4章 プロジェクト計画書の提出	
	5. 日常生活とジェンダー【1】	テキスト第5章	
	6. 日常生活とジェンダー【2】	テキスト第5章	
	7. 家族とジェンダー【1】	テキスト第2章	
	8. 家族とジェンダー【2】	テキスト第2章	
	9. 家族とジェンダー【3】 プロジェクト:中間作業日	テキスト第2章	
	10. 身体とジェンダー	テキスト第7章	
	11. 仕事とジェンダー【1】	テキスト第6章	
	12. 仕事とジェンダー【2】	テキスト第6章	
	13. 課題プロジェクト発表【1】	プロジェクト発表準備	
	14. 課題プロジェクト発表【2】	プロジェクト発表準備	
	15. 授業の総括と期末評価	講義内容の復習	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	本講義は社会科学を扱いますので、この機会に新聞・ニュース・雑誌などをチェックする習慣を身につけ、現在の社会を客観的に把握できる努力をしてください。プロジェクトについては、ほとんどの作業を授業外で行うことになります。発表までの約10週間を計画的に使って、作業を進めていきましょう。	
フィードバックの方法:	1)プレゼンテーションは、学期内に講評を添えて返却します。 2)レポートについては、添削をした後コメントを添えて、休暇明け(秋学期)に教務課で返却をします。履修者は責任を持って、忘れずに受け取るようにしてください。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への取り組み	10	出席は毎回となりますが、これは出席点ではなく、授業への取り組みの一部として評価します。遅刻・居眠り・私語・携帯電話の使用など積極的に授業に参加していると認められない場合は厳しくチェックします。また、授業の最後にその日に学んだ内容に関するコメントを提出し、毎回の授業への取り組みの評価とします。
	課題プロジェクト	40	この課題はグループで取り組むリサーチ・プロジェクトです。ジェンダーに関わるテーマ決め、関連する文献を参考にして、調査をして報告します。成績評価「40%」の内訳はテーマと計画の決定(5%)、リサーチ発表(25%)、報告レポート(10%)とします。
	期末評価	50	学期の講義の総括として、学期末に記述試験を実施します。
教科書:	千田有紀・中西祐子・青山薫(2013)．「ジェンダー論をつかむ」 有斐閣		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業以外ではe-mailを主たる連絡手段とします。office hourは特に設けませんが、必要に応じて、講義後(水曜日4講時)を相談の時間に充てます。		

授業テーマ:	初級ラテン語文法 (I)		
	今から2000年前、西欧ではローマ帝国が栄えていた。そのローマ帝国の公用語がラテン語である。ローマ帝国はやがて滅ぶが、その豊かな遺産はその後に勃興するヨーロッパの国々に伝えられ、それぞれの国の文化の発展に大きく寄与することとなった。 ラテン語の文法はやさしくはないが、ラテン語を知っていると色々な面で役立つこと請け合いである。ローマ帝国の初代皇帝アウグストゥスは「ゆっくり急げ」 <i>festina lente</i> を座右の銘にしていたが、我々もゆっくりと急ぎながら、ラテン語を学びたい。		
授業の概要:	初級ラテン語文法を学習する。		
到達目標:	1. ラテン語文法を習得する。 2. ラテン語と近代語、特に英語との関連性・類似性について、考察を深められるようになることを目指す。 3. ラテン語の名句を通して、ローマ人の知恵を学ぶ。		
授業方法:	まず教師が文法事項を説明する。その後で学生に各章ごとに付いている練習問題を解いて貰うが、練習問題は宿題としたい。教室で答えあわせをする。学生の反応を見ながら進めるが、おおよそ1回に2章くらいのペースで進めたい。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに ----- 発音・音節・アクセント 2. 動詞変化 その1、名詞変化 その1 3. 動詞変化 その1、名詞変化 その1 4. 前置詞、動詞変化 その2 5. 人称代名詞、未完了過去 6. 以上の復習 7. 名詞変化 その3、未来形 8. 指示代名詞、形容詞変化 その2 9. 完了形、名詞変化 その4 10. 関係代名詞 11. 過去完了、未来完了 12. 名詞変化 その5 13. 疑問文 14. 以上の復習 15. ラテン語の格言を読む	教科書を購入しておくこと。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	文法を学習するには、ゆっくりと着実に学習することが大切です。 <i>festina lente</i> .		
フィードバックの方法:	試験について、教室で説明する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎回の取り組み	40	宿題に真摯に取り組んでいるかどうか、また授業に積極的に参加しているかどうかを評価の基準とする。
	期末試験	60	ラテン語文法が十分に理解できているかどうかを評価の基準とする。
教科書:	松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』東洋出版、他にプリント配布。		
参考書:	小林標『ラテン語の世界 ―― ローマが残した無限の遺産』中公新書		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	e-mail による。アドレスは教室で知らせる。		

授業テーマ:

A Study of The Winter's Tale

授業の概要:

In this class we will study a play in preparation for its staging the following year. The play we will read is The Winter's Tale. It is one of Shakespeare's great late plays combining both tragical and comical elements. Students are expected to prepare in advance and participate actively in class to grasp various practical aspects of staging the play as well as comprehending language and themes of the text.

到達目標:

1.Understand the historical background of the play, overview of Shakespeare's works and deepen knowledge of performance history of the play.
2.Understand the language of the text.
3.Acquire performance skills such as vocal expression and use of appropriate gestures.

授業方法:

Lecture and workshop: both of them are conducted in Japanese and English. At the end of each class, students will submit comments & questions paper basically in English. At the end of the semester, both a performance test (in English) and a written test (in Japanese) will be held. Also, students are required to submit a report (in Japanese) by the end of the semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation. Lecture: Shakespeare's life and historical background. Workshop: Training in vocal and physical performance skills	After class students should review what was covered in class.
2.	Lecture: Theatrical conditions in Shakespeare's times Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students can prepare for the class by reading reference books introduced in class. After class students should review what was covered in class.
3.	Lecture: Shakespeare's plays in general and then The Winter's Tale will be introduced as the central topic of the class.	Before class students can prepare for the class by reading reference books introduced in class. After class students should review what was covered in class
4.	Lecture: Performance history Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students can prepare for the class by reading reference books introduced in class. After class students should review what was covered in class.
5.	Lecture: The Winter's Tale Act 1 Scene 1, Act 1 Scene 2 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
6.	Lecture: The Winter's Tale Act 1 Scene 2 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
7.	Lecture: The Winter's Tale Act 1 Scene 2 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
8.	Lecture: The Winter's Tale Act 2 Scene1 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
9.	Lecture: The Winter's Tale Act 2 Scene 1, Act 2 Scene 2 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
10.	Lecture: The Winter's Tale Act 2 Scene 3 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class
11.	Lecture: The Winter's Tale Act 2 Scene 3, Act 3 Scene 1 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
12.	Lecture: The Winter's Tale Act 3 Scene 2 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
13.	Lecture: The Winter's Tale Act 3 Scene 2, Act 3 Scene 3 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class and practice for the performance test.
14.	Lecture: Review of the first half of the text Workshop: Performance test	
15.	Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students' comments and questions will be dealt with orally in class. As for the performance test, after the class recital the teacher will give the students a comment paper. As for the report at the end of the semester, the teacher will give them back with comments.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	10%	Active participation in class.
	Performance	30%	Fluent and expressive performance of the text.
	Written test	50%	Comprehension of lecture contents and the text.
	Report	10%	Familiarization with other Shakespeare's texts.

教科書:

The Winter's Tale (Oxford School Shakespeare)

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

htsuji@dwc.doshisha.ac.jp
tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

A Study of The Winter's Tale

授業の概要:

In this class we will study a play in preparation for its staging the following year. The play we will read is The Winter's Tale. It is one of Shakespeare's great late plays combining both tragical and comical elements. Students are expected to prepare in advance and participate actively in class to grasp various practical aspects of staging the play as well as comprehending language and themes of the text.

到達目標:

1. Understand the language of the text.
2. Understand the whole play with its themes and structure.
3. Acquire performance skills such as vocal expression and use of appropriate gestures.

授業方法:

Lecture and workshop: both of them are conducted in Japanese and English. At the end of each class, students will submit comments & questions paper basically in English. At the end of the semester, both a performance test (in English) and a written test (in Japanese) will be held.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation. Lecture: The Winter's Tale Act 4 Scene 1, Act 4 Scene 2 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
2.	Lecture: The Winter's Tale Act 4 Scene 3, Act 4 Scene 4 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
3.	Lecture: The Winter's Tale Act 4 Scene 4 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
4.	Lecture: The Winter's Tale Act 4 Scene 4 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
5.	Lecture: The Winter's Tale Act 4 Scene 4 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
6.	Lecture: The Winter's Tale Act 5 Scene 1 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
7.	Lecture: The Winter's Tale Act 5 Scene 1 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
8.	Lecture: The Winter's Tale Act 5 Scene 2 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
9.	Lecture: The Winter's Tale Act 5 Scene 3 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
10.	Lecture: Watch DVD Workshop: Training in vocal and physical performance skills	After class students should review what was covered in class
11.	Lecture: Review of the text Workshop: Training in vocal and physical performance skills	After class students should review what was covered in class and practice for the performance test.
12.	Lecture: Review of the text Workshop: Training in vocal and physical performance skills	After class students should review what was covered in class and practice for the performance test.
13.	Lecture: Review of the text Workshop: Training in vocal and physical performance skills	After class students should review what was covered in class and practice for the performance test.
14.	Performance test	
15.	Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

As for the comments and questions will be dealt with orally in class. As for the performance test, after the class recital the teacher will give the students a comment paper.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	10%	Active participation in class.
	Performance	30%	Fluent and expressive performance of the text.
	Written test	60%	Comprehension of lecture contents and the text

教科書:

The Winter's Tale (Oxford School Shakespeare)

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

htsuji@dwc.doshisha.ac.jp
tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	英語コーパス言語学入門:コンピュータで英語を分析する		
授業の概要:	本科目では、英語を対象としてコーパス言語学の基礎を実践的に学びます。英語コーパス言語学では、日常会話、映画、新聞・雑誌記事、文学作品等の英語話者によって話されたり書かれたりした英語を大規模に収集したデータベース(コーパス)を構築し、それらをコンピュータで分析して、英語という言葉の特徴を科学的に調査・分析します。コーパスのデータを調べることによって、ネイティブスピーカーが実際によく使う英語の語彙や表現、英語の用法を効果的に学ぶことができます。授業では、英語コーパス言語学の基礎を学ぶとともに、コーパス収集の手法やコーパス分析用ソフトを用いた言語データの分析手法を身につけます。また、コーパスの分析によって得られた知識を生かして自分の英語力を向上させ、ネイティブスピーカーの持つような英語のセンスを身につけていくことを目標とします。		
到達目標:	コーパスとは何かを理解している。 コンピュータを用いてコーパスのデータを分析することができる。 コーパスを利用して言語の特徴に関する計量的な調査を行うことができる。 コーパスのデータを自らの英語学習に利用できる。		
授業方法:	授業はコンピュータ教室で行う。コーパス言語学に関する講義に加えて、コーパスの利用・分析の実習を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 導入・コーパス言語学概説	シラバス記載事項の確認	
	2. コーパスを用いた言語分析の手法	コーパス分析方法の復習	
	3. インターネット上のコーパスの利用(1)	授業中にカバーしたコーパスサイトの利用法の確認	
	4. インターネット上のコーパスの利用(2)	授業中にカバーしたコーパスサイトの利用法の確認	
	5. アメリカ英語とイギリス英語の語彙の違い(1)	課題プリントで指示されたタスク	
	6. アメリカ英語とイギリス英語の語彙の違い(2)	課題プリントで指示されたタスク	
	7. コロケーションの分析(1)	課題プリントで指示されたタスク	
	8. コロケーションの分析(2)	課題プリントで指示されたタスク	
	9. 類義語(synonym)の使い分け(1)	課題プリントで指示されたタスク	
	10. 類義語(synonym)の使い分け(2)	課題プリントで指示されたタスク	
	11. コーパス分析用ソフトの利用	コーパス分析用ソフトの操作方法の復習	
	12. 映画のセリフを用いた英会話コーパスの作成	映画英語コーパスの作成	
	13. 映画英語コーパスの分析(1)	映画英語コーパスの分析タスク	
	14. 映画英語コーパスの分析(2)	映画英語コーパスの分析タスク	
	15. 総括とレポート解説		
受講者へのメッセージやアドバイス:	積極的な授業参加を期待します。		
フィードバックの方法:	授業中の課題を採点して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業参加及び演習	30	授業へ積極的に参加して演習に取り組む度合いで評価
	授業中の課題	50	コーパスを利用した言語分析に関する課題の達成度により評価
	期末レポート	20	コーパス分析課題の達成度により評価
教科書:	プリント教材を使用。		
参考書:	斎藤俊雄他(編)『改訂新版 英語コーパス言語学』(研究社) 石川慎一郎『英語コーパスと言語教育』(大修館書店) 投野由紀夫(編)『コーパス類語英語使い分け200』(小学館) 赤野一郎他(編著)『英語教師のためのコーパス活用ガイド』(大修館書店) その他の参考資料は授業で提示する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメール		

授業テーマ:	英語教育におけるメディアの有効活用		
授業の概要:	インターネットやPC、スマートフォンに代表される近年のメディア技術の発達により、学校現場における教育メディアの重要性はますます高まってきている。英語教員にとって、教育のためにデジタル教材やコンピュータを利用することのできるスキルは必須のものとなっている。本科目では、教育メディアの基礎概念からその実践的活用法までを講義形式と実習形式で授業を行い、各種教育メディアの利用に関する知識とスキルを実践的に習得することを目指す。また、成績評価のために必要なコンピュータによる成績処理の手法について、Excelを使った実習を行う。		
到達目標:	メディアを用いた英語教育の意義について理解している。 英語教育における各種メディアの利用方法について理解している。 メディアを用いた英語教育に必要なスキルを習得している。 英語学習に有用なインターネット教材とその利用方法について説明できる。 成績評価に必要な統計の基礎知識を理解し、表計算ソフトを用いた成績管理ができる。		
授業方法:	授業はコンピュータ教室を利用する。教育メディアに関する講義と、各種メディアの利用法に関する実習を行う。インターネット上の教材を利用した英語学習に関するプレゼンテーションを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 導入	シラバスの内容確認	
	2. 英語教育におけるメディアの利用の意義		
	3. 教育メディア論(1)	教育メディア利用の意義に関する授業内容の復習	
	4. 教育メディア論(2)	教育メディア論に関する授業内容の復習	
	5. メディアの種類と英語教育における利用法	教育メディアの類型に関する授業内容の復習	
	6. 英語教育におけるインターネット教材の利用(1)	インターネット上の教材調査課題の作業	
	7. 英語教育におけるインターネット教材の利用(2)	インターネット上の教材調査課題の作業	
	8. インターネット教材の利用法についての報告プレゼン(1)	プレゼンの準備	
	9. インターネット教材の利用法についての報告プレゼン(2)	プレゼンの準備	
	10. 教材開発演習: 音声データの利用		
	11. 教材開発演習: 電子辞書の利用	音声編集ソフトの利用方法の復習	
	12. テストと成績評価	テストと成績評価の手法についての復習	
	13. Excelを用いた成績処理(1)	基本的なExcelの操作方法の確認	
	14. Excelを用いた成績処理(2)	Excelによる成績処理の方法の復習	
	15. 総括		
受講者へのメッセージやアドバイス:	積極的な授業参加を期待します。		
フィードバックの方法:	授業中の報告課題について個別にコメントする。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業参加と演習	35	積極的に授業に参加した度合いと各回で扱うテーマへの取り組みで評価
	授業中の課題とプレゼンテーション	35	教材調査の課題とそれに基づくプレゼンの達成度で評価
	期末レポート	30	英語教育におけるメディアの利用に関するレポートの達成度で評価
教科書:	富永 敦子『教師のためのExcel活用術 第2版』民衆社		
参考書:	佐賀啓男 編著「改訂 視聴覚メディアと教育」樹村房 山本順一 著「情報メディアの活用 改訂新版」放送大学教育振興会 竹内理 編著「CALL授業の展開―その可能性を拓げるために」松柏社 その他の参考資料は授業で提示する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	Eメール		

授業テーマ:

Introduction to Sociolinguistics: the relationships between language and society

授業の概要:

Students will be introduced to some of the basic concepts of sociolinguistics, starting with a basic understanding of language, people and society (accent, dialect, register and style, conversation and discourse analysis, etc.), following with how language is related to society (world Englishes, multilingualism, genderlects, etc.).

到達目標:

The aim of this course is to introduce and expose students to the study of language and society. Students are expected to speak in English with the instructor and fellow classmates in every class, and help to create a relaxed, welcoming and enjoyable environment for learning about language and society together in English.

授業方法:

This course will be conducted all in English. Instructor will expose students to the content of the course through short film clips, TED talks, and as well as teach from various literature. from textbooks and research articles on the topics of sociolinguistics

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to course, class expectations and methods of evaluation	Weekly assignment
	2. Introduction to language and society	Weekly assignment
	3. Introduction to language and society	Weekly assignment
	4. Introduction to linguistics: accent and dialect	Weekly assignment
	5. Introduction to linguistics:register and style	Weekly assignment
	6. Spoken discourse/conversational analysis	Weekly assignment
	7. Spoken discourse/conversational analysis	Weekly assignment
	8. Mid-term assignments	Weekly assignment
	9. World Englishes	Weekly assignment
	10. Multilingualism	Weekly assignment
	11. Multilingualism	Weekly assignment
	12. Genderlects	Weekly assignment
	13. Genderlects	Preparation for final assignments
	14. Final Presentations	Preparation for final assignments
	15. Final Presentations	Weekly assignment

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to complete all reading and written assignments BEFORE coming to class, in order to fully participate in pair/group work and discussions conducted in class.

フィードバックの方法:

to be specified by instructor

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	10%	as determined by instructor
	Class participation	20%	as determined by instructor
	Group work	20%	as determined by instructor
	Midterm assignment	25%	as determined by instructor
	Final assignment	25%	as determined by instructor

教科書:

no textbook required

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:

to be informed by the instructor

授業テーマ:	応用言語学の観点からみる言語教育・学習に関わる諸問題																																		
授業の概要:	「応用言語学」(Applied Linguistics)は、＜ことばに関する研究から得た成果を、多くの分野に応用することを研究していく学問＞であり、言語にかかわる諸問題を解決することも目的としています。できるだけ身近な現象をもとに、言語や言語教育との関わりを学びながら、このコースを通じて、今までには意識しなかったことを感じ、分かち合いながら、与えられた課題やテーマを中心に言語や言語学習・教育への知的好奇心を高めていきたいと思います。																																		
到達目標:	このコースの受講者の皆さんは、英語(あるいはその他の言語)を外国語として学んできた経験がありますが、自分自身を一人の学習者として客観的な立場で見てください。そして、学習(教育)の対象・コミュニケーションの手段としての英語(あるいはその他の言語)を、応用言語学の観点から捉えていきましょう。特に、外国語プログラム、教科書分析、テスト分析により、今までの自分の経験してきた事象を客観的に観察していきます。																																		
授業方法:	講義および演習																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 応用言語学とは？ 本コースの概要説明と<Learning Contract>の作成</td><td>ことばについてのインタビュー</td></tr><tr><td>2. 言語とは？ Language acquisition入門</td><td>インタビュー結果の発表</td></tr><tr><td>3. 学習者としての自己分析、ある言語が＜できる＞とは？</td><td>Reading Assugnment(報告)</td></tr><tr><td>4. 21世紀における世界の言語</td><td></td></tr><tr><td>5. 様々な外国語学習環境</td><td>様々な外国語学習環境に関する調査とプレゼンテーション</td></tr><tr><td>6. Description of Language Use (言語要素について)</td><td>Reading Assignment (報告)</td></tr><tr><td>7. Language Skills #1(受容的スキルについて)</td><td></td></tr><tr><td>8. Language Skills #2(産出的スキルについて)</td><td></td></tr><tr><td>9. 教材分析</td><td>教材分析の結果のプレゼンテーション</td></tr><tr><td>10. How to Measure Your Language Ability #1</td><td></td></tr><tr><td>11. How to Measure Your Language Ability #2</td><td></td></tr><tr><td>12. テスト分析・基本統計入門</td><td>分析してきたテストについてのプレゼンテーション</td></tr><tr><td>13. 基本統計入門</td><td>テスト作成(グループ作業)</td></tr><tr><td>14. Presentation</td><td>Theme Paperの提出</td></tr><tr><td>15. Presentation・Self-reflection・Wrap up</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 応用言語学とは？ 本コースの概要説明と<Learning Contract>の作成	ことばについてのインタビュー	2. 言語とは？ Language acquisition入門	インタビュー結果の発表	3. 学習者としての自己分析、ある言語が＜できる＞とは？	Reading Assugnment(報告)	4. 21世紀における世界の言語		5. 様々な外国語学習環境	様々な外国語学習環境に関する調査とプレゼンテーション	6. Description of Language Use (言語要素について)	Reading Assignment (報告)	7. Language Skills #1(受容的スキルについて)		8. Language Skills #2(産出的スキルについて)		9. 教材分析	教材分析の結果のプレゼンテーション	10. How to Measure Your Language Ability #1		11. How to Measure Your Language Ability #2		12. テスト分析・基本統計入門	分析してきたテストについてのプレゼンテーション	13. 基本統計入門	テスト作成(グループ作業)	14. Presentation	Theme Paperの提出	15. Presentation・Self-reflection・Wrap up			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 応用言語学とは？ 本コースの概要説明と<Learning Contract>の作成	ことばについてのインタビュー																																		
2. 言語とは？ Language acquisition入門	インタビュー結果の発表																																		
3. 学習者としての自己分析、ある言語が＜できる＞とは？	Reading Assugnment(報告)																																		
4. 21世紀における世界の言語																																			
5. 様々な外国語学習環境	様々な外国語学習環境に関する調査とプレゼンテーション																																		
6. Description of Language Use (言語要素について)	Reading Assignment (報告)																																		
7. Language Skills #1(受容的スキルについて)																																			
8. Language Skills #2(産出的スキルについて)																																			
9. 教材分析	教材分析の結果のプレゼンテーション																																		
10. How to Measure Your Language Ability #1																																			
11. How to Measure Your Language Ability #2																																			
12. テスト分析・基本統計入門	分析してきたテストについてのプレゼンテーション																																		
13. 基本統計入門	テスト作成(グループ作業)																																		
14. Presentation	Theme Paperの提出																																		
15. Presentation・Self-reflection・Wrap up																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	クラスメイトとの意見交換なども積極的に行うので、毎回、授業に出席することを前提に進めて行きます。万一、欠席する場合は、自己責任のもとで、講義内容や課題を確認するようにしてください。																																		
フィードバックの方法:	提出物はコメントをつけて返却。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業内・外の課題を含む日常点</td><td>50</td><td>課題の理解度および、発表内容や態度</td></tr><tr><td>最終講義に実施するSelf-reflection</td><td>10</td><td>前講義を通じての自己分析の適切さ</td></tr><tr><td>Theme paper およびプレゼンテーション</td><td>40</td><td>明確な問題意識をもち、自らが選んだ課題に取り組み、説得力のある説明を行っているか否か。なお、評価基準の詳細は授業内で説明。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業内・外の課題を含む日常点	50	課題の理解度および、発表内容や態度	最終講義に実施するSelf-reflection	10	前講義を通じての自己分析の適切さ	Theme paper およびプレゼンテーション	40	明確な問題意識をもち、自らが選んだ課題に取り組み、説得力のある説明を行っているか否か。なお、評価基準の詳細は授業内で説明。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
授業内・外の課題を含む日常点	50	課題の理解度および、発表内容や態度																																	
最終講義に実施するSelf-reflection	10	前講義を通じての自己分析の適切さ																																	
Theme paper およびプレゼンテーション	40	明確な問題意識をもち、自らが選んだ課題に取り組み、説得力のある説明を行っているか否か。なお、評価基準の詳細は授業内で説明。																																	
教科書:	なし																																		
参考書:	授業内で随時紹介																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	電子メール(1回目の授業でお知らせします)																																		

授業テーマ:	子どもに対する英語指導の理論と実際を学ぶとともに、学生一人一人の指導力の向上をめざす。		
授業の概要:	幼稚園、保育園の子どもをも対象に考えながら、小学校における外国語活動及び教科外国語の在り方と課題を学習指導要領をもとに学ぶとともに、実際に外国語(英語)指導の在り方を実体験する。		
到達目標:	一人一人が子どもを理解し、適切な指導方法を選択しながら、自立した指導者となることをめざす。		
授業方法:	学習指導要領を基に理論を構築し、その後、実際に指導を体験し、理論と実践の一体化を図る。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	子どもに対する英語指導の在り方をイメージする。	
	2. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の現状と課題	日本の英語教育の歴史的変遷を学習指導要領から理解する。	
	3. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の意義と目的	日本の英語教育のめざすものを学習指導要領から理解する。	
	4. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の指導内容	適切な英語指導の在り方を学習指導要領から理解する。	
	5. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の教材理解(英語ノート及びHi, friends!)	英語ノート及びHi, friends! のテキストを使って、適切な指導内容を理解する。	
	6. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)におけるチームティーチングの在り方	日本の言語政策について情報収集をする。	
	7. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の教材作成	様々な教材を考え、実際に作成してみる。	
	8. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の評価の在り方	子どもに対する適切な評価方法を理解し、実際に評価してみる。	
	9. 児童英語・保育英語の考え方と在り方	どのような指導が適切なのか、まとめてみる。	
	10. 子どもの脳と言語中枢(母語と外国語)	脳科学及び脳医学と言語の関係を考えてみる。	
	11. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の模擬授業準備(1)	指導案の書き方を理解し、実際に作成してみる。	
	12. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の模擬授業準備(2)	模擬授業の指導案をもとに、ペアで授業の練習をする。	
	13. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の模擬授業発表(1)	模擬授業の指導案をもとに、ペアで授業の練習をする	
	14. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の模擬授業発表(2)	体験した模擬授業の課題、改善点をまとめる。	
	15. 総括	授業で学んだこと、知ったこと、自立した指導者として必要なことをまとめる。	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	英語が得意な学生だけではなく、塾や学校等で英語を子どもに教えてみたい、子どもの英語関連の企業に就職したい、親になったときに子どもに英語を教えたいなど、どのような理由でも結構です。受講してみてください。すぐに自立した指導者となります。	
フィードバックの方法:	実際に指導者としての体験をすることで、課題やポイントを明らかにし、指導力の向上を図ります。また、実際に教材や教具を作成し、他の学生と比較しながら、良い点及び改善点を明確にします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小レポート	30%	内容の適切さ
	模擬授業発表(TT)	30%	指導の適切さ、声の大きさ、企画力等
	教材・教具作成	30%	効果、企画力、創作力
	授業への取り組み	10%	積極性、出席率
教科書:			
参考書:	文部科学省、『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』、東洋館出版社 菅正隆 他、『外国語活動評価づくり完全ガイドブック』、明治図書出版 菅正隆 他、『"Hi, friends!"指導案&評価づくりパーフェクトガイド』、明治図書出版		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	kan.masataka@osaka-shoin.ac.jp		

授業テーマ:

子どもに対する英語指導のねらいを深く理解し、英語指導者としての指導力(テクニック)の向上をめざす。

授業の概要:

様々な指導方法及び内容を理解し、実際に体験しながら、指導力の更なる向上を図る。

到達目標:

英語指導者としての高度な実践的指導力を身に付けた自立した指導者になることをめざす。

授業方法:

各種の指導方法の在り方を理解しながら、実際に指導を体験する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	子どもに対する英語指導の効果についてイメージする。	英語の様々な歌について調べておく。
	2. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の歌の指導と在り方	
	3. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)のチャンツの指導の在り方	リズムで、英語を読んでおく。
	4. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)のコミュニケーション活動の在り方	ゲームやアクティビティーを創作してくる。
	5. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の文字導入の在り方	アルファベットの効果的な指導方法を考えておく。
	6. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の教材・教具の在り方	効率の良い教材・教具を作成しておく。
	7. クラスルーム・イングリッシュの基礎基本	教室英語を調べる。
	8. 電子黒板(ICT)の在り方と実践	アナログとデジタルの利点と欠点を考える。
	9. ショー・アンド・テル、紙芝居の在り方と実践	ショー・アンド・テルの原稿を作成する。
	10. 英語劇の在り方と実践	読み聞かせの練習をする。
	11. 小学校、中学校及び高等学校の連携の在り方	英語教育の効果的な連携の在り方をまとめる。
	12. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の授業案作成	模擬授業の指導案を作成してみる。
	13. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の模擬授業発表・討議(1)	模擬授業の指導案をもとに、ペアで授業の練習をする
	14. 児童英語及び小学校外国語(外国語活動)の模擬授業発表・討議(2)	体験した模擬授業の課題、改善点をまとめる。
	15. 総括	自立した指導者となっているか考え、課題を明確にする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

子ども英語の指導者として、指導力の向上を図るには、実際に指導を体験してみることが大切です。これは、今後ますます社会的なニーズが広がり、仕事(就職)とも密接につながるものです。ⅠとⅡを連続受講することで、指導者として完全に自立できると思います。

フィードバックの方法:

様々な指導方法を理解し、実践してみることで、課題や改善点を明確にし、テクニックを更に磨いてもらいます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート	30%	内容の適切さ
	模擬授業発表(TT)	30%	指導の適切さ、声の大きさ、企画力等
	教材・教具作成	30%	効果、企画力、創作力
	授業への取り組み	10%	積極性、実践力、出席率

教科書:

参考書:

文部科学省、『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』、東洋館出版社

菅正隆 他、『外国語活動評価づくり完全ガイドブック』、明治図書出版

菅正隆 他、『“Hi, friends!”指導案&評価づくりパーフェクトガイド』、明治図書出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

kan.masataka@osaka-shoin.ac.jp

授業テーマ:

第二言語はどのようにして習得されるのだろうか:文化、年齢、母語、言語間の距離はどのように影響するのだろうか?

授業の概要:

第二言語習得研究(SLA)の現時点での到達点を概観しながら、以下にあげる6点を目標とする。
(1) 早期英語教育、小学校での英語教育を念頭に、年齢と第二言語学習の関係を検討する(主として教科書第5章)
(2) 中高校の教科書を念頭に、文法の発達順序を検討する(主として教科書第2章)
(3) 英語コミュニケーション能力の正体とは一体何なのか議論する
(4) SLA研究の重要な仮説である、サピアウルフ仮説(Sapir-Whorf Hypothesis)について議論する(主としてハンドアウト)
(5) SLA研究の重要な仮説である、対照分析仮説(Contrastive Analysis Hypothesis)仮説について議論する(主としてハンドアウト)
(6) その他、SLA研究の重要な概念を提示する(主としてハンドアウト)

到達目標:

(1) 俗説に惑わされない科学的な見地に立った意見を持つことができる
(2) 文法能力がどのように発達するのか自身の言語発達を「なるほど」と思いながら振り返ることができる
(3) SLA研究の重要仮説を理解して英語学習・教授に応用することができるようになる
(4) SLA研究の概念を活用してミニプロジェクトを実行することができる

授業方法:

授業計画のテーマに沿い、授業をすすめます。いくつかのパターンが想定されますが、グループを中心に、自ら考え・意見交流ができるようなActive Learningの形を予定しています。予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることも求められます。まなばやManabaなどのインターネットLMSの利用も検討します。できる限り、ビデオなど視聴覚教材およびコンピュータを利用し、わかりやすい授業を心がけます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. コースイントロダクション	授業に期待することを考える
	2. Section 1: 第二言語学習は幼少期から始めないと遅すぎるのか	授業に期待することを考える
	3. 大人になつてからはじめてはネイティブ並にマスターできる領域はないのか	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	4. 幼い内なら日本人でもlとrを聞き分けられるのか	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	5. 運動機能の衰えが言語習得の到達度に影響するの	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	6. 本当に言語習得の臨界期があるのか	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	7. Section 2: 第二言語習得理論(SLA):「SLAの重要仮説・概念と英語コミュニケーション能力の正体」サピアウルフ仮説(Sapir-Whorf Hypothesis)(1)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	8. サピアウルフ仮説(Sapir-Whorf Hypothesis)(2)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	9. 対照分析仮説(CAH)仮説と言語の習得難易度(1)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	10. 対照分析仮説(CAH)仮説と言語の習得難易度(2)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	11. SLAの重要な概念	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	12. Section 3: 文法的形態素の発達順序と英語の教科書:「3単現のsはやさしいか?」教科書で習った順番に習得するのか	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	13. 聞くだけで第二言語習得は可能か(インプット仮説)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	14. 多読で英語力は伸びるのか(インプット仮説)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	15. まとめ	教科書をもう一度読む

受講者へのメッセージやアドバイス:

2年次以降を対象に開設されている外国語教育論Ⅰ,Ⅱを既に受講していることが望ましいが*、外国語教育に興味を持ち、いろいろなアクティビティーに積極的に参加し・学ぶ姿勢を持っていれば問題ないかもしれない。

将来、教職に就きたいと考えている学生(英語・日本語教育)だけでなく、英語教育副専攻の日本語日本文学科の学生、外国語教育(英語・日本語教育)に一般的な興味・関心がある(例えば、自分自身の英語学習をさらに発展させたらよいのか、将来子供を持ったときのような外国語教育を自分の子供に受けさせるかなど)、または塾講師など何らかの形で外国語教育に関わる仕事に就きたいと考えている学生など、幅広い学生の受講を歓迎します。また、将来、オーストラリアなど国内外で日本語を教える(ATJ Program)といった、日本語教育に関心のある学生にとっても有益な情報が得られると思います。
*このコースは「外国語教育論Ⅰ,Ⅱ」の延長線上にあるよう設計されています。

フィードバックの方法:

課題については授業中に評価をつけて返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題	30	到達目標(1)～(4)に関する知識により評価する
	授業中のディスカッション態度	20	Active Learningに参加しているかどうかにより評価する
	ファイナルテスト	50	到達目標(1)～(4)に関する知識により評価する

教科書:

白畑知彦、若林茂則、須田孝司(2004). 英語習得の「常識」「非常識」第二言語習得研究からの検証. 東京, 大修館書店.

参考書:

授業中に提示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

授業テーマ:

Good Language Learner 研究: 成功者はどのようにして第二言語(英語)を習得しているのだろうか?

授業の概要:

第二言語習得研究(SLA)の現時点での到達点を概観しながら、以下にあげる5点を目標とする。
(1) 第二言語学習における個人差の要因について理解を深める
(2) 第二言語学習における学習者の果たす役割について理解を深める
(3) 第二言語学習における学習者方略(ストラテジー)の果たす役割について理解を深める
(4) 第二言語学習の成功者へのインタビューを通して理論の有効性を検証する
(5) 以上の学習を通して得られた知見を自身の第二言語学習・教育に生かす

到達目標:

(1) 学習者要因を外国語学習にどう生かすか考えることができる
(2) 外国語学習ストラテジーを教授・学習にどう生かすことができるか、考えることができる
(3) 今後、自己効力感を高めながらどのように外国語を学び・教えればいいのか、さらに興味が湧く
(4) 外国語学習の背景について「外国語教育論Ⅰ, Ⅱ、第二言語習得研究Ⅰ」の理解よりも深めることができる
(5) 外国語学習のメカニズムについて興味関心が湧く

授業方法:

授業計画のテーマに沿い、授業をすすめます。いくつかのパターンが想定されますが、グループを中心に、自ら考え・意見交流ができるようなActive Learningの形を予定しています。予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることも求められます。まなばやManabaなどのインターネットLMSの利用も検討します。できる限り、ビデオなど視聴覚教材およびコンピュータを利用し、わかりやすい授業を心がけます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. コースイントロダクション	授業に期待することを考える
	2. Section 4: 学習者の特徴(学習者要因)とは	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	3. 学習動機(Motivation)の重要性(1)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	4. 学習動機(Motivation)の重要性(2)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	5. 言語適性(Aptitude)の重要性(1)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	6. 言語適性(Aptitude)の重要性(2)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	7. 性格(Personality)の重要性(1)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	8. 性格(Personality)の重要性(2)	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	9. ジェンダー(Gender)の重要性	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	10. 学習環境(コンテキスト)の重要性	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
	11. Section 5: Good Language Learnerの研究: 「成功した学習者の特徴は？」学習者方略 1 + プロジェクトの準備 (1)	プレゼンテーションの準備をする
	12. 学習者方略 1 + プロジェクトの準備 (2)	プレゼンテーションの準備をする
	13. プロジェクトのプレゼンテーション(1)	プレゼンテーションの準備をする
	14. プロジェクトのプレゼンテーション(2)	プレゼンテーションの準備をする
	15. プロジェクトのプレゼンテーション(3)	プレゼンテーションの準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:

2年次以降を対象に開設されている外国語教育論Ⅰ,Ⅱを既に受講していることが望ましいが*、外国語教育に興味を持ち、いろいろなアクティビティーに積極的に参加し・学ぶ姿勢を持っていれば問題ないかもしれない。

将来、教職に就きたいと考えている学生(英語・日本語教育)だけでなく、英語教育副専攻の日本語日本文学科の学生、外国語教育(英語・日本語教育)に一般的な興味・関心がある(例えば、自分自身の英語学習をさらに発展させたら よいか、将来子供を持ったときどのような外国語教育を自分の子供に受けさせるかなど)、または塾講師など何らかの形で外国語教育に関わる仕事に就きたいと考えている学生など、幅広い学生の受講を歓迎します。また、将来、オーストラリアなど国内外で日本語を教える(ATJ Program)といった、日本語教育に関心のある学生にとっても有益な情報が得られると思います。
*このコースは「外国語教育論Ⅰ,Ⅱ」の延長線上にあるよう設計されています。

フィードバックの方法:

課題については授業中に評価をつけて返却します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題	30	到達目標(1)～(5)に関する知識により評価する
	授業中のディスカッション 態度	20	Active Learningに参加しているかどうかにより評価する
	プロジェクト	50	到達目標(1)～(5)に関する知識により評価する

教科書:

白畑知彦、若林茂則、須田孝司 (2004). 英語習得の「常識」「非常識」第二言語習得研究からの検証. 東京, 大修館書店.

参考書:

授業中に提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

授業テーマ:	英語支配の現状と外国語教育の意義																																						
授業の概要:	「英語は世界の共通語である」という考え方に反論する方がどれくらいいらっしゃるでしょうか。日々の生活で英語にふれないことのほうが少ない現状において、英語が使える事が社会生活を過ごす基本的手段とさえ考えられているかもしれません。中学校からの英語教育に加え、文部科学省が目指す「英語が使える日本人」「グローバル人材」育成の一環として小学校からの早期英語教育が行われています。そもそも私達日本人はなぜ義務教育として他の言語ではなく英語を学ばなければならないのでしょうか。 この授業では前半でイギリスという1つの国で話されていた英語の生い立ちを概観し、世界共通語と考えられるようになるまでの背景を見ることで、一言語が「国際共通語としての地位」を築く為の条件を考えていただきます。その過程で、言語を「社会」という枠組みで見ることの重要性が見えてくると思います。その後、日本国内での外国語教育の歴史と英語教育の変遷を言語政策という観点から概観し、諸外国における言語教育政策と比較していきます。また国家を超えた国際機関における言語政策についても紹介しますので、これからの日本の外国語教育、特に英語教育のあるべき姿を考えていただきたいと思います。																																						
到達目標:	授業が進む中で、多様な世界の言語が「英語」という一言語に画一化され、少数言語の消滅を促すといわれる現状に問題意識を持っていただき、多文化多言語共生社会の未来を描いていただければと思っています。社会の変化と外国語教育政策という国家の政策の相関性を見出すことでその先に何かが見えてくることが目標です。																																						
授業方法:	主に講義形式で行いますが、積極的な授業への参加(質疑応答の時間や各自考える時間があります)が必要です。																																						
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 授業履修に関するガイダンス 「社会」と「外国語教育」の導入</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>2. 言語政策と外国語教育政策について</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>3. 言語の歴史:「英語」の歴史について1 ーインドヨーロッパ祖語からlingua francaに至るまでー</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>4. 言語の歴史:「英語」の歴史について2 ー国境を越えた言語global languageー</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>5. 言語の歴史:「日本語」の歴史について ー言語接触と日本語への影響ー</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>6. 日本の言語政策・外国語教育政策 ー明治から戦前ー</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>7. 日本の言語政策・外国語教育政策 ー戦後から現代までー</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td colspan="2">Quiz Day</td></tr><tr><td>8. イギリスの言語政策・外国語教育政策1</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>9. イギリスの言語政策・外国語教育政策2</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>10. アメリカの言語政策・外国語教育政策1</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>11. アメリカの言語政策・外国語教育政策2</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td colspan="2">Quiz Day</td></tr><tr><td>12. EUの言語政策・外国語教育政策1</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>13. EUの言語政策・外国語教育政策2</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>14. 英語支配と多文化多言語共生社会への取り組み</td><td>授業で指示のあった課題と復習</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>これまでの復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 授業履修に関するガイダンス 「社会」と「外国語教育」の導入	授業で指示のあった課題と復習	2. 言語政策と外国語教育政策について	授業で指示のあった課題と復習	3. 言語の歴史:「英語」の歴史について1 ーインドヨーロッパ祖語からlingua francaに至るまでー	授業で指示のあった課題と復習	4. 言語の歴史:「英語」の歴史について2 ー国境を越えた言語global languageー	授業で指示のあった課題と復習	5. 言語の歴史:「日本語」の歴史について ー言語接触と日本語への影響ー	授業で指示のあった課題と復習	6. 日本の言語政策・外国語教育政策 ー明治から戦前ー	授業で指示のあった課題と復習	7. 日本の言語政策・外国語教育政策 ー戦後から現代までー	授業で指示のあった課題と復習	Quiz Day		8. イギリスの言語政策・外国語教育政策1	授業で指示のあった課題と復習	9. イギリスの言語政策・外国語教育政策2	授業で指示のあった課題と復習	10. アメリカの言語政策・外国語教育政策1	授業で指示のあった課題と復習	11. アメリカの言語政策・外国語教育政策2	授業で指示のあった課題と復習	Quiz Day		12. EUの言語政策・外国語教育政策1	授業で指示のあった課題と復習	13. EUの言語政策・外国語教育政策2	授業で指示のあった課題と復習	14. 英語支配と多文化多言語共生社会への取り組み	授業で指示のあった課題と復習	15. まとめ	これまでの復習		
授業内容	準備学習等の内容																																						
1. 授業履修に関するガイダンス 「社会」と「外国語教育」の導入	授業で指示のあった課題と復習																																						
2. 言語政策と外国語教育政策について	授業で指示のあった課題と復習																																						
3. 言語の歴史:「英語」の歴史について1 ーインドヨーロッパ祖語からlingua francaに至るまでー	授業で指示のあった課題と復習																																						
4. 言語の歴史:「英語」の歴史について2 ー国境を越えた言語global languageー	授業で指示のあった課題と復習																																						
5. 言語の歴史:「日本語」の歴史について ー言語接触と日本語への影響ー	授業で指示のあった課題と復習																																						
6. 日本の言語政策・外国語教育政策 ー明治から戦前ー	授業で指示のあった課題と復習																																						
7. 日本の言語政策・外国語教育政策 ー戦後から現代までー	授業で指示のあった課題と復習																																						
Quiz Day																																							
8. イギリスの言語政策・外国語教育政策1	授業で指示のあった課題と復習																																						
9. イギリスの言語政策・外国語教育政策2	授業で指示のあった課題と復習																																						
10. アメリカの言語政策・外国語教育政策1	授業で指示のあった課題と復習																																						
11. アメリカの言語政策・外国語教育政策2	授業で指示のあった課題と復習																																						
Quiz Day																																							
12. EUの言語政策・外国語教育政策1	授業で指示のあった課題と復習																																						
13. EUの言語政策・外国語教育政策2	授業で指示のあった課題と復習																																						
14. 英語支配と多文化多言語共生社会への取り組み	授業で指示のあった課題と復習																																						
15. まとめ	これまでの復習																																						
受講者へのメッセージやアドバイス:	社会と外国語教育政策がテーマですので、国内外の社会情勢に興味を持って様々なメディアからの情報入手が必要となります。また授業で扱うテーマごとに考えてご自身の意見を発表していただく機会がございますので積極的な参加が必要です。積極的な参加をするためには課題に取り組み準備して授業に臨むことが重要です。																																						
フィードバックの方法:	授業で行う課題提出についてはその都度解答解説を行います。また授業内で行われる復習クイズについては採点后返却する際に解説をしますのでしっかり確認してください。																																						
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>平常点</td><td>30%</td><td rowspan="3">授業への積極的な参加(発表発言を含む)10%と課題提出20% 授業内容に関する復習クイズが行われます。 試験範囲については授業内で発表します。 基本的には授業で扱ったテーマのうち、目標に掲げた社会と外国語教育の関連性についての問題や、紹介した国や国際組織の言語政策や外国語への取り組みに関する問題が出題されます。</td></tr><tr><td>復習クイズ</td><td>20%</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>50%</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	平常点	30%	授業への積極的な参加(発表発言を含む)10%と課題提出20% 授業内容に関する復習クイズが行われます。 試験範囲については授業内で発表します。 基本的には授業で扱ったテーマのうち、目標に掲げた社会と外国語教育の関連性についての問題や、紹介した国や国際組織の言語政策や外国語への取り組みに関する問題が出題されます。	復習クイズ	20%	定期試験	50%																												
評価方法	割合	評価基準																																					
平常点	30%	授業への積極的な参加(発表発言を含む)10%と課題提出20% 授業内容に関する復習クイズが行われます。 試験範囲については授業内で発表します。 基本的には授業で扱ったテーマのうち、目標に掲げた社会と外国語教育の関連性についての問題や、紹介した国や国際組織の言語政策や外国語への取り組みに関する問題が出題されます。																																					
復習クイズ	20%																																						
定期試験	50%																																						
教科書:																																							
参考書:	授業中に適宜指示いたします。																																						
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力																																						
教員との連絡方法:	jyamaji@dw.doshisha.ac.jp																																						

授業テーマ:	ワックジャパンで学ぶ京都の文化と国際交流		
授業の概要:	(1) インターンシップⅡでは、有限会社ワックジャパンでの就労体験を通して京都の文化を実践的に学ぶことを目的とする。インターンシップを通して、学科の専門性を生かした上で、実践的学びの場を与えることを主眼とする。 (2) 京都の文化を理解するというインプットの学習と同時に、海外から京都を訪問する多くの観光客に何を伝えるのかというアウトプットの行為を同時に学ぶことができるのが、このインターンシップの特徴である。		
到達目標:	有限会社ワックジャパンの3つのポリシー: (1) 国際交流に関わる仕事をする(Be actively involved in international exchange related work) (2) 女性の能力を生かせる創造的な仕事を作り出す(Generate creative job opportunities that rely on women's skills and abilities) (3) 愛するふるさと、京都および日本の発展に尽力する(Contribute to the development of our dear hometown, Kyoto, and Japan) という考え方は、受講生に学んでもらいたい、授業の目標でもある。		
授業方法:	(1) 事前授業 ・キャリア支援部主催の講習会への参加(2回) ・学科の事前指導(1回) (2) 実習先でのインターンシップ実習(8日間64時間) 指導教員が巡回指導 (3) 事後指導 学科での反省会。 ・受講生の選考: 4月に説明会の実施、5月に英語英文学科教員による面接・選考 ・受入人数: 2名		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 事前授業1 キャリア支援部主催の講習会	予習・復習・課題	
	2. 事前授業2 キャリア支援部主催の講習会	予習・復習・課題	
	3. 事前授業3 学科の事前指導	予習・復習・課題	
	4. 体験実習1	体験日誌をつける	
	5. 体験実習2	体験日誌をつける	
	6. 体験実習3	体験日誌をつける	
	7. 体験実習4	体験日誌をつける	
	8. 体験実習5	体験日誌をつける	
	9. 体験実習6	体験日誌をつける	
	10. 体験実習7	体験日誌をつける	
	11. 体験実習8	体験日誌をつける	
	12. 事後指導	・体験日誌の提出 ・インターンシップⅡのホームページ用体験談の提出	
受講者へのメッセージやアドバイス:	・ワックジャパンの仕事内容を把握する。 ・接客業について理解する。 ・海外からの観光客に英語を使ってコミュニケーションをとることの大切さを理解する。		
フィードバックの方法:	事後指導の反省会において、参加者で意見を交換しあい、指導者は適切なアドバイスをする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	キャリアサポートの課題	10%	どれだけ真剣に調べたかを評価する
	体験実習簿	40%	どれだけ真剣に取り組んだかを評価する
	ホームページ用体験談文章	10%	どれだけ要点を簡潔にまとめたかを評価する
	事前・事後を含めた出欠席	20%	どれだけ真剣に取り組んだかを評価する
	実習先巡回時の評価	20%	どれだけ真剣に取り組んだかを評価する
教科書:			
参考書:	必用に応じてプリント等の配布		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	・E-mail ・電話		

授業テーマ:

日本昔話に見る日本人の心のあり方を探りながら、昔話を英語でたどる。

授業の概要:

幼い頃、人のいうことに耳をすまし、心を込めて聴くと言う経験を誰もがしていたはずである。昔話を聴くと、私たちは心のふるさとを垣間見たような懐かしい気持ちができるものである。昔話が私たちの心を動かす原動力はどこにあるのか。昔話の持つ力とその可能性を再発見するとともに、近代化、国際化の波に埋もれて見えなくなってしまった物語の持つ普遍性と日本人の特徴的な心のあり方を英語でたどる。

到達目標:

日本昔話を英語で読みながら基本的な英語を身につけていくと同時に、昔話の今日的意義を探る。また、西洋と日本の昔話の相違、またそこから来る日本の特殊性、また物語が持つ普遍性も評論文等を読みながら見ていくことで、読解力を身につける一助とする。

授業方法:

講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction “The Mysterious Technique of the Cat” 佚斎橋山と『田舎荘子』について	reading assignment (pp.127–pp.131/1.7)
2.	“The Mysterious Technique of the Cat” 内容確認(pp.127–pp.131/1.7)発表	reading assignment (pp.131/1.8–pp.134./1.8)
3.	“The Mysterious Technique of the Cat” 内容確認(pp.131/1.8–pp.134./1.8)発表	reading assignment (pp.134./1.9–pp.137)
4.	“The Mysterious Technique of the Cat” 内容確認(pp.134./1.9–137)発表	reading assignment “The Tale of Urashima
5.	“The Tale of Urashima” 内容確認 “The Tale of Urashima”	reading assignment ‘The Aesthetic Solution’(pp.99–102) by Kawai Hayao
6.	“The Tale of Urashima” 内容確認 reading ‘The Aesthetic Solution’(pp.99–102)	reading assignment ‘The Aesthetic Solution’(pp.102–105)
7.	“The Tale of Urashima” 内容確認 ‘The Aesthetic Solution’(pp.102–105)	reading assignment “The Wife Who Never Eats”& ‘Two Feminine Figures’ by Kawai Hayao
8.	“The Wife Who Never Eats” 内容確認 reading and listening “The Wife Who Never Eats” reading ‘Two Feminine Figures’	reading assignment “The Tale of the Bamboo Cutter”
9.	“The Tale of the Bamboo Cutter” 「竹取物語」について 内容確認 “The Tale of the Bamboo Cutter”	reading assignment ‘Psychological Type’ by Frieda Fordham
10.	“The Tale of the Bamboo Cutter” ジブリ「かぐや姫の物語」(部分)見る 英語字幕スーパー(部分)を読む	reading assignment ‘Psychological Type’ by Frieda Fordham
11.	“The Tale of the Bamboo Cutter” 「竹取物語」とジブリ「かぐや姫の物語」の比較 内容確認 ‘Psychological Type’ by Frieda Fordham	reading assignment ‘Psychological Type’ by Frieda Fordham
12.	Reading ‘Psychological Type’ by Frieda Fordham 内容確認 The Legend of Tono 「遠野物語」について	reading assignment The Legend of Tono
13.	The Legend of Tono 内容確認 The Legend of Tono	reading assignment: The Legend of Tono & The Bears of Mt. Nametoko by Miyazawa Kenji
14.	The Legend of Tono 内容確認 reading assignment The Legend of Tono & The Bears of Mt. Nametoko	reading assignment A Fox Called Gon
15.	A Fox Called Gon 内容の確認 A Fox Called Gon	レポート作成準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業で発表してもらいながら、難しい構文等はその場で解説していきます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	30%	授業でしたことがどれくらい理解できているかを基準に評価
	授業参加度、レポート	70%	積極性: 内容を理解しようと努めているかどうかを評価対象とする。レポートについては、授業でしたことを踏まえ、自分なりにどれくらい踏み込んで深く掘りさげられているかを評価基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:

tyoshie@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

京都の魅力、日本の魅力を英語でたどる。

授業の概要:

京都(日本)を訪れた外国人に、京都そして日本がどのように映っていたのか。明治から今日にかけて外国人によって書かれたエッセイ(抜粋)や日記を英語で読みながら、京都文化、日本文化の魅力を再発見していく。

到達目標:

外国人が見た京都、日本の印象、またその伝統文化を英語で読みながら、いろいろなスタイルの英文を読む英語力と読解力を身につける。また自国の文化が英語でどのように表現されているのかを学ぶと同時に、伝統文化の理解を深め、異文化の人々との共有の場をいかに開いていくかを考える。

授業方法:

講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction 異文化へのまなざし “Japan Day By Day” by Edward S. Morse Edward Morse について	reading assignment (pp.1-3)
	2. “Japan Day By Day” by Edward S. Morse reading (pp.1-3)の内容確認(発表) -江戸の雰囲気が残る明治初期の日本-	reading assignment (pp. 4-9)
	3. “Japan Day By Day” by Edward S. Morse 内容確認 reading (pp. 4-9)	reading assignment (pp.21-22)(pp.37-38) (pp.258-262)
	4. “Japan Day By Day” 内容確認reading (pp.21-22),(pp.37-38),(pp.258-262) -芸術的な街「京都」- -現代日本人が失いつつあるもの-	小テスト準備
	5. 小テスト1 'At A Railways Station' “Kokoro” by Lafcadio Hearn 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)と日本との出会い	reading assignment (pp.1-pp.2)
	6. 'At A Railways Station' “Kokoro” by Lafcadio Hearn 内容確認reading (pp.1-2) 発表	reading assignment (pp.3-pp.4)
	7. 'At A Railways Station' “Kokoro” 内容確認reading (pp.3-pp.4)発表 -ハーンが見た、当時日本人が抱いていた刑罰、罰 することが復讐の意味しか持たなくなった現代の刑 罰の違いについて考える-	'Japanese Food ’“Living in Two Countries” (pp.58- pp.61/l.14)
	8. 'Japanese Food ’“Living in Two Countries” by Donald Keene ドナルド・キーンと日本との出会い 内容確認 (pp.58-pp.61/l.14) 発表	reading assignment (pp.61/l.15-66)
	9. 'Japanese Food ’“Living in Two Countries” 内容確認 reading (pp.61/l.15-66)	reading assignment “Kaiseki”(paragraph1-11)
	10. “Kaiseki-Exquisite Cuisine of Kyoto’s Kikunoi Restaurant”-by Murata Yoshihiro 内容確認reading (paragraph1-11)発表	reading assignment (paragraph12-22)
	11. Kaiseki “by Murata Yoshihiro 内容確認 reading (paragraph12-22) 発表 季節の移ろいと深く関わっている懐石料理	小テスト準備
	12. 小テスト2 “The Japanese Way of Tea” By Sen no Soshitsu (15th Master of Urasenke) Reading Foreword 'The Chanoyu of Sen	reading assignment 'Chanoyu of the Sen Family after Rikyu'
	13. “The Japanese Way of Tea” By Sen no Soshitsu 内容確認 reading 'Chanoyu of the Sen Family after Rikyu'	reading assignment 'Sen Soshitsu, Fifteenth Grand Master of Urasenke'
	14. “The Japanese Way of Tea” By Sen no Soshitsu 内容確認 reading 'Sen Soshitsu, Fifteenth Grand Master of Urasenke' 準備学習	reading assignment 'The Japanese Way of tea: From its Origins in China to Sen Rikyu
	15. “The Japanese Way of Tea” By Sen no Soshitsu 内容確認 reading 'The Japanese Way of tea: From its Origins in China to Sen Rikyu	

受講者へのメッセージやアドバイス:

最初とつきにくいと感じる英文(構文)でも内容に興味があれば読み進められるものです。英語力以上に積極的に取り組む姿勢が大切です。英語の力は後からついてきます。

フィードバックの方法:

授業で発表してもらいながら、難しい構文はその場で解説していきます。質問は随時受け付けます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	40%	授業でしたことをどの程度理解し復習できているか。
	授業への参加度	60%	発表準備がなされているかどうか、授業への積極的姿勢等を評価基準にする

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

tyoshie@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	Kyoto Guide in English for Spring and Summer																																		
授業の概要:	This course will focus on a different temple or shrine in Kyoto each week and the festivals or events that take place there during this season. Students will learn about the history of these places and festivals in Kyoto, and have many opportunities (through pair and group work, as well as mini-presentations) to practice explaining this information clearly to tourists from abroad. Students will be required to learn new vocabulary and expressions for specific topics, at the same time as reviewing current knowledge of English grammar and gaining confidence to use these in conversation.																																		
到達目標:	* To build on students' current knowledge of English * To gain confidence in communicating with people visiting Kyoto from abroad * To introduce students to, or refresh their knowledge of, the history of certain temples and shrines in Kyoto and festivals held there * To introduce students to specific vocabulary and expressions needed to explain and talk about topics in this course and Japanese culture in general																																		
授業方法:	Both a bilingual handbook on Kyoto as well as handouts prepared by the teacher will be used during the lesson. Students are required to practice speaking in pairs and groups, and to give mini-presentations on topics of their choice, the contents of which can actually be used by students to explain about a particular aspect of a shrine or temple visited during fieldtrips.																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. Introduction to the Course/Cherry Blossom Viewing</td><td>Students choose and think about how to introduce a favorite cherry blossom viewing place to other students</td></tr><tr><td>2. Jonan-gu/Winding Stream Banquet</td><td>Background information on Jonan-gu (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>3. Sanzen-in/Ohara-me Matsuri</td><td>Background information on the Ohara area (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>4. Kyoto Gosho and Shimogamo Shrine/Aoi Matsuri</td><td>Background information on Kyoto Gosho or Shimogamo Shrine (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>5. Kaju-ji and Shinsen-en/Spring Gardens</td><td>Students prepare to talk about a garden they have visited (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>6. Heian Shrine/ Takigi Noh and Nagashi no Harae</td><td>Background information on Heian Shrine (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>7. Field Trip (Students choose the place they are most interested in)</td><td>Each student prepares a short commentary on one aspect of this place</td></tr><tr><td>8. Fushimi Inari Taisha/Taue-sai</td><td>Background information on Fushimi Inari Shrine (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>9. Fujinomori Jinja/Ajisai Matsuri</td><td>Background information on Fujinomori Jinja (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>10. Gion Matsuri 1</td><td>The history of the Gion Festival (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>11. Gion Matsuri 2</td><td>Choose a float to talk about (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>12. Gion Matsuri 3/Hanagusa Junko and Kanko-sai</td><td>Background information on Hanagusa Junko or Kanko-sai (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>13. Field Trip (Students choose the place they are most interested in)</td><td>Each student prepares a short commentary on one aspect of this place (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>14. Mt. Daimonji/Gozan no Okuribi</td><td>Background information on Obon (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr><tr><td>15. Summer Fireworks Festivals</td><td>Students choose their favorite place to recommend to visitors to Kyoto(Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. Introduction to the Course/Cherry Blossom Viewing	Students choose and think about how to introduce a favorite cherry blossom viewing place to other students	2. Jonan-gu/Winding Stream Banquet	Background information on Jonan-gu (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	3. Sanzen-in/Ohara-me Matsuri	Background information on the Ohara area (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	4. Kyoto Gosho and Shimogamo Shrine/Aoi Matsuri	Background information on Kyoto Gosho or Shimogamo Shrine (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	5. Kaju-ji and Shinsen-en/Spring Gardens	Students prepare to talk about a garden they have visited (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	6. Heian Shrine/ Takigi Noh and Nagashi no Harae	Background information on Heian Shrine (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	7. Field Trip (Students choose the place they are most interested in)	Each student prepares a short commentary on one aspect of this place	8. Fushimi Inari Taisha/Taue-sai	Background information on Fushimi Inari Shrine (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	9. Fujinomori Jinja/Ajisai Matsuri	Background information on Fujinomori Jinja (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	10. Gion Matsuri 1	The history of the Gion Festival (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	11. Gion Matsuri 2	Choose a float to talk about (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	12. Gion Matsuri 3/Hanagusa Junko and Kanko-sai	Background information on Hanagusa Junko or Kanko-sai (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	13. Field Trip (Students choose the place they are most interested in)	Each student prepares a short commentary on one aspect of this place (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	14. Mt. Daimonji/Gozan no Okuribi	Background information on Obon (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)	15. Summer Fireworks Festivals	Students choose their favorite place to recommend to visitors to Kyoto(Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. Introduction to the Course/Cherry Blossom Viewing	Students choose and think about how to introduce a favorite cherry blossom viewing place to other students																																		
2. Jonan-gu/Winding Stream Banquet	Background information on Jonan-gu (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
3. Sanzen-in/Ohara-me Matsuri	Background information on the Ohara area (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
4. Kyoto Gosho and Shimogamo Shrine/Aoi Matsuri	Background information on Kyoto Gosho or Shimogamo Shrine (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
5. Kaju-ji and Shinsen-en/Spring Gardens	Students prepare to talk about a garden they have visited (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
6. Heian Shrine/ Takigi Noh and Nagashi no Harae	Background information on Heian Shrine (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
7. Field Trip (Students choose the place they are most interested in)	Each student prepares a short commentary on one aspect of this place																																		
8. Fushimi Inari Taisha/Taue-sai	Background information on Fushimi Inari Shrine (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
9. Fujinomori Jinja/Ajisai Matsuri	Background information on Fujinomori Jinja (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
10. Gion Matsuri 1	The history of the Gion Festival (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
11. Gion Matsuri 2	Choose a float to talk about (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
12. Gion Matsuri 3/Hanagusa Junko and Kanko-sai	Background information on Hanagusa Junko or Kanko-sai (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
13. Field Trip (Students choose the place they are most interested in)	Each student prepares a short commentary on one aspect of this place (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
14. Mt. Daimonji/Gozan no Okuribi	Background information on Obon (Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
15. Summer Fireworks Festivals	Students choose their favorite place to recommend to visitors to Kyoto(Handout requiring 30 minutes-1 hour preparation)																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	Students are expected to prepare the background information on each topic (using the handbook or drawing from their own experiences) before class, so that class time can mostly focus on speaking practice. This is expected to take from 30minutes -1 hour outside of class. Students will be assessed on how well they are prepared and how actively they participate in speaking activities in class.																																		
フィードバックの方法:	Advice will be given by the teacher during class on ways to explain information clearly and concisely, both in terms of appropriate language and accurate pronunciation. Homework handouts will be returned with comments on how to improve English explanations. When students give mini-presentations, written feedback will be given on both the language content and style, and students will receive both a grade and comment for their presentation.																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>Preparation</td><td>40</td><td>Students must complete handouts for each class</td></tr><tr><td>Participation</td><td>20</td><td>Students must participate actively in pair and group work</td></tr><tr><td>Mini-presentations</td><td>40</td><td>Students must do two short presentation on two different topics</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	Preparation	40	Students must complete handouts for each class	Participation	20	Students must participate actively in pair and group work	Mini-presentations	40	Students must do two short presentation on two different topics																						
評価方法	割合	評価基準																																	
Preparation	40	Students must complete handouts for each class																																	
Participation	20	Students must participate actively in pair and group work																																	
Mini-presentations	40	Students must do two short presentation on two different topics																																	
教科書:	世界の320万人が“いいね！”した「アメージング京都」Amazing Kyoto, 2015, Discover Kyoto 編集部, 小学館, 1000円																																		
参考書:	A good dictionary (either paper or electronic)																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	brookesuz@hotmail.com																																		

授業テーマ:

2020年東京オリンピック開催に向けて国家をあげて「おもてなしの国」であることをPRし、訪日外国人観光客の増加が期待される中、日本・京都の事象を説明しなくてはいけない機会も増えてきた。
しかしバイト先や旅先でも経験済みだと思うが、英語が話せても日本の事を簡潔に説明することは難しい。
本クラスでは、京都の伝統文化、歴史、気候を英語でガイドできるように、まず主だったガイドングポイントを英語の文献を通して学び、同時に ガイドと外国人観光客に扮した実践的訓練を通してガイドングパフォーマンスの習得を目指す。

授業の概要:

入門では、1. 京都の一般知識(地形・気候・行事など) 2. 京料理と特産品 3. 旅館 4. 和室と茶道 の4テーマに絞り文献購読、グループディスカッション、日英翻訳、ロールプレイング等を通しガイドングパフォーマンスを磨く。
和室での茶道の講義と京町屋・祇園祭の見学研修を予定。

到達目標:

「使える英語」によるオリジナル「使えるスクラップブック」を作成し、それをを用いて英語で京都を案内できるように指導したい。

授業方法:

ガイドング練習→文献講読・解説→グループディスカッション→スクラップブック作成

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	General Information 京都の一般知識	復習として学んだことをスクラップブックにまとめる
2.	Topography & Climate 地形と気候	同上
3.	Heian Capital 1 平安京の歴史	同上
4.	Heian Capital 2 平安京の特徴	同上
5.	Local Products 京の特産品	同上
6.	Local Foods 1 京料理	同上
7.	Local Foods 2 京料理	同上
8.	Performance Test 1 パフォーマンステスト1	同上
9.	Japanese Accommodations 旅館・民宿・ゲストハウス	同上
10.	Japanese Room 和室	同上
11.	Japanese Tea Room & Tea Ceremony・Flower Arrangement 茶室と茶道体験	同上
12.	Festivals 京都三大祭り	同上
13.	Kyoto Town House & Gion Festival 京町屋と祇園祭研修	同上
14.	Perfomance Test 2 パフォーマンステスト2	同上
15.	Review	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本文化、殊に京都への深い興味と学習意欲のある学生に受講してもらいたい。

フィードバックの方法:

授業内で解説

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	パフォーマンステスト1	40	質問に対しスクラップブックを用いてガイドングを行ってもらい最低必要な情報が出せていれば可とする。
	パフォーマンステスト2	40	同上
	スクラップブック	20	見やすさ、分かりやすさが基準

教科書:

なし

参考書:

授業内に紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

授業テーマ:	Kyoto Guide in English for Autumn and Winter		
授業の概要:	This course will focus on a different temple or shrine in Kyoto each week and the festivals or events that take place there during this season. Students will learn about the history of these places and festivals in Kyoto, and have many opportunities (through pair and group work, as well as mini-presentations) to practice explaining this information clearly to tourists from abroad. Students will be required to learn new vocabulary and expressions for specific topics, at the same time as reviewing current knowledge of English grammar and gaining confidence to use these in conversation.		
到達目標:	* To build on students' current knowledge of English * To gain confidence in communicating with people visiting Kyoto from abroad * To introduce students to, or refresh their knowledge of, the history of certain temples and shrines in Kyoto and festivals held there * To introduce students to specific vocabulary and expressions needed to explain and talk about topics in this course and Japanese culture in general		
授業方法:	Students are required to practice speaking in pairs and groups, and to give mini-presentations on topics of their choice, the contents of which can actually be used by students to explain about a particular aspect of a shrine or temple visited during fieldtrips. Both a bilingual handbook on Kyoto as well as handouts prepared by the teacher will be used during the lesson.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Introduction to the Course/Kitano Tenman-gu/Zuiki Matsuri	Students choose and think about how to introduce a Kyo-yasai to the class	
	2. Kamigamo Shrine/Kasagake Shinji	Background information on Kamigamo Shrine (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	3. Kyoto Goshō and Heian Shrine/Jidai Matsuri	Background information on Kyoto Goshō (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	4. Yuki Jinja/Kurama no Hi Matsuri	Background information on the Kurama area (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	5. Go'o Jinja/Inoko-sai	Students prepare to talk about either the making of or the importance of Japanese rice cakes (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	6. Fushimi Inari Taisha/Hitaki-sai	Background information on Fushimi Inari Taisha (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	7. Field Trip (students choose the place they are most interested in)	Each student prepares a short commentary on one aspect of this place (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	8. Toji Temple and Kitano Tenman-gu/Temple Markets	Background information on Toji Temple or Kitano Tenman-gu (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	9. Bishamondo/Yamashina Gishi Matsuri	Background information on Bishamondo (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	10. Nishi-honganji/Osusuharai	Background information on Nishi-honganji Temple (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	11. Kyoto Ebisu Jinja/ Toka Ebisu	Students choose an aspect of the Japanese New Year to talk about (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	12. Field Trip (students choose the place they are most interested in)	Each student prepares a short commentary on one aspect of this place (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	13. Sanjusangendo/Omato Taikai	Background on Sanjusangendo (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	14. Yasaka Jinja/Setsubun	Background on Yasaka Jinja (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
	15. Ichihime Jinja/Hiina Matsuri	Students prepare to talk about their own experiences of Setsubun or Hina Matsuri (Handout requiring 30minutes-1 hour preparation)	
受講者へのメッセージやアドバイス:	Students are expected to prepare the background information on each topic (using the handbook or drawing from their own experiences) before class, so that class time can mostly focus on speaking practice. This is expected to take from 30 minutes-1 hour outside of class. Students will be assessed on how well they are prepared and how actively they participate in speaking activities in class.		
フィードバックの方法:	Advice will be given by the teacher during class on ways to explain information clearly and concisely, both in terms of appropriate language and accurate pronunciation. Homework handouts will be returned with comments on how to improve English explanations. When students give mini-presentations, written feedback will be given on both the language content and style, and students will receive both a grade and comment for their presentation.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Preparation	40	Students must complete handouts for each class
	Participation	20	Students must participate actively in pair and group work
	Mini-presentations	40	Students must do two short presentation on two different topics
教科書:	世界の320万人が“いいね！”した「アメージング京都」Amazing Kyoto, 2015, Discover Kyoto 編集部, 小学館, 1000円		
参考書:	A good dictionary (either paper or electronic)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	brookesuz@hotmail.com		

授業テーマ:

2020年東京オリンピック開催に向けて国家をあげて「おもてなしの国」であることをPRし、訪日外国人観光客の増加が期待される中、日本・京都の事象を説明しなくてはいけない機会も増えてきた。
しかしバイト先や旅先でも経験済みだと思うが、英語が話せても日本の事を簡潔に説明することは難しい。
本クラスでは、京都の伝統文化、歴史、気候を英語でガイドできるように、まず主だったガイドングポイントを英語の文献を通して学び、同時に ガイドと外国人観光客に扮した実践的訓練を通してガイドングパフォーマンスの習得を目指す。

授業の概要:

秋学期は、1. 日本の宗教 2. 社寺の違いと特徴 3. 日本庭園 4. 京の世界遺産 の4つのテーマに絞りガイドングの演習を行う。
今期は、毎回授業のはじめに京都の世界遺産のミニプレゼンを行う。各参加者は、京都の世界遺産を一か所選び調べて、英語で5分ほどのミニプレゼンを行ってもらう。

到達目標:

今期は皆でオリジナル「使えるスクラップブック」の原稿をを作成し、それをういて英語で京都を案内できるように指導したい。

授業方法:

京の世界遺産ミニプレゼン→文献購読・解説→グループディスカッション→スクラップブック作成

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Japanese Religion 1 日本の宗教～神道・仏教・キリスト教	復習として学んだことをスクラップブックにまとめる
2.	Japanese Religion 2 日本の宗教～神道・仏教・キリスト教	同上
3.	Temple & Shrine1 神社と寺の違い	同上
4.	Temple & Shrine 2 社寺に見られる13アイテム	同上
5.	Temple & Shrine 3 社寺に見られる13アイテム	同上
6.	Temple & Shrine 4 社寺に見られる13アイテム	同上
7.	Performnce Test 1 パフォーマンステスト1	同上
8.	Shokokuji 相国寺研修	同上
9.	Japanese Garden 日本庭園	同上
10.	Nijojo Castle 二条城研修	同上
11.	Golden Pavilion 1 金閣寺	同上
12.	Golden Pavilion 2 金閣寺	同上
13.	Golden Pavilion 3 金閣寺	同上
14.	Perfomance Test 2 パフォーマンステスト2	同上
15.	Review	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本文化、殊に京都への深い興味と学習意欲のある学生に受講してもらいたい。

フィードバックの方法:

授業内で解説

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	パフォーマンステスト1	40	質問に対しスクラップブックを用いてガイドングを行ってもらい最低必要な情報が出せていれば可とする。
	パフォーマンステスト2	40	同上
	スクラップブック	20	見やすさ、分かりやすさが基準

教科書:

なし

参考書:

授業内で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

授業テーマ:

京都を舞台にした日本文学を英語でたどる。

授業の概要:

文学作品の中で様々に描かれてきた京都。その京都が時代の流れのなかで、何がどのように変遷し、あるいは保持されてきたのか。日本文学を英語で読みながら見ていく。

到達目標:

日本文学をあえて英語で読み、自国の文学が英語でどのように表現され、その時代背景や登場人物が英語でどのように描写表現されるのかを学ぶ。また日本文学がどのように外国人に受容されてきたのか、またそれに対して受講者はどのように応答して(respond)いけるのか。そうしたことも含めて考え、表現できる力と、文学を英語で読み解く基礎的な力を身につける。

授業方法:	講義と演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Course Introduction “Takasebune” by Mori Ogai -高瀬川の過去と今日- -“Origin of Takasebune” by Mori Ogai (「高瀬舟縁起」)から高瀬舟の全体像を捉える- -角倉了以と高瀬川-	reading assignment (pp.225–pp.227/1.6)	
	2. “Takasebune” 内容の確認reading (pp.225–pp.227)発表 寛政年間の京都	reading assignment (pp.227/1.7–p.229/1.36)	
	3. “Takasebune” 内容の確認reading (pp.227/1.7–p.229/1.36)発表 神沢杜口と鷗外-「知足」の問題-	reading assignment (p.229/1.37–p.232)	
	4. “Takasebune” 内容の確認reading (p.229/1.37–p.232)発表 鷗外と「安楽死」の問題	小テスト準備	
	5. 小テスト “The Tale of the Heike” 平家物語の冒頭を英語で読む -「平家物語」と灌頂の巻 - 建礼門院と「平家物語」	-reading assignment 'The Initiates' Book'(pp.148–pp. pp.151) -「平家物語」冒頭暗唱テスト準備(英語、日本語)開始	
	6. 'The Initiates' Book' “The Tale of the Heike” -「女院出家」を英語で読む- 内容確認 reading(pp.148–pp. pp.151)	reading assignment (pp.151–pp.153)	
	7. 'The Initiates' Book' “The Tale of the Heike” -「大原入」を英語で読む- 内容確認 reading(pp.151–pp.153)	reading assignment (pp.153–pp.156)	
	8. 'The Initiates' Book' “The Tale of the Heike” -「大原御幸」を英語で読む- 内容確認reading (pp.153–pp.156) 発表	reading assignment (pp.156–pp.159) 「平家物語」冒頭暗唱テスト準備(英語、日本語)	
	9. 'The Initiates' Book' “The Tale of the Heike” 内容確認reading(pp.156–pp.159)発表 「平家物語」冒頭暗唱テスト(英語、日本語)	reading assignment “An Account of My Hut” (pp.5–8)	
	10. “An Account of My Hut” by Kamo no Chomei -『方丈記』冒頭の英訳を比較する- -「世の無常」、「安元の大火」、「治承の辻風」を英語で読む- 内容確認reading (pp.5–7) 発表	reading assignment (pp.7–11) 「方丈記」冒頭暗唱テスト準備(英語、日本語)開始	
	11. “An Account of My Hut” 「福原遷都」、「養和の飢饉」を英語で読む 内容確認reading (pp.7–11)発表	reading assignment (pp.12 –pp.15)	
	12. “An Account of My Hut” 「世の暮らし」、「遁世まで」を英語で読む 内容確認reading (pp.11 –pp.15)発表	準備学習reading assignment(pp.16 –pp.18) 「方丈記」冒頭暗唱テスト(英語、日本語)準備	
	13. “An Account of My Hut” 「『静かさ』を求めて」、「終章-自問と沈黙」を英語で読む 内容確認 reading (pp.16 –pp.18)発表 「方丈記」冒頭暗唱テスト(英語、日本語)	reading assignment “Rashomon”(pp.3–pp.6/1.7)	
	14. “Rashomon” by Akutagawa Ryunosuke 内容確認 reading (pp.3–pp.6/1.7) 発表	reading assignment “Rashomon”(pp.6/1.8–9)	
	15. Rashomon 内容確認 reading (pp.6/1.8–9)発表	最終レポートの準備	

受講者へのメッセージやアドバイス:

外国の文学に比べて感情移入しやすい日本文学を、あえて英語で読んでいくことで英語に慣れ親しみ、自分を表現できる語彙、表現力を身につけていきましょう。

フィードバックの方法:

授業で発表してもらいながら、難しい構文等はその場で解説していきます。

「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト(筆記、暗唱テスト)	40%	テキストの内容の理解度により評価。暗唱テストについては、発音、息継ぎ、スムーズさなどを評価対象とする。
	授業への参加度、発表、レポート	60%	授業中の意欲的な態度:積極的に参加し、テキストを理解しようとつとめているかどうかを評価対象とする。また、与えられたレポートについては、授業でしたことを踏まえ、的確に自分の意見が表現できているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡
方法:

tyoshie@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

建築・住宅・インテリアに見る西洋文化と伝統文化

授業の概要:

歴史都市京都には外国文化があふれています。
この授業は、京都の近代建築や住宅を題材に、近代京都が西洋文化をいかに受容し伝統文化とどのように融合したか、講義と現地見学を通して考えます。

到達目標:

授業の目標は、おもに西洋建築や洋風住宅の基本的な知識を学び、京都の中の洋風建築や住宅に対する理解力を獲得します。そのためには、日本の伝統建築についての学びも必要です。
この授業で得た知識は、歴史を生かした京都のまちづくりのあり方を考えるための素養となります。また、日常生活の中で建築や町並みを観る「見方」や楽しむための基礎知識ともなります。
国内外の旅先で、楽しく町歩きするためには「発見する力」が不可欠です。普通の人ならば見過ごしてしまい、気がつかないものに「価値を見つける力」を付けてもらえればと思っています。

授業方法:

講義を基本とするが、現地見学を随時行います(授業内容参照)。
現地見学のために、受講生は20人以内に限りです。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 住まいの伝統文化と外国文化	シラバスの理解
	2. インテリアデザインの和風と洋風その1	事前配布資料による予習
	3. インテリアデザインの和風と洋風その2	事前配布資料による予習
	4. 近代の洋風京都:三条通り沿いの近代建築の現地見学	事前配布資料による予習
	5. 京町家の伝統	事前配布資料による予習
	6. 京町家の現地見学	事前配布資料による予習
	7. 近代京都の洋風町家	事前配布資料による予習
	8. 近代京都の洋風町家の現地見学	事前配布資料による予習
	9. 近代京都の小学校校舎の歴史	事前配布資料による予習
	10. 近代京都の小学校校舎の現地見学	事前配布資料による予習
	11. 西洋建築の基礎1(古代ギリシャとローマ:オーダーとアーチの建築)	事前配布資料による予習
	12. 洋風建築の基礎2(ゴシックからルネサンス・バロック:中世から近代へ)	事前配布資料による予習
	13. 京都の西洋建築の現地見学	事前配布資料による予習
	14. 京都の西洋館の現地見学	事前配布資料による予習
	15. 近代建築(住宅)から現代建築(住宅)へ及び授業のまとめ	事前配布資料による予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

下記の参考文献による準備学習、および授業や見学会で配布する資料、授業ノートや見学メモによる復習などを求めます。特に、授業で作成したノートは復習の中心になるので、ノートの取り方などについて個別にチェックした上で、コメントを返します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業・学外見学への積極的参加度	60	授業・学外見学への積極的参加、授業中の質疑応答の内容・見学対象への関心の度合いなどを基準に評価します。
	学期末レポート	40	授業内容の理解度を、レポートの内容と正確さ、詳細さなどを基準に評価します。

教科書:

参考書:

『京都の近代化遺産』淡交社、
『京・まちづくり史』昭和堂
『みやこの近代』思文閣出版
『西洋建築の歴史』河出書房新社
『図説西洋建築史』彰国社
『ビジュアル版西洋建築史』丸善

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。また、Eメールでの連絡も可能です。アドレスは以下の通りです。
oba * kpu.ac.jp

授業テーマ:

『ジェイン・エア』から見る19世紀のイギリス文化

授業の概要:

・春学期は、(1)19世紀イギリス・ビクトリア朝の中産階級の女性像の変遷、(2)映画化された文芸作品と原作の比較、(3)衣食住文化、(4)土地と文化、の4つのテーマのもとで学習していく。授業では、ジェンダー'gender'(社会的・文化的性)というキーワードを念頭において学習していく。
・研究倫理についても触れる。

到達目標:

この授業では、文化研究の材料として小説『ジェイン・エア』(1847)を使用することで、19世紀全般のイギリスの女性文化について研究、分析していく。

授業方法:

関連の研究書・文献を使って、発表形式(グループごと)で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション。テーマの説明。	予習は不要
2.	発表テーマと発表者を決める。グループ・ミーティング。	各回、発表が当たっていなくても、事前に、テーマ毎の参考文献、および小説の関連箇所を読んでおくように。プレゼンの準備のためにグループで事前によく相談し、教員にも相談するように。
3.	テーマ1:「家庭の天使像と新しい女性まで」を学習	上記と同じ
4.	テーマ1: 作品Jane Eyreの精読	上記と同じ
5.	テーマ1: 発表	上記と同じ
6.	テーマ2:「映像と文芸作品の比較」の学習	上記と同じ
7.	テーマ2: 作品の精読	上記と同じ
8.	テーマ2: 発表	上記と同じ
9.	前半部のまとめとディスカッション	上記と同じ
10.	テーマ3: 英国レディを文化・文学から読み解く。『ジェイン・エア』を材料にを使って、食文化、衣裳、インテリアなどの19世紀イギリスの女性文化を読み解く。	上記と同じ
11.	テーマ3: 作品の精読	上記と同じ
12.	テーマ3: 発表	上記と同じ
13.	テーマ4:「土地と表象―ブロンテが歩いたヨークシャーとブリュッセル」 作品の精読	上記と同じ
14.	テーマ4: 発表	上記と同じ
15.	春学期の総まとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは、採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート7月に1回提出	40%	アカデミック・スキルズを応用し、作品と先行研究を使用して、分析・解釈などの論旨展開をしていることが重要。研究レポートとしてのレベルに達しているかどうかを基準にする。
	授業発表(グループ毎のプレゼン)	30%	アカデミック・スキルズを応用したプレゼンの方法を踏襲しているかどうかを基準。
	授業への積極的参加度	30%	毎回出席をとる。

教科書:

Charlotte Bronte, Jane Eyre (1847) (Norton Edition)

参考書:

必要な教材は随時、授業中にプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメールの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。

授業テーマ:

イギリスの現代の日常生活から見る文化と文学

授業の概要:

イギリス人ジャーナリストのエッセイを読みながら、イギリスという国の様々な面に着目し、そこから更にイギリスの歴史や文化の理解へと解釈を深めて行く。
また研究倫理についても指導する。

到達目標:

イギリスの歴史や文化について興味・関心を持ち、それらについて調べ知識を深め、それを口頭で発表し、アカデミックな文章にまとめる作業に慣れる。英文のテキストや資料を精読することにより英文読解力をつける。

授業方法:

演習形式で授業を行う。音読、(必要部分の)和訳、担当教員による解説、個人研究の発表、討議などを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション: 授業の進め方、受講する際に求められる事項を説明する。研究倫理に関する注意を行う。ねつ造、改ざん、盗用を絶対してはいけないことを強調する。	研究倫理についての注意事項を常に意識すること。次の回に読む力所を予習しておく。
2.	テキストの“Preface”精読。	授業で学んだことを復習し、次回の授業で進む範囲を予習して自分なりの考えを持つ。
3.	テキストの第1章、ならびに関連資料を精読。	同上
4.	テキストの第2章ならびに関連資料を精読。	同上
5.	これまでの授業で学んだことの中からテーマを1つ選びリサーチした結果を口頭発表する。	同上
6.	テキストの第4章、ならびに関連資料を精読。	同上
7.	テキストの第5章、ならびに関連資料を精読。	同上
8.	6回目と7回目の授業で学んだことの中からテーマを1つ選びリサーチした結果を口頭発表する。	同上
9.	テキストの第6章、ならびに関連資料を精読。	同上
10.	テキストの第7章、ならびに関連資料を精読。	同上
11.	9回目と10回目の授業で学んだことの中からテーマを1つ選びリサーチした結果を発表する。	同上
12.	発表と討議(1) 最も興味を持ったテーマについて更に深く調べた結果の発表と質疑応答。まとめのレポート作成の注意を述べる。	発表者は各自、原稿内容や発表態度にも注意して、理路整然たる明確なプレゼンテーションとレポート提出になるよう工夫すること。
13.	発表と討議(2) 同上	同上
14.	テキストや関連資料についての総復習	試験に備え、読みの疎かだった部分などを補っておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出させたレポートや試験の答案については添削あるいは採点して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業に望む態度	20%	予習の有無、意欲の有無、答える場合の態度や言葉遣いにより評価する。
	口頭発表の内容	20%	研究倫理の遵守、発表内容の質、言葉と態度により評価する。
	課題(レポート)	20%	研究倫理遵守、内容の質、アカデミックな表現・形式の習得状況を見て評価する。
	筆記試験	40%	授業で扱った英文資料の内容理解の程度により評価する。

教科書:

Colin Joyce, Realise Britain, Kinseido

参考書:

クラスで適宜紹介し、必要な部分はコピーして配布し、教材として用いる。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール(ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:

マザーグースにみるイギリス人・風土・歴史

授業の概要:

イギリスの伝承童謡群〈マザーグースの歌〉が根強い人気と生命力を保ちながら歌い継がれ、現代でも新聞の見出しや文学、映画でもじられるばかりか、挿し絵や日用品、パプサインにも描かれ、人びとの日常生活に深く浸透すると共に、その性格形成にまで大きな影響を及ぼしてきたことは、よく知られている。
本講座では代表的マザーグースをとりあげ、その多岐にわたるテーマの中でも、特にイギリスの風土や国民性、年中行事、興味深い歴史的エピソードや人物などに焦点をしばって分析する。イギリスの社会や文化について、知識と理解を深めたい。研究倫理についても指導する。

到達目標:

・代表的マザーグースに関する知識(押韻、背景、影響力など)の修得

・プレゼンテーション力(デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成)の向上

・代表的マザーグースをメロディーやリズムをつけ、正確な発音で暗唱する能力の修得

授業方法:

講義やグループ発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。十分な予習をして、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業オリエンテーション	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	・グループ発表分担決定	
	・グループ発表要領確認	
3.	講義: マザーグース概説	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の配布プリントを読み直しておく。
4.	講義: マザーグースの影響	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の配布プリントを読み直しておく。
5.	グループ発表 1: マザーグースとイギリスの風土	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の重要点を復習しておく。
6.	グループ発表 2: マザーグースの登場人物 1	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の重要点を復習しておく。
7.	グループ発表 3: マザーグースの登場人物 2	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の重要点を復習しておく。
8.	グループ発表 4: マザーグースとイギリスの祝祭日	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の重要点を復習しておく。
9.	講義: マザーグースと民間伝承	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の重要点を復習しておく。
10.	グループ発表 5: マザーグースの恋唄 1	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の重要点を復習しておく。
11.	グループ発表 6: マザーグースの恋唄 2	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の重要点を復習しておく。
12.	グループ発表 7: マザーグースとイギリスの歴史 1	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の重要点を復習しておく。
13.	グループ発表 8: マザーグースとイギリスの歴史 2	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の重要点を復習しておく。
14.	マザーグース暗唱テスト: 練習	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
		・前回授業の重要点を復習しておく。
15.	補足説明	春学期授業内容の復習
	まとめ	春学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。

・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。

・やむを得ず欠席する場合は、E-mailで小山に連絡してもらいたい。

フィードバックの方法:

グループ発表については、直後に発表者以外の学生全員がコメント(質問、良かった点、改善点)を言い、小山が総括的なコメントをする。各発表者のデリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成などについても、良かった点と改善点を具体的に指摘する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
	グループ発表	20%	各発表者とグループ全体の、デリヴァリー力と、パワーポイントのスライド作成力、ハンドアウト作成力を評価。
	暗唱テスト	10%	代表的マザーグース(15曲)をメロディーやリズムをつけ、正確な発音で暗唱できるかを評価。
	学期末試験	50%	春学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:

Iona and Peter Opie (ed.): The Book of Nursery Rhymes (Yumi Press, 2001)

参考書:

必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Emailやオフィスパワーを利用。

授業テーマ:

映画によるアメリカ研究

授業の概要:

アメリカ文化全般を、映画を用いて研究する。われわれはアメリカ映画をみるとき、作品の背景にある文化的・歴史的事項を知ることなく、表面的な面白さに満足してしまいがちである。たとえば、『風と共に去りぬ』は人種差別的要素を多分に含んだ作品であるのだが、そこを見過ごし、南部貴族の華麗な世界やヒロインの不屈の生き様のみに焦点をあててみている。クラスでは、映画の背景にある文化的知識を解明することにより、映画の内容を包括的に理解していく。
なお、授業時に研究倫理についての指導もおこなう。

到達目標:

映画作品をより深く理解し、さらに批判的精神をもって作品を分析できるようにする。

授業方法:

講義と講読、指定した課題の発表を中心に進めていく。発表の内容に関する質疑応答。AV資料の鑑賞。夏期休暇中にゼミ合宿をおこない、秋学期の授業に備える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	シラバスを再度読んでおくこと。
	2. アメリカ文化全般にわたる講義	アメリカの主要都市の位置を確認しておく。
	3. 発表形式による、映画鑑賞前のキーワード説明	担当者だけでなく、クラス全員がキーワードを調べておく。
	4. Forrest Gumpの要点説明とディスカッション	指定の映画を鑑賞しておく。
	5. 発表形式による、映画鑑賞前のキーワード説明	担当者だけでなく、クラス全員がキーワードを調べておく。
	6. Do the Right Thingの要点説明とディスカッション	指定の映画を鑑賞しておく。
	7. 発表形式による、映画鑑賞前のキーワード説明	担当者だけでなく、クラス全員がキーワードを調べておく。
	8. Thelma & Louiseの要点説明とディスカッション	指定の映画を鑑賞しておく。
	9. 発表形式による、映画鑑賞前のキーワード説明	担当者だけでなく、クラス全員がキーワードを調べておく。
	10. Gloryの要点説明とディスカッション	指定の映画を鑑賞しておく。
	11. 発表形式による、映画鑑賞前のキーワード説明	担当者だけでなく、クラス全員がキーワードを調べておく。
	12. Dances with Wolvesの要点説明とディスカッション	指定の映画を鑑賞しておく。
	13. 研究テーマ選択に関する講義	どのようなテーマに興味をもつのか考えておく。
	14. 論文執筆に関する講義	指定した論文の中から、1編を読んでおく。
	15. 論文の書式に関する講義	指定した論文の中から、1編を読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

- ・指定した映画をみたり、書籍や論文を講読して当該の授業に参加する。
- ・論文の進行状況を定期的に報告する。
- ・発表前に発表概要を報告する。
- ・発表前に時間を計り、パワーポイントの提示時期等を練習しておく。
- ・クラスメイトの発表に対する意見、質問等を書き発表の次週に提出する。
- ・クラスメイトの発表タイトルに関する知識をできるだけ得ておく。

フィードバックの方法:

授業中に随時コメント用紙を配り、講義中に不明であった箇所や質問を書かせ、次の週に回答する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加	30%	欠席や遅刻の回数。授業中、積極的に発言しているか。
	ペア発表	20%	キーワードを丁寧に説明しているか、説明の仕方に工夫はあるか。
	レポート	30%	論理的に文章を展開しているか、書式を守っているか。
	研究プラン提出	10%	研究プランを期日を守って提出しているか。
	ディスカッション	10%	ディスカッションに参加し、積極的に意見を述べているか。

教科書:

未定。

参考書:

最初の授業時に説明する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

公開している学校のメールアドレス(nmatsumu@dwc.doshisha.ac.jp)で連絡をとる。

授業テーマ:	英米文学に現れた女性像																																																		
授業の概要:	女性のイメージは時代とともに変化し、一面では時代を映す鏡でもあった。Mary Anne FergusonのImages of Women In Literature(1991)は、現代英米文学の短編や詩を6つのタイプの女性像 ― 妻、母、理想の女性、性の対象物、男のいない女性、これからの女性 ― に分類し、さまざまな女性の生き方を紹介している。かわいい妻を演じる女性、娘を愛せない母親と母を憎む娘、男性を陶酔と破滅に追いやる宿命の女、レイプの犠牲となる女性、不倫相手からの電話を待ち続ける女、レズビアン・ファミリーなど。この授業では、女性が主人公の短編小説や詩を読みながら、それぞれの女性について考えるとともに、様々な女性の生き方に触れることによって、各自の将来も含め未来の女性像について考える。またレポート・論文を書く上での研究倫理を学ぶ。																																																		
到達目標:	(1) 英語で書かれた文学作品を正確に読解すること。 (2) 文学作品の分析をすること。 (3) 文学作品の内容をプレゼンテーションすること。 (4) 自分の意見を人前ではっきり述べること																																																		
授業方法:	(1) 英米文学作品を訳読式で読解する。 (2) 読み終えたらディスカッションを通して内容理解を深める。 (3) グループで映画作品のプレゼンテーションをする。																																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th colspan="2">授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1.</td><td>授業のオリエンテーション レポート・論文を書く際の研究倫理の指導</td><td>研究倫理についての再確認</td></tr><tr><td>2.</td><td>「妻」を描いた作品の講読・発表</td><td>作品訳読の予習が不可欠</td></tr><tr><td>3.</td><td>「妻」を描いた作品の講読・発表</td><td>作品訳読の予習が不可欠</td></tr><tr><td>4.</td><td>上記の作品についてのディスカッション</td><td>読み終えた作品のミニ・レポートを書く</td></tr><tr><td>5.</td><td>「母」を描いた作品の講読・発表</td><td>作品訳読の予習が不可欠</td></tr><tr><td>6.</td><td>「母」を描いた作品の講読・発表</td><td>作品訳読の予習が不可欠</td></tr><tr><td>7.</td><td>上記の作品についてのディスカッション</td><td>読み終えた作品のミニ・レポートを書く</td></tr><tr><td>8.</td><td>「男のいない女」を描いた作品の講読・発表</td><td>作品訳読の予習が不可欠</td></tr><tr><td>9.</td><td>「男のいない女」を描いた作品の講読・発表</td><td>作品訳読の予習が不可欠</td></tr><tr><td>10.</td><td>上記の作品についてのディスカッション</td><td>読み終えた作品のミニ・レポートを書く</td></tr><tr><td>11.</td><td>「妻」を描いた映画のグループ発表</td><td>グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備</td></tr><tr><td>12.</td><td>「母」を描いた映画のグループ発表</td><td>グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備</td></tr><tr><td>13.</td><td>「男のいない女」を描いた映画のグループ発表</td><td>グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備</td></tr><tr><td>14.</td><td>女性の生き方を描いたDVDを見てのディスカッション</td><td>感想を書く</td></tr><tr><td>15.</td><td>まとめ</td><td>夏休みの課題として、「理想の女性像」を描いた作品を読んで感想文を書く</td></tr></table>	授業内容		準備学習等の内容	1.	授業のオリエンテーション レポート・論文を書く際の研究倫理の指導	研究倫理についての再確認	2.	「妻」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠	3.	「妻」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠	4.	上記の作品についてのディスカッション	読み終えた作品のミニ・レポートを書く	5.	「母」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠	6.	「母」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠	7.	上記の作品についてのディスカッション	読み終えた作品のミニ・レポートを書く	8.	「男のいない女」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠	9.	「男のいない女」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠	10.	上記の作品についてのディスカッション	読み終えた作品のミニ・レポートを書く	11.	「妻」を描いた映画のグループ発表	グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備	12.	「母」を描いた映画のグループ発表	グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備	13.	「男のいない女」を描いた映画のグループ発表	グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備	14.	女性の生き方を描いたDVDを見てのディスカッション	感想を書く	15.	まとめ	夏休みの課題として、「理想の女性像」を描いた作品を読んで感想文を書く		
授業内容		準備学習等の内容																																																	
1.	授業のオリエンテーション レポート・論文を書く際の研究倫理の指導	研究倫理についての再確認																																																	
2.	「妻」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠																																																	
3.	「妻」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠																																																	
4.	上記の作品についてのディスカッション	読み終えた作品のミニ・レポートを書く																																																	
5.	「母」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠																																																	
6.	「母」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠																																																	
7.	上記の作品についてのディスカッション	読み終えた作品のミニ・レポートを書く																																																	
8.	「男のいない女」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠																																																	
9.	「男のいない女」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠																																																	
10.	上記の作品についてのディスカッション	読み終えた作品のミニ・レポートを書く																																																	
11.	「妻」を描いた映画のグループ発表	グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備																																																	
12.	「母」を描いた映画のグループ発表	グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備																																																	
13.	「男のいない女」を描いた映画のグループ発表	グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備																																																	
14.	女性の生き方を描いたDVDを見てのディスカッション	感想を書く																																																	
15.	まとめ	夏休みの課題として、「理想の女性像」を描いた作品を読んで感想文を書く																																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	英米文学作品をこつこつ訳読することが好きな人。 女性問題に関心のある人。																																																		
フィードバックの方法:	(1) プレゼンテーションには、フロアーの学生がコメント用紙に記入して評価する。 (2) ミニ・レポートは可能な限りコメントをつけて返却したり、みんなの意見として総括してフィードバックする。																																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>学期 末試験</td><td>40%</td><td>作品理解がちゃんとできているか</td></tr><tr><td>グループ発表</td><td>20%</td><td>グループで協力しあって発表ができているか</td></tr><tr><td>ミニ・レポート</td><td>10%</td><td>作品について分析的に書けているか</td></tr><tr><td>ディスカッション</td><td>10%</td><td>自分の意見がしっかり言えるか</td></tr><tr><td>受講態度(出席・予習・積極性)</td><td>20%</td><td>作品の予習がしっかりできているか</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	学期 末試験	40%	作品理解がちゃんとできているか	グループ発表	20%	グループで協力しあって発表ができているか	ミニ・レポート	10%	作品について分析的に書けているか	ディスカッション	10%	自分の意見がしっかり言えるか	受講態度(出席・予習・積極性)	20%	作品の予習がしっかりできているか																																
評価方法	割合	評価基準																																																	
学期 末試験	40%	作品理解がちゃんとできているか																																																	
グループ発表	20%	グループで協力しあって発表ができているか																																																	
ミニ・レポート	10%	作品について分析的に書けているか																																																	
ディスカッション	10%	自分の意見がしっかり言えるか																																																	
受講態度(出席・予習・積極性)	20%	作品の予習がしっかりできているか																																																	
教科書:	『女人生模様』/Images of Women in Literature Mary Anne Ferguson 編 (開文社)																																																		
参考書:	必要に応じてプリントを配布する。																																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、																																																		
教員との連絡方法:	ライン E-mail 電話																																																		

授業テーマ:

Culture, Society and Communication I

授業の概要:

Students will be exposed to a variety of topics in examining and comparing Japan with different countries and cultures.

到達目標:

Students will be learn to analyze and think critically about different topics and social issues.
Students will learn about the world around them from a different perspective.

授業方法:

Coursework will consist of in-class discussion, group work, oral presentations and written assignments, concluding with a final report at the end of term.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to course, goals and expectations	Weekly Assignments
	2. Culture	Weekly Assignments
	3. Society and Culture	Weekly Assignments
	4. Society and Culture	Weekly Assignments
	5. Language and Culture	Weekly Assignments
	6. Language and Culture	Weekly Assignments
	7. Media and Culture	Weekly Assignments
	8. Media and Culture	Weekly Assignments
	9. Introduction to gender issues	Weekly Assignments
	10. Introduction to gender issues	Weekly Assignments
	11. Cross-cultural communication	Weekly Assignments
	12. cross-culture communication	Weekly Assignments
	13. Rules for conducting research, writing research papers	Preparations for Final assignment
	14. Final Assignment	Preparations for Final assignment
	15. Final Assignment	Preparations for Final assignment

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to speak English with the instructor and fellow students every class. A high level of motivation is required in order to do well in this class.

フィードバックの方法:

Will be specified by the instructor in class

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	20%	as determined by the instructor
	Group work/in-class participation	20%	as determined by the instructor
	Weekly assignments and Presentations	60%	as determined by the instructor

教科書:

Kluge, D.E., Taylor, M. A., Basic Steps to Writing Research Papers (2007), Cengage Learning, Japan.
ISBN-10: 4902902893

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Will be informed by the instructor in class

授業テーマ: Introduction to Film Translation: English to Japanese

授業の概要: Did you know that subtitles are often completely different from what the actors are actually saying? The reasons have to do with length of time, cultural and linguistic differences, and the need to help the viewer understand clearly what is happening in the film and what the emotional impact of each line is. Through "Casablanca" and other movies, we will learn what some of the differences are between English and Japanese, and how these affect the translator's task. Students will need excellent Japanese skills as well as English skills. We will also consider differences between literal translation, natural translation, and paraphrase.

到達目標: --to understand movie dialogue and know what makes an effective translation
--to improve background knowledge and cultural awareness while deepening respect for both languages
--to learn to ask questions, work with others, and communicate effectively

授業方法: Seminar style

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Introduction to subtitling: What is a subtitle? Look at previous class's work and comment	Watch Casablanca and write a five-paragraph reaction paper.
2. Casablanca Reaction paper due	Prepare questions for discussion.
3. Casablanca Discussion	Begin work on assigned section. Begin work on subtitle journal, with notes or queries on subtitles for any programs viewed during the week.
4. Casablanca Submit subtitle journal.	Continue translation Subtitle journal.
5. Casablanca: group presentations	Write a paper summarizing and explaining three points of your translation. Subtitle journal.
6. Freedom Writers Casablanca paper due	Watch the movie and be prepared to discuss it Subtitle journal.
7. Gone With the Wind or similar movie.	Worksheet. Choose one paper by sempai to report on to class. Subtitle journal.
8. Discussion of assigned topics. Submit subtitle journal.	Choose movie for final project Work on sempai reports Subtitle journal.
9. Oral reports, continued. Discussion of selected scenes of selected movies.	Begin translation. Subtitle journal.
10. Group work	Continue translation. Subtitle journal.
11. Group work	Complete the translation Subtitle journal.
12. Student presentation and discussion	Prepare for presentation Subtitle journal.
13. Student presentation and discussion	Prepare for presentation Subtitle journal.
14. Concluding remarks: what is a subtitle? Submit subtitle journal.	Write 3-5 page paper on the final presentation.
15. Conclusion	Study for exam.

受講者へのメッセージやアドバイス: The more English you know the better, of course, but Japanese is just as important. This is a good chance for you to explore movies in depth and improve your communication skills on all levels. Be prepared to be surprised by the art of translation. Above all, come to class!

フィードバックの方法: Student papers will be returned with comments. Translations will be read and commented on, with individual conferences during class or outside class if more time is needed. Peer feedback will also be provided.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance, participation	15	Attendance is expected. Positive, active participation is required.
	oral presentations	20	Clear, effective, thoughtful presentation of the topic at hand.
	short paper	15	Effective logical development using introduction, thesis statement, topic sentences, conclusion, and reference.
	Subtitle journal	10	regularity of submission; at least three comments per movie per week
	final paper	20	A 3-5 page paper clearly explaining, for those with no knowledge of Japanese, what decisions went into the crafting of subtitles.
	final examination	20	To cover basics of subtitle writing; film contents; some sight translation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法: - send email
- see office hours
- ask in the classroom before and/or during class

授業テーマ:

The Role of Sound in Language (「音」にまつわる言語学)

授業の概要:

このコースでは「言語音」に焦点をあて、母語である日本語と学習語である英語を比較しながら、言語についての知識を深めることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びによりphonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processingなど、受講生がさまざまな分野へと興味を広げることを期待する。このコースではInternational Phonetic Alphabet (IPA)を使用するため、受講にあたり、「英語音声学 I & II」「Pronunciation Skills I & II」を履修していることを強く勧める。(注意:「英語の発音練習」のためだけのゼミではない)

またこの授業では研究倫理についても指導する。

到達目標:

普段話していることばが「なぜそういう発音になったか」「どうしてそう言うのか」を説明することは容易なことではない。なぜなら自然に、無意識に話しているからである。このゼミでは、与えられたデータ(音声)と向き合い、そこに隠れている音韻ルールを見つける課題を通して、言語の不思議な世界を少し覗いてみる。

授業方法:

このコースは講義を中心に行うが、仲間とともに課題に取り組み、ディスカッションや発表を通じてゼミ生の理解を確認する機会も多い。また、ゼミ生間の親睦を深めるため、ゼミ合宿を行ったり、大学行事へ参加する場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	特になし
2.	言語とはなにか(1)	課題① レポート課題 リーディング課題
3.	言語とはなにか(2)	課題② レポート課題 リーディング課題
4.	日本語と英語について(1)	課題③ レポート課題 リーディング課題
5.	日本語と英語について(2)	課題④ レポート課題 リーディング課題
6.	音韻ルールを探そう(1)	課題⑤ レポート課題 リーディング課題
7.	音韻ルールを探そう(2)	課題⑥ レポート課題 リーディング課題
8.	音韻ルールを探そう(3)	課題⑦ レポート課題 リーディング課題
9.	音韻ルールを探そう(4)	課題⑧ レポート課題 リーディング課題
10.	音韻ルールを探そう(5)	課題⑨ レポート課題 リーディング課題
11.	音韻ルールを探そう(6)	課題⑩ レポート課題 リーディング課題
12.	音韻ルールを探そう(7)	課題⑪ レポート課題 リーディング課題
13.	音韻ルールを探そう(8)	課題⑫ レポート課題 リーディング課題
14.	リサーチとは	予備
15.	まとめ	学期末レポート

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

課題にはまず自分で取り組む。授業ではクラスメートとのディスカッションを通じてトピックについての理解を確認し、また理解を深める。理解したことを文章でまとめることで、論理的に説明するスキルを練習する。レポートはチェックされ返却される。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	20%	課題へ取り組む姿勢、学生間の相互協力など評価に加える。
	課題提出・発表	40%	課題の提出、発表(内容・態度)など評価に加える。
	期末課題または期末テスト	40%	授業で扱ったトピックに関する課題またはテストを行い、評価に加える。

教科書:

川越いつえ、英語の音声を科学する、2007、大修館書店
今井由美子他、Sounds Make Perfect、2010、英宝社 (Active Listening で使用したものでよい)
白井利明他、よくわかる卒論の書き方、2010、ミネルヴァ書房 (Senior Seminarでも使用する)

参考書:

Fromkin,V., Rodman, R., & Nina Hyams, N., フロムキン の言語学、2006、トムソンラーニング
本名信行、世界の英語を歩く、2003、集英社新書
英語音声学研究会、大人の英語発音講座、2003、生活新書
東照二、社会言語学入門―生きた言葉のおもしろさにせまる、2007、研究社
ゾルダン・ドルニユイ、外国語教育学のための質問紙調査入門、2009、松柏社
大津由紀雄、ことばワークショップ ―言語を再発見する―、2011、開拓社
ことばに魅せられて 対話編、2008、ひつじ書房、
探検！ことばの世界、2008、ひつじ書房、その他多数

鈴木孝夫、閉ざされた言語・日本語の世界、2006、新潮社

森光有子他、英語vs.日本語—日本人にとって英語とは何か—、2009、開文社出版

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ:

ICT and English Learning and Teaching in the 21st Century
(国際語としての英語教育(学習・教授)にICTをどう活用できるだろうか？ Wakamoto Seminar XVIII)

授業の概要:

The world keep changing.

Applied Linguistics (Language Learning, Teaching, Use) is not an exception. Especially the impact of ICT (Information and Communications Technology) has been enormous. The main theme of this seminar is to discuss how we can utilize this ICT, such as the Internet, smartphones, iPads and SNS, to improve teaching and learning English in Japan. For that purpose, we also try to establish a foundation of Applied Linguistics, how languages are learned and taught.

Different from the past Wakazemi style, this year's junior seminar is designed so that the course content is completed in ONE year and so that participants could develop their gained knowledge and skills in any way in their following senior year.

到達目標:

Goals of this semester are three-fold: (1) to get to know each other to make this seminar a comfortable place to study in; (2) to know basic terms of Applied Linguistics, specifically Second Language Acquisition (SLA) Research; and (3) to have the practical English and ICT skills.

授業方法:

Lectures will introduce new concepts and theories, and selected part of the textbooks will be assigned for writing entries (critical summaries, six times) and discussing in class. Students will give one oral presentation in class on textbooks.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Introductions and individual expectations	Think about what you expect to this course.
2. Introductions to seminar: What is "Seminar?"	Read the assigned part of the textbook.
3. Introductions to the SLA	Read the assigned part of the textbook.
4. Behaviourism-1: First language acquisition: Skinner, S-R psychology	Read the assigned part of the textbook.
5. Behaviourism-2: Second language acquisition: Contrastive Analysis & Imitation	Read the assigned part of the textbook.
6. Innatism-1: First language acquisition: Chomsky, Universal Grammar	Read the assigned part of the textbook.
7. Interactionist-1: First language acquisition: Piaget, Vygotsky, Motherese	Read the assigned part of the textbook.
8. Interactionist-2: Second language acquisition: Long, Foreigner Talk	Read the assigned part of the textbook.
9. Interactionist-2: Second language acquisition: Long, Foreigner Talk	Read the assigned part of the textbook.
10. Mini-project-1: ICT and English learning (CALL classroom)	Read the assigned part of the textbook.
11. Mini-project-2: ICT and English learning (CALL classroom)	Read the assigned part of the textbook.
12. Mini-project-3: ICT and English learning (CALL classroom)	Read the assigned part of the textbook.
13. Mini-project-4: ICT and English learning (CALL classroom)	Read the assigned part of the textbook.
14. Mini-project-5: ICT and English learning (CALL classroom)	Read the assigned part of the textbook.
15. Consolidation of the spring semester	Read the assigned part of the textbook.

受講者へのメッセージやアドバイス:

This seminar is conducted both in English (50%) and Japanese (50%) to develop participants' English development.

フィードバックの方法:

Entries will be returned to the participants with comments and grades. Presentation scores will be shown through Manaba.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Entries	40	Based on shared rubrics
Presentation	20	Based on shared rubrics
Seminar project	40	Based on shared rubrics

教科書:

Lightbown and Spada (2013). How Languages are learned. (4th sdition). NY: Oxford University Press
Brown, H. D. (2002). Strategies for success. New York, Longman.

参考書:

Shown in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力

教員との連絡方法:

Through e-mail or vising the instructor in person.

授業テーマ:

Nonverbal Communication

授業の概要:

In this course, we will discuss various theories of nonverbal communication, that is, communication without words. We will look at different types of nonverbal communication and their use in daily life.

到達目標:

The purpose of this course is to introduce students to various aspects of nonverbal communication and help them understand their application to daily life as well as to verbal communication.

授業方法:

Students will read about theoretical aspects of nonverbal communication. Through group discussion, they will develop their understanding of these theories and their application to their own experiences. They will also work on a video group project about an aspect of nonverbal communication.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to Nonverbal Communication	none
	2. Body Movements and Gestures	Read chapter and answer questions.
	3. Eye Behavior and Gaze	Read chapter and answer questions.
	4. Territoriality	Read chapter and answer questions.
	5. Personal Space	Read chapter and answer questions.
	6. Time	Read chapter and answer questions.
	7. Touching Behavior	Read chapter and answer questions.
	8. The Voice and Vocal Expression	Read chapter and answer questions.
	9. Clothing as Communication	Read chapter and answer questions.
	10. Artifacts as Communication	Read chapter and answer questions.
	11. The Environment as Communication	Read chapter and answer questions.
	12. Intercultural Aspects of Nonverbal Communication	Read chapter and answer questions.
	13. Verbal Expressions of Nonverbal Communication	Read chapter and answer questions.
	14. Preparation for presentations	Preparation for presentations
	15. Presentations	Preparation for presentations

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Comments to students

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Homework	50	Depends on assignment
	Presentation	30	Content and delivery
	Test(s)	20	Extent to which students show what they have learned

教科書:

Nonverbal Communication by Kitao and Kitao (Ikubundo)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:

Text and Performance

授業の概要:

The emphasis of this course is on developing performance skills through studying and rehearsing literature written for performance. We will read a play and see how dramatic theme and tension are developed throughout it and then rehearse the play for a partial performance at the end of the year. As we do so, we will learn about building a character for performance and develop the skills necessary to bring a performance alive: voice projection, intention, irony, timing, movement and collaboration. We will read Pygmalion, the play on which the musical, My Fair Lady, is based.

到達目標:

1. Develop vocal and physical performance skills.
2. Develop analytical ability of dramatic literature including such aspects as characterisation, irony, plot structure and theme.
3. Increase understanding of British society.

授業方法:

Students are expected to read excerpts of the play in both Japanese and English in advance and to summarise the development of the story and its characters. In class students will read the play and discuss the development of characterization and theme within it. There will also be regular practice in developing vocal skills in English, such as intonation, articulacy and projection.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: course overview and objectives Life of Shaw Drama skills workshop	Read whole play in Japanese
2.	Myth of Pygmalion Discuss similarities and differences between myth and play Drama skills workshop	Read first third of Act 1
3.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read second third of Act 1
4.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read last third of Act 1
5.	Quiz on Act 1 Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read first scene of Act 2
6.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read next scene of Act 2
7.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read first scene of Act 2
8.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read final scene of Act 2
9.	Quiz on Act 2 Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read opening scene of Act 3
10.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read next scene of Act 3
11.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read next scene of Act 3
12.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read final scene of Act 3
13.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Prepare for in-class presentations
14.	Presentations Quiz on Act 3	Written report
15.	Hand in report Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

The more you put in, the more you will get out.

フィードバックの方法:

Participation will be commented on directly.
Written work will be graded and returned with comments and corrections.
Scene presentation work will receive a grade and a comment.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	30	Attendance, attentiveness and active participation
	Quizzes	20	Filling in missing words from text or identifying the speaker of a line
	Performance presentation	20	Demonstrating comprehension of text and acting technique covered in class.
	Character and plot analysis	30	Succinctly summarising plot in one's own words. Selecting key quotations of characters and adding commentary.

教科書:

Pygmalion (Penguin Classics) (英語) ペーパーバック - 2003/2/4
George Bernard Shaw (著), Dan H. Laurence (編集)
ピグマリオン (光文社古典新訳文庫) 文庫 - 2013/11/8
George Bernard Shaw (原著), バーナードショー (翻訳)

参考書：

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法： tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

『ジェイン・エア』から見る19世紀のイギリス文化

授業の概要:

秋学期は、(1)19世紀の英国絵画プレ・ラファエロ前派の絵画、(2)「美女と野獣」のモチーフ、(3)19世紀の女性の精神的な病、(4)聖書的アリュージョン、の4つのテーマのもとで学習していく。授業では、ジェンダーというキーワードを念頭において学習していく。

到達目標:

この授業では、文化研究の材料として小説『ジェイン・エア』(1847)を使用することで、19世紀全般のイギリスの女性文化について、研究・分析する。アカデミックな研究を行うことを目標にする。

授業方法:

関連の研究書・文献を使って、発表形式(グループごと)で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション。7月に提出したレポートの講評。	予習は不要
2.	テーマ1:「19世紀の英国絵画と女性文化」を学習グループ・ミーティング	各回、発表が当たっていなくても、事前に、テーマ毎の参考文献、および小説の関連箇所を読んでおくように。プレゼンの準備のためにグループで事前によく相談し、教員にも相談すること。
3.	テーマ1: 作品Jane Eyreの精読	上記と同じ
4.	テーマ1: 発表	上記と同じ
5.	テーマ2:「美女と野獣のモチーフ」を学習	上記と同じ
6.	テーマ2: 作品の精読	上記と同じ
7.	テーマ2: 発表	上記と同じ
8.	前半部のまとめとディスカッション	上記と同じ
9.	テーマ3:「病とセラピー ―母と娘、拒食症など」を学習	上記と同じ
10.	テーマ3: 作品の精読	上記と同じ
11.	テーマ3: 発表	上記と同じ
12.	テーマ4:「19世紀とキリスト教文化―聖書的アリュージョンと『ジェイン・エア』を学習	上記と同じ
13.	テーマ4:「19世紀とキリスト教文化―聖書的アリュージョンと『ジェイン・エア』を学習: 作品の精読	上記と同じ
14.	テーマ4: 発表	上記と同じ
15.	秋学期の総まとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは、採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート1月に1回提出	40%	アカデミック・スキルズを応用し、作品と先行研究を使用して、分析・解釈などの論旨展開をしていることが重要。研究レポートとしてのレベルに達しているかどうかを基準にする。
	授業発表(グループ毎のプレゼン)	30%	アカデミック・スキルズを応用したプレゼンの方法を踏襲しているかどうかを基準。
	授業への積極的参加度	30%	毎回出席をとる。

教科書:

Charlotte Bronte, Jane Eyre (1847) (Norton Edition)

参考書:

必要な教材は随時、授業中にプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメールの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。

授業テーマ:

イギリスの日常生活を通してみ見る文学と文化

授業の概要:

イギリス人ジャーナリストのエッセイを読みながら、イギリスという国の様々な面に着目し、そこから更にイギリスの歴史や文学、文化の理解へと解釈を深めて行く。

到達目標:

イギリスの歴史、文学、文化について興味・関心を持ち、それらについて調べ知識を深め、それを口頭で発表し、アカデミックな文章にまとめる作業に慣れる。英文のテキストや資料を精読することにより、英文読解力をつける。

授業方法:

演習形式で行う。音読、(必要部分の)和訳、担当教員による解説、個人研究の発表、質疑応答を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:授業内容の説明と研究倫理の再確認を行う。春学期のテストならびにレポートを返却し、説明を行う。	準備学習は不要
2.	テキストの第8章(Shakespeare)ならびに関連資料を読む。	授業で学んだことを復習し、次回の授業で進む範囲を予習して自分お考えをまとめる。
3.	Shakespeare関連の資料を読む。レポート作成についての諸注意を確認する。	同上
4.	Shakespeareの魅力について各自が口頭発表し、その内容を文章化し、レポートとして提出する。	同上
5.	テキストの第9章ならびに関連資料を読む。	同上
6.	イギリスの食文化についての関連資料を読む。	同上
7.	イギリスの食文化について関連資料を読む。	同上
8.	イギリスの食文化について口頭発表をする。	同上
9.	テキストの第12章ならびに関連資料を読む。	同上
10.	テキストの第14章ならびに関連資料を読む	同上
11.	イギリスの階級制度に関連したテーマで口頭発表をする。	d同上
12.	テキストの15章ならびに関連資料を読む。	同上
13.	イギリスのクリスマスに関しての英文資料を読む。	同上
14.	同上	同上
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出させたレポートは添削して返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業に臨む態度	20%	予習の有無、意欲ある態度の有無、答え方で評価する
	口頭発表	20%	研究倫理遵守、発表内容の質、態度や言葉遣いで評価する。
	レポート	20%	研究倫理遵守、内容の質、アカデミックな表現・形式の習得状況により評価する。
	筆記試験	40%	授業で扱った英文テキスト及び英文資料の内容理解の程度に寄り評価する。

教科書:

Colin Joyce, Realise Britain, Kinseido

参考書:

クラスで毎回紹介し、必要な部分はコピーして配布し、教材として用いる。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワー Eメール(ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:

マザーグースの影響カーイギリスの人と暮らし

授業の概要:

本講座では、イギリスの詩人James KirkupによるエッセイMother Goose's Britainの精読と、グループ発表を通して、マザーグースが過去から現代にいたるまで、人生のさまざまなステージ(誕生→ 幼少期 → 青年期 → 壮年期 → 晩年)で、イギリスの人と暮らしに与えつづけてきた多大な影響力について、多角的に考察する。簡潔明瞭で味わい深いKirkupの文章の魅力にひかれて、どんどん読み進むことができるだろう。イギリス社会や国民性、物の考え方について知識と理解を深めると共に、私たちひとりひとりも、自らの〈より良い人生〉を追求するきっかけとしたい。

到達目標:

・James Kirkup, Mother Goose's Britainの精読を通して、イギリスの社会や生活、国民性に関する知識を修得

・代表的バラッドに関する知識(詩形、背景、歴史など)の修得

・プレゼンテーション力(デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成)の向上

授業方法:

講義やグループ発表、ディスカッションをとりまげた授業となる。十分な予習をして、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業オリエンテーション ・グループ発表分担決定 ・グループ発表要領確認	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	講義:庶民のための物語詩― バラッド紹介	
3.	グループ発表 1: Introduction / British Balance	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の配布プリントを読み直しておく。
4.	グループ発表 2: Birth	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
5.	グループ発表 3: Infancy	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
6.	グループ発表 4: Childhood	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
7.	講義:イギリスのクリスマス	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
8.	グループ発表 5: Youth	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
9.	グループ発表 6: Growing Up	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
10.	グループ発表 7: Middle Age	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
11.	グループ発表 8: Old Age / Epilogue	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
12.	講義:バラッドと映画	前回授業の重要点を復習しておく。
13.	講義:1960年代の対抗文化	前回授業の重要点を復習しておく。
14.	補足説明	秋学期授業内容の復習
15.	まとめ	秋学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。

・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。

・やむを得ず欠席する場合は、E-mailで小山に連絡してもらいたい。

フィードバックの方法:

グループ発表については、直後に発表者以外の学生全員がコメント(質問、良かった点、改善点)を言い、小山が総括的なコメントをする。各発表者のデリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成などについても、良かった点と改善点を具体的に指摘することで、学生のプレゼンテーション力は確実に向上する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	20%	知的的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
	グループ発表	30%	各発表者とグループ全体の、デリヴァリー力と、パワーポイントのスライド作成力、ハンドアウト作成力を評価。
	学期末試験	50%	秋学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:

James Kirkup: Mother Goose's Britain(朝日出版社)

参考書:

必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Emailやオフィスアワーを利用。

授業テーマ:	映画によるアメリカ研究																																		
授業の概要:	アメリカ文化全般を、映画を用いて研究する。われわれはアメリカ映画をみるとき、作品の背景にある文化的・歴史的事項を知ることなく、表面的な面白さに満足してしまいがちである。たとえば、『風と共に去りぬ』は人種差別的要素を多分に含んだ作品であるのだが、そこを見過ごし、南部貴族の華麗な世界やヒロインの不屈の生き様のみに焦点をあててみがちである。クラスでは、映画作品の背景にある文化的知識を解明することにより、作品を包括的に理解する。 なお、授業時に研究倫理についての指導もおこなう。																																		
到達目標:	映画作品をより深く理解し、さらに批判的精神をもって作品を分析できるようにする。																																		
授業方法:	各自の口頭発表を中心に、講義、講読、AV資料をみでのディスカッション等をおこなう。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. イントロダクション</td><td>ゼミ合宿で発表した内容を深めておく。</td></tr><tr><td>2. 研究発表概説</td><td>自分のおこなった発表を振り返り、改善点を考えておく。</td></tr><tr><td>3. 論文執筆概要</td><td>春学期に提出したレポートを再読して、問題点を考えておく。</td></tr><tr><td>4. 研究発表 1 + 2</td><td>発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。</td></tr><tr><td>5. 研究発表 3 + 4</td><td>発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。</td></tr><tr><td>6. 研究発表 5 + 6</td><td>発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。</td></tr><tr><td>7. 研究発表 7 + 8</td><td>発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。</td></tr><tr><td>8. 研究発表 9 + 10</td><td>発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。</td></tr><tr><td>9. 研究発表 11 + 12</td><td>発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。</td></tr><tr><td>10. 研究発表 13 + 14</td><td>発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。</td></tr><tr><td>11. 研究発表 15 + 16</td><td>発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。</td></tr><tr><td>12. 研究発表 17 + 18</td><td>発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。</td></tr><tr><td>13. 研究発表 19</td><td>発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。</td></tr><tr><td>14. ディスカッション</td><td>指定した映画を観ておく。</td></tr><tr><td>15. 論文執筆に関する講義</td><td>自分の書いた論文の足りない点を考えておく。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. イントロダクション	ゼミ合宿で発表した内容を深めておく。	2. 研究発表概説	自分のおこなった発表を振り返り、改善点を考えておく。	3. 論文執筆概要	春学期に提出したレポートを再読して、問題点を考えておく。	4. 研究発表 1 + 2	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。	5. 研究発表 3 + 4	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。	6. 研究発表 5 + 6	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。	7. 研究発表 7 + 8	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。	8. 研究発表 9 + 10	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。	9. 研究発表 11 + 12	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。	10. 研究発表 13 + 14	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。	11. 研究発表 15 + 16	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。	12. 研究発表 17 + 18	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。	13. 研究発表 19	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。	14. ディスカッション	指定した映画を観ておく。	15. 論文執筆に関する講義	自分の書いた論文の足りない点を考えておく。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. イントロダクション	ゼミ合宿で発表した内容を深めておく。																																		
2. 研究発表概説	自分のおこなった発表を振り返り、改善点を考えておく。																																		
3. 論文執筆概要	春学期に提出したレポートを再読して、問題点を考えておく。																																		
4. 研究発表 1 + 2	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。																																		
5. 研究発表 3 + 4	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。																																		
6. 研究発表 5 + 6	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。																																		
7. 研究発表 7 + 8	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。																																		
8. 研究発表 9 + 10	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。																																		
9. 研究発表 11 + 12	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。																																		
10. 研究発表 13 + 14	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。																																		
11. 研究発表 15 + 16	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。																																		
12. 研究発表 17 + 18	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。																																		
13. 研究発表 19	発表当事者は、前回のアウトライン発表の問題点を改善する。他の学生は、当日の発表内容について調べておく。																																		
14. ディスカッション	指定した映画を観ておく。																																		
15. 論文執筆に関する講義	自分の書いた論文の足りない点を考えておく。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	・参考文献に挙げた資料の中から、指定した書籍や論文を講読して当該の授業に参加する。 ・論文の進行状況を定期的に報告する。 ・発表前に発表概要を報告する。 ・発表前に時間を計り、パワーポイントの提示時期等を練習しておく。 ・クラスメイトの発表に対する意見、質問等を書き発表の次週に提出する。 ・クラスメイトの発表タイトルに関する知識をできるだけ得ておく。																																		
フィードバックの方法:	授業中に随時コメント用紙を配り、講義中に不明であった箇所や質問を書かせ、次の週に回答する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への積極的参加</td><td>20%</td><td>欠席や遅刻の回数。授業中、積極的に発言していたか。</td></tr><tr><td>アウトライン発表</td><td>20%</td><td>発表内容が聞く者に概要は伝わったか。</td></tr><tr><td>研究発表</td><td>20%</td><td>発表内容が聞く者に伝わったか、説明の仕方に工夫はあったか。</td></tr><tr><td>論文</td><td>30%</td><td>論理的に文章が展開しているか、書式を守っているか等。</td></tr><tr><td>ディスカッション</td><td>10%</td><td>ディスカッションに参加して、積極的に意見を述べていたか。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への積極的参加	20%	欠席や遅刻の回数。授業中、積極的に発言していたか。	アウトライン発表	20%	発表内容が聞く者に概要は伝わったか。	研究発表	20%	発表内容が聞く者に伝わったか、説明の仕方に工夫はあったか。	論文	30%	論理的に文章が展開しているか、書式を守っているか等。	ディスカッション	10%	ディスカッションに参加して、積極的に意見を述べていたか。																
評価方法	割合	評価基準																																	
授業への積極的参加	20%	欠席や遅刻の回数。授業中、積極的に発言していたか。																																	
アウトライン発表	20%	発表内容が聞く者に概要は伝わったか。																																	
研究発表	20%	発表内容が聞く者に伝わったか、説明の仕方に工夫はあったか。																																	
論文	30%	論理的に文章が展開しているか、書式を守っているか等。																																	
ディスカッション	10%	ディスカッションに参加して、積極的に意見を述べていたか。																																	
教科書:	未定。																																		
参考書:	最初の授業で紹介する。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	公開している学校のメールアドレス(nmatsumu@dwc.doshisha.ac.jp)で連絡をとる。																																		

授業テーマ:	英米文学に現れた女性像		
授業の概要:	女性のイメージは時代とともに変化し、一面では時代を映す鏡でもあった。Mary Anne FergusonのImages of Women In Literature(1991)は、現代英米文学の短編や詩を6つのタイプの女性像 ― 妻、母、理想の女性、性の対象物、男のいない女性、これからの女性 ― に分類し、さまざまな女性の生き方を紹介している。かわいい妻を演じる女性、娘を愛せない母親と母を憎む娘、男性を陶酔と破滅に追いやる宿命の女、レイプの犠牲となる女性、不倫相手からの電話を待ち続ける女、レズビアン・ファミリーなど。この授業では、女性が主人公の短編小説や詩を読みながら、それぞれの女性について考えるとともに、様々な女性の生き方に触れることによって、各自の将来も含め未来の女性像について考える。		
到達目標:	(1)英語で書かれた文学作品を正確に読解すること。 (2)文学作品を比較・分析してプレゼンテーションすること。 (3))文学作品を比較して、自分独自の視点で分析しレポートにまとめること。 (4)自分の意見を人前ではっきり述べること。		
授業方法:	(1)英米文学作品を訳読式で読解する。 (2)文学作品を比較・分析して、グループでプレゼンテーションをする。 (3)文学作品を比較・分析して、自分のpoint of view で分析しレポートにまとめる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 授業のオリエンテーション		夏休みの課題の提出
	2. 夏休みの課題の「理想の女性像」を描いた作品についてのディスカッション		作品についての自分の意見を再構築する
	3. 今年度のShakespeare Production作品の解説		Shakespeare作品について復習
	4. 「これからの女性」を描いた作品の講読・発表		作品読みの予習が不可欠
	5. 「これからの女性」を描いた作品の講読・発表		作品読みの予習が不可欠
	6. 「これからの女性」を描いた作品の講読・発表		作品読みの予習が不可欠
	7. 上記の作品についてのディスカッション		読み終えた作品のミニ・レポートを書く
	8. 「妻」についてのグループ発表とディスカッション		グループで配布文献の中から作品を選び、分析してプレゼンテーションをし、クラス・ディスカッションを誘導する
	9. 「母」についてのグループ発表とディスカッション		グループで配布文献の中から作品を選び、分析してプレゼンテーションをし、クラス・ディスカッションを誘導する
	10. 「理想の女性像」についてのグループ発表とディスカッション		グループで配布文献の中から作品を選び、分析してプレゼンテーションをし、クラス・ディスカッションを誘導する
	11. 「男のいない女」についてのグループ発表とディスカッション		グループで配布文献の中から作品を選び、分析してプレゼンテーションをし、クラス・ディスカッションを誘導する
	12. 「これからの女性」についてのグループ発表とディスカッション		グループで配布文献の中から作品を選び、分析してプレゼンテーションをし、クラス・ディスカッションを誘導する
	13. 女性の生き方を表すノンフィクション DVDを見てのディスカッション		ディスカッションを通して他の人の意見を聞きながら、自分の意見を持つ
	14. 女性の生き方を表すノンフィクション DVDを見てのディスカッション		ディスカッションを通して他の人の意見を聞きながら、自分の意見を持つ
	15. レポート課題についての説明		グループ発表を元に、個人レポートを自分の視点から完成させる
	受講者へのメッセージやアドバイス:	英米文学作品をこつこつ訳読することが好きな人。 女性問題に関心のある人。	
フィードバックの方法:	(1)プレゼンテーションには、フロアーの学生がコメント用紙に記入して評価する。 (2)レポートはコメントをつけて、4年次のゼミで返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末レポート	40%	3つの作品が自分独自の視点から分析できているか
	グループ発表	20%	グループで協力しあって発表ができているか
	ディスカッション	10%	自分の意見がしっかり言えるか
	受講態度(出席・予習・積極性)	20%	作品の予習がしっかりできているか ディスカッションに積極的に参加できているか
	夏休みの課題	10%	作品の内容を理解し、分析的に書けているか
	教科書:	『女人生模様』/Images of Women in Literature Mary Anne Ferguson 編 (開文社)	
参考書:	発表グループごとへの配布文献(プリント)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	ライン E-mail 電話		

授業テーマ:

Culture, Society and Communication II

授業の概要:

Students will be exposed to a variety of topics in examining and comparing Japan with different countries and cultures.

到達目標:

Students will learn to analyze and think critically about different topics and social issues.
Students will learn about the world around them from a different perspective.

授業方法:

Coursework will consist of in-class discussion, group work, oral presentations and written assignments, concluding with a final report at the end of term.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction course, goals and expectations	Weekly assignment
	2. Library Session (how to search for resources)	Weekly assignment
	3. Research Paper writing Culture and Identity	Weekly assignment
	4. Research Paper writing Culture and Identity	Weekly assignment
	5. Research Paper writing Nationalism	Weekly assignment
	6. Research Paper writing Nationalism	Weekly assignment
	7. Research Paper writing Melting pot vs Multiculturalism	Weekly assignment
	8. Research Paper writing Melting pot vs Multiculturalism	Weekly assignment
	9. Research Paper writing Melting pot vs Multiculturalism	Weekly assignment
	10. Research Paper writing Migration	Weekly assignment
	11. Research Paper writing Migration	Weekly assignment
	12. Writing Workshop	Weekly assignment
	13. Writing Workshop	Weekly assignment
	14. Final Assignments	Weekly assignment
	15. Final Assignments	Weekly assignment

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to speak English with the instructor and fellow students in every class. A high level of motivation is required to do well in this class

フィードバックの方法:

Will be specified by the instructor in class

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20%	as determined by the instructor
	Group work	20%	as determined by the instructor
	Weekly assignments and Presentations	60%	as determined by the instructor

教科書:

Kluge, D.E., Taylor, M. A., Basic Steps to Writing Research Papers (2007), Cengage Learning, Japan.
ISBN-10: 4902902893

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Will be informed by the instructor in class

授業テーマ: Introduction to Film Translation: Japanese to English

授業の概要: This semester we will continue our study of translation, mainly using scenes from Japanese movies to see how to render dialogue in easy-to-understand English subtitles. The emphasis will be on clarity as we try to visualize the kind of information that will be most necessary and helpful to foreign viewers unfamiliar with Japanese language, customs, and culture. We will also expand our discussion to study and compare translations of Japanese works of literature with their subtitled movie versions, trying our hand at both styles of translation.

到達目標: --to understand movie dialogue and know what makes an effective translation
--to improve background knowledge and cultural awareness while deepening respect for both languages
--to learn to ask questions, work with others, and communicate effectively

授業方法: Seminar style

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Introduction. Samples of J-E subtitles. Discussion of sempai's work	Watch Yasujiro Ozu's Tokyo Monogatari and write a five-paragraph reaction paper.
2. Tokyo Monogatari: Keigo and aisatsu	Begin translating assigned section. Subtitle journal, focusing on Japanese movies dubbed or subtitled in English.
3. Tokyo Monogatari: completing unfinished thoughts	Continue translating Subtitle journal
4. Pair or group work Tokyo monogatari pair or group work Subtitle journal due	prepare presentation Subtitle journal
5. TM presentations	Subtitle journal
6. TM presentations, continued.	Five-paragraph paper on TM translation. Subtitle journal.
7. Kabei or other film	Prepare discussion questions. Subtitle journal.
8. Ikiru or other film. Subtitle journal due.	Read article on Akira Kurosawa or another director's work. Choose film for final project.
9. Group or pair work	Work on translation Subtitle journal
10. Group or pair work	Continue work on translation. Subtitle journal
11. Group or pair work	Complete translation; prepare for presentation. Subtitle journal
12. Student presentations Subtitle journal due	Prepare discussion questions.
13. Student presentations.	Work on final paper.
14. Student presentations	Work on final paper
15. Final paper due	Look ahead to topics for senior research paper. Begin reading widely in fields of interest.

受講者へのメッセージやアドバイス: Don't worry that you need fancy vocabulary to translate into English. You know enough English to write clear, easily understandable subtitles. Learn to be sensitive to politeness levels and other nuances in English and you will be fine.

フィードバックの方法: Papers and journals will receive immediate written feedback. Presentations will also be judged for clarity and effectiveness. Peer feedback will also be provided.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance, participation	15	Attendance is mandatory. Positive, active participation is expected.
	Subtitle journal	15	At least three comments per week on J-E dubbing or subtitles
	short paper	20	Clear writing with introduction, thesis statement, topic sentences, conclusion, and reference.
	oral presentations	25	Thoughtful, effective, clear presentations aimed at peers, not the teacher
	final paper	25	Effective summation, for those with no knowledge of Japanese, of techniques used in crafting English subtitles for the chosen film.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法: --send email
--see office hours
--ask in the classroom before and/or during class

授業テーマ:

The Role of Sound in Language (「音」にまつわる言語学I)

授業の概要:

このコースではJunior Seminar IIにつづき、「言語音」に焦点をあて、母語である日本語と学習語である英語を比較しながら、言語についての知識をさらに深めることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びによりphonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processingなど、受講生がさまざまな分野へと興味を広げることを期待する。このコースではInternational Phonetic Alphabet (IPA)を使用するため、受講にあたり、「英語音声学 I & II」を履修していることを強く勧める。(注意:「英語の発音練習」のためだけのゼミではない)

またこの授業では研究倫理についても指導する

到達目標:

普段話していることばが「なぜそういう発音になったか」「どうしてそう言うのか」を説明することは容易なことではない。なぜなら自然に、無意識に話しているからである。このゼミでは、与えられたデータ(音声)と向き合い、そこに隠れている音韻ルールを見つける課題を通して、言語の不思議な世界を少し覗いてみる。

授業方法:

このコースは講義を中心に行うが、仲間とともに課題に取り組み、ディスカッションや発表を通じてゼミ生の理解を確認する機会も多い。また、ゼミ生間の親睦を深めるため、ゼミ合宿を行ったり、大学行事へ参加する場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション リサーチについて	特になし
2.	英語のリズム・イントネーションについて(1)	課題① レポート課題 リーディング課題
3.	英語のリズム・イントネーションについて(2)	課題② レポート課題 リーディング課題
4.	言語を理解するということ(1)	課題③ レポート課題 リーディング課題
5.	言語を理解するということ(2)	課題④ レポート課題 リーディング課題
6.	音韻ルールを探そう(9)	課題⑤ レポート課題 リーディング課題
7.	音韻ルールを探そう(10)	課題⑥ レポート課題 リーディング課題
8.	言語と社会について(1)	課題⑦ レポート課題 リーディング課題
9.	言語と社会について(2)	課題⑧ レポート課題 リーディング課題
10.	言語と社会について(3)	課題⑨ レポート課題 リーディング課題
11.	音韻ルールを探そう(11)	課題⑩ レポート課題 リーディング課題
12.	音韻ルールを探そう(12)	課題⑪ レポート課題 リーディング課題
13.	Senior Seminarにむけて準備(1)	予備
14.	Senior Seminarにむけて準備(2)	予備
15.	まとめ	学期末レポート

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

課題にはまず自分で取り組む。授業ではクラスメートとのディスカッションを通じてトピックについての理解を確認し、また理解を深める。理解したことを文章でまとめることで、論理的に説明するスキルを練習する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	20%	課題へ取り組む姿勢、学生間の相互協力など評価に加える。
	課題提出・発表	40%	課題の提出、発表(内容・態度)など評価に加える。
	学期末レポートまたは学 期末試験	40%	授業で扱ったトピックに関する課題またはテストを行い、評価に加える。

教科書:

川越いつえ、英語の音声を科学する、2007、大修館書店
今井由美子他、Sounds Make Perfect、2010、英宝社 (Active Listening で使用したものでよい)
白井利明他、よくわかる卒論の書き方、2010、ミネルヴァ書房 (Senior Seminarでも使用する)

参考書:

Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N., フロムキンと言語学、2006、トムソンラーニング
本名信行、世界の英語を歩く、2003、集英社新書
英語音声学研究会、大人の英語発音講座、2003、生活新書
東照二、社会言語学入門 一生きた言葉のおもしろさにせまる一、2009、研究社
ゾルダン・ドルニユイ、外国語教育学のための質問紙調査入門、2009、松柏社
小塩真司、質問紙調査の手順、2009、ナカニシヤ出版

大津由紀雄、ことばワークショップ ―言語を再発見する―、2011、開拓社
ことばに魅せられて 対話編、2008、ひつじ書房、
探検！ことばの世界、2008、ひつじ書房、その他多数
鈴木孝夫、閉ざされた言語・日本語の世界、2006、新潮社
森光有子他、英語 vs.日本人 ―日本人にとって英語とは何か―、2009、開文社出版、
分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

教員との連絡
方法：

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ:	ICT and English Learning and Teaching in the 21st Century (国際語としての英語教育(学習・教授)にICTをどう活用できるだろうか？ Wakamoto Seminar XVIII)		
授業の概要:	The world keep changing. Applied Linguistics (Language Learning, Teaching, Use) is not an exception. Especially the impact of ICT (Information and Communications Technology) has been enormous. The main theme of this seminar is to discuss how we can utilize this ICT, such as the Internet, smartphones, iPads and SNS, to improve teaching and learning English in Japan. For that purpose, we also try to establish a foundation of Applied Linguistics, how languages are learned and taught. Different from the past Wakazemi style, this year's junior seminar is designed so that the course content is completed in ONE year and so that participants could develop their gained knowledge and skills in any way in their following senior year.		
到達目標:	Goals of this semester are three-fold: (1) to examine learner factors that potentially affect the success of second language learning/teaching; (2) to conduct a mini-project to develop their own English proficiency; and (3) to have the practical English and ICT skills.		
授業方法:	Lectures will introduce new concepts and theories, and selected part of the textbooks will be assigned for writing entries (critical summaries, six times) and discussing in class. Students will give one oral presentation in class on textbooks.		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Introduction to the fall semester	Think about what you expect to this course.	
	2. Learning vocabulary	Read the assigned part of the textbook.	
	3. Learning pronunciation	Read the assigned part of the textbook.	
	4. Individual differences: learner factors & learning model	Read the assigned part of the textbook.	
	5. Motivation: Four types of motivation	Read the assigned part of the textbook.	
	6. Culture and motivation (1): Culture Shock	Read the assigned part of the textbook.	
	7. Culture and motivation (2): Acculturation Model	Read the assigned part of the textbook.	
	8. Intelligence & Aptitude: IQ: Multiple Intelligence	Read the assigned part of the textbook.	
	9. Personality, Taking Risks & Inhibition: Extroversion-introversion	Read the assigned part of the textbook.	
	10. Mini-project-6: ICT and English learning (CALL classroom)	Read the assigned part of the textbook.	
	11. Mini-project-7: ICT and English learning (CALL classroom)	Read the assigned part of the textbook.	
	12. Mini-project-8: ICT and English learning (CALL classroom)	Read the assigned part of the textbook.	
	13. Mini-project-9: ICT and English learning (CALL classroom)	Read the assigned part of the textbook.	
	14. Mini-project-10: ICT and English learning (CALL classroom)	Read the assigned part of the textbook.	
	15. Consolidation of the spring semester	Read the assigned part of the textbook.	
受講者への メッセージや アドバイス:	This seminar is conducted both in English (50%) and Japanese (50%) to develop participants' English development.		
フィードバックの 方法:	Entries will be returned to the participants with comments and grades. Presentation scores will be shown through Manaba.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Entries	40	Based on shared rubrics
	Presentation	20	Based on shared rubrics
	Seminar project	40	Based on shared rubrics
教科書:	Lightbown and Spada (2013). How Languages are learned. (4th sdition). NY: Oxford University Press Brown, H. D. (2002). Strategies for success. New York, Longman.		
参考書:	Shown in class.		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡 方法:	Through e-mail or vising the instructor in person.		

授業テーマ:

Interpersonal Communication

授業の概要:

In this course, we will cover various aspects of interpersonal communication, that is, communication between people in friendships and family relationships, including how these apply to daily life. .

到達目標:

To help students understand theories of interpersonal communication, how relationships work, and how they can improve their relationships.

授業方法:

Each week, students will have an assigned reading and a list of study questions to answer. They must answer these questions as homework in order to participate in group discussions during the class. Each week, students will have an assigned reading and a list of study questions to answer.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to Interpersonal Communication	none
	2. Componential Approach to Interpersonal Communication 1	Read passage and answer questions.
	3. Componential Approach to Interpersonal Communication 2	Read passage and answer questions.
	4. Componential Approach to Interpersonal Communication 3	Read passage and answer questions.
	5. Componential Approach to Interpersonal Communication 4	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
	6. Developmental Approach to Interpersonal Communication 1	Read passage and answer questions.
	7. Developmental Approach to Interpersonal Communication 2	Read passage and answer questions.
	8. Developmental Approach to Interpersonal Communication 3	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
	9. Elements of Communication	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
	10. Communication as a Transaction	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
	11. Perceptions and their Influence on Communication 1	Read passage and answer questions.
	12. Perceptions and their Influence on Communication 2	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
	13. Interpersonal Communication and Language 1	Read passage and answer questions.
	14. Interpersonal Communication and Language 2	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
	15. Conclusion	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Comments

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Homework	60%	Demonstration of application of material
	Tests	40%	Demonstration of application of material

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

授業テーマ: Text and Performance

授業の概要: The emphasis of this course is on developing performance skills through studying and rehearsing literature written for performance. We will read a play and see how dramatic theme and tension are developed throughout it. As we do so, we will learn about building a character for performance and develop the skills necessary to bring a performance alive: voice projection, intention, irony, timing, movement and collaboration. We will continue reading Pygmalion by George Bernard Shaw, and then rehearse the play for a performance at the end of the year.

到達目標: 1. Develop vocal and physical performance skills.
2. Develop analytical ability of dramatic literature including such aspects as characterisation, irony, plot structure and theme.
3. Increase understanding of British society.
4. Learn the discipline and demands of staging a play.

授業方法: Students are expected to read excerpts of the play in both Japanese and English in advance and to summarise the development of the story and its characters. In class students will read the play and discuss the development of characterization and theme within it. There will also be regular practice in developing acting skills.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Review of Acts 1-3 Read the first half of Act 4 aloud. Discuss character and theme. Dramatic workshop	Prepare second half of Act 4
2. Read the second half of Act 4 aloud. Discuss character and theme. Dramatic workshop	Prepare first part of Act 5
3. Quiz on Act 4 Read first part of Act 5 aloud. Discuss character and theme. Dramatic workshop	Prepare next part of Act 5
4. Read next part of Act 5 aloud. Discuss character and theme. Dramatic workshop	Prepare final part of Act 5
5. Read final part of Act 5 Discuss character and theme. Dramatic workshop	Report
6. Quiz on Act 5 Overview of main themes of the play	Prepare for casting
7. Hand in report Casting Rehearse	Prepare for performance: learning lines, deciding movement, finding set, costumes and props, making subtitle slides, and publicity materials
8. Rehearse	Prepare for performance: learning lines, deciding movement, finding set, costumes and props, making subtitle slides, and publicity materials
9. Rehearse	Prepare for performance: learning lines, deciding movement, finding set, costumes and props, making subtitle slides, and publicity materials
10. Rehearse	Prepare for performance: learning lines, deciding movement, finding set, costumes and props, making subtitle slides, and publicity materials
11. Rehearse	Prepare for performance: learning lines, deciding movement, finding set, costumes and props, making subtitle slides, and publicity materials
12. Rehearse	Prepare for performance: learning lines, deciding movement, finding set, costumes and props, making subtitle slides, and publicity materials
13. Rehearse	Prepare for performance: learning lines, deciding movement, finding set, costumes and props, making subtitle slides, and publicity materials
14. Rehearse	Prepare for performance: learning lines, deciding movement, finding set, costumes and props, making subtitle slides, and publicity materials
15. Rehearse	Prepare for performance: learning lines, deciding movement, finding set, costumes and props, making subtitle slides, and publicity materials

受講者へのメッセージやアドバイス: Be like Eliza. Seize the chance and change for good.

フィードバックの方法: Participation will be commented on directly.
Written work will be graded and returned with comments and corrections.
Scene presentation work will receive a grade and a comment.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation and Performance	60	Active and committed participation in class work and preparation for every aspect of the final performance.
Report	20	Student commentary on the text of Acts 4 and 5 referring to plot and character with select quotations.
Quizzes	20	Fill in the missing word from the text or identify the speaker.

教科書:
Pygmalion (Penguin Classics) (英語) ペーパーバック - 2003/2/4
George Bernard Shaw (著), Dan H. Laurence (編集)
ピグマリオン (光文社古典新訳文庫) 文庫 - 2013/11/8
George Bernard Shaw (原著), バーナード ショー (翻訳)

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

異界伝承にみるイギリス—異教文化とキリスト教

「若者の教会ばなれ」がとりざたされる今日にあっても、キリスト教が比類ない影響力を英米文化に与え続けていることは否定のしようもない。そこにルーツをもつさまざまな概念や思想、風習はいまもイギリス社会のすみずみにまで息づき、それぞれの地域の風土や歴史、国民性に味つけられて、この国の多様性の一端を示している。そしてその鍵となるのは、ケルトを始めとする土着の異教文化だといえよう。教会や美術館で、また街角のパブサインにさえ、異教文化はキリスト教と絶妙に共存、融合し、イギリス文化の大きな特徴となっていることを実感する。
本講座では、イギリスの異界伝承を手がかりに、神、天使、聖人(聖女)に代表されるキリスト教世界の〈光の領域〉を、悪魔、魔女、人魚、妖精、幽霊の出没する〈闇の領域〉とともに分析する。文学や映画、美術、音楽、フェミニズムとの関連を確認しつつ、異界伝承の多面的魅力について知識と理解を深めたい。

・イギリスの異界伝承に関する知識(ケルト文化、妖精伝承、人魚伝承など)の修得
・イギリスのキリスト教文化に関する知識(天使伝承、悪魔伝承、聖人伝承、魔女伝承など)の修得
・プレゼンテーション力(デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成)の向上
・ゼミ論用テキストとテーマ、主要参考資料の決定に至る、着実な準備

講義やグループ発表、ディスカッションをとりまげた授業となる。十分な予習をして、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業オリエンテーション グループ発表分担決定 グループ発表要領確認	授業シラバスを丁寧に読んでおく。
2. 前年度ゼミ論文サンプル紹介 レポート&コメント用紙書式設定確認	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
3. 講義: 異界伝承の風土としてのイギリス—ケルトの幻想性をめぐって	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
4. 講義: サタン & 悪魔—その概念と、異教神話との関連	・前回授業の重要点を復習。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
5. グループ発表 1: 魔女伝承 概略とコメント 1(魔女伝承)提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
6. グループ発表 2: 妖精伝承 概略とコメント 2(妖精伝承)提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
7. グループ発表 3: 悪魔伝承 概略とコメント 3(悪魔伝承)提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
8. グループ発表 4: 人魚伝承 概略とコメント 4(人魚伝承)提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
9. 講義: 聖女伝承 概略とコメント 5(聖女伝承)提出	・授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
10. 講義: イギリスのキリスト教—歴史概説	・前回授業の重要点を復習。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
11. ポスターセッション準備	・前回授業の重要点を復習。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
12. ポスターセッション準備	春学期授業内容の復習
13. レポート①作成要領説明 引用とパラフレイズに関する説明	春学期授業内容の復習
14. レポート①チェックリストに関する説明	春学期授業内容の復習
15. まとめ	春学期授業内容の復習

・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・やむを得ず欠席する場合は、E-mailで小山に連絡してもらいたい。

・コメント(5回)はその都度採点し、改善点を赤字で示して、翌週返却する。
・グループ発表については、直後に発表者以外の学生全員がコメント(質問、良かった点、改善点)を言い、小山が総括的なコメントをする。各発表者のデリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成などについても、良かった点と改善点を具体的に指摘する。

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20%	知的的好奇心をもって、意欲的積極的に授業(ポスターセッション含む)参加し、授業目標に到達したかを評価。

グループ発表	10%	各発表者とグループ全体の、デリヴァリー力と、パワーポイントのスライド作成力、ハンドアウト作成力を評価。
概略とコメント(5回提出)	40%	テキストのポイントを的確に指摘し、自分なりの分析と解説を自分の言葉で伝えているか。テキストの引用とパラフレイズの区別が明瞭にできているか、を評価。
学期末試験	30%	春学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:

参考書: 必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: Emailやオフィスアワーを利用。

授業テーマ:	アメリカン・カルチュラル・スタディーズ		
授業の概要:	文学作品だけでなく、映画、音楽、テレビ、絵画、写真等の表現媒体を研究することで、白人男性を中心としたかつてのアメリカ的価値観を見直す視座を得ることにより、多様な観点からアメリカを理解する。		
到達目標:	アメリカに関する文化的・歴史的知識を広げることににより、アメリカの様々な分野における現状を正しく理解する。		
授業方法:	講読、発表が中心となるが、AV教材を利用した講義も行う。ゼミ合宿をおこない、集中的に論文指導をする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション 2. 研究発表と論文執筆に関する概説 3. 「アメリカ独立宣言」と『貧しきリチャードの暦』を講読 4. 『アメリカにおけるデモクラシー』と「ゲティスバーグの演説」を講読 5. ディスカッション 1 + 論文執筆指導 6. ディスカッション 2 + 論文執筆指導 7. ディスカッション 3+ 論文執筆指導 8. ディスカッション 4 + 論文執筆指導 9. 研究発表 1～3 10. 研究発表 4～6 11. 研究発表 7～9 12. 研究発表 10～12 13. 研究発表 13～14 14. ポスターセッションの準備 15. ポスターセッションの準備	シラバスを再読しておく 配布した資料を読んでおく 配布した資料を読んでおく 配布した資料を読んでおく 指定した小説を読んでおく、もしくは、指定した映画をみておく 指定した小説を読んでおく、もしくは、指定した映画をみておく 指定した小説を読んでおく、もしくは、指定した映画をみておく 指定した小説を読んでおく、もしくは、指定した映画をみておく 研究発表の内容を調べておく 研究発表の内容を調べておく 研究発表の内容を調べておく 研究発表の内容を調べておく 研究発表の内容を調べておく ポスターセッション向けの発表を考えておく ポスターセッション向けの発表を考えておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:	・参考文献に挙げる資料の中から、指定した書籍や論文を講読して当該の授業に参加する。 ・論文の進行状況を随時文章で報告する。 ・発表前に発表概要を報告する。 ・発表前に時間を計り、パワーポイントの提示時期等を練習しておく。 ・クラスメイトの発表タイトルに関する知識をできるだけ得ておく。		
フィードバックの方法:	クラスメイトの発表に対する意見、質問等を書き発表の次週に提出してもらう。コメントの内容を次の週の授業で紹介する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加 口頭発表 論文	40% 30% 30%	遅れずに出席をきちんとする。どうしても休まなければならないときは必ず事前に連絡をする。ディスカッション等で、積極的に発言する。 発表の内容だけでなく、発表の仕方、工夫等も考慮する。 論文の内容だけでなく、正しいフォームで書いているかも考慮する。
教科書:			
参考書:	最初の授業で紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	公開している同志社女子大学のメールで連絡すること。		

授業テーマ:	ジェイン・オースティン研究																																		
授業の概要:	この数年間ジェイン・オースティンの作品は映画化されたり(『プライドと偏見』、『いつか晴れた日に』等)、BBCでドラマ化されたり(『高慢と偏見』)、あるいは作者をヒロインとした映画が作られたり(『ジェイン・オースティン:秘められた恋』)、パロディー作品が作られたり、『高慢と偏見とゾンビ』、世界的にジェイン・オースティン・ブームがずっと続いている。それほど劇的な恋愛があるわけでもなく、ヒロインたちが紆余曲折を経ながら結婚にたどり着くハッピーエンドのオースティン・ワールドが、時空を超えて21世紀の私達に訴えかけるとどんな魅力を持っているのだろうか? 当時の時代背景を踏まえながら、作品講読を通して、ヒロインたちの人生観や結婚観などを中心に、現代女性の行き方に通じるヒロインたちの魅力を探っていく。なお、個人研究として当時のイギリス文化について研究してもよい。																																		
到達目標:	(1) 18世紀の英語で書かれた文学作品をちゃんと読破すること。 (2) 自分の意見を人前でしっかり発表すること。 (3) 各自卒業研究のテーマを決めて、研究概要をポスターセッションで発表すること。																																		
授業方法:	授業は作品の講読を中心に進めていくが、各自が研究書などを参考にして、自分の研究テーマを見つける。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. イントロダクション 作品の時代背景、作者、作品についての概要を説明する</td><td>卒業研究の対象作品の概要についての復習</td></tr><tr><td>2. Pride and Prejudiceに関するVideoを見る</td><td>授業のための予習 翻訳本の読破</td></tr><tr><td>3. 原書Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自翻訳『高慢と偏見』を読破する</td><td>授業のための予習 翻訳本の読破</td></tr><tr><td>4. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自翻訳『高慢と偏見』を読破する</td><td>授業のための予習 翻訳本の読破</td></tr><tr><td>5. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える</td><td>授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し</td></tr><tr><td>6. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える</td><td>授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し</td></tr><tr><td>7. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える</td><td>授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し</td></tr><tr><td>8. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える</td><td>授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し</td></tr><tr><td>9. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、卒業研究のテーマを決定する</td><td>授業のための予習 個人研究のテーマの絞り込み</td></tr><tr><td>10. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、卒業研究のテーマを調整する</td><td>授業のための予習 個人研究のテーマの絞り込み</td></tr><tr><td>11. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、ポスターセッションの準備をする</td><td>授業のための予習 個人研究のテーマをポスターセッション用に構成</td></tr><tr><td>12. ポスターセッションの予行演習</td><td>ポスターセッションに参加 個人発表 他の人の発表の傾聴</td></tr><tr><td>13. 卒業研究のテーマを確定する</td><td>個人研究のテーマの再確認</td></tr><tr><td>14. 秋学期の個人発表の準備</td><td>個人研究のテーマの再確認</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>学期末試験の準備 夏休み中か、ゼミ合宿での卒業研究の中間発表</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. イントロダクション 作品の時代背景、作者、作品についての概要を説明する	卒業研究の対象作品の概要についての復習	2. Pride and Prejudiceに関するVideoを見る	授業のための予習 翻訳本の読破	3. 原書Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自翻訳『高慢と偏見』を読破する	授業のための予習 翻訳本の読破	4. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自翻訳『高慢と偏見』を読破する	授業のための予習 翻訳本の読破	5. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し	6. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し	7. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し	8. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し	9. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、卒業研究のテーマを決定する	授業のための予習 個人研究のテーマの絞り込み	10. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、卒業研究のテーマを調整する	授業のための予習 個人研究のテーマの絞り込み	11. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、ポスターセッションの準備をする	授業のための予習 個人研究のテーマをポスターセッション用に構成	12. ポスターセッションの予行演習	ポスターセッションに参加 個人発表 他の人の発表の傾聴	13. 卒業研究のテーマを確定する	個人研究のテーマの再確認	14. 秋学期の個人発表の準備	個人研究のテーマの再確認	15. まとめ	学期末試験の準備 夏休み中か、ゼミ合宿での卒業研究の中間発表		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. イントロダクション 作品の時代背景、作者、作品についての概要を説明する	卒業研究の対象作品の概要についての復習																																		
2. Pride and Prejudiceに関するVideoを見る	授業のための予習 翻訳本の読破																																		
3. 原書Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自翻訳『高慢と偏見』を読破する	授業のための予習 翻訳本の読破																																		
4. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自翻訳『高慢と偏見』を読破する	授業のための予習 翻訳本の読破																																		
5. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し																																		
6. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し																																		
7. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し																																		
8. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習 翻訳本の読破 個人研究のテーマ探し																																		
9. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、卒業研究のテーマを決定する	授業のための予習 個人研究のテーマの絞り込み																																		
10. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、卒業研究のテーマを調整する	授業のための予習 個人研究のテーマの絞り込み																																		
11. Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、ポスターセッションの準備をする	授業のための予習 個人研究のテーマをポスターセッション用に構成																																		
12. ポスターセッションの予行演習	ポスターセッションに参加 個人発表 他の人の発表の傾聴																																		
13. 卒業研究のテーマを確定する	個人研究のテーマの再確認																																		
14. 秋学期の個人発表の準備	個人研究のテーマの再確認																																		
15. まとめ	学期末試験の準備 夏休み中か、ゼミ合宿での卒業研究の中間発表																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	(1) 毎回、作品の予習をして授業に臨むこと。 (2) 早いうちに個人研究のテーマを見つけること、自分が前のめりになって取り組めるような、自分が本当に研究したいテーマを見つけられるかどうか、この1年の鍵となる。																																		
フィードバックの方法:	(1) 個人研究のテーマ決定の相談にのる。 (2) 提出された個人研究のテーマに、適当なアドバイスをして返却する。 (3) 卒業研究の中間発表を聞いてアドバイスする。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>学期末試験</td><td>40%</td><td>作品の内容がちゃんと理解できているか</td></tr><tr><td>ポスターセッションの発表</td><td>20%</td><td>自分の研究が伝わる発表ができたか</td></tr><tr><td>提出物</td><td>10%</td><td>個人研究のテーマ探しに真面目に取り組んでいるか</td></tr><tr><td>受講態度(出席・予習・積極性)</td><td>30%</td><td>授業に真面目に取り組んでいるか</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	学期末試験	40%	作品の内容がちゃんと理解できているか	ポスターセッションの発表	20%	自分の研究が伝わる発表ができたか	提出物	10%	個人研究のテーマ探しに真面目に取り組んでいるか	受講態度(出席・予習・積極性)	30%	授業に真面目に取り組んでいるか																			
評価方法	割合	評価基準																																	
学期末試験	40%	作品の内容がちゃんと理解できているか																																	
ポスターセッションの発表	20%	自分の研究が伝わる発表ができたか																																	
提出物	10%	個人研究のテーマ探しに真面目に取り組んでいるか																																	
受講態度(出席・予習・積極性)	30%	授業に真面目に取り組んでいるか																																	
教科書:	Jane Austen, Pride and Prejudice (Penguin)																																		
参考書:	最初の授業時に参考文献リストを配布する。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	ライン E-mail 電話																																		

授業テーマ:

戯曲の精読から上演へ—Lady Windermere's Fan研究①—

授業の概要:

このクラスでは、劇作品をより深く理解し、英語音声表現、および翻訳の能力を高めるため、戯曲を日本語字幕付で上演することを目指す。取り上げる作品は英国の作家、Oscar Wildeの風俗喜劇Lady Windermere's Fan(『ウインダムリア卿夫人の扇』)である。この作品は、Wilde特有の逆説的で機知に富んだ含蓄のある台詞が全編にちりばめられ、1892年の初演時には大好評を博したとされている。場面の状況、登場人物の心の動き、観客への効果を考えながら、劇を訳読後、字幕を作成し、1月半ばの卒業研究発表会で上演する。

到達目標:

1. 戯曲の精読を通して、作品を深く理解する。
2. 作家と作品の時代背景についても理解を深める。

授業方法:

毎回、一人ずつ順番にテキストの訳をレジメを用意して発表してもらう。その際に、実際の舞台を想定しながら、演出方法などについて皆で話し合う。
また、7月初旬のポスターセッションでの発表準備として、劇のテーマ、作家の思想や時代背景に関して全員でディスカッションをする。学期末には筆記試験を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	テキストの訳読(第1幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
3.	テキストの訳読(第1幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
4.	テキストの訳読(第1幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
5.	テキストの訳読(第2幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
6.	テキストの訳読(第2幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
7.	テキストの訳読(第2幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
8.	テキストの訳読(第3幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
9.	テキストの訳読(第3幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
10.	テキストの訳読(第3幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
11.	テキストの訳読(第4幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
12.	テキストの訳読(第4幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
13.	テキストの訳読(第4幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしていくこと。また、各自のコメントを用意していくこと。授業後は学んだ内容を復習すること。
14.	テキスト全体の復習	授業前にはテキスト全体を読み直し、各自のコメントを用意していくこと。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

秋学期の舞台上演に向けての積極的な取り組みが何よりも大切です。一人一人が責任を持って意欲的に授業に参加してください。

フィードバックの方法:

毎回の授業時におけるハンドアウトを用いた訳読の発表に対して、時間内に訳の修正とコメントを口頭で行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	学期末試験	50%	授業内容の理解度によって評価する。
	発表	30%	作品の理解度(和訳、音読、テーマや手法等)によって評価する。
	授業への参加姿勢	20%	授業への積極的な参加姿勢を評価する。

教科書:

ハンドアウトを用意する。

参考書:

開講時に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

htsuji@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	文学を通して知るイギリスの庭文化		
授業の概要:	庭を扱った文学作品を主なるテキストとして用いる。これを7文学作品として研究することもできるが、作品の中に、英国人と庭の関わりをはじめとして様々な文化的テーマを見つけることもできる。受講生各自が自分のテーマを見つけ、それに関する研究を進めてゆくよう促す。		
到達目標:	文学作品を読みながら、イギリスの文化、特に庭に関する諸々の事象に注目して考察・分析し知識を深める。英語の読解力を高める。		
授業方法:	主に演習形式で授業を行う。テキストなどの教材資料の理解の確認、発表、討論、論文作成の練習などを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:		授業内容	準備学習等の内容
	1.	イントロダクション	春休み中に訳本でよいので『秘密の花園』を読んでおく。
	2.	作品の概要 研究の進め方などの解説	同上
	3.	作品読解ならびに研究指導	前回の授業で学んだことを復習し、次回の授業で進む範囲を予習する。発表が当たっている者はその準備をする。
	4.	同上	同上
	5.	同上	同上
	6.	同上	同上
	7.	同上	同上
	8.	同上	同上
	9.	同上	同上
	10.	同上	同上
	11.	同上	同上
	12.	ポスター・セッションに向け個人の研究発表の準備とリハーサル	春学期の授業内容を復習し、ポスターセッションでの発表を視野に入れて研究内容をまとめ、発表の飼料を作成する。
	13.	同上	同上
	14.	同上	同上
	15.	まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出物は添削して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業に臨む態度	10%	予習の有無、意欲的な受け答え等により評価する。
	発表	30%	研究倫理遵守ならびに発表の内容、発表の際の態度により評価する。
	レポート	30%	研究倫理の遵守、内容の質、論文としての表現・形式により評価する。
	筆記テスト	30%	授業で扱ったテキストや英文資料の内容の理解の程度により評価する。
教科書:	F. G. Burnett, The Secret Garden (PenguinClassics)		
参考書:	毎回の授業で提示し、特に必要な部分はコピーして配布し、教材として用いる。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール(ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp)		

授業テーマ:	「象徴」から見る北米文化		
授業の概要:	アメリカ合衆国とカナダは、北アメリカの地に隣接して国家を形成し、異なる文化と社会を築き上げてきた。アメリカの国民文化を象徴する事物の一部は、グローバル化の波の中で世界にも広く知られるものとなり、その超大国の隣にあってカナダ人は、独自のアイデンティティを懸命に模索し、象徴的なカナダ文化を生み出してきた。このような両国の事情を比較しながら、国民文化の創成や国民意識の形成に関わる問題について理解を深めることが、このクラスの目的である。 春学期は、英語文献を使用して基礎的な事柄や研究方法について体系的に学びながら、研究対象への関心を高め、問題意識を磨くことを目指す。受講者は、各自の関心に基づいて北米文化（アメリカまたはカナダ）に関わる具体的な研究テーマを考え、個人研究の準備を進めていく。（個人研究のテーマは授業で扱う内容に限定しない。）受講者間で互いの研究から学び、それを高め合うことができる場としたい。年度中にゼミ合宿の実施を予定している。		
到達目標:	1) 個人研究及び授業内の議論の前提として、アメリカ合衆国とカナダの社会と文化に関する論点の所在について、基本的な事柄を理解する。 2) 個人研究のテーマを設定し、先行研究をふまえてテーマに関する基本的事項を整理したうえで、自らの研究課題を具体的に限定し、調査方法を明確化する。		
授業方法:	受講者の発表とそれに基づく討議、およびグループワークを中心に授業を進める。扱う内容によって、講義、文献の講読、映像資料の視聴等を適宜、交える。個人研究については、段階を踏んで完成に導けるよう、個別に指導を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	研究テーマとしたいアメリカまたはカナダに関するトピックを考えておく。	
	2. 北米地域研究に関する演習（1）	研究計画書	
	3. 北米地域研究に関する演習（2）	研究計画書	
	4. 研究テーマの設定に関する演習	研究計画書	
	5. 個人研究テーマに関する発表と討議（1）	研究計画書	
	6. 個人研究テーマに関する発表と討議（2）	研究計画書	
	7. 個人研究テーマに関する発表と討議（3）	研究計画書	
	8. Michael Adams, Fire and Ice :The United States, Canada and the Myth of Converging Values（1）	テキストを読む	
	9. Michael Adams, Fire and Ice :The United States, Canada and the Myth of Converging Values（2）	テキストを読む	
	10. 論文執筆に関する演習	研究論文の執筆	
	11. 個人研究中間報告と討議（1）	研究論文の執筆	
	12. 個人研究中間報告と討議（2）	研究論文の執筆	
	13. 個人研究中間報告と討議（3）	研究論文の執筆	
	14. 個人研究中間報告と討議（4）	研究論文の執筆	
	15. 総括	研究論文の執筆	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	研究計画書及び論文の途中原稿の提出を課し、そのチェックと添削及び面談によって個別に指導する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席および授業への積極的な参加姿勢	30%	発表後の討論における発言など、クラスや他の受講者の学習に対する積極的な貢献の程度
	発表	30%	内容の適切性、構成の論理性、論点の明確性、及びプレゼンテーション技術
	学期末課題	40%	個人研究について、問題の所在と研究方法が明確に示され、研究テーマに関する基本的事実が自身の問題意識との関わりで適切に整理されていること
教科書:	使用しない。		
参考書:	適宜、紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	Eメール。授業後に教室内で対応。		

授業テーマ:

『嵐が丘』から見る19世紀のイギリス文化

授業の概要:

春学期は、(1)ハワースとエミリー・ブロンテの生涯、(2)映画化された『嵐が丘』と原作との比較、(3)『嵐が丘』と食器、(4)インテリア小説としての『嵐が丘』、(5)キャサリンとヒースクリフの愛(の謎)、の5つのテーマのもとで学習していく。

到達目標:

この授業では、文化研究の材料として小説『嵐が丘』(1847)を使用することで、19世紀のイギリス・ヨークシャーを舞台に展開するエミリー・ブロンテの世界を学習し楽しむ。

授業方法:

関連の研究書・文献を使って、発表形式(グループごと)で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業オリエンテーション	予習は不要
	2. 発表テーマと発表者を決める。グループ・ミーティング	各回、発表が当たっていなくても、事前にテーマ毎の参考文献、および小説の関連箇所を読んでおくように。プレゼンの準備のためにグループで事前によく相談し、教員にも相談すること。
	3. テーマ1:エミリー・ブロンテの生涯/ハワースとエミリー作品Wuthering Heightsの精読	上記と同じ
	4. テーマ1:発表	上記と同じ
	5. テーマ2:映画化された『嵐が丘』と原作の比較 作品の精読	上記と同じ
	6. テーマ2:発表	上記と同じ
	7. テーマ3:『嵐が丘』の食器 作品の精読	上記と同じ
	8. テーマ3:発表	上記と同じ
	9. テーマ4:インテリア小説としての『嵐が丘』 作品の精読	上記と同じ
	10. テーマ4:発表	上記と同じ
	11. 前半部のまとめとディスカッション	上記と同じ
	12. ポスターセッションの準備	上記と同じ
	13. テーマ5:キャサリンとヒースクリフの愛(の謎) 作品の精読	上記と同じ
	14. テーマ5:発表	上記と同じ
	15. 春学期の総まとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは、採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート7月に1回提出	40%	アカデミック・スキルズを応用し、作品と先行研究を使用して、分析・解釈などの論旨展開をしていることが重要。研究レポートとしてのレベルに達しているかどうかを基準にする。
	授業発表(グループ毎のプレゼン)	30%	アカデミック・スキルズを応用したプレゼンの方法を踏襲しているかどうかを基準。
	ポスターセッション	20%	ポスセには全員参加。プレゼンの準備が協力的にできているかどうかを基準。
	授業への積極的参加度	10%	毎回出席をとる。

教科書:

Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) (Norton Edition)

参考書:

必要な教材は随時、授業中にプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメールの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。

授業テーマ: Practical Experience in Translation: Subtitling

授業の概要: This course will give students hands-on practice in subtitling movies. We will translate episodes of older US TV shows (I LOVE LUCY; THE HONEYMOONERS; THE ANDY GRIFFITH SHOW) in groups, and then transfer our titles onto the screen. We will do any research necessary to understand the show and its background, and students will help one another render the dialogue into natural and effective subtitles. We will analyze and discuss problems that occur during the course of working on the project. In the end, we will make our own DVD with our subtitles on it!

到達目標: --to work well in a small group, each one taking responsibility for her part and working well with the others
--to deal creatively with the challenges of translation, producing polished, easy to understand subtitles
--to develop technical skills in matching subtitles to the picture, timing the lines to the dialogue, expressing characters and their interrelationships, and making a coherent, unified product

授業方法: Seminar style, mostly in English

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

1. Introduction to the course. Examination of previous groups' work. Divide into groups.
2. Watch the DVDs and figure out what's going on.
3. Go over the script in class. Check vocabulary.
4. Translate in groups. Quiz on vocabulary and content.
5. Convert translations into subtitles. Review the basics of subtitling.
6. Discuss continuity issues within each group. Individual consultations and feedback.
7. Group presentations on problems and solutions in the three translations
8. Learn and practice the process of transferring subtitles to the screen
Individual consultations on topic of the senior thesis.
9. Continue transferring subtitles to the screen.
10. Continue transferring subtitles to the screen. Critique one another's work. Discuss possible topics of the senior thesis.
11. Evaluate the subtitles of other groups as time permits. Prepare for poster session.
12. Revise subtitles. Group work and individual consultations.
13. Revise and fine-tune subtitles. Group work and individual consultations. Work on making DVD.
14. Discuss assigned paper. DVD due.
15. Conclusion

準備学習等の内容

Read the script and work on vocabulary.

Research topics connected with the show. Include questions about the content or characters.

Finish reading the script. Begin translation. Study vocabulary.

Continue translating, researching, and problem-solving

Write a summary of assigned section. Continue translating/revising.

Continue revising.. Prepare presentations on problems and solutions in each group.
Do reading to prepare for the senior thesis.

Polish the subtitles.
Continue reading to prepare for the senior thesis.

Work on transferring subtitles outside of class as time permits.
Continue reading

Continue working on transfer of subtitles.
Continue reading

Work on a paper summarizing what has been learned so far and analyzing the group subtitles.

Work on revising subtitles.

Work on revising subtitles.

Read assigned paper. Work on making DVD.

Study for final examination.

受講者へのメッセージやアドバイス: It is important that each group member do their fair share. If you are busy with job-hunting, teaching practice, or other activities, you still must pull your weight. Have fun being creative and learning how not to be too literal in translation. Start planning now for your senior thesis--the earlier you decide the better!

フィードバックの方法: Translations will be gone over in class in individual or group consultations. Corrections will also be made on submitted translations and papers. Peer feedback will be of great importance.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	10%	Any absences must be fully accounted for. Homework must be handed in on time and each group member must work with other members in class.
Short papers	20%	
quizzes	10%	
final project	30%	
final examination	30%	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法: --send email
--see office hours or by appointment
--ask in the classroom

授業テーマ:

English as an International Language and Applied Linguistics
(国際語としての英語と応用言語学: Wakamoto Seminar XVII)

授業の概要:

This seminar discusses factors affecting foreign language learning (teaching), and strategies to develop English proficiency in an EFL (English as a foreign language) context. We recognize that the learning English in Japan encompasses substantial difficulties. At the same time, however, it is also true that some learners have attained high level of proficiency even though they have never studied abroad. Why are some learners more successful than others even if they are learning under the same conditions? This is a basic key question to be shared with course participants. Participants are asked to try to solve this “puzzle” while reading a textbook, discussing, or expressing their opinions.

到達目標:

At the end of the senior seminar, participants will be able to know what they are interested in (Research Questions), and the rationale for studying English in Japan through the process of producing their Bachelor’s Thesis. They will also acquire solid English proficiency, the logical thinking, and beautiful friendship, which will surely be their assets in their future career.

授業方法:

Most of the time is devoted to reading relevant journal articles (ELT Journal or Language Learning, for example) in relation to the studies of individual differences in foreign language learning so that participants will have a solid theoretical foundation in this area. I will allocate one journal article for each session, which implies that we will read more than ten articles in spring. Because seminar meets only once a week, I will not carry the discussion over to the following week. Therefore, seminar hours will be extended to some extent*. At this stage, course participants are asked to read articles and write critical summaries (entries) several times. In the process of reading articles, I expect that participants will find their own Research Questions (RQs) to develop in fall semester as a graduation thesis. For that purpose, participants will attend the 15th Poster Session of English Department (July, 2017), in which each participant will present their RQs and obtain feedback from other students, teachers, and general public.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction and individual expectations: Nice to meet you!	Think about what you expect to this course.
	2. Introduction to SLA and ID research: Johnson (2001)	Read the assigned journal.
	3. Motivation: Dörnyei (1990)	Read the assigned journal.
	4. Age and the Critical Period: Lightbown & Spada (1994)	Read the assigned journal.
	5. Early Childhood English Education: Cameron (2003)	Read the assigned journal.
	6. Influence of Culture: Hofstede (1997)	Read the assigned journal.
	7. Culture shock and bump: Jiang (2001)	Read the assigned journal.
	8. Japanese people and English pronunciation: McDonough (2002)	Read the assigned journal.
	9. Anxiety, Self-esteem, and face-to-face communication: MacIntyre (1997)	Read the assigned journal.
	10. Language and Personality: Wakamoto (2000)	Read the assigned journal.
	11. Input and Output hypotheses: Swain (1993), Krashen (1998)	Read the assigned journal.
	12. Lingua-franca and World Englishes: Kachru (1992)	Read the assigned journal.
	13. Learner strategies and language teaching: Vandergrift (2007)	Read the assigned journal.
	14. Rehearsal for the Poster Session	Read the assigned journal.
	15. Consolidation of the spring semester	Read the assigned journal.

受講者へのメッセージやアドバイス:

This seminar is conducted both in English (50%) and Japanese (50%) to develop participants’ English development.

フィードバックの方法:

Entries will be returned to the participants with comments and grades. Presentation scores will be shown through Manaba.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Entries	30	Based on shared rubrics
	Presentation	30	Based on shared rubrics
	interactions in class and contribution to semina	40	Based on shared rubrics

教科書:

American Psychological Association. (2010). Publication manual of the American Psychological Association (6th ed.).

参考書:

Shown in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Through e-mail or vising the instructor in person.

授業テーマ:

Research on Aspects of the Role of Sound in Language

授業の概要:

このコースでは、Junior Seminar I & II をさらに発展させ、言語音についてゼミ生ひとりひとりが研究テーマを設定し、その研究成果を論文としてまとめることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びによりphonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processingなど、さまざまな分野へと興味が広がることを期待する。

到達目標:

個人の卒業研究テーマに基づき準備をすすめ、卒業論文を完成させる。

授業方法:

このコースは課題提出、発表、ディスカッションを中心に行い、ゼミ生のトピックにおける理解を確認する。ゼミ生間の親睦を深めるため、ゼミ合宿(夏期休暇中)を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. リサーチについて中間報告およびディスカッション(1)	発表準備
	3. リサーチについて中間報告およびディスカッション(2)	発表準備
	4. リサーチについて中間報告およびディスカッション(3)	発表準備
	5. 論文のスタイルを知る(1)	課題①
	6. 論文のスタイルを知る(2)	課題②
	7. リサーチ計画をまとめる(1)	リサーチ計画提出
	8. リサーチ計画をまとめる(2)	リサーチ計画提出
	9. 先行研究を探す(1)	先行研究をまとめる
	10. 先行研究を探す(2)	先行研究をまとめる
	11. ポスターセッション準備	発表準備
	12. ポスターセッション・リハーサル(1)	発表
	13. ポスターセッション・リハーサル(2)	発表
	14. ポスターセッション参加	発表
	15. 卒業研究の振り返り	予備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ゼミにおけるディスカッションや個人面談を通し、リサーチテーマについて調査を進めていく。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	30%	リサーチへ取り組む姿勢、学生間の相互協力など評価に加える。
	課題提出・発表	50%	課題の提出、発表(内容・態度)など評価に加える。
	その他	20%	

教科書:

白井利明他、よくわかる卒論の書き方、2010、ミネルヴァ書房 (Junior Seminarで使用したものでよい)

参考書:

小塩真司、質問紙調査の手順、2009、ナカニシヤ出版
藤本 亨、Excelでできるらくらく統計解析、2011、自由国民社
American Psychological Association、Publication Manual of the American Psychological Association, 6th edition. 2009
ゾルダン・ドルニユイ、外国語教育学のための質問紙調査入門、2009、松柏社
向後千春、18歳からの「大人の学び」基礎講座、2016、北大路書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ:

授業の概要:

In this course, we will cover various aspects of interpersonal communication, that is, communication between people in friendships and family relationships, as well as proposing a research projects related to interpersonal communication, including participating in the poster session.

到達目標:

Gaining a deeper understanding of interpersonal communication and its application to daily life.

授業方法:

Students will read about interpersonal communication, discuss what they have read, and work on research projects. They will also participate in a poster session about their research at the end of the spring semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Listening and communication 1	none
	2. Listening and communication 2	Reading passage and answering questions.
	3. Listening and communication 3	Reading passage and answering questions; answer discussion questions.
	4. Interpersonal Relationships 1	Reading passage and answering questions.
	5. Interpersonal Relationships 2	Reading passage and answering questions.
	6. Interpersonal Relationships 3	Reading passage and answering questions.; answer discussion questions
	7. Small Group Communication 1	Reading passage and answering questions.
	8. Small Group Communication 2	Reading passage and answering questions.
	9. Small Group Communication 3	Reading passage and answering questions; answer discussion questions.
	10. Mediated Communication 1	Reading passage and answering questions.
	11. Discussion of topics for posters	Think about topics for posters
	12. Mediated Communication 2	Reading passage and answering questions.
	13. Mediated Communication 3	Reading passage and answering questions; answer discussion questions
	14. Mediated Communication 4	
	15. Work on posters	

受講者へのメッセージやアドバイス:

The order or length of these topics may change, depending on changing situations

フィードバックの方法:

Comments and guidance on papers

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Homework	70%	Demonstration of understanding and application of what was learned
	Test	30%	Demonstration of understanding and application of what was learned

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:

Intercultural Communication I

授業の概要:

A wide range of topics on language, society and communication will be studied in class.

到達目標:

Discussion of course topics will be made through group work, oral presentations and written assignments. Students must write a final essay and do an oral presentation at the end of the course.

授業方法:

(1) Students will explore and examine topics on intercultural communication
(2) Students will be learn to analyze and think critically about different topics and social issues.
(3) Students will learn about the world around them from a different perspective.

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to course, syllabus, class expectations	Weekly assignment
	2. Language and Intercultural Communication	Weekly assignment
	3. Language and Intercultural Communication	Weekly assignment
	4. Language and Intercultural Communication	Weekly assignment
	5. Oral presentations	Weekly assignment
	6. Culture and Commnication	Weekly assignment
	7. Culture and Commnication	Weekly assignment
	8. Culture and Commnication	Weekly assignment
	9. Presentations	Weekly assignment
	10. Intercultural Communicative Competence	Weekly assignment
	11. Intercultural Communicative Competence	Weekly assignment
	12. Intercultural Communicative Competence	Weekly assignment
	Writing Workshop	
	13. Writing Workshop	Final Presentation preparation
	14. Final Presentations	Final Presentation preparation
	15. Final Presentations	Final Presentation preparation

受講者への
メッセージや
アドバイス:

Students are expected to speak English with the instructor and fellow students in every class. A high level of motivation is required in order to do well in this class.

フィードバックの
方法:

Will be specified by the instructor in class

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	20%	as determined by the instructor
	Group work	20%	as determined by the instructor
	Assignments and Presentations	60%	as determined by the instructor

教科書:

Kluge, D.E., Taylor, M. A., Basic Steps to Writing Research Papers (2007), Cengage Learning, Japan.
ISBN-10: 4902902893

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

Will be informed by the instructor in class

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

分析力、思考力、自己管理力

Emailやオフィスアワーを利用。

授業テーマ:

アメリカン・カルチュラル・スタディーズ

授業の概要:

文学作品だけでなく、映画、音楽、テレビ、絵画、写真等の表現媒体を研究して、白人男性を中心としたかつてのアメリカ的価値観を見直す視座を得ることにより、多様な観点からアメリカを理解する。

到達目標:

アメリカに関する文化的・歴史的知識を広げることにより、アメリカの様々な分野における現状を正しく理解する。

授業方法:

講義と各自の発表が中心となるが、指定した小説や映画をみてのディスカッションも行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	シラバスをもう一度よく読んでおくこと。
2.	研究発表の概説	配布したプリントを読んでおく。
3.	研究発表 1～2	研究発表の内容を調べておく。
4.	研究発表 3～4	研究発表の内容を調べておく。
5.	研究発表 5～6	研究発表の内容を調べておく。
6.	研究発表 7～8	研究発表の内容を調べておく。
7.	研究発表 9～10	研究発表の内容を調べておく。
8.	研究発表 11～12	研究発表の内容を調べておく。
9.	研究発表 13～14	研究発表の内容を調べておく。
10.	ディスカッション 1 + 論文執筆指導	指定した小説を読んでおく、もしくは、指定した映画をみておく。
11.	ディスカッション 2 + 論文執筆指導	指定した小説を読んでおく、もしくは、指定した映画をみておく。
12.	ディスカッション 3 + 論文執筆指導	指定した小説を読んでおく、もしくは、指定した映画をみておく。
13.	ディスカッション 4 + 論文執筆指導	指定した小説を読んでおく、もしくは、指定した映画をみておく。
14.	卒業研究発表会準備	卒業研究発表会向けの発表を考えておく。
15.	卒業研究発表会準備	卒業研究発表会向けの発表を考えておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

・参考文献に挙げる資料の中から、指定した書籍や論文を講読して当該の授業に参加する。

・論文の進行状況を随時文章で報告する。

・発表前に発表概要を報告する。

・発表前に時間を計り、パワーポイントの提示時期等を練習しておく。

・クラスメイトの発表タイトルに関する知識をできるだけ得ておく。

フィードバックの方法:

クラスメイトの発表に対する意見、質問等を書き発表の次週に提出してもらう。コメントの内容を次の週の授業で紹介する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加	40%	遅れずに出席をきちんとする。どうしても休まなければならないときは必ず事前に連絡をする。ディスカッション等で、積極的に発言する。
	研究発表	30%	発表の内容だけでなく、発表の仕方、工夫等も考慮する。
	論文	30%	論文の内容だけでなく、正しいフォームで書いているかも考慮する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

公開している同志社女子大学のメールで連絡すること。

授業テーマ:

ジェイン・オースティン研究

授業の概要:

この数年間ジェイン・オースティンの作品は映画化されたり(『プライドと偏見』、『いつか晴れた日に』等)、BBCでドラマ化されたり(『高慢と偏見』)、あるいは作者をヒロインとした映画が作られたり(『ジェイン・オースティン:秘められた恋』)、パロディー作品が作られたり、(『高慢と偏見とゾンビ』)、世界的にジェイン・オースティン・ブームがずっと続いている。それほど劇的な恋愛があるわけでもなく、ヒロインたちが紆余曲折を経ながら結婚にたどり着くハッピーエンドのオースティン・ワールドが、時空を超えて21世紀の私達に訴えかけるどんな魅力を持っているのだろうか? 当時の時代背景を踏まえながら、作品の講読を通して、ヒロインたちの人生観や結婚観などを中心に、現代女性の行き方に通じるヒロインたちの魅力を探っていく。なお、個人研究として当時のイギリス文化について研究してもよい。

到達目標:

(1) 18世紀の英語で書かれた文学作品をちゃんと読破すること。
(2) 自分の意見を人前でしっかり発表すること。
(3) 各自卒業研究のテーマを決めて、卒業研究発表会を経て、卒業研究を論文の形で完成させること。

授業方法:

授業は、個人研究の発表が中心となるが、発表を元に各自卒業研究の論文の作成に取り組む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	個人研究の発表の日程の確認
2.	個人発表 作品の講読 VIDEO	授業のための予習 発表の準備
3.	個人発表 作品の講読 VIDEO	授業のための予習 発表の準備
4.	個人発表 作品の講読 VIDEO	授業のための予習 発表の準備
5.	個人発表 作品の講読 VIDEO	授業のための予習 発表の準備
6.	個人発表 作品の講読 VIDEO	授業のための予習 発表の準備
7.	個人発表 作品の講読 VIDEO	授業のための予習 発表の準備
8.	個人発表 作品の講読 VIDEO	授業のための予習 発表の準備
9.	論文の作成 作品の講読 VIDEO	授業のための予習 論文の作成
10.	論文の作成 作品の講読 VIDEO	授業のための予習 論文の作成
11.	論文の作成 作品の講読 VIDEO	授業のための予習 論文の作成
12.	論文の作成 卒業研究会発表準備	卒業研究発表会の準備 論文の作成
13.	論文の作成 卒業研究会発表準備	卒業研究発表会の準備 論文の作成
14.	論文の作成	論文の作成
15.	論文の完成	論文の完成

受講者へのメッセージやアドバイス:

(1) 個人研究のテーマに沿って、充実した論文を完成させてほしい。
(2) 論文を書くのにかけた考察と時間と情熱が、論文が完成した時の達成感につながる。

フィードバックの方法:

(1) 個人研究のテーマをもとに、論文の内容、章立てにアドバイスする。
(2) 個人発表を聞いて、参考文献などのアドバイスをする。
(3) 論文が完成するまで、何度も添削をする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究論文	40%	完成度の高い論文がかけているか
	卒業研究発表会	20%	自分の研究が伝わる発表であるか
	個人研究の口頭発表	10%	研究内容がちゃんと整理された発表であるか
	中間発表	10%	研究の骨子がしっかりわかる発表であるか
	受講態度(出席・予習・積極性)	20%	授業に真面目に取り組んでいるか

教科書:

Jane Austen, Pride and Prejudice (Penguin)

参考書:

春学期の最初に参考文献リストを配布済み。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ライン
E-mail
電話

授業テーマ:

戯曲の精読から上演へ—Lady Windermere's Fan研究②—

授業の概要:

このクラスでは、劇作品をより深く理解し、英語音声表現、および翻訳の能力を高めるため、戯曲を日本語字幕付で上演することを目指す。取り上げる作品は英国の作家Oscar Wildeの風俗喜劇Lady Windermere's Fan(『ウインダムニア卿夫人の扇』)である。Wilde特有の逆説的で機知に富んだ含蓄のある台詞が全編にちりばめられ、1892年の初演時には大好評を博したとされている。場面の状況、登場人物の心の動き、観客への効果を考えながら、劇を訳読後、字幕を作成し、1月半ばの卒業研究発表会で上演を試する。

到達目標:

1. 戯曲を舞台上演することにより、作品のさらなる深い理解を目指す。
2. 日本語字幕を作成することにより、英語の翻訳能力を高める。
3. クラス全員で舞台制作作業を行うことにより、英語力のみならず、人を思いやる力やリーダーシップを身に付ける。

授業方法:

上演のための作業に入っていく。上演用字幕の作成、対訳台本作り(担当者があらかじめ作成した上演用の英語台本に日本語字幕をつけたもの)、及び台詞の読み合わせ練習をする。1月には、全体でのリハーサルを行い、1月半ばの卒業研究発表会で上演する。また、学期末には、上演を振り返り、各自の学びの成果についてのレポートを提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	授業後は配布された上演用台本に目を通し、各自の希望の役を決めておくこと。
2. スタッフとキャストの役割決定、作品のテーマや手法についてのディスカッション	授業前には、作品のテーマや手法について、各自で考えてくること。
3. 全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
4. 全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
5. 全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
6. 全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
7. 全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
8. 全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
9. 立ち稽古	台本なしで演技の練習をすること。同時にスタッフの仕事(字幕照射、音響など)も進めていくこと。
10. 立ち稽古	台本なしで演技の練習をすること。同時にスタッフの仕事(字幕照射、音響など)も進めていくこと。
11. 立ち稽古	台本なしで演技の練習をすること。同時にスタッフの仕事(字幕照射、音響など)も進めていくこと。
12. 立ち稽古	台本なしで演技の練習をすること。同時にスタッフの仕事(字幕照射、音響など)も進めていくこと。
13. ドレス・リハーサル	本番に向けての総仕上げの作業を進めていくこと。
14. ドレス・リハーサル	本番に向けての総仕上げの作業を進めていくこと。
15. 卒業文集作成	

受講者へのメッセージやアドバイス:

上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠です。一人一人が責任を持って意欲的に取り組んでください。

フィードバックの方法:

日本語字幕作成に関しては、提出された字幕を添削して返却する。演技や演出方法に関しては、適宜、アドバイスとコメントを与える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加姿勢	30%	授業への積極的な取り組みを評価する。
字幕作成	20%	日本語字幕の翻訳能力によって評価する。
発表内容	40%	本番でのキャストとしてのパフォーマンス能力、及びスタッフとしての働きによって評価する。
レポート	10%	作品全体と各自の役割の理解度によって評価する。

教科書:

ハンドアウト(上演用台本)を用意する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:

htsuji@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

イギリスの庭の内外:文学や論文に現れた様々な庭を取り上げ、各自の研究テーマとの連動を図る。

授業の概要:

The Secret Gardenから見出した研究テーマについての考察を深めながら、論文作成の準備を行う。

到達目標:

イギリスの文化、文学などについての正確な理解と広範な知識の獲得、またそれらを論理的に口頭ならびに文章で発表できる能力の獲得。英語読解力の向上。

授業方法:

演習形式。口頭発表や論文作成指導も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. 庭その他に関する参考資料の解読と論文作成に関する指導を行う。理解確認のためにミニ・レポートを提出させることがある。	毎回の授業の予習と復習。論文作成の準備。
	3. 同上	同上
	4. 同上	同上
	5. 同上	同上
	6. 同上	同上
	7. 同上	同上
	8. 同上	同上
	9. 同上	同上
	10. 研究のまとめと発表を行う。卒業論文作成の最終指導をする。	卒業研究発表会に備え、10分程度の口頭発表の準備をし、クラスで披露する。卒業論文の下書き原稿が出来次第提出。添削を受けて打ち直す。
	11. 同上	同上
	12. 同上	同上
	13. 同上	同上
	14. 同上	同上
	15. 卒業研究の論文(完成原稿)提出	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物は添削して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	受講態度	10%	受講態度(予習の有無、受け答えの仕方など)により意欲があるか否かを評価する。
	発表	30%	研究倫理の遵守、発表の内容、発表態度により評価する。
	提出物(ミニ・レポートと論文)	60%	研究倫理の遵守、内容、特に論文の場合は、アカデミックな書き物にふさわしい表現形式か否かにより評価する。

教科書:

F. H. Burnett, The Secret Garden, Penguin Classics

参考書:

授業でプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワーとEメール(ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:	「象徴」から見る北米文化		
授業の概要:	アメリカ合衆国とカナダは、北アメリカの地に隣接して国家を形成し、異なる文化と社会を築き上げてきた。アメリカの国民文化を象徴する事物の一部は、グローバル化の波の中で世界にも広く知られるものとなり、その超大国の隣にあってカナダ人は、独自のアイデンティティを懸命に模索し、象徴的なカナダ文化を生み出してきた。このような両国の事情を比較しながら、国民文化の創成や国民意識の形成に関わる問題について理解を深めることが、このクラスの目的である。 秋学期は、調査や考察の結果を論理的に構築して、口頭で発表し、文章化するという学習・研究の基本技術を、3年次より高いレベルで実践的に向上させることを目指す。受講者は、各自の関心に沿ったテーマで個人研究を進め、学期末には研究成果のまとめとして、論文を完成させる。受講者間で互いの研究から学び、それを高め合うことができる場としたい。年度中にゼミ合宿の実施を予定している。		
到達目標:	1) 個人研究及び授業内の議論の前提として、アメリカ合衆国とカナダの社会と文化に関する論点の所在について、理解を深める。 2) 研究成果をもとに分析・考察を行い、論文を完成させる。		
授業方法:	受講者の発表とそれに基づく討議、およびグループワークを中心に授業を進める。扱う内容によって、講義、文献の講読、映像資料の視聴等を適宜、交える。個人研究については、段階を踏んで完成に導けるよう、個別に指導を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション		ここまでの研究成果の整理
	2. 個人研究中間報告と討議(1)		研究論文の執筆 発表の準備
	3. 個人研究中間報告と討議(2)		研究論文の執筆 発表の準備
	4. 個人研究中間報告と討議(3)		研究論文の執筆 発表の準備
	5. 個人研究中間報告と討議(4)		研究論文の執筆 発表の準備
	6. 論文執筆に関する演習(1)		研究論文の執筆
	7. 論文執筆に関する演習(2)		研究論文の執筆
	8. S. M. Lipset, “Canada and the United States: The Cultural Dimension” (1)		テキストを読む
	9. S. M. Lipset, “Canada and the United States: The Cultural Dimension” (2)		テキストを読む
	10. 個人研究成果発表と討議(1)		研究論文の執筆 発表の準備
	11. 個人研究成果発表と討議(2)		研究論文の執筆 発表の準備
	12. 個人研究成果発表と討議(3)		研究論文の執筆 発表の準備
	13. 個人研究成果発表と討議(4)		研究論文の執筆 発表の準備
	14. 論文完成に関する作業と演習		研究論文の執筆
	15. 総括		卒業研究発表会の準備
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	研究計画書及び論文の途中原稿の提出を課し、そのチェックと添削及び面談によって個別に指導する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席および授業への積極的な参加姿勢	30%	発表後の討論における発言など、クラスや他の受講者の学習に対する積極的な貢献の程度
	発表	30%	内容の適切性、構成の論理性、論点の明確性、及びプレゼンテーション技術
	論文	40%	主題、論理構成、資料の活用、言語表現が適切であること
教科書:	使用しない。		
参考書:	適宜、紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	Eメール。授業後に教室内で対応。		

授業テーマ:

『嵐が丘』から見る19世紀のイギリス文化

授業の概要:

秋学期は、春学期の続きとしての通し番号で、(6)『嵐が丘』と幽霊/キャサリンの死生観(キリスト教との比較)、(7)シンボルとイメージ、(8)ゴシック小説として読む『嵐が丘』/Gothicという概念、の3つのテーマのもとで学習していく。

到達目標:

この授業では、文化研究の材料として小説『嵐が丘』(1847)を使用することで、19世紀のイギリス・ヨークシャーを舞台に展開するエミリー・ブロンテの世界を学習し楽しむ。

授業方法:

関連の研究書・文献を使って、発表形式(グループごと)で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業オリエンテーション	予習は不要
	2. 春学期のレポートの講評など	予習は不要
	3. テーマ6:『嵐が丘』と幽霊/キャサリンの死生観(キリスト教との比較) 作品の精読	各回、発表が当たっていなくても、事前にテーマ毎の参考文献、および小説の関連箇所を読んでおくように。プレゼンの準備のためにグループで事前によく相談し、教員にも相談すること。
	4. テーマ6:発表	上記と同じ
	5. テーマ7:シンボルとイメージ/ビクトリア朝の家庭(天国と地獄), Penistone Crags, Isabella's dog, Gardening at the Heights 作品の精読	上記と同じ
	6. テーマ7:発表	上記と同じ
	7. テーマ8:ゴシック小説として読む『嵐が丘』/ゴシックという概念 作品の精読	上記と同じ
	8. テーマ8:発表	上記と同じ
	9. 卒業研究発表会の準備	上記と同じ
	10. 卒業研究発表会の準備	上記と同じ
	11. 卒業研究発表会の準備	上記と同じ
	12. 卒業研究発表会の準備	上記と同じ
	13. 卒業研究発表会の準備	上記と同じ
	14. 卒業研究発表会の準備	上記と同じ
	15. 秋学期の総まとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは、採点とコメントして返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	1月初旬に1回提出。その後清書を提出。	30%	アカデミック・スキルズを応用し、作品と先行研究を使用して、分析・解釈などの論旨展開をしていることが重要。研究レポートとしてのレベルに達しているかどうかを基準にする。
	授業発表(グループ毎のプレゼン)	30%	アカデミック・スキルズを応用したプレゼンの方法を踏襲しているかどうかを基準。
	卒業研究発表会	30%	卒研発表会には全員参加。プレゼンの準備が協力的にできているかどうかを基準。
	授業への積極的参加度	10%	毎回出席をとる。

教科書:

Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) (Norton Edition)

参考書:

必要な教材は随時、授業中にプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメールの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。

授業テーマ: Writing the Senior Thesis: Translation, Communication

授業の概要: Students will write a senior thesis connected in some way with translation of a film or other work (translation of a book, musical, play, children's book, or other such project is possible). They will analyze problems in translation and identify possible solutions. The topic will be decided in consultation with the instructor. This is a chance for students to put together everything they have learned over the past three and a half years. Think about what has puzzled or fascinated you and dive in! Learn the pleasure of exploring in depth a topic you love, and communicating your findings to your peers.

到達目標: --to research a topic connected with translation
 --to write at least ten typewritten pages (3000 words) in English
 --to write lucidly about translation issues for readers with no knowledge of Japanese
 --to review and implement the techniques of academic writing including style and attribution of sources
 --to learn to rewrite and polish using Microsoft Word

授業方法: In-class work, lectures, pair work.

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内
 容」:

授業内容

1. Students will share ideas and begin to formulate a research question.
2. Discuss one another's research questions. Practice in the art of quotation. Individual consultations. Read other papers from previous classes.
3. Review the worksheet on quotation. Practice proper method of in-text citing of sources. Individual consultations.
4. Submit list of sources in proper format, alphabetical order. Discuss organization of the paper including thesis statement. Questionnaires.
5. Lesson in Microsoft Word. The art of the introduction. Submit translation
6. Quotations revisited. Paraphrasing and plagiarism. Discussion of each segment of the paper. Individual consultations.
7. Worksheet on topic sentences and continuity. Individual presentations on the status of the paper.
8. Using tables and figures. Use of the passive.
9. Worksheet due. Writing the conclusion.
10. First draft due.
11. Worksheet due. Individual consultations on the first draft.
12. In-class writing, consultations, and peer feedback.
13. In-class writing, consultations, and peer feedback. Submit list of Works Cited.
14. Prepare for presentation of the senior thesis. Final draft due.
15. Review. Write recommendations for next year's class.

準備学習等の内容

- Do reading on topic. Prepare a research question. Read a research paper by sempai.
- Worksheet on quotation.
- Prepare preliminary list of sources including English-language readings.
- Refine the research question and prepare a thesis statement. If doing a translation, prepare a draft for submission.
- Continue work on translation. Prepare an introduction and outline.
- Translation revision. Continue reading and writing.
- Continue reading and writing.
- Worksheet on tables and figures. Continue reading and writing.
- Prepare first draft.
- Worksheet on the passive.
- Revise the first draft.
- Continue revising. Prepare final list of Works Cited.
- Make final changes.
- Prepare for presentation of the senior thesis.
- Final revisions as necessary.

受講者へのメッセージやアドバイス: This is an exciting time. Please don't wait too long to decide your topic. Choose what interests you and go for it!

フィードバックの方法: Individual consultations in and out of class. Peer feedback. Each draft will be minutely commented on and students are required to do careful revisions of their work.

「成績評価方法」
 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance, participation	10%	Attendance is required. Make up any work missed and turn in homework on time.
Worksheets, homework	20%	Turn in the homework promptly and ask questions as needed.
First draft	25%	Turn in no later than the tenth week.
Final draft	25%	Make revisions as necessary. More than one rewriting is likely to be needed.
Final presentation	20%	Prepare a talk summarizing your findings, in Japanese, using Power Point

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法: --email
 --office hours or by appointment
 --ask in classroom

授業テーマ:	Graduation Theses and Applied Linguistics (卒業論文と応用言語学: Wakamoto Seminar XVII)		
授業の概要:	This seminar discusses factors affecting foreign language learning (teaching), and strategies to develop English proficiency in an EFL (English as a foreign language) context. We recognize that the learning English in Japan encompasses substantial difficulties. At the same time, however, it is also true that some learners have attained high level of proficiency even though they have never studied abroad. Why are some learners more successful than others even if they are learning under the same conditions? This is a basic key question to be shared with course participants. Participants are asked to try to solve this “puzzle” while reading a textbook, discussing, or expressing their opinions.		
到達目標:	At the end of the senior seminar, participants will be able to know what they are interested in (Research Questions), and the rationale for studying English in Japan through the process of producing their Graduation Thesis. They will also acquire solid English proficiency, the logical thinking, and beautiful friendship, which will surely be their assets in their future career.		
授業方法:	Several approaches can be assumed; one may try to conduct an experiment or others may describe someone’s story as a case study by interviewing several successful language learners. In any case, reading and understanding relevant works in this field would be a basis. In order to help participants write a better thesis, several workshops such as the general guideline for creating a better questionnaire or the use of SPSS (statistics software) are planned. Theses are to be presented at the 15th Bachelor Thesis Presentations of English Department (January, 2018).		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. Introduction to fall semester 2. Research design for theses: How to design a questionnaire 3. Individual presentations on theses: First series (I) 4. Individual presentations on theses: First series (II) 5. Data processing: How to analyze data 6. Data representations: How to create graphs, figures, and tables 7. Individual presentations on theses: Mid-report series (I) 8. Individual presentations on theses: Mid-report series (II) 9. Individual presentations on theses: Mid-report series (III) 10. Increase the Face Validity: Double-spacing, spell-check, and footnotes 11. APA style for theses: Final Check 12. Finish and submit theses 13. Rehearsal for thesis presentations (I) 14. Rehearsal for thesis presentations (II) 15. Consolidation of the course	準備学習等の内容 Work on their own (thesis) draft. Work on their own (thesis) draft. Work on their own (thesis) draft. Work on their own (thesis) draft. Work on their own (thesis) draft. Work on their own (thesis) draft. Work on their own (thesis) draft. Work on their own (thesis) draft. Work on their own (thesis) draft. Spend time for the rehearsal. Spend time for the rehearsal. Reflect what you have achieved	
受講者へのメッセージやアドバイス:	This seminar is conducted both in English (50%) and Japanese (50%) to develop participants’ English development.		
フィードバックの方法:	Drafts will be returned to the participants with comments.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 Thesis	割合 100	評価基準 The process of making the thesis and the quality of the submitted thesis
教科書:	American Psychological Association. (2010). Publication manual of the American Psychological Association (6th ed.). References are shown in class.		
参考書:	References are shown in class.		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Through e-mail or visiting the instructor in person.		

授業テーマ:	Research on Aspects of the Role of Sound in Language		
授業の概要:	このコースでは、Junior Seminar I & II をさらに発展させ、言語音について受講生ひとりひとりが研究テーマを設定し、その研究成果を論文としてまとめることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びによりphonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processingなど、受講生がさまざまな分野へと興味を広げることを期待する。		
到達目標:	個人の卒業研究テーマに基づき準備をすすめ、卒業論文を完成させる。		
授業方法:	このコースは課題提出、発表、ディスカッションを中心に行い、ゼミ生のトピックにおける理解を確認する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. 中間発表(1)	発表	
	3. 中間発表(2)	発表	
	4. 中間発表(3)	発表	
	5. 「はじめに」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出	
	6. 「先行研究」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出	
	7. 「実験・調査」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出	
	8. 「結果」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出	
	9. 「考察」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出	
	10. 「まとめ」および「引用文献」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出	
	11. 最終チェック～論文提出	草稿提出	
	12. 卒論発表リハーサル(1)		
	13. 卒論発表リハーサル(2)		
	14. 卒業論文発表会参加		
	15. 卒業論文集のための最終原稿提出	最終原稿提出	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	ゼミにおけるディスカッションや個人面談を通し、リサーチテーマについて調査を進めていく。ドラフトは必ずピア・チェックを行ったものを提出する。		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	20%	リサーチへ取り組む姿勢、学生間の相互協力など評価し、論文の評価に加える。
	卒業論文	80%	卒業論文は、内容および形式を評価する。
教科書:	白井利明他、よくわかる卒論の書き方、2010、ミネルヴァ書房		
参考書:	小塩真司、質問紙調査の手順、2009、ナカニシヤ出版 藤本 竜、Excelでできるらくらく統計解析、2011、自由国民社 American Psychological Association. Publication Manual of the American Psychological Association, 6th edition. 2009 ゾルダン・ドルニユイ、外国語教育学のための質問紙調査入門、2009、松柏社 向後千春、18歳からの「大人の学び」基礎講座、2016、来た大路書店		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること		

授業テーマ:

Interpersonal Communication

授業の概要:

In this course, we will cover various aspects of interpersonal communication, that is, communication between people in friendships and family relationships, as well as proposing a research projects related to interpersonal communication, including participating in the poster session.

到達目標:

Gaining a deeper understanding of interpersonal communication and its application to daily life.

授業方法:

Students will read about interpersonal communication, discuss what they have read, and work on research projects. They will also participate in a poster session about their research at the end of the spring semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Graduation Thesis 1	none
	2. Emotional Intelligence, Attraction, and Interpersonal Communication 1	Reading passage and answering questions.
	3. Emotional Intelligence, Attraction, and Interpersonal Communication 2	Reading passage and answering questions; answer discussion questions.
	4. Research Design 1	Reading passage and answering questions.
	5. Research Design 2	Reading passage and answering questions.
	6. Writing a Research Paper 1	Reading passage and answering questions.
	7. Writing a Research Paper 2	Reading passage and answering questions
	8. Statistics	none
	9. Graduation Thesis 2	Work on graduation thesis.
	10. Graduation Thesis 3	Work on graduation thesis.
	11. Graduation Thesis 4	Work on graduation thesis.
	12. Graduation Thesis 5	Work on graduation thesis.
	13. Graduation Thesis 6	Work on graduation thesis.
	14. Graduation Thesis 7	Work on graduation thesis
	15. Preparing for Presentations	Work on graduation thesis

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Discussing the work they are doing on the thesis

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Homework	10%	Application of what they have learned to their lives
	Graduation thesis	70%	Research design, application of statistics, conclusions from results, etc.
	Test	20%	Application of what they have learned to their lives

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:

Intercultural Communication II

授業の概要:

Senior Seminar II will focus on :

1) Culture and conflict

2) How to write a research paper for the final assignment

到達目標:

Students will learn how to write a basic research paper on the topic of their choice connected to the theme of intercultural communication.

Students will learn skills in researching, methodology, citing, paraphrasing, analyzing and academic writing

授業方法:

(1) Students will explore and examine topics on intercultural communication

(2) Students will be learn to analyze and think critically about different topics and social issues.

(3) Students will learn about the world around them from a different perspective.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to course, goals and objectives	Weekly assignment
	2. Research paper writing	Weekly assignment
	3. Research paper writing	Weekly assignment
	4. Research paper writing	Weekly assignment
	5. Research paper writing	Weekly assignment
	6. Research paper writing	Weekly assignment
	7. Research paper writing	Weekly assignment
	8. Research paper writing	Weekly assignment
	9. Research paper writing	Weekly assignment
	10. Research paper writing	Weekly assignment
	11. Research paper writing	Weekly assignment
	12. Research paper writing	Weekly assignment
	13. Research paper writing	Preparation for final assignment
	14. Final Assignments	Preparation for final assignment
	15. Final Assignments	Preparation for final assignment

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to speak English with the instructor and fellow students in every class. A very high level of motivation is required in order to do well in this course.

フィードバックの方法:

Will be specified by the instructor in class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20%	as determined by the instructor
	Group work	20%	s determined by the instructor
	Weekly assignments and Presentations	40%	s determined by the instructor
	End of Term Assignments	20%	as determined by the instructor

教科書:

Kluge, D.E., Taylor, M. A., Basic Steps to Writing Research Papers (2007), Cengage Learning, Japan. ISBN-10: 4902902893

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Students will be informed by the instructor in class

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

In this course, students will use both extensive and intensive reading to improve their reading skills.

Improving students' reading proficiency, specifically by helping them develop skills and strategies and by giving them experience with extensive reading.

Students will work in groups on the textbook, with one student acting at the group teacher, focusing on reading skills and strategies and on extensive reading.. Students will blog about their extensive reading and read each others' blogs. They will also read NewsFlash articles.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	none
	2. Chapter 1	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
	3. Chapter 1	Extensive reading and blogging.
	4. Chapter 1	Extensive reading and blogging.
	5. Chapter 2	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
	6. Chapter 2	Extensive reading and blogging.
	7. Chapter 2	Extensive reading and blogging.
	8. Chapter 3	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
	9. Chapter 3	Extensive reading and blogging.
	10. Chapter 3	Extensive reading and blogging.
	11. Chapter 4	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
	12. Chapter 4	Extensive reading and blogging.
	13. Chapter 4	Extensive reading and blogging.
	14. Chapter 5	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
	15. Chapter 5	Extensive reading and blogging.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Discussion of extensive reading and reading strategies

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Final exam	60%	Understanding of content, vocabulary, and reading strategies
	Extensive reading, blogging, etc.	40%	Number of pages read, blogs

教科書:

Mosaic Reading 2

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

In this course, students will use both extensive and intensive reading to improve their reading skills.

Improving students' reading proficiency, specifically by helping them develop skills and strategies and by giving them experience with extensive reading.

Students will work in groups on the textbook, with one student acting at the group teacher, focusing on reading skills and strategies and on extensive reading.. Students will blog about their extensive reading and read each others' blogs. They will also read NewsFlash articles.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Chapter 6	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
	2. Chapter 6	Extensive reading and blogging.
	3. Chapter 6	Extensive reading and blogging.
	4. Chapter 7	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
	5. Chapter 7	Extensive reading and blogging.
	6. Chapter 7	Extensive reading and blogging.
	7. Chapter 8	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
	8. Chapter 8	Extensive reading and blogging.
	9. Chapter 8	Extensive reading and blogging.
	10. Chapter 9	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
	11. Chapter 9	Extensive reading and blogging.
	12. Chapter 9	Extensive reading and blogging.
	13. Chapter 10	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
	14. Chapter 10	Extensive reading and blogging.
	15. Chapter 10	Extensive reading and blogging.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Discussion of extensive reading and reading strategies

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Final exam	60%	Understanding of content, vocabulary, and reading strategies
	Extensive reading, blogging	40%	Number of pages read, blogs

教科書:

Mosaic Reading 2

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:

Reading

授業の概要:

Improving students' reading proficiency, specifically by helping them develop skills and strategies and by improving their vocabulary and developing skills to further develop their vocabulary.

到達目標:

To improve students reading skills as well as their knowledge of important English words and phrases.

授業方法:

Classes will work in groups on the textbook, focusing on reading skills and strategies and on developing vocabulary. They will also read NewsFlash articles.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Overview – Chapter 1	Bring materials
	2. Chapter 1	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	3. Chapter 1	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	4. Chapter 2	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	5. Chapter 2	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	6. Chapter 2	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	7. Chapter 3	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	8. Chapter 3	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	9. Chapter 3	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	10. Chapter 4	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	11. Chapter 4	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	12. Chapter 4	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	13. Chapter 5	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	14. Chapter 5	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
	15. Chapter 5	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Work patiently and diligently and you will succeed.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Final Exam	60	Teacher administered exam
	Extensive reading, blogging, etc.	40	Various submitted materials

教科書:

AES A students -- Mosaic 2 Reading
AES B students -- Mosaic 1 Reading
Note: These are the same books that will be used in the AES speaking classes.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:

tom.rush.w@gmail.com

授業テーマ:

Reading

授業の概要:

Improving students' reading proficiency, specifically by helping them develop skills and strategies and by improving their vocabulary and developing skills to further develop their vocabulary.

到達目標:

Students will improve their reading skills as well as their knowledge of important vocabulary items and grammar structures in English.

授業方法:

Classes will work in groups on the textbook, focusing on reading skills and strategies and on developing vocabulary. They will also read NewsFlash articles.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Chapter 6	Bring all materials
	2. Chapter 6	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	3. Chapter 6	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	4. Chapter 7	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	5. Chapter 7	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	6. Chapter 7	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	7. Chapter 8	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	8. Chapter 8	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	9. Chapter 8	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	10. Chapter 9	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	11. Chapter 9	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	12. Chapter 9	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	13. Chapter 10	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	14. Chapter 10	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
	15. Chapter 10	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Work patiently and diligently and you will succeed.

フィードバックの方法:

Students will receive feedback in class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Final Exam	60	Teacher will grade the test
	Extensive reading, blogging, etc.	40	Students will submit various things to be assessed

教科書:

AES A students -- Mosaic 2 Reading
AES B students -- Mosaic 1 Reading
Note: These are the same books that will be used in the AES speaking classes.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

tom.rush.w@gmail.com

授業テーマ:

アメリカ合衆国文学およびその歴史的変遷についての基礎知識の学習

授業の概要:

アメリカ合衆国文学の歴史を辿り、文学作品がどのようにアメリカの主流文化とそれからはみ出す要素を反映し、未来に向けたヴィジョンを生み出してきたかを、多くの原文を参照することで味わう。また、時代ごと、作家ごとの文体の変化に注意を払い、文学的表現と社会との関わりを考察する。

到達目標:

アメリカ合衆国文学の歴史的展開について基本を理解することで、授業で紹介されなかった作家や作品についても自分なりに歴史的意義や文化的価値を説明できるようになる。

授業方法:

講義を中心に行う。ハンドアウトとスライドを用意して、気楽に聴いてもらうので、それぞれ自分の興味のあることについて深く思いをめぐらせるようにする。授業中にいくつか問題を提起して、自分の意見を用紙に書いて提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. アメリカ文学への視点、および、英語表現の基礎:政治・文化・経済的背景、聖書、シェイクスピア、マザー・グース	アメリカ合衆国についての歴史書や参考書、新書などを少なくとも1冊読んでおく。
	2. エドワーズとフランクリン:植民地期アメリカのキリスト教と啓蒙主義／アーヴィングとクーパー:アメリカ的テーマを求めて	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	3. エマソン、ソロー、ホイットマンの思想と実践と詩:超絶主義、「自然」、民主主義	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	4. ホーソン、ポーの短編、ディキンソンの詩:「暗いロマン主義」の展開	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	5. メルヴィル『白鯨』とトウェイン『ハuckleベリー・フィンの冒険』:異種の交わり	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	6. ショパン『目覚め』とドライサー『シスター・キャリー』:「新しい女」、自然主義	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	7. パウンド、エリオット、ウィリアムズの詩:モダニズム、コスモポリタニズムと土着主義	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	8. フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』とフォークナー『アブサロム、アブサロム!』:都市文化における自我と南部の語りの空間	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	9. ハーレム・ルネッサンス:黒人文学の登場、音楽と文学／中間レポート提出	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	10. サリンジャー『キャッチャー・イン・ザ・ライ』とラルフ・エリソン『見えない人間』:成長できない若者たち	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	11. 1950年代からのアメリカ詩:多様化の時代	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	12. バーセルミとカーヴァーの短編:ポストモダニズム、20世紀後半アメリカの絶望	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	13. トニ・モリソン『青い眼が欲しい』、シャーマン・アレクシー『リザベーション・ブルース』:人種とジェンダー	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	14. 現代のアメリカ詩と短編: The Best American Poetry / The Best American Short Storiesシリーズ、パフォーマンス・ポエトリー、アメリカの俳句	当該週のテーマについてあらかじめ自分でも調べて考えをまとめておく。
	15. まとめ	授業内容を振り返って、興味をもった分野については独自に情報を調べ、自分の見解をまとめておく。授業で紹介された作品か関連した作品を少なくとも2作は読み込んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

アメリカ文学とアメリカ合衆国という国のことをざっくりと、ただし、これまで考えていたのとは違った面を味わいつつ、想像力を働かせて理解するように心がける。また、とりあえず日本語訳でもよいので、できるだけたくさん作品を読むようにすること。

フィードバックの方法:

質問用紙については基本的に返却しない。興味深い回答については、後の授業で口頭でとりあげる。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	50%	記述式の試験を行う。授業内容を振り返って、興味をもった分野については独自に情報を調べ、自分の見解をまとめておく。授業で紹介された作品か関連した作品を少なくとも2作は読み込んでおく。
	中間レポート	20%	第9週に提出。第8週目までにとりあげた作品をひとつあげ、800字程度で感想を書く。授業内容を参照できているか、自分の言葉で感想が述べられているかを評価する。
	授業参加	30%	出席、受講態度、および、授業中に出す質問への回答を評価する。

教科書:

なし。ハンドアウトを配布する。

参考書:

授業内、あるいは、ハンドアウトで指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業内に指示する。

授業テーマ:

文学から見るイギリスの歴史

授業の概要:

古英語の時代から20世紀までのイギリス文学の作品を、時代背景を解説し、できる限り原文で提示しながら紹介し、広範な知識の獲得を目指す。

到達目標:

イギリスの歴史とイギリス文学の基礎知識の獲得

授業方法:

講義形式で授業を行うが、毎回授業の最後にコメント提出、またはミニ復習テストを実施する。受講者名簿確定と同時に座席を指定し、授業環境が整うよう工夫する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:授業の進め方や課題についての説明。ならびに古・中英語の文学について講義。	授業に集中し、講義内容を理解する。それに基づき授業中での提出物を作成する。重要事項の復習をしておくこと。
2.	神の豊かさ:チョーサーの文学、特に『カンタベリ物語』について解説する。	同上
3.	庶民の文学バラッドの深い魅力を紹介する。	同上
4.	ユートピアの光と影:ヘンリー8世の宮廷で活躍したトマス・モアの『ユートピア』の様々な面白さを紹介する。	同上
5.	イギリスの演劇発展の歴史ならびにシェイクスピアの戯曲(第1期と第2期)を紹介する。	同上
6.	シェイクスピアの戯曲(第3期と第4期)ならびに『ソネット集』を紹介する。	同上
7.	激動の17世紀:大きく揺れ動いた時代の流れを説明する。	同上
8.	激動の17世紀の中で、清教徒としての信念を貫いたミルトンの生涯を紹介し、作品を解説する。	同上
9.	18世紀の文学:デフォー、スウィフト、ボープ、そしてこの時代後半の知的リーダー、ジョンソン博士の魅力を紹介する。	同上
10.	小説の誕生と発展、ならびにロマン主義文学の萌芽について解説	同上
11.	ロマン主義文学:ワーズワス、シェリー、キーツを中心に詩人たちの作品を紹介	同上
12.	19世紀の文学:イギリスにおけるクリスマスの歴史を振り返り、ディケンズの『クリスマス・キャロル』を中心にクリスマス復活のプロセスを解説する。	同上
13.	19世紀の文学:小説に描かれる女性の姿を中心に解説する。	同上
14.	20世紀の文学:ウルフ、ジョイス、特に「意識の流れ」の文学を紹介する。	同上
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業の最後に実施するミニ復習テストは、採点し、翌週の授業の最初に返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題(1回)	20%	論理的で明快・正確な表現、正しい知識の表示を見る。
	ミニテスト	20%	授業内容を正しく理解できているかを見る。
	筆記試験	60%	持ち込み一切なし。知識の正しい集積を問う。

教科書:

相島倫嘉、『An Outline of English Literatureーイギリス文学概観』、南雲堂

参考書:

ほぼ毎回、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール(ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp)で対応

授業テーマ:	文化研究とは何か		
授業の概要:	1年次必修科目「イギリス文化入門」における学習成果を踏まえながら、イギリス文化を対象とした場合の「研究」にはどのような切り口があり得るのか、様々な観点からその可能性を探る。		
到達目標:	イギリス文化に関する知識を広げ、深めながら、自らの関心から問題提起を引き出し、「文化研究」というかたちに立論・構成していくためのスキルを身につける。		
授業方法:	講義とグループワークを組み合わせて授業を進める。但し、受講者数によっては授業形態に若干の変更もあり得る。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	イントロダクション	
	2.	文化とは何か(第1章)	教科書該当箇所を熟読
	3.	国民性と言語(第2章)	教科書該当箇所を熟読
	4.	教育(第4章)	教科書該当箇所を熟読
	5.	福祉(第5章)	教科書該当箇所を熟読
	6.	宗教(第7章)	教科書該当箇所を熟読
	7.	マスメディア(第8章)	教科書該当箇所を熟読
	8.	家(第9章)	教科書該当箇所を熟読
	9.	交通(第10章)	教科書該当箇所を熟読
	10.	料理(第11章)	教科書該当箇所を熟読
	11.	音楽(第12章)	教科書該当箇所を熟読
	12.	映画(第12章)	教科書該当箇所を熟読
	13.	スポーツ(第13章)	教科書該当箇所を熟読
	14.	自然(第14章)	教科書該当箇所を熟読
	15.	総括	
受講者へのメッセージやアドバイス:	登録者数によっては、授業方法に若干の変更があり得る。		
フィードバックの方法:	毎回の課題および小テストの結果については、翌週の授業にてフィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	50	問題提起の明確さと論理性
	毎回の授業内課題	30	適切なノート・テイキングと意見交換の成果
	毎回の予習確認小テスト	10	マークシートでの採点評価
	出席	10	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。
教科書:	小泉博一/飯田操/桂山康司[編]『イギリス文化を学ぶ人のために』世界思想社, 2004年		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

授業の概要: アメリカ文化の多様性について理解を深めることを目指す。授業では、19世紀のアメリカ文化を地域の特性に焦点をあてながら考察する。当時のさまざまな文献や資料を読み、各地域に暮らす人びとの生活や考え方について理解を深め、さらにそれを手がかりにして、現代のアメリカ文化についても幅広く考える。

到達目標: 1. 19世紀のアメリカ文化について理解を深め、それを説明できること
2. 当時の文献を原文で正確に理解し、それを説明できること
3. 関心のあるテーマについて考察し、それについて発表できること

授業方法: 講義、講読、発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. 19世紀アメリカの社会と文化(1)	文献(英文)を読んでおくこと
	3. 19世紀アメリカの社会と文化(2)	文献を読んでおくこと
	4. アメリカ西部の文化(1)	文献を読んでおくこと
	5. アメリカ西部の文化(2)	文献を読んでおくこと
	6. アメリカ北部の文化(1)	文献を読んでおくこと
	7. アメリカ北部の文化(2)	文献を読んでおくこと
	8. アメリカ北部の文化(3)	文献を読んでおくこと
	9. アメリカ南部の文化(1)	文献を読んでおくこと
	10. 10.アメリカ南部の文化(2)	文献を読んでおくこと
	11. アメリカ南部の文化(3)	文献を読んでおくこと
	12. 19世紀のアメリカ文学(1)	文献を読んでおくこと
	13. 19世紀のアメリカ文学(2)	文献を読んでおくこと
	14. 19世紀のアメリカ芸術	文献を読んでおくこと
	15. まとめ	これまでの文献を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でコメントする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	30%	到達目標にかんする知識と理解により評価する。
	発表	25%	テーマについて説得力のある発表ができているかを基準とする。
	レポート2回	15%x2	達成目標を理解したうえで、考察や見解を適切にまとめられているかを基準とする。
	授業への参加	15%	積極的に授業に参加しているかを基準とする。

教科書: Joy Hakim, Liberty for All? (Oxford University Press, 2007).

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業後に教室内で応対、Eメール

授業テーマ:	Heroes, Myth, and Culture																																		
授業の概要:	This course will examine the portrayals of heroes from different cultures in myth, literature, film, and history to discover how each hero embodies the values of that culture. Readings and films will focus on heroes and heroines from ancient Greece and Rome, England, Northern Europe, and North America. Students will investigate heroes and heroines from cultures of their own choosing as part of the class as well.																																		
到達目標:	By the end of this class, you will be able to: ・Understand the roles heroes and heroines play in different societies and cultures ・Analyze, discuss, and summarize stories, essays, and films ・Develop critical thinking skills about cultural values ・Utilize effective public speaking skills to make presentations ・Express yourself more confidently in English																																		
授業方法:	Method of Instruction is stated in Course Contents																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. Class Introduction</td><td>Read pages 95 – 105 of the text for week 2</td></tr><tr><td>2. Early Greek Heroes: Prometheus, Io, and Europa</td><td>Read pages 196 – 207 and 245 – 252 for week 3</td></tr><tr><td>3. Heroes Before the Trojan War: Perseus</td><td>Read pages 224 – 244 for week 4</td></tr><tr><td>4. Heroes Before the Trojan War: Hecules</td><td>Read pages 253 – 276 for week 5</td></tr><tr><td>5. The Trojan War</td><td>Read pages 291 – 319 for week 6</td></tr><tr><td>6. Odysseus and The Odyssey</td><td>Start planning written assignment and presentation</td></tr><tr><td>7. Film and Discussion, Part 1</td><td>Continue work on written assignment and presentation</td></tr><tr><td>8. Film and Discussion, Part 2</td><td>Finish work on written assignment and presentation</td></tr><tr><td>9. Presentations on heroes from the text not covered in class</td><td>Read pages 442 – 452 of the text for class 11</td></tr><tr><td>10. Norse Mythology</td><td>Read handouts for class 12</td></tr><tr><td>11. Parallel Myths: Siegfried and Theseus</td><td>Read handouts for class 13</td></tr><tr><td>12. Parallel Myths: Hiawatha and Sisyphus</td><td>Start planning written assignment and presentation</td></tr><tr><td>13. Film and Discussion, Part 1</td><td>Continue working on written assignment and presentation</td></tr><tr><td>14. Film and Discussion, Part 2</td><td>Finish work on written assignment and presentation</td></tr><tr><td>15. Presentations on a hero or heroine from any culture of your choice</td><td>Review the semest</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. Class Introduction	Read pages 95 – 105 of the text for week 2	2. Early Greek Heroes: Prometheus, Io, and Europa	Read pages 196 – 207 and 245 – 252 for week 3	3. Heroes Before the Trojan War: Perseus	Read pages 224 – 244 for week 4	4. Heroes Before the Trojan War: Hecules	Read pages 253 – 276 for week 5	5. The Trojan War	Read pages 291 – 319 for week 6	6. Odysseus and The Odyssey	Start planning written assignment and presentation	7. Film and Discussion, Part 1	Continue work on written assignment and presentation	8. Film and Discussion, Part 2	Finish work on written assignment and presentation	9. Presentations on heroes from the text not covered in class	Read pages 442 – 452 of the text for class 11	10. Norse Mythology	Read handouts for class 12	11. Parallel Myths: Siegfried and Theseus	Read handouts for class 13	12. Parallel Myths: Hiawatha and Sisyphus	Start planning written assignment and presentation	13. Film and Discussion, Part 1	Continue working on written assignment and presentation	14. Film and Discussion, Part 2	Finish work on written assignment and presentation	15. Presentations on a hero or heroine from any culture of your choice	Review the semest		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. Class Introduction	Read pages 95 – 105 of the text for week 2																																		
2. Early Greek Heroes: Prometheus, Io, and Europa	Read pages 196 – 207 and 245 – 252 for week 3																																		
3. Heroes Before the Trojan War: Perseus	Read pages 224 – 244 for week 4																																		
4. Heroes Before the Trojan War: Hecules	Read pages 253 – 276 for week 5																																		
5. The Trojan War	Read pages 291 – 319 for week 6																																		
6. Odysseus and The Odyssey	Start planning written assignment and presentation																																		
7. Film and Discussion, Part 1	Continue work on written assignment and presentation																																		
8. Film and Discussion, Part 2	Finish work on written assignment and presentation																																		
9. Presentations on heroes from the text not covered in class	Read pages 442 – 452 of the text for class 11																																		
10. Norse Mythology	Read handouts for class 12																																		
11. Parallel Myths: Siegfried and Theseus	Read handouts for class 13																																		
12. Parallel Myths: Hiawatha and Sisyphus	Start planning written assignment and presentation																																		
13. Film and Discussion, Part 1	Continue working on written assignment and presentation																																		
14. Film and Discussion, Part 2	Finish work on written assignment and presentation																																		
15. Presentations on a hero or heroine from any culture of your choice	Review the semest																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	This class will combine short lectures and longer group discussions, so students must be willing and eager to share their opinions in English and keep an open mind to the perspectives of others.																																		
フィードバックの方法:	All work will be returned to students with comments in class, and students will have the opportunity to ask questions at that time.																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>Presentation 1</td><td>20%</td><td>Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation</td></tr><tr><td>Presentation 2</td><td>30%</td><td>Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation</td></tr><tr><td>Written Assignments</td><td>25%</td><td>Content, Organization and Coherence, Grammar and Punctuation</td></tr><tr><td>Class Participation and Attitude</td><td>20%</td><td>Attendance and participation in class discussions</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	Presentation 1	20%	Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation	Presentation 2	30%	Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation	Written Assignments	25%	Content, Organization and Coherence, Grammar and Punctuation	Class Participation and Attitude	20%	Attendance and participation in class discussions																			
評価方法	割合	評価基準																																	
Presentation 1	20%	Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation																																	
Presentation 2	30%	Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation																																	
Written Assignments	25%	Content, Organization and Coherence, Grammar and Punctuation																																	
Class Participation and Attitude	20%	Attendance and participation in class discussions																																	
教科書:	Edith Hamilton, Mythology, Grand Central Publishing, ISBN 978-0-446-57475-4																																		
参考書:	Joseph Campbell, The Hero with a Thousand Faces, New World Library, ISBN 978-1-57731-593-3																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	ask in classroom before, during, or after class																																		

授業テーマ:

Topical Issues in Film

授業の概要:

The aim of this course is to present and discuss some of the current world issues through short film format. The films shown in the classroom will serve as a starting point for in-class discussion.

到達目標:

Students will have a chance to explore the film language and themes and will also be encouraged to give their opinion on a range of topics. Students will also be expected to perform individual research on certain topics. The focus will be on enabling students to develop: a/ analytical ability through development of research skills, b/ thinking power, i.e. deeper understanding of current affairs, and c/ presentation skills by expressing one's opinion logically and persuasively.

授業方法:

Classes would include topic introduction based on teacher's handouts, watching films, followed by comprehension and listening exercises, language focus and topic debates. Students will get plenty of time to explore language and themes in some detail through pair and group discussion, which will be shared and reported to the whole class. Internet and DVD equipment will be used in the classroom for film projections.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the course / Getting familiar with the film medium	online research on individual topics
	2. Technology & Future (part 1) Short film 'Sight' (2012) – Film viewing, Comprehension and language exercises	online research on individual topics
	3. Technology & Future (part 2). Discussing Modern Technology, Future of Mankind	online research on individual topics
	4. Technology & Future (part 3) Post-research activities and discussion	online research on individual topics
	5. Gender Roles in Modern Society (part 1) – Short film 'Men vs Women' (2010) Film Viewing/Comprehension exercises/Discussion	online research on individual topics
	6. Gender Roles in Modern Society (part 2) – Short film 'Men vs Women' (2010) Film Viewing/Comprehension exercises/Discussion	online research on individual topics
	7. Gender Roles in Modern Society (part 3); Post-research activities and discussion	preparation for presentation
	8. Mid-semester review and presentations	online research on individual topics
	9. Nature & Environment Issues (part 1). Film: Short film on Environmental Issues; film Viewing/Comprehension exercises/ Discussion	online research on individual topics
	10. Nature & Environment Issues (part 2). Film: Short film on Environmental Issues; film Viewing/Comprehension exercises/ Discussion	online research on individual topics
	11. Nature & Environment Issues (part 3). Post-research activities and discussion	online research on individual topics
	12. Dream Careers, Identity Crisis (part 1) 'Short Film 'Nora' (2012; Film Viewing/Comprehension exercises/Discussion	online research on individual topics
	13. Dream Careers, Identity Crisis (part 2) 'Short Film 'Nora' (2012; Film Viewing/Comprehension exercises/Discussion	online research on individual topics
	14. Dream Careers, Identity Crisis; Post-research activities and discussion	preparation for presentation
	15. Course Review. Presentations	n/a

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

The out-of-class learning and preparation will consist of students conducting online research on individual topics. All the reference sources should be clearly cited. Following the research, students will be required to produce essays in written form which will in turn serve as a springboard for further in-class discussion, comments and exchange of ideas.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	in-class participation	40	continuous in-class assessment
	quizzes/presentations	30	continuous in-class assessment
	research & homework	30	continuous in-class assessment

教科書:

Textbook is not required for this class. In some cases students will be asked to obtain the film scripts via internet. It would be highly recommended that students have access to internet as most films will be available online.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

cacti@live.co.uk

授業テーマ:

How to Learn a Language

授業の概要:

In this course students will learn what principles are most important for learning a language. Students will look at their own language learning strategies. Students will create a language learning plan for themselves.

到達目標:

Students will be able to analyze their own language learning needs and goals, and choose effective activities to reach those goals.

授業方法:

Lecture, discussion, student group and pair work.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Overview – The Four Strands	Bring Materials
	2. Chapter 1 – What do you need to do to learn a foreign language?	Read Chapter 1
	3. Chapter 2 – Work out what your needs are and learn what is most useful for you	Read Chapter 2
	4. Chapter 2 – Work out your needs – what is useful for you	Review the week’s lesson
	5. Chapter 3 – Balance your Learning – Learn through listening and reading	Read Chapter 3
	6. Chapter 3 – Balance your learning – learn through listening and reading	Prepare Reading While Listening assignment
	7. Chapter 4 – Balance your learning – learn through speaking and writing	Read Chapter 4
	8. Chapter 4 – Balance your learning – learn through speaking and writing	Prepare Extensive Reading Assignment
	9. Chapter 5 – Balance your learning–do deliberate study of language features	Read Chapter 5
	10. Chapter 5 – Balance your learning–do deliberate study of language features	Work on your word card assignment
	11. Chapter 6 – Balance your learning – get fluent at what you know	Read Chapter 6 Prepare word card assignment
	12. Chapter 6 – Balance your learning – get fluent at what you know	Read Chapter 7
	13. Chapter 7 – Apply conditions that help learning	Work on your Learning plan and make sure your reading worksheets are good
	14. Chapter 8 – Keep motivated and work hard	Read Chapter 8 Prepare Learning Plan Prepare Reading worksheets
	15. Course Review	Review your work over the course

受講者へのメッセージやアドバイス:

Work patiently and diligently and you will succeed.

フィードバックの方法:

Student will get a variety of feedback in class, as well as on some written work

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Reading Worksheets	25	The teacher will assess your work reading the course material
	Assignments	30	3 assignments will be assessed by your teacher
	Learning Plan	20	This is the biggest assignment, and your teacher will assess this
	Attendance and Participation	25	Regular attendance and participation is assessed

教科書:

What do you need to know to learn a language? Paul Nation
http://www.victoria.ac.nz/lals/about/staff/publications/paul-nation/foreign-language_1125.pdf

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

tom.rush.w@gmail.com

授業テーマ:

Nonverbal communication

授業の概要:

This course aims to help students understand the role that nonverbal communication plays in our day-to-day lives by developing critical thinking skills. Preparation for in-class discussions will require careful research, note taking and close collaboration between fellow students.

到達目標:

In this course students will learn how nonverbal communication is an essential part of everyday conversation and that having a strong understanding of what happens while we are speaking is imperative to better comprehension. Students will be expected to think about the issues and formulate their own ideas and opinions. There will be team presentations to demonstrate what students learned throughout the course

授業方法:

Students will be divided into groups. In groups they will complete tasks such as listening to lectures, taking notes, demonstrating features of NVC and completing presentations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction	Prepare for Quiz 1
	Body language vocabulary I	
	2. Body language vocabulary II	Prepare for Quiz 1
	3. Cultural differences	Prepare for Quiz 1
	4. Quiz 1 – Body language vocabulary	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
	Mirroring	
	5. The eyes I	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
	6. The eyes II	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
	7. The face – universal expressions	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
	8. Gestures – taboo gestures and cultural differences.	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
	9. Gestures and presenting II	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
	10. Gestures and presenting II	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
	11. Student presentations	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
	12. Quiz 2 – the eyes, the face, gestures.	Prepare for Quiz 3
	Space I	
	13. Space II	Prepare for Quiz 3
	14. Dating and interviews	Prepare for Quiz 3
	15. Quiz 3 – Space and dating	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

Team work will be essential in this course.

フィードバックの方法:

Feedback will be provided on team work and in quizzes and presentations.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Quizzes	60%	To be explained in class
	Presentation	40%	To be explained in class

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	British Culture: the Victorian Period		
授業の概要:	This course will give an overview of the culture of Victorian England, one of the most interesting periods in British history. Readings and films will focus on daily life at the time, Victorian literature (both fiction and poetry), and the Victorian criminal underworld.		
到達目標:	By the end of this class, you will be able to: ・Understand the culture and society of Victorian England ・Analyze, discuss, and summarize stories, essays, and films ・Develop critical thinking skills about cultural values ・Utilize effective public speaking skills to make presentations ・Express yourself more confidently in English		
授業方法:	Method of Instruction is stated in Course Contents		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Course Introduction	Read the handouts as homework for class 2	
	2. Daily Life in the Victorian Period I	Read the handouts as homework for class 3	
	3. Victorian Poetry I	Read the handouts as homework for class 4	
	4. Crime and the Victorian Underworld I	Read the handouts as homework for class 5	
	5. Victorian Ghost and Detective Stories I	Read the handouts as homework for class 6	
	6. Daily Life in the Victorian Period II	Begin planning your first presentation and written assignment	
	7. Film and Discussion, Part 1	Continue work on your first presentation and written assignment	
	8. Film and Discussion, Part 2	Make final preparations for your first presentation and written assignment	
	9. Presentations	Read the handouts as homework for class 10	
	10. Victorian Poetry II	Read the handouts as homework for class 11	
	11. Crime and the Victorian Underworld II	Read the handouts as homework for class 12	
	12. Victorian Ghost and Detective Stories II	Start planning your second presentation and written assignment	
	13. Film and Discussion, Part 1	Continue work on your second presentation and written assignment	
	14. Film and Discussion, Part 2	Make final preparations for your second presentation and written assignment	
15. Presentations	Semester review		
受講者へのメッセージやアドバイス:	This class will combine short lectures and longer group discussions, so students must be willing and eager to share their opinions in English and keep an open mind to the perspectives of others.		
フィードバックの方法:	All work will be returned to students with comments in class, and students will have the opportunity to ask questions at that time.		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Presentation 1	20%	Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation
	Presentation 2	30%	Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation
	Written Assignments	25%	Grammar and Punctuation, Organization and Coherence, Content
	Class Participation and Attitude	25%	Attendance, Participation in Discussions, Attitude in Class
教科書:	There are no textbooks for this class.		
参考書:	Henry Mayhew, The London Underworld in the Victorian Period, Dover Publications, ISBN 978-0-486-44006-4		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	ask in classroom before, during, or after class		

授業テーマ:

How to Teach English

授業の概要:

In this course students will learn what principles are most important for teaching a language, especially English. Students will look at their own language learning and find the teaching principles the teachers used. Students will create a language teaching plan for a future course.

到達目標:

Students will be able to design a course for a specified group of learners. Students will be able to use a wide range of teaching activities and understand the principles behind them.

授業方法:

Lecture, discussion, group and pair work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Overview – The Four Strands	Bring materials
2.	Chapter 1 – What should an English Teacher Do? Chapter 17 – How do you become a better English teacher?	Read Chapter 1 and 17
3.	Chapter 2 – How do you teach Listening and Speaking?	Read Chapter 2
4.	Chapter 3 – How do you make good problem solving activities? Chapter 16 – How do you control a class?	Read Chapter 3 and 16
5.	Chapter 4 – How do you teach reading?	Read Chapter 4 Prepare Problem Solving Assignment 1
6.	Chapter 5 – How do you teach writing?	Read Chapter 5
7.	Chapter 6 – How do you teach pronunciation and spelling?	Read Chapter 6
8.	Chapter 14 – How do you plan a Language course?	Read Chapter 14
9.	Chapter 7 – How do you teach vocabulary?	Read Chapter 7 Prepare Language Learning Log
10.	Chapter 8 – How do you teach grammar? Chapter 15 – How do you deal with teaching problems?	Read Chapter 8 and 15
11.	Chapter 9 – How do you teach discourse?	Read Chapter 9
12.	Chapter 11 – Twenty Additional Techniques for Language Learning	Read Chapter 11
13.	Chapter 12 – How do you test learners?	Read Chapter 12
14.	Chapter 13 – How do you plan a lesson?	Read Chapter 13 Prepare Course Plan
15.	Course review	Review your work in the course

受講者へのメッセージやアドバイス:

Work patiently and diligently and you will succeed.

フィードバックの方法:

Student will get a variety of written and spoken feedback in class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Reading Worksheets	20	The teacher will assess your comprehension of the reading material.
	Teaching Activity Demonstration	10	The teacher will assess your ability to lead a teaching activity.
	Problem Solving Activity	10	The teacher will assess your ability to design and use a problem solving activity.
	Language Learning Log	10	The teacher will assess your noticing and tracking of language learning activities.
	Teaching Plan	25	You will be assessed by how well you apply the principles we study in the course to designing a course plan.
	Attendance and Participation	25	Your full attendance and serious participation will be assessed

教科書:

What Should Every EFL Teacher Know? – Paul Nation.
Compass Publishing
ISBN – 978-1-59966-266-4

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

tom.rush.w@gmail.com

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

In this course, students will learn about mediated communication and how it influxes interpersonal communication.

To learn about Interpersonal Communication and how it applies to their own experiences

Students will read about mediated communication or listen to lectures and discuss what they learn. They will discuss and write about the application of what they are learning to their own experiences.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to Mediated Communication	none
	2. What is Mediated Communication? 1	Read and answer questions.
	3. What is Mediated Communication? 2	Write replies to discussion questions.
	4. Mediated Communication in Daily Life 1	Read and answer questions.
	5. Mediated Communication in Daily Life 2	Write replies to discussion questions.
	6. Interactional Aspects of Mediated Communication	Read and answer questions. Write replies to discussion questions.
	7. “Media Friends,” Hyperpersonal Communication, Etc. 1	. Read and answer questions.
	8. “Media Friends,” Hyperpersonal Communication, Etc. 2	Write replies to discussion questions
	9. The Influence of Mediated Communication on Relationships 1	Read and answer questions.
	10. The Influence of Mediated Communication on Relationships 2	Write replies to discussion questions.
	11. Self-Disclosure and Long Distance Friendships 1	Read and answer questions.
	12. Self-Disclosure and Long Distance Friendships 2	Read and answer questions.
	13. Self-Disclosure and Long Distance Friendships 3	. Read and answer questions.
	14. Self-Disclosure and Long Distance Friendships 4	Read and answer questions. Write replies to discussion questions.
	15. Conclusion	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Discussion of answers to questions

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Final	40%	Demonstration of understanding of application of what student learned to daily life.
	Homework	60%	Demonstration of understanding of application of what student learned to daily life.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:	Contemporary British Culture and Society: Tradition, Family and Education		
授業の概要:	Using the text, Britain Today, Old Certainties, New Contradictions, and the DVD clips from Window on Britain, we will examine various aspects of contemporary British society and culture. The main focus of this semester's class will be current thinking of what it means to be British, and aspects of daily life such as family, education, youth, food, women, and symbols of Britain. For every theme we cover, we will also be looking at the modern, multi-cultural notions and the complexity that is British society and culture today.		
到達目標:	Students will learn the following: 1.Knowledge about contemporary British culture and society, including the tensions between so-called "traditional" and the modern, complex, multi-cultural society that is Britain today. 2.Knowledge about the notion of "culture" and stereotypical ideas that are part of how any culture and society define itself. 3.Students will be able to write an academic research paper on a topic related to the course and give a presentation. In short, students will be able to think critically about culture and society. They will also develop their English writing and communication skills in this class and increase their motivation for learning English.		
授業方法:	This class will be conducted entirely in English. For most classes we will work on the textbook's readings and then have assignments in groups and/or discussions. We will also watch a DVD series on British society and culture. Moreover, when students start to work on their research projects, we will review academic writing practices, write a draft and carry out a peer review of papers before finishing the final papers. Students will also work in groups to create a presentation about their research.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Introduction to this course, the text and the video series	Students will purchase the text and bring it to class. Homework from Unit 1 will be assigned.	
	2. What do we mean by "culture"?	Students will review the handouts from class and continue their preparation for Unit 1.	
	3. Being British	Students will prepare an opinion for the pros and cons section of Unit 1and begin the reading for Unit 2.	
	4. What's included in the UK?	Students will prepare the reading and questions for Unit 2 and review the vocabulary from Unit 1.	
	5. Symbols of British traditions	Students will prepare the reading and questions for Unit 3 and review Unit 2 vocabulary.	
	6. Schools and education in the UK	Students will prepare the reading and questions for Unit 4 and review Unit 3 vocabulary.	
	7. Foods in the UK	Students will prepare the reading and questions for Unit 10 and review Unit 4 vocabulary.	
	8. Women in the UK	Students will prepare the reading and questions for Unit 11 and review Unit 10 vocabulary.	
	9. Diversity in the UK	Students will prepare the reading and questions for Unit 12 and review Unit 11 vocabulary. Students will start their research for their papers.	
	10. Youth in the UK	Students will prepare the reading and questions for Unit 13 and review Unit 12 vocabulary. Students will work on their research papers.	
	11. Family in the UK / peer review of research papers	Students will prepare the reading and questions for Unit 14 and review Unit 13 vocabulary. Students will bring a draft of their research papers to class for a peer review.	
	12. Homes and communities in the UK	Students will work with their group on their presentations. Individual research papers are due.	
	13. Festivals in the UK	Students will work with their group on their presentations and re-write their corrected research papers.	
	14. Presentations	Students will finalize their papers and their presentations.	
	15. Presentations and conclusion	Students will finalize their papers and their presentations.	
受講者へのメッセージやアドバイス:	If you come prepared each week for class and participate positively, we can together produce a learning environment in which everyone, including the instructor, benefits. Students are welcome to express their opinion freely and bring in particular information about British culture that they are interested in pursuing.		
フィードバックの方法:	Assignments written during class will be returned to students at the next class (or soon thereafter). Homework assignments will be checked during the class. Comments on the presentations will be communicated during the class. Drafts of research papers will be corrected and returned to the students for re-writing, before final papers are turned in.		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Homework	10%	Homework is completed by class and demonstrates adequate effort to understand the assignment.
	Class Participation	15%	The student actively participates in class, asking questions and answering questions, and working positively in the group.
	Research Paper	50%	The student turns in the draft of the research paper on time, participates in the peer review, and adequately rewrites the draft after the teacher's has commented.
	Presentation	25%	The student has demonstrated effective collaboration for the presentation, created a power point that communicates her share of the information and does not exceed the time limit.
教科書:	Britain Today, Old Certainties, New Contradictions, by Paul Hullah and Masayuki Teranishi, Cengage Learning, ISBN978-4-86312-110-2. ¥1900.		
参考書:	The Oxford University Press' DVD series, Window on Britain. (Students do not need to purchase this). Other items will be introduced later, once the English ability of the students is more clear.		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力.		

教員との連絡
方法:

dianemuss@mac.com

授業テーマ:	Subtitle: British Culture and Society: Change, Work and Leisure		
授業の概要:	Using the text, Britain Today, Old Certainties, New Contradictions, and the DVD clips from Window on Britain, we will examine various aspects of contemporary British society and culture. The main focuses of this semester's class are traditions that persist and the ways in which British society has changed in the modern and post-modern eras. Current British society is multicultural and, therefore, more complex than in the past. We will examine current thinking of what it means to be British, and aspects of daily life such as faith, politics, work leisure, music, sports, humour and the media. .		
到達目標:	Students will learn the following: 1. Knowledge about contemporary British culture and society, including the tensions between so-called "traditional" and the modern, complex, multi-cultural society that is Britain today. 2. Knowledge about the notion of "culture" and stereotypical ideas that are part of how any culture and society define itself. 3. Students will be able to write an academic research paper on a topic related to the course and give a presentation. In short, students will be able to think critically about culture and society. They will also develop their English writing and communication skills in this class and increase their motivation for learning English.		
授業方法:	This class will be conducted entirely in English. For most classes we will work on the textbook's readings and then have assignments in groups and/or discussions. We will also watch a DVD series on British society and culture. Moreover, when students start to work on their research projects, we will review academic writing practices, write a draft and carry out a peer review of papers before finishing the final papers. Students will also work in groups to create a presentation about their research.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Introduction to this course	Students will purchase the text and bring it to class. Homework from Unit 1 will be assigned. Students who took the spring semester class will be given an extra assignment.	
	2. Culture and change	Students will read and prepare Unit 2 of the text. Students who took the spring semester class will be given an extra assignment.	
	3. Brief history of the UK	Students will read and prepare Unit 3 of the text. Students who took the spring semester class will be given an extra assignment.	
	4. Tradition and modern society in the UK	Students will read and prepare Unit 4 of the text. Students who took the spring semester class will be given an extra assignment.	
	5. Faith in the UK	Students will read and prepare Unit 5 of the text and review the vocabulary from Unit 4.	
	6. Politics in the UK	Students will read and prepare Unit 6 of the text and review the vocabulary from Unit 5.	
	7. Work in the UK	Students will read the script of the DVD and review the vocabulary from Unit 6.	
	8. Leisure in the UK	Students will read the script of the DVD and start to choose a research topic.	
	9. Music in the UK	Students will prepare the reading and questions for Unit 8. Students will start their research for their papers.	
	10. Sports in the UK	Students will prepare the reading and questions for Unit 9 and the script for the DVD. Students will start their research for their papers.	
	11. Media in the UK/ peer review of research papers	Students will read the script for the DVD and bring a draft of their research papers to class.	
	12. Humour in the UK	Students will prepare the reading and questions for Unit 7. Students will also work with their group on their presentations. Individual research papers are due.	
	13. Britishness	Students will prepare the reading and questions for Unit 15. Students will also work with their group on their presentations.	
	14. Presentations	Students will finalize their papers and their presentations.	
	15. Presentations and conclusion	Students will finalize their papers and their presentations.	
受講者へのメッセージやアドバイス:	If you come prepared each week for class and participate positively, we can together produce a learning environment in which everyone, including the instructor, benefits. Students are welcome to express their opinion freely and bring in particular information about British culture that they are interested in pursuing.		
フィードバックの方法:	Assignments written during class will be returned to students at the next class (or soon thereafter). Homework assignments will be checked during the class. Comments on the presentations will be communicated during the class. Drafts of research papers will be corrected and returned to the students for re-writing, before final papers are turned in.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Homework	10%	Homework is completed by class and demonstrates adequate effort to understand the assignment.
	Class Participation	15%	The student actively participates in class, asking questions and answering questions, and working positively in the group.
	Research Paper	50%	The student turns in the draft of the research paper on time, participates in the peer review, and adequately rewrites the draft after the teacher's has commented.
	Presentation	25%	The student has demonstrated effective collaboration for the presentation, created a power point that communicates her share of the information and does not exceed the time limit.
教科書:	Britain Today, Old Certainties, New Contradictions, by Paul Hullah and Masayuki Teranishi, Cengage Learning, ISBN978-4-86312-110-2. ¥1900.		

参考書:	The Oxford University Press' DVD series, Window on Britain. (Students do not need to purchase this). Other items will be introduced later, once the English ability of the students is more clear.
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力.
教員との連絡 方法:	dianemuss@mac.com

授業テーマ:

The main theme is American Entertainment in the 20th century. The focus will be on how immigrants, African-Americans, Italian Americans and certain other talented individuals shaped the popular culture of the U.S. Students will give presentations on research they conduct about three topics of their choice. Content will be balanced with language and vocabulary acquisition.

授業の概要:

This class will look at the main types of visual-based entertainment (especially movies) that have shaped American culture in the 20th century. Special attention will be given to the beginnings of the mass-entertainment business especially the role of vaudeville, silent movies, musicals, film noir, 1950s romantic comedies and selcted Disney animations. Students will have guided discussions on topics relating to entertainment in groups of 3 or 4. These discussions will be the basis for their choice of topic for 3 reports and related short presentations in small groups. All reports will require the use of materials uploaded to the manabe site as well as research using web-based and other authentic sources.

到達目標:

There are two main objectives. The first is to show how American movies and visual entertainment impacted the cultures of almost every developed country in the 20th and early 21st century. The second is to develop media and visual literacy skills that can foster better and more thoughtful discussion on topics relating to comparative culture and the power of entertainment.

授業方法:

In each class the instructor will show clips from movies from a wide variety of genres. This will be followed by group discussion and a feedback card. On three occasions students will also present their work in small groups.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the class American culture before mass media: Circuses. Minstrel Shows and Blackface	Read handout carefully
	2. Vaudeville, blackface and the beginning of mass entertainment, 1900-1920	Read uploaded articles at manabe
	3. Silent Movie stars: Chaplin, Keaton, Lloyd, Valentino, Hayakawa,	Read uploaded articles at manabe
	4. Actresses of the silent era and early talkies Brooks, Bow, Pickford, Harlow	Read uploaded articles at manabe
	5. Work in class on reports and Romantic comedies of the 1930s	Work on report
	6. Report 1 due. Presentations in small groups	None
	7. Film Noir and Detective Movies Marilyn Monroe romantic comedies	Read uploaded articles at manabe
	8. Musicals of the1950s and 1960s Hammerstein and Rogers	Read uploaded articles at manabe
	9. Disney in the 1950s and 1960s	Read uploaded articles at manabe
	10. Movies about Bad Boys: Brando, Clift and Dean	Read uploaded articles at manabe
	11. British adventure movies vs American teen movies	Work on report 2
	12. Report 2 due	None
	13. Movies after the 1960s cultural revolution	Prepare for in class assessment
	14. Documentary movies	Prepare for in class assessment
	15. In-class assessment (Report 3)	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

Learning from movies requires a change in usual study habits. It is important to learn from watching visually rich input and combining it with research

フィードバックの方法:

Feedback will be given on all reports

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Reports	80%	The two reports and one in-class assessment will be graded for writing style; content and evidence of research using uploaded materials or other books.
	Comments on Attendance card	20%	You will fill in a comments section on a special card

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、、プレゼンテーション

教員との連絡方法:

michael@world.ryukoku.ac.jp

授業テーマ:

Understanding the History of Fashion Culture

授業の概要:

This course examines how fashion in the movies and mass media shaped women's clothing and identity in the developed world after 1920. It gives special attention to the ways in which social and economic changes in America and Western Europe (especially in the status of women), helped create and define the fashion-based consumer culture that we have today.

到達目標:

The main objective is for students to develop a deeper understanding of how women's identity has been shaped through clothing and costume since the modern era. A secondary objective is to enhance visual and media literacy skills by learning how to decode and analyze old movies and make use of documentaries when doing research and writing reports.

授業方法:

In every class students will be exposed to a combination of (a) documentaries about issues in fashion history and (b) scenes from key movies in fashion history. These will be supplemented by articles on the same topics that will be uploaded at the manabe site and which students must read in order to be ready for class discussion.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the culture of fashion	Read handout
	2. The birth of modern women's fashion in the west	Read manabe articles
	3. Fashion in 1920s movies: Bow-Brooks-Baker	Read manabe articles
	4. Fashion in 1930s movies: Davis-Harlow-K. Hepburn	Read manabe articles
	5. Female fashion icons of the post-war era and work in class on Report 1	Work on Report 1
	6. Report 1 due (small group discussion)	None
	7. 1950s: The impact of French movies and fashion designers.	Read manabe articles
	8. American Movies of the 1950s. Hepburn-Monroe-Kelly	Read manabe articles
	9. The 1960s: The Birth of Swinging London; Mary Quant and Vidal Sassoon	Read manabe articles
	10. The Model Industry; Twiggy-Sedgewick-Shrimpton etc	Work on Report 2
	11. Report 2 due (small group discussion)	None
	12. Music and Fashion; Ross-Madonna-Sioux-Cher-Beyonce-Swift	Read manabe articles
	13. Movies about Fashion: Funny Face, Breakfast at Tiffany's, Prada etc	Read manabe articles
	14. Documentaries about Fashion and Modeling	Prepare for in-class assessment
	15. In class assessment	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class will require students to read articles uploaded at manabe and to watch selected videos at youtube. The class is NOT about fashion itself but rather about the historical CULTURE of fashion.

フィードバックの方法:

Reports will be returned with comments and students will write comments about what they learned in every class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Reports	80	Your report must be written in your own words and demonstrate that you have read the relevant uploaded articles.
	In class group work	20	You will write comments about what you learned from the video, teacher lectures and the work of other students

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション

教員との連絡方法:

michael@world.ryukoku.ac.jp

授業テーマ:

Studies in Folklore and Mythology

授業の概要:

The course is an introduction to folklore and mythology in selected literature from Europe and Japan. In addition to examining some of the approaches to how they have been studied, we will consider the functions, performance and audiences of folk tales addressing issues of daily life, in the past and now, individual and group identity, and the construction of culture, society. A particular focus of each class will be to discern the relevance of particular readings in relation to culture and society as we experience it today. The course will ensure regular readings and their comprehension from a number of texts typifying folk and mythology literature.

到達目標:

To develop proficiency in the reading and analysis of a number of texts exemplifying fairy tale and folk discourses. Improve academic analytical abilities and written academic presentation skills. Improve research and citation methods. Improve note-taking skills. Deepen cultural and cross-cultural understanding. Comprehending cultural values and traditions through literature, and how these change over time in their telling and re-telling. Understanding the relevance of these literature traditions to contemporary society.

授業方法:

The first sessions of the course will be lecture intensive. Thereafter the course will follow a lecture format after which follows selected readings, then analysis of them both orally and in writing. Discussion of texts will be with the instructor and within small groups. Writing produced in class will form the basis of the homework assignments to be submitted the following week during class time.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the course and its aims. Little Red Riding Hood	Reading around the issues raised in class
	2. The Adventures of Kintaro	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	3. Cinderella	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	4. The Story of the Old Man Who Made Withered Trees Flower	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	5. Hansel and Gretel	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	6. The Story of the Man Who Did Not Wish to Die	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	7. Beauty and the Beast	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	8. Mid-term review of the course – in class. The Ogre of Rashomon	Reading for the following week
	9. Bluebeard	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	10. The Happy Hunter and the Skillful Fisher	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	11. East of the Sun and West of the Moon	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	12. The Quarrel of the Monkey and the Crab	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	13. The Emperor’s New Clothes	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	14. The Ugly Duckling	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	15. Conclusion	No assignments given in the last class

受講者へのメッセージやアドバイス:

No particular background in literature is required for this course though familiarity with some of the readings in the student's own native language is an expectation. Outside class work is largely self-directed though can be done in consultation with the instructor. Simply reciting the readings and analyses addressed in lectures will not be sufficient for the best grades determined by the middle and final semester reviews. Reading and writing outside class is a course expectation. The above schedule is tentative, and further readings may be added (or replaced) depending on the general class level and the level of interest shown by students.

フィードバックの方法:

The instructor will provide individual students with as much feedback as is possible, but this will depend rather on the number of course enrollments. In-class submissions are weekly and will be numerically graded, and extensive reviews of the course are taken at its mid-point and in the final class of semester – these will be returned with comments to students, with the except of the final course review (i.e. conclusion). Students are encouraged to come to the instructor to inquire about their performance in the first instance during class time. Opportunities for in-class teacher-student discussion of this kind will be provided during each class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class attendance and attitude	25	Active engagement in the course
	Mid-term review	25	Written review of the issues addressed in the course to date, making extensive reference to student's own reading outside the class.
	Conclusion	25	Written review of the semester making extensive reference to student's own reading outside the class.
	Weekly story analyses	25	Covers in-class analyses over the semester

教科書:

No textbook is assigned

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

Ask in the class room before or during class

授業テーマ: Studies in Fantasy and Science Fiction Literature

授業の概要: The course is an introduction to fantasy and science fiction in selected literature – predominantly short, self-contained examples from the genres, both by Western and Japanese writers. We will examine some of the approaches to how they have been studied, consider the functions, performance and audiences of fantasy and science fiction literature in addressing issues of habitable worlds that are magical, futuristic, and sometimes prescient of today, in particular respects. The course will ensure regular readings, their comprehension, analysis and interpretation.

到達目標: To develop proficiency in the reading and analysis of a number of texts exemplifying fantasy and science fiction literature discourses. Improve academic analytical abilities and written academic presentation skills. Improve research and citation methods. Improve note-taking skills. Deepen cultural and cross-cultural understanding. Comprehending cultural values and traditions through literature, and how these change over time. Understanding the relevance of these literature traditions to contemporary society.

授業方法: The first sessions of the course will be lecture intensive. Thereafter the course will follow a lecture format after which follows selected readings, then analysis of them both orally and in writing. Discussion of texts will be with the instructor and within small groups. Writing produced in class will be worked up for submission the following week, in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	Introduction to the Course and Its Aims Baby HP		Reading around the issues raised in class
	2.	Standing Woman		Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	3.	When it Changed		Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	4.	Reiko's Universe Box		Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	5.	Good News From the Vatican		Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	6.	New Rose Hotel		Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	7.	Nine Hundred Grandmothers		Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
	8.	Mid-term review of the course Day Million		Reading around the issues raised in class
	9.	Soft Clocks		Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	10.	The Last Question		Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	11.	2BR02B		Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	12.	Two Small Birds		Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	13.	The Star		Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	14.	Plenitude		Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
	15.	Conclusion		Reading around the issues raised in class – these will inform what is tested in this class.

受講者へのメッセージやアドバイス: No particular background in literature is required for this course. Outside class work is largely self-directed though can be done in consultation with the instructor. Simply reciting the readings and analyses addressed in lectures will not be sufficient for the best grades determined by the middle and final semester reviews. The above schedule is tentative, and further readings may be added depending on the general class level.

フィードバックの方法: The instructor will provide individual students with as much feedback as is possible, but this will depend rather on the number of course enrollments. In-class submissions are weekly and will be numerically graded, and extensive reviews of the course are taken at its mid-point and end in the final class of semester – these will be returned with comments to students. Students are encouraged to come to the instructor to inquire about their performance in the first instance during class time. Opportunities for in-class teacher-student discussion of this kind will be provided during each class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法		評価基準	
		割合		
	Class attendance and attitude	25		Active engagement in the course
	Mid-term review	25		Written review of the issues addressed in the course to date, making extensive reference to student's own reading outside the class.
	Conclusion	25		Written review of the semester making extensive reference to the student's own reading outside the class
	Weekly story analyses	25		Covers in-class analyses over the semester

教科書: No textbook is assigned

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: Ask in the class room before or after class

授業テーマ:

Basic Concepts in International Development

授業の概要:

The students will read about basic concepts and ideas that are important to developing countries. We will read about and discuss some specific problems in some countries and talk about some NGOs and their projects. “Case Study” means looking at some specific projects or country problems.

The schedule and the contents of this course are changeable according to student choices.

Students can choose some of the countries, topics and organizations we discuss if they like. They may also choose whether to have quizzes or write short paragraph responses or summaries.

到達目標:

To learn basic concepts involved in development of countries
To study international development ideas in English
To learn how to read graphs and explain them

授業方法:

Text reading, teacher instruction, note-taking, review, some discussion of responses

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Economic growth and human development -- the difference	Reading worksheet
2. Economic growth and human development -- the difference	Reading worksheet
Case Study	
3. Easy group quiz on economic growth and development	Reading worksheet or written response
How development is measured	
Reading graphs	
4. How development is measured	Reading worksheet and study sheet
Case Study	
5. Easy quiz on development measurement	Reading worksheet or written response
Categories of development	
6. Categories of development	Quiz study sheet
Case Study	
7. Easy quiz on categories of development	Reading worksheet or written response
Population growth and development	
8. Population growth and development	Reading worksheet; quiz study sheet
Case Study	
9. Easy quiz on population growth and development	Reading worksheet; quiz study sheet
Education and development	
10. Education and development	Reading worksheet
11. Education and development	Reading worksheet
	Quiz study sheet or written response
12. Easy quiz on education and development or written response discussion	Reading worksheet
Health and development	
13. Health and development	Reading worksheet; choose NGO
NGOs -- students' choices	
14. Easy quiz on health and development	NGO worksheet
NGOs -- students' choices	
15. Short reports on and discussions of NGOs	finished
Review	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

The plan of this course is only tentative. It will actually be very flexible so that students can make choices on what and how we study ideas in international development.

フィードバックの
方法:

Class discussion and quiz evaluations or comments on written responses if appropriate

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quizzes and written responses	70	quizzes will be based on in-class discussion and reading worksheets; written responses are very short responses (one paragraph)
Participation in class	15	participation involves attendance and discussion; usually the class is small and discussion is easy
Homework	15	to be explained weekly -- mainly reading worksheets

教科書:

World Bank, Beyond Economic Growth -- free and online

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力

awillis@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

Learning about justice and violence against the poor in developing countries

到達目標:

To learn how violence prevents development
 To learn what violence happens among the poor in developing countries
 To learn ways that this violence can be stopped

授業方法:

videos with transcripts (for reading as well as listening)
 teacher explanations, class discussion
 worksheets and student short written responses

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内
 容」:

授業内容

準備学習等の内容

1.	Class introduction and explanation Begin Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review TED talk worksheet
2.	Gary Haugen — a good source? Continue Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review worksheet from class Write short response to Gary Haugen TED Talk
3.	Continue Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review worksheet from class
4.	Easy quiz on Haugen and violence Continue Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review worksheet from class Write short response to Gary Haugen TED Talk Preview Locust Effect web site
5.	Explore Locust Effect web site with worksheet Choose small portion of site to give short report on	Review worksheet from class Prepare short report
6.	Discuss Locust Effect web site and short reports on it	Preview portions of next video: Google Talks with Gary Haugen
7.	Discuss Gary Haugen Google Talk with worksheet	Review Google Talk worksheet
8.	Discuss Gary Haugen Google Talk with worksheet	Review Google Talk notes
9.	Easy quiz on Google Talk points Discuss Haugen's Congressional hearing on slavery	Write short response to Google Talk Review notes on Haugen's Congressional hearing
10.	Continue Haugen's Congressional hearing on slavery Easy quiz on Haugen's Congressional hearing	Write short response to Haugen's Congressional hearing Review notes for quiz
	Introduction of articles on ACLJ rescuing child brides in Kenya	Read assigned article on ACLJ rescue of Kenyan child brides; prepare to summarize it for class
12.	ACLJ article summaries and discussion	Review notes
13.	ACLJ article summaries and discussion Other sources of violence against the poor	Review notes Write short response to ACLJ articles
14.	Discuss other sources of violence against the poor as seen in Scent of Water excerpts	Skim short excerpts from Scent of Water Write short response to discussion on violence read about in Scent of Water
15.	Discuss responses Review and wrap up	Finished

受講者への
 メッセージや
 アドバイス:

フィードバックの
 方法:

in-class discussion, quiz grades and notes, written or oral comments on written responses

「成績評価方法」
 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Short Written Responses	55	These will be one to two written summaries and responses to the material discussed in class. They should show an understanding of the material and also some of the student's own deep thoughts on the topic.
Quizzes	30	Quizzes will be questions regarding important points in the videos, discussions, or articles. They will only be questions on what is covered in class.
Participatioin	15	This is more than attendance. It will include discussion participation and the use of English. This class is normally small so that it is easy to feel comfortable speaking.

教科書:

none

参考書:

Please always bring a dictionary of your choice to every class.

獲得が期待される
 基礎的・汎用的能
 力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
 方法:

awillis@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

In this class, we will look at different aspects of Linguistic Pragmatics, including politeness, requests, and apologies.

The purpose of this course is for students to learn about the principles of Linguistic Pragmatics and how they apply to students' experiences

Students will read about linguistic pragmatics or listen to lectures and discuss what they learn. They will discuss and write about the application of what they are learning to their own experiences.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	none
	2. What is Linguistic Pragmatics?	Read and answer questions
	3. Brown and Levinson's Politeness Theory -- Positive and Negative Politeness 1	Read and answer questions
	4. Brown and Levinson's Politeness Theory -- Positive and Negative Politeness 2	Answer discussion questions
	5. Geoffrey Leech's Politeness Maxims 1	Read and answer questions
	6. Geoffrey Leech's Politeness Maxims 2	Answer discussion questions
	7. Speech Acts 1 -- Requests and Refusals	Read and answer questions
	8. Speech Acts 2 -- Requests and Refusals	Answer discussion questions
	9. Speech Acts 3 -- Apologies	Read and answer questions
	10. Speech Acts 4 -- Apologies	Answer discussion questions
	11. The Cooperative Principle and Conversational Maxims 1	Read and answer questions
	12. The Cooperative Principle and Conversational Maxims 2	Answer discussion questions
	13. Speech Act Theory and Pragmatic Competence 1	Read and answer questions
	14. Speech Act Theory and Pragmatic Competence 2	Answer discussion questions
	15. Conclusion	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Discussion with students

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Final test	40%	Demonstration of application of what student has learned
	Homework	60%	Demonstration of application of what student has learned

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:	Corpus Linguistics in English.
授業の概要:	Students will use computers to operate corpus software and investigate language use, and build and investigate a corpus.
到達目標:	Students will learn: ・key terms and concepts related to corpus linguistics. ・how to use concordancing software to analyse corpora. ・the key issues related to building a corpus.
授業方法:	A variety of methods will be employed including: lectures, worksheets, pairwork, group work, individual work and computer based study.

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction. Computer skills introduction.	Prepare for Quiz 1
	2. Linguistic terms introduction. Introduction to corpus software and concordance lines.	Prepare for Quiz 1
	3. Quiz 1 – Computer and linguistic terms. Concordance analysis I	Prepare for assignment I
	4. Concordance analysis II	Prepare for assignment I
	5. Concordance analysis III Assignment I – Creating concordance line worksheets.	Prepare for Quiz 2
	6. Creating concordance line worksheets	Prepare for Quiz 2
	7. Quiz 2 – Concordance analysis. Introduction to research project – Building a corpus.	Research project
	8. Building a corpus I	Research project
	9. Building a corpus II	Research project
	10. Comparing two corpora – keywords	Research project
	11. Comparing two corpora – clusters and n-grams	Research project
	12. Drafting research report I	Research project
	13. Drafting research report II	Prepare for quiz 3
	14. Quiz 3 Using corpus software. Online corpora I	Prepare for quiz 3
	15. Conclusion and review. Online corpora II	None

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: A variety of feedback methods will be used depending on the task undertaken, including verbal and written feedback, to individuals and groups.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Quizzes	60%	To be explained in class.
	Assignments	40%	To be explained in class

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡
方法:

dclayton@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

The study of communication in organisations.

授業の概要:

Students will be introduced to, encouraged to discuss and engage in different aspects of organizational communication over the semester. Key themes of the course are understanding communication flows, concepts such as 'the grapevine', formal and informal communication networks and some contemporary issues in organizational communication.

到達目標:

Students will be able to identify key characteristics of different types of organisations and how communication manifests itself within each. Students will be able to apply their own experience of communication in organisations to the theoretical models presented in the course.

授業方法:

The format of each class will vary slightly as the course progresses. Students will be required to listen to a short lecture followed by discussion and group activities. The summative assessment will require students to give a presentation on one of the course themes.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction What is organizational communication? Types of organisation.	Prepare for Quiz 1
	2. Characteristics of organisations Nonprofit and Profit organisations	Prepare for Quiz 1
	3. Focus on communication / myths about communication Components of communication	Prepare for Quiz 1
	4. Communication networks Formal communication: downward and upward	Prepare for Quiz 1
	5. Formal communication: horizontal Social communication Assignment 1	Prepare for Quiz 1 Assignment 1
	6. Informal communication “Grapevine” and Gossip activity Quiz 1 Preparation for Presentation	Prepare for presentation
	7. Presentation	Prepare for Quiz 2
	8. Power and status Compliance	Prepare for Quiz 2
	9. Conflict	Prepare for Quiz 2
	10. Conflict management case study. Assignment 2	Prepare for Quiz 2 Assignment 2
	11. Putting it all together: The Devil Wears Prada I	Prepare for Quiz 2
	12. Putting it all together: The Devil Wears Prada II Assignment 3	Prepare for Quiz 2 Assignment 3
	13. Nonverbal communication in organisations I	Prepare for Quiz 2
	14. Nonverbal communication in organisations II	Prepare for Quiz 2
	15. Conclusion Quiz 2	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback will be given in verbal and written form, depending on the task undertaken.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Quizzes	40	To be explained in class
	Assignments	60	To be explained in class

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡
方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	アメリカの社会と文化を学ぶ		
授業の概要:	アメリカの文化はあらゆる形で日本に導入され、アメリカ社会に関するあらゆる情報も伝えられているが、私達はアメリカという国の文化や社会の実像を本当に捉えられていると言えるだろうか。本講では「アメリカ」を表層のイメージで捉えず深く理解するために、その文化と社会に関する知識や様々な概念を習得しながら、「アメリカ」に対する自分の観方、考え方、判断基準の確立を試みる。		
到達目標:	建国期から現代に至るアメリカのあらゆる多元的文化・社会現象を具体的な事例に基づいて学際的手法で多角的に考察していく。そして「アメリカ文化」という「他文化」と向き合うことで現代のグローバル社会の中の「自文化」と「自己」をいかに規定するかを検討する事を目的とする。(英米間の文化や社会の関係や比較も扱うので、できる限り後期の「イギリス文化と社会」と通年で取る事が望ましい。)		
授業方法:	講義が中心であるが、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用し、各論題に関する議論も適宜行う。英語文献も使用するので英和辞書を持参すること。(受講生の人数や関心に応じ、授業内容を若干変更する可能性がある。)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. イントロダクション	2. アメリカの多元的文化と社会の基本知識(1)	3. アメリカの多元的文化と社会の基本知識(2)
	4. 社会の変化と文化の普及(1)	5. 社会の変化と文化の普及(2)	6. 事例研究(1)(ジャズ・エイジの映画と音楽等)
	7. 対抗文化の生成(1)	8. 対抗文化の生成(2)	9. 事例研究(2)(60年代のアメリカ)
	10. 成功の哲学と多元的文化(1)	11. 成功の哲学と多元的文化(2)	12. 事例研究(3)(ベンジャミン・フランクリン、スティーブ・ジョブズ等)
	13. 大統領達や各種活動家達の演説とアメリカの理想(1)	14. 事例研究(4)(ケネディ、ジェーン・アダムズ、オバマ等)	15. 総括
受講者へのメッセージやアドバイス:	ペーパー(各種テキスト読解あるいは講義内容学習後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント)、質問へのフィードバックは基本的に教室でまとめて解説する		
フィードバックの方法:	返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	30%	出席(原則として単位取得には全講義数の三分の二以上の出席が必要)および授業中の活動(各種読解演習、事前に配布された文献の読解、議論やグループワークへの参加、意見の発表等)
	レポート	70%	各種テキスト読解後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント、期末レポート試験は講義の理解度、考察の深さと多角性、そして意見表明の論理性と説得力を問う。*レポート試験は学期末に一回提出とする。
教科書:	教科書はプリント教材を授業中に配布するが、授業では、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用する。		
参考書:	適宜 授業中に指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	Email (授業中に指示する)		

授業テーマ:

イギリスの多元的文化と社会の考察

授業の概要:

本講は16世紀から現代に至るイギリスの文化と社会に関する知識を習得しながらイギリスのあらゆる多元的文化・社会現象を理解し、判断するための基準を確立する作業に取り組む。

到達目標:

イギリスの多元的文化・社会を学際的方法で多角的に理解する姿勢を身につける事を目的とする。(英米間の文化と社会の関係や比較も扱うので、できる限り前期の「アメリカの文化と社会」と通年で取る事が望ましい。)

授業方法:

講義が中心であるが、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用し、各論題に関する議論も適宜行う。英語文献も使用するので英和辞書を持参すること。(受講生の人数や関心に応じ、授業内容を若干変更する可能性がある。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
	2. イギリスの多元的文化と社会の基本知識(1)	講義内容を復習しておくこと。
	3. イギリスの多元的文化と社会の基本知識(2)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
	4. 社会の変化と多元的文化(1)	講義内容を復習しておくこと。
	5. 社会の変化と多元的文化(2)	講義内容を復習しておくこと。
	6. 事例研究(1)(「リトル・ダンサー」等も参照)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
	7. 対抗文化の生成とポピュラーカルチャーの諸相(1)	講義内容を復習しておくこと。
	8. 事例研究(2)(60年代 スウィング・ロンドン等)	講義内容を復習しておくこと。
	9. 帝国主義(1)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
	10. 事例研究(3)(「インドへの道」等も参照)	講義内容を復習しておくこと。
	11. 帝国主義と王室文化	講義内容を復習しておくこと。
	12. 首相達や各種活動家達の演説と多元的社会(1)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
	13. 首相達や各種活動家達の演説と多元的社会(2)	講義内容を復習しておくこと。
	14. 事例研究(4)(サッチャー、ブレアのスピーチ等)	講義内容を復習しておくこと。
	15. 総括	講義内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ペーパー(各種テキスト読解あるいは講義内容学習後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント)、質問へのフィードバックは基本的に教室でまとめて解説する

返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	30%	出席状況(原則として単位取得には全講義数の三分の二以上の出席が必要)授業中の活動(各種読解演習、事前に配布された文献の読解、議論やグループワークへの参加、意見の発表等)
	レポート	70%	各種テキスト読解後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント、期末レポート試験は講義の理解度、考察の深さと多角性、そして意見表明の論理性と説得力を問う。*レポート試験は学期末に一回提出とする。

教科書:

教科書はプリント教材を授業中に配布するが、授業では、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用する。

参考書:

適宜 授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

Email (授業中に指示する)

授業テーマ:	イギリスのビクトリア朝文化(19世紀)を中心に、イギリスの表象文化を学習する。																																		
授業の概要:	授業では、イギリスの繁栄の時代、19世紀ビクトリア朝時代を中心に、イギリスのさまざまな文化様式について、同時代の小説を使って学んでいく。ジェンダー、階級、ロンドン、荒野などがキーワードである。																																		
到達目標:	イギリスの表象文化についての知識を、さまざまな角度から理解・把握すること。																																		
授業方法:	人数に応じて工夫をするが、基本的には講義形式で行う。パワーポイントや配布プリントを使って講義する。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 授業オリエンテーション</td><td>予習は不要だが、授業内容に挙がっている小説(日本語の翻訳)を読んだり、映画を観ておくとう理解度が増すだろう。</td></tr><tr><td>2. 家具:中産階級の文化表象(小説Mayor of Gasterbridge, Jane Eyreなど)</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>3. 調度(壁紙):産業革命へのプロテスト(William Morris など)</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>4. 前回の続き</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>5. ゴシックという概念(Horace WalpoleのCastel of Otranto, 1764など)</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>6. 前回の続き</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>7. ラファエロ前派の絵画(Dante Gabriel Rossettiなど)</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>8. ロンドンを知っておこう: マップ</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>9. ロンドンという表象(1):労働者階級の表象(Dickens のOliver Twistなど)</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>10. ロンドンという表象(2):上層中産階級の表象(Virginia WoolfのMrs.Dallowayなど)</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>11. 前回の続き</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>12. ロンドンという表象(3):中産階級の表象(Margaret DrabbleのThe Milstoneなど)</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>13. 荒野という表象(1):荒野を歩くヒロインその1(The Return of the Nativeなど)</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>14. 荒野という表象(2):荒野を歩くヒロインその2(Wuthering Heightsなど)</td><td>上記と同じ</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 授業オリエンテーション	予習は不要だが、授業内容に挙がっている小説(日本語の翻訳)を読んだり、映画を観ておくとう理解度が増すだろう。	2. 家具:中産階級の文化表象(小説Mayor of Gasterbridge, Jane Eyreなど)	上記と同じ	3. 調度(壁紙):産業革命へのプロテスト(William Morris など)	上記と同じ	4. 前回の続き	上記と同じ	5. ゴシックという概念(Horace WalpoleのCastel of Otranto, 1764など)	上記と同じ	6. 前回の続き	上記と同じ	7. ラファエロ前派の絵画(Dante Gabriel Rossettiなど)	上記と同じ	8. ロンドンを知っておこう: マップ	上記と同じ	9. ロンドンという表象(1):労働者階級の表象(Dickens のOliver Twistなど)	上記と同じ	10. ロンドンという表象(2):上層中産階級の表象(Virginia WoolfのMrs.Dallowayなど)	上記と同じ	11. 前回の続き	上記と同じ	12. ロンドンという表象(3):中産階級の表象(Margaret DrabbleのThe Milstoneなど)	上記と同じ	13. 荒野という表象(1):荒野を歩くヒロインその1(The Return of the Nativeなど)	上記と同じ	14. 荒野という表象(2):荒野を歩くヒロインその2(Wuthering Heightsなど)	上記と同じ	15. まとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 授業オリエンテーション	予習は不要だが、授業内容に挙がっている小説(日本語の翻訳)を読んだり、映画を観ておくとう理解度が増すだろう。																																		
2. 家具:中産階級の文化表象(小説Mayor of Gasterbridge, Jane Eyreなど)	上記と同じ																																		
3. 調度(壁紙):産業革命へのプロテスト(William Morris など)	上記と同じ																																		
4. 前回の続き	上記と同じ																																		
5. ゴシックという概念(Horace WalpoleのCastel of Otranto, 1764など)	上記と同じ																																		
6. 前回の続き	上記と同じ																																		
7. ラファエロ前派の絵画(Dante Gabriel Rossettiなど)	上記と同じ																																		
8. ロンドンを知っておこう: マップ	上記と同じ																																		
9. ロンドンという表象(1):労働者階級の表象(Dickens のOliver Twistなど)	上記と同じ																																		
10. ロンドンという表象(2):上層中産階級の表象(Virginia WoolfのMrs.Dallowayなど)	上記と同じ																																		
11. 前回の続き	上記と同じ																																		
12. ロンドンという表象(3):中産階級の表象(Margaret DrabbleのThe Milstoneなど)	上記と同じ																																		
13. 荒野という表象(1):荒野を歩くヒロインその1(The Return of the Nativeなど)	上記と同じ																																		
14. 荒野という表象(2):荒野を歩くヒロインその2(Wuthering Heightsなど)	上記と同じ																																		
15. まとめ																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	講義について質問があれば、授業の前後などで、いつでも受け付ける。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験(マークシート形式)</td><td>70%</td><td>授業で学んだ知識についての理解度を問う。</td></tr><tr><td>授業への積極的参加度</td><td></td><td>毎回出席を取る。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験(マークシート形式)	70%	授業で学んだ知識についての理解度を問う。	授業への積極的参加度		毎回出席を取る。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
定期試験(マークシート形式)	70%	授業で学んだ知識についての理解度を問う。																																	
授業への積極的参加度		毎回出席を取る。																																	
教科書:	使用しない。																																		
参考書:	毎回、授業中にハンドアウト(配布プリント)を配布する。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。およびEメールによる連絡。																																		

授業テーマ:

授業の概要: アメリカの表象文化について、さまざまな文献や著作を通して理解を深めることを目指す。授業では、独立革命・建国期から南北戦争にいたる歴史を辿りつつ、それぞれの時期におけるアメリカの表象文化について考察する。当時の日記、手紙、写真、挿絵などを通して、人びとの生活、考え方、想像力について理解を深め、さらにそれを手がかりにして、現代アメリカの表象文化についても考える。

到達目標: 1. 南北戦争以前の表象文化について理解を深め、それを説明できること
2. 当時の文献を原文で正確に理解し、それを説明できること
3. 関心のあるテーマについて考察し、それについて発表できること

授業方法: 講義、講読、発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. イギリス領アメリカ植民地	文献(英文)を読んでおくこと
	3. 独立革命・建国(1)	文献を読んでおくこと
	4. 独立革命・建国(2)	文献を読んでおくこと
	5. 独立革命・建国(3)	文献を読んでおくこと
	6. 領土拡張(1)	文献を読んでおくこと
	7. 領土拡張(2)	文献を読んでおくこと
	8. 領土拡張(3)	文献を読んでおくこと
	9. 領土拡張(4)	文献を読んでおくこと
	10. 都市の発展(1)	文献を読んでおくこと
	11. 都市の発展(2)	文献を読んでおくこと
	12. 都市の発展(3)	文献を読んでおくこと
	13. 南北の対立(1)	文献を読んでおくこと
	14. 南北の対立(2)	文献を読んでおくこと
	15. まとめ	これまでの文献を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でコメントする

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験	30%	到達目標にかんする知識と理解により評価する。
	発表	25%	テーマについて説得力のある発表ができているかを基準とする。
	レポート2回	15%x2	達成目標を理解したうえで、考察や見解を適切にまとめられているかを基準とする。
	授業への参加	15%	積極的に授業に参加しているかを基準とする。

教科書: Joy Hakim, Liberty for All? (Oxford University Press, 2007).

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業後に教室内で応対、Eメール

授業テーマ:	コミュニケーションのメカニズムを学ぼう		
授業の概要:	「コミュニケーション能力」「コミュニケーション不足」「コミュニケーションの必要性」などなど、日常生活の様々なシーンで「コミュニケーション」という言葉が使われていますが、コミュニケーションっていったい何なのでしょう？その仕組みやメカニズムを研究するのがコミュニケーション論という学問です。この講座では、身近な例を取り上げながらコミュニケーションの諸相について考察していきます。授業を通して、自分のコミュニケーションスタイルを振り返るのもよし、コミュニケーションスキルの向上を目指すのもよし。この授業をきっかけに、一人一人が自分と他人との関わり方について考えてみてください。		
到達目標:	1)コミュニケーションの基礎理論を学ぶ。 2)実際に経験するコミュニケーションを、客観的に分析する能力を養う。		
授業方法:	本講座は1回90分で、半期の授業です。テキストをベースにし、事例などを交えながらコミュニケーションの諸相を見ていきます。学期末の課題プロジェクトでは、グループによる発表とその過程について各自が分析したことをレポートにまとめます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション:詳細シラバスの配布 授業の進め方、評価方法、課題プロジェクトについての詳細説明	受講者は必ずテキストを購入しておくこと。 授業計画に従って、各章に目を通して授業にのぞむこと。	
	2. コミュニケーションとは【1】	テキスト 第2章	
	3. コミュニケーションとは【2】	テキスト 第2章	
	4. 言語を使ったコミュニケーション【1】	テキスト 第3章	
	5. 言語を使ったコミュニケーション【2】 プロジェクト:グループとテーマの決定	テキスト 第3章	
	6. 非言語によるコミュニケーション【1】	テキスト 第4章	
	7. 非言語によるコミュニケーション【2】	テキスト 第4章	
	8. コミュニケーションと認識【1】	テキスト 第5章	
	9. コミュニケーションと認識【2】	テキスト 第5章	
	10. コミュニケーションと説得	テキスト 第6章	
	11. 対人コミュニケーション【1】 プロジェクト:作業日	テキスト 第7章	
	12. 対人コミュニケーション【2】	テキスト 第7章	
	13. 小集団コミュニケーション	テキスト 第8章	
	14. プロジェクト課題発表	プロジェクト発表の準備	
	15. 授業の総括と期末評価	講義内容の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本講義は社会科学を扱いますので、この機会に新聞・ニュース・雑誌などをチェックする習慣を身につけ、現在の社会を客観的に把握できる努力をしてみてください。また、プロジェクトについては、ほとんどの作業を授業外で行うことになります。授業内に設けた準備日を有効に利用し、グループのメンバーと連絡を取りながら、文献や資料探し、打ち合わせ、資料作成などを相応に分担するなど、メンバー全員で計画的に作業を進めていきましょう。		
フィードバックの方法:	1)プロジェクトのプレゼンテーションは、講評を添えて授業内で返却します。 2)レポートは、添削ののち講評を添えて、新学期(新年度になります)に教務課で返却をします。履修者は各自で責任を持って必ず受け取るようにしてください。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への取り組み	10	出席は毎回とりますが、このポイントは出席点ではなく、授業への取り組みの一部として評価します。遅刻・居眠り・私語・携帯電話の使用など積極的に授業に参加していると認められない場合は厳しくチェックします。また、授業の最後にその日に学んだ内容に関するコメントを提出し、毎回の授業への取り組みの評価とします。
	課題プロジェクト	40	この課題は、グループ作業と個人作業の両方のパートからなり、それぞれ20%ずつの評価とします。プロジェクトでは、与えられたテーマについてグループの中でその賛否をあらゆる側面から検討し、最終的にグループとしての見解をまとめて発表します。学期末には、プロジェクト作業を通して自分が経験したコミュニケーションについて論じたレポートを個人で作成し提出します。
	期末評価	50	授業の総括として、学期末に実施します。講義内容を踏まえた記述試験です。
教科書:	宮原哲(2103)・「新版 入門コミュニケーション論」 松柏社		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業以外ではe-mailを主たる連絡手段とします。office hourは特に設けませんが、必要に応じて、講義後(水曜日4講時)を相談の時間に充てます。		

授業テーマ:

Modern Life in Britain

授業の概要:

The course will offer provocative but accurate glimpses into modern British life in order to investigate what being 'British' means today. Encouraging liberal, creative interpretation, we will educate ourselves linguistically and culturally via a set of consciously opinionated writings with which students can engage in a mature, meaningful manner.

到達目標:

By exploring the language and themes students will be encouraged to give their opinion on a range of topics, and will in addition be expected to perform individual research on certain topics. The focus will be on enabling the students to develop: a/ analytical ability through development of research skills, b/ thinking power, i.e. deeper understanding of past and current affairs, and c/ presentation skills by expressing one's opinion logically and persuasively.

授業方法:

: Classes would include: topic introduction based on the textbook/teacher's handouts; comprehension and listening exercises; language focus and topic debates. Students will get plenty of time to explore language and themes in some detail through pair and group discussion, which will be shared and reported to the whole class. Internet and DVD equipment will be used in the classroom for film projections.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the Course	The out-of-class learning and preparation
	2. BEING BRITISH – Culture Then and Now, part 1	The out-of-class learning and preparation
	3. BEING BRITISH – Culture Then and Now, part 2	The out-of-class learning and preparation
	4. IS THIS THE UNITED KINGDOM? THE NAMING OF PARTS, part 1	The out-of-class learning and preparation
	5. IS THIS THE UNITED KINGDOM? THE NAMING OF PARTS, part 2	The out-of-class learning and preparationHomework
	6. .BRITISH EDUCATION, part 1	The out-of-class learning and preparation
	7. BRITISH EDUCATION, part 2	Homework and preparation for presentation
	8. Presentations	The out-of-class learning and preparation
	9. CHANGING MODES OF BRITISH FAITH, part 1	The out-of-class learning and preparation
	10. CHANGING MODES OF BRITISH FAITH, part 2	Homework
	11. BRITAIN'S POLITICAL VISION, part 1	The out-of-class learning and preparation
	12. BRITAIN'S POLITICAL VISION, part 2	The out-of-class learning and preparation
	13. BRITISH HUMOUR, part 1	The out-of-class learning and preparation
	14. BRITISH HUMOUR, part 2	Homework and preparation for presentation
	15. Presentations	n/a

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

The out-of-class learning and preparation will consist of students conducting online research on individual topics. All the reference sources should be clearly cited. Following the research, students will be required to produce essays in written form which will in turn serve as a springboard for further in-class discussion, comments and exchange of ideas

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	in-class participation	40	continuous assessment
	quizzes/presentations	30	continuous assessment
	research & homework	30	continuous assessment

教科書:

Paul Hullah, Masayuki Teranishi:
Britain Today: Old Certainties, New Contradictions
ISBN: 978-4-86312-110-2 Student Book
Publisher: Cengage Learning

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

cacti@live.co.uk

授業テーマ:

Modern Life in Britain

授業の概要:

The course will offer provocative but accurate glimpses into modern British life in order to investigate what being 'British' means today. Encouraging liberal, creative interpretation, we will educate ourselves linguistically and culturally via a set of consciously opinionated writings with which students can engage in a mature, meaningful manner.

到達目標:

By exploring the language and themes students will be encouraged to give their opinion on a range of topics, and will in addition be expected to perform individual research on certain topics. The focus will be on enabling the students to develop: a/ analytical ability through development of research skills, b/ thinking power, i.e. deeper understanding of past and current affairs, and c/ presentation skills by expressing one's opinion logically and persuasively.

授業方法:

Classes would include: topic introduction based on the textbook/teacher's handouts; comprehension and listening exercises; language focus and topic debates. Students will get plenty of time to explore language and themes in some detail through pair and group discussion, which will be shared and reported to the whole class. Internet and DVD equipment will be used in the classroom for film projections.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. BRITISH MUSIC, part 1	online research on individual topics
	2. BRITISH MUSIC, part 2	online research on individual topics
	3. BRITISH ATTITUDES TO FOOD, part 1	online research on individual topics
	4. BRITISH ATTITUDES TO FOOD, part 2	online research on individual topics
	5. WOMEN IN BRITAIN, part 1	online research on individual topics
	6. WOMEN IN BRITAIN, part 2	preparation for presentation
	7. Presentations	online research on individual topics
	8. BRITISH YOUTH, part 1	online research on individual topics
	9. BRITISH YOUTH, part 2	online research on individual topics
	10. FAMILY LIFE IN BRITAIN, part 1	online research on individual topics
	11. FAMILY LIFE IN BRITAIN, part 2	online research on individual topics
	12. BRITISHNESS, DISAPPEARING, OR JUST DIFFERENT NOW?, part 1	online research on individual topics
	13. BRITISHNESS, DISAPPEARING, OR JUST DIFFERENT NOW?, part 2	preparation for presentation
	14. Presentations	preparation for final review
	15. Conclusion and Course Review Quiz	n/a

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

The out-of-class learning and preparation will consist of students conducting online research on individual topics. All the reference sources should be clearly cited. Following the research, students will be required to produce essays in written form which will in turn serve as a springboard for further in-class discussion, comments and exchange of ideas

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	in-class participation	40	continuous assessment
	quizzes/presentations	30	continuous assessment
	research & homework	30	continuous assessment

教科書:

Paul Hullah, Masayuki Teranishi:
Britain Today: Old Certainties, New Contradictions
ISBN: 978-4-86312-110-2 Student Book
Publisher: Cengage Learning

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

cacti@live.co.uk

授業テーマ:

Admirable American Womean You Have Probably Never Heard Of

授業の概要:

In this course, we will look at the thoughts and lives of about five American women who are admirable but who are not usually heard about in the mainstream media.

到達目標:

To learn some new ways of thinking
To examine the roles these women think belong to women
To see how they worked/work out those roles in surprising ways
To practice English discussion abilities

授業方法:

videos, book excerpts, articles, teacher input, class discussion

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Class introduction	Reading material introduced in class (short excerpts)
	Misunderstood descriptions of women’s roles	
	Fierce Women	
2.	Discussion of Week 1 materials	Review notes from class and write short response to Week 1 materials
	Begin Elisabeth Elliott	
3.	Discuss written responses	Review notes from class and write very short response to Elisabeth Elliott’s life
	Continue Elisabeth Elliott	
4.	Discuss written responses	Preview articles on Ruth Graham Review notes from class and read articles on Ruth Graham
	Begin Ruth Graham	
5.	Continue Ruth Graham	Review notes, articles on Ruth Graham and write response to her life and women’s roles
6.	Share responses	View videos
	Begin Naomi Zacharias	
7.	Joni Earickson Tada	View videos; choose a favorite video that you find of Joni Tada on her web site or elsewhere about her work or her life
8.	Share and discuss student video choices of Joni Tada and her work	Write response on Joni Tada
9.	Share responses	Read assigned excerpt from Naomi Zacharias’s book, Scent of Water (each student will have a different excerpt to read and report on)
	Begin Naomi Zacharias	
10.	Give summaries of excerpts from Scent of Water	Write a response to Naomi Zacharias
	Discuss Naomi Zacharias’s life and concepts from the book	Choose two of the women discussed so far and compare and contrast them
11.	Share responses	Read short excerpt from one of Candy Carson’s books
	Begin Candy Carson	
12.	Discuss book excerpt and Candy Carson	Write description of Candy Carson’s outstanding characteristics Compare her with one other woman discussed in class Express personal reaction to Mrs. Carson
13.	Begin Condelezza Rice	Review videos from class, read short biographical article Prepare to discuss Dr. Rice’s outstanding characteristics
14.	Discuss Condelezza Rice	Write a very short response to Condelezza Rice
		Prepare to write an in-class very short essay on the class as a whole and a paragraph on your favorite of the women covered
15.	Discussion of Week 1 lesson, women’s roles, the six women’s lives	Finished
	Write one-paragraph essay about the course as a whole and one-paragraph response on your favorite woman of those studied	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

In-class discussion responses, comments on written responses when appropriate and when possible

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Short Written Responses	70	These do not need to be more than one or two paragraphs. They will be personal responses to class discussions and articles, book excerpts and videos.
	Participation in class discussions	15	This includes more than attendance. It also includes adding to discussions. Usually the class is small so that participation in discussions is comfortable.
	Completing homework	15	Homework includes short readings or short videos. Sometimes the homework is the written responses. These need to be turned in on time as much as possible.

教科書: none

参考書: Each student should bring the dictionary of her choice to every class.

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: awillis@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Issues in American Society

授業の概要:

issues of interest in American society will be discussed; first issue is chosen by the teacher and all other issues covered will be issues that the students choose for us to cover. In this way the course can be of interest to everyone.

到達目標:

To study contemporary issues in English
To look at different perspectives of issues in the U.S.
To improve English discussion, analysis and response ability

授業方法:

articles, teacher input, class discussion, some short writing, a limited amount of student research

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course	Read articles given by the teacher
	Gather student issue interests	
	1st issue -- race relations	
2.	1st issue -- race relations	Find an article on the topic and prepare to summarize it for the class, including why it is of interest
	Discuss articles done for homework	
3.	1st issue -- race relations	Write short response to race relations discussions and readings
	Share articles, continue discussion	
		Read article(s) from teacher on 2nd issue
4.	Discuss responses to 1st issue	Find an article on the topic and prepare to summarize it for the class, including why it is of interest
	2nd issue --	
	Discuss articles from homework	
5.	2nd issue --	Write short response
	Share articles, continue discussion	
6.	2nd issue --	Read articles for 3rd issue
	Discuss responses	
7.	3rd issue --	Find an article on the topic and prepare to summarize it for the class, including why it is of interest
	Discuss articles from homework	
8.	3rd issue --	Write a short response
	Share articles, continue discussion	
9.	3rd issue --	Read articles for 4th issue
	Discuss responses	
10.	4th issue --	Find an article on the topic and prepare to summarize it for the class, including why it is of interest
	Discuss articles from homework	
11.	4th issue --	Write a short response
	Share articles, continue discussion	
12.	4th issue --	Read article(s) for 5th issue
	Discuss responses	
13.	5th issue --	Find an article on the topic and prepare to summarize it for the class, including why it is of interest
	Discuss articles from homework	
14.	5th issue --	Write a short response
	Share articles, continue discussion	
		Prepare to write a short response to the course in class on week 15
15.	5th issue --	Finished
	Discuss responses	
	Write a short response summarizing the course or one or two topics of interest from the course	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

in-class discussion, comments on written responses when appropriate and possible

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Short Written Responses	70	These will be responses to the issues covered. They will be no longer than one or two paragraphs. They should show an understanding and deep thought on the issue.
	Participation in class	15	This is more than attendance. Each student must participate in the class discussions, using English. Usually the class is small, so that speaking is comfortable.
	Homework	15	Homework assignments will be explained weekly. Homework needs to be done in order to participate in discussions. Please complete the homework as much as possible. It is usually not a lot of homework.

教科書:	none
参考書:	Each student should bring a dictionary to every class.
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	awillis@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	Techniques of Literary Translation, Japanese-English		
授業の概要:	This course will provide a survey of actual translations undertaken by the instructor with a review of the particular problems and approaches unique to each one.		
到達目標:	--to awaken an interest in the challenges of translation --to acquire an appreciation of differences between Japanese and English --to learn to read and discuss a translation --to understand different styles of translation		
授業方法:	Lecture with discussion and some in-class writing assignments		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Introduction to the range of works translated	Read handout and prepare to discuss.	
	2. Salad Anniversary: translating modern tanka	Read handout and prepare to discuss	
	3. Kaguyahime: translating a folktale	Read handout and prepare to discuss	
	4. Lemon: translating a short story or "Counting to Ten": translating an essay	Read handout and prepare to discuss Write reaction paper on one or all works read so far.	
	5. Humor in translation	Read handout and prepare to discuss	
	6. Titles: What makes a good title in translation?	Read handout and prepare to discuss	
	7. "Jumping in the Pond" discussion & individual presentations	Read handout and prepare to discuss	
	8. Translating manga and anime	Read handout and prepare to discuss	
	9. A True Novel by Minae Mizumura: translating a long and complex novel; collaboration	Read handout and prepare to discuss Write second reaction paper	
	10. The Fall of Language in the Age of English by Minae Mizumura: translating nonfiction Reaction paper due	Read handout and prepare to discuss	
	11. Fune o amu: translating a novel about Japanese dictionaries	Read handout and prepare to discuss	
	12. Clouds above the Hill: translating historical fiction	Read handout and prepare to discuss	
	13. Shiba continued; translating Haiku and Chinese poetry	Read handout and prepare to discuss	
	14. Review	Review	
	15. Conclusion		
受講者へのメッセージやアドバイス:	By all means keep up with the readings, in Japanese and English. Don't hesitate to ask questions		
フィードバックの方法:	Papers will be graded with comments. In-class writing assignments will be discussed together.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and participation	10%	Attendance and alert participation are required. Questions welcome.
	Homework	30%	Prompt, careful submission of homework assignments
	Reaction papers	30%	Five-paragraph papers with cogent comments on one or more topic covered in class
	Final examination	30%	Understanding of translation techniques; identification of works, authors, and genres
教科書:			
参考書:	Tawara Machi, Salad Anniversary, Pushkin Press Once Upon a Time in Japan, NHK Minae Mizumura, A True Novel, Other Press Minae Mizumura, The Fall of Language in the Age of English, Columbia University Press Miura Shion, The Great Passage, Amazoncrossing Shiba Ryotaro, Clouds above the Hill, Routledge		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、		
教員との連絡方法:	--email --office hours and by appointment --in the classroom		

授業テーマ:

Crosscultural Encounter and Representation

授業の概要:

This course is divided into two halves:
•The first half deals with the role visual representations have played in Japan–West political relations from Perry mission to today.
•The second half examines Western and Japanese culture through their representations in folklore and pop culture, focusing in the representation of monsters from medieval period to the second half of the twentieth century.

到達目標:

This course has 4 main aims:
1. to help students become critical readers of visual and other texts, able to interpret, and discuss them fluently and confidently;
2. to develop students’ understanding of, and ability to discuss, the social, cultural, and political contexts of visual and other forms of representations;
3. to think about the question of cross–cultural encounter and representation in relation to Japan–West relations from the nineteenth century to today;
4. to continue to develop students’ skills of discussion and debate, presentation, critical thinking, and academic writing in English

授業方法:

Typically, each class will involve a lecture, group and class discussions, and in–class writing in response to that week’s topic

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction. Topic 1: Analysing visual texts	Students are expected to complete homework reading thoroughly, coming to class prepared to take part in active discussion and analysis of the topic and texts.
	2. Topic 2: Orinetalism? –dual representations from the Perry mission to Japan	homework reading
	3. Topic 3: A fantasy Japan? –Japonisme and European art at the end of 19th century	homework reading
	4. Topic 4: Representing the enemy: U.S. and Japanese propaganda images, 1905–1945	homework reading
	5. Topic 5: Geopolitics and gender –Hollywood movies in Japan, 1950–60s	homework reading
	6. Topic 6: Exoticism and power –Japanese women in the eyes of western men	homework reading
	7. Topic 7: Self–orientalisaiion? –Japanese images of Japan, postwar to today	homework reading
	8. Topic 8: Comparing Japan and the West through their monsters. Introduction	
	9. Topic 9: Monster culture (Seven thesis).	homework reading
	10. Topic 10: Monsters versus Yokai I –from Medieval beliefs to Meiji Restoration	
	11. Topic 11: Monsters versus Yokai II –From literature to manga, from cinema to anime	homework reading
	12. Topic 12: Monsters versus Kaiju –King Kong versus Godzilla	
	13. Topic 13: Monsters, advertising and consumerist society –Pokemon and others	homework reading
	14. Final presentations	Students will have to prepare an English–language Powerpoint presentation that analyses, using the skills developed in class, a set of images they have chosen in connection to the topics covered in class.
	15. Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Email

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and active participation	40	Attendance and participation is mandatory
	In–class written work	30	
	Final presentations	30	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

ivandiazsancho@hotmail.com (write your name and “Advanced Studies in English F” in the subject box)

授業テーマ:

Japanese and Western Theatre

授業の概要:

In this course we will analyse and consider the development of theatrical traditions in both Japanese and Western cultural contexts. We will make appropriate comparisons and contrasts to illuminate understanding of both. Topics that will be covered will be the tragic forms of Greek tragedy and Japanese noh-gaku, the comical forms of Italian commedia dell'arte and kyogen, mixed genre performance of Shakespeare and kabuki, as well as such considerations as transgender performance, meta-theatrical themes and intercultural influences.

到達目標:

1. To deepen understanding of the art of theatrical performance and the art of the performer.
2. To gain awareness of similarities and differences between Western and Japanese traditions of art and culture.
3. To develop academic language proficiency.

授業方法:

Students will listen to lectures and take notes. They will also watch representative examples of great plays and theatrical traditions and evaluate the skill of the actor and director. They must also prepare for and review class activities. Finally they must prepare a presentation based on their own observations of a performance.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction and orientation. From ceremony to theatre: Greek tragedy I	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
2.	Greek tragedy II (Oedipus the King)	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
3.	Ninagawa Yukio's production of Oedipus the King	Write report
4.	The evolution of noh-gaku I	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
5.	The evolution of noh-gaku II	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
6.	Comparison of tragic traditions. Quiz	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
7.	The evolution of Western Comedy: from Greece to Commedia dell'Arte	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
8.	The evolution of Western Comedy II	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
9.	The art of kyogen I	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
10.	The art of kyogen II Quiz	Write presentation
11.	Presentations	Prepare for next topic.
12.	Mixed genre performance I: Shakespeare and kabuki	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
13.	Mixed genre performance II: Shakespeare and kabuki	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
14.	Mixed genre performance III: Shakespeare and kabuki. Quiz	Extend topic with extra reading or viewing. Review class material.
15.	Review and conclusions	

受講者へのメッセージやアドバイス:

We cover quite a lot of material so you really need to attend, pay attention, review and keep up.

フィードバックの方法:

1. Participation: Oral comments and a mid-term and final participation grade.
2. Homework and Presentation: Individual written feedback
3. Quizzes: returned in class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Participation	25	Attentive concentration during lectures and viewings and active participation in communicative class activities
	Presentation	20	Appropriate length /Comprehensible and appropriate content / Communicativeness
	Homework	25	Completing assignments as asked
	Quizzes	30	Recall of material covered in class.

教科書:

None

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	Cultural analysis of communication
授業の概要:	This course will give you a good opportunity to explore some aspects of intercultural communication and enhance your ideas about "communication". Knowing about cultural variety and different cultural communication styles will help you to polish your tactics to survive in this "multicultural world".
到達目標:	The main purpose of this course is to understand the basic ideas of intercultural communication and to analyze various communicative aspects of people who have different cultural backgrounds
授業方法:	Classes will consist of short lectures and two kinds of class activities: (1) student presentations and quizzes on the topics of the reading assignments (2) discussion of each topic You will be required to apply what you find in the reading assignments to your experience in order to deepen your understanding of each topic. In addition to this, you should collect enough materials for your research project. The class will be conducted mainly in English but some parts of the class sessions may be done in Japanese. Please feel free to use both languages in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction and orientation	reading assignment on the handout
	2. The basic concepts of culture and communication: What is culture?(1)	reading assignment on the handout
	3. The basic concepts of culture and communication: What is culture?(2)	reading assignment on the handout
	4. The basic concepts of culture and communication: What is communication?(1)	reading assignment on the handout
	5. The basic concepts of intercultural communication: What is communication? (2)	reading assignment on the handout
	6. The basic concepts of intercultural/crosscultural communication: What is intercultural communication?	reading assignment on the handout
	7. The basic concepts of intercultural/crosscultural communication: What is crosscultural communication?	reading assignment on the handout
	8. Review and discussion	reading assignment on the handout
	9. How culture affects on communication(1)	reading assignment on the handout
	10. How culture affects on communication(2)	reading assignment on the handout
	11. How culture affects on communication(3)	preparation for your presentation and paper
	12. Review and discussion	preparation for your presentation and paper
	13. Pre-session for your research	preparation for your presentation and paper
	14. Presentation day	preparation for your presentation and paper
	15. Presentation day and review	preparation for your presentation and paper

受講者へのメッセージやアドバイス:	To be well-prepared for class: For reading assignments *read well (use English-English Dictionaries) *think about how you will explain what you read in class *research each topic on the Internet and in the library, if it is required For your research project *use many resources to support your project and also use examples from experiences

フィードバックの方法:	All work to be submitted will be returned with comments.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Active participation	20%	Class participation and class reflections
	Reading assignments	30%	Quizzes on reading assignments
	Term paper and presentation	50%	Presentation 10% and a short paper 40% on your research

教科書:	No textbook is required. Handouts will be provided in class.

参考書:	To be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:	jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ: Culture and communication

授業の概要: Through reading articles and papers on cultural and social aspects of communication styles, you have a good opportunity to enhance your knowledge about cultural differences, especially gender differences in communication. Also, this course examines the impact of globalization on our culture and communication styles. By discussing these topics in class, you can deepen and broaden your understanding of communication and this helps you to understand human interactions in this multicultural world.

到達目標: The purpose of this course is to familiarize you with some central concepts in interpersonal communication and explore social and cultural influences on communication.

授業方法: Classes will consist of short lectures and two kinds of class activities:

- (1) student presentations and quizzes on the topics of the reading assignments
(2) discussion of each topic

You will be required to apply what you find in the reading assignments to your experience to deepen your understanding of each topic. In addition to this, you should collect enough materials for your research projects.

The class will be conducted mainly in English but some parts of the class sessions may be done in Japanese. Please feel free to use both languages in class.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Introduction and orientation to this course	reading assignments on the hondout
2. Cultural aspects of interpersonal communication: verbal and non-verbal differences(1)	reading assignments on the hondout
3. Cultural aspects of interpersonal communication: verbal and non-verbal differences(2)	reading assignments on the hondout
4. Cultural aspects of interpersonal communication: cultural identity	reading assignments on the hondout
5. Social aspects of intercultural communication: socio-cultural knowledge on conversation	reading assignments on the hondout
6. Social aspects of intercultural communication: social regulations	reading assignments on the hondout
7. Review and discussion	reading assignments on the hondout
8. Pre-session for your research project	reading assignments on the hondout
9. Global influence on communication: Information Technology (1)	reading assignments on the hondout
10. Global influence on communication: Information Technology (2)	reading assignments on the hondout
11. Global influence on communication: cultural products	reading assignments on the hondout
12. Gender differences in interpersonal communication (1)	reading assignments on the hondout
13. Gender differences in interpersonal communication (2)	preparation for your reserach project
14. Presentation day	preparation for your reserach project
15. Presentation day and review	preparation for your reserach project

受講者への
メッセージや
アドバイス:

To be well prepared for class:
For reading assignments
•read well (use English-English Dictionaries)
•think about how you will explain what you read in class
•research each topic on the Internet and in the library, if it is required
For your research project
•use many resources to support your project and use examples from experiences

フィードバックの
方法:

All work to be submitted will be returned with coments.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20%	Active class participation and class reflections
Reading assignments	30%	Quizes on reading assignments
Term paper and presentation	50%	Presentation 10% and a short paper 40% on your reseacrh

教科書: No textbook is required. Handouts will be provided in class.

参考書: To be announced in class.

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	The relationship between humanity and technology		
授業の概要:	The topics in Humanity and Technology explore the relationship between humanity and technology. Students are encouraged to think seriously about the benefits and dangers of technology for humanity and for their own lives.		
到達目標:	Each unit explores the role of technology in different areas of life. The course aims to help students to improve their skills in listening, speaking, reading, writing, presentation and critical thinking. The course is designed to help students to become more independent learners. The focus will be on enabling the students to develop: a/ analytical ability through development of research skills, b/ thinking power, i.e. deeper understanding of mass communication and media, and c/ presentation skills by expressing one's opinion logically and persuasively.		
授業方法:	Classes would include: topic introduction based on the textbook/teacher's handouts; comprehension and listening exercises; language focus and topic debates. Students will get plenty of time to explore language and themes in some detail through pair and group discussion, which will be shared and reported to the whole class.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. Introduction to the course		students conducting online research on individual topics
	2. History of Science and Technology, part 1		students conducting online research on individual topics
	3. History of Science and Technology, part 2		students conducting online research on individual topics
	4. Communication, part 1		students conducting online research on individual topics
	5. Communication, part 2		students conducting online research on individual topics
	6. Robots and Artificial Intelligence, part 1		students conducting online research on individual topics
	7. Robots and Artificial Intelligence, part 2		preparation for presentation
	8. Presentation		students conducting online research on individual topics
	9. The Internet, part 1		students conducting online research on individual topics
	10. The Internet, part 2		students conducting online research on individual topics
	11. The Media, part 1		students conducting online research on individual topics
	12. The Media, part 2		students conducting online research on individual topics
	13. The Future, part 1		students conducting online research on individual topics
	14. The Future, part 2		preparation for presentation
	15. Presentation and Course Review		n/a
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	The out-of-class learning and preparation will consist of students conducting online research on individual topics. All the reference sources should be clearly cited. Following the research, students will be required to produce essays in written form which will in turn serve as a springboard for further in-class discussion, comments and exchange of ideas. Students will also be required to do two presentations based on their individual research.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	in-class participation and attendance	40	continuous in-class assessment
	quizzes/presentations	30	continuous in-class assessment
	research & homework	30	continuous in-class assessment
教科書:	Author: Brian Cullen Title: 'Humanity and Technology' Student Book ISBN: 9784900689589 Publisher: Intercom Press		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、		
教員との連絡方法:	cacti@live.co.uk		

授業テーマ:

イギリス文化の諸相

授業の概要:

イギリスの文学を読むにせよ、芸術を鑑賞するにせよ、また将来旅行者としてイギリスを訪ねたり、あるいは仕事で滞在したりするにせよ、イギリスの文化に対する理解をもって臨むことの利点には計り知れないものがあります。
以上のような観点から、この講義ではイギリスの文化や歴史それにイギリスの人々の生活に至るまで、イギリス文化の様々な面について毎回異なるトピックについて授業を行う予定です。

到達目標:

皆さんはすでにイギリスの文化について個別的な事柄についてはある程度の知識を持っていると思いますが、この講義ではそれらの知識を統合し深め、イギリスの文学や芸術を社会的・歴史的背景を踏まえたうえで鑑賞できるようになることを目標とします。

授業方法:

この授業に参加する皆さんは、必ず教科書の指示された範囲を事前に読んで出席してください。受講者の人数にもよりますが、授業は可能な限り教員と学生との対話を通じて内容の理解を深める方法で行う予定です。また、毎回レジュメや資料を配布する予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	教科書の第1章を読んでおくこと
2.	イギリスと日本	教科書の第2章・第64章・第65章を読んでおくこと
3.	イギリスはEnglandか	教科書の第3章・第4章を読んでおくこと
4.	英語史概観	教科書の第5章・第6章・第15章を読んでおくこと
5.	アングリカンチャーチと宗教改革	教科書の第9章・第10章・第11章・第37章を読んでおくこと
6.	ロンドンの諸相	教科書の第16章・第17章・第18章を読んでおくこと
7.	カントリー・ハウスとイギリス庭園	教科書の第18章・第19章・第23章・第25章・第26章・第28章・第29章・第30章を読んでおくこと
8.	イギリスの暮らし	教科書の第13章・第45章を読んでおくこと
9.	鉄道とイギリス人の旅	教科書の第53章を読んでおくこと
10.	子供の発見と児童文学	教科書の第34章・第35章・第36章・第59章を読んでおくこと
11.	イギリスの教育	教科書の第46章・第47章・第60章・第61章を読んでおくこと
12.	女性たちの大英帝国	教科書の第62章・第63章を読んでおくこと
13.	イギリスの演劇	教科書の第48章・第49章を読んでおくこと
14.	コーヒー・ハウスとジャーナリズムの発達	講義のまとめとレポートについて指導しますので、各自自分のレポートのテーマを決めて出席すること。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

準備学習として示した教科書の各章については、必ずよんで出席してください。また、毎回配布されるレジュメや最初の時間に配布する予定の参考文献リストの中の必要な文献は必ず読んでください。学期末のレポート作成時に必要になってきます。

フィードバックの方法:

受講者との間でやり取りをし理解を確認しながら授業を進める予定です。確認の内容は、前回の授業の内容およびイギリス史や英文学史の基本的な知識です。また、簡単な質問について教室にて書いてもらい提出を求める場合もあります。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加度	20	毎回トピックが異なりますので出席は重要ですが、実習や就職活動については、事後に届け出てください。
	予習	10	事前に指定された教科書の箇所を読んでいるか否かを確認します。
	期末レポート	70	指示された文献を読んで作成されたレポートであるか否かが重要なポイントとなります。

教科書:

近藤久雄・細川祐子・阿部美春共著『イギリスを知るための65章(第2版)』明石書店

参考書:

最初の授業で文献リストを配布します。また必要に応じて教室で指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、変化対応力、自己管理能力。

教員との連絡方法:

木曜日2講時目をオフィスアワーとして講師室等で対応します。

授業テーマ:	勃興期のイギリス小説を読む		
授業の概要:	英語で小説を意味するNovelという言葉は、語源的には「新しきもの」を意味します。イギリスでは18世紀初頭に日本でもよく知られている『ロビンソン・クルーソー』や『ガリヴァー旅行記』といった本格的な小説が登場しました。 この講義では、まず小説が登場するまでの英文学史を概観し、次にイギリスに近代小説が登場した18世紀の時代や社会の背景を理解し、その後デフォー、スウィフト、リチャードソン、フィールディングといった当時を代表する作家たちの作品を日本語訳で読みます。		
到達目標:	この講義では、イギリスに近代小説が登場した時代や社会の背景を理解し、具体的にデフォー、スウィフト、リチャードソン、フィールディングといった当時を代表する作家たちの作品の一端に触れてみることを目標とします。つまりデフォー作『ロビンソン・クルーソー』やスウィフト作『ガリヴァー旅行記』などの勃興期のイギリス小説の問題意識や特徴をその時代背景とともに理解することが目標です。		
授業方法:	第4週目までは、主として講義形式で歴史的背景や社会的背景を説明します。 5週目からは、配布資料によってこうした作者たちの作品からの抜粋を読んでゆきます。とりわけ第5週目以降は予習が大切になります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 17世紀から18世紀にかけてのイギリス歴史概観(1)	今までに学習したエリザベス朝以降のイギリス史ないしは英文学史について復習をしておくこと。	
	2. 17世紀から18世紀にかけてのイギリス歴史概観(2)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	3. 18世紀イギリス社会(1)、(ロンドンを中心に)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	4. 18世紀イギリス社会(2)、(画家ホガースの作品を中心に)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	5. デフォーとその作品(1)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	6. デフォーとその作品(2)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	7. スウィフトとその作品(1)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	8. スウィフトとその作品(2)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	9. スウィフトとその作品(3)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	10. リチャードソンとその作品(1)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	11. リチャードソンとその作品(2)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	12. フィールディングとその作品(1)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	13. フィールディングとその作品(2)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	14. フィールディングとその作品(3)	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。	
	15. 総括	レポート作成の指導を行うので、授業で取り上げた作品の一つを読み、レポートのテーマとする作品を決めておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	最初の4週間の講義の間に、指定された作品の中からひとつを選んで読み始めてください。できれば12～13週目までには作品を見終えていることが望ましいと思います。		
フィードバックの方法:	授業は可能な限りインタラクティブに行います。したがって授業では質問をし理解を確認しながら進めます。		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	20	毎回資料を配布しますので、出席は重視します。研修や就職活動で欠席の場合は必ず報告してください。配慮します。
	授業への参加度	10	配布した資料読んで出席しているか否かを確認します。
	期末レポート	70	指示通りに書かれているか。自分なりの個性や創造性が発揮されているかを評価します。
教科書:	特に教科書は使用しませんが、作品の日本語訳を随時教室で配布し、それを教科書として使用します。		
参考書:	必要に応じて教室で指示します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力		
教員との連絡方法:	木曜日の2講時目をオフィスアワーとして講師室等で対応します。		

授業テーマ:	ミュージカルの源流を探る		
授業の概要:	いまや世界中の人々に親しまれているミュージカルは、アメリカ文化を代表する一つの演劇形式である。それぞれのミュージカル作品はもちろんのこと、様々な要素を取り込みながらミュージカルが発展していく過程そのものに、さらには観客の反応に、アメリカ社会の理想や矛盾、アメリカ人の考え方や価値観を読み取ることができる。 ミュージカルの源流を、まずはオペラやオペレッタなどヨーロッパの音楽劇に、そして、 minstrel・show、ヴォードヴィル、レビューなど、19世紀後半から20世紀初頭にかけて急速に発達したアメリカの大衆文化に探る。ミュージカルの歴史を振り返ることによって、ミュージカルについての理解を深め、ひいてはアメリカ社会、アメリカ文化についての視野を広める。		
到達目標:	1 様々なジャンルから様々な要素を吸収しながら、ミュージカルが発展してきたことを理解する。 2 ミュージカルを通じて、アメリカ社会、アメリカ文化に対する理解を深める。 3 それぞれのジャンルの内容や特徴、上演形態の変遷、評価や影響等を理解する。 4 授業で扱う作品、その他の資料についてよく検討し、自分の意見をまとめ、それを表現する。		
授業方法:	CD、写真、映像資料、プログラム、劇評、研究論文などを使用する講義を中心に授業を進めるが、質問、意見の発表、意見交換など、受講生の授業への積極的な参加が求められる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション: 19世紀後半から20世紀初頭におけるアメリカ大衆文化の発達を概観する。		
	2. オペラについて	授業で取り上げるオペラ作品『ラ・ボエーム』(DVD)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問to等を整理しておく。	
	3. オペレッタについて	授業で取り上げるオペレッタ作品『メリー・ウイドウ』(DVD)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。	
	4. ミンストレル・ショーについて ①	ミンストレル・ショーやブラック・フェイスが再現されている映画『ジャズ・シンガー』『ジョルスン物語』を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。	
	5. ミンストレル・ショーについて ②		
	6. ミンストレル・ショーについて ③	他のジャンルと比較し、共通点や相違点を整理しておく。	
	7. ヴォードヴィルについて ①		
	8. ヴォードヴィルについて ②		
	9. ヴォードヴィルについて ③	他のジャンルと比較し、共通点や相違点を整理しておく。	
	10. レヴューについて ①	ヴォードヴィル、レヴューが再現されている映画『ブロードウェイ・メロディー』を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。	
	11. レヴューについて ②	他のジャンルと比較し、共通点や相違点を整理しておく。	
	12. 初期のミュージカル ①: 『ブラック・クルック』(1866年)から『リトル・ジョニー・ジョーンズ』(1904年)まで	映画『オズの魔法使い』、ジョージ・コーハンの伝記映画『ヤンキー・ドゥードル・ダンディ』を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。	
	13. 初期のミュージカル ②: 『サリー』(1920年)について		
	14. ミュージカル形式の確立: 『ショウボート』(1927年)について	映画『ショウボート』を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	ミュージカルの歴史に関する理解度により評価する。
	レポート	30	課題6作品(第1週目にリストを配布する)について、自分の意見を持ち、それを表現できるかを評価する。
	授業への参加度	20	授業中の活発な質問や意見の発表、および授業後のコメントペーパーの提出を求める。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

ミュージカルに見るアメリカ

授業の概要:

いまや世界中の人々に親しまれているミュージカルは、アメリカ文化を代表する一つの演劇形式である。ミュージカルの傑作を年代順にとりあげ、それぞれの作品を楽しみながら丁寧に読み解き、作品のなかに浮かび上がってくるアメリカ社会の理想や矛盾、人種や階級、ジェンダーをめぐる問題などについて考える。いずれの作品も、ミュージカルの可能性を開き、ミュージカルの歴史をぬりかえることになった重要な作品である。

到達目標:

1 それぞれの作品の脚本、歌詞を丁寧に読み、音楽をよく聞き、作品の理解を深める。
2 それぞれの作品の背景をよく知り、アメリカ社会、アメリカ文化についての考察を深める。
3 作品と作品との関係を考察する。
4 それぞれの作品について、自分なりの分析、解釈を試み、自分の言葉でそれを表現する。

授業方法:

脚本や歌詞、CD、写真、映像資料、原作の小説や劇、研究論文、劇評などを使用する講義を中心に授業を進めるが、質問、意見の発表、意見交換など、受講生の授業への積極的な参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	『ショウボート』(1927年)について ①	映画『ショウボート』(1936年)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
3.	『ショウボート』(1927年)について ②	『ショウボート』の重要場面の脚本、歌詞をよく読んでおく。
4.	『オクラホマ! 』(1943年)について ①	映画『オクラホマ! 』(1955年、1999年)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
5.	『オクラホマ! 』(1943年)について ②	『オクラホマ! 』(1943年)の重要場面の脚本、歌詞をよく読んでおく。
6.	『オクラホマ! 』(1943年)について ③	
7.	『マイ・フェア・レディー』(1956年)について ①	映画『マイ・フェア・レディー』(1964年)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
8.	『マイ・フェア・レディー』(1956年)について ②	『マイ・フェア・レディー』(1956年)の重要場面の脚本、歌詞をよく読んでおく。
9.	『マイ・フェア・レディー』(1956年)について ③	
10.	『ウェスト・サイド物語』(1957年)について ①	映画『ウェスト・サイド物語』(1961年)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
11.	『ウェスト・サイド物語』(1957年)について ②	『ウェスト・サイド物語』(1957年)の重要場面の脚本、歌詞をよく読んでおく。
12.	『ウェスト・サイド物語』(1957年)について ③	
13.	『雨に唄えば』(1952年)について ①	『雨に唄えば』(1952年)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
14.	『雨に唄えば』(1952年)について ②	『雨に唄えば』(1952年)の重要場面の脚本、歌詞をよく読んでおく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	ミュージカル作品の変遷、それぞれの作品の背景、内容に関する理解度により評価する。
	レポート	30	課題5作品(第1週目にリストを配布する)について、自分なりの意見を持ち、それを表現できるかを評価する。
	授業への参加度	20	授業中の活発な質問や意見の発表、および授業後のコメントペーパーの提出を求める。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

グローバル社会における異文化理解

授業の概要:

グローバリゼーションが進む現代において、異文化理解の重要性は大きくなっているが、本講は異文化理解に関連する概念の数々と背景を学び、グローバル社会の中の「自己」「自文化」「他者」「異文化」をいかに規定するかを検討する。

到達目標:

「比較文化」「比較文学」という手法を通して異文化理解実現に必要な多様な課題を具体的な事例に基づいて考察し(各種文献、文学作品、音楽、映画、美術等多様な教材を使用する)、現代のあらゆる社会・文化現象への自分の判断基準を確立し、学際的方法で多角的に理解できる事を目的とする。(できるかぎり後期の「比較文化・文学研究B」と通年で取ることが望ましい。)

授業方法:

講義が中心であるが、映画、音楽、各種美術、等多様な教材を使用し、各論題に関する議論も適宜行う。英語文献も使用するので英和辞書を持参すること。(受講生の人数や関心に応じ、授業内容を若干変更する可能性がある。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	予習として配布する教材プリントを読んでおくこと。
	2. 文化の定義(1)	講義内容を復習しておくこと。
	3. 文化の定義(2)	予習として配布する教材プリントを読んでおくこと。
	4. 比較文化の定義と意義(1)	講義内容を復習しておくこと。
	5. 比較文化の定義と意義(2)	予習として配布する教材プリントを読んでおくこと。
	6. 異文化理解―「自」と「他」の間にあるもの(1)	講義内容を復習しておくこと。
	7. 異文化理解―「自」と「他」の間にあるもの(2)	予習として配布する教材プリントを読んでおくこと。
	8. エスノセントリズムと文化相対主義(1)	講義内容を復習しておくこと。
	9. エスノセントリズムと文化相対主義(2)	講義内容を復習しておくこと。
	10. 比較文学の定義と意義(1)	講義内容を復習しておくこと。
	11. 比較文学の定義と意義(2)	予習として配布する教材プリントを読んでおくこと。
	12. 「グローバリゼーション」の定義	講義内容を復習しておくこと。
	13. グローバル時代の比較文学(1)	講義内容を復習しておくこと。
	14. グローバル時代の比較文学(2)	講義内容を復習しておくこと。
	15. 総括	講義内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ペーパー(各種テキスト読解あるいは講義内容学習後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント)、質問へのフィードバックは基本的に教室でまとめて解説する

返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	30%	出席状況(出席と授業への参加。原則として単位取得には全講義数の三分の二以上の出席が必要)授業中の活動(各種読解演習、議論やグループワークへの参加、意見の発表等))
	レポート	70%	各種テキスト読解後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント、期末レポート試験は講義の理解度、考察の深さと多角性、そして意見表明の論理性と説得力を問う。*レポート試験は学期末に一回提出とする。

教科書:

プリント教材を授業中に配布するが、授業では、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用する。

参考書:

授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

Email (授業中に指示する)

授業テーマ:

グローバル社会における異文化理解

授業の概要:

グローバリゼーションが進む現代において、異文化理解の重要性は大きくなっているが、本講は異文化理解に関連する概念の数々と背景を学び、グローバル社会の中の「自己」「自文化」「他者」「異文化」をいかに規定するかを検討する。

到達目標:

「比較文学」「比較文化」という手法を通して異文化理解実現に必要な多様な課題を具体的な事例(各種文献、文学作品、音楽、映画、美術)に基づいて考察し、現代のあらゆる社会・文化現象への自分の判断基準を確立し、学際的方法で多角的に理解できることを目的とする。(できる限り前期の「比較文化・文学研究A」と通年で取ることが望ましい。)

授業方法:

講義が中心であるが、映画、音楽、各種美術、等多様な教材を使用し、各論題に関する考察と議論も適宜行う。英語文献も使用するので英和辞書を持参すること。(受講生の人数や関心に応じ、授業内容を若干変更する可能性がある。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	予習として配布するプリント教材を読んでおくこと。
	2. グローバル時代の異文化理解に必要なもの(1)「国際化」と「グローバリゼーション」	講義内容を復習しておくこと。
	3. グローバル時代の異文化理解に必要なもの(2)文化の多様性とアイデンティティ	予習として配布するプリント教材を読んでおくこと。
	4. 文化の接触と対立と統合(1)	講義内容を復習しておくこと。
	5. 文化の接触と対立と統合(2)	予習として配布するプリント教材を読んでおくこと。
	6. オリエンタリズム(1)	講義内容を復習しておくこと。
	7. オリエンタリズム(2)	予習として配布するプリント教材を読んでおくこと。
	8. ポストコロニアリズム(1)	講義内容を復習しておくこと。
	9. ポストコロニアリズム(2)	講義内容を復習しておくこと。
	10. 異文化体験―相手の視点を理解する―(1)	講義内容を復習しておくこと。
	11. 異文化体験―相手の視点を理解する―(2)	予習として配布するプリント教材を読んでおくこと。
	12. 比較文学と異文化理解(1)	講義内容を復習しておくこと。
	13. 比較文学と異文化理解(2)	講義内容を復習しておくこと。
	14. 比較文学と異文化理解(3)	講義内容を復習しておくこと。
	15. 総括	講義内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ペーパー(各種テキスト読解あるいは講義内容学習後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント)、質問へのフィードバックは基本的に教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:	返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。	
	評価方法	割合
	平常点	30%
	レポート	70%
		出席状況(出席と授業への参加。原則として単位取得には全講義数の三分の二以上の出席が必要)授業中の活動(各種読解演習、議論やグループワークへの参加、意見の発表等)
		各種テキスト読解後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント、期末レポート試験は講義の理解度、考察の深さと多角性、そして意見表明の論理性と説得力を問う。*レポート試験は学期末に一回提出とする。

教科書:

プリント教材を授業中に配布するが、授業では、映画、音楽、各種美術など多様な教材を使用する。

参考書:

授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

Email(授業中に指示する)

授業テーマ:	TOEIC(R)Listening & Reading テスト800点以上取得および実用的な英語運用能力の向上		
授業の概要:	TOEIC(R)Listening & Reading テスト800点以上を目指す学生を対象に、必要とされる総合的な英語力を身につけることを目標とする。単なるTOEICの試験対策にとどまらず、高度な英語運用能力を獲得するために必要な語彙、文法、読解力、リスニング力を身につけることを目標とし、より実践的なコミュニケーション能力の育成を目指す。受講に際してはスコア600点程度 を取得していることが望ましい。		
到達目標:	・TOEIC (R) Listening & Reading テスト及びTOEIC IPに頻出する単語を習得すること。 ・TOEIC(R) Listening & Reading テスト及びTOEIC IP の出題形式に慣れ、時間内に問題を解けるようになること。 ・正解不正解の理由を説明できるようになること。 ・試験問題(新形式、IP共に)を見たときに、問われている文法項目の種類と出題意図を特定できること。		
授業方法:	演習形式 リスニング力に結びつく形式での単語テストを毎回実施する。授業ではテキストに沿って各パートを解くためのストラテジーを学び、実践問題を解く。問題を解くだけでなくペアワークも適宜取り入れる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Course Introduction TOEIC(R) Listening & Reading Test / IP Overview, Practice Test (Listening Section)	Vocabulary Quizの準備 Practice Test Listening Sectionの復習	
	2. Vocabulary Quiz Unit 1, Unit 8 Practice Test 1 (Listening Section)	Vocabulary Quizの準備 Practice Test Listening Sectionの復習 Unit 2, Unit 9 指定箇所	
	3. Vocabulary Quiz Unit 2, Unit 9 Practice Test 1 (Listening Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 3 指定箇所	
	4. Vocabulary Quiz Unit 3 Practice Test 1 (Listening Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 10 指定箇所	
	5. Vocabulary Quiz Unit 10 Practice Test 1 (Listening Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 4, Unit 11 指定箇所	
	6. Vocabulary Quiz Unit 4, Unit 11	Vocabulary Quizの準備	
	7. Vocabulary Quiz Unit 11	Vocabulary Quizの準備	
	8. Vocabulary Quiz Practice Test 1 (Reading Section)	Vocabulary Quizの準備 Practice Test 1 (Reading Section復習) Unit 5, Unit 12 指定箇所	
	9. Vocabulary Quiz Unit 5, Unit 12 PracticeTest 1 (Reading Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 6 指定箇所	
	10. Vocabulary Quiz Unit 6	Vocabulary Quizの準備 Unit 13 指定箇所	
	11. Vocabulary Quiz Unit 13	Vocabulary Quizの準備 Unit 7 指定箇所	
	12. Vocabulary Quiz Unit 7	Vocabulary Quizの準備 Unit 14 指定箇所	
	13. Vocabulary Quiz, Unit 14	Vocabulary Quizの準備	
	14. Vocabulary Quiz Practice Test 1 (Reading Section)	Vocabulary Quizの準備 これまでの復習	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	・毎回の授業は予習・復習を前提として進めるので、800点突破のために相当の準備をすること。 ・授業では様々な教材や自習の仕方を掲示するので、継続して自主学習をすること。 ・ペアワークも多く行うため積極的な参加すること。 注) 教科書はCD付属のフルセットの物を購入し、初回授業に持参のこと。		
フィードバックの方法:	毎回のVocabulary Quiz(単語テスト)は授業中に答え合わせの後、提出。 コメントペーパーの内容については、教室でまとめてコメントする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	60	出席、授業参加、単語テスト
	定期試験	40	問われている文法項目の種類と出題意図を特定し時間内に問題が解けるかにより評価する。
教科書:	Grant Trew Tactics for TOEIC Listening and Reading Test Oxford (CD付きフルセットの物) ロバート・ヒルキ, 小石裕子, ヒロ前田, ポール・ワーデン 新TOEICテストスーパー単語 アルク		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール		

授業テーマ:

TOEIC(R)Listening & Reading テスト800点以上取得および実用的な英語運用能力の向上

授業の概要:

TOEIC(R)Listening & Reading テスト800点以上を目指す学生を対象に、必要とされる総合的な英語力を身につけることを目標とする。単なるTOEICの試験対策にとどまらず、高度な英語運用能力を獲得するために必要な語彙、文法、読解力、リスニング力を身につけることを目標とし、より実践的なコミュニケーション能力の育成を目指す。受講に際してはスコア600点程度 を取得していること、さらにTOEIC 800 I を履修していることが望ましい。

到達目標:

- ・TOEIC (R) Listening & Reading テスト及びTOEIC IPに頻出する単語を習得すること。
- ・TOEIC(R) Listening & Reading テスト及びTOEIC IP の出題形式に慣れ、時間内に問題を解けるようになること。
- ・正解不正解の理由を説明できるようになること。
- ・試験問題(新形式、IP共に)を見たときに、問われている文法項目の種類と出題意図を特定できること。
- ・ビジネス文書や通知、広告などを読み、時間内に内容を把握して必要な情報を得ることができるようになること。
- ・TOEIC(R) Listening & Reading テスト及びTOEIC IP頻出の表現を習得し、実際の場面で使えるコミュニケーション能力を養う。

授業方法:

演習形式
リスニング力に結びつく形式での単語テストを毎回実施する。授業ではテキストに沿って各パートを解くためのストラテジーを学び、実践問題を解く。問題を解くだけでなくペアワークも適宜取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Unit 15 / Listening Section Review	Vocabulary Quizの準備
	2. Vocabulary Quiz Practice Test 2 (Listening Section)	Vocabulary Quizの準備 Practice Test 2 Listening Sectionの復習 Unit 16 指定箇所
	3. Vocabulary Quiz Unit 16 Practice Test 2 (Listening Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 17 指定箇所
	4. Vocabulary Quiz Unit 17 Practice Test 2 (Listening Section) 解説	Vocabulary Quizの準備
	5. Vocabulary Quiz Practice Test 2 (Reading Section)	Vocabulary Quizの準備 Unit 19 指定箇所
	6. Vocabulary Quiz Unit 19 Practice Test 2 (Reading Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 20 指定箇所
	7. Vocabulary Quiz Unit 20 Practice Test 2 (Reading Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 18 指定箇所
	8. Vocabulary Quiz Unit 18 Practice Test 2 (Reading Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Practice Test 1 (Reading Section復習) Unit 21 指定箇所
	9. Vocabulary Quiz Unit 21 Practice Test 2 (Reading Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 22, Unit 28 指定箇所
	10. Vocabulary Quiz Unit 22, Unit 28	Vocabulary Quizの準備 Unit 23 指定箇所
	11. Vocabulary Quiz Unit 23, Unit 28	Vocabulary Quizの準備 Unit 24, Unit 26 指定箇所
	12. Vocabulary Quiz Unit 24, Unit 26	Vocabulary Quizの準備 Unit 25 指定箇所
	13. Vocabulary Quiz, Unit 25, Unit 26	Vocabulary Quizの準備 Unit 27 指定箇所
	14. Vocabulary Quiz Unit 27	Vocabulary Quizの準備 これまでの復習
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

- ・毎回の授業は予習・復習を前提として進めるので、800点突破のために相当の準備をすること。
- ・授業では様々な教材や自習の仕方を掲示するので、継続して自主学習をすること。
- ・ペアワークも多く行うため積極的な参加すること。

注) 教科書はCD付属のフルセットの物を購入し、初回授業に持参のこと。

フィードバックの方法:

毎回のVocabulary Quiz(単語テスト)は授業中に答え合わせの後、提出。コメントペーパーの内容については、教室でまとめてコメントする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	60	出席、授業参加、単語テスト 問われている文法項目の種類と出題意図を特定し時間内に問題が解けるか、また、場面に応じた適切な表現の理解度により評価する。
	定期試験	40	

教科書:

Grant Trew
Tactics for TOEIC Listening and Reading Test
Oxford
(CD付きフルセットの物)
ロバート・ヒルキ, 小石裕子, ヒロ前田, ポール・ワーデン
新TOEICテストスーパー単語
アルク

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール

授業テーマ:

学習モデル・キャリアモデルのある大学生生活を送ろう！

授業の概要:

(1)英語英文学科では、文学・文化・言語・コミュニケーションと4領域の学習ができるなど、科目選択の幅も広い。1年次の早い段階から、大学卒業後をイメージしながら、自分自身の「学習・キャリアモデル」を構築できるようにする。
(2)大学卒業後の職業選択はどのような可能性があるのか、具体的職業の例をもとに考える。

到達目標:

コース終了時には、2回生以降どのような科目を履修するか、自身の「学習モデル」(短期目標)及び将来の職業選択を含めた卒業後の「キャリアモデル」(長期目標)を持つことが出来るようにする。

授業方法:

(1)3名の教員がリレー形式で、それぞれ3回ずつ分担して担当。
(2)授業の方法は3名の教員により、講義、ビデオ利用、ハンドアウトの配付、イメージが湧くよう効果的かつ多様な方法を取る。
(3)ゲストスピーカーを最大3名招聘し、多様な職業選択について考える機会を持つ。
(4)できる限り、1年次の他の科目との連携を図る。
※この授業は学内に公開されているため、他の教員・学生が参加する場合があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	授業への期待を考える
	2. 大学での学び(1) 大学で学ぶことの意味とは、英語英文学科の授業料は高い？ 人生の三大選択、卒業後を意識した学習モデル	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	3. 大学での学び(2) 大学で学ぶことの意味とは、英語英文学科の授業料は高い？ 人生の三大選択、卒業後を意識した学習モデル	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	4. 大学での学び(3) 大学で学ぶことの意味とは、英語英文学科の授業料は高い？ 人生の三大選択、卒業後を意識した学習モデル	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	5. 英語教育への道(1) (小中高英語教員、児童英語教師、塾、予備校、教育系企業への就職)、日本語教師への道(オーストラリア、ATJ、日本国内で、副専攻プログラム)	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	6. 英語教育への道(2) (小中高英語教員、児童英語教師、塾、予備校、教育系企業への就職)、日本語教師への道(オーストラリア、ATJ、日本国内で、副専攻プログラム)	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	7. 英語教育への道(3) (小中高英語教員、児童英語教師、塾、予備校、教育系企業への就職)、日本語教師への道(オーストラリア、ATJ、日本国内で、副専攻プログラム)	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	8. 研究者の道(1) : 国内外大学院進学、研究者、生涯学習としての英語の学び、海外で働く	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	9. 研究者の道(2) : 国内外大学院進学、研究者、生涯学習としての英語の学び、海外で働く	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	10. 研究者の道(3) : 国内外大学院進学、研究者、生涯学習としての英語の学び、海外で働く	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	11. 英語のプロへの道: 通訳	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	12. 企業で働く(メーカー)	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	13. 企業で働く(航空業界)	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	14. まとめ(1)	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
	15. まとめ(2)	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:

遅刻厳禁、ミニレポート期限厳守です(1秒でも遅れたら受理しない)。

フィードバックの方法:

まなばで提出されたレポートについては評価をつけてフィードバックします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ミニレポート	100	到達目標に鑑み、理解度と自分自身の考えがどれくらい明確に述べられているかを基準に評価します。

教科書:

教科書は使いません。

参考書:

授業中に提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

授業テーマ: アントレプレナーシップ実践

授業の概要: 授業では、まず、科学技術の発展や急激な情報化・国際化の進展により、変わりゆく人々の働き方・職業の在り方や必要となる技能・資質について理解し、自分自身の今後のキャリア選択や習得すべき能力について考えます。その上で、5名程度のチームに分かれて、各自が興味ある職域分野での課題解決をテーマにミニプロジェクト(企業運営)を実践し、実際に商品開発、イベントやワークショップ開催などのアイデアを形にすることで、仕事のプロセスを体験します。ミニプロジェクトでは、設定したテーマについての情報収集、課題分析、事業計画書の立案、収支計画、企画のプレゼン、協力者との交渉、広報、集客など一連の業務を行いながら、これらの取組み内容をネット教材(<http://www.youthenterprise.jp/>)で発信したり、同様の活動を行っている大学等との合同発表会(トレードフェア)でプレゼンやブースでの展示紹介などを行います。

到達目標: この授業は、実践を通じて以下の目標を達成することを目指しています。

- ①自分の考えや意見を言う能力を伸ばすとともに、チームで共に働く力やリーダーシップを培う
- ②課題解決に取組むうえで必要な視点や思考のフレームワークについて理解する
- ③仕事の始まりから終わりまでの業務プロセスやそれらを遂行するために必要な能力について理解を深める
- ④アイデアを形にするために必要な起業家的行動能力(アントレプレナーシップ)を培う
- ⑤自分の能力や不足している資質・技能について理解し、今後の学習活動や将来のキャリア設計に役立てる。

授業方法: 発表・意見交換やチームでの実習を中心とし、学外学習も予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 時代とともに変化する職業や求められる技能VS時代や職業が変わっても通用する能力とは？ 自分の興味・関心と将来のキャリアについて	自分の興味・関心と将来のキャリアについて考えるとともに、この授業に参加して、どのような力を習得したいか明確にしておく。
2. 身近な興味・関心から、自分達ができる事業(ミニプロジェクト)について考えよう！	将来挑戦してみたい仕事について考え、それに近い活動を行うためには、この授業でどのようなプロジェクトができるかを検討し、授業中に提案できるようにしておく。
3. 企業のしくみ(営利事業と非営利事業)と組織運営	実施したいチームプロジェクトに近い事業について調べ、それらがどのように収益をあげているかのビジネスモデルを理解し、授業中に紹介・意見交換できるようにしておく。
4. ミニプロジェクト(企業運営実践):事業内容についての議論(環境分析/SWOT)と決定	前回の授業を受け、チームで実施したいプロジェクトを具体化し、他のメンバーと意見交換して事業内容が決定できるよう必要な調査をし発表資料としてまとめる。
5. ミニプロジェクト(企業運営実践):市場調査と顧客分析(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)	チームで取組むプロジェクトの市場分析や対象顧客のニーズ、同業他社の調査をし、授業中に意見交換できるようにしておく。
6. ミニプロジェクト(企業運営実践):事業計画書の立案	今まで議論してきたことと、サンプルの事業計画書を参考にまとめ、授業中に議論・完成できるようにしておく。
7. ミニプロジェクト(企業運営実践):収支計画の立案と企画内容の見直し	プロジェクトの実施に必要な経費を検討し、それをまかなうためにどのようにするかを考えておく。
8. ミニプロジェクト(企業運営実践):実践に向けた交渉やマーケティング等	プロジェクトを実施するために、どのような人に協力してもらう必要があるか、また、協力してもらいたいかをリストアップし、その交渉方法について考えておく。
9. ミニプロジェクト(企業運営実践):広報資料の作成・ビジネスプレゼンの練習等	自分達のプロジェクトを広く知ってもらうための広報資料(ちらしやポスター等)やプレゼン資料の提案を準備し、授業中に完成させられるようにする。
10. ミニプロジェクト(企業運営実践):合同発表会(トレードフェア)準備	トレードフェアに出展・発表するために必要な準備についてリストアップし、授業中に効率的に完成させるための工夫をしておく。
11. ミニプロジェクト(企業運営実践):合同発表会(トレードフェア)出展・発表	今までの学習内容の成果が発揮できるようにチームで準備を行う。
12. ミニプロジェクト(企業運営実践):合同発表会(トレードフェア)の振り返り(課題と成果)	各自、トレードフェアで学んだ成果と課題について取りまとめ、授業内で発表できるようにしておく。
13. ミニプロジェクト(企業運営実践):実践とまとめ	各自、チームとして今まで取組んできたプロジェクトのまとめと、そこから得た学びを各自レポートにまとめ、提出する準備をしておく。
14. ミニプロジェクトのチーム発表と意見交換	今までの学習内容をまとめて発表し、意見交換を行う。
15. 学習のまとめ:雇う側&雇われる側の視点、今後のキャリアについて	本授業を通じて学んだことをどのように次につなげるか、意見交換する準備をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: 講義では、事例分析や各人が取り組むことについて意見交換や議論を行い、皆で共有しながら学んでいきますので、主体的に考えて意見を言えるだけでなく、チームでプロジェクトを進めていける能力が求められます。よって、このような能力を伸ばしたいと考えている方や、意欲的に課題をこなし社会人としてのマナーと責任をもって参加できる、あるいは、そのようになりたいと考えている受講生を歓迎します。積極的に取組むことができれば、就職活動や社会人になった際に必ず役立つ企画・プレゼン能力・リーダーシップ等を培うことができる授業です。

フィードバックの方法: 提出物や授業での発表等については、授業内で助言し、学びを他の受講生と共有します。チーム主体で進めるミニプロジェクトについても、同様に指導しますが、授業時間外での質問については、電子メールなどで随時対応します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への貢献度(参加点)	20%	授業に出席するだけでなく、積極的に自分の意見を述べるなど授業の目的とする能力開発に取り組む姿勢があり、そのことでみな意欲向上にも貢献しているかを評価します。
	ミニプロジェクト(チーム)	60%	チームで企画したプロジェクトの実現状況やその実現のために果たした役割について、自己評価やチームの他のメンバーの他者評価を参考に、評価します。
	個別の課題提出・発表	20%	課題に出したレポートや発表の内容を通じて、授業の到達目標としている学習が達成できているかを評価します。

教科書: オンライン教材 Youth Enterprise / NPO法人アントレプレナーシップ開発センター
<http://www.youthenterprise.jp/>

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:
電子メールまたは電話にて

授業テーマ:

英語発音の向上をめざす

授業の概要:

英語音声学の理論と実践

到達目標:

このクラスは、テキストを元にした英語の基本的な音体系の理解と、CALL教室においての実践的な発音・聴き取り練習による英語音声の基礎体力作りを目標とする。毎回の理論学習と並行して、ATR CALL BRIXを使用しての発音チェックや、モデル音声との比較などを行う。春学期には、各母音・子音の発音記号を読み、それを正しく発音できるようになること、そしてその応用を目指す。学期末にはプロジェクトとして応用教材を使用し、既に習った学習事項を踏まえた上での、個人やペアでの発表による英語音声表現にも挑戦する。相手に伝えるための音声学習であり、全員が人前で堂々と発音するクラスであるため、学生の積極的に授業に関わる姿勢を期待する。英語音声学Iを履修済であることが望ましい。

授業方法:

CALL教室を使用し、撮影機材などを効果的に用いた発音訓練も講義と併行して行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	テキスト指定範囲の予習・復習
	2. 発音器官、母音と子音	自主学習システムのレポート提出
	3. 母音(1)	テキスト指定範囲の予習・復習
	4. 母音(2)	自主学習システムのレポート提出
	5. 母音(3)	テキスト指定範囲の予習・復習
	6. 母音(4)	自主学習システムのレポート提出
	7. 子音(1)	テキスト指定範囲の予習・復習
	8. 子音(2)	自主学習システムのレポート提出
	9. 子音(3)	テキスト指定範囲の予習・復習
	10. 子音(4)	自主学習システムのレポート提出
	11. プロジェクト練習	テキスト指定範囲の予習・復習
	12. プロジェクト練習	自主学習システムのレポート提出
	13. プロジェクト練習	自主学習システムのレポート提出
	14. プロジェクト練習	自主学習システムのレポート提出
	15. 発表のself-evaluation まとめ	自主学習システムのレポート提出

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

全体練習チェックを行う。
ATR自主学習システムのレポートを仕上げる。
ハンドアウトを利用し、モデル音声と自分の発音を比較しチェックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	20%	毎回行う小テストの平均点を評価に加える。
	クラスワーク(参加・レポートなど)	15%	クラスワークを評価に加える。
	ATR学習レポートの提出	15%	レポート提出を評価に加える。
	プロジェクト (performance・self-evaluation・worksheetな	50%	プロジェクトはperformance・self-evaluation・worksheetを評価する。

教科書:

杉森幹彦他、English Sounds, English Minds、2012、金星堂

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、

教員との連絡方法:

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ:

英語発音の向上をめざす

授業の概要:

英語音声学の理論と実践

到達目標:

このクラスは、テキストを元にした英語の基本的な音体系の理解と、CALL教室においての実践的な発音・聴き取り練習による英語音声の基礎体力作りを目標とする。毎回の理論学習と並行して、ATR CALL BRIXを使用しての発音チェックや、モデル音声との比較などを行う。秋学期には、強勢、音の連結/脱落/同化、イントネーションなどについて習得し、その応用を目指す。学期末にはプロジェクトとして応用教材を使用し、既に習った学習事項を踏まえた上での、個人やペアでの発表による英語音声表現にも挑戦する。相手に伝えるための音声学習であり、全員が人前で堂々と発音するクラスであるため、学生の積極的に授業に関わる姿勢を期待する。

Pronunciation Skills I を履修済であることが望ましい。

授業方法:

CALL教室を使用し、撮影機材などを効果的に用いた発音訓練も講義と併行して行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Pronunciation Skills I 復習	
2.	強勢(1)	テキストの指定範囲の予習・復習 自主学習システムのレポート提出
3.	強勢(2)	テキストの指定範囲の予習・復習 自主学習システムのレポート提出
4.	強勢(3)	テキストの指定範囲の予習・復習 自主学習システムのレポート提出
5.	強勢(4)	テキストの指定範囲の予習・復習 自主学習システムのレポート提出
6.	音の連結・脱落・同化(1)	テキストの指定範囲の予習・復習 自主学習システムのレポート提出
7.	音の連結・脱落・同化(2)	テキストの指定範囲の予習・復習 自主学習システムのレポート提出
8.	音の連結・脱落・同化(3)	テキストの指定範囲の予習・復習 自主学習システムのレポート提出
9.	イントネーション ほか(1)	テキストの指定範囲の予習・復習 自主学習システムのレポート提出
10.	イントネーション ほか(2)	テキストの指定範囲の予習・復習 自主学習システムのレポート提出
11.	プロジェクト練習	自主学習システムのレポート提出
12.	プロジェクト練習	自主学習システムのレポート提出
13.	プロジェクト練習	自主学習システムのレポート提出
14.	プロジェクト練習	自主学習システムのレポート提出
15.	発表のself-evaluation まとめ	自主学習システムのレポート提出

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

全体練習にてチェックを行う。
ATR自主学習システムのレポートを仕上げる。
ハンドアウトを利用し、モデル音声と自分の発音を比較し、チェックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	20%	毎回行う小テストの平均点を評価に加える。
	クラスワーク(参加・レポートなど)	15%	クラスワークを評価に加える。
	ATR学習レポートの提出	15%	レポート提出を評価に加える。
	プロジェクト (performance・self-evaluation・worksheetな	50%	プロジェクトはperformance・self-evaluation・worksheetを評価する。

教科書:

杉森幹彦他、English Sounds, English Minds、2012、金星堂

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとる

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成します。さまざまなプロジェクトの準備をしながら、英語で情報伝達する際に必要なきちんとした発音、人前で話すための技術・心構え、ペア作業の際のコミュニケーション力・責任力を身につけていきます。「世界中どこに出ても恥ずかしくない」英語力と姿勢でプレゼンテーションができる能力は、社会に出てきつと必要不可欠で役に立つと思われます。

・日本語を母国語とする人が苦手とする音を中心に、正しい英語の発音ができるようにする。

・各プロジェクトの準備をしながら、紹介、提案、効果的な情報伝達ができるようにする。

・堂々と人前で話すための技術・心構えなどを身につける。

・ペアで作業をする際のコミュニケーション力・責任感を身につける。

・自分の英語プレゼンテーション力に自信を持てるようになる。

プレゼンテーションの準備・練習・発表を行います。同時に発音矯正も行います。積極的な姿勢を高く評価します。

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション	教科書の確認
2. 英語プレゼンテーションの基礎	授業内容の復習
3. プロジェクト(1)－1	原稿製作と発表準備
4. プロジェクト(1)－2	原稿製作と発表準備
5. プロジェクト(1)－3	原稿暗記と発表準備
6. プロジェクト(1)－4	自己評価・他者評価
7. プロジェクト(2)－1	原稿製作と発表準備
8. プロジェクト(2)－2	原稿製作と発表準備
9. プロジェクト(2)－3	原稿暗記と発表準備
10. プロジェクト(2)－4	自己評価・他者評価
11. プロジェクト(3)－1	原稿製作と発表準備
12. プロジェクト(3)－2	原稿製作と発表準備
13. プロジェクト(3)－3	原稿製作と発表準備
14. プロジェクト(3)－4	原稿暗記と発表準備
15. プロジェクト(3)－5	自己評価・他者評価

発音矯正は短期間でできるものではありません。「少しでも発音をよくしたい」と思う人は、教室内のみでなく、時間を見つけては発音練習を繰り返すことを習慣にしてください。3か月続けると自分でもわかるくらい良い発音になります。頑張りましょう。

英語の提出物は添削して返却します。
自己評価にはコメントをつけて返却します。
他者評価は内容をまとめて教室でフィードバックします。

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	60	3回のプレゼンテーションにおいて、到達目標を意識して発表ができているかを評価する。
提出物	15	3回のプレゼンテーションのための指示された提出物をきちんと期限内に提出できるかを評価する。
発音テスト	10	2回の発音テストで、よりよい発音をしようとする努力ができているかを評価する。
授業参加	15	積極的に授業に参加し、到達目標に達する努力をしているかを評価する。

Michael Hood, Dynamic Presentations、金星堂

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

ymatsui@dwc.doshisha.ac.jp
または 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: 春学期に続き、英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成します。さまざまなプロジェクトの準備をしながら、英語で情報伝達する際に必要なきちんとした発音、人前で話すための技術・心構え、ペア作業の際のコミュニケーション力・責任力を身につけていきます。「世界中どこに出ても恥ずかしくない」英語力と姿勢でプレゼンテーションができる能力は、社会に出てもきっと必要不可欠で役に立つと思われます。

到達目標: ・日本語を母国語とする人が苦手とする音を中心に、正しい英語の発音ができるようにする。
・各プロジェクトの準備をしながら、紹介、提案、効果的な情報伝達ができるようにする。
・堂々と人前で話すための技術・心構えなどを身につける。
・ペアで作業をする際のコミュニケーション力・責任感を身につける。
・自分の英語プレゼンテーション力に自信を持てるようになる。

授業方法: プレゼンテーションの準備・練習・発表を行います。同時に発音矯正も行います。積極的な姿勢を高く評価します。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. プレゼンテーションの復習・発音復習	復習内容の確認
2. プロジェクト(1)－1	原稿製作と発表準備
3. プロジェクト(1)－2	原稿製作と発表準備
4. プロジェクト(1)－3	原稿製作と発表準備
5. プロジェクト(1)－4	原稿暗記と発表準備
6. プロジェクト(1)－5	自己評価・他者評価
7. プロジェクト(2)－1	原稿製作と発表準備
8. プロジェクト(2)－2	原稿製作と発表準備
9. プロジェクト(2)－3	原稿暗記と発表準備
10. プロジェクト(2)－4	自己評価・他者評価
11. プロジェクト(3)－1	原稿製作と発表準備
12. プロジェクト(3)－2	原稿製作と発表準備
13. プロジェクト(3)－3	原稿製作と発表準備
14. プロジェクト(3)－4	原稿暗記と発表準備
15. プロジェクト(3)－5	自己評価・他者評価

受講者への
メッセージや
アドバイス: 発音矯正は短期間でできるものではありません。「少しでも発音をよくしたい」と思う人は、教室内のみでなく、時間を見つけては発音練習を繰り返すことを習慣にしてください。3か月続けると自分でもわかるくらい良い発音になります。頑張りましょう。

フィードバックの
方法: 英語の提出物は添削して返却します。
自己評価にはコメントをつけて返却します。
他者評価は内容をまとめて教室でフィードバックします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プレゼンテーション	60	3回のプレゼンテーションにおいて、到達目標を意識して発表ができているかを評価する。
	提出物	15	3回のプレゼンテーションのための指示された提出物をきちんと期限内に提出できるかを評価する。
	発音テスト	10	2回の発音テストで、よりよい発音をしようとする努力ができているかを評価する。
	授業参加	15	積極的に授業に参加し、到達目標に達する努力をしているかを評価する。

教科書: Michael Hood, Dynamic Presentations、金星堂

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

教員との連絡
方法: ymatsui@dwc.doshisha.ac.jp
または 授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:	航空業界を目指す学生に、実践的なエアライン英語/英会話コミュニケーションについて解説します。		
授業の概要:	エアラインは様々な業種で成り立ち、多くの人々の協力で1機の飛行機を運航しています。その中からグランドスタッフおよび客室乗務員の業務やサービスの基礎知識について解説し、空港や機内でのお客様や関係者とのコミュニケーションに用いられる実践的な英語/英会話を学びます。エアラインに求められるホスピタリティについて学び、コミュニケーションスキルの向上を目指します。社会の変化に伴い、多様化するエアラインに求められるグローバル人材として必要な資質や要件について考えます。		
到達目標:	・グランドスタッフおよび客室乗務員の業務内容やサービスの基礎知識を習得すること。 ・空港および機内における英語/英会話を理解すること。		
授業方法:	演習:各回とも、基本的な業務知識、文化的背景およびエアラインに求められるホスピタリティマインドなどについて講義形式で解説し、具体的な場面を想定し、実例を紹介しながら演習を組み入れ、知識の定着を図ります。ロールプレイを取り入れ、学生が主体的に取り組めるように授業参加型として行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業概要の理解)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連事項についての予備知識を持ち、航空関連の情報を収集するなど関心を持っておくこと。 ・事後学習:授業で配布した資料の内容を理解し、まとめておくこと	
	2. エアラインの提供するサービスについて	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 1を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	3. エアラインで求められるホスピタリティ	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 2を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	4. グランドスタッフの業務 I(チェックイン業務・ロビーサービスなど)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 3を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	5. グランドスタッフの業務 II(CIQ業務・ラウンジ業務など)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 4を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	6. グランドスタッフの業務 III(グランドハンドリング業務・イレギュラー時の対応)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 5を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	7. 異文化コミュニケーション I(海外生活と英語)	事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	8. CA業務 I(客室乗務員の業務・役割、客室業務の基本的な流れ)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter6を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	9. CA業務 II(国内線の機内サービス)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter7を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	10. CA業務 III(国際線の機内サービス)	事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 8を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	11. 異文化コミュニケーション II(現役CAによるQ & A)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	12. CA業務 IV(イレギュラー時の対応)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 9を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	13. 異文化コミュニケーション III (海外生活と英語)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	14. CA業務 V(航空会社の安全、保安・緊急に関する業務)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 10を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。	
	15. まとめ	・事前学習:これまでのレジュメをすべて見直しておくこと。 ・事後学習:授業全体のまとめを行い、振り返りを行うこと。	
	受講者へのメッセージやアドバイス:		
フィードバックの方法:	・毎回授業終了時に提出する小レポート(理解度・テーマに対するコメント・質問・要望で構成)について、翌週授業内で解説し、フィードバックします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験+ミニテスト	50%	到達目標「グランドスタッフおよび客室乗務員の業務内容やサービスの基礎知識」に関する理解度および「空港および機内における英語/英会話」に関する理解度により評価します。
	授業への参加度	50%	積極的に授業に参加し、ロールプレイ時等の態度・意欲を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:
授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:	国際社会におけるバイリンガル秘書業務の習得		
授業の概要:	国際社会における積極的なバイリンガルセクレタリー像を考察し、企業の中におけるその業務の習得を目標とする。コミュニケーションの中心的役割を果たす秘書が取り扱う業務は多方面に及ぶが、本講座ではバイリンガルセクレタリーとして業務を遂行していく上で必要な基礎知識を学び、演習を交えて英語表現と業務処理能力を習得することを目標とする。 また現役通訳士としての様々な体験も紹介したい。		
到達目標:	1. ビジネスメール作成 2. 接待としての観光アテンド 3. 電話・受付での英語での応対 4. 海外出張 ができるよう指導したい。		
授業方法:	レビューテスト→講義→演習の形で進める。レビューテストは全10回のうち7回分が評価対象。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. バイリンガルセクレタリーとその業務	授業で学んだ雛型英文レターと専門用語を次回のレビューテストの為に復習	
	2. ビジネスレターの種類と特徴	同上	
	3. ビジネスレター 招待状 英→日	同上	
	4. ビジネスレター クレーム状 日→英	同上	
	5. タイムスケジュール表	同上	
	6. 物の管理 ～トヨタの5S	同上	
	7. プロトコール(接遇マナー)	同上	
	8. 海外出張 空港編	同上	
	9. 海外出張 ホテル編	同上	
	10. 観光アテンド ～二条城研修	同上	
	11. 受付での英語による応対	同上	
	12. 電話での英語による応対	同上	
	13. ロールプレイ練習	同上	
	14. パフォーマンステスト 秘書業務関連 50問単語テスト	同上	
	15. Review	同上	
受講者へのメッセージやアドバイス:	10回のレビューテストで雛型のビジネスレター10種類と秘書業務に必要な単語の暗記チェックを行う。 ビジネスに直結した講義で、就職、TOEIC対策にも役立つ。		
フィードバックの方法:	授業内で解説		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レビューテスト	70	10回分のレビューテストのうちトップ7回分を評価対象
	英語パフォーマンステスト	20	英語での受付・電話対応の口頭テスト
	レポート	10	レターの提出、5Sのレポート
教科書:	OFFICE ENGLISH 南雲堂		
参考書:	授業内で紹介		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、コミュニケーション力、思いやる力、		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応		

授業テーマ:

メディア英語の総合演習

授業の概要:

現代社会は多様な情報メディアが高度に発達した社会であり、世界規模でニュースや情報が瞬時に伝わる時代である。このようなグローバル社会においては、国際的な共通言語として英語で発信される情報を的確に捉える能力が要求されており、ビデオ、音声、文字等のメディアにおける英語での情報収集・理解能力を高めることが必要とされている。
本科目では、海外のテレビニュースやインターネット等で発信される様々なトピックの英語を理解する能力を総合的に養成することを目標として、リスニングを中心とした演習を行うと共に、海外事情に対する知識や関心を高めることを目標とする。

到達目標:

海外のテレビニュースで流されるナチュラルスピードの英語を聴いて、内容を理解できる。
時事英語で用いられる重要語彙を習得している。
英語圏の文化や社会事情について理解している。

授業方法:

コンピュータ教室を利用して演習形式の授業を行う。教材はオンラインビデオが付属する教科書とインターネットのメディア系サイトを主に利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 導入、授業内容の解説、メディア英語の基礎	シラバス記載事項の確認
	2. Unit 1: Treasury Secretary Announce Historic Changes for \$20 Bill	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
	3. Unit 2: Daylight Saving Time	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
	4. Unit 4: Made in America: Super Bowl 50	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
	5. Unit 5: Firestorm: New CDC Recommendations for Women and Alcohol Provoke Controversy	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
	6. Unit 6: Deadly Tornado Outbreak	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
	7. Unit 8: Yelp! Reviewer Beware	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
	8. Review Week 1	復習と質問事項の確認
	9. Unit 9: Bridge Dangers: 1-in-10 in Need of Repair	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowingの演習
	10. Unit 11: Big Change: SeaWorld to End Killer Whale Shows	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowingの演習
	11. Unit 12: Airline Warning: Lithium Batteries Pose Explosion Risk	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowingの演習
	12. Unit 14: On Alert: Faith and Fear	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowingの演習
	13. Unit 15: Breaking Point: Heroin in America	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowingの演習
	14. Review Week 2	復習と質問事項の確認
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

積極的な授業参加を期待します。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	35	積極的に授業に参加した度合いと与えられたタスクへの取り組みで評価
	授業中に行う課題・小テスト	20	課題・小テストの達成度で評価
	定期試験	45	定期試験の点数で評価

教科書:

山根繁、Kathleen Yamane『ABC World News 19』金星堂

参考書:

参考資料は授業において提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

メディア英語の総合演習

授業の概要:

現代社会は多様な情報メディアが高度に発達した社会であり、世界規模でニュースや情報が瞬時に伝わる時代である。このようなグローバル社会においては、国際的な共通言語として英語で発信される情報を的確に捉える能力が要求されており、ビデオ、音声、文字等のメディアにおける英語での情報収集・理解能力を高めることが必要とされている。
本科目では、海外のテレビニュースやインターネット等で発信される様々なトピックの英語を理解する能力を総合的に養成することを目標として、リスニングを中心とした演習を行うと共に、海外事情に対する知識や関心を高めることを目標とする。

到達目標:

海外のテレビニュースで流されるナチュラルスピードの英語を聴いて、内容を理解できる。
時事英語で用いられる重要語彙を習得している。
英語圏の文化や社会事情について理解している。

授業方法:

コンピュータ教室を利用して演習形式の授業を行う。教材はオンラインビデオが付属する教科書とインターネットのメディア系サイトを主に利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業内容の解説、メディア英語の導入	
2.	Unit 2: BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
3.	Unit 3: How a Dog Can Improve Your Health	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
4.	Unit 5: Cat Library Offers Purrfect Solution to Stress	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
5.	Unit 6: The Evolution of Comic Books in the Digital Age	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
6.	Unit 7: Can Drinking Soda Make You Age Faster?	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
7.	Unit 8: What You Like on Facebook Could Affect Your Job Search	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
8.	Review Week 1	復習と質問事項の確認
9.	Unit 9: Is Sitting the New Smoking?	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
10.	Unit 10: Matcha Madness Sparks New Tea Craze	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
11.	Unit 11: Daddy Duty: Stay-at-home Dads Putting Kids Before Careers	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
12.	Unit 13: Slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
13.	Unit 15: HowCompanies Are Keeping Handwriting Alive in the Digital Age	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
14.	Review Week 2	復習と質問事項の確認
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

積極的な授業参加を期待します。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	35	積極的に授業に参加した度合いと与えられたタスクの取り組みで評価
	授業中に行う課題・小テスト	20	課題・小テストの達成度で評価
	定期試験	45	定期試験の点数で評価

教科書:

熊井信弘、Stephen Timson『CBS News Break 3』成美堂

参考書:

参考資料は授業において提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

通訳パフォーマンスに挑戦し、英語の運用能力を高める

授業の概要:

通訳訓練メソッドの目的、効用を理解した上で、実践的な音声教材を用い通訳パフォーマンスに挑戦する。

到達目標:

通訳のトレーニング法を身に着け、通訳レベルでの「聞き方」、「情報処理」、「アウトプット」を身に着ける。

授業方法:

通訳パフォーマンスの発表(ペアワーク、グループワークを含む)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	授業で紹介されたメソッドの確認・反復
	2. 演習(1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	3. 演習(2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	4. 演習(3)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	5. 演習(4)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	6. 演習(5)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	7. 演習(6)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	8. 演習(7)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	9. 演習(8)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	10. 演習(9)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	11. 演習(10)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	12. 演習(11)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	13. 演習(12)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
	14. まとめ	秋期全体の見直し
	15. Review	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回の授業のパフォーマンスに対して適宜コメントを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業参加・姿勢	30	授業のトレーニングに積極的に参加しているか
	パフォーマンス(または小テスト)	30	前回の授業で扱った語彙、通訳課題等が定着しているか
	まとめ(テスト)	40	前期の授業内容の定着度および実力評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

授業テーマ:	専門性のある英文・和文を翻訳してみよう！		
授業の概要:	翻訳とは一字一句正確に訳することが翻訳なのだろうか？また、一字一句訳したものがその言語を話す人たちに正確につたわるのだろうか？感動を伝えることができるのだろうか？文化の違い、思考の違い、価値観の違いが二つの言語の間に介在する限り、翻訳家の苦労と工夫は限りない。その違いに留意しながら、まずは、原文の解釈をグループでディスカッションを通して徹底的に行い、パラフレージング・翻訳を行う。		
到達目標:	専門性の高い英文・和文の原文を徹底的に分析・解釈をして、同言語の別の文章にリプロダクションしてみよう。そのうえで色々なパターンでパラフレージング訳出し、それぞれの文章が持つイメーや響きを比較検討できるようにしたい。		
授業方法:	グループディスカッションによる原文の分析→リプロイメージに合う単語の選出→パラフレージング→比較検討		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	翻訳と通訳の違い	課題の文章を自分なりに翻訳し、工夫した点などをレポート
	2.	日本語と英語の違い * 名詞化による情報の圧縮 * 物質主語と他動詞 * 英語は解凍しなくっちゃ！ * 主語はどこへ？ * 代名詞はどうしよう	同上
	3.	スピーチ原稿翻訳 英日	同上
	4.	スピーチ原稿翻訳 英日	同上
	5.	スピーチ翻訳 日英 パラフレージングとは？	同上
	6.	スピーチ翻訳 日英	同上
	7.	プレゼンテーション1	同上
	8.	ニュース翻訳 英日	同上
	9.	ニュース翻訳 英日	同上
	10.	ニュース翻訳 日英	同上
	11.	ニュース翻訳 日英	同上
	12.	企業技術翻訳 日英	同上
	13.	企業技術翻訳 日英	同上
	14.	プレゼンテーション2A	同上
	15.	プレゼンテーション2B	同上
受講者へのメッセージやアドバイス:	難易度の高い専門性のある翻訳に挑戦するため安定した文法力は必要。 将来仕事で翻訳業務が必要になった時に役立つレベルを目指すため、翻訳に強い興味を持つ者に参加を望む。		
フィードバックの方法:	授業内で解説		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート 5回	50	翻訳のレベルよりも原文と翻訳文の比較分析した内容を主に評価
	プレゼンテーション1	20	同上
	プレゼンテーション2	30	同上
教科書:	なし		
参考書:	授業内で紹介		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に対応		

授業テーマ:

この授業は、英語プレゼンテーションの演習を通して卒業までに実践的な英語運用能力を身につけることを目標とする。なるべく通年で受講すること。

授業の概要:

与えられたトピックの中からひとつを選びプレゼンテーションを準備する。
各自が設定した内容にそって実践的な演習を中心に授業を進める。

到達目標:

授業で選択したトピックについてスライド等を用いて英語でわかりやすくプレゼンテーションできるようになること。

授業方法:

CALL教室での演習・ピアレビュー

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Ingroduction	なし
2.	実践演習 1	翌週までの課題
3.	実践演習 2	翌週までの課題
4.	実践演習 3	翌週までの課題
5.	実践演習 4	翌週までの課題
6.	実践演習 5	翌週までの課題
7.	実践演習 6	翌週までの課題
8.	実践演習 7	翌週までの課題
9.	実践演習 8	翌週までの課題
10.	実践演習 9	翌週までの課題
11.	実践演習 10	翌週までの課題
12.	実践演習 11	翌週までの課題
13.	実践演習 12	翌週までの課題
14.	実践演習 13	翌週までの課題
15.	最終プレゼンテーション	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:

プレゼンテーションスライドや原稿は授業時間外に作成してくること。

フィードバックの方法:

授業内でのレビューとディスカッション

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50%	出席ならびに課題
	最終プレゼンテーション	50%	原稿・スライド・発表に対する総合評価

教科書:

授業中に指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール。アドレスは初回授業で配布する。

授業テーマ:

この授業は、英語プレゼンテーションの演習を通して卒業までに実践的な英語運用能力を身につけることを目標とする。なるべく通年で受講すること。

授業の概要:

与えられたトピックの中からひとつを選びプレゼンテーションを準備する。
各自が設定した内容にそって実践的な演習を中心に授業を進める。

到達目標:

授業で選択したトピックについてスライド等を用いて英語でわかりやすくプレゼンテーションできるようになること。

授業方法:

CALL教室での演習・ピアレビュー

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction	なし
	2. 実践演習 1	翌週までの課題
	3. 実践演習 2	翌週までの課題
	4. 実践演習 3	翌週までの課題
	5. 実践演習 4	翌週までの課題
	6. 実践演習 5	翌週までの課題
	7. 実践演習 6	翌週までの課題
	8. 実践演習 7	翌週までの課題
	9. 実践演習 8	翌週までの課題
	10. 実践演習 9	翌週までの課題
	11. 実践演習 10	翌週までの課題
	12. 実践演習 11	翌週までの課題
	13. 実践演習 12	翌週までの課題
	14. 実践演習 13	翌週までの課題
	15. 最終プレゼンテーション	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:

プレゼンテーションスライドや原稿は授業時間外に作成してくること。

フィードバックの方法:

授業内でのレビューとディスカッション

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50%	出席ならびに課題
	最終プレゼンテーション	50%	原稿・スライド・発表に対する総合評価

教科書:

授業中に指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール。アドレスは初回授業で配布する。

授業テーマ:	英語の発音向上を目指す		
授業の概要:	英語音声学の理論を理解し、実践に役立てる。		
到達目標:	「Active Listening」、「英語音声学」や「Pronunciation Skills」を受講することで、1年次より英語の発音、発声、身体表現、英語を聴く能力を訓練してきた。この授業では、卒業を目前に控えた4年次生を対象に、個々の音、単語、文レベルの練習に加え、ダイアログを取り入れるなどし、英語の発音や音のしくみを復習する機会とする。		
授業方法:	CALL教室を使用し、毎回理論と実践(発音練習)を並行し行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション	
	2.	語強勢・文強勢・ポーズについて	学習ポイントにおける練習→発表
	3.	ピッチ・イントネーションについて	学習ポイントにおける練習→発表
	4.	音のつながり(1)	学習ポイントにおける練習→発表
	5.	音のつながり(2)	学習ポイントにおける練習→発表
	6.	音のつながり(3)	学習ポイントにおける練習→発表
	7.	特別な強勢(合成語・語強勢の移動/弱化)について	学習ポイントにおける練習→発表
	8.	母音(1)	学習ポイントにおける練習→発表
	9.	母音(2)	学習ポイントにおける練習→発表
	10.	母音(3)	学習ポイントにおける練習→発表
	11.	子音(1)	学習ポイントにおける練習→発表
	12.	子音(2)	学習ポイントにおける練習→発表
	13.	子音(3)	学習ポイントにおける練習→発表
	14.	Overall Review	
	15.	まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	与えられた課題についてリハーサルを行い、発表する。発表者は評価者からコメントをもらう。授業終了時に各自で振り返りを行い、レポートに記入する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	20%	課題への取り組み、提出物など評価に加える。
	期末テスト(理論)	50%	
	発表	30%	課題への取り組み、発音の質を評価に加える。
教科書:	今井由美子他、Sounds Make Perfect、2010、英宝社 (Active Listeningで使用したものでよい)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとる		

授業テーマ:	英語の発音向上を目指す		
授業の概要:	英語音声学の理論を理解し、実践に役立てる。		
到達目標:	「Active Listening」、「英語音声学」や「Pronunciation Skills」を受講することで、1年次より英語の発音、発声、身体表現、英語を聴く能力を訓練してきた。この授業では、卒業を目前に控えた4年次生を対象に、個々の音、単語、文レベルの練習に加え、ダイアログを取り入れるなどし、英語の発音や音のしくみを復習する機会とする。		
授業方法:	CALL教室を使用し、毎回理論と実践(発音練習)を並行し行う。復習と応用を兼ね、プレゼンテーションの機会を設ける。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション	
	2.	英語のリズム・韻について	学習ポイントにおける練習→発表
	3.	音のつながりの確認(進行同化、逆行同化)(1)	学習ポイントにおける練習→発表
	4.	音のつながりの確認(進行同化、逆行同化)(2)	学習ポイントにおける練習→発表
	5.	句動詞の確認	学習ポイントにおける練習→発表
	6.	短縮形の音の現れ方の確認	学習ポイントにおける練習→発表
	7.	文強勢の確認	学習ポイントにおける練習→発表
	8.	まとめ(1)	学習ポイントにおける練習→発表
	9.	まとめ(2)	学習ポイントにおける練習→発表
	10.	プロジェクトについて	
	11.	プロジェクト準備(1)	
	12.	プロジェクト準備(2)	
	13.	プロジェクト準備(3)	
	14.	プロジェクト発表	
	15.	まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	与えられた課題についてリハーサルを行い、発表する。発表者は評価者からコメントをもらう。授業終了時に各自で振り返りを行い、レポートに記入する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	50%	課題への取り組み、提出物など評価に加える。
	プロジェクト	50%	プロジェクトへの取り組み、完成度など評価する。
教科書:	今井由美子他、Sounds Make Perfect、2010、英宝社 (Active Listeningで使用したものでよい)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとる		

授業テーマ:

英米文学作品を用いたアカデミック・スキルの習得

授業の概要:

この授業は、3年次から各自の選択によって受講する「Junior SeminarⅠ・Ⅱ」への導入をスムーズはかることを目標にしている。少人数のアドバイザー・クラスにおいて、口頭発表の仕方、ハンドアウトの作り方、レポートの書き方などのアカデミック・スキルを学んでいく。教材として、英語で書かれた文学作品を用い、大学での学びと研究の基礎を習得する。

到達目標:

英語の情報を読解して自分なりのまとめを行い、それを基に独自のアイデアに到達し、さらに他の人間に論理的に説得力をもって伝える能力を身につける。また、口頭と文章という伝達方法の違いに留意して、口頭発表とレポートを整ったかたちで仕上げる力を養う。口頭発表やレポートの準備を通して、学習や研究に不可欠な計画性と時間管理を習慣づける。

授業方法:

教員による講義形式の説明とグループワークも含めた演習を組み合わせる授業を進める。
① 前半はテキストを読解し、問題を深く把握した上で、口頭発表をする。
② 後半はテキストを読解し、問題を深く把握した上で、各自レポート作成の技術を学ぶ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション、アカデミック・スキルの基本	大学における「学び」について考えてくる
2.	作品読解および口頭発表準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
3.	作品読解および口頭発表準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
4.	作品読解および口頭発表準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
5.	作品読解および口頭発表準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
6.	作品読解および口頭発表準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
7.	口頭発表	口頭発表準備(発表者は前日に準備が終わるよう十分な余裕をもって取り組む)
8.	口頭発表	口頭発表準備(発表者は前日に準備が終わるよう十分な余裕をもって取り組む)
9.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
10.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
11.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
12.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
13.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
14.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
15.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)

受講者へのメッセージやアドバイス:

口頭発表や課題については、教員ごとの手法とクラスの状況によって変更がありうるので、担当教員の説明をしっかりと理解して授業参加すること。
アカデミック・スキルはこの授業だけではなく、大学の他の授業においても不可欠な技術であり、就職活動や様々な業務において有効な考え方や習慣を養うことにもつながる。発表やレポートの書き方の基本を身につけ、大学での学び全体、また将来の仕事にも役立てられるよう意識して取り組んでもらいたい。

フィードバックの方法:

提出した課題は、教員がフィードバックが必要と判断した場合、指示を書き添えて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	最終レポート	40%	内容のみではなく、アカデミック・ライティングとしての構成ができているか、書式が守れているかも重視する
	口頭発表	30%	読解したテキストを十分に紹介できたか、オリジナルな意見を述べる事ができているか、補助資料(スライドやハンドアウト)の準備が十分か、発表時の声・態度などが適切から判定する。
	授業への積極的参加	30%	授業内課題に真剣に取り組めているか、グループ・ワークに積極的に参加できているか、教員の話をしっかり聞いているかなど、授業における学習態度を多面的に評価する。

教科書:

第一週に担当者により指示する。

参考書:

必要に応じて授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業中に指示する。

授業テーマ:

英米文学作品を用いたアカデミック・スキルの習得

授業の概要:

このクラスは、「英米文学基礎ゼミナールⅡ」での授業内容を発展させる形で、3年次からの各自の選択によって受講する「Junior SeminarⅠ・Ⅱ」への導入をスムーズにはかることを目的としている。少人数アドバイザー・クラスで、口頭発表の仕方、ハンドアウトの作り方、レポートの書き方などのアカデミック・スキルを学んでいく。教材として、英語で書かれた文学作品を用い、大学での学びと研究の基礎を習得する。

到達目標:

英語の情報を読解して自分なりのまとめを行い、それを基に独自のアイデアに到達し、さらに他の人間に論理的に説得力をもって伝える能力を身につける。また、口頭と文章という伝達方法の違いに留意して、口頭発表とレポートを整ったかたちで仕上げる力を養う。口頭発表やレポートの準備を通して、学習や研究に不可欠な計画性と時間管理を習慣づける。

授業方法:

教員による講義形式の説明とグループワークも含めた演習を組み合わせる授業を進める。
① 前半はテキストを読解し、問題を深く把握した上で、口頭発表をする。
② 後半はテキストを読解し、問題を深く把握した上で、各自レポート作成の技術を学ぶ。
後半のいずれかの週に、図書館ガイダンスを行う予定。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション、春学期の内容の復習	春学期に学習した内容をふりかえり、大学での「学び」について考えてくる
2.	作品読解および口頭発表準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
3.	作品読解および口頭発表準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
4.	作品読解および口頭発表準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
5.	作品読解および口頭発表準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
6.	作品読解および口頭発表準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
7.	口頭発表	口頭発表準備(発表者は前日に準備が終わるよう十分な余裕をもって取り組む)
8.	口頭発表	口頭発表準備(発表者は前日に準備が終わるよう十分な余裕をもって取り組む)
9.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
10.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
11.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
12.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
13.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
14.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)
15.	作品読解およびレポート作成の準備	テキストの読解、課題への回答(授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う)

受講者へのメッセージやアドバイス:

口頭発表や課題については、教員ごとの手法とクラスの状況によって変更がありうるので、担当教員の説明をしっかりと理解して授業参加すること。
春学期で学習したアカデミック・スキルズをおさらいしながら、より高度な口頭発表・レポートを作るにはどうしたらよいかを学んでいく。個々の課題において何が求められているか、それが大学の学びにおいてどのような意味をもつのかを、自分でも考えながら授業に取り組むよう心がけてもらいたい。

フィードバックの方法:

提出した課題は、教員がフィードバックが必要と判断した場合、指示を書き添えて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	最終レポート	40%	内容のみではなく、アカデミック・ライティングとしての構成ができているか、書式が守れているかも重視する。特に秋学期においては、注や参考文献の表記のルールも含め、レポートの正しいかたちが身に付いたがどうかを判定する。
	口頭発表	30%	読解したテキストを十分に紹介できたか、オリジナルな意見を述べる事ができているか、補助資料(スライドやハンドアウト)の準備が十分か、発表時の声・態度などが適切から判定する。
	授業への積極的参加	30%	授業内課題に真剣に取り組めているか、グループ・ワークに積極的に参加できているか、教員の話をしっかり聞いているかなど、授業における学習態度を多面的に評価する。

教科書:

第一週に担当者により指示する。

参考書:

必要に応じて授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業中に指示する。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

In this course, we will spend half the semester on Applied Linguistics and half on Nonverbal Communication.

To help students learn about Applied Linguistics and half on Nonverbal Communication in English and by doing so, improving their proficiency and confidence in English.

Students will be presented with content through reading or listening, and they will discuss in groups what they have learned and how it applies to their own lives and experiences. Students will be encouraged to actively participate by asking questions, sharing their experiences, and expressing their opinions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the course and to Applied Linguistics	none
	2. Characteristics of Japanese learners of English	Reading assignment
	3. Various Learners, various contexts, and various motivations to learn English	Reading assignment
	4. What type of vocabulary learning strategies are useful? (1)	Reading assignment
	5. What type of vocabulary learning strategies are useful? (2)	Reading assignment
	6. How can we use different strategies?	Fill out strategy inventory
	7. Strategy Project: Possibilities of using imagery strategies to learn vocabulary (1)	Prepare materials for strategy
	8. Strategy Project: Possibilities of using imagery strategies to learn vocabulary (2)	Prepare materials for strategy
	9. Introduction to Nonverbal Communication 1	Final project for Applied Linguistics
	10. Introduction to Nonverbal Communication 2	observation activity
	11. Touching Behavior; Introduction of observation activity	observation activity
	12. The Voice and Vocal Characteristics	observation activity
	13. Artifacts	observation activity
	14. Clothing	observation activity
	15. Review	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Discussion with students

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	assignments, tests, quizzes and contribution to class	60%	understanding of material
	projects	30%	application of what the student has learned
	attendance	10%	classes missed

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

nwakamot@dw.doshisha.ac.jp, kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:	World migration, culture and society		
授業の概要:	Students will be introduced to various aspects and current issues related to the topic of world migration, culture and society. The course will be divided up into two parts. The first part of the course will focus on issues of migration and its impact on society. The second part of the course will concentrate on the topic of multiculturalism in different countries including Canada, the United States of America and Japan.		
到達目標:	The aim of this course is for students to improve their listening and reading comprehension skills while being exposed to topics about world migration and society		
授業方法:	Course work will consist of group discussion, group/pair work, oral presentations and written assignments in English. Students will be expected to read texts in English, analyse information and think about its content subjectively and critically. Students are required to complete weekly assignments, a mid-term assignment and a final assignment.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	Introduction to course, goals and expectations	Weekly assignment
	2.	Migration: introduction	Weekly assignment
	3.	Migration: introduction	Weekly assignment
	4.	World migration	Weekly assignment
	5.	World migration	Weekly assignment
	6.	Japanese immigration in history	Weekly assignment
	7.	Japanese immigration in history	Weekly assignment
	8.	Japanese immigration in history	Weekly assignment
	9.	Mid-term Assignment	Weekly assignment
	10.	Migration and Japan	Weekly assignment
	11.	Immigration issues in Japan	Weekly assignment
	12.	Immigration issues in Japan	Weekly assignment
	13.	Immigration issues in Japan	Weekly assignment
	14.	Final Assignments	Weekly assignment
	15.	Final Assignments	Weekly assignment
受講者へのメッセージやアドバイス:	Students are encouraged to speak English to the instructor and fellow students every class.		
フィードバックの方法:	Will be specified by instructor in class		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	20	as determined by instructor
	Group work	20	as determined by instructor
	Assignments and Presentations	60	as determined by instructor
教科書:	no textbook required		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、		
教員との連絡方法:	Will be informed by the instructor in class		

授業テーマ:

TOEFL, IELTSで求められる英語運用能力に焦点を当てた基礎的英語運用能力を身につける。

授業の概要:

(1)TOEFL ITPで出題される単語の語彙テストを毎回おこなう。
(2)TOEFL ITPのリスニング、文法、リーディング問題の解き方を実践的におこなう。
(3)IELTS の模擬問題を解き、問題形式に慣れる。
(4)アカデミックな英語の記事を読み、要約等の課題をする。

到達目標:

(1)留学に必要なアカデミックな英語運用能力を身につける。(リスニング能力の向上、文型・文法に関する知識の確認と向上、語彙力の向上、アカデミックな文章を理解する能力の育成)
(2)TOEFL ITP, IELTSのテストの特徴と違いについて理解し、各テストで求められる英語運用能力の向上を目指す。
(3)総合的な英語運用能力を養うため、アカデミックなテーマについて、「読む」、「自分の意見を書く」、「要約する」、「話す」といったパターンの練習をおこなう。

授業方法:

(1)語彙テストを行い、学生に勉強の成果を確認させる。
(2)TOEFL ITP, IELTSの問題を実践的に解くことで、問題形式に慣れる。
(3)ペア・ワーク、グループ発表等を通じ英語運用能力を養う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション シラバスの説明、TOEFL ITP & IELTSについての説明	予習、宿題等の確認
2.	Diagnostic Placement test & Review	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
3.	Diagnostic Placement test Review Module 1 – Lesson 1 単語テスト1	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
4.	Module 1 – Lesson 2 単語テスト2	単語テストの予習 授業内容の予習・復習 アカデミックリーディングの準備
5.	Module 1 – Lesson 3 単語テスト3 アカデミックリーディング1	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
6.	Module 1 – Lesson 4 単語テスト4	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
7.	Module 1 – Lesson 5 単語テスト5	単語テストの予習 授業内容の予習・復習 アカデミックリーディングの準備
8.	Module 1-Lesson 6 単語テスト6 アカデミックリーディング2	授業内容の復習
9.	まとめ	単語テストの予習 授業内容の復習
10.	TOEFL ITP 模擬テスト 単語テスト7	単語テストの予習 授業内容の復習 アカデミックリーディングの準備
11.	TOEFL ITP 模擬テスト Review アカデミックリーディング3 単語テスト8	単語テストの予習 授業内容の復習
12.	IELTS 模擬テスト1 単語テスト9	単語テストの予習 授業内容の復習
13.	IELTS 模擬テスト2 単語テスト10	単語テストの予習 授業内容の復習 アカデミックリーディングの準備
14.	IELTS 模擬テスト3 アカデミックリーディング4 単語テスト11	授業内容の復習
15.	まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

(1)授業の予習・復習を手を抜くことなく取り組むこと。
(2)各自、受験予定のテストに焦点を当てた問題集を準備し、計画的にテスト対策をすること。

フィードバックの方法:

課題等の提出物は評価を書いて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	中間テスト	30%	授業中に取り扱った問題と応用問題から、授業内容の理解度を評価する。
	学年末試験	30%	授業中に取り扱った問題と応用問題から、授業内容の理解度を評価する。
	受講態度	10%	授業に積極的に参加し、能動的に学んでいるかを評価する。
	単語テスト	20%	毎回の単語テストの累計により評価する。
	アカデミックリーディン	10%	アカデミックリーディングの感想、要約等をまとめ、全4回分が提出できているかを評価する。

教科書:

Boost your English 1 Practice for TOEFL ITP (SEIBIDO)
TOEFL テスト 英単語3800 4訂版 (旺文社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

E-mail
授業支援システム(マナビー)

授業テーマ:

TOEFL, IELTSで求められる英語運用能力に焦点を当てた英語運用能力を身につける。

授業の概要:

(1)TOEFL ITPで出題される単語の語彙テストを毎回こなう。
(2)TOEFL ITPのリスニング、文法、リーディング問題の解き方を実践的にこなう。
(3)IELTS のリスニング、リーディングの解き方を模擬問題などを使用し実践的にこなう。
(4)アカデミックな英語の記事を読み、要約等の課題をする。

到達目標:

(1)留学に必要なアカデミックな英語運用能力を身につける。(リスニング能力の向上、文型・文法に関する知識の確認と向上、語彙力の向上、アカデミックな文章を理解する能力の育成)
(2)TOEFL ITP, IELTSで求められる英語運用能力のさらなる向上を目指す。
(3)総合的な英語運用能力を養うため、アカデミックなテーマについて、「読む」、「自分の意見を書く」、「要約する」、「話す」といったパターンの練習をおこなう。

授業方法:

(1)語彙テストを行い、学生に勉強の成果を確認させる。
(2)TOEFL ITP, IELTSの問題を実践的に解くことで、問題形式に慣れると同時に、英語運用能力を養う。
(3)ペア・ワーク、グループ発表等を通じスピーキング能力を養う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション TOEFLの模擬問題	予習、宿題等の確認
2.	TOEFLの模擬問題の復習	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
3.	Module 2 - Lesson 1 単語テスト1	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
4.	Module 2 - Lesson 2 単語テスト2	単語テストの予習 授業内容の予習・復習 アカデミックリーディングの準備
5.	Module 2 - Lesson 3 単語テスト3 アカデミックリーディング1	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
6.	Module 2 - Lesson 4 単語テスト4	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
7.	Module 2 - Lesson 5 単語テスト5	単語テストの予習 授業内容の予習・復習 アカデミックリーディングの準備
8.	Module 2 - Lesson 6 単語テスト6 アカデミックリーディング2	授業内容の復習
9.	まとめ	単語テストの予習 授業内容の復習
10.	TOEFL ITP 模擬テスト 単語テスト7	単語テストの予習 授業内容の復習 アカデミックリーディングの準備
11.	TOEFL ITP 模擬テスト Review アカデミックリーディング3 単語テスト8	単語テストの予習 授業内容の復習
12.	IELTS 模擬テスト1 単語テスト9	単語テストの予習 授業内容の復習
13.	IELTS 模擬テスト2 単語テスト10	単語テストの予習 授業内容の復習 アカデミックリーディングの準備
14.	IELTS 模擬テスト3 アカデミックリーディング4 単語テスト11	授業内容の復習
15.	まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

(1)授業の予習・復習を手を抜くことなく取り組むこと。
(2)各自、受験予定のテスト問題集を準備し、計画的にテスト対策をすること。

フィードバックの方法:

課題等の提出物は評価を書いて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	中間テスト	30%	授業中に取り扱った問題と応用問題から、授業内容の理解度を評価する。
	学年末試験	30%	授業中に取り扱った問題と応用問題から、授業内容の理解度を評価する。
	受講態度	10%	授業に積極的に参加し、能動的に学んでいるかを評価する。
	単語テスト	20%	毎回の単語テストの累計により評価する。
	アカデミックリーディン	10%	アカデミックリーディングの感想、要約等をまとめ、全4回分が提出できているかを評価する。

教科書:

Boost your English 1 Practice for TOEFL ITP (SEIBIDO)
TOEFL テスト 英単語3800 4訂版 (旺文社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

E-mail
授業支援システム(マナビー)

授業テーマ:

TOEFL, IELTS で求められる英語運用能力に焦点を当てた英語運用能力の向上

授業の概要:

留学を目指す学生（あるいは、アカデミックな英語を理解する力を身につけたいと考えている学生）を対象に、総合的な英語力を身につけることを目標とする。英語圏の大学に留学する際には、語学要件として主に、TOEFL ITP, TOEFL iBT, IELTS いずれかのテストで一定の成績以上が求められる。授業ではそれぞれのテストの違いと特徴について理解をし、各テストで求められる英語運用能力の向上に焦点を当てつつ、総合的な英語運用能力の向上を目指す。TOEFL ITP（従来のPaper Based Test）で求められる3技能（Grammar, Listening, Reading）については実践問題を通し、テストストラテジーの習得と共にスコアアップを目指す。
TOEFL iBTで求められる総合的な英語運用能力(聴く、読む、に加え話す、書く、が求められる)を養うため、様々なテーマについて「聴く」→「自分の意見をまとめて話す」、「読む」→「自分の意見を書く」、「読む、聴く」→「両者の関係を要約する」といったパターンのトレーニングを行う。
IELTS, TOEFL iBTの speaking sectionで出される問題練習を繰り返し、与えられたテーマについて1分～2分程度スピーチができるようになることを目指す。
注) 授業では3種類のテストの問題対策（練習問題、過去問題など）をやることは不可能であるため、各自、自身に必要なテストの問題集を用意し、計画的にテスト対策をすること。

到達目標:

- ・TOEFL iBT/ITP, IELTS3種類のテストについてその違いと求められる力を理解する。
- ・TOEFL ITPの出題形式を理解し、時間内に問題を解くことができる。
- ・TOEFL iBT及びIELTSのSpeaking Section 対策として与えられたテーマについて1分程度スピーチができる。
- ・IELTSのWriting 問題のTask 1の特徴を知り、図や表などのデータを見て主な特徴を挙げたり、比較したりして要約することができる。

授業方法:

リスニング力、会話力に結びつく形式での単語テストを実施する。ITP問題対策および文法解説は日本語で行い、iBT対策のディスカッション、グループワーク、IELTS対策のスピーチ練習などは英語で行う予定であるが、適宜、日本語でも補足説明を行う。この授業は受身一方のテスト受験対策ではなく、自らの考えをまとめて英語で発表したり、受講生同士で発表内容の評価を行ったりといった活動も含まれるため、積極的なクラス参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction 2種類のTOEFLテストとIELTS概要 Unit 1	Unit 1 指定箇所 Vocabulary Quiz準備
2.	Unit 1 ITP攻略1	Unit 2 指定箇所 Vocabulary Quiz準備
3.	Unit 2 TP攻略2	Unit 2 指定箇所 Vocabulary Quiz準備
4.	Unit 2 TP攻略3	Unit 2 指定箇所 Vocabulary Quiz準備
5.	Unit 2 TP攻略4	Unit 3 指定箇所 Vocabulary Quiz準備
6.	Unit 3 TP攻略5	Unit 3 指定箇所 Vocabulary Quiz準備
7.	Unit 3 TP攻略6	Unit 3 指定箇所 Vocabulary Quiz準備
8.	Unit 3 TP攻略7	Unit 4 指定箇所 Vocabulary Quiz準備
9.	Unit 4 TP攻略8	Unit 4 指定箇所 Vocabulary Quiz準備
10.	Unit 4	Unit 4 指定箇所
11.	Unit 4	Unit 4 指定箇所
12.	Unit 4	Unit 5 指定箇所
13.	Unit 5	Unit 5 指定箇所
14.	Unit 5	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業の目的はTOEFL, IELTSテストの点数向上そのものではなく、海外の大学でアカデミックな専門分野を学ぶための語学力向上にある。そのことを絶えず念頭に置き、小手先の受験テクニックに走るのではなく、出題される様々な分野に興味関心を持ち、それを英語で学ぶ習慣を身につけて欲しい。

フィードバックの方法:

コメントペーパーについては授業でまとめてコメントする。
Vocabulary Quizは授業で答え合わせをし回収する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	60	単語、出席、授業参加
	定期試験	40	TOEFL ITP問題の解き方を理解し実践に応用できるか評価する。またIELTSのWriting問題Task 1について、その要約が適切にできるかどうか評価する。

教科書:

John Beaumont
North Star Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate Student Book with Audio CDs
PEARSON Longman
(CDセットの物を購入のこと。)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

TOEFL, IELTS で求められる英語運用能力に焦点を当てた英語運用能力の向上

授業の概要:

TOEFL iBTで求められる総合的な英語運用能力(聴く、読む、に加え話す、書く、が求められる)を養うため、様々なテーマについて「聴く」→「自分の意見をまとめて話す」、「読む」→「自分の意見を書く」、「読む、聴く」→「両者の関係を要約する」といったパターンのトレーニングを行う。春学期の「TOEFL・IELTS中級I」に引き続き、IELTS, TOEFL iBTのspeaking sectionで出されるようなトピックについて、準備なしで1分～2分程度スピーチができるようになることを目指す。注) TOEFL・IELTS中級Iを履修していることが望ましい。
授業ではそれぞれのテストの問題対策(練習問題、過去問題など)をやることは不可能であるため、各自、自身に必要なテストの問題集を用意し、計画的にテスト対策をすること。

到達目標:

- ・TOEFL iBT及びIELTSのSpeaking Section 対策として、与えられたテーマについて準備なしに1分程度スピーチができること。
- ・英語で(短めの)プレゼンテーションができること。
- ・ディクテーションを通してリスニングに関するスキルを確実に身につけること。
- ・アカデミックな英文構造の特徴を理解し、長文を読む際、また、与えられた課題についてまとめた英語を書く際に、それらの知識の応用ができること。

授業方法:

春学期に引き続き、リスニング力、会話力に結びつく形式での単語テストを実施する。iBT対策のディスカッション、グループワーク、IELTS対策のスピーチ練習などは英語で行う予定であるが、適宜、日本語でも補足説明を行う。この授業は受身一方のテスト受験対策ではなく、自らの考えをまとめて英語で発表したり、グループディスカッション、受講生同士での評価なども含まれるため、積極的なクラス参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Unit 6	Vocabulary Quiz準備
2.	Unit 6	Vocabulary Quiz準備 課題1準備
3.	Unit 6	Vocabulary Quiz準備 課題1準備
4.	Unit 7	Vocabulary Quiz準備 課題1準備
5.	Unit 7 課題1 (Speaking 1)	Vocabulary Quiz準備 課題2準備
6.	Unit 7 課題 2 (Listening)	Vocabulary Quiz準備 課題3準備
7.	Unit 8	Vocabulary Quiz準備 課題3準備
8.	Unit 8 課題3 (Writing 1)	Vocabulary Quiz準備
9.	Unit 8	Vocabulary Quiz準備 課題4準備
10.	Unit 9	Vocabulary Quiz準備 課題4準備
11.	Unit 9 iBT問題 課題4 (Reading)	Vocabulary Quiz準備
12.	iBT Writing 課題5 (プレゼンテーション)	Vocabulary Quiz準備
13.	iBT Writing 課題5 (プレゼンテーション)	Vocabulary Quiz準備
14.	iBT Writing 課題5 (プレゼンテーション)	課題6準備
15.	iBT Writing 課題5 (プレゼンテーション) 課題6 (Writing 2)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業の目的はTOEFL, IELTSテストの点数向上そのものではなく、海外の大学でアカデミックな専門分野を学ぶための語学力向上にある。そのことを絶えず念頭に置き、小手先の受験テクニックに走るのではなく、出題される様々な分野に興味関心を持ち、それを英語で学ぶ習慣を身につけて欲しい。

フィードバックの方法:

コメントペーパーについては授業でまとめてコメントする。
Vocabulary Quizは授業で答え合わせをし回収する。
各課題についてはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表、討論	30	スピーチやプレゼンのトレーニングを繰り返し、到達目標にある「準備なしのスピーチ」や「英語でのプレゼンテーション」ができるか評価をする。
	課題	40	listening, writing, readingそれぞれの課題を、授業内容の理解度により評価する。
	平常展	30	単語テスト、出席、授業参加

教科書:

John Beaumont
North Star Building Skills for the TOEFL iBT, Intermediate Student Book with Audio CDs
PEARSON Longman
(CDセットの物を購入のこと。)
萱忠義/Jason Hatchell
はじめて受けるTOEFL(R) テストパーフェクト英単語
桐原書店

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール

授業テーマ: : Language, women and society

授業の概要: This course will discuss the topic of language: what language is, how it is defined, and its importance in society and its connection to culture and identity. The class will then explore language and how it defines the female identity, both in Japan and abroad. Students will critically analyze topics introduced in class and discuss their opinions and express their thoughts together with their classmates through group discussion, presentations and debate activities.

到達目標: (1) This course aims to introduce topics related to language and women in past and present societies.
(2) Students will be exposed to various materials discussing the ways in which language affects the ethical and cultural identity of women. Students will be expected to read texts in English, analyse information and think about its content subjectively and critically.

授業方法: All lectures will be given in English and all group activities, presentations, etc. will be conducted in English only. Coursework will consist of in-class discussion, group work, oral presentations and written assignments. Students will need to submit a mid-term assignment and a final assignment during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1 Introduction to the course, explain course expectations	readings, assignments
2.	Language and Gender	readings, assignments
3.	Language and Gender	readings, assignments
4.	History of Women's language	readings, assignments
5.	History of Women's language	readings, assignments
6.	Language, women and the media	readings, assignments
7.	Language, women and the media	readings, assignments
8.	Women, language and movies	readings, assignments
9.	Women, language and movies	readings, assignments
10.	Language and social identity	readings, assignments
11.	Language and social identity	readings, assignments
12.	Gender and language education	readings, assignments
13.	Gender and language education	readings, assignments
14.	Final assignment	readings, assignments
15.	Final assignment	readings, assignments

受講者へのメッセージやアドバイス: Students are expected to read the assigned English texts prior to class, complete the assigned homework on time and be prepared to actively participate in class discussion and group work.

フィードバックの方法: Individual feedback sessions in class mid-term, feedback comments on assignments, and prior to assignment deadlines.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	10%	Arrive to class on time. More than 5 minutes late = LATE; more than 30 minutes late = ABSENT. 3 LATES = 1 ABSENT.
	Class participation	20%	Group work, active participation in class, using mobile phones and sleeping in class strictly prohibited.
	Group work	20%	Active discussion in class is expected
	Midterm Assignment	25%	Will be announced during Weeks 5 and 6
	Final Assignment	25%	Will be announced during Weeks 10 and 11

教科書: no textbook required for this course

参考書: Jules, A. (2008) A beginner's guide to language and gender. Bristol: Multilingual Matters. (ISBN-10: 1847690556) (ISBN-13: 978-1847690555)
: Eckert, P., McConnell-Ginet, S., (2013) Language and Gender. (2nd Edition), Cambridge University Press. (ISBN: 978-1-107-02905-7)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: by email: msaki@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Language, education and bilingualism

授業の概要:

Students will be introduced to the topic of bilingualism and its relationship with various aspects of language and education. Students will be exposed to a variety of different texts and other materials in English and will practice analytical and critical thinking skills. Students will be assigned weekly reading homework and oral/written presentation assignments. In-class group discussion is expected every class

到達目標:

Students will be expected to actively participate in group work, in-class discussions, oral presentations and written assignments all in English.
Students are required to submit a mid-term assignment and final assignment during the course.

授業方法:

All lectures conducted in English, with group discussion and the use of media (social media,TED Talks, foreign news reports,, DVD's, etc.) and readings (academic journals, newspapers, magazines, etc.)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to course, goals and expectations	Weekly assignment
	2. language and society	Weekly assignment
	3. language and society	Weekly assignment
	4. bilingualism; definitions	Weekly assignment
	5. bilingualism: definitions	Weekly assignment
	6. the bilingual child	Weekly assignment
	7. Mid-term Assignment	Weekly assignment
	8. bilingual education	Weekly assignment
	9. bilingual education	Weekly assignment
	10. language policy in Japan	Weekly assignment
	11. language policy in Japan	Weekly assignment
	12. language minorities	Weekly assignment
	13. language minorities	Final Assignment preparation
	14. Final Assignments	Final Assignment preparation
	15. Final Assignments	Final Assignment preparation

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to prepare assignments for every class (which includes and not limited to readings, short paragraphs and essays, mini-presentations, etc.). Speaking in English in class with the instructor and fellow classmates is not only encouraged but expected. High motivation is required for this class

フィードバックの方法:

Will be explained by the instructor in class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	10%	as determined by the instructor
	Weekly assignments	20%	as determined by the instructor
	Group work/pair work	20%	as determined by the instructor
	Mid-term Assignment	25%	as determined by the instructor
	Final Assignment	25%	as determined by the instructor

教科書:

no textbook required for this class; materials will be prepared by the instructor and distributed to students weekly/bi-weekly

参考書:

Padilla A., Fairchild, H., Valadez, C. (1990). Bilingual Education; Issues and Strategies. London. Sage.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Will be specified by the instructor in class.

授業テーマ:

英詩に親しむ: 中世から18世紀までの詩

授業の概要:

有名な必読とみなされる詩をなるべく多く読み解き分析する。

到達目標:

英詩を読み解くことに慣れ、詩人や作品について、また時代背景などについての知識を深める。

授業方法:

演習形式。受講生による訳読、質疑応答、担当者による解説という形で進める。授業の終わりにコメントを書いて提出させる場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	毎回の授業の予習をして自分の考えを持って授業に臨む。授業で学んだことを整理し、課題のための準備しておく。
	2. 中世の詩: 宮廷詩人の作品	
	3. 同上	
	4. 中世の詩: 庶民の文学、Ballad	
	5. 同上	
	6. ソネット: Wyatt & Surrey	
	7. ソネット: Sidney & Spenser	
	8. ソネット: Shakespeare	
	9. ソネット: Donne & Milton	
	10. Shakespeareの戯曲	
	11. 形而上派詩人の作品	
	12. Miltonの長詩	
	13. 同上	
	14. 18世紀詩人の作品	
	15. 同上	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物は、添削し、コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	受講姿勢	40%	授業に臨む意欲的な姿勢(十分な予習、積極的な受け答え)、訳読の内容、授業で提出させる「コメント」の内容で評価する。 学期末のレポートの内容(詩人や作品、時代背景について正確な知識を獲得し、それを元に論理的かつ説得力のある独自の考察をし、アカデミックな表現形式により文章化しているかどうか)で評価する。
	課題	60%	

教科書:

William Harmon, The Classical Hundred Poems All-time Favorites, Columbia Univ. Press
Gavin Bantock, Pioneers of English Poetry, Kinseido

参考書:

授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワーとEメール(ykohmoto@dw.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:	英詩に親しむ: 19世紀と20世紀の作品		
授業の概要:	有名な必読とされる英詩をできるだけ多く読み、分析する。		
到達目標:	英詩を読み解くことに慣れ、作品や詩人、時代背景についての知識を深める。		
授業方法:	演習形式。学生による発表、質疑応答、担当教員の解説で進める。授業の終わりにコメントを書いて提出させる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ロマン主義時代の黎明: Gray	授業の予習をし、学んだことはその都度整理してレポート提出の準備しておく。
	2.	ロマン派前期: Wordsworthの詩	同上
	3.	同上	同上
	4.	ロマン主義前期: Coleridgeの詩	同上
	5.	同上	同上
	6.	ロマン派後期: ShelleyとKeatsの詩	同上
	7.	同上	同上
	8.	同上	同上
	9.	Victoria朝時代: Tennysonの詩	同上
	10.	Victoria朝時代: Robert Browningの詩	同上
	11.	同上	同上
	12.	同上	同上
	13.	Victoria朝時代: Elizabeth B. Browningの詩	同上
	14.	20世紀: War Poems	同上
	15.	同上	同上
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出物は、添削し、コメントをつけて返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業に臨む態度	40%	意欲的な姿勢(十分な予習と積極的な受講態度)、訳読の内容、提出させた「コメント」の内容により評価する。
	課題	60%	レポートの内容(授業で学んだ知識を元に、作品を正確に解釈、分析し、論理的で説得力のある独自の見解を持ち、それをアカデミックな表現形式で文章化しているか)により評価する。
教科書:	William Harmon, The Classical Hundred Poems All-time Favorites, Columbia Univ. Press Gavin Bantock, Pioneers of English Poetry, Kinseido		
参考書:	授業中に指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーとEメール(ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp)		

授業テーマ:	18世紀イギリスの女性作家—Eliza Haywood の Fantomina(1725)を読む		
授業の概要:	イギリスの18世紀はマイナーな女性作家をたくさん排出した時代である。その中で一番多作であったEliza Haywoodの Fantominaを取り上げて、男性が女性を誘惑する「誘惑物語」という18世紀の典型的な物語のテーマを、女性作家はどのように描いたかを探る。		
到達目標:	(1)18世紀英語で書かれた文学作品の文体に慣れる。 (2)作品の内容を理解し分析することで、文学作品の研究手法の1側面を学ぶ。		
授業方法:	文学作品の訳読式の講読が中心となる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	イントロダクション 18世紀という時代・女性作家の地位・作者紹介	授業の進め方についての理解 授業の予習
	2.	Fantominaの訳読と解釈 1	授業の予習
	3.	Fantominaの訳読と解釈 2	授業の予習
	4.	Fantominaの訳読と解釈 3	授業の予習
	5.	Fantominaの訳読と解釈 4	授業の予習
	6.	Fantominaの訳読と解釈 5	授業の予習
	7.	Fantominaの訳読と解釈 6	授業の予習
	8.	Fantominaの訳読と解釈 7	授業の予習
	9.	Fantominaの訳読と解釈 8	授業の予習
	10.	Fantominaの訳読と解釈 9	授業の予習
	11.	Fantominaの訳読と解釈 10	授業の予習
	12.	Fantominaの訳読と解釈 11	授業の予習
	13.	Fantominaの訳読と解釈 12	授業の復習
	14.	Fantominaについてのディスカッション	授業の復習
	15.	Fantominaについての課題レポートの説明	レポート課題の準備
受講者へのメッセージやアドバイス:	(1)18世紀の英語は現代の英語と比べると古いため、多少読解が難解であることを覚悟してほしい。 (2)毎回の予習が不可欠である。		
フィードバックの方法:	(1)訳読形式の授業なので、英文の正しい読解をその都度指導する。 (2)課題レポートをコメントをつけて返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	受講態度(予習・出欠・積極性)	40%	予習をして真面目に授業に取り組んだか
	課題レポート	60%	自分独自の視点で、しっかりと作品分析ができているか
教科書:	プリント配布		
参考書:	最初の授業時に配布		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	・ライン ・E-mail ・電話		

授業テーマ:	18世紀イギリスの女性作家―Jane Barker の Love Intrigues(1713)を読む		
授業の概要:	イギリスの18世紀はマイナーな女性作家をたくさん排出した時代である。その中で上流階級出身の Jane Barker の、自身の体験に基づいた作品 Love Intrigues を読んで、当時の女性に求められた美德と恋愛について考える。		
到達目標:	(1) 18世紀英語で書かれた文学作品の文体に慣れる。 (2) 作品の内容を理解し分析することで、文学作品の研究手法の1側面を学ぶ。		
授業方法:	文学作品の訳読式の講読が中心となる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	イントロダクション 18世紀という時代・女性作家の地位・作者についての説明	授業の進め方についての理解 授業の予習
	2.	Love Intrigue の訳読と解釈 1	授業の予習
	3.	Love Intrigue の訳読と解釈 2	授業の予習
	4.	Love Intrigue の訳読と解釈 3	授業の予習
	5.	Love Intrigue の訳読と解釈 4	授業の予習
	6.	Love Intrigue の訳読と解釈 5	授業の予習
	7.	Love Intrigue の訳読と解釈 6	授業の予習
	8.	Love Intrigue の訳読と解釈 7	授業の予習
	9.	Love Intrigue の訳読と解釈 8	授業の予習
	10.	Love Intrigue の訳読と解釈 9	授業の予習
	11.	Love Intrigue の訳読と解釈 10	授業の予習
	12.	Love Intrigue の訳読と解釈 11	授業の予習
	13.	Love Intrigue の訳読と解釈 12	授業の復習
	14.	Love Intrigue についてのディスカッション	授業の復習
	15.	Love Intrigue についての課題レポートの説明	レポート課題の準備
受講者へのメッセージやアドバイス:	(1) 18世紀の英語は現代の英語と比べると古いため、多少読解が難解であることを覚悟してほしい。 (2) 毎回の予習は必須である。		
フィードバックの方法:	(1) 訳読形式の授業なので、英文の正しい読解をその都度指導する。 (2) 課題レポートにコメントをつけて返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	受講態度(予習・出欠・課題 レポート	40% 60%	予習をして真面目に授業に取り組んだか 自分独自の視点から、しっかりと作品分析ができているか
教科書:	プリント配布		
参考書:	最初の授業時に配布		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	・ライン ・E-mail ・電話		

授業テーマ:

Thomas Hardyの小説研究

授業の概要:

(1)トマス・ハーディの主要作品についての解説と、Judeの研究方法(講義)
(2)作品Judeの精読、読解、分析
(3)作品に関連した研究書のまとめの発表

到達目標:

19世紀後期のイギリス人作家Thomas Hardy (1840–1928)の6大作の一つJude the Obscure (1895)を精読することによって、小説の読解力の向上と研究方法の習得を目指す。

授業方法:

人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的には、講義と精読と発表を中心に授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。
	2. 講義:トマス・ハーディとWessex Novelsについて(1)	質問を準備しておく。
	3. 講義:トマス・ハーディとWessex Novelsについて(2)	質問を準備しておく。
	4. 作品の精読と分析:Jude the Obscure (1895)	十分な準備をしておく。
	5. 作品の精読と分析:Jude	十分な準備をしておく。
	6. 講義:Judeの研究方法(1)	質問を準備しておく。
	7. 講義:Judeの研究方法(2)	質問を準備しておく。
	8. 作品の精読と分析:Jude	十分な準備をしておく。
	9. 作品の精読と分析:Jude	十分な準備をしておく。
	10. 作品の精読と分析:Jude	十分な準備をしておく。
	11. 作品の精読と分析:Jude	十分な準備をしておく。
	12. 発表:研究書のまとめ	レジュメの準備をする。
	13. 作品の精読と分析:Jude	十分な準備をしておく。
	14. 作品の精読と分析:Jude	十分な準備をしておく。
	15. 春学期の総まとめ	これまでの授業内容を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

学期末のレポートは、採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	学期末のレポート1回	50%	小説研究の方法論を踏まえてレポートが書かれているかどうかを基準とする。
	発表	25%	レジュメの作り方や内容によって評価する。
	授業への積極的参加度	25%	授業への積極的参加によって評価する。

教科書:

Thomas Hardy, Jude the Obscure (1895) (Norton Edition)

参考書:

授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメールの連絡、および授業前後と授業外のアポで対応する。

授業テーマ:	Thomas Hardyの小説研究		
授業の概要:	(1)トマス・ハーディの主要作品についての解説と、Judeの研究方法(講義) (2)作品Judeの精読、読解、分析 (3)作品に関連した研究書のまとめの発表		
到達目標:	19世紀後期のイギリス人作家Thomas Hardy (1840-1928)の6大作の一つJude the Obscure (1895)を精読することによって、小説の読解力の向上と研究方法の習得を目指す。		
授業方法:	人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的には、講義と精読と発表を中心に授業を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。	
	2. 講義: Judeの研究方法(1)	質問を準備しておく。	
	3. 作品の精読と分析: Jude	十分な準備をしておく。	
	4. 作品の精読と分析: Jude	十分な準備をしておく。	
	5. 講義: Judeの研究方法(2)	質問を準備しておく。	
	6. 作品の精読と分析: Jude	十分な準備をしておく。	
	7. 作品の精読と分析: Jude	十分な準備をしておく。	
	8. 作品の精読と分析: Jude	十分な準備をしておく。	
	9. 講義: Judeの研究方法(3)	質問を準備しておく。	
	10. 作品の精読と分析: Jude	十分な準備をしておく。	
	11. 作品の精読と分析: Jude	十分な準備をしておく。	
	12. 作品の精読と分析: Jude	十分な準備をしておく。	
	13. 作品の精読と分析: Jude	十分な準備をしておく。	
	14. 作品の精読と分析: Jude	十分な準備をしておく。	
	15. 秋学期の総まとめ	これまでの授業内容を復習しておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	学期末のレポートは、採点とコメントをして返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート1回	50%	小説研究の方法論を踏まえてレポートが書かれているかどうかを基準とする。
	発表	25%	レジュメの作り方や内容によって評価する。
	授業への積極的参加度	25%	授業への積極的参加によって評価する。
教科書:	Thomas Hardy, Jude the Obscure (1895) (Norton Edition)		
参考書:	授業中に提示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメールの連絡、および授業前後と授業外のアポで対応する。		

授業テーマ:	アメリカ文学と人種問題		
授業の概要:	人種問題を扱う作家や政治家の思想を追うことにより、人種差別をする側とされる側の意識を調べ、そのメカニズムを多面的に検証する。		
到達目標:	文学作品をとおして、アメリカの人種問題に関する理解を深める。		
授業方法:	発表と講義が中心となるが、AV資料をみてのディスカッション等もおこなう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	授業のイントロダクション	シラバスをよく読んでおく
	2.	ストウ夫人の『アンクルトムの小屋』を講読 1	指定した範囲を読んでおく
	3.	ストウ夫人の『アンクルトムの小屋』を講読 2	指定した範囲を読んでおく
	4.	ストウ夫人の『アンクルトムの小屋』を講読 3	指定した範囲を読んでおく
	5.	ストウ夫人の『アンクルトムの小屋』を講読 4	指定した範囲を読んでおく
	6.	フレデリック・ダグラスの『フレデリック・ダグラス自伝』を講読 1	指定した範囲を読んでおく
	7.	フレデリック・ダグラスの『フレデリック・ダグラス自伝』を講読 2	指定した範囲を読んでおく
	8.	フレデリック・ダグラスの『フレデリック・ダグラス自伝』を講読 3	指定した範囲を読んでおく
	9.	マーガレット・ミッチルの『風と共に去りぬ』を講読 1	指定した範囲を読んでおく
	10.	マーガレット・ミッチルの『風と共に去りぬ』を講読 2	指定した範囲を読んでおく
	11.	マーガレット・ミッチルの『風と共に去りぬ』を講読 3	指定した範囲を読んでおく
	12.	マーガレット・ミッチルの『風と共に去りぬ』を講読 4	指定した範囲を読んでおく
	13.	マーガレット・ミッチルの『風と共に去りぬ』を講読 5	指定した範囲を読んでおく
	14.	マーガレット・ミッチルの『風と共に去りぬ』を講読 6	指定した範囲を読んでおく
	15.	マーガレット・ミッチルの『風と共に去りぬ』を講読 7	指定した範囲を読んでおく
受講者へのメッセージやアドバイス:	講読中に不明の箇所があれば調べておく。英語の構文等の問題だけでなく、物語の舞台となる社会の文化的・歴史的事実も調べておく。		
フィードバックの方法:	授業に関する質問等を随時書いてもらい、次の授業でコメントをする。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加	50%	遅れずに出席をきちんとする。どうしても休まなければならないときは必ず事前に連絡をする。授業中に、不明な点があれば質問をする。
	レポート	30%	レポートの内容だけでなく、正しいフォームで書いているかも考慮する。
	ディスカッション	20%	自分の意見を積極的に発言する。
教科書:	教科書は使用しない。プリントを配布する。		
参考書:	最初の授業で紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	公開している同志社女子大学のメールアドレスを使用する。		

授業テーマ:	アメリカ文学と人種問題		
授業の概要:	人種問題を扱う作家や政治家の思想を追うことにより、人種差別をする側とされる側の意識を調べ、そのメカニズムを多面的に検証する。		
到達目標:	文学作品をとおして、アメリカの人種問題に関する理解を深める。		
授業方法:	発表と講義が中心となるが、AV資料をみてのディスカッション等もおこなう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業のイントロダクション	シラバスをもう一度よく読んでおく。	
	2. ラングストン・ヒューズの“The Negro Speaks of Rivers”を講読 1	指定した範囲を読んでおく。	
	3. ラングストン・ヒューズの“The Negro Speaks of Rivers”を講読 2	指定した範囲を読んでおく。	
	4. リチャード・ライトのThe Ethics of Living Jim Crowを講読 1	指定した範囲を読んでおく。	
	5. リチャード・ライトのThe Ethics of Living Jim Crowを講読 2	指定した範囲を読んでおく。	
	6. リチャード・ライトのThe Ethics of Living Jim Crowを講読 3	指定した範囲を読んでおく。	
	7. リチャード・ライトのThe Ethics of Living Jim Crowを講読 4	指定した範囲を読んでおく。	
	8. リチャード・ライトのThe Ethics of Living Jim Crowを講読 5	指定した範囲を読んでおく。	
	9. リチャード・ライトのThe Ethics of Living Jim Crowを講読 6	指定した範囲を読んでおく。	
	10. ジョージ・ウォレスの“The 1963 Inaugural Address”を講読 1	指定した範囲を読んでおく。	
	11. ジョージ・ウォレスの“The 1963 Inaugural Address”を講読 2	指定した範囲を読んでおく。	
	12. ジョージ・ウォレスの“The 1963 Inaugural Address”を講読 3	指定した範囲を読んでおく。	
	13. ジョージ・ウォレスの“The 1963 Inaugural Address”を講読 4	指定した範囲を読んでおく。	
	14. ジョージ・ウォレスの“The 1963 Inaugural Address”を講読 5	指定した範囲を読んでおく。	
	15. ジョージ・ウォレスの“The 1963 Inaugural Address”を講読 6	指定した範囲を読んでおく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講読中に不明の箇所があれば調べておく。英語の構文等の問題だけでなく、物語の舞台となる社会の文化的・歴史的事実も調べておく。		
フィードバックの方法:	授業に関する質問等を随時書いてもらい、次の授業でコメントする。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加	50%	遅れずに出席をきちんとする。どうしても休まなければならないときは必ず事前に連絡をする。授業中に、不明な点があれば質問をする。
	レポート	30%	レポートの内容だけでなく、正しいフォームで書いているかも考慮する。
	ディスカッション	20%	自分の意見を積極的に発言する。
教科書:	教科書は使用しない。プリントを配布する。		
参考書:	最初の授業で紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	公開している同志社女子大学のメールアドレスを使用する。		

授業テーマ: Translation in Theory and Practice

授業の概要: Translation is an essential part of how we learn about other cultures and how we share our knowledge and ideas with a wide range of people. But what processes are involved, and what constitutes an acceptable translation? In this class we will discuss theories and techniques of translation in general and then seek to apply them to English-Japanese and Japanese-English translation. Actual content will vary according to the students' interests and needs (and the size of the class).

到達目標: --to improve expressive ability in written Japanese and English
 --to develop understanding of topics in translation theory and techniques available to the translator
 --to understand the different styles of translation that are used in different genres
 --to learn to balance respect for the original with the needs of the reader

授業方法: There will be some short lectures, and we will discuss various readings as well as our own translations. Students are encouraged to keep a notebook in which to record questions and comments to share with the class. The class will be conducted primarily in English.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the course	Do the assigned reading
	2. Comparisons of multiple translations of the same work	Do the assigned reading
	3. Academic translation	Do the assigned reading; translate a selected passage
	4. Academic translation	Select an academic article for translation
	5. Academic translation	Do the assigned readings and continue working on the translation.
	6. Academic translation due	Examine translations of dialogue in various contexts.
	Translating dialogue	Translate a scene from a movie.,
	7. Translating dialogue	Continue the translation project.
	8. Subtitles	Study subtitles and/or dubbing
	9. Subtitles	Do a movie script translation
	10. Translating a newspaper article	Compare news articles on the same topic in Japanese and English
	Movie translation due	
	11. Journalism and translation	Translate an editorial or newspaper article
	12. Translation due	Examine translation of an essay
	Journalism and translation	
	Translating essays	
	13. Translating essays	Begin translation of a selected essay
	14. Topics in translation: voice, register, flow	Finish the draft translation with accompanying analysis
	15. Student presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス: Translation can very creative and challenging, or very cut-and-dried. Sometimes there is only one correct translation, but mostly the translator is called on to show understanding and sensitivity. Enjoy this chance to fall in love with your own language above all, as well as the English language.

フィードバックの方法: Feedback in the course of class discussions as well as corrections to the homework exercises and draft translations.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and class participation	40%	Attitude, ability to demonstrate understanding of material covered, ability to ask pertinent questions
	Translations	60%	Accuracy, understanding of the requirements of the genre and the techniques available, flair for language

教科書: Hasegawa, Yoko. The Routledge Course in Japanese Translation. Routledge, 2011.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法: --office hour
 --email
 --by appointment

授業テーマ: Translation in Theory and Practice

授業の概要: Translation is an essential part of how we learn about other cultures and how we share our knowledge and ideas with a wide range of people. But what processes are involved, and what constitutes an acceptable translation? In this class we will discuss theories and techniques of translation in general and then seek to apply them to mostly English-Japanese translation. Content will vary according to the students' interests and needs..

到達目標: --to deepen reading comprehension of English and learn to use the full panoply of expressions in Japanese
--to develop more knowledge of how to avoid the pitfalls of literal translation]
--to understand the requirements of different genres of translation
--to balance accuracy with readability

授業方法: Short lectures as well as discussion based on the readings and other assignments.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Introduction to the course	Assigned reading
2. Comparison of multiple translations of the same work	Assigned reading
3. Academic translation (E-J)	Translation of a selected passage
4. Academic translation (E-J)	Translation, continued
5. Essay translation	Translate a selected essay
6. Essay translation	Translation continued
7. Essay translation	Assigned reading
8. Poetry translation	Translate selected poem(s)
9. Poetry translation	Translation continued
10. Film translation	Assigned reading
11. Film translation	Translation of a selected scene
12. Topics in translation	Prepare a final project
13. Discussion	Continue work on the project
14. Discussion	Continue work on the project
15. Student presentation	

ns

受講者へのメッセージやアドバイス: Translation can be creative and challenging or cut-and-dried. Sometimes there is only one correct translation, but mostly the translator is called on to show understanding and sensitivity, translating the image and flow rather than the words per se. Enjoy this chance to fall in love with your own language as well as English and the process of translation.

フィードバックの方法: In-class discussion as well as written corrections to homework assignments and draft translations.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and class participation	40%	Attitude, ability to demonstrate understanding of material covered, ability to ask pertinent questions
	Translations	60%	Accuracy, understanding of the requirements of the genre and the techniques available, flair for language

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: --office hour
--email
--by appointment

授業テーマ：

授業の概要：In this class, students will learn about communication based on their own interests. (Note: The actual fields of communication covered in the class will depend on the students' interests. The schedule below an example.)

到達目標：The purpose of the course is to introduce students to communication theory and its application.

授業方法：Reading in preparation for class discussion; designing and carrying out a research project.

「授業内容」および「準備学習等の内容」	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to Communication	none
	2. Interpersonal Communication 1	Read and answer questions.
	3. Interpersonal Communication 2	Read and answer questions.
	4. Interpersonal Communication 3	Read and answer questions.
	5. Interpersonal Communication 4	Read and answer questions.
	6. Interpersonal Communication 5	Read and answer questions.
	7. Interpersonal Communication 6	Read and answer questions.
	8. Interpersonal Communication 7	Read and answer questions.
	9. Nonverbal Communication 1	Read and answer questions. Work on research paper.
	10. Nonverbal Communication 2	Read and answer questions. Work on research paper.
	11. Nonverbal Communication 3	Read and answer questions. Work on research paper.
	12. Nonverbal Communication 4	Read and answer questions. Work on research paper.
	13. Nonverbal Communication 5	Read and answer questions. Work on research paper.
	14. Nonverbal Communication 6	Read and answer questions. Work on research paper.
	15. Nonverbal Communication 7	Read and answer questions. Work on research paper.

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：Discussion with students

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and class participation	40%	Discussion in class; number of absences
	Research paper	60%	Research design, statistics, conclusion

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法：kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:

授業の概要: In this class, students will learn about communication based on their own interests. (Note: The actual fields of communication covered in the class will depend on the students' interests. The schedule below an example.)

到達目標: The purpose of the course is to introduce students to communication theory and its application.

授業方法: Reading in preparation for class discussion; designing and carrying out a research project.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Intercultural Communication 1	none
	2. Intercultural Communication 2	Read and answer questions.
	3. Intercultural Communication 3	Read and answer questions.
	4. Intercultural Communication 4	Read and answer questions.
	5. Intercultural Communication 5	Read and answer questions.
	6. Intercultural Communication 6	Read and answer questions.
	7. Intercultural Communication 7	Read and answer questions.
	8. Intercultural Communication 8	Read and answer questions. Work on research paper.
	9. Mass Communication 1	Read and answer questions. Work on research paper.
	10. Mass Communication 2	Read and answer questions. Work on research paper.
	11. Mass Communication 3	Read and answer questions. Work on research paper.
	12. Mass Communication 4	Read and answer questions. Work on research paper.
	13. Mass Communication 5	Read and answer questions. Work on research paper.
	14. Mass Communication 6	Read and answer questions. Work on research paper.
	15. Mass Communication 7	Read and answer questions. Work on research paper.

受講者へのメッセージやアドバイス:
フィードバックの方法: Discussion with students

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and class participation	40%	Discussion in class; number of absences
	Research paper	60%	Research design, statistics, conclusion

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、リーダーシップ
教員との連絡方法: kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:

学習者の第二言語習得への貢献:外国語学習者方略についての研究

授業の概要:

このコースでは、外国語学習者方略 (Learner Strategy=LS) についての理解を深めながら、以下の3点について議論を深めます。

(1)LS 研究が目指すもの (Rationale): 1970年代半を契機にこの約30年間LSに関する研究が盛んに行われてきています。LS はどのように定義、分類されてきたのか?また、外国語学習、教室における外国語教授にこのLSは何を提起し、どのような影響を与える可能性があるのか検討します。

(2)LS 研究の方法 (Methodology) :LS 研究において問題となるのが、研究方法です。ここではLS 研究でよく用いられる質問紙、特にSILLに焦点を当てながらLS 研究の方法について理解を深めます。

(3)LS 研究の成果 (State of the art) :学習環境 (ESL-EFL)や様々な学習者要因 (Self-efficacy, Gender, Personalityなど)との関わり、Teachingとの融合 (Strategy Training) などLS 研究がどのような成果をあげてきているか理解を深めます。

到達目標:

(1)LS 研究が目指すもの (Rationale)について理解が深まる。

(2)LS 研究の方法 (Methodology) について理解が深まる。

(3)LS 研究の成果 (State of the art) について理解が深まる。

授業方法:

Section I は主として講義形式で、Section II-IIIは適切な論文を題材に受講者によるプレゼンテーションを中心とする演習スタイルで授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. コースオリエンテーション	授業に対する期待を考える
2. Section I: イントロダクション; 理論的フレームワーク	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
3. LSの基本概念 (LSの定義)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
4. LSの基本概念 (分類)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
5. LS研究方法 (質問紙、Stimulated Recall Interview)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
6. LSトレーニング	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
7. LS研究の問題点を乗り越えてどう研究を進めるか	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
8. Section II: Successful language learnerのGood LSを探す (世界の第二言語学習者のLS)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
9. リスニングのためのLS	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
10. コミュニケーションのためのLS	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
11. Section III: LSの選択に影響を与える学習者要因 (GenderとLSの関連性)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
12. Self-efficacyとLSの関連性	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
13. PersonalityとLSの関連性	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
14. LSトレーニング (LSがLanguage Teachingに与えるImplicationとは)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
15. まとめと今後の研究の方向性	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:

全体を通して、予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることが求められます。

フィードバックの方法:

プレゼンテーションについては評価を事後にManaba等で提示します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	20	到達目標 (1) ~ (3) に関する知識により評価する
授業中のディスカッション態度	20	到達目標 (1) ~ (3) に関する知識により評価する
レポート	60	到達目標 (1) ~ (3) に関する知識により評価する

教科書:

ハンドアウトを配布します。

参考書:

授業中に提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

授業テーマ:

外国語学習者方略を中核としたGood Language Learnerに関する実証的研究

授業の概要:

このコースでは、外国語学習者方略 (Learner Strategy = LS) についての理解を深め、実際にデータ収集を行い模擬研究を行います。可能であれば共同で学会発表も行う計画です。

到達目標:

以下の3点を到達目標とします。
(1)外国語学習の個人差要因について議論を深める。
(2)外国語学習の個人差研究のデータ収集・分析・議論の仕方を実践的に学ぶ。
(3)実際のデータ収集・分析を通して外国語学習の成功の秘訣を探る。

授業方法:

外国語個人差要因に関する共同プロジェクトを中核に、Research Question 設定のための理論的背景のレビュー、研究方法のレビュー、データ収集方法(例えば、フォーカスグループインタビュー実践のための方法論)の議論、等も含め、データ収集、分析を実践し、論文に仕上げます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	コースオリエンテーション	授業に期待することを考える
2.	Part IV: 応用言語学のデータ収集の方法: 質問紙の開発方法(信頼性)	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
3.	信頼性の検証方法 (SPSS)	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
4.	質問紙の開発方法 (妥当性-1)	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
5.	質問紙の開発方法 (妥当性-2)	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
6.	質的研究の方法 (インタビュー、フォーカスグループインタビューの方法)	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
7.	質的研究の方法 (Stimulated Recall Interviewの方法)	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
8.	質的研究の方法 (インタビューデータの分析方法)	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
9.	Part V: 外国語個人差要因に関する共同プロジェクト。外国語学習の個人差の要因 (学習動機、学習スタイル、外国語学習ストラテジー)。研究計画、リサーチクエスチョンの設定 (1)	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
10.	リサーチクエスチョンの設定 (2)	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
11.	リサーチクエスチョンの設定 (3)、研究計画、データ収集方法の計画	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
12.	データ収集方法・分析方法の検討	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
13.	データ収集方法の確立	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
14.	データ分析 (SPSS)	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく
15.	共同研究のまとめかたについての議論、コースのまとめ	ハンドアウトの該当部分を事前に読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:

新しいResearch Question を探す気力と意欲を持って授業に参加して下さい。

フィードバックの方法:

課題については授業中に評価をつけて返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業中のディスカッション態度	20	到達目標(1)～(3)に関する知識により評価する
	プロジェクト	80	到達目標(1)～(3)に関する知識により評価する

教科書:

ハンドアウトを配布します。

参考書:

授業中に提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

授業テーマ:

言語処理(language processing)と言語習得(language acquisition)研究

授業の概要:

この授業のテーマは、心理言語学に関する基礎的な項目を扱う。心理言語学について学ぶことは、我々が通常何気なく使っているコトバについての深い理解につながる。特に、人間のコトバの理解や発話の仕組みについて深く考える機会を与えられる。知識と能力の関係、言語能力の発達、そして発達を促す言語教育の方法についてこの授業を通して考えていく。

到達目標:

(1) 心理言語学に関する英語の文献を正確に読める。(2) 心理言語学に関する研究に対して興味を持って意見交換できる。(3) 心理言語学に関する研究成果に関して批判的に捉えることができる。(4) 各自Mini project workを立ち上げ、テーマを追求し、レポートにまとめることができる。

授業方法:

初回は飯田が全体を解説する。その後、受講者がテーマに関する文献を授業前に読んできて、発表する。授業は、文献の内容に関する討論が中心となる。最後の2回でMini project workを行う。積極的な参加を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: What is psycholinguistics?	シラバスを読み、授業内容を理解した上で、授業に参加する。
2.	Language and Brain: 脳と言語はどのような関係になっているのだろうか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。
3.	An Information Processing Approach (情報処理アプローチ): 人は言語をどのように処理しているのか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
4.	Decoding Reading (読解の過程): どのように読んだ文章を言語処理しているのか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
5.	Long term Memory and Schema Theory (長期記憶とスキーマ理論): 言語と記憶との関係、スキーマ理論とは何か？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある点について更に調べる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
6.	Data in Psycholinguistics (心理言語学におけるデータの扱い方): データをどのように扱うか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある点について更に調べる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
7.	Animal Communication (動物のコミュニケーション): 人間と動物のコミュニケーションの共通性と相違性とは何か？	決められた範囲の部分を読み、興味ある点について更に調べてくる。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
8.	Word Association (語と語の関係): 人は語をどのように認識するのか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分を調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
9.	Bottom-up and Top-down Processing (readingの上位処理と下位処理): 人は文章をどのように読むのか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分について調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
10.	Eye Movement in Reading: 目の動きから文章読解方法を探る。	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分について調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
11.	Inferences (推測): ある情報から人はどの程度推測できるのであろうか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分について調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
12.	Memory and Language: 記憶と言語はどのような関係になっているのか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分について調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
13.	Skilled and Unskilled Readers: 熟達した読み手と未熟な読み手ではどのような違いがあるのだろうか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分について調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
14.	Mini Project Work 1 : テーマを決めて、調査する。	今まで、読んできた内容に関して自分なりの課題を見つけ、research questionを作成する。その具体的研究方法に関しても言及する。
15.	Mini Project Work 2 : 研究したことについて口頭発表する。	research questionに関して研究したことについて発表する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

Psycholinguisticsの基礎と面白さを学ぼう。

フィードバックの方法:

毎回読んできた内容に関しては、受講者と担当者とのやり取りの中で、フィードバックを行う。mini project workに関しては、授業中に口頭でコメントしたり、マナビーを通して提出されたレポートにコメントを加えて返却する。

「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	毎回の課題	30	到達目標(1)と(2)に関して、授業中の発表から内容をどの程度理解しているかという観点で評価する。
	授業中の発言を含む貢献度	20	到達目標(3)に関して、授業中の発言の内容、教師とのやり取りの内容から、どの程度理解しているか、批判的に読んでいるか、という観点で評価する。
	レポート	50	到達目標(4)に関して、提出されたレポートから授業の理解度、分析の深さ、テーマの設定の適切性という観点から評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	E-mail、マナビー

授業テーマ:

バイリンガリズムと言語教育を考える。

授業の概要:

バイリンガルと聞くと日英両言語に流暢な人を連想するが、実際はさまざまな言語の組み合わせがあり、人によってさまざまな二言語の状態が存在する。ここで扱うバイリンガリズムとは、特に多数派言語(Majority language)と少数派言語(Minority language)が共存する地域での二言語状況及びその教育方法のことを指す。そのような状況の中で、この授業では子供たちの言語発達、言語の役割、教育方法のあり方を考える。次に、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ等の言語状況、メディア、翻訳を通して言語教育の在り方を参考にしながら将来の日本の言語教育のあるべき姿を考察する。最後に、扱ったテーマの中から自分のテーマを決め、発表し、議論を通して、レポートにまとめるproject workを行う。

到達目標:

(1) Bilingualismに関する英語の文献を正確に読める。(2) Bilingualismに関する研究に対して興味を持って意見交換できる。(3) Bilingualismに関する研究に関して批判的に捉えることができる。(4) 各自Mini-project workを立ち上げ、テーマを追求できる。

授業方法:

初回は担当者が全体を解説する。その後、受講者がテーマに関する文献を授業前に読んできて、発表するという形式をとる。授業は、文献の内容に関する討論が中心となる。積極的な参加を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction : Bilingual, monolingual, and second language acquisition	シラバスを読み、内容を理解した上で、授業に参加する。
	2. Endangered languages:planning and revitalization (危機に瀕した言語、言語計画、言語復活)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。
	3. Languages in society (社会の中の言語)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	4. The early development of bilingualism (バイリンガリズムの初期発達)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	5. The later development of bilingualism (バイリンガリズムの後期発達)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	6. Bilingualism and cognition (バイリンガリズムと認知)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	7. Cognitive theories of bilingualism and the curriculum (バイリンガリズムの認知理論とカリキュラム)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	8. Historical introduction to bilingual education: the United States (バイリンガル教育の歴史入門：アメリカの例)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	9. Types of bilingual education (バイリンガル教育の種類)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	10. Education for bilingualism and biliteracy (バイリンガリズムと二言語読み書き能力のための教育)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	11. Effective schools and classrooms for bilingual students (バイリンガル生徒のための効果的な学校と教室)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	12. Literacy, biliteracy and multiliteracies for bilinguals (バイリンガルのための読み書き能力、二言語読み書き能力、多言語読み書き能力)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	13. Bilingualism in the modern world (バイリンガリズムと現代)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
	14. Mini Project Work 1	今まで、読んできた内容に関して自分なりの課題を見つけ、research questionを作成する。その具体的研究方法に関しても言及する。
	15. Mini Project Work 2	research questionに関して研究したことについて発表する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

Bilingualに関わるさまざまな世界を探索しよう。

フィードバックの方法:

毎回読んできた内容に関しては、受講者と担当者とのやり取りの中で、フィードバックを行う。Project workに関しては、授業中に口頭でコメントしたり、マナビーを通して提出されたレポートにコメントを加えてを返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	毎回の課題	30	到達目標(1)と(2)に関して、授業中の発表から内容をどの程度理解しているかという観点で評価する。
	授業中の発言を含む貢献度	20	到達目標(3)に関して、授業中の発言の内容、教師とのやり取りの内容から、どの程度理解しているか、批判的に読んでいるか、という観点で評価する。
	レポート	50	到達目標(4)に関して、提出されたレポートから授業の理解度、分析の深さ、テーマの設定の適切性という観点から評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

E-mail、マナビー

授業テーマ:

修士論文作成のためのガイダンス

授業の概要:

授業では、図書館の使い方、パソコン上での検索の方法、論文作成のタイムライン、作家・作品の選び方、テーマの調べ方、論文の作成法(章立て、アウトライン等)、批評理論の使い方と作品との整合性、書式上のルール(MLA方式)など、論文作成上の基本的な事項を学習していく。また、2年次生の中間発表やゲスト・スピーカー(修士論文を書き上げた先輩等)による発表会に参加する。これによって、修論への具体的なイメージを作り上げる機会とする。このように、授業では、本格的に論文作成に入る前に、書式から内容までに渡って、学び考える時間とする。

到達目標:

この授業では、説得力のある修士論文を2年間で仕上げるためのアカデミック・スキルズの修得を目指す。

授業方法:

文学の担当者が分担で担当する。受講生が各自の修論を念頭において、なるべく具体的なイメージが湧くように授業を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション:コースの目的と意識	予習は不要
	2. 文献の効果的な探し方・整理の方法:図書館	毎回の授業に積極的に参加するために、質問などを準備しておく。ならびに課題作成のための準備をする。
	3. 文献の効果的な探し方・整理の方法:インターネット	上記と同じ
	4. 修士論文のタイムライン:提出日からの逆算	上記と同じ
	5. 修士論文のルール:提出要件の確認	上記と同じ
	6. 大学院のルールとモラル、コンプライアンス:院生としての自覚	上記と同じ
	7. 作家・作品の選び方:時代と作家、学部時代の研究との違い	上記と同じ
	8. 研究課題(テーマ)の探し方:テーマの設定方法	上記と同じ
	9. 論文の構成要素:章立て、各章の役割、批評理論の使い方と作品との整合性	上記と同じ
	10. 講演会(学部あるいは学科の講演会)に出席:概要をメモ、講演者に質問	上記と同じ
	11. 論文のスタイル(MLA)(1)	上記と同じ
	12. 論文のスタイル(MLA)(2)	上記と同じ
	13. 大学院2年次生の中間発表会に参加:概要のまとめ、レジュメの作り方	上記と同じ
	14. 「わたしの最前線」等の口頭発表に参加:研究課題を再考	上記と同じ
	15. おわりに:2年間でよい修士論文を書くためのまとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出した課題(ミニレポート等)は採点・コメントつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	2つの課題提出:(1)修論のアウトライン作成、(2)修論のタイムライン作成	各30%ずつで計	課題に沿った書式と内容を基準にして評価する。
	授業中の議論への参加と出席	40%	授業への積極的な取り組み方を重視する。

教科書:

ジョージ・ジバルディ著 原田敬一監訳『MLA 英語論文の手引き』第6版 東京、北星堂、2005(絶版のため、Amazonで購入すること)

参考書:

プリント配布等、授業中に提示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメールでの対応、および授業の前後および授業外でのアポイントメントで対応。

授業テーマ:

Tactics to facilitate your research: Thesis from start to finish

授業の概要:

This one-semester course is designed to help master program students understand the requirement for studies of graduate school. Quite a few tactics are needed: ways of discussion/interaction or techniques to find appropriate references for their research topics, for example. Especially, this year emphasizes the following three points.

1. Academic skills needed for the master program students
2. APA style
3. Elements of the master’s thesis and the importance of timeline

到達目標:

At the end of the course, the participants will

1. ... know the required skills for the master’s program

2. ... establish an identity as graduate school students

3. ... have confidence to write a thesis in two years

授業方法:

Lecture and discussion

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the course: Why do we need this course and what is the goal of this course?	Think about what you expect to this course.
	2. How to find appropriate references (1)	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	3. How to find appropriate references (2)	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	4. How to find your research theme: What is a Research Question?	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	5. What is your Research Question? Presentation of participants’ research interests	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	6. Answering questions from course participants	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	7. Timeline of finishing a thesis: Overviewing two years	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	8. Rules of Master thesis: A-Z	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	9. Components of thesis: Functions of each chapter (1)	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	10. Components of thesis: Functions of each chapter (2)	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	11. Attending a presentation: How to take memos and ask questions	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	12. Styles of Master thesis, APA (1) : How to cite and make references	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	13. Styles of Master thesis, APA (2) : How to produce tables and figures	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	14. Attending a presentation of M2 students to know what research is	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
	15. Consolidation of the course	Think about what you have achieved in this course.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Two tasks will be returned to the participants with comments.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Two tasks	50	Based on the rubric.
	Attitudes in class	50	Based on the rubric.

教科書:

American Psychological Association. (2010). Publication manual of the American Psychological Association (6th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Participants could visit the instructors’ office or contact them by e-mail.

授業テーマ:

A Midsummer Night's Dream研究

授業の概要:

このクラスではシェイクスピア劇の中に、中世から近代へと移行する時代精神を読み取っていく。取り上げる作品はA Midsummer Night's Dreamである。劇中で描かれる妖精と人間の姿を通して、ギリシア・ローマの古典とキリスト教、ならびにイギリス土着の伝承文化がどのように扱われているかに注目したい。シェイクスピアの言語や劇手法に注意を払いながら、作品の理解を深め、ひいてはルネサンスという時代の人間の精神を考察する。

到達目標:

シェイクスピア作品を通して、当時の時代精神を読み取る。

授業方法:

担当者による講義、テキストの講読、受講者による発表などから授業を進める。必要に応じてDVDなどの映像資料を用いる。学期末にはレポートを提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. シェイクスピアの概説	
	3. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	4. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	5. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	6. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	7. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	8. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	9. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	10. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	11. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	12. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	13. テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	14. 関連論文の要約と論評	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
	15. 関連論文の要約と論評	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは採点して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加姿勢	40%	授業への意欲的な取り組み姿勢を評価する。
	レポート	60%	授業の理解度とテキストの分析力を評価する。

教科書:

A Midsummer Night's Dream (大修館シェイクスピア双書)

参考書:

授業時に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

htsuji@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Twelfth Night研究

授業の概要:

このクラスでは、今日の時代にふさわしいシェイクスピア上演のあり方とは何かを考える。シェイクスピア劇が書かれた400年前のイギリスでは、女優は存在せず、変声期前の少年俳優が女役を受け持っていた。つまりシェイクスピア劇に登場する女性たちはすべて少年に演じさせるために作られた役柄であった。今日、シェイクスピアの女役は多くの場合、女優が演じるが、そのことによって原作の持ち味はどのように変化するのだろうか。授業では男装のヒロイン、Violaが活躍する喜劇Twelfth Nightを取り上げ、演じ手の性別によって舞台に映し出される世界がどのように変わるのか、男優と女優、両者が演じるヒロイン像を映像資料を用いながら、比較検討していきたい。

到達目標:

シェイクスピア作品を理解し、今日的な上演のあり方を考える。

授業方法:

担当者による講義、テキストの講読、受講者による発表などから授業を進める。必要に応じてDVDなどの映像資料を用いる。学期の終わりにはレポートを提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	シェイクスピアの概説	
3.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
4.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
5.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
6.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
7.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
8.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
9.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
10.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
11.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
12.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
13.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
14.	関連論文の要約と論評	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
15.	関連論文の要約と論評	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは採点して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加姿勢	40%	授業への意欲的な取り組みを評価する。
	レポート	60%	作品の分析力によって評価する。

教科書:

Twelfth Night (大修館シェイクスピア双書)

参考書:

授業時に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

htsuji@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 17世紀イギリスの詩人ジョン・ミルトン(1608-1674)は、シェイクスピアと並び称せられる偉大な文学者である。イギリス・ルネサンスの最後を飾る知識人であり、論文から詩へと多岐にわたる彼の作品は、内容・表現ともに、非常に格調高く高邁であるため、近寄り難い印象を持たれる傾向がある。しかし人間の自由と理性を信じる「戦うクリスチャン」ミルトンのスピリットは、多くの現代人に訴えかける素晴らしいものであり、同志社の建学の理念にも通じている。本講座では、英文による概説書を参照しつつ、初期の抒情詩を精読する中で、詩人ミルトンの人と芸術性について知識と理解を深め、イギリス文学における彼の位置づけについて考察したい。

到達目標: ・ミルトンの人生に関する知識の修得
・ミルトンの初期を代表する詩(ラテン詩の英語訳と、英詩)に関する知識の修得
・ミルトン作品の芸術性に関する知識の修得

授業方法: 科目担当者による講義、受講者の発表、ディスカッションなど。毎回の授業に十分な予習をすることが必須となる。ミルトン作品の魅力を理解して、楽しみながら準備してもらいたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	ミルトン紹介	前回授業の配布プリントを読み直しておく。
3.	ミルトンの人生(1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
4.	ミルトンの人生(2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
5.	ミルトンの人生(3)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
6.	ミルトンの人生(4)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
7.	ミルトン―初期のラテン詩: 恋愛詩の英語訳	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
8.	ミルトン―初期の英詩: 賛歌“The Nativity Ode”	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
9.	ミルトン―初期の英詩: 牧歌“L’Allegro” & “Il Penseroso”	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
10.	ミルトン―初期の英詩: 哀歌 Lycidas (1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
11.	ミルトン―初期の英詩: 哀歌 Lycidas (2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
12.	ミルトン―初期の英詩: 仮面劇 Comus (1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
13.	ミルトン―初期の英詩: 仮面劇 Comus (2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
14.	ミルトン―初期の英詩: 仮面劇 Comus (3)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
15.	・総括 ・レポート作成要領説明	前回授業の重要点を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: 毎回丁寧に予習して、意欲的積極的に受講し、自分自身で考え、理解することで、本物の知識を身につけてもらいたい。

フィードバックの方法: 学期末のレポートは採点后、(希望があれば)秋学期にコピーで返却。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	30%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
	レポート	70%	論旨の流れが明確で、適切な注記(引用、参照)をほどこしつつ、テーマにそってテキスト分析し、自分なりの考察をしているか、を評価。

教科書: Roy Flannagan, John Milton: A Short Introduction (Blackwell)

参考書: 必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法: Emailやオフィスアワーを利用。

授業テーマ:

授業の概要: 17世紀イギリスの詩人ジョン・ミルトン(1608-1674)は、シェイクスピアと並び称せられる偉大な文学者である。イギリス・ルネサンスの最後を飾る知識人であり、論文から詩へと多岐にわたる彼の作品は、内容・表現ともに、非常に格調高く高邁であるため、近寄り難い印象を持たれる傾向がある。しかし人間の自由と理性を信じる「戦うクリスチャン」ミルトンのスピリットは、多くの現代人に訴えかける素晴らしいものであり、同志社の建学の理念にも通じている。本講座では、英文による概説書を参照しつつ、晩年の最高傑作Paradise Lost を精読し、彼の生きた時代と社会、文化についても考察したい。

到達目標: ・ミルトンのParadise Lostに関する知識の修得
・ミルトンの生きた時代と社会、文化に関する知識の修得

授業方法: 科目担当者による講義、受講者の発表、ディスカッションなど。毎回の授業に十分な予習をすることが必須となる。ミルトン作品の魅力を理解して、楽しみながら準備してもらいたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業オリエンテーション	初回授業までにテキストを購入しておく。
	2. Paradise Lostの背景(1)	授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
	3. Paradise Lostの背景(2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	4. Paradise Lostの背景(3)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	5. Paradise Lostの背景(4)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	6. Paradise Lost: 梗概(1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	7. Paradise Lost: 梗概(2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	8. Paradise Lost: 梗概(3)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	9. Paradise Lost: 梗概(4)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	10. Paradise Lost: Book 9(誘惑&墮罪)(1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	11. Paradise Lost: Book 9(誘惑&墮罪)(2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	12. Paradise Lost: Book 10(人類救済への道)(1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	13. Paradise Lost: Book 10(人類救済への道)(2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	14. Paradise Lost: Book 12(人類救済への道)(3)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
	15. ・総括 ・レポート作成要領説明	前回授業の重要点を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: 毎回丁寧に予習して、意欲的積極的に受講し、自分自身で考え、理解することで、本物の知識を身につけてもらいたい。

フィードバックの方法: 学期末のレポートは採点后、(希望があれば)翌春にコピーで返却。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
	レポート	70%	論旨の流れが明確で、適切な注記(引用、参照)をほどこしつつ、テーマにそってテキスト分析し、自分なりの考察をしているか、を評価。

教科書: Roy Flannagan, John Milton: A Short Introduction (Blackwell)

参考書: 必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法: Emailやオフィスアワーを利用。

授業テーマ:	19世紀アメリカ南部文学研究		
授業の概要:	この授業では、独立革命・建国期から19世紀末までのアメリカ南部作家を取り上げ、その主要な作品を読み、作家がいかに当時の社会とかかわっていたかを考察することによって、当時の南部文学の特質について理解を深めることを目指す。		
到達目標:	1. 19世紀のアメリカ南部文学について理解を深め、それを説明できること 2. 文献や作品を原文で正確に理解・分析し、それを説明できること 3. 自分で選んだテーマについて考察し、説得力のある英文で表現できること		
授業方法:	講義、講読、発表		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション	文献を読んでおくこと	
	2. 17・18世紀南部の社会と文化	文献を読んでおくこと	
	3. 19世紀南部の社会と文化	文献を読んでおくこと	
	4. 独立革命・建国期の南部文学(1)	文献を読んでおくこと	
	5. 独立革命・建国期の南部文学(2)	文献を読んでおくこと	
	6. アンティベラム期の南部文学(1)	文献を読んでおくこと	
	7. アンティベラム期の南部文学(2)	文献を読んでおくこと	
	8. アンティベラム期の南部文学(3)	文献を読んでおくこと	
	9. 南北戦争と南部文学	文献を読んでおくこと	
	10. 再建期の南部文学(1)	文献を読んでおくこと	
	11. 再建期の南部文学(2)	文献を読んでおくこと	
	12. 再建期の南部文学(3)	文献を読んでおくこと	
	13. 19世紀末の南部文学(1)	文献を読んでおくこと	
	14. 19世紀末の南部文学(2)	文献を読んでおくこと	
	15. アメリカ南部文学と社会	文献を読んでおくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	英文ペーパーを添削して返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ペーパー	50%	達成目標を理解したうえで、考察や見解を適切にまとめられているかを基準とする。
	発表	50%	テーマについて説得力のある発表ができているかを基準とする。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業後に教室内で応対、Eメール		

授業テーマ:

18・19世紀アメリカ南部文化研究

授業の概要:

南北戦争以前、アメリカ南部には奴隷制の社会が存在した。そこで暮らす人びとにとって、南部の社会と文化とはどのようなものであったのか。この授業では、18世紀から19世紀までの歴史・日記・自伝・手紙を取り上げ、人びとがいかに社会と文化にかかわっていたかを考察することによって、当時の南部文化について理解を深めることを目指す。

- 到達目標:
1. 18・19世紀のアメリカ南部文化について理解を深め、それを説明できること

2. 文献や作品を原文で正確に理解・分析し、それを説明できること

3. 自分で選んだテーマについて考察し、説得力のある英文で表現できること

授業方法:

講義、講読、発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. アメリカ南部の歴史と文化	文献を読んでおくこと
	3. 植民地時代南部の社会と文化(1)	文献を読んでおくこと
	4. 植民地時代南部の社会と文化(2)	文献を読んでおくこと
	5. 独立革命・建国期南部の社会と文化(1)	文献を読んでおくこと
	6. 独立革命・建国期南部の社会と文化(2)	文献を読んでおくこと
	7. アンティベラム期南部の社会と文化(1)	文献を読んでおくこと
	8. アンティベラム期南部の社会と文化(2)	文献を読んでおくこと
	9. 南北戦争と南部社会(1)	文献を読んでおくこと
	10. 南北戦争と南部社会(2)	文献を読んでおくこと
	11. 再建期南部の社会と文化(1)	文献を読んでおくこと
	12. 再建期南部の社会と文化(2)	文献を読んでおくこと
	13. 19世紀末南部の社会と文化(1)	文献を読んでおくこと
	14. 19世紀末南部の社会と文化(2)	文献を読んでおくこと
	15. アメリカ南部の社会と文化	文献を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

英文ペーパーを添削して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ペーパー	50%	達成目標を理解したうえで、考察や見解を適切にまとめられているかを基準とする。
	発表	50%	テーマについて説得力のある発表ができているかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業後に教室内で応対、Eメール

授業テーマ:

映像が創るアメリカの国民文化

授業の概要:

アメリカ文化史の中で注目されるいくつかの映像作品やその周辺の現象を取り上げ、それらがアート、ポップカルチャー、ビジネス等の諸分野で生み出してきたアメリカ的な特質について考察する。本科目における関心は、アメリカ研究の視点から映像に関わる文化的事象との関連で社会や文化の諸問題を考えることにあり、体系的な映画史や映像理論を学ぶことを目的としない。

到達目標:

1) アメリカの映像文化の発展とそれに関わる社会や文化の諸問題について、基礎的知識を習得する。
2) アメリカ文化研究に必要な学術的文献を読解する基礎的能力を獲得する。

授業方法:

各テーマについて、論点に関する講義、英語テキストの講読、受講者による報告から構成される。適宜、映像資料の視聴を行う。具体的なことは、受講者の人数等に応じて検討する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	本科目の授業内容に対する自分の関心の所在を明確にしておく
2.	映像文化とアメリカの20世紀	テキストを読む
3.	The Birth of a Nation (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
4.	The Birth of a Nation (2)	報告の準備
5.	Fantasia (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
6.	Fantasia (2)	報告の準備
7.	Father Knows Best (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
8.	Father Knows Best (2)	報告の準備
9.	West Side Story (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
10.	West Side Story (2)	報告の準備
11.	Back to the Future (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
12.	Back to the Future (2)	報告の準備
13.	The Metropolitan Opera Live in HD (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
14.	The Metropolitan Opera Live in HD (2)	報告の準備
15.	総括	ここまでの授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

報告について個別にコメントを与える。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席及び授業への積極的な参加姿勢	30%	準備学習の成果をもとに積極的に発言できること
	報告	30%	内容の適切性、構成の論理性、論点の明確性、及びプレゼンテーション技術
	学期末レポート	40%	授業内容の理解を踏まえ、適切な資料を活用して、課題に則した明快な議論が展開できること

教科書:

ハンドアウトを配付する。

参考書:

授業時に適宜、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール。授業後に教室内で対応。

授業テーマ:

授業の概要: アメリカ文化は、日本でもっとも親しまれてきた外国文化である。私たちは意識的にせよ、無意識的にせよ、また好むと好まざるとにかかわらず、アメリカ文化に大きな影響を受けて来た。本授業においては、日記、小説、写真、映画など「アメリカで作られたもの」を具体的な手がかりに、アメリカ文化とはどのようなものか、アメリカ文化を特徴づけているものは何かを考える。アメリカという国の成り立ちから始め、宗教、人種・民族、地域など、いくつかの重要項目を取り上げて行く。

到達目標: 1 具体的な作品、資料を通じてアメリカの歴史、アメリカ社会、アメリカ文化に対する理解を深める。
2 授業で扱う作品、その他の具体的な資料についてよく検討し、自分の意見をまとめ、それを自分の言葉で表現する。

授業方法: 講義を中心に授業を進めるが、質問、意見の発表、意見交換など、受講生の授業への積極的な参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. 「新世界」の夢 ①	配布資料、課題作品を授業までに読んでおき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
	3. 「新世界」の夢 ②	
	4. アメリカの民主主義 ①	配布資料、課題作品を授業までに読んでおき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
	5. アメリカの民主主義 ②	
	6. アメリカの宗教	配布資料、課題作品を授業までに読んでおき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
	7. アメリカの人種・民族 ①: ネイティブ・アメリカン、アフリカ系、ユダヤ系、アイルランド系、アジア系など、代表的な人種・民族を順にとりあげ、それぞれの文化について考察する。	配布資料、課題作品を授業までに読んでおき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
	8. アメリカの人種・民族 ②	
	9. アメリカの人種・民族 ③	
	10. アメリカの人種・民族 ④	
	11. アメリカの人種・民族 ⑤	
	12. アメリカの地域とその文化 ①: アメリカにおいて特徴的な地域の一つである西部をとりあげ、その文化について考察する。	配布資料、課題作品を授業までに読んでおき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
	13. アメリカの地域とその文化 ②	
	14. アメリカの地域とその文化 ③	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	アメリカの歴史、アメリカ社会と文化に関する理解度により評価する。
	レポート	30	課題作品(第1週目にリストを配布する)について、自分の意見を持ち、それを表現できるかを評価する。
	授業への参加度	20	授業中の活発な質問や意見の発表、および授業後のコメントペーパーの提出を求める。

教科書:

参考書: 亀井俊介、鈴木健次監修『資料で読むアメリカ文化』東京大学出版会
有賀貞『ヒストリカル・ガイド・アメリカ』山川出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: 時代背景が異なる、アメリカ小説の代表的な作品、3編をとりあげ、主人公および主人公を取り巻く女性像や男性像、それぞれの人物の特徴的な言動、人物と人物の力関係、物語の展開、問題となる場面などを詳細に検討することによって、アメリカ社会におけるジェンダーのありよう、そしてその変化のさまを見る。

到達目標: 1 ジェンダーという視点から小説作品を読み解く。
2 3つの作品を比較することによって、アメリカ社会において時代とともにジェンダーという概念が変化して行くことを理解する。
3 作品を丁寧に読み、自分の意見をまとめ、それを自分の言葉で表現する。

授業方法: 講義と演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. アメリカ社会におけるジェンダー概念の変化について概論する。	
	3. Louisa May Alcott, Little Women (1868)の読解と分析①	Little Women を読み、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。作品読了後に提出するレポートの準備を進めておく。
	4. Louisa May Alcott, Little Women (1868)の読解と分析②	
	5. Louisa May Alcott, Little Women (1868)の読解と分析③	
	6. Louisa May Alcott, Little Women (1868)の読解と分析④	
	7. Kate Chopin, The Awakening (1899)の読解と分析①	The Awakeningを読み、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。作品読了後に提出するレポートの準備を進めておく。
	8. Kate Chopin, The Awakening (1899)の読解と分析②	
	9. Kate Chopin, The Awakening (1899)の読解と分析③	
	10. Kate Chopin, The Awakening (1899)の読解と分析④	
	11. F.Scott Fitzgerald, The Great Gatsby (1925)の読解と分析①	The Great Gatsbyを読み、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。作品読了後に提出するレポートの準備を進めておく。
	12. F.Scott Fitzgerald, The Great Gatsby (1925)の読解と分析②	
	13. F.Scott Fitzgerald, The Great Gatsby (1925)の読解と分析③	
	14. F.Scott Fitzgerald, The Great Gatsby (1925)の読解と分析④	
	15. 3つの作品についてのディスカッション	3つの作品を通して見出した問題点について整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	作品についてのレポート	30	3つの作品それぞれについてのレポート(作品読了後に提出)。自分の意見を持ち、それを整理し、表現できるかを評価する。
	期末レポート	50	まとめのレポート。3つの作品を通して自分が見出した問題について考察し、整理し、それを表現できるかを評価する。
	授業への参加度	20	授業中の活発な質問や意見の発表、および授業後のコメントペーパーの提出を求める。

教科書: 授業において指示する。

参考書: 授業において随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

西洋古典文学と現代文化ーギリシャ神話から学ぶ

授業の概要:

トリビア(trivia)とは？ School の語源は？なぜ星占いが誕生したのか？トロヤ王子パリスと駆け落ちしたヘレンの言動は正しいか？サッフォーの恋愛事情は？この講義では、言語表現と文化表象を大きなテーマとして、現代思想に深く通底している古典の知識を学び、西洋古典にみる西欧思想について考えたいと思います。西洋古典は西欧文明の源です。私たちが日常何気なく使用しているカタカナ英語も、その多くが古代ギリシア語に本来の意味を発します。言葉だけに限らず、古典から学ぶことは大きく、西洋・東洋問わず、今の私たちにも密接に関連しています。この講義ではとくに、「神話」(muthos)を土台として、言語、文化、政治と宗教、そして教育などを、オリュンポスの神々やトロヤ戦争等々に見られる数々の物語を通して、多角的な視点から考えてみたいと思います。時折 DVD で映像を視聴しながら、知識の浸透を図ります。西洋古典に学ぶ知識を培うと同時に、一つのテーマについて考えながら、論理的思考を養い、「考える力」をのばします。可能であれば、少人数でのグループワークを通して、ディスカッションや発表の機会を設け、自分の意見を表現する練習も行う予定です。学生の皆さんには、「考える」ことを楽しんでほしいと思います。西洋古典文学と現代社会について、学生の皆さんの新鮮なアイデアを期待します。

到達目標:

西洋古典の知識を身につけ、理解し、現代社会との関連性へと発展的に応用させて考えることができるようになる。一つの問題について、論理的に考え、まとめる力をのばす。自分の意見を明確に表現し、ディスカッションができるようになる。

授業方法:

講義/演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション	予習と復習(常に参考文献を読んで授業に臨むこと)
2. ギリシャ語とラテン語Ⅰ	予習と復習
3. ギリシャ語とラテン語Ⅱ	予習と復習
4. 言語とは何かⅠ	予習と復習
5. 言語とは何かⅡ	予習と復習
6. ギリシャ神話: 神々と英雄Ⅰ	予習と復習
7. ギリシャ神話: 神々と英雄Ⅱ	予習と復習
8. ギリシャ神話: 神々と英雄Ⅲ	予習と復習
9. ギリシャ神話: 神々と英雄Ⅳ	予習と復習
10. ギリシャ神話: 神々と英雄Ⅴ	予習と復習
11. 「語られたもの」と宗教Ⅰ	予習と復習
12. 「語られたもの」と宗教Ⅱ	予習と復習
13. 色彩と文化Ⅰ	予習と復習
14. 色彩と文化Ⅱ	予習と復習
15. まとめと復習	予習と復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

学生の皆さんの積極的な参加と新鮮なアイデアを期待します。出席(授業への参加)、提出物、発表、試験等の状況から総合的に評価しますが、授業に参加していない場合は、欠席とみなします。授業への参加度を重要視します。

フィードバックの方法:

提出物はコメントして返却し、教室でまとめて解説をおこないます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的な参加を評価する。
グループワークや発表、討論	30	ディスカッションや発表の積極性・論理性、表現力を評価する。
試験(提出物を含む)	50	レポートなどの提出物を含む論理性や説得力、独創性を評価する。

教科書:

プリントを配布して使用します。提出物や試験のための参考文献は授業中に配布するハンドアウトにて提示します。

参考書:

授業中に配布するハンドアウトに記載しますので、図書館を活用すること。特に、西村賀子『ギリシア神話』中公新書、2010(5版)は必読と考えてほしい。ギリシャ・ローマ文学関連の翻訳も読んでおくとよいでしょう。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力 (Analytical ability)、思考力 (Thinking power)、創造力 (Creative ability)、変化対応力 (Responding to change)

教員との連絡方法:

Email address: YukixoSaito@gmail.com

授業テーマ:	ドイツの文学と文化に親しむ		
授業の概要:	文学に関してはテキストの内容を受講生に説明してもらい、理解を深める。文化に関しても同じようにして理解を深めてゆく。		
到達目標:	ドイツの文学および文化についての一通りの知識を得ることを目標とする。		
授業方法:	演習形式である。テキストの内容をまとめて発表および説明してもらう。そうして議論しながら、理解を深めてゆく。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ドイツ文学案内ガイダンス	
	2.	ドイツ文化案内ガイダンス	
	3.	古典主義文学	テキストの内容をまとめて発表する準備
	4.	文化案内1	
	5.	古典主義とロマン主義の間	テキストの内容をまとめて発表する準備
	6.	文化案内2	
	7.	ロマン主義	テキストの内容をまとめて発表する準備
	8.	文化案内3	
	9.	写実主義	テキストの内容をまとめて発表する準備
	10.	文化案内4	
	11.	表現主義	テキストの内容をまとめて発表する準備
	12.	文化案内5	
	13.	新ロマン主義(ヘッセ、カロッサ)	テキストの内容をまとめて発表する準備
	14.	文化案内6	
	15.	総括	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ヘッセなどの文学作品を読んでおくこと。ドイツの文化および文学について関心を持ち、情報などを収集しておくこと。		
フィードバックの方法:	教室内でフィードバックする。およびマナビーを通して。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業に取り組む姿勢	50%	発表および説明・討論が大学院生レベルに達していたかどうかを見て判断する。
	レポート	50%	ドイツの文学および文化についての一通りの知識を習得したかどうかを見て判断する。
教科書:	「ドイツ文学案内」(岩波文庫)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	初級ラテン語文法 (I)		
	今から2000年前、西欧ではローマ帝国が栄えていた。そのローマ帝国の公用語がラテン語である。ローマ帝国はやがて滅ぶが、その豊かな遺産はその後に勃興するヨーロッパの国々に伝えられ、それぞれの国の文化の発展に大きく寄与することとなった。 ラテン語の文法はやさしくはないが、ラテン語を知っていると色々な面で役立つこと請け合いである。ローマ帝国の初代皇帝アウグストゥスは「ゆっくり急げ」 <i>festina lente</i> を座右の銘にしていたが、我々もゆっくりと急ぎながら、ラテン語を学びたい。		
授業の概要:	初級ラテン語文法を学習する。		
到達目標:	1. ラテン語文法を習得する。 2. ラテン語と近代語、特に英語との関連性・類似性について、考察を深められるようになることを目指す。 3. ラテン語の名句を通して、ローマ人の知恵を学ぶ。		
授業方法:	まず教師が文法事項を説明する。その後で学生に各章ごとに付いている練習問題を解いて貰うが、練習問題は宿題としたい。教室で答えあわせをする。学生の反応を見ながら進めるが、おおよそ1回に2章くらいのペースで進めたい。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに ----- 発音・音節・アクセント 2. 動詞変化 その1、名詞変化 その1 3. 動詞変化 その1、名詞変化 その1 4. 前置詞、動詞変化 その2 5. 人称代名詞、未完了過去 6. 以上の復習 7. 名詞変化 その3、未来形 8. 指示代名詞、形容詞変化 その2 9. 完了形、名詞変化 その4 10. 関係代名詞 11. 過去完了、未来完了 12. 名詞変化 その5 13. 疑問文 14. 以上の復習 15. ラテン語の格言を読む	教科書を購入しておくこと。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。 毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておく必要があります。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	文法を学習するには、ゆっくりと着実に学習することが大切です。 <i>festina lente</i> .		
フィードバックの方法:	試験について、教室で説明する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎回の取り組み	40	宿題に真摯に取り組んでいるかどうか、また授業に積極的に参加しているかどうかを評価の基準とする。
	期末試験	60	ラテン語文法が十分に理解できているかどうかを評価の基準とする。
教科書:	松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』東洋出版、他にプリント配布。		
参考書:	小林標『ラテン語の世界 ―― ローマが残した無限の遺産』中公新書		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	e-mail による。アドレスは教室で知らせる。		

授業テーマ:

英語音声学と英語教育 (Part I)

授業の概要:

英語の音を、主に調音音声学の側面から分析し、その特徴と発音法について学ぶ。特に本講では、英語特有の単音(母音・子音)に重点をおき英語音声理論の理解を深める。また、グローバル社会において英語学習の早期・低年齢化が進む日本の英語教育の観点から、英語の音声指導法についても議論する。実際に受講者は自身の英語発音矯正を行いながら英語音声を経験的に学び、その背景に存在する文化的要素と英語コミュニケーションの認知のおよび情意的側面の知識も身につけることにより、総合的に英語音声と英語教育について理解を深めることを試みる。必要に応じて音響音声学および聴覚音声学の基礎にも触れ、英語を多角的に音の側面から分析する。

到達目標:

(1)英語の音を、英語特有の単音(母音・子音)に重点をおき調音音声学の側面から分析し、その特徴と発音法について学ぶ。
(2)グローバル社会において英語学習の早期・低年齢化が進む日本の英語教育の観点から、英語の音声指導法について議論する。
(3)受講者自身が英語発音矯正を行う過程で、英語音声の特質を経験的に学び、その背景に存在する文化的要素と英語コミュニケーションの認知のおよび情意的側面の知識を身につける。
(4)音響音声学および聴覚音声学の基礎に触れ、英語を多角的に音の側面から分析する。

授業方法:

毎授業、テーマについての担当者による講義、理解を深めるための演習、および受講者による討議を中心として授業を進める。準備学習として、毎回指定されているリーディング・アサイメントを読み、あらかじめ内容を理解し、質問や討議のトピックを準備する。復習として、授業の最後に、その回で学んだ内容から設問が出題されるので、それに関して論理的に考えをまとめ記述形式で解答する。テーマによっては、受講者にプレゼンテーションを行ってもらうこともある。毎時学んだ内容、リフレクション(振り返り)、課題の論述を毎時継続的に記録しポートフォリオとしてまとめていくことで、学びの再構築を意識的に行う。基本的に授業は日本語で進めるが、英語の音声を扱う内容であるため、適宜、英語での解説を行う。コースの初めの2回は、英語音声学およびそれを含む学際的研究分野での様々な研究を紹介することにより、英語音声学が扱う学問領域についての理解を深める。3回目以降は、調音音声学を中心に扱い、主に英語の文節音素(単音である母音・子音)の発音と発声のメカニズムについて学び、英語の単音を調音音声学の側面から考察する。その知識をベースとして英語教育における英語音声指導について議論し、また、英語で音声表現するための実践的訓練も適宜行う。随時、音響音声学、聴覚音声学の基礎についても学ぶ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction of the course: What is the study of phonetics?	Read the syllabus.
	2.	What is the research in phonetics?
	(1)	Airstream Mechanisms(1): What is abdominal breathing?
	(2)	Airstream Mechanisms(2): What is the vocal organs?
	(3)	Phonetic transcription
	(4)	English dialects and world Englishes
	(5)	Transcription and articulation of vowel sounds (1)
	(6)	Transcription and articulation of vowel sounds (2)
	(7)	Places and manners of articulation (1)
	(8)	Places and manners of articulation (2)
	(9)	Articulation of consonants (1)
	(10)	Articulation of consonants (2)
	(11)	Phones and allophones, complementary distribution (1)
	(12)	Phones and allophones, complementary distribution (2)
	(13)	Consolidation
2.		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
		Prepare for the final review

受講者へのメッセージやアドバイス:

英語の実践的な発音指導、発音矯正ワークショップを伴う授業である。積極的な参加姿勢を期待する。

フィードバックの方法:

提出された課題は、次の授業で解説し、採点して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	50	到達目標(1)に関する知識と到達目標(2),(3),(4)に関する理解度により評価する。
	出席および課題の提出	50	積極的に授業に参加し、到達目標(1),(2),(4)を理解したうえで、到達目標(3)ができるようになったかを評価する。

教科書：佐藤 寧・佐藤 努『現代の英語音声学』(金星堂)
K. Yoshida ed., English Sounds & Penmanship, Bun-eido
配布資料

参考書：授業中に適宜指示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡
方法：オフィスアワー、授業の前後に教室内で対応、Eメール

授業テーマ:	英語科教授法		
授業の概要:	英語科教授法について、英語の文献を読み説きながら、理論と実践の両面から学ぶ。また、実際の小・中・高等学校の英語授業のビデオなどを視聴し、授業分析を行い、よりよい授業の在り方について考える。最終的には英語授業の指導案を作成し、模擬授業を行い、互いに省察し合う。		
到達目標:	英語教育における理論と実践について学び、4技能・語彙・文法等の指導の在り方、授業の組み立て等について学ぶと共に、実際に英語で授業が出来ることを目指す。		
授業方法:	講読・演習・セミナー形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 様々な教授法 ビデオ視聴:小学校	英語授業について考えてきてください。	
	2. Learner-Centredness: Chapters 4, 5 ビデオ視聴:中学校	テキストの予習と発表準備	
	3. Classroom Management: Chapter 3 ビデオ視聴:高等学校	テキストの予習と発表準備	
	4. Learner Needs/Differences: Chapters 7	テキストの予習と発表準備	
	5. Language Clarification: Chapters 13, 14, 15, 16	テキストの予習と発表準備	
	6. Language Practice: Chapters 8, 14,	テキストの予習と発表準備	
	7. Language Practice: Chapters 15, 16	テキストの予習と発表準備	
	8. Receptive Skills: Chapters 17, 18	テキストの予習と発表準備	
	9. Receptive Skills: Chapter 19	テキストの予習と発表準備	
	10. Productive Skills: Chapter 20	テキストの予習と発表準備	
	11. Productive Skills: Chapter 21	テキストの予習と発表準備	
	12. Lesson Planning: Chapters 11, 12	指導案の作成	
	13. 模擬授業と振り返り	模擬授業の準備	
	14. 模擬授業と振り返り	模擬授業の準備	
	15. 模擬授業とまとめ	模擬授業の準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:	小中高の英語授業について興味があり、将来英語教師を目指している意欲のある方、是非一緒に学びましょう。		
フィードバックの方法:	発表、模擬授業等に対して口頭で振り返りをを行います。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の参加度	20	積極的に授業に参加しているか。
	担当箇所の発表・レポート	20	担当箇所の発表・レポートの内容はどうか。
	模擬授業	20	指導案作成、模擬授業の内容や教師発話はどうか。
	最終レポート	40	テーマを設定し、分析、考察などを行い、十分に論述できているか。
教科書:	Jeremy Harmer. The Practice of English Language Teaching with DVD (4th Edition) (Longman Handbooks for Language Teachers) 4th Edition. Longman.		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、		
教員との連絡方法:	メールでお願いします。		

授業テーマ：外国語教授法

授業の概要：外国語及び第二言語に関する教授法について、理論的背景や歴史を踏まえ、その概観を学ぶ。さらに、日本における英語教育に適した教授法について考察する。

到達目標：授業の目標は、外国語及び第二言語のために提案された教授法(TESOL)に関する知識を構築し、日本の英語教育に最も適した教授法を考案できる能力を育成することである。

授業方法：講義と学生によるプレゼンテーションで授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	2. External Factors in Second Language Acquisition (SLA) (Bilingualism)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	3. Internal Factors in SLA (Input, Output, Interaction)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	4. Individual Differences in SLA (Age, Motivation)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	5. A Brief History of Foreign Language Teaching	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	6. TESOL Methodologies 1 (Audiolingual Method, Silent Way)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	7. TESOL Methodologies 2 (Total Physical Response, Natural Approach)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	8. Teaching Grammar 1 (Cognitive Linguistics Approach)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	9. Teaching Grammar 2 (Focus on Form, Task-based Approach)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	10. Teaching Vocabulary	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	11. Teaching Reading	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	12. Teaching Speaking/Listening	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	13. Class Observation and Analysis 1 (Teaching Grammar)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	14. Class Observation and Analysis 2 (Teaching Vocabulary)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
	15. Reading Assignment	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：授業中の質疑応答でフィードバックを行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	プレゼンテーション	30	プレゼンテーションの準備、達成度を評価基準とする。
	レポート	70	TESOLに関する知識と日本の英語教育に適した教授法を考案できる能力を評価基準とする。

教科書：テキストはありません。reading assignmentに関しては、適宜、指示します。

参考書：適宜、授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：nakamats@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

外国語学習(英語教育)及び第二言語習得に関する研究及びその手法

授業の概要:

外国語学習及び第二言語習得に関する研究について、理論的背景や歴史を踏まえ、その概観を学ぶ。さらに、日本において英語教育・英語学習を研究する際に求められる研究手法について学ぶ。

到達目標:

授業の目標は、学生自らが選んだ研究テーマについて、最適な研究手法を選ぶことができる知識を構築することである。

授業方法:

講義と学生によるプレゼンテーションで授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
2.	A Brief History of Second Language Acquisition	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
3.	Second Language Theories 1 (Early Theories)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
4.	Second Language Theories 2 (Krashen, Swain, Long)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
5.	Second Language Theories 3 (Processing Theory, Competition Model)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
6.	Second Language Research 1 (Introduction)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
7.	Second Language Research 2 (Data Collection)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
8.	Second Language Research 3 (Research Variables, Reliability, Validity)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
9.	Second Language Research 4 (Data Collection)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
10.	Second Language Research 5 (Quantitative Research)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
11.	Second Language Research 6 (Qualitative Research)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
12.	Second Language Research 7 (Classroom Research)	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
13.	Research Planning	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
14.	Student Presentation	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと
15.	Consolidation	毎週課せられたreading assignmentsを読むこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中の質疑応答でフィードバックを行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	プレゼンテーション	30	プレゼンテーションの準備、達成度を評価基準とする。
	レポート	70	第二言語習得研究に関する知識と研究計画能力を基準に評価する。

教科書:

Mackey, A., & Gass, S. (2016). Second Language Research: Methodology and Design. Second Edition. Lawrence Erlbaum.

参考書:

適宜、指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

nakamats@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

外国語教育における測定と評価、言語テスト、基本統計の知識を得る

授業の概要:

このコースでは、言語テストの測定と評価における二つの側面について学んでいきます。
(1) 外国語としての英語力を測定する道具の作成・開発に際して必要となる基本概念やテスト作成原理の学習
(2) 基礎統計を中心に、テスト結果の処理・分析において必要となる手法の学習
両側面をより具体的に学ぶために、目的やスキル別に実際のテスト項目を作成したり、既存テストの分析を試みると共に、サンプル・データを用いてテスト結果の分析を行っていきます。

到達目標:

本コースでの学習を通して、ある言語プログラムにおける測定と評価のあり方や問題点を客観的に捉え、また、各自が教育現場等の課題への対応を中心としたプロジェクト研究を行うことで、実際の社会における言語テストの存在やあり方についての理解を深めていくことを大きな目標とします。

授業方法:

講義をもとに授業を進めますが、学んだ内容を応用するためにも、実際にテスト項目を作成し、授業内でのペア・ワークによる作業(peer evaluation)や、データの分析結果を解釈するなど、hands-onで授業を進めていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 本コースの概要、測定と評価の歴史	Reading assignment（Hinofotisの論文を配布）
	2. 言語テスト入門1:言語テストの基本概念	
	3. 言語テスト入門2:良いテストテストとは？	(提出 Task 1:テスト分析)
	4. テスト開発入門1:Test Specificationとは？	分析してきたテストについてのさらなる分析
	5. テスト開発入門2:文法と語彙のテスト・多肢選択形式	多肢選択形式のpeer evaluation
	6. テスト開発入門3:ReadingとListeningのテスト・組み合わせ形式	組み合わせ形式のpeer evaluation
	7. テスト開発入門4:SpeakingとWritingのテスト・真偽形式	真偽形式のpeer evaluation
	8. テスト開発入門5:その他のテスト・完成法等・測定道具の評価について	完成法/短答形式のpeer evaluation (Final Projectのトピックの連絡)
	9. 教材の評価	TDAPを用いた分析
	10. テスト分析と統計入門1:項目分析 (Item Analysis)	(提出 Task 2:Item Writing)
	11. テスト分析と統計入門1:項目分析 (Item Analysis)	TDAPを用いた分析と分析結果の解釈
	11. テスト分析と統計入門2:教室レベルにおける統計の基礎1	SPSSを用いた実習
	12. テスト分析と統計入門3:教室レベルにおける統計の基礎2	SPSSを用いた基本統計について野実習
	13. テスト分析と統計入門4:リサーチとは？	(提出 Task 3:Article/Book Report)
	14. 古典的理論と新テスト理論	SPSSを用いた推測統計についての実習
	15. プレゼンテーション・まとめ	(提出 Final Paper) Final Paperについてのプレゼンテーション
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回の授業の出席を前提としているので、万一、欠席する場合は、自己責任で内容や課題を確認するようにしてください。	

フィードバックの方法:

課題についてはコメントや評価をつけて返却。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題および授業内の参加態度	60	課題の理解とその達成度
	Final project とプレゼンテーション	40	トピックの選択と選んだトピックについての説得力のある説明

教科書:

なし

参考書:

Brown, J.D. (2005). Testing in Language Programs. McGraw Hill.
.D.ブラウン著 和田稔訳 (1999)『言語テストの基礎知識』(大修館書店)
その他の参考文献類は、Week1で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

電子メール(1回目の授業で提示します)

授業テーマ:

英語教育におけるInformation & Communication Technology (ICT)の活用とその可能性

授業の概要:

英語教育におけるコミュニケーション能力の構成要素は「読む、書く、聞く、話す」の4技能であるが、現代ではコンピュータリテラシー、さらにインターネットの共通言語としての「英語」教育においては情報リテラシーが語学力としての重要な要素となる。この授業では、英語教育におけるICTの活用とその可能性について考える。

到達目標:

ICTの活用と教材作成を試みる。

授業方法:

テーマについての解説とディスカッションを中心に進める。学期後半では受講生の興味あるスキルや分野について教材研究を行い、デジタル教材の作成を試みる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 情報メディアと英語教育	
	3. コンピュータとシステム開発	
	4. CALL教授法、CALL授業	
	5. CALL学習と学習者要因	
	6. 情報ネットワークを利用した学習者支援	
	7. インターネットを利用して	
	8. eラーニングとモバイルラーニングを利用して	
	9. 発音矯正ソフトを利用し	
	10. デジタル教材の活用と作成(1)	
	11. デジタル教材の活用と作成(2)	
	12. デジタル教材の活用と作成(3)	
	13. デジタル教材の活用と作成(4)	
	14. デジタル教材の活用と作成(5)	
	15. 発表、評価、振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

事前に資料を配付する。授業後に、テーマに関する疑問点をひとつ挙げ、調べ、レポートを作成し、次の授業で発表する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題へ取り組む姿勢、貢献度	30%	
	レポート	20%	
	教材作成	50%	左の3点において総合的に評価する。
教科書:	ハンドアウト		

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ:

英語教材開発のための理論と手法

授業の概要:

英語学習教材の開発、選定に必要な理論と知識を学び、主に日本人英語学習者を対象とした効果的な英語学習教材の開発についての理解を深める。また、シラバスと教材の関係、教材研究としての学習教材の評価や選定の方法、テスト・演習問題の作問方法等についても学び、これらを通じて、中学校や高等学校における利用を想定した英語学習教材の開発・選定スキルを総合的に習得することを目指す。

到達目標:

英語学習教材開発の手法について理解している。
授業目標に合致した適切な教材を選定することができる。
中学校、高等学校の学習指導要領の記載内容を理解している。
必要に応じて英語学習教材を開発することができる。

授業方法:

授業では、英語学習教材開発の理論と手法に関する文献や資料を輪読する。受講者は、扱われているテーマについて分担して発表を行い、クラス全体でディスカッションを行いながら扱われているテーマについての理解を深める。なお、授業のまとめとして期末レポート課題を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 英語教育における教材開発(1)	シラバスの記載内容の確認
	2. 英語教育における教材開発(2)	輪読教材を読み、内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
	3. 英語教材開発論(1):シラバスと教材開発(その1)	輪読教材を読み、内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
	4. 英語教材開発論(2):シラバスと教材開発(その2)	輪読教材を読み、内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
	5. 英語教材開発論(3):評価・演習のための問題・教材作成(その1)	輪読教材を読み、内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
	6. 英語教材開発論(4):評価・演習のための問題・教材作成(その2)	輪読教材を読み、内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
	7. 英語教材開発論(5):教材の評価と選択(その1)	輪読教材を読み、内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
	8. 英語教材開発論(6):教材の評価と選択(その2)	輪読教材を読み、内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
	9. 英語教材開発論(7):英語教授法と教材開発(その1)	輪読教材を読み、内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
	10. 英語教材開発論(8):英語教授法と教材開発(その2)	輪読教材を読み、内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
	11. 中学校学習指導要領のねらいと教材開発	中学校学習指導要領を読み、内容を理解する
	12. 高等学校学習指導要領のねらいと教材開発	高等学校学習指導要領を読み、内容を理解する
	13. 教材開発演習(1)	開発する教材の検討
	14. 教材開発演習(2)	開発する教材の作成
	15. 総括	
受講者へのメッセージやアドバイス:	積極的な授業参加を期待します。	
フィードバックの方法:	輪読発表の内容に対してコメントを与えると共に理解度を確認するための質問を行う。	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加	30	授業への積極的参加の度合いと各回のテーマに対する理解度によって評価
	授業中の輪読発表	40	担当部分の発表の達成度により評価
	レポート課題	30	教材開発に関する期末レポートの達成度により評価

教科書:

プリント教材を使用する

参考書:

Brown, H.D. (2006). <i>Principles of language learning and teaching</i> (5th ed.). Pearson-Longman.

Harmer, J. (2015). <i>The Practice of English language teaching </i> (5th ed.). Pearson Education Limited.

Harwood, N. (2010). <i>English language teaching materials: Theory and practice</i>. Cambridge University Press.

Tomlinson, B. (Ed.) (2011). <i>Materials development in language teaching</i> (2nd ed.). Cambridge University Press.

文部科学省(2008)『中学校学習指導要領』東山書房

文部科学省(2011)『高等学校学習指導要領』東山書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

英米文学と表象

初回授業で担当者3人がそれぞれの授業内容を紹介し、2回目以降はリレー形式で授業を担当する。

本学科(英語英文学科)のコンテンツ科目として重要な英米の文学・文化を俯瞰し、包括的に理解して行く。(リレー式で3名の教員で担当／全15回)
①徳永由紀子(5回)
・アメリカで生まれた演劇形式であるミュージカルを通して、アメリカ文化、アメリカ社会を読み解く。
②湊圭史(5回)
・アメリカ文学における「自然」表象の変化を、H.D.ソローを源流とするネイチャー・ライティングや、20世紀中庸に顕著になる「環境」意識を反映した詩を中心に辿りながら理解する。
③甲元洋子(4回)
・現実の諸相、特に老いや死などネガティブなテーマが文学作品の中でどのように表象化され超克されてゆくかを、英米の詩や小説を読みながら理解する。

授業方法:

講義形式で授業を進める。教材は基本的に日本語によるプリント(授業中に配布)を使用し、必要に応じて視聴覚教材も使用する。英米語作品を取り上げる場合は日本語の翻訳を使用する。授業初回から座席指定を行い、授業環境を整える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション: 担当教員3人がそれぞれの授業内容について解説する。その後質疑応答を行う。	準備学習の必要はない。
2.	徳永(1)ミュージカルの発展①: ミンストレス・ショーを中心に、ミュージカルの発展をあとづける。	前回までの授業内容をまとめ、興味ある内容については文献を読み、自分なりの考えを用意する。
3.	徳永(2)ミュージカルの発展②: ウォードヴィル、レビューを中心に、ミュージカルの発展をあとづける。	同上
4.	徳永(3)ミュージカルの発展③: 初期ミュージカルの例として『オズの魔法使い』(1903年)を取り上げる。	同上
5.	徳永(4)ミュージカルの傑作①: 『ショウボート』(1927年)を取り上げる。	同上
6.	徳永(5)ミュージカルの傑作②: 『ウェスト・サイド物語』(1957年)を取り上げる	同上
7.	湊(1)ロマン主義的「自然」から「場所」としての自然へ	興味ある内容については文献を読み自分なりの考えを用意する。
8.	湊(2)ネイチャー・ライティングの発展	前回までの授業の内容をまとめる。興味ある内容については文献を読み、自分なりの考えを用意する。
9.	湊(3)「環境」意識の登場と20世紀アメリカ詩	同上
10.	湊(4)捕鯨・鯨文学Ⅰーメルヴィル『白鯨』と自然保護思想	同上
11.	湊(5)捕鯨・鯨文学Ⅱー先住民と鯨	同上
12.	甲元(1)作品紹介: 文学に描かれる老老いー特に女性の老い	授業に集中して内容を正確に把握し、自分なりの考えをまとめ、最後にコメントが書けるようにしておく。
13.	甲元(2)老いの現実: ユードラ・ウェルティ[慈善訪問]、T. カポーティの「ミリアム」等により女性の老いを考察する。	同上
14.	甲元(3)負けない老人たち: ヴィクトリア朝の二大詩人A. テニスンとR. ブラウニングの作品を取り上げて考察する。	同上
15.	甲元(4)死と親しむ: 女性詩人E. ディキンソンとC. ロセッティを取り上げ、その死生観を探る。	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物に関しては、担当教員が必要とみなした場合、点数またはコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	70%	徳永: レポートを提出させ(提出時期については授業で指示する。)その内容で評価する。 湊: 最後の授業(6月27日)から1週間中に800字ほどのエッセイを提出させ、その内容で評価する。 甲元: 毎回の授業の最後に15分前後の時間を取り、その日の授業内容のまとめとコメントを書いて提出させ、その内容で評価する。
	受講態度	30%	意欲的で積極的な受講態度を示しているか否かで評価する。
	全体としての評価		この授業の成績評価は3名の教員それぞれの評価点の平均により算出される。

教科書:

教科書は使用しない。各授業でプリントを配布する。

参考書:

参考文献(徳永由紀子)
映画『ショウボート』(1936年)
映画『オズの魔法使い』(1939年)
映画『ウェスト・サイド物語』(1961年)
参考文献(湊圭史)
イヒアエラ、ウィティ『鯨の島の少女』 沢田真一／サワダ ハンナ ジョイ訳 角川書店 2003年。
エマソン、ラルフ ウォルド 「自然」『エマソン論文集＜上＞(岩波文庫)』酒本雅之訳 岩波書店、1972年。
カーソン、レイチェル『沈黙の春(新潮文庫)』青樹東梁一訳 新潮社 1974年
ソロー、ヘンリー・デイヴィッド『ウォールデンー森の生活＜上・下＞(岩波文庫)』飯田実訳 岩波書店、1972年。
ディラード、アニー『石に話すことを教える』内田美恵訳、めるくまー、1993年。
参考文献(甲元洋子)
授業の中で指示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

分析力、思考力、自己管理力

授業の際に指示する。

授業テーマ:	英米文学と表象		
授業の概要:	* 村上春樹の訳した『グレート・ギャツビー』を旧訳と比較し、村上訳の特性を検討する。また、翻訳のあり方についても考察する。(松村) * イギリスの18世紀から19世紀における文学や版画を、「風刺」、「擬装」、「ナンセンス」という表象から読み解き、時代の文化風土をあきらかにする。(玉田) * 科学者による新人類＝怪物創造の悲劇『フランケンシュタイン』(1818)を手掛りに、西洋文化における「怪物」の表象を見る。(阿部) * 英語圏の文化(文学)を理解する上で必須の知識として、ギリシア・ローマ神話と聖書に注目し、数字、左右、善と悪にまつわるシンボルや寓意を学ぶと共に、英詩に描かれた女性像を「バラの表象」の観点で再考する。(小山)		
到達目標:	表象をキーワードに各教員が講義をおこない、本学科(英語英文学科)のコンテンツである英米文学を包括的に理解する。(オムニバス方式で4名の教員が担当)		
授業方法:	講義を中心におこなう。DVDなどによる作品の鑑賞、パワーポイントや教材提示機を使用する講義もある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業全体の概説。F. Scott FitzgeraldとThe Great Gatsby (松村) 2. 村上春樹の『グレート・ギャツビー』(1)(松村) 3. 村上春樹の『グレート・ギャツビー』(2)(松村) 4. 風刺という表象: 18世紀イギリスの風刺画家(玉田) 5. 擬装という表象: 18世紀イギリスの女性作家(玉田) 6. ナンセンスという表象: 『不思議の国のアリス』(玉田) 7. 女性の「身体」をめぐる表象: 「罪の器」「禍の元凶」としての女性(阿部) 8. 「新大陸」をめぐる表象: 「人喰いの野蛮人」神話と「高貴な野蛮人」神話(阿部) 9. 「オリエント」をめぐる表象: オリエントとオクシデント(阿部) 10. ギリシア・ローマ神話における「怪物」の表象(阿部) 11. 英文学にみる、ギリシア・ローマ神話のイメージ(小山) 12. キリスト教文学にみる寓意(アレゴリー)― 数字、左右(小山) 13. 詩に歌われたバラのような女性像― スペンサー、ヘリック、バーンズ(小山) 14. キリスト教文学にみる寓意(アレゴリー)― 善と悪(小山) 15. まとめ(小山)	どの訳でもよいので、『グレート・ギャツビー』を読んでおく 前回の授業で学習した内容を復習しておく 前回の授業で学習した内容を復習しておく シラバスを読み直しておく 前回の授業で学習した内容を復習しておく 前回の授業で学習した内容を復習しておく シラバスを読み直しておく 前回の授業で学習した内容を復習しておく 前回の授業で学習した内容を復習しておく シラバスを読み直しておく 前回の授業で学習した内容を復習しておく 前回の授業で学習した内容を復習しておく 前回の授業で学習した内容を復習しておく 第12～14回目の授業で学習した内容を復習しておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:	・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講して、知識を身につけ、視野を広げてもらいたい。 ・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。 ・やむを得ず欠席した場合は、次回授業で担当者に申し出て、欠席回のプリントを受け取る。		
フィードバックの方法:	コメントカードのフィードバックを次の授業のはじめにする。具体的には、コメントカードの内容を紹介したり、コメントカードに書かれた質問に答える等。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	松村 玉田 阿部 小山	25% 25% 25% 25%	4人の担当者が個別に25点満点の成績を出し、合計したものを最終的な成績とする。各担当者の評価項目は以下のとおり。 出席および授業への積極的参加(30%)、レポート(70%)を総合して評価 出席および授業への積極的参加(30%)、レポート(70%)を総合して評価 出席および授業への積極的参加(30%)、毎回のコメントカード(30%)、レポート(40%)を総合して評価 出席および授業への積極的参加(20%)、学期末試験 (80%)を総合して評価
教科書:			
参考書:	松村	F・スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』村上春樹訳(中央公論新社) F・スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』野崎孝訳(新潮文庫)	
	阿部	メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』臼田昭訳(国書刊行会) メアリ・シェリー『フランケンシュタイン』には、森下弓子訳(創元推理文庫)、山本政喜訳(角川文庫)、田内志文訳(新訳 角川文庫)、小林 章夫訳(光文社古典	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	公開されている、各先生の学校のアドレスを使用すること。		

授業テーマ:

『源氏物語』と表象

授業の概要:

平安時代から読み継がれてきた『源氏物語』は、物語として存在するのみならず、現在も様々な分野で形を変えて楽しまれている。『源氏物語』の何がそうさせるのか。物語の外の“源氏”の在り方を考察する。

到達目標:

形となって表れた物事や出来事について、その発生理由や意義を探求する力を養う。

授業方法:

主として講義形式であるが、グループワークも取り入れる。
それぞれの事象に実際に触れることを重視し、出来る限り「目に見える」「手に取れる」資料を多用しながら進める。
1～2回程度見学会を実施する予定。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 『源氏物語』について	
	2. 『源氏物語』と翻訳① —小説化・マンガ化—	テーマについての下調べをしておくこと
	3. 『源氏物語』と翻訳② —現代語訳・外国語訳—	
	4. 『源氏物語』と舞台① —歌舞伎・能—	テーマについての下調べをしておくこと
	5. 『源氏物語』と舞台② —映画・ミュージカル—	
	6. 見学会①	行き先の情報を把握しておくこと
	7. 『源氏物語』と遊び① —源氏香・投扇興—	テーマについての下調べをしておくこと
	8. 『源氏物語』と遊び② —ゲームをつくろう—	
	9. 『源氏物語』と服飾・調度	テーマについての下調べをしておくこと
	10. 『源氏物語』と食	テーマについての下調べをしておくこと
	11. 『源氏物語』と観光	テーマについての下調べをしておくこと
	12. 見学会②	行き先の情報を把握しておくこと
	13. グループ発表①	発表資料を準備すること
	14. グループ発表②	発表資料を準備すること
	15. ふりかえり	

受講者へのメッセージやアドバイス:

内容は前後することがあります。

フィードバックの方法:

コメントペーパーの内容について必要に応じて教室内で回答

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50%	到達目標に関する調査結果のまとめの仕上がり度合と、どの程度独自の視点があるかを基準とする。
	発表、討論	35%	グループ発表での自分の役割とその達成度、討論では到達目標を踏まえた上で発言しているかを評価する。
	授業への参加態度	15%	到達目標に近づこうとしているかをコメントペーパーで評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

近代京都の都市と建築

授業の概要:

都市部の再編と郊外の発見は、近世都市が近代的空間と機能を獲得するための必要条件であった。そこでは洋風建築の登場や町家の近代化、都市インフラの整備、郊外住宅地の開発など、都市景観を大きく変化させるさまざまな出来事がみられた。ここでは歴史都市京都の近代をとりあげ、都市と郊外の変化を建築・土木・造園の視点から辿ることで、近代都市の存立意義と空間構造の把握を目指す。さらに、そこに立ち現れた景観、繰り広げられた生活や文化活動などを通じて、居住空間としての京都のかたちを考察する。また、関西の三都、大阪・京都・神戸の都市間ネットワークの構築によって京都がどのように相対化されていったかを辿る。

到達目標:

近代都市のあり方および、町家の歴史と現在、近代建築・近代和風建築の特徴、近代郊外地についての知識を習得するとともにその背景を理解する。

授業方法:

シラバスに従って講義する。ただし、内容については前後する場合もある。写真や映像資料、図面、地図などを用いることで、視覚的、感覚的な理解を目指す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	近世の都市空間と居住システム ー京都・大阪・江戸の居住空間	なし
2.	京都における町家の成立 ー古代から近世まで	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
3.	伝統的町家から近代町家へ	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
4.	祇園祭と町家・会所 ー祝祭の都市空間	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
5.	町家の現在＋映像鑑賞	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
6.	近代洋風建築の登場	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
7.	京都の近代洋風建築＋映像鑑賞	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
8.	同志社大学・同志社女子大学周辺の近代建築	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
9.	イベントと郊外開発 ー博覧会・遷都千百年記念祭・御大典	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
10.	近代産業・近代土木事業と郊外開発 ー琵琶湖疏水・大学・工場	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
11.	高級別荘地としての郊外 ー東山の別荘群＋映像	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
12.	郊外住宅地の開発 ー北白川小倉町・衣笠・下鴨・洛北ほか①	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
13.	郊外住宅地の開発 ー北白川小倉町・衣笠・下鴨・洛北ほか②	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
14.	細雪にみる都市ネットワーク 映画「細雪」鑑賞①	小説「細雪」を読む。
15.	細雪にみる都市ネットワーク 映画「細雪」鑑賞②	小説「細雪」を読む。

受講者へのメッセージやアドバイス:

町を歩いてさまざまな建物や庭園などを見ることが予習となる。授業で扱った建物やまちを実際に訪れると復習とともに、より深い理解につながる。

フィードバックの方法:

授業内容について追加情報があれば、掲示等で知らせる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポートor試験	80	資料調査の質と量およびレポートとしてのまとめ方 自分自身の言葉、思考でまとめられているかどうか 履修人数によって、レポートとするか試験とするか決定する。
	出席	20	5回以上欠席の場合は、レポートあるいは試験は採点しない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

講師控室で連絡を取る。

授業テーマ:

能の表現、輪読

授業の概要:

日本の伝統芸能のひとつである「能」を取り扱う。
無駄なものを徹底的に削ぎ落とした劉くシンプルな能の表現は、かえって観客の想像を豊かにさせ、真実の表現を達成する。講義では、《井筒》と《野宮》を取り上げ、全員で詞章を深く読み込み、能の言葉・所作・音楽が表す内容や構成を検討する。能が描き出そうとするのは、人間の心であり、これは時代を経ても変わらない。現代の私たちの人生経験と積極的に照らし合わせながら、「能は古臭くて縁遠いもの」という先入観を融解させていく。
舞台の現場に立つ能楽師の言葉に耳を傾け、また積極的に討論に参加することで、是非能の面白さを味わってほしい。

- 到達目標:
- ・能の表現と形式を学び、能の言葉・所作・音楽などを具体的に理解する。
 - ・能が描き出す人間の心を、自分の人生経験と積極的に照らし合わせて鑑賞する。
 - ・能の詞章を深く読み込み、表現や本説を調べ、積極的に発言・発表する。
 - ・能が現代に生きる芸能・舞台芸術であることを理解する。

授業方法:

はじめの概説は講義を行うが、以後、担当者を決めた輪読・演習形式。
一回の講義につき複数人の担当者を事前に指定する。その回の担当者は必ず出席すること。
各授業の最後にミニカード(感想など)の記入を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	能とはどのような芸能か 能《井筒》概説	
2.	能《井筒》(1)	能《井筒》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
3.	能《井筒》(2)	能《井筒》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
4.	能《井筒》(3)	能《井筒》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
5.	能《井筒》(4)	能《井筒》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
6.	能《井筒》(5)	能《井筒》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
7.	能《井筒》(6)	能《井筒》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
8.	能《井筒》総括、能《野宮》概説	
9.	能《野宮》(1)	能《野宮》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
10.	能《野宮》(2)	能《野宮》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
11.	能《野宮》(3)	能《野宮》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
12.	能《野宮》(4)	能《野宮》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
13.	能《野宮》(5)	能《野宮》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
14.	能《野宮》(6)	能《野宮》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

主に輪読・演習形式なので、詞章や本説に関する自主的な学習が必須である。
担当者は必ず担当回に出席し、発表の用意をすること。

フィードバックの方法:

授業末のミニカードに関して、次回の講義でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点(出席やミニカード)	40	授業に積極的に参加しているかを評価する。
	発表、討論	20	議論で発言し、特に担当部分を責任もって発表しているかを評価する。
	レポート	40	講義内容を理解し、適切に論述できるかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	ひとはなぜ「映像」に魅了されるのか	
授業の概要:	テレビ番組、映画、CMを例にとりながら、映像表現の構造や技法、それらが映像を見る者に及ぼす効果や意味について、実際に映像を視聴しながら講義していきます。ふだん何気なく観ているテレビや映画にこんな意味があったのか！という驚きを大切にしたいと思っています。なぜなら何かを「批評」するということは、そんな驚きを与えることだからです。15回の講義を通じて、みなさんも誰かにそんな驚きを与えることができるようになるための、いろいろな視点や理論を身につけてもらえればいいなと思います。授業のテーマは多岐にわたりますし、表象文化学部の領域から逸脱するものもありますが、映像文化やメディアを対象にした講義には学際的な考察は不可避であると考えてください。	
到達目標:	・さまざまな映像分析のための視点と批評理論を学ぶこと ・メディアから正しく情報を受け取る能力(メディア・リテラシー)を身につけること ・「作品」の面白さを分析し、それを言語化できるようになること	
授業方法:	基本的に1回1テーマの内容で講義を進めていきます。講義に用いるパワーポイントは、印刷したものを授業時に配布します。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. コミュニケーションについて考えてみる(オリエンテーション) ～コミュニケーションは「伝わらない」からこそおもしろいのだ！～ コミュニケーションの困難と快楽／去来抄にみるコードの共有／デノテーションとコノテーション／恋愛とは「不在」にまつわるコミュニケーションである／王家衛と河瀬直美／歩行と舞踏について 2. 映画の考古学 ～映画を「発明」した人は何を撮ったらいいのかわからなかった～ 映画の誕生(リュミエール兄弟・グリフィス・エイゼンシュテイン)／映画と印象派絵画の関係／セザンヌ・鳩・世界初のコント／外部・人間(内面)・文法の発見／幼児の言語獲得過程と映像史はそっくり同じ／鏡像段階／視覚の帝国／映像を観るあなたはどこにいるのか／カメラという眼差し 3. 映像の修辞学(1) ～白戸家のお父さんが犬なのはなぜか～ 「イタリヤ的」とは／10分で理解するソシユール言語学／映像もまた言葉である／神話作用／映像における修辞技法／グループμとロラン・バルト／CM映像のレトリック分析 4. 映像の修辞学(2) ～深津絵里が劇的に変えた新幹線の意味～ 「クリスマス・エクスプレス」という革命／換喩の隣接性における物語の発生／ことばは隠喩と換喩でできている／「意味」とは何か／「できごと」の範列(paradigme)と統辞(syntagme)／「偶然」と「運命」 5. 物語と元型 ～あらゆるストーリーは30個ほどの要素から構成されている！～ 民話「桃太郎」の構造分析／事件と主体の変容／通過儀礼／承認欲求／チェーホフの銃／プロップ・ユング・折口信夫／大文字の物語／ゾンビが街にやってくる／物語の「不完全性定理」 6. キャラクターとは何か ～ミッキー・マウスは昔は猫だった～ アニメーションの考古学／まんがと映画の想像力／対象a／役割関係の結び目／物語の類型性とキャラクターの単独性／「かわいい」という感性／支配の欲望／リラクマと「終わりなき日常」 7. 女性とは誰か ～＜女性＞は存在しない、とラカンが言った～ 図としての人間・地としての風景／ハリウッド映画における「女性」／LGBT／フロイト・ボーヴォワール・ラカン／腐女子という眼差し／大串祥子の『美少年論』／女子力という戦略／CMにおける女性表象／共生ということ 8. 映像が映し出すものと隠蔽するもの ～わたしたちはどこにいるのだろうか～ ヤンキーと郊外／郊外と「死」の表象／風景が隠蔽するもの／アウシュビッツと広島／シン・ゴジラと大震災／集合的記憶／香盤表／自我の時間性と記憶の場所性／「わたし」という地図／「場所の固有性」を取り戻すために 9. テレビ番組分析①「笑い」の精神分析 ～『水曜どうでしょう』はなぜおもしろいのか～ 「お笑い番組」の変遷／有吉弘行・マツコデラックスと「負の刻印」／横澤彪と笑いの局所性／桂枝雀の緊張緩和理論(人はなぜ笑うのか)／『水曜どうでしょう』の多重構造／笑いと文脈 10. テレビ番組分析②「ドラマ」の構造分析 ～テレビドラマには3種類しかない～ 恋愛・家族・勧善懲悪／通過儀礼・マレピト来訪・二項対立のカタルシス／暴力と社会の起源(第三項排除論)／「感動」するとはどういうことか／共同体秩序／物語の始まりと終わり／予定調和が抑圧するもの	(復習):「自分の好きなCMの修辞技法」についてのプリント課題 (予習):映画『千と千尋の神隠し』を視聴しておくこと (予習):「女子力とは何か」についてレポート提出 (復習):「美少年」をジェンダー論で分析してレポート提出 (予習):『水曜どうでしょう』をYouTube等で視聴しておくこと (復習):「自分の好きなドラマ(アニメも可)」についてのレポート提出

11. テレビ番組分析③「報道」という物語
～テレビや新聞にダマされないために～
誰もいない森の奥で一本の樹が倒れた／事実とは何か／森達也『ドキュメンタリーは嘘をつく』／メディアリテラシー／新聞記事に見る「物語」の形成プロセス
12. 映像と広告コミュニケーション(1)
～きみはメイソーを知っているか？～
広告とは何か／欲望の三角形／テレビCMの歴史／日本経済と消費行動モデル／ブランドとは何か／紙芝居『メイソー物語』／物語とデータベース／メイドカフェで消費されるもの／シミュラクル
13. 映像と広告コミュニケーション(2)
～不定形の欲望を物語の次元に回収するために～
若者の「〇〇離れ」／AIDMA～AISAS～SIPS／物が売れない時代／文化のコモディティ化／ANA「夢見るヒコキ。」とJR九州「九州新幹線全線開通」／テレビのチカラの源泉／『ぼくを探しに』／企業と消費者の共創関係
14. 「作品」は誰のものか
～どうして作品に値段があるんだろう～
どうしてCDは売れなくなったのか／著作権という発明／オリジナルとコピー／作品はいつまで作者のものか／芸術作品の価値形態／「感動」の社会性と歴史性／patronage／デジタル化時代の著作権／初音ミク／二次創作／ヲタクの時代
15. クリエイティブ、メディア、コミュニケーション
～きみたちが未来を切り開いていくために～
人間は現実を物語化しなければ現実の無意味さに耐えられない／ノスタルジーの危険性／説話論的因果律という幻想／物象化／「可能性の中心」として読むこと／キャラクターと固有名／「わたし」という物語／あなたの「価値」の源泉／森有正と「経験」

(予習): 「作品の価格について考える」ためのプリント課題

受講者への
メッセージや
アドバイス:

この授業で学ぶ視点や理論は、映像表現にとどまらず、文学をはじめとするさまざまな表現ジャンルにおいても応用が可能なものです。表現者・クリエイターを目指す人にとっては基礎的な素養になるはずですし、表現を目指さない人にとっても、これからの人生において、さまざまな作品に接したとき、それらを味わい尽くすために一生使えるツールになると思っています。そして、知識というものは、生き方と結びついてこそ、初めて真の力になるものです。

この授業における講師の役割は、ここにこんなものがあるよと示す水先案内人にすぎません(できるだけ面白く示すようにはしたいとは思っています)。こんなことまで学問の対象になるのかと驚くほど、知の入口は常に広く、その奥行は探れば探るほど深いものです。たった22時間30分の講義で伝えられることなど、所詮たかが知れたものでしかありません。本来なら基礎的なことを学ぶのに、各回のテーマがそれぞれ15回もしくは30回の講義を必要とするぐらいのものでもあります。もし、授業を通じて興味・関心を持ったテーマがあれば、自ら学びを深めていってください。学期が終了した後であっても、そのためのお手伝いは惜しみません。

フィードバックの
方法:

学期中のレポートは教室でまとめて解説しますが、全講義終了時のレポート試験は、希望者にメール等でコメントを送ります。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期中のレポート等	50	自分で独自に考察できているか(予習) 授業内容の把握ができているか(復習)
レポート試験(全講義終了時)	50	15回の講義中最も関心の高かった内容について、①なぜ興味を感じたか、②その内容について自分が独自に学習を深めたこと、③その内容に対する自分の考えの3点を網羅して6000字以上で文章化できているか

教科書:

特に指定しません。

参考書:

都度指定します。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

質問や要望はtwitterもしくはメールで受け付けます。授業後の対応も可。
twitter: @negriproject mail: negriproject@gmail.com

227461～68

基礎リテラシー

森山 由紀子、生井 知子、山本 由紀子、亀川 順代、日学未定6、日学未定7

授業テーマ:

大学での学び・コミュニケーション・ライティングの基礎

授業の概要:

大学生としての、学び方・コミュニケーションやライティングのマナーはどうあるべきか、どうありたいかを先輩の話や友人との対話を通して、学び、考え、身につける。研究倫理についても指導する。

到達目標:

①社会人としてのマナーや常識を知る。(知識・理解)
②有意義な大学生活を送ることができるよう、主体的に、大学生として自分のありたい姿を考え、実践する。(関心・意欲・態度)
③様々な場面で大学生として、また一人の大人として適切に振る舞い表現することができるよう基本的な技能を身につける。(表現・技能・能力)
④研究倫理の必要性和具体的な留意点、および、大学におけるレポートの基本的な書式を身につける。(知識・理解・関心・態度・表現・技能)

授業方法:

講義・実習・ディスカッション
基本的な知識の講義をベースとして、実践とディスカッションを中心に技能の定着をはかる。マナビー上で課題がアップされている場合は、あらかじめ解答をアップしておくこと。その場合、教室での授業は、課題を解いていることを前提として進められる。事前の課題のない場合は、授業中に課題を解きながら講義を織り交ぜて進められる。
また、授業後には指示に従い、振り返りをマナビー上にアップすることが課される。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 自己紹介	テキストp4・p5を参考に、別冊の「トレーニングシート」【課題1】1-1と、1-2を準備してくること。
2.	コミュニケーションゲーム	特に準備は不要。
3.	図書館オリエンテーション	クラスによっては4回目になる。 特に準備はいりません。図書館に直接集合すること。
4.	ワード・マナビーを使いこなす	のを
5.	敬語の基礎	マナビー上の課題をやってくること。
6.	メール・手紙の書式を学ぼう	マナビー上の課題をやってくること。
7.	対人コミュニケーションスキル講座(1)	マナビー上の課題をやってくること。
8.	説明のコツ—わかりやすく伝えるには—	マナビー上の課題をやってくること。
9.	対人コミュニケーションスキル講座(2)	マナビー上の課題をやってくること。
10.	レポートの書き方・研究倫理	クラスによっては11回目になる。 マナビー上の課題をやってくること。
11.	声を磨こう	クラスによっては10回目になる。 マナビー上の課題をやってくること。
12.	効果的なプレゼンテーション	マナビー上の課題をやってくること。
13.	効果的なプレゼンテーション	マナビー上の課題をやってくること。
14.	履歴書の作成・面接の受け方	マナビー上の課題をやってくること。
15.	まとめと振り返り	マナビー上の課題をやってくること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

高校生から大学生への橋渡しをする科目。
事前に課題をしていることを前提として、授業ではディスカッションや実習を中心にすすめることが多い。マナビーの操作を学んだあとは、マナビーからの指示に注意すること。
授業での実習やディスカッションには積極的に参加すること。

フィードバックの方法:

授業内の解説と、場合によってはマナビー上でフィードバックを行うことがある。

「成績評価方法」

評価方法	割合	評価基準
事前事後の課題の提出	25%	事前の課題の提出を通して到達目標②の達成度を評価し、事後の課題の提出を通して、到達目標①③④の定着および達成度を評価する。
授業中の活動	25%	授業中の活動を通して、到達目標②③の達成度を評価する。
授業後の振り返りシートの提出	50%	毎回の振り返りシートの内容を通して、到達目標①②④の達成度を評価する。

「成績評価基準」:

教科書:

橋本修／安部朋世／福嶋健伸『大学生のための日本語表現トレーニング・スキルアップ編』三省堂

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメールまたはマナビー上の掲示板機能による。アドレスは授業中に開示する。

授業テーマ:	近代文学の本質に迫る		
授業の概要:	通俗的なものと芸術的なものとの対比、漫画・アニメ・映画・演劇などの表現手法との比較などをし、小説を実際に執筆してみる体験を通じて小説を読む際に考えるべきポイントを確認した上で、芸術作品を読み解いていく		
到達目標:	文学の本質について、様々な角度からアプローチし、芸術としての文学の読み方をトレーニングすることを目標とする		
授業方法:	講義に、学生による発表や議論を織り交ぜる		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 科目についてのガイダンス	なし	
	2. 純文学と通俗的なもの	なし	
	3. 通俗的なもののパターン	なし	
	4. 通俗的なもののパターン	なし	
	5. 通俗作品の分析	発表の準備をしてくること	
	6. 通俗作品の分析	発表の準備をしてくること	
	7. ジャンルによる表現の特徴	プリントに書き込んでくこと	
	8. ジャンルによる表現の特徴	プリントに書き込んでくこと	
	9. ジャンルによる表現の特徴	プリントに書き込んでくこと	
	10. 小説を構想する	なし	
	11. 小説を書く時に考えること／小説を読むとは	小説執筆に取りかかること	
	12. 芸術作品を読む	作品を丁寧に読んでくこと	
	13. 芸術作品を読む	作品を丁寧に読んでくこと	
	14. 芸術作品を読む	作品を丁寧に読んでくこと	
	15. おわりに	なし	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室で解説する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の参加度合い	50	欠席が4回以上の者は不可とする
	レポート	50	真剣に取り組み、到達目標の芸術としての文学表現というものへの自分なりの気づきがあるかどうかで評価する
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応する		

授業テーマ:

近代文学の本質に迫る

授業の概要:

文学の本質について、様々な角度からアプローチし、芸術としての文学の読み方をトレーニングしていくことを目標とする。具体的には、通俗的なものと芸術的なものとの対比、漫画・アニメ・映画・演劇などの表現手法との比較などをし、小説を実際に執筆してみる体験を通じて小説を読む際に考えるべきポイントを確認した上で、芸術作品を読み解いていく。

到達目標:

近代文学の精読方法を知る

授業方法:

講義・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 純文学と通俗的なもの	
	3. 通俗作品の構造1	
	4. 通俗作品の構造2	
	5. 通俗作品の分析1	
	6. 通俗作品の分析2	
	7. ジャンルと表現1	
	8. ジャンルと表現2	
	9. ジャンルと表現3	
	10. 小説を構想する1	
	11. 小説を構想する2	
	12. 芸術作品を読む1	
	13. 芸術作品を読む2	
	14. 芸術作品を読む3	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

フィードバックの方法:

発表や創作に対して授業中にコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業に臨む態度	50	欠席1回につき10点減点とする
	レポート	50	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

学内メール:kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

古典文学作品を通読しその魅力を伝える。さまざまな古典文学作品に出会う。

授業の概要:

日本文学の古典の作品にできるだけ多く触れる。その豊かな表現や様々な修辞等を味わい、解釈する。具体的には、自分が取り組みたい作品を選び、一人一作品通読する。他の受講者に紹介したい場所を選び、その部分を精読して必要な事柄を調べ、解釈する。精読した部分を中心に、他の受講者にわかりやすく説明し、自分が感じた魅力を伝える。受講者は発表をしっかりと聞いて疑問点を質問し、意見を述べる。また、古典文学の音読を通じて、「ことば」として古典語に触れる。注釈書や辞書の使い方、引用方法の基本などについても身につける。

- 到達目標:
- ①古典テキストや注釈の読み方を知る(知識・理解)

②古典文学作品の通読を体験する。古典文学作品に親しむ。(関心・意欲・態度)

③選んだ箇所について、主体的に疑問点を持って本当にわかるまで精読し、その理解を踏まえた上で、作品の魅力をわかりやすく他の受講者に伝える。また、言葉として生き生きと朗読する。(表現・技能・能力)

④他者の発表を聞いて作品について理解を深め、用意された資料を用いて該当箇所を読み込む。(表現・技能・関心・意欲・態度)

⑤発表の準備や発表時の質疑応答、その後の読み込みを通して学んだことを文章にまとめる。(知識・理解・関心・態度・表現・技能)

授業方法:

各時間一つの作品について担当者が準備してきた発表を行い、それをもとに受講者全員で質疑応答を行う。担当者は指示に従いレジュメを用意すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業概要オリエンテーション及び作品決め	特になし。
	2. 作品決めの続き。発表準備についての説明と発表準備	担当したい作品を選んでくる。
	3. 発表準備続き。音読練習。	担当することになった作品を読み進める。
	4. 発表準備続き。(受講者数、扱うことになった作品数によって変更あり)	担当することになった作品を読み進める。発表箇所が決まれば、図書館も利用し、解釈のための調査を進める。
	5. 発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。
	6. 発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
	7. 発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
	8. 発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
	9. 発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
	10. 発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
	11. 発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
	12. 発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
	13. 発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
	14. 発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
	15. まとめとふりかえり、レポート指導	レポート執筆にあたっての質問を用意してくること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

発表スケジュールは受講者数と扱う作品数によって変更することがあります。古典文学の世界は広いので、今まであまり触れたことのなかった作品にも積極的に視野を広げていきましょう。作品に興味を持ち、とことんこだわって向き合うことを評価します。

フィードバックの方法:

授業中に行う。質問に対してはOHを中心に随時時間をとって対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業時の発言とコメントシート	50%	発表内容を聞いて適切な質疑応答を行い、その内容を踏まえた考察がなされているか。(表現・技能・関心・意欲・態度)
	発表	25%	古典作品を通読し、適切な資料を用いて解釈し、その結果をわかりやすくまとめて受講者に伝えることができたか。(知識・理解・表現・技能)
	レポート	25%	発表を通してさらに理解を深め、掘り下げた内容を文章にしてまとめられているか。(表現・技能)

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

授業時のコンタクト、またはEメール、研究室訪問による。(メールアドレスは授業時に開示する。)

授業テーマ:	現代日本語学入門		
授業の概要:	無意識に使っている母語としての日本語をあらためて観察し、その背後にあるしくみを知る。ことばの多様な側面について種々の観点から観察・議論を行い、それらの整理分析を体験する。		
到達目標:	日本語学の最も基本的な考え方や整理分析の仕方を知り、自ら日本語のさまざまな側面に目を向け興味ある事実気づく力をつける。		
授業方法:	各回のテーマについての講義を受けた上、作業・討論・発表等を行い、各自与えられた課題をまとめる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション		
	2. 日本語はどういう言語か	指示された課題を行ってくる。	
	3. 文法から見た日本語(1)	指示された課題を行ってくる。	
	4. 文法から見た日本語(2)	指示された課題を行ってくる。	
	5. 文法から見た日本語(3)	指示された課題を行ってくる。	
	6. 語彙から見た日本語(1)	指示された課題を行ってくる。	
	7. 語彙から見た日本語(2)	指示された課題を行ってくる。	
	8. 語彙から見た日本語(3)	指示された課題を行ってくる。	
	9. 発音から見た日本語(1)	指示された課題を行ってくる。	
	10. 発音から見た日本語(2)	指示された課題を行ってくる。	
	11. 文字から見た日本語	指示された課題を行ってくる。	
	12. 日本語の変異(1)	指示された課題を行ってくる。	
	13. 日本語の変異(2)	指示された課題を行ってくる。	
	14. 日本語の変化	指示された課題を行ってくる。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	日本語学は、高校までではほとんど学ばない分野です。特別な予備知識は必要なく、日本語の母語話者であれば誰でも同じ地点からスタートできます。しかし、これまでに聞いたことのない新しい考え方・ものの見方に戸惑うことがあるかもしれません。新鮮な体験を通じて、日本語を客観的に見る観点・科学的な思考法に親しみ、身近な言葉の現象の背後にある「しくみ」を見つけることの面白さを知ってほしいと思います。授業内容別の回数と順序は多少変更することがあります。		
フィードバックの方法:	提出物については、教室でまとめて解説するか、個別にコメントします。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	40	共同または単独での作業・議論・発表などにどれだけ積極的に取り組んだか、および、その内容を到達目標に基づいて評価します。単なる出席ではありません。
	提出物・テスト 出欠席・遅刻	60	具体的な運用は担当教員が到達目標に基づいて決めます。 欠席・遅刻は減点とし、原則として4回欠席した場合は不可とします。
教科書:			
参考書:	別に指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	担当教員によって異なるので授業時に指定する。		

授業テーマ:			
授業の概要:	さまざまな資料にあたりながら、今、日本語を学んでいる人たちの置かれている現状やその背景を探るとともに、日本語指導の基本的なあり方を知る。		
到達目標:	①社会と日本語教育の関わりの基本を学ぶ。 ②日本語教師に求められる知識・技術・態度の基本を学ぶ。		
授業方法:	講義を中心とし、適宜、タスクや発表を盛り込む。必要に応じて、外部の日本語教育関係者を呼ぶことがある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 日本語を学ぶ人たち 1		外国人が日本語を学ぶというのはどういうことか考える。
	2. 日本語を学ぶ人たち 2		前回は振り返る。
	3. 日本語を学ぶ人たち 3		前回は振り返る。
	4. 日本語を学ぶ人たち 4		前回は振り返る。
	5. 日本語を学ぶ人たち 5 まとめ		1回目～4回目を振り返る。
	6. 今日の日本語教育と社会 1		日本語の社会的役割を考える。
	7. 今日の日本語教育と社会 2		前回は振り返る。
	8. 今日の日本語教育と社会 3		前回は振り返る。
	9. 今日の日本語教育と社会 4		前回は振り返る。
	10. 今日の日本語教育と社会 5 まとめ		6回目～9回目を振り返る。
	11. 日本語教師に求められるもの 1		どのようなことが日本語教師に求められるのかを考える。
	12. 日本語教師に求められるもの 2		前回は振り返る。
	13. 日本語教師に求められるもの 3		前回は振り返る。
	14. 日本語教師に求められるもの 4		前回は振り返る。
	15. 日本語教師に求められるもの 5 まとめ		11回目～14回目を振り返る。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業中に、適宜、フィードバックをする。必要に応じて、マナビーを活用する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表並びに課題提出	80%	到達目標①②を基準に評価する。
	授業への参加度	20%	出席および授業中の態度、課題への取り組みも評価対象とする。なお、正当な理由なく5回以上欠席の場合は不可とする。
教科書:	授業中に、適宜、プリントなどを配布する。マナビーを通じて配布する場合もある。		
参考書:	必要に応じ、授業中に指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業前後に対応する。 また、Eメールやオフィスアワーも活用すること。 丸山 敬介 kmaruyam@dwcdoshisha.ac.jp 山本 由紀子 yuyamamo@dwcdoshisha.ac.jp		

授業テーマ:

授業の概要: 近代文学の代表的な作家・作品のすばらしさに触れていく。

到達目標: 近代文学の魅力を味わう。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. はじめに	なし
	2. 明治文学	作品を読んでくること
	3. 明治文学	作品を読んでくること
	4. 明治文学	作品を読んでくること
	5. 明治文学	作品を読んでくること
	6. 明治文学	作品を読んでくること
	7. 大正文学	作品を読んでくること
	8. 大正文学	作品を読んでくること
	9. 大正文学	作品を読んでくること
	10. 大正文学	作品を読んでくること
	11. 大正文学	作品を読んでくること
	12. 昭和文学	作品を読んでくること
	13. 昭和文学	作品を読んでくること
	14. 昭和文学	作品を読んでくること
	15. おわりに	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 面談

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	100	到達目標の近代文学の魅力をきちんと分析できているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: Eメール

授業テーマ:	平安時代の文学を取り上げ、高校の授業とは異なる観点から切り込んでいく。		
授業の概要:	この授業は、古典文学の広くて深い世界を体得してもらうことを主眼にしている。そのため平安時代の有名な散文を題材にして、詳しく本文を解説していく。主に高校の古文の教科書に掲載されているものを取り上げ、高校の授業との違いを明らかにしていきたい。高校の授業で学習したことを思い出しながら、講義との違いを理解し、古典文学のめざすものを知ってほしい。		
到達目標:	授業を通して平安時代の散文を取り上げ、その作品の文学的理解や知識を深め、文学研究の視点を養うことを目標とする。また十五回の授業を通して、十作品程度を扱うので、その文学史的な知識や位置づけを把握してもらいたい。そのためには積極的な参加、意欲・関心をもって授業に望んでもらいたい。		
授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 概要 竹取物語を読む1	高校古文にあった竹取物語に目を通してきてほしい。	
	2. 竹取物語を読む2	竹取物語の原文を読んできてほしい。	
	3. 伊勢物語を読む1	高校古文にあった伊勢物語に目を通してきてほしい。	
	4. 伊勢物語を読む2	伊勢物語の原文を読んできてほしい。	
	5. 蜻蛉日記を読む	高校古文にあった蜻蛉日記に目を通してきてほしい。	
	6. 枕草子初段を読む1	高校古文にあった枕草子初段に目を通してきてほしい。	
	7. 枕草子を読む2	枕草子の原文を読んできてほしい。	
	8. 枕草子を読む3	枕草子の原文を読んできてほしい。	
	9. 源氏物語桐壺巻を読む1	高校古文の教科書にあった目を通してきてほしい。	
	10. 源氏物語夕顔巻を読む2	高校古文にあった源氏物語に目を通してきてほしい。	
	11. 源氏物語若紫巻を読む3	高校古文にあった源氏物語に目を通してきてほしい。	
	12. 源氏物語橋姫巻を読む4	源氏物語の原文を読んできてほしい。	
	13. 和泉式部日記を読む	高校古文にあった和泉式部日記に目を通してきてほしい。	
	14. 更級日記を読む	高校古文にあった更級日記に目を通してきてほしい。	
	15. 堤中納言物語を読む 総括	高校古文にあった堤中納言物語に目を通してきてほしい。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	欠席しないで毎回出席してほしい。		
フィードバックの方法:	質問は授業中に受け付ける。レポートについてなどは随時個人的に対応する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	90	到達目標の文学研究の視点がどのように生かされているかを判断基準とする。
	授業への参加度	10	出席状況、質問の回数・内容、レポート提出の回数などによって評価する。
教科書:	なし		
参考書:	なし		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	相談があれば研究室に来てください。		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本語学とは？・世界の言語の中での日本語（服部）	配付資料を読み復習すること。
2.	音声言語としての日本語（服部）	配付資料を読み復習すること。
3.	さまざまな日本語(1)（服部）	配付資料を読み復習すること。
4.	さまざまな日本語(2)（服部）	配付資料を読み復習すること。
5.	日本語の文法（大島）	配付資料を読み復習すること。
6.	日本語の語彙（大島）	配付資料を読み復習すること。
7.	日本語の表記（大島）	配付資料を読み復習すること。
8.	外国語と日本語(1)（山本）	配付資料を読み復習すること。
9.	外国語と日本語(2)（山本）	配付資料を読み復習すること。
10.	日本語を教える(1)（丸山）	配付資料を読み復習すること。
11.	日本語を教える(2)（丸山）	配付資料を読み復習すること。
12.	日本語の歴史(1)（森山）	配付資料を読み復習すること。
13.	日本語の歴史(2)（森山）	配付資料を読み復習すること。
14.	日本語の歴史(3)（森山）	配付資料を読み復習すること。
15.	日本語の歴史(4)（森山）	配付資料を読み復習すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	毎回行う小テスト	100	到達目標に基づいて評価する。 欠席・遅刻は減点とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

授業テーマ:

俳句における表現を探究することで、日本語の豊かな語彙を獲得し、言語表現の多義性を学ぶ。

授業の概要:

実作を通じ、言葉の多義性に触れる。多様な近現代俳句に触れ、短詩の鑑賞力を養う。

到達目標:

高校国語レベルで俳句を理解している受講者を対象。
句会形式を用いて、自己を他者に開く文芸の魅力を探る。

授業方法:

句会と合評など、句会形式を用いる際は演習形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（俳句の形式・読み方、詠み方）	特に出版社などは指定しないが、歳時記（春・夏）を各自持参することが望ましい。
2.	演習（句会と合評）作句・吟行（写生の考え方を学び、学内もしくは学内近辺での吟行）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
3.	演習（句会と合評）（前回作った俳句作品をふまえ、「写生」と表現の在り方を考える）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
4.	演習（句会と合評）（同世代作家の俳句を交えた句会形式の合評会）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
5.	演習（句会と合評）（近現代作家の俳句を交えた句会形式の合評会）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
6.	演習（句会と合評）（季語、取り合わせの効果を考える）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
7.	演習（句会と合評）（季語、取り合わせの効果を考える）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
8.	演習（句会と合評）（同世代的な関心を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
9.	演習（句会と合評）（同世代的な関心を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
10.	演習（句会と合評）（同世代的な関心を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
11.	演習（句会と合評）（同世代的な関心を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
12.	演習（句会と合評）（同世代的な関心を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
13.	演習（句会と合評）（同世代的な関心を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
14.	作句を学ぶ 題詠の効果「取り合わせによる多作（袋返し）」	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
15.	総括 俳句表現の可能性を考える	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

俳句を年寄りのもの、と決めてかかっているだろうか？ 俳句はもっと自由で楽しい文芸である。
俳句・短歌などの創作経験者はもちろん、初心者への参加を強く歓迎する。

フィードバックの方法:

年度末に、創作A、創作Bの講義記録を、学生主体で編集した冊子『乙女ひととせ』を刊行、配布する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	30	出席率、講義への参加度、積極性を総合的に判断する
	探求度	30	講義意図の理解、創作・合評の表現力を総合的に判断する
	レポート	40	学期末に課題とする。課題意図の理解を判断する

教科書:

参考書:

塩見恵介『お手本は奥の細道 はじめて作る俳句教室』（すばる舎リンゲージ）
佐藤文香『俳句を遊べ! コト・バ・を・ア・ソ・べ!Vol.1』（小学館）
坪内稔典『俳句のユーモア』（岩波現代文庫）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビー、および講義中開示するメールアドレス

授業テーマ:

近現代俳句史の表現史に触れ、句会形式を用いて表現方法の探求を行う。

授業の概要:

実作を通じ、言葉の多義性に触れる。多様な近現代俳句に触れ、短詩の鑑賞力を養う。

到達目標:

実作力・鑑賞力を深化し、俳句形式の可能性を探る。
句会形式を用いて、自己を他者に開く文芸の魅力を探る。

授業方法:

句会と合評など、句会形式を用いる際は演習形式。後半には近現代俳句作品に関する発表を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（作句・句会の基本など）	特に出版社などは指定しないが、歳時記を各自持参してくることが望ましい。
2.	作句を学ぶ 俳句の基本的な用語を学ぶ	前時に指定された題に関する句を用意しておくことが望ましい。
3.	演習（句会と合評）（近現代作家の作品を交えた合評会）	前時に指定された題に関する句を用意しておくことが望ましい。
4.	演習（句会と合評）（近現代作家の作品を交えた合評会）	前時に指定された題に関する句を用意しておくことが望ましい。
5.	近世俳諧史概略、演習（句会と合評）	前時に指定された題に関する句を用意しておくことが望ましい。
6.	近代俳句史概略、演習（句会と合評）	前時に指定された題に関する句を用意しておくことが望ましい。
7.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
8.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
9.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
10.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
11.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
12.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
13.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
14.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
15.	総括 俳句表現の可能性を考える	これまでの講義概要を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

俳句を年寄りのもの、と決めてかかっていないだろうか？ 俳句はもっと自由で楽しい文芸である。
俳句・短歌などの創作経験者、創作Aの受講者はもちろん、初心者者の参加を強く歓迎する。

フィードバックの方法:

年度末に、創作A、創作Bの講義記録を、学生主体で編集した冊子『乙女ひととせ』を刊行、配布する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常	30	出席率、講義への参加度、積極性を総合的に判断する
	発表点	30	課題意図の理解、発表・創作・合評の表現力を総合的に判断する
	レポート	40	学期末に課題とする。課題意図の理解を判断する

教科書:

参考書:

塩見恵介『お手本は奥の細道 はじめて作る俳句教室』（すばる舎リンゲージ）
佐藤文香『俳句を遊べ! コ・ト・バ・を・ア・ソ・ベ!Vol.1』（小学館）
坪内稔典『俳句のユーモア』（岩波現代文庫）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビー、および講義中に開示するメールアドレス

授業テーマ:			
授業の概要:	本講義は、近現代とくに明治時代を中心にこの時期の文学(史)を通観する。1800年代後半から1910年代初めに発表された様々な特徴・形式をもつ作品を取り上げ、鑑賞する。		
到達目標:	近代文学の出発点にあたるところからその成立に焦点を当てながら、当時の時代背景、文壇状況、芸術環境を視野に入れ考察し、全体的な日本文学の流れも併せて捉えることを目標とする。		
授業方法:	教科書やプリントを使った講義。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 明治文学の特質	日本近代文学の成立と展開	
	2. 新文学の機運(1)	啓蒙文学	
	3. 新文学の機運(2)	政治小説	
	4. 新文学の機運(3)	文学の革新(理論と実践)	
	5. 国会開設後の文学(1)	初期ロマン主義の文学	
	6. 国会開設後の文学(2)	硯友社の文学	
	7. 日清戦後の文学(1)	文芸評論の展開	
	8. 日清戦後の文学(2)	小説の諸相	
	9. 日露戦後の文学(1)	自然主義の文学	
	10. 日露戦後の文学(2)	自然主義の文学	
	11. 日露戦後の文学(3)	新浪漫主義の文学	
	12. 日露戦後の文学(4)	新浪漫主義の文学	
	13. 日露戦後の文学(5)	理想主義(余裕派・高踏派)の文学	
	14. 日露戦後の文学(6)	理想主義(余裕派・高踏派)の文学	
	15. 日露戦後の文学(7)	理想主義(余裕派・高踏派)の文学	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	講義で取り上げる作品を読んでくこと。	
フィードバックの方法:	コミュニケーションペーパー(コメントペーパー)を実施し、コメントをつけて返却するか、あるいは教室でまとめて解説する(内容によって判断する)。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	80	定期試験(持込み全可)の成績を主とし、これに出席点等の平常点を加味して総合評価する。
	平常点	20	
教科書:	上田博・瀧本和成編『明治文芸館Ⅲ』(嵯峨野書院)		
参考書:	適宜指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力		
教員との連絡方法:	講義の前後に教室内で対応		

228660

日本近代文学史B

瀧本

和成

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

1. 明治文学から大正文学へ

2. 森鷗外の文学(1)

3. 森鷗外の文学(2)

4. 夏目漱石の文学(1)

5. 夏目漱石の文学(2)

6. 新思潮派の文学

7. 私小説・心境小説

8. 新浪漫主義の文学

9. 耽美派の文学

10. 白樺派の文学

11. 児童文学

12. 女性文学

13. 社会・労働文学

14. 新感覚派の文学

15. 新興芸術派の文学

準備学習等の内容

明治・大正期の文壇・社会状況

森鷗外の文学(歴史小説)

森鷗外の文学(史伝)

夏目漱石の文学(後期三部作)

夏目漱石の文学(『道草』から『明暗』へ)

芥川龍之介の文学とその芸術観

葛西善蔵や宇野浩二の作品の特質

北原白秋や木下杢太郎の詩や短歌の特徴

永井荷風、谷崎潤一郎の作品ーその特異性

武者小路実篤や志賀直哉、有島武郎たちの文学観及び芸術観

鈴木三重吉、小川未明たちの童話世界の魅力

「青鞥」を中心にした女性解放運動の展開

社会主義運動の展開とプロレタリア文学

横光利一、川端康成らの文学の斬新性

井伏鱒二らの文学の芸術性

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

コミュニケーションペーパー(コメントペーパー)を実施し、コメントをつけて返却するか、あるいは教室でまとめて解説する(内容によって判断する)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法

割合

評価基準

期末試験

80

定期試験(持込み全可)の成績を主とし、これに出席点等の平常点を加味して総合評価する。

平常点

20

教科書:

上田博・瀧本和成ほか編『大正文学史』(晃洋書房)

参考書:

適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:

講義の前後に教室内で対応

授業テーマ:

村上春樹と都市・建築空間

授業の概要:

村上春樹(1949-)は世界的な作家だと言われている。だが、彼が描き続けているのは、ごく局所的な空間や場所である。本講義では、物語の舞台である都市空間や建築空間に着目しながら、村上春樹のテキストを読解する。その際、文学研究における空間論はもとより、哲学、地理学、建築学など他領域の空間論を横断的に参照する。村上春樹による都市・建築空間表象をケーススタディとして、広く空間論における文学テキストの批評性を検討する。

到達目標:

1 文学テキストを空間論的アプローチから読解する方法を理解できる。
2 空間研究における文学テキストの批評性を理解できる。
3 1、2の理解をもとに自身の思考を展開し、それを文章で表現できる。

授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス		
	2. 村上春樹の経歴と作品		
	3. 『風の歌を聴け』——主観的空間の論理(※坂口恭平『現実脱出論』、イーファ・トゥアン『空間の経験』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	4. 『ねじまき鳥クロニクル』・1——痕跡と記憶(※多木浩二『生きられた家』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	5. 『ねじまき鳥クロニクル』・2——記憶の空間	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	6. ☆「シェエラザード」(『女のいない男たち』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	7. 『羊をめぐる冒険』・1——片隅と箱(※ガストン・バシュラール『空間の詩学』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	8. 『羊をめぐる冒険』・2——反転された「冒険」	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	9. ☆「ドライブ・マイ・カー」(『女のいない男たち』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	10. 『1973年のピンボール』・1——「故郷」とはなにか(※オットー・フリードリッヒ・ボルノウ『人間と空間』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	11. 『1973年のピンボール』・2——「故郷」を集める	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	12. 『ノルウェイの森』・1——場所性の構築(※鈴木博之『東京の[地霊]』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	13. 『ノルウェイの森』・2——「草原の風景」と「Norwegian Wood」	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	14. ☆「イエスタデイ」(『女のいない男たち』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読	
	15. 総括		

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

講義中に回収した小レポート(コメントペーパー)は、5段階で評価した上で、優秀作については次回講義の冒頭に(名前を伏せて)紹介し、解説を加えて受講者で共有する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート(平常点)	40	到達目標1・2に関して、講義内容の理解度により評価する。 ※講義中に不定期に実施する。4回以上不提出の場合は「不合格」とする。
	中間レポート	60	到達目標3に関して、講義内容をふまえてどの程度自身の思考を展開し、説得的に説明できるかを評価する。 ※計3回、「授業内容」欄の☆の回に実施する。

教科書:

村上春樹『女のいない男たち』(文春文庫、2016年)

参考書:

「授業内容」欄に※で示した文献

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

講義前後の休憩時間に講師控室まで。

授業テーマ:

稲垣足穂と都市・建築空間

授業の概要:

稲垣足穂(1900-1977)は、大正末から昭和初期にかけて、モダニズム文学の旗手として活躍した作家である。本講義では、物語の舞台である都市空間や建築空間に着目しながら、足穂のモダニズム期のテキストを中心に読解する。その際、文学研究における空間論はもとより、哲学、地理学、建築学など他領域の空間論を横断的に参照する。稲垣足穂による都市・建築空間表象をケーススタディとして、広く空間論における文学の批評性を検討する。

- 到達目標:
- 1 文学テキストを空間論的アプローチから読解する方法を理解できる。

2 空間研究における文学テキストの批評性を理解できる。

3 1、2の理解をもとに自身の思考を展開し、それを文章で表現できる。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	稲垣足穂の生涯と作品	
3.	『一千年秒物語』 ——都市空間のかけら	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
4.	「星を売る店」・1 ——主観的空間の論理 (※坂口恭平『現実脱出論』、イーファー・トゥアン『空間の経験』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
5.	「星を売る店」・2 ——神戸の幻想	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
6.	☆「星を売る店」・3	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
7.	「煌ける城」・1 ——「理想住宅」と「煌ける城」 (※エベネザー・ハワード『明日の田園都市』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
8.	「煌ける城」・2 ——「理想」と「幻想」 (※ロード・ダンセイニ「光の門」、「われわれの知る野原の彼方」)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
9.	☆「煌ける城」・3	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
10.	「薄い街」・1 ——未来派の受容 (※キャロライン・ディズダル『未来派 Futurism』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
11.	「薄い街」・2 ——未来派への批評性	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
12.	☆「薄い街」・3	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
13.	『有楽町の思想』・1 ——記憶の空間の論理 (※ガストン・バシュラール『空間の詩学』)	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
14.	『有楽町の思想』・2 ——「可能世界」としてのモダニズム	予習: 取り上げる作品の精読 復習: 配布資料の精読
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

講義中に回収した小レポート(コメントペーパー)は、5段階で評価した上で、優秀作については次回講義の冒頭で(名前を伏せて)紹介し、解説を加えて受講者で共有する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート(平常点)	40	到達目標1・2に関して、講義内容の理解度により評価する。 ※講義中に不定期に実施する。4回以上不提出の場合は「不合格」とする。
	中間レポート	60	到達目標3に関して、講義内容をふまえてどの程度自身の思考を展開し、説得的に説明できたかを評価する。 ※計3回、「授業内容」欄の☆の回に実施する。

教科書:

稲垣足穂『キタ・マキニカリス』(河出文庫、2016年)

参考書:

「授業内容」欄に※で示した文献

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

講義前後の休憩時間に講師控室まで。

授業テーマ:	夏目漱石の文学				
授業の概要:	日本近代文学を代表する作家の1人である夏目漱石を取り上げる。漱石の生涯や生きた時代・社会をふまえながら、具体的な作品の分析を通じて、漱石初期文学の特色や意義についての考察を試みたい。				
到達目標:	1.夏目漱石の生涯の特色を理解し、説明することが出来る。 2.夏目漱石の初期文学の特色を理解し、説明することが出来る。 3.作家研究の方法を理解し、運用することが出来る。				
授業方法:	講義形式				
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容			
	1. ガイダンス 漱石入門	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 授業で指示した課題について取り組むこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 授業で指示した課題について取り組むこと。			
	2. 作家研究 1 作家研究の方法				
	3. 作家研究 2 漱石の生涯 1				
	4. 作家研究 3 漱石の生涯 2				
	5. 作家研究 4 漱石の生涯 3				
	6. 作家研究 5 漱石の生涯 4				
	7. 作家研究 6 漱石の生涯 5				
	8. 作家研究 7 漱石の生涯 6				
	9. 作家研究 8 漱石の生涯 7				
	10. 作家研究 9 漱石の生涯 8				
	11. 作家研究 10 漱石の生涯 9				
	12. 作家研究 11 漱石の生涯 10				
	13. 作品研究 1 『吾輩は猫である』の世界 1				
	14. 作品研究 2 『吾輩は猫である』の世界 2				
	15. 作品研究 3 『吾輩は猫である』の世界 3				
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業中にレポートの提出を求めるので注意すること。				
フィードバックの方法:	提出物については、授業中にまとめて解説する。				
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準		
	レポート	70%	到達目標1～3に関する知識や理解度とあわせて論理的に説明できるかの達成度を評価する。		
	授業への参加度	30%	到達目標1～3に関して積極的に授業に参加しているかの達成度を評価する。		
教科書:	なし				
参考書:	授業中に適宜紹介する。				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、				
教員との連絡方法:	Eメール qqxr5sd9k@marble.ocn.ne.jp				

授業テーマ:	夏目漱石の文学																			
授業の概要:	日本近代文学を代表する作家の1人である夏目漱石を取り上げる。漱石の生涯や生きた時代・社会をふまえながら、具体的な作品の分析を通じて、漱石中期・後期文学の特色や意義についての考察を試みたい。																			
到達目標:	1.夏目漱石の生涯の特色を理解し、説明することが出来る。 2.夏目漱石の中期・後期文学の特色を理解し、説明することが出来る。 3.作家研究の方法を理解し、運用することが出来る。																			
授業方法:	講義形式																			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. ガイダンス 漱石文学の魅力</td><td rowspan="17">指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問などについて取り組むこと。</td></tr><tr><td>2. 作家研究 1 漱石の生涯 1</td></tr><tr><td>3. 作家研究 2 漱石の生涯 2</td></tr><tr><td>4. 漱石研究史 1 漱石研究史概観 1</td></tr><tr><td>5. 漱石研究史 2 漱石研究史概観 2</td></tr><tr><td>6. 作品研究 1 『坊つちやん』の世界 1</td></tr><tr><td>7. 作品研究 2 『坊つちやん』の世界 2</td></tr><tr><td>8. 作品研究 3 『三四郎』の世界 1</td></tr><tr><td>9. 作品研究 4 『三四郎』の世界 2</td></tr><tr><td>10. 作品研究 5 『三四郎』の世界 3</td></tr><tr><td>11. 作品研究 6 『現代日本の開化』漱石の文明批評 1</td></tr><tr><td>12. 作品研究 7 『現代日本の開化』漱石の文明批評 2</td></tr><tr><td>13. 作品研究 8 『こゝろ』の世界 1</td></tr><tr><td>14. 作品研究 9 『こゝろ』の世界 2</td></tr><tr><td>15. 作品研究 10 『こゝろ』の世界 3</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ガイダンス 漱石文学の魅力	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問などについて取り組むこと。	2. 作家研究 1 漱石の生涯 1	3. 作家研究 2 漱石の生涯 2	4. 漱石研究史 1 漱石研究史概観 1	5. 漱石研究史 2 漱石研究史概観 2	6. 作品研究 1 『坊つちやん』の世界 1	7. 作品研究 2 『坊つちやん』の世界 2	8. 作品研究 3 『三四郎』の世界 1	9. 作品研究 4 『三四郎』の世界 2	10. 作品研究 5 『三四郎』の世界 3	11. 作品研究 6 『現代日本の開化』漱石の文明批評 1	12. 作品研究 7 『現代日本の開化』漱石の文明批評 2	13. 作品研究 8 『こゝろ』の世界 1	14. 作品研究 9 『こゝろ』の世界 2	15. 作品研究 10 『こゝろ』の世界 3	
授業内容	準備学習等の内容																			
1. ガイダンス 漱石文学の魅力	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。 指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。 配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問などについて取り組むこと。																			
2. 作家研究 1 漱石の生涯 1																				
3. 作家研究 2 漱石の生涯 2																				
4. 漱石研究史 1 漱石研究史概観 1																				
5. 漱石研究史 2 漱石研究史概観 2																				
6. 作品研究 1 『坊つちやん』の世界 1																				
7. 作品研究 2 『坊つちやん』の世界 2																				
8. 作品研究 3 『三四郎』の世界 1																				
9. 作品研究 4 『三四郎』の世界 2																				
10. 作品研究 5 『三四郎』の世界 3																				
11. 作品研究 6 『現代日本の開化』漱石の文明批評 1																				
12. 作品研究 7 『現代日本の開化』漱石の文明批評 2																				
13. 作品研究 8 『こゝろ』の世界 1																				
14. 作品研究 9 『こゝろ』の世界 2																				
15. 作品研究 10 『こゝろ』の世界 3																				
受講者へのメッセージやアドバイス:		授業中にレポートの提出を求めるので注意すること。																		
フィードバックの方法:		提出物については、授業中にまとめて解説する。																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート</td><td>70%</td><td>到達目標1～3に関する知識や理解度とあわせて論理的に説明できるかの達成度を評価する。</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>30%</td><td>到達目標1～3に関して積極的に授業に参加しているかの達成度を評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート	70%	到達目標1～3に関する知識や理解度とあわせて論理的に説明できるかの達成度を評価する。	授業への参加度	30%	到達目標1～3に関して積極的に授業に参加しているかの達成度を評価する。										
評価方法	割合	評価基準																		
レポート	70%	到達目標1～3に関する知識や理解度とあわせて論理的に説明できるかの達成度を評価する。																		
授業への参加度	30%	到達目標1～3に関して積極的に授業に参加しているかの達成度を評価する。																		
教科書:	なし																			
参考書:	授業中に適宜紹介する。																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力																			
教員との連絡方法:	Eメール qqxr5sd9k@marble.ocn.ne.jp																			

授業テーマ:	谷崎潤一郎と都市モダニズム(大正～昭和初期を中心に)																																		
授業の概要:	・近代都市文化を切り口に、谷崎潤一郎の前期の代表的な作品を読み、物語の舞台である都市空間と、そこで展開される近代文化の様相を捉え、文学的表現との関連性について考える。																																		
到達目標:	・谷崎潤一郎という作家の文学表現を手がかりに、歴史・社会的な状況に対する、文学の位置とその批評性を理解する。 ・作品精読を通しての表現のモチーフを理解し、作家が対象とした〈近代〉という時代の特性を知る。																																		
授業方法:	講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. ガイダンス</td><td>シラバスの確認</td></tr><tr><td>2. 谷崎潤一郎初期作品の特質</td><td>配付資料の確認</td></tr><tr><td>3. 「秘密」―都市空間とは何か</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>4. 「秘密」―都市を遊歩すること</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>5. 「痴人の愛」―東京都市空間の特質</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>6. 「痴人の愛」―消費文化と物語</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>7. 「痴人の愛」―物語における時間と空間</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>8. 「痴人の愛」―コミュニケーションと性</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>9. 「痴人の愛」―大衆文化の誕生</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>10. 関東大震災と谷崎の関西移住</td><td>配付資料の精読</td></tr><tr><td>11. 「卍(まんじ)」―関西都市空間の特質</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>12. 「卍(まんじ)」―語りの特質</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>13. 「卍(まんじ)」―物語の時間軸とレトリック</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>14. 「卍(まんじ)」―物語の多声性</td><td>作品および配付資料の精読</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>講義内容全体の復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ガイダンス	シラバスの確認	2. 谷崎潤一郎初期作品の特質	配付資料の確認	3. 「秘密」―都市空間とは何か	作品および配付資料の精読	4. 「秘密」―都市を遊歩すること	作品および配付資料の精読	5. 「痴人の愛」―東京都市空間の特質	作品および配付資料の精読	6. 「痴人の愛」―消費文化と物語	作品および配付資料の精読	7. 「痴人の愛」―物語における時間と空間	作品および配付資料の精読	8. 「痴人の愛」―コミュニケーションと性	作品および配付資料の精読	9. 「痴人の愛」―大衆文化の誕生	作品および配付資料の精読	10. 関東大震災と谷崎の関西移住	配付資料の精読	11. 「卍(まんじ)」―関西都市空間の特質	作品および配付資料の精読	12. 「卍(まんじ)」―語りの特質	作品および配付資料の精読	13. 「卍(まんじ)」―物語の時間軸とレトリック	作品および配付資料の精読	14. 「卍(まんじ)」―物語の多声性	作品および配付資料の精読	15. まとめ	講義内容全体の復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. ガイダンス	シラバスの確認																																		
2. 谷崎潤一郎初期作品の特質	配付資料の確認																																		
3. 「秘密」―都市空間とは何か	作品および配付資料の精読																																		
4. 「秘密」―都市を遊歩すること	作品および配付資料の精読																																		
5. 「痴人の愛」―東京都市空間の特質	作品および配付資料の精読																																		
6. 「痴人の愛」―消費文化と物語	作品および配付資料の精読																																		
7. 「痴人の愛」―物語における時間と空間	作品および配付資料の精読																																		
8. 「痴人の愛」―コミュニケーションと性	作品および配付資料の精読																																		
9. 「痴人の愛」―大衆文化の誕生	作品および配付資料の精読																																		
10. 関東大震災と谷崎の関西移住	配付資料の精読																																		
11. 「卍(まんじ)」―関西都市空間の特質	作品および配付資料の精読																																		
12. 「卍(まんじ)」―語りの特質	作品および配付資料の精読																																		
13. 「卍(まんじ)」―物語の時間軸とレトリック	作品および配付資料の精読																																		
14. 「卍(まんじ)」―物語の多声性	作品および配付資料の精読																																		
15. まとめ	講義内容全体の復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する																																		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>20</td><td rowspan="2">授業態度、取り組みの積極性、作品の理解度を評価する 課題に対する論述内容の独創性、論理性、表現を総合的に評価する</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>80</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への参加度	20	授業態度、取り組みの積極性、作品の理解度を評価する 課題に対する論述内容の独創性、論理性、表現を総合的に評価する	定期試験	80																										
評価方法	割合	評価基準																																	
授業への参加度	20	授業態度、取り組みの積極性、作品の理解度を評価する 課題に対する論述内容の独創性、論理性、表現を総合的に評価する																																	
定期試験	80																																		
教科書:	谷崎潤一郎『痴人の愛』(新潮文庫、2003年改版) 谷崎潤一郎『卍(まんじ)』(新潮文庫、2010年改版)																																		
参考書:	参考資料を授業中にプリントで配布																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:

谷崎潤一郎と歴史語り(昭和初年代を中心に)

授業の概要:

谷崎潤一郎の中期の代表的な作品を読み、物語と古典、歴史との関係を捉え、文学的表現との関連性について考える。

到達目標:

・作家の文学表現を手がかりに、同時代の社会的な状況に対する、文学の位置とその批評性を理解する。

・歴史語りと小説創作というテーマを切り口に作品を精読、その表現のモチーフを理解し、作家が対象とした〈近代〉という時代の特性を知る。

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスの精読
	2. 昭和初年代と〈古典回帰〉の谷崎	配布資料の精読
	3. 「「九月一日」前後のこと」―谷崎の物語叙述の特性	作品および配布資料の精読
	4. 「「九月一日」前後のこと」―歴史認識と物語	作品および配布資料の精読
	5. 「吉野葛」―語りの特質	作品および配布資料の精読
	6. 「吉野葛」―伝説と歴史	作品および配布資料の精読
	7. 「吉野葛」―歴史叙述と津村の物語	作品および配布資料の精読
	8. 「吉野葛」―母恋いと物語	作品および配布資料の精読
	9. 「吉野葛」―歴史と政治性	作品および配布資料の精読
	10. 「盲目物語」―語りの特質	作品および配布資料の精読
	11. 「盲目物語」―語り手・弥市の位置	作品および配布資料の精読
	12. 「盲目物語」―物語の原典と歴史叙述	作品および配布資料の精読
	13. 「盲目物語」―引用とコラージュの問題	作品および配布資料の精読
	14. 「盲目物語」―翻訳としての物語	作品および配布資料の精読
	15. まとめ	授業全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	20	授業態度、取り組みの積極性、作品の理解度を評価する
	定期試験	80	課題に対する論述内容の独創性、論理性、表現を総合的に評価する

教科書:

谷崎潤一郎『盲目物語・吉野葛』(新潮文庫、2002年改版)

参考書:

参考資料を授業中にプリントで配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: 日本 の 近現代文学 作品を、作品に描かれた〈日本〉を切り口に読み解き、時代における意味と物語における機能について講義する。

到達目標: ・文学 作品を読み解くための基礎力を身につける。
・それぞれの文学 作品に描かれた〈日本〉の姿を理解し、作品や時代における国家イメージやナショナリズム変化を知る。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスの確認
2.	森鷗外「普請中」 確認テスト①	作品の精読
3.	太宰治「十二月八日」(1) 確認テスト②	作品の精読
4.	太宰治「十二月八日」(2)	作品および配付資料の精読
5.	中島敦「マリヤン」 確認テスト③	作品の精読
6.	牛島春子「祝といふ男」(1) 確認テスト④	作品の精読
7.	牛島春子「祝といふ男」(2)	作品および配付資料の精読
8.	野坂昭如「火垂るの墓」(1) 確認テスト⑤	作品の精読
9.	野坂昭如「火垂るの墓」(2)	作品および配付資料の精読
10.	小島信夫「アメリカン・スクール」(1) 確認テスト⑥	作品の精読
11.	小島信夫「アメリカン・スクール」(2)	作品および配付資料の精読
12.	目取真俊「水滴」(1) 確認テスト⑦	作品の精読
13.	目取真俊「水滴」(2)	作品および配付資料の精読
14.	リービ英雄「仲間」 確認テスト⑧	作品の精読
15.	まとめ	講義全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス: ・授業で扱う作品は精読してくること。新しい教材に入る際の授業内で読書確認の小テスト(教科書閲覧可)を行い、成績に加える。
・教材以外でも、授業で紹介した文学作品や評論など、幅広く読書すること。
・出席が一定基準に満たない場合は定期試験の受験を認めない。

フィードバックの方法: 確認テスト:採点して返却
その他:教室でまとめて解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
確認テスト	20	教材の文学作品を精読してきたかどうかを評価する。
定期試験	80	文学作品の批評性を理解できているか、作品解釈の論理性と独自性といった観点で総合的に評価する。

教科書: 飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編、『文学で考える〈日本〉とは何か』、翰林書房、2016

参考書: 授業中にプリント等で配布。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室で対応

授業テーマ:

授業の概要:日本の近現代文学作品を〈仕事〉を切り口に読み解き、その時代的位置と物語における機能について講義する。

到達目標:・文学作品を読み解くための基礎力を身につける。
・日本の近現代文学を通して、近現代の文化の様態を知る。
・時代ごとの〈仕事〉の意味を知り、労働と文化、歴史に対する理解を深める。

授業方法:講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスの確認
	2. 泉鏡花「海城発電」(1) 確認テスト①	作品の精読
	3. 泉鏡花「海城発電」(2)	作品および配布資料の精読
	4. 樋口一葉「にぎりえ」(1) 確認テスト②	作品の精読
	5. 樋口一葉「にぎりえ」(2)	作品および配布資料の精読
	6. 正宗白鳥「塵埃」 確認テスト③	作品の精読
	7. 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 確認テスト④	作品の精読
	8. 王昶雄「奔流」(1) 確認テスト⑤	作品の精読
	9. 王昶雄「奔流」(2)	作品および配付資料の精読
	10. 井伏鱒二「遥拝隊長」(1) 確認テスト⑥	作品の精読
	11. 井伏鱒二「遥拝隊長」(2)	作品および配付資料の精読
	12. 庄野潤三「プールサイド小景」 確認テスト⑦	作品の精読
	13. 村上春樹「午後の最後の芝生」(1) 確認テスト⑧	作品の精読
	14. 村上春樹「午後の最後の芝生」(2)	作品および配付資料の精読
	15. まとめ	講義内容全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:・授業で扱う作品は精読してくること。新しい教材に入る際の授業内で読書確認の小テスト(教科書閲覧可)を行い、成績に加える。
・教材以外でも、授業で紹介した文学作品や評論など、幅広く読書すること。
・出席が一定基準に満たない場合は定期試験の受験を認めない。

フィードバックの方法:確認テスト:採点して返却
その他:教室でまとめて解説

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	確認テスト	20	教材の文学作品を精読してきたかどうかを評価する。
	定期試験	80	文学作品の批評性を理解できているか、作品解釈の論理性と独自性といった観点で総合的に評価する。

教科書:飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編、『文学で考える〈仕事〉の百年』、翰林書房、2016

参考書:授業中にプリント等で配布。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:授業の前後に教室で対応

229560

表現研究A

牛田 あや美

授業テーマ：映画・マンガのリテラシーを読む。

授業の概要：日本の輸出文化の一躍を担っているストーリーマンガとはどのような過程を経て成立をしたのか、歴史や政治動向から学習する。

到達目標：過去のメディア、特にエンターテインメントメディアのなかに潜む問題を具体的に学ぶことにより、現在のメディアリテラシーに反映することが目標。

授業方法：基本的には講義形態でおこなうため、ノートを持参すること。また、各回の冒頭で、受講者によるミニ発表を実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 鳥獣人物戯画 マンガの始祖	鳥獣人物戯画を調べる。
	2. 京都を舞台としたマンガ、映画	京都を舞台とした作品を調べる。
	3. 江戸時代のマンガ	浮世絵を勉強する。
	4. 絵から写真、そして映画へ	写真の誕生を調べる。
	5. 自由民権運動と雑誌のなかに描かれるマンガ	自由民権運動を勉強する。
	6. 近代化とマンガ	明治・大正の歴史を勉強する。
	7. 映画のモンタージュとマンガのコマ	明治・大正の歴史を勉強する。
	8. 戦中の映画・マンガI	戦前の歴史を勉強する。
	9. 戦中の映画・マンガII	戦前の歴史を勉強する。
	10. 戦中の映画・マンガIII	戦前の歴史を勉強する。
	11. 戦中の映画・マンガIV	戦前の歴史を勉強する。
	12. 子どもの憧れからマンガを読む	戦前の子どものエンターテインメントを「かんがえ」る。
	13. 占領下の映画・マンガ	占領期日本の歴史を勉強する。
	14. ストーリーマンガの始まり	マンガとは何か、を考える。
	15. 文化となった映画とマンガ	未来の日本の文化を考える。

受講者へのメッセージやアドバイス：「出席」とは机に座るだけではありません。積極的に参加をしてください。事前に調べたことやもともと知識としてあることなどを踏まえ、積極的に参加してください。レポートではそれを反映してください。

フィードバックの方法：次回の授業日に優秀なレポートを紹介します。

「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	40	「出席」とは座っているだけではありません。授業態度も含みます。事前に調べたことを授業内で発表してください。授業内容と事前に調べたことを絡めてレポートしてください。
	授業への積極性	30	
	レポート内容	40	

教科書：授業内で適宜プリントを配布します。

参考書：牛田あや美他『メディア活用能力とコミュニケーション』大学図書出版2016年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法：a-ushida@kuad.kyoto-art.ac.jp

授業テーマ:

表象の動物園

授業の概要:

講義を想像上の動物園＝動物そのものではなく「動物の表象」が集められた動物園になぞらえて、映画と演劇を中心にアニメ、マンガ、音楽にいたるサブカルチャーなど各種の表現領域のなかで、動物がどのように表象されているのか、その動物の表象を通して何がどのようなルールに基づいて表現されているのかを考えます。

到達目標:

現代のサブカルチャーについて理解を深める。動物表象の背景にある映画、演劇の基礎知識を学ぶ。表象の分析的解釈ができるようになる。

授業方法:

基本的には講義形式、授業各回の内容は変更の可能性があります。講義の終わり数回分でグループ発表の実施を予定しているため、積極的な参加を期待しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロ： 表象の動物園のルール	自分の知っている動物の表象を確認する。
2.	ネズミ： ミッキー・マウスとキャラクター・ビジネス	ウォルト・ディズニーについて調べる
3.	ネコとネズミ： 『トムとジェリー』とアメリカのギャグ・アニメ	『トムとジェリー』を鑑賞する。
4.	ネコ： 『キャッツ』とミュージカル	ミュージカルについて調べる。
5.	サル： 『キング・コング』とモンスター映画	キング・コングについて調べる。
6.	サル： 『猿の惑星』とSF映画	SF映画の歴史について調べる。
7.	サイ： イヨネスコ作『犀』と不条理演劇	20世紀の演劇について調べる。
8.	イヌ： 『ラッシー』と動物映画	動物映画を鑑賞する。
9.	クモとコウモリ： バットマン、スパイダーマンとアメコミ	アメコミ映画を鑑賞する。
10.	昆虫： 『仮面ライダー』と日本のヒーロー	日本のヒーローについて調べる。
11.	地を這うもの： 『デューン』と『モスラ』、あるいはグループ発表その1	発表の準備
12.	動物集合： オーウェルの『動物農場』、あるいはグループ発表その2	発表の準備
13.	脇役や背景としての動物表彰： 『ゴッドファーザー』と『ブレードランナー』、あるいはグループ発表その3	発表の準備
14.	実在しない獣： 『ゴジラ』、龍など、あるいはグループ発表その4	発表の準備
15.	総括： ニンゲン、表象の動物園のなかで	提出物の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

映画・演劇を中心としたサブカルチャーの豊穡な表現世界を概観することが狙いです。基本的には講義一回で完結する進行なので、それを承知で受講してください。また、普段から身の回りの動物表象を意識しておくことを勧めます。

フィードバックの方法:

毎回の授業でコメントペーパーを配布、回収します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	60	コメント・ペーパーによる理解度
	発表 あるいはレポート	40	独創性、積極性

教科書:

特にありません。

参考書:

必要に応じて、授業内で指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

いつでもメールで。 dhira@otemae.ac.jp

授業テーマ:	歌舞伎の表現化		
授業の概要:	江戸時代において歌舞伎が文学や絵画、特に浮世絵版画といかに関連していたのかについて理解する。また、演劇が小説化、あるいは小説から演劇化されていく過程を追いながら、報道やマスメディアが確立していなかった時代に、人々の噂や評判といった芸能情報が絵画・文学的に表現されていた事例を学ぶ。		
到達目標:	・歌舞伎の基礎・歴史を理解する ・浮世絵版画の基礎・歴史を理解する。 ・近世文学史の基礎を理解する。 ・芸能情報が絵画・文芸化される現象について理解する。 ・江戸時代の出版文化を理解する。 ・近世期における表現方法を用いて、芸能情報を発信する。		
授業方法:	歌舞伎の基本的な約束事や用語を具体的に説明しながら、さまざまな分野の文献史料の訳読を行い、絵画における歌舞伎の表現方法の確認する。また、絵画・浮世絵・写真・ビデオ・DVDなどのヴィジュアルな教材を適宜使用して授業を進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 歌舞伎の歴史1 2. 歌舞伎の歴史2 3. 歌舞伎の歴史3 4. 歌舞伎の歴史4 5. 歌舞伎の歴史5 6. 歌舞伎鑑賞1 7. 浮世絵版画の歴史と種類 8. 歌舞伎と浮世絵版画 9. 歌舞伎鑑賞2 10. 歌舞伎鑑賞3 11. 芸能情報と文芸 12. 芸能情報と浮世絵1 13. 芸能情報と浮世絵2 14. 芸能情報と戯作者 15. 総括	準備学習等の内容 歌舞伎についての事前学習 歌舞伎についての事前学習 歌舞伎についての事前学習 歌舞伎についての事前学習 歌舞伎についての事前学習 鑑賞する演目についての事前学習 浮世絵版画についての事前学習 歌舞伎興行についての事前学習 鑑賞する演目についての事前学習 鑑賞する演目についての事前学習 江戸時代のメディアにについての事前学習 江戸時代のメディアにについての事前学習 江戸時代のメディアにについての事前学習 近世文学史についての事前学習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	準備学習:観劇レポートを課すため、授業で学ぶ古典芸能に対する基礎知識に加えて、受講生自身が観劇した芸能に対する個人学習が必要となる。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 レポート試験 観劇レポート 授業への積極的参加度	割合 60 20 20	評価基準 到達目標を全て理解した上で、近世期における芸能情報の発信方法について独自の視点を持っているかによって評価する。 実際に観劇した古典芸能への理解度と、その芸能に対しての考察が論理的に説明できているかによって評価する。 積極的に授業へ参加し、到達目標の理解度によって評価する。
教科書:			
参考書:	服部幸雄『絵で読む歌舞伎の歴史』(平凡社、2008年) 赤間亮『江戸の演劇書』(八木書店、2003年) 荻田清『上方歌舞伎関係一枚摺考』(清文堂、1999年) 神楽岡幼子『歌舞伎文化の享受と展開』(八木書店、2002年) 大久保純一『浮世絵出版論』(吉川弘文館、2013年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。		

授業テーマ:	実践的演劇入門 ～身体で読む戯曲～		
授業の概要:	戯曲作品を文字として読み、文学的に解釈するだけではなく、身体すなわち声と動作を使いながら、立体的かつ実践的に理解することを目指します。ただ座って話を聞いている講義形式ではなく、自分から「やってみる」「取り組んでみる」タイプの授業なので、そのつもりで受講してください。とはいえ、この授業は俳優育成や演技レッスンが主眼ではありません。あくまで「入門」として、これまで演劇に触れる機会がなかった初心者や学生諸君でも楽しみながら参加できる内容を心がけます。なお、どのような戯曲作品を読むのかは、受講生と相談の上で決定します。		
到達目標:	演劇の初歩的な考え方を見につける。広義のプレゼンテーション能力を向上させる。言語と身体表現上のかかわりについて体験的に考察する。		
授業方法:	実技・実習をメインとします。なお、授業内容はひとつの目安で、順番等変更の可能性があります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロ： 戯曲の基礎、舞台の魅力	演劇、舞台に対する印象を再確認する。	
	2. 戯曲選択	自分で戯曲を探してみる。	
	3. コミュニケーションと発声	自分の発声話し方の癖を自覚する。	
	4. テーブル稽古	課題戯曲テキストを事前に読んでおく。あるいは、戯曲テキストを執筆する。	
	5. 演出の役割	自分が演出の立場になったことを想像してみる。	
	6. 登場人物の研究	登場人物の履歴書や背景を考察する。	
	7. サブテキストとは？	せりふの裏に隠された発言の意図や作家の狙いについて考える。	
	8. ブロッキング	課題戯曲テキストを空間化して読み直す。	
	9. 演出のさまざまな効果	課題戯曲テキストの演出ノートを作る。	
	10. 立ち稽古	せりふを覚える。	
	11. ダメ出し	せりふや所作の「別の表現方法」を考えてみる。	
	12. 稽古 発表へ	さらに、せりふを覚える。	
	13. 稽古 継続 中間チェック	実演の改善点を考える。	
	14. 稽古 仕上げ	さらに、稽古する。	
	15. 実演発表	最終リハーサル	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業に対する積極的な姿勢が必要です。学期の後半は、グループ単位で稽古をするので、ひとりの欠席が他の受講生に大きな影響を与えます。そのため、毎回の出席は単なる講義とは違う意味で必須だと考えてください。		
フィードバックの方法:	授業内での個別的な指導により		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50	積極性、自発性
	実演発表	50	事前準備、創意工夫
教科書:	使用する戯曲は授業で配布します。		
参考書:	必要に応じて、授業で紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	メールでいつでも。 dhira@otemae.ac.jp		

授業テーマ:

1910年代の文学

授業の概要:

明治から大正へという時代の大きな転換期とも重なり1910年代には多様な文学運動の中から多くの問題作が生まれた。本授業では時代や社会との関わりをふまえながら、1910年代を代表する作家や作品の特色についての考察を試みたい。あわせて、プレゼンテーションや討議の技術を習得し、運用できるようになることを目指すものである。

到達目標:

1.1910年代の文学の特色を理解し、説明することが出来る。
2.作品研究の方法を理解し、運用することが出来る。
3.プレゼンテーションおよび討議、レポート執筆の方法・技術を習得し、運用することが出来る。

授業方法:	演習形式	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス 1910年代の文学入門	
	2. 作品研究の方法	指示されたテキストの範囲は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
	3. 作品研究 1 志賀直哉『城の崎にて』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
	4. 作品研究 2 志賀直哉『城の崎にて』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
	5. 作品研究 3 谷崎潤一郎『刺青』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
	6. 作品研究 4 谷崎潤一郎『刺青』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
	7. 作品研究 5 葛西善蔵『子をつれて』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
	8. 作品研究 6 葛西善蔵『子をつれて』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
	9. 作品研究 7 森鷗外『雁』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
	10. 作品研究 8 森鷗外『雁』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
	11. 作品研究 9 森鷗外『雁』の世界 3	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
	12. プレゼンテーション 1	発表される作品は事前に読み、問題点や意見を考えておくこと。
	13. プレゼンテーション 2	授業で指示した課題について取り組むこと。 発表される作品は事前に読み、問題点や意見を考えておくこと。
	14. プレゼンテーション 3	授業で指示した課題について取り組むこと。 発表される作品は事前に読み、問題点や意見を考えておくこと。
	15. プレゼンテーション 4	授業で指示した課題について取り組むこと。 発表される作品は事前に読み、問題点や意見を考えておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物については、授業中にまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50%	到達目標1〜3に関する知識や理解度とあわせて論理的に説明できるかの達成度を評価する。
	プレゼンテーション	20%	到達目標1〜3に関するプレゼンテーションの実施内容の達成度を評価する。
	授業への参加度	30%	到達目標1〜3に関して積極的に授業、討議に参加しているかの達成度を評価する。

教科書:

玉井敬之他、『1910年代の文学』、翰林書房

参考書:

授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール qqxr5sd9k@marble.ocn.ne.jp

授業テーマ:

文学理論とその実践～短編小説を読む～

授業の概要:

小説とは一定量の〈言葉＝情報〉の集積である。その〈言葉〉が「何を語っているか」(内容)、そして「如何に語っているか」(形式)を分析するためには、様々な理論的な観点を学ぶ必要がある。この授業では、短編小説を対象に、方法論の学習(理論)と具体的な作品分析(実践)を交互に行う。「テキスト」のような基礎的な概念や古今東西の「物語」に共通するパターンの分析など、近代文学の表現史についての総合的な知識を習得することで、現代の情報化社会における文学表現について考察を深めたい。

到達目標:

(1)「テキスト」といった概念や「ストーリーとプロットの違い」といった批評理論の基礎的な知識を身につけるとともに、文学作品の分析方法を具体的に学ぶ。
(2)批評理論の学習や映像メディアとの比較から「芸術表現の本質」(そのジャンルにしかできない固有の表現)を考察し、文学をはじめ各メディア固有の表現形式に即した読解力の習得を到達目標とする。

授業方法:

基本的には講義形式で行うが、受講生による発表も予定している。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス(教員の自己紹介、授業内容、評価基準などについての説明)	シラバスを熟読すること。
2.	文学理論(1)～表象とは何か?～	初回で紹介した文献を実際に手に取ってみる。
3.	実践例①夏目漱石「夢十夜」(第一夜)	分析対象の作品を通読してくる。また、先行研究論文を読んで来ること。
4.	実践例②内田百閒「花火」	分析対象の作品を通読してくる。また、先行研究論文を読んで来ること。
5.	実践例③泉鏡花「竜潭譚」	分析対象の作品を通読してくる。また、先行研究論文を読んで来ること。
6.	実践例④谷崎潤一郎「A夫人の手紙」	分析対象の作品を通読してくる。また、先行研究論文を読んで来ること。
7.	文学理論理論(2)～「作品」から「テキスト」へ～	前回紹介した文献を実際に手に取ってみる。
8.	実践例①芥川龍之介「藪の中」	分析対象の作品を通読してくる。また、先行研究論文を読んで来ること。
9.	実践例②志賀直哉「小僧の神様」	分析対象の作品を通読してくる。また、先行研究論文を読んで来ること。
10.	実践例③横光利一「蠅」	分析対象の作品を通読してくる。また、先行研究論文を読んで来ること。
11.	実践例④太宰治「女生徒」	分析対象の作品を通読してくる。また、先行研究論文を読んで来ること。
12.	文学理論(2)物語の類型論	前回紹介した文献を実際に手に取ってみる。
13.	実践例①萩原朔太郎「猫町」	分析対象の作品を通読してくる。また、先行研究論文を読んで来ること。
14.	実践例②宮沢賢治「銀河鉄道の夜」	分析対象の作品を通読してくる。また、先行研究論文を読んで来ること。
15.	全体の振り返りと総括	全回の講義資料を参照して、内容を復習してくること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回コメントペーパーを記入し、質問事項には次の回の冒頭でフィードバックする。また、学生の発表に対しては受講生全員が質問票を記入のうえ、それをもとに討論してもらう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	30	コメントペーパーの内容や授業内での発問を評価対象とする。
	プレゼンテーション	30	発表資料が適切な書式で作成できているか。
	レポート	40	発表資料作成のための調査をもとにレポートが作成できているか。また、発表の際に指摘された点を改善し、レポートに組み込んでいるか。

教科書:

特に指定するテキストはない。講義の中で適宜、映像・紙資料として提示する。

参考書:

講義のなかでテーマごとの文献リストを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

anishino@kyoto-seika.ac.jp

授業テーマ:

1910年代の文学

授業の概要:

明治から大正へという時代の大きな転換期とも重なり1910年代には多様な文学運動の中から多くの問題作が生まれた。本授業では時代や社会との関わりをふまえながら、1910年代を代表する作家や作品の特色についての考察を試みたい。あわせて、プレゼンテーションや討議の技術を習得し、運用できるようになることを目指すものである。

到達目標:

1.1910年代の文学の特色を理解し、説明することが出来る。
2.作品研究の方法を理解し、運用することが出来る。
3.プレゼンテーションおよび討議、レポート執筆の方法・技術を習得し、運用することが出来る。

授業方法:

演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 1910年代の文学概観	
2.	作品研究 1 菊池寛『藤十郎の恋』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
3.	作品研究 2 菊池寛『藤十郎の恋』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
4.	作品研究 3 芥川龍之介『枯野抄』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
5.	作品研究 4 芥川龍之介『枯野抄』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
6.	作品研究 5 室生犀星『性に眼覚める頃』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
7.	作品研究 6 室生犀星『性に眼覚める頃』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
8.	作品研究 7 夏目漱石『道草』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
9.	作品研究 8 夏目漱石『道草』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
10.	作品研究 9 中勘助『銀の匙』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
11.	作品研究 10 中勘助『銀の匙』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
12.	プレゼンテーション 1	発表される作品は事前に読み、問題点や意見を考えておくこと。
13.	プレゼンテーション 2	授業で指示した課題について取り組むこと。 発表される作品は事前に読み、問題点や意見を考えておくこと。
14.	プレゼンテーション 3	授業で指示した課題について取り組むこと。 発表される作品は事前に読み、問題点や意見を考えておくこと。
15.	プレゼンテーション 4	授業で指示した課題について取り組むこと。 発表される作品は事前に読み、問題点や意見を考えておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物については、授業中にまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50%	到達目標1〜3に関する知識や理解度とあわせて論理的に説明できるかの達成度を評価する。
	プレゼンテーション	20%	到達目標1〜3に関するプレゼンテーションの実施内容の達成度を評価する。
	授業への参加度	30%	到達目標1〜3に関して積極的に授業、討議に参加しているかの達成度を評価する。

教科書:

玉井敬之他、『1910年代の文学』、翰林書房

参考書:

授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール qqxr5sd9k@marble.ocn.ne.jp

授業テーマ：新聞連載小説を読む―スクラップブック作成とプレゼンテーション―

授業の概要： 今日、様々なメディア（教科書教材や文庫本、青空文庫などのインターネット上の電子テキスト）を介して文学作品を読む私たちは、その作品が発表された際のメディア環境を忘れているのではないだろうか。
例えば、谷崎潤一郎の代表作のひとつ「痴人の愛」は当初『大阪朝日新聞』に連載された（1924/3/20～6/14）。この作品に触れる際に当時の読者が眼にしたのは「活動女優のメリー・ピックフォードに似た」少女・ナオミとの出会い（連載第一回）にはじまる特異な恋愛体験を綴った小説の言葉だけでなく、ピックフォードの肖像を描いた挿絵（第五回）や女優としてのサクセス・ストーリーを伝える記事（「スクリーン ピックフォードの昔」）など、テキストに隣接する様々な情報であった。さらに、小説が描いて見せたモダン都市文化は、紙上に並置された新聞広告とともに読者の購買欲を刺激し、ヒロインの消費スタイルを模倣する一群の読者を産み出す「ナオミズム」と呼ばれる現象まで引き起こしたのである。
この授業では、挿絵や同時代言説といった文学作品を取り囲む様々な情報とともに文学作品を読み直すために、まず、新聞連載小説の紙面を収集してスクラップブックを作成する。その作業から文学作品を再検討することで、変化するメディア環境下の文学のあり方を考えたい。

到達目標： (1)新聞連載小説の初出紙や単行本所収時の差異といった媒体（メディア）の特性に注目することで、言語芸術（文学テキスト）と視覚イメージ（挿絵・装丁など）との対比、あるいは同時代言説（新聞記事や新聞広告など）との関係から文学作品を読み、情報化社会の中の文学について考察を深める。
(2)新聞記事データベースの使用とスクラップブックの作成、先行研究の調査を踏まえたプレゼンテーションとレポート作成など、これまで学んだアカデミックスキルを用いて、研究論文が執筆できるようになることを到達目標とする。

授業方法：演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（教員の自己紹介・授業の運営方法・評価基準などの説明）	シラバスの内容を熟読する。
2.	先行研究の調査方法など、関連データベースの解説	事前に指定されたデータベースにアクセスしておく。
3.	新聞記事データベースの操作と、発表の対象作品の選定	事前に新聞データベースにアクセスしておく。また、新聞紙上で発表された小説にどのような作品があるか調査しておく。
4.	新聞連載小説のスクラップブック作成	発表で取り上げる作品の掲載された新聞紙面を新聞データベースで収集しておく。
5.	教員による発表例：谷崎潤一郎「痴人の愛」を題材として	谷崎潤一郎の「痴人の愛」を通読しておく。また、今後発表で取り上げられる作品を入手し、順次読み進める。同時に発表準備に各自着手する。
6.	先行研究論文の読解①	指定された論文のコピーを図書館などで入手しておく。
7.	先行研究論文の読解②	指定された論文のコピーを図書館などで入手しておく。次回発表者は準備をしておく。
8.	学生による発表と討議①	発表で取り上げられる作品を通読しておく。次回発表者は準備をしておく。
9.	学生による発表と討議②	発表で取り上げられる作品を通読しておく。次回発表者は準備をしておく。
10.	学生による発表と討議③	発表で取り上げられる作品を通読しておく。次回発表者は準備をしておく。
11.	学生による発表と討議④	発表で取り上げられる作品を通読しておく。次回発表者は準備をしておく。
12.	学生による発表と討議⑤	発表で取り上げられる作品を通読しておく。次回発表者は準備をしておく。
13.	学生による発表と討議⑥	発表で取り上げられる作品を通読しておく。次回発表者は準備をしておく。
14.	学生による発表と討議⑦	発表で取り上げられる作品を通読しておく。
15.	授業全体の総括（現在のメディア環境と文学について考える）	これまでの授業の内容を発表資料などを参照して振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法： 毎回コメントペーパーを記入し、質問事項には次の回の冒頭でフィードバックする。また、学生の発表に対しては受講生全員が質問票を記入のうえ、それをもとに討論してもらう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	30	コメントペーパーの内容や授業内での発問を評価対象とする。
	プレゼンテーション	40	発表資料が適切な書式で作成できているか。
	レポート	30	発表資料作成のための調査をもとにレポートが作成できているか。また、発表の際に指摘された点を改善し、レポートに組み込んでいるか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法： anishino@kyoto-seika.ac.jp

授業テーマ:	自分の常識を疑い、日本の文化の多様性に気づき、自分自身の文化を内省する		
授業の概要:	民俗学というと、昔話やお祭を研究したり、過去を知る学問と考えている人が多いであろう。中にはエキゾチズムを「民俗学」に感じている人もいるのではないだろうか。それらはもちろん、第一歩としては問題がない。しかし、民俗学は過去を振り返るだけの学問ではない。この講義では、まず第一にそのことを理解していただきたい。その上で、民俗学が対象とするモノ・コト及び、方法論を考える。それに際しては、民俗学を体系立てた柳田国男の、初期の業績を振り返りながら、講じたい。最終的には、自分の身の回りのあたりまえのモノ・コトに目を向け、自分自身を内省し、足下を見直す視点を獲得することを達成目標とする。		
到達目標:	(1)自分があたりまえだと思っているモノ・コトが、地域あるいは世代が違えばまったくあたりまえではないということに気づくことによって、異文化は外国に行かなくても存在することに思い至ることができる。 (2)そのことから、自分の文化を見つめ直すことができ、自らの足下を見直す視点を獲得することができる。 (3)それができるようになれば、外国人に限らず、友人や親といった他人の文化を理解するという姿勢を獲得できる。		
授業方法:	1.講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス:授業の概要と進め方について説明する。		
	2. 現在学としての民俗学:民俗学は「あたりまえ」を疑い、「あたりまえ」に目を向ける学問であることを知る。	身の回りの当たり前の物や者や事にはどのようなことがあるか、周囲を観察して考えておく。	
	3. 民俗学前史1:民俗学の生まれた背景(民俗学前史)を知ることから、民俗学の方向性を考える。第1回目は、いにしえを見ようとする江戸期の思想、国学の視点について講ずる。	平田篤胤『仙境異聞』『勝五郎再生記聞』に目を通してみる。	
	4. 民俗学前史2:江戸時代の旅人の視点を知ることから、観察し、記録をすることについて考える。	菅江真澄『いなななかみち』などの著作に目を通してみる。また、『菅江真澄民俗図絵』に目を通し、「観察」と「記録」について考えてみる。	
	5. 民俗学前史3:ヨーロッパフォークロアの発生とその背景について講じ、伝承と歴史の関係も考える。	ハインリッヒ・ハイネ『精霊物語』『神々の流刑』に目を通してみる。	
	6. 民俗探訪から見いだせる庶民の歴史:愛知県『花祭り』のビデオから、祭に現れる歴史性を考える		
	7. 柳田国男の生い立ちと思想的背景1:彼自身が述べるように、彼の個人的経験が柳田民俗学の成立に影響を及ぼしているため、その点について紹介する。	柳田国男『故郷七十年』に目を通してみる。	
	8. 柳田国男の生い立ちと思想的背景2:文学者としての柳田の業績から、記録をする、記述をする、表現することと民俗学の間を考える。	柳田国男『遠野物語』に目を通して、彼の表現について考えてみる。	
	9. 柳田国男の生い立ちと思想的背景3:農政学者としての柳田の業績から、彼の考えた「経済」とは、「農業」とは何かを考え、彼の考えた「経世済民の学としての民俗学」について考える。	柳田国男『時代ト農政』に目を通してみる。	
	10. 柳田国男と南方熊楠:柳田と親交の厚かった南方熊楠を取り上げ、人間の暮らしと自然との関わりの重要性を考える。		
	11. 民俗学の方法1:ハレとケの概念、および、調査地で語られる言葉(民俗語彙)の重要性、言葉を大切にすることを意識する。	、『後狩詞記』に目を通してみる。	
	12. 民俗学の方法2(地域差と時代差1):各地のコトバから日本全体を見る視点を考える。		
	13. 民俗学の方法3(地域差と時代差2):方言圏論について考える	柳田国男『蝸牛考』に目を通してみる。	
	14. 民俗学の方法4(民俗調査を考える):全国を視野に入れる調査法だけでなく、一地域を対象とする地域調査から見えてくる方向性について、考える。	各自の地元の民俗誌に目を通してみる。	
	15. 総括:各自が自分の身の回りの民俗に対し、興味を持って注目できるようになったか、確認する。		
受講者へのメッセージやアドバイス:	普段から、自分の日常生活、すなわち、自分の部屋、毎日の通学路など身の回りの「あたりまえ」の世界に、新たな目を向けるよう心がけ、講義で指摘した視点をを用いて自らの普段の暮らしを観察し、次週の講義に臨むこと。		
フィードバックの方法:	毎回、講義終了時にコメントカードを書いて頂く。その内容のコメントや質問に対する答えを、翌週の講義にて口頭で伝える。 レポートについては返却は考えていないが、希望者にはコメントをつけて返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	70	各自に身近なテーマを設定し、各自の聞き取り調査に基づいて書いていただく。その作業を通じて、民俗学についての考え方を深めていただきたい。レポートの内容で、講義中に示した民俗学的見地が理解されているかどうか、判断する。
	出席およびコメントカード	30	コメントカードは出席を確認するだけでなく、その内容によって、講義に積極的に関わり、思考を深めているかどうかを判断する。なにも記述のないコメントカードは出席とは見なさない。また、欠席は5回まで認めるが、それ以上の欠席者はレポート提出の資格がないものとする。
教科書:			
参考書:	「忘れられた日本人」宮本常一(岩波文庫) 「現代民俗学入門」古家信平他編(吉川弘文)		

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室で対応する。必要な場合はEメールを利用。アドレスは第1回目の講義時に通知する。

授業テーマ:

「おとなになるって？」…社会の枠組み、規範、常識とはどういうことかを考える。

授業の概要:

民俗学Aで講じた民俗学の基礎的問題をふまえた上で、「人の一生」「人生儀礼」に関わる問題点を考える。人の一生に関わる儀礼や、「一人前」などについて取り上げるが、例えば「大人」とは何か「子ども」とは何かを、自分のこととして考えて頂く。それは社会によって、時代によって異なるものであることに気づいて頂きたい。
それらの話題の中で取り上げる女性の初潮、月経との関連で、ケガレ観についての問題も考えていく。
これらの話題は、民俗学Aと同様、過去の習俗を知ることには主眼があるのではなく、自らの問題として、自分に引きつけて内省し、足下をみつめ直す視点を養うことを目標とする。とくに、人間が生きていくために作り出している社会の枠組み、規範、常識というものについて考えて頂きたい。あまりにもあたりまえ、常識化しているが故に気がついていない枠組みに縛られている自分に目を向ける視点を獲得できることを達成目標とする。

到達目標:

(1)社会に存在する枠組み、規範は、極めて文化的なものであることに気がつくことができる。
(2)既存の枠組みに縛られている自分に目を向ける視点を獲得できる。
(3)自分の生きている社会を相対化することができるようになる。
(4)「大人」の仲間入りをしつつある諸君にとって身近な問題として考える機会となる。
(5)死後の世界と少しでも向き合うことで、現在に生きる知恵を働かせることができるようになることを期待する。

授業方法:

1:講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:講義概要の説明と講義の進め方について述べる。	
2.	民俗学の対象とは:民俗学の考え方の復習と、民俗学が対象とするものの多重性について考え、民俗調査項目の利点と欠点について確認する。	各自の地元の民俗誌、民俗調査報告書、地方自治体誌民俗編などの目次に目を通してみる。
3.	人生における儀礼について:「儀礼」というものが持つ意味を考え、人生儀礼だけでなく儀礼が持つ意味についても広げて講じる。	ヴァン・ジュネップ『通過儀礼』に目を通してみる。
4.	「一人前」とは(その1):何をもって、人は一人前と認められるのか。1回目は年齢について考える。現代の成人式についても触れる。	
5.	「一人前」とは(その2):何をもって、人は一人前と認められるのか。2回目は仕事量と一人前の関係を考える。	
6.	「一人前」とは(その3):何をもって、人は一人前と認められるのか。3回目は身体的成長について考える。とくに初潮祝いの儀礼をとりあげ、そこに現れる人々の期待を探る。	『女の眼でみる民俗学』1章(中村ひろ子)「女になる」に目を通してみる。
7.	「一人前」とは(その4):月経小屋、産小屋の存在からケガレとは何かという問題を取り上げる。さらに女性排除の論理についても言及する。	近藤直也『ケガレとしての花嫁』に目を通してみる。
8.	「一人前」とは(その5):結婚することと一人前と認められることの間接性について考える。また、女性(あるいは男性)の帰属の問題にも言及する。	『女の眼でみる民俗学』2章(夢沼康子)「様々な婚姻」に目を通してみる。
9.	一人前とは(その6):一人前を意識させる儀礼についての記録映像を見る。	
10.	「〇〇らしさ」を作る躰(教育)について:一人前の大人、女、男を作るための教育(躰)について考える。	『女の眼でみる民俗学』4章(倉石あつ子)「子育ての世界」に目を通してみる。
11.	衣服と社会的立場との関わりについて:衣服は成長段階あるいは社会的位置を表出する機能を持つ。具体例を提示しながら、過去だけではなく、現代でもその機能があることに気づいて頂きたい。	松崎憲三編『人生の装飾法』に目を通してみる。
12.	成長儀礼と葬送儀礼(その1):成長儀礼の具体事例を提示し、そこに現れる霊魂観について考える。	『女の眼でみる民俗学』7章(浅野久枝)「女の死」に目を通してみる。
13.	成長儀礼と葬送儀礼(その2):葬送儀礼の具体事例を提示し、成長儀礼との類似性をどのように考えるべきかを考える。	古家信平他編『現代民俗学入門』4章「生と死」に目を通してみる。
14.	死後の世界に投影される現世社会の期待:死後の世界を想定してきた文化では、その観念が現代を生きる人にどのように影響したのかを考える。二つの世界を媒介する霊能者の存在にも言及する。	
15.	総括:過去の事例を多く取り上げたが、現代を生きる上で、これらの考え方がどのように使えるかを確認する。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

民俗学Aと同様、身近な日常生活や身近な人々、あたりまえとされる事柄に、普段から新たな目を向けるよう、心がけていただきたい。とくに、毎回の講義で提起する問題は、諸君自身が生きていく上で対峙していくべき問題であるので、民俗事象に驚いたりするだけでなく、あるいはその時だけの聞き流しにせず、時間をかけてじっくり考え、次週の講義に臨むこと。

フィードバックの方法:

春学期の民俗学Aに積み重ねるものとして講義内容を組み立てているため、この講義の受講希望者は、民俗学Aを履修済みであることが望ましい。また、レポートにおいても民俗学Aよりも高度な調査が要求されることを留意されたい。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

毎回、講義終了時にコメントカードを書いて頂く。その内容のコメントや質問に対する答えを、翌週の講義にて口頭で伝える。
レポートについては返却は考えていないが、希望者にはコメントをつけて返却する。

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	70	レポートは、講義内容とからめて、自らの民俗調査によるものを提出していただき、講義時に示した民俗学的見地達成目標を、自分の問題としてとらえられているかどうかを評価する。
出席およびコメントカード	30	コメントカードの内容によって、講義に積極的に関わり、思考を深めているかどうかを判断する。出席はコメントカードによって確認するが、何も記載が無い、あるいは投げやりな内容のものは出席とは認めない。なお、欠席は、5回までは認めるが、それ以上の欠席はレポート提出の資格がないものとする。

教科書:	
参考書:	中村ひろ子他著『女の眼でみる民俗学』(高文研) 松崎憲三編『人生の装飾法』(筑摩新書) 古家信平他編『現代民俗学入門』(吉川弘文館)
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室で対応する。必要な場合にはEメールでも可。アドレスは第1回目の講義に伝える。

授業テーマ:

文学作品から見る文学史(上代～平安期)

授業の概要:

代表的な文学作品を鑑賞しながら、それらの作品が生まれるに至った地理的・文化的な背景についての知識や理解を深める。

到達目標:

上代～平安期の古典文学の基礎的事項や歴史の変遷を理解する。
文学史の表面的な理解にとどまらず、時代背景や人物関係にも目を配れるようになる。

授業方法:

講義形式。
作品を取り巻く背景や人物構図を解説してから作品鑑賞にうつる。
ときとして履修者にも講読や考察を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 文学史の基礎知識(文学史の時代区分他)	文学史年表に目を通しておくこと
	2. 古事記・日本書紀・風土記他	
	3. 万葉集他	
	4. 古今集の時代	勅撰和歌集について把握しておくこと
	5. 醍醐天皇と文学作品	
	6. 後撰集の時代	
	7. 村上天皇と文学作品	
	8. 拾遺集の時代	
	9. 花山天皇と文学作品	
	10. 『蜻蛉日記』とその周辺	作品概要を把握しておくこと
	11. 『枕草子』とその周辺	作品概要を把握しておくこと
	12. 『和泉式部日記』とその周辺	作品概要を把握しておくこと
	13. 『紫式部日記』とその周辺	作品概要を把握しておくこと
	14. 『源氏物語』とその周辺	作品概要を把握しておくこと
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

作品の舞台となる場所には積極的に足を運んでください。
博物館の見学等も常に心がけてください。

フィードバックの方法:

コメントペーパーの内容について、必要に応じて教室内で回答します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	85%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
	授業への参加態度	15%	到達目標に近づこうとしているかをコメントペーパーで評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

日本古典文学史

授業の概要:

日本古典文学の基礎的事項や歴史の変遷について学ぶ。
文学行為の背景にある日本文化史について理解を深める。古典文学のテキストとそれを生み出すに至った時代について、総合的に考えてゆく。

到達目標:

知識を暗記することではなく、文学史の流れと歴史の変遷を連動させて理解する事を求めます。
毎回の授業の主旨を歴史の流れとともに理解してください。

授業方法:

随時プリントを配布しながら、文学史の流れについて講義していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 時代区分概観文学以前(文字の受容と使用)	これまでの文学史知識を復習しておく。
2.	律令国家の形成と『古事記』『日本書紀』(その1)(『古事記』と『日本書紀』それぞれの成立事情)	前回の授業内容を確認しておく。
3.	律令国家の形成と『古事記』『日本書紀』(その2)(『古事記』と『日本書紀』それぞれの特徴)	前回の授業内容を確認しておく。
4.	中古文学概観	第1回から第3回までの授業の流れをまとめておく。
5.	国風文化の開花と日記文学の隆盛(その1)(漢文日記から仮名日記へ『土佐日記』、『古今和歌集』仮名序)	前回の授業内容を確認しておく。
6.	国風文化の開花と日記文学の隆盛(その2)(女流日記の隆盛『蜻蛉日記』)	前回の授業内容を確認しておく。
7.	国風文化の開花と日記文学の隆盛(その3)(女流日記の隆盛『紫式部日記』『和泉式部日記』)	前回の授業内容を確認しておく。
8.	物語文学の隆盛と摂関政治(その1)(伝奇物語と歌物語それぞれの特徴『竹取物語』)	第4回から第7回までの授業の流れをまとめておく。
9.	物語文学の隆盛と摂関政治(その2)(伝奇物語と歌物語それぞれの特徴『伊勢物語』)	前回の授業内容を確認しておく。
10.	物語文学の隆盛と摂関政治(その3)(一条朝と女房の文学『源氏物語』)	前回の授業内容を確認しておく。
11.	『源氏物語』以降の物語(院政期の社会変化と文学『とりかへばや物語』『浜松中納言物語』)	前回の授業内容を確認しておく。
12.	中世文学概観	第8回から第11回までの授業の流れをまとめておく。
13.	説話集の時代(その1)(院政期の社会変化と価値観の変動『今昔物語集』)	前回の授業内容を確認しておく。
14.	説話集の時代(その2)(混乱の時代の試み『十訓抄』『古今著聞集』『沙石集』)	第12回から第14回までの授業の流れをまとめておく。
15.	まとめ	これまでの授業内容をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末のテスト	85	到達目標「文学史の流れと歴史の変遷を連動させて理解する事」に関する理解度により評価する。
	平常点	15	毎回の出席、授業中の発言などを総合的に評価する。なお全授業の3分の1を欠席した場合、期末テストの受験資格を認めない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

六朝志怪小説を読む―方術と異聞―

授業の概要:

中国の六朝時代には多くの短篇小説集が編纂されているが、その中から、方術(マジック)と異聞(世にも不思議な話)に関わる逸話(短篇小説)を中心に取り上げ作品の世界を楽しむ。その逸話の背後にひそむ人々の思惟、日本との文化的な相違や関連性も意識しつつ、各々の考え方を広げていく内容となるようつとめる。

到達目標:

漢文を読み楽しむ為の漢字の知識、訓読や読解力を涵養することをめざす。
・漢字に対する基本的な知識が身についている。
・基本的な漢文の句法について理解している。
・漢文で書かれた内容を、日本語で適切に表現できる。
・日中文化の異同とその背景について関心と理解をもつことができる。
以上のことなどをめざす。

授業方法:

講義。適宜受講者に発問し、また質疑にも応ずる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 六朝志怪小説の世界(導入)	教科書巻末の解説を読む
	2. 美女の条件とは(麗嬋)	訓読文・通釈の作成
	3. 巨大な猿の秘密(猴獍)	訓読文・通釈の作成
	4. 術師の能力①(徐光・樊英)	訓読文・通釈の作成
	5. 術師の能力②(左慈)	訓読文・通釈の作成
	6. 仙人に気に入られた男1 (壺公)	訓読文・通釈の作成
	7. 仙人に気に入られた男2 (壺公)	訓読文・通釈の作成
	8. 仙人に気に入られた男3 (壺公)	訓読文・通釈の作成
	9. 仙人に気に入られた男4 (壺公)	訓読文・通釈の作成
	10. 予言のふしぎ(韓友・由拳嫗)	訓読文・通釈の作成
	11. 首が飛ぶ! (落頭民)	訓読文・通釈の作成
	12. 異星人訪問! (熒惑星)	訓読文・通釈の作成
	13. 愛の執着1 (李夫人)	訓読文・通釈の作成
	14. 愛の執着2 (李夫人)	訓読文・通釈の作成
	15. まとめ	これまでの学習を復讐する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

質問(用紙)内容については直近の授業で応え、試験については希望者に研究室で返却。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	85%	到達目標の知識や理解度により評価
	授業への積極的参加度	15%	質疑応答に積極的であること

教科書:

本間洋一編『中国古小説選』(和泉書院)

参考書:

授業時に随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業時前後、オフィスアワー・出講日の研究室在室時

授業テーマ:	知られざる日本漢詩の世界		
授業の概要:	従来の日本文学史の中では殆ど触れられることのなかった日本漢詩の世界を、上代から近世へと文学史的にたどり、その表現や生き方などを学ぶ。中国古典の享受は勿論のことだが、日本の仮名文学(和歌・物語など)にも多大な影響を与えてきたことも知ってもらおうと共に、知られざる多くの漢詩人が様々な表現を凝らし、その思惟を発信し続けていることに注目してもらいたい。		
到達目標:	漢詩を読む為の語彙や漢字の知識、訓読や読解力を高めることをめざす。 ・漢字の基礎知識が身についている。 ・漢詩の形式・詩語について理解力を持つ。 ・漢詩に表現される内容を現代語で適切に表現できる。 ・古典の時代背景(歴史・思想等)を広角的に考えられる。 以上のことなどをめざす。		
授業方法:	講義。適宜受講者に発問し、また質疑にも応ずる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 漢字の伝来と漢詩(導入)	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	2. 阿倍仲麻呂と唐代詩人	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	3. 勅撰漢詩集の世界	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	4. 白氏文集の伝来と影響	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	5. 詩人の姿勢と表現(忠臣と道真)	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	6. 子を憶う親心(道真詩)	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	7. 貧しい女のうた(紀長谷雄)	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	8. 遊女といちご(素材の面白さ)	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	9. 苦悩する詩僧(禅林世界)	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	10. エロティシズムの一休詩	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	11. 詩人たちの時代(江戸漢詩人の世界)	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	12. 不世出の詩人(頼山陽)	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	13. 女流詩人の活躍	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	14. 孤高と献身(細香と紅蘭)	配布プリントに目を通し、詩の意味を考える	
	15. まとめ	これまでの学習を復習する	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	質問(用紙)内容については直近の授業で応え、試験については希望者に研究室にて返却。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	85%	到達目標の知識や理解度により評価
	授業への積極的参加度	15%	質疑応答等に積極的であること
教科書:	最初の授業時に、担当教員の作成したプリント配布(無料)		
参考書:	授業時に随時指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	授業時前後・オフィスアワー・出講日の研究室在室時		

授業テーマ:	能の表現		
授業の概要:	日本の伝統芸能のひとつである「能」を取り扱う。 無駄なものを徹底的に削ぎ落とした劉いシンプルな能の表現は、かえって観客の想像を豊かにさせ、真実の表現を達成する。 講義では、さまざまな演目を題材に、能の言葉・所作・音楽などを具体的にひとつずつ分析する。能が描き出そうとするのは、人間の心であり、これは時代を経ても変わらない。現代の私たちの人生経験と積極的に照らし合わせながら、「能は古臭くて縁遠いもの」という先入観を融解させていく。 舞台の現場に立つ能楽師の言葉に耳を傾けて、能の面白さを是非味わってほしい。		
到達目標:	・能の表現と形式を学び、能の言葉・所作・音楽などを具体的に理解する。 ・能が描き出す人間の心を、自分の人生経験と積極的に照らし合わせて鑑賞する。 ・能が現代に生きる芸能・舞台芸術であることを理解する。		
授業方法:	講義形式。各授業の最後にミニカード(感想など)の記入を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 能とはどのような芸能か		
	2. 能の構成		
	3. 能の美しさ	能《羽衣》の詞章を通読しておくといよい。	
	4. 愛と忠義	能《巴》の詞章を通読しておくといよい。	
	5. 「人待つ女」	能《井筒》の詞章を通読しておくといよい。	
	6. 人間の執心	能《葵上》の詞章を通読しておくといよい。	
	7. 昔を思う	能《融》の詞章を通読しておくといよい。	
	8. 神の降臨	能《龍田》の詞章を通読しておくといよい。	
	9. 愛と孤独	能《楊貴妃》の詞章を通読しておくといよい。	
	10. 祝言ということ	能《高砂》の詞章を通読しておくといよい。	
	11. 信光の工夫	能《紅葉狩》の詞章を通読しておくといよい。	
	12. 力	能《安宅》の詞章を通読しておくといよい。	
	13. 子を思う心	能《隅田川》の詞章を通読しておくといよい。	
	14. 能とは何か	能《道成寺》の詞章を通読しておくといよい。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義では主題の一曲すべての詞章を扱い得ないので、詞章や本説に関する自主的な学習を期待する。		
フィードバックの方法:	授業末のミニカードに関して、次回の講義でまとめて解説する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点(出席やミニカード)	40	授業に積極的に参加しているかを評価する。
	定期試験	60	講義内容の理解度により評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。		

230860

古典芸能B

倉橋 正恵

授業テーマ:

芸能文化の広がり

授業の概要:

江戸時代における歌舞伎興行の行われ方と、歌舞伎から派生した芸能文化の広がりについて理解を深める。具体的には、江戸時代の歌舞伎がどのようなもので、いかに興行されていたのかを理解した上で、「歌舞伎と浮世絵」、「歌舞伎と文芸」、「歌舞伎と他芸能との交流」といったテーマをもとに授業を進める。

到達目標:

・歌舞伎の基礎と歴史を理解する。

・歌舞伎と他の芸能、歌舞伎と他の芸術との交流や影響関係を理解する。

授業方法:

歌舞伎の基本的な約束事や用語を具体的に説明しながら、さまざまな分野の文献史料の訳読を行い、歌舞伎の表現方法の確認する。また、絵画・浮世絵・写真・ビデオ・DVDなどのヴィジュアルな教材を適宜使用して授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 歌舞伎の歴史1	歌舞伎についての事前学習
2. 歌舞伎の歴史2	
3. 歌舞伎の歴史3	
4. 女形の芸と所作事	女形、歌舞伎舞踊についての事前学習
5. 歌舞伎の興行	芝居小屋についての事前学習
6. 歌舞伎と浮世絵	浮世絵についての事前学習
7. 歌舞伎鑑賞1	鑑賞する演目についての事前学習
8. 歌舞伎と他の芸能	文楽についての事前学習
9. 歌舞伎鑑賞2	鑑賞する演目についての事前学習
10. 歌舞伎と文芸1	劇書についての事前学習
11. 歌舞伎鑑賞3	鑑賞する演目についての事前学習
12. 歌舞伎と文芸2	近世文学史についての事前学習
13. 歌舞伎と芸能情報	読売、かわら版、見立番付、風刺画についての事前学習
14. 歌舞伎鑑賞4	鑑賞する演目についての事前学習
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

観劇レポートを課するため、授業で学ぶ古典芸能に対する基礎知識に加えて、受講生自身が観劇した芸能に対する個人学習が必要となる。また、講義中に画像や映像を伴って解説するため、定期試験もその点を重視した出題となる事を考慮して受講すること。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	歌舞伎に対する基礎知識や、歴史、他の芸能や芸術との影響関係に関する理解度により評価する。
観劇レポート	20	実際に観劇した古典芸能への理解度と、その芸能に対しての考察が論理的に説明できているかによって評価する。

教科書:

参考書:

服部幸雄『絵で読む歌舞伎の歴史』(平凡社、2008年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

『萬葉集』の全体像をつかむ

授業の概要:

『萬葉集』を巻1から巻10まで読み進める。

到達目標:

特定の巻、特定の歌人、特定の作品について研究するのではなく、『萬葉集』のそれぞれの巻にどのような特徴があり、どのような歌が収録されているのかを確認しつつ、各自の『萬葉集』観を確立すること。

授業方法:	講読	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業の進め方の説明。 『萬葉集』概説	文学史の中での『萬葉集』の位置を確認しておくこと。
	2. 巻1の講読	
	3. 巻1の講読つづき	前回の授業の中で持った疑問を整理しておくこと。また、次回部分を通読しておくこと。
	4. 巻2の講読	同上
	5. 巻2の講読つづき	同上
	6. 巻3の講読	同上
	7. 巻4の講読	同上
	8. 巻5の講読	同上
	9. 巻5の講読つづき	同上
	10. 巻6の講読	同上
	11. 巻7の講読	同上
	12. 巻8の講読	同上
	13. 巻9の講読	同上
	14. 巻10の講読	同上
	15. 春学期のまとめと補足	

受講者へのメッセージやアドバイス:

上代文献講読Bをあわせて受講することがのぞましい。
授業中に疑問を持った歌があったら、本学の図書館にも『萬葉集』関係の図書は豊富にそろっているので、利用すること。

フィードバックの方法:

授業時に回答する。配布する用紙に質問などを書くこと。翌週に回答。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況	20	授業への積極的参加度
	レポート	80	先行研究を調査したうえで、自分の考えを展開しているかを重視する。

教科書:

『萬葉集』和泉書院

参考書:

授業時に配布するレジュメによって、その都度、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

OAの時間を利用してください。

授業テーマ:

『萬葉集』の全体像をつかむ

授業の概要:

『萬葉集』の巻11から巻20までを読み進める。

到達目標:

特定の巻あるいは歌人あるいは作品について詳細に研究するのではなく、『萬葉集』のそれぞれの巻にどのような特徴があり、どのような歌が収録されているのかを確認しつつ、各自の『萬葉集』観を確立する。

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業の進め方の説明 巻1から巻10までの概説	『萬葉集』の巻1から巻10までを通読しておくこと。
	2. 巻11の講読	前回の授業で生じた疑問を整理しておくこと。また、次回部分を通読しておくこと
	3. 巻12の講読	同上
	4. 巻13の講読	同上
	5. 巻14の講読	同上
	6. 巻15の講読	同上
	7. 巻16(由縁ある歌)の講読	同上
	8. 巻16の講読つづき	同上
	9. 巻17の講読	同上
	10. 巻18の講読	同上
	11. 巻19の講読	同上
	12. 巻19の講読つづき	同上
	13. 巻20の講読	同上
	14. 防人の歌	前回の授業で生じた疑問を整理しておくこと。
	15. 秋学期のまとめと補足	

受講者へのメッセージやアドバイス:

「上代文学講読A」をあわせて受講することがのぞましい。
本学図書館は萬葉集関係の書物は豊富なので、授業中に気になった歌があったら、利用して調査すること。

フィードバックの方法:

授業時に回答する。授業時に配布する用紙によっても質問可、翌週に回答。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	20	授業への積極的参加度
	レポート	80	先行研究を調査したうえで、自分の考えを展開しているか。独自性があるかを重視する。

教科書:

『萬葉集』和泉書院

参考書:

授業時に配布するレジュメによって、その都度、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

OA時間の利用してください。

授業テーマ:	百人一首の和歌的研究をめざして		
授業の概要:	勅撰集の入門書としての性格を有する百人一首をテキストにして、平安時代の和歌の特徴を探っていく。あわせて百人一首という作品の特殊性をも考えてみる。		
到達目標:	百人一首の学習を通して、平安時代の和歌の特徴や和歌の技法に触れる。あわせて歌語の時代的変遷を探り、百人一首がどのような和歌を撰入させているかを考えてみる。		
授業方法:	講義形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. ガイダンス 百人一首について		百人一首に一通り目を通してほしい。
	2. 万葉時代の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の万葉歌に目を通しておく。
	3. 古今集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の古今集歌に目を通しておく。
	4. 引き続き古今集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の古今集歌に目を通しておく。
	5. 後撰集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の後撰集歌に目を通しておく。
	6. 拾遺集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の拾遺集歌に目を通しておく。
	7. 後拾遺集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の後拾遺集歌に目を通しておく。
	8. 金葉集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首金葉集歌に目を通しておく。
	9. 詞花集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の詞花集歌に目を通しておく。
	10. 千載集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の千載集歌に目を通しておく。
	11. 新古今集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の新古今集歌に目を通しておく。
	12. 新古今集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の新古今集歌に目を通しておく。
	13. 新勅撰集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の新勅撰集歌に目を通しておく。
	14. 新勅撰集の和歌を取り上げて講義する。		百人一首の新勅撰集歌に目を通しておく。
	15. 続後撰集の和歌を取り上げて講義する。 総括		百人一首の続後撰集歌に目を通しておく。
受講者へのメッセージやアドバイス:	積極的な授業への参加を望む。		
フィードバックの方法:	質問や相談はいつでも教室や研究室で受け付ける。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	100	学期末のレポートによって評価する。授業への積極的な参加も加味する。
教科書:	吉海直人著『百人一首で読み解く平安時代』角川選書 定価1890円		
参考書:	吉海直人著『百人一首の正体』角川ソフィア文庫 定価782円		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	教室及び研究室でいつでも対応します		

授業テーマ:	百人一首の文化的研究をめざして		
授業の概要:	百人一首の享受史をたどる。特にかるたと融合した後の享受史を追ってみたい。あわせて浮世絵や川柳などとの融合にも触れる。百人一首の文化的な魅力を発掘してみよう。		
到達目標:	百人一首の文化的価値の高さを認識する。百人一首の享受史を通して、百人一首がいかに一般大衆化していったかを知ってほしい。近世以降、かるたと融合することが百人一首にとってどのような効果があったのか、を考えてほしい。さらに百人一首の国際化についても考えてみたい。		
授業方法:	講義形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス 百人一首の成立について	百人一首の成立について考えてきてほしい。	
	2. 百人秀歌と小倉色紙について	百人秀歌について調べてきてほしい。	
	3. 小倉百人一首という書名について	「小倉」の意味を考えてきてほしい。	
	4. 撰ばれた歌人、撰ばれた歌について	撰ばれた歌人の妥当性、撰ばれた歌の妥当性を考えてきてほしい。	
	5. 連歌師宗祇について	宗祇の文学史的位置づけを調べておいてほしい。	
	6. 歌かるたの誕生	カルタの伝来毛色を調べておいてほしい。	
	7. 歌仙絵に注目	百人一首の歌仙絵を見ておいてほしい。	
	8. 百人一首かるたの大衆化	肉筆と木版の違いを調べておいてほしい。	
	9. 浮世絵になった百人一首	浮世絵について調べておいてほしい。	
	10. 川柳に読まれた百人一首	川柳・狂歌について調べておいてほしい。	
	11. 明治の百人一首かるた	尾崎紅葉『金色夜叉』に目を通しておいてほしい。	
	12. 競技かるたの誕生	競技かるたの歴史について調べておいてほしい。	
	13. 近代文学の中の百人一首	近代文学の中に登場している百人一首（歌・歌人・かるた）について調べておいてほしい。	
	14. 小倉山荘の謎	藤原定家の小倉山荘について調べておいてほしい。	
	15. 競技かるたの国際化 (ちはやふる)	マンガ「ちはやふる」についての感想をまとめておいてほしい。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	積極的な授業への参加を望む。		
フィードバックの方法:	質問や相談はいつでも教室や研究室で受け付ける。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 レポート	割合 100	評価基準 学期末のレポートによって評価する。授業への積極的な参加も加味する。
教科書:	吉海直人著『百人一首の正体』角川ソフィア文庫 定価782円		
参考書:	吉海直人著『百人一首で読み解く平安時代』角川選書 定価1890円		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	教室及び研究室でいつでも対応します		

授業テーマ：中世日記を読む。

授業の概要：各回、講義。

到達目標：自力で中世仮名日記の読解が可能になるように。

授業方法：講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 概説	教科書概説を読んでくる。
	2. 1ページ講読	当該ページを読んでくる。
	3. 2ページ講読	当該ページを読んでくる。
	4. 3ページ講読	当該ページを読んでくる。
	5. 4ページ講読	当該ページを読んでくる。
	6. 5ページ講読	当該ページを読んでくる。
	7. 6ページ講読	当該ページを読んでくる。
	8. 7ページ講読	当該ページを読んでくる。
	9. 8ページ講読	当該ページを読んでくる。
	10. 9ページ講読	当該ページを読んでくる。
	11. 10ページ講読	当該ページを読んでくる。
	12. 11ページ講読	当該ページを読んでくる。
	13. 12ページ講読	当該ページを読んでくる。
	14. 13ページ講読	当該ページを読んでくる。
	15. 定期試験	指定ページを学習してくる。

受講者へのメッセージやアドバイス：初見の文献と思われるが、読解に挑戦してみよう。

フィードバックの方法：小テストを適宜行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	60	全出席を60%とする。
	テスト	40	満点を40点換算。

教科書：今関敏子著『校注弁内侍日記』和泉書院

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法：eメール

授業テーマ:

中世日記を読む。

授業の概要:

各回、講義。

到達目標:

自力で中世仮名日記の読解が可能になるように。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 14ページ講読	当該ページを読んでくる。
	2. 15ページ講読	当該ページを読んでくる。
	3. 16ページ講読	当該ページを読んでくる。
	4. 17ページ講読	当該ページを読んでくる。
	5. 18ページ講読	当該ページを読んでくる。
	6. 19ページ講読	当該ページを読んでくる。
	7. 20ページ講読	当該ページを読んでくる。
	8. 21ページ講読	当該ページを読んでくる。
	9. 22ページ講読	当該ページを読んでくる。
	10. 23ページ講読	当該ページを読んでくる。
	11. 24ページ講読	当該ページを読んでくる。
	12. 25ページ講読	当該ページを読んでくる。
	13. 26ページ講読	当該ページを読んでくる。
	14. 27ページ講読	当該ページを読んでくる。
	15. 定期試験	指定ページを学習してくる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

初見の文献と思われるが、読解に挑戦してみよう。

フィードバックの方法:

小テストを適宜行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	60	全出席を60%とする。
	テスト	40	満点を40点換算。

教科書:

今関敏子著『校注弁内侍日記』 和泉書院

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

eメール

授業テーマ:

近世版本(草双紙)を読む

授業の概要:

江戸時代出版された『化物の姫入(ばけもののよめいり)』を読みながら、言葉・構想・主題・絵画表現を解説すると共に、近世期の言語感覚と江戸文化事象との関わり方を理解する。

到達目標:

・近世文学史の基礎を理解する。
・近世期の言語・絵画・文化・風俗を理解する。

授業方法:

本文テキストと注釈による受講生による発表を主とした講読形式とする。発表担当以外の受講生も本文の音読を求め、適宜、内容に関する質疑応答によって理解を深める。注釈には、テキスト以外の絵図や写真などの画像資料を広範囲に活用する。受講者数によっては、グループ発表にするなど授業の進行を変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 近世文学史・書誌学の基礎知識1	近世文学史、書誌学についての事前学習
	2. 近世文学史・書誌学の基礎知識2	近世文学史、書誌学についての事前学習
	3. 合巻『化物の姫入』とは	十返舎一九についての事前学習
	4. 『化物の姫入』の講読1	発表箇所についての事前学習
	5. 『化物の姫入』の講読2	発表箇所についての事前学習
	6. 『化物の姫入』の講読3	発表箇所についての事前学習
	7. 『化物の姫入』の講読4	発表箇所についての事前学習
	8. 『化物の姫入』の講読5	発表箇所についての事前学習
	9. 『化物の姫入』の講読6	発表箇所についての事前学習
	10. 『化物の姫入』の講読7	発表箇所についての事前学習
	11. 『化物の姫入』の講読8	発表箇所についての事前学習
	12. 『化物の姫入』の講読9	発表箇所についての事前学習
	13. 『化物の姫入』の講読10	発表箇所についての事前学習
	14. 『化物の姫入』の講読11	発表箇所についての事前学習
	15. 『化物の姫入』の講読12	発表箇所についての事前学習

受講者へのメッセージやアドバイス:

テキストに掲げた注釈書の本文テキストだけでなく、他の収録作品も通読し、毎回の質疑応答にそなえること。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのか、または独自の視点を明確にし、その理由を論理的に説明できるかを基準とする。
	発表、討論	30	発表資料の完成度、討論では到達目標をふまえた上で発言しているかを評価する。
	授業への積極的参加度	20	積極的に授業へ参加し、講読作品を解釈・鑑賞できるようになったかを評価する。

教科書:

参考書:

アダム・カパット、『江戸化物草紙』、KADOKAWA(角川ソフィア文庫)、2015

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

近世版本(草双紙)を読む

授業の概要:

江戸時代に出版された黄表紙『御存商売物(ごぞんじのしょうばいもの)』を読みながら、言葉・構想・主題・絵画表現を解説すると共に、近世期の言語感覚と江戸文化事象、出版文化との関わり方を理解する。

到達目標:

・近世文学史の基礎を理解する。
・近世期の言語・絵画・文化・風俗・出版を理解する。

授業方法:

本文テキストと注釈による受講生による発表を主とした講読形式とする。発表担当以外の受講生も本文の音読を求め、適宜、内容に関する質疑応答によって理解を深める。注釈には、テキスト以外の絵図や写真などの画像資料を広範囲に活用する。受講者数によっては、グループ発表にするなど授業の進行を変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 近世文学史・書誌学の基礎知識1	近世文学史、書誌学についての事前学習
	2. 近世文学史・書誌学の基礎知識2	近世文学史、書誌学についての事前学習
	3. 『御存商売物』とは	山東京伝についての事前学習
	4. 『御存商売物』の講読1	発表箇所についての事前学習
	5. 『御存商売物』の講読2	発表箇所についての事前学習
	6. 『御存商売物』の講読3	発表箇所についての事前学習
	7. 『御存商売物』の講読4	発表箇所についての事前学習
	8. 『御存商売物』の講読5	発表箇所についての事前学習
	9. 『御存商売物』の講読6	発表箇所についての事前学習
	10. 『御存商売物』の講読7	発表箇所についての事前学習
	11. 『御存商売物』の講読8	発表箇所についての事前学習
	12. 『御存商売物』の講読9	発表箇所についての事前学習
	13. 『御存商売物』の講読10	発表箇所についての事前学習
	14. 『御存商売物』の講読11	発表箇所についての事前学習
	15. 『御存商売物』の講読12	発表箇所についての事前学習

受講者へのメッセージやアドバイス:

テキストに掲げた注釈書の本文テキストだけでなく、他の収録作品も通読し、毎回の質疑応答にそなえること。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのか、または独自の視点を明確にし、その理由を論理的に説明できるかを基準とする。
	発表、討論	30	発表資料の完成度、討論では到達目標をふまえた上で発言しているかを評価する。
	授業への積極的参加度	20	積極的に授業へ参加し、講読作品を解釈・鑑賞できるようになったかを評価する。

教科書:

参考書:

鈴木俊幸、『江戸の本づくし』(平凡社(平凡社新書)、2011)

小池正胤他、『江戸の戯作絵本(一) 初期黄表紙集』(社会思想社(教養文庫)、1980)

長友千代治、『江戸時代の図書流通』(思文閣出版、2002)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	白楽天の文学と人生		
授業の概要:	白楽天の前半の人生とその作品を講読し、白楽天の文学を理解する。次に、日本文学に受容された作品を紹介する。彼の処女作とされる作品と日本文学との関係を講義し、五言律詩など漢詩の形式について概説する。そのあと、「王昭君」「長恨歌」「琵琶行」などの彼の代表作品を講読し、日本文学との関係についても言及する。次に、七夕伝説の日中韓国の比較、七夕伝説のルーツなども解説する。最後に「蛍の光」の背景を紹介する。		
到達目標:	中国文学・漢詩の理解 漢文訓読法の総復習と習熟 白楽天の人生と文学の理解 白楽天の文学と日本文学の関係の理解 中国文学と日本文学の関係の理解		
授業方法:	教科書を中心に、授業を進める。随時プリント配布。作品は学生が朗読。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 白楽天の人生と文学の説明。	教科書の白楽天の解説を読んでくること。	
	2. 白楽天の16歳の処女作の講読と日本文学への影響。	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。	
	3. 白楽天の「王昭君」詩の講読。	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。	
	4. 白楽天の「新楽府」の「賣炭翁」詩の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。	
	5. 「長恨歌」前半の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。	
	6. 「長恨歌」後半の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。	
	7. 「琵琶行」前半の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。	
	8. 「琵琶行」後半の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。	
	9. 「香炉峰の雪」詩の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。	
	10. 白楽天の「燕」詩の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。	
	11. 白楽天の「燕」詩と日本文学	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。	
	12. 七夕伝説	事前配布のプリントの漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。	
	13. 滝廉太郎「花」と古典：明治時代に発表され、今なお人気の高い「花」「箱根八里」の歌詞と古典文学の関係を解説。	事前配布のプリントの漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。	
	14. 蛍の光：スコットランド民謡が明治時代に日本に伝わり、中国の故事「螢雪之功」を利用して歌われたことを紹介。	事前に配布した螢雪の故事をノートに写し、意味を調べてくること。	
	15. まとめ	14回分の総復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	漢和辞典をしっかりと引いてください。熱心な受講を望みます。		
フィードバックの方法:	・教室でまとめて解説する。 ・教室で返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60	到達目標：漢詩と白楽天に関する知識や理解度により評価する。
	レポート	40	課題図書2点の感想、レポート提出。
教科書:	川合康三「白楽天詩選(上)」岩波文庫		
参考書:	一海知義「漢詩入門」岩波書店 石川忠久「漢詩鑑賞事典」講談社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、		
教員との連絡方法:	h-niwa@otemae.ac.jp		

授業テーマ:	白楽天の文学と人生		
授業の概要:	白楽天の後半の人生とその作品を講読し、白楽天の文学を理解する。次に、日本文学に受容された作品を紹介する。10回目以降は白楽天が一番力を注いだ「新楽府」を中心に講読し、彼の社会批判詩が現代の日本社会にも当てはまる部分があることを紹介。最後は、貧困にあえぐ孤児を詠んだ詩を紹介し、それがアンデルセンの「マッチ売りの少女」と酷似することを解説する。		
到達目標:	中国文学・漢詩の理解 漢文訓読法の総復習と習熟 白楽天の人生と文学の理解 白楽天の文学と日本文学の関係の理解 中国文学と日本文学の関係の理解		
授業方法:	教科書を中心に、授業を進める。随時プリント配布。作品は学生が朗読。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 白楽天の人生と文学の説明。 2. 薪を売る女性の漢詩 3. 白楽天の忠州時代の詩の講読。 4. 白楽天の杭州時代の詩と松尾芭蕉 5. 白楽天の蘇州時代の漢詩の講読 6. 白楽天と平家物語 7. 白楽天の友情 8. 白楽天の晩年の嘆きと源氏物語 9. 白楽天の晩年洛陽での詩の講読 10. 新楽府「新豊折臂翁」詩の講読 11. 月と望郷の詩：白楽天の友情と源氏物語 12. 新楽府「紅線毯」詩の講読 13. 乃木希典「金州城下作」詩の講読 14. 「孤児行」の講読 15. まとめ	準備学習等の内容 教科書の白楽天の解説を読んでくること。 事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。 事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。 事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。 事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。 事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。 事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。 事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。 事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。 事前に配布された詩をノートに写し解説を読んでくること。 事前配布のプリントの漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。 事前に配布した蜚雪の故事をノートに写し、意味を調べてくること。 14回分の総復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	漢和辞典をしっかりと引いてください。熱心な受講を望みます。		
フィードバックの方法:	・教室でまとめて解説する。 ・教室で返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 定期試験 レポート	割合 60 40	評価基準 到達目標：漢詩と白楽天に関する知識や理解度により評価する。 課題図書2点の感想、レポート提出。
教科書:	川合康三「白楽天詩選(下)」岩波文庫		
参考書:	一海知義「漢語の知識門」岩波書店 石川忠久「漢詩鑑賞事典」講談社学術文庫 村上哲見「漢詩の名句・名吟」もしくは「中国の名句名言」講談社学術新書 下定雅弘「白楽天」角川文庫		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、		
教員との連絡方法:	h-niwa@otemae.ac.jp		

授業テーマ:

日本語の歴史的変化を知る

授業の概要:

上代から近世までの、各時代の言語資料を紹介し、それぞれの時代の音韻、文字、語、文法について見ていく。

到達目標:

①各時代の日本語のかたちを時代の担い手との関連で理解できるようになること。
②変化の方向性をつかみ、日本語の特性を考えられるようになること。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 講義計画の説明	
	2. 西洋言語学の歴史と江戸時代までの国語研究	前回の復習をしておくこと。
	3. 日本語系統論	同上
	4. 奈良時代以前の日本語	同上
	5. 奈良時代の日本語①	同上
	6. 奈良時代の日本語②	同上
	7. 奈良時代の日本語③	同上
	8. 平安時代の日本語①	同上
	9. 平安時代の日本語②	同上
	10. 鎌倉室町時代の日本語①	同上
	11. 鎌倉室町時代の日本語②	同上
	12. 江戸時代の日本語①	同上
	13. 江戸時代の日本語②	同上
	14. 明治以降の日本語	同上
	15. まとめ	毎回配布されたレジュメを整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前に「日本語の世界」で学んだ日本語学の基礎知識を復習しておくこと。
秋学期の「日本語の変化B」は本講義の内容をテーマごとに捉え直した内容が中心となるので合わせて履修することがのぞましい。

フィードバックの方法:

授業時に質問などに回答する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	20	出席状況と小テストによる。
	期末試験	80	「到達目標」で設定したことが正確に理解されているかを評価する。

教科書:

教科書は用いない。こちらで用意するプリントによつて授業する。

参考書:

授業中に随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

OA時間に訪れてください。

232060

日本語の変化B

吉野

政治

授業テーマ:

日本語の変化を言語要素別にまとめる。

授業の概要:

①位相の問題
②言語と文字との関係、特に仮名遣い
③音韻、語と語彙、文法の変遷を講義する。

到達目標:

日本語の変化をたどりつつ、日本語の特質を理解できるようになること。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 言語変化の要因について	
2. 位相語について①・方言	前回の授業の復習をしておくこと
3. 位相語について②・性差	同上
4. 位相語について③・職業差 (齋宮忌言葉・女房詞・遊女詞)	同上
5. 仮名遣いについて①定家仮名遣い	同上
6. 仮名遣いについて②契沖仮名遣い	同上
7. 仮名遣いについて③現代仮名遣い	同上
8. 音韻史①母音の変遷 上代特殊仮名遣いについて	同上
9. 音韻史②子音の変遷	同上
10. 音韻史③ハ行転呼音	同上
11. 文法史①活用の種類	同上
12. 文法史②活用形の変遷	同上
13. 文法史③係り結びの成立と消滅	同上
14. 語彙の変遷	同上
15. まとめ	毎回配布したレジュメを整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

「日本語の変化A」を言語要素ごとに整理しなおす内容となるので、「日本語の変化A」を受講していた方が理解しやすいと思われる。

フィードバックの方法:

授業の中で回答する。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	20	出席状況と小テスト
期末試験	80	「到達目標」に関する知識を十分に習得しているかを評価する。

教科書:

教科書は使わない。こちらで用意するプリントで授業を進める。

参考書:

授業のなかで随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

OAの時間に訪問してください。

授業テーマ:	万葉集の長歌を読む		
授業の概要:	日本上代の和歌集である『万葉集』には、類歌あるいは異伝歌といわれる、ほぼ同じ内容をもつ複数の歌が存在する。一見、同一歌とも見られるそれらが具体的にどのような違いを持つのかを検討し、複雑多彩な表現のあり方を理解することを目的とする。講義では、異伝が多い巻十三の作者未詳歌、とりわけ長歌を中心に扱う。また、『万葉集』を読むための前提となる基本的な知識や方法についても解説する。		
到達目標:	『万葉集』を原文で読むことができるようになる知識と考え方を身につけることを目標とする。		
授業方法:	『万葉集』の歌群の原文を読み下し、和歌表現を理解する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 第1講万葉集の概説(1)文字と表記	復習	
	2. 第2講万葉集の概説(2)長歌と短歌	復習	
	3. 第3講旅の歌(1)都と地方	復習	
	4. 第4講旅の歌(2)道行きの事情	復習	
	5. 第5講待つ女の歌(1)男性の訪れ	復習	
	6. 第6講待つ女の歌(2)女性の孤独	復習	
	7. 第7講行路死人歌(1)旅と遭難	復習	
	8. 第8講行路死人歌(2)教訓と同情	復習	
	9. 第9講飛鳥の恋の歌(1)神への祈り	復習	
	10. 第10講飛鳥の恋の歌(2)隠り妻	復習	
	11. 第11講天武天皇歌とその類歌(1)吉野隠遁の思い	復習	
	12. 第12講天武天皇歌とその類歌(2)恋の思い	復習	
	13. 第13講片思いの歌(1)一途な女	復習	
	14. 第14講片思いの歌(2)鈍い男	復習	
	15. 第15講 古代の文芸	復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義の進捗状況により、変更することがある。		
フィードバックの方法:	毎回コメントシートに感想や疑問点、質問を記入し、提出させることで出席をとる。次回冒頭にコメントシートに書かれた質問等に回答する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	40%	出席、授業時の課題への取り組み姿勢およびコメントシートへの記入を基準とする。
	期末レポート	60%	2000字程度のレポートを課し、与えられた課題に的確に答えられているかを基準とする。
教科書:	井手至・毛利正守編『新校注萬葉集』(和泉書院) 坂本信幸・毛利正守編『万葉事始』(和泉書院)		
参考書:	授業時にその都度指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

『源氏物語』の時代

授業の概要:

『源氏物語』が誕生した前後には、女性の手による多くの文学作品が生み出された。それらの作品を深く読み解くことにより、平安貴族社会で女性たちがどのように生き、何を記録し、何を残したのかを掴む。

到達目標:

作品を注意深く読む姿勢を身につける。
作品の中に自分なりの問題や疑問を見つけ、それについて徹底的に調査し考察する方法を得る。

授業方法:

講義形式。
各作品ごとにいくつかの場面をとりあげる。
はじめに作品を取り巻く背景や人物構図を解説してから、場面の読解にうつる。
ときとして履修者にも講読や考察を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 『源氏物語』の時代 一条天皇と藤原氏	天皇家や藤原氏の系図に目を通しておくこと
	2. 『蜻蛉日記』(1) 藤原兼家と道綱母	作品概要を把握しておくこと
	3. 『蜻蛉日記』(2)	
	4. 『蜻蛉日記』(3)	
	5. 『枕草子』(1) 藤原定子と清少納言	作品概要を把握しておくこと
	6. 『枕草子』(2)	
	7. 『紫式部日記』(1) 藤原道長と紫式部	作品概要を把握しておくこと
	8. 『紫式部日記』(2)	
	9. 『紫式部日記』(3)	
	10. 『源氏物語』(1)	作品概要を把握しておくこと
	11. 『源氏物語』(2)	
	12. 『源氏物語』(3)	
	13. 『栄花物語』と『大鏡』	作品概要を把握しておくこと
	14. 『更級日記』 源氏物語に憧れて	作品概要を把握しておくこと
	15. ふりかえり	

受講者へのメッセージやアドバイス:

作品の舞台となる場所には積極的に足を運んでください。
博物館の見学等も常に心がけてください。

フィードバックの方法:

コメントペーパーの内容について必要に応じて教室内で回答

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	85%	到達目標に関する調査結果のまとめの仕上がり度合と、どの程度独自の視点があるかを基準とする。
	授業への参加態度	15%	到達目標に近づこうとしているかをコメントペーパーで評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

説話と伝説の中世

授業の概要:

中世の説話や伝説の研究には、さまざまな研究方法がある。
この授業では、説話作品をその研究方法とともに紹介し、それによってどのようなことが明らかになるのか解説する。

到達目標:

本授業は、さまざまな作品例をもって解説をしていくが、その主旨は、研究方法を伝える事にある。
レポートに向けて、毎回の授業の主旨を理解して、自ら応用できるようになることをめざす。

授業方法:

ストーリーを想像しながら着実に理解することを重視するため、現代語訳付きのプリントを用意し、ポイントとなるところは板書して確認していく。
また作品の背景となった時代についての基礎知識も随時紹介する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 説話文学概観	
	2. 【研究方法その一】同話、類話と比較する。 蟬丸説話の変遷 『今昔物語集』の蟬丸説話	前回の授業内容を確認しておく。
	3. 貴族の言談の中の蟬丸	前回の授業内容を確認しておく。
	4. 軍記や謡曲にあらわれる蟬丸	前回の授業内容を確認しておく。
	5. 【研究方法その二】歴史資料に関連記事をさがす。 真夜中の殺害事件 『今昔物語集』に記された事件の顛末	第1回から第4回までの授業内容をまとめておく。
	6. 被害者の肖像－関連資料からうかびあがる被害者の真実－	前回の授業内容を確認しておく。
	7. 加害者の肖像－関連資料からうかびあがる加害者の真実－	前回の授業内容を確認しておく。
	8. 事件の真相－歴史書から読み解く真相と『今昔』の表現－	前回の授業内容を確認しておく。
	9. 【研究方法その三】前後の話から考える。 空飛ぶ亀の話 『真言伝』貞崇伝にあらわれた亀	第5回から第8回までの授業内容をまとめておく。
	10. 亀の正体－年紀から読み解く－	前回の授業内容を確認しておく。
	11. 事件の背景－前後の説話から読み解く－	前回の授業内容を確認しておく。
	12. 【研究方法その四】思想展開から考える 山中で出会う美女	第9回から第11回までの授業内容をまとめておく。
	13. 美女の正体	前回の授業内容を確認しておく。
	14. 該当説話の思想的背景	前回の授業内容を確認しておく。
	15. 総括－レポートに向けて－	第12回から第14回までの授業内容をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	85	授業で紹介した4つの研究手法を参考にして、具体的に説話作品を分析できているかどうかを評価する。
	平常点	15	毎回の出席、授業中の発言などを総合的に評価する。なお全授業の3分の1を欠席した場合、レポートの提出資格を認めない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	西鶴の浮世草子を読む。		
授業の概要:	江戸時代が始まって、およそ80年がたつと次々に新しい表現があらわれる。なかでも、俳諧師でもあった井原西鶴の人間観察は注意深く、現実を見る目は鋭い。しかも、その表現は巧みで、一筋縄ではいかない。すべて短編で、一見、上手いと分かるけれど、よく読むと難しいのである。浮世草子3作品から、4編を選んで精読する。		
到達目標:	①原文を読解する。②表現技巧を解析する。③①②を踏まえて、示されたテーマをさらに掘り下げる。		
授業方法:	講義を基本とし、適宜質疑応答し、発言を求める。質疑と授業の進行状況によって、授業内容の配分は変更する場合がある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 授業の概要・到達目標・授業方法について説明し、江戸時代前期の文学史を概説する。次回に使用する資料(西鶴年譜など)を配布する。 2. 作家と作品①配布資料にもとづいて、西鶴の事績を説明し、西鶴作品の分類と、取り上げる作品について概説する。 3. 作家と作品②配布資料にもとづいて、西鶴の事績を説明し、西鶴作品の分類と、取り上げる作品について概説する。回次のテキストと関連資料を配布する。 4. 『西鶴諸国はなし』『面影の焼け残り』①(前半)。テキストと関連資料について説明。受講生にテキストの音読を求める。注釈し、留意点を指摘して読解する。 5. 『西鶴諸国はなし』『面影の焼け残り』②(後半)。テキストと関連資料について説明。受講生にテキストの音読を求める。注釈し、留意点を指摘して読解する。 6. 『西鶴諸国はなし』『面影の焼け残り』③。典拠との関連を示し、①②をふまえて相違点を考える。 7. 『西鶴諸国はなし』『面影の焼け残り』④。①②③をふまえて発言を求め、テーマについて考える。回次のテキストと資料を配布する。 8. 『武道伝来記』『踊りの中の似せ姿』①(前半)。テキストと関連資料について説明。受講生にテキストの音読を求める。注釈し、留意点を指摘して読解する。 9. 『武道伝来記』『踊りの中の似せ姿』②(後半)。テキストと関連資料について説明。受講生にテキストの音読を求める。注釈し、留意点を指摘して読解する。 10. 『武道伝来記』『踊りの中の似せ姿』③。典拠との関連を示し、①②をふまえて、表現方法について考える。 11. 『武道伝来記』『踊りの中の似せ姿』④。①②③をふまえて、全体構想とテーマについて考える。回次のテキストと関連資料を配布する。 12. 『万の文反古』『南部の人がみたも真』①。テキストと関連資料について説明。受講生にテキストの音読を求める。注釈し、留意点を指摘して読解する。 13. 『万の文反古』『南部の人がみたも真』②。本作の類話である、西鶴『懷硯』『』を音読、注釈、読解する。本作との関連について考える。 14. 『万の文反古』『南部の人がみたも真』③。①②をふまえて、本作の構想とテーマを考える。 15. 各作品を振り返って全体討議。作品ごとに気付いた点、指摘できる問題について全員から発言を求める。		シラバスを読んで、各自がすでに知っている西鶴についての知識をまとめておく。 1回目に配布された資料(西鶴年譜など)を読んでおく。 配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。 テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。 テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。 テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。 テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。次回に本話の小レポートを提出する。小レポート作成要領は授業中に指示する。 テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。 テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。 テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。次回に本話の小レポートを提出する。小レポート作成要領は授業中に指示する。 テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。 テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。 テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。次回に小レポートを提出する。小レポート作成要領は授業中に指示する。 全体討議にむけて、各自の意見をまとめておく。
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業では取り上げない作品についても、現代語訳を参考にしながら読んでおくとい。		
フィードバックの方法:	小レポートにコメントをつけて教室で返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小レポート	60	到達目標①②③を総合的に評価。
	授業への参加度	40	発言・質疑応答の内容。
教科書:	なし。		
参考書:	新日本古典文学大系76『好色二代男・西鶴諸国ばなし・本朝二十不孝』岩波書店 新日本古典文学大系77『武道伝来記・西鶴置土産・万の文反古・西鶴名残の友』岩波書店 江本裕・谷協理史編『西鶴事典』おうふう		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。オフィスアワー。		

232660

書誌学A

橋本 正俊

授業テーマ:

「本」と向き合う

授業の概要:

「本」そのものから様々な情報を読み取ろうとする学問が「書誌学」である。
この授業では、特に日本において、古代から現代にいたるまで作られ読まれ続けてきた「本」からどのような情報を読み取るこ
とができ、それをもとにどのようなことを考えられるのか、学ぶ。

到達目標:

1. 書誌の基本的な事柄について説明できる。
2. 写本について、その書誌的な注意点について説明できる。
3. 写本について、基礎的な調査ができる。
4. 一冊の写本から、様々な情報を引き出し、書写背景を考えることができる。

授業方法:

講義を中心に行う。
簡単な実習を行うこともある。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 本とは何か、書誌学とは何か	書誌という言葉について調べる
2. 冊子本と卷子本	前回の内容をまとめる
3. 冊子本の形態1	前回の内容をまとめる
4. 冊子本の形態2	前回の内容をまとめる
5. 改装について	前回の内容をまとめる
6. 表紙と料紙	前回の内容をまとめる
7. 書名のいろいろ	前回の内容をまとめる
8. 奥書について	前回の内容をまとめる
9. 写本の見方	前回の内容をまとめる
10. 文体と作品1 漢文	前回の内容をまとめる
11. 文体と作品2 ひらがな文とカタカナ文	前回の内容をまとめる
12. 文体と作品3 多様な文体と書誌	前回の内容をまとめる
13. 系統とはなにか	前回の内容をまとめる
14. 解題を読み解く	前回の内容をまとめる
15. 写本の伝わり方	前回の内容をまとめる

受講者への
メッセージや
アドバイス:

本の世界は想像以上に奥深いです。たくさんの発見がある授業にしたいです。

フィードバックの
方法:

質問、コメントに対して、次回の授業で取り上げて説明、解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	35	コメントペーパーや質問を通して、到達目標1～3ができるようになったかを 評価する。
レポート	65	到達目標1～3ができているかを評価し、その上で4ができているかを評価 する。

教科書:

参考書:

堀川貴司『書誌学入門』(勉誠出版)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で応対。また、Eメールアドレスを通知する。

授業テーマ:

「本」と向き合う

授業の概要:

「本」そのものから様々な情報を読み取ろうとする学問が「書誌学」である。
この授業では、特に日本において、古代から現代にいたるまで作られ読まれ続けてきた「本」からどのような情報を読み取る
ことができ、それをもとにどのようなことを考えられるのか、学ぶ。

- 到達目標:
1. 書誌と作品との関係について説明できる。

2. 版本について、その書誌的な注意点について説明できる。

3. 版本について、基礎的な調査ができる。

4. 一冊の版本から、様々な情報を引き出し、出版背景を考えることができる。

授業方法:

講義を中心に行う。
簡単な実習を行うこともある。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	本とは何か、書誌学とは何か	書誌という言葉について調べる
2.	本の形態	前回の内容をまとめる
3.	作品の書かれ方1 記録と日記	前回の内容をまとめる
4.	作品の書かれ方2 物語と和歌	前回の内容をまとめる
5.	作品の書かれ方3 和歌集	前回の内容をまとめる
6.	古活字版と整版	前回の内容をまとめる
7.	版本の歴史	前回の内容をまとめる
8.	版本の大きさと版式	前回の内容をまとめる
9.	版本を丁寧に見る	前回の内容をまとめる
10.	表紙と外題	前回の内容をまとめる
11.	刊記について	前回の内容をまとめる
12.	序文と跋文	前回の内容をまとめる
13.	解題を読む	前回の内容をまとめる
14.	版の違いを比べる	前回の内容をまとめる
15.	本を伝える 様々な文庫	前回の内容をまとめる

受講者への
メッセージや
アドバイス:

本の世界は想像以上に奥深いです。たくさんの発見がある授業にしたいです。

フィードバックの
方法:

質問、コメントに対して、次回の授業で取り上げて説明、解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	35	コメントペーパーや質問を通して、到達目標1〜3ができるようになったかを 評価する。 到達目標1〜3ができているかを評価し、その上で4ができているかを評価 する。
	レポート	65	

教科書:

参考書:

堀川貴司『書誌学入門』(勉誠出版)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で応対。また、Eメールアドレスを通知する。

授業テーマ:

文法の基礎の確認。

授業の概要:

高校生用の古典問題集を解きながら、古典文法を確認する。

到達目標:

古典文法の習得。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 概説	なし
	2. 基礎編1の問題を解答する。	基礎編1を解いてくる。
	3. 基礎編2の問題を解いてくる。	基礎編2を解いてくる。
	4. 基礎編3の問題を解いてくる。	基礎編3を解いてくる。
	5. 基礎編4の問題を解いてくる。	基礎編4を解いてくる。
	6. 基礎編5の問題を解いてくる。	基礎編5を解いてくる。
	7. 基礎編6の問題を解いてくる。	基礎編6を解いてくる。
	8. 基礎編7の問題を解いてくる。	基礎編7を解いてくる。
	9. 基礎編8の問題を解いてくる。	基礎編8を解いてくる。
	10. 基礎編9の問題を解いてくる。	基礎編9を解いてくる。
	11. 基礎編10の問題を解いてくる。	基礎編10を解いてくる。
	12. 基礎編11の問題を解いてくる。	基礎編11を解いてくる。
	13. 基礎編12の問題を解いてくる。	基礎編12を解いてくる。
	14. 基礎編13の問題を解いてくる。	基礎編13を解いてくる。
	15. 定期試験	指定ページを学習してくる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

各回積極性を持って、問題を解いてくること。

フィードバックの方法:

小テスト

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	60	全出席を60%とする。
	テスト	40	満点を40点換算。

教科書:

小泉貴著『古文上達 読解と演習56(入門から応用まで)』Z会

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

eメール

232960

言語学概説A

森 若葉

授業テーマ:	言語学の初歩		
授業の概要:	言語学をはじめて学ぶ人を対象に、言語学の概説を行います。世界には、過去から現在、数千もの多種多様な言語が存在します。この授業では、人間言語の体系と構造にかんし、毎回わかりやすいトピックを選び、例を示しながら、言語学の各分野における基礎的な知識や概念を解説していきます。		
到達目標:	ふだんとくに意識せず使っている日本語の構造、および世界の言語の多様性に関心をもち、言語学の基本的な知識を身に付けることを目標とする。		
授業方法:	パワーポイントと配付資料を使用し、基本的に講義形式としますが、学生に発言を求めることがあります。また毎授業末に簡単なアンケート/小レポートを行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 世界の言語(1)	なし	
	2. 世界の言語(2)	とくになし。	
	3. 言語の特性	とくになし。	
	4. 音声学	とくになし。	
	5. 音韻論(1)	とくになし。	
	6. 音韻論(2)	とくになし。	
	7. 形態論(1)	とくになし。	
	8. 形態論(2)	とくになし。	
	9. 統語論(1)	とくになし。	
	10. 統語論(2)	配布プリントに目を通してきてもらう。	
	11. 意味論	とくになし。	
	12. 語用論	とくになし。	
	13. 社会言語学	とくになし。	
	14. その他	配布プリントに目を通してきてもらう。	
	15. まとめ	授業前に言語学の演習問題に目を通してくる必要がある。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業計画は目安であり、進度は多少前後することがある。上記に記載がないばあいでも、事前に配布プリントに目を通してきてもらったり、身近な日本語の例を探してきてもらうことがある。		
フィードバックの方法:	レポートは基本的に返却しません。第15回目にレポート課題の解説および個別の質問の受付を行います。また、授業ごとの小レポートについては、受講生が50人程度であればまとめて返却しますが、受講生が多いばあいは、まとめて解説しますが返却は行いません。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50	到達目標である言語学の基本的知識の理解度にもとづき評価する。
	小レポート/出席	40	毎時間の出席とともに、その授業内容の理解度により評価する。
	平常点	10	
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

233060

言語学概説B

森 若葉

授業テーマ：世界のさまざまな文字とそのしくみ

授業の概要：人間の言語は、過去五千年来、様々な文字によって書き記されてきました。この授業では、世界の言語と文字が互いにどのような関係にあるのか、また、文字がどのような構造をもち、どのように分類されるのかを扱います。
現在使われている文字(ギリシア系文字、アラム系文字、インド系文字、漢字系文字)のほかに、それらの系統の古代文字また、現在は失われた楔形文字、エジプト聖刻文字、ギリシア線文字B、マヤ文字などあまりなじみのない文字も紹介し、古代文字の解読の歴史やプロセスにもふれます。

到達目標：世界の文字の多様性を知り、文字のしくみや成立を学ぶことを目標にします。

授業方法：パワーポイントと配付資料を使用し、基本的に講義形式としますが、学生に発言を求めることがあります。また毎授業末に簡単なアンケート/小レポートを行います。 楔形文字の粘土板実習を1回行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 世界の言語と文字	なし。
2. 言語と文字の分布	とくになし。
3. 文字の種類と分類	配布プリントに目を通してきてもらう。
4. 日本における文字使用－漢字、カタカナ、ひらがな	配布プリントに目を通してきてもらう。
5. 古代文字の解読(1)－エジプト聖刻文字	配布プリントに目を通してきてもらう。
6. 古代文字の解読(2)－ギリシア線文字B	とくになし。
7. アラム文字系統の諸文字	配布プリントに目を通してきてもらう。
8. ギリシア文字系統の諸文字	配布プリントに目を通してきてもらう。
9. インド系の諸文字、インダス文字	配布プリントに目を通してきてもらう。
10. 古代文字の解読(3)－楔形文字、楔形文字系統の諸文字(1)	とくになし。
11. 楔形文字系統の諸文字(2)	配布プリントに目を通してきてもらう。
12. <楔形文字実習> 粘土板に楔形文字を記す	配布プリントに目を通してきてもらう。
13. 漢字系の文字、西夏文字ほか	配布プリントに目を通してきてもらう。
14. マヤ文字、ルウィ象形文字	配布プリントに目を通してきてもらう。
15. まとめ	授業前に言語学の演習問題に目を通してくる必要がある。

受講者へのメッセージやアドバイス：授業計画は目安であり、進度は多少前後することがあります。楔形文字実習の授業では、各自、粘土とカッターナイフ等を持参してもらう必要があります。

フィードバックの方法：レポートは基本的に返却しません。第15回目にレポート課題の解説および個別の質問の受付を行います。また、授業ごとの小レポートについては、受講生が50人程度であればまとめて返却しますが、受講生が多いばあいは、まとめて解説しますが返却は行いません。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標である世界の文字のしくみや成立にかんしその理解度にもとづき評価する。
小レポート/出席	40	毎時間の出席、および小レポート課題にかんし、その理解度により評価する。
平常点	10	

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

日本語の文法を知る

授業の概要:

日本語の文法とは何だろうか。私たちは普段意識をしないで日本語を使用しているが、日本語の文法というルールを意識してみると、いろいろな面白いことに気づかされる。また、外国人の日本語学習者は、母語とは異なる日本語の文法というルールを意識して日本語を使用している。この授業では、我々の日常的な日本語の使用実態を振り返り、日本語の文法的な観点から日本語の言語事実を観察し、その不思議さや面白さを知る機会を提供する。

到達目標:

(1)日本語の文法的な観点を知るために、これまで明らかにされてきた日本語の文法的事実について先行研究を紹介しながら、日本語の文法的な知識を知ることができる。
(2)日本語の文法的な事実を知るために、様々な言語的な素材(作例・実例)を自ら採集することができる。
(3)上の(1)や(2)を通じて、日本語文法の概要を知ることができる。

授業方法:

基本的に毎回担当教員からの講義が必ず行われるが、受講者には自分で日本語の例文を収集したり、それをもとに日本語の文法的な現象を話し合ったりする能動的な活動を多く取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のためのオリエンテーション 日本語の文法とは何だろうか？	履修の動機について受講者に尋ねます。各自考えてきてください。
2.	日本語文法の特徴を知る	1回目に指示される課題を各自持参してください。
3.	学校文法の復習と問題点を考える	2回目に指示される課題を各自持参してください。
4.	日本語文法の品詞体系を知る	3回目に指示される課題を各自持参してください。
5.	日本語文法の品詞のうち、特に動詞を考える	4回目に指示される課題を各自持参してください。
6.	日本語文法の品詞のうち、特に形容詞と形容動詞を考える	5回目に指示される課題を各自持参してください。
7.	日本語文法の品詞のうち、特に名詞を考える	6回目に指示される課題を各自持参してください。
8.	日本語文法の品詞のうち、特に助詞を考える① 「主語と主題」	7回目に指示される課題を各自持参してください。
9.	日本語文法の品詞のうち、特に助詞を考える② 「方向と場所」	8回目に指示される課題を各自持参してください。
10.	日本語教育の観点からみた文法① 「初級学習者が学ぶ文型」	9回目に指示される課題を各自持参してください。
11.	日本語教育の観点からみた文法② 「日本語学習者の文法の習得」	10回目に指示される課題を各自持参してください。
12.	文法に関するこれまでの学修を踏まえて先行研究を紹介する①	受講者自らが授業で学んだ内容に関連する先行研究を探し出し、紹介するのでその準備を行う。
13.	文法に関するこれまでの学修を踏まえて先行研究を紹介する②	受講者自らが授業で学んだ内容に関連する先行研究を探し出し、紹介するのでその準備を行う。
14.	文法に関するこれまでの学修を踏まえて先行研究を紹介する③	受講者自らが授業で学んだ内容に関連する先行研究を探し出し、紹介するのでその準備を行う。
15.	まとめと振り返り 学修ポートフォリオの提出	これまで授業で学習してきた課題や提出物、配付プリントなど、学修の痕跡となるものをすべて持参してください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業は自分たちのものだとすることを自覚して、担当教員の指示を待つばかりでなく、自分たちで授業を修正したり、楽しい授業になるように工夫したりしてください。

フィードバックの方法:

授業の予習として指示した課題については、授業の中で受講者全員でコメントをつけあいます。また、授業コメントシートを用意しますので、疑問点やよくわからなかったことなどについては次週の授業でフィードバックをするようにします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	学修ポートフォリオ	60	学期末(15回目)の授業で提出する学修ポートフォリオを作成後、それを見ながら振り返りシートを添付して提出された全体を評価する
	授業への参加度	30	予習として持参した課題をもとに授業中に行うグループ活動を評価する
	課題	10	授業の予習として課した課題を自らの力で言い持参できたものを評価する

教科書:

参考書:

森山卓郎、ここからはじまる日本語文法、ひつじ書房
原沢伊都夫、日本人のための日本語文法入門、講談社現代新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室にて対応、Eメール対応(教室にて指示します。)

授業テーマ:

日本語の文法を問う

授業の概要:

日本語の文法とは何だろうか。私たちは普段意識をしないで日本語を使用しているが、日本語の文法というルールを意識してみると、いろいろな面白いことに気づかされる。また、外国人の日本語学習者は、母語とは異なる日本語の文法というルールを意識して日本語を使用している。この授業では、春学期の「日本語の構造A(文法Ⅰ)」で学んだ日本語の文法的な観点と日本語の文法の知識を使って、さらに日本語の文法の知識を深める機会を提供する。

到達目標:

(1)春学期「日本語の構造A(文法Ⅰ)」で学んだ知識を復習し、その知識を使って日本語の文法への興味や関心をさらに持続することができる。
(2)日本語の文法的な観点や言語事実に対して、様々な言語的な素材(新聞・図書・広告・各種メディアなど)から広く例文や実例を採集することができる。
(3)上の(1)や(2)を通じて、日本語文法の概要を深めると共に、批判的な態度を養うことができる。

授業方法:

基本的に毎回担当教員からの講義が必ず行われるが、受講者には自分で日本語の実例や資料を収集したり、それをもとに日本語の文法的な現象を話し合ったりする能動的な活動を多く取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のためのオリエンテーション 日本語の文法の概要(復習)	履修の動機について受講者に尋ねます。各自考えてきてください。
2.	日本語文法の研究と対象を知る -新聞の日本語、小説の日本語-	1回目に指示される課題を各自持参してください。
3.	日本語の文法 -テンス-	2回目に指示される課題を各自持参してください。
4.	日本語の文法 -アスペクト-	3回目に指示される課題を各自持参してください。
5.	日本語の文法 -ヴォイス-	4回目に指示される課題を各自持参してください。
6.	日本語の文法 -ムードとモダリティ-	5回目に指示される課題を各自持参してください。
7.	日本語の文法 -複文「時間節」-	6回目に指示される課題を各自持参してください。
8.	日本語の文法 -複文「条件節」-	7回目に指示される課題を各自持参してください。
9.	日本語の文法 -方言-	8回目に指示される課題を各自持参してください。
10.	日本語の文法 -コーパス-	9回目に指示される課題を各自持参してください。
11.	グループ発表のための準備	次週から始まるグループ発表のためにこれまでの学修内容がわかるような資料をすべて持参してきてください。
12.	文法に関するこれまでの学修を踏まえてグループ発表を行う①	受講者自らが授業で学んだ内容をふまえて、それに関連する素材を見つけて発表する。
13.	文法に関するこれまでの学修を踏まえてグループ発表を行う②	受講者自らが授業で学んだ内容をふまえて、それに関連する素材を見つけて発表する。
14.	文法に関するこれまでの学修を踏まえてグループ発表を行う③	受講者自らが授業で学んだ内容をふまえて、それに関連する素材を見つけて発表する。
15.	まとめと振り返り 学修ポートフォリオの提出	これまで授業で学習してきた課題や提出物、配付プリントなど、学修の痕跡となるものをすべて持参してください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業は自分たちのものだとすることを自覚して、担当教員の指示を待つばかりでなく、自分たちで授業を修正したり、楽しい授業になるように工夫したりしてください。また、春学期の「日本語の構造A(文法Ⅰ)」を受講していることが望ましいです。

フィードバックの方法:

授業の予習として指示した課題については、授業の中で受講者全員でコメントをつけあいます。また、授業コメントシートを用意しますので、疑問点やよくわからなかったことなどについては次週の授業でフィードバックをするようにします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学修ポートフォリオ	60	学期末(15回目)の授業で提出する学修ポートフォリオを作成後、それを見ながら振り返りシートを添付して提出された全体を評価する
	授業への参加度	30	予習として持参した課題をもとに授業中に行うグループ活動を評価する。
	課題	10	授業の予習として課した課題を自らの力で行い持参できたものを評価する。

教科書:

参考書:

森山卓郎、ここからはじまる日本語文法、ひつじ書房
原沢伊都夫、日本人のための日本語文法入門、講談社現代新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室にて対応、Eメール対応(教室にて指示します。)

233360

日本語の構造C(語彙Ⅰ)

小椋 秀樹

授業テーマ:	日本語語彙論(1)		
授業の概要:	日本語の語彙に関する基本事項を学習するとともに、日本語の語彙の構造・特徴等を明らかにするために必要なデータ分析の基礎的能力を身に付けることが、この授業の目標です。		
到達目標:	1. 語彙論の用語を理解し、簡単な説明ができる。 2. 言語データから日本語の語彙の特徴などを読み取り、簡単な説明ができる。 3. 語彙論の基本事項の理解、言語データの分析を通して日本語を客観的に捉える態度を身に付ける。		
授業方法:	プリントを使って講義形式で授業を行います。プリントを使って講義形式で授業を行います。「語彙と語彙量」「語種」の単元において授業内課題を実施する予定です。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション	テキスト「1章 語彙の体系」を読んでおくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。	
	2. 語彙の体系		
	3. 語彙と語彙量(1)		
	4. 語彙と語彙量(2)	テキスト「2章 語彙と語彙量」を読んでおくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。	
	5. 語彙と語彙量(3)		
	6. 語と語形(1)		
	7. 語と語形(2)	テキスト「3章 語と語形」を読んでおくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。	
	8. 語と語形(3)		
	9. 語と語形(4)		
	10. 語種(1)	テキスト「4章 語種」を読んでおくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。	
	11. 語種(2)		
	12. 語種(3)		
	13. 語構成(1)	事前に出题された授業内課題について分析を行っておくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。	
	14. 語構成(2)		
	15. まとめ		
第2回～第14回の復習として小テスト、授業内課題を見直しておくこと。			

受講者へのメッセージやアドバイス:	授業は講義形式で行うが、言語データから日本語の語彙の特徴などについて、どのようなことが分かるか、常に自分で考える姿勢を持つこと。 新聞、雑誌、放送、Web、会話等を通じて見聞きする言葉について関心を持つこと。		
フィードバックの方法:	コメントカードを毎回提出してもらう。コメントカードに書かれた質問等については、翌週に回答する。 授業内課題については翌週に解説を行う。		

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	15	授業に積極的に参加しているか否か、及び到達目標3の達成度をコメントカードにより評価する。
	授業内課題及び小テスト	25	到達目標1及び2の途中段階での達成度を小テスト(マナビーで実施)と授業内課題によって評価する。
	定期試験	60	到達目標1から3の達成度を記述式の試験によって評価する。

教科書:

秋元美晴(2010)『日本語能力検定試験に合格するための語彙12』, アルク.

参考書:

田中章夫(1978)『国語語彙論』, 明治書院.
沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子(2011)『図解 日本語の語彙』, 三省堂.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール(アドレスは第1回の授業時に連絡)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

日本語語彙論(2)

授業の概要:

日本語の語彙に関する基本事項を理解するとともに、日本語の語彙の構造・特徴等を明らかにするためのデータ分析力を身に付けることが、この授業の目標です。

到達目標:

1. 語彙論の用語を理解し、簡単な説明ができる。
2. 言語データから日本語の語彙の特徴などを読み取り、簡単な説明ができる。
3. 語彙論の基本事項の理解、言語データの分析を通して日本語を客観的に捉える態度を身に付ける。

授業方法:

プリントを使って講義形式で授業を行います。プリントを使って講義形式で授業を行います。「語結合、連語、慣用句と比喻」「擬音語・擬態語」の単元において授業内課題を実施する予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	語の意味(1)	テキスト「6章 語の意味」を読んでおくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
3.	語の意味(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
4.	語結合、連語、慣用句と比喻(1)	テキスト「7章 語結合、連語、慣用句と比喻」を読んでおくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
5.	語結合、連語、慣用句と比喻(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
6.	語結合、連語、慣用句と比喻(3)	事前に出题された授業内課題について分析を行っておくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
7.	語の意味変化(1)	テキスト「9章 語と語形」を読んでおくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
8.	語の意味変化(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
9.	語彙と社会(1)	テキスト「10章 語彙と社会」を読んでおくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
10.	語彙と社会(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
11.	語彙と社会(3)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
12.	擬音語・擬態語(1)	テキスト「8章 擬音語・擬態語」を読んでおくこと。 Webコースツールで実施する小テストを通して専門用語を理解すること。
13.	擬音語・擬態語(2)	事前に出题された授業内課題について分析を行っておくこと。 マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
14.	辞書	テキスト「11章 辞書」を読んでおくこと。
15.	まとめ	第2回～第14回の復習として小テスト、授業内課題を見直しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業は講義形式で行うが、言語データから日本語の語彙の特徴などについて、どのようなことが分かるか、常に自分で考える姿勢を持つこと。
新聞、雑誌、放送、Web、会話等を通じて見聞きする言葉について関心を持つこと。

フィードバックの方法:

コメントカードを毎回提出してもらう。コメントカードに書かれた質問等については、翌週に回答する。
授業内課題については翌週に解説を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	15	授業に積極的に参加しているか否か、及び到達目標3の達成度をコメントカードにより評価する。
	授業内課題及び小テスト	25	到達目標1及び2の途中段階での達成度を小テスト(マナビーで実施)と授業内課題によって評価する。
	定期試験	60	到達目標1から3の達成度を記述式の試験によって評価する。

教科書:

秋元美晴(2010)『日本語能力検定試験に合格するための語彙12』, アルク.

参考書:

田中章夫(1978)『国語語彙論』, 明治書院.
沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子(2011)『図解 日本語の語彙』, 三省堂.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール(アドレスは第1回の授業時に連絡)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

日本語の音声・音韻(韻律特徴を中心に)

授業の概要:

韻律特徴を中心に、日本語の音声・音韻の基礎について学習し、基礎的な知識・分析力を身につけるべく構成された配布プリント中の練習問題に取り組んでいく。

到達目標:

韻律特徴を中心に、日本語の音声・音韻に関する基礎的な知識と分析力を身につける。

授業方法:

基本事項に関する講師からの説明の後、学生を適宜指名し、配布プリント中の練習問題に答えてもらい、必要な補足説明を行う形で授業を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業全体のオリエンテーション	
	2. 「音」と「声」について	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	3. 日本語アクセントの変異と変遷	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	4. アクセントとイントネーション	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	5. モーラと音節(1)	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	6. モーラと音節(2)	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	7. モーラと音節(3)	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	8. 1～7週の復習	7週までに取り組んだ練習問題についてあらためて質問したいことがないか考えておく。
	9. 日本語のリズムとフット;音韻句の形成	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	10. オノマトペの響き	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	11. 言葉遊びと日本語の音韻	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	12. 借用語の発音と日本語の音韻	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	13. 古典作品の発音	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	14. 音声教育における分析ソフトの利用法	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
	15. 全体のまとめ	14週までに取り組んだ練習問題について正しく解答できるか復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	到達目標に関する知識と分析力により評価する。
	授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標を達成すべく意欲的に取り組んでいるかを評価する。

教科書:

配布プリントを利用

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール (maedah@nara-edu.ac.jp) を利用

授業テーマ:

日本語の音声・音韻(分節音形特徴を中心に)

授業の概要:

分節音形特徴を中心に、日本語の音声・音韻に関する基本的な知識・聴解力を身につけるべく、教科書中の問題に取り組んでいく。

到達目標:

分節音形特徴を中心に、日本語の音声・音韻の基礎について学習し、基本的な知識と聴解力を身につけることが本授業の目標です。

授業方法:

教科書の解説と聴解問題への取り組みを中心としますが、理解の確認のため授業中随時指名し、講師からの質問に答えてもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリテンテーション	
	2. 五十音図とその拡大表	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	3. 話し言葉の語形	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	4. 母語の干渉、誤用分析	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	5. 子音の分類	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	6. 唇音退化、ハ行転呼	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	7. 四つ仮名	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	8. 1～7週の復習	7週までに取り組んだ問題について、あらためて質問がないか考えておく。
	9. 拗音	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	10. 環境による音声変化	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	11. 母音の分類	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	12. 音節構造	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	13. 音韻論	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	14. 日本語の音声教育	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
	15. 全体のまとめ	14週までに取り組んだ問題に正しく答えられるようよく復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	到達目標に関する知識と聴解力により評価する。
	授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標を達成すべく意欲的に取り組んでいるかにより評価する。

教科書:

松崎寛・河野俊之(2010)『日本語教育能力検定試験に合格するための音声23』(アルク)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール(maedah@nara-edu.ac.jp)を利用する

授業テーマ:

日本語表記論

授業の概要:

日本語で用いられる文字の種類は、漢字・平仮名・片仮名・ローマ字・数字・句読点などの記号、と実に多様である。しかし、その表記法は複雑で、現代でも正書法が確立しているとはいい難い。この科目では、表記の実態や種々の表記研究を通して、日本語とはどのような言語であるのか、その特質を検討する。

到達目標:

日本語の文字・表記論に関する一定の知識と研究方法の基礎を身につける。

授業方法:

講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 総説	講義内容の復習
	2. 日本における文字	講義内容の復習
	3. 漢字(1)	講義内容の復習
	4. 漢字(2)	日本における漢字受容について、考察を深める
	5. 仮名(1)	講義内容の復習
	6. 仮名(2)	講義内容の復習
	7. ローマ字(1)	講義内容の復習
	8. ローマ字(2)	講義内容の復習
	9. 補助符号(1)	講義内容の復習
	10. 補助符号(2)	講義内容の復習
	11. 表記法(1)	講義内容の復習
	12. 表記法(2)	講義内容の復習
	13. 表記法(3)	講義内容の復習
	14. 文字と社会	講義内容の復習
	15. まとめ	日本における表記法の問題点について、考察を深める

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

コメントシート

「成績評価方法」:

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
コメントシート	30%	平常点。講義への積極的な参加を重視する。
期末試験	70%	

教科書:

参考書:

沖森卓也・笹原宏之・常盤智子・山本真吾(2011)『図解日本の文字』三省堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

コメントシート, 学内メール等

授業テーマ:

コーパスを用いた言語研究の方法

授業の概要:

実習を通じて各種のコーパスからのデータ取得・加工・整理の方法を学ぶ。あわせて、統計的な処理の基本的考え方と方法を学ぶ。

到達目標:

研究テーマに応じて、各種のコーパスからデータを取得し、適切に加工整理、統計処理する基本的な能力を身につける。

授業方法:

講義と実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. 検索エンジンの利用と注意点1	指示された課題を行ってくること
	3. 検索エンジンの利用と注意点2	指示された課題を行ってくること
	4. 「ひまわり」によるデータ取得と利用(1) 基本的な検索・正規表現の利用	指示された課題を行ってくること
	5. 「ひまわり」によるデータ取得と利用(2) Excelによる並べ替え、計数、分類	指示された課題を行ってくること
	6. 「ひまわり」によるデータ取得と利用(3) 分析実習	指示された課題を行ってくること
	7. BCCWJの概要と利用上の注意点(1)	指示された課題を行ってくること
	8. BCCWJの概要と利用上の注意点(2)	指示された課題を行ってくること
	9. 中納言によるデータ取得と利用(1) 基本的な検索・形態素情報の利用	指示された課題を行ってくること
	10. 中納言によるデータ取得と利用(2) 分析実習	指示された課題を行ってくること
	11. 中納言によるデータ取得と利用(3) 分析実習	指示された課題を行ってくること
	最終レポート作成に向けての相談	
	12. コーパスデータの統計処理・図表化	指示された課題を行ってくること
	13. コーパスデータの統計処理・図表化	指示された課題を行ってくること
	14. コーパスデータの統計処理・図表化	指示された課題を行ってくること
	15. 最終レポート作成指導	指示された課題を行ってくること

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本語学の研究の道具としての各種コーパスの使い方を実習を通じて学びます。コーパスは大変便利なものですが、どのような研究にも利用できるわけではなく、まず、その性質や限界をよく理解することが必要です。現代日本語領域のゼミを志望する学生はなるべく履修してください。

フィードバックの方法:

提出された課題に対して、個別的または一般的にコメントを行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加態度	20%	単なる出席ではなく積極的な参加を重視して評価する。
	毎回の提出物	40%	授業内容を理解し、課題に適切に取り組むことができたかを評価する。
	最終レポート	40%	授業目標に掲げる力がおおよそ身につき、それらを総合的に用いたレポート作成ができたかを評価する。
	出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし、原則として4回欠席した場合は不可とします。

教科書:

参考書:

『講座日本語コーパス6 コーパスと日本語学』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

マネビー上から、または、教室・研究室等での面談による。

授業テーマ:

ことばの多様性

授業の概要:

ことばの多様性について事例を挙げて解説し、その実態を明らかにするための言語調査について解説する。

到達目標:

ことばの多様性とその実態を明らかにするための言語調査について理解する。

授業方法:

講義: 講義形式で授業を行い、毎回授業内容に関連したアンケートを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ことばの多様性と言語調査(1)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
2.	ことばの多様性と言語調査(2)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
3.	ことばの多様性と言語調査(3)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
4.	ことばの年齢差と言語変化(1)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
5.	ことばの年齢差と言語変化(2)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
6.	ことばの年齢差と言語変化(3)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
7.	ことばの実時間調査(1)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
8.	ことばの実時間調査(2)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
9.	ことばの実時間調査(3)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
10.	ことばのバリエーションと言語変化－国会会議録をデータとした言語研究(1)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
11.	ことばのバリエーションと言語変化－国会会議録をデータとした言語研究(2)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
12.	ことばのバリエーションと言語変化－国会会議録をデータとした言語研究(3)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
13.	ことばのバリエーションと言語変化－日本語コーパスをデータとした言語研究(1)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
14.	ことばのバリエーションと言語変化－日本語コーパスをデータとした言語研究(2)	学習内容の復習と次回学習内容の予習
15.	まとめ	学習内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回授業終了時に行うアンケートの結果を次回の授業で説明する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間レポート	40	到達目標の理解度により評価する。
	定期試験	60	到達目標の理解度により評価する。

教科書:

日比谷潤子編著『はじめて学ぶ社会言語学－ことばのバリエーションを考える14章－』(ミネルヴァ書房)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール: mizuno@kit.jp

授業テーマ:

ことばの変化の研究方法

授業の概要:

日本語の発音、語彙、文法の変化を研究する方法について、それぞれの具体的な事例を取り上げて説明する。

到達目標:

日本語の発音、語彙、文法の変化を研究する方法について理解する。

授業方法:

講義：講義形式で授業を行い、毎回授業内容に関連したアンケートを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 発音の変化(1)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	2. 発音の変化(2)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	3. 発音の変化(3)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	4. 語彙の変化－「やばい」の変化(1)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	5. 語彙の変化－「やばい」の変化(2)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	6. 語彙の変化－「全然」の変化(1)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	7. 語彙の変化－「全然」の変化(2)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	8. 文法の変化－日本語動詞可能形の変化(1)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	9. 文法の変化－日本語動詞可能形の変化(2)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	10. 文法の変化－日本語動詞可能形の変化(3)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	11. 「ことばのスタイル」と「ことばのバリエーション」(1)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	12. 「ことばのスタイル」と「ことばのバリエーション」(2)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	13. アクセントの変化(1)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	14. アクセントの変化(2)	授業内容の復習と次回授業内容の予習
	15. まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回授業終了時に行うアンケートの結果を次回授業時に説明する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間レポート	40	到達目標の理解度により評価する。
	定期試験	60	到達目標の理解度により評価する。

教科書:

日比谷潤子編著『はじめて学ぶ社会言語学－ことばのバリエーションを考える14章－』(ミネルヴァ書房)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール:mizuno@kit.jp

授業テーマ:

専門文献の講読と議論

授業の概要:

日本語の音象徴語(オノマトペ)に関する専門文献を精密に読み、母語話者の内省に照らして議論を行うとともに、可能であれば関連する用例を収集して検証を行う。

到達目標:

日本語学の専門的な文献を、事実にも照らして疑いながら読むことができるようになる。精密な読解のため、不明点を専門の事典類や文献を見て調べる力をつける。また、疑問点を明確に表明し、議論することができるようになる。

授業方法:

教科書として指定する文献を読み、日本語話者としての直感に基づき議論を行う。また、指定する方法により用例を収集観察するなどし、問題を見直す。受講者数などの要因により多少変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業内容の説明1	事前に教科書を読むこと。
2.	授業内容の説明2	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
3.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
4.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
5.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
6.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
7.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
8.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
9.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
10.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
11.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
12.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
13.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
14.	教科書の講読・議論	事前に教科書を読むこと。また、指定された人は要約レジュメ作成・用例集めなどをしていくこと。
15.	まとめとレポート作成指導	

受講者へのメッセージやアドバイス:

本に書いてあることがすべて正しいとは限りません。事実にも照らして確認しながら読む態度を身につけてください。

フィードバックの方法:

発表内容にはその場でコメント、最終レポートにはマナビーから個別にコメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への準備・参加度合	70%	到達目標に基づき、授業の準備、授業中の議論への参加がどれだけできたかを評価する。
	レポート	30%	授業内容を総合的に理解し、事実を観察して自らの考えを述べることであったかを評価する。
	出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし、原則として4回欠席したら不可とする。遅刻には厳しくする方針。

教科書:

教科書: 浜野 祥子『日本語のオノマトペ-音象徴と構造』くろしお出版 (2回目の授業時までには必ず購入し持参すること)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

マナビーから、または、研究室等での面談による。

授業テーマ:

和語の世界にあそぶ

授業の概要:

和語(やまとことば)は、日本語を母語とする者にとっては、ふるくからうけついできた基本的な語彙である。老若男女をとわず、耳できいてすぐにわかり、肌でその意味やニュアンスを感じとれる語種である。日本人の汗・垢・感情が色こく付着しているともいえよう。この授業では、種々の観点から和語をとらえることによって語彙と文化の関係を考究していきたい。

到達目標:

・語彙と文化の関係を考究することの意義をしる。

・和語による造語をたのしむことをしる。

・和語をいかした表現ができるようになる。

・和語によって思索をふかめることをしる

授業方法:

講義形式だが、指名をして種々のコメントをもとめることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. 和語とは何か	指示された課題にとりくむ。
	3. 和語による命名・造語(1)	指示された課題にとりくむ。
	4. 和語による命名・造語(2)	指示された課題にとりくむ。
	5. 和語をいかして伝達する(1)	指示された課題にとりくむ。
	6. 和語をいかして伝達する(2)	指示された課題にとりくむ。
	7. 和語をいかして伝達する(3)	指示された課題にとりくむ。
	8. 和語によって思索する(1)	指示された課題にとりくむ。
	9. 和語によって思索する(2)	指示された課題にとりくむ。
	10. 和語によって思索する(3)	指示された課題にとりくむ。
	11. 和語によって創作する(1)	指示された課題にとりくむ。
	12. 和語によって創作する(2)	指示された課題にとりくむ。
	13. 和語を漢字で表記する(1)	指示された課題にとりくむ。
	14. 和語を漢字で表記する(2)	指示された課題にとりくむ。
	15. ふりかえり	この授業でまなびえたことを文章にする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

和語の役割、和語のもつ力をみなさんとともに発見したいとおもいます。和語のにはどんな強みとともに弱みがあるのでしょうか。種々の先行研究にみちびかれながら、和語の世界にあそんでみましょう。『歳時記』や『方言辞典』などをよみくらべたり、「NEWS WED EASY」を視聴することをすすめます。

フィードバックの方法:

提出物については、授業時にまとめて解説する。適宜個別に対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	コメントシートの内容を対象に到達目標によって評価する。
	学期末レポート	50	レポートとしての完成度によって評価する。

教科書:

参考書:

野村雅昭・木村義之編『わかりやすい日本語』くろしお出版

竹内整一著『やまとこ言葉で哲学する』春秋社

阪倉篤義著『増補 日本語の語源』平凡社ライブラリー729

古橋信孝・鈴木泰・石井久雄著『現代語から古語を引く 現古辞典』河出書房新社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

マナビーによる。

授業テーマ:	認知言語学の基礎		
授業の概要:	言語は人間の認知能力とは切り離せない。本講義では、認知言語学の基礎について学習し、言語現象が心の働きと結びついていることを理解する。		
到達目標:	様々な言語現象が人間の認知能力を基盤にしていることを理解し、そのメカニズムの理解とそれを説明できるようなレベルを目指す。		
授業方法:	講義および中間・期末の2回のテストを実施する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 講義の概要・授業の進め方		教科書の準備
	2. 「ものの見方」と意味		教科書を読んで予習
	3. プロトタイプとステレオタイプ		教科書を読んで予習
	4. 抽象化とスキーマ		教科書を読んで予習
	5. イメージ・スキーマ		教科書を読んで予習
	6. 意味のネットワーク		教科書を読んで予習
	7. メタファーとメトニミー		教科書を読んで予習
	8. 中間テスト		これまでの授業内容を復習
	9. 概念メタファー		教科書を読んで予習
	10. 方向性のメタファー		教科書を読んで予習
	11. 「色」とことば		教科書を読んで予習
	12. 構文と意味		教科書を読んで予習
	13. ことばのダイナミズム		教科書を読んで予習
	14. ことば、文化、普遍性		教科書を読んで予習
	15. まとめ		これまでの授業内容の確認
受講者へのメッセージやアドバイス:	各回には内容をまとめた資料を配布するので、授業後は教科書と合わせてその内容を復習してください。		
フィードバックの方法:	中間テストは採点して返却する。その他については授業中に指示を行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	中間テスト	30	100点満点で採点し、0.3を乗じて計算
	期末テスト	60	100点満点で採点し、0.6を乗じて計算
	出席・課題の提出	10	各回ごとに出席を取り、1回の出席について1点とする (第1・8・15回を除く)2回の欠席まで許容する
教科書:	谷ロー美『学びのエクササイズ 認知言語学』ひつじ書房, 2006年, ISBN: 978-4894762824		
参考書:	榎山洋介『日本語研究のための認知言語学』研究社, 2014年, ISBN:978-4327384685		
	吉村公宏『はじめての認知言語学』研究社, 2004年, ISBN:978-4327421656		
	ジョン・R・テイラー『認知言語学のための14章 第三版』紀伊國屋書店, 2008年, ISBN:978-4314010320		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	メールにてご連絡ください。 its.annex@gmail.com		

授業テーマ:

日本語の敬語とポライトネス

授業の概要:

授業の前半では、日本語の敬語語彙の意味・機能を取り上げる。日本語の敬語語彙はその機能に応じて5つに分類される。それぞれの種類の敬語語彙の運用ルールについて解説する。また、ディスカッションを通じて身近な敬語の「誤用」に気づき、それがどのような変化の流れの中に位置づけられるのかを考える。後半では、コミュニケーションを行う上で用いられる、より広い配慮表現に着目し、メールの文章の作成を通して、より効果的な配慮の在り方を考察する。

到達目標:

①敬語の5分類について理解し、それぞれに属する語彙を適切に運用できるようになる(知識・理解)
②敬語の使い方に迷った時などに、文法的な仕組みに立ち戻って混乱の理由を考えることができるようになる(関心・意欲)。
③所謂敬語の「誤用」について、どこがなぜ間違っているのかを明快に説明できる。さらに、日常の会話で用いられる配慮表現とその効果に気づき、自らもまた、より適切な表現を用いて日本語を運用できる(表現・技能・能力)。

授業方法:

教科書を基本とした講義とディスカッションや表現活動を中心とした演習。
質疑応答を多用する講義を行い、随時問いかける課題に対してグループでディスカッションの上、解答作成をすることで理解を深めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業の概要・敬語と敬意表現	特になし
	2. 日本語の敬語のしくみ(尊敬語)	マナビー上の練習問題に回答。
	3. 日本語の敬語のしくみ(謙譲語)	マナビー上の練習問題に回答。
	4. 日本語の敬語のしくみ(謙譲語Ⅱ)	マナビー上の練習問題に回答。
	5. 日本語の敬語のしくみ(謙譲語Ⅱ・美化語)	マナビー上の練習問題に回答。
	6. 敬語のしくみについて説明しよう(問題演習)	マナビー上の練習問題に回答。
	7. 敬語のしくみについて説明しよう(問題演習)	マナビー上の模擬テスト問題に回答。
	8. 中間テスト	テスト勉強
	9. 広義の敬意表現とポライトネス理論	マナビー上の課題に回答。
	10. 広義の敬意表現とポライトネス理論	マナビー上の課題に回答。
	11. 広義の敬意表現とポライトネス理論	マナビー上の課題に回答。
	12. 自分たちの言葉の使い方を観察しよう。	マナビー上の課題に回答。
	13. 自分たちの言葉の使い方を観察しよう(ミニプレゼン)	プレゼン準備
	14. 自分たちの言葉の使い方を観察しよう(ミニプレゼン)	プレゼン準備
	15. まとめと振り返り	マナビー上の課題に回答。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業では小グループごとのディスカッションを中心としてすすめる。各授業のあと、復習として各自教科書を熟読し、知識の定着をはかること。中間テストは授業内容に加えて、教科書をベースに作成する。授業で進んだ部分については、授業で触れなかった部分についてもよく読んで、不明な点については授業中設けられた質問の時間に質問すること。

フィードバックの方法:

中間テストは採点して返却する。マナビーで出された課題については、授業時間中に取り上げて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加貢献度	20%	授業におけるディスカッションとコメントシートの記述を通して到達目標②が達成できているかを評価する。
	中間テスト	30%	到達目標①および③が達成できているかを評価する。30点中20点に満たない場合は追試験を課し、それでも20点に満たない場合は0点とする。
	課題の提出とミニプレゼン	25%	課題への取り組みとミニプレゼンを通して、到達目標①②③が達成できているかを評価する。
	最終レポート	25%	メール文章についての観察を通し、到達目標①を基本として、到達目標②と③が達成できているかを評価する。

教科書:

菊池康人『敬語再入門』(講談社学術文庫)

参考書:

ペネロピ・ブラウン&スティーブンソン・O・レヴィンソン著 田中典子(監・訳)『ポライトネスー言語使用における、ある普遍現象』(研究者)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール(アドレスは授業時に開示)

授業テーマ:

周辺の事象から学ぶ日本語学

授業の概要:

この授業では、日本語に見られるさまざまな現象を取り上げ、一般的な日本語学のアプローチとは異なる視点から日本語を見ていく。

到達目標:

授業で扱う内容を理解したうえで、多様な着眼点から日本語および他言語を見つめることができるようになることを目標とする。

授業方法:

基本的に講義形式で進めますが、授業中課題や宿題を与えることがあります。また、各回の最後には授業内容を確認するためのワークシートを配布します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 講義の概要・授業の進め方	教科書の準備
	2. 看板に見る日本語観察	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	3. 直訳日本語ロックに見る日本語の特徴	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	4. 誤変換と「言いまづがい」	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	5. 破格から考える日本語	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	6. 「チョー恥ずかしかったヨ！」ーカタカナ表記	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	7. 文字表現の音声学	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	8. 文末詞とキャラ語尾	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	9. 検索してわかる正しい？日本語	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	10. エモティコンー顔文字	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	11. 挨拶のマナー	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	12. 断り方	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	13. カッコいい・はずかしいしゃべり方	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	14. キャラクタの悩み	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する
	15. まとめーことばの専門家が言うこと	タイトルから内容を考えて、自分なりの観点を用意する

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回、異なった切り口から日本語(ときに英語)を見ていきます。また、授業の終わりにはワークシートを配布しますので、課題に取り組み自分の観点や意見を述べていただきたいと思います。

フィードバックの方法:

毎回のワークシートにはコメントを付けて返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末レポート	75	選択したテーマおよび内容、意見の切り口などを評価し、総合的に判定する
	ワークシートの提出	25	毎回配布するワークシートに記入して提出する。出席調査を兼ねる。1回出席ごとに2点(第1回を除く)、2回欠席まで減点なしとする。

教科書:

定延利之(編著)『私たちの日本語』朝倉書店, 2012年, ISBN: 978-4254510416

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

メールにてご連絡ください。
its.annex@gmail.com

授業テーマ:	日本語表記論		
授業の概要:	主に明治期の文書を資料として、語彙・文字表記を整理・分析することによって、明治期における日本語表記の一側面をとらえる。		
到達目標:	明治期の文書のある程度読むことができるようになる。 また、自ら、表記に関する問題点を見つけ出し、その理由や、現代とのつながりなどを調査・考察する。		
授業方法:	講義形式。受講者に発表を求めることもある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	総説	講義内容の復習
	2.	明治期における表記①(漢字)	講義内容の復習
	3.	明治期における表記②(仮名Ⅰ)	講義内容の復習
	4.	明治期における表記③(仮名Ⅱ)	講義内容の復習
	5.	明治期における外国地名表記①	講義内容の復習
	6.	明治期における外国地名表記②	講義内容の復習
	7.	明治期における外国地名表記③	講義内容の復習
	8.	明治期における外来語表記①	講義内容の復習
	9.	明治期における外来語表記②	講義内容の復習
	10.	明治期における文体・語彙①(公文書Ⅰ)	講義内容の復習
	11.	明治期における文体・語彙②(公文書Ⅱ)	講義内容の復習
	12.	明治期における文体・語彙③(書簡Ⅰ)	講義内容の復習
	13.	明治期における文体・語彙④(書簡Ⅱ)	講義内容の復習
	14.	明治期における文体・語彙⑤(まとめ)	講義内容の復習
	15.	まとめ	レポート作成に向けて準備
受講者へのメッセージやアドバイス:	漢文の基礎知識が必要であるので、復習しておくことが望ましい。		
フィードバックの方法:	コメントシート		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	コメントシート	50%	講義への積極的な参加を望む
	期末レポート	50%	
教科書:	資料を配布する		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	コメントシート、及び学内メール等		

授業テーマ:

日本語と英語の言語文化に対する対照言語学的アプローチ

授業の概要:

母語を違った言語から捉えることで新たな側面が見えてくるものです。この授業では日本語と英語を対照させ、日本語と英語の1. 統語論的特徴 2. 形態論的特徴 3. 音韻論的特徴 4. 意味論的特徴といった諸相に言語学的な考察を加えることで、それぞれの文化を知り、異文化の橋渡しとなれればと考えています。。また国際語としての地位をえた英語の今と未来について考えていただく時間になればと思っています。

到達目標:

対照言語学的アプローチを用いて日本語と英語のいくつかの側面を考察することで、両言語の本質を知ることが主な目標です。そうする過程で両言語が持つ言語文化について把握し、日本語教師・英語教師になる方々にとっては外国語教育の現場で非母語の言語習得を促すヒントが得られると思います。

授業方法:

基本的には講義形式ですが、授業内容に関するディスカッションをする機会があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のガイダンス 日英対照言語研究について	授業中に指示した課題と復習
2.	言語学の諸研究分野と対照言語学について	授業中に指示した課題と復習
3.	日本語の歴史	授業中に指示した課題と復習
4.	英語の歴史	授業中に指示した課題と復習
5.	統語論的比較1(語、句、文の成り立ち)	授業中に指示した課題と復習
6.	統語論的比較2(構文・視点の問題)	授業中に指示した課題と復習
7.	これまでの復習と演習	授業中に指示した課題と復習
8.	形態論的比較 1	授業中に指示した課題と復習
9.	形態論的比較 2	授業中に指示した課題と復習
10.	音韻論的比較	授業中に指示した課題と復習
11.	形態論と音韻論の演習とクイズ2	授業中に指示した課題と復習
12.	意味論的比較1(文字通りの意味について)	授業中に指示した課題と復習
13.	意味論的比較2(認知意味論について)	授業中に指示した課題と復習
14.	意味論の演習	授業中に指示した課題と復習
15.	まとめ	これまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では各トピックごとに具体例を集めていただきそれを使って討議したり演習したりする機会がありますので、しっかりと課題に取り組むことが必要です。

フィードバックの方法:

授業中の課題提出に関してはその場で解説もしくは返却時に解説いたします。また復習クイズに関しては採点後返却し解説いたします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	20%	積極的な授業への参加10% 授業で指示した課題提出10%
	復習クイズ	30%	授業で扱ったトピックについての復習クイズがあります
	定期試験	50%	授業で扱った項目のうち重要な理論を理解しているかどうか、日本語と英語を比較対照させて分析できるかどうかを確認するテストがあります。詳細については授業で説明します。

教科書:

参考書:

授業中に適宜紹介いたします

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

日本語と英語の言語文化に対する対照言語学的アプローチ

授業の概要:

母語を違った言語から捉えることで新たな側面が見えてくるものです。この授業では日本語と英語を対照させ、前半は語用論的特徴を考察し、後半では社会言語学的なアプローチを用いて両言語の様々な特徴を考察します。言葉を使用するということが一体どういう意味を持つのか、言語を社会の枠組みでとらえることの意義について考える授業になると思います。

到達目標:

異文化コミュニケーションへの関心が高まる中、言葉と文化に関する知識が問われるようになっていきます。この授業では日本語と英語を対照させ、様々な角度から言語学的考察を加えることで、それぞれの文化を知り、異文化の橋渡しとなれることを目標としています。また国際語としての地位をえた英語の今と未来について考えていただく時間となれればと思っています。

授業方法:

基本的には講義形式ですが、授業の後半では各自が具体例を調べて考察する必要があるかなり双方向性を持つ授業となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業のガイダンス 2つのアプローチについて	授業で指示した課題と復習
	2. 語用論的考察: 文脈の重要性和協調の原則	授業で指示した課題と復習
	3. 語用論的考察: なぞなぞと言外の意味	授業で指示した課題と復習
	4. 語用論的考察: 発話行為論	授業で指示した課題と復習
	5. 語用論的考察: 演習	授業で指示した課題と復習
	6. 社会言語学的アプローチ: 社会言語学の紹介	授業で指示した課題と復習
	7. 社会言語学的アプローチ: 敬意表現について	授業で指示した課題と復習
	8. 社会言語学的アプローチ: 日英地域方言	授業で指示した課題と復習
	9. 社会言語学的アプローチ: 社会方言	授業で指示した課題と復習
	10. 社会言語学的アプローチ: 若者言葉と流行語	授業で指示した課題と復習
	11. 社会言語学的アプローチ: 日英性差表現	授業で指示した課題と復習
	12. 社会言語学的アプローチ: 日英性差表現	授業で指示した課題と復習
	13. 社会言語学的アプローチ: 演習	授業で指示した課題と復習
	14. 世界の日本語教育	授業で指示した課題と復習
	15. まとめ	これまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では各トピックごとに具体例を集めていただきそれを使って討議したり演習したりする機会がありますので、しっかりと課題に取り組むことが必要です。

フィードバックの方法:

授業中の課題提出に関してはその場で解説もしくは返却時に解説いたします。また復習クイズに関しては採点後返却し解説いたします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	25%	積極的な授業への参加10%と課題への取り組み15%によって評価します。
	復習クイズ	25%	授業内容に関する復習クイズが数回設定されています。
	定期試験	50%	授業内容に関するテストが行われます。

教科書:

参考書:

授業内で適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	音声・語彙・文法における日中両言語の差異について																																		
授業の概要:	講義プリントに沿って授業を行う。受講者はプリントに書き込みながら各テーマについて考える。																																		
到達目標:	日中両言語の学習者がお互いの言語を学習する際に困難を感じるであろう差異について明らかにし、日本語・中国語教育に生かせるようにする。																																		
授業方法:	講義を主とするが、各自で考えたテーマに基づいて一人一回発表を行う。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>中国語についてどのような疑問点があるか考えておく。</td></tr><tr><td>2. 中国はどんな国？</td><td>中国に関する本を読んでおく。</td></tr><tr><td>3. 音声(1)アクセント・意味の弁別</td><td>中国語の発音記号がわかるようにしておく。</td></tr><tr><td>4. 音声(2)発音しにくい音</td><td>同上</td></tr><tr><td>5. 語彙(1)色・動物のイメージ</td><td>日本語の色・動物のイメージについて考えておく。</td></tr><tr><td>6. 語彙(2)オノマトペ・慣用句</td><td>中国語の語彙に関する本を読んでおく。</td></tr><tr><td>7. 語彙(3)四字熟語・ことわざ</td><td>同上</td></tr><tr><td>8. 語彙(4)中国人学習者の誤用</td><td>誤用に関する本を読んでおく。</td></tr><tr><td>9. 文法(1)語順と構文</td><td>中国語の基本的な文法について把握しておく。</td></tr><tr><td>10. 文法(2)受け身と使役</td><td>同上</td></tr><tr><td>11. 文法(3)結果補語と方向補語</td><td>同上</td></tr><tr><td>12. 文法(4)指示詞・数量詞</td><td>同上</td></tr><tr><td>13. 中国文化に触れよう(1)冠婚葬祭</td><td>日本の文化について説明できるようにしておく。</td></tr><tr><td>14. 中国文化に触れよう(2)年中行事</td><td>同上</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	中国語についてどのような疑問点があるか考えておく。	2. 中国はどんな国？	中国に関する本を読んでおく。	3. 音声(1)アクセント・意味の弁別	中国語の発音記号がわかるようにしておく。	4. 音声(2)発音しにくい音	同上	5. 語彙(1)色・動物のイメージ	日本語の色・動物のイメージについて考えておく。	6. 語彙(2)オノマトペ・慣用句	中国語の語彙に関する本を読んでおく。	7. 語彙(3)四字熟語・ことわざ	同上	8. 語彙(4)中国人学習者の誤用	誤用に関する本を読んでおく。	9. 文法(1)語順と構文	中国語の基本的な文法について把握しておく。	10. 文法(2)受け身と使役	同上	11. 文法(3)結果補語と方向補語	同上	12. 文法(4)指示詞・数量詞	同上	13. 中国文化に触れよう(1)冠婚葬祭	日本の文化について説明できるようにしておく。	14. 中国文化に触れよう(2)年中行事	同上	15. まとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション	中国語についてどのような疑問点があるか考えておく。																																		
2. 中国はどんな国？	中国に関する本を読んでおく。																																		
3. 音声(1)アクセント・意味の弁別	中国語の発音記号がわかるようにしておく。																																		
4. 音声(2)発音しにくい音	同上																																		
5. 語彙(1)色・動物のイメージ	日本語の色・動物のイメージについて考えておく。																																		
6. 語彙(2)オノマトペ・慣用句	中国語の語彙に関する本を読んでおく。																																		
7. 語彙(3)四字熟語・ことわざ	同上																																		
8. 語彙(4)中国人学習者の誤用	誤用に関する本を読んでおく。																																		
9. 文法(1)語順と構文	中国語の基本的な文法について把握しておく。																																		
10. 文法(2)受け身と使役	同上																																		
11. 文法(3)結果補語と方向補語	同上																																		
12. 文法(4)指示詞・数量詞	同上																																		
13. 中国文化に触れよう(1)冠婚葬祭	日本の文化について説明できるようにしておく。																																		
14. 中国文化に触れよう(2)年中行事	同上																																		
15. まとめ																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	第二外国語で1年中国語を勉強した程度の知識で十分理解できる内容ですが、各自教科書以外の中国語についての本を読むなど積極的な態度で授業に臨んでください。 特に外国人に日本語を教えたいと考えている受講者を歓迎します。																																		
フィードバックの方法:	授業中にまとめて行う。個別の質問に対しては授業が終わった後に対応する。																																		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																																
「成績評価基準」:	定期試験	60%	課題に関する理解度により評価する。																																
	授業への参加態度	40%	出席状況、発表に取り組む態度や授業への参加態度を基準とする。																																
教科書:	なし(プリントを配布する)																																		
参考書:	荒川清秀『一步すすんだ中国語文法』大修館書店 杉村博文『中国語文法教室』大修館書店 張麟声『日中ことばの漢ちがい』くろしお出版																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ：

日中両言語の語彙・文法及び語用例の分析

授業の概要：

講義プリントに沿って授業を行う。受講者はプリントに書き込みながら各テーマについて考える。

到達目標：

日中両言語の学習者がお互いの言語を学習する際に生じる誤用について明らかにし、日本語教育・中国語教育に生かせるようにする。

授業方法：

講義を主とするが、各自で考えたテーマで一人一回発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	中国語に関する疑問点などをまとめておく。
2.	漢語について	訓読み・湯桶読みなど日本語に特有の漢語との関わりについて考える。
3.	文字について(1)繁体字・簡体字・新字体	繁体字・簡体字について把握しておく。
4.	文字について(2)	同上
5.	日中同形語(1)	日中同形語にはどのようなものがあるか、意味の差異はないか考えておく。
6.	日中同形語(2)	同上
7.	日中同形語(3)	同上
8.	日中両語で品詞が異なるもの	中国語を日本語に訳す際、訳しにくいものはどんなものがあるか考えておく。
9.	日中両語で自他が異なるもの	同上
10.	日中両語でコロケーションが異なるもの	同上
11.	日本人中国語学習者の誤用①	同上
12.	日本人中国語学習者の誤用②	同上
13.	日中両言語の差異のまとめ	日本語、中国語を学習・教授する際にどのような点に気を付ければよいか考えておく。
14.	異文化コミュニケーション	新聞やニュースで中国がどのように取り上げられているか見ておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：

第二外国語を1年履修した程度の知識で十分理解できる内容ですが、各自教科書以外の中国語に関する本を読んでおくなど、積極的な態度で臨んでください。特に外国人に日本語を教えたいと考えている方を歓迎します。

フィードバックの方法：

教室でまとめて解説を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60%	課題に関する理解度により評価する。
	授業への参加態度	40%	出席状況、発表状況、授業への参加態度などを基準とする。

教科書：

なし(プリントを配布)

参考書：

荒川清秀『一步すすんだ中国語文法』大修館書店
寺野健夫『中国語ではそう言わない！日本人がつい言ってしまう日本語表現』三修社
張麟声『日本語教育のための誤用分析・中国語話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法：

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	日本語教育用初級教材を理解する。		
授業の概要:	日本語指導の初級段階の現場で幅広く用いられる教材・教具の、目的、利用方法、課題などを理解し、日本語指導に必要な基礎知識を身につける。技能別、学習者別の教材についても扱う。授業では、教科書の構成、指導内容の分析、練習方法を各課毎に扱う。学習内容の復習問題を課し学習内容の定着をはかる。さらに授業で扱った内容全般を整理する課題を与える。これは、学習内容の復習のみならず、発展的な応用練習も含む。この課題に取り組むことで、指導に必要な基礎知識の定着をはかる。		
到達目標:	①初級用の教材で扱われる場面、指導項目の内容及び提出順を理解すること。 ②練習方法の理論的背景を理解し、実際の指導技術の基本を身につけること。 ③適切な絵教材の選択眼及び作成力を養うこと。 ④学習者別、技能別の教材の特徴を理解すること。 ⑤初級レベルでの生教材の教材化の基礎を身につけること。		
授業方法:	講義形式で進める。内容によっては、課題を与え、発表あるいは提出を課す。内容の理解、基本的な用語の定着をはかるために、原則として毎回、復習問題を配布し提出を課す。学期末提出課題を課し、学習内容全般の理解を深め、指導上の基礎知識の定着をはかる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 初級教材の概要 2. 入門期の教材(教科書の構成、指導内容) 3. 入門期の教材(指導内容の分析) 4. 入門期の教材(練習方法、外国語教授法との関連) 5. 初級前半の教材(指導内容のつながり) 6. 初級前半の教材(指導内容のつながり) 7. 初級前半の教材(指導内容のつながり) 8. 初級後半の教材(指導内容と運用場面) 9. 初級後半の教材(指導内容と運用場面) 10. 初級後半の教材(指導内容と運用場面) 11. 技能別の教材 12. 学習者別の教材 13. 学習者別の教材 14. 視聴覚教材・教材や教具の効果的な使用法 15. まとめ	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。 復習問題に取り組	

授業テーマ:

日本語教育用中上級教材を理解する。

授業の概要:

日本語指導の中上級段階の現場で幅広く用いられている教材および専門に特化した教材について、その目的、使用方法、課題を理解し、日本語指導に必要な基礎知識を身につける。学期前半では、まず中級レベルの教科書の構成、指導内容の分析、指導方法などを扱う。学期後半では、上級及び超級の内容を扱う。学習者別、技能別の教材についても扱う。さらに、中上級レベルでの生教材の教材化の練習を行い、教材作成能力を身につける。毎回の授業後には復習問題を課し学習内容の定着をはかる。さらに授業で扱った内容全般を整理する課題を与える。これは、学習内容の復習のみならず、発展的な応用練習も含む。この課題に取り組むことで、指導に必要な基礎知識の定着をはかる。

到達目標:

①中級レベルの教科書の構成、指導内容、指導方法を理解すること。
②上級及び超級の教材の特徴を理解すること。
③学習者別、技能別の教材の特徴を理解すること。
④中上級レベルでの生教材の教材化の基礎を身につけること。

授業方法:

基本的に講義形式で進める。内容によっては、課題を与え、発表あるいは提出を課す。内容の理解及び基本的な用語の定着をはかるため、原則として、毎回、復習問題を配布し提出を課す。さらに授業で扱った内容全般を整理する課題を与える。これは、学習内容の復習のみならず、発展的な応用練習も含む。この課題に取り組むことで、指導に必要な基礎知識の定着をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	中級・上級の教材概要	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
2.	中級前半の教材(教科書の構成・指導内容)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
3.	中級前半の教材(指導内容の分析)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
4.	中級後半の教材(指導内容の分析)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
5.	中級後半の教材(指導内容の分析・話題の展開・応用練習)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
6.	中級用の教材(技能別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
7.	中級用の教材(技能別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
8.	上級用の教材(指導内容の概要)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
9.	上級用の教材(技能別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
10.	上級用の教材(技能別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
11.	上級用の教材(学習者別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
12.	上級用の教材(学習者別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
13.	超級用の教材	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
14.	教材や教具の効果的な使用法	学習内容の総復習をする。
15.	まとめ	学習内容全般を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本語学習者との積極的な交流をはかることが望まれる。提出課題は計画的に取り組み、授業内容の理解に努めてもらいたい。

フィードバックの方法:

毎回の復習問題は、添削し教室で返却する。提出課題は、添削しコメントをつけて教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び授業への積極的な参加	20%	出席及び授業への積極的な参加度により評価する。
毎回の復習問題	20%	到達目標①②③④に必要な内容の理解度により評価する。
提出課題	30%	到達目標①③③④に関する個々の課題の達成度により評価する。
定期試験	30%	到達目標①②③④に必要な知識の定着度により評価する。

教科書:

なし

参考書:

授業で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:

外国人に対する日本語プログラム設計の基本

授業の概要:

学習目的は学習者によって異なる。したがって、日本語の授業そのものは学習者に合う学習目標を設定し、それに基づいて項目などを設定する必要がある。そうした各々の学習者の目的に合った日本語プログラムを設計する力を身につける。講義や演習及びグループ学習・発表を通し、自らで考える力を養う。具体的には、留学生の学習者を想定し4～5人のグループを設ける。そのグループごとに模擬的にコースデザインを行い、教材を作成するなどして最終的には1グループ20分～30分程度の模擬授業を行う。

到達目標:

①学習者の目的や目標に合った日本語プログラムを設計する力を身につける

授業方法:

4～5人のグループごとに発表や教材作成を通し、コースデザインを進めていく。最終的には対象学習者に合った模擬授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. コースデザインとは何か	マナビーでの感想提出
	2. ニーズ分析①(目標言語調査)	マナビーでの感想提出
	3. ニーズ分析②	マナビーでの感想提出 発表に向けての準備(グループ)
	4. ニーズ分析③と発表	マナビーでの感想提出
	5. レディネス調査	マナビーでの感想提出
	6. シラバスデザイン①(構造・機能・場面)	マナビーでの感想提出
	7. シラバスデザイン②(概念・話題・複合)	マナビーでの感想提出 発表に向けての準備(グループ)
	8. シラバスデザイン③と発表	マナビーでの感想提出
	9. カリキュラムデザイン①	マナビーでの感想提出 教材作成(グループ)
	10. カリキュラムデザイン②と教材発表	マナビーでの感想提出 発表に向けての準備(グループ)
	11. カリキュラムデザイン③と発表	マナビーでの感想提出
	12. カリキュラムデザイン④と教案作成	マナビーでの感想提出
	13. 模擬授業①	模擬授業の準備
	14. 模擬授業②	模擬授業の準備
	15. 模擬授業③と授業の振り返り	模擬授業の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

グループごとの活動や発表が多いことに留意した上で受講してください。

フィードバックの方法:

授業感想はマナビーでコメントをつけて返却する。
模擬授業の授業観察記録はコメントをつけ、教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度、出席及びマナビーでの授業感想提出	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①ができるようになったか評価する。
	発表	50%	グループ発表での準備や自分の役割とその達成度、質疑応答などを踏まえ、到達目標①を評価する。
	レポート	20%	到達目標①ができるようになったのかを評価する。

教科書:

なし

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール(ftamao@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

初級段階の日本語教育文法

授業の概要:

初級日本語教育文法の最も基本的な項目について、学習者がつまづきやすい点や指導上のポイントを、学習者の母語による差異や影響にも触れながら学んでいく。

到達目標:

①日本語教育文法と学校文法との違いや、日本語教育初級前半レベルで教えられる日本語文法項目の指導上のポイントを知る。
②外国人に日本語を教えるうえで必要となる、日本語を客観的に捉える態度を身に付ける。
③日本語の文法や使い方を分析・整理する力、最も基本的な指導技術を身に付ける。

授業方法:

パワーポイントや配布プリントを用いて、講義形式で行います。授業は、その日に取り扱う文法項目について、まず受講者自身で、あるいは、他者との対話を通して考えたり確かめたりするタスクに取り組み、その上で重要なポイントについて解説を行うという流れを基本として行います。身の回りの日本語を観察する課題や、文法項目を効果的に教える方法をグループで話し合うタスク等も適宜与えます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 日本語を教えるということ	日本語の初級教科書を見てみる。
	2. 日本語教育文法とは	日本語の初級教科書観察課題に取り組む。
	3. こそあ(1)	日本語の初級教科書の、「こそあ」を扱う課を見てみる。
	4. こそあ(2)	日本語教科書において、文法項目がどのように提示されているかを見てみる。
	5. 文型(1)	複数の日本語初級教科書の文型の扱いを見比べてみる。
	6. 文型(2)	中学校で学んだ動詞の活用による分類や活用形について、思い出してみる。
	7. 動詞の扱い(1)	日本語初級教科書において、動詞の活用形がどのような順番で教えられているか見てみる。
	8. 動詞の扱い(2)	さまざまな活用形の教え方を、一つひとつ考えてみる。
	9. 動詞の扱い(3)	
	10. 動詞の扱い(4)	
	11. 形容詞の扱い(1)	日本語の初級教科書で形容詞がどのように扱われているか見てみる。
	12. 形容詞の扱い(2)	
	13. 助詞の扱い(1)	日本語初級教科書における助詞の扱いを見てみる。
	14. 助詞の扱い(2)	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

ふだんから、自身や他者の日本語使用に関心を向けたり、さまざまな日本語教科書に触れたりすることを勧めます。授業で示した事前学習、課題提出等は確実にこなしていきましょう。

フィードバックの方法:

・小テストは採点して返却し、授業で解説します。
・提出物は、必要に応じてコメントをつけて返却し、授業で解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	85%	到達目標①③に関する知識と理解度により評価します。中間試験25%、期末試験60%の割合とします。
	課題提出	15%	到達目標②の態度をもって課題に臨めているかを基準とします。

教科書:

参考書:

庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に、教室内で対応します。
Eメールも利用してください。 yuyamamo@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

初級段階の日本語教育文法

授業の概要:

初級日本語教育文法の最も基本的な項目について、学習者がつまずきやすい点や指導上のポイントを、学習者の母語による差異や影響にも触れながら学んでいく。

到達目標:

①日本語教育文法と学校文法との違いや、日本語教育初級後半レベルで教えられる日本語文法項目の指導上のポイントを知る。
②外国人に日本語を教えるうえで必要となる、日本語を客観的に捉える態度を身に付ける。
③日本語の文法や使い方を分析・整理する力、最も基本的な指導技術を身に付ける。

授業方法:

パワーポイントや配布プリントを用いて、講義形式で行います。授業は、その日に取り扱う文法項目について、まず受講者自身で、あるいは、他者との対話を通して考えたり確かめたりするタスクに取り組み、その上で重要なポイントについて解説を行うという流れを基本として行います。身の回りの日本語を観察する課題や、文法項目を効果的に教える方法をグループで話し合うタスク等も適宜与えます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 初級前半の日本語教育文法の復習	
	2. 助詞の扱い(3) ((1)(2)は春学期の日本語教育文法Aで扱う)	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見定める。
	3. 授受表現(1)	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見定める。
	4. 授受表現(2)	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見定める。
	5. 授受表現(3)	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見定める。
	6. まとめ(中間テスト)	これまでの授業内容を十分復習しておく。
	7. 中間テストのフィードバック、待遇表現(1)	中間テストで問われた内容について、復習しておく。
	8. 待遇表現(2)	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見定める。
	9. 待遇表現(3)	日常生活において、自他の待遇表現行動を観察する。
	10. 待遇表現(4)	日常生活において、自他の待遇表現行動を観察する。
	11. 自動詞と他動詞(1)	
	12. 自動詞と他動詞(2)	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見定める。
	13. テイルの扱い(1)	日常生活において、「動詞+テイル」をどのように持っているか、観察や分析を試みる。
	14. テイルの扱い(2)	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見定める。
	15. まとめ	これまでの授業内容を、十分復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本語教育文法Aとあわせての履修が望ましいですが、履修していない場合、参考文献として示した図書を用いてAで扱う内容について学習しておくことで、授業内容が理解しやすくなるでしょう。
ふだんから、自身や他者の日本語使用に関心を向けたり、さまざまな日本語教科書に触れたりすることを勧めます。
授業で示した事前学習、課題提出等は確実にこなしていきましょう。

フィードバックの方法:

・小テストは採点して返却し、授業で解説します。
・提出物は、必要に応じてコメントをつけて返却し、授業で解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	85%	到達目標①③に関する知識と理解度により評価します。中間試験25%、期末試験60%の割合とします。
	課題提出	15%	到達目標②の態度をもって課題に臨めているかを基準とします。

教科書:

参考書:

庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に、教室内で対応します。
Eメールも利用してください。 yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	「留学生10万人計画」以降の日本語教育の流れ		
授業の概要:	外国語教育は社会の動きと密接な関係を持っている。そこで、日本語教育が'84年の「留学生10万人計画」以降、どのような社会の動きによってどのように変化したかを解説する。解説に当たっては視聴覚教材を多用し、可能な限り具体的に述べる。		
到達目標:	①「留学生10万人計画」と日本語教育の変化について学ぶ。 ②ニューカマー急増とそれが日本語教育に与えた影響について学ぶ。 ③今日の日本語教育に関わる新しい流れについて学ぶ。		
授業方法:	講義形式。毎回、VTRを視聴する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	割合	準備学習等の内容
	1. 「留学生10万人計画」と日本語教育 1 概要	100%	「留学生10万人計画」の概要を調べる。
	2. 「留学生10万人計画」と日本語教育 2 教員養成		前回の授業を振り返る。
	3. 「留学生10万人計画」と日本語教育 3 やってきた留学生たち 1		前回の授業を振り返る。
	4. 「留学生10万人計画」と日本語教育 4 やってきた留学生たち 2		前回の授業を振り返る。
	5. 「留学生10万人計画」と日本語教育 5 機関整備 1		前回の授業を振り返る。
	6. 「留学生10万人計画」と日本語教育 5 機関整備 2		「留学生10万人計画」の概要を振り返る。
	7. ニューカマーの急増 1 概要		「ニューカマー」とはどういう人たちなのかその概要を調べる。
	8. ニューカマーの急増 2 中国帰国者		前回の授業を振り返る。
	9. ニューカマーの急増 1 日系人とその子弟たち 1		前回の授業を振り返る。
	10. ニューカマーの急増 1 日系人とその子弟たち 2		前回の授業を振り返る。
	11. ニューカマーの急増 1 日系人とその子弟たち 3		「ニューカマー」たちの概要を調べる。
	12. 日本語教育再編成 1		「留学生10万人計画」「ニューカマー」によって日本語教育にどのような影響があったのか振り返る。
	13. 日本語教育再編成 2		前回の授業を振り返る。
	14. 日本語教育に関わる新しい流れ 1		観光やクールジャパンなど、最近の新しい社会の動きを調べる。
	15. 日本語教育に関わる新しい流れ 2		新しい社会の動きと日本語教育のありようを考えてみる。
受講者へのメッセージやアドバイス:	日本語教育に関心のある学生の履修を幅広く歓迎するが、特に日本語教育を専攻しようという学生は必修に準ずるものとして履修するよう勧める。		
フィードバックの方法:	質問や意見については、授業中に、適宜、フィードバックする。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 レポート	割合 100%	評価基準 到達目標①～③の理解内容を問う小レポートをもって評価する。
教科書:	マナビーによって指示する。		
参考書:	授業中に、適宜、指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業前後に対応する。 Eメールやオフィスアワーも活用すること。 丸山 敬介 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	多文化共生に向けた日本語教育のあり方		
授業の概要:	地域に密着した多文化共生の為の「やさしい日本語」を考える。 留学生のみならず定住外国人や短期滞在者から観光客に至るまで、媒介語としての日本語「やさしい日本語」のそれぞれの形と本質を考える。		
到達目標:	「やさしい日本語」誕生の背景と意味を理解し、使用できるようにする。 地域貢献と国際貢献のための日本語「やさしい日本語」習得に努める。		
授業方法:	講義と演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業オリエンテーション 評価方法 毎週の確認テスト 出席と態度 その他	教科書に目を通してくる	
	2. 気付き:「やさしい日本語」の存在	自分の市町村で情報収集してくる (市役所・病院・学校・裁判所など)	
	3. 「やさしい日本語」を紐解く(1)	「やさしい日本語」の背景を調べてくる (弘前大学 佐藤和之研究室HP参照)	
	4. 「やさしい日本語」を紐解く(2)	定住外国人と留学生との違いをできるだけ多方面から考えてくる	
	5. 「やさしい日本語」を紐解く(3)	定住外国人における、「やさしい日本語」のメリット・デメリットを考えてくる	
	6. 「やさしい日本語」を紐解く(4)	日本の外国人受け入れ対策の歴史的背景を調べてくる	
	7. 「やさしい日本語」を紐解く(5)	国内外における日本語教育の歴史的背景を調べてくる	
	8. 「やさしい日本語」再考(1)	日本語教育における「やさしい日本語」の位置付けについて考えてくる	
	9. 「やさしい日本語」再考(2)	語学教育における諸外国と日本との比較を考えてくる	
	10. 「やさしい日本語」再考(3)	日本語の特徴を、調べてくる (日英比較など)	
	11. 「やさしい日本語」再考(4)	Special English , VOA, Basic English などからアメリカの移民に対する言語政策を眺めてくる	
	12. 「やさしい日本語」再考(5)	EUのCEFR、アメリカの21c外国語学習スタンダード、及び国際交流基金のJFスタンダードの本質を調べてくる	
	13. 「やさしい日本語」の問題点(1)	やさしい日本語の問題点を考えてくる	
	14. 「やさしい日本語」の問題点(2)	やさしい日本語に関する質問を各自3点以上、考えてくる	
	15. まとめ	自分の考えを自分の言葉でまとめる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ネット環境にいる皆さんは、居ながらにして世界中の情報を瞬時に収集できる環境にあります。 その利点を生かして、毎回1時間で結構ですから自分で情報を収集し、自分の言葉で纏めながら自分だけのポートフォリオを作成してください。 きっとテストの時のみならず、日本語教育能力検定試験や就職にも役立つこと受合います！ やればやるだけ自分の血となり肉となるでしょう。		
フィードバックの方法:	毎回の小テストと確認 質問と回答 その他、「マナビー」利用による情報発信と収集		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎回の小テスト	30	復習確認
	学期末テスト	50	普通に学んでいれば70%取れる問題
	授業での貢献度	20	真剣さ、誠実さ、質疑応答、受講態度等
教科書:			
参考書:	庵 功雄他 『「やさしい日本語」は何を目指すか』 ココ出版 2013 庵 功雄 『やさしい日本語』 岩波新書 2016 縫部義憲 『多文化共生時代の日本語教育』 歴々社 2007 岡戸浩子 『グローバル化時代の言語政策』 くろしお出版 2003 多言語化現象研究会 『多言語社会日本』 三元社 2015		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	マナビー利用予定 詳細はオリエンテーションで説明いたします		

授業テーマ:	後期オリエンテーション 学び方と評価法 その他		
授業の概要:	避難所運営ゲーム(HUGゲーム)、 より良い防災カルタ作成、 東京オリンピック・パラリンピックに向けたピクトグラム再考 等による「やさしい日本語」の利用		
到達目標:	地域と外国人の仲立ちとして働ける人材(グローバル人材)の育成		
授業方法:	講義と演習		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 評価方法の説明 その他	教材・参考書から、授業内容に関する部署に目を通してくる	
	2. HUGゲーム(1)	感想と気づきを纏める	
	3. HUGゲーム(2)	新しい気づきを纏める	
	4. HUGゲーム(3)	新しい気づきと、このゲームの問題点を纏める	
	5. HUGゲーム(4)	市販のゲームの不足を補う	
	6. HUGゲーム(5)	HUGゲーム全体の諸問題を纏める	
	7. 防災日本語を考える(1)	分担部分を書き換える	
	8. 防災日本語を考える(2)	分担部分を書き換える	
	9. 防災日本語を考える(3)	分担部分を書き換える	
	10. 防災日本語を考える(4)	分担部分を書き換える	
	11. 防災日本語を考える(5)	やさしい日本語の新しい役割を考えてくる	
	12. やさしい日本語の新たな役割りを考える(1)	日本語教育の多様性を調べてくる	
	13. やさしい日本語の新たな役割りを考える(2)	日本語教育の専門性を考えてくる	
	14. やさしい日本語の新たな役割りを考える(3)	少子高齢化と日本語教育を考えてくる	
	15. まとめ	纏める	
受講者への メッセージや アドバイス:	毎回の学習準備を真面目に行ってください。 ネットサーフィンしながら楽しく準備しましょう。		
フィードバックの 方法:	毎回の小クイズ 質問と回答		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小クイズ	30	0・1・2点の三段階評価
	学期末テスト	50	不通に授業に参加していれば70から80%取れる内容
	その他	20	授業態度、授業貢献度など
教科書:	授業時に説明します		
参考書:	松尾知明『多文化共生のためのテキストブック』 明石書店 2011 荒川洋平『もしも・・・あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』 スリーエーネットワーク 2010 日本語教育政策マスタープラン研究会『日本語教育でつくる社会 私たちの見取り図』 ココ出版 2010 田尻英三他『外国人の定住と日本語教育』 ひつじ書房 2007		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理 力		
教員との連絡 方法:	マナビー利用予定		

授業テーマ:

日本語指導プログラムへの参加を通して、日本語教師としての成長を目指す。

授業の概要:

外国人など日本語を母語としない人を対象に、実際に日本語指導を経験する。本シラバスで指定されている、20時間を超える学内外日本語指導プログラムに各々参加します。授業では、事前指導と事後指導を実施します。

到達目標:

日本語学習者への日本語指導実習を経験することにより、以下の学びを得て教師として成長することを目標とします。
①各現場の日本語教育の特性を知る。
②日本文化や日本語への関心とともに、他国の情勢や文化への関心も高める。
③日本語指導に必要な知識・技術の運用能力を高める。
④実践をふりかえることにより、さらなる教師成長を実現する。

授業方法:

1. 対象プログラム
()内に本科目が対象とする各プログラムの実習実施時期を示す。
(1)オーストラリア・ビクトリア州JFLプログラム(2017年2月)
(2)台湾、国立政治大学日本語指導実習プログラム(2017年3月)
(3)台湾、静宜大学日本語指導実習プログラム(2017年3月)
(4)京都日本語教育センター「大学生のための日本語教育実習」(2017年度春学期)
(5)京都市教育委員会主催 京都市立小中学校 日本語ボランティア(2016年度秋学期もしくは2017年度春学期。なお、本ボランティアは4月から1年間の参加を基本とされている。参加を希望する者は、当該機関にてできるだけ早くボランティア登録を済ませること。)
(6)伏見青少年活動センター主催「にほんご教室」日本語ボランティア(2016年度秋学期もしくは2017年度春学期)
(7)ニュージーランド日本語教育実習プログラム(2017年2～3月)
(8)タイスィーパトゥム大学日本語指導実習プログラム(2～3月に実施されるが、2016年度は中止)
(9)同志社女子大学 Japanese Studies Program Teaching Assistant(2016年度秋学期に実施済み)
(1)～(8)はいずれも学外のプログラムであるが、(1)は一定の信頼関係のもとに本学が紹介しているもの、(2)および(3)は本学と協定関係にある静宜大学、政治大学に実施を依頼しているものである。(9)は学内のプログラムで、参加は日本語日文学科の学生で日本語教育を専攻する者に限る(「日本語指導」を履修しない者は原則としてこのプログラムへの参加を認めない)。なお、同一プログラムで「日本語指導A・B」2科目を履修することはできない。
2.履修登録
履修を希望する者は、上記のプログラムに個人で申し込み、下記のいずれかでなければならない。
a. 当該学期中に終了を予定している。
b. 当該学期直前の学期に、すでにプログラムを終了している。
上記「1」の()に示した実習実施時期を確認のうえ、登録を行うこと。
b. においては、プログラム終了時に2年次生であっても当該学期に3年次生であれば、登録を認める。
3.発表
授業計画の1.～2.においては、当該学期中にプログラム参加を予定している者は参加のねらい・学びたいことがらに関して、当該学期直前の学期にプログラムを終了している者はその指導実践に関して発表を行い、質疑応答を行う。同じく12.～15.においては、当該学期中にプログラム参加を終了した者が発表し、質疑応答を行う。
4.その他
2015年度以降入学の日本語日文学科の学生で日本語教育を専攻する者は、「日本語指導」を必ず履修すること。2014年度以前入学生においては「日本語指導」は必修ではないが、それに準ずるものとして、3・4年次に1科目以上履修することを強く勧める。なお、日本語実習に興味・関心を持つ者であれば、学部・学科、年次にかかわらず聴講を歓迎する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業に関するオリエンテーション	
	2. 各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
	3. 各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
	4. 各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
	5. 各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
	6. 各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
	7. 各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
	8. 各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
	9. 各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
	10. 各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
	11. 各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
	12. 各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
	13. 各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備
	14. 各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備
	15. 各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

履修する時点で、前学期中にすでにプログラムに参加、もしくは参加申し込みしているか、今学期中に参加するプログラムを決めている必要があります。不明な点があれば、メール等で質問・相談してください。プログラムへの申し込みは、各自で行います。プログラムにより、実習参加時期、費用の要不要が異なるので、十分に調べたうえで申し込むようにしましょう。

フィードバックの方法:

授業でフィードバックを行うほか、メールでの質問にも応じます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プログラム修了	50%	修了証の提出(到達目標①～③)。
	発表およびレポート	50%	発表、および、レポート提出(到達目標④)。いずれかを欠いた者は不合格とする。

教科書:

参考書:

浅倉美波他『日本語教師必携 ハート&テクニック』
 庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』
 庵功雄他『中級を教える人のための日本語文法ハンドブック』
 市川保子『初級日本語文法と教え方のポイント』
 市川保子『中級日本語文法と教え方のポイント』
 川口義一・横溝紳一郎『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上・下)』
 丸山敬介『日本語教育演習シリーズ(5) 教え方の基本』

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室で対応。
Eメールでの連絡もできます:yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

日本語指導プログラムへの参加を通して、日本語教師としての成長を目指す。

授業の概要:

外国人など日本語を母語としない人を対象に、実際に日本語指導を経験する。本シラバスで指定されている、20時間を超える学内外日本語指導プログラムに各々参加します。授業では、事前指導と事後指導を実施します。

到達目標:

日本語学習者への日本語指導実習を経験することにより、以下の学びを得て教師として成長することを目標とします。
①各現場の日本語教育の特性を知る。
②日本文化や日本語への関心とともに、他国の情勢や文化への関心も高める。
③日本語指導に必要な知識・技術の運用能力を高める。
④実践をふりかえることにより、さらなる教師成長を実現する。

授業方法:

1.対象プログラム
(1)オーストラリア ビクトリア州 TJFLプログラム(2017年夏期休学中)
(2)京都日本語教育センター「大学生のための日本語教育実習」(2017年春学期)
(3)京都市教育委員会主催 京都市立小中学校 日本語ボランティア(2017年春学期もしくは秋学期。なお、本ボランティアは4月からの1年間の参加が基本とされているが、その他の時期に追加募集が行われることもある。参加を希望する者は、できるだけ早くボランティア登録を済ませること。)
(4)伏見青少年活動センター主催「にほんご教室」日本語ボランティア(2017年春学期もしくは秋学期)
(5)同志社女子大学 Japanese Studies Program Teaching Assistant (2017年秋学期)
(1)～(4)はいずれも学外のプログラムであるが、(1)は一定の信頼関係のもとに本学が紹介しているもの。(5)は学内のプログラムで、日本語日本文学科の学生で日本語教育を専攻する者に限る(本科目を履修しない者は原則としてこのプログラムへの参加を認めない)。なお、同一プログラムで「日本語指導A・B」2科目を履修することはできない。
2.履修登録
履修を希望する者は、上記のプログラムに個人で申し込み、下記のいずれかでなければならない。
a. 当該学期中に終了を予定している。
b. 当該学期直前の学期に、すでにプログラムを終了している。
上記「1」の()に示した実習実施時期を確認のうえ、登録を行うこと。
b. においては、プログラム終了時に2年次生であっても当該学期に3年次生であれば、登録を認める。
3.発表
授業計画の1.～2.においては、当該学期中にプログラム参加を予定している者は参加のねらい・学びたいことがらに関して、当該学期直前の学期にプログラムを終了している者はその指導実践に関して発表を行い、質疑応答を行う。同じく12.～15.においては、当該学期中にプログラム参加を終了した者が発表し、質疑応答を行う。
4.その他
2015年度以降入学の日本語日本文学科の学生で日本語教育を専攻する者は、「日本語指導」を必ず履修すること。2014年度以前入学生においては「日本語指導」は必修ではないが、それに準ずるものとして、3・4年次に1科目以上履修することを強く勧める。なお、日本語実習に興味・関心を持つ者であれば、学部・学科、年次にかかわらず聴講を歓迎する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業に関するオリエンテーション	
2.	各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
3.	各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
4.	各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
5.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
6.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
7.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
8.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
9.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
10.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
11.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
12.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
13.	各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備
14.	各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備
15.	各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

履修する時点で、前学期中にすでにプログラムに参加、もしくは参加申し込みしているか、今学期中に参加するプログラムを決めている必要があります。不明な点があれば、メール等で質問・相談してください。プログラムへの申し込みは、各自で行います。プログラムにより、実習参加時期、費用の要不要が異なるので、十分に調べたうえで申し込むようにしましょう。

フィードバックの方法:

授業でフィードバックを行うほか、メールでの質問にも応じます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	プログラム修了	50%	修了証の提出(到達目標①～③)。
	発表およびレポート	50%	発表、および、レポート提出(到達目標④)。いずれかを欠いた者は不合格とする。

教科書:

参考書:

浅倉美波他『日本語教師必携　ハート&テクニック』
庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』
庵功雄他『中級を教える人のための日本語文法ハンドブック』
市川保子『初級日本語文法と教え方のポイント』
市川保子『中級日本語文法と教え方のポイント』
川口義一・横溝紳一郎『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上・下)』
丸山敬介『日本語教育演習シリーズ(5) 教え方の基本』

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室で対応。
Eメールでの連絡もできます : yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

日本語教育初級段階初期における教室活動

授業の概要:

初級段階の初期における基本的な項目の基本的な指導方法について、教材・教具、指導技術その他の点から具体的に学ぶ。

到達目標:

①日本語教育初級初期の指導プロセスを学ぶ。
②日本語教育初級初期の教材・教具の用い方について学ぶ。

授業方法:

基本的に6〜7名程度の小グループに分け、教師による説明 → 互いを教師と学習者に見立てた模擬指導、という構成で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 日本語教育初級段階の指導項目概観	初級教科書についてその概要を調べる。
	2. 初級段階初期の指導 1-1	初級の初期に取り上げる項目について調べる
	3. 初級段階初期の指導 1-2	前回の授業を振り返る。
	4. 初級段階初期の指導 1-3	前回の授業を振り返る。
	5. 初級段階初期の指導 2-1	教師の指示する第2項目について調べる。
	6. 初級段階初期の指導 2-2	前回の授業を振り返る。
	7. 初級段階初期の指導 2-3	前回の授業を振り返る。
	8. 初級段階初期の指導 3-1	教師の指示する第3項目について調べる。
	9. 初級段階初期の指導 3-2	前回の授業を振り返る。
	10. 初級段階初期の指導 3-3	前回の授業を振り返る。
	11. 初級段階初期の指導 4-1	教師の指示する第4項目について調べる。
	12. 初級段階初期の指導 4-2	前回の授業を振り返る。
	13. 初級段階初期の指導 4-3	前回の授業を振り返る。
	14. 初級段階初期の指導 5-1	教師の指示する第5項目について調べる。
	15. 初級段階初期の指導 5-2	前回の授業を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:

模擬授業という形式が基本なので、一般の授業より一層の積極的学習態度が求められる。

フィードバックの方法:

授業の前後・最中に、適宜、フィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	100%	到達目標①②の達成度並びに自らの役割を踏まえた授業中の態度を評価対象とする。なお、正当な理由なく5回以上欠席の場合は不可とする。

教科書:

マナビーで指示する。

参考書:

授業中に、適宜、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後に対応する。
Eメールやオフィスアワーも活用すること。
丸山 敬介 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

日本語教育初級段階中期における教室活動

授業の概要:

初級段階の中期における基本的な指導方法について、教材・教具、指導技術その他の点から具体的に学ぶ。

到達目標:

①日本語教育初級中期の指導プロセスを学ぶ。
②日本語教育初級中期の教材・教具の用い方を学ぶ。

授業方法:

基本的に6～7名の小グループに分け、教師による説明 → 互いを教師と学習者に見立てた模擬指導、という構成で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本語教育初級段階の指導項目概観	初級教科書についてその概要を調べる。
2.	初級段階中期の指導 1-1	初級の中期に取り上げる項目について調べる。
3.	初級段階中期の指導 1-2	前回の授業を振り返る。
4.	初級段階中期の指導 1-3	前回の授業を振り返る。
5.	初級段階中期の指導 2-1	教師の指示する第2項目について調べる。
6.	初級段階中期の指導 2-2	前回の授業を振り返る。
7.	初級段階中期の指導 2-3	前回の授業を振り返る。
8.	初級段階中期の指導 3-1	教師の指示する第3項目について調べる。
9.	初級段階中期の指導 3-2	前回の授業を振り返る。
10.	初級段階中期の指導 3-3	前回の授業を振り返る。
11.	初級段階中期の指導 4-1	教師の指示する第4項目について調べる。
12.	初級段階中期の指導 4-2	前回の授業を振り返る。
13.	初級段階中期の指導 4-3	前回の授業を振り返る。
14.	初級段階中期の指導 5-1	教師の指示する第5項目について調べる。
15.	初級段階中期の指導 5-2	前回の授業を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:

模擬授業という形式が基本なので、一般の授業より一層の積極的学習態度が求められる。

フィードバックの方法:

授業の前後・最中に、適宜、フィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	100%	到達目標①②の達成度並びに自らの役割を踏まえた授業中の態度を評価対象とする。なお、正当な理由なく5回以上欠席した場合は不可とする。

教科書:

マナビーで指示する。

参考書:

授業中に、適宜、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後に対応する。
また、Eメール・オフィスアワも活用すること。
丸山敬介 kmaruyam@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

日本における子どもに対する母語教育・継承語教育と成人に対する識字・日本語教育-外国人学校・民族学校・中学校夜間学級・日本語識字教室を中心に-

授業の概要:

戦後の日本における言語教育(「国語」「外国語」)をふまえつつ、民族的マイノリティの子どもたちの教育を母語・継承語の観点から考える。「子どもの権利条約」第30条にある「マイノリティの子どもたちが自己の文化を共有する権利を否定されない」という趣旨の条項を実現するためには何が必要か検討したい。

到達目標:

具体的に、日本各地にある、外国にルーツのある子どもたちのための外国人学校・民族学校における母語教育・継承語教育を考察する。また、日本における成人に対する日本語教育の諸形態も考察する。

授業方法:

講義形式でおこなう。映像資料を頻繁に使用する。また、5月にはグループわけをし、民族学校・外国人学校・中学校夜間学級・日本語識字教室・日本語学校などへ行って、インタビュー調査をし、レポートをまとめ、報告書を作成する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
2.	日本における「国語」「外国語」教育について	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
3.	日本に暮らす外国人について(1)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
4.	日本に暮らす外国人について(2)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
5.	日本に暮らす外国人について(3)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
6.	母語教育・継承語教育について	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
7.	朝鮮学校について(1)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
8.	朝鮮学校について(2)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
9.	民族学校・外国人学校などについて(1)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
10.	民族学校・外国人学校などについて(2)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
11.	レポート作成について(1)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
12.	レポート作成について(2)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
13.	レポート作成について(3)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
14.	レポート作成について(4)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
15.	総括(レポート報告会)	講義をうのみにするのではなく、自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

調査先の学校へは学生自ら取材を申し込み、アポを取り、インタビューをおこない、レポートをまとめてもらう。初めての経験だとは思いますが、積極的な取り組みを望む。

フィードバックの方法:

学生から提出されたレポートを1冊の報告書にまとめ、授業最終日にプレゼンテーションをしていただき、学生同士の成果を確認しあう。また、お世話になった学校に報告書をお届けすることで自分たちの調査の意味を考える。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	授業への積極的参加度を見る。教育実習などのある学生は配慮する。
	期末レポート	70	各自、5月末までに訪問学校・教室を決め、グループにわかれて、インタビュー調査をして、原稿を執筆する。 提出されたレポートを報告集として発行する。

教科書:

特に指定しない。授業中に、随時プリントを配布する。

参考書:

中村一成(2014)『ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件ー〈ヘイトクライム〉に抗して』岩波書店
師岡康子(2013)『ヘイト・スピーチとは何か』岩波新書
多言語化現象研究会編(2013)『多言語社会日本ーその現状と課題ー』三元社
丹羽雅雄(2012)『知っていますか？ 移住労働者とその家族の人権 一問一答』解放出版社
真田信治・庄司博史編(2005)『事典 日本の多言語社会』岩波書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

masipon@nifty.com

授業テーマ:	国際交流の現場体験
授業の概要:	外国語教育はその時々々の社会情勢のありように大きな影響を受ける。今日の日本では、中国帰国者・日系人・日本人と結婚した外国人などいわゆるニューカマーと呼ばれる人たちの定住が進む一方で、政府の後押しを受けた観光客の急増などが認められる。最近では、これらに、介護士・看護師が加わる。こうした外国人を受け入れていくには、日本社会はどう変わるべきなのか、そして、その流れの中で何が日本語教育に求められているのか。そうしたことがらを実地体験する。
到達目標:	①関西を訪れるあるいは関西に居住する外国人はどのような環境にあつていかなる行動をとっているのかを観察すること ②彼らの生活においてどのような日本語指導の必要性が生じているのかを考察すること ③①②の実際を、国際交流団体の窓口業務を通して学ぶこと
授業方法:	インターンシップ先:京都市・大阪市・滋賀県大津市内の国際交流団体・日本語学校など 実習先については追加・削除など変更の可能性があるので、掲示に注意すること。

授業方法:
事前指導として、インターンシップ先の活動内容を把握しその機関において自分は何を学びたいかを明らかにし、発表する。インターンシップそのものでは、原則、2週間程度、50時間以上の活動が求められる。携わる活動はインターンシップ先によるが、日本語指導を行っている機関において、外国人の受け入れから送り出しまでのさまざま側面における補助的な活動をずるものと思われる。その後、事後指導として、インターンシップ先で行った活動内容とそこで何を感じ考え何を学んだかを、各自、発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	インターンシップ先の活動内容及びそこにおいて学ぼうとする事柄に関する発表 1	インターンシップ先の沿革・活動内容などについて調べる。また、そこで自分が何を学びたいかをまとめる。
2.	インターンシップ先の活動内容及びそこにおいて学ぼうとする事柄に関する発表 2	インターンシップ先の沿革・活動内容などについて調べる。また、そこで自分が何を学びたいかをまとめる。
3.	インターンシップ先での活動(各自) 1	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
4.	インターンシップ先での活動(各自) 2	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
5.	インターンシップ先での活動(各自) 3	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
6.	インターンシップ先での活動(各自) 4	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
7.	インターンシップ先での活動(各自) 5	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
8.	インターンシップ先での活動(各自) 6	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
9.	インターンシップ先での活動(各自) 7	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
10.	インターンシップ先での活動(各自) 8	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
11.	インターンシップ先での活動(各自) 9	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
12.	インターンシップ先での活動(各自) 10	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
13.	インターンシップ先で行った活動内容及び意見・感想の発表 1	インターンシップ先の活動と自分が学んだことについてまとめる。
14.	インターンシップ先で行った活動内容及び意見・感想の発表 2	インターンシップ先の活動と自分が学んだことについてまとめる。
15.	インターンシップ先で行った活動内容及び意見・感想の発表 3	インターンシップ先の活動と自分が学んだことについてまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:	インターンシップ先の業務に支障のないよう自覚を持って行動することが求められるので、その旨、十分、心得ておくこと。
フィードバックの方法:	事前事後の授業においては、適宜、教室内外でフィードバックする。インターンシップ先のことについては、適宜、対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の積極的参加度	50%	事前・事後指導における発表並びに他の学生の発表時の質疑応答の模様に①～③の観点から評価する。やむを得ない場合を除き、欠席は認めない。
	レポート	50%	事後指導における発表をまとめたレポートを①～③の観点から評価する。

教科書:	なし

参考書:	なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

丸山 敬介
kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	日本語でのさまざまな言語表現の基礎を学習し、豊かな自己表現の向上をめざす。		
授業の概要:	・主にテキストの問題を解きながら、いろいろな日本語の表現方法について学ぶ。合わせて、実際身近にあるものを題材とし、検討する。また、2〜7回目まで「ことばの表現トレーニング」も行う。		
到達目標:	・日常生活をとりまく日本語の表現を問題にし、わかりやすく「読み手」に伝えるためにはどのようなことに注意すればよいのかを考える。		
授業方法:	教員の講義を中心とした授業ではなく、受講者自身が問題点をみつけ、再構成し、発表するという形で行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	・導入(講義の進め方など)	配布プリント完成 ・ことばのトレーニング①
	2.	・ことばのトレーニング①	配布プリント完成 ・ことばのトレーニング②
	3.	・伝えるとはどういうことか-注意書きやサービス案内などについて	2回目のテキスト問題完成
		・ことばのトレーニング②	配布プリント完成 ・ことばのトレーニング③
	4.	・発表-注意書きやサービス案内などについて	4回目の題材探し 配布プリント完成 ・ことばのトレーニング④ ・メールについて
		・ことばのトレーニング③	
	5.	・身近にある注意書きやサービス案内などについて検討する	配布プリント完成 ・ことばのトレーニング⑤
		・ことばのトレーニング④	
	6.	・メールについて-メールの問題点についてディカッションする-	配布プリント完成 ・ことばのトレーニング⑥
		・ことばのトレーニング⑤	
	7.	・問い合わせメールについて	6回目のテキスト問題完成 7回目のテキスト問題完成
		・ことばのトレーニング⑥	
	8.	・発表-問い合わせメールについて	9回目のテキスト問題完成
		・お願いメールについて	10回目題材探し 11回目題材探し
受講者へのメッセージやアドバイス:	9.	・わかりにくいものをどのようにすればわかり易く伝えられるのか-マニュアルを例に	
	10.	・発表-マニュアルの説明	
	11.	・身近にあるマニュアルについて検討する	11回目のテキスト問題完成
		・アンケートについて考える	12回目のテキスト問題完成
	12.	・アンケートをつくる	13回目のテキスト問題完成
	13.	・発表-アンケートについて	
	14.	・広告について	
		・発表-広告について	
	15.	まとめ	
フィードバックの方法:	「ことばのトレーニング」については、教室でまとめて解説。それ以外の提出物はコメントを付け、教室内で返却。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	参加態度	10	積極的に授業に参加し、自分の考えをきちんと伝えることができているかどうか。
	提出物 試験	20 70	前向きに取り組んでいるかどうか。 内容については、事前に知らせる。
教科書:	野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』(ひつじ書房)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業の前後に対応。		

授業テーマ:

母国語である日本語を見つめなおし、よりよい表現者となることを目指す。

授業の概要:

私たちが日頃よく目にする表現(漢字・ことわざ・慣用句・文法・敬語など)について、誤りや曖昧な点を意識し、どのように表現すればよいかを考える。

到達目標:

日常生活におけるあらゆる場面で自分自身を表現できる能力を養う。

授業方法:

テキストに沿って講義・演習・グループ発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	各自「気になる日本語」をピックアップする。
2.	言葉と表現(1)漢字・おかしい?おかしくない?この表現①	同上
3.	言葉と表現(2)漢字・おかしい?おかしくない?この表現②	同上
4.	言葉と表現(3)四字熟語・さ入れ・ら抜き・れ足す言葉	同上
5.	言葉と表現(4)慣用句・間違えやすい漢字	同上
6.	言葉と表現(5)ことわざ・間違えやすい表現	同上
7.	言葉と表現(6)文の構造	同上
8.	話してみよう(1)自己PR	自己紹介の際、どのような工夫をすれば聞き手の印象に残るかを考える。
9.	話してみよう(2)インタビュー	人をどのように紹介すれば聞き手により印象を与えるかを考える。
10.	話してみよう(3)発表	グループ発表を通じて各自原稿の手直しを行う。
11.	敬語(1)	敬語の基礎について学ぶ。
12.	敬語(2)	各自「気になる敬語」をピックアップする。
13.	敬語(3)	同上
14.	日本語能力試験問題をやってみよう	社会人に求められる日本語力について意識する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

社会人として最低限必要な日本語の表現について皆で学び、考えます。
遅刻・欠席のないようにしてください。

フィードバックの方法:

授業でまとめて解説する。個別に添削してもらいたい時は授業が終わった後に対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50%	到達目標の理解度により評価する。
	授業への参加態度	50%	出席状況や、話し合いに積極的に参加しているか、課題が提出されているかを基準とする。

教科書:

米田明美他著『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	日本語でのさまざまな言語表現の基礎を学習し、豊かな自己表現の向上をめざす。		
授業の概要:	1～6回目まではテキストの問題を解きながら、自分の意見をまとめて発表する。7～11回目までは課題発表(12～14回目)のための準備・練習のための時間とする。15回目はみんなで意見を出し合いながら「謝る・断る」ということを考える。		
到達目標:	・日常生活をとりまく日本語の表現を問題にし、わかりやすく「聞き手」に伝えるためにはどのようなことに注意すればよいのかを考える。		
授業方法:	教員の講義を中心とした授業ではなく、受講者自身が問題点をみつけ、再構成し、発表するという形で行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ・日本語弱者のことを考えた書き方①	配布プリント	・日本語弱者のことを考えた話し方
	・発表-日本語弱者のことを考えた書き方①		
	2. ・日本語弱者のことを考えた書き方②	配布プリント	・自己紹介について考える
	・発表-日本語弱者のことを考えた書き方②		
	・日本語弱者のことを考えた話し方		
	3. ・自己紹介について	配布プリント	・自分の長所について考える
	・読み手の受け取り方とは-ニュースレターなどを参考に		
	・発表-ニュースレター		
	4. ・自分の長所について	4回目の問題完成	
	・自己アピールとは何か①-応募書類を題材に-		
	5. ・発表-応募書類	5回目の問題完成	
	・自己アピールとは何か②-エントリーシートを題材に-		
	6. ・発表--エントリーシート	エントリーシート完成	
	・自分のエントリーシートを書く		
7. ・紹介スピーチについて	紹介スピーチの題材探し(私の好きなもの)		
・1分間スピーチ			
・紹介スピーチ①(私の好きなもの)			
8. ・紹介スピーチ①(私の好きなもの)-原稿作り	8回目の原稿作りを完成		
9. ・紹介スピーチ②(新聞記事紹介)	紹介スピーチの題材探し(新聞記事)		
10. ・紹介スピーチ②(新聞記事紹介)-原稿作り	10回目の原稿作りを完成		
11. ・発表-紹介スピーチ②			
12. 課題発表			
13. 課題発表			
14. 課題発表			
15. 聞き手を配慮した話し方「断る」「謝る」			
受講者へのメッセージやアドバイス:	各自の日本語の表現力を養成する場所が授業だと思い、参加してほしい。		
フィードバックの方法:	提出物はコメントをつけて返却。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	参加態度	20	授業中、意欲的に発表しているかどうか。
	提出物	30	前向きに取り組んでいるかどうか。
	課題発表	50	評価内容については授業内で知らせる。
教科書:	野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』(ひつじ書房)		
参考書:	銅直信子・坂東実子『大学生のための文章表現&口頭発表』(国書刊行会)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後に対応。		

授業テーマ:

母国語である日本語を見つめなおす。

授業の概要:

社会人になってから必要とされる、様々な文書を書く技術や、マナーについて皆で学び、考える。

到達目標:

社会人として、よりよい表現者として、あらゆる場面に対応できるようになること。

授業方法:

毎回出されるテーマについて受講者個人で考えながら文章を書く。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	主観的・客観的表現について考える
2.	説明・描写(1)物について説明する	聞き手の知らない事柄について言葉だけで説明する方法を考える。
3.	説明・描写(2)道案内する	同上
4.	文章の要約(箇条書き・要約の仕方)	わかりやすい文章について考える。
5.	手紙を書く(改まった手紙の書き方)	改まった文書について意識しておく。
6.	案内文を書く(ビジネス文書の書き方)	同上
7.	冠婚葬祭のマナー	冠婚葬祭のマナーについての本を読んでおく。
8.	分析・考察(1)レポート・論文の形式	レポートや論文を読み、どのような構成や表現となっているかを考えておく。
9.	分析・考察(2)データの説明の仕方	同上
10.	分析・考察(3)考察・意見の書き方	同上
11.	就職活動の準備(1)エントリーシート	自分のやってみたい仕事について考えておく。
12.	就職活動の準備(2)ディスカッション	テレビのCMや広告を見ておく。
13.	ビジネスマナー	ビジネスマナーについての本を読んでおく。
14.	日本語検定問題	社会人として必要な日本語力について考える。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業ではたくさん考え、たくさん書きます。課題を通して社会人の疑似体験をしてみましょう。遅刻・欠席のないようにしてください。

フィードバックの方法:

授業でまとめて行う。漢字の間違いなど簡単な添削は行うが、内容に関する添削に関しては授業が終わった後、希望者に個別に対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50%	到達目標に関する理解度によって評価する。
	授業への参加態度	50%	出席状況、課題の提出状況、授業への参加態度を基準とする。

教科書:

米田明美他著『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

広告とコピーライティングの基礎を学び、演習を通して「ことばを凝縮する難しさと楽しさ」を経験することを目指す。

授業の概要:

授業全15回を下記の3ステージで構成する。

ステージ① クリエイターの仕事ぶりを通して広告の世界を理解する
ステージ② 名コピーライター岩崎俊一氏の作品集を読み込みコピーの奥義に触れる
ステージ③ コピーライターになったつもりで演習にチャレンジ(思案を楽しんでください)

到達目標:

ふたつの目標掲げるが、どちらかという目標②を重視。ただし経験を通して本人が何かを感じ取ることを大切にし、演習の巧拙で優劣をつけることはしない。

目標① 企業活動における広告の位置づけと制作者に求められるものを理解する
目標② 何かを発見しそれを短い言葉で誰かに伝えるというコピーの基本を経験する

授業方法:

ステージ①②は主に講義形式(②では数回の演習を実施)、ステージ③は演習主体。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 「カメラマン」の仕事を通して理解する広告の世界	無し
2. 「アートディレクター」の仕事を通して理解する広告の世界	無し
3. 「コピーライター」の仕事を通して理解する広告の世界	無し
4. 名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(1)	教科書の事前目通し
5. 名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(2)	教科書の事前目通し
6. 名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(3)	教科書の事前目通し
7. 名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(4)	教科書の事前目通し
8. 名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(5) 及び課題発表	教科書の事前目通し
9. 名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(6) 及び課題発表	教科書の事前目通し 宿題形式で課題取り組み
10. 演習(1) 課題講評、課題発表	宿題形式で課題取り組み
11. 演習(2) 課題講評、課題発表	宿題形式で課題取り組み
12. 演習(3) 課題講評、課題発表	宿題形式で課題取り組み
13. 演習(4) 課題講評、課題発表	宿題形式で課題取り組み
14. 演習(5) 課題講評	宿題形式で課題取り組み
15. 演習(6) 課題講評	無し

受講者へのメッセージやアドバイス:

過去の受講生の多くが「自分自身の演習取り組みのほかに、級友の作品や思考にふれることも大きな刺激であった」とアンケートで答えています。自分の書いたものが(匿名ではありますが)級友達の前で披露されることは恥ずかしいことかもしれませんが、何かを創作するということは発表することや評価されることが切り離せません。実社会におけるそうしたことのシミュレーションとして前向きに参加しようという学生を歓迎します。

フィードバックの方法:

授業内でまとめて解説します。一部についてはコメントをつけて返却します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内演習	40	提出に対して配点(巧拙は問わない)
宿題形式演習	60	提出に対して配点(巧拙は問わない)

教科書:

岩崎俊一「幸福を見つめるコピー 完全版」東急エージェンシー

参考書:

鈴木康之「名作コピーに学ぶ読ませる文章の書き方」日経新聞ビジネス人文庫
鈴木康之「文章がうまくなるコピーライターの読書術」日経新聞ビジネス人文庫
黒澤晃「これから、絶対、コピーライター」マナビBOOKS

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

マルチメディアを活用し、Webサイトを通して魅力ある情報発信能力を身につける。

授業の概要:

マルチメディアを活用し、Webサイト制作を通じて魅力ある情報発信を行うことを目標とする。Webエディタ等を用いてマルチメディアの基礎を体得し、画像編集ソフトを用いて編集加工を行う。さらに習得した技術を活用し、Webサイト制作における魅力ある情報発信を行い、デザイン的な観点からより伝わる表現を実現する。

到達目標:

画像編集ソフトを使用した画像の編集加工
Webオーサリングツールを使用したWebサイト制作

授業方法:

5:演習/講義
毎回コンピュータを用いての実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、概要／Webオーサリングツールについて	
	2. Webサイト基礎(1) HTML基礎	
	3. メディア編集(1) GIFアニメーション	
	4. メディア編集(2) 画像の編集加工／画像編集ソフトの基本操作	
	5. メディア編集(3) 画像の編集加工／画像補正、合成加工	画像編集ソフトの基本操作、画像の編集加工の復習
	6. メディア編集(4) 画像の編集加工／ロゴ・バナーの作成	画像編集ソフトの基本操作、画像の編集加工の復習
	7. Webサイト基礎(2) サイトの基本構成／Webオーサリングツールの基本操作	
	8. Webサイト基礎(3) ページレイアウト	Webオーサリングツールの基本操作、復習
	9. Webサイト基礎(4) テキストリンク、画像リンクの設定	Webオーサリングツールの基本操作、復習
	10. Webサイトコンセプトシートの作成／サイトマップ・ワイヤーフレームの作成	
	11. マルチメディアを活用したWebサイト制作(1) 制作	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	12. マルチメディアを活用したWebサイト制作(2) 制作	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	13. マルチメディアを活用したWebサイト制作(3) 制作	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	14. マルチメディアを活用したWebサイト制作(4) 検証	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	15. マルチメディアを活用したWebサイト制作(5) 仕上げ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	授業への参加、態度
	課題	50	発想・表現力、完成度、提出期限

教科書:

必要資料を授業中に配布する。

参考書:

適宜、授業中に指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

マルチメディアの基礎を活用し、デザイン的に精度の高いWebサイト制作を行い、情報の編集力と発信能力を高める。

授業の概要:

「ウェブ・コンテンツI」でWebサイト制作の基礎を学習した者を対象として、より精度の高いWebサイト制作ができるように導く。企画・構想を実現する為に、基本技術を活用しながら応用的な機能を導入した制作を行う。さらにデザイン的な観点からわかりやすいナビゲーションを心がけ、情報の編集力と発信能力を高めていく。

到達目標:

Webオーサリングツールを使用したWebサイト制作

授業方法:

2:演習
毎回コンピュータを用いての実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、Webサイト制作について	
	2. マルチメディアの応用(1) ページの装飾	
	3. マルチメディアの応用(2) 画像表現	
	4. マルチメディアの応用(3) アニメーションと映像編集	画像編集ソフトの操作、画像の編集加工の復習
	5. マルチメディアの応用(4) ページレイアウト／テーブルとフレーム	画像編集ソフトの操作、画像の編集加工の復習
	6. マルチメディアの応用(5) ページレイアウト／スタイルシート	Webオーサリングツールの操作、ページレイアウトの復習
	7. マルチメディアの応用(6) ページレイアウト／スタイルシート	Webオーサリングツールの操作、ページレイアウトの復習
	8. 企画立案(1) サイトマップ・ワイヤーフレームの作成	
	9. 企画立案(2) サイトマップ・ワイヤーフレームの作成	
	10. 企画立案(3) サイトマップ・ワイヤーフレームの作成	
	11. マルチメディアを活用したWebサイト制作(1) 制作	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	12. マルチメディアを活用したWebサイト制作(2) 制作	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	13. マルチメディアを活用したWebサイト制作(3) 制作	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	14. マルチメディアを活用したWebサイト制作(4) 検証	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	15. マルチメディアを活用したWebサイト制作(5) 仕上げ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	授業への参加、態度
	課題	50	発想・表現力、完成度、提出期限

教科書:

必要資料を授業中に配布する。

参考書:

適宜、授業中に指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

授業の概要: 日本における書道教育は「習字→書写→書道」と変化している。これらの名称の変化について認識すると同時に、書写・書道への理解の深化を図る。書道史上には優れた書の古典が多く存在する。書写・書道への理解の深化を図るため、これらの古典を通じて多様な美に触れ、鑑賞・理解・表現について究明する。また、古典臨書することにより用筆法・結構法等の研究と表現の向上を図る。

到達目標: 「習字・書写・書道」について理解する。
鑑賞・理解・表現が互いに作用していることを理解する。
楷書体についての用筆法・結構法等について理解する。
行書体についての用筆法・結構法等について理解する。

授業方法: 講義と実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 文房四宝について概説する	身近な書道道具について観察しておく。
	2. 習字・書写・書道について概説する。書体の変遷について概説する。	身近な書について観察しておく。
	3. 楷書『九成宮醴泉銘』 1 講義と実技	
	4. 楷書『九成宮醴泉銘』 2 講義と実技	『九成宮醴泉銘』の特徴をまとめておく。
	5. 楷書『雁塔聖教序』 1 講義と実技	
	6. 楷書『雁塔聖教序』 2 講義と実技	『雁塔聖教序』の特徴についてまとめておく。
	7. 楷書 創作 実技	楷書体についてまとめておく。
	8. 行書体について概説する。	身近な行書体について観察しておく。
	9. 行書『蘭亭序』 講義と実技 1	
	10. 行書『蘭亭序』 講義と実技 2	『蘭亭序』の特徴についてまとめておく。
	11. 行書『集字聖教序』 講義と実技 1	
	12. 行書『集字聖教序』 2 講義と実技	『集字聖教序』の特徴についてまとめておく。
	13. 行書 創作 1 講義と実技	行書体についてまとめておく。
	14. 行書 創作 2 講義と実技	前回の改善点についてまとめておく。
	15. 行書 創作 3 講義と実技	特徴が明確に表現できるようまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: 必要な道具については選択方法も併せて1回目の講義で説明します。受講希望者は1回目は是非受講してください。実技には道具が必要です。書道歴は人によって異なりますが、この講義では気にしなくても構いません。書道歴よりも毎回の講義を確実にこなすことが重要です。

フィードバックの方法: 講義について、内容確認のためミニレポートを提出することもあります（講義後）。質問等随時受け付けますので積極的に利用してください。作品添削を教室で行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出物	70	到達目標に挙げた書写・書道についての理解度を評価する。 到達目標の楷書・行書の用筆法・結構法等に關しての理解度を評価する。
	授業へ積極的な取り組み	30	積極的な取り組み、到達目標の鑑賞・理解・表現に關しての理解度を評価する。

教科書: 検討中

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義時間内

授業テーマ:	書法の基本―草・隸書・仮名書を学ぶ―		
授業の概要:	楷・行書学習の発展として、草書・隸書・仮名書を学ぶ。草書は古典的名筆とされる王羲之「十七帖」と唐の孫過庭「書譜」をテキストに、隸書は漢時代の「礼器碑」「曹全碑」をテキストに用い、その美的特質を考えながら、草書と隸書の基本的な書法を学ぶと共に、更に仮名書では、わが国古来の変体仮名に対する知識と理解を深め、読みかつ美しく表現する手法を追窮する。猶、中国や日本の書道文化史への興味を促すようなトピックも随時提供していきたい。		
到達目標:	草・隸書・仮名書の筆法を理解し美的に表現する。 ・用筆法が理解され、表現に反映されるものとなっている。 ・線が正しく美的に表現されている。 ・虚画と実画の別や点画等の対応ができている。(筆脈の貫通) ・緩急や抑揚、リズム、変化が表現されている。 ・紙面における配字(布置)が適切であること。		
授業方法:	実習。毎回課題(半紙に六文字書く)を示し、それに基づき練習する。授業時間内のいつでも、何度でも教員による添削指導を行うので、各自のペースで指導を受けること(猶、次回の課題も事前に示すので事前学習も可能。オフィスアワー等、研究室に在室している時ならいつでも添削する)。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業予定・書体の歴史)	書道用具持参	
	2. 草書の基本1 王羲之「十七帖」①	課題プリント学習(1時間程度)	
	3. 草書の基本2 王羲之「十七帖」②	課題プリント学習(1時間程度)	
	4. 草書の基本3 孫過庭「書譜」①	課題プリント学習(1時間程度)	
	5. 草書の基本4 孫過庭「書譜」②	課題プリント学習(1時間程度)	
	6. 草書の基本5 孫過庭「書譜」③	課題プリント学習(1時間程度)	
	7. 隸書の基本1 礼器碑①	課題プリント学習(1時間程度)	
	8. 隸書の基本2 礼器碑②	課題プリント学習(1時間程度)	
	9. 隸書の基本3 曹全碑①	課題プリント学習(1時間程度)	
	10. 隸書の基本4 曹全碑②	課題プリント学習(1時間程度)	
	11. 仮名書の基本1 変体仮名・連綿入門	課題プリント学習(1時間程度)	
	12. 仮名書の基本2 百人一首を書く①	課題プリント学習(1時間程度)	
	13. 仮名書の基本3 百人一首を書く②	課題プリント学習(1時間程度)	
	14. 仮名書の基本4 百人一首を書く③	課題プリント学習(1時間程度)	
	15. まとめ―総合表現―	これまでの学習内容の復習をしてくる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	90分の授業時間指定された教室内で学習、指導を受けること。		
フィードバックの方法:	採点し、添削して(次回に)返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎時の提出物(清書作品)	100%	到達目標の理解と具体化達成度 (注意)清書提出をもって出席とし成績評価に含め、欠席は減点とする
教科書:	最初の授業時に担当教員の作成したプリント配布(無料)		
参考書:	授業時に随時指示する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー・授業前後や研究室在室時		

授業テーマ:

授業の概要: 文字を持たなかった日本人は漢字を基に日本独自の文字「仮名」を形成していく。その歴史及び変遷を理解し、日本文学をけん引してきた『万葉集』、『古今和歌集』に見られる仮名についての基本的な事項や書法について研究する。平安時代後期には仮名書として仮名美を極めていくがこの基本についても概観する。また、構築性のある「漢字」と流動性のある「仮名」の美の両者の融合美についても概観する。

到達目標: 文房四宝について理解する。
「仮名」文字の成立について理解する。
「仮名」文字についての用筆法・結構法等について理解する。
「仮名」作品について鑑賞・理解・表現する。

授業方法: 講義と実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	文房四宝について概説する	身近な書道道具につて観察しておく。
2.	仮名の発生及び変体仮名について概説する。	
3.	仮名の基本 1 単体の練習 講義と実技	
4.	仮名の基本 2 変体仮名の練習 講義と実技	変体仮名についてまとめておく。
5.	『高野切』 1 講義と実技	『高野切』の特徴についてまとめておく。
6.	『高野切』 2 講義と実技	
7.	『御物粘葉本古今和歌集』 1 講義と実技	
8.	『御物粘葉本古今和歌集』 2 講義と実技	『御物粘葉本古今和歌集』の特徴についてまとめておく。
9.	『寸松庵色紙』 1 講義と実技	『寸松庵色紙』の特徴についてまとめておく。
10.	『寸松庵色紙』 1 講義と実技	
11.	散らし書きについて概説する。 講義と実技	
12.	創作 1 講義と実技	創作する和歌を選択しておく。
13.	創作 2 講義と実技	散らしについて検討しておく。
14.	創作 3 講義と実技	散らしについて再検討しておく。
15.	創作 4 講義と実技	14回での説明をもとに料紙に書く際の配置について考えておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: 必要な道具について選択方法も併せて1回目の講義で説明します。受講希望者は1回目は是非受講して下さい。実技には道具が必要です。
書道歴は人によって異なりますが、この講義では気にしなくても構いません。書道歴よりも毎回の講義を確実にこなすことが重要です。

フィードバックの方法: 講義について、内容確認のためミニレポートを提出することもあります(講義後)。
質問等随時受け付けますから積極的に活用してください。作品添削を教室で行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出物	70	到達目標の仮名の用筆法・結構法等に關しての理解度を評価する。
	講義への積極的な取り組み	30	積極的な取り組み、到達目標の鑑賞・理解・表現に關しての理解度を評価する。

教科書: 検討中

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義時間内

授業テーマ:	京都をあるくー京都文化や歴史、観光の観点から「京都学」の総合的な理解をはかる		
授業の概要:	京都地域を総合的に幅広い観点から学習し、また研究を進めていく上では、地域の特性、歴史などの基礎知識の上に、フィールドワークの基本的なもとで、京都を実際に歩き、現地学習を行うことが必要不可欠である。こうした観点から、この授業では、京都に関する基礎学習、フィールドワークに関する基本的な手法に関して学ぶとともに、受講学生と相互に意見交換し、相談した上で目的地を設定し、実際に京都地域(宇治、京田辺、八幡などの周辺地域も含む)また、隣接する大阪や奈良にも焦点をあてながら、現地フィールドワークを通して学習することを目的とする。		
到達目標:	1:フィールドワークに関する基本的手法の獲得を通して、京都地域の総合的な学問領域である京都学の理解を深めるとともに、関連して京都観光、さらには他地域におけるフィールドワークに応用が可能な技能の獲得をめざす。 2:京都地域に対する総合的な理解をめざす。		
授業方法:	現地学習を中心とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 授業ガイダンス		配布資料の確認
	2. フィールドワーク目的地の選定 京都フィールドワーク実施の上での基礎技術(1)地図／地形図等の図像資料の活用		配布資料の確認、フィールドワーク目的地の検討
	3. 京都フィールドワーク実施の上での基礎技術(1)地図／地形図等の図像資料の活用2		配布資料の確認、フィールドワーク目的地の検討
	4. * 現地フィールドワーク(1)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	5. * 現地フィールドワーク(2)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	6. * 現地フィールドワーク(3)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	7. * 現地フィールドワーク(4)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	8. * 現地フィールドワーク(5)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	9. * 現地フィールドワーク(6)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	10. * 現地フィールドワーク(7)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	11. * 現地フィールドワーク(8)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	12. * 現地フィールドワーク(9)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	13. * 現地フィールドワーク(10)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	14. * 現地フィールドワーク(11)		現地コースの文化、観光に関する事前学習
	15. 全体の総括 京都の地域構造のありかた		フィールドワークコースについての全体の振り返り
受講者へのメッセージやアドバイス:	(1)受講キャンパス:具体的には、今出川キャンパス内での学習、実習と同時に、京都市内をはじめとした周辺地域での現地学習を併用する。 (2)受講時間:本授業は、学外フィールドワークを実施する。移動時間を考えると通常授業時間内では効果が得にくいため、2・3時間目の連続講義とし、その前後の時間も活用しながら隔週でおこなう。具体的な開始時刻／場所などは講義内で指示する。 (3)本講義は、フィールドワーク実習を伴うため登録人数多数の場合は、受講者選考をおこなう。		
フィードバックの方法:	授業中に個別・全体に対してフィードバックを随時おこなう		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	現地でのミニ説明・コメント	100	到達目標1、2の達成を総合的に評価する。
教科書:	特になし。必要に応じてフィールドワーク場所について資料配布をおこなう。		
参考書:	天野太郎監修『古地図で歩く古都・京都』三栄書房、2016 天野太郎監修『イラストでみる200年前の京都』実業之日本社、2016		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業中に行うとともに、マナビーなどを総合的に活用する。		

授業テーマ:

自分の気持ちや考え方を最大限に相手に伝わるためのアナウンス技術の習得

授業の概要:

これからの社会生活で直面するたとえば「就職試験の面接での受け答え」、「会議の司会」、「スピーチ」、「絵本の読み聞かせ」、「プロのアナウンサーになりたい」など様々な場面で必要なアナウンス技術、普段何気なく使っている日本語をより正確に理解し、そしていかにより良く内容を伝えるためには何が必要かを学び、実践に生かす

到達目標:

伝わるためのアナウンス技術の会得
自己表現力を高める

授業方法:

講義一辺倒ではなく、発声・発音、文章の読み、フリートークなど、積極的に発表できる機会を多く取り入れ、人前で堂々と自分を表現できるような明るく楽しい授業を展開。学生の積極性・話し言葉の魅力を引き出すことに重点をおく

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	コミュニケーションとは、自己紹介など	自己紹介(2分程度)をまとめておく
2.	基礎的な「発音・発声」、「滑舌」	日常の発声・発音練習
3.	アナウンスの基礎(1)母音の無声化・鼻濁音・長音	テレビを見る ラジオを聴く
4.	アナウンスの基礎(2)アクセント・イントネーション	テレビを見る ラジオを聴く
5.	【ミニテスト(1)】自己紹介	事前に課題を練習しておく
6.	文章の読み(ニュース・天気予報・CM)(1)	テレビを見る ラジオを聴く
7.	文章の読み(ニュース・天気予報・CM)(2)	テレビを見る ラジオを聴く
8.	文章の読み(朗読・ナレーション)	テレビを見る ラジオを聴く
9.	【ミニテスト(2)】文章の読み	事前に課題を練習しておく
10.	司会の実習	テレビを見る ラジオを聴く
11.	インタビューの実習	テレビを見る ラジオを聴く
12.	テレビの見方・一般常識	テレビを見る ラジオを聴く 新聞を読む
13.	【ミニテスト(3)】一般常識	テレビを見る ラジオを聴く 新聞を読む
14.	就職試験の面接での受け答え・自己PR	自己PRをまとめておく
15.	最終発表	事前に課題を練習しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

人前で話すことが苦手な方、アナウンサー志望の方、教師を目指している方などはぜひ受講して欲しい

フィードバックの方法:

発表の都度アドバイスをを行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ミニテスト	45	1回15%×3 それぞれのテーマでの理解度
	授業への積極的な参加	30	毎回の授業内での取り組み方
	最終発表	25	授業を通しての理解度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

基本文献を読み、資料を活用しながら実際に歴史的な場に立ち、京都が培ってきた歴史や文化を知るとともに、私たちがいま暮らしている京都の風土を体得する。

広い視野と好奇心を持ち、自ら学ぶという能動的な姿勢を得る。

テーマごとの文献を講読し、実際に現地を訪れ、知り得たことや感じたことを報告書にまとめて発表する。訪れる場所はこちらで決定するほか、履修者との話し合いにより決定することもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	文献講読(1) 主に平安京をテーマとする	京都の詳細地図を準備しておくこと
2.	フィールドワーク(1) 主に平安京をテーマとする	行先についての基本情報を把握しておくこと
3.	報告(1) 前回のフィールドワークの報告	発表資料を準備しておくこと
4.	文献講読(2) 主に京都の産業をテーマとする	指示した文献を読んでおくこと
5.	フィールドワーク(2) 主に京都の産業をテーマとする	行先についての基本情報を把握しておくこと
6.	報告(2) 前回のフィールドワークの報告	発表資料を準備しておくこと
7.	文献講読(3) 主に京都の文学をテーマとする	指示した文献を読んでおくこと
8.	フィールドワーク(3) 主に京都の文学をテーマとする	行先についての基本情報を把握しておくこと
9.	報告(3) 前回のフィールドワークの報告	発表資料を準備しておくこと
10.	文献講読(4) 主に京都の寺社をテーマとする	指示した文献を読んでおくこと
11.	フィールドワーク(4) 主に京都の寺社をテーマとする	行先についての基本情報を把握しておくこと
12.	報告(4) 前回のフィールドワークの報告	発表資料を準備しておくこと
13.	文献講読(5) 主に京都の交通をテーマとする	指示した文献を読んでおくこと
14.	フィールドワーク(5) 主に京都の交通をテーマとする	行先についての基本情報を把握しておくこと
15.	報告(5) 前回のフィールドワークの報告	発表資料を準備しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

上記授業内容は前後することがあります。また、訪れる場所によってはテーマが融合します。
フィールドワークに際して、
①長時間歩く場合があること
②交通費や拝観料等がかかる場合があること
を十分に留意したうえで受講を決定してください。

フィードバックの方法:

提出物や発表については教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	40%	積極的に授業に参加し、到達目標を達成したかを評価する。
	発表、討論	40%	文献講読や報告時における到達目標への態度・意欲を評価する。
	レポート	20%	到達目標に関する調査結果のまとめについて独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:

文庫版京都市図(昭文社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

文献の中の京ことば

授業の概要:

「京ことば」と聞けば、多くの人はイメージが湧くでしょう。しかし、実際に京都で話されている言葉とイメージの京ことばは違うのではないのでしょうか。この授業では、近世と現代の文献を資料にして、京ことば・上方語（関西方言）の歴史を探ります。さらに、現代語における文献に見える京ことばを分析して実際に話されている京ことばの調査報告と比較し、京ことばの実態や京ことばらしさについて考えることにします。

到達目標:

- ・京ことばに関する文献資料を調べる能力を身につける。
- ・日本語史の中で京ことばの位置づけを理解する。
- ・全国の方言の中で京ことばの位置づけを理解する。
- ・受講者自身が、京ことばについて、自らの見解を持てるようにする。

授業方法:

講義を中心にはしますが、受講者自身が文献を調査したりアンケートを実施したりし、発表することもあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業内容の説明 ・京ことばが話される地域と京ことばの分類	京都市内の地図を確認しておいてください。
2.	近世の京ことば(1) ・日本語史の時代区分 ・江戸時代の方言辞典の概要	配布プリントを予習しておいてください。
3.	近世の京ことば(2) ・『かたこと』	配布プリントを予習しておいてください。
4.	近世の京ことば(3) ・『物類称呼』『浪花聞書』『皇都午睡』など	配布プリントを予習しておいてください。
5.	近世の京ことば(4) ・料理書の語彙①	配布プリントを予習しておいてください。
6.	近世の京ことば(5) ・料理書の語彙②	配布プリントを予習しておくいてください。
7.	上方語と江戸語 ・『浮世風呂』	配布プリントを予習しておいてください。
8.	近代の京ことば ・泉鏡花『笹色紅』 ・町家の京ことば	配布プリントを予習しておいてください。
9.	現代の京ことば(1) ・渡辺淳一の京都を舞台とした小説について	配布プリントを予習しておいてください。
10.	現代の京ことば(2) ・渡辺淳一『野わけ』と『まひるの』	配布プリントを予習しておいてください。
11.	現代の京ことば(3) ・『まひるの』について	配布プリントを予習しておいてください。
12.	現代の京ことば(4) ・渡辺淳一『化粧』『桜の樹の下で』	配布プリントを予習しておいてください。
13.	現代の京ことば(5) ・綿矢りさ『手のひらの京』	配布プリントを予習しておいてください。
14.	京ことばらしさ ・あいさつのことば	配布プリントを予習しておいてください。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

- ・多くの文献を扱うので、予習復習を欠かさないようにしてください。
- ・授業で扱う文献は、できるだけ自主的に読んでみてください。
- ・『日本国語大辞典(二版)』をできるだけ引くことを心がけてください。
- ・配布されたプリントは、必ず保存して次回以降持参してください。

フィードバックの方法:

授業の終わりにコミュニケーションペーパーを配布します。必要に応じて、次回の授業で解説します。また、個別の質問も随時受け付けます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	70	授業で取り上げた諸文献から得た知識の理解と、それらを論理的に説明できるかを基準にする。
	授業中の取り組み	30	積極的に授業に参加し、京ことばについて自身の見解を持てたかを評価する。

教科書:

参考書:

堀井令以知『京都語を学ぶ人のために』世界思想社
真田信治『標準語の成立事情』PHP

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール(授業中に示す)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	京ことばを観察しよう		
授業の概要:	京都のことばを日本語の一つの方言としてとらえ、その性格について述べていきます。京都のことばといっても、年代・地域・話者の属する社会集団・使用場面などによってさまざまなことばづかいが含まれます。京都のことばで書かれた小説、映画、会話録音資料などを使い、また受講者自身の方言や共通語などと対照しながら、京都のことばの特徴について考えていきたいと思います。簡単なアンケートを行って授業の中で京都・関西のことばの実態を明らかにすることも行いたいと思います。		
到達目標:	・京都のことばが日本全国の方言の中でどのような位置にあった／あるのかを理解する。 ・京都のことばの特徴的な表現について理解する。 ・京都のことばの周辺にある文化・歴史などについて理解する。		
授業方法:	講義を中心としますが、一人ずつあるいは数名のグループで作業をしてもらうことがあります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 京都のことばの日本全国の方言における位置づけ (1) 語彙・文法	方言学の入門書を探して読んでおこう。	
	2. 京都のことばの日本全国の方言における位置づけ (2) 語彙・文法。	方言学の入門書を探して読んでおこう。	
	3. 京都のことばの日本全国の方言における位置づけ (3) : 2拍名詞のアクセント	標準語のアクセントの入門書を読んでおこう。	
	4. 近畿地方の中での京都のことばの位置づけ: アクセント変化を中心に	『日本語アクセント入門』(松森他編)の京都アクセント関係のところを読んでおこう。	
	5. 京都のことばでの買い物会話のサンプルのディクテーションと、自分たちで京都弁の会話を作ってみる練習	ディクテーションは意外と難しいです。やってみましょう。	
	6. 京都のわらべ歌。わらべ歌の分類、手まり歌、通り名を読み込んだ歌の近世から現代までの変化など。	名探偵コナンの通り名を読み込んだ歌が出てくる映画を調べておこう。	
	7. 京都の住所表示・地点表示の方法。現代と平安朝以降の変遷	どんな住所の表記方法があるのか、気になるお店の住所表示と地図上の位置を確認しよう。	
	8. 京都のことばの敬語ーハル・オ～ヤスなどと近世以来の変遷	京都の人がハルをどんな用法で使っているのか考えてみよう。	
	9. 京都弁・関西弁のイメージ	京都弁・関西弁のイメージは世代によってかなり違うと言われている。あなたのおじいさん・おばあさんなどに聞いてみよう。	
	10. 「マイフェアレディ」と「舞妓はレディ」ー英国ロンドンの方言と日本語京都の方言ー	「言語と社会」「社会言語学」といった本で、言語と社会の関係について調べてみよう。	
	11. 京都の町の中、町の外のことばの地域差	京都の町の中では方言にそれほど大きな地域差はないが、町を離れると言葉が変わっていきます。どこまでいくと言葉は大きく変わるだろうか考えてみよう。	
	12. 京都のお祭りとことばー悪口の言い合いなどー	悪口を言い合う祭りは日本のあちこちにあります。youtubeなどで調べてみよう。またその意味づけについて考えてみよう。	
	13. 公家言葉	テレビドラマやアニメの公家言葉の特徴について考えておこう。	
	14. 13回までの補足説明など。	これまで配布したプリントをよく見直しておくこと。	
	15. まとめ	これまで配布したプリントをよく見直しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業進度などによって、内容が多少変更されることがあります。上の授業内容に加えて、会話録音のディクテーションをすることがあります。参考文献など、授業で追加説明することがあります。		
フィードバックの方法:	授業中に配布する出席カード・記入用紙に質問などがあれば記入してもらい、授業中に説明する。但し個人的な質問にあまりに丁寧に授業中に答えるとかえって他の人はそれほど興味がない、といった場合が生じることがありますので、一通りの説明はしますが、それほど詳細にならないこともあります。ご了承ください。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	40%	到達目標に関する知識・理解度によって評価する。
	発表、討論	30%	グループでの作業や発表での役割、各自の作業によって評価する。
	授業への参加度	30%	どれだけ積極的に授業に参加し、知識・理解が得られたかによって評価する。
教科書:			
参考書:	松森晶子他『日本語アクセント入門』三省堂 堀井令以知『京都語を学ぶ人のために』世界思想社 榎垣実編『近畿方言の総合的研究』三省堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応を原則とします。必要があればEメールを使用しますが、アドレスは必要が生じたときに当該学生の方にお知らせします。		

授業テーマ:

『源氏物語』桐壺巻を丹念に読む中から、平安朝貴族文化に触れる。

授業の概要:

京都研究の一環として、『源氏物語』の読解を通して平安時代における京都の文化や貴族の生活を知ることをめざす。『源氏物語』を原文で読むことは難しいが、講義では本文からさまざまなことを読み解き、その発展として多様な京都文化に興味・関心を持ってほしい。大学の目の前に御苑・御所があるという恵まれた立地条件を活用してほしい。

到達目標:

『源氏物語』を原文で読み、文学としてのすばらしさを理解する。
『源氏物語』に書かれていることから、当時の知識や表現の豊かさに接する。
『源氏物語』を通して日本文化のすばらしさを知る。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 概要 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む1。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	2. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む2。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	3. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む3。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	4. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む4。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	5. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む5。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	6. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む6。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	7. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む7。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	8. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む8。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	9. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む9。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	10. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む10。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	11. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む11。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	12. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む12。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	13. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む13。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	14. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む14。	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。
	15. 『源氏物語』桐壺巻の野分章段を読む15。 総括	あらかじめ教科書に目を通してきてほしい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

『源氏物語』に興味を持って授業に望んでほしい。

フィードバックの方法:

質問などは随時受け付けます。受講生全員に伝えるべきことは、授業時間に説明します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	90	到達目標を理解したうえで、レポートが問題意識とその結果が論理的に書かれているかを基準とする。
	授業への参加度	10	積極的に授業に参加し、質問やレポートの提出がきちんと行われているかを評価する。

教科書:

吉海直人著『源氏物語〈桐壺巻〉を読む』翰林書房 定価1680円

参考書:

特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

相談などのある人は研究室に来てください。

授業テーマ:

能の表現、実践

授業の概要:

日本の伝統芸能のひとつである「能」を取り扱う。
無駄なものを徹底的に削ぎ落とした劉くシンプルな能の表現は、かえって観客の想像を豊かにさせ、真実の表現を達成する。
講義では、さまざまな演目を具体的に分析し、能の言葉・所作・音楽が表す内容や構成を理解する。能が描き出そうとするのは、人間の心であり、これは時代を経ても変わらない。現代の私たちの人生経験と積極的に照らし合わせ、またワークショップを体験することで、「能は古臭くて縁遠いもの」という先入観を融解させていく。
舞台の現場に立つ能楽師の言葉に耳を傾けて、是非能の面白さを味わってほしい。

到達目標:

・能の表現と形式を学び、能の言葉・所作・音楽などを具体的に理解する。
・能が描き出す人間の心を、自分の人生経験と積極的に照らし合わせて鑑賞する。
・数々のワークショップを通じて、能の表現を体感する。
・能が現代に生きる芸能・舞台芸術であることを理解する。

授業方法:

主に講義形式。適宜、実演やワークショップを交える。
各授業の最後にミニカード(感想など)の記入を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	能とはどのような芸能か	
2.	五番立	
3.	能の構造	能《井筒》の詞章を通読しておくとい。
4.	夢幻能と現在能	「五番立」講義の内容をよく復習しておくこと。
5.	囃子	能《巴》の詞章を通読しておくとい。
6.	能舞台	能《葵上》の詞章を通読しておくとい。
7.	型	
8.	装束	
9.	謡(1)	能《龍田》の詞章を通読しておくとい。
10.	舞事	
11.	面	能《隅田川》の詞章を通読しておくとい。
12.	能作者	能《船弁慶》の詞章を通読しておくとい。
13.	謡(2)	能《安宅》の詞章を通読しておくとい。
14.	位	
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義では主題の一曲すべての詞章を扱い得ないので、詞章や本説に関する自主的な学習を期待する。

フィードバックの方法:

授業末のミニカードに関して、次回の講義でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点(出席やミニカード)	40	授業に積極的に参加しているかを評価する。
	レポート	60	講義内容を理解し、適切に論述できるかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

日本近代文学の研究(1)

授業の概要:

近代文学作品を、学生主体で読み解いていく。

到達目標:

近代文学の傑作を取り上げ、文学を読むとは一体どういうことかを考えることを第一の目標とする。
さらには、近代文学の基本的な研究方法をも身につけていきたい。

授業方法:	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 科目についてのガイダンス		なし
	2. 発表に向けて		なし
	3. 発表に向けて		資料の収集
	4. 発表に向けて		資料の収集
	5. 発表に向けて		資料の収集
	6. 発表に向けて		資料の収集
	7. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	8. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	9. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	10. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	11. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	12. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	13. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	14. レポート・論文の書き方		レポートの作成
	15. 人生へ眼を向ける		自分の人生を振り返ってみる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室で説明する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の参加度合い	30	欠席が4回以上の者は不可とする
	発表	30	きちんと準備し、的確な発表が出来ているかを評価する
	レポート	40	到達目標の近代文学の研究方法が身についているかを評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

日本近代文学の研究(2)

授業の概要:

近代文学作品を、学生主体で読み解いていく。

到達目標:

近代文学の傑作を取り上げ、文学を読むとは一体どういうことかを考えることを第一の目標とする。
さらには、近代文学の基本的な研究方法をも身につけていきたい。

授業方法:	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 科目についてのガイダンス		なし
	2. 発表に向けて		なし
	3. 発表に向けて		資料の収集
	4. 発表に向けて		資料の収集
	5. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	6. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	7. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	8. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	9. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	10. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	11. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	12. 作品研究		作品をしっかりと読んでくること
	13. レポート・論文の書き方		レポートの作成
	14. 新しい視点を手に入れる		なし
	15. 人生へ眼を向ける		自分の人生を振り返ってみる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室で説明する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の参加度合い	30	欠席が4回以上の者は不可とする
	発表	30	きちんと準備し、的確な発表が出来ているかを評価する
	レポート	40	到達目標の近代文学の研究方法が身についているかを評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

くずし字で古典をよむ。

授業の概要:

現代の書物で読む古典は、何百年前の作品であっても、楷書の活字で印刷されている。しかし、それが当時の姿でないのは明らかである。原本の文字は毛筆のくずし字で和紙に書かれており、書物の体裁もまったく違うからである。そこで、当時のくずし字で近松門左衛門『曾根崎心中』を読み、翻刻と注釈によって江戸時代のリアルを学ぶ。

到達目標:

①原文どおりに翻刻。②①に句読点をうち、適宜改行し、漢字を当てる。③②に註を付けて、解釈する。

授業方法:

演習を基本とし、個人もしくはグループによる発表と質疑応答。受講者数と授業の進行状況によって、授業内容の配分は変更する場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業の概要・到達目標・授業方法・使用するテキスト(教科書)・参考文献の利用方法について説明する。次回に使用する資料を配布する。	シラバスを読んで、使用するテキスト(教科書)に目を通しておく。
	2. 『曾根崎心中』の作品概要を配布資料にもとづいて概説する。冒頭部分を例に『仮名手引』の利用方法を説明する。	1回目に配布された資料を読み、質問事項があれば、発言できるようにまとめておく。
	3. 発表者・発表箇所・発表順を決め、レジュメの作成(翻刻原稿と注釈、参考文献の提示など)、および発表内容にもとづくレポート作成についての留意点を説明する。	前回の授業内容を復習し、発表者(個人もしくはグループ)を相談して決めておく。
	4. 発表①テキストP13～19。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	前回の授業に留意してレジュメを作成。グループ発表の場合は分担箇所を配分。1年次『古典入門』の要領で口頭発表の手順を決めておく。
	5. 発表②テキストP20～26。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
	6. 発表③テキストP27～33。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
	7. 発表④テキストP34～40。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
	8. 発表⑤テキストP41～47。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
	9. 発表⑥テキストP48～54。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
	10. 発表⑦テキストP55～61。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
	11. 発表⑧テキストP62～68。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
	12. 発表⑨テキストP69～75。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
	13. 発表⑩テキストP76～82。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
	14. 発表⑪テキストP83～90。質疑応答と講評。次週に翻刻原稿の改訂版を提出する。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
	15. 各回の発表を振り返り、発表者からのコメントを求めて、講評する。	各回の発表を振り返り、今後の課題や指摘すべきコメントをまとめておく。
受講者へのメッセージやアドバイス:	床の間の掛け軸、博物館施設の展示、図録やポスターの写真、市街地で見かける看板など、「くずし字」に出合う機会は結構あります。気を付けて周囲を見てみましょう。書道を習っていた人、現在も続けている人は経験を生かして下さい。また『曾根崎心中』は文楽の演目なので、上演されることがあれば逃さずに鑑賞しましょう。	
フィードバックの方法:	翻刻原稿にコメントをつけて、教室で返却する。	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	到達目標①②③を総合的に評価。
	発表・質疑応答	30	レジュメの完成度と口述の分かりやすさ。
	授業への参加度	20	発表者へのコメント。

教科書:

松平進編『曾根崎心中・堀川波鼓』和泉書院
神戸平安文学会編『仮名手引』和泉書院

参考書:

新日本古典文学大系91『近松浄瑠璃集 上』岩波書店
大阪市立大学文学研究科「上方文化講座」企画委員会編『上方文化講座 曾根崎心中』和泉書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。オフィスアワー。

授業テーマ:	『徒然草』を読む。			
授業の概要:	『徒然草』各段を読み、問題の語彙を検討する。			
到達目標:	調査の方法を学ぶ。			
授業方法:	演習			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容			
	1.	プリント配布と概説。		なし
	2.	担当箇所(3名)レジュメ発表 講読	影印本の	当該
	3.	担当箇所(3名)レジュメ発表 講読	影印本の	当該
	4.	担当箇所(3名)レジュメ発表 講読	影印本の	当該
	5.	担当箇所(3名)レジュメ発表 講読	影印本の	当該
	6.	担当箇所(3名)レジュメ発表 講読	影印本の	当該
	7.	担当箇所(2名)レジュメ発表 の講読	影印本	当該
	8.	担当箇所(2名)レジュメ発表 の講読	影印本	当該
	9.	担当箇所(2名)レジュメ発表 の講読	影印本	当該
	10.	担当箇所(2名)レジュメ発表 の講読	影印本	当該
	11.	担当箇所(2名)レジュメ発表 の講読	影印本	当該
	12.	担当箇所(2名)レジュメ発表 の講読	影印本	当該
	13.	担当箇所(2名)レジュメ発表 の講読	影印本	当該
	14.	担当箇所(2名)レジュメ発表 の講読	影印本	当該
	15.	担当箇所(2名)レジュメ発表 の講読	影印本 レポートの提出	当該
受講者へのメッセージやアドバイス:	影印本を読むのは困難が大きいですが、積極的に取り組んでみよう。			
フィードバックの方法:	レポート			
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合		
	出席	60	全出席を60%とする。	
	レポート	40	満点を40点換算。	
教科書:	プリント			
参考書:				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力			
教員との連絡方法:	eメール			

授業テーマ:	古典領域学習の基礎(言語事項中心)		
授業の概要:	百人一首に出てくる語を一つ選び、その語の歴史的な変遷を探る作業を進める過程を通して、過去の「言葉」を調べる基礎的な技能を身につけ、日本語の変化の一端に触れる。授業で行う演習は、古語辞典が作られる方法につながるものであり、古典文学を解釈したり、参考書に付されている注釈を理解する上でも欠かせない技能となる。同時に、春学期に学んだ変体仮名読解の技能を用いて百人一首遊びに親しむ。		
到達目標:	①各時代の資料の特性を知る。(知識・理解) ②担当する語の意味用法の変化について自ら見出した問題点や疑問点を解決する方法を考え実践することができる。(関心・意欲・態度) ③適切な資料を用いて正しい方法で用例を収集し、用例から各語の意味用法を論理的に推定することができる。(技能) ④資料から推定される結果について、根拠を示しながらわかりやすく簡潔にまとめることができる。(表現・技能・能力)		
授業方法:	演習の形態で進める。 授業中の解説およびマナビー上の解説を参考に、各自が資料収集や分析を行いマナビーにアップしておく。授業時に、その内容についてグループでディスカッションすることでブラッシュアップし、代表例を取り上げて教員が助言を行うというサイクルを重ねることで、前期を通じてそれぞれの研究を進めていく。毎回の授業のはじめには、変体仮名を用いた百人一首のカルタ遊びも取り入れる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業概要説明・グループ分け・語の選択	春学期に学んだ崩し字の復習	
	2. 辞書で調べて研究の見通しをつける	マナビーの指示に従い課題提出	
	3. 電子検索で用例を集める(1)平安時代	マナビーの指示に従い課題提出	
	4. 用例を整理する(1)	マナビーの指示に従い課題提出	
	5. 用例を整理する(2)	マナビーの指示に従い課題提出	
	6. 中世の資料を調べる(1)	マナビーの指示に従い課題提出	
	7. 中世の資料を調べる(2)	マナビーの指示に従い課題提出	
	8. 用例を整理する(3)	マナビーの指示に従い課題提出	
	9. 古辞書を調べる	マナビーの指示に従い課題提出	
	10. 古辞書を調べる	マナビーの指示に従い課題提出	
	11. 近世以降の資料を調べる	マナビーの指示に従い課題提出	
	12. 用例を整理する(4)	マナビーの指示に従い課題提出	
	13. レポート作成指導	レポート原案作成	
	14. 百人一首大会	百人一首をおぼえてくること	
	15. レポート作成指導	改稿レポート作成	
受講者へのメッセージやアドバイス:	期間を通じて課題の提出が課されますが、時には休憩的な回もあります。スモールステップで課される課題を提出していくことで、自然と自らのテーマが明確になり、興味を持ってきちんとしたレポートを仕上げるができるはずです。当該授業までに課題を提出しておくことで解説の内容もよくわかり、また、自分の課題について多くのアドバイスをを得ることができますので、期限までの課題提出を勧めます。さらに、提出後の課題の修正は自由であり、修正再提出を推奨します。ただし、原則として期限後も課題受付は可能な設定にしておりますので、期限に間に合わなかった場合も、諦めずに追いかけて提出することで授業に追いついてきてください。途中で追いつくゆとりは見込んであります。また、途中でわからないことは遠慮なく質問し、共に授業を作っていきます。		
フィードバックの方法:	授業時の解説、および個人指導、およびマナビー上での添削を組み合わせで行う。受講者側からの要求があった場合は別に時間を設けての個別面談によるフィードバックも可能。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的な参加	20%	授業時のディスカッションを通じて到達目標②③が達成できているかどうかを評価する。
	マナビーへの課題提出状況	50%	提出された課題を通じて、到達目標①を踏まえた上で到達目標②③が達成されているかどうかを評価する。
	まとめのレポート(レジュメ形式)	20%	到達目標①を踏まえ、②③④が達成されているかを評価する。
	レポート(文章による)	10%	到達目標①②③を踏まえ、④が達成されているかを評価する。
教科書:	原色小倉百人一首(文英堂)※ただし、同種のをすでに持っている場合にはそれを使用してもよい。		
参考書:	『仮名手引』(和泉書院)※古典基礎演習Ⅰで用いたものを引き続き用いる。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメールによる。(アドレスは授業時に開示する)		

授業テーマ:

古典文学研究の基礎的方法を学ぶ。

授業の概要:

『源氏物語』をテキストとした演習(個人発表・レポート作成)の体験を通して、卒業論文作成に必要な基本的知識や研究方法を修得する。そのために必要な知識、調べ方、レポートの書き方などを一通り体験してほしい。そこから次のステップ(3年次の演習)へグレードアップしてもらいたい。

到達目標:

第一に、『源氏物語』を研究することによってどういう作業が必要かを知る。
具体的に本文異同の調査、古注・新注の調査・総索引を活用した用例の調査を各自行う中で、問題点を見つけ出すことになる。
テーマに関して、どのような構成・論理的な説明をすれば相手に理解してもらえるかを工夫する。
最終的には卒業論文につながるようなレポートの作成を行う。

授業方法:	演習(個人発表が中心)	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 概要	あらかじめ『源氏物語』桐壺巻を読んでおくこと。
	授業の進め方などのオリエンテーション	
	2. 具体的な演習担当個所の決定、及び演習日程の決定。	あらかじめテーマになりそうなことを準備しておくこと。
	3. 最初に見本としてこちらで演習を行いつつ、必要事項などを確認していく。	個人発表のための調べを進めてほしい。
	4. 『源氏物語』桐壺巻についての講義。	個人発表のための調べを進めてほしい。
	5. 第1回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う。	個人発表のための調べを進めてほしい。
	6. 第2回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	個人発表のための調べを進めてほしい。
	7. 第3回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	個人発表のための調べを進めてほしい。
	8. 第4回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	個人発表のための調べを進めてほしい。
	9. 第5回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	個人発表のための調べを進めてほしい。
	10. 二回目の個人発表第1回。毎時間3、4名の個人発表を行う。	レポート作成に向けて各自進めてほしい。
	11. 二回目の個人発表2回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う。	レポート作成に向けて各自進めてほしい。
	12. 二回目の個人発表第3回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	レポート作成に向けて各自進めてほしい。
	13. 二回目の個人発表第4回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	レポート作成に向けて各自進めてほしい。
	14. 二回目の個人発表第5回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	レポート作成に向けて各自進めてほしい。
	15. 総括	レポート作成に向けて各自進めてほしい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

調べ物は面倒だが、これを踏まえないと研究の土台は築けないので頑張してほしい。

フィードバックの方法:

発表に関しては、その場で評価する。レポートに関しては朱を入れて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	90	到達目標を踏まえてレポートが掛けているかを基準にする。卒業論文へのステップなので、枚数も評価の対象になる。
	授業への参加度	10	積極的に参加しているか、また発表の態度はどうか、資料の完成度、レポート提出など総合的に判断する。

教科書:

特になし

参考書:

『源氏物語1』(小学館新編古典文学全集)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

相談は研究室でいつでも受け付けます。またメールによる質問も受け付けます。

授業テーマ：

問う力を錬磨する

授業の概要：

現行の辞書類等の記述を批判的に検討して問題を設定する。次にその問題を解決するための方法を検討し、種々の言語資料から収集した実例を整理・分析する。このプロセスのおもしろさを実感できるようにしたい。

到達目標：

研究課題を発見する力および他人の報告内容に対して適切にコメントする力を養うことを主たる目標とする。

授業方法：

個人またはグループによる報告と質疑応答を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 問題を設定する(1)	個人またはグループで問題の設定をころみる。
	3. 問題を設定する(2)	個人またはグループで設定した問題を再検討する。
	4. 問題を設定する(3)	個人またはグループで設定する問題を再検討する。
	5. 調査方法を検討する(1)	個人またはグループで言語資料を決定し実例調査を実施する。
	6. 調査方法を検討する(2)	個人またはグループで言語資料について再検討したうえで、実例調査を実施する。
	7. 第1回発表(1)	報告または質疑の準備をする。
	8. 第1回発表(2)	報告または質疑の準備をする。
	9. 第1回発表(3)	報告または質疑の準備をする。
	10. 第1回発表会の総括	各自で第1回発表の総括をする。
	11. 第2回発表会(1)	報告または質疑の準備をする。
	12. 第2回発表会(2)	報告または質疑の準備をする。
	13. 第2回発表会(3)	報告または質疑の準備をする。
	14. 学期末レポートを作成する	レポートの草稿を用意する。
	15. 総ふりかえり	春学期の基礎演習のふりかえりを自分のことばでまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス：

辞書類が提供している言語に関する情報に対してツツコミながら接することをたのしむことが大切です。具体的な調査事項は授業の中で決定していきます。そのプロセスそのものも大切にしたいとおもいます。なお、授業内容別の回数と順序は、進捗状況等によって変更することがあります。

フィードバックの方法：

授業時に全員にまたは個別に対応する。マナビーでも対応する予定。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	到達目標により評価する。
	学期末レポート	50	各自で設定した課題を解決するための調査の緻密さおよび、記述の丁寧さを重視して評価する。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：

オフィスアワー、マナビー。

授業テーマ：

日本語学の研究方法の基本を学ぶ。

授業の概要：

主として口頭で話される日本語を観察し、研究対象として用いるための基本的な方法を学ぶ。キャリア形成に関する内容1回を含む。

到達目標：

日本語の音声、意味、変異などの問題について、データを観察、整理し、簡単な分析を行う力をつける。

授業方法：

演習形式。各自が作業を行い発表し議論する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業内容の説明	指示された課題を行うこと
	2. 音声観察・分析の方法	指示された課題を行うこと
	3. 音声観察・分析の方法	指示された課題を行うこと
	4. 音声観察・分析の方法	指示された課題を行うこと
	5. 音声観察・分析の方法	指示された課題を行うこと
	6. 意味分析の方法	指示された課題を行うこと
	7. 意味分析の方法	指示された課題を行うこと
	8. 意味分析の方法	指示された課題を行うこと
	9. 意味分析の方法	指示された課題を行うこと
	10. 意味分析の方法	指示された課題を行うこと
	11. 言語変異分析の方法	指示された課題を行うこと
	12. 言語変異分析の方法	指示された課題を行うこと
	13. 言語変異分析の方法	指示された課題を行うこと
	14. 言語変異分析の方法・キャリア形成について。	指示された課題を行うこと
	15. まとめとレポート作成指導	指示された課題を行うこと

受講者へのメッセージやアドバイス：

日本語に関する興味深い研究テーマはほとんど無限にあります。しかし、それらを研究するためには、まず、方法を学ばなければなりません。この授業を通じて、科学的な研究方法の基本を学んでください。内容別の回数・順序は多少変更することがあります。

フィードバックの方法：

提出された課題には授業中になるべく個別にコメントし、他の学生からの意見も求める。受講者数によっては、全体的なコメントとする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題へのとりくみ	50	到達目標に基づいて評価する。
	授業への参加態度	25	到達目標に基づいて評価する。
	最終レポート	25	到達目標に基づいて評価する。
	出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし原則として4回欠席したら不可とする。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法：

マナビー上から、または、研究室等での面談による。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

日本語教育初級段階の指導に必要な各種の知識を学ぶ講義や、グループでの模擬的指導実践(模擬授業)を通して、初級日本語学習者に日本語を教える技術を習得します。

①日本語教育初級段階の指導に必要な知識を身に付ける。

②他者との共同作業で必要な協調性、責任感等を養う。

③初級指導技術の基本を身に付ける。

④各種のふりかえり作業を通し、省察力や授業観察の力を身に付ける。

前半は、日本語教育初級段階の指導に必要な各種知識を、教科書を用い講義形式の授業で学んでいきます。授業は、主にグループで取り組む様々なタスクも行いながら進めます。

後半は、グループでの模擬的指導実践(模擬授業)を行います。学習者役はクラスメートです。模擬授業後はさまざまな方法で模擬授業をふりかえり、学びを確実なものとしします。

授業内容

1. 初級とは

2. 初級段階の指導法 1

3. 初級段階の指導法 2

4. 初級段階の指導法 3

5. 初級段階の指導法 4

6. 初級段階の指導法 5

7. 模擬授業の準備 1

8. 模擬授業の準備 2

9. 模擬授業の準備 3

10. 模擬授業 1

11. 模擬授業 2

12. 模擬授業 3

13. 模擬授業 4

14. 模擬授業 5

15. ふりかえり

準備学習等の内容

教科書の該当課を読んでおく。さまざまな初級日本語教科書に触れる。

教科書の該当課を読んでおく。

教科書の該当課を読んでおく。

教科書の該当課を読んでおく。

教科書の該当課を読んでおく。

教科書の該当課を読んでおく。

模擬授業の準備作業を進める。

模擬授業の準備作業を進める。

模擬授業の準備作業を進める。

担当班は、授業後に振り返りを書き、マナビーで提出する。

担当班は、授業後に振り返りを書き、マナビーで提出する。

担当班は、授業後に振り返りを書き、マナビーで提出する。

担当班は、授業後に振り返りを書き、マナビーで提出する。

担当班は、授業後に振り返りを書き、マナビーで提出する。

模擬授業はグループ単位で行います。各自協調性と責任感をもってグループ作業に取り組むことで、多くの学びを得ましょう。模擬授業に関しては、担当グループごとに、10時間以上の準備が求められることを理解しておくこと。

授業中適宜フィードバックを行います。

マナビーで課題を課す場合には、必要に応じて個別にコメントするか、まとめて教室でフィードバックを行います。

評価方法

割合

評価基準

レポート・課題提出

30%

到達目標③④を基準に評価します。

授業の積極的参加度

70%

到達目標①～③を基準に、グループ発表では成果および、各自の役割とその達成度を評価します。出席および授業中の発言も評価対象とします。

『みんなの日本語 初級Ⅰ』(スリーエーネットワーク)、もしくは、『国際交流基金 日本語教授法シリーズ9 初級を教える』(ひつじ書房)。教師が指示します。

授業前後に対応します。

また、Eメールやオフィスアワーも活用してください。

丸山敬介 : kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

山本由紀子 : yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

日本語教育中・上級段階の指導に必要な各種の知識を学ぶ講義や、グループでの模擬的指導実践(模擬授業)を通して、中・上級日本語学習者に日本語を教える技術を習得します。

①日本語教育中・上級段階の指導に必要な知識を身に付ける。
②他者との共同作業で必要な協調性、責任感等を養う。
③中・上級指導技術の基本を身に付ける。
④各種のふりかえり作業を通し、省察力や授業観察の力を身に付ける。

前半は、日本語教育中・上級段階の指導に必要な各種知識を、教科書を用い講義形式の授業で学んでいきます。授業は、主にグループで取り組む様々なタスクも行いながら進めます。
後半は、グループでの模擬的指導実践(模擬授業)を行います。学習者役はクラスメートです。模擬授業後は、さまざまなふりかえり作業を行うことで、学びを確実なものとしします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 学習者の多様性について	
	2. 中上級段階とは	教科書の該当課を読んでおく。 さまざまな中上級教科書に触れる。
	3. 中上級段階の指導項目	教科書の該当課を読んでおく。 さまざまな中上級教科書に触れる。
	4. 中上級段階の指導法 1	教科書の該当課を読んでおく。
	5. 中上級段階の指導法 2	教科書の該当課を読んでおく。
	6. 中上級段階の指導法 3	教科書の該当課を読んでおく。
	7. 模擬授業の準備 3	模擬授業の準備作業を進める。
	8. 模擬授業の準備 2	模擬授業の準備作業を進める。
	9. 模擬授業の準備 3	模擬授業の準備作業を進める。
	10. 模擬授業 1	授業後、模擬授業をふりかえる。
	11. 模擬授業 2	授業後、模擬授業をふりかえる。
	12. 模擬授業 3	授業後、模擬授業をふりかえる。
	13. 模擬授業 4	授業後、模擬授業をふりかえる。
	14. 模擬授業 5	授業後、模擬授業をふりかえる。
	15. ふりかえり	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

模擬授業はグループ単位で行います。各自協調性と責任感をもってグループ作業に取り組むことで、より多くの学びを得ましょう。
模擬授業に関しては、担当グループごとに、10時間以上の準備が求められることを理解しておくこと。

授業中適宜フィードバックを行います。
マナビーで提出のリフレクション課題を課す場合には、必要に応じて個別にコメントするか、まとめて教室でフィードバックを行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート・課題提出	30%	到達目標③④を基準に、レポートや教案およびそれに付随するものを評価します。
	授業の積極的参加度	70%	到達目標①～④を基準に、模擬授業ではその質、および、各自の役割とその達成度を評価します。出席および授業中の態度、課題への取り組みも評価対象とします。なお、正当な理由なく5回以上欠席の場合は不可とします。

教科書:

『テーマ別 中級から学ぶ日本語』(研究社)、あるいは、国際交流基金『日本語教授法シリーズ10 中上級を教える』(ひつじ書房)。教師が指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力

授業前後に対応します。
また、Eメールやオフィスアワーも活用してください。
丸山 敬介 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp
山本 由紀子 yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:			
授業の概要:	卒業研究の課題設定をめざして、各自が調査と資料収集を行い、個別発表を通じて問題点を明確にしてゆく。		
到達目標:	①研究課題の設定。②資料の調査と収集。		
授業方法:	演習を基本とし、個別発表と質疑応答。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	①授業概要・到達目標・授業方法についてのガイダンス。②現時点での各自の研究課題と展望について全員が報告、質疑応答。	シラバスを読んで、現時点での各自の研究課題を考えておく。
	2.	研究課題についての個別発表①質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。
	3.	研究課題についての個別発表②質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	4.	研究課題についての個別発表③質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	5.	研究課題についての個別発表④質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	6.	研究課題についての個別発表⑤質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	7.	研究課題についての個別発表⑥質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	8.	個別発表①～⑥をふまえて、再度、発表。質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	9.	個別発表①～⑥をふまえて、再度、発表。質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	10.	個別発表①～⑥をふまえて、再度、発表。質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	11.	個別発表①～⑥をふまえて、再度、発表。質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	12.	個別発表①～⑥をふまえて、再度、発表。質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	13.	個別発表①～⑥をふまえて、再度、発表。質疑応答。講評。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。
	14.	夏季休暇中の研究計画の作成①。	研究計画の素案。
	15.	夏季休暇中の研究計画の作成②。	研究計画の素案。
受講者へのメッセージやアドバイス:	本文テキストと参考文献は、各自のテーマに応じて個別に指導する。他大学図書館、公共図書館なども積極的に利用するとよい。		
フィードバックの方法:	レポートにコメントをつけて教室で返却。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポートの完成度	60	課題設定・資料収集
	授業への参加度	40	授業時の発表・質疑応答
教科書:			
参考書:	岩波講座『日本文学史』8・9・10巻。 『中村幸彦著述集』中央公論社。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。オフィスアワー。個別対応も可。		

授業テーマ:			
授業の概要:	卒業研究の課題設定をめざして、各自が調査と資料収集を行い、個別発表を通じて問題点を明確にしてゆく。「演習ⅠB」の成果をふまえて、先行研究を探して検討する。		
到達目標:	①研究課題の設定。②資料の調査と収集。③先行研究の検討。		
授業方法:	演習を基本とし、個別発表と質疑応答。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 夏季休暇中の成果発表と現状報告①	「演習ⅠB」のレポートの問題点を整理し、先行研究を探しておく。	
	2. 夏季休暇中の成果発表と現状報告②	「演習ⅠB」のレポートの問題点を整理し、先行研究を探しておく。	
	3. 研究文献リストの作成指導①	先行研究の文献リストを作成する。以後、継続的に更新する。	
	4. 研究文献リストの作成指導②	先行研究の文献リストを作成する。以後、継続的に更新する。	
	5. 個別発表①。各自の課題にかかわる先行研究を紹介し、内容を検討する。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。	
	6. 個別発表②。各自の課題にかかわる先行研究を紹介し、内容を検討する。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。	
	7. 個別発表③。各自の課題にかかわる先行研究を紹介し、内容を検討する。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。	
	8. 個別発表④。先行研究をふまえて各自の論点を整理する。質疑応答。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。	
	9. 個別発表⑤。先行研究をふまえて各自の論点を整理する。質疑応答。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。	
	10. 個別発表⑥。先行研究をふまえて各自の論点を整理する。質疑応答。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。	
	11. 個別発表⑦。発表先④⑤⑥の質疑応答をふまえて、再度発表。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。	
	12. 個別発表⑧。発表先④⑤⑥の質疑応答をふまえて、再度発表。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。	
	13. 個別発表⑨。発表先④⑤⑥の質疑応答をふまえて、再度発表。	発表担当者はレジュメの作成。質疑についての補足説明。	
	14. 各自の課題について全員で講評①。	全員の課題についてのコメント。	
	15. 各自の課題について全員で講評②。	全員の課題についてのコメント。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本文テキストと参考文献は、各自のテーマに応じて個別に指導する。他大学図書館、公共図書館なども積極的に利用するとよい。		
フィードバックの方法:	レポートにコメントをつけて教室で返却。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポートの完成度	60	課題設定・先行研究の検討・資料収集
	授業への参加度	40	授業時の発表・質疑応答
教科書:			
参考書:	岩波講座『日本文学史』巻8・9・10巻。 『中村幸彦著述集』中央公論社。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。オフィスアワー。個別対応も可。		

授業テーマ:	『源氏物語』を研究するためのレッスン		
授業の概要:	『源氏物語』の演習を通して、古典文学の研究法を修得する。作品を研究として読むという行為がどのようなものを体得してもらう。本年度は夕顔巻を選び、各自担当本文を発表する中で、研究に必要な諸情報をマスターしてほしい。また課題レポートの作成を通して、卒業論文へのステップとしてほしいので、積極的な参加を希望する。		
到達目標:	卒業論文作成へのステップとして、分量的にも内容的にもそれに見合ったものができるようになってほしい。研究は各自のテーマによって異なるので、受身ではなく積極的に演習に参加してほしい。		
授業方法:	演習形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	夕顔巻を読んでおく。	
	2. 個人発表のスケジュール調整	発表に向けての準備	
	3. 発表までの間、講義を行う。	発表に向けての準備	
	4. 発表までの間、講義を行う。	発表に向けての準備	
	5. 個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	6. 個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	7. 個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	8. 個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	9. 個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	10. 2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	11. 2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	12. 2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	13. 2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	14. 2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	15. レポート提出のガイダンス	レポート作成	
	総括		
受講者へのメッセージやアドバイス:	積極的な参加を望む		
フィードバックの方法:	個人発表についてはその場で意見・批評を行う。レポートについては添削の上改訂をしてもらう。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	100	最終的に提出されるレポートによって評価する。ただし個人発表など積極的に参加していることも加味する。
教科書:	新編日本古典文学全集『源氏物語1』(小学館)		
参考書:	特になし		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力		
教員との連絡方法:	研究室での対応、メールでの対応		

授業テーマ:	『源氏物語』を研究するためのレッスンⅡ		
授業の概要:	『源氏物語』の演習を通して、古典文学の研究法を修得する。作品を研究として読むという行為がどのようなものを体得してもらう。本年度は夕顔巻を選び、各自担当本文を発表する中で、研究に必要な諸情報をマスターしてほしい。また課題レポートの作成を通して、卒業論文へのステップとしてほしいので、積極的な参加を希望する。		
到達目標:	卒業論文作成へのステップとして、分量的にも内容的にもそれに見合ったものができるようになってほしい。研究は各自のテーマによって異なるので、受身ではなく積極的に演習に参加してほしい。		
授業方法:	演習形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	夕顔巻を読んでおく。	
	2. 個人発表のスケジュール調整	発表に向けての準備	
	3. 発表までの間、講義を行う。	発表に向けての準備	
	4. 発表までの間、講義を行う。	発表に向けての準備	
	5. 個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	6. 個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	7. 個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	8. 個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	9. 個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	10. 2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	11. 2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	12. 2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備	
	13. レポート提出のガイダンス	論文集作成にむけての準備	
	14. 論文集作成作業	論文集作成に向けての準備	
	15. 論文集作成作業	自己評価を行っておく	
	総括		
受講者へのメッセージやアドバイス:	積極的な参加を望む		
フィードバックの方法:	個人発表についてはその場で意見・批評を行う。レポートについては添削の上改訂をしてもらう。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	100	最終的に提出されるレポートによって評価する。ただし個人発表など積極的に参加していることも加味する。
教科書:	新編日本古典文学全集『源氏物語1』(小学館)		
参考書:	特になし		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力		
教員との連絡方法:	研究室での対応、メールでの対応		

授業テーマ:

芸術としての文学を読む(1)

授業の概要:

受講生に、興味関心のある作品について、調査し考えた事を発表して貰い、それについて皆で議論を闘わせていく。初出との異同の調査や成立事情の調査などの基本的な作業から、その作家の全集や伝記的な事項の検討、首尾一貫した作品の読解の提示まで、レポーターの任務はもちろん重いが、他の受講生も積極的に議論に参加する事が望まれる。

取り上げる作品は次の通り。
森鷗外『舞姫』『雁』
夏目漱石『文鳥』
志賀直哉『クローディアスの日記』『范の犯罪』『城の崎にて』
武者小路実篤『お目出たき人』
芥川龍之介『羅生門』『地獄変』
梶井基次郎『桜の樹の下には』など

到達目標:

これまで身につけた作家研究・作品研究の方法を、更に深める事を目標にする。

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目についてのガイダンス	なし
2.	スタートにあたって	「私の偏愛マップ」
3.	スタートにあたって	なし
4.	作品研究	取り上げる作品を読んでくること
5.	作品研究	取り上げる作品を読んでくること
6.	作品研究	取り上げる作品を読んでくること
7.	作品研究	取り上げる作品を読んでくること
8.	作品研究	取り上げる作品を読んでくること
9.	作品研究	取り上げる作品を読んでくること
10.	作品研究	取り上げる作品を読んでくること
11.	作品研究	取り上げる作品を読んでくること
12.	作品研究	取り上げる作品を読んでくること
13.	作品研究	取り上げる作品を読んでくること
14.	レポート・論文の書き方	レポートの下書き
15.	今後に向けて	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室で解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の参加度合い	50	欠席が4回以上の者は不可とする
	レポート	50	到達目標の作家研究・作品研究の方法が身についているかを評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:	芸術としての文学を読む(2)																																		
授業の概要:	受講生に、興味関心のある作品について、調査し考えた事を発表して貰い、それについて皆で議論を闘わせていく。初出との異同の調査や成立事情の調査などの基本的な作業から、その作家の全集や伝記的な事項の検討、首尾一貫した作品の読解の提示まで、レポーターの任務はもちろん重いが、他の受講生も積極的に議論に参加する事が望まれる。																																		
	取り上げる作品は次の通り。																																		
	谷崎潤一郎『少年』『芦刈』『春琴抄』 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』 太宰治『パンドラの匣』『駈込み訴へ』 川端康成『片腕』 島尾敏雄『夢の中での日常』 三浦哲郎『忍ぶ川』 村上春樹『風の歌を聴け』など																																		
到達目標:	これまで身につけた作家研究・作品研究の方法を、更に深める事を目標にする。																																		
授業方法:	演習																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 科目についてのガイダンス</td><td>なし</td></tr><tr><td>2. 作品研究</td><td>取り上げる作品を読んでくること</td></tr><tr><td>3. 作品研究</td><td>取り上げる作品を読んでくること</td></tr><tr><td>4. 作品研究</td><td>取り上げる作品を読んでくること</td></tr><tr><td>5. 作品研究</td><td>取り上げる作品を読んでくること</td></tr><tr><td>6. 作品研究</td><td>取り上げる作品を読んでくること</td></tr><tr><td>7. 作品研究</td><td>取り上げる作品を読んでくること</td></tr><tr><td>8. 作品研究</td><td>取り上げる作品を読んでくること</td></tr><tr><td>9. 作品研究</td><td>取り上げる作品を読んでくること</td></tr><tr><td>10. 作品研究</td><td>取り上げる作品を読んでくること</td></tr><tr><td>11. 作品研究</td><td>取り上げる作品を読んでくること</td></tr><tr><td>12. 卒論に向けて</td><td>文芸読本の準備</td></tr><tr><td>13. 卒論に向けて</td><td>文芸読本の準備</td></tr><tr><td>14. 卒論に向けて</td><td>文芸読本の準備</td></tr><tr><td>15. 卒論に向けて</td><td>文芸読本の準備</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 科目についてのガイダンス	なし	2. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること	3. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること	4. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること	5. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること	6. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること	7. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること	8. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること	9. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること	10. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること	11. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること	12. 卒論に向けて	文芸読本の準備	13. 卒論に向けて	文芸読本の準備	14. 卒論に向けて	文芸読本の準備	15. 卒論に向けて	文芸読本の準備		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 科目についてのガイダンス	なし																																		
2. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること																																		
3. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること																																		
4. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること																																		
5. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること																																		
6. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること																																		
7. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること																																		
8. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること																																		
9. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること																																		
10. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること																																		
11. 作品研究	取り上げる作品を読んでくること																																		
12. 卒論に向けて	文芸読本の準備																																		
13. 卒論に向けて	文芸読本の準備																																		
14. 卒論に向けて	文芸読本の準備																																		
15. 卒論に向けて	文芸読本の準備																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	教室で解説する																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業の参加度合い</td><td>50</td><td>欠席が4回以上の者は不可とする</td></tr><tr><td>レポート</td><td>50</td><td>到達目標の作家研究・作品研究の方法が身についているかを評価する</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業の参加度合い	50	欠席が4回以上の者は不可とする	レポート	50	到達目標の作家研究・作品研究の方法が身についているかを評価する																									
評価方法	割合	評価基準																																	
授業の参加度合い	50	欠席が4回以上の者は不可とする																																	
レポート	50	到達目標の作家研究・作品研究の方法が身についているかを評価する																																	
教科書:																																			
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	Eメール																																		

授業テーマ:

漢詩を読み、漢詩を作る

授業の概要:

中国の漢詩世界(六朝から唐代にかけて)を四季別に精読(毎回2〜3首)しながら、受講者担当に表現の背景や特徴を考え、討論を通じて、より深い解釈・鑑賞能力を向上させる。また、他の日本文学作品との関係についても広く目配りする視点を身につける共に、受講者自らも漢詩(七言絶句)を作る体験をする。

到達目標:

漢詩の素材や表現のありようを学び、作者(詩人像)について知識と理解を深め、自らの表現に生かそうとする態度を育むことをめざす。
・五・七言、律詩・絶句という形式と構成・展開を理解する。
・詩語に対する知識や理解を持つ。
・漢詩を解釈し鑑賞する能力を高め身につけて、文章に表現する。
・七言絶句(近体詩)を作り発表する。

授業方法:

演習。受講者全員で読み、解釈し合い、議論する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 漢詩の世界(導入)	
	2. 春の漢詩 1	2〜3首の漢詩についての訓みと解釈
	3. 春の漢詩 2	2〜3首の漢詩についての訓みと解釈
	4. 春の漢詩 3	2〜3首の漢詩についての訓みと解釈
	5. 夏の漢詩 1	2〜3首の漢詩についての訓みと解釈
	6. 夏の漢詩 2	2〜3首の漢詩についての訓みと解釈
	7. 秋の漢詩1	2〜3首の漢詩についての訓みと解釈
	8. 秋の漢詩2	2〜3首の漢詩についての訓みと解釈
	9. 秋の漢詩3	2〜3首の漢詩についての訓みと解釈
	10. 冬の漢詩1	2〜3首の漢詩についての訓みと解釈
	11. 冬の漢詩2	2〜3首の漢詩についての訓みと解釈
	12. 漢詩(自詠)を作る1	現代語で四行詩を作ってくる(複数)
	13. 漢詩(自詠)を作る2	起承転結を考え、仮に文字を入れてくる
	14. 漢詩(自詠)を作る3	平仄を改めて考え、仮に文字を入れてくる
	15. まとめ	受講者各人好きな詩3首と自詠詩1首発表用意

受講者へのメッセージやアドバイス:

無断欠席しないように。『唐詩選』などの漢詩集を別途読んで下さい。

フィードバックの方法:

レポートは採点后、朱を入れ返却。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(8000字前後)	70%	到達目標の知識・理解・表現能力により評価
	授業への積極的参加度	30%	質疑応答や討論に積極的に参加

教科書:

最初の授業時に担当教員作成のプリントを配布(無料)

参考書:

授業時に随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業前後・オフィスアワー・出講日の研究室在室時

授業テーマ:

杜子春―唐代伝奇小説と芥川作品―を読む

授業の概要:

唐代伝奇小説「杜子春伝」と芥川龍之介「杜子春」を比較対象させながら精読し、各々の作品の特質を受講者相互で論じ合う。よく知られる芥川の小説は児童文学雑誌『赤い鳥』に発表されたもので、原作をかなり翻案していることは明らかである。その変更の箇所や背景・叙述について、全体で討論を重ねながら、二作品のテーマについて迫ってみたい。

到達目標:

漢文を訓読し理解する能力を持ち、近代日本文学作品と比較対照させ、それぞれの作品の特質と叙述の意図を説き明かし、レポートにまとめる。
・漢文を訓読、解釈できる。
・比較対照的視点を持つ。
・二作品の叙述の相違とその背景について考える。
・二作品のテーマについて各自考えを発表し、レポートにまとめる。

授業方法:

演習。受講者全員で読み、解釈し合い、議論する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 唐代伝奇入門(導入)	
	2. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較①	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	3. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較②	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	4. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較③	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	5. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較④	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	6. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較⑤	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	7. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較⑥	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	8. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較⑦	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	9. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較⑧	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	10. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較⑨	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	11. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較⑩	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	12. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較⑪	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	13. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較⑫	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	14. 『杜子春伝』と芥川『杜子春』比較⑬	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	15. まとめ	二作品の各々全体を通した比較をまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは採点后、朱を入れ返却。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(8000字前後)	70%	到達目標の知識・理解・表現能力により評価
	授業への積極的参加度	30%	質疑応答や討論への貢献

教科書:

最初の授業時に担当教員作成のプリントを配布(無料)

参考書:

授業時に随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業前後・オフィスアワー・出講日の研究室在室時

授業テーマ:	近現代文学に描かれた〈都市〉の諸相を読む		
授業の概要:	日本では明治から大正・昭和にかけて東京や大阪といった〈都市〉があらわれた。ある場所に人口が集中すると、そこに新たな文化や価値観が生まれる。〈都市〉は人やモノの関係で構成されるネットワークでありながら、逆に人やモノのあり方を規定する。近代の〈都市〉はどのようにして生まれ変化していったのか。そして人はそのネットワークの中でどのように生きたのか。近現代の小説を〈都市〉という視点から読み解く。		
到達目標:	1.チームで問題に取り組む能力を高める 2.問題を発見しそれを解決する能力を高める 3.よりよい合意を目指して建設的に批判する能力を高める 4.自らの主張を表現する能力を高める		
授業方法:	授業は受講者のグループ発表・質問・討議が中心となる。出席者には毎回発言を求める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス		
	2. グループ分けとアイスブレイク		
	3. 文学研究の目的と方法		
	4. 発表の目的と方法		
	5. グループディスカッション1	授業外でのディスカッション	
	6. グループディスカッション2	授業外でのディスカッション	
	7. グループディスカッション3	授業外でのディスカッション	
	8. グループ発表1 田山花袋「少女病」	対象テキストの精読	
	9. グループ発表2 谷崎潤一郎「秘密」	対象テキストの精読	
	10. グループ発表3 堀辰雄「水族館」	対象テキストの精読	
	11. グループ発表4 三島由紀夫「橋づくし」	対象テキストの精読	
	12. グループ発表5 大江健三郎「人間の羊」	対象テキストの精読	
	13. レポート・論文の書き方		
	14. レポート相互添削		
	15. レポート相互添削		
受講者へのメッセージやアドバイス:	★重要★ 授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！ 取り上げる作品はあらかじめ丁寧に読んでおき、疑問点や気がついた点などをリストアップして授業に臨むこと。授業中には全員に発言を求める。		
フィードバックの方法:	マナビーを通じて優れたレポートを受講生に公開する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業に臨む態度	30	欠席1回につき10点減点とする。
	ディスカッションの貢献度	20	
	発表内容(レジュメ・口頭での説明・質疑応答)	25	
	レポート	25	
教科書:	東郷克美・高橋広満編『〈都市〉文学を読む』(鼎書房)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	学内メール:kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

近現代文学に描かれた〈異界〉の諸相を読む

授業の概要:

明治に入り急速に欧化を進めた日本は、西欧から様々な文化・思想を摂取した。〈近代科学の精神〉もその一つである。主張の正しさを確保する上で客観性や実証性を重視し、自然を理解・支配しようとする〈近代科学の精神〉は、しかしながら、キリスト教の統一的世界観など西欧文化を基底にして成立したものであると言われる。西欧文化に根ざした〈近代科学の精神〉を東洋の日本が取り入れようとしたとき、日本人の心に何が起きたのか。近代の文学作品を読むことは、その諸相をのぞくことにつながる。

- 到達目標:
- 1.チームで問題に取り組む能力を高める

2.問題を発見しそれを解決する能力を高める

3.よりよい合意を目指して建設的に批判する能力を高める

4.自らの主張を表現する能力を高める

授業方法:

授業は受講者のグループ発表・質問・討議が中心となる。出席者には毎回発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス・グループ分け	
	2. 先行研究について・パワーポイント発表の方法	
	3. グループディスカッション1	授業外でのディスカッション
	4. グループディスカッション2	授業外でのディスカッション
	5. グループ発表1（先行研究の整理）	対象テキストの精読
	6. グループ発表2（先行研究の整理）	対象テキストの精読
	7. グループディスカッション3	授業外でのディスカッション
	8. グループディスカッション4	授業外でのディスカッション
	9. グループ発表1 永井荷風「狐」	対象テキストの精読
	10. グループ発表2 芥川龍之介「奉教人の死」	対象テキストの精読
	11. グループ発表3 江戸川乱歩「押絵と旅する男」	対象テキストの精読
	12. グループ発表4 太宰治「魚服記」	対象テキストの精読
	13. グループ発表5 川端康成「水月」	対象テキストの精読
	14. ポスター発表準備1	授業外でのディスカッション
	15. ポスター発表準備2	授業外でのディスカッション

受講者へのメッセージやアドバイス:

★重要★

授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

取り上げる作品はあらかじめ丁寧に読んでおき、疑問点や気がついた点などをリストアップして授業に臨むこと。授業中には全員に発言を求める。

フィードバックの方法:

マナビーを通じて優れたポスター発表資料を受講生に公開する。2月初旬に行われる「成果発表会」において、ポスター発表を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業に臨む態度	30	欠席1回につき10点減点とする。
	ディスカッションの貢献度	20	
	発表内容（パワポ資料・口頭での説明・質疑応答）	25	
	ポスター	25	

教科書:

東郷克美・吉田司雄編『〈異界〉文学を読む』（鼎書房）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

学内メール : kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

日本語の歴史および運用に関する諸問題

授業の概要:

日本語の歴史や表現および運用に関わる諸問題について各自の関心をもとに調査研究を行う。主体的な探求活動を通じて問題点を発見し、その探求方法を探る過程を通じて卒業研究のテーマ選択につなげていく。必要に応じて、基礎的な文献を講読することあれば、徹底的にテキストを読み進めることもある。

到達目標:

①自分の問題意識に合致する探求テーマを発見する。(関心・意欲・態度)
②各自の探求テーマに関する基礎的な知識を収集する。(知識・理解)
③各自の探求テーマに沿って解決したい問題を設定し、問題解決のための調査を進める。(表現・技能・能力)
④問題解決のための調査を進める過程で遭遇した問題点を明確にし、調査方針や問題設定の修正を行う。必要に応じてさらなる知識習得に努める。(関心・意欲・態度・知識・理解)
⑤問題設定から問題解決のための調査の過程およびその途中で遭遇した問題点と現時点での到達点について明快に説明することができる。(表現・技能・能力)
⑥他者の発表を聞いたりレポートを読んだりしてその論理を追い、問題点を見つけてよりよい改善策や新たな提案を行うことができる。(関心・意欲・態度・表現・技能・能力)

授業方法:

研究方法や研究課題についてのレクチャーをはさみつつ、当番の受講者があらかじめ用意した資料等をもとにしたディスカッションを通して授業を進める。なお、各自の進捗に応じて順次課題を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	自己紹介および興味関心のあるテーマを考えてくること。
2.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をマナビーにアップしておく。授業後は全員がコメントを書き込む。
3.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をアップしておく。授業後は全員がコメントシートを書き込む。
4.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をアップしておく。授業後は全員がコメントシートを書き込む。
5.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をアップしておく。授業後は全員がコメントシートを書き込む。
6.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をアップしておく。授業後は全員がコメントシートを書き込む。
7.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をアップしておく。授業後は全員がコメントシートを書き込む。
8.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をアップしておく。授業後は全員がコメントシートを書き込む。
9.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をアップしておく。授業後は全員がコメントシートを書き込む。
10.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をアップしておく。授業後は全員がコメントシートを書き込む。
11.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をアップしておく。授業後は全員がコメントシートを書き込む。
12.	各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション	担当者は事前に発表資料をアップしておく。授業後は全員がコメントシートを書き込む。
13.	レポート指導	レポートの計画をアップしておく。
14.	レポート指導	レポートの計画をアップしておく。
15.	レポート指導	レポートの計画をアップしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

発表は受講生と教員がともに考える場なので、事前に用意する資料は完成したものである必要はまったくない。迷っていることやプロセスを書き留めることに意味があるので、未完成なもの、自信のないものでもよいので必ず何かを書いて用意してくること。

フィードバックの方法:

授業中にコメント。必要に応じてマナビーを通して指導する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加態度	30%	授業時のディスカッションや事後のコメントシートを通して到達目標⑥が達成されたかどうかを評価する。
	担当回の発表(資料作成含む)	30%	発表および作成資料と授業時のディスカッションにおいて、到達目標①～⑤が達成されたかどうかを評価する。
	期末レポート	40%	レポート作成を通して、到達目標⑤が達成されたかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール(アドレスは授業時に開示する)

授業テーマ:	日本語の歴史および運用に関する諸問題		
授業の概要:	日本語の歴史や表現および運用に関わる諸問題について各自の関心をもとに調査研究を行う。主体的な探求活動を通じて問題点を発見し、その探求方法を探る過程を通じて卒業研究のテーマ選択につなげていく。必要に応じて、基礎的な文献を講読することあれば、徹底的にテキストを読み進めることもある。		
到達目標:	①自分の問題意識に合致する探求テーマを発見する。(関心・意欲・態度) ②各自の探求テーマに関する基礎的な知識を収集する。(知識・理解) ③各自の探求テーマに沿って解決したい問題を設定し、問題解決のための調査を進める。(表現・技能・能力) ④問題解決のための調査を進める過程で遭遇した問題点を明確にし、調査方針や問題設定の修正を行う。必要に応じてさらなる知識習得に努める。(関心・意欲・態度・知識・理解) ⑤問題設定から問題解決のための調査の過程およびその途中で遭遇した問題点と現時点での到達点について明快地説明することができる。(表現・技能・能力) ⑥他者の発表を聞いたりレポートを読んだりしてその論理を追い、問題点を見つけてよりよい改善策や新たな提案を行うことができる。(関心・意欲・態度・表現・技能・能力)		
授業方法:	研究方法や研究課題についてのレクチャーをはさみつつ、当番の受講者があらかじめ用意した資料等をもとにしたディスカッションを通して授業を進める。なお、各自の進捗に応じて順次課題を課す。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション		春学期の期末レポートをアップしておくこと。
	2. 期末レポートについての報告とディスカッション		期末レポートについて簡潔に説明できる資料の作成
	3. 期末レポートについての報告とディスカッション		期末レポートについて簡潔に説明できる資料の作成
	4. 各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション		担当者は事前に発表資料をマナビーにアップしておく。授業後は全員がコメントを書き込む。
	5. 各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション		担当者は事前に発表資料をマナビーにアップしておく。授業後は全員がコメントを書き込む。
	6. 各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション		担当者は事前に発表資料をマナビーにアップしておく。授業後は全員がコメントを書き込む。
	7. 各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション		担当者は事前に発表資料をマナビーにアップしておく。授業後は全員がコメントを書き込む。
	8. 各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション		担当者は事前に発表資料をマナビーにアップしておく。授業後は全員がコメントを書き込む。
	9. 各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション		担当者は事前に発表資料をマナビーにアップしておく。授業後は全員がコメントを書き込む。
	10. 各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション		担当者は事前に発表資料をマナビーにアップしておく。授業後は全員がコメントを書き込む。
	11. 各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション		担当者は事前に発表資料をマナビーにアップしておく。授業後は全員がコメントを書き込む。
	12. 各自関心のあるテーマについての調査研究報告とディスカッション		担当者は事前に発表資料をマナビーにアップしておく。授業後は全員がコメントを書き込む。
	13. ポスターセッション準備		ポスターセッションの原稿を用意する。
	14. ポスターセッション準備		ポスターセッションの修正原稿を用意する。
	15. ポスターセッション準備		ポスターセッションの修正原稿を用意する。
受講者へのメッセージやアドバイス:	発表は受講生と教員がともに考える場なので、事前に用意する資料は完成したものである必要はまったくない。迷っていることやプロセスを書き留めることに意味があるので、未完成なもの、自信のないものでもよいので必ず何かを書いて用意してくること。		
フィードバックの方法:	授業中にコメント。必要に応じてマナビーを通じて指導する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加態度	30%	授業時のディスカッションや事後のコメントシートを通して到達目標⑥が達成されたかどうかを評価する。
	担当回の発表(資料作成含む)	30%	発表および作成資料と授業時のディスカッションにおいて、到達目標①～⑤が達成されたかどうかを評価する。
	期末レポート	40%	レポート作成を通して、到達目標⑤が達成されたかを評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール(アドレスは授業時に開示する)		

240560

演習Ⅱ

吉野 政治

授業テーマ：日本の文化と植物

授業の概要：以下の内容で進める。
①先行論文を読み、問題の捉え方や基礎的な知識を学ぶ。
②各自が設定したテーマを見つけ出す。
③各自のテーマについて調査したことを発表する。

到達目標：日本の文化に対する植物の多角的な関わり方を理解する。

授業方法：講義と研究発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義・導入(授業の進め方など)	
2.	講義・花の時①・花暦	授業で紹介した論文や書物やことがらについて原典に当たって確認しておくこと。
3.	講義・花の時②・帰り花	同上
4.	講義・花の時③・花時計	同上
5.	講義・植物観の変革①本草学における植物観の影響	同上
6.	講義・植物観の変革②本草学から西洋植物学へ	同上
7.	講義・文化の表象としての草花①	同上
8.	講義・文化の表象としての草花②	同上
9.	講義・儀式や行事と草花①	同上
10.	講義・儀式や行事と草花②	同上
11.	講義・こどもの遊びと草花	同上
12.	研究発表①一回目の発表	講義の中から各自研究したいテーマを探し出し、それをまとめたレジュメを作成すること。
13.	研究発表②二回目の発表	前回の発表で得た意見を反映したレジュメを用意すること
14.	研究発表③三回目の発表前半	同上
15.	研究発表④三回目の発表後半	同上

受講者へのメッセージやアドバイス：12回から始まる受講生の研究発表については、お互いの研究の充実にもつながるので、他の人の研究内容にも関心を持つこと。

フィードバックの方法：授業の時に回答する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	20	積極的に授業に参加しているかどうかを重視する。
	発表	20	レジュメと口頭発表のわかりやすさを重視する。
	レポート	60	内容の独自性と論文としての完成度を重視する。

教科書：教科書は特に用いない。

参考書：受講生が選んだテーマに応じて随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法：OA時間の利用。必要に応じてEメール。

授業テーマ:

日本文化と鉱物

授業の概要:

およそ次の順序で進める。
①先行論文を読み、問題のとらえ方と、基礎知識をまなぶ。
②各自の研究テーマを探す。
③設定したテーマについて発表する。

到達目標:

日本文化に対する鉱物の多角的な関わり方を理解する。

授業方法:

講義と研究発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義・導入(授業の進め方など)	
2.	講義・日本の岩石観	前回に紹介した論文や著書などを確認しておくこと。
3.	講義・日本の砂石観	同上
4.	講義・翡翠信仰	同上
5.	講義・岩石砂の固有名	同上
6.	講義・中国本草学の薬石名	同上
7.	講義・西洋鉱物学の鉱物名	同上
8.	講義・語誌①金剛石	同上
9.	講義・語誌②水晶	同上
10.	講義・語誌③ヒスイ	同上
11.	講義・語誌④ヒヤシンス	同上
12.	研究発表①一回目	発表レジュメを用意すること
13.	研究発表②二回目	一回目の発表を修正した内容のレジュメを用意すること
14.	研究発表③三回目前半	二回目の発表を修正した内容のレジュメを用意すること
15.	研究発表④三回目後半	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

宝石だけでなく広く鉱物に対する関心も持ち、その知識を勉強しておくことがのぞましい。

フィードバックの方法:

授業で回答する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	20	積極的に議論に係わっているかも重視する。
	発表	20	レジュメの作り方、口頭発表のまとめ方の良さを重視する。
	レポート	60	独自の知見があるかを重視する。

教科書:

なし。

参考書:

受講者の発表のテーマに応じて随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ：『百人一首』を読む。

授業の概要：各回1名が一首の歌を研究報告する。

到達目標：古注を読めるようにする。

授業方法：演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 概説	なし
	2. 『百人一首』一番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	3. 『百人一首』二番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	4. 『百人一首』三番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	5. 『百人一首』四番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	6. 『百人一首』五番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	7. 『百人一首』六番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	8. 『百人一首』七番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	9. 『百人一首』八番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	10. 『百人一首』九番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	11. 『百人一首』十番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	12. 『百人一首』十一番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	13. 『百人一首』十二番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	14. 『百人一首』十三番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	15. 『百人一首』十四番、レジュメ発表。 レポート提出。	当該箇所を読んでくる。

受講者へのメッセージやアドバイス：各自、古注を読んでくること。

フィードバックの方法：レポート。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	60	全出席を60%とする。
	レポート	40	満点を40点換算。

教科書：島津忠夫他編『百人一首古注抄』和泉書院

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法：eメール

授業テーマ：『百人一首』を読む。

授業の概要：各回1名が一首の歌を研究報告する。

到達目標：古注を読めるようにする。

授業方法：演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 『百人一首』一五番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	2. 『百人一首』一六番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	3. 『百人一首』一七番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	4. 『百人一首』一八番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	5. 『百人一首』一九番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	6. 『百人一首』二十番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	7. 『百人一首』二一番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	8. 『百人一首』二二番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	9. 『百人一首』二三番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	10. 『百人一首』二四番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	11. 『百人一首』二五番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	12. 『百人一首』二六番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	13. 『百人一首』二七番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	14. 『百人一首』二八番、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	15. まとめ レポート提出	レポートを完成させてくる。

受講者へのメッセージやアドバイス：各自、古注を読んでくること。

フィードバックの方法：レポート

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	60	全出席を60%とする。
	レポート	40	満点を40点換算。

教科書：島津忠夫他編『百人一首 古注抄』 和泉書院

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法：eメール

授業テーマ:	語彙と文字の諸問題		
授業の概要:	語彙と表現、文字・表記に関する研究文献を精読しながら、自ら問題を設定し、自ら計画した調査を実行し、調査結果をふまえて仮説をたてる力を養成する。		
到達目標:	・研究文献を批判的に読解する力をやしなうことを主たる到達目標とする。		
授業方法:	参加者による報告と質疑応答が中心。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション		
	2. 名詞の意味の記述(1)	指示された課題にとりくむ。	
	3. 名詞の意味の記述(2)	指示された課題にとりくむ。	
	4. 名詞の意味の記述(3)	指示された課題にとりくむ。	
	5. 命名・造語(1)	指示された課題にとりくむ。	
	6. 命名・造語(2)	指示された課題にとりくむ。	
	7. 感覚・感情表現(1)	指示された課題にとりくむ。	
	8. 感覚・感情表現(2)	指示された課題にとりくむ。	
	9. 感覚・感情表現(3)	指示された課題にとりくむ。	
	10. 文字による重層的表現(1)	指示された課題にとりくむ。	
	11. 文字による重層的表現(2)	指示された課題にとりくむ。	
	12. 学期末レポートを作成する	指示された課題にとりくむ。	
	13. 卒業研究のテーマをかんがえる(1)	指示された課題にとりくむ。	
	14. 卒業研究のテーマをかんがえる(2)	指示された課題にとりくむ。	
	15. 卒業研究のテーマを考える(3)	指示された課題にとりくむ。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ゼミ仲間で情報を交換したり、意見をたたかわせたりすることに熟達し、そのたのしさをわかちあいたいとおもっています。なお授業の内容別の回数と順序は報告の進捗状況等によって変更することがあります。		
フィードバックの方法:	適宜、全体にまたは個別に対応する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	到達目標により評価する。
	学期末レポート	50	学期末レポートとしての完成度により評価する。
教科書:			
参考書:	適宜、指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、		
教員との連絡方法:	マナビーによる。		

授業テーマ:	日本語学の諸問題		
授業の概要:	これまでの学習を十二分にふまえて卒業研究のテーマを確定する。		
到達目標:	春学期末に各自が設定した卒業研究のテーマに関する研究文献を精読し、また必要な予備調査などを実行して研究課題を明確にとらえる力をやしなうことを主たる目標とする。		
授業方法:	参加者による報告と質疑応答を中心とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション	夏休みの成果を報告する資料を用意する。
	2.	先行研究についての報告(1)	報告または質疑の準備をする。
	3.	先行研究についての報告(2)	報告または質疑の準備をする。
	4.	先行研究についての報告(3)	報告または質疑の準備をする。
	5.	先行研究についての報告(4)	報告または質疑の準備をする。
	6.	先行研究についての報告をふまえての講義(1)	指示された課題にとりくむ。
	7.	先行研究についての報告をふまえての講義(2)	指示された課題にとりくむ。
	8.	予備調査についての報告(1)	報告または質疑の準備をする。
	9.	予備調査についての報告(2)	報告または質疑の準備をする。
	10.	予備調査についての報告(3)	報告または質疑の準備をする。
	11.	予備調査についての報告(4)	報告または質疑の準備をする。
	12.	予備調査についての報告をふまえての講義(1)	指示された課題にとりくむ。
	13.	予備調査についての報告をふまえての講義(2)	指示された課題にとりくむ。
	14.	成果発表会の準備(1)	成果発表会の資料を作成する。
	15.	成果発表会の準備(2)	成果発表会の資料を作成する。
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒業論文の作成は孤独な作業ですが、そのスタートの段階は、ゼミ仲間との切磋琢磨をする絶好の機会です。		
フィードバックの方法:	適宜、全体にまたは個別に対応します。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	50	到達目標により評価する。成果発表会も評価に含む。
	学年末レポート	50	学年末レポートとしての完成度により評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、		
教員との連絡方法:	マナビーによる。		

授業テーマ：

日本語学の諸問題

授業の概要：

日本語研究の面白さを知る。文法・音声・意味、その他の通時的・共時的な問題についてこちらで用意したテーマの中から各自担当するものを選び、基本事項を学びながら、データを収集・検討し、興味ある問題を見出す。

到達目標：

日本語学での研究のあり方や方法の基本を理解する。卒業論文作成に向けて自分自身でテーマを見出すための基礎となる力をつける。

授業方法：

演習形式。各自の研究発表に基づく議論と指導を主体とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	各自のテーマの決定	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。
2.	発表準備指導	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
3.	発表準備指導	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
4.	発表準備指導	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
5.	発表準備指導	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
6.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
7.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
8.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
9.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
10.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
11.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
12.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
13.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
14.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
15.	レポート作成指導	レポートの土台となるものを書いてくること。

受講者へのメッセージやアドバイス：

研究というのは、誰も知らないことを発見したり、新しい説明を考えたりするところに面白さがあるのであって、既に知られていることや調べるまでもなく容易に予想できることを確かめるだけでは面白くありません。現代日本語に関する研究テーマは無限にありますから、この授業を通じて研究のイメージをつかみ、方法を学んで、自分自身で卒論のテーマを考える力をつけてください。

フィードバックの方法：

提出課題や発表資料・下書きにはできる限り個別にコメントします。教室で、または、マナビー上から行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	20	積極的な参加を重視する。単なる出席ではない。
	中間の提出物・発表内容・最終レポート	80	各自の研究を通じて、授業目標に掲げた力をつけることができたかを評価する。
	出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし、原則として欠席4回で不可とする。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法：

マナビーから、または、教室・研究室等での面談による

授業テーマ:	日本語学の諸問題		
授業の概要:	日本語学の主要分野からテーマを選んで関連文献を探し、読み、問題点を考える。データ(用例等)収集を行い、観察し、自分なりの分析を示す。テーマ選択に当たっては希望を聞くが、研究進展の見通しが得られないなどの理由により他のテーマに変更してもらうことがある。なるべく卒業論文につなげることを目指すこと。		
到達目標:	卒業論文作成に必要な研究方法・研究結果のまとめ方の基本を習得する。		
授業方法:	演習形式。学生の発表と議論、および個別指導を中心とする。毎回マナビーから課題提出。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	各自のテーマの決定・発表準備指導	各自の研究テーマに取り組むこと。
	2.	発表準備指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	3.	発表準備指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	4.	発表準備指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	5.	発表準備指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	6.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	7.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	8.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	9.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	10.	中間のまとめ	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	11.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	12.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	13.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	各自の研究テーマに取り組む、発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
	14.	成果発表会(ポスター発表)準備指導	ポスターの下書きを作成してくること
	15.	レポート作成指導	レポートの土台となるものを書いてくること。
受講者へのメッセージやアドバイス:	4年次での卒業論文作成に向けて、各自、これと思うテーマを見つけ、取り組んで下さい。		
フィードバックの方法:	提出課題および発表内容・下書きに対して、できる限り個別にコメントを行う。マナビー上、または教室でコメントする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	20	積極的な参加を重視する。単なる出席ではない。
	中間の提出物・発表内容・最終レポート	80	各自の研究を通じて、授業目標に掲げた力をつけることができたかを評価する。
	出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし、原則として欠席4回で不可とする。
教科書:			
参考書:	個別に指示、自分自身でも関連文献を探しコピーすること。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	マナビーから、または、教室・研究室等での面談による		

授業テーマ:

今日の日本語教育における諸問題 1

授業の概要:

今日の日本語教育で論ぜられる課題を、社会・文化・地域に関わるもの、言語に関わるもの、教育に関わるものの三つの観点から概観し、その基礎を理解する。

到達目標:

①今日の日本語教育を、上記3点から理解すること
②卒業研究のテーマをしぼり込み、その枠組みをつくること

授業方法:

演習形式。各領域についてなされる教師の解説を受け、各自、一つずつテーマを選び問題のあり方とその背景・新しい動き・課題などについて発表する。その後、その発表をめぐって質疑応答・意見の交換を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	今日の日本語教育における諸問題(社会・文化・地域に関わるもの) 1	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
2.	今日の日本語教育における諸問題(社会・文化・地域に関わるもの) 2	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
3.	今日の日本語教育における諸問題(社会・文化・地域に関わるもの) 3	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
4.	今日の日本語教育における諸問題(社会・文化・地域に関わるもの) 4	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
5.	今日の日本語教育における諸問題(社会・文化・地域に関わるもの) 5	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
6.	今日の日本語教育における諸問題(言語に関わるもの) 1	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
7.	今日の日本語教育における諸問題(言語に関わるもの) 2	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
8.	今日の日本語教育における諸問題(言語に関わるもの) 3	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
9.	今日の日本語教育における諸問題(言語に関わるもの) 4	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
10.	今日の日本語教育における諸問題(言語に関わるもの) 5	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
11.	今日の日本語教育における諸問題(教育に関わるもの) 1	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
12.	今日の日本語教育における諸問題(教育に関わるもの) 2	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
13.	今日の日本語教育における諸問題(教育に関わるもの) 3	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
14.	今日の日本語教育における諸問題(教育に関わるもの) 4	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
15.	今日の日本語教育における諸問題(教育に関わるもの) 5	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1〜2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回取り上げる項目については、そのものの解説の他、卒業研究として取り上げる際の留意点について解説する。それについて、質問などがある場合には、授業中並びにその前後に対応する。発表に際しても、発表内容とその仕方並びに卒業研究として取り上げる際の留意点について解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の積極的な参加度	60%	授業中の教師への質疑応答並びに発表者への質疑応答などを通して、到達目標①②を評価する。ただし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は不可とする。
	発表	40%	発表内容とその仕方を、①の観点から評価する。ただ原稿を読み上げるような発表は、評価の対象外とする。

教科書:

マナビー参照のこと。

参考書:

都度、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

以下のアドレスを使用のこと。
kmaruyam@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	今日の日本語教育における諸問題 2		
授業の概要:	今日の日本語教育を、社会・文化・地域に関わるもの、言語に関わるもの、教育に関わるものの三つの観点から、より深く理解する。		
到達目標:	①今日の日本語教育を、上記3点からより深く理解すること ②卒業研究の枠組みをかためること		
授業方法:	演習形式。各自の発表を受け質疑応答し、最後に教師が卒業研究の観点から講評する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	卒業研究と卒業論文に関する基礎知識	レジメを読んでおく。
	2.	社会・文化・地域に関わる課題の発表と質疑応答 1	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	3.	社会・文化・地域に関わる課題の発表と質疑応答 2	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	4.	社会・文化・地域に関わる課題の発表と質疑応答 3	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	5.	社会・文化・地域に関わる課題の発表と質疑応答 4	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	6.	まとめ 1	その領域・個々の項目についてまとめる。また、自分の卒業研究とのつながりを確認する。
	7.	言語に関わる課題の発表と質疑応答 1	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	8.	言語に関わる課題の発表と質疑応答 2	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	9.	言語に関わる課題の発表と質疑応答 3	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	10.	まとめ 2	その領域・個々の項目についてまとめる。また、自分の卒業研究とのつながりを確認する。
	11.	教育に関わる課題の発表と質疑応答 1	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	12.	教育に関わる課題の発表と質疑応答 2	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	13.	教育に関わる課題の発表と質疑応答 3	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	14.	教育に関わる課題の発表と質疑応答 4	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
	15.	まとめ 4	その領域・個々の項目についてまとめる。また、自分の卒業研究とのつながりを確認する。
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒業研究のより詳細なテーマのしぼりこみ・枠組みの修正がなされるよう、各自の発表の後の活発な質疑応答・意見の交換を期待する。		
フィードバックの方法:	発表内容・卒業研究のテーマの選択・研究の枠組みなどについて、授業中並びにその前後にフィードバックする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的な参加度	60%	発表者への質疑応答並びに教師への質疑応答などを通して、到達目標①②がどれだけ達成できているかを評価する、ただし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は不可とする。
	発表	40%	発表内容とその仕方を、①②の観点から評価する。ただ原稿を読み上げるような発表は、評価の対象外とする。
教科書:	マナビー参照のこと。		
参考書:	都度、指示する。		

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

以下のアドレスを使用すること。
kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:			
授業の概要:	日本語教育分野の論文購読、VTRの視聴、グループ発表やディスカッションを通して、日本語教育に関わる諸問題を概観し、基本的な知識を身に付けます。同時に、さまざまな研究方法や、資料収集方法、文献の読み方・書き方を理解しながら、研究に必要な基本的な力を身に付けます。この授業での各学習活動を通して、各々の卒業研究テーマについても考えはじめます。		
到達目標:	①日本語教育研究に取り組む上で必要となる基本的知識を身に付ける。 ②さまざまな研究方法を知る。 ③論文の読み方や書き方を理解する。 ④日本語教育に関わる特定の問題に興味を持つ。 ⑤特定の問題について、文献に当たり調べ、内容を整理する。		
授業方法:	演習形式。まず、日本語教育の諸問題をいくつかの観点から概観し、論文や調査報告書、VTRを通じて具体的問題に触れ、討論します。グループ発表では、グループで選択したテーマに関わる問題やその背景・先行研究を調べて発表を行います。そのうえで、発表者から提示された問題について全体で討論を行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業説明、グループ分け、日本語教育分野の研究について		
	2. 参考文献の探し方、取り扱い、発表・討論の方法について	配布資料に目を通しておく。	
	3. 日本語教育に関わる問題についての論文講読、解説、討論	宿題に取り組む。	
	4. 日本語教育に関わる問題についての論文講読、解説、討論	宿題に取り組む。	
	5. 日本語教育に関わる問題についての論文講読、解説、討論	宿題に取り組む。	
	6. 論文作成オリエンテーション		
	7. まとめ		
	8. 発表の準備	発表のための資料収集を進める。	
	9. 発表の準備	担当の準備作業を進める。	
	10. 発表の準備	担当の準備作業を進める。	
	11. グループ発表と討論	発表担当グループは念入りに準備を行っておく。	
	12. グループ発表と討論		
	13. グループ発表と討論		
	14. グループ発表と討論		
	15. ふりかえり		
受講者へのメッセージやアドバイス:	日本語教育に関わる社会情勢に関心を持つこと、さまざまな日本語教材に積極的に触れること、実習や日本語ボランティアへの参加を通して、現場を見学したり経験したりすることを強く勧めます。こうした活動を通して日本語教育をよりよく理解できるだけでなく、卒業研究テーマの芽を見つけることもできるものです。グループ発表では、準備学習をグループで進めます。協調性、責任感をもって臨みましょう。		
フィードバックの方法:	教室でまとめてフィードバックを行います。レポートには、必要に応じてマナビーでフィードバックを行います。		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	30%	到達目標②～⑤をふまえて書くことができているかを基準とする。
	発表および討論	30%	グループ発表では、到達目標③・⑤を踏まえた発表内容となっているか、十分な準備学習ができているか、自身の役割が十分達成できているかを評価する。討論では論点をおさえた上で発言できているかを評価する。
	出席および積極的参加度	40%	到達目標①～③の点から、課題の提出、出席、授業中の発言を評価対象とします。
教科書:			
参考書:	.V.ネウストプニー、宮崎里司共編著『言語研究の方法』(くろしお出版) 浜田麻里他著『論文ワークブック』(くろしお出版) S・B・メリアム『質的調査法入門』(ミネルヴァ書房) ゾルタン・ドルニエイ『外国語教育学のための質問紙調査入門』(松柏社)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応します。 Eメールやオフィスアワーも活用してください。 yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

日本語教育の諸問題のうち、特に興味を持つ事柄について、各自先行研究を読み進めることでさらに知識を深めていきます。研究方法や論文の書き方についてもより理解を深め、卒業研究のテーマをしばりこみ、研究計画書を書き、研究の準備態勢を整えていきます。

①日本語教育研究に取り組む上で必要となる基本的知識を身に付ける。
②さまざまな研究方法を知る。
③論文の読み方や書き方を理解する。
④日本語教育に関わる特定の問題に興味を持つ。
⑤特定の問題について、文献に当たり調べ、内容を整理する。
⑥卒業研究テーマをしばり、研究計画を立てる。

まず、研究方法に関する解説やタスク、先行研究を用いた論文の構成や引用を学ぶタスクを行う授業を数回行います。その後の授業では、自身が興味を抱くテーマの研究課題・先行研究・研究方法について発表し、議論や助言を経て各自研究計画を練っていく材料を得ます。個人発表は一人2回ずつ行います。テーマ決定が順調に進めば、予備調査やその準備など、各々できるところから次の段階へと歩みだしていきます。学期末までに研究計画書をマナビーで提出し、コメントをもとにさらに計画を練り上げます。

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション 研究テーマについて	各自暫定の研究テーマを考えておく。
2. 研究の方法	配布資料に目を通しておく。
3. 論文の構成、先行研究の活用	配布資料に目を通しておく。 興味を持つ問題に関する先行研究論文を2つ程度コピーし持参する。
4. 発表	発表準備(発表担当者)
5. 発表	発表準備(発表担当者)
6. 発表	発表準備(発表担当者)
7. 発表	発表準備(発表担当者)
8. 発表	発表準備(発表担当者)
9. ふりかえり	
10. 発表	発表準備(発表担当者)
11. 発表	発表準備(発表担当者) 発表が終了した者は、研究計画を練り直す。
12. 発表	発表準備(発表担当者) 発表が終了した者は、研究計画を練り直す。
13. 発表	発表準備(発表担当者) 発表が終了した者は、研究計画を練り直す。
14. 発表	発表準備(発表担当者) 発表が終了した者は、研究計画を練り直す。
15. ふりかえり	研究計画書を作成する。

日本語教育に関わる社会情勢に関心を持つこと、さまざまな日本語教材に積極的に触れること、実習や日本語ボランティアへの参加を通して、現場を見学したり経験したりすることを強く勧めます。こうした活動を通して日本語教育をよりよく理解できるだけでなく、卒業研究テーマの芽を見つけることもできるものです。

発表へのフィードバックは、教室で行います。
レポート(研究計画書)には、マナビーでフィードバックを行います。

評価方法	割合	評価基準
レポート	30%	到達目標①～⑥をふまえ、各自の視点を持って研究計画書を書くことができているかを評価します。
発表および討論	30%	到達目標①～⑥を踏まえた発表内容となっているか、討論では論点をおさえた上で発言できているかを評価する。
出席および積極的参加度	40%	到達目標①～③の点から、課題の提出、出席、授業中の発言を評価対象とします。

.V.ネウストプニー、宮崎里司共編著『言語研究の方法』(くろしお出版)
浜田麻里他著『論文ワークブック』(くろしお出版)
S・B・メリアム『質的調査法入門』(ミネルヴァ書房)
ゾルタン・ドルニエイ『外国語教育学のための質問紙調査入門』(松柏社)

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

授業の前後に教室で対応します。
Eメールやオフィスパワーも活用してください。
yuyamamo@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

コンピュータの基本およびソフトウェアの活用と、情報収集、プレゼンテーション能力、情報リテラシー習得

授業の概要:

本学部生として必要とされる基本的なコンピュータ利用から外部情報・データの有効な処理方法を学び、複数のソフトウェアを同時に利用しながら、考えていることを的確に伝えられる方法を文章作成、表計算、統計、情報検索、プレゼンテーション、クラウドコンピューティングなどの基礎知識と共に、習得していく。

到達目標:

「コンピュータ」の基本的理解を深める。
日本語文章作成、データベースの作成とその活用。
情報を収集し、自分の意見をまとめ上げ、周りに理解してもらえるようなプレゼンテーションを仕上げる。
これらをスピーディに完成させていくことで、表現方法、技能スキルをアップしていく。
学生、社会人を問わず、対応できる知識を身につける。

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 現在の情報に関する知識調査、	
	3. 情報機器の基本、ネットセキュリティモラルについて	
	4. 基本操作 (Microsoft Word)	
	5. 文書作成に関わる一連の作業 (1)	
	6. 文書作成に関わる一連の作業 (2)	文書作成に関する宿題あり
	7. メールシステムについての説明	
	8. 文書作成に関わる一連の作業 (3)	文書作成に関する宿題あり
	9. 情報検索の方法、クラウドコンピューティングについて	情報検索についての宿題あり
	10. 表計算処理の基礎技能 (1)	宿題あり
	11. 表計算処理の基礎技能 (2)	宿題あり
	12. 表計算処理の基礎技能 (3)	
	13. 表計算処理の基礎技能 (4)	
	14. Microsoft officeのソフト同士でのデータ共有	
	15. Microsoft officeのソフト同士でのデータ共有	
	16. プレゼンテーションやスライド作成方法説明	プレゼンテーション資料作成の宿題あり
	17. プレゼンテーション用スライド作成	時間外作業あり
	18. プレゼンテーション用スライド作成	時間外作業あり
	19. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

携帯、スマートフォンなどに頼りがちの中で、「コンピュータ」の知識、技能を高め、幅広く利用できるようになってもらいたい。
演習なので、欠席することなく、提出物や宿題は必須。

フィードバックの方法:

授業内での提出物については、次回授業の折にチェックして返却。
時には、ファイル提出もあり。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席・授業への参加度	40	授業中での作業の方法や授業態度
	提出物	30	授業中での提出物、課題の評価
	定期試験	30	授業全体を通しての、知識、技能の理解度を評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

出講日の休憩時間やEメール(アドレスについては、授業中に連絡)

授業テーマ:	日本史のなかの京都文化																																		
授業の概要:	平安京に遷都された時代から現代にいたる日本の歴史のなかで、京都の果たした役割を追いながら、その文化的な位置づけを考え直します。 女性の視角を重視するとともに、現代的な問題意識も踏まえて、京都の歴史に踏み込み、その文化の深淵に触れます。 京都の観光の問題、これに関連して各地の歴史資産に基づいた地域振興のあり方などにも触れたいと思います。																																		
到達目標:	日本列島の文化には、京都に代表される西国的なものと関東に代表される地方的なものの相異、あるいは貴族的な文化と武士的な文化の対立の側面が指摘されることがあります。にもかかわらず、京都文化＝日本文化と単純化してよいのかどうか、そんなことを各自に考えてもらいたいと思います。																																		
授業方法:	講義形式。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 京都の文化は日本の文化か？</td><td>日本史の概説的な理解をはかる。</td></tr><tr><td>2. 東と西の日本文化</td><td>各地の出身者から京都に来てからどのようなカルチャーショックに出会ったか話を聞く</td></tr><tr><td>3. 平安京の成立と都市構造</td><td>現在の京都と平安京の都市プランを比較してみる</td></tr><tr><td>4. 平安京の内と外－鴨川と烏辺野－</td><td>京都市東山区の史跡を歩いてみる</td></tr><tr><td>5. 浄土に向かう空間－醍醐・日野・木幡－</td><td>京都市伏見区醍醐地区の史跡を歩いてみる</td></tr><tr><td>6. 院と摂関家の権門都市－白河・烏羽・法住寺殿・宇治・水無瀬－</td><td>宇治などを歩いて地理的な理解をはかる</td></tr><tr><td>7. 武士の都としての京都－武士と貴族－</td><td>講義担当者の著書を読んで中世の武士のあり方についての理解をはかる</td></tr><tr><td>8. 平家と六波羅・西八条</td><td>『平家物語』を読んでおく</td></tr><tr><td>9. 中世前期の女性たちの活躍－女院・後家・女商人－</td><td>日本中世の女性史に関連した最近の著作を読んでおく</td></tr><tr><td>10. 鎌倉幕府と京都</td><td>鎌倉幕府の成立過程を中心に、鎌倉時代に関する通史的な理解をはかる</td></tr><tr><td>11. 南北朝～豊臣政権期の京都</td><td>中世後期の日本史について理解を深めておく</td></tr><tr><td>12. 京都のお城－遮断施設から二条城まで－</td><td>六波羅や伏見、二条城などを見学しておく</td></tr><tr><td>13. 近世～近現代の京都</td><td>この時代に関する理解を深めておく</td></tr><tr><td>14. 京都の観光と各地の歴史資産に基づくまちづくり</td><td>京都観光における諸問題について考えておく</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 京都の文化は日本の文化か？	日本史の概説的な理解をはかる。	2. 東と西の日本文化	各地の出身者から京都に来てからどのようなカルチャーショックに出会ったか話を聞く	3. 平安京の成立と都市構造	現在の京都と平安京の都市プランを比較してみる	4. 平安京の内と外－鴨川と烏辺野－	京都市東山区の史跡を歩いてみる	5. 浄土に向かう空間－醍醐・日野・木幡－	京都市伏見区醍醐地区の史跡を歩いてみる	6. 院と摂関家の権門都市－白河・烏羽・法住寺殿・宇治・水無瀬－	宇治などを歩いて地理的な理解をはかる	7. 武士の都としての京都－武士と貴族－	講義担当者の著書を読んで中世の武士のあり方についての理解をはかる	8. 平家と六波羅・西八条	『平家物語』を読んでおく	9. 中世前期の女性たちの活躍－女院・後家・女商人－	日本中世の女性史に関連した最近の著作を読んでおく	10. 鎌倉幕府と京都	鎌倉幕府の成立過程を中心に、鎌倉時代に関する通史的な理解をはかる	11. 南北朝～豊臣政権期の京都	中世後期の日本史について理解を深めておく	12. 京都のお城－遮断施設から二条城まで－	六波羅や伏見、二条城などを見学しておく	13. 近世～近現代の京都	この時代に関する理解を深めておく	14. 京都の観光と各地の歴史資産に基づくまちづくり	京都観光における諸問題について考えておく	15. まとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 京都の文化は日本の文化か？	日本史の概説的な理解をはかる。																																		
2. 東と西の日本文化	各地の出身者から京都に来てからどのようなカルチャーショックに出会ったか話を聞く																																		
3. 平安京の成立と都市構造	現在の京都と平安京の都市プランを比較してみる																																		
4. 平安京の内と外－鴨川と烏辺野－	京都市東山区の史跡を歩いてみる																																		
5. 浄土に向かう空間－醍醐・日野・木幡－	京都市伏見区醍醐地区の史跡を歩いてみる																																		
6. 院と摂関家の権門都市－白河・烏羽・法住寺殿・宇治・水無瀬－	宇治などを歩いて地理的な理解をはかる																																		
7. 武士の都としての京都－武士と貴族－	講義担当者の著書を読んで中世の武士のあり方についての理解をはかる																																		
8. 平家と六波羅・西八条	『平家物語』を読んでおく																																		
9. 中世前期の女性たちの活躍－女院・後家・女商人－	日本中世の女性史に関連した最近の著作を読んでおく																																		
10. 鎌倉幕府と京都	鎌倉幕府の成立過程を中心に、鎌倉時代に関する通史的な理解をはかる																																		
11. 南北朝～豊臣政権期の京都	中世後期の日本史について理解を深めておく																																		
12. 京都のお城－遮断施設から二条城まで－	六波羅や伏見、二条城などを見学しておく																																		
13. 近世～近現代の京都	この時代に関する理解を深めておく																																		
14. 京都の観光と各地の歴史資産に基づくまちづくり	京都観光における諸問題について考えておく																																		
15. まとめ																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業中に紹介した参考文献は出来るだけ読んでおくこと。また、京都の大学生であることを利して、講義で取り上げられた現場に出かけてみることを勧めます。																																		
フィードバックの方法:	時に応じてミニカードを配布してコメントや感想などを求めます。また、教室においてはもとより、E・メールでの質問にも応じます。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>筆記試験</td><td>80</td><td>講義内容に対する理解</td></tr><tr><td>取り組みの態度</td><td>20</td><td>講義を踏まえた調査・研究や主体的な取り組みの姿勢</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	筆記試験	80	講義内容に対する理解	取り組みの態度	20	講義を踏まえた調査・研究や主体的な取り組みの姿勢																									
評価方法	割合	評価基準																																	
筆記試験	80	講義内容に対する理解																																	
取り組みの態度	20	講義を踏まえた調査・研究や主体的な取り組みの姿勢																																	
教科書:	プリントを配付します。																																		
参考書:	仁木宏・山田邦和編著『歴史家の案内する京都』文理閣 高橋昌明『京都〈千年の都〉の歴史』岩波新書 山田邦和『京都』保育社カラーブックス 村井康彦『京都史跡見学』岩波ジュニア新書 高橋康夫編『中世のなかの「京都」』新人物往来社 角田文衛編著『平安の都』朝日選書 野口実『東国武士と京都』同成社																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力																																		
教員との連絡方法:	E・メール noguchi@kyoto-wu.ac.jp																																		

授業テーマ:

朗読・語りを楽しむ

授業の概要:

朗読という科目ではあるが、スピーチやフリートークも練習しながら自分の語りを目指すきっかけにしてほしい。
基本はどれも同じ。作品の中身・伝えたい事を整理し、しっかり理解し、表現したいと思う通りの語りが出来るか。そこに向かっていく過程も楽しむ。
取り上げる教材は、講師の専門である絵本、エッセーや詩、古典など。受講者の希望を取り入れながら決定する。

到達目標:

魅力的な語り手になるために、大きく二つの目標を。
・技術面・・・綺麗でわかりやすい語りのために、きちんと滑舌・発声の基礎が出来ているか。緩急、間の取り方などテクニックを理解出来ているか。
・表現面・・・一つの作品に対して理解を深め、それにあった語りが出来ているか。
他に、聴く力、質問する力、臨機応変に対応する力なども養う。

授業方法:

一方通行の講義型ではなく、基本毎回実習中心の参加型。個々で、グループで、作品に取り組み練習・発表をする。同志社幼稚園での絵本読み聞かせも予定。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション→良い語り・朗読とは何かを考える。	「良い朗読とは」をテーマに自分の考えをまとめてくる。
2.	実習(1) 一つの課題を取り上げ、作品を理解し発表する事で語りの楽しさ・難しさを味わう。	基本毎回課題は前の週に渡すので、個々で作品を理解し、それにあった読み方を考え練習してくる事。
3.	実習(2) このあたりから毎回滑舌・発声練習も入れていく。	同上 自分たちの滑舌練習文を考えてくる。
4.	実習(3)	課題を理解し、読み込んでくる。
5.	実習(4)	同上
6.	幼稚園実習に向けて① 絵本選び、絵本の読み方の基礎を学び練習する。	絵本の読み方を練習し、楽しい場作りについて考えてくる。
7.	幼稚園実習に向けて② 本番に向けて通し練習	同上
8.	幼稚園実習	本番に向けて個々・グループで最終確認、練習。
9.	幼稚園実習の反省・優れた語りを聴く。	実習の感想レポート提出
10.	実習(5)	課題を理解し、読み込んでくる。
11.	実習(6)	同上
12.	実習(7) 絵本セラピーを体験する	
13.	発表① 3分間朗読 個々で好きな作品を選び、3分以内にまとめ、発表する。	発表に向けての準備。 なぜこの作品を選んだのかなどを自分の言葉で説明し、それにあった語りが出来るようにしてくる。
14.	発表② 3分間朗読	同上
15.	まとめ ~授業を振り返って~ 自分の意識の変化、語りの変化を確認する。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

自分の声を鍛え、自分の言葉で想いを伝える楽しさを味わって下さい。人前に立つのは苦手・・・という人にもどんどん受講してもらいたいと思います。練習を繰り返す事で声や話し方は確実に変わっていきますし、その自信は大きな人生のプラスになるはずです。
朗読にゴールはありませんが、だからこそ一生の楽しい勉強になります。
一緒に楽しみましょう。

フィードバックの方法:

個々・グループでの提出物については基本教室内で解説し、受講者全員で理解を深める材料とする。必要があれば教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	70%	積極的に楽しみながら毎回の授業に参加し、課題に取り組んでいるかを評価する。
	提出物	30%	授業の理解、自分の想いをきちんと文章に記し、伝える事が出来ているかを評価する。

教科書:

参考書:

『日本語発音アクセント新辞典』 NHK放送文化研究所
齋藤孝 『声に出して読みたい日本語』 草思社
齋藤孝 『話し上手 聞き上手』『読み上手 書き上手』 ちくまプリマー新書
『美しい日本語の辞典』 小学館辞典編集部編
『絵本講師の本棚から』 NPO法人「絵本で子育て」センター刊
岡田達信 『絵本はこころの処方箋』 瑞雲社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール(kurutan0910@gmail.com)、教室の前後に教室内で対応

243560

編集技術Ⅰ

日沖 桜皮

授業テーマ:

「編集」とは、ある目的やテーマに基づき、文字や写真や図版といった素材をもとに、ひとつの体系的な情報として仕上げる作業や概念のことをさす。その形式は、これまで「印刷物」が主であったが、近年、音声や電子媒体などに拡がっている。ここで重要なことは、最終形式はどうであれ、編集作業は同じ原則・理論に基づいて行われるという普遍性を持つことである。この科目では、「編集」の概念や実際の作業を身につけることをテーマとする。

授業の概要:

自分たちで企画・編集し、1年をかけて、なんらかの紙媒体を作り上げる。

到達目標:

「編集」された情報の最終形式はさまざまであると述べたが、この科目では、実際に「紙媒体」を仕上げることを目標にする。何を作るかは、受講生の関心や学生を取り巻く社会状況などに鑑み、受講生と相談して決定する。原稿を書いたりデザインをしたりという作業は伴うものの、この科目での主目標はあくまで、何をテーマに、何を目的に、どのような情報をどう料理するか、という「編集」の中核を体験すること。また、編集には、永年「常識」とされてきた、いわゆるスタンダードが存在するが、それをきちんと理解・体得したうえで、いまの時代に合った編集像についても考えていきたい。さらに、後に述べるように、「ものをつくる共同作業」という社会体験の場としても捉えていただきたい。

授業方法:

当該授業までに行った作業に関する学習と評価、そして来週までにすることを協議・確認する場が各回の授業となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. まずは、これから共同作業を体験する受講生同士が仲良くなること。自己紹介とフリートークなど。	
2. 講師による「編集論」講義。従来の編集の原則やスタンダードを知る。	
3. 何を作りたいかの企画議論を開始する。	
4. 同上。	
5. 同上。	
6. 企画の大枠決定。コンテンツの検討、役割分担など。	
7. 役割分担に基づき、チームあるいは個人が自分の担当部分について詳細なプランを仕上げていく。	
8. 同上。	
9. コンテンツやページネーションの決定。同時にデザインの方向性について議論を開始する。	
10. 取材に当たっての準備やルール、心構えなどを理解。	
11. 紙面素材準備(取材など)開始。デザイン担当チームは、デザインのサンプルを集めたり作ったり。	
12. 取材など、もろもろ進行。	
13. 同上。	
14. 同上。	
15. いったん、ここまでのまとめ。到達点の確認と反省、編集技術Ⅱに向けての課題の洗い出しなど。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

第1回目の授業に出席しなかった学生は原則として受講を認めない。また、授業外での取り組みが必須ゆえ、授業時間だけでなく、他人に迷惑をかける、つまり作業の進行に支障をきたすから。したがって、意欲の高い受講生以外には受講を勧めない。厳しいことを申し上げるが、最後まできっちり参加した暁の充実感や得られるものは多いと信じてほしい。また、編集技術Ⅰだけを受講しても単位は認定するが、制作物の完成は編集技術Ⅱを履修してようやく見届けられることができるので、1だけの受講は勧めない。

フィードバックの方法:

メールなど。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および取り組みの姿勢	70	試験は実施しない。ふだんの取り組みの姿勢と、担当部分の成果物の出来で評価するが、最後までちゃんと制作に参加した学生には単位は認定する。
制作物の出来栄	30	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

メール。

243660

編集技術Ⅱ

日沖

桜皮

授業テーマ:

編集技術Ⅰに同じ。

授業の概要:

編集技術Ⅰに同じ。

到達目標:

編集技術Ⅰに同じ。

授業方法:

編集技術Ⅰに同じ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 編集技術Iの続きで、ここまでの到達点を確認し、冊子完成まですべきことやスケジュールなどをあらためて共有する。	
2. 編集技術Iの終盤から春休みにかけて準備してきた、デザイン作業にかかるための素材が揃っていることを確認。不足しているものはすぐに準備する。	
3. 準備が整ったページから順次、デザイン作業に。	
4. 初校ゲラが上がりはじめ、点検、取材先に校正確認、修正作業の指示、など。	
5. 上記を、なんとか繰り返す。	
6. 同上。	
7. 同上。	
8. 同上。	
9. 同上。	
10. 再校ゲラがいっせいにアップされる。	
11. 最終確認。	
12. 印刷所へ入稿。	
13. 印刷プロセスを学ぶ。	
14. 完成、品評会。	
15. 活用の検討。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

編集技術Ⅰに同じ。

フィードバックの方法:

編集技術Ⅰに同じ。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および取り組みの姿勢	70	出席と取り組みの姿勢70%、制作物の出来ばえ30%。試験は実施しない。ふだんの取り組みの姿勢と、担当部分の成果物の出来で評価するが、最後までちゃんと履修した学生には単位は認定する。
制作物の出来栄え	30	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

メール。

授業テーマ:

「人虎伝」と「山月記」を読む

授業の概要:

唐代伝奇小説「人虎伝」と中島敦「山月記」を取り上げ、比較対照させながら精読していき、各々の作品の特質を受講者相互で論じ合う。「山月記」が「人虎伝」の翻案であることはよく知られているが、どのような改変が行われているのか具体的に検証し、その意図や効果について各人の考えを発表し合い、各々の作品のテーマについて迫る。

到達目標:

漢文訓読し理解する能力を持ち、近代日本文学作品と比較対照させ、それぞれの作品の特質と叙述の意図を説き明かし、レポートにまとめる。
・漢文を訓読・解釈できる。
・比較対照的視点を持つ。
・二作品の叙述の相違とその背景について考える。
・二作品のテーマについて各自考えを発表し、レポートにまとめる。

授業方法:

演習。受講者全員で読み、解釈し合い、議論する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 中島敦と李景亮(導入)	
	2. 「人虎伝」と「山月記」比較1	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	3. 「人虎伝」と「山月記」比較2	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	4. 「人虎伝」と「山月記」比較3	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	5. 「人虎伝」と「山月記」比較4	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	6. 「人虎伝」と「山月記」比較5	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	7. 「人虎伝」と「山月記」比較6	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	8. 「人虎伝」と「山月記」比較7	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	9. 「人虎伝」と「山月記」比較8	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	10. 「人虎伝」と「山月記」比較9	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	11. 「人虎伝」と「山月記」比較10	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	12. 「人虎伝」と「山月記」比較11	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	13. 「人虎伝」と「山月記」比較12	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	14. 「人虎伝」と「山月記」比較13	二作品の各章段分けにした部分の下調べ
	15. まとめ	二作品の各々全体を通した比較をまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは採点后、朱を入れて返却。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(8000字前後)	70%	到達目標の理解と表現能力により評価
	授業への積極的参加度	30%	質疑応答や討論への貢献

教科書:

最初の授業時に担当教員作成のプリント配布(無料)

参考書:

授業時に随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー・授業前後や研究室在室時

243961、62

日本語教育概説

松本 秀輔

授業テーマ:

日本語教育の現状及びその社会的役割について知り、日本語を教えるとはどのような行為であるかを知る。

授業の概要:

国内外における日本語教育の現状と課題について講義を行い、日本語教育がどのようなものであるかを概観する。また、日本語教育で扱う「日本語」の文法や語彙等について、教授ポイントやその扱い方などを概観する。さらに、講義・グループ活動等を通して初歩的な日本語教育文法及び指導法に触れ、指導のシミュレーション等を行うことで、日本語を教えるとはいかなる行為かを体験をもって理解する。

到達目標:

1. 日本語教育の現状及びその社会的役割を理解し、日本語教師に必要とされる視野・態度についての知識を身につける。
2. 日頃何気なく触れているであろう日本語について関心を深め、日本語を客観的に捉えられるようになる。
3. 日本語教育にまつわる諸課題について自ら考察し、教室内で表現し、クラスメート間で共有できるようになる。

授業方法:

主に講義形式で行うが、適宜グループ活動も取り入れる。受講者には、授業への積極的な参加を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 今日の日本語教育の課題 1	本時の学習内容の復習
2. 今日の日本語教育の課題 2	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
3. 今日の日本語教育の課題 3	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
4. 今日の日本語教育の課題 4	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
5. 今日の日本語教育の課題 5	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
6. 日本語を知る 1	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
7. 日本語を知る 2	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
8. 日本語を知る 3	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
9. 日本語を知る 4	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
10. 日本語を知る 5	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
11. 日本語教育の教材と指導法 1	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
12. 日本語教育の教材と指導法 2	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
13. 日本語教育の教材と指導法 3	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
14. 日本語教育の教材と指導法 4	これまでの学習内容の総復習
15. まとめ	これまでの学習内容の総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ほぼ毎回提出の小レポートについて、原則として次週教室で返却し、まとめて解説を行う。

「成績評価方法」・「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート(毎回)	40	毎回の授業の理解度及び取り組みの深度により評価する。
期末試験	40	到達目標1及び2に関する理解度及び到達度により評価する。
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標3が達成できたかを評価する。

教科書:

必要に応じ、プリントを配布する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメールを利用

244560

日本語読解ⅠA

奥村 訓代

授業テーマ:	新聞を読みながら、日本語・日本事情に関して学ぶ				
授業の概要:	毎回新しい興味深い話題を選んで読み進む				
到達目標:	「子ども新聞」から「一般紙」が読める様になる				
授業方法:	講義と演習				
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容		
	1.	オリエンテーション	この1週間で、興味のあった話題について200字程度にまとめて来る		
	2.	本日の話題提供(1)	同上 また、その話題に興味を持った理由について50字程度を付記する		
	3.	本日の話題提供(1)	同上		
	4.	本日の話題提供(1)	同上		
	5.	本日の話題提供(1)	同上		
	6.	本日の話題提供(1)	同上		
	7.	本日の話題提供(1)	同上		
	8.	本日の話題提供(1)	同上		
	9.	本日の話題提供(1)	同上		
	10.	本日の話題提供(1)	同上		
	11.	本日の話題提供(1)	同上		
	12.	本日の話題提供(1)	同上		
	13.	本日の話題提供(1)	同上		
	14.	本日の話題提供(1)	同上		
	15.	まとめ	半年間の一番印象的だった記事に関してまとめてくる		
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎週200字＋50字の課題がありますが、頑張りましょう！				
フィードバックの方法:	毎回の提出物にて、行う				
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準		
「成績評価基準」:	提出物	30	毎回2点満点で評価		
	テスト	50	基本的なテスト		
	その他	20	授業貢献度・態度等		
教科書:	新聞・ネット記事				
参考書:	ネット記事と書各種新聞				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力				
教員との連絡方法:	マナビー使用予定				

授業テーマ：新聞記事から日本語・日本事情を学ぶ

授業の概要：日本の一般紙を利用し、読解力を高める

到達目標：一般新聞が、自由に読めるようになる

授業方法：講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	最近気になったニュースを発表する
2.	今週の話題(1)	過去1週間で気になった記事を1つ選び、簡単に紹介する。口頭でも文章でも良い
3.	今週の話題(1)	同上
4.	今週の話題(1)	同上
5.	今週の話題(1)	同上
6.	今週の話題(1)	同上
7.	今週の話題(1)	同上
8.	今週の話題(1)	同上
9.	今週の話題(1)	同上
10.	今週の話題(1)	同上
11.	今週の話題(1)	同上
12.	今週の話題(1)	同上
13.	今週の話題(1)	同上
14.	今週の話題(1)	同上
15.	まとめ	今学期の中で一番印象的な記事について言及する

受講者へのメッセージやアドバイス：毎回HWがありますが、せっかく留学したのだから頑張りましょう。(加油、加油！)

フィードバックの方法：毎回到提出物を、毎回返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題達成度	30	毎回2点満点とする
	テスト	50	標準的な理解力をチェックする
	その他	20	授業貢献度・意欲度など

教科書：特になし

参考書：特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法：マナビー利用予定

授業テーマ:	中級後半から上級段階の会話能力
授業の概要:	身近な話題・社会一般の話題について、わかりやすく話せること、また状況に応じた適切な会話ができることをめざす。そのため、クラスでは、各テーマに沿って表現や構成を理解し、基本的な運用練習を行う。次回には各自が発表を行う。発表後は、表現や構成及び音声面でのフィードバックを行う。学期末には、各自の興味に基づくテーマで、10分間程度の口頭発表を行い、プレゼンテーション能力の向上をめざす。
到達目標:	①身近な話題・社会一般の話題について、中上級レベルの表現を用いてわかりやすく話せること。 ②状況に応じた適切な表現を用いて、会話ができること。 ③各自の興味に基づくテーマで10分程度の口頭発表ができること。
授業方法:	演習形式。必要に応じて視聴覚教材を使用する。毎回、学習内容の口頭発表を課す。学期末には、各自の興味に基づくテーマによる10分程度の口頭発表を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要説明。場面に応じた自己紹介をする。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
2.	国や町を詳しく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
3.	動作の順序や規則をわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
4.	二つのものを比較し相違点を分かりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
5.	好きな映画や小説などのストーリーをわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
6.	自国の文化や行事などをわかりやすく紹介する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
7.	敬語を使いこなす。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
8.	悩みを相談する・アドバイスする	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
9.	気持ちをわかりやすく伝える。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
10.	原因や理由をわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
11.	賛成意見・反対意見を述べる。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
12.	グラフや表をわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
13.	社会の問題をわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の口頭発表の準備をする。
14.	各自の興味に基づくテーマで口頭発表をする。	学習内容の総復習をする。
15.	まとめ	学習内容全般を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス: 学習した表現などを授業内だけではなく、授業外でも積極的に使うように心がけること。

フィードバックの方法: 毎回の宿題は、添削し教室で返却する。提出課題は、添削しコメントをつけて教室で返却する。発表に関しては、授業内でコメントし、さらにコメントシートに詳細を記入し配布する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席を含む授業への積極的参加	20%	出席及び授業への積極的な参加度により評価する。
	毎回の宿題	20%	到達目標①②に必要な表現の理解度及び原稿の仕上がり度により評価する。
	提出課題	10%	到達目標③の口頭発表に必要な原稿の仕上がり度により評価する。
	発表	30%	到達目標①②③の達成度により評価する。
	定期試験	20%	到達目標①②③に必要な表現などの理解度により評価する。

教科書: なし

参考書: 授業で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	中級後半から上級段階の会話能力
授業の概要:	身近な話題・社会一般の話題について、わかりやすく話せること、状況に応じた適切な会話ができることをめざす。そのため、クラスでは各テーマに沿って、表現や構成を理解し、基本的な運用練習を行う。次回には、各自が発表を行う。発表後には、表現や構成及び音声面でのフィードバックを行う。学期末には、各自の興味に基づくテーマで10分間程度の口頭発表を行い、プレゼンテーション能力の向上をめざす。
到達目標:	①身近な話題・社会一般の話題について、わかりやすく話せること。 ②状況に応じた適切な表現を用いて、会話ができること。 ③各自の興味に基づくテーマで10分程度の口頭発表ができること。
授業方法:	演習形式。必要に応じて視聴覚教材を使用する。毎回、学習内容の口頭発表を行う。学期末には、各自の興味に基づくテーマによる10分程度の口頭発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業概要説明。場面に応じた自己紹介をする。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	2. 国や町を紹介する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	3. 動作の順序や規則を説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	4. 二つのものを比較して説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	5. 映画・小説などのストーリーを説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	6. 自国の文化や行事などを紹介する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	7. 敬語を使いこなす。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	8. 相談する・アドバイスする。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	9. 気持ちを伝える。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	10. 理由を説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	11. 賛成意見・反対意見を述べる。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	12. グラフや表を説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	13. 社会の問題をわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
	14. 各自の興味に基づくテーマで口頭発表をする。	学習内容の総復習をする。
	15. まとめ	学習内容全般を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス: 学習した内容を授業内だけではなく、授業外でも積極的に使用すること。

フィードバックの方法: 毎回の宿題は、添削し教室で返却する。提出課題は、添削しコメントをつけて教室で返却する。発表に関しては、授業内で口頭でコメントし、さらにコメントシートに詳細を記入し配布する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席を含む授業への積極的参加	20%	出席及び授業への積極的な参加度により評価する。
	毎回の宿題	20%	到達目標①②に必要な表現の理解度及び原稿の仕上がり度により評価する。
	提出課題	10%	到達目標③の口頭発表に必要な原稿の仕上がり度により評価する。
	発表	30%	到達目標①②③の達成度により評価する。
	試験	20%	到達目標①②③に必要な表現などの理解度により評価する。

教科書: なし

参考書: 授業で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ：中級後半から上級段階にかけての作文能力

授業の概要：様々なテーマや形態の作文の書き方のポイントを押さえ、既習文型や語彙を駆使し、ある一定の量の作文を書く。添削した課題(作文)の間違いを再度考え、直す。その直した課題を全体やグループ間で発表する。発表を通し、互いの作文内容を知り、互いにコメントをする。教師と学生、学生と学生の対話を通し、自身への振り返りとする。

到達目標：①様々なテーマや形態の作文に慣れること
②既習文型を駆使した作文構成能力を身につけること

授業方法：20分程度で課題として出された作文のフィードバック、間違いを訂正する。15分程度で全体またはグループで発表をし、コメントをする。作文を書く上でのポイントを全体で確認する。残りの10分間で書き始める。この書き始めた作文が次回までの課題となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、書き言葉の文体・語句表現	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
2.	物事を説明するときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
3.	物事を説明するときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
4.	図やグラフを説明するときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
5.	図やグラフを説明するときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
6.	順番を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
7.	例や理由を提示し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
8.	問題点を明らかにし、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
9.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
10.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
11.	要約の書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
12.	要約の書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
13.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
14.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
15.	レポート・論文の書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：コメントをつけ、教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①ができるようになったかを評価する。 授業内で扱った作文及び毎回の授業で提出した課題から到達目標②を評価する。 到達目標②を評価する。 到達目標①と②を評価する。
	発表	20%	
	課題	30%	
	レポート	20%	

教科書：なし

参考書：なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

Eメール(ftamao@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	中級後半から上級段階にかけての作文能力
授業の概要:	様々なテーマや形態の作文の書き方のポイントを押さえ、既習文型や語彙を駆使し、ある一定の量の作文を書く。添削した課題(作文)の間違いを再度考え、直す。その直した課題を全体やグループ間で発表する。発表を通し、互いの作文内容を知り、互いにコメントをする。教師と学生、学生と学生の対話を通し、自身への振り返りとする。
到達目標:	①様々なテーマや形態の作文に慣れること ②既習文型を駆使した作文構成能力を身につけること
授業方法:	20分程度で課題として出された作文のフィードバック、間違いを訂正する。15分程度で全体またはグループで発表をし、コメントをする。作文を書く上でのポイントを全体で確認する。残りの10分間で書き始める。この書き始めた作文が次回までの課題となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、書き言葉の文体・語句表現	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
2.	物事を説明するときの書き方③	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
3.	物事を説明するときの書き方④	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
4.	図やグラフを説明するときの書き方③	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
5.	図やグラフを説明するときの書き方④	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
6.	順番を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
7.	例や理由を提示し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
8.	問題点を明らかにし、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
9.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方③	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
10.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方④	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
11.	要約の書き方③	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
12.	要約の書き方④	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
13.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方③	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
14.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方④	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)
15.	レポート・論文の書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。(マナビーでの課題提出)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

コメントをつけ、教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①ができるようになったかを評価する。 授業内で扱った作文及び毎回の授業で提出した課題から到達目標②を評価する。 到達目標②を評価する。 到達目標①と②を評価する。
	発表	20%	
	課題	30%	
	レポート	20%	

教科書: なし

参考書: なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

Eメール(ftamao@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

中級後半から上級段階の聴解力

伝言・勧誘・許可・情報などを言う場面の自然な速さの会話、3～5分程度の色々な話題の説明文、日本昔話、日本文化に係のあるテレビ番組の録画など、多種のCDやDVDを視聴することによって、聴解力を高める。視聴した後、質問に答えたり、要約をすることで、内容の理解を深める。事前に配布する語彙表の予習と授業内での意味確認によって理解語彙を増やす。

理解語彙を増やす。
多様な話題について視聴した後、質疑応答や要約をすることによって内容を把握し、中級後半から上級の聴解力を身に付ける。

5: 講義／演習の混合

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション 中級程度の説明文の聴解	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
2. 日本昔話①・テレビ番組の視聴①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
3. 中上級程度の説明文の聴解① 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
4. 会話の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
5. 説明文の聴解② 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
6. テレビ番組の視聴②・日本昔話②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
7. 説明文の聴解③ 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
8. 会話の聴解②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
9. 説明文の聴解④ 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
10. テレビ番組の視聴③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
11. 会話の聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
12. 説明文の聴解⑤ 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
13. 会話文の聴解小テスト テレビ番組の視聴④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
14. 説明文の聴解⑥ 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
15. 会話の聴解④	

易しすぎる、又、難しすぎるなど適時確認し、楽しめる聴解授業を目指す。
聴解内容のリクエストがあれば受け付け可能。

授業内で理解不十分な時は何度でも聴き、解説し、納得のできるまで繰り返す。
提出物は添削して返却する。

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	40	課題の準備を含み、授業中の質疑応答で評価する
提出物	40	聴解内容のクイズや要約の提出度で評価する
小テスト	20	会話聴解の要点の習熟度を評価する

大学のメール : tmonura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

中級後半から上級段階の聴解力

授業の概要:

伝言・勧誘・許可・情報などを言う場面の自然な速さの会話、3～5分程度の色々な話題の説明文、日本昔話、日本文化に関係のあるテレビ番組の録画など、多種のCDやDVDを視聴することによって、聴解力を高める。視聴した後、質問に答えたり、要約をすることで、内容の理解を深める。事前に配布する語彙表の予習と授業内での意味確認によって理解語彙を増やす。

到達目標:

理解語彙を増やす。
多様な話題について視聴した後、質疑応答や要約をすることによって内容を把握し、中級後半から上級の聴解力を身に付ける。

授業方法:

5: 講義／演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 中級程度の説明文の聴解	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
2.	日本昔話①・テレビ番組の視聴①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
3.	中上級程度の説明文の聴解① 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
4.	会話の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
5.	説明文の聴解② 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
6.	テレビ番組の視聴②・日本昔話②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
7.	説明文の聴解③ 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
8.	会話の聴解②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
9.	説明文の聴解④ 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
10.	テレビ番組の視聴③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
11.	会話の聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
12.	説明文の聴解⑤ 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
13.	会話文の聴解小テスト テレビ番組の視聴④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
14.	説明文の聴解⑥ 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
15.	会話の聴解④	

受講者へのメッセージやアドバイス:

易しすぎる、又、難しすぎるなど適時確認し、楽しめる聴解授業を目指す。
聴解内容のリクエストがあれば受け付け可能。

フィードバックの方法:

授業内で理解不十分な時は何度でも聴き、解説し、納得のできるまで繰り返す。
提出物は添削して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加度	40	課題の準備を含み、授業中の質疑応答で評価する
	提出物	40	聴解の内容のクイズや要約の提出度で評価する
	小テスト	20	会話聴解の要点の習熟度を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

大学のメール: tnomura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ：4技能の充実

授業の概要：日常生活の必需表現(慣用句、熟語、ことわざ)を使用し、日本語と日本文化に親しむ

到達目標：ことわざ、4字熟語、日本漢字の習得

授業方法：講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	各自の好きな格言・ことわざを持ち寄る
	2. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(1)	前回授業の「確認テスト」の為の復習
	3. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(2)	同上
	4. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(3)	同上
	5. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(4)	同上
	6. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(5)	同上
	7. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(6)	同上
	8. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(7)	同上
	9. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(8)	同上
	10. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(9)	同上
	11. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(10)	同上
	12. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(11)	同上
	13. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(12)	同上
	14. 教材(ことわざ・格言、4字熟語)から毎回適する個数を学んでいく(13)	同上
	15. まとめ	同上

受講者へのメッセージやアドバイス：毎回復習確認小テストがあります。たくさん勉強して、留学効果を残しましょう！

フィードバックの方法：毎回の復習・確認テストで行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	確認テスト	30	毎回2点満点とする
	テスト	50	学習範囲から
	その他	20	授業態度・貢献度など

教科書：プリント授業

参考書：ネット、各種書籍

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法：マナビー利用予定

授業テーマ:	日本語表現力を豊かにする		
授業の概要:	身近な格言・ことわざ、4字熟語等学美ながら表現力と内容を高める		
到達目標:	ちょっと気の利いた表現が使えるようになる		
授業方法:	講義と演習		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学	
	1. オリエンテーション	自分の好きな言葉	
	2. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(1)	前回内容の復習	
	3. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(2)	同上	
	4. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(3)	同上	
	5. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(4)	同上	
	6. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(5)	同上	
	7. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(6)	同上	
	8. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(7)	同上	
	9. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(8)	同上	
	10. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(9)	同上	
	11. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(10)	同上	
	12. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(11)	同上	
	13. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(12)	同上	
	14. 適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ(13)	同上	
	15. まとめ	同上	
受講者への メッセージや アドバイス:	毎回前回の復習・確認小クイズを行います。 楽しみながら語彙や用言を増やしていきましょう！		
フィードバックの 方法:	毎回の確認テストで行う		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	確認テスト	30	毎回2点とする
	テスト	50	定着度を計る
	その他	20	授業貢献度・態度など
教科書:	プリント		
参考書:	ネット、新聞、書籍等		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	マナビー利用予定		

授業テーマ:	日本語教育上級段階の会話能力		
授業の概要:	各自、今日の日本社会の動きあるいは世界の時事的なことがらをまとめ、その内容・そこに至った背景などを発表する。		
到達目標:	①日本国内のあるいは海外の時事的な話題について基本的な知識・情報を得ること ②①の話題について、プレゼンテーションしディスカッションできる技術を習得すること		
授業方法:	あらかじめ教師が録画した30分程度の時事番組の中から一人一つずつ選び、その内容をパワーポイントを使ってプレゼンテーションする。プレゼンテーションの後は、質疑応答・ディスカッションをして内容理解を深める。 今学期中には、教師のデモンストレーションを含め五つの番組を予定している。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 教師によるデモンストレーション 1-1		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	2. 教師によるデモンストレーション 1-2		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	3. 教師によるデモンストレーション 1-3		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
	4. プレゼンテーション 2-1		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	5. プレゼンテーション 2-2		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	6. プレゼンテーション 2-3		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
	7. プレゼンテーション 3-1		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	8. プレゼンテーション 3-2		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	9. プレゼンテーション 3-3		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
	10. プレゼンテーション 4-1		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	11. プレゼンテーション 4-2		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	12. プレゼンテーション 4-3		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
	13. プレゼンテーション 5-1		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	14. プレゼンテーション 5-2		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	15. プレゼンテーション 5-3		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業中並びに授業前後に対応する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的な参加度	50%	他の学生のプレゼンテーションに対してどのような質疑応答を行ったかを通して、①を評価する。
	発表	30%	プレゼンテーションの内容と仕方を、②の観点から評価する。
	小テスト	20%	各々の学生のプレゼンテーションの後に、教師が内容理解と日本語の小テストをし、①の観点から評価する。
教科書:	なし。		
参考書:	なし。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	以下のアドレスを使用すること。 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	日本語教育上級段階の会話能力		
授業の概要:	各自、今日の日本社会の動きあるいは世界の時事的なことがらをまとめ、その内容・そこに至った背景などを発表する。		
到達目標:	①日本国内のあるいは海外の時事的な話題について基本的な知識・情報を得ること ②①の話題について、プレゼンテーションしディスカッションできる技術を習得すること		
授業方法:	あらかじめ教師が録画した30分程度の時事番組の中から一人一つずつ選び、その内容をパワーポイントを使ってプレゼンテーションする。プレゼンテーションの後は、質疑応答・ディスカッションをして内容理解を深める。 今学期中には、教師のデモンストレーションを含め五つの番組を予定している。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 教師によるデモンストレーション 2-1		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	2. 教師によるデモンストレーション 2-2		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	3. 教師によるデモンストレーション 2-3		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
	4. プレゼンテーション 6-1		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	5. プレゼンテーション 6-2		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	6. プレゼンテーション 6-3		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
	7. プレゼンテーション 7-1		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	8. プレゼンテーション 7-2		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	9. プレゼンテーション 7-3		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
	10. プレゼンテーション 8-1		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	11. プレゼンテーション 8-2		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	12. プレゼンテーション 8-3		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
	13. プレゼンテーション 9-1		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	14. プレゼンテーション 9-2		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
	15. プレゼンテーション 9-3		レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業中並びに授業前後に対応する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的な参加度	50%	他の学生のプレゼンテーションに対してどのような質疑応答を行ったかを通して、①を評価する。
	発表	30%	プレゼンテーションの内容と仕方を、②の観点から評価する。
	小テスト	20%	各々の学生のプレゼンテーションの後に、教師が内容理解と日本語の小テストをし、①の観点から評価する。
教科書:	なし。		
参考書:	なし。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	以下のアドレスを使用すること。 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ：上級段階の作文能力

授業の概要：様々なテーマや形態の作文を扱い、表現及び構成方法を学び、ある一定量の正しい文を書く。フィードバックを行い、どこが間違っているのかを全体で確認していく。その作文を授業内で発表し、クラス全体でコメントを出し合い、更なる発展を目指す。

到達目標：①様々なテーマや形態の作文に慣れる。
②既習文型を駆使した作文構成能力を身につけることを目指す。

授業方法：20分程度で課題として出された作文のフィードバック、間違いを訂正する。15分程度で全体またはグループで発表をし、コメントをする。作文を書く上でのポイントを全体で確認する。残りの10分間で書き始める。この書き始めた作文が次回までの課題となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、要約の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
2.	物事を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
3.	順番を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
4.	図やグラフを説明するときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
5.	図やグラフを説明するときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
6.	例や理由を提示し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
7.	問題点を明らかにし、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
8.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
9.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
10.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
11.	スピーチ原稿の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
12.	レポート・論文の書き方①	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
13.	レポート・論文の書き方②	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
14.	ビジネスメールの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
15.	報告書の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：コメントをつけ、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加度	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①ができるようになったかを評価する。授業内で扱った作文及び毎回の授業で提出した課題から到達目標②を評価する。
	発表	20%	
	課題	30%	到達目標②を評価する。
	レポート課題	20%	到達目標①と②を評価する。

教科書：なし

参考書：なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

Eメール(atamao@dwc.doshisha.ac.jp)・授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ：上級段階の作文能力

授業の概要：様々なテーマや形態の作文を扱い、表現及び構成方法を学び、ある一定量の正しい文を書く。フィードバックを行い、どこが間違っているのかを全体で確認していく。その作文を授業内で発表し、クラス全体でコメントを出し合い、更なる発展を目指す。

到達目標：①様々なテーマや形態の作文に慣れる。
②既習文型を駆使した作文構成能力を身につけることを目指す。

授業方法：20分程度で課題として出された作文のフィードバック、間違いを訂正する。15分程度で全体またはグループで発表をし、コメントをする。作文を書く上でのポイントを全体で確認する。残りの10分間で書き始める。この書き始めた作文が次回までの課題となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、要約の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
2.	物事を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
3.	順番を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
4.	図やグラフを説明するときの書き方③	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
5.	図やグラフを説明するときの書き方④	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
6.	例や理由を提示し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
7.	問題点を明らかにし、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
8.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
9.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方③	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
10.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方④	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
11.	スピーチ原稿の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
12.	レポート・論文の書き方③	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
13.	レポート・論文の書き方④	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
14.	ビジネスメールの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)
15.	報告書の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることが求められる。 (マナビーの課題提出)

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：コメントをつけ、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加度	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①ができるようになったかを評価する。授業内で扱った作文及び毎回の授業で提出した課題から到達目標②を評価する。
	発表	20%	
	課題	30%	到達目標②を評価する。
	レポート課題	20%	到達目標①と②を評価する。

教科書：なし

参考書：なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

Eメール(atamao@dwc.doshisha.ac.jp)・授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

上級段階の聴解

授業の概要:

様々な話題の5～7分程度の説明文、依頼・指示・文句・提案・感想を言う場面の自然な速さの会話、世界遺産の紹介、日本文化に関するテレビ番組の録画など、多種のCDやDVDを視聴することによって、聴解力を高める。視聴した後、質疑応答や要約をすることで内容の理解を深める。事前に配布する語彙表の予習と授業内での意味確認によって理解語彙を増やす。

到達目標:

理解語彙を増やす。
多様な話題について視聴した後、質疑応答や要約をすることによって内容を把握し、上級の聴解力を身に付ける。

授業方法:	5: 講義／演習の混合	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション テレビ番組の録画の視聴①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	2. 説明文の聴解① 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	3. 会話の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	4. 世界遺産の紹介の視聴①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	5. 説明文の聴解② 要約の提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	6. 日本文化の紹介の視聴	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	7. 会話の聴解②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	8. 説明文の聴解③ 要約の提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	9. テレビ番組の視聴②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	10. 会話の聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	11. 説明文の聴解④ 要約の提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	12. 説明文の聴解⑤ 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	13. 世界遺産の紹介の視聴② 会話文の聴解の小テスト	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	14. 会話文の聴解④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
	15. テレビ番組の視聴③	

受講者へのメッセージやアドバイス:

楽しめる教材を使用した授業を目指す。

フィードバックの方法:

提出物は添削して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加度	40	課題の準備を含み、授業中の質疑応答で評価する
	提出物	40	聴解内容のクイズや要約の提出度で評価する
	小テスト	20	会話聴解の要点の習熟度を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

大学のメール: tnomura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

上級段階の聴解

授業の概要:

様々な話題の5～7分程度の説明文、依頼・指示・文句・提案・感想を言う場面の自然な速さの会話、世界遺産の紹介、日本文化に関するテレビ番組の録画など、多種のCDやDVDを視聴することによって、聴解力を高める。視聴した後、質疑応答や要約をすることで内容の理解を深める。事前に配布する語彙表の予習と授業内での意味確認によって理解語彙を増やす。

到達目標:

理解語彙を増やす。
多様な話題について視聴した後、質疑応答や要約をすることによって内容を把握し、上級の聴解力を身に付ける。

授業方法:

5: 講義／演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション テレビ番組の録画の視聴①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
2.	説明文の聴解① 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
3.	会話の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
4.	世界遺産の紹介の視聴①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
5.	説明文の聴解② 要約の提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
6.	日本文化の紹介の視聴	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
7.	会話の聴解②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
8.	説明文の聴解③ 要約の提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
9.	テレビ番組の視聴②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
10.	会話の聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
11.	説明文の聴解④ 要約の提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
12.	説明文の聴解⑤ 要約提出	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
13.	世界遺産の紹介の視聴② 会話文の聴解の小テスト	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
14.	会話文の聴解④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
15.	テレビ番組の視聴③	

受講者へのメッセージやアドバイス:

楽しめる教材を使用した授業を目指す。

フィードバックの方法:

提出物は添削して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加度	40	課題の準備を含み、授業中の質疑応答で評価する
	提出物	40	聴解内容のクイズや要約の提出度で評価する
	小テスト	20	会話聴解の要点の習熟度を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

大学のメール : tmonura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 本講は「演劇」や「演技」について直接学ぶ授業ではない。演劇や演技を「通して」、自分について、他者とのやりとりについて、表現について、協働について等を学ぶ授業である。
時には裸足で動きまわり、輪になって語り合うことをする。解くべき問題は用意されていない。様々な活動を通じて各々が問題を立て、探求を続けていく。新しい能力を開発するのではなく、今の自分を認識し、すでに備わっている力をいかに活用するかが重要である。

到達目標: 一律の目標はない。以下のような課題に対して、各々が主体的、積極的に探求を続けることが重要である。
・自分のからだと動きについて、より明瞭に、より詳細に認識できる。
・他者とのやりとりを通して、表現における自分の欲求と力に気づき、それらを育むことができる。
・作品創作や公演を通して、他者と協働できる。
・授業内の体験から知を結ぶことができる。

授業方法: 集中講義(連続3日間を予定)。少人数による体験学習形式。
演劇の演技者のためのレッスンを主な方法として、演習(エクササイズ、ゲームあそび等)と、体験の言語化(ふりかえり、ジャーナル)を積み重ねる。また、他者と協働して作品を創作し、公演(教室内発表)を体験する。

服装は簡単な運動のできるもの(スカート不可)、裸足(ストッキング不可)。
持参物はメモ用筆記具、飲料、汗拭き用タオル、(汗をかいた場合の)着替え。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	自分のからだを観る、聴く、語る	あえて予習を必要としない。 翌日から十分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
2.	他者とのやりとり1 (ヴァーバル・コミュニケーション)	
3.	他者とのやりとり2 (ノンヴァーバル・コミュニケーション)	
4.	他者とのやりとり3 (スキン・コンタクト)	
5.	他者とのやりとり4 (ブラインド・ウォーク)	
6.	他者とのやりとり5 (能動と受動)	
7.	即興により造形する1	
8.	即興により造形する2	
9.	日常にドラマを見つける	
10.	劇の創作と公演1	
11.	劇の創作と公演2	
12.	劇の創作と公演3 (詩をあそぶ)	
13.	劇の創作と公演4 (詩を演じる)	
14.	公演を鑑賞する	
15.	・体験をことばにする(ふりかえり、ジャーナル) ・体験知を結ぶ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: レポート(ジャーナル)は、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	課題に対して主体的、積極的に取り組んでいるかを基準とする。
	レポート	50	授業での体験を通して、問題や課題を見い出せているかと、独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

授業の概要: 本講は「演劇」と「演技」についての授業であり、体験学習の形式をとる。
自らを演劇においての演技者と仮定して、その知と技術を育んでいく。

「演技」とは自分が自分を使うことについての技術であり、演劇においては、虚構の時空で「役」となって状況を生き、相手とやりとりするための技術のことである。また、「演技」は演技者それぞれが探求すべき対象であり、自分の演技観は常に更新されていく可能性がある。

本講では、そのような「演技」について演技者が生きる領域をふたつに大別し、学習していく。

到達目標: 一律の目標はない。以下のような課題に対して、各々が主体的、積極的に探求を続けることが重要である。

- ・自分のからだと動きについて、より明瞭に、より詳細に認識できる。
- ・他者とのやりとりを通して、表現における自分の欲求と力に気づき、それらを育むことができる。
- ・作品創作や公演を通して、他者と協働できる。
- ・授業内の体験から知を結ぶことができる。

授業方法: (少人数による)体験学習形式。
演習(演技者のためのレッスン)と体験の言語化(ふりかえり)を積み重ねる。また、他者と協働して作品やシーンを創作し、公演(教室内外発表)を体験する。

服装は簡単な運動のできるもの(スカート不可)。指示により、すぐに裸足になれること(ストッキング不可)。
持参物はメモ用筆記具、飲料、汗拭き用タオル、(汗をかいた場合の)着替え。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション1 演技とは何か？	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
2. オリエンテーション2 からだによるアプローチ:ステイタス	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
3. スピード1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
4. スピード2	予習として、「スロー×ポーズ」の練習。
5. コンタクト1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
6. コンタクト2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
7. 能動と受動1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
8. 能動と受動2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
9. 能動と受動3	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
10. 能動と受動4	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
11. 「戯曲」を演じる1 形態分析、話題分析	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。 復習として、戯曲分析。
12. 「戯曲」を演じる2 行動分析:「行動シート」を動く1	予習として、「行動シート」の作成。 復習として、「行動シート」の暗記。
13. 「戯曲」を演じる3 行動分析:「行動シート」を動く2	予習として、「行動シート」の作成。 復習として、「行動シート」の暗記。
14. 「戯曲」を演じる4 行動分析:「行動シート」を動く3	予習として、「行動シート」の作成。
15. ふりかえり 再び、演技とは何か？	予習として、「ふりかえりシート」の作成。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: レポート等は、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	出席に加え、課題に対して主体的、積極的に取り組んでいるかを基準とする。
レポート	50	授業での体験を通して、問題や課題を見い出せているかと、独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で応対。

授業テーマ:

授業の概要: 本講は「演劇」と「演技」についての授業であり、体験学習の形式をとる。
「演劇と演技Ⅰ」の発展学習科目である。

(仮定としての)演劇における演技者として、その知と技術を育むことに加え、劇や戯曲の創作も試みる。劇(シーン)の創作では、テキストに「ガラスの動物園」(テネシー・ウィリアムズ作)を予定している。

「演技」とは自分が自分を使うことについての技術であり、演劇においては、虚構の時空で「役」となって状況を生き、相手とやりとりするための技術のことである。また、「演技」は演技者それぞれが探求すべき対象であり、自分の演技観は常に更新されていく可能性がある。本講では、そのような「演技」について演技者が生きる領域をふたつに大別し、学習していく。さらに、「演劇」は他者との協働による創作活動であり、本講では異なるいくつかの方法で「設定とせりふ」の創作を試み、稽古を経て公演(教室内発表)を体験する。

到達目標: 一律の目標はない。以下のような課題に対して、各々が主体的、積極的に探求を続けることが重要である。
・自分のからだと動きについて、より明瞭に、より詳細に認識できる。
・他者とのやりとりを通して、表現における自分の欲求と力に気づき、それらを育むことができる。
・作品創作や公演を通して、他者と協働できる。
・授業内の体験から知を結ぶことができる。

授業方法: (少人数による)体験学習形式。
演習(演技者のためのレッスン)と体験の言語化(ふりかえり)を積み重ねる。また、他者と協働して作品やシーンを創作し、公演(教室内発表)を体験する。

服装は簡単な運動のできるもの(スカート不可)。指示により、すぐに裸足になれること(ストッキング不可)。
持参物はメモ用筆記具、飲料、汗拭き用タオル、(汗をかいた場合の)着替え。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	創作: 夏のできごと	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
2.	創作: あいうえおの会話	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
3.	創作: 靴の中1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
4.	創作: 靴の中2	予習として、グループによる戯曲創作。
5.	創作: 靴の中3	予習として、グループによる戯曲創作。
6.	創作: 靴の中4	予習として、グループによる戯曲創作。
7.	「戯曲」を演じる1	予習・復習として、テキストの精読。
8.	「戯曲」を演じる2	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
9.	「戯曲」を演じる3	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
10.	「戯曲」を演じる4	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
11.	「戯曲」を演じる5	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
12.	「戯曲」を演じる6	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
13.	「戯曲」を演じる7	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
14.	「戯曲」を演じる8	予習として、テキストの精読と戯曲分析。
15.	ふりかえり	予習として、「ふりかえりシート」の作成。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: レポート等は、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	出席に加え、課題に対して主体的、積極的に取り組んでいるかを基準とする。
	レポート	50	授業での体験を通して、問題や課題を見い出せているかと、独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

和声の理論と実習

授業の概要:

機能
和声の理論と実習を行う。教科書に基づいて、和声法Ⅰでは、和声の形態についての予備知識に始まり、和音の機能性(トニック、サブドミナント、ドミナント)について理解する。まず、基本形での主3和音(I、Ⅳ、Ⅴ)、次いで副3和音(Ⅱ、Ⅵ)を含む連結、続いて各3和音の転回形の連結を実習する。
なお、バス課題と同時に、教科書では触れていないがソプラノ課題も行う。

到達目標:

古典的調性音楽の基本となる理論の第1段階として、基本形主3和音(I、Ⅳ、Ⅴ)、副3和音(Ⅱ、Ⅵ)を含む連結、各3和音の転回形の連結を習得する。

授業方法:

和声およびその連結に関する説明をし、新しい和音の説明と、前に学んだ和音の確認を行いながら課題を実施させる。また、宿題を添削し、模範解答を提示しながら問題点をチェック、徹底させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	予備知識	楽典の内容の、音階および和音に関することの復習をすること
2.	基本位置3和音の配置と連結 1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	基本位置3和音の配置と連結 2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	基本位置3和音の配置と連結 3	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	和音設定の原理 1	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	和音設定の原理 2 各種の調 1	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	各種の調 2	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	3和音の第1転回位置 1	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	3和音の第1転回位置 2	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	3和音の第1転回位置 3	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	3和音の第1転回位置 4	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	3和音の第2転回位置 1	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	3和音の第2転回位置 2	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	3和音の第2転回位置 3	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:

各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:

和声―理論と実習Ⅰ(音楽之友社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

和声の理論と実習

授業の概要:

教科書に基づき、和声法Ⅱに引き続き機能と和声の理論と実習を行う。和声法Ⅱでは、主としてドミナント機能の学習に重点をおく。ドミナント機能を持つ属7、属9の和音の基本形と根音省略の転回形の連結を学ぶ。
なお、バス課題と同時に、教科書では触れていないがソプラノ課題も行う。

到達目標:

古典的調性音楽の基本となる理論の第2段階として、ドミナント機能としての属7、属9の基本形と転回形(省略形を含む)の連結を習得する。

授業方法:

新しい和音の説明と、前に学んだ和音の確認を行いながら課題を実施させる。また、宿題を添削し、模範解答を提示しながら問題点をチェック、徹底させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	属7の和音 1	和声法Ⅰの内容を復習をすること
2.	属7の和音 2	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	属7の和音 3	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	属7の和音 4	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	属7の和音 5	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	属9の和音 1	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	属9の和音 2	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	属9の和音 3	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	属9の和音 4	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	属9の和音 5	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	ドミナント諸和音による課題の実施 1	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	ドミナント諸和音による課題の実施 2	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	ドミナント諸和音による課題の実施 3	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	ドミナント諸和音による課題の実施 4	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:

各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:

和声—理論と実習Ⅰ(音楽之友社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ： 和声の理論と実習

授業の概要：教科書に基づき、和声法Ⅲに引き続き機能と和声の理論と実習を行う。和声法Ⅲでは、まずⅡ度7の和音を、次に準固有和音（同主短調からの借用和音）とⅤ度上のⅤ度（ドッペルドミナント）諸和音を学ぶ。
なお、各々の段階に於いてバス課題及びソプラノ課題を実施する。

到達目標： 古典的調性音楽の基本となる理論の第3段階として、サブドミナント機能の一部と、準固有和音を始めた借用和音について習得する。

授業方法：新しい和音の説明と、前に学んだ和音の確認を行いながら課題を実施させる。また、宿題を添削し、模範解答を提示しながら問題点をチェック、徹底させる。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Ⅱ度7の和音 1	和声法Ⅱの復習をすること
2.	Ⅱ度7の和音 2	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	Ⅱ度7の和音 3	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	Ⅱ度7の和音 4	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	準固有和音 1	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	準固有和音 2	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	準固有和音 3	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	準固有和音 4	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	V度上のV度(ドッペルドミナント)諸和音 1	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	V度上のV度(ドッペルドミナント)諸和音 2	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	V度上のV度(ドッペルドミナント)諸和音 3	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	V度上のV度(ドッペルドミナント)諸和音 4	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	V度上のV度(ドッペルドミナント)諸和音 5	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	V度上のV度(ドッペルドミナント)諸和音 6	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者への 授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるなので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法： 各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書：和声—理論と実習Ⅱ（音楽之友社）

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

教員との連絡
方法： 授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ： 和声の理論と実習

授業の概要：教科書に基づき、和声法Ⅲに続き機能と和声の理論と実習を行う。和声法Ⅳ前半では、Ⅳ度7、ドリアの7、ナポリなどの和音のサブドミナント機能、更に終止におけるⅣ度の付加6、Ⅳ度の付加46（oⅣの付加46）等の使い方を学ぶ。後半では、近親転調について学び、実習する。

到達目標: 古典的調性音楽の基本となる理論の第4段階として、第3段階以外のサブドミナント機能と、準固有和音を始めとした借用和音、そして近親転調についても習得する。

授業方法：新しい和音の説明と、前に学んだ和音の確認を行いながら課題を実施させる。また、宿題を添削し、模範解答を提示しながら問題点をチェック、徹底させる。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	和声法Ⅲまでの復習	和声法Ⅲの復習をすること
2.	Ⅳ度7、ドリアの7、ナポリの和音 1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	Ⅳ度7、ドリアの7、ナポリの和音 2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	Ⅳ度7、ドリアの7、ナポリの和音 3	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	Ⅳ度の付加6、Ⅳ度の付加46(♭Ⅳの付加46)等 1	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	Ⅳ度の付加6、Ⅳ度の付加46(♭Ⅳの付加46)等 2	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	近親転調 1	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	近親転調 2	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	近親転調 3	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	近親転調 4	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	近親転調 5	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	近親転調 6	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	近親転調 7	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	近親転調 8	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者への 授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法： 各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書：和声—理論と実習Ⅱ（音楽之友社）

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

教員との連絡
方法： 授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ：

和声の実習

授業の概要：

和声法Ⅳまでの教科書とは別の、Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第3巻のテキストを用い、属7の和音の学習を目的とした、多様な転調を伴った課題を実習する。
近親転調だけではなくそれ以外の転調も伴った課題を実習し、3和音（ナポリの和音も含む）および属7の和音（ドリアの7の和音も含む）使い方を学習する。また一部、偶成和音についても学習する。

到達目標：

和声法Ⅳまでの知識および技術を生かし、より高度な和声を実践する。

授業方法：

Henri Challan 380 Basses et Chants donnésのテキストを使う。まずバス課題に付された数字について説明し、各課題を実施させる。
それを添削し、模範解答を示す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より バス課題 1	和声法Ⅳの復習をすること
	2. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より ソプラノ課題 1	前回の授業の復習と宿題をすること
	3. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より バス課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
	4. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より ソプラノ課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
	5. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より バス課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること
	6. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より ソプラノ課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること
	7. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より バス課題 4	前回の授業の復習と宿題をすること
	8. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より ソプラノ課題 4	前回の授業の復習と宿題をすること
	9. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より バス課題 5	前回の授業の復習と宿題をすること
	10. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より ソプラノ課題 5	前回の授業の復習と宿題をすること
	11. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より バス課題 6	前回の授業の復習と宿題をすること
	12. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より ソプラノ課題 6	前回の授業の復習と宿題をすること
	13. 過去定期試験問題課題 1	前回の授業の復習と宿題をすること
	14. 過去定期試験問題課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
	15. まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス：

授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法：

授業で行った課題を宿題として引き続き行い完成させ、次回の授業で添削し理解させる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書：

Henri Challan著 380 Basses et chants donnés / 第3巻 Septième de dominante – 3a Textes(Leduc)

参考書：

和声―理論と実習 Ⅲ（音楽之友社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、自己管理能力、

教員との連絡方法：

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	和声の実習		
授業の概要:	和声法Ⅴで使ったHenri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻に引き続き、Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第4巻のテキストを用い、副7の和音の学習を目的とした、多様な転調などを伴った課題を実習する。近親転調だけではなくそれ以外の転調も伴った課題を実習し、和声法Ⅴで学習した和音に加え、副7の和音(Ⅳ度の付加6の和音も含む)の 使い方を学習する。その他、偶成和音についても学習する。		
到達目標:	和声法Ⅴまでの知識および技術を生かし、より高度な和声を実践する。		
授業方法:	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés のテキストを使う。まずバス課題に付された副7の和音に使われる数字について説明し、各課題を実施させ、それを添削し、模範解答を示す。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より バス課題 1	和声法Ⅴの復習をすること	
	2. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より ソプラノ課題 1	前回の授業の復習と宿題をすること	
	3. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より バス課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること	
	4. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より ソプラノ課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること	
	5. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より バス課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること	
	6. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より ソプラノ課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること	
	7. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より バス課題 4	前回の授業の復習と宿題をすること	
	8. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より ソプラノ課題 4	前回の授業の復習と宿題をすること	
	9. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より バス課題 5	前回の授業の復習と宿題をすること	
	10. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より ソプラノ課題 5	前回の授業の復習と宿題をすること	
	11. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より バス課題 6	前回の授業の復習と宿題をすること	
	12. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より ソプラノ課題 6	前回の授業の復習と宿題をすること	
	13. 過去定期試験問題課題 1	前回の授業の復習と宿題をすること	
	14. 過去定期試験問題課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること	
	15. まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。		
フィードバックの方法:	授業で行った課題を宿題として引き続き行い完成させ、次回の授業で添削し理解させる。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等や平常の学習態度等
教科書:	Henri Challan著 380 Basses et chants donnés / 第4巻 Septièmes de différentes espèces – 4a Textes (Leduc)		
参考書:	和声―理論と実習Ⅲ(音楽之友社)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。		

授業テーマ：音楽における基礎知識の取得と基礎能力の向上

授業の概要：聴音：単旋律（調性的なものを中心に行う）
複旋律（2声）
4声体和声（和声法Ⅰの授業内容に従い、理論だけでなく耳からもわかるようにする）
視唱：高音部譜表、低音部譜表を修得する。
その他

到達目標：聴音、および視唱などソルフェージュの練習を通して音楽の基礎訓練を行い、能力を向上させる。
聴音：単旋律
複旋律
4声体和音
視唱：調性感を身につけ、転調を把握し、すぐ歌えるようにする。
その他

授業方法：グレード別によるクラスでの演習形式
聴音：教師がピアノを弾き、各自書き取らせる。代表者に白板に書かせたりもする。
視唱：一人一人に実施させ、全員で確認しながら授業を進める。
その他：各々のクラス独自のメニューによるソルフェージュ課題を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容						準備学習等の内容
1.	聴音	1	視唱	1	その他	1	準備
2.	聴音	2	視唱	2	その他	2	課題を練習
3.	聴音	3	視唱	3	その他	3	課題を練習
4.	聴音	4	視唱	4	その他	4	課題を練習
5.	聴音	5	視唱	5	その他	5	課題を練習
6.	聴音	6	視唱	6	その他	6	課題を練習
7.	聴音	7	視唱	7	その他	7	課題を練習
8.	聴音	8	視唱	8	その他	8	課題を練習
9.	聴音	9	視唱	9	その他	9	課題を練習
10.	聴音	10	視唱	10	その他	10	課題を練習
11.	聴音	11	視唱	11	その他	11	課題を練習
12.	聴音	12	視唱	12	その他	12	課題を練習
13.	聴音まとめ						課題を練習
14.	新曲視唱まとめ						課題を練習
15.	その他まとめ						課題を練習

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法：教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	到達度考査の聴音	40	
	新曲視唱	40	
	出欠席の状態と平常の学習態度	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、到達度考査を受験するしないにかかわらず、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、創造力、音感

教員との連絡方法：授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	ソルフェージュⅠとⅡで得た音楽における知識と能力を応用し発展させる。
授業の概要:	聴音:単旋律(調性的なものを中心に、旋法や非調性的なものを含む) 複旋律(3声も導入) 4声体和声(和声法Ⅲの内容に従い、理論だけでなく耳からもわかるようにする) 視唱:各種ハ音譜表(アルト、ソプラノ譜表)による旋律を歌う。 リズム打ち:様々な変拍子もできるようにする。 その他
到達目標:	ソルフェージュⅢに引き続き、聴音と視唱、各種音部譜表読み、リズム打ちなど、更に進んだ音楽の基礎訓練と同時に、楽器による初見視奏や移調奏なども行い、より高い能力を引き出す。 聴音:単旋律 複旋律 4声体和声 視唱:各種ハ音譜表(アルト、ソプラノ譜表)による旋律を歌う。 リズム打ち:様々な変拍子もできるようにする。 その他
授業方法:	グレード別によるクラスでの演習形式 聴音:教師がピアノを弾き、各自書き取らせる。代表者に白板に書かせたりもする。 視唱:一人一人に実施させ、全員で確認しながら授業を進める。 その他:各々のクラス独自のメニューによるソルフェージュ課題を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容				準備学習等の内容
	1.	聴音 1	視唱 1	リズム打ち等その他 1	授業の準備
	2.	聴音 2	視唱 2	リズム打ち等その他 2	課題を練習
	3.	聴音 3	視唱 3	リズム打ち等その他 3	課題を練習
	4.	聴音 4	視唱 4	リズム打ち等その他 4	課題を練習
	5.	聴音 5	視唱 5	リズム打ち等その他 5	課題を練習
	6.	聴音 6	視唱 6	リズム打ち等その他 6	課題を練習
	7.	聴音 7	視唱 7	リズム打ち等その他 7	課題を練習
	8.	聴音 8	視唱 8	リズム打ち等その他 8	課題を練習
	9.	聴音 9	視唱 9	リズム打ち等その他 9	課題を練習
	10.	聴音 10	視唱 10	リズム打ち等その他 10	課題を練習
	11.	聴音 11	視唱 11	リズム打ち等その他 11	課題を練習
	12.	聴音 12	視唱 12	リズム打ち等その他 12	課題を練習
	13.	聴音まとめ			課題を練習
	14.	新曲視唱まとめ			課題を練習
	15.	その他まとめ			課題を練習

受講者へのメッセージやアドバイス:	
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	到達度考査の聴音	40	
	新曲視唱	40	
	出欠席の状態と平常の学習態度	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、到達度考査を受験するしないにかかわらず、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:	

参考書:	

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、音感
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	ソルフェージュⅡとⅢで得た音楽における知識と能力を応用し発展させる。		
授業の概要:	聴音:単旋律(調性的なものを中心に旋法や非調声的なものを含む) 複旋律(3声も導入) 4声体和声(和声Ⅳの内容に従い、理論だけでなく耳からもわかるようにする) 視唱:各種ハ音譜表(アルト、ソプラノ、テノール譜表)による旋律を歌う。 リズム打ち:さまざまな変拍子もできるようにする。 その他 またクラスによっては楽器での初見、移調奏などを導入。		
到達目標:	ソルフェージュⅢに引き続き、聴音と視唱、各種音部譜表読み、リズム打ちなど、更に進んだ音楽の基礎訓練と同時に楽器による初見視奏や移調奏なども行い、より高い能力を引き出す。 聴音:単旋律 複旋律 4声体和声 視唱:各種ハ音譜表(アルト、ソプラノ、テノール譜表)による旋律を歌う。 リズム打ち:さまざまな変拍子もできるようにする。 その他		
授業方法:	グレード別によるクラスでの演習形式 聴音:教師がピアノを弾き、各自書き取らせる。代表者に白板に書かせたりもする。 視唱:一人一人に実施させ、全員で確認しながら授業を進める。 その他:各々のクラス独自のメニューによるソルフェージュ課題を行う。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 聴音 1 視唱 1 リズム打ち等その他 1		
	2. 聴音 2 視唱 2 リズム打ち等その他 2		
	3. 聴音 3 視唱 3 リズム打ち等その他 3		
	4. 聴音 4 視唱 4 リズム打ち等その他 4		
	5. 聴音 5 視唱 5 リズム打ち等その他 5		
	6. 聴音 6 視唱 6 リズム打ち等その他 6		
	7. 聴音 7 視唱 7 リズム打ち等その他 7		
	8. 聴音 8 視唱 8 リズム打ち等その他 8		
	9. 聴音 9 視唱 9 リズム打ち等その他 9		
	10. 聴音 10 視唱 10 リズム打ち等その他 10		
	11. 聴音 11 視唱 11 リズム打ち等その他 11		
	12. 聴音 12 視唱 12 リズム打ち等その他 12		
	13. 聴音まとめ		
	14. 新曲視唱まとめ		
	15. その他まとめ		
受講者への メッセージや アドバイス:			
フィードバックの 方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	到達度考査の聴音	40	
	新曲視唱	40	
	出欠席の状態と平常の学 習態度	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、到達度考査を受験するしないにかか わらず、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、創造力、音感		
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室で対応		

授業テーマ: ソルフェージュIとII、IIIとIV、およびVで得た音楽における知識と能力を応用し発展させる。

授業の概要： 単旋律から多声の聴音、各種音部譜表での視唱、より複雑なリズム打ちなど、更に進んだ音楽の基礎訓練を行うと同時に、楽器による初見視奏や移調奏などを行う。

到達目標: ソルフェージュⅤの修得を前提として、ソルフェージュの基礎から更に発展させ応用的な力をつける。

授業方法: グレード別によるクラスでの演習および実習形式

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	聴音 1 視唱 1 その他 1	準備
2.	聴音 2 視唱 2 その他 2	課題を練習
3.	聴音 3 視唱 3 その他 3	課題を練習
4.	聴音 4 視唱 4 その他 4	課題を練習
5.	聴音 5 視唱 5 その他 5	課題を練習
6.	聴音 6 視唱 6 その他 6	課題を練習
7.	聴音 7 視唱 7 その他 7	課題を練習
8.	聴音 8 視唱 8 その他 8	課題を練習
9.	聴音 9 視唱 9 その他 9	課題を練習
10.	聴音 10 視唱 10 その他 10	課題を練習
11.	聴音 11 視唱 11 その他 11	課題を練習 課題を練習
12.	聴音 12 視唱 12 その他 12	課題を練習
13.	聴音 13 視唱 13 その他 13	課題を練習
14.	まとめ 1	課題を練習
15.	まとめ 2	課題を練習

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	到達度考査	80	
	出欠席の状態と平常の学習態度	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、到達度考査を受験するしないにかかわらず、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法: 授業の前後に教室で対応

授業テーマ:

西洋音楽史を概観し、演奏／創作／研究活動と聴衆との関係を探求する旅

授業の概要:

古代から現代までの西洋芸術音楽創出の足跡を通時的／共時的に概観し、今までに演奏した／知りえた「西洋（芸術）音楽」は、そのジャンルも時代もその一部に過ぎないことを再確認すること。世界の民族音楽やポピュラー音楽と同様に、継承され他地域に伝播するなかで、他の芸術、他の文化から影響を受けながら、また相互に補完しあいながら、さらに新しいジャンルをも形成してきたこと、そして、音楽が創作／演奏される場も、文化的・社会的背景を背負ってきたことを理解する。

到達目標:

各音楽作品がどのような視点で、どのような空間で、どのような音楽家によって再現され、それを多様な聴衆がどのように受容していたかを考察し、在学中の演奏／創作／研究活動や趣味に関連づけていくための基礎知識を修得すること。

授業方法:

講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	西洋音楽史を理解することとは／古代ギリシアの人々は音楽をどのように捉えていたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
2.	キリスト教音楽の成立と展開／中世世俗音楽の世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
3.	ルネサンス音楽の世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
4.	バロック音楽：オペラの誕生とその後の展開	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
5.	バロック音楽：器楽の多様な世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
6.	バッハの時代の宗教音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
7.	古典派の音楽：シンフォニーの発展	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
8.	19世紀の室内楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
9.	19世紀の鍵盤楽器の音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
10.	19世紀の声楽曲（芸術歌曲・オペラ）	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
11.	19世紀から20世紀初頭の管弦楽の世界（1）：ドイツの作曲家を中心に	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
12.	19世紀から20世紀初頭の管弦楽の世界（2）：民族音楽との遭遇	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
13.	印象主義、そしてその後の欧州における音楽の諸相	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
14.	20世紀中期から21世紀現在までの音楽の展開：アメリカを舞台に	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
15.	20世紀中期から21世紀現在までの音楽の展開：代表的な東アジアの作曲家による芸術音楽創作品の世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるもの）

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:

提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	30%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する
	発表、報告	25%	準備学習（予習、復習）、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する

教科書:

片桐功ほか『増補改定版はじめての音楽史 古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社

参考書:

講義時に適宜、提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

人間の身体と心から紡ぎ出され、社会の中で育まれる音楽の探究

授業の概要:

音楽は、文化の中で他の芸術・芸能とともに息づいている。芝居を豊かに展開させたり、詩の情感を深めたり、人間の心を高揚させたりする。そして、儀礼に用いられる音楽、娯楽の場を提供する音楽、自然の風景を描き出す音楽など、多様な空間に音楽が鳴り響く。本講義では、通時的／共時的な視点で、幅広く世界の民族に眼を向け、相互の関連性にも着目し、人間が音楽と密接な関わりをもって創造・受容・継承してきた音楽文化の特質を深く理解する。21世紀に生きる受講生にとって世界の民族音楽と同様、「異文化」になりつつある日本の伝統音楽について、自分との距離を再考してみよう。

到達目標:

世界や日本の多様な音楽の成り立ちや文化的背景を理解する方法を、講義で取り上げる音楽事例から読み取り、それまでの自分の経験してきた音楽と比較しながら、それぞれのトピックへの関心と知識を深化させ、それぞれの音楽活動に応用できるかが求められる。

授業方法:

講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら、音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	民族音楽はどのように人間の身体に摺り込まれ、時空間を越えていくか？	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
2.	音楽が生地に留まり／から飛び出して新たな世界を創生することの意味	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
3.	旅するロマの人々が伝える音楽の心:移動／定着における音の出会い	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
4.	伝統音楽・芸能はどのように教習されるのか:日本・朝鮮半島・カンボジアを事例に	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
5.	人間は鳥とどんな会話をするのだろうか:自然と一体となった音風景	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
6.	ネイティブアメリカンの人々は音や音楽をどのように受け入れてきたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
7.	現代でも輝いている神事芸能としての音楽:インドネシアとブラジルを事例に	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
8.	人生の節目「結婚式」の場で奏でられる「おんがく」と「おどり」の世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
9.	宮城道雄の心のなかにある眼差し:指からつむぎ出される新たな音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
10.	能楽を支える人々:プロフェッショナルとアマチュアの違い	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
11.	琵琶と声で語る物語:日本人の目／外国人の目を通して	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
12.	打楽器の魅力:リズム・響き・コラボレーション	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
13.	中国から東アジア／東南アジアに伝播した宮廷音楽の世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
14.	歌舞伎が伝承、鑑賞される空間:江戸から現代までの上演の場	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
15.	上方伝統芸能に携わる人々の「芸の心」とは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:

提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	30%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する
	発表、報告	25%	準備学習(予習、復習)、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。

教科書:

片桐功他『増補改訂版はじめての音楽史 古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社

参考書:

柘植元一他『はじめての世界音楽 諸民族の伝統音楽からポップスまで』音楽之友社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

324300

音楽史(古典派)

三島 郁

授業テーマ:

西洋音楽史における「古典派」時代の音楽の特質と背景を探る

授業の概要:

西洋音楽史における18世紀「古典派」の音楽は、「バロック」から多くを受け継ぎ、19世紀のロマン派の音楽形式や構造面にも影響を与えた。この「古典派」は短期間ではあるが、この時期には啓蒙思想とともに新しい様式の音楽が現れ、「中心地」とみなされるウィーンのみならず、イタリアやフランスにおいても多様な音楽シーンが展開していた。そのような時期やさまざまな地域を特徴づける作品の様式や演奏慣習についてその歴史を分析し、啓蒙主義などの思想的、そして文化的・社会的背景についての考察を行う。

到達目標:

・古典派における作曲家や作品の様式やその内容について知識を身につける。

・西洋音楽史における古典派の位置と意義を理解し、自分なりに音楽を分析・考察できるようにする。

授業方法:

講義:講義毎に譜例や資料を付したレジュメを配付し、視聴覚資料を使用しながら、解説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 啓蒙主義の18世紀:音楽史における古典派	古典派の語義や音楽史上の意味について復習
2. 18世紀の伊仏オペラ論争	伊仏の様式感の違いの復習
3. 多感様式の作品とその様式	古典派の中の多様性を復習
4. 管弦楽作品「シンフォニア」とマンハイム楽派	古典派の音楽内容に決定的影響を与えた様式の復習
5. J. ハイドンの作品と様式(1):室内楽曲	ハイドンの室内楽曲様式の復習
6. J. ハイドンの作品と様式(2):管弦楽曲	ハイドンの管弦楽曲様式の復習
7. 18世紀パリの演奏会～宮廷、音楽サロン、公開演奏会	古典派時代の音楽消費地と受容者について復習
8. モーツァルトの作品と様式(1):室内楽曲	モーツァルトの室内楽曲様式の復習
9. モーツァルトの作品と様式(2):交響曲	モーツァルトの交響曲様式の復習
10. モーツァルトのオペラ(1):イタリア風オペラ	モーツァルトのイタリア風オペラについての復習
11. モーツァルトのオペラ(2):ジグ・シュピール	モーツァルトのドイツ語のオペラについての復習
12. ベートーヴェンの作品と様式(1):ピアノ曲	ベートーヴェンのピアノ曲様式の復習
13. ベートーヴェンの作品と様式(2):交響曲	ベートーヴェンの交響曲様式の復習
14. ベートーヴェンの作品と様式(3):室内楽曲	ベートーヴェンの室内楽曲様式の復習
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

音楽は、前の時代や別の地域のそれから影響を受けたり、反発したりするなど、時間的・空間的に異なった場所から常に新しく生まれています。本講義では、古典派が前後の時代の音楽特徴とどのように異なりまた同一であるか、それらを理解する能力を養い、現在の自分の演奏レパートリーや研究に関連づけてみましょう。

フィードバックの方法:

毎授業後に提出するコメントペーパーについては、授業内容に対する深い理解や考察があるものは講義時にコメントしながら紹介し、意義のある質問等に対しては講義資料に転載したり、教室で解説を行ったりする。

「成績評価方法」

評価方法	割合	評価基準
学期末試験	65	知識を身につけ、自分なりに分析・考察できているかどうか
出席状況及び授業時の提出物	35	提出物を提出しているかどうか、また質・量ともにきちんと書けているか。欠席数が講義数の3分の1以上の者は失格とする。

「成績評価基準」:

教科書:

講義毎に資料を配布

参考書:

D. J. グラウト、C. V. パリスカ／戸口幸策、津上英輔、寺西基之共訳 1998 『グラウト／パリスカ新西洋音楽史』(中) 東京:音楽之友社。その他については適宜提示。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

kaorumishima@gmail.com

授業テーマ:

19世紀の西洋音楽を多角的に考察する。

授業の概要:

この授業では、19世紀の音楽を作曲家ごとにとりあげ、代表的な作品やその背景について学びます。西洋音楽史において19世紀は、近代的な音楽文化の基礎をつくった時代といえます。例えば、音楽学校(コンセルヴァトワール)、音楽専用のホールでの演奏会、批評活動などはすべて19世紀に誕生したものです。また作曲家も、社会的、宗教的な制約に束縛されない自律した芸術家として創作活動を行うようになりました。それらに加えて、楽器の技術的発展によって、それまでの音楽にはみられなかった新しい表現が可能になったのが19世紀の音楽です。このような背景を踏まえながら、音楽作品を多角的に考察します。

到達目標:

この授業では、ロマン派の音楽を演奏、聴取、解釈するうえで必要な知識を学び、作品の理解を深めることを目標とします。

授業方法:

講義形式が中心です。各回、資料を配布するとともに視聴覚教材を活用し、時折、ピアノの実演をとり入れることによって理解を深めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入	音楽通史の復習
2.	シューベルト	授業の復習と次回のテーマについての予習
3.	ロマン派の楽器	授業の復習と次回のテーマについての予習
4.	メンデルスゾーン	授業の復習と次回のテーマについての予習
5.	シューマン(1)	授業の復習と次回のテーマについての予習
6.	シューマン(2)	授業の復習と次回のテーマについての予習
7.	ベルリオーズ	授業の復習と次回のテーマについての予習
8.	オペラ	授業の復習と次回のテーマについての予習
9.	ショパン(1)	授業の復習と次回のテーマに関する予習
10.	ショパン(2)	授業の復習と次回のテーマについての予習
11.	リスト(1)	授業の復習と次回のテーマについての予習
12.	リスト(2)	授業の復習と次回のテーマについての予習
13.	ブラームス	授業の復習と次回のテーマについての予習
14.	マーラー	授業の復習と次回のテーマについての予習
15.	まとめ	授業の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業で取り上げる作曲家の伝記を予習しておくことが望ましい。

フィードバックの方法:

提出物は教室内で返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	コメントペーパーを含む授業への学習態度	50	ミニレポートに基づいて授業の理解度を評価します。
	定期試験	50	ロマン派の音楽を聴取、演奏、解釈する上で必要な知識を理解し、設問に対して論理的に説明できているかを基準とします。

教科書:

特になし。適宜プリントを配布します。

参考書:

Charles Rosen, “The Romantic Generation”, Harvard University Press, 1955.
渡辺護『ドイツ歌曲の歴史』、音楽之友社、1997年
ロベルト・シューマン 『音楽と音楽家』、吉田秀和訳、岩波文庫、1994年

『ドイツ・ロマン派全集——無限への憧憬』、国書刊行会、1984年
大久保賢 『ショパン——孤高の創造者 人・作品・イメージ』、春秋社、2012年
エクトール・ベルリオーズ・リヒャルト・シュトラウス『管弦楽法』、広瀬大介訳、音楽之友社、2006年
椎名亮輔『狂気の西洋音楽史』、岩波書店、2010年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

原則として授業時間の前後に対応します。

授業テーマ:

対位法の理論と実習

授業の概要:

2声対位法の2分音符対位法と4分音符対位法を実習する。

到達目標:

対位法の歴史は古く13世紀にまで遡るが、この授業では18世紀以降に確立された、調性(長調および短調)の対位法技法を学び、実習する。対位法の技法とは、グレゴリオ聖歌に由来する全音符による定旋律をおき、それに他の声部が別の独立した線としていかに美しく関わるかを習得するものである。

授業方法:

はじめに、それぞれの種類毎に規則や方法を説明し、範例を示した後、各自実施させる。宿題を添削し、問題点をチェック、それぞれよりよく直しつつ先へ進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	全音符対位法 1	楽典の知識の確認をすること
2.	全音符対位法 2	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	2分音符対位法 1	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	2分音符対位法 2	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	2分音符対位法 3	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	2分音符対位法 4	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	2分音符対位法 5	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	4分音符対位法 1	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	4分音符対位法 2	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	4分音符対位法 3	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	4分音符対位法 4	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	4分音符対位法 5	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	2分音符対位法および4分音符対位法の復習 1	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	2分音符対位法および4分音符対位法の復習 2	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるなので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:

各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等及び平常の学習態度等

教科書:

池内友次郎著 二声対位法 (音楽之友社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

対位法の理論と実習

授業の概要:

2声対位法の移勢対位法と華麗対位法の実習を行う。

到達目標:

対位法の歴史は古く13世紀にまで遡るが、この授業では18世紀以降に確立された、調性(長調および短調)の対位法技法を学び、実習する。対位法の技法とは、グレゴリオ聖歌に由来する全音符による定旋律をおき、それに他の声部が別の独立した線としていかに美しく関わるかを習得するものである。

授業方法:

はじめに、それぞれの種類毎に規則や方法を説明し、範例を示した後、各自実施させる。宿題を添削し、問題点をチェック、それぞれよりよく直しつつ先へ進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	移勢対位法 1	対位法Ⅰの復習をすること
2.	移勢対位法 2	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	移勢対位法 3	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	移勢対位法 4	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	移勢対位法 5	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	移勢対位法 6	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	華麗対位法 1	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	華麗対位法 2	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	華麗対位法 3	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	華麗対位法 4	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	華麗対位法 5	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	華麗対位法 6	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	移勢対位法および華麗対位法の復習 1	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	移勢対位法および華麗対位法の復習 2	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:

各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等及び平常の学習態度等

教科書:

池内友次郎著 二声対位法 (音楽之友社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

音楽を支える音とは何か？

授業の概要:

音楽というものは人間の文化的な所産のひとつである。そのため、その文化面の意味合いが多くの音楽教育では重視視されてきている。特に音楽の実施(演奏)能力はそれぞれの分化特有の技法に通じないと演奏者としての高い評価は期待できないため、この傾向は助長される。しかしながら、音楽には人の聴覚に訴えるという万人共通の側面がある。この授業では音楽受容の根底中の根底となる人間の聴覚の基礎の理解を主眼として音とは何かを、その物理的側面と心理的側面を併せて理解するための基礎知識の取得を目指す。

到達目標:

まず音楽が音響芸術であること、つまり人間の聴覚に訴える音の理解、そしてそれを人間が受容する器官である聴覚と中枢の仕組みについての理解を目指します。我々の周辺に存在する多くのものを、叩いたり、擦ったり、吹いたりすることで生じる音響信号が、どのように私達の聴覚系で感知されるか、そこで重要視される違いは何であるかを知るために音という物理現象と心理現象の両側面の理解を目指します。それにより音楽が今の形態となっていることへの流れを自分なりに考える土台を作ることを目指します。

授業方法:

基本的にはキーノートを使った講義
講義の際に資料を配付する。受講者の興味の対象・理解程度をさぐるために、折りに触れて小テストを課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 音楽心理学の概要(音楽を考える上で心理学的な視点とは何であるかの視座)	
	2. 音響学(音の物理的側面)	仕事, 仕事率, 力, 圧力, 三角関数について復習しておくこと
	3. 聴覚生理その1(大気圧の振動現象が脳に伝わる原理)	神経, 脳, 感覚器などについての基礎知識が求められます
	4. 聴覚生理その2(大気圧の振動現象が脳に伝わる原理)	
	5. 聴覚心理学(感覚, 知覚システムの中での聴覚の特徴)	第2回で教授する正弦振動, 周波数, 音圧と強度の関係を理解しておくこと。
	6. ピッチその1(音の高さと周波数の違い)	周波数, 周期性, 調波構造などの物理的な概念と, ピッチという感覚的な印象の違いを理解していく必要が出ます。
	7. ピッチその2(場所説と時間説, 基底膜の存在と位相固定発火)	第3, 4回で学んだ基底膜の役割と聴神経の位相固定発火の役割をここで使います。
	8. 協和性とマスキングその1(マスキング現象と基底膜)	第3, 4回で学んだ基底膜の役割とフィルターの概念の結びつきを理解していくこと。
	9. 協和性とマスキングその2(聴覚的協和と音楽的協和の違いとマスキング現象)	音楽的協和の背景に同一フィルターの中を通る複数の周波数成分間の唸りがあることを理解の軸にします。
	10. 音色(周波数スペクトルと共鳴特性)	音色を規定する要因のひとつであるスペクトルについての理解と, それが聴覚系でなぜ検出可能なのかを理解することが求められます。
	11. ラウドネス(ダイナミクスとラウドネスの違い, 強度とラウドネスの違い)	強度に対する非線形応答としてラウドネスが得られることと, その非線形性が第3, 4回で学んだ外有毛細胞の能動性にあることの理解を深めます。
	12. 聴覚情景分析(音脈分凝と音の群化)	ここまでの微視的な視点とは異なり, 聴覚が何のためにあるのかという巨視的な視点がここで導入されます。
	13. ゲシュタルト原理 (旋律性と調性)	
	14. 歌唱 (声の性質:音域と声道共鳴)	人間が獲得した声という「楽器」の特徴と, その知覚の原則と聴覚系との結びつきを理解していきます。
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

難しいからと理由だけで点数を取るために「丸暗記」をするのではなく、理解すること、腑に落ちることを求めています。授業を受動的に聞くだけでは、そのような理解には結びつきません。自分で分かるように努力し、分からないときは質問することを奨励します。

フィードバックの方法:

できるだけ折に触れて小テストを実施する計画でいます。その結果に大凡の自分の理解度は判断できます。しかし、こちらからフィードバックをしなくても、自分が理解して講義を聴いているかどうかは本来は各自が判断できるはずです。その直観重要です。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末テスト	65	選択肢の選択基準が明確であること
	授業への参加度	35	積極的に講義を聴く姿勢と各単元に実施する確認小テスト

教科書:

参考書:

香田徹他:「聴覚モデル」, 日本音響学会編, コロナ社, ￥3,400, 2011.
乾敏郎編著:「知覚と運動」, 東京大学出版会 ￥3,400, 1995.
ダイアナ・ドイチュ著, 寺西立年他監訳:「音楽の心理学(上・下)」, 西村書店, 各 ￥3800, 1987.
大山正他編:新編 知覚間隔心理学ハンドブック, 誠信書房, 誠信書房, ￥54,000, 1994.
大山正他編:新編 知覚間隔心理学ハンドブック Part2, 誠信書房, 誠信書房, ￥19,440, 2007.
大串健吾監訳, B.C.J.Moore著:聴覚心理学概論, 誠信書房, ￥4,500, 1994.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール(アドレスは授業時に伝えます), 授業後で教室内で対応。

329601～04
329801～04
330001～04
330201～04

オーケストラⅠ
オーケストラⅢ
オーケストラⅤ
オーケストラⅦ

関谷 弘志、柳生 厚彦、山本 一宏、森 香織

授業テーマ： 優れた管弦楽作品の研究と演奏。

授業の概要： 合奏における基本的な演奏能力を身につけるとともに、作曲家と作品に対する理解を深め、演奏会に向けて一曲一曲を仕上げていく。その過程で、他のセクションやパートを聴く力を養い、自分のパートの持つ役割を体得し実践していく。

到達目標： 自らのパートのみならず、全体のオーケストレーションを理解し、更には技術的安定と、より高度なアンサンブル技術を身につけることを目標とする。

授業方法： 分奏、合奏授業をバランスよく行い、定期公演に向けて楽曲を仕上げていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)①	事前の自主練習①
2.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)②	事前の自主練習②
3.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)③	事前の自主練習③
4.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)④	事前の自主練習④
5.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)①	スコアの研究①
6.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)②	スコアの研究②
7.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)③	スコアの研究③
8.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)④	スコアの研究④
9.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)①	より積極的なパート練習①
10.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)②	より積極的なパート練習②
11.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)③	より積極的なパート練習③
12.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)④	より積極的なパート練習④
13.	総合練習 (演奏会の準備)①	演奏会に向けての自主練習①
14.	総合練習 (演奏会の準備)②	演奏会に向けての自主練習②
15.	総合練習 (演奏会の準備)③	演奏会に向けての自主練習③

受講者へのメッセージやアドバイス： 我々が取り上げる作品は、大作曲家が音楽史上に残した傑作ばかりです。作曲家と作品に対する深い敬意をもって、それぞれの作品の奥深さを学びましょう。

フィードバックの方法： 日頃の授業に対する積極的参加度や姿勢、合奏の総合的な到達度を、授業の中で随時コメントしていきます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	80	授業への出席状況を見る
	技術的到達度	20	演奏への参加姿勢を見る

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法： 授業の前後に教室にて対応。

329701～04
329901～04
330101～04
330301～04

オーケストラⅡ
オーケストラⅣ
オーケストラⅥ
オーケストラⅧ

関谷 弘志、柳生 厚彦、山本 一宏、森 香織

授業テーマ： 優れた管弦楽作品の研究と演奏。

授業の概要： 合奏における基本的な演奏能力を身につけるとともに、作曲家と作品に対する理解を深め、演奏会に向けて一曲一曲を仕上げていく。その過程で、他のセクションやパートを聴く力を養い、自分のパートの持つ役割を体得し実践していく。

到達目標： 自らのパートのみならず、全体のオーケストレーションを理解し、更には技術的安定と、より高度なアンサンブル技術を身につけると共に、合奏分野全体へのモチベーションを高めていくことを目標とする。

授業方法： 分奏、合奏授業をバランスよく行い、定期公演に向けて楽曲を仕上げていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)①	事前の自主練習①
2.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)②	事前の自主練習②
3.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)③	事前の自主練習③
4.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)④	事前の自主練習④
5.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)①	スコアの研究①
6.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)②	スコアの研究②
7.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)③	スコアの研究③
8.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)④	スコアの研究④
9.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)①	より積極的なパート練習①
10.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)②	より積極的なパート練習②
11.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)③	より積極的なパート練習③
12.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)④	より積極的なパート練習④
13.	総合練習 (演奏会の準備)①	演奏会に向けての自主練習①
14.	総合練習 (演奏会の準備)②	演奏会に向けての自主練習②
15.	総合練習 (演奏会の準備)③	演奏会に向けての自主練習③

受講者へのメッセージやアドバイス： 我々が取り上げる作品は、大作曲家が音楽史上に残した傑作ばかりです。作曲家と作品に対する深い敬意をもって、それぞれの作品の奥深さを学びましょう。

フィードバックの方法： 日頃の授業に対する積極的参加度や姿勢、合奏の総合的な到達度を、授業の中で随時コメントしていきます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	100	授業への出席状況を見る。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法： 授業の前後に教室にて対応。

授業テーマ:

総合芸術としてのオペラへのアプローチ

授業の概要:

演技に関わる基礎を身につけ、各々の声質に応じたモーツァルト作曲「COSI FAN TUTTE」「LE NOZZE DI FIGARO」のレチタティーボ、アンサンブルを演習する中で、音楽様式、性格描写、発声、相手役と合わせる能力などを実践的に理解する。

到達目標:

総合芸術としてのオペラの基礎知識を高めるとともに、その基礎的表現力を習得する。

授業方法:

演習・演唱・ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション。各々の声質により、配役を決定する。	
	2. 演技演習	指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	3. パントマイム	指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	4. 「LE NOZZE DI FIGARO」 NO.5をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	5. 「LE NOZZE DI FIGARO」 NO.5をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (身体表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	6. 「LE NOZZE DI FIGARO」 NO.5をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現・身体表現・相手役への配慮などの融合を図る。①)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	7. 「LE NOZZE DI FIGARO」 NO.5をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現・身体表現・相手役への配慮などの融合を図る。②)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	8. 「COSI FAN TUTTE」 NO.4をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	9. 「COSI FAN TUTTE」 NO.4をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (身体表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	10. 「COSI FAN TUTTE」 NO.4をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現・身体表現・相手役への配慮などの融合を図る。)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	11. 「COSI FAN TUTTE」 NO.20をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	12. 「COSI FAN TUTTE」 NO.20をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (身体表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	13. 「COSI FAN TUTTE」 NO.20をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現・身体表現・相手役への配慮などの融合を図る。)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
	14. 上記演習曲のクラス内発表①	
	15. 上記演習曲のクラス内発表②。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	60%	オペラの基礎知識を高めているか評価する。
	歌唱発表	40%	歌唱発表により、オペラの基礎的表現力を高めているか評価する。

教科書:

その都度指定する。

参考書:

授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

総合芸術としてのオペラへのアプローチ

授業の概要:

各々の個性に応じた多岐にわたるオペラ作品を取り上げ、より実践的にオペラを演奏するために必要な身体表現法、言語表現法、発声法などの知識と技術を体得し、作品研究、舞台の仕組みなども含め、オペラ試演会の上演に向け、総合芸術としてのオペラの理解をさらに深める。

到達目標:

総合芸術としてのオペラの知識をさらに高め、舞台表現力を習得する。

授業方法:

演習・演唱・ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	歌唱法、言語表現法の体得を目指した音楽練習①	事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
2.	歌唱法、言語表現法の体得を目指した音楽練習②	事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
3.	歌唱法、言語表現法の体得を目指した音楽練習③	事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
4.	歌唱法、言語表現法の体得を目指した音楽練習④	事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
5.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古(身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む)①	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
6.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古(身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む)②	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
7.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古(身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む)③	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
8.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古(身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む)④	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
9.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古(身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む)⑤	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
10.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古(身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む)⑥	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
11.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古(身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む)⑦	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
12.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古(身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む)⑧	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次の通し稽古①までに修正しておくこと。
13.	通し稽古①	指摘された箇所は、次の通し稽古②までに修正しておくこと。
14.	通し稽古②	指摘された箇所は、試演会までに修正しておくこと。
15.	ホールにて試演会	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	60%	オペラの総合的な知識をさらに高めているか評価する。
	歌唱発表	40%	試演会により、オペラの総合的な舞台表現力を高めているか評価する。

教科書:

その都度指定する。

参考書:

授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

声の素晴らしさを知り、ハモる喜びを感じよう。

授業の概要:

古典から現代までの合唱曲(日本の伝統的な歌唱を含む)をとりあげ、合唱におけるハーモニー・リズム・発声・発語などの練習をし、アンサンブルの基本を身につける。また、発声練習を通して「楽器」としての身体を認識する。

到達目標:

12月に行われる定期演奏会において暗譜で演奏するための譜読みを完全に行い、暗譜に向けての準備をする。

授業方法:

実技。体操・発声練習・アンサンブル練習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスと発声についてのレクチャー、体操、発声練習および、「大学歌」・「Doshisha College Song」の練習。	授業後、「大学歌」・「Doshisha College Song」について、授業内で不十分な所を各自個人練習する。
2.	体操、発声練習、ハーモニー練習、「大学歌」・「Doshisha College Song」の練習。	「大学歌」・「Doshisha College Song」について音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
3.	体操、発声練習、ハーモニー練習、カノンを使った練習、小品1の練習。	次に取り組む曲の音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
4.	体操、発声練習、ハーモニー練習、小品1・2の練習。	次に取り組む曲の音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
5.	体操、発声練習、ハーモニー練習、小品2・3の練習。	次に取り組む曲の音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
6.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の譜読み。	次に取り組む曲の音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
7.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の譜読み。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
8.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の譜読み。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
9.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
10.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
11.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
12.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
13.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の暗譜練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
14.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の暗譜練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
15.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の暗譜練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

音楽は完全な無音から始まります。大人数での授業ですが、音が出る前は集中して静寂から音楽を始めるよう心がけましょう。うまくハモった時はきっと気持ち良さを感じることが出来ると思います。たくさん心地よい時間と空間をつくっていきましょう。

フィードバックの方法:

練習において、その都度、今出した音の問題点やその解決法などをコメントしますので、必要なことは楽譜に書き込んでください。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況	60%	欠席の回数に応じて減点します。
	授業態度	40%	ハーモニーを作っていく上での積極的な参加度を、少人数でのアンサンブル練習などを実施して評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業前後に直接話しかけてください。

授業テーマ:	声の素晴らしさを知り、ハモる喜びを感じよう。		
授業の概要:	古典から現代までの合唱曲(日本の伝統的な歌唱を含む)をとりあげ、合唱におけるハーモニー・リズム・発声・発語などの練習をし、アンサンブルの基本を身につける。また、発声練習を通して「楽器」としての身体を認識する。練習の成果を定期演奏会で発表する。		
到達目標:	定期演奏会において暗譜で演奏するための準備をする。		
授業方法:	実技。体操・発声練習・アンサンブル練習を行い、到達度確認のためのテストを実施する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	暗譜のための自主練習を行う。
	2.	到達度確認のためのテストを実施。	暗譜のための自主練習を行う。
	3.	到達度確認のためのテストを実施。	暗譜のための自主練習を行う。
	4.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	5.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	6.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	7.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	8.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	9.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	10.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	11.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	12.	体操、発声練習、ハーモニー練習、定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	13.	体操、発声練習、ハーモニー練習、入学式・卒業式のための合唱曲練習。	次に取り組む曲の音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	14.	体操、発声練習、ハーモニー練習、入学式・卒業式のための合唱曲練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
	15.	体操、発声練習、ハーモニー練習、入学式・卒業式のための合唱曲練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
受講者へのメッセージやアドバイス:	音楽は完全な無音から始まります。大人数での授業ですが、音が出る前は集中して静寂から音楽を始めるよう心がけましょう。うまくハモった時はきっと気持ち良さを感じることが出来ると思います。たくさんの心地よい時間と空間をつくっていきましょう。		
フィードバックの方法:	練習において、その都度、今出した音の問題点やその解決法などをコメントしますので、必要なことは楽譜に書き込んでください。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況	60%	定期演奏会を含む出席状況において欠席の回数に応じて減点します。
	到達度テスト	40%	暗譜を含む到達度確認のためのテストにより評価します。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業前後に直接話しかけてください。		

332700
332900
333000

合唱Ⅲ
合唱Ⅴ
合唱Ⅶ

井上 敏典

授業テーマ：	楽曲の解釈のうえにおける、声の調和と感動の心を伝達するには。		
授業の概要：	ハーモニーを形成するためには、個人で何をすべきか。合唱を通して与えられたセクションの位置や重要性、表現に至るまでの技術の認識、必要性、方法を学び、聴衆と共感する意味を探る。		
到達目標：	1.発声の理解。 2.音色の統一の理解。 3.アンサンブルの理解。 4.作品（詩と曲）の理解。		
授業方法：	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ウォーミングアップ用練習曲（1）希望パートの提出。	自分のパートを決めておく。	
	2. ウォーミングアップ用練習曲（2）パート分け。	配布された楽譜の製本が必要な場合は製本をしておく。譜読みをしてくる。	
	3. ウォーミングアップ用練習曲（3）	譜読みとイメージ作り。	
	4. ウォーミングアップ用練習曲（4）	暗譜同然にする。	
	5. ウォーミングアップ用練習曲（5）定期演奏会用作品（1）	定期演奏会用の楽譜を購入しておく。	
	6. ウォーミングアップ用練習曲（6）定期演奏会用作品（2）	譜読み。	
	7. ウォーミングアップ用練習曲（7）定期演奏会用作品（3）	譜読み。	
	8. ウォーミングアップ用練習曲（8）定期演奏会用作品（4）	譜読み。	
	9. ウォーミングアップ用練習曲（9）定期演奏会用作品（5）	譜読み。	
	10. ウォーミングアップ用練習曲（10）定期演奏会用作品（6）	譜読み。	
	11. ウォーミングアップ用練習曲（11）定期演奏会用作品（7）	譜読み。	
	12. ウォーミングアップ用練習曲（12）定期演奏会用作品（8）	譜読み。	
	13. ウォーミングアップ用練習曲（13）定期演奏会用作品（9）	譜読み。	
	14. ウォーミングアップ用練習曲（14）定期演奏会用作品（10）最終曲まで終了。	イメージ作り。	
	15. ウォーミングアップ用練習曲（15）定期演奏会用作品（11）全曲通し。	秋学期に向けて暗譜同然に仕向けること。	
受講者へのメッセージやアドバイス：	定期演奏会用の曲は5月の連休明けよりスタートしますので、楽譜の購入は早めに購入のこと。		
フィードバックの方法：	教室内でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	100%	欠席は3回までとする。それ以上の欠席は認めない。 ただし、公的な出校不可などの場合はそれに限らない。
教科書：			
参考書：			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法：	授業の前後に教室内で対応。		

332800
333100
333200

合唱Ⅳ
合唱Ⅵ
合唱Ⅷ

井上 敏典

- 授業テーマ： 徹底した響きと、ハーモニーと言葉の表現研究。
- 授業の概要： 春学期に引き続き、楽譜上での記号をいかに生きた音にできるか、再度ハーモニーを生かすための技術の向上と客観性を養い、舞台上での最大限の表現の伝達を探る。
- 到達目標： 1. 声音の統一。
2. 各パートの役割の理解。
3. 作品解釈の統一。
4. 最大限のパフォーマンスに向けての技術改革。
5. 客観視する能力の開発。

授業方法： 演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ウォーミングアップ用練習曲(1) 定期演奏会用の作品研究(1) 新規受講者の希望パート提出。	春学期での感覚を戻しておくこと。新規登録者は譜読みをしておくこと。
2.	ウォーミングアップ用練習曲(2) 定期演奏会用の作品研究(2)	譜読みとイメージ作り。
3.	ウォーミングアップ用練習曲(3) 定期演奏会用の作品研究(3)	譜読みとイメージ作り。
4.	ウォーミングアップ用練習曲(4) 定期演奏会用の作品研究(4)	曲の解釈の方向付け。
5.	ウォーミングアップ用練習曲(5) 定期演奏会用の作品研究(5)	曲の解釈の方向付け。
6.	ウォーミングアップ用練習曲(6) 定期演奏会用の作品研究(6)	曲の解釈の方向付け。
7.	ウォーミングアップ用練習曲(7) 定期演奏会用の作品研究(7)	曲の解釈の方向付け。
8.	ウォーミングアップ用練習曲(8) 定期演奏会用の作品研究(8)	イメージのまとめ。
9.	ウォーミングアップ用練習曲(9) 定期演奏会用の作品研究(9)	イメージのまとめ。
10.	ウォーミングアップ用練習曲(10) 定期演奏会用の作品研究(10)	本番へ向けての集中力を養う。
11.	ウォーミングアップ用練習曲(11) 定期演奏会用の作品研究(11)	曲解釈の統一を再度確認。 通し稽古へ対応すべく心身の準備。
12.	ウォーミングアップ用練習曲(12) 卒業式、入学式、新曲(1)	
13.	ウォーミングアップ用練習曲(13) 卒業式、入学式、新曲(2)	配布された楽譜に製本が必要であれば、事前にしておくこと。
14.	ウォーミングアップ用練習曲(14) 卒業式、入学式、新曲(3)	譜読み。
15.	ウォーミングアップ用練習曲(15) 卒業式、入学式、新曲(4)	

受講者へのメッセージやアドバイス： 定期演奏会での演奏が前提となっている授業ですので、暗譜ができたから良いというわけではありません。解釈と表現、それをサポートするテクニックのマスターと、本番にむけてのく心構えを養っていきます。

フィードバックの方法： 教室内でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	60%	授業への積極的な参加度を判断。 3回以上の欠席は単位を認めない。ただし、公の認めた理由がある場合はその限りでない。
	行事への参加	40%	定期演奏会、その他依頼演奏への参加度。

教科書：

参考書：

- 獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
- 教員との連絡方法： 授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

和楽器についての講義・実習

授業の概要:

平成14年度から新・学習指導要領に改訂され、義務教育において和楽器に触れることが新たに加えられた。それに伴い、全国の音楽科教員採用試験にも、和楽器の実技試験が実施されてきている。本授業では、箏・三味線の歴史や基本的な演奏技法を学び、和楽器の指導法にも触れる。また、和楽器を使っの簡単なアレンジを楽しむ。

到達目標:

和楽器の理解を深める
教育実習や教員採用試験への準備・対策

授業方法:

和楽器の歴史に関する講義。
また実際に楽器に触れ、学習指導要領で使われている作品などを用い、自由なアレンジも行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. 箏の歴史・楽器の構造についての講義	2. 箏の基本的な演奏技法の実習	教科書の「箏の歴史」を読んでおくこと
	(1)記譜法・演奏姿勢について	教科書に記載の楽器の部位名を確認する
	3. 箏の基本的な演奏技法の実習	演奏姿勢の確認、記譜法の復習
	(2)練習曲1～5	
	4. 箏の基本的な演奏技法の実習	練習曲1～5の復習
	(3)練習曲6～8	
	5. 箏の基本的な演奏技法の実習	練習曲6～8の復習
	(4)練習曲9～11	
	6. 箏の基本的な演奏技法の実習	練習曲9～11の復習
	(5)練習曲12～14	
	7. 三味線の歴史・楽器の構造について	練習曲12～14の復習
		教科書の「三絃の歴史」を読んでおくこと
	8. 地歌三味線の基本的な演奏技法の実習	三絃の各部位名の復習
	(1)演奏姿勢を中心に	
	9. 地歌三味線の基本的な演奏技法の実習	三絃の演奏姿勢の確認
	(2)練習曲(前半)	
	10. 地歌三味線の基本的な演奏技法の実習	練習曲(前半)の復習
	(3)練習曲(後半)	
	11. 箏・三味線のさまざまな演奏形態や調弦法について	練習曲(後半)の復習
		箏の演奏法の復習
	12. 和楽器指導法の研究	「六段の調」を鑑賞しておく
	(1)六段の調を用いて	
	13. 和楽器指導法の研究	箏と三絃の調弦法の復習
	(2)童謡・唱歌を用いて	
	14. 和楽器を使っのアレンジ	「平調子」の音階の確認
	15. 「さくらさくら」のグループごとの発表・小テスト	「さくらさくら」のアレンジ譜の作成
		講義内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

最終授業の行う小テストは、授業で学んだ内容から出題するため、教科書やノートをよく読む。「さくらさくら」のアレンジについては、まずピアノ等を使いながら事前に作成しておくこと。授業時間外に考えたアレンジを、授業内で箏の譜面に書き直せるようにする。

フィードバックの方法:

課題提出物については、教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	出席状況とグループワークでの態度・意欲を評価する
	授業内小テスト	30	
	課題作品の提出	20	

教科書:

久保田敏子「よくわかる箏曲地歌の基礎知識」(白水社発行)

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

342000
342100
342200
342300

リサイタルⅠ
リサイタルⅡ
リサイタルⅢ
リサイタルⅣ

椎名 亮輔

授業テーマ:

鑑賞を通じて学ぶ。

授業の概要:

演奏専攻の各コースのおこなう演奏を鑑賞し、多様な楽曲や楽器の演奏方法等を学ぶとともに、みずからの感性を磨き、音楽発表会そのもののあり方についても検討する。

到達目標:

演奏専攻の各コースのおこなう演奏を鑑賞する。
多様な楽曲や楽器の演奏方法等を学ぶ。
みずからの感性を磨く。
音楽発表会そのもののあり方についても検討する。

授業方法:

指定された座席に着席して鑑賞する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容

準備学習等の内容

1. 演奏を鑑賞する。

2. 演奏を鑑賞する。

3. 演奏を鑑賞する。

4. 演奏を鑑賞する。

5. 演奏を鑑賞する。

6. 演奏を鑑賞する。

7. 演奏を鑑賞する。

8. 演奏を鑑賞する。

9. 演奏を鑑賞する。

10. 演奏を鑑賞する。

11. 演奏を鑑賞する。

12. 演奏を鑑賞する。

13. 演奏を鑑賞する。

14. 演奏を鑑賞する。

15. 演奏を鑑賞する。

自らの音楽的興味をもつ。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

自分なりの方法で前回はふりかえる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

可能な範囲で、各回の演奏についてのコメントを伝える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法

割合

評価基準

授業への積極的参加度

100

授業に積極的に参加しているかどうかで評価する。

教科書:

なし

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:

ピアノ演奏における諸問題の探究

授業の概要:

モーツァルトのピアノ協奏曲とロシア音楽、声楽伴奏法ではドイツ・リートを取り上げて演奏における諸問題を考えていく。

到達目標:

・モーツァルトのピアノ協奏曲を独奏パートと管弦楽パートの関係に留意し、モーツァルトらしい音質やアーティキュレーション、表現法などを学ぶ。

・ロシアのピアノ作品についての確な楽譜の読み方や奏法を習得する。

・歌詞と音楽との関係に留意しながらひとつの音楽を作り上げる。

授業方法:

学生による演習(事前に割り当てられた楽曲について準備し発表する)形式を中心に行う。各回の順序は受講者の状況を見て変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	モーツァルト:ピアノ協奏曲全般について	モーツァルトのピアノ協奏曲を聴き、楽器編成やピアノパートとの関係などに着目する。
2.	モーツァルト:ピアノ協奏曲①	指定された協奏曲の特徴について考える。
3.	モーツァルト:ピアノ協奏曲②	第1楽章を読譜する。
4.	モーツァルト:ピアノ協奏曲③	第1楽章の表現を更に深められるよう準備する。
5.	モーツァルト:ピアノ協奏曲④	第2楽章を読譜する。
6.	モーツァルト:ピアノ協奏曲⑤	第2楽章の表現を更に深められるよう準備する。
7.	モーツァルト:ピアノ協奏曲⑥	第3楽章を読譜する。
8.	モーツァルト:ピアノ協奏曲⑦	第3楽章の表現を更に深められるよう準備する。
9.	モーツァルト:ピアノ協奏曲⑧	全楽章を通して演奏出来るよう準備する。
10.	声楽の伴奏法①	リートにおけるピアノの役割について考える。
11.	声楽の伴奏法②	課題に出された声楽曲について、詩の意味を考えながらピアノパートを読譜する。
12.	声楽の伴奏法③	課題に出された声楽曲について、合わせた時に起こる問題点を改善していく。
13.	ロシア音楽①	課題に出された曲を読譜する。
14.	ロシア音楽②	課題に出された曲の奏法や表現法についてさらに深める。
15.	ロシア音楽③	課題に出された曲の奏法や表現法についてさらに深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

演奏発表についてはしっかりした準備を行って臨んで下さい。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演奏発表やレポート	50%	演奏発表やレポートの内容を評価する。
	授業への参加度	50%	出席を含む授業態度や意欲を評価する。

教科書:

適宜指示

参考書:

授業内に指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業後に教室内で応対

342800

ピアノ奏法研究Ⅴ

高橋 聖子

授業テーマ:

鍵盤楽器及び鍵盤音楽の歴史を学びながら奏法を研究する(パイプオルガンを用いての考察)。

授業の概要:

現在日常的に弾いているピアノは、長い鍵盤楽器の歴史から見て、比較的新しい時代に発展しました。ピアノの奏法を学ぶ上で、それ以前に発展してきた鍵盤楽器及び鍵盤音楽の歴史や変遷を学びながら、演奏スタイルや自分自身の奏法を考えて行きます。特に普段触れる機会のないパイプオルガンという別の特性を持つ鍵盤楽器を用いて、ピアノでは気が付かなかった音を楽譜から発見し、考察して行きます。

到達目標:

鍵盤楽器及び鍵盤音楽の知識を蓄え、ピアノ音楽のスタイルや解釈、奏法を自分なりに考えて行ける力を身に付ける事を目標とします。同時に音色に対する感性をも養うことを目標とします。

授業方法:

まず鍵盤楽器の歴史や音楽の変遷を講義形式で学びます。実技に関しては、パイプオルガンで主にJ.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」を課題としてクラス全員が弾き、意見を出し合い、良い点や改善すべき点を互いに考え合うことを中心に進めて行きます。それに伴い毎回自分の意見をミニレポートにまとめ提出します。授業の進行度によっては、新島記念講堂のパイプオルガンでの授業も行う予定です。必要な課題は、その都度プリントで配布します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 導入:鍵盤楽器(オルガン、チェンバロ、クラヴィコード、ピアノ)の構造及び時代背景について。	知っている讃美歌を2〜3曲弾けるようにしておいて下さい。
2. 中世末期(1300〜1500頃)、ルネッサンス(1500〜1600頃)のドイツ・スペイン・イタリア・イギリス・オランダにおける鍵盤音楽、及び記譜法について。スウェーリンクの作品より学ぶ。	前回配布したスウェーリンクの課題曲を弾いて来て下さい。
3. 初期バロック時代(1600〜1675頃)のイタリア・ドイツ・フランスにおける鍵盤音楽について。フレスコヴァルディ、及びブクステフーデの作品より学ぶ。	前回配布したブクステフーデの課題曲を弾いて来て下さい。
4. 後期バロック時代(1675〜1750頃)のドイツ・フランスにおける鍵盤音楽について。装飾音・指使いについて。	授業の進行具合を見て指示します。
5. J.S.バッハの作品、教会歴、コラールについて。	授業の進行具合を見て指示します。
6. J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」を用いての考察(1)。	その日の担当者は、J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」より1曲選び、プレリュードかフーガのいずれかを良く弾いて来て下さい。
7. J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」を用いての考察(2)。	同上
8. J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」を用いての考察(3)。	同上
9. J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」を用いての考察(4)。	同上
10. J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」を用いての考察(5)。	同上
11. J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」を用いての考察(6)。	同上
12. ロココ時代(1725〜1775頃)、古典派(1770〜1830頃)の鍵盤音楽について。	授業の進行具合を見て指示します。
13. ロマン主義(1830〜1900頃)の作曲家のオルガン作品より学ぶ。	授業の進行具合を見て指示します。
14. フランク及びメシアンのオルガン作品より学ぶ。研究発表。	前回配布したフランクかメシアンの課題曲を弾いておいて下さい。
15. 総括。	授業で学んだ事を復習して下さい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

直接的にピアノによる奏法を指導する授業ではありませんが、同志社女子大学ならではのパイプオルガンを通して、視野を広げるきっかけとなる授業を考えています。

フィードバックの方法:

提出されるミニレポートはその都度目を通し、授業にて解説します。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び授業への積極的参加度	60	積極的発言や授業内で提出するミニレポートの内容を基準とします。
実技課題への取り組み方	20	実技課題への事前準備取り組みや、演奏時の思考力等を基準とします。
課題レポート	20	学期末の課題レポートより、授業の理解力を評価します。

教科書:

参考書:

W.アーペル著「ピアノ音楽史」音楽之友社
F.B.カービー著「鍵盤音楽の歴史」全音楽譜出版社
大宮眞琴著「ピアノの歴史」音楽之友社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力。

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:	第1回～第8回: チェンバロから考察するバロックの鍵盤音楽作品		
	第9回～第15回: 20世紀～今日のピアノ音楽		
授業の概要:	第1回～第8回: 講義とチェンバロ演奏実習によりチェンバロ奏法の基礎、バロック音楽の様式及び演奏習慣を学ぶ		
	第9回～第15回: 講義と演奏実習により、近代から現代に至るまでの様々なピアノ曲の分析・演奏を行う。		
到達目標:	第1回～第8回: 1、チェンバロ奏法の基本の表現(美しい響きの音、呼吸、拍子感と動き) 2、様式3、カンタービレな奏法		
	第9回～第15回: 近代から現代に至るまでのピアノ曲の分析、演奏を通して様々な曲に触れ、各々のレパートリーの拡大、及びピアノを使った表現の幅を広げる		
授業方法:	講義と実技		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. チェンバロの構造と歴史	課題曲の読譜と練習	
	2. チェンバロ奏法と歴史的指使い	同上	
	3. メヌエット	同上	
	4. ガヴォット	同上	
	5. アルマンド	同上	
	6. ジーグ	同上	
	7. サラバンド	同上	
	8. チェンバロ奏法について総括	同上	
	9. 後期ロマン派から新ウィーン学派のピアノ曲分析と演奏	任意の後期ロマン派からドビュッシー、バルトーク、ラヴェルの曲を用意する。	
	10. メシアンを中心としたフランスの作曲家のピアノ曲分析と演奏	配布した曲の譜読み	
	11. 「セリー音楽」ブーレーズ、シュトックハウゼンのピアノ曲分析と演奏	事前配布した曲の練習	
	12. ケージとその周辺、プリペアドピアノ、及び内部奏法、特殊奏法等を用いるピアノ曲分析と演奏	同上	
	13. プリペアドピアノ、内部奏法、特殊奏法等を用いるピアノ曲分析と演奏	同上	
	14. 日本を中心に、様々な国のピアノ曲分析と演奏	同上	
	15. 総括、演奏発表	任意選択した曲の練習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	チェンバロの音量は小さく、音の表現は非常に繊細です。演奏する時はリラックスして、落ち着いてチェンバロの音をよく聴いて下さい。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	(第1～第8回)演奏実習	25%	準備学習が充分にできているかを評価する。
	(第1～第8回)授業の積極的な参加度	25%	積極的に授業に参加し、到達目標1, 2, 3が達成できているかを評価する。
	(第9～第15回)演奏実習	25%	準備学習が充分にできているかを評価する。
	(第9～第15回)授業の積極的な参加度	25%	積極的に授業に参加し、到達目標が達成できているかを評価する。
教科書:	J. S. バッハ フランス組曲(原典版)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

パイプオルガンに関する知識を身につけ、時代と作曲家、及びスタイルに合った奏法を研究する。

授業の概要:

オルガンの楽器の構造及び歴史を学ぶ事は、自分がオルガンを演奏するにあたり大変重要な事です。この授業では、各国におけるそれぞれの時代のオルガンの変遷や音色の特徴を把握しながら、オルガン音楽の理解を深め、奏法やレジストレーション(音色の選択)を学んでいきます。

到達目標:

普段のレッスンとは違った視点でより深くオルガン音楽を学ぶ事により、そのオルガン音楽が作曲された時代・作曲家の特徴、使用された楽器のストップリストや特徴を参考にしながら、それぞれのスタイルに合った奏法及びレジストレーション(音色の選択)を、自分で考え見出せるようになる事を目標とします。

授業方法:

毎回課題に沿って必要な知識を丁寧に説明した後、履修学生が互いに課題を弾き合う実技形式で授業を進めます。必要なテキスト、課題曲はその都度配布・指示します。また、内容に沿って、授業内に自分の考えをミニレポートとして提出してもらうことがあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:オルガンの起源、構造について。	可能であれば、下記の参考文献:秋元道雄著「パイプオルガンの本」(東京音楽社)を読んでおいて下さい(図書館にあります)。
2.	ルネッサンス時代のオルガン及びオルガン音楽について。	前回配布された課題曲を、ある程度弾けるようにしておいて下さい。
3.	イタリア・バロックオルガン音楽について。	同上。
4.	北ドイツ・バロックオルガン音楽について。	同上。
5.	フランス・バロックオルガン音楽について。装飾音の弾き方や指使い、レジストレーションについて(1)。	授業中に学習した課題を、もう一度身につくまで自分で練習しておいて下さい。
6.	フランス・バロックオルガン音楽について。装飾音の弾き方や指使い、レジストレーションについて(2)。	同上。
7.	フランス・バロックオルガン音楽について。装飾音の弾き方や指使い、レジストレーションについて(3)。	同上。
8.	J.S.バッハが使用したオルガンについて。	授業中に学習したJ.S.バッハ関連のオルガン資料を、もう一度自分で良く見て復習しておいて下さい。
9.	ドイツ・ロマン派オルガン音楽について。	授業中に学習したドイツ・ロマン派オルガン音楽およびオルガンの特徴の内容を、自分で良く理解しておいて下さい。
10.	セザール・フランクの作品と、カヴァイエ・コルのオルガンについて(1)。	フランクのオルガン作品で弾けるものがあれば、練習しておいて下さい(なければこちらで課題を出します。)
11.	セザール・フランクの作品と、カヴァイエ・コルのオルガンについて(2)。	フランクの課題曲を練習しておいて下さい。
12.	フランス・シンフォニックオルガン音楽について。レジストレーションの基本について。	授業内で勉強したレジストレーションを自分で復習しておいて下さい。
13.	現代オルガン音楽について。	前回配布された課題曲に目を通しておいて下さい。
14.	即興演奏の基本について。	自分の好きな讃美歌を2〜3曲選び、良く弾いておいて下さい。
15.	総括。	全般的に、学習内容を良く思い出し、理解しておいて下さい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

履修人数の関係で、履修者が最も勉強し易い方法を臨機応変に対応しますので、シラバス内容の課題の順序を変更することがあります。

フィードバックの方法:

ミニレポートを授業内に提出してもらう場合は、必ず目を通し、次の授業で解説します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席及び授業への積極的参加態度	60	授業への集中態度を基準とします。
	実技課題の取り組み度	20	実技課題の事前準備及び演奏時の思考力、及び理解力を基準とします。
	学期末課題レポート	20	オルガン奏法をどれだけ自分なりに理解・習得出来たかを、学期末課題レポートの記述内容より評価します。

教科書:

参考書:

秋元道雄著「パイプオルガンの本」東京音楽社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

授業の前後にその場で対応します。

授業テーマ:	西洋の中世、ルネサンス、バロック期における音楽の特質と背景を探る		
授業の概要:	西洋の中世、ルネサンス、バロック期の音楽の鳴り響きや構造は、その後の古典派やロマン派以降のそれとは大きく異なっている。またバロック期までの間にも、音楽の様式、根底にある思想、そして受容の方法と場において何度も大きな転換があった。本講義では、この時代における音楽において、それぞれの時代や地域に特徴的な作曲や演奏の様式について注目しながら、作品の構造、記譜、演奏、楽器、さらにその文化的・社会的背景についての分析、考察を行う。本講義の続編が「音楽史(古典派)」である。		
到達目標:	・古代ギリシア、中世、ルネサンス、そしてバロック期までの音楽作品の様式やその内容について知識を身につける。 ・西洋音楽史における古代ギリシア、中世、ルネサンス、そしてバロック期の位置と意義を理解し、自分なりに音楽を分析・考察できるようにする。		
授業方法:	講義:講義毎に譜例や資料を付したレジュメを配付し、視聴覚資料を使用しながら、解説を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 古代ギリシアの音楽理論	古代ギリシアにおける音楽概念の復習	
	2. 中世(1):キリスト教会の単旋律聖歌	単旋律聖歌の成り立ちと機能の復習	
	3. 中世(2):多声音楽の誕生とオルガヌム	多声音楽の誕生についての復習	
	4. 中世(3):多声音楽の発展とアルス・ノヴァ	多声音楽における「リズム」の復習	
	5. ルネサンス(1):ブルゴーニュ楽派からフランドル楽派へ	ルネサンス期の音楽概念の復習	
	6. ルネサンス(2):世俗歌曲と半音階法	15～16世紀の世俗歌曲の復習	
	7. ルネサンス(3):パレストリーナとラッスス	16世紀の教会音楽の復習	
	8. ルネサンス(4):ヴェネツィア楽派と器楽曲	16世紀末の器楽曲の復習	
	9. バロック(1):「新音楽」とオペラの誕生	バロック音楽概念の復習	
	10. バロック(2):17世紀のイタリア音楽とフランス宮廷音楽	17世紀の音楽様式の復習	
	11. バロック(3):絶対王政期フランス宮廷の劇音楽	フランスの劇音楽の復習	
	12. バロック(4):18世紀イタリア～「コンチェルト・グロッソ」	イタリアの合奏形態の復習	
	13. バロック(5):バロックの修辞～J. S. バッハの宗教曲	バロックにおける修辞論の復習	
	14. バロック(6):J. S. バッハの作品とその様式	バッハの作品様式の復習	
	15. バロック(7):18世紀のオペラの発展～古典派へ	新しい音楽様式の芽生えの復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	音楽は、前の時代や別の地域のそれから影響を受けたり、反発したりするなど、時間的・空間的に異なった場所から常に新しく生まれています。本講義では、西洋音楽の根源をたどり、それを理解する能力を養い、自分の演奏レパートリーや研究に関連づけてみましょう。		
フィードバックの方法:	毎授業後に提出するコメントペーパーについては、授業内容に対する深い理解や考察があるものは講義時にコメントしながら紹介し、意義のある質問等に対しては講義資料に転載し、教室で解説を行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況及び授業時の提出物	50	提出を行っているか否か、また質・量ともにきちんと書けているか。なお欠席数が講義数の3分の1以上の者は失格とする。
	学期末レポート	50	知識を身につけ、自分なりに分析・考察できているか
教科書:	講義毎に資料を配布		
参考書:	D. J. グラウト、C. V. パリスカ／戸口幸策、津上英輔、寺西基之共訳 1998 『グラウト／パリスカ新西洋音楽史』(上、中) 東京: 音楽之友社。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	kaorumishima@gmail.com		

授業テーマ:	西洋近現代音楽研究		
授業の概要:	「近現代」という時代枠組みは、かなり幅広い。そしてまた、古代ギリシアから始まる西洋音楽史において、最もラディカルな(根本的な、と同時に過激な)革新が行われたのもこの時期においてである。それらの改革の多様な姿をできるだけ具体的に検討することを通して、それらの背後に通底しているものを探て行く。		
到達目標:	知識・理解: 西洋近現代音楽史の諸相を知り、それらの背後にあるものを理解する。 関心・意欲・態度: 西洋近現代音楽史について積極的に知り、理解しようとする。 表現・技能・能力: 自らの理解をもとに西洋近現代音楽史について考え、まとめる。		
授業方法:	視聴覚資料を駆使した講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ドビュッシーとその周辺1	ドビュッシーとその周辺について参考文献などを使って調べておく
	2.	ドビュッシーとその周辺2	ドビュッシーとその周辺について参考文献などを使って調べておく
	3.	シェーンベルクとその周辺1	シェーンベルクとその周辺について参考文献などを使って調べておく
	4.	シェーンベルクとその周辺2	シェーンベルクとその周辺について参考文献などを使って調べておく
	5.	ストラヴィンスキーとその周辺1	ストラヴィンスキーとその周辺について参考文献などを使って調べておく
	6.	ストラヴィンスキーとその周辺2	ストラヴィンスキーとその周辺について参考文献などを使って調べておく
	7.	メシアンとセリアリズム	メシアンとセリアリズムについて参考文献などを使って調べておく
	8.	素材の拡大	近現代音楽における素材の拡大について参考文献などを使って調べておく
	9.	テクノロジー	近現代音楽におけるテクノロジーについて参考文献などを使って調べておく
	10.	不確定性	近現代音楽における不確定性について参考文献などを使って調べておく
	11.	即興・パフォーマンス	近現代音楽における即興・パフォーマンスについて参考文献などを使って調べておく
	12.	政治参加の音楽	近現代音楽における政治参加について参考文献などを使って調べておく
	13.	ミニマリズム	ミニマリズムについて参考文献などを使って調べておく
	14.	環境音楽・ポストモダン	環境音楽・ポストモダンの音楽について参考文献などを使って調べておく
	15.	現代時の音楽	現代時の音楽について参考文献などを使って調べておく
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	試験については、可能な範囲で、コメントを伝える		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	積極的な授業参加	55	積極的な授業参加について評価する
	試験	45	西洋近現代音楽史についての知識・理解に基づいて、自分の考えを深められているかを評価する
教科書:	なし		
参考書:	ポール・グリフィス、現代音楽小史、音楽之友社 柴田南雄、西洋音楽史印象派以後、音楽之友社 グラウト／パリスカ、新西洋音楽史(下)、音楽之友社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、		
教員との連絡方法:	Eメール: rshiina@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

ポピュラー音楽と社会

授業の概要:

この授業で扱う音楽とは「芸術音楽」でも「民俗音楽」でもありません。あくまでも「ポピュラー音楽」です。それは現在につながる近代社会と関わりの深いものです。
また、この授業は音楽そのものを直接扱うわけではありません、「ポピュラー音楽」と社会との関わりをみていきます。たとえば、現在「CD不況」と言われていますが、それは「音楽離れ」を意味するのでしょうか。あるいは、生演奏(ライブ)こそが価値のある音楽だと無自覚に信じる人は多いでしょうが、私たちの身近な音楽はどこまで「生(ライブ)」なのでしょう。このようにとらえ返すことで、「ポピュラー音楽」と社会を読み解いていきます。

到達目標:

①ポピュラー音楽にかかわるメディアの歴史を把握する。
②ポピュラー音楽文化に対して、客観的で分析的な見方ができる。
③ポピュラー音楽を通して社会を読み解くことができる。

授業方法:

スライドや映像資料を利用した講義形式で進めていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	シラバスの確認
	2. ポピュラー音楽とは①～成立とテクノロジー	参考文献⑤⑨の参照
	3. ポピュラー音楽とは②～W.ベンヤミンとT.アドルノ	参考文献⑨⑩の参照
	4. 小型化する音楽メディア～Walkman	参考文献②の参照
	5. デジタル化する音楽メディア～iPod・ストリーミング	参考文献②の参照
	6. 音楽産業の現在①～最新データより	参考文献⑧の参照
	7. 音楽産業の現在②～CDショップの役割	大型CDショップへ行ってみる
	8. 音楽と著作権	著作権法の確認
	9. 音楽文化とパクリ	参考文献③の参照
	10. 「ボカロ」と音楽文化の場①～普及過程	参考文献①③の参照
	11. 「ボカロ」と音楽文化の場②～コンサートから考える	参考文献①③⑧の参照
	12. ポピュラー音楽のこれから①～DJとクラブ	参考文献④⑧⑨の参照
	13. ポピュラー音楽のこれから②～MVとシンクロ	MVの確認
	14. ポピュラー音楽のこれから③～震災後の音楽	参考文献⑦⑨の参照
	15. 総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

普段よりいろいろな音楽をよく聴き、ライブ・コンサートに行ってみたりするなかで、興味関心や疑問を抱いていることがあれば、ぜひ受講してみてください。

フィードバックの方法:

各授業回にコメントするリアクションペーパーは、次回の授業の冒頭で振り返ります。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	70%	到達目標①を理解した上で、到達目標②③に関して、論理的に説明できるかを評価する。
	リアクションペーパー	30%	各授業内容をふまえて、自分の考えをコメントしたものを評価する。

教科書:

参考書:

遠藤薫, 2013, 『廃墟で歌う天使——ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』を読み直す』現代書館.
円堂都司昭, 2013, 『ソーシャル化する音楽——「聴取」から「遊び」へ』青土社.
福井健策, 2015, 『18歳の著作権入門』筑摩書房.
井手口彰典, 2009, 『ネットワークミュージッキング——「参照の時代」の音楽文化』勁草書房.
増田聡, 2005, 『その音楽の〈作者〉とは誰か:リミックス・産業・著作権』みすず書房.
増田聡・谷口文和, 2005, 『音楽未来形——デジタル時代の音楽文化のゆくえ』洋泉社.
南田勝也, 2014, 『オルタナティヴロックの社会学』花伝社.
宮入恭平・佐藤生美, 2011, 『ライブシーンよ、どこへいく——ライブカルチャーとポピュラー音楽』青弓社.
Negus, Keith, 1996, Popular Music in Theory: An Introduction, Polity Press. (=2004, 安田昌弘訳『ポピュラー音楽理論入門』水声社.)
多木浩二, 2000, 『ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」精読』岩波書店.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

嘱託講師なのでオフィスアワーはありません。
質問や相談は講義後か、メールでしてください。

授業テーマ:

数字付き低音についての理解と実際

授業の概要:

「数字付き低音」「ゲネラル・バス」「バスソ・コンティヌオ」などとも呼ばれる通奏低音について理解し実際に実践出来るよう、譜表上で学ぶ。

到達目標:

通奏低音奏法はバロック音楽の時代、鍵盤楽器奏者が、与えられたバス声部上に、即興で和声をつけ伴奏部を完成させる方法である。
この授業では、数字付き低音の仕組みを学び、先人の書いた譜例の分析を行い、それを例として、各自、それを五線上で実施し、秋学期の鍵盤上での実践へとつなげる。

授業方法:

下記のことを、随時、織り交ぜて授業を行う。

- ・数字付き低音についての基礎
- ・分析
- ・五線上での実習
- ・書いたものの添削

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	数字付き低音の歴史的背景について	和声及び非和声音についての確認をすること
2.	数字付き低音の仕組み 1	前回の授業の復習をすること
3.	数字付き低音の仕組み 2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	数字付き低音の解釈と譜例分析 1	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	数字付き低音の解釈と譜例分析 2 実習 1	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	数字付き低音の解釈と譜例分析 3 実習 2	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	数字付き低音の解釈と譜例分析 4 実習 3	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	数字付き低音の解釈と譜例分析 5 実習 4	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	数字付き低音の解釈と譜例分析 6 実習 5	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	数字付き低音の解釈と譜例分析 7 実習 6	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	数字付き低音の解釈と譜例分析 8 実習 7	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	数字付き低音の解釈と譜例分析 9 実習 8	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	数字付き低音の解釈と譜例分析 10 実習 9	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	数字付き低音の解釈と譜例分析 11 実習 10	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:

各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書から宿題を出す。
その次の授業でチェックし、必要があれば、ピアノで演奏させる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等及び平常の学習態度等

教科書:

ヘルマン ケラー 著、野村 満男 訳 通奏低音奏法 （全音楽譜出版社）（絶版）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

345100

通奏低音奏法研究

井岡みほ

授業テーマ:	バロックの室内アンサンブル		
授業の概要:	春学期に学んだ通奏低音理論の知識を基にアンサンブルをする。 通奏低音の視点からバロック室内楽曲の特徴、様式、奏法について学ぶ。		
到達目標:	1.課題曲の特徴と様式をふまえた数字付き通奏低音の和声付け 2.音楽表現をする意欲と演奏技術の習得		
授業方法:	講義と演奏実習と演奏発表		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. チェンバロの特徴と奏法について	春学期の通奏低音理論の復習	
	2. 和声原則のまとめ	課題のバス声部上に和声をつけ、五線上に書き、適切なテンポで演奏出来る様練習する。	
	3. 簡単な四声体による通奏低音	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、弾き歌いが出来る様練習する。	
	4. J.S.バッハ 数字付き低音による宗教歌曲1	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、弾き歌いが出来る様練習する。	
	5. J.S.バッハ 数字付き低音による宗教歌曲2	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、弾き歌いが出来る様練習する。	
	6. 17世紀の通奏低音1	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、適切なテンポで演奏出来る様練習する。	
	7. 17世紀の通奏低音2 合奏	演習課題の手直しと練習	
	8. 17世紀の通奏低音3 合奏とまとめ	演習課題の様式と特徴を表現するための練習	
	9. 18世紀の通奏低音1	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、適切なテンポで演奏出来る様練習する。	
	10. 18世紀の通奏低音2 合奏	演習課題の手直しと練習	
	11. 18世紀の通奏低音3 合奏とまとめ	演習課題の様式と特徴を表現するための練習	
	12. 各自のレパートリー課題曲1	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、適切なテンポで演奏出来る様練習する。	
	13. 各自のレパートリー課題曲2 合奏	演習課題の手直しと練習	
	14. 各自のレパートリー課題曲3 合奏とまとめ	演習課題の様式と特徴を表現するための練習	
	15. レパートリー曲の演奏発表と総括	アンサンブルを楽しむための練習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	演奏する時には、音楽上のコミュニケーションを楽しく体感して欲しいと願っています。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	演奏実習	50%	準備学習
	授業の積極的な参加度	50%	1.課題曲の特徴と様式をふまえた数字付き通奏低音の和声付け 2.音楽表現をする意欲と演奏技術の習得 3.リアライズした通奏低音の楽譜の提出
教科書:	春学期に学んだ『通奏低音理論』のプリント、及び授業時に配布するプリント		
参考書:	授業内指示		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

基礎的な楽曲の作曲および編曲実習

授業の概要:

和声法、対位法、楽曲分析など、これまでに学んできた理論と、個人のセンスを基に、作曲を試みる。ソナタ形式の主題の作り方、転調、展開のさせ方、また、緩徐楽章の旋律作法、和声づけ、変奏法などを、楽曲分析を交えて学び、各自、作曲を試みる。また、歌曲の創作の方法を学び、実践する。その他、さまざまな編曲法を学び、実際に簡単な曲を基に、混声合唱、あるいは女声合唱、児童合唱、および合奏曲への編曲を試みる。

到達目標:

中学校・高等学校の音楽教科の職についた場合、授業をする上で困らない程度の作曲および編曲の技法を、習得する。

授業方法:

形式や方法論など論じた上で、各々書いたものを添削する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	ソナチネ形式の分析および創作 1		ソナチネ形式について調べる、
	2.	ソナチネ形式の分析および創作 2		参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
	3.	ソナチネ形式の分析および創作 3	歌曲の分析 1	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
	4.	ソナチネ形式の分析および創作 4	歌曲の分析 2	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
	5.	歌曲の創作 1		歌曲の形式について調べる。
	6.	歌曲の創作 2	合唱曲の分析 1	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
	7.	歌曲の創作 3	合唱曲の分析 2	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
		編曲 1	合唱曲への	
	8.	合唱曲への編曲 2		参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
	9.	合唱曲への編曲 3		参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
	10.	ソナチネ形式の分析および創作 5	合奏曲への編曲 1	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
	11.	ソナチネの創作 6	合奏曲への編曲 2	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
	12.	ソナチネの創作 7	歌曲の創作 4	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
		編曲 4	合唱曲への	
	13.	ソナチネの創作 8	歌曲の創作 5	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
		編曲 5	合唱曲への	
	14.	ソナチネの創作 9	歌曲の創作 6	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
		編曲 6	合唱曲への	
	15.	ソナチネの創作 10	歌曲の創作 7	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
		編曲 7	合唱曲への	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	
	平常の学習状態	50	出席状況・小レポート提出状況など

教科書:

参考書:

参考文献や資料を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

現在の様々なミュージックメディア、および音楽制作方法について

授業の概要:

現在の音楽シーンで活用されている様々なミュージックメディア、また、インターネット やコンピュータ、MIDIの基礎について学び、音楽制作ソフトを使用して簡単な作品制作を行う。
また、授業内でMIDI検定4級認定試験を実施する。

到達目標:

最新の音楽制作手法やミュージックメディアなどについて学びながら、MIDI理論の基礎を習得する。
並行して、ボーカロイドソフト、音楽制作ソフト操作方法を学び、用途に応じた音楽作品制作ができるようになる。

授業方法:

講義、演習。
教科書を中心に、keynoteや動画、音楽作品等の視聴覚教材を多用しながら、講義を展開する。並行して、楽譜制作ソフトによる楽譜作成方法や、DAWソフトによるオリジナル音楽作品制作方法、フリーのボーカロイドソフトによる音声入力方法などについて解説する。
また、授業内でMIDI検定4級検定を実施し、合格者にはMIDI検定4級資格を認定する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 最新のミュージックメディアについて	
	2. 音楽ソフト (DAWソフト)/DAWソフトによるスコア入力	
	3. 音楽ソフト (楽譜作成ソフト、ループシーケンサ等)/DAWソフトによるスコア入力	
	4. 音楽ソフト(プラグインシンセ、サウンド編集、音楽環境作成言語等)/DAWソフトによるスコア入力	
	5. ハードウェア知識(MIDI機器、電子楽器、電気楽器)/DAWソフトによるスコア入力	
	6. ハードウェア知識 (音響機器、機器接続法、端子とケーブル)/ボーカロイドソフトによるサウンドロゴ制作	自宅パソコン等にボーカロイドソフト(フリーウェア)をインストールし、予習、課題の作成をすすめておく。
	7. MIDI知識 (MIDI理論概要) /ボーカロイドソフトによるサウンドロゴ制作	自宅パソコン等にボーカロイドソフト(フリーウェア)をインストールし、予習、課題の作成をすすめておく。
	8. MIDI知識 (MIDI音楽理論) /ボーカロイドソフトによるサウンドロゴ制作	自宅パソコン等にボーカロイドソフト(フリーウェア)をインストールし、予習、課題の作成をすすめておく。
	9. コンピュータ知識 (コンピュータの構成、USBとFireWire) /オリジナル音楽制作	
	10. コンピュータ知識 (データ保存・管理方法、CD、DVD等の記録メディア)/オリジナル音楽制作	
	11. オーディオ知識 (音の基本知識、録音、サンプリング、圧縮オーディオ)/オリジナル音楽制作	
	12. オーディオ知識 (音編集、エフェクター、ミキシング、マスタリング)/オリジナル音楽制作	
	13. 活用されるMIDI(インターネット、携帯電話、カラオケ等)、著作権/オリジナル音楽制作	
	14. MIDI検定4級実施	
	15. 検定復習、音楽課題作品合評、まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

コンピュータやスマートフォンなどの基本的操作は身につけておくこと。
また、日頃から身の回りのミュージックメディアについて意識してください。

フィードバックの方法:

個々の課題については、合評を行い、コメントを返します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、コンピュータによる基礎的な音楽制作手法を習得できたかどうかを評価する。
	MIDI検定結果	15	MIDI検定試験の取得点数により評価する。
	課題提出	35	各課題に設定する要件を充たした作品制作ができたかどうかについて評価する。

教科書:

ミュージックメディア入門 音楽電子事業協会

参考書:

松前公高著 いちばんわかりやすいDTMの教科書 リットー・ミュージック
ミュージッククリエイターハンドブック MIDI検定公式ガイド リットー・ミュージック

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール:aochi@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

総合芸術としてのオペラへのプロセスを体得

授業の概要:

モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」を研修テーマとして取り上げ、その中で求められる基本的な歌唱表現と身体表現の相乗的、効果的な修得を研究する。

到達目標:

1. 舞台上での基本的な所作知識。
2. 演技をしながらの歌唱法。

授業方法:

演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスとあらかじめ発表していた曲の音楽稽古	「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア（バーレンライター版）の指定部分の譜読みをしておくこと。
2.	音楽練習①	譜読み。
3.	資料映像「アマデウス」鑑賞	特に無し
4.	音楽練習②	楽譜精読とイメージ作り。
5.	立稽古のための説明	
6.	音楽稽古③	キャラクター作り。
7.	ScenaⅣ No.5Duetтино 立稽古	
8.	音楽稽古④	キャラクター作り。
9.	ScenaⅣ No.5Duetтино 立稽古	
10.	音楽稽古⑤	キャラクター作り。
11.	ScenaⅣ No.5Duetтино 立稽古	
12.	音楽稽古⑥	楽譜精読とイメージ作り。
13.	ScenaⅣ No.5Duetтино	
14.	N0.15 Duetтино ・Recitativo 立稽古	キャラクター作り。
15.	音楽稽古⑦	
16.	N0.15 Duetтино ・Recitativo 立稽古	キャラクター作り。
17.	音楽稽古⑧	
18.	N0.15 Duetтино ・Recitativo 立稽古	楽譜精読とイメージ作り。
19.	音楽稽古⑨	
20.	N0.15 Duetтино ・Recitativo	
21.	ScenaⅩ・No.21 Duetтино 立稽古	キャラクター作り。
22.	音楽稽古⑩	
23.	ScenaⅩ・No.21 Duetтино 立稽古	キャラクター作り。
24.	音楽稽古⑪	
25.	ScenaⅩ・No.21 Duetтино 立稽古	
26.	音楽稽古⑫	各キャラクターをどのように使い分けられるか、イメージを熟成させておくこと。
27.	ScenaⅣ No.5Duetтино	
28.	N0.15 Duetтино ・Recitativo	
29.	ScenaⅩ・No.21 Duetтино 立稽古	
30.	本公演に向けてのオーディション	本公演で演じたい役のアリアを用意。第2希望目まで考えておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業内の演習個所は、授業の進み具合によって変動する。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	80	到達レベルではなく、いかに積極的に自己改革を行おうとしてかに重点をおく。
	発表	20	授業内発表においての歌唱と演技の進展度。

教科書:

オペラ「フィガロの結婚」バーレンライター版
①ScenaⅣ No.5Duetтино
②N0.15 Duetтино ・Recitativo
③ScenaⅩ・No.21 Duetтино

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後に教室内で対応。Eメール(tinoue@dwc.doshisha.ac.jp)。

授業テーマ:	総合芸術としてのオペラ制作へのプロセスを体得。		
授業の概要:	モーツァルト作曲「フィガロの結婚」を研究テーマとし、公演に向けての実践性を追求する。		
到達目標:	1. キャラクター設定とそれに伴う歌唱表現。 2. より拡大された身体表現の修得とテクニック。 3. より安定した指揮の見方。 4. オペラ制作のための運営法。		
授業方法:	演習。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	秋学期の授業の進め方ガイダンス。 第1幕 立稽古①	夏季休業中に過去の公演映像を見て、大まかな動きをつかんでおく。 第1幕よりスタートするため、該当する役の人はスタンバイしておく。 第2幕前半までスタンバイ。
	2.	立稽古 第1幕② 第2幕①	第3幕前半までスタンバイ。
	3.	立稽古 第2幕② 第3幕①	第4幕前半までスタンバイ。
	4.	立稽古 第3幕① 第4幕②	第1幕に戻る可能性有のため、該当者はスタンバイ。
	5.	立稽古 第4幕② 第1幕①	キャストが揃うように調整すること。
	6.	立稽古 第1幕② 第2幕①	キャストが揃うように調整すること。
	7.	立稽古 第2幕② 第3幕①	キャストが揃うように調整すること。
	8.	立稽古 第3幕② 第4幕①	2順目の立稽古が終わると、不規則な幕稽古で進行。 スケジュール担当者が調整するようになる。
	9.	立稽古 第4幕② 第1幕～	男声キャストの参加が見込まれてくるため、その準備にはいること。 新島記念講堂の本番舞台が使えるようになれば、その空間に慣れることを考える。 分担された担当が円滑に遂行されるように配慮する。 練習の円滑運営に邁進。 演奏者であることも忘れないように運営を進める。 本番に向けての集中。
	10.	立稽古①	
	11.	立稽古②	
	12.	立稽古③	
	13.	立稽古④	
	14.	立稽古⑤	
	15.	立稽古⑥	
受講者へのメッセージやアドバイス:	春学期修了時に決定された配役に則って、夏休み中に過去の公演の資料映像を見て事前に研究をしておくこと。		
フィードバックの方法:	教室にてまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度 本番出演	80 20	積極的な態度と、いかに自分に足りないものを習得したかを評価する。 本番での演奏評価。
教科書:	ベーレンライター版「フィガロの結婚」 ピアノヴォーカルスコア		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。Eメール (tinoue@dwc.doshisha.ac.jp)。		

授業テーマ:

指揮法の基本と実践

授業の概要:

指揮の基礎を学ぶことによって、合奏に対するアンサンブル意識と、音楽の表現方法を学び、自分自身の専門に活かす授業を行う。

到達目標:

簡単なピアノ曲を使い、基本のリズム(2拍子・3拍子・4拍子)のわかりやすい指揮、見にくい指揮、そして音楽の組み立て、自分の気持ちの伝達について、実践を交えて解説する。

授業方法:

ピアノあるいは専門の楽器を用いて、実際に振りながら授業を進めていきます。
オーケストラ専攻生及びピアノ科専攻生は、授業内で実際に演奏してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業内容説明と基礎運動	指揮の基礎中の基礎の運動理論を学ぶ。
2.	2拍子の運動(叩きとしゃくい)	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
3.	3拍子の運動(叩きとしゃくい)	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
4.	4拍子の運動(叩きとしゃくい)	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
5.	応用問題	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
6.	直接運動の説明	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
7.	ソナチネを用いて3拍子の曲の表現の仕方を学ぶ	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
8.	ソナチネを用いて3拍子の曲の表現の仕方を学ぶ	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
9.	ソナチネを用いて4拍子の曲の表現の仕方を学ぶ	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
10.	ソナチネを用いて4拍子の曲の表現の仕方を学ぶ	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
11.	今までの見極め。	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
12.	オースチン作曲「お人形の夢と目覚め」を用いて2・3・4拍子の実践総合練習	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
13.	オースチン作曲「お人形の夢と目覚め」を用いて2・3・4拍子の実践総合練習	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
14.	オースチン作曲「お人形の夢と目覚め」を用いて順番に試験を実施	自分が振ってない時でも演奏に参加して協力する。
15.	オースチン作曲「お人形の夢と目覚め」を用いて順番に試験を実施	自分が振ってない時でも演奏に参加して協力する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業を受けることで、楽曲の表現の仕方をまなぶ。

フィードバックの方法:

自分の専門楽器に、フィードバックできる音楽の構成を学ぶ。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の取り組み・姿勢	20%	授業内態度や出席等で判断します。
	小テスト(授業内で行う見極めテスト)	20%	授業内で、見極めのため実技を指名します。
	定期試験	60%	最終授業内、およびその前の最終2週において、実技試験を行う。

教科書:

参考書:

ソナチネアルバムNo.26 No.29
オースチン:お人形の夢と目覚め

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力

教員との連絡方法:

質問があれば、wolfeekanji3@outlook.jp で受け付けます。

授業テーマ:

指揮の基本テクニック習得と表現方法の習得

授業の概要:

春学期に学んだ、基礎を応用して、いろんな楽曲を分析する。

到達目標:

それぞれに実技を中心に受けられるよう進めていく。
内容は指揮法Iで学んだ基礎をより深く細かなテクニックを習得をめざす。
指揮法Iを習得した者が、受講する事が出来る。
実力に合った楽曲を選択し、その楽曲の分析と解釈を考える。
管弦打及びピアノ科専攻生は、実際に楽器を演奏していただきます。

授業方法:

受講生みずからアンサンブルを編成し、それを順番に振り、見にくい見やすいを考えていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 基本動作及び指揮法Iの理解度をチェックする	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	2. ソナチネを利用して技術をより深く研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	3. 各個人、実技を交えて楽曲分析をしながら曲の構成研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	4. 各個人、実技を交えて楽曲分析をしながら曲の構成研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	5. 各個人、実技を交えて楽曲分析をしながら曲の構成研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	6. 管弦楽曲を用いて見やすい指揮でいかにして気持ちの伝達方法を考える	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	7. 管弦楽曲を用いて見やすい指揮でいかにして気持ちの伝達方法を考える	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	8. 管弦楽曲を用いて見やすい指揮でいかにして気持ちの伝達方法を考える	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	9. 理解度チェック	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	10. みずからが演奏に参加して、どうということがプレーヤーが見やすい指揮、見にくい指揮の研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	11. みずからが演奏に参加して、どうということがプレーヤーが見やすい指揮、見にくい指揮の研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	12. みずからが演奏に参加して、どうということがプレーヤーが見やすい指揮、見にくい指揮の研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	13. DVDを鑑賞し、スコアの理解の仕方を研究する	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	14. DVDを鑑賞し、スコアの理解の仕方を研究する	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
	15. まとめ	自分がどの程度、触れるようになったのか、自分で確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

教育実習いって、実際に指揮するときに、困らないように。このクラスは、実践を中心に授業を進めます。

フィードバックの方法:

春学期で学んだことを応用して、いろんな楽曲に挑戦する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業態度	40%	出席や、遅刻、早退なくしっかり復讐してるかどうかを判断する。
	定期試験	60%	授業の最終日に、実技を実施。自分の番でないものは、演奏者として参加する。

教科書:

参考書:

その都度各自で用意する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、伝達力

教員との連絡方法:

質問があれば、wolfeekannji3@outlook.jp
まで連絡してください。

授業テーマ:	特別な教育的ニーズを有する幼児児童生徒の諸特性を理解し、適切な発達支援をする特別支援教育の現状と課題、さらに、インクルーシブ教育システム構築における現状と課題を学び、インクルーシブ教育の理念、制度、実践についての理解を深める。		
授業の概要:	障がいや教育的ニーズのある幼児児童生徒に対する特別支援教育を学ぶ上で必要な基礎知識を得るための説明と、皆さん自身による集団討論による情報交流や意見交換も実施しながら、理解を促進しつつ、講義を展開していく。前半部分の特別支援教育総論を学んだ後に、障がいごとの各論や支援方法を学ぶ。障がい各論ではDVD視聴や演習なども交えながら、より具体的に障害の特性が理解できるようにする。		
到達目標:	一人一人の幼児児童生徒にそれぞれ個性があるように、様々な特別な教育的ニーズを有する幼児児童生徒にもそれぞれの個性や発達の道筋、障がいや教育的ニーズの特性がある。これらの基本的な理解に基づいて、様々な特別な教育的ニーズを有する幼児児童生徒の発達支援の在り方を、特別支援教育やインクルーシブ教育の理念・制度、具体的な実践に基づいて、学ぶことを目標にする。		
授業方法:	講義、集団討論、演習(障がいの擬似体験)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 人間とは何か、障がいとは何かー障がい理解ー障がいを有することと教育的ニーズについて	障がいとは何かについて、予習して、考えをまとめておくこと	
	2. 個人及び社会の障がい理解認識ー「国際生活機能分類」「障がい児教育の創始」ー	国際障がい分類及び国際生活機能分類について、予習しておくこと	
	3. 障がい児教育の現状(1)ー障がい児教育の歴史ー障がい児教育の黎明期・発展充実期・社会福祉改革期	障がい児教育の概要を調べておくこと	
	4. 障がい児教育の現状(2)ー特別支援教育ー特別支援教育制度と発達障がい	文部科学省特別支援教育のHPを参照して、特別支援教育に関する答申や報告、特別支援教育資料を予習していくこと	
	5. 障がい教育の現状(3)ー日本のインクルーシブ教育システムーインクルーシブ教育システムの構築	文部科学省特別支援教育のHPを参照して、インクルーシブ教育システム構築に関する答申や報告を予習していくこと	
	6. 特別支援教育の対象(1)ー障がいごとの特性と支援方法ー視覚障がい児の教育・聴覚障がい児の教育	国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、視覚障がい児教育及び聴覚障がい児教育の概要を予習しておくこと	
	7. 特別支援教育の対象(2)ー障がいごとの特性と支援方法ー知的障がい児の教育	国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、知的障がい児教育の概要を予習しておくこと	
	8. 特別支援教育の対象(3)ー障がいごとの特性と支援方法ー運動障がい児の教育	国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、運動障がい児の教育の概要を予習しておくこと	
	9. 特別支援教育の対象(4)ー障がいごとの特性と支援方法ーその他の障がい児の教育	国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、病弱・言語障がい児教育等の概要を予習しておくこと、	
	10. 特別支援教育の対象(5)ー障がいごとの特性と支援方法ー発達障がい児の教育	文部科学省特別支援教育及び国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、発達障がい児の教育の概要を予習しておくこと	
	11. インクルーシブ教育の目指すものー共感・共学・共生・共育の共育ー基礎的環境整備と合理的配慮	文部科学省特別支援教育及び国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、基礎的環境整備と合理的配慮について、予習しておくこと	
	12. 演習1(障がいの擬似体験)ー視覚障がい・聴覚障がい・運動障がいー	視覚障がい、聴覚障がい、運動障がい等の当事者の体験や思いについて、予習しておくこと	
	13. 演習2(障がいの擬似体験)ー視覚障がい・聴覚障がい・運動障がいー	視覚障がい、聴覚障がい、運動障がい等の当事者の支援方法について、予習しておくこと	
	14. 特別支援教育の現状と課題ー特別支援学校と通常の学校ー集団討論	特別支援学校と通常の学校における特別支援教育の対象児の教育支援の実態を調べておくこと	
	15. 日本のインクルーシブ教育システムの構築についてー諸外国との比較ー集団討論を含む	諸外国のインクルーシブ教育の動向を調べておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	国連の「障がい者の権利に関する条約」を締結した我が国は「インクルーシブな社会」の構築を目指して、教育システムにおいても、インクルーシブ教育システムの構築に取り組んでいます。ですから、教育や子ども達の支援に関わる人達は特別支援教育に関する知識理解や支援技能を習得していることが求められています。授業では皆さん一人一人の考えや思いを大切にするために、集団討論等も取り入れていますので、積極的に授業に参加して下さい。		
フィードバックの方法:	授業の質問や集団討論時の意見に関する吟味や応答、小レポート返却		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	提出物(小レポート 4)	40	課題の到達目標を達成しているかを評価する
	授業や集団討論への積極的参加度	20	出席及び授業参加を評価する
	試験	40	適切な解答がなされているかどうかを評価する
教科書:			
参考書:	文部科学省 特別支援教育に関するHP 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所HP		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	isaka@cc.osaka-kyoiku.ac.jp		

授業テーマ:	ピアノを含む器楽アンサンブルの基礎																																		
授業の概要:	この授業はピアノを含む器楽アンサンブルのグループレッスンです。授業ではグループごとにレッスンをを行います。演奏する曲は原則として予め登録の時に提出したものをします。																																		
到達目標:	ピアノを含む器楽アンサンブルの基礎を習得することを目標とします。 なお、あくまでも器楽アンサンブルの学習を目的とし、楽器演奏にかかわる個人的な技術指導は行わないため、あらかじめ留意のうえ登録のこと(楽器演奏の既習者であること)。 また他のグループのレッスンを聞くことによって、合奏の観点から分析的に聞く力をつけることを目標とします。																																		
授業方法:	器楽アンサンブル実技。演習の形式をとる。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーションー合奏とは何か</td><td>合奏で使用する楽譜、楽器を持参すること</td></tr><tr><td>2. グループに対応した指導(1)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>3. グループに対応した指導(2)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>4. グループに対応した指導(3)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>5. グループに対応した指導(4)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>6. 中間発表会(1)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>7. グループに対応した指導(5)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>8. グループに対応した指導(6)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>9. グループに対応した指導(7)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>10. グループに対応した指導(8)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>11. 中間発表会(2)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>12. グループに対応した指導(9)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>13. グループに対応した指導(10)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>14. グループに対応した指導(11)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>15. 総仕上げ(演奏発表会)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーションー合奏とは何か	合奏で使用する楽譜、楽器を持参すること	2. グループに対応した指導(1)	個人・グループによる練習	3. グループに対応した指導(2)	個人・グループによる練習	4. グループに対応した指導(3)	個人・グループによる練習	5. グループに対応した指導(4)	個人・グループによる練習	6. 中間発表会(1)	個人・グループによる練習	7. グループに対応した指導(5)	個人・グループによる練習	8. グループに対応した指導(6)	個人・グループによる練習	9. グループに対応した指導(7)	個人・グループによる練習	10. グループに対応した指導(8)	個人・グループによる練習	11. 中間発表会(2)	個人・グループによる練習	12. グループに対応した指導(9)	個人・グループによる練習	13. グループに対応した指導(10)	個人・グループによる練習	14. グループに対応した指導(11)	個人・グループによる練習	15. 総仕上げ(演奏発表会)	個人・グループによる練習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーションー合奏とは何か	合奏で使用する楽譜、楽器を持参すること																																		
2. グループに対応した指導(1)	個人・グループによる練習																																		
3. グループに対応した指導(2)	個人・グループによる練習																																		
4. グループに対応した指導(3)	個人・グループによる練習																																		
5. グループに対応した指導(4)	個人・グループによる練習																																		
6. 中間発表会(1)	個人・グループによる練習																																		
7. グループに対応した指導(5)	個人・グループによる練習																																		
8. グループに対応した指導(6)	個人・グループによる練習																																		
9. グループに対応した指導(7)	個人・グループによる練習																																		
10. グループに対応した指導(8)	個人・グループによる練習																																		
11. 中間発表会(2)	個人・グループによる練習																																		
12. グループに対応した指導(9)	個人・グループによる練習																																		
13. グループに対応した指導(10)	個人・グループによる練習																																		
14. グループに対応した指導(11)	個人・グループによる練習																																		
15. 総仕上げ(演奏発表会)	個人・グループによる練習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	演奏する曲目は原則として登録の際に提出したものにしてください。準備する曲は、2曲程度が望ましい。グループレッスンが主体となるため、各人が責任をもって授業に参加してください。																																		
フィードバックの方法:	提出物がある場合は教室で返却します。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>70</td><td>グループレッスンでの態度・意欲を評価します。</td></tr><tr><td>発表</td><td>30</td><td>グループでの発表で自分の役割がどの程度果たしているかを評価します。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への参加度	70	グループレッスンでの態度・意欲を評価します。	発表	30	グループでの発表で自分の役割がどの程度果たしているかを評価します。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
授業への参加度	70	グループレッスンでの態度・意欲を評価します。																																	
発表	30	グループでの発表で自分の役割がどの程度果たしているかを評価します。																																	
教科書:	特になし																																		
参考書:	『A をください : ピアニストと室内楽の幸福な関係』、練木繁夫、春秋社、2003年 『クアルテットの教科書』、ハーター・ノートン、阿部卓也、大橋咲子訳、春秋社、1997年																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力																																		
教員との連絡方法:	原則として授業の前後に対応します。																																		

授業テーマ:	ピアノを含む器楽アンサンブルの基礎																																		
授業の概要:	この授業はピアノを含む器楽アンサンブルのグループレッスンです。授業ではグループごとにレッスンをを行います。演奏する曲は原則として予め登録の時に提出したものをします。																																		
到達目標:	ピアノを含む器楽アンサンブルの基礎を習得することを目標とします。 なお、あくまでも器楽アンサンブルの学習を目的とし、楽器演奏にかかわる個人的な技術指導は行わないため、あらかじめ留意のうえ登録のこと(楽器演奏の既習者であること)。 また他のグループのレッスンを聞くことによって、合奏の観点から分析的に聞く力をつけます。																																		
授業方法:	器楽アンサンブル実技。演習の形式をとる。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーションー合奏とは何か</td><td>合奏で使用する楽譜、楽器を持参すること</td></tr><tr><td>2. グループごとのレッスン(1)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>3. グループごとのレッスン(2)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>4. グループごとのレッスン(3)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>5. グループごとのレッスン(4)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>6. 中間発表会(1)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>7. グループごとのレッスン(5)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>8. グループごとのレッスン(6)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>9. グループごとのレッスン(7)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>10. グループごとのレッスン(8)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>11. 中間発表会(2)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>12. グループごとのレッスン(9)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>13. グループごとのレッスン(10)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>14. グループごとのレッスン(11)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr><tr><td>15. 総仕上げ(発表会)</td><td>個人・グループによる練習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーションー合奏とは何か	合奏で使用する楽譜、楽器を持参すること	2. グループごとのレッスン(1)	個人・グループによる練習	3. グループごとのレッスン(2)	個人・グループによる練習	4. グループごとのレッスン(3)	個人・グループによる練習	5. グループごとのレッスン(4)	個人・グループによる練習	6. 中間発表会(1)	個人・グループによる練習	7. グループごとのレッスン(5)	個人・グループによる練習	8. グループごとのレッスン(6)	個人・グループによる練習	9. グループごとのレッスン(7)	個人・グループによる練習	10. グループごとのレッスン(8)	個人・グループによる練習	11. 中間発表会(2)	個人・グループによる練習	12. グループごとのレッスン(9)	個人・グループによる練習	13. グループごとのレッスン(10)	個人・グループによる練習	14. グループごとのレッスン(11)	個人・グループによる練習	15. 総仕上げ(発表会)	個人・グループによる練習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーションー合奏とは何か	合奏で使用する楽譜、楽器を持参すること																																		
2. グループごとのレッスン(1)	個人・グループによる練習																																		
3. グループごとのレッスン(2)	個人・グループによる練習																																		
4. グループごとのレッスン(3)	個人・グループによる練習																																		
5. グループごとのレッスン(4)	個人・グループによる練習																																		
6. 中間発表会(1)	個人・グループによる練習																																		
7. グループごとのレッスン(5)	個人・グループによる練習																																		
8. グループごとのレッスン(6)	個人・グループによる練習																																		
9. グループごとのレッスン(7)	個人・グループによる練習																																		
10. グループごとのレッスン(8)	個人・グループによる練習																																		
11. 中間発表会(2)	個人・グループによる練習																																		
12. グループごとのレッスン(9)	個人・グループによる練習																																		
13. グループごとのレッスン(10)	個人・グループによる練習																																		
14. グループごとのレッスン(11)	個人・グループによる練習																																		
15. 総仕上げ(発表会)	個人・グループによる練習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	演奏する曲目は原則として登録の際に提出したものにしてください。用意する曲目は、2曲程度が望ましい。グループレッスンが主となるため、各人が責任をもって授業に参加してください。																																		
フィードバックの方法:	提出物は教室で返却します。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>70</td><td>グループレッスンでの態度・意欲を評価します。</td></tr><tr><td>発表</td><td>30</td><td>グループでの発表で自分の役割がどの程度果たしているかを評価します。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への参加度	70	グループレッスンでの態度・意欲を評価します。	発表	30	グループでの発表で自分の役割がどの程度果たしているかを評価します。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
授業への参加度	70	グループレッスンでの態度・意欲を評価します。																																	
発表	30	グループでの発表で自分の役割がどの程度果たしているかを評価します。																																	
教科書:	特になし																																		
参考書:	『Aをください: ピアニストと室内楽の幸福な関係』、練木繁夫著、春秋社、2003年 『クアルテットの教科書』、ハーター・ノートン、阿部卓也著、大橋咲子訳、春秋社、1997年																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力																																		
教員との連絡方法:	原則として授業時間の前後に対応																																		

授業テーマ:

授業の概要: 情報化社会に必要なコンピュータ活用技術の習得

到達目標: 情報技術は著しい進化を遂げているが、とりわけコンピュータは我々の日常生活にも必要不可欠になっている。進化し続ける技術に翻弄されることなく、また安全に活用するためには、基本を正しく理解することが必要である。
本講座は、インターネット、コンピュータ、ソフトウェアの基礎知識の理解と、コンピュータの操作および、文書作成ソフトと表計算ソフト等の活用技術を習得する

授業方法: 毎回、授業前半に講義をおこない、後半は演習をおこなう。講師による講義と、情報処理教室のパーソナルコンピュータを1人1台ずつ使用し、操作演習と課題演習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	情報倫理、インターネットの仕組みと機能、コンピュータの仕組みと機能について 基本ソフト(Windows)の理解と操作 日本語入力機能(IME)の理解と操作 文書作成ソフトの機能について 文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その1)	予習: Word/Excelの機能について、インターネット等で調べておくこと。
2.	文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その2)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
3.	文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その3)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
4.	文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その4)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
5.	文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その5)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
6.	文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その6)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
7.	表計算ソフトの機能について 表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その1)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
8.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その2)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
9.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その3)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
10.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その4)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
11.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その5)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
12.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その6)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
13.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その7)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
14.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その8)	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。
15.	全体のまとめ	予習: 前回授業で習得したことを復習すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出した演習課題に対して、教室でまとめて解説をおこなう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点(出席、授業態度、積極的参加度)	70	到達目標「基礎知識の理解」ができているか評価する。 * 具体的な評価基準・運用は担当教員が決めます。
	課題提出	30	到達目標「コンピュータ操作、文書作成ソフト、表計算ソフト等の活用技術の習得」ができているか評価する。 * 具体的な評価基準・運用は担当教員が決めます。

教科書: 石上 和也クラス、渡辺 直人クラスは下記教科書を使用:
「30時間でマスター Office2016」Windows10対応(実教出版)
藤澤 敬子クラスは下記教科書を使用:
「情報リテラシー アプリ編」Windows 10・Office 2016対応(FOM出版)

参考書: 特に無し

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ：音楽理論の基礎的スキルの習得

授業の概要：楽典を通して音楽の基礎的な理論を学ぶ。

到達目標：楽譜の読み方や書き方、音楽用語を習得する。

授業方法：講義および課題の実施

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	楽譜の基本、音名について	教科書の該当I項目を予習
2.	音符と休符、拍子とリズム	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
3.	全音階、音程	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
4.	長音階、短音階、調名と調号	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
5.	転調と移調	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
6.	3和音と4和音、和音の基本形と展開形	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
7.	和音の進行と終止	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
8.	調律と音律	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
9.	速度標語と強弱記号	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
10.	速度や強弱の変更や変化、発想標語、表情記号、和声の基礎知識1	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
11.	発想標語、表情記号、和声の基礎知識2	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
12.	装飾音と装飾記号、反復記号と略記、和声の基礎知識3	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
13.	楽曲の分類、和声の基礎知識4	教科書の該当I項目を予習、課題を実施する。
14.	まとめ1	復習1
15.	まとめ2	復習2

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	59	
	出欠席の状態と平常の学習態度等	41	授業回数の3分の1以上の欠席者は、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書：楽典 坂口博樹編著 成美堂出版

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力

教員との連絡方法：授業の前後に教室内で対応

354600

ミュージックリテラチュアA

稲田 雅美

授業テーマ:	音楽に関する英語文献を読み解く。		
授業の概要:	英語文献に広く親しみ、英語の語彙を増やすことによって、音楽の専門知識を英語により習得する。		
到達目標:	・英語による、音楽用語の習熟 ・英語による、音楽の基礎知識の習熟 ・英語による、音楽作品や作曲家についての知識の習得		
授業方法:	与えられた訳読課題に取り組み、訳文を発表し合って内容の理解を確認する。重要単語や重要表現については、復習テストの機会を通して習得を確かなものにしていく。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 英語による音楽用語の整理(1)	学習した用語と使用例文をノートに整理する。	
	2. 英語による音楽用語の整理(2)	同上	
	3. 音楽理論(1):音楽の要素	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要単語や重要表現をノートに整理する。	
	4. 音楽理論(2):音楽の構造	同上	
	5. 音楽理論(3):音楽の形式	同上	
	6. まとめと復習テスト(1)	既習文献の総復習	
	7. 音楽作品(1);ピアノ作品	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要単語や重要表現をノートに整理する。	
	8. 音楽作品(2):オペラ作品	同上	
	9. 音楽作品(3):オーケストラ作品	同上	
	10. まとめと復習テスト(2)	既習文献の総復習	
	11. 作曲家(1):古典派の作曲家	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要単語や重要表現をノートに整理する。	
	12. 作曲家(2):ロマン派の作曲家	同上	
	13. 作曲家(3):近現代の作曲家	同上	
	14. まとめと復習テスト(3)	既習文献の総復習	
15. 習得語彙の整理と授業内容の総括	既習教材に関して、英文法重要事項の復習を兼ねて内容の全般的見直しを行う。		
受講者へのメッセージやアドバイス:	日ごろから英語に親しむ習慣をつけること。		
フィードバックの方法:	テストは採点して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席および予復習状況	40%	予復習を伴う積極的な授業への参加を評価する。
	復習テスト合計	60%	到達目標全項目の達成度を評価する。
教科書:	プリント配布による。		
参考書:	授業内で適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

354700

ミュージックリテラチュアB

稲田 雅美

授業テーマ:	音楽教育に関する英語文献を読み解く。		
授業の概要:	英語文献に親しみ、語彙力を高めることによって、音楽教育に関する知識を英語により習得する。また、将来の研究に英語文献を積極的に活用できるよう、英語を正しく読み解くための英文法学習の徹底も行う。		
到達目標:	・英語による、音楽教育の専門知識の習得 ・英語による、子どもの認知発達に関する知識の習得 ・英文法の徹底習得		
授業方法:	与えられた訳読課題に取り組み、訳文を発表し合っていないよう理解を確認する。内容および英文法における重要事項については、復習テストの機会を通して習得を確かなものにしていく。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 英語による音楽用語、教育用語の整理(1)	学習した用語と使用例文をノートに整理する。	
	2. 英語による音楽用語、教育用語の整理(2)	同上	
	3. 文献講読と文法の整理(1)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要表現と文法事項をノートに整理する。	
	4. 文献講読と文法の整理(2)	同上	
	5. 文献講読と文法の整理(3)	同上	
	6. まとめと復習テスト(1)	既習文献の総復習	
	7. 文献講読と文法の整理(4)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要表現と文法事項をノートに整理する。	
	8. 文献講読と文法の整理(5)	同上	
	9. 文献講読と文法の整理(6)	同上	
	10. まとめと復習テスト(2)	既習文献の総復習	
	11. 文献講読と文法の整理(7)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要表現と文法事項をノートに整理する。	
	12. 文献講読と文法の整理(8)	同上	
	13. 文献講読と文法の整理(9)	同上	
	14. まとめと復習テスト(3)	既習文献の総復習	
15. 既習内容の整理と総括	既習文献の内容ならびに英文法に関する重要事項について総復習する。		
受講者へのメッセージやアドバイス:	英文法を詳しく解説しながら文献を読み進めるので、当科目を履修する機会を通して英文法の苦手意識を克服してほしい。		
フィードバックの方法:	テストは採点して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席と予復習状況	40%	予復習を伴う積極的な授業への参加を評価する。 到達目標の全項目の達成度を評価する。
	復習テスト合計	60%	
教科書:	プリント配布による。		
参考書:	授業内で適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

354800

ミュージックリテラチュアC

稲田 雅美

授業テーマ:	社会における音楽の役割に関する英語文献を読み解く。		
授業の概要:	音楽の基礎知識を英語を通して確認しつつ、社会の中で音楽が果たす役割について考察する。		
到達目標:	・英語による、音楽の基礎知識の習得 ・音楽に関する英語文献を読むための英語語彙力を強化する。 ・英語文献を通して、音楽の役割について考察する力を養う。		
授業方法:	与えられた訳読課題に取り組み、訳文を発表し合って内容の理解を確認する。また、小グループで抄訳を作成して発表することも行なう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 英語による音楽用語の整理(1)	学習した用語と使用例文をノートに整理する。	
	2. 英語による音楽用語の整理(2)	同上	
	3. 文化固有の音楽の役割(1)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要単語や重要表現をノートに整理する。	
	4. 文化固有の音楽の役割(2)	同上	
	5. 文化固有の音楽の役割(3)	同上	
	6. まとめと復習テスト(1)	既習文献の総復習	
	7. 世代固有の音楽の役割(1)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要単語や重要表現をノートに整理する。	
	8. 世代固有の音楽の役割(2)	同上	
	9. 世代固有の音楽の役割(3)	同上	
	10. まとめと復習テスト(2)	既習文献の総復習	
	11. 音楽と個人のアイデンティティ(1)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要単語や重要表現をノートに整理する。	
	12. 音楽と個人のアイデンティティ(2)	同上	
	13. 音楽と社会のアイデンティティ(3)	同上	
	14. まとめと復習テスト(3)	既習文献の総復習	
	15. 習得語彙の整理と授業内容の総括	既習教材に関して、英文法の重要事項の確認を兼ね、内容の全般的復習を行う。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	日ごろから英語に親しむ習慣をつけること。		
フィードバックの方法:	テストは採点して返却する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席および予復習状況	40%	予復習を伴う積極的な授業への参加を評価する。 到達目標の全項目の達成度を評価する。
	テスト合計	60%	
教科書:	プリント配布による。		
参考書:	授業内で適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

音楽と心理に関連する英語文献を読み解く。

授業の概要:

心理学や医学の基礎知識を踏まえながら、人間と音楽の関係について英語文献を通して考察する。

到達目標:

・心理学や医学に関する英語の語彙力を身につける。
・英語文献を通して、人間と音楽の関係について考察する力を身につける。

授業方法:

与えられた訳読課題に取り組み、訳文を発表し合って内容の理解を確認する。また、小グループで抄訳を作成して発表すること行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	英語による音楽用語および心理学用語の整理(1)	学習した用語と使用例文をノートに整理する。
2.	英語による音楽用語および心理学用語の整理(2)	同上
3.	文献講読(1)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要単語や重要表現をノートに整理する。
4.	文献講読(2)	同上
5.	文献講読(3)	同上
6.	まとめと復習テスト(1)	既習文献の総復習
7.	文献講読(4)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要単語や重要表現をノートに整理する。
8.	文献講読(5)	同上
9.	文献講読(6)	同上
10.	まとめと復習テスト(2)	既習文献の総復習
11.	文献講読(7)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として、重要単語や重要表現をノートに整理する。
12.	文献講読(8)	同上
13.	文献講読(9)	同上
14.	まとめと復習テスト(3)	既習文献の総復習
15.	習得語彙の整理と授業内容の総括	既習教材に関して、英文法の重要事項の確認を兼ね、内容の全般的復習を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

日ごろから英語に親しむ習慣をつけること。

フィードバックの方法:

テストは採点して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席および予復習状況	40%	予復習を伴う積極的な授業への参加を評価する。
	テスト合計	60%	到達目標の全項目の達成度を評価する。

教科書:

プリント配布による。

参考書:

授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応する。

授業テーマ:

バロックから現代までの室内楽および管弦楽などの作品のスコアの読譜力と分析能力の取得

授業の概要:

アナリーゼⅠ・Ⅱを通して、バロックから現代までの室内楽および管弦楽などの作品をとりあげ分析する。各々の作品の構造上必要な要素(音素材、リズム素材、和声進行)、また、様式、形式、楽器法、など細かく分析した上でそれぞれの作曲家の書法を学び、さらに時代的背景を考え作曲家の音楽史的な立場を理解し、その作品の根源にある音楽的発想、概念を探る。

到達目標:

分析するスキルを養うことにより、いろいろな楽曲が分析できるようになること。

授業方法:

講義および演習形式。
実際の楽譜を基に曲の構成、調性、和声進行、その他楽曲を構成する要素を分析し、把握させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	和声と楽式のアナリーゼ 1. 旋律と和声 2. 和音 3. 和音の組み立て 4. 和音の分析 5. 分散和音 6. 非和声音	科書の該当ページの予習と課題曲の復習
2.	和声と楽式のアナリーゼ 7. カデンツの第1型 8. カデンツの第3型 9. 2部形式の曲 10. 3部形式の曲 11. 2部形式と3部形式の違い 12. コーダ	科書の該当ページの予習
3.	和声と楽式のアナリーゼ 13. カデンツの第3型 14. 低音位 15. ドミナント 16. サブドミナント 17. 主音の保続 18. 非和声音のつづき	科書の該当ページの予習
4.	和声と楽式のアナリーゼ 19. 近親調 20. 同主調 21. 転調 22. 複合3部形式	科書の該当ページの予習
5.	和声と楽式のアナリーゼ 23. TとしてのVI 24. 各種のD和音 25. 各種のS和音 26. 終止 27. 非和声音のおぎない	科書の該当ページの予習
6.	和声と楽式のアナリーゼ 28. ロンド形式	科書の該当ページの予習
7.	和声と楽式のアナリーゼ 29. ソナタ形式 30. ソナタ形式分析の要領	科書の該当ページの予習
8.	ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第8番 Op.13 ハ短調「悲愴」1	ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第8番 Op.13 ハ短調「悲愴」について調べる。
9.	ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第8番 Op.13 ハ短調「悲愴」2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
10.	ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第8番 Op.13 ハ短調「悲愴」3	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
11.	モーツァルト:弦楽セレナーデ K.525 ト長調「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」1	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
12.	モーツァルト:弦楽セレナーデ K.525 ト長調「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
13.	モーツァルト:弦楽セレナーデ K.525 ト長調「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」3	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
14.	まとめ1	復習1
15.	まとめ2	復習2

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	
	平常点	41	出欠席の状態と平常の学習態度等

教科書:

和声と楽式のアナリーゼ バイエルからソナタアルバムまで 島岡譲著 音楽之友社
楽譜『ソナチネ・アルバムⅠ』
楽譜『モーツァルト 弦楽セレナーデ「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク K525」』(スコア)

参考書:

プリントを授業時に配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

バロックから現代までの室内楽および管弦楽などの作品のスコアの読譜力と分析能力の取得

授業の概要:

楽曲分析Ⅰ・Ⅱを通して、バロックから現代までの室内楽および管弦楽などの作品をとりあげ分析する。各々の作品の構造上必要な要素(音素材、リズム素材、和声進行)、また、様式、形式、楽器法、など細かく分析した上でそれぞれの作曲家の書法を学び、さらに時代的背景を考え作曲家の音楽史的な立場を理解し、その作品の根源にある音楽的発想、概念を探る。

到達目標:

分析するスキルを養うことにより、いろいろな楽曲が分析できるようになること。

授業方法:

講義および演習形式。
実際の楽譜を基に曲の構成、調性、和声進行、その他楽曲を構成する要素を分析し、把握させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	バッハ: 2声と3声のインヴェンションおよび平均率クラヴィーア曲集より選曲1	バッハの鍵盤楽器作品について調べる。
2.	バッハ: 2声と3声のインヴェンションおよび平均率クラヴィーア曲集より選曲2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
3.	バッハ: 2声と3声のインヴェンションおよび平均率クラヴィーア曲集より選曲 3	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
4.	バッハ: 無伴奏ヴァイオリンのための楽曲やオルガンのための楽曲などより選曲1	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
5.	バッハ: 無伴奏ヴァイオリンのための楽曲やオルガンのための楽曲などより選曲2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
6.	ベートーヴェン: 交響曲第1番 Op.21 ハ長調 1	ベートーヴェン: 交響曲第1番 Op.21 ハ長調 について調べる。
7.	ベートーヴェン: 交響曲第1番 Op.21 ハ長調 2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
8.	ベートーヴェン: 交響曲第1番 Op.21 ハ長調 3	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
9.	ベートーヴェン: 交響曲第1番 Op.21 ハ長調 4	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
10.	ショパン: ピアノ・ソナタ第2番 Op.35 変ロ短調 第一楽章1	ショパン: ピアノ・ソナタ第2番 Op.35 変ロ短調について調べる。
11.	ショパン: ピアノ・ソナタ第2番 Op.35 変ロ短調 第一楽章2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
12.	ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ第一番ト長調「雨の歌」第一楽章1	ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ第一番ト長調「雨の歌」について調べる。
13.	ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ第一番ト長調「雨の歌」第一楽章2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
14.	ウェーベルン: ピアノのための変奏曲 Op.27 第1・2楽章	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
15.	まとめ	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	
	平常点	41	出欠席の状態と平常の学習態度等

教科書:

楽譜 バートーヴェン 交響曲第1番 Op.21ハ長調(オーケストラスコア)

参考書:

プリントを授業時に配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

楽器法を学び、ピアノ曲等を管弦楽曲に編曲する

授業の概要:

オーケストラで使われる各々の楽器(弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器など)について、講義をする。また、楽器の音を聴き(録音されたもの、またはその楽器そのものによる実際の音等)、譜例を参照し、また演奏している画像を見ることによって学ぶ。
それを基に、古典的な編成によるオーケストラ作品を分析すると共に、その編成でのオーケストレーションの実習をする。

到達目標:

オーケストラでの種々の楽器についての知識を身につけ、それを基にオーケストレーションができるようにする。

授業方法:

基本的に下記のような順序にしたがって、授業を行う。
1. 弦楽器の説明
2. ピアノ曲を弦楽合奏に編曲する実習
3. 木管・金管楽器の説明
4. 木管合奏曲(少数の金管も含む)の分析
5. 基本的な打楽器の説明
6. Beethoven作曲 交響曲第1番の分析
7. ピアノ曲を古典的な2管編成によるオーケストラへ編曲する実習

クラス授業。講義形式と演習形式とを、その都度組み合わせて、進行する。講義形式では、板書し、口頭でも説明するが、その他、教材提示機、映像機器などを使って視覚による把握も促す。また、演習の場合、その場で課題を出して実習したり、授業時間だけで終われないときなどは、それを宿題とすることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	弦楽器について 1	オーケストラ作品やオーケストラで使われる楽器の曲をいろいろ聴いてみること
2.	弦楽器について 2	前回の授業の復習をすること
3.	弦楽器について 3	前回の授業の復習をすること
4.	弦楽合奏について	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	木管楽器について 1	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	木管楽器について 2	前回の授業の復習をすること
7.	金管楽器について 1	前回の授業の復習をすること
8.	金管楽器について 2	前回の授業の復習をすること
9.	木管金管合奏について	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	打楽器について	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	古典的な編成によるオーケストラ作品分析 1 オーケストレーションの実習 1	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	古典的な編成によるオーケストラ作品分析 3 オーケストレーションの実習 2	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	古典的な編成によるオーケストラ作品分析 3 オーケストレーションの実習 3	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	古典的な編成によるオーケストラ作品分析 4 オーケストレーションの実習 4	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	古典的な編成によるオーケストラ作品分析 5 オーケストレーションの実習 5	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

日頃からオーケストラ作品やオーケストラで使われる楽器の曲をいろいろ聴いて、可能であれば楽譜を見ながら、各楽器の音色や性能、楽器の組み合わせ方による音色など、自分自身でも体験するように。

フィードバックの方法:

参考文献や配布資料を参照する。
課題を実施する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート提出	60	正確に書かれているか、工夫は見られるか など
	平常点	40	学習態度、小レポートなど

教科書:

楽譜 Beethoven作曲 交響曲第1番(オーケストラスコア)

参考書:

ヴォルター・ピストン著 戸田邦雄訳 管弦楽法(音楽之友社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

楽器法を学び、ピアノ曲等を管弦楽曲に編曲する。

授業の概要:

ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲を分析し、各楽器の用法について学習する。
また、それを踏まえて、実際に、ピアノ曲などの小品を3管編成程度のオーケストラに編曲する。

到達目標:

オーケストレーションⅠに引き続き、さらに編入楽器などについても詳しく学び、3管編成などの管弦楽作品を分析し、それを基にピアノ曲などの3管編成でのオーケストレーションも実施する。

授業方法:

楽譜(オーケストラスコア)に加えCD・レコード等の演奏を参考に、管弦楽曲を分析する。
併せてオーケストラ用五線紙を用い、実際にオーケストレーションの演習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オーケストレーションⅠで説明できなかった派生楽器およびその他打楽器等の説明 1	オーケストレーションⅠを復習すること
2.	オーケストレーションⅠで説明できなかった派生楽器およびその他打楽器等の説明 2	前回の授業の復習をすること
3.	オーケストレーションⅠで説明できなかった派生楽器およびその他打楽器等の説明 3	前回の授業の復習をすること
4.	オーケストレーションⅠで説明できなかった派生楽器およびその他打楽器等の説明 4	前回の授業の復習をすること
5.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 1 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 1	前回の授業の復習をすること
6.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 2 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 2	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 3 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 3	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 4 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 4	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 5 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 5	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 6 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 6	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 7 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 7	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 8 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 8	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 9 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 9	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 10 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 10	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析 11 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲 11	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

日頃からオーケストラ作品やオーケストラで使われる楽器の曲をいろいろ聴いて、可能であれば楽譜を見ながら、各楽器の音色や性能、楽器の組み合わせ方による音色など、自分自身でも体験するように。

フィードバックの方法:

参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート提出	60	正確に書かれているか、工夫は見られるか など
	平常点	40	学習態度・小レポートなど

教科書:

楽譜 Debussy作曲「牧神の午後への前奏曲」(オーケストラスコア)

参考書:

ヴォルター・ピストン著 戸田邦雄訳 管弦楽法(音楽之友社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

355400

音楽とキャリアデザイン

椎名 亮輔、下田 展久

授業テーマ:自分をプロデュースする

授業の概要:社会に開かれた音楽活動を実践することをめざす第一歩として、「音楽に関わる自己」を知ることと、音楽関連の職業について広く知識や情報を得ることを目標とする。その目標へのプロセスにおいてディスカッションやプレゼンテーションをすることと、いった社会性の基礎力を養うと同時に自分の未来像を考える礎とする。

到達目標:知識・理解:「音楽に関わる自己」を知る。音楽関連の職業について広く知識や情報を得る。
関心・意欲・態度:積極的に授業に参加し、ディスカッションやプレゼンテーションをする。自分の未来像を考える。
表現・技能・能力:社会性の基礎力としてディスカッションやプレゼンテーションができる。

授業方法:グループワークや個別ワーク、ディスカッション等により課題に取り組み、ゲストスピーカーによる実践現場の現状のヒアリングや、課題の遂行にともなうグループ発表の機会を設定し、プレゼンテーション能力を磨く。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション「キャリア」への意識づくり	キャリアとは何かを考えてくる
2. 音楽関係の仕事について知る(発表)1	音楽関係の仕事について調べる
3. 音楽関係の仕事について知る(発表)2	音楽関係の仕事について調べる
4. 人に伝える「企画書について」	企画書について調べる
5. 人に伝える「情報の収集と整理」	情報収集・整理について調べる
6. 人に伝える「取材演習:インタビューセッション」	取材・インタビューについて調べる
7. 人に伝える「企画書の作成」	企画書制作とはどのように行うかを調べる
8. 人に伝える「プレゼンテーション」	プレゼンテーションとは何かを調べる
9. 現場の声「企業と教育現場」	企業と教育現場について調べる
10. 現場の声「音楽の現場最前線! ホールを聴く、ホールを弾く」	音楽の現場・ホールについて調べる
11. 現場の声「演奏会制作と企画の現場」	演奏会制作と企画について調べる
12. 現場の声「『人生を設計すること』ということ」	「人生を設計すること」について調べる
13. 演奏会を企画する(1)チャリティーコンサート等のプログラムを組む	チャリティーコンサート等のプログラムを準備する
14. 演奏会を企画する(2)上記(1)の演奏発表1	演奏発表の準備をする
15. 演奏会を企画する(3)上記(1)の演奏発表2およびまとめ	演奏発表の準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:適宜、授業の中で解説をする

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加姿勢	70	授業に積極的に参加しているかを評価する
発表、レポート提出等、課題	30	発表や提出物について授業目標に鑑みて評価する

教科書:使用しない

参考書:なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール:rshiina@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

ミュージックセラピーとは何か

授業の概要:

ミュージックセラピー(音楽療法)についての基礎知識を、理論と実践から外観する。

到達目標:

音楽の利用方法の一つであるミュージックセラピー(音楽療法)への理解を深める。

授業方法:

講義、討議、実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ミュージックセラピーの実際-事例より(1)	教科書の予習
2.	ミュージックセラピーの実際-事例より(2)	教科書の予習
3.	歴史的背景-原点	教科書の予習
4.	歴史的背景-欧米	教科書の予習
5.	歴史的背景-日本	配布資料予習
6.	体験-楽曲から学ぶ(1)	配布楽譜予習
7.	体験-楽曲から学ぶ(2)	配布楽譜予習
8.	子どものためのミュージックセラピー(1)	教科書予習
9.	子どものためのミュージックセラピー(2)	教科書予習
10.	成人のためのミュージックセラピー(1)	教科書予習
11.	成人のためのミュージックセラピー(3)	教科書予習
12.	高齢者のためのミュージックセラピー(1)	教科書予習
13.	高齢者のためのミュージックセラピー(2)	教科書予習
14.	特殊な分野でのミュージックセラピー	配布資料予習
15.	総括	教科書予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

特に「人と音楽との関係」について考察することが中心となるので、知識とともに自分自身ならびに周りの人と音楽との関係性について考察する心の準備をしてほしい。

フィードバックの方法:

授業の感想や小レポートの提出、ならびに最終レポートによる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	出欠
	感想・小レポート	10	内容
	レポート	40	内容と量

教科書:

「音楽療法―言葉を越えた対話」レスリー・バント著、稲田雅美訳、ミネルヴァ書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、

教員との連絡方法:

音楽学科事務室

授業テーマ:

アニメ・ゲーム音楽制作における様々な手法と基礎知識について(主にアニメ分野)

授業の概要:

現在のアニメ・ゲーム音楽制作において、必要とされる知識、基礎技術...主にコンピュータを使用した、用途に応じたさまざまなジャンルの音楽制作方法、音色合成方法、音響に関する基礎知識、ボーカロイドソフトによる歌曲作品制作方法、などを学び、簡単な音楽・音響作品を制作する。

到達目標:

一般的なコンピュータ音楽制作手法に加え、特にアニメーションなどの動画用途の音楽、または音声合成ソフト(ボーカロイド)による歌作品に関する制作技法を習得し、用途に応じた音楽作品制作ができるようになる。

授業方法:

Macintoshコンピュータ、音楽制作ソフト(GarageBand、ProTools)、ボーカロイドソフト(UTAU)、プラグインソフト シンセサイザー(Noisemaker)等を使用。最新のアニメ・ゲーム音楽の制作技法を学びながら、毎回制作課題を作成する。制作した課題については、その都度合評を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーションアニメ、ゲーム音楽について、アニメ音楽史概要	
	2. アニメ・ゲームBGM制作(ループ素材操作方法)	自宅パソコン等にボーカロイドソフトや音楽制作ソフト(無料のものを授業で紹介)をインストールするなどして、課題作成をすすめておく
	3. アニメ・ゲームBGM制作(MIDIデータ入力)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	4. アニメ・ゲームBGM制作(エフェクト付加、ミックスダウン、合評)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	5. アニメ・ゲームBGM制作(ミックスダウン、合評)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	6. サウンドロゴ制作(ボーカロイドソフト操作方法、メロディ作成)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	7. サウンドロゴ制作(楽器データ及びループ素材入力、編曲)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	8. サウンドロゴ制作(エフェクト付加)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	9. サウンドロゴ制作(ミックスダウン、合評)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	10. ボーカロイド音楽作品制作(ボーカロイドソフトによる音声合成)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	11. ボーカロイド音楽作品制作(プラグインシンセサイザーによる音色合成法)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	12. ボーカロイド音楽作品制作(プラグインシンセサイザーによる音色変調)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	13. ボーカロイド音楽作品制作(サンプリング手法)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	14. ボーカロイド音楽作品制作(ミックスダウン)	自宅環境で課題作成をすすめておく
	15. 合評、まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

コンピュータやスマートフォンなどの基本的操作方は身につけておくこと。自宅のパソコンに何らかの音楽制作ソフトをインストールし、使用方法を学んでおくこと。

フィードバックの方法:

各課題については合評を行い、その都度コメントを返します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、アニメ音楽制作の手法について習得できたかどうかを評価する。
	課題提出	50	各課題に設定する要件を充たした作品制作ができたかどうかについて、また、アニメなどの動画における音楽の役割を意識した作品ができたかどうかについて評価する。

教科書:

参考書:

UTAUスターターパック 晋遊舎
梅垣ルナ著 イメージした通りに作曲する方法50 リットー・ミュージック
すごい!アニメの音作りの現場 ハイパーボイス 雷鳥社
プロが教えるアニソンの作り方 ランティス リットー・ミュージック

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール:aochi@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

アニメ・ゲーム音楽制作における様々な手法と基礎知識について（主にゲーム）

授業の概要:

現在のアニメ・ゲーム音楽制作において、必要とされる知識、基礎技術...主にコンピュータを使用した、効果音制作方法、音響に関する基礎知識、音楽環境プログラミングの基礎、インタラクティブ音楽生成システム構築の基礎、などを学び、音楽・音響の範疇にとどまらない総合的なサウンド作品を制作する。

到達目標:

様々なシーンに応じたゲーム用の音楽の制作と、フィールドレコーディング、またはシンセサイザーによる電子音合成によるゲーム用の効果音制作ができるようになる。
また、教育用プログラミング言語「Scratch」を使い、ゲームなどのインタラクティブ作品制作ができるようになる。

授業方法:

Macintoshコンピュータ、音楽制作ソフト、プログラミング言語（Scratch）、音波形編集ソフト（Audacity）等を使用。
最新のアニメ・ゲーム音楽の制作技法を学びながら、毎回制作課題を作成する。
制作した課題については、その都度合評を行う。
最終課題として、これまでの学習事項をふまえ、映像・音響・プログラミング等、様々な要素を持つ総合的な音楽作品 を作成する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. アニメ・ゲーム効果音制作(音色合成によるゲーム開始音、警告音、等の効果音制作)	
	2. アニメ・ゲーム効果音制作(フィールドレコーディングによる自然音採取、編集による効果音制作)	スマートフォン等、手持ちのレコーダーに環境音などを録音しておく
	3. アニメ・ゲーム効果音制作(波形編集による効果音制作)	
	4. プログラミング実習（プログラミング言語Scratch入門 キャラクタ等を動かす）	事前にScratchユーザー登録を行っておく（登録方法については授業で紹介）
	5. プログラミング実習（プログラミング言語Scratch入門 キャラクタの動きに効果音をつける）	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
	6. プログラミング実習（プログラミング言語Scratch入門 キャラクタの動きに音楽をつける）	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
	7. インタラクティブ音楽・映像プログラミング(音で映像をコントロール)	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
	8. インタラクティブ音楽・映像プログラミング(動きで音をコントロール)	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
	9. インタラクティブ音楽・映像プログラミング(各種センサで音や映像をコントロール)	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
	10. 最終課題制作 インタラクティブな音楽ゲームや音楽生成システムを作成する 1.	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
	11. 最終課題制作 インタラクティブな音楽ゲームや音楽生成システムを作成する 2.	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
	12. 最終課題制作 インタラクティブな音楽ゲームや音楽生成システムを作成する 3.	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
	13. 最終課題制作 インタラクティブな音楽ゲームや音楽生成システムを作成する 4.	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
	14. 最終課題制作 インタラクティブな音楽ゲームや音楽生成システムを作成する 5.	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
	15. 合評、まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業では実習室のパソコンを使用して授業を展開するが、できれば、自宅のパソコンに学校で使用する各種ソフト(フリーソフト)をインストール、あるいはWebアプリにアクセスするなどして、課題制作をすすめておくことが望ましい。

フィードバックの方法:

個々の課題については、合評を行い、コメントを返します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、ゲーム音楽とゲーム効果音、またゲーム作品制作の手法について習得できたかどうかを評価する。 各課題に設定する要件に応じた作品制作ができたかどうか、また、ゲームにおける音楽、効果音の役割を理解し、作品に活かすことができたかどうかについて評価する。
	課題提出	50	

教科書:

参考書:

ゲームクリエイターが知るべき97のこと オライリー・ジャパン
石原正雄著 スクラッチではじめるプログラミング カットシステム
polymoog著 ゲーム音楽の作り方 リットーミュージック
松前公高著 シンセサイザー入門 リットー・ミュージック

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール:aochi@dwcdoshisha.ac.jp

356000

音楽の史学

三島 郁

授業テーマ:

西洋音楽史概念の特質を探る

授業の概要:

西洋音楽史は、一般的にはその中心が西洋の芸術音楽作品の作曲様式史である。しかし、音楽史上重要かつ規範的であるとしてその中心に位置付けられる作品群は、歴史的には様々な基準によって価値あるものと判断されてきた。本講義では、音楽史がいかに作られてきたかを、このような様式史上の規範とは別の文脈から探る。その際、音楽史上のトピックをいくつか取り上げ、その歴史的、社会的、思想的、文化的脈絡を具体的に分析・観察し、様式史に関連させながら音楽作品について考察する。音楽史科目を受講していることが望ましい。

到達目標:

・従来の西洋音楽史では重要視されてこなかった、しかしその周縁の分野では注目された作品を理解するのに必要な知識や考え方を身につける。

・西洋音楽史における様々な要素を多角的に、分析・考察できるようにする。

授業方法:

講義毎に譜例や資料を付したレジュメを配付し、視聴覚資料を使用しながら、解説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 音楽史と作品様式史	作品様式史のありかたについて復習
2. 19世紀のバッハ復興運動	19世紀におけるバッハの捉え方の復習
3. 歴史主義と合唱運動	19世紀における合唱運動の意味の復習
4. ベートーヴェンの神格化:作曲家受容態度の変化	19世紀におけるベートーヴェン評価の復習
5. 舞曲「メヌエット」とその受容	メヌエット受容の変遷について復習
6. 楽譜のエディションと演奏	記譜概念の復習
7. 演奏法の伝承: ヴィブラート、ポルタメント、フレーズ	演奏史の復習
8. ショパンのテンポ・ルバート	ルバートの意味の復習
9. テンポ: アンダンテとアンダンティーノ	テンポ概念史の復習
10. 前奏曲とファンタジー	即興ジャンルの復習
11. イベリア半島の音楽～歴史とのかかわり	イベリア半島の音楽の特徴の復習
12. 「メメント・モリ」の哀悼曲ジャンル	哀悼曲ジャンルの特徴の復習
13. 中世の宮廷恋愛詩と吟遊詩人	中世の封建社会と音楽の復習
14. デカルトの「フランス音楽」	17世紀教養人音楽サークルの復習
15. ピアノ・ヴィルトゥオーソとサロン	19世紀ピアニストの活動の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

西洋音楽史は、客観的な歴史的事実を並べたものではありません。私たちが価値を置く音楽が歴史の中にどのように位置付けられ、またそうでない音楽や事項はなぜそうなったのかを考察することによって、音楽史の捉え方を変えてみましょう。また自分の演奏等にも活かしてみましょう。

フィードバックの方法:

毎授業後に提出するコメントペーパーについては、授業内容に対する深い理解や考察があるものは講義時にコメントしながら紹介し、意義のある質問等に対しては講義資料に転載し、教室で解説を行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末レポート	50	知識を身につけ、自分なりに分析・考察できているか
出席状況及び授業時の提出物	50	提出を行っているか否か、また質・量ともにきちんと書けているか。なお欠席数が講義数の3分の1以上の者は失格とする。

教科書:

講義毎に資料を配布

参考書:

その都度提示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

kaorumishima@gmail.com

授業テーマ:

音楽美学を理解する

授業の概要:

「音楽美学」という学問は、西洋近代において生まれたものである。それはその淵源を古代ギリシア・ローマにもち、西洋における一般的な芸術論の伝統の刻印を抜きがたく保持している。したがって、この学問を十全に理解するためには、古代から現代にいたるまでの、音楽を論じた芸術論の系譜をたどる必要がある。この授業では、その作業を行う。

到達目標:

知識・理解: 音楽美学に関連する音楽論の系譜を知り、その根底にある思想を理解する。
関心・意欲・態度: 積極的に理解しようとし、そのためのグループワークを真摯に行う。
表現・技能・能力: グループワークで得られた成果をもとに、自分の理解したものをマナビーにおいて正しく表現する。

授業方法:	講義とグループワーク、それに基づいた課題の提出	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業オリエンテーション、「音楽美学」の概観	「音楽について考えること」について考えておく
	2. 古代1(オルフェウス、プラトン)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	3. 古代2(アリストテレス、アリストクセノス、アウグスティヌス)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	4. 中世1(カッシオドルス、ケルンのフランコ、グロケイオ)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	5. 中世2(ヴィトリ、ティンクトーリス)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	6. ルネサンス(カスティリオーネ、ルター)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	7. バロック(デカルト、クーラン、C・P・E・バッハ、クヴァンツ)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	8. 古典派の時代(ルソー、モーツァルト、ベートーヴェン)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	9. ロマン主義1(ジャン・パウル、ヴァッケンローダー、ホフマン)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	10. ロマン主義2(ベルリオーズ、シューマン、ショパン)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	11. ロマン主義3(ヴァーグナー、ハンスリック)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	12. 現代1(ドビュッシー、ウェーベルン、シェーンベルク)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	13. 現代2(バルトーク、ストラヴィンスキー)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	14. 現代3(ブーレーズ、ケージ)	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
	15. 「音楽美学」の現在	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中に、可能な範囲内で、コメントや解説を行う

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的な参加と課題などの提出物	100	授業に積極的に参加し、音楽美学に関連する音楽論の系譜を知り、その根底にある思想を理解したうえで、グループワークを真摯に行い、グループワークで得られた成果をもとに、自分の理解したものをマナビーにおいて正しく表現できているかを評価する。

教科書:

椎名亮輔監修、音楽資料集、アルテス・パブリッシング

参考書:

戸澤義夫・庄野進編、音楽美学、勁草書房
カール・ダールハウス、音楽美学、シンフォニア

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール: rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

音楽プログラムの企画立案

授業の概要:

みなさん自身の音楽の知識や音楽への興味からスタートして、主旨を組み立て、人に伝わる、実施可能な音楽プログラムを企画立案する。コンサート、レクチャー、ワークショップなど、プログラムの形態は自由に考えてください。

到達目標:

1) 自分の音楽的な関心や興味を把握し、客観的なことばで人に伝えることができる。
2) 興味を掘り下げ、必要な情報を集めて分析することができる。
3) 新しく知った事を評価し、自分の視点を獲得して情報を再構成して人に伝える為の文章にすることができる。

授業方法:

講義と演習を繰り返します。文章を書いてもらいます。また全員でディスカッションと発表を行ないます。随時レポートをemailで提出してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	各自の音楽的な関心や興味について：興味を持っている音楽を紹介する。CDを持参するなどして、音楽を紹介し、話す。	自分の興味ある音楽について人に話せるように準備しておくこと。音源も持参。演奏も可。
2.	各自の音楽的な関心や興味について：再度発表と相互にインタビュー。各自が論旨の客観性を高める。	相互にインタビューできるよう、質問事項など整理して準備の事。
3.	各自の音楽的な関心や興味について：相互にインタビュー。各自が客観性を高める。	相互にインタビューできるよう、質問事項など整理して準備の事。
4.	各自の音楽的な関心や興味について：相互インタビューで自分の興味関心を客観的に捉え直し、テキストを作成する。	必要な情報は事前に収集しておく。
5.	各自の音楽的な関心や興味について：作成したテキストに基づき各自が発表し、相互にコメント。	テキストに基づいて、自分の考えを人に伝えられるよう準備しておく事。
6.	企画書について：企画書の構成や利用方法について講義。	気に留まった音楽プログラムのチラシを複数枚持参。
7.	企画について：気に入ったチラシから企画者の主旨を読み解き、口頭で発表する。相互にコメント。	気に留まった音楽プログラムのチラシを持参。そのプログラムの主旨を理解し発表できるよう必要な情報を収集しておく事。
8.	企画について：企画テーマを考える。いくつかの企画候補を上げ、骨子を書く。発表し相互にコメントする。	自分の企画テーマを幾つかあげられるようよう準備しておく事。
9.	企画について：自分の企画テーマを絞る。主旨を立てる。文章にする。	企画主旨を立てられるよう、必要な情報を収集しておく事。
10.	企画について：企画主旨から企画内容を構成。コンサートやワークショップなどの企画内容を考える。	企画内容、プログラムの形態について案を考えておく事。
11.	企画について：発表と相互コメント	企画主旨とプログラム内容について口頭で発表できるよう準備しておく事。
12.	企画について：各自の企画のバリエーションを考える。中間発表する。	企画バリエーション、あるいは別の企画をたてられるよう準備しておくこと。
13.	企画について：第二の企画について発表と相互コメント。	相互にコメントできるよう、質問や批評ができるよう準備しておく事。
14.	企画書の作成：基本的な企画書の構成を参考に、各自企画書を作成。	企画書を作成できるよう、情報を集めてくこと。必要になりそうな事柄については授業で助言しておきます。
15.	企画書の発表：発表と相互コメント。企画書の提出。	企画書を提出できるよう準備しておく事。

受講者へのメッセージやアドバイス:

自分の興味や考えを整理して把握し、相手に上手に伝えること。授業では書くことと話すことを繰り返します。同様に人に対して質問することは、相手の話の先に仮説を立てて確認し理解を深めて行く事になります。聴き、考え、上手に質問ができるよう努力してください。

フィードバックの方法:

授業で討議しコメントします。提出物は電子メールで受信しコメントして返信します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(随時)	40	到達目標を基準に、文章も評価します。
	発表と相互コメント	40	企画主旨への興味を高める発言を評価します。主旨の強度も評価します。
	授業への参加度	20	授業への積極的な参加意識を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

email

356300

ミュージックマネージメントB

下田 展久

授業テーマ:	音楽プログラムの制作		
授業の概要:	企画の主旨を汲んで実際に実施するための活動が制作です。制作について学びます。主旨を読み取り、最適な実施方法を考え、諸条件を把握・考慮し、考えられるリスクを抑え、最大効果をあげる実施プランを検討します。制作と呼ばれる仕事の流れも理解しましょう。主体性をもって授業に臨んでください。		
到達目標:	実施プランを立てられるスキルを身につける。 リスクを予測しマネージメントできる。 計画書を作成でき、他者と計画を共有できる。		
授業方法:	基本的にディスカッションで進行します。話す事、聴く事、書く事など基本的なコミュニケーションの技術を獲得してください。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 講座ガイダンス、企画書の理解	出演や裏方など、各自の経験について話せるよう準備。資料があれば持参。	
	2. 企画書について 実施プランのイメージについて ブレインストーミング	気になる音楽プログラムのチラシを複数集め、持参してください。	
	3. 主催者について プロデューサーについて	疑問点を整理して質問できるように準備。	
	4. 会場とキャスティングについて	必要な情報を事前に収集。	
	5. 実施計画	必要な情報を事前に収集。	
	6. 予算立案	必要な情報を事前に収集。	
	7. リサーチと計画の立案	必要な情報を事前に収集。	
	8. 実施計画書作成にむけて	計画の為の素案を準備する事。	
	9. 開催は可能か リスクの発見	実施計画を検討しておく事。	
	10. リスクの課題化 成功のイメージ	必要な情報を収集。	
	11. 開催概要 スケジュール	必要な情報を収集。	
	12. 広報について	新聞、雑誌、ネットなどから音楽プログラムの広報活動と思われるものを収集し持参。	
	13. 舞台制作について1	各自舞台イメージを構想しておく事。	
	14. 舞台制作について2	各自舞台イメージを構想しておく事。	
	15. 音楽会を考える	制作と企画について、意見交換できるよう準備。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	実行委員会を結成してプログラム実施に向けて進めて行くことをイメージしてください。積極的な動機を持って参加すること。話し合いに基づいて進めるので、毎回必ず発言して自ら進めてゆく気持ちをもって参加する事。		
フィードバックの方法:	授業で討議しコメントします。 提出物は電子メールで受信しコメントして返信します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート(随時)	40	到達目標を基準に評価。また文章も評価します。
	発言とコメント	40	目的意識が的確で明確か。また周囲の動機を高める発言を評価します。
	授業への参加度	20	授業への積極的な参加態度を評価します。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	email		

授業テーマ:	ポピュラー音楽理論		
授業の概要:	ポピュラーで使われるコードなどを学び、その機能、トニックやサブドミナント、ドミナントなど、なぜ存在するかについて学ぶ。最後に自作のオリジナル曲を作り、みんなで評価しあい次のステップに備える。		
到達目標:	クラシックの基礎理論を履修した学生を対象にポピュラー音楽で使われているコードやスケールを導入し、ジャズ理論に導くための準備を行う		
授業方法:	講義方式＋演奏鑑賞		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 0章 音を一つも使わない場合 雑音は音楽になれるか？ 3分44秒の音楽など。		
	2. 1章 音を一つだけ使える場合 リズムが生まれる！ 偶数に着目してみる!!	リズム譜に慣れる課題	
	3. 1章 リズムック・イヤーマ・トレーニング	リズム譜を作ってくる	
	4. 2章 音が二つになると音程が生じる 倍音の原理。。。音楽最重要法則	倍音がどの音からも作れるように練習	
	5. 2章 音程の勉強 一オクターブ以内、二オクターブと どのように使い分けるか	音程に関しての練習	
	小テスト		
	6. 3章 トライアド 3等分はオーグメント		
	7. 3章 maj, min, aug, dim, sus その他の三つの音で構成されたもの。	トライアド、見分け聞き分けの練習問題	
	8. 中間テスト		
	4章 コード 4等分はdiminished		
	9. 4章 7, maj7, m7, 6, m6 など	コード、見分け聞き分けの練習問題	
	10. 4章 その他のコード aug, alt		
	11. 4章 diminishedについて。その応用とトライトーン 解決を使ったリハモニゼーションなど。	dimを挿入するリハモに関する問題	
	12. コードの一般的な表し方		
13. コードの機能 トニック、サブドミナント、ドミナントはどうして出てくるのか。。。作曲方法。	期末の作曲 コードの機能を鑑みた作曲		
14. コードの機能 宿題で作曲されたものの発表会			
15. まとめ			
受講者へのメッセージやアドバイス:	今まで勉強してきたクラシックの理論と、ジャズやポピュラーの理論は何ら反対するものではありません。ただ多少言語や言い回しが違うだけなのです。このクラスではポピュラーやジャズで使われる言い回しを習って作曲を試み、これからの演奏や創作活動に役立ててほしいと思います。		
フィードバックの方法:	単元ごとの宿題、創作活動をみんなで鑑賞したり、演奏したりしながらいいところを指摘しあい自信につながるフィードバックができればいいと思います。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	20	出席が最も大切、出席して積極的に発言、質問、提言など
	宿題	20	時間をかけて考えながら取り組むと次の単元が見えてくる
	小テスト、中間テスト	20	単元ごとのまとめテスト
	期末の作曲	20	履修したことを理解しているか、うまく使えているかの作曲
	期末試験	20	一学期間習ったことの総まとめ
	教科書:	スケールとコードの本(竹中真)からの抜粋プリント	
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	makotobtakenaka@yahoo. co. jp		

授業テーマ:	世界のポピュラーミュージックのルーツと日本における受容およびその展開を探る旅		
授業の概要:	「ポピュラーミュージック」という用語は一般的に「芸術音楽」や「民族音楽」などと比較対照されることが多い。21世紀の日本で多様なメディアに登場してくる音楽が「ポピュラーミュージック」として認識されているとしても、それぞれのジャンルが誕生した際に属している文化圏から伝播して異なる文化圏で再創造されたり、さらに日本という東アジア文化圏で受容され独自の展開をみせたものがある。本講義では、世界の代表的なポピュラー音楽の各ジャンルのルーツを確認するとともに、20世紀におけるアジアや日本におけるポピュラーミュージックの受容と定着との関係性を理解し、また世界における21世紀のポピュラーミュージックにおける日本発のポピュラーミュージックの意義を探ってみよう。		
到達目標:	21世紀を生きる受講生にとって身近なポピュラー音楽が、1)どのような世界／国内でそれぞれどのような文化的背景をもち、そして2)日本でどのように受容され定着したか、また3)それぞれのパフォーマーにあこがれたプロ／アマチュアの音楽活動の意義を、自分の経験と比較しながら、それぞれのトピックへの関心と知識を深化させ、活用できるかが求められる。		
授業方法:	講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 世界では「ポピュラーミュージック」はどのように捉えられているか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	2. ワールドミュージックの文脈におけるポピュラーミュージックはどのような展開がなされたか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	3. アルゼンチンタンゴは地域とジャンルをどのように越境しえたか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	4. サルサは南北アメリカ、日本、そして世界でどのように展開したか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	5. レゲエミュージックはなぜ人々を魅了するのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	6. ジャズミュージックは東アジアでどのように受容されたか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	7. エルビス・プレスリーは世界の若者をなぜ魅了したのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	8. ビートルズは世界のミュージックシーンに何を遺したのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	9. フォークシンガー達はなぜメッセージを発信しつづけたのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	10. 20世紀後半の日本のミュージシャン達はどのようなロック・ミュージックに憧れたのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	11. 日本における20世紀後半以降の女性アイドルの共通点と相違点はどこにあるか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	12. 日本の音楽番組の変遷とポピュラーミュージシャンの実力と人気にはどのような関係性があるのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	13. ジャニーズ事務所所属のパフォーマー達はなぜ多彩な活動をつづけられるのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	14. 多人数のグループのダンスと音楽パフォーマンスの類似点と相違点はどこにあるのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週講義に関するもの)。	
	15. クールジャパノロジーの世界を21世紀の日本のパフォーマー達はどのように体现しているのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するもの)。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。		
フィードバックの方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	30%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する
	発表、討論	25%	準備学習(予習、復習)、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	講義時に適宜、提示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

ジャズの音楽理論

授業の概要:

履修したポピュラー音楽理論をよく復習し、さらに5音スケールから12音スケールまでの様々な音楽を楽しみ、作曲する喜びも味わう。

到達目標:

ジャズやポピュラーなどの音楽を作曲・編曲したり、即興演奏を行うための理論を学習し、実践に役立てる

授業方法:

講義方式＋演奏鑑賞

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	倍音、コードとその機能など 4章までの復習	4章までわかっていないと5章以降大変苦労するので1～4章の総復習
2.	5章 ペンタトニック 12／5は整数じゃない! 歪にばらまかれた音たち。。。代表的なものはヨナ抜き旋法	
3.	5章 マイナー・ペンタ、陽旋法などのヨナ抜きの転回型のペンタたち	色々な調でペンタトニックを書いてみる、弾いてみる、聞いてみる。。。
4.	5章 アルタード・ペンタ、サス・ペンタなどができる。。。その一つの理由	
5.	5章 その他の広義のペンタトニック 陰旋法、オキナワ、ジャワペログなど民族音楽に使われるエキゾチックなスケール	ペンタトニックを使用した作曲
6.	宿題の鑑賞会	
	6章 ホールトーンスケール 唯一の完全無比スケール	
7.	6章 その他の6音スケール	
	中間テスト	
8.	7章 最も広く知られるスケール、長調!	
9.	7章 ドリアン、フリジアン、リディアン 様々な世界に誘う素晴らしくユニークなスケールたち	作曲
10.	7章 ミクソリディアン、エオリアン、ロクリアン。。。12x7＝84のスケールを即刻理解するための3つの道	作曲と84のスケールの理解を深める
11.	7章 「旋律短音階」系と「ナポリタン」系 半音と全音だけで構成されるものはこの二つのタイプで完成!	
12.	7章 「和声短音階」系と「和声長音階」系、その他の7音スケール	短音階についての履修
13.	8章 デミニニッシュ・スケール コンディミとは?	デミニニッシュ、コードとスケールの関係について勉強。。。
14.	9章、10章、11章、12章 ドミナントのスケール、 クロマティック。。。12音階奏法、作曲法のいろいろ。。。など	クロマティックに関する考察など
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

いろいろな演奏法、作曲法などに触れ、音楽の世界旅行を楽しんでももらいたいと思います。また、いろいろな旋法を使うだけで簡単に世界のあちらこちに誘うことができます。

フィードバックの方法:

宿題をみんなで鑑賞する、批評しあうことで次につながるヒントを得たり、自分の反省点にもつなげてより良いものに挑戦していただきたいと思います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	20	出席が最も大切、積極的に質問を考え、自分の意見を述べる。。。など
	宿題	20	遅滞なく提出
	小テスト、中間試験	20	单元ごとのまとめの理解
	作曲	20	履修したことをうまく作曲に反映させているか否か。。。
	期末試験	20	履修したことの総合的理解度を問う

教科書:

スケールとコードの本(竹中真)からの抜粋

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

makotobtakenaka@yahoo. co. jp

授業テーマ:	ロックミュージックとは何か																																	
授業の概要:	ロックが生まれて60年。ロックミュージックが生まれた背景を知り、ロックミュージックの変遷を文化や世界情勢と照らし合わせて、ロックミュージックとはいったいなんなのかを考察する。音楽資料や映像などふんだんに視聴。現代の音楽シーンとの繋がりについても考えよう。																																	
到達目標:	ロックミュージックとは何かについて、各自の見解をもち軽音楽とロックの文化について視点を得ること。 また、それを人に伝えられる事。																																	
授業方法:	音源を聴き、映像を観ます。随時レポートを提出。																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. ロックンロール</td><td>各自、自分がロックだと思う音楽を選んで、音源を持参。なぜそう思うのかを話せるよう準備。</td></tr><tr><td>2. デルタブルース</td><td>ブルースについて調べておく事。</td></tr><tr><td>3. シカゴブルース</td><td>ブルースについて調べておく事。</td></tr><tr><td>4. ケイジャン音楽</td><td>ケイジャンとは何か、調べておく事。</td></tr><tr><td>5. ブルースとカントリー音楽</td><td>ブルースとカントリー、好きな曲をひとつ選び、できれば音源を持参。</td></tr><tr><td>6. ブリティッシュインベイジョン</td><td>ビートルズとローリングストーンズについてネットなどで確認しておく事。</td></tr><tr><td>7. ヘビー級のバンド、英国と米国</td><td>ヘビーな音楽とは何か、考えておく事。</td></tr><tr><td>8. ベトナム戦争、ヒッピームーブメントと音楽</td><td>1960年から1975年までのアメリカ合衆国の文化を大まかに確認しておく事。</td></tr><tr><td>9. テクノロジーとポピュラー音楽、音楽産業</td><td>レコード、ラジオ、テレビ、ビデオ、CDなどのメディアがいつ普及して行ったか、調べておく事。</td></tr><tr><td>10. ロックのそと〜モータウンサウンド</td><td>モータウンレーベルについて調べておく事。</td></tr><tr><td>11. ロックのそと〜ソウルその他 Jimi Hendrix</td><td>ソウルとはなにか、現在の音楽との繋がりが。ネットなどで事前学習しておく事。</td></tr><tr><td>12. 巨大フェスティバル woodstock art and music festival</td><td>ウッドストックフェスティバルにまつわる言説をネットなどで確認しておく事。</td></tr><tr><td>13. シンセサイザー</td><td>シンセサイザーについてインターネットなどで調べておく事。</td></tr><tr><td>14. 1970年代以降の音楽1</td><td>グラムロック、プログレッシブロック、などについて調べておく事。</td></tr><tr><td>15. 1970年代以降の音楽2</td><td>ニューウェイブ、テクノ、ハードロック、レゲエ、スカなどについて調べておく事。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ロックンロール	各自、自分がロックだと思う音楽を選んで、音源を持参。なぜそう思うのかを話せるよう準備。	2. デルタブルース	ブルースについて調べておく事。	3. シカゴブルース	ブルースについて調べておく事。	4. ケイジャン音楽	ケイジャンとは何か、調べておく事。	5. ブルースとカントリー音楽	ブルースとカントリー、好きな曲をひとつ選び、できれば音源を持参。	6. ブリティッシュインベイジョン	ビートルズとローリングストーンズについてネットなどで確認しておく事。	7. ヘビー級のバンド、英国と米国	ヘビーな音楽とは何か、考えておく事。	8. ベトナム戦争、ヒッピームーブメントと音楽	1960年から1975年までのアメリカ合衆国の文化を大まかに確認しておく事。	9. テクノロジーとポピュラー音楽、音楽産業	レコード、ラジオ、テレビ、ビデオ、CDなどのメディアがいつ普及して行ったか、調べておく事。	10. ロックのそと〜モータウンサウンド	モータウンレーベルについて調べておく事。	11. ロックのそと〜ソウルその他 Jimi Hendrix	ソウルとはなにか、現在の音楽との繋がりが。ネットなどで事前学習しておく事。	12. 巨大フェスティバル woodstock art and music festival	ウッドストックフェスティバルにまつわる言説をネットなどで確認しておく事。	13. シンセサイザー	シンセサイザーについてインターネットなどで調べておく事。	14. 1970年代以降の音楽1	グラムロック、プログレッシブロック、などについて調べておく事。	15. 1970年代以降の音楽2	ニューウェイブ、テクノ、ハードロック、レゲエ、スカなどについて調べておく事。	
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. ロックンロール	各自、自分がロックだと思う音楽を選んで、音源を持参。なぜそう思うのかを話せるよう準備。																																	
2. デルタブルース	ブルースについて調べておく事。																																	
3. シカゴブルース	ブルースについて調べておく事。																																	
4. ケイジャン音楽	ケイジャンとは何か、調べておく事。																																	
5. ブルースとカントリー音楽	ブルースとカントリー、好きな曲をひとつ選び、できれば音源を持参。																																	
6. ブリティッシュインベイジョン	ビートルズとローリングストーンズについてネットなどで確認しておく事。																																	
7. ヘビー級のバンド、英国と米国	ヘビーな音楽とは何か、考えておく事。																																	
8. ベトナム戦争、ヒッピームーブメントと音楽	1960年から1975年までのアメリカ合衆国の文化を大まかに確認しておく事。																																	
9. テクノロジーとポピュラー音楽、音楽産業	レコード、ラジオ、テレビ、ビデオ、CDなどのメディアがいつ普及して行ったか、調べておく事。																																	
10. ロックのそと〜モータウンサウンド	モータウンレーベルについて調べておく事。																																	
11. ロックのそと〜ソウルその他 Jimi Hendrix	ソウルとはなにか、現在の音楽との繋がりが。ネットなどで事前学習しておく事。																																	
12. 巨大フェスティバル woodstock art and music festival	ウッドストックフェスティバルにまつわる言説をネットなどで確認しておく事。																																	
13. シンセサイザー	シンセサイザーについてインターネットなどで調べておく事。																																	
14. 1970年代以降の音楽1	グラムロック、プログレッシブロック、などについて調べておく事。																																	
15. 1970年代以降の音楽2	ニューウェイブ、テクノ、ハードロック、レゲエ、スカなどについて調べておく事。																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ロックという概念は少なくとも音楽様式で規定されるものではなさそうです。急激に変遷してきたロックミュージックを、ひとつの民族音楽を眺めるように、俯瞰してみます。CDやDVDの視聴をふんだんに行ないます。自分なりのロック観を獲得してください。																																	
フィードバックの方法:	感想やレポートをemailで提出、コメントして返信します。																																	
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート</td><td>70</td><td>社会の中での位置づけを意識したレポートを評価する。</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>30</td><td>授業への積極的な参加態度を評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート	70	社会の中での位置づけを意識したレポートを評価する。	授業への参加度	30	授業への積極的な参加態度を評価する。																								
評価方法	割合	評価基準																																
レポート	70	社会の中での位置づけを意識したレポートを評価する。																																
授業への参加度	30	授業への積極的な参加態度を評価する。																																
教科書:																																		
参考書:																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																	
教員との連絡方法:	email																																	

授業テーマ:

日本における近代以降の学校音楽教育の歴史を学び、各時代ごとの諸特徴について理解する。

授業の概要:

明治期・大正期・昭和期・平成期の音楽教育の諸特徴を理解するため、全体を13期に分けて講義する。受講生は各講義内容の中で興味を持った事項について自ら調べ、授業内でプレゼンテーションを行い調べ学習の成果を発表する。

到達目標:

本授業を通して日本音楽教育史の概要を理解し、諸特徴について説明できるようになる。
明治期の音楽教育の諸特徴を理解する。
大正期の音楽教育の諸特徴を理解する。
昭和期の音楽教育の諸特徴を理解する。
平成期の音楽教育の諸特徴を理解する。
興味を持った事項について自ら調べ、調べ学習の成果が発表できる。

授業方法:	講義/演習の混合	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 日本音楽教育史とは	伊澤修二、音楽取調掛について予習する。
	2. 日本の音楽教育史1(明治期1)伊澤修二と音楽取調掛	田村虎蔵と言文一致唱歌について予習する。
	3. 日本の音楽教育史2(明治期2)田村虎蔵と言文一致唱歌	滝廉太郎作曲「花」の成立について予習する。
	4. 日本の音楽教育史3(明治期3)滝廉太郎作曲「花」の成立	鈴木三重吉と赤い鳥童謡運動について予習する。
	5. 日本の音楽教育史4(大正期1)鈴木三重吉と赤い鳥童謡運動	童謡の作曲家たち～成田為三・中山晋平他について予習する。
	6. 日本の音楽教育史5(大正期2)童謡の作曲家たち～成田為三・中山晋平他	戦前の音感教育について予習する。
	7. 日本の音楽教育史6(昭和前期1)戦前の音感教育	国民学校時代の音楽教育について予習する。
	8. 日本の音楽教育史7(昭和前期2)国民学校時代の音楽教育	諸井三郎と学習指導要領音楽編(試案)について予習する。
	9. 日本の音楽教育史8(昭和後期1)諸井三郎と学習指導要領音楽編(試案)	音楽教育の会と「わらべうた二本立て方式」について予習する。
	10. 日本の音楽教育史9(昭和後期2)音楽教育の会と「わらべうた二本立て方式」	高度経済成長と器楽教育の隆盛について予習する。
	11. 日本の音楽教育史10(昭和後期3)高度経済成長と器楽教育の隆盛	日本伝統音楽の重視について予習する。
	12. 日本の音楽教育史11(昭和後期4)日本伝統音楽の重視	創造的音楽学習と世界の諸民族の音楽について予習する。
	13. 日本の音楽教育史12(平成期1)創造的音楽学習と世界の諸民族の音楽	国際理解教育における音楽教育について予習する。
	14. 日本の音楽教育史13(平成期2)国際理解教育における音楽教育	これまでの全授業内容についてまとめておく。
	15. まとめと振り返り	積極的に討議に参加できるように準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義を聴いて興味を持った事項について本を沢山読み、取り組んだ成果をプレゼンテーションで発表できるようにしてください。

フィードバックの方法:

提出レポートについては返却の際、教室で説明する。
講義内容についての質疑応答は教室で行う。
プレゼンテーションについては発表直後に教室で説明する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	提出レポート	50%	到達目標「日本音楽教育史の概要を理解し、諸特徴について説明できるようになる。」について各時代ごとの理解度を提出レポートで評価する。
	プレゼンテーション	30%	到達目標「興味を持った事項について自ら調べ、調べ学習の成果が発表できる。」が達成できたかどうかを評価する。
	授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標「日本音楽教育史の概要を理解」できるようになったかを評価する。

教科書:

参考書:

伊沢修二著、山住正己甲虫『洋楽事始』(東洋文庫188)平凡社
金田一バ春彦・安西愛子編『日本の唱歌[上] 明治篇』、『日本の唱歌[中] 大正・昭和編』(講談社文庫)講談社
小長久子『滝廉太郎』(人物叢書)吉川弘文館
園部三郎・山住正己『日本の子どもの歌』(岩波新書468)岩波書店
山住正己『子どもの歌を語る』(岩波新書[新赤版]352)岩波書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール(kaki@kyokyo-u.ac.jp)並びに授業の前後に教室内で応答する。

授業テーマ:

音楽教育の歴史を通して現在の音楽教育を考察する

授業の概要:

様々な時代の思想や文化の影響を受けながら展開されてきた世界の音楽教育の歴史を学び、音楽教育について視野を広げる。現在の音楽教育の根底にある理念を考察し、自らの音楽教育観を確立していく。

到達目標:

世界の音楽教育の歴史を通して、音楽教育が時代の思想や文化に影響を受けながら人間教育の一環として重要な役割を担ってきたことを理解できる。
現在の音楽教育の指導法が長い歴史の上に成立していることを理解できる。
現在の音楽教育について多角的な視野から考察することができる。

授業方法:

講義、学生による発表と連動させて授業を進める。毎回テーマに沿って研究発表をおこなってもらい、視聴覚教材を積極的に活用して音楽史と音楽教育史との関連についても理解を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 音楽教育の歴史を学ぶ意味	テキストの代わりに適宜プリントを配布する。 配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
2.	古代ギリシアの音楽教育 (プラトン『国家』、ピタゴラス音階)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
3.	キリスト教と音楽教育(1) (グレゴリオ聖歌、記譜法「ネウマ譜」)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
4.	キリスト教と音楽教育(2) (グイド・ダレッツォと階名唱)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
5.	ルソーの音楽教育 (『エミール』の音楽教育、記譜法「数字譜」)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
6.	ペスタロッチ教育法と音楽教育 (ネーゲリ、プファイフェルの音楽教育)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
7.	カーウエンの音楽教育 (グラヴァー、シュヴェ法、トニックソルファ法)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
8.	ダルクローズの音楽教育 (リズム教育、リトミック)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
9.	コダーイの音楽教育(1) (コダーイシステム、リズム唱)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
10.	コダーイの音楽教育(2) (コダーイシステム、ハンドサイン)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
11.	オルフの音楽教育 (オルフ・シュールベルク、言葉と音楽、オルフ楽器)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
12.	創造的音楽学習 (ジョン・ペインター&ピーター・アストン『音楽の語るもの』)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
13.	マリー・シェファール(1) (サウンドスケープ、音環境)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
14.	マリー・シェファール(2) (サウンドエデュケーション、『音さがしの本』)	配布されたプリントを良く読んでおくこと 担当する発表の準備学習をおこなうこと
15.	総括:	配布されたプリントを良く読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

担当のテーマ研究発表を、計画的に責任を持って準備してください。

フィードバックの方法:

コメントをつけて教室で返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業内の研究発表	40	テーマについての発表に対する準備学習や発表内容の達成度、態度・意欲、発表に際して作成した資料の内容を評価する
	授業への参加度	30	積極的に授業に参加し、世界の音楽教育や時代背景について視野を深めることができるようになったかについて評価する。
	レポート	30	世界の音楽教育を歴史的に考察し、授業内容をふまえて現在の音楽教育について思考できているかを評価する

教科書:

適宜紹介します

参考書:

適宜紹介します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する

授業テーマ:

朗読劇のワークショップ

授業の概要:

「朗読劇のワークショップ」を受講し、「演劇的な発声や発音の基礎練習」・「役を演じること」・「芝居を作る過程」を体験してみよう。

到達目標:

「台詞の術」の獲得。
的確な感情表現力の向上。
表現者としての心構えを身につける。

授業方法:

集中講義(3日連続)。服装は簡単な運動のできるもの(スカート不可)。
足下は素足・ジャズシューズ・バレエシューズ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	呼吸法・発声・滑舌(外郎売り)の基礎を学ぶ。	デイリートレーニングをする。
2.	ゲーム・即興・1分間トークを体験する。	デイリートレーニングをする。
3.	台詞の術について。	デイリートレーニングをする。
4.	作品研究① 台本の読み合わせ。	デイリートレーニングをする。
5.	作品研究② 班分け・配役をする。	デイリートレーニングをする。 研究作品に目を通してくる。
6.	作品研究③ 小返し稽古・ダメ出し・手直し。	デイリートレーニングをする。 研究作品に目を通してくる。
7.	作品研究④ 小返し稽古・ダメ出し・手直し。	デイリートレーニングをする。 研究作品に目を通してくる。
8.	作品研究⑤ 小返し稽古・ダメ出し・手直し。	デイリートレーニングをする。 研究作品に目を通してくる。
9.	作品研究⑥ 小返し稽古・ダメ出し・手直し。	デイリートレーニングをする。 研究作品に目を通してくる。
10.	作品研究⑦ 小返し稽古・ダメ出し・手直し。	デイリートレーニングをする。 研究作品に目を通してくる。
11.	作品研究⑧ 通し稽古・ダメ出し・手直し。	デイリートレーニングをする。 研究作品に目を通してくる。
12.	作品研究⑨ 通し稽古・ダメ出し・手直し。	デイリートレーニングをする。 研究作品に目を通してくる。
13.	作品研究⑩ 通し稽古・ダメ出し・手直し。	デイリートレーニングをする。 研究作品に目を通してくる。
14.	作品研究⑪ 通し稽古・ダメ出し・手直し。	デイリートレーニングをする。 研究作品に目を通してくる。
15.	研究作品の発表会 互いの班でダメを出し合う。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

元気に声を出し、協力し合って、ひとつのドラマを作り出してみよう！

フィードバックの方法:

コメントペーパー・ダメ出シート(発表会後に書く)

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	45	15回目の発表会に出席しない場合は不可とする。 体験したことから何を思ったか、どう感じたかを明確化できているかどうかを評価する。 自分の役割を理解した上で、どれほど積極的に取り組めていたどうかを評価する。
	レポート	25	
	発表会での取り組み	30	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

kiichirou8330@yohoo.co.jp

授業テーマ:	子どもの時の音楽との出会い、そしてその音楽実践が一生を通して継続し、開花していく道を探る旅		
授業の概要:	子どもは、家庭、保育園、幼稚園、小学校などで多様な音楽に出会い、実践することも始め、中学校、高等学校、大学でもその実践を継続したり、あるいは新たな音楽に興味をいだき多種の音楽実践を継続させていく。そして学校の授業、クラブ活動、企業の音楽教室、公共ホールなどの学びの場での音楽の楽しみがきっかけとなり音楽がこよなく好きになり、プロを目指す専門の高等教育機関(国内外)に歩みをすすめる人もいる。一方で、趣味として生涯、仲間とともに音楽活動を継続して、それぞれ花を咲かせる。具体的な事例をもとに、幼児から大学生までの音楽との出会いの意味を熟考する。		
到達目標:	多様な「場」「ジャンル」「修得のプロセス」「発表のスタイル」などを事例に、1)子ども達が、それぞれどのような音楽とどのように出会い、2)人間が継続的にミュージッキングすることの意義、3)その音楽活動が文化を学ぶことにつながるか、受講生個人の体験と比較しながら、それぞれのトピックへの関心と知識を深化させ、活用できるかが求められる。		
授業方法:	講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 家族とみる国内外のテレビの幼児向け番組で音楽を感じるこの意味	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	2. 幼少期から音楽コンクールでの成果を得るために技術修得に励むこの意味	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	3. 小学校での音楽教室のあり方:アメリカの場合	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	4. 民族音楽を学ぶ場:ヨーロッパや東南アジアの場合	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	5. マイノリティの子供たちが自分たちの音楽を通して文化を伝える試み(オーストラリアの場合)の意義を考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	6. 戦地のこどもたちにとっての音楽の意味を考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	7. バレエ学校で身体にすりこまれる音楽と身体表現の完成度の意味を考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	8. 歌舞伎に挑戦する小学生、能楽をクラブでまなぶ大学生、歌舞伎襲名公演を行う大学生、各々の修得するものの意味を考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	9. オーケストラのレクチャーコンサートやテレビ番組から何を学びとるかを考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	10. 総合大学のアマチュアオーケストラからプロの指揮者が輩出したこの意味を考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	11. 半世紀の歴史をもつ少年合唱隊の世界ツアーを行う意味を考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	12. 学校内外の合唱コンクールと合唱祭(国内・国際)への出演とそのパフォーマンスの意味を考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	13. 世界の吹奏楽活動と民族楽器の取り込み方の意味を考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	14. 吹奏楽コンクール出場、そしてプロの学びへの転化について考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。	
	15. プロミュージシャンを目指す世界の音楽学生のパフォーマンスに特徴について考える。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するもの)。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。		
フィードバックの方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	30%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
	発表、報告	25%	準備学習(予習、復習)、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	講義時に適宜、提示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

ミュージックセラピーの理論と実践の基礎を学ぶ(1)

授業の概要:

ミュージックセラピー(音楽療法)の概要を深め、対象者について学ぶ。

到達目標:

音楽療法の理論や対象者、実践方法についての認識を深め、実践へつなげる手がかりを学ぶ。

授業方法:

講義、討議、実践体験

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ミュージックセラピーを概観する	教科書予習
	2. ミュージックセラピーの対象者と施設(1)	教科書予習
	3. ミュージックセラピーの対象者と施設(2)	教科書予習
	4. ミュージックセラピーの対象者と施設(3)	教科書予習
	5. ミュージックセラピスト(1)	配布資料予習
	6. ミュージックセラピスト(2)	配布資料予習
	7. グループワーク(1)	
	8. グループワーク(2)	
	9. グループワーク(3)	
	10. 分野別ミュージックセラピー(1)	教科書予習
	11. 分野別ミュージックセラピー(2)	教科書予習
	12. 分野別ミュージックセラピー(3)	教科書予習
	13. ケーススタディ(1)	
	14. ケーススタディ(2)	
	15. 総括	教科書予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

音楽療法士のための重要な科目の一つである。特にDVDによる実践の様子を多く学ぶので、真摯に現場の様子を観察し秘密保持を守る。

フィードバックの方法:

教科書や資料での復讐、グループ討議

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	出欠
	レポート	25	内容と量
	授業参加態度	25	討議や実践への参加の様子

教科書:

「音楽療法入門Ⅰ」ウィリアムBデビス他著、栗林文雄他訳、一麦社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、、思いやる力、変化対応力、、自己実現力

教員との連絡方法:

音楽学科事務室

授業テーマ：ミュージックセラピーの理論と実践の基礎を学ぶ(2)

授業の概要：前期(1)をさらに専門的な分野に特化して深める。

到達目標：ミュージックセラピー(音楽療法)の幅の広さについて学ぶ。

授業方法：講義、討議、実践

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 前期を振り返る	
	2. 身体障がいとミュージックセラピー(1)	教科書予習
	3. 身体障がいとミュージックセラピー(2)	教科書予習
	4. 自閉症とミュージックセラピー	教科書予習
	5. 知的障がいとミュージックセラピー	教科書予習
	6. リハビリテーションとミュージックセラピー	教科書予習
	7. 精神障がいとミュージックセラピー	教科書予習
	8. 緩和ケアとミュージックセラピー(1)	教科書予習
	9. 緩和ケアとミュージックセラピー(2)	教科書予習
	10. 特別支援教育とミュージックセラピー	教科書予習
	11. 聴覚・視覚障がいとミュージックセラピー	教科書予習
	12. 医療現場でのミュージックセラピー	教科書予習
	13. クロスカルチャーセラピー(1)	
	14. クロスカルチャーセラピー(2)	
	15. 総括	

受講者への
メッセージや
アドバイス：より専門的な領域でのミュージックセラピーについての学びとなるので、それぞれの領域についての専門知識を教科書や各
自の予習によって予備知識を深めておくこと。

フィードバックの
方法：教科書による復讐。レポートでのまとめ。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	50	出欠
	レポート	25	内容と量
	授業参加状況	25	討議参加状況

教科書：「音楽療法入門Ⅱ」ウィリアムBディビス他著、栗林文雄他訳、一麦社、

参考書：

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力：分析力、思考力、

教員との連絡
方法：音楽学科事務室

授業テーマ:

ミュージックセラピーの理論を学ぶ

授業の概要:

テキストに沿って、欧米由来のミュージックセラピーの理念と理論を理解する。その上で、ミュージックセラピーとは病院や施設で単に音楽活動を展開するものではないことを正しく認識し、ミュージックセラピストの役割についても深く考察する。

到達目標:

・欧米由来のミュージックセラピーの理念について習熟する。

・ミュージックセラピーを実践するに不可欠な理論を習得する。

・ミュージックセラピーの理論的な原書（英語文献）を講読する力をつける。

授業方法:

講義、ディスカッション、発表。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ミュージックセラピーの理論的概略	テキストの該当箇所を復習する。
	2. スターンの理論(1)	テキストの該当箇所を予復習する。
	3. スターンの理論(2)	同上
	4. スターンの理論のミュージックセラピーへの応用	セラピーの実践を想定した活動を考案する。
	5. 発表(1)	各自が設定したテーマに基づき、発表の準備をする。
	6. ウィニコットの理論(1)	テキストの該当箇所を予復習する。
	7. ウィニコットの理論(2)	同上
	8. ウィニコットの理論のミュージックセラピーへの応用	セラピーの実践を想定した活動を考案する。
	9. 発表2	各自が設定したテーマに基づき、発表の準備をする。
	10. 音楽教育とミュージックセラピー(1)	テキストの該当箇所を予復習する。
	11. 音楽教育とミュージックセラピー(2)	同上
	12. 発表3	各自が設定したテーマに基づき、発表の準備をする。
	13. 英語文献の講読(1)	講読文献の予復習。
	14. 英語文献の講読(2)	同上
	15. 英語文献のまとめ	講読文献の復習と内容の吟味。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業で取り上げる理論に関する図書や論文を積極的に読んで理解を深める。

フィードバックの方法:

提出物については、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席およびクラス参加度	60%	積極的に授業に参加し、到達目標としての「ミュージックセラピーの理論や理念の習熟」を踏まえた討議ができているかを評価する。
	発表	20%	到達目標としての「ミュージックセラピーの理論や理念の習熟」を踏まえた独創的な発表ができているかを評価する。
	レポート課題	20%	到達目標としての「ミュージックセラピーの理論や理念の習熟」を踏まえた論理的な説明ができているかを評価する。

教科書:

『ここをつなぐミュージックセラピー:ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房(2016年)

参考書:

『音楽療法:ことばを超えた対話』ミネルヴァ書房(1996年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

サイコセラピー（心理療法）の一環としてのミュージックセラピーのあり方について考える。

授業の概要:

欧米由来のミュージックセラピーの理念と理論を理解する。その上で、サイコセラピーの一環としてのミュージックセラピーの役割、および、ミュージックセラピストの位置づけについて考察する。合わせて、各自の考察を小論（エッセイ）としてまとめる訓練も行う。

到達目標:

・心理臨床全般における言葉の役割と使い方に習熟する。

・臨床上のコミュニケーション媒体としての音楽および芸術全般の役割について習熟する。

・臨床における音楽の役割を自分の言葉で論理的に説明できる。

授業方法:

講義，ディスカッション，発表。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:臨床における芸術の役割についての概説	心理臨床に関する学術論文を自発的に読む。
2.	心理療法の概観:理論的展望(1)	同上
3.	心理療法の概観:理論的展望(2)	同上
4.	心理療法の概観:ことばの役割	テキストの該当箇所を予復習する。
5.	心理臨床における音楽(芸術全般)の役割入:心理学的見地から	同上
6.	心理臨床における音楽(芸術全般)の役割:芸術学的見地から	同上
7.	心理臨床における音楽(芸術全般)の役割:精神分析的見地から	同上
8.	事例の考察(1)	関連する学術論文を自発的に読む。
9.	事例の考察(2)	同上
10.	描画テスト	関連図書，論文を自発的に読む。
11.	心理臨床における芸術の可能性についての討議および小論(エッセイ)の作成(1)	小論のテーマを設定し，執筆する。
12.	心理臨床における芸術の可能性についての討議および小論(エッセイ)の作成(2)	同上
13.	小論および研究の発表(1)	発表の準備
14.	小論および研究の発表(2)	同上
15.	総括:音楽と視覚芸術の統合的応用	テキストの該当箇所を復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

心理臨床に関する時事問題に関心をもち、新聞や学術論文を積極的に読むこと。

フィードバックの方法:

提出物については、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席およびクラス参加度	60%	積極的に授業に参加し、到達目標としての「心理療法における言葉の役割の習熟」を踏まえた討議ができているかを評価する。
	発表	20%	積極的に授業い参加し、到達目標としての「臨床における音楽および芸術の役割の習熟」を踏まえた独創的な発表ができているかを評価する。
	レポート	20%	積極的に授業い参加し、到達目標としての「臨床における音楽の役割について論理的な説明ができている」かを評価する。

教科書:

『こころをつなぐミュージックセラピー:ことばを超える音との対話』 ミネルヴァ書房(2016年)

参考書:

『音楽療法:ことばを超えた対話』ミネルヴァ書房(1996年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

357600

ミュージックセラピー(グループ体験)

稲田 雅美

授業テーマ:

グループダイナミクスの理解

授業の概要:

心理・福祉領域の援助にとって、集団内の人間関係や集団構造を的確にとらえる技量は不可欠である。集団内に発生する個人の心理や行動について考察するために、この授業では、即興演奏や描画制作を通じて、クラスという集団の中で各人が相互に及ぼす影響を体験する。

到達目標:

・グループダイナミクスに関する知識の習得

・即興演奏を通じた、グループダイナミクスの体得

・作品創作を通じた、グループダイナミクスの体得

授業方法:

演習形式。楽器や描画素材を媒介として多様な「創作活動」をグループで行い、創作プロセスにおける自己の役割についてディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション:「音楽的対話」の検討	テキスト該当箇所の復習
2. 即興演奏とグループ体験1	テキスト該当箇所の予復習
3. 即興演奏とグループ体験2	同上
4. リズムを基にしたグループ即興演奏1	同上
5. リズムを基礎にしたグループ即興演奏2	同上
6. 各種音階を基にしたグループ即興演奏	同上
7. 視覚芸術への理解とグループ討議	関心のある美術作品について紹介できるよう準備する。
8. 視覚作品を基にした即興演奏1	テキスト該当箇所の予復習
9. 視覚作品を基にした即興演奏2	同上
10. 描画制作とグループ体験1	同上
11. 描画制作とグループ体験2	同上
12. 描画制作とグループ体験3	同上
13. 研究発表1	個人発表の準備
14. 研究発表2	同上
15. まとめと討議	グループダイナミクスの意味を自分の言葉で伝えられるよう、これまでの学習内容を振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

1)授業の内容に則した楽典知識をつねに予復習すること。

2)音楽以外の芸術、とくに絵画について関心を持ち、画家やその作品について積極的に学ぶ姿勢をもつこと。

フィードバックの方法:

提出物は、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況およびクラス貢献度	70%	積極的な授業への参加と発表の姿勢を中心に評価する。
レポート	30%	
到達目標における、グループダイナミクスに関する知識の習得に基づき、論理的に説明できていることを評価する。		

教科書:

『ここをつなぐミュージックセラピー:ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房(2016年)

参考書:

授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

ミュージックセラピー実践に必要な音楽技能の獲得とその応用(！)

授業の概要:

声・楽器・身体表現などの技能を通して実践の方法を学ぶ。

到達目標:

実習に役立つように楽曲選定やその実践方法を体験する。

授業方法:

実技、講義、グループ発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 声の使い方	
	2. 歌の意味(1)	楽譜集の譜読み
	3. 歌の意味(2)	楽譜集の譜読み
	4. 楽器の使い方(1)	楽譜集の譜読み
	5. 楽器の使い方(2)	楽譜集の譜読み
	6. 既成曲を活かす(1)	楽譜集の譜読み
	7. 既成曲を活かす(2)	楽譜集の譜読み
	8. 既成曲を活かす(3)	楽譜集の譜読み
	9. グループごとの実践(1)	
	10. グループごとの実践(2)	
	11. グループごとの実践(3)	
	12. グループごとの実践(4)	
	13. グループごとの実践(5)	
	14. グループごとの実践(6)	
	15. 総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

教科書の楽譜集や配布楽譜の譜読みをしっかりと準備する。

フィードバックの方法:

グループで練習を積み重ねること。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	出欠
	発表	25	内容
	楽譜提出	25	正確さ

教科書:

「音楽療法のピアノ小品集」ヤマハミュージックメディアコーポレーション

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法:

音楽学科事務室

授業テーマ:

ミュージックセラピーの実践に必要な音楽技能の獲得とその応用(2)

授業の概要:

声、楽器、身体表現を使いながら、特に成人障がい者への実践に応用する楽曲。技能を学ぶ。

到達目標:

グループで活動をする力を身につける。

授業方法:

実技、グループ活動と発表、ケーススタディ

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 即興音楽の技法(1)	楽譜集の譜読み
	2. 即興音楽の技法(2)	楽譜集の譜読み
	3. 即興音楽の技法(3)	楽譜集の譜読み
	4. 既成曲の展開(1)	
	5. 既成曲の展開(2)	
	6. 既成曲の展開(3)	
	7. グループによる活動(1)	
	8. グループによる活動(2)	
	9. グループによる活動(3)	
	10. グループによる活動(4)	
	11. 楽曲制作と発表(1)	
	12. 楽曲制作と発表(2)	
	13. 楽曲制作と発表(3)	
	14. 楽曲制作と発表(4)	
	15. 総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

楽譜集を手がかりに、目的にあった活動を構築すること。
楽譜集をモデルとして、作品を作ってみる。

フィードバックの方法:

楽譜集はなるべく暗譜をするように予習復習を行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	50	出欠
	グループ発表	20	内容
	作品制作	30	内容

教科書:

「たからもの」同志社女子大学音楽療法たからものプロジェクト、

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法:

音楽学科事務室

授業テーマ:

ミュージックセラピーの実践に必要な作曲・編曲・アンサンブル・指揮などの技法の獲得

授業の概要:

実践的な課題に取り組み、現場で行われている実践を分析する。

到達目標:

実習で活かせるように、セッションの構成を組み立てる音楽力を身につける。
即興的な展開力を身につける。

授業方法:

講義、実技、編曲、制作、グループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 対象者に対応した音楽の役割(1)	教材の分析と練習
	2. 対象者に対応した音楽の役割(2)	教材の分析と練習
	3. 対象者に対応した音楽の役割(3)	教材の分析と練習
	4. 既成曲の編曲(1)	教材選択
	5. 既成曲の編曲(2)	教材選択
	6. 既成曲の編曲(3)	教材選択
	7. 実習のためのアンサンブル曲の編曲または制作(1)	編曲または制作
	8. 実習のためのアンサンブル曲の編曲または制作(2)	編曲または制作
	9. グループワーク(1)	
	10. グループワーク(2)	
	11. グループワーク(3)	
	12. グループワーク(4)	
	13. 発表(！)	
	14. 発表(2)	
	15. 総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

より実践的な課題に取り組むために、幅広い領域の多くの楽曲に触れる。
楽曲は、基本的に暗譜で演奏できるように努力する。

フィードバックの方法:

グループでの組み立てや練習を重ね、チームワークでフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	出欠
	グループ発表	25	内容
	楽曲提出	25	内容

教科書:

「たからもの 2」同志社女子大学たからものプロジェクト

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法:

音楽学科事務室

授業テーマ:

授業の概要: 心と脳の関係について学び、症例を通して心の病の知識を得る

到達目標: 心と心の病について理解すること

授業方法: 講義、質問用紙記入、グループ討論・発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	心について	授業内容について復習する
2.	心と脳	授業内容について復習する
3.	脳の構造と機能	授業内容について復習する
4.	心の病概論	授業内容について復習する
5.	症例検討と討論 (1)	授業内容について復習する
6.	症例検討と討論 (2)	授業内容について復習する
7.	症例検討と討論 (3)	授業内容について復習する
8.	症例検討と討論 (4)	授業内容について復習する
9.	症例検討と討論 (5)	授業内容について復習する
10.	症例検討と討論 (6)	授業内容について復習する
11.	症例検討と討論 (7)	授業内容について復習する
12.	症例検討と討論 (8)	授業内容について復習する
13.	症例検討と討論 (9)	授業内容について復習する
14.	症例検討と討論 (10)	授業内容について復習する
15.	心の病まとめ	授業内容について復習する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 質問用紙の提出物について、教室で解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席および質問用紙提出	75	授業や討論への積極的参加度と到達目標への態度・意欲により評価する 到達目標にどの程度まで近づいているかで評価する
	期末レポート	25	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

対人援助論―特に癌患者の想いを理解するとともに死を通して生を考える

授業の概要:

双方向性の討論を中心とした授業(一方的に話を聞くだけの授業はしない)

到達目標:

他人の援助のための方法論を理解することができる

授業方法:

講義の中で討論をしながらすすめてゆく

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 医学と医療 死について 終末期医療とは	
	2. 緩和医療概論及び緩和ケア	
	3. 他人の想いをどう理解するか	
	4. 他者の理解と共感(哲学的見地)	
	5. 他者に対する援助CureとCare	
	6. 生命倫理	
	7. 生命倫理―安楽死と尊厳死	
	8. ホスピスと緩和ケア	
	9. 生命倫理 死を考える 症例検討	
	10. 症例検討	
	11. 苦痛を考える。特にスピリチュアルペインについて-1	
	12. スピリチュアルペインとスピリチュアルケア-2	
	13. スピリチュアルペインとスピリチュアルケア-3	
	14. 傾聴について考える	
	15. 総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業ではクライアントの苦痛を理解しどのように援助するかを考えることができるようになることを目的に勉強したい

フィードバックの方法:

一方的なデスクワークはせず毎回の授業で双方向性の討論から内容の理解をしその場で考える習慣を身につけてゆく

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の参加具合	40%	授業中の発言など
	定期テスト	60%	記述式の期末試験にて

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

a_kawakam@yahoo.co.jp

358200

臨床の心理学A

佐藤 豪

授業テーマ:

臨床心理学的に人間を理解するための基礎知識を学ぶ。

授業の概要:

臨床心理学の基礎となる面接、アセスメント、精神疾患の分類について学ぶ。

到達目標:

臨床心理学における面接やアセスメントの考え方が理解できるようになること。精神疾患の分類について基礎的な知識を得ること。

授業方法:

主に講義形式をとるが、簡単な実習などを含めて臨床心理学における理解の幅を広げる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 臨床心理学とは何か	臨床心理学の目的の整理
2. 臨床心理学の歴史(1)	古代の考えから精神分析、心理査定の発展の理解
3. 臨床心理学の歴史(2)	現代の臨床心理活動の理解
4. 心理相談面接法(1)	人間の成長力とセラピストのあり方についての考えをまとめる
5. 心理相談面接法(2)	援助的関係の基本構造を理解する
6. 心理アセスメント(1)	心理アセスメントの方法について整理する
7. 心理アセスメント(2)	臨床への応用とはなにかを理解する
8. 心理アセスメント(3)	知能検査の種類、特徴を整理する
9. 心理アセスメント(4)	人格・性格診断検査の種類、特徴を整理する
10. 精神疾患の分類および見立て(1)	主要な精神疾患についての種類、特徴を整理する
11. 精神疾患の分類および見立て(2)	発達の視点から見た精神疾患について理解する
12. 学校臨床心理学	スクールカウンセラーの役割と活動について理解する
13. 産業臨床心理学	産業カウンセリングのありかたを理解する
14. 地域臨床心理学	コミュニティにおける援助とは何かを把握する
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業内容の理解のために準備学習等の内容にあげたことを基本的には復習することで身につけることが重要

フィードバックの方法:

教室で解説する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	90	授業を通じて得た知識をきちんと説明することによって評価する
授業への参加度	10	授業中の発言、小課題の達成度によって評価する

教科書:

特に指定しない

参考書:

楡木満生・松原達哉 共編 「臨床心理学概論」培風館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:	臨床心理学における人間の治療の基礎と応用について学ぶ。		
授業の概要:	臨床心理学における研究方法や治療法を幅広く学ぶ。		
到達目標:	臨床心理学における研究方法の特徴が理解できるようになる。心理療法の考え方の多様性が理解できるようになる。		
授業方法:	主に講義形式をとるが、簡単な実習などを含めて臨床心理学における理解の幅を広げる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 臨床心理学における研究方法と課題(1)	2. 臨床心理学における研究方法と課題(2)	臨床心理学における研究の特徴を理解する 臨床心理学における研究方法と倫理について理解する カウンセラーの資格と責任について理解する 公務員としての心理職について理解する 実際の臨床領域の中での臨床心理士の役割を理解する スクールカウンセラーの活動について理解する 医療分野のカウンセラーの活動について理解する 精神分析の成り立ちと基礎理論を理解する 精神分析による治療を理解する 行動療法の基礎理論を理解する 行動療法による治療について理解する ロジャースの考えを中心として人間性心理学の基礎を理解する 来談者中心療法による治療について理解する 認知行動療法の考え方の基礎を理解する 授業全体のまとめを行う
受講者へのメッセージやアドバイス:	3. カウンセラーの職業倫理	4. 社会の中での臨床心理士の立場・役割(1)	5. 社会の中での臨床心理士の立場・役割(2)
	6. 臨床心理士をめぐる社会的状況と課題(1)	7. 臨床心理士をめぐる社会的状況と課題(2)	8. 精神分析療法(1)
フィードバックの方法:	9. 精神分析療法(2)	10. 行動療法(1)	11. 行動療法(2)
	12. 来談者中心療法(1)	13. 来談者中心療法(2)	14. 認知行動療法
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	授業内容を復習することを中心として理解して下さい。		15. 全体のまとめ
	評価方法	割合	評価基準
教科書:	定期試験	90	授業内容をきちんと理解し整理して表現できることを評価する
	授業への参加度	10	授業内での発言や小課題を評価する
特に指定しない			
参考書:	榎木満生・松原達哉 共編 「臨床心理学概論」培風館		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメール		

358400

映画・舞台音楽

仲 万美子

授業テーマ:	20世紀、世界の人々を魅了してきた映像／舞台芸術の音楽の世界を探る旅		
授業の概要:	西洋・東洋の総合芸術に携わる人々は伝統を育み、そして他の地域の特色にも関心を寄せ、それぞれの世界に取り込み、さらなる昇華をめざしてきた。そして20世紀に入り、ライブだけでなく映像記録メディアの登場によりさらなる展開が加速した。本講義では、日本が受信あるいは日本から発信される映像／舞台芸術の音楽を事例として、その意義と魅力を探る。		
到達目標:	1)日本を中心に多様な舞台音楽がどのような演出や音楽によって、視聴者を魅了したか、2)多様な映画の各ジャンルにおいて音楽がどのように活用されたかを理解し、自分のこれまでの視聴体験と比較しながら、それぞれのトピックへの関心と知識を深化させることができるかが求められる。		
授業方法:	講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 世界の人を魅了した日本人振付家が描き出したレビューの世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	2. 20世紀前半、バレエ音楽に新風を吹き込んだ振付家／作曲家の仕掛けとは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	3. 多言語による演劇における音楽の意味とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	4. 日本人を描いた西洋人が創作したオペラの音楽とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	5. 一つのテキストが多様に描き分けられる音楽の世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	6. 東アジアにおけるミュージカル音楽の受容の特徴とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	7. 劇団四季のミュージカル音楽の多様な世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	8. 21世紀宝塚歌劇団のあらたなる展開を見せる音楽の世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	9. 無声映画における「音楽」の魅力とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	10. 時代劇映像における「音楽」の役割とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	11. 邦画の中で鳴り響いた多様な「音楽」の魅力とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	12. アメリカ映画の音楽手法とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	13. 怪獣映画の音楽の世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	14. ディズニーカンパニー制作の映画音楽の世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	15. スタジオジブリ制作のアニメーション映画音楽の世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。		
フィードバックの方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする
	授業への参加度	30%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
	発表、報告	25%	準備学習(予習、復習)、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	講義時に適宜、提示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

メロディーとハーモニー

授業の概要:

基本的なコードを習得し、メロディーに適したコード付けを行う。
伴奏技能の上達とアレンジメント力を養う。

到達目標:

メロディーにコード付けを実施し、メロディーとともに即興的に演奏する。

授業方法:

講義および演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	音階上のコードとコードネーム1	教科書の該当I項目を予習する。
2.	音階上のコードとコードネーム2	教科書の該当I項目を予習する。
3.	機能和声とコードネーム1、演習1	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
4.	機能和声とコードネーム2、演習2	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
5.	属7、減7、副7のコード、演習3	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
6.	メロディーとコード1、演習4	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
7.	メロディーとコード2、演習5	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
8.	和声音と非和声音1、演習6	教科教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
9.	和声音と非和声音1、演習7	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
10.	借用和音、演習8	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
11.	準固有和音、演習9	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
12.	ナポリのIIとドリアのIVの和音、演習10	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
13.	伴奏テクニックとアレンジメント1、演習11	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
14.	伴奏テクニックとアレンジメント2、演習12	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
15.	総合	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演習	50	
	課題の実施	30	
	出欠席の状態と平常の学習態度等	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

ピアニストのためのコード学習帳、監修:角聖子、著:藤原豊・植田彰、リットー・ミュージック・ムック

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

マイ・ソング(うた)の創作

授業の概要:

ポップス系のうたやクラシックの歌曲などの創作方法を学び、オリジナルなマイ・ソング(うた)を創作する。

到達目標:

オリジナルなマイ・ソング(うた)の創作と発表

授業方法:

講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 導入:曲作りのプロセス	教科書の該当I項目を予習する。
	2. メロディー、ハーモニー、リズムについて 演習1	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	3. メロディーの作り方1. 演習2	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	4. メロディーの作り方2. 演習3	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	5. メロディーの作り方3. 演習4	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	6. 歌詞とメロディーの関係1. 演習5	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	7. 歌詞とメロディーの関係2. 演習6	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	8. 歌詞とメロディーの関係3. 演習7	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	9. コード進行のテクニック1. 演習8	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	10. コード進行のテクニック2. 演習9	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	11. コード進行のテクニック3. 演習10	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	12. 曲の構成について 演習11	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	13. イントロ, 間奏, エンディングについて 演習12	教科書の該当I項目を予習する。課題を実施する。
	14. 発表1	発表の準備1
	15. 発表2	発表の準備2

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演習	50	
	課題の実施	30	
	出欠席の状態と平常の学習態度等	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

作曲をしたい人の本 久米大作著 成美堂出版

参考書:

参考文献や資料を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

授業テーマ:

ピアノ曲の創作

授業の概要:

過去のピアノ曲を研究しつつ、各自、独自のピアノ曲を作曲する。
様々なピアノ曲を分析し、学生各人の創作のレッスンをを行う。

到達目標:

様々なピアノ曲を参考にしながら、自分なりのピアノ曲をつくる。

授業方法:

創作以外については演習形式。
創作に関する部分は、基本的にレッスン形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ピアノ曲をつくることについてのガイダンス	音楽に対する基礎的な知識の確認
2.	メロディと伴奏(右手と左手)について 1、ピアノ曲の創作 1	前回の授業の復習
3.	メロディと伴奏(右手と左手)について 2、ピアノ曲の創作 2	前回の授業の復習と課題創作
4.	分析:古典的様式のピアノ曲 1、ピアノ曲の創作 3	前回の授業の復習と課題創作
5.	分析:古典的様式のピアノ曲 2、ピアノ曲の創作 4	前回の授業の復習と課題創作
6.	分析:ロマン派のピアノ曲 1、ピアノ曲の創作 5	前回の授業の復習と課題創作
7.	分析:ロマン派のピアノ曲 2、ピアノ曲の創作 6	前回の授業の復習と課題創作
8.	分析:ロマン派のピアノ曲 3、ピアノ曲の創作 7	前回の授業の復習と課題創作
9.	分析:旋律が少し複雑に組み合わせさせた対位的なピアノ曲 1、ピアノ曲の創作 8	前回の授業の復習と課題創作
10.	分析:旋律が少し複雑に組み合わせさせた対位的なピアノ曲 2、ピアノ曲の創作 9	前回の授業の復習と課題創作
11.	分析:旋律が少し複雑に組み合わせさせた対位的なピアノ曲 3、ピアノ曲の創作 10	前回の授業の復習と課題創作
12.	分析:近現代のピアノ曲 1、ピアノ曲の創作 11	前回の授業の復習と課題創作
13.	分析:近現代のピアノ曲 2、ピアノ曲の創作 12	前回の授業の復習と課題創作
14.	クラシック以外のピアノ曲(ジャズなど) 1、ピアノ曲の創作 13	前回の授業の復習と課題創作
15.	クラシック以外のピアノ曲(ジャズなど) 2、ピアノ曲の創作 14	前回の授業の復習と課題創作

受講者へのメッセージやアドバイス:

創作は受身だけでは出来ないので、単に授業での課題をこなすだけではない積極的な姿勢で臨んでほしい。

フィードバックの方法:

授業に基づき、自宅での作曲が必須である。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	作品提出	60	提出された作品の内容
	平常点	40	授業に対する姿勢、中間レポートなど

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

授業テーマ:

器楽アンサンブル曲の創作

授業の概要:

弦楽器や管楽器、鍵盤楽器を編成とするのアンサンブル曲の創作方法を学び、オリジナル曲を創作する。

到達目標:

オリジナルな器楽アンサンブル曲の創作と発表

授業方法:

講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:いろいろな器楽作品について	どのようなアンサンブル曲を創作したいのか考える。
2.	木管楽器の基礎知識1 演習1	配布資料を参照する。課題を実施する。
3.	木管楽器の基礎知識2 演習2	配布資料を参照する。課題を実施する。
4.	木管楽器の基礎知識3 演習3	配布資料を参照する。課題を実施する。
5.	金管楽器の基礎知識1 演習4	配布資料を参照する。課題を実施する。
6.	金管楽器の基礎知識2 演習5	配布資料を参照する。課題を実施する。
7.	金管楽器の基礎知識3 演習6	配布資料を参照する。課題を実施する。
8.	弦楽器の基礎知識1 演習7	配布資料を参照する。課題を実施する。
9.	弦楽器の基礎知識2 演習8	配布資料を参照する。課題を実施する。
10.	弦楽器の基礎知識3 演習9	配布資料を参照する。課題を実施する。
11.	楽曲の構成と創作1 演習10	配布資料を参照する。課題を実施する。
12.	楽曲の構成と創作2 演習11	配布資料を参照する。創作を実施する。
13.	楽曲の構成と創作3 演習12	配布資料を参照する。創作を実施する。
14.	創作のまとめ	配布資料を参照する。創作を実施する。
15.	発表	発表の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演習、創作	50	
	課題の実施	30	
	出欠席の状態と平常の学習態度等	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

参考書:

参考文献や資料を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

358900

ミュージッククリエイションD

葛西

聖憲

授業テーマ:	合唱曲や合奏曲の創作			
授業の概要:	以下のプロセスを組み合わせ、各自の創作へと導く。 ○ 楽器としての声の使い方と歌詞との連鎖の習得 ○ 様々な楽器の機能を習得 ○ 過去の合唱曲や合奏曲の分析とその模倣 ○ 上記を参考にした創作			
到達目標:	伴奏付および無伴奏の女声・男声・混声合唱曲や、多様な楽器を用いた合奏曲をつくる。			
授業方法:	創作以外については演習形式。 創作に関する部分は、基本的に1対1のレッスン形式。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	ガイダンス	音楽に対する基礎的な知識の確認	
	2.	合唱曲の創作 1	前回の授業の復習	
	3.	合唱曲の創作 2	前回の授業の復習と課題創作	
	4.	合唱曲の創作 3	前回の授業の復習と課題創作	
	5.	合唱曲の創作 4	前回の授業の復習と課題創作	
	6.	合奏曲の創作 1	前回の授業の復習と課題創作	
	7.	合奏曲の創作 2	前回の授業の復習と課題創作	
	8.	合奏曲の創作 3	前回の授業の復習と課題創作	
	9.	合奏曲の創作 4	前回の授業の復習と課題創作	
	10.	声のパートを含む合奏曲の創作 1	前回の授業の復習と課題創作	
	11.	声のパートを含む合奏曲の創作 2	前回の授業の復習と課題創作	
	12.	声のパートを含む合奏曲の創作 3	前回の授業の復習と課題創作	
	13.	声のパートを含む合奏曲の創作 4	前回の授業の復習と課題創作	
	14.	声のパートを含む合奏曲の創作 5	前回の授業の復習と課題創作	
	15.	声のパートを含む合奏曲の創作 6	前回の授業の復習と課題創作	
受講者へのメッセージやアドバイス:	創作は受身だけでは出来ないので、単に授業での課題をこなすだけではない積極的な姿勢で臨んでほしい。			
フィードバックの方法:	授業に基づく自宅での作曲が必須である。			
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	作品提出	60	提出された作品の内容	
	平常点	40	授業に対する姿勢、中間レポートなど	
教科書:				
参考書:				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力			
教員との連絡方法:	オフィスアワー他			

359000

コンピュータミュージック演習A

檜垣 智也

授業テーマ:

コンピュータを用いた音楽表現技法について学ぶ。

授業の概要:

コンピュータを用いた音楽制作の環境について理解する。またAvid社のPro Toolsを用いたMIDIを用いた入力、編集の基本を習得をする。

到達目標:

アプリケーションの操作法とMIDIについて理解すること。
コンピュータを用いた新しい音楽表現についての教養とセンスを深めること。

授業方法:

Apple社のMacにインストールした音楽制作用ソフトウェアを用いた演習形式による授業。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	特になし
2. コンピュータ・ミュージックの制作環境1	特になし
3. コンピュータ・ミュージックの制作環境2	特になし
4. 音楽制作ソフトウェアの使い方1	授業で学んだ操作を復習しておく。
5. 音楽制作ソフトウェアの使い方2	授業で学んだ操作を復習しておく。
6. 音楽制作ソフトウェアの使い方3	授業で学んだ操作を復習しておく。
7. ミニ課題の制作	授業で学んだ操作を復習しておく。
8. ミニ課題の合評	ミニ課題を制作しておく。
9. 最終課題の説明	特になし
10. 課題の個別指導1	課題の制作をすすめておく。
11. 課題の個別指導2	課題の制作をすすめておく。
12. 課題の個別指導3	課題の制作をすすめておく。
13. 課題の個別指導4	課題の制作をすすめておく。
14. 課題の個別指導5	課題の制作をすすめておく。
15. 合評会	課題の制作をすすめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業が受講生の理解度に合わせて進行するため、シラバス通りに進むとは限りません。
授業ではアプリケーションの操作を系統的に学びます。休むと前の操作がわからなくなるので、できるだけ休まないでください。
また、コンピュータを用いた新しい音楽について、たくさん触れて、感性を養ってください。
授業内で、たくさんのコンサートを紹介していきますので、参考にしてください。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びミニ課題の提出	41	アプリケーションの習熟度
最終課題の提出	59	オリジナリティとクオリティ

教科書:

授業内でプリント配布します。

参考書:

授業内で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業内に相談してください。

359100

コンピュータミュージック演習B

檜垣 智也

授業テーマ:

コンピュータミュージック演習Aに引き続き、コンピュータを用いた音楽表現技法について学ぶ。

授業の概要:

コンピュータミュージック演習Aをふまえて、電子音響音楽(ミュージック・コンクレート)の制作を通じて、Avid社のPro Toolsを用いた音声の録音、エディット、エフェクト、ミックスについて習得する。

到達目標:

アプリケーションの操作、とりわけAUDIOに関する取扱について習得する。
電子音響音楽の教養とセンスを身につける。

授業方法:

Apple社のMacにインストールした音楽制作用ソフトウェアを用いた演習形式による授業。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	特になし
2. 音声編集について1	特になし
3. 音声編集について2	学んだアプリケーションの操作方法の復習。
4. 音声編集について3	学んだアプリケーションの操作方法の復習。
5. 録音方法	学んだアプリケーションの操作方法の復習。
6. ミニ課題の制作	学んだ録音方法の復習
7. ミニ課題の合評	ミニ課題の制作
8. 最終提出課題(電子音響音楽／ミュージック・コンクレートの制作)の説明	特になし
9. 課題の個別指導1	最終課題の制作
10. 課題の個別指導2	最終課題の制作
11. 課題の個別指導3	最終課題の制作
12. 課題の個別指導4	最終課題の制作
13. 課題の個別指導5	最終課題の制作
14. 課題の個別指導6	最終課題の制作
15. 合評会	最終課題の制作

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業内での課題の制作も可能であるが、授業を受けながら、自宅での制作環境を整え自宅でも制作できるようにしてほしい。コンピュータを援用した新しい音楽への教養とセンスを身につけるために、コンサートなどのイベントに参加してほしい。授業でたくさん紹介していきます。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びミニ課題の提出	41	アプリケーションの習熟度
最終課題	59	オリジナリティとクオリティ

教科書:

授業内でプリント配布します。

参考書:

授業内で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業内に相談してください。

359200

コンピュータミュージック演習C

石上和也

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

メディア・アート表現／映像音響作品の制作技術の習得

●映像表現の基礎知識、映像編集技術の習得。
●音楽家の視点から、映像作品を制作する為の方法論の習得

・毎回、授業前半は講義をおこない、後半は演習をおこなう。
・一人一台コンピュータ(Mac)を使用して演習をおこなう。
・講義時に映像／音響作品の紹介もおこなう。

授業内容

1.映像と音の表現:基礎知識その1

2.映像と音の表現:基礎知識その2

3.映像と音の表現:基礎知識その3

4.音楽における映像映像における音楽について

5.映像編集ソフトの概要

6.映像編集ソフト基本操作その1

7.映像編集ソフト基本操作その2

8.映像編集ソフト:編集テクニック1

9.映像編集ソフト:編集テクニック2

10.映像編集ソフト:編集テクニック3

11.映像音響作品制作・発表指導

12.映像音響作品制作・発表指導

13.映像音響作品制作・発表指導

14.映像音響作品制作・発表指導

15.合評

準備学習等の内容

予習:受講前に映像作品(TV、DVD等どんなジャンルの映像でも構わないので)の鑑賞時に、音／音楽を意識して鑑賞すること。

受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。

受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。

受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。

受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。

受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。

受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。

受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。

受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。

前回の制作状況の把握をおこなうこと。

前回の制作状況の把握をおこなうこと。

前回の制作状況の把握をおこなうこと。

合評までに作品を完成させること。

作品制作時に個別に指導をおこなう。完成した作品に対して合評時にコメントする。

評価方法割合評価基準

平常点(出席、授業態度、積極的参加度)70到達目標「映像表現の基礎知識、映像編集技術の習得」ができているかを評価する。

レポート・課題30到達目標「音楽家の視点から、映像作品を制作する為の方法論の習得」ができているかを評価する。

プリント配布

授業内で適宜指示

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

授業の前後に教室内で応対

359300

コンピュータミュージック演習D

石上 和也

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

●メディア・アート／サウンドアート／音楽＋視覚芸術の基礎知識の習得
●作品発表の表現方法・能力の取得
●自分の作品を他者へ届けるための能力の習得
●社会の中での芸術表現について考察し理解する
●サウンド・ビジュアル・プログラミングの基礎基礎の習得

授業方法:

・1回から4回までは講義を中心におこなう。5回以降は、授業前半は講義、後半は演習をおこなう。
・一人一台コンピュータ(Mac)を使用して演習をおこなう。
・サウンドアート／メディアアート作品の紹介もおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. サウンド・アート／メディア・アートについて 歴史・表現方法1	予習:受講前にサウンド・アート／メディア・アートについてインターネット等で調べおくこと
2. サウンド・アート／メディア・アートについて 歴史・表現方法2	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
3. サウンド・アート／メディア・アートについて 歴史・表現方法3	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
4. サウンド・アート／メディア・アートについて 歴史・表現方法4	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
5. サウンド・アート／メディア・アート制作演習1 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
6. サウンド・アート／メディア・アート制作演習2 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
7. サウンド・アート／メディア・アート制作演習3 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
8. サウンド・アート／メディア・アート制作演習4 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
9. サウンド・アート／メディア・アート制作演習5 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
10. サウンド・アート／メディア・アート制作演習6 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
11. 作品制作・発表 指導	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
12. 作品制作・発表 指導	前回の制作状況の把握をおこなうこと。
13. 作品制作・発表 指導	前回の制作状況の把握をおこなうこと。
14. 作品制作・発表 指導	前回の制作状況の把握をおこなうこと。
15. 合評	合評までに作品を完成させること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

作品制作時に個別に指導をおこなう。完成した作品に対して合評時にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点(出席、授業態度、積極的参加度)	70	到達目標「メディア・アート／サウンドアート／音楽＋視覚芸術の基礎知識の習得」「社会の中での芸術表現について考察し理解する」「サウンド・ビジュアル・プログラミングの基礎基礎の習得」ができているかを評価する。
レポート・課題	30	到達目標「作品発表の表現方法・能力の取得」「自分の作品を他者へ届けるための能力の習得」ができているかを評価する。

教科書:

プリント配布

参考書:

授業内で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

360501、02

リトミックA

辻 裕

授業テーマ:

ダルクローズ・リトミックのサブジェクトを通じて、音楽の様々な要素を感じ、それを動きながら音楽を体験し、音楽と動きを関連づけた音楽教育として、感性トレーニングとしてのリトミックを学ぶ。

授業の概要:

基礎的な音楽の項目やニュアンスを、身体を使って習得し、カラーボード・ボール・スカーフやトーンチャイムなども使い、トレーニングする。

到達目標:

音・音楽の様々な基礎的な音楽項目やニュアンスを、身体を使って習得し、表現やコミュニケーション力の感性基礎トレーニングをする。

授業方法:

演習/実技の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 拍のニュアンスとアクセント	拍子・拍・アクセントについての基礎的な楽典知識が必要
2. 音の強弱のニュアンスと拍・拍子の強弱	強弱記号や拍子のアクセントについての基礎的な楽典知識が必要
3. 音や音楽の高低やテンポによるニュアンスと方向	速度記号や音程についての基礎的な楽典知識が必要
4. 強弱・遅速・高低のニュアンスと感覚	音楽の内に秘めた感覚
5. 拍(Beat)の考え方と、拍子のニュアンス	2Beat・4Beat・8Beatについて
6. 分割リズムと統合リズムと倍加半減	音符や休符についての基礎的な楽典知識が必要
7. 研究発表(1)	用意された課題をグループで考えて発表する
8. 和音の性格と種類によるニュアンス	四種類の和音について
9. リズムの強弱とリズムパターン・リズムフレーズ	音楽構成の分析
10. リズム即興と即興演奏法	リズムの作り方と伴奏例
11. スケールとハーモニー	音階と和声の基礎的な楽典知識が必要
12. 自由即興演奏法	用意された方法を実践する
13. 研究発表(2)	用意された課題をグループで創作発表する
14. メロディー即興と動きの伴奏法	プリントの資料を参考に実践する
15. 動きと音楽、音楽と動き	音楽とリトミックの関係

受講者へのメッセージやアドバイス:

動きやすいやすい服装と底の薄い靴(パレーシューズなど)で受講。

フィードバックの方法:

授業内にてコメントします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究発表による評価	50%	グループ発表での達成度
平常点	50%	授業への積極的参加度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

音楽の感性トレーニングの一つとして、音楽と動きを関連づけた音楽教育としてのリトミックを学ぶ。

授業の概要:

個人・グループなどでの活動の中で、コミュニケーション能力と自己表現力のトレーニング。

到達目標:

音楽から動き、動きからのプロセスの中で、音楽を通じて感性と音楽性を高める。

授業方法:

演習/実技の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 音と歩行、音楽と歩行とクラッピング	音と音楽のタイミングをトレーニング。
	2. 音楽歩行と体重移動の関係とニュアンス	音楽を歩行することで、長さや重さを感じるトレーニング。
	3. 筋肉の緊張と弛緩と音楽との関係	音楽の緊張感を筋肉で捉えるトレーニング。
	4. 身体を使っののリズム表現と音楽表現	音楽を聴いて、身体のいろんな部分を動くトレーニング。
	5. ことばのリズムから音楽	言葉のアクセントやリズムのトレーニング。
	6. 研究発表(1)	用意された曲をグループで創作発表。
	7. 基礎的な動き(1)	音楽を聴いて動くトレーニング。
	8. 基礎的な動き(2)と様々な動き	音楽のニュアンスを動くトレーニング。
	9. 道具を使っのの動き(ボール・スカーフ)	道具を使って、音楽のニュアンスを表現するトレーニング。
	10. 道具を使っのの動き(カラーボード・トーンチャイム)	ニュアンスの違いと動きの違いのトレーニング。
	11. 動きから音へ(ピアノ即興演奏法も含む)	動きに音楽を付けるトレーニング。
	12. 動きのための即興演奏法と伴奏演奏法(1)	色々な伴奏パターンと即興のトレーニング。
	13. 研究発表(2)	課題曲をグループで創作発表。
	14. 動きのための即興演奏法(2)	グループで動く人と弾く人に分かれて、即興のトレーニング。
	15. 音楽と動き、動きと音楽、音楽とリトミック	リトミックのまとめ。

受講者へのメッセージやアドバイス:

動きやすい服装と底の薄いシューズもしくは裸足で受講

フィードバックの方法:

授業内にてコメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究発表の評価	50%	達成度と表現力と感性。
	平常課題	50%	授業への積極的参加度。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	ギター、素晴らしき世界に触れる		
授業の概要:	実際に楽器を使い、弾き方を習得する 幅広く音楽の中でのギターの役割を理解する		
到達目標:	簡単な旋律の演奏と伴奏 楽器のメンテナンスを含めた全体の理解		
授業方法:	実際に楽器を使い、グルーブレッスンの形態をとりながら楽器への理解を深める		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	スケール1 1弦と2弦を使った音階 旋律演奏	アポヤンドとアルアイレを理解する 課題: かつこう
	2.	スケール2 3弦を使った音階 旋律演奏	簡単な旋律を集める
	3.	スケール3 4弦と5弦を使う音階 右手の弾弦と左手の押弦	音域の拡大を理解する
	4.	CとG7のコード コード演奏の実際 右手の弾き方	コードの理解 課題: いとしのクレメンタイン
	5.	オルタネーティング・ベース 右手親指の演奏	ベースの理解 課題: 駅馬車、ボルカ(三重奏)
	6.	Am、E、E7のコード 調性の理解	調性を広げる 課題: 一週間
	7.	Dmコード カデンツの理解	様々な終止形を理解する 課題: ボヘミアの歌、行商人
	8.	スケール4 6弦を使うスケール	課題: 遥かなる谷間
	9.	Fのコード Fを使った伴奏	課題: 帰省、旅愁 旅愁の歌詞を調べる
	10.	セーハの技法 C on Gのコード	課題: 星の世界
	11.	GとD7のコード ト長調の旋律の伴奏	課題: 波とうを超えて、バラのタンゴ
	12.	Em、B7、Dのコード ホ短調の旋律の伴奏 ストローク奏法	課題: 愛のロマンス、グリーンスリーブス
	13.	ギター音楽の歴史	音楽史の中のギター史を調べる
	14.	ギターの管理の方法 弦の交換	コードの理解の徹底
	15.	まとめ	これまでの復習
受講者へのメッセージやアドバイス:	実際に楽器を使う授業ですので		
フィードバックの方法:	レポートはコメントを付けて返却する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	30	ギターに対する理解度、現場で指導するための知識を評価する
	授業への参加度	70	演習への参加意欲と受講態度を評価する
教科書:	ヤマハ音楽振興会・Classic Guitar Course vol.1・株式会社ヤマハミュージックメディア		
参考書:	ヤマハ音楽振興会・Classic Guitar Course vol.2・株式会社ヤマハミュージックメディア		
	ヤマハ音楽振興会・Classic Guitar Course vol.3・株式会社ヤマハミュージックメディア		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	masuikazutomo@gmail.com		

授業テーマ:

授業の概要: リコーダーの歴史から始め、基礎奏法（ロングトーン、タンギング、スラー、スタッカート、チューニング等）の講義と実習を通して、教育現場における指導方法を習得させる。

到達目標: 1.リコーダーの基礎奏法の習得
2.学生自身が選択した曲の演奏と、他の学生を中高校生に見立てての指導ができること
3.課題曲の演奏

授業方法: 講義と実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	リコーダーの歴史、楽器についての説明、運指表を用いて音を確認する。	手持ちアルトリコーダーを持参
2.	ロングトーン、タンギング、スラー、スタッカートを中心に左手を使った曲を用いて練習する。	事前配布テキストの予習
3.	チューニングの説明と両手を使った練習で演奏音域を拡げてゆく。	前週の復習
4.	サミングの説明を加え、主に高音域の練習を行う。	前週の復習
5.	この回以降、学生自身で選択した曲を教師の立場として、グループ分けした他の学生に模擬指導し、それに対しての意見交換を実施してもらう。	選択曲の事前用意
6.	フラットを使った曲を主に練習する。	事前配布テキストの予習
7.	シャープを使った曲を主に練習する。	前週の復習
8.	二声及び三声の曲を使い、プレスやフレーズの取り方、音の合わせ方等の練習を行う。	前週の復習
9.	二人、又は三人のグループに分けて課題曲の演奏と、それに対する意見交換を学生間で行う。	事前配布の課題曲の予習
10.	同上	課題曲の復習
11.	ダブルタンギングの説明とバスパートの付いた曲の練習。	事前配布テキストの予習
12.	まとめの曲の説明と練習。	事前配布したまとめ曲の予習
13.	アルトリコーダーのまとめ。	まとめ曲の復習
14.	ソプラノリコーダーを使用した音階練習と、即興にて短いフレーズを作り、それを他の学生に模倣させる練習を行う。	ソプラノリコーダーの持参
15.	テキストを使用し、ソプラノリコーダーを用いて二声及び三声の曲を実習する。	事前配布テキストの予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 実技試験による採点

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実技試験	30	
	出席状況	70	授業への積極的な参加等の態度

教科書: 全てプリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業前後に教室内で応対

授業テーマ:

授業の概要: ヴィオラ・ダ・ガンバの基本的な演奏法を身につけ、ルネサンス時代の色々な国の曲を合奏体験する。

到達目標: ・楽器を正しく構え、弓を正しく持ち演奏する。
・ルネサンス、バロック時代の演奏スタイルを学び、演奏する。
・合奏することで相手を思いやり、助け合い、共に楽しむ。

授業方法: アンサンブルでの指導をいたしますが、持ち方、弾き方などは個人的に指導することもあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 楽器についての資料配布、楽器の取り扱い説明および楽器の説明。楽器の割り当て、楽器・弓の持ち方の説明。	
	2. 資料に基づいて楽器の弾き方（開放弦）。	楽器の名称や開放弦の音を覚える。
	3. 資料に基づいて楽器の弾き方。	楽器の名称、開放弦の音を覚える。
	4. 指板上の音の弾き方。音階練習（1オクターブ）。	
	5. 音階練習（1オクターブ）。簡単な曲の演習。	第4回で指導した指板上の音（1オクターブ）を覚える。
	6. 簡単な曲の演習。	指板上の音（1オクターブ）を覚える。
	7. 全弦を使った音階練習。簡単な曲の演習。	開放弦を覚える。
	8. 受講生各自の選択による自由曲の発表。	発表の練習。
	9. 合奏の演習。スペインの世俗曲。 J.デル エンシーナ(1468-1526)「美しいご婦人」	各自パートの歌を歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
	10. 合奏の演習。イタリアの舞曲。 G.ザネッティ(?～1626?)「麗しのペドリナ」	各自のパートに言葉が付いているようなアーティキュレーションを考える。
	11. 合奏の演習。イギリスの古い讃美歌。 J.ダウランド(1563～1626)編曲「第100番」	各自パートの歌を歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
	12. 合奏の演習。ドイツの世俗曲。 H.L.ハスラー(1562～1612)「私はあなたの心から離れません」	各自パートの歌を歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
	13. 合奏の演習。フランスのシャンソン。 T.アルポー(1520～1595)「私を虜にした美しい人」	各自パートの歌を歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
	14. グループによるアンサンブル練習（演習曲より各グループ選択）。	各自個人練習。
	15. アンサンブルグループによる発表とまとめ。	各自個人練習。グループでの練習ができるとなお良い。

受講者へのメッセージやアドバイス: 第7回目終了以降、学内に限り楽器の貸し出しが可能です。

フィードバックの方法: 必要な場合、口頭で伝えます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	70%	合奏を中心とした授業ですので、特別な理由が無い限り授業日数の1/3以上の欠席は不可となります。
	発表	30%	個人の発表では基本的なことが習得できているかどうか、グループでの発表では仲間と積極的に曲を仕上げながら自分の役割を果たしているかどうか。

教科書:

参考書: ヴィオール概論 ジャン・ルソー著 関根敏子/神戸愉樹美共訳(アカデミアミュージック出版)
新版古楽のすすめ 金澤正剛著 (音楽の友社)
Metodo completo e progressivo per viola da gamba vol.1 Paolo Violdi/Vittorio Ghielmi著 (UT ORPHEUS EDIZIONI)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応いたします。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

ソプラノ、アルト、テナー、バスの4種類のリコーダーを使用し、主にルネッサンス音楽の演奏を通して、合奏の楽しさやハーモニーの美しさを実感させる。

1.個々の学生が選択した声部を正確に演奏できること。
2.自身が選択した声部以外の演奏を聴きながら、調和させての演奏ができること。

四種類の楽器(ソプラノ、アルト、テナー、バス)を用いた合奏を主とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	学生の経験の有無を聞き、ソプラノ、アルト、テナー、バスの中から希望するリコーダーに分けて、楽器の扱い方、運指法、譜面台の組み立て方等を説明する。	手持ちソプラノおよびアルトリコーダーを持参
2.	M. プレトリウスの「4声のダンス音楽」より抜粋した曲を実習。	自分の声部の運指の確認。
3.	M. プレトリウスの「4声のダンス音楽」より抜粋した曲を実習。	前週の復習
4.	M. プレトリウスの「スペインヨレッタ」を用いて実習	事前に予習
5.	P.ファレーズの二つのダンス曲(ガイアルド)を用いて実習。	事前に予習
6.	P.ファレーズの二つのダンス曲(ガイアルド)を用いて実習。	前週の復習
7.	T.スザートの「ロンド」と「バスダンス」を実習。	事前に予習
8.	T.スザートの「ロンド」と「バスダンス」を実習。	前週の復習
9.	C.ジェルヴェーズの「パヴァーヌとガリアルド」を実習。	事前に予習
10.	C.ジェルヴェーズの「パヴァーヌとガリアルド」を実習。	前週の復習
11.	作者不詳「パヴァーヌ」を実習。	事前に予習
12.	作者不詳「パヴァーヌ」を実習。	前週の復習
13.	全体を2～3組に分け、2～8回の講義中の曲から抜粋し、グループ毎に演奏を行う。	2～8回の講義曲の復習
14.	前回同様に9～12回の講義中の曲から抜粋し、グループ毎に演奏を行う。	9～12回の講義曲の復習
15.	まとめ。	まとめ演奏の練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

実技試験による採点

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実技試験	30	
	出席状況	70	授業への積極的参加等の態度

教科書:

全てプリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後に教室内で対応

授業テーマ:			
授業の概要:	ソプラノ、アルト、テナー、バスの4種類のリコーダーを使用し、主にルネッサンス音楽の演奏を通して、合奏の楽しさやハーモニーの美しさを実感させる。		
到達目標:	1.個々の学生が選択した声部を正確に演奏できること。 2.自身が選択した声部以外の演奏を聴きながら、調和させての演奏ができること。		
授業方法:	四種類の楽器(ソプラノ、アルト、テナー、バス)を用いた合奏を主とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	学生の経験の有無を聞き、ソプラノ、アルト、テナー、バスの中から希望するリコーダーに分けて、楽器の扱い方、運指法、譜面台の組み立て方等を説明する。	手持ちソプラノおよびアルトリコーダーを持参
	2.	M. プレトリウスの「4声のダンス音楽」より抜粋した曲を実習。	自分の声部の運指の確認。
	3.	M. プレトリウスの「4声のダンス音楽」より抜粋した曲を実習。	前週の復習
	4.	M. プレトリウスの「スパニョレッタ」を用いて実習	事前に予習
	5.	P.ファレーズの二つのダンス曲(ガイアルド)を用いて実習。	事前に予習
	6.	P.ファレーズの二つのダンス曲(ガイアルド)を用いて実習。	前週の復習
	7.	T.スザートの「ロンド」と「バスダンス」を実習。	事前に予習
	8.	T.スザートの「ロンド」と「バスダンス」を実習。	前週の復習
	9.	C.ジェルヴェーズの「パヴァーヌとガリアルド」を実習。	事前に予習
	10.	C.ジェルヴェーズの「パヴァーヌとガリアルド」を実習。	前週の復習
	11.	作者不詳「パヴァーヌ」を実習。	事前に予習
	12.	作者不詳「パヴァーヌ」を実習。	前週の復習
	13.	全体を2～3組に分け、2～8回の講義中の曲から抜粋し、グループ毎に演奏を行う。	2～8回の講義曲の復習
	14.	前回同様に9～12回の講義中の曲から抜粋し、グループ毎に演奏を行う。	9～12回の講義曲の復習
	15.	まとめ。	まとめ演奏の練習
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	実技試験による採点		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	30	授業への積極的参加等の態度
	出席状況	70	
教科書:	全てプリント配布		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で対応		

授業テーマ:			
授業の概要:	ヴィオラ・ダ・ガンバの基本的な演奏法を身につけ、ルネサンス時代の色々な国の曲を合奏体験する。		
到達目標:	・楽器を正しく構え、弓を正しく持ち演奏する。 ・ルネサンス、バロック時代の演奏スタイルを学び、演奏する。 ・合奏することで相手を思いやり、助け合い、共に楽しむ。		
授業方法:	アンサンブルでの指導をいたしますが、持ち方、弾き方などは個人的に指導することもあります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	楽器についての資料配布、楽器の取り扱い説明および楽器の説明。楽器の割り当て。楽器・弓の持ち方の説明。	
	2.	資料に基づいて楽器の弾き方(開放弦)。	楽器の名称や開放弦の音を覚える。
	3.	資料に基づいて楽器の弾き方。	楽器の名称や開放弦の音を覚える。
	4.	指板上の音の弾き方。音階練習(1オクターブ)。	
	5.	音階練習(1オクターブ)。簡単な曲の演習。	第4回で指導した指板上の音(1オクターブ)を覚える。
	6.	簡単な曲の演習。	指板上の音(1オクターブ)を覚える。
	7.	全弦を使った音階練習。簡単な曲の演習。	開放弦を覚える。
	8.	受講生各自の選択による自由曲の発表。	発表に向けての個人練習(学内であれば楽器の貸し出し可能)。
	9.	合奏の演習。スペインの世俗曲。 J.デル エンシーナ(1468～1526)「美しいご婦人」	各自のパートを歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
	10.	合奏の演習。イタリアの舞曲。 G.ザネッティ(?～1626?)「麗しのペドリナ」	各自のパートに言葉が付いているようなアーティキュレーションを考える。
	11.	合奏の演習。イギリスの古い讃美歌。 J.ダウランド(1563～1626)編曲「第100番」	各自のパートを歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
	12.	合奏の演習。ドイツの世俗曲。 H.L.ハスラー(1562～1612)「私はあなたの心から離れません」	各自のパートを歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
	13.	合奏の演習。フランスのシャンソン。 T.アルポー(1520～1595)「私を虜にした美しい人」	各自のパートを歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
	14.	グループによるアンサンブル練習(演習曲より各グループ選択)。	各自個人練習。
	15.	アンサンブルグループによる発表とまとめ。	各自個人練習。グループでの練習が出来るとなお良い。
受講者へのメッセージやアドバイス:	第7回目終了以降、学内に限り楽器の貸し出しが可能です。		
フィードバックの方法:	必要な場合、口頭で伝えます。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	70%	合奏を中心とした授業ですので、特別な理由がない限り授業日数の1/3以上の欠席は不可となります。
	発表	30%	個人の発表では基本的なことが習得できているかどうか。グループの発表では仲間と積極的に曲を仕上げながら自分の役割を果たしているかどうか。
教科書:			
参考書:	ヴィオール概論 ジャン・ルソー著 関根敏子/神戸愉樹美共訳(アカデミアミュージック出版)		
	新版 古楽のすすめ 金澤正剛著(音楽の友社)		
	Metodo completo e progressivo per viola da gamba vol.1 Paolo Violdi/Vittorio Ghielmi著(UT ORPHEUS EDIZIONI)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応します。		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

授業内容

授業内容

準備学習等の内容

ヴィオラ・ダ・ガンバの演奏を通して西洋古楽(ルネサンス及びバロック音楽)を学ぶ。

古楽器演習ⅠまたはⅡで習得した基礎演奏技術をさらに発展させ、中級技術をマスターする。

基本的にはアンサンブル指導ですが、適宜個人的な指導も行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	楽器の割り当て。 楽器の構え方、ボウイングの確認。	
2.	合奏の演習。イタリアの舞曲 作者不詳(16世紀) 「農夫」	
3.	合奏の演習。イタリアの舞曲 作者不詳(16世紀) 「農夫」	第2回の際の注意点を踏まえて、個人練習。
4.	合奏の演習。フランスのシャンソン P.アテニャン(1494?~1552) 「花と輝ける時」	
5.	合奏の演習。フランスのシャンソン P.アテニャン(1494?~1552) 「花と輝ける時」	第4回の際の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
6.	合奏の演習。スペインの歌曲 J.デル・エンシーナ(1468~1529) 「スペインよ、嘆け」	
7.	合奏の演習。スペインの歌曲 J.デル・エンシーナ(1468~1529) 「スペインよ、嘆け」	第6回の際の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
8.	合奏の演習。ドイツの世俗曲 L.ゼンフル(1486頃~1542) 「いとしのエルスライン」	
9.	合奏の演習。ドイツの世俗曲 L.ゼンフル(1486頃~1542) 「いとしのエルスライン」	第8回の際の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
10.	合奏の演習。フランドルのシャンソン J.デ・ブレ(1440頃~1521) 「千々の悲しみ」	
11.	合奏の演習。フランドルのシャンソン J.デ・ブレ(1440頃~1521) 「千々の悲しみ」	第10回の際の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
12.	合奏の演習。イギリスの舞曲 作者不詳(16世紀) 「侯爵夫人のパヴァーヌ」	
13.	合奏の演習。イギリスの舞曲 I.アルヴェルティ(?~1565?) 「アルヴェルティのパヴァーヌ」	
14.	合奏の演習。イギリスの舞曲 作者不詳(16世紀) 「ガリアルド」	
15.	アンサンブルによる発表とまとめ。	第15回の発表に向けて個人練習。アンサンブルでの練習が可能であればなお良。

受講者へのメッセージやアドバイス:

・受講生の人数及び、授業の進捗状況により演習曲を変更する場合があります。
・古楽器演習(ヴィオラ・ダ・ガンバ)ⅠまたはⅡを履修していない学生が受講する場合、授業時間以外に個人的な練習が必要になる場合があります。

フィードバックの方法:

必要な場合、口頭で伝えます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極参加度	70%	アンサンブルを中心とした授業ですので、特別な理由がない限り授業の1/3以上の欠席は不可となります。
	発表	30%	仲間と積極的に曲を仕上げながら、自分の役割を果たしているかどうか。

教科書:

参考書:

「ヴィオール概論」 ジャン・ルソー著 関根敏子/神戸愉樹美共訳(アカデミアミュージック出版)
「Metodo completo e progressivo per viola da gamba vol.1」 Paolo Violdi/Vittorio Ghielmi著(UT ORPHEUS EDIZIONI)
「音楽と言語」T.Gゲオリギアース著 木村敏訳(講談社学術文庫)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:			
授業の概要:	ソプラノ、アルト、テナー、バスの4種類のリコーダーを使用し、主にバロック音楽の演奏を通して、合奏の楽しさやハーモニーの美しさを実感させる。		
到達目標:	1.個々の学生が選択した声部を正確に演奏できること。 2.自身が選択した声部以外の演奏を聴きながら、調和させての演奏ができること。		
授業方法:	四種類の楽器(ソプラノ、アルト、テナー、バスリコーダー)を用いた合唱を主とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 学生をソプラノ・アルト・テナー・バスリコーダーに振り分けて、イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	手持ちリコーダーを持参	
	2. イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	前週実習の課題曲を復習	
	3. イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	課題曲の復習	
	4. J.J.モレの「ロンド」を用いて実習。	前週配布の課題曲の予習	
	5. J.J.モレの「ロンド」を用いて実習。	前週実習の課題曲を復習	
	6. G.F.ヘンデルの「平和」	前週配布の課題曲の予習	
	7. G.F.ヘンデルの「平和」	前週実習の課題曲を復習	
	8. G.P.テレマンの「四つのフーガ」	前週配布の課題曲の予習	
	9. G.P.テレマンの「四つのフーガ」	前週実習の課題曲を復習	
	10. H.パーセルの「シャコンヌ」	前週配布の課題曲の予習	
	11. H.パーセルの「シャコンヌ」	前週実習の課題曲を復習	
	12. G.F.ヘンデルの「水上の音楽」	前週配布の課題曲の予習	
	13. G.F.ヘンデルの「水上の音楽」	前週実習の課題曲を復習	
	14. 1～7回迄の講義の総復習。	1～7回までの課題曲の復習	
	15. 8～13回迄の講義の総復習。	8～13回までの課題曲の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	実技試験による採点		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	30	授業への積極的な参加等の態度
	出席状況	70	
教科書:	全てプリント配布		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で対応		

授業テーマ:			
授業の概要:	ソプラノ、アルト、テナー、バスの4種類のリコーダーを使用し、主にバロック音楽の演奏を通して、合奏の楽しさやハーモニーの美しさを実感させる。		
到達目標:	1.個々の学生が選択した声部を正確に演奏できること。 2.自身が選択した声部以外の演奏を聴きながら、調和させての演奏ができること。		
授業方法:	四種類の楽器(ソプラノ、アルト、テナー、バスリコーダー)を用いた合唱を主とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 学生をソプラノ・アルト・テナー・バスリコーダーに振り分けて、イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	手持ちリコーダーを持参	
	2. イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	前週実習の課題曲を復習	
	3. イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	課題曲の復習	
	4. J.J.モレの「ロンド」を用いて実習。	前週配布の課題曲の予習	
	5. J.J.モレの「ロンド」を用いて実習。	前週実習の課題曲を復習	
	6. G.F.ヘンデルの「平和」	前週配布の課題曲の予習	
	7. G.F.ヘンデルの「平和」	前週実習の課題曲を復習	
	8. G.P.テレマンの「四つのフーガ」	前週配布の課題曲の予習	
	9. G.P.テレマンの「四つのフーガ」	前週実習の課題曲を復習	
	10. H.パーセルの「シャコンヌ」	前週配布の課題曲の予習	
	11. H.パーセルの「シャコンヌ」	前週実習の課題曲を復習	
	12. G.F.ヘンデルの「水上の音楽」	前週配布の課題曲の予習	
	13. G.F.ヘンデルの「水上の音楽」	前週実習の課題曲を復習	
	14. 1～7回迄の講義の総復習。	1～7回までの課題曲の復習	
	15. 8～13回迄の講義の総復習。	8～13回までの課題曲の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	実技試験による採点		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	30	授業への積極的な参加等の態度
	出席状況	70	
教科書:	全てプリント配布		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で対応		

授業テーマ:

授業の概要: ヴィオラ・ダ・ガンバの演奏を通して西洋古楽(ルネサンス及びバロック音楽)を学ぶ。

到達目標: 古楽器演習ⅠまたはⅡで習得した基礎演習技術をさらに発展させ、中級技術をマスターする。

授業方法: 基本的にはアンサンブル指導ですが、適宜個人的な指導も行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 楽器の割り当て。 楽器の構え方、ボウイングの確認。	
	2. 合奏の演習。イタリアの舞曲。 作者不詳(16世紀) 「農夫」	
	3. 合奏の演習。イタリアの舞曲。 作者不詳(16世紀) 「農夫」	第2回の注意点を踏まえて、個人練習。
	4. 合奏の演習。フランスのシャンソン。 P.アテニャン(1494?～1552) 「花と輝ける時」	
	5. 合奏の演習。フランスのシャンソン。 P.アテニャン(1494?～1552) 「花と輝ける時」	第4回の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
	6. 合奏の演習。スペインの歌曲。 J.デル エンシーナ(1468～1529) 「スペインよ、嘆け」	
	7. 合奏の演習。スペインの歌曲。 J.デル エンシーナ(1468～1529) 「スペインよ、嘆け」	第6回の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
	8. 合奏の演習。ドイツの世俗曲。 L.ゼンフル(1486頃～1542) 「いとしのエルスライン」	
	9. 合奏の演習。ドイツの世俗曲。 L.ゼンフル(1486頃～1542) 「いとしのエルスライン」	第8回の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
	10. 合奏の演習。フランドルのシャンソン。 J.デ・ブレ(1440頃～1521) 「千々の悲しみ」	
	11. 合奏の演習。フランドルのシャンソン。 J.デ・ブレ(1440頃～1521) 「千々の悲しみ」	第10回の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
	12. 合奏の演習。イギリスの舞曲。 作者不詳(16世紀) 「侯爵夫人のパヴァーヌ」	
	13. 合奏の演習。イギリスの舞曲。 I.アルヴェルティ(?～1565?) 「アルヴェルティのパヴァーヌ」	
	14. 合奏の演習。イギリスの舞曲。 作者不詳(16世紀) 「ガリアルド」	
	15. アンサンブルによる発表とまとめ。	第15回の発表に向けて個人練習。アンサンブルでの練習ができればなお良い。

受講者へのメッセージやアドバイス: ・受講生の人数及び授業の進捗状況により演習曲を変更する場合があります。
・古楽器演習(ヴィオラ・ダ・ガンバ)ⅠまたはⅡを履修していない学生が受講する場合、授業時間以外に個人的な練習が必要な場合があります。

フィードバックの方法: 必要な場合、口頭で伝えます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	70%	アンサンブルを中心とした授業ですので、特別な理由がない限り授業の1/3以上の欠席は不可となります。
	発表	30%	仲間と積極的に曲を仕上げながら、自分の役割も果たしているかどうか。

教科書:

参考書: 「ヴィオール概論」ジャン・ルソー著 関根敏子/神戸愉樹美共訳(アカデミアミュージック出版)
「Metodo completo e progressivo per viola da gamba vol.1」 Paolo Violdi/Vittorio Ghielmi著 (UT ORPHEUS EDIZIONI)
「音楽と言語」T.Gゲオリギアース著 木村敏訳(講談社学術文庫)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:	古典舞曲を踊る		
授業の概要:	クラシック音楽には多くの舞曲が存在する。特に古い時代の西洋音楽は踊りのリズムの影響を強く受けている場合が多く、器楽曲はもちろん、声楽曲も例外ではない。3拍子を例にあげても、メヌエット、サラバンド、クラント、ワルツ、ポロネーズ、マズルカ、などがあり、我々日本人が楽譜からだけでそれぞれの特徴を読み取るのは難しい。時代考証を経たステップを舞曲と共に体験することにより、それぞれの特徴を探る。時代によって異なるお辞儀や手の繋ぎ方などの所作も学習し、オペラ実習にも役立てる。		
到達目標:	リズム感だけでなく、アクセント感、テンポ感、フレーズ感など多角的に違いを考察すると、それぞれの個性を把握しやすい。ダンスパートナーと息を合わせて踊ることにより、自分の個性や特徴も見直す機会となる。		
授業方法:	1回目は講義「舞曲史」。2回目以降は実技(ストレッチ、バランストレーニング、ウォーキング、ステップ練習、など)。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 講義「舞曲史」	音楽史と関連があるので、見直しておくといふ	
	2. ワルツ体験	ワルツの音楽を演奏、または聴いておく	
	3. 中世のダンス「ファランドール」「サルタレッロ」	ファランドールとサルタレッロの音楽を聴いておく	
	4. ルネサンス時代のダンス1「パヴァーヌ」	パヴァーヌの音楽を演奏、または聴いておく	
	5. ルネサンス時代のダンス2「アルマンド」	アルマンドのの音楽を演奏、または聴いておく	
	6. ルネサンス時代のダンス3「パヴァーヌ」「アルマンド」の実技テスト	パヴァーヌ、アルマンドの復習をしておく	
	7. バロック時代のダンス1「ブレ」	ブレの音楽を演奏、または聴いておく	
	8. バロック時代のダンス2「メヌエット」	メヌエットの音楽を演奏、または聴いておく	
	9. バロック時代のダンス3「サラバンド」	サラバンドの音楽を演奏、または聴いておく	
	10. バロック時代のダンス4「アルマンド」	アルマンドの音楽を演奏、または聴いておく	
	11. バロック時代のダンス5「ブレ」「メヌエット」「サラバンド」アルマンド」の実技テスト	ブレ、メヌエット、サラバンド、アルマンドを復習しておく	
	12. ロココ時代のダンス1「ファンダンゴ」	ファンダンゴの音楽を演奏、または聴いておく	
	13. ロココ時代のダンス2「ドイツ舞曲」	ドイツ舞曲の音楽を演奏、または聴いておく	
	14. ロマン派のダンス1「ポロネーズ」「ワルツ」、ノート提出	ポロネーズ、ワルツの音楽を演奏、または聴いておく	
	15. ロマン派のダンス2「ファンダンゴ」「ドイツ舞曲」「ポロネーズ」「ワルツ」の実技テスト、レポート提出	ファンダンゴ、ドイツ舞曲、ポロネーズ、ワルツの復習をしておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業後、なるべく早く感じたことノートに書き留めるのが大切です。踊ったときの感覚が残っている間にすばやく言葉にしてノートに記入しましょう		
フィードバックの方法:	躍動感が残っている間に(出来ればその日のうちに)その舞曲を弾いてみましょう。色々な発見があると思います。それもノートに書いておくと、後日役立ちます。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技テスト	40	正しく踊れているかどうか、音楽と合っているかどうか、パートナーと息があっているかどうかを採点します。
	ノート	20	授業の内容を正しくまとめられているか、そして踊りの特徴をきちんととらえているかどうかをみます。
	レポート	20	それぞれの特徴を短い言葉で書いてもらいます
	授業への参加度	20	授業態度など
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、		
教員との連絡方法:	授業の前後、教室で。		

授業テーマ：

古典舞曲を踊る

授業の概要：

クラシック音楽には多くの舞曲が存在する。それらを時代考証を行ったステップで体験し、音楽の演奏・研究に役立てる。

到達目標：

リズム感を体得すると共に、演奏にも生かせる身体作りを行う

授業方法：

1回目は講義「バレエ史」。2回目以降は実技（ストレッチ、バランストレーニング、ウォーキング、ステップ練習など）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義「バレエ史」	音楽史を見直しておくとい
2.	ルネサンス時代のダンス1「ガイヤルド」「ブランル」	ガイヤルド、ブランルの音楽を聴いておく
3.	ルネサンス時代のダンス2「ガイヤルド」「ブランル」の実技テスト	ガイヤルド、ブランルを復習しておく
4.	バロック時代のダンス1「ガヴオット」	ガヴオットの音楽を演奏、または聴いておく
5.	バロック時代のダンス2「クラント」「コレンテ」	クラント、コレンテの音楽を演奏、または聴いておく
6.	バロック時代のダンス3「ジーク」	ジークの音楽を演奏、または聴いておく
7.	バロック時代のダンス4「シャコンヌ」「パッサカリア」	シャコンヌ、パッサカリアの音楽を演奏、または聴いておく
8.	バロック時代のダンス5「ガヴオット」「クラント」「コレンテ」「ジーク」「シャコンヌ」「パッサカリア」の実技テスト	ガヴオット、クラント、コレンテ、ジーク、シャコンヌ、パッサカリアを復習しておく
9.	ロココ時代のダンス1「メヌエット1」	メヌエットの音楽を演奏、または聴いておく
10.	ロココ時代のダンス2「メヌエット2」	メヌエットの音楽を演奏、または聴いておく
11.	ロココ時代のダンス3「メヌエットの実技テスト」「コントルダンス」	メヌエットを復習しておく
12.	ロマン派時代のダンス1「マズルカ」	マズルカの音楽を演奏、または聴いておく
13.	ロマン派時代のダンス2「ウィンナワルツ」「ポルカ」	ウィンナワルツの音楽を演奏、または聴いておく
14.	ロマン派時代のダンス3「エコセーズ」「ポルカ・マズルカ」「ギャロップ」、ノート提出	エコセーズ、ポルカ・マズルカ、ギャロップの音楽を演奏、または聴いておく
15.	ロマン派時代のダンス4「マズルカ」「ウィンナワルツ」「ポルカ」「エコセーズ」「ポルカ・マズルカ」「ギャロップ」の実技テスト、レポート提出	マズルカ、ウィンナワルツ、ポルカ、エコセーズ。ポルカ・マズルカ、ギャロップを練習しておく

受講者へのメッセージやアドバイス：

慣れない間は動きを覚えるので精一杯かもしれませんが、繰り返し練習すると動作と動作の繋がりが柔らかくなり、音楽と自然に合ってきます。そのときの呼吸が演奏に大切なので、踊っているときの自分の状態をよく考察しましょう。

フィードバックの方法：

授業が終わったらできるだけ早くノートに記録すること。動きを記号で決めておくとき便利です。後日読み返してわかるように、簡潔に書きましょう。自分の書いたのを見ながら舞曲を演奏してみましょう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技テスト	40	正しく踊れているか、音楽と合っているか、パートナーと息を合わせて踊れているかをみます。
	ノート	20	
	レポート	20	
	授業への参加度	20	

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、

教員との連絡方法：

授業の前後、教室にて。

授業テーマ:	高齢者を中心とした関連福祉施設や病院における実習		
授業の概要:	現場での体験と、そのための準備		
到達目標:	対象者の理解、施設・関連業種の理解ならびに音楽療法の体験と現状を学ぶ。		
授業方法:	講義、実習体験		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 対象者理解と実習準備(1)	実習簿作成	
	2. 対象者理解と実習準備(2)	実習簿作成	
	3. 対象者理解と実習準備(3)	実習簿作成	
	4. 対象者理解と実習準備(4)	実習簿作成	
	5. 対象者理解と実習準備(5)	実習簿作成	
	6. 対象者理解と実習準備(6)	実習簿作成	
	7. 実習と報告(1)		
	8. 実習と報告(2)		
	9. 実習と報告(3)		
	10. 実習と報告(4)		
	11. 実習と報告(5)		
	12. 実習と報告(6)		
	13. 実習と報告(7)		
	14. 実習と報告(8)		
	15. 総括	実習簿提出、報告ポスター作成、パワーポイント作成の準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:	心身の準備、倫理的諸注意に配慮し実習に臨む。		
フィードバックの方法:	グループでの話し合い、実習簿の記述		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習	50	実習現場からの評価と実習簿の内容
	授業出席	40	出欠
	報告会	10	内容
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、		
教員との連絡方法:	音楽学科事務室		

授業テーマ:	成人を中心とした関連福祉施設や病院における実習		
授業の概要:	現場での体験とそのための準備、ならびに音楽療法の体験と現状を学ぶ。		
到達目標:	対象者の理解、施設・関連業種の理解		
授業方法:	講義、グループワーク、現場体験、報告		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 対象者理解と実習準備(1)	実習簿作成	
	2. 対象者理解と実習準備(2)	実習簿作成	
	3. 対象者理解と実習準備(3)	実習簿作成	
	4. 対象者理解と実習準備(4)	実習簿作成	
	5. 対象者理解と実習準備(5)	実習簿作成	
	6. 対象者理解と実習準備(6)	実習簿作成	
	7. 実習と報告(1)		
	8. 実習と報告(2)		
	9. 実習と報告(3)		
	10. 実習と報告(4)		
	11. 実習と報告(5)		
	12. 実習と報告(6)		
	13. 実習と報告(7)		
	14. 実習と報告(8)		
	15. 総括	実習簿提出、報告ポスター作成、パワーポイント作成の準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:	心身の準備、倫理的諸注意に配慮し実習に臨む。		
フィードバックの方法:	グループでの話し合い、実習簿の記述		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習	50	実習現場からの評価と実習簿の内容
	授業の出席	40	出欠
	報告会	10	内容
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、		
教員との連絡方法:	音楽学科事務室		

授業テーマ:	子どもを中心とした関連福祉施設や病院における実習		
授業の概要:	現場での体験とそのための準備		
到達目標:	対象者の理解、施設・関連業種の理解ならびにミュージックセラピーの体験と現状を学ぶ。		
授業方法:	講義、グループワーク、実習、報告		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 対象者理解と実習準備(1)	実習簿作成	
	2. 対象者理解と実習準備(2)	実習簿作成	
	3. 対象者理解と実習準備(3)	実習簿作成	
	4. 対象者理解と実習準備(4)	実習簿作成	
	5. 対象者理解と実習準備(5)	実習簿作成	
	6. 対象者理解と実習準備(6)	実習簿作成	
	7. 実習と報告(1)		
	8. 実習と報告(2)		
	9. 実習と報告(3)		
	10. 実習と報告(4)		
	11. 実習と報告(5)		
	12. 実習と報告(6)		
	13. 実習と報告(7)		
	14. 実習と報告(8)		
	15. 総括	実習簿提出、報告ポスター作成、パワーポイント作成の準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:	心身の準備、倫理的諸注意に配慮し実習に臨む。		
フィードバックの方法:	グループでの話し合い、実習簿の記述		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習	50	現場からの評価と実習簿の内容
	授業出席	40	出欠
	報告会	10	内容
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、		
教員との連絡方法:	音楽学科事務室		

361801

音楽文化入門A

椎名 亮輔、稲田 雅美、葛西 聖憲

授業テーマ:大学での学びとその技法、および音楽文化専攻の学びのうち「サウンドデザイン」入門

授業の概要:大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかを理解してもらうことを目標とします。さらにその過程で自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、音楽学科での学びの理解と興味を高めることも目指します。
また、最後の5回は音楽文化専攻の学びのうち「サウンドデザイン」分野の入門授業です。

到達目標:知識・理解:大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかの理解。音楽学科での学びの理解。
関心・意欲・態度:さらにその過程で自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、興味を高める。
表現・技能・能力:グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションの能力。

授業方法:講義とグループワーク、ディスカッション。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業オリエンテーション	大学での学びに関心をもつ
	2. ノート・テイキングの手法	与えられた課題を行い、マナビーで提出する
	3. 図書館オリエンテーション	図書館というものに関心をもつ
	4. 図書館・データベースの使い方と各種文献の参考・引用の方法	与えられた課題を行い、マナビーで提出する
	5. 情報整理の技法	与えられた課題を行い、マナビーで提出する
	6. 著書・論文の読み方	与えられた課題を行い、マナビーで提出する
	7. 学術的な文章表現について	与えられた課題を行い、マナビーで提出する
	8. レポートの書き方1	与えられた課題を行い、マナビーで提出する
	9. レポートの書き方2	与えられた課題を行い、マナビーで提出する
	10. プレゼンテーションの技法	与えられた課題を行い、マナビーで提出する
	11. 音楽創作概論	与えられた予習・復習を行う
	12. 音楽創作:旋律	与えられた予習・復習を行う
	13. 音楽創作:和音進行	与えられた予習・復習を行う
	14. 音楽創作:調性のない音	与えられた予習・復習を行う
	15. 音楽創作:その他の音楽	与えられた予習・復習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:課題についてのコメント・解説を授業時間内に行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	1～10に関して、授業への積極的な参加	55	授業に積極的に参加しているかどうかを評価する
	1～10に関して、授業時間中そして宿題としての提出物	45	提出物について目標に到達しているかどうかを評価する
	11～15に関して、講義の出席(授業中に書くミニエッセイあるいはディスカッションやグループワークなど)	50	講義の目標にてらして評価する
	11～15に関して、講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題	50	講義の目標にてらして評価する

教科書:なし

参考書:佐藤望編著、アカデミック・スキルズ大学生のための知的技法入門第2版、慶応義塾大学出版会
リチャード・J・ウインジェル、改訂新版音楽の文章術、春秋社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:オフィスアワー

授業テーマ:	21世紀に活躍する若者が音楽文化を創造、発信するためのまなびとは																																																	
授業の概要:	音楽文化専攻生として21世紀の音楽文化をクリエイティブしていくための多様な視点を身につけ、音楽文化を創造／理解する基礎的な方法を学び取りましょう。そして、大学卒業後、どのような分野で活躍していきたいかも考えつつ、自分の関心のあるテーマはどのようなものがあり、どのように学んでいけばよいかのヒントをキャッチしましょう。音楽文化入門B IIでは、音楽文化をクリエイティブする上での音楽テクノロジーにはどのようなものがあるか、また、現代の音楽文化におけるポピュラー音楽／世界の民族音楽／日本音楽の存在の意味、音楽療法の現場でどのような課題があり、療法士になる意義とはどのようなものか、について観察し、「音楽文化」をどのようにとらえるかについて各自、考えてみましょう。																																																	
到達目標:	音楽文化専攻生として21世紀の音楽文化をクリエイティブしていくための多様な視点を身につけ、音楽文化を創造／理解する基礎的な方法を習得する。																																																	
授業方法:	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワークも適宜取り入れる。																																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th></th><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>サウンド・デザイン入門1:音ってなあに？(Ⅰ) 音の現象の解明から音の記録再生が可能になるまで</td><td>授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。</td></tr><tr><td>2.</td><td>サウンド・デザイン入門2:音ってなあに？(Ⅱ) 磁気録音が可能にしたこと</td><td>授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。</td></tr><tr><td>3.</td><td>サウンド・デザイン入門3:サウンド・ファイルってなあに？ いつでもどこでも気軽に音楽が楽しめる現在、そのテクノロジーの発展</td><td>授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。</td></tr><tr><td>4.</td><td>サウンド・デザイン入門4:コンピュータ・ミュージック(Ⅰ) MIDIデータを用いた音楽</td><td>授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。</td></tr><tr><td>5.</td><td>サウンド・デザイン入門5:コンピュータ・ミュージック(Ⅱ) AUDIOデータを用いた音楽創作</td><td>授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。</td></tr><tr><td>6.</td><td>音楽文化はどのように創造され、育まれるのだろうか: 音楽の発信と受信のメカニズムから理解する</td><td>予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。</td></tr><tr><td>7.</td><td>世界のポピュラー音楽」を理解するには?: 身近にある J-pop と世界のポピュラー音楽の関係を考える方法を学ぶ</td><td>予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。</td></tr><tr><td>8.</td><td>「世界の民族音楽」を理解するには: 楽器や舞踊を事例に音楽と文化の関係を考える</td><td>予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。</td></tr><tr><td>9.</td><td>「日本音楽」を理解するには: 日本人の「身近にある邦楽?」それとも「彼方にある邦楽?」を考える</td><td>予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。</td></tr><tr><td>10.</td><td>学校の内／外にある多様な音楽」を理解するには: 公教育の場における多様な音楽を通して考える</td><td>予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。</td></tr><tr><td>11.</td><td>音楽療法士の仕事</td><td>図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。</td></tr><tr><td>12.</td><td>日本の音楽療法の現状1</td><td>図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。</td></tr><tr><td>13.</td><td>日本の音楽療法の現状2</td><td>図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。</td></tr><tr><td>14.</td><td>創作音楽療法士のための教育</td><td>図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。</td></tr><tr><td>15.</td><td>資格取得とその意義</td><td>図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。</td></tr></tbody></table>		授業内容	準備学習等の内容	1.	サウンド・デザイン入門1:音ってなあに？(Ⅰ) 音の現象の解明から音の記録再生が可能になるまで	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。	2.	サウンド・デザイン入門2:音ってなあに？(Ⅱ) 磁気録音が可能にしたこと	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。	3.	サウンド・デザイン入門3:サウンド・ファイルってなあに？ いつでもどこでも気軽に音楽が楽しめる現在、そのテクノロジーの発展	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。	4.	サウンド・デザイン入門4:コンピュータ・ミュージック(Ⅰ) MIDIデータを用いた音楽	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。	5.	サウンド・デザイン入門5:コンピュータ・ミュージック(Ⅱ) AUDIOデータを用いた音楽創作	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。	6.	音楽文化はどのように創造され、育まれるのだろうか: 音楽の発信と受信のメカニズムから理解する	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	7.	世界のポピュラー音楽」を理解するには?: 身近にある J-pop と世界のポピュラー音楽の関係を考える方法を学ぶ	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	8.	「世界の民族音楽」を理解するには: 楽器や舞踊を事例に音楽と文化の関係を考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	9.	「日本音楽」を理解するには: 日本人の「身近にある邦楽?」それとも「彼方にある邦楽?」を考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	10.	学校の内／外にある多様な音楽」を理解するには: 公教育の場における多様な音楽を通して考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	11.	音楽療法士の仕事	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。	12.	日本の音楽療法の現状1	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。	13.	日本の音楽療法の現状2	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。	14.	創作音楽療法士のための教育	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。	15.	資格取得とその意義	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。	
	授業内容	準備学習等の内容																																																
1.	サウンド・デザイン入門1:音ってなあに？(Ⅰ) 音の現象の解明から音の記録再生が可能になるまで	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。																																																
2.	サウンド・デザイン入門2:音ってなあに？(Ⅱ) 磁気録音が可能にしたこと	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。																																																
3.	サウンド・デザイン入門3:サウンド・ファイルってなあに？ いつでもどこでも気軽に音楽が楽しめる現在、そのテクノロジーの発展	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。																																																
4.	サウンド・デザイン入門4:コンピュータ・ミュージック(Ⅰ) MIDIデータを用いた音楽	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。																																																
5.	サウンド・デザイン入門5:コンピュータ・ミュージック(Ⅱ) AUDIOデータを用いた音楽創作	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。																																																
6.	音楽文化はどのように創造され、育まれるのだろうか: 音楽の発信と受信のメカニズムから理解する	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。																																																
7.	世界のポピュラー音楽」を理解するには?: 身近にある J-pop と世界のポピュラー音楽の関係を考える方法を学ぶ	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。																																																
8.	「世界の民族音楽」を理解するには: 楽器や舞踊を事例に音楽と文化の関係を考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。																																																
9.	「日本音楽」を理解するには: 日本人の「身近にある邦楽?」それとも「彼方にある邦楽?」を考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。																																																
10.	学校の内／外にある多様な音楽」を理解するには: 公教育の場における多様な音楽を通して考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。																																																
11.	音楽療法士の仕事	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。																																																
12.	日本の音楽療法の現状1	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。																																																
13.	日本の音楽療法の現状2	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。																																																
14.	創作音楽療法士のための教育	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。																																																
15.	資格取得とその意義	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門書を自発的に発掘する。																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	教室でまとめて解説する。																																																	
フィードバックの方法:																																																		

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	各担当者の5回の講義の出席	50	授業中に書くミニエッセイあるいはディスカッションやグループワークなど
	各担当者の講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題の評価	50	

教科書:

参考書: 『音楽文化のすすめ』(小西潤子・仲万美子・志村哲共編、ナカニシヤ出版)他
講義時に適宜紹介および資料を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

音楽作品の 創作・編集・提示(または発表)

授業の概要:

様々な音楽を提示し、学生各人の創作に対する意欲を与えつつ、創作のレッスンを行う。

到達目標:

3年次までの各創作系授業を踏まえ、各自、自分の音楽表現を会得する。

授業方法:

基本はグループレッスン形式で行う。
ただし、最終的には、各々の学生に個別に対応した指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	ガイダンス		とりあえず、作品を作り始めること。内容や編成は自由。
	2.	音楽創作及びサウンドデザイン 1	楽曲分析 1	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	3.	音楽創作及びサウンドデザイン 2	楽曲分析 2	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	4.	音楽創作及びサウンドデザイン 3	楽曲分析 3	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	5.	音楽創作及びサウンドデザイン 4	楽曲分析 4	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	6.	音楽創作及びサウンドデザイン 5	楽曲分析 5	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	7.	音楽創作及びサウンドデザイン 6	楽曲分析 6	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	8.	音楽創作及びサウンドデザイン 7	楽曲分析 7	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	9.	音楽創作及びサウンドデザイン 8	楽曲分析 8	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	10.	音楽創作及びサウンドデザイン 9	楽曲分析 9	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	11.	音楽創作及びサウンドデザイン 10	楽曲分析 10	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	12.	音楽創作及びサウンドデザイン 11	楽曲分析 11	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	13.	音楽創作及びサウンドデザイン 12	楽曲分析 12	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	14.	音楽創作及びサウンドデザイン 13	楽曲分析 13	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
	15.	音楽創作及びサウンドデザイン 14	楽曲分析 14	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

創作は受身では出来ない。積極的な姿勢で作曲やサウンドデザインに臨んでほしい。

フィードバックの方法:

常に、音楽製作に関することを考えている状況が必要である。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポートまたは作品提出	80	音楽製作に関する提出物
	平常点	20	授業に対する姿勢、創作意欲など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

授業テーマ:	サウンドデザイン分野における創作/研究と発表		
授業の概要:	創作: * 歌や楽器のための作品の作曲:クラシック、ポップス、現代音楽などジャンルは自由 * 電子音楽の創作:MIDI音源やシンセサイザーを用いた作品 		

授業テーマ:

音楽作品の 創作・編集・提示(発表)

授業の概要:

様々な音楽を提示し、学生各人の創作に対する意欲を与えつつ、創作のレッスンをを行う。

到達目標:

サウンドデザイン研究Iまでの授業を踏まえ、さらに各自、自分の音楽表現を会得する。

授業方法:

基本はグループレッスン形式で行う。
ただし、最終的には、各々の学生に個別に対応した指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
2.	音楽創作及びサウンドデザイン 1 楽曲分析 1	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
3.	音楽創作及びサウンドデザイン 2 楽曲分析 2	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
4.	音楽創作及びサウンドデザイン 3 楽曲分析 3	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
5.	音楽創作及びサウンドデザイン 4 楽曲分析 4	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
6.	音楽創作及びサウンドデザイン 5 楽曲分析 5	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
7.	音楽創作及びサウンドデザイン 6 楽曲分析 6	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
8.	音楽創作及びサウンドデザイン 7 楽曲分析 7	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
9.	音楽創作及びサウンドデザイン 8 楽曲分析 8	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
10.	音楽創作及びサウンドデザイン 9 楽曲分析 9	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
11.	音楽創作及びサウンドデザイン 10 楽曲分析 10	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
12.	音楽創作及びサウンドデザイン 11 楽曲分析 11	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
13.	音楽創作及びサウンドデザイン 12 楽曲分析 12	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
14.	音楽創作及びサウンドデザイン 13 楽曲分析 13	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
15.	音楽創作及びサウンドデザイン 14 楽曲分析 14	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

創作は受身では出来ない。積極的な姿勢で作曲やサウンドデザインに臨んでほしい。

フィードバックの方法:

常に、音楽製作に関することを考えている状況が必要である。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポートまたは作品提出	80	音楽製作に関する提出物
	平常点	20	授業に対する姿勢、創作意欲など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

授業テーマ:	サウンドデザイン分野における創作/研究		
授業の概要:	* 歌や楽器のための作品の作曲:クラシック、ポップス、現代音楽などジャンルは自由 * 電子音楽の創作:MIDI音源やシンセサイザーを用いた作品 		

授業テーマ:

音楽学の研究・発表の仕方を学ぶ

授業の概要:

音楽学のさまざまなアプローチを学び、それに基づいて、自らの興味・関心をもった対象について、適切な方法でアプローチ・研究を行う。そしてその成果を、効果的に説得力をもった形で発表をする。

到達目標:

知識・理解: 音楽学のさまざまなアプローチの仕方を学び理解する。
関心・意欲・態度: 自らの関心をもった対象について適切な方法で研究をする。
表現・技能・能力: 自らの研究成果を説得力をもって発表する。

授業方法:

初回は授業オリエンテーション。その後の3回は音楽学研究の方法について実例をまじえて講義をする。第5回目からは学生たちによる研究発表。自分たちの興味・関心をもった対象について、もっとも適切な方法で研究したものを、プレゼンテーション機器(コンピュータ、パワーポイントなど)を用いたり、CDやDVD、あるいはピアノ演奏等を用いて、効果的に説得力をもった形で発表する。受講人数にもよるが、学期中に少なくとも2回は発表をしてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	自分の関心・興味をもった音楽について考えておく
2.	音楽学研究講義1	与えられた課題を行う
3.	音楽学研究講義2	与えられた課題を行う
4.	音楽学研究講義3	与えられた課題を行う
5.	研究発表1	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
6.	研究発表2	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
7.	研究発表3	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
8.	研究発表4	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
9.	研究発表5	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
10.	研究発表6	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
11.	研究発表7	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
12.	研究発表8	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
13.	研究発表9	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
14.	研究発表10	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
15.	研究発表11	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中に、コメント・解説を行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加	55	授業に積極的に参加しているかどうかで評価する
	最終レポート	45	自分の発表のうち最良のものを、きちんとした論文としてまとめられたか評価する

教科書:

適宜指示する

参考書:

適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 変化対応力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール: rshiina@dw.doshisha.ac.jp

362300

ミュージックスタディーズ研究Ⅱ

椎名 亮輔

授業テーマ:

「ミュージックスタディーズ研究Ⅱ」のつづき。
音楽学の研究・発表の仕方を学ぶ。

授業の概要:

「ミュージックスタディーズ研究Ⅱ」のつづきとして、すでに学んだ音楽学のさまざまなアプローチに基づいて、自らの興味・関心をもった対象について、適切な方法でアプローチ・研究を行う。そしてその成果を、効果的に説得力をもった形で発表をする。

到達目標:

知識・理解: 音楽学のさまざまなアプローチの仕方を学び理解する。
関心・意欲・態度: 自らの関心をもった対象について適切な方法で研究をする。
表現・技能・能力: 自らの研究成果を説得力をもって発表する。

授業方法:

学生たちによる研究発表。自分たちの興味・関心をもった対象について、もっとも適切な方法で研究したものを、プレゼンテーション機器(コンピュータ、パワーポイントなど)を用いたり、CDやDVD、あるいはピアノ演奏等を用いて、効果的に説得力をもった形で発表する。受講人数にもよるが、学期中に少なくとも2回は発表をしてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究発表1	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
2. 研究発表2	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
3. 研究発表3	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
4. 研究発表4	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
5. 研究発表5	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
6. 研究発表6	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
7. 研究発表7	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
8. 研究発表8	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
9. 研究発表9	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
10. 研究発表10	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
11. 研究発表11	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
12. 研究発表12	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
13. 研究発表13	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
14. 研究発表14	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
15. 研究発表15	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中に、コメント・解説を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	55	授業に積極的に参加しているかどうかで評価する
最終レポート	45	自分の発表のうち最良のものを、きちんとした論文としてまとめられたか評価する

教科書:

適宜指示する

参考書:

適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 変化対応力, 自己管理能力, 自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール: rshiina@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 本講は「演劇」と「演技」についての授業であり、体験学習の形式をとる。
自らを演劇においての演技者と仮定して、その知と技術を育んでいく。

「演技」とは自分が自分を使うことについての技術であり、演劇においては、虚構の時空で「役」となって状況を生き、相手とやりとりするための技術のことである。また、「演技」は演技者それぞれが探求すべき対象であり、自分の演技観は常に更新されていく可能性がある。

本講では、そのような「演技」について演技者が生きる領域をふたつに大別し、学習していく。

到達目標: 一律の目標はない。以下のような課題に対して、各々が主体的、積極的に探求を続けることが重要である。
・自分のからだと動きについて、より明瞭に、より詳細に認識できる。
・他者とのやりとりを通して、表現における自分の欲求と力に気づき、それらを育むことができる。
・作品創作や公演を通して、他者と協働できる。
・授業内の体験から知を結ぶことができる。

授業方法: (少人数による)体験学習形式。
演習(演技者のためのレッスン)と体験の言語化(ふりかえり)を積み重ねる。また、他者と協働して作品やシーンを創作し、公演(教室内発表)を体験する。

服装は簡単な運動のできるもの(スカート不可)。指示により、すぐに裸足になれること(ストッキング不可)。
持参物はメモ用筆記具、飲料、汗拭き用タオル、(汗をかいた場合の)着替え。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション1 演技とは何か？	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
2.	オリエンテーション2 からだによるアプローチ:ステイタス	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
3.	スピード1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
4.	スピード2	予習として、「スロー×ポーズ」の練習。
5.	コンタクト1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
6.	コンタクト2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
7.	能動と受動1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
8.	能動と受動2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
9.	能動と受動3	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
10.	能動と受動4	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
11.	「戯曲」を演じる1 形態分析、話題分析	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。 復習として、戯曲分析。
12.	「戯曲」を演じる2 行動分析:「行動シート」を動く1	予習として、「行動シート」の作成。 復習として、「行動シート」の暗記。
13.	「戯曲」を演じる3 行動分析:「行動シート」を動く2	予習として、「行動シート」の作成。 復習として、「行動シート」の暗記。
14.	「戯曲」を演じる4 行動分析:「行動シート」を動く3	予習として、「行動シート」の作成。
15.	ふりかえり 再び、演技とは何か？	予習として、「ふりかえりシート」の作成。

受講者へのメッセージやアドバイス:
フィードバックの方法: レポート等は、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	出席に加え、課題に対して主体的、積極的に取り組んでいるかを基準とする。
	レポート	50	授業での体験を通して、問題や課題を見い出せているかと、独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、コミュニケーション力、思いやる力
教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で応対。

授業テーマ:

授業の概要: 本講は「演劇」と「演技」についての授業であり、体験学習の形式をとる。
「舞台表現基礎Ⅰ」の発展学習科目である。

(仮定としての)演劇における演技者として、その知と技術を育むことに加え、劇や戯曲の創作も試みる。劇(シーン)の創作では、テキストに「ガラスの動物園」(テネシー・ウィリアムズ作)を予定している。

「演技」とは自分が自分を使うことについての技術であり、演劇においては、虚構の時空で「役」となって状況を生き、相手とやりとりするための技術のことである。また、「演技」は演技者それぞれが探求すべき対象であり、自分の演技観は常に更新されていく可能性がある。本講では、そのような「演技」について演技者が生きる領域をふたつに大別し、学習していく。
さらに、「演劇」は他者との協働による創作活動であり、本講では異なるいくつかの方法で「設定とせりふ」の創作を試み、稽古を経て公演(教室内外発表)を体験する。

到達目標: 一律の目標はない。以下のような課題に対して、各々が主体的、積極的に探求を続けることが重要である。
・自分のからだと動きについて、より明瞭に、より詳細に認識できる。
・他者とのやりとりを通して、表現における自分の欲求と力に気づき、それらを育むことができる。
・作品創作や公演を通して、他者と協働できる。
・授業内の体験から知を結ぶことができる。

授業方法: (少人数による)体験学習形式。
演習(演技者のためのレッスン)と体験の言語化(ふりかえり)を積み重ねる。また、他者と協働して作品やシーンを創作し、公演(教室内外発表)を体験する。

服装は簡単な運動のできるもの(スカート不可)。指示により、すぐに裸足になれること(ストッキング不可)。
持参物はメモ用筆記具、飲料、汗拭き用タオル、(汗をかいた場合の)着替え。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	創作: 夏のできごと	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
2.	創作: あいうえおの会話	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
3.	創作: 靴の中1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
4.	創作: 靴の中2	予習として、グループによる戯曲創作。
5.	創作: 靴の中3	予習として、グループによる戯曲創作。
6.	創作: 靴の中4	予習として、グループによる戯曲創作。
7.	「戯曲」を演じる1	予習・復習として、テキストの精読。
8.	「戯曲」を演じる2	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
9.	「戯曲」を演じる3	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
10.	「戯曲」を演じる4	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
11.	「戯曲」を演じる5	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
12.	「戯曲」を演じる6	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
13.	「戯曲」を演じる7	予習・復習として、テキストの精読と戯曲分析。
14.	「戯曲」を演じる8	予習として、テキストの精読と戯曲分析。
15.	ふりかえり	予習として、「ふりかえりシート」の作成。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: レポート等は、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	出席に加え、課題に対して主体的、積極的に取り組んでいるかを基準とする。
	レポート	50	授業での体験を通して、問題や課題を見い出せているかと、独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	ドイツ語声楽曲の発音・発声法、演奏法を学ぶ。	
授業の概要:	ドイツ語による声楽曲を歌うために、まずは発音記号の読み方を学び、実際に発音しながらドイツ語の語感を養う。その後、ある程度のディクションができるようになった段階で、課題曲を使って、作曲家や詩人がの表現したかったことを、時代背景や社会的背景などもふまえながら歌い、表現力の幅を広げる。	
到達目標:	毎回用意される課題曲を、一人ずつ歌唱発表することにより完了とする。 クラス内での発表となるため、歌うことのみならず、他人の歌唱を聴くことにより、自身の歌唱の技術力や表現力を顧みるよい機会になればと願っている。	
授業方法:	課題となっているドイツ語声楽曲を授業内外で歌唱練習をした上で、歌唱発表を行う。また鑑賞も交えながらドイツ語声楽曲全般に親しむ。演習形式。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 基本的な発音	発音記号に慣れるため、声を出して繰り返し発音練習する。その際、発音しにくい母音や子音を自覚し、次の授業で再確認できるように準備する。
	2. 発音記号の読み方(母音、子音) 基本的な発音	発音記号に慣れるため、声を出して繰り返し発音練習する。その際、発音しにくい母音や子音を自覚し、次の授業で再確認できるように準備する。
	3. 発音記号の読み方(母音、子音) 基本的な発音	ドイツ語に慣れるため、声を出して繰り返し発音練習する。その際、発音しにくい母音や子音を自覚し、発音記号を見ながら繰り返し練習する。
	4. 様々な単語やセンテンスの朗読 ドイツ歌曲の歌詞朗読 基本的な発音	ドイツ語に慣れるため、声を出して繰り返し発音練習する。その際、発音しにくい母音や子音を自覚し、発音記号を見ながら繰り返し練習する。
	5. ドイツ歌曲の歌詞朗読 課題曲 Schumann:Die Lotosblume 基本的な歌唱上の発音	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。
	6. ドイツ歌曲を歌う 課題曲 Schumann:Die Lotosblume 基本的な歌唱上の発音及び演奏解釈	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
	7. ドイツ歌曲を歌う 課題曲 Schumann:Die Lotosblume 歌唱発表	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
	8. Schumann:Die Lotosblume を歌唱発表する 基本的な発音	ドイツ語に慣れるため、声を出して繰り返し練習する。その際、発音しにくい母音や子音を自覚し、発音記号を見ながら繰り返し練習する。
	9. ドイツ歌曲の歌詞朗読 課題曲 Mozart:Als Luise die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte 基本的な歌唱上の発音	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。
	10. ドイツ歌曲を歌う 課題曲 Mozart:Als Luise die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte 基本的な歌唱上の発音及び演奏解釈	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
	11. ドイツ歌曲を歌う 課題曲 Mozart:Als Luise die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte 歌唱発表	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
	12. Mozart:Als Luise die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte を歌唱発表する 基本的な歌唱上の発音及び演奏解釈	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。
	13. ドイツ歌曲を歌う 課題曲 Schumann:Widmung 基本的な歌唱上の発音及び演奏解釈	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
	14. ドイツ歌曲を歌う 課題曲 Schumann:Widmung 基本的な歌唱上の発音及び演奏解釈	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
	15. ドイツ歌曲を歌う 課題曲 Schumann:Widmung 歌唱発表	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
	16. Schumann:Widmungを歌唱発表する	
受講者へのメッセージやアドバイス:	他人と比べて、できるできない、歌える歌えないにこだわるのではなく、クラス全員で個々の問題を自分の問題として解決していきます。そのためには、積極的に授業に参加することが大切な鍵になります。	
フィードバックの方法:	授業内での発表の後、その都度個々に、直すべき点や今後の課題などのコメントを口頭で伝えます。	

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	50	
	歌唱発表及びレポート提出	50	課題曲の歌唱発表は、正確な発音で歌うことだけにとどまらず、表現力の有無も評価の対象とする。
教科書:	高折 読「歌唱のためのドイツ語発音法」音楽の友社 課題曲はその都度準備する		
参考書:	独和辞書(発音記号付き)を持ってくるのが望ましい。 電子辞書も可		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	授業時間内、あるいはその前後での連絡が基本。		

授業テーマ:

ドイツ語声楽曲の発音・発声法、演奏法を学ぶ。

授業の概要:

ドイツ語声楽曲研究1で学んだドイツ語発音法をふまえて、演奏者の立場からみたドイツ語声楽曲の歌唱法、演奏解釈などを、課題曲を使って掘り下げる。

到達目標:

毎回用意される課題曲を、一人ずつ歌唱発表することにより完了とする。
クラス内での発表となるため、歌うことのみならず、他人の歌唱を聴くことにより、自身の歌唱の技術力や表現力を顧みるよい機会になればと願っている。

授業方法:

課題となっているドイツ語声楽曲を授業内外で歌唱練習をした上で、歌唱発表を行う。また鑑賞も交えながらドイツ語声楽曲全般に親しむ。演習形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ドイツ歌曲について知る	Schubertについて調べる
	DVD鑑賞「未完成交響曲」	
	2. ドイツ歌曲を歌う(1)	課題曲練習
	課題曲 Schubert : Lied der Mignon	
	3. ドイツ歌曲を歌う(2)	課題曲練習
	課題曲 Schubert : Lied der Mignon	
	4. ドイツ歌曲を歌う(3)	課題曲練習
	課題曲 Schubert : Lied der Mignon	
	歌唱発表	
	5. ドイツ歌曲を歌う(4)	課題曲練習
	課題曲 Brahms : Vergebliches Staendchen	
	6. ドイツ歌曲を歌う(5)	課題曲練習
	課題曲 Brahms : Vergebliches Staendchen	
	7. ドイツ歌曲を歌う(6)	課題曲練習
	課題曲 Brahms : Vergebliches Staendchen	
8.	歌唱発表	
	ドイツオペラについて知る(1)	Humperdinck : 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」のあらすじを理解しておくこと
	DVD鑑賞 Humperdinck : 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」	
	9. ドイツオペラについて知る(2)	登場人物の特徴と歌手の声種との関わりについて、気づいたことをまとめておくこと。
	DVD鑑賞 Humperdinck : 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」	
	10. ドイツ歌曲を歌う(7)	課題曲練習
	連作歌曲について	
	課題曲 Schumann : 「女の愛と生涯」より	
	11. ドイツ歌曲を歌う(8)	課題曲練習
	連作歌曲について	
12.	課題曲 Schumann : 「女の愛と生涯」より	
	12. ドイツ歌曲を歌う(9)	課題曲練習
	連作歌曲について	
	課題曲 Schumann : 「女の愛と生涯」より	
	13. ドイツ歌曲を歌う(10)	課題曲練習
	連作歌曲について	
	課題曲 Schumann : 「女の愛と生涯」より	
	歌唱発表	
	14. ドイツオペラについて知る(3)	J.Strauss : 喜歌劇「こうもり」のあらすじを理解しておくこと
	DVD鑑賞 J.Strauss : 喜歌劇「こうもり」	
15.	ドイツオペラについて知る(4)	登場人物の感情の機微について、気づいたことをまとめておくこと
	DVD鑑賞 J.Strauss : 喜歌劇「こうもり」	

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業では表現方法について掘り下げて行きたいので、ドイツ語の歌詞のディクショングルや譜読み練習は、基本的に自主練習でおこなってください。

フィードバックの方法:

授業内での発表の後、その都度個々に、直すべき点や今後の課題などのコメントを口頭で伝えます

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	50	
	歌唱発表及びレポート提出	50	課題曲の歌唱発表は、正確な発音で歌うことだけにとどまらず、表現力の有無も評価の対象とする。
教科書:	高折 読「歌唱のためのドイツ語発音法」音楽の友社 課題曲はその都度準備する		
参考書:	独和辞書(発音記号付き)を持ってくるのが望ましい。 電子辞書も可		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	授業時間内、あるいはその前後での連絡が基本。		

授業テーマ:

フランス歌曲のための発音法。

授業の概要:

フランス歌曲を演奏する能力をつけることを目的とし、発音記号を徹底的に学び、正確に自然に発音出来るようになる為に、口の開き方、舌の位置、唇の使い方等を学習する。フランス近代詩に触れ、音楽とフランス語、そしてフランス詩との絶妙な融合の美しさを感じ取れるようにする。

到達目標:

発音記号の読み方を徹底的に学習し、フランス語の正確な発音と抑揚を実践的に習得し、詩と音楽の関わり的美しさを感じ、フランス歌曲への興味を抱くことを目的とする。

授業方法:

発音記号を理解し、フランス語を正確に発音できるようにする。詩の朗読を演習することにより、明確な発音による歌唱に導く。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. はじめに。アルファベと発音記号のとらえ方。(口母音、鼻母音)	はじめに。アルファベと発音記号のとらえ方(口母音、鼻母音)を予習。
	2. 綴り字の基本的な発音。母音、半母音の読み方。	綴り字の語を辞書で調べる。
	3. 綴り字の基本的な発音。母音、半母音の読み方。基本的な発音。鼻母音になる場合の読み方と子音字の読み方。	口母音、鼻母音を繰り返し練習。綴り字を辞書で調べ準備。
	4. 文章の読み方…リエゾン、アンシェヌマン、エリズィオンを学ぶ。	文章にある語を辞書で調べる。
	5. G.Fauré:Lydia の詩の朗読を通して、発音と抑揚を学ぶ。	Lydia の詩にある語を辞書で調べる。
	6. G.Fauré:Lydiaを一人一人演習する。	Lydia の詩のディクションと歌唱の練習。
	7. G.Fauré:Lydiaを一人一人演習する。	Lydia の詩のディクションと歌唱の練習。
	8. G.Fauré:Lydiaを一人一人演習する。	Lydia の詩のディクションと歌唱の練習。
	9. G.Fauré:Lydia の詩のディクションと歌唱発表。	Lydia の詩のディクションと歌唱の練習。
	10. G.Fauré:Clair de lune とMandoline の詩の朗読。詩人P.Verlaineを通して、詩と音楽の関わりを感じ、深める。	Clair de lune とMandoline の詩にある語を辞書で調べる。
	11. G.Fauré: Clair de lune 、Mandoline を一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを ディクションと歌唱の練習。
	12. G.Fauré:Clair de lune 、Mandoline を一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを ディクションと歌唱の練習。
	13. G.Fauré:Clair de lune 、Mandoline を一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを ディクションと歌唱の練習。
	14. G.Fauré: Clair de lune 、Mandoline を一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを ディクションと歌唱の練習。
	15. G.Fauré: Clair de lune 、Mandoline のいずれかのディクションと歌唱発表。	Clair de lune とMandoline のどちらかを ディクションと歌唱の練習。

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前にフランス語に少しでも触れていると理解しやすいと思います。フランス語の経験がなくても フランス歌曲は兎に角美しい語感、美しい音楽に溢れているので コツコツと積み上げてフランス歌曲を楽しんで下さい。

フィードバックの方法:

レポート等の提出物においては 添削し返却。授業内でも解説。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況と授業態度	50%	積極的に授業に参加し、明確な発音と美しい抑揚に対して意欲的かを評価する。
	発表	50%	正確で美しい発音と抑揚を踏まえて、詩と音楽の関わり魅力を表現しているかを評価する。

教科書:

美山節子著 フランス歌曲発音法(同朋出版)
フォーレ歌曲集(全音楽譜出版)
フランス歌曲集(ドレミ出版)

参考書:

E.ルテール「フランス歌曲とドイツ歌曲」(白水社)
P.ベルナック「フランス歌曲の演奏と解釈」(音楽之友社)
金原礼子「ガブリエル・フォーレと詩人たち」(藤原書店)
河本喜介「フォーレとその歌曲」(音楽之友社)
新潮美術文庫「ヴァトー」(新潮社)
仏和辞典

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	フランス歌曲演奏		
授業の概要:	フランス歌曲を演奏する上での正確な発音をより習得し、C.A.Debussy,E.Chausson、H.Duparc 等の歌曲を取り上げ、抑揚を更にスムーズにし、美しいディクションを目指し、詩と音楽の関わりを感じ、詩の解釈を深め、フランス歌曲の魅力を味わい演奏を行う。		
到達目標:	声楽研究発Ⅰで学習したフランス語発音法を生かし、更に明確な発音へ導き、実践的にフランス歌曲の演奏へ発展させる。		
授業方法:	全員で詩のディクションと歌唱を演習し、更に個々で演習を通して理解を深めていく。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 夏休みの課題として与えたG.Fauré の歌曲を演習、発表する。	課題のディクションと歌唱の練習。	
	2. C.A.Debussy :Nuit d'étoiles のディクション、詩の解釈、作曲家と詩人との関わり、時代背景等説明し、演習に導く。	C.A.Debussyについて調べる。 Nuit d'étoilesの詩にある語を辞書で調べる。	
	3. C.A.Debussy :Romance のディクション、詩の解釈説明し、演習に導く。	Romance の詩にある語を辞書で調べる。	
	4. C.A.Debussy :Nuit d'étoiles ,Romance のいずれかを一人一人演習する。	Nuit d'étoiles、Romance のディクションと歌唱練習する。	
	5. C.A.Debussy :Nuit d'étoiles ,Romance のいずれかを一人一人演習する。	Nuit d'étoiles、Romance のディクションと歌唱練習する。	
	6. C.A.Debussy :Nuit d'étoiles ,Romance のいずれかを一人一人演習する。	Nuit d'étoiles、Romance のディクションと歌唱練習する。	
	7. C.A.Debussy :Nuit d'étoiles ,Romance のいずれかを一人一人 ディクションと歌唱発表する。	Nuit d'étoiles、Romance のディクションと歌唱練習する。	
	8. E.Chausson :Les papillons,Le colibri のディクッション、詩の解釈、作曲家と詩人との関わり等学習し、演習に導く。	E.Chausson について調べる。Les papillons,Le colibri の詩にある語を辞書で調べる。	
	9. H.Duparc :Chanson triste のディクション、詩の解釈、時代背景等学習し演習に導く。	H.Duparc について調べる。Chanson tristeの詩にある語を辞書で調べる。	
	10. E.Chausson :Les papillons,Le colibri とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人演習する。	Les papillons,Le colibri、Chanson triste のディクションと歌唱の練習。	
	11. E.Chausson :Les papillons,Le colibri とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人演習する。	Les papillons,Le colibri、Chanson triste のディクションと歌唱の練習。	
	12. E.Chausson :Les papillons,Le colibri とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人演習する。	Les papillons,Le colibri、Chanson triste のディクションと歌唱の練習。	
	13. E.Chausson :Les papillons,Le colibri とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを ディクションと歌唱の練習。	
	14. E.Chausson :Les papillons,Le colibri とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを ディクションと歌唱の練習。	
	15. E.Chausson :Les papillons,Le colibri とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人ディクショ ンと歌唱発表する。	Les papillons,Le colibri、Chanson triste のディクションと歌唱の練習。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	声楽研究発Ⅰで学習したことをより発展的に 更に色々な作曲家のフランス歌曲の作品を楽しみ深めて下さい。		
フィードバックの方法:	レポート等の提出物においては 添削し返却。授業内でも解説。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況と授業態度	50%	積極的に授業に参加し、明確な発音と美しい抑揚に対して意欲的かを評価する。
	発表	50%	正確で美しい発音と抑揚を踏まえて、詩と音楽の関わり魅力を表現しているかを評価する。
教科書:	美山節子著 フランス歌曲発音法(同朋出版) フォーレ歌曲集(全音楽譜出版) フランス歌曲集(ドレミ出版)		
参考書:	P.ベルナック「フランス歌曲の演奏と解釈」(音楽之友社) F.ルシュール「ドビュッシー書簡集」(音楽之友社) 佐藤朔訳「ボードレール詩集」(白鳳社) 仏和辞典		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。		

授業テーマ:	ミュージックセラピーならびに関連テーマに関する調査・研究		
授業の概要:	各自の興味あるテーマを選定し、それについて調査・研究をする。		
到達目標:	テーマに沿って資料を収集したり、調査をする力をつける。		
授業方法:	討議、発表、講義		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション		
	2. テーマ選定への準備(1)	資料の予習	
	3. テーマ選定への準備(2)	資料の予習	
	4. テーマ選定への準備(3)	資料の予習	
	5. 先行研究の調査と発表(1)	配布資料の確認	
	6. 先行研究の調査と発表(2)	配布資料の確認	
	7. 先行研究の調査と発表(3)	配布資料の確認	
	8. テーマ選定のための研究方法の確認(1)		
	9. テーマ選定のための研究方法の確認(2)		
	10. テーマ選定のための研究方法の確認(3)		
	11. 成果の発表(1)		
	12. 成果の報告(2)		
	13. 成果の報告(3)		
	14. 成果の報告(4)		
	15. 総括		
受講者への メッセージや アドバイス:	論文の書き方の基礎を資料を通してしっかり確認する。 たくさんの興味あるテーマから何にするかの選択を早めに行い、調査や資料の収集を丁寧に行う。		
フィードバックの 方法:	毎回作成した資料を整理し、組み立てなおす。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	出欠
	発表	30	内容
	成果物	40	内容と量
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	音楽学科事務室		

363002

ミュージックセラピー研究Ⅰ

稲田 雅美

授業テーマ:

ミュージックセラピーに関する文献研究と論文(小論)作成

授業の概要:

主として英語の原著論文を読み解き、学術的見地から芸術の臨床適用についての理解を深める。また、取り上げた論文の内容を基にして、自ら学術的な論文を執筆する力を養う。

到達目標:

・原著論文の読解力を養う。

・学術論文を執筆するための語彙や文章様式の習熟

授業方法:

各自が研究テーマを設定し、そのテーマに沿った英語文献を選択してその内容を紹介し合う。期間後半では、文献を通して得られた知識を総合した論文(小論)を作成し、発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション;論文の「読み方」と「書き方」	論文執筆の手順に関する文献を参照する。
2. ミュージックセラピーに関する文献の吟味と討議(1)	紹介文献の選択と文献の抄訳作成。また、討議した要点をまとめ、論文の作成に役立つよう整理する。
3. ミュージックセラピーに関する文献の吟味と討議(2)	同上
4. ミュージックセラピーに関する文献の吟味と討議(3)	同上
5. ミュージックセラピーに関する文献の吟味と討議(4)	同上
6. 講読文献の内容を基にした論文(小論)作成のガイド	論文のテーマを決定する。
7. ミュージックセラピーに関する文献の吟味と討議(5)	紹介文献の選択と文献の抄訳作成。また、討議した要点をまとめ、論文の作成に役立つよう整理する。
8. ミュージックセラピーに関する文献の吟味と討議(6)	同上
9. ミュージックセラピーに関する文献の吟味と討議(7)	同上
10. 講読文献の内容を基にした論文(小論)の作成:個別指導	論文の作成
11. 講読文献の内容を基にした論文(小論)の作成:個別指導	同上
12. 講読文献の内容を基にした論文(小論)の作成:個別指導	同上
13. 論文(小論)の発表	発表の準備
14. 論文(小論)の発表	同上
15. 総括:臨床における芸術活動に関する討議	ミュージックセラピーの意義について、論理的に説明する準備を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

欧米で展開されているミュージックセラピーの真の様相を追究すること。

フィードバックの方法:

提出物は、授業内でまとめてコメントした上で返却する。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラス内での発表およびクラス参加度	70%	文献紹介の発表のための準備ができていること、およびクラス内で積極的に発言することを中心に評価する。
論文(小論)の評価	30%	

教科書:

参考書:

『こころをつなぐミュージックセラピー:ことばを超える音と対話』 ミネルヴァ書房(2016年)
『レポート・論文の書き方入門 第3版』 慶応義塾大学出版会(2002年) 他

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

ミュージックセラピーならびに関連テーマの調査・研究のまとめ

授業の概要:

前期に調査・研究したテーマのまとめ

到達目標:

卒業研究として提出する。

授業方法:

調査・研究のグループ発表と個人指導

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. 選定したテーマの再構築(1)	各自資料のまとめ
	3. 選定したテーマの再構築(2)	各自資料のまとめ
	4. 選定したテーマの再構築(3)	各自資料のまとめ
	5. 選定したテーマの再構築(4)	各自資料のまとめ
	6. グループ討議(1)	討議資料の準備
	7. グループ討議(2)	討議資料の準備
	8. グループ討議(3)	討議資料の準備
	9. 個別指導(1)	
	10. 個別指導(2)	
	11. 個別指導(3)	
	12. 個別指導(4)	
	13. 研究発表(1)	配布資料の準備
	14. 研究発表(2)	配布資料の準備
	15. 総括	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

テーマを絞り、資料を論文の形式に沿ってまとめるために、書きやすいところから手掛けるように。

フィードバックの
方法:

収集した資料を丁寧に考察し深め広げるために、読む、書く作業を続ける。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	出欠
	グループ討議	20	参加状況
	成果物提出	50	内容・量

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力、

教員との連絡
方法:

音楽学科事務室

363102

ミュージックセラピー研究Ⅱ

稲田 雅美

授業テーマ:	クリエイティブ・アートセラピーの研究と論文制作		
授業の概要:	音楽をはじめさまざまな芸術様式をコラボレートするセラピーについての研究と実践的試み、ならびに論文の制作を行なう。		
到達目標:	・音楽活動を中心とするクリエイティブ・アートセラピーの理解 ・アートの創作プロセスにおける、自らの心的変化の洞察 ・学術論文の制作		
授業方法:	アート作品を創作することの臨床的意義について、理論と実践の両面から考察する。その研究成果を論文としてまとめ、完成させる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	イントロダクション: クリエイティブ・アートセラピーとは	関連図書を自発的に読む。
	2.	クリエイティブ・アートセラピーに関する文献研究(1)	文献を事前講読する。復習として要約を作成し、論文の作成に役立つよう整理する。
	3.	クリエイティブ・アートセラピーの文献研究(2)	同上
	4.	アートの創作と臨床応用に関する討議(1)	アート作品制作の構想
	5.	アートの創作と臨床応用に関する討議(2)	同上
	6.	論文個別指導(1)	各自のテーマに基づく論文の執筆
	7.	論文個別指導(2)	同上
	8.	論文個別指導(3)	同上
	9.	論文個別指導(4)	同上
	10.	論文個別指導(5)	同上
	11.	論文個別指導(6)	同上
	12.	論文個別指導(7)	同上
	13.	研究の発表(1)	執筆論文の内容を発表する準備
	14.	研究の発表(2)	同上
	15.	総括	「クリエイティブな態度」について討議できるよう、話題を準備する。
受講者へのメッセージやアドバイス:	さまざまな視覚アートに関心をもち、美術作品や美術書などに接する機会を多くもつこと。		
フィードバックの方法:	提出物は、教室でまとめてコメントする。また、必要に応じて添削する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	クラスへの貢献度	50%	積極的に授業に参加、発言し、アートの制作などにも意欲的に取り組んでいることを評価する。
	論文の評価	50%	論文の構成と内容を評価する。
教科書:			
参考書:	『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶応義塾大学出版会(2002年) 他 『改訂新版 音楽の文章術』春秋社(2014年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

363201

ミュージックエデュケーション研究Ⅰ

椎名 亮輔

授業テーマ:

音楽教育に関する卒業論文を書く

授業の概要:

各人の選んだ音楽教育に関するテーマについて調査・研究し、最終的に論文として執筆する。

到達目標:

知識・理解:音楽教育に関するテーマについて適切に調査・研究する。
関心・意欲・態度:音楽教育に関するテーマについて積極的に調査・研究する。
表現・技能・能力:音楽教育に関するテーマについて調査研究した結果を論文として執筆する。

授業方法:

各人の選んだ音楽教育に関するテーマについて、それに関する文献リストを作成し、収集する。そして重要なものを精読し、テキスト批評を施し発表、ディスカッションをする。以上により、テーマの再構築・精密化をはかり、論述としての文章作成に着手する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 卒論テーマの選定について	自分のもっとも興味のあるテーマについて考えてくる
2. テーマの精選・構築について	自分のもっとも興味のあるテーマについて考えてくる
3. テキスト批評とは	テキスト批評について調べてくる
4. 先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評1	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
5. 先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評2	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
6. 先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評3	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
7. 先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評4	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
8. 先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評5	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
9. 先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評6	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
10. 先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評7	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
11. 先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評8	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
12. 先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評9	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
13. 論文の構想1	自分のテーマについて論文の構想を練る
14. 論文の構想2	自分のテーマについて論文の構想を練る
15. 論文の構想3	自分のテーマについて論文の構想を練る

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内において、適宜コメント、解説を行う

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	55	授業への積極的な参加について評価する
テキスト批評に基づくレポート	45	自分のテーマについて正しく調査・研究ができているかについて評価する

教科書:

参考書:

河野哲也、レポート・論文の書き方入門第3版、慶応義塾大学出版会
リチャード・J・ウインジェル、改訂新版音楽の文章術、春秋社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール: rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	音楽教育に関する卒業研究		
授業の概要:	各自が関心をもつ音楽教育に関するテーマにもとづき、文献研究や調査などを行い、ミュージックエデュケーションⅢにおいて完成させる学術論文の概要を構築する。		
到達目標:	・ミュージックエデュケーションⅡで完成させる学術論文の構成と内容を明確し、論文(小論)を作成する。 ・各自の研究内容をクラス内で発表する。		
授業方法:	各自が構想するテーマやその展開、関連文献等について順番に発表し合い、情報や知識の共有とディスカッションを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 研究テーマの設定に関する討議1	関連文献を積極的に精査する。	
	2. 研究テーマの設定に関する討議2	同上	
	3. 参考文献リストに関する解説	参考文献のタイトル等を整理する。	
	4. 文献の引用に関する解説	引用の方法を復習する。	
	5. 関連文献の共有1	研究テーマに沿った文献を紹介する準備	
	6. 関連文献の共有2	同上	
	7. 関連文献の共有3	同上	
	8. 関連文献の共有4	同上	
	9. 論文(小論)の作成:個別指導1	論文(小論)の執筆	
	10. 論文(小論)の作成:個別指導2	同上	
	11. 論文(小論)の作成:個別指導3	同上	
	12. 論文(小論)の作成:個別指導4	同上	
	13. 論文(小論)の作成:個別指導5	同上	
	14. 論文(小論)の発表	研究発表の準備	
	15. 論文(小論)の発表	同上	
受講者へのメッセージやアドバイス:	英語文献も積極的に読み込む努力をすること。		
フィードバックの方法:	提出物は、教室でまとめてコメントした上で返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	クラスへの貢献度と発表論文(小論)の評価	60% 40%	文献内容を共有する姿勢と、発表内容および発表の仕方を評価する。 論文の構成と内容を評価する。
教科書:			
参考書:	『レポート・論文の書き方入門 第3版』 慶応義塾大学出版会(2002年) 他 『改訂新版 音楽の文章術』 春秋社(2014年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

363301

ミュージックエデュケーション研究Ⅱ

椎名 亮輔

授業テーマ:

「ミュージックエデュケーション研究Ⅱ」のつづきとして、音楽教育に関する卒業論文を書く

授業の概要:

「ミュージックエデュケーション研究Ⅱ」について、各人の選んだ音楽教育に関するテーマについて調査・研究し、最終的に論文として執筆する。

到達目標:

知識・理解: 音楽教育に関するテーマについて適切に調査・研究する。
関心・意欲・態度: 音楽教育に関するテーマについて積極的に調査・研究する。
表現・技能・能力: 音楽教育に関するテーマについて調査研究した結果を論文として執筆する。

授業方法:

「ミュージックエデュケーション研究Ⅱ」での成果を踏まえ、9月に中間発表を行う。重要文献やデータの精読を基礎にして、各人がそれぞれ自分のテーマを掘り下げ、研究・考察し、自分の言葉で適切な文章にまとめあげてゆく。個別指導を受けながら、論文を執筆する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 個別指導1	指導をもとに論文を書いてくる
2. 個別指導2	指導をもとに論文を書いてくる
3. 個別指導3	指導をもとに論文を書いてくる
4. 個別指導4	指導をもとに論文を書いてくる
5. 個別指導5	指導をもとに論文を書いてくる
6. 個別指導6	指導をもとに論文を書いてくる
7. 個別指導7	指導をもとに論文を書いてくる
8. 個別指導8	指導をもとに論文を書いてくる
9. 個別指導9	指導をもとに論文を書いてくる
10. 個別指導10	指導をもとに論文を書いてくる
11. 個別指導11	指導をもとに論文を書いてくる
12. 個別指導12	指導をもとに論文を書いてくる
13. まとめと考察1	指導をもとに論文をしあげる
14. まとめと考察2	指導をもとに論文をしあげる
15. まとめと考察3	指導をもとに論文をしあげる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個別指導を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	20	授業に積極的に参加しているかを評価する
中間発表	20	中間発表において、自分のテーマについて正しく研究が進められ、それをプレゼンテーションできているかについて評価する
論文	60	自分のテーマについてきちんとした論文が書けているかどうかを評価する

教科書:

なし

参考書:

河野哲也、レポート・論文の書き方入門第3版、慶応義塾大学出版会
リチャード・J・ウィンジェル、改訂新版音楽の文章術、春秋社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール: rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

音楽教育に関する卒業論文を制作する。

授業の概要:

ミュージックエデュケーションⅡにおいて蓄積した知識をもとに、卒業論文を執筆する。

到達目標:

・卒業論文の完成

授業方法:

ミュージックエデュケーションⅡにおいて構築した各人のテーマを掘り下げ、重要文献を精査しながら、研究成果を文章化する。個別指導を中心とするが、必要に応じてクラス内で情報交換やディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	論文執筆の手順等の確認	論文執筆の手順に関する文献を参照する。
2.	個別指導1	論文の構成を明らかにする。
3.	個別指導2	同上
4.	個別指導3	本文の執筆
5.	個別指導4	同上
6.	個別指導5	同上
7.	個別指導6	同上
8.	個別指導7	同上
9.	個別指導8	同上
10.	個別指導9	内容の精査と文献リストの確認
11.	個別指導10	同上
12.	個別指導11	論文全容の確認
13.	研究の発表1	クラス内での論文発表の準備
14.	研究の発表2	同上
15.	総括	ふり返りと討議のために、自分の論文を読み返しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

英語文献も積極的に読み込む努力をすること。

フィードバックの方法:

提出物は、教室内でまとめてコメントする。また、必要に応じて添削する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	論文への取り組み度	40%	論文執筆への取り組みの積極性、ならびにクラス発表の姿勢について評価する。
	論文の評価	60%	論文の構成、論理的展開、内容全般について評価する。

教科書:

参考書:

『レポート・論文の書き方入門 第3版』 慶応義塾大学出版会(2002年) 他
『改訂新版 音楽の文章術』 春秋社(2014年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

音楽作品の創作

授業の概要:

様々な音楽を提示し、学生各人の創作に対する意欲を与えつつ、創作のレッスンを行う。

到達目標:

様々な有名な音楽作品をある意味参考にし、学生自身、独自の音楽作品を創作する。

授業方法:

個人またはグループレッスン形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	とりあえず、作品を作り始めること。内容や編成は自由。
2.	創作と分析 1	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
3.	創作と分析 2	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
4.	創作と分析 3	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
5.	創作と分析 4	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
6.	創作と分析 5	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
7.	創作と分析 6	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
8.	創作と分析 7	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
9.	創作と分析 8	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
10.	創作と分析 9	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
11.	創作と分析 10	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
12.	創作と分析 11	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
13.	創作と分析 12	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
14.	創作と分析 13	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
15.	創作と分析 14	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

創作は受身では出来ない。積極的な姿勢で作曲に臨んでほしい。

フィードバックの方法:

常に、「作曲」をしている意識をもたなければならない。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポートまたは作品提出	60	提出された作品
	平常点	40	授業に対する姿勢、創作意欲など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

381700

ミュージッククリエイションD(Adv.)

葛西

聖憲

授業テーマ:

音楽作品の創作

授業の概要:

様々な音楽を提示し、学生各人の創作に対する意欲を与えつつ、創作のレッスンを行う。

到達目標:

ミュージッククリエイションC(Adv.)に引き続き、様々な有名な音楽作品をある意味参考にし、学生自身、独自の音楽作品を創作する。

授業方法:

個人またはグループレッスン形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	とりあえず、作品を作り始めること。内容や編成は自由。
2. 創作と分析 1	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
3. 創作と分析 2	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
4. 創作と分析	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
5. 創作と分析 4	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
6. 創作と分析 5	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
7. 創作と分析 6	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
8. 創作と分析 7	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
9. 創作と分析 8	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
10. 創作と分析 9	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
11. 創作と分析 10	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
12. 創作と分析 11	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
13. 創作と分析 12	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
14. 創作と分析 13	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
15. 創作と分析 14	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

創作は受身では出来ない。積極的な姿勢で作曲に臨んでほしい。

フィードバックの方法:

常に、「作曲」をしているという意識をもたなければならない。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出作品	60	提出された作品の内容
平常点	40	授業に対する姿勢、創作意欲など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

381800

コンピュータミュージック演習C(Adv.)

成田 和子

授業テーマ:	コンピュータミュージック演習AとBに続く、コンピュータを用いた作品の創作		
授業の概要:	MIDIデータを用いた作品、MIDIデータとAUDIOデータを用いた作品、電子音響音楽作品、楽器の演奏と電子音楽をシンクロナイズさせるミクスト作品など、オリジナルな作品の創作を行う。		
到達目標:	創作テーマに沿ったオリジナルな作品の創作		
授業方法:	授業、創作演習、個別指導		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	導入:音楽創作のプロセス、コンピュータを用いた創作環境について	準備
	2.	MIDIデータを用いた作品について	MIDIについて調べる。
	3.	MIDIデータとAUDIOデータを用いた作品について	AUDIOについて調べる。
	4.	電子音響音楽作品について	電子音楽について調べる。
	5.	作品に用いる素材の録音について	録音方法について調べる。
	6.	楽器の演奏と電子音楽をシンクロナイズさせるミクスト作品について	楽音と電子音の違いについて考える。
	7.	ミクスト作品における楽器のパートについて	楽音と電子音の共存について考える。
	8.	ミクスト作品におけ電子音楽のパートについて	創作作品の形態について考える。
	9.	オリジナルな作品の創作テーマの決定	創作作品の形態について考える。
	10.	創作演習、個別指導1	創作を進める。
	11.	創作演習、個別指導2	創作を進める。
	12.	創作演習、個別指導3	創作を進める。
	13.	創作演習、個別指導4	創作を進める。
	14.	創作演習、個別指導5	創作を進める。
	15.	創作演習、個別指導6	創作を進める。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	研究室で対応		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	オリジナル作品の創作	70	
	平常の学習状態	30	出席状況など
教科書:			
参考書:	参考音源や資料を提供する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	研究室で対応		

381900

コンピュータミュージック演習D (Adv.)

成田 和子

授業テーマ:	コンピュータミュージック演習C(Adv.)に続く、コンピュータを用いた作品の創作と発表		
授業の概要:	MIDIデータを用いた作品、MIDIデータとAUDIOデータを用いた作品、電子音響音楽作品、楽器の演奏と電子音楽をシンクロナイズさせるミクスト作品など、オリジナルな作品の創作を行う。		
到達目標:	創作テーマに沿ったオリジナルな作品の創作と発表		
授業方法:	授業、創作演習、個別指導		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	作品創作のプロセスと創作環境の確認1	創作作品について考える。
	2.	作品創作のプロセスと創作環境の確認2	創作作品について考える。
	3.	作品創作のプロセスと創作環境の確認3	創作のプロセスを考える。
	4.	創作演習、個別指導1	創作を進める。
	5.	創作演習、個別指導2	創作を進める。
	6.	創作演習、個別指導3	創作を進める。
	7.	創作演習、個別指導4	創作を進める。
	8.	創作演習、個別指導5	創作を進める。
	9.	創作演習、個別指導6	創作を進める。。
	10.	創作演習、個別指導7	創作を進める。
	11.	創作演習、個別指導8	創作を進める。
	12.	創作演習、個別指導9	創作を進める。
	13.	創作演習、個別指導10	創作を進める。
	14.	発表1	発表の準備
	15.	発表2	発表の準備
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	研究室で対応		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	オリジナル作品の 創作	70	出席状況など
	平常の学習状態	30	
教科書:			
参考書:	参考音源や資料を提供する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	研究室で対応		

授業テーマ:	学術論文の書き方を学ぶ		
授業の概要:	大学院修士課程2年次で修士論文を書くために論文の書き方の基本を学ぶ。実際の論文例を見ながら、日本語で論文を書く場合の書き方の基本と日本語の論文の構造を学ぶが、必要に応じて英語での論文の書き方の基本と英語論文の構造(paragraph writing等)も学ぶ。		
到達目標:	受講生が、実際の論文例を見ながら、学術論文の書き方の基本と論文の基本構造を学び、また論文例を内容面で理解しながら、論文執筆に必要な文献読解力・分析力・critical thinking(批判的かつ多角的考察)の姿勢を身につけ、論文の形式の中で自分の考えを論理的に説得力を持って文章で表現する力を養うことを目標とする。また、各自の論文(後期のAcademic Writing Bの学期末論文)の執筆計画を完成する。		
授業方法:	講義、文献(論文例)の講読、考察発表、そして論文を書く練習が中心となる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	イントロダクション	授業の復習として配布資料を読む。
	2.	論文の基本構造(1) 論文例の研究と文献講読	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	3.	論文の基本構造(2) 論文例の研究と文献講読	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	4.	論文の基本構造(3) 論文例の研究と文献講読	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	5.	論文のテーマの設定(1) 資料の探し方(1)	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	6.	論文のテーマの設定(2) 資料の探し方(2)	資料検索 授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	7.	序論の書き方	資料検索 授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	8.	先行研究の紹介の仕方	序論執筆 授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	9.	事物・現象・重要項目の定義づけと説明の仕方	先行研究について書く 授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	10.	本論の書き方(1) 論拠の提示の仕方	事物・現象・重要項目の定義と説明を書く 授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	11.	本論の書き方(2) 自分の考察・主張の提示の仕方	本論を書く。 論文執筆計画書を書く。 授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	12.	結論部の書き方(1)	本論を書く。 論文執筆計画書を書く。 授業の予習として前週に配布された文献の講読をする。
	13.	結論部の書き方(2)	結論部を書く。 授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	14.	各自の論文(後期のAcademic Writing Bの学期末論文)の執筆計画発表(1)	結論部を書く。 論文論文執筆計画書を書く。 授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
	15.	各自の論文(後期のAcademic Writing Bの学期末論文)の執筆計画発表(2)	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点(出席、クラス参加の成果等)	65%	出席と積極的な授業参加、優れた発言・考察発表、そして論文執筆練習の成果(考察の深さと多角性と柔軟さ、主張の論理性と説得力等)
	期末レポート試験(論文執筆計画レポート)	35%	授業で学んだ内容が生かされた、具体性のある執筆計画であること
教科書:	授業時に文献・資料を配布する。		
参考書:	授業時に指示する。		

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Email (授業中に指示する)

授業テーマ:

学術論文の書き方を学ぶ。

授業の概要:

春学期のAcademic Writing Aに続く授業となる。春学期に習得した論文の基本、文献の読みこなし方、critical thinking(批判的かつ多角的考察)の姿勢、そして論文の書き方を生かして学期末論文の執筆に取り組む。自分のテーマに必要な文献の収集・読解、論文執筆、執筆途中の報告・発表、添削、修正、ディスカッションを通して説得力、論理性、そして独自性のある論文を完成する。

到達目標:

受講生が学期末論文完成までのプロセスを通して、論文を読み込む力、自分のテーマに関する専門的知識を習得し、テキストを分析し、多様な意見を聞き、読み、理解しながら、論文という形式の中で独自の考えを打ち立て表現する力、論理性と説得力のある議論と主張ができるようになることを目標とする。

授業方法:

講義、文献講読、考察、ディスカッション、論文執筆演習、発表を中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション 2. 論文執筆計画書(前期Academic Writing A で完成した)を元に執筆開始 各自のテーマに関する考察をいかに深めるか 各自のテーマに関する資料・文献収集 文献講読 3. 論文執筆と論文指導(1) 文献講読 注と参考文献リスト 4. 論文執筆と論文指導(2) 文献講読 タイトルと目次 多角的に考察する(1) 5. 論文執筆と論文指導(3) 文献講読 要旨 多角的に考察する(2) 6. 論文執筆と論文指導(4) 文献講読 読者を想定する 論理性と説得力をいかに磨くか(1) 7. 論文執筆と論文指導(5) 文献講読 書き手としての自分のスタンス・視点を検証する 論理性と説得力をいかに磨くか(2) 8. 論文執筆と論文指導(6) 文献講読 論文執筆におけるモラル 論理性と説得力をいかに磨くか(3) 9. 論文執筆途中の報告・発表(1) ディスカッションと論文指導 文献講読 10. 論文執筆途中の報告・発表(2) ディスカッションと論文指導 文献講読 11. 論文修正(1) 文献講読 12. 論文修正(2) 文献講読 13. 論文修正(3) 文献講読 14. 論文の完成と報告(1) 15. 論文の完成と報告(2)		配布文献を読む 資料・文献収集 論文執筆 論文執筆 講義内容の復習 論文執筆 講義内容の復習 論文執筆 講義内容の復習 論文執筆講義内容の復習 論文執筆 講義内容の復習 論文執筆 講義内容の復習 論文執筆途中の報告・発表準備 論文執筆 論文執筆途中の報告・発表準備 論文執筆 講義内容の復習 予習として配布文献を読んでおく 論文執筆 予習として配布文献を読んでおく 論文執筆 講義内容の復習 論文執筆 論文内容の報告準備 論文執筆 論文内容の報告準備 論文執筆

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

各種提出物の中で返却が必要なものは採点とコメントをし、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果、発表 等)	60%	出席と積極的な授業参加、優れた発言、考察、発表内容、論文執筆演習の成果等
	学期末論文	40%	論文の書き方の基本を習得しているか テーマに沿った資料・文献を使っているか 文献・資料の読解を活かしているか テーマに関する考察が深く、多角的であるか 説得力のある、独自の議論を展開しているか 読み手に伝わる文章を書けているか

教科書:

授業時に文献・資料を配布する。

参考書:

授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Email (授業中に指示する)

授業テーマ:

This course will focus on improving English academic writing for graduate students, including argumentation with accurate citation for dissertations and research report writing.

授業の概要:

Goals of this course include the production of academic research papers for publication, dissertations and general academic writing skills (depending on student needs).
At the end of this course, students will be able to prepare an academic CV and professional resume and relevant covering letters; organize an academic paper effectively, utilizing pre-writing generation strategies and outlining methods appropriately; find appropriate expert sources & data that have been critically chosen & critically read, and integrate them into writing to support claims; cite sources correctly according to a required citation style; paraphrase and/or summarize the ideas of other writers (with citation); compare and contrast different ideas, situations, and points of view; edit and proofread their own papers as well as those of peers, in accordance with teacher or peer feedback; prepare and submit a correctly-formatted academic research paper with an appropriate reference list, and deliver a short presentation on their paper.

到達目標:

This class is conducted in a computer room, and will use the instructor's website for writing assignments. There will be weekly in-class writing assignments and lectures, and also take-home writing assignments. Depending on class size, a tutorial approach will be adopted.

授業方法:

This class is conducted in a computer room, and will use the instructor's website for writing assignments. There will be weekly in-class writing assignments and lectures, and also take-home writing assignments. Depending on class size, a tutorial approach will be adopted.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction and needs analysis. Website registration.	Preparation of needs analysis material for instructor evaluation.
	2. Introduction and needs analysis, ctd./	Preparation of further needs analysis material for instructor evaluation.
	3. Practical academic writing skills – using academic CVs to introduce and promote yourself (introduction and comparison).	Preparation of materials for academic CVs
	4. Practical academic writing skills – CVs and profiles ctd./	Assignment: Academic writing CV
	5. Practical academic writing skills – accompanying letters.	Assignment: Covering letter.
	6. Process writing for academic papers; prewriting preliminaries, techniques (freewriting, listing)	Assignment: Looping.
	7. Process writing for academic papers; prewriting preliminaries, techniques ctd./.(Journalists' questions, Cubing.)	Assignments: Journalists' questions, Cubing.
	8. Process writing for academic papers; prewriting preliminaries, techniques ctd./.(Mind mapping, outlining.)	Assignments: Mind mapping, outlining.
	9. Process writing for academic papers; introductions overview.	Assignment: Introduction hooks.
	10. Process writing for academic papers: thesis statements.	Assignment: 4 kinds of thesis statement.
	11. Process writing for academic papers; conclusions 1 (overview).	Assignment: conclusion techniques.
	12. Process writing for academic papers; body – supporting your paper, argument writing; classical rhetorical techniques, overview	Assignment: rhetorical strategies 1
	13. Process writing for academic papers; body – supporting your paper, arguments and rhetorical techniques, ctd.,	Assignment: rhetorical strategies 2
	14. Process writing for academic papers; body – supporting your paper, evidence, ctd./	Assignment: rhetorical strategies 3
	15. Skills review.	Mini paper using above skills.

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a preliminary schedule only and will be adjusted according to students' individual academic and professional requirements as much as possible.

フィードバックの方法:

Feedback from the instructor to the student: Students will upload assignments to Google Drive portfolios for individual commentary by instructor. Depending on class size, individual review will be adopted.

Feedback by students to the instructor: The university's own feedback method, in addition to the instructor's feedback method will be using for general evaluation by students.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	In class work	30	Lively and discursive contributions to in-class course activities are desired, and participation in live writing exercises.
	Assignments	30	Prompt and thorough completion of homework assignments. Careful proofreading and editing of all assignments is expected – do not send me the first draft of anything! Your portfolio of assignments forms a significant assessment component, so do not skip
	Final paper	40	Original research skills are expected, including the critical reading of academic journals and papers. Careful proofreading and editing of your final assignment is expected – do not send me the first draft of anything! Please use a peer editor.

教科書:	No textbooks need to be purchased for this course. All the materials are on the instructor's Google Drive. Materials may be recommended if students wish to work from a textbook by themselves.
参考書:	Swales, J. and Beer Feak, C. Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, Second Edition. Ann Arbor: University of Michigan Press. ISBN: 0-472-08856-4 Kennedy, M. L. and Smith, H. M. Reading and Writing in the Academic Community (3rd Edition). Prentice Hall; 3rd edition. ISBN: 978-0131931336. Leki, I. Academic Writing: Exploring Processes and Strategies. Cambridge University Press; 2nd edition. ISBN: 978-0521657686
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡 方法:	eottman@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ: Academic Writing in English

授業の概要: This course will focus on improving English academic writing for graduate students, including argumentation with accurate citation for dissertations and research report writing.

到達目標: Goals of this course include the production of academic research papers for publication, dissertations and general academic writing skills (depending on student needs).
At the end of this course, students will be able to organize an academic paper effectively, utilizing pre-writing generation strategies and outlining methods appropriately; find appropriate expert sources & data that have been critically chosen & critically read, and integrate them into writing to support claims; cite sources correctly according to a required citation style; paraphrase and/or summarize the ideas of other writers (with citation); compare and contrast different ideas, situations, and points of view; edit and proofread their own papers as well as those of peers, in accordance with teacher or peer feedback; prepare and submit a correctly-formatted academic research paper with an appropriate reference list, and deliver a short presentation on their paper.

授業方法: This class is conducted in a computer room, and will use the instructor's website for writing assignments. There will be weekly in-class writing assignments and lectures, and also take-home writing assignments. Depending on class size, a tutorial approach will be adopted.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Introduction and needs analysis if necessary.. Website registration if needed.	Preparation of needs analysis material for instructor evaluation.
2. Process writing for academic papers, a review; transitions; drafting and editing; peer review process	Assignment: practice of peer review process.
3. Process writing for academic papers; referencing, footnotes; drafting, editing. Use of referencing software e.g. Endnote, Get A Ref.	Assignment: Research on referencing softwares
4. Process writing for academic papers; introduction to different citation styles (MLA, Chicago, APA etc), comparison, softwares	Assignment: review of previous paper for citation practice
5. Process writing for academic papers; different citation styles (Chicago, APA etc), Quiz	Assignment MLA practice
6. Process writing for academic papers; Paraphrasing and summarising, overview	Assignment: Paraphrasing and summarising 1
7. Process writing for academic papers: Paraphrasing in detail; in-class practice	Assignment: Paraphrasing and summarising 2
8. Process writing for academic papers: Paraphrasing in detail; in-class quiz	Assignment: Paraphrasing and summarising 3
9. Process writing for academic papers; Plagiarism, accidental and intentional and intellectual dishonesty – review	Assignment: Plagiarism quiz
10. Process writing for academic papers: abstracts	Assignment: Abstract writing practice
11. Process writing for academic papers; politically correct and gender neutral language, bias-free writing 1;	Assignment: bias-free writing quiz
12. Process writing for academic papers; politically correct and gender neutral language, bias-free writing 2;	Assignment: bias-free writing exercise
13. Final project work: peer-reviewed paper discussions	Assignment: drafting of final paper
14. Final project work: peer-reviewed paper discussions. Presentation skills for papers.	Assignment: drafting of final paper. preparation of presentation on final paper
15. Final project work: peer-reviewed paper presentations	Final Assignment – final paper.

受講者へのメッセージやアドバイス: This is a preliminary schedule only and will be adjusted according to students' individual academic and professional requirements as much as possible.

フィードバックの方法: Feedback from the instructor to the student: Students will upload assignments to Google Drive portfolios for individual commentary by instructor. Depending on class size, individual review may be possible.

Feedback by students to the instructor: The university's own feedback method in addition to the instructor's feedback method will be using for general evaluation by students.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
In class work	30	Lively and discursive contributions to in-class course activities are desired, and participation in live writing exercises.
Assignments	30	Prompt and thorough completion of homework assignments. Careful proofreading and editing of all assignments is expected – do not send me the first draft of anything! Your portfolio of assignments forms a significant assessment component, so do not skip a
Final paper	40	Original research skills are expected, including the critical reading of academic journals and papers. Careful proofreading and editing of your final assignment is expected – do not send me the first draft of anything! Please use a peer editor.

教科書: No textbooks need to be purchased for this course. All the materials are on the instructor's Google Drive. Materials may be recommended if students wish to work from a textbook by themselves.

参考書: Swales, J. and Beer Feak, C. Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, Second Edition. Ann Arbor: University of Michigan Press. ISBN: 0-472-08856-4
Kennedy, M. L. and Smith, H. M. Reading and Writing in the Academic Community (3rd Edition). Prentice Hall; 3rd edition. ISBN: 978-0131931336.

Leki, I. Academic Writing: Exploring Processes and Strategies. Cambridge University Press; 2nd edition.
ISBN: 978-0521657686

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

eottman@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	現代イギリス文化の多様性とその歴史的背景		
授業の概要:	イギリス国内あるいは諸島内だけでなく、かつて帝国傘下にあった国や地域に残るイギリスらしさについて理解を深め、その維持のあり方および変容の要因について検討する。		
到達目標:	政治的な観点からイギリス文化の諸相を読み解き、自らの関心を絞って問題提起を行い、小論文を作成する。		
授業方法:	講義、輪読、プレゼンテーション、討議を組み合わせ、相互に理解度を確認しながら授業を進めていく。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション		
	2. 民族と歴史	前週配付の資料を熟読	
	3. スコットランド (1)―民族と伝統―	前週配付の資料を熟読	
	4. スコットランド (2)―独立への道―	前週配付の資料を熟読	
	5. ウェールズ (1)―公国の歴史―	前週配付の資料を熟読	
	6. ウェールズ (2)―言語と文化―	前週配付の資料を熟読	
	7. 北アイルランド (1)―The Troubles―	前週配付の資料を熟読	
	8. 北アイルランド (2)―UKか共和国か―	前週配付の資料を熟読	
	9. イングランド (1)―identity crisis―	前週配付の資料を熟読	
	10. イングランド (2)―UKとEU―	前週配付の資料を熟読	
	11. イギリス帝国 (1)―19世紀帝国主義―	前週配付の資料を熟読	
	12. イギリス帝国 (2)―文化帝国主義―	前週配付の資料を熟読	
	13. Commonwealth of Nations (1)―オセアニアの動向―	前週配付の資料を熟読	
	14. Commonwealth of Nations (2)―存在意義とは―	前週配付の資料を熟読	
	15. 総括		
受講者へのメッセージやアドバイス:	登録者数によっては、授業方法に若干の変更があり得る。		
フィードバックの方法:	各回、意見交換を行いながら理解度の確認と研究の方向性を見定めていく。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末レポート	40	立論の明確さと、適切な資料を用いた論証の合理性
	プレゼンテーション	20	与えられたテーマのなかで適切に焦点が絞られ問題提起と検討が為されているか否か
	司会および討議への参加度	20	積極的な聴き方と建設的意見の提示
	出席	20	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

イングランドらしさとは何か

授業の概要:

イギリスという連合王国を牽引してきたイングランドの文化的特殊性について、様々な観点から検討する。

到達目標:

政治的な観点からイングランド文化の諸相を読み解き、自らの関心を絞って問題提起を行い、小論文を作成する。

授業方法:

講義、輪読、プレゼンテーション、討議を組み合わせ、相互に理解度を確認しながら授業を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	前週配付の資料を熟読
2.	イギリスとイングランド	前週配付の資料を熟読
3.	英語の多様性 (1)	前週配付の資料を熟読
4.	英語の多様性 (2)	前週配付の資料を熟読
5.	英語と英語圏 (1)	前週配付の資料を熟読
6.	英語と英語圏 (2)	前週配付の資料を熟読
7.	大衆文化 (1)	前週配付の資料を熟読
8.	大衆文化 (2)	前週配付の資料を熟読
9.	スポーツ (1)	前週配付の資料を熟読
10.	スポーツ (2)	前週配付の資料を熟読
11.	National Trust (1)	前週配付の資料を熟読
12.	National Trust (2)	前週配付の資料を熟読
13.	伝統と革新 (1)	前週配付の資料を熟読
14.	伝統と革新 (2)	前週配付の資料を熟読
15.	総括	前週配付の資料を熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:

登録者数によっては、授業方法に若干の変更があり得る。

フィードバックの方法:

各回、意見交換を行いながら理解度の確認と研究の方向性を見定めていく。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末レポート	40	立論の明確さと、適切な資料を用いた論証の合理性
	プレゼンテーション	20	与えられたテーマのなかで適切に焦点が絞られ問題提起と検討が為されているか否か
	司会および討議への参加度	20	積極的な聴き方と建設的意見の提示
	出席	20	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

専門実技Ⅰ～Ⅵ
第一実技Ⅰa～Ⅳb(2013年度・2014年度入学生適用)

各コース実技担当教員

授業テーマ:	専門実技
授業の概要:	声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。(鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。)
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。
授業方法:	個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験・コンサートシリーズ(3・4年生)で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。	
	2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	

受講者へのメッセージやアドバイス:	
フィードバックの方法:	提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。ただし、全コースともに3・4年次生については「コンサートシリーズ」への出演を前提とする。

教科書:	学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書:	学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力
教員との連絡方法:	Eメール

ピアノ実技Ⅰ～Ⅵ ピアノ実技Ⅰa～Ⅳb(2013年度・2014年度入学生適用)

各コース実技担当教員

授業テーマ:	ピアノ実技(鍵盤楽器コースのピアノ以外対象)
授業の概要:	鍵盤楽器コースのピアノ以外を対象とするピアノ実技。
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。
授業方法:	個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通して近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。
	2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」: 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール

声楽実技Ⅰ～Ⅳ
声楽実技Ⅰa～Ⅳb(2013年度・2014年度入学生適用)

各コース実技担当教員

授業テーマ:	声楽実技(声楽コース以外対象)
授業の概要:	声楽コース以外を対象とする声楽実技。
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。
授業方法:	個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通して近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。
	2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:	
フィードバックの方法:	提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

楽器実技Ⅰ～Ⅱ
楽器実技Ⅰa～Ⅲb(2013年度・2014年度入学生適用)

各コース実技担当教員

授業テーマ:	管弦打楽器実技(音楽文化専攻対象)
授業の概要:	音楽文化専攻を対象とする管弦打楽器実技。
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。
授業方法:	個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通して近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。	
	2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	

受講者へのメッセージやアドバイス:	フィードバックの方法:		
	提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

授業テーマ:	大学での学びとその技法																																		
授業の概要:	大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかを理解してもらうことを目標とします。また、研究倫理についても学びます。																																		
到達目標:	一方、声楽に特化した課題として、演奏曲目についての音楽学的視点からの掘り下げ方、リハーサルを進め方、演奏するにあたってのマナーなども学びます。																																		
授業方法:	講義を聞くだけでなく、グループ学習、発表、歌唱発表、など実践的な内容を多く取り入れていく。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 授業オリエンテーション</td><td>大学での学びの目標を明確にすること</td></tr><tr><td>2. ノート・テイキングの手法</td><td>大学入学前の教育の場で行っていたノートテイキングを振り返っておくこと</td></tr><tr><td>3. 図書館 オリエンテーション</td><td>図書館とは自分にとってどのような場所であるかを考えておくこと。 大学内の図書館に行っておくこと</td></tr><tr><td>4. 図書館・データベースの使い方</td><td>図書館オリエンテーションで体験した検索の仕方などを、再度行ってみること</td></tr><tr><td>5. 一般文献(著書・論文など)を読む・参考にする・引用する方法 音楽文献(著書・論文・楽譜・録音など)の扱い方</td><td>図書館に行き、興味のある著書、論文、音楽文献を探し読んでみること</td></tr><tr><td>6. プレゼンテーションの技法</td><td>宿題として出された課題について、発表できるように草案をつくること</td></tr><tr><td>7. レポートの書き方</td><td>宿題として出された課題について、レポートとしてまとめられるように草案をつくること</td></tr><tr><td>8. 歌唱における基礎知識(1)</td><td>劇音楽、オペラについて調べること</td></tr><tr><td>9. 歌唱における基礎知識(2)</td><td>劇音楽、オペラについて調べること</td></tr><tr><td>10. 歌唱における基礎知識(3)</td><td>今までのリハーサルを進め方についてまとめておくこと</td></tr><tr><td>11. 歌唱における基礎知識(4)</td><td>最終日の歌唱発表会のための曲を決め、練習しておくこと</td></tr><tr><td>12. 歌唱における基礎知識(5)</td><td>最終日の歌唱発表会のための曲を決め、練習しておくこと</td></tr><tr><td>13. 歌唱における基礎知識(6)</td><td>発表会のピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方について考えること</td></tr><tr><td>14. 歌唱における基礎知識(7)</td><td>発表会のピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方について考えること</td></tr><tr><td>15. 歌唱発表会</td><td>発表会においての、ピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方の反省点をまとめること</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 授業オリエンテーション	大学での学びの目標を明確にすること	2. ノート・テイキングの手法	大学入学前の教育の場で行っていたノートテイキングを振り返っておくこと	3. 図書館 オリエンテーション	図書館とは自分にとってどのような場所であるかを考えておくこと。 大学内の図書館に行っておくこと	4. 図書館・データベースの使い方	図書館オリエンテーションで体験した検索の仕方などを、再度行ってみること	5. 一般文献(著書・論文など)を読む・参考にする・引用する方法 音楽文献(著書・論文・楽譜・録音など)の扱い方	図書館に行き、興味のある著書、論文、音楽文献を探し読んでみること	6. プレゼンテーションの技法	宿題として出された課題について、発表できるように草案をつくること	7. レポートの書き方	宿題として出された課題について、レポートとしてまとめられるように草案をつくること	8. 歌唱における基礎知識(1)	劇音楽、オペラについて調べること	9. 歌唱における基礎知識(2)	劇音楽、オペラについて調べること	10. 歌唱における基礎知識(3)	今までのリハーサルを進め方についてまとめておくこと	11. 歌唱における基礎知識(4)	最終日の歌唱発表会のための曲を決め、練習しておくこと	12. 歌唱における基礎知識(5)	最終日の歌唱発表会のための曲を決め、練習しておくこと	13. 歌唱における基礎知識(6)	発表会のピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方について考えること	14. 歌唱における基礎知識(7)	発表会のピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方について考えること	15. 歌唱発表会	発表会においての、ピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方の反省点をまとめること		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 授業オリエンテーション	大学での学びの目標を明確にすること																																		
2. ノート・テイキングの手法	大学入学前の教育の場で行っていたノートテイキングを振り返っておくこと																																		
3. 図書館 オリエンテーション	図書館とは自分にとってどのような場所であるかを考えておくこと。 大学内の図書館に行っておくこと																																		
4. 図書館・データベースの使い方	図書館オリエンテーションで体験した検索の仕方などを、再度行ってみること																																		
5. 一般文献(著書・論文など)を読む・参考にする・引用する方法 音楽文献(著書・論文・楽譜・録音など)の扱い方	図書館に行き、興味のある著書、論文、音楽文献を探し読んでみること																																		
6. プレゼンテーションの技法	宿題として出された課題について、発表できるように草案をつくること																																		
7. レポートの書き方	宿題として出された課題について、レポートとしてまとめられるように草案をつくること																																		
8. 歌唱における基礎知識(1)	劇音楽、オペラについて調べること																																		
9. 歌唱における基礎知識(2)	劇音楽、オペラについて調べること																																		
10. 歌唱における基礎知識(3)	今までのリハーサルを進め方についてまとめておくこと																																		
11. 歌唱における基礎知識(4)	最終日の歌唱発表会のための曲を決め、練習しておくこと																																		
12. 歌唱における基礎知識(5)	最終日の歌唱発表会のための曲を決め、練習しておくこと																																		
13. 歌唱における基礎知識(6)	発表会のピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方について考えること																																		
14. 歌唱における基礎知識(7)	発表会のピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方について考えること																																		
15. 歌唱発表会	発表会においての、ピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方の反省点をまとめること																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	同志社女子大学では、声楽の専門分野を学ぶだけでなく、総合大学である特質を活かし音楽以外の分野にも興味を広げ、多くのことを学ぶことができます。この強みを最大限に利用することで、自分の可能性はどんどん広がっていきます。積極的に授業に参加し、興味のあるものの幅をひろげる方法を身につけましょう。																																		
フィードバックの方法:	質問や疑問などがある場合は、積極的に述べてください。その都度、授業内で取り上げ、クラス全員で考えてみましょう。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への積極的参加度</td><td>55</td><td rowspan="2">課題であるレポートの提出や歌唱発表もかならず参加すること。</td></tr><tr><td>レポートの提出及び歌唱発表</td><td>45</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への積極的参加度	55	課題であるレポートの提出や歌唱発表もかならず参加すること。	レポートの提出及び歌唱発表	45																										
評価方法	割合	評価基準																																	
授業への積極的参加度	55	課題であるレポートの提出や歌唱発表もかならず参加すること。																																	
レポートの提出及び歌唱発表	45																																		
教科書:																																			
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	基本的に授業前後で口頭による連絡。																																		

3C8402

音楽基礎演習

河江 優、中野 慶理

授業テーマ:

大学での学びとその技法

授業の概要:

授業内容の各項目等について、講義とともに、グループ学習、口頭発表、演奏発表などを随時行う。学生諸君の積極的な発言・発表を常に求めていく。また、研究倫理についても学ぶ。

到達目標:

大学での学びは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違い、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものである。そのためには一定の技術を必要とする。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものかを考え、その過程で自らの勉学の目的を再考し、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びを深め、音楽学科での学びの理解と興味を深めることも目指す。さらに鍵盤楽器コース(ピアノ、オルガン、チェンバロ)における基礎知識も再確認する。

授業方法:

講義と演習の混合。講義を聴くだけでなく、グループ学習、口頭発表、演奏発表など実践的な内容を多く取り入れていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業オリエンテーション	
2. ノート・テイキングの手法	
3. 図書館オリエンテーション	
4. 図書館・データベースの使い方	
5. 一般文献(著書・論文など)を読む・参考にする・引用する方法、音楽文献(著書・論文・楽譜・録音など)の使い方	
6. プレゼンテーションの技法	
7. レポートの書き方	
8. ピアノ演奏における基礎事項①	事前に配布した楽譜等を予習する
9. ピアノ演奏における基礎事項②	同上
10. ピアノ演奏における基礎事項③	同上
11. ピアノ演奏における基礎事項④	同上
12. ピアノ演奏における基礎事項⑤	同上
13. ピアノ演奏における基礎事項⑥	同上
14. ピアノ演奏における基礎事項⑦	同上
15. ピアノ演奏における基礎事項⑧	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

入学当初に大学での学び方を心得ておくのは大事なことです。自分で自主的・積極的に勉学に取り組む習慣を、授業を通して身に付けて下さい。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	55%	積極的に授業に参加し、到達目標が理解できるようになったかで評価する。熟考が十分に重ねられ、主張が明快であるかが基準となる。
発表	45%	

「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

3C8403

音楽基礎演習

山本 裕樹

授業テーマ:	大学での学びとその技法		
授業の概要:	大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかを理解してもらうことを目標とします。また、管弦楽器に特化した課題として、演奏曲目についての音楽的視点からの掘り下げ方、リハーサルの進め方、演奏するにあたってのマナーなども学びます。加えて、さまざまな研究の倫理についても学びます。		
到達目標:	アカデミック・スキルを使って、自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、音楽学科での学びの理解と興味を高めることを目指します。		
授業方法:	グループワークによる検討と、それに基づく発表・ふりかえりを主とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業オリエンテーション	大学での学びの目標について、明確にすること。	
	2. ノート・テイキングの手法	入学以前に行っていたノート・テイキングを振り返っておくこと。	
	3. 図書館オリエンテーション	図書館とは自分にとってどのような場所であるかを考えておくこと。大学内の図書館に行っておくこと。	
	4. 図書館・データベースの使い方	図書館オリエンテーションで体験した検索の仕方などを、再度行ってみること。	
	5. 一般文献(著書・論文など)を読む・参考にする・引用する方法	図書館に行き、興味のある著書、論文、音楽文献を探し読んでみること。	
	6. 音楽文献(著書・論文・楽譜・録音など)の扱い方		
	7. プレゼンテーションの技法	宿題として出された課題について、発表できるよう草案をつくること。	
	8. レポートの書き方	宿題として出された課題について、レポートとしてまとめられるよう草案をつくること。	
	9. 演奏における基礎知識(1)	授業中に伝達する。	
	10. 演奏における基礎知識(2)	授業中に伝達する。	
	11. 演奏における基礎知識(3)	授業中に伝達する。	
	12. 演奏における基礎知識(4)	授業中に伝達する。	
	13. 演奏における基礎知識(5)	授業中に伝達する。	
	14. 演奏における基礎知識(6)	授業中に伝達する。	
	15. 演奏における基礎知識(7)	授業中に伝達する。	
	16. 演奏における基礎知識(8)	授業中に伝達する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	同志社女子大学では、各楽器の専門分野を学ぶだけでなく、総合大学である特質を活かし音楽以外の分野にも興味を広げ、多くのことを学ぶことができます。この強みを最大限に利用することで、自分の可能性はどんどん広がっていきます。積極的に授業に参加し、興味のあるものの幅をひろげる方法を身につけましょう。		
フィードバックの方法:	質問や疑問がある場合は、積極的に述べてください。その都度、授業内で取り上げ、クラス全員で考えてみましょう。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況	55	
	レポート・発表	45	課題であるレポートの提出を必ずすること。発表の場合も、かならず参加すること。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	基本的に授業前後で口頭による連絡。		

授業テーマ:

大学での学びとその技法

授業の概要:

大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかを理解してもらうことを目標とします。また、管弦楽器に特化した課題として、演奏曲目についての音楽的視点からの掘り下げ方、リハーサルを進め方、演奏するにあたってのマナーなども学びます。加えて、さまざまな研究の倫理についても学びます。

到達目標:

アカデミック・スキルを使って、自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、音楽学科での学びの理解と興味を高めることを目指します。

授業方法:

グループワークによる検討と、それに基づく発表・ふりかえりを主とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	大学での学びの目標について、明確にすること。
2.	ノート・テイキングの手法	行っていたノート・テイキングを振り返っておくこと。
3.	図書館オリエンテーション	図書館とは自分にとってどのような場所であるかを考えておくこと。大学内の図書館に行っておくこと。
4.	図書館データベースの使い方	図書館オリエンテーションで体験した検索の仕方などを、再度行ってみること。
5.	一般文献を読む・参考にする・引用する方法	図書館に行き、興味のある著書、論文、音楽文献を探し読んでみること。
6.	プレゼンテーションの技法	宿題として出された課題について、発表できるよう草案をつくること。
7.	レポートの書き方	宿題として出された課題について、レポートとしてまとめられるよう草案をつくること。
8.	演奏における基礎知識(1)	授業中に伝達する。
9.	演奏における基礎知識(2)	授業中に伝達する。
10.	演奏における基礎知識(3)	授業中に伝達する。
11.	演奏における基礎知識(4)	授業中に伝達する。
12.	演奏における基礎知識(5)	授業中に伝達する。
13.	演奏における基礎知識(6)	授業中に伝達する。
14.	演奏における基礎知識(7)	授業中に伝達する。
15.	演奏における基礎知識(8)	授業中に伝達する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

同志社女子大学では、演奏の専門分野を学ぶだけでなく、総合大学である特質を活かし音楽以外の分野にも興味を広げ、多くのことを学ぶことができます。この強みを最大限に利用することで、自分の可能性はどんどん広がっていきます。積極的に授業に参加し、興味のあるものの幅をひろげる方法を身につけましょう。

フィードバックの方法:

質問や疑問がある場合は、積極的に述べてください。その都度、授業内で取り上げ、クラス全員で考えてみましょう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況	55	
	レポート・発表	45	課題であるレポートの提出を必ずすること。発表の場合も、かならず参加すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

基本的に授業前後で口頭による連絡。

授業テーマ:

和声の実習

授業の概要:

和声法Ⅵ で使ったHenri Challan 380 Basses et Chants donnés 第4巻に引き続き、Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第5・6巻のテキストを用い、第5巻では属9の和音、第6巻では和声音のみでのまとめとしての課題と変位音を主とした課題を実習する。なおその際、転調も近親転調だけではない様々な転調を伴う。

到達目標:

和声法Ⅵまでの知識および技術を生かし、より高度な和声を実践する。

授業方法:

第1回目のガイダンスと最終回のまとめ以外、各回、課題の添削および説明を行う。Henri Challan 380 Basses et Chants donnés のテキストを使う。まずバス課題に付された数字について説明し、各課題を実施させ、それを添削し、模範解答を示す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より バス課題 1	和声法Ⅵまでの復習をすること
	2. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より ソプラノ課題 1	前回の授業の復習と宿題をすること
	3. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より バス課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
	4. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より ソプラノ課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
	5. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より バス課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること
	6. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より ソプラノ課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること
	7. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より バス課題 1	前回の授業の復習と宿題をすること
	8. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より ソプラノ課題 1	前回の授業の復習と宿題をすること
	9. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より バス課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
	10. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より ソプラノ課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
	11. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より バス課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること
	12. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より ソプラノ課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること
	13. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より バス課題 4	前回の授業の復習と宿題をすること
	14. Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より ソプラノ課題 4	前回の授業の復習と宿題をすること
	15. まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業で行った課題を宿題として引き続き行い完成させ、次回の授業で添削し理解させる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:

Henri Challan著 380 Basses et Chants donnés (Leduc)より 5巻 Neuvièmes de dominante 5a
Henri Challan著 380 Basses et Chants donnés (Leduc)より 6巻 Ensemble des accords et Altérations 6a

参考書:

和声―理論と実習Ⅲ(音楽之友社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

授業テーマ:

和声の実習

授業の概要:

和声法Ⅶで使ったHenri Challan 380 Basses et Chants donnés 第5・6巻に引き続き、Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7・8巻のテキストを用いる。
第7巻では掛留音・倚音を、第8巻では刺繍音・経過音・保続音の課題を実施する。

到達目標:

和声法Ⅶまでの知識および技術を生かし、より高度な和声を実践する。

授業方法:

第1回目のガイダンスと最終回のまとめ以外、各回、課題の添削および説明を行う。Henri Challan 380 Basses et Chants donnés のテキストを使う。まずバス課題に付された数字などについて説明し、各課題を実施させ、それを添削し、模範解答を示す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻 バス課題 1	和声法Ⅶまでの復習をすること
2.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻 ソプラノ課題 1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻 バス課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻 ソプラノ課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻 バス課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻 ソプラノ課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	Henri Challan 380 Basses et Chants donneacutes 第8巻 バス課題 1	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻 ソプラノ課題 1	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻 バス課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻 ソプラノ課題 2	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻 バス課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻 ソプラノ課題 3	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻 バス課題 4	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻 ソプラノ課題 4	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業で行った課題を宿題として引き続き行い完成させ、次回の授業で添削し理解させる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:

Henri Challan著 380 Basses et chants donnés (Leduc)より 7巻 Retards et appoggiatures 7a
Henri Challan著 380 Basses et chants donnés (Leduc)より 7巻 Broderies, Notes de passage, Pédales 7a

参考書:

和声―理論と実習Ⅲ (音楽之友社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

3C8700

対位法Ⅲ

葛西

聖憲

授業テーマ:

3声による厳格対位法の修得

授業の概要:

対位法Ⅱまでで修得した二声対位法を基に、もう1声加えた、よりポリフォニーを感じられる対位法の実習を行う。

到達目標:

対位法の歴史は古く13世紀にまで遡るが、この授業では18世紀以降に確立された、調性(長調および短調)の対位法技法を学び、実習する。対位法の技法とは、グレゴリオ聖歌に由来する全音符による定旋律をおき、それに他の声部が別の独立した線としていかに美しく関わるかを習得するものである。

授業方法:

それぞれの種類毎に規則や方法を説明し、範例を示した後、各自実施させる。宿題を添削し、問題点をチェック、それぞれよりよく直しつつ先へ進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス 教科書の説明他	二声対位法の復習をすること
2. 全音符対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
3. 全音符対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
4. 全音符対位法の実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
5. 混合対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
6. 混合対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
7. 混合対位法の実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
8. 混合対位法の実習4	前回の授業の復習と宿題をすること
9. 華麗対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
10. 華麗対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
11. 華麗対位法の実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
12. 華麗対位法の実習4	前回の授業の復習と宿題をすること
13. 華麗対位法の実習5	前回の授業の復習と宿題をすること
14. 華麗対位法の実習6	前回の授業の復習と宿題をすること
15. まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

各回、授業の復習を行う目的も含めて、宿題を出す。

「成績評価方法」:

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等及び平常の学習態度等

教科書:

ノエル・ギャロン、マルセル・ビッチュ著 矢代秋雄訳「対位法」(音楽之友社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

3C8800

対位法Ⅳ

葛西 聖憲

授業テーマ: 4声による厳格対位法の修得 及び フーガの導入

授業の概要: 対位法Ⅲで行った3声対位法をふまえ、4声の混合および華麗対位法の実習を行う。
また、フーガの実習するに当たり、実際のバッハのフーガの分析を行い、それも参考に学習フーガの実習を行う。

到達目標: 対位法の歴史は古く13世紀にまで遡るが、この授業では18世紀以降に確立された、調性(長調および短調)の対位法技法を学び、実習する。対位法の技法とは、グレゴリオ聖歌に由来する全音符による定旋律をおき、それに他の声部が別の独立した線としていかに美しく関わるかを習得するものである。

授業方法: それぞれの種類毎に規則や方法を説明し、範例を示した後、各自実施させる。宿題を添削し、問題点をチェック、それぞれよりよく直しつつ先へ進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	三声対位法の復習をすること
2.	4声による厳格対位法:全音符対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	4声による厳格対位法:全音符対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	4声による厳格対位法:大混合対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	4声による厳格対位法:大混合対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	4声による厳格対位法:大混合対位法の実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	4声による厳格対位法:華麗対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	4声による厳格対位法:華麗対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	4声による厳格対位法:華麗対位法の実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	4声による厳格対位法:華麗対位法の実習4	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	フーガの分析1、フーガの実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	フーガの分析2、フーガの実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	フーガの実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	フーガの実習4	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 各回、授業の復習を行う目的も含めて、宿題を出す。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	59	試験の成績
	平常点	41	宿題等及び平常の学習態度等

教科書: ノエル・ギャロン、マルセル・ビツチュ著 矢代秋雄訳「対位法」(音楽之友社)
島岡譲著「フーガの実習」(国立音楽大学)

参考書: J.S.バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集(楽譜) など
山口 博史著 フーガ書法 パリ音楽院の方式による(音楽之友社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー他

授業テーマ:

アレクサンダー・テクニクを学ぶ、体験する

授業の概要:

「音楽」を学ぶ上での技能(楽器の弾き方、使い方、歌い方等)を今まで身につけてきた中で、
* 技術が”習慣的”になってしまっていないか、
* ”習慣的”である為、または不明の原因の為からくる体の痛み、不調等に気づき、それをどうやって治していくか、また自分に合った解決法をどう見つけていくか、
* 自分の体の使い方を、どう自分なりに客観的に見れるようになるか、
* 演奏や練習時、技能の上達、技巧向上のうえで、”新しい癖”をどうやって身につけていくかを、
Self-helping methodであるアレクサンダー・テクニクを通して身体的に、また、精神的な部分も含めて体験していただきます。
こういった体の使い方を知る方法として、集中講義の最初の日と最後の日に自分達で選んだ曲を演奏をし、いろいろなエクササイズをして体の仕組みを知っていき、自分に合った手段、方法等での自分の体の使い方を見つけていきます。

到達目標:

音楽を演奏する上でのからだの使い方に気付いていく、知っていく、興味を持つ。
講義1日目と最後の日の演奏、実技レッスンを通しての経験を客観視し、お互いにそれを共有する。
自分の体をいろいろ違って使いえることに気付く目を持つ(鏡を使う)、又、気付ける感覚を持つ。

授業方法:

講義／演習／実験の混合した、実技中心の講義を3日間で行います。短時間の自分のレッスンだけではとても学びきれないので、3日間、出席してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1日目(午前):アレクサンダー・テクニクの説明	
2.	1日目(午前):各自の演奏を録画する	3ー5分の曲を演奏出来るようにしておく事
3.	1日目(午後):解剖学を使って、体の構造、構成の説明	
4.	1日目(午後):解剖学を使って、体の構造、構成の説明	
5.	1日目(午後):解剖学を使って、体の構造、構成の説明	翌日より、実技レッスンにはいります 今日、学んだ体の構造、構成の復習をする事
6.	2日目(全日):1人約15分の実技レッスン(全員)を通して、出講者全員でアレクサンダー・テクニクを学んでいく	自分の実習のレッスンは15分だけなので、他のひとのレッスンからの学びを大切にする
7.	* 頭と背骨との関係 * 身体の動いている時の構造、状態 * 呼吸の機能 * 手足、上体の動かし方 * 体の使い方への気づき etc	
8.	2日目(全日):1人約15分の実技レッスン	
9.	2日目(全日):1人約15分の実技レッスン	
10.	2日目(全日):1人約15分の実技レッスン	翌日、もう一度、1人、8分のレッスンをするので、その準備、または今日学んだ事の復習
11.	3日目(午前):1人約8分の実技レッスン(各自、2回目のレッスン)	自分の実習のレッスンは8分だけなので、他のひとのレッスンからの学びを大切にする
12.	3日目(午前):1人約8分の実技レッスン(各自、2回目のレッスン)	
13.	3日目(午前):1人約8分の実技レッスン(各自、2回目のレッスン)	今日の午後、もう一度、自分の演奏を録画するので、その準備
14.	3日目(午後):1日目に演奏した曲をもう一度演奏、録画する	
15.	3日目(午後):アレクサンダー・テクニクを学んだ後で、自分の演奏がどう変わったかを、録画を見て、再考し、その後、各自、自分の気付いたことを発表	

受講者へのメッセージやアドバイス:

* この集中講義は、3日間通して学べるプログラムになっています。半日でもめけると授業がわかりにくくなります。
* 3ー5分の曲を演奏出来るようにしておく事。曲は何でもいいですが、何故、その曲を選んだのか、その曲の歴史、背景等の質問に答えられるようにしておいてください。
* 体を動かして学んでいく、実技を中心とした講習なので、動きやすい服装で来て、自分の楽器を持ってきてください。
* 自分の演奏を録画してもらいますので、スマートフォン等、録画出来る物を持参してください。
* A4のコピーが教材となります。それらのコピーを、自分の教材としてまとめられるノート、ファイル等、持参してください。

フィードバックの方法:

3日間の講義ですので、フィードバックはその時々でします。質問等があれば、いつでもしてください。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実践、学習力	50%	体をよく動かして、身体の構造の面からみた体の使い方の実践、発見に意欲的、自発的に取り組む
	客観性、創造性	25%	講義の最初と最後の日に演奏し(3ー5分)、その結果をまとめる
	コミュニケーション	20%	グループワークに活発に参加し(聞く力を含む)、自分達の体験を話し合う。
	出席率	5%	3日間、受講する(もし、受講できない理由があれば申し出る事)

教科書:

特になし。もし自分で購入したアレクサンダー・テクニクの本があり、質問等あれば持参してください。

参考書:

特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

パソコンアドレス / motet1542@hotmail.co.uk

授業テーマ:

自分自身の姿を第三者目線で見える術を学ぶ。コミュニケーションの向上を図る。

授業の概要:

自分の長所と短所を知る。喜怒哀楽を表現する中で、人前に立つ度胸を培う。共演者との関わり方を学ぶ。

到達目標:

与えられた事柄を、人前で自信を持って表現出来るようにする。一つの物語りを力を合わせて作り上げていく感覚を養う。

授業方法:

5:講義/演習の混合。2～6回までは舞台上での基礎的な動きを学び、7回目以降は台本を用いて読み合わせや動きを実践して行く。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	自己紹介、講義内での自分の居場所を作る。	自分自身を表現するのに相応しい服装をしてくる
2.	舞台での基本の姿勢を身につける(立ち姿勢)	身体のラインが分かる服装(スカート)。舞台用パンプス。
3.	喜怒哀楽の表現に挑戦してみる(喜怒)	身体のラインが分かる服装(スカート)。舞台用パンプス
4.	舞台での基本の姿勢を身につける(座り姿勢)	身体のラインが分かる服装(スカート)。舞台用パンプス
5.	喜怒哀楽の表現に挑戦してみる(哀楽)	身体のラインが分かる服装(スカート)。舞台用パンプス
6.	舞台上で行う挨拶やエスコートの仕方／され方を学ぶ	身体のラインが分かる服装(スカート／ズボン)。舞台用パンプス
7.	台本を読み合わせる(台本を声に出して読む、イントネーションの確認)	台本を講義までに数回は目を通してくる
8.	台本を読み合わせる(子音・母音・息の流れを意識して読む)	前回の授業で確認した事を必ず復習しておく
9.	台本を読み合わせる(イントネーションの再確認／暗記確認)	前回の授業で確認した事を必ず復習しておく
10.	台本を読み合わせる(暗記確認)・荒立ち①	前回の授業で確認した事を必ず復習しておく
11.	荒立ち②(前回の続き)・グループ分け	演じる役を決定する(物語の流れを判る為に、演じる役は、この段階まで決めない)
12.	立ち稽古①	物語の筋を把握出来ているか、内容を理解出来ているかを確認する
13.	立ち稽古②	物語を理解し、考えて来た演技をスムーズに表現する事が出来ているかを確認する
14.	立ち稽古③・最終確認	表現している事が、第三者に伝わっているか、共演者同士で意見を言い合う
15.	まとめ	役柄に近づく私服(持っている物の中考える)を着用し、発表する

受講者へのメッセージやアドバイス:

出席確認の返事や、質問等の会話中からも声の使い方を指導して行きますので、積極的に声を発して下さい。

フィードバックの方法:

授業内で解説していきます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況	40	遅刻・早退は減点対象(正当な理由と判断した場合は対象外)。授業への積極的参加15%、出席10%、質疑応答15%
	授業への参加度	15	積極的に参加し、挑戦を重ね、且つ共演者とコミュニケーションが取れているかを判断する
	取り組みの姿勢	15	準備学習と復習、そして到達目標である度胸を培う事が出来ているか評価する
	授業内発表での成果	30	到達目標である共演者と力を合わせて物語りを作り上げられているかを評価する

教科書:

適宜、提示します。

参考書:

適宜、提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します

3E0100

舞台表現応用B

唐谷 裕子

授業テーマ:	春学期で得た表現方法を更に向上させていく。演じる事ばかりでなく、第三者目線の質を上げる。日本人(日本に在住)であるからには、着物を美しく着こなせるようにする。		
授業の概要:	役柄を演じていく中で、同じキャラクターでありながら演じる人が変わるとどう見えるのかディスカッションし合い、相手の良い部分・悪い部分を知り、自分自身にも置き換える作業をしたり、また良い部分を引き伸ばしたり改善を積極的に行っていく。「夕鶴」や「蝶々夫人」など、着物での動きを求められた時も動揺せずに済むよう、初歩的な事を学ぶ。		
到達目標:	与えられた役柄／事柄を、人前で自信を持って表現出来るようにする。表現の一つ一つのクオリティを上げて行く。一つの物語りをグループ全員で力を合わせて作り上げていく感覚を養う。		
授業方法:	5.講義/演習の混合。2〜4回までは和装での所作指導を行う。5回目以降は台本を用いて読み合わせや動きを実践して行く。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 夏休みでの出来事を人前で発表する	プレゼンテーション能力(文章の構成能力／人を惹きつける文章力等)を見る。	
	2. 着物の着付け	浴衣・肌襦袢・足袋等の着物を着用する為に必要な物を準備	
	3. 所作指導①(お辞儀・立ち座り)	浴衣・肌襦袢・足袋等の着物を着用する為に必要な物を準備	
	4. 所作指導②(歩き方・方向転換の仕方・着物での喜怒哀楽の表現法)	浴衣・肌襦袢・足袋等の着物を着用する為に必要な物を準備	
	5. 台本を読みあわせる(台本を声に出して読む、イントネーションの確認)	台本を講義までに数回は目を通してくる	
	6. 台本を読みあわせる(子音・母音・息の流れを意識して読む)	前回の授業で確認した事を必ず復習しておく	
	7. 台本を読みあわせる(イントネーションの再確認／暗記確認)	前回の授業で確認した事を必ず復習しておく	
	8. 台本を読みあわせる(暗記確認)・グループ分けと演じる役を決定し、読みあわせを行う	グループ分けを行う。	
	9. 舞台の条件を提示し、提示した内容をふまえ、グループ内でディスカッションし、年代設定や動きを考えて行く	グループに分かれて行動をとる	
	10. 立ち稽古①(物語りの前半部分を作る)	物語りの筋を把握できているか、内容を理解しているか、どのように読み込んでいるかを確認する。また自分たちの考えが人に伝わっているかも把握させる	
	11. 立ち稽古②(物語りの後半部分を作る)	物語りの筋を把握できているか、内容を理解しているか、どのように読み込んでいるかを確認する。また自分たちの考えが人に伝わっているかも把握させる	
	12. 立ち稽古③(物語りの前半部分のクオリティを上げて行く)	物語りを考えた通りに表現出来ているのかを確認する	
	13. 立ち稽古④(物語りの後半部分のクオリティを上げて行く)	物語りを考えた通りに表現出来ているのかを確認する	
	14. 立ち最終確認	表現している事が第三者に伝わるか、共演者同士で意見を交し、仕上げていく。前半から後半へと話しがスムーズに流れているかも確認する	
	15. まとめ	役柄をイメージした服装を持っている服の中で考え着用する(小道具も身近な物を使用して、効果的であれば用意する)。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	出席確認の返事や、質問等の会話中からも声の使い方を指導して行きますので、積極的に声を発して下さい。		
フィードバックの方法:	授業内で解説して行きます。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況	40	遅刻・早退は減点対象(正当な理由と判断した場合は対象外)。授業への積極的参加15%、出席10%、質疑応答15%
	授業への参加度	15	積極的に参加し、挑戦を重ね、且つ共演者とコミュニケーションが取れているかを判断する
	取り組みの姿勢	15	準備学習と到達目標である度胸を培う事が出来ているか評価する
	授業内発表での成果	30	到達目標に達しているかを評価する
教科書:	適宜、提示します		
参考書:	適宜、提示します		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

ピアノ奏法の基礎をぜひ確認しよう！

授業の概要:

ピアノ奏法の上達のための効果的な練習の仕方、体の使い方、楽譜の読み方、楽曲の構造など、様々な基礎知識を講義・実習を通じて確認していく。

到達目標:

ピアノ奏法の上達は毎日の練習の積み重ねであるが、その際にどのようなことを考え、如何なる手法で練習するかが重要である。ピアノを実際に弾いての練習と、ピアノを弾かないで練習する2つの手法をどう組み合わせるかがカギだが、練習の効率を上げるためにも、練習の際に考えるべきこと、どのような手法を用いるかを様々な観点から探り、各々学生がより確実に上達していくための足掛かりを得る事を到達目標とする。

授業方法:

講義・実習の混合の形をとる。事前に与えられたテーマに沿って事前学習をしてもらい、授業で学生に(個々・グループの両方の形態で)発表してもらう形をとる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	様々な楽曲を知る①	授業で配布する楽譜を練習してきてもらう。 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 楽典等ですでに習得しているはずの知識を復習しておくこと。
2.	様々な楽曲を知る②	
3.	ピアノ演奏におけるタッチとは	
4.	ピアノ奏法における指の使い方	
5.	ピアノ奏法における体の使い方	
6.	楽譜について・楽譜の読み方	
7.	練習の仕方①	
8.	練習の仕方②	
9.	練習の仕方③	
10.	楽曲の考察:旋律・和声について	
11.	楽曲の考察:楽式について①	同上
12.	楽曲の考察:楽式について②	同上
13.	演奏会、試験など、本番に向けての気持ちの整え方について	
14.	演奏会、試験など本番について	
15.	様々な楽曲、作曲者について考える	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎日の練習、日頃からの音楽への取り組みが明日のあなた方自身の音楽を創造してゆきます。あなた方自身そのものと言える、あなた方自身の音楽を大事にし、自主的・積極的に育む意欲を授業を通じて膨らませて下さい。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演奏・発表等の評価	45%	演奏・発表等の達成度、到達目標を踏まえた上で行っているかで評価する。
	授業の積極的な参加度	55%	積極的に授業に参加し、到達目標を認識しているかで評価する。

教科書:

参考書:

ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと トーマス・マーク他 著 春秋社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:	ピアノ演奏における諸問題の探究		
授業の概要:	様々なスタイルによるピアノ曲(またはピアノを含む作品)を取り上げ、演奏の際に考えておきたい事柄を学んでいく。		
到達目標:	・各時代ごとのスタイルに即した楽譜の読み方や奏法を習得する。 ・ピアノ曲以外の様々な作品に興味を持ち、ピアノ曲との関連について理解する。 ・伴奏法においては歌詞と音楽との関係に留意しながらひとつの音楽を作り上げることを学ぶ。		
授業方法:	教員による講義と、学生による演奏発表を合わせた形式で行う。演奏課題については掲示を確認のこと。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	楽曲や演奏家についての基礎知識	映像や音源を聴いて様々な演奏家による演奏スタイルの違いについて考えておく。
	2.	バロック作品の演奏法①	課題曲の的確な読譜を行い練習する。
	3.	バロック作品の演奏法②	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
	4.	古典派作品の演奏法①	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
	5.	古典派作品の演奏法②	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
	6.	古典派作品の演奏法③	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
	7.	ロマン派作品の演奏法①	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
	8.	ロマン派作品の演奏法②	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
	9.	ロマン派作品の演奏法③	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
	10.	ピアノ協奏曲①	課題に挙げられた協奏曲について読譜を行い練習する。
	11.	ピアノ協奏曲②	課題に挙げられた協奏曲について読譜を行い練習する。
	12.	ピアノ協奏曲③	課題に挙げられた協奏曲について読譜を行い練習する。
	13.	ピアノ協奏曲④	課題に挙げられた協奏曲について読譜を行い練習する。
	14.	声楽の伴奏法①	課題に挙げられた声楽曲の歌詞の内容を知り、声楽とピアノパートの関係について考える。
	15.	声楽の伴奏法②	実際に合わせた時に起こる問題点の改善につとめながら表現を深めていく。
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業で触れられることは氷山の一角にしか過ぎません。様々な文献に触れ、自分で問題意識を持って学んでいくことも必要です。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	演奏発表	30%	課題曲の演奏内容と準備状況を総合的に判定する。
	レポート	20%	課題に対するレポートの内容を評価する。
	授業への参加度	50%	出席を含む授業への積極的な参加度を評価する。
教科書:	プリント配布または適宜指示		
参考書:	土田英介編著 バッハ 平均律クラヴィーア曲集:演奏のための分析ノート1.2 音楽之友社 H.ケラー著 バッハのクラヴィーア作品 音楽之友社 E.&B.スコダ著 モーツァルト演奏法と解釈 音楽之友社 J.J.エーゲルディンゲル著 弟子から見たショパン 音楽之友社 H.ドイチュ著 伴奏の芸術 音楽之友社 J.レヴィーン著 ピアノ奏法の基礎 全音楽譜出版社 ライマーニギーゼキング著 現代ピアノ演奏法 音楽之友社 リーベルマン著 現代ピアノ演奏テクニック 音楽之友社 A.シュナーベル編 ベートーヴェン:ピアノソナタ集 クルチ社 C.アラウ編 ベートーヴェン:ピアノソナタ集 ペータース社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業後に教室内で応対		

3E0400

オルガン・チェンバロ奏法概論

井岡みほ、高橋聖子

授業テーマ:オルガン・チェンバロ奏法から考察するバロックの鍵盤音楽作品(第1回～第8回:オルガン、第9回～第15回:チェンバロ)

授業の概要:(第1回～第8回)講義とパイプオルガン演奏実習、及びクラス全体の意見交換を通して、パイプオルガンならではの特性や奏法を学ぶ。課題は、主にピアノで勉強するJ. S. バッハの「平均律クラヴィーア曲集」とする。

到達目標:(第9回～第15回)講義とチェンバロ演奏実習により、チェンバロ奏法の基礎とバロック音楽の様式及び演奏習慣を学ぶ
(第1回～第8回) ピアノと異なる鍵盤楽器(管楽器の原理のパイプオルガン)を通して、タッチや音色、奏法をより深く考える力を身に着ける。

授業方法:講義及び実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	パイプオルガンの歴史、楽器の構造の説明。	各自讃美歌を1曲選んで弾いて来てください。
2.	パイプオルガンにおける足鍵盤奏法について。讃美歌奏法について。	各自讃美歌を1曲選んで弾いて来てください。
3.	J. S. バッハの「平均律クラヴィーア曲集より学ぶ」①	各自「平均律クラヴィーア曲集」第1・2巻より1曲選び、プレリュードかフーガのいずれかを十分に練習しておいてください。
4.	J. S. バッハの「平均律クラヴィーア曲集より学ぶ」②	同上
5.	J. S. バッハの「平均律クラヴィーア曲集より学ぶ」③	同上
6.	J. S. バッハの「平均律クラヴィーア曲集より学ぶ」④	同上
7.	J. S. バッハの「平均律クラヴィーア曲集より学ぶ」⑤	同上
8.	J. S. バッハの「平均律クラヴィーア曲集より学ぶ」⑥	同上
9.	チェンバロの構造と歴史	
10.	チェンバロ奏法の基礎と歴史的指使い	課題曲の読譜と練習
11.	メヌエット	同上
12.	アルマンド	同上
13.	ジーグ	同上
14.	サラバンド	同上
15.	チェンバロ奏法について総括	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:パイプオルガン特有の性質を知ること、ピアノという楽器もよりよく理解できるようになればと願っています。
チェンバロの音量は小さく表現は非常に繊細です。演奏する時はリラックスして、落ち着いてチェンバロの音をよく聴いて下さい。

フィードバックの方法:教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演奏実習	50%	準備学習が充分にできているかを評価する。
	授業の積極的な参加度	50%	積極的に授業に参加し、到達目標ができるようになったかを評価する。

教科書:J. S. バッハ「平均律クラヴィーア曲集」第1巻、第2巻
J. S. バッハ「フランス組曲」 原典版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:授業の前後に教室内で対応

3E0800 3E1000	吹奏楽Ⅰ 吹奏楽Ⅲ			関谷 弘志、山本 一宏、森 香織
授業テーマ:	吹奏楽の優れたオリジナル作品、並びにアレンジ作品の演奏。演奏能力の習得。			
授業の概要:	吹奏楽の基本的な演奏能力を身につけるとともに、将来的に吹奏楽の指導に当たる可能性も加味し、多面的に授業に取り組む。優れたオリジナル作品や、アレンジ作品を多数取り上げ練習を重ねることにより、他楽器間とのバランスや、リズム、音色感を磨き、定期公演での質の高い演奏を目指す。			
到達目標:	音色をより重視し、丁寧な音作りを第一の目標とする。イントネーション、楽器間バランスなどの感覚を磨くことを必須とする。			
授業方法:	基本的に合奏練習。演奏会開催。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	吹奏楽合奏の基本練習 (イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス)①	事前の自主練習①	
	2.	吹奏楽の基本練習 (イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス)②	事前の自主練習②	
	3.	吹奏楽の基本練習 (イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス)③	事前の自主練習③	
	4.	吹奏楽の基本練習 (イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス)④	事前の自主練習④	
	5.	合奏の応用 (音色感を磨く、楽曲を深く知る)①	より積極的なパート練習①	
	6.	合奏の応用 (音色感を磨く、楽曲を深く知る)②	より積極的なパート練習②	
	7.	合奏の応用 (音色感を磨く、楽曲を深く知る)③	より積極的なパート練習③	
	8.	合奏の応用 (音色感を磨く、楽曲を深く知る)④	より積極的なパート練習④	
	9.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)①	演奏会に向けての予習復習①	
	10.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)②	演奏会に向けての予習復習②	
	11.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)③	演奏会に向けての予習復習③	
	12.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)④	演奏会に向けての予習復習④	
	13.	復習 (各回の総括)①	楽曲研究①	
	14.	復習 (各回の総括)②	楽曲研究②	
	15.	復習 (各界の総括)③	楽曲研究③	
受講者へのメッセージやアドバイス:	吹奏楽のために書かれた、オリジナルの良い作品を多く取り上げて、管弦楽とはまた違った独自のサウンドを追求していきましょう。			
フィードバックの方法:	授業への積極的な参加状況や姿勢、合奏技術の到達度を、随時授業の中で述べていきます。			
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	授業への積極的参加度	80	出席状況を重視します。	
	授業への取り組み姿勢	20	演奏での貢献度を評価します。	
教科書:				
参考書:				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力			
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応			

3E0900 3E1100	吹奏楽Ⅱ 吹奏楽Ⅳ			関谷 弘志、山本 一宏、森 香織
授業テーマ:	吹奏楽の優れたオリジナル作品、並びにアレンジ作品の演奏。演奏能力の習得。			
授業の概要:	吹奏楽の基本的な演奏能力を身につけるとともに、将来的に吹奏楽の指導に当たる可能性も加味し、多面的に授業に取り組む。優れたオリジナル作品や、アレンジ作品を多数取り上げ練習を重ねることにより、他楽器間とのバランスや、リズム、音色感を磨き、定期公演での質の高い演奏を目指す。			
到達目標:	音色をより重視し、丁寧な音作りを第一の目標とする。イントネーション、楽器間バランスなどの感覚を磨くことを必須とする。			
授業方法:	基本的に合奏練習。演奏会開催。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	吹奏楽合奏の基本練習 (イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス)①	事前の自主練習①	
	2.	吹奏楽の基本練習 (イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス)②	事前の自主練習②	
	3.	吹奏楽の基本練習 (イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス)③	事前の自主練習③	
	4.	吹奏楽の基本練習 (イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス)④	事前の自主練習④	
	5.	合奏の応用 (音色感を磨く、楽曲を深く知る)①	より積極的なパート練習①	
	6.	合奏の応用 (音色感を磨く、楽曲を深く知る)②	より積極的なパート練習②	
	7.	合奏の応用 (音色感を磨く、楽曲を深く知る)③	より積極的なパート練習③	
	8.	合奏の応用 (音色感を磨く、楽曲を深く知る)④	より積極的なパート練習④	
	9.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)①	演奏会に向けての予習復習①	
	10.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)②	演奏会に向けての予習復習②	
	11.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)③	演奏会に向けての予習復習③	
	12.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)④	演奏会に向けての予習復習④	
	13.	復習 (各回の総括)①	楽曲研究①	
	14.	復習 (各回の総括)②	楽曲研究②	
	15.	復習 (各界の総括)③	楽曲研究③	
受講者へのメッセージやアドバイス:	吹奏楽のために書かれた、オリジナルの良い作品を多く取り上げて、管弦楽とはまた違った独自のサウンドを追求していきましょう。			
フィードバックの方法:	授業への積極的な参加状況や姿勢、合奏技術の到達度を、随時授業の中で述べていきます。			
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	授業への積極的参加度	80	出席状況を重視します。	
	授業への取り組み姿勢	20	演奏での貢献度を評価します。	
教科書:				
参考書:				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力			
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応			

3E1600 3E1800 3E2000	室内楽Ⅰ 室内楽Ⅲ 室内楽Ⅴ			音楽学科担当教員
授業テーマ:	室内楽実技(声楽コース以外の演奏専攻対象)			
授業の概要:	演奏専攻(声楽コースを除く)を対象とするアンサンブル実技。			
到達目標:	各グループの学習状況に応じた課題により、和声や音量バランスなど複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現方法について学ぶ。			
授業方法:	あらかじめ登録されたグループごとの個別指導によりおこなう。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	グループごとの個別指導①	授業で演奏する楽曲を練習・準備しておく。	
	2.	グループごとの個別指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	3.	グループごとの個別指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	4.	グループごとの個別指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	5.	グループごとの個別指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	6.	グループごとの個別指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	7.	グループごとの個別指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	8.	グループごとの個別指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	9.	グループごとの個別指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	10.	グループごとの個別指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	11.	グループごとの個別指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	12.	グループごとの個別指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	13.	グループごとの個別指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	14.	グループごとの個別指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	15.	グループごとの個別指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
受講者へのメッセージやアドバイス:				
フィードバックの方法:	提出物等がある場合は、返却方法も含め教室でまとめて解説する。			
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	実技試験	100%	到達目標の和声や音量バランスなど、複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現力が養われているか評価する。	
教科書:	グループ各々に対応した楽譜等をその都度指定する。			
参考書:	グループ各々に対応した資料を適宜指定する。			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力			
教員との連絡方法:	授業時に個別に伝達する。			

3E1700 3E1900 3E2100	室内楽Ⅱ 室内楽Ⅳ 室内楽Ⅵ			音楽学科担当教員
授業テーマ:	室内楽実技(声楽コース以外の演奏専攻対象)			
授業の概要:	演奏専攻(声楽コースを除く)を対象とするアンサンブル実技。			
到達目標:	各グループの学習状況に応じた課題により、和声や音量バランスなど複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現方法について学ぶ。			
授業方法:	あらかじめ登録されたグループごとの個別指導によりおこなう。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	グループごとの個別指導①	授業で演奏する楽曲を練習・準備しておく。	
	2.	グループごとの個別指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	3.	グループごとの個別指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	4.	グループごとの個別指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	5.	グループごとの個別指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	6.	グループごとの個別指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	7.	グループごとの個別指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	8.	グループごとの個別指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	9.	グループごとの個別指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	10.	グループごとの個別指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	11.	グループごとの個別指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	12.	グループごとの個別指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	13.	グループごとの個別指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	14.	グループごとの個別指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	15.	グループごとの個別指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
受講者へのメッセージやアドバイス:				
フィードバックの方法:	提出物等がある場合は、返却方法も含め教室でまとめて解説する。			
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	実技試験	100%	到達目標の和声や音量バランスなど、複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現力が養われているか評価する。	
教科書:	グループ各々に対応した楽譜等をその都度指定する。			
参考書:	グループ各々に対応した資料を適宜指定する。			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力			
教員との連絡方法:	授業時に個別に伝達する。			

授業テーマ:

教育現場におけるピアノ実技のスキルアップ

授業の概要:

教職現場での実践を想定し、音楽教育現場で必須の楽曲についての弾き歌いや、楽譜に従って伴奏付けする力を養う。歌唱教材の弾き歌い、鍵盤和声、コードネームによる伴奏付けなどを演習する。
また、ピアノ曲のレパートリーを増やし、演奏技術・表現力をレベルアップする。人前で演奏することに慣れ、お互いの演奏から学び合う。受講生一人ひとりのレベルに応じた内容で展開していく。

到達目標:

・伴奏付け、弾き歌い、ピアノ演奏が人前で発表できる

授業方法:

演習
グループレッスンおよび個人実技指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 弾き歌い・鍵盤和声・コードネームについて ピアノ曲の選定	
	2. 歌唱教材(日本)の弾き歌い① 鍵盤和声① ピアノ実技指導Ⅰ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	3. 歌唱教材(日本)の弾き歌い② 鍵盤和声② ピアノ実技指導Ⅰ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	4. 歌唱教材(日本)の弾き歌い③ 鍵盤和声③ ピアノ実技指導Ⅰ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	5. 歌唱教材(日本)の弾き歌い④ 鍵盤和声④ ピアノ実技指導Ⅰ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	6. 歌唱教材(日本)の弾き歌い⑤ 鍵盤和声⑤ ピアノ実技指導Ⅰ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	7. 歌唱教材(日本)の弾き歌い⑥ 鍵盤和声⑥ ピアノ実技指導Ⅰ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	8. 中間発表会	発表会に向けての練習
	9. 歌唱教材(外国)の弾き歌い① 鍵盤和声① ピアノ実技指導Ⅱ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	10. 歌唱教材(外国)の弾き歌い② 鍵盤和声② ピアノ実技指導Ⅱ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	11. 歌唱教材(外国)の弾き歌い③ 鍵盤和声③ ピアノ実技指導Ⅱ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	12. 歌唱教材(外国)の弾き歌い④ 鍵盤和声④ ピアノ実技指導Ⅱ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	13. 歌唱教材(外国)の弾き歌い⑤ 鍵盤和声⑤ ピアノ実技指導Ⅱ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	14. 歌唱教材(外国)の弾き歌い⑥ 鍵盤和声⑥ ピアノ実技指導Ⅱ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	15. まとめ 発表会	発表会に向けての練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

個人実技なので、各自が積極的に参加し、しっかり練習してほしい。

フィードバックの方法:

教室で解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表会における演奏	60%	演奏の出来具合
	授業への積極的参加度	40%	練習の積み重ね度

教科書:

講義毎にプリントを配付、各自のピアノ曲の楽譜

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応。緊急の場合は、音楽科事務室を通してEメールで行う。

授業テーマ:

教育現場におけるピアノ実技のスキルアップ

授業の概要:

教職現場での実践を想定し、音楽教育現場で必須の楽曲についての弾き歌いや、楽譜に従って伴奏付けする力を養う。歌唱教材の弾き歌い、鍵盤和声、コードネームによる伴奏付けなどを演習する。またピアノ曲のレパートリーを増やし、演奏技術・表現力をレベルアップさせる。人前で演奏することに慣れ、お互いの演奏から学び合う。受講生一人一人のレベルに応じた内容で展開していく。

到達目標:

伴奏付け、弾き歌い、ピアノ演奏が人前で発表できる。

授業方法:

演習：グループレッスンおよび個人実技指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 弾き歌い・鍵盤和声・コードネームについて、ピアノ曲の選定	
	2. 歌唱教材(日本)の弾き歌い①、 鍵盤和声①、 ピアノ実技指導Ⅰ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	3. 歌唱教材(日本)の弾き歌い②、 鍵盤和声②、 ピアノ実技指導Ⅰ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	4. 歌唱教材(日本)の弾き歌い③、 鍵盤和声③、 ピアノ実技指導Ⅰ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	5. 歌唱教材(日本)の弾き歌い④、 鍵盤和声④、 ピアノ実技指導Ⅰ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	6. 歌唱教材(日本)の弾き歌い⑤、 鍵盤和声⑤、 ピアノ実技指導Ⅰ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	7. 歌唱教材(日本)の弾き歌い⑥、 鍵盤和声⑥、 ピアノ実技指導Ⅰ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	8. 中間発表会	発表に向けての練習
	9. 歌唱教材(外国)の弾き歌い①、 コードネーム①、 ピアノ実技指導Ⅱ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	10. 歌唱教材(外国)の弾き歌い②、 コードネーム②、 ピアノ実技指導Ⅱ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	11. 歌唱教材(外国)の弾き歌い③、 コードネーム③、 ピアノ実技指導Ⅱ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	12. 歌唱教材(外国)の弾き歌い④、 コードネーム④、 ピアノ実技指導Ⅱ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	13. 歌唱教材(外国)の弾き歌い⑤、 コードネーム⑤、 ピアノ実技指導Ⅱ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	14. 歌唱教材(外国)の弾き歌い⑥、 コードネーム⑥、 ピアノ実技指導Ⅱ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
	15. まとめ	発表に向けての練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

個人実技なので、各自が積極的に参加し、しっかり練習してほしい。

フィードバックの方法:

教室で解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表会における演奏	60%	演奏の出来具合
	授業への積極的参加度	40%	練習の積み重ね度

教科書:

講義毎にプリントを配布
各自ピアノ曲の楽譜

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応。緊急の場合は音楽科事務室を通してEメールアドレスで行う。

授業テーマ:

教育現場におけるピアノ実技のスキルアップ

授業の概要:

教職ピアノⅠで養った力を更に発展させる。音楽教育現場で用いる歌唱教材の弾き歌い、歌曲・合唱曲の伴奏、鍵盤和声(応用)、コードネーム(応用)による伴奏付けなどを演習する。ピアノ曲のレパートリーを更に増やし、演奏技術・表現力をレベルアップさせる。人前で演奏することに慣れ、お互いの演奏から学び合う。受講生一人ひとりのレベルに応じた内容で展開していく。

到達目標:

・伴奏付け、弾き歌い、ピアノ演奏が人前で発表できる

授業方法:

演習
グループレッスンおよび個人実技指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 弾き歌い・鍵盤和声・コードネームについて ピアノ曲の選定	
2.	歌唱教材の弾き歌い① 鍵盤和声① ピアノ実技指導Ⅰ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
3.	歌唱教材の弾き歌い② 鍵盤和声(応用)② ピアノ実技指導Ⅰ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
4.	歌唱教材の弾き歌い③ 鍵盤和声(応用)③ ピアノ実技指導Ⅰ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
5.	歌唱教材の弾き歌い④ 鍵盤和声(応用)④ ピアノ実技指導Ⅰ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
6.	歌唱教材の弾き歌い⑤ 鍵盤和声(応用)⑤ ピアノ実技指導Ⅰ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
7.	歌唱教材の弾き歌い⑥ 鍵盤和声(応用)⑥ ピアノ実技指導Ⅰ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
8.	中間発表会	発表会に向けての練習
9.	歌曲伴奏① コードネーム(応用)① ピアノ実技指導Ⅱ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
10.	歌曲伴奏② コードネーム(応用)② ピアノ実技指導Ⅱ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
11.	歌曲伴奏③ コードネーム(応用)③ ピアノ実技指導Ⅱ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
12.	合唱曲の伴奏① コードネーム(応用)④ ピアノ実技指導Ⅱ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
13.	合唱曲の伴奏② コードネーム(応用)⑤ ピアノ実技指導Ⅱ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
14.	合唱曲の伴奏③ コードネーム(応用)⑥ ピアノ実技指導Ⅱ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
15.	まとめ 発表会	発表会に向けての練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

個人実技なので、各自が積極的に参加し、しっかり練習してほしい。

フィードバックの方法:

教室で解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表会における演奏	60%	演奏の出来具合
	授業への積極的参加度	40%	練習の積み重ね度

教科書:

講義毎にプリントを配付、各自ピアノ曲の楽譜

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応。緊急の場合は音楽科事務室を通してEメールで行う。

授業テーマ:

教育現場におけるピアノ実技のスキルアップ

授業の概要:

教職ピアノ1で養った力を更に発展させる。音楽教育現場で用いる歌唱教材の弾き歌い、歌曲・合唱曲の伴奏、鍵盤和声(応用)、コードネーム(応用)による伴奏付けなどを演習する。ピアノ曲のレパートリーを更に増やし、演奏技術・表現力をレベルアップさせる。人前で演奏することに慣れ、お互いの演奏から学び合う。受講生一人一人のレベルに応じた内容で展開している。

到達目標:

伴奏付け、弾き歌い、ピアノ演奏が人前で発表できる。

授業方法:

演習：グループレッスンおよび個人実技指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 弾き歌い・鍵盤和声・コードネームについて、ピアノ曲の選定	
2.	歌唱教材の弾き歌い①、 鍵盤和声(応用)①、 ピアノ実技指導Ⅰ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
3.	歌唱教材の弾き歌い②、 鍵盤和声(応用)②、 ピアノ実技指導Ⅰ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
4.	歌唱教材の弾き歌い③、 鍵盤和声(応用)③、 ピアノ実技指導Ⅰ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
5.	歌唱教材の弾き歌い④、 鍵盤和声(応用)④、 ピアノ実技指導Ⅰ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
6.	歌唱教材の弾き歌い⑤、 鍵盤和声(応用)⑤、 ピアノ実技指導Ⅰ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
7.	歌唱教材の弾き歌い⑥、 鍵盤和声(応用)⑥、 ピアノ実技指導Ⅰ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
8.	中間発表会	発表に向けての練習
9.	歌曲伴奏①、 コードネーム(応用)①、 ピアノ実技指導Ⅱ－①	歌曲伴奏・ピアノ曲の練習
10.	歌曲伴奏②、 コードネーム(応用)②、 ピアノ実技指導Ⅱ－②	歌曲伴奏・ピアノ曲の練習
11.	歌曲伴奏③、 コードネーム(応用)③、 ピアノ実技指導Ⅱ－③	歌曲伴奏・ピアノ曲の練習
12.	合唱曲の伴奏①、 コードネーム(応用)④、 ピアノ実技指導Ⅱ－④	合唱曲の伴奏・ピアノ曲の練習
13.	合唱曲の伴奏②、 コードネーム(応用)⑤、 ピアノ実技指導Ⅱ－⑤	合唱曲の伴奏・ピアノ曲の練習
14.	合唱曲の伴奏③、 コードネーム(応用)⑥、 ピアノ実技指導Ⅱ－⑥	合唱曲の伴奏・ピアノ曲の練習
15.	まとめ	発表に向けての練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

個人実技なので、各自が積極的に参加し、しっかり練習してほしい

フィードバックの方法:

教室で解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表会における演奏	60%	演奏の出来具合
	授業への積極的参加度	40%	練習の積み重ね度

教科書:

講義毎にプリントを配布
各自ピアノ曲の楽譜

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応。緊急の場合は音楽科事務室を通してEメールアドレスで行う。

授業テーマ: 大学での学びとその技法、および音楽文化専攻の学びのうち「サウンドデザイン」入門

授業の概要： 大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるか、そして研究倫理とは何か、を理解してもらうことを目標とします。さらにその過程で自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、音楽学科での学びの理解と興味を高めることも目指します。

また、最後の5回は音楽文化専攻の学びのうち「サウンドデザイン」分野の入門授業です。

到達目標: 知識・理解: 大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかの理解。音楽学科での学びの理解。
関心・意欲・態度: さらにその過程で自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、興味を高める。
表現・技能・能力: グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションの能力。

授業方法: 講義とグループワーク、ディスカッション。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーションとマナビーの活用	大学での学びに関心をもつ
2.	ノート・テイキングの手法	与えられた課題を行う
3.	図書館オリエンテーション	図書館というものに関心をもつ
4.	図書館・データベースの使い方と各種文献の参考・引用の方法	与えられた課題を行う
5.	情報整理の技法と研究倫理について	与えられた課題を行う
6.	著書・論文の読み方	与えられた課題を行う
7.	学術的な文章表現について	与えられた課題を行う
8.	レポートの書き方1	与えられた課題を行う
9.	レポートの書き方2	与えられた課題を行う
10.	プレゼンテーションの技法	与えられた課題を行う
11.	音楽創作概論	与えられた予習、復習を行う
12.	音楽創作:旋律	与えられた予習、復習を行う
13.	音楽創作:和音進行	与えられた予習、復習を行う
14.	音楽創作:調性のない音	与えられた予習、復習を行う
15.	音楽創作:その他の音楽	与えられた予習、復習を行う

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 課題についてのコメント・解説を授業内で行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加	50%	ディスカッションやグループワークなど授業への積極的な参加度と授業内で書くミニエッセイを評価する。
	提出物	50%	講義の目標に照らして、宿題としての提出物や、講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題を総合的に評価する。

教科書: なし

参考書: 佐藤望編著、アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 第2版、慶応義塾大学出版会
リチャード・J・ウインジェル著、改訂新版 音楽の文章術、春秋社

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

授業テーマ:	大学での学びとその技法、および音楽文化専攻の学びのうち「サウンドデザイン」入門																																		
授業の概要:	大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるか、そして研究倫理とは何か、を理解してもらうことを目標とします。さらにその過程で自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、音楽学科での学びの理解と興味を高めることも目指します。また、最後の5回は音楽文化専攻の学びのうち「サウンドデザイン」分野の入門授業です。																																		
到達目標:	知識・理解: 大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかの理解。音楽学科での学びの理解。 関心・意欲・態度: さらにその過程で自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、興味を高める。 表現・技能・能力: グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションの能力。																																		
授業方法:	講義とグループワーク、ディスカッション。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 授業オリエンテーションとマナビーの活用</td><td>大学での学びに関心をもつ</td></tr><tr><td>2. ノート・テイキングの手法</td><td>与えられた課題を行う</td></tr><tr><td>3. 図書館オリエンテーション</td><td>図書館というものに関心をもつ</td></tr><tr><td>4. 図書館・データベースの使い方と各種文献の参考・引用文献の方法</td><td>与えられた課題を行う</td></tr><tr><td>5. 情報整理の技法と研究倫理について</td><td>与えられた課題を行う</td></tr><tr><td>6. 著書・論文の読み方</td><td>与えられた課題を行う</td></tr><tr><td>7. 学問的な文章表現について</td><td>与えられた課題を行う</td></tr><tr><td>8. レポートの書き方1</td><td>与えられた課題を行う</td></tr><tr><td>9. レポートの書き方2</td><td>与えられた課題を行う</td></tr><tr><td>10. プレゼンテーションの技法</td><td>与えられた課題を行う</td></tr><tr><td>11. サウンド・デザイン入門1: 音ってなあに? (I) 音の現象の解明から音の記録再生が可能になるまで</td><td>与えられた予習、復習を行う</td></tr><tr><td>12. サウンド・デザイン入門2: 音ってなあに? (II) 磁気録音が可能にしたこと</td><td>与えられた予習、復習を行う</td></tr><tr><td>13. サウンド・デザイン入門3: サウンド・ファイルってなあに? いつでもどこでも気軽に音楽が楽しめる現在、そのテクノロジーの発展</td><td>与えられた予習、復習を行う</td></tr><tr><td>14. サウンド・デザイン入門4: コンピュータ・ミュージック (I) MIDIデータを用いた音楽創作</td><td>与えられた予習、復習を行う</td></tr><tr><td>15. サウンド・デザイン入門5: コンピュータ・ミュージック (II) AUDIOデータを用いた音楽創作</td><td>与えられた予習、復習を行う</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 授業オリエンテーションとマナビーの活用	大学での学びに関心をもつ	2. ノート・テイキングの手法	与えられた課題を行う	3. 図書館オリエンテーション	図書館というものに関心をもつ	4. 図書館・データベースの使い方と各種文献の参考・引用文献の方法	与えられた課題を行う	5. 情報整理の技法と研究倫理について	与えられた課題を行う	6. 著書・論文の読み方	与えられた課題を行う	7. 学問的な文章表現について	与えられた課題を行う	8. レポートの書き方1	与えられた課題を行う	9. レポートの書き方2	与えられた課題を行う	10. プレゼンテーションの技法	与えられた課題を行う	11. サウンド・デザイン入門1: 音ってなあに? (I) 音の現象の解明から音の記録再生が可能になるまで	与えられた予習、復習を行う	12. サウンド・デザイン入門2: 音ってなあに? (II) 磁気録音が可能にしたこと	与えられた予習、復習を行う	13. サウンド・デザイン入門3: サウンド・ファイルってなあに? いつでもどこでも気軽に音楽が楽しめる現在、そのテクノロジーの発展	与えられた予習、復習を行う	14. サウンド・デザイン入門4: コンピュータ・ミュージック (I) MIDIデータを用いた音楽創作	与えられた予習、復習を行う	15. サウンド・デザイン入門5: コンピュータ・ミュージック (II) AUDIOデータを用いた音楽創作	与えられた予習、復習を行う		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 授業オリエンテーションとマナビーの活用	大学での学びに関心をもつ																																		
2. ノート・テイキングの手法	与えられた課題を行う																																		
3. 図書館オリエンテーション	図書館というものに関心をもつ																																		
4. 図書館・データベースの使い方と各種文献の参考・引用文献の方法	与えられた課題を行う																																		
5. 情報整理の技法と研究倫理について	与えられた課題を行う																																		
6. 著書・論文の読み方	与えられた課題を行う																																		
7. 学問的な文章表現について	与えられた課題を行う																																		
8. レポートの書き方1	与えられた課題を行う																																		
9. レポートの書き方2	与えられた課題を行う																																		
10. プレゼンテーションの技法	与えられた課題を行う																																		
11. サウンド・デザイン入門1: 音ってなあに? (I) 音の現象の解明から音の記録再生が可能になるまで	与えられた予習、復習を行う																																		
12. サウンド・デザイン入門2: 音ってなあに? (II) 磁気録音が可能にしたこと	与えられた予習、復習を行う																																		
13. サウンド・デザイン入門3: サウンド・ファイルってなあに? いつでもどこでも気軽に音楽が楽しめる現在、そのテクノロジーの発展	与えられた予習、復習を行う																																		
14. サウンド・デザイン入門4: コンピュータ・ミュージック (I) MIDIデータを用いた音楽創作	与えられた予習、復習を行う																																		
15. サウンド・デザイン入門5: コンピュータ・ミュージック (II) AUDIOデータを用いた音楽創作	与えられた予習、復習を行う																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	課題についてのコメント・解説を授業内で行う																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への積極的な参加</td><td>50%</td><td>ディスカッションやグループワークなど授業への積極的な参加度と授業内で書くミニエッセイを評価する。</td></tr><tr><td>提出物</td><td>50%</td><td>講義の目標に照らして、宿題としての提出物や、講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題を総合的に評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への積極的な参加	50%	ディスカッションやグループワークなど授業への積極的な参加度と授業内で書くミニエッセイを評価する。	提出物	50%	講義の目標に照らして、宿題としての提出物や、講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題を総合的に評価する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
授業への積極的な参加	50%	ディスカッションやグループワークなど授業への積極的な参加度と授業内で書くミニエッセイを評価する。																																	
提出物	50%	講義の目標に照らして、宿題としての提出物や、講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題を総合的に評価する。																																	
教科書:	なし																																		
参考書:	佐藤望編著、アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 第2版、慶応義塾大学出版会 リチャード・J・ウィンジェル著、改訂新版 音楽の文章術、春秋社																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	オフィスアワー																																		

3E2501

音楽文化基礎演習Ⅱ

濱谷 紀子、仲 万美子、成田 和子

授業テーマ: 21世紀に活躍する若者が音楽文化を創造、発信するためのまなびとは

授業の概要: 音楽文化専攻生として21世紀の音楽文化をクリエイティブしていくための多様な視点を身につけ、音楽文化を創造／理解する基礎的な方法を学び取りましょう。そして、大学卒業後、どのような分野で活躍していきたいかも考えつつ、自分の関心のあるテーマはどのようなものがあり、どのように学んでいけばよいかのヒントをキャッチしましょう。音楽文化基礎演習Ⅱでは、音楽文化をクリエイティブする上での音楽テクノロジーにはどのようなものがあるか、また、現代の音楽文化におけるポピュラー音楽／世界の民族音楽／日本音楽の存在の意味、音楽療法の現場でどのような課題があり、療法士になる意義とはどのようなものか、について観察し、「音楽文化」をどのようにとらえるかについて各自、考えてみましょう。

到達目標: 音楽文化専攻生として21世紀の音楽文化をクリエイティブしていくための多様な視点を身につけ、音楽文化を創造／理解する基礎的な方法を習得する。

授業方法: 講義を中心とするが、ディスカッションやグループワークも適宜取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	サウンド・デザイン入門1:音ってなあに？(I) 音の現象の解明から音の記録再生が可能になるまで	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。	
	2.	サウンド・デザイン入門2:音ってなあに？(II) 磁気録音が可能にしたこと	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。	
	3.	サウンド・デザイン入門3:サウンド・ファイルってなあに？ いつでもどこでも気軽に音楽が楽しめる現在、そのテクノロジーの発展	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。	
	4.	サウンド・デザイン入門4:コンピュータ・ミュージック(I) MIDIデータを用いた音楽	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。	
	5.	サウンド・デザイン入門5:コンピュータ・ミュージック(II) AUDIOデータを用いた音楽創作	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。	
	6.	音楽文化はどのように創造され、育まれるのだろうか: 音楽の発信と受信のメカニズムから理解する	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	
	7.	世界の「ポピュラー音楽」を理解するには?: 身近にある J-pop と世界のポピュラー音楽の関係を考える方法を学ぶ	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	
	8.	「世界の民族音楽」を理解するには: 楽器や舞踊を事例に音楽と文化の関係を考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	
	9.	「日本音楽」を理解するには: 日本人の「身近にある邦楽?」それとも「彼方にある邦楽?」を考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	
	10.	学校の内／外にある多様な音楽」を理解するには: 公教育の場における多様な音楽を通して考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	
	11.	音楽療法士の仕事	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。	
	12.	日本の音楽療法の現状1	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。。	
	13.	日本の音楽療法の現状2	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。	
	14.	音楽療法士のための教育	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。。	
	15.	資格取得とその意義	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	各担当者の5回の講義の出席	50	授業中に書くミニエッセイあるいはディスカッションやグループワークなど

教科書:

参考書: 『音楽文化のすすめ』(小西潤子・仲万美子・志村哲共編、ナカニシヤ出版)他
講義時に適宜紹介および資料を配布する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法: 授業の前後に教室内で対応

3E2502

音楽文化基礎演習Ⅱ

濱谷 紀子、葛西 聖憲、仲 万美子

授業テーマ: 21世紀に活躍する若者が音楽文化を創造、発信するためのまなびとは

授業の概要: 音楽文化専攻生として21世紀の音楽文化をクリエイティブしていくための多様な視点を身につけ、音楽文化を創造／理解する基礎的な方法を学び取りましょう。そして、大学卒業後、どのような分野で活躍していきたいかも考えつつ、自分の関心のあるテーマはどのようなものがあり、どのように学んでいけばよいかのヒントをキャッチしましょう。音楽文化基礎演習Ⅱでは、音楽文化をクリエイティブする上での音楽テクノロジーにはどのようなものがあるか、また、現代の音楽文化におけるポピュラー音楽／世界の民族音楽／日本音楽の存在の意味、音楽療法の現場でどのような課題があり、療法士になる意義とはどのようなものか、について観察し、「音楽文化」をどのようにとらえるかについて各自、考えてみましょう。

到達目標: 音楽文化専攻生として21世紀の音楽文化をクリエイティブしていくための多様な視点を身につけ、音楽文化を創造／理解する基礎的な方法を習得する。

授業方法: 講義を中心とするが、ディスカッションやグループワークも適宜取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	音楽創作概論	授業で紹介された音楽がどのように創作されたかを考える。	
	2.	音楽創作: 旋律	授業で紹介された音楽がどのように創作されたかを考える。	
	3.	音楽創作: 和音進行	授業で紹介された音楽がどのように創作されたかを考える。	
	4.	音楽創作: 調性のない音	授業で紹介された音楽がどのように創作されたかを考える。	
	5.	音楽創作: その他の音楽	授業で紹介された音楽がどのように創作されたかを考える。	
	6.	音楽療法士の仕事	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。	
	7.	日本の音楽療法の現状1	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。	
	8.	日本の音楽療法の現状2	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。	
	9.	音楽療法士のための教育	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。	
	10.	資格取得とその意義	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。	
	11.	音楽文化はどのように創造され、育まれるのだろうか: 音楽の発信と受信のメカニズムから理解する	予習: シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習: 毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10日目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	
	12.	世界のポピュラー音楽」を理解するには?: 身近にある J-pop と世界のポピュラー音楽の関係を考え	予習: シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習: 毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10日目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	
	13.	「世界の民族音楽」を理解するには: 楽器や舞踊を事例に音楽と文化の関係を考える	予習: シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習: 毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10日目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	
	14.	「日本音楽」を理解するには: 日本人の「身近にある邦楽?」それとも「彼方にある邦楽?」を考える	予習: シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習: 毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10日目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	
	15.	学校の内／外にある多様な音楽」を理解するには: 公教育の場における多様な音楽を通して考える	予習: シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習: 毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10日目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	各担当者の5回の講義の出席	50	授業中に書くミニエッセイあるいはディスカッションやグループワークなど
	各担当 者の講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題の評価	50	

教科書:

参考書: 『音楽文化学のすすめ』(小西潤子・仲万美子・志村哲共編、ナカニシヤ出版)他
講義時に適宜紹介および資料を配布する。

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	伝統音楽の歴史と理論の学習と、五線譜では表せないことの感得		
授業の概要:	まず、日本音楽の歴史と理論を学ぶための用語と諸体系を理解する。また、古代から現代までの主要音楽種目の特徴を、理論のみならず、鑑賞をまじえて感得するとともに、それらを取り巻く現在の状況を考察する。		
到達目標:	受講生が、音楽家、教育者のほか、社会人として将来的に音楽文化に関わって生きていくために重要な、日本文化に関する教養を身につける機会を与える。		
授業方法:	教科書に基づき、実演、あるいはAV資料・マルチメディアコンテンツを有効に活用した講義。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 日本音楽とは何か(授業の方針と概要の説明)	教科書を持参すること。	
	2. 日本音楽の種目	教科書を持参すること。	
	3. 日本音楽の楽器	教科書を持参すること。	
	4. 理論と記譜法	教科書を持参すること。	
	5. 古代、中世成立の音楽(雅楽、声明)	教科書を持参すること。	
	6. 中世、近世成立の音楽(平曲と琵琶楽、能楽)	教科書を持参すること。	
	7. 近世成立の音楽1(地歌箏曲)	教科書を持参すること。	
	8. 近世成立の音楽2(尺八楽)	教科書を持参すること。	
	9. 近世成立の音楽3(文楽と歌舞伎)	教科書を持参すること。	
	10. 近代の日本音楽	教科書を持参すること。	
	11. 現代の日本音楽	教科書を持参すること。	
	12. 世界中の様々な音楽種目における日本楽器・日本楽器演奏家	教科書を持参すること。	
	13. 情報科学・情報処理技術からの音楽への接近、あるいはIT社会における音楽文化について	教科書を持参すること。	
	14. こんにちの芸術創作における新しい試み(音楽以外の諸芸術との関り)	教科書を持参すること。	
	15. まとめ(日本文化の中での各自の活動における主体的取り組みについて考える)	教科書を持参すること。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	日本の伝統音楽は、CD(コンパクトディスクレコード)やDVD、インターネットにおける音楽配信、およびマスメディアによる放送を試聴しても、その音楽が表す大切な要素を聴き取ることは困難である。なぜならば、それらの録音方法では、この音楽に大切な要素のひとつである「美しいノイズ」の効果が伝えられない。そこで、すでに自己が鑑賞の経験をもち、聴きどころの判断基準を獲得している音楽種目においては、その良し悪しを判断することができるが、初めて接する音楽ではその違いを認識できない。よって、できるだけ生演奏に接する機会を多くもつことが必須である。		
フィードバックの方法:	授業内でミニレポートや感想文の提出課題を設けるので、必要に応じてコメントをつけて返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	50	欠席、遅刻の頻度。授業への取り組み。
	レポート	50	設問の内容を理解でき、自己の考えが述べられているか。
教科書:	月溪恒子『日本音楽との出会い——日本音楽の歴史と理論』東京堂出版		
参考書:	志村 哲(共著)『事典 世界音楽の本』岩波書店 志村 哲『古管尺八の楽器学』出版芸術社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	電子メールで対応<simura@osaka-geidai.ac.jp>		

授業テーマ:

「民族音楽」の多様な世界と、それを捉えてゆくためのまなざし

授業の概要:

「民族音楽」とは一体何だろうか？それはただの「音楽」とどのように違うのだろうか——このように考えてゆくとき、「民族音楽」は私たちにとっての「異文化」そして「自らの文化」というものを深く問い直す契機を与えてくれるものへと変貌することとなる。
本講義では、視聴覚資料を活用して世界の諸民族の音楽文化を概観してゆくなかで、実は私たちにも身近な問題を提供している民族音楽学の様々なトピックに触れてゆく。そして、近代西洋とは異なる価値体系をもつ音楽世界の多様さを理解し、「異

- 到達目標:
- (1) 音楽研究の歴史を、文化研究としてとらえることができる。

(2) 音楽を音響それだけではなく、社会的及び歴史的背景からとらえることができる。

(3) 「異文化を理解する」ということを通して、自分自身の傾向やバイアスに気付くことができる。

(4) 音楽の好き嫌いを個人的なものとしてではなく、ある程度社会学的観点から説明できる

授業方法:

講義/演習 本授業は原則2人1組の指定席とし、授業時間内に講義内容に基づくテーマについて適宜パートナーとのディスカッションを行ってもらう。また議論の成果をミニコメントシートへ記入してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	世界音楽とはなにか	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
2.	東南アジアの音楽～ガムランを中心に～	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
3.	東南アジアの音楽～竹素材の楽器～	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
4.	音の視覚化～世界の様々な楽譜	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
5.	言葉を話す楽器—アフリカのトーキングドラム	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
6.	民族音楽学—音楽をめぐる人間の営みの探求	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
7.	「民族音楽」を読み解く—フィールドワークという方法	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
8.	音を出す道具—音具・楽器を再考する	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
9.	宗教と音楽—イスラームの音文化	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
10.	中東の音楽～イランを中心に～	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
11.	南アジアの音楽～インドを中心に～	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
12.	職業・能力・世襲etc—「音楽家」の多様なありかた	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
13.	音楽文化の接触と変容	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
14.	「民族音楽」と異文化理解	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
15.	まとめ	これまでの授業内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	到達目標に関する理解度により評価する。
	ディスカッションへの参加状況	20%	積極的に授業に参加しているかどうかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

3M0200	歌曲研究A			井原 秀人
授業テーマ:	日本歌曲の研究			
授業の概要:	歌曲は、他の声楽作品に比べて、演奏される機会がとても多い。その理由の一つに、演奏形態が声楽と鍵盤楽器とゆうシンプルなアンサンブルであることが考えられる。シンプルな演奏形態だからこそ多種多様の歌曲が生まれ、長年にわたって歌い継がれてきた。今、私たちがそれらを演奏するためには、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解することや、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養う必要がある。それをふまえて、自身と対峙しながら音楽を作り上げていくのが、歌曲の世界である。この科目では、これらのプロセスを体験し表現力の充実をはかる。			
到達目標:	作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高める。			
授業方法:	様々な作曲家の日本歌曲を取り上げ、演習と解説を交える。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容		
	1. オリエンテーション	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。 与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。		
	2. 山田耕柞の歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。			
	3. 山田耕柞の歌曲② 「喜びを表現すること」に焦点を置き、表現力の充実をはかる。			
	4. 別宮貞雄の歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。			
	5. 別宮貞雄の歌曲② 「情景を表現すること」に焦点を置き、表現力の充実をはかる。			
	6. 中田喜直の歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。			
	7. 中田喜直の歌曲② 「口に出している言葉と心にある思いの違いを表現すること」に焦点を置いた歌唱を試みる。			
	8. 團伊玖磨の歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。			
	9. 團伊玖磨の歌曲② 曲全体を見通しながら、曲を作り上げる感性を養う。			
	10. 武満徹の歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。			
	11. 武満徹の歌曲② 曲が作られた頃の時代背景を探り、その時代の空気感を表現する方法を模索する。			
	12. 小林秀雄の歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。			
	13. 小林秀雄の歌曲② 演技を伴わず詩の主人公を表現する歌唱表現力の体得を目指す。			
	14. 木下牧子の歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。			
	15. 木下牧子の歌曲② 「目に見えないものを歌う」をテーマに、歌唱の可能性を探る。			
受講者へのメッセージやアドバイス:				
フィードバックの方法:	提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。			
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	授業への積極的参加度	60%	積極的に授業に参加し、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。	
	歌唱発表	40%	歌唱発表により、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。	
教科書:	その都度指定する。			
参考書:	授業内で紹介する。			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力			
教員との連絡方法:	Eメール			

授業テーマ:

ドイツ歌曲の研究

授業の概要:

歌曲は他の声楽作品に比べて、演奏される機会がとても多い。その理由の一つに、演奏形態が声楽と鍵盤楽器とゆうシンプルなアンサンブルであることが考えられる。シンプルな演奏形態だからこそ多種多様の歌曲が生まれ、長年にわたって歌い継がれてきた。今、私たちがそれらを演奏するためには、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解することや、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養う必要がある。それをふまえて、自身と対峙しながら音楽を作り上げていくのが、歌曲の世界である。この科目では、これらのプロセスを体験し表現力の充実をはかる。

到達目標:

作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高める。

授業方法:

様々な作曲家の歌曲を取り上げ、演習と解説を交える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. シューベルトの歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	3. シューベルトの歌曲② 曲全体を見通し、感情の起伏を的確に表現する歌唱方法を模索する。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	4. シューベルトの歌曲③ その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	5. シューベルトの歌曲④ テンポの速い楽曲の中でも崩れない歌唱法、表現法の体得を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	6. メンデルスゾーンの歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	7. メンデルスゾーンの歌曲② ゲーテの詩を作曲したシューベルト作品とメンデルスゾーン作品を比較し、演奏のスタイルを考える。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	8. メンデルスゾーンの歌曲③ その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	9. メンデルスゾーンの歌曲④ 揺れる感情を音楽の流れの中で表現することを体感する。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	10. シューマンの歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	11. シューマンの歌曲② 作曲者の心情を表現した演奏を試みる。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	12. ブラームスの歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	13. ブラームスの歌曲② 調性を意識しながら歌うことで表現力に繋がることを考える。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	14. シュトラウスの歌曲① その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。
	15. シュトラウスの歌曲② ピアノ伴奏と歌唱の融合を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	60%	積極的に授業に参加し、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。
	歌唱発表	40%	歌唱発表により、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。

教科書:

その都度指定する。

参考書:

授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

オラトリオ作品の歌唱技術と表現力の体得

授業の概要:

オラトリオ作品を歌唱するにあたり求められるテクニックを体得する。オラトリオは、声のみで叙事的楽曲を表現する為、高度な声のテクニックが求められる。声という楽器を駆使し、音色や発音、強弱等の変化により、多くの感情や情景を劇的に、かつ繊細に表現する技術の体得を目指す。

到達目標:

オラトリオ作品の多くは、バロックや古典派に集中しているため、器楽曲のように高度な歌唱技術を求められる。その技術を高めるために、読譜力を身につける方法や作曲様式を知ることが必要である。このように、歌うことにとどまらず、視野の広い音楽感も身につける。

授業方法:

様々なオラトリオ作品を課題曲として取り上げ、演習(歌唱)と解説を交えてすすめていく。
課題曲は一人ずつの歌唱発表によって完了とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. オラトリオ作品全般について 2. イタリアンバロック作品の研究(1)	課題曲 Vivaldi : Gloria D dur イタリアンバロック作品の研究(2)	オラトリオの代表作品を調べてくる 課題曲の練習
	課題曲 Vivaldi : Gloria D dur イタリアンバロック作品の研究(3)	課題曲の練習
	課題曲 Pergolesi : Stabat Mater イタリアンバロック作品の研究(4)	課題曲の練習
	課題曲 Pergolesi : Stabat Mater イタリアンバロック作品の研究(5)	課題曲の練習
	課題曲 Pergolesi : Stabat Mater ドイツバロック作品の研究(1)	課題曲の練習
	課題曲 J.S.Bach : Mgnificat D dur ドイツバロック作品の研究(2)	課題曲の練習
	課題曲 J.S.Bach : Mgnificat D dur ドイツバロック作品の研究(3)	課題曲の練習
	課題曲 J.S.Bach : Mgnificat D dur ドイツバロック作品の研究(4)	課題曲の練習
	課題曲 J.S.Bach : Mgnificat D dur ヘンデル作曲「メサイア」の研究(1)	課題曲の練習
	レチタティーヴォの歌い方 ヘンデル作曲「メサイア」の研究(2)	課題曲の練習
	レチタティーヴォの歌い方 ヘンデル作曲「メサイア」の研究(3)	課題曲の練習
	アリアの歌い方 ヘンデル作曲「メサイア」の研究(4)	課題曲の練習
	アリアの歌い方 ヘンデル作曲「メサイア」の研究(5)	課題曲の練習
	アリアの歌い方	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業の中で課題曲を一人づつ歌ってもらい、それぞれにアドバイスしていきながら授業を進めていきますので、自分で練習はしておいてください。

フィードバックの方法:

質問や疑問など、随時授業内で解決していきます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50	レポート提出や歌唱発表は必ず行うこと
	レポート提出及び歌唱発表	50	

教科書:

課題曲をその都度指定する

参考書:

授業に必要なCDやDVDなどの音源は、こちらで随時準備します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業時間内、あるいはその前後での連絡が基本。

授業テーマ:

オラトリオ作品の歌唱技術と表現力の体得

授業の概要:

オラトリオ研究Aで学んだことをふまえ、より高度な歌唱技術の体得する。加えて、宗教的背景を理解することにより、歌唱表現の幅を広げる。

到達目標:

オラトリオ作品の多くは、バロックや古典派に集中しているため、器楽曲のように高度な歌唱技術を求められる。その技術を高めるために、読譜力を身につける方法や作曲様式を知ることが必要である。また、宗教曲とはいえ、生き生きとした感情が伝わる表現力を身につける。

授業方法:

様々なオラトリオ作品を課題曲として取り上げ、演習(歌唱)と解説を交えてすすめていく。
課題曲は一人ずつの歌唱発表によって完了とする。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
1.	古典派オラトリオ作品の研究(1)	課題曲の練習	
	課題曲 Mozart：戴冠ミサ		
	2.	古典派オラトリオ作品の研究(2)	課題曲の練習
	課題曲 Mozart：戴冠ミサ		
	3.	古典派オラトリオ作品の研究(3)	課題曲の練習
	課題曲 Mozart：戴冠ミサ		
	4.	近代宗教曲の研究(1)	課題曲の練習
	課題曲 Faure：小ミサ曲		
	5.	近代宗教曲の研究(2)	課題曲の練習
	課題曲 Faure：小ミサ曲		
	6.	レクイエムの研究(1)	課題曲の作曲家の時代背景や社会背景を比較しまとめる
	課題曲 Mozart：レクイエム Verdi：レクイエム Faure：レクイエム		
	7.	レクイエムの研究(2)	課題曲の作曲家の時代背景や社会背景を比較しまとめる
	課題曲 Mozart：レクイエム Verdi：レクイエム Faure：レクイエム		
	8.	レクイエムの研究(3)	課題曲の作曲家の伝えたかったことを比較しまとめる
	課題曲 Mozart：レクイエム Verdi：レクイエム Faure：レクイエム		
	9.	レクイエムの研究(4)	課題曲の作曲家の伝えたかったことをまとめる
	課題曲 Brahms：ドイツレクイエム		
	10.	受難曲の研究(1)	受難曲について調べる
	課題曲 J.S.Bach：マタイ受難曲		
	11.	受難曲の研究(2)	課題曲の練習
	課題曲 J.S.Bach：マタイ受難曲		
	12.	受難曲の研究(3)	課題曲の練習
	課題曲 J.S.Bach：マタイ受難曲		
	13.	受難曲の研究(4)	課題曲の練習
	課題曲 J.S.Bach：マタイ受難曲		
	14.	現代宗教曲の研究(1)	課題曲の作曲家の伝えたかったことをまとめる
	課題曲 Poulenc：グローリア 他		
	15.	現代宗教曲の研究(2)	課題曲の作曲家の伝えたかったことをまとめる
	課題曲 Rutter：レクイエム 他	課題曲の練習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業の中で課題曲を一人ずつ歌ってもらい、それぞれにアドバイスしていきながら授業を進めていきますので、自分で練習はしておいてください。

フィードバックの方法:

質問や疑問など、随時授業内で解決していきます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50	レポート提出や歌唱発表は必ず行うこと
	レポート提出及び歌唱発表	50	

教科書:

課題曲をその都度指定する

参考書:

授業に必要なCDやDVDなどの音源は、こちらで随時準備します

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

授業時間内、あるいはその前後での連絡が基本。

授業テーマ:

より安定する歌唱と演技のための具体性の追求

授業の概要:

豊かなパフォーマンスを要求されるオペラの分野における歌唱と身体表現法を研究することにより、声楽家の演技技術の向上と広範囲な知識を習得する。

到達目標:

1. オペラ史など、オペラにまつわる知識の習得。
2. 作曲家による作品と演奏の違いの理解。
3. 作品毎における演技の区別。

授業方法:

講義と演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション。	特になし。
2.	オペラ史概論。	特になし。
3.	古典派のオペラ作品研究（モーツァルトの作品）歌唱①	レチタティーヴォの音程の正確さと、イタリア語の朗読練習をしておくこと。
4.	古典派のオペラ作品研究（モーツァルトの作品）歌唱②	ヴォカリーゼでの音程をしっかりとしておく。
5.	古典派のオペラ作品研究（モーツァルトの作品）歌唱・立稽古説明	音程と発音の関係をしっかりと理解し、安定した歌唱を追及すること。 暗譜。
6.	古典派のオペラ作品研究（モーツァルトの作品）歌唱・立稽古	大まかな動きを理解した上で、動く理由を考える。
7.	古典派のオペラ作品研究（モーツァルトの作品）立稽古①	心理の表現に着目。
8.	古典派のオペラ作品研究（モーツァルトの作品）立稽古②	思い通りの表現ができているかをチェック。
9.	バロック時代の作品研究（ヘンデルの作品）歌唱①	レチタティーヴォの音程と発音、重唱部分の音程の正確さを大切に譜読みをしておく。
10.	バロック時代の作品研究（ヘンデルの作品）歌唱②	より安定した歌唱の追及。
11.	バロック時代の作品研究（ヘンデルの作品）歌唱と立稽古説明	暗譜をしておき、立稽古に備える。
12.	バロック時代の作品研究（ヘンデルの作品）立稽古①	大まかな動きを理解した上で、動く理由を考える。
13.	バロック時代の作品研究（ヘンデルの作品）立稽古②	心理の表現に着目。
14.	バロック時代の作品研究（ヘンデルの作品）立稽古③	思い通りの表現ができているかをチェック。
15.	バロック時代の作品研究（ヘンデルの作品）立稽古④	モーツァルトとヘンデルの作品の違いを感じ取る。

受講者へのメッセージやアドバイス:

レチタティーヴォの音程はとかく曖昧になりがちのため、音程はしっかりと押さえておくこと。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	70	積極的に授業に参加し、自分の不得意な部分を解決しようとしているか判断して評価する。
	発表の成果	30	授業内における発表において、改善されたかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。Eメール。

授業テーマ:

舞台表現のための歌唱研究

授業の概要:

春学期で得た基礎知識をさらに発展させ、作品解釈は勿論のこと歌唱と身体表現を含めたスキルアップを求める。

到達目標:

1. 歌唱力のレベルアップ。
2. 演技の基礎所作と表現力の拡大。
3. 幅広い解釈の仕方。

授業方法:

演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ロマン派以降のオペラ作品研究 (プッチーニの作品) 歌唱①	ロマン派ということでメロディーに影響されず、正確な拍で旋律を押さえておくこと。 歌詞については朗読練習をしておくこと。 オーケストラパートの動きやサウンドを意識すること。
2.	ロマン派以降のオペラ作品研究 (プッチーニの作品) 歌唱②	
3.	ロマン派以降のオペラ作品研究 (プッチーニの作品) 歌唱と立稽古説明	暗譜状態で立稽古の準備をしておく。
4.	ロマン派以降のオペラ作品研究 (プッチーニの作品) 立稽古①	練習着(浴衣)が必要な場合は用意。
5.	ロマン派以降のオペラ作品研究 (プッチーニの作品) 立稽古②	心理と動きの関係を考察。
6.	ロマン派以降のオペラ作品研究 (プッチーニの作品) 立稽古③	細部に渡る感情の変化と音楽の関係を認識する。
7.	ロマン派以降のオペラ作品研究 (プッチーニの作品) 立稽古④	意識したものが表現できているかを客観視する。
8.	その他のオペラ研究 (正歌劇と喜歌劇・創作オペラ) 歌唱	譜読みの仕方は過去にしてきたものを振り返って確認する。
9.	その他のオペラ研究 (正歌劇と喜歌劇・創作オペラ) 歌唱	台本から創造した作曲者の意図をくみ取る。
10.	その他のオペラ研究 (正歌劇と喜歌劇・創作オペラ) 歌唱と立稽古説明	立ち位置などのアウトラインは提示するが、所作などは自分なりに考えること。
11.	その他のオペラ研究 (正歌劇と喜歌劇・創作オペラ) 立稽古①	自分流解釈での表現。
12.	その他のオペラ研究 (正歌劇と喜歌劇・創作オペラ) 立稽古②	表現の確認。
13.	その他のオペラ研究 (正歌劇と喜歌劇・創作オペラ) 立稽古③	表現の拡大。
14.	その他のオペラ研究 (正歌劇と喜歌劇・創作オペラ) 立稽古④	確認。
15.	総括	音楽と演技(演奏表現)の関連性をどのように感じられるようになったかを再考し、より豊かな感性を磨けるよう方向付けをする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	70	授業の積極的に参加し、到達目標である自己改革への著しい変化がみられるようになったかを評価する。
	発表	30	変化の在り方と演奏技術の向上を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。Eメール。

3M0900		伴奏法A		中野 慶理
授業テーマ:		「ソリスト」としての演奏相手との共生		
授業の概要:		共演者を伴って学生一人一人が順番に楽曲を実際に「伴奏」していく形をとる。演奏に関して学生自身にもそれぞれの意見を求め、必要に応じて討論をも促す。		
到達目標:		単なる「伴奏」という概念は実際には不正確である、とも言える。「伴奏者」も音楽の創造に、自らのパートの演奏を通じての主体的な参加が不可欠である。「ソリスト」としての演奏相手を最大限尊重した上で、演奏する楽曲の正確な分析と演奏相手の特徴の正しい把握を並行して行っていくことにより、共に豊かな音楽を創生していくのが目標である。		
授業方法:		演奏実習、それについての意見発表、グループディスカッション		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:		授業内容	準備学習等の内容	
		1. 共演者の特徴を知る①	事前に各自用意した楽曲を共演者とともに練習しておく。	
		2. 共演者の特徴を知る②	同上	
		3. 読譜について①	同上	
		4. 読譜について②	同上	
		5. 声楽曲①	事前に各自用意した声楽曲を共演者とともに練習しておく。	
		6. 声楽曲②	同上	
		7. 声楽曲③	同上	
		8. 声楽曲④	同上	
		9. 管楽器①	事前に各自用意した管楽器の為の作品を共演者とともに練習しておく。	
		10. 管楽器②	同上	
		11. 管楽器③	同上	
		12. 弦楽器①	事前に各自用意した弦楽器の為の作品を共演者とともに練習しておく。	
		13. 弦楽器②	同上	
		14. 打楽器	事前に各自用意した打楽器の為の作品を共演者とともに練習しておく。	
		15. まとめと総括		
受講者へのメッセージやアドバイス:		「伴奏」者次第で演奏される音楽の出来、聴き手に与える印象は大きく変わります。単なる受け身の伴奏者でなく、音楽の一方の語り手として、積極的にソリストとともに表現していく意欲を、授業を通じて育てて下さい。		
フィードバックの方法:		教室でまとめて解説する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:		評価方法	割合	評価基準
		演奏・発表等の評価	50%	到達目標を自覚しつつ主体的な表現が出来ているかで評価する。
		授業の積極的な参加度	50%	積極的に授業に参加し、意見発表等において到達目標が自覚できているかで評価する。
教科書:				
参考書:				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:		分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:		授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	ピアノとオルガンによる様々な形態における伴奏法		
授業の概要:	・ピアノと声楽、ピアノと器楽における伴奏法。 ・オルガンのポジティブや電子オルガンなどで弾くことを要求される可能性のある作品、主に合唱を含む声楽作品（ミサ曲等）の伴奏法。 ・通奏低音でリアリゼーションされた楽譜や、オルガン伴奏用に編曲された曲の問題点を考える		
到達目標:	・ピアノと声楽の伴奏では歌詞と音楽の関係を理解し、ピアノと器楽の伴奏では楽器ごとの特性や相違点を踏まえて演奏する。いずれの場合もタッチやペダリング、フレージングやブレスについて注意が必要である。 ・オルガン伴奏においては、歌詞やそれにつけられた音楽を理解した上で強弱などのバランスを取りながら表現することを学ぶ。		
授業方法:	15回中12回はピアノによる授業、3回はオルガンを使つての授業となる。各回の順序は初回までに掲示する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 器楽とのアンサンブル全般について	2. 弦楽器とのアンサンブル①	器楽アンサンブルのピアノパートの役割について考える。 弦楽器とピアノのための作品のレパートリーを知る。 的確な読譜を行い、合わせた時の問題点を探る。
	3. 弦楽器とのアンサンブル②	4. 管楽器とのアンサンブル①	管楽器とピアノのための作品のレパートリーを知る。 的確な読譜を行い、合わせた時の問題点を探る。
	5. 管楽器とのアンサンブル②	6. 協奏曲やオペラアリアにおけるオーケストラ編曲の伴奏	管弦楽をピアノで演奏する時の注意点を考える。
	7. 歌曲伴奏法全般について	8. ドイツ歌曲の伴奏①	歌詞とピアノパートの役割について考える。 ドイツ歌曲の豊富なレパートリーを知る。
	9. ドイツ歌曲の伴奏②	10. ドイツ歌曲の伴奏③	的確な読譜を行い、合わせた時の問題点を探る。 的確な読譜を行い、合わせた時の問題点を探る。
	11. フランス歌曲の伴奏①	12. フランス歌曲の伴奏②	フランス歌曲の豊富なレパートリーを知る。 的確な読譜を行い、合わせた時の問題点を探る。
	13. オラトリオ等における通奏低音	14. オラトリオ等におけるアリアの伴奏	通奏低音法について復習しておく。 オルガンの特性に留意しつつ、合わせた時の問題点を探る。
	15. 合唱曲の伴奏		オルガンの特性に留意しつつ、合わせた時の問題点を探る。
受講者へのメッセージやアドバイス:	著名な声楽家やヴァイオリニスト、フルーティストなど様々なコンサートへ足を運び、そこで出会う共演ピアノの演奏からも学ぶことが大きいと思います。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	演奏発表	50%	到達目標をどの程度達成できたか演奏発表の内容を評価する。
	授業への参加度	50%	出席を含む授業への参加度を評価する。
教科書:	プリント配布または適宜指示		
参考書:	H.ドイチュ著 伴奏の芸術 音楽之友社 M.カツ著 ピアノ共演法 音楽之友社 練木繁夫著 Aをください 春秋社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業後に教室内で応対		

授業テーマ:	・伝統と様式をふまえたピアノ演奏 ・チェンバロ作品から考察するバロックの鍵盤作品 ・ドイツロマン派のオルガン音楽		
授業の概要:	・ピアノ演奏において、20世紀以来の伝統的解釈を知るとともに、様々な解釈の可能性を探る。 ・チェンバロ奏法とチェンバロ表現の特徴を学ぶ。 ・簡単なオルガン曲を弾くことで、タッチの違いを学ぶ。		
到達目標:	・作曲家や時代ごとのスタイルを考えた演奏解釈を行う。 ・チェンバロ奏法と表現技術を学び、バロック 音楽の様式を理解する。 ・オルガンを演奏し、バッハなどのバロック時代との奏法の違いを理解する。		
授業方法:	ピアノによる授業は15回中5回、チェンバロは7回、オルガンは3回である。講義と演奏実習を各回組み合わせて行う。詳細についてはあらかじめ掲示して周知する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. J.S.バッハの解釈と演奏法		J.S.バッハの様々な解釈について音源や各エディション、文献を参照して知っておく。
	2. ハイドンとモーツァルトの解釈と演奏法		ハイドンとモーツァルトの様々な解釈について音源や各エディション、文献を参照して知っておく。
	3. ベートーヴェンの解釈と演奏法		ベートーヴェンの様々な解釈について音源や各エディション、文献を参照して知っておく。
	4. ショパンの解釈と演奏法		ショパンの様々な解釈について音源や各エディション、文献を参照して知っておく。
	5. フランス音楽の解釈と演奏法		フランス音楽の解釈について音源や各エディション、文献を参照して知っておく。
	6. J.S.バッハ「フランス組曲」よりサラバンド 通奏低音と和声		課題を授業で説明した注意点に留意して読譜・予習し、授業後に復習する。
	7. J.S.バッハ「フランス組曲」よりサラバンド カンタービレ奏法とアーティキュレーション		課題を授業で説明した注意点に留意して読譜・予習し、授業後に復習する
	8. J.S.バッハ「フランス組曲」より舞曲 通奏低音と和声		課題を授業で説明した注意点に留意して読譜・予習し、授業後に復習する
	9. J.S.バッハ「フランス組曲」より舞曲 カンタービレ奏法とアーティキュレーション		課題を授業で説明した注意点に留意して読譜・予習し、授業後に復習する
	10. F.クーラン「クラヴサン奏法」 通奏低音、拍節と動き		課題を授業で説明した注意点に留意して読譜・予習し、授業後に復習する
	11. F.クーラン「クラヴサン奏法」 和声と響き、レガート奏法		課題を授業で説明した注意点に留意して読譜・予習し、授業後に復習する
	12. チェンバロ奏法と総括		課題を授業で説明した注意点に留意して読譜・予習し、授業後に復習する
	13. ドイツ・ロマン派のオルガン作品①		課題を授業で説明した注意点に留意して読譜・予習し、授業後に復習する。
	14. ドイツ・ロマン派のオルガン作品②		課題を授業で説明した注意点に留意して読譜・予習し、授業後に復習する
	15. ピアノ編曲されているオルガン作品		課題を授業で説明した注意点に留意して読譜・予習し、授業後に復習する
受講者へのメッセージやアドバイス:	特にチェンバロ演奏について・・・チェンバロの表現は細やかで繊細です。演奏する時はリラックスして注意深く音を聴いて下さい。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	演奏実習と準備学習 授業への参加度	50% 50%	演奏発表の内容やそれに向けた取り組みを評価する。 出席を含む授業への積極的な参加度を評価する。
教科書:	チェンバロの授業では、J.S.バッハ フランス組曲（原典版） その他配布プリントを使用。ピアノ、オルガンについては適宜指示する。		
参考書:	H.ケラー著 バッハのクラヴィーア作品 音楽之友社 E.ボドキー著 バッハ鍵盤曲の解釈 音楽之友社 H.ケラー著 フレージングとアーティキュレーション 音楽之友社 E.&B.スコダ著 モーツァルト演奏法と解釈 音楽之友社 C.ツェルニー著 ベートーヴェン全ピアノ作品の正しい奏法 全音楽譜出版社 B.スコダ著 ベートーヴェンピアノソナタ演奏法と解釈 音楽之友社 J.J.エーゲルディンゲル著 弟子から見たショパン 音楽之友社 M.ロン著 回想のフォーレ 音楽之友社 H・J.モランジュ, V.ペルルミュテル著 ラヴェルのピアノ曲 音楽之友社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業後に教室内で対応		

授業テーマ:	作品への理解を深め、それを自由に表現できるための諸問題の考察		
授業の概要:	各々学生が授業で演奏する楽曲を常時準備し、順番に演奏する。演奏する楽曲について意見交換し、必要に応じて討論をも促す。		
到達目標:	作品を深く理解し、それを自由に表現出来るための諸問題を考察していくこと(各自において、また、どんな楽曲を練習するかでその内容は大きく異なっていくことを認識すること！)で、将来において教師の助けがなくても自分で楽曲を仕上げていけるためのノウハウを掴んでいくことを目標とする。		
授業方法:	学生自身による演奏、及び口頭による意見発表		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 練習の始め方	事前に各自用意した楽曲を練習しておく。	
	2. 練習の方法の確認	同上	
	3. 楽曲への理解:楽曲成立の背景	同上	
	4. 楽曲への理解:楽譜の裏にある感情の動きの読み取り	同上	
	5. 楽曲への理解:楽曲の持つ形式・和声等	同上	
	6. 奏法上の諸課題:タッチについて	同上	
	7. 奏法上の諸課題:体の使い方	同上	
	8. 練習の過程での諸問題①	専攻実技における終了試験を見据えて、各自演奏予定の曲を仕上げていくこと。	
	9. 練習の過程での諸問題②	同上	
	10. 練習の過程での諸問題③	同上	
	11. 練習の過程での諸問題④	同上	
	12. 演奏会での演奏技術①	同上	
	13. 演奏会での演奏技術②	同上	
	14. 公開演奏会	専攻実技の修了試験の曲がいつでも暗譜で演奏できるよう準備しておく。	
	15. まとめと総括	専攻実技の修了試験の曲がいつでも暗譜で演奏できるよう準備しておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	皆さん一人一人が自分で適切な選曲を行い、適切な練習方法を用いて、確実に仕上げていくスキルを、授業を通して身に付けていってください。即ち自分自身のメソッドを築いていくことが重要です。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業時の演奏内容	50%	楽曲に相応しく、かつ積極的な表現が出来ているかで評価する。
	授業の積極的な参加度	50%	積極的に授業に参加し、到達目標を認識できているかで評価する。
教科書:			
参考書:	ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと トーマス・マーク他 著 春秋社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	優れた管弦楽作品の研究と演奏。		
授業の概要:	合奏における基本的な演奏能力を身につけるとともに、作曲家と作品に対する理解を深め、演奏会に向けて一曲一曲を仕上げていく。その過程で、他のセクションやパートを聴く力を養い、自分のパートの持つ役割を体得し実践していく。		
到達目標:	自らのパートのみならず、全体のオーケストレーションを理解し、更には技術的安定と、より高度なアンサンブル技術を身につけることを目標とする。		
授業方法:	分奏、合奏授業をバランスよく行い、定期公演に向けて楽曲を仕上げていく。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)①	事前の自主練習①	
	2. 合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)②	事前の自主練習②	
	3. 合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)③	事前の自主練習③	
	4. 合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)④	事前の自主練習④	
	5. 合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)①	スコアの研究①	
	6. 合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)②	スコアの研究②	
	7. 合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)③	スコアの研究③	
	8. 合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)④	スコアの研究④	
	9. 演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)①	より積極的なパート練習①	
	10. 演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)②	より積極的なパート練習②	
	11. 演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)③	より積極的なパート練習③	
	12. 演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)④	より積極的なパート練習④	
	13. 総合練習 (演奏会の準備)①	演奏会に向けての自主練習①	
	14. 総合練習 (演奏会の準備)②	演奏会に向けての自主練習②	
	15. 総合練習 (演奏会の準備)③	演奏会に向けての自主練習③	
受講者へのメッセージやアドバイス:	我々が取り上げる作品は、大作曲家が音楽史上に残した傑作ばかりです。作曲家と作品に対する深い敬意をもって、それぞれの作品の奥深さを学びましょう。		
フィードバックの方法:	日頃の授業に対する積極的参加度姿勢や、合奏の総合的な到達度を、授業の中で随時コメントしていきます。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度 技術的到達度	80 20	授業への出席状況を見る 演奏への参加姿勢を見る
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、コミュニケーション力、、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室にて対応。		

授業テーマ:

優れた管弦楽作品の研究と演奏。

授業の概要:

合奏における基本的な演奏能力を身につけるとともに、作曲家と作品に対する理解を深め、演奏会に向けて一曲一曲を仕上げていく。その過程で、他のセクションやパートを聴く力を養い、自分のパートの持つ役割を体得し実践していく。

到達目標:

自らのパートのみならず、全体のオーケストレーションを理解し、更には技術的安定と、より高度なアンサンブル技術を身につけることを目標とする。

授業方法:

分奏、合奏授業をバランスよく行い、定期公演に向けて楽曲を仕上げていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)①	事前の自主練習①
2.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)②	事前の自主練習②
3.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)③	事前の自主練習③
4.	合奏の基本練習 (音程・リズム・アインザッツ・バランス)④	事前の自主練習④
5.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)①	スコアの研究①
6.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)②	スコアの研究②
7.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)③	スコアの研究③
8.	合奏の応用 (音色感を磨く・楽曲を深く知る)④	スコアの研究④
9.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)①	より積極的なパート練習①
10.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)②	より積極的なパート練習②
11.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)③	より積極的なパート練習③
12.	演奏実践 (演奏会を意識した総合練習)④	より積極的なパート練習④
13.	総合練習 (演奏会の準備)①	演奏会に向けての自主練習①
14.	総合練習 (演奏会の準備)②	演奏会に向けての自主練習②
15.	総合練習 (演奏会の準備)③	演奏会に向けての自主練習③

受講者へのメッセージやアドバイス:

我々が取り上げる作品は、大作曲家が音楽史上に残した傑作ばかりです。作曲家と作品に対する深い敬意をもって、それぞれの作品の奥深さを学びましょう。

フィードバックの方法:

日頃の授業に対する積極的参加度姿勢や、合奏の総合的な到達度を、授業の中で随時コメントしていきます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	80	授業への出席状況を見る
	技術的到達度	20	演奏への参加姿勢を見る

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、コミュニケーション力、、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室にて対応。

授業テーマ:

楽曲の分析と解釈

授業の概要:

声楽曲、室内楽曲、協奏曲、アンサンブル曲、管弦楽曲、カンタータやオペラなど、さまざまなジャンルや編成のために作曲された作品を分析する。それぞれの作品の時代的背景、楽曲の様式や形式、書法や楽器法、和声やリズムなど、さまざまな視点から細かく分析し、作品の音楽的発想、表現や概念の独自性を探る。授業では、ある1人の作曲家の作品を集中的に取り上げたり、ジャンルや編成を同じくする2人の作曲家の作品を対比させたりして学ぶ。

到達目標:

中世からバロックまでのさまざまな編成のために作曲された、代表的作曲家の主要作品を学び、それらの作品の分析を行うことで、楽曲の正確な理解力と分析力を養い、音楽実技や音楽教育における応用力を修得する。

授業方法:

講義、演習、視聴、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入: 中世からバロック期までの音楽の流れ	準備
2.	ギヨーム・ド・マシヨの宗教曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
3.	ギヨーム・ド・マシヨの世俗曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
4.	クラウディオ・モンテヴェルディの声楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
5.	クラウディオ・モンテヴェルディの歌劇の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
6.	ジョラーモ・フレスコバルディの器楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
7.	ジャン＝バティスト・リュリの舞踏喜劇1.の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
8.	ジャン＝バティスト・リュリの舞踏喜劇2.の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
9.	ヘンリー・パーセルの頌歌の分析を行う	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
10.	ヘンリー・パーセルの歌劇の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
11.	ジャン＝フィリップ・ラモアのクラヴサン作品の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
12.	ルイ・クーランとフランソワ・クーランのクラヴサン作品の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
13.	ヨハン・セバスティアン・バッハの合奏協奏曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
14.	ヨハン・セバスティアン・バッハの受難曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
15.	まとめ: 音楽作品が作曲された時代的背景と作品の形式について考察する。	レジュメをまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レジュメ	59	
	平常点	41	授業への取り組み、ディスカッションなど

教科書:

参考書:

楽譜、スコア
プリントを授業時に配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

楽曲の分析と解釈

授業の概要:

声楽曲、室内楽曲、協奏曲、アンサンブル曲、管弦楽曲、オペラなど、さまざまなジャンルや編成のために作曲された作品を分析する。それぞれの作品の時代的背景、楽曲の様式や形式、書法や楽器法、和声やリズムなど、さまざまな視点から細かく分析し、作品の音楽的発想、表現や概念の独自性を探る。授業では、ある1人の作曲家の作品を集中的に取り上げたり、ジャンルや編成を同じくする2人の作曲家の作品を対比させたりして学ぶ。

到達目標:

古典派から近代までのさまざまな編成のために作曲された、代表的作曲家の主要作品を学び、それらの作品の分析を行うことで、楽曲の正確な理解力と分析力を養い、音楽実技や音楽教育における応用力を修得する。

授業方法:

講義、演習、視聴、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの室内楽曲の分析を行う。	準備
2.	ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの歌劇の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
3.	フランツ・シューベルトの歌曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
4.	フランツ・シューベルトの室内楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
5.	ロベルト・シューマンの歌曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
6.	ロベルト・シューマンの室内楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
7.	ヨハネス・ブラームスの室内楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
8.	ヨハネス・ブラームスの管弦楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
9.	ジュゼッペ・ヴェルディの宗教音楽の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
10.	ジュゼッペ・ヴェルディのオペラの分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
11.	アントニン・ドヴォルザークの協奏曲分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
12.	アントニン・ドヴォルザークの管弦楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
13.	クロード・ドビュッシーのピアノ曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
14.	クロード・ドビュッシーの管弦楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
15.	まとめ: 音楽作品が作曲された時代的背景と作品の形式について考察する。	レジュメをまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レジュメ	59	
	平常点	61	授業への取り組み、ディスカッションなど

教科書:

参考書:

楽譜、スコア
プリントを授業時に配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

音楽理論および音楽作品に関する英語文献の講読

授業の概要:

演奏技術を高める糧となるように、英語文献を通じてより高度な音楽知識を習得し、学問的思索を行う。とくに、音楽史上の主な作曲家や作品についての知識を習得することにより、各時代の文化的背景について考察する。

到達目標:

・英語文献の精読を通して、高度な音楽知識を習得する。
・英語文献の精読を通して、作曲家や音楽作品の理解と時代背景についての考察を深める。

授業方法:

訳読形式。各自が作成した訳文を発表し、内容理解の確認と内容に関する討議を行う。
また、小グループで訳文を作成して発表することを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション: 音楽用語の整理	学習した音楽用語をノートに整理し、覚える。
	2. ルネサンス、バロック時代の音楽と作曲家(1)	教材文献にあらかじめ目を通し英文の構造や内容の理解に努める。 学習した箇所については訳文を作成して整理する。
	3. ルネサンス、バロック時代の音楽と作曲家(2)	同上
	4. ルネサンス、バロック時代の音楽と作曲家(3)	同上
	5. 総括と小テスト(1)	既習文献の総復習
	6. 古典派、ロマン派の音楽と作曲家(1)	教材文献にあらかじめ目を通し英文の構造や内容の理解に努める。 学習した箇所については訳文を作成して整理する。
	7. 古典派、ロマン派の音楽と作曲家(2)	同上
	8. 古典派、ロマン派の音楽と作曲家(3)	同上
	9. 総括と小テスト(2)	既習文献の総復習
	10. 近現代の音楽と作曲家(1)	教材文献にあらかじめ目を通し英文の構造や内容の理解に努める。 学習した箇所については訳文を作成して整理する。
	11. 近現代の音楽と作曲家(2)	同上
	12. 近現代の音楽と作曲家(3)	同上
	13. 総括と小テスト(3)	既習文献の総復習
	14. CDの曲目解説を抄訳する	教材にあらかじめ目を通し、抄訳を作成する。
	15. 楽譜の曲目解説を抄訳する	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

日ごろから、自分が演奏する楽曲などについて、英語で書かれた曲目解説を積極的に読む努力をすること。

フィードバックの方法:

テストは採点して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席およびクラス参加度	40%	授業への積極的な参加と予習状況について評価する。 到達目標における、英語を通した、音楽に関する高度な知識の習得と作曲家/作品の理解ができていることを評価する。
	小テスト合計	60%	

教科書:

プリント配布による。

参考書:

授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応する。

授業テーマ:	音楽発達および音楽教育に関する英語文献の講読。		
授業の概要:	音楽発達や音楽心理学に関する英語文献の講読を通して、小児期・青年期における音楽技能の獲得過程や音楽教育のあり方について考察する。		
到達目標:	・音楽発達, 音楽心理学, 音楽教育に関する語彙や知識を英語により習得する。 ・英語文献を精読することを通して, 音楽教育のあり方を考察する力を養う。		
授業方法:	訳読形式。各自が作成した訳文を発表し、内容理解の確認と内容に関する討議を行う。 また、小グループで抄訳を作成して発表することもある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. イントロダクション: 音楽用語の整理	2. 音楽発達に関する小論(1)	学習した音楽用語をノートに整理し, 覚える。 教材文献にあらかじめ目を通し, 英文の構造や内容の理解に努めること。学習した箇所については訳文を作成して知識を整理する。
	3. 音楽発達に関する小論(2)		同上
	4. 音楽発達に関する小論(3)		同上
	5. 内容のまとめと小テスト(1)		既習文献の総復習
	6. 子どもの心理に関する小論(1)		教材文献にあらかじめ目を通し, 英文の構造や内容の理解に努めること。学習した箇所については訳文を作成して知識を整理する。
	7. 子どもの心理に関する小論(2)		同上
	8. 子どもの心理に関する小論(3)		同上
	9. 内容のまとめと小テスト(2)		既習文献の総復習
	10. 音楽教育に関する論文(1)		教材文献にあらかじめ目を通し, 英文の構造や内容の理解に努めること。学習した箇所については訳文を作成して知識を整理する。
	11. 音楽教育に関する論文(2)		同上
	12. 音楽教育に関する論文(3)		同上
	13. 音楽教育に関する論文(4)		同上
	14. 内容のまとめと小テスト(3)		既習文献の総復習
	15. 音楽発達と音楽教育に関する総括		これまでのテストの見直しによる総復習
受講者へのメッセージやアドバイス:	英語の新聞や雑誌により, 音楽に関する情報を得よう日ごろからチャレンジしてほしい。		
フィードバックの方法:	テストは添削して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席およびクラス参加度	40%	授業への積極的な参加および予習状況について評価する。
	小テスト合計	60%	到達目標における, 英語による専門語彙や知識の習得度を評価する。
教科書:	プリント配布による。		
参考書:	授業内で適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:			
授業の概要:	英語以外の外国語(本講義ではフランス語)による音楽文献の講読は、西洋音楽を専門とする者にとって必須である。その能力をできるかぎり獲得することを目標とする。		
到達目標:	フランス語初級文法的能力を、積極的に授業に参加することにより、獲得することを目標とする。		
授業方法:	フランス語の初級文法の説明・練習を行う。その際に、特殊音楽的用語の扱いについて、特に注意する点を説明に付け加えて行く。具体的には、文法の説明・練習を視聴覚教材を用いて進めて行く。発音や聞き取りの練習も行う。毎回宿題を課す。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習1	当該部分の予習復習	
	2. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習2	当該部分の予習復習	
	3. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習3	当該部分の予習復習	
	4. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習4	当該部分の予習復習	
	5. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習5	当該部分の予習復習	
	6. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習6	当該部分の予習復習	
	7. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習7	当該部分の予習復習	
	8. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習8	当該部分の予習復習	
	9. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習9	当該部分の予習復習	
	10. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習10	当該部分の予習復習	
	11. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習11	当該部分の予習復習	
	12. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習12	当該部分の予習復習	
	13. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習13	当該部分の予習復習	
	14. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習14	当該部分の予習復習	
	15. まとめ	全体の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	毎回の宿題の返却とコメント・解説		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的な参加と宿題提出	55	授業に積極的に参加しているか、宿題をきちんと提出しているかを評価する
	試験	45	フランス語初級文法の学んだ事項をきちんと自分のものとしているかどうかを評価する
教科書:	《新版》ピエールとユゴー、白水社		
参考書:	なし		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール:rshiina@dwc.doshisha.ac.jp		

3M2100

音楽外国語Ⅱ

椎名 亮輔

授業テーマ:

「音楽外国語Ⅰ」のつづき

授業の概要:

英語以外の外国語(本講義ではフランス語)による音楽文献の講読は、西洋音楽を専門とする者にとって必須である。その能力をできるかぎり獲得することを目標とする。

到達目標:

「音楽外国語Ⅰ」について、フランス語初級文法的能力を、積極的に授業に参加することにより、獲得することを目標とする。

授業方法:

「音楽外国語Ⅰ」について、フランス語の初級文法の説明・練習を行う。その際に、特殊音楽的用語の扱いについて、特に注意する点を説明に付け加えて行く。具体的には、文法の説明・練習を視聴覚教材を用いて進めて行く。発音や聞き取りの練習も行う。毎回宿題を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習1	当該部分の予習復習
2. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習2	当該部分の予習復習
3. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習3	当該部分の予習復習
4. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習4	当該部分の予習復習
5. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習5	当該部分の予習復習
6. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習6	当該部分の予習復習
7. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習7	当該部分の予習復習
8. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習8	当該部分の予習復習
9. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習9	当該部分の予習復習
10. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習10	当該部分の予習復習
11. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習11	当該部分の予習復習
12. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習12	当該部分の予習復習
13. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習13	当該部分の予習復習
14. 音楽フランス語初級文法についての説明と練習14	当該部分の予習復習
15. まとめ	全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回の宿題の返却とコメント・解説

「成績評価方法」:

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加と宿題提出	55	授業に積極的に参加しているか、宿題をきちんと提出しているかを評価する
試験	45	フランス語初級文法の学んだ事項をきちんと自分のものとしているかどうかを評価する

教科書:

《新版》ピエールとユゴー、白水社

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール:rshiina@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	室内楽実技		
授業の概要:	音楽専攻科生を対象とするアンサンブル実技。学部科目「室内楽」と合同開催。		
到達目標:	各グループの学習状況に応じた課題により、和声や音量バランスなど複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現方法について学ぶ。		
授業方法:	あらかじめ登録されたグループごとの個別指導によりおこなう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	グループごとの個別指導①	授業で演奏する楽曲を練習・準備しておく。 前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	2.	グループごとの個別指導②	
	3.	グループごとの個別指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	4.	グループごとの個別指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	5.	グループごとの個別指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	6.	グループごとの個別指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	7.	グループごとの個別指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	8.	グループごとの個別指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	9.	グループごとの個別指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	10.	グループごとの個別指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	11.	グループごとの個別指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	12.	グループごとの個別指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	13.	グループごとの個別指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	14.	グループごとの個別指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	15.	グループごとの個別指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出物等がある場合は、返却方法も含め教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	100%	到達目標の和声や音量バランスなど、複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現力が養われているか評価する。
教科書:	グループ各々に対応した楽譜等をその都度指定する。		
参考書:	グループ各々に対応した資料を適宜指定する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業時に個別に伝達する。		

授業テーマ:	室内楽実技		
授業の概要:	音楽専攻科生を対象とするアンサンブル実技。学部科目「室内楽」と合同開催。		
到達目標:	各グループの学習状況に応じた課題により、和声や音量バランスなど複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現方法について学ぶ。		
授業方法:	あらかじめ登録されたグループごとの個別指導によりおこなう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	グループごとの個別指導①	授業で演奏する楽曲を練習・準備しておく。 前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	2.	グループごとの個別指導②	
	3.	グループごとの個別指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	4.	グループごとの個別指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	5.	グループごとの個別指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	6.	グループごとの個別指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	7.	グループごとの個別指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	8.	グループごとの個別指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	9.	グループごとの個別指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	10.	グループごとの個別指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	11.	グループごとの個別指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	12.	グループごとの個別指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	13.	グループごとの個別指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	14.	グループごとの個別指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	15.	グループごとの個別指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出物等がある場合は、返却方法も含め教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技試験	100%	到達目標の和声や音量バランスなど、複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現力が養われているか評価する。
教科書:	グループ各々に対応した楽譜等をその都度指定する。		
参考書:	グループ各々に対応した資料を適宜指定する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業時に個別に伝達する。		

授業テーマ:

授業の概要: ピアノ曲等の様々な楽曲を順を追って取り上げながら、指揮をするための技術を身につけていく。また、指揮をするという観点から楽曲分析等の力を養い、学生それぞれが専門としている楽器演奏へ活かしながら、演奏の幅を広げていくことを目標とする。
簡単な楽曲を授業の最後には学生自身で分析・指揮を行えるようにする。

到達目標: ・基本的な指揮の技術を習得する。
・簡単なピアノ曲を自身で楽曲分析できる。
・簡単なピアノ曲を自身で指揮することが出来る。

授業方法: 学生によるピアノ連弾による演奏で、他の学生一人が指揮を振る形態で進める。(ピアノ連弾の代わりに専門の楽器、声楽での参加も可能)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	指揮法の基本 2拍子と2拍子を含む楽曲の演習	-
2.	指揮法の基本 3拍子と3拍子を含む楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
3.	指揮法の基本 4拍子と4拍子を含む楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
4.	指揮法の基本 5拍子と5拍子を含む楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
5.	指揮法の基本 6拍子と6拍子を含む楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
6.	指揮法の基本 7拍子と7拍子を含む楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
7.	指揮法の基本 3/8、6/8、9/8と楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
8.	指揮法の基本 3/8、6/8、9/8と楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
9.	Waltz振り演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
10.	Waltz振り演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
11.	変拍子の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
12.	変拍子の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
13.	楽曲分析と演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
14.	楽曲分析と演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
15.	楽曲分析と演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)

受講者へのメッセージやアドバイス: 大学を卒業してからの小・中・高校生向けの音楽指導の場面や、アンサンブル・吹奏楽の指導等の際に役立てて頂けると嬉しいです。

フィードバックの方法: 教室で纏めて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業での発表	50	指揮法、楽曲分析の正しい理解、応用を基準とする
	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、楽曲の理解、指揮が出来るようになったかを評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

3M2500

指揮法研究Ⅱ

森香織

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

1.弦楽器の楽譜の読み方と演習

2.弦楽器の楽譜の読み方と演習

3.管楽器の楽譜の読み方と演習

4.管楽器の楽譜の読み方と演習

5.打楽器の楽譜の読み方と演習

6.打楽器の楽譜の読み方と演習

7.吹奏楽の楽譜の読み方と演習

8.吹奏楽の楽譜の読み方と演習

9.合唱曲の楽譜の読み方と演習

10.合唱曲の楽譜の読み方と演習

11.交響曲の分析と演習

12.交響曲の分析と演習

13.交響曲の分析と演習

14.交響曲の分析と演習

15.交響曲の分析と演習

準備学習等の内容

-

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室で纏めて解説する。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法

割合

評価基準

授業での発表

50

指揮法、楽曲分析の正しい理解、応用を基準とする

授業への参加度

50

積極的に授業に参加し、楽曲の理解、指揮が出来るようになったかを評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

3M2600

京都の音・音楽Ⅰ

仲 万美子

授業テーマ:

文化の発信地としての京都の＜伝統音楽および民俗音楽＞の様相を探る旅

授業の概要:

近代西洋芸術文化を受容した以後の近代日本音楽史は、東京を中心に語られることが多いが、それまでの千年を超える「京都」で育まれた音、音楽が、「日本の音楽」というコンテクストのなかで大きな位置をしめていることは言うまでもない。そして「都」が東京に移ってからも、京都では新しい音・音楽を発展させ、国内外に発信しつづけている。その発展の様子を理解し、国内はもとより世界においても芸術教育に携わる可能生を秘めた音楽家としての未来の諸活動のヒントを、日本の伝統音楽の宝庫から探りあてよう。

到達目標:

本講義Ⅰでは、京都に鳴り響いた日本伝統音楽・民俗音楽の世界について、その源流および伝播した他地域との関係を視野にいれて探る。宮廷、神社仏閣、娯楽の空間で、音楽を学びたしなむ人々がどのようにそれらの音楽を受けとめ、そして他地域にどのような影響をもたらしたかについても探り、現代観光都市として活発な文化交流を展開している京都人にとって、1) 伝統音楽がどのような意味をもっているか、2) サウンドスケープの視点から、「京都」という都に鳴り響く音が、文学作品などにどのように描かれていたか、また、3) 現代都市空間を創造していく上で、どのように音／音楽を有効活用しているか、4) 京都を表象する音楽がどの様に創作され、国内外で上演されているかを認識し、自分の音楽活動に応用できるか、その可能性を探ることがもとめられる。

授業方法:

講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 京都の音・音楽をどのように探るのか 京都の音・音楽をどのように捉え、どのように探っていくかについての説明を行う。	
2. 平安京に鳴り響いた音・音楽の世界: 貴族や民衆が愛好した音楽 宮廷の音楽の代表である「雅楽」をふくめ当時の物語に描かれた音楽の世界を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
3. 中世に鳴り響き始めた音・音楽の世界とその展開: 能・狂言の世界 笑いをテーマとする「狂言」、そして武士のたしなみとしての「能楽」の魅力について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
4. 中世に鳴り響き始めた音・音楽の世界とその展開: テキストを語り、魂を揺さぶる世界 琵琶の伴奏による「平曲」で奏でられる京の世界、そして異邦人が琵琶を奏でる意義について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
5. 中世に鳴り響き始めた音・音楽の世界とその展開: 仏教音楽・仏教芸能の世界 比叡山延暦寺をはじめ仏教寺院に鳴り響いた「声明」などの仏教音楽および仏教芸能について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
6. 近世に鳴り響き始めた音・音楽の世界: 歌舞伎・文楽の世界 歌舞伎、文楽にみる「上方の芸能」の音楽の魅力と伝承のあり方について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
7. 近代京都に出現した「劇場」での舞台芸術の上演について 能楽や歌舞伎の専門劇場の創設背景と上演のシステムについて探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
8. 近代に鳴り響いた音・音楽の世界: 能・歌舞伎の海外公演 20世紀の能・歌舞伎の海外公演の意味について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
9. 近代に鳴り響いた音・音楽の世界: 能・歌舞伎の海外公演 21世紀後の能・歌舞伎の海外公演の意味について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
10. 「京都」を描いた作品が、西洋音楽のスタイルで表現される場合 オペラとオーケストラ作品を事例に探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
11. 京都市内の春の踊りを彩る音・音楽の世界 京に春の到来をつげる「都／北野／鴨川おどり」を支える「女性の舞」の魅力について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
12. 観光資源として活用される都市京都に響く音・音楽の世界 京都の祭りを代表する「葵・祇園・時代祭り」で響き渡る音・音楽の魅力について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
13. 京都の大学で展開される伝統芸術のパフォーマンスについて 京都の国立／私立大学の邦楽サークルで伝統文化に親しむことの魅力について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
14. 京都学生祭典で鳴り響いた音・音楽の世界 21世紀に登場した大学生自らが運営する京都学生祭典に鳴り響く音・音楽の魅力について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
15. 21世紀に京都で学んだ西洋音楽家としての視点からみた京都の伝統音楽の世界観について考える。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:

提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。

授業への参加度	55%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。

教科書:	特に指定しない。

参考書:	講義時に適宜、提示する。

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応する

授業テーマ:

文化の発信地として近代京都に鳴り響いた音・音楽文化の様相を探る旅

授業の概要:

近代西洋芸術文化を受容した以後の近代日本音楽史は、東京を中心に語られることが多いが、「都」が東京に移ってから、京都では新しい音・音楽を発展させ、国内外に発信しつづけている。その発展の様子を理解し、次世代の文化交流の担い手となる生徒に何を伝え、自ら世界に羽ばたく音楽家として行う諸活動のヒントを探りあてる。

到達目標:

本講義Ⅱでは、講義Ⅰで理解した京都に鳴り響いた伝統音楽／民俗音楽の音・音楽の意味を踏まえて、西洋音楽と遭遇した近代以降の京都の音、音楽の状況について考察する。音楽の専門教育の場、公教育の場、高等教育の場、娯楽空間での音楽実践の実態を振り返り、教授する人、学ぶ人、視聴する人にとって、西洋音楽を中心とする京都の音・音楽がどのような役割をはたしてきたか深く理解することが求められる。

授業方法:

講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 西洋音楽との出会い 京都で西洋音楽がいつ頃、どこで鳴り響いたかを知る。	
	2. 幼稚園で鳴り響いた音楽の世界 全国でも早い時期から開かれた京都の幼稚園舎で鳴り響いていた音楽について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	3. 小学校で鳴り響いた音楽の世界 京都における初等教育の場で学んだ音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	4. 女学校で鳴り響いた音楽の世界 同志社女学校をはじめ女子中学生が学んだ／演奏した音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	5. 中学校・高等学校で鳴り響いた音楽の世界 同志社英学校をはじめ男子中・高等学校生が学んだ／演奏した音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	6. 総合大学で鳴り響いた音楽の世界 京都大学など総合大学で鳴り響いた音・音楽の世界を考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	7. 音楽を専門に学ぶ大学で鳴り響いた音楽の世界 京都市立芸術大学をはじめ音楽を専門に学ぶ大学で鳴り響いた音楽の世界を考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	8. 社会人が参加する音楽団体に鳴り響いた音楽の世界 京都労音など市民が参加した団体の活動の内容とその特徴について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	9. プロフェッショナルオーケストラで鳴り響いた音楽の世界 京都市立交響楽団などプロの団体の音楽活動の特徴について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	10. 外来演奏家が鳴り響かせた音楽の世界: 明治・大正時代 明治・大正期に来京した世界の音楽家の公演活動について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	11. 外来演奏家が鳴り響かせた音楽の世界: 昭和時代 昭和期に来京した世界の音楽家の公演活動について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	12. 公共ホールの音楽の世界 「京都コンサートホール」「京都府民ホールアルティ」の啓蒙活動について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	13. 映画村で鳴り響いた音楽の世界 太秦映画村など京都で製作した／京都をテーマにした映画の音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	14. カフェで鳴り響いた音楽の世界 京都市内のカフェなどで鳴り響いた音・音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	15. 京都・国際音楽学生フェスティバルで鳴り響いた音楽の世界 世界の代表的な音楽学校で学ぶ学生が京都に集い演奏した音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:

提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	55%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。

教科書:

特に指定しない。

参考書:

講義時に適宜、提示する。

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	キリスト教音楽の実際		
授業の概要:	キリスト教音楽は、特にバロック時代までは「礼拝」の中で位置づけられ、演奏されてきた。演奏会の中心がコンサートホールなどに移ってからも、現在までキリスト教音楽は作り続けられている。また、いわゆる「キリスト教音楽」というジャンルに含まれないような交響曲などにも、グレゴリオ聖歌やコラールの旋律が用いられたりしている。授業では歴史的に重要な曲のみならず、私たちが耳にしたり演奏したりする機会の多い曲をとり上げ、それらの音楽の本来の目的や姿を知り、音楽を理解する助けにしたい。		
到達目標:	・西洋音楽の源流ともいえるグレゴリオ聖歌からの流れを知る。 ・レクイエムを含むミサ及びミサ曲の形や内容を理解し、演奏時の表現に活かす。 ・ミサ曲の歴史的な変化についての見識を深める。 ・聖務日課とそこで用いられる音楽についての知識を得る。		
授業方法:	プリントによる資料、楽譜、CD等の音源を用いる。講義が中心だが、受講生の専攻や人数を考慮して行う。それにより可能な限り実際に音に出してみたい。個人またはグループで発表する場を設ける。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 1. 導入:宗教音楽、キリスト教音楽とは何か / キリスト教音楽の基礎的な知識の確認	キリスト教やその音楽の用語について、自分の知識を整理しておく	
	2. キリスト教音楽の源流:ユダヤ教の音楽～単声聖歌	ユダヤ教とキリスト教の関係について知っておくことが望ましい	
	3. グレゴリオ聖歌とその影響	授業で取り上げた曲の全体を聴く	
	4. 聖務日課とミサの構成	授業で指示する参考文献を読む	
	5. バロック以前のミサ曲	関連する音楽史の復習	
	6. バロックのミサ曲	授業中に聴けなかった部分を聴いたり、楽譜を参照する	
	7. バッハのミサ曲～「ロ短調ミサ」を中心に	同上 ミニレポートの準備	
	8. 古典派以降のミサ曲	同上	
	9. レクイエム①	参考文献を読む	
	10. レクイエム②	授業中に聴けなかった部分を聴いたり、楽譜を参照する	
	11. マニフィカート	授業中に聴けなかった部分を聴いたり、楽譜を参照する	
	12. Ave Mariaと4つの聖母マリアの賛歌について	参考文献を読む	
	13. 研究発表(1)	研究発表の用意	
	14. 研究発表(2)	研究発表の用意	
	15. 研究発表(3)またはオルガン・ミサ曲について	研究発表の用意	
受講者へのメッセージやアドバイス:	キリスト教を抜きにして、西洋音楽を語ったり演奏することはできません。一見馴染みが薄く、難しく感じられるかもしれませんが、知らない間に耳にしたり演奏したりしている旋律も、実は教会音楽と深く関係しているかもしれません。卒業後も音楽を続けていく中で必要になる知識を得、活かしてほしいと思います。 春学期はミサ曲を中心に、主にカトリックの音楽を学びますが、授業にも主体的に関わってください。具体的に取り上げる曲については、出来るだけ専攻を考慮しますが、自分の専門に偏らず、幅広く見識を身に付けてください。		
フィードバックの方法:	ミニ・レポートは、授業中にコメントし返却する。 研究発表のまとめであるレポートは、採点后に返却予定。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点及びミニ・レポート	50%	出席を含む授業への積極的参加度及びミニ・レポートの内容
	研究発表及びレポート	50%	選んだテーマについて正しく理解し、独自の視点が加えられているかを基準とする。
教科書:			
参考書:	「キリスト教音楽の歴史～初代教会からJ.S.バッハまで～」 金沢正剛著 日本基督教団出版局 「ミサ曲・ラテン語・教会音楽ハンドブック」 三ヶ尻 正著 (株)シヨパン その他は項目ごとに紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後や他の授業の出講日に対応します。 必要に応じて、Eメールを利用します。		

授業テーマ:

キリスト教音楽の実際

授業の概要:

宗教音楽Ⅰではカトリックの音楽が中心であったが、Ⅱでは宗教改革後の音楽も多く採り上げる。J.S.バッハを中心に、聖書の言葉などを音楽でどう表現しているか、コラールをどのように用いているか、音型や数の象徴についても学ぶことにより、楽譜を深く読むための助けとなることを目指す。また教会歴や宗教的な行事のための音楽も紹介し、教会音楽を身近なものとして受け入れてきた西洋の文化についても考える。

到達目標:

・コラールとそれを用いた音楽について知る
・カンタータ、オラトリオ、受難曲とは何か、またその成立からの歴史を理解する
・主にJ.S.バッハの音型や象徴について知り、楽譜を深く読むことにより、演奏上への表現へと結びつける。

授業方法:

プリントによる資料、楽譜、CD等の音源を用いる。講義が中心だが、受講生の専攻や人数を考慮して行う。それにより可能な限り実際に音に出してみたい。個人またはグループで発表する場を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	テ・デウム等の賛歌	参考文献を読む
2.	詩編歌(1)	詩編とは何か、最低限の知識を得ておく
3.	詩編歌(2)と詩編に関する音楽	授業で取り上げた曲について発展的に学習する
4.	オラトリオについて	参考文献を読む 知っているオラトリオをあげておく
5.	カンタータについて	ミニ・レポートの準備 (バッハのカンタータを1曲聴く)
6.	クリスマス・オラトリオについて(シュツツ、バッハ)	ミニ・レポートの準備 キリスト誕生の物語に関する福音書を読んでおく
7.	クリスマス・オラトリオとその他のクリスマス音楽	参考文献を読む
8.	受難曲:オラトリオ受難曲の成立	キリストの受難の物語に関する聖書箇所を読んでおく
9.	バッハの受難曲(1)	指示に従って受難曲の鑑賞及び楽譜の検討
10.	バッハの受難曲(2)	同上
11.	バッハの受難曲(3)	同上
12.	モテットについて	参考文献を読む
13.	研究発表(1)	研究発表の用意
14.	研究発表(2)	研究発表の用意
15.	研究発表(3)またはオルガンコラール編曲とまとめ	研究発表の用意

受講者へのメッセージやアドバイス:

宗教音楽Ⅰに引き続き、様々なキリスト教音楽に触れることによって音楽の視野を広げます。演奏したり聴いたりする機会も多いメサイアなどのオラトリオや受難曲を学ぶだけでなく、その音楽の語法は声楽曲にとどまらず器楽曲にも応用されていることを紹介したいと思います。

フィードバックの方法:

ミニ・レポートは授業中にコメントし返却する。
研究発表のまとめであるレポートは、採点後に返却予定。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点及びミニ・レポート	50%	出席を含む授業への積極的参加度及びミニ・レポートの内容
	研究発表及びレポート	50%	テーマを正しく理解し、独自の視点をもって書かれているかを重視します

教科書:

参考書:

授業でテーマごとに紹介します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後や他の出講日に対応します。
必要に応じてEメールを利用します。

授業テーマ:

ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究

授業の概要:

特定の作品について、その作品の歴史的背景を前提に、よりの確な演奏につながるための構造を細部にわたって分析・研究する。
文献や楽譜を基に、歴史的にも内容的にも深く掘り下げ全体の構成はもちろんのこと音符一つ一つの意味を考察し、それが実際の演奏にどのように反映させるべきかを研究する。

到達目標:

楽譜を基に、どのような考えで作曲家が音符を書いたのかを考察する能力をつける

授業方法:

講義及び演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	事前に授業で使う楽譜に目を通しておくこと
2.	作曲者とその時代背景	さらに授業で使う楽譜に目を通しておくこと
3.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 1	さらに授業で使う楽譜に目を通しておくこと
4.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 2	授業の復習と予習をすること
5.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 3	授業の復習と予習をすること
6.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 4	授業の復習と予習をすること
7.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 5	授業の復習と予習をすること
8.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 6	授業の復習と予習をすること
9.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 7	授業の復習と予習をすること
10.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 8	授業の復習と予習をすること
11.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 9	授業の復習と予習をすること
12.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 10	授業の復習と予習をすること
13.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 11	授業の復習と予習をすること
14.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 12	授業の復習と予習をすること
15.	ブラームス作曲 ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 の分析・研究 13	授業の復習と予習をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

予習及び復習(授業内容確認)は当然必要。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50	学習態度等
	レポートなど	50	成績

教科書:

楽譜・ポケットスコア／ブラームス ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 全音楽譜出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

授業テーマ:

ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究

授業の概要:

特定の作品について、その作品の歴史的背景を前提に、よりの確な演奏につながるための構造を細部にわたって分析・研究する。
文献や楽譜を基に、歴史的にも内容的にも深く掘り下げ全体の構成はもちろんのこと音符一つ一つの意味を考察し、それが実際の演奏にどのように反映させるべきかを研究する。

到達目標:

楽譜を基に、どのような考えで作曲家が音符を書いたのかを考察する能力をつける

授業方法:

講義及び演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	事前に授業で使う楽譜に目を通しておくこと
2.	作曲者とその時代背景	さらに授業で使う楽譜に目を通しておくこと
3.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 1	さらに授業で使う楽譜に目を通しておくこと
4.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 2	授業の復習と予習をすること
5.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 3	授業の復習と予習をすること
6.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 4	授業の復習と予習をすること
7.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 5	授業の復習と予習をすること
8.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 6	授業の復習と予習をすること
9.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 7	授業の復習と予習をすること
10.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 8	授業の復習と予習をすること
11.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 9	授業の復習と予習をすること
12.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 10	授業の復習と予習をすること
13.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 11	授業の復習と予習をすること
14.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 12	授業の復習と予習をすること
15.	ヴェルディ作曲 レクイエム の分析・研究 13	授業の復習と予習をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

予習及び復習(授業内容確認)は当然必要。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50	学習態度等
	レポートなど	50	成績

教科書:

楽譜・ポケットスコア／ヴェルディ レクイエム 全音楽譜出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー他

授業テーマ:	プロフェッショナルな演奏活動を推進していくための視座を音楽文化からまなびとる。		
授業の概要:	音楽史特講Ⅰでは、西洋音楽史学の先行研究を参照しつつ、他ジャンルの音楽を研究する上でも重要な研究方法の観点(時代区分、作品研究と伝記研究、器楽の成立、楽譜と演奏、音楽の評価など)を理解し、そして世界の音楽文化、特に近代日本における西洋芸術音楽受容史にどのような影響を与えたかについて考察する。		
到達目標:	音楽のジャンルを越えた視点で、多様な社会のニーズに応える事の出来る音楽家としての活動のあり方の視座を、西洋芸術音楽史学の研究テーマおよび近代日本西洋音楽受容史を精査することを通して習得する。		
授業方法:	講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 音楽学の基本的な考え方とは 芸術音楽を対象とする学問分野の総称としての「音楽学」について再確認する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	2. 音楽史学とは 音楽史学の基本的な研究視座について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	3. 西洋芸術音楽はどのように綴られてきたか。 西洋芸術音楽の歴史的研究の多様な視座について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	4. 西洋音楽史の時代区分について 西洋音楽史はどのように時代区分されてきたか実例をもとに理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	5. 作品研究と伝記研究について 音楽作品そのものを分析研究する事と作曲家の伝記研究との相違点及びその複合的研究を理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	6. 器楽の成立について 西洋音楽史における「器楽」という概念の成立および「声楽」との関係について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	7. 楽譜が語る意味について 音楽創作の表現／記録手段としての「楽譜」の機能及び作品解釈の仕方について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	8. 実用版楽譜と演奏について 作曲家の残した原点版および実用楽譜の相違点および演奏者からみた楽譜の意味について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	9. 音楽評論家の仕事について 音楽作品についての評価をなす「音楽評論家」の果たしてきた役割について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	10. 演奏の評価はどのような規準でなされるのか。 音楽作品の再現行為者による演奏のテクニク／音楽表現の評価規準について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	11. 日本の近代音楽史の研究:交響楽運動 交響楽運動の展開の特徴について、具体的作品やオーケストラ団体の成立史をもとに理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	12. 日本の近代音楽史の研究:オペラ運動 オペラ運動とその展開の特徴について、創作／上演史にみる特徴的な作品を事例に理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	13. 日本の近代音楽史の研究:合唱運動 合唱運動とその展開の特徴について、明治から昭和にかけての活動事例をもとに理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	14. 日本の近代音楽史の研究:創作活動 創作活動の特徴について、昭和期に世界に向け発信された作品の創作経緯について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	15. 日本の近代音楽史における西洋芸術音楽の存在について 日本人にとって西洋芸術音楽とはどのような意味をもちえたかについて分析・考察を行う。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。		
フィードバックの方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	45%	課題各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	55%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	講義時に、適宜、提示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:	プロフェッショナルな演奏活動を推進していくための視座を日本の音楽文化からまなびとる。		
授業の概要:	音楽史特講Ⅱでは、21世紀の地域の音楽文化をクリエイティブしていく音楽家がどのような音楽活動を展開させていくことができるか。公教育の場で音楽を学ぶ生徒が将来の重要な聴衆層となることを意識し、ジェンダー論、マネージメント論、民族音楽の現代化論、生涯教育論の視座を交差させながら、それぞれ該当する事項の歴史的背景、公共ホールでの企画力、多様な音楽を学ぶ場の提供方法、音楽市場からみた音楽創造活動の可能性を探る。		
到達目標:	音楽史特講Ⅰで音楽史研究から修得した音楽文化を創出する諸活動の視座を念頭にいれ、1)将来、音楽活動をおこなう地域での諸活動に応用させること、そして2)有意義な諸活動を遂行するためにジャンルを越えた音楽に精通し、多様な社会のニーズに応える事のできる音楽プロデューサーとしての役割の一端を担えるような音楽活動のあり方をまなびとる。		
授業方法:	講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 音楽家に対する社会の多様なニーズ プロとしての演奏者に対して期待されることを、具体的な事例をもとに探る。		
	2. 日本で女性音楽家はどのような役割を果たしてきたか：日本音楽の場合 当該ジャンルにおける日本伝統音楽の女性パフォーマーの活動の意義について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	3. 日本で女性音楽家はどのような役割を果たしてきたか：西洋芸術音楽の場合 作曲家、演奏家の活動事例から「女性」としての視点がどのように反映されていたかを探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	4. 日本で女性音楽家はどのような役割を果たしてきたか：ポピュラー音楽の場合 女性ミュージシャンの活動が、ポピュラー音楽ジャンルの新しい波を生み出したかについて探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	5. 生涯教育の場で音楽を習得することの意味：第二次世界大戦以前 アマチュア向けの教習を事例にし、一般の人々の世界に息づいていた邦楽の意味を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	6. 生涯教育の場で音楽を習得することの意味：第二次世界大戦直後 働く人々の間にひろまったジャズやロシア民謡の合唱などの活動の意義を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	7. 生涯教育の場で音楽を習得することの意味：20世紀後半以降 市民オーケストラやオペラ団体の活動を通して、クラシック音楽普及の意味を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	8. 民族音楽のアジアの音楽市場での役割について 20世紀末、多様なジャンルの楽曲に民族楽器とのコラボが盛んになった背景について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	9. 観光音楽について 多様なジャンルの音楽が、「観光」の重要な資源となっていることについて探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	10. 音楽文化をクリエイティブすることについて 音楽家はどのように「音楽文化」をクリエイティブすることができるかを探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	11. 芸術マネージメントについて 日本の具体的な事例をもとに、「芸術マネージメント」の可能性を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	12. 「音楽作品」の受容について レコード、テレビ／ラジオ放送、インターネットなどの音楽配信の変化の特徴について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	13. 公共ホールの活用について 音楽家は公共ホールでどのような発信活動が可能かを探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	14. 日本の近代音楽文化の評価について 講義で探ってきた近代音楽文化の諸特徴から、世界の音楽文化における日本の特徴を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)	
	15. 自分の理想とするプロの音楽家の活動を考える 21世紀を担うプロの日本人音楽家としての活動の可能性を考える。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。		
フィードバックの方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	55%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	講義時に、適宜、提示する。		

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

近代市民社会の特質とは何か？

授業の概要:

中世社会の特徴を人口の視点から捉え、近代市民社会の動態を「集団と個人との関係」から解明するのが社会学であることを理解する。

到達目標:

知識・理解の点では、人口の視点から、中世社会(人口停滞社会)と近代社会(人口増大社会)の相違を理解する。関心・意欲・態度の点では、社会科学の視点を体得して、2年生秋学期のコース・ゼミ選択を自主的に判断できる態度を養う。

授業方法:

講義形式で進めます。必要に応じてプリントなどを配布します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会とは何か その1 社会という言葉	配付資料の読了・考察
2.	社会とは何か その2 人口から見た社会の変化	教科書の読了
3.	前近代社会の変容 その1 歴史人口学とは何か	配付資料の読了・考察
4.	前近代社会の変容 その2 人口曲線で見たヨーロッパの400年	
5.	前近代社会の変容 その3 中世の家族・婚姻の特徴	教科書による家族・婚姻史の読了
6.	近代への予兆 その1 都市の変化	配付資料の読了・考察
7.	近代への予兆 その2 農村の変化	
8.	近代への予兆 その3 プロト工業家族への道	教科書の読了
9.	中世社会の崩壊 その1 社会史のアプローチとは？	
10.	中世社会の崩壊 その2 市民革命の社会史	配付資料の読了・考察
11.	中世社会の崩壊 その3 自由権と社会権	教科書の読了
12.	近代社会と社会学の成立小史 その1 資本制生産の仕組み	教科書の読了
13.	近代社会と社会学の成立小史 その2 産業革命の余波	配付資料の読了・考察
14.	近代社会と社会学の成立小史 その3 救貧法と社会保障	教科書の読了
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物は教室で解説し返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	知識・理解の到達目標の達成度
	授業参加	20%	関心・意欲・態度を小レポートで評価する

教科書:

河野健男「日本社会の変化と社会学-家族・地域・生活の場面から-」(八千代出版2010年)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

tkono@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

現代社会を生きるための倫理

授業の概要:

この講義では「倫理」を私たちの人生の歩み、あるいは社会生活で生じる様々な倫理的問題について考察を加える営みと理解します。そこで講義では、私たちの人生、社会生活、現在考えるべき倫理的諸問題について吟味してみたいと思います。以下に述べる講義内容は初歩的なものですから、講義をベースにより高度な分野にチャレンジしていくことを望みます。

到達目標:

人間同士が共に生きていく上で考察しなければならない問題＝倫理的問題について、自分自身で考え判断する力を養います。

授業方法:

主として講義を行います、また適宜、プリント教材を使用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	今日の倫理的環境の悪化について、何が問題になっているのかを検討する。	授業内容に関する復習。
2.	倫理的環境の悪化の主要な要因である相対主義について、Sokratesの生き方を参考にしながら、検討する。	授業内容に関する復習。
3.	社会生活における理想と現実の関係について、Platonとともに考える。	授業内容に関する復習。
4.	社会生活における正義と友愛の役割について、Aristotelesとともに考える。	授業内容に関する復習。
5.	倫理的環境の悪化の、相対主義と並ぶ要因であるエゴイズムについて検討する。その際、DescartesやHobbesに見られる近代的自我の特徴を考察する。	授業内容に関する復習。
6.	道徳的感情としての自己愛と同情について、Rousseauを手がかりに検討する。	授業内容に関する復習。
7.	社会生活における理性の役割について、Kantの倫理学を手がかりに検討する。その第一回。	授業内容に関する復習。
8.	前回の続き。特に道徳と幸福の問題について考える。	授業内容に関する復習。
9.	HegelやMarxの「労働」観の変遷を振り返りながら、社会における労働の意義について考える。	授業内容に関する復習。
10.	BenthamやMillの功利主義を参考にしながら、社会共通の幸福について考える。	授業内容に関する復習。
11.	道徳の起源について、Nietzscheとともに考える。	授業内容に関する復習。
12.	Ortegaの大衆社会論、Habermasの社会哲学を参照しながら、公共性をめぐる問題について考える。	授業内容に関する復習。
13.	Heideggerの人間存在論を題材にしながら、「人の死」にどのように向き合うことができるのかを考える。	授業内容に関する復習。
14.	Arendtの政治哲学を参照しながら、公と私、publicとprivateの区別について考える。	授業内容に関する復習。
15.	まとめ	授業内容に関する事前復習。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業時に紹介した参考文献のうち、興味をもったものを実際に読むことを勧めます。

フィードバックの方法:

コメントペーパーおよびレポートに対して、教室で論点を再説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70	授業内容の理解度と倫理的問題に関する思考力を問います。
	レポート	20	授業内容の理解度を問います。
	授業への参加度	10	出席、コメントペーパーを基に評価します。

教科書:

特に使用しません。

参考書:

授業時に適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:

法的視点から現代社会を見つめなおし、法的思考を身につける。

授業の概要:

法学、法律学というと、何かとても難解で、非日常的なものと思っている人が多いかもしれません。また、法律の条文を丸暗記しなければならないと思っている人もいるかもしれません。しかし、普段意識されることは少なくとも、実は、法というものは、もっと身近で、私たちの日常生活に密接に結びついているものなのです。
本講義では、憲法を中心として各法分野で現在まさに問題となっている最新のトピックをとりあげ、法的な視点から現代社会を見つめなおしつつ、法とは何かということを理解すると同時に、法学を学ぶ上で必要な知識と法的思考方法の基礎を修得することを目標としています。

到達目標:

法に関する基本原理・原則を理解すること。
法律学の諸分野における問題点についての正しい知識に基づいて、論理的に考察を行い、自分の意見を持つこと。
自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. イントロダクション 法とは何か？ 2. 法の仕組み 国家の成り立ちと国際法・国際政治 3. 法の学び方(1) 法の基本原理・原則 自然法論と法実証主義 4. 法の学び方(2) 自己決定権とパターンリズム 5. 憲法の基本原理 統治機構と三権分立 6. 基本的人権(1) 自由権と平等権 7. 基本的人権(2) 社会権 8. 社会保障と福祉 生存権 9. 女性・子どもと貧困問題 10. 財産と法・経済取引と法 11. 労働と法(1) 労働法 12. 労働と法(2) 男女雇用機会均等法 13. 新しい人権 環境権 14. 国際社会と法 地球温暖化問題と国際協調 15. まとめ	準備学習等の内容 テキストの第1章を読んで、内容を理解しておくこと。 テキストの第2章・第3章を読んで、内容を理解しておくこと。 自然法論と法実証主義の対立について整理し整理しておくこと。 自己決定権とパターンリズムの対立について整理し、具体的な例を念頭に、自分の立場を定め、文章で表現できるようにしておくこと。 テキストの第4章と第5章を読んで、内容を理解しておくこと。 特に、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点について整理するとともに、日本国憲法の前文などを読み返し、自然法論との関係を理解しておくこと。 テキストの第6章・第8章を読んで、内容を理解しておくこと。 テキストの第9章を読んで、内容を理解しておくこと。 テキストの第17章を読んで、内容を理解しておくこと。 厚生労働省HPで、『厚生労働白書』等を参照しておくこと。 テキストの第11章・第12章を読んで、内容を理解しておくこと。 テキストの第15章を読んで、内容を理解しておくこと。 内閣府男女共同参画局のHP等を参照し、男女雇用機会均等法の改正点や諸政策について調べておくこと。 テキストの第20章を読んで、内容を理解しておくこと。 JCCCA(全国地球温暖化防止活動推進センター)のHP等を参照し、地球温暖化問題について調べておくこと。 配布資料を中心に復習をしておくこと。 シラバスおよびテキストを読み返しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

社会の仕組みや、社会に存在している諸問題について、まず興味・関心を持ってください。そして、自分から積極的に情報を集め、しっかりと考え、さらに自分にできることを行動に移すように心がけてください。

フィードバックの方法:

提出物については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	到達目標にある、法に関する基本原理・原則の理解、法律学の諸分野における問題点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。

教科書:

大谷 實編『エッセンシャル法学(第6版)』(成文堂、2013年)

参考書:

六法(『法学六法』(信山社)や『デイリー六法』(三省堂)、『ポケット六法』(有斐閣)等の携帯用のもので結構ですので、授業に必ず持参するようにしてください。)
衆議院ホームページ
<http://www.shugiin.go.jp/internet/index.nsf/html/index.htm>
参議院ホームページ
<http://www.sangiin.go.jp/>
裁判所ホームページ
<http://www.courts.go.jp/>
厚生労働省ホームページ『厚生労働白書』
<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16/>
厚生労働省ホームページ「各種統計」
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/>
JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター ホームページ
<http://www.jccca.org/>

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

授業テーマ:	異文化の理解と自文化の相対化		
授業の概要:	文化人類学は、西欧近代社会の側が「異文化」とみなした人びとや社会を主要な対象として、人類の多様な文化のあり方を明らかにしてきました。またその結果として、文化人類学は、文化そのものに対する理解を深めてきました。 この講義では、文化人類学の成果や視点を学ぶなかから、文化の多様性を考察するとともに異文化を理解する視点を養うことを目的とします。さらに、このような学習を通して、わたしたち一人ひとりが無自覚に持っている、自文化に根ざした「常識」や「ものの考え方」を相対化し、それらの再構築を目指したいと考えています。なお、この講義では、毎回テーマを設定し具体的な事例から読み解く予定です。		
到達目標:	・人類の多様な「文化」のあり方を学ぶなかから文化人類学の成果や視点を理解する。 ・自文化に根ざした無自覚な「常識」や「ものの考え方」を疑い相対化する視点を身に付ける。 ・現代社会における「異文化理解」の重要性を学び理解する。		
授業方法:	講義形式 ・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。 ・不定期的にコミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 文化人類学とは？	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。	
	2. 文化の定義	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	3. 文化の理解と相対化	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	4. 多様な世界観・コスモロジー	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	5. 民俗知識と近代科学	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	6. 民俗知識と近代科学	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	7. 中間まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。	
	8. 異文化を知り理解する意義とは？	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	9. ジェンダーの多様性	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	10. オトナとコドモの境界線	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	11. 生と死は普遍か？	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	12. 家族を形作るきずな	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	13. 民族・エスニシティの不確実性	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	14. 現代社会における異文化理解の役割	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	15. まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	この講義を受講される皆さんには、国際社会に生きる一個人として、積極的に自他の文化に関する知見を広げられることを期待します。また日常の生活のなかで、意識的に自他の文化に触れ、それを再考する機会を作り、本講義の学びを深めるようにして心掛けてください。		
フィードバックの方法:	・中間試験は、採点し授業期間中に教室で返却します。またその際、評価基準を改めて解説します。 ・コメントペーパーは次回の授業の際、教室で総評を加えた解説を行います。 ・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	45%	論述試験では、到達目標である「文化人類学に基づく異文化理解の重要性」を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
	中間試験	45%	論述試験では、到達目標である「自文化に根ざした「常識」や「ものの考え方」を相対化する視点」を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
	コメントペーパー	10%	授業期間中に4～5回実施するコメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。
教科書:			
参考書:	『文化人類学(カレッジ版)』波平恵美子(編)医学書院		

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、批判力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ: 国際関係論

授業の概要: この講義は、初めて国際関係論を学ぶ学生にも、体系的に国際政治を読み解くための視座の提供を狙いとしている。この講義では国際関係論の基礎的な理論を学んだ後に、テレビのニュースや新聞記事なども適宜取り上げつつ、今日の国際政治における主要なイシューについて学習する。
さらに、本講義では国際政治学のバックグラウンドのない履修学生に体系的に国際組織、非国家行為体など様々なアクターの織り成す行動を紐解いていく。履修学生は、毎回配布されるレジュメ、ないしパワーポイント資料を丹念に読み、必要に応じて(かなりの割合で)参考文献を参照するとともに、最近の重要な時事問題について、各種メディアからの情報も適宜踏まえつつ、学習することを期待する。
本講義を学習することで国際関係のバックグラウンドとなる知識の習得をめざし、次年度以降のより国際関係の特化した講義内容への導入となる位置づけである。

到達目標: ・学生はこの講義を通して国際関係論の理論の基礎を学ぶ、国際社会の見方を理解すればまた違った世界の動きをみることが出来るはずである。これによって思考力を涵養する。
・国際関係論の主要理論を履修学生は理解し、説明できるようになる。さらに、国際社会での重要な課題、例えば国連、難民、核兵器など重要なイシューをより深く分析するための力を養う。
・変わらぬ国際社会と変わりゆく国際社会とを比較し、時代の変化に対応する力を養う。

授業方法: 1.講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1回 イントロダクション 講義全般の内容ー主権国家の誕生とウェストファリア体制 国際関係論についての学習の方法を説明する。また講義全体を通した本講義の学修方法、クイズ、定期試験などに関する諸注意を与える。	教科書の該当する範囲を読了しておくこと。(イントロダクション、冷戦)
2.	第2回 国際関係論の二大思想ーリアリズムとリベラリズム 国際関係の大きな2つの思想(理論)の根本的な基礎知識の習得をめざす。	1940年代と現在の日米関係はなにが異なっているだろうか、自分の考えをまとめておく。
3.	第3回 パワーと国益ーリアリズムの世界 勢力均衡(balance of power)はヨーロッパ大国家間関係を規定する原則であった。しかしこの勢力均衡という概念についての考察と覇権国(政治、軍事、経済の力が圧倒的に強い国家)と国際政治のなかでの位置づけを学習する。	教科書の該当する章を読了しておくこと。(リアリズム)
4.	第4回 対立と協調ーリベラリズムの世界 古典的なリベラル思想(リベラル国際主義)とウッドロー・ウィルソンの理想主義、今日のヨーロッパ連合の源となった地域統合と国際関係における相互依存関係を学習する。	教科書の該当する章を読了しておくこと。(リベラリズム)
5.	第5回 規範と制度ーコンストラクティビズムの世界 世界に共通の文化はあるのか? 国際関係における中央政府がない状態は当たり前なのか? 国際社会にはパワーや利益だけでなく、規範(善となる基準)が存在し、それが国際関係を作るアプローチを学習する。	教科書の該当する章を読了しておくこと。(コンストラクティビズム)
6.	第6回 これまでのまとめとクイズ	第1回から5回までの復習をしておくこと。
7.	第7回 対外政策決定過程 なぜ国家指導者は外交政策を誤ることがあるのか。個人、組織(機構)、国家、国際システムのブラックボックスを開けて、分析の視点を合理的アクター、官僚政治、歴史の教訓、認識の地図といった分析モデルを学習する。	教科書の該当する章を読了しておくこと。(対外政策決定過程論)
8.	第8回 核と国際政治 国家はなぜ核兵器を欲するのか。なぜ核軍縮は進まないのか。核抑止の考えと米ソ(露)の核戦略について学習し、現代における核兵器に意味について考える。	教科書の該当する章を読了しておくこと。(核兵器と核抑止論)
9.	第9回 難民と国際政治 難民とはどういうひとたちのことを指すのか? 現代の国際政治で難民はどのような状況で発生し、国際社会は難民問題にどのように向かい合ってきたのか。国連難民高等弁務官事務所(UNHR)の難民庇護の現状と課題を学習する。	教科書の該当する章を読了しておくこと。(難民)
10.	第10回 国際連合の役割その1 国連の成り立ち、国連の集団安全保障の理想とギャップ、国際平和維持活動(PKO)など、冷戦後の国連の多機能について学習する。	教科書の該当する章を読了しておくこと。(国際連合)
11.	第11回 国際連合の役割その2 第10回の続きと人道的介入について学習する。	教科書の該当する章を読了しておくこと。(国際連合、人道的介入)
12.	第12回 国際連合の役割その3 国際連合の抱える問題はなにか、設立以降70年を経た国連の安全保障理事会を中心に課題を浮き彫りにする。	教科書の該当する章を読了しておくこと。および外務省HP http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/un_kaikaku/ の関連資料を読了しておくこと。
13.	第13回 地域主義と国際政治 東南アジア諸国連合(ASEAN)は発展途上国のなかでもっとも成功した地域機構だといわれる。東南アジア諸国がどのような理念でどのような制度で今日のASEAN共同体形成までに至ったかを学習する。	教科書の該当する章を読了しておくこと。(地域主義)

14. 第14回 国際政治における文化—東南アジアの人権問題を中心に 教科書の該当する章を読了しておくこと。
国際社会には価値の普遍性と多様性が存在する。
異なった「文明」「文化」はどのように共生できるのか。多様な人種、宗教の存在する東南アジアを事例に人権の文化的側面を学習する。
15. まとめ まとめ

受講者への
メッセージや
アドバイス:

講義が中心だが、適宜、ユーチューブ、ビデオ教材、新聞を題材に活用することもある。

フィードバックの
方法:

適宜授業の終わりにミニツツペーパーを書いてもらい、それに対する質問への回答を別途ハンドアウトなどの手段で履修学生に返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標の分析力、思考力、変化対応力に関する理解度により評価する。
クイズまたはレポート	20%	到達目標の分析力、思考力、変化対応力に関する理解度により評価する。

教科書: 村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・来栖薫子・秋山信将編著『国際政治学をつかむ』（有斐閣、2009年）

参考書: 田中明彦・中西寛編著『新・国際政治経済の基礎知識』（有斐閣、2004年）
山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』（有斐閣、2006年）
吉川直人・野口和彦編『国際関係理論第2版』（勁草書房、2015年）

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

毎回の授業の前後に個別に対応する。

授業テーマ:	国際関係の中のアメリカ		
授業の概要:	冷戦終結後、唯一の超大国となったアメリカの外交について、近現代の国際関係の歴史的展開の中で学び、現代世界の行方を考える。 具体的には18世紀後半、アメリカ合衆国がイギリスから独立し、19世紀を通じて領土的・通商的・軍事的に拡大、さらには第一次世界大戦以降、とりわけ第二次世界大戦後、世界の覇権国にのし上がっていった過程を検証する。時代的には20世紀半ばに始まった冷戦期以降に多くの時間が割かれる。		
到達目標:	受講者は、この授業を履修することによって、 1) アメリカ外交の歴史的展開の要点を理解する 2) 近現代の国際関係の歴史の流れを理解することができるようになります。		
授業方法:	講義形式で行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション		
	2. 独立からモンロー宣言へ	教科書の該当頁を予習すること	
	3. 「明白な天命」—アメリカの北米大陸における膨張とその対外関係	教科書の該当頁を予習すること	
	4. 南北アメリカにおける覇権の確立—南北戦争後から20世紀初頭のアメリカ外交	教科書の該当頁を予習すること	
	5. 国際政治の檣舞台への登場—第一次世界大戦への参戦	教科書の該当頁を予習すること	
	6. 「アメリカの世紀」の形成—第二次世界大戦と戦後国際秩序の構想	教科書の該当頁を予習すること	
	7. フランクリン・ローズヴェルト大統領についてのドキュメンタリー番組(英語)鑑賞		
	8. 冷戦の始まり	教科書の該当頁を予習すること	
	9. 冷戦の開始とその構造化(その一)	教科書の該当頁を予習すること	
	10. 冷戦の開始とその構造化(その二)	教科書の該当頁を予習すること	
	11. 冷戦構造の確立と変容	教科書の該当頁を予習すること	
	12. ドキュメンタリー『映像が語る20世紀』鑑賞		
	13. 緊張緩和から「新冷戦」、さらには冷戦の終結へ	教科書の該当頁を予習すること	
	14. ポスト冷戦時代のアメリカ外交	教科書の該当頁を予習すること	
	15. まとめ	授業で学んだことの復習を行うこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	1. 次回のテーマに関連した教科書の範囲について、ほぼ毎回リーディングの課題を課しますので、必ず事前に予習しておいて下さい。 2. 国際問題に関する新聞などの報道を日常的にチェックし、授業で習ったこととの関連性を自分なりに考えてみて下さい。		
フィードバックの方法:	授業の最後に質疑応答の時間を設けたり、小テスト・小レポート等の講評を行います。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80	到達目標1と到達目標2の達成度で評価する
	授業中課題への回答とその内容	20	到達目標1の到達目標2の達成度で評価する
教科書:	佐々木卓也『冷戦——アメリカの民主主義的生活様式を守る戦い』有斐閣、2013年。		
参考書:	有賀貞・宮里政玄編『概説アメリカ外交史』[新版]有斐閣、1998年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	授業後に教室で応対		

400900

教育学概論

小山 裕樹

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

本講義は、大学入学後に初めて「教育学」に触れようとする学生のための入門講義として開講されるものです。皆さんが当たり前のように受けてきた「教育」とは、そもそも一体何なのでしょう。「教育学」が引き受ける問いのなかで最も大きいであろうこの問いに対し、本講義では、主に歴史的・哲学的な角度からアプローチしていきます。

①「教育」に関わる歴史や哲学についての知識や理解
②①の知識や理解を踏まえたうえで「教育」について自分なりの考えを表明できる技能や能力

基本的に講義形式とします。とはいえ、毎回講義の最後にコメントペーパーを書いてもらい、次の講義時間の始めにそれに応答することで、出来る限り多角的・双方向的に講義を進められるよう配慮します。

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2. 動物と人間の違い①——「野生児」の事例から教育を考える	講義内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかを考える。
3. 動物と人間の違い②——「野生児」の事例から教育について引き続き考察を深める	二回分の講義内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い視点から考察を深める。
4. 教育をめぐる諸論理①——「教える」と「学ぶ」の関係から教育を考える	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、講義後にもう一度整理しておく。
5. 教育をめぐる諸論理②——「発達」と「生成」の関係から教育を考える	「発達」と「生成」の違いや関係について、講義後にもう一度整理しておく。
6. 教育をめぐる諸論理③——「子ども」観の歴史的変遷から教育を考える	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、講義内容を踏まえたうえで、もう一度自分の「子ども」観について再考する。
7. 現代社会と教育①——現代の「いじめ」問題の特質から教育を考える	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い起こしておく。さらに、その体験について講義内容を踏まえたうえで再考する。
8. 現代社会と教育②——現代の「スクールカースト」問題の特質から教育を考える	自分の周囲で起こった「スクールカースト」体験について思い起こしておく。さらに、その体験について講義内容を踏まえたうえで再考する。
9. 現代社会と教育③——いわゆる「いのちの教育」の実践例から教育を考える	「いのちの教育」の可能性について講義内容を踏まえたうえで再考する。
10. 近代日本の教育の歴史①——近代日本の教育の歴史を振り返る(明治期～大正期)	講義のなかで扱った内容を講義後に復習しておく。
11. 近代日本の教育の歴史②——近代日本の教育の歴史を振り返る(大正期～戦後期)	講義のなかで扱った内容を講義後に復習しておく。
12. 教育と権力①——ミシェル・フーコーの規律訓練論から教育を考える	教育と権力の関わりについて、講義内容を踏まえたうえでもう一度考える。
13. 教育と権力②——権力論の新たな展開としての「環境管理型権力」の問題から教育を考える	「教育空間論」の可能性について講義後にもう一度考える。
14. 媒介者としての教師——「媒介者」としての教師の位置づけから教育を考える	自分の理想の教師像について考えておく。
15. まとめ	講義時に指示する。

講義への積極的な参加を期待しています。

毎回講義の最後にコメントペーパーを書いてもらい、次の講義時間の始めにそれに応答することで、出来る限り多角的・双方向的に講義を進めていきます。

評価方法	割合	評価基準
学期末試験	70	「教育」に関わる歴史や哲学についての知識・理解の状況と、これらの知識・理解を踏まえて「教育」に対し説得力のある考察ができるかで評価し、各回の講義への積極的な参加と、各回の講義内容に対する理解度で評価します。
コメントペーパー	30	

なし(講義時にレジュメと資料を配布します)。

講義中に適宜紹介します。

分析力、思考力、創造力

yuki.oyama@ilc.setsunan.ac.jp

401001、02

情報学概論

市川 隆司

授業テーマ:

知識基盤社会における情報通信技術を理解し、「情報」との関わり方を修得する

授業の概要:

コンピュータやネットワークなどの情報通信技術は、現代社会を支える基盤として強い影響力を持つようになりました。情報通信技術がブラックボックスとならないよう、その現状としくみについて基本的な理解を図っていきます。各回テーマに関する課題に取り組みます。その中で情報通信技術が私たちの生活にもたらすさまざまな影響を考察し、情報機器やメディアに対してよりよい関わり方を実践できるよう視覚的な資料を活用して授業を展開していきます。

到達目標:

情報通信技術の基本的なしくみを理解できる。
情報通信技術が社会にもたらす影響を考察できるよう知識を深化させる。
情報機器やメディアとのよりよい関わり方を修得する。

授業方法:

講義形式で授業を行います。プリントやビジュアルな資料を活用して理解を深めるよう展開します。授業内容の理解が定着するようマナビーを活用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス「情報とは何か？」	マナビーの課題に取り組む
2. インターネットの活用	マナビーの課題に取り組む
3. ソーシャルメディアの台頭	マナビーの課題に取り組む
4. ネットワークに関わる技術	マナビーの課題に取り組む
5. ネットのリスクとセキュリティ	マナビーの課題に取り組む
6. 情報社会と私たちの暮らし	マナビーの課題に取り組む
7. 情報通信企業の隆盛	マナビーの課題に取り組む
8. コンピュータの歴史	マナビーの課題に取り組む
9. アナログ情報とデジタル情報	演習問題で復習する
10. ハードウェアに関わる技術ー本体構成についてー	ハードウェア構成の内容を復習する
11. ハードウェアに関わる技術ー周辺機器についてー	演習問題で復習する
12. ソフトウェアとデジタルメディア	演習問題で復習する
13. アプリケーションソフトとプログラミング言語	演習問題で復習する
14. これからの情報通信技術と社会	情報社会の課題を探究する
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

日々進歩する情報通信技術がブラックボックスとならないよう学んでいきましょう

フィードバックの方法:

授業でまとめて解説する

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内容に関するコメント	10	授業内容の理解度を評価する
授業後の課題	20	課題の取り組み度合いを評価する
期末試験	70	授業全体の理解度を評価する

教科書:

参考書:

日経BP社 キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2017

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール（メールアドレスは授業時に連絡）

授業テーマ:

非常に幅広い現象である観光を、様々な視点から学問対象として捉える

授業の概要:

観光は、非常広範な行動であり、関連する領域は非常に広い。このような観光の特徴を、広い視野から理解し、人間生活や社会との深い関わりを理解する。国の観光立国政策や、インバウンド観光来訪者の急増など、観光に対する関心は高まっているが、観光に対する社会的理解はまだ充分とはいえない。表層的な単なる娯楽という理解ではなく、観光についてより深く考えられる能力を獲得するために、まずその基礎となる広範な知識を獲得することを目指す。

到達目標:

観光そのものについて、さらに観光に関連する様々な分野について基礎的な知識を確実に吸収する。そして獲得した知識を活用して、観光を単なる娯楽活動としてではなく、人間生活や社会との深い関わりから考察できる能力を獲得する。

授業方法:

講義 基本的に講義形式であり、時間が許せば、授業時間内に小レポートを書いてもらい、学んだことについて自身の考えをまとめるという進め方を予定している。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	観光に関するニュースや自身の観光経験について確認しておく
2.	「観光」の概念	教科書の該当箇所の予習
3.	観光の歴史	教科書の該当箇所の予習
4.	観光の諸制度、観光の影響と効果	教科書の該当箇所の予習
5.	観光と経済	教科書の該当箇所の予習
6.	観光と情報、観光と環境	教科書の該当箇所の予習
7.	観光と地域社会、観光における開発と保護	教科書の該当箇所の予習
8.	余暇活動としての観光、観光行動を成立させるもの	教科書の該当箇所の予習
9.	観光行動の対象	教科書の該当箇所の予習
10.	観光と教育・福祉	教科書の該当箇所の予習
11.	観光と交通	教科書の該当箇所の予習
12.	観光と宿泊	教科書の該当箇所の予習
13.	観光に関連する諸事業	教科書の該当箇所の予習
14.	観光と旅行業	教科書の該当箇所の予習
15.	まとめ	これまで講義で学んだことに対する復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

観光は、単に「お客」として出かけるだけであれば、楽しい活動であろう。しかし、観光を仕事として、あるいは国や地域を活性化させるための手立てとして、さらに人間にとって観光とは何かといった根源的内容を考察する対象として捉えた場合には、決して簡単なものではない。この講義は、そのための基礎知識を身につける機会として、取り組むことが望ましい。さらに、自分自身が観光に出かけるときはもちろん、報道などを通じて観光を知る機会には、広い視点と深い洞察を心掛けて欲しい。

フィードバックの方法:

小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート	20	指示した設問に対して、よく考えて答えているか
	試験	80	講義で学んだ知識が身についているか

教科書:

教科書: 前田勇編著『新現代観光総論』学文社, 2015

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

オフィスアワーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)

授業テーマ:	経済理論と経済政策を歴史的観点から理解し、現代の社会経済を分析する		
授業の概要:	社会科学の一分野としての経済学が成立、発展してきた過程を、政治経済の歴史的発展の文脈に置いて理解する。具体的にはスミス、マルクス、ケインズといった、偉大な経済学者の経済思想をそれが登場した社会的背景を考えながら理解する。そこから、重要な経済的問題(貨幣・労働・格差など)について言及しながら議論を進める。 そうすることで、市場経済の有効性と限界について、的確な理解が得られるものとする。そして最後に、グローバルな経済問題について考察を進める。 こうした知識を基礎にして、経済学の重要な諸問題についての分析力を深め、社会人として、また消費者として、豊かな社会生活を営める力をつけてもらいたい。また、日常的に経済社会は変動しているので、日々、新聞や報道番組に接して情報を収集し、その変化の意味を読み解くことも目標とする。		
到達目標:	主な経済理論の基本を理解し、特徴、相違、背後にある思想が解る。日常的に、現代経済と政策の基になっている構造と理論の基礎が理解できるようになることが目標である。		
授業方法:	講義形式で行うが、ビデオやプリント等の教材も適宜使用する。講義内容にかんする感想・意見・レポートを求める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	2. 経済学の歴史的展開	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	3. 古典派経済学の成立:アダム・スミス	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	4. 古典派経済学と新古典派経済学(ミクロ分析)	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	5. 貨幣論と金融の役割	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	6. カール・マルクスの資本主義批判と社会主義	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	7. 労働経済論(1)	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	8. 労働経済論(2)(小論文)	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	9. 景気循環論とフォード主義	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	10. 世界恐慌とニューディール政策	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	11. ケインズ理論(1):ケインズ革命	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	12. ケインズ理論(2):マクロ経済学	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	13. 帝国主義と植民地問題	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	14. グローバル化:自由貿易体制と地域圏	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	15. 安心できる経済社会を求めて	配布プリント(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	日常的に、新聞やテレビの報道に接して、経済社会への関心を培ってほしい。	
フィードバックの方法:	授業でのアンケートや感想に関して、その次の授業でコメントする。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	100	課題に関して資料を読み、正確にまとめ、適切にコメントしているか

教科書:	
参考書:	矢沢サイエンス『経済学はいかにして作られたか』学習研究社。 岩田規久男『経済学を学ぶ』筑摩書房。 佐々木隆治『カール・マルクス: 資本主義と闘った社会思想家』筑摩書房。 吉川洋『ケインズ: 時代と経済学』筑摩書房。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール

401301、02

比較文化概論

朱 捷

授業テーマ: 四大文明の歴史をたどり、文明と文化を学ぶ。

授業の概要: 文明がどのように誕生したのか、文明と文化はどちらがうのか、比較文化の視点からみて、グローバル化社会をどのように生
きればよいか、について受講者とディスカッションしながら考えていきたい。

到達目標: ○文明誕生と自然環境との関係を自分の言葉で語れる。
○文明と文化のちがいについて自分の言葉で語れる。
○異なる文明や文化と共存するのに自分の考えをもつ。

授業方法: アクティブラーニング形式、すなわち履修者も一緒に授業をつくっていく参加型の講義。
プリントを配り、写真・映像資料とパワーポイントを併用して講義を進めるが、履修者の積極的な参加を求める。毎回グループ
ディスカッションを行い、グループごとに発表してもらったうえ、講義を行う。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。	
	2.	文明誕生の条件	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	3.	メソポタミア文明(1)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	4.	メソポタミア文明(2)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	5.	メソポタミア文明(3)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	6.	エジプト文明(1)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	7.	エジプト文明(2)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	8.	インダス文明(1)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	9.	インダス文明(2)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	10.	中国文明(1)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	11.	中国文明(2)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	12.	中国文明(3)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	13.	比較文化の視点からみる現代のグローバル社会	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	14.	文化とは何か、文明とは何か	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	15.	総括	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	

受講者への
メッセージや
アドバイス: グローバル化社会を生きていくのに、異なる文明や文化についての理解が欠かせません。文明と文化の基礎を学んで視野を
広げていきましょう。

フィードバックの
方法: 採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを 基準とする。
	発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでグループディスカッションに参加しているか どうか、グループディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
	授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書: ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』上（草思社文庫、2012年）

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法: マナビーの掲示板

授業テーマ:

授業の概要: 私たちは、たとえふだんは無意識であっても、なんらかのかたちで「日本人」としてのアイデンティティを持っている。あるいはそれは、アイデンティティというようなたいそうなものでなく、たんに漠然とした「日本」や「日本人」についてのイメージといったほうがよいかもしれない。私たちはそれをただなんとなくまちがいのないもの、当然のものと思い込んでいる。それは日本の歴史的な、そして現在の背景から作り出されたものであり、その背後には眼に（イメージに）とどかない日本の多様な歴史と現実があることに私たちは気づかないことが多いのだ。

本講では、まず「国家」「国民」「民族」、あるいは「文明」や「文化」といった概念が私たちの意識をいかに形作っているかを考えることからはじめ、そのあと幕末・明治維新以後の日本の近代史上において「日本」「日本人」あるいは「日本文化」について日本人がどのようなイメージ（アイデンティティ）を作り上げてきたかを追いかけることにしよう。そして、「国際化」が叫ばれて久しい現在において、ともすれば「単一民族」や「単一文化」などという貧相で危ういイメージに収束しがちな私たちの「日本」に対するイメージないしアイデンティティを、世界に向かって、また「単一」の視点では抑圧されざるをえない日本のマイナリティに向かって、いかに開かれたものにすることができるか、探してみよう。

到達目標: 「グローバリゼーション」と「環境問題」が従来の「国家」を主体とした自己意識（アイデンティティ）を解体させつつある現在において、学生諸氏がその「国家」を主体とした自己意識がいかに形成され、そこにどのような問題が生じてきたかを再検討することをとおして、今後の課題を考える手がかりを得ることができればよいだろう。

授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション（国境の話でもしょうか）—私たちはなぜ「〇〇人」なのか、参考文献紹介	予復習のための参考文献: 西牟田靖『僕の見た「大日本帝国」』情報センター出版。	
	2. アイデンティティの重層構造、「〇〇人」意識の意味	予復習のための参考文献: 福岡安則『在日韓国・朝鮮人』中公新書。	
	3. 「近代国家」における「国民」の創出—政治的統合	予復習のための参考文献: ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』NTT出版。	
	4. 「近代国家」における「国民」の創出—経済的統合	予復習のための参考文献: 神崎宣武『江戸の旅文化』岩波新書。	
	5. 「近代国家」における「国民」の創出—文化的統合1	予復習のための参考文献: 井上ひさし『国語元年』新潮文庫、中公文庫。	
	6. 「近代国家」における「国民」の創出—文化的統合2	予復習のための参考文献: 兵藤裕巳『〈声〉の国民国家・日本』NHKブックス。	
	7. まとめ—「国民化」ということの意味1	予復習のための参考文献: 吉見俊哉『博覧会の政治学』中公新書。	
	8. まとめ—「国民化」ということの意味2	予復習のための参考文献: 吉田裕『日本の軍隊』岩波新書。	
	9. 「民族」とは何か	予復習のための参考文献: なだいなだ『民族という名の宗教』岩波新書。	
	10. 「文明」と「文化」の意識	予復習のための参考文献: ノルベルト・エリアス『文明化の過程』法政大学出版局。	
	11. 「日本」意識の変遷1—「文明開化」から「国粋主義」へ	予復習のための参考文献: 福沢諭吉『文明論之概略』岩波文庫。	
	12. 「日本」意識の変遷2—「帝国日本」から「皇国日本」へ	予復習のための参考文献: 幸徳秋水『帝国主義』岩波文庫。	
	13. 「日本」意識の変遷3—「戦後復興」から「高度成長」へ	予復習のための参考文献: 日高六郎編『現代日本思想大系34 近代主義』筑摩書房。	
	14. 「日本」意識の変遷4—「経済大国」から「国際化」へ	予復習のための参考文献: 杉本良夫: ロス・マオア『日本人論の方程式』ちくま学芸文庫。	
	15. 現代国際政治、国際関係とアイデンティティのゆくえ	予復習のための参考文献: 西川長夫『国境の越え方』筑摩書房。	

受講者へのメッセージやアドバイス: 以上の授業内容は講義の順序を示すものであって、必ずしも一回の授業時間で区切るものではない。

フィードバックの方法: 学期末レポート試験については、レポート講評をマナビーにて公表する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	学期末レポート	80%	この講義から受講者自身がいかに自分の関心と問題意識を組み立て深め、どのように考察するかを評価の最大のポイントとする。 講義内容の理解度や受講生諸君の関心、感想などを問うために予告なく2回程度行なう。
	小テスト	20%	

教科書: 特定のテキストは使用しない。

参考書: 準備学習の欄を参照、および講義当初にリストを配布。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

うたのちから・ことばの想いー音楽社会心理学への誘いー

授業の概要:

わが国の'60年代後半から'70年代初頭かけて、歌の「作り手」と「歌い手」を一致させるフォーク・ブームが現れた。このブームは、音楽ジャンルとしてのJ-Popの「曙」として位置づけられるだけでなく、若者自身が自らの心性を表出する「形式」を獲得したともいえる。この講義では、'60年代後半から現在に至るまでにわが国で流通している音楽の「歌詞」を通して、青年の心性の分析を試みる。

到達目標:

講義を通じて、いわゆる流行歌(はやりうた)が、その時代や社会のあり方と 관련된文化現象であることを理解する。

授業方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC、スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
	2. 音楽社会心理学の粗描ー歌は時代とともにー〔1〕	前回の講義主題の確認
	3. 音楽社会心理学の粗描〔2〕	同上
	4. 音楽との接触の変容	同上
	5. コミュニケーションとしての音楽へー想いを歌にー〔1〕	同上
	6. コミュニケーションとしての音楽へ〔2〕	同上
	7. ことばのちから〔1〕	同上
	8. ことばのちから〔2〕	同上
	9. 音のちから〔1〕	同上
	10. 音のちから〔2〕	同上
	11. 身体のちから	同上
	12. アイドルの彷徨い〔1〕	同上
	13. アイドルの彷徨い〔2〕	同上
	14. 生の継続へー歌のちからー	同上
	15. 総括	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:

1週間に一度は「流行歌」(かつての流行歌でもOK)と向き合おう。その「流行歌」がなぜ多くの人々の心と共振しているのかを考えよう。そして、講義で学習した心理学用語を用いて、その「流行歌」がもつ「ちから」を分析してみよう。

フィードバックの方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC、スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
	小課題(含 マナビー)	30	授業への集中と理解

教科書:

諸井克英著『ことばの想いー音楽社会心理学への誘いー』(ナカニシヤ出版)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー

授業テーマ:

Research and completion of graduation thesis

授業の概要:

Students will receive assistance and support to create and carry out an original research project using English to write up the results

到達目標:

Students should develop appropriate research skills and improve their English ability in all areas

授業方法:

Group/ individual instruction and research

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Research philosophy/ ethics/ methodology	Homework and individual research
	2. Research philosophy/ ethics/ methodology	Homework and individual research
	3. Research philosophy/ ethics/ methodology	Homework and individual research
	4. Self-research and reporting of results	individual research
	5. Self-research and reporting of results	individual research
	6. Self-research and reporting of results	individual research
	7. Mid-term progress presentation	individual research
	8. Self-research and reporting of results	individual research
	9. Self-research and reporting of results	individual research
	10. Self-research and reporting of results	individual research
	11. Self-research and reporting of results	individual research
	12. Self-research and reporting of results	individual research
	13. Final progress and presentation	individual research
	14. Final progress and presentation	individual research
	15. Debriefing and preparation for final term	individual research

受講者へのメッセージやアドバイス:

Make sure you start early and maintain steady progress. A rush at the end will result in a poor thesis.

フィードバックの方法:

Individual progress and advice

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Presentations	40	Quality of research
	Drafts	20	Writing progress and quality
	Research progress	40	Participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	まちづくりと地域－観光と文化のかかわり		
授業の概要:	大阪や東京、あるいはみなさんの出身地域などの具体的な地域を対象地域として、その実態を幅広い問題意識と視点から調査・研究することを通して、地域空間についての理解を深めることを目標とします。たとえば担当者は地理学を専門としていますが、地理学という学問は非常に幅広く、また歴史・文化・観光とも結びついたさまざまなテーマを扱います。受講生の多様な興味・問題意識に基づいて、4年生の卒業論文作成にむけてのテーマ探し、また研究を進めていく上での基本的な事柄を習得することを目指します。		
到達目標:	1: 地域空間について各自の興味・関心のあるテーマを基に理解を深める。 2: 卒業研究に向けて必要な研究方法論の基礎を獲得する。		
授業方法:	演習・ゼミナール形式での学生個人発表を中心とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに ゼミナールのガイダンス	配布資料の確認	
	2. 論文・研究の基本的な方法論と研究倫理の学習	国立国会図書館HPの事前調査	
	3. 論文収集・分析の基礎～具体的論文を通じた理解	論文の確認と精読	
	4. 受講生テーマ発表	各自の発表検討	
	5. 研究発表と研究指導1	PPT準備と発表内容の検討	
	6. 研究発表と研究指導2	PPT準備と発表内容の検討	
	7. 研究発表と研究指導3	PPT準備と発表内容の検討	
	8. 研究発表と研究指導4	PPT準備と発表内容の検討	
	9. フィールドワーク・合宿に関する事前学習	フィールドワーク対象地域の資料収集	
	10. 研究発表と研究指導5	PPT準備と発表内容の検討	
	11. 研究発表と研究指導6	PPT準備と発表内容の検討	
	12. 研究発表と研究指導7	PPT準備と発表内容の検討	
	13. 研究発表と研究指導8	PPT準備と発表内容の検討	
	14. 研究発表と研究指導9	PPT準備と発表内容の検討	
	15. 全体の総括	レジュメ資料の確認と振り返り	
受講者へのメッセージやアドバイス:	各人の基本的な発表を通して、実際に野外に出るフィールドワークをおこないます(京都を中心とする地域など、半期1～2回程度)。また、被災地もしくは北海道富良野を中心とした合宿学習もあわせて行います。		
フィードバックの方法:	ゼミ発表に対して各自・全体に対して随時フィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ゼミナール発表	60	到達目標1についての達成度を総合評価する。
	他の学生発表に対するコメント評価	40	到達目標2についての達成度を総合評価する。積極的な参加を前提条件として希望します。特に、自己の発表だけでなく、他の人の発表に関しても積極的な質問・議論を行うことを評価します。
教科書:	指定しない		
参考書:	天野太郎監修『古地図であるく古都・京都』三栄書房、2016(研究方法論として) 天野太郎監修『『都名所図会』でみる京都観光案内～イラストから見る200年前の京都』実業之日本社、2016 天野太郎監修『近鉄沿線の不思議と謎』実業之日本社、2016		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	マナビー・メールを総合的に活用する。		

授業テーマ:

現代社会における憲法問題

授業の概要:

未成年者の人権、性差別、労働条件、社会保障、個人情報保護、環境、平和など、さまざまな問題、具体的事例を取り上げ、憲法の視点から論点を理解し検討します。そのことを通して、社会問題などに関心をもち、法的なもの見方、考え方の修得を目指します。

到達目標:

具体的な判例の論点を理解する
レジメの作成の仕方を修得する
発表の仕方を工夫する
研究倫理を理解する

授業方法:	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業に関するオリエンテーション:テキスト、事例、担当者などの決定		
	2. リーガル・リサーチ概論		
	3. 発表、討論1	判例①、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	4. 発表、討論2	判例②、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	5. 発表、討論3	判例③、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	6. 発表、討論4	判例④、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	7. 発表、討論5	判例⑤、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	8. リーガル・リサーチの実践	学内のパソコンを使って、自分でできるところまでやってみる	
	9. 発表、討論6	判例⑥、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	10. 発表、討論7	判例⑦、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	11. 発表、討論8	判例⑧、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	12. 発表、討論9	判例⑨、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	13. 発表、討論10	判例⑩、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	14. 発表、討論11	判例⑪、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	
	15. 発表、討論12	判例⑫、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する	

受講者へのメッセージやアドバイス:

発表者だけでなく、受講生全員が事前に読んでおく必要があります
フィールドワーク、ゼミ合宿も考えていますが、その時期、場所については、受講生と相談して決めます

フィードバックの方法:

授業中にコメントします

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30%	事前の準備度、積極的参加度 欠席は減点になります
	発表、討論の内容	70%	レジメの内容、発表の達成度、討論内容、理解度

教科書:

初回時に決定

参考書:

授業中に指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメールの利用

授業テーマ:

授業の概要:

企業は法律を守り(法的責任)利益をあげれば(経済的責任)それでよいわけではありません。法的責任・経済的責任だけでなく、持続可能な社会と環境の実現を目指して社会的責任も果たしていくことが求められています。社会的責任に関する取り組み領域には、組織統治(コーポレートガバナンス)・人権(児童労働など)・労働(ブラック企業、長時間労働など)・環境(温暖化など)・消費者課題(リコール、個人情報保護など)・事業慣行(汚職防止など)・コミュニティ(社会貢献活動など)があります。

またグローバル化している現在、企業はこれら取り組みを国内だけでなく海外でも実施する必要があります。海外は国内と異なり文化的・経済的など様々な隔たりが存在し、国内と同様に取り組みを展開できるわけではありません。したがって隔たりに対応しつつ社会的責任の取り組みを展開していく必要があります。

応用演習では国際経営の視点を加味しつつ、企業の取り組みを考察し、企業の社会的責任について理解を深めていきます。

さらに研究倫理についても学んでいきます。

到達目標:

CSRとは何かを理解し、自らの言葉で説明できるようになること。
卒論のテーマを決めること。

授業方法:

演習形式です。毎回発表およびグループワークを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	特になし。
	2. 研究倫理について	マナビーで資料を事前に確認しておくこと。
	3. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	4. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	5. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	6. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	7. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	8. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	9. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	10. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	11. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	12. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	13. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	14. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	15. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	40%	積極的にゼミに参加するかどうかを基準とする。
	発表	30%	準備学習、発表内容の達成度合いを評価する。
	グループワーク	30%	準備学習、積極的な参加度合いを評価する。

教科書:

川村雅彦(2015)『CSR経営パーフェクトガイド』ウィズワークス

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:

ヨーロッパの文化と日本

授業の概要:

ドイツを中心とするヨーロッパの文化を多様な角度から探求する。ヨーロッパの文化では、さまざまな都市が大きな役割を担っている。それらの都市をつぶさに見てゆくことによって、文化の形成される過程が観察できると考える。そのような意味で、ヨーロッパの都市および文化をテーマに掘り下げてゆく。
受講生は合わせて、「ヨーロッパ地域文化論ⅠⅡ」(服部)を受講することが望ましい。

到達目標:

また、研究倫理についても指導する(これは「卒業研究Ⅱ」においても再度指導する予定である)。
ヨーロッパの文化および都市に関しての理解を深め、確かな知識に裏打ちされた観察眼を養うことを目標とする。

授業方法:

輪読、個人発表およびディスカッション。建築・都市の紹介のビデオも逐次鑑賞したい。また、フィールドワークなども必要に応じて取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業のガイダンスと導入	
	2. 都市の中心市街地の重要性	
	3. 都市の中心市街地を勉強する	
	4. 中世都市ニュルンベルクを調べる	割り当てられた都市を調べる
	5. 金融都市フランクフルトを調べる	割り当てられた都市を調べる
	6. 世界遺産都市ヴェルツブルクを調べる	割り当てられた都市を調べる
	7. 都市とまちづくり(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
	8. 都市とまちづくり(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
	9. 都市とまちづくり(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
	10. 都市と文化(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
	11. 都市と環境(テキストを輪読する)	
	12. 都市と環境(テキストを輪読する)	
	13. 都市と環境(テキストを輪読する)	
	14. 都市のまとめ、あるいは日本の都市の研究	
	15. 都市のまとめ、あるいは日本の都市の研究	

受講者へのメッセージやアドバイス:

文化および都市に関して常に関心を持ち、情報を収集する訓練をすること。それが自分の研究テーマに結びつくはずである。

フィードバックの方法:

マナビーを通して

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業に取り組む姿勢	40%	ヨーロッパの文化や都市にどれ程関心を抱いて調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
	授業での発表	30%	卒論につながる発表に関して、どれほど調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
	レポート	30%	ヨーロッパの文化および都市に関してどのような観察眼を養うことができたかを見て判断する

教科書:

竹ヶ原、フュロップ「ドイツ環境都市モデルの教訓」エネルギーフォーラム新書、2011年「わがまま歩きドイツ」(実業之日本社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応およびマナビーを通して

授業テーマ:

家族・学校・地域に関わる教育問題

授業の概要:

ゼミにおける基本文献の提示、図書館その他の利用法、研究倫理、資料の収集、研究方法その他、学問研究の基本を学ぶと同時に、テキストを使用して、教育学の基本構造を学ぶ。

到達目標:

学問研究上の基本的作法をマスターすると同時に、効果的なプレゼンテーション、ディスカッションの技法、教育学の初歩をマスターする。

授業方法:

演習、講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ゼミのオリエンテーション(1)ー各自の研究テーマの発表	テキストの購入、研究テーマを考える
2.	ゼミのオリエンテーション(2)ー研究倫理、図書館の利用法	研究倫理、図書館についての事前学習
3.	ゼミのオリエンテーション(3)ーゼミ基本文献の紹介、テキストの説明	テキストの全体構図を把握する
4.	教育と子ども	テキストの予習、確認問題を解答しておく
5.	教育と社会	同上、及び授業ノートの作成
6.	教育の目的	同上
7.	学習・学力・カリキュラム	同上
8.	学習理論・教科書・学習空間	同上
9.	教育のガイダンス、カウンセリング	同上
10.	教師の力量とアイデンティティ	同上
11.	教育と政治	同上
12.	学校間の接続	同上
13.	キャリア教育と生涯学習	同上
14.	多文化教育とグローバリゼーション	同上
15.	こどもの権利と特別ニーズ教育	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

口頭、メール、マナビー

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	プレゼンテーション	30	論理構成、説得力、パワーポイント
	ディスカッション能力	20	発言内容の明確さ
	課題提出物	30	ポートフォリオ的な出来栄
	出席	20	全出席を基本に減点

教科書:

木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』、有斐閣、2009年。

参考書:

ゼミ基本文献表(300冊程度)を配布、その他適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法:

研究室、メール

授業テーマ:

事例研究を通して経営学を学ぼう

授業の概要:

教科書『ケースで学ぶ経営学 第2版』の題材を用いて事例研究を行い、経営学の基本テーマの理解、企業情報の収集・分析、コミュニケーション力の向上を図る。あわせて企業の基礎的な財務分析を修得できるように努める。報告者は、教科書事例をまとめるとともに、当該企業についての各種経営情報を収集しレポートする。なお経営学には幅広い学問分野が含まれるので、それぞれの学生の個性と希望を踏まえて、標準的な履修科目例を示し、履修指導を行う。

到達目標:

第1に経営学の基礎理論をケーススタディを通して理解する。
第2に経営学を能動的に学ぶ際に必要となるツールとして、会計基礎・企業分析法、社会調査法、プレゼンテーション法を修得する。
第3に日本経済、ビジネス社会について理解する。
第4に積極的傾聴力、コミュニケーション力を養成する。ゼミ生諸姉には、テーマを理解するだけでなく、相手の話すことを理解し、自分の頭で考え、自分の言葉で話せるようになることを期待する。

授業方法:

少人数の演習形式で行う。3人程度のグループに分かれる。各グループは割り当てられたテーマについて、教科書にもとづき事例研究のポイント、当該企業・業界の最近の経営動向などを発表する。このようにゼミの時間は各グループの発表・討論が中心となる。
東証「株式学習ゲーム」に参加する。また夏季合宿として東京証券取引所・日本銀行見学を予定している。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 情報収集法とレジュメ作成法(情報処理教室)	
	3. 現代企業の発生 : ロックフェラーとスタンダード・オイル	教科書の該当部分を予め読んでおく。
	4. 環境・戦略・組織 : フォードとGM	同上
	5. 新しい事業の創造 : ヤマト運輸の宅急便事業	同上
	6. 事業のストラクチャリングと組織改革 : GEの企業革新	同上
	7. 日本的生産システム : トヨタの生産方式	同上
	8. 日本的経営と人事管理制度 : ブラザー工業の進化と見えざる資産	同上
	9. 消費者の変化に対応する事業システム : セブン・イレブン・ジャパンの単品管理	同上
	10. ニーズの絞込みによる市場創造 : ライオンの「部屋干しトップ」	同上
	11. 会社は誰のものか : カゴメのファン株主作戦	同上
	12. ビジネスの倫理 : 三菱ふそうのハブ欠陥事件	同上
	13. 企業形態を考える : プロデュースの株式上場	同上
	14. 破壊的技術への対応とドメインの再定義:デジタル化と富士フイルム	同上
	15. 復習を踏まえた討論	事前に配布する資料を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

ゼミは学生達と教員とで作り出す、プロジェクト組織です。各ゼミ生には「自分がゼミのためになにができるか」を考え、能動的に行動することを期待します。

フィードバックの方法:

提出物(レポート等)については、教室でまとめて講評する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	70	積極的に授業に参加し、到達目標に達しているかを、欠席数並びに遅刻回数から評価します。
	グループによる発表	30	グループ発表全体としての到達目標に対する到達度、またグループ内における自分の役割とその達成度について評価します。

教科書:

教科書:東北大学経営学グループ(2008)『ケースに学ぶ経営学 第2版』 有斐閣ブックス

参考書:

東洋経済新報社(2017)『会社四季報』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

オフィスアワー。マナビーの掲示板機能並びにEメールを利用。

授業テーマ:	実在する企業の開示情報を利用した企業分析のケーススタディ		
授業の概要:	この授業では、実在する企業の開示情報を利用した企業分析のケーススタディを行う。ケーススタディの対象とする企業は、原則として、担当教員から指定せずに学生諸姉自らが選定する。 この授業では、ケーススタディを通じて次の3点を学ぶ。まず、①企業の情報開示制度について学び、どのような情報が、どのような開示媒体で、どのようなタイミングで開示されているのかを学ぶ。また、②どのようにすれば開示情報を入手することができるのかを学ぶ。さらに、③企業分析のための各種の方法を学ぶ。 なお、この授業では、研究倫理についても指導する。		
到達目標:	この授業の第一の目標は、企業に関して知りたいと思う自分自身のニーズを満たすためには、膨大な開示情報の中からどれを参照すればよいのかを自ら判断できるようになることである。 この授業の第二の目標は、膨大な開示情報の中から、自分自身のニーズを満たすために必要な開示情報を自ら入手できるようになることである。 この授業の第三の目標は、入手した開示資料を自ら分析することで、自分自身のニーズを満たすことができるようになることである。 この授業の第四の目標は、ケーススタディを通じて、ニーズはあっても開示情報からは十分には知ることができないこともあることを体得することである。		
授業方法:	原則としてゼミ(演習)形式で行う。この授業では、各回の授業で取り上げるテーマと合致した、実在する企業の開示情報のケーススタディを行い、各企業がどのような開示を行っているのかについて、一般的な開示事例だけでなく、特色のある開示事例もできるだけ取り上げることによって各社のさまざまな開示事例を具体的に学ぶ。 また、この授業では、従来ありがちであった各回の授業時に数名の学生が順番に発表をしていくという授業形態はとらない。その代わりに、マナビーのレポート機能や掲示板機能を活用することで、全員が授業時に毎回発表ないし討論をする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。	
	2. 金融商品取引法に基づく情報開示制度	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	3. 会社法に基づく情報開示制度(1) 会社法に基づく情報開示の枠組み 間接開示:決算公告	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	4. 会社法に基づく情報開示制度(2) 直接開示:招集通知	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	5. 会社法に基づく情報開示制度(3) ウェブ開示 英文での招集通知の開示	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	6. 株主総会議決権行使結果の開示	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	7. 証券取引所の規則に基づく情報開示制度(1) 決算短信	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	8. 日本の制度会計において利用可能な会計基準の種類と財務諸表の体系	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	9. 自発的な情報開示(1) IRウェブページとその利用	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	10. 自発的な情報開示(2) 決算説明会ほか	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	11. 証券取引所の規則に基づく情報開示制度(2) 適時開示	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	12. 証券取引所の規則に基づく情報開示制度(3) 業績予想の開示	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	13. 開示情報の信頼性担保のための開示	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	14. 内部統制に関する情報開示制度	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	15. 証券取引所の規則に基づく情報開示制度(4) コーポレート・ガバナンスに関する報告書	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	明確な問題意識に基づいてケーススタディを行うためには、日頃より日本経済新聞やビジネス系の雑誌(例えば、『週刊東洋経済』、『日経ビジネス』、『週刊ダイヤモンド』、『週刊エコノミスト』など)を読む習慣を身に付、実務上企業に関して今どのようなことに関心が向けられているかを知ることが必要である。ぜひ日頃から企業に関する様々なニュースに触れる努力をしてほしい。 なお、この授業は、ゼミ(演習)形式のため、毎回授業に出席することはもちろんのこと、授業への積極的な参加と他の学生諸姉との協調が必要である。		
フィードバックの方法:	マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50%	明確な問題意識に基づいて、参照すべき開示情報を自ら判断して入手し、適切な方法で開示情報を分析することができているかどうかを基準とする。
	授業への積極的参加度	50%	出席のほか、授業中に積極的に発言するなどによって、学び得た知識の共有化を図ることができているかどうかを評価する。
教科書:	特になし		
参考書:	足達英一郎・村上芽・橋爪麻紀子著『投資家と企業のためのESG読本』日経BP社、2016年。 阿南剛著『平成26年改正会社法の実務』税務経理協会、2015年。 石井裕介・河島勇太・藤田鈴奈著『内部統制システムの見直しのポイントと記載事例——平成27年12月総会までを踏まえて』(別冊商事法務No.403)商事法務、2016年。 井端和男著『最近の粉飾—その実態と発見法』(第7版)税務経理協会、2016年。 鈴木広樹著『適時開示実務入門』同文館出版、2014年。 宝印刷総合ディスクロージャー & IR研究所監修・新保秀一著『モデルで学ぶ有価証券報告書の仕組みと作り方』中央経済社、2016年。 徳賀芳弘編著『京都企業—歴史と空間の産物』中央経済社、2016年。 日経エコロジー編『環境・CSRキーワード事典—日経エコロジー厳選』日経BP社、2016年。		

山本貴啓著『ゼミナール監査論』創成社、2016年。

『日本の優良企業パーフェクトブック〈2018年度版〉日経の調査で分かる「いい会社」！就活に・インターンシップに！』日経HR、2016年。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能
オフィスアワー

授業テーマ:

地域振興と観光・余暇、現代日本の家族と福祉

授業の概要:

社会学の視点から、現代日本の家族(関係)の変容、少子高齢化を反映した地域福祉ニーズの高まりと地域福祉実践、戦後日本の生活様式の変遷、出身地の地方都市の振興・まちづくり、戦後日本の余暇と観光に関する史的研究など、幅広く取り組みます。

到達目標:

4年次の卒業研究で主体的に研究テーマが設定できること。そのためには、3年次応用演習でテーマに関する先行研究が大切です。

授業方法:

各自が自由に設定したテーマごとにグループを作って、相互にゼミ発表をしていきます。質問や意見の交換のなかから、自分たちが意識していなかった問題のとらえ方や新たな問題の発見につながればよいでしょう。必要に応じて、フィールド参加や調査活動ができればよい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス、自己紹介とグループづくり、今後の作業プロセス確認	
	2. 官庁統計の活用法(国指定統計や自治体統計)	国勢調査の概要把握
	3. 民間機関の調査・統計(各種民間研究所や統計機関)	社会保障・人口問題研究所の概要把握
	4. 情報倫理学習(統計利用に当たって踏まえるべき心得や先行研究の引用法や活用の仕方など)	研究論文の書式検討
	5. 各自のテーマ設定、グループづくり確定、グループ内討論	
	6. グループA その1 問題関心の紹介	グループごとの討論と発表分担・資料づくり
	7. グループB その1 問題関心の紹介	グループごとの討論と発表分担・資料づくり
	8. グループC その1 問題関心の紹介	グループごとの討論と発表分担・資料づくり
	9. グループA その2 先行研究の紹介	先行研究の読了と批判
	10. グループB その2 先行研究の紹介	先行研究の読了と批判
	11. グループC その2 先行研究の紹介	先行研究の読了と批判
	12. グループA その3 研究課題の再設定	先行研究を踏まえた研究テーマの再設定
	13. グループB その3 研究課題の再設定	先行研究を踏まえた研究テーマの再設定
	14. グループC その3 研究課題の再設定	先行研究を踏まえた研究テーマの再設定
	15. 全体総括と秋学期へのつなぎ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ゼミ発表に際しては、事前に教員と相談し、発表内容を確認すること。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	60%	集団作業などへの貢献度で評価する。
	個人研究の到達度	40%	研究テーマの独自性や習熟度で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

tkono@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	地域にいかす臨床心理学		
授業の概要:	心理的側面の支援では、その人個人だけでなく個人を取り巻く環境(コミュニティ)全般に対して働きかけ、個人と環境のよりよい関わりの循環を促します。そうした臨床心理学の支援の中でも特に、人の優れた側面に目を向けてより幸福な状態をめざすポジティブ心理学の視点から、心理的支援の知識や技術を学びます。 応用演習Iでは、研究の基礎および心理的支援のための対人理解を学びます。そのために、アンケート調査によるデータの収集法などの研究方法、面接による対人理解の方法などの研究法を学ぶとともに、研究倫理についても学びます。発展的な学習のために、近隣自治体との連携により心理学の手法を用いた課題解決のプロジェクトにも挑戦します。		
到達目標:	臨床心理学のさまざまなテーマについて理解を深め、履修生の個々の関心あるテーマについて十分に説明することができる。 臨床心理学の実践の基礎的な姿勢と技法および、臨床心理学の研究方法を知り、実際に活用することができる。		
授業方法:	臨床心理学の研究論文や代表的な文献をもとに、受講する学生の興味・関心に応じて臨床心理学の様々なテーマについて理解を深めます。また、心理臨床の実践の方法と技術の基礎を、フィールドワークや演習を通して修得することをめざします。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業についてのオリエンテーション	自己探求シート作成	
	2. 臨床心理を学ぶ: ポジティブ心理学の視点からのアプローチ	文献・資料講読	
	3. 文献検索の方法・テーマの発見	文献検索・マインドマップ作成	
	4. 研究論文の書き方・読み方・研究倫理	資料講読	
	5. 臨床心理学の諸様相	文献・資料講読	
	6. 心理学のテーマ報告1・ディスカッション	報告プレゼンテーション準備	
	7. 心理学のテーマ報告2・ディスカッション	報告プレゼンテーション準備	
	8. 心理学のテーマ報告3・ディスカッション	報告プレゼンテーション準備	
	9. 研究の方法 (1)量的研究: アンケート	グループ研究(研究計画立案)	
	10. 研究の方法 (2)量的研究: インタビュー	グループ研究(インタビュー)	
	11. 調査票の作成方法	グループ研究(調査票作成)	
	12. 調査の実施・データ集計方法	グループ研究(データ収集)	
	13. 調査票の集計(幸福感調査)	グループ研究(結果分析)	
	14. グループ発表・ディスカッション	発表プレゼンテーション準備	
	15. 全体のまとめ	レポート作成	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業時間内のコメントで講評をフィードバックします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	40	出席状況・授業への参加度
	レポート	30	テーマの理解度と、支援の実際と基本姿勢とを論理的に説明できるかを基準とします。
	プレゼンテーション	30	プレゼンテーション・スキルおよび内容からテーマの理解度と、支援の実際と基本姿勢とを論理的に説明できるかを基準とします。
教科書:	小塩真司・西口利文(編著), 「心理学基礎演習vol.2 質問紙調査の手順」, ナカニシヤ出版		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	Eメール		

授業テーマ:	女性・仕事・リーダーシップ - ジェンダー研究の視点から		
授業の概要:	現在の日本は、あらゆる社会領域において女性も男性も一緒になって主体的に活躍する男女共同参画社会に向かっています。男女共同参画社会のキーワードとして、女性、仕事、リーダーシップを取り上げます。これらのキーワードをめぐってジェンダー研究の視点から理解を深めることで、卒業後の女性活躍社会において、女性であるがゆえに遭遇するかもしれない障壁や、女性であるからこそ挑戦できる機会や享受できる支援策を知ることになり、ライフコースの選択肢を増やし、納得のいく意思決定ができるようになります。		
到達目標:	1. 女性を取り巻く社会情勢についてジェンダー研究の視点から理解できていること 2. 雇用におけるジェンダー格差と女性活躍推進策について理解できていること 3. リーダーシップの概念とリーダーシップの発揮の仕方について理解できていること		
授業方法:	講義、グループワーク、ディスカッション、発表などをバランスよく混ぜて授業を行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業目標と授業全体の流れ、研究倫理についても説明をする)		
	2. 日本社会における女性の現状―男女格差、女女格差	事前配布資料を読み、内容を理解しておく	
	3. 学問領域としての女性学・男性学・ジェンダー研究	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の1章を読み、内容を理解しておく	
	4. 社会保障とジェンダー: 社会保障制度のしくみを知ろう	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の2章を読み、内容を理解しておく	
	5. 雇用問題とジェンダー: 労働市場と女性問題	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の3章を読み、内容を理解しておく	
	6. 高齢期におけるジェンダー問題: 幸せな高齢期をどうつくるか	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の4章を読み、内容を理解しておく	
	7. 少子社会におけるジェンダー問題: 出生率を上げるには	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の5章を読み、内容を理解しておく	
	8. 貧困化と女性: 貧困化を防ぐには	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の6章を読み、内容を理解しておく	
	9. 高等教育におけるジェンダー: 女性の能力を伸ばすには	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の7章を読み、内容を理解しておく	
	10. アジア諸国のジェンダー: 中国・韓国	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の8章・9章を読み、内容を理解しておく	
	11. アジア諸国のジェンダー: インド・ベトナム	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の10章・11章を読み、内容を理解しておく	
	12. ネオリベリズム、労働、少子化 - ジェンダー問題研究1	『女たちのサバイバル作戦』の指定箇所を読み、内容を理解しておく	
	13. ネオリベリズム、ジェンダー、バックラッシュ - ジェンダー問題研究2	『女たちのサバイバル作戦』の指定箇所を読み、内容を理解しておく	
	14. 女子学生へのアドバイス - サバイバル作戦研究	『女たちのサバイバル作戦』の指定箇所を読み、内容を理解しておく	
	15. 前期の振り返りとまとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業ではディスカッションの機会を多くもちます。今まで疑問に思っていた身近な事柄について多様な意見を共有することで、新たな気づきが得られます。また、政治経済の動きや社会問題に対してジェンダーの光を当てることで、その問題が生じる要因を理解することができます。ジェンダー研究の奥深さを味わって、自己実現に役立ててください。		
フィードバックの方法:	ワークプリントに関しては、コメントをつけて返却します。 期末レポートについては、秋学期に教室でまとめて解説します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	30%	出席、授業コメント、積極的な発言など
	ワークプリント(複数回)	30%	授業内容の要点が理解できている
	期末レポート	40%	ジェンダー問題に関する情報収集力、理解度、分析力
教科書:	川島典子・三宅えり子(編著)『アジアのなかのジェンダー 第2版』ミネルヴァ書房 2015年 上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』文春新書 2013年		
参考書:	川口章『ジェンダー経済格差』勁草書房 2009年 伊藤公雄・牟田和恵(編)『ジェンダーで学ぶ社会学(全訂新版)』世界思想社 2015年 中野円佳『「育休世代」のジレンマ - 女性活用はなぜ失敗するのか』光文社 2014年 濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書 2015年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力		
教員との連絡方法:	E メール (emiyake@dwc.doshisha.ac.jp)		

授業テーマ:	ヨーロッパの経済社会を日本と比較しながら多面的に理解する		
授業の概要:	現在、ヨーロッパは大きな変化の時代を迎えています。金融危機、難民の移動、イギリスのEU離脱などが経済社会を揺さぶっています。とはいえ、豊かな歴史・文化、人権を尊重する社会、あるいは新たなトレンド発信力は魅力的です。 この演習では、ヨーロッパの持つ魅力と課題を、さまざまな角度から調査し、研究します。そのため、これまで演習で取り上げてきたテーマは、政治経済、企業活動、社会福祉・労働、環境対策・まちづくりなど広範囲にわたります。 ヨーロッパはグローバル化の中で国境を越えた協力の仕組みも作り上げてきました。アジアやその他の地域にとっても、その経験を学ぶ必要があるでしょう。他方、今では工業製品だけでなく、マンガ、食文化、スポーツなどでヨーロッパも日本から影響を受ける時代になっています。相互理解は新たな段階を迎えています。 初めに、基本的なテキストを読んで全員の共通理解を図り、次いで具体的なテーマについて調べる予定です。多様なテーマですが、それらの根底に流れている共通の価値観を探って、日本と比較しながら調査や考察を深めます。そうすることによって、すぐれた社会人への道が拓かれることを期待します。 なお、学習・研究にあたっては、研究倫理を踏まえて進めます。		
到達目標:	ヨーロッパと日本社会の特性についての理解を深めることによって、グローバル経済を視野に入れたビジネスパーソンの基礎力を養うことを目標にしています。		
授業方法:	テキストを使い、情報交換をしながら知識と理解を深めます。次に、グループをつくって具体的なテーマを決めて調べます。そして順番に報告し、皆で議論します。(ただし、受講人数によっては、グループ分けなどの方法を変更することがあります。)当然のことですが、演習のテーマに関心があり、熱心に学び、研究したいと思う学生さんに受講してほしい。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーションと自己紹介	課題について調べ、整理しておくこと	
	2. プレゼンテーションの方法	課題について調べ、整理しておくこと	
	3. ヨーロッパの情報交換と理解: 国々と民族の多様性	課題について調べ、整理しておくこと	
	4. ヨーロッパの情報交換と理解: EUと政治	課題について調べ、整理しておくこと	
	5. ヨーロッパの情報交換と理解: 経済と企業	課題について調べ、整理しておくこと	
	6. グループ分け	課題について調べ、整理しておくこと	
	7. ヨーロッパの情報交換と理解: 社会福祉と労働	課題について調べ、整理しておくこと	
	8. ヨーロッパの情報交換と理解: 環境対策	課題について調べ、整理しておくこと	
	9. ヨーロッパの情報交換と理解: 町づくりと観光	課題について調べ、整理しておくこと	
	10. グループ報告	課題について調べ、整理しておくこと	
	11. グループ報告	課題について調べ、整理しておくこと	
	12. グループ報告	課題について調べ、整理しておくこと	
	13. グループ報告	課題について調べ、整理しておくこと	
	14. グループ報告	課題について調べ、整理しておくこと	
	15. 春学期の振り返り	課題について調べ、整理しておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	世界の動向に関心を持って、新聞や報道番組を通じて情報を収集してほしい。		
フィードバックの方法:	報告についてコメントを行い、全員で議論する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	プレゼンテーション	50	課題について調査・整理し、分りやすく伝えられているか
	レポート	50	課題について調査・整理し、論理的に議論できているか
教科書:	加賀美雅弘ほか『ヨーロッパ学への招待』(第二版)、学文社。		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール		

授業テーマ:

社会保障の国際比較

授業の概要:

日本においては、年金や医療保険、生活保護などの社会保障制度が発達しています。しかし、日本の社会保障は雇用形態や家族の多様化・不安定化のような社会の変化に十分追いつくことができておらず、機能不全が指摘されています(貧困の拡大、ケアサービスの不足など)。この演習では、諸外国の取り組みを参考にしながら、日本の社会保障制度が抱える問題点や解決策について考えていきます。

到達目標:

(1) 国際比較の視点に立って、日本の社会保障制度の特徴や問題点について理解できていること。
(2) 学期末までに(仮の)卒業研究テーマを決め、先行研究の調査・報告ができること。

授業方法:

担当教員による講義と問題提起に続けてディスカッションを行います。毎回、議論したい論点・疑問点・感想などを提出することが求められます。学期末には今後取り組みたい卒業研究テーマについて発表してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業目標と授業全体の流れ、研究倫理の説明、自己紹介)	
2.	『ここがおかしい日本の社会保障』① 生活保護と最低賃金	教科書の指定箇所を読んで、論点、疑問点、感想をまとめる。
3.	『ここがおかしい日本の社会保障』② 親と同居する未婚者	教科書の指定箇所を読んで、論点、疑問点、感想をまとめる。
4.	『ここがおかしい日本の社会保障』③ 年金負担の不公平	教科書の指定箇所を読んで、論点、疑問点、感想をまとめる。
5.	『ここがおかしい日本の社会保障』④ 高齢者の生活保障	教科書の指定箇所を読んで、論点、疑問点、感想をまとめる。
6.	『ここがおかしい日本の社会保障』⑤ 少子化対策	教科書の指定箇所を読んで、論点、疑問点、感想をまとめる。
7.	『ここがおかしい日本の社会保障』⑥ ワーキングプア	教科書の指定箇所を読んで、論点、疑問点、感想をまとめる。
8.	中間まとめ - 日本の社会保障の問題点	(仮の)卒業研究のテーマを考え始める。先行研究の検索・収集を始める。
9.	社会保障の国際比較 ① 医療保障	配布資料を読んで、論点、疑問点、感想をまとめる。
10.	社会保障の国際比較 ② 失業補償	配布資料を読んで、論点、疑問点、感想をまとめる。
11.	社会保障の国際比較 ③ 公的扶助(生活保護)	配布資料を読んで、論点、疑問点、感想をまとめる。
12.	社会保障の国際比較 ④ 高齢者介護	配布資料を読んで、論点、疑問点、感想をまとめる。
13.	受講生による発表とディスカッション	発表担当者は、プレゼンテーションの準備をしてくる。
14.	受講生による発表とディスカッション	発表担当者は、プレゼンテーションの準備をしてくる。
15.	今学期のふりかえり	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィールドワークや合宿などについては、受講生と相談して決めます。よいゼミになるよう、みんなで協力して取り組みましょう。

フィードバックの方法:

平常の提出物は、授業中にまとめてコメントします。
期末レポートは、評価点とコメントをつけて秋学期初回到返します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	60%	積極的な授業態度、発言、提出物の内容
	期末レポート	40%	各自の研究テーマにそって、一定量の先行研究ができていること

教科書:

山田昌弘『ここがおかしい日本の社会保障』文春文庫、2012年。

参考書:

土田武史(編著)『社会保障論』成文堂、2015年。
杉本貴代栄(監訳)『ジェンダーと福祉国家- 欧米におけるケア・労働・福祉』ミネルヴァ書房、2009年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

E-mail (emiyake@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ：日常生活におけるリスクマネジメントと保険

授業の概要：リスクマネジメントおよび保険は、意識しているか否かはさておき、日常生活の中で数多く登場している。例えば地震について考えると、地震で建物が倒壊しないように耐震補強工事をしたり、地震が起こったときに備えて避難訓練を行ったりすることなどは地震に対するリスクマネジメントとして考えられる。また、火災保険や自動車保険についてみると、一人暮らしの人だと火災保険に、車や原付を持っている人だと自動車保険に実際に入っているケースが少なくない。さらに、医療保険や年金保険などは、病気になったときや老後の生活を支える重要な手段となっている。また最近では、女性特有の病気に対して手厚い保障を行う保険なども登場している。
本講義では、このように日常生活の中で数多く登場するリスクマネジメントや保険について考えていく。また同時に、研究を行う上での研究倫理について学ぶ機会とする。

到達目標：リスクマネジメントや保険がどのような役割を担っているのか、どのような問題を抱えているのか、などについて学習することを通じて、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識を修得することおよびそれらの知識を使ってプレゼンテーションできるようにすることを目標とする。

授業方法：主として「個人研究」と「グループ研究」にかかる発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解
2.	研究に関する基礎的事項(研究倫理、参考文献の書き方、引用の方法等)に関する確認	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	個人研究(1)	「個人研究」の準備
4.	個人研究(2)	「個人研究」の準備
5.	グループ研究(1)	「グループ研究」の準備
6.	個人研究(3)	「個人研究」の準備
7.	グループ研究(2)	「グループ研究」の準備
8.	個人研究(4)	「個人研究」の準備
9.	個人研究(5)	「個人研究」の準備
10.	個人研究(6)	「個人研究」の準備
11.	グループ研究(3)	「グループ研究」の準備
12.	個人研究(7)	「個人研究」の準備
13.	グループ研究(4)	「グループ研究」の準備
14.	個人研究(8)	「個人研究」の準備
15.	総括	全体の振り返り等

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法：授業中において、担当教員が適宜コメントすることで、発表の内容についてのフィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	個人研究の発表	20	個人研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
	グループ研究の発表	30	グループ研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
	期末レポート	30	期末レポートより、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度を評価する。
	授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなど、議論の活発化にどの程度貢献しているかによって評価する。

教科書:

参考書：家森信善(編著)『はじめて学ぶ保険のしくみ(第2版)』中央経済社、2015年
下和田功(編)『はじめて学ぶリスクと保険(第4版)』有斐閣、2014年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法：教員のメールアドレス:mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	グローバル時代の社会現象を読み解く	
授業の概要:	現代の社会現象は、グローバル化によって国境や文化を超えて繋がり、複雑化・複合化が進んでいます。このため、わたしたちの身の回りの社会現象であっても、単純な理解が困難になっている、との指摘がなされています。 以上を考慮に入れ、本演習では、個人からグローバルなレベルにまたがる今日の社会現象の読み解きを試みます。このような目的の下、本演習では、まず受講生の興味・関心に関わる研究テーマを選定した上で、グローバル化が進むなかで複雑化・複合化する様々な社会現象を理解するためのリテラシー（分析力・読解力）を学び身につけて行きたいと考えています。また本演習では、研究倫理についての学習も併せて行います。	
到達目標:	・自らの視点で社会現象を読み解き固定観念にとらわれない新たな知見や理解を習得する。 ・社会現象を読み解く上で必須となる「批判力」と「多角的視点」を身に付ける。 ・自らの主張や見解を第三者に説得的に説明できるプレゼンテーション力とディスカッション力を身に付ける。 ・社会責任としてグローバルに通用する研究倫理を確認し習得する。	
授業方法:	演習形式 ・毎回の授業では、個人発表(PowerPoint使用)と全体討論を実施します。 ・受講生の数によりますが各人が最低1～2回は報告・発表を担当していただく予定です。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
	2. 具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	3. 具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	4. 具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	5. 具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	6. 具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	7. 具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	8. 具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	9. 具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	10. 具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	11. 中間まとめ(事例研究の意義)	各自のこれまでのプレゼンテーションやディスカッションを通して得たポイントや理解を整理しておいてください。
	12. 批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	13. 批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	14. 批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
	15. 最終まとめ(批判力と多角的視点の意義)	各自のこれまでのプレゼンテーションやディスカッションを通して得たポイントや理解を整理しておいてください。
受講者へのメッセージやアドバイス:	本演習の受講生の皆さんには、既存の学問的なテーマに縛られず、自由な発想でテーマとなる社会現象を選択して頂ければと思っています。 ちなみに2016年度の受講生は、下記のような多種多様なキーワードで研究発表を行いました。 「タトゥー／整形」「ニュース断片化」「恋愛／結婚」「人工知能」「女性専用」「キラキラネーム」「就活」「SNS」「サービス」「低年齢化」「ファストファッション」「アーティスト」「アレルギー」「ぼっち」「爆買い」「マンガ」「ペット」「ゆとり教育」「コンビニ／スーパー」「自宅エステ」「食料自給率」etc.	
フィードバックの方法:	・各回の個別のプレゼンテーションとディスカッション後にアドバイスや評価を行います。 ・最終回に各受講生に対して総評と評価を行います。	

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表、討論	40%	発表は、到達目標である「自らの視点で社会現象を読み解き、固定観念にとらわれない新たな知見や理解」に基づいているか評価します。また討論は、到達目標である「批判力」と「多角的視点」からなされているか評価します。
	授業への参加度	60%	到達目標である「批判力」と「多角的視点」を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法: オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ:

観光に関連する産業および地域に関する経営学的研究

授業の概要:

本演習では、実証的な研究に基づいた観光学の学びを深めることを目的とする。具体的には、観光関わる産業や観光振興に取り組む地域の経済的側面、経営的側面などを多角的に分析・検討する。特に、観光現象は、遠方に居住する人々の移動を引き起こさないと実現しないことから、このような機能を担うマーケティング論的視点からの考察に重点を置く。すなわち、どのような地域を訪問し、どのような行動や経験をすることが、観光者たちにとって価値となり、観光の満足をもたらしているのかといった視点から観光を考えることで、人はなぜ観光をするのかという根源的な問にアプローチする。このような検討を通して、観光学についての理解を深めるとともに、実社会における様々な観光のあり方の研究を試みる

到達目標:

基礎となる知識としてマーケティング論に関する知識とその考え方を確実に吸収するまたその知識を他のメンバーに対して明確に報告できる。観光に関する現象について、具体的な情報収集を行い、それを理論的な視点から整理・考察する能力を身につける。グループワークでは、他メンバーの意見を良く聞いた上で、自分の意見を明確に示し、全体としてより良い考察・結論に結びつけていく能力を身につける。

授業方法:

演習 前半は、マーケティング論に関する輪読形式、後半は、具体的な観光現象についてマーケティングの視点から考察するグループワーク形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	観光に関するニュースや自身の観光経験について確認しておく
2.	研究倫理について	オリエンテーション時に配布(予定)の資料を読んでくる
3.	マーケティングについて(1)	教科書の該当箇所の予習
4.	マーケティングについて(2)	教科書の該当箇所の予習
5.	マーケティングについて(3)	教科書の該当箇所の予習
6.	マーケティングについて(4)	教科書の該当箇所の予習
7.	現代の観光現象について(1):グループ編成と対象設定	自身の興味ある観光現象について情報収集を行っておく
8.	現代の観光現象について(2):情報収集・分析	グループで設定した研究対象について情報収集を行ってくる
9.	現代の観光現象について(3):検討と報告書作成	グループでの議論を踏まえ、必要な情報収集を行ってくる
10.	現代の観光現象について(4):報告	グループのメンバーと協力して、報告書を完成させてくる
11.	魅力ある観光を考える(1):グループ編成と対象設定	自身の興味ある観光地について情報収集を行っておく
12.	魅力ある観光を考える(2):情報収集・分析	受講生全体で決めた観光地域について情報収集を行ってくる
13.	魅力ある観光を考える(4):検討と報告書作成	グループでの議論を踏まえ、必要な情報収集を行ってくる
14.	魅力ある観光を考える(3):報告	グループのメンバーと協力して、報告書を完成させてくる
15.	講義全体の振り返り	これまで学んだことに対する復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

輪読に関しては、担当者はもとより、各自が該当箇所について十分に予習をしていることを前提に、報告・討論によって理解を深め、復習によってそれらを確実なものとする。グループワークは、各メンバーがそれぞれ準備をしてきて、それらを付き合わせることで成果へとつなげるため、それらが揃わないとグループワークが進まないのので、予習・復習は必須である。特に、後半の「魅力ある観光を考える」は、夏休みに予定しているフィールドワークの準備になるので、真剣に取り組んで欲しい。

フィードバックの方法:

輪読内容に対しては、教室でコメントする。報告書(レポート)に対しては、添削してマナビーで返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50	輪読およびグループワークで、担当部分を適切に報告できるか、それ以外の時には積極的に意見表明ができるか。
	発表、討論	20	グループワークで、自分の意見を表明したり、他のメンバーの意見と調整したりして、積極的に進捗に参加しているか
	レポート	30	マーケティングの考え方を理解した上で、観光領域の諸問題に適切に考察が行えているか

教科書:

小川進『はじめてのマーケティング』千倉書房、2016

参考書:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)

授業テーマ: Diversity and Leadership Development

授業の概要: Two important leadership skills are communication and self-awareness. This course will focus on leadership and cultural diversity, especially how it relates to identity, and communication styles. Class work will take a practical approach and include various activities in which students will examine critical incidents, discuss readings, participate in simulations, and do fieldwork to examine value and belief systems and communication styles in various Japanese and non-Japanese cultures to understand mainstream intercultural communication patterns in Japan and other countries. Upon completion of this seminar, students should have a better awareness of who they are and who they want to become. They will also have a better understanding and better ability to communicate with people from various backgrounds and countries.

到達目標: Upon completion of this seminar, students should have a better awareness of who they are and who they want to become. They will also have a better understanding and better ability to adapt to new situations and communicate with people from various backgrounds and countries.

授業方法: Class work will take an experiential approach and include various activities in which students will examine critical incidents, discuss readings, participate in simulations, and do fieldwork to examine value and belief systems and communication styles in various Japanese and non-Japanese cultures to understand mainstream intercultural communication patterns in interactions between people with diverse backgrounds.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Course introduction and introduction to leadership	Prepare to take part in class discussion
2. Learning styles and communication	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
3. Cultural identity part 1	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
4. Cultural identity part 1 practical	Outside activity to prepare for class discussion
5. Perceptions and stereotypes	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
6. Cultural values and beliefs part 1	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
7. Cultural values and beliefs part 2	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
8. Project 1 due: Presentation using weeks 1-7 ideas	Review and prepare for assessment activity
9. Culture shock	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
10. Communication styles Part 1	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
11. Communication styles Part 1 practical	Outside activity to prepare for class discussion
12. Communication styles Part 2	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
13. Communication styles Part 2 practical	Outside activity to prepare for class discussion
14. Project 2 discussion	Review and prepare for assessment activity
15. Wrap-up discussion	Review and self-reflection for discussion

受講者への
メッセージや
アドバイス: This seminar is a content course in English. That means that it is imperative that students prepare during the week between classes in order to be able to discuss and better understand what is done in class. This course may appear to be easy; however, it will require students to be independent learners and keep up with readings before classes so that they can contribute to class discussions and ask relevant questions in class. Projects will require students to apply ideas studied in the course with real life situations. Points will be deducted for late assignments (5% each day) and assignments more than one week overdue will not be accepted without prior notification. If you miss a class, you are responsible for finding out what you missed, and what assignments were given. Please ask a classmate or contact me. A grade of '0' will be given for missed projects and presentations unless advanced notice is given.

フィードバックの
方法: Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Projects & presentations	40%	Assessment project work and presentations
	Participation & active discussion	30%	Active participation in class and group work
	Homework & Project preparation	30%	Outside preparation for in-class work and projects

教科書: Lee, S. & Rogers, L. (2014). Culture and Conflict: Making the world a better place to live in. Tokyo: Shohakusha.

参考書: Trompenaars, F. & Hampden-Turner, C. (2012). Riding the waves culture: Understanding diversity in global business (3rd ed.). NY: Nicholas Brealey Publishing.

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡
方法: lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

現代日本における「ケア」～人を支える関係づくり

授業の概要:

この演習では「人を支える人間関係づくり」という観点から人間と現代社会への理解を深めます。その際、教員がこれまで行ってきた九州大学病院小児病棟の小児がんの子どもたちや京都のバプテストホーム入居の高齢者の方々への支援、いのちの電話での自殺予防活動などを例にあげながら、さまざまな背景を持った人々が「違いを大切にしながらつながる」にはどうしたらよいかを考え、才藤ゼミでプロジェクトやボランティア活動を実践する計画を立てます。

「ケア(Care)」「ケアリング(Caring)」という言葉は、他者に対する思いやりを伴った全人的・意図的な関与を意味する英語で、日本語では思いやり、気づかい、配慮、気配り、注意、関心、世話、看護などと訳されます。ケアの概念は、人間関係によって人を支える際の基本的な態度を表すものとして看護や介護、宗教、教育などの分野で使われ、近年は、災害や事件にあって傷ついた人への「心のケア」ということばもよく使われます。

春学期の授業の始めには、先行研究の調べ方、図書館の利用法など、これから卒業論文に向けて学びを進めていく上で知っておかなければならないことと、ケア学と対人援助の心理学の基本的理論について学びます。また研究活動と対人援助活動の倫理についても学びます。

到達目標:

この授業の目標は、学生が、1)「ケアの理論」や「対人援助の心理学」について学び、2)それをプロジェクトやボランティア活動として実践する計画を立て、3)次年度の卒業論文作成へと向けて自分の研究テーマを発見することです。このゼミでの学びの課題とプロセスに沿って行けば、4回生の冬には受講生全員が卒業論文を仕上げるできるようになります。

授業方法:

演習形式。講義、フィールドワーク、グループ学習、個人発表とディスカッションによって学びを深めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	
2. 学びの上での基本的事項の確認①	研究とは何か、研究の方法について調べてくる
3. 学びの上での基本的事項の確認②	研究における倫理的問題について調べてくる
4. グループ発表のテーマと研究の進め方	グループ発表のテーマについて考えてくる
5. グループでの人間関係づくり・コミュニケーション演習①	自主的にグループ発表の準備を進める
6. グループでの人間関係づくり・コミュニケーション演習②	自主的にグループ発表の準備を進める
7. ケアとは何か ―メイヤロフ『ケアの本質』を読む	『ケアの本質』を読んで疑問点を整理してくる
8. 対人援助の心理学(1)「聴くこと」の大切さ	事前に指定された参考文献を読んで疑問点を整理してくる
9. 対人援助の心理学(2)「カウンセリング」とは	事前に指定された参考文献を読んで疑問点を整理してくる
10. 対人援助の心理学(3)家族についての心理学	自分の家族が自分に与えた影響について考えてくる
11. 対人援助の心理学(4)同 上②	自分の家族のジェノグラム(家族図)を書いてくる
12. 個人発表①	卒論のテーマについて発表の準備をする
13. 個人発表②	卒論のテーマについて発表の準備をする
14. 個人発表③	卒論のテーマについて発表の準備をする
15. まとめと期末レポートの準備	

受講者へのメッセージやアドバイス:

このゼミでは、みなさんが、自分がやりたい卒論のテーマをみつけ、仲間作りをし、大学で学ぶ楽しみを体験できるように応援します。

みなさんが自分の心と魂の問題をみつめ、お互いの人間関係を形成するのを手助けするために同志社びわこリトリートセンターでの「一泊体験学習」でグループ活動の演習をします。全員参加してください。そこでは、仲間との円滑なコミュニケーション、創造的なグループづくり、そしてピアサポート(仲間の助け合い)の方法について体験的に学びます。

研究を幅広くすすめるために、受講生がフィールドワークやボランティア活動に参加できるように積極的に支援します。また、4回生や卒業生との交流の機会を作り、就職活動や卒論執筆の体験について語りあえるようにします。

フィードバックの方法:

教室で発表にコメントしたり質問に答えたりします。また期末レポートはコメントして返却します

「成績評価方法」

評価方法	割合	評価基準
平常点	40	クラスの出席と授業への積極的参加度により評価する。
発表	20	グループ発表への貢献度や内容によって評価する。
期末レポート	40	レポートと参考文献のブックレビューの内容によって評価する。

「成績評価基準」:

教科書:

特になし。必要に応じてリーディング資料を配布します。

参考書:

古宮昇(2012)『プロカウンセラーが教えるはじめての傾聴術』ナツメ社

ミルトン・メイヤロフ(1987)『ケアの本質―生きることの意味』(田村真・向野宣之訳)ゆみる出版

佐治守夫・飯長喜一郎編(2011)『ロジャーズ クライエント中心療法(新版)カウンセリングの核心を学ぶ』有斐閣

この他、必要と思われる資料や文献を授業中に紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

オフィスアワーを利用する他、メールcsaito@dw.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。

授業テーマ:	比較文化—グローバル化社会を生きる知恵		
授業の概要:	グローバル化社会において、異文化への理解力、異文化とコミュニケーションする能力がますます求められる。比較文化研究は、文化間の違いが由来する歴史背景を調べ、それぞれの文化の個性を理解し、文化間の違いを乗り越えるのにどうすればいいかを考える学問である。この授業は受講者が、宗教・神話・文学・美術・音楽・映画・アニメ・ファッション・料理・・・などなど、さまざまなテーマをとりあげて文化間の違いを自由に比較研究し、ひとつの研究テーマを定めて深く調べることを通して、異文化理解の力やグローバル化社会を生きる知恵を身につけることを目標とする。 さらに、調べと発表の演習を通して、情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力、という五つの力も鍛えていく。		
到達目標:	下記の5つの力を身につける ○情報収集力 ○情報分析力 ○問題発見力 ○問題解決力 ○プレゼン力		
授業方法:	教員はあくまでアドバイザーに徹し、ゼミ生の自主研究とグループ研究を奨励する。自己評価と相互評価を取り入れて、自己管理能力・自己実現力を磨いていく。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。	
	2. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	3. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	4. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	5. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	6. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	7. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	8. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	9. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	10. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	11. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	12. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	13. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。	
	14. レポートや論文作成方法と研究倫理について	レポートや論文作成方法と研究倫理に関するプリント資料を読む。	
	15. 総括	総括の準備をする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	採点してマナビーで返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
	発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうか、ゼミのディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
	授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板		

授業テーマ:

事例で学ぶ民法 ～判例を読み解く～

授業の概要:

この演習は、民法を素材にして、具体的な問題に対する取り組み方を学ぶものです。民法を始め、法律は「条文」の形で定められていますが、実際に使おうとすると、①内容が理解できない、②具体的な問題に適用できないことがよくあります。法律を使いこなすため、その内容と適用方法を学ぶことは、とても重要なことです。

しかし、そのような知識だけでは、問題を解決することはできないでしょう。民法では、争う当事者双方に言い分があり、それぞれに法的な根拠があるからです。もちろん、簡単に勝敗を決めることができる場合も少なくありませんが、どちらの言い分にも一理ある場合にはどうしたらよいでしょうか？ここで、単に「民法を使う」だけではなく、「民法を使って説得する」ことが必要になります。この演習の目的は、民法に関する知識を縦横にを使って、異なる主張を持つ相手方を説得する経験を積んでもらうことです。

「応用演習Ⅰ」では、具体的な裁判例を素材にして、どのような事件であったのか、どのような論理で結論が出されたのかを読み解く基本的な訓練を積んでもらいます。演習の進め方は皆さんと相談しますが、基本的には、教員が用意した事例についてグループの調査・報告によって進めます。「発表が苦手」という人も、ここからじっくり取り組んでくれば、その姿勢を積極的に評価します。

なお、演習の一環として、研究倫理についても学ぶ。

到達目標:

○民法に関する知識を理解し、具体的事例に適用して結論を導くことができるようになる。

○様々な考え方があることを理解し、自分と異なる考え方を持つ相手を説得する経験を積む。

○プレゼンテーションの技法を習得する(レジュメ作成・口頭発表・PowerPoint作成など)。

授業方法:

口頭発表

※他大学ゼミとの討論会の実施も考えています。

☆夏は皆で研修＋遊びに行きましょう(合宿)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス ※ゼミの進め方について相談します。	これまで受けた民法関連科目の内容を教科書・ノート類を使って復習しておく。
2. 法律情報の検索方法と報告技術(1)	1年次の図書館ガイダンスや基礎演習等で習得した報告技術の復習をしておく。
3. 法律情報の検索方法と報告技術(2)	民法関係の専門文書を配布するので、それを事前に読み込んでくる。
4. グループ発表1周目(1)	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
5. グループ発表1周目(2)	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
6. グループ発表1周目(3)	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
7. グループ発表1周目(4)	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
8. グループ発表1周目(5)	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
9. 特別企画 ☆フィールドワークの予定	訪問先での調査内容等をそれぞれ考えてくる。
10. グループ発表2周目(1)	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
11. グループ発表2周目(2)	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
12. グループ発表2周目(3)	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
13. グループ発表2周目(4)	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
14. グループ発表2周目(5)	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
15. 春学期の総括	他大学との討論会を実施する可能性もある。

受講者へのメッセージやアドバイス:

これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」と「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。

フィードバックの方法:

発表用のレジュメ等の成果物については、ゼミ中だけでなくその前後においても適宜相談の上で改善点等を指摘する。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常時の取り組み	100	普段のゼミにおける討論への参加、発表の準備と内容といった様々な取り組みを評価する。

教科書:

六法 (どのようなものでも良いです)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

メールで連絡をとるか(tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィシアワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。

授業テーマ:	刑事法学への誘い																																																	
授業の概要:	刑事法学の領域には、犯罪と刑罰とを規定する刑法の意味・内容を解釈によって体系的に認識する刑法解釈学、個々の事件について犯罪事実を認定し刑法が予定した刑罰を言渡してそれを執行するための手続を定める刑事訴訟法の理論的検討、刑罰を執行する行刑関係者が従うべき行刑法および犯罪者の更生保護に関する犯罪者処遇法に関する理論的・実践的検討といった諸分野があって、それぞれ有機的な関連をもっています。そのほかにも、周辺領域として、脳死・臓器移植や生殖医療の問題など医事刑法の領域や、犯罪被害者の支援問題、少年犯罪とその対策等も重要です。 3年次の応用演習Iでは、(1)刑法解釈学、(2)刑事訴訟法学、(3)医事刑法学、(4)刑事政策学、(5)被害者学などの諸分野から、死刑、安楽死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、ドメスティック・バイオレンス、児童虐待、ストーカー、少年犯罪とその対策、精神障害者による犯罪とその処遇、裁判員制度、犯罪被害者保護、犯罪被害者の刑事裁判参加制度など、受講者の問題関心に添ってテーマを決め、それを少人数のグループで担当してもらい、ビデオや映画等の映像素材を活用しつつ、クラス全体で討論するという演習形式で行います。 また、夏季休暇(または冬季休暇)等を利用して、和歌山の女子刑務所や京都刑務所等の刑務所参観、女子少年院の見学のほか、合宿をとまなうフィールドワークを行う予定です。また、同志社大学刑事法ゼミとの合同ゼミ等も企画しています。																																																	
到達目標:	信頼できる複数の情報源から、必要な情報を収集することができる。 問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持つことができる。 準備や討論に積極的に参加する態度で授業に臨むことができる。 コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができる。 論理的な議論・討論ができる。																																																	
授業方法:	演習																																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th></th><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>オリエンテーション(1)</td><td>各自の興味・関心に合わせて、ゼミで扱うテーマについてのプレゼンテーションを各自で用意すること。</td></tr><tr><td>2.</td><td>オリエンテーション(2)</td><td>自分の担当するテーマについて、インターネット等を活用して、各自でリサーチを始めておくこと。</td></tr><tr><td>3.</td><td>リーガルリサーチ 研究倫理指導</td><td>研究倫理指導の内容に沿って、図書館等を活用したリサーチを進め、担当グループで分担するなど、発表の準備を進めておくこと。</td></tr><tr><td>4.</td><td>発表・討論</td><td>発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。</td></tr><tr><td>5.</td><td>発表・討論</td><td>発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。</td></tr><tr><td>6.</td><td>発表・討論</td><td>発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。</td></tr><tr><td>7.</td><td>発表・討論</td><td>発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。</td></tr><tr><td>8.</td><td>発表・討論</td><td>発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。</td></tr><tr><td>9.</td><td>発表・討論</td><td>発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。</td></tr><tr><td>10.</td><td>発表・討論</td><td>発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。</td></tr><tr><td>11.</td><td>発表・討論</td><td>発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。</td></tr><tr><td>12.</td><td>発表・討論</td><td>発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。</td></tr><tr><td>13.</td><td>発表・討論</td><td>発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。</td></tr><tr><td>14.</td><td>刑務所の問題点</td><td>現在の刑務所が抱える問題点について、十分にリサーチを行うこと。</td></tr><tr><td>15.</td><td>まとめ</td><td>前回の授業中に指示した点について、準備を行っておくこと。</td></tr></tbody></table>		授業内容	準備学習等の内容	1.	オリエンテーション(1)	各自の興味・関心に合わせて、ゼミで扱うテーマについてのプレゼンテーションを各自で用意すること。	2.	オリエンテーション(2)	自分の担当するテーマについて、インターネット等を活用して、各自でリサーチを始めておくこと。	3.	リーガルリサーチ 研究倫理指導	研究倫理指導の内容に沿って、図書館等を活用したリサーチを進め、担当グループで分担するなど、発表の準備を進めておくこと。	4.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。	5.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。	6.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。	7.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。	8.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。	9.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。	10.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。	11.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。	12.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。	13.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。	14.	刑務所の問題点	現在の刑務所が抱える問題点について、十分にリサーチを行うこと。	15.	まとめ	前回の授業中に指示した点について、準備を行っておくこと。	
	授業内容	準備学習等の内容																																																
1.	オリエンテーション(1)	各自の興味・関心に合わせて、ゼミで扱うテーマについてのプレゼンテーションを各自で用意すること。																																																
2.	オリエンテーション(2)	自分の担当するテーマについて、インターネット等を活用して、各自でリサーチを始めておくこと。																																																
3.	リーガルリサーチ 研究倫理指導	研究倫理指導の内容に沿って、図書館等を活用したリサーチを進め、担当グループで分担するなど、発表の準備を進めておくこと。																																																
4.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。																																																
5.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。																																																
6.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。																																																
7.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。																																																
8.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。																																																
9.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。																																																
10.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。																																																
11.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。																																																
12.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。																																																
13.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。																																																
14.	刑務所の問題点	現在の刑務所が抱える問題点について、十分にリサーチを行うこと。																																																
15.	まとめ	前回の授業中に指示した点について、準備を行っておくこと。																																																

受講者へのメッセージやアドバイス: 『十分考えた上で自分の意見を持つこと』は、就活や社会に出てからも求められる力ですので、大学生のうちにしっかりと準備をしておくことが大切です。刑事法的な問題を素材として、しっかりと考え、その考えを相手に伝えるトレーニングを一緒に行っていきましょう。

フィードバックの方法: マナビーを活用してコメントを行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表・討論	35%	到達目標のうち、信頼できる複数の情報源から、必要な情報を収集することができているか、問題についての正しい知識を得ているか、コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができているかを基準として評価する。
	授業への参加度	65%	到達目標のうち、問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持って授業に臨んでいるか、討論に積極的に参加しているか、論理的な議論・討論ができているかを基準として評価する。

教科書:

参考書: テーマに応じて、適宜、指示していきます。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: マナビー、オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

授業テーマ:

京都の歴史遺産とその活用

授業の概要:

京都は1200年を超える歴史を持つ巨大都市である。千年以上にもわたってひとつの文明の中心としての地位を保ってきた都市は、世界を見渡してもそうたくさんあるわけではない。この演習では、京都に存在する歴史遺産(寺社や史跡などの不動産的文化財、美術資料や古文書などの動産的文化財)を研究し、それを現代にどう活用していくかを考える。また、京都を知るためには何よりもまず、幾度も幾度も京都の町を歩き、京都の息吹を身体で感じる必要がある。受講生の諸君とともに、日本文化の精華ともいべきこの都市の魅力を味わっていきたいと思う。

到達目標:

自分で独自の研究テーマをみつけ、それについて自主的な学習ができる能力を確立する。

授業方法:

教室内での作業、受講生の発表と討論(参加者全員が必ず発言できるようにすること)、休暇期間を利用したゼミ合宿などをおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ゼミのガイダンス	自分なりの研究テーマを考えておく。
2.	同志社京田辺キャンパス内の博物館・史跡見学1	博物館・史跡見学のやりかたを考えておく。
3.	同志社京田辺キャンパス内の博物館・史跡見学2	博物館・史跡見学のやりかたを考えておく。
4.	同志社京田辺キャンパス内の博物館・史跡見学3	博物館・史跡見学のやりかたを考えておく。
5.	歴史遺産研究の方法1	自分なりの研究テーマを考えておく。
6.	歴史遺産研究の方法2	自分なりの研究テーマを考えておく。
7.	歴史遺産研究の方法3	自分なりの研究テーマを考えておく。
8.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
9.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
10.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
11.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
12.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
13.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
14.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
15.	春学期の総括	これまでの授業の内容をふりかえり、夏季休暇中の学習計画をたてる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席及びペーパー提出	30	遅刻なしに出席し、指定されたペーパー等を提出したか。
	授業への積極的参加度	20	授業中に積極的に参加したか。
	学期末のリポート	40	研究内容を適切にまとめたか。
	フィールドワーク	10	自主的にフィールドワークをおこなったかどうか。

教科書:

参考書:

仁木宏・山田邦和編『歴史家の案内する京都』(文理閣,2016)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:

kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

経営組織論の基本的な考え方を学ぶ

授業の概要:

私達は日々、様々な組織に参加しながら生活を送っています。例えば、大学、ゼミ、部活、サークル、アルバイト先…。こうした私達に参加する組織の中でも最も代表的なものは、何と言っても企業でしょう。学生の皆さんもいずれ、企業の一員として働くようになります。
本演習では、企業をはじめとする経営組織との関わりの中で、私達一人ひとりにとって切実な問題となる、モチベーション・リーダーシップ・キャリアなどのトピックを考察していきます。
本演習の目標は、経営組織論の基本的な考え方を修得することで、これらのトピックを学術的な観点から考察する能力を養うことにあります。そのために本演習では、必要に応じて、社会学や心理学など経営組織論の隣接領域の知見も学習していきます。また、ゼミ生同士の議論を通じて、自らの考えを他者にうまく伝える能力を養うことも、本演習の目標としています。

到達目標:

(1)経営組織論の基本的な考え方を修得すること
(2)組織に関わる諸現象を学術的な観点から考察する能力を養うこと
(3)議論をし、自身の考えを他者に伝える能力を養うこと

授業方法:

各回のテーマについて、あらかじめ課題文献を読んだ上で、ディスカッションを行います。
受講生には、積極的な参加が求められます。
具体的な進め方については、受講者と相談して決めます。
また、本演習は卒業研究の基礎となるものであるため、研究倫理についても合わせて指導します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	リーディング課題の予習・復習
2.	組織とはどのような場であるか？	教科書Ⅰ章の予習・復習 リフレクション・レポートの作成
3.	働く人のモチベーション(1)	教科書Ⅱ章の予習・復習
4.	働く人のモチベーション(2)	教科書Ⅱ章の予習・復習 リフレクション・レポートの作成
5.	組織におけるリーダーシップ(1)	教科書Ⅴ章の予習・復習
6.	組織におけるリーダーシップ(2)	教科書Ⅴ章の予習・復習 リフレクション・レポートの作成
7.	集団の機能／逆機能(1)	教科書Ⅳ章の予習・復習
8.	集団の機能／逆機能(2)	教科書Ⅳ章の予習・復習 リフレクション・レポートの作成
9.	組織文化(1)	教科書Ⅵ章の予習・復習
10.	組織文化(2)	教科書Ⅵ章の予習・復習 リフレクション・レポートの作成
11.	組織参加と人々のキャリア(1)	教科書Ⅲ章の予習・復習
12.	組織参加と人々のキャリア(2)	教科書Ⅲ章の予習・復習 リフレクション・レポートの作成
13.	組織の設計(1)	教科書Ⅶ章の予習・復習
14.	組織の設計(2)	教科書Ⅶ章の予習・復習 リフレクション・レポートの作成
15.	今後の研究の進め方について	リーディング課題の予習・復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

ディスカッションに参加するために、必ず指定した文献を読み、自らの考えをまとめてきて下さい。
ゼミ後には、指定した振り返りレポートに取り組んでもらいます。

フィードバックの方法:

マナビーで返却します(詳細は、初回講義時に説明します)

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ディスカッションへの参加	70%	到達目標(1)～(3)を、毎回のディスカッションにどれだけ参加・貢献したかによって評価します。
	リフレクション・レポート	30%	到達目標(1)(2)を、振り返りのレポートの内容によって評価します。

教科書:

金井壽宏『経営組織』(日経文庫)

参考書:

別途指定します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Emailなど(詳細は初回授業時に説明します)

授業テーマ:

Research and completion of graduation thesis

授業の概要:

Students will receive assistance and support to create and carry out an original research project using English to write up the results

到達目標:

Students should develop appropriate research skills and improve their English ability in all areas

授業方法:

Group/ individual instruction and research

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Self-research and reporting of results	individual research
	2. Self-research and reporting of results	individual research
	3. Self-research and reporting of results	individual research
	4. Self-research and reporting of results	individual research
	5. Self-research and reporting of results	individual research
	6. Self-research and reporting of results	individual research
	7. Mid-term progress presentation	individual research
	8. Self-research and reporting of results	individual research
	9. Self-research and reporting of results	individual research
	10. Self-research and reporting of results	individual research
	11. Self-research and reporting of results	individual research
	12. Self-research and reporting of results	individual research
	13. Final progress and presentation	individual research
	14. Final progress and presentation	individual research
	15. Debriefing and preparation for final term	individual research

受講者へのメッセージやアドバイス:

Make sure you start early and maintain steady progress. A rush at the end will result in a poor thesis.

フィードバックの方法:

Individual progress and advice

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Presentations	25	Quality of research
	Drafts	25	Writing progress and quality
	Final thesis	50	Participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	まちづくりと地域－観光と文化のかかわり		
授業の概要:	大阪や東京、あるいはみなさんの出身地域などの具体的な地域を対象地域として、その実態を幅広い問題意識と視点から調査・研究することを通して、地域空間についての理解を深めることを目標とします。受講生の多様な興味・問題意識に基づいて、4年生の卒業論文作成にむけて実践的な作業を行います。		
到達目標:	1:研究の基本的な姿勢と、オリジナルの視点からの調査研究を進める。 2:卒業研究に向けて、ゼミ生相互の議論を深化させる。		
授業方法:	演習・ゼミナール形式での学生個人発表を中心とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに 夏季フィールドワークのフィードバック	配布資料の確認	
	2. グループコンペ観光課題の討論	国立国会図書館HPの事前調査	
	3. 研究発表と研究指導1	論文の確認と精読	
	4. 研究発表と研究指導2	各自の発表検討	
	5. 研究発表と研究指導3	PPT準備と発表内容の検討	
	6. 研究発表と研究指導4	PPT準備と発表内容の検討	
	7. 他分野との研究交流・秋期フィールドワークの課題討論	PPT準備と発表内容の検討	
	8. 研究発表と研究指導5	PPT準備と発表内容の検討	
	9. 研究発表と研究指導6	フィールドワーク対象地域の資料収集	
	10. 研究発表と研究指導7	PPT準備と発表内容の検討	
	11. 研究発表と研究指導8	PPT準備と発表内容の検討	
	12. 研究発表と研究指導9	PPT準備と発表内容の検討	
	13. 研究発表と研究指導10	PPT準備と発表内容の検討	
	14. 卒業研究中間報告討議	PPT準備と発表内容の検討	
	15. 全体の総括	レジュメ資料の確認と振り返り	
受講者へのメッセージやアドバイス:	各人の基本的な発表を通して、実際に野外に出るのフィールドワークをおこないます(京都を中心とする地域など、半期1～2回程度)。また、被災地もしくは北海道富良野を中心とした合宿学習もあわせて行います。		
フィードバックの方法:	ゼミ発表に対して各自・全体に対して随時フィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ゼミナール発表	60	到達目標1についての達成度を総合評価する。
	他の学生発表に対するコメント評価	40	到達目標2についての達成度を総合評価する。積極的な参加を前提条件として希望します。特に、自己の発表だけでなく、他の人の発表に関しても積極的な質問・議論を行うことを評価します。
教科書:	指定しない		
参考書:	天野太郎監修『古地図であるく古都・京都』三栄書房、2016(研究方法論として) 天野太郎監修『『都名所図会』でみる京都観光案内～イラストから見る200年前の京都』実業之日本社、2016 天野太郎監修『近鉄沿線の不思議と謎』実業之日本社、2016		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	マナビー・メールを総合的に活用する。		

授業テーマ:

現代社会における憲法問題

授業の概要:

「応用演習Ⅰ」に引き続いて、家庭、学校、社会、地方行政、国家機構などに関する問題、具体的事例を取り上げ、法令、条例、施策などを憲法との関係で考えていきます。「応用演習ⅠⅡ」を通して、さまざまな問題を検討したことによって、各自、とくに関心のもてる問題が出てきます。そこで、研究テーマを見つけ、卒業研究につなげます。

到達目標:

判例の論点を理解する
学説の対立を理解する
レジメの作成の仕方を修得する
発表の仕方を工夫する
研究倫理を理解する

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:事例、担当者などを決定する	判例①、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
2.	発表、討論1	判例②、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
3.	発表、討論2	判例③、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
4.	発表、討論3	判例④、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
5.	発表、討論4	判例⑤、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
6.	発表、討論5	判例⑥、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
7.	発表、討論6	判例⑦、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
8.	発表、討論7	判例⑧、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
9.	発表、討論8	判例⑨、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
10.	発表、討論9	判例⑩、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
11.	発表、討論10	判例⑪、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
12.	発表、討論11	判例⑫、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
13.	発表、討論12	判例⑬、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
14.	リーガル・レポート概論	
15.	卒業研究のテーマを決める	卒業研究のテーマを考える

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中にコメントします

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の参加度	30%	事前の準備度、積極的参加度 欠席は減点となります
	レジメ、発表、討論の内容	70%	レジメ、発表の内容、理解度 討論の内容

教科書:

初回時に決定

参考書:

授業中に指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、授業の前後に教室内で対応、Eメールの利用

授業テーマ:

授業の概要:

企業は法律を守り(法的責任)利益をあげれば(経済的責任)それでよいわけではありません。法的責任・経済的責任だけでなく、持続可能な社会と環境の実現を目指して社会的責任も果たしていくことが求められています。社会的責任に関する取り組み領域には、組織統治(コーポレートガバナンス)・人権(児童労働など)・労働(ブラック企業、長時間労働など)・環境(温暖化など)・消費者課題(リコール、個人情報保護など)・事業慣行(汚職防止など)・コミュニティ(社会貢献活動など)があります。

またグローバル化している現在、企業はこれら取り組みを国内だけでなく海外でも実施する必要があります。海外は国内と異なり文化的・経済的など様々な隔たりが存在し、国内と同様に取り組みを展開できるわけではありません。したがって隔たりに対応しつつ社会的責任の取り組みを展開していく必要があります。

応用演習では国際経営の視点を加味しつつ、企業の取り組みを考察し、企業の社会的責任について理解を深めていきます。

さらに研究倫理についても学んでいきます。

到達目標:

CSRとは何かを理解し、自らの言葉で説明できるようになること。
卒論のテーマを決めること。

授業方法:

演習形式です。毎回発表およびグループワークを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	特になし。
	2. 研究倫理について	マナビーで資料を事前に確認しておくこと。
	3. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	4. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	5. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	6. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	7. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	8. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	9. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	10. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	11. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	12. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	13. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	14. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
	15. 発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	40%	積極的にゼミに参加するかどうかを基準とする。
	発表	30%	準備学習、発表内容の達成度合いを評価する。
	グループワーク	30%	準備学習、積極的な参加度合いを評価する。

教科書:

川村雅彦(2015)『CSR経営パーフェクトガイド』ウィズワークス

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:

ヨーロッパの文化と日本

授業の概要:

卒論作成のための授業「卒業研究Ⅰ」への導入の期間と位置づける。テーマを自分で決めて行う個人発表を中心とする演習授業とする。プレゼンテーションは大事な技能である。その訓練を演習授業の中で行う。従って、討論会を行うことなども考えている。あわせて、都市ベルリンの研究なども取り入れていきたい。

到達目標:

ヨーロッパの文化および都市に関しての理解を深め、確かな知識に裏打ちされた観察眼を養うことを目標とする。

授業方法:

輪読、個人発表およびディスカッション。建築・都市の紹介のビデオも逐次鑑賞したい。また、フィールドワークなどにも必要に応じて取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ベルリン研究	
	2. ベルリン研究	
	3. ベルリン研究	
	4. ドイツの家と日本の家	
	5. ヨーロッパの都市とまちづくり	
	6. まちづくりと景観	
	7. 都市と文化(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
	8. 都市と文化(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
	9. 都市と文化(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
	10. 討論会(日本の町とヨーロッパの町および文化)	討論会の準備
	11. 都市と環境(テキストを輪読する)	
	12. 都市と文化(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
	13. 都市と文化(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
	14. 都市と文化(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
	15. 都市のまとめ、あるいは日本の都市の研究	

受講者へのメッセージやアドバイス:

文化および都市に関して常に関心を持ち、情報を収集する訓練をすること。それが自分の研究テーマに結びつくはずである。

フィードバックの方法:

マナビーを通して

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業に取り組む姿勢	40%	ヨーロッパの文化や都市にどれ程関心を抱いて調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
	授業での発表1	30%	卒論につながる発表に関して、どれほど調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
	授業での発表2	30%	ヨーロッパの文化および都市に関してどのような観察眼を養うことができたかを見て判断する

教科書:

竹ヶ原、フュロップ「ドイツ環境都市モデルの教訓」エネルギーフォーラム新書、2011年「わがまま歩きドイツ」(実業之日本社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応およびマナビーを通して

授業テーマ:	家族・学校・地域に関わる教育問題		
授業の概要:	春学期の学習内容の確認、研究倫理および研究の本質の学習、グループ学習テーマを策定したグループ研究及び発表、個人別テーマの発表とディスカッション		
到達目標:	協同研究の基本をマスターし、研究論文に関わる基本的素養を学び、卒論に向けての第一報を仕上げること		
授業方法:	演習、協同学習、講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	春学期に学んだことの確認ーテスト形式ー	春学期のテキストの総復習
	2.	研究とは何か、研究論文とは何か、研究倫理の再確認	レポート、論文の作成法について、改めて調べておく。
	3.	グループ別に分かれた協同研究(1)	現代教育学の重要問題を考える。
	4.	グループ別に分かれた協同研究(2)	文献収集、ディスカッション
	5.	グループ別に分かれた協同研究(3)	文献収集、ディスカッション
	6.	グループ別研究発表会(1)	パワーポイント作成、発表打ち合わせ
	7.	グループ別研究発表会(2)	パワーポイント作成、発表打ち合わせ
	8.	個人別研究発表(1)	発表者はレジメの作成、パワポの作成、受講者は質疑への参加、リフレクションをマナビー上にアップ
	9.	個人別研究発表(2)	同上
	10.	個人別研究発表(3)	同上
	11.	個人別研究発表(4)	同上
	12.	個人別研究発表(5)	同上
	13.	個人別研究発表(6)	同上
	14.	個人別研究発表(7)	同上
	15.	個人別研究発表(8)	同上
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	口頭、メール、マナビー		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プレゼンテーション	30	論理構成、パワーポイント資料、説得力
	ディスカッション能力	20	立論能力
	課題提出物	30	詳細なノート作成
	出席	20	全出席を基本に減点
教科書:	木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』、有斐閣、2009年。		
参考書:	その都度、個人ごとに教示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	研究室、メール、マナビー		

401807

応用演習Ⅱ

加藤 敦

授業テーマ:

グループ研究を通じ、主体的に卒論に取り組む力を身につけよう

授業の概要:

卒業研究において経営学で卒業論文を作成するため、「頭を使って考え、手を使って計算し、足を使って社会に飛びこむ」準備を進めます。もちろん完璧は求めません。また最初は何のことかわからないかもしれませんが、春学期のゼミを踏まえ、仲間とグループ研究に真摯に取り組むなら、誰でも基礎を体得し、翌年の卒論を通じ自分の成長を実感できるようになると信じている。受講生と相談の上、「中小企業と地域資源活用」などの共通テーマを決め、各グループが個別テーマを選定します。

到達目標:

第1に経営学の基礎理論をケーススタディを通して理解する。
第2に経営学を能動的に学ぶ際に必要となるツールとして、会計基礎・企業分析法、社会調査法、プレゼンテーション法を修得する。
第3に日本経済、ビジネス社会について理解する。
第4に積極的傾聴力、コミュニケーション力を養成する。ゼミ生諸姉には、テーマを理解するだけでなく、相手の話すことを理解し、自分の頭で考え、自分の言葉で話せるようになることを期待する。

授業方法:

小人数の演習形式で行う。各グループが主体的に研究計画策定、文献調査、財務諸表分析(または業界別標準財務諸表)、社会調査、発表・ディスカッションを進めます。グループによる運営を主とする。各グループは事例研究を行い、発表し、クラス員による討論をリードします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション 共通テーマと各グループ個別テーマを決める	
2. ビジネス研究の基礎(1): 業界研究法演習	マナビーにアップした資料「業界研究法」を予め読んでおく。
3. ビジネス研究の基礎(2): 地域研究法演習	マナビーにアップした資料「地域研究法」を予め読んでおく。
4. 社会調査と統計演習	マナビーにアップした資料「社会調査と統計」を予め読んでおく。
5. 財務分析の基礎(1): 東京デズニールゾートの経営分析演習	マナビーにアップした資料「財務分析」を予め読んでおく。
6. 財務分析の基礎(2): 中小企業経営指標の利用法演習	マナビーにアップした資料「中小企業の財務指標の読み方」を予め読んでおく。
7. 発表準備(1): 文献調査結果のとりまとめ	当該週までに文献調査を行っておく。
8. 発表準備(2): インタビュー等社会調査結果のとりまとめ	当該週までに社会調査を行っておく。
9. 各グループの発表とディスカッション(1)	発表の事前準備
10. 各グループの発表とディスカッション(2)	発表の事前準備
11. 各グループの発表とディスカッション(3)	発表の事前準備
12. 各グループの発表とディスカッション(4)	発表の事前準備
13. 各グループの発表とディスカッション(5)	発表の事前準備
14. 各グループの発表とディスカッション(6)	発表の事前準備
15. 復習並びに討論	事前に配布する資料を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

ゼミは学生達と教員とで作り出す、プロジェクト組織です。各ゼミ生には「自分がゼミのためになにができるか」を考え、能動的に行動することを期待します。

フィードバックの方法:

提出物については教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	70	日常的な授業への参加度・ゼミへの貢献度について、到達目標に照らし、欠席数、遅刻数から評価します。
グループ発表・討論	30	到達目標に照らし、グループ全体並びに各自の貢献度について評価します。

教科書:

参考書:

東洋経済新報社(2017)『会社四季報』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワー。マナビーの掲示板機能並びにEメールを利用。

授業テーマ:	企業の情報開示をめぐる問題意識を知る		
授業の概要:	この授業では、春学期の「応用演習Ⅰ」に続いて、実在する企業の開示情報を利用した企業分析のケーススタディを行う。ケーススタディの対象とする企業は、原則として、担当教員から指定せずに学生諸姉自らが選定する。 この授業ではまた、次年度の卒業論文の作成のための最初のステップとして、卒業研究のテーマの選定の参考とするため、企業の情報開示について考察している先行研究のレビューを行う。レビュー対象とする論文は、原則として、担当教員から指定せずに学生諸姉自らが選定する。		
到達目標:	この授業の目標は、次の4つである。 ① ケーススタディを通じて、企業の情報開示制度についてさらに学ぶ。 ② 学術研究として優れたよい論文を自ら効率よく見つけ出すことができるように、論文検索のための各種の方法を学ぶ。 ③ 先行研究のレビューを通じて、企業の情報開示をめぐる現在どういった諸点が問題とされ、また議論されているのか(学術研究上の問題意識)を知る。 ④ 多くの先行研究を批判的に読むことを通じて学術研究として優れたよい論文を見抜く力をつける。		
授業方法:	原則としてゼミ(演習)形式で行う。この授業では、各回の授業で取り上げるテーマと合致した、実在する企業の開示情報のケーススタディを行い、各企業がどのような開示を行っているのかについて、一般的な開示事例だけでなく、特色のある開示事例もできるだけ取り上げることによって各社のさまざまな開示事例を具体的に学ぶ。その上で、次年度の「卒業研究Ⅰ」や「卒業研究Ⅱ」の準備として、企業の情報開示を学術研究の対象として取り上げるための問題意識を持つことができるよう、学生諸姉自ら先行研究を検索・入手してレビューを行う。 また、この授業では、従来ありがちであった各回の授業時に数名の学生が順番に発表をしていくという授業形態はとらない。その代わりに、マナビーのレポート機能や掲示板機能を活用することで、全員が授業時に毎回発表ないし討論をする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。	
	2. 図書館ガイダンス		
	3. 女性の活躍状況についての情報開示のケーススタディ	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	4. レビュー対象とする先行研究論文の検討(1) 本学所蔵雑誌の中から論文を探す	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	5. 財務諸表情報と非財務情報のケーススタディ 配当政策と研究開発活動に着目して リスク情報に着目して	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	6. 持合い株式についての情報開示のケーススタディ	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	7. 企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	8. 企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	9. 企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー(3)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	10. レビュー対象とする先行研究論文の検討(2) 同じ著者または同じテーマの複数の論文を探す	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	11. 役員報酬・監査報酬の情報開示のケース・スタディ	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	12. 役員についての情報開示のケーススタディ	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	13. 企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー(4)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	14. 企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー(5)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	15. 企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー(6)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	この授業では、各学生が実際にレビューする論文数は限られているものの、各学生がレビュー対象とする論文を自由に選定するので、全体としては企業の情報開示についての多岐に渡る内容(論点)の論文を多数読むことができるようになっていく。多くの先行研究のレビューを行うことで、企業の情報開示について学術研究上の問題意識を持つことは、次年度の卒業研究を行う上で必須である。 なお、この授業は、ゼミ(演習)形式のため、毎回授業に出席することはもちろんのこと、授業への積極的な参加と他の学生諸姉との協調が必要である。		
フィードバックの方法:	マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50%	ケーススタディや先行研究のレビューを通じて、企業の情報開示について学術研究上の問題意識を持つことができたかどうかを基準とする。
	授業への積極的参加度	50%	出席のほか、授業中に積極的に発言するなどによって、学び得た知識の共有化を図ることができたかどうかを評価する。
教科書:	特になし		
参考書:	澤口実・内田修平・高田洋輔編著『コーポレートガバナンス・コードの実務』(第2版)商事法務、2016年。 田中隆一著『計量経済学の第一歩―実証分析のススメ』有斐閣、2015年。 田村威文・中條祐介・浅野信博著『会計学の手法―実証・分析・実験によるアプローチ』中央経済社、2015年。 塚本英巨・三菱UFJ信託銀行法人コンサルティング部会社法務コンサルティング室著『監査等委員会設置会社移行会社の事例分析』(別冊商事法務No.399) 商事法務、2015年。 豊泉貫太郎責任編集『会社法の実務とコーポレートガバナンス・コードの考え方―平成26年改正会社法を素材として』弁護士会館ブックセンター出版部LABO、2016年。 樋口達・山内宏光・小松真理子著『コーポレートガバナンス・コードに対応した招集通知・議案の記載例』商事法務、2016年。 平松一夫監訳『会計学の研究方法』中央経済社、2015年。 プロネクサスディスクロージャー研究部編『招集通知・議案の記載事例〔平成28年版〕』(別冊商事法務No.405) 商事法務、2016年。 松田由貴著『社外取締役・社外監査役の兼職等状況の分析』(別冊商事法務No.402) 商事法務、2016年。		

森・濱田松本法律事務所編『コードに対応したコーポレート・ガバナンス報告書の記載事例の分析〔平成27年版〕』（別冊商事法務No.400）商事法務、2015年。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法：

マナビーの掲示板機能
オフィスアワー

授業テーマ:

地域振興と観光・余暇、現代日本の家族と福祉

授業の概要:

社会学の視点から、現代日本の家族(関係)の変容、少子高齢化を反映した地域福祉ニーズの高まりと地域福祉実践、戦後日本の生活様式の変遷、出身地の地方都市の振興・まちづくり、戦後日本の余暇と観光に関する史的研究など、幅広く取り組みます。

到達目標:

4年次の卒業研究で主体的に研究テーマが設定できること。そのためには、3年次応用演習でテーマに関する先行研究が大切です。

授業方法:

各自が自由に設定したテーマごとにグループを作って、相互にゼミ発表をしていきます。質問や意見の交換のなかから、自分たちが意識していなかった問題のとらえ方や新たな問題の発見につながればよいでしょう。必要に応じて、フィールド参加や調査活動ができればよい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	グループ構成の調整	
2.	研究課題の再設定	卒業生の卒論テーマを参照
3.	グループA その1 設定テーマの現状と課題	卒業生の卒論読了
4.	グループB その1 設定テーマの現状と課題	卒業生の卒論読了
5.	グループC その1 設定テーマの現状と課題	卒業生の卒論読了
6.	グループA その2 設定テーマのデータ収集と分析(官庁統計)	国勢調査の活用法
7.	グループB その2 設定テーマのデータ収集と分析(官庁統計)	国勢調査の活用
8.	グループC その2 設定テーマのデータ収集と分析(官庁統計)	国勢調査の活用
9.	グループA その3 設定テーマのデータ収集t分析(民間研究機関)	大学その他の民間研究機関の諸調査
10.	グループB その3 設定テーマのデータ収集t分析(民間研究機関)	大学その他の民間研究機関の諸調査
11.	グループC その3 設定テーマのデータ収集t分析(民間研究機関)	大学その他の民間研究機関の諸調査
12.	グループA その4 研究テーマの再設定(卒業研究テーマの構想)	グループから個人研究への展開
13.	グループB その4 研究テーマの再設定(卒業研究テーマの構想)	グループから個人研究への展開
14.	グループC その4 研究テーマの再設定(卒業研究テーマの構想)	グループから個人研究への展開
15.	全体的なふりかえり	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ゼミ発表に際しては、事前に教員と相談し、発表内容を確認すること。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	60%	集団作業などへの貢献度で評価する。
	個人研究の到達度	40%	研究テーマの独自性や習熟度で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

tkono@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	地域にいかす臨床心理学		
授業の概要:	心の健康の維持・向上のための支援について、臨床心理学の立場から学ぶことが授業の目標です。応用演習Ⅰ・Ⅱを通して、発達支援の実践などを取り上げ、受講生の身近な世界での課題の発見・探究を行います。特に応用演習Ⅱでは、春学期に学んだ内容を基に実際の地域活動に役立てる体験や、他者に語る等により、さらに知識や技術の修得を深めます。これらの実践過程を研究として客観的に把握・記述する方法を学び、次年度の卒業研究に備えます。また、実践的に学びを深めるために、近隣自治体との連携により心理学の手法を用いた課題解決のプロジェクトにも挑戦します。		
到達目標:	臨床心理学のさまざまなテーマについて理解を深め、履修生の個々の関心あるテーマについて十分に説明することができる。 臨床心理の実践の基礎的な姿勢と技法、臨床心理の研究方法を知り、実際に活用することができる。		
授業方法:	臨床心理学の研究論文や代表的な文献をもとに、受講する学生の興味・関心に応じて臨床心理学の様々なテーマについて理解を深めます。また、心理臨床の実践の方法と技術の基礎を、フィールドワークや演習を通して修得することをめざします。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 研究テーマ検討・報告		レポート作成・発表準備
	2. 研究計画の立て方		文献・資料講読
	3. 研究の方法（2）質的研究:面接		文献検索・面接シート作成
	4. コミュニケーションの方法(1)(話の聴き方)		話し方演習レポート
	5. コミュニケーションの方法(2)(対象者の理解・話し方)		文献・資料講読
	6. コミュニティでの支援(行動観察・記録法)		文献・資料講読
	7. コミュニティでの支援報告・ディスカッション		支援報告準備
	8. 心の健康のための心理的支援(ゲストスピーカー)		小レポート作成
	9. 演習:実験計画の立て方		実験計画立案
	10. 演習:行動変容の進め方		行動実験・分析
	11. 演習:実験・効果測定		分析結果集計・小レポート
	12. 実験データのまとめ方・報告・ディスカッション		プレゼンテーション準備
	13. 卒業研究に向けて(1):テーマの選び方		文献・資料講読
	14. 卒業研究に向けて(2):卒業研究報告会(先輩ゼミ生)		資料講読
	15. 全体のまとめ		レポート作成
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業時間内のコメントで講評をフィードバックします。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	40	出席状況・授業への参加度
	レポート	30	テーマの理解度と、支援の実際と基本姿勢とを論理的に説明できるかを基準とします。
	プレゼンテーション	30	プレゼンテーション・スキルおよび内容からテーマの理解度と、支援の実際と基本姿勢とを論理的に説明できるかを基準とします。
教科書:	小塩真司・西口利文(編著),「心理学基礎演習vol.2 質問紙調査の手順」,ナカニシヤ出版		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	Eメール		

授業テーマ:	女性・仕事・リーダーシップ－ジェンダー研究の視点から		
授業の概要:	秋学期の前半は、フェミニズム諸理論とリーダーシップ諸理論を概観したうえで、リーダーシップの育成を目指します。ここでいう「リーダーシップ」とは、肩書を必要とせず、練習によって身につけ、身近な環境で発揮できるリーダーシップからスタートします。 そして後半は4年次の卒業研究の準備として、各自研究テーマを選び、卒業研究論文計画書を作成します。		
到達目標:	1. グローバル時代の女性活躍社会を生きるうえで必要なリーダーシップ発揮力が身についていること 2. 各自の研究テーマにそって卒業研究論文計画書を作成できること		
授業方法:	講義、プレゼンテーション、ディスカッション、文献講読、発表などをバランスよく混ぜて授業を行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業目標と授業全体の流れ、研究倫理の確認)		
	2. フェミニズム諸理論をとらえて男女間の関係性を理解する	事前配布資料を読み、概要を理解しておく	
	3. フェミニズムと世界におけるジェンダー主流化の流れを理解する	事前配布資料を読み、概要を理解しておく	
	4. リーダーシップ諸理論をとらえて自分にとってリーダーシップとは何かを考える	事前配布資料を読み、概要を理解しておく	
	5. リーダーのマインドをもつには(教科書1章 発表とディスカッション)	教科書の1章を読み、内容を理解しておく	
	6. 自分の殻を破って成長しよう(教科書2章 発表とディスカッション)	教科書の2章を読み、内容を理解しておく	
	7. リーダーとしてのスキルを伸ばす二つのプロセス(教科書3章 発表とディスカッション)	教科書の3章を読み、内容を理解しておく	
	8. 真の人間関係を築いてグループの力を活用しよう(教科書4章 発表とディスカッション)	教科書の4章を読み、内容を理解しておく	
	9. リーダーとして行動しよう(教科書5章 発表とディスカッション)	教科書の5章を読み、内容を理解しておく	
	10. 論文の書き方の説明、テーマの設定、研究目的:論文で明らかにしたいことは?	論文のテーマを考えてくる	
	11. 参考文献の収集、先行研究のレビュー	論文のテーマに関連した文献検索をし、3冊借りてくる。研究目的を考えてくる。	
	12. 先行研究のレビュー(つづき)	参考文献・先行研究を読み進める。	
	13. 理論的枠組の作り方	参考文献・先行研究を読み込んで、研究目的に関連する論点を理論的枠組としてまとめる。	
	14. 理論的枠組の作り方(つづき)	参考文献・先行研究を読み込んで、研究目的に関連する論点を理論的枠組としてまとめる。	
	15. 卒業研究論文計画書の発表とフィードバック		
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒業研究に関しては、どのようなテーマでも、ジェンダー研究の視点を入れて学問的にアプローチすることが可能ですので、各自が興味と情熱をもてるテーマを選びましょう。		
フィードバックの方法:	ワークプリントはコメントをつけて返却します。 卒業研究論文計画書は採点して返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	30%	出席、授業コメント、積極的な発言など
	ワークプリント(複数回)	20%	授業内容のポイントが理解できていること
	卒業研究論文計画書	50%	論文の作法にもとづき、研究目的が明確で、事例の分析に役立つ専門知見が理論的枠組の中にまとめられていること
教科書:	ロバート・スティーヴン・カプラン『「自分の殻」を打ち破る ハーバードのリーダーシップ講義』CCCメディアハウス 2016年		
参考書:	牛尾奈緒美・志村光太郎『女性リーダーを組織で育てるしくみ』中央経済社 2014年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール(emiyaake@dwc.doshisha.ac.jp)		

授業テーマ:	ヨーロッパの経済社会を日本と比較しながら多面的に理解する		
授業の概要:	春学期での学びを基に、ヨーロッパ社会のさまざまな側面について、各自の関心にしながら探求します。またその際に、ヨーロッパと日本を比較しながら調べるという手法をとります。各自がユニークな課題を設定し、調査・研究してまとめ、発表してもらいます。期末には各自がレポートを作成し、これが4年生で行う卒業研究につながります。 また、秋学期になるといよいよ就職活動の準備が始まります。そこで、業界研究と企業研究も同時に進め、みなさんで情報を共有したいと思います。この作業を演習の目標とも合致するようにしたいと考えています。 さらに社会生活では、意見や主張を簡明かつ正確に表明し、またプレゼンテーションする能力が求められています。そのために、習うより慣れろの精神で、数多く練習を行います。 なお、学習・研究にあたっては、研究倫理を踏まえて進めます。		
到達目標:	ヨーロッパと日本社会の特性についての理解を通じて、グローバル経済を視野に入れたビジネスパーソンの基礎力を養うことを目標にします。		
授業方法:	秋には就職活動の準備も始まるので、業界研究・企業研究を進めつつ情報交換と就活の準備をします。後半には、各自が研究テーマを定めて調査・報告し、期末レポートにまとめます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	課題について調べ、整理しておくこと	
	2. プレゼンテーションの方法	課題について調べ、整理しておくこと	
	3. 研究テーマの決定と就職の情報交換	課題について調べ、整理しておくこと	
	4. ビジネス研究と就職の情報交換	課題について調べ、整理しておくこと	
	5. ビジネス研究と就職の情報交換	課題について調べ、整理しておくこと	
	6. ビジネス研究と就職の情報交換	課題について調べ、整理しておくこと	
	7. ヨーロッパの情報交換と理解	課題について調べ、整理しておくこと	
	8. ヨーロッパの情報交換と理解	課題について調べ、整理しておくこと	
	9. ヨーロッパの情報交換と理解	課題について調べ、整理しておくこと	
	10. グループまたは個人による研究報告	課題について調べ、整理しておくこと	
	11. グループまたは個人による研究報告	課題について調べ、整理しておくこと	
	12. グループまたは個人による研究報告	課題について調べ、整理しておくこと	
	13. グループまたは個人による研究報告	課題について調べ、整理しておくこと	
	14. グループまたは個人による研究報告	課題について調べ、整理しておくこと	
	15. 秋学期の振り返り	課題について調べ、整理しておくこと	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	視野を広く持って、新聞や報道番組などから情報を獲得してほしい。	
フィードバックの方法:	報告に関してコメントを行い、全員で議論する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プレゼンテーション レポート	50 50	課題について調査・整理し、分りやすく伝えられたか 課題について調査・整理し、論理的に議論できているか
教科書:	加賀美雅弘ほか『ヨーロッパ学への招待』(第二版)、学文社。		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール		

授業テーマ:	社会保障の国際比較		
授業の概要:	前期に引き続き、比較の視点から日本やその他の国々の社会保障制度の特徴を研究し、課題と解決策に関する理解を深めることを目指します。		
到達目標:	(1)自分の関心のあるテーマについて重要な先行研究を読解し、その要旨と改善が考えられる点、さらなる研究の発展の方向性などをまとめた報告ができること(一巡目の報告)。 (2)一巡目の報告に関するディスカッションの結果を参考にしながら研究を継続し、独自の研究としての体裁を備えた報告ができること(二巡目の報告)。 (3)以上を通じて、決められた時間内に「わかりやすいプレゼンテーションを行う能力」や、既存の文献や他の人々の発表に対して「的確なコメントを行う能力」が身につけていること。		
授業方法:	講義(社会調査の基礎、論文の書き方)、文献講読、発表、ディズカッションなどを組み合わせて行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス(各自の研究関心の確認と今後の研究方針の相談、研究倫理の確認)		
	2. 社会調査入門－量的調査の方法	配布資料を前もって読んで内容を理解しておく。	
	3. 社会調査入門－質的調査の方法	配布資料を前もって読んで内容を理解しておく。	
	4. テーマの確定、先行研究の検索・収集	卒業研究論文のテーマが確定できるように考えてくる。	
	5. 先行研究の読解と論点の執筆	収集した先行研究を読み進める。	
	6. 先行研究の読解と論点の執筆(つづき)	収集した先行研究を読み進め、論点をまとめる。	
	7. 先行研究の一巡目の報告 ①	報告担当者は、発表の準備をする。	
	8. 先行研究の一巡目の報告 ②	報告担当者は、発表の準備をする。	
	9. 論文の書き方/研究計画書の書き方	先行研究の追加検索・収集、読解、論点の執筆を続ける。	
	10. 追加先行研究の読解と論点の執筆	先行研究の追加検索・収集、読解、論点の執筆を続ける。	
	11. 追加先行研究の読解と論点の執筆(つづき)	追加先行研究の読解、論点の執筆を続ける。	
	12. 過去の卒論を読む	過去の卒論(前もって配布)を読んでくる。追加先行研究の読解、論点の執筆を続ける。	
	13. テーマと先行研究に関する二順目の報告・ディスカッション ①	報告担当者は、プレゼンテーションの準備をする。	
	14. テーマと先行研究に関する二順目の報告・ディスカッション ②	報告担当者は、プレゼンテーションの準備をする。	
	15. テーマと先行研究に関する二順目の報告・ディスカッション ③	報告担当者は、プレゼンテーションの準備をする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒業研究のテーマは何を選んでもかまいませんが、原則として、興味が持続し情熱をもって取り組めるテーマであること、そのテーマに関して専門的な先行研究が複数あることを条件に考えてみてください。		
フィードバックの方法:	一巡目と二巡目の報告に関しては、授業中に各報告のコメントをします。 期末レポートの卒業研究計画書に関しては、評価点とコメントをつけて次年度の初回授業で返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	60%	出席、積極的な授業態度、発言力、発表力など
	期末レポート(卒業研究計画書)	40%	卒業研究計画書としての体裁を備えた形で、授業で発表した複数の先行研究が組み込まれていること。
教科書:	特に指定しません。		
参考書:	社会福祉士養成講座編集委員会(編)『社会調査の基礎 第3版』中央法規出版、2015年。 酒井隆『アンケート調査の進め方』日本経済新聞出版社、2012年。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	E-mail (emiyake@dwc.doshisha.ac.jp)		

授業テーマ:

日常生活におけるリスクマネジメントと保険

授業の概要:

リスクマネジメントおよび保険は、意識しているか否かはさておき、日常生活の中で数多く登場している。例えば地震について考えると、地震で建物が倒壊しないように耐震補強工事をしたり、地震が起こったときに備えて避難訓練を行ったりすることなどは地震に対するリスクマネジメントとして考えられる。また、火災保険や自動車保険についてみると、一人暮らしの人だと火災保険に、車や原付を持っている人だと自動車保険に実際に入っているケースが少なくない。さらに、医療保険や年金保険などは、病気になったときや老後の生活を支える重要な手段となっている。また最近では、女性特有の病気に対して手厚い保障を行う保険なども登場している。
本講義では、このように日常生活の中で数多く登場するリスクマネジメントや保険について考えていく。

到達目標:

リスクマネジメントや保険がどのような役割を担っているのか、どのような問題を抱えているのか、などについて学習することを通じて、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識を修得することおよびそれらの知識を使ってプレゼンテーションできるようになることを目標とする。

授業方法:

主として「個人研究」と「グループ研究」にかかる発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解
	2. グループ研究(1)	「ガイダンス」の内容に対する理解
	3. グループ研究(2)	「グループ研究」の準備
	4. グループ研究(3)	「グループ研究」の準備
	5. グループ研究(4)	「グループ研究」の準備
	6. グループ研究(5)	「グループ研究」の準備
	7. グループ研究(6)	「グループ研究」の準備
	8. グループ研究(7)	「グループ研究」の準備
	9. グループ研究(8)	「グループ研究」の準備
	10. グループ研究(9)	「グループ研究」の準備
	11. 個人研究(1)	「個人研究」の準備
	12. 個人研究(2)	「個人研究」の準備
	13. 個人研究(3)	「個人研究」の準備
	14. 個人研究(4)	「個人研究」の準備
	15. 総括	全体の振り返り等

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中において、担当教員が適宜コメントすることで、発表の内容についてのフィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	個人研究の発表	20	個人研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
	グループ研究の発表	30	グループ研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
	期末レポート	30	期末レポートより、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度を評価する。
	授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなど、議論の活発化にどの程度貢献しているかによって評価する。

教科書:

参考書:

家森信善(編著)『はじめて学ぶ保険のしくみ(第2版)』中央経済社、2015年
下和田功(編)『はじめて学ぶリスクと保険(第4版)』有斐閣、2014年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

教員のメールアドレス:mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	グローバル時代の社会現象を読み解く		
授業の概要:	本演習では、応用演習Ⅰでの学習を踏まえ、各受講生が選定したにテーマに取り組むための研究視点と方法論の学習を行います。ここでは、特定の研究分野を限定せず、複合的な社会現象を調査・分析するための社会科学的な視点と方法を幅広く学ぶ予定です。くわえて本演習でも、研究倫理についての学習を継続して行います。 また上記の学習を踏まえた上で、研究計画書の作成に取り組む予定です。ここで作成した計画書は、必ずしも卒業研究につなげる必要はありませんが、各受講生は卒業論文の執筆に向けたケーススタディあるいはシミュレーションとして取り組まれることを期待します。		
到達目標:	・複合的な社会現象を調査・分析するための社会科学的な視点と方法を習得する。 ・卒業研究論文に向け研究計画書の制作法を理解し実践する。 ・自らの主張や見解を第三者に説得的に説明できる調査法と研究計画書の制作法を身に付ける。 ・社会責任としてグローバルに通用する研究倫理を確認し習得する。		
授業方法:	演習形式 ・本演習では、社会調査と研究計画の制作を実施します。 ・受講生の数によりますが各人が最低2～3回は報告・発表を担当していただく予定です。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	前期の指示に従い事前準備をしておいてください。	
	2. 社会調査方法の実践1(調査&プレゼンテーション)	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	3. 社会調査方法の実践1(調査&プレゼンテーション)	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	4. 社会調査方法の実践1(調査&プレゼンテーション)	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	5. 社会調査方法の実践1(調査&プレゼンテーション)	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	6. 社会調査方法の実践2(調査&プレゼンテーション)	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	7. 社会調査方法の実践2(調査&プレゼンテーション)	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	8. 社会調査方法の実践2(調査&プレゼンテーション)	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	9. 社会調査方法の実践2(調査&プレゼンテーション)	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	10. 卒業研究のテーマ決定(プレゼンテーション&計画書)	研究計画書の制作は事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	11. 卒業研究のテーマ決定(プレゼンテーション&計画書)	研究計画書の制作は事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	12. 卒業研究のテーマ決定(プレゼンテーション&計画書)	研究計画書の制作は事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	13. 卒業研究のテーマ決定(プレゼンテーション&計画書)	研究計画書の制作は事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	14. 卒業研究のテーマ決定(プレゼンテーション&計画書)	研究計画書の制作は事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	
	15. まとめ(卒業研究制作に向けて)	各自のこれまでの調査法や研究計画の制作を通して得たポイントや理解を整理しておいてください。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	なお本年度は、北海道知床半島周辺地域でのフィールドワーク実習を計画しています。この実習への参加・不参加は自由ですが、本受講生には、机上の学習のみならず、実体験を通して研究視野を広げることを期待します。 この他、シンポジウム・講演会への参加や他大学との交流活動など、学外での学習の機会も積極的に作る予定です。ちなみに2016年度は、北海道東部の標津町において地域住民の方々への調査成果の還元を目的とした公開セミナーを開催しました。またゼミ生の希望があれば、フィールドワークをテーマとしたインターカレッジの開催も計画しています。		
フィードバックの方法:	・各回の個別のプレゼンテーションとディスカッション後にアドバイスや評価を行います。 ・最終回に各受講生に対して総評と評価を行います。		

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表、討論	40%	発表と討論は、到達目標である「複合的な社会現象を調査・分析するための社会科学的な視点と方法」を習得し、その上で卒業研究論文に向けた研究計画書の制作法を理解し実践できているか評価します。
	授業への参加度	60%	到達目標である調査方法と研究計画書の制作法を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡 方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ:	観光に関連する産業および地域に関する経営学的研究		
授業の概要:	前半は、夏休みに実施予定のフィールドワークで得られた、実際の観光に対する理解を、グループでまとめて報告する。これによって、フィールドワークでの各自の体験をより深い理解へとつなげていく。本演習の大部分は、グループワーク形式によるマーケティング・リサーチ実習になる。各グループが設定した興味ある対象に対して、マーケティング・リサーチの手法を適切に適用することによって、表面的な理解では得られない、人々の意見や行動そしてそれらの間の関連といった社会の本質に迫る知識の獲得を実行できる能力を獲得する。		
到達目標:	フィールドワークで得た情報から、現実の観光の現場についてより深い理解をする。マーケティング・リサーチの手法とその考え方を理解し、自身が興味を持つ対象に対してマーケティング・リサーチを行うことによって、客観的・科学的な理解を深める能力を獲得する。		
授業方法:	演習 とくに、グループワーク形式での実習が中心となる		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. フィールドワークの結果まとめ・報告書作成	夏休みに実施したフィールドワークで得た情報を整理してくる	
	2. フィールドワークの結果報告	グループのメンバーと協力して、フィールドワークの結果報告の準備	
	3. マーケティング・リサーチへのオリエンテーション	マーケティング・リサーチで調査したい対象について考え、下調べを行ってくる	
	4. マーケティング・リサーチ実習(1): グループ編成とテーマ設定	マーケティング・リサーチで調査したい対象について考え、下調べを行ってくる	
	5. マーケティング・リサーチ実習(2): テーマに関する問題設定	グループで決定した調査対象について情報収集を行ってくる	
	6. マーケティング・リサーチ実習(3): 問題に対する仮説構築	グループで決定した調査対象について情報収集を行ってくる	
	7. マーケティング・リサーチ実習(4): 仮説に基づいた質問設計	グループで決定した仮説に基づいた質問を考えてくる	
	8. マーケティング・リサーチ実習(5): 質問票作成	グループで決定した質問を載せた質問票の案を作成してくる	
	9. マーケティング・リサーチ実習(6): 質問票の配布・回収とデータ入力	グループのメンバーと協力して、質問票を完成させてくる	
	10. マーケティング・リサーチ実習(7): データ入力	グループのメンバーと協力して、質問票を完成させてくる配布し、回答を記入してもらってくる	
	11. マーケティング・リサーチ実習(8): データ集計	グループのメンバーと分担して、回答済み質問票からデータを入力してくる	
	12. マーケティング・リサーチ実習(9): データ分析	仮説を検証するためには、どのような分析が必要かを考えてくる	
	13. マーケティング・リサーチ実習(10): データ分析の解釈と報告書作成	分析結果からどのようなことがいえるかを考えてくる	
	14. マーケティング・リサーチ実習(11): 報告書の検討	報告書の案を作成してくる	
	15. 講義全体の振り返り	報告書を完成させてくる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本演習は、マーケティング・リサーチ実習が中心となるが、あるテーマについて深く考え、仮説を構築し、それを多くの人々から集めたデータを用いて検証するという手続きは、あらゆる社会的現象を客観的に理解する上で重要な手段であるから、この手法とその基礎となる考え方を確実に身につけるように努力して欲しい。特に、グループワーク形式で実施するので、他のメンバーに任せるのではなく、積極的に取り組む努力が必要である。		
フィードバックの方法:	報告内容に対しては、教室でコメントする。報告書(レポート)に対しては、添削してマナビーで返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	50	キチンと出席し、グループワークや報告に積極的に参加している程度
	発表、討論	20	報告やグループワークでのディスカッションに積極的に参加している程度
	レポート	30	マーケティング・リサーチの手法や考え方を理解し、自らが知りたいことに対して結論を導く能力が身につけている程度
教科書:	島口充輝・石井淳蔵『[新版]現代マーケティング』有斐閣		
参考書:	恩蔵直人・富田健司編著『1からのマーケティング分析』碩学舎, 2011 山際勇一郎・服部環『文系のためのSPSSデータ解析』ナカニシヤ出版, 2016		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)		

授業テーマ:	現代日本における「ケア」～人を支える関係づくり		
授業の概要:	この演習では、春学期に引き続き「人を支える人間関係づくり」という観点から、人間と現代社会への理解を深めます。その際、教員がこれまで行ってきた九州大学病院小児病棟の小児がんの子どもたちや京都のバプテストホーム入居の高齢者の方々への支援、いのちの電話での自殺予防活動などを例にあげながら、さまざまな背景を持った人々が「違いを大切にしながらつながる」にはどうしたらよいかを考え、現場でのフィールドワークをし、実際に才藤ゼミでのプロジェクトやボランティア活動として実践します。また春学期に引き続き、研究活動と対人援助活動の倫理についても学びます。 具体的には、大災害と心のケア、いじめ・虐待の被害者や孤独な人々へのサポート、死に行く人への看取り(みとり)、グリーフ(悲嘆)のケア、精神科におけるケア、介護とケア、宗教とスピリチュアルケアなどのなかからみなさんの関心に従って自由にテーマを選び、宗教学・神学・心理学・社会学等の学問成果を学びながら考察します。		
到達目標:	秋学期の授業の目標は、学生が、1)「現代日本におけるケア」に関わるいくつかのテーマについて理解し、2)現代日本に生きる自分の立場を見つめながらそれらの問題を考察し、3)次年度の卒業論文作成へと向けて自分の研究テーマを設定することです。		
授業方法:	演習形式。講義、フィールドワーク、グループ学習、個人発表とディスカッションによって学びを深めます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. 研究計画の立て方、プロジェクト活動の計画①	卒業論文に向けて研究計画を考えてくる	
	3. 研究計画の立て方、プロジェクト活動の計画②	ゼミでのプロジェクト活動について考えてくる	
	4. グループ発表のテーマの検討とグループ作り	グループ発表のテーマについて考えてくる	
	5. グループ発表とディスカッション①	自主的にグループ発表の準備を進める	
	6. グループ発表とディスカッション②	自主的にグループ発表の準備を進める	
	7. グループ発表とディスカッション③	自主的にグループ発表の準備を進める	
	8. グループ発表とディスカッション④	自主的にグループ発表の準備を進める	
	9. グループ発表とディスカッション⑤	自主的にグループ発表の準備を進める	
	10. 卒業研究テーマの設定	卒業論文のテーマについて考えてくる	
	11. 卒業研究に向けての研究計画書作成	卒業論文に向けた研究計画書を作成してくる	
	12. 個人発表①	卒論のテーマについて発表とレポートの準備をする	
	13. 個人発表②	卒論のテーマについて発表とレポートの準備をする	
	14. 個人発表③	卒論のテーマについて発表とレポートの準備をする	
	15. 1年間のまとめとふりかえり		
受講者へのメッセージやアドバイス:	このゼミでの学びのプロセスに沿って行けば、4回生の冬には受講生全員が卒業論文を仕上げるができるようになります。1月には同志社びわこリトリートセンターで4回生の卒業論文発表会に参加する合同ゼミ合宿をしますので、全員参加してください。 研究を幅広くすすめるために、受講生がフィールドワークやボランティア活動に参加できるように積極的に支援します。また、4回生や卒業生との交流の機会を作り、就職活動や卒論執筆の体験について語りあえるようにします。発表やボランティア活動・プロジェクト活動のために、自分たちで自主的に準備を進めてください。		
フィードバックの方法:	教室で発表にコメントしたり質問に答えたりします。また期末レポートはコメントして返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	40	クラスの出席と授業への積極的参加度により評価する。
	発表	20	グループ発表への貢献度や発表の内容によって評価する。
	期末レポート	40	レポートと参考文献のブックレビューの内容によって評価する。
教科書:	特になし。必要に応じてリーディング資料を配布します。		
参考書:	必要と思われる資料や文献を授業中に紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーを利用する他、メールcsaito@dw.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。		

授業テーマ:

比較文化―グローバル化社会を生きる知恵

授業の概要:

グローバル化社会において、異文化への理解力、異文化とコミュニケーションする能力がますます求められる。比較文化研究は、文化間の違いが由来する歴史背景を調べ、それぞれの文化の個性を理解し、文化間の違いを乗り越えるのにどうすればいいかを考える学問である。この授業は受講者が、宗教・神話・文学・美術・音楽・映画・アニメ・ファッション・料理・・・などなど、さまざまなテーマをとりあげて文化間の違いを自由に比較研究し、ひとつの研究テーマを定めて深く調べることを通して、異文化理解の力やグローバル化社会を生きる知恵を身につけることを目標とする。
さらに、調べと発表の演習を通して、情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力、という五つの力も鍛えていく。

到達目標:

下記の5つの力を身につける
○情報収集力
○情報分析力
○問題発見力
○問題解決力
○プレゼン力

授業方法:

教員はあくまでアドバイザーに徹し、ゼミ生の自主研究とグループ研究を奨励する。自己評価と相互評価を取り入れて、自己管理能力・自己実現力を磨いていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。
	2. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	3. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	4. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	5. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	6. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	7. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	8. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	9. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	10. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	11. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	12. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	13. 自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
	14. レポートや論文作成方法と研究倫理について	レポートや論文作成方法と研究倫理に関するプリント資料を読む。
	15. 総括	総括の準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
	発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうか、ゼミのディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
	授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板

授業テーマ:	事例で学ぶ民法 ～説得する経験を積む～		
授業の概要:	この演習は、「応用演習Ⅰ」と同様に、民法に関する知識を縦横に使って、異なる主張を持つ相手方を説得する経験を積んでもらうことを目的としています。争う当事者の双方の法的主張を整理・理解し、基本的な考え方を学びます。 「応用演習Ⅱ」では、「応用演習Ⅰ」で学んだ基本的な民法学習の取り組み方を、実践の場で用いてもらうことに主眼を置きます。具体的には、他大学ゼミとの討論会を実施し、そこで議論を戦わせることで自分達の考えを相手方に伝え、説得する経験を積んでもらいます。そのため、授業時間外での活動が増えますが、それに積極的に取り組んでくれる人の参加を期待しています。なお、「応用演習Ⅰ」に引き続き、「発表が苦手」という人も、ここからじっくり取り組んでくれば、その姿勢を積極的に評価します。		
到達目標:	○民法に関する知識を理解し、具体的事例に適用して結論を導くことができるようになる。 ○様々な考え方があることを理解し、自分と異なる考え方を持つ相手を説得する経験を積む。 ○プレゼンテーションの技法を習得する(レジュメ作成・口頭発表・PowerPoint作成など)。		
授業方法:	口頭発表 ※他大学ゼミとの討論会を実施します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	- ガイダンス ※ゼミの進め方について相談します。 - グループ発表(1) - グループ発表(2) - グループ発表(3) - グループ発表(4) - 特別企画 ☆フィールドワーク - 討論会①問題の検討(1) - 討論会①問題の検討(2) - 討論会①問題の検討(3) - 民法討論会① - 討論会②問題の検討(1) - 討論会②問題の検討(2) - 討論会②問題の検討(3) - 民法討論会② - 秋学期の総括		春学期の「応用演習Ⅰ」の内容の復習をしておく。 各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。 各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。 各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。 各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。 訪問先での調査内容等をそれぞれ考えてくる。 それぞれ問題に関する資料を調査する。 それぞれ問題に関する資料を調査する。 討論会で使用する資料を作成してくる。 それぞれ問題に関する資料を調査する。 それぞれ問題に関する資料を調査する。 討論会で使用する資料を作成してくる。
受講者へのメッセージやアドバイス:	これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」と「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。		
フィードバックの方法:	発表用のレジュメ等の成果物については、ゼミ中だけでなくその前後においても適宜相談の上で改善点等を指摘する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常時の取り組み	100	普段のゼミにおける討論への参加、発表の準備と内容といった様々な取り組みを評価する。
教科書:	六法 (どのようなものでも良いです)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	メールで連絡をとるか(tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィスアワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。		

授業テーマ:

刑事法学への誘い

授業の概要:

秋学期の応用演習Ⅱでも、応用演習Ⅰに引き続き、(1)刑法解釈学、(2)刑事訴訟法学、(3)医事刑法学、(4)刑事政策学、(5)被害者学などの諸分野から、死刑、安楽死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、ドメスティック・バイオレンス、児童虐待、ストーカー、少年犯罪とその対策、精神障害者による犯罪とその処遇、裁判員制度、犯罪被害者保護、犯罪被害者の刑事裁判参加制度など、受講者の問題関心に添ってテーマを決め、それを少人数のグループで担当してもらい、ビデオや映画等の映像素材を活用しつつ、クラス全体で討論するという演習形式で行います。

また、冬季休暇等を利用して、和歌山的女子刑務所や京都刑務所等の刑務所参観、女子少年院の見学のほか、合宿をともなうフィールドワークを行う予定です。また、同志社大学刑事法ゼミとの合同ゼミ等も企画しています。

到達目標:

信頼できる複数の情報源から、必要な情報を収集することができる。

問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持つことができる。

準備や討論に積極的に参加する態度で授業に臨むことができる。

コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができる。

論理的な議論・討論ができる。

授業方法:

演習

	授業内容	準備学習等の内容
「授業内容」および「準備学習等の内容」:		
1.	フィールドワーク等の事後学習	フィールドワーク等で学んだ内容を整理しておくこと。
2.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
3.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
4.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
5.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
6.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
7.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
8.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
9.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
10.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
11.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
12.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
13.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
14.	卒業論文の作成について 法律文献・情報の収集について	卒業研究で取り上げるテーマを選ぶように、興味・関心のあるテーマについて、各自でリサーチを行っておくこと。
15.	まとめ	前回の授業中に指示した点について、準備を行っておくこと。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

『十分考えた上で自分の意見を持つこと』は、就活や社会に出てからも求められる力ですので、大学生のうちにしっかりと準備
をしておくことが大切です。刑事法的な問題を素材として、しっかりと考え、その考えを相手に伝えるトレーニングを一緒に行っ
ていきましょう。

フィードバックの
方法:

マナビーを活用してコメントを行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表・討論	35%	到達目標のうち、信頼できる複数の情報源から、必要な情報を収集することができているか、問題についての正しい知識を得ているか、コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができているかを基準として評価する。
	授業への参加度	65%	到達目標のうち、問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持って授業に臨んでいるか、討論に積極的に参加しているか、論理的な議論・討論ができているかを基準として評価する。

教科書:

参考書:

テーマに応じて、適宜、指示していきます。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

マナビー、オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

授業テーマ:	京都の歴史遺産とその活用		
授業の概要:	京都は1200年を超える歴史を持つ巨大都市である。千年以上にもわたってひとつの文明の中心としての地位を保ってきた都市は、世界を見渡してもそうたくさんあるわけではない。この演習では、京都に存在する歴史遺産(寺社や史跡などの不動産的文化財、美術資料や古文書などの動産的文化財)を研究し、それを現代にどう活用していくかを考える。また、京都を知るためには何よりもまず、幾度も幾度も京都の町を歩き、京都の息吹を身体で感じる必要がある。受講生の諸君とともに、日本文化の精華ともいべきこの都市の魅力を味わっていきたいと思う。		
到達目標:	自分で独自の研究テーマをみつけ、それについて自主的な学習ができる能力を確立する。		
授業方法:	教室内での作業、受講生の発表と討論(参加者全員が必ず発言できるようにすること)。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	2. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	3. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	4. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	5. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	6. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	7. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	8. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	9. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	10. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	11. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	12. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	13. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	14. 個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	
	15. 秋学期の総括	これまでの授業の内容をふりかえり、来年度の学習計画をたてる。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席及びペーパー提出	30	遅刻なしに出席し、指定されたペーパー等を提出したか。
	授業への積極的参加度	20	授業中に積極的に参加したか。
	授業での研究発表と学期末のレポート	40	研究内容を適切にまとめ、わかりやすく説明したか。
	フィールドワーク	10	フィールドワーク
教科書:			
参考書:	仁木宏・山田邦和編『歴史家の案内する京都』(文理閣,2016)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力		
教員との連絡方法:	kyamada@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	経営組織と私達の仕事生活		
授業の概要:	本演習では、応用演習Ⅰにて修得した経営組織論の基礎知識をもとに、私達が仕事生活を送っていく中で直面する様々な問題を分析していきます。トピックとしては、雇用や人的資源管理に関する問題、現代的な労働と私達の生のあり方に関する問題、組織変革に関する問題などを取り扱う予定です。 本演習の目標は、私達が日々直面している課題を経営組織論の観点から分析し、何らかの解決策を導き出す力を養うことにあります。これは、皆さん自身が人生で困難な課題に直面した際、それを乗り越えていく力を養うことにもつながっています。また、実際の経営組織におけるフィールドワークを通じて、働く人々がそれぞれ何を感じ、何を考えながら日々の仕事生活を送っているのかを鋭く見抜く力、深く理解する力を養うことも目標としています。		
到達目標:	(1)私達が日々直面している課題を経営組織論の観点から分析し、何らかの解決策を導き出す力を養うこと (2)経営組織におけるフィールドワークを通じて、働く人々がそれぞれ何を感じ、何を考えながら日々の仕事生活を送っているのかを鋭く見抜く力、深く理解する力を養うこと		
授業方法:	各回のトピックに関連したリーディング教材をあらかじめ読み込んだ上で、ディスカッションをします。 議論の振り返りのレポートを作成してもらうこともあります。 いずれかのトピックに関連したフィールドワークも予定しています。 詳細は、受講生の意見を採り入れつつ、決める予定です。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション	リーディング資料の予習・復習	
	2. フィールドワークの作法	リーディング資料の予習・復習	
	3. よい人材とは何か?:採用・選抜(1)	リーディング資料の予習・復習	
	4. よい人材とは何か?:採用・選抜(2)	リーディング資料の予習・復習	
	5. よい人材とは何か?:人材育成(1)	リーディング資料の予習・復習	
	6. よい人材とは何か?:人材育成(2)	リーディング資料の予習・復習	
	7. マイノリティの社会進出:ダイバーシティ・マネジメント(1)	リーディング資料の予習・復習	
	8. マイノリティの社会進出:ダイバーシティ・マネジメント(2)	リーディング資料の予習・復習	
	9. 管理される心:感情労働(1)	リーディング資料の予習・復習	
	10. 管理される心:感情労働(2)	リーディング資料の予習・復習	
	11. 私は何者か?:組織参加と働く人のアイデンティティ(1)	リーディング資料の予習・復習	
	12. 私は何者か?:組織参加と働く人のアイデンティティ(2)	リーディング資料の予習・復習	
	13. 発想は変えられるか?:組織変革と組織文化(1)	リーディング資料の予習・復習	
	14. 発想は変えられるか?:組織変革と組織文化(2)	リーディング資料の予習・復習	
	15. 今後の研究の進め方について	リーディング資料の予習・復習	
受講者への メッセージや アドバイス:	ディスカッションに参加するために、必ず指定した文献を読み、自らの考えをまとめてきて下さい。フィールドワークの際も、前もって予備知識を修得してから参加してもらいます。 ゼミ後には、指定した振り返りレポートに取り組んでもらいます。		
フィードバックの 方法:	マナビーで返却します(詳細は、初回講義時に説明します)		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ディスカッションへの参加	70%	到達目標(1)(2)について、ゼミでのディスカッションにどれだけ参加・貢献したかによって評価します。
	リフレクション・レポート	30%	到達目標(1)(2)について、議論の振り返りのレポートの内容によって評価します。
教科書:	適宜指定します。		
参考書:	金井壽宏『経営組織』(日経文庫) その他、適宜指定します。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡 方法:	オフィスアワー、Emailなど(詳細は初回授業時に説明します)		

授業テーマ:	刑法総論の基本原理を学ぶ																																				
授業の概要:	犯罪と刑罰について定めた法を刑法とよびますが、この刑法は、刑罰という、場合によっては生命をも奪う強力かつ過酷な制裁手段を予定している点に、他の法にはない特徴があります。そして、この刑法、すなわち国家の刑罰権が、権力者の好き勝手に(「恣意的に」といいます)濫用された場合、甚だしい人権侵害が生じ、国民生活に深刻な打撃を与えるであろうことは明らかで、実は既に過去の歴史が証明しているところでもあるのです。そのため刑法では、恣意的な濫用を防ぐために、特に体系的思考や厳格解釈が要求されることになります。 この科目は、殺人罪や強盗罪といった個々の犯罪に共通する一般的性質の解明を目的として、まず刑法の基本原理について学んだ上で、構成要件論、違法性論、責任論、共犯論と、体系に沿って概観し、基本的な理解を得ることを目標とします。できるだけ難解な法律用語を避け、受講生が具体的にイメージできるよう、わかりやすい例などをあげながら進めていきます。																																				
到達目標:	刑法総論に関する基本原理・原則を理解すること。 刑法総論の各争点について、正しい理解に基づいて、論理的に考察を行い、自分の意見を持つこと。 自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。																																				
授業方法:	講義																																				
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 刑法の意義と機能</td><td>1年次の「現代社会と刑事法」の内容を復習しておくこと。</td></tr><tr><td>2. 古典学派と近代学派</td><td>テキストp.11～19を読んで、古典学派と近代学派の主張内容を整理しておくこと。</td></tr><tr><td>3. 刑法の基礎理論</td><td>テキストp.20～25を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>4. 罪刑法定主義と刑法の解釈</td><td>テキストp.26～37を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 犯罪論の体系 (1)犯罪の概念 (2)犯罪の成立要件 —構成要件該当性、違法性、責任—</td><td>テキストp.38～44を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>(3)犯罪成立阻却事由</td><td></td></tr><tr><td>6. 構成要件論 (1)不作為犯論 (2)間接正犯論</td><td>テキストp.74～87を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>7. 構成要件該当性の諸問題(1) 故意と事実の錯誤</td><td>テキストp.95～101を読んで、事実の錯誤論について理解し、具体的な事例に当てはめて、それぞれの結論が導けるようにしておくこと。</td></tr><tr><td>8. 構成要件該当性の諸問題(2) 過失犯論</td><td>テキストp.107～112を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>9. 構成要件該当性の諸問題(3) 因果関係論</td><td>テキストp.117～134を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>10. 違法性論(1) 違法性と違法性阻却</td><td>テキストp.131～141を読んで、結果無価値論と行為無価値論の基本的な内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>11. 違法性論(2) 結果無価値論と行為無価値論</td><td>結果無価値論と行為無価値論で、他説を批判しつつ、自分の立場を主張できるようにしておくこと。</td></tr><tr><td>12. 正当防衛と緊急避難(1)</td><td>正当防衛と緊急避難の各要件について整理しておくこと。</td></tr><tr><td>13. 正当防衛と緊急避難(2)</td><td>防衛意思の要否について、自分の意見を持ち、体系的に整合性を持って主張できるようにすること。</td></tr><tr><td>14. 責任論・共犯論</td><td>テキストp.174～188、p.227～234を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 刑法の意義と機能	1年次の「現代社会と刑事法」の内容を復習しておくこと。	2. 古典学派と近代学派	テキストp.11～19を読んで、古典学派と近代学派の主張内容を整理しておくこと。	3. 刑法の基礎理論	テキストp.20～25を読んで、内容を理解しておくこと。	4. 罪刑法定主義と刑法の解釈	テキストp.26～37を読んで、内容を理解しておくこと。	5. 犯罪論の体系 (1)犯罪の概念 (2)犯罪の成立要件 —構成要件該当性、違法性、責任—	テキストp.38～44を読んで、内容を理解しておくこと。	(3)犯罪成立阻却事由		6. 構成要件論 (1)不作為犯論 (2)間接正犯論	テキストp.74～87を読んで、内容を理解しておくこと。	7. 構成要件該当性の諸問題(1) 故意と事実の錯誤	テキストp.95～101を読んで、事実の錯誤論について理解し、具体的な事例に当てはめて、それぞれの結論が導けるようにしておくこと。	8. 構成要件該当性の諸問題(2) 過失犯論	テキストp.107～112を読んで、内容を理解しておくこと。	9. 構成要件該当性の諸問題(3) 因果関係論	テキストp.117～134を読んで、内容を理解しておくこと。	10. 違法性論(1) 違法性と違法性阻却	テキストp.131～141を読んで、結果無価値論と行為無価値論の基本的な内容を理解しておくこと。	11. 違法性論(2) 結果無価値論と行為無価値論	結果無価値論と行為無価値論で、他説を批判しつつ、自分の立場を主張できるようにしておくこと。	12. 正当防衛と緊急避難(1)	正当防衛と緊急避難の各要件について整理しておくこと。	13. 正当防衛と緊急避難(2)	防衛意思の要否について、自分の意見を持ち、体系的に整合性を持って主張できるようにすること。	14. 責任論・共犯論	テキストp.174～188、p.227～234を読んで、内容を理解しておくこと。	15. まとめ	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。		
授業内容	準備学習等の内容																																				
1. 刑法の意義と機能	1年次の「現代社会と刑事法」の内容を復習しておくこと。																																				
2. 古典学派と近代学派	テキストp.11～19を読んで、古典学派と近代学派の主張内容を整理しておくこと。																																				
3. 刑法の基礎理論	テキストp.20～25を読んで、内容を理解しておくこと。																																				
4. 罪刑法定主義と刑法の解釈	テキストp.26～37を読んで、内容を理解しておくこと。																																				
5. 犯罪論の体系 (1)犯罪の概念 (2)犯罪の成立要件 —構成要件該当性、違法性、責任—	テキストp.38～44を読んで、内容を理解しておくこと。																																				
(3)犯罪成立阻却事由																																					
6. 構成要件論 (1)不作為犯論 (2)間接正犯論	テキストp.74～87を読んで、内容を理解しておくこと。																																				
7. 構成要件該当性の諸問題(1) 故意と事実の錯誤	テキストp.95～101を読んで、事実の錯誤論について理解し、具体的な事例に当てはめて、それぞれの結論が導けるようにしておくこと。																																				
8. 構成要件該当性の諸問題(2) 過失犯論	テキストp.107～112を読んで、内容を理解しておくこと。																																				
9. 構成要件該当性の諸問題(3) 因果関係論	テキストp.117～134を読んで、内容を理解しておくこと。																																				
10. 違法性論(1) 違法性と違法性阻却	テキストp.131～141を読んで、結果無価値論と行為無価値論の基本的な内容を理解しておくこと。																																				
11. 違法性論(2) 結果無価値論と行為無価値論	結果無価値論と行為無価値論で、他説を批判しつつ、自分の立場を主張できるようにしておくこと。																																				
12. 正当防衛と緊急避難(1)	正当防衛と緊急避難の各要件について整理しておくこと。																																				
13. 正当防衛と緊急避難(2)	防衛意思の要否について、自分の意見を持ち、体系的に整合性を持って主張できるようにすること。																																				
14. 責任論・共犯論	テキストp.174～188、p.227～234を読んで、内容を理解しておくこと。																																				
15. まとめ	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。																																				
受講者へのメッセージやアドバイス:	刑法は、法の中で最も過酷な制裁手段である刑罰の付加が問題となりますので、乱用を防ぐため、しっかりと考えることが求められます。まず基本的な学説の対立を理解した上で、自分の刑法体系を構築しようとする積極的な姿勢を持ってください。																																				
フィードバックの方法:	提出物については、教室でまとめて解説します。																																				
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>100</td><td>到達目標にある、刑法総論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	100	到達目標にある、刑法総論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。																														
評価方法	割合	評価基準																																			
定期試験	100	到達目標にある、刑法総論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。																																			
教科書:	大谷 實『刑法総論(第4版)』(成文堂、2013年)																																				
参考書:	六法(『法学六法』(信山社)や『デイリー六法』(三省堂)、『ポケット六法』(有斐閣)等の携帯用のもので結構ですので、授業に必ず持参するようにしてください。)																																				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																				
教員との連絡方法:	オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>																																				

授業テーマ:	刑法各論の基本原理を学ぶ																																	
授業の概要:	刑法とは、犯罪と刑罰について定めている法律をさしますが、春学期の刑法Iでは、各犯罪に共通の性質について学びました。秋学期の刑法IIでは、殺人罪や窃盗罪等、個々の条文に定められている犯罪類型ごとに、どのような場合にその犯罪が成立し、どこまで処罰されるべきなのかという、犯罪の成立要件と処罰範囲および犯罪相互の関係について学んでいきます。 刑法によって保護すべき利益のことを「法益」といいますが、刑法各則は、この法益主体ごとに、それぞれ個人法益に対する罪、社会法益に対する罪、国家法益に対する罪に分類されて規定されています。 本講義では、刑法各論の諸問題について、基本的理解を得ることを目標として、できるだけわかりやすい具体的な事例をあげながら進めていきます。																																	
到達目標:	刑法各論に関する基本原理・原則を理解すること。 刑法各論の各争点について、正しい理解に基づいて、論理的に考察を行い、自分の意見を持つこと。 自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。																																	
授業方法:	講義																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. 刑法総論と刑法各論</td><td>1年次の「現代社会と刑事法」の内容を復習しておくこと。</td></tr><tr><td>2. 生命・身体に対する罪(1) (1)人の始期と終期 (2)殺人罪と堕胎罪</td><td>テキストp.7～16を読んで、内容を整理しておくこと。</td></tr><tr><td>3. 生命・身体に対する罪(2) (1)同意殺人罪 (2)傷害罪</td><td>テキストp.16～29を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>4. 生命・身体に対する罪(3) (1)傷害罪と故意 (2)傷害致死罪 (3)過失傷害罪 (4)暴行罪</td><td>テキストp.29～40を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 自由および私生活の平穩に対する罪(1) (1)逮捕・監禁罪 (2)脅迫罪と強要罪</td><td>テキストp.77～92を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>6. 自由および私生活の平穩に対する罪(2) (1)強姦罪 (2)強制わいせつ罪</td><td>テキストp.111～124を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>7. 自由および私生活の平穩に対する罪(3) 住居侵入罪</td><td>テキストp.129～139を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>8. 名誉に対する罪 (1)名誉棄損罪 (2)侮辱罪</td><td>テキストp.107～112を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>9. 財産罪総論</td><td>テキストp.181～201を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>10. 財産に対する罪(1) 窃盗罪</td><td>テキストp.202～216を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>11. 財産に対する罪(2) (1)強盗罪 (2)詐欺罪</td><td>テキストp.226～283を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>12. 財産に対する罪(3) 具体的事例の検討</td><td>授業中に指示した答案の作成方針に沿って、具体的な事例に沿った解釈論を展開できるようにしておくこと。</td></tr><tr><td>13. 社会法益に対する罪 (1)放火罪 (2)通貨偽造罪 (3)文書偽造罪</td><td>テキストp.375～390、p.424～430、p.435～475を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>14. 国家法益に対する罪</td><td>配布レジュメに沿って、テキストの該当箇所を読んで、それぞれ内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。</td></tr></tbody></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 刑法総論と刑法各論	1年次の「現代社会と刑事法」の内容を復習しておくこと。	2. 生命・身体に対する罪(1) (1)人の始期と終期 (2)殺人罪と堕胎罪	テキストp.7～16を読んで、内容を整理しておくこと。	3. 生命・身体に対する罪(2) (1)同意殺人罪 (2)傷害罪	テキストp.16～29を読んで、内容を理解しておくこと。	4. 生命・身体に対する罪(3) (1)傷害罪と故意 (2)傷害致死罪 (3)過失傷害罪 (4)暴行罪	テキストp.29～40を読んで、内容を理解しておくこと。	5. 自由および私生活の平穩に対する罪(1) (1)逮捕・監禁罪 (2)脅迫罪と強要罪	テキストp.77～92を読んで、内容を理解しておくこと。	6. 自由および私生活の平穩に対する罪(2) (1)強姦罪 (2)強制わいせつ罪	テキストp.111～124を読んで、内容を理解しておくこと。	7. 自由および私生活の平穩に対する罪(3) 住居侵入罪	テキストp.129～139を読んで、内容を理解しておくこと。	8. 名誉に対する罪 (1)名誉棄損罪 (2)侮辱罪	テキストp.107～112を読んで、内容を理解しておくこと。	9. 財産罪総論	テキストp.181～201を読んで、内容を理解しておくこと。	10. 財産に対する罪(1) 窃盗罪	テキストp.202～216を読んで、内容を理解しておくこと。	11. 財産に対する罪(2) (1)強盗罪 (2)詐欺罪	テキストp.226～283を読んで、内容を理解しておくこと。	12. 財産に対する罪(3) 具体的事例の検討	授業中に指示した答案の作成方針に沿って、具体的な事例に沿った解釈論を展開できるようにしておくこと。	13. 社会法益に対する罪 (1)放火罪 (2)通貨偽造罪 (3)文書偽造罪	テキストp.375～390、p.424～430、p.435～475を読んで、内容を理解しておくこと。	14. 国家法益に対する罪	配布レジュメに沿って、テキストの該当箇所を読んで、それぞれ内容を理解しておくこと。	15. まとめ	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。	
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 刑法総論と刑法各論	1年次の「現代社会と刑事法」の内容を復習しておくこと。																																	
2. 生命・身体に対する罪(1) (1)人の始期と終期 (2)殺人罪と堕胎罪	テキストp.7～16を読んで、内容を整理しておくこと。																																	
3. 生命・身体に対する罪(2) (1)同意殺人罪 (2)傷害罪	テキストp.16～29を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
4. 生命・身体に対する罪(3) (1)傷害罪と故意 (2)傷害致死罪 (3)過失傷害罪 (4)暴行罪	テキストp.29～40を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
5. 自由および私生活の平穩に対する罪(1) (1)逮捕・監禁罪 (2)脅迫罪と強要罪	テキストp.77～92を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
6. 自由および私生活の平穩に対する罪(2) (1)強姦罪 (2)強制わいせつ罪	テキストp.111～124を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
7. 自由および私生活の平穩に対する罪(3) 住居侵入罪	テキストp.129～139を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
8. 名誉に対する罪 (1)名誉棄損罪 (2)侮辱罪	テキストp.107～112を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
9. 財産罪総論	テキストp.181～201を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
10. 財産に対する罪(1) 窃盗罪	テキストp.202～216を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
11. 財産に対する罪(2) (1)強盗罪 (2)詐欺罪	テキストp.226～283を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
12. 財産に対する罪(3) 具体的事例の検討	授業中に指示した答案の作成方針に沿って、具体的な事例に沿った解釈論を展開できるようにしておくこと。																																	
13. 社会法益に対する罪 (1)放火罪 (2)通貨偽造罪 (3)文書偽造罪	テキストp.375～390、p.424～430、p.435～475を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
14. 国家法益に対する罪	配布レジュメに沿って、テキストの該当箇所を読んで、それぞれ内容を理解しておくこと。																																	
15. まとめ	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	刑法は、法の中で最も過酷な制裁手段である刑罰の付加が問題となりますので、乱用を防ぐため、しっかりと考えることが求められます。まず基本的な学説の対立を理解した上で、自分の刑法体系を構築しようとする積極的な姿勢を持ってください。																																	
フィードバックの方法:	提出物については、教室でまとめて解説します。																																	
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><thead><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr></thead><tbody><tr><td>定期試験</td><td>100</td><td>到達目標にある、刑法各論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。</td></tr></tbody></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	100	到達目標にある、刑法各論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。																											
評価方法	割合	評価基準																																
定期試験	100	到達目標にある、刑法各論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。																																
教科書:	大谷 實『刑法各論(第4版補訂版)』(成文堂、2015年)																																	
参考書:	六法(『法学六法』(信山社)や『デイリー六法』(三省堂)、『ポケット六法』(有斐閣)等の携帯用のもので結構ですので、授業に必ず持参するようにしてください。)																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																	
教員との連絡方法:	オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dw.doshisha.ac.jp>																																	

授業テーマ:

法律科目のなかで、民事裁判を理解し、日常生活や就職後の社会生活に生かすことを、目的とします。

授業の概要:

できるだけわかりやすく、映像も交えて、民事訴訟を中心とする民事紛争解決手続について学びます。裁判所の制度や、裁判官、民事訴訟、調停、和解、その他様々な手続についても、教えてゆきます。

到達目標:

民事訴訟法の基本的な仕組み、民事裁判の基本的な仕組みを学びます。

授業方法:

講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 以下、変更の場合あり	特になし
2.	民事訴訟法の世界へ	テキスト第1章
3.	裁判所	テキスト第2章
4.	民事訴訟法の映像	特になし
5.	当事者	テキスト第3章
6.	民事手続の映像	特になし
7.	訴え	テキスト第4章
8.	審理	テキスト第5章
9.	証拠	テキスト第6章
10.	民事裁判の映像	特になし
11.	訴訟の終了	テキスト第7章
12.	同	テキスト第7章
13.	複雑訴訟	テキスト第8章
14.	上訴再審	テキスト第9章
15.	まとめ	試験実施(持込み可)

受講者へのメッセージやアドバイス:

朝が早い科目ですが、ゆったりと、楽しく授業をしましょう。
民事訴訟法は、皆さんとはあまり縁がなく、イメージしにくいと思いますが、DVDなどの映像を用いて、できるだけ分かりやすく、お話しできればと思います。 川嶋

フィードバックの方法:

テキスト(のみ)持ち込み可能な試験を行いますので、テキストに、線を引いたり、書き込んだり、付箋をはったりして、勉強しましょう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	最終試験	100	民事訴訟の基本の理解

教科書:

川嶋四郎『民事訴訟法概説【第2版】』 弘文堂、2016年

参考書:

授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法:

メールで連絡をください。メール・アドレスは、最初の時間に教えます。

授業テーマ：実体的真実の発見と適正手続の保障

授業の概要：刑事訴訟法は刑法を実現する法律であると言えます。例えば、XがYを拳銃で射殺したという場合、刑法の世界では、刑法199条の殺人罪に該当することになるでしょう。しかし、現実の世界においては、Yの死因が何か、誰がYを殺害したのか、ということはこの時点では不明で、捜査が開始され、証拠が集められ、容疑者が逮捕され、公訴が提起され、裁判が開かれて、ようやくXが犯人であったと認定されることになります。しかし、場合によっては、さらに上訴が行われ、長いプロセスを経て、裁判が確定したときにはじめて、「XがYを殺した」という事実が事実として認められ、Xに刑罰が科されることになります。こうしてはじめて、刑法が実現された、と言えることになります。そして、この長い過程を規律しているのが、刑事訴訟法という法律なのです。

本講義では、犯罪の捜査や刑事裁判といった刑事司法手続について、手続の流れに沿って概観し、刑事訴訟法の諸原理について、基本的理解を得ることを目標とします。特に、受講者の興味関心を念頭に置きつつ、近年問題となっている冤罪問題を素材に、捜査の問題点を中心に講義を進めていきます。

到達目標：刑事司法における問題点と基本原理・原則を理解すること。
刑事手続・刑事司法に関する正しい知識に基づいて、批判的な考察ができること。
自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。

授業方法：講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 刑事司法の基本原則 刑事手続の概観	犯罪や裁判に関する小説、ドラマ、映画等を通して刑事司法に親しんでおくこと。 1年次の「現代社会と刑事法」の内容を復習し、刑事手続の基本的な流れと各過程の具体的な内容について確認しておくこと。
	2. 刑事訴訟の当事者(1) 1)裁判官 2)弁護士	裁判所ホームページ、日本弁護士連合会ホームページ等を参照し、それぞれの業務内容や主張等を確認しておくこと。
	3. 刑事訴訟の当事者(2) 3)警察	警察庁ホームページや警視庁ホームページ等を参照し、警察の組織や業務内容、活動等を理解しておくこと。
	4. 刑事訴訟の当事者(3) 4)検察 5)犯罪被害者	検察庁ホームページ等を参照し、検察の組織や業務内容、活動等を理解しておくこと。 また犯罪被害者保護の抱えている問題点等も理解しておくこと。
	5. 刑事訴訟法の意義と目的	インターネット等で、『冤罪』問題について調べ、基礎的な知識と問題意識を持つておくこと。
	6. 刑事訴訟法の構造	糾問的訴訟構造論と弾劾的訴訟構造論、職権主義と当事者主義の根本的な対立をしっかりと理解しておくこと。
	7. 捜査の構造	新しい捜査方法にはどのようなものがあるか、インターネット等で調べておくこと。
	8. 捜査法(1)	糾問的捜査観と弾劾的捜査観の対立をしっかりと理解しておくこと。
	9. 捜査法(2)	捜査法上の諸原則について、整理しておくこと。
	10. 被疑者の身体拘束と防御権(1)	レジュメのほか、講義中に指示したテキストの箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
	11. 被疑者の身体拘束と防御権(2)	レジュメのほか、講義中に指示したテキストの箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
	12. 証拠法	自白に関する証拠法上の諸法則について整理しておくこと。
	13. 新しい刑事司法の動き(1) 取調べの可視化	取調べの可視化の流れについて、各自で整理しておくこと。
	14. 陪新しい刑事司法の動き(2) 陪審制度と裁判員制度	配布レジュメを中心に、裁判員制度の概要と意義について整理しておくこと。
	15. まとめ	配布レジュメを中心に、復習を行い、重要な点を整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス：受講者には、普段からニュース報道や新聞等に接し、これらの動きを意識しておくことを望みます。

フィードバックの方法：提出物については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	到達目標にある、刑事司法に関する基本原理・原則の理解ができているか、刑事手続・刑事司法に関する正しい知識の取得と批判的な考察ができているか、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できているかを基準とする。

教科書：田口守一・佐藤博史・白取祐司『目で見える刑事訴訟法教材 第2版』(有斐閣、2009年)

参考書：『刑事訴訟法判例百選(第9版)』(有斐閣、2011年)
裁判所ホームページ
<<http://www.courts.go.jp/>>
日本弁護士連合会ホームページ
<<http://www.nichibenren.or.jp/>>
警察庁ホームページ
<http://www.npa.go.jp/><
検察庁ホームページ
<<http://www.kensatsu.go.jp/top.shtml>>
法務省『犯罪白書』
<http://www.moj.go.jp/housouken/housou_hakusho2.html>

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

授業テーマ：行政権に対する統制に関する法のあり方を学ぶ

授業の概要：国家権力の一つである行政権は、立法権・司法権とは異なり、通例、国民の権利・自由に対して、極めて多様な方法で関わってきます（立法府や司法府に比して圧倒的なマンパワーなど様々な権力リソースを有しています）。例えばデモを規制する警察がどのような権力を用いて「公共の安全」を確保しているのでしょうか？ 人権への不当な侵害を防ぐには、「公共の福祉」の実現のために行政権が行使されるときに、それが濫用されないようにしなければなりません。「警察法」や「警察官職務執行法」という法律がありますが、この点について如何なる意義を持つのでしょうか？ 本講義では、「法」が行政権の道具として用いられる一方、「法」によって行政権がどのように統制される(べき)かを、いくつかの事例などを通じて概説します。

到達目標：行政に関する法は行政権の道具であると同時に行政権を統制するものであることを理解する。
・そのために、法律等の条文や判例を読むことで、行政法がどのように存在するかを探し出すことができるようになる。
・行政法において用いられる基礎的な概念を用いて文章を作成できる。
・公務員試験や各種資格試験などを受験する者は、そこで出題される行政法の試験問題を解くための基礎的な知識を身に付ける。

授業方法：講義。本講義では教科書を用いますが、教科書の章立てと講義の順番は異なります。必要に応じて、他の図書・論文のコピーや裁判例なども用います（講義で取り上げる重要な判例はウェブで提供する予定）。基本的に板書はしません(スライドを用いる場合があります)。口述する内容を適宜筆記してください。講義時間の制約上、ディスカッション等はいりません。その代わりに、簡単なレポートを提出してもらい、それに対してコメントを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	行政法・行政作用の具体例(その1) 行政法の基本原理である「法律による行政」の原理やその背後にある権力分立を中心に、行政権が国民の自由を「侵害」する場合の法を学ぶ。	教科書第1講義、第2講義-1・2、第10講義-1、第11講義-1。判例(旭川市国保条例、成田空港＝事前手続、川崎民商＝税務調査、京都府学連＝プライバシー侵害、自動車一斉検問)。「日本国憲法」、「警察官職務執行法」など。
2.	行政法・行政作用の具体例(その2) 国民に財・サービスを提供することは行政にとっての権力源の一つである。給付行政や調達行政の公正を保障するためにどのような法がこれまで作られてきたかを学ぶ。	教科書第1講義、第2講義-1・2、第8講義-1・2、第11講義-2。判例(公営住宅使用関係、給水拒否、泉佐野市民会館、ゴミ焼却炉発注)。「公営住宅法」、「水道法」、「地方自治法」など。
3.	公法と私法 「行政法＝公法」という考え方は現在批判されているものの、行政に関する法は現在でも私人間に妥当する法とは違いがある。その違いがどこまで正当化できるかを考えながら、行政法の特徴を学ぶ。	教科書第3講義。判例(宝塚市パチンコ条例＝行政上の司法的執行、公物時効取得、自衛官交通事故＝安全配慮義務及び金銭債権の消滅時効)。「行政事件訴訟法」、「民法」、「会計法」など。
4.	行政行為 行政法学では行政の作用・活動のうち一定のパターンのもを特に「行政行為」として取り出し、特殊な規律のもとに置く(行政行為の効力論、撤回の可否など)。	教科書第4講義。判例(固定資産税課税処分＝公定力の範囲、新宿マンション建設＝違法性の承継、優生保護法指定医撤回)。「行政事件訴訟法」、「行政手続法」、「建築基準法」など。
5.	行政指導 「非権力的」と性格付けられ、殆ど規制されないが、現実には国民は行政指導に協力しない自由は認められず、行政のやりたい放題になりがちである。どこまで行政指導が許されるかなどを学ぶ。	教科書第5講義。判例(品川マンション建設、病院建設中止勧告)。「行政手続法」、「建築基準法」、「医療法」など。
6.	行政の実効性確保(エンフォースメント) 「行政強制」「行政罰」と呼ばれてきた分野。行政権による実力行使などは厳格に規制されてきたが、それゆえに機能不全も起こる。そして、新たな手段がインフォーマルに使われ出す。	教科書第9講義。判例(境川鉄杭撤去、重加算税、O157公表)。「行政代執行法」、「国税通則法」など。
7.	行政立法 行政は議会からの「委任」により立法権も獲得するとき権力分立は崩れる。行政組織内では指揮監督として「通達」が飛び交う。これらが国民にとって如何なる意味を有するかを学ぶ。	教科書第6講義、第7講義。判例(家永教科書検定＝検定基準、監獄法、パチンコ通達＝物品税法)。「国家行政組織法」、「学校教育法」、「道路交通安全法」など。
8.	行政裁量 「法律」が行政に関して一義的なルールを定めないとき、行政権は自由に行使されてよいのか。「法律による行政」の例外が何故に許される場合があるか、裁量を如何に統制すればよいかなどを学ぶ。	教科書第2講義-3。判例(伊方原発、神戸税関＝公務員懲戒、剣道受講拒否・退学、学校施設使用不許可、筑豊じん肺＝鉱山保安法)。「行政事件訴訟法」、「国家公務員法」、「地方自治法」、「土地収用法」など。
9.	行政法の一般法理 「法律による行政」の原理のほかに、民主制原理、信頼保護原理、事前手続保障、説明責任など、良き行政を実現するためには、如何なる法原理が要請されるかを学ぶ。	教科書第2講義-1・2、第7講義-2、第10講義、第19講義。判例(信頼保護、工場誘致、個人タクシー＝申請手続、旅券拒否＝理由附記)。「日本国憲法」、「行政手続法」、「情報公開法」など。
10.	行政争訟(その1) 行政不服申立、行政訴訟の類型など。国民が行政権の行使に対する不服を有するときに、如何なる手段を用いることができるかを学ぶ(民事訴訟という手段が使えないことへの注意も必要)。	教科書第12講義、第13講義-1・2。判例(日の丸君が代通達＝懲戒処分差止・義務不存在確認)。「行政不服審査法」、「行政事件訴訟法」など。
11.	行政争訟(その2) 処分性、原告適格、判決、仮の救済。国民が行政権の行使に対する不服を有するときに、如何なる手段を用いることができるかを学ぶ(民事訴訟という手段が使えないことへの注意も必要)。	教科書第13講義-2・3。判例(交通反則金通告、サテライト大阪＝原告適格、保育所入園拒否＝仮の義務付け)。「行政事件訴訟法」など。
12.	国家補償(その1) 国家賠償法1条。国民が違法な行政権の行使によって損害を被った場合に、その責任を誰が負うか、どのような要件で損害賠償が認められるかを学ぶ。	教科書第14講義-1・2、第15講義-3。判例(加害者個人責任、奈良民商、芦別国賠、小樽予防接種事故)。「国家賠償法」、「民法」など。
13.	国家補償(その2) 国家賠償法2条、損失補償。公共施設の設置・管理に瑕疵がある場合や公用収用など国民に何らかの財産的な負担が生じる場合の損害賠償・補償について学ぶ。	教科書第14講義-3、第15講義-1・2。判例(高知落石、大東水害、多摩川水害、福島駅ホーム転落、ため池条例＝損失補償の要否)。「国家賠償法」、「土地収用法」、「都市計画法」など。

14. 行政法の現代的な課題
情報公開、個人情報保護、行政改革などについて、時間があれば説明する。
15. まとめ

教科書第11講義-2・3。「情報公開法」、「行政機関個人情報保護法」など。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

教科書は事前に一読しておいてください(完璧に理解できなくても心配は要りません)。予習は大切ですが、「講義」科目においては復習がより大切だと考えております。そのため、簡単なレポートを提出してもらいます(講義内容の復習であり、定期試験に備えた学習となります)。

「概説」的な科目であるため、行政に関する法律の「条文」を細かく解釈することは求めませんが、条文を全く読まずに済ますことはできません。重要な条文は必ず読んでください(そのために講義には六法を必ず持参し、ライン等を引いてください。附箋やインデックスシールがあると便利です)。また、判例を読むときは、講義では判旨の重要な箇所しか取り上げませんが、予習・復習では「どのような事案であったか」を常に意識しながら読んでください(自分が当事者の立場ならどのように行動しただろうか、自分が裁判官ならばどのような判断を下しただろうか、考えることは大切です)。

講義で扱う行政法は抽象度が高いですが、是非、新聞等の報道のなかからも行政法を探してみてください(教科書11頁)。色々なところに行政法のネタは転がっています。

フィードバックの
方法:

本講義では、数回、簡単なレポートを提出してもらいます(基本的には講義内容の復習)。分からなかった箇所などは、教科書や参考図書などを読むことで調べてください(ウェブ上の情報は玉石混淆です。中途半端なコピーでは勉強にはなりません)。講義内容への質問があればレポートのなかに記載してください。

全員に対してコメントを附してレポートを返却することはできませんが、気になったもの(行政法の理解に誤りがある場合など)は講義のなかで補足的な説明を行います(場合によっては、本人にコメントを送り返します)。

レポートの提出方法等は、最初の講義時に説明します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	75	行政法を正しく理解できているかどうか、行政法において用いられる基礎的な概念を用いて文書を作成できているかどうかによって評価する。
平常点	25	提出された簡単なレポートを見て、行政法を正しく理解できているかどうか、行政法において用いられる基礎的な概念を用いて文書を作成できているかどうかによって評価する。

教科書:

宇賀克也(編)『ブリッジブック行政法[第3版]』(信山社、2017年春予定)

なお、「準備学習等の内容」に記載している教科書の章立てでは第2版の記述によります。第3版では章立てが変わっているかもしれませんが、その場合には最初の講義のときに、第3版に即したものを示します。

参考書:

宇賀克也ほか(編)『行政判例百選I・II[第7版]』(有斐閣、2017年秋予定)

高木光・宇賀克也(編)『行政法の争点』(有斐閣、2014年)

芝池義一『行政法読本[第4版]』(有斐閣、2016年)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡
方法:

講義時間の後に教室内で対応します。質問等が込み入っている場合は、文書を講義時に提出してください。

授業テーマ:

雇用と法

授業の概要:

労働法とは、「人が雇用されて働く上で発生する問題を法的に解決するためのシステム」をさします。本講義では、採用から退職に至る過程で生じる様々な法律問題がどのように解決されているのかについて、できるだけわかりやすい具体的な事例をあげながら解説します。

到達目標:

本講義では、労働法の基本的な仕組みと意義を概観した上で、労働に関わるルールを理解することを到達目標とします。

授業方法:

1.講義(講義の都度、レジュメ資料を配布します。)

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクションー労働法の意義	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、復習を行って下さい。
2. 労働法の概要・枠組み	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
3. 労働条件決定のシステム	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
4. 労働契約の成立	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
5. 労働契約上の権利と義務	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
6. 賃金	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
7. 労働時間	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
8. 休暇・休業ー年次有給休暇、育児・介護休業	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
9. 労災補償	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
10. 人事異動ー配転・出向	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
11. 懲戒	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
12. 雇用の終了	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
13. 男女の雇用平等	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
14. 労働組合法	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。
15. まとめ	配布レジュメ・参考資料の該当箇所を読んで、予習・復習を行って下さい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業時に質問用紙等を配布し、次週の授業にて解説を行います。

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	授業内容の理解度により評価します。

教科書:

開講時に指示します。

参考書:

土田 道夫『労働法概説(第3版)』(弘文堂、2014年)
村中 孝史・荒木 尚志 編『労働判例百選(第9版)』(有斐閣、2016年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:

第2次世界大戦の開戦から1950年代までのドイツをめぐる国際関係の歴史

授業の概要:

第2次世界大戦で敗戦国となったドイツは、超大国の米ソやヨーロッパ諸国の影響下におかれた。このために、戦後ドイツは当時の国際社会の縮図となり、ここを舞台に様々な国際関係が構築された。本講義では、ドイツをめぐる各国の見解やそれに対応するドイツの主張のせめぎ合いを通じて、戦後ヨーロッパ社会における国際関係のありかたを具体的に学ぶ。

到達目標:

・各テーマの内容をしっかりと理解できるようにする。

・ドイツを中心とした戦後ヨーロッパの国際関係を把握できるようにする。

授業方法:

毎回配布するプリント(写真、地図など)を使用しながら、講義形式で授業をおこなう。また、授業内容に応じて、映画や音楽なども使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	授業内容の復習
	2. 第2次世界大戦	授業内容の復習
	3. 1945年 ー勝利・解放・敗戦ー	授業内容の復習
	4. 連合国による戦後処理 ーヤルタ会談・ポツダム会談ー	授業内容の復習
	5. ドイツ占領政策 ー4つの占領地区ー	授業内容の復習
	6. ニュルンベルク国際軍事裁判	授業内容の復習
	7. フランスの対ドイツ政策 ールールとザールラントー	授業内容の復習
	8. アメリカの政策転換 ーマーシャル・プランへー	授業内容の復習
	9. 通貨改革とベルリン封鎖	授業内容の復習
	10. 東西ドイツ分断	授業内容の復習
	11. 2つの国旗・2つの国歌	授業内容の復習
	12. 東ドイツ社会の動乱 ー6月17日事件ー	授業内容の復習
	13. アデナウアーの西側統合政策	授業内容の復習
	14. 東西ドイツの変容	授業内容の復習
	15. まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

ヨーロッパの国際関係の特徴について、ドイツを舞台にしてわかりやすく解説する。多面的に歴史を理解する方法を学んでもらいたい。

フィードバックの方法:

授業内に提出された小レポートについては、教室で総評する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	90	到達目標に関する知識や理解度による評価する。
	授業中レポート	10	到達目標に関する知識や理解度による評価する。

教科書:

教科書は指定しない。

参考書:

初回授業で参考文献リストを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

授業の概要: 日本と途上国とはさまざまなつながりをもつが、そのなかから、国際協力をとりあげ、その概要について学ぶ。より具体的には、そもそも国際協力とはどのように定義づけられるのか。それは「国際貢献」等の隣接概念とどのように違うのか。国際協力とは何を指すもののなのか。それは時代によってどのような変遷をとげてきたのであろうか。また、具体的に、どのような活動を行うもののなかであらうか。さらに、どんなアクターがいるのだろうか。国際協力事業はどのように形成・実施されるであらうか。それは実際にどんなインパクトを生んできたのか。この科目では、このような問いに答えるための基本的な知識を獲得できるように設計し、講義を展開する。

到達目標: (1)国際協力の基本的な事項(①定義、②変化する目的や変遷、③多様なアクターとそれぞれの傾向、④効果・インパクトに関する考え方、⑤一般的な事業形成手法)について基礎的な知識を身につけている。
(2)途上国の現状やこれを改善しようとする国際協力に対して関心をもつとともに、これらと自分との関係をふまえ、可能な行動をとろうとする意欲をもっている。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	・オリエンテーション(教員自己紹介・本講義の学習到達目標の確認) ・国際協力の定義および隣接・類似概念との関係に関する講義	基本、毎回の授業後にはかならず自宅等で配布資料や自分でとったノートを見返して復習するとともに、授業内で紹介する参考資料を図書館等で入手し、読むようにしてください。以下、とくに特定かいの授業に必要な準備を記す。
2.	・国際協力の目的の変遷に関する簡単ワークと講義(その1)(とくに経済開発を中心に)	
3.	・国際協力の目的の変遷に関する講義(その2)(社会開発・人間開発・人間の安全保障を中心に)	とくに3回目の授業を理解するためには2回目の授業に配布した資料や自分のノートを読み返し、理解を確実なものにしておく必要がある。十分な時間をかけて前回の授業の復習を行ってください。
4.	・国際協力の「動機」に関する講義(政治経済的国益説・共益説・国際的義務説・共感説の解説を中心に)	
5.	・ミレニアム開発目標(MDGs)・持続可能な開発目標(SDGs)議論の紹介	とくに5回目の授業をしっかりと理解するためには、4回目に配布する資料に、自宅で、じっくりと目をとおすようにしてください。
6.	・国際協力のアクターに関する講義(その1)(概説と外務省・JICAを軸に)	6回目の授業をしっかりと理解するためには事前に自宅等でJICAのHPIに目をとおしておくことを薦める。
7.	・国際協力のアクターに関する講義(その2)(国連機関・国際金融機関を軸に)	
8.	・国際協力のアクターに関する講義(その3)(NGOやそのネットワーク団体を軸に)	
9.	中間テストとその解説	この科目では確実な基本的知識の定着をはかるため、テストを組み込んでいる。これまでの配布資料や自分のノートを見、必要があれば授業内で紹介する参考図書に、自宅等で十分な時間をかけて目をとおすようにしてください。
10.	・国際協力事業の評価ー「よい」国際協力とはどのようなものか(その1)(DAC評価5原則を中心に)	
11.	・国際協力事業の評価ー「よい」国際協力とはどのようなものか(その2)(日本における国際協力評価の歴史、CSO開発原則など)	とくに11回目の授業を理解するためには10回目の授業に配布した資料や自分のノートを読み返し、理解を確実なものにしておく必要がある。十分な時間をかけて前回の授業の復習を行ってください。
12.	・国際協力事業の形成手法(その1)(PCM手法の概要説明)	
13.	・国際協力事業の形成手法(その2)(PCM手法の体験)	13回目の授業で円滑な手法体験を行うためには12回目の授業に配布した資料や自分のノートを読み返し、理解を確実なものにしておく必要がある。十分な時間をかけて前回の授業の復習を行ってください。
14.	・国際協力事業の実際・・・国内と国際のつながり	
15.	まとめ	この科目では確実な基本的知識の定着をはかるためにテストを組み込んでいる。これまでの配布資料や自分のノートを見、必要があれば授業内で紹介する参考図書に、自宅等で十分な時間をかけて目をとおすようにしてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: ①毎回、授業後に「学生コメントシート」に講義に関する共感・疑問等を記してもらいが、とくに優れていると思われた感想がある場合、複数の学生に共通してみられる疑問がある場合、複数の学生に共通してみられる誤解がある場合は、次の回の講義のはじめに、教室全体に対して、(個人が特定されない形で)紹介し、教員コメントを提供する。
②授業内テストを2回行うが、この1回目のテストのなかの論述式部分については、ルーブリックをもちいて評価を行い、個々の学生が強み・弱みを理解できるようにし、それを踏まえたうえで、2回目のテストにつなげてもらうようにする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間テスト	35	到達目標(1)の①～③に関する知識の定着度により評価する。
	期末テスト	35	到達目標(1)の④⑤に関する知識の定着度により評価する。また、到達目標(2)については、論述問題を課し、それに対する学生の記述(途上国のために自分がとろうとする行動に関する記述)がどのくらい具体性をもつものか、なぜその特定行動をとるのか、どのくらい根拠をもって考えられているのかによって判断する)
	授業への積極的・能動的参加	30	毎回の授業で記入する「学生コメントシート」にある記述をもとに判断する。
教科書:	なし		

参考書: 適宜、指示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡
方法:

質問等がある場合は、以下の2つの方法で連絡してください。

①授業終了後、声かけする。

②okajimk@osaka-ohtani.ac.jpにメールする。(なお、その際には件名に「同志社女子大学 ○○○(氏名)」と記入してください)

授業テーマ:	国際機構と国家との協力と相克																																		
授業の概要:	19世紀に国際行政連合と呼ばれる国際機構の原型が作られて以降、様々な国際機構が設立されてきた。今日では、数え方によっては数万もの国際機構が世界には存在する。国際機構とは一体何であり、何のために設立されるのだろうか？ そして、本講義で特に注目したいのが、なぜ国家は国際機構を作り参加するのだろうか？という点である。国家が国際機構に参加することは、一定の法やルールや規範に従い、主権に対する制限を受け入れることを意味する。国際機構に、主権国家体系では解決され難い種々の問題に対処する能力を持つことが期待されるゆえんである。果たして、国際機構は国際社会を補完する存在たり得るのだろうか？																																		
到達目標:	1)様々な国際機構の目的、機能、成り立ち、限界を知り、国際秩序のあり方を考える上での参考知識とできる。 2)それぞれの国際機構に対する主権国家の関心や利益を知り、その上で日本外交における多国間主義の意味を考える機会とすることができる。																																		
授業方法:	講義形式を基本としつつ、特に考察が求められる点について、グループでのディスカッションを行う(2回に1回程度)																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション:なぜ、どのように国際機構・制度を学ぶのか</td><td>・シラバスの内容の把握 ・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる</td></tr><tr><td>2. 国際機構の歴史(1)主権国家体系の成立</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>3. 国際機構の歴史(2)国際機構の原型と発展</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>4. 国際機構の歴史(3)国際連盟の意義と限界</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>5. 国際機構の歴史(4)第二次世界大戦と国連</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>6. 国際連合(1)安全保障理事会の役割と限界</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>7. 国際連合(2)平和維持活動(PKO)と平和構築</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>8. 国際連合(3)国連ファミリーの役割</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>9. 国際機構と開発援助</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>10. 国際機構と金融</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>11. 国際機構と環境</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>12. 地域機構(1)欧州統合の原点と発展</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>13. 地域機構(2)欧州連合(EU)の拡大と深化</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>14. 地域機構(3)東南アジア諸国連合(ASEAN)の発展と今後</td><td>・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>・講義内容の復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション:なぜ、どのように国際機構・制度を学ぶのか	・シラバスの内容の把握 ・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる	2. 国際機構の歴史(1)主権国家体系の成立	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	3. 国際機構の歴史(2)国際機構の原型と発展	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	4. 国際機構の歴史(3)国際連盟の意義と限界	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	5. 国際機構の歴史(4)第二次世界大戦と国連	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	6. 国際連合(1)安全保障理事会の役割と限界	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	7. 国際連合(2)平和維持活動(PKO)と平和構築	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	8. 国際連合(3)国連ファミリーの役割	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	9. 国際機構と開発援助	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	10. 国際機構と金融	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	11. 国際機構と環境	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	12. 地域機構(1)欧州統合の原点と発展	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	13. 地域機構(2)欧州連合(EU)の拡大と深化	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	14. 地域機構(3)東南アジア諸国連合(ASEAN)の発展と今後	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握	15. まとめ	・講義内容の復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション:なぜ、どのように国際機構・制度を学ぶのか	・シラバスの内容の把握 ・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる																																		
2. 国際機構の歴史(1)主権国家体系の成立	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
3. 国際機構の歴史(2)国際機構の原型と発展	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
4. 国際機構の歴史(3)国際連盟の意義と限界	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
5. 国際機構の歴史(4)第二次世界大戦と国連	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
6. 国際連合(1)安全保障理事会の役割と限界	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
7. 国際連合(2)平和維持活動(PKO)と平和構築	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
8. 国際連合(3)国連ファミリーの役割	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
9. 国際機構と開発援助	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
10. 国際機構と金融	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
11. 国際機構と環境	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
12. 地域機構(1)欧州統合の原点と発展	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
13. 地域機構(2)欧州連合(EU)の拡大と深化	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
14. 地域機構(3)東南アジア諸国連合(ASEAN)の発展と今後	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握																																		
15. まとめ	・講義内容の復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	・小テストを実施する場合、採点の上、教室で返却する ・コメントペーパーを課した回には、質問やコメントに対して次回に教室で解説や回答を行う																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>30</td><td>積極的に授業に参加し、様々な国際機構に関する知識を身につけ、また国際機構の役割や限界や国家主権との関係について考察できるようになったかを評価する。</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>70</td><td>到達目標のうち、様々な国際機構の目的、機能、成り立ち、限界に関する知識を身につけ、国際秩序のあり方を考える上での参考知識とできるようになったかを評価する。また、主権国家の観点や日本の観点から考察ができるかどうかについても評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への参加度	30	積極的に授業に参加し、様々な国際機構に関する知識を身につけ、また国際機構の役割や限界や国家主権との関係について考察できるようになったかを評価する。	定期試験	70	到達目標のうち、様々な国際機構の目的、機能、成り立ち、限界に関する知識を身につけ、国際秩序のあり方を考える上での参考知識とできるようになったかを評価する。また、主権国家の観点や日本の観点から考察ができるかどうかについても評価する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
授業への参加度	30	積極的に授業に参加し、様々な国際機構に関する知識を身につけ、また国際機構の役割や限界や国家主権との関係について考察できるようになったかを評価する。																																	
定期試験	70	到達目標のうち、様々な国際機構の目的、機能、成り立ち、限界に関する知識を身につけ、国際秩序のあり方を考える上での参考知識とできるようになったかを評価する。また、主権国家の観点や日本の観点から考察ができるかどうかについても評価する。																																	
教科書:	横田洋三(監修)、瀧澤美佐子、富田麻理、望月康恵、吉村祥子(編著)『入門国際機構』法律文化社、2016年																																		
参考書:	渡部茂己、望月康恵(編著)『国際機構論(総合編)』国際書院、2015年																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:	諸外国の教育改革を比較教育学的・比較社会学的にとらえる		
授業の概要:	グローバル化が進んだ現在、自国の教育力を高めることは国際競争力を高めることでもあり、どの国においても質の高い教育制度の整備は重要な社会基盤となります。したがって各国ではさまざまな教育改革が行われています。どの国がどのような目的でどのような教育改革を行っているかについて、比較教育学的・比較社会学的な視点で考察することにより、各国が抱えるさまざまな社会問題と教育との関係がみえてきます。		
到達目標:	グローバル社会の多様性の中で、各国の教育改革を比較教育学的な視点と比較社会学的な視点の両方からとらえることで、教育の役割と教育の諸問題に対して理解が深まること。		
授業方法:	毎時のテーマに関してミニ講義をしますが、基本的にグループワーク、グループ発表、ディスカッションを中心に進めます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業目標と授業全体の流れ)		
	2. 教育を受ける目的、社会における学校の役割、国家における教育の役割	事前配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。	
	3. 教育改革は何のために行うのか？	事前配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。	
	4. 日本の教育制度の特色と教育問題について考えてみよう	事前配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。	
	5. フィンランドの教育制度と教育改革について考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	6. アメリカの教育制度と教育改革について考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	7. イギリスの教育制度と教育改革について考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	8. ドイツの教育制度と教育改革について考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	9. 教育問題に関するディベート試合	ディベート試合の準備をする。	
	10. シンガポールの教育制度と教育改革について考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	11. 韓国の教育制度と教育改革について考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	12. 中国の教育制度と教育改革について考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	13. ブラジルの教育制度と教育改革について考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	14. フリーターやニートについて考えてみよう：グループ発表とディスカッション	事前配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。	
	15. 振り返りとまとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	この授業では各国の教育制度をみていきますが、世界旅行をするつもりで、それぞれの国について自分が興味をもてる領域(文化、観光名所、歴史、ファッション、グルメなど)から入ってってください。		
フィードバックの方法:	ワークプリントに関しては、コメントをつけて返却します。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	40%	出席、グループワークや討論への積極的な参加度、発表など
	ワークプリント(複数回)	20%	毎回の授業内容の要点を理解し、ディスカッションテーマについて意見が書けている。
	期末レポート	40%	授業内容の要点を理解して、レポート要領の指示にしたがって書けている。
教科書:	二宮皓(編著)(2014)『新版 世界の学校－教育制度から日常の学校風景まで』学事出版		
参考書:	原清治・山内乾史・杉本均(編著)(2009)『増補版 教育の比較社会学』学文社 坂野慎二・藤田晃之(編著)(2015)『海外の教育改革』放送大学教育振興会 小川正人・岩永雅也(編著)(2015)『日本の教育改革』放送大学教育振興会		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	Eメール(emiyaake@dwc.doshisha.ac.jp)		

授業テーマ:	人口からみた中国の歴史		
授業の概要:	現在、中国は13億以上にものぼる世界一の人口大国である。周知のとおり、人口はその国のあり方はもちろん、政治、経済、社会、文化などさまざまな分野に多大な影響を与えてきた。では中国の人口は歴史上どのように変遷してきたのだろうか。たとえば古代・中世・近世・近代・現代と中国の人口は如何に増減し、政治や経済などにおいてどのようなかたちで表象されてきたのだろうか。本授業では、中国の歴代人口を時代ごとに整理するとともに、特に明代の人口飽和、清代の人口爆発、戦後中国の人口動態と一人っ子政策に焦点をあて、現代中国の流動人口と超高齢化社会を理解して対処するカギを歴史のなかに発見してみたい。アジアの諸問題を考える際には人口問題の検討が不可欠と判断するからである。		
到達目標:	中国の人口史を手がかりに、中国の歴史と現在を深く考える力を養う。		
授業方法:	授業は講義形式で行う。必要に応じてビデオを鑑賞し、その内容について討論する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	特になし	
	2. ビデオ鑑賞と討論(1)——— 民工と民工子弟学校	前回の復習	
	3. ビデオ鑑賞と討論(2)——— 疲弊する農村	前回の復習	
	4. 中国の歴代人口(1)——— 殷・周～隋唐帝国	前回の復習	
	5. 中国の歴代人口(2)——— 宋元時代	前回の復習	
	6. 明代の人口飽和	前回の復習	
	7. 清代の地域開発と人口爆発	前回の復習	
	8. 戦後中国の人口動態(1)——— 中華人民共和国の成立から大躍進まで	前回の復習	
	9. 戦後中国の人口動態(2)——— 文化大革命	前回の復習	
	10. 馬寅初と人口論論争	前回の復習	
	11. 一人っ子政策	前回の復習	
	12. 流動人口と民工	前回の復習	
	13. ビデオ鑑賞と討論(3)——— 拡大する格差	前回の復習	
	14. ビデオ鑑賞と討論(4)——— 超高齢化社会への道	前回の復習	
	15. 授業のまとめ	前回の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	中国をはじめとする東アジア世界に興味を有する学生の参加を期待しています。		
フィードバックの方法:	最終回の授業で授業の「総まとめ」を行う。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常評価	60	授業中の小テスト、出席率
	期末試験	40	授業の討論における発言
教科書:	授業中にレジュメを配布する。		
参考書:	授業中に適宜指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	taitianchu1205@yahoo.co.jp		

授業テーマ:	中国史の三大画期——特に中国近世論を中心に		
授業の概要:	中国史を学ぶとき、殷、周、秦、漢……と続く王朝興亡の歴史、すなわち王朝の建国、衰退、中興、反乱、滅亡の繰り返しとして理解することが少なくない。しかし人間が歩んできたこれまでの歴史をある基準によって段階ごとに区分する時代区分も歴史学の一つの重要な作業である。本授業では、教科書に見られる「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」という区分を近年の新しい研究を参考にしながら再検討し、中国史の三大画期と見なしうる「春秋・戦国」「唐・宋変革」「明末・清初」の意義を紹介してみたい。特にこれまで日本史に特殊な区分とされてきた「近世」を中国史をはじめとする世界史に如何にあてはめるか、具体的な事例を示しながら考えてみることにする。		
到達目標:	中国史の時代区分に関する理解を深める。		
授業方法:	講義形式で授業を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	特になし	
	2. 時代区分論とは何か？	前回の復習	
	3. さまざまな時代区分論(1)——日本の学界における時代区分論	前回の復習	
	4. さまざまな時代区分論(2)——中国の学界における時代区分論	前回の復習	
	5. 春秋・戦国時代(1)——政治・経済から見る	前回の復習	
	6. 春秋・戦国時代(2)——社会・文化から見る	前回の復習	
	7. 唐・宋変革(1)——内藤湖南の唐宋変革論1	内藤湖南「唐宋変革論」を読んでおくことが望ましい。	
	8. 唐・宋変革(2)——内藤湖南の唐宋変革論2	前回の復習	
	9. 唐・宋変革(3)——この画期に何を見出すか	前回の復習	
	10. 明末・清初(1)——宮崎市定の近世論	宮崎市定「東洋的近世」を読んでおくことが望ましい。	
	11. 明末・清初(2)——岸本美緒の近世論	岸本美緒『アジアの「近世」』を読んでおくことが望ましい。	
	12. 明末・清初(3)——近世化とは何か？	歴史学研究』特集「近世化を考える」を読んでおくことが望ましい。	
	13. 日本史における近世とアジアにおける近世	前回の復習	
	14. 近世から近代へ	前回の復習	
	15. 授業のまとめ	前回の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	中国史における近世を中心に時代をどう区分するかを考えます。中国史に興味のある学生の参加を期待しています。		
フィードバックの方法:	最終回の授業で「総まとめ」を行います。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常評価	60	授業中に行う小テスト、出席率
	期末試験	40	最終回の授業で行う総復習のテスト
教科書:	授業中にレジュメを配布する。		
参考書:	授業中に適宜指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	taitianchu1205@yahoo.co.jp		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

西欧キリスト教文化の過去・現在・未来を考える。

<宗教>は個人の内面の事柄に関わるだけではなく、広く文化/文明を構築してきた原動力でもある。また世界の紛争や対立の背景に、その大きな影響力が指摘される。そのような意味からも、<宗教>は時代状況を読み解くキーワードの一つと言えるだろう。本講義では、西欧キリスト教世界を中心に、その歩みを文化・社会史的にたどりつつ、ヨーロッパ文化の基底を明らかにして行く。さらに現代世界の課題として、宗教多元主義の可能性をキリスト教文化史の視点から展望したい。

1. キリスト教のみならず、その関連としてユダヤ教およびイスラームの歴史概略と基礎的知識の理解力の習得。
2. 現代世界のさまざまな出来事、問題の背後に横たわる宗教的・文化的背景の分析力、判断力の伸張。
3. 宗教全般に関し、その歴史的・文化的視座から考察できる冷静でバランスのとれた思考力と共に他者理解力の進展。

授業は講義形式を原則としますが、積極的な意見交換や質問は大歓迎です。なお5、9、11回目の授業はDVDを併用する予定です。

授業内容	準備学習等の内容
1. 本講義に関するオリエンテーション(ねらい、問題設定、用語解説等)	授業時配布プリントの復習 教科書1章参照
2. 「神とは何か」―宗教文化史の視座から考える	授業時配布プリントの復習
3. 「キリスト」をめぐる諸問題―復活、贖罪を中心に考える	授業時配布プリントの復習 教科書9章参照
4. 初期カトリシズムの展開とユダヤ教	授業時配布プリントの復習
5. ローマ帝国とキリスト教(I)	授業時配布プリントの復習
6. ローマ帝国とキリスト教(II)	授業時配布プリントの復習
7. 中世の教会と文化(I)	授業時配布プリントの復習
8. 中世の教会と文化(II)	授業時配布プリントの復習
9. ルネサンスとギリシアおよびイスラーム文化	授業時配布プリントの復習 教科書10章参照
10. 宗教改革の文化史的意義	授業時配布プリントの復習
11. 東方正教会とビザンティン文化	授業時配布プリントの復習
12. 西欧キリスト教文化と近代の誕生	授業時配布プリントの復習
13. キリスト教と宗教多元主義(I)	授業時配布プリントの復習 教科書訳者あとがき参照
14. キリスト教と宗教多元主義(II)	授業時配布プリントの復習 教科書6章参照
15. キリスト教文化史から見る現代の世界と宗教多元主義の可能性(結びにかえて)	授業時配布プリントの復習 教科書序文参照

1. 事後学習として、毎回配布されるプリント類は必ず見直しておいて下さい。もし分からないところがあれば、次回授業の後に質問下さい。
2. 英文資料(宗教に関わる英文雑誌記事など)も適宜配布します。授業中に解説を行いますので、英語力は関係ありませんが、参考までに英和辞典の持参をお勧めします。
3. 期末レポートの課題は11月下旬に公表します。

毎回の質問内容に関しては、その都度お答えします。期末レポートについては15回目に、まとめてコメントします。

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	70%	課題図書(教科書ないし図書館で借りられる本)の書評とします。理解力を重視。
授業出席	20%	授業への積極的参加。
自己評価申告	10%	当該科目に対する自らの取り組み姿勢を期末に評価して頂きます。

ジョン・ヒック著 若林裕訳『神とはいったい何ものか―次世代のキリスト教―』新教出版社、2014年。
なお毎講義、必ずプリント資料を配布します。

メールwakabayashi8476@yahoo.co.jpへ連絡ください。
なお火曜、水曜日の午前中は本学にきています。

授業テーマ:	亡命ユダヤ人による米独知的交流の歴史		
授業の概要:	20世紀のドイツは大きな歴史のうねりを経験しながら、アメリカの影響を強く受けてその文化的な発展を遂げたと言われる。ただし、そのなかでアメリカ文化の一方的な受容ではなく、ドイツの伝統を守ることにも主張された。その結果、アメリカの影響を受け入れながらドイツ的な文化を維持し、「融合された文化」が生み出された。本講義では、融合された文化のひとつとして学問における知的交流に焦点を当て、これを仲介した「亡命ユダヤ人たちの活動」とそれを引き起こした「ドイツ史の悲劇」を解説する。		
到達目標:	・各テーマの内容をしっかりと理解する。 ・ユダヤ人迫害や亡命について専門的な知識を習得する。		
授業方法:	毎回配布するプリント(写真、地図など)を使用しながら、講義形式で授業をおこなう。また、授業内容に応じて、博物館や記念碑を通じて学ぶ、あるいは、映画を紹介することなどを予定している。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	授業内容の復習	
	2. ドイツ国家学の形成	授業内容の復習	
	3. アメリカ政治学の発展へ	授業内容の復習	
	4. ドイツにおけるユダヤ人社会 ―フランクフルト・ゲッソー博物館―	授業内容の復習	
	5. ナチス支配下のドイツ社会 ―バイエルン広場の記念碑に学ぶ日常生活におけるユダヤ人迫害―	授業内容の復習	
	6. ナチスから逃れる亡命ユダヤ人たち	授業内容の復習	
	7. ユダヤ系知識人の亡命	授業内容の復習	
	8. 亡命したユダヤ系知識人たちとアメリカ	授業内容の復習	
	9. 裏切り者の亡命者 ―トーマス・マン―	授業内容の復習	
	10. 亡命者フランツ・ノイマン	授業内容の復習	
	11. 亡命者エルンスト・フレンケル	授業内容の復習	
	12. ドイツ政治大学	授業内容の復習	
	13. ベルリン自由大学と西ドイツ政治学の発展	授業内容の復習	
	14. ユダヤ人迫害と亡命者による知的交流の歴史	授業内容の復習	
	15. まとめ	授業内容の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ユダヤ人の迫害と亡命を中心的に学ぶことで、自分をその歴史の現場に投影して考え、自分の意見を持ってもらいたい。		
フィードバックの方法:	授業内に提出された小レポートについては、教室で総評する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
	小レポート	20	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
教科書:	教科書は指定しない。		
参考書:	初回授業で参考文献リストを配布する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で対応する。		

409000

地理学Ⅰ

天野 太郎

授業テーマ:

地域と人々との関わりー人文地理学・自然地理学の多様性

授業の概要:

地理学は、地域と人々とのさまざまな関わりを総合的に考える基礎学問です。この授業では、地理学からみた視点を幅広く紹介していくとともに、その中で文化や歴史がどのように展開して行ったのか、地図をベースに見ていきます。さらに、地質や断層といった自然地理学の領域についても触れていきます。

到達目標:

1: 地域と人々との関わりが多様なことを理解する。
2: 地域の特質について地図から考察する力を養う。
3: 人文・自然地理学両面から、わたしたちの住む地域空間のありかたについて理解する。

授業方法:

講義形式でおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. はじめに 授業概要のガイダンス	配布資料の確認
2. ヨーロッパ人たちがみた地図の世界～地理知識と宗教との関わり	配布資料の確認
3. 日本を描いた地図ー測量と植民地	配布資料の確認
4. 人文地理学の諸相 都市と農村・囲まれた都市形態	配布資料の確認
5. 景観写真からみる地域の特徴～考現学の世界	配布資料の確認・写真撮影
6. 都市空間におけるメンタルマップからみた地域課題	配布資料の確認、地図作業
7. 都市と宗教～1: 寺内町の成立から城下町への移行	配布資料の確認
8. 都市と宗教～2: 城下町の立地と現在の都市	配布資料の確認
9. 地域と地方区分	配布資料の確認
10. 京田辺の地域構造	配布資料の確認
11. 帝国主義と植民地主義	配布資料の確認
12. 自然地理学と地域1 地形と地域	配布資料の確認
13. 自然地理学と地域社会2 断層と地震～地質条件と地域	配布資料の確認
14. 自然地理学と地域社会3 断層と地震～プレートと被災地域の課題	配布資料の確認
15. 全体の総括	配布資料の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

地理学は中学校・高等学校で学んだ事柄とも大きく異なり、より広く地域のありかたを考える学問です。地理が苦手であった方や、地理を高校で履修していなくても何も問題はありません。

フィードバックの方法:

授業内にて、コメントペーパー、小レポートの内容について総合的にフィードバックを行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席/コメントペーパー	50	毎回実施するコメントペーパーにおいて到達目標1: 地域と人々との関わりが多様なことを理解する2: 地域の特質について地図から考察する力について、確認を行う。 授業中に指示する小レポートを通して到達目標3: 人文・自然地理学両面から、わたしたちの住む地域空間のありかたについて理解しているかどうか判断する。
小レポート	50	

教科書:

指定しない。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業後の教室での質疑応答、ならびにオフィスアワーを中核とした研究室での質疑応答をおこなう

授業テーマ:	私たちの身の回りの地域社会と地図		
授業の概要:	この授業では、私たちの身の回りの地域社会である京田辺市や城陽市といった南山城地域を中心とした地域社会の構造について、グループ(単独)で調査研究を行うことを目的とします。また、同時に製図作業の基礎についても学びます。		
到達目標:	1:自分たちの身の回りの地域社会の実態や課題を把握し考察する力を養う。 2:地域社会の課題について発信する力を養う。 3:地域調査の結果について、基本的な製図能力を身につけて表現することを目的とする。		
授業方法:	講義 パワーポイント、資料を用いるとともに、合同・各自のフィールドワークを行い、発表を合わせて行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに 講義の目標・ガイダンスと概要	必要資料の整理、グループ作り、フィールドワークの日程確認	
	2. 地域社会の実態～京田辺を中心とした地域1	配布資料の確認	
	3. 地域社会の実態～京田辺を中心とした地域2	配布資料の確認	
	4. 合同フィールドワークの事前学習	配布資料の確認	
	5. 合同フィールドワークの実施1 観光や地域構造について	配布資料の確認	
	6. 合同フィールドワークの実施2 観光や地域構造について	配布資料の確認	
	7. 地域社会の課題 発表と討議	配布資料の確認	
	8. 製図技能の基礎知識1	製図道具の準備	
	9. 製図技能の基礎知識2	製図道具の準備	
	10. 地域社会の課題 中間報告	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備	
	11. 南山城地域の地理と歴史	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備	
	12. 南山城地域の政策的諸課題	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備	
	13. 地域社会の課題 報告と討議1	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備	
	14. 地域社会の課題 報告と討議2	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備	
	15. 発表の総括とフィードバック	配布資料の確認	
受講者へのメッセージやアドバイス:	私たちの身の回りの地域社会の中から、様々な課題を地理的に見出し、分析・発信する力を養います。製図道具の購入が必要になります。		
フィードバックの方法:	授業中の発表へのコメントとしてフィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席・コメントペーパー	50	出席状況と理解状況、到達目標の1・3の知識と理解力を獲得しているかを評価する。
	プレゼンテーション	50	グループ発表を通して、到達目標の2:発信する力について評価する。
教科書:	指定しない		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業中・授業後の教室内、およびオフィスアワーを中心とした研究室にて直接行う。		

授業テーマ:

京都の都市史

授業の概要:

都市としての京都の始まりは、桓武天皇による平安京の造営(794年)にまでさかのぼる。それ以来京都は、1200年間以上の永きにわたって、日本の首都として、また日本文明の中心として栄えてきた。京都を知らずして日本を知ることはいかなる。ただ、京都は古代に作られた平安京そのままではない。都市は生き物であり、時代が変わるごとにその構造を変化させていくのである。この授業では、こうした伝統を持つ京都を、「都市史学」という立場から通観することにした。

到達目標:

京都とはどんな都市であるか、それぞれの時代に即し、また現地に関連づけて理解する。

授業方法:

講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。なお、授業中の私語、携帯電話などの「内職」、勝手な退室などの他の受講生に迷惑になる行動は厳禁である。そうした場合、厳正に措置するので心得ておいていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ意欲のある受講生の参加を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	京都文化の特質	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
2.	桓武天皇と長岡京	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
3.	平安京の造営	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
4.	平安京の構造とその変遷	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
5.	平安時代中期の貴族邸宅	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
6.	院政期(平安時代後期)の平安京	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
7.	院政期(平安時代後期)の鳥羽・白河	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
8.	院政期(平安時代後期)の内乱と京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
9.	平家の時代と京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
10.	京・鎌倉時代の京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
11.	南北朝・室町時代の京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
12.	戦国時代の京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
13.	織田信長と京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
14.	豊臣秀吉の京都改造	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
15.	まとめ	これまでの授業内容をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の私語、携帯電話などの「内職」、勝手な退室などの他の受講生に迷惑になる行動は厳禁である。そうした場合、厳正に措置するので心得ておいていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ意欲のある受講生の参加を期待する。

フィードバックの方法:

授業中にまとめておこなう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で適切に説明できているか。

教科書:

仁木宏・山田邦和編『歴史家の案内する京都』(文理閣、2016年、1,800円+税)

参考書:

高橋昌明『京都く千年の都』の歴史』(岩波新書、2014年)
林屋辰三郎『京都』(岩波新書、1962年)
脇田修・脇田晴子『物語 京都の歴史―花の都の二千年』(中公新書、2008年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

kyamada@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	近世京都の芸能空間		
授業の概要:	中世から明治期までに記された史料、絵画史料、文学作品を用いながら、京都を中心に育まれた様々な伝統芸能について学ぶ。これと同時に、芸能の発展に京都という土地がいかに関わっていたのかについても理解する。		
到達目標:	・文楽、歌舞伎の基礎と歴史を理解する。 ・芸能と京都の関連性と芸能文化の広がりについて理解する。		
授業方法:	講義を中心に、絵画・浮世絵・写真・ビデオ・DVDなどのヴィジュアルな教材を適宜使用して授業を進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	風流と祇園祭	祇園祭についての事前学習
	2.	四条河原の芸能風景	
	3.	語りと人形浄瑠璃	文楽についての事前学習
	4.	人形浄瑠璃から文楽	文楽についての事前学習
	5.	文楽の鑑賞	鑑賞する演目についての事前学習
	6.	歌舞伎の発生	歌舞伎についての事前学習
	7.	野郎歌舞伎・元禄歌舞	歌舞伎についての事前学習
	8.	荒事・和事	歌舞伎についての事前学習
	9.	江戸歌舞伎と上方歌舞伎	歌舞伎についての事前学習
	10.	18・19世紀の歌舞伎	歌舞伎についての事前学習
	11.	歌舞伎の鑑賞	鑑賞する演目についての事前学習
	12.	歌舞伎と人形浄瑠璃1	「仮名手本忠臣蔵」についての事前学習
	13.	歌舞伎と人形浄瑠璃2	「義経千本桜」についての事前学習
	14.	現代へと続く伝統芸能	
	15.	まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:	観劇レポートを課するため、授業で学ぶ古典芸能に対する基礎知識に加えて、受講生自身が観劇した芸能に対する個人学習が必要となる。また、講義中に画像や映像を伴って解説するため、定期試験もその点を重視した出題となる事を考慮して受講すること。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験の成績	80	文楽、歌舞伎、京都の芸能に対する基礎知識や、歴史、影響関係に関する理解度により評価する。
	観劇レポート	20	実際に観劇した古典芸能への理解度と、その芸能に対しての考察が論理的に説明できているかによって評価する。
教科書:			
参考書:	今岡謙太郎『日本古典芸能史』(武蔵野美術大学出版局、2008年) 山路興造『京都 芸能と民族の文化史』(思文閣出版、2009年) 川嶋将生『祇園祭―祝祭の京都 (吉川弘文館、2010年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:	古代都市平安京の諸様相Ⅰ		
授業の概要:	かつて1100年にわたって日本の都であり続けた京都の地は、まさしくわが国の伝統文化の集積地である。その古都京都の地で展開されてきた人々の社会生活の営みを理解することは、現代日本社会の成り立ちを考える上でも非常に重要な課題であろう。本講義では、その京都の悠久の歴史の中でも、草創期にあたる古代の時代、すなわち平安京が建都されて以降の平安時代の社会生活のあり方について理解を深めたい。 具体的には、平安京の都市構造について全般的に把握した上で、平安京内外にあった様々な施設や場所(スポット)をいくつか取り上げながら、その実態を明らかにして、それを通じて皇族・貴族から庶民に到るまで都市平安京に居住した諸階層の人々の社会生活の諸様相について知得することを目標としたい。		
到達目標:	・古代都市平安京の成立・構造・変遷について理解を深める。 ・諸施設・場所を通じて平安京に居住した人々の社会生活について理解を深める。 ・古代京都の社会に対する関心を醸成する。		
授業方法:	講義形式で授業を進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 序論 講義内容の紹介と導入		
	2. 都市平安京の成立とその構造 ① 日本の古代宮都とその変遷	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	3. 都市平安京の成立とその構造 ② 平安建都の歴史的経緯	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	4. 都市平安京の成立とその構造 ③ 平安建都の思想的背景	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	5. 都市平安京の成立とその構造 ④ 平安京の都市構造	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	6. 都市平安京の成立とその構造 ⑤ 平安京の社会構成	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	7. 都市平安京の成立とその構造 ⑥ 平安京の変遷	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	8. 平安京内外の諸施設・場所 ①-1 概要	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	9. 平安京内外の諸施設・場所 ①-2 実態と意義	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	10. 平安京内外の諸施設・場所 ②-1 概要	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	11. 平安京内外の諸施設・場所 ②-2 実態と意義	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	12. 平安京内外の諸施設・場所 ③-1 概要	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	13. 平安京内外の諸施設・場所 ③-2 実態と意義	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	14. 補遺 講義内容の総括と補足	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	取り上げたい平安京の施設・場所の候補としては以下のようなものを考えています。 ・大内裏・京都御所(政治関連施設) ・鴻臚館(外交関連施設) ・東西市(経済商業関連施設) ・大学寮・大学別荘、綜芸種智院(教育関連施設) ・悲田院(福祉関連施設) ・神泉苑(苑遊関連施設) ・諸邸宅(土御門邸、高陽院、河原院など) ・郊外(鴨川、鳥羽、宇治など) 具体的には受講生の希望もふまえて決定します。 最終的には3つほどのスポットを採りあげてみたいと思います。		
フィードバックの方法:	毎回、出席カードにその回の講義内容についてのコメントを記述して、授業の最後に提出する。提出されたカードのコメントには随時目通しして授業内容に反映させるとともに、出席状況を集計した上で、学期末に一括して返却する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加	50%	出席カードへのコメントにより、到達目標に掲げた諸点への各自の理解度と評価する。
	筆記試験	50%	到達目標に掲げた諸点への各自の理解度を筆記試験によって評価する。
教科書:	特になし。 適宜にプリント資料を配布する。		

参考書： 授業の中で適宜紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力

教員との連絡
方法： 授業後、教室で対応する。
必要に応じてEメールで応答する。

授業テーマ:	古代都市平安京の諸様相Ⅱ		
授業の概要:	かつて1100年にわたって日本の都であり続けた京都の地は、まさしくわが国の伝統文化の集積地である。その古都京都の地で展開されてきた人々の社会生活の営みを理解することは、現代日本社会の成り立ちを考える上でも非常に重要な課題であろう。本講義では、その京都の悠久の歴史の中でも、草創期にあたる古代の時代、すなわち平安京が建都されて以降の平安時代の社会生活のあり方について理解を深めたい。 具体的には、平安京の都市構造について全般的に把握した上で、古代都市平安京における社会生活上の諸問題の中から、いくつかの具体的問題を取り上げながら、その実態を明らかにして、それを通じて皇族・貴族から庶民に到るまで都市平安京に居住した諸階層の人々の社会生活の諸様相について知得することを目標としたい。		
到達目標:	・古代都市平安京の成立・構造・変遷について理解を深める。 ・平安京における社会生活の諸問題について理解を深める。 ・古代京都の社会に対する関心を醸成する。		
授業方法:	講義形式で授業を進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 序論 講義内容の紹介と導入		
	2. 都市平安京の成立とその構造 ① 日本の古代宮都とその変遷	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	3. 都市平安京の成立とその構造 ② 平安建都の歴史的経緯	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	4. 都市平安京の成立とその構造 ③ 平安建都の思想的背景	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	5. 都市平安京の成立とその構造 ④ 平安京の都市構造	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	6. 都市平安京の成立とその構造 ⑤ 平安京の社会構成	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	7. 都市平安京の成立とその構造 ⑥ 平安京の変遷	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	8. 平安京における社会生活上の諸問題 ①-1 概要	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	9. 平安京における社会生活上の諸問題 ①-2 実態と意義	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	10. 平安京における社会生活上の諸問題 ②-1 概要	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	11. 平安京における社会生活上の諸問題 ②-2 実態と意義	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	12. 平安京における社会生活上の諸問題 ③-1 概要	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	13. 平安京における社会生活上の諸問題 ③-2 実態と意義	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	14. 補遺 講義内容の総括と補足	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	取り上げたい平安京の施設・場所の候補としては以下のようなものを考えています。 ・衣食住 ・教育と学芸 ・医療と福祉 ・災害と防災 ・土木と建築 ・娯楽と芸能 ・家族と生死 ・軍事と警察 ・外交と国際性 ・倫理と道徳 etc 具体的には受講生の希望もふまえて決定します。 最終的には3つほどの問題を採りあげてみたいと思います。		
フィードバックの方法:	毎回、出席カードにその回の講義内容についてのコメントを記述して、授業の最後に提出する。提出されたカードのコメントには随時目通しして授業内容に反映させるとともに、出席状況を集計した上で、学期末に一括して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加	50%	出席カードへのコメントにより、到達目標に掲げた諸点への各自の理解度と評価する。
	筆記試験	50%	到達目標に掲げた諸点への各自の理解度を筆記試験によって評価する。
教科書:	特になし。 適宜にプリント資料を配布する。		
参考書:	授業の中で適宜紹介する。		

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡
方法:

授業後、教室で対応する。
必要に応じてEメールで応答する。

授業テーマ:

生まれ変わる都市ーパリ、ビルバオ、京都

授業の概要:

都市はある種の生き物であり、多くの場合、人間やその他の生物の個体よりはるかに長く生きる。とすれば、時代や社会状況の移り変わりに伴って、都市も疲労や病に見舞われるだろう。そうなったとき、それを治療し回復させるための手当や、都市を時代や社会状況にもっとよく適応させるための手術が必要になる。国や自治体のイニシアティブのもとで進められるそのような「都市改造」の理念やプロセスを、1850年代のパリ、1980 年代のビルバオ（スペイン）、そして明治期以後の京都を例にとって学んでゆく。

到達目標:

都市の生態学的・社会的変容に応じた都市政策のありかたについて学び、都市計画や都市行政について自分なりの考えをもてるようにする。

授業方法:

授業は基本的に講義形式で進められる。
同時に、受講生の日常的な関心が都市政策・都市計画に向かうような課題を与える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションー都市を観る楽しみ、都市に遊ぶ楽しみ	特になし
2.	パリ大改造その1:19世紀、激動のフランス社会	配付資料の当該箇所を目をとおしておく
3.	パリ大改造その2:ナポレオン三世の時代	同上
4.	パリ大改造その3:都市パリの歴史古代から中世、そして近世へ	同上
5.	パリ大改造その4:街路の拡張、上下水道の整備	同上
6.	パリ大改造その5:オペラ座とその他の建築	同上
7.	パリ大改造その6:都市改造と芸術家のまなざし	同上
8.	パリ大改造その7:都市改造のなかの近代、近代のなかの都市改造	同上
9.	パリのいまその1:19世紀から現代へ	同上
10.	パリのいま その2:メトロとトラム、バスと自転車	同上
11.	ビルバオ再生 その1:スペインのなかのビルバオ	同上
12.	ビルバオ再生 その2:グッゲンハイム美術館（フランク・ゲーリー）	同上
13.	近代都市京都 その1:遷都とその影響	同上
14.	近代都市京都 その2:「古都」のブランド化	同上
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

学期末の評価を通じて行う。
それ以外は、個別に対応することもありうるが、教務係を通して行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	50	授業内容をどの程度理解しているかを問う。
	授業態度	50	授業中に私語をする者、スマートフォンや携帯電話などをしまわない者には厳正に対処する。

教科書:

参考書:

富永茂樹『都市の憂鬱 感情の社会学のために』新曜社(1996年)
高階秀爾(監修)『オルセー美術館3 都市「パリ」の自画像』日本放送出版協会(1990年)
丸山宏他(編)『みやこの近代』思文閣出版(2008年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

多様な地域と植民地主義・帝国主義のありかた

授業の概要:

本講義では、世界各地で起こる様々な地域問題について、帝国主義や植民地主義というキーワードで考察を行います。帝国主義、植民地主義という切り口で、アメリカや先進諸国と第三世界との関係性を見ていきます。

到達目標:

1: 帝国主義・植民地主義の視点を理解する。
2: 上記の主義からみる地域間対立の経緯と現状を理解する。

授業方法:

講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに 授業のガイダンス	配布資料の確認
2.	帝国主義と植民地①	配布資料の確認
3.	帝国主義と植民地②冷戦のはじまりと911のインパクト	配布資料の確認
4.	植民地のありかたと911以降の社会の構造	配布資料の確認
5.	沖縄とアメリカー米軍基地と日本	配布資料の確認
6.	アジアの開発と日本	配布資料の確認
7.	ヨーロッパにおける少数民族の問題	配布資料の確認
8.	アフリカにおける植民地主義の影響	配布資料の確認
9.	アフリカにおける民族問題 少数民族	配布資料の確認
10.	ラテンアメリカの開発1	配布資料の確認
11.	ラテンアメリカの開発2	配布資料の確認
12.	地域間対立	配布資料の確認
13.	中国東北地方における日本の影響	配布資料の確認
14.	アジアと日本	配布資料の確認
15.	全体の総括	配布資料の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中のコメントペーパーに対するフィードバックを随時おこなう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況	50	出席状況・授業への積極的な参加度
	コメントペーパー	50	到達目標1: 帝国主義・植民地主義の視点を理解する。 2: 上記の主義からみる地域間対立の経緯と現状を理解の段階を判断する。

教科書:

特に指定しない。

参考書:

必要に応じて適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業後の教室内、ならびにオフィスアワーを中心とした研究室で直接対面で行う。

授業テーマ:	被災地の地誌学～復興に向けたまちづくり		
授業の概要:	この授業では、東日本大震災や阪神淡路大震災など、被災地を対象としながら、地域がいかに復興し、再生しているのかを 実地のプロセスも踏まえながら、これからのまちづくりの現状と課題について理解を進める。		
到達目標:	1: 自分たちの命をまもる知識と理解力を獲得する。 2: 被災地の現状と復興のプロセスを理解し、発信する力を養う。 3: 被災地のまちづくりが、過疎地域や高齢化社会での課題と共通しており、私たちのこれからの身の回りの地域を考える上 でも重要であることを理解する。		
授業方法:	講義 パワーポイント、資料を用いるとともに、発表を合わせて行う。また被災地での校外授業を実施する。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	はじめに 講義の目標・ガイダンスと概要	必要資料の整理、グループ作り、フィールドワークの日程確 認
	2.	自然災害と日本	配布資料の確認
	3.	地震のメカニズム	配布資料の確認
	4.	阪神淡路大震災と復興プロセス	配布資料の確認
	5.	東日本大震災と被災地の現状	配布資料の確認
	6.	東日本大震災と被災地の現状 釜石の事例	配布資料の確認
	7.	東日本大震災と被災地の現状 関上の事例	配布資料の確認
	8.	東日本大震災と被災地の現状 大川小学校の事例	配布資料の確認
	9.	ボランティアのあり方	配布資料の確認
	10.	防災教育の現状と課題	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備
	11.	復興の方向性－グループプレゼンテーション1	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備
	12.	復興の方向性－グループプレゼンテーション2	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備
	13.	復興の方向性－グループプレゼンテーション3	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備
	14.	復興の方向性－グループプレゼンテーション4	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備
	15.	発表の総括とフィードバック	配布資料の確認
受講者への メッセージや アドバイス:	被災地は特別のものではなく、いつ、日本中のどこにでも起こりうる事象です。この実態を踏まえた上で、学問としてだけでは なく、自分や家族の命を守る知識として、受講いただきたいと思います。		
フィードバックの 方法:	授業中の発表へのコメントとしてフィードバックを随時授業内で行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席・コメントペーパー	50	出席状況と理解状況、到達目標の1: 自分たちの命をまもる知識と理解力を 獲得しているかを評価する。
	プレゼンテーション	50	グループ発表を通して、到達目標の2: 被災地の現状と復興のプロセスを理 解し、発信する力について評価する。
教科書:	特になし		
参考書:	必要に応じて授業内で指示する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	授業中・授業後の教室内、およびオフィスアワーを中心とした研究室にて直接行う。		

授業テーマ:	春学期15回の授業で、日本の歴史についてしっかりと学びます。																																										
授業の概要:	原始・古代から中世、近世の政治史を中心としつつ、各回の内容に近代史、現代史の内容を付加するとともに、現代から見た視点をも加えて問題を提起しながら説明します。 通史という観点から、時代を特徴づける事象について、最新の研究成果をとりいれながら標準的な日本史の授業をおこなうことをめざします。 個々の歴史事実の解説にとどまることなく、歴史全体の流れや、時代の転換点について考える契機となるような事項を授業の中で与えていくようにします。																																										
到達目標:	受講生ひとりひとりが問題意識をもって授業に出席するようにしてください。日本史の各時代の特徴をつかみ、前の時代とどこがどのように変わったのかということを理解し、それを自分で説明できるようにすることを目標にしてください。 将来教職を希望する学生以外の受講生の登録が増えています。実社会で役立つやや高度な日本史の基礎知識を習得することを目標とすることを希望します。																																										
授業方法:	講義形式を基本とし、必要に応じてDVD、パワーポイント等を使用します。																																										
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 「日本の歴史」概説</td><td>日本列島の位置から、日本の旧石器時代の存在の意義について考える。授業プリントを復習し、身近な遺跡について調べる。</td></tr><tr><td>2. 旧石器時代の日本</td><td>旧石器時代のプリントを復習し、縄文時代のプリントについて予習しておく。旧石器時代から縄文時代への転換点について考える。</td></tr><tr><td>3. 縄文時代について</td><td>縄文時代のプリントを復習し、弥生時代のプリントについて予習しておく。縄文時代から弥生時代への転換点について考える。</td></tr><tr><td>4. 弥生時代の開始</td><td>弥生時代のプリントを復習し、卑弥呼の時代がつぎの時代とどのように関係するのかを考える。プリントを予習し、卑弥呼以前の倭国の外交について中国の文献を読んでおく。</td></tr><tr><td>5. 『魏書』東夷伝倭人の条を読む(1)</td><td>配布史料を復習し、卑弥呼と魏の外交関係について、倭国内の情勢と関連づけて考える。</td></tr><tr><td>6. 『魏書』東夷伝倭人の条を読む(2)</td><td>プリントを復習し、卑弥呼の時代と古墳時代の関係について自分の意見をもって授業にのぞむ。</td></tr><tr><td>7. 古墳時代の開始</td><td>プリントを復習し、古墳の出現と大和政権の関係について考える。</td></tr><tr><td>8. 大和政権の成立過程</td><td>史料プリントを読んでおく。</td></tr><tr><td>9. 律令の制定</td><td>史料プリントを読んでおく。</td></tr><tr><td>『令義解』を読む(1)</td><td>史料プリントを復習し、古代の土地制度について考える。</td></tr><tr><td>『令義解』を読む(1)</td><td>プリントを予習し、平安京遷都の背景と歴史的意義について考える。</td></tr><tr><td>10. 土地制度の改革と律令制度の崩壊</td><td>プリントを復習し、土地制度の変容について理解する。</td></tr><tr><td>11. 平安京遷都と摂関政治</td><td>プリントを予習し、荘園公領制」の概念についておおまかな知識を得ておく。</td></tr><tr><td>12. 「荘園公領制」の概念とその成立</td><td>プリントを予習し、「荘園公領制」が日本中世の開始と大きく関連することについて考える。</td></tr><tr><td>13. 院政と「荘園公領制」の展開</td><td>プリントを予習・復習し、日本史における封建制度の概念の成立について考える。</td></tr><tr><td>14. 封建政治の成立(1)</td><td></td></tr><tr><td>鎌倉時代・室町時代</td><td></td></tr><tr><td>15. 封建政治の成立(1)</td><td>プリントを復習し、封建制度の概念を用いることによって、鎌倉時代・室町時代と同様に、安土桃山時代・江戸時代の説明ができることを理解する。</td></tr><tr><td>安土桃山時代・江戸時代</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 「日本の歴史」概説	日本列島の位置から、日本の旧石器時代の存在の意義について考える。授業プリントを復習し、身近な遺跡について調べる。	2. 旧石器時代の日本	旧石器時代のプリントを復習し、縄文時代のプリントについて予習しておく。旧石器時代から縄文時代への転換点について考える。	3. 縄文時代について	縄文時代のプリントを復習し、弥生時代のプリントについて予習しておく。縄文時代から弥生時代への転換点について考える。	4. 弥生時代の開始	弥生時代のプリントを復習し、卑弥呼の時代がつぎの時代とどのように関係するのかを考える。プリントを予習し、卑弥呼以前の倭国の外交について中国の文献を読んでおく。	5. 『魏書』東夷伝倭人の条を読む(1)	配布史料を復習し、卑弥呼と魏の外交関係について、倭国内の情勢と関連づけて考える。	6. 『魏書』東夷伝倭人の条を読む(2)	プリントを復習し、卑弥呼の時代と古墳時代の関係について自分の意見をもって授業にのぞむ。	7. 古墳時代の開始	プリントを復習し、古墳の出現と大和政権の関係について考える。	8. 大和政権の成立過程	史料プリントを読んでおく。	9. 律令の制定	史料プリントを読んでおく。	『令義解』を読む(1)	史料プリントを復習し、古代の土地制度について考える。	『令義解』を読む(1)	プリントを予習し、平安京遷都の背景と歴史的意義について考える。	10. 土地制度の改革と律令制度の崩壊	プリントを復習し、土地制度の変容について理解する。	11. 平安京遷都と摂関政治	プリントを予習し、荘園公領制」の概念についておおまかな知識を得ておく。	12. 「荘園公領制」の概念とその成立	プリントを予習し、「荘園公領制」が日本中世の開始と大きく関連することについて考える。	13. 院政と「荘園公領制」の展開	プリントを予習・復習し、日本史における封建制度の概念の成立について考える。	14. 封建政治の成立(1)		鎌倉時代・室町時代		15. 封建政治の成立(1)	プリントを復習し、封建制度の概念を用いることによって、鎌倉時代・室町時代と同様に、安土桃山時代・江戸時代の説明ができることを理解する。	安土桃山時代・江戸時代			
授業内容	準備学習等の内容																																										
1. 「日本の歴史」概説	日本列島の位置から、日本の旧石器時代の存在の意義について考える。授業プリントを復習し、身近な遺跡について調べる。																																										
2. 旧石器時代の日本	旧石器時代のプリントを復習し、縄文時代のプリントについて予習しておく。旧石器時代から縄文時代への転換点について考える。																																										
3. 縄文時代について	縄文時代のプリントを復習し、弥生時代のプリントについて予習しておく。縄文時代から弥生時代への転換点について考える。																																										
4. 弥生時代の開始	弥生時代のプリントを復習し、卑弥呼の時代がつぎの時代とどのように関係するのかを考える。プリントを予習し、卑弥呼以前の倭国の外交について中国の文献を読んでおく。																																										
5. 『魏書』東夷伝倭人の条を読む(1)	配布史料を復習し、卑弥呼と魏の外交関係について、倭国内の情勢と関連づけて考える。																																										
6. 『魏書』東夷伝倭人の条を読む(2)	プリントを復習し、卑弥呼の時代と古墳時代の関係について自分の意見をもって授業にのぞむ。																																										
7. 古墳時代の開始	プリントを復習し、古墳の出現と大和政権の関係について考える。																																										
8. 大和政権の成立過程	史料プリントを読んでおく。																																										
9. 律令の制定	史料プリントを読んでおく。																																										
『令義解』を読む(1)	史料プリントを復習し、古代の土地制度について考える。																																										
『令義解』を読む(1)	プリントを予習し、平安京遷都の背景と歴史的意義について考える。																																										
10. 土地制度の改革と律令制度の崩壊	プリントを復習し、土地制度の変容について理解する。																																										
11. 平安京遷都と摂関政治	プリントを予習し、荘園公領制」の概念についておおまかな知識を得ておく。																																										
12. 「荘園公領制」の概念とその成立	プリントを予習し、「荘園公領制」が日本中世の開始と大きく関連することについて考える。																																										
13. 院政と「荘園公領制」の展開	プリントを予習・復習し、日本史における封建制度の概念の成立について考える。																																										
14. 封建政治の成立(1)																																											
鎌倉時代・室町時代																																											
15. 封建政治の成立(1)	プリントを復習し、封建制度の概念を用いることによって、鎌倉時代・室町時代と同様に、安土桃山時代・江戸時代の説明ができることを理解する。																																										
安土桃山時代・江戸時代																																											
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回、授業中や最後などで近代史、現代史の内容を付加し、現代から見た視点をも加えて説明します。 配布プリントをみてよく復習してください。 次回のプリントを早めに配布する予定です。必ず目を通してから授業に出席してください。																																										
フィードバックの方法:	授業後に質問を受け付けます。基本的にただちに解答します。 発展的な質問や日本史全体にかかわる内容に関する質問には、時間を改めて解答する場合があります。																																										
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																																								
「成績評価基準」:	定期試験	85%	歴史事実をよく認識かつ理解し、論理的に説明できるかを基準とします。																																								
	授業への参加度	15%	準備学習等の内容について理解したうえで、積極的に授業に参加しているか、史料の音読が上達したかなどを評価します。 毎時間出席をとり、状況を考慮します。																																								
教科書:	使用しません。 図表や文献の引用を中心としたプリントを毎時間配布します。 授業内容4・5・8・9などでは、史料の原文とともに現代語訳を配布します。																																										
参考書:	児玉幸多編『日本史年表・地図』(吉川弘文館) 岩波講座『日本通史』(岩波書店)第2巻「古代1」～第11巻「近世1」までの通史の部分 『日本の歴史』(講談社)第00巻～第15巻 『図解・日本の人類遺跡』(東京大学出版会) 『図解日本の中世遺跡』(東京大学出版会) 『日本の時代史』(吉川弘文館)1巻～13巻 『戦争の日本史』(吉川弘文館)1巻～17巻 全集『日本の歴史』(小学館)第1巻～第8巻																																										
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力																																										

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

授業テーマ:	秋学期15回の授業で、日本の近代史・現代史についてしっかりと学びます。		
授業の概要:	日本近世の外交史から近代、現代までを範囲とします。 個々の歴史事実の解説にとどまることなく、歴史全体の流れや、時代の転換点について考える契機となるような事項を授業の中で与えていくようにします。 時代の要請にしたがい、時事的な視点を加えていきます。		
到達目標:	受講生ひとりひとりが問題意識をもって授業に出席するようにしてください。 歴史事実をよく確認し、適切な説明ができるように努力してください。 現代の日本が形成された背景であり、かつ重要な過程である近代史について、基礎的な知識を習得することを目標とすることを希望します。		
授業方法:	講義形式を基本とし、必要に応じてDVD、パワーポイント等を使用します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 日本 の 歴 史 Ⅱ 概 説	プリントを復習し、江戸時代の外交について考える。	
	日本の対外政策(1) 鎖国とは何か		
	2. 日本 の 対 外 政 策 (2) 開国ということ	プリントを予習・復習し、開国の概念の成立について考える。	
	3. 幕 末 の 動 乱	プリントを予習し、幕末の動乱がおこった地域と関係する人物に関するおおまかな知識を得ておく。	
	4. 明治新政府の成立	プリントを予習・復習し、新政府の成立過程とその矛盾について考える。	
	5. 大日本帝国憲法の制定	プリントを予習・復習し、明治時代の憲法の特性について考える。	
	6. 民権運動の展開と民党の成立	プリントを予習・復習し、明治政府と民権運動との対立関係をよく理解する。	
	7. 条約改正と日清戦争	プリントを予習・復習し、明治時代の外交と対外戦争についてよく理解する。	
	8. 日本 の 帝 国 主 義 (1) 日露戦争	プリントを予習・復習し、帝国主義の概念を理解し、日清戦争の結果から日露開戦の経過をよく知る。	
	9. 日本 の 帝 国 主 義 (2) 韓国併合	プリントを予習・復習し、当時の世界情勢から韓国併合という歴史事実について考える。	
	10. 第一次世界大戦とヴェルサイユ＝ワシントン体制下の日本	プリントを予習・復習し、第一次世界大戦開戦と終結についてよく理解する。	
	11. 満州事変から太平洋戦争へ	プリントを予習・復習し、第一次世界大戦後の日本の外交政策について理解し考える。	
	12. 原子爆弾投下と日本の無条件降伏	プリントを予習・復習し、第二次世界大戦の終結の実際について理解し考える。	
	13. 占領政策の転換と日米安保条約の調印	プリントを予習・復習し、占領政策転換の背景と要因について理解し考える。	
	14. 朝鮮戦争勃発と日本における自衛隊の発足	プリントを予習・復習し、朝鮮戦争勃発が日本に与えた影響について理解する。	
	15. 1960年代～80年代の日本 ベトナム戦争・沖縄返還 日中国交正常化・55年体制	プリントを復習し、現代の日本がかかえる問題について考える。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回、配布プリントをみてよく復習してください。前回の内容が今回の内容と密接にかかわっています。 今回のプリントを早めに配布する予定です。必ず目を通してから授業に出席してください。		
フィードバックの方法:	授業後に質問を受け付けます。基本的にただちに解答します。 発展的な質問や日本史全体にかかわる内容に関する質問には、時間を改めて解答する場合があります。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	85%	歴史事実をよく認識かつ理解し、論理的に説明できるかを基準とします。
	授業への参加度	15%	準備学習等の内容について理解したうえで、積極的に授業に参加しているかなどを評価します。 毎時間出席をとり、状況を考慮します。
教科書:	使用しません。 図表や文献の引用を中心としたプリントを毎時間配布します。		
参考書:	児玉幸多編『日本史年表・地図』(吉川弘文館) 岩波講座『日本通史』(岩波書店)第12巻「近世2」～第20巻「現代1」までの通史の部分 『日本の歴史』(講談社)第16巻・第18巻・第20巻～第24巻 『日本の時代史』(吉川弘文館)14巻～27巻 『戦争の日本史』(吉川弘文館)18巻～23巻 全集『日本の歴史』(小学館)第9巻～第16巻		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能		

411000	ホスピタリティマネジメント論		大津 正和
授業テーマ:	ホスピタリティ(もてなし)の視点から、サービス事業、特に人的サービスの経営管理を考える		
授業の概要:	現在の産業社会では、サービス要素の重要性がますます増大しており、企業の収益性を左右する重要な要素となっている。このようなサービスの中でも、人的サービスはその重要性和同時に経営管理の難しさが様々な領域での経営課題となっている。人的サービスの品質、そしてその結果の顧客満足や顧客ロイヤルティの決定要因として、接客におけるホスピタリティの重要性は明らかである。この授業では、ホスピタリティマネジメントに関連する理論的要素を学習して身につけるとともに、様々な企業の事例を通じて、ホスピタリティの経営管理を多角的に学び、その方策について考える力を養う。		
到達目標:	ホスピタリティマネジメントに関連する理論的要素を確実に理解し、身につける。現在の産業社会では、サービス要素の重要性がますます増大しており、企業の収益性を左右する重要な要素となっているという現状について理由を含め理解する。特に、サービスの中でも、人的サービスはその重要性和同時に経営管理の難しさが様々な領域での経営課題となっているという背景を理解し、ホスピタリティマネジメントを改善する方策について考える能力を身につける。		
授業方法:	講義 教科書に沿って、ホスピタリティとサービスのマネジメントについて知識の理解を行う講義と、現実の企業等の事例を通じて、教科書で得た知識から、より深く理解したり改善策を考えたりできる能力を養う講義とをほぼ半数ずつ実施する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. オリエンテーション 2. サービス経営のマネジメント(第1章) 3. サービス経営のマネジメントの事例 4. サービス創造のマネジメント(第2章) 5. サービス創造のマネジメントの事例 6. サービス経験のマネジメント(第3章) 7. サービス経験のマネジメントの事例 8. サービス人材のマネジメント(第4章) 9. サービス人材のマネジメントの事例 10. サービス品質のマネジメント(第5章) 11. サービス品質のマネジメントの事例 12. おもてなしのマネジメント(第6章) 13. おもてなしのマネジメントの事例 14. 顧客ロイヤルティのマネジメント(第7章) 15. まとめ	準備学習等の内容 身の回りのサービスやホスピタリティについて観察し整理してくる 教科書の該当箇所の予習 教科書の該当箇所の復習 教科書の該当箇所の予習 教科書の該当箇所の復習 教科書の該当箇所の予習 教科書の該当箇所の復習 教科書の該当箇所の予習 教科書の該当箇所の復習 教科書の該当箇所の予習 教科書の該当箇所の復習 教科書の該当箇所の予習 教科書の該当箇所の復習 教科書の該当箇所の予習 教科書の該当箇所の復習 教科書の該当箇所の予習 これまで講義で学んだことに対する復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義部分に関して、教科書の該当部分を予習しておくこと、そして講義後に復習しておくことが重要である。特に、復習は次の週の事例研究の基礎となるので必須である。		
フィードバックの方法:	小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 レポート 試験	割合 50 50	評価基準 教科書で学んだ知識が身についているか、またその知識を具体的な事例に当てはめて考えることができているかの程度 講義で学んだ知識が身についているか、また事例で学んだ現実のホスピタリティマネジメントを考える能力が身についているかの程度
教科書:	伊藤宗彦・高室裕史編著『1からのサービス経営』碩学舎, 2010		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)		

授業テーマ:

日本の国民生活と観光・余暇の変遷

授業の概要:

観光・余暇の変遷を、近代日本と戦後日本の事例に則して社会史的に跡づけていきます。その時々の社会のあり方と観光・余暇がどのように関係していたのか、また、その時々の観光・余暇政策の確立過程を、諸外国と対比しながらたどります。

到達目標:

知識・理解の点では、戦前と異なって何故戦後高度成長期に大衆余暇が成立したのかを理解する。関心・意欲・態度の点では、観光・余暇産業のあり方に関心を持つ態度を育む。

授業方法:

講義形式で進めます。必要に応じてプリントなどを配布します。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容			準備学習等の内容
	1.	前近代社会における常民と余暇	その1 常民とは?	配付資料の読了
	2.	前近代社会における常民と余暇 漂泊者	その2 定住民と	配付資料の読了
	3.	前近代社会における常民と余暇 仰と余暇	その3 常民の信	配付資料の読了・考察
	4.	前近代社会における常民と余暇	その4 常民と旅－ 伊勢参り－	
	5.	前近代社会における常民と余暇 整備－街道整備や浪花講－	その5 供給側の	配付資料の読了・考察
	6.	近代社会と観光の解禁	その1 文明開化と自ら好 んでする旅	配付資料の読了・考察
	7.	近代社会と観光の解禁 鉄道敷設など－	その2 新政府の諸施策－	配付資料の読了
	8.	近代社会と観光の解禁 機構	その3 天皇制国家体制の	小レポートの解説
	9.	近代社会と観光の解禁 構造	その4 庶民の生活と社会	
	10.	戦後型市民社会の成立	その1 なぜ戦後型か？	配付資料の読了・考察
	11.	戦後型市民社会の成立	その2 労働と余暇の関連	配付資料の読了・考察
	12.	戦後型市民社会の成立	その3 大衆余暇の成立	
	13.	国内観光の動向	その1 まちづくりと地域振興	配付資料の読了・考察
	14.	国内観光の動向	その2 京都のまちづくり	配付資料の読了・考察
	15.	まとめ		

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物は教室で解説し返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	知識・理解の到達目標の達成度
	授業参加	20%	関心・意欲・態度を小レポートで評価する

教科書:

参考書:

神崎宣武「江戸の旅文化」(岩波新書2004年)
深井甚三「江戸の宿－三都・街道宿泊事情－」(平凡社新書2000年)
三浦展「家族と幸福の戦後史」(講談社現代新書1999年)
山口誠「ニッポンの海外旅行」(ちくま新書2010年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

tkono@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

マーケティングの視点から観光に関わる企業や組織の業務を理解する。

授業の概要:

観光には、様々な企業や組織が業務(お仕事)として関わっている。それらの企業や組織は、もちろん成果を求められる。しかし、観光は、遠く離れた国・地域に住む人々に、その国・地域がどのような魅力を持つのかを考え、それを適切に伝え、実際の訪問につなげ、もちろん訪問時には期待に応える経験を提供しなければならないという困難さを伴っている。このような活動は、まさにマーケティング活動であるが、現状では、それが適切に機能しているだろうか。この授業では、マーケティングの基礎を理解し、その視点から、観光に関わる企業や組織の活動をどのようにすれば良いのかを考えることができる力を養う。

到達目標:

マーケティングにおける重要概念を、観光の文脈に当てはめ、その意味と役割を理解する。観光に関連する企業活動や自治体等の活動において、マーケティングが果たすべき役割とその重要性を説明できる。マーケティングの視点から、観光の適切な振興を進める方策を考える能力を身に付ける。

授業方法:

講義 基本的に講義形式であり、時間が許せば、授業時間内に小レポートを書いてもらい、学んだことについて自身の考えをまとめるという進め方を予定している。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	観光に関わる企業の活動などについて、これまでの経験などを整理してくる
2.	マーケティングの基礎(実務と理論の両面から)	マーケティングに関する書籍等でマーケティングについて調べてくる
3.	そもそもマーケティングって、なんだ？(第1章)	教科書の該当箇所の予習
4.	人はどうして商品を購入するのだろうか？(第2章)	教科書の該当箇所の予習
5.	お客様って、誰だ？(第3章)	教科書の該当箇所の予習
6.	人はどのようなプロセスを経て商品を購入するのだろうか？(第4章)	教科書の該当箇所の予習
7.	旅行商品がたどるお客様に届くまでの複雑な旅(第5章)	教科書の該当箇所の予習
8.	マーケティングで価格戦略を策定する(第6章)	教科書の該当箇所の予習
9.	敵を知り、己を知らば、百戦危うからず(第7章)	教科書の該当箇所の予習
10.	若人よ、負け犬にはなるな！問題児なら大いに結構(第8章)	教科書の該当箇所の予習
11.	いざ討って出よ！その時もマーケティング的発想を忘れるな(第9章)	教科書の該当箇所の予習
12.	理念なきブランドは続かない(第10章)	教科書の該当箇所の予習
13.	やっぱり大切にしたい、長〜い関係(第11章)	教科書の該当箇所の予習
14.	実際にマーケティングリサーチをやってみよう&観光マーケティングの可能性(第12、13章)	教科書の該当箇所の予習
15.	まとめ	これまで講義で学んだことに対する復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

基本的に、教科書に即した講義ですが、教科書で取り上げられたテーマについて、マーケティングの理論を参照することで、より正確に理解していきます。教科書を使った予習は必須ですが、講義ではその内容をより深く正確に学びますので、講義には毎回出席しないと理解を深めることはできません。時間の都合で、毎回は無理かも知れないが、講義の後半に、その回学んだテーマに即した小レポートを実施する。

フィードバックの方法:

小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	30	教科書で学んだ知識が身についているか、またその知識を指示された状況に当てはめて考えることができるかの程度
	試験	70	講義で学んだ知識が身についているか、また観光領域におけるマーケティングの重要性を正しく説明できるかの程度

教科書:

森下晶美編著『新版 観光マーケティング入門』同友館、2016

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)

授業テーマ:

他の国へ出掛けて行う観光で得られるものを理解する

授業の概要:

国際観光とは、国境を越えて、他国に出掛けて行う観光である。他国に出掛けることは、自国内にいては経験できない自然や文化など様々な未知の事柄に出会う機会を提供してくれる。本講義では、日本人という立場から、日本以外の国々で、どのような観光体験があり得るのか、それらにどのような魅力があるのかを具体的事例に則して理解することを進める。そして、それらを通じて、国際観光の意味と、翻って、外国から日本を訪問する観光者たちにどのような観光経験を提供できるかを考える力を身に付ける。

到達目標:

日本人の立場から、日本以外の国々を訪れた場合に、どのような国のどのような場所にどのような観光体験があり得るのか、それらにどのような魅力があるのかを理解する。さらに、このことを通じて、国際観光の意味と、翻って、外国から日本を訪問する観光者たちにどのような観光経験を提供できるかを考える能力を身に付ける。

授業方法:

講義 ただし、大部分は、日本人が他国で行う観光について、具体的な観光地の状況やそこでの観光行動について、視聴覚教材を用いて学ぶ。講義毎に、設定した問に対する小レポートを書いて提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	身の回りの国際観光について、情報を整理してくる
	2. 国際観光とは	国際観光の特徴について調べてくる。特に、自分が興味を持った国・地域について、そこでの観光について調べてくる
	3. アジアの観光(1)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	4. アジアの観光(2)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	5. アジアの観光(3)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	6. ヨーロッパの観光(1)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	7. ヨーロッパの観光(2)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	8. ヨーロッパの観光(3)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	9. アフリカの観光(1)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	10. アメリカの観光(1)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	11. アメリカの観光(2)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	12. オセアニアの観光(1)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	13. オセアニアの観光(2)	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
	14. より良い国際観光に向けて	これまで学んだ各国・地域における日本人の観光について比較し、共通点と相違点を整理してくる
	15. まとめ	これまで講義で学んだことに対する復習、とくにその位置を確認しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

普段から、様々な国・地域での観光に興味を持って、書籍、テレビ番組、あるいは観光紹介サイトなど様々な情報源から観光に関連する情報を集めておく。取り上げる国・地域については、予告するので、講義までに予習をしておくことが必須である。また、授業で学んだ国・地域については、良く復習をして理解を深めておく。

フィードバックの方法:

小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	60	各回で学んだ国・地域における観光について、日本人の視点からその魅力を理解できているか、それを適切に表現できているかの程度
	試験	40	講義で学んだ国・地域における観光についての知識が身についているか、それらを基礎に日本への外国からの魅力を考える能力が身についているかの程度

教科書:

地図帳(高校の地理用程度)出版社等は特に指定しない

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)

授業テーマ:	ホスピタリティの探究。これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげます。	
授業の概要:	近年、様々な業種において、ホスピタリティが重要視され、特に航空産業や観光産業においては、人と人とが生み出す無形の価値が注目されてきています。ホスピタリティについて、様々な角度から解説し、ホスピタリティがどのような価値を生み出すのか、ホスピタリティを生み出すには何が求められているのかについて理解を深めます。また、ホスピタリティの発揮が顕著な企業や集団に共通している組織構造、特徴やマネジメントのあり方について学び、エアラインやホテル、テーマパークなどの事例研究を通して、ホスピタリティ産業への理解を深めるとともに、高いホスピタリティを発揮できる人材になることを目指します。	
到達目標:	・現代社会において、ホスピタリティが生み出す価値を理解し、発揮していくための組織の在り方やホスピタリティ・マネジメントの重要性を理解できるようにすること。 ・ホスピタリティの重要性を理解し、様々な場面でホスピタリティが発揮できるようになること。	
授業方法:	講義/演習: 講義を中心に進めますが、討論・グループ学習・発表をほぼ毎回取り入れながら、学生が主体的に取り組めるように授業参加型として行います。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. オリエンテーション(授業概要の理解) 2. ホスピタリティとは(ホスピタリティの語源など) 3. ホスピタリティと文化(ホスピタリティの表現、ホスピタリティに影響を与えた文化・歴史) 4. ホスピタリティと産業I(社会・産業の変化とホスピタリティ産業) 5. ホスピタリティと産業II(ホスピタリティ産業のひとつとしてエアラインを参考に) 6. ホスピタリティとチームワーク(ホスピタリティをチームとして伝えることの重要性) 7. ホスピタリティとコミュニケーション(コミュニケーションの観点から考察する) 8. ホスピタリティと観光産業(観光産業の中で発揮されるホスピタリティについて) 9. ホスピタリティの発揮I(ホスピタリティの発揮と企業の関係) 10. ホスピタリティの発揮II(ホスピタリティの発揮と醸成) 11. ホスピタリティの評価(ホスピタリティの評価方法の検討とフィードバックの重要性) 12. ホスピタリティとマニュアル 13. ホスピタリティ・マネジメント(ホスピタリティを高めるマネジメント)事例研究I 14. 事例研究II 15. まとめ	準備学習等の内容 ・事前学習:ホスピタリティに関する書籍や記事などを読み、事例を体験するなど関心を持っておく。 ・事後学習:授業で配布した内容を理解し、まとめておくこと。 ・事前学習:配布資料「第2回 ホスピタリティとは」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第3回 ホスピタリティと文化」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第4回 ホスピタリティと産業Ⅰ」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第5回 ホスピタリティと産業Ⅱ」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第6回 ホスピタリティとチームワーク」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第7回 ホスピタリティとコミュニケーション」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第8回 ホスピタリティと観光産業」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第9回 ホスピタリティの発揮Ⅰ」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第10回 ホスピタリティの発揮Ⅱ」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第11回 ホスピタリティの評価」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第12回 ホスピタリティとマニュアル」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第13回 ホスピタリティ・マネジメント」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 事前学習:配布資料「第14回 事例研究Ⅱ」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。 ・事前学習:これまでのレジュメをすべて見直しておくこと。 ・事後学習:授業全体のまとめを行い、振り返りを行うこと。
受講者へのメッセージやアドバイス:		
フィードバックの方法:	・授業終了後に提出する理解度確認シート(各授業の理解度、テーマに対するコメント、質問・要望で構成)について、翌日の授業内で解説し、フィードバックします。	

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50%	到達目標「現代社会において、「ホスピタリティが生み出す価値を理解し、発揮していくための組織の在り方やホスピタリティ・マネジメントの重要性」に関する理解度および到達目標「ホスピタリティの重要性」に関する理解度により評価します。
	授業への参加度	50%	積極的に授業に参加し、討論、グループ学習や発表などにおける態度・意欲を評価します。到達目標「様々な場面でホスピタリティが発揮できる」ようになったかを評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:

地域と観光のかかわりについて～さまざまな事例から学ぶ日本・世界各地における観光実態の総合理解

授業の概要:

観光地理学がどのような視点に基づいているのか。近年では北朝鮮や中国の観光、アニメや映画ロケ地を活用した観光など、多様化した視点が必要となる。その国内外の動向を紹介するとともに、日本各地の具体的な地域を対象として、観光地理学のさまざまなトピックスを考察し、観光と地域の関わりかたについて考える。

到達目標:

1:観光地理の基本事項を理解する。
2:多様な事例から、地域と観光の関わりと課題、展望について理解する。

授業方法:

講義形式で行う。配布プリントとパワーポイントを中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 本講義のガイダンス	配布資料の確認
	2. 観光地理学のあり方～地理学における観光地理学の位置	配布資料の確認
	3. 観光地理の視点と研究動向	配布資料の確認
	4. 外国の観光地理にかかわる諸事例 北朝鮮を中心として	配布資料の確認
	5. 外国の観光地理にかかわる諸事例 中国の歴史的観光資源の課題	配布資料の確認
	6. 外国の観光地理にかかわる諸事例 中国の事例を通したツイン・タイム・トラベルのありかた	配布資料の確認
	7. コンテンツ・ツーリズムの実態 ①実写映画の誘致と地域	各自のこれまでに見た映画の確認作業
	8. コンテンツ・ツーリズムの実態②アニメを通した「聖地巡礼」の効果	各自のこれまでに見たアニメーションの確認作業
	9. ダーク・ツーリズム～被災地を巡る観光のかたち	配布資料の確認
	10. グリーンツーリズムの可能性～全国の実例	配布資料の確認
	11. 北海道富良野地域におけるこれからの観光の可能性① グリーンツーリズム	配布資料・地図資料の確認
	12. 北海道富良野地域におけるこれからの観光の可能性② 食を生かした観光の可能性	配布資料の確認
	13. 観光に関わる都市政策～市町村レベルと府県レベルの実例 長崎県	配布資料の確認
	14. 観光に関わる都市政策～市町村レベルと府県レベルの実例 都市交通と観光	配布資料の確認
	15. 全体の総括 これからの持続可能な観光の可能性	配布資料の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内で実施するコメントペーパーを適宜授業内にてフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況とコメントペーパー	50	出席状況の確認と到達目標1の達成度を総合評価する。
	適宜提出する小レポート類の提出物	50	到達目標2の達成度を総合評価する。

教科書:

特に指定しない。

参考書:

特に指定しない。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業中・後の教室内、ならびに研究室にて対面形式で行う。

授業テーマ:

授業の概要: 現代社会において、自由時間は自発的な活動を通して人々が自己実現をするための重要な生活領域になっている。特に近年の生活様式の大きな変化の中で、健康に対する社会的要請と相まって、スポーツは有力なレジャー活動のひとつになっている。この授業では、レジャー・レクリエーション全体の中でのスポーツの位置づけと役割を明らかにした上で、現状と問題点を検討し、人々の多様な自己実現を達成するためのスポーツのあり方を追求したい。

到達目標: レジャーが人間生活全体の中で大きな領域を占めるようになら現代社会において、個人の健康と生活を充実させるためのスポーツの重要性を理解して自らのライフコースにおける位置づけを明確にすると共に、拡大しつつあるスポーツを支える政策やスポーツ産業などの認識を通してレジャースポーツの社会的意義と今後の方向性を構想する。

授業方法: 講義を中心として授業を進めるが、出来る範囲で分担した課題の発表やディスカッションをする機会を設けて、受講者が主体的に取り組める授業にしたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 余暇スポーツ論の射程	自分がしているスポーツ活動を列記しておく
2.	レジャーとは何か 関連概念の整理とレジャー問題の中心	前回からの一週間に行われた大きなスポーツニュースの内容をチェックしておく
3.	現代生活とレジャー、スポーツ	日本のレジャー活動内容の歴史的変化を調べておく
4.	自由時間におけるスポーツ活動の意義と重要性	自分が自由時間にしている活動をまとめておく
5.	遊びの重要性とスポーツのあり方	これまでのあなた自身のスポーツ体験の歴史をまとめておいてください
6.	現代の健康問題とスポーツ	事後課題: 毎日の運動量を記録(一週間)、評価し、今後の改善方計画を立てる。
7.	ライフコースとスポーツ活動	あなた自身の人生設計(就職、結婚、出産、など)(仮説)を考えておく
8.	地域社会とスポーツ	あなたが現在までしてきたスポーツの内容、場所、組織を整理しておく
9.	総合型地域スポーツクラブの理念と展開	事後課題レポート あなたの住んでいる(または実家)地域にある総合型地域スポーツクラブの概要を調べてレポート提出(ワードファイルをメール添付)
10.	スポーツとの多様なかわり方(見る、支えるなど)	自分や友達などがしている、スポーツ実施以外のスポーツ活動を列記しておく
11.	国際化したスポーツの諸問題	世界的スポーツ大会をリストアップする
12.	行政サービスとレジャースポーツ	これからしたいスポーツとその理由をまとめておく
13.	レジャー産業としてのスポーツの規模と可能性	利用している、または利用したいレジャースポーツ施設をリストアップしておく
14.	これからのレジャースポーツ	日常、週末、長期休暇にしたい活動を箇条書きで書いておく
15.	レジャースポーツー個人的課題と社会的課題	授業全体の資料や内容を整理しておく

受講者へのメッセージやアドバイス: まずは自分自身とスポーツの実践的かわり方を分析することから始め、毎日の生活や生涯計画な中でのスポーツの位置づけをプログラムすることから始め

フィードバックの方法: 基本的に次の授業時間にコメントシート等の内容を報告して前回授業の振り返りと今回授業のイントロダクションとして用いる。また必要に応じて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加	50	授業への取り組みと毎回のコメントシート
	授業課題(分担発表)	20	課題の達成度
	授業内容の全体的把握	30	最終コメントシートの内容

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

ウエルネスライフ論

授業の概要:

ウエルネスの基本的な項目としてのストレスマネジメント、デス・ラーニング、健康保養、行動変容、自然との関係、価値生きがい、食行動、身体活動についての基本的な知識を学ぶ。

到達目標:

総合的な健康の概念としてのウエルネスの目標である幸福で充実した人生を送るために、自分の生活習慣をどのように改善したらよいかを学び、それらをどのように計画していったら良いかについて考え将来に向けて実践していくことを目標とする。また、体験実習をおし人間関係の大切さを学ぶ。

授業方法:

講義、体験学習、実習を主にグループでの話し合い、発表。必要に応じて視覚教材を使う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業に関するオリエンテーション	シラバスを確認しておく
2.	コミュニケーション実習としての体験学習	グループワークに参加できるように心構えをしておく
3.	ウエルネス概念、キーワードについての学び	ウエルネスの言葉の意味を調べておく
4.	いろいろな健康の概念についての学び	健康とは、何か考えておく
5.	自分の現在の健康度についてのチェックとグループにおける話し合い	自分の健康度について知っておく
6.	生活習慣改善についての学びと行動変容とものの見方、考え方についての体験学習	行動変容とは、何かを調べておく
7.	デス・ラーニングの学び	死生観について考えておく
8.	死の受容とライフプランニングについて学ぶ	どのような人生を送りたいかについて考えておく
9.	ライフプランニングとタイムマネジメントについての学びと実習	人生計画に関する情報を調べておく
10.	余暇とタイムマネジメントの体験学習	時間管理について考えておく
11.	価値観についての学びと体験学習	価値観について考えておく
12.	ストレスについての学びとストレス度チェックとグループにおける話し合い	ストレスに関する情報を調べておく
13.	リラクセーション方法についての実習	どのような方法があるか調べておく
14.	食と食行動について学ぶ	食行動について考えておく
15.	ウエルネス保養と健康保養についての学び	健康保養とは、どのようなことか調べておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

体調管理を心掛けて授業参加してください。また、グループワークは積極的に参加してください。

フィードバックの方法:

教室にて全体に解説、返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	振り返りレポート	70%	到達目標ウエルネス理論の理解と各自の気づきやまとめの仕上がり度合い、独自の視点があるかを基準とする。
	発表、話し合い	15%	グループ発表での自分の役割とその達成度と積極的な参加態度・意欲を評価する。
	授業への参加度	15%	積極的に授業に参加し、他者との良好なかかわり方を評価する。

教科書:

参考書:

野崎泰明、ウエルネスマネジメント、メッツ出版
野崎泰明、ウエルネスの理論と実践、メッツ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業後教室にて

授業テーマ:

生涯学習の基礎的理解ー自分づくり・仲間づくり・地域づくりのための教育論ー

授業の概要:

今日の日本を含む発達した国々で、義務教育以後の生涯学習は、教育制度に位置づけられ多様な広がりをみせている。日本の生涯学習の歴史・制度・施設の概略について講義し、現代的課題に取り組む市民の学びの実際を豊富な事例に基づいて紹介し、あわせて学習支援のあり方について考察を深める。

到達目標:

1生涯学習の歴史・制度・施設についての基礎的理解 2多様な学習者と生活課題・学習課題に就いての理解 3学習支援のための手段・方法についての企画力

授業方法:

講義を基本としつつ、月一回程度の演習(グループワークを含む)を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 生涯学習への招待ー現代社会において学ぶことの意味ー	身近な学習施設について気づく
2. 日本の生涯学習の歴史をさぐる 1 通俗教育から社会教育へ	明治期の日本社会について学ぶ
3. 日本の生涯学習の歴史をさぐる 2 青年会から青年団へ	大正期の日本社会について学ぶ
4. 日本の生涯学習の歴史をさぐる 3 婦人教育の誕生	昭和の女性史について学ぶ
5. 戦後の生涯学習の理念としくみー社会教育の自由と権利ー	戦後教育における社会教育の位置づけについて学ぶ
6. 生涯学習施設の変遷とその意味ー学習施設としての公民館ー	身近な公民館や類似施設について調べる
7. 公民館の課題について考える	教育機関としての独自性について考える
8. 学習施設としての図書館の発展	身近な図書館について調べる
9. 図書館と住民の学習ー様々な事例からー	図書館活動について理解を深める
10. 学習施設としての博物館の可能性	自らの博物館体験についてふりかえる
11. 学びつつ生きる女性ー婦人教育から女性の学習へー	自分にとっての女性問題を考える
12. 子育て支援の客体から地域づくりの主体へー先進的な事例に学ぶー	女性にとって住みよい地域とはーを考える
13. 青少年教育の現在ー居場所と青少年教育施設の役割ー	青少年の居場所の条件を考える
14. エイジングはよくないことかー学習主体としての高齢者ー	高齢者の役割と支援のありかたについて考える
15. 学校と地域の再生のためにー校区社会教育の可能性ー	自らの体験から学校と地域の望ましい関係について考える

受講者へのメッセージやアドバイス:	質問やコメントについて教室でまとめて解説する。	
フィードバックの方法:		

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加 期末レポート	50% 50%	到達目標1,2,3への努力がみられるか 授業での知見を基に自分なりの一貫した考察ができているか、もしくは社会教育職員としてまとめた企画を立案する力があるか

教科書: 指定しない 配布プリントによる

参考書: 授業中提示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: E-mail: izumi-bt@mtd.biglobe.ne.jp

授業テーマ:

「パンクロック」で表出される「青年像」の社会心理学的解析

授業の概要:

「子ども」から「大人」への過渡期として位置づけられる青年期に関して、(1)自我の目覚めや性的機能の発現に伴う自己の内面への拡大、(2)親からの心理的独立など、種々の心理学的特徴が明らかにされてきた。しかしながら、近年、時代条件の変化と関連しながら青年期自体が変貌し、青年期が拡大した(早期開始＝低年齢化と延長＝青年期への滞留)。それに伴い、青年期自体の過渡期的性質の消失が指摘され、心理学で構築された従来の青年期の枠組みの再構築が迫られている。この講義では、ロック音楽を通して青年期の心性の一端を明らかにし、青年期の変貌の心理学的意味を明らかにする。1970年代半ばに米国の若者の間で発生し、英国で確立した「パンクロック」に焦点をあてる。「パンクロック」は、近年日本の若者でも確固たる音楽領域として認知され、そこで表出される歌詞は、基本的に青年期の心性(心の不安定さ＝揺れ、既存社会への反発、将来の自己展望)を骨格にして形成されている。この講義では、日本の「パンクロック」に焦点をあて、表出されている歌詞をテキストとして青年期の心性がどのように構築されているのかを捉えたい。

到達目標:

講義を通じて、いわゆるロック音楽が、その時代や社会の青年のあり方と関連した文化現象であることを理解する。

授業方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
	2. パンクロックと青年	前回の講義主題の確認
	3. 青年の誕生と存在の危うさ	同上
	4. 未来に向かう青年	同上
	5. 未来に向かわない青年	同上
	6. 仲間関係の神秘	同上
	7. 隔絶する「自分」の発見	同上
	8. 自己中心化する「自分」	同上
	9. 照れる恋愛	同上
	10. 変形化する恋愛感覚	同上
	11. 生き続けることの意味	同上
	12. 柔らかな反抗	同上
	13. 再び、荒野へ	同上
	14. 青年の行方	同上
	15. 総括	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:

1週間に一度は「流行歌」(かつての流行歌でもOK)と向き合おう。その「流行歌」がなぜ多くの人々の心と共振しているのかを考えよう。そして、講義で学習した心理学用語を用いて、その「流行歌」がもつ「ちから」を分析してみよう。

フィードバックの方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
	小課題(含 マナビー)	30	授業への集中と理解

教科書:

諸井克英著『ハイロウズの掟―青年のかたち―』<晃洋書房>

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー

授業テーマ:

「ゼロ年代」における若者によるアニメ・メディアミックスの受容

授業の概要:

2000年以降のわが国の若者をターゲットして創出された「ライトノベル・アニメ・コミック」の相互関連メディアを対象として、これらのメディア創造物を受容する若者の心性の基底にある心理学的メカニズムの解明を行います。これらのメディア創造物の基底には、わが国の'90年代のバブル経済の崩壊と冷戦の終結に伴う「自由だが冷たい(わかりにくい)社会」への直面に曝された若者の心理的状況がある(宇野, 2008)。このような状況の中で、「セカイ系」の出現や「コミュニケーションとしての作品消費」という新たなパラダイムである「日常系」の流れが出現しています。この講義では、このような「ゼロ年代」以降のアニメ・メディアミックスの状況に焦点をあて、作品分析や当該作品の若者の受容形態を通して、現代の若者の心性を明らかにする。

到達目標:

アニメやコミックが創出する虚構世界を通して、同時代の人々の心性を理解しよう。

授業方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
	2. 現実(reality)構築の心理学的原理	前回の講義主題の確認
	3. '60・'70年代アニメの素描―「魔法使いサリー」と「天才バカボン」―	同上
	4. アニメ・メディアミックスの現状―「涼宮ハルヒの憂鬱」を例として―	同上
	5. 世界融解としての「ゼロ年代」	同上
	6. 分裂するところの世界から力へ―「ブギーポップは笑わない」―	同上
	7. 「セカイ系」的世界観の構築における「母性」回帰―「最終兵器彼女」―	同上
	8. 反復される日常への「コミュニケーション消費」志向―「けいおん！」―	同上
	9. 生活の「島宇宙」化―再び「涼宮ハルヒの憂鬱」―	同上
	10. 現実世界の「空気」の投影から「解決」へ	同上
	11. 自然畏怖と日本アイデンティティの喚起―「太陽の黙示録」―	同上
	12. 格差社会における浮遊層の覚醒―「東のエデン」―	同上
	13. 昭和30年代回帰への「クレヨンしんちゃん」の対抗	同上
	14. まとめ	同上
	15. 評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:

1週間に一度はアニメやコミックと向き合い、その作品ががなぜ人々の心と共振しているのかを考えよう。

フィードバックの方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
	小課題(含 マナビー)	30	授業への集中と理解

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー

授業テーマ:	音楽の臨床的応用について考察する。		
授業の概要:	心理や福祉の領域における対人援助の一方法として音楽療法について概観する。また、音楽以外の芸術活動の臨床応用(芸術療法)についても議論する。		
到達目標:	・欧米由来の音楽療法を正しく理解する。 ・音楽療法の背景理論に習熟する。 ・芸術療法の種類やその方法について理解する。		
授業方法:	講義中心。授業の中で数回のコメントペーパーを課し、理解の確認を行う。また、芸術療法に関するグループ発表を行い、講義で得た知識を整理、発展させる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション:音楽療法とは何か	テキスト該当箇所の復習	
	2. 心理および福祉領域における援助としての音楽活動のあり方	テキスト該当箇所を読んで予復習する。	
	3. 小児の心身の発達と音楽的発達との関係	同上	
	4. 小児と音楽療法(1)	同上	
	5. 音楽療法の背景理論(1)	同上	
	6. 小児と音楽療法(2)	同上	
	7. 音楽療法の背景理論(2)	同上	
	8. 理論の総括	これまでの授業でノートにまとめた内容を総復習する。	
	9. 芸術療法の概観	芸術療法の種類について事前に調べておく。	
	10. 芸術療法の事例検討	芸術療法の対象者の特性について復習する。	
	11. 描画療法と描画テスト	描画テストの種類について事前に調べておく。	
	12. 芸術家の作品とその制作背景について	テキスト該当箇所を読んで予復習する。	
	13. グループ発表(1)	グループ発表の準備	
	14. グループ発表(2)	グループ発表の準備	
	15. 総括と討論	これまでの授業でノートにまとめた内容を総復習する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回の授業内容に即した関連文献に積極的に目を通すよう努めること。		
フィードバックの方法:	提出物については、教室でまとめてコメントする。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席およびクラス参加度	50%	授業への積極的な参加, および到達目標における音楽療法に対する正しい理解について、コメントペーパーにより評価する。
	発表	20%	到達目標における、芸術療法に対する理解に基づき、独創的な発表ができていることを評価する。
	レポート課題	30%	到達目標における、音楽療法の背景理論の習熟により、論理的な説明ができていることを評価する。
教科書:	『こころをつなぐミュージックセラピー:ことばを超える音との対話』 ミネルヴァ書房(2016)		
参考書:	『音楽療法:ことばを超えた対話』 ミネルヴァ書房(1996) その他、授業内で適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:	生命と医療をめぐる問題を考察することから「より善い生き方」について探究する																																		
授業の概要:	今日、自然科学技術はわたしたちの生活に不可欠のものとなっている。高度に発達した自然科学技術のおかげで、わたしたちは日々、快適な生活を送ることができる。わたしたちが、自然科学技術の力をもっとも明確な形で感じ取る場所の一つは、わたしたちの「いのち(生と死)」にかかわる医療の領域であろう。ここで使用される生命技術は、「生きたい」あるいは「死にたくない」というわたしたちの切実な思いに——もちろん、そのすべてにではないのだが——さまざまな仕方で応えてくれる。しかし、生命技術はわたしたちに多くの恩恵を与えてくれるだけではない。生命技術は、わたしたちの「いのち」にかかわるさまざまな倫理的問題も引き起こす。臓器移植、不妊治療、安楽死、ケア、自己決定といった問題である。わたしたちは、こうした「いのち」にかかわる倫理的問題とどのように向き合えばよいのだろうか。 本講義では、受講生とともに、いくつかの倫理的問題にじっくりと取り組み、当該の問題に潜んでいる論点を明らかにすることから、「いのち」を大切にする生き方について考察してみたい。																																		
到達目標:	①受講生が倫理的問題と向き合い、その論点を分析し、理解することができるようになること ②「いのち」の大切さについて思索を重ねていく能力を身につけること ③より善い生の実現を目指し自ら実践する倫理的態度を養うこと																																		
授業方法:	講義形式 板書によって進めるので、必ずノートをとること。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. はじめに(道徳と倫理)</td><td>予習 テキスト第1～5節を読む</td></tr><tr><td>2. いのちが主人公</td><td>予習 テキスト第6、8、9節を読む</td></tr><tr><td>3. 自然科学技術の根底に潜む思想</td><td>復習 配付資料を読む</td></tr><tr><td>4. 現代医療の功罪</td><td>予習 テキスト第7、12、13節を読む</td></tr><tr><td>5. 臓器移植をめぐる問題</td><td>予習 テキスト第10節を読む</td></tr><tr><td>6. 不妊治療をめぐる問題</td><td>予習 テキスト第11節を読む</td></tr><tr><td>7. 人工妊娠中絶をめぐる問題①</td><td>予習 テキスト第16、19節を読む</td></tr><tr><td>8. 人工妊娠中絶をめぐる問題②</td><td>復習 配付資料を読む</td></tr><tr><td>9. 超高齢化社会のなかで生きることにかかわる問題</td><td>予習 テキスト第14、17節を読む</td></tr><tr><td>10. 安楽死と人生の質</td><td>予習 テキスト第15節を読む</td></tr><tr><td>11. ケアの思想</td><td>予習 テキスト第8、17節を読む</td></tr><tr><td>12. 自己決定の思想</td><td>予習 テキスト第9節を読む</td></tr><tr><td>13. 現代医療と生き方</td><td>予習 テキスト第18、20節を読む</td></tr><tr><td>14. 講義全体の振り返り</td><td>復習 配付資料を読む</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>復習 配付資料を読む</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. はじめに(道徳と倫理)	予習 テキスト第1～5節を読む	2. いのちが主人公	予習 テキスト第6、8、9節を読む	3. 自然科学技術の根底に潜む思想	復習 配付資料を読む	4. 現代医療の功罪	予習 テキスト第7、12、13節を読む	5. 臓器移植をめぐる問題	予習 テキスト第10節を読む	6. 不妊治療をめぐる問題	予習 テキスト第11節を読む	7. 人工妊娠中絶をめぐる問題①	予習 テキスト第16、19節を読む	8. 人工妊娠中絶をめぐる問題②	復習 配付資料を読む	9. 超高齢化社会のなかで生きることにかかわる問題	予習 テキスト第14、17節を読む	10. 安楽死と人生の質	予習 テキスト第15節を読む	11. ケアの思想	予習 テキスト第8、17節を読む	12. 自己決定の思想	予習 テキスト第9節を読む	13. 現代医療と生き方	予習 テキスト第18、20節を読む	14. 講義全体の振り返り	復習 配付資料を読む	15. まとめ	復習 配付資料を読む		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. はじめに(道徳と倫理)	予習 テキスト第1～5節を読む																																		
2. いのちが主人公	予習 テキスト第6、8、9節を読む																																		
3. 自然科学技術の根底に潜む思想	復習 配付資料を読む																																		
4. 現代医療の功罪	予習 テキスト第7、12、13節を読む																																		
5. 臓器移植をめぐる問題	予習 テキスト第10節を読む																																		
6. 不妊治療をめぐる問題	予習 テキスト第11節を読む																																		
7. 人工妊娠中絶をめぐる問題①	予習 テキスト第16、19節を読む																																		
8. 人工妊娠中絶をめぐる問題②	復習 配付資料を読む																																		
9. 超高齢化社会のなかで生きることにかかわる問題	予習 テキスト第14、17節を読む																																		
10. 安楽死と人生の質	予習 テキスト第15節を読む																																		
11. ケアの思想	予習 テキスト第8、17節を読む																																		
12. 自己決定の思想	予習 テキスト第9節を読む																																		
13. 現代医療と生き方	予習 テキスト第18、20節を読む																																		
14. 講義全体の振り返り	復習 配付資料を読む																																		
15. まとめ	復習 配付資料を読む																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	教科書の当該箇所を読んだうえで授業に参加すること。 また、授業中に興味関心をもった事柄にかかわる参考文献を選んで読んでおくこと。																																		
フィードバックの方法:	コメントペーパーに記入された質問などについては、可能なかぎり次の講義時にコメントする。 中間レポートはコメントをつけて返却する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>平常点</td><td>20</td><td>各回、コメントペーパーに講義に対する意見、質問などを書く</td></tr><tr><td>中間レポート</td><td>40</td><td>文献読解の正確さと論証の正確さを評価基準とする</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>40</td><td>到達目標①と②にかんして、倫理的問題についての論点分析とその論理的説明を評価基準とする</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	平常点	20	各回、コメントペーパーに講義に対する意見、質問などを書く	中間レポート	40	文献読解の正確さと論証の正確さを評価基準とする	定期試験	40	到達目標①と②にかんして、倫理的問題についての論点分析とその論理的説明を評価基準とする																						
評価方法	割合	評価基準																																	
平常点	20	各回、コメントペーパーに講義に対する意見、質問などを書く																																	
中間レポート	40	文献読解の正確さと論証の正確さを評価基準とする																																	
定期試験	40	到達目標①と②にかんして、倫理的問題についての論点分析とその論理的説明を評価基準とする																																	
教科書:	工藤和男『いのちとくらしの倫理学(改訂版)』晃洋書房、2010年																																		
参考書:	講義中に適宜紹介する																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	講義の前後に教室内で対応する																																		

授業テーマ:

「女性学・男性学・ジェンダー研究」の基礎 ー理論と実践の両輪を学ぶー

授業の概要:

男性と女性の両性を含めた総合的な人間理解を目指すジェンダー研究・セクシュアリティ研究に基づき、ジェンダーの視点およびその理論の概要と検討課題を学ぶ。
学びのねらいは、私たちの暮らしに遍満している「性や性別にかかわるとられ・思いこみ」(ジェンダー問題、ジェンダー課題、セクシュアリティ課題等)に気付くことを重視し、研究・運動・政策等の推移を講義する。
具体的内容は、1)1960年代から2016年現在までの性別/性差問題に対する実践・運動史、及び、女性学・男性学・ジェンダー研究の誕生と発展を概観する。次に、2)ジェンダー/セックス/セクシュアリティ/クイア、そして「男女共同参画社会」という概念と意義、その拡大・修正の軌跡を学ぶ。さらに、3)身体、暴力、労働、経済などの諸課題とジェンダーの視点が深く結びついていることを具体的に理解する。

到達目標:

(1)ジェンダー、セックス、セクシュアリティの概念と同概念が台頭した歴史的背景を正確に理解できる。
(2)女性学・ジェンダー研究という「学問」の誕生と発展について、国際的視野を身に付けつつ正しく理解する。

授業方法:

講義、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. 性暴力ーデートDVとは何かー	2. 性暴力ー被害と加害、根絶に向けたシステム形成への軌跡	本講義のシラバスを必ず読んでくること 第1回時に配布したデートDV事例資料を読んでくる
	3. ジェンダー問題とは何かー「当たり前」を見直す	性暴力被害の本質を考えてくる
	4. ワークショップー私の気づき・あなたの発見を比較しながら	第1回から第3回までの「気づき」をノートに整理してくる。
	5. 女性学・ジェンダー研究の誕生と歴史:その1	ワークショップでの他者の意見から考えたことを記録・提出する
	6. 女性学・ジェンダー研究の誕生と歴史:その2	第5回時に配布した女性学・ジェンダー研究の資料に関するノート整理を行ってくる(リベラルフェミニズム、ラディカルフェミニズム、その考え方、本質等)
	7. 男性学・ジェンダー研究とは	第6回時に配布した女性学・ジェンダー研究の続きの資料に関するノート整理を行ってくる(マルクス主義フェミニズム、アメリカの大学における女性学の発展、等)
	8. ジェンダー研究の発展と応用	第7回時に配布した男性学・ジェンダー研究の資料に関するノート整理を行ってくる。
	9. セクシュアリティー	第8回時に配布した、ジェンダーとセックスの概念とその理解について、各自ノートに資料整理をおこなう。
	10. ジェンダー・セックス・セクシュアリティー	セクシュアリティーの多様性を理解し、第8回と第9回の講義内容の統合を試みる。
	11. ジェンダーと法律・政策ー国際法から国内法へ	第8回から第10回までの講義を整理し、ジェンダー・セックス・セクシュアリティーという概念とその広がり、人間の多様性を思考・理解する。また、疑問点も整理する。
	12. 男女共同参画社会基本法と男女共同参画社会	国際社会が確立してきた法律とその内容をノート整理する。
	13. 女性と身体ー「私」の人生選択と刑法堕胎罪・母体保護法・少子化社会対策基本法ー	第12回時に配布した資料の整理を行っておく。
	14. ジェンダーと労働	ジェンダー研究の個別課題ー「女性の身体」について、ノート整理を行い、自分の現在までの身体・生活を振り返っておく。
	15. ①ジェンダーと経済ー給与明細を読み解きながらー	今までの授業の中での、質問・疑問・意見等について、ノート整理しておく。
	②質疑応答	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

・提出されたレポートに関しては、後日授業で必ずコメントや質疑応答について答える。
・時間が不足する場合には、質疑応答に対する応答シートを配布する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	1. 講義と討論への積極参加	20%程度	出欠に関して、6回以上の欠席者は、成績評価の対象としない。
	2. 中間レポート	20%程度	引用した文章に関し、引用・参考文献を記載していないポートは採点の対象としない。
	3. 期末試験等	60%程度	核となる内容がきちんと明記されていることを重視し採点する。

教科書:

参考書:

井上輝子・上野千鶴子他編『岩波女性学事典』岩波書店、2002
杉山文野『ダブル・ハピネス』講談社、2006
沼崎一郎『キャンパスセクシュアルハラスメント対応とガイドー改訂増補版ー』嵯峨野書院、2006
小林美佳『性犯罪被害とたたかうということ』朝日新聞社、2010
その他適宜資料を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、自己管理力、Human Rights.

教員との連絡方法:

質疑応答は授業内・授業後に教室や研究室訪問等で対応する。

授業テーマ:

ジェンダーで見る日本女性史

授業の概要:

日本における女性史研究は戦前からの長い歴史を持っている。近年、ジェンダーの概念を取り入れることで、新しい日本女性史が描かれるようになってきた。女性のことを取り上げるから「女性史」なのではなく、「女性」であることが歴史の中でどういう意味を持ち、誰にどう評価されてきたのかを考えていく。これは、今を生きる私たち自身の問題でもある。歴史とは単に過去のことを学ぶのではない。女性史を学ぶことで、自分の未来を考えて欲しい。

到達目標:

(1)女性史関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることができる。
(2)女性史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることができる。
(3)女性史の基礎知識に基づき、男女共同参画社会の実現に向けての具体的な提言ができる。

授業方法:

講義
受講者の人数によっては、グループ・ワークを取り入れることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	女性史を学ぶ意味とは？	高校で習得している女性史・ジェンダー論に関する基礎用語を再確認しておくこと。
2.	ジェンダーをめぐる日本の状況とは？	前回の講義内容を復習しておくこと。
3.	悪女は「悪い」女なのか？	前回の講義内容を復習しておくこと。
4.	悪女の時代とは？	前回の講義内容を復習しておくこと。
5.	女も漢字を書く？	前回の講義内容を復習しておくこと。
6.	正妻への道は厳しい？	前回の講義内容を復習すると共に、基礎的な学術用語を再確認しておくこと。
7.	「不倫」の「倫」って何？	前回の講義内容を復習すること。
8.	誰にとっての強姦か？	前回の講義内容を復習すること。
9.	出産の歴史(その1)	前回の講義内容を復習すること。
10.	出産の歴史(その2)	前回の講義内容を復習すると共に、現代社会の課題について把握しておくこと。
11.	戦争と女性(その1)	前回の講義内容を復習すること。
12.	戦争と女性(その2)	前回の講義内容を復習すること。
13.	女性と学び	前回の講義内容を復習すること。
14.	女性労働と人権	前回の講義内容を復習すること。
15.	総括	すべての講義内容を再確認すると共に、課題レポートの完成に取り組むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

・コメント・ペーパーは出席カードではなく、採点の対象となるので留意されたい。
・極端に文字数が少ない、また、教員の話のオウム返しを書くなど、授業を聞いておらず、自分の頭で考えてもいないことが明白なコメントペーパーに対しては、点を与えない。
・レポートは、参考文献リストを付したものを要求するので、留意されたい。

フィードバックの方法:

コメントペーパーについては、提出者のなかからその一部をとりあげ、講義の最初に解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	25	女性史に関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることができている。
	レポート	25	女性史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることができている。
	レポート	20	女性史の基礎知識に基づき、男女共同参画社会の実現に向けての具体的な提言を行うことができている。
	出席およびコメントペーパーの提出	30	講義に出席し、その内容を正しく理解し、自ら課題を見つけ、問い直すことができる。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

電子メール

授業テーマ:	自己のリーダーシップ資質に気づき育む		
授業の概要:	日本社会でリーダーシップを発揮している女性は、諸外国と比較して極端に少ないのが現状です。社会における女性の活躍度を示すジェンダー・ギャップ指数(GGI)の日本の順位は、144カ国中111位です。日本の順位を大幅に下げる主要因は、企業の管理職と国会議員・閣僚に占める女性比率が著しく低く男女の賃金格差が大きいことです。政府主導で女性活躍推進策がすすめられている現在、受講生のみなさんは卒業後、さまざまな領域でリーダーシップを発揮する機会が増えるでしょう。リーダーシップは人が生まれつきもっているものではなく、各自が特性を活かして学習して身につけることが可能です。		
到達目標:	1. リーダーシップとは何か、どのようなメカニズムで発揮されるのか、どのような種類・スタイルのリーダーシップがあるのかについて理解できていること。 2. 様々な女性リーダーの資質を考察し、発表や演習のアクティブラーニングをとおして自己のリーダーシップ資質に気づき、それを育む力が身につけていること。		
授業方法:	授業の4～14回は、おもにグループ発表とディスカッションを組み合わせます。その間、担当者は主として当該テーマに関する補足説明と効果的な発表やディスカッションのためのサポートを行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業目標と授業全体の流れ)		
	2. リーダーシップとは何か、リーダーシップが発揮されるメカニズム	事前配布資料を読んで、内容が理解できていること。	
	3. グループづくりとグループの課題決定、リーダーシップ発揮のためのミニ演習ワーク	前回の授業内容を復習しておくこと。	
	4. マーガレット・サッチャーに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	5. インディラ・ガンディーに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	6. ディベート試合(ディベートの論題は受講生の話し合いにより決定する) シンポジウム(シンポジウムのテーマは受講生の話し合いにより決定する)	発表を積極的に傾聴する態度をもつこと。発表者は準備をする。	
	7. エバ・ペロンに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	8. アウンサンスーチーに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	9. アウンサンスーチーに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	10. 緒方貞子に学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	11. マザー・テレサに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	
	12. 社長ごっこ(女性が実力を発揮できる会社を構想する)	発表を積極的に傾聴する態度をもつこと。発表者は準備をする。	
	13. 政治家ごっこ(国民を幸せにする政策を構想する)	発表を積極的に傾聴する態度をもつこと。発表者は準備をする。	
	14. 学長ごっこ(女性の潜在的能力が伸びる大学を構想する)	発表を積極的に傾聴する態度をもつこと。発表者は準備をする。	
	15. 自己のリーダーシップ資質の育成に向けて一女性リーダーからの学びとリーダーシップミニ演習の振り返り		
	受講者へのメッセージやアドバイス:	自分の人生をよりよく生きるため、また、自分の周りや社会を少しでも良くするため、自己リーダーシップとリーダーシップ資質を身につけることを目指しましょう。	
フィードバックの方法:	ワークプリントはコメントをつけて返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	50%	グループ発表や討論への積極的な参加度、ワークプリントなど
	期末レポート	50%	自分で選択した女性リーダーの生い立ちと業績が分かりやすくまとめている。彼女のリーダーシップ資質が分析できている。
教科書:	石井貫太郎(編著)(2008)『現代世界の女性リーダーたち―世界を駆け抜けた11人』ミネルヴァ書房		
参考書:	バーバラ・ケラーマン(2013)『ハーバード大学特別講義 リーダーシップが減る時代』ソフトバンククリエイティブ ショーン・コヴィー(2013)『7つの習慣 ティーンズ』キングベアー出版 伊賀泰代(2012)『採用基準』ダイヤモンド社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール(emiyaake@dwc.doshisha.ac.jp)		

授業テーマ:

わたしたちの人生の諸問題と宗教

授業の概要:

宗教は古来、人の一生に起こる様々な問題について問いかけを続けてきました。人は何のために生きるのだろうか、どこから来てどこへ行くのだろうか、なぜ人は出会いを求めるのだろうか、また本当の幸せとはどういうものなのだろうか・・・これらのまことに人間的な問いは、実はきわめて宗教的な問いでもあるといえます。また今日世界には多くの地域でさまざまな紛争がありますが、このような出来事も宗教に対する知識なしには理解することができません。わたしたちの毎日の生活も、世界で日々起こっている宗教的な出来事や思想の影響の下にあるのです。
この授業では、現代に生きるわたしたちが日々直面し、考えることを求められているいくつかの重要なテーマをとりあげ、キリスト教を始めとした代表的な現代の宗教者や思想家がどのような人間観・世界観に立ってどのようにその問題に答えようとしてきたかを検討します。

到達目標:

(1)世界中で今も多くの人々に影響を与え続けている宗教思想や思想家に対する理解を深めます。
(2)宗教者や思想家がどのような人間観・世界観に立ってそれぞれの問題に答えようとしてきたかを考察します。

授業方法:

各回のテーマについての講義のほか、毎回、学生によるグループ発表にもとづいてディスカッションし、授業内容に対する理解を深めます。ビデオ教材を活用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. リエンテーション:現代社会における宗教の役割	
2. 世界の主な宗教と宗教間対話の必要性	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
3. 人と人との関わり①フロム『愛するということ』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
4. 人と人との関わり②ダライ・ラマ14世『思いやりのある生活』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
5. 戦争と平和①非暴力抵抗 マハートマー・ガンディー『今こそ読みたいガンディーの言葉』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
6. 戦争と平和②ゆるしと和解『アベルとカイン(創世記)』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
7. 戦争と平和③歴史に対する責任『荒れ野の40年:ヴァイツゼッカー大統領演説』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
8. 宗教と暴力① マララ・ユスフザイ『わたしはマララー教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
9. 宗教と暴力② 遠藤周作『沈黙』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
10. 人生の苦しみと救い① 旧約聖書『ヨブ記』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
11. 人生の苦しみと救い② 鴨長明『方丈記』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
12. 人生の苦しみと救い③ 中村元・田辺祥二『ブッダの人と思想』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
13. 人間性の抑圧と自由① シモーヌ・ヴェイユ『自由と社会的抑圧』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
14. 人間性の抑圧と自由② シモーヌ・ヴェイユ『自由と社会的抑圧』	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

ディスカッションを取り入れる、受講生の質問に答える時間を設けるなど、アクティブな授業にしてゆきたいと願っていますので、受講学生の積極的な参加を望みます。
なお、受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。

フィードバックの方法:

出席カードに書かれた質問やコメントに教室で質問に答えます。またレポートはコメントを付けて返却します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40	クラスへの出席と出席カードのコメント、授業への積極的参加度により評価する
グループ発表1回	20	発表への貢献度と発表の内容によって評価する。
学期末レポート	40	授業中に出すレポート課題に適切な知識と理解度をもって答えているかどうかによって評価する。

教科書:

特になし。授業中に講義プリントやリーディング教材を配布します。

参考書:

エーリッヒ・フロム(鈴木晶訳)『愛するということ』紀伊国屋書店、1991年
ダライ・ラマ14世(沼尻由起子訳)『思いやりのある生活』(知恵の森文庫)光文社、2006年
マハートマー・ガンディー(古賀勝郎訳)『今こそ読みたいガンディーの言葉』朝日新聞出版、2011年
日本聖書協会『新共同訳 聖書』
リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカー『新版 荒れ野の40年―ヴァイツゼッカー大統領ドイツ終戦の40周年記念講演』(永井 清彦訳・解説)(岩波ブックレット) 2009年、岩波書店
マララ・ユスフザイ『わたしはマララー教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』学研マーケティング、2013年
遠藤周作『沈黙』(新潮文庫)新潮社、1981 年
佐藤晴夫『現代語訳 方丈記』(岩波現代文庫)岩波書店、2015年
中村元・田辺祥二『ブッダの人と思想』日本放送出版協会、1998年
シモーヌ・ヴェイユ(富原真弓訳)『自由と社会的抑圧』(岩波文庫)岩波書店、2005

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

教員のオフィスアワーで対応するほか、メールcsaito@dw.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。

授業テーマ:

犯罪を通して現代社会を考える

授業の概要:

犯罪は、一瞬にして私たちの平穏な生活を破壊し、被害者の幸せを踏みにじる、憎むべき行為です。諸外国に比べ、我が国は比較的安全な国であると言われてきたのですが、近年、犯罪数の増加と凶悪化が叫ばれており、我が国の安全神話は既に崩壊してしまったとも言われていて、そう感じている人も多くかもしれません。また近時、立法の動きが非常に活発な領域のひとつでもあって、社会的な関心も高い領域でもあります。

本講義では、殺人や強盗といった刑法典上の犯罪だけでなく、死刑の是非、飲酒運転や危険運転などの交通犯罪、少年犯罪と少年法改正、精神障害者による犯罪、児童虐待やドメスティック・バイオレンスなどの他、犯罪被害者問題や犯罪者処遇問題も取り上げる予定です。受講生が興味を持てるよう、できるだけ最新の情報とビデオなどの視覚教材を用いて講義を進め、犯罪とその対策についての理解を深めるとともに、これら諸犯罪現象を通して、現代社会の抱える問題点について考察することを目標とします。

到達目標:

犯罪学における基本原理を理解すること。
現代社会と犯罪に関する諸問題について、その傾向と社会の対応に関する正しい知識を得ること。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 刑法と犯罪	社会と犯罪との関係について、授業中に指示したテキストの該当箇所を読む等、復習しておくこと。
2. 死刑制度	死刑について、アムネスティ・インターナショナルのホームページ等を参照し、死刑の現状について理解しておくこと。
3. 犯罪論の基礎	授業中に指示したテキストの該当箇所を復習し、諸学説を整理しておくこと。
4. 現代社会における犯罪現象(1)	テキスト第2講をよく読んで復習しておくこと。
5. 現代社会における犯罪現象(2)	警察庁の統計資料等を参照して、我が国の犯罪の現状を理解しておくこと。 また、統計資料の読み方について、授業中に指摘した留意すべき諸点を整理しておくこと。
6. 新しいタイプの犯罪(1) 1) 児童虐待	テキスト第13講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。
7. 新しいタイプの犯罪(2) 1) 児童虐待	テキスト第13講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。 また、子どもの虹研修センターのホームページ等で、児童虐待の現状と対策について理解しておくこと。
8. 新しいタイプの犯罪(3) 2) ストーカー	テキスト第13講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。 また、警察庁生活安全企画のホームページ等を参照して、ストーカーとストーカー規制法について整理しておくこと。
9. 新しいタイプの犯罪(4) 3) DV(ドメスティック・バイオレンス)	テキスト第13講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。 また、警察庁生活安全企画のホームページ等を参照して、DVとDV防止法について整理しておくこと。
10. 新しいタイプの犯罪(5) 総括	配布レジュメおよびテキスト第13講を復習し、整理しておくこと。
11. 性犯罪(1)	テキスト第6講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。
12. 性犯罪(2)	授業中に指導した方法で、メーガン法について各自で調べておくこと。
13. 交通犯罪	テキスト第5講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。
14. 精神障害と犯罪	配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。
15. まとめ	配布レジュメを中心に、復習をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

現代社会と犯罪との関係で、受講者が興味・関心を持ちそうな内容を取り上げています。興味を持ったなら、自分から積極的にさらに情報収集を進める姿勢を大事にしてください

フィードバックの方法:

クラス全体で講評する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	到達目標にある、犯罪学における基本原理を理解できているか、現代社会と犯罪に関する諸問題について、その傾向と社会の対応に関する正しい知識を得ているかどうかを基準とする。

教科書:

川崎友巳『犯罪タイポロジー 犯罪の類型学(第2版)』(成文堂、2010年)

参考書:

警察庁統計資料
<<https://www.npa.go.jp/toukei/index.htm>>
警察庁『警察白書』
<<https://www.npa.go.jp/hakusyo/index.htm>>
法務省『犯罪白書』
<http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html>
アムネスティ・インターナショナル「死刑廃止」
<http://www.amnesty.or.jp/human-rights/topic/death_penalty/>
子どもの虹研修センター「児童虐待」
<<http://www.crc-japan.net/>>
警察庁生活安全企画「ストーカー事案及び配偶者からの暴力事案等の対応状況について」
<<https://www.npa.go.jp/safetylife/index.htm#seian>>

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

授業テーマ:

授業の概要: 現在日本企業の多くは国内だけではなく、海外とのビジネスや自ら現地に進出して経営を行っています。そして海外ビジネスに関連する経営活動の多くは文化的・政治的など様々な隔たりの影響を受けるので、日本国内で行う場合と大きく異なってきます。本講義では日本国内との差を意識しつつ、日本企業の海外ビジネスの事例を基にして国際経営の理論や概念を理解することを目指します。

到達目標: 国際経営に関する様々な事柄、特に日系企業の日本国内での経営との差について理解できること。
企業の取り組み事例を分析できる能力を獲得すること。

授業方法: 講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	特になし
	2. 国際経営とは	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	3. 戦略	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	4. 組織	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	5. マーケティング	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	6. 進出	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	7. 輸出入	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	8. 生産	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	9. 研究開発	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	10. 販売	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	11. 人的資源管理	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	12. 企業の社会的責任(CSR)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	13. BOP(bottom of the pyramid)ビジネス	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	14. カントリーリスク	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	15. 総括	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス: フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	70%	企業の取り組み事例を国際経営の視点から論理的に説明できるかを基準とする。
	出席確認を兼ねた小テスト	30%	問いに対して国際経営の視点から論理的に解答できるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力
教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

授業の概要: 国際金融にかかる諸問題について論じる。

到達目標: 国際金融についての基礎的知識の修得を目標に掲げる。具体的には、国際金融取引、為替レートの決定、為替にかかる経済政策、国際通貨制度などについて理解することを目標とする。

授業方法: 板書による講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
	2. どのように国際的に資金が流れるのか(その1)(教科書第5章)	「ガイダンス」の内容に対する理解
	3. どのように国際的に資金が流れるのか(その2)(教科書第5章)	「どのように国際的に資金が流れるのか(その1)」に対する理解
	4. どのように国際的に資金が流れるのか(その3)(教科書第5章)	「どのように国際的に資金が流れるのか(その2)」に対する理解
	5. 為替レートはどのように決まるのか(その1)(教科書第6章)	「どのように国際的に資金が流れるのか(その3)」に対する理解
	6. 為替レートはどのように決まるのか(その2)(教科書第6章)	「為替レートはどのように決まるのか(その1)」に対する理解
	7. 為替レートはどのように決まるのか(その3)(教科書第6章)	「為替レートはどのように決まるのか(その2)」に対する理解
	8. 中間試験	「中間試験」の準備
	9. どのように為替レートを安定化させるのか(その1)(教科書第7章)	「為替レートはどのように決まるのか(その3)」に対する理解
	10. どのように為替レートを安定化させるのか(その2)(教科書第7章)	「どのように為替レートを安定化させるのか(その1)」に対する理解
	11. どのように為替レートを安定化させるのか(その3)(教科書第7章)	「どのように為替レートを安定化させるのか(その2)」に対する理解
	12. どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか(その1)(教科書第8章)	「どのように為替レートを安定化させるのか(その3)」に対する理解
	13. どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか(その2)(教科書第8章)	「どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか(その1)」に対する理解
	14. どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか(その3)(教科書第8章)	「どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか(その2)」に対する理解
	15. まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

本授業では、上記教科書の第II部について取り扱う。なお第I部については「国際ビジネス論」の授業で取り扱う予定なので、あわせて履修すると効果的である。

フィードバックの方法:

中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間試験	50	到達目標に掲げた国際金融についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
	期末試験	50	到達目標に掲げた国際金融についての基礎的知識に関する理解度により評価する。

教科書:

浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣、2011年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

教員のメールアドレス: mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

日本企業のものづくり経営哲学と組織文化

授業の概要:

営利企業は利益をあげることを目的にしている点では共通ですが、事業活動の進め方は企業ごとに個性があります。企業のこのような個性を生み出す要因の一つは創業者の経営理念、あるいは企業自身がかかげる経営目標や理念です。それは言葉として社長室に額縁にいれられて掲げられるだけでなく製品開発・生産・販売などの事業活動の進め方、組織運営の仕方、仕事のやり方に影響を及ぼし、また従業員の意識にも反映し、継承されます。このような価値観、思想が経営哲学です。本講義では日本の製造業の大企業を主たる題材とし、そのものづくりの哲学とは何か、それは具体的に事業活動の進め方のどのような特徴として現れているのかを考えていきます。これらの企業は個人経営の零細企業ではなく数万人の従業員を要する巨大企業ですから、巨大企業の組織管理の仕組みとそれを通じて形成される組織文化についても概説します。講義ではなるべく具体的な事例を紹介して、受講生が実際の企業活動に対するイメージをもてるように工夫したいと考えています。

到達目標:

(1) 経営哲学・経営理念と企業経営や経営組織、組織文化との関係について理解できるようになる。
(2) 日本企業のものづくりの特徴や優位性、あるいはその限界について理解できるようになる。
(3) 学生が実際の企業活動に対して興味関心を抱くようになる。また受講生各自の進路選択において、企業を深く理解することに役立つ。

授業方法:

授業は講義形式です。授業で教科書は使用しません。担当者が毎回資料(紙媒体)を教室で配布し、それにもとづいて講義します。授業でパワーポイントは使用しません。事例研究ではなるべく映像教材を活用して授業を進めます。授業計画は受講生の理解度をふまえて順番を入れ換えたり、異なる内容を付け加えるなどの部分的な変更を行うことがあります。その場合にはその都度、新しい授業計画を教室にて配布します。授業では出席調査は行いません。中間試験やレポートは課しません。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 経営理念と組織文化	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
2. 創業者と会社の所有者	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
3. 創業者の経営理念と巨大企業	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
4. 巨大企業の管理と組織文化	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
5. 製品開発と組織マネジメント(事例研究:電機)	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
6. 市場創造と業界標準(事例研究:電機)	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
7. 垂直統合と分業システム(事例研究:情報機器)	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
8. 事業システムと生産システム(事例研究:小売業)	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
9. 市場分析と顧客満足(事例研究:自動車)	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
10. 大量生産と多品種展開	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
11. リーン生産方式の思想	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
12. トヨタ生産システムとセル生産システム	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
13. ものづくり論とアーキテクチャー論	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
14. 経営理念・ミッションと企業の社会的責任	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する
15. まとめ	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を学習する

受講者へのメッセージやアドバイス:

経営学関連の諸科目を事前に履修していることを前提にはしません。会社や企業経営について関心がある学生の受講を歓迎します。

フィードバックの方法:

授業内容について質問がある場合、授業終了時に質問カードを提出してもらい、次回の授業で質問に答えるようにしたいと思います。ただし質問カードの提出は任意であり、出席調査の代わりにはしません。質問は担当者にメールで提出してもかまいません。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	試験の出題は論述式で、複数の問題から受験者が1問選択して解答する方式です。評価は到達目標(1)(2)を理解している度合い、それを論理的に説明できているかを基準として評価します。

教科書:

この授業では教科書は用いません。授業に必要な資料(またはレジュメ)は印刷して、教室で配布します。

参考書:

経営哲学会『経営哲学の授業』PHP研究所、2012年
社会経済生産性本部(編)『ミッション・経営理念・社是社訓(第4版)』生産性出版、2004年
森川英正『トップ・マネジメントの経営史』有斐閣、1996年
藤本隆宏『日本のもの造り哲学』日本経済新聞社、2004年
藤本隆宏『ものづくり経営学―製造業を超える生産思想』光文社、2007年
鈴木良始・那須野公人『日本のものづくりと経営学:現場からの考察』ミネルヴァ書房、2009年
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学(新版)』有斐閣、2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

担当者への連絡はeメールにて以下へ。24時間いつでも。メール本文に学生ID、学部・学年および氏名を必ず記載してください。メールは各自の携帯電話やスマートフォンから送信してもかまいませんが、その際、以下のアカウントからの返信メールが受信可能なように設定しておいてください。
jasou@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	自然環境と適合する経済活動の在り方を目指して、現代社会の持続可能な発展の条件を探求する。		
授業の概要:	良好な地球環境は、現代社会経済がそれに基づいて繁栄しながら人間の暮らしを豊かにするものであるし、また次世代が存続するにあたって重要な基盤をなしている。しかし、残念ながらこれまでの経済発展は、その基盤を掘り崩してきた。日本は経済発展を遂げる過程において、企業の生産過程で激甚公害を生み出し、広範な放射能汚染も引き起こしてしまった。こうした厳しい事実を踏まえ、人類が経済社会を存続させるための条件はどのようなものかを考察し、明らかにする必要がある。そのためにまず、人間の経済活動による環境負荷に関して、公害の時代から地球環境の時代までをふり返る。そして、環境問題のグローバル化やエネルギー・資源問題を受け、循環型社会の構築に向けてどのような政策や制度、あるいは企業経営が必要なのか、考察する。 さらに、パリ協定の発効を踏まえた温暖化対策やエネルギー政策、あるいは、地域で行われている取り組みについて取り上げる。		
到達目標:	現代社会で地域や地球の環境を守るために、どのような政策が必要になっているのか、正しい知識を基に理解できるようになること。		
授業方法:	教科書の関連箇所を指摘しながら、講義の形式で行う。受講生の理解を深めるために、ビデオやプリント等の教材を適宜使用する。また授業内容にかんする意見・感想を求める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	2. 環境保護主義の誕生と発展	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	3. 公害の発生と対策	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	4. レイチェル・カーソンの環境保護思想と人工化学物質	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	5. 公害からグローバル環境問題へ	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	6. 企業の対応(1):環境イノベーションの促進	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	7. 企業の対応(2):環境マネジメントの展開	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	8. 地球環境問題への対応:京都議定書の気候政策	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	9. 生物多様性と経済:名古屋議定書とCBD戦略計画	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	10. 循環型社会の制度と政策	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	11. エコタウンとゼロエミッション:エコロジー的産業共生の構築	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	12. サステナブル都市のデザイン	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	13. エネルギーの現在と政策	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	14. 世界の環境政策について	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
	15. 持続可能な社会について考える	教科書の指定箇所(またはmanabi掲載の資料)を読んでおくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	環境問題は21世紀に生きる人々全員と関わっているので、さまざまな環境についての関心を常に持ち、どのような解決策が望まれるか考えてほしい。		
フィードバックの方法:	感想やアンケートについて、その次の授業でコメントを行う。		

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	100	課題を適正つに設定し、関連資料を読んで理解し、簡潔にまとめ、適切なコメントを行っているか。

教科書: 長岡延孝編『サステナビリティの政策と経営』晃洋書房。

参考書: 三橋規宏『環境経済入門』(最新版)日本経済新聞出版社。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール

授業テーマ:

人口と都市機能が集積した都市の交通、景観、住宅、都市施設の現状と問題点について、どのような問題解決を求められているかという現実的・実践的な側面から考察することで、サスティナブル都市のあり方探る。

授業の概要:

人口・世帯構造の激変(人口減少・少子高齢化・小家族)、経済のグローバル化、多発する大災害、大企業の成長鈍化等々、日本の経済・社会が大きな転換期を迎えているもとで、大都市への人口・企業集中(裏面としての地方の衰退)が急速に進行している。個性や多様性を重視しながら、都市が直面する多様な問題点を克服し、生活の「質」、環境、コミュニティ・地域主導による地域資源を活用した持続可能な地域経済・社会づくりについて考える。

到達目標:

1. 交通、景観、住宅、都市施設のマネジメントの事例を通じて、都市を構成する資源マネジメントについて学ぶ。
2. 都市経済学の基礎的な課題、概念、アプローチを学ぶ。
3. 都市を成立させている資源を対象とする多様な専門分野について関心をもつ。
4. 様々な都市資源について、①環境(的)価値、②社会(的)価値、③経済(的)価値の視点から評価する。
5. 都市マネジメントには専門的な知識、技術と、民主的なガバナンスが必要であることを理解する。
6. 都市を孤立した存在としてでなく、農村との関連、国土や都市圏の中で位置づけてとらえる。

授業方法:

毎回、ニュース・特集番組を独自編集したDVDとパワーポイントによる講義をベースとするが、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、若干の準備学習を受講生へのタスクとし、クラス全体の意見交流に努めたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	<オリエンテーション> ・授業の進め方と準備学習の説明 ・世界の都市 ～歴史的起源、空間的形態 ・都市とは何か ～都市構造、農村との違い ・都市と市民社会	・シラバスを読んでくる。 ・都市と農村の違いについて考えてくる。
2.	<交通のマネジメント1> ～公共交通の再生による都市再生 ・モータリゼーションとスプロール ・総合交通政策 ・モーダルシフト ・交通権 ・中心市街地活性化	京都市交通局のホームページを読んで、感想をメモしてくる。
3.	<交通のマネジメント2> ～都市の脱クルマ戦略 ・自動車の社会的費用 ・自動運転・燃料電池車 ・DSM	人工知能(AI)について、調べてくる。
4.	<交通のマネジメント3> ～都市再編と交通 ・コンパクトシティ論の評価 ・切り捨てられる郊外 ・交通弱者と買物弱者	自分の故郷、居住地、通学先のまちの交通事情について、気がついたことをメモしてくる。
5.	<景観のマネジメント1> ～京都市景観創生条例を事例に ・京都市景観条例の歩み ・生活環境防衛としての景観の保全 ・公害 / 環境 / アメニティ	自分が好きな場所、風景について選び、その理由についてメモしてくる。
6.	<景観のマネジメント2> ～まちづくり・タウンマネジメントの原点 ・京都らしさは誰が決める？ ・ガバナンスという考え方 ・都市の秩序・規制と誘導 ～ローカルルール/条例/法律	授業で学んだ京都市の景観規制を念頭に置いて、周辺をチェックしてくる。(スマホ等の写真で記録できればベスト。)
7.	中間まとめと意見交流	これまでの回での疑問、意見、質問をメモしてくる。
8.	<住まいのマネジメント1> ～空き家が示す日本の現在 ・増殖し続ける空き家 ・リノベーションと中古住宅市場 ・日本の住宅政策	居住地や故郷のまち、あるいは実家の住宅事情、商店街の状況について気づいたことをメモしてくる。(以前と比べて、最近、どのような地域が寂れてきたか、賑わいがあるかなど。)
9.	<住まいのマネジメント3> ～拡がる住み分け(都市空間の分節化) ・コミュニティの衰退 ・マンション管理組合 ・都市内格差の拡がり ～ホットスポットとクールスポット ・排除と差別の「リ」郊外	自治体広報誌、タウン誌、街案内やNPOのイベントチラシ、不動産の広告などを街の息吹を示すものを入手してくる。
10.	<住まいのマネジメント2> ～人にとって「家」とは何か？ ・住宅政策・思想の国際比較 ・社会政策・居住福祉としての住宅政策 ・シェアハウス、コーポラティブハウス	ネット等で、被災者住宅について調べてくること。
11.	<都市施設のマネジメント1> ～インフラ劣化と成熟都市 上下水道の更新、幼稚園・学校・公民館等の統廃合、鉄道・バス路線の廃止、市民病院閉鎖、公園や道路の維持管理	自分の出身地のまちの商店街、小中学校、公民館の現在について調べてくる。
12.	<都市施設のマネジメント2> ～民営化、都市の縮小的再編 ・人口減少社会 ・財政運営難 ・都市経済の第3次産業シフト	居住地や故郷のまちの市町村のHPから、人口・世帯の推移関するデータをプリントアウトしてくる。
13.	<都市と環境問題> ～都市と地球環境問題の関わり ・都市が被っている環境問題 ・都市の自然 ・都市が地球環境に与える負荷 ・都市基盤の脆弱化による災害の大規模化	環境問題の視点から、自分のライフスタイルについて点検し、感想をメモしてくる。

14. <サステナブル都市をめざして>
・都市集中と地方衰退のメカニズム
・EUの都市再生戦略から学ぶ
・地域経済としての都市経済
・東京と地方との垂直的・階層的な国土形成
居住地や故郷のまちの主要産業の現状について、自治体HPなどを活用して、調べてくる。
15. まとめ
これまでの資料やメモ類を整理し、授業を振り返ってくる。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

1. 理科系の街づくり分野の研究成果が、実際、どのように活かされているかに関心をもとう。
2. タウンウォッチングで、生き生きした都市の様子や個性を発見しよう。
3. 自治体広報誌、タウン誌、街案内やNPOのチラシなどを集め、作り手の活動に関心をもとう。
4. コミュニティビジネス、自治体政策、NPOや市民のまちづくり活動やプロジェクトに関心をもとう。
5. ビジネスや政治・政策に関する報道や記事に親しもう。

フィードバックの
方法:

1. 各単元の終わりに(全体で4回程度)、授業への感想・質問等のミニミニ・レポートを求めることがある。それに応える事項を後続の授業に組み込む。
2. 従来から、授業終了後及びメールによる個人質問にかなりの時間をあてているので、遠慮なく活用してほしい。
3. 中間まとめのコマにおいて、授業への希望、評価を求め、その内容を後半の授業に反映する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	論述中心。記述の論理性とともに、実践的なアプローチを重視する。
出席及びペーパー提出	30%	公欠を除く欠席の許容範囲は概ね全体の3分の1とする。単元が進む節目の回では、準備・事後学習ペーパーを指示に従って提出する。
実践的、積極的な授業参加	20%	積極的な意見交流など、集団学習に積極的に参加する態度を重視する。

教科書:
教科書は指定しません。教科書の代わりに、各單元ごとに体系的なレジュメと資料を配布します。相当枚数になるので、ファイル綴じにして、毎回、持参のこと。

参考書:
加藤敏文編著「環境・共生型タウンマネジメント」 学文社、2007年
その他は、授業中、適宜、紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:
メール及び面談。(直接、意見交換を希望する場合は、事前にメールでアポイントをとってください。)

授業テーマ:

会計学の基本を学ぶ

授業の概要:

この授業では、企業会計における実践的ツールである簿記の基礎を習得していることを前提に、実在する企業の財務諸表を利用したケーススタディを行うほか、各回の授業で取り上げるテーマと合致した日本経済新聞の新聞記事を多数参照することによって、会計学の入門的な事項について学ぶ。

なお、この授業は、「簿記論Ⅰ」をすでに履修し、複式簿記に関する基礎的な知識を有していることを前提としている。この授業と並行して、「簿記論Ⅱ」を履修していればなお望ましい。また、3年次に開講の「財務諸表論」は、この授業の講義内容を前提としている。3年次に開講の「ディスクロージャー論」では、この授業や「財務諸表論」で取り扱っている一般的な企業会計についての知識を得ていることを前提とした、さらに発展的な内容を取り扱っている。

到達目標:

より上級の会計学領域の開講科目に発展的に取り組む上で必須となる、会計学の基本となる考え方やいし会計に関連する基本的な専門用語の意味内容を知る。

特に、各回の授業で取り上げるテーマと合致した日本経済新聞の基本的な記事内容を理解できる程度の会計知識を身につける。

授業方法:

原則として講義形式で行う。この授業では、実在する企業の財務諸表を利用したケーススタディを行うほか、各回の授業で取り上げるテーマと合致した日本経済新聞の新聞記事を多数参照する。授業で取り上げる新聞記事は、講義内容と密接に関連しており、学生は、新聞記事を読むことで、講義で学んだ知識が実際に役立つことを体得できるであろう。

また、授業の冒頭には、前回の講義内容に関する小テストの解説を行う。なお、授業中には実在する企業の財務諸表を利用したケース・スタディを行う際に電卓が必要となるので、授業時には毎回電卓を持参する必要がある。

第1回の授業時から教科書を使用するので、授業時には必ず教科書を持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション 会計への接し方	マナビーのリマインド設定とプロフィール設定をしておく。授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
2. 損益計算書(1) 損益計算書の全体像	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
3. 損益計算書(2) 営業利益	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
4. 損益計算書(3) 経常利益と税引前当期純利益	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
5. 損益計算書(4) 当期純利益と包括利益	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
6. 貸借対照表(1) 貸借対照表の全体像	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
6. 貸借対照表(2) 流動資産	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
7. 貸借対照表(3) 固定資産	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
8. 貸借対照表(4) 繰延資産、負債、純資産	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
9. 株主資本等変動計算書 確定決算主義 欠損状態と債務超過の異同	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
10. キャッシュ・フロー計算書(1) キャッシュ・フロー計算書の全体像	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
11. キャッシュ・フロー計算書(2) キャッシュ・フローの種類とパターン	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
12. 損益分岐点分析 製造原価明細書	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
13. 財務諸表分析(1)安全性の分析ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
14. 財務諸表分析(2)収益性の分析ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
15. まとめ	小テストをはじめとして、これまでの学習内容を十分に復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

広い意味での会計学の学習は、簿記を修得することから始めることが多い。しかし、技術的な簿記技法だけに固執していれば、社会における会計の役割や機能ひいてはその限界を正しく理解することはできない。

簿記は財務諸表を作成するための技術であり、「簿記論Ⅰ」や「簿記論Ⅱ」では、財務諸表を作成するプロセスを学ぶ。これに対して、この授業では、誰か(つまり企業)がすでに作成・公表した財務諸表の構造を学ぶとともに、財務諸表から得られる情報を加工することで、財務諸表が(主として投資家の)意思決定に役立つことを体得する。

フィードバックの方法:

各回の授業の終了後にマナビー上に公開した講義内容に関する小テストについては、次の授業の冒頭で解説を行うとともに、模範解答をマナビー上に公開する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	日本経済新聞に掲載された会計に関連する基本的な記事内容を理解できる程度に、会計学の基本となる考え方やいし会計に関連する基本的な専門用語の意味内容を理解しているかどうかを基準とする。
定期試験	60%	日本経済新聞に掲載された会計に関連する基本的な記事内容を理解できる程度に、会計学の基本となる考え方やいし会計に関連する基本的な専門用語の意味内容を理解しているかどうかを基準とする。

教科書:

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト3級』(第3版) 中央経済社、2014年。
宮入勇二著『実務入門 会計の基本がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2008年。

参考書:

青木茂男編著『要説 経営分析』(5訂版) 森山書店、2016年。
上野清貴編著『スタートアップ会計学』同文館出版、2015年。
大塚宗春・福島隆・金子良太著・菅野浩勢著『テキスト入門会計学』(第4版) 中央経済社、2016年。
神戸大学会計学研究室編『会計学基礎論』(第5版補訂版) 同文館出版、2016年。
染谷英雄著『簿記と財務諸表の基礎』(8訂) 経済法令研究会、2016年。
千代田邦夫著『会計学入門—会計・監査の基礎を学ぶ』(新版(第4版)) 中央経済社、2016年。
日本大学会計学研究室編『はじめての会計学』(第5版) 森山書店、2016年。
朴大栄・小澤義昭・山田伊知郎編著『まなびの入門会計学』(新版(第2版)) 中央経済社、2016年。

牧野明弘著『財務分析のための実践財務諸表の見方』(新10版)経済法令研究会、2015年。
矢内一好・高山政信著『和英用語対照 税務・会計用語辞典』(13訂版)財経詳報社、2015年。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能
オフィスアワー

授業テーマ:	新聞記事のケースを通して財務諸表論を学ぶ		
授業の概要:	この授業では、会計学の基本となる考え方をすでに習得していることを前提に、新聞記事のケースを通して、財務諸表論を学ぶ。財務諸表は、企業が公表する代表的な会計情報である。財務諸表を作成するプロセスを学ぶのが「簿記論Ⅰ」や「簿記論Ⅱ」である。また、「原価計算」では、製造業の財務諸表を作成するのに必要な製品製造原価算定の方法(原価計算制度)を学んだ。これに対して、「財務諸表論」では、財務諸表をはじめとする会計情報が持つ特性を理解した上で、会計情報を読むことを学ぶ。この意味で、この授業では、情報利用者側の視点から、会計学を学ぶことになる。 なお、この授業は「簿記論Ⅰ」および「簿記論Ⅱ」のほか、「原価計算」や「会計学」の発展科目であるので、これらの授業科目をあらかじめ履修していることが強く望まれる。特に、「会計学」の講義内容の知識は必須である。		
到達目標:	この授業の目標は、会計に関する新聞記事の内容を理解できる程度の専門的知識を身につけることである。またこの授業は3年次開講であるので、学生諸姉が将来の就職活動に際してこの授業で学んだ知識を実際に生かすことができるように、企業会計に関する実践的な知識を身に付けることも、付随的な目標としている。		
授業方法:	原則として講義形式で行う。この授業では、各回の授業で取り上げるテーマと合致した日本経済新聞の新聞記事を多数取り上げる。授業で取り上げる新聞記事は、講義内容と密接に関連しており、学生は、新聞記事を読むことで、講義で学んだ知識が実際に役立つことを体得できるであろう。 また、授業の冒頭には、前回の講義内容に関する小テストの解説を行う。なお、この授業では、新聞記事のケースという形で時事問題を多く取り扱うことになるので、授業計画を変更する場合がある。 第1回の授業時から教科書を使用するので、授業時には必ず教科書を持参すること。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション 会計をめぐる2つのドラマ 2. 会計の役割と規則 3. 会社の計算原理 4. 棚卸資産の会計 5. 有形固定資産の会計(1) 減価償却と減損に焦点を当てて 6. 有形固定資産の会計(2) リース資産に焦点を当てて 7. 無形固定資産の会計(1) のれんに焦点を当てて 8. 無形固定資産の会計(2) のれんに焦点を当てて 9. 研究開発費の会計 10. 繰延資産の会計 11. 金融資産の会計 有価証券に焦点を当てて 12. 負債の会計(1) 社債と引当金に焦点を当てて 13. 負債の会計(2) 退職給付に焦点を当てて 14. 純資産の会計(1) スtock・オプションに焦点を当てて 15. 純資産の会計(2) 自己株式と剰余金の配当に焦点を当てて 16. M&Aの会計 17. 工事契約の会計 18. 税効果会計 19. 連結財務諸表をめぐる論点 20. 真実な報告と会計戦略 21. まとめ	マナビーのリマインド設定とプロフィール設定をしておく。授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。 マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。 マナビーを利用して小テストに	

新日本有限責任監査法人編『図解でざっくり会計シリーズ 税効果会計のしくみ 』（第2版）中央経済社、2016年。

新日本有限責任監査法人編『こんなときどうする？減損会計の実務詳解Q&A』中央経済社、2016年。

西川郁生編著『企業価値向上のための財務会計リテラシー』日本経済新聞社、2016年。

八田進二・橋本尚著『財務会計の基本を学ぶ』（第11版）同文館出版、2016年。

林兵磨著『財務会計論講義』創成社、2016年。

PwCあらた監査法人編『退職給付会計の実務マニュアル―基本・応用・IFRS対応』中央経済社、2016年。

分析力、思考力、コミュニケーション力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能
オフィスアワー

授業テーマ:

現代のマーケティング

授業の概要:

近年、新聞・雑誌やテレビ、インターネットなどの記事・番組を通じて、企業のマーケティング活動が紹介される機会が増加しています。皆さん自身もまた、日常生活において、企業のマーケティング活動に日々接しています。皆さんの中で「マーケティング」という用語そのものを全く聞いたことがないという人は、ほとんどいないかもしれません。マーケティング活動は非常に身近なものであり、それを研究対象とするマーケティング論もまた身近な学問であると言えます。マーケティングは、企業(または組織)の対市場活動のことであると一般に言われています。しかし、この説明だけでは抽象的すぎて、マーケティングがいったい何であるかを正確に理解することは難しいでしょう。この授業の目標は、紹介されるさまざまな理論や事例を通じて、マーケティングの基本的な考え方、マーケティング活動の具体的内容、さらにはマーケティングと社会との関係について理解を深め、最終的には、「マーケティングとは何か」、「マーケティングのあるべき“かたち”とは何か」について考える力を修得することです。

- 到達目標:
1. マーケティングの基本的な考え方を理解する。

2. マーケティング活動の具体的内容を理解する。

3. マーケティングと社会との関係について理解する。

4. マーケティングのあるべき“かたち”とは何かについて考える力を修得する。

授業方法:

授業形態は講義形式です。講義は、授業の各回の冒頭に配布するレジュメにそって行います。
なお、授業中に講義内容に関連したレポート課題を課し、その授業時間内にレポートを作成・提出してもらうことがあります(成績評価方法を参照のこと)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	新聞、雑誌、インターネットの記事やテレビのニュース番組等を通じて、企業のマーケティング活動に対する関心を高めておいてください。
2.	マーケティングの基礎概念	新聞、雑誌、インターネットの記事やテレビのニュース番組等を通じて、企業のマーケティング活動に対する関心を高めておいてください。
3.	市場細分化と標的市場の設定	マーケティング・マイオピア(第2講の講義内容)の意味内容を確認した上で、実際の企業事例を探索してください。
4.	ポジショニング	市場細分化と標的市場の設定(第3講の講義内容)の意味内容を確認した上で、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
5.	マーケティング・ミックス①製品(1)	ポジショニング(第4講の講義内容)の意味内容を確認した上で、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
6.	マーケティング・ミックス①製品(2)	「製品はベネフィット(便益)の束である」という考え方(第5講の講義内容)の意味内容を確認した上で、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
7.	マーケティング・ミックス②価格	新製品のブランディングにあたり留意すべきこと(第6講の講義内容)を確認した上で、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
8.	マーケティング・ミックス③プロモーション	さまざまな価格設定の方法(第7講の講義内容)を確認した上で、それぞれの価格設定の方法について講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
9.	マーケティング・ミックス④チャネル	SNSを活用した新たなプロモーション手法(第8講の講義内容)について、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
10.	競争環境の分析	チャネルの設計、特にチャネル構造の選択にあたり留意すべきこと(第9講の講義内容)を確認したうえで、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
11.	マーケティングの誕生	第10講の講義でとりあげたいくつかの分析手法を用いて、講義で取り上げた以外の企業(もしくは事業)を例として実際に分析を行い、それぞれの企業(事業)の現状を説明してください。
12.	消費者中心志向とマネジリアル・マーケティング	第11講でとりあげたシンガー社などの初期のマーケティング活動の事例について、さらに情報収集をしてください。
13.	マーケティングの適用範囲の広がり	顧客満足と企業利潤との関係(第12講の講義内容)について、各自の見解を深めてください。
14.	マーケティングとは、再考	マーケティングが非営利の組織にも活用・応用されるようになってきたこと(第13講の講義内容)について、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
15.	まとめ	マーケティングの目的やあり方について、各自の見解を深めてください。また、定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習してください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義の全体的な流れは以下の通りです。
(1)マーケティングの基本的な考え方と戦略立案プロセスを理解する(1～5講・10講)
(2)マーケティング活動の内容を理解する(6～9講)
(3)マーケティングの歴史を振り返り、マーケティングが社会において登場した必然性を理解する(11～12講)
(4)現代、マーケティングがさまざまな分野へ応用され、概念自体が拡張されつつあることを理解する(13-14講)
(5)マーケティングとは何か、マーケティングと社会との関係はどうあるべきかについて考える(14講)
なお、「準備学習等の内容」にも記載の通り、前回の講義内容を必ず復習する習慣を身につけてください。

フィードバックの方法:

定期試験終了後に、授業支援システム「ナナビー」を通じて試験の要点と解説を配信します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	85	到達目標1～3に関する知識の修得・理解度と、それらを踏まえた上で到達目標4について自らの考えを論理的に説明できるかを基準として評価する。
	講義中のレポート	15	到達目標1～3について、修得した知識や理解を活用して実際の企業事例を分析できるかを基準として評価する。

教科書:

参考書:	薄井和夫『はじめて学ぶマーケティング[基礎篇]現代のマーケティング戦略』大月書店、2003年。 薄井和夫『はじめて学ぶマーケティング[応用篇]マーケティングと現代社会』大月書店、2003年。 和田充夫, 恩藏直人, 三浦俊彦『マーケティング戦略[第4版]』有斐閣、2012年。 フィリップ・コトラー, デイリー・アームストロング, 恩藏直人『コトラー、アームストロング、恩藏のマーケティング原理』丸善出版、2014年。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力
教員との連絡 方法:	Eメールを活用してください。アドレスは以下の通りです。 oouchi@bus.kindai.ac.jp

授業テーマ:

～具体的事例で学ぶ広告論～

広告会社の【生(ナマ)仕事】を通して広告ビジネスと広告コミュニケーションの【今(イマ)】を学ぶ！

<広告を知れば、社会が見える！><広告ってほんとうに面白い！><広告から学ぶアイディア発想法！>

授業の概要:

☆広告に関する基礎知識・広告会社の仕事・広告メディア・広告クリエイティブ・プロモーション・イベント等について、具体的事例やデータをベースに講義します。
☆専門的な広告理論や広告制作スキルではなく、社会人として知っておくべき広告基礎知識や広告手法、広告表現手法等について講義します。
☆「マスコミの入社問題にチャレンジ」「広告のキャッチコピーを考える」「変わった広告を見つけよう」等の楽しい課題に取り組んでもらい、その優秀作を講義で発表します。

到達目標:

☆広告手法や広告表現手法を学ぶことで、一人のビジネスウーマンや生活者として、日々の仕事や生活の中で欠かせない分析力・思考力・表現力を養うことを目指します。
☆多彩な広告コミュニケーションを学ぶことで、社会人として必要不可欠な多様な視点や発想力や企画力を身に付けることを目指します。
☆広告の送り手や作り手(広告主・広告会社・メディア等)の<意図>や<手口>を知ること、社会での情報感度を高めると共に情報の受け取りや発信をもっと面白く楽しくすることを目指します。

授業方法:

パワーポイントをベースに、DVD映像・インターネット映像・資料映像等を多用し解かりやすく楽しい講義となるように授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. <オリエンテーション>・・・この講義で学ぶこと。この講義から身に付けて欲しいこと。私が広告会社でやってきたこと。最近の広告事例。皆さんが生まれた頃の社会と広告事例。他	
2. <広告コミュニケーションの基礎知識>・・・広告の歴史。狭義の広告と広義の広告。広告の種類とその事例。タッチポイント理論と生活者発想について。他	「マスコミの入社問題をやってみよう！」というテーマでレポートを提出してもらいます。面白いアイディアや人と違う発想を期待しています。(以下レポートは全て予定です)
3. <日本の広告産業と広告会社>・・・日本の広告産業規模。日本の主要広告会社とその組織。広告会社の多様な仕事とその事例。他	
4. <広告会社の仕事>・・・広告会社の職種とその仕事内容。広告会社から総合コミュニケーション企業へ。広告会社の仕事の変化とその具体事例。他	
5. <広告メディア>・・・広告メディアの種類とその移り変わり。メディア別広告投下シェアと変化。生活者のメディア接触分析とその時代変化。他	「自分のメディア接触時間を考える！」というアンケートレポートを提出してもらいます。一日平均の各メディア接触時間を整理しておいて下さい。
6. <テレビメディア>・・・データから見るテレビメディアの変化。テレビメディアの現状とその課題。テレビメディアの新しい取り組み事例。他	「テレビ番組を企画しよう！」というテーマでレポートを提出してもらいます。最近、話題の番組や人気番組をチェックしておいて下さい。
7. <新聞・出版メディア>・・・データから見る新聞・出版メディアの変化。新聞・出版メディアの現状とその課題。新聞・出版メディアの新しい取り組み事例。他	
8. <インターネットメディア>・・・インターネット広告の種類とその効果指標。インターネットメディアの現状とその課題。インターネットメディアの新しい取り組み事例。他	
9. <広告コミュニケーションの新しい潮流>・・・「クロスメディア」と「メディアクリエイティブ」について。「クロスメディア」と「メディアクリエイティブ」事例。他	「変わった広告を見つけよう！」というテーマでレポートを提出してもらいます。日々の生活の中で、変わった広告や珍しい広告をよくウオッチしておいて下さい。
10. <広告クリエイティブ>・・・広告クリエイティブの種類とその変化。CMに見る広告クリエイティブの移り変わり。他	
11. <広告クリエイティブ>・・・CMに見る広告クリエイティブのポイント。CMから学ぶアイディア発想法や広告企画手法。他	「キャッチコピーを考えよう！」というテーマでレポートを提出してもらいます。街中にあるポスターや商品のキャッチコピーをよく観察しておいて下さい。
12. <広告クリエイティブ>・・・企業のマーケティング方針と商品のポジショニングの違いによる広告クリエイティブの違い。CMに見るその具体事例。他	
13. <プロモーション>・・・売りに繋げる広告手法、プロモーションとは。プロモーションの種類と内容とその目的。最近のプロモーション事例。他	「私のプロモーションアイディア！」というテーマでレポートを提出してもらいます。社会に溢れている販促手法を注意深く観察しておいて下さい。
14. <イベント>・・・コンテンツホルダーと企業と生活者を結ぶイベントとは。イベントの種類と内容とその目的。私が関わったイベント事例。他	
15. <まとめ>・・・この講義で憶えておいて欲しいこと。この講義から身に付けて欲しいこと。広告業界やマスコミ業界で働く人達から学ぶこと。他	

受講者へのメッセージやアドバイス:

☆大手広告会社勤務37年のビジネス経験と知見を基にした「活きた講義」を行います。
☆広告関係・映像制作関係・メディア関係・エンタテイメント関係の仕事を目指す学生はもちろんのこと、他業界を目指す学生も含めて全ての受講生の「発想力」「企画力」「表現力」の向上を図る講義にしたいと考えます。
☆社会システム学科の学生はもちろんのこと、他学科の学生の受講を歓迎します。
☆毎年、受講者が150名を超える人気の講座です。
☆期末試験はありません。下記評価方法で採点します。

フィードバックの方法:

☆提出物(課題レポート)は返却しません。優秀作は講義内で発表します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加	50%	公欠と認めざるを得ない場合を除き欠席回数を減点します。
	レポート	40%	レポートは内容と表現力の両面から採点します。一回ごとに採点し全回数の総合点で評価します。
	取組み姿勢	10%	講義への感想記入、講義中の積極的な挙手、質問や相談等の取り組み姿勢をプラス評価します。
教科書:	皆さんに購入してもらう教科書はありません。毎回、必要な講義資料を配布します。		
参考書:	講義の中で、その都度紹介します。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	質問や相談がある場合は、授業の前後に遠慮なく申し出て下さい。時間が必要な場合は改めて日時を設定します。マスコミ・広告・映像制作・エンタテインメント業界等に関する個別相談にも応じます。		

授業テーマ:

ビジネス社会における情報通信技術の活用について学ぼう

授業の概要:

今日の情報化社会においては、組織で仕事を進めたり、日常業務を改善したり、さらに大事な意思決定をする際など、情報通信技術を活用する力を持っているかどうかで、大きな違いが生じてしまいます。こうした力を身につけるには、第1に問題を発見・整理し相手を説得するための業務改善技法、第2に情報システムの目的・内容・課題についての理解、第3に情報システムの開発、運用、整備についての知識、を修得する必要があります。
本講では特にビジネス社会を念頭におき、これらを皆さんが修得する手助けになるよう努めます。

到達目標:

第1に問題を発見・整理し相手を説得するための業務改善技法を身につける。
第2に情報システムの目的・内容・課題について理解する。
第3に情報システムの開発、運用、整備についての知識を修得する。
第4に情報システム分野をはじめ、一般のマネジメントで広く活用されているプロジェクトマネジメント手法を修得する。

授業方法:	講義形式で授業します	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. オリエンテーション 2. 業務と業務改善(1):組織と業務活動、ITガバナンス 3. 業務と業務改善(2):業務改善技法 4. 業務と業務改善(3):ビジュアル表現と発表技法 5. ビジネス社会における情報システム(1):流通システム 6. ビジネス社会における情報システム(2):ナレッジ創造 7. ビジネス社会における情報システム(3):マーケティング 8. ビジネス社会における情報システム(4):電子市場 9. ビジネス社会における情報システム(5):ユーザー主体の情報化 10. 情報システムの開発、運用、整備(1) 11. 情報システムの開発、運用、整備(2) 12. 情報システムの開発、運用、整備(3) 13. プロジェクトマネジメント 14. 情報化社会と人材育成 15. まとめ	準備学習等の内容 できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと できれば事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習は基本的には不要ですが、余裕がある方は、事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおいてください。
毎回、理解度を確認するために、マナビーを利用して自動採点方式の小テストを行います。小テストは授業終了後、2日以内に回答して下さい。
試験に向けては、本講義のキーワード集をマナビーにアップしますので、しっかり復習して下さい。

フィードバックの方法:

定期試験の模範解答と講評はマナビー上に掲載します。
また、毎回、マナビーを利用して小テストを行います。その際に自由記入欄に授業中によくわからなかった点や希望を記入していただければ、教員より個別に回答いたします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	10	毎回、マナビーを利用して小テストを行い、知識・理解度を確認いたします。
	定期試験	90	到達目標に照らし、試験により評価します。

教科書:

参考書:

授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー。マナビーの掲示板機能並びにEメールを利用。

授業テーマ:	知的財産権全般の基礎的理解		
授業の概要:	知的財産権法の中でも、特許法を中心とした授業を行う。また、特に特許権侵害訴訟に関する実務・裁判例を踏まえた授業を行う。		
到達目標:	知財立国が標榜され、国家戦略として保護強化が図られている知的財産権について、特許権を中心に知的財産権全般の基礎的な知識を得ること。		
授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:		授業内容	準備学習等の内容
	1.	知的財産権の概要	知的財産法に関する入門書の購読
	2.	権利(特許権)の主体、権利(特許権)の客体	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	3.	特許要件、特許出願、審査	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	4.	特許発明の技術的範囲、特許権侵害(文言侵害、均等論)	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	5.	間接侵害、特許権が及ばない場合、先使用权、侵害訴訟における無効主張、権利の消尽)	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	6.	特許異議申立て、審判手続、審決取消訴訟	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	7.	権利救済のための特別規定、特許権侵害訴訟の実務	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	8.	特許権の利用(ライセンス等)	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	9.	実用新案法	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	10.	意匠法	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	11.	商標法	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	12.	並行輸入	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	13.	不正競争防止法	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	14.	著作権法Ⅰ	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
	15.	著作権法Ⅱ	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
受講者へのメッセージやアドバイス:	特許は技術的な事項を対象とするが、授業で技術的な事項を詳しく取り扱うことはない。また、特許権侵害訴訟は民事訴訟の一つであるので、民法や民事訴訟法に関する知識・理解が前提となるものであり、復習を中心に、授業中に配布するレジュメや知的財産法に関する入門書により、知識の整理確認を行うことが望ましい。		
フィードバックの方法:	講義期間中に提出された提出物は教室でまとめて解説するなど、適宜の方法による。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	記述式の試験又はレポート	70	到達目標である知的財産権(特に特許権)に関する基礎的理解度により評価する。
	日頃の受講態度	30	積極的に授業に参加し、到達目標である知的財産権(特に特許権)ができるようになったかを評価する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	必要に応じて講義中に紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

International politics

授業の概要:

As an international language, English can be used to build bridges between different countries. In this course, you will become a delegate of the United Nations General Assembly. You will choose a country to represent and learn about life there. Subsequently, you will study about important global issues and create solutions to those problems before debating and negotiating the issue with other students at a Model United Nations meeting.

到達目標:

Objectives are to improve students' knowledge of the world, negotiation skills, English level and self-confidence

授業方法:

Groupwork

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation. Introduction to the Model United Nations	Research and homework
2.	World issues. Introduction to negotiation. Choosing a country	Research and homework
3.	Learning about the issue	Research and homework
4.	Learning about the issue	presentation prep
5.	Informal presentation: country and issue	Research and homework
6.	Learning the meeting protocols of the United Nations Writing a draft resolution	Position paper
7.	Research and discussion. Debate practice and preparation informal and formal debate	Position paper
8.	Research and discussion. Debate practice and preparation Amendments	Position paper
9.	Research and discussion. Debate practice and preparation	Position paper
10.	Speechmaking and negotiation	Research and homework
11.	Speechmaking and negotiation Draft resolution Debate practice	Research and homework
12.	Research and discussion. Draft resolution Debate and preparation	Research and homework
13.	Research and discussion. Debate and preparation	Research and homework
14.	Research and discussion. Debate and preparation	Research and homework
15.	Feedback and reflection	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

You must be interested in international issues and organisations like the UN or other NGOs. You must be prepared to speak out in English in every class.

フィードバックの方法:

Feedback will be given to all presentations and written work

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Debate participation	30	Participation
	Position paper	20	Preparation and quality
	Presentations	20	Preparation and quality
	Homework	10	Participation
	General participation	20	Participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	卒業論文完成に向けての研究調査の深化																																		
授業の概要:	大阪や東京、あるいはみなさんの出身地域などの具体的な地域を対象地域として、その実態を幅広い問題意識と視点から調査・研究することを通して、地域空間についての理解を深めることを目標とします。受講生の多様な興味・問題意識に基づいて、卒業論文作成にむけて実践的な作業を行います。特に4年生では、内容の深化を図るとともに、発信する力の養成に注力します。																																		
到達目標:	1: 研究の基本的な姿勢と、オリジナルの視点からの調査研究を進める。 2: 卒業研究に向けて、ゼミ生相互の議論を深化させる。																																		
授業方法:	演習・ゼミナール形式での学生個人発表を中心とする。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. はじめに 冬季フィールドワークのフィードバック</td><td>配布資料の確認</td></tr><tr><td>2. グループコンペ課題の討論</td><td>国立国会図書館HPの事前調査</td></tr><tr><td>3. 研究発表と研究指導1</td><td>論文の確認と精読</td></tr><tr><td>4. 研究発表と研究指導2</td><td>各自の発表検討</td></tr><tr><td>5. 研究発表と研究指導3</td><td>PPT準備と発表内容の検討</td></tr><tr><td>6. 研究発表と研究指導4</td><td>PPT準備と発表内容の検討</td></tr><tr><td>7. 他分野との研究交流・夏季フィールドワークの課題討論</td><td>PPT準備と発表内容の検討</td></tr><tr><td>8. 研究発表と研究指導5</td><td>PPT準備と発表内容の検討</td></tr><tr><td>9. 研究発表と研究指導6</td><td>フィールドワーク対象地域の資料収集</td></tr><tr><td>10. 研究発表と研究指導7</td><td>PPT準備と発表内容の検討</td></tr><tr><td>11. 研究発表と研究指導8</td><td>PPT準備と発表内容の検討</td></tr><tr><td>12. 研究発表と研究指導9</td><td>PPT準備と発表内容の検討</td></tr><tr><td>13. 研究発表と研究指導10</td><td>PPT準備と発表内容の検討</td></tr><tr><td>14. 卒業研究中間報告討議</td><td>PPT準備と発表内容の検討</td></tr><tr><td>15. 全体の総括</td><td>レジュメ資料の確認と振り返り</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. はじめに 冬季フィールドワークのフィードバック	配布資料の確認	2. グループコンペ課題の討論	国立国会図書館HPの事前調査	3. 研究発表と研究指導1	論文の確認と精読	4. 研究発表と研究指導2	各自の発表検討	5. 研究発表と研究指導3	PPT準備と発表内容の検討	6. 研究発表と研究指導4	PPT準備と発表内容の検討	7. 他分野との研究交流・夏季フィールドワークの課題討論	PPT準備と発表内容の検討	8. 研究発表と研究指導5	PPT準備と発表内容の検討	9. 研究発表と研究指導6	フィールドワーク対象地域の資料収集	10. 研究発表と研究指導7	PPT準備と発表内容の検討	11. 研究発表と研究指導8	PPT準備と発表内容の検討	12. 研究発表と研究指導9	PPT準備と発表内容の検討	13. 研究発表と研究指導10	PPT準備と発表内容の検討	14. 卒業研究中間報告討議	PPT準備と発表内容の検討	15. 全体の総括	レジュメ資料の確認と振り返り		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. はじめに 冬季フィールドワークのフィードバック	配布資料の確認																																		
2. グループコンペ課題の討論	国立国会図書館HPの事前調査																																		
3. 研究発表と研究指導1	論文の確認と精読																																		
4. 研究発表と研究指導2	各自の発表検討																																		
5. 研究発表と研究指導3	PPT準備と発表内容の検討																																		
6. 研究発表と研究指導4	PPT準備と発表内容の検討																																		
7. 他分野との研究交流・夏季フィールドワークの課題討論	PPT準備と発表内容の検討																																		
8. 研究発表と研究指導5	PPT準備と発表内容の検討																																		
9. 研究発表と研究指導6	フィールドワーク対象地域の資料収集																																		
10. 研究発表と研究指導7	PPT準備と発表内容の検討																																		
11. 研究発表と研究指導8	PPT準備と発表内容の検討																																		
12. 研究発表と研究指導9	PPT準備と発表内容の検討																																		
13. 研究発表と研究指導10	PPT準備と発表内容の検討																																		
14. 卒業研究中間報告討議	PPT準備と発表内容の検討																																		
15. 全体の総括	レジュメ資料の確認と振り返り																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	各人の基本的な発表を通して、実際に野外に出でのフィールドワークをおこないます(京都を中心とする地域など、半期1〜2回程度)。また、合宿を伴う調査も合わせて行う予定です。																																		
フィードバックの方法:	ゼミ発表に対して各自・全体に対して随時フィードバックを行う。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>ゼミナール発表</td><td>60</td><td>到達目標1についての達成度を総合評価する。</td></tr><tr><td>他の学生発表に対するコメント評価</td><td>40</td><td>到達目標2についての達成度を総合評価する。積極的な参加を前提条件として希望します。特に、自己の発表だけでなく、他の人の発表に関しても積極的な質問・議論を行うことを評価します。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	ゼミナール発表	60	到達目標1についての達成度を総合評価する。	他の学生発表に対するコメント評価	40	到達目標2についての達成度を総合評価する。積極的な参加を前提条件として希望します。特に、自己の発表だけでなく、他の人の発表に関しても積極的な質問・議論を行うことを評価します。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
ゼミナール発表	60	到達目標1についての達成度を総合評価する。																																	
他の学生発表に対するコメント評価	40	到達目標2についての達成度を総合評価する。積極的な参加を前提条件として希望します。特に、自己の発表だけでなく、他の人の発表に関しても積極的な質問・議論を行うことを評価します。																																	
教科書:	指定しない																																		
参考書:	天野太郎監修『古地図であるく古都・京都』三栄書房、2016(研究方法論として) 天野太郎監修『『都名所図会』でみる京都観光案内〜イラストから見る200年前の京都』実業之日本社、2016 天野太郎監修『近鉄沿線の不思議と謎』実業之日本社、2016																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	マナビー・メールを総合的に活用する。																																		

授業テーマ:	憲法に関する諸問題																																		
授業の概要:	最近の憲法に関する事例や問題を検討します。また、「応用演習」においてさまざまな憲法問題にふれたことにより、各自、関心が芽生え、研究テーマが決まっています。資料・文献の収集・検討、論文の概略作成を行い、論文執筆に取りかかります。文献の引用方法など、研究倫理についても理解します。																																		
到達目標:	最近の憲法の判例・学説を基本判例を基にして理解する 卒業研究のテーマを決定し、必要な文献・資料を入手する 入手した文献を読んで、内容を理解し、検討する 卒論の概要・目次などの執筆にとりかかる																																		
授業方法:	演習																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 卒業論文のテーマ・概要の発表</td><td>テーマ、概要を決めて、文章で表す</td></tr><tr><td>2. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例①を読む</td></tr><tr><td>3. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例②を読む</td></tr><tr><td>4. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例③を読む</td></tr><tr><td>5. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例④を読む</td></tr><tr><td>6. 卒業研究の経過報告</td><td>文献・資料を収集し、そのリストを作成する</td></tr><tr><td>7. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例⑤を読む</td></tr><tr><td>8. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例⑥を読む</td></tr><tr><td>9. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例⑦を読む</td></tr><tr><td>10. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例⑧を読む</td></tr><tr><td>11. 卒業研究の経過報告</td><td>文献・資料を収集し、それらを検討する。</td></tr><tr><td>12. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例⑨を読む</td></tr><tr><td>13. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例⑩を読む</td></tr><tr><td>14. 最近の憲法判例の検討</td><td>授業で取り上げる判例⑪を読む</td></tr><tr><td>15. 卒業研究の中間発表</td><td>検討した文献、資料をまとめ、考察などを文章で書く</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 卒業論文のテーマ・概要の発表	テーマ、概要を決めて、文章で表す	2. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例①を読む	3. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例②を読む	4. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例③を読む	5. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例④を読む	6. 卒業研究の経過報告	文献・資料を収集し、そのリストを作成する	7. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑤を読む	8. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑥を読む	9. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑦を読む	10. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑧を読む	11. 卒業研究の経過報告	文献・資料を収集し、それらを検討する。	12. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑨を読む	13. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑩を読む	14. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑪を読む	15. 卒業研究の中間発表	検討した文献、資料をまとめ、考察などを文章で書く		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 卒業論文のテーマ・概要の発表	テーマ、概要を決めて、文章で表す																																		
2. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例①を読む																																		
3. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例②を読む																																		
4. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例③を読む																																		
5. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例④を読む																																		
6. 卒業研究の経過報告	文献・資料を収集し、そのリストを作成する																																		
7. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑤を読む																																		
8. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑥を読む																																		
9. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑦を読む																																		
10. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑧を読む																																		
11. 卒業研究の経過報告	文献・資料を収集し、それらを検討する。																																		
12. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑨を読む																																		
13. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑩を読む																																		
14. 最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑪を読む																																		
15. 卒業研究の中間発表	検討した文献、資料をまとめ、考察などを文章で書く																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	教室でコメントする																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席および授業への参加度</td><td>50%</td><td>憲法判例の理解度により評価する</td></tr><tr><td>発表</td><td>50%</td><td>卒業論文の準備度により評価する</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席および授業への参加度	50%	憲法判例の理解度により評価する	発表	50%	卒業論文の準備度により評価する																									
評価方法	割合	評価基準																																	
出席および授業への参加度	50%	憲法判例の理解度により評価する																																	
発表	50%	卒業論文の準備度により評価する																																	
教科書:	授業中に指示																																		
参考書:	授業中に指示																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応、オフィスアワー、Eメールの利用、マナビーの利用																																		

授業テーマ:	ヨーロッパの文化と日本		
授業の概要:	ドイツを中心とするヨーロッパの文化を多様な角度から探求する。ここでは、基本的知識としての文化の講義と資料を用いての学習を行なうが、その都度、討論の時間をもうけ、卒業論文作成のための基本的な作業を行なう。		
到達目標:	応用演習から続くテーマ(ヨーロッパの文化と日本およびまちづくりと景観)に関してさらに理解を深め、総括的な理解に達することを到達目標とする。そこから個人個人の問題意識に従って、個人研究(すなわち卒論)へとつながって行くように導いてゆきたい。		
授業方法:	輪読、レポート提出、個人発表およびディスカッション。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 卒業研究に関するガイダンス		
	2. ヨーロッパの文化と日本(演習)		
	3. ヨーロッパの文化と日本(演習)		
	4. ヨーロッパの文化と日本(演習)		
	5. 卒業論文作成のための準備作業(輪読、個人発表、ディスカッション)	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備	
	6. 卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備	
	7. 卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備	
	8. 卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備	
	9. 卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備	
	10. 卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備	
	11. 卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備	
	12. まちづくりと景観(演習)		
	13. まちづくりと景観(演習)		
	14. まちづくりと景観(演習)		
	15. まちづくりと景観(演習)		
受講者へのメッセージやアドバイス:	日本及びヨーロッパの文化に関して情報を収集し、考えを準備しておくこと。それにより演習授業の中でディスカッションしてゆく。		
フィードバックの方法:	面談及び授業の中のディスカッション場面でそれぞれのプレゼンテーションに対しての評価を伝えてゆく。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ディスカッションおよび個人発表	50%	応用演習等で身に着けた知識を用いて、自分の考えを表現することができたかどうかを評価する
	授業への参加度およびレポート	50%	応用演習および卒業研究のテーマに関して総括的な理解に達することができたかどうかを判断する
教科書:	プリントを配布する		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応		

授業テーマ:

現代社会における教育的・倫理的諸問題

授業の概要:

応用演習でまとめた中間報告を土台にして、卒業論文にふさわしい内容の研究を完成させるための基礎的準備を行う。

到達目標:

参考文献の収集方法、参照しうるデータベースの取得・活用方法、論文作成上の倫理を基本に置き、題名の確定、章節構成、文章作法、参考文献表の完成、全体の梗概作成を行うことを目指す。

授業方法:

演習と講義の併用

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	論文作成に向けての基本的知識と作法(1)	論文作成に関する文献を探す。
2.	論文作成に向けての基本的知識と作法(2)	論文作成に関する文献を読んでおく
3.	卒論中間発表会(1)	発表者は発表準備、パワポ資料の作成。
4.	卒論中間発表会(2)	発表者は発表準備、パワポ資料の作成。その他の学生は、発表者についての見解、批判をマナビー、ノートに纏める。
5.	卒論中間発表会(3)	同上
6.	卒論中間発表会(4)	同上
7.	卒論中間発表会(5)	同上
8.	卒論中間発表会(6)	同上
9.	卒論中間発表会(7)	同上
10.	卒論中間発表会(8)	同上
11.	中間発表会の総括と評価、個別指導(1)	第一回目の発表、指導を受けた改善版の提示、それについてのディスカッション、教員による個別指導
12.	中間発表会の総括と評価、個別指導(2)	同上
13.	中間発表会の総括と評価、個別指導(3)	同上
14.	中間発表会の総括と評価、個別指導(4)	同上
15.	春学期の振り返りと、秋学期までの課題の提示	春学期の全学習結果をポートフォリオ形式に作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

口頭、メール、マナビーの併用

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表とプレゼン資料	40	発表のレベル、パワポ資料の構成、時間管理
	ディスカッション	20	積極的意見の回数、意見の説得力
	ホームワークの提出	20	ノート点検による、ノートのち密さ
	出席	20	基本的に全員出席、欠席ごとに減点

教科書:

各自に応じた参考文献を適宜教示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

研究室での面談、メール

授業テーマ:	刑事法学の諸問題(医療と法、被害者学を含む)																																		
授業の概要:	刑法解釈学、刑事訴訟法学、医療と法、被害者学の各領域から各受講者が選択したテーマを卒業論文にまとめるため、卒業研究Iでは第1段階の中間報告を行います。報告者には、卒業論文の作成を念頭に置きながら、必要な資料の収集・分析を行い、問題意識の醸成をはかり、論点を整理した上でクラスに問題提起を行うことが求められます。 なお、中間報告は、プレゼンテーションソフトを用いて行ってもらふこととし、そのためのプレゼンテーションソフトの活用方法についても指導します。																																		
到達目標:	各自が卒業論文のテーマについて選択したテーマに関する正確な情報・文献を、複数の信頼できる情報源から収集できること。 当該テーマについての正しい知識に基づいて、論理的に考察を行い、明確な問題意識を持つこと。 自分の考え・主張を、論理的・効果的なプレゼンテーションで表現できること。																																		
授業方法:	演習																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>応用演習で指示した卒業論文作成のための文献・資料収集と一覧表を作成して提出すること。</td></tr><tr><td>2. 論文作成指導 研究倫理指導</td><td>配布資料に目を通し、各自のテーマ・問題意識について整理しておくこと。 文献の引用方式について、復習しておくこと。</td></tr><tr><td>3. プレゼンテーションソフト講習</td><td>復習として、授業で扱ったパワーポイントを使いこなせるように、各自で実習を行っておくこと(1～3時間程度)。</td></tr><tr><td>4. プレゼンテーションソフト講習</td><td>授業で扱ったパワーポイントを使いこなせるように、各自で実習を行っておくこと(1～2時間程度)。 できる者については、各自で中間報告の準備を進めておくこと(3～5時間程度)。</td></tr><tr><td>5. プレゼンテーションソフト講習</td><td>各自で中間報告の準備を進めておくこと(3～5時間程度)。</td></tr><tr><td>6. ディスカッション</td><td>授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。 各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。</td></tr><tr><td>7. ディスカッション</td><td>授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。 各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。</td></tr><tr><td>8. 中間報告・指導</td><td>各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。</td></tr><tr><td>9. 中間報告・指導</td><td>各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。</td></tr><tr><td>10. 中間報告・指導</td><td>各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。</td></tr><tr><td>11. 中間報告・指導</td><td>各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。</td></tr><tr><td>12. 中間報告・指導</td><td>各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。</td></tr><tr><td>13. ディスカッション</td><td>授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。</td></tr><tr><td>14. ディスカッション</td><td>授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>卒業論文の作成について、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	応用演習で指示した卒業論文作成のための文献・資料収集と一覧表を作成して提出すること。	2. 論文作成指導 研究倫理指導	配布資料に目を通し、各自のテーマ・問題意識について整理しておくこと。 文献の引用方式について、復習しておくこと。	3. プレゼンテーションソフト講習	復習として、授業で扱ったパワーポイントを使いこなせるように、各自で実習を行っておくこと(1～3時間程度)。	4. プレゼンテーションソフト講習	授業で扱ったパワーポイントを使いこなせるように、各自で実習を行っておくこと(1～2時間程度)。 できる者については、各自で中間報告の準備を進めておくこと(3～5時間程度)。	5. プレゼンテーションソフト講習	各自で中間報告の準備を進めておくこと(3～5時間程度)。	6. ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。 各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。	7. ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。 各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。	8. 中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。	9. 中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。	10. 中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。	11. 中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。	12. 中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。	13. ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。	14. ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと	15. まとめ	卒業論文の作成について、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション	応用演習で指示した卒業論文作成のための文献・資料収集と一覧表を作成して提出すること。																																		
2. 論文作成指導 研究倫理指導	配布資料に目を通し、各自のテーマ・問題意識について整理しておくこと。 文献の引用方式について、復習しておくこと。																																		
3. プレゼンテーションソフト講習	復習として、授業で扱ったパワーポイントを使いこなせるように、各自で実習を行っておくこと(1～3時間程度)。																																		
4. プレゼンテーションソフト講習	授業で扱ったパワーポイントを使いこなせるように、各自で実習を行っておくこと(1～2時間程度)。 できる者については、各自で中間報告の準備を進めておくこと(3～5時間程度)。																																		
5. プレゼンテーションソフト講習	各自で中間報告の準備を進めておくこと(3～5時間程度)。																																		
6. ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。 各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。																																		
7. ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。 各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。																																		
8. 中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。																																		
9. 中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。																																		
10. 中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。																																		
11. 中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。																																		
12. 中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。																																		
13. ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。																																		
14. ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと																																		
15. まとめ	卒業論文の作成について、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	『十分考えた上で自分の意見を持つこと』は、就活や社会に出てからも求められる力ですので、大学生のうちにしっかりと準備をしておくことが大切です。刑事法的な問題を素材として、しっかりと考え、その考えを相手に伝えるトレーニングを一緒に行っていきましょう。																																		
フィードバックの方法:	マナビーを活用して、個別に指導します。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>発表・討論</td><td>100</td><td>到達目標にある、卒業論文のテーマに関して、正確な情報・文献を、複数の信頼できる情報源から収集できているかどうか、正しい知識に基づいて、論理的に考察を行い、明確な問題意識を持っているかどうか、自分の考え・主張を、論理的・効果的なプレゼンテーションで表現できているかどうかを基準とする。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	発表・討論	100	到達目標にある、卒業論文のテーマに関して、正確な情報・文献を、複数の信頼できる情報源から収集できているかどうか、正しい知識に基づいて、論理的に考察を行い、明確な問題意識を持っているかどうか、自分の考え・主張を、論理的・効果的なプレゼンテーションで表現できているかどうかを基準とする。																												
評価方法	割合	評価基準																																	
発表・討論	100	到達目標にある、卒業論文のテーマに関して、正確な情報・文献を、複数の信頼できる情報源から収集できているかどうか、正しい知識に基づいて、論理的に考察を行い、明確な問題意識を持っているかどうか、自分の考え・主張を、論理的・効果的なプレゼンテーションで表現できているかどうかを基準とする。																																	
教科書:																																			
参考書:	各自のテーマについて、個別に指導します。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力																																		
教員との連絡方法:	マナビー、オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>																																		

417707

卒業研究Ⅰ

加藤 敦

授業テーマ：経営学で卒論を書き上げる、このミッションを通じタフな知性を身につけよう

授業の概要：最終学年を迎え学生諸姉は「私の仕事」を見出そうと懸命な努力をされていることでしょう。「私の仕事」の質を高めるには、PLAN－DO－SEEというマネジメントサイクルの中で、優れた情報活用・企画力、タフな行動力、適切な自己評価と謙虚な見直し姿勢等が求められます。
幸いにも経営学は実践の学問であり、皆さんの情報活用力・企画力の向上、適正な評価基準設定等につながる、あらゆる要素が内包されています。
本演習では、3年次に取り組んだグループ別事例研究を踏まえ、各自がそれぞれ実践的なテーマを選定し卒業研究を進めてゆきます。卒業研究に創意工夫を凝らし経営学を深く学ぶことにより、ビジネス社会を生き抜くタフな知性を身につけてゆくことを目標とします。

到達目標：第1に卒業研究におけるセールスポイントを示すことができる。
・ビジネスパーソンがなるほどと思う課題設定
・徹底的に既存資料にあたった地域研究並びに業界研究
・決算書(大企業)また業界別標準財務指標(中小企業)の分析
・汗がにじむ社会調査(インタビューまたは質問調査・観察)
第2に文献調査の方法を理解し、質量ともに十分な文献調査を行うことができること。
第3に実行可能な研究計画を立案し、スケジュール管理をすることができること。

授業方法：演習形式で行います。学生が主体的に卒業研究に取り組み、教員は研究手法等について適宜指導します。また授業は中間報告及び討論・助言の場として活用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	発表のための準備学習については適宜、授業中に指示します。 また事前学習として履修者は経営学、会計学の内容を復習しておいて下さい。
2. テーマ設定、資料収集等についての指導	同上
3. 論文作成法等について指導	同上
4. フリーディスカッションによる論点抽出	同上
5. 中間報告及び相互評価(1)	同上
6. 中間報告及び相互評価(2)	同上
7. 中間報告及び相互評価(3)	同上
8. 中間報告及び相互評価(4)	同上
9. 中間報告及び相互評価(5)	同上
10. 中間報告及び相互評価(6)	同上
11. 中間報告及び相互評価(7)	同上
12. 中間報告及び相互評価(8)	同上
13. 中間報告及び相互評価(9)	同上
14. 中間報告及び相互評価(10)	同上
15. 復習と討論	同上

受講者へのメッセージやアドバイス：笑顔と厳しさが我々のモットーです。
各ゼミ生が「何をゼミから与えられるか」ではなく「自分がゼミのためになにができるか」を考え、能動的に行動するならば、互いにとり満足のゆく果実を得ることができます。

フィードバックの方法：提出物は教室でまとめて解説いたします。

「成績評価方法」「成績評価基準」

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	到達目標に照らし、授業への参加度・貢献度を欠席数、遅刻回数から評価します。
レポート	50	到達目標に照らし、レポートを評価します。

教科書：

参考書：授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法：オフィスアワー。マナビーの掲示板機能並びにEメールを利用。

授業テーマ:

企業の情報開示に関する卒業論文を作成しよう

授業の概要:

「応用演習Ⅰ」および「応用演習Ⅱ」を通じて、企業の情報開示について学んできた。こうした学習を通じて得た各々の問題意識をもとに、卒業論文の作成を進める。
この授業では、まず卒業論文の研究テーマや研究アプローチを決定する。次に、選定した研究テーマに関連する先行研究を収集して、先行研究のレビューを行う。合わせて、着目する情報開示制度の枠組み・根拠について調べる。そのうえで、各自の問題意識を明確にし、学術研究上の論点を取りまとめるとともに、卒業研究の大まかな論文構成を決定する。

到達目標:

この授業の目標は、次の3つである。
①企業の情報開示に関するさまざまな論点や課題の中から、各自の卒業論文の研究テーマを決定し、資料・文献の収集と整理を進め、同時に大まかな論文構成を決定する。
②学術論文はその内容が優れていることは当然であるが、同時に文献の引用の仕方や参考文献の記載の仕方等、さまざまな形式的要件を満たす必要があるので、学術論文の書き方を身に付ける。
③ほかの学生に対して、自身の研究内容を明瞭に説明し、研究の必要性や重要性をアピールできる。

授業方法:

原則としてゼミ(演習)形式で行う。
この授業では、従来ありがちであった各回の授業時に数名の学生が順番に発表をしていくという授業形態はとらない。その代わりに、マナビーのレポート機能や掲示板機能を活用することで、全員が授業時に毎回発表ないし討論をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。
	2. 卒業論文のテーマを決める(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	3. 卒業論文のテーマを決める(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	4. 参考文献リストの提示(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	5. 研究アプローチの決定	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	6. 参考文献リストの提示(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	7. 重要な先行研究の紹介(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	8. 重要な先行研究の紹介(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	9. 着目する情報開示制度の枠組み・根拠を調べて発表する(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	10. 着目する情報開示制度の枠組み・根拠を調べて発表する(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	11. 着目する情報開示制度の課題を調べて発表する(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	12. 着目する情報開示制度の課題を調べて発表する(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	13. 卒業研究の問題意識と研究アプローチの詳細を発表する(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	14. 卒業研究の問題意識と研究アプローチの詳細を発表する(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。
	15. 卒業論文の論文構成の提示	マナビーを利用して課題を提出しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では、卒業論文の作成に際して必要となる資料・文献の収集と整理を行うとともに、各文献を読み込んで、その内容や論点をまとめるなど、卒業論文の作成のために主体的に調査・研究を行う。このため、調査・研究のために多くの時間が必要であり、学生は、十分な自宅学習をする必要がある。また、学生には、オフィスアワーなどを活用して積極的に質問するなどして、主体的かつ意欲的に学ぶことを期待する。
なお、この授業は、ゼミ(演習)形式のため、毎回授業に出席することはもちろんのこと、授業への積極的な参加と他の学生諸姉との協調が必要である。

フィードバックの方法:

マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50%	各自の卒業論文の研究テーマや研究アプローチを踏まえたうえで、各自の問題意識を明確にし、学術研究上の論点を取りまとめることができるかどうかや、適当な論文構成を決定できているかどうかを基準とする。また、参考文献や引用文献を適当な方法で明示できているかどうかを基準とする。
	授業への積極的参加度	50%	出席のほか、授業中に積極的に発言するなどによって、自身の研究内容を他の学生と共有できているかどうかを評価する。

教科書:

特になし

参考書:

あずさ監査法人編『会社法決算の実務―計算書類等の作成方法と開示例』(第11版)2017年。
倉橋雄著作『コーポレートガバナンス・コード対応 招集通知等見直しの実務』商事法務、2015年。
財務会計基準機構編『有価証券報告書の作成要領』(平成29年3月期提出用)、財務会計基準機構、2017年。
財務会計基準機構編『四半期報告書の作成要領』(平成29年6月第1四半期提出用)、財務会計基準機構、2017年。
東京証券取引所上場部編『会社情報適時開示ガイドブック』(2015年6月版)東京証券取引所、2015年。
中村聡ほか著『金融商品取引法―資本市場と開示編』(第3版)商事法務、2015年。
中村直人・山田和彦・後藤晃輔著『内部統制システム構築の実務―平成26年改正会社法対応』商事法務、2015年。
日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編『会計監査六法』(平成29年版)日本公認会計士協会、2017年。
樋口達・山内宏光・小松真理子編著『開示事例から考える「コーポレートガバナンス・コード」対応』商事法務、2015年。
森・濱田松本法律事務所編『コードに対応したコーポレート・ガバナンス報告書の記載事例の分析〔平成27年版〕』(別冊商事法務No.400)商事法務、2015年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能
オフィスアワー

授業テーマ:

社会学から現代社会の諸問題を考える

授業の概要:

3年次応用演習でのグループでの議論を基にして、そこから個人ごとの問題意識を発展させていく。10月には卒業論文のあらましをまとめる。

到達目標:

各自の卒業研究テーマに関わる先行研究と調査データの把握

授業方法:

個人ごとのテーマに基づいて卒業論文を完成すべく、個別指導も踏まえた個人発表の段階に入っていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人別研究テーマの選定と確定	卒業生の卒論読了と個人テーマの構想
2.	個人別研究テーマの選定と確定	卒業生の卒論読了と個人テーマの構想
3.	卒論計画書の作成	先行研究とデータの準備
4.	卒論計画書の作成	先行研究とデータの準備
5.	卒論計画書に準拠した個人発表 その1	発表資料の作成
6.	卒論計画書に準拠した個人発表 その2	発表資料の作成
7.	卒論計画書に準拠した個人発表 その3	発表資料の作成
8.	卒論計画書に準拠した個人発表 その4	発表資料の作成
9.	卒論計画書に準拠した個人発表 その5	発表資料の作成
10.	卒論計画書に準拠した個人発表 その6	発表資料の作成
11.	卒論計画書に準拠した個人発表 その7	発表資料の作成
12.	卒論計画書に準拠した個人発表 その8	発表資料の作成
13.	卒論計画書に準拠した個人発表 その10	発表資料の作成
14.	卒論計画書に準拠した個人発表 その11	発表資料の作成
15.	全体の振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ゼミ発表に際しては、事前に教員と相談し、発表内容を確認すること。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30%	計画的な作業の進捗度で評価する。
	個人研究の到達度	70%	研究テーマの独自性や習熟度で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

tkono@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	臨床心理学の実証的研究法を学ぶ																																		
授業の概要:	卒業研究では、具体的に心理学的な事象の観察方法、データの収集及び分析といった実証的な研究の進め方と基本を実践的に学ぶことを授業の目標とします。応用演習Ⅰ・Ⅱで学んだ応用行動分析の基礎理論、行動アセスメントの方法、問題行動への具体的な介入とその効果の測定について、先行研究の検証などを通じて知識と技術を深めます。卒業論文のための文献収集、研究計画の検討、立案、データの収集を行います。																																		
到達目標:	心理学的な事象の観察方法、データの収集及び分析といった実証的な研究の進め方と基本的な技法を理解し、説明することができる。 心理学的な研究方法の知識を用いて、研究計画を立てて実行することができる。																																		
授業方法:	発表、ディスカッションを中心に授業を進めます。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>資料講読</td></tr><tr><td>2. 研究計画のたて方</td><td>資料講読</td></tr><tr><td>3. 研究のすすめ方・研究環境の整備</td><td>資料講読</td></tr><tr><td>4. 文献検索・文献収集</td><td>文献検索・収集</td></tr><tr><td>5. 文献講読・先行研究の検討</td><td>文献講読</td></tr><tr><td>6. 文献講読・先行研究の検討</td><td>文献講読・小レポート作成</td></tr><tr><td>7. 文献講読・先行研究の検討</td><td>文献講読・小レポート作成</td></tr><tr><td>8. 研究テーマの検討</td><td>文献検索・講読</td></tr><tr><td>9. 研究テーマについての調査</td><td>文献検索・講読</td></tr><tr><td>10. 研究計画の立案・報告</td><td>研究計画検討</td></tr><tr><td>11. 研究テーマ・計画の報告・ディスカッション</td><td>研究計画立案</td></tr><tr><td>12. 研究テーマ・計画の報告・ディスカッション</td><td>研究計画報告</td></tr><tr><td>13. 研究テーマ・計画の報告・ディスカッション</td><td>研究計画再検討</td></tr><tr><td>14. 研究実施にあたってのガイダンス</td><td>研究開始</td></tr><tr><td>15. 夏季休暇中の研究活動計画作成</td><td>レポート作成</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	資料講読	2. 研究計画のたて方	資料講読	3. 研究のすすめ方・研究環境の整備	資料講読	4. 文献検索・文献収集	文献検索・収集	5. 文献講読・先行研究の検討	文献講読	6. 文献講読・先行研究の検討	文献講読・小レポート作成	7. 文献講読・先行研究の検討	文献講読・小レポート作成	8. 研究テーマの検討	文献検索・講読	9. 研究テーマについての調査	文献検索・講読	10. 研究計画の立案・報告	研究計画検討	11. 研究テーマ・計画の報告・ディスカッション	研究計画立案	12. 研究テーマ・計画の報告・ディスカッション	研究計画報告	13. 研究テーマ・計画の報告・ディスカッション	研究計画再検討	14. 研究実施にあたってのガイダンス	研究開始	15. 夏季休暇中の研究活動計画作成	レポート作成		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション	資料講読																																		
2. 研究計画のたて方	資料講読																																		
3. 研究のすすめ方・研究環境の整備	資料講読																																		
4. 文献検索・文献収集	文献検索・収集																																		
5. 文献講読・先行研究の検討	文献講読																																		
6. 文献講読・先行研究の検討	文献講読・小レポート作成																																		
7. 文献講読・先行研究の検討	文献講読・小レポート作成																																		
8. 研究テーマの検討	文献検索・講読																																		
9. 研究テーマについての調査	文献検索・講読																																		
10. 研究計画の立案・報告	研究計画検討																																		
11. 研究テーマ・計画の報告・ディスカッション	研究計画立案																																		
12. 研究テーマ・計画の報告・ディスカッション	研究計画報告																																		
13. 研究テーマ・計画の報告・ディスカッション	研究計画再検討																																		
14. 研究実施にあたってのガイダンス	研究開始																																		
15. 夏季休暇中の研究活動計画作成	レポート作成																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	授業時間内に報告・レポートの内容等についてのコメントを講評としてフィードバックします。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>平常点</td><td>40</td><td>出席状況、授業への参加度</td></tr><tr><td>プレゼンテーション</td><td>30</td><td>研究テーマに関連した資料の収集方法の適切さ、研究テーマの理解度を評価します。</td></tr><tr><td>レポート</td><td>30</td><td>研究方法の理解度を評価します。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	平常点	40	出席状況、授業への参加度	プレゼンテーション	30	研究テーマに関連した資料の収集方法の適切さ、研究テーマの理解度を評価します。	レポート	30	研究方法の理解度を評価します。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
平常点	40	出席状況、授業への参加度																																	
プレゼンテーション	30	研究テーマに関連した資料の収集方法の適切さ、研究テーマの理解度を評価します。																																	
レポート	30	研究方法の理解度を評価します。																																	
教科書:	小塩真司、西口利文 『質問紙調査の手順』 ナカニシヤ出版																																		
参考書:	無藤隆 他編著(2011)『心理学 第9版』有斐閣																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	Eメール																																		

授業テーマ:	女性・仕事・リーダーシップ－ジェンダー研究の視座から		
授業の概要:	3年次の終わりに設定したテーマと研究計画書にそって、卒業研究論文の執筆を行い論文前半の完成を目指します。		
到達目標:	1. 研究目的を簡潔に表現することができる。 2. 理論的枠組に必要な専門知見を、先行研究のレビューを通して論点をまとめ、構築できる。 3. 自分の研究目的にふさわしい研究方法を考案して記述することができる。		
授業方法:	講義、発表、ディスカッション、論文の個人指導などを組み合わせて授業を行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業目標と授業全体の流れ、研究倫理の確認)		
	2. 卒業研究論文のための先行研究の文献レビュー	先行研究を読み込んで、要点をまとめる。	
	3. 卒業研究論文のための先行研究の文献レビュー(継続)	先行研究を読み込んで、要点をまとめる。	
	4. 卒業研究論文のための先行研究の文献レビュー(継続)	先行研究を読み込んで、要点をまとめる。	
	5. 卒業研究論文の理論的枠組の構築	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。	
	6. 卒業研究論文の理論的枠組の構築(継続)	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。	
	7. 卒業研究論文の理論的枠組の構築(継続)	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。	
	8. 卒業研究論文の理論的枠組の構築(継続)	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。	
	9. 事例の選定と研究方法の策定	事例に関する情報収集とその分析方法を考える。	
	10. 事例の選定と研究方法の策定	事例に関する情報収集とその分析方法を考える。	
	11. 卒業研究論文(前半)の発表とディスカッション ①	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。	
	12. 卒業研究論文(前半)の発表とディスカッション ②	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。	
	13. 卒業研究論文(前半)の発表とディスカッション ③	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。	
	14. 卒業研究論文(前半)の発表とディスカッション ④	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。	
	15. ふりかえりと、まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	4年次の春学期は、就職活動と卒業研究論文執筆の両立がたいへんな時期ですが、少しずつでよいので、時間をつくって論文を書き進めましょう。		
フィードバックの方法:	卒業研究論文(前半)は、採点をしてコメントをつけて返却します。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	50%	卒業研究論文への意欲的な取り組みや発表など
	卒業研究論文(前半部分)	50%	明確な研究目的、研究基盤となる理論的枠組みの構築、適切な研究方法
教科書:	指定教科書なし		
参考書:	授業で適宜紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメール(emiyaake@dwc.doshisha.ac.jp)		

授業テーマ:	ヨーロッパ社会経済モデルと日本を比較研究する		
授業の概要:	ヨーロッパは今、経済的、社会的苦境のなかにありますが、それでも豊かな文化があり、人々を大切にする社会を作り上げてきた伝統はやはり魅力的です。この演習では、応用演習での知識と研究を踏まえ、卒業論文に向けて準備します。 テーマは、政治経済、企業活動、社会福祉、環境対策と町づくり、さまざまな文化、労働と移民など、広範囲です。ヨーロッパはグローバル化の中で国境を越えた協力の仕組みも作り上げてきました。アジアやその他の地域にとっても、その経験を学ぶ必要があるでしょう。他方、今では工業製品だけでなく、マンガ、食文化、スポーツなどでヨーロッパも日本から影響を受ける時代になっています。相互の理解は新たな段階を迎えています。 こうしたなか、演習では多様な角度からヨーロッパに切り込んで、全体的に理解します。テーマは多様に見えても、根底に流れている共通の価値観を探って、日本のそれと比較しながら、調査や考察を深めます。 なお、研究倫理について、絶えず確認していきます。		
到達目標:	ヨーロッパと日本社会の比較研究を通じて、グローバルな視野に立ったビジネスパーソンの基礎力を養うことを目標にします。		
授業方法:	各自が研究テーマを設定し、関連書物等を調査・分析し、報告することが中心となる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	課題について調査し、整理しておくこと	
	2. 論文作成のプロセス	課題について調査し、整理しておくこと	
	3. 研究テーマの設定	課題について調査し、整理しておくこと	
	4. 文献収集とリストの作成と情報交換	課題について調査し、整理しておくこと	
	5. 研究計画書の作成と情報交換	課題について調査し、整理しておくこと	
	6. 研究計画書の作成と情報交換	課題について調査し、整理しておくこと	
	7. 文献や資料の整理と情報交換	課題について調査し、整理しておくこと	
	8. 卒業研究中間報告	課題について調査し、整理しておくこと	
	9. 卒業研究中間報告	課題について調査し、整理しておくこと	
	10. 卒業研究中間報告	課題について調査し、整理しておくこと	
	11. 卒業研究中間報告	課題について調査し、整理しておくこと	
	12. 卒業研究中間報告	課題について調査し、整理しておくこと	
	13. 論文にまとめる方法	課題について調査し、整理しておくこと	
	14. 文章作法	課題について調査し、整理しておくこと	
	15. 春学期の振り返り	課題について調査し、整理しておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	新聞や報道番組などを通じて、グローバルな視野で情報を収集してほしい。		
フィードバックの方法:	報告に関してコメントを行い、全員で議論する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プレゼンテーション レポート	50 50	課題について適切に調査・整理し、分かりやすく伝えられているか 課題について適切に調査・整理し、論理的に述べられているか
教科書:	加賀美雅弘ほか『ヨーロッパ学への招待』(第二版)、学文社。		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール		

授業テーマ:

比較社会科学の論文作成

授業の概要:

異なる複数の社会を比較研究することで、それぞれの社会に対する理解をより深め、さらには今後の社会のあり方を考えるヒントを得ていくのが比較社会科学の狙いです。
担当者は比較政治学・社会保障改革の国際比較を専門としていますが、日本や外国社会に関する一国研究の論文作成も歓迎します。

到達目標:

目標(1) 卒業論文のテーマを決め、研究計画を立てる。
目標(2) 先行研究を読解し、論点と限界をまとめる。
目標(3) 学期末までに論文全体の詳しいアウトライン(目次と概要)を作る。

授業方法:

演習形式。担当教員によるレクチャーがある回では、その場で実践に移ってもらいます。素材となる文献を持参してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:授業の進め方、次回までの課題のお知らせ	研究テーマが未定の場合、考えておくこと。
2.	研究計画の作成	先行研究の収集と読解を進めておく。
3.	研究計画の作成	先行研究の収集と読解を進めておく。
4.	研究計画の発表	プレゼン資料の準備。
5.	研究計画の発表	プレゼン資料の準備。
6.	先行研究のまとめ	自分の卒論にとってとくに重要となる先行研究を2つか3つ選ぶ。
7.	先行研究のまとめ	先行研究をどうやって乗り越えるか、何を付け加えることができるかを考える。
8.	先行研究に関する発表	プレゼン資料の準備。
9.	先行研究に関する発表	プレゼン資料の準備。
10.	アウトラインの作成	論文全体の流れ(概要)を考えておく。
11.	アウトラインの作成	論文全体の流れ(概要)を考えておく。
12.	アウトラインの発表	プレゼン資料の準備。
13.	アウトラインの発表	プレゼン資料の準備。
14.	夏季休暇中の研究計画の作成	
15.	春学期のまとめ	今学期中に書いたものをまとめて、一つのファイルにする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中に担当教員からアドバイスを受けたり、他の受講者の研究を参考にしたりすることで、授業を自分の研究を前進させる機会として積極的に活用してください。
欠席する際には必ず事情を連絡すること。

フィードバックの方法:

課題はマナビー上に提出してもらい、コメントもマナビーを通じて行う予定。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50%	授業への積極的参加度を評価
	提出物	50%	提出物ごとに到達目標・作成例を提示し、達成度を評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

E-mail

授業テーマ：日常生活におけるリスクマネジメントと保険

授業の概要：リスクマネジメントおよび保険は、意識しているか否かはさておき、日常生活の中で数多く登場している。例えば地震について考えると、地震で建物が倒壊しないように耐震補強工事をしたり、地震が起こったときに備えて避難訓練を行ったりすることなどは地震に対するリスクマネジメントとして考えられる。また、火災保険や自動車保険についてみると、一人暮らしの人だと火災保険に、車や原付を持っている人だと自動車保険に実際に入っているケースが少なくない。さらに、医療保険や年金保険などは、病気になったときや老後の生活を支える重要な手段となっている。また最近では、女性特有の病気に対して手厚い保障を行う保険なども登場している。
本講義では、このように日常生活の中で数多く登場するリスクマネジメントや保険について考えていく。

到達目標：リスクマネジメントや保険がどのような役割を担っているのか、どのような問題を抱えているのか、などについて学習することを通じて、リスクマネジメントや保険にかかる知識を修得することおよびそれらの知識を使ってプレゼンテーションできるようになることを目標とする。

授業方法：主として卒業論文作成のための発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解
	2. 卒業研究にかかる発表(1)	「卒業研究」の準備
	3. 卒業研究にかかる発表(2)	「卒業研究」の準備
	4. 卒業研究にかかる発表(3)	「卒業研究」の準備
	5. 卒業研究にかかる発表(4)	「卒業研究」の準備
	6. 卒業研究にかかる発表(5)	「卒業研究」の準備
	7. 卒業研究にかかる発表(6)	「卒業研究」の準備
	8. 卒業研究にかかる発表(7)	「卒業研究」の準備
	9. 卒業研究にかかる発表(8)	「卒業研究」の準備
	10. 卒業研究にかかる発表(9)	「卒業研究」の準備
	11. 卒業研究にかかる発表(10)	「卒業研究」の準備
	12. 卒業研究にかかる発表(11)	「卒業研究」の準備
	13. 卒業研究にかかる発表(12)	「卒業研究」の準備
	14. 卒業研究にかかる発表(13)	「卒業研究」の準備
	15. 総括	全体の振り返り等

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法：授業中において、担当教員が適宜コメントすることで、発表の内容についてのフィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業研究の発表	40	卒業研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
	期末レポート	40	期末レポートより、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度を評価する。
	授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなど、議論の活発化にどの程度貢献しているかによって評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法：教員のメールアドレス:mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ：	現代社会を多角的に読み解く	
授業の概要：	本演習では、まず現代社会における諸問題のなかから自らの関心に基づき研究テーマを選定していただきます。また各自のテーマを全員で共有するためディスカッションを行い、その研究意義について相互に理解・考察を深めて行くことを計画しています。 上記の目的の下、本演習では、研究テーマの社会的・文化的背景を読み解くための調査方法を選択・実践し、卒業研究論文に向けた研究計画書を作成します。なお本演習の担当教員は、人類学を専門としていますが、可能な限り人類学にとどまらず幅広い視野からテーマの選定と研究計画書の作成をフォローしたいと考えています。	
到達目標：	・社会科学的方法と目的に基づく卒業研究論文のテーマの選定と計画書の作成。 ・自らの研究内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力を身に付ける。 ・社会責任としてグローバルに通用する研究倫理を確認し習得する。	
授業方法：	演習形式 毎回の授業では、卒業研究論文の作成に向けての個人発表と全体討論を実施します。 受講生の数によりますが、各人が最低一回は報告・発表を担当していただく予定です。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	2. テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	3. テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	4. テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	5. テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	6. テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	7. テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	8. テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	9. テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	10. 計画書の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
	11. 計画書の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

12. 計画書の作成
- 卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー&グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13. 計画書の作成
- 卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー&グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14. 計画書の作成
- 卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー&グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15. 計画書提出
- 卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー&グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

受講者へのメッセージやアドバイス： 本演習の受講生は、日常の生活のなかでメディアや自らの体験などで見聞する社会事象に関心を向け、それらを本演習の学びの目的である批判精神や多角的視点で読み解くように心掛けておいてください。

フィードバックの方法： ・各回の個別のプレゼンテーションとディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
・最終回に各受講生に対して総評と評価を行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業研究計画発表	30%	発表は、到達目標である「自らの研究内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力」でなされているか評価します。
	卒業研究計画書	50%	計画書は、到達目標である「社会科学的な方法と目的」に基づいた卒業研究論文のテーマの選定と計画書の作成ができているか評価します。
	授業への参加度	20%	到達目標である「社会科学的な方法と目的」を積極的に理解し習得しようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法： オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ：観光に関連する産業または地域に関する経営学的研究

授業の概要：研究テーマは抽象的なものではなく、観光に関連する産業または地域の活動などに即して研究できるテーマであることが望ましい。そうして選んだテーマについて、受講生それぞれが自主的な調査・研究をおこない、その成果を発表する。さらに、観光に関連する産業または地域に関するフィールドワークを実施する。

到達目標：適切な研究テーマを選択できるか。緩急テーマに関連した情報を適切に収集できるか。研究テーマに対して、適切な研究方法を選択できるか。自律的に計画を立てて、卒論研究に取り組めるか。

授業方法：演習 卒業論文作成に向けて、各自が自律的に活動するとともに、教室で発表することによって、刺激し合いながら、より良い卒業論文に向けて活動する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文に向けてのガイダンス	取り組みたい卒論テーマ候補を考えてくる
2.	各自のテーマ発表	取り組みたい卒論テーマ候補を考えてくる
3.	研究に対する姿勢について	事前に配布する資料を読んてくる
4.	第1次個別発表 1	選択した卒論テーマについて、情報収集し、研究アプローチを考えて、報告準備を行う
5.	第1次個別発表 2	選択した卒論テーマについて、情報収集し、研究アプローチを考えて、報告準備を行う
6.	第1次個別発表 3	選択した卒論テーマについて、情報収集し、研究アプローチを考えて、報告準備を行う
7.	第1次個別発表 4	選択した卒論テーマについて、情報収集し、研究アプローチを考えて、報告準備を行う
8.	第1次個別発表 ふりかえり	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
9.	第2次個別発表 1	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
10.	第2次個別発表 2	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
11.	第2次個別発表 3	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
12.	第2次個別発表 4	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
13.	第2次個別発表 5	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
14.	夏期休暇中の「プレ卒論」への指示	第2次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、卒論の本格的作成に向けた計画を明確化する
15.	講義全体のふりかえり	第2次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、卒論の本格的作成に向けた計画を明確化する

受講者へのメッセージやアドバイス：就職活動等により、出席が困難なときも連絡を怠らず、可能な限り出席するようにしてください。また、卒論テーマを考えたり、卒論作成を進めるためにも、できるだけ多く、観光に関連する産業または地域に関する現状を見学したり、報道等の各種情報を収集したりすること。

フィードバックの方法：報告に対しては、教室で。また進捗状況をマナビーで報告したものに対しては、マナビーで対応する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表、討論	40	卒論テーマの設定、自律的に計画を立てて進めているか、他者の発表に有益なコメントをしているかといった程度
	レポート	60	卒論テーマの設定、適切な情報収集、適切なアプローチの選択、アドバイスやコメントを適切に取り入れて計画的に進めているかの程度

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

授業テーマ:	Leadership & Diversity		
授業の概要:	This seminar is a continuation of the third year Diversity and Leadership Skills seminar The aims are for students to use leadership skills to do the following: 1) Actively do research and produce a final project reporting their research findings. Students will do research and gather information in Japanese and English; however, their final report will be in a more widely understood English format. 2) Organize a group learning activity 3) Present research project findings inside and outside the university		
到達目標:	Upon completion of this course, students will understand and be able to do research and produce a final project reporting their research findings. They will also be able to practice leadership skills from their third year.		
授業方法:	Students will participate in group discussions and give research project updates, while doing outside research.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Discuss course and research project guidelines	Reading and note-taking and preparation for graduation research project	
	2. Review research skills	Reading and note-taking and preparation for graduation research project	
	3. Discuss presenting research as research papers and presentations	Reading and note-taking and preparation for graduation research project	
	4. Review leadership skills	Reading and note-taking and preparation for graduation research project	
	5. Discuss research projects	Reading and note-taking and working on graduation research project	
	6. Organizational skills: begin organizing research trip	Reading and note-taking and working on graduation research project	
	7. Discuss research projects	Reading and note-taking and working on graduation research project	
	8. Discuss research projects	Reading and note-taking and working on graduation research project	
	9. Discuss research projects	Reading and note-taking and working on graduation research project	
	10. Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project	
	11. Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project	
	12. Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project	
	13. Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project	
	14. Research project updates	Reading and note-taking and working on graduation research project	
	15. Wrap-up and discuss remaining course goals and seminar activities	Reading and note-taking and working on graduation research project	
受講者へのメッセージやアドバイス:	Students will be required to present a research project outline, give periodic updates and feedback to other students. They will do this through class discussions on campus and online and through presentations.		
フィードバックの方法:	Feedback will be given in class and online.		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Final Research Project Progress	40%	Research plan outline with research question
	Group discussion & presentations	40%	Active participation in class and online
	Seminar activity organization	20%	Planning and organization of a learning activity
教科書:	No Textbook		
参考書:	Will be announced in class		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	lrogers@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	現代日本における「ケア」の問題～人を支える関係づくり		
授業の概要:	3回生での「応用演習Ⅰ、Ⅱ」に引き続き、この演習では、「ケア」「ケアリング」「人を支える人間関係づくり」という観点から人間のあり方、生き方について考察し、人間と現代社会への理解を深めます。3回生ときに選んだテーマをさらに発展させながら、卒業論文完成へ向けての作業を行ないます。 卒業研究のテーマの設定から問題の絞り込み、研究の方法論の確認、関連資料・文献の収集と読み込み、先行研究文献リストの作成、先行研究の検討と分析、研究計画の立て方、アウトラインの書き方など、卒業論文を書き上げるまでのプロセスを、授業の中で計画的に追ってゆきます。また三回生時に引き続き、研究活動と対人援助活動の倫理についても学びます。		
到達目標:	授業の目標は、①卒業研究のテーマを特定すること、②研究計画書を作成すること、③学期末には卒論に向けての中間報告をすること、また④研究倫理を理解し遵守することです。		
授業方法:	演習形式。始め数回は主に教員による講義によって進め、あとはゼミ生が各自の研究テーマにそって個別に進行状況を報告し、受講者全員で発表の内容についてディスカッションを行います。教員は、学生の発表の際にアドバイスをすることに加えて個別指導をします。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. 論文を書くとは・論文作成のプロセスについて	事前配布資料を読んで疑問点を整理してくる	
	3. 研究をすすめる方法①研究テーマの設定	事前配布資料を読んで疑問点を整理してくる	
	4. 研究をすすめる方法②文献収集の方法、文献リストの作成	事前配布資料を読んで疑問点を整理してくる	
	5. 研究をすすめる方法③研究の方法と計画	事前配布資料を読んで疑問点を整理してくる	
	6. 研究をすすめる方法④研究計画書の作成	事前配布資料を読んで疑問点を整理してくる	
	7. 研究をすすめる方法⑤文献や資料の整理の技法	事前配布資料を読んで疑問点を整理してくる	
	8. 発表(卒業研究中間報告)①	卒論作成経過について発表の準備をする	
	9. 発表(卒業研究中間報告)②	卒論作成経過について発表の準備をする	
	10. 発表(卒業研究中間報告)③	卒論作成経過について発表の準備をする	
	11. 発表(卒業研究中間報告)④	卒論作成経過について発表の準備をする	
	12. 発表(卒業研究中間報告)⑤	卒論作成経過について発表の準備をする	
	13. 発表(卒業研究中間報告)⑥	卒論作成経過について発表の準備をする	
	14. 研究をすすめる方法⑥論文にまとめる方法・文章作法	事前配布資料を読んで疑問点を整理してくる	
	15. まとめ・期末レポートについて		
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒論制作のために自主的に準備を進めてください。教員はそのプロセスを支援します。		
フィードバックの方法:	教員は、授業中にアドバイスをすることに加えて、必要に応じて個別指導をします。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	50	クラスの出席と授業への積極的参加度により評価する
	期末レポート(卒業論文の中間報告)	50	卒業論文に対する取り組み方と達成度によって評価する。
教科書:	なし		
参考書:	各自のテーマについて必要と思われる資料や文献を、授業中にそのつど紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーを利用する他、メールcsaito@dw.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。		

授業テーマ:

自分の言葉で卒論を書こう

授業の概要:

応用演習にひきつづき、総合的に五つのポイント(情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力)でのレベルアップを図る。具体的な成果として、応用演習をふまえて、各自研究テーマを決め、自分の視点で調べ、自分の言葉で独創性のある卒業論文の完成を目指す。

到達目標:

○情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力でのレベルアップ
○卒論テーマを固める

授業方法:

教員はあくまでアドバイザーに徹し、ゼミ生の自主研究とグループ研究を奨励する。自己評価と相互評価を取り入れて、自己管理力・自己実現力を磨いていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
2.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
3.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
4.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
5.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
6.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
7.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
8.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
9.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
10.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
11.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
12.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
13.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
14.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
15.	総括	総括の準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
	発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうか、ゼミのディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
	授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板

授業テーマ:

民事法学の総合問題

授業の概要:

卒業論文の執筆はとても楽しいものです。難しい資料を分析し、自分の考えをまとめ、長い文章を書くということに苦痛を感じる人は多いですが、「自由にできる」という1点において、卒業論文の執筆は楽しいものだと思います。

テーマは民事法学ですから、教員の専門である民法(特に財産法分野)に関連したものが中心になるかと思いますが、家族法、消費者法、商法、民事手続法に関連したものでもよいでしょう。さらに、興味というのは「育てるもの」ですから、勉強していく中で徐々に変わっていく可能性もあります。それにも対応しながら、これまで学んできた内容を縦横に使いこなしてもらいたいと考えています。

「卒業研究」では、口頭報告・文章作成の基本を確認しながら、各受講者の興味関心を、論文につながる「問題意識」のレベルにまで醸成することを目指します。諸君がこれまで学んできた内容や、現時点で興味を持っている内容について報告してもらい他、教員の方からも面白い素材を提示して、討論形式で進めたいと考えています。

到達目標:

○これまでに習得した知識・技術を用いて、自分なりのテーマを設定する。

○卒業論文計画書を作成する。

授業方法:

口頭発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス ※ゼミの進め方について相談します。	これまで受けた民法関連科目の内容を教科書・ノート類を使って復習しておく。
2. 法律情報の検索方法と文章作成(1)	各種データベースの利用方法を復習しておく。
3. 法律情報の検索方法と文章作成(2)	専門的な文章作成の作法を確認するため、教員から参考資料を配布するので、それを事前に確認しておく。
4. テーマ選定(1)	各人で自分なりのテーマを設定し、どのようなアプローチによって切り込むのか、簡単なメモを作成してくる。
5. テーマ選定(2)	各人で自分なりのテーマを設定し、どのようなアプローチによって切り込むのか、簡単なメモを作成してくる。
6. テーマ選定(3)	各人で自分なりのテーマを設定し、どのようなアプローチによって切り込むのか、簡単なメモを作成してくる。
7. テーマ選定(4)	各人で自分なりのテーマを設定し、どのようなアプローチによって切り込むのか、簡単なメモを作成してくる。
8. テーマ選定(5)	各人で自分なりのテーマを設定し、どのようなアプローチによって切り込むのか、簡単なメモを作成してくる。
9. テーマ決定	
10. 卒業論文計画書作成(1)	先行研究を調査し、自分なりの問題意識を洗練させる。
11. 卒業論文計画書作成(2)	先行研究を調査し、自分なりの問題意識を洗練させる。
12. 卒業論文計画書作成(3)	先行研究を調査し、自分なりの問題意識を洗練させる。
13. 卒業論文計画書作成(4)	先行研究を調査し、自分なりの問題意識を洗練させる。
14. 卒業論文計画書作成(5)	先行研究を調査し、自分なりの問題意識を洗練させる。
15. 春学期の総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」と「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。

フィードバックの方法:

発表用のレジュメ等の成果物については、ゼミ中だけでなくその前後においても適宜相談の上で改善点等を指摘する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常時の取り組み	50	普段のゼミにおける討論への参加、発表の準備と内容といった様々な取り組みを評価する。
卒業論文計画書	50	計画書作成に向けての取り組み姿勢を評価する。

教科書:

六法 (どのようなものでも良いです)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

メールで連絡をとるか(tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィスアワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。

授業テーマ：京都の歴史遺産とその活用

授業の概要：受講生それぞれが研究テーマを設定して研究を深め、卒業論文に向けての準備作業をおこなう。

到達目標：卒業論文の概要を構築する。

授業方法：研究テーマは抽象的なものではなく、京都の史跡、寺社、町屋、考古学的遺跡などにの即して研究できるテーマであることが望ましい。そうして選んだテーマについて、受講生それぞれが自主的な調査・研究（京都の史跡や博物館におけるフィールドワークも含む）をおこない、その成果を発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文に向けてのガイダンス	自分なりの研究テーマについて説明できるようにしておく。
2.	学生各自のテーマの発表	自分なりの研究テーマについて説明できるようにしておく。
3.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
4.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
5.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
6.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
7.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
8.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
9.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
10.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
11.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
12.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
13.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
14.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
15.	夏期休暇中の「プレ卒論」の指示、秋学期の展望	これまでに、卒業論文に必要な資料を揃え、卒論の章立てをおこなっておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法：教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席及びペーパー提出	30	遅刻なしに出席し、指定されたペーパー等を提出したか。
	授業への積極的参加度	20	授業中に積極的に参加したか。
	授業での研究発表と学期末のレポート	40	研究内容を適切にまとめ、わかりやすく説明したか。
	フィールドワーク	10	自主的なフィールドワークにとりくんだか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法：kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

International politics

授業の概要:

As an international language, English can be used to build bridges between different countries. In this course, you will become a delegate of the United Nations General Assembly. You will choose a country to represent and learn about life there, learning how to create solutions to international problems. It is likely we attend an inter-university problem-solving conference in December
Leading into the final seminar course, we will learn more about research techniques and prepare topics for the graduation thesis.

到達目標:

Objectives are to improve students' knowledge of the world, negotiation skills, English level and self-confidence

授業方法:

Groupwork/individual research

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	World issues. Selecting an issue and choosing a country	Research and homework
2.	Learning about the issue	Research and homework
3.	Learning about the issue	Research and homework
4.	Learning about the issue	presentation prep
5.	Informal presentation: country and issue	Research and homework
6.	Research and discussion. Debate practice and preparation	Research and homework
7.	Debates	Research and homework
8.	Debates	Research and homework
9.	Introduction to research	Research and homework
10.	Research philosophy and ethics Considering topics	Research and homework
11.	Prepare for problem solving conference	Research and homework
12.	Prepare for problem solving conference	Research and homework
13.	Research methods	Research and homework
14.	Research methods	Research and homework
15.	Feedback and reflection	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

You must be interested in international issues and organisations like the UN or other NGOs. You must be prepared to speak out in English in every class.

フィードバックの方法:

Feedback will be given to all presentations and written work

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Debate participation	30	Participation
	Presentations	30	Preparation and quality
	General participation	20	Participation
	Homework	20	Participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力, 思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

417802

卒業研究Ⅱ

天野 太郎

授業テーマ:

まちづくりと地域ー卒業論文完成への最終作業

授業の概要:

大阪や東京、あるいはみなさんの出身地域などの具体的な地域を対象地域として、その実態を幅広い問題意識と視点から調査・研究することを通して、地域空間についての理解を深めることを目標とします。受講生の多様な興味・問題意識に基づいて、卒業論文作成にむけて実践的な作業を行います。特に4年生では、内容の深化を図るとともに、発信する力の養成に注力します。

到達目標:

1:研究の基本的な姿勢と、オリジナルの視点からの調査研究を進める。
2:卒業研究の完成の最終段階として、その深化を常時図るとともに、研究調査について地域社会との連携を図る。

授業方法:

演習・ゼミナール形式での学生個人発表を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. はじめに 夏季フィールドワークのフィードバック	配布資料の確認
2. グループコンペ課題の討論	国立国会図書館HPの事前調査
3. 研究発表と研究指導1	論文の確認と精読
4. 研究発表と研究指導2	各自の発表検討
5. 研究発表と研究指導3	PPT準備と発表内容の検討
6. 研究発表と研究指導4	PPT準備と発表内容の検討
7. 他分野との研究交流	PPT準備と発表内容の検討
8. 研究発表と研究指導5	PPT準備と発表内容の検討
9. 研究発表と研究指導6	フィールドワーク対象地域の資料収集
10. 研究発表と研究指導7	PPT準備と発表内容の検討
11. 卒業論文の提出と全体討議	PPT準備と発表内容の検討
12. 卒業研究の修正とフィードバック1	PPT準備と発表内容の検討
13. 卒業研究の修正とフィードバック2	PPT準備と発表内容の検討
14. 卒業研究発表会に向けての研究発信の方法	PPT準備と発表内容の検討
15. 全体の総括	レジュメ資料の確認と振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:

各人の基本的な発表を通して、実際に野外に出てのフィールドワークをおこないます(京都を中心とする地域など、半期1〜2回程度)。また、合宿を伴う調査も合わせて行う予定です。

フィードバックの方法:

ゼミ発表に対して各自・全体に対して随時フィードバックを行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ゼミナール発表	60	到達目標1についての達成度を総合評価する。
他の学生発表に対するコメント評価	40	到達目標2についての達成度を総合評価する。積極的な参加を前提条件として希望します。特に、自己の発表だけでなく、他の人の発表に関しても積極的な質問・議論を行うことを評価します。

教科書:

指定しない

参考書:

天野太郎監修『古地図であるく古都・京都』三栄書房、2016(研究方法論として)
天野太郎監修『『都名所図会』でみる京都観光案内～イラストから見る200年前の京都』実業之日本社、2016
天野太郎監修『近鉄沿線の不思議と謎』実業之日本社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビー・メールを総合的に活用する。

授業テーマ:	憲法学における諸問題		
授業の概要:	各自、選択したテーマの研究を行い、卒論を執筆し、卒業研究発表会用のパネルを作成します。毎回、前回から加筆変更した卒論の部分などを発表し、意見を出し合って、より完成度の高い卒論作成を目指します。		
到達目標:	卒業論文を執筆する 卒業研究発表会のパネルを作成する		
授業方法:	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	卒論中間発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
	2.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
	3.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
	4.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
	5.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
	6.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
	7.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
	8.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
	9.	卒論仮提出	卒論の本文をひととおり完成させる
	10.	卒論の修正・変更	卒論の推敲、修正
	11.	卒論の修正・変更	卒論の推敲、修正
	12.	卒論提出 卒論集の編集	卒論を完成させる
	13.	卒業研究発表会用のパネル作成	パネル用の原稿作成
	14.	卒業研究発表会用のパネル作成	パネル用の原稿作成
	15.	卒業研究発表会の準備	発表会の準備
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業中にコメントする		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	10%	積極的参加度
	卒論の内容	70%	卒論の内容・分量
	卒業研究発表会の内容	20%	パネルの内容、質問に対する説明
教科書:	授業中に指示		
参考書:	授業中に指示		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業前後に教室内で応答、Eメールの利用、マナビーの利用		

授業テーマ:

ヨーロッパの文化と日本

授業の概要:

「卒業研究Ⅰ」に引き続き、さらにヨーロッパの文化への理解を深める。ここでは、生活文化、思想、言語および社会などの分野から学生個人の関心によりテーマを決定し、それに関して発表し、卒業研究としてまとめることを目標とする。

到達目標:

応用演習から続くテーマ(ヨーロッパの文化と日本およびまちづくりと景観)に関してさらに理解を深め、総括的な理解に達することを到達目標とする。そこから個人個人の問題意識に従って、個人研究(すなわち卒論)へとつながって行くように導いてゆきたい。

授業方法:

個人発表およびディスカッション。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 卒業研究概要発表1	
	2. 卒業研究概要発表2	
	3. 卒業研究概要発表3	
	4. 卒業研究発表会1	プレゼンテーション準備
	5. 卒業研究発表会2	プレゼンテーション準備
	6. 卒業研究発表会3	プレゼンテーション準備
	7. 卒業研究発表会4	プレゼンテーション準備
	8. 卒業研究発表会5	プレゼンテーション準備
	9. 卒業研究発表会6	プレゼンテーション準備
	10. 卒業研究発表会7	プレゼンテーション準備
	11. 卒業研究発表会8	プレゼンテーション準備
	12. 卒業研究発表会9	プレゼンテーション準備
	13. 卒論発表会準備	
	14. 卒論発表会準備	
	15. 卒論発表会準備	

受講者へのメッセージやアドバイス:

プレゼンテーション技術は大事な能力である。卒業研究で扱っている個人個人のテーマに関して、演習授業の中でパワーポイントなどを用いてわかりやすくその内容を発表してゆく。そのためには準備と反省をすることが必要である(つまり予習と復習)。また、その発表内容に関して、ゼミ生間でディスカッションをしてもらおう。それもまた反省につながると思う。

フィードバックの方法:

面談及び授業の中のディスカッション場面でそれぞれのプレゼンテーションに対しての評価を伝えてゆく。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業研究(提出論文)	40%	応用演習等で身に着けた知識を用いて、自分の考えを表現することができたかどうかを評価する
	発表	30%	研究の内容に関してわかりやすく説明することができたか、またその準備は充分であったかなどを評価する。
	ディスカッション等演習への参加度	30%	他のゼミ生の発表をよく聞き、しっかり自分の意見を言うことができたかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

授業テーマ:

現代社会における教育的・倫理的諸問題

授業の概要:

卒業論文の完成に向けた諸活動、卒業研究発表会に向けた諸活動

到達目標:

卒業論文の完成、卒業研究発表会の実施を目的とする

授業方法:

演習、個別指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文完成に向けた基礎的指導(1)	卒業論文に向けた基本計画と枠組みの作成(1)
2.	卒業論文完成に向けた基礎的指導(2)	同上(2)
3.	卒業論文のタイトル、章節構成、参考文献一覧表、研究方法、梗概(A4,3枚程度)の完成と提出、相互評価	同上(3)
4.	卒業論文に向けた発表会(1)	発表者は発表資料の作成、聴衆は、ゼミの進行、発表に対する意見、発表、そのまとめの作成(1)
5.	卒業論文に向けた発表会(2)	同上(2)
6.	卒業論文に向けた発表会(3)	同上(3)
7.	卒業論文に向けた発表会(4)	同上(4)
8.	卒業論文に向けた発表会(5)	同上(5)
9.	卒業論文に向けた発表会(6)	同上(6)
10.	卒業論文に向けた発表会(7)	同上(7)
11.	卒業論文に向けた発表会(8)	同上(8)
12.	卒業論文の完成と提出	同上(9)
13.	卒業論文合評会(1)	合評会資料の作成、合評会の運営(1)
14.	卒業論文合評会(2)	同上(2)
15.	パワーポイント資料の提出と合評	パワーポイント資料作成の技術向上実習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

面談、マナビー、メール

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	40	論文の完成度に応じる
	パワーポイント資料と発表	20	パワーポイント資料のでき具合とプレゼンの技術
	ゼミへの参加	20	ゼミでの役割分担、積極発言
	出席	20	全出席を基本にした減点

教科書:

参考書:

適宜、各自ごとに指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

面談、メール、マナビー

授業テーマ:	刑事法学の諸問題(医療と法、被害者学を含む)		
授業の概要:	刑法解釈学、刑事訴訟法学、医療と法、被害者学の各領域から各受講者が選択したテーマを卒業論文にまとめるため、卒業研究Iで行った中間報告をふまえ、卒業論文の構成を意識した第2段階の中間報告を行ってまいります。その上で、10月中に論文形式にまとめて提出してもらい、担当者が目を通した上で適宜指導を行い、各人に一旦返却し、個別的に指導した点をふまえて、12月中の論文完成を目指します。 そのほか、刑事法学の諸問題について、ディスカッションを行います。		
到達目標:	各自が卒業論文のテーマについて選択したテーマに関する正確な情報・文献を、複数の信頼できる情報源から収集できること。当該テーマについての正しい知識に基づいて、明確な問題意識を持ち、論理的な考察を行い、自分の意見を持つこと。自分の意見・主張を、論理的な文章で、学術論文という形で表現できること。		
授業方法:	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:		授業内容	準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション	卒業研究Ⅰで指示した卒業論文作成に向けた課題を作成して提出すること。
	2.	論文作成指導 研究倫理指導	授業中に指導した内容に沿って、卒業論文の作成を進めておくこと。
	3.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。
	4.	ディスカッション	各自で、考察を進め、第2次の中間報告の準備を行うこと。 授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。
	5.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、第2次の中間報告の準備を行うこと。 各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。
	6.	中間報告・指導	中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
	7.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
	8.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
	9.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
	10.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
	11.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習し、自分の意見を準備しておくこと。
	12.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習し、自分の意見を準備しておくこと。
	13.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習し、自分の意見を準備しておくこと。
	14.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習し、自分の意見を準備しておくこと。
	15.	まとめ	卒業論文の内容について、卒業研究発表会用のパネル作成を進めておくこと。
受講者へのメッセージやアドバイス:	『十分考えた上で自分の意見を持つこと』は、就活や社会に出てからも求められる力ですので、大学生のうちにしっかりと準備をしておくことが大切です。刑事法的な問題を素材として、しっかりと考え、その考えを相手に伝えるトレーニングを一緒に行っていきましょう。		
フィードバックの方法:	マナビーを活用して、個別に指導します。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業論文・中間報告	80	到達目標にある、各自が卒業論文のテーマについて選択したテーマに関する正確な情報・文献を、複数の信頼できる情報源から収集できているかどうか、当該テーマについての正しい知識に基づいて、明確な問題意識を持ち、論理的な考察を行い、自分の意見を持っているかどうか、自分の意見・主張を、論理的な文章で、学術論文という形で表現できているかどうかを基準とする。
	授業への参加度	20	到達目標にある、正確な情報・文献をもとに、自分の意見を持っているかどうか、建設的な議論において、自分の意見・主張をきちんと表現できているかどうかを基準とする。
教科書:			
参考書:	各自のテーマについて、個別に指導します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	マナビー、オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>		

授業テーマ:

経営学で卒論を書き上げる、このミッションを通じタフな知性を身につけよう

授業の概要:

本演習では、卒業研究Iを基礎とし、卒業研究の完成を目指してゆきます。卒業研究に創意工夫を凝らし真剣に取り組むことで、実践の学問である経営学を深く学び、ビジネス社会を生き抜くタフな知性を身につけてゆくことを目標とします。

到達目標:

第1に卒業研究におけるセールスポイントを示し、実行する。
第2に社会調査の方法を理解し、文献調査を徹底的に行う。
第3に卒業研究の内容を正しくわかりやすくプレゼンテーションする。
第4に他者のプレゼンテーションを積極的に傾聴し、より良い方向への改善を提案したり、新たな視点を提示するなど、相互評価において貢献する。

授業方法:

少人数の演習形式で実施します。学生が主体的に卒業研究に取り組み、教員は研究手法等について適宜指導します。また授業は中間報告及び討論・助言の場として活用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	発表のための準備学習については適宜、授業中に指示します。 また事前学習として履修者は経営学、会計学の内容を復習しておいて下さい。
	2. 社会調査法の復習: 質的調査と量的調査	同上
	3. 中間報告及び相互評価(1)	同上
	4. 中間報告及び相互評価(2)	同上
	5. 中間報告及び相互評価(3)	同上
	6. 中間報告及び相互評価(4)	同上
	7. 中間報告及び相互評価(5)	同上
	8. 中間報告及び相互評価(6)	同上
	9. 中間報告及び相互評価(7)	同上
	10. 中間報告及び相互評価(8)	同上
	11. 中間報告及び相互評価(9)	同上
	12. 中間報告及び相互評価(10)	同上
	13. 修正指導(1)	同上
	14. 修正指導(2)	同上
	15. 復習と討論	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

笑顔と厳しさが我々のモットーです。
各ゼミ生が「何をゼミから与えられるか」ではなく「自分がゼミのためになにができるか」を考え、能動的に行動するならば、互いにとり満足のゆく果実を得ることができよう。

フィードバックの方法:

卒業論文は12月末に提出しますが、1月初旬に改善箇所を明示して返却します。2週間ほどで、受講生は卒業論文を再提出します。卒業論文に対する総合的なコメントは、1月のゼミ合宿でも行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	30	欠席数、遅刻回数から評価します。
	卒業論文	70	卒業論文について、到達目標に照らし総合的に評価します。

教科書:

参考書:

授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワー。マナビーの掲示板機能並びにEメールを利用。

授業テーマ:	企業の情報開示に関する卒業論文を作成しよう		
授業の概要:	「卒業研究Ⅰ」を踏まえて、卒業論文を完成させる。 この授業では、春学期に決定した各自の卒業論文の論文構成に沿って、順に卒業論文を執筆していく。また、卒業研究発表会用のパネルを作成する。合わせて、随時研究内容について発表し、討論を行うとともに、終盤の授業では最終的な研究成果について発表する。 なお、完成した卒業論文は、全員分をとりまとめて論文集として製本することを予定している。		
到達目標:	「卒業研究Ⅰ」を踏まえて、各自が決定した企業の情報開示に関する卒業論文のテーマや研究アプローチに従って、卒業論文の執筆をさらに進めて、完成させる。 また、学術論文はその内容が優れていることは当然であるが、同時に文献の引用の仕方や参考文献の記載の仕方等、さまざまな形式的要件を満たす必要があるため、学術論文の書き方を身に付ける。 さらに、ほかの学生に対して、自身の研究内容を明瞭に説明し、研究の必要性や重要性をアピールできる。		
授業方法:	原則としてゼミ(演習)形式で行う。 この授業では、従来ありがちであった各回の授業時に数名の学生が順番に発表をしていくという授業形態はとらない。その代わりに、マナビーのレポート機能や掲示板機能を活用することで、全員が授業時に毎回発表ないし討論をする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。	
	2. 実態調査・事例研究の中間発表(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	3. 実態調査・事例研究の中間発表(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	4. 着目する情報開示制度について卒論を執筆して発表する(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	5. 着目する情報開示制度について卒論を執筆して発表する(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	6. 実態調査・事例研究の結果発表(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	7. 実態調査・事例研究の結果発表(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	8. 実態調査・事例研究の方法について卒論を執筆して発表する	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	9. 実態調査・事例研究の結果について卒論を執筆して発表する(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	10. 実態調査・事例研究の結果について卒論を執筆して発表する(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	11. 卒論の「おわりに」を執筆して発表する	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	12. 卒論の「はじめに」を執筆して発表する	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	13. 卒業論文提出、卒論集作成 卒業研究発表会のためのパネル(ポスター)を作成して発表する(1)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	14. 卒業研究発表会のためのパネル(ポスター)を作成して発表する(2)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	15. 卒業研究発表会のためのパネル(ポスター)を作成して発表する(3)	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	この授業では、各自決定した卒業論文のテーマに沿って、主体的に卒業論文の執筆を進める。卒業論文の執筆のために多くの時間が必要であり、学生は、十分な自宅学習をする必要がある。また、学生には、オフィスアワーなどを活用して積極的に質問するなどして、主体的かつ意欲的に学ぶことを期待する。 なお、この授業は、ゼミ(演習)形式のため、毎回授業に出席することはもちろんのこと、授業への積極的な参加と他の学生諸姉との協調が必要である。		
フィードバックの方法:	マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業論文	40%	各自の問題意識をもとに、適当な研究アプローチを用いて主体的に研究を行い、研究成果を卒業論文という形で取りまとめることができるかどうかを基準とする。また、卒業論文の執筆にあたり、文体や引用文献・参考文献の表記をはじめとして、学術論文として適当な方法で執筆できているかどうかを基準とする。
	パネル(ポスター)	30%	各自の問題意識をもとに、適当な研究アプローチを用いて主体的に研究を行い、研究成果を発表用パネル(ポスター)という形で取りまとめることができるかどうかを基準とする。
	授業への積極的参加度	30%	出席のほか、授業中に積極的に発言などによって、研究内容を他の学生と共有できているかどうかを評価する。
教科書:	特になし		
参考書:	あずさ監査法人編『会社法決算の実務―計算書類等の作成方法と開示例』(第11版)2017年。 倉橋雄著作『コーポレートガバナンス・コード対応 招集通知等見直しの実務』商事法務、2015年。 財務会計基準機構編『有価証券報告書の作成要領』(平成29年3月期提出用)、財務会計基準機構、2017年。 財務会計基準機構編『四半期報告書の作成要領』(平成29年6月第1四半期提出用)、財務会計基準機構、2017年。 東京証券取引所上場部編『会社情報適時開示ガイドブック』(2015年6月版)東京証券取引所、2015年。 中村聡ほか著『金融商品取引法―資本市場と開示編』(第3版)商事法務、2015年。 中村直人・山田和彦・後藤晃輔著『内部統制システム構築の実務―平成26年改正会社法対応』商事法務、2015年。 日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編『会計監査六法』(平成29年版)日本公認会計士協会、2017年。 樋口達・山内宏光・小松真理子編著『開示事例から考える「コーポレートガバナンス・コード」対応』商事法務、2015年。		

森・濱田松本法律事務所編『コードに対応したコーポレート・ガバナンス報告書の記載事例の分析〔平成27年版〕』（別冊商事法務No.400）商事法務、2015年。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡
方法：

マナビーの掲示板機能
オフィスアワー

授業テーマ：これまでの研究を卒業論文にまとめる

授業の概要：卒論計画書に基づいた草案を10月に確定、12月末までに卒業論文完成

到達目標：先行研究とデータおよび研究倫理を踏まえた卒業論文を作成する。

授業方法：各自の卒業研究の進捗状況を発表する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒論計画書に準拠した卒業論文構成の最終確定	章構成や表・図の準備
2.	卒論計画書に準拠した卒業論文構成の最終確定	章構成や表・図の準備
3.	卒論計画書に準拠した卒業論文構成の最終確定	章構成や表・図の準備
4.	卒業論文作成の進捗状況を発表 その1	発表資料の準備
5.	卒業論文作成の進捗状況を発表 その2	発表資料の準備
6.	卒業論文作成の進捗状況を発表 その3	発表資料の準備
7.	卒業論文作成の進捗状況を発表 その4	発表資料の準備
8.	卒業論文作成の進捗状況を発表 その5	発表資料の準備
9.	卒業論文作成の進捗状況を発表 その6	発表資料の準備
10.	卒業論文作成の進捗状況を発表 その7	発表資料の準備
11.	卒業論文作成の進捗状況を発表 その8	発表資料の準備
12.	卒業論文作成の発表 その1	
13.	卒業論文作成の発表 その2	
14.	卒業論文作成の発表 その3	
15.	卒業論文作成の発表 その4	

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：ゼミ発表に際しては、事前に教員と相談し、発表内容を確認すること。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30%	計画的な作業の進捗度で評価する。
	個人研究の到達度	70%	研究テーマの独自性や習熟度で評価する。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法：tkono@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

臨床心理学の実証的研究法を学ぶ

授業の概要:

卒業研究では、具体的に心理学的な事象の観察方法、データの収集及び分析といった実証的な研究の進め方と基本を実践的に学ぶことを授業の目標とします。応用演習Ⅰ・Ⅱで学んだ応用行動分析の基礎理論、行動アセスメントの方法、問題行動への具体的な介入とその効果の測定について、先行研究の検証などを通じて知識と技術を深めます。研究計画に基づいて研究をすすめ、結果を卒業論文としてまとめます。

到達目標:

心理学的な事象の観察方法、データの収集及び分析といった実証的な研究の進め方と基本的な技法を理解し、説明することができる。
心理学的な研究方法の知識を用いて、研究計画を立てて実行することができる。研究成果を論理的に説明し、論文としてまとめることができる。

授業方法:

発表、ディスカッションを中心に授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. データの集め方	文献講読
	2. データの集計法	研究計画実施準備
	3. 論文のまとめ方・書き方ガイドライン	研究実施
	4. 卒業研究中間報告・ディスカッション	データ収集
	5. 卒業研究中間報告・ディスカッション	データ収集・集計
	6. 卒業研究・グループ別ディスカッション	データ分析
	7. 卒業研究・グループ別ディスカッション	データ分析
	8. 卒業研究・グループ別ディスカッション	分析結果考察
	9. 卒業研究中間報告2	分析結果考察
	10. 卒業研究中間報告2	論文作成・報告準備
	11. 卒業研究中間報告2	論文作成・報告準備
	12. 卒業研究論文の事前提出・修正	卒業研究論文推敲
	13. 卒業研究論文最終提出	卒業研究論文推敲
	14. 卒業研究成果報告	卒業研究論文報告準備
	15. 全体のまとめ	卒論発表会プレゼンテーション準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

それぞれの受講生の発表、報告について、授業時間内にコメントをフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	20	出席状況、授業への参加度
	プレゼンテーション	10	研究の手順の適切さ、伝える技術の論理性を評価基準とします。
	卒業研究	70	心理学の理論をふまえ、適切な研究方法を用いて研究課題にアプローチしているか論文としての水準を評価基準とします。

教科書:

小塩真司、西口利文『質問紙調査の手順』ナカニシヤ出版

参考書:

無藤隆 他編著(2011)『心理学 第9版』有斐閣

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

女性・仕事・リーダーシップ－ジェンダー研究の視座から

授業の概要:

卒業研究論文の完成を目指します。
同時に各自の研究を通して研究方法を修得し、社会のしくみとジェンダー問題に関して専門知見をもとに分析的、批判的思考力を養うことを目標としています。

到達目標:

「学士」の学位にふさわしい研究論文が書けること。

授業方法:

卒業研究論文執筆における個人指導、および発表とディスカッションを中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業目標と授業全体の流れ、研究倫理の確認)	
2.	卒業研究論文のためのデータ収集、およびデータ・事例の執筆	事例となるデータの収集、または資料を読みこなし、事例の執筆をすすめる。
3.	卒業研究論文のためのデータ収集、およびデータ・事例の執筆(継続)	事例となるデータの収集、または資料を読みこなし、事例の執筆をすすめる。
4.	卒業研究論文のためのデータ収集、およびデータ・事例の執筆(継続)	事例となるデータの収集、または資料を読みこなし、事例の執筆をすすめる。
5.	事例の執筆/データ分析、および考察部分の執筆	事例の収集データ、または、資料の情報の集約にとりかかる。
6.	データ分析、および考察部分の執筆(継続)	事例の収集データ、または、資料の情報の集約にとりかかる。
7.	データ分析、および考察部分の執筆(継続)	研究目的の答えを導くために、事例の集約情報に基づき、かつ、理論的枠組の専門知見に照らし合わせながら考察を書き進める。
8.	データ分析、および考察部分の執筆(継続)	研究目的の答えを導くために、事例の集約情報に基づき、かつ、理論的枠組の専門知見に照らし合わせながら考察を書き進める。
9.	結論部分の執筆	考察部分の要約を結論としてまとめる。
10.	卒業研究論文の初稿提出	論文全体を読み返し、推敲する。
11.	卒業研究論文の総括(卒業研究論文執筆を通して学んだこと、気づいたこと)	論文執筆作業プロセスをふりかえり省察する。
12.	卒業研究論文の初稿返却	
13.	卒業研究論文の発表とディスカッション ①	論文執筆作業プロセスをふりかえり省察する。
14.	卒業研究論文の発表とディスカッション ②	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
15.	卒業研究論文の発表とディスカッション ③	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

卒業研究論文の執筆は、大学での学問の集大成となります。達成感が味わえるよう、論文執筆を優先して真剣に取り組みましょう。

フィードバックの方法:

卒業研究論文初稿は、コメントをつけて返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50%	卒業研究論文への意欲的な取り組みや発表など
	卒業研究論文	50%	論文全体の一貫性、特に、研究目的を論証するための十分な事例、考察における分析力、その他、論文作法など。

教科書:

指定教科書なし

参考書:

授業で適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール(emiyaake@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:	ヨーロッパ社会モデルと日本の比較研究:卒業研究論文を完成させる		
授業の概要:	春学期で準備してきた卒業論文を完成させることが目標となる。各自がテーマに関連する書物や情報を掘り下げ、その成果を報告する。そのさいの議論をも参考にしながら、論文を完成させる。 なお、研究倫理について絶えず確認しながら進める。		
到達目標:	大学での学習・研究の集大成として、卒業研究論文をまとめ、ビジネスパーソンとしての能力を固めることを目標とします。		
授業方法:	各自が調査研究してきたその成果を報告し、ディスカッションする。その成果を卒論に生かすべく執筆する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	課題について調査し、整理しておくこと	
	2. 研究計画書の提出と確認	課題について調査し、整理しておくこと	
	3. 卒論作成までのプロセスの確認	課題について調査し、整理しておくこと	
	4. 情報交換	課題について調査し、整理しておくこと	
	5. 情報交換	課題について調査し、整理しておくこと	
	6. プレゼンテーションとディスカッション	課題について調査し、整理しておくこと	
	7. プレゼンテーションとディスカッション	課題について調査し、整理しておくこと	
	8. プレゼンテーションとディスカッション	課題について調査し、整理しておくこと	
	9. プレゼンテーションとディスカッション	課題について調査し、整理しておくこと	
	10. 卒業論文の指導	課題について調査し、整理しておくこと	
	11. 卒業論文の指導	課題について調査し、整理しておくこと	
	12. 卒業論文の指導	課題について調査し、整理しておくこと	
	13. 卒業研究論文集の作成	課題について調査し、整理しておくこと	
	14. 卒業研究発表会の準備	課題について調査し、整理しておくこと	
	15. 二年間にわたる演習の振り返り	課題について調査し、整理しておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	二年間にわたる演習の集大成として、卒業論文に取り組んでほしい。		
フィードバックの方法:	プレゼンテーションや論文草稿についてコメントを行い、全員で議論する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プレゼンテーション	50	課題について調査・整理し、分かりやすく伝えられたか
	卒業研究論文	50	課題を適切に設定し、調査・分析・整理し、論理的かつ説得力を持って議論できているか
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール		

授業テーマ:

比較社会科学の論文作成

授業の概要:

異なる複数の社会を比較研究することで、それぞれの社会に対する理解をより深め、さらには今後の社会のあり方を考えるヒントを得ていくのが比較社会科学の狙いです。
担当者は比較政治学・社会保障改革の国際比較を専門としていますが、日本や外国社会に関する一国研究の論文作成も歓迎します。

到達目標:

目標(1) 卒業論文を完成させる。
目標(2) 卒業論文をもとに発表会に向けたポスターを作成する。
目標(3) 学友たちの研究成果を理解する。

授業方法:

演習形式(論文・ポスターの作成、プレゼンテーション、ディスカッション)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	夏季休暇中の成果の報告 & 今後の研究・執筆方針の決定	卒業論文完成に向けて、自分が今どこにいるのか位置を確認しておく。
2.	卒業論文の作成	研究・執筆を進める。
3.	卒業論文の作成	研究・執筆を進める。
4.	中間発表会	プレゼン資料の準備。
5.	中間発表会	プレゼン資料の準備。
6.	中間発表会	プレゼン資料の準備。
7.	中間発表会	プレゼン資料の準備。
8.	卒業論文の作成	研究・執筆を進める。
9.	卒業論文の作成	研究・執筆を進める。
10.	卒業論文原稿提出に向けて: 提出方法 & 共通形式の確認	
11.	卒業論文原稿提出	提出方法や共通形式を確認する。
12.	卒業論文修正	指示のあった修正箇所を確認する。
13.	卒業論文最終提出に向けて: 提出方法 & 共通形式の確認	
14.	卒業論文最終提出	提出方法や共通形式を確認する。
15.	卒業研究発表会に向けてのポスター作成	卒論のファイルや印刷したものを持参する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中に担当教員からアドバイスを受けたり、他の受講者の研究を参考にしたりすることで、授業を自分の研究を前進させる機会として積極的に活用してください。
欠席する際には必ず事情を連絡すること。

フィードバックの方法:

マナービーおよびE-mail

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	40%	授業への積極的参加度を評価
	卒業論文	50%	テーマ設定の適切性・独創性、論文の主張の妥当性・説得力、学術論文としての形式の適切性を評価
	ポスター	10%	わかりやすさ、デザインを評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

E-mail

授業テーマ:	日常生活におけるリスクマネジメントと保険																																		
授業の概要:	リスクマネジメントおよび保険は、意識しているか否かはさておき、日常生活の中で数多く登場している。例えば地震について考えると、地震で建物が倒壊しないように耐震補強工事をしたり、地震が起こったときに備えて避難訓練を行ったりすることなどは地震に対するリスクマネジメントとして考えられる。また、火災保険や自動車保険についてみると、一人暮らしの人だと火災保険に、車や原付を持っている人だと自動車保険に実際に入っているケースが少なくない。さらに、医療保険や年金保険などは、病気になったときや老後の生活を支える重要な手段となっている。また最近では、女性特有の病気に対して手厚い保障を行う保険なども登場している。 本講義では、このように日常生活の中で数多く登場するリスクマネジメントや保険について考えていく。																																		
到達目標:	リスクマネジメントや保険がどのような役割を担っているのか、どのような問題を抱えているのか、などについて学習することを通じて、リスクマネジメントや保険にかかる知識を修得することおよびそれらの知識を使ってプレゼンテーションできるようになることを目標とする。																																		
授業方法:	主として卒業論文作成のための発表																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. ガイダンス</td><td>シラバスに書かれている内容の理解</td></tr><tr><td>2. 卒業研究にかかる発表(1)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>3. 卒業研究にかかる発表(2)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>4. 卒業研究にかかる発表(3)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>5. 卒業研究にかかる発表(4)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>6. 卒業研究にかかる発表(5)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>7. 卒業研究にかかる発表(6)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>8. 卒業研究にかかる発表(7)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>9. 卒業研究にかかる発表(8)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>10. 卒業研究にかかる発表(9)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>11. 卒業研究にかかる発表(10)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>12. 卒業研究にかかる発表(11)</td><td>「卒業研究」の準備</td></tr><tr><td>13. 卒業研究発表会にかかる準備(1)</td><td>「卒業研究発表会」の準備</td></tr><tr><td>14. 卒業研究発表会にかかる準備(2)</td><td>「卒業研究発表会」の準備</td></tr><tr><td>15. 総括</td><td>全体の振り返り等</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解	2. 卒業研究にかかる発表(1)	「卒業研究」の準備	3. 卒業研究にかかる発表(2)	「卒業研究」の準備	4. 卒業研究にかかる発表(3)	「卒業研究」の準備	5. 卒業研究にかかる発表(4)	「卒業研究」の準備	6. 卒業研究にかかる発表(5)	「卒業研究」の準備	7. 卒業研究にかかる発表(6)	「卒業研究」の準備	8. 卒業研究にかかる発表(7)	「卒業研究」の準備	9. 卒業研究にかかる発表(8)	「卒業研究」の準備	10. 卒業研究にかかる発表(9)	「卒業研究」の準備	11. 卒業研究にかかる発表(10)	「卒業研究」の準備	12. 卒業研究にかかる発表(11)	「卒業研究」の準備	13. 卒業研究発表会にかかる準備(1)	「卒業研究発表会」の準備	14. 卒業研究発表会にかかる準備(2)	「卒業研究発表会」の準備	15. 総括	全体の振り返り等		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解																																		
2. 卒業研究にかかる発表(1)	「卒業研究」の準備																																		
3. 卒業研究にかかる発表(2)	「卒業研究」の準備																																		
4. 卒業研究にかかる発表(3)	「卒業研究」の準備																																		
5. 卒業研究にかかる発表(4)	「卒業研究」の準備																																		
6. 卒業研究にかかる発表(5)	「卒業研究」の準備																																		
7. 卒業研究にかかる発表(6)	「卒業研究」の準備																																		
8. 卒業研究にかかる発表(7)	「卒業研究」の準備																																		
9. 卒業研究にかかる発表(8)	「卒業研究」の準備																																		
10. 卒業研究にかかる発表(9)	「卒業研究」の準備																																		
11. 卒業研究にかかる発表(10)	「卒業研究」の準備																																		
12. 卒業研究にかかる発表(11)	「卒業研究」の準備																																		
13. 卒業研究発表会にかかる準備(1)	「卒業研究発表会」の準備																																		
14. 卒業研究発表会にかかる準備(2)	「卒業研究発表会」の準備																																		
15. 総括	全体の振り返り等																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	授業中において、担当教員が適宜コメントすることで、発表の内容についてのフィードバックを行う。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>卒業研究の発表</td><td>20</td><td>卒業研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。</td></tr><tr><td>卒業論文</td><td>60</td><td>卒業論文より、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度を評価する。</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>20</td><td>積極的に議論に参加するなど、議論の活発化にどの程度貢献しているかによって評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	卒業研究の発表	20	卒業研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。	卒業論文	60	卒業論文より、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度を評価する。	授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなど、議論の活発化にどの程度貢献しているかによって評価する。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
卒業研究の発表	20	卒業研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。																																	
卒業論文	60	卒業論文より、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度を評価する。																																	
授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなど、議論の活発化にどの程度貢献しているかによって評価する。																																	
教科書:																																			
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	教員のメールアドレス: mokura@dwc.doshisha.ac.jp																																		

授業テーマ:	現代社会を多角的に読み解く		
授業の概要:	本演習では、前期までの学習を踏まえ、卒業研究論文の作成に取り組みます。具体的には、まず各自のテーマと計画に関連する先行研究のレビューを行います。先行研究のレビューは、卒業研究論文の作成のみにとどまらず、それぞれが関心のある現代社会の諸問題をより深く理解するため、人類学のみならず幅広い分野から多様な研究を取り上げ学習する予定です。 以上のような学習は、自らの視点でグローバル化する現代社会の諸問題を読み解く力を身につけることを意図して行います。その集大成として、一人ひとりの受講生が卒業研究論文を完成・執筆することを最終的な目的とします。		
到達目標:	・社会科学的方法と目的に基づく卒業研究論文の制作・執筆。 ・自らの研究内容を第三者に説得的に説明できる表現力と文章力を身に付ける。 ・社会責任としてグローバルに通用する研究倫理を確認し習得する。		
授業方法:	演習形式 ・毎回の授業では、各受講生が卒業研究論文を執筆するための学習を行います。 ・受講生の数によりますが、各人が最低1～2回は途中経過の報告・発表を担当していただく予定です。 ・最終的に全員に卒業研究論文の内容発表をしていただきます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	2. 先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	3. 先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	4. 先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	5. 先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	6. 先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	7. 先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	8. 卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	9. 卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	10. 卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	11. 卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	12. 卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。	
	13. 卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、卒業論文を執筆し完成させてください。	
	14. 卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、卒業論文を執筆し完成させてください。	
	15. 卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、卒業論文を執筆し完成させてください。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本演習の受講生は、自分ひとりの問題関心のみに閉じこもることなく、他の受講生の研究テーマについてもその意義を共有し、自らの問題と同じように理解・考察することを意識してください。またそうした理解と考察を積極的に自分自身の研究に結び付けて考えるためにも、積極的にディスカッションなどに参加してください。		
フィードバックの方法:	・各回の個別のプレゼンテーションとディスカッション後にアドバイスや評価を行います。 ・最終回に各受講生に対して総評と評価を行います。		

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業研究論文	80%	論文は、到達目標である「社会科学的な方法と目的」に基づいた卒業研究論文が制作できているか、またその内容を「第三者に説得的に説明できる表現力と文章力」で執筆できているか評価します。
	授業への参加度	20%	到達目標である「社会科学的な方法と目的」を積極的に理解し習得しようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力、プレゼンテーション力
教員との連絡 方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ:

観光に関連する産業または地域に関する経営学的研究

授業の概要:

研究テーマは抽象的なものではなく、観光に関連する産業または地域の活動などに即して研究できるテーマであることが望ましい。そうして選んだテーマについて、受講生それぞれが自主的な調査・研究をおこない、その成果を発表する。さらに、観光に関連する産業または地域に関するオリジナルの情報を収集し、それに基づいた考察を行って卒業論文を作成する。

到達目標:

適切な研究テーマを選択できるか。緩急テーマに関連した情報を適切に収集できるか。研究テーマに対して、適切な研究方法を選択し、実施できるか。自律的に計画を立てて、卒論研究に取り組み、卒業論文の形にまとめらめるか。

授業方法:

演習 卒業論文作成に向けて、各自が自律的に活動するとともに、教室で発表することによって、刺激し合いながら、より良い卒業論文に向けて活動する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 卒業論文に向けてのガイダンス	夏休みの間に進めた研究についてまとめてくる
	2. 各自のテーマについて進捗状況の発表	夏休みの間に進めた研究についてまとめてくる
	3. 第1次個別発表 1	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
	4. 第1次個別発表 2	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
	5. 第1次個別発表 3	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
	6. 第1次個別発表 4	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
	7. 第1次個別発表 5	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
	8. 第1次個別発表 ふりかえり	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
	9. 第2次個別発表 1	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
	10. 第2次個別発表 2	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
	11. 第2次個別発表 3	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
	12. 第2次個別発表 4	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
	13. 卒業論文提出	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
	14. 卒業研究発表会への準備	提出した卒業論文の内容をまとめ、卒業研究発表会の準備を進める
	15. 卒業研究発表会への準備	提出した卒業論文の内容をまとめ、卒業研究発表会の準備を進める

受講者へのメッセージやアドバイス:

就職活動等により、出席が困難なときも連絡を怠らず、可能な限り出席するようにしてください。また、卒業論文作成を進めるためにも、できるだけ多く、観光に関連する産業または地域に関する現状を見学したり、報道等の各種情報を収集したりすること。

フィードバックの方法:

報告に対しては、教室で。また進捗状況をマナビーで報告したものに対しては、マナビーで対応する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表、討論	40	卒論テーマに基づいた調査・考察、自律的に計画を立てて進めているか、他者の発表に有益なコメントをしているかといった程度
	卒業論文	60	卒論テーマの設定、適切な情報収集、適切なアプローチの選択、アドバイスやコメントを適切に取り入れて、卒論が作成できたかどうかの程度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

授業テーマ:

Leadership & Diversity

授業の概要:

This seminar is a continuation of the third year and spring Diversity and Leadership Skills seminar
The aims are for students to use leadership skills to do the following:
1) Actively do research and produce a final project reporting their research findings. Students will do research and gather information in Japanese and English; however, their final report will be in a more widely understood English format.
2) Organize a group learning activity
3) Present research project findings inside and outside the university

到達目標:

Upon completion of this course, students will understand and be able to do research and produce a final project reporting their research findings. They will also be able to practice leadership skills from their third year.

授業方法:

Students will participate in group discussions and give research project updates, while doing outside research. Students will also be required to do a presentation of their research outside the seminar.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Discuss course and research project guidelines	Reading and note-taking and preparation for graduation research project
2.	Review research skills	Writing graduation research project paper
3.	Discuss presenting research as research pap es and presentations	Writing graduation research project paper
4.	Review how to write a research paper	Writing graduation research project paper
5.	Discuss research projects	Writing graduation research project paper
6.	Organizational skills: begin organizing seminar activities	Writing graduation research project paper
7.	Discuss research projects updates and seminar activities	Writing graduation research project paper
8.	Discuss research projects updates and seminar activities	Writing graduation research project paper
9.	Discuss research projects updates and seminar activities	Editing and rewriting graduation research project
10.	Research project and activity planning updates	Editing and rewriting graduation research project
11.	Research project and activity planning updates	Editing and rewriting graduation research project
12.	Research project and activity planning updates	Editing and rewriting graduation research project
13.	Finisng final research project and activity planning updates	Editing and rewriting graduation research project
14.	Research project Presentations	Reading and giving feedback on graduation research projects
15.	Wrap-up and discuss remaining course goals and seminar activities	Reading and giving feedback on graduation research projects

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students will be required to give weekly progress updates on their graduation projects and activity projects and give feedback to other students. They will do this through class discussions on campus and online and through presentations.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Final Research Project	50%	Research project and progress updates
	Group discussion & presentations	30%	Active participation in class and online, outside presentation
	Seminar activity organization	20%	Planning and organization of a group learning activity

教科書:

No Textbook

参考書:

Will be announced in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	現代日本における「ケア」の問題～人を支える関係づくり		
授業の概要:	春学期の「卒業研究Ⅰ」の学びによって得られた成果をふまえて、各自の研究テーマをさらに深め、卒業論文を制作する作業を行います。 卒業研究Ⅰでの学びを基にして、卒業研究のテーマの設定から問題の絞り込み、研究の方法論の確認、関連資料・文献の収集と読み込み、先行研究文献リストの作成、先行研究の検討と分析、研究計画の立て方、アウトラインの書き方など、卒業論文を書き上げるまでのプロセスを、授業の中で計画的に追ってゆきます。		
到達目標:	(1)卒業論文を完成させます。 (2)同志社びわこリトリートセンターでの1月の3・4回生合同ゼミ合宿でその成果を発表します。 (3)社会システム学科卒業研究発表会においてポスター発表をします。		
授業方法:	演習形式。ゼミ生が各自の研究テーマにそって個別に進行状況を報告し、受講者全員で発表の内容についてディスカッションを行います。教員は、学生の発表の際にアドバイスをすることに加えて、必要に応じて個別指導をします。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 2. 今後の研究計画の確認 3. 研究を進める方法①卒論提出までのスケジュール確認 4. 卒業研究指導① 5. 卒業研究指導② 6. 個人発表(卒論中間報告)① 7. 個人発表(卒論中間報告)② 8. 個人発表(卒論中間報告)③ 9. 個人発表(卒論中間報告)④ 10. 個人発表(卒論中間報告)⑤ 11. 研究を進める方法②卒業論文の様式について 12. 卒業研究指導③ 13. 研究を進める方法③卒論発表会について 14. 社会システム学科卒業研究発表会の準備 15. 1年間のまとめ	事前配布資料を読んで疑問点を整理してくる 事前配布資料を読んで疑問点を整理してくる 卒論制作についての疑問点を整理してくる 卒論制作についての疑問点を整理してくる 卒論について発表の準備をする 卒論について発表の準備をする 卒論について発表の準備をする 卒論について発表の準備をする 卒論について発表の準備をする 事前配布資料を読んで疑問点を整理してくる 卒論制作についての疑問点を整理してくる 卒論発表会の準備をする 卒論発表会の準備をする	
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒論制作のために自主的に準備を進めてください。教員はそのプロセスを支援します。		
フィードバックの方法:	教員は、学生の発表の際にアドバイスをすることに加えて、必要に応じて個別指導をします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	30	クラスの出席と授業への積極的参加度により評価する。
	卒研発表会での発表	20	卒業論文に対する取り組み方と達成度によって評価する。
	卒業論文	50	卒業論文の内容によって評価する。
教科書:	なし		
参考書:	各自のテーマについて必要と思われる資料や文献を紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーを利用する他、メールcsaito@dw.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。		

授業テーマ:

自分の言葉で卒論を書こう

授業の概要:

応用演習にひきつづき、総合的に五つのポイント(情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力)でのレベルアップを図る。具体的な成果として、応用演習をふまえて、各自研究テーマを決め、自分の視点で調べ、自分の言葉で独創性のある卒業論文の完成を目指す。

到達目標:

○情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力でのレベルアップ
○卒論完成

授業方法:

教員はあくまでアドバイザーに徹し、ゼミ生の自主研究とグループ研究を奨励する。自己評価と相互評価を取り入れて、自己管理能力・自己実現力を磨いていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
2.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
3.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
4.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
5.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
6.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
7.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
8.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
9.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
10.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
11.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
12.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
13.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
14.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
15.	総括	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
	発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうか、ゼミのディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
	授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板

授業テーマ:	民事法学の総合問題		
授業の概要:	卒業論文の執筆はとても楽しいものです。難しい資料を分析し、自分の考えをまとめ、長い文章を書くということに苦痛を感じる人は多いですが、「自由にできる」という1点において、卒業論文の執筆は楽しいものだと思います。 テーマは民事法学ですから、教員の専門である民法(特に財産法分野)に関連したものが中心になるかと思いますが、家族法、消費者法、商法、民事手続法に関連したものでもよいでしょう。さらに、興味というのは「育てるもの」ですから、勉強していく中で徐々に変わっていく可能性もあります。それにも対応しながら、これまで学んできた内容を縦横に使いこなしてもらいたいと考えています。 「卒業研究Ⅱ」では、「卒業研究Ⅰ」で決定したテーマに基づいて執筆を進めてきた卒業論文について、各受講者に報告してもらい、討論を通じてブラッシュアップしていくこととなります。目標は、当然、卒業論文の完成です。		
到達目標:	○「卒業研究Ⅰ」を通じて洗練した問題意識に基づき、卒業論文を完成させる。		
授業方法:	口頭発表と成果物の添削		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス ※ゼミの進め方について相談します。		
	2. 卒業論文中間報告(1)	計画書からどの程度進展したか、レジュメを準備する。	
	3. 卒業論文中間報告(2)	計画書からどの程度進展したか、レジュメを準備する。	
	4. 卒業論文中間報告(3)	計画書からどの程度進展したか、レジュメを準備する。	
	5. 卒業論文中間報告(4)	計画書からどの程度進展したか、レジュメを準備する。	
	6. 卒業論文中間報告(5)	計画書からどの程度進展したか、レジュメを準備する。	
	7. 卒業論文執筆(1)	内容面だけでなく、学術論文としての形式面にも気を配って執筆する。	
	8. 卒業論文執筆(2)	内容面だけでなく、学術論文としての形式面にも気を配って執筆する。	
	9. 卒業論文執筆(3)	内容面だけでなく、学術論文としての形式面にも気を配って執筆する。	
	10. 卒業論文執筆(4)	内容面だけでなく、学術論文としての形式面にも気を配って執筆する。	
	11. 卒業論文執筆(5)	内容面だけでなく、学術論文としての形式面にも気を配って執筆する。	
	12. 卒業論文完成		
	13. 卒業論文の発表と評価(1)	各自の卒業論文を、卒業研究発表会にてどのようにプレゼンするか考えてくる。	
	14. 卒業論文の発表と評価(2)	各自の卒業論文を、卒業研究発表会にてどのようにプレゼンするか考えてくる。	
	15. 総括		
受講者へのメッセージやアドバイス:	これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」と「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。		
フィードバックの方法:	発表用のレジュメ等の成果物については、ゼミ中だけでなくその前後においても適宜相談の上で改善点等を指摘する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 卒業論文	割合 100	評価基準 卒業論文のみで評価します。しかし、執筆にあたっては、何度も発表し、そこでの指摘を踏まえて何度も書き直すという作業が必要になります。結果として、良い卒業論文は、平常時から一生懸命取り組んできた姿勢の延長にあります。そのため、これまでと同様、「平常時の取り組み」によって評価することには変わりありません。
教科書:	六法 (どのようなものでも良いです)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	メールで連絡をとるか(tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィスパワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。		

授業テーマ:

京都の歴史遺産とその活用

授業の概要:

教室内での作業、受講生の発表と討論(参加者全員が必ず発言できるようにすること)。

到達目標:

卒業研究Iを受けて、受講生それぞれが研究を深め、卒業論文を完成させる。

授業方法:

教室内での作業、受講生の発表と討論(参加者全員が必ず発言できるようにすること)。研究テーマは抽象的なものではなく、京都の史跡、寺社、町屋、考古学的遺跡などにの即して研究できるテーマであることが望ましい。そうして選んだテーマについて、受講生それぞれが自主的な調査・研究をおこない、その成果を発表する。学期末には、卒業論文(16,000字以上)を提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文に向けての進め方	夏季休暇中に「ブレ卒論」を書く。
2.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
3.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
4.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
5.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
6.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
7.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
8.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
9.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
10.	個別指導	自分の研究の問題点をまとめ、質問できること。
11.	個別指導	自分の研究の問題点をまとめ、質問できること。
12.	個別指導	自分の研究の問題点をまとめ、質問できること。
13.	個別指導	自分の研究の問題点をまとめ、質問できること。
14.	卒業論文提出	卒業論文を完成させておく。
15.	ゼミのまとめ	卒業論文の内容をまとめなおす。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席及びペーパー提出	20	遅刻なしに出席し、指定されたペーパー等を提出したか。
	卒業論文	80	研究内容を適切にまとめ、論理的に説明したか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

kyamada@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

フランス社会を通して異文化理解の理念、倫理、方法、およびその問題点を学ぶ。
また、異文化へのアプローチが、いかに「自文化」の理解を深めることにつながるかを考察する。

授業の概要:

16世紀以降、ヨーロッパの中心でありつづけるフランス。今日のフランスは、しかし、カトリックの伝統の上に啓蒙主義と民主主義が上乗せされた進歩的な白人の国などではなく、宗教的にも人種的にも多様で、ヨーロッパ的な伝統とアメリカ的なリベリズム、そしてイスラムやアフリカの文化がせめぎ合う多面的な国家である。
したがって、一口に「フランス文化」といっても、それがなにを意味するのか見きわめるのは簡単なことではない。しかし、今日のフランスの社会文化的状況から、私たちは少なくとも二つのことを学ぶことができる。1/植民地主義の終焉とともにフランス社会が抱え込んだ多様性に、国民がいかに現在進行形で向き合い、議論を重ねているか。その姿こそが、現在の「フランス文化」の方向性を強く印づけている。2/異文化とは必ずしも外国の文化のことではなく、自国のなかに入り込み、自国内で伝統的な文化と融合ないし対峙しつつある文化のことでもありうる。フランスのなかのイスラム文化は、まさにそうした異文化にほかならない。このようなフランスの現状を、日本の国民がたんなる余所事として見ているとすれば、それはセンシティブィティのまったくの欠如を意味するか、そうでなければ、自国の未来について思考するセンスの不在を意味するだろう。

到達目標:

本講義では主にフランス文化を扱うが、たんにフランス文化について学ぶだけでなく、フランス人たち自身が直面している異文化理解の諸問題についても考察を行う。

授業方法:

本講義は、教科書として取り上げる本（小田中直樹『フランス7つの謎』）の内容に沿って進められる。
ただし、それはいわば議論の叩き台にすぎず、本講義では独自の観点からこれに検証や批判を加え、具体的なテーマにまつわる資料をそのつと補いつつ、学びを深めてゆく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションーいま「フランス」とはなにを意味するのか	特になし
2.	なぜ政教分離をめぐる延々と議論が続くのか(その1)	テキストの当該箇所に目をとおしておく
3.	なぜ政教分離をめぐる延々と議論が続くのか(その2)	同上
4.	なぜいつでもどこでもストに出会うのか(その1)	同上
5.	なぜいつでもどこでもストに出会うのか(その2)	同上
6.	なぜ標識がバイリンガル表記なのか(その1)	同上
7.	なぜ標識がバイリンガル表記なのか(その2)	同上
8.	なぜマクドナルドを「解体」とすると拍手喝采されるのか(その1)	同上
9.	なぜマクドナルドを「解体」とすると拍手喝采されるのか(その2)	同上
10.	なぜアメリカを目の敵にするのか(その1)	同上
11.	なぜアメリカを目の敵にするのか(その2)	同上
12.	なぜ大学生がストライキをするのか(その1)	同上
13.	なぜ大学生がストライキをするのか(その2)	同上
14.	なぜ大学生がストライキをするのか(その3)	同上
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

教科書については、先輩（前年度までの受講者）から譲ってもらったり、何人かで購入したものをコピーしてもよい。

フィードバックの方法:

学期末の評価を通じて行う。
それ以外は、個別に対応することもありうるが、教務係を通して行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	50	授業内容をどの程度理解しているかを問う。
	授業態度	50	授業中に私語をする者、スマートフォンや携帯電話などをしまわない者には厳正に対処する。

教科書:

小田中直樹『フランス7つの謎』文春新書（2005年）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	異文化理解とコミュニケーション		
授業の概要:	このクラスでは『文化とは何なのか』というわかりそうでわかりにくい問いかけに取り組み、その上で異文化理解に関わる様々な基本概念を学習し、異文化理解に関するいくつかの問題に取り組んでいただきます。授業で扱う異文化は外国の文化間だけを扱うのではなく、同じ文化内でも年齢差や性差といった広義の異文化にも触れていきます。また異文化理解教育の在り方についても考えてもらいます。		
到達目標:	学習していく過程で、様々な文化に触れる機会が多い現代において、よりよい異文化コミュニケーションが行えるようになっていただくのがこの授業の目標です。現代社会が抱えるいくつかの問題を考察することで多文化共生社会の現状を把握し未来を模索するのが目標です。		
授業方法:	主に講義形式ですが、トピックについてのディスカッションをしながら進めていきます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス(授業運営と評価方法について)	授業中に指示した課題と復習	
	2. 文化が持つ様々な側面1	授業中に指示した課題と復習	
	3. 文化が持つ様々な側面2	授業中に指示した課題と復習	
	4. コミュニケーションが持つ様々な側面1	授業中に指示した課題と復習	
	5. コミュニケーションが持つ様々な側面2	授業中に指示した課題と復習	
	6. Review and Discussion	授業中に指示した課題と復習	
	7. 異文化接触とコミュニケーション1	授業中に指示した課題と復習	
	8. 異文化接触とコミュニケーション2	授業中に指示した課題と復習	
	9. グローバリゼーションと多文化共生1	授業中に指示した課題と復習	
	10. グローバリゼーションと多文化共生2	授業中に指示した課題と復習	
	11. Review and Discussion	授業中に指示した課題と復習	
	12. 異文化理解教育の在り方1	授業中に指示した課題と復習	
	13. 異文化理解教育の在り方2	授業中に指示した課題と復習	
	14. 異文化理解と多文化共生社会	授業中に指示した課題と復習	
	15. まとめ	これまでの復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業では皆さんが今までに経験してきた文化体験を例にしながらディスカッションすることがありますので積極的な授業への参加が必要です。また指示した課題の取り組みへの評価が大きいこともあり、準備を必ずして授業に臨んでください。		
フィードバックの方法:	授業での課題提出についてはその場で解説解答することがほとんどです。論述問題の場合は次週にコメントをつけてお返しします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	20%	積極的な授業への参加10%と授業での発表10%による評価
	課題提出	30%	課題提出が数回あります。
	レポート	50%	授業内容に関する問題に解答する形式のレポートが課せられます。
教科書:			
参考書:	授業中適宜紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

もう一つのヨーロッパ、ハプスブルク文化を知る

授業の概要:

ヨーロッパの中心的な歴史と文化をつむいできたハプスブルク家の変遷をビデオ(「ハプスブルク家」)でたどりながら、その功績を考察してゆきたい。その文化と歴史を検討することにより、現代のドイツ・オーストリアの文化のより深い理解が可能となると考える。

到達目標:

ハプスブルク家の歴史と文化についての基本的な知識の獲得を目指す。またその歴史と文化についてどの分野でもいいので、より深めた内容の知見を獲得することを目指す。

授業方法:

講義形式であるが、ビデオなども用いてより深い理解につながるよう工夫している。またオペラやオペレッタについてもビデオ・DVD等で鑑賞したい。授業の終わりに前回の部分を含めた授業の内容に関してその理解度をはかる小レポートを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オーストリアとは何か(ホフマンスタール「むずかしい男」)	
	2. オーストリアとは何か(ヨハン・ネストロイの作品)およびハプスブルクの起源	前回の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
	3. ハプスブルク家の結婚政策の始まりとフリードリヒ5世	
	4. カール5世の治世からルードルフ2世へ	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
	5. 30年戦争およびバロック3帝	
	6. マリア・テレジア女帝とプロイセンのフリードリヒおよびヨーゼフ2世の改革	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
	7. ビーダーマイヤー文化について(ヨハン・シュトラウス「ウィーン気質」を聴く)	
	8. ビーダーマイヤー文化について(シューベルトとベートーベンの時代)	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
	9. ウィーン三月革命	
	10. オペレッタの時代(ヨハン・シュトラウス「こうもり」を聴く)	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
	11. 世紀末ウィーン文化(1)	
	12. 世紀末ウィーン文化(2)	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
	13. 現代オーストリアと中欧の復活(リヒャルト・シュトラウス「ばらの騎士」を見る)	
	14. 現代オーストリア事情	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

ハプスブルクの文化に関心を持つことが何より重要である。課題として出されたテーマに関してレポート提出が求められる。そして最後に、定期試験において授業内容を理解したかを確認する試験をするので、授業中に使用したプリントを毎回復習しておく必要がある。

フィードバックの方法:

小レポートおよびコメントペーパーに関しては教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50%	ハプスブルクの文化に関する基礎的な知識を身に着けたかどうかを評価する
	レポート	20%	特定のテーマに関して理解をより深めることができたかどうかを判定する
	平常点(出席および小レポート)	30%	準備学習をして授業に臨めたかどうかを判定する

教科書:

プリントを配布する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応およびマナビーを通して

授業テーマ:	ヨーロッパ文化の特質は何か			
授業の概要:	ヨーロッパ文化の特質とは何なのか、この点を歴史、言語、文学、思想および社会などの観点から追ってゆく。話の中心はドイツになるが、そこからヨーロッパの全体像も映し出せたらというのがこの授業の目標である。また話は当然、日本の文化との比較にもおよぶ。			
到達目標:	ヨーロッパの文化の多面性についての基本的な知識の獲得を目指す。そしてどの分野でもいいので、より深めた内容の知見を獲得することを目指す。			
授業方法:	講義形式であるが、授業の終わりに前回の部分を含めた授業の内容に関してその理解度をはかる小レポートを行う。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容		
	1. ヨーロッパとは何か(古代ローマ文化の影響)	前回の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと		
	2. ヨーロッパとは何か(文化を風土から理解する)			
	3. 言語から見るヨーロッパ(日本語とヨーロッパ語のちがい)			
	4. 文学から見るヨーロッパ(ロマン主義とは何か)	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと		
	5. 文学から見るヨーロッパ(ブレンターノからミヒャエル・エンデまで)	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと		
	6. メルヒエンから見るヨーロッパ(グリム童話と女性たち)			
	7. メルヒエンから見るヨーロッパ(グリム童話の分析1)			
	8. メルヒエンから見るヨーロッパ(グリム童話の分析2)	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと		
	9. 哲学から見るヨーロッパ(デカルト・カント・ルソー)	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと		
	10. 社会から見るヨーロッパ(ドイツの環境対策について)			
	11. 社会から見るヨーロッパ(ヨーロッパの家族制度)			
	12. 社会から見るヨーロッパ(ドイツの教育制度について)	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと		
	13. 歴史から見るヨーロッパ(カール大帝の登場)	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと		
	14. 歴史から見るヨーロッパ(フリードリヒ1世と2世)			
	15. まとめ			
受講者へのメッセージやアドバイス:	ヨーロッパの文化に関心を持つことが重要である。課題として出されたテーマに関してレポート提出が求められる。そして最後に、定期試験において授業内容を理解したかを確認する試験をするので、授業中に使用したプリントを毎回復習しておく必要がある。			
フィードバックの方法:	小レポートおよびコメントペーパーに関しては教室でまとめて解説する。			
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	定期試験	50%	ヨーロッパの文化に関する基礎的な知識を身に着けたかどうかを評価する	
	レポート	20%	特定のテーマに関して理解をより深めることができたかどうかを判定する	
	平常点(出席および小レポート)	30%	準備学習をして授業に臨めたかどうかを判定する	
教科書:	プリントを配布する			
参考書:				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力			
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応およびマナビーを通して			

授業テーマ:	高齢者の生活と心理への理解を深める																																		
授業の概要:	わが国では急速に高齢化が進展しています。人生の3分の1を占めるまでに老年期が延長され、高齢者のライフスタイルは多様化しています。そして超高齢者の増加により、加齢に伴うさまざまな問題が取り上げられるなど、誰もが高齢社会の波を日常生活の中で身近に感じていることと思います。 この授業では、その老年期を「よりよく生きる」とはどういうことを考えるために、高齢者の生き方に多角的に接近します。まず心身の加齢変化といった心理的側面から高齢者を知ることから出発し、高齢者を取り巻く社会全体の動きを学際的に概観します。 その過程で、今後の高齢者の生き方や高齢社会に向けての問題意識を深めます。																																		
到達目標:	長寿社会における「よりよい生き方」について、自分の言葉で考えを述べるができる。 加齢の心理的側面を理解し、社会・環境と関連づけて説明することができる。																																		
授業方法:	講義形式。身近にある高齢者の生活に関するさまざまな事例や資料をとりあげ、意見交換や演習を講義に交えながらすすめていきます。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 高齢時代の到来と社会の対応</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>2. 人は年をとるとどうなるのか: 身体機能</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>3. 人は年をとるとどうなるのか: 記憶・知能</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>4. 人は年をとるとどうなるのか: 感情</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>5. サクセスフル・エイジングからワンダフルエイジングへ</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>6. 老年期のパーソナリティ発達</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>7. 老年期の心理的問題: 認知症</td><td>中間レポート作成</td></tr><tr><td>8. 認知症の症状と対応</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>9. 高齢者を介護する家族</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>10. 認知症高齢者の介護</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>11. 老年期の心理的問題: うつ・不安</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>12. 高齢者の心理アセスメント</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>13. 地域における高齢者の心理的支援: 認知行動療法</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>14. 地域における高齢者の生きがい創造</td><td>テキスト・資料の講読</td></tr><tr><td>15. 総括</td><td>最終レポート作成</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 高齢時代の到来と社会の対応	テキスト・資料の講読	2. 人は年をとるとどうなるのか: 身体機能	テキスト・資料の講読	3. 人は年をとるとどうなるのか: 記憶・知能	テキスト・資料の講読	4. 人は年をとるとどうなるのか: 感情	テキスト・資料の講読	5. サクセスフル・エイジングからワンダフルエイジングへ	テキスト・資料の講読	6. 老年期のパーソナリティ発達	テキスト・資料の講読	7. 老年期の心理的問題: 認知症	中間レポート作成	8. 認知症の症状と対応	テキスト・資料の講読	9. 高齢者を介護する家族	テキスト・資料の講読	10. 認知症高齢者の介護	テキスト・資料の講読	11. 老年期の心理的問題: うつ・不安	テキスト・資料の講読	12. 高齢者の心理アセスメント	テキスト・資料の講読	13. 地域における高齢者の心理的支援: 認知行動療法	テキスト・資料の講読	14. 地域における高齢者の生きがい創造	テキスト・資料の講読	15. 総括	最終レポート作成		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 高齢時代の到来と社会の対応	テキスト・資料の講読																																		
2. 人は年をとるとどうなるのか: 身体機能	テキスト・資料の講読																																		
3. 人は年をとるとどうなるのか: 記憶・知能	テキスト・資料の講読																																		
4. 人は年をとるとどうなるのか: 感情	テキスト・資料の講読																																		
5. サクセスフル・エイジングからワンダフルエイジングへ	テキスト・資料の講読																																		
6. 老年期のパーソナリティ発達	テキスト・資料の講読																																		
7. 老年期の心理的問題: 認知症	中間レポート作成																																		
8. 認知症の症状と対応	テキスト・資料の講読																																		
9. 高齢者を介護する家族	テキスト・資料の講読																																		
10. 認知症高齢者の介護	テキスト・資料の講読																																		
11. 老年期の心理的問題: うつ・不安	テキスト・資料の講読																																		
12. 高齢者の心理アセスメント	テキスト・資料の講読																																		
13. 地域における高齢者の心理的支援: 認知行動療法	テキスト・資料の講読																																		
14. 地域における高齢者の生きがい創造	テキスト・資料の講読																																		
15. 総括	最終レポート作成																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	レポートの講評を授業時間内に教室でフィードバックします。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>期末レポート</td><td>50</td><td>長寿社会における高齢期の適応に関する諸理論および、加齢の心理的側面の社会・環境との相互作用の理解度を評価基準とします。</td></tr><tr><td>中間レポート</td><td>50</td><td>長寿社会における高齢期の生き方への関心と理解度を評価基準とします。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	期末レポート	50	長寿社会における高齢期の適応に関する諸理論および、加齢の心理的側面の社会・環境との相互作用の理解度を評価基準とします。	中間レポート	50	長寿社会における高齢期の生き方への関心と理解度を評価基準とします。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
期末レポート	50	長寿社会における高齢期の適応に関する諸理論および、加齢の心理的側面の社会・環境との相互作用の理解度を評価基準とします。																																	
中間レポート	50	長寿社会における高齢期の生き方への関心と理解度を評価基準とします。																																	
教科書:	大川一郎他(編)、『シリーズ生涯発達心理学 エピソードでつかむ老年心理学』、ミネルヴァ書房。																																		
参考書:	日下菜穂子(著)、『ワンダフル・エイジング: 人生後半を豊かに生きるポジティブ心理学』、ナカニシヤ出版。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思いやる力、変化対応力																																		
教員との連絡方法:	授業時間前後に教室で対応します。																																		

授業テーマ:	生涯にわたる心理的発達のプロセスを学ぶ																																		
授業の概要:	人は、受胎から死に至るまでの一生にわたって発達し続ける存在です。この授業では生涯発達の視点に立って、乳幼児期から高齢期までの生涯にわたる発達について講義します。この授業の目的は、胎児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期までの獲得を中心とするいわゆる進歩的発達の特徴を知るとともに、成人期、老年期の喪失を伴う発達の特徴についても理解することです。そのために、気質、感情、対人関係、自己意識、思考などの諸相における発達の過程を概観します。また、子どもの発達障害、小学校での配慮を必要とする児童の支援、中年期から老年期の適応などの問題について生涯発達臨床の観点から解説し、配布資料やビデオなどを教材として授業を行います。																																		
到達目標:	生涯発達の視点から、乳幼児期から高齢期までの一生にわたる心理的側面の発達の變化を理解し、説明することができる。																																		
授業方法:	主に講義形式																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 現代社会と生涯発達</td><td>資料講読</td></tr><tr><td>2. 生涯発達の過程:人間は変化する</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>3. 愛着</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>4. 言葉の生涯発達</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>5. 認知の生涯発達</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>6. 感情の生涯発達</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>7. 遊びと社会性</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>8. 軽度発達障害</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>9. パーソナリティの生涯発達</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>10. アイデンティティの生涯発達</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>11. 親密性の生涯発達</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>12. 成人期の危機</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>13. 中年期から老年期への移行</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>14. 生涯発達の視点からの老年期の発達</td><td>テキスト・資料講読</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>授業内容全体の復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 現代社会と生涯発達	資料講読	2. 生涯発達の過程:人間は変化する	テキスト・資料講読	3. 愛着	テキスト・資料講読	4. 言葉の生涯発達	テキスト・資料講読	5. 認知の生涯発達	テキスト・資料講読	6. 感情の生涯発達	テキスト・資料講読	7. 遊びと社会性	テキスト・資料講読	8. 軽度発達障害	テキスト・資料講読	9. パーソナリティの生涯発達	テキスト・資料講読	10. アイデンティティの生涯発達	テキスト・資料講読	11. 親密性の生涯発達	テキスト・資料講読	12. 成人期の危機	テキスト・資料講読	13. 中年期から老年期への移行	テキスト・資料講読	14. 生涯発達の視点からの老年期の発達	テキスト・資料講読	15. まとめ	授業内容全体の復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 現代社会と生涯発達	資料講読																																		
2. 生涯発達の過程:人間は変化する	テキスト・資料講読																																		
3. 愛着	テキスト・資料講読																																		
4. 言葉の生涯発達	テキスト・資料講読																																		
5. 認知の生涯発達	テキスト・資料講読																																		
6. 感情の生涯発達	テキスト・資料講読																																		
7. 遊びと社会性	テキスト・資料講読																																		
8. 軽度発達障害	テキスト・資料講読																																		
9. パーソナリティの生涯発達	テキスト・資料講読																																		
10. アイデンティティの生涯発達	テキスト・資料講読																																		
11. 親密性の生涯発達	テキスト・資料講読																																		
12. 成人期の危機	テキスト・資料講読																																		
13. 中年期から老年期への移行	テキスト・資料講読																																		
14. 生涯発達の視点からの老年期の発達	テキスト・資料講読																																		
15. まとめ	授業内容全体の復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	授業のまとめとして行う試験については教室で解説する。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>100</td><td>生涯発達の視点の理解度、心理的諸側面の発達の變化を論理的に説明できるかを基準とする。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	100	生涯発達の視点の理解度、心理的諸側面の発達の變化を論理的に説明できるかを基準とする。																												
評価方法	割合	評価基準																																	
定期試験	100	生涯発達の視点の理解度、心理的諸側面の発達の變化を論理的に説明できるかを基準とする。																																	
教科書:	福本俊・西村純一共著、発達心理学、ナカニシヤ出版																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力																																		
教員との連絡方法:	授業時間の前後に教室で対応します。																																		

授業テーマ:

授業の概要: This course is thematic based. It focuses mainly on tourism and the cultural aspects of selected countries around the world. Where appropriate, the impact of technology on tourism is also explored. There are two central themes in this course. In the first half of the course more popular aspects of tourism are examined and discussed in class. In the second half of the course, the focus will shift to World Heritage Sites and issues related to their promotion and management as tourist destinations.

到達目標: This course aims to broaden the students' awareness of some popular sub-categories of tourism, the impact that technology has had on people's modern day travels, and to critically examine the management issues related to the UNESCO World Heritage Sites. Students who have a strong interest in exploring other cultures, like travelling, and enjoy learning using a combination of traditional and online resources are encouraged to apply for this course.

授業方法: This is a seminar or workshop style of class with regular interaction between the instructor and students as well as cooperative group work amongst the students.

The class will be held in a computer classroom where students use the computer and the internet for research and to complete some of the course activities. Each class starts with a short discussion based on either reading passages with some questions or audiovisual materials with a simple listening worksheet distributed in the previous class. All handouts and worksheets are in English. Instructions and review of homework are done in English. However, the students are encouraged to use a combination of English and Japanese when working together in class.

After the discussion, the students will prepare for their projects using the computers. Around 25 to 30 minutes of class time is allotted to this. The rest is to be done for homework. The students are expected to submit their project work in Weeks 7 and 14. The project work has two parts: a written report and a presentation component. In Project 1, each student will present in small groups (max. four students) their original escorted tour and submit a short report explaining the choices behind the travel itinerary. In Project 2, each student will present about one UNESCO World Heritage Site and a similar heritage site on the Tentative List to their classmates in small groups (max. four students). They will also submit a short report about the heritage sites chosen.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Culinary Tourism I	
	2. Independent Travel vs Escorted Tours	
	3. Culinary Tourism II	
	4. Arts Tourism	
	5. Festival and Events Tourism	
	6. e-Tourism	
	7. Project 1 Presentations	
	8. Project 1 Presentations	
	9. Heritage Tourism	
	10. UNESCO World Heritage Site Designation UNESCO World Heritage Sites In Japan	
	11. UNESCO World Heritage Sites Outside of Japan	
	12. Marketing Issues and World Heritage Sites	
	13. Destination Management	
	14. Project 2 Presentations	
	15. Project 2 Presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス: There is no textbook for this course. All readings and worksheets will be distributed by the teacher in class.

フィードバックの方法: The students are assessed based on a combination of written reports, presentations, attendance, and participation. Written feedback is given on the reports and a one-page grading rubric is used for the presentations.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and Participation	20%	Points are awarded for punctual attendance, completion of homework, and effort made to complete assigned tasks in class
	Project 1 Report	20%	A two-page written report.
	Project 1 Presentation	20%	A 6 to 8 minute Power Point presentation
	Project 2 Report	20%	A two-page written report.
	Project 2 Presentation	20%	A 6 to 8 minute Power Point presentation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法: rwong@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: This course is thematic based. It focuses mainly on experiential tourism, the modern tourist and the impact of technology on tourism. There are two central themes in this course. In the first half of the course, the aspects of post-tourism are examined and discussed in class. In the second half of the course, the focus will shift mainly to how technological advances have influenced tourism development. Several stand alone units related to castles and porcelain are also covered in this course.

到達目標: This course aims to introduce students to the concept of post-tourism, the impact that technology has had on tourism, and the cultural icons of some European countries and Japan in the form of castles and porcelain. Students who have a strong interest in theme parks, enjoy exploring other cultures, like traveling, and prefer learning using a combination of traditional and online resources are encouraged to apply for this course.

授業方法: This is a seminar or workshop style of class with regular interaction between the instructor and students as well as cooperative group work amongst the students.

The class will be held in a computer classroom where students use the computer and the internet for research and to complete some of the course activities. Each class starts with a short discussion based on either reading passages with some questions or audiovisual materials with a simple listening worksheet distributed in the previous class. All handouts and worksheets are in English. The method of instruction and review of homework is done in English. However, the students are encouraged to use a combination of English and Japanese when working together in class.

After the discussion, the students will prepare for their projects using the computers. Around 25 to 30 minutes of class time is allotted to this. The rest is to be done for homework. The students are expected to submit their project work in Weeks 7 and 14. The project work has two parts: a written report and a presentation component. In Project 1, each student will present in small groups (max. four students) about two similar experiential theme parks, one in Japan and the other one in a foreign country. In Project 2, each student will present in small groups (max. four students) about a technological innovation and its influence on tourism. They will also submit a short report on the chosen technology.

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Theme Parks and Experiential Tourists	
	2. Post-Tourism	
	3. Experience Economy	
	4. Authenticity in Tourism Experience	
	5. Urban Tourism and Urban Regeneration	
	6. Castle Tourism	
	7. Project 1 Presentations	
	8. Project 1 Presentations	
	9. Technology in Tourism: Augmented Reality and Virtual Travel	
	10. Technology in Tourism: Impact of High Speed Trains on Tourism Development	
	11. Social Media and Tourism Marketing	
	12. Christmas Around the World	
	13. Porcelain: Herend, Meissen, Noritake and Sevres	
	14. Project 2 Presentations	
	15. Project 2 Presentations	

受講者への
メッセージや
アドバイス: There is no textbook for this course. All readings and worksheets will be distributed by the teacher in class.

フィードバックの
方法: The students are assessed based on a combination of written reports, presentations, attendance, and participation. Written feedback is given on the reports and a one-page grading rubric is used for the presentations.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and Participation	20%	Students are awarded points based on punctual attendance, completion of homework and effort made on assigned tasks in class.
	Project 1 Report	20%	A two-page written report
	Project 1 Presentation	20%	A 6 to 8 minute Power Point presentation
	Project 2 Report	20%	A two-page written report
	Project 2 Presentation	20%	A 6 to 8 minute Power Point presentation

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡
方法: rwong@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

マーケティングや情報技術などネットビジネスの基礎理論を学んだ上で、Webアクセス解析やソーシャルメディアなどを駆使した最先端ネットビジネスの事例研究を行う。

授業の概要:

インターネットビジネスは日々刻々と進化しています。単なるネットショップの時代からソーシャルメディアを利用した顧客サポートやマーケティングリサーチ、さらにはKindleやiTunesのようにビジネス取引のプラットフォームとなるケースさえ出てきています。情報技術においても、大量データを扱うためのクラウドやビッグデータ、実店舗でのショッピング連携のためのIoT(もののインターネット)など、もはやネットショップはインターネット上だけでとどまらない存在となっています。本講ではネットビジネスの基礎理論を理解した上で、ネットビジネス人材としてニーズが高まる検索キーワード最適化やアクセス解析、ソーシャルメディアなどの実践的知識の習得、そしてアマゾンやスターバックス、メイシーズといった先進事例について学んでいただきます。

到達目標:

<インプットすべき知識>

・ネットビジネスの前提知識となるIT戦略の理解

・ネットビジネスの前提知識となるITマーケティングの理解

・ネットビジネスの前提知識となるWebデザイン・Webアクセス解析の理解

・ネットビジネスの課題となる情報セキュリティやコンプライアンス、情報技術の理解

<アウトプットが期待される能力>

・ネットビジネス事例の特徴整理

・ネットビジネス事例の課題抽出

・ネットビジネス事例の発表

授業方法:

・ネットビジネス理論の講義

・ネットビジネス事例の研究発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション(ネットビジネスと社会)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
2. マーケティング基礎(ターゲティング、ブランディング、顧客行動心理、イノベーター・キャズム理論等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
3. ITマーケティング(バズマーケティング、データベースマーケティング等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
4. ネットビジネスにおけるIT戦略(CRM、データマイニング等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
5. ネットビジネスにおけるITマーケティング(マイクロターゲティング、レコメンデーション、共生マーケティング等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
6. ネットビジネスと情報セキュリティ(不正アクセス、プライバシー、システム障害等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
7. ネットビジネスとコンプライアンス(特商法、薬事法、個人情報保護法等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
8. ネットビジネスと情報技術(クラウド、ビッグデータ、IoT等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
9. ネットショップの特徴と課題(ショッピングモール、ECパッケージ、ランディングページ、検索キーワード最適化、アクセス解析等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
10. ソーシャルメディアの特徴と課題(コミュニティ、インフルエンサー、ソーシャルメディア広告等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
11. プラットフォームの特徴と課題(標準化、アプリマーケット、フリーミアム等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
12. eラーニングの特徴と課題(デジタル教材、LMS学習管理システム、傾向分析等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
13. 事例研究の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。
14. 事例研究の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。
15. 事例研究の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

Webマーケティングなどネットビジネス人材に対する社会的ニーズは高まる一方です。ITに対する苦手意識を持たずに積極的にチャレンジしてみてください。大切なことはユーザーの目線で企画、設計、分析、評価できる力を磨くことです。

フィードバックの方法:

講義や演習内容に対する質疑応答や実習講評はできる限り教室にて行いますが、電子メールでもマナビーの掲示板でも対応します。

「成績評価方法」・「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業の姿勢・態度	30	講義内容を傾聴し、ディスカッションにも積極的に参加すること。
小レポート	20	講義内容に関連する小レポートをきちんと作成・提出すること。
事例発表による評価	50	事例研究の結果を的確に資料にまとめ、わかりやすく発表すること。

教科書:

レジュメを前もって配布し、時事性のある内容は都度配布する。(教科書は使用しない。)

参考書:

『消費を見抜くマーケティング実践講座』(翔泳社 杉浦 司著 ※ファーストリテリング社柳井社長推薦)
『ITマネジメント』(関西学院大学出版会 杉浦 司著※ファーストリテリング社岡田CIO推薦)
『情報セキュリティマネジメント』(関西学院大学出版会 杉浦 司著※NTTラーニング社推薦)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール(sugiura@sugi-sc.com)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: ベンチャービジネスには雇用創出、イノベーションの実現、産業の新陳代謝促進などの効果があり、これらは日本の経済成長の実現に大きく貢献する可能性を秘めています。またIT技術の普及により少ない初期投資で起業できるようになり、様々な起業支援策も政策として実施され、現在ベンチャーブームが到来しています。本講義では現在日本経済にとって重要な役割を担っているベンチャービジネスを理解することを目指します。

到達目標: ベンチャービジネスに関する様々な事柄を理解できること。

授業方法: 講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	特になし
	2. ベンチャービジネスの意義	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	3. イノベーション	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	4. 起業家精神	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	5. ベンチャービジネスの成長段階	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	6. 資金調達	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	7. 事業機会とアイデア	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	8. ビジネスモデル	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	9. 成長の難しさ	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	10. 収穫・EXIT戦略	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	11. CSR(企業の社会的責任)とCSV(共通価値の創造)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	12. 人的資源管理	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	13. 海外におけるベンチャービジネス	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	14. ベンチャービジネスの実態(1)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	15. ベンチャービジネスの実態(2)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	70%	ベンチャービジネスに関する様々な事柄を論理的に説明できるかを基準とする。
	出席確認を兼ねた小テスト	30%	問いに対して論理的に解答できるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	京町家を通して京都文化の総理解解をはかる		
授業の概要:	京町家において実施されている「町家講座」の運営に実際に携わることを通して、京都の文化のありかたや発信の方法、受講者や地域の方々との相互交流を通して、京都を総合的に理解する。		
到達目標:	1:京町家の構造、現状、今後のありかたを理解する。 2:京町家の講座運営を中核として、受講生や地域の方々との相互交流も通しながら、京都地域の総合的理解をはかる。 3:これからの京都のありかたについて考察し、発信する力を養う。		
授業方法:	実習(京町家講座 月1回(土曜日開講)の運営)、周辺地域の学習を含めた校外授業を中心とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに 授業のガイダンス	配布資料・日程の確認	
	2. 町家講座の实地運営1	講座に必要な資料の整理・確認	
	3. 町家講座の实地運営2	講座に必要な資料の整理・確認	
	4. 町家講座の实地運営3	講座に必要な資料の整理・確認	
	5. 京町家周辺の環境～京都市内の中心市街地を事例として	古地図の確認、配布資料の予習	
	6. 町家講座の運営・計画～文化発信の実態	配布資料の確認	
	7. 町家の活用の多様性と保存活動	配布資料の確認	
	8. 町家講座の实地運営4	講座に必要な資料の整理・確認	
	9. 町家講座の实地運営5	講座に必要な資料の整理・確認	
	10. 町家講座の实地運営6	講座に必要な資料の整理・確認	
	11. 町家講座の实地運営7	講座に必要な資料の整理・確認	
	12. 京町家周辺の環境～京都市内の中心市街地を事例として	配布資料の確認	
	13. これからの京都へ向けての提言～町家からみたこれからの京都像	PPTの準備・報告資料の作成	
	14. これからの京都へ向けての提言～町家からみたこれからの京都像	PPTの準備・報告資料の作成	
	15. 全体の総括とこれからの京都文化の発信の可能性	配布資料の確認	
受講者へのメッセージやアドバイス:	町家で月1回開催される「町家講座」を軸としながら、京都の文化や観光について多層的に考え、これからの京都のありかたを発信していきます。		
フィードバックの方法:	授業内に個別・全体に向けてフィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	講座運営への参加	60	町家講座の準備・運営への参画を通して、到達目標1、2の達成度を総合評価する。
	まちづくりに関する発表	40	これからの町家を中核としたまちづくりのありかたについてPPT発表を行い、到達目標3の達成度を総合評価する。
教科書:	特になし		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	マナビー・Mailなどを総合的に活用する。		

授業テーマ:	北海道富良野地域を対象とした地域のありかたとまちづくりの実態調査		
授業の概要:	北海道富良野地域を対象とし、そこで展開される地域観光や政策、地域住民の視点などを、観光的・地理学的・社会学など幅広い観点から実体験し、学習することを通して、農村地域の展開の可能性について総合的に考える。		
到達目標:	1: 地域調査の実態を現地において実地に学ぶ。 2: 観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養う。		
授業方法:	実際に北海道富良野に滞在し、現地調査と発信を中心に行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス 北海道富良野地域のありかた(事前学習)	配布資料の確認
	2.	ガイダンス2 富良野の観光と歴史的背景(事前学習)	配布資料の確認
	3.	北海道富良野における現地学習調査1 東京大学演習林での自然学習	現地の状況に関する予備学習
	4.	北海道富良野における現地学習調査2 ラベンダー観光の現状と課題	現地の状況に関する予備学習
	5.	北海道富良野における現地学習調査3 スイーツを通じた地域振興	現地の状況に関する予備学習
	6.	北海道富良野における現地学習調査4 酪農と観光	現地の状況に関する予備学習
	7.	北海道富良野における現地学習調査5 『北の国から』コンテンツツーリズムの展開1	現地の状況に関する予備学習
	8.	北海道富良野における現地学習調査6 『北の国から』コンテンツツーリズムの展開2	現地の状況に関する予備学習
	9.	北海道富良野における現地学習調査7 環境と観光	現地の状況に関する予備学習
	10.	北海道富良野における現地学習調査8 ウオーキングを通じた観光とまちづくり	現地の状況に関する予備学習
	11.	北海道富良野における現地学習調査9 農業を通じた観光とまちづくり	現地の状況に関する予備学習
	12.	北海道富良野における現地学習調査10 防災とまちづくり	現地の状況に関する予備学習
	13.	北海道富良野における現地学習調査11 多世代・多地域交流の実態	現地の状況に関する予備学習
	14.	北海道富良野における現地学習調査12 調査結果の発信 ラジオ放送・現地発表会を通じた発信力の養成	現地の状況に関する発表の準備・プレゼンテーション準備
	15.	全体の総括 (事後学習)	現地学習全体の資料とふりかえり
受講者へのメッセージやアドバイス:	夏季の北海道に現地滞在し、現地を学びます。地域を楽しみつつ学習し、主体的に発信していくプロセスを学んでいただきます。		
フィードバックの方法:	授業内での個別・全体へのフィードバックを随時おこなう		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点 現地調査への参加度 プレゼンテーション発表内容	60 40	到達目標1: 地域調査の実態を現地において実地に学ぶ過程を総合的に評価する。 到達目標2: 観光や地域文化について、現地の諸機関、人々とコミュニケーションをとりながら調査し、発信する総合力を養うプロセスを、総合的に評価する。
教科書:	特になし。現地で必要な資料を適宜消化するとともに、映像資料の事前視聴をおこなう		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業中(現地学習中)には、随時、適宜対面で相互に相談をおこなう。		

授業テーマ:

おもてなしのプロフェッショナル達から学ぼう: サービス業における課題解決型インターンシップ

授業の概要:

サービス業における課題解決型のインターンシップを通じ、プロフェッショナルとは何かを学び、ビジネス現場を知る。パートナー企業から、「当社活動についてプロモーションビデオを作る」「当社の社会貢献活動について紹介する」「学生の視点から新商品・新サービスを提案する」等の課題を出してもらい、グループで取り組むとともに中間発表会を行い、相互評価する。さらパートナー様におけるインターンシップを経て、社員の方に講評いただく。原則として課題報告は動画形式にまとめる。

到達目標:

第1におもてなしのプロフェッショナル達のどこがすごいのか、理解する。
第2に自分がおもてなしのプロフェッショナルになるために、どのような強みを伸ばし、いかなる弱み克服すべきか理解する。
第3に社会に通用する、課題解決力とは何かを理解する。
第4に動画編集法を習得し、豊かなプレゼンテーション力を身につける。

授業方法:

事前学習、学外研修、事後学習からなるプログラム。事前学習は原則として、授業内容は予めマナビーにアップし、授業時間中はグループ演習をするという、反転授業形式で行う。受講生は予めマナビーにアップされた授業用資料を試聴しておくこと。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション パートナー企業様及び課題の紹介	パートナー企業様について予め調べておく
2.	事前学習1 グループ分け並びに補足説明	
3.	事前学習2 業界研究の方法	反転授業形式で行う。受講生は予めマナビーにアップされた授業用資料を試聴しておくこと。
4.	事前学習3 企業研究の方法	反転授業形式で行う。受講生は予めマナビーにアップされた授業用資料を試聴しておくこと。
5.	事前学習4 iPadによる動画撮影・編集法	反転授業形式で行う。受講生は予めマナビーにアップされた授業用資料を試聴しておくこと。
6.	事前学習5 発表準備	必要に応じ発表準備を授業時間外に行う。
7.	事前学習6 発表準備	必要に応じ発表準備を授業時間外に行う。
8.	事前学習7 中間発表会	必要に応じ発表準備を授業時間外に行う。
9.	事前学習8 インターンシップに向けての心構え	反転授業形式で行う。受講生は予めマナビーにアップされた授業用資料を試聴しておくこと。
10.	実習1 7月から8月の間に実習は10日間実施、ただし1日は課題発表会	
11.	実習2 7月から8月の間に実習は10日間実施、ただし1日は課題発表会	
12.	実習3 7月から8月の間に実習は10日間実施、ただし1日は課題発表会	
13.	実習4 7月から8月の間に実習は10日間実施、ただし1日は課題発表会	
14.	実習 7月から8月の間に実習は10日間実施、ただし1日は課題発表会	
15.	事後学習・復習と討論	事後レポートを用意しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

プロフェッショナルの本気をどこまで引き出せるかは受講生次第です。そのために事前学習に懸命に取り組みましょう。なお研修期間10日間の具体的日程はパートナー企業様と受講生で調整します。一度、約束した日程は必ず守ること。病気などやむをえない事情を除き、研修中止は認めません。

フィードバックの方法:

個々の作業時の発表、レポート等については教室でまとめて解説します。
事後レポートについては、マナビーでコメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	80	事前・事後授業の出欠並びに研修期間中の勤怠から評価する。
	テーマ発表	10	個々の到達目標に照らし、総合的に評価する。
	事後レポート	10	個々の到達目標に照らし、総合的に評価する。

教科書:

参考書:

授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー。マナビーの掲示板機能並びにEメールを利用。

授業テーマ:	希望の多世代共創:多世代が協同して高齢社会の未来に希望を共創する																																																		
授業の概要:	このインターンシップでは、地方自治体および企業との連携により、高齢社会における「人と人」との円滑なコミュニケーションを促すプロジェクトに従事する。 インターンシップで取り組むプロジェクトは、自治体(京田辺市健康推進課)と連携して運営する地域高齢者の健康増進の活動の場に、新しい課題を組み込むことで、「高齢者と大学生」、「高齢者と子ども」、「大学生と大学生」といった「人と人」とのつながりを形成する。 その課題として本インターンシップでは、ヒト型コミュニケーション・ロボットのアプリケーション開発を取り上げる。コミュニケーション・ロボットのアプリケーション開発は、受講生と高齢者とで構成されるチームで、企画・立案・開発までを、ロボットアプリ開発会社(フューブライト・コミュニケーションズ株式会社)の指導を受けながら行う。開発したアプリケーションはその水準に応じて、Pepper Application Challengeなどのロボットアプリコンテストへの参加を検討する。また、学外でのワークショップやWebsiteでの発信等で、広く社会に成果を公表することをめざす。 履修を通じて受講生には、長寿社会の人と人とがつながる仕組みの理解、独創的な解決のあり方を主体的に探り見いだすことを期待する。取り組みの過程と成果を受講生自身の成長につなげるだけでなく、実際に社会に還元することにも視野を広げてほしい。																																																		
到達目標:	世代や立場の異なる人々が目的を共有してつながり、課題の解決に協同して関わり、未来に希望が共創されてくコミュニティ形成のプロセスを体験することで、受講生が自らの人生の幸福実現に向かうライフキャリア能力を高める。 長寿社会の人と人とがつながる仕組みを理解し、独創的な解決のあり方を主体的に探求することができる。 成果を社会に還元する視点を持って、課題解決に取り組むことができる。																																																		
授業方法:	事前学習では、教員、市役所職員、ロボット開発会社からの説明を受けながら演習形式で知識と技術の修得をめざす。現地学習調査は大学を拠点に、ヒト型ロボットを用いてチーム別に実際にアプリの技術開発に携わり、コンテストへの出展をめざす。																																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th colspan="2">授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1.</td><td>事前学習:高齢者の社会参加と心の健康</td><td>資料講読・観察</td></tr><tr><td>2.</td><td>事前学習:コミュニケーション機能の加齢変化</td><td>資料講読・インタビュー</td></tr><tr><td>3.</td><td>事前学習:高齢社会におけるコミュニケーション・ロボットの活用1</td><td>文献・資料収集</td></tr><tr><td>4.</td><td>事前学習:高齢社会におけるコミュニケーション・ロボットの活用2</td><td>文献・資料講読</td></tr><tr><td>5.</td><td>現地学習調査1:高齢者への聞き取り</td><td>高齢者インタビュー</td></tr><tr><td>6.</td><td>現地学習調査2:関連組織へのヒアリング</td><td>関連企業・団体ヒアリング</td></tr><tr><td>7.</td><td>現地学習調査3:チーム別課題設定・調査</td><td>チーム別調査</td></tr><tr><td>8.</td><td>現地学習調査4:ロボットプログラミング学習</td><td>プログラミング</td></tr><tr><td>9.</td><td>現地学習調査5:チーム別企画</td><td>企画案作成</td></tr><tr><td>10.</td><td>現地学習調査6:チーム別立案・発表</td><td>企画案発表準備</td></tr><tr><td>11.</td><td>現地学習調査7:チーム別再立案・発表</td><td>企画案発表準備</td></tr><tr><td>12.</td><td>現地学習調査8:チーム別開発</td><td>ロボットプログラミング</td></tr><tr><td>13.</td><td>現地学習調査9:チーム別実証・分析</td><td>ロボット活用・分析</td></tr><tr><td>14.</td><td>事後学習:チーム別プレゼン</td><td>プレゼン準備</td></tr><tr><td>15.</td><td>事後学習:全体報告と総評</td><td>報告準備</td></tr></table>	授業内容		準備学習等の内容	1.	事前学習:高齢者の社会参加と心の健康	資料講読・観察	2.	事前学習:コミュニケーション機能の加齢変化	資料講読・インタビュー	3.	事前学習:高齢社会におけるコミュニケーション・ロボットの活用1	文献・資料収集	4.	事前学習:高齢社会におけるコミュニケーション・ロボットの活用2	文献・資料講読	5.	現地学習調査1:高齢者への聞き取り	高齢者インタビュー	6.	現地学習調査2:関連組織へのヒアリング	関連企業・団体ヒアリング	7.	現地学習調査3:チーム別課題設定・調査	チーム別調査	8.	現地学習調査4:ロボットプログラミング学習	プログラミング	9.	現地学習調査5:チーム別企画	企画案作成	10.	現地学習調査6:チーム別立案・発表	企画案発表準備	11.	現地学習調査7:チーム別再立案・発表	企画案発表準備	12.	現地学習調査8:チーム別開発	ロボットプログラミング	13.	現地学習調査9:チーム別実証・分析	ロボット活用・分析	14.	事後学習:チーム別プレゼン	プレゼン準備	15.	事後学習:全体報告と総評	報告準備		
授業内容		準備学習等の内容																																																	
1.	事前学習:高齢者の社会参加と心の健康	資料講読・観察																																																	
2.	事前学習:コミュニケーション機能の加齢変化	資料講読・インタビュー																																																	
3.	事前学習:高齢社会におけるコミュニケーション・ロボットの活用1	文献・資料収集																																																	
4.	事前学習:高齢社会におけるコミュニケーション・ロボットの活用2	文献・資料講読																																																	
5.	現地学習調査1:高齢者への聞き取り	高齢者インタビュー																																																	
6.	現地学習調査2:関連組織へのヒアリング	関連企業・団体ヒアリング																																																	
7.	現地学習調査3:チーム別課題設定・調査	チーム別調査																																																	
8.	現地学習調査4:ロボットプログラミング学習	プログラミング																																																	
9.	現地学習調査5:チーム別企画	企画案作成																																																	
10.	現地学習調査6:チーム別立案・発表	企画案発表準備																																																	
11.	現地学習調査7:チーム別再立案・発表	企画案発表準備																																																	
12.	現地学習調査8:チーム別開発	ロボットプログラミング																																																	
13.	現地学習調査9:チーム別実証・分析	ロボット活用・分析																																																	
14.	事後学習:チーム別プレゼン	プレゼン準備																																																	
15.	事後学習:全体報告と総評	報告準備																																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	受講者は、パソコンソフトpower pointの基本操作ができるように練習しておくことが望ましい。																																																		
フィードバックの方法:	授業時間内の報告・発表・実施の際に、その都度担当者より評価をコメントとしてフィードバックします。担当者と受講生で、アプリの水準と開発過程におけるコミュニケーションの発展を評価し、優秀なチームを選考のうえ、アプリコンテストに応募し社会的な評価を確認します。																																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>平常点</td><td>50</td><td>インターンシップへの参加度・チームへの貢献度</td></tr><tr><td>開発成果</td><td>50</td><td>開発されたアプリケーションの独創性、社会実装の可能性、汎用性</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	平常点	50	インターンシップへの参加度・チームへの貢献度	開発成果	50	開発されたアプリケーションの独創性、社会実装の可能性、汎用性																																									
評価方法	割合	評価基準																																																	
平常点	50	インターンシップへの参加度・チームへの貢献度																																																	
開発成果	50	開発されたアプリケーションの独創性、社会実装の可能性、汎用性																																																	
教科書:																																																			
参考書:																																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力																																																		
教員との連絡方法:	Eメール																																																		

授業テーマ:	地域情報誌編集		
授業の概要:	株式会社KADOKAWAの『関西ウォーカー』編集長および編集部の協力を得て、地域に存在する観光・文化資源を発見し、その魅力を地域内外に住む人々へ効果的に紹介する『関西ウォーカー』の掲載記事編集の実務を経験します。この活動を通して、地域に存在する観光スポット、歴史、芸術、文化、生活、食などの多様な領域から、訪問者にとって魅力的な要素を見つけ出し、その存在や魅力を効果的に伝えるプロモーションスキルの修得を目指します。		
到達目標:	1. 読者の興味を引くテーマの設定、手応えのある内容の企画力、企画案にそった取材力、取材記事の編集力、美しく見やすいレイアウト、適確で分かりやすい表現を駆使した編集スキルを身につける。 2. インターンシップを積極的に体験することで、主体性、独創性、企画力、発信力などを身につける。		
授業方法:	講義、編集作業、『関西ウォーカー』編集部訪問、フィールドワーク、グループワークを組み合わせます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、講義「編集および編集者の役割とは」		
	2. 講義「企画の立て方と必要なスキルについて」、企画案作成スタート	各自が取り組みたい企画案について考えておく。	
	3. 企画案(タイトルと企画概要)の提出	企画案をまとめる。	
	4. 企画案のプレゼンテーションとレビュー、ディスカッションで精度を高める	プレゼンテーションの準備をする。	
	5. 企画案のテーマに関してリサーチ/フィールドワークを行い、企画をブラッシュアップさせる(夏期休暇中)	企画案にそって、どの観光スポットや店舗に出向いてリサーチ/フィールドワークを行うのかについて計画を立てる。	
	6. 企画案のテーマに関してリサーチ/フィールドワークを行い、企画をブラッシュアップさせる(夏期休暇中)	企画案にそって(前回とは別の)どの観光スポットや店舗に出向いてリサーチを行うのかについて計画を立てる。前回のフィールド・メモを残す。	
	7. 企画案のテーマに関してリサーチ/フィールドワークを行い、企画をブラッシュアップさせる(夏期休暇中)	企画案にそって(前回とは別の)どの観光スポットや店舗に出向いてリサーチを行うのかについて計画を立てる。前回のフィールド・メモを残す。	
	8. 企画案のテーマに関してリサーチ/フィールドワークを行い、企画をブラッシュアップさせる(夏期休暇中)	企画案にそって(前回とは別の)どの観光スポットや店舗に出向いてリサーチを行うのかについて計画を立てる。前回のフィールド・メモを残す。	
	9. 企画案のテーマに関してリサーチ/フィールドワークを行い、企画をブラッシュアップさせる(夏期休暇中)	企画案にそって(前回とは別の)どの観光スポットや店舗に出向いてリサーチを行うのか、計画を立てる。前回のフィールド・メモを残す。	
	10. 第2回 企画案のプレゼンテーションとレビュー、企画案を決定する	実際に行ったりリサーチ/フィールドワークの結果を取り入れて企画を決定する。	
	11. 講義「誌面レイアウト(ラフ)の書き方について」、ラフ作成スタート	紙面レイアウトについて考え始める。	
	12. 完成した誌面レイアウト(ラフ)の提出	紙面レイアウトを完成させる。	
	13. 編集長のコメントを受けて、誌面レイアウト(ラフ)の修正	完成させた紙面レイアウトを、読者の視点で確認する。	
	14. 誌面レイアウト入校・校正、校了に向けて途中経過の確認	紙面レイアウトの校正	
	15. 完成企画のレビュー、取り組み全体の総括		
受講者へのメッセージやアドバイス:	本企画の実体験は就職活動においてもアピールでき、また卒業後どのような活動領域に進んでも、受講生それぞれのキャリア構築において有益な資質育成と貴重な経験となることでしょう。		
フィードバックの方法:	企画案と紙面レイアウトに関しては、『関西ウォーカー』編集長のコメントをつけて返却します。受講生は、そのコメントに対して、できるだけ迅速に対応し、修正案・校正レイアウトを提出してください(雑誌編集締切日に対応するため)。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	50%	出席、積極的な参加態度、発表など
	企画・紙面レイアウト	50%	企画力、編集スキル、表現力
教科書:	指定教科書なし		
参考書:	授業で適宜紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力		
教員との連絡方法:	Eメール(emiya@dwc.doshisha.ac.jp)など		

授業テーマ：	世界遺産富士山の保護と活用																																																	
授業の概要：	本インターンシップでは、静岡県世界遺産センター整備課の御指導の下、UNESCO世界文化遺産に登録されている富士山を対象としたプロジェクトに従事します。 そこでの主要な目的は、当該機関の要請を踏まえた上で、受講生自らが主体的に目的やテーマを設定し、実地調査を行う内容のものです。具体的には、富士山観光の拠点である富士宮市におけるインバウンド観光を対象として、現地での幅広い取り組みを学ぶとともに御指導を受けながら、その実現に貢献しうるデータ収集のための観察や聞き取りなどの現地調査を行う予定です。																																																	
到達目標：	・実社会が求める課題を理解し対応するための視点・能力を身に付ける。 ・社会調査のため方法とスキルを習得する。 ・自らの調査内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力を身に付ける。																																																	
授業方法：	演習形式&実習形式 ・事前学習(1～4回)・事後学習(12～15回)は演習形式で行い、インターンシップの準備やまとめに関連する発表と討論を実施します。 ・インターン実習(5～11回)は実習形式で行い、現地調査や協力機関とのワークショップなどを実施します。 ・受講生の数によりますが、事前と事後に最低2回は報告・発表を担当していただく予定です。																																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th></th><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>事前学習Ⅰ：インターンシッププログラム概要説明</td><td>事前にシラバスをよく読んでインターンシップの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>2.</td><td>事前学習Ⅱ：プロジェクト計画立案</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。</td></tr><tr><td>3.</td><td>事前学習Ⅲ：プロジェクト計画決定</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。</td></tr><tr><td>4.</td><td>事前学習Ⅳ：インターン実施準備</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。</td></tr><tr><td>5.</td><td>インターン実習</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。</td></tr><tr><td>6.</td><td>インターン実習</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。</td></tr><tr><td>7.</td><td>インターン実習</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。</td></tr><tr><td>8.</td><td>インターン実習</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。</td></tr><tr><td>9.</td><td>インターン実習</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。</td></tr><tr><td>10.</td><td>インターン実習</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。</td></tr><tr><td>11.</td><td>インターン実習</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。</td></tr><tr><td>12.</td><td>事後学習Ⅰ：活動報告</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。</td></tr><tr><td>13.</td><td>事後学習Ⅱ：活動報告</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。</td></tr><tr><td>14.</td><td>事後学習Ⅲ：報告書作成計画</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。</td></tr><tr><td>15.</td><td>事後学習Ⅳ：総括と評価</td><td>事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。 インターン実習や事前・事後学習の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。</td></tr></tbody></table>		授業内容	準備学習等の内容	1.	事前学習Ⅰ：インターンシッププログラム概要説明	事前にシラバスをよく読んでインターンシップの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。	2.	事前学習Ⅱ：プロジェクト計画立案	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。	3.	事前学習Ⅲ：プロジェクト計画決定	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。	4.	事前学習Ⅳ：インターン実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。	5.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	6.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	7.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	8.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	9.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	10.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	11.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	12.	事後学習Ⅰ：活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。	13.	事後学習Ⅱ：活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。	14.	事後学習Ⅲ：報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。	15.	事後学習Ⅳ：総括と評価	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。 インターン実習や事前・事後学習の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。	
	授業内容	準備学習等の内容																																																
1.	事前学習Ⅰ：インターンシッププログラム概要説明	事前にシラバスをよく読んでインターンシップの目的や計画、到達目標や評価方法などを確認しておいてください。																																																
2.	事前学習Ⅱ：プロジェクト計画立案	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。																																																
3.	事前学習Ⅲ：プロジェクト計画決定	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。																																																
4.	事前学習Ⅳ：インターン実施準備	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また必要に応じてプレゼンテーションやワークショップの制作などをしておいてください。																																																
5.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。																																																
6.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。																																																
7.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。																																																
8.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。																																																
9.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。																																																
10.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。																																																
11.	インターン実習	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の活動後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。																																																
12.	事後学習Ⅰ：活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。																																																
13.	事後学習Ⅱ：活動報告	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。																																																
14.	事後学習Ⅲ：報告書作成計画	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。																																																
15.	事後学習Ⅳ：総括と評価	事前に作業内容をお伝えする予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。また報告書制作の準備をしておいてください。 インターン実習や事前・事後学習の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。																																																
受講者へのメッセージやアドバイス：	本インターンシップの受講生には、自らのキャリア形成やライフプラン構築のための貴重な経験とされるとともに、国際的な文化財行政の役割や価値について理解を深められることを期待しています。																																																	

フィードバックの方法:

・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。各回の個別の諸活動後にアドバイスや評価を行います。

・またレポート(報告書)も、最終回に返却するとともに評価を直接お伝えいたします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	20%	発表は、到達目標である「実社会が求める課題を理解し対応するための視点・能力」に基づいているか評価します。
	レポート	20%	レポート(報告書)は、到達目標である「自らの調査内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力」に基づいて制作できているか評価します。
	授業への参加度	60%	到達目標である「社会調査のため方法とスキル」を習得しようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ：地方行政の課題

授業の概要：事前学習において、地方行政の役割、京田辺市の特色、京田辺市と京都府との関係などについて学び、各自、関心のある課題を発見する。選択した課題について、京田辺市市民部の指導の下、市役所、関係団体・市民団体の協力を得ながら、調査・検討を行う。このように、行政主体や市民団体の活動に主体的に関わることによって、主権者としての自覚をもち、社会問題に関心をもつとともに、社会人としての姿勢を学び、卒業後の進路について考察する機会をも得る。
「憲法特講ⅠⅡ」「行政法」「公務員と法」を受講していることが望ましい。

到達目標：事前学習で予備知識を得る
関心のあるテーマを発見し、調査・検討を行う
調査・検討した内容をまとめ、発表する

授業方法：講義、実習(学外)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 事前学習1(京田辺市のまちづくり)	予備知識を入れてくる
	2. 事前学習2(京田辺市の諸施策1 産業(観光・農業・商工業など))	予備知識を入れてくる
	3. 事前学習3(京田辺市の諸施策2 福祉)	予備知識を入れてくる
	4. 事前学習4(京田辺市の諸施策3 教育)	予備知識を入れてくる
	5. 事前学習5(京都府内における京田辺市の特徴と課題)	予備知識を入れてくる
	6. 事前学習6(市役所の業務と基本姿勢)	予備知識を入れてくる
	7. 現地学習調査1(京田辺市の現状把握) * 内容は例である。以下同様	調査する内容の下調べ
	8. 現地学習調査2(関連団体へのヒアリング)	調査する内容の下調べと調査した事項の整理
	9. 現地学習調査3(市役所における取り組み)	調査する内容の下調べと調査した事項の整理
	10. 現地学習調査4(中心市街地のまちづくり～商店街の活性化～)	調査する内容の下調べと調査した事項の整理
	11. 現地学習調査5(中山間地域の抱える諸課題)	調査する内容の下調べと調査した事項の整理
	12. 現地学習調査6(子育て支援施策)	調査する内容の下調べと調査した事項の整理
	13. 現地学習調査7(魅力的な観光開発)	調査する内容の下調べと調査した事項の整理
	14. 現地学習調査8(市民参画と協働の推進)	調査する内容の下調べと調査した事項の整理
	15. 報告: 現地学習を通した報告と総評	報告書の作成、発表会の準備

受講者へのメッセージやアドバイス：問題意識をもって、主体的に積極的に参加する姿勢が大切です。

フィードバックの方法：教室でまとめて(or個別に)解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30%	授業への積極的参加度 欠席は減点となります
	発表、討論	70%	調査・検討の内容、発表の達成度

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメール利用

授業テーマ:

最先端の情報ネットワークは私たちをどこに連れて行ってくれるのか： 学ぼう、考えよう、そして一歩を踏み出そう。

授業の概要:

本講は大きく「やさしいネットワーク技術」と「ビジネス社会とネットワーク」に分かれます。「やさしいネットワーク技術」ではネットワークのつながる仕組みやLAN、インターネット、マルチメディア、セキュリティなど基礎を学ぶとともに、N進数、アルゴリズム、ネットワーク図などネットワークを理解する上で最低限必要な情報数学を修得するように努めます。「ビジネス社会とネットワーク」では、エコシステム並びにプラットフォームや標準化をキーワードとして、学生たちになじみ深い分野(教育、医療、電子商取引、モバイルデバイスなど)だけでなく、HEMSや自動車など最新のネットワーク動向について検討し、ネットワークのリスク管理と事業継続計画の在り方を考察します。受講者は情報数学を身につけ、エコシステム並びにプラットフォームや標準化といったキーワードを理解することにより、今日の情報ネットワークを活用するための確かな羅針盤を得たことに気づくと期待しています。

到達目標:

第1にネットワーク技術の基礎を身につけること。
第2に2進数、16進数や暗号など基礎的な情報数学を理解すること。
第3にプラットフォーム、標準化など情報ネットワーク社会のキーワードについて理解すること。
第4に最先端の情報ネットワークが社会にもたらすインパクトを理解し、自分なりの考え方をもつことができるようにすること。

授業方法:

講義形式で授業をします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. やさしいネットワーク技術(1): インターネット	事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと
	3. やさしいネットワーク技術(2): LANとクライアントサーバ	同上
	4. やさしいネットワーク技術(3): WEBページの仕組み	同上
	5. やさしいネットワーク技術(4): ブロードバンドとマルチメディア	同上
	6. クラウドコンピューティングとネットワークの新潮流	同上
	7. 電子商取引: 企業間電子商取引と企業消費者間電子商取引	同上
	8. Internet of Things (IoT): モノのインターネットと「第4次産業革命」	同上
	9. モバイルネットワーク	同上
	10. ネットワーク関連産業: 技術進歩と電気通信産業の動向	同上
	11. ホームネットワーク: 家庭内LAN とホームセキュリティ、エネルギー管理	同上
	12. 教育とネットワーク: 初等中等教育、高等教育並びに図書館における情報化	同上
	13. セキュリティと暗号: 各種セキュリティ対策と、その基礎となる暗号技術	同上
	14. 事業継続計画: 災害時における情報ネットワークの役割と課題	同上
	15. まとめ	事前にマナビーにアップされた基礎用語集に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習は基本的には不要ですが、余裕がある方は、事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおいてください。
毎回、理解度を確認するために、マナビーを利用して自動採点方式の小テストを行います。小テストは授業終了後、2日以内に回答して下さい。
試験に向けては、本講義のキーワード集をマナビーにアップしますので、しっかり復習して下さい。

フィードバックの方法:

定期試験の模範解答と講評はマナビー上に掲載します。
また、毎回、マナビーを利用して小テストを行いますが、その際に自由記入欄に授業中によくわからなかった点や希望を記入していただければ、教員より個別に回答いたします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	10	毎回、マナビーを利用して、知識・理解を確認するために小テストを行います。
	定期試験	90	到達目標に照らし、知識・理解度を総合的に評価します。

教科書:

参考書:

授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーの掲示板機能・Eメールの活用。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
	2. 社会保障の歴史と構造(その1)(教科書第8章)	「ガイダンス」の内容に対する理解
	3. 社会保障の歴史と構造(その2)(教科書第8章)	「社会保障の歴史と構造(その1)」に対する理解
	4. 年金(その1)(教科書第4章)	「社会保障の歴史と構造(その2)」に対する理解
	5. 年金(その2)(教科書第4章)	「年金(その1)」に対する理解
	6. 雇用保険(教科書第5章)	「年金(その2)」に対する理解
	7. 労働者災害補償保険(教科書第6章)	「雇用保険」に対する理解
	8. 中間試験	「中間試験」の準備
	9. 医療保険(その1)(教科書第1章)	「労働者災害補償保険」に対する理解
	10. 医療保険(その2)(教科書第1章)	「医療保険(その1)」に対する理解
	11. 医療保険(その3)(教科書第1章)	「医療保険(その2)」に対する理解
	12. 医療保険(その4)(教科書第1章)	「医療保険(その3)」に対する理解
	13. 介護保険(その1)(教科書第3章)	「医療保険(その4)」に対する理解
	14. 介護保険(その2)(教科書第3章)	「介護保険(その1)」に対する理解
	15. まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間試験	50	到達目標に掲げた社会保障についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
	期末試験	50	到達目標に掲げた社会保障についての基礎的知識に関する理解度により評価する。

教科書:

棕野美智子・田中耕太郎『はじめて学ぶ社会保障(第14版)』有斐閣、2017年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

教員のメールアドレス:mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

金融・証券市場および資産の管理運用について理論的・实际的に論じる。

証券およびキャピタルマーケット(資本市場)にかかる理論的基礎を学ぶとともに、その現状および実状について知ることを授業目標とする。

全15回のうち、前半部を野村証券社員が、後半部を大倉がそれぞれ講義する。なお前半部の講義は、野村証券による寄付講座である。また、板書・プリント・パワーポイント等を使った授業方式を採用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス(大倉)	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	経済情報の捉え方(野村証券)	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	金融資本市場の役割とその変化(野村証券)	「経済情報の捉え方」に対する理解
4.	債券市場の役割と投資の考え方(野村証券)	「金融資本市場の役割とその変化」に対する理解
5.	株式市場の役割と投資の考え方(野村証券)	「債券市場の役割と投資の考え方」に対する理解
6.	投資信託の役割とその仕組み(野村証券)	「株式市場の役割と投資の考え方」に対する理解
7.	外国為替相場とその変動要因(野村証券)	「投資信託の役割とその仕組み」に対する理解
8.	産業展望と投資の考え方(野村証券)	「外国為替相場とその変動要因」に対する理解
9.	ライフプランニングとNISA(野村証券)	「産業展望と投資の考え方」に対する理解
10.	中間試験	「中間試験」の準備
11.	証券のリスクとリターン(大倉)	「ライフプランニングとNISA」に対する理解
12.	投資家の行動(大倉)	「証券のリスクとリターン」に対する理解
13.	ポートフォリオ(その1)(大倉)	「投資家の行動」に対する理解
14.	ポートフォリオ(その2)(大倉)	「ポートフォリオ(その1)」に対する理解
15.	まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

上に示した各回の授業内容は計画案であり、野村証券側の事情で一部変更されることがあるが、その場合はガイダンスなどで連絡する。

毎回の授業前に配布する用紙に感想や質問を書いてもらうが、そこで書かれた質問等については、原則として次回の授業の冒頭にて解説することを通じてフィードバックする。

中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

評価方法	割合	評価基準
中間試験	60	証券およびキャピタルマーケット(資本市場)にかかる現状および実状についての理解度により評価する。
期末試験	40	証券およびキャピタルマーケット(資本市場)にかかる理論的基礎についての理解度により評価する。

教科書:

参考書:

野村証券投資情報部(編)『証券投資の基礎』丸善、2002年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

分析力、思考力、創造力

教員のメールアドレス:mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

大学での勉学や学生生活の基礎となる姿勢・技能を養う

授業の概要:

基礎演習は、大学での勉学や学生生活にとって必要となる社会的事象に関する関心を育て、社会的事象に関する基本的な見方や考え方を身につけることを目標にします。そのために必要な、文献の探し方、研究論文やレポートの作成の仕方、調査データや情報検索の方法などを、「基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度」を活用して学びます。

到達目標:

大学での勉学や学生生活にとって必要となる社会的事象に関する関心を育て、社会的事象に関する基本的な見方や考え方を身につけます。
具体的には、文献の探し方、研究論文やレポートの作成の仕方、調査データや情報検索の方法を理解し、適切に情報検索、データ分析を行うことができること。また、テーマに則して内容を明確に伝えるプレゼンテーションの力、論点の明確な議論を展開する力、社会的事象に関する考察力とレポート執筆力を高めます。

授業方法:

演習ですので、毎回、全員参加型の授業を行います。紹介・発表にあたっては、必ずレジメ(報告要旨)を作成すること、理解促進のために写真・ビデオなどの視聴覚教材をフルに活用すること、それに必要な機器使用法を熟知することなどを、図書館ガイダンスの機会を活用しながら進めます。授業内容、評価方法・割合・評価基準は、担当教員により変更の可能性がありますので、授業開始時に改めて担当教員からお知らせします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス 受講生の自己紹介と集団づくり	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	2. 基礎演習の目標などの確認	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	3. 調査の方法	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	4. 口頭発表(プレゼンテーション)の作法と技法	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	5. ディスカッション	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	6. ディベート	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	7. 社会調査の方法	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	8. レポートの書き方	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	9. 大学生活とキャリアデザイン	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	10. 論文を書くとはどのようなことか	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	11. ポスターを使った研究発表	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	12. テーマに基づく調査、報告、意見交換	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	13. テーマに基づく調査、報告、意見交換	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	14. テーマに基づく調査、報告、意見交換	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
	15. 全体のふりかえり	『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

全員毎回出席が原則です。具体的な運用は、担当教員が決めます。

フィードバックの方法:

授業開始時に担当教員からお知らせします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	40	出席状況・授業への参加度、貢献度
	レポート	30	資料収集の適切さ、社会的事象に関する考察力、論理的に議論を展開し伝える文章力
	プレゼンテーション	30	課題設定の独創性、論点の明確性、テーマに則して調べた内容を明確に伝える表現力

教科書:

同志社女子大学現代社会学部社会システム学科、『基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度』

参考書:

授業中に適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

424401

専門基礎演習

天野 太郎

授業テーマ：研究に関わる基礎能力の獲得—京都学・観光学・地域学をベースとして「まちづくり」をまなぶ

授業の概要：3年次からの本格的なゼミ学習にとりくむため、必要不可欠な基本的な手法がいくつかあります。本演習では、基礎演習を文字通り「土台」として、実際に研究を進めていく上で重要な先行研究の検索方法や、地域調査をすすめるうえでの基本的な知識を身につけていただきます。そして、各人の興味・関心にそったミニテーマについて考察していただき、「勉強」と「研究」の違いについて、体得していくことを目標とします。

到達目標：1: 資料収集の基本
国会図書館や国立公文書館など、公共図書館類を中心に、文献・論文の収集に必要な基礎知識を獲得します。
2: 地域調査の基本
担当者は、京都学・観光学コースに所属します。実際に京都近隣のミニ巡検をおこない、地域をどのように把握するのか、どのように調査するのか、実地の指導を行います。その上で、共通の地域・テーマを考えて、各自の研究発表を行います。

授業方法：演習形式を中心としておこなう。各自の発表を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義のガイダンス	配布資料の確認をおこなう
2.	文献・論文・資料の基本	配布資料の確認をおこなう
3.	資料収集の基本 論文の調査収集法	資料収集に際し、国立国会図書館のHPを事前調査する
4.	資料収集の基本 論文の調査・講読1	資料収集に際し、国立国会図書館のHPを事前調査する
5.	資料収集の基本 論文の調査・講読2	資料収集に際し、国立国会図書館のHPを事前調査する
6.	地域調査の基本1 準備調査	地域調査について実践的な予備調査をおこなう
7.	地域調査の基本2 実施と事後分析	先行研究の分析をおこなう
8.	各自選択テーマの調査発表1	研究発表の準備をおこなう
9.	各自選択テーマの調査発表2	研究発表の準備をおこなう
10.	各自選択テーマの調査発表3	研究発表の準備をおこなう
11.	各自選択テーマの調査発表4	研究発表の準備をおこなう
12.	各自選択テーマの調査発表5	研究発表の準備をおこなう
13.	各自選択テーマの調査発表5	研究発表の準備をおこなう
14.	各自選択テーマの調査発表5	研究発表の準備をおこなう
15.	全体の総括	メンバー発表の内容を確認する

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：授業内での発表に対して個別・全体に対して随時フィードバックをおこなう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表内容	50	到達目標1について理解しているかどうか評価する。
	質疑・応答	50	発表者に対する質疑応答について、到達目標2について踏まえた上での質疑となっているか総合的に評価する。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法：授業内・後における教室で行うとともに、オフィスアワーを中心として研究室にて対面で行う。

授業テーマ:

授業の概要: 基本的人権について、いくつか具体的事件をピックアップして、問題点などを考えることを目的とします。自分の知識・考えを発言し、他人の意見なども聞くことによって、知識をより深め、考えを発展させます。また、レジメの作成に慣れ、法学文献の調べ方などについても学びます。＊どの事件を取り上げるかは、初回時に決定します。
夏休みには裁判傍聴なども考えていますが、受講生と相談して決めます。

到達目標: 法学・憲法の基礎知識を修得する
根拠に基づいて考える
レジメの作成方法を学ぶ
討論に慣れる

授業方法: 演習（輪読、発表、討論）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業についてのオリエンテーション、自己紹介、取り上げる事件の決定、担当者決定など	
2. 障害者の自由（例です。以下同様）	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
3. 母親となる権利	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
4. 治療拒否の自由	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
5. ダンスの自由	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
6. 職業の自由	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
7. ポルノ鑑賞の自由	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
8. プライバシー権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
9. アクセス権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
10. 嫌煙権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
11. 景観権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
12. 取材の自由	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
13. 自己情報開示請求権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
14. 名誉権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
15. 平和的生存権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 疑問に思うことは躊躇せずに発言してください。

フィードバックの方法: 授業中に解説、コメント

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	40%	レジメの達成度、発表の達成度
	レポート	40%	基礎知識の習得度、文章力
	授業への参加度	20%	授業への積極的参加度

教科書: 初回に受講生と相談して決めます
候補例として、棟居・赤坂・松井・笹田・常本・市川『基本的人権の事件簿』（有斐閣選書）

参考書: 君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法』（法律文化社）
小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子・櫻井智章『憲法の基本』（法律文化社）
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法』（岩波書店）
『憲法判例百選ⅠⅡ』（有斐閣）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法: オフィスアワー、授業前後の教室内、Eメール

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

現在企業は法的責任(法律を守ること)・経済的責任(利益をあげること)だけでなく社会的責任(CSR)も果たすことが求められています。企業のCSRと関係のある事柄には様々なものがあります。例えばブラック企業、非正規雇用、環境対策、製品偽装、工場見学、インターンシップなどは全てCSRと関係のある事柄です。専門基礎演習ではCSRとはどのようなものなのか？なぜ企業はCSRに取り組む必要があるのか？不祥事を起こした企業のCSR活動のどこに問題があるのか？などについて事例に基づき考察・ディスカッション・グループワークを行い、CSRに関する理解を深めていきます。

CSRとは何かを理解し、自分の言葉で説明できるようになること。

演習形式です。各回の初めに教員が基本事項や事例の解説を行います。次にグループごとにディスカッションや作業を行います。最後にグループごとに発表を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	特になし
	2. CSRとは何か？	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	3. 労働問題(長時間労働・過労死)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	4. 労働問題(ブラック企業)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	5. 労働問題(ブラック企業)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	6. 労働問題(ホワイト企業)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	7. 消費者問題(ユニバーサルデザイン)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	8. 消費者問題(ユニバーサルデザイン)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	9. 消費者問題(製品・サービスの不当表示)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	10. 消費者問題(製品・サービスの不当表示)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	11. 環境問題(温暖化・廃棄物)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	12. 環境問題(温暖化・廃棄物)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	13. 社会貢献(環境教育)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	14. 社会貢献(インターンシップ)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
	15. 社会貢献(工場見学)	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回必ず予習を行い、休まず出席することが基本です。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表および討論	50%	資料を事前にしっかり読み込み、自分の意見を発言しているかを基準とする。
	授業への参加度	50%	積極的に授業に参加しているかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

424404

専門基礎演習

服部

尚己

授業テーマ:

ドイツの都市と文化について考える

授業の概要:

ドイツは伝統的に地方分権の歴史をもち、そのために各地方にある都市が個性的で美しく、また大変におもしろい。そのおもしろみがどこから来るのかを文化を知ることを通して追求したい。
まず、テキストを読みつつ、基礎的な知識を涵養する。それからテーマを決めて、そのテーマのもとに全員が発表を行い、学びを深める。

到達目標:

ドイツの文化や都市についての基礎的な知識を習得する。それからひとつのテーマに関してさらに知識を深めることを目標とする。

授業方法:

輪読、個人発表およびディスカッションなど。その他、ドイツの都市を紹介するビデオ、または世界遺産のビデオなどを逐次鑑賞する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ドイツの地理(州、町、森など)を調べる	
2. ドイツの地理(州、町、森など)を調べる	
3. 都市の発展フライブルクの場合	プリントの課題による予習
4. フライブルクが環境先進都市となったきっかけ	プリントの課題による予習
5. フライブルクのエネルギー自立都市への歩み	プリントの課題による予習
6. ヨーロッパの建築と日本の家屋	
7. ドイツの交通政策	
8. ミュンヘンを調べる	プリントの課題による予習
9. 受講生の発表	プレゼンテーションの準備
10. 受講生の発表	プレゼンテーションの準備
11. 受講生の発表	プレゼンテーションの準備
12. 受講生の発表	プレゼンテーションの準備
13. 受講生の発表	プレゼンテーションの準備
14. 受講生の発表	プレゼンテーションの準備
15. 学習したドイツの都市に関してディスカッション	ディスカッションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

ドイツの文化および都市に関して常に関心を持ち、情報を収集する訓練をすること。レジメを使つての15分程度の発表を各自がすることになるので、それが発表の準備にもなることと思う。

フィードバックの方法:

マナビーを通して

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に取り組む姿勢	40%	ドイツの文化や都市にどれ程関心を抱いて調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
授業での発表	30%	ひとつのテーマに関する発表において、どれ程調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
レポート	30%	培った基礎知識をどのように深めたかを見て判断する

教科書:

池内紀「ドイツ 町から町へ」(中公新書)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応およびマナビーを通して

授業テーマ:

専門文書を読もう ～判決文を通じて学ぶ～

授業の概要:

基礎演習で、大学で勉強を進めるためには報告と討論が重要なことを学んだことと思います。専門基礎演習では、より専門的な素材を取り上げて、その分析によって得られた成果を報告し、それに基づいて討論することとします。

担当教員は民法(広く法学)が専門なので、この演習では、民法に関する問題が中心争点となった事件に対する判決文を素材にしたいと思います。おそらく、多くの方が「判決文は難しい」と感じていると思います。原文を読む経験もないかもしれませんが、しかし、実際の事件に対して下された判決文には、当事者の生々しい希望をどのように扱うかについての裁判所の悩みがにじみ出ているものが多いです。悩んだ末に下した裁判所の決断というのは、私達にとって、とても興味深く面白いものです。

この演習では、判決文という専門文書を読解するという経験を積んでもらうことを第一の目的とし、その読解を前提として報告・討論の経験を積んでもらうことを第二の目的とします。

到達目標:

○プレゼンテーションの技法を習得する(レジュメ作成・口頭発表・PowerPoint作成など)。

○専門文書読解の技術を習得する。

授業方法:

講義と口頭発表

「授業内容」
および
「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス ※ゼミの進め方について相談します。	1年次に履修した「基礎演習」の内容を復習しておく。
2. 法律情報の検索方法と報告技術(1)	1年次の図書館ガイダンスや基礎演習等で習得した報告技術の復習をしておく。
3. 法律情報の検索方法と報告技術(2)	民法関係の専門文書を配布するので、それを事前に読み込んでくる。
4. グループ報告と討論(1)	検討資料について事前に目を通しておく。
5. グループ報告と討論(2)	検討資料について事前に目を通しておく。
6. グループ報告と討論(3)	検討資料について事前に目を通しておく。
7. グループ報告と討論(4)	検討資料について事前に目を通しておく。
8. グループ報告と討論(5)	検討資料について事前に目を通しておく。
9. 特別企画 ☆フィールドワークの予定(相談しましょう)	訪問先での調査内容等をそれぞれ考えてくる。
10. グループ報告と討論(6)	検討資料について事前に目を通しておく。
11. グループ報告と討論(7)	検討資料について事前に目を通しておく。
12. グループ報告と討論(8)	検討資料について事前に目を通しておく。
13. グループ報告と討論(9)	検討資料について事前に目を通しておく。
14. グループ報告と討論(10)	検討資料について事前に目を通しておく。
15. 総括	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」と「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。

フィードバックの
方法:

発表用のレジュメ等の成果物については、ゼミ中だけでなくその前後においても適宜相談の上で改善点等を指摘する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常時の取り組み	100	普段のゼミにおける討論への参加、発表の準備と内容といった様々な取り組みを評価する。

教科書:

六法 (どのようなものでも良いです)

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

メールで連絡をとるか(tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィスアワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。

授業テーマ:

「わいわい、がやがや」と経営学の基礎を身につけてしまおう

授業の概要:

経営学のエッセンスを楽しく身につけたい、この授業はそんなあなたのためのものです。
基礎的なトピックをとりあげ、「調べる」、「まとめる」、「発表する」、「聴く」力を養いながら、経営学的な考え方も自然に修得することができます。
このときコンサルティングでよく用いる手法を活用します。すなわちブレイン・ストーミング、ロールプレイ、パネル・ディスカッション、ディベート、寸劇などです。
充実した討論のためには、準備が重要であり、新聞・雑誌・文献などの調べ方、調査法、財務資料の見方などを修得することも重視します。

到達目標:

第1に経営学の精選した基礎理論をしっかりと体化し、経営学的な考え方を身につけること。
第2に、「調べる」、「まとめる」、「発表する」、「聴く」力をより向上させること。
第3に会計の重要性を理解し、勉強しようという気をおこすこと。
第4に3－4回生で経営学を本格的に学ぶ学生にとり、現在、マスターすべきものは何か、自分に足りないものは何か、気づくこと。

授業方法:

ゼミ形式で討論を通じ賑やかに学びます。各グループに分かれてトピック(事例研究)について情報探索・分析・発表し、相互評価を行います。討論を通じて「調べる」、「まとめる」、「発表する」、「聴く」力が身につくように努めます。トピック(事例研究)は、標記例を参考に教員と学生で相談して決めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	ビジネスモデルを学ぶ:ユニクロとしまむらの違いは何か その1	
3.	テーマ提示並びにグループ単位での事前準備 ビジネスモデルを学ぶ:ユニクロとしまむらの違いは何か その2	グループ単位での発表準備
4.	発表並びに相互評価 経営戦略:マクドナルドとモスバーガーのポジショニング その1	
5.	テーマ提示並びにグループ単位の事前準備 経営戦略:マクドナルドとモスバーガーのポジショニング その2	グループ単位での発表準備
6.	発表並びに相互評価 企業の社会的責任:コンビニエンスストアの深夜営業を規制すべきか その1	
7.	テーマ提示並びにグループ単位の事前準備 企業の社会的責任:コンビニエンスストアの深夜営業を規制すべきか その1	グループ単位での発表準備
8.	ロールプレイ型パネルディスカッション 中小企業:地域型商店街を再生するため私たちにできることは何か その1	
9.	テーマ提示並びにグループ単位での事前準備 中小企業:地域型商店街を再生するため私たちにできることは何か その2	グループ単位での発表準備
10.	発表並びに相互評価 株価はなぜ変動するか:チャート図を描いてみよう その1	
11.	テーマ提示並びにグループ単位での事前準備 株価はなぜ変動するか:チャート図を描いてみよう その2	グループ単位での発表準備
12.	各グループが選択した銘柄のチャート図発表並びに相互評価 経営戦略と会計:株主総会動画を鑑賞し社長に代わってプレゼンしよう その1	
13.	テーマ提示並びにグループ単位での事前準備 経営戦略と会計:貸借対照表と損益計算書:株主総会動画を鑑賞し社長に代わってプレゼンしよう その2	グループ単位での発表準備
14.	決算分析について発表並びに相互評価 経営戦略と会計:貸借対照表と損益計算書:株主総会動画を鑑賞し社長に代わってプレゼンしよう その3	グループ単位での発表準備
15.	経営戦略について発表並びに相互評価 復習と討論	

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業テーマ「わいわい、がやがや」と経営学の基礎を身につけてしまおう」で掲げた通り、皆で経営学を学ぶことがいかに楽しいことなのか、実感してもらいたと思います。

フィードバックの方法:

作成資料についての評価は教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	70	授業への参加度を、欠席数、遅刻回数などから評価する。
	レポート(発表時作成資料)	30	グループ発表時の作成資料について、東拓目標に照らし総合的に評価する。
教科書:			
参考書:	授業中に指示します。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡 方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板機能並びにEメールの利用。		

授業テーマ:	ケーススタディを通じて財務諸表のイロハを学ぼう		
授業の概要:	この授業では、実在する企業の財務諸表を利用したケーススタディを通じて、財務諸表の体系やその情報内容を学ぶとともに、財務分析のための各種の方法を学ぶ。その際、ケーススタディの対象とする企業は、担当教員から指定せずに学生諸姉自らが選定する。さらに、当該企業の財務諸表を学生自らが入手して分析する。 なお、この授業の講義内容は、初歩的な簿記の知識を得ることと関連しているので、「簿記論Ⅰ」をあらかじめ履修しているか、並行して履修していることが望ましい。また、この授業を受講して、会計学に興味・関心を持った学生諸姉には、「簿記論Ⅱ」のほか、「会計学」、「原価計算」、「財務諸表論」、「ディスクロージャー論」といったより上級の会計学領域の開講科目の履修を推奨する。		
到達目標:	企業が作成・公表した財務諸表を入手するための方法を学ぶとともに、実在する企業の財務諸表を利用したケーススタディを通じて、広く社会に向けて公表される財務諸表にはどのような利点と限界があるのかを体得する。 また、財務分析に際して、なぜその企業を取り上げたのか、なぜその観点から分析しようと思ったのか、すなわち問題意識を明確にして、その問題意識に基づいて適当な分析手法を自ら選択して分析ができるようになる。 さらに、ほかの学生に対して、自身の問題意識や分析内容を明瞭に説明し、知識の共有化を図ることができる。		
授業方法:	原則としてゼミ(演習)形式で行う。この授業では、ケース・スタディの対象とする企業を学生諸姉自らが選定し、当該企業の財務諸表を利用したケース・スタディを行う。 また、この授業では、従来ありがちであった各回の授業時に数名の学生が順番に発表をしていくという授業形態はとらない。その代わりに、マナビーのレポート機能や掲示板機能を活用することで、全員が授業時に毎回発表ないし討論をする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。	
	2. 決算書とは	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	3. 有価証券報告書・四半期報告書の入手方法	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	4. 決算短信・計算書類の入手方法	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	5. 日本経済新聞の読み方	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	6. 貸借対照表	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	7. 損益計算書	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	8. キャッシュ・フロー計算書	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	9. キャッシュ・フロー分析	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	10. 財務分析の方法(1)収益性分析ほか	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	11. 財務分析の方法(2)安全性分析ほか	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	12. ケーススタディ(1)前期比較の方法	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	13. ケーススタディ(2)トレンド分析	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	14. ケーススタディ(3)同業他社比較	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
	15. ケーススタディ(4)セグメント分析	マナビーを利用して課題を提出しておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	広い意味での会計学の学習は、簿記を修得することから始めることが多い。しかし、技術的な簿記技法だけに固執していれば、社会における会計の役割や機能ひいてはその限界を正しく理解することはできない。 簿記は財務諸表を作成するための技術であり、「簿記論Ⅰ」や「簿記論Ⅱ」では、財務諸表を作成するプロセスを学ぶ。これに対して、この授業では、誰か(つまり企業)がすでに作成・公表した財務諸表を読み解くことで、財務諸表の役立ちを体得することができる。 なお、この授業は、ゼミ(演習)形式のため、毎回授業に出席することはもちろんのこと、授業への積極的な参加と他の学生諸姉との協調が必要である。		
フィードバックの方法:	マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50%	企業が作成・公表した財務諸表を自ら入手するとともに、財務諸表の利点と限界を踏まえた上で自身の問題意識に基づいて適当な分析手法を選択して財務分析ができるかどうかを基準とする。
	授業への積極的参加度	50%	出席のほか、授業中に積極的に発言するなどによって、学び得た知識の共有化を図ることができているかどうかを評価する。
教科書:	木村直人著『これならわかる決算書キホン50！〈2017年版〉』中央経済社、2016年。		
参考書:	小宮一慶監修『決算書で読み解く100大企業ランキング』洋泉社、2015年。 小宮一慶著『小宮一慶の「日経新聞」深読み講座〈2017年版〉』日本経済新聞出版社、2016年。 成美堂出版編集部編『今がわかる未来がわかる業界地図〈2016-17年版〉』成美堂出版、2016年。 田中慎一著『役員になれる人の「日経新聞」読み方の流儀』明日香出版社、2016年。 田宮寛之著『新しいニッポンの業界地図 みんなが知らない超優良企業』(講談社＋α新書)講談社、2016年。 東洋経済新報社編『会社四季報業界地図〈2017年版〉』東洋経済新報社、2016年。 日本経済新聞社編『日経業界地図〈2017+H213年版〉』日本経済新聞出版社、2016年。 長谷川正人著『「強い会社」はセグメント情報で見抜きなさい』KADOKAWA、2014年。 ビジネスリサーチ・ジャパン著『図解！業界地図〈2017年版〉』プレジデント社、2016年。 牧野明弘著『財務分析の実践活用法―取引先企業の見方・とらえ方』(新6版)経済法令研究会、2015年。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー		

授業テーマ:

現代社会と社会学

授業の概要:

社会学は、現代社会で発生する社会問題を「集団と個人」との視点から考察する分野です。集団が個人を拘束する側面もあれば、逆に、個人が集団を作っていく側面もあります。興味関心のある社会問題を参加受講生が選定して、プレゼンおよび討論を展開します。

到達目標:

知識・理解の点では、何故そのテーマに関心があるのか、その社会問題の現状を理解します。関心・意欲・態度の点では、選定したテーマに関連するデータや文献を探り・読了・考察する態度・意欲を育む。

授業方法:

演習ですので全員出席と討論による授業進行

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、自己紹介と関心領域の説明、社会学とは？	卒業生の卒論研究テーマの紹介
2.	プレゼンによるテーマの紹介とグループ設定作業	受講生各自による新聞報道記事の収集
3.	データや文献の探し方 その1 官庁統計の利用法	主要省庁のURLの検索方法
4.	データや文献の探し方 その2 社会学文献検索	日本社会学会や関連諸学会の文研センター
5.	グループAのプレゼン その1 家族・地域・福祉・余暇など	事前準備分担と発表
6.	グループBのプレゼン その1 家族・地域・福祉・余暇など	事前準備分担と発表
7.	グループCのプレゼン その1 家族・地域・福祉・余暇など	事前準備分担と発表
8.	グループAのプレゼン その2 家族・地域・福祉・余暇など	テーマの再設定、事前準備分担と発表
9.	グループBのプレゼン その2 家族・地域・福祉・余暇など	テーマの再設定、事前準備分担と発表
10.	グループCのプレゼン その2 家族・地域・福祉・余暇など	テーマの再設定、事前準備分担と発表
11.	グループAのプレゼン その3 家族・地域・福祉・余暇な	テーマの総括、事前準備分担と発表
12.	グループBのプレゼン その3 家族・地域・福祉・余暇な	テーマの総括、事前準備分担と発表
13.	グループCのプレゼン その3 家族・地域・福祉・余暇な	テーマの総括、事前準備分担と発表
14.	総括討論 その1	社会学の視点と他分野の視点
15.	総括討論 その2	これからの研究テーマの設定

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

演習ですので発表資料などの事前相談が必要です。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	100%	準備作業への貢献度やプレゼンの評価で決定

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

tkono@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

心理療法にふれる

授業の概要:

心の健康の維持増進と心の解決に向けた援助の方法として、心理療法があります。専門基礎演習では、心理療法の基本的な概念、歴史、対象、具体的な方法についての理解を深めます。

到達目標:

いくつかの心理療法について、具体的な方法とその効果についてグループで学び合い、心理的援助の理論と実際について説明することができる。また、心理療法を用いて支援を行う、対人支援の基本姿勢を身につける。

授業方法:

心理的援助を必要とする対象とそれらが抱える問題、それを解決するための心理療法の方法、心理療法を用いて支援を行う基本姿勢について具体的に理解できるよう、グループごとのテーマを受講生自らが探求する。それぞれの心理療法の代表的な手法について、演習形式で体験を通して理解する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(聴く技術・他者と自己理解の深め方)	「聴く技術」に関する実践
2.	さまざまな心理療法	資料収集・購読
3.	対人支援の基本姿勢	資料購読
4.	プレゼンテーション・スキル演習	プレゼンテーション準備
5.	分析心理学的アプローチ	プレゼンテーション準備
6.	やってみよう!「コラージュ」	「表現療法」リフレクション
7.	精神分析療法	プレゼンテーション準備
8.	やってみよう!「無意識の探索」	「マインドマップ」作成・リフレクション
9.	クライアント中心療法	プレゼンテーション準備
10.	やってみよう!「共感的理解」	「聴く技術」の実践・リフレクション
11.	行動療法	プレゼンテーション準備
12.	やってみよう!「系統的脱感作」	リラクゼーションの実践・リフレクション
13.	認知行動療法	プレゼンテーション準備
14.	やってみよう!「ストレスマネジメント」	ストレスマネジメント行動実験・リフレクション
15.	全体の総括	ふりかえりシート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

プレゼンテーションのスキル・内容の評価は授業時間内のコメントによりフィードバックします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50	出席・授業への参加度
	プレゼンテーション	50	プレゼンテーション・スキルおよび内容からテーマの理解度と、支援の実際と基本姿勢とを論理的に説明できるかを基準とする。

教科書:

参考書:

窪内節子・吉武光世共著、やさしく学べる心理療法の基礎、培風館
下山晴彦共著、よくわかる臨床心理学、ミネルヴァ書房
丹野義彦・石垣琢磨編著、臨床心理学、有斐閣

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:	ジェンダー論にふれてみようー新しい気づきがあって面白い！																																	
授業の概要:	ジェンダー論やジェンダー研究と聞くと、何となく近よりがたい印象がありますが、実は社会人の常識として知っていなくてはならない基礎知識です。社会の様々な領域のできごとや男女に関する疑問を、「男だから...」「女だから...」という枠にはめて見た場合と、性別の枠を取り払って考えた場合とでは、物事の見え方が変わり新しい気づきに出会うことができます。授業後半の5回分は、映画を視聴することで登場人物のジェンダー像がどのように、また、なぜそのように描かれているのか、あるいは、登場人物がどのような問題に遭遇しどのように解決するのかについて考えることで、その時代のジェンダー像を理解することができます。																																	
到達目標:	ジェンダーに関する知識がなぜ必要なのか、ジェンダー研究という学問分野が何を問題とし何をめざすものなのかが理解できていること。																																	
授業方法:	講義、ディスカッション、発表、ジェンダー問題に関連したビデオ教材を組み合わせます。																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション(授業目標と授業全体の流れ)</td><td rowspan="2">教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>2. ジェンダーとは何か:性差について考え直してみよう</td></tr><tr><td>3. 「家族」とはどのように語られるのか:家族とジェンダーの関係</td><td>教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>4. 女性が仕事をするとき、何が問題となるのか</td><td>教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 学校教育においては、はたして男女平等なのか</td><td>教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>6. 日常生活で出会うジェンダー問題</td><td>教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>7. 国家・人権・ジェンダーを問う</td><td>教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>8. 私たちの身体をめぐるジェンダー</td><td>教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>9. フェミニズムとジェンダー</td><td>教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>10. 映画に描かれたジェンダー ①:映画『エリン・ブロコビッチ』の一部視聴、ディスカッション</td><td>映画『エリン・ブロコビッチ』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。</td></tr><tr><td>11. 映画に描かれたジェンダー ②:映画『ブラダを着た悪魔』の一部視聴、ディスカッション</td><td>映画『ブラダを着た悪魔』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。</td></tr><tr><td>12. 映画に描かれたジェンダー ③:映画『アナと雪の女王』の一部視聴、ディスカッション</td><td>映画『アナと雪の女王』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。</td></tr><tr><td>13. 映画に描かれたジェンダー ④:映画『シンデレラ』の一部視聴、ディスカッション</td><td>映画『シンデレラ』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。</td></tr><tr><td>14. 映画に描かれたジェンダー ⑤:映画『君の名は』の一部視聴、ディスカッション</td><td>映画『君の名は』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。</td></tr><tr><td>15. 振り返りとまとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション(授業目標と授業全体の流れ)	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	2. ジェンダーとは何か:性差について考え直してみよう	3. 「家族」とはどのように語られるのか:家族とジェンダーの関係	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	4. 女性が仕事をするとき、何が問題となるのか	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	5. 学校教育においては、はたして男女平等なのか	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	6. 日常生活で出会うジェンダー問題	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	7. 国家・人権・ジェンダーを問う	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	8. 私たちの身体をめぐるジェンダー	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	9. フェミニズムとジェンダー	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。	10. 映画に描かれたジェンダー ①:映画『エリン・ブロコビッチ』の一部視聴、ディスカッション	映画『エリン・ブロコビッチ』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。	11. 映画に描かれたジェンダー ②:映画『ブラダを着た悪魔』の一部視聴、ディスカッション	映画『ブラダを着た悪魔』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。	12. 映画に描かれたジェンダー ③:映画『アナと雪の女王』の一部視聴、ディスカッション	映画『アナと雪の女王』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。	13. 映画に描かれたジェンダー ④:映画『シンデレラ』の一部視聴、ディスカッション	映画『シンデレラ』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。	14. 映画に描かれたジェンダー ⑤:映画『君の名は』の一部視聴、ディスカッション	映画『君の名は』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。	15. 振り返りとまとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. オリエンテーション(授業目標と授業全体の流れ)	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
2. ジェンダーとは何か:性差について考え直してみよう																																		
3. 「家族」とはどのように語られるのか:家族とジェンダーの関係	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
4. 女性が仕事をするとき、何が問題となるのか	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
5. 学校教育においては、はたして男女平等なのか	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
6. 日常生活で出会うジェンダー問題	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
7. 国家・人権・ジェンダーを問う	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
8. 私たちの身体をめぐるジェンダー	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
9. フェミニズムとジェンダー	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。																																	
10. 映画に描かれたジェンダー ①:映画『エリン・ブロコビッチ』の一部視聴、ディスカッション	映画『エリン・ブロコビッチ』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。																																	
11. 映画に描かれたジェンダー ②:映画『ブラダを着た悪魔』の一部視聴、ディスカッション	映画『ブラダを着た悪魔』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。																																	
12. 映画に描かれたジェンダー ③:映画『アナと雪の女王』の一部視聴、ディスカッション	映画『アナと雪の女王』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。																																	
13. 映画に描かれたジェンダー ④:映画『シンデレラ』の一部視聴、ディスカッション	映画『シンデレラ』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。																																	
14. 映画に描かれたジェンダー ⑤:映画『君の名は』の一部視聴、ディスカッション	映画『君の名は』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。																																	
15. 振り返りとまとめ																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	いっしょにジェンダー論にふれる旅に出てみましょう。																																	
フィードバックの方法:	平常のワークプリントについては、教室でまとめて解説します。 中間レポートについては、短いコメントをつけて返却します。																																	
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>平常点</td><td>40%</td><td>授業への積極的な参加度、発表など</td></tr><tr><td>中間レポート</td><td>30%</td><td>ジェンダー問題の情報収集と考察力</td></tr><tr><td>期末レポート</td><td>30%</td><td>ジェンダーの視点をあてはめて自身のライフヒストリーを語ることができる。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	平常点	40%	授業への積極的な参加度、発表など	中間レポート	30%	ジェンダー問題の情報収集と考察力	期末レポート	30%	ジェンダーの視点をあてはめて自身のライフヒストリーを語ることができる。																					
評価方法	割合	評価基準																																
平常点	40%	授業への積極的な参加度、発表など																																
中間レポート	30%	ジェンダー問題の情報収集と考察力																																
期末レポート	30%	ジェンダーの視点をあてはめて自身のライフヒストリーを語ることができる。																																
教科書:	千田有紀・中西祐子・青山薫(2013)『ジェンダー論をつかむ』有斐閣																																	
参考書:	授業で適宜紹介します。																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、																																	
教員との連絡方法:	Eメール(emiyaake@dwc.doshisha.ac.jp)																																	

授業テーマ:

自然環境とできる限り調和する社会の在り方についての研究
:地球温暖化、生物多様性、資源・ごみ問題について一緒に考えよう

授業の概要:

近年、温暖化、生物多様性、資源の有効利用などの環境問題がますます深刻になっています。21世紀はこれらとの闘いが必須となっています。
環境問題の解決のためには、国際社会、国家、企業、そして地域の市民といった、さまざまなレベルでの対応が必要であり、すでに多様な取り組みがなされています。
演習では、これらの各レベルでどんな課題があり、どんな興味深い対応がなされているのかについて調査し、環境問題と環境政策についての理解を深めます。
なお、研究倫理についても確認しながら進めます。

到達目標:

地球温暖化、生物多様性、資源・ごみ問題など、さまざまな環境問題について、興味を持って、どのような解決策があるか、考える能力を高めます。そして、自然や環境を大切にできるビジネスパーソンの基礎力を養うことを目標にしています。

授業方法:

参加者が興味のある環境問題を取り上げて調査し、整理して報告してもらいます。大事だと思われる環境問題については、担当教員が解説します。期末に、報告した内容についてレポートをまとめ、提出してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	課題について調べ、整理しておく。
	2. 基本情報の共有	課題について調べ、整理しておく。
	3. 基本情報の共有	課題について調べ、整理しておく。
	4. グローバルな環境問題への取り組み:地球温暖化	課題について調べ、整理しておく。
	5. グローバルな環境問題への取り組み:生物多様性	課題について調べ、整理しておく。
	6. グローバルな環境問題への取り組み:森林の保護	課題について調べ、整理しておく。
	7. 企業による環境問題への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
	8. 企業による環境問題への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
	9. 企業による環境問題への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
	10. 地域レベルでの環境保全への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
	11. 地域レベルでの環境保全への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
	12. 地域レベルでの環境保全への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
	13. 国レベルでの取り組み:リサイクル	課題について調べ、整理しておく。
	14. 国レベルでの取り組み	課題について調べ、整理しておく。
	15. 演習の振り返り	課題について調べ、整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

日ごろから、身の回りの環境に注意を払い、また、新聞や報道番組を通じて、グローバルな環境問題について関心を持ってもらいたい。

フィードバックの方法:

報告に関してコメントし、また全員で議論を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	プレゼンテーション	50	課題を適切に設定し、調査・整理し、全員にわかりやすく伝えているか。
	レポート	50	課題を適切に設定し、調査・整理し、論理的に主張を行っているか。

教科書:

参考書:

長岡延孝編『サステナビリティの政策と経営』晃洋書房。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール

授業テーマ：地方自治体における施策プランの検討

授業の概要：本講義では、地方自治体が抱える現状について把握するとともに、その現状を基礎に様々な施策について考え、検討する。具体的には、城陽市役所(京都府)と連携した上で授業を進めていく。そして、同市をより魅力的な街とするための施策プランについて考察していく。

到達目標：京都府城陽市をより魅力的な街とするための施策プランについて考えることを通じて、分析力・思考力を高めるとともに、構築した施策プランを城陽市役所の担当者等に対してプレゼンテーションするなどを通じて、実践的なプレゼンテーション力を高めることを授業目標とする。

授業方法：学内での授業・検討・議論の他、必要に応じて、学外での調査(城陽市役所への訪問など)も実施する。なお受講生の数により変動する可能性はあるが、全体を3つの班に分けた上で、それぞれの班にテーマを課し、それらのテーマにかかる調査を進めてもらう予定である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス(本講義の内容等)	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	ガイダンス(調査研究を行うための基本的知識)	「ガイダンス(本講義の内容等)」の内容に対する理解
3.	城陽市にかかる概要の説明	「ガイダンス(調査研究を行うための基本的知識)」の内容に対する理解
4.	班分け作業・テーマ決定	「城陽市にかかる概要」に対する理解
5.	班ごとの作業①(方針・計画の立案)	班内での情報交換等
6.	班ごとの作業②(作業行程の検討)	方針・計画の立案にかかる作業(授業中にできなかった部分の実施)
7.	班ごとの作業③(プレゼン資料の作成)	作業行程の検討にかかる作業(授業中にできなかった部分の実施)
8.	予備プレゼンテーション①(各班による発表)	予備プレゼンテーション①の準備
9.	班ごとの作業(予備プレゼンテーション①で出たコメントへの対応)	予備プレゼンテーション①で出たコメントへの対応の準備
10.	予備プレゼンテーション②(各班による発表)	予備プレゼンテーション②の準備
11.	班ごとの作業(予備プレゼンテーション②で出たコメントへの対応)	予備プレゼンテーション②で出たコメントへの対応の準備
12.	予備プレゼンテーション③(各班による発表)	予備プレゼンテーション③の準備
13.	最終プレゼンテーション(城陽市役所職員も参加してのプレゼンテーション)(1班)	最終プレゼンテーションの準備&他の班の発表内容にかかる検討
14.	最終プレゼンテーション(城陽市役所職員も参加してのプレゼンテーション)(2班)	最終プレゼンテーションの準備&他の班の発表内容にかかる検討
15.	最終プレゼンテーション(城陽市役所職員も参加してのプレゼンテーション)(3班)	最終プレゼンテーションの準備&他の班の発表内容にかかる検討

受講者へのメッセージやアドバイス：上に示した各回の授業内容は、受講生の数や城陽市役所の都合等によって変更される可能性がある。

フィードバックの方法：予備プレゼンテーションおよび最終プレゼンテーションにおいて、参加者(担当教員、城陽市役所の担当者など)がコメントすることで、調査・発表の内容についてのフィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	予備プレゼンテーション	15	調査した施策プランについての発表より、プレゼンテーション力の観点から評価する。
	最終プレゼンテーション	40	調査した施策プランについての発表より、プレゼンテーション力の観点から評価する。
	最終レポート	30	調査した施策プランについてのレポートより、分析力・思考力の観点から評価する。
	授業への参加度	15	積極的に議論に参加するなど、施策プランの構築にどの程度貢献しているかによって評価する。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法：担当教員のメールアドレス:mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	人類学的視点による現代社会の諸問題の再考																																																	
授業の概要:	現代社会は、国家や民族などの既存の枠組みを超え、かつてない早さと量で人・モノ・情報が駆け巡るグローバル化のただなかにあるといわれています。こうしたグローバル化は、経済開発、環境問題、民族紛争、宗教対立、科学倫理、情報格差などのさまざまな問題を現代社会に引き起こす原因となっています。 この演習では、異文化(他者)理解を目的とする人類学の観点から、グローバル化に起因する現代社会の諸問題を検討します。このため、本演習は、「人類学に興味がある」または「現代社会の問題に関心がある」という方の受講を想定しています。このような目的の下、本演習では、受講生がそれぞれ興味・関心のあるテーマを選択し、発表や討論などを行う予定です。																																																	
到達目標:	・社会現象を読み解く上で必須となる「批判力」と「多角的視点」を身に付ける。 ・自らの見解・主張を「研究」としてまとめるための基礎的な素養と手法を身に付ける。 ・自らの主張や見解を第三者に説得的に説明できるプレゼンテーション力とディスカッション力を身に付ける。																																																	
授業方法:	演習形式 ・毎回の授業では、個人発表(PowerPoint使用)と全体討論を実施します。 ・受講生の数によりますが、各人が1〜2回の報告・発表を担当していただく予定です。 ・受講生の希望があれば、野外実習も行う予定です。																																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th></th><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>ガイダンス</td><td>事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>2.</td><td>具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)</td><td>プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>3.</td><td>具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)</td><td>プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>4.</td><td>具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)</td><td>プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>5.</td><td>具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)</td><td>プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>6.</td><td>具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)</td><td>プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>7.</td><td>具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)</td><td>プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>8.</td><td>具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)</td><td>プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>9.</td><td>具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)</td><td>プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>10.</td><td>具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)</td><td>プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>11.</td><td>中間まとめ(事例研究の意義)</td><td>各自のこれまでのプレゼンテーションやディスカッションを通して得たポイントや理解を整理しておいてください。</td></tr><tr><td>12.</td><td>批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)</td><td>ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>13.</td><td>批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)</td><td>ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>14.</td><td>批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)</td><td>ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。</td></tr><tr><td>15.</td><td>最終まとめ(批判力と多角的視点の意義)</td><td>各自のこれまでのプレゼンテーションやディスカッションを通して得たポイントや理解を整理しておいてください。</td></tr></tbody></table>		授業内容	準備学習等の内容	1.	ガイダンス	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。	2.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	3.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	4.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	5.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	6.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	7.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	8.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	9.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	10.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	11.	中間まとめ(事例研究の意義)	各自のこれまでのプレゼンテーションやディスカッションを通して得たポイントや理解を整理しておいてください。	12.	批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	13.	批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	14.	批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。	15.	最終まとめ(批判力と多角的視点の意義)	各自のこれまでのプレゼンテーションやディスカッションを通して得たポイントや理解を整理しておいてください。	
	授業内容	準備学習等の内容																																																
1.	ガイダンス	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。																																																
2.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
3.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
4.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
5.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
6.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
7.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
8.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
9.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
10.	具体事例の検討(プレゼンテーション&ディスカッション)	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
11.	中間まとめ(事例研究の意義)	各自のこれまでのプレゼンテーションやディスカッションを通して得たポイントや理解を整理しておいてください。																																																
12.	批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
13.	批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
14.	批判力と多角的視点の習得(グループディスカッション)	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。																																																
15.	最終まとめ(批判力と多角的視点の意義)	各自のこれまでのプレゼンテーションやディスカッションを通して得たポイントや理解を整理しておいてください。																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	本演習の受講生の皆さんには、必ずしも上記の計画に縛られず、自由な発想でテーマを設定して頂ければと思っています。 ちなみに、2016年度の受講生は、「婚期」「お菓子」「通販番組」「アイドル」「ファストファッション」「K-POP」「浮気」「Jリーグ」などの多種多様なキーワードで研究発表を行いました。 またこれらの発表は、ディスカッションを進めるなかで、上記の計画内容を含めた本演習の目的と非常に合致するものとなりました。																																																	
フィードバックの方法:	・各回の個別のプレゼンテーションとディスカッション後にアドバイスや評価を行います。 ・最終回に各受講生に対して総評と評価を行います。																																																	

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表、討論	40%	発表は、到達目標である「自らの見解・主張を伝えるための基礎的な素養と手法」に基づいたものとなっているか評価します。また討論は、到達目標である「批判力」と「多角的視点」からなされているか評価します。
	授業への参加度	60%	到達目標である「批判力」と「多角的視点」を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ:

マーケティングの視点から観光を考える

授業の概要:

政府の「観光立国宣言」に代表されるように、現在我が国では、観光で国や地域を活性化しようという試みが進められている。しかし、かけ声だけでは、結果は生みだされない。観光は、遠く離れた国・地域に住む人々に、その国・地域がどのような魅力を持つのかを考え、それを適切に伝え、実際の訪問につなげ、もちろん訪問時には期待に応える経験を提供しなければならない。このような活動は、まさにマーケティング活動である。本演習では、このような基本に基づいて、ある地域あるいは産業の観光マーケティング・プランを考えることができる力を養う。

到達目標:

現在わが国の、観光の現状について正しく理解できる。人々が観光に求めるニーズを考え、地域資源からそれにあった組み合わせを考え提案できる思考力・提案力を身に付ける。

授業方法:

演習 当初の数回は、観光とマーケティング論の基礎に関する講義形式、中盤は、個人で具体的な観光現象についてマーケティングの視点から考察する。後半は、具体的な観光企画についてマーケティングの視点から考察するグループワーク形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	身近な観光現象について、情報収集をしてくる
2.	観光とは	身近な観光現象について、情報収集をしてくる
3.	マーケティングとは	身近な企業活動について、情報収集をしてくる
4.	観光にマーケティングはなぜ、どのように必要なのか	身近な企業活動について、情報収集をしてくる
5.	身近な観光状況を調べる(1)	出身地など、身近な地域の観光の状況について情報収集をしてくる
6.	身近な観光状況を調べる(2)	調査対象と決めた地域について、観光の状況について情報収集をしてくる
7.	身近な観光状況を報告する(1)	これまで集めた情報に基づいて、選んだ地域の観光の状況についてまとめてくる
8.	身近な観光状況を報告する(2)	これまで集めた情報に基づいて、選んだ地域の観光の状況についてまとめてくる
9.	グループワーク(1)—グループで取り上げるテーマを決める	取り上げたい地域を考え、その地域の観光の現状について、情報収集をしてくる
10.	グループワーク(2)—取り上げた対象の観光状況について調べる(1)	グループで決定した地域と方針に基づいて、観光関連情報を収集してくる
11.	グループワーク(3)—取り上げた対象の観光状況について調べる(2)	グループで決定した地域と方針に基づいて、観光関連情報を収集してくる
12.	グループワーク(4)—取り上げた対象の観光マーケティング・プランを考える(1)	選択した地域への観光の魅力度を高められるような情報を収集してくる
13.	グループワーク(5)—取り上げた対象の観光マーケティング・プランを考える(2)	選択した地域への観光の魅力度を高められるような情報を収集してくる
14.	グループワーク(6)—取り上げた対象の観光マーケティング・プランをまとめる	グループのメンバーと協力して、選択した地域への観光の魅力度を高められるような企画をまとめてくる
15.	グループワーク(7)—まとめた観光マーケティング・プランを報告する	グループのメンバーと協力して、選択した地域への観光の魅力度を高められるような企画をまとめてくる。それをもとに、レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

個人での調査・報告に関しては、各自が自分で選択した地域について十分に情報収集をおこない、討論を行って、報告できる内容へとまとめていく。グループワークは、各メンバーがそれぞれ準備をしてきて、それらを付き合わせることで成果へとつなげるため、それらが揃わないとグループワークが進まないの、予習・復習は必須である。

フィードバックの方法:

個別課題・グループワークともに、情報収集や検討においては、質問等は個別に教室で対応する。報告については、教室で総評という形でフィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	40	個別課題およびグループワークで、自分で決めた課題および担当部分を適切に報告できるか、それ以外の時には積極的に意見表明ができるか。
	発表、討論	30	グループワークや報告で、自分の意見を表明したり、他のメンバーの意見と調整したりして、積極的に進捗に参加しているか
	レポート	30	マーケティングの考え方を理解した上で、観光企画を適切に作成できているか

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)

授業テーマ:	Introduction to Intercultural Relations		
授業の概要:	This course will focus on basic intercultural communication concepts as well as look at cultural diversity in Japan and other countries. In this course, students will learn about learning styles, communication styles, privilege and values in Japan and other countries in order to learn ways to have successful relations with others.		
到達目標:	Students will learn about their own learning styles, communication styles, values and privilege as well as those of people from other cultures so that they can have better relations with others.		
授業方法:	Classwork will take a practical approach and include various activities and video materialsto examine and discuss intercultural communication patterns to understand how relationships are formed and managed.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Course introduction and introduction to culture 2. Learning Styles 3. Categories and Perceptions 4. Cultural identity part 1 5. Cultural identity part 2 6. Stereotypes and Generalizations 7. Diversity issues in Japan and other countries 8. Present Mid-Term Project and peer review 9. Cultural values and beliefs part 1 10. Cultural values and beliefs part 2 11. Communication styles part 1 12. Communication styles part 2 13. Transition/Culture shock 14. Present Final Project 15. Course feedback and peer review	Check syllabus to prepare for class discussion Outside activity to prepare for class discussion Readings and notes to prepare for class discussion Readings and notes to prepare for class discussion Outside activity to prepare for class discussion Readings and notes to prepare for class discussion Outside activity to prepare for class discussion Review and prepare for assessment activity Readings and notes to prepare for class discussion Outside activity to prepare for class discussion Readings and notes to prepare for class discussion Outside activity to prepare for class discussion Outside activity to prepare for class discussion Review and prepare for assessment activity Review and self-reflection for discussion	
受講者へのメッセージやアドバイス:	Classwork will take a practical approach and include various activities in which students will examine critical incidents, discuss readings, participate in simulations, and do fieldwork to examine value and belief systems and communication styles in various Japanese and non-Japanese cultures to understand mainstream intercultural communication patterns to create and improve personal relationships with people from any culture. Textbook readings will be necessary to understand the practical classroom activities and discussions.		
フィードバックの方法:	Feedback will be given in class and online.		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Projects & presentations	40%	Assessment project work and presentations
	Participation & active discussion	30%	Active participation in class and group work
	Homework & Project preparation	30%	Outside preparation for in-class work and projects
教科書:	Shaules, J.& Abe, J. Different Realities: Adventures in Intercultural Communication. Nan'un-Do.		
参考書:	Will be announced in class.		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	lrogers@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	傾聴ボランティア活動について学ぶ		
授業の概要:	「傾聴」とは、カウンセリング等におけるコミュニケーションの基本で、相手の話に真摯に関心を持って受け止めながら積極的に聴くことです。また、「傾聴ボランティア」とは、様々な理由から「話したくても話せない(話す機会が少ない)」方にお話を聴くことを通して支援をする活動です。 現在日本が急速に高齢化社会へと進む中、傾聴の心得のある人がいろいろな場所で求められています。この演習では、さまざまなエクササイズを通して人の心に耳を傾ける「傾聴」という対人援助の基本的技術を学んだあと、実際に「傾聴ボランティア」としての活動を行ない、対人援助を目的としたボランティア活動の意義について学びを深めます。また、さまざまな対人援助を求めている人をサポートするために必要な基礎的理論と倫理を学び、自殺予防のための電話相談活動「いのちの電話」など、さまざまな対人援助ボランティア活動の現状と課題について検討します。		
到達目標:	(1)傾聴ボランティアの基礎理論や倫理を理解する (2)実際の傾聴ボランティア活動に参加し、自分の支援の内容について振り返る (3)対人援助のボランティア活動の現状、その目的と意義について考察する (4)自殺予防のための電話相談活動「いのちの電話」などさまざまな対人援助ボランティア活動の現状と課題について検討する		
授業方法:	演習形式。教員による講義のほかに、学生の発表、ディスカッション、さまざまなエクササイズなど、受講学生が主体的に授業に参加する形で授業を進めます。また授業後半には、高齢者福祉施設で高齢者の方々と交流をする実習を行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション:開講テーマや授業の進め方について		
	2. ボランティア活動とは、ボランティア活動の歴史と日本の現状	グループ発表の準備をする	
	3. ボランティアとしての倫理と責任、限界グループ発表(1)	リーディング課題を読んで疑問点を整理してくる	
	4. 対人援助を目的としたボランティア活動とその特徴グループ発表(2)	リーディング課題を読んで疑問点を整理してくる	
	5. 「傾聴ボランティア」とは グループ発表(3)	リーディング課題を読んで疑問点を整理してくる	
	6. 「傾聴」とは、「傾聴」のエクササイズ(1)	リーディング課題を読んで疑問点を整理してくる	
	7. 傾聴のために役立つ心理学理論①ロジャーズ(自己理論)グループ発表(4)	リーディング課題を読んで疑問点を整理してくる	
	8. 傾聴のために役立つ心理学理論②フロイト(精神分析)グループ発表(5)	リーディング課題を読んで疑問点を整理してくる	
	9. 実習の準備、「傾聴」のエクササイズ(2)	リーディング課題を読んで疑問点を整理してくる	
	10. 傾聴ボランティア実習 (1)	実習の準備をする	
	11. 傾聴ボランティア活動のふりかえり(1)	前回の実習記録を提出する	
	12. 傾聴ボランティア活動(2)	実習の準備をする	
	13. 傾聴ボランティア活動のふりかえり(2) ボランティア—新しい価値の創造	前回の実習記録を提出する	
	14. 期末レポートのテーマを決める	発表の準備をする	
	15. 期末レポートのアウトライン発表 まとめ	発表の準備をする	
受講者へのメッセージやアドバイス:	この授業は、日本教育カウンセラー協会ピアヘルパー資格の準備にもなります。受講後、ピアヘルパー資格を受験されることをお勧めします。		
フィードバックの方法:	教室でコメントしたり質問に答えたりします。また期末レポートはコメントして返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	50	クラスの出席と授業への積極的参加度により評価する。
	グループ発表1回	20	グループ発表への貢献度や内容によって評価する。
	期末レポート	30	レポートの内容によって評価する。
教科書:	日本教育カウンセラー協会編(2003)『ピアヘルパーハンドブッカー友達をヘルプするカウンセリング』図書文化社		
参考書:	岡本栄一・菅井直也・妻鹿ふみ子編著(2006)『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会 ホールファミリーケア協会(編)(2009)『新傾聴ボランティアのすすめ—聴くことのできる社会貢献』三省堂 金子郁容(1992)『ボランティア—もうひとつの情報社会』(岩波新書)岩波書店 岡本栄一監修、守本友美・河内昌彦・立石宏昭編著(2005)『ボランティアのすすめ—基礎から実践 まで』ミネルヴァ書房 古宮昇(2007)『やさしいカウンセリング講義—もっと自分らしくなれる、純粋な癒しの関係を育むために』(大阪経済大学研究叢書)創元社 管佐和子(2010)『心理療法的支援の方法—カウンセリングのすすめ』(看護・介護・保育の心理学2巻)新曜社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーを利用する他、メールcsaito@dw.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。		

授業テーマ:	ロボットも文化を持つのか		
授業の概要:	AI技術の進展により、いずれはロボットも文化を持つだろうと予測されている。ロボットが文化を持つと、人間の文化はどうなるのか、われわれの社会はどう変わるのか。受講者とディスカッションしながら共に考えていきたい。		
到達目標:	○AI技術について初歩的な知識を持つ ○技術と文化について初歩的な知識を持つ ○ディスカッションや発表を通して、思考力や表現力を身につける。 ○文献の調べ方やレポートの書き方を学習し、論理的に思考を組み立てる力を身につける。		
授業方法:	発表・ディスカッションを中心に進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。	
	2. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	3. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	4. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	5. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	6. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	7. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	8. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	9. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	10. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	11. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	12. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	13. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	14. 発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。	
	15. 総括	課題を調べ、発表の準備をする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ロボットの時代がすぐやってきます。AIやロボットを調べて、人間の文化とは何かを共に考えていきましょう。		
フィードバックの方法:	採点してマナビーで返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	50	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
	発表・討論	40	しっかり予習して準備したうえでグループディスカッションに参加しているかどうか、グループディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
	授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。
教科書:	石黒浩『ロボットとは何か——人の心を映す鏡』(講談社現代新書 2009)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板		

授業テーマ:

いのちと法

授業の概要:

医療と法との関係、特に人間のいのちをめぐる生命倫理の重要問題を、法的な視点から検討します。

科学技術、医療技術の長足の進歩によって、我々はこれまでは救えなかった命を救うことができるようになりました。しかし、同時に、我々人間の命をめぐる、新たに様々な問題が提起されています。例えば、なぜクローン人間を産生することは禁止されるのか、ヒトに対する遺伝子操作は許されるのか、体外受精、特に代理母にはどのような問題があるのか、出生前診断にはどのような問題があるのか、安楽死や尊厳死は許されるのか、脳死と臓器移植の問題点は、など、様々なものがあります。本講義は、これらを素材として、できるかぎりビデオなどの視覚教材を用いて受講生が興味を持つことができるようにしながら、広く法的な視点から問題について考えていきます。

生命の始期に関しては、

(1)クローン人間の産生の是非

(2)ヒトに対する遺伝子操作の是非

(3)体外受精の問題点(代理母、出生前診断と選択的人工妊娠中絶の是非など)

生命の終期に関しては、

(4)安楽死

(5)尊厳死

(6)脳死と臓器移植

を素材として、これらの中から各受講者の問題関心に添って担当者を決め、それを少人数のグループで担当してもらい、クラス全体で討論するという演習形式で行います。

到達目標:

必要な情報を収集することができる。

問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持つことができる。

準備や討論に積極的に参加する態度で授業に臨むことができる。

コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができる。

授業方法:

演習

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(1)	復習として、各自の興味・関心に合わせて、ゼミで扱うテーマについてのプレゼンテーションを各自で用意すること。
2.	オリエンテーション(2)	自分の担当するテーマについて、インターネット等を活用して、各自でリサーチを始めておくこと。
3.	リーガルリサーチ 研究倫理指導	研究倫理指導の内容に沿って、図書館等を活用したリサーチを進め、担当グループで分担するなど、発表の準備を進めておくこと。
4.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
5.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
6.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
7.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
8.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
9.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
10.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
11.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
12.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。

13. 発表・討論 発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
14. 発表・討論 表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
15. まとめ 前回の授業中に指示した点について、準備を行っておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス: 『十分考えた上で自分の意見を持つこと』は、就活や社会に出てからも求められる力ですので、大学生のうちにしっかりと準備をしておくことが大切です。刑事法的な問題を素材として、しっかりと考え、その考えを相手に伝えるトレーニングを一緒に行っていきましょう。

フィードバックの方法: マナビーを活用してコメントを行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表・討論	35%	到達目標のうち、必要な情報を収集することができているか、問題についての正しい知識を得ているか、コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができているかを基準として評価する。
	授業への参加度	65%	到達目標のうち、問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持って授業に臨んでいるか、討論に積極的に参加しているか、論理的な議論・討論ができているかを基準として評価する。

教科書: 大谷 實『新 いのちの法律学 生命の誕生から死まで』(悠々社、2011年)

参考書: テーマに応じて、適宜、指示していきます。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: マナビー、オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

424420

専門基礎演習

山田 邦和

授業テーマ：「歴史」を体験する

授業の概要：高等学校までの歴史の学習とは「暗記」が主となるものであり、それで歴史に対する拒否反応をおこした人も多いと思う。しかし、大学での歴史学とは、さまざまな史料を分析し、そこから得られた事実を自らの頭で評価し、再構成するところにある。

到達目標：この演習では、歴史研究の基礎的方法を学んでいただくことを目的としたい。

授業方法：講義、実技、テキスト購読とその発表を組み合わせる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	歴史学の方法	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
2.	博物館（同志社大学歴史資料館）見学	博物館見学にはどういったことが必要か、考えておく。
3.	同志社女子大学所蔵の歴史資料の観察	資料をあつかうにはどういったことが必要か、考えておく。
4.	遺跡と遺物の見方	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
5.	遺跡と遺物の見方	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
6.	遺跡と遺物の見方	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
7.	地図史料の扱い方	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
8.	地図史料の扱い方	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
9.	文献史料の購読	漢文の読み方を復習しておく。
10.	文献史料の購読	漢文の読み方を復習しておく。
11.	文献史料の購読	漢文の読み方を復習しておく。
12.	文献史料の購読	漢文の読み方を復習しておく。
13.	歴史の個別研究の紹介	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
14.	歴史の個別研究の紹介	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
15.	科目全体の総括	これまでの授業の内容をふりかえっておく。

受講者へのメッセージやアドバイス：教室にてまとめておこなう。

フィードバックの方法：

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席及びペーパー提出	50	遅刻なしに出席し、指定されたペーパー等を提出したか。
	授業への積極的参加度	20	授業に積極的に参加したか。
	レポート	30	授業で学んだ内容をきちんとまとめる。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法：kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	日常生活のフィールドワーク: 研究の基礎的作法の修得		
授業の概要:	本演習では、研究の基礎的な作法の修得を目指します。そのために、受講生には実際に、研究調査の一連のプロセスを体験してもらいます。つまり、自ら研究テーマを設定し、文献調査とフィールドワークをし、得たデータを分析し、研究成果を発表・議論してもらいます。 研究テーマには、日常生活においてみなさん自身にとって身近であり、また、みなさん自身が関心を持っている題材を取り上げてもらいます。ただし条件は、「複数の人々が集まり何らかの活動を行う場」であることです(例えば、コンビニ・マンガ喫茶・ラーメン屋・音楽フェス・寺社・SNSなど)。 受講生各自が研究を進めていく中で、よい研究テーマの立て方、文献収集や調査・分析の方法等について、演習形式で指導します。		
到達目標:	(1) 私達の身の回りの出来事に対して、自ら問いを立てられるようになること (2) 問いに対して、調査をもとに回答を導き出せるようになること (3) 研究報告・質疑応答・討論ができるようになること		
授業方法:	授業の前半は、研究・調査の基本的な作法について、文献をもとに学びます。後半は、実際に受講生に研究・調査を進めてもらい、ゼミではその報告と学生同士での討論を行ってもらいます。 受講生のみなさんから希望があり、かつ、人数の都合上可能であるようなら、京都・大阪・神戸近辺でのフィールドワークも予定しています。 いずれにせよ、詳細な授業計画は、受講生のみなさんと相談の上、決定します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション	リーディング資料の予習・復習	
	2. よい研究とは何か?	リーディング資料の予習・復習	
	3. 研究の進め方	リーディング資料の予習・復習	
	4. よい研究の例にふれる(1)	リーディング資料の予習・復習	
	5. よい研究の例にふれる(2)	リーディング資料の予習・復習	
	6. 調査の基礎(1): フィールドワークとは何か?	リーディング資料の予習・復習	
	7. 調査の基礎(2): フィールドワークの実地練習	調査準備, データ分析	
	8. 研究報告・ディスカッション	調査, データ分析, 報告準備など	
	9. 研究報告・ディスカッション	同上	
	10. 研究報告・ディスカッション	同上	
	11. 研究報告・ディスカッション	同上	
	12. 研究報告・ディスカッション	同上	
	13. 研究報告・ディスカッション	同上	
	14. 研究報告・ディスカッション	同上	
	15. 研究報告・ディスカッション	同上	
受講者へのメッセージやアドバイス:	私達の身の回りのあらゆることは、研究テーマになり得ます。しかし、その際には、ちょっとした「センス」が必要になります。この研究の「センス」は、実際に自分で研究をやってみないことには、なかなか体得できません。そして、こうした「センス」を身につけると、みなさんが暮らす日常生活は、今よりもっと刺激に溢れたものに見えてくるはずです。		
フィードバックの方法:	マナービーで返却します(詳細は、初回講義時に説明します)		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	研究発表	50%	問いの良し悪し、論理的に回答を導き出せているか、情報収集は十分かなど、研究内容そのものに関わる点と、プレゼンテーションの仕方などの形式的な点を総合して評価します。
	授業への参加度	50%	ディスカッションへの参加度合いによって評価します。
教科書:	近森高明・工藤保則(編)『無印都市の社会学 どこにでもある日常空間をフィールドワークする』法律文化社		
参考書:	遠藤知己(編)『フラット・カルチャー 現代日本の社会学』せりか書房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー, Emailなど(詳細は初回授業時に説明します)		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

激変する現代世界における宗教

現代世界では、近代化・世俗化の中で一時期宗教が社会的影響力を失ったかに見えた時期もありましたが、1980年代以降、再び宗教のもつ力が復興したと言われます。中東でのパレスチナ問題、イスラーム教の拡大と西欧文化との葛藤、宗教が関わるテロリズムやカルトの問題、キリスト教勢力のアジアや中南米への移行など、現代世界を読み解く上で知っておくべきことはたくさんあります。

現代日本人の多くは、自分は「無宗教」であり生活の中で宗教に関わることは少ないと思っているようです。しかし本当にそうでしょうか。もしそうであるならば、毎年新年に繰り返される初もうでの混雑ぶりを、どう説明したらよいのでしょうか。お盆にはなぜ今でも多くの人が先祖の墓参りをするのでしょうか。また、世界ではなぜ宗教を名目としての地域紛争や民族紛争が絶えないのでしょうか。

日本人の多くは、現代世界における宗教的重要性についてあまり意識したことがないというのが実状ではないかと思えます。しかし、宗教とはどんなものか、私たちの日々の生活に宗教がどのような影響を与えているかについての自覚と知識なしには、今日の世界で起こっている様々な問題を正しく理解することはできないでしょう。

この授業では、宗教学の基本的事項を理解し、宗教を自分自身や自分の生活に関わりのある身近なことからしてみつめ、現代世界で起こっている宗教問題を考察します。私たちにとって宗教とは何か、宗教の役割は何か、また、現代社会の中で宗教はどういう役割を果たしているか、という問いかけをもって授業を進めてゆきたいと思えます。

(1) 私たちにとって宗教とは何か、宗教の役割は何か、また、現代社会の中で宗教はどういう役割を果たしているかを理解する

(2) 授業でとりあげる宗教の教典や本を読んで、それが人間の人生に起こる出来事(死・喪失体験・苦しみ・悲しみ・暴力など)についてどのように答えているかを理解する

ビデオや映画など視聴覚教材を用いながら、講義と学生のグループ発表、ディスカッション形式で授業を進めてゆきます。また、校外学習で学外での宗教行事に参加しその行事の意味について考察します

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション: 私たちの生活と宗教との関わり	
2. 現代日本人と宗教: カルト問題をどう考えたら良いか	近年のカルトに関するニュースを調べてくる
3. 宗教とは何か、宗教学とは何か、宗教の学び方	自分は今まで宗教行事にどのように参加し、どのような影響を受けてきたかを考えてくる
4. 現代世界と宗教: 宗教間対話と宗教多元主義	世界で宗教が関わる紛争のニュースを調べてくる
5. ユダヤ教「一神教」のものの見方・考え方の特徴	ユダヤ教、一神教とはどのようなものかを調べてくる
6. キリスト教(1)キリスト教の発展、オーソドックス教会(正教会)の歴史と現状	ロシア正教会の歴史と現状を調べてくる
7. キリスト教(2)プロテスタント教会とカトリック教会の違い	プロテスタント教会とカトリック教会の違いを調べてくる
8. イスラーム教(1)イスラーム教とはどんな宗教か	イスラーム教とはどんな宗教か調べてくる
9. イスラーム教(2)イスラーム教過激派とテロ	イスラーム教過激派とテロについて調べてくる
10. 仏教(1) ブッダの教え① 苦しみをどう克服するか	事前配布資料を読んで概要を理解してくる
11. 仏教(2) ブッダの教え② どう生きるべきか	事前配布資料を読んで概要を理解してくる
12. 日本仏教 日本仏教の特徴はどういうものか	日本の仏教の教派にはどのようなものがあるかを調べてくる
13. 神道 日本古来の宗教性の特徴はどういうものか	事前配布資料を読んで概要を理解してくる
14. 儒教 儒教が日本文化に与えた影響は	儒教とはどのようなものかを調べてくる
15. まとめと期末レポートの準備	

グループ発表ではその日取り上げる宗教の教えや実践から学んだことを10～15分で発表してもらいます。発表のために自分たちで自主的に準備を進めてください。

また校外学習として、神戸北野地区のイスラーム教モスクを訪問しそこでイスラーム教についての講義を受けます。貴重な機会ですので、積極的に参加して下さい。

出席カードに書かれた質問やコメントに教室で質問に答えます。

評価方法	割合	評価基準
グループ発表	20	発表への貢献度と発表の内容によって評価する。
学期末レポート	30	授業中に出すレポート課題に適切な知識と理解度をもって答えているかどうかによって評価する。
平常点	50	クラスへの出席と出席カードのコメント、授業への積極的参加度により評価する。

特になし。毎回講義プリント、また必要に応じてリーディング教材を配布します。

齋藤孝(2016)『これだけは知っておきたい！日本人のための世界の宗教入門』ビジネス社

阿満利磨(1996)『日本人はなぜ無宗教なのか』筑摩書房

池上彰(2013)『[図解]池上彰の世界の宗教が面白いほどわかる本』(中経の文庫)KADOKAWA

池上彰(2002)『大人も子どももわかるイスラム世界の「大疑問」』(講談社＋α新書)講談社

石井研士(2010)『プレステップ 宗教学』弘文堂

櫻井義秀・平藤喜久子(2015)『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房

櫻井義秀(2006)『「カルト」を問い直す―信教の自由というリスク』(中公新書ラクレ)中央公論新社

橋爪大三郎(2013)『世界は宗教で動いている』光文社

岡田典夫・小澤浩・櫻井義秀・島園進・中村圭志(2011)『はじめて学ぶ宗教―自分で考えたい人のために』有斐閣

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員のオフィスアワーで対応するほか、メールcsaito@dw.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。

424801、02

経営学概論

加藤 敦

授業テーマ:

経営学の基礎を学び「私の仕事」への第一歩を踏み出そう

授業の概要:

経営学概論はビジネス・マネジメントの基礎科目です。マネジメントの要素は、経営者だけでなく中間管理職、一般社員に至るまで、一人ひとりの「仕事」における創意工夫の中に見出すことができます。また企業を対象としていますが、自治体、病院あるいはクラブ活動などあらゆる組織に共通する部分があります。本講義では企業の目的、戦略、生産・販売・財務活動などについて基本的な知識を学ぶことを目的としています。何年か後に「私の仕事」に没頭する自分を思い描いて、ここにそのための第一歩を踏み出しましょう。

到達目標:

第1に経営学とは何かを理解し、いくつかの基礎理論を理解すること。
第2に高校時代のクラス、クラブ、大学におけるサークルなど、どんな組織でも良いから、経営学的なツールを活用して、改善提案ができるようになること。
第3に将来の「私の仕事」に向け、どのようにキャリアを構築してゆくべきか、考えることができるようになること。

授業方法:

講義形式で授業します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 産業の歴史と経営理論1：鉄鋼業と自動車産業の成立とテラー、フォード	できるだけ事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと
	3. 産業の歴史と経営理論2:家電産業とホーソン実験、人間関係論	同上
	4. 産業の歴史と経営理論3:情報通信産業とバーナード、サイモン	同上
	5. 企業の形態、組織:株式会社の仕組みを理解しよう	同上
	6. 経営戦略:経営環境を分析して、最適な戦略を立案するまで	同上
	7. 生産活動:トヨタ生産方式はなぜ優れているのか	同上
	8. 販売活動:マーケティング活動と顧客の分析	同上
	9. 財務活動と会計	同上
	10. 人的資源の向上:最低賃金、給与制度、労働市場における女性・高齢者・若者	同上
	11. 国際化と企業:文化の違いをどう克服するか	同上
	12. 情報通信技術と企業:ITはビジネスにどのようなインパクトを与えているか	同上
	13. 企業の社会的責任:環境責任と社会的責任	同上
	14. 銀行と金融業の役割:直接金融と間接金融	同上
	15. まとめ	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習は基本的には不要ですが、余裕がある方は、事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおいてください。
毎回、理解度を確認するために、マナビーを利用して自動採点方式の小テストを行います。小テストは授業終了後、2日以内に回答して下さい。
試験に向けては、本講義のキーワード集をマナビーにアップしますので、しっかり復習して下さい。

フィードバックの方法:

定期試験の模範解答と講評はマナビー上に掲載します。
また、毎回、マナビーを利用して小テストを行います。その際に自由記入欄に授業中によくわからなかった点や希望を記入していただければ、教員より個別に回答いたします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	10	毎回、マナビーを利用して小テストを行い、知識・理解度を確認します。
	定期試験	90	到達目標を踏まえ、知識・理解度を総合的に評価します。

教科書:

参考書:

授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力。

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーの掲示板機能並びにEメールの利用。

授業テーマ:			
授業の概要:	企業が海外、特にアジア太平洋地域で事業を行う際に遭遇するリスクとしてカントリーリスクがあります。カントリーリスクには政治的・社会的・経済的な様々な問題が含まれます。 本講義では各国が抱えるカントリーリスクを切り口にして、アジア・太平洋地域に属する各国の実情、各国が発展する際の課題、課題解決における日本の関わりについて考察していきます。		
到達目標:	アジア太平洋地域の国々の実情を理解すること。 日本ができることについて自らの意見が言えること		
授業方法:	講義形式で行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. イントロダクション 2. 国境問題 3. 対外経済関係1 4. 対外経済関係2 5. 政情1 6. 政情2 7. 環境1 8. 環境2 9. インフラ1 10. インフラ2 11. 経済法制度1 12. 経済法制度2 13. 投資1 14. 投資2 15. 総括	準備学習等の内容 マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 レポート 出席確認を兼ねた小テスト	割合 70% 30%	評価基準 アジア・太平洋地域に属する国々に関する様々な事柄を論理的に説明できるかを基準とする。 問いに対して論理的に解答できるかを基準とする。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

425000

アメリカ地域文化論

鈴木 健司

授業テーマ:	北米の政治システム		
授業の概要:	4年ごとに実施されるアメリカ合衆国大統領選挙では、長期にわたる選挙戦の熾烈さや制度自体の複雑さなど、独特の政治文化にあらためて目を見張ることが多い。このことに限らず、アメリカの政治システムは、様々な修正を経ながらも、依然として憲法制定時の精神を基本として、社会に活力と多様性を生み出す源であり続けている。また、カナダでは、永年の懸案であるケベック州の分離独立問題を乗り越えて、新しい統合の形態が模索されている。 このクラスでは、北米の二つの国の政治システムがどのような仕組みによって機能し、それぞれの国民のどのような価値観を反映しているのかを考察する。制度の概要を基本的事項から確認しつつ、そこに見られる理念や問題を現代の北米事情に即した具体的な事例をもとに検討しながら、理解を深めていく。適宜、日本の事情とも比較しながら話を進め、自国の政治や社会について考える手がかりを提供したい。		
到達目標:	1) アメリカ合衆国とカナダの政治システムについて、基礎的知識を獲得する。 2) アメリカ合衆国とカナダの政治に関わる現代の諸問題について、論点を説明できる。 3) アメリカ合衆国とカナダの政治に関する理解をもとに、日本の事情について考察することができる。		
授業方法:	講義を中心に進める。適宜、テーマに関連する映像資料を視聴する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. トランプ大統領のアメリカ・トルドー首相のカナダ	まとめプリントを用いて復習	
	2. 合衆国の建国と政治理念 (1)	まとめプリントを用いて復習	
	3. 合衆国の建国と政治理念 (2)	まとめプリントを用いて復習	
	4. 合衆国憲法の基本構造	まとめプリントを用いて復習	
	5. 連邦制の原理と展開 (1)	まとめプリントを用いて復習	
	6. 連邦制の原理と展開 (2)	まとめプリントを用いて復習	
	7. 大統領の役割と評価	まとめプリントを用いて復習	
	8. 大統領選挙の仕組み	まとめプリントを用いて復習	
	9. 「抑制と均衡」の理論と現実 (1)	まとめプリントを用いて復習	
	10. 「抑制と均衡」の理論と現実 (2)	まとめプリントを用いて復習	
	11. アメリカ外交原則の変遷 (1)	まとめプリントを用いて復習	
	12. アメリカ外交原則の変遷 (2)	まとめプリントを用いて復習	
	13. カナダの政治システム (1)	まとめプリントを用いて復習	
	14. カナダの政治システム (2)	まとめプリントを用いて復習	
	15. まとめ	総復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	アメリカで現在起きていることに注意を払うことによって、授業の理解が深まります。		
フィードバックの方法:	授業内で、前回授業での提出物をもとに疑問点等に言及する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席及び授業内課題	50%	講義内容を正しく理解し、授業内で指示される具体的な問題に適切に応用して考えを述べるができること
	定期試験	50%	アメリカ合衆国とカナダの政治システム及びそれに関わる具体的な論点について、適切に説明できること
教科書:	使用しない。毎回の授業でハンドアウトを配付する。		
参考書:	テーマごとの参考図書を、授業配付資料に記載する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	Eメール。授業後に教室内で対応。		

授業テーマ:	アメリカの社会と文化を学ぶ		
授業の概要:	アメリカの文化はあらゆる形で日本に導入され、アメリカ社会に関するあらゆる情報も伝えられているが、私達はアメリカという国の文化や社会の実像を本当に捉えられていると言えるだろうか。本講では「アメリカ」を表層のイメージで捉えず深く理解するために、その文化と社会に関する知識や様々な概念を習得しながら、「アメリカ」に対する自分の観方、考え方、判断基準の確立を試み、建国期から現代に至るアメリカのあらゆる多元的文化・社会現象を具体的な事例に基づいて学際的手法で多角的に考察していく。		
到達目標:	「アメリカ文化」という「他文化」と向き合うことで現代のグローバル社会の中の「自文化」と「自己」をいかに規定するかを検討する事を目的とする。(英米間の文化や社会の関係や比較も扱うので、できる限り後期の「英米文化論Ⅱ イギリスの文化と社会」と通年で取る事が望ましい)。		
授業方法:	講義が中心であるが、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用し、各論題に関する議論も適宜行う。英語文献も使用するので英和辞書を持参すること。(受講生の人数や関心に応じ、授業内容を若干変更する可能性がある。)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. イントロダクション	2. アメリカの多元的文化と社会の基本知識(1) (人種、民族、階級、言語等)	配布するプリント教材を読んで次週の予習すること。講義内容を復習しておくこと。
	3. アメリカの多元的文化と社会の基本知識(2) (教育、習慣、食 アメリカンドリーム等)	4. 社会の変化と文化の普及(1) (南北戦争、奴隷解放宣言等)	配布するプリント教材を読んで予習すること。講義内容を復習しておくこと。
	5. 社会の変化と文化の普及(2) (The Gilded Age 産業の発展)	6. 社会の変化と文化の普及(3) (The Jazz Age The Great Gatsby, ルイ・アームストロング、トーキー等)	配布するプリント教材を読んで予習すること。講義内容を復習しておくこと。
	7. 対抗文化の生成(1)	8. 対抗文化の生成(2)	配布するプリント教材を読んで予習すること。講義内容を復習しておくこと。
	9. 事例研究(1) (60年代)	10. 成功の哲学と多元的文化(1) (ベンジャミン・フランクリン等)	配布するプリント教材を読んで予習すること。講義内容を復習しておくこと。
	11. 成功の哲学と多元的文化(2) (スティーブ、ジョブズ等)	12. アメリカの文学と民主主義	配布するプリント教材を読んで予習すること。講義内容を復習しておくこと。
	13. 大統領達と各種活動家達の演説とアメリカの理想(1)	14. 事例研究(2) (ケネディ、オバマ、ジェーン・アダムズ等)	配布するプリント教材を読んで予習すること。講義内容を復習しておくこと。
	15. 総括		講義内容を復習しておくこと。
受講者へのメッセージやアドバイス:	ペーパー(各種テキスト読解あるいは講義内容学習後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント)、質問へのフィードバックは基本的に教室でまとめて解説する		
フィードバックの方法:	返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	30%	出席状況(出席と授業への参加。原則として単位取得には全講義数の三分の二以上の出席が必要)および授業中の活動(各種読解演習、議論やグループワークへの参加、意見の発表等
	レポート	70%	各種テキスト読解後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント、期末レポート試験は講義の理解度、考察の深さと多角性、そして意見表明の論理性と説得力を問う。*レポート試験は学期末に一回提出とする。
教科書:	教科書はプリント教材を授業中に配布するが、授業では、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用する。		
参考書:	参考文献は適宜 授業中に指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	Email (授業中に指示する)		

授業テーマ:	イギリスの社会と文化を学ぶ。		
授業の概要:	本講は16世紀から現代に至るイギリスの文化と社会に関する多様な知識を習得し、私達がグローバル社会の中の異文化理解をいかに実現しうるかを検討する		
到達目標:	イギリスのあらゆる多元的文化・社会現象を具体的事例に基づいて学際的方法で多角的に理解できる事を目的とする。(英米間の文化と社会の関係や比較も扱うので、できる限り前期の「英米文化論I アメリカの文化と社会」と通年で取る事が望ましい。)		
授業方法:	講義が中心であるが、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用し、各論題に関する考察や議論も適宜行う。英語文献も使用するので英和辞書を持参すること。(受講生の人数や関心に応じ、授業内容を若干変更する可能性がある。)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション 2. イギリスの多元的文化と社会の基本知識(1) (人種、民族、階級、言語 等) 3. イギリスの多元的文化と社会の基本知識(2) (教育、習慣、食、宗教等) 4. 社会の変化と多元的文化(1) 5. 社会の変化と多元的文化(2) 6. 事例研究(1) (「リトル・ダンサー」等も参照) 7. 対抗文化の生成とポピュラーカルチャーの諸相(1) 8. 事例研究(2) (60年代 スウィング・ロンドン ビートルズ等) 9. 帝国主義(1) 10. 事例研究(3) (「インドへの道」「アラビアのロレンス」等も参照) 11. 王室文化(「英国王のスピーチ」等の作品も参照) 12. イギリスの文学と多元的社会(シェークスピアの作品等) 13. 首相達や各種活動家達の演説と多元的社会 14. 事例研究(4) (サッチャー、ブレアのスピーチ等) 15. 総括	配布するプリント教材を読んでおくこと。 講義内容を復習しておくこと。 講義内容を復習しておくこと。 講義内容を復習しておくこと。 配布するプリント教材を読んでおくこと。 講義内容を復習しておくこと。 配布するプリント教材を読んでおくこと。 講義内容を復習しておくこと。 講義内容を復習しておくこと。 講義内容を復習しておくこと。 配布するプリント教材を読んでおくこと。 講義内容を復習しておくこと。 配布するプリント教材を読んでおくこと。 講義内容を復習しておくこと。 講義内容を復習しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	ペーパー(各種テキスト読解あるいは講義内容学習後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント)、質問へのフィードバックは基本的に教室でまとめて解説する 返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	30%	出席状況(出席と授業参加。原則として単位取得には全講義数の三分の二以上の出席が必要)および授業中の活動(各種読解演習、議論やグループワークへの参加、意見の発表等)
	レポート	70%	各種テキスト読解後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント、期末レポート試験は講義の理解度、考察の深さと多角性、そして意見表明の論理性と説得力を問う。*レポート試験は学期末に一回提出とする。
教科書:	教科書はプリント教材を授業中に配布するが、授業では、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用する。		
参考書:	参考文献は適宜 授業中に指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Email (授業中に指示する)		

授業テーマ:

Culture, Communication and Conflict

授業の概要:

When we learn a foreign language, we also learn the elements of a foreign culture. This course explores how culture relates to communication.

Students will explore a number of questions: How does culture shape our values and ways of communicating? How can we learn about other cultures without our own values getting in the way? What skills do we need to communicate effectively with someone from a different culture? And how do cultural differences contribute to conflicts, both locally and globally?

到達目標:

Students will:

- improve their ability to communicate actively in English
- gain new knowledge about both Japanese and foreign cultures
- find motivation to interact with foreign sources of news and knowledge

授業方法:

Seminar

This class involves small and large group discussions, as well as short lectures. Students will discuss readings done for homework in small groups, and then share their findings with the whole class. All communication will be done in English.

Students will be responsible for keeping a weekly journal in which they reflect on the week’s reading and classroom discussion. They will also be responsible for making a group presentation; writing a short research essay; and making an individual presentation based upon their essay.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the Course	Assigned Reading Begin Weekly Journal
	2. The Culture Concept 1	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	3. The Culture Concept 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	4. Culture and Identity 1	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Journal
	5. Culture and Identity 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	6. Culture and Society 1	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	7. Culture and Society 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	8. Stereotypes	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	9. Culture and Face	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Journal
	10. Presentation Preparation	Prepare for Group Presentations
	11. Group Presentations 1	Prepare for Group Presentations
	12. Group Presentations 2	Prepare Essay and Individual Presentation
	13. Essay Writing Support: Individual Writing Conferences	Prepare Essay and Individual Presentation
	14. Final Presentations	Finish Essay
	15. Conclusion	Reflection on Term

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Journals – returned to students in classroom with comments
Presentations – evaluated in classroom, feedback on written marking sheet
Essays – grade and comments sent to students via Manavi

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Journals	20%	Thoroughness of Summary Independent Thinking in Reflection Written Grammar
	Attendance and Participation	30%	Deductions for Absence/Lateness Active Participation and Contribution
	Group Discussion	20%	Content Communication Clarity Visual Aids
	Essay	20%	Content and Analysis Essay Structure Written Grammar
	Individual Presentation	10%	Content Communication Clarity

教科書:

Lee, Soo im & Lisa Rogers
Culture and Conflict — Changing the World for the Better
Shohakusha, 2014

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

Email address and other contact details will be provided in class.

授業テーマ:	Become a member of the Model United Nations		
授業の概要:	As an international language, English can be used to build bridges between different countries. In this course, you will become a delegate of the United Nations General Assembly. You will choose a country to represent and learn about life there. Later, you will study about various important global issues, think about solutions to those problems, and then debate your ideas with the delegates of other countries, using the meeting style of the United Nations General Assembly. An important aim of this course is to learn how English is used for the purposes of negotiation and conflict resolution. After taking this course, as well as improving your English, you will understand the world more clearly and how different countries act in relation to global issues. Also, you will be better prepared to deal with problems and negotiation issues in the future.		
到達目標:	The main focus of this class is negotiation and the resolution of international issues through debate. Classroom tasks are to learn about foreign countries and international issues, create solutions to problems and debate the issues using the meeting style of the United Nations. Your main tasks will be to create solutions to problems in pairs and small groups, and debate your ideas in English.		
授業方法:	Classroom teaching / outside research / class debate		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Orientation. Introduction to the Model United Nations	Homework/ review / research	
	2. World issues. Introduction to negotiation. Choosing a country	Homework/ review / research	
	3. Learning about the issue 1	Homework/ review / research	
	4. Learning about the issue 2	Preparing a presentation	
	5. Informal presentation	Homework/ review / research	
	6. Holding a meeting. What to say	Homework/ review / research	
	7. Practice meeting. Writing a speech	Homework/ review / research	
	8. Learning about the issue	Preparing a presentation	
	9. Issue presentation	Homework/ review / research	
	10. Making a draft resolution	Homework/ review / research	
	11. Debate practice and speeches	Homework/ review / research	
	12. Final preparations for debate	Homework/ review / research	
	13. Debating	Homework/ review / research	
	14. Debating	Homework/ review / research	
	15. Final class feedback	None	
受講者への メッセージや アドバイス:	Students must be prepared to speak actively in English during class activities and should be well prepared for debates. Students should be able to display knowledge about the issue and their country and a certain amount of independent research is required. At a minimum, students should expect to spend about 45 minutes to one hour in preparing for classes but more extensive review is encouraged. As well as class debates, students will submit one poster presentation; one or two short quizzes; a short essay; and a final quiz in each semester.		
フィードバックの 方法:	Feedback to presentations and debate performance will be given		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Debate participation	30	Contribution to debate
	Presentation and short speeches	20	English skills, presentation ability, content
	Short quizzes	10	Knowledge of subject and terms
	Class work	20	Participation
	Preparation and homework	20	Participation
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡 方法:	cadamson@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ：Culture, Self and Society

授業の概要：When we learn a foreign language, we also learn the elements of a foreign culture. This course further explores how culture relates to communication.

到達目標：Using the tools and skills developed in the first term, students will explore a number of contemporary examples of cultural conflicts, drawn both from within and outside of Japanese society. The examples will involve issues of identity, gender, religion as well as economic and demographic change.

授業方法：Students will continue to:

- improve their ability to communicate actively in English
- gain new knowledge about both Japanese and foreign cultures
- find motivation to interact with foreign sources of news and knowledge

Seminar

This class involves small and large group discussions, as well as short lectures. Students will discuss readings done for homework in small groups, and then share their findings with the whole class. All communication will be done in English.

Students will be responsible for keeping a weekly journal in which they reflect on the week's reading and classroom discussion. They will also be responsible for making a group presentation; writing a short research essay; and making an individual presentation based upon their essay.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the Term and Review of Main Ideas from Spring Term	Assigned Reading Begin Weekly Journal
	2. Japanese Society: Identity and Difference 1	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	3. Japanese Society: Identity and Difference 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	4. Culture and Social Change 1	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Journal
	5. Culture and Social Change 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	6. Gender, Identity and Culture 1	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	7. Gender, Identity and Culture 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	8. Religion, Identity and Culture 1	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	9. Religion, Identity and Culture 2	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Journal
	10. Presentation Preparation	Prepare for Group Presentations
	11. Group Presentations 1	Prepare for Group Presentations
	12. Group Presentations 2	Prepare Essay and Individual Presentation
	13. Essay Writing Support: Individual Writing Conferences	Prepare Essay and Individual Presentation
	14. Final Presentations	Finish Essay
	15. Conclusion	Reflection on Course

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法：Journals – returned to students in classroom with comments
Presentations – evaluated in classroom, feedback on written marking sheet
Essays – grade and comments sent to students via Manavi

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Journals	20%	Thoroughness of Summary Independent Thinking in Reflection Written Grammar
	Attendance and Participation	30%	Deductions for Absence/Lateness Active Participation and Contribution
	Group Discussion	20%	Content Communication Clarity Visual Aids
	Essay	20%	Content and Analysis Essay Structure Written Grammar
	Individual Presentation	10%	Content Communication Clarity

教科書：Lee, Soo im & Lisa Rogers
Culture and Conflict — Changing the World for the Better
Shohakusha, 2014

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

Email address and other contact details will be provided in class.

授業テーマ:

Become a member of the Model United Nations.

授業の概要:

As an international language, English can be used to build bridges between different countries. In this course, you will become a delegate of the United Nations General Assembly. You will choose a country to represent and learn about life there. Later, you will study about various important global issues, think about solutions to those problems, and then debate your ideas with the delegates of other countries, using the meeting style of the United Nations General Assembly.

到達目標:

An important aim of this course is to learn how English is used for the purposes of negotiation and conflict resolution. After taking this course, as well as improving your English, you will understand the world more clearly and how different countries act in relation to global issues. Also, you will be better prepared to deal with problems and negotiation issues in the future.

授業方法:

groupwork

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction; choosing countries	Homework and research
	2. Background to issue 2 (issues are current so will be decided with consultation with students in semester 1)	Homework and research
	3. Issue 2; research	Preparing presentation
	4. Presentation: my country	Homework and research
	5. Debate and discussion	Homework and research
	6. Information sharing	Homework and research
	7. Preparing draft resolutions	Preparing presentation
	8. Presentation 2: my nation's position on issue 2	Homework and research
	9. Preparing draft resolutions	Homework and research
	10. Preparing draft resolutions	Homework and research
	11. Debate review	Homework and research
	12. Debate	Homework and research
	13. Debate	Homework and research
	14. Feedback and reflection	Homework and research
	15. Final class	Homework and research

受講者へのメッセージやアドバイス:

Be interested in international political issues and organisations such as the UN and other NGOs. Be prepared to do research. A high level of English is not necessary but you must be prepared to give opinions in English in this class.

フィードバックの方法:

Feedback will be given on presentations and debate performance

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Debate participation	30	participation and knowledge
	Presentation and short speeches	30	skills and English ability
	Homework	20	participation
	Classwork and issue awareness	20	participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Peace Studies

授業の概要:

This class will serve as an introduction to Peace Studies and Conflict Resolution. It will explore, through activities, games, and short readings, how we understand and deal with conflict in our personal, school, and work lives as well as how conflict is addressed in society and in international business and political relations. Students will gain a very basic understanding of the main aspects of peace studies, including mediation, restorative justice, dialogue, and the history of peace and human rights. Students of all levels are welcome to join this class.

到達目標:

Students will have an opportunity to learn about a variety of approaches to peace. They will look at the question of how to reduce or end war, violence, inequality and injustice and how to build peaceful and fair societies. Students will not only expand their understanding of peace studies as an academic field, but will also practice conflict resolution through group activities, role plays and exercises. The goal of this class is for students to enjoy creating and expressing their own visions for a peaceful world in a way that deepens their sense of global citizenship.

授業方法:

Class work will consist of short lectures followed by group discussions, role plays and activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Introduction to Positive Peace; Intercultural Communication Game	Short Reading/Answer
2. Getting to Yes: Principled Negotiation	Short Reading/Answer
3. Getting to Yes: Part 2	Short Reading/Answer
4. Student Negotiation Exercise	Personal Negotiation Example Homework
5. Mediation and Conflict	Short Reading/Answer
6. Peer Mediation: Mediation as an Answer to School Violence	Brief Mediation Research
7. Student Mediation Activity	Short Reading/Answer
8. The problem of War: The Sermon on the Mount and Just War Theory	Short Reading/Answer
9. Movie: "The Fog of War"	Movie Review
10. Group discussion of "The Fog of War"	TBA (To Be Announced)
11. Pacifism: Jacques Ellul's "Law of Violence"	Short Reading/Answer
12. "Law of Violence" Part 2	TBA (To Be Announced)
13. Thich Nhat Hanh: Being Peace	Short Reading/Answer
14. Being Peace: Part 2	Short Poem Writing
15. Presentations; Conclusion of the Class	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Written and spoken evaluation on homework and class projects

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20	Attendance
Group Projects	30	Graded according to rubric
Homework	10	Degree of satisfactory completion
Class Notebook	20	Satisfactory completion
Class Participation	20	Daily evaluation

教科書:

Materials will be provided by the instructor

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

Scarcity and Excess: Who Are We?

We live in a time of rapid technological change in how we eat, communicate, interact and present ourselves. We have more opportunities than ever before, opportunities, which are both exciting and confusing. Who are we, what are we becoming? What is real and what is fake? This course looks at changes in food, social media and technology that affect us as individuals through articles from the New York Times. This class will greatly improve your reading ability and speed, your vocabulary, and your ability to think and talk about your views and the world today.

・to increase awareness and knowledge about our complex modern world

・to motivate students to take an active interest in world issues.

・to greatly increase reading and analytical abilities

・to increase vocabulary to western newspaper comprehension levels.

・to encourage reflection and critical thinking about technology and society.

・to improve ability to express ones thoughts both verbally and in writing.

The class is a mixture of reading, lecture and seminar. Practical reading skills, fun vocabulary building exercises and group discussion will be combined with video excerpts and internet resources. Students will be required to do research, study for short vocabulary quizzes, make a short presentation and a longer presentation on an issue of their choice.

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: Reading skills Active versus Passive Reading	Vocabulary Exercises Unit 1
2.	Food Unit 1 Excess and Leftovers	Vocabulary Exercises Unit 2
3.	Food Unit 2 Excess and Soda	Study for Test 1 Units 1-2
4.	Test 1. Food. Video excerpt: Supersize Me	Food Crossword
5.	Food Reading Labels	Prepare short presentation
6.	Short presentation What's in this Snack?	Vocabulary Exercises Unit 3
7.	Social Media Unit 3: Selfie Sticks and Narcissism	Vocabulary Exercises Unit 4
8.	Social Media: Unit 4 How to Escape Your Smart Phone!	Study for Test 2 Units 3-4
9.	Vocabulary Quiz Video Excerpt Her.	Vocabulary Exercises Unit 11
10.	Branding the Self: Unit 11 Plastic Surgery	Vocabulary Exercises Unit 12
11.	Branding: Unit 12 Chinese Rip Off Brands	Study for Test 3 Units11-12
12.	Vocabulary Quiz two. Video Excerpt Surrogates.	Prepare ideas for discussion. Choose Presentation topic.
13.	Discussion: Who Are We?	Outline rough draft
14.	Practice Presentation methods	Clean up final presentation.
15.	Conclusion	Review

* Students must bring textbook and dictionary to each class.

**NOTE: If you miss class it is up to you to find out what was covered in that class and do the homework. MISSING CLASS IS NOT AN EXCUSE FOR NOT DOING HOMEWORK. Find someone in class to contact, or email me.

*** Homework is preparation for next class' reading and conversation. Minus points will accrue for failure to do so.

Students are encouraged to get or use the following books to increase their vocabulary and presentation skills: Instant vocabulary by Ida Ehrlich Understanding and Using English Grammar by Betty Schramper Azar, Speaking of Speech, www.breakingnews.com For further reading for ambitious students: Please consult your teacher for readings specific to your interests.

Homework is checked each class with marks given for completion, not for correctness. Failure to do homework will result in negative evaluation as it is necessary for class participation. Teacher actively participates in weekly group discussions, going around the class and talking to students individually to give them feedback on their participation and discussion skills. Tests are graded and returned to students. Presentations are graded and verbal response is provided. Students may request their grade average at any point during the semester.

	評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation		25%	Preparedness and activeness of students in the weekly group discussions. Readiness to answer questions in class based on homework.
Homework		20%	Homework is checked each class with marks given for completion, not for correctness. Failure to do homework will result in negative evaluation as it is necessary for class participation.
Tests		30%	Graded according to correct answers and returned.
Presentations		25%	Presentations are based on content, clarity, structure, and audience engagement

Rume Kita and Keith Wesley Adams, SCARCITY AND EXCESS, Technological Troubles and Social Solutions. Eihosha, ISBN 9784269190191

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

Thursday between 1st to 4th periods, teachers' room beside the Kyomu office. Email: kwadams3@yahoo.co.jp

授業テーマ:

Peace Studies

授業の概要:

This class will serve as an introduction to Peace Studies and Conflict Resolution. It will explore, through activities, games, and short readings, how we understand and deal with conflict in our personal, school, and work lives as well as how conflict is addressed in society and in international business and political relations. Students will gain a very basic understanding of the main aspects of peace studies, including mediation, restorative justice, dialogue, and the history of peace and human rights. Students of all levels are welcome to join this class.

到達目標:

Students will have an opportunity to learn about a variety of approaches to peace. They will look at the question of how to reduce or end war, violence, inequality and injustice and how to build peaceful and fair societies. Students will not only expand their understanding of peace studies as an academic field, but will also practice conflict resolution through group activities, role plays and exercises. The goal of this class is for students to enjoy creating and expressing their own visions for a peaceful world in a way that deepens their sense of global citizenship.

授業方法:

Class work will consist of short lectures followed by group discussions, role plays and activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Review of Spring Term Topics; Introduction to Restorative Justice	Short Reading/Answer
2.	Looking at Restorative Justice, Videos of RJ in British Schools	Reflection paragraph
3.	Restorative Justice Continued	Presentation Preperation
4.	Assignment: Restorative Justice Group Presentation	Presentation Preparation
5.	Restorative Justice Presentation Creation	Presentation Preparation
6.	Restorative Justice Presentation Performance	Short Vocabulary Sentences
7.	International Restorative Justice: Truth and Reconciliation in South Africa	Short Reading
8.	Gandhi's Nonviolence in Satyagraha, Excerpts from the Movie "Gandhi"	Short Reading/Answer
9.	Civil Disobedience and Non-Cooperation in Gandhi and King	Short Reading/Answer
10.	Non-Cooperation in the Movie "The Long Walk Home"	Movie Review
11.	Discussion of "The Long Walk Home"	TBA
12.	Readings in Dialogue: David Bohm	Short Reading
13.	Creating a Dialogue Activity	Dialogue Reflection Paragraph
14.	Concepts of Human Rights	Short Reading
15.	Human Rights, Part 2 and Conclusion of the Class	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Written and spoken evaluation on homework and class projects

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20	Attendance
	Group Projects	30	Graded according to rubric
	Homework	10	Degree of satisfactory completion
	Class Notebook	20	Satisfactory completion
	Class participation	20	Daily evaluation

教科書:

Materials will be provided by the instructor

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

授業テーマ:

Scarcity and Excess: Technical, Social and Political Solutions

授業の概要:

We live in a time of globalization, rapid technological change, environmental decline, and drastic increases in the gap between the rich and the poor. What are the causes, and what are the solutions? Can technology save us, or is it a part of the problem? What social values from Japan, and from other cultures around the world will help us? This course looks at issues from around the world through newspaper articles from the New York Times and how changes in population, technology, and the environment will affect us. From China's one child policy to the Californian water crisis, we look how technology and society are either harming us or helping us. This class will greatly improve your reading ability and speed, your vocabulary, and your ability to think, talk and write about the world today.

到達目標:

・to increase awareness and knowledge about our complex modern world.

・to motivate students to take an active interest in world issues.

・to greatly increase reading and analytical abilities.

・to increase vocabulary to western newspaper comprehension levels.

・to encourage reflection and critical thinking about technology and society.

・to improve ability to express ones thoughts both verbally and in writing.

授業方法:

The class is a mixture of reading, lecture and seminar. Practical reading skills, fun vocabulary building exercises and group discussion will be combined with video excerpts and internet resources. Students will be required to do research, study for short vocabulary quizzes, and write a short research paper on an issue of their choice.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction : The World Today: Problems and Solutions	Vocabulary Exercises: Unit 5
2.	Population: Political Solutions: Unit 5: Too Many Men: Consequences of China's One Child policy	Vocabulary Exercises: Unit 6
3.	Population: Technical Solutions: Unit 6 Test Tube Babies-Leftover Embryo's	Study for Test 1 Units 5-6
4.	Test 1. Units 5-6 Video Excerpt: The Island	Vocabulary Exercises: Unit 7
5.	Environment: Technology Gone Wrong Unit 7 Air Conditioning	Vocabulary Exercises: Unit 8
6.	Environment: Technology Gone Wrong. Unit 8 Malaria Nets	Study for Test 2 Units 7-8
7.	Test 2: Units 7-8 Video Excerpt: Baraka	Vocabulary Exercises: Unit 9
8.	Social Solutions: Unit 9: Water Crisis	Vocabulary Exercises: Unit 10
9.	Social-Technical Solutions: Kidney Swap	Study for Test 3 Units 9-10
10.	Test 3: Units 9-10 Video Excerpt: Bend it like Beckham	Prepare Discussion ideas
11.	Discussion: The Future: Trends, Fears and Solutions	Choose Essay topic
12.	Essay Writing: Statement, Sources, Structure	Get Research materials and prepare outline.
13.	13. Research	Finish rough draft
14.	14. Final Paper Check	Clean up paper
15.	Conclusion	Review

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are encouraged to get or use the following books to increase their vocabulary and presentation skills:
Instant vocabulary, by Ida Ehrlich
Understanding and Using English Grammar by Betty Schramper Azar,
Speaking of Speech,
www.breakingnews.com
For further reading for ambitious students: Please consult your teacher for readings specific to your interests.
* Bring Dictionary and textbook to each class.
**NOTE: If you miss class it is up to you to find out what was covered in that class and do the homework. MISSING CLASS IS NOT AN EXCUSE FOR NOT DOING HOMEWORK. Find someone in class to contact, or email me.
*** Homework is preparation for next class. Minus points will accrue for failure to do it.

フィードバックの方法:

Teacher actively participates in weekly group discussions, going around the class and talking to students individually to give them feedback on their participation and discussion skills. Homework is checked each class based on completion. Negative results will accrue for failure to do homework as it is necessary for class participation. Papers are graded based on clarity, structure, grammar and format. Students may request their grade average at any point during the semester.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and Participation	25%	Preparedness and activeness of students in the weekly group discussions. Readiness to answer questions in class based on homework.
	Homework	20%	Fulfillment of Homework is checked each class. Grades are given for fulfillment not based on correctness. Negative assessment is given for failure to due homework.
	Tests.	30%	Tests are graded on correctness of answers and returned to students.
	Final Paper	25%	Essay is graded with 5 points granted to each of the following criteria 1.format, 2. structure, 3.grammar, 4. clarity of ideas(Thesis and concluding statements), and 5. adequate support.

教科書:

Rume Kita and Keith Wesley Adams, SCARCITY AND EXCESS, Technological Troubles and Social Solutions, Eihosha, ISBN: 9784269190191

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Teacher's room: Thursdays between periods 1-4. Email kwadams3@yahoo.co.jp

授業テーマ:

In this class, students will develop practical skills for assisting foreign tourists. They will also learn about tourism’s modern history, emerging trends, and problems facing tourism today. Through surveys they will find out about tourists visiting Japan. This knowledge will be applied towards the primary goals of developing communication, analytical, creative, leadership, and presentation skills for working in the international tourism industry.

授業の概要:

The first semester will begin with research into new trends in the tourism industry, continue with planning a tour abroad in detail, follow with research into the modern history of tourism, and conclude with a survey project where students will be asked to survey visitors to Kyoto and the Kansai region. The course will familiarize students with the actors in the tourism industry, and allow them to work together under their own initiative to develop analytic and communication skills for use in the field through the creation of presentations and collecting of survey data from tourists.

到達目標:

1. Knowledge of English used in tourism situations and the tourism industry
2. Motivation to practice conversation, presentation, and research skills
3. Ability to use English while on or giving tours, working in the hospitality and transportation industries, perform tourism market research.

授業方法:

This class will be focused on group and class discussion of the topics and role-playing of practical service skills in English. There will be a minimum of lecture time, with a focus instead on group problem solving, research, and project work. Students are expected to be active in class, as well as do research of their own and conduct surveys about international tourism.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction – Thinking about tourism skills	
	2. Considering New Trends in Tourism	New Trends in Tourism writing assignment
	3. Research for Writing Assignment: New Trends in Tourism	New Trends in Tourism writing assignment
	4. Planning an International Tour (Writing assignment due)	Write tourism job skit
	5. Researching an International Tour	Prepare tour presentations
	6. International Tour Plan Presentations	
	7. Research for Writing Assignment: Tourism History	Tourism History assignment
	8. Tourism History Writing	Tourism History assignment
	9. Tour Operators (Writing Assignment Due)	
	10. Coding a Tourism Survey	Prepare survey topic
	11. Travel Agencies	Tourism Survey preparations and field work
	12. Presentation Preparations	Final survey preparations
	13. Final Presentations: Group A/ Group B Active Listeners	
	14. Final Presentations: Group B/ Group A Active Listeners	
	15. Reflection and Feedback	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

1. Marks on assignments
2. In class explanations and discussions of work
3. Comments and review after presentations
4. In-class discussion of ongoing work

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attitude and Participation	30%	Class attendance and participation in class activities.
	Tourist Survey	20%	Survey design, field work, and presentation quality.
	Tour Presentation	20%	Research and presentation quality.
	Written Assignments	30%	Research and composition quality.

教科書:

Strutt, O’Keeffe, and Dubicka, English for International Tourism: Intermediate (New Edition), Pearson.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power, Creative ability, Presentation skill, Communication skill, Leadership, Capacity for compassion, Responding to change

教員との連絡方法:

Send E-mail, ask in the class room before and/or during class

授業テーマ:

The History and Culture of Kyoto

授業の概要:

This course will explore the history and culture of Kyoto. Students will have a reading and writing assignment each week. Topics will include the geography of Kyoto, religion, literature, art, and history. We will read about powerful families, great leaders, and also famous monks like Kukai. In each class, students will discuss the previous week's reading assignments with each other. In addition, they will take notes as the teacher lectures on that week's topic. During the spring term we will take a look at several temples and shrines in detail. Students must visit Kyoto at least once in the spring term to research a temple, shrine, or other location of interest. They will share the information they gather and make a presentation.

到達目標:

The main goal of this class is for students to practice introducing Kyoto's culture and history in English, as they might when guiding tourists from overseas.

授業方法:

lecture/discussion

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. The Geography of Kyoto	Reading and writing assignments to be provided in class
2.	2. Pre-Heian Kyoto	Reading and writing assignments to be provided in class
3.	3. The Aoi Festival	Reading and writing assignments to be provided in class
4.	4. Emperor Kammu and Heian-kyo	Reading and writing assignments to be provided in class
5.	5. Heian Culture	Reading and writing assignments to be provided in class
6.	6. Esoteric Buddhism: Kukai and Saicho	Reading and writing assignments to be provided in class
7.	7. Amida & Byodo-in	Reading and writing assignments to be provided in class
8.	8. Midterm Exam	Reading and writing assignments to be provided in class
9.	9. The End of the Heian Period & Sanjusangen-do	Reading and writing assignments to be provided in class
10.	10.The Ashikaga Shogonate & Tenryu-ji	Reading and writing assignments to be provided in class
11.	11.Ginkaku-ji & Kinkaku-ji: The Golden and Silver Pavilions	Reading and writing assignments to be provided in class
12.	12.Oda Nobunaga	Reading and writing assignments to be provided in class
13.	13.The Gion Festival	Reading and writing assignments to be provided in class
14.	14.Toyotomi Hideyoshi	Reading and writing assignments to be provided in class
15.	15.End of Term Presentations – Kyoto's Temples and Shrines	Reading and writing assignments to be provided in class

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback on student work will be provided in class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	60	Attendance, Preparedness, Participation in discussion
	Midterm Test	20	Short answer test
	Final Presentation	20	Presentation on two sites of religious interest

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

obaker@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

In this class, students will develop practical skills for assisting foreign tourists. They will also learn about tourism’s modern history, emerging trends, and problems facing tourism today. Through surveys they will find out about tourists visiting Japan. This knowledge will be applied towards the primary goals of developing communication, analytical, creative, leadership, and presentation skills for working in the international tourism industry.

授業の概要:

The second semester will begin with students creating a skit designed to allow them to research and practice practical language that can be used in tourism situations. This will be followed with two writing assignments, the first designed to allow them to research contemporary issues with tourism in Kyoto and the Kansai region, and the second designed to introduce them to contemporary social issues related to tourism. Finally, students will prepare and present a detailed tour plan, where they will be expected to respond dynamically to questions from the instructor and their peers. These assignments will be accompanied by listening and vocabulary building exercises.

到達目標:

1. Knowledge of English used in tourism situations and the tourism industry
2. Motivation to practice conversation, presentation, and research skills
3. Ability to use English while on or giving tours, working in the hospitality and transportation industries, perform tourism market research

授業方法:

This class will be focused on group and class discussion of the topics and role-playing of practical service skills in English. There will be a minimum of lecture time, with a focus instead on group problem solving, research, and project work. Students are expected to be active in class, as well as do research of their own and conduct surveys about international tourism.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	.Review of First Semester / Reflection on Summer Tour Plans	Finish summer tour reflection assignment
2.	.Benefits and Limitations of English Use in Tourism	Finish writing assignment on benefits and limitations of tourism
3.	Preparation of Tourism Skit	Continue working on tourism skit
4.	.Practice of Tourism Skit	Continue working on tourism skit
5.	.Tourism Skit Presentations	
6.	Begin Tourism in Kyoto and Kansai Writing	Continue writing
7.	Finish Writing Assignment	Continue writing
8.	.Eating Out (Toursim in Kyoto and Kansai Writing Assignment Due)	
9.	Seeing the Sights	
10.	Begin Tourism and Society Writing Assignment	Continue writing
11.	Finish Writing Assignment	Continue writing
12.	Traditions (Tourism and Society Assignment Due)	
13.	Tour Presentation Preparations	Continue preparations
14.	Tour Presentation Preparations	Continue preparations
15.	Tour Presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

1. Marks on assignments
2. In class explanations and discussions of work
3. Comments and review after presentations
4. In-class discussion of ongoing work

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attitude and Participation	30%	Class attendance and participation in class activities.
	Tour Presentation	20%	Research, tour design, balanced participation, English usage
	Skit Presentation	20%	Premise, balanced participation, English usage
	Written Assignments	30%	Research and composition quality.

教科書:

Strutt, O’Keeffe, and Dubicka, English for International Tourism: Intermediate (New Edition), Pearson.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power, Creative ability, Presentation skill, Communication skill, Leadership, Capacity for compassion, Responding to change

教員との連絡方法:

Send E-mail, ask in the class room before and/or during class

授業テーマ:

The History and Culture of Kyoto

授業の概要:

The fall term will continue to explore the art, religion, literature and history of Kyoto. We will begin with the Edo Period and examine how the cultural life of Kyoto's citizens expanded greatly. Topics such as tea, machiya, ceramics, art, movies, and festivals will be covered. We will look at one festival in great detail, the Jidai Festival. We will also look at machiya architecture, and examine some of Kyoto's most treasured structures such as the Katsura and Shugakuin villas. The dramatic end of the Edo Period, when revolutionary heroes such as Ryoma Sakamoto battled with the Shinsengumi, will be covered during the fall term. Another other great shift in Kyoto's history came with the profound changes of the Meiji Period. We will take a close look at the rapid development of industry and education.

到達目標:

The main goal of this class is for students to practice introducing Kyoto's culture and history in English, as they might when guiding tourists from overseas.

授業方法:

lecture/discussion

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. The Tea Ceremony	Reading and writing assignment to be provided in class
2.	2. Ceramics	Reading and writing assignment to be provided in class
3.	3. The Festival of Ages	Reading and writing assignment to be provided in class
4.	4. Machiya	Reading and writing assignment to be provided in class
5.	5. Artists of the Edo Period	Reading and writing assignment to be provided in class
6.	6. The End of the Edo Period	Reading and writing assignment to be provided in class
7.	7. The Meiji Renaissance	Reading and writing assignment to be provided in class
8.	8. Midterm Exam	Reading and writing assignment to be provided in class
9.	9. The Development of Education in Kyoto	Reading and writing assignment to be provided in class
10.	10.Kyoto's Gardens	Reading and writing assignment to be provided in class
11.	11.Kyoto & The Japanese Film Industry	Reading and writing assignment to be provided in class
12.	12.Textiles	Reading and writing assignment to be provided in class
13.	13.Companies in Kyoto	Reading and writing assignment to be provided in class
14.	14.Kyoto's Food Culture	Reading and writing assignment to be provided in class
15.	15.End of Term Presentations: One Day Kyoto Experience	Reading and writing assignment to be provided in class

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback on student work will be provided in class

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	60	Attendance, Preparedness, Participation in discussions
	Midterm Test	20	Short answer test
	Final Presentation	20	Presentation of an original one day Kyoto tour itinerary

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

obaker@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	English for Tourism																																		
授業の概要:	This course is for CASE intermediate-level students and will help students who want to work in the travel and service field. It will also be useful for any student interested in personal travel around the world. Students will learn what they need for professional communication in hotel, airline and other related tourism services. The course will build confidence in using English in travel situations, such as travel booking, making reservations, tour guiding, and taking care of customers in English. Students will have many opportunities to practice using and listening to English in travel and work situations. We will also learn about different countries and their important tourist destinations. Project work will be focused on Kyoto and aiding tourists from abroad in that setting.																																		
到達目標:	Students will learn how to work independently and with others in order to navigate common tourism/travel related situations. Also, students will be expected to acquire the confidence, language and skills to solve more complex problems they may face in the hospitality and tourism field. A component of this course will be to raise each student's level of cross-cultural awareness, in order to handle situations which may arise in dealing with customers from other countries.																																		
授業方法:	Units from the textbook will guide the themes for each semester. Students will be expected to participate in pairwork and groupwork to complete class tasks. The class will emphasize speaking and listening but will also include reading and writing skills that will be useful for the tourism industry as well as individual travel. Homework and extra work from outside sources, including handouts, will be used to reinforce vocabulary and structures leading to the production of larger class projects.																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. Class introduction –textbook navigation</td><td>Fill-out –Tourism 'about you'– handout</td></tr><tr><td>2. Sharing 'about you' handout. Window on the world –What do you know?</td><td>Textbook page 8 –Reading Textbook Page 9–Vocabulary & Research about Japan Task Reading 'Bangkok surpasses London...' Handout</td></tr><tr><td>3. Unit 1 – World Tourism Vocabulary building & general knowledge tasks from text</td><td>Review Unit 1 –notes & vocabulary Optional Homework 'the modern traveler' –internet research task Pre-read Textbook –Page 15 A~D</td></tr><tr><td>4. Unit 1 – World Tourism (continued) Focus on the U.S.A.</td><td>Write and Send confirmation E-mail for Mark to the teacher. Gather information & images for your 'bus tour' project</td></tr><tr><td>5. Unit 1 – Professional Skills Listening and confirmation skills focus</td><td>Self-critique your presentation Textbook – Page 16 –2 & 3 Textbook – Page 18 –All Make mini-CV (cover letter) Fine tune CV and prepare for job interviews</td></tr><tr><td>6. Unit 1 – Case Study choosing the right package tour</td><td></td></tr><tr><td>7. City tours –planning a bus tour Workday Text Page 28–29</td><td></td></tr><tr><td>8. City tours –planning a bus tour Presentation Day</td><td></td></tr><tr><td>9. Unit 2 – Jobs in Tourism</td><td></td></tr><tr><td>10. Unit 2 – Professional Skills –Cover Letter</td><td></td></tr><tr><td>11. Unit 2 –Case Study Choosing the right person for a job Debate and discussion skills for narrowing down a candidate</td><td></td></tr><tr><td>12. A Job Interview Job interview skills and role-play</td><td></td></tr><tr><td>13. Quiz # 1</td><td></td></tr><tr><td>14. Unit 4 –Case Study Refining the 'Bus Tour' Improving a tour package with complimentary aspects</td><td></td></tr><tr><td>15. Consolidation and Speaking Challenge</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. Class introduction –textbook navigation	Fill-out –Tourism 'about you'– handout	2. Sharing 'about you' handout. Window on the world –What do you know?	Textbook page 8 –Reading Textbook Page 9–Vocabulary & Research about Japan Task Reading 'Bangkok surpasses London...' Handout	3. Unit 1 – World Tourism Vocabulary building & general knowledge tasks from text	Review Unit 1 –notes & vocabulary Optional Homework 'the modern traveler' –internet research task Pre-read Textbook –Page 15 A~D	4. Unit 1 – World Tourism (continued) Focus on the U.S.A.	Write and Send confirmation E-mail for Mark to the teacher. Gather information & images for your 'bus tour' project	5. Unit 1 – Professional Skills Listening and confirmation skills focus	Self-critique your presentation Textbook – Page 16 –2 & 3 Textbook – Page 18 –All Make mini-CV (cover letter) Fine tune CV and prepare for job interviews	6. Unit 1 – Case Study choosing the right package tour		7. City tours –planning a bus tour Workday Text Page 28–29		8. City tours –planning a bus tour Presentation Day		9. Unit 2 – Jobs in Tourism		10. Unit 2 – Professional Skills –Cover Letter		11. Unit 2 –Case Study Choosing the right person for a job Debate and discussion skills for narrowing down a candidate		12. A Job Interview Job interview skills and role-play		13. Quiz # 1		14. Unit 4 –Case Study Refining the 'Bus Tour' Improving a tour package with complimentary aspects		15. Consolidation and Speaking Challenge			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. Class introduction –textbook navigation	Fill-out –Tourism 'about you'– handout																																		
2. Sharing 'about you' handout. Window on the world –What do you know?	Textbook page 8 –Reading Textbook Page 9–Vocabulary & Research about Japan Task Reading 'Bangkok surpasses London...' Handout																																		
3. Unit 1 – World Tourism Vocabulary building & general knowledge tasks from text	Review Unit 1 –notes & vocabulary Optional Homework 'the modern traveler' –internet research task Pre-read Textbook –Page 15 A~D																																		
4. Unit 1 – World Tourism (continued) Focus on the U.S.A.	Write and Send confirmation E-mail for Mark to the teacher. Gather information & images for your 'bus tour' project																																		
5. Unit 1 – Professional Skills Listening and confirmation skills focus	Self-critique your presentation Textbook – Page 16 –2 & 3 Textbook – Page 18 –All Make mini-CV (cover letter) Fine tune CV and prepare for job interviews																																		
6. Unit 1 – Case Study choosing the right package tour																																			
7. City tours –planning a bus tour Workday Text Page 28–29																																			
8. City tours –planning a bus tour Presentation Day																																			
9. Unit 2 – Jobs in Tourism																																			
10. Unit 2 – Professional Skills –Cover Letter																																			
11. Unit 2 –Case Study Choosing the right person for a job Debate and discussion skills for narrowing down a candidate																																			
12. A Job Interview Job interview skills and role-play																																			
13. Quiz # 1																																			
14. Unit 4 –Case Study Refining the 'Bus Tour' Improving a tour package with complimentary aspects																																			
15. Consolidation and Speaking Challenge																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	We'll have lots of opportunities to speak, learn and create in this class. Keeping up with homework and attempting special research tasks assigned by the teacher is key to success in the class.																																		
フィードバックの方法:	Feedback on progress and areas that need improvement will be given during the class, when necessary, and written on all homework or assignments that are submitted.																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>Homework</td><td>10%</td><td>Textbook and Handouts</td></tr><tr><td>Classroom tasks/participation</td><td>30%</td><td>Student's effort and attitude in class</td></tr><tr><td>Semester project</td><td>30%</td><td>Main semester project</td></tr><tr><td>Consolidation and speaking Quizzes</td><td>30%</td><td>Writing and Speaking Quizzes</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	Homework	10%	Textbook and Handouts	Classroom tasks/participation	30%	Student's effort and attitude in class	Semester project	30%	Main semester project	Consolidation and speaking Quizzes	30%	Writing and Speaking Quizzes																			
評価方法	割合	評価基準																																	
Homework	10%	Textbook and Handouts																																	
Classroom tasks/participation	30%	Student's effort and attitude in class																																	
Semester project	30%	Main semester project																																	
Consolidation and speaking Quizzes	30%	Writing and Speaking Quizzes																																	
教科書:	English for International Tourism –New Edition, Iwonna Dubicka & Margaret O'Keeffe, Longman, 978–1–4479–2387–9																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力																																		

教員との連絡
方法:

buggy76@hotmail.com

授業テーマ: English for Tourism

授業の概要: This course is for CASE intermediate-level students and will help students who want to work in the travel and service field. It will also be useful for any student interested in personal travel around the world. Students will learn what they need for professional communication in hotel, airline and other related tourism services. The course will build confidence in using English in travel situations, such as travel booking, making reservations, tour guiding, and taking care of customers in English. Students will have many opportunities to practice using and listening to English in travel and work situations. We will also learn about different countries and their important tourist destinations. Project work will be focused on Kyoto and aiding tourists from abroad in that setting.

到達目標: Students will learn how to work independently and with others in order to navigate common tourism/travel related situations. Also, students will be expected to acquire the confidence, language and skills to solve more complex problems they may face in the hospitality and tourism field. A component of this course will be to raise each student's level of cross-cultural awareness, in order to handle situations which may arise in dealing with customers from other countries.

授業方法: Units from the textbook will guide the themes for each semester. Students will be expected to participate in pairwork and groupwork to complete class tasks. The class will emphasize speaking and listening but will also include reading and writing skills that will be useful for the tourism industry as well as individual travel. Homework and extra work from outside sources, including handouts, will be used to reinforce vocabulary and structures leading to the production of larger class projects.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Welcome back –activities for review	Textbook Page 52 – Vocabulary 1 & 2
2. Unit 6 – Food & Beverage Various activities from the unit The 'proposal'	Think of and plan a traditional Japanese recipe
3. Unit 6 – Case Study Restaurant rescue and upgrading the Menu Homestay Recipe	Internet Task –Research information on Costa Rica online
4. Unit 7 – Nature Tourism Planning a short itinerary	Internet Task – Research popular outdoor activities in either Hokkaido or Okinawa
5. Unit 7 – Case Study Upgrading an 'Adventure Tour'	Type-up your new tour idea Fill-out handout
6. Project 1 –'The Brochure' Computer Room –workday	Finish & Print Brochure
7. Project 1 'The Brochure' Presentation day	Textbook Page 68 – 3 & 4
8. Unit 8 – Air Travel Airport facilities & Navigating the concourse	Textbook Page 70 – Reading 3
9. Unit 8 – Air Travel (continued) Flight Safety –Prohibitions Designing the 'ideal tourist community'	Textbook Page 90 – Read over information on Isan
10. Development/Promotion – Project 2 Choose –Hermosa or Isan	Prepare for next week's class
11. Project 2 'Build it and they will come' workday –putting it together	Finish up presentation plan
12. Project 2 – Present	Read 'Japanese Culture' handout
13. East meets West Window on Japan	Work on conference idea
14. Intercultural awareness Applying what you've learned – attending an 'International Conference'	Make up assignment 'hospitality terms'
15. Consolidation & Speaking challenge	Reflect & Review –semester's work

受講者への
メッセージや
アドバイス: We'll have lots of opportunities to speak, learn and create in this class. Keeping up with homework and attempting special research tasks assigned by the teacher is key to success in the class.

フィードバックの
方法: Feedback on progress and areas that need improvement will be given during the class, when necessary, and written on all homework or assignments that are submitted.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Homework	10%	Textbook and Handouts
	Classroom tasks/participatio	30%	Student's effort and attitude in class
	Semester project	30%	Main Semester Project
	Consolidation and speaking Quizzes	30%	Writing and Speaking Quizzes

教科書: English for International Tourism –New Edition, Iwonna Dubicka & Margaret O'Keeffe, Longman, 978-1-4479-2387-9

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡
方法: buggy76@hotmail.com

授業テーマ:	人間の行動の理解と支援についての基礎知識を学ぶ																																		
授業の概要:	心理臨床の対象は、心理的問題を抱えている人と問題に直面する潜在的な可能性を持っているすべての人を対象として、心の健康の維持増進と心の問題を解決することです。この授業では、心の問題の予防と解決のために果たす心理臨床の役割を学ぶことを目標とします。まず、対象者理解の視点を身につけるために、人の心のはたらきについての基本的理論を概説します。そして心理アセスメントや心理療法の技法の具体例をあげながら、心理臨床の実際を紹介します。また、近年広く展開されつつあるスクールカウンセラーによる学校臨床、子育て支援や高齢者の心のケアといったコミュニティを中心とした臨床現場の諸領域を取り上げ、心理臨床の知見を人間関係や地域生活など身近な生活に生かすことにも関心を広げることがめざします。																																		
到達目標:	心の健康の維持増進と心理的問題を解決する心理臨床の基礎知識と技法を理解し、説明することができる。心理臨床の対象者を理解する視点を知り、実践することができる。																																		
授業方法:	主に講義形式																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 心理臨床とは何か</td><td>資料の講読</td></tr><tr><td>2. 臨床心理学の歴史</td><td>資料の講読</td></tr><tr><td>3. ライフサイクルと心理臨床</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>4. ライフサイクルと心理臨床</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>5. 心理的問題のとらえ方</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>6. 心理アセスメントの目的と方法</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>7. 心理アセスメントによるパーソナリティの理解1(知能検査と質問紙)</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>8. 心理アセスメントによるパーソナリティの理解2(投影法)</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>9. さまざまな心理療法</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>10. 心理療法1(精神分析療法・分析心理学的心理療法)</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>11. 心理療法2(クライエント中心療法)</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>12. 心理療法3(認知行動療法・行動療法)</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>13. 予防のための心理臨床</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>14. コミュニティにおける心理臨床</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>授業内容のふりかえり 資料の講読</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 心理臨床とは何か	資料の講読	2. 臨床心理学の歴史	資料の講読	3. ライフサイクルと心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読	4. ライフサイクルと心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読	5. 心理的問題のとらえ方	授業内容のふりかえり 資料の講読	6. 心理アセスメントの目的と方法	授業内容のふりかえり 資料の講読	7. 心理アセスメントによるパーソナリティの理解1(知能検査と質問紙)	授業内容のふりかえり 資料の講読	8. 心理アセスメントによるパーソナリティの理解2(投影法)	授業内容のふりかえり 資料の講読	9. さまざまな心理療法	授業内容のふりかえり 資料の講読	10. 心理療法1(精神分析療法・分析心理学的心理療法)	授業内容のふりかえり 資料の講読	11. 心理療法2(クライエント中心療法)	授業内容のふりかえり 資料の講読	12. 心理療法3(認知行動療法・行動療法)	授業内容のふりかえり 資料の講読	13. 予防のための心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読	14. コミュニティにおける心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読	15. まとめ	授業内容のふりかえり 資料の講読		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 心理臨床とは何か	資料の講読																																		
2. 臨床心理学の歴史	資料の講読																																		
3. ライフサイクルと心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
4. ライフサイクルと心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
5. 心理的問題のとらえ方	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
6. 心理アセスメントの目的と方法	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
7. 心理アセスメントによるパーソナリティの理解1(知能検査と質問紙)	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
8. 心理アセスメントによるパーソナリティの理解2(投影法)	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
9. さまざまな心理療法	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
10. 心理療法1(精神分析療法・分析心理学的心理療法)	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
11. 心理療法2(クライエント中心療法)	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
12. 心理療法3(認知行動療法・行動療法)	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
13. 予防のための心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
14. コミュニティにおける心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
15. まとめ	授業内容のふりかえり 資料の講読																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	授業のまとめとして行う試験については教室で解説する。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>100</td><td>心の健康の維持増進と心理的問題を解決する心理臨床の基礎知識と技法の理解度、心理臨床の対象者を理解する視点の重要性の認識度を評価の基準とします。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	100	心の健康の維持増進と心理的問題を解決する心理臨床の基礎知識と技法の理解度、心理臨床の対象者を理解する視点の重要性の認識度を評価の基準とします。																												
評価方法	割合	評価基準																																	
定期試験	100	心の健康の維持増進と心理的問題を解決する心理臨床の基礎知識と技法の理解度、心理臨床の対象者を理解する視点の重要性の認識度を評価の基準とします。																																	
教科書:																																			
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力																																		
教員との連絡方法:	授業時間の前後に教室で対応します。																																		

授業テーマ:

授業の概要:

この授業では、対人関係をめぐる日常的で身近な様々な現象について、主に社会心理学的にアプローチする。授業では、できるだけ身近な対人関係のテーマについて取り上げ、人間関係の複雑な網の目を少しでもほぐすことができればと考えている。

到達目標:

これまで行われてきた多くの実証研究について学び、社会心理学における専門的基礎知識を習得することを目標とする。また、そのような社会心理学の基本的な考え方や知識について学ぶことによって、自分自身やまわりの人々の心の働きや行動について“考える”力を身につけることを目標とする。

授業方法:

授業は基本的にパワーポイントを用いた講義形式で行うが、授業の理解を深めるために適宜、心理テストの実施などを行う。また授業の初めに前回の質問への回答を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションとイントロダクション	
2.	未知から既知へ ①対人認知	テキストの「エピソード」について予習
3.	未知から既知へ ②対人魅力	テキストの「エピソード」について予習
4.	親しくなる ①コミュニケーション	テキストの「エピソード」について予習
5.	親しくなる ②説得と社会的スキル	テキストの「エピソード」について予習
6.	深い関係になる ①さまざまな恋愛のタイプ	テキストの「エピソード」について予習
7.	深い関係になる ②親密な関係の維持	テキストの「エピソード」について予習
8.	深い関係になる ③親密な関係の発展	テキストの「エピソード」について予習
9.	親密な関係のなかの自分 ①自尊心と自己評価	テキストの「エピソード」について予習
10.	親密な関係のなかの自分 ②社会的比較	テキストの「エピソード」について予習
11.	親密な関係からの影響 ①ソーシャルサポート	テキストの「エピソード」について予習
12.	親密な関係からの影響 ②親密な関係の崩壊	テキストの「エピソード」について予習
13.	親密な他者集団からの影響 ①集団規範と集団凝集性	テキストの「エピソード」について予習
14.	親密な他者集団からの影響 ②集団間葛藤	テキストの「エピソード」について予習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業内容について自らの問題意識と照らし合わせながら受講することを望みます。

フィードバックの方法:

毎回の授業に対する質問がある場合は「質問シート」に記載して提出してもらいます。提出された質問には次回の授業の初めに受講者全体に対して回答します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業中に提出するコメントシート	30%	授業内容を自らの日常生活に照らし合わせて考える力身についているかを評価する。
	定期試験	70%	社会心理学における専門的基礎知識を習得することができているかを評価する。

教科書:

谷口淳一・相馬敏彦・金政祐司・西村太志（編著） エピソードでわかる社会心理学－恋愛関係・友人関係からまなぶー 北樹出版 2017年

参考書:

金政祐司・相馬敏彦・谷口淳一 史上最強図解よくわかる恋愛心理学 ナツメ社 2010年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力自己管理力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

家族関係の社会心理学

授業の概要:

青少年の「事件」が起きるたびに、背景に「家族の変容」という言説がメディアを通して流布される。我々にとって「家族」とは何か曖昧なまま、「家族の大切さ」という感情的言説を機軸にして、「家族価値への回帰」が唱導される。本講義では、第二次大戦後の我が国の家族像の変遷を辿りながら、我々にとって「家族」とはそもそも何かを心理学的に明らかにする。

到達目標:

1週間に一度は、自分のまわりの対人関係を観察し、「社会における男と女のあり方」について考えてみよう。そのために、活字メディアやニュース映像などにも積極的に接触し、観察の幅と深さを増そう。この反復によって、自分の人生デッサンの手がかりを得よう。

授業方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
2.	変容する家族	前回の講義主題の確認
3.	結婚価値の変貌	同上
4.	夫婦関係の社会心理学的特徴	同上
5.	夫婦関係を支える社会心理的スキル	同上
6.	恋愛の罟	同上
7.	成長する夫婦関係	同上
8.	夫婦関係の危機への対処	同上
9.	理想とする「夫婦」像の変遷	同上
10.	多様な夫婦像の創出(1)	同上
11.	多様な夫婦像の創出(2)	同上
12.	シングルは幸せか	同上
13.	夫婦関係の未来	同上
14.	家族の行方	同上
15.	評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:

1週間に一度は周囲に存在する様々な「家族」を観察しよう。

フィードバックの方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
	小課題(含 マナビー)	30	授業への集中と理解

教科書:

諸井克英著『夫婦関係学への誘い―揺れ動く夫婦関係―』<ナカニシヤ出版>

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー

授業テーマ:

システムとしての家族の理解と支援

授業の概要:

家族はあまりにも身近すぎて意識せずに生活を送りがちなものです。しかし、人々に安らぎを与え、人格を形成する場としての重要な役割を家族は担っています。何かと家族をめぐる問題が取りざたされる現代にあって、もう一度家族の意味を授業を通して考えてみたいと思います。授業では、社会状況の変化と関連付けながら、現代における様々な家族問題を取り上げながら、家族をとりまく心の危機を理解し、家族の健全な発達を支える心理的援助法の理論と実践について講義します。

到達目標:

家族システム論の視点からの、家族の病理・問題を把握する方法を理解し、説明することができる。
システムとしての家族の具体的な支援の技法を知り、適切に説明することができる。

授業方法:

主に講義形式、家族療法の技法の修得のためにロールプレイやグループワークも行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	私にとっての家族とは	資料の講読
2.	現代社会と家族	授業内容の復習 資料の講読
3.	家族周期と個人のライフサイクル	授業内容の復習 資料の講読
4.	家族のアセスメント	授業内容の復習 資料の講読
5.	システムとしての家族	授業内容の復習 資料の講読
6.	事例検討(演習)	授業内容の復習 資料の講読
7.	家族面接の進め方(グループワーク)	授業内容の復習 資料の講読
8.	家族療法の技法(演習)	授業内容の復習 資料の講読
9.	システム論に基づく家族療法	授業内容の復習 資料の講読
10.	コミュニケーションのいろいろ(演習)	授業内容の復習 資料の講読
11.	解決志向アプローチ	授業内容の復習 資料の講読
12.	家族療法の実際1(演習)	授業内容の復習 資料の講読
13.	家族療法の実際2(演習)	授業内容の復習 資料の講読
14.	家族療法の臨床的応用	授業内容の復習 資料の講読
15.	まとめ	授業内容の復習 資料の講読

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

まとめとして行う定期試験の解説を教室で行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	家族システム論の視点からの、家族の病理・問題を把握する方法および、システムとしての家族の具体的な支援の技法についての理解度を評価基準とします。

教科書:

参考書:

授業中に適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業時間前後に対応します。

授業テーマ: Life in Society 1

授業の概要: This course is for third-year Advanced students.
Students will be encouraged to express their views in a free and friendly atmosphere. We will be focusing on four skill areas: listening skills including strategies to improve listening, speaking skills including sharing opinions and oral presentations, vocabulary building and report writing.

到達目標: By the end of the course the students will:
1 have a working knowledge of language relevant to the topics
2 be motivated to express their opinions about the topics
3 be able to express their opinions in written form and orally about the topics

授業方法: Seminar style. Class work will consist of a variety of listening and speaking exercises in pairs, groups and open class. Students will practise sharing opinions and leading discussions. They will write a short opinion paper and give two short oral presentations, one in a pair.

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Orientation	Write self introduction
	2. Different kinds of family life Reading Exercises from Textbook. Discussion	Prepare opinion paper: Divorce in Japan
	3. Family stories Listening Exercises from Textbook. Discussion	Prepare opinion paper: Divorce in Japan
	4. Marriage and Divorce Listening Exercises from Textbook. Discussion	Prepare opinion paper: Divorce in Japan
	5. The power of the group Reading Exercises from Textbook. Discussion	Exercises from textbook
	6. Teenagers Listening Exercises from Textbook. Discussion	Prepare short individual presentation
	7. Gender in society: bringing up children Reading Exercises from Textbook. Discussion	Prepare short individual oral presentation
	8. Growing up as a boy or girl Listening Exercises from Textbook. Discussion	Prepare short individual presentation
	9. Short individual oral presentations Listening Exercises from Textbook. Discussion	Exercises from textbook
	10. Gender Discrimination Listening Exercises from Textbook. Discussion	Prepare pair oral presentation
	11. Gender Inequality Listening Exercises from Textbook. Discussion	Prepare pair oral presentation
	12. Gender and Language Listening Exercises from Textbook. Discussion	Prepare pair oral presentation
	13. Pair oral presentations	Prepare pair oral presentation
	14. Pair oral presentations	Write summaries of other students' presentations
	15. Review Pair and class discussion	Write self assessment about course

受講者への
メッセージや
アドバイス: The schedule is subject to change
Discussion and sharing opinions is central to the course. Please participate positively in English

フィードバックの
方法: Written comments on assignment papers submitted
Oral comments to individual students
Oral comments to the group as a whole

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	20	Students are allowed up to 5 absences, but they must make up work they miss.
	Class Participation	20	Positive participation in English is required at all times in class
	Opinion paper	20	A well written, reasoned opinion paper is expected
	Oral Presentations	40	A well researched and delivered presentation with power point is expected

教科書: Kim Sanabria Academic Encounters: Life in Society 3 CUP

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡
方法: cflintsato@hotmail.com

授業テーマ:	English Through Psychology		
授業の概要:	Are we products of our experiences? Are we creatures of only impulses and conflicts? Are our behaviors predetermined by our DNA? Are we just trying to fulfill our potential? How does our thinking affect us? How do social groups affect our individual behavior? Why do we have the kind of mind we have? Psychology tries to answer all these questions. In this course, we will look at and discuss such questions and answers while improving English skills (i.e., listening, speaking, and reading). Handouts, and some lecturing will be the basis for this course. The materials and talks will give the students many chances to participate in interesting and thoughtful exercises and discussions. There is a wide variety of topics for this course, and students will be asked to participate and discuss fully. Class activities will be done in small groups and pair work. Emphasis will be on participation and thinking. The benefit of this class (as well as the whole CASE program) is that it will help you in the future for TOEIC, job-hunting, and studying abroad — if you put in the effort.		
到達目標:	To develop oral skills and aural skills in English 2. To develop interpersonal and intrapersonal skills		
授業方法:	lecture, in-class pair/group work		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Course Introduction and perception	TBA	
	2. A Century of Psychology	TBA	
	3. A Century of Psychology	TBA	
	4. Discussion/Lecture on learning	TBA	
	5. Discussion/Lecture on conditioning	TBA	
	6. Our Changing Human View	TBA	
	7. Lecture on subconscious	TBA	
	8. Lecture II on subconscious	TBA	
	9. Psychology in the Everyday World	TBA	
	10. Psychology in the Everyday World	TBA	
	11. Lecture on abnormal psychology	TBA	
	12. Lecture II on abnormal psychology	TBA	
	13. Lecture on emotion	TBA	
	14. Lecture II on emotion	TBA	
	15. Review & Evaluation	TBA	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	lecture and in-class pair/group work		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class participation	33%	in-class pair/group work
	Assignments	34%	completion of homework
	Attendance	33%	attendance
教科書:	All materials will be provided in class		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	rramirez@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

Life in Society 2

授業の概要:

This course is for third year Advanced students.
Students will be encouraged to express their views in a free and friendly atmosphere. We will be focusing on four skill areas: listening skills including strategies to improve listening, speaking skills including sharing opinions and oral presentations, vocabulary building, and report writing.

到達目標:

By the end of the course the students will:
1 have a working knowledge of language connected to the topics of the course
2 be motivated to give their opinions about the topics
3 be able to give their opinons about the topics both in written form and orally

授業方法:

Seminar style: Class work will consist of a variety of listening and speaking exercises in pairs, groups and open class. Students will practise sharing opinions and leading discussions. They will write a short opinion paper and give two short oral presentations, one in a pair.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Orientation	Write about holidays and their personal study and use of English
	2. Mass Media Today Reading from textbook. Discussion	Prepare opinion paper
	3. The News Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare opinion paper
	4. Impact of the Media on Our Lives Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare opinion paper
	5. Advantages of the Media Listening exercises from textbook. Discussion	Exercises from textbook
	6. Disadvantages of Mass Media Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare individual oral presentation
	7. Dangers of Mass Media Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare individual oral presentation
	8. Crime in Society today Reading from textbook. Discussion	Prepare individual oral presentation
	9. Individual oral presentations	Exercises from textbook
	10. Crime and Criminals Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare pair oral presentations
	11. Being a Victim of Crime Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare pair oral presentations
	12. Preventing Juvenile Crime Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare pair oral presentations
	13. Pair oral presentations	Prepare pair oral presentations
	14. Pair oral presentations	Write summaries of other students' presentations
	15. Review	Write self assessment about course

受講者へのメッセージやアドバイス:

The syllabus is subject to change
Discussion and sharing opinions are central to the course. Please participate positively in English at all times in class.

フィードバックの方法:

Written comments on work submitted
Oral feedback to individual students
Oral feedback to the group

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20	Students are allowed to be absent up to five times but are expected to make up the work
	Class participation	20	Positive participation in English at all time in class
	Opinion paper	20	A well written, well reasoned opinion paper is expected
	Oral Presentations	40	A well researched and delivered presentation with appropriate use of power point is expected

教科書:

Kim Sanabria Academic Encounters: Life in Society 3 CUP

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

cfintsato@hotmail.com

授業テーマ:	English Through Psychology II		
授業の概要:	Are we products of our experiences? Are we creatures of only impulses and conflicts? Are our behaviors predetermined by our DNA? Are we just trying to fulfill our potential? How does our thinking affect us? How do social groups affect our individual behavior? Why do we have the kind of mind we have? Psychology tries to answer all these questions. In this course, we will look at and discuss such questions and answers while improving English skills (i.e., listening, speaking, and reading). Handouts, and some lecturing will be the basis for this course. The materials and talks will give the students many chances to participate in interesting and thoughtful exercises and discussions. There is a wide variety of topics for this course, and students will be asked to participate and discuss fully. Class activities will be done in small groups and pair work. Emphasis will be on participation and thinking. The benefit of this class (as well as the whole CASE program) is that it will help you in the future for TOEIC, job-hunting, and studying abroad -- if you put in the effort.		
到達目標:	1. To develop oral skills and aural skills in English 2. To develop interpersonal and intrapersonal skills		
授業方法:	Lecture and in-class pair/group work		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. Course re-introduction	TBA	
	2. Talking about Psychology	TBA	
	3. A Matter of Personality	TBA	
	4. Lecture on Personality	TBA	
	5. Lecture on Personality	TBA	
	6. Defense mechanisms, Models of personality, Temperaments and Traits	TBA	
	7. Defense mechanisms, Models of personality, Temperaments and Traits	TBA	
	8. Nature vs. Nurture	TBA	
	9. Nature vs. Nurture	TBA	
	10. Lecture on intelligence	TBA	
	11. Lecture II on Intelligence	TBA	
	12. It's All in Your Mind	TBA	
	13. It's All in Your Mind	TBA	
	14. A year in review	TBA	
	15. A year in review II	TBA	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	in-class evaluations, and assignments		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Assignments	34%	completion of homework
	Class participation	33%	in-class pair/group work
	Attendance	33%	Attendance
教科書:	All materials will be provided in class		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	rramirez@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

This course aims to improve reading skills by focusing on challenging academic style texts and through extensive reading.

To improve knowledge of important global topics, to improve motivation through regular and enjoyable reading, and to increase vocabulary and grammatical understanding and reading speed and comprehension.

Lecture and discussion.

授業内容	準備学習等の内容
1. Chapter 1 introduction and reading 1 and extensive reading.	Vocabulary Review.
2. Review Reading 1 and do Reading 2 and extensive reading.	Homework.
3. Class discussion on studying abroad and work on presentation and extensive reading.	Prepare presentation.
4. Presentations. Begin reading 3 and extensive reading.	Watch movie “The Way”.
5. Reading 3 and view clip of “ The Way”and extensive reading.	Homework.
6. Chapter 2 introduction and extensive reading.	Vocabulary Review.
7. Vocabulary quiz and reading 1 and extensive reading.	Find small presentation topic.
8. Reading 2 and vocabulary quiz and extensive reading.	Homework.
9. Reading 2 review. Reading 3 and extensive reading.	Presentation prep.
10. Presentations and extensive reading.	Homework.
11. Chapter 5 introduction and extensive reading.	Vocabulary review.
12. Reading 1 and vocabulary quiz and extensive reading.	Short writing on topic, “ What is Intelligence”.
13. Reading 2 and extensive reading.	Homework.
14. Reading 3 and review for test and extensive reading.	Study for test.
15. Chapter 5 test.	

Reading, like most skills, requires a lot of practice. In this class there will be many opportunities to practice and to develop reading habits that you might continue even after the class.

In class discussion and reporting, in addition to regular student feedback questionnaires.

評価方法	割合	評価基準
Extensive Reading	10	completing required work.
In class work and participation.	30	participation and quality of work.
Presentation	20	clarity of expression and quality of responses to the main issues presented by the instructor.
Paper	20	Quality of responses to the main issues presented by the instructor.
Test	20	Score

Longan Academic Reading Series 2. Author– Kim Sanabria. Publisher– Pearson.

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

in class consultation.

授業テーマ:

Culture, Self and Society

授業の概要:

This course explores the idea of 'culture'—what it is, and how it influences our daily lives. Students will explore a number of questions: How does culture shape us as individuals? How can we learn about other cultures without our own values getting in the way? What skills do we need to communicate effectively with someone from a different culture? How can we recognize and avoid cultural conflicts? And what can these skills teach us about our own native (Japanese) culture?

到達目標:

Students will:

- improve their ability to communicate actively in English
- gain new knowledge about both Japanese and foreign cultures
- find motivation to interact with foreign sources of news and knowledge

授業方法:

Seminar

This class involves small and large group discussions, as well as short lectures. Students will discuss readings done for homework in small groups, and then share their findings with the whole class. All communication will be done in English.

Students will be responsible for keeping a weekly journal in which they reflect on the week’s reading and classroom discussion. They will also be responsible for making a group presentation; writing a short research essay; and making an individual presentation based upon their essay.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the Course	Assigned Reading Begin Weekly Journal
	2. The Culture Concept 1	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	3. The Culture Concept 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	4. Culture and Identity 1	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Journal
	5. Culture and Identity 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	6. Culture and Society 1	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	7. Culture and Society 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	8. Stereotypes	Assigned Reading Continue Weekly Journal
	9. Culture and Face	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Journal
	10. Presentation Preparation	Prepare for Group Presentations
	11. Group Presentations 1	Prepare for Group Presentations
	12. Group Presentations 2	Prepare Essay and Individual Presentation
	13. Essay Writing Support: Individual Writing Conferences	Prepare Essay and Individual Presentation
	14. Final Presentations	Finish Essay
	15. Conclusion	Reflection on Term

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Journals – returned to students in classroom with comments
Presentations – evaluated in classroom, feedback on written marking sheet
Essays – grade and comments sent to students via Manavi

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Journals	20%	Thoroughness of Summary Independent Thinking in Reflection Written Grammar
	Attendance and Participation	30%	Deductions for Absence/Lateness Active Participation and Contribution
	Group Discussion	20%	Content Communication Clarity Visual Aids
	Essay	20%	Content and Analysis Essay Structure Written Grammar
	Individual Presentation	10%	Content Communication Clarity

教科書:

Lee, Soo im & Lisa Rogers
Culture and Conflict — Changing the World for the Better
Shohakusha, 2014

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Email address and other contact details will be provided in class.

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

This course aims to improve reading skills by focusing on challenging academic style texts and through extensive reading.

To improve knowledge of important global topics, to improve motivation through regular and enjoyable reading, and to increase vocabulary and grammatical understanding and reading speed and comprehension.

Lecture and discussion.

授業内容	準備学習等の内容
1. Chapter 8 introduction and reading 1 and extensive reading.	Vocabulary Review.
2. Review Reading 1 and do Reading 2 and extensive reading.	Homework.
3. Class discussion on Martin Luther King Jr. and work on presentation and extensive reading.	Prepare presentation.
4. Presentations. Begin reading 3 and extensive reading.	Watch movie "Glory".
5. Reading 3 and view clip of MLK speech and extensive reading.	Homework.
6. Chapter 9 introduction and extensive reading.	Vocabulary Review.
7. Vocabulary quiz and reading 1 and extensive reading.	Find small presentation topic.
8. Reading 2 and vocabulary quiz and extensive reading.	Homework.
9. Reading 2 review. Reading 3 and extensive reading.	Presentation prep.
10. Presentations and extensive reading.	Homework.
11. Chapter 10 introduction and extensive reading.	Vocabulary review.
12. Reading 1 and vocabulary quiz and extensive reading.	Short writing on topic, " Urban Living".
13. Reading 2 and extensive reading.	Homework.
14. Reading 3 and review for test and extensive reading.	Study for test.
15. Chapter 5 test.	

Reading, like most skills, requires a lot of practice. In this class there will be many opportunities to practice and to develop reading habits that you might continue even after the class.

In class discussion and reporting, in addition to regular student feedback questionnaires.

評価方法	割合	評価基準
Extensive Reading	10	completing required work.
In class work and participation.	30	participation and quality of work.
Presentation	20	clarity of expression and quality of responses to the main issues presented by the instructor.
Paper	20	Quality of responses to the main issues presented by the instructor.
Test	20	Score

Longan Academic Reading Series 2. Author- Kim Sanabria. Publisher- Pearson.

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

in class consultation.

授業テーマ: Culture, Self and Society

授業の概要: This course further explores the idea of 'culture'—what it is, and how it influences our daily lives. Using the tools and skills developed in the first term, students will explore a number of contemporary social conflicts, and try to understand how differences in culture contribute to them. The conflicts we consider will be drawn both from Japanese and foreign settings, and will involve questions of identity, gender, religion and more.

到達目標: Students will continue to:
 – improve their ability to communicate actively in English
 – gain new knowledge about both Japanese and foreign cultures
 – find motivation to interact with foreign sources of news and knowledge

授業方法: Seminar

This class involves small and large group discussions, as well as short lectures. Students will discuss readings done for homework in small groups, and then share their findings with the whole class. All communication will be done in English.

Students will be responsible for keeping a weekly journal in which they reflect on the week's reading and classroom discussion. They will also be responsible for making a group presentation; writing a short research essay; and making an individual presentation based upon their essay.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Introduction to the Term and Review of Main Ideas from Spring Term	Assigned Reading Begin Weekly Journal
2. Japanese Society: Identity and Difference 1	Assigned Reading Continue Weekly Journal
3. Japanese Society: Identity and Difference 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
4. Culture and Social Change 1	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Journal
5. Culture and Social Change 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
6. Gender, Identity and Culture 1	Assigned Reading Continue Weekly Journal
7. Gender, Identity and Culture 2	Assigned Reading Continue Weekly Journal
8. Religion, Identity and Culture 1	Assigned Reading Continue Weekly Journal
9. Religion, Identity and Culture 2	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Journal
10. Presentation Preparation	Prepare for Group Presentations
11. Group Presentations 1	Prepare for Group Presentations
12. Group Presentations 2	Prepare Essay and Individual Presentation
13. Essay Writing Support: Individual Writing Conferences	Prepare Essay and Individual Presentation
14. Final Presentations	Finish Essay
15. Conclusion	Reflection on Course

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Journals – returned to students in classroom with comments
 Presentations – evaluated in classroom, feedback on written marking sheet
 Essays – grade and comments sent to students via Manavi

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Journals	20%	Thoroughness of Summary Independent Thinking in Reflection Written Grammar
	Attendance and Participation	30%	Deductions for Absence/Lateness Active Participation and Contribution
	Group Discussion	20%	Content Communication Clarity Visual Aids
	Essay	20%	Content and Analysis Essay Structure Written Grammar
	Individual Presentation	10%	Content Communication Clarity

教科書: Lee, Soo im & Lisa Rogers
 Culture and Conflict — Changing the World for the Better
 Shohakusha, 2014

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Email address and other contact details will be provided in class.

授業テーマ:	身近なテーマから学ぶ財政学																																		
授業の概要:	私たちの生活に、政府の経済活動が欠かせません。たとえば、公共事業、電力の自由化などの規制緩和、環境問題、巨額の政府債務、税制改革、年金問題、介護保険制度、医療保険制度、地方財政改革などが数多くあります。少子高齢社会とグローバル化の中で、このような財政問題を解決せずには、日本の未来を展望することは難しいのが現状です。特に、最近では子育て支援や環境問題など新しい課題に対しても様々な政策が提示されていますが、厳しい財政状況の中で財源をどうするのか、消費税の増税などと合わせて大きな議論になっています。本講義では、経済社会において政府はどのような役割を果たすべきなのかを考える際の基本的な視点について学びます。																																		
到達目標:	財政学の基本的な理論と実際の制度について学び、現代社会が抱える課題について考える力を身につけることをめざします。																																		
授業方法:	講義形式で実施します。適宜、映像資料等を用いて最新のトピックについても分かりやすく説明します。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 財政学とは何か</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>2. 政府はなぜ必要か</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>3. 公共財とは何か</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>4. 税金とは</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>5. 所得税の理論と実際</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>6. 消費税の理論と実際</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>7. 公債と財政赤字</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>8. 年金財政の現状と課題</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>9. 医療保険財政の現状と課題</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>10. 介護保険財政の現状と課題</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>11. 児童・家族政策の現状と課題</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>12. 地方財政の仕組み</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>13. 国から地方への補助金とは？</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>14. 幸福度と財政</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>テキストを必ず読んでおくこと</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 財政学とは何か	テキストを必ず読んでおくこと	2. 政府はなぜ必要か	テキストを必ず読んでおくこと	3. 公共財とは何か	テキストを必ず読んでおくこと	4. 税金とは	テキストを必ず読んでおくこと	5. 所得税の理論と実際	テキストを必ず読んでおくこと	6. 消費税の理論と実際	テキストを必ず読んでおくこと	7. 公債と財政赤字	テキストを必ず読んでおくこと	8. 年金財政の現状と課題	テキストを必ず読んでおくこと	9. 医療保険財政の現状と課題	テキストを必ず読んでおくこと	10. 介護保険財政の現状と課題	テキストを必ず読んでおくこと	11. 児童・家族政策の現状と課題	テキストを必ず読んでおくこと	12. 地方財政の仕組み	テキストを必ず読んでおくこと	13. 国から地方への補助金とは？	テキストを必ず読んでおくこと	14. 幸福度と財政	テキストを必ず読んでおくこと	15. まとめ	テキストを必ず読んでおくこと		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 財政学とは何か	テキストを必ず読んでおくこと																																		
2. 政府はなぜ必要か	テキストを必ず読んでおくこと																																		
3. 公共財とは何か	テキストを必ず読んでおくこと																																		
4. 税金とは	テキストを必ず読んでおくこと																																		
5. 所得税の理論と実際	テキストを必ず読んでおくこと																																		
6. 消費税の理論と実際	テキストを必ず読んでおくこと																																		
7. 公債と財政赤字	テキストを必ず読んでおくこと																																		
8. 年金財政の現状と課題	テキストを必ず読んでおくこと																																		
9. 医療保険財政の現状と課題	テキストを必ず読んでおくこと																																		
10. 介護保険財政の現状と課題	テキストを必ず読んでおくこと																																		
11. 児童・家族政策の現状と課題	テキストを必ず読んでおくこと																																		
12. 地方財政の仕組み	テキストを必ず読んでおくこと																																		
13. 国から地方への補助金とは？	テキストを必ず読んでおくこと																																		
14. 幸福度と財政	テキストを必ず読んでおくこと																																		
15. まとめ	テキストを必ず読んでおくこと																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	テキストを十分に読んでおくとともに、普段から講義内容に関連する新聞記事やテレビ報道も関心を持って読んでおいてください。また、講義中に指示した予習・復習や資料の取得は忘れずに行うようにしてください。																																		
フィードバックの方法:	レポート等を実施した場合、教室でまとめて解説します。また、講義の最後に毎回質問を受け付けます。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>試験</td><td>80</td><td>財政学に関する基礎的な知識や到達目標に関する理解度により評価します。</td></tr><tr><td>レポート</td><td>20</td><td>講義中に指示したテーマについて論理的な思考を元に自らの考え方を説明できるかを基準として評価します。なお、レポートは2回実施する予定です。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	試験	80	財政学に関する基礎的な知識や到達目標に関する理解度により評価します。	レポート	20	講義中に指示したテーマについて論理的な思考を元に自らの考え方を説明できるかを基準として評価します。なお、レポートは2回実施する予定です。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
試験	80	財政学に関する基礎的な知識や到達目標に関する理解度により評価します。																																	
レポート	20	講義中に指示したテーマについて論理的な思考を元に自らの考え方を説明できるかを基準として評価します。なお、レポートは2回実施する予定です。																																	
教科書:	伊多波良雄、川浦昭彦、原田禎夫『基礎から学ぶ財政学』晃洋書房、2016。																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	質問等は随時メール(harada@daishodai.ac.jp)で受け付けます。																																		

授業テーマ:

授業の概要: 経済を理解する上で必須となる金融について論じる。

到達目標: 金融にかかる基礎的知識(具体的には、金融システム、金融市場、金融機関、金融政策、金融商品についての基礎的知識)の修得を目標に掲げる。

授業方法: 板書による講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解
2.	貨幣(教科書第2章)	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	金利(教科書第3章)	「貨幣」に対する理解
4.	経済の変動と資金の流れ(教科書第1章(改題))	「金利」に対する理解
5.	金融政策の課題と日本銀行(教科書第5章)	「経済の変動と資金の流れ」に対する理解
6.	金融政策の基本手段と新しい展開(教科書第6章)	「金融政策の課題と日本銀行」に対する理解
7.	金融システムと金融仲介機関の役割(教科書第7章)	「金融政策の基本手段と新しい展開」に対する理解
8.	中間試験	「中間試験」の準備
9.	銀行以外の金融機関(教科書第8章)	「金融システムと金融仲介機関の役割」に対する理解
10.	金融システムの安定化のための政策(教科書第9章)	「銀行以外の金融機関」に対する理解
11.	金融機関の破綻への対応策(教科書第10章)	「金融システムの安定化のための政策」に対する理解
12.	金融市場に関する規制(教科書第11章)	「金融機関の破綻への対応策」に対する理解
13.	間接金融型の金融商品(教科書第12章)	「金融市場に関する規制」に対する理解
14.	直接金融型の金融商品(教科書第13章)	「間接金融型の金融商品」に対する理解
15.	まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間試験	50	到達目標に掲げた金融にかかる基礎的知識に関する理解度により評価する。
	定期試験	50	到達目標に掲げた金融にかかる基礎的知識に関する理解度により評価する。

教科書:

家森信善『金融論』中央経済社、2016年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

担当教員のメールアドレス: mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	ヨーロッパの地域的な統合を具体例にして、グローバル化する国際社会の公共政策の発展について考察する。		
授業の概要:	ヨーロッパを対象にして、国民国家の諸政策がどのような変化を遂げるのかについて解説する。一方で、国民国家の政策の一部が超国家組織に移行してゆくとともに、他方、ミクロ地域にも権限を移している。 現在、世界各地で国家間の協力や統合が進められており、その際にEUの事例が重要なモデルとなっている。国家利害の衝突する東アジアでも、平和と協力をめざすマクロ地域を構築する必要があるが、その際にヨーロッパの経験が大いに役立つであろうと思われる。		
到達目標:	グローバル化に適応した政策変化を理解することを通じて、世界に目を向けて活躍できるビジネスパーソンの基礎を養うことを目標とする。		
授業方法:	基本的に講義の形式で行い、適宜、ビデオやプリントの教材を使用する。また、講義内容にかんする感想と意見を求める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	2. EUの3層モデル	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	3. ミクロ地域(1): アルザス地方	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	4. ミクロ地域(2): スコットランド	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	5. ECSCとEECの形成	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	6. EC・EUの発展: 組織と政策形成	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	7. 自由貿易と地域統合	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	8. 東欧加盟後のEU	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	9. EU共通農業政策	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	10. 経済通貨同盟(1): 単一通貨ユーロの導入	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	11. 経済通貨同盟(2): ユーロの課題	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	12. EU環境政策・気候政策	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	13. EU共通移民政策	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	14. EU地域政策: 地域間不均衡の是正	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	15. グローバル化と市民生活	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	新聞や報道番組を通じて、世界の動きに関心を持ち、それに対する各自の考えを持ってほしい。		
フィードバックの方法:	感想、意見、質問に対して、コメントを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 レポート	割合 100	評価基準 課題を適切に設定し、資料に基づいて正しく理解・整理し、自分の意見が述べられているか。
教科書:			
参考書:	藤井良広『EUの知識』最新版、日経文庫。 加賀美雅弘ほか『ヨーロッパ学への招待』最新版、学文社。 田中素香『ユーロ危機とギリシャ反乱』岩波書店。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール		

授業テーマ:	女性企業家—この「すばらしい」生き方を、私たちのくらしに活かそう 仕事の役割について考え、企業と起業を学ぶ。仕事をしていくということは、自分が成長し、そして、よりよい社会の構築に貢献していくことである。現代の多様な男女のあり方のなかで、よりよい女性の生き方と働き方について学ぶ。また女性企業家のリアルな事例から就活の参考にもなるよう講義をめざす。		
授業の概要:	1.仕事とは何か、企業とは何かについて、考える。組織の役割を考え、ふつうの仕事の中にも大きな幸せや社会貢献があることを実感する。 2.企業家に必要なことは「困る力」「起こす力」「継続する力」である。このことを理解する。 3.男女の多様なあり方についてみつめる。性別役割意識はいまだ根強い。その実態を考察し、自分のなかでの「偏見」についても気づく。 4.事例をみる目を養う。「すごい。私にはできない」から「私にはできない。でも、すごい」へ。 現代も「女性らしさ」への志向はいまだ強い。しかし、一方で「女性にこだわらない」企業家も増加してきている。この状況についてデータで確認する。 5.いまだ残る女性の不利益、「女性問題」についても学ぶ。 6.女性労働の経済学の基礎的な理論について学ぶ—統計的差別理論—。 6.女性起業家の変遷について学ぶ—ゴミ箱モデル— 7.諸外国の女性企業家の実態について学ぶ。 8・身近な女性企業家について学ぶ。 9・学んだことを自分の力へ。。。勝つ就活について考える。 10.勝ち抜く「就活」について考える 11.男女にかかわらずよりよい個人のあり方を実現するための社会について考える。		
到達目標:	1.仕事の意義、組織の役割について理解をする。 2.ジェンダーの実態について理解をする。 3.女性企業家の意義について理解をする。 4.学んだことを自分にいかし、よりよい就活を展開できるようにする。		
授業方法:	講義形式。レジュメや資料を配布をする。必要に応じて、DVDなどを鑑賞する。パワーポイントの利用頻度は低い。講義の終わりにコメントを記入することを要請する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 仕事の意義、組織の役割の解説。「ふつう」の仕事の中にも、大きな幸せやいのちを支える役割のあることを実感する。 2. 現代の日本における人びとの働き方とに「良い」企業について考察する。 3. ワークライフバランスについて多角的な観点から解説する。 4. 男と女のむずかしさ 5. 女性労働のデータを解説する。 6. 女性労働の実態についての経済的理論、統計的差別理論とその対策としての男女雇用機会均等法について解説する。 7. 女性起業家の変遷について(1) —ゴミ箱モデルを用いながら解説する— 8. 女性起業家の変遷について(2) —江戸から明治(広岡浅子)、昭和から平成へ(篠原欣子) 9. 女性企業家の変遷について(3) 平成の女性起業家—南場智子— 10. 企業で働く女性管理職と女性社長の概要について解説する。 11. 外国の女性企業家 —北欧の女性とマリメッコ— 12. 身近な女性企業家の紹介 —社会企業家— 13. 身近な女性企業家の紹介 —縁の下力持ち— 14. 身近な女性企業家の紹介 —祇園の地方、至芸の瞬間— 15. まとめ	身近な仕事について考える。男女それぞれに魅力のある職業人を見つけ、その方について考察する。 身近なひとの働き方について考える。身近な企業やマスコミ情報やインターネットで検索を通じて「良い企業」について考える。 自分の理想的な職業生活に考え、ライフスタイルについても思いをめぐらす。また、魅力のある仕事をしているひとのワークライフバランスについて考察する。 男女共同社会の実現は言うは易し、行うは難しである。ふつうのくらしのなかの男女の人間生活について考えてみる。また、男と女のわくにはまらない人びとについても思いをめぐらす。 家族など近な女性のライフスタイルの変化について考察する。 祖父母の世代、親の世代の違いについて考察をする。なぜ、女性差別がいまだに残るか、考えてみる。 前回の講義で配布をしたプリントを復習し、理解できなかった点については、講義のコメントで記述をする。 大同生命、テンプホールディングスについて、インターネットで会社概要について閲覧をする。 株式会社DeNAについて会社概要をインターネットで閲覧をする。 女性企業家の変遷についての配布プリントを復習する。 外国の女性企業家についての配布プリントを復習する。 魅力のある女性企業家を「発見」する 魅力のある女性企業家を「発見」する 魅力のある女性企業家を「発見」する 今までのプリントをなど復習し、不明な点については質問できるようにしておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ふつうの仕事こそがすばらしい。偉大な仕事もふつうのくらしのなかからうまれてきます。。 仕事の原動力は「困る力」です。仕事の展開は「起こす力」で、「継続していく力」が他の人びとへの貢献に結びついていきます。 「できない」ことこそが、そのひとの財産です。これからの女性に必要なことは、「おこられる」力です。 このことを講義の学習を通じて実感してください。		
フィードバックの方法:	前回の講義への学生からのコメントについて、講義のはじめにその総括を行う。講義の参考になり、学生間の共有化が望ましくと判断したコメントは紹介する。なお、個人の特定はできないように配慮をするので、コメントは自由に書くこと。		

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	講義へのコメント レポート	50 50	講義の理解、自らの考えの展開をする。 基礎的な知識の理解、講義を受けての自らの考えの展開をする。論理的な展開であるかどうか。

教科書:

参考書: 渡辺峻 守屋貴司編(2016)『活躍する女性会社役員の国際比較 一役員登用と活性化する経営』シリーズ〈女・あすに生きる〉24 ミネルヴァ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の後に教室内で対応。メールアドレスなどに関しては、後日通知。

授業テーマ:

時代とともに変化を遂げる流通:そのダイナミズムの背景を基礎から学ぼう

授業の概要:

流通は商的流通・物的流通・情報流通の面で消費者と生産者を結びつける重要な機能を果たしています。その活動の実際は商品分野、業態、規模等の違いによりバラエティに富んでいますが、一方で規制緩和、国際化、「IT革命」のもとで今日、大きな変化を受けつつあります。本講では現代社会において流通の果たしている役割を正しく理解するため、石原武政・竹村正明編著(2008)『1からの流通論』にもとづき「様々なタイプの小売業」、「小売業を支える背後の仕組み」、「流通の理論」の順に体系的に学んでゆきます。

到達目標:

第1に様々なタイプの小売業について学び、業態の考え方をに解する。
第2に小売業を支える背後の仕組みを学び、商業の役割並びに流通システムについて理解する。
第3に流通の基礎理論を理解する。
第4に「そろばん」、すなわち商業者が意思決定にあたり物差しとする会計的な管理指標について理解する。

授業方法:

講義形式で授業します。講義時の配布資料は全てマナビーにアップします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 様々なタイプの小売業(1) 百貨店と総合スーパー	教科書の第2章を読んでおく
	3. 様々なタイプの小売業(2) 食品スーパーとCVS	教科書の第3章を読んでおく
	4. 様々なタイプの小売業(3) ディスカウントストアとSPA	教科書の第4章を読んでおく
	5. 様々なタイプの小売業(4) 商店街とショッピングセンター	教科書の第5章を読んでおく
	6. 小売業を支える背後の仕組み(1) 変化する流通構造	教科書の第6章を読んでおく
	7. 小売業を支える背後の仕組み(2) 小売業態とは何か	教科書の第7章を読んでおく
	8. 小売業を支える背後の仕組み(3) 日本型取引慣行	教科書の第8章を読んでおく
	9. 小売業を支える背後の仕組み(4) 流通系列化からの脱皮	教科書の第9章を読んでおく
	10. 小売業を支える背後の仕組み(5) ロジステックス	教科書の第10章を読んでおく
	11. 流通の理論(1) 売買集中の原理と品揃え形成	教科書の第11章を読んでおく
	12. 流通の理論(2) 商業の外部性と商業集積	教科書の第12章を読んでおく
	13. 流通の理論(4) 延期化と投機化	教科書の第13章を読んでおく
	14. 流通の理論(5) 生産と流通の新しい関係	教科書の第14章を読んでおく
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

できるだけ教科書の関連する章を読んでおいてください。
毎回、理解度を確認するために、マナビーを利用して自動採点方式の小テストを行います。小テストは授業終了後、2日以内に回答して下さい。
試験に向けては、本講義のキーワード集をマナビーにアップしますので、しっかり復習して下さい。

フィードバックの方法:

定期試験の模範解答例並びに総評をマナビーの掲示板に載せます。
また、毎回、マナビーを利用して小テストを行いますが、その際に自由記入欄に授業中によくわからなかった点や希望を記入していただければ、教員より個別に回答いたします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	10	毎回、マナビーを利用して小テストを行い、知識・理解度を確認します。
	定期試験	90	到達目標を踏まえ、知識・理解度並びに思考力、文章表現力を総合的に評価します。

教科書:

石原武政・竹村正明編著(2008)『1からの流通論』碩学舎

参考書:

授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーの小テスト(コメント)機能・掲示板機能並びにEメールの利用。

授業テーマ:			
授業の概要:	国際ビジネスにおける主要なテーマである国際貿易・投資について論じる。		
到達目標:	国際ビジネスにおける主要なテーマである国際貿易・投資についての基礎的知識の修得を目標に掲げる。具体的には、貿易が行われる理由、政府が貿易に介入する理由、地域経済統合が形成される理由、海外投資が行われる理由、について理解することを目指す。		
授業方法:	板書による講義形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
	2.	なぜ貿易が行われるのか(その1)(教科書第1章)	「ガイダンス」の内容に対する理解
	3.	なぜ貿易が行われるのか(その2)(教科書第1章)	「なぜ貿易が行われるのか(その1)」に対する理解
	4.	なぜ貿易が行われるのか(その3)(教科書第1章)	「なぜ貿易が行われるのか(その2)」に対する理解
	5.	なぜ政府は貿易に介入するのか(その1)(教科書第2章)	「なぜ貿易が行われるのか(その3)」に対する理解
	6.	なぜ政府は貿易に介入するのか(その2)(教科書第2章)	「なぜ政府は貿易に介入するのか(その1)」に対する理解
	7.	なぜ政府は貿易に介入するのか(その3)(教科書第2章)	「なぜ政府は貿易に介入するのか(その2)」に対する理解
	8.	中間試験	「中間試験」の準備
	9.	なぜ地域統合が行われるのか(その1)(教科書第3章)	「なぜ政府は貿易に介入するのか(その3)」に対する理解
	10.	なぜ地域統合が行われるのか(その2)(教科書第3章)	「なぜ地域統合が行われるのか(その1)」に対する理解
	11.	なぜ地域統合が行われるのか(その3)(教科書第3章)	「なぜ地域統合が行われるのか(その2)」に対する理解
	12.	なぜ海外投資が行われるのか(その1)(教科書第4章)	「なぜ地域統合が行われるのか(その3)」に対する理解
	13.	なぜ海外投資が行われるのか(その2)(教科書第4章)	「なぜ海外投資が行われるのか(その1)」に対する理解
	14.	なぜ海外投資が行われるのか(その3)(教科書第4章)	「なぜ海外投資が行われるのか(その2)」に対する理解
	15.	まとめ	「まとめ」の準備
受講者へのメッセージやアドバイス:	本授業では、上記教科書の第I部について取り扱う。なお第II部については「国際金融論」の授業で取り扱う予定なので、あわせて履修すると効果的である。		
フィードバックの方法:	中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	中間試験	50	到達目標に掲げた国際ビジネスについての基礎的知識に関する理解度により評価する。
	期末試験	50	到達目標に掲げた国際ビジネスについての基礎的知識に関する理解度により評価する。
教科書:	浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣、2011年		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	教員のメールアドレス: mokura@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction & Orientation	To be determined
	2. Careers	To be determined
	3. Group Discussion I	To be determined
	4. Employment	To be determined
	5. Import – Export	To be determined
	6. Marketing	To be determined
	7. Group Discussion II	To be determined
	8. Innovation	To be determined
	9. Negotiation	To be determined
	10. Group Discussion	To be determined
	11. Development	To be determined
	12. Review and preparation for Final Presentation	To be determined
	13. Ethics	To be determined
	14. Preparation for Final Presentations	To be determined
	15. Final Presentations	To be determined

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor. The completion of in-class writing assignments will be graded as part of participation.
	Homework	25	Approximately 1 hour of homework per week should be expected, though may not be consistent. Students will be required to hand in all homework assignments on time.
	Group Discussions	25	Students will be expected to prepare and present their research for group discussions 3 times during the course of the semester.
	Final Presentation	25	Students will be expected to prepare for one individual presentation at the course of the semester. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

授業テーマ: International Business Communication

授業の概要: This course aims to stimulate communication in an international context. All 4 skills; Reading, Writing, Speaking, and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening. Critical and creative thinking will be practiced and business strategies learned to enable students who complete this course successfully to navigate international business environments with confidence.

到達目標: Fluency in speaking and basic presentation skills. Reading competency especially of newspaper/magazine style English. Ability to create reports, proposals, summaries, action plans and to write emails and letters skillfully. To develop critical assessment of business situations and logical action and follow up. To produce rather than imitate. To cross cultural barriers and feel at ease in business practices in English.

授業方法: Interactive

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

1. Block 1: weeks 1-4
Unit 1 Careers
overall goals: Test 1(vocabulary.), Writing 1 (emails) , Speaking 1 (f-t-f 3 min presentation – personal career path)
2. Unit 1 Careers
Introduction to Business Presentations
general strategies/pronunciation/making a memo
Personal career pathway
Case Study 1 – class tasks
3. Test 1 (correction and grading in class)
Presentation 1 performance Part 1 – assessment
peer + teacher: recommendations for improving
4. Presentation 1 Performance Part 2
Grammar answers and explanations (speaking practice)
5. Block 2: weeks 5-8
Unit 2 Companies
overall goals: Test 2 (vocabulary + grammar), Writing 2 (email to report team meeting), Speaking 2 (Case Study: Investment Plan – 5 mins pp)
6. Business Presentations – power point/strategies
Introductions/Aims/Changing to new section/Conclusions – making a memo
Case Study 2 – class tasks – meeting
7. Test 2 (correction and grading in class)
Presentation 2 Performance Part 1
Grammar answers and explanation (speaking practice)
8. Presentation 2 Performance Part 2
Further strategies
9. Block 3: weeks 9-11
Unit 3 Selling
Overall goals: Test 3 (vocabulary + Listening), Writing 3 (business letter); Speaking 3 (negotiating 7 mins pp)
10. Test 3 (correction and grading in class)
Presentation 3 (pair/group) practice/ Part 1
Grammar answers and explanations (speaking practice)
Saying 'No' politely (intercultural)
11. Presentation 3 Performance Part 2
Further improvements/peer assessment
Collaboration – Co-operation
Vocabulary book/system check
12. Block 4: weeks 12-15
Unit 4 Great Ideas
Overall goals: Test 4 (vocabulary, grammar), Writing 4 (short report), Speak 4 (meeting strategies)
Progress Test 1 review
13. Test 4 (correction and grading in class)
Presentation 4 (meeting style, f-t-f) Part 1
- Leading a meeting
14. Grammar answer and explanation (speaking practice)
Presentation 4 practice – Part 2
Grammar answers and explanations (speaking practice)
Vocabulary book/system check
Review of learning achievements and skills acquired
15. Final Assessment
Discussion : suggestions about vacation work and continuing to keep contact with English
watch presentation/meeting videos – visible improvement.

準備学習等の内容

- Test preparation
Creation of Vocabulary Book
Listening and Reading (3 texts)
- Basic Writing Skills review 1:
sentences/paragraphs/greetings
Presentation preparation and practice
Writing 1 : (500 words minimum)
- Grammar practice (Present Tenses Unit 1)
- Preparation Unit 2 – readings and listening
Vocabulary Book/system check
- Basic Writing Skills review 2: email etiquette and abbreviations/tone
Presentation preparation and practice
Writing 2: (500 words minimum)
Test preparation
Extra Listening practice
More work on Writing 2
- Grammar Practice (Past Tenses Unit 2)
Presentation practice/improvement
- Preparation Unit 3 – readings and listening
Vocabulary Book/system check
Basic Writing Skills review 3: letter formal etiquette and abbreviations/tone
Presentation preparation and practice
Writing 3: (700 words minimum)
Test preparation
Extra Listening Practice
Grammar Practice (Unit 3 combining past and present)
- Preparation Unit 4 – readings and listening
Revision A – Units 1-3
Progress Test 1 – Units 1-3
- Basic Writing Skills review 4: report – summarizing/clarifying and appraising
Presentation preparation and practice
Writing 4: (700 words minimum)
Test preparation
Extra Listening Practice
Grammar Practice (Unit 4 future)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

On this course, if you work hard and follow my instructions carefully you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence

and leadership qualities.

フィードバックの方法:

Peer assessment. Test advice. Writing correction and drafting. Regular Class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4-week block.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Block 1: test, presentation, writing, participation	25	Participation and effort, and willingness to communicate in English
Block 2: test, presentation Writing, participation	25	Participation and effort, and willingness to communicate in English
Block 3: test, presentation writing, participation	25	Participation and effort, and willingness to communicate in English
Block 4: test, presentation writing, participation	25	Participation and effort, and willingness to communicate in English

教科書: Cotton D., Falvey D., Kent S. Market Leader : Pre-intermediate with DVD Rom, 3rd Edition. Pearson

参考書: Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD-Rom) – Collins/ Thomson Heinle
Longman Business English Dictionary (with CD-Rom) Pearson Longman
Market Leader Business Grammar and Usage Strutt, P. Longman

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: lindenthorp@gmail.com

授業テーマ:

授業の概要: Students will have the opportunity to grow their four skills (speaking, listening, reading, and writing), with a special emphasis on the theme of Business, both within Japan and in the world.

到達目標: This is a CASE course focused on Business English Skills. We will emphasize presentations, in-class writing, and discussions. The course is designed to help students achieve higher TOEIC scores.

授業方法: Text-based learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, and have discussions in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Review & Orientations	To be determined
	2. Businesses	To be determined
	3. Job Interviews	To be determined
	4. Group Discussion I	To be determined
	5. Working Abroad	To be determined
	6. Leaders	To be determined
	7. Group Discussion II	To be determined
	8. Meetings	To be determined
	9. Business Trips	To be determined
	10. Group Discussion III	To be determined
	11. Online Businesses	To be determined
	12. Sales	To be determined
	13. Customers	To be determined
	14. Preparation for Final Presentation	To be determined
	15. Final Presentations	To be determined

受講者へのメッセージやアドバイス: This course will be based text materials, student research, and other relevant materials prepared by the teacher. Students will be expected to prepare for group discussions and in-class activities, as well as presentations.

フィードバックの方法: Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Participation	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor. The completion of in-class writing assignments will be graded as part of participation.
	Homework	25	Approximately 1 hour of homework per week should be expected, though may not be consistent. Students will be required to hand in all homework assignments on time.
	Group Discussions	25	Students will be expected to prepare and present their research for group discussions 3 times during the course of the semester.
	Final Presentation	25	Students will be expected to prepare for one individual presentation at the course of the semester. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法: kkimdoshisha@gmail.com

授業テーマ: International Business Communication

授業の概要: This course aims to stimulate communication in an international context. All 4 skills; Reading, Writing, Speaking and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening. Critical and creative thinking will be practiced and business strategies learned to enable students who complete this course successfully to navigate international business environments with confidence.

到達目標: Fluency in speaking and basic presentation skills. reading competency especially of newspaper/magazine style-English. Ability to create reports, proposals, summaries, action plans and to write emails and letters skillfully. To develop critical assessment of business situations and logical action and follow up. To produce rather than imitate. To cross cultural barriers and feel at ease in business practices in English.

授業方法: interactive

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

1. Block 1 : weeks 1-4
Unit 5 Stress
overall goals: Test 1 (vocabulary), Writing 1(recommendations report), Speaking 1 (pp presentation – 5mins – Solutions to Stress)
2. Presentation Skills – effective openings
intonation and fluency
Case Study 5 – class tasks – small group discussion and meeting as one group
3. Test 1 (correction and grading in class)
Presentation performance Part 1 – assessment (peer + teacher)
recommendations for improvement-general speaking practice for fluency
4. Presentation 1 Performance Part 2
Grammar answers and explanations (speaking practice)
5. Block 2 : weeks 5-8
Unit 6 Entertaining
overall goals: Test 2 (listening), Writing 2 (letter as CEO), Speaking 2 (Case Study: conference venue choice/organization – pp pres. 10 mins)
Doing Business Internationally
6. Test 2 (correction and grading in class)
Presentation 2 practice and Part 1 performance
7. Presentation 2 Performance Part 2
Further speaking strategies
8. Grammar answers and explanations (speaking practice)
9. Block 3: weeks 9-11
Unit 7 New Business
Progress Test review
overall goals: Test 3 (vocabulary + idioms), Writing 3 (extended email), Speaking 3 (f-t-f summarizing of case study info – 3 mins)
10. Test 3 (correction and grading in class)
Presentation 3 practice and Part 1 performance
11. Presentation 3 Performance Part 2
Further speaking strategiesGrammar answers and explanations (speaking practice)
12. Unit 8 Marketing
overall goals: test 4 (open book comprehension), Writing 4 (Market survey – data and action), Speaking 4 (pp Market Research Project 10 mins)
13. Test 4 (correction and grading in class)
Presentation 4 practice and Part 1 performance
14. Presentation 4 Performance Part 2
Further speaking strategies
Grammar answers and explanations (speaking practice)
15. Final Assessment
Discussion ; suggestions about vacation work and continuing to keep contact with English
watch presentation/meeting videos to see visible communicative improvement

準備学習等の内容

Test preparation
Vocabulary collection
Unit Listening and Reading (3 texts)
Creation of English Environment to be visited daily for a short time
Basic Writing Skills review 1 – report language – formal/informal; complex sentences
Writing 1: (700 words)

Grammar Practice (Conditionals)
test review

Preparation Unit 6 – readings and listening
Vocab. Collection
English Environment check/recommendations
Basic Writing Skills review 2 – paragraph planning, accuracy, using pronouns to avoid repetition
Writing 2: (700 words)
Test preparation

Extra Listening and Reading practice.
More work on Writing 2.
test review
Grammar Practice (Verb combinations)
Presentation fluency and gestures
Preparation Unit 7 – readings and listening
Vocab collection/ English Environment – reading strategies
Revision B
Progress Test 2 (units 4-6)
Basic Writing Skills review 3 – tone & register; planning; anticipating response
Writing 3: (1000 words)
Test preparation

Extra Listening and Reading practice.
More work on Writing 3.
test review
Grammar Practice (Passives)
Presentation – rhetorical questions/stress
Preparation Unit 8 – readings and listening
Vocab collection/ English Environment – reading strategies

Basic Writing Skills review 4 – making survey questions
Writing 4: (1000 words)
Test preparation

Extra Listening and Reading practice.
More work on Writing 4.
test review
Grammar Practice (modal verbs)
Presentation – survival strategies
Review & revisiting of all readings and listenings
extended listening practice

受講者への
メッセージや
アドバイス:

On this course, if you work hard and follow my instructions carefully you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and leadership qualities.

フィードバックの方法:	Peer assessment. Test advice. Writing correction and drafting. Regular class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4/ week block.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Block 1: test, presentation, writing, participation & effort	25%	Participation and effort, and willingness to communicate in English.
	Block 2: test, presentation, writing, participation & effort	25%	Participation and effort, and willingness to communicate in English.
	Block 3: test, presentation, writing, participation & effort	25%	Participation and effort, and willingness to communicate in English.
	Block 4: test, presentation, writing, participation & effort	25%	Participation and effort, and willingness to communicate in English.
教科書:	Coton D., Falvey D., Kent S.. Market Leader: Pre-intermediate with DVD Rom, 3rd Edition. Pearson		
参考書:	Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD Rom) – Collins/Thomson Heinle (recent edition, paper) Longman Business English Dictionary (with CD Rom) Pearson Longman Market Leader Business Grammar and Usage. Strutt, P.		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	lindenthorp@gmail.com		

授業テーマ: Contemporary business studies in English

授業の概要: This course is for intermediate-level CASE students who want to develop their all-round English language ability, whilst learning about today's corporate world. A wide variety of business topics will be covered enabling the students to acquire a broad base of business knowledge. Students will also become familiar with numerous practices and procedures used in the day-to-day running of a modern corporate entity. The profiles and business philosophies of a few inspirational entrepreneurs will be analysed. Business-related vocabulary frequently used in TOEIC tests will also be studied.

到達目標: * Increase knowledge of today's business world

* Improve intrinsic and extrinsic motivation

* Develop all-round English language communication ability

授業方法: Workshop-style classes will be held in English. Textbook studies will form the basis of the coursework. Short texts, audio dialogues, and video segments will be analysed. Frequent in-class activities will be done in pairs and small groups. This class will adhere to the eclectic method of TEFL whilst applying the continuous assessment approach for grading.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Course overview; "Getting-to-know-you" activity	Make a name card
2. Unit 1 – Meeting for the first time	Finish page 6
What to do when meeting someone for the first time	
3. Unit 1 – Meeting for the first time (cont.)	Finish pages 9 and 10 Review work
What to do when meeting someone for the first time	
4. Unit 2 – Calling contacts	Finish page 13 Review work
Making calls; leaving messages; listening to voicemail; taking messages	
5. Unit 2 – Calling contacts (cont.)	Finish page 17 Review work
Making calls; leaving messages; listening to voicemail; taking messages	
6. Unit 3 – Talking about schedules	Finish page 19 Review work
Talking about schedules; making appointments; rescheduling meetings	
7. Unit 3 – Talking about schedules (cont.)	Finish page 24 Review work
Talking about schedules; making appointments; rescheduling meetings	
8. Mid-semester assessment task; Video activity	Video activity homework Review work
9. Successful businesspeople – analysis	Successful businesspeople homework
10. Unit 4 – Company performance	Finish page 27 Review work
Presenting figures; describing graphs; comparing information; presenting information	
11. Unit 4 – Company performance (cont.)	Finish pages 30 and 31 Review work
Presenting figures; describing graphs; comparing information; presenting information	
12. Contemporary business issues	Contemporary business issues homework Review work
13. Unit 5 – Products and services	Finish page 34 Review work
Describing products; asking about products; talking about company activities; talking about services; what to do when visiting a client	
14. Unit 5 – Products and services (cont.)	Finish page 38 Review work
Describing products; asking about products; talking about company activities; talking about services; what to do when visiting a client	
15. Conclusion	Review and consolidation of coursework

受講者へのメッセージやアドバイス: Students should prepare for class by reviewing the previous week's work and completing any assigned work in a timely manner.

Any work that is handed in late will incur a penalty.

If a student misses class, it is the student's responsibility to find out what was missed and to complete it.

フィードバックの方法: Any written work that is submitted will receive feedback on form and content. Corrections and comments will be written on student papers before they are returned to them.

Oral reports will be graded according to a presentation rubric. Feedback will be given to each student soon after the last oral report is given.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class attendance	10%	Students can miss up to 4 classes and still pass this course. However, each unexcused absence will incur a 2% penalty. If a student has an excused absence, she must present the Notice of Absence (issued by the Student Affairs Office) to the instructor in order to avoid the 2% penalty.

Class participation and overall effort	10%	To achieve a high score for this component, students need to contribute to class discussions by asking and answering as many questions as possible.
Homework	10%	Points will be deducted if a student frequently forgets her textbook. Homework will be given to help students to comprehend the coursework.
Mid-semester assessment task	30%	An assessment task will be conducted halfway through the semester to determine how well the students are coping with the course.
Conclusion	40%	A final test to determine if the students have understood the key concepts of the course and whether they deserve to pass or not.

教科書: R. Barnard and J. Cady. Business Venture 2 (Third edition). Oxford University Press

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法: I will be on campus on Fridays.
Please ask me your questions before, during, or after class.

授業テーマ: Contemporary business studies in English

授業の概要: This course is for intermediate-level CASE students who want to develop their all-round English language ability, whilst learning about today's corporate world. A wide variety of business topics will be covered enabling the students to acquire a broad base of business knowledge. Students will also become familiar with numerous practices and procedures used in the day-to-day running of a modern corporate entity. The profiles and business philosophies of a few inspirational entrepreneurs will be analysed. Business-related vocabulary frequently used in TOEIC tests will also be studied.

到達目標: * Increase knowledge of today's business world

* Improve intrinsic and extrinsic motivation

* Develop all-round English language communication ability

授業方法: Workshop-style classes will be held in English. Textbook studies will form the basis of the coursework. Short texts, audio dialogues, and video segments will be analysed. Frequent in-class activities will be done in pairs and small groups. This class will adhere to the eclectic method of TEFL whilst applying the continuous assessment approach for grading.

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course overview; "Getting-to-know-you" activity	Make a name card
2.	Unit 6 – Talking about decisions	Finish page 41 Review work
	An industry history; cause and effect; business decisions; explaining decisions; franchises	
3.	Unit 6 – Talking about decisions (cont.)	Finish page 44 Review work
	An industry history; cause and effect; business decisions; explaining decisions; franchises	
4.	Unit 7 – Complaints and problems	Finish page 47 Review work
	Receiving a complaint; making a complaint; dealing with a complaint; complaints and solutions; hotel problems	
5.	Unit 7 – Complaints and problems (cont.)	Finish page 50 Review work
	Receiving a complaint; making a complaint; dealing with a complaint; complaints and solutions; hotel problems	
6.	Unit 8 – Checking progress	Finish page 53 Review work
	Travel arrangements; getting an update; giving an update; updates and future plans; a business trip	
7.	Unit 8 – Checking progress (cont.)	Finish pages 57 and 58 Review work
	Travel arrangements; getting an update; giving an update; updates and future plans; a business trip	
8.	Mid-semester assessment task; Video activity	Video activity homework
9.	Successful businesspeople – analysis	Successful businesspeople homework
10.	Unit 9 – Future prospects	Finish page 61 Review work
	Forecasting; predicting trends; making decisions; financial advice; looking at the long-term future	
11.	Unit 9 – Future prospects (cont.)	Finish page 65 Review work
	Forecasting; predicting trends; making decisions; financial advice; looking at the long-term future	
12.	Contemporary business issues	Contemporary business issues homework Review work
13.	Unit 10 – Regulations and advice	Finish page 68 Review work
	Discussing job requirements; traveling by plane; company regulations; flight advice; giving advice	
14.	Unit 10 – Regulations and advice (cont.)	Finish page 71 Review work
	Discussing job requirements; traveling by plane; company regulations; flight advice; giving advice	
15.	Conclusion	Review and consolidation of the coursework

受講者へのメッセージやアドバイス: Students should prepare for class by reviewing the previous week's work and completing any assigned work in a timely manner.

Any work that is handed in late will incur a penalty.

If a student misses class, it is the student's responsibility to find out what was missed and to complete it.

フィードバックの方法: Any written work that is submitted will receive feedback on form and content. Corrections and comments will be written on student papers before they are returned to them.

Oral reports will be graded according to a presentation rubric. Feedback will be given to each student soon after the last oral report is given.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class attendance	10%	Students can miss up to 4 classes and still pass this course. However, each unexcused absence will incur a 2% penalty. If a student has an excused absence, she must present the Notice of Absence (issued by the Student Affairs Office) to the instructor in order to avoid the 2% penalty.

Class participation and overall effort	10%	To achieve a high score for this component, students need to contribute to class discussions by asking and answering as many questions as possible.
Homework	10%	Points will be deducted if a student frequently forgets her textbook. Homework will be given to help students to comprehend the coursework.
Mid-semester assessment task	30%	An assessment task will be conducted halfway through the semester to determine how well the students are coping with the course.
Conclusion	40%	A final test to determine if the students have understood the key concepts of the course and whether they deserve to pass or not.

教科書: R. Barnard and J. Cady. Business Venture 2 (Third edition). Oxford University Press

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: I will be on campus on Fridays.
Please ask me your questions before, during, or after class.

授業テーマ: Legal Studies

授業の概要: This course aims to encourage communication about matters related to the law from a society viewpoint. All 4 skills: Reading, Writing, Speaking and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening, and general communication. Critical and creative thinking skills and strategies will be practiced to enable students to be able to converse about current international issues from a wide perspective confidently.

到達目標: Fluency and ease with spoken English. Reading competency and depth of understanding of intermediate cases/texts and above. Ability to write a basic discursive short essay in academic style/formal letter and to speak extensively, to question and to summaries. The international global arena will be considered at all times while at the same time generating new perspectives on Japan.

授業方法: Interactive: short teacher-led lectures

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

- | 授業内容 |
|--|
| 1. Block 1: weeks 1-4
The Environment and Globalization
overall goals: Test 1 (legal vocabulary), Writing 1 (extended paragraphs), Speaking 1 (f-t-f 3 min presentation-academic interest)
Intro: The Environment |
| 2. Introduction to Presentation techniques
Intro of Case 1: assessment and prediction of verdict
Class tasks-survey |
| 3. Test 1 (correction/grading in class)
Presentation 1 Performance Part 1
assessment and advice
Intro. Globalization |
| 4. Speaking warm-up
Presentation 1 Performance Part 2
assessment and advice |
| 5. Block 2: weeks 5-8
Employment and Gender
overall goals: Test 2 (political/legal vocabulary), Writing 2 (short opinion essay), Speaking 2 (pairs interview - 5 mins)
Intro. Employment |
| 6. Presentation strategies -
collaboration/cooperation pronunciation/stress
Introduction of Case 2: assessment & prediction of verdict |
| 7. Test 2 (correction and grading in class)
Presentation 2 Performance Part 1
assessment and advice
Intro. Gender |
| 8. Speaking warm-up
Presentation 2 performance Part 2
(peer)assessment and advice |
| 9. Block 3: weeks 9-11
The Supernatural
overall goals: Test 3 (emotional/legal vocabulary), Writing 3 (short academic essay), Speaking 3 (pp Presentation 7 mins) |
| 10. Test 3 (correction and grading in class)
Presentation 3 Performance Part 1
assessment and advice |
| 11. Speaking warm-up
Presentation 3 Performance Part 2 |
| 12. Block 4: 12-15
Organ Tissue and Donation
overall goals: Test 4 (medical/legal vocabulary), Writing 4 (formal letter to the Editor), Speaking 4 (pp Presentation - survey report) |
| 13. Test 4 (correction and grading in class)
Presentation 4 Performance Part 1
assessment and advice |
| 14. Speaking warm-up
Presentation 3 Performance Part 2
Peer assessment |
| 15. Final Assessment
Discussion: suggestions about vacation work and continuing to keep contact with English
Watch presentation videos - visible improvement |

準備学習等の内容

- | |
|---|
| Test preparation
Creation of Vocabulary system/book
Reading & Question reflection
Listening |
| Basic Writing Skills review 1:
sentences/paragraphs/formatting
Presentation preparation/practice
Writing 1: (500 words)
Test review
More work on Writing 1 |
| Preparation for Block 2 |
| Test preparation
Vocabulary collection check
Readings and reflective questions
Listening |
| Basic Writing Skills review 2:
cohesion, mindmapping, paragraph planning - punctuation
Writing 2: (700 words) |
| Test review/prep for retake
More work on Writing 2 |
| Preparation for Block 3 |
| Test preparation
Vocabulary collection check
Readings and reflective questions
Listening |
| Basic Writing Skills review 3:
paraphrasing/quotations: basic citations and referencing
Writing 3: (700 words) |
| Preparation for Block 4
more work on Writing 3 |
| Test preparation
Vocabulary collection check
Readings and reflective questions
Listening |
| Basic Writing Skills review 4:
more paraphrasing/quotations: basic citations and referencing: introductions and conclusions
Writing 4: (1000 words) |
| Draft 1 Writing 4
Grand Review of all topics and cases
General work on Memorization - reading/eye movements/glancing |

受講者へのメッセージやアドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions carefully you can hoped to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language, as well as developing personal confidence and a wide perspective on the Law and Society.

フィードバックの方法: Peer assessment. Test strategies and advice. Writing correction and drafting. Regular class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4 week Block.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Block 1: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations; improving writing skills
	Block 2: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations; improving writing skills
	Block 3: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations; improving writing skills
	Block 4: test, presentation writing, participation	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations; improving writing skills
教科書:	Goodmacher G. Stimulating Conversation. Intercom Press.		
参考書:	Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD-Rom) – Collins/Thomson Heinle (most recent edition) Powell R. Viewpoints in Law. Macmillan.		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	lindenthorp@gmail.com		

授業テーマ: Legal Studies

授業の概要: This course aims to encourage communication about matters related to the law from a society point of view. All 4 skills: Reading, Writing, Speaking and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening, and general communication. Critical and creative thinking skills and strategies will be practiced to enable students to be able to converse about current international issues from a wide perspective confidently.

到達目標: Fluency and ease with spoken English. Reading competency and depth of understanding of intermediate cases/texts and above. Ability to write a basic short discursive essay in academic style, a formal letter, and to speak extensively, to question and summarize. The international global arena will be considered at all times while at the same time generating new perspectives on Japan.

授業方法: interactive: short teacher-led lectures

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

1. Block 1: weeks 1-4
Animal Rights and Violence/Nonviolence
overall goals: Test 1 (legal/technical vocab.),
Writing 1 (short comparative essay), Speaking 1 (f-
t-f 5 min presentation)
Intro: Animal Rights
2. New presentation techniques/strategies
Intro of Case 1: assessment and prediction of
verdict
Class tasks
3. Test 1 (correction/grading in class)
Presentation 1 Performance Part
assessment and advice
Intro: Violence/Non-violence
4. Speaking warm up
Presentation 1 Performance Part 2
assessment and advice
5. Block 2: weeks 5-8
Education Today and The Family
overall goals: Test 2 (legal/technical vocab.)
Writing 2 (short essay with fixed sources)
Speaking 2 (pp 7 min pairs presentation)
Intro: Education Today
6. Intro of Case 2: assessment and prediction of
verdict
Class tasks
7. Test 2 (correction/grading in class)
Presentation 2 Performance Part 1
Intro: The Family
8. Speaking warm up
Presentation 2 Performance Part 2
assessment and advice
9. Block 3: weeks 9-11
Marriage and Divorce/Sex Education
overall goals: Test 3 (legal/technical vocab.),
Writing 3 (short technical report based on survey),
Speaking 3 (f-t-f 5 min. present. of survey)
10. Test 3 (correction/grading in class)
Presentation 3 Performance Part 1
Intro of Case 3: assessment and prediction of
verdict
Intro: Sex Education
11. Speaking warm up
Presentation 3 Performance Part 2
assessment and advice
12. Block 4: 12-15
Morality and Immorality
overall goals: Test 4 (legal/ethical/moral vocab.),
Writing 4 (short academic essay), Speaking 4
(Debate Presentation)
13. Test 4 (correction/grading in class)
Presentation 4 Performance Part 1
Intro of Case 4: assessment and prediction of
verdict
14. Speaking warm up
Presentation 4 Performance Part 2
assessment and advice
15. Final Assessment
Discussion: suggestions about vacation work and
continuing to keep in contact with English
Watch presentation videos – to see visible
improvement

準備学習等の内容

- Test preparation
Vocabulary collection system
Reading and Question reflection
Listening
- Basic Writing Skills review: 1
(punctuation and complex sentences/referencing)
Presentation preparation and practice
Writing 1: (700 words)
Test review/retake
More work on Writing 1
- Preparation for Block 2
- Test preparation
Vocabulary collection system
Reading and Question reflection
Listening
- Basic Writing Skills review: 2
(choosing quotations, summarizing and evaluating)
Presentation 2 preparation and practice
Writing 2: (1000 words)
Test review/retake
More work on Writing 2
- Preparation for Block 3
- Test preparation
Vocabulary collection system
Reading and Question reflection
Listening
- Basic Writing Skills review: 3
(expanding, reiteration)
Presentation 3 preparation and practice
Writing 3: (1000 words)
- Preparation for Block 3
- Test preparation
Vocabulary collection system
Reading and Question reflection
Listening
- Basic Writing Skills review: 4
(cohesion/style)
Presentation 4 preparation and practice
Writing 4: (1000 words)
Grand Review of Semester topics/materials/cases
General work of memorization

受講者への
メッセージや
アドバイス:

On this course, if you work hard and follow my instructions, you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and a wide perspective on the Law and Society.

フィードバックの方法: Peer assessment. Test strategies and advice. Writing correction and drafting. Regular class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4 week Block.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Block 1: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
	Block 2: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
	Block 3: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
	Block 4: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills

教科書: Goodmacher G. Stimulating Conversation. Intercom Press.

参考書: Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD Rom) – Collins/Thomson Heinle (most recent edition)
Powell R. Viewpoints in Law. Macmillan.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: lindenthorp@gmail.com

授業テーマ: Legal Studies

授業の概要: This course aims to encourage communication about matters related to the law from a society viewpoint. All 4 skills: Reading, Writing, Speaking and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening, and general communication. Critical and creative thinking skills and strategies will be practiced to enable students to be able to converse about current international issues from a wide perspective confidently.

到達目標: Fluency and ease with spoken English. Reading competency and depth of understanding of intermediate legal cases/texts and above. Ability to write a basic short discursive essay in academic style and to speak extensively, to question and to summarize. The international global arena will be considered at all times while at the same time getting new perspectives on Japan.

授業方法: Interactive. Short lectures

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Block 1: weeks 1-4 The Environment and Globalization overall goals: Test 1 (legal vocabulary), Writing 1 (extended paragraphs), Speaking 1 (f-t-f 3 min presentation-academic interest) Intro: The Environment	Test preparation Creation of Vocabulary system/book Reading & Question reflection Listening
2. Introduction to Presentation techniques Intro of Case 1: assessment and prediction of verdict Class tasks-survey	Basic Writing Skills review 1: sentences/paragraphs/formatting Presentation preparation/practice Writing 1: (500 words)
3. Test 1 (correction/grading in class) Presentation 1 Performance Part 1 assessment and advice Intro. Globalization	Test review More work on Writing 1
4. Speaking warm-up Presentation 1 Performance Part 2 assessment and advice	Preparation for Block 2
5. Block 2: weeks 5-8 Employment and Gender overall goals: Test 2 (political/legal vocabulary), Writing 2 (short opinion essay), Speaking 2 (pairs interview - 5 mins) Intro. Employment	Test preparation Vocabulary collection check Readings and reflective questions Listening
6. Presentation strategies - collaboration/cooperation pronunciation/stress Introduction of Case 2: assessment & prediction of verdict	Basic Writing Skills review 2: cohesion, mindmapping, paragraph planning - punctuation Writing 2: (700 words)
7. Test 2 (correction and grading in class) Presentation 2 Performance Part 1 assessment and advice Intro. Gender	Test review/prep for retake More work on Writing 2
8. Speaking warm-up Presentation 2 performance Part 2 (peer)assessment and advice	Preparation for Block 3
9. Block 3: weeks 9-11 The Supernatural overall goals: Test 3 (emotional/legal vocabulary), Writing 3 (short academic essay), Speaking 3 (pp Presentation 7 mins)	Test preparation Vocabulary collection check Readings and reflective questions Listening
10. Test 3 (correction and grading in class) Presentation 3 Performance Part 1 assessment and advice	Basic Writing Skills review 3: paraphrasing/quotations: basic citations and referencing Writing 3: (700 words)
11. Speaking warm-up Presentation 3 Performance Part 2	Preparation for Block 4 more work on Writing 3
12. Block 4: 12-15 Organ Tissue and Donation overall goals: Test 4 (medical/legal vocabulary), Writing 4 (formal letter to the Editor), Speaking 4 (pp Presentation - survey report)	Test preparation Vocabulary collection check Readings and reflective questions Listening
13. Test 4 (correction and grading in class) Presentation 4 Performance Part 1 assessment and advice	Basic Writing Skills review 4: more paraphrasing/quotations: basic citations and referencing: introductions and conclusions Writing 4: (1000 words)
14. Speaking warm-up Presentation 3 Performance Part 2 Peer assessment	Draft 1 Writing 4 Grand Review of all topics and cases General work on Memorization - reading/eye movements/glancing
15. Final Assessment Discussion: suggestions about vacation work and continuing to keep contact with English Watch presentation videos - visible improvement	

受講者へのメッセージやアドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions carefully you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language, as well as developing personal confidence and a wide perspective on the Law and Society.

フィードバックの方法: Peer assessment. Test strategies and advice. Writing correction and drafting. Regular class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4 week Block.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Block 1: test, writing, speaking, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests: continual efforts to assess and improve all skills
	Block 2: test, writing, speaking, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests: continual efforts to assess and improve all skills
	Block 3: test, writing, speaking, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests: continual efforts to assess and improve all skills
	Block 4: test, writing, speaking, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests: continual efforts to assess and improve all skills

教科書: Goodmacher G. Stimulating Conversation. Intercom Press.

参考書: Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD-Rom) – Collins/Thomson Heinle (most recent edition)
Powell R. Viewpoints in Law. Macmillan.

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法: lindenthorp@gmail.com

授業テーマ: Legal Studies

授業の概要: This course aims to encourage communication about matters related to the law from a society point of view. All 4 skills: Reading, Writing, Speaking and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening, and general communication. Critical and creative thinking skills and strategies will be practiced to enable students to be able to converse about current international issues from a wide perspective confidently.

到達目標: Fluency and ease with spoken English. Reading competency and depth of understanding of intermediate cases/texts and above. Ability to write a basic short discursive essay in academic style, a formal letter, and to speak extensively, to question and summarize. The international global arena will be considered at all times while at the same time generating new perspectives on Japan.

授業方法: interactive: short teacher-led lectures

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

1. Block 1: weeks 1-4
Animal Rights and Violence/Nonviolence
overall goals: Test 1 (legal/technical vocab.),
Writing 1 (short comparative essay), Speaking 1 (f-
t-f 5 min presentation)
Intro: Animal Rights
2. New presentation techniques/strategies
Intro of Case 1: assessment and prediction of
verdict
Class tasks
3. Test 1 (correction/grading in class)
Presentation 1 Performance Part
assessment and advice
Intro: Violence/Non-violence
4. Speaking warm up
Presentation 1 Performance Part 2
assessment and advice
5. Block 2: weeks 5-8
Education Today and The Family
overall goals: Test 2 (legal/technical vocab.)
Writing 2 (short essay with fixed sources)
Speaking 2 (pp 7 min pairs presentation)
Intro: Education Today
6. Intro of Case 2: assessment and prediction of
verdict
Class tasks
7. Test 2 (correction/grading in class)
Presentation 2 Performance Part 1
Intro: The Family
8. Speaking warm up
Presentation 2 Performance Part 2
assessment and advice
9. Block 3: weeks 9-11
Marriage and Divorce/Sex Education
overall goals: Test 3 (legal/technical vocab.),
Writing 3 (short technical report based on survey),
Speaking 3 (f-t-f 5 min. present. of survey)
10. Test 3 (correction/grading in class)
Presentation 3 Performance Part 1
Intro of Case 3: assessment and prediction of
verdict
Intro: Sex Education
11. Speaking warm up
Presentation 3 Performance Part 2
assessment and advice
12. Block 4: 12-15
Morality and Immorality
overall goals: Test 4 (legal/ethical/moral vocab.),
Writing 4 (short academic essay), Speaking 4
(Debate Presentation)
13. Test 4 (correction/grading in class)
Presentation 4 Performance Part 1
Intro of Case 4: assessment and prediction of
verdict
14. Speaking warm up
Presentation 4 Performance Part 2
assessment and advice
15. Final Assessment
Discussion: suggestions about vacation work and
continuing to keep in contact with English
Watch presentation videos – to see visible
improvement

準備学習等の内容

- Test preparation
Vocabulary collection system
Reading and Question reflection
Listening
- Basic Writing Skills review: 1
(punctuation and complex sentences/referencing)
Presentation preparation and practice
Writing 1: (700 words)
Test review/retake
More work on Writing 1
- Preparation for Block 2
- Test preparation
Vocabulary collection system
Reading and Question reflection
Listening
- Basic Writing Skills review: 2
(choosing quotations, summarizing and evaluating)
Presentation 2 preparation and practice
Writing 2: (1000 words)
Test review/retake
More work on Writing 2
- Preparation for Block 3
- Test preparation
Vocabulary collection system
Reading and Question reflection
Listening
- Basic Writing Skills review: 3
(expanding, reiteration)
Presentation 3 preparation and practice
Writing 3: (1000 words)
- Preparation for Block 3
- Test preparation
Vocabulary collection system
Reading and Question reflection
Listening
- Basic Writing Skills review: 4
(cohesion/style)
Presentation 4 preparation and practice
Writing 4: (1000 words)
Grand Review of Semester topics/materials/cases
General work of memorization

受講者への
メッセージや
アドバイス:

On this course, if you work hard and follow my instructions, you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and a wide perspective on the Law and Society.

フィードバックの方法: Peer assessment. Test strategies and advice. Writing correction and drafting. Regular class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4 week Block.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Block 1: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
	Block 2: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
	Block 3: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
	Block 4: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills

教科書: Goodmacher G. Stimulating Conversation. Intercom Press.

参考書: Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD Rom) – Collins/Thomson Heinle (most recent edition)
Powell R. Viewpoints in Law. Macmillan.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: lindenthorp@gmail.com

授業テーマ:	グローバル人材育成のための英語教育
授業の概要:	英語の散文(評論やエッセー)を講読する中で、英文の読解力を養う。また一方で、TOEICのリーディング練習を行う。TOEIC (Test of English for International Communication)は英語を母語としない人のための、英語によるコミュニケーション能力を測る試験であり、大学生の英語力を測定するために現在最もよく使われている標準テストである。学内の自主学習CALLプログラム(Super English/ALC Net Academy2)の課外利用も推奨して、TOEICなどの英語の資格試験でのスコアアップをめざす。
到達目標:	1. 受講生のレベルに応じた英文の正確な読解力が身についていること。 2. TOEICのスコアを各受講生が設定したレベルに上げること。
授業方法:	学科のより専門領域に関連した英文の講読を中心に行うが、内容を批判的に読むことも大切である。読み取った後に、内容について話し合ったり、自分の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに関する読解の問題演習も実施する。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の1であるが、どのように配分するかは担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業オリエンテーションなど	
	2. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	3. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	4. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	5. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	6. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	7. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	8. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	9. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	10. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	11. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	12. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	13. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	14. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う
	15. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読むことを前提として授業を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:	予習として、授業で扱うテキストに含まれる語彙・連語等を調べ、書き手の意図を掴んでおくことが大切である。また、授業中に学んだ事柄を復習すると同時に、各自の読み方を復習することが大切である。自主学習CALLプログラムに関しては、各自で目標を設定して主体的・継続的に取り組むこと。
フィードバックの方法:	各担当者が適切なフィードバックを行うが、原則として教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	40	出席、授業中の意欲的な態度、発表など
	試験・小テストなど	60	英文の総合的な読解力

教科書:	クラス別テキスト:担当者によって異なる TOEICのテキスト:担当者により指示する

参考書:	

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	授業時に各担当者から連絡する

授業テーマ:

Reading for International Understanding

授業の概要:

Reading is the one of the keys to academic success in any language. This course will allow students English to practice using their reading skills as they would in future careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. This course will focus on reading skills necessary for understanding every day signs and written messages as well as short news reports. This will include weekly practice of reading skills necessary to increase vocabulary and improve reading for overall meaning and content to strengthen other communication skills, such as listening, speaking, and writing.

到達目標:

This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to skim and understand and present and discuss information and opinions on academic topics about what they read. They should also be able to read and quickly understand basic work-type situations using English.

授業方法:

Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
	2. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	3. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	4. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	5. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	6. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	7. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	8. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	9. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	10. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	11. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	12. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	13. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	14. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	15. Self-reflection; Wrap-up	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a skills class. That means students will be asked to do some reading preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities reporting and discussing what they have read in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyable classroom experience. Students should check Manabi and their DWC e-mail every week.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class Participation & Attendance	30%	Active participation in class and group work
	Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work
	Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects
	M-Reader Activities	10%	M-Reader Progress

教科書:

Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

授業テーマ:	グローバル人材育成のための英語教育		
授業の概要:	「Academic Reading I」での授業内容を受け継ぎ、その主旨を深めるとともに、今日の社会に対する、さらに深い理解と偏りのない判断へと導くことに主眼を置く。 また一方で、TOEICのリーディング練習を行う。TOEIC (Test of English for International Communication) は英語を母語としない人のための、英語によるコミュニケーション能力を測る試験であり、大学生の英語力を測定するために現在最もよく使われている標準テストである。学内の自主学習CALLプログラム (Super English/ALC Net Academy2) の課外利用も推奨して、TOEICなどの英語の資格試験でのスコアアップをめざす。		
到達目標:	1. Academic Reading I よりもさらに正確で深い読解力が身についていること。 2. TOEICのスコアを各自が設定したレベルよりも上げること。		
授業方法:	学科のより専門領域に関連した英文の講読を中心に行うが、内容を批判的に読むことも大切である。読み取った後に、内容について話し合ったり、自分の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに関する読解の問題演習も実施する。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の1であるが、どのように配分するかは担当者により異なる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業オリエンテーションなど	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	2. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	3. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	4. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	5. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	6. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	7. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	8. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	9. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	10. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	11. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	12. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	13. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	14. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
	15. 散文講読(内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等)	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う	
受講者へのメッセージやアドバイス:	予習として、授業で扱うテキストに含まれる語彙・連語等を調べ、書き手の意図を掴んでおくことが大切である。また、授業中に学んだ事柄を復習すると同時に、各自の読み方を復習することが大切である。自主学習CALLプログラムに関しては、各自で目標を設定して主体的・継続的に取り組むこと。		
フィードバックの方法:	各担当者が適切なフィードバックを行うが、原則として教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	40	出席、授業中の意欲的な態度、発表など 英文の総合的な読解力
	試験・小テストなど	60	
教科書:	クラス別テキスト: 担当者によって異なる TOEICのテキスト: 担当者により指示する		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業時に各担当者から連絡する		

授業テーマ:

Reading for International Understanding

授業の概要:

Reading is the one of the keys to academic success in any language. This course will allow students English to practice using their reading skills as they would in future careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. This course will focus on reading skills necessary for understanding every day signs and written messages as well as short news reports. This will include weekly practice of reading skills necessary to increase vocabulary and improve reading for overall meaning and content to strengthen other communication skills, such as listening, speaking, and writing.

到達目標:

This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to skim and understand and present and discuss information and opinions on academic topics about what they read. They should also be able to read and quickly understand basic work-type situations using English.

授業方法:

Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
	2. Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	3. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	4. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	5. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	6. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	7. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	8. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	9. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	10. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	11. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	12. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	13. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
	14. Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a skills class. That means students will be asked to do some reading preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities reporting and discussing what they have read in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyable classroom experience. Students should check Manabi and their DWC e-mail every week.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class Participation & Attendance	30%	Active participation in class and group work
	Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work
	Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects
	M-Reader Activities	10%	M-Reader Progress

教科書:

Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

授業テーマ:

授業の概要: This is an academic listening class, thus the primary goal for this course will be to improve students' listening abilities through a variety of listening resources. Students will learn vocabulary and ideas from textbook units (including supplementary materials provided by the instructor) and learn how to synthesize this information and complete a variety of creative listening and speaking tasks and small task-based projects, both individually and in small groups.

到達目標: Gradually build students ability and confidence to 'hear' English through regular and progressive listening tasks. Expose students to the different challenges presented in their quest to improve overall listening ability by augmenting the textbook CD with supplementary materials, including DVDs and extra listening activities from an Internet-based, listening website, A major focus of several classes throughout the semester will be to simplify and improve the test-taking skills necessary in order to build confidence, and ultimately, performance on the listening sections of the TOEIC test.

授業方法: Units from the textbook will guide the themes for each semester. themes will be enhanced by the teacher using a variety of formats (text, video, audio-Internet/CD, story), followed by pair and small group tasks. Listening Homework and extra work from the text and handouts will be used to reinforce vocabulary and structures leading to the production of larger class projects.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Class Introduction; textbook navigation; expectations and evaluation; introduction to listening homework.	Weekly Listening Homework Textbook –Page 5 –Vocabulary
	2. Unit 1 Fashion Trends –textbook listening, vocabulary and activities	Weekly Listening Homework
	3. Unit 1 Personal tastes & aesthetics; relating personal experiences and expressing opinions on fashion; preparing for 'School Dress Code' committee discussion & decision	Weekly Listening Homework
	4. Unit 1 'School Dress Code' activity; Brand Loyalty & Marketing	Weekly Listening Homework Read –Fashion Handout
	5. Unit 1 Fashion & advertising introduction to mini-project 1	Weekly Listening Homework
	6. Unit 1 (conclusion) Preparation and Presentations + TOEIC focus 1	Weekly Listening Homework Textbook –Page 59 –Vocabulary
	7. Unit 4 Games and Life –textbook listening, vocabulary and activities	Weekly Listening Homework Textbook –Page 68 –Part A
	8. Unit 4 Product knowledge and predicting people's needs –the demographic	Weekly Listening Homework
	9. Unit 4 'Nintendo –an open call for ideas!' –developing an educational video/board game	Weekly Listening Homework Bring game boards and/or materials
	10. Unit 4 (conclusion) keys to a successful presentation; presenting your game ideas to the class + TOEIC focus 2	Weekly Listening Homework Textbook –Page 23 & 25 – Vocabulary
	11. Unit 2 How can colors be useful –textbook listening, vocabulary and activities + 'Colors and Psychology' listening/reading	Weekly Listening Homework
	12. .Unit 2 describing objects and places in detail + TOEIC focus 3	Weekly Listening Homework Read 'TOEIC Tips' handout
	13. Unit 2 'Let's build it' Museum design project	Weekly Listening Homework Read over handouts
	14. .Unit 2 Japanese Aesthetics –stocking the museum	Weekly Listening Homework
	15. Conclusion to semester 1 Museum presentations	Independent listening over holidays

受講者へのメッセージやアドバイス: Keeping up with homework and completing weekly listening assignments are essential. There is a large vocabulary learning component to the course, so students are advised to adopt a good system for review and memorization of key vocabulary and concepts. We'll have lots of opportunities to listen, speak, learn and create in this class.

フィードバックの方法: Feedback on progress and areas that need improvement will be given during the class, when necessary, and written on all homework or assignments that are submitted.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Listening homework	30%	Internet-based weekly homework
	Classroom tasks/participation	20%	Student's effort
	Semester project 1	20%	Project based on classwork
	Semester project 2	30%	Project based on classwork

教科書: Q: Skills for Success – student book 2 – Listening and Speaking
Margaret Brooks; Oxford University Press

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡
方法:

buggy76@hotmail.com

授業テーマ:

授業の概要: This is an academic listening class, thus the primary goal for this course will be to improve students' listening abilities through a variety of listening resources. Students will learn vocabulary and ideas from textbook units (including supplementary materials provided by the instructor) and learn how to synthesize this information and complete a variety of creative listening and speaking tasks and small task-based projects, both individually and in small groups.

到達目標: Gradually build students ability and confidence to 'hear' English through regular and progressive listening tasks. Expose students to the different challenges presented in their quest to improve overall listening ability by augmenting the textbook CD with supplementary materials, including DVDs and extra listening activities from an Internet-based, listening website, A major focus of several classes throughout the semester will be to simplify and improve the test-taking skills necessary in order to build confidence, and ultimately, performance on the listening sections of the TOEIC test

授業方法: Units from the textbook will guide the themes for each semester. themes will be enhanced by the teacher using a variety of formats (text, video, audio-Internet/CD, story), followed by pair and small group tasks. Listening Homework and extra work from the text and handouts will be used to reinforce vocabulary and structures leading to the production of larger class projects.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Welcome back; refocusing for semester II	Weekly Listening Homework
	2. Unit 8 What makes a good storyteller? -textbook listening, vocabulary and activities	Weekly Listening Homework Write out music stories
	3. Unit 8 keys to making your story more interesting - good/bad day stories	Weekly Listening Homework Prepare 'worst day' story
	4. Unit 8 'You're a Liar!' -storytelling task The art of good storytelling meets the art of good listening; follow-up questions	Weekly Listening Homework Response & follow up questions homework
	5. Unit 8 (conclusion) Tell a personal story -using figurative language for effect + TOEIC focus 1	Weekly Listening Homework Prepare final stories
	6. Unit 7 What happens to our trash? -textbook listening, vocabulary and activities	Weekly Listening Homework Read 'ecology' handout
	7. Unit 7 Problem solving in Ecology; Sustainability -reading homework	Weekly Listening Homework Textbook Page 115 Vocabulary
	8. Unit 7 summarizing a listening and preparing for panel discussion + TOEIC focus 2	Weekly Listening Homework Prepare for Genetic Engineering discussion
	9. Unit 7 (conclusion) 'Genetic engineering and the instant Chihuahua'; modern vs traditional farming; introduction to mini-project 1	Weekly Listening Homework Read over days worksheets
	10. Unit 10 How important is cleanliness? -textbook listening, vocabulary and activities	Weekly Listening Homework
	11. What is your 'carbon footprint?' + TOEIC focus 3	Weekly Listening Homework
	12. Class video '11th hour' and activities	Weekly Listening Homework Read 'Okinawa' task handout
	13. Escape to Okinawa -introduction to final presentation project on sustainability	Weekly Listening Homework flesh out 'Okinawa' ideas
	14. Project workday and begin presentations	Weekly Listening Homework finalize presentation ideas
	15. Conclusion to semester 2 Okinawan island presentations	Independent listening over holidays

受講者へのメッセージやアドバイス: Keeping up with homework and completing weekly listening assignments are essential. There is a large vocabulary learning component to the course, so students are advised to adopt a good system for review and memorization of key vocabulary and concepts. We'll have lots of opportunities to listen, speak, learn and create in this class.

フィードバックの方法: Feedback on progress and areas that need improvement will be given during the class, when necessary, and written on all homework or assignments that are submitted.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Listening homework	30%	Internet-based weekly homework
	Classroom tasks/participation	20%	Student's effort
	Semester project 1	20%	Project based on classwork
	Semester project 2	30%	Project based on classwork

教科書: Q: Skills for Success – student book 2 – Listening and Speaking
Margaret Brooks; Oxford University Press

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡
方法:

buggy76@hotmail.com

授業テーマ:

Successful Communication in English

授業の概要:

This is a speaking course for advanced first-year students. Students will be encouraged to speak freely in a friendly class atmosphere. The course introduces many interesting, informative topics which will encourage students to communicate their feelings and ideas. We will practise the following speaking and listening skills: discussion, dialogue, giving a simple oral presentation, and building a working vocabulary.

到達目標:

By the end of the course students will:
1 have basic linguistic knowledge to communicate about topics on the course
2 be motivated to communicate their feelings and ideas about the topics
3 be able to conduct dialogues and basic discussions, give a simple oral presentation and build a working vocabulary for communication

授業方法:

Seminar and practical training style : Class work will consist of a variety of speaking and listening exercises, including discussion and dialogues. We will work in pairs, groups and open class. Students will also practise giving a simple oral presentation.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Orientation	Write self introduction
	2. Getting Acquainted	Prepare vocabulary for Class 3
	3. Expressing Yourself 1	Prepare vocabulary for quiz
	4. Expressing Yourself 2 Vocabulary Quiz 1	Prepare dialogues
	5. Cultural Superstitions Present dialogues in class	Research Japanese superstitions
	6. Story telling	Prepare Quiz 2
	7. Education and learning 1 Quiz 2	Write paragraph about high school experiences
	8. Education and learning 2	Prepare vocabulary for Quiz 3
	9. Values 1 Quiz 3	Exercises from textbook
	10. Values 2	Prepare oral poster presentation Prepare vocabulary for Quiz 4
	11. Customs around the world 1 Quiz 4	Prepare oral poster presentation
	12. Customs around the world 2 Practise presentation skills	Prepare oral poster presentation
	13. Oral Presentations	Prepare oral poster presentation
	14. Oral Presentations	Write summary of other students' presentations
	15. Review	Write self assessment about course

受講者へのメッセージやアドバイス:

The schedule is subject to change
This is a communications class so positive participation in English at all times in class is required

フィードバックの方法:

Written comments on work submitted, and also for delivery of dialogue and presentation
Oral comments to individual students in class
Oral comments to the whole class
Results of Quizzes

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20	Students are allowed to be absent up to five times, but are expected to make up all work they miss
	Class participation	60	Dialogues, discussions, vocabulary quizzes, communication exercises. Students must participate in these activities in English at all times.
	Oral presentation	20	Demonstrate basic presentation skills practised in class.

教科書:

Leo Jones Let's Talk 3 CUP

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

cflintsato@hotmail.com

授業テーマ:	Successful Communication in English																																		
授業の概要:	This is a speaking course for advanced first-year students. Students will be encouraged to speak freely in a friendly class atmosphere. The course introduces many interesting, informative topics which will encourage students to communicate their feelings and ideas. We will practise the following speaking and listening skills: discussion, dialogue, giving a simple oral presentation, and building a working vocabulary.																																		
到達目標:	By the end of the course students will: 1 have linguistic knowledge to communicate about topics in the course 2 be motivated to communicate their feelings and ideas about the topics 3 be able to conduct dialogues and basic discussions, give a simple oral presentation and build a working vocabulary for communication																																		
授業方法:	Seminar and practical training style: Class work will consist of a variety of speaking and listening exercises, including discussion and dialogues. We will work in pairs, groups and open class. Students will also practise giving a simple oral presentation.																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. Orientation</td><td>Write about holiday and personal English study plan</td></tr><tr><td>2. Health 1</td><td>Prepare list of health ideas</td></tr><tr><td>3. Health 2</td><td>Prepare a dialogue</td></tr><tr><td>4. Money and Life Present dialogue</td><td>Prepare vocabulary for Quiz 1</td></tr><tr><td>5. Relationships 1 Quiz 1</td><td>Prepare vocabulary for next class</td></tr><tr><td>6. Relationships 2</td><td>Prepare a mind map about their relationships</td></tr><tr><td>7. Self Improvement 1 Short talks in groups using mind maps</td><td>Prepare vocabulary for Quiz 2</td></tr><tr><td>8. Self Improvement 2 Quiz 2</td><td>Prepare pair oral presentations</td></tr><tr><td>9. Travel and Tourism 1</td><td>Prepare pair oral presentations</td></tr><tr><td>10. Travel and Tourism 2</td><td>Prepare pair oral presentations</td></tr><tr><td>11. Pair Oral Presentations</td><td>Prepare pair oral presentations</td></tr><tr><td>12. Pair Oral Poster Presentations</td><td>Write summaries of other students' presentations</td></tr><tr><td>13. Employment 1</td><td>Prepare vocabulary for Quiz 3</td></tr><tr><td>14. Employment 2 Quiz 3</td><td>Review Autumn course work.</td></tr><tr><td>15. Review</td><td>Write their self assessment of the course</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. Orientation	Write about holiday and personal English study plan	2. Health 1	Prepare list of health ideas	3. Health 2	Prepare a dialogue	4. Money and Life Present dialogue	Prepare vocabulary for Quiz 1	5. Relationships 1 Quiz 1	Prepare vocabulary for next class	6. Relationships 2	Prepare a mind map about their relationships	7. Self Improvement 1 Short talks in groups using mind maps	Prepare vocabulary for Quiz 2	8. Self Improvement 2 Quiz 2	Prepare pair oral presentations	9. Travel and Tourism 1	Prepare pair oral presentations	10. Travel and Tourism 2	Prepare pair oral presentations	11. Pair Oral Presentations	Prepare pair oral presentations	12. Pair Oral Poster Presentations	Write summaries of other students' presentations	13. Employment 1	Prepare vocabulary for Quiz 3	14. Employment 2 Quiz 3	Review Autumn course work.	15. Review	Write their self assessment of the course		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. Orientation	Write about holiday and personal English study plan																																		
2. Health 1	Prepare list of health ideas																																		
3. Health 2	Prepare a dialogue																																		
4. Money and Life Present dialogue	Prepare vocabulary for Quiz 1																																		
5. Relationships 1 Quiz 1	Prepare vocabulary for next class																																		
6. Relationships 2	Prepare a mind map about their relationships																																		
7. Self Improvement 1 Short talks in groups using mind maps	Prepare vocabulary for Quiz 2																																		
8. Self Improvement 2 Quiz 2	Prepare pair oral presentations																																		
9. Travel and Tourism 1	Prepare pair oral presentations																																		
10. Travel and Tourism 2	Prepare pair oral presentations																																		
11. Pair Oral Presentations	Prepare pair oral presentations																																		
12. Pair Oral Poster Presentations	Write summaries of other students' presentations																																		
13. Employment 1	Prepare vocabulary for Quiz 3																																		
14. Employment 2 Quiz 3	Review Autumn course work.																																		
15. Review	Write their self assessment of the course																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	The schedule may change This is a communications course and so positive participation in English is required in class at all times																																		
フィードバックの方法:	Written feedback on work submitted including short essay, dialogue, presentation and mind map Oral feedback to individual students in class Group feedback to whole class Quiz results																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>Attendance</td><td>20</td><td>Students are allowed to be absent up to five times, but are expected to make up all the work they miss</td></tr><tr><td>Class participation</td><td>60</td><td>Participation in all activities including dialogues, discussions, presentation and communication skills work</td></tr><tr><td>Oral presentation</td><td>20</td><td>Well researched script and demonstration of presentation skills practised in class.</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	Attendance	20	Students are allowed to be absent up to five times, but are expected to make up all the work they miss	Class participation	60	Participation in all activities including dialogues, discussions, presentation and communication skills work	Oral presentation	20	Well researched script and demonstration of presentation skills practised in class.																						
評価方法	割合	評価基準																																	
Attendance	20	Students are allowed to be absent up to five times, but are expected to make up all the work they miss																																	
Class participation	60	Participation in all activities including dialogues, discussions, presentation and communication skills work																																	
Oral presentation	20	Well researched script and demonstration of presentation skills practised in class.																																	
教科書:	Leo Jones Let's Talk 3 CUP																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、																																		
教員との連絡方法:	cflintsato@hotmail.com																																		

授業テーマ:

English as a Tool for Communication

授業の概要:

The primary objective of this course will be for students to develop a stronger awareness of English as a tool for communication. Students will work on getting away from simply 'speaking in English' and move towards 'communicating in English'.

到達目標:

☆ Lessons will focus on listening and talking about a variety of topics and acquiring the skills to speak more clearly and confidently.
☆ Activities to enable students to take a more active and independent role in their learning will be emphasized.
☆ The key word is to be 'positive'.

授業方法:

The class will follow the 'active learning' method. Class activities will mainly be conducted in pairs or in small groups. Emphasis will be placed on active student participation. Students will be expected to 'stay in English'.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introductions Ice Breaking Activities Introduction to class	Prepare materials for next class Informal writing exercise
2.	Unit 1 My Life A. People	Textbook assignment Prepare for mini presentation
3.	Mini presentation Online workbook introduction	Online assignment
4.	Unit 1 My Life B. Lessons Learned	Textbook assignment
5.	B. Lessons Learned	DVD assignment Online assignment
6.	Unit 2 Let's Eat A. Foods We Like	Textbook assignment
7.	A. Foods We Like	Prepare for mini presentation Online assignment
8.	Mini presentation Unit 2 Let's Eat B. Eating Well	DVD assignment
9.	B. Eating Well	Textbook assignment Online assignment
10.	Unit 3 Mysteries A. You're in Luck!	Textbook assignment
11.	A. You're in Luck!	Online assignment Textbook assignment
12.	Unit 3 Mysteries B. Unsolved Mysteries	Textbook assignment Prepare for final presentation
13.	B. Unsolved Mysteries	Online assignment Textbook assignment
14.	Individual presentations	Feedback on presentations
15.	Wrap Up of the semester	Summer essay

受講者へのメッセージやアドバイス:

Your English won't improve unless you come to class and participate actively! Don't be afraid of making mistakes. Everyone learns by making mistakes!

Let's have a wonderful year together!

フィードバックの方法:

Students will regularly be asked to reflect and share their feelings on the class and the class activities both orally and in writing. The instructor will make comments and make adjustments when necessary.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation/Attitude/Effort	40%	Full participation in English is required.
	Homework/Written Assignments/Online Exercises	35%	Points will be deducted for late homework
	Presentations/Quizzes	25%	Students will receive an automatic zero if absent for presentations and quizzes without a valid excuse.

教科書:

World Link Combo Split 2A with online workbook
by James R. Morgan and Nancy Douglas
published by Cengage Learning

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Email address will be provided on the first day of class.

授業テーマ:

Speaking and listening skills

授業の概要:

This course is intended to build up communicative skills by studying content in English. The course will mainly focus on building up vocabulary by reading and practising useful words and phrases. An important part of the course will be making poster and PowerPoint presentations.

到達目標:

Students will build confidence in communicating in English by developing listening and speaking skills through practice and self-study

授業方法:

Group and pair-work mainly

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Pathways unit 1	Homework set from textbook
	2. Pathways unit 1	Homework set from textbook
	3. Pathways unit 1	Homework set from textbook
	4. Pathways unit 2	Presentation 1
	5. Pathways unit 2	Presentation 1
	6. Presentation 1	Homework set from textbook
	7. Pathways unit 2	Homework set from textbook
	8. Pathways unit 2	Homework set from textbook
	9. Pathways unit 3	Homework set from textbook
	10. Pathways unit 3	Presentation 2
	11. Presentation 2	Presentation 3
	12. Pathways unit 4	Homework set from textbook
	13. Prep for speaking test	Group discussion
	14. Group discussion (speaking test)	Group discussion
	15. Reflection	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Be prepared to speak out in English practice actively in class. Show a very positive attitude and you will do well.

フィードバックの方法:

Comments on presentations and discussion work will be given

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	presentations	30	Presentation skills and English ability
	Classwork	30	Positive attitude to communication in English
	Quizzes	10	Vocabulary knowledge
	Participation	20	Attendance and attitude to homework and class
	Final speaking test	10	English ability and fluency

教科書:

B Chase and K Johannsen, Pathways 2, Cengage

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	English as a Tool for Communication
授業の概要:	The course will be a continuation of the spring semester.
到達目標:	The goal of the course will be a continuation of the spring semester plus ☆ Students will also begin talking about a wider range of topics to broaden their view of the world around them.
授業方法:	The method of instruction will be the same as in the spring semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Summer News Summer Essays Unit 4 Trends Lesson A Lifestyle Trends	Textbook assignment
	2. Lesson A Lifestyle Trends	Essay rewrite Textbook assignment Online assignment
	3. Unit 4 Trends Lesson B Fashion Trends	Prepare for mini presentation Textbook assignment
	4. Mini presentation Unit 4 Trends Lesson B Fashion Trends	Textbook assignment Online assignment DVD assignment
	5. Unit 5 Out and About Lesson A Running Errands	Textbook assignment
	6. Lesson A Running Errands	Textbook assignment Online assignment
	7. Unit 5 Out and About Lesson B My Neighborhood	Textbook assignment DVD assignment Prepare for mini presentation
	8. Mini presentation Unit 5 Out and About Lesson B My Neighborhood	Textbook assignment Online assignment
	9. Unit 6 Goals Lesson A Starting Out	Textbook assignment
	10. Lesson A Starting Out	Textbook assignment Online assignment DVD assignment
	11. Unit 6 Goals Lesson B After Graduation	Practice for presentation Textbook assignment Online assignment
	12. Lesson B After Graduation	Practice for presentation Online assignment
	13. Group Presentations	Feedback and evaluations
	14. Holiday News Short Story Listening	Holiday Essay
	15. Holiday Essays Short Story Impressions	

受講者へのメッセージやアドバイス: Do your best! Keep a positive attitude! Don't be afraid of making mistakes!

フィードバックの方法: The method will be the same as in the spring.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Participation/Attitude/Effort	40%	Active participation is required. Grades will be deducted for excessive use of Japanese.
	Homework/Written Assignment/Online Exercises	35%	All assignments must be completed. Points will be deducted for late or no homework.
	Presentations/Quizzes	25%	Students who are absent for presentations and quizzes (without a valid reason) will automatically get a zero.

教科書: The same as spring semester.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Email address will be given in class.

授業テーマ:

Speaking and listening skills

授業の概要:

This course is intended to build up communicative skills by studying content in English. The course will mainly focus on building up vocabulary by reading and practising useful words and phrases. An important part of the course will be making poster and PowerPoint presentations.

到達目標:

Students will build confidence in communicating in English by developing listening and speaking skills through practice and self-study

授業方法:

Group and pair-work mainly

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Pathways unit 5	Homework set from textbook
	2. Pathways unit 5	Homework set from textbook
	3. Pathways unit 6	Homework set from textbook
	4. Pathways unit 6	Presentation 3
	5. Pathways unit 6	Presentation 3
	6. Presentation 3	Homework set from textbook
	7. Pathways unit 7	Homework set from textbook
	8. Pathways unit 7	Presentation 4
	9. Short presentation 4	Homework set from textbook
	10. Pathways unit 9	Homework set from textbook
	11. Pathways unit 9	Homework set from textbook
	12. Pathways unit 9	Homework set from textbook
	13. Prep for speaking test	Group discussion
	14. Group discussion (speaking test)	Group discussion
	15. Reflection	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Be prepared to speak out in English practice actively in class. Show a very positive attitude and you will do well.

フィードバックの方法:

Comments on presentations and discussion work will be given

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	presentations	30	Presentation skills and English ability
	Classwork	30	Positive attitude to communication in English
	Quizzes	10	Vocabulary knowledge
	Participation	20	Attendance and attitude to homework and class
	Final speaking test	10	English ability and fluency

教科書:

B Chase and K Johannsen, Pathways 2, Cengage

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:

cadamson@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Developing communication skills.

授業の概要:

This course is designed for you to use as much English as possible in class.

到達目標:

The objective of this course is to develop your communicative ability in English. All four skills; speaking, listening, reading, and writing will be touched on, however, the main goal is to improve your communication ability.

授業方法:

A textbook will have basic conversations, pair and group speaking activities, and a small amount of writing. You will be given the opportunity to and encouraged to expand the basic dialogs that are truly fitting to your situation. The class is flexible to allow you to be in control of your learning.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the course and you introductions to each other. An explanation of what we will be using the textbook.	Preview certain pages of the unit. Some writhing in the textbook may be required.
	2. Unit 1. Introduction of Unit 1. Nice to meet you. Hobbies and interests.	Preview certain pages of the unit. Some writhing in the textbook may be required.
	3. Continuation of Unit 1. Nice to meet you. Hobbies and interests. Small Quiz on Unit 1.	Review unit 1 for small quiz.
	4. Unit 2. Who are they talking about? Appearance adjectives.	Preview certain pages of the unit. Some writhing in the textbook may be required.
	5. Continuation of Unit 2. Who are they talking about? Appearance adjectives. Small Quiz on Unit 2.	Review unit 2 for small quiz.
	6. Unit 3. When do you start? Daily activities and routines.	Preview certain pages of the unit. Some writhing in the textbook may be required.
	7. Continuation of Unit 3. When do you start? Daily activities and routines. Small Quiz on Unit 3.	Review unit 3 for small quiz.
	8. Unit 4. Where does this go? Furniture, household furnishings and locations.	Preview certain pages of the unit. Some writhing in the textbook may be required.
	9. Continuation of Unit 4. Where does this go? Furniture, household furnishings and locations.	Preview certain pages of the unit. Some writhing in the textbook may be required.
	10. Small Quiz on Unit 4.	Review unit 4 for small quiz.
	11. Very important unit. Unit 5. How do I get there? Giving and understanding directions.	Preview certain pages of the unit. Some writhing in the textbook may be required.
	12. Continuation of Unit 5. How do I get there? Giving and understanding directions.	Preview certain pages of the unit. Some writhing in the textbook may be required.
	13. Small quiz on unit 5.	Review unit 5 for small quiz.
	14. Unit 6. What happened? Important life events, past activities.	Preview certain pages of the unit. Some writhing in the textbook may be required.
	15. Continuation of Unit 6. What happened? Important life events, past activities. Small Quiz on Unit 6.	Review unit 6 for small quiz.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Review class notes. 2. Preview and prepare for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabulary for small unit quizzes. Read as many Graded Readers as you can. This is the best way to see vocabulary/words used authentically.

フィードバックの方法:

Unit quizzes will be marked by you and talked about by you in class. Hand in writing will have my comments written on them.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Observation	34	Attendance, class participation, and attitude.
	Unit Quizzes	33	Quiz points add up to 100. Total points for all quizzes divided by the number of quizzes.
	Home work.	33	There is a small writing at the end of each unit. Sometimes there is a hand out that has to be filled in. If it is okay then okay. If not, fix it up.

教科書:

English Firsthand 1. New English Firsthand Series. Helgesen, Brown, Wiltshier. Pearson Longman.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、コミュニケーション力.

教員との連絡方法:

See me before, during, or after class.

授業テーマ:

This English communication class focuses on conversation.

授業の概要:

During the course, students will use English to discuss a variety of interesting and fun topics. Furthermore, students will learn English vocabulary, phrases and language patterns for practical situations such as travel and work.

到達目標:

By actively participating in this class, students will expand their vocabularies, improve their listening skills, and gain confidence in their ability to speak English in various situations. The goal of this class is to help students become comfortable using basic English for the purpose of communication.

授業方法:

Learning in this class will be cooperative and participatory. Class time will be devoted to pair work and group activities. Students will be required to keep a vocabulary notebook. Each week, students will add new vocabulary. There will be two short classroom-English quizzes. Students will prepare and practice dialogue-presentations. There will be several short written assignments.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Getting Acquainted: Self Introductions and Introducing Others	“Make an Introduction” Homework
	2. Talking about Experiences: Describing the Past, Talking about School Life	Classroom English Sentences
	3. Continuation of Talking about Experiences	Classroom English Quiz Study
	4. Sports and Leisure/Classroom English Quiz	Unit Vocabulary Sentences
	5. Continuation of Sports and Leisure	TBA (To be announced)
	6. Shopping and Money: Talking about Differences, Making Recommendations	Unit Vocabulary Sentences
	7. Continuation of Shopping and Money	TBA (To be announced)
	8. Food: Talking about Food, Describing Different Kinds of Food	Unit Vocabulary Sentences
	9. Continuation of Food	TBA
	10. Travel: Making Plans, Making Complaints, Checking In	Short Travel Itinerary Component
	11. Continuation of Travel	TBA
	12. Talking About Movies and Television: Descriptions and Preferences	Unit Vocabulary Sentences
	13. Continuation of Movies and Television	Movie Review
	14. Small Group Dialogues	Dialogue Preparation
	15. Conclusion of Small Group Dialogues	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Written evaluations of presentations and writing work based on rubrics. One-on-one advising when time allows.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance Record	30	Attendance
	Observation	30	Class-Participation
	Speaking Rubrics	30	Class Dialogues
	Grade Score	10	Quizzes

教科書:

Let’s Chat by John Pak (EFL Press, 2007)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

授業テーマ:

授業の概要: This course will help students improve their fluency and communication skills in a variety of speaking contexts. We will cover a wide range of common conversation situations and practice strategies to build confidence in using English out in the real world. There will be a particular focus on the formation and expression of opinions, ideas and experiences of each individual student.
This course will be very useful for improving listening and speaking abilities, which are essential for any student endeavoring to take the TOEIC/TOEFL tests.

到達目標: This class will cover a variety of themes and tasks including: storytelling, travel, shopping, romance and sharing information about Japan with others using English. The primary goal will be to increase fluency and build confidence to tell stories from personal experiences and to become a competent and active listener.
Earlier classes in the semester will prepare students for more independent projects later in the semester.

授業方法: Unit themes will be introduced by the teacher in a variety of formats (text, video, audio, story), followed by pair and small group tasks.
Homework will be used periodically to reinforce vocabulary and structures leading to the production of larger class projects.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Class Introduction –meet and greet	Get to know the Textbook! –flip through the book, get a feel for how the units are laid out.
2. Step by step instructions: organizing information for easier comprehension	Complete ordinals task
3. Unit 5 – Showing interest in others' stories. What is active listening?	Diary –Textbook –page 24 Step 1 –Textbook –page 28
4. Ernie & Bert; the art of conversation;– using responses and follow-up questions	Response & Follow-up questions homework
5. Unit 2 – 'My little accident' –listening & activities from the unit	Diary –Textbook –page 6
6. Storytelling in English. Task: 'Worst day' story.	Homework –Worst Day Story
7. You're a Liar! –reading between the lines and asking questions	Study for Quiz
8. Quiz # 1	Review Quiz material
9. The Who, What, When and Where – Positioning and perspectives in storytelling	Diary –Textbook –page 12
10. Unit 3 – 'I was so embarrassed' –holding the floor at a party!	Step 1 & 2 –Textbook –page 16
11. Unit 4 – 'feel good stories' –independent performance task	Prepare stories Study for Quiz
12. Quiz # 2	Read –Textbook –page 3 Step1 & 2 –Textbook –page 4
13. Semester Project introduction; Talking Movies – from Unit 1	Read Project Task Sheet
14. Workday –'Action!' setting up ideas in small groups	Prepare for Movie Project and Speaking Challenge
15. Conclusion to semester 1 Presentation & Speaking Challenge	Review Semester Materials Enjoy Summer Break!

受講者への
メッセージや
アドバイス: Keep up with regular homework and assignments.
Don't be afraid to make mistakes in class –nobody is perfect!

フィードバックの
方法: The teacher will provide extra work and ideas to improve any of the 4 skills (speaking, listening, reading, writing) to any students who inquire.

フィードバックの
方法: Feedback on progress and areas that need improvement will be given during the class, when necessary, and written on all homework or assignments that are submitted.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Homework	20%	weekly homework tasks
Quizzes	20%	vocabulary quizzes
Semester Projects	40%	pair projects, presentation project
Speaking Challenge	20%	pair conversation task

教科書: Tell Me Your Stories – Storytelling in Conversational English. Bob Jones & David Coulson. MacMillan Language House.
978-4-7773-6249-3

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡
方法: buggy76@hotmail.com

授業テーマ:	Improving the students' English language conversational ability.		
授業の概要:	Students will study a broad range of thought-provoking conversational topics which will improve their oral language ability. A number of idiomatic and colloquial phrases will be looked at as they mirror how native English speakers really speak. Extensive listening practice featuring lively and interesting conversations will be undertaken to improve aural comprehension ability.		
到達目標:	* Increase English language knowledge * Improve intrinsic and extrinsic motivation * Develop English language conversational ability		
授業方法:	Workshop-style classes will be held in English. Textbook studies will form the basis of the coursework. Short texts, audio dialogues, and video segments will be analysed. Frequent in-class activities will be done in pairs and small groups. This class will adhere to the eclectic method of TEFL whilst applying the continuous assessment approach for grading.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Course overview; "Getting-to-know-you" activity	Make a name card	
	2. Unit 1 – Something Cool	Finish page 81; review work	
	Asking personal questions; responses to personal questions		
	3. Unit 1 – Something Cool (cont.)	Finish page 12; review work	
	Asking personal questions; responses to personal questions		
	4. Unit 2 – My Humble Abode	Finish page 82; review work	
	Agreeing and disagreeing; preposition phrases – living situations		
	5. Unit 2 – My Humble Abode (cont.)	Finish page 16; review work	
	Agreeing and disagreeing; preposition phrases – living situations		
	6. Unit 3 – Food Cravings	Finish page 83; review work	
	Expressing likes and dislikes; verb phrases – free time activities		
	7. Unit 3 – Food Cravings (cont.)	Finish page 20; review work	
	Expressing likes and dislikes; verb phrases – free time activities		
	8. Mid-semester assessment task; Video activity	Video activity homework	
9. Unit 4 – Who We Are	Finish page 84; review work		
Expressing importance; verb phrases – lifestyles			
10. Unit 4 – Who We Are (cont.)	Finish page 24; review work		
Expressing importance; verb phrases – lifestyles			
11. Unit 5 – Corporate Ladder	Finish page 85; review work		
Expressing suitability; verb phrases – work activities			
12. Unit 5 – Corporate Ladder (cont.)	Finish page 28; review work		
Expressing suitability; verb phrases – work activities			
13. Unit 6 – Another World	Finish page 86; review work		
Recommending; verb phrases – sightseeing			
14. Unit 6 – Another World (cont.)	Finish page 32; review work		
Recommending; verb phrases – sightseeing			
15. Conclusion	Review and consolidation of coursework		
受講者へのメッセージやアドバイス:	Students should prepare for class by reviewing the previous week's work and completing any assigned work in a timely manner. Any work that is handed in late will incur a penalty. If a student misses class, it is the student's responsibility to find out what was missed and to complete it.		
フィードバックの方法:	Any written work that is submitted will receive feedback on form and content. Corrections and comments will be written on student papers before they are returned to them. Oral reports will be graded according to a presentation rubric. Feedback will be given to each student soon after the last oral report is given.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class attendance	10%	Students can miss up to 4 classes and still pass this course. However, each unexcused absence will incur a 2% penalty . If a student has an excused absence, she must present the Notice of Absence (issued by the Student Affairs Office) to the instructor in order to avoid the 2% penalty.

Class participation and overall effort	10%	To achieve a high score for this component, students need to contribute to class discussions by asking and answering as many questions as possible.
Homework	10%	Points will be deducted if a student frequently forgets her textbook. Homework will be given to help students to comprehend the coursework.
Mid-semester assessment task	30%	An assessment task will be conducted halfway through the semester to determine how well the students are coping with the course.
Conclusion	40%	A final test to determine if the students have understood the key concepts of the course and whether they deserve to pass or not.

教科書: K. Sullivan and T. Beuckens. Impact Conversation 2. Pearson longman.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: I will be on campus on Fridays.
Please ask me your questions before, during, or after class.

授業テーマ:

To continue to developing communication skills.

授業の概要:

This course is designed for you to continue to use as much English as possible in class.

到達目標:

The objective of this course is to continue to develop your communicative ability in English. All four skills; speaking, listening, reading, and writing will be touched on, however, the main goal is to improve your communication ability

授業方法:

A textbook will have basic conversations, pair and group speaking activities, and a small amount of writing. You will be given the opportunity to and encouraged to expand the basic dialogs that are truly fitting to your situation. The class is flexible to allow you to be in control of your learning.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Introduction to the course for new students whom have joined the class. An explanation of what we will be doing.	Preview unit and vocabulary.
2.	2. Unit 7. I'd love that job. Talking about occupations.	Preview unit and vocabulary.
3.	3. Continuation of Unit 7. I'd love that job. Talking about occupations.	Preview unit and vocabulary.
4.	4. Small Quiz on Unit 7.	Preview unit and vocabulary for small quiz.
5.	5. Unit 8. What's playing? Talking about entertainment.	Preview unit and vocabulary.
6.	6. Continuation of Unit 8. What's playing? Talking about entertainment. Small Quiz on Unit 8.	Preview unit and vocabulary for small quiz.
7.	7. Unit 9. What are you going to do? Talking about future plans.	Preview unit and vocabulary.
8.	8. Continuation of Unit 9. What are you going to do? Talking about future plans.	Preview unit and vocabulary.
9.	9. Small Quiz on Unit 9.	Preview unit and vocabulary for small unit quiz..
10.	10. Unit 10. How much is this? Talking about clothing, electronics and personal items.	Preview unit and vocabulary.
11.	11. Continuation of Unit 10. How much is this? Talking about clothing and personal items. Small Quiz on Unit 10.	Preview unit and vocabulary for small quiz..
12.	12. Unit 11. How do you make it? Talking about and understanding processes.	Preview unit and vocabulary.
13.	13. Continuation of Unit 11. How do you make it? Talking about and understanding processes. Quiz on Unit 11.	Preview unit and vocabulary for small quiz..
14.	14. Unit 12. Listen to the music Talking about and giving opinions about music.	Preview unit and vocabulary.
15.	15. Continuation of Unit 12. Listen to the music Talking about and giving opinions about music. Small quiz on 12.	Preview unit and vocabulary for small quiz..

受講者へのメッセージやアドバイス:

Review class notes. 2. Preview and prepare for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabulary for small unit quizzes. Read as many Graded Readers as you can. This is the best way to see vocabulary/words used authentically.

フィードバックの方法:

Unit quizzes will be marked by you and talked about by you in class. Hand in writing will have my comments written on them.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Observation	34	Attendance, class participation, and attitude.
	Unit Quizzes	33	Quiz points add up to 100. Total points for all quizzes divided by the number of quizzes.
	Home work	33	There is a small writing at the end of each unit. Sometimes there is a hand out that has to be filled in. If it is okay then okay. If not, fix it up.

教科書:

English Firsthand 1. New English Firsthand Series. Helgesen, Brown, Wiltshier. Pearson Longman.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、コミュニケーション力.

教員との連絡方法:

See me before, during, or after class.

授業テーマ:

This English communication class focuses on conversation.

授業の概要:

During the course, students will use English to discuss a variety of interesting and fun topics. Furthermore, students will learn English vocabulary, phrases and language patterns for practical situations such as travel and work.

到達目標:

By actively participating in this class, students will expand their vocabularies, improve their listening skills, and gain confidence in their ability to speak English in various situations. The goal of this class is to help students become comfortable using basic English for the purpose of communication.

授業方法:

Learning in this class will be cooperative and participatory. Class time will be devoted to pair work and group activities. Students will be required to keep a vocabulary notebook. Each week, students will add new vocabulary. There will be two short classroom-English quizzes. Students will prepare and practice dialogue-presentations. There will be several short written assignments.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Catching Up: Talking about vacation experiences	Vacation Interview
	2. Work: Part-time Jobs, Career Plans, Job Interviews, Occupations	Classroom English Review Sentences
	3. Continuation of Job Interviews Practice	Classroom English Review Quiz Preparation
	4. Health: Talking about Health, Exercise, Fitness and Lifestyles; Giving Advice	Unit Vocabulary Sentences
	5. Continuation of Health	TBA (To be announced)
	6. Love and Marriage: Describing People, Making Suggestions, Invitations	Unit Vocabulary Sentences
	7. Love and Marriage class survey	Short Survey Homework
	8. Music and Books: Talking about Favorites, Talking about Famous People	Unit Vocabulary Sentences
	9. Continuation of Music and Books	TBA
	10. Culture and Places in Japan: Describing Japanese Things, Expressing Opinions	Short “Culture” Report
	11. Group Presentations on Culture	TBA
	12. World Problems: Talking about the Environment, Agreeing and disagreeing	Unit Vocabulary Sentences
	13. Continuation of World Problems	TBA
	14. Class Dialogue Activity	Dialogue Preperation
	15. Conclusion of Class Dialogues	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Written evaluations of presentations and writing work based on rubrics. One-on-one advising when time allows.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance Record	30	Attendance
	Observation	30	Class-Participation
	Speaking Rubrics	30	Class Dialogues
	Grade Score	10	Quizzes

教科書:

Let’s Chat by John Pak (EFL Press, 2007)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

授業テーマ:

授業の概要: This course will help students improve their fluency and communication skills in a variety of speaking contexts. We will cover a wide range of common conversation situations and practice strategies to build confidence in using English out in the real world. There will be a particular focus on the formation and expression of opinions, ideas and experiences of each individual student.
This course will be very useful for improving listening and speaking abilities, which are essential for any student endeavoring to take the TOEIC/TOEFL tests.

到達目標: In the second semester there will be a continuation of thematic units which will build upon units from the first semester. The primary goal will be to increase fluency and build confidence to tell stories from personal experiences and to become a competent and active listener.
Earlier classes in the semester will prepare students for more independent projects later in the semester.

授業方法: Unit themes will be introduced by the teacher in a variety of formats (text, video, audio, story), followed by pair and small group tasks. Homework will be used periodically to reinforce vocabulary and structures leading to the production of larger class projects.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Class Introduction / Welcome back	Step 1 & 2 –Textbook –Page 34
	2. Unit 6 – 'I know what you mean' – listening & activities from unit; Review	Diary –Textbook –Page 36
	3. What is communication? – tasks to broaden our view of what makes a good communicator	Diary –Textbook –Page 54
	4. Unit 10 – 'Oh, talking about...' – listening & activities; adding your point of view	Homework –Japanese Cultural Item Task
	5. At the Bazaar; describing objects; using cash	Bring your garbage! (unwanted item)
	6. Class auction!; “one man’s garbage is another man’s treasure”	Diary –Textbook –Page 36
	7. Unit 7 – 'spontaneous stories'; review of responses & follow-up questions	Study for Quiz
	8. Quiz 1	Review Quiz Material
	9. Reading comprehension; choosing your story theme	Read Project Instruction Sheet
	10. Semester project –'Conversation Worksheets'; rules & parameters; looking at examples	Research and Print Internet Article
	11. Workday –making the worksheets; peer advice & feedback	Finish up and Print Worksheet
	12. Conversation partners –using the worksheets in class	Read Role–Play Character
	13. 'Living it!' –class 'role play' party	Diary –Textbook –Page 42
	14. Unit 8 –storytelling task and class feedback	Prepare for Speaking Challenge
	15. Conclusion to semester 2 –Speaking Challenge	Review Semester Materials Bon Voyage!

受講者へのメッセージやアドバイス: Keep up with regular homework and assignments.
Don't be afraid to make mistakes –n obody’s perfect!

The teacher will provide extra work and ideas to improve any of the 4 skills (speaking, listening, reading, writing) to any students who inquire.

フィードバックの方法: Feedback on progress and areas that need improvement will be given during the class, when necessary, and written on all homework or assignments that are submitted.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Homework	20%	weekly homework tasks
	Quizzes	20%	vocabulary quizzes
	Conversation Worksheets	40%	student-generated task
	Speaking Challenge	20%	pair conversation task

教科書: Tell Me Your Stories – Storytelling in Conversational English. Bob Jones & David Coulson. MacMillan Language House.
978-4-7773-6249-3

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法: buggy76@hotmail.com

授業テーマ:	Improving the students' English language conversational ability.		
授業の概要:	Students will study a broad range of thought-provoking conversational topics which will improve their oral language ability. A number of idiomatic and colloquial phrases will be looked at as they mirror how native English speakers really speak. Extensive listening practice featuring lively and interesting conversations will be undertaken to improve aural comprehension ability.		
到達目標:	* Increase English language knowledge * Improve intrinsic and extrinsic motivation * Develop English language conversational ability		
授業方法:	Workshop-style classes will be held in English. Textbook studies will form the basis of the coursework. Short texts, audio dialogues, and video segments will be analysed. Frequent in-class activities will be done in pairs and small groups. This class will adhere to the eclectic method of TEFL whilst applying the continuous assessment approach for grading.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	Course overview; "Getting-to-know-you" activity	Make a name card
	2.	Unit 7 – Big Worry	Finish page 87; review work
		Expressing concern; verb and adjective phrases – worries	
	3.	Unit 7 – Big Worry (cont.)	Finish page 36; review work
		Expressing concern; verb and adjective phrases – worries	
	4.	Unit 8 – Unplugged	Finish page 88; review work
		Expressing a need for change; verb phrases – unusual activities	
	5.	Unit 8 – Unplugged (cont.)	Finish page 40; review work
		Expressing a need for change; verb phrases – unusual activities	
	6.	Review – Units 1 to 8	Finish pages 41 to 44
	7.	Unit 9 – The Remote	Finish page 89; review work
		Complaining and expressing annoyance; verb phrases – annoying behaviour	
	8.	Mid-semester assessment task; Video activity	Video activity homework
	9.	Unit 9 – The Remote (cont.)	Finish page 48; review work
		Complaining and expressing annoyance; verb phrases – annoying behaviour	
	10.	Unit 10 – Clean Freak	Finish page 90; review work
		Talking about obsessions; noun phrases obsessions	
	11.	Unit 10 – Clean Freak (cont.)	Finish page 52; review work
		Talking about obsessions; noun phrases obsessions	
	12.	Unit 11 – No Such Thing	Finish page 91; review work
		Agreeing, disagreeing, and expressing surprise; noun phrases – the supernatural; verb phrases – expressing belief	
	13.	Unit 11 – No Such Thing (cont.)	Finish page 56; review work
		Agreeing, disagreeing, and expressing surprise; noun phrases – the supernatural; verb phrases – expressing belief	
	14.	Unit 12 Like Chalk and Cheese	Finish page 92; review work
		Giving advice; verb phrases – relationship advice; adjective phrases – annoying behaviour	
	15.	Conclusion	Review and consolidation of coursework.
受講者へのメッセージやアドバイス:	Students should prepare for class by reviewing the previous week's work and completing any assigned work in a timely manner.		
	Any work that is handed in late will incur a penalty.		
	If a student misses class, it is the student's responsibility to find out what was missed and to complete it.		
フィードバックの方法:	Any written work that is submitted will receive feedback on form and content. Corrections and comments will be written on student papers before they are returned to them.		
	Oral reports will be graded according to a presentation rubric. Feedback will be given to each student soon after the last oral report is given.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class attendance	10%	Students can miss up to 4 classes and still pass this course. However, each unexcused absence will incur a 2% penalty. If a student has an excused absence, she must present the Notice of Absence (issued by the Student Affairs Office) to the instructor in order to avoid the 2% penalty.

Class participation and overall effort	10%	To achieve a high score for this component, students need to contribute to class discussions by asking and answering as many questions as possible.
Homework	10%	Points will be deducted if a student frequently forgets her textbook. Homework will be given to help students to comprehend the coursework.
Mid-semester assessment task	30%	An assessment task will be conducted halfway through the semester to determine how well the students are coping with the course.
Conclusion	40%	A final test to determine if the students have understood the key concepts of the course and whether they deserve to pass or not.

教科書: K. Sullivan and T. Beuckens. Impact Conversation 2. Pearson longman.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: I will be on campus on Fridays.
Please ask me your questions before, during, or after class.

授業テーマ:

Academic writing

授業の概要:

Students will learn how to create coherent and creative arguments and commentaries using English. Course contents and texts will vary according to different teachers but students should expect to focus on writing accurate paragraphs and essays according to accepted standards in English speaking countries.

到達目標:

Students will improve accuracy and vocabulary in English. Students will be able to deliver concise and logical arguments and commentary in written English. Students will also improve their reading skills.

授業方法:

individual and group study

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	2. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	3. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	4. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	5. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	6. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	7. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	8. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	9. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	10. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	11. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	12. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	13. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	14. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	15. Review and reflection	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Please be active in speaking out in class in English. Prepare all assignments on time and keep good attendance.

フィードバックの方法:

Will vary according to teacher

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Assignments	30	Accuracy and organisation of written assignments
	Classwork, including quizzes	30	Participation and quality
	Text and other homework	20	Participation and quality
	Attendance and attitude	20	Participation

教科書:

Will vary according to teacher

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Academic writing

授業の概要:

Students will learn how to create coherent and creative arguments and commentaries using English. Course contents and texts will vary according to different teachers but students should expect to focus on writing accurate paragraphs and essays according to accepted standards in English speaking countries.

到達目標:

Students will improve accuracy and vocabulary in English. Students will be able to deliver concise and logical arguments and commentary in written English. Students will also improve their reading skills.

授業方法:

individual and group study

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	2. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	3. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	4. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	5. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	6. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	7. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	8. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	9. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	10. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	11. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	12. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	13. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	14. Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
	15. Review and reflection	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Please be active in speaking out in class in English. Prepare all assignments on time and keep good attendance.

フィードバックの方法:

Will vary according to teacher

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Assignments	30	Accuracy and organisation of written assignments
	Classwork, including quizzes	30	Participation and quality
	Text and other homework	20	Participation and quality
	Attendance and attitude	20	Participation

教科書:

Will vary according to teacher

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Multicultural Studies

授業の概要:

The main objective of this course is to help students develop listening strategies and skills for academic and career purposes. In addition, the course will help students improve their note-taking and study skills and expand their vocabulary. Class listening activities will use a variety of authentic listening samples, including interviews and lectures about multicultural topics. Students will use listening homework to gather information to use in presentations and discussions.

到達目標:

Upon completion of this course, students will be able to take better notes for academic lectures, and use listening skills in order to discuss and present their own ideas.

授業方法:

Class activities will include listening, speaking, and vocabulary-building activities. Students will learn note-taking and other useful listening strategies. Students will also be expected discuss and do mini-presentations about information gathered from their listening journal activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction	Check the syllabus and textbook for the course.
	2. Orientation to Listening Diary homework and A-V library and Internet materials	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	3. Listening skills focus: World population	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	4. Listening practice for main ideas and academic skills	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	5. Listening skills focus: Immigration topics	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	6. Guessing vocabulary from context	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	7. Note taking: using symbols and abbreviations Presentation on a country and immigration	Listening journal homework, presentation preparation
	8. Listening skills focus: Multicultural workforce	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	9. Listening practice for main ideas and academic skills	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	10. Mini-presentation summarizing information gathered through listening activities	Listening journal homework, presentation preparation
	11. Listening skills focus: Multicultural issues Guessing vocabulary from context	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	12. Listening practice for main ideas and academic skills	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	13. Mini-presentation Project	Listening journal homework, presentation preparation
	14. Mini-presentation Project and discussion	Listening journal homework, presentation preparation
	15. Course feedback and peer review	Listening journal homework, presentation feedback and course assessment

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students' ongoing homework assignment will be to keep a Listening Diary of materials they will choose in accordance with their own ability level and listening goals. They can choose from materials in the A-V Library Self-study Program, ALC Net Academy, TOEIC preparation materials, and online resources. They will listen to the material an average of 30 minutes at least 3 times a week and keep a record of their learning. These listening journal activities will also be used to get information for presentations.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Participation, active discussions in English	40%	Active participation in class and group work
	Homework & English use	30%	Listening journal homework, in-class use of English, etc.
	Quizzes & Presentations	30%	Assessment of quizzes and presentations

教科書:

Lim, P. & Smalzer, W. (2013). Listening and Notetaking Skills Level 2. Cengage ELT.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Multicultural Studies

授業の概要:

This course will help students further develop listening strategies and skills for academic and career purposes. Class listening activities will use a variety of authentic listening samples. The content and activities of the course will help students develop the critical thinking skills of analyzing and synthesizing facts and information as well as how to present them.

到達目標:

Upon completion of this course, students will be able to take better notes for academic lectures, and use listening skills in order to discuss and present their own ideas.

授業方法:

Class activities will include listening, speaking, and vocabulary-building activities. Students will learn note-taking and other useful listening strategies. Students will also be expected discuss and do mini-presentations about information gathered from their listening journal activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction and listening journal guidelines	Check the syllabus and textbook for the course.
	2. Listening self-study discussion	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	3. Listening skills focus: Valuing diversity in today's world	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	4. Note taking: listening for definitions and information	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	5. Listening skills focus:Diversity and inclusion	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	6. Listening for details and notetaking skills	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	7. Note taking: Listening for answers to questions	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	8. Presentation: Diversity trends	Listening journal homework, presentation preparation
	9. Listening skills focus: Religious and gender equality or education	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	10. Listening for signal words and phrases	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
	11. Mini-presentation summarizing information gathered through listening activities focusing on religious and gender equality or eduction	Listening journal homework, presentation preparation
	12. Presentation Preparation: Comparison of multiculturalism in education in various countires	Listening journal homework, presentation preparation
	13. Presentation: Comparison of multiculturalism in education in various countires	Listening journal homework, presentation preparation
	14. Presentation: Comparison of multiculturalism in education in various countires	Listening journal homework, presentation preparation
	15. Course feedback and peer review	Listening journal homework, presentation feedback and course assessment

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students' ongoing homework assignment will be to keep a Listening Diary of materials they will choose in accordance with their own ability level and listening goals. They can choose from materials in the A-V Library Self-study Program, ALC Net Academy, TOEIC preparation materials, and online resources. They will listen to the material an average of 30 minutes at least 3 times a week and keep a record of their learning. These listening journal activities will also be used to gather information for presentations.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation, active discussions in English	40%	Active participation in class and group work
	Homework & English use	30%	Listening journal homework, in-class use of English, etc.
	Quizzes & Presentations	30%	Assessment of quizzes and presentations

教科書:

Lim, P. & Smalzer, W. (2013). Listening and Notetaking Skills Level 2. Cengage ELT.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Public Speaking

授業の概要:

The primary aim of this course will be to develop a stronger awareness of English as a tool for communication. Students will improve their speaking skills. They will be allowed to choose their own topics or be given interesting and practical topics. This will provide practice with all the basics needed to improve when speaking to one person or to many people. Students will be mainly speaking in class but will also learn how to put a good speech together as well. Handouts, and a step-by-step procedure on public speaking and presenting will be the basis for this course. The materials and activities will give the students ample opportunity to engage in stimulating exercises and discussions. Through public speaking/presenting, students will gain confidence in their ability regardless of their level. Eye contact, voice inflection, gestures, posture, visual aids, introductions, and conclusions are some of the things that will be worked on to make a clear speech/presentation.

到達目標:

1. To develop oral English skills for presentations 2. To develop writing skills (in English) for presentations 3. To develop confidence for speaking in front of large groups

授業方法:

Lecture, pair and group work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. Course Introduction and public speaking overview (impromptu speeches)	TBA	
	2. Written speech	TBA	
	3. Written speechII and physical speech	TBA	
	4. Voice and prosody	TBA	
	5. Combining all elements	TBA	
	6. Combining all elements II and evaluation	TBA	
	7. EvaluationII and speech check	TBA	
	8. Pair speeches	TBA	
	9. Speech check and practice	TBA	
	10. First individual speech (group A)	TBA	
	11. First individual speech (group B)	TBA	
	12. Speech check and practice	TBA	
	13. Final individual speech (group A)	TBA	
	14. Final individual speech (group B)	TBA	
	15. Make-up speeches and review	TBA	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

assignments and in-class evaluation

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Speeches	30%	following the criteria as dictated in class
	Assignments	20%	completion of homework assignments
	Class participation	25%	participation in pair/group work, and evaluation
	Attendance	25%	Attendance

教科書:

All materials will be provided in class

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

rramirez@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Entering the Global Conversation through Presentation, Speech and Discussion

授業の概要:

This course is designed to develop your ability to think about, discuss and create presentations on topics of global importance. This course will aid you in exploring many sides of issues. You will learn to use English to identify problems, form and express opinions, and advance logical arguments. While broadening your database of useful English vocabulary and expressions, this course will help you strengthen the critical thinking and communication skills necessary for joining global conversations about the world in which we live.

到達目標:

You will discuss, research, and make presentations on, a variety of interesting topics during the semester. You will gain confidence in your ability to form and contribute ideas, opinions and arguments. You will be asked to supplement the material provided in class with your own research.

授業方法:

Students will participate in pair work and group activities as well as make individual presentations for the class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to Academic Speaking; Group Discussion: What is the Purpose of the Academy?	Introduce A Friend Speech
	2. Self-Introduction, Making Outlines	Outline Homework
	3. Short Self-Introductions; Brainstorming, Organization, Talking About Places	Favorite Place Speech
	4. Continuation of Talking About Places; Short Speeches in Small Groups: 'An Interesting Place'	TBA (To Be Announced)
	5. Expressing Opinions; Supporting Opinions with Reasons, Examples and Explanations	Debate Component Homework
	6. Group Debate Projects	TBA
	7. Summarizing and Responding to the News	News Summary Homework
	8. News Summaries and Responses; Introduction to Describing People	A Person I Admire Speech
	9. Short Speeches: "A Person I Admire"	TBA
	10. Talking About a Past Event	Past Event Speech
	11. Short Speeches in Small Groups on an Important Past Event	TBA
	12. Introduction to Human Rights	Human Rights Presentation
	13. Human Rights Discussion; Preparation for Human Rights Group Presentations	Human Rights Presentation
	14. Human Rights Group Presentations	TBA
	15. Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Written and spoken evaluations of student-prepared speeches, presentations, and discussion materials.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	25%	Attendance
	Daily Evaluation	25%	Class Participation
	Satisfactory Completion	25%	Homework
	Evaluation Rubric	25%	In-class Presentations

教科書:

Course materials will be provided by the instructor.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

授業テーマ:

Debate

授業の概要:

The primary aim of this course will be to continue to develop a stronger awareness of English as a tool for communication. Students will improve their speaking skills. They will be given interesting and practical issues on which to debate. This will provide practice with all the basics needed to improve when speaking to one person or to many people. Students will be mainly speaking in class but will also learn how to put a good debate together as well. Handouts on debating will be the basis for this course. The materials and activities will give the students ample opportunity to engage in stimulating exercises and discussions. Through debating, students will gain confidence in their ability regardless of their level. Presentation skills learned from the previous semester will be in use. New skills learned will include critical thinking, fair judging, and the

到達目標:

1. To develop oral skills for short presentations3. To develop (quick) critical thinking skills in English 2. To develop writing skills for short presentations4. To learn the procedures and protocols of formal debate

授業方法:

lecture and in-class pair/group work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction and Debate Introduction	TBA
	2. Debate Steps and Logic	TBA
	3. Structure and Formal Rules	TBA
	4. Quiz (Rules for Debate); Logic Clinic	TBA
	5. Logic Clinic II	TBA
	6. Strategies and Expressions, Judging	TBA
	7. Debate Code and Debate Rehearsal I	TBA
	8. Quiz (Logic, Fallacies, Cross Exam Qs) and Debate 1	TBA
	9. Debate 2	TBA
	10. Debate 3	TBA
	11. Debate 4	TBA
	12. Debate 5	TBA
	13. Debate 6	TBA
	14. Debate Final Competition	TBA
	15. Debate Final Competition	TBA

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

in-class evaluation, assignments

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class participation/attitude	35%	participation in pair/group work, and evaluating
	Assignments	15%	completion of homework
	Attendance	30%	attendance
	Quizzes	20%	completion of quizzes

教科書:

All materials will be provided in class

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法:

rramirez@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Entering the Global Conversation through Presentation, Speech and Discussion

授業の概要:

This course is designed to develop your ability to think about, discuss and create presentations on topics of global importance. This course will aid you in exploring many sides of issues. You will learn to use English to identify problems, form and express opinions, and advance logical arguments. While broadening your database of useful English vocabulary and expressions, this course will help you strengthen the critical thinking and communication skills necessary for joining global conversations about the world in which we live.

到達目標:

You will discuss, research, and make presentations on, a variety of interesting topics during the semester. You will gain confidence in your ability to form and contribute ideas, opinions and arguments. You will be asked to supplement the material provided in class with your own research.

授業方法:

Students will participate in pair work and group activities as well as make individual presentations for the class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Explaining the Causes of Problems; Conducting Research	Explaining a World Problem
2.	Continuation of Explaining the Causes of Problems; Short Speeches in Small Groups on Explaining an Important Problem	Explaining a World Problem
3.	Comparing and Contrasting	Comparing and Contrasting Speech
4.	Short Compare and Contrast Speeches in Small Groups	TBA (To Be Announced)
5.	Group Discussion: Consumerism, Advertising and Personal Happiness	Preparation for Group Discussion
6.	Group Discussion: Consumerism	TBA
7.	Group Discussion: Women's Rights	Group Presentation Preparation
8.	Women's Rights Presentations	TBA
9.	World Problems: Identifying Problems and Solutions	Discussion Project Preparation
10.	Group Discussion Project: World Problems	Persuasion Preparation
11.	Taking Action: Persuasion Speeches	Mediation Research
12.	Introduction to Conflict Resolution and Mediation	Project Preparation
13.	Preparation for Mediation Project	Project Preparation
14.	Mediation Projects	TBA
15.	Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Written and spoken evaluations of student-prepared speeches, presentations, and discussion materials.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	25%	Attendance
	Daily Evaluation	25%	Class Participation
	Satisfactory Completion	25%	Homework
	Evaluation Rubric	25%	In-class Presentations

教科書:

Course materials will be provided by the instructor.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

Of the four skills (speaking, listening, reading, and writing), speaking and listening are emphasized.

The goal is to develop students' English communication skills under the guidance of a native-English-speaking teacher.

Text-based learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, and have discussions in class.

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction & Orientation	To be determined
	2. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	3. Group Presentation I	To be determined
	4. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	5. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	6. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	7. Group Presentation II	To be determined
	8. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	9. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	10. Group Presentation III	To be determined
	11. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	12. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	13. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	14. Final Presentations I	To be determined
	15. Final Presentations II	To be determined

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

Students are expected to complete all assignments on time. Positive and respectful participation in partner and group work is expected. Punctual and regular attendance is mandatory.

Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Participation	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor. The completion of in-class writing assignments will be graded as part of participation.
	Homework	25	Approximately 1 hour of homework per week should be expected, though may not be consistent. Students will be required to hand in all homework assignments on time.
	Group Presentations	25	Students will be expected to prepare and present with a group of classmates 3 times during the course of the semester. Equal and fair participation by all members is required. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.
	Final Presentation	25	Students will be expected to prepare for one individual presentation at the course of the semester. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

教員との連絡
方法:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力

kkimdoshisha@gmail.com

授業テーマ:

授業の概要: A wide variety of reading (text, handouts, online sources) and listening (CD, video, online sources) resources relating to important contemporary topics will be used in class and for homework.

到達目標:

- ・ Increase knowledge of language related skills and contemporary topics.
- ・ Raise awareness and curiosity regarding important social issues.
- ・ Improve knowledge of vocabulary and grammar necessary for discussion skills.

授業方法: Lecture and practice.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	Pages 3-5
	2. Advertising	Pages 8-9
	3. Advertising	Pages 10-11
	4. Advertising	Pages 22-23, 26
	5. Identity Theft	Pages 29-31
	6. Identity Theft	Pages 34-35, 39
	7. Identity Theft	Pages 42-43, 47-49
	8. Why Explore Space?	Pages 51-53
	9. Why Explore Space?	Pages 59, 63-65
	10. Why Explore Space?	Pages 66-69, 75-77
	11. Words That Persuade	Pages 79-81
	12. Words That Persuade	Pages 90-92
	13. Words That Persuade	Pages 95-96, 101-103
	14. Group Project	TBD
	15. Group Project	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Comments and explanations regarding quizzes and classwork will be made during and after class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Quizzes	35	Quizzes will include reading, vocabulary and short writing.
	Group Project	35	Leadership, teamwork, self-management and presentation skills.
	Attendance and Participation	30	Points will be deducted for absences.

教科書: North Star 3, Soloranzo and Schmidt, 2015, Pearson Longman

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力

教員との連絡方法: Please ask in the classroom during or after class.

授業テーマ: Developing English language communicative ability

授業の概要: This course is for intermediate-level CASE students who wish to develop their English language communication skills, while they confront various real life issues. Students will learn how to think critically, express their opinions, give short presentations, and make the best decisions. The lessons feature exciting and timely topics that will lead to a lively exchange of ideas.

到達目標: * Develop English language communicative ability

* Improve intrinsic and extrinsic motivation

* Increase English language knowledge

授業方法: Workshop-style classes will be held in English. The course material will be provided by the instructor. Short texts, audio dialogues, and video segments will be analysed. Frequent in-class activities will be done in pairs and small groups. This class will adhere to the eclectic method of TEFL whilst applying the continuous assessment approach for grading.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Course Overview; "Getting-to-know-you" Activity	Make a name card
2. Topic 1: Professional Athletes	Homework and review
Is money more important than everything else?; A sports star has to make a difficult decision	
3. Topic 2: What is a Happy Relationship?	Homework and review
What is most important: loving your spouse, success in your career, or happy children?; Three different relationships are compared.	
4. Topic 3: Should People Keep Pets?	Homework and review
What's the best way to treat pets?; A cat tells his story about life with his owner	
5. Topic 4: Fast Food	Homework and review
Do we eat too much fast food?; What are the consequences of eating too much fast food?; A professor of food science gives her view	
6. Topic 5: Watching TV	Homework and review
Can watching TV be harmful?; Can watching TV be beneficial?; A university student tells her story	
7. Topic 6: Cosmetic Surgery	Homework and review
Is it okay to have cosmetic surgery?; A daughter tells her mother that she wants to have cosmetic surgery	
8. Mid-semester Assessment Task; Video Activity	Video activity homework
9. Topic 7: How to Prepare a Short Speech	Homework and review
Restaurant recommendation activity	
10. Topic 8: Excessive Computer Use	Homework and review
Can the excessive use of computers be harmful to a human relationship?; A wife thinks that her husband spends too much time on computers	
11. Topic 9: Beautiful Men	Homework and review
Should men put on make-up?; Should men strive to be beautiful?; Should women not wear make-up?	
12. Topic 10: Newlyweds	Homework and review
A newlywed couple complain about each other's shortcomings; How much should we compromise for a spouse?; Who is right?	
13. Topic 11: I Don't Care	Homework and review
Two roommates disagree about how their choices affect the environment; Should we be worried about climate change?	
14. Topic 12: Rules and Responsibility	Homework and review
A teenager and her mother argue about rules and responsibility; How much freedom should teenagers have?	
15. Conclusion	Review and consolidation of coursework

受講者へのメッセージやアドバイス: Students should prepare for class by reviewing the previous week's work and completing any assigned work in a timely manner.

Any work that is handed in late will incur a penalty.

If a student misses class, it is the student's responsibility to find out what was missed and to complete it.

フィードバックの方法: Any written work that is submitted will receive feedback on form and content. Corrections and comments will be written on student papers before they are returned to them.

Oral reports will be graded according to a presentation rubric. Feedback will be given to each student soon after the last oral report is given.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class attendance	10%	Students can miss up to 4 classes and still pass this course. However, each unexcused absence will incur a 2% penalty . If a student has an excused absence, she must present the Notice of Absence (issued by the Student Affairs Office) to the instructor in order to avoid the 2% penalty.
Class participation and overall effort	10%	To achieve a high score for this component, students need to contribute to class discussions by asking and answering as many questions as possible.
Homework	10%	Homework will be given to help students to comprehend the coursework.
Mid-semester assessment task	30%	An assessment task will be conducted halfway through the semester to determine how well the students are coping with the course.
Conclusion	40%	A final test to determine if the students have understood the key concepts of the course and whether they deserve to pass or not.

教科書: No textbook required

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡
方法:

I will be on campus on Fridays.
Please ask me your questions before, during, or after class.

授業テーマ:

Communicating in English

授業の概要:

This is a speaking and listening class for second-year students. Students will advance their overall communication skills by engaging in discussions about a variety of interesting topics and by creating and performing role-plays. Students will also practice expressing opinions and responding to the opinions of their classmates.

到達目標:

Students will expand their vocabularies and improve their ability to use English vocabulary and phrases appropriate to diverse situations. Students will also enhance their listening and pronunciation skills. This class will empower students to enter into English-speaking environments with greater confidence.

授業方法:

Learning in this class will be cooperative and participatory. Class time will be devoted to pair work and group activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introductions, Group Interviews, Reporting Group Interviews	Interview Homework
2.	Topic: Health	Classroom English Quiz Study
3.	Continuing Discussion of Health, Health Habits, Health and Safety	Classroom English Quiz Study
4.	Topic: Animals/Classroom English Quiz/Podcast Poster Presentation Introduction	Podcast Poster Presentation Preparation
5.	Continuing Discussion of Animals, Animal Rights, Vegetarianism, Endangered Species	Short Vocabulary Sentence Homework
6.	Topic: Fashion	Podcast Poster Presentation Preparation
7.	Continuing Discussion of Fashion, Fashion Excesses, Sweat Shops	Short Vocabulary Sentence Homework
8.	Topic: Family	Podcast Poster Presentation Preparation
9.	Continuing Discussion of Family, Raising Children, Discipline, Divorce	Short Vocabulary Sentence Homework
10.	Topic: Culture	Podcast Poster Presentation Preparation
11.	Continuing Discussion of Culture, Cultural Misunderstandings, Preserving Cultures, Destruction of Cultures	Podcast Poster Presentation Preparation
12.	Topic: Love and Marriage/Podcast Poster Presentations	Dialogue Preparation
13.	Continuing Discussion of Love and Marriage, True Love, Relationships, Qualities in a Partner	Dialogue Preparation
14.	Group Dialogue Preparation	TBA (To Be Announced)
15.	Group Dialogues, Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Written and verbal evaluations.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20	Attendance
	Class Participation	20	Daily evaluation
	Quiz	10	Quiz
	Homework	10	Evaluation of satisfactory completion
	Podcast Presentation	40	Evaluation according to rubric

教科書:

Mclean, Kirsty. Topic Talk: Issues. Okegawa City: EFL Press, 2002.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

授業テーマ:

授業の概要: Of the four skills (speaking, listening, reading, and writing), speaking and listening are emphasized.

到達目標: The goal is to develop students' English communication skills under the guidance of a native-English-speaking teacher.

授業方法: Text-based learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, and have discussions in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction & Orientation	To be determined
	2. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	3. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	4. Group Presentation I	To be determined
	5. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	6. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	7. Group Presentation II	To be determined
	8. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	9. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	10. Group Presentation III	To be determined
	11. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	12. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	13. English Communication Lesson & Practice	To be determined
	14. Final Presentations I	To be determined
	15. Final Presentations II	To be determined

受講者へのメッセージやアドバイス: Students are expected to complete all assignments on time. Positive and respectful participation in partner and group work is expected. Punctual and regular attendance is mandatory.

フィードバックの方法: Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Participation	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor. The completion of in-class writing assignments will be graded as part of participation.
	Homework	25	Approximately 1 hour of homework per week should be expected, though may not be consistent. Students will be required to hand in all homework assignments on time.
	Group Presentations	25	Students will be expected to prepare and present with a group of classmates 3 times during the course of the semester. Equal and fair participation by all members is required. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.
	Final Presentation	25	Students will be expected to prepare for one individual presentation at the course of the semester. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法: kkimdoshisha@gmail.com

授業テーマ:

授業の概要: A wide variety of reading (text, handouts, online sources) and listening (CD, video, online sources) relating to important contemporary topics will be used in class and for homework.

到達目標:

- ・ Increase knowledge of language related skills and contemporary topics.
- ・ Raise awareness and curiosity regarding important social issues.
- ・ Improve knowledge of vocabulary and grammar necessary for discussion skills.

授業方法: Lecture and practice.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Follow Your Passion	Pages 105–107
	2. Follow Your Passion	Pages 116–118
	3. Follow Your Passion	Pages 125–127
	4. Culture and Commerce	Pages 129–131
	5. Culture and Commerce	Pages 136–138
	6. Culture and Commerce	Pages 140–141
	7. Before You Say I Do	Pages 143, 147, 152–153
	8. Before You Say I Do	Pages 155–157
	9. Before You Say I Do	Pages 161, 167
	10. Reducing Your Carbon Footprint	Pages 169–170, 176–179
	11. Reducing Your Carbon Footprint	Pages 181–184
	12. Reducing Your Carbon Footprint	Pages 189, 193–195
	13. Group Project	TBD
	14. Group Project	TBD
	15. Group Project	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Comments and explanations regarding quizzes and classwork will be made during and after class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Quizzes	35	Quizzes will include reading, vocabulary and short writing.
	Group Project	35	Leadership, teamwork, self-management and presentation skills.
	Attendance/Participation	30	Points will be deducted for absences.

教科書: North Star 3, Soloranzo and Schmidt, 2015, Pearson Longman

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、

教員との連絡方法: Please ask in the classroom during or after class.

授業テーマ:

Developing English language communicative ability

授業の概要:

This course is for intermediate-level CASE students who wish to develop their English language communication skills, while they confront various real life issues. Students will learn how to think critically, express their opinions, give short presentations, and make the best decisions. The lessons feature exciting and timely topics that will lead to a lively exchange of ideas.

到達目標:

* Develop English language communicative ability

* Improve intrinsic and extrinsic motivation

* Increase English language knowledge

授業方法:

Workshop-style classes will be held in English. The course material will be provided by the instructor. Short texts, audio dialogues, and video segments will be analysed. Frequent in-class activities will be done in pairs and small groups. This class will adhere to the eclectic method of TEFL whilst applying the continuous assessment approach for grading.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course overview; “Getting-to-know-you” activity	Make a name card
	2. Unit 1: A Secret Romance	Homework and review
	Is it okay to have a secret affair?	
	3. Unit 2: Career Choice	Homework and review
	A young graduate has to decide which company to join.	
	4. Unit 3: Drinking Workers	Homework and review
	Should co-workers socialise with each other and their superiors outside of work?	
	5. Unit 4: Always Late	Homework and review
	Is it important to be punctual?; Is tardiness a sign of disrespect?	
	6. Mini Drama Activity – Preparation and Practice	Homework and review
	7. Unit 5: Halloween Activities	Homework and review
	What is trick or treating?; Have you ever seen a ghost?; Have you ever been to a costume party?	
	8. Mid-semester assessment task; Video activity	Video activity homework
	9. Unit 6: Dress for Success	Homework and review
	Are the clothes that you wear important?; Do other people judge you on how you look?	
	10. Unit 7: Bullying at Work	Homework and review
	How do you deal with bullying?; What can you do when you are the victim?	
	11. Unit 8: Alcohol Abuse	Homework and review
	Why do people drink alcohol?; Is drinking just a temporary escape?	
	12. Unit 9: No Place Like Home	Homework and review
	Two students abroad have very different experiences; How do we deal with culture shock?	
	13. Unit 10: Christmas and New Year	Homework and review
	Christmas songs; cross-cultural Christmas and new year traditions	
	14. Unit 11: Housework	Homework and review
	A young woman is frustrated because her fiancé won’t do any housework; Who is responsible for doing the household chores?	
	15. Conclusion	Review and consolidation of coursework

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students should prepare for class by reviewing the previous week’s work and completing any assigned work in a timely manner.

Any work that is handed in late will incur a penalty.

If a student misses class, it is the student’s responsibility to find out what was missed and to complete it.

フィードバックの方法:

Any written work that is submitted will receive feedback on form and content. Corrections and comments will be written on student papers before they are returned to them.

Oral reports will be graded according to a presentation rubric. Feedback will be given to each student soon after the last oral report is given.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class attendance	10%	Students can miss up to 4 classes and still pass this course. However, each unexcused absence will incur a 2% penalty . If a student has an excused absence, she must present the Notice of Absence (issued by the Student Affairs Office) to the instructor in order to avoid the 2% penalty.

Class participation and overall effort	10%	To achieve a high score for this component, students need to contribute to class discussions by asking and answering as many questions as possible.
Homework	10%	Homework will be given to help students to comprehend the coursework.
Mid-semester assessment task	30%	An assessment task will be conducted halfway through the semester to determine how well the students are coping with the course.
Conclusion	40%	A final test to determine if the students have understood the key concepts of the course and whether they deserve to pass or not.

教科書: No textbook required

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法: I will be on campus on Fridays.
Please ask me your questions before, during, or after class.

授業テーマ:	Communicating in English																																		
授業の概要:	This is a speaking and listening class for second-year students. Students will advance their overall communication skills by engaging in discussions about a variety of interesting topics and by creating and performing role-plays. Students will also practice expressing opinions and responding to the opinions of their classmates.																																		
到達目標:	Students will expand their vocabularies and improve their ability to use English vocabulary and phrases appropriate to diverse situations. Students will also enhance their listening and pronunciation skills. This class will empower students to enter into English-speaking environments with greater confidence.																																		
授業方法:	Learning in this class will be cooperative and participatory. Class time will be devoted to pair work and group activities.																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. Catching Up: Vacation Interviews</td><td>Interview Homework</td></tr><tr><td>2. Topic: Jobs</td><td>Job Interview Preparation</td></tr><tr><td>3. Continuing Discussion of Jobs, Choosing and Applying for Work, Equality in the Workplace</td><td>Job Interview Preparation</td></tr><tr><td>4. Job Interview Practice</td><td>Review Classroom English Quiz</td></tr><tr><td>5. Topic: School/Classroom English Review Quiz</td><td>TBA (To Be Announced)</td></tr><tr><td>6. Continuing Discussion of School, Bullying, The School System, Alternative Schools</td><td>Vocabulary Sentences</td></tr><tr><td>7. Topic: TV and the Movies</td><td>Movie Review</td></tr><tr><td>8. Continuing Discussion of Media Influences, TV News, TV Violence</td><td>Poster Podcast Presentation Preparation</td></tr><tr><td>9. Topic: Nature</td><td>Vocabulary Sentences</td></tr><tr><td>10. Continuing Discussion of Nature, Environmental Problems</td><td>Poster Podcast Presentation Preparation</td></tr><tr><td>11. Topic: Shopping, Consumerism and the Environment/Podcast Presentations</td><td>TBA</td></tr><tr><td>12. "A Charlie Brown Christmas": Consumerism and Christmas, Christmas Party</td><td>TBA</td></tr><tr><td>13. Topic: Human Rights</td><td>Final Dialogue Presentation Preparation</td></tr><tr><td>14. Human Rights Dialogues</td><td>TBA</td></tr><tr><td>15. Conclusion</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. Catching Up: Vacation Interviews	Interview Homework	2. Topic: Jobs	Job Interview Preparation	3. Continuing Discussion of Jobs, Choosing and Applying for Work, Equality in the Workplace	Job Interview Preparation	4. Job Interview Practice	Review Classroom English Quiz	5. Topic: School/Classroom English Review Quiz	TBA (To Be Announced)	6. Continuing Discussion of School, Bullying, The School System, Alternative Schools	Vocabulary Sentences	7. Topic: TV and the Movies	Movie Review	8. Continuing Discussion of Media Influences, TV News, TV Violence	Poster Podcast Presentation Preparation	9. Topic: Nature	Vocabulary Sentences	10. Continuing Discussion of Nature, Environmental Problems	Poster Podcast Presentation Preparation	11. Topic: Shopping, Consumerism and the Environment/Podcast Presentations	TBA	12. "A Charlie Brown Christmas": Consumerism and Christmas, Christmas Party	TBA	13. Topic: Human Rights	Final Dialogue Presentation Preparation	14. Human Rights Dialogues	TBA	15. Conclusion			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. Catching Up: Vacation Interviews	Interview Homework																																		
2. Topic: Jobs	Job Interview Preparation																																		
3. Continuing Discussion of Jobs, Choosing and Applying for Work, Equality in the Workplace	Job Interview Preparation																																		
4. Job Interview Practice	Review Classroom English Quiz																																		
5. Topic: School/Classroom English Review Quiz	TBA (To Be Announced)																																		
6. Continuing Discussion of School, Bullying, The School System, Alternative Schools	Vocabulary Sentences																																		
7. Topic: TV and the Movies	Movie Review																																		
8. Continuing Discussion of Media Influences, TV News, TV Violence	Poster Podcast Presentation Preparation																																		
9. Topic: Nature	Vocabulary Sentences																																		
10. Continuing Discussion of Nature, Environmental Problems	Poster Podcast Presentation Preparation																																		
11. Topic: Shopping, Consumerism and the Environment/Podcast Presentations	TBA																																		
12. "A Charlie Brown Christmas": Consumerism and Christmas, Christmas Party	TBA																																		
13. Topic: Human Rights	Final Dialogue Presentation Preparation																																		
14. Human Rights Dialogues	TBA																																		
15. Conclusion																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	Written and verbal evaluations.																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>Attendance</td><td>20</td><td>Attendance</td></tr><tr><td>Class Participation</td><td>20</td><td>Daily Evaluation</td></tr><tr><td>Quiz</td><td>10</td><td>Quiz</td></tr><tr><td>Homework</td><td>10</td><td>Evaluation of Satisfactory Completion</td></tr><tr><td>Podcast Presentation</td><td>40</td><td>Graded According to Rubric</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	Attendance	20	Attendance	Class Participation	20	Daily Evaluation	Quiz	10	Quiz	Homework	10	Evaluation of Satisfactory Completion	Podcast Presentation	40	Graded According to Rubric																
評価方法	割合	評価基準																																	
Attendance	20	Attendance																																	
Class Participation	20	Daily Evaluation																																	
Quiz	10	Quiz																																	
Homework	10	Evaluation of Satisfactory Completion																																	
Podcast Presentation	40	Graded According to Rubric																																	
教科書:	Mclean, Kirsty. Topic Talk: Issues. Okegawa City: EFL Press, 2002.																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、コミュニケーション力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	brettgross13@yahoo.com																																		

授業テーマ:

Developing communication skills.

授業の概要:

To use as much English in class to improve your speaking ability.

到達目標:

The objective of this course is to develop your communicative ability in English. All four skills; speaking, listening, reading, and writing will be touched on, however, the main goal is to improve your communication ability.

授業方法:

Pair and group work.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Introduction to the course and you introductions to each other. An explanation of what we will be doing with the textbook.	Review unit 1, check on vocabulary you don't know.
2.	2. Unit 1. Have you two met? Relationships.	Review unit 1, check on vocabulary you don't know.
3.	3. Continuation of Unit 1. Have you two met? Relationships. Small Quiz on Unit 1.	
4.	4. Unit 2. You must be excited. Emotions.	Review unit 2, check on vocabulary you don't know.
5.	5. Continuation of Unit 2. You must be excited. Emotions. Small Quiz on Unit 2.	Review unit 2, for small quiz.
6.	6. Unit 3. Where should I go? You must be excited.	Review unit 3, check on vocabulary you don't know.
7.	7. Continuation of Unit 3. Where should I go? You must be excited. Small Quiz on Unit 3.	Review unit 3 for small quiz
8.	8. Unit 4. I love that. Opinion Adjectives.	Review unit 4, check on vocabulary you don't know.
9.	9. Continuation of Unit 4. I love that. Opinion Adjectives.	Review unit 4, check on vocabulary you don't know.
10.	10. Small Quiz on Unit 4.	Review unit 4 for small quiz.
11.	11. Very important unit. Unit 5. What's your excuse? Problems and reasons.	Review unit 5, check on vocabulary you don't know.
12.	12. Continuation of Unit 5. What's your excuse? Problems and reasons.	Review unit 5, check on vocabulary you don't know.
13.	13. Quiz on Unit 5.	Review unit 5 for small quiz.
14.	14. Unit 6. What's it like there? Cultural symbols and traditions.	Review unit 6, check on vocabulary you don't know.
15.	15. Continuation of Unit 6. What's it like there? Cultural symbols and traditions. Small Quiz on Unit 6.	Review unit 6 for small quiz.

受講者へのメッセージやアドバイス:

1. Review class notes. 2. Preview and prepare for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabulary for small unit quizzes. Read as many Graded Readers to see vocabulary in used in context.

フィードバックの方法:

Quizzes will be marked by you in class. Hand in homework will have written comments on it.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Observation	34	Attendance and class participation.
	Quizzes	33	Small unit quizzes.
	Home work.	33	Small hand in writing assignment at the end of each unit.

教科書:

English Firsthand 2. New English Firsthand Series. Helgesen, Brown, Wiltshier. Pearson Longman.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Before, during, or after class.

授業テーマ:

To continue developing of you communication skills.

授業の概要:

To continue using as much English as possible in class.

到達目標:

The objective of this course is to continue to develop your communicative ability in English. All four skills; speaking, listening, reading, and writing will be touched on, however, the main goal is to improve your communication ability.

授業方法:

Pair and group communication study.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Introduction to the course for new students whom have joined the class. An explanation of what we will be doing.	Review unit 7 and check on vocabulary you don't know.
2.	2. Unit 7. Do you remember when....? Personal experiences and past events.	Review unit 7 and check on vocabulary you don't know.
3.	3. Continuation of Unit 7. Do you remember when? Personal experiences and past events.	Review unit 7 and check on vocabulary you don't know.
4.	4. Small Quiz on Unit 7.	Review unit 7 for small quiz.
5.	5. Unit 8. Let's have a party! Leisure time activities.	Review unit 8 and check on vocabulary you don't know.
6.	6. Continuation of Unit 8. Let's have a party! Leisure time activities. Small Quiz on Unit 8.	Review unit 8 for small quiz.
7.	7. Unit 9. What should I do? Personal problems.	Review unit 9 and check on vocabulary you don't know.
8.	8. Continuation of Unit 9. What should I do? Personal problems.	Review unit 9 and check on vocabulary you don't know.
9.	9. Small Quiz on Unit 9.	Review unit 9 for small quiz.
10.	10. Unit 10. Tell me a story. Traditional and modern story elements.	Review unit 10 and check on vocabulary you don't know.
11.	11. Continuation of Unit 10. Tell me a story. Traditional and modern story elements. Small Quiz on Unit 10.	Review unit 10 for small quiz.
12.	12. Unit 11. In my opinion. Agreement and disagreement language.	Review unit 11 and check on vocabulary you don't know.
13.	13. Continuation of Unit 11. In my opinion. Agreement and disagreement language.. Quiz on Unit 11.	Review unit 11 for small quiz.
14.	14. Unit 12. It' my dream! Dreams and goals.	Review unit 12 and check on vocabulary you don't know.
15.	15. Continuation of Unit 12. It' my dream! Dreams and goals. Small quiz on 12.	Review unit 12 for small quiz.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Review class notes. 2. Preview and prepare for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabulary for small unit quizzes. Read as many Graded Readers as possible to see vocabulary in context.

フィードバックの方法:

Quizzes will be marked in class by you. Hand in homework will have written comments on it.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Observation	34	Attendance, participation, and attitude.
	Quizzes	33	Small unit quizzes at the end of each unit.
	Home work	33	Small hand in home based on the unit.

教科書:

English Firsthand 2. New English Firsthand Series. Helgesen, Brown, Wiltshier. Pearson Longman.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Before, during, or after class.

授業テーマ: Presentation Skills

授業の概要: Speaking and general communication skills will be learned and frequently practiced. Non-verbal communication will be cultivated along with facial and bodily expression of emotions. Close attention will be paid to pronunciation, intonation, stress and other verbal techniques. In addition, quick verbal responses and offering of opinions will be encouraged.

到達目標: To hone all English communication skills and to become accustomed to speaking English in a public situation.

授業方法: interactive

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

1. Block 1 weeks 1-4
Memory work. Basic presentation style.
overall goals: fluency, non-verbal aspects of communication – leading to 5 min. solo presentation (the Environment)
2. Introductions and Conclusions: memorizing to maximize eye-contact and audience attention
script checking/visuals
3. Speaking warm up: vowel sounds
Practice Presentation 1 – timing, memorization.
Test 1: general presentation vocabulary
Presentation 1 Performance Part 1
4. Speaking warm up: consonants
Test 1 retake
Presentation Performance Part 2
peer assessment, advice and strategies for improvement.
5. Block 2: weeks 5-8
overall goals: fluency, eye-contact, speaking not reading, being convincing leading to 5 min Book Review Presentation (scripted)
6. Speaking warm up: stress
Presentation 2 Performance Part 1
More practice on Introduction and Conclusions: introducing sign-posting:
eye-contact practice and voice quality/projection
7. Test 2: debate vocabulary + grammar
Speaking warm up: stress
Presentation 2 Performance Part 1
feedback/peer impressions
more practice
newspaper debates
8. Speaking warm up: stress and intonation 1
Test 2: retake
Presentation Performance Part 2
9. Block 3: weeks 9-11
overall goals: fluency, audience contact, getting attention – leading to 10 min pp presentation on Academic Interest.
10. Speaking warm up: stress & intonation 2
Presentation 3 Performance Part 1
More practice on using your voice/articulation 1
Test 3
11. Speaking warm up: stress and intonation 3
Test 3: retake
Presentation 3 Performance Part 2
assessment/advice – target for improvement
12. Block 4: weeks 12-15
overall goals: making opinions, spontaneity, questioning, reacting/responding/clarification leading to 10 min as Debate Leader in Debate.
13. Speaking warm up: stress
Presentation 4 Performance Part 1
assessment, advice
Test 4: (debate vocabulary.)
14. Speaking warm up: stress and intonation 3
Test 4: retake
Presentation 4 Performance Part 2
assessment/advice – target for improvement
15. Final Assessment
Discussion: suggestions about vacation work and continuing to keep in contact with English
Watch presentation videos – to see visible improvement

準備学習等の内容

Basic vocabulary collection
regular speaking practice: cultivating English pronunciation.
muscles
Plan presentation: time and practice

practice of intros/concls.
Prepare for Test 1: stating your purpose
making a memo for Presentation 1
Practise presentation with memo. Final adjustments for timing/fluency
Discover your Opinion: opinions of value, policy and Fact.
Test correction/grading & feedback
review for retake

Generating ideas for Presentation 2 finishing reading, collecting info./impressions about book
Start to prepare numbered memo

Opinion class survey
resolutions
Effective presentation openings
Introducing visuals
Practise Pres. 2 timing with memo
Grammar Practice (passive voice)
Presentation practice/timing adjustments
Find a newspaper article debate

Test correction/grading & feedback
review for retake

Generating ideas for Presentation 3
Reviewing problems of/strategies for Presentation 2

Start to write script for Pres. 3 – to be checked.
Powerpoint design
using slides to indicate change & development

Grammar Practice (pronouns-to avoid repetition)
Presentation practice
Test correction/grading & feedback
review for retake

Generating ideas for Presentation 4
explaining your opinion: supporting opinions; general debate
delivery – assertiveness, leading

Write intro speech for Debate and make pros/cons list of possible responses for closing remarks.

Test correction/grading & feedback
review for retake
Presentation 4 practice

Grand Review of all presentations
Practice list for improvement/awareness

受講者への
メッセージや
アドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions, you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and a wide perspective on global topics.

フィードバックの
方法: Presentation assessment, peer assessment, frequent advice and practice. Discussion/clinic at the end of each block about future improvement and requirements to become a successful communicator in English cultural style.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Block 1: test, presentation, participation and effort writing, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
	Block 2: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
	Block 3: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
	Block 4: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
教科書:	Lubetsky M., LeBeau C., Harrington D. Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions. language Solutions Inc.		
参考書:	Powell M. Presenting in English: how to give successful presentations. (CDs x 2) Gengage Learning.		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	lindenthorp@gmail.com		

授業テーマ: Presentation Skills

授業の概要: Speaking and general communication skills will be learned and frequently practiced. Non-verbal communication will be cultivated along with facial and bodily expression of emotions. Close attention will be paid to pronunciation, intonation, stress and other verbal techniques. In addition, quick verbal responses and offering of opinions will be encouraged.

到達目標: To hone all English communication skills and to become accustomed to speaking English in a public situation.

授業方法: interactive

「授業内容」

および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

1. Block 1 weeks 1-4
Memory work. Basic presentation style.
overall goals: fluency, non-verbal aspects of communication – leading to 5 min. solo presentation (Social/Business)
2. More Introductions and Conclusions: memorizing to maximize eye-contact and audience attention
script checking/visuals
3. Speaking warm up: stress 1
Practice Presentation 1 – timing, memorization.
Test 1: general presentation vocabulary
Presentation 1 Performance Part 1
4. Speaking warm up: stress 2
Test 1 retake
Presentation Performance Part 2
peer assessment, advice and strategies for improvement.
5. Block 2: weeks 5-8
overall goals: fluency, eye-contact, speaking not reading, being convincing leading to 10 min Debate
Presentation (script checked)
6. Speaking warm up: stress 3
Presentation 2 Performance Part 1
More practice on Introduction and Conclusions:
introducing sign-posting:
eye-contact practice and voice
7. Test 2: debate vocabulary + grammar
Speaking warm up: stress
Presentation 2 Performance Part 1
feedback/peer impressions
more practice
newspaper debates
8. Speaking warm up: stress and intonation 1
Test 2: retake
Presentation Performance Part 2
9. Block 3: weeks 9-11
overall goals: fluency, audience contact, getting attention – leading to 10 min pp presentation on Academic Interest.
10. Speaking warm up: chunking 1
Presentation 3 Performance Part 1
More practice on using your voice/articulation 1
Test 3
11. Speaking warm up: chunking 2
Test 3: retake
Presentation 3 Performance Part 2
assessment/advice – target for improvement
Emphasis
12. Block 4: weeks 12-15
overall goals: making opinions, spontaneity, questioning, reacting/responding/clarification
leading to 15 min as Debate Leader in Debate.
13. Speaking warm up: stress & intonation-emphasis
Presentation 4 Performance Part 1
assessment, advice
Test 4: (debate vocabulary.)
14. Speaking warm up: stress and intonation 3
Test 4: retake
Presentation 4 Performance Part 2
assessment/advice – target for improvement
15. Final Assessment
Discussion: suggestions about vacation work and continuing to keep in contact with English
Watch presentation videos – to see visible improvement

準備学習等の内容

Basic vocabulary collection
regular speaking practice: cultivating English pronunciation.
muscles
Plan presentation: time and practice

practice of intros/concls.
Prepare for Test 1: stating your purpose
making a memo for Presentation 1
Practise presentation with memo. Final adjustments for timing/fluency
Supporting opinion with strong reasons
Test correction/grading & feedback
Generating ideas for Presentation 2
Start to prepare numbered memo

Opinion class survey
resolutions
Introducing visuals
Practise Pres. 2 timing with memo
Grammar Practice (conditionals)
Presentation practice/timing adjustments
Find a newspaper article debate

Test correction/grading & feedback
review for retake

Generating ideas for Presentation 3
Reviewing problems of/strategies for Presentation 2

Start to write script for Pres. 3 – to be checked.
Powerpoint design
using slides to indicate change & development

Grammar Practice (more pronouns-to avoid repetition)
Presentation practice
Test correction/grading & feedback
review for retake
Generating ideas for Presentation 4
explaining your opinion: supporting opinions; general debate
delivery – assertiveness, leading

Write intro speech for Debate and make pros/cons list of possible responses for closing remarks.

Test correction/grading & feedback
review for retake
Presentation 4 practice

Grand Review of all presentations
Practice list for improvement/awareness

受講者への
メッセージや
アドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions, you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and a wide perspective on global topics.

フィードバックの
方法:

Presentation assessment, peer assessment, frequent advice and practice. Discussion/clinic at the end of each block about future improvement and requirements to become a successful communicator in English cultural style.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Block 1: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
	Block 2: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
	Block 3: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
	Block 4: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
教科書:	Lubetsky M., LeBeau C., Harrington D. Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions. language Solutions Inc.		
参考書:	Powell M. Presenting in English: how to give successful presentations. (CDs x 2) Gengage Learning.		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	lindenthorp@gmail.com		

授業テーマ:

The Life Cycle: Intercultural Values: Personal Issues.

授業の概要:

Love, Marriage, Raising Children, Friendship, Childhood, Family...these are issues that concern people all over the world. We will explore the ideas and values concerning these issues from countries around the world as well as in Japan. You will get a chance to think about your own ideas and learn how to express them clearly successfully in English, while developing the very vocabulary used in TOEIC tests. From birth to death, this class will help you think and talk about life. Learning about others peoples' values helps us learn about our own.

到達目標:

・To increase student vocabulary concerning personal issues that effect people world wide using words commonly found in TOEIC tests.

・To increase knowledge about world issues.

・To increase self-awareness through analyzing the pros and cons of various ideas and reflecting on one's own opinion.

・To increase ability to express ones ideas in a foreign language.

・To increase logical reasoning and adequate provision of support for arguments.

・To increase personal motivation by thinking about world issues and realizing one's potential and core values.

・To increase empathy for others by realizing the universality of issues that effect people around the world.

授業方法:

The class will follow an interactive seminar type format, with short lectures/readings, pair and group work followed by discussion. Readings from the textbook will be used as a starting point for exploring cultural values using video clips, popular songs and internet resources relevant to the issue under discussion. This class follows an Active Learning methodology; students are expected to participate through discussions, participation and group work. Students are expected to bring dictionaries to class and to do regular homework to be ready to discuss the issues in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction: Debate as means of Social Improvement.	Vocabulary sheet
	2. English and Cultural Imperialism	Vocabulary and Reading Sheet, fill in blanks.
	3. Education: Rote Vs. Analytical Learning	Question Sheet
	4. Friendship: Values and Altruism	Fill in Poem: Blake's Poison Tree
	5. Love: Romantic or Practical	Cross Word and Questions
	6. International Relationships	Advantages and Disadvantages List. Marriage Pop Quiz.
	7. Marriage: What is Marriage	Pros and Cons List, Prepare for Presentation.
	8. Mid-term Presentation: Debate: Pros and Cons of Marriage	Vocabulary Sheet
	9. Divorce and Domestic Violence: Triggers and Root Causes, What makes a marriage fail/succeed?	Causes and Solutions List
	10. Birth and Abortion	Decide on Final Presentation Topic
	11. Raising Children: Values We Should Impart to Our Children	Dos and Don'ts List Presentation Outline
	12. Career and Life Purpose:	Personal Qualities/Ambitions for Jobs.
	13. Old Age and Death: Beliefs and Economic Systems	Rough Draft of Final Presentation
	14. Final Presentations Check	Clean up and practice Final Presentation
	15. Conclusion	Review

受講者へのメッセージやアドバイス:

*Students are expected to bring dictionaries to class

** If you miss class it is up to you to find out what was covered in that class and do the homework. MISSING CLASS IS NOT AN EXCUSE FOR NOT DOING HOMEWORK. Find someone in class to contact, or email me.

*** Homework is often preparation for next class' conversation. Minus points will accrue for failure to do so.

フィードバックの方法:

Teacher actively participates in weekly group discussions, going around the class and talking to students individually to give them feedback on their participation and discussion skills. Presentations are graded and verbal response is provided. Homework is checked each class. Students may request their grade average at any point during the semester.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and Participation	25%	Preparedness and activeness of students in the weekly group discussions. Readiness to answer questions in class based on homework.
	Homework	20%	Fulfillment of Homework sheets, research or lists is checked each class. Grades are given for fulfilment not based on correct answers.
	Vocabulary Quizzes/Short Presentations	25%	Quizzes are returned with a grade. Presentations are based on content, clarity, and audience engagement.
	Mid Term and Final Presentation	30%	Presentations are based on content, clarity, organisation of points, and audience engagement.

教科書:

Richard R. Day, Junko Yamanaka, Impact Issues. Pearson Longman

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、

教員との連絡方法:

Teacher's Room: Thursday between periods 1 to 4. Email: kwadams3@yahoo.co.jp

教員との連絡
方法:

Teacher's Room between periods 1-4 on Thursdays. Email: kwadams3@yahoo.cp.jp

授業テーマ:

Group Discussion, Thinking, Presentation, and General Communication Skills

授業の概要:

The aim of this course is to help students express their opinions individually or in groups through variety of activities. Among many, you will participate in making a News Package and giving an impromptu speech. Some activities will require you to gather detailed information on a given topic.

到達目標:

The objectives of the course is to prompt a curiosity of mind in students through information and opinion sharing. After completing this course, you should be able to speak English with confidence and have motivation to continue

授業方法:

Participation in the class i.e., your interaction with class-mates via discussion, sharing your opinion, questioning, etc. is crucial for this student-centered approach.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the Course. Get to Know Your Classmates	Write at least 1 page about your hobby.
	2. My Favorite Winter Story.	Finish preparing your speech. Watch the video about “How to give a feedback”. Take Notes. The URL will be provided.
	3. My First Speech.	Write feedback comments about your 3 favorite presentations.
	4. Practicing Impromptu Speeches.	Read the article from British Council about adjectives. Take notes. The URL will be provided.
	5. Describing Objects	Read the article describing hair styles. Take Notes. The URL will be provided.
	6. Describing People	Read the article about Łazienki Park in Warsaw. Take notes. The URL will be provided.
	7. Giving Directions	Make a list of 10 topics that interest you.
	8. Hot Topics in the News (Prep for the Class Discussion).	Finish preparing your arguments for the class discussion.
	9. My First Class Discussion.	Read this short article about what is formal and informal language. Take notes. The URL will be provided.
	10. Green -> Ecologically Responsible (Formal and Informal English).	Watch the video on “5 tips to improve your critical thinking” by Ted-Ed. Take notes. The URL will be provided.
	11. Viral Videos and Trending News (Prep for the Debate).	Watch the video on “Structure of debate”. Take notes. The URL will be provided.
	12. My First Debate.	Watch the video on how to make a news package. Take notes. The URL will be provided.
	13. Final Project Prep I: Making a News Package.	Complete the scrip for the Final Project.
	14. Final Project Prep II: Making a News Package.	Finish editing the Final Project.
	15. Final Project`s Presentation.	NA

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

After-class voluntary meeting and direct in-class feedback.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	40	Participation in the class i.e., your interaction with class-mates via discussion, sharing your opinion, questioning, etc. is crucial for student-centered approach. Your participation will be graded based on your performance: a) fulfilling tasks with your group members, b) individual speeches, c) class discussions, and d) the class debate.
	Homework	20	Homework will be graded at the beginning of each session, max. 15 min. You will share the homework with other class-mates. There will be a set of questions for each homework to discuss a given article or video. Each session is preceded by a relevant ho
	Attendance	20	Attendance: 20 You must be present; however, your presence is not enough to pass the course.
	Final Project	20	Final Project is part of in-class participation; however, in this project you will have to put into practice all the skills you gained in 2-15 sessions.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

You will be given contact information at the beginning of the spring semester.

授業テーマ:

Thinking, Public Presentation, and General Communication Skills

授業の概要:

The aim of this course is to help students express their opinions individually or/and in groups through variety of activities. Among many, you will participate in giving an impromptu speech, telling a story and giving a public speech. Some activities will require you to gather detailed information on a given topic.

到達目標:

The objectives of the course is to prompt a curiosity of mind in students through information and opinion sharing. After completing this course, you should be able to speak English with confidence and have motivation to continue study English.

授業方法:

Participation in the class i.e., your interaction with class-mates via discussion, sharing your opinion, questioning, etc. is crucial for this student-centered approach.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. My Favorite Summer Story.	Finish your speech.
	2. My Second Speech.	Watch “How to read body Language” video. Take Notes. The URL will be given.
	3. Body Language (BL).	Watch this 4-part video about American English Intonation. Take notes. The URL will be given.
	4. Voice Intonation (VI).	Listen to this 30-emotion-voice exercise and practice. Take notes. The URL will be given,
	5. Expressing Emotions in a Conversation (E).	Watch the video “17 British Accents”. Take notes. The URL will be provided.
	6. Accents and Dialects (A&D).	Finish writing your story. Practice and get ready for telling your story.
	7. Story Telling (BL+VI+E+A&D).	Watch “How to boost your confidence” video. Take notes. The URL will be provided.
	8. My Second Impromptu Speech.	Watch UN Women’s Goodwill Ambassador Emma Watson` speech. Take notes. The URL will be given.
	9. Public Speaking I: Introduction.	Watch “Be a More Confident Public Speaker” video. Take notes. The URL will be provided.
	10. Public Speaking II: Transitions.	Watch “Top 4 Rules of Giving a Speech” video. Take notes. The URL will be provided.
	11. Public Speaking III: Conclusions.	Watch “How to Prepare for a Speech” video. Take notes. The URL will be given.
	12. The Final Project Prep I: Choosing a topic.	Gather the most important info about your chosen topic. Follow the speech structure and make an outline for each slide.
	13. The Final Project Prep II: Structuring your PowerPoint Presentation.	Finish up your ppt slides.
	14. The Final Project Prep III: The final check-up.	Rehearse, rehearse, and rehearse!
	15. The Final Project: Presentations.	NA

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

After-class voluntary meeting and direct in-class feedback.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	40%	Participation in the class i.e., your interaction with class-mates via discussion, sharing your opinion, questioning, etc. is crucial for student-centered approach. Your participation will be graded based on your performance: a) fulfilling tasks with your group members, b) individual speeches, c) class discussions, and d) the final project.
	Homework	20%	Homework will be graded at the beginning of each session, max. 15 min. You will share the homework with other class-mates. There will be a set of questions for each homework to discuss a given article or video.
	Attendance	20%	Each session is preceded by a relevant ho You must be present; however, your presence is not enough to pass the course.
	Final Project	20%	Final Project is part of in-class participation; however, in this project you will have to put into practice all the skills you gained in 2-15 sessions.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、思いやる力

教員との連絡方法:

You will be given contact information at the beginning of the autumn semester.

授業テーマ:

授業の概要: 本講義の主な目的は、現代政治(学)を理解するために必要とする、基本的な知識と分析方法を受講者に提供し、現代政治(学)のさまざまな課題について受講生と議論をすることである。政治学を学び、研究する人間は必ずしも政治家や政治学者のように、政治、あるいは政治学を職業にするわけではない。しかし、現代社会に生きる全ての人間はほぼ間違いなく政治の影響を受けており、そして何らかの形で政治に関わっているのである。国家、自治体、あるいは国際社会における政治だけでなく、個々人の身の周りの政治を理解するためにも、絶えず「誰が、何のために、どのように政治を行っているか」を問う必要があるだろう。本講義は本人、代理人の関係に注目し現代政治(学)に関わるアクターとルール、さらに課題について議論を展開する。

到達目標: ・現代政治の制度や、システム、そしてそれらが形成された経緯を理解するために必要な知識を習得すること。
・冷静に、客観的に政治問題を分析する能力を身につけること。

授業方法: 前半は主に講義式で授業を行い、適宜ディスカッションを行う。後半は発表やディスカッションが中心となるゼミ形式で授業を行う予定である。必要に応じて、映像資料を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション・政治とは何か 2. ディスカッション・誰が、何のために、どのように政治を行っているか 3. 政治哲学・政治思想①: 権利と権力、国民国家と統治 4. 政治哲学・政治思想②: 自由、平等、市民社会 5. 政治制度・政治過程①: 政党、議会、執政部と官僚制 6. 政治制度・政治過程②: 政策の形成と実施 7. 政治制度・政治過程③: 投票と政治参加 8. 国際政治①: 国際政治の歴史 9. 国際政治②: 国際政治の分析方法としくみ 10. 国際政治③: グローバリゼーションに伴う新たな展開 11. 受講者による発表とディスカッション① 12. 受講者による発表とディスカッション② 13. 受講者による発表とディスカッション③ 14. 受講者による発表とディスカッション④ 15. 授業内容の総括、質疑応答		テキストの内容を中心に予習 テキストの内容を中心に予習、政治に対する自らの興味関心をまとめる 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習、発表・ディスカッションの準備 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習、発表・ディスカッションの準備 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習、発表・ディスカッションの準備 授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習、発表・ディスカッションの準備 授業内容の復習、レポートの執筆

受講者へのメッセージやアドバイス: ・受講者の人数、学年構成を考慮し、授業内容、形式と日程を変更する可能性がある。
・受講者の授業に対する理解や要望を考慮し、授業の内容や進め方を調整する予定であるため、積極的に発信し、ディスカッションに参加することが望ましい。
・授業の内容を覚えるだけでなく、自らの問題関心に合わせて、政治学の知識や分析方法を活用する姿勢を高く評価する。

フィードバックの方法: ・毎回の授業において、5ー10分ほど質疑応答の時間を設ける。
・ディスカッションの後は総括やコメントの時間を設ける。
・授業時間外の質疑応答やコメントはメールで対応する(アドレスは授業時に伝える)。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	30	欠席が減点対象となるが、出席回数だけでなく、授業参加の姿勢も評価対象とする。
	発表や提出物	30	授業に対する理解や論点の設定を評価する。
	期末レポート(4000字程度)	40	授業に対する理解や論点の設定、議論の展開を評価する。

教科書: 久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝、『[補訂版] 政治学』、(有斐閣、2011)。

参考書: 授業中適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法: ・授業時間外の連絡は主にメールで対応する(アドレスは授業時に伝える)。

授業テーマ:	人々の生活と地域について考える		
授業の概要:	人文地理学は地表(地域)と人間の諸活動の関わりを研究対象とした基礎的で幅広い研究分野である。この講義では、地理学の基礎的な考え方や地域概念を説明した後、地表や地域を描いた地図の種類や扱い方について説明する。その後、地図、景観写真や空中写真を使って具体的な地域の現象や問題を取りあげて説明していく。また、統計を使った地域分析についても紹介していく。		
到達目標:	①地表面で繰り広げられる人々の活動や生活について、それらを地域や空間の現象としてとらえることができるようにする。 ②地域や空間を地図化することによって表現する能力を養い、また分析する力を身につける。 ③景観写真から観察力を養い、分析する力を身につける。 ④地域や空間の現象を統計によって客観的にとらえる力を身につける。		
授業方法:	講義形式である。受講生数にもよるが地図作業、空中写真・景観写真に関する実習作業も予定している。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 人文地理学とは	義務教育で履修してきた地理をふりかえり、何を学んできたのか把握しておく。	
	2. 地域の諸概念－地域区分と地域類型－		
	3. 地図の基礎－地域スケールと地図－	配付資料を読んでおく。	
	4. 地図から地域を読み解く<基礎編>－地図記号から現地の景観をイメージする－	配付資料に作業をしておく。	
	5. 地図から地域を読み解く<応用編>－地域の変貌－	配付資料を読んでおく。	
	6. 空中写真判読から土地の履歴を知る－奈良盆地の村落景観－	配付資料を読んでおく。	
	7. 景観写真から地域の特徴をとらえる		
	8. 重要伝統的建造物群保存地区		
	9. 文化的景観	配付資料を読んでおく。	
	10. 農村地域の生業－世界遺産五箇山と金沢－	配付資料を読んでおく。	
	11. 統計から地域をとらえる<1>－通勤・通学圏－	配付資料を読んでおく。	
	12. 統計から地域をとらえる<2>－茶の生産地－	配付資料に作業をしておく。	
	13. 住宅地の開発<1>－都市の中心から郊外へ		
	14. 住宅地の開発<2>－京阪奈丘陵－		
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	身近な人々の活動や生活を客観的に観察していると、それらは地域や空間の現象としてとらえることができます。また、歴史とも深くかかわっています。暗記する科目としての地理をイメージしてきたみなさんは、これを機会にそのイメージを崩して受講してみてください。		
フィードバックの方法:	①提出されたレポートについてはコメントをつけて教室で返却する。 ②作業をした地図は、採点して教室で返却する。 ③提出されたコメントペーパーについては、次の授業時、教室で受講生全体に講評を述べる。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50%	到達目標①～④の理解度により評価する。
	地図作業	10%	到達目標②を理解した上で、丁寧かつ正確な作業ができたかどうかを評価基準とする。
	レポート	10%	到達目標③を理解したうえで、読み手に対して説得力ある説明ができ、新たに自身の視点を導くことができたかどうかを評価基準とする。
	授業への参加度	30%	積極的に授業に参加し、内容が理解できているかを評価規準とする。
教科書:	使用しない。		
参考書:	必要に応じて適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力		
教員との連絡方法:	①Eメール(授業中に連絡先アドレスを伝える) ②授業の前後に教室内外で応対		

授業テーマ:	京都・大阪のなりたちを考える～地図から読み取る京都・大阪のすがた		
授業の概要:	本講義では、地図作業を通して京都・大阪の歴史的な成り立ちを考えていきます。具体的には、明治時代に作成された仮製2万分1地形図上で実際に作業しながら、京都がどのように今日の姿になってきたのか、また大阪との関わりはどのようなになってきたのか、地理学的に考えていきます。		
到達目標:	1: 地図作業を通して「地図を読む」読図力を身につける。 2: 京都・大阪の歴史的、地理的な形成の特質を理解し、「京都とは何か」を空間的に把握する		
授業方法:	講義 パワーポイントを中心とし、各自の地図作業を行ないながら理解を進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに 本授業の概要説明	準備物・地図作業に必要な器具類の説明	
	2. 地図の成り立ちと地図作業上の問題点一世界と日本の地図、地図と地形図の違い	プリント配布 事前学習と理解	
	3. 仮製2万分1地形図の作業図作成	地図作業に必要なものの準備、はり合わせ作業	
	4. 京都の地形図の特質	配布資料の確認学習	
	5. 平安京はなぜこの場所にあるのか～立地の背景と設置の基準	配布資料の確認学習	
	6. 京都の町の形～正方形か長方形か	配布資料の確認学習	
	7. 豊臣秀吉の京都都市改造1 洛中	配布資料の確認学習	
	8. 豊臣秀吉の京都都市改造2 伏見	配布資料の確認学習	
	9. 京都の地名の変遷と意味	配布資料の確認学習	
	10. 街道の展開と京都	配布資料の確認学習	
	11. 熊野街道と京都・大阪	配布資料の確認学習	
	12. 淀川水運の重要性～京都と大阪	配布資料の確認学習	
	13. 水都大阪の成立と展開1 古代からの難波京の形成	配布資料の確認学習	
	14. 水都大阪の成立と展開2 水と共存する街 大阪の現状と課題	配布資料の確認学習	
	15. 地図作業の確認とまとめ	配布資料の確認学習	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	地図作業の確認を通して授業中に随時フィードバックを行う		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席・コメントペーパー	50	出席と授業に対する理解 到達目標1: 地図作業を通して「地図を読む」読図力を身につけているか判断する。
	地図作業確認	50	地図作業の確認を行い、到達目標の地図作業を通して到達目標2の「地図を読む」読図力を身につけているかどうかを判断する
教科書:	特になし		
参考書:	天野太郎監修『古地図で歩く古都・京都』三栄書房、2016 天野太郎監修『『都名所図会』で歩く京都案内～イラストで見る200年前の京都』実業之日本社、2016		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業後に教室内での対応、オフィスアワーを中心とした時間帯において、研究室にて直接面談・相談を行う。		

授業テーマ:

地域生活に関する調査を設計し実施してみる

授業の概要:

社会調査の設計から始め、収集したデータ入力・分析のプロセスを実際に行ってみます。

到達目標:

知識・理解の点では、答えやすい設問など社会調査の基本から集計方法までの技法を獲得する。関心・意欲・態度の点では、マーケティングなど企業で行っている調査領域への関心を育む。

授業方法:

受講生全員で作業分担しながら進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	テーマと質問紙作成 その1 官庁統計の紹介	該当URLからのダウンロード
2.	テーマと質問紙作成 その2 テーマ選定と質問紙作成	先行調査との比較検討
3.	テーマと質問紙作成 その3 ワーディング確定作業	集団討論によるワーディング確定作業
4.	表計算ソフトExcelの基本と応用 その1 Excelの基本	
5.	表計算ソフトExcelの基本と応用 その2 データベースとは？	データベースの諸規則の学習
6.	表計算ソフトExcelの基本と応用 その3 検索の方法	データベースを諸企業はどのように活用しているかの学習
7.	統計ソフトSPSSの学習 その1 SPSSとは？	
8.	統計ソフトSPSSの学習 その2 Excelとの互換性	Excelの限界と統計専用ソフトの強み
9.	統計ソフトSPSSの学習 その3 単純集計と多重回答の処理	SPSSの基本活用法学習
10.	データ入力と分析 その1 Excelでデータ入力	
11.	データ入力と分析 その2 SPSSへの置換	データビューと変数ビューの理解
12.	データ入力と分析 その3 データ整形と単純集計・検定	クロス集計法の学習
13.	データ入力と分析 その4 多重集計処理	多重集計法の学習
14.	データ入力と分析 その5 分析データ考察	集計結果の集団討論
15.	残された課題整理の議論	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

受講生の集団作業であるので、随時、質問・解説の繰り返し

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	100%	ExcelとSPSSの基本的理解と活用能力の判定

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

tkono@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	女性に関する法的諸問題		
授業の概要:	生物学的な性(sex) に対して、性別分業、女らしさなど人為的につくられた性をジェンダー(gender) と言います。本講では、ジェンダーに関する法制度、法的問題を学び、ジェンダーに関するさまざまな問題について理解し考察することを目標とします。「法」を内容とするため、基礎的な法的知識が必要となります。		
到達目標:	女性に関するさまざまな法的知識の修得 女性に関する法的制度の理解 社会問題に関心をもつこと 知識、理解などについて文章で表現できること		
授業方法:	主として講義形式で行います。受講生の数によって、演習形式を取り入れることもあります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 性差別の歴史、フェミニズム法学の展開	教科書の該当箇所を読む	
	2. 性差別に関する裁判例	教科書の該当箇所を読む	
	3. 不法行為における性差別	教科書の該当箇所を読む	
	4. 家族と平等・自由(夫婦別姓問題、待婚期間など)	教科書の該当箇所を読む	
	5. 家族と平等・自由(相続制度など)	教科書の該当箇所を読む	
	6. 税制度、社会保障における扶養対象配偶者	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む	
	7. 社会保障(育児、介護、老後)	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む	
	8. 労働－性差別、ライフ・アンド・バランスなど	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む	
	9. 教育－ジェンダー・バイアス わいせつ表現	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む	
	10. 家庭内における暴力(DV、ストーカーなど)	教科書の該当箇所を読む	
	11. リプロダクション(生殖補助問題など)	教科書の該当箇所を読む	
	12. 性的マイノリティ(性同一性障害、同性婚など)	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む	
	13. 男女共同参画社会	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む	
	14. 国際的動向(女性差別撤廃条約など)	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	新聞、テレビのニュース、他の人との話などによって、関連する社会問題に積極的に関心をもつことを勧めます		
フィードバックの方法:	小レポートについて、教室でコメントする		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	法的知識の修得度、法制度の理解度、文章による知識・理解の表現力
	小レポート含む平常点	20%	授業への積極的参加度、社会問題への関心度
教科書:	犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編『レクチャー ジェンダー法』(法律文化社) 『ポケット六法』(有斐閣)、『ディリー六法』(三省堂) 等、六法を必ず携帯すること		
参考書:	三成美保(他)『ジェンダー法学入門』(法律文化社) 金城清子『ジェンダーの法律学』(有斐閣) 山下泰子・戒能民江・神尾真知子・植野妙実子『法女性学への招待』(有斐閣) 辻村みよ子『憲法とジェンダー ― 男女共同参画と多文化共生への展望』(有斐閣) 辻村みよ子『憲法と家族』(加除出版) 『憲法判例百選ⅠⅡ』(有斐閣) 『判例セレクト』(有斐閣)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業前後の教室、オフィスアワー		

授業テーマ:			
授業の概要:	社会福祉をとりまく環境について解説するとともに、貧困や生活保護について論じる。その上で、児童家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉について論じる。		
到達目標:	社会福祉にかかる基礎的知識の修得を目標に掲げる。具体的には、社会福祉をとりまく環境、貧困、生活保護、児童家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉、について理解することを目標とする。		
授業方法:	板書による講義形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. ガイダンス		シラバスに書かれている内容に対する理解
	2. 社会福祉をとりまく環境(その1)		「ガイダンス」の内容に対する理解
	3. 社会福祉をとりまく環境(その2)		「社会福祉をとりまく環境(その1)」に対する理解
	4. 貧困(その1)		「社会福祉をとりまく環境(その2)」に対する理解
	5. 貧困(その2)		「貧困(その1)」に対する理解
	6. 生活保護(その1)		「貧困(その2)」に対する理解
	7. 生活保護(その2)		「生活保護(その1)」に対する理解
	8. 中間試験		「中間試験」の準備
	9. 児童家庭福祉(その1)		「生活保護(その2)」に対する理解
	10. 児童家庭福祉(その2)		「児童家庭福祉(その1)」に対する理解
	11. 高齢者福祉(その1)		「児童家庭福祉(その2)」に対する理解
	12. 高齢者福祉(その2)		「高齢者福祉(その1)」に対する理解
	13. 障害者福祉(その1)		「高齢者福祉(その2)」に対する理解
	14. 障害者福祉(その2)		「障害者福祉(その1)」に対する理解
	15. まとめ		「まとめ」の準備
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	毎回の授業前に配布する用紙に感想や質問を書いてもらうが、そこで書かれた質問等については、原則として次回の授業の冒頭にて解説することを通じてフィードバックする。 中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	中間試験	50	到達目標に掲げた社会福祉についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
	期末試験	50	到達目標に掲げた社会福祉についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
教科書:	指定しません。		
参考書:	山縣文治・岡田忠克(編)『よくわかる社会福祉(第11版)』ミネルヴァ書房、2016年 駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂(著)『社会政策 福祉と労働の経済学』有斐閣、2015年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	教員のメールアドレス:mokura@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ：自分の生き方を考えるー道徳や倫理の話を深めて考えてみようー

授業の概要：現代社会において私たちはさまざまな選択に迫られています。「何を食べようか」という日常的な小さい選択から、「なりたい自分になれるように自分でしっかり考えて生きよ」と言われるような、「生き方」に関係する大きな選択まで、様々な選択をしています。これらの選択を行うときに、私たちは本当に自由に選択したとどの程度までいえるでしょうか。何を選択したらよいか、あるいは何を選択するべきか、ということに関しては、あらかじめある一定の枠組みが「道徳」や「倫理」として社会において存在しているように感じることもあるのではないのでしょうか。

この授業では、社会の中で、他者と関わりながらも、自分の意志と責任で納得しながらさまざまな選択を行っていくことができるようになるために、社会における「道徳」や「倫理」の意味をもう一度捉えなおします。日常的な道徳的判断をふり返りつつ、表層では捉えきれない「道徳」や「倫理」の話をより深めていきたいと思います。また、現代の日本社会において、女性として自分の生き方を考えていくときに参考になるような話題も取り上げたいと思います。

到達目標：現代社会における「道徳」や「倫理」の諸問題に関心を持つ。
現代社会における「道徳」や「倫理」の諸問題について多面的・多角的に考えることができる。
「生き方の選択」に関する諸問題について、身近なことを通して考えていく力を付ける。

授業方法：テキストをもとに、受講生それぞれが当日の講義テーマに従って与えられた課題について考察を行ってもらう。それを小レポートとして提出する。各自の考察と、全体での討論も併せて行うつもりである。最後に全体のまとめとしてのレポートを作成する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション 授業の進め方の説明 倫理学とは 2. 自由な選択についてまわる他者の視線ー私たちは「透明な存在」なのかー 3. 「人と信頼関係を築くことはよいことである」という考え方について 4. 「自分で決めたことには責任を持つ」という考え方について 5. 「目標に向けて努力することはよいことである」という考え方について 6. 「人は互いに気遣う／助け合うべきである」という考え方について 7. 女性にひろがるスピリチュアルブームについて 8. やりたいことを見つける、という呪縛 9. 自分の人生を設計する方法ー自分をプロデュースするー 10. 「美」は女性にとって資本なのか 11. <じぶん>を愛すること 12. 「主体的に生きることはよいことである」という考え方について 13. 2017年に起こった社会の出来事を多面的・多角的に考えてみよう ①問題提起する 14. 2017年に起こった社会の出来事を多面的・多角的に考えてみよう ②問題を比較する 15. まとめと振り返り		シラバスを読んでおくこと 復習として参考文献を読む 事前に『倫理のノート』を読んでおく。 箇所は授業中に指定する。 事前に『倫理のノート』を読んでおく。 箇所は授業中に指定する。 事前に『倫理のノート』を読んでおく。 箇所は授業中に指定する。 事前に『倫理のノート』を読んでおく。 箇所は授業中に指定する。 復習として参考文献を読む。 課題を出すのでそれを行う。 課題を出すのでそれを行う。 復習として参考文献を読む。 復習として参考文献を読む。 『倫理のノート』を読んでおく。 箇所は授業中に指定する。 2017年に起こった社会の出来事について考えておく。 グループレポートを課す。 レポートを仕上げる。 これまでの授業全体を復習しておくこと。『倫理のノート』を読んでおく。箇所は授業中に指定する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法：教室で返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート	40	講義内容の理解度をみる。指定されたテーマについて自分の考えを簡潔に整理して述べることができるか。
	期末レポート	40	講義全体を通して、到達目標をふまえて理解度をみる。
	発表・討論	20	多面的・多角的な観点から考察できているか。積極的に発言しているか。

教科書：倉本香他 『倫理のノート』 萌書房

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：思考力、自己実現力

教員との連絡方法：kuramoto@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

授業テーマ:

ミクロ経済学の基礎理論を理解し、経済学的なものの見方・考え方を身につける。

授業の概要:

現代社会における様々な経済問題を分析するための経済理論にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。この講義ではミクロ経済学の初歩を解説する。すなわち、個々の消費者および生産者の経済行動の理論的な分析と市場経済における価格調整メカニズムの機能についての、基本的な概念や考え方を説明する。

到達目標:

(1)ミクロ経済学の考え方を理解し、初級～中級レベルのミクロ経済学を学んでいくための道筋をつけること。
(2)市場経済の根本的な仕組みを理解し、日常生活や現代社会における様々な課題について経済学的に考えるための基礎を身につけること。

授業方法:

講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス/経済学とは(1): 授業を進めるに当たって／ 経済問題とは何か	
	2. 経済学とは(2): マクロ経済学の考え方	経済学とは(1)の復習(内容の理解)
	3. 経済学とは(3): ミクロ経済学の考え方	経済学とは(2)の復習(内容の理解)
	4. 需要・供給と価格(1): 需要曲線の意味と性質、 消費者余剰	
	5. 需要・供給と価格(2): 供給曲線の意味と性質 生産者余剰	需要・供給と価格(1)の復習(内容の理解)
	6. 需要・供給と価格(3): 価格調整と市場均衡	需要・供給と価格(2)の復習(内容の理解)
	7. 消費者行動の理論(1): 予算制約線と無差別曲線	
	8. 消費者行動の理論(2): 効用最大化行動	消費者行動の理論(1)の復習(内容の理解)
	9. 消費者行動の理論(3): 所得・価格の変化と需要曲線	消費者行動の理論(2)の復習(内容の理解)
	10. 消費者行動の理論(4): 消費者行動理論の応用	消費者行動の理論(3)の復習(内容の理解)
	11. 生産者行動の理論(1): 生産関数と費用関数	
	12. 生産者行動の理論(2): 生産者行動の費用分析	生産者行動の理論(2)の復習(内容の理解)
	13. 生産者行動の理論(3): 生産者の利潤最大化行動	生産者行動の理論(3)の復習(内容の理解)
	14. 資源配分とパレート最適: 市場経済における資源の効率配分	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業内容が積み重ねられていくので、各回ごとに授業内容をきちんと理解するよう講義ノートや参考文献を使って復習すること。分からないことがあれば、放置せずに遠慮なく質問すること。

フィードバックの方法:

質問用紙、コメントペーパー等についてはマナビー等で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	到達目標(1)に関し、ミクロ経済学の基本的諸概念の理解度を評価する。

教科書:

指定しない。

参考書:

伊藤元重著『ミクロ経済学』日本評論社2003年
伊藤元重・下井直毅著『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社2007年
篠原総一著『わかる！ミクロ経済学:レクチャーとエクササイズ』有斐閣2002年
その他については授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業終了後、教室内で対応。Eメールでの連絡も可。mkishi@mail.doshisha.ac.jp

432700

経済政策論

長岡 延孝

授業テーマ: 先進的な経済政策を学ぶことを通じて、市民生活への影響と望ましい現代経済の展開について考察する。

授業の概要: 欧米や日本の経済政策を中心に解説し、そこからどのような点が学べるのかを考えながら授業を行う。できれば新興国など世界の経済政策にも言及する。
世界の市場システムは多様であり、自由主義型、国家主導型、社会的市場型などに分けられるが、それぞれの特徴にも配慮する。
最後に、グローバル経済における経済政策についても解説する。

到達目標: 先進的な経済政策を理解することによって、新聞やビジネス情報を分析し、ビジネスパーソンとして活躍できる基礎を養うことを目標としている。

授業方法: 基本的に講義の形式で進め、適宜、ビデオやプリント等の教材を使用する。また、講義内容にかんする意見・感想を求める。

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
2. 経済における政府の役割	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
3. 国家か市場かの対立:ケインズ、ハイエク、マルクスの理論	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
4. 戦後イギリスの経済政策	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
5. 新自由主義的政策: サッチャーとブレア	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
6. 米国の経済政策: 民主党と共和党	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
7. 米国の経済政策: オバマ政権	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
8. 日本の経済政策: 産業政策と経済発展	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
9. 日本の経済政策: 小泉政権と安倍政権	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
10. ドイツの経済政策: 社会的市場経済	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
11. ドイツの経済政策: 環境と経済	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
12. フランスの経済政策: 国家介入と市民生活	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
13. 福祉国家の経済政策	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
14. グローバル経済における経済政策	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
15. グローバル化と市民生活	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス: 新聞や報道番組に接して、経済社会の動きに関心を持ってもらいたい。

フィードバックの方法: 授業での感想や意見について、コメントを行う。

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	課題を的確に立て、理解・整理し、適切に論じられているか。

教科書:

参考書: 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済』有斐閣。
熊谷徹『あっぱれ技術大国ドイツ』新潮社。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール

授業テーマ： 簿記の基礎を学ぶ

授業の概要: この授業では、企業会計における実践的ツールである複式簿記の基礎を学ぶ。そのために、この授業では、吟味された例題を用いて講義を行い、合わせて練習問題にも取り組む。

なお、秋学期に開講予定の「簿記論Ⅱ」は、本授業科目を履修済みであることを前提としている。簿記についてさらに学びたい学生には、「簿記論Ⅱ」の履修を推奨する。

到達目標： 初学者になしみにくい複式簿記機構に固有の技術的構造を理解し、財務諸表が複式簿記機構を通じてどのように作成されるのか、その方法を具体的に知る。

授業方法： 原則として講義形式で行う。
授業の冒頭には、前回の講義内容に関する小テストの解説を行う。また、授業中に必要に応じて練習問題に取り組む。練習問題の解答に当たっては、学生に板書してもらうことがある。なお、例題の解説および練習問題の解答に際して電卓が必要となるので、授業時には毎回電卓を持参する必要がある。
第1回の授業時から教科書を使用するので、授業時には必ず教科書を持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 簿記を学ぶにあたって	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。
2.	貸借対照表と損益記計算書	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
3.	取引と勘定	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
4.	仕訳帳と総勘定元帳	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
5.	試算表	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
6.	決算手続(1) 決算手続の概要 振替とは	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
7.	決算手続(2) 決算振替仕訳 収益・費用の諸勘定と損益勘定の締切り 資産・負債・資本の諸勘定の締切り	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
8.	決算手続(3) 財務諸表の作成 精算表	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
9.	現金・預金取引(1) 現金	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
10.	現金・預金取引(2) 当座預金	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
11.	現金・預金取引(3) 小口現金	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
12.	商品売買取引(1) 分記法と三分法	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
13.	商品売買取引(2) 仕入帳、売上帳、商品有高帳	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
14.	総合問題の解説と解答	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
15.	まとめ	小テスト、ワークブック、第14回授業時の総合問題をはじめ

受講者へのメッセージやアドバイス: この授業では、いわゆる積み上げ型の学習が必要である。理解できなかった点があると、次回以降の授業内容もさっぱり分からず、授業についていけない。このため、学生は、十分な自宅学習をする必要がある。また、学生には、オフィスアワーなどを活用して積極的に質問するなどして、理解が十分でない点を早めに解決するよう努めることを希望する。

この授業で学ぶ簿記は、複式簿記に技術的基礎を置く「会計学」、「価額計算」、「財務諸表論」、「ディスクロージャー論」といった、より上級の会計学領域の開講科目を学ぶ上で必要不可欠なものであるが、残念ながら知的好奇心を大きく刺激するものではない。このため、簿記を修得するためには忍耐強い学習が必要である。しかし、この段階を終えれば会計学の面白さに気が付くはずであるので、学生にはぜひ努力してほしい。

フィードバックの方法: 各回の授業の終了後にマナビー上に公開した講義内容に関する小テストについては、次の授業の冒頭で解説を行うとともに、模範解答をマナビー上に公開する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	40%	複式簿記機構に固有の技術的構造を理解できているかどうかを基準とする。
	定期試験	60%	複式簿記機構に固有の技術的構造を理解できているかどうかを基準とする。

教科書： 蛭川幹夫・増子敦仁著『新版日商簿記3級テキスト』（初版第5刷）実教出版、2016年。
※表紙に「新出題範囲対応」と記載のあるものに限る。
蛭川幹夫・増子敦仁著『新版日商簿記3級問題集』（初版第5刷）実教出版、2016年。
※表紙に「新出題範囲対応」と記載のあるものに限る。

参考書：

石川純治著『複式簿記のサイエンス—簿記とは何であり、何でありうるか』(増補改訂版)税務経理協会、2015年。

上野清貴監修『人生を豊かにする簿記—簿記のススメ続』創成社、2015年。

大野智弘編著『イントロダクション簿記』(第9版)創成社、2016年。

興津裕康・大矢知浩司監修『現代会計用語辞典』(新版)税務経理協会、2016年。

郡司健編著『簿記会計のエッセンス』晃洋書房、2016年。

志村正・石田晴美・新井立夫著『新簿記教科書』創成社、2016年。

田村雅俊ほか編著『勘定科目別 仕訳処理ハンドブック—平成27年11月改訂』(第18版)清文社、2015年。

トーマツ編『勘定科目ハンドブック』(第4版)中央経済社、2015年。

中村忠著『簿記の考え方・学び方』(五訂版)税務経理協会、2006年。

八田進二・橋本尚著『簿記の基本を学ぶ』(第4版)同文館出版、2016年。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能
オフィスアワー

授業テーマ:	簿記の基礎を学ぶ		
授業の概要:	この授業では、「簿記論Ⅰ」を受けて、引き続き企業会計における実践的ツールである複式簿記の基礎を学ぶ。そのために、この授業では、吟味された例題を用いて講義を行い、合わせて練習問題にも取り組む。 なお、この授業は、「簿記論Ⅰ」をすでに履修し、複式簿記に関する基礎的な知識を有していることを前提としている。簿記技法を習得するためには、積み上げ型の学習が必要となるので、この授業を受けるにあたっては、「簿記論Ⅰ」で説明した論点を十分に理解していることが必要である。		
到達目標:	「簿記論Ⅰ」で説明した論点も含めて、おおむね日商簿記検定3級程度の複式簿記に関する基礎知識を得る。		
授業方法:	原則として講義形式で行う。 授業の冒頭には、前回の講義内容に関する小テストの解説を行う。また、授業中に必要に応じて練習問題に取り組む。練習問題の解答に当たっては、学生に板書してもらうことがある。なお、例題の解説および練習問題の解答に際して電卓が必要となるので、授業時には毎回電卓を持参する必要がある。 第1回の授業時から教科書を使用するので、授業時には必ず教科書を持参すること。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 掛取引	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。	
	2. 手形取引	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	3. 固定資産取引(1) 取得時・期末の会計処理ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	4. 固定資産取引(2) 売却時の会計処理ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	5. 有価証券 その他の資産・負債(1)未収入金ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	6. その他の資産・負債(2)貸付金・借入金と手形貸付金・手形借入金 個人企業の資本と税務取引 訂正仕訳の仕方	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	7. 決算手続(1) 決算手続の概要	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	8. 決算手続(2) 売上原価の算定・貸倒引当金の設定	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	9. 決算手続(3) 減価償却手続ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	10. 決算手続(4) 経過勘定項目(収益・費用の見越し、消耗品)	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	11. 決算手続(5) 経過勘定項目(収益・費用の繰延べ) 帳簿決算と財務諸表の作成	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	12. 伝票会計 精算表の総合問題(1)	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	13. 精算表の総合問題(2)	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	14. 総合問題の解説と解答	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。	
	15. まとめ	小テスト、ワークブック、第14回授業時の総合問題をはじめとして、これまでの学習内容を十分に復習しておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	この授業では、いわゆる積み上げ型の学習が必要である。理解できなかった点があると、次回以降の授業内容もさっぱり分からず、授業についていけない。このため、学生は、十分な自宅学習をする必要がある。また、学生には、オフィスアワーなどを活用して積極的に質問するなどして、理解が十分でない点を早め早めに解決するよう努めることを希望する。 この授業で学ぶ簿記は、複式簿記に技術的基礎を置く「会計学」、「原価計算」、「財務諸表論」、「ディスクロージャー論」といった、より上級の会計学領域の開講科目を学ぶ上で必要不可欠なものであるが、残念ながら知的好奇心を大きく刺激するものではない。このため、簿記を修得するためには忍耐強い学習が必要である。しかし、この段階を終えれば会計学の面白さに気が付くはずであるので、学生にはぜひ努力してほしい。		
フィードバックの方法:	各回の授業の終了後にマナビー上に公開した講義内容に関する小テストについては、次の授業の冒頭で解説を行うとともに、模範解答をマナビー上に公開する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小テスト	40%	日商簿記検定3級程度の複式簿記に関する基礎知識を得ているかどうかを基準とする。
	定期試験	60%	日商簿記検定3級程度の複式簿記に関する基礎知識を得ているかどうかを基準とする。
教科書:	蛭川幹夫・増子敦仁著『新版日商簿記3級テキスト』(初版第5刷)実教出版、2016年。 ※表紙に「新出題範囲対応」と記載のあるものに限る。 蛭川幹夫・増子敦仁著『新版日商簿記3級問題集』(初版第5刷)実教出版、2016年。 ※表紙に「新出題範囲対応」と記載のあるものに限る。		
参考書:	石川純治著『複式簿記のサイエンス―簿記とは何であり、何でありうるか』(増補改訂版)税務経理教会、2015年。 上野清貴監修『人生を豊かにする簿記―簿記のススメ続』創成社、2015年。 大野智弘編著『イントロダクション簿記』(第9版)創成社、2016年。 興津裕康・大矢知浩司監修『現代会計用語辞典』(新版)税務経理協会、2016年。 郡司健編著『簿記会計のエッセンス』晃洋書房、2016年。 志村正・石田晴美・新井立夫著『新簿記教科書』創成社、2016年。 田村雅俊ほか編著『勘定科目別 仕訳処理ハンドブック―平成27年11月改訂』(第18版)清文社、2015年。 トーマツ編『勘定科目ハンドブック』(第4版)中央経済社、2015年。 中村忠著『簿記の考え方・学び方』(五訂版) 税務経理協会、2006年。		

八田進二・橋本尚著『簿記の基本を学ぶ』(第4版)同文館出版、2016年。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能
オフィスアワー

授業テーマ:	原価計算の基礎を学ぶ		
授業の概要:	この授業では、「原価計算基準」に準拠した、制度としての原価計算(原価計算制度)を中心に、原価計算の基礎を学ぶ。そのために、この授業では、吟味された例題を用いて講義を行い、合わせて練習問題にも取り組むことで、具体的な原価計算プロセスを体得できるようにする。 なお、この授業は、「簿記論I」をすでに履修し、複式簿記に関する基礎的な知識を有していることを前提としている。この授業と並行して、「簿記論II」を履修していればなお望ましい。		
到達目標:	「原価計算基準」に準拠した、制度としての原価計算(原価計算制度)を中心に、製造業の財務諸表を作成するのに必要な原価計算の各種の方法を学び、企業会計上どのように製品の製造原価が計算されているのかを知る。 さらに、原価計算制度に基づいて算定された製品の製造原価がどのような特徴と限界を持っているのかを知る。		
授業方法:	原則として講義形式で行う。最終回の授業では、実在する企業の財務諸表のケーススタディを行って、この授業で学んだ原価計算制度に基づく原価情報が財務諸表上どのように開示されているのかを学ぶ。 また、授業の冒頭には、前回の講義内容に関する小テストの解説を行う。また、授業中に必要に応じて練習問題に取り組む。練習問題の解答に当たっては、学生に板書してもらうことがある。なお、例題の解説および練習問題の解答に際して、電卓が必要となるので、授業時には毎回電卓を持参する必要がある。 第1回の授業時から教科書を使用するので、授業時には必ず教科書を持参すること。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 原価計算の基礎	2. 費目別計算(1) 材料費会計	3. 費目別計算(2) 労務費会計
	4. 費目別計算(3) 経費会計 製造間接費会計(1) 集計と配賦	5. 製造間接費会計(2) 差異分析 単純個別原価計算(1)	6. 単純個別原価計算(2)仕損と作業屑の計算と処理 部門別個別原価計算
	7. 活動基準原価計算 個別原価計算のまとめ	8. 単純総合原価計算	9. 総合原価計算における仕損・減損の計算と処理
	10. 総合原価計算における副産物の処理と評価 工程別総合原価計算	11. 加工費法 半製品 等級別総合原価計算	12. 組別総合原価計算 連産品の計算 標準原価計算(1)
	13. 標準原価計算(2)差異分析	14. 直接原価計算 原価情報の開示	15. まとめ
受講者へのメッセージやアドバイス:	この授業では、いわゆる積み上げ型の学習が必要である。理解できなかった点があると、次回以降の授業内容もさっぱり分からず、授業についていけない。このため、学生は、以下のとおり十分な自宅学習をする必要がある。また、学生には、オフィスアワーなどを活用して積極的に質問するなどして、理解が十分でない点を早め早めに解決するよう努めることを希望する。		
フィードバックの方法:	各回の授業の終了後にマナビー上に公開した講義内容に関する小テストについては、次の授業の冒頭で解説を行うとともに、模範解答をマナビー上に公開する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小テスト	40%	原価計算制度における原価計算の各種の方法を具体的に理解しているかどうかを基準とする。
	定期試験	60%	原価計算制度における原価計算の各種の方法を具体的に理解しているかどうかを基準とする。
教科書:	奥村輝夫・齋藤正章・井出健二郎著『原価計算』新世社、2007年。		

参考書:

上埜進編著『工業簿記・原価計算の基礎―理論と計算―』(第3版) 税務経理教会、2014年。

上埜進編著『工業簿記・原価計算演習―理論と計算―』(第4版) 税務経理協会、2015年。

片岡洋一編著『原価計算セミナー』中央経済社、2015年。

加登豊編『インサイト原価計算』中央経済社、2008年。

志村正著『原価計算』創成社、2015年。

高橋賢著『テキスト原価会計』(第2版) 中央経済社、2015年。

廣本敏郎・挽文子著『原価計算論』(第3版) 中央経済社、2015年。

本橋正美・林總・片岡洋人編著『要説管理会計事典』清文社、2016年。

古田隆紀著『ABCのコア』森山書店、2015年。

山北晴雄・福田淳児著『ファーストステップ 原価計算を学ぶ』中央経済社、2016年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能
オフィスアワー

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

消費生活データーを活用して、どの商品が、いくらで、どれくらい購入されているのかを考察していきます。講義の前半では様々な品目についてのデーター入手・処理・解釈を行い、後半では主に都道府県毎の消費特徴についてのデーター入手・処理・解釈を行っていきます。

品目ごと、地域ごとの消費傾向を理解すること。
知りたい情報を得るためには、どのデータをどのように処理したらよいのかを理解し、データーの入手・処理・解釈を実践できる能力を獲得すること。

毎回、講義とパソコンを活用した演習を組み合わせで行っていきます(毎回情報処理室で授業を行います)。

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション	特になし
2. 食料・飲料	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
3. 食料・飲料	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
4. 光熱・家具・家事用品	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
5. 光熱・家具・家事用品	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
6. 被服・履物	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
7. 被服・履物	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
8. 交通・通信・教育	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
9. 北海道	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
10. 東北地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
11. 関東甲信越・北陸地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
12. 東海地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
13. 近畿地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
14. 中国・四国地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
15. 九州・沖縄地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと

毎回授業中に課題(excelを用いてデータ処理・分析)に取り組みます。Office(word・excel・power point)、特にexcelを問題なく使いこなせることを前提に行います。パソコン教室ではないので、操作に関するレクチャーは基本行いません。Excelなどパソコン操作が不得手な受講者は事前に操作を自らマスターしておくことが求められます。
また積み上げ式の授業になるので、毎回休まず出席することが求められます。

教室内でまとめて解説する

評価方法	割合	評価基準
毎回の出席及び課題提出	70%	データの入手・処理・解釈ができているのかを基準とする。
レポート	30%	消費傾向を多面的に考察できているのかを基準とする。

分析力、思考力、

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

企業の社会的責任を経営品質の視点から考える

授業の概要:

本講義では、経営品質という視点から企業の社会的責任のあり方を考えます。

まず、「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」で知られているP.F.ドラッカーの企業観、マネジメントの役割を学びます。彼の考え方が、経営品質向上プログラムの根底にあると考えます。

経営品質向上プログラムは、組織が長期にわたって顧客の求める価値を創出して、市場での競争力を維持するための仕組みの良さを評価する枠組みです。この枠組みを日本経営品質賞受賞企業の事例を用いてくわしく学びます。

そして、その枠組みの中で、企業の社会的責任を事例を通して検討します。P.F.ドラッカーの社会的責任の根底にある、自由、責任の考え方についても学びたいと思います。

到達目標:

(1) P.F.ドラッカーの考え方を理解する。
(2) 経営品質向上プログラムの考え方を理解する。
(3) 経営品質の視点から企業の社会的責任を考える能力をつける。

授業方法:

資料のプリントを配布し、講義します。できる限り講義内容に関連したビデオ・DVDを見る予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	P.F.ドラッカーにおける企業の目的と機能、マネジメントの役割、社会的責任のとらえ方	P.F.ドラッカーの考え方を復習
2.	ヤマト運輸の顧客創造	経営品質向上プログラムの基本に関する資料を予習
3.	経営品質向上プログラムが目指すもの	経営品質向上プログラムの基本に関する資料を復習
4.	品質管理の生成と発展	品質管理の生成と発展に関する資料を復習
5.	経営品質賞の成立(1) MB賞(マルコム・ボルドリッジ国家品質賞)の設立	MB賞に関する資料を復習
6.	経営品質賞の成立(2) 日本経営品質賞の成立	経営品質向上プログラムアセスメント基準の枠組みの資料を予習
7.	経営品質向上プログラムアセスメント基準の枠組み(アセスメント基準、組織プロフィール)	経営品質向上プログラムアセスメント基準の枠組みの資料を復習
8.	ES(社員満足)、CS(顧客満足)、業績の関連性	評点ガイドラインの資料を予習
9.	評点ガイドライン	評点ガイドラインの資料を復習
10.	CS(顧客満足)に関して	P.F.ドラッカーの社会的責任に関する資料を予習
11.	P.F.ドラッカーの社会的責任の考え方、経営品質向上プログラムにおける社会的責任の考え方	P.F.ドラッカー、経営品質向上プログラムの社会的責任の考え方を復習
12.	社会的責任の事例(1)	社会的責任の事例を復習
13.	社会的責任の事例(2)	自由と責任に関する資料を予習
14.	自由と責任	自由と責任に関して復習
15.	まとめ	全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

資料に基いて講義をするので、予習、復習をしっかりとやってほしいと思います。予習用の資料は、前回の授業で渡します。この授業で学ぶことは、皆さんの就職活動において、組織評価等で役立つと思います。

フィードバックの方法:

授業中に書いていただくアクションペーパーについて、次回の授業で、どのような意見が出たかを紹介し、コメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験の成績	70	到達目標(1)(2)に関する理解度を評価します。 到達目標(3)に関して、自分の意見を入れつつ論理的に説明できるかを基準とします。
	出席およびリアクションペーパーの提出	30	積極的に授業に参加することを重視し、リアクションペーパーは、到達目標(1)～(3)の理解がどれほどできているかを3段階で評価します。

教科書:

特に指定しません。

参考書:

P.F.ドラッカー(上田惇生編訳)『[エッセンシャル版]マネジメントー基本と原則』ダイヤモンド社、2009年9月(第24版)。

P.F.ドラッカー(上田惇生訳)『マネジメント[上]―課題、責任、実践』ダイヤモンド社、2013年3月(第10版)。

社会経済生産性本部編『決定版日本経営品質賞とは何か』生産性出版、2007年9月。

日本経営品質賞委員会『2017年度 日本経営品質賞アセスメント基準書』2017年。

大西謙編著『持続的変革をめざしてー経営品質向上プログラムのすすめー』晃洋書房、2006年3月。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメールで受け付けます。
Eメール: ken@hcn.zaq.ne.jp

授業テーマ:

授業の概要: 企業の社会的責任(CSR)とは持続可能な社会と環境を実現するために、企業が経済的責任だけでなく、社会的責任や環境責任も果たしていくことです。本講義では日本企業が国内外で行っているCSRの取り組み、特に社会的責任の国際規格であるISO26000の中核主題7項目(企業統治・人権・労働・環境・事業慣行・消費者課題・コミュニティの参画と発展)に関連する取り組みにはどのようなことがあるのか、なぜ企業の取り組みに問題が生じているのかを理解することを目指します。

到達目標: 企業の社会的責任に関する様々な事柄を理解できること。

授業方法: 講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	特になし
	2. 企業の社会的責任とは？	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	3. 企業統治	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	4. 人権の尊重(児童労働・紛争鉱物)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	5. 労働慣行(1)(ブラック企業・ブラックバイト)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	6. 労働慣行(2)(女性の社会進出・ワークライフバランス)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	7. 環境(1)(温暖化)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	8. 環境(2)(資源・エネルギー)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	9. 公正な事業慣行	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	10. 消費者課題(1)(食品問題)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	11. 消費者課題(2)(偽装問題)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	12. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展(1)(社会貢献活動)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	13. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展(2)(工場見学・インターンシップなど)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	14. CSV(共有価値の創造)・ESG(社会的責任投資)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
	15. 組織全体への社会的責任の統合	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	70%	企業の社会的責任に関する様々な事柄を論理的に説明できるかを基準とする。
	出席確認を兼ねた小テスト	30%	問いに対して論理的に解答できるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	基本的人権論																																	
授業の概要:	法律基礎科目の「日本国憲法概説」では、高校までの知識の確認、大学における「憲法学」の入門内容を学びました。本講は、大学における「憲法学」の授業となります。憲法は条文の数が少なく抽象的な規定が多いので、学説や判例の理解がとくに重要になります。そこで、具体的事例も取り上げながら、基本的知識の修得と基本理論の理解をはかり、それらの知識に基づいて理論づけて考えられるようになることを目指します。憲法は大きく基本的人権と統治機構に分かれますが、憲法は大きく基本的人権と統治機構に分かれますが、本講では主として基本的人権を取り上げます。「憲法特講ⅠⅡ」あわせて履修することが望ましいです。																																	
到達目標:	基本的知識の修得 学説、基本判例の理解 物事を根拠づけて考える 論理的文章力の向上																																	
授業方法:	講義で行いますが、受講生の人数によっては演習で行う場合もあります																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 憲法の基本原理 演習で行う場合は、担当者を決定する</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>2. 基本的人権の主体</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>3. 基本的人権の適用範囲</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>4. 基本的人権の制約</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>5. 幸福追求権</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>6. プライバシー権、名誉権、環境権</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>7. 法の下の平等</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>8. 法の下の平等</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>9. 表現の自由</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>10. 表現の自由</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>11. 学問の自由、大学の自治</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>12. 信教の自由</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>13. 政教分離</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>14. 経済的自由権</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 憲法の基本原理 演習で行う場合は、担当者を決定する	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	2. 基本的人権の主体	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	3. 基本的人権の適用範囲	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	4. 基本的人権の制約	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	5. 幸福追求権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	6. プライバシー権、名誉権、環境権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	7. 法の下の平等	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	8. 法の下の平等	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	9. 表現の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	10. 表現の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	11. 学問の自由、大学の自治	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	12. 信教の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	13. 政教分離	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	14. 経済的自由権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	15. まとめ	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 憲法の基本原理 演習で行う場合は、担当者を決定する	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
2. 基本的人権の主体	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
3. 基本的人権の適用範囲	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
4. 基本的人権の制約	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
5. 幸福追求権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
6. プライバシー権、名誉権、環境権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
7. 法の下の平等	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
8. 法の下の平等	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
9. 表現の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
10. 表現の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
11. 学問の自由、大学の自治	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
12. 信教の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
13. 政教分離	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
14. 経済的自由権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
15. まとめ	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	法学は生きた学問です。新聞などを読んで、社会問題、政治問題などに関心を持って下さい。																																	
フィードバックの方法:	授業中に解説、コメント																																	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験またはレポート	80%	知識の修得度、理解度、文章力
	授業への参加度、小レポート	20%	授業への積極的参加度
教科書:	上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50!』(有斐閣) 小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子・櫻井智章『憲法の基本(第3版)』(法律文化社)		
参考書:	君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法(第3版)』(法律文化社) 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法』(岩波書店) 佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂) 野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅰ』(有斐閣) 辻村みよ子『憲法』(日本評論社) 『憲法判例百選Ⅰ』(有斐閣) 佐藤幸治・土井真一『判例講義憲法Ⅰ』(悠々社)		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力		
教員との連絡 方法:	オフィスアワー、授業前後の教室内で対応、演習を取り入れた場合はEメール		

授業テーマ:	基本的人権論 統治機構論																																	
授業の概要:	法律基礎科目の「日本国憲法概説」では、高校までの知識の確認、大学における「憲法学」の入門内容を学びました。本講は、大学における「憲法学」の授業となります。憲法は条文の数が少なく抽象的な規定が多いので、学説や判例の理解がとくに重要になります。そこで、具体的事例も取り上げながら、基本的知識の修得と基本理論の理解をはかり、それらの知識に基づいて理論づけて考えられるようになることを目指します。憲法は大きく基本的人権と統治機構に分かれますが、本講では「憲法特講Ⅰ」に引き続いて基本的人権(社会権、参政権)と統治機構を取り上げます。「憲法特講ⅠⅡ」あわせて履修することが望ましいです。																																	
到達目標:	基本的知識の修得 学説、基本判例の理解 物事を根拠づけて考える 論理的な文章力の向上																																	
授業方法:	講義で行いますが、受講生の人数によって演習を取り入れます																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 人身の自由 演習で行う場合は、担当者を決定する</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする</td></tr><tr><td>2. 生存権</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>3. 教育をうける権利</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>4. 労働基本権</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>5. 国会</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>6. 国会</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>7. 内閣</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>8. 内閣</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>9. 裁判所</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>10. 裁判所</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>11. 財政</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>12. 天皇・国民主権</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>13. 戦争放棄</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>14. 地方自治</td><td>予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 人身の自由 演習で行う場合は、担当者を決定する	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする	2. 生存権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	3. 教育をうける権利	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	4. 労働基本権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	5. 国会	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	6. 国会	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	7. 内閣	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	8. 内閣	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	9. 裁判所	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	10. 裁判所	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	11. 財政	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	12. 天皇・国民主権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	13. 戦争放棄	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	14. 地方自治	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	15. まとめ	演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する	
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 人身の自由 演習で行う場合は、担当者を決定する	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする																																	
2. 生存権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
3. 教育をうける権利	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
4. 労働基本権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
5. 国会	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
6. 国会	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
7. 内閣	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
8. 内閣	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
9. 裁判所	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
10. 裁判所	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
11. 財政	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
12. 天皇・国民主権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
13. 戦争放棄	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
14. 地方自治	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
15. まとめ	演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	法学は生きた学問です。新聞などを読んで、社会問題、政治問題などに関心を持って下さい。																																	
フィードバックの方法:	授業中に解説、コメント																																	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験またはレポート	80%	基礎知識の修得度、学説などの理解度、文章力
	授業への参加度、小レポート	20%	授業への積極的参加度
教科書:	上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！』（有斐閣） 小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子・櫻井智章『憲法の基本（第3版）』（法律文化社）		
参考書:	君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法（第3版）』（法律文化社） 佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂） 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法』（岩波書店） 野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法ⅠⅡ』（有斐閣） 辻村みよ子『憲法』（日本評論社） 『憲法判例百選Ⅱ』（有斐閣） 佐藤幸治・土井真一『判例講義憲法Ⅱ』（悠々社）		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力		
教員との連絡 方法:	オフィスアワー、授業前後の教室内、演習で行う場合はEメール		

民法総則・物権法の重要問題

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

民法総則・物権法の重要問題

民法の中でも財産法と呼ばれる部分の前半、講学上は民法総則と物権法の内容を扱う。基本的には「民法Ⅰ」の内容を前に、議論の多い分野を取り上げて検討する。判例や事例を用いて具体的に進めますが、「特講」である以上、レベルの高いものとなることが期待されます。
履修者数によって授業方法を変える予定ですが、プレゼンテーション技術の習得は「応用演習」等のゼミに譲り、民法の専門的内容に特化した授業となります。

○六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。
※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。

講義形式で行うことを予定していますが、履修者数によっては、発表形式で行う可能性もあります。

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	これまでに履修した民法関連科目について復習しておく。
2. 民法の全体像	
3. 民法総則の重要問題(1)	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
4. 民法総則の重要問題(2)	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
5. 民法総則の重要問題(3)	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
6. 民法総則の重要問題(4)	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
7. 民法総則の重要問題(5)	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
8. 小テスト①	
9. 物権法の重要問題(1)	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
10. 物権法の重要問題(2)	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
11. 物権法の重要問題(3)	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
12. 物権法の重要問題(4)	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
13. 物権法の重要問題(5)	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
14. 小テスト②	
15. 総括	

本学に設置されている民法関連科目の最後に位置づけられる「特講」ですから、内容にこだわって実施したいと考えています。私自身も悩んでいるような難しいテーマにも、皆で一緒に取り組みましょう。すっきり答えが出ないのがストレスでもあり、それでいて面白いところでもあります。1年次からの集大成として民法を学ぼうとする全ての学生の参加をお待ちしております。

授業中に私から問いかけをして問答形式で理解を深める他、2度の小テストを実施して答案を返却する。レポートについても添削の上で返却する。

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	題材とする判例や事例についてレポートを課す。
小テスト	50	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。

六法(どのようなものでも良いです)

メールで連絡をとるか(tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィスアワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。

授業テーマ:	債権法の重要問題		
授業の概要:	民法の中でも財産法と呼ばれる部分の後半、講学上は債権法の内容を扱う。基本的には「民法Ⅱ」の内容を前提に、議論の多い分野を取り上げて検討する。判例や事例を用いて具体的に進めますが、「特講」である以上、レベルの高いものとなることが期待されます。 履修者数によって授業方法を変える予定ですが、プレゼンテーション技術の習得は「応用演習」等のゼミに譲り、民法の専門的内容に特化した授業となります。		
到達目標:	○六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。 ※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。		
授業方法:	講義形式で行うことを予定していますが、履修者数によっては、発表形式で行う可能性もあります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. ガイダンス 2. 民法の全体像 3. 債権総論の重要問題(1) 4. 債権総論の重要問題(2) 5. 債権総論の重要問題(3) 6. 債権総論の重要問題(4) 7. 債権総論の重要問題(5) 8. 小テスト① 9. 債権各論の重要問題(1) 10. 債権各論の重要問題(2) 11. 債権各論の重要問題(3) 12. 債権各論の重要問題(4) 13. 債権各論の重要問題(5) 14. 小テスト② 15. 総括	準備学習等の内容 これまでに履修した民法関連科目について復習しておく。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。 事前に配布する課題を各自で検討してくる。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本学に設置されている民法関連科目の最後に位置づけられる「特講」ですから、内容にこだわって実施したいと考えています。私自身も悩んでいるような難しいテーマにも、皆で一緒に取り組みましょう。すっきり答えが出ないのがストレスでもあり、それでいて面白いところでもあります。1年次からの集大成として民法を学ぼうとする全ての学生の参加をお待ちしております。		
フィードバックの方法:	授業中に私から問いかけをして問答形式で理解を深める他、2度の小テストを実施して答案を返却する。レポートについても添削の上で返却する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	題材とする判例や事例についてレポートを課す。
	小テスト	50	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。
教科書:	六法(どのようなものでも良いです)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	メールで連絡をとるか(tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィスアワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。		

授業テーマ:	刑法総論の重要問題を学ぶ																																	
授業の概要:	本講義では、刑法Iの理解を前提として、刑法総論の重要問題を取り上げ、理解を深めることを目標にしています。 刑法Iでは論理的な内容が中心でしたが、本講義では、近時の最高裁の判例を中心に、現実の世界では実際にどのようなことが問題となっているのか、具体的な問題意識を意識しながら学んでいきます。できるだけ受講生の関心を高めるように工夫しながら、授業を進めていきます。 刑法Iの理解を前提に講義を進めるため、刑法Iを履修済みであることが望ましく、また、刑法特講IIと一体となっているので、刑法特講IIも履修することを望みます。なお、六法は必ず持参するようにしてください。																																	
到達目標:	刑法総論に関する重要問題に関して、判例・学説の理論を理解すること。 刑法総論の各争点について、正しい理解に基づいて、論理的に考察を行い、自分の意見を持つこと。 自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。																																	
授業方法:	講義																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 構成要件の意義と機能</td><td>「刑法Ⅰ」の内容を復習しておくこと。</td></tr><tr><td>2. 罪刑法定主義と刑法の解釈</td><td>配布レジュメ掲載の判例、特に最判平成18・2・20刑集60・2・182ni ついて予習をし、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>3. 不作為犯論</td><td>配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成17・7・4刑集59・6・403について予習をし、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>4. 間接正犯論</td><td>レジュメのほか、授業中に指示したテキストの該当箇所を復習しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 故意と意味の認識</td><td>配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成2・2・9判時1341・157について予習をし、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>6. 故意と抽象的事実の錯誤</td><td>配布レジュメ掲載の判例、特に薬物事犯と故意に関する最高裁判例について予習をし、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>7. 過失犯論</td><td>配布レジュメのほか、新旧過失論の対立について整理しておくこと。</td></tr><tr><td>8. 因果関係論(1)</td><td>配布レジュメ掲載の判例、特に最決昭和42・10・24刑集21・8・1116について予習をし、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>9. 因果関係論(2)</td><td>配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成2・11・20刑集44・8・37最刑集について予習をし、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>10. 違法性論(1) 違法性と違法性阻却</td><td>刑法Ⅰで学んだことを前提に、結果無価値論と行為無価値論で、他説を批判しつつ、自分の立場を主張できるようにしておくこと。</td></tr><tr><td>11. 違法性論(2) 結果無価値論と行為無価値論</td><td>授業中に指示したテキストの該当箇所をよく読んで理解しておくこと。</td></tr><tr><td>12. 被害者の承諾(1)</td><td>配布レジュメ掲載の判例、特に最決昭和55・11・13刑集34・6・396について予習をし、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>13. 被害者の承諾(2)</td><td>配布レジュメのほか、授業中に提示した事例を念頭に、結果無価値論・行為無価値論の対立と被害者の承諾の問題を整理しておくこと。</td></tr><tr><td>14. 責任能力と原因において自由な行為</td><td>テキストp180～188をよく読んで、内容を整理しておくこと。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 構成要件の意義と機能	「刑法Ⅰ」の内容を復習しておくこと。	2. 罪刑法定主義と刑法の解釈	配布レジュメ掲載の判例、特に最判平成18・2・20刑集60・2・182ni ついて予習をし、内容を理解しておくこと。	3. 不作為犯論	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成17・7・4刑集59・6・403について予習をし、内容を理解しておくこと。	4. 間接正犯論	レジュメのほか、授業中に指示したテキストの該当箇所を復習しておくこと。	5. 故意と意味の認識	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成2・2・9判時1341・157について予習をし、内容を理解しておくこと。	6. 故意と抽象的事実の錯誤	配布レジュメ掲載の判例、特に薬物事犯と故意に関する最高裁判例について予習をし、内容を理解しておくこと。	7. 過失犯論	配布レジュメのほか、新旧過失論の対立について整理しておくこと。	8. 因果関係論(1)	配布レジュメ掲載の判例、特に最決昭和42・10・24刑集21・8・1116について予習をし、内容を理解しておくこと。	9. 因果関係論(2)	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成2・11・20刑集44・8・37最刑集について予習をし、内容を理解しておくこと。	10. 違法性論(1) 違法性と違法性阻却	刑法Ⅰで学んだことを前提に、結果無価値論と行為無価値論で、他説を批判しつつ、自分の立場を主張できるようにしておくこと。	11. 違法性論(2) 結果無価値論と行為無価値論	授業中に指示したテキストの該当箇所をよく読んで理解しておくこと。	12. 被害者の承諾(1)	配布レジュメ掲載の判例、特に最決昭和55・11・13刑集34・6・396について予習をし、内容を理解しておくこと。	13. 被害者の承諾(2)	配布レジュメのほか、授業中に提示した事例を念頭に、結果無価値論・行為無価値論の対立と被害者の承諾の問題を整理しておくこと。	14. 責任能力と原因において自由な行為	テキストp180～188をよく読んで、内容を整理しておくこと。	15. まとめ	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。	
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 構成要件の意義と機能	「刑法Ⅰ」の内容を復習しておくこと。																																	
2. 罪刑法定主義と刑法の解釈	配布レジュメ掲載の判例、特に最判平成18・2・20刑集60・2・182ni ついて予習をし、内容を理解しておくこと。																																	
3. 不作為犯論	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成17・7・4刑集59・6・403について予習をし、内容を理解しておくこと。																																	
4. 間接正犯論	レジュメのほか、授業中に指示したテキストの該当箇所を復習しておくこと。																																	
5. 故意と意味の認識	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成2・2・9判時1341・157について予習をし、内容を理解しておくこと。																																	
6. 故意と抽象的事実の錯誤	配布レジュメ掲載の判例、特に薬物事犯と故意に関する最高裁判例について予習をし、内容を理解しておくこと。																																	
7. 過失犯論	配布レジュメのほか、新旧過失論の対立について整理しておくこと。																																	
8. 因果関係論(1)	配布レジュメ掲載の判例、特に最決昭和42・10・24刑集21・8・1116について予習をし、内容を理解しておくこと。																																	
9. 因果関係論(2)	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成2・11・20刑集44・8・37最刑集について予習をし、内容を理解しておくこと。																																	
10. 違法性論(1) 違法性と違法性阻却	刑法Ⅰで学んだことを前提に、結果無価値論と行為無価値論で、他説を批判しつつ、自分の立場を主張できるようにしておくこと。																																	
11. 違法性論(2) 結果無価値論と行為無価値論	授業中に指示したテキストの該当箇所をよく読んで理解しておくこと。																																	
12. 被害者の承諾(1)	配布レジュメ掲載の判例、特に最決昭和55・11・13刑集34・6・396について予習をし、内容を理解しておくこと。																																	
13. 被害者の承諾(2)	配布レジュメのほか、授業中に提示した事例を念頭に、結果無価値論・行為無価値論の対立と被害者の承諾の問題を整理しておくこと。																																	
14. 責任能力と原因において自由な行為	テキストp180～188をよく読んで、内容を整理しておくこと。																																	
15. まとめ	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	刑法は、法の中で最も過酷な制裁手段である刑罰の付加が問題となりますので、乱用を防ぐため、しっかりと考えることが求められます。まず基本的な学説の対立を理解した上で、自分の刑法体系を構築しようとする積極的な姿勢を持ってください。																																	
フィードバックの方法:	提出物については、教室でまとめて解説します。																																	
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート</td><td>100</td><td>到達目標にある、刑法総論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート	100	到達目標にある、刑法総論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。																											
評価方法	割合	評価基準																																
レポート	100	到達目標にある、刑法総論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。																																
教科書:	大谷 實『刑法総論(第4版)』(成文堂、2013年)																																	
参考書:	六法(『法学六法』(信山社)や『デイリー六法』(三省堂)、『ポケット六法』(有斐閣)等の携帯用のもので結構ですので、授業に必ず持参するようにしてください。)																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																	
教員との連絡方法:	オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dw.doshisha.ac.jp>																																	

授業テーマ:

刑法各論の重要問題を学ぶ

授業の概要:

本講義では、刑法Ⅱの理解を前提として、刑法各論の重要問題を取り上げ、理解を深めることを目標にしています。
刑法Ⅱでは論理的な内容が中心でしたが、本講義では、近時の最高裁の判例を中心に、現実の世界では実際にどのようなことが問題となっているのか、具体的な問題意識を意識しながら学んでいきます。できるだけ受講生の関心を高めるように工夫しながら、授業を進めていきます。
刑法Ⅱの理解を前提に講義を進めるため、刑法Ⅱを履修済みであることが望ましく、また、刑法特論Ⅰと一体となっているので、刑法特論Ⅰも履修することを望みます。なお、六法は必ず持参するようにしてください。

到達目標:

刑法各論に関する重要問題に関して、判例・学説の理論を理解すること。
刑法各論の各争点について、正しい理解に基づいて、論理的に考察を行い、自分の意見を持つこと。
自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 刑法各論の体系 刑法の解釈	「刑法Ⅱ」の内容を復習しておくこと。
	2. 生命に対する罪(1) 殺人罪と同意殺人罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最判昭33・11・21刑集12・15・3519について予習をし、内容を理解しておくこと。
	3. 生命に対する罪(2) 傷害罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最二決平成17・3・29刑集59・2・54について予習をし、内容を理解しておくこと。
	4. 自由・私生活の平穩に対する罪(1) 逮捕・監禁罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最決昭38・4・18刑集17・3・248について予習をし、内容を理解しておくこと。
	5. 自由・私生活の平穩に対する罪(2) 性犯罪	配布レジュメ掲載の判例および刑法典の性犯罪規定改正に関する内容を理解しておくこと。
	6. 自由・私生活の平穩に対する罪(3) 住居等侵入罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最判平20・4・11刑集62・5・1217について予習をし、内容を理解しておくこと。
	7. 名誉に対する罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最大判昭44・6・25刑集23・7・975について予習をし、内容を理解しておくこと。また、名誉棄損罪における真実性の錯誤の学説の整理を行っておくこと。
	8. 財産に対する罪(1) 財産罪総論 窃盗罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平1・7・7刑集43・7・603について予習をし、内容を理解しておくこと。
	9. 財産に対する罪(2) 強盗罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平1・7・7刑集43・7・603について予習をし、内容を理解しておくこと。
	10. 財産に対する罪(3) 詐欺罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成18・8・21集刑289・505および最決平成19・7・17刑集61・5・521について予習をし、内容を理解しておくこと。
	11. 財産に対する罪(4) 詐欺罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成26・3・28刑集68・3・646および最決平成26・3・28刑集68・3・582について予習をし、内容を理解しておくこと。
	12. 財産に対する罪(5) 詐欺罪	レポート課題につき、授業中の指導内容を復習しておくこと。
	13. 犯罪の諸類型(1) 社会法益に対する罪	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。
	14. 犯罪の諸類型(2) 国家法益に対する罪	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。
	15. まとめ	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

刑法は、法の中で最も過酷な制裁手段である刑罰の付加が問題となりますので、乱用を防ぐため、しっかりと考えることが求められます。まず基本的な学説の対立を理解した上で、自分の刑法体系を構築しようとする積極的な姿勢を持ってください。

フィードバックの方法:

提出物については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	100	到達目標にある、刑法各論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。

教科書:

大谷 實『刑法各論(第4版)』(成文堂、2014年)

参考書:

六法(『法学六法』(信山社)や『デイリー六法』(三省堂)、『ポケット六法』(有斐閣)等の携帯用のもので結構ですので、授業に必ず持参するようにしてください。)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

授業テーマ:

公務員に関する法制度

授業の概要:

公務員とひとくちに言っても、さまざまな職種が存在しますが、本講においては、行政職の公務員(とくに地方公務員)にとって必要な憲法・行政法(行政組織法、公務員法)・地方自治法の基礎知識を習得し、公務員の人権・権利・義務・責任、行政、地方自治に関する法制度、判例などを学びます。公務員を目指す人はもちろん、そうでない人も、これから生活・仕事をしていくうえで、特に地方公共団体の職員と関わりをもつ機会は少なくないでしょう。「憲法特講」「行政法」「民法」などを受講済み、あるいはあわせて受講することが望ましいです。

到達目標:

憲法・地方自治法の基礎知識の修得
地方自治に関する法制度の理解
文章で知識や理解を表す力の向上

授業方法:

主として講義により行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	公務員の意義・職種	教科書を読む 予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
2.	公務員制度の沿革・特質	憲法の教科書の該当箇所を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
3.	公務員の人権(労働基本権の制限)	憲法の教科書の該当箇所を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
4.	公務員の人権(政治的活動の制限)	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
5.	公務員の勤務関係、権利・義務	憲法の教科書の該当箇所を読む 復習として、レジメやレジメ・配付資料、教科書で知識・理解を確かなものにする
6.	国の行政のしくみ	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
7.	地方自治の意義、歴史	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
8.	自治体の種類、しごと、国との関係	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
9.	自治体の組織	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
10.	自主行政権	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
11.	自主財政権	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
12.	自主立法権	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
13.	情報公開と個人情報保護	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
14.	住民の権利	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
15.	まとめ	復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中に解説

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	公務員をめぐる法制度に関する知識の修得度、理解度、文章で知識や考えを表す力
	授業への参加度、小レポート	20%	授業への積極的参加度

教科書:

板垣勝彦『ようこそ地方自治法』(第一法規)
『ポケット六法』(有斐閣)、『ディリー六法』(三省堂)等、六法を携帯すること

参考書:

君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法』(法律文化社)
小泉洋一、倉持孝司、尾形健、福岡久美子、櫻井智章『憲法の基本』(法律文化社))
北村 和生、佐藤 英世、高橋 明男、佐伯 彰洋『行政法の基本』(法律文化社)
『憲法判例百選 I・II』(有斐閣)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡
方法： オフィスアワー、授業前後の教室で対応

授業テーマ:	憲法の基礎		
授業の概要:	憲法は国家の組織・作用に関する根本規範であり、国家の最高法規です。憲法というと遠い存在のように感じる人もいますが、憲法問題は政治の場だけでなく日常生活においても存在します。また、有権者として、国家の仕組みや社会問題にも関心をもってもらいたいと思います。本講は、高校までに習った憲法に関する知識の確認と大学における憲法学の入門学習を目標とします。具体的事例にも触れながら、憲法の基本理念について講述します。		
到達目標:	憲法に関する基礎知識の修得、根拠に基づいて物事を考えられる力の涵養		
授業方法:	講義で行います		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 憲法とは何か	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	2. 憲法の歴史、基本原理	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	3. 基本的人権の意味、主体、制約	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	4. プライバシー権などの新しい人権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	5. 平等権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	6. 精神的自由権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	7. 経済的自由権、人身の自由	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	8. 社会権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	9. 参政権、国民主権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	10. 国会と立法権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	11. 内閣と行政権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	12. 裁判所と司法権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	13. 地方自治、天皇、憲法改正	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	14. 平和主義	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
	15. まとめ	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジュメなどで復習をする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	新聞などを読んで、政治、社会、国際問題などに関心をもつことを勧めます。 高校までに習った日本史、世界史の知識を確認しておいてください。		
フィードバックの方法:	授業中に解説します		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100%	基礎知識の修得度
教科書:	君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法(第3版)』(法律文化社)		
参考書:	小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子・櫻井智章『憲法の基本(第3版)』(法律文化社、2016) 初宿正典・大沢秀介・高橋正俊・常本照樹・高井裕之『目で見える憲法』(有斐閣) 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第6版)』(岩波書店、2015) 吉田仁美編『スタート憲法』(成文堂)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業前後の教室内で対応、オフィスアワー		

授業テーマ:

民事法入門

授業の概要:

法律に対して諸君が抱くイメージは様々でしょうが、大抵の場合は、「悪いことをしたら罰を受けると定めているもの」という理解ではないでしょうか。これは完全に間違いであるとまでは言えませんが、法律、もっと広く「法」に対する理解としては、あまりにも一面的です。この授業で扱う「民事法」、その中心にあたる「民法」とは、罰を定めるものではなく、市民社会の基本法と位置づけられています。確かに罰則のように見える内容も含まれますが、それだけではないのです。

この講義では、具体的な事例を素材にして、諸君の意見も聞きながら、民法を中心とする民事法全体が、社会の中でどのように機能しているのかを把握できるようにすることを第一の目標とします。そして、民事法に興味を持ち、自ら勉強に取り組むようになるようにすることを第二の目標とします。

到達目標:

○六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。

※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。

授業方法:

レジュメを配布し、それに沿って講義形式で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス ～民事法とは何か	高校までに学習した政治経済や公民の内容を復習しておく。
2. 人の値段	
3. 盗まれた手	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
4. 金返せ！ 一残り物の平等	
5. 芸能人のお約束	
6. よくわからない新聞記事	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
7. 助けた私の貢献度	
8. パンデクテン体系 前半の総括	
9. 民事法の広がり(1)	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
10. 民事法の広がり(2)	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
11. 民事法の広がり(3)	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
12. 民事法の広がり(4)	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
13. 民事法の広がり(5)	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
14. 民事法の展開	
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」と「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。

フィードバックの方法:

授業中に私から問いかけ、問題について皆で検討する他、コメントペーパーの内容にも応答していく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	授業内容に関する問題を出題する。
コメントペーパー	20	諸君が特に興味を持ちそうなテーマの回に実施する。

教科書:

六法(どのようなものでも良いです)

※初回授業で指示しますが、安くて携帯しやすいので、『法学六法'16』(信山社、1080円)を薦めます。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

メールで連絡をとるか (tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィスアワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。

授業テーマ:	現代社会の抱える犯罪問題と刑事法についての基礎的知識を身につける																																		
授業の概要:	この科目は、現代社会の基礎を法が支えており、法についての基本的理解は現代人の必須の素養であるという学科の理念に基づいて設置され、中でも、刑事法分野の基礎的知識と理解を得ることを目的とする科目です。 私たちの日常生活を規律している民事法とは異なり、犯罪という、本来『非日常的』な現象を検討対象とするのが刑事法ですが、残念ながら、私たちは日々、凶悪な犯罪の報道に接し、安全・安心を脅かされながら生活しているというのが現状です。 また、犯罪への対策である刑事法は、国家と市民の人権とが最も峻厳に対立する分野でもあって、法というものを考える上で、恰好の素材を提供してくれるものでもあります。 この刑事法分野には、犯罪と刑罰を定めている刑法、刑事裁判手続について定めている刑事訴訟法、犯罪の傾向と対策を研究対象とする刑事政策とが含まれますが、これら3つの分野を総合的に俯瞰していきながら、刑事法の基礎を学んでいきます。																																		
到達目標:	刑事法の分野に関して、「犯罪」とは何か？現代社会の抱える犯罪の傾向や特徴は何か？刑法とは何か？どのような基本原理があるのか？刑事裁判はどのようなルールに従って行われるのか？犯罪を減らすためにどのような政策が必要なのか？といった諸点について、基礎的知識を得ること。																																		
授業方法:	講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 刑事法の全体像 — 刑法・刑事訴訟法・刑事政策 —</td><td>犯罪や捜査に関する小説や映画等を参照して、刑事法分野への興味・関心を持つておくこと。</td></tr><tr><td>2. 犯罪防止と法(1) 我が国の犯罪情勢</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第1章をよく読んで、現在の犯罪の傾向等を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>3. 犯罪防止と法(2) 犯罪原因論</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第1章をよく読んで、犯罪の原因・メカニズムに関する諸説の内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>4. 刑法の基礎 古典学派と近代学派</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第2章をよく読んで、いわゆる学派の争いに関して、内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 刑罰と保安処分</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第11章をよく読んで内容を理解しておくこと。特に、刑罰と保安処分の関係を軸に、整理しておくこと。</td></tr><tr><td>6. 罪刑法定主義と構成要件</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第3章をよく読んで内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>7. 法益三分説 個人法益に対する罪 社会法益に対する罪 国家法益に対する罪</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第4～6章をよく読んで、日本における犯罪の全体像を把握しておくこと。</td></tr><tr><td>8. 刑罰権の具体的実現 — 刑事訴訟法 —</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第12章をよく読んで内容を理解し、刑事手続の流れを整理しておくこと。</td></tr><tr><td>9. 捜査機関 警察と検察</td><td>配布レジュメ等を参照して、警察と検察の組織や権限等について、基礎的な理解を得ておくこと。</td></tr><tr><td>10. 捜査と人権(1)</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第13章をよく読んで内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>11. 捜査と人権(2)</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第13章をよく読んで内容を理解しておくこと。 冤罪問題について、インターネット等で調べておくこと。</td></tr><tr><td>12. 裁判員制度</td><td>配布レジュメをよく読んで、日本の裁判員制度の特徴と概要を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>13. 犯罪者の処遇</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第16～17章をよく読んで内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>14. 少年非行と刑事司法</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第18章をよく読んで内容を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>配布レジュメのほか、テキスト第章をよく読んで内容を理解しておくこと。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 刑事法の全体像 — 刑法・刑事訴訟法・刑事政策 —	犯罪や捜査に関する小説や映画等を参照して、刑事法分野への興味・関心を持つておくこと。	2. 犯罪防止と法(1) 我が国の犯罪情勢	配布レジュメのほか、テキスト第1章をよく読んで、現在の犯罪の傾向等を理解しておくこと。	3. 犯罪防止と法(2) 犯罪原因論	配布レジュメのほか、テキスト第1章をよく読んで、犯罪の原因・メカニズムに関する諸説の内容を理解しておくこと。	4. 刑法の基礎 古典学派と近代学派	配布レジュメのほか、テキスト第2章をよく読んで、いわゆる学派の争いに関して、内容を理解しておくこと。	5. 刑罰と保安処分	配布レジュメのほか、テキスト第11章をよく読んで内容を理解しておくこと。特に、刑罰と保安処分の関係を軸に、整理しておくこと。	6. 罪刑法定主義と構成要件	配布レジュメのほか、テキスト第3章をよく読んで内容を理解しておくこと。	7. 法益三分説 個人法益に対する罪 社会法益に対する罪 国家法益に対する罪	配布レジュメのほか、テキスト第4～6章をよく読んで、日本における犯罪の全体像を把握しておくこと。	8. 刑罰権の具体的実現 — 刑事訴訟法 —	配布レジュメのほか、テキスト第12章をよく読んで内容を理解し、刑事手続の流れを整理しておくこと。	9. 捜査機関 警察と検察	配布レジュメ等を参照して、警察と検察の組織や権限等について、基礎的な理解を得ておくこと。	10. 捜査と人権(1)	配布レジュメのほか、テキスト第13章をよく読んで内容を理解しておくこと。	11. 捜査と人権(2)	配布レジュメのほか、テキスト第13章をよく読んで内容を理解しておくこと。 冤罪問題について、インターネット等で調べておくこと。	12. 裁判員制度	配布レジュメをよく読んで、日本の裁判員制度の特徴と概要を理解しておくこと。	13. 犯罪者の処遇	配布レジュメのほか、テキスト第16～17章をよく読んで内容を理解しておくこと。	14. 少年非行と刑事司法	配布レジュメのほか、テキスト第18章をよく読んで内容を理解しておくこと。	15. まとめ	配布レジュメのほか、テキスト第章をよく読んで内容を理解しておくこと。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 刑事法の全体像 — 刑法・刑事訴訟法・刑事政策 —	犯罪や捜査に関する小説や映画等を参照して、刑事法分野への興味・関心を持つておくこと。																																		
2. 犯罪防止と法(1) 我が国の犯罪情勢	配布レジュメのほか、テキスト第1章をよく読んで、現在の犯罪の傾向等を理解しておくこと。																																		
3. 犯罪防止と法(2) 犯罪原因論	配布レジュメのほか、テキスト第1章をよく読んで、犯罪の原因・メカニズムに関する諸説の内容を理解しておくこと。																																		
4. 刑法の基礎 古典学派と近代学派	配布レジュメのほか、テキスト第2章をよく読んで、いわゆる学派の争いに関して、内容を理解しておくこと。																																		
5. 刑罰と保安処分	配布レジュメのほか、テキスト第11章をよく読んで内容を理解しておくこと。特に、刑罰と保安処分の関係を軸に、整理しておくこと。																																		
6. 罪刑法定主義と構成要件	配布レジュメのほか、テキスト第3章をよく読んで内容を理解しておくこと。																																		
7. 法益三分説 個人法益に対する罪 社会法益に対する罪 国家法益に対する罪	配布レジュメのほか、テキスト第4～6章をよく読んで、日本における犯罪の全体像を把握しておくこと。																																		
8. 刑罰権の具体的実現 — 刑事訴訟法 —	配布レジュメのほか、テキスト第12章をよく読んで内容を理解し、刑事手続の流れを整理しておくこと。																																		
9. 捜査機関 警察と検察	配布レジュメ等を参照して、警察と検察の組織や権限等について、基礎的な理解を得ておくこと。																																		
10. 捜査と人権(1)	配布レジュメのほか、テキスト第13章をよく読んで内容を理解しておくこと。																																		
11. 捜査と人権(2)	配布レジュメのほか、テキスト第13章をよく読んで内容を理解しておくこと。 冤罪問題について、インターネット等で調べておくこと。																																		
12. 裁判員制度	配布レジュメをよく読んで、日本の裁判員制度の特徴と概要を理解しておくこと。																																		
13. 犯罪者の処遇	配布レジュメのほか、テキスト第16～17章をよく読んで内容を理解しておくこと。																																		
14. 少年非行と刑事司法	配布レジュメのほか、テキスト第18章をよく読んで内容を理解しておくこと。																																		
15. まとめ	配布レジュメのほか、テキスト第章をよく読んで内容を理解しておくこと。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	現代社会の抱える問題点と犯罪との関係、犯罪に対する社会の対応策等について、まず興味・関心を持ってください。そして、自分から積極的に情報を集め、しっかりと考え、さらには自分にできることを行動に移すように心がけてください。																																		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説します。																																		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>100</td><td>到達目標に示した諸点に関して、基礎的知識が得られているかを基準に評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	100	到達目標に示した諸点に関して、基礎的知識が得られているかを基準に評価する。																												
評価方法	割合	評価基準																																	
定期試験	100	到達目標に示した諸点に関して、基礎的知識が得られているかを基準に評価する。																																	
教科書:	大谷實『刑事法入門(第7版補訂版)』(有斐閣、2014年)																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dw.doshisha.ac.jp>																																		

授業テーマ： 現代社会においては、どんな主張もデータによる裏付けを要求される。ところが、複雑さを増す現代社会が提供するデータは膨大なものとなっており、どう整理していいものやら途方に暮れるというようなことになりやすい。この授業ではそういったデータの整理の仕方を学ぶ。

授業の概要： エクセルを用いて、上記「授業テーマ」に示された「データ整理」のノウハウについて学ぶ。テキストは用いず、毎回授業内容に即したプリントを配る。適宜、授業内容に対応した課題「ひとりでするもん」が課せられる。

到達目標： 職業訓練や就職支援を目的とはしないが、一般的な就職支援のコース以上の内容を含み、それがこなせることが最初の到達目標である。とくに「同一ファイルを複数人が使用する」などの現代的な使用法に違和感なく取り組めるようになることが次の到達目標である。

授業方法： 今やるべき作業をスクリーンに提示しながら進める。随時教室を回り、作業の進行を確認しながら進める。質問などもこの時に受け付ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 「作表の基本」	TODAY関数が望ましいケース、望ましくないケースを想像してみよう
	2. 「関数の基本」 判定の仕組みについて学ぶ。	「小破」、「中破」…あたり判定はどうしてる？
	3. 「グラフ1」 人目を惹くグラフの作り方を学ぶ。	冬月先生について調べてみよう
	4. 「グラフ2」 特殊なものも含め、さまざまなグラフの作り方について学ぶ。	NERVIについて調べてみよう
	5. 「関数アラカルト」 エラーを起こしやすい関数の使い方を学ぶ。	絶対参照と相対参照を説明してみよう
	6. 「大きいデータの取り扱い」 データのテーブル化とフィルタ操作について学ぶ。	入力規則には他にどんな使い方があるか調べてみよう
	7. 「これがやりたい1」 統計資料から度数分布表を作る方法を学ぶ。	配列について調べてみよう
	8. 「これがやりたい2」 統計資料から該当データを探す方法を学ぶ。	いじくってほしくないシートやセルの保護の仕方をいろいろ工夫してみよう
	9. 「集計」 統計資料を集計する方法をいろいろ学ぶ。	ピボットテーブルの限界を考えてみよう
	10. 「シート間集計」 複数のシートにまたがったデータを集計する様々な方法について学ぶ。	一部データの修正があったときにも集計に反映させる方法をもう一度、検討してみよう
	11. 「未来予測1」 過去データから明日の売り上げを予測する方法について学ぶ。	補外とはどういう意味なのだろうか
	12. 「未来予測2」 将来の皆さんの暮らしにかかわる、住宅ローンや子供の教育費などをシミュレーションする方法について学ぶ。	金融システムについて調べてみよう
	13. 「政府統計を扱ってみよう」 e-Statの使い方について学ぶ。	国際統計はどこにアクセスしたらよいのだろう
	14. 総合問題 これまでの学習事項を生かしてチャレンジしてみよう。	総復習しておくこと
	15. 政府統計を利用したレポート作成	わかりやすくショーアップするにはどうしたらよいのか

受講者へのメッセージやアドバイス： 積み上げ式の進行なので休むときつくなってくる。出続けてほしいです！

フィードバックの方法： 課題についてはある程度そろったところで、評価の上、必要であれば講義中に解説を行う。通常時の疑問点については、講義中でも自由に質問してもらってよく、その都度、お答えをする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業態度	50	必要な作業が十分な速度でこなせているか。また、積極的にチャレンジしているか。
	課題	50	「最低限必要」とされた要件を満たしているか。また、「チャレンジ」とされた要件をこなしていれば加点。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法： 基本的にメールでの連絡をお願いする。thonda@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	表計算ソフトを活用し、豊かな情報処理力を養う		
授業の概要:	「情報活用実習I」では、表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作法を身につけることを目標とします。 表計算ソフトを用いると、複雑そうな計算(データ処理)も簡単に済み、多くのデータを効率的に整理することが可能です。また、グラフを作成するとデータの視覚的な表現ができて、表形式だけではとらえがたいデータ全体の傾向についてわかりやすく表現できます。表計算以外にも、追加された機能(Add-in)を活用すれば図表を中心とした表現となり、Microsoft Wordとは一味違ったまとめもできあがります。 表計算をマスターし豊かな情報処理力を身につけて下さい。		
到達目標:	情報処理技能検定の2級程度の習得を目標とします。		
授業方法:	一人1台のパソコンが配備された情報処理実習教室を用い、実習形式で行います。 授業の終了時にその日の復習課題を実施することがあります。 実習授業なので、前回の授業を理解している前提で授業を進めますので、欠席しないように注意して下さい。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、Excelの基本操作		Excelの基本的な構成や、データの入力・コピーなどの基本操作を習得します
	2. 表の作成と編集		Excelを使用した表の作成と編集の基本を学びます。Excelの作業では頻度の高い、データ入力→数式の入力→罫線を引く→書式設定や表の見た目を整えるといった一連の操作を、実習により習得します。
	3. 数式と関数		四則演算などの基本的な関数の使い方を習得します。また、計算式を効率よく作成する上での重要なポイントである「絶対参照と相対参照」について学習します
	4. よく使う関数		SUM(合計)・AVERAGE(平均)・COUNT(データの個数)・MAX(最大値)・MIN(最小値)といった基本的な関数の使い方を習得します。
	5. グラフの作成・印刷		グラフの基本的な作成と編集の方法を習得します。作成したExcelの表やグラフを印刷する方法及び印刷時の設定について習得します。
	6. データベース機能		Excelは「データベース」としても活用することが可能です。ここではExcelのデータベース機能の概要、テーブル機能、データの並べ替えや抽出方法を習得します。
	7. 入力をサポートする機能		効率よくデータを入力するために便利な入力規則機能について習得します。セルに入力するデータの種類や範囲を制限したり、プルダウンのリストで入力値を選択できる設定や日本語入力の切り替え制御の方法を設定します。また、設定した条件によってセルに入力したデータを強調する条件付き書式を習得します。
	8. よく使用する関数(1)		IF(条件により処理を分ける)・VLOOKUP(一覧から該当するデータを検索する)・ROUND(四捨五入)等、実務において良く使用する関数の使い方を習得します。その他の様々な関数もご紹介します。
	9. よく使用する関数(2)		実務において良く使用する関数の使い方を習得します。その他の様々な関数もご紹介します。
	10. その他の様々な関数		日付・時刻データを集計等の用途に応じて適切な形式に変更するための、関数の様々な活用方法を習得します。
	11. 文字列操作の応用		Excelにおいてよく使用される、文字列データ処理に関する関数の活用方法を習得します。
	12. エクセル応用(1)		覚えておくくと便利な、実践的な処理を学びます。
	13. エクセル応用(2)		覚えておくくと便利な、実践的な処理を学びます。
	14. エクセルを使った課題制作(1)		ここまで学習した処理方法を使って、課題を作成します。
15. エクセルを使った課題制作(2)		ここまで学習した処理方法を使って、課題を作成します。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	不明な点は授業中でも遠慮無く質問してください。 あなたの疑問はみんなの疑問でもあるのです。		
フィードバックの方法:	授業の内容は、当日の授業までに、授業用ホームページにアップします。 欠席や、不明な点がある場合は、授業ファイルを参照して復習して下さい。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む授業への参加・態度	30%	出席及びみきわめ課題提出
	最終の総合課題	70%	課題の正答率で評価します
教科書:	必要に応じて資料を配付します。		
参考書:	授業時に指示します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	hayashi@dwc-hayashi.info		

授業テーマ:	表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用し、豊かな情報処理能力を養う。 「Excel」の持つ豊富な「関数」を基本から学び、処理を自動化する「マクロ機能」を習得し。更に簡単な「VBA」を学習しプログラミングの導入を体験し、技術の窓口を広げて一般的な「Excel」を利用しての基礎処理との差別化を図る。		
授業の概要:	一般的な「Excel」の処理方法を復習し、「関数」の詳細を深く学び、処理を自動化する「マクロ機能」を習得し、更にマクロ機能のベースとなっている「VBA(visualBasic for Application)」というコンピュータプログラミング言語の初歩を少し学ぶことにより、技術の窓口を広げる。 但し、Excel初心者でも対応できるように、Excelの基本の復習を行い、「VBA」は分かりやすい範囲のみ行う。		
到達目標:	・「Excel」の基本の習得 ・「関数」を理解する ・「マクロ」機能を利用できる ・「VBA」を少し理解してカスタマイズできる		
授業方法:	理論説明し、実習問題に取り組むことにより習得する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. Excelの基本の復習1	授業の復習	
	3. Excelの基本の復習2	授業の復習	
	4. Excelの基本の復習3	授業の復習	
	5. 関数の基本	授業の復習	
	6. 便利な関数の活用1	授業の復習	
	7. 便利な関数の活用実践	授業の復習	
	8. マクロ機能概要	授業の復習	
	9. マクロ機能活用	授業の復習	
	10. マクロ機能実践	授業の復習	
	11. VBA基本	授業の復習	
	12. VBA文法1	授業の復習	
	13. VBA文法2	授業の復習	
	14. VBA実践	授業の復習	
	15. 授業の復習、課題説明・制作	課題制作	
受講者へのメッセージやアドバイス:	・「Excel」の基本から区別化された一段高度な内容を習得しましょう ・コンピュータプログラミングの第一歩となります		
フィードバックの方法:	実習問題に取り組むことにより、理解を促進させる		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況・授業態度	20%	まじめに取り組む姿勢
	実習問題	30%	きちんと取り組み作成する
	課題制作	50%	身近なものに応用する力・自分で考える力 挑戦しようとする姿勢
教科書:	「よくわかる Excel2010 マクロ/VBA」[FOM出版]		
参考書:	「よくわかる Excel 2010 基礎」[FOM出版]		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	・Eメール:hkitabay@dwc.doshisha.ac.jp ・マナビー 掲示板		

授業テーマ:

マルチメディアを活用し、Webサイトの制作を通して魅力ある情報発信能力を身につける。

授業の概要:

情報活用実習Iでワープロ・表計算の基礎を学んだ者を対象として、マルチメディアを活用しWebサイトを通じて魅力ある情報発信を行うことを目標とする。Webエディタ等を用いてマルチメディアの基礎を体得し、編集ソフトを用いて画像の編集加工を行う。さらに習得した技術を活用してWebオーサリングツールを使用し、Webサイト制作における魅力ある情報発信を行い、デザイン的な観点からより伝わる表現を実現する。

到達目標:

画像編集ソフトを使用した画像の編集加工
Webオーサリングツールを使用したWebサイト制作

授業方法:

5:演習/講義
毎回コンピュータを用いての実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、概要／Webオーサリングツールについて	
	2. Webサイト基礎(1) HTML基礎	
	3. メディア編集(1) GIFアニメーション	
	4. メディア編集(2) 画像の編集加工／画像編集ソフトの基本操作	
	5. メディア編集(3) 画像の編集加工／画像補正、合成加工	画像編集ソフトの基本操作、画像の編集加工の復習
	6. メディア編集(4) 画像の編集加工／ロゴ・バナーの作成	画像編集ソフトの基本操作、画像の編集加工の復習
	7. Webサイト基礎(2) サイトの基本構成／Webオーサリングツールの基本操作	
	8. Webサイト基礎(3) ページレイアウト	Webオーサリングツールの基本操作、復習
	9. Webサイト基礎(4) テキストリンク、画像リンクの設定	Webオーサリングツールの基本操作、復習
	10. Webサイトコンセプトシートの作成／サイトマップ・ワイヤーフレームの作成	
	11. マルチメディアを活用したWebサイト制作(1) 制作	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	12. マルチメディアを活用したWebサイト制作(2) 制作	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	13. マルチメディアを活用したWebサイト制作(3) 制作	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	14. マルチメディアを活用したWebサイト制作(4) 検証	サイトマップ・ワイヤーフレームを元にしたサイト制作
	15. マルチメディアを活用したWebサイト制作(5) 仕上げ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	授業への参加、態度 発想・表現力、完成度、提出期限
	課題	50	

教科書:

必要資料を授業中に配布する。

参考書:

適宜、授業中に指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

マルチメディア技術を活用し、WEBページを通して魅力ある情報発信能力を身につける。

授業の概要:

ワープロ・表計算およびWEBページ作成の基礎を学んだ者、あるいはそれと同等の者を対象として、マルチメディアを活用し、WEBページを通じて魅力ある情報発信を行うことを目標とします。
近年、ブログなどで簡単に情報発信することができるようになりましたが、その基本言語であるHTMLの言語を理解し、情報を整理し、サイトを作成する技術を習得します。
最初にテキストエディタを使用し、HTMLの構造を学習します。次に、プロも使用するHTML編集ソフトDreamWeaverを習得します。同じくAdobe社の画像編集ソフト、Photoshopを用いて、静止画像及び動画の編集加工を行います。
また、装飾のための言語であるCSSを学習し、表現を豊かにする能力を身につけます。
さらに各自が自作したマルチメディアを活用し、WEBページにおける魅力ある情報発信に努めます。

到達目標:

指定されたテーマに基づき、ホームページを作成し、公開しています。

授業方法:

一人1台のパソコンが配備された情報処理実習教室を用い、実習形式で行います。
実習授業なので、前回の授業を理解している前提で授業を進めますので、欠席しないように注意して下さい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション。テキストエディタを用いたWEB作成基礎(1)	HTMLとは。 テキストエディタ「秀丸」を用いてHTMLの基本構造を学ぶ。
2.	テキストエディタを用いたWEB作成基礎(2)	テキストエディタ「秀丸」を用いてHTMLの基礎を学ぶ。ハイパーリンクと画像。
3.	Adobe DreamWeaverを用いたWEB作成基礎	WYSIWYGのHTMLエディタのAdobe DreamWeaverを利用すればテキストエディタでHTMLを書くよりも簡単で高機能であることを体感する。
4.	マルチメディアの基礎(1)WEBで使う静止画像(GIF、JPEG、PNGの特徴)。	WEBで使う静止画像の種類と特徴を学び、使い分けの基準を学習する。
5.	CSS(1)CSSとは何か？	画像エディタ「Adobe Photoshop」を使う。 セクタを理解する。CSSはどこに書くか？、CSSの書き方の基本。 セクタって？。HTML要素のセクタ。ID要素のセクタ。Class要素のセクタ。
6.	CSS(2)属性とプロパティ	ブロック要素とインライン要素。
7.	CSS(3)属性とプロパティ	マージン、パディング。
8.	CSS(4)テキストのスタイル	テキストの色、フォントサイズの指定、行揃え、行の高さ。疑似セクタ。
9.	CSS(5)背景のスタイル、画像のスタイル	第9回 CSS(5)背景のスタイル、画像のスタイル 背景画像の指定、背景画像の位置、背景画像の繰り返し。画像の位置。フロート。
10.	CSS(6)レイアウトを作る	ヘッダーの配置、メイン要素の配置、サイドバーの配置、フッターの配置。
11.	テーブルの使用	表を作成する。
12.	Javascript、Ajaxを使って機能を追加する	Javascriptとは。Ajaxを使うと何が出来るか。
13.	マルチメディアを活用したWEBページ創作(1)	これまでに学習してきた素材制作や、文書の装飾方法を応用して、表現力豊かなWEBページを創作する。
14.	マルチメディアを活用したWEBページ創作(2)	これまでに学習してきた素材制作や、文書の装飾方法を応用して、表現力豊かなWEBページを創作する。
15.	マルチメディアを活用したWEBページ創作(3)	これまでに学習してきた素材制作や、文書の装飾方法を応用して、表現力豊かなWEBページを創作する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

不明な点は授業中でも遠慮無く質問してください。
あなたの疑問はみんなの疑問でもあるのです。

フィードバックの方法:

授業の内容は、当日の授業までに、授業用ホームページにアップします。
欠席や、不明な点がある場合は、授業ファイルを参照して復習して下さい。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む授業への参加・態度	30%	出席及び小課題提出
	最終の総合課題	70%	授業で学習したルールに基づいているか、応用できているか否かで評価します。

教科書:

必要に応じて資料を配付します。

参考書:

授業時に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

hayashi@dwc-hayashi.info

授業テーマ:	プレゼンテーション技法の習得を通して豊かな情報発信力を獲得する																																		
授業の概要:	プレゼンテーマに関する情報を収集・整理・分析し、文字・画像・音声・動画など適切な表現手段を組み合わせるスライド資料の作成を実習します。また図解・レイアウト・カラー表現などを活用して、わかりやすい資料作成の技術を習得します。操作に習熟した上で総合的な制作実習を行います。プレゼンテーション・ソフトを活用したポスターや企画書などの制作にもふれます。以上をふまえて聞き手に「伝わる」プレゼンテーションの実施につながるよう展開していきます。																																		
到達目標:	プレゼンテーション・ソフト(PowerPoint)の基本的機能を理解し操作できる。 ストーリー展開を活かしたスライド資料の作成ができる。 効果的なプレゼンテーションの実施工程を理解し実演できる。																																		
授業方法:	毎回一人1台のコンピュータを活用して実習します																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーションー魅力あるプレゼンテーションを行うためにー</td><td>プレゼンテーション実施の流れを確認する</td></tr><tr><td>2. プレゼンテーションの構成と展開を考える</td><td>プレゼンテーション資料作成の手順を確認する</td></tr><tr><td>3. 情報収集と素材の編集加工</td><td>素材の収集方法を確認する</td></tr><tr><td>4. スライドのレイアウトと色彩効果</td><td>内容の配置や色彩の影響について復習する</td></tr><tr><td>5. 表・グラフ・図解の活用</td><td>わかりやすい提示内容の活用を復習する</td></tr><tr><td>6. アニメーション効果と画面切り替え効果</td><td>視覚効果の設定方法を確認する</td></tr><tr><td>7. 中間課題制作(1)</td><td>基本的な操作を復習する</td></tr><tr><td>8. 中間課題制作(2)</td><td>課題制作に必要な情報を事前に収集する</td></tr><tr><td>9. 音声および動画素材の活用</td><td>素材の収集に必要な情報を整理する</td></tr><tr><td>10. スライドテーマの編集とOfficeソフト間のデータ連携</td><td>Word、Excelの基本的な操作を確認する</td></tr><tr><td>11. プレゼンテーションソフトの機能活用とポスターや企画書への応用</td><td>スライドの詳細な設定方法を復習する</td></tr><tr><td>12. スライドショーの設定とプレゼンテーションでの操作</td><td>プレゼンテーション実演に必要な操作を復習する</td></tr><tr><td>13. 総合課題制作(1)</td><td>課題制作に必要な情報を収集する</td></tr><tr><td>14. 総合課題制作(2)</td><td>課題制作に必要な情報を整理、分析する</td></tr><tr><td>15. 総合課題発表とプレゼンテーションの評価</td><td>プレゼンテーション実施に向けた準備をする</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーションー魅力あるプレゼンテーションを行うためにー	プレゼンテーション実施の流れを確認する	2. プレゼンテーションの構成と展開を考える	プレゼンテーション資料作成の手順を確認する	3. 情報収集と素材の編集加工	素材の収集方法を確認する	4. スライドのレイアウトと色彩効果	内容の配置や色彩の影響について復習する	5. 表・グラフ・図解の活用	わかりやすい提示内容の活用を復習する	6. アニメーション効果と画面切り替え効果	視覚効果の設定方法を確認する	7. 中間課題制作(1)	基本的な操作を復習する	8. 中間課題制作(2)	課題制作に必要な情報を事前に収集する	9. 音声および動画素材の活用	素材の収集に必要な情報を整理する	10. スライドテーマの編集とOfficeソフト間のデータ連携	Word、Excelの基本的な操作を確認する	11. プレゼンテーションソフトの機能活用とポスターや企画書への応用	スライドの詳細な設定方法を復習する	12. スライドショーの設定とプレゼンテーションでの操作	プレゼンテーション実演に必要な操作を復習する	13. 総合課題制作(1)	課題制作に必要な情報を収集する	14. 総合課題制作(2)	課題制作に必要な情報を整理、分析する	15. 総合課題発表とプレゼンテーションの評価	プレゼンテーション実施に向けた準備をする	人にわかりやすいスライド資料を提示して効果的なプレゼンテーションを行える能力をつけよう	
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーションー魅力あるプレゼンテーションを行うためにー	プレゼンテーション実施の流れを確認する																																		
2. プレゼンテーションの構成と展開を考える	プレゼンテーション資料作成の手順を確認する																																		
3. 情報収集と素材の編集加工	素材の収集方法を確認する																																		
4. スライドのレイアウトと色彩効果	内容の配置や色彩の影響について復習する																																		
5. 表・グラフ・図解の活用	わかりやすい提示内容の活用を復習する																																		
6. アニメーション効果と画面切り替え効果	視覚効果の設定方法を確認する																																		
7. 中間課題制作(1)	基本的な操作を復習する																																		
8. 中間課題制作(2)	課題制作に必要な情報を事前に収集する																																		
9. 音声および動画素材の活用	素材の収集に必要な情報を整理する																																		
10. スライドテーマの編集とOfficeソフト間のデータ連携	Word、Excelの基本的な操作を確認する																																		
11. プレゼンテーションソフトの機能活用とポスターや企画書への応用	スライドの詳細な設定方法を復習する																																		
12. スライドショーの設定とプレゼンテーションでの操作	プレゼンテーション実演に必要な操作を復習する																																		
13. 総合課題制作(1)	課題制作に必要な情報を収集する																																		
14. 総合課題制作(2)	課題制作に必要な情報を整理、分析する																																		
15. 総合課題発表とプレゼンテーションの評価	プレゼンテーション実施に向けた準備をする																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	授業時にまとめて解説する																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>平常課題</td><td>15</td><td>基本的な操作の習得度を評価する</td></tr><tr><td>中間課題</td><td>25</td><td>既習内容の理解度を評価する</td></tr><tr><td>総括課題</td><td>60</td><td>既習内容の活用度を評価する</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	平常課題	15	基本的な操作の習得度を評価する	中間課題	25	既習内容の理解度を評価する	総括課題	60	既習内容の活用度を評価する																						
評価方法	割合	評価基準																																	
平常課題	15	基本的な操作の習得度を評価する																																	
中間課題	25	既習内容の理解度を評価する																																	
総括課題	60	既習内容の活用度を評価する																																	
教科書:																																			
参考書:	マイナビ 速効!ポケットマニュアル PowerPoint基本ワザ&便利ワザ 2013&2010&2007対応 実教出版 30時間アカデミック プレゼンテーション+PowerPoint 2007/2010																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力																																		
教員との連絡方法:	Eメール(メールアドレスは授業時に連絡)、授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:

Powerpointを修得しプレゼンテーション力向上を図るとともに、マルチメディアの扱いに慣れる。

授業の概要:

プレゼンテーションツールとしてPowerPointを使用し、現代社会で必要とされる企画力やプレゼンテーション力をマルチメディアの活用とともに習得する。「わかりやすく伝える」ために頭にあるイメージを企画書にまとめ、形にしていくノウハウを学習しプレゼンテーション力を高める。

到達目標:

PowerPointの習得
プレゼンテーション力の向上

授業方法:

2:演習
毎回コンピュータを用いての実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、概要／プレゼンテーションについて	
2.	PowerPoint 基本1:基本操作	基本操作の復習
3.	PowerPoint 基本2:スライド作成・設定と編集	基本操作、スライド設定の復習
4.	PowerPoint 基本3:文章のレイアウト、デザイン1	文章のレイアウトの復習
5.	PowerPoint 基本4:文章のレイアウト、デザイン2	文章のレイアウトの復習
6.	PowerPoint 基本5:イラスト・写真を使用した効果的表現、編集	イラスト・写真の編集、設定の復習
7.	PowerPoint 応用1:アニメーション効果とスライドショー	企画を元にしたスライド制作 企画を元にしたスライド制作 完成したスライドを使用したプレゼンテーション
8.	課題1:企画制作	
9.	課題1:企画制作	
10.	課題1:プレゼンテーション	
11.	PowerPoint 応用2:図解表現 表・グラフの挿入	表・グラフの挿入、設定の復習
12.	PowerPoint 応用3:映像を使用した表現、配布資料の設定	
13.	課題2:企画制作	企画を元にしたスライド制作
14.	課題2:企画制作	企画を元にしたスライド制作
15.	課題2:プレゼンテーション	完成したスライドを使用したプレゼンテーション

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	授業への参加・態度
	課題	50	発想・表現力、スライドの完成度、プレゼンテーション力

教科書:

必要資料を授業中に配布する。

参考書:

適宜、授業中に指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	Java言語を使ってプログラミングの基礎能力をグラフィカルに身につけ、webページにも活用することを習得し、現在、注目されているスマートフォンの「アンドロイドアプリ」プログラミング作成も体験し、広く知識を取得します。		
授業の概要:	プログラミングの重鎮である「Java言語」を利用して、亀の動きをグラフィカルに表現することによりプログラミングの基礎知識を楽しく学び、応用としてwebページに活用したり、Java言語で作成されているスマートフォンの「アンドロイドアプリ」作成も体験します。		
到達目標:	・Java言語でプログラムを作成し、動かすことができる ・Java言語で作成したプログラムをwebページに組込むことができる ・アンドロイドアプリの簡単なプログラムが作成できてエミュレーターで動かすことができる		
授業方法:	理論説明し、実習問題に取り組むことにより習得する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. プログラミングとは Java言語とは プログラムの作成実行体験	復習	
	3. 文法1:変数	実習問題を復習	
	4. 文法2:繰返し処理	実習問題を復習	
	5. 繰返し処理演習	実習問題を復習	
	6. 文法3:条件分岐	実習問題を復習	
	7. 条件分岐演習	実習問題を復習	
	8. GUI (グラフィカルユーザーインターフェース)	実習問題を復習	
	9. イベント処理	実習問題を復習	
	10. GUIとイベント処理の総合演習 統合開発環境Eclipseの利用	実習問題を復習	
	11. グラフィックス基礎	実習問題を復習	
	12. グラフィックスとイベントの融合 アニメーション体験	実習問題を復習	
	13. アプレット (webページにJavaプログラムを埋込む)	実習問題を復習	
	14. スマートフォンの「アンドロイドアプリ」作成1	実習問題を復習	
	15. スマートフォンの「アンドロイドアプリ」作成2 課題説明	実習問題を復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	・プログラミングの楽しさを気軽に実感できます ・プログラミングの基礎から応用までを広く体験することができます		
フィードバックの方法:	実習問題に取り組み、実際に動かすことにより、体感して身につける		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況・授業態度	20%	まじめに取り組む姿勢
	実習問題	30%	きちんと取り組み作成する
	課題制作	50%	身近なものに応用する力・自分で考える力 挑戦しようとする姿勢
教科書:	有賀妙子/立木秀樹 著 「すべての人のための Javaプログラミング」[共立出版]		
参考書:	高橋麻奈 著 「やさしいAndroidプログラミング」[SB クリエイティブ]		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	・Eメール:hkitabay@dwc.doshisha.ac.jp ・マナビー 掲示板		

授業テーマ:	プログラミング言語JAVAを使って、プログラミングの基礎能力を身につける。																																		
授業の概要:	いまや、電化製品をはじめ、携帯電話に至るまでマイクロプロセッサが組み込まれています。その中では、汎用のプログラム言語として、JAVAが多く採用されています。 この講義では、ワープロ・表計算及びWEBページ作成の基礎を学んだ者、あるいはそれと同等の者で、プログラムを全く作成したことのない者を対象として、APPLETを中心にJAVAの基礎を学びます。 クラス定義等の文法説明は最小限とし、とにかく「真似をする」、「とにかく動かす」ことを中心とし、内容もグラフィカルな表現を中心として、プログラミングの楽しさを体験するよう努めます。 授業では統合開発環境 (IDE) であるEclipse (エクリプス) を使い、より効率的に学習を進めます。																																		
到達目標:	与えられた課題を分析し、プログラムを完成させることを目標とします。																																		
授業方法:	一人1台のパソコンが配備された情報処理実習教室を用い、実習形式で行います。 実習授業なので、前回の授業を理解している前提で授業を進めますので、欠席しないように注意して下さい。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション。JAVAの特徴、プログラミングとは</td><td>JAVA開発環境。テキストエディタ「秀丸」とJAVAコンパイラを使った、初めてのJAVAプログラムの作成。</td></tr><tr><td>2. 初めてのJAVAプログラムの作成・解説。変数宣言と型</td><td>プログラミング言語では必ず使用する「変数」を学習する。</td></tr><tr><td>3. アプレットの作成(1)</td><td>WEBページ上で動作するJAVAのソフトウェアである「アプレット」を作成する。 統合開発環境 (IDE) であるEclipseを使い、作業効率の違いを体験する。</td></tr><tr><td>4. アプレットの作成(2)</td><td>図形を描く。</td></tr><tr><td>5. プログラム処理の流れ、アルゴリズムとフローチャート</td><td>プログラミングの基礎である処理の考え方を学習する。</td></tr><tr><td>6. 制御構造 (1)</td><td>プログラムの要素である制御構造を学習する。「順次処理」、「条件分岐」。</td></tr><tr><td>7. 制御構造 (2)</td><td>プログラムの要素である制御構造を学習する。「繰り返し処理」。</td></tr><tr><td>8. 画像の表示</td><td>アプレット上で画像を表示する。</td></tr><tr><td>9. 配列を使う</td><td>変数の一種である配列を使い、プログラムを効率的に作成する。</td></tr><tr><td>10. GUI部品組み込み</td><td>アプレット上でボタンやテキストボックスを配置する方法を学習する。</td></tr><tr><td>11. マウスイベント(1)</td><td>ボタンを押すと動作するインタラクティブなプログラムの作成方法を学習する。</td></tr><tr><td>12. マウスイベント(2)</td><td>ボタンを押すと計算や文字列処理をするプログラムを作成する。</td></tr><tr><td>13. 課題製作 (1)</td><td>ここまで学習してきたことを応用しプログラムを制作する。</td></tr><tr><td>14. 課題製作 (2)</td><td>ここまで学習してきたことを応用しプログラムを制作する。</td></tr><tr><td>15. 課題製作 (3)</td><td>ここまで学習してきたことを応用しプログラムを制作する。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション。JAVAの特徴、プログラミングとは	JAVA開発環境。テキストエディタ「秀丸」とJAVAコンパイラを使った、初めてのJAVAプログラムの作成。	2. 初めてのJAVAプログラムの作成・解説。変数宣言と型	プログラミング言語では必ず使用する「変数」を学習する。	3. アプレットの作成(1)	WEBページ上で動作するJAVAのソフトウェアである「アプレット」を作成する。 統合開発環境 (IDE) であるEclipseを使い、作業効率の違いを体験する。	4. アプレットの作成(2)	図形を描く。	5. プログラム処理の流れ、アルゴリズムとフローチャート	プログラミングの基礎である処理の考え方を学習する。	6. 制御構造 (1)	プログラムの要素である制御構造を学習する。「順次処理」、「条件分岐」。	7. 制御構造 (2)	プログラムの要素である制御構造を学習する。「繰り返し処理」。	8. 画像の表示	アプレット上で画像を表示する。	9. 配列を使う	変数の一種である配列を使い、プログラムを効率的に作成する。	10. GUI部品組み込み	アプレット上でボタンやテキストボックスを配置する方法を学習する。	11. マウスイベント(1)	ボタンを押すと動作するインタラクティブなプログラムの作成方法を学習する。	12. マウスイベント(2)	ボタンを押すと計算や文字列処理をするプログラムを作成する。	13. 課題製作 (1)	ここまで学習してきたことを応用しプログラムを制作する。	14. 課題製作 (2)	ここまで学習してきたことを応用しプログラムを制作する。	15. 課題製作 (3)	ここまで学習してきたことを応用しプログラムを制作する。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション。JAVAの特徴、プログラミングとは	JAVA開発環境。テキストエディタ「秀丸」とJAVAコンパイラを使った、初めてのJAVAプログラムの作成。																																		
2. 初めてのJAVAプログラムの作成・解説。変数宣言と型	プログラミング言語では必ず使用する「変数」を学習する。																																		
3. アプレットの作成(1)	WEBページ上で動作するJAVAのソフトウェアである「アプレット」を作成する。 統合開発環境 (IDE) であるEclipseを使い、作業効率の違いを体験する。																																		
4. アプレットの作成(2)	図形を描く。																																		
5. プログラム処理の流れ、アルゴリズムとフローチャート	プログラミングの基礎である処理の考え方を学習する。																																		
6. 制御構造 (1)	プログラムの要素である制御構造を学習する。「順次処理」、「条件分岐」。																																		
7. 制御構造 (2)	プログラムの要素である制御構造を学習する。「繰り返し処理」。																																		
8. 画像の表示	アプレット上で画像を表示する。																																		
9. 配列を使う	変数の一種である配列を使い、プログラムを効率的に作成する。																																		
10. GUI部品組み込み	アプレット上でボタンやテキストボックスを配置する方法を学習する。																																		
11. マウスイベント(1)	ボタンを押すと動作するインタラクティブなプログラムの作成方法を学習する。																																		
12. マウスイベント(2)	ボタンを押すと計算や文字列処理をするプログラムを作成する。																																		
13. 課題製作 (1)	ここまで学習してきたことを応用しプログラムを制作する。																																		
14. 課題製作 (2)	ここまで学習してきたことを応用しプログラムを制作する。																																		
15. 課題製作 (3)	ここまで学習してきたことを応用しプログラムを制作する。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	不明な点は授業中でも遠慮無く質問してください。 あなたの疑問はみんなの疑問でもあるのです。																																		
フィードバックの方法:	授業の内容は、当日の授業までに、授業用ホームページにアップします。 欠席や、不明な点がある場合は、授業ファイルを参照して復習して下さい。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席を含む授業への参加・態度</td><td>30%</td><td>出席及び小課題提出</td></tr><tr><td>最終の総合課題</td><td>70%</td><td>複数の課題から1つを選択し、プログラムを完成します。プログラム作成方法の理解度で評価します。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席を含む授業への参加・態度	30%	出席及び小課題提出	最終の総合課題	70%	複数の課題から1つを選択し、プログラムを完成します。プログラム作成方法の理解度で評価します。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
出席を含む授業への参加・態度	30%	出席及び小課題提出																																	
最終の総合課題	70%	複数の課題から1つを選択し、プログラムを完成します。プログラム作成方法の理解度で評価します。																																	
教科書:	必要に応じて資料を配付します。																																		
参考書:	授業時に指示します。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力																																		
教員との連絡方法:	hayashi@dwc-hayashi.info																																		

授業テーマ:

プログラミングの基礎を学び、作成能力・技術を養う。

授業の概要:

プログラムとはコンピュータに対する指示書のことである。コンピュータ上で動作するソフトウェア（OS、ワープロソフト、表計算ソフト、Webブラウザなど）はプログラムで作成されている。プログラムを作成することで、自分の思ったような処理をコンピュータにさせることができる。
この科目では、コンピュータだけでなく携帯電話、PDA、FAX、自動販売機などでも使用されているJAVAというプログラミング言語を用いて、プログラミングの基礎を学んでいく。

到達目標:

プログラミング技術を習得し、自分で意図したように動作するプログラムを作成することを通して、技術習得の実感と、コンピュータを操る楽しさを味わう。

授業方法:

実習中心に行う。
欠席した場合は、必ず欠席時の内容を自習しておくこと。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. JAVAとは	基本制御構造の種類と役割を調べる
	2. 変数、演算子	
	3. 基本制御構造1 順次、反復	
	4. 基本制御構造2 選択	
	5. オブジェクト指向とは(JAVAアプレットの作成)	オブジェクト指向の特徴を調べる
	6. 図形描画アプレット(パッケージ、メソッドの利用)	図形描画のメソッドを調べる
	7. 中間課題(図形描画アプレット)作成	中間課題のプログラムを設定をする
	8. 基本制御構造を利用したアプレット	GUI部品のAPI仕様を調べる
	9. GUI部品の利用	
	10. レイアウト設定	
	11. イベントの利用1	
	12. イベントの利用2	レイアウトの種類を調べる
	13. イベントの利用3	
	14. 最終課題(イベント処理を含むJAVAアプレット)作成1	
	15. 最終課題(イベント処理を含むJAVAアプレット)作成2	最終課題のプログラム設計を作成 最終課題を作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

プログラムの学習を通じて論理的思考を学ぼう。

フィードバックの方法:

提出した課題や宿題は、授業内で解説します。
授業外では、メールで質問等を受け付けます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業参加	40%	積極的に授業に参加し、演習問題が作成できたかを評価 学習した内容を踏まえて意図した課題作品を完成できたかを評価 プログラムの知識、理解度に応じて評価 学習した内容を踏まえて完成したプログラムの難易度に応じて評価
	中間課題	20%	
	確認テスト	10%	
	最終課題	30%	

教科書:

適宜、必要資料を配布。

参考書:

講義中に紹介。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力

教員との連絡方法:

Eメール

434801

情報活用実習Ⅴ

北林 寛子

授業テーマ:	データベースソフト「Access」を使用して、データベースの基本操作から設計・フレーム作成までを身につける。 また、応用として「マクロ」と「VBA(Visual Basic for Application)」を体験する		
授業の概要:	データベースソフトの1つである「Access」を使用して、データベースの基本操作、データベースの構成要素と機能を学び、データベースの操作者としてだけでなく、作成者としての操作も学習し、両立場の違いを意識しながら学習を進める。 単に使用することができるだけでなく、作成者レベルの技術を習得することにより開発者としてフレームを作成する視点も学習する。また、マクロとVBA(Visual Basic for Application)というプログラミング言語を体験することによりプログラミングのエッセンスも体験する。		
到達目標:	・Accessの基本操作ができる ・データベースのフレームを作成することができる ・データを入力することができる ・データを活用することができる ・VBAを操作することができる		
授業方法:	理論説明し、実習問題に取り組むことにより習得する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション データベースとは？ Access操作体験		
	2. Access基礎知識 データベース作成の流れ	授業の復習	
	3. データベースの設計と作成 テーブルの作成 データの入力	授業の復習	
	4. テーブルへのデータ格納	授業の復習	
	5. リレーションシップの作成	授業の復習	
	6. クエリによるデータの加工	授業の復習	
	7. フォームによるデータの入力	授業の復習	
	8. クエリによるデータの抽出と集計	授業の復習	
	9. レポートによるデータの印刷	授業の復習	
	10. ここまでのまとめ・問題	授業の復習	
	11. 便利な機能1	授業の復習	
	12. 便利な機能2	授業の復習	
	13. 総合問題	授業の復習	
	14. VBA体験1	授業の復習	
	15. VBA体験2 課題説明 課題制作	授業の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	・「Access」を習得している人数は多くないので、希少価値のある技術を身につけて切り札にすることができます ・論理的な考えが身につきます ・身近なデータの整理をすることができます ・コンピュータプログラミングの第一歩に繋げることができます		
フィードバックの方法:	実習問題に取り組む、実際に動かすことにより、体感して身につける 課題制作で身近なものに対応させることで、実感を持って身につける		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況・授業態度	20%	まじめに取り組む姿勢
	実習問題	30%	きちんと取り組み作成する
	課題制作	50%	身近なものに応用する力・自分で考える力 挑戦しようとする姿勢
教科書:	「よくわかる Microsoft Access 2010 基礎」[FOM出版]		
参考書:	「今すぐ使えるかんたん Access 2010」[技術評論社] 「Access 2013/2010基本技」[技術評論社] 「Microsoft Office Specialist Microsoft Access 2010 対策テキスト&問題集」[FOM出版]		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	・Eメール:hkitabay@dwc.doshisha.ac.jp ・マナビー 掲示板		

授業テーマ:

Microsoft社アクセス(Access)を使用して、データベースの処理技法を身につける。

授業の概要:

現在、企業においては、データベースの利用はもはや必要不可欠となり、業務においてデータベースを操作するスキルが求められてきています。
この授業では、ワープロ・表計算及びWEBページ作成の基礎を学んだ者、あるいはそれと同等の者を対象として、データベースソフトの1つであるマイクロソフトアクセス(Access)を使用して、データベースの基本操作、データベースの機能と役割、さらにデータベースが持つさまざまな処理技法について学習します。

到達目標:

データベース・アプリケーションの作成方法を習得し、簡単なデータベースを自身で作成できる能力を身につけることを目標とします。

授業方法:

一人1台のパソコンが配備された情報処理実習教室を用い、実習形式で行います。
実習授業なので、前回の授業を理解している前提で授業を進めますので、欠席しないように注意して下さい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション。データベースとは何か	データベースの概念と作成の流れを学習します。
2.	データベースの設計	データベースを作成する上で最も重要な、テーブルの正規化の方法を学習する。
3.	テーブルの作成(1)	Accessを使い、例題に従い、データベースを作成してゆく。まず、ファイルの作成、テーブルの作成方法を学習する。
4.	テーブルの作成(2)	デザインビュー。主キーとリレーション設定について学ぶ。
5.	テーブルの作成(3)	書式設定や入力内容の制限、各種入力支援等、よりユーザーフレンドリーにする方法を学習する。
6.	クエリ(データの加工、集計・抽出など)の基礎(1)	複数のテーブルから、あたかも一つのテーブルのように操作・表示するための命令である「クエリ」を学習する。
7.	クエリ(データの加工、集計・抽出など)の基礎(2)	複数のテーブルから、あたかも一つのテーブルのように操作・表示するための命令である「クエリ」を学習する。
8.	フォームの作成(1)	データの入力や表示に必要な「フォーム」の作成方法を学習する。
9.	フォームの作成(2)	データの入力や表示に必要な「フォーム」の作成方法を学習する。
10.	レポートの作成	プリントのレイアウトである「レポート」機能を使い、一覧表の印刷や宛名シール印刷用のレポートを作成する。
11.	データベースの製作練習(1)	課題制作に備え、これまで学習してきた内容をもう一度最初から繰り返し学習する。テーブルの正規化手順、テーブル作成、リレーションシップの設定。クエリの作成。
12.	データベースの製作練習(2)	フォームの作成、レポートの作成。
13.	課題製作(1)	これまで学習してきたことを応用し、与えられた課題のデータベースを制作する。
14.	課題製作(2)	これまで学習してきたことを応用し、与えられた課題のデータベースを制作する。
15.	課題製作(3)	これまで学習してきたことを応用し、与えられた課題のデータベースを制作する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

不明な点は授業中でも遠慮無く質問してください。
あなたの疑問はみんなの疑問でもあるのです。

フィードバックの方法:

授業の内容は、当日の授業までに、授業用ホームページにアップします。
欠席や、不明な点がある場合は、授業ファイルを参照して復習して下さい。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む授業への参加・態度	30%	出席及び小課題提出
	最終の総合課題	70%	事業で学習した技術を使って、与えられた要件を満たすデータベースを作成し、その理解度で評価します。

教科書:

必要に応じて資料を配付します。

参考書:

授業時に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

hayashi@dwc-hayashi.info

授業テーマ:	まずワープロと表計算の基礎をしっかりマスターしておこう。																																
授業の概要:	ワープロによる文書作成並びに表計算は、大学生活においてレポートやレジュメを作成する際に不可欠なツールです。当授業ではコンピュータの基本操作とブラインドタッチを修得し、ワープロと表計算の基礎技術をしっかりと身につけることを目標とします。滑らかでスピーディなブラインドタッチ入力は、コンピュータと良い関係を築くための第一歩です。スポーツのフォームと同じように自己流は将来の成長の制約となります。コンピュータ操作に不安を感じている方、基礎からしっかり学び直したいという方はぜひこの授業に取り組んで下さい。																																
到達目標:	第1にコンピュータの基本を理解し、ブラインドタッチ技能を修得すること。 第2にワープロの基礎を修得すること。 第3に表計算ソフトの基礎を習得すること。																																
授業方法:	一人1台のパソコンが配備された情報処理実習教室を用い、実習形式で行います。																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション、コンピュータの基本操作</td><td rowspan="3">適宜、課題等が与えられます。</td></tr><tr><td>2. 文書作成の基礎 ・ブラインドタッチ、文書作成の基礎</td></tr><tr><td>3. インターネットの活用とメール</td></tr><tr><td>4. ワープロの実際(1) ・ビジネス文書</td><td>同上</td></tr><tr><td>5. ワープロの実際(2) ・英文ビジネス文書</td><td>同上</td></tr><tr><td>6. ワープロの実際(3) ・レポート・論文</td><td>同上</td></tr><tr><td>7. ワープロの実際(4) ・図表を使ったビジュアル表現</td><td>同上</td></tr><tr><td>8. 表計算の基礎</td><td>同上</td></tr><tr><td>9. 表計算の実際(1) ・グラフ作成の基礎</td><td>同上</td></tr><tr><td>10. 表計算の実際(2) ・グラフの応用</td><td>同上</td></tr><tr><td>11. 表計算の実際(3) ・関数の基礎</td><td>同上</td></tr><tr><td>12. 表計算の実際(4) ・数式計算と関数</td><td>同上</td></tr><tr><td>13. ワープロと表計算の融合(1)</td><td>同上</td></tr><tr><td>14. ワープロと表計算の融合(2)</td><td>同上</td></tr><tr><td>15. 復習及びまとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション、コンピュータの基本操作	適宜、課題等が与えられます。	2. 文書作成の基礎 ・ブラインドタッチ、文書作成の基礎	3. インターネットの活用とメール	4. ワープロの実際(1) ・ビジネス文書	同上	5. ワープロの実際(2) ・英文ビジネス文書	同上	6. ワープロの実際(3) ・レポート・論文	同上	7. ワープロの実際(4) ・図表を使ったビジュアル表現	同上	8. 表計算の基礎	同上	9. 表計算の実際(1) ・グラフ作成の基礎	同上	10. 表計算の実際(2) ・グラフの応用	同上	11. 表計算の実際(3) ・関数の基礎	同上	12. 表計算の実際(4) ・数式計算と関数	同上	13. ワープロと表計算の融合(1)	同上	14. ワープロと表計算の融合(2)	同上	15. 復習及びまとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																
1. オリエンテーション、コンピュータの基本操作	適宜、課題等が与えられます。																																
2. 文書作成の基礎 ・ブラインドタッチ、文書作成の基礎																																	
3. インターネットの活用とメール																																	
4. ワープロの実際(1) ・ビジネス文書	同上																																
5. ワープロの実際(2) ・英文ビジネス文書	同上																																
6. ワープロの実際(3) ・レポート・論文	同上																																
7. ワープロの実際(4) ・図表を使ったビジュアル表現	同上																																
8. 表計算の基礎	同上																																
9. 表計算の実際(1) ・グラフ作成の基礎	同上																																
10. 表計算の実際(2) ・グラフの応用	同上																																
11. 表計算の実際(3) ・関数の基礎	同上																																
12. 表計算の実際(4) ・数式計算と関数	同上																																
13. ワープロと表計算の融合(1)	同上																																
14. ワープロと表計算の融合(2)	同上																																
15. 復習及びまとめ																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	担当教員より指示があります。																																
フィードバックの方法:	担当教員より指示があります。																																
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>平常点</td><td>100</td><td>出席数、授業態度並びに課題作成状況</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	平常点	100	出席数、授業態度並びに課題作成状況																										
評価方法	割合	評価基準																															
平常点	100	出席数、授業態度並びに課題作成状況																															
教科書:	授業時に指示します。																																
参考書:	授業時に指示します。																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力																																
教員との連絡方法:	担当教員より指示があります。																																

授業テーマ:

考古学の理論と歴史

授業の概要:

考古学とは「歴史学の方法学たる『史料学』の一部門として『物質史料』を扱う学問」である。つまり、文献史料(文字史料)に登場しない人間の歩みを、「モノ」の分析によって解明していこうとするのである。考古学の視点を加えることにより、われわれの歴史像はきわめて豊かになるはずである。この授業では、考古学の理論、方法、学史をたどることにより、この学問の基礎を理解していただく。

到達目標:

考古学的なものの見方とは何かということを理解する。

授業方法:

講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	考古学とはどんな学問か	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
2.	考古学の定義	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
3.	考古学の理論と方法 (1)型式学	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
4.	考古学の理論と方法 (2)層位学	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
5.	考古学の理論と方法 (3)年代決定法	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
6.	考古学の歩み(欧米) (1)考古学の開始	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
7.	考古学の歩み(欧米) (2)考古学の展開	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
8.	考古学の歩み(欧米) (3)考古学の発達	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
9.	考古学の歩み(欧米) (4)新たな考古学の世界	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
10.	考古学の歩み(日本) (1)古代・中世における考古学	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
11.	考古学の歩み(日本) (2)近世における考古学1	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
12.	考古学の歩み(日本) (2)近世における考古学2	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
13.	考古学の歩み(日本) (3)明治・大正期における考古学	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
14.	考古学の歩み(日本) (3)明治・大正期における考古学2	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
15.	まとめ	授業の内容をふりかえり、まとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の私語、携帯電話などの「内職」、勝手な退室などの他の受講生に迷惑になる行動は厳禁である。そうした場合、厳正に措置するので心得ておいていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ意欲のある受講生の参加を期待する。

フィードバックの方法:

教室中でまとめておこなう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	授業の内容を的確に理解し、自分の言葉で説明できているかどうか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

考古学が解明する日本古代国家

授業の概要:

考古学とは「歴史学の方法学たる『史料学』の一部門として『物質史料』を扱う学問」である。つまり、文献史料(文字史料)に登場しない人間の歩みを、「モノ」の分析によって解明していこうとするのである。考古学の視点を加えることにより、われわれの歴史像はきわめて豊かになるはずである。この授業では、考古学の方法によって解明された歴史像を、具体例に則して理解してもらう。

到達目標:

考古学的なものの見方とは何かということを理解する。

授業方法:

講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	古代国家とは何か	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
2.	弥生時代の文化圏	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
3.	権力の発生	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
4.	弥生時代北部九州の王墓1	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
5.	弥生時代北部九州の王墓2	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
6.	邪馬台国論争と考古学	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
7.	西日本における初期古墳(墳丘墓)の出現	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
8.	三角縁神獣鏡論争	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
9.	古墳の発生と古代国家1	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
10.	古墳の発生と古代国家2	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
11.	前期古墳とその時代	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
12.	中期古墳とその時代	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
13.	後期古墳とその時代	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
14.	終末期古墳とその時代	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
15.	まとめ	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の私語、携帯電話などの「内職」、勝手な退室などの他の受講生に迷惑になる行動は厳禁である。そうした場合、厳正に措置するので心得ておいていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ意欲のある受講生の参加を期待する。

フィードバックの方法:

関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	定期試験

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

オセアニアの過去と現在を学ぶ

授業の概要:

もし、「オセアニアについて、知っていることを述べて下さい」、と問われたら、ほとんどの皆さんは答えに困られるのではない
でしょうか。オセアニアとは、太平洋の島々からなる地理区分ですが、日本に暮らすわたしたちにとって世界のなかで最もなじ
みのない地域のひとつと断言していいかもしれません。
このような状況を考慮に入れ、本講義では、まずオセアニアの基本情報を知ることから始め、同地域における歴史や文化を
学んで行く予定です。さらに、そこでは、同地域に暮らす人びとが抱えるさまざまな問題について検討をくわえ、現代社会のな
かでのオセアニアの位置づけを考えることを主要な目的とします。

到達目標:

・オセアニアも歴史や文化を知り学ぶ社会的意義を理解する。

・世界のなかのオセアニアの位置づけを検討し現代社会に対する新たな知見・認識を得る。

・われわれはなぜオセアニアに対する知識がないのか改めて問い直す。

授業方法:

講義形式

・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。

・不定期的にコミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オセアニアとは？	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	オセアニアの多様な地域と社会	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	人類史のなかのオセアニア	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	オセアニアにおける人類の拡散	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	西洋によるオセアニアの「発見」	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	オセアニアの近現代史	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	近代化によるオセアニアの社会変容	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	中間まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。
9.	オセアニアのイメージと観光	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	オセアニアを取り巻くポリティックス	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	グローバルエコノミーとオセアニア	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	オセアニアにおける民族紛争	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	環境問題に直面するオセアニア	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	オセアニアから見る現代社会	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この講義を受講される皆さんには、世界の一地域としてオセアニアを知るだけではなく、世界を新たに捉え直すきっかけを
ることを期待します。また日常の生活のなかで、オセアニアに関連する新聞報道やTVニュースなどの各種メディアの情報を
チェックしておいてください。

フィードバックの方法:

・中間試験は、採点し授業期間中に教室で返却します。またその際、評価基準を改めて解説します。

・コメントペーパーは次回の授業の際、教室で総評を加えた解説を行います。

・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却
しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	45%	論述試験では、到達目標である「オセアニアの学びから得られた世界に対する新たな知見や認識を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
	中間試験	45%	論述試験では、到達目標である「オセアニアを知り理解する社会的意義」を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
	コメントペーパー	10%	授業期間中に4～5回実施するコメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。

教科書:

参考書:

山本真鳥『オセアニア史』(新版 世界各国史) 山川出版社

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、批判力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ:

史跡・文化財と京都の歴史

授業の概要:

歴史を考える場合に、史跡や文化財が重要な役割を果たすことは論を待たない。机上の勉強でわからないことであっても、実際の史跡に立ち、文化財に触れるならば、必ずや歴史を「肌で感じる」ことができるであろう。この講義は、歴史研究における史跡・文化財の持つ意義を理解することを目的とする。特に、我が国最大の史跡・文化財の宝庫である京都に焦点をあてる。受講生に対しては、毎週の講義を受けるだけでなく、積極的に実際の史跡・文化財に触れることを求めている。

到達目標:

実際の史跡・文化財に触れることで、歴史の実像を体感する。積極的に史跡・博物館等に足を運び、歴史的・文化財的価値を学び取る。史跡・文化財がただ単に過去の遺物ではなく、そこに内在する現代的な価値を見出す。史跡・文化財が今日まで残ったことの意味と残した人々の意志を知り、文化財保護の現代的意義を学ぶ。

授業方法:

講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。なお最新の調査や研究成果をできるだけ授業に取り込むため、計画は一部修正されることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	自然と文化、資源と資産 (史跡・文化財とその現代的価値とは)	身近な史跡・文化財や博物館を訪ねる。
2.	文化財保護法の基礎1 その歴史と成り立ち	岡倉天心について調べておく。
3.	文化財保護法の基礎2 法体系と運用 (体制、指定、管理、保護、公開)	文化財保護法について調べておく。
4.	文化財の種類1 有形文化財	文化財建造物について調べておく。
5.	文化財の種類2 今を生きる文化財としての無形文化財と民俗文化財	祇園祭について調べておく。
6.	文化財の種類3 未知の文化財としての埋蔵文化財	身近な遺跡について調べておく。
7.	文化財の種類4 土地に密着した史跡・名勝・天然記念物	故郷の国分寺について調べておく。
8.	文化財の種類5 文化複合体としての文化的景観と伝統的建造物群	故郷の風土と景観について調べておく。
9.	文化財の種類6 世界遺産と世界の記憶 (保護の意志、学問、政治)	世界遺産について調べておく。
10.	京都の史跡・文化財とその活用・破壊 1 (都市と史跡・文化財、恭仁京・長岡京・平安京)	平安京について調べておく。
11.	京都の史跡・文化財とその活用・破壊 2 (開発と文化財保護行政、関西学研都市)	天香山遺跡について調べておく。
12.	京都の史跡・文化財とその活用・破壊 3 (史跡整備と保護・活用)	平城宮について調べておく。
13.	史跡・文化財と観光 1 (名所旧跡・景観・風土、カルチャーリズム)	故郷の観光地について調べておく。
14.	史跡・文化財と観光 2 (近代化遺産と戦争遺跡・災害遺跡、ダークリズム)	原爆ドームについて調べておく。
15.	史跡・文化財と観光 3 (史跡・文化財保護と現代社会、まとめと振り返り)	史跡・文化財の現代的価値についてまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

できるだけ多くの史跡・文化財、博物館等を訪ね、実際に肌で感じ、なぜそこに実在するのかを考える。

フィードバックの方法:

レポート・質問用紙等の提出物についてはコメントを付して返却し、重要な点については教室でまとめて解説・討議する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	70%	史跡・文化財の現代的意義に対する理解度
	発表・討議	30%	発表・討議に対する問題意識と積極性
			史跡見学などの小レポートを課す場合がある。

教科書:

無し、資料を配付する

参考書:

田中 琢『考古学で現代を見る』(岩波現代文庫、2015)
阿部謹也『日本人の歴史意識』(岩波新書、2004)
上野 誠『日本人にとって聖なるものとは何か』(中公新書、2015)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:	企業の情報開示の枠組みとその利用について学ぶ		
授業の概要:	この授業では、一般的な財務会計に関する知識をすでに習得していることを前提に、社会一般、換言すれば企業外部の投資家をはじめとする不特定多数のステークホルダーに対して、企業の行う経営活動の状況や企業をめぐる諸事実について公表するという企業行動を取り扱う領域、すなわちディスクロージャー（disclosure）論を学ぶ。ディスクロージャーは、企業情報開示や、企業内容開示と呼ばれることもある。 なお、この授業は「簿記論Ⅰ」、「簿記論Ⅱ」、「原価計算」、「会計学」、「財務諸表論」といった一連の会計学領域の授業科目の発展科目であるので、これらの授業科目をあらかじめ履修していることが強く望まれる。		
到達目標:	企業の情報開示の意義（役割）や課題を理解するとともに、日本における企業の情報開示の枠組みとその利用方法を知る。 なお、この授業は3年次開講であるので、学生が将来の就職活動に際して、自らの情報ニーズを満たすためにはどのような開示書類を入手して参照すればよいのかを自分自身で判断できるよう、開示情報の利用に際する実践的な知識を身に付けることも、付随的な目標としている。		
授業方法:	原則として講義形式で行う。 この授業では、各回の授業で取り上げるテーマと合致した、実在する企業の開示情報のケーススタディを行い、各企業がどのような開示を行っているのかについて、一般的な開示事例だけでなく、特色のある開示事例もできるだけ取り上げることにによって各社のさまざまな開示事例を具体的に学ぶ。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 企業の情報開示のケーススタディ(1)	2. 日本の企業会計制度	マナビーのリマインド設定とプロフィール設定をしておく。
	3. 金融商品取引法に基づく情報開示		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	4. 会社法に基づく情報開示(1)		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	5. 会社法に基づく情報開示(2)		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	6. 証券取引所の自主規制に基づく情報開示		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	7. 自発的な情報開示(社会・環境情報、知的資産の開示を含む)		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	8. 定性情報の開示(1)		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	9. 定性情報の開示(2)		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	10. 定性情報の開示(3)		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	11. コーポレート・ガバナンス情報の開示(1)		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	12. コーポレート・ガバナンス情報の開示(2)		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	13. 開示情報の信頼性担保のための開示		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	14. 企業の情報開示のケーススタディ(2)		マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
	15. まとめ		これまでの学習内容を十分に復習しておく。
受講者へのメッセージやアドバイス:	企業が公表する代表的な会計情報のひとつである財務諸表は、企業の情報開示制度（ディスクロージャー制度）において確かに重要な位置をしめている。しかし、財務諸表だけが、企業が開示する情報ではない。企業の情報開示制度においてはむしろ、財務諸表以外の情報の方が多い、といっても過言ではない。そこで、この授業では、財務諸表だけでなく、財務諸表以外の情報にも関心を向ける。		
フィードバックの方法:	マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	40%	企業の情報開示の意義（役割）や課題を理解するとともに、日本における企業の情報開示の枠組みとその利用方法を知ったうえで、開示情報の利用に際する実践的な知識を身に付けることができたかどうかを基準とする。
	レポート	60%	企業の情報開示の意義（役割）や課題を理解するとともに、日本における企業の情報開示の枠組みとその利用方法を知ったうえで、開示情報の利用に際する実践的な知識を身に付けることができたかどうかを基準とする。
教科書:	特になし		

参考書： 石井裕介・小畑良晴・阿部光成・男澤江利子編著『新しい事業報告・計算書類－経団連ひな型を参考に』（全訂版）商事法務、2016年。
石山卓磨著『会社法改正後のコーポレート・ガバナンス』中央経済社、2014年。
新日本有限責任監査法人編『会社法決算書の読み方・作り方－計算書類の分析と記載例』（第11版）2017年4月。
宝印刷総合ディスクロージャー研究所編『臨時報告書作成の実務Q&A』商事法務、2015年。
宝印刷総合ディスクロージャー&IR研究所編『株主総会招集通知作成の実務Q&A』商事法務、2016年。
宝印刷総合ディスクロージャー&IR研究所監修・新保秀一著『モデルで学ぶ有価証券報告書の仕組みと作り方』中央経済社、2016年3月。
宝印刷総合ディスクロージャー&IR研究所編『適時開示の実務Q&A』商事法務、2016年。
塚本英巨・内田修平・高木弘明著『改正会社法下における実務のポイント』商事法務、2016年。
長吉真一・伊藤 龍峰・北山久恵・井上善弘・岸牧人・ 異島須賀子著『監査論入門』（第3版）中央経済社、2016年。
米山徹幸著『イチから知る！IR実務』日刊工業新聞社、2016年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法： マナビーの掲示板機能
オフィスアワー

授業テーマ:	京都学—京都という地域に対する多角的な視点からの総合的な理解をおこなう。		
授業の概要:	京都という地域がどのように形成され、展開してきたのか。この講義においては、その成立と展開について、地理学や歴史学を中心とした視点から学習をおこなうとともに、京都という地域のあり方について理解を深める。		
到達目標:	1: 京都という地域に総合的な対する理解力を養う。 2: 京都が特殊な地域ではなく、今日の京都の成立過程について、とくに近代以降のまちづくりに焦点をあてて考察を進める。		
授業方法:	講義形式を中心に行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに 授業のガイダンスと「京都学」の意義	配布資料の確認	
	2. 「京都」の成立～近代京都の誕生	配布資料の確認、予習	
	3. 京都御苑の成立～皇室へのまなざし	配布資料の確認、予習	
	4. 近代京都の都市計画	配布資料の確認、予習	
	5. 幕末の藩邸跡の活用	配布資料の確認、予習	
	6. 京都三大事業のありかた1 琵琶湖疏水事業の概要とその影響1	配布資料の確認、予習	
	7. 京都三大事業のありかた2 琵琶湖疏水事業の概要とその影響2	配布資料の確認、予習	
	8. 京都三大事業のありかた3 水力発電事業が京都に与えた影響	配布資料の確認、予習	
	9. 京都三大事業のありかた4 都市計画道路の建設と市電事業	配布資料の確認、予習	
	10. 戦争と京都～空襲にあった京都	配布資料の確認、予習	
	11. 学校教育がはじまったまち・京都	配布資料の確認、予習	
	12. 近代京都とホテル～西洋人の訪れたまち	配布資料の確認、予習	
	13. 街道の展開と交通路～路面電車と京都	配布資料の確認、予習	
	14. 「京都」の範囲はどこまでか	配布資料の確認、予習	
	15. 京都のあり方にかんする総括	配布資料の確認	
受講者へのメッセージやアドバイス:	わたしたちが暮らし、まなぶ京都とはなにか、どのように成立し、現在のような姿になったのか、広い関心、着眼点から京都のありかたを考えていきます。		
フィードバックの方法:	授業中におこなうコメントペーパーに対する総括的な評価・コメントを通したフィードバックを行う。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況・コメントペーパー	50	出席状況と、コメントペーパーを通して到達目標1: 京都という地域に総合的な対する理解力についての評価をおこなう。
	期末試験	50	試験を通して到達目標2: 京都が特殊な地域ではなく、今日の京都の成立過程について、とくに近代以降のまちづくりに対する理解力を評価する。
教科書:	特になし。		
参考書:	必要に応じて適宜指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業中、授業後の教室、およびオフィスアワーを中心として随時研究室にて直接面談・相談を行う。		

授業テーマ:

東南アジア諸国連合 (ASEAN)に関する国際関係

授業の概要:

東南アジア諸国連合 (ASEAN)をめぐる国際関係を歴史、理論、イシューから多面的に捉えることで、今日、東アジアの国際関係に影響力を及ぼしているこの地域機構の基礎から機能的協力(経済、社会、外交)を包括的に捉えることを目標にしている。特に基礎知識は必要としないが、新聞の国際面などの該当するニュースは履修学生もアンテナを張っておくことが望ましい。ASEAN事務局のホームページ<www.asean.org>は必要に応じ、授業だけでなく参照してほしい。

到達目標:

・学生はASEANの設立から今日の3つの共同体いたる国際関係を理解できるようになる。これによって現代の東南アジアについて知識を深め、分析力を高めることができる。
・新聞、メディアなどでたびたびとりあげらる南シナ海問題などに関しても説明ができるようになり、自己表現力を高めることができる。
・全体を通じて学生はASEANの今日的意義、課題を理解できるとともに、共同体構築までの紆回つらぬASEANと変わりゆくASEANについて思考力を磨くことができる。
・履修学生の数にも左右されるが、少人数で特定のテーマを発表、討論することでプレゼンテーション力、自己実現力を涵養することにつながる。

授業方法:	1: 講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 第1回 オリエンテーション: ASEANって何? ASEANは何かから成り立っているの?	教科書第1章「ASEAN前史」
	2. 第2回 ASEAN設立前史: 脱植民地の時代とASA、マフィリンド 第二次世界大戦後、脱植民地化のなかのナショナリズムがなぜ地域主義の芽生えへと東南アジアで生まれてきたのか?	教科書第1章「ASEAN前史」 第2章「ASEANの誕生」
	3. 第3回 ASEAN設立の産みの苦しみ: 多様性のなかの統一 ASEANが1967年に誕生する過程のなかで生じたインドネシアとマレーシア、マレーシアとフィリピンとの間の問題についてASEAN設立との関係で説明する。	教科書第3章「ASEANの発展過程」、第6章「バンコク宣言」、第7章「ASEANの事務組織」
	4. 第4回 ASEANウェイとは? ASEAN的流儀とはASEANを理解するためにどのように役に立つのか、また、それは冷戦期、冷戦後のASEANにどのように影響を及ぼしてきたのか。	教科書第8章「意思決定手続き」、9章「ASEAN首脳会議」、10章「ASEAN議長国」、14章「ASEAN Way」15章「内政不干渉原則」、17章「東南アジア友好協力条約」
	5. 第5回 冷戦期のASEAN外交ー1970年代から1980年代を中心に 主として第二次インドシナ戦争(ベトナム戦争)からカンボジア内戦とこの内戦の国際的要因を取り上げ、ASEANがどのように関与したのかを説明する。	教科書第4章「ASEAN拡大の軌跡」
	6. 第6回 冷戦後のASEAN外交ー1990年代を中心に カンボジア内戦の終結とカンボジア復興、そしてベトナムのASEAN加盟、カンボジアの再びの内戦とカンボジアのASEAN加盟、1997年のアジア通貨危機とASEANへの影響を中心に説明する。	教科書第5章「ポスト冷戦期のASEAN」、11章「ASEAN加盟手続き」、28章「アジア通貨危機の衝撃」
	7. 第7回 ASEAN地域フォーラム (ARF): 冷戦後のASEANは多国間安全保障協力に乗り出した。 ASEAN加盟国だけではなく、会議外交の成果としてアジア太平洋の主要国が参加するこの地域フォーラムでは、信頼醸成と予防外交の2つが大きな目標となっている。ARFの成果と限界について説明する。	教科書第13章「トラック2」、18章「プレア・ビヒア寺院紛争」、36章「ASEANの会議外交」、37章「EAECとASEAN+
	8. ここまでのまとめとクイズ	ここまでの総復習を行っておくこと。
	9. 第9回 ASEAN憲章: 2007年のASEAN憲章はASEANをひとつの法人格をもつアクターとして、ルールに基づく組織に変えた。2003年のバリ会議から2006年の賢人会議報告、2007年のハイレベル・タスク・フォースを経て、どのようにASEAN憲章が誕生したのか、同憲章の持つ新しいASEANの側面は何かを理解する。	教科書第22章「ASEAN憲章」 およびASEAN憲章 http://asean.org/wp-content/uploads/images/archive/publications/ASEAN-Charter.pdf
	10. 第10回 ASEANの人権: 人権はASEANにとって古く新しい価値観であり、ASEAN憲章により人権がようやくASEANの国際関係のなかに芽生えた。ASEAN政府間人権委員会、子供と女性の権利の促進と保護に関するASEAN委員会、ASEAN人権宣言を紐解き、ASEANの抱える人権、民主化の問題を理解する。	教科書第23章「ASEAN政府間人権委員会」、24章「ASEANと市民社会」および AICHR HP http://aichr.org
	11. 第11回 ASEANの人権 その2 ASEAN政府間委員会によるASEAN人権宣言、ASEAN政府間委員会の課題、挑戦など。	別途、ハンドアウトを事前に用意するので読了しておくこと。 重政 公一「ASEAN人権宣言策定の政治過程ーAICHRと市民社会アクターとの相克」
	12. 第12回 ASEAN共同体形成 2003年のバリサミットから2015年までのASEAN経済共同体設立にいたるまでの国際関係について理解する。	教科書第47章「政治安全保障共同体」、48章「経済共同体」、49章「社会文化共同体」
	13. 第13回 南シナ海問題 南シナ海問題はなぜ解決が難しいのか。中国とASEAN加盟国間で領有権を主張する国々との意見、利害の相違、そしてASEAN政治・安全保障共同体にこの問題がもつ意味について考える。	教科書第41章「対中経済関係」、42章「対中政治関係」、43章「対米関係」、44章「対日関係」、45章「南シナ海問題」
	14. 第14回 ASEANとミャンマー: 1997年のASEAN加盟前後からミャンマー(ビルマ)はASEANにとって悩みの種であった。 2015年の選挙以降、軍政から民主化へ本格的に動きだしているがミャンマーの国内問題とASEANとがどのような問題を生じ、影響を及ぼしているかを考える。	教科書第50章「ASEANの評価と展望」および事前に配布するハンドアウトを読了しておくこと。

15. 15. まとめ まとめ

講義とディスカッション、場合によってはインターネットソース、ユーチューブも活用する。

適宜授業の終わりにミニツツペーパーを配布し、出された質問、疑問点などに別途ハンドアウトを提供することで対応する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80%	到達目標にあるASEANに対する理解、思考力、分析力を論理的に説明できるかを基準にする。
	クイズまたはレポート	20%	到達目標にあるASEANに対する理解、思考力、分析力を簡潔に説明できるかを基準にする。

教科書： 黒柳米司他編『ASEANを知るための50章』（明石書店、2015年）

参考書:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

授業の前後に教室にて対応する。

授業テーマ:

授業の概要: 人間の歴史は紛争の歴史でもある。ただし、その主体や形態は時代とともに大きく変遷を遂げてきた。たとえば国民国家は、その誕生以来、国民を紛争に動員する圧倒的な力をもって紛争の主役であり続けてきた。そうした国家間の武力紛争(=戦争)を主題として多くの理論や概念が生み出されてもきた。ところが、今日の世界ではテロリスト集団や民兵や民間軍事会社やあるいは国際機構等、様々な主体が、国家と同様に、あるいは時として国家すら凌駕する力を持って紛争を戦っている。こうした複雑化する紛争を理解することなしに国際社会を理解することはできない。本講義では、国際紛争を通して今日の国際社会のあり方を考える。

到達目標: ・様々な国際紛争の事例について知識を身につけ、紛争の原因や構図を理解できるようになる。
・国際紛争の解決方法について、考察し、自ら文献等で調べることができるようになる。

授業方法: 講義形式を基本としつつ、特に考察が求められる点について、グループでのディスカッションを行う(2回に1回程度)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:なぜ国際紛争について学ぶのか、どのように学ぶのか	・シラバス内容の把握 ・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる
2.	事例考察①:シリア紛争をめぐる国際社会の対応	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
3.	国際紛争の歴史①国民国家の登場と紛争	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
4.	国際紛争の歴史②バランス・オブ・パワーと第一次世界大戦	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
5.	国際紛争の歴史③ベルサイユ体制と国際連盟	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
6.	国際紛争の歴史④第二次世界大戦	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
7.	国際紛争の歴史⑤冷戦	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
8.	国際紛争の歴史⑥冷戦後の世界	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
9.	国際紛争が投げかける問題①「民族浄化」	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
10.	国際紛争が投げかける問題②テロリズム	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
11.	国際紛争が投げかける問題③宗教的不寛容	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
12.	国際紛争の解決①人道的介入と「保護する責任」	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
13.	国際紛争の解決②平和維持と平和構築	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
14.	事例考察②アフガニスタンとイラク	・国際機構に関連する報道やドキュメンタリーに触れる ・リーディング資料の内容把握
15.	まとめ	・講義内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: ・小テストを実施する場合、採点の上、教室で返却する
・コメントペーパーを課した回には、質問やコメントに対して次回に教室で解説や回答を行う

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	30	積極的に授業に参加し、様々な国際紛争の事例について知識を身につけ、紛争の原因や構図を理解できるようになったかを評価する。
	定期試験	70	到達目標のうち、様々な国際紛争の事例について知識を身につけ、紛争の原因や構図を理解できるようになったかを評価する。また国際紛争の解決方法について、考察し、自ら文献等で調べることができるようになったかも評価する。

教科書: ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ著(田中明彦、村田晃嗣訳)『国際紛争—理論と歴史』(原書第9版)有斐閣、2013年

参考書: 伊東孝之(監修)、広瀬佳一、湯浅剛(編)『平和構築へのアプローチ—ユーラシア紛争研究の最前線』吉田書店、2013年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	映画に学ぶヨーロッパの人と社会		
授業の概要:	映画は情報量の多いメディアである。カメラが映し出す対象は、必ずしもプロット（筋）の中心を占める人物や事件ばかりではない。画面の隅々にいたるまで、さまざまな水準のさまざまな事象について、あるときはアップ・ショットであからさまに、あるときは背景にさりげなく、大量のメッセージや情報やヒントが観客に伝達されている。本講義は、そのような映画の特性を最大限に活用し、古典的といってもよい定評あるヨーロッパの名画を手引きとして、ヨーロッパの人と社会の諸相を学ぶことをめざす。本講義で取り上げるフランス、スペインおよびイタリアの秀作は、ヨーロッパ人たちがなにを考え、なにを求め、なにを見出してきたのかを私たちに伝える優れた教材となってくれるだろう。		
到達目標:	目の前を流れる映像と音声から可能なかぎり多くの情報を引き出す集中力を身につける。 そうして読みとり、聴きとられたことから、内容を理解し、知識を深め、そこで出会われる諸問題について考察する習慣を獲得する。 以上を通じて、ヨーロッパ人が何を考え、いかに行動するのか、またヨーロッパの歴史や社会がいかに形成されてきたのかを学び取る。		
授業方法:	各回の講義（ただし初回を除く）は、1/ 作品や作家についての解説、ポイントの指摘、2/ 作品の鑑賞、3/ ふりかえりとスタディ、の三つのプロセスによって構成される。この三つ目のプロセスの一環として、受講者は授業の最後に（10分間ほど）アンケートに回答することを求められる。そこに記述された回答についての立木のコメントが翌週の授業の導入になる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 1. イン트로ダクション:ヨーロッパにおける映画の位置づけと歴史	特になし。ただし、授業には最高度の集中力をもって臨むこと	
	2. 『軽蔑』(1) 映画の紹介と導入	同上	
	3. 『軽蔑』(2) ヨーロッパ文化史のなかのゴダール	同上	
	4. 『軽蔑』(3) 愛情生活における男女の非対称	同上	
	5. 『軽蔑』(4)『軽蔑』の理由	同上	
	6. 『カラスの飼育』(1) 映画の紹介と導入	同上	
	7. 『カラスの飼育』(2) 子供の視点、大人の視点	同上	
	8. 『カラスの飼育』(3) スペイン内戦と軍事政権の歴史	同上	
	9. 『カラスの飼育』(4) スペインからヨーロッパを見る	同上	
	10. 『暗殺の森』(1) 映画の紹介と導入	同上	
	11. 『暗殺の森』(2) ベルトルッチのイタリア	同上	
	12. 『暗殺の森』(3) 第一次世界大戦後のヨーロッパとイタリア・ファシズム	同上	
	13. 『暗殺の森』(4) ファシズムと第二次世界大戦	同上	
	14. 『暗殺の森』(5) 映画史の中の『暗殺の森』	同上	
	15. 全体のふりかえり～ヨーロッパ映画の現在と未来	同上	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本講義における映画の「鑑賞」は、ただ画面に視線を注ぐことではいささかもない。視覚および聴覚を最高度に緊張させ、シーンや台詞のいかなるディテールも見逃さない、聴き漏らさないという覚悟でなされるべき、いわば「命がけ」の行為である。本講義の受講を希望する者は、その点を肝に銘じること。 あらかじめ以下の点を厳命しておく: 授業中の私語は一切認めない。私語をした者にはその場で退出を命じ、以後、本講義への出席を禁じる（もちろん単位は与えない）。授業中にスマートフォンその他を手にとった者も同様に処分する。 また、本講義は、事実上、ふりかえりと解説（前半）・鑑賞とリポート（後半）の二部構成とならざるをえないが、後半のみの出席はいかなる理由があっても許可しない（就職活動も理由とはみなさない）。欠席はやむをえない場合を除いて2回までしか認めない。15分以上の遅刻は欠席とみなし、入室を禁じる。なお、就職活動による欠席も例外なく「欠席」とみなす。		
フィードバックの方法:	毎回の授業の前半に、前週のアンケートについてコメントする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 毎回の提出物	割合 100	評価基準 出席の有無。及び、視聴した映画の内容をいかに正確に捉えたか、あるいは、与えられた情報からいかなる推論を行ったか。
教科書:			
参考書:	ジル・ドゥルーズ『シネマ』(1, 2) 法政大学出版社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。		

授業テーマ:	映画に学ぶヨーロッパの人と文化		
授業の概要:	映画は情報量の多いメディアである。カメラが映し出す対象は、必ずしもプロット(筋)の中心を占める人物や事件ばかりではない。画面の隅々にいたるまで、さまざまな水準のさまざまな事象について、あるときはアップ・ショットであからさまに、あるときは背景にさりげなく、大量のメッセージや情報やヒントが観客に伝達されている。本講義は、そのような映画の特性を最大限に活用し、古典的といってもよい定評あるヨーロッパの名画を手引きとして、ヨーロッパの人と文化の諸相を学ぶことをめざす。本講義で取り上げるイタリア・フランスおよびドイツの秀作は、ヨーロッパ人たちがなにを考え、なにを求め、なにを見出してきたのかを私たちに伝える優れた教材となってくれるだろう。		
到達目標:	目の前を流れる映像と音声から可能なかぎり多くの情報を引き出す集中力を身につける。 そうして読みとり、聴きとられたことから、内容を理解し、知識を深め、そこで出会われる諸問題について考察する習慣を獲得する。 以上を通じて、ヨーロッパ人が何を考え、いかに行動するのか、またヨーロッパの歴史や文化がいかに形成されてきたのかを学び取る。		
授業方法:	各回の講義(ただし初回を除く)は、1/ 作品や作家についての解説、ポイントの指摘、2/ 作品の鑑賞、3/ ふりかえりとスタディ、の三つのプロセスによって構成される。この三つ目のプロセスの一環として、受講者は授業の最後に(10分間ほど)アンケートに回答することを求められる。そこに記述された回答についての立木のコメントが翌週の授業の導入になる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. イントロダクション:ヨーロッパにおける映画の位置づけと歴史	特になし。ただし、授業には最高度の集中力をもって臨むこと	
	2. 『アメリカの夜』(1) 映画の紹介と導入	同上	
	3. 『アメリカの夜』(2) ヨーロッパ映画の国際性	同上	
	4. 『アメリカの夜』(3) 映画を「読む」～ヒロインの人生と役柄の交錯	同上	
	5. 『アメリカの夜』(4) トリュフォーと「映画」	同上	
	6. 『アメリカの夜』(5) ヌーヴェル・ヴァーグの光芒	同上	
	7. 『自転車泥棒』(1) 映画の紹介と導入	同上	
	8. 『自転車泥棒』(2) 映画と社会的現実	同上	
	9. 『自転車泥棒』(3) 第二次世界大戦後のイタリア	同上	
	10. 『自転車泥棒』(4) ネオレアリズモと「そぞろ歩き」	同上	
	11. 『ベルリン天使の詩』(1) 映画の紹介と導入	同上	
	12. 『ベルリン天使の詩』(2) ヨーロッパにおける人の移動	同上	
	13. 『ベルリン天使の詩』(3) ベルリンの今昔	同上	
	14. 『ベルリン天使の詩』(4) 歴史のなかの人、歴史のなかの都市	同上	
	15. 全体のふりかえり～ヨーロッパ映画の現在と未来	同上	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本講義における映画の「鑑賞」は、ただ画面に視線を注ぐことではいささかもない。視覚および聴覚を最高度に緊張させ、シーンや台詞のいかなるディテールも見逃さない、聴き漏らさないという覚悟でなされるべき、いわば「命がけ」の行為である。本講義の受講を希望する者は、その点を肝に銘じること。 あらかじめ以下の点を厳命しておく: 授業中の私語は一切認めない。私語をした者にはその場で退出を命じ、以後、本講義への出席を禁じる(もちろん単位は与えない)。授業中にスマートフォンその他を手にとった者も同様に処分する。 また、本講義は、事実上、ふりかえりと解説(前半)・鑑賞とレポート(後半)の二部構成とならざるをえないが、後半のみの出席はいかなる理由があっても許可しない(就職活動も理由とはみなさない)。欠席はやむをえない場合を除いて2回までしか認めない。15分以上の遅刻は欠席とみなし、入室を禁じる。なお、就職活動による欠席も例外なく「欠席」とみなす。		
フィードバックの方法:	毎回の授業の前半に、前週のアンケートについてコメントする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎回の提出物	100	出席の有無。及び、視聴した映画の内容をいかに正確に捉えたか、あるいは、与えられた情報からいかなる推論を行ったか。
教科書:			
参考書:	ジル・ドゥルーズ『シネマ』(1, 2) 法政大学出版局		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。		

授業テーマ:	漢字と漢字文化的思考		
授業の概要:	漢字は一時は近代化にそぐわないものと見なされて、日本にも中国にも漢字廃止が真剣に考えられていた。しかし、情報化社会を迎えた今日では、時代にそぐわないどころか、漢字はますます脚光を浴びようになっている。漢字の歴史を振り返り、いまなぜ漢字が見直されているのか、漢字のどこが見直されているのか、を検討しつつ、漢字を使う中国人の思考様式にどんな特徴があり、それがいまの時代にどんな示唆を与えうるかを考察する。		
到達目標:	○漢字の特徴について初歩的な知識を持つ。 ○書の歴史について初歩的な知識を持つ。 ○漢字と漢字文明について初歩的な知識を持つ。 ○グループディスカッションや発表を通して、思考力や表現力を身につける。		
授業方法:	アクティブラーニング形式、すなわち履修者も一緒に授業をつくっていく参加型の講義。 プリントを配り、写真・映像資料とパワーポイントを併用して講義を進めるが、履修者の積極的な参加を求める。毎回グループディスカッションを行い、グループごとに発表してもらったうえ、講義を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。	
	2. 漢字と中国文明の安定性	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	3. 漢字の図形と経済性	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	4. 漢字の多義性－外来語訳を中心に	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	5. 漢字の多義性－漢字の分解を中心に	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	6. 漢字音の多様性	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	7. 漢字の図形と線	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	8. 漢字は感字	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	9. 漢字の線と音楽	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	10. 書の歴史－甲骨文字・金文・篆書	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	11. 書の歴史－隸書	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	12. 書の歴史－草書・行書・楷書	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	13. ひらがなの誕生	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	14. 回文にみる漢字文化的思考	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
	15. 総括	予習用プリントを読んで、課題を調べる。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	慣れ親しんでいる漢字の奥に、見知らぬ魅力的な世界があります。ともに探索していきましょう。		
フィードバックの方法:	採点してマナビーで返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
	発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでグループディスカッションに参加しているかどうか、グループディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
	授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。
教科書:			
参考書:	白川静『漢字一生い立ちとその背景』(岩波新書、1970年) 阿辻哲次『漢字再入門』(中公新書、2013年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板		

授業テーマ:

グローバル化時代の日本とアジア諸国の関係

授業の概要:

資源やエネルギーを始めとして、わたしたちの日々の暮らしは、アジアとの関係なしに成り立たないといっても過言ではありません。またアジア各地では、日本との関係に由来する「社会変化」や「環境破壊」などが引き起こされています。こうした状況を考慮に入れ、本講義では、まずわたしたちの生活がアジア各地との深い結びつきのなかで成り立っている事例を取り上げ、各地の人びとがどのようなコミュニティを形作り生活を営んでいるか検討を行います。その上で、日本との関係に由来する現地の社会問題に注目し、現地の人びとの視点に立った理解と考察を試みます。このような考察を通して、グローバル化時代の日本とアジアの関係のあり方を追求したいと考えています。

- 到達目標:
- ・日本とアジアの関係からグローバル化社会を理解する。
 - ・日本に暮らす自分自身にとってアジアとの関係性を知り考える社会的意義を理解する。
 - ・グローバル化のただなかにあるアジア各地の人びとの暮らしや状況を理解する。

授業方法:

講義形式

- ・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
- ・不定期的にコミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	アジアという枠組み: 現地のコミュニティの視点から	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	グローバル化のなかの日本とアジア	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	日本の食卓とアジアの生産地	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	海産物の生産と流通	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	日本の輸入木材と森林伐採	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	森林伐採の現場で働く人びと	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	中間まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。
8.	日本の開発援助とアジア	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	産業化による文化変容	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	市場経済に取り込まれる生産活動	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	開発援助による社会生活の変容	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	大規模公共事業と現地住民	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	日本の開発援助を再考する	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	アジアと日本の関係を再考する	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

アジア地域に暮らす人びとの生活は、新聞やテレビなどで伝えられているものがすべてではありません。この講義を受講される皆さんには、「わたしたち自身の日々の生活と決して無関係ではない」という認識に立ち、グローバル化なかで日本との関係性をますます深めるアジア各地の人びとや社会に対する理解を深めることを期待します。また日常の生活のなかで、日本とアジアの途上国との関係性に関心に向け、それらを講義の学びの目的であるグローバリズムとの関連で再考するように心掛けてください。

フィードバックの方法:

- ・中間試験は、採点し授業期間中に教室で返却します。またその際、評価基準を改めて解説します。
- ・コメントペーパーは次回の授業の際、教室で総評を加えた解説を行います。
- ・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	45%	論述試験では、到達目標である「日本とアジアとの関係から得られるグローバル化社会に対する理解」を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
	中間試験	45%	論述試験では、到達目標である「日本に暮らす自分自身にとってアジアとの関係性を知り理解する意義」を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
	コメントペーパー	10%	授業期間中に4～5回実施するコメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、批判力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

436300

京都フィールドワーク

天野 太郎

授業テーマ:

京都をあるき、京都をまなぶー京都を中心としたフィールドワーク:観光や文化から京都地域の総合的な理解をはかる

授業の概要:

京都地域を総合的に幅広い観点から学習し、また研究を進めていく上では、地域の特性、歴史などの基礎知識の上に、フィールドワークの基本的なもとで、京都を実際に歩き、現地学習を行うことが必要不可欠である。こうした観点から、この授業では、京都に関する基礎学習、フィールドワークに関する基本的な手法に関して学ぶとともに、受講学生と相談した上で目的地を設定し、実際に京都地域(宇治、京田辺、八幡などの周辺地域も含む)また、隣接する大阪や奈良にも焦点をあてながら、現地フィールドワークを通して学習することを目的とする。

到達目標:

1:フィールドワークに関する基本的手法の獲得を通して、京都地域の総合的な学問領域である京都学の理解を深めるとともに、関連して京都観光、さらには他地域におけるフィールドワークに応用が可能な技能の獲得をめざす。
2:京都地域に対する総合的な理解をめざす。

授業方法:

現地学習を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業ガイダンス	配布資料の確認
2. フィールドワーク目的地の選定 京都フィールドワーク実施の上での基礎技術(1)地図／地形図等の図像資料の活用	配布資料の確認、フィールドワーク目的地の検討
3. 京都フィールドワーク実施の上での基礎技術(1)地図／地形図等の図像資料の活用2	配布資料の確認、フィールドワーク目的地の検討
4. * 現地フィールドワーク(1)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
5. * 現地フィールドワーク(2)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
6. * 現地フィールドワーク(3)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
7. * 現地フィールドワーク(4)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
8. * 現地フィールドワーク(5)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
9. * 現地フィールドワーク(6)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
10. * 現地フィールドワーク(7)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
11. * 現地フィールドワーク(8)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
12. * 現地フィールドワーク(9)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
13. * 現地フィールドワーク(10)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
14. * 現地フィールドワーク(11)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
15. 全体の総括 京都の地域構造のありかた	フィールドワークコースについての全体の振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:

(1)受講キャンパス:具体的には、京田辺キャンパス内での学習、実習と同時に、京都市内をはじめとした周辺地域での現地学習を併用する。
(2)受講時間:本授業は、学外フィールドワークを実施する。移動時間を考えると通常授業時間内では効果が得にくいため、2／3時間目の連続講義とし、隔週でおこなう。具体的な開始時刻／場所などは講義内で指示する。
(3)本講義は、フィールドワーク実習を伴うため登録人数多数の場合は、受講者選考をおこなう。また
(4)現地学習(京都市内中心ならびに関連テーマにより隣接する大阪・奈良・滋賀なども含む)をおこなうため、現地までの交通費／当日の見学費は、原則として自己負担となる。

フィードバックの方法:

授業中に個別・全体に対してフィードバックを随時おこなう

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
現地でのミニ説明・コメント	100	到達目標1、2の達成を総合的に評価する。

教科書:

特になし。必要に応じてフィールドワーク場所について資料配布をおこなう。

参考書:

天野太郎監修『古地図で歩く古都・京都』三栄書房、2016
天野太郎監修『イラストでみる200年前の京都』実業之日本社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業中に行うとともに、マナビーなどを総合的に活用する。

授業テーマ:

「ケア」について学ぶことを通して私たちの生き方とこれからの社会のあり方を考える

授業の概要:

「ケア(Care)」「ケアリング(Caring)」という言葉は、他者に対する思いやりを伴った全人的・意図的な関与を広く意味する英語で、日本語では思いやり、気づかい、配慮、気配り、注意、関心、世話、看護などと訳されます。ケアの概念は、今日の看護や福祉、教育などの分野で、人と関わることによって援助する際の基本的な態度を表す言葉として使われています。人間関係の中で成長し成熟してゆく人間にとって、関係性をその中核とするケアは本質的な営みであり、わたしたちは他者をケアすることによって自分自身も意味のある生を生きるといえるでしょう。
この講義では、神学や哲学、看護学、心理学など広く関係領域の成果から学びながら、「ケア」という観点から人のあり方、生き方について考察し理解を深めます。その際、さまざまなケアの現場の具体例を学びながら、どのように人間をみつめ、どのような人間関係を形成し、超高齢社会となってゆくこれからの日本社会をどのように生きてゆくべきかを検討します。

到達目標:

(1)ケア研究の先駆者であるメイヤロフのケアの倫理、女性の問題を論議した心理学者ギリガンの理論、ケア研究を体系化した教育学者ノディングスの理論について理解する。
(2)ケアと宗教性(スピリチュアリティ)の問題、とくにキリスト教におけるケアの考え方について理解する。
(3)看護におけるケアの考え方について理解する。
(4)死の看取りやグリーフ(悲嘆)ケアの理念と実際について理解する。
(5)自分にとってケアとはどんなものか、どのようなケアを理想としているかを考察する。

授業方法:

講義のほか、フィールドワーク、ゲストスピーカーを囲んでの話し合い、生による発表とディスカッションによって授業を進めます。受講生がテーマについて具体的なイメージをもつことができるように視聴覚教材を活用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	
2. メイヤロフ『ケアの本質』①	指定参考文献を読み理解を深めてくる
3. 映画「浦河べてるの家:ペリー・オーディナリー・ピープル その1」を見ての話し合い	今まで自分が経験したケアについて考えてくる
4. メイヤロフ『ケアの本質』②	指定参考文献を読み理解を深めてくる
5. メイヤロフ『ケアの本質』③	指定参考文献を読み理解を深めてくる
6. 看護におけるケア①	「看護とはどういうものであるか」を自分自身や身近な経験から考えてくる
7. 看護におけるケア②	病にある人に関わるることについての自分なりの考えや疑問を考えてくる
8. ギリガン『もうひとつの声』	指定参考文献を読み理解を深めてくる
9. ネル・ノディングス『ケアリング』	指定参考文献を読み理解を深めてくる
10. キリスト教におけるケア ナウエン『静まりから生まれるもの』	指定参考文献を読み理解を深めてくる
11. 校外学習:人がつながる居場所づくり「バザールカフェ」	映画「最強のふたり」を見て感想をまとめてくる
12. グリーフケア:絵本『くまとやまねこ』	今まで経験したグリーフの体験について考えてくる
13. 死の看取りとケア①	指定参考文献を読み理解を深めてくる
14. 死の看取りとケア②	指定参考文献を読み理解を深めてくる
15. まとめと振り返り:これからの日本社会とケア	期末レポートのテーマについて考えてくる

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業は、単にテキストを読むだけではなく、発表し受講生同士で話し合う、人間関係作りのエクササイズをする、福祉や医療に携わる専門家の話を聴く、ビデオや映画を見る、フィールドワークに出かけるなど、さまざまなやり方で進めます。受講生の積極的な参加をのぞみます。

フィードバックの方法:

受講生からの質問や意見について教室でまとめて解説し、提出されたレポートにはコメントをつけて返します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末レポート	50	ケアについての理解度や考察の深さによって評価します。
平常点	30	出席、授業への積極的参加度によって評価します。
発表1回	20	発表テーマについての知識と理解度によって評価します。

教科書:

なし

参考書:

ミルトン・メイヤロフ(1987)『ケアの本質―生きることの意味』(田村真・向野宣之訳)ゆみる出版
キャロル・ギリガン(1986)『もうひとつの声―男女の道德観のちがいと女性のアイデンティティ』(岩男寿美子訳)川島書店
ネル・ノディングス(1997)『ケアリング 倫理と道德の教育―女性の観点から』(立花善康他訳)晃洋書房
上野千鶴子(2011)『ケアの社会学―当事者主権の福祉社会へ』太田出版
フロレンス・ナイティンゲール(2004)『看護覚え書き―本当の看護とそうでない看護』(小玉香津子・尾田葉子訳)、日本看護協会出版会
ヘンリー・ナウエン(2004)『静まりから生まれるもの―信仰生活についての三つの霊想』(大和田功一訳)あめんどう
湯本香樹実著・酒井駒子絵(2008)『くまとやまねこ』河出書房新社
以上の他、適宜授業中に紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業前後に対応するほか、メールで教員と連絡を取れるようにします。

授業テーマ:

カウンセリングの理論と方法について精神分析の立場から学ぶ。

授業の概要:

本授業では、はじめにさまざまなカウンセリングの理論と方法を対比した上で、代表的な立場の一つである精神分析的心理療法をとりあげる。精神分析からみたこころの発達やメカニズムをふまえたカウンセリング論について講義を行い、人間のこころへの理解を深める。また、受講生が自分自身のこころに関心を持ち、探索する手がかりとすることを目指す。

- 到達目標:
1. カウンセリングの基礎的な知識と技能を習得する。

2. 精神分析的心理療法の理論と方法について理解する。

3. こころに関心を持ち、精神分析の視点から考えることを試みる。

授業方法:

講義を中心に、簡単な体験実習やグループワークも取り入れながら進める。毎回の授業中に小レポートの提出を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・カウンセリング概論	
2.	カウンセリングにおける諸理論(1): 精神分析的心理療法	授業で配布したプリントの予習・復習
3.	カウンセリングにおける諸理論(2): 行動療法・認知行動療法	授業で配布したプリントの予習・復習
4.	カウンセリングにおける諸理論(3): 来談者中心療法	授業で配布したプリントの予習・復習
5.	精神分析的心理療法の設定	授業で配布したプリントの予習・復習
6.	こころの発達を知る(1): 乳幼児期	授業で配布したプリントの予習・復習
7.	こころの発達を知る(2): 児童期・青年期	授業で配布したプリントの予習・復習
8.	こころのメカニズムを知る(1): 自我心理学	授業で配布したプリントの予習・復習
9.	こころのメカニズムを知る(2): 対象関係論	授業で配布したプリントの予習・復習
10.	精神分析的心理療法の方法(1): クライアントの方法	授業で配布したプリントの予習・復習
11.	精神分析的心理療法の方法(2): セラピストの方法	授業で配布したプリントの予習・復習
12.	精神分析的心理療法の実際(1): アセスメント面接	授業で提示したワークシートに取り組んでくる。
13.	精神分析的心理療法の実際(2): 心理療法の展開	授業で提示したワークシートに取り組んでくる。
14.	精神分析的心理療法の実際(3): ワーキング・スルー	授業で提示したワークシートに取り組んでくる。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小レポートの意見や質問について授業内でフィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	到達目標1・2に関する知識と理解度により評価する。
	授業への参加度	50	小レポートの内容から、到達目標1・2をふまえて到達目標3の視点から自分なりに考えられているかを評価する。

教科書:

- 参考書:
- 『やさしく学べる心理療法の基礎』 培風館

『新図説精神分析的面接入門』 誠信書房

『精神分析理論と臨床』 誠信書房

『耳の傾け方』 岩崎学術出版社

『サイコセラピー練習帳』 岩崎学術出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業前後に教室内で応対。

授業テーマ:	「甘え」と「自律」の教育学		
授業の概要:	「甘えていないで自分でやりなさい！」——私たちは普段このような言葉をよく耳にします。つまり、「甘え」を脱して「自律」に至ることを、私たちは自明の前提であるかのように考えているわけです。しかしながら、(近代)教育学が長きにわたって自明視してきたこの前提は、実は、(近代批判を経た)現代、手放して受け入れられるものではなくてしまいました。それでは、こうした現代社会を生きる私たちは、「甘え」と「自律」の関係をどのように考えることができるのでしょうか。この問いに対し、教育学の観点からアプローチしていきます。		
到達目標:	①「甘え」と「自律」をめぐる教育学的な議論に関する知識や理解 ②①の知識や理解を踏まえたうえで自分なりの考えを表明する技能や能力		
授業方法:	1～3回目までは本講義のテーマに関する入門講義を行い、4回目以降は受講生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に講義を進めていきます。4回目以降は、各自テキストの該当箇所を読んで、予習とディスカッションの準備をしてきてください。また、各回のプレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしてきてください。詳しくは、オリエンテーションのときに説明します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 2. 「甘え」と「自律」の教育学のための入門講義① 3. 「甘え」と「自律」の教育学のための入門講義② 4. 土居健郎の「甘え」論を読む① 5. 土居健郎の「甘え」論を読む② 6. イマヌエル・カントの『啓蒙とは何か』を読み、「自律」について考える 7. 「甘え」の教育学①——「甘え」という言葉の意味を整理し直す 8. 「甘え」の教育学②——「甘え」と受動性／能動性の関係を考える 9. 「甘え」の教育学③——「甘え」を哲学する 10. 「甘え」の教育学④——「甘え」と日本の近代化との関係を考える 11. 「自律」の教育学①——「自律」という言葉の意味を整理し直す 12. 「自律」の教育学②——子どもの保育場面から「自律(自立)」を考える 13. 「自律」の教育学③——「自律」を哲学する 14. 「自律」の教育学④——「自律」概念を刷新して新たな社会を構想する 15. 総括——「甘え」と「自律」の教育学	「甘え」のイメージ、「自律」のイメージについて考えておく。 講義のなかで扱った内容を講義後に復習しておく。 講義のなかで扱った内容を講義後に復習しておく。 配布資料の該当箇所を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 配布資料の該当箇所を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 配布資料の該当箇所を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 テキストの第1部第1章を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 テキストの第1部第2章を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 テキストの第1部第3章を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 テキストの第1部第4章を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 テキストの第2部第1章を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 テキストの第2部第2章を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 テキストの第2部第3章を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 テキストの第2部第4章を読み、予習しておく。プレゼンテーションの担当者になった場合は、その準備をしておく。 講義中に指示する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義への積極的な参加を期待しています。		
フィードバックの方法:	各回のプレゼンテーションに対しては、出来る限り丁寧なコメントをお返しします。また、各回のディスカッション等のなかで出てきた疑問点などについても、教室で解説します。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プレゼンテーションとディスカッションへの参加	50	「甘え」と「自律」をめぐる教育学的な議論に関する知識や理解を踏まえつつ、自分なり考えを説得力を持って表明できているかどうかを、担当回のプレゼンテーションの質や各回のディスカッションへの参加状況から評価します。
	学期末レポート	50	「甘え」と「自律」をめぐる教育学的な議論に関する知識や理解を踏まえつつ、自分なり考えを説得力を持って表明できているかどうかを、学期末レポートの質から評価します。
教科書:	下司晶編『「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性』(世織書房、2015年)		
参考書:	土居健郎『「甘え」の構造(増補普及版)』(弘文堂、2007年) イマヌエル・カント著／中山元訳『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他3編』(光文社古典新訳文庫、2006年) その他、講義中に適宜紹介します。また、テキスト内で紹介されている文献も参考にしてください。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	yuki.oyama@ilc.setsunan.ac.jp		

授業テーマ:	障害とはなにか／障害者とはだれか		
授業の概要:	「障害って、なに？」という問いに、あなたはどのように答えるでしょうか。「耳が聞こえないこと」「自分の足で歩けないこと」。たしかにそれらは「障害」です。しかし、それらは「障害」の一側面でしかありません。では、他の側面とはどのようなものなのでしょうか。 もうひとつ。「目が見えない人が本を読めないのは、なぜ？」と問われると、多くの人は「目が見えないから」と回答するように思います。しかし、ほんとうにそうなのでしょうか。 この講義では、障害を「社会によって構築されるもの」ととらえる「障害の社会モデル」という考え方を理解し、ろう文化宣言、障害とアイデンティティ、障害と出生前診断など障害に関わるさまざまなトピックについて学びます。		
到達目標:	1.「障害の社会モデル」を理解する。 2.社会のあり方を考えることができる。		
授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 障害学とは	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	2. 障害観をめぐる(1) 障害観の変遷	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	3. 障害観をめぐる(2) 障害観の現在	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	4. 障害の医学モデルと社会モデル(1) 障害の医学モデル	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	5. 障害の医学モデルと社会モデル(2) 障害の社会モデル	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	6. 障害の医学モデルと社会モデル(3) 社会的構築物としての障害	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	7. 障害と文化(1) 手の言葉で生きる	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	8. 障害と文化(2) ろう文化宣言をめぐる	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	9. 障害とアイデンティティ(1) アイデンティティとスティグマ	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	10. 障害とアイデンティティ(2) スティグマの受け入れ・スティグマからの逃走	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	11. 障害とアイデンティティ(3) スティグマとの闘争	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	12. 優生思想と障害(1) 優生思想とは	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	
	13. 優生思想と障害(2) 出生前診断とは	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。	

14.

優生思想と障害(3) いのちの選別をめぐって

講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。
講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
15.

まとめ

講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。
講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

「障害」に関するできごとは、日々、さまざまなことがさまざまなところで生じています。ために、新聞(スマホでネットニュース)を開いてチェックしてください。たとえば、いま私の手元にあるスマホでこの原稿を書いている日の某新聞社のデジタル版を「障害」で検索してみると、「障害理解に交流が大切」「花で支える障害者の就労支援」「みんながはじめる場作る」他たくさんの記事がでてきます。そして、じつは、それらはわたしたちの生活と無関係ではありません。
「障害」に関心がある方はもちろんのこと、社会のありかたを問い直したい、あるいは、人間ってなんだろう、ということに関心がある方などに受講していただければと思っています。

フィードバックの
方法:

毎時間、その授業において生じた質問や、学んだことをとおして感じ、考えた内容をコメントペーパーに記述して提出してもらいます。その中での受講生全体にフィードバックすべき内容については、それをまとめた紹介資料を配布し、それをもとに次回授業の冒頭で解説を行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70	到達目標1.および到達目標2.の到達度により評価する。
	出席及びコメントペーパーの提出	30	毎時提出してもらうコメントペーパーの内容を評価する。

教科書:

参考書:

石川准・長瀬修編著『障害学への招待』(明石書店)
石川准・倉本智明編著『障害学の主張』(明石書店)
倉本智明『だれかふつうを、教えてくれ!』(イースト・プレス)
倉本智明編著『セクシュアリティの障害学』(明石書店)
倉本智明編著『手招くフリーク 文化と表現の障害学』(生活書院)
前田拓也『介助現場の社会学 身体障害者の自立生活と介助者のリアリティ』(生活書院)
中根成寿『知的障害者家族の臨床社会学 社会と家族でケアを分有するために』(明石書店)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

民法総則、物権法(担保物権法を除く)

授業の概要:

この講義では、「民法」に関する基礎的な知識を学び、今後の学習や関連科目へつなげる考え方を獲得できるよう学びます。

民法は市民社会の基本法ですから、定める内容は膨大かつ難解です。しかし、民法に限らずおよそ「法」は人間が作り出したものなので(学説上の争いはあります)、およそ常識にかなったことが定められています。問題なのは、法律の中にある条文が、具体的にどのような場面を想定して作られたものなのかを、思い浮かべることができるかどうかです。具体例を使いながら、民法を貫く考え方がどのようなものなのか見ていきます。

「民法Ⅰ」では、編別でいうところの、民法総則から始めて、物権法の前半部分までを扱います。「民法Ⅱ」と連続で受講してもらえば、1年間で民法全体を見渡すことができますが、どちらか単独で受講してもらっても大丈夫なように配慮します。

到達目標:

○六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。

※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたくものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。

授業方法:

レジュメを配布し、それに沿って講義形式で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション ～民法の基本構造	1年次に履修したの「現代社会と民法」の内容を復習しておく。
2. 権利の主体と客体	1年次に学んだ「人」と「物」の峻別について復習しておく。
3. 意思能力・行為能力	
4. 意思表示part.1 ～法律行為論	
5. 意思表示part.2 ～94条2項類推適用論	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
6. 小テスト① + 代理part.1 ～代理効の発生	これまでの内容を復習しておく。
7. 代理part.2	
8. 代理part.3	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
9. 時効	
10. 物権総論	「物権」と「債権」の区別について復習しておく。
11. 小テスト② + 不動産物権変動論part.1	これまでの内容を復習しておく。
12. 不動産物権変動論part.2	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
13. 動産物権変動論	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
14. 民法総則・物権法の総括	パンデクテン体系の財産法前半部分を復習しておく。
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

1年次の「現代社会と民法」は社会に存在する様々な問題に自由にアプローチしましたが、この「民法」の科目は、専門科目として、ごく普通に民法の内容を講義することになります。若干雰囲気は異なるものになりますが、楽しく勉強できるように私も努力しますので、皆さんの協力をお願いします。

なお、必修科目でない以上、履修する限りは「民法」に興味があるものと理解して講義しますので、単位が欲しいだけの方には苦痛でしかないことはあらかじめお断りしておきます。

フィードバックの方法:

授業中に私から問いかけをして問答形式で理解を深める他、2度の小テストを実施して答案を返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	授業内容に関する問題を出題する。
小テスト	20	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。

教科書:

六法(どのようなものでも良いです)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

メールで連絡をとるか(tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィスアワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

債権総論、債権各論

この講義では、「民法」に関する基礎的な知識を学び、今後の学習や関連科目へつなげる考え方を獲得することを目標とします。

民法は市民社会の基本法ですから、定める内容は膨大かつ難解です。しかし、民法に限らずおよそ「法」は人間が作り出したものなので(学説上の争いはあります)、およそ常識になったことが定められています。問題なのは、法律の中にある条文が、具体的にどのような場面を想定して作られたものなのかを、思い浮かべることができるかどうかです。具体例を使いながら、民法を貫く考え方がどのようなものなのか見ていきます。

「民法Ⅱ」では、編別でいうところの、債権総論の前半部分(「民法Ⅰ」で扱う内容の復習)から始めて、債権各論を中心に扱います。「民法Ⅰ」と連続で受講してもらえば、1年間で全体を見渡すことができますが、どちらか単独で受講してもらっても大丈夫なように配慮します。

○六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。

※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。

レジュメを配布し、それに沿って講義形式で進める。

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション ～債権の一生	1年次に履修した「現代社会と民事法」の内容を復習しておく。
2. 債務不履行論	
3. 解除	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
4. 弁済	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
5. 小テスト① + 双務契約の基本part.1	これまでの内容を復習しておく。
6. 双務契約の基本part.2	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
7. 売買契約における担保責任(1)	
8. 売買契約における担保責任(2)	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
9. 賃貸借契約	
10. 請負契約 + その他の典型契約	
11. 小テスト② + 不法行為(1)	1年次に履修した「現代社会の民事法」の内容を復習しておく。
12. 不法行為(2)	
13. 不法行為(3) + その他法定債権	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
14. 債権法の総括	パンデクテン体系の財産法後半部分を復習しておく。
15. まとめ	

1年次の「現代社会と民事法」は社会に存在する様々な問題に自由にアプローチしましたが、この「民法」の科目は、専門科目として、ごく普通に民法の内容を講義することになります。若干雰囲気は異なるものになりますが、楽しく勉強できるように私も努力しますので、皆さんの協力をお願いします。

なお、必修科目でない以上、履修する限りは「民法」に興味があるものと理解して講義しますので、単位が欲しいだけの方には苦痛でしかないことはあらかじめお断りしておきます。

授業中に私から問いかけをして問答形式で理解を深める他、2度の小テストを実施して答案を返却する。

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	授業内容に関する問題を出題する。
小テスト	20	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。

六法(どのようなものでも良いです)

分析力、思考力、変化対応力

メールで連絡をとるか(tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィスアワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。

授業テーマ:	金融取引と債権回収																																		
授業の概要:	お金を貸した者は、借りた者がきちんと返してくれるのか、とても心配になるのが普通でしょう。貸す相手をよく知っていたとしても、大金を何の手当もなく貸すことは躊躇われます。そこで、いざという時のため、相手の財産に印をつけ、そこから回収できるようにしておくということが、金融取引の場面では一般的に行われています。これが、「債権回収を確実にするために担保をとる」ということです。 この講義では、民法に定められている担保方法を中心に、実務界で発展した担保的機能を営む制度も含めて説明します。金融取引における債権回収はとてもダイナミックな世界であり、じっくり取り組む必要があるものの、とても面白い分野です。その面白さを理解できるようになることを目標とします。																																		
到達目標:	○六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。 ※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。																																		
授業方法:	レジュメを配布し、それに沿って講義形式で進める。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. イントロダクション ～金銭消費貸借契約と担保</td><td>1年次に履修した「現代社会と民事法」の内容を復習しておく。</td></tr><tr><td>2. 責任財産保全(1):債権者代位権</td><td></td></tr><tr><td>3. 責任財産保全(2):詐害行為取消権</td><td>演習課題を配布するので、事前に解いておく。</td></tr><tr><td>4. 人的担保(1):複数当事者への債権債務帰属関係</td><td></td></tr><tr><td>5. 人的担保(2):保証part.1</td><td></td></tr><tr><td>6. 人的担保(3):保証part.2</td><td>演習課題を配布するので、事前に解いておく。</td></tr><tr><td>7. 小テスト① + 弁済による代位</td><td></td></tr><tr><td>8. 物的担保(1):抵当権part.1</td><td></td></tr><tr><td>9. 物的担保(2):抵当権part.2</td><td>演習課題を配布するので、事前に解いておく。</td></tr><tr><td>10. 物的担保(3):抵当権part.3</td><td>演習課題を配布するので、事前に解いておく。</td></tr><tr><td>11. 物的担保(4):その他の典型担保と非典型担保</td><td></td></tr><tr><td>12. 小テスト② + 担保的機能を営む諸制度(1):債権譲渡</td><td>演習課題を配布するので、事前に解いておく。</td></tr><tr><td>13. 担保的機能を営む諸制度(2):相殺</td><td>演習課題を配布するので、事前に解いておく。</td></tr><tr><td>14. 金融・担保法の総括</td><td>演習課題を配布するので、事前に解いておく。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. イントロダクション ～金銭消費貸借契約と担保	1年次に履修した「現代社会と民事法」の内容を復習しておく。	2. 責任財産保全(1):債権者代位権		3. 責任財産保全(2):詐害行為取消権	演習課題を配布するので、事前に解いておく。	4. 人的担保(1):複数当事者への債権債務帰属関係		5. 人的担保(2):保証part.1		6. 人的担保(3):保証part.2	演習課題を配布するので、事前に解いておく。	7. 小テスト① + 弁済による代位		8. 物的担保(1):抵当権part.1		9. 物的担保(2):抵当権part.2	演習課題を配布するので、事前に解いておく。	10. 物的担保(3):抵当権part.3	演習課題を配布するので、事前に解いておく。	11. 物的担保(4):その他の典型担保と非典型担保		12. 小テスト② + 担保的機能を営む諸制度(1):債権譲渡	演習課題を配布するので、事前に解いておく。	13. 担保的機能を営む諸制度(2):相殺	演習課題を配布するので、事前に解いておく。	14. 金融・担保法の総括	演習課題を配布するので、事前に解いておく。	15. まとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. イントロダクション ～金銭消費貸借契約と担保	1年次に履修した「現代社会と民事法」の内容を復習しておく。																																		
2. 責任財産保全(1):債権者代位権																																			
3. 責任財産保全(2):詐害行為取消権	演習課題を配布するので、事前に解いておく。																																		
4. 人的担保(1):複数当事者への債権債務帰属関係																																			
5. 人的担保(2):保証part.1																																			
6. 人的担保(3):保証part.2	演習課題を配布するので、事前に解いておく。																																		
7. 小テスト① + 弁済による代位																																			
8. 物的担保(1):抵当権part.1																																			
9. 物的担保(2):抵当権part.2	演習課題を配布するので、事前に解いておく。																																		
10. 物的担保(3):抵当権part.3	演習課題を配布するので、事前に解いておく。																																		
11. 物的担保(4):その他の典型担保と非典型担保																																			
12. 小テスト② + 担保的機能を営む諸制度(1):債権譲渡	演習課題を配布するので、事前に解いておく。																																		
13. 担保的機能を営む諸制度(2):相殺	演習課題を配布するので、事前に解いておく。																																		
14. 金融・担保法の総括	演習課題を配布するので、事前に解いておく。																																		
15. まとめ																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	1年次の「現代社会と民事法」は社会に存在する様々な問題に自由にアプローチしましたが、この「金融取引と法」の科目は、専門科目として、ごく普通に民法の内容を講義することになります。若干雰囲気は異なるものになりますが、楽しく勉強できるように私も努力しますので、皆さんの協力をお願いします。 なお、必修科目でない以上、履修する限りは「民法」に興味があるものと理解して講義しますので、単位が欲しいだけの方には苦痛でしかないことはあらかじめお断りしておきます。																																		
フィードバックの方法:	授業中に私から問いかけをして問答形式で理解を深める他、2度の小テストを実施して答案を返却する。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>期末試験</td><td>80</td><td>授業内容に関する問題を出題する。</td></tr><tr><td>小テスト</td><td>20</td><td>授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	期末試験	80	授業内容に関する問題を出題する。	小テスト	20	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
期末試験	80	授業内容に関する問題を出題する。																																	
小テスト	20	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。																																	
教科書:	六法(どのようなものでも良いです)																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力																																		
教員との連絡方法:	メールで連絡をとるか(tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp)、オフィスアワー(木曜4限)のような私が研究室にいるタイミングでの訪問を歓迎します。																																		

授業テーマ:	「商法」の基礎知識を習得する																																		
授業の概要:	企業に関する法である「商法」の中心は会社法である。平成17年に制定され平成26年に改正がなされた同法は、会社を株式会社と持分会社(合名会社・合資会社・合同会社)に区分して規定する。授業では、株式会社の法規制の内容を中心にそのポイントを解説する。金融商品取引法や手形法・小切手法の重要な規定についても言及する。																																		
到達目標:	①「商法」は企業に関する法であることを理解する。②株式会社と持分会社の共通点と相違点を習得する。③M&AやCSRの法的意義について理解する。																																		
授業方法:	講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 「商法」の意義</td><td>授業時に配布する「レジュメ」と最新版(平成29年版)の六法を持参すること</td></tr><tr><td>2. 「会社」の基本概念</td><td>同上</td></tr><tr><td>3. 「会社」の種類とその特徴</td><td>同上</td></tr><tr><td>4. 株式会社の設立</td><td>同上</td></tr><tr><td>5. 「株式」の意義と特徴</td><td>同上</td></tr><tr><td>6. 株主平等の原則</td><td>同上</td></tr><tr><td>7. 株式会社の「機関」</td><td>同上</td></tr><tr><td>8. 株主総会の意義と特徴(1)</td><td>同上</td></tr><tr><td>9. 株主総会の意義と特徴(2)</td><td>同上</td></tr><tr><td>10. 取締役&取締役会の意義と特徴(1)</td><td>同上</td></tr><tr><td>11. 取締役&取締役会の意義と特徴(2)</td><td>同上</td></tr><tr><td>12. 監査役(会)の意義と特徴</td><td>同上</td></tr><tr><td>13. 会計参与&会計監査人の意義と特徴</td><td>同上</td></tr><tr><td>14. 金融商品取引法・手形法・小切手法の概要</td><td>同上</td></tr><tr><td>15. 知識確認テスト</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 「商法」の意義	授業時に配布する「レジュメ」と最新版(平成29年版)の六法を持参すること	2. 「会社」の基本概念	同上	3. 「会社」の種類とその特徴	同上	4. 株式会社の設立	同上	5. 「株式」の意義と特徴	同上	6. 株主平等の原則	同上	7. 株式会社の「機関」	同上	8. 株主総会の意義と特徴(1)	同上	9. 株主総会の意義と特徴(2)	同上	10. 取締役&取締役会の意義と特徴(1)	同上	11. 取締役&取締役会の意義と特徴(2)	同上	12. 監査役(会)の意義と特徴	同上	13. 会計参与&会計監査人の意義と特徴	同上	14. 金融商品取引法・手形法・小切手法の概要	同上	15. 知識確認テスト			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 「商法」の意義	授業時に配布する「レジュメ」と最新版(平成29年版)の六法を持参すること																																		
2. 「会社」の基本概念	同上																																		
3. 「会社」の種類とその特徴	同上																																		
4. 株式会社の設立	同上																																		
5. 「株式」の意義と特徴	同上																																		
6. 株主平等の原則	同上																																		
7. 株式会社の「機関」	同上																																		
8. 株主総会の意義と特徴(1)	同上																																		
9. 株主総会の意義と特徴(2)	同上																																		
10. 取締役&取締役会の意義と特徴(1)	同上																																		
11. 取締役&取締役会の意義と特徴(2)	同上																																		
12. 監査役(会)の意義と特徴	同上																																		
13. 会計参与&会計監査人の意義と特徴	同上																																		
14. 金融商品取引法・手形法・小切手法の概要	同上																																		
15. 知識確認テスト																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	「レジュメ」と最新版の六法を持参すること																																		
フィードバックの方法:	最終の授業時に「知識確認テスト」をし、その解答を解説する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>提出された「レポート」の内容</td><td>70%</td><td>「課題」について論理的な説明がなされ自己の意見が示されているかを基準とする。</td></tr><tr><td>「知識確認テスト」の点数</td><td>30%</td><td>「商法」の基礎知識の習得度を基準とする。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	提出された「レポート」の内容	70%	「課題」について論理的な説明がなされ自己の意見が示されているかを基準とする。	「知識確認テスト」の点数	30%	「商法」の基礎知識の習得度を基準とする。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
提出された「レポート」の内容	70%	「課題」について論理的な説明がなされ自己の意見が示されているかを基準とする。																																	
「知識確認テスト」の点数	30%	「商法」の基礎知識の習得度を基準とする。																																	
教科書:	使用しない																																		
参考書:	近藤ほか・現代商法入門(第9版) 有斐閣 近藤ほか・基礎から学べる会社法(第4版) 弘文堂 神田秀樹・会社法(第18版) 弘文堂																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、																																		
教員との連絡方法:	kuriyama@inst.kobe-cufs.ac.jp																																		

授業テーマ:

家族(夫婦・親子)と相続に関する法制度の概要を理解する。

授業の概要:

民法の家族に関わる分野として、夫婦と親子を中心とする親族編と、法定相続と遺言を中心とする相続編の基本的な構造を扱う。Liberal Artsとしての家族法という観点から、社会に存在する法律問題を発見できる能力と必要な知識として、基本的な内容を体系的に理解することを目的とする。講義1～8回では親族編、9回以降では相続編を講義する。より詳しい問題および現在の社会で生じている問題については、家庭生活と法で扱う。

到達目標:

1民法親族・相続編の基本的な概念と構造を理解する。
2婚姻締結の要件、婚姻の効果、離婚の要件と効果を理解する。
3法律上の親子関係が生じる原因、親権者の責任を理解する。
4相続開始から遺産分割にいたるまでの概要を理解する。
5遺言の作成方法、遺言事項の内容、遺留分による限界を理解する。
6社会における問題を法律学的に理解し、説明する。

授業方法:

講義
授業で配布するレジュメをもとに講義する。授業では受講者に質問することもある。質問は、授業のテーマに関する一般的な内容について受講者の関心や意識を知るため、また過去の講義の内容を確認するために行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	家族法概論・婚姻締結	参考文献の該当箇所を読む
2.	婚姻の効果	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
3.	離婚	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
4.	離婚効果	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
5.	親子・嫡出子	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
6.	認知・縁組	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
7.	親権	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
8.	成年後見	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
9.	法定相続人・相続分	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
10.	相続開始から遺産分割まで	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
11.	遺産分割	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
12.	遺言の形式	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
13.	遺言の内容と実現	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
14.	遺留分	参考文献などの該当箇所を読む。前回の授業の内容を理解する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習よりも、授業内容を自分で理解する復習がきちんとできているのかを重視します。
下記の参考文献2のほかにも、「家族法」「親族・相続法」に関する本は数多くありますので、それらを読んで予習してもかまいません。

フィードバックの方法:

質問用紙などがある場合には、マナビーで返却するほか、必要な場合には教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80	到達目標1の理解度により評価する。そのために、同2から5までにに関する基礎的な知識の有無、簡略な事例問題への対応から評価する。
	授業への参加度	20	授業に積極的に参加し、到達目標6ができているのかを評価する。

教科書:

参考書:

六法
本山敦・青竹美佳・羽生香織・水野貴浩『家族法』(日評ベーシックシリーズ) 日本評論社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能を利用する

437400

企業と法

栗山 修

授業テーマ:	「会社法」の基礎知識の習得		
授業の概要:	平成17年に制定され平成26年に改正された「会社法」は、会社を株式会社と持分会社に区分して規定する。授業では、株式会社と持分会社の法的共通点と相違点を考察する。その後、株式会社の設立・「株式」の意義と特徴・株主平等の原則・株式会社の「機関」・株主総会・取締役(会)・監査役(会)等のポイントを解説する。また、株式会社の資金調達方法についても言及する。		
到達目標:	①株式会社と持分会社の法的共通点と相違点を理解する。②株主総会・取締役(会)等の「機関」のポイントを習得する。③株式会社の資金調達方法を理解する。		
授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 「会社法」の意義 2. 持分会社の意義と種類 3. 株式会社の特徴 4. 株式会社の設立 5. 「株式」の意義 6. 株主平等の原則 7. 株式会社の「機関」 8. 株主総会(1) 9. 株主総会(2) 10. 取締役&取締役会(1) 11. 取締役&取締役会(2) 12. 会計参与&会計監査人 13. 監査役&監査役会 14. 株式会社の資金調達方法 15. 知識確認テスト	準備学習等の内容 授業時に配布する「レジュメ」と最新版(平成29年版)の六法を持参すること 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	
受講者へのメッセージやアドバイス:	「レジュメ」と最新版(平成29年版)の六法を持参すること		
フィードバックの方法:	「知識確認テスト」の解答を解説する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 提出された「レポート」の内容 「知識確認テスト」の点数	割合 70% 30 &	評価基準 理論的な説明がなされ自己の意見が示されていることを基準とする 解答の正解率を基準とする
教科書:	使用しない		
参考書:	神田秀樹・会社法(第18版) 弘文堂 伊藤ほか・会社法(第3版) 有斐閣 高橋ほか・会社法 弘文堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	kuriyama@inst.kobe-cufs.ac.jp		

授業テーマ:

家族法に関する現代的な問題、応用的な問題を扱う。

授業の概要:

家族法で扱う前提知識をもとにして、親族では現代的問題を中心に、相続では「民法(相続関係)等の改正に関する中間試案」をもとに、テーマを設定する。条文の解説ではなく、家族法が取り組むべき課題とは何か、それにどのように対処するのかを考えていく。

到達目標:

講義で扱うテーマについて、その社会的背景、法律での扱いを理解し、これから必要とされる対応を考えることができる。自分が得た知識をもとに現代的な問題を分析していく力を身につける。

授業方法:

講義
配布するレジュメに沿って、質疑応答を入れながら、講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	性別(性同一性障がい)	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
2.	婚姻(夫婦同氏、再婚禁止期間など)	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
3.	婚姻(同性婚・パートナーシップ)	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
4.	養育費	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
5.	面会交流	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
6.	生物学的つながりのない親	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
7.	生殖補助医療	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
8.	ステップファミリー	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
9.	児童虐待・親権	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
10.	高齢者の保護・成年後見	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
11.	相続法改正の議論を読む1(配偶者相続分)	「民法(相続関係)等の改正に関する中間試案」の該当部分、関連する文献を検索し、読む。
12.	相続法改正の議論を読む2(相続人の居住権)	「民法(相続関係)等の改正に関する中間試案」の該当部分、関連する文献を検索し、読む。
13.	相続法改正の議論を読む3(遺言制度の見直し)	「民法(相続関係)等の改正に関する中間試案」の該当部分、関連する文献を検索し、読む。
14.	相続法改正の議論を読む4(遺留分)	「民法(相続関係)等の改正に関する中間試案」の該当部分、関連する文献を検索し、読む。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

質問などについては、マナビーで返却するほか、必要があれば教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	到達目標1が達成できているかについて、授業で扱ったテーマのいくつかを題材にまとめることができるかという点を評価する。
	授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標1、2を理解できているかを評価する。

教科書:

参考書:

六法
「民法(相続関係)等の改正に関する中間試案」法務省 <http://www.moj.go.jp/shingi1/shingi04900291.html>

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能を利用する

授業テーマ:	「金融商品取引法」の基礎知識を習得する																																		
授業の概要:	金融商品取引法は「投資者保護」を制定目的とする。具体的には、(1)企業内容等の開示、(2)不公正な証券取引の規制、(3)不適当な投資勧誘の規制がそれにあたる。授業では、上記(1)に関連する有価証券届出書&有価証券報告書等の開示書類の概要を考察する。また、上記(2)に関連する相場操縦(manipulation)やインサイダー取引(inside trading)の規制を解説する。その際、アメリカにおけるインサイダー取引規制の現状についても紹介する。																																		
到達目標:	①証券取引における「投資者保護」の意義を理解する。②「開示書類」の種類や特徴について習得する。③日米における「インサイダー取引」規制の現状と問題点を理解する。																																		
授業方法:	講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 「金融商品取引法」の概要</td><td>授業時に配布する「レジュメ」を持参すること</td></tr><tr><td>2. 「投資者保護」の意義</td><td>同上</td></tr><tr><td>3. 「発行市場」・「流通市場」と開示書類(1)</td><td>同上</td></tr><tr><td>4. 「発行市場」・「流通市場」と開示書類(2)</td><td>同上</td></tr><tr><td>5. 「公開買付け」の意義と手続き</td><td>同上</td></tr><tr><td>6. 金融商品取引法とエンフォースメント</td><td>同上</td></tr><tr><td>7. 不公正な証券取引の規制</td><td>同上</td></tr><tr><td>8. 「相場操縦」の規制</td><td>同上</td></tr><tr><td>9. 米国における「インサイダー取引」規制の現状(1)</td><td>同上</td></tr><tr><td>10. 米国における「インサイダー取引」規制の現状(2)</td><td>同上</td></tr><tr><td>11. 米国における「インサイダー取引」規制の問題点(1)</td><td>同上</td></tr><tr><td>12. 米国における「インサイダー取引」規制の問題点(2)</td><td>同上</td></tr><tr><td>13. わが国における「インサイダー取引」規制の現状</td><td>同上</td></tr><tr><td>14. わが国における「インサイダー取引」規制の問題点</td><td>同上</td></tr><tr><td>15. 知識確認テスト</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 「金融商品取引法」の概要	授業時に配布する「レジュメ」を持参すること	2. 「投資者保護」の意義	同上	3. 「発行市場」・「流通市場」と開示書類(1)	同上	4. 「発行市場」・「流通市場」と開示書類(2)	同上	5. 「公開買付け」の意義と手続き	同上	6. 金融商品取引法とエンフォースメント	同上	7. 不公正な証券取引の規制	同上	8. 「相場操縦」の規制	同上	9. 米国における「インサイダー取引」規制の現状(1)	同上	10. 米国における「インサイダー取引」規制の現状(2)	同上	11. 米国における「インサイダー取引」規制の問題点(1)	同上	12. 米国における「インサイダー取引」規制の問題点(2)	同上	13. わが国における「インサイダー取引」規制の現状	同上	14. わが国における「インサイダー取引」規制の問題点	同上	15. 知識確認テスト			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 「金融商品取引法」の概要	授業時に配布する「レジュメ」を持参すること																																		
2. 「投資者保護」の意義	同上																																		
3. 「発行市場」・「流通市場」と開示書類(1)	同上																																		
4. 「発行市場」・「流通市場」と開示書類(2)	同上																																		
5. 「公開買付け」の意義と手続き	同上																																		
6. 金融商品取引法とエンフォースメント	同上																																		
7. 不公正な証券取引の規制	同上																																		
8. 「相場操縦」の規制	同上																																		
9. 米国における「インサイダー取引」規制の現状(1)	同上																																		
10. 米国における「インサイダー取引」規制の現状(2)	同上																																		
11. 米国における「インサイダー取引」規制の問題点(1)	同上																																		
12. 米国における「インサイダー取引」規制の問題点(2)	同上																																		
13. わが国における「インサイダー取引」規制の現状	同上																																		
14. わが国における「インサイダー取引」規制の問題点	同上																																		
15. 知識確認テスト																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	証券取引における「投資者保護」の意義を理解する																																		
フィードバックの方法:	知識確認テストの解答を解説する																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>提出された「レポート」の内容</td><td>70%</td><td>課題について論理的な説明と自己の意見が示されていることを基準とする</td></tr><tr><td>知識確認テストの点数</td><td>30%</td><td>正解率を基準とする</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	提出された「レポート」の内容	70%	課題について論理的な説明と自己の意見が示されていることを基準とする	知識確認テストの点数	30%	正解率を基準とする																									
評価方法	割合	評価基準																																	
提出された「レポート」の内容	70%	課題について論理的な説明と自己の意見が示されていることを基準とする																																	
知識確認テストの点数	30%	正解率を基準とする																																	
教科書:	使用しない																																		
参考書:	近藤ほか・基礎から学べる金融商品取引法(第3版) 弘文堂 黒沼悦郎・金融商品取引法入門(第6版) 日経文庫																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	kuriyama@inst.kobe-cufs.ac.jp																																		

授業テーマ:	社会保障制度とその法的問題		
授業の概要:	社会保障とは、私たちが様々な生活上のリスク(病気・怪我・障害、老齢、失業など)に晒されたときにも健やかで安心できる生活を送ることができるよう、生活を支える給付(医療・介護・所得保障など)を行う公的なシステムです。 本講義では、日常生活のセーフティーネットと言える社会保障制度の内容を概観するとともに、その法的な問題を解説します。		
到達目標:	1. 社会保障の基本的な制度内容を理解する 2. 社会保障制度上の法的な問題を理解する 3. 社会保障をめぐる現在生じている問題を法的に把握し、考察できるようになる		
授業方法:	講義(教科書に則して進めます。適宜レジュメも配布する予定です)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	2. 医療保険(1)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	3. 医療保険(2)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	4. 医療保険(3)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	5. 生活保護(1)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	6. 生活保護(2)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	7. 社会福祉制度	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	8. 介護保険(1)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	9. 介護保険(2)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	10. 年金(1)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	11. 年金(2)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	12. 雇用保険	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	13. 労災保険(1)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	14. 労災保険(2)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
	15. まとめ	レジュメ・教科書による講義の予習・復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	少子高齢化や就業構造の変化、経済の低成長などの社会・経済状況の変化を受けて、社会保障制度は様々な課題に直面しています。激動の時代のなかで、社会保障法制はどうあるべきかを主体的に考える力を身につけてください。		
フィードバックの方法:	小テストを実施したり質問用紙を配布したりして、疑問点や要望に対応します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	100	授業内容の理解度により評価します。
教科書:	棕野美智子・田中耕太郎『はじめて学ぶ社会保障(第14版)』(有斐閣、2017年)		
参考書:	西村健一郎『社会保障法入門(第3版)』(有斐閣、2017年) 加藤智章・菊池馨実・倉田聡・前田雅子『社会保障法(第6版)』(有斐閣、2015年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応するほか、メールでの質問等を受け付けます。		

授業テーマ:

消費税における軽減税率の問題、相続税法改正による相続税対策の問題、タックスヘイブンを利用した国際租税回避の問題等々、日々の新聞で税金に関する記事が掲載されていないことはない。私たちに身近な税金を取り上げて、課税のための要件や問題点などを考える。
現行税制についての基礎的知識を提供するとともに、現行税制の抱える課題を議論する。そのうえで、相続税、消費税等を中心に、今後のあるべき税制を検討する。

授業の概要:

私たちの生活と密接にかかわる所得税、相続税、消費税・贈与税を中心に、基本的な課税要件（法解釈や判例を含む）に係る基礎知識を示す。税額計算の枠組みを理解した上で簡単な税額計算を行う。適宜、税法改正の時々の問題についても検討する。

到達目標:

受講生に下記のような知識や能力を習得させることをねらいとしている。
(1)わが国の租税法体系を理解するとともに、現行税制の課税と改革の方向性を理解する。
(2)主要な税目（所得税・法人税・相続税・贈与税・消費税・地方税等）の基本的な課税要件についての法解釈上の論点を理解する。
(3)タックスプランニングの必要性和重要性を理解する。
(4)租税債務の確定手続、税務紛争に応じた税務争訟方法の選択と審理の進め方を理解する。

授業方法:

義形式で行うが、一方的な授業にならないように双方向型授業にもつとめる。
授業は、毎回配布するレジュメに従ってすすめられる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. わが国の租税法の体系・財政法の体系、わが国の課税原則(憲法との関係において)を理解する。相続税制や消費税制の改正等を中心とした今後の税制改正の方向性を探る。	第1回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	2. 節税・脱税・租税回避の区別、課税要件についての理解を深める。租税回避行為に対する課税については判例等を用いてわが国の判例の動向について理解する。	第2回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	3. 地方税法のもとでの地方公共団体の自主課税権の範囲を理解する。特に地方自治体課税の限界(地方税法の機能、法定外税の創設)については判例を用いて理解を深める。	第3回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	4. 所得税の基本的な課税の枠組みを課税理論及び所得税法の規定に則して理解する。	事例に基づいて所得税額を計算しておくこと。第4回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	5. 所得税法の抱える課題(課税単位、給与所得、退職所得、事業所得、譲渡所得、利子所得、配当所得、所得控除)について理解する。	第5回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	6. 相続税の基本的な枠組みを課税理論及び相続税法の規定に則して理解する。	第6回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	7. 贈与税の基本的な枠組みを課税理論及び相続税法の規定に則して理解する。財産評価についても理解を深める。	第7回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	8. 法人税の基本的な課税の枠組みを企業会計と法人税法との関係に留意しながら理解を深める。法人税法の抱える課題(別段の定め～売上原価、減価償却費等、役員給与、交際費、寄附金等)について課税理論及び法人税法の規定に則して理解する。	第8回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	9. 国際的企業活動(国際取引、企業再編等)における課税関係を理解する。そのうえで国際的租税回避規定(タックスヘイブン税制、移転価格税制、過少資本税制等)の概要を理解する。	第9回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	10. 消費税(間接税)の課税理論的な問題を検討する。わが国の消費税の導入経緯、改正経緯を概観する。消費税の基本的な課税の枠組みを課税理論及び消費税法の規定に則して理解する。	第10回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	11. 消費税の基本的な課税の枠組みを課税理論及び消費税法の規定に則して理解する。	第11回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	12. 消費税法の抱える課題(簡易課税、仕入れ税額控除等)について理解する。今後の消費税法改正についても議論を深める。	第12回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	13. 租税債務の確定手続、納付等(時効、加算税、納期限、滞納手続き処分交付等を含む)について理解する。	第13回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	14. 決定・更正、更正の請求、税務調査(推計課税を含む)等について理解する。税務争訟手続きの概要を理解する。	第14回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
	15. まとめ	配布する事例問題の検討。

受講者へのメッセージやアドバイス:

パナマ文書による租税回避、消費税率の複数税率化、配偶者控除の見直し、酒税法改正等々、身のまわりには日々さまざまな税制問題が生じている。また所得税や相続税等、生活のうえで避けて通れない税もある。税金への興味をまずかきたててもらいたい。

フィードバックの方法:

質問用紙による質問について提出後の直近の授業で解説する。
レポートの提出をもとめた場合にはコメント、評価等を付して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点(クラス参加等)	20	問題点の適格な把握と自分の見解を的確に表現できるか否か等。
	定期試験	80	授業を通じて基礎学力・知識を習得しているか。事例に対して的確な応用能力を有しているか。

教科書:	『私たちの税金(平成29年度版)』大蔵財務協会編
参考書:	「租税法教材」(レジュメ・重要判例・新聞記事)、パンフレット「暮らしの税情報」(平成25年度版)、租税法条文集をコピーして配布する。 金子宏『租税法』(最新版・弘文堂)(ほぼ毎年版が改まるので購入する場合には、最新版のものを購入)
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	メール hurabe@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

新たな自己に出会うライフデザイン

授業の概要:

自己理解を深め、キャリアデザインに必要な基礎知識を修得し、キャリア構築力を身につける。

到達目標:

人生の意味への関心を持ち、生きること真剣に向き合う姿勢の重要性を説明することができる。
自己を探求し、自らの強みと資源を活用して目的を追求することができる。

授業方法:

講義、グループディスカッション、グループワーク、ラーニング・カフェ、ゲストスピーカー、ビデオ教材等を組み合わせて行う。
毎回、予習課題を提示する。
学生サポーターが授業の進行を補助する。
教育姿勢は、Care, trust, spirituality, respect for diversityの概念に基づくものとする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業のオリエンテーション	テキストActivity
	2. 自己をふりかえる1: ライフデザインに活かされる強みの発見	テキストActivity
	3. 自己をふりかえる2: 自分にとって本当に大切な価値への気づき	テキストActivity
	4. 自己をふりかえる3: 目標設定と分析	テキストActivity
	5. 未来との対話1: アクションプランと行動実験	テキストActivity
	6. 未来との対話2: アクションプランの見直し、プランの実験的实施報告と改良	テキストActivity
	7. 自己を越えた次元へのいざない1: 生きることの意味を探る	テキストActivity
	8. 自己を越えた次元へのいざない2: 働くことの意味を探る	テキストActivity
	9. 自己を越えた次元へのいざない3: 神からの呼びかけに応える	テキストActivity
	10. 女性のめぐる雇用状況を理解する	テキストActivity
	11. 女性の生き方を考える: ゲストスピーカーの体験を通して学ぶ	テキストActivity
	12. キャリア・レディネスの気づき: 働き方や業種を自分の問題として具体的に捉える	テキストActivity
	13. 新年を迎えて、キャリア実現のための自己管理と自己リーダーシップ	テキストActivity
	14. リーダーシップを身近なものに: 役割体験を通して自己に潜在するリーダーシップに気づき高める	テキストActivity
	15. 総括: 全体を振り返り、学びや気づきを共有する、将来の困難の予測、価値の探求により困難に対処して新たな自己に出会う	ふりかえり作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

テキストへの記入にコメントを添付して授業時間内に返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50	出席、積極的な授業参加、授業後の提出物等
	テキストへの記入	50	記入済みのテキストの提出

教科書:

日下菜穂子・三宅えり子・才藤千津子編著、人生の意匠: 心理・社会・超越性からのアプローチ、ナカニシヤ出版

参考書:

ティナ・シーリグ、20歳のときに知っておきたかったこと スタンフォード大学集中講義、阪急コミュニケーションズ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応、Eメール

授業テーマ:

ライフデザインの支援による新たな自己との出会い

授業の概要:

サポーターとしてグループのプロセスを管理し、リーダーシップを養う。他者のライフデザインを支援することで自らのライフデザインの能力を高める。

到達目標:

サポーターとしてリーダーシップを発揮し、グループのプロセスを管理することができる。
他の学生に、人生の意味への関心、生きること真剣に向き合う姿勢の重要性を説明することができる。自らの行動を客観的に把握・調整し、柔軟に目的に向かうことができる。

授業方法:

学生サポーターとして、自らを輝かせるキャリアデザインIの受講生のキャリア構築を導く。
各講義時間の前後に事前打ち合わせとふり返り(各15分)を行う。
教育姿勢は、Care, trust, spirituality, care, trust, respect for diversityの概念に基づくものとする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション	テキストActivity
2.	サポート体験1: 強みの発見を共に学ぶ	テキストActivity、コメントペーパー記入
3.	サポート体験2: 価値への気づきを共に学ぶ	テキストActivity、コメントペーパー記入
4.	サポート体験3: 目標設定と分析を共に学ぶ	テキストActivity、コメントペーパー記入
5.	サポート体験4: アクションプランと行動実験を共に体験する	テキストActivity、コメントペーパー記入
6.	サポート体験5: アクションプランの見直しとプランの再実験を共に体験する	テキストActivity、コメントペーパー記入
7.	サポート体験6: 生きることの意味の探求について共に学ぶ	テキストActivity、コメントペーパー記入
8.	サポート体験7: 働くことの意味を共に探る	テキストActivity、コメントペーパー記入
9.	サポート体験8: 神からの呼びかけに応えることについて共に学ぶ	テキストActivity、コメントペーパー記入
10.	サポート体験9: 女性のめぐる雇用状況の理解を導く	テキストActivity、コメントペーパー記入
11.	サポート体験10: ゲストスピーカーの体験を通して共に学ぶ	テキストActivity、コメントペーパー記入
12.	サポート体験11: キャリア・レディネスの気づきを導く	テキストActivity、コメントペーパー記入
13.	サポート体験12: キャリア実現のための自己管理と自己リーダーシップを導く	テキストActivity、コメントペーパー記入
14.	サポート体験13: 自己に潜在するリーダーシップの気づきを導く	テキストActivity、コメントペーパー記入
15.	総括: 全体を振り返り、学生サポーターとしての役割と学びを評価する	ふりかえり・自己評価作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業終了時にミーティングを実施し、その時間内に当日のリフレクション、評価を履修生と教員相互に交換する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50	出席、積極的な授業参加、授業後の提出物等。
	自己評価	50	毎回のコメントペーパーの記入により、個別の目標の達成度を自己評価する。

教科書:

日下菜穂子・三宅えり子・才藤千津子編著、人生の意匠: 心理・社会・超越性からのアプローチ、ナカニシヤ出版

参考書:

ティナ・シーリグ、20歳のときに知っておきたかったこと スタンフォード大学集中講義、阪急コミュニケーションズ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対、Eメール

授業テーマ:	未成年者に関する法的諸問題		
授業の概要:	こどもも一人の人間として、当然、基本的人権、権利は保障されます。しかし、成長の途上にあり、その未成熟性ゆえに、大人にはないさまざまな制約・保護が存在し、こども特有の法律も制定されています。本講においては、こどもの人権・権利についてどのように大人と異なる取り扱いがなされているか、判例、具体的事例もみて検討します。また、こども特有の法制度についてその内容を見ます。		
到達目標:	こどもに関する法的知識の習得 こどもに関する法的制度の理解 こどもをめぐる社会問題に関心をもつこと		
授業方法:	主として講義形式で行います。受講生の数によって演習形式を取り入れることもあります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 未成年者の人権主体性	憲法の教科書の該当箇所を読む	
	2. 学校における生徒の人権(校則問題)	配布資料を読む	
	3. 学校における生徒の人権(宗教的理由による欠席、受講拒否など)	配布資料を読む	
	4. 学校における生徒の人権(内申書開示請求)	配布資料を読む	
	5. 学校における生徒の人権(政治活動の自由)	配布資料を読む	
	6. 学校における生徒の人権(持ち物検査など)	配布資料を読む	
	7. 教育をうける権利	配布資料を読む	
	8. 親子関係(嫡出推定、養子縁組など)	民法の教科書を読む 配布資料を読む	
	9. 親子関係(相続問題など)	民法の教科書を読む 配布資料を読む	
	10. 親子関係(児童虐待)	民法の教科書を読む 配布資料を読む	
	11. 条例による有害図書規制、深夜外出規制、いん行規制など	配布資料を読む 自治体のホームページから条例の条文やパンフレットを見る	
	12. 条例による有害図書規制、深夜外出規制、いん行規制など	配布資料を読む 自治体のホームページから条例の条文やパンフレットを見る	
	13. 少年事件と報道のあり方	配布資料を読む	
	14. こどもの権利条約	配布資料を読む	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	新聞、テレビのニュース、他人との話などによって、授業内容に関係する社会問題に関心をもつことを勧めます。		
フィードバックの方法:	授業中にコメント、解説を行う		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	80%	法的知識の習得度、法制度の理解度、文章による知識・理解の表現力
	小レポート含む平常点	20%	授業への積極的参加度、社会問題への関心度
教科書:	『ポケット六法』(有斐閣)、『ディリー六法』(三省堂) 等、六法を必ず携帯すること		
参考書:	棟居快行(他)『基本的人権の事件簿』(有斐閣) 米沢広一『憲法と教育15講』(北樹出版) 米沢広一『教育行政法』(北樹出版) 丹羽徹『子どもと法』(法律文化社) 『憲法判例百選ⅠⅡ』(有斐閣) 『判例セレクト』(有斐閣)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業前後の教室内で対応、オフィスアワー		

授業テーマ:	『源氏物語』を影印本で読む		
授業の概要:	『源氏物語』の早蕨巻を影印本を用いて読む。 宇治十帖の世界に触れながら、古典籍の理解に必要な一要素である変体仮名を解説する。		
到達目標:	『源氏物語』についての知識を増やす。 変体仮名を解説し、書かれた内容を理解する力をつける。		
授業方法:	講義形式とグループワーク。 テキストを読むための予備知識を講義した後、変体仮名の解説と内容読解にうつる。 最初のうちは解説の時間を多くとり、変体仮名に慣れることに主眼を置く。 慣れてきたら4～5回程度のグループワークを取り入れる。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. ガイダンス		
	2. 時代背景 藤原道長と源氏物語 藤原彰子と紫式部		『源氏物語』の概要を把握しておくこと
	3. 講読のための基礎知識 平安貴族の官位 方角・時刻の表し方		
	4. 源氏物語 宇治十帖の登場人物と系図		宇治十帖のあらすじ把握しておくこと
	5. 講読(1) 宇治の中の君①		早蕨巻のあらすじを把握しておくこと
	6. 講読(2) 宇治の中の君②		
	7. 講読(3) 薫、宇治に出迎え①		
	8. 講読(4) 薫、宇治に出迎え②		
	9. 講読(5) 中の君、京へ①		
	10. 講読(6) 中の君、京へ②		
	11. 講読(7) 薫の動向①		
	12. 講読(8) 薫の動向②		
	13. 講読(9) 薫、二条院の中の君と対面①		
	14. 講読(10) 薫、二条院の中の君と対面②		
	15. まとめ		
受講者への メッセージや アドバイス:	早蕨巻の現代語訳を読んでおくとう理解が深まります。		
フィードバックの 方法:	質問等に対して教室内で回答		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	100%	到達目標に関する習得度や理解度により評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で応対		

授業テーマ:

『源氏物語』を影印本で読む

授業の概要:

『源氏物語』の宿木巻を影印本を用いて読む。
宇治十帖の世界に触れながら、古典籍の理解に必要な一要素である変体仮名を解読する。

到達目標:

『源氏物語』についての知識を増やす。
変体仮名を解読し、書かれた内容を理解する力をつける。

授業方法:

講義形式とグループワーク。
テキストを読むための予備知識を講義した後、変体仮名の解読と内容読解にうつる。
最初のうちは解読の時間を多くとり、変体仮名に慣れることに主眼を置く。
慣れてきたら4～5回程度のグループワークを取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 時代背景 藤原道長と源氏物語 藤原彰子と紫式部	『源氏物語』の概要を把握しておくこと
	3. 講読のための基礎知識 平安貴族の官位 方角・時刻の表し方	
	4. 源氏物語 宇治十帖の登場人物と系図	宇治十帖のあらすじ把握しておくこと
	5. 講読(1) 薫の結婚①	宿木巻のあらすじを把握しておくこと
	6. 講読(2) 薫の結婚②	
	7. 講読(3) 匂宮の結婚①	
	8. 講読(4) 匂宮の結婚②	
	9. 講読(5) 薫と中の君①	
	10. 講読(6) 薫と中の君②	
	11. 講読(7) 浮舟の噂①	
	12. 講読(8) 浮舟の噂②	
	13. 講読(9) 薫の垣間見①	
	14. 講読(10) 薫の垣間見②	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

宿木巻の現代語訳を読んでおくとう理解が深まります。

フィードバックの方法:

質問等に対して教室内で回答

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100%	到達目標に関する習得度や理解度により評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:	桃山時代～江戸時代前期の京都の絵画と工芸		
授業の概要:	桃山時代～江戸時代前期を代表する作品を取り上げ、様式的、技法的検討を加えながら、「近世」「京都」の美術について学ぶ。		
到達目標:	桃山から江戸へと時代が移り変わる中で、どのような作品が生み出され、どのような絵師が活躍し、どのように展開していったのか、京都を中心に発展した美術と工芸の具体的な様相について興味を持って学ぶことが目標である。		
授業方法:	各回テーマにそって講義を行う。スライド使用。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. ガイダンス(展覧会鑑賞レポート用紙配布など)		京都には多くの寺社仏閣が残されており、授業で取り上げる作品を実地で鑑賞できる機会に恵まれている。多くの作品を実際に見ること(以下同じ)。
	2. 近世京都の美術とは		
	3. 戦国武将の造形		
	4. 小袖と高台寺蒔絵		
	5. 南蛮美術		
	6. 長谷川等伯と海北友松		
	7. 洛中洛外図の世界		
	8. 二条城と離宮		
	9. 狩野派と土佐派		
	10. 琳派		
	11. 特集:テーマ「燕子花と八つ橋」		
	12. 祇園祭と美術		
	13. 浮世絵		
	14. 友禅染と京焼		
	15. まとめ		授業全体を復習し、講義内容をまとめる。
受講者へのメッセージやアドバイス:	楽しく学んでいきたいと思います。各自が日本美術に対する興味を深め、作品鑑賞を通して新しい自分を開拓していったいと思います。		
フィードバックの方法:	授業時間に実施するコメントペーパー。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験	75	授業を理解し、論理的に解答できているか。
	展覧会鑑賞レポート	必須	※提出のない場合は単位取得が認められません。実際の作品を見て、自分なりに感じたことや思ったことが書けているか。
	出席	10	積極的に授業に参加できたか。
	ミニ・レポート	15	予告なしに行うレポート(詳細は授業で指示する)。
教科書:	特になし		
参考書:	(概説書)辻惟雄・泉武夫『日本美術史ハンドブック』新書館、2009年 (概説書)橋本麻里『京都で日本美術をみる【京都国立博物館】』集英社、2014年 (大型本)『永徳と障壁画』日本美術全集第15巻、講談社、1991年 (図説)小澤弘・川嶋将生『図説 洛中洛外図屏風を見る』河出書房新社、1994年 (特集本)仲町啓子『もっと知りたい尾形光琳』東京美術、2008年 (特集本)成澤勝嗣『もっと知りたい狩野永徳と京狩野』東京美術、2012年 (専門書)桐畑健『染織(近世編)』日本の美術6、至文堂、1988年 その他の参考文献は授業中に適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応します。		

授業テーマ:	江戸時代中期～後期の京都の美術		
授業の概要:	「近世京都の美術Ⅰ」に続いて江戸時代中期～後期の絵画と工芸を取り上げる(「近世京都の美術Ⅱ」を先に受講しても構いません)。 どのような時代背景から、どのような作品が生み出され、どのように展開していったのか、江戸時代中後期以降の京都の絵画を中心に学ぶ。		
到達目標:	時代背景を理解し、近世京都で個性的に活躍した絵師の作品について興味をもって学ぶ。		
授業方法:	毎回テーマにそって授業を進める。スライド使用。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス(課題レポート用紙の配布など)	美術展覧会や寺社仏閣で実際に作品を見ること(以下同じ)。
	2.	江戸に舶載された西洋画	
	3.	沈南蘋の来日と本草学の発展	
	4.	洋風画～秋田蘭画と司馬江漢～	
	5.	錦絵の世界～葛飾北斎～	
	6.	特集:テーマ「日本の意匠(デザイン)」	日本の伝統文様について。
	7.	京都御所の造営	
	8.	安永天明期の京都画壇	
	9.	池大雅と与謝蕪村	
	10.	伊藤若冲	
	11.	曾我蕭白	
	12.	円山応挙	
	13.	呉春	
	14.	四条派の流れ	
	15.	まとめ	授業全体を復習し、講義内容をまとめる。
	受講者へのメッセージやアドバイス:	現在につながる時代背景と個性的な絵師たちについて楽しみながら学びたいと思います。 興味をもった作品、作家についてはさらに自分で味わい、学び、理解を深めて下さい。	
フィードバックの方法:	授業時間に実施するコメントペーパー。。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験	75	授業を理解し自分の言葉で解答できているか。
	展覧会鑑賞レポート	必須	※必ず提出のこと(提出が無い場合は単位取得が認められません)。実際の作品をみて自分なりに感じたこと、思ったことが書けているか。
	出席	10	積極的に出席できているか。
	ミニ・レポート	15	予告なしに行うレポート(詳細は授業で指示する)。
教科書:	特になし		
参考書:	(概説書)辻惟雄・泉武夫『日本美術史ハンドブック』新書館、2009年 (単行本)内山淳一『江戸の好奇心―美術と科学の出会い―』講談社、1996年 (大型本)小林忠・佐々木丞平・大河直躬編著『大雅と応挙』日本美術全集第19巻、講談社、1993年 (大型本)星野鈴編集『円山・四条派、応挙・蘆雪・若冲』江戸名作画帖全集、駸々堂出版、1996年 (特集本)佐藤康宏『もっと知りたい伊藤若冲』東京美術、2006年 (特集本)狩野博幸『もっと知りたい曾我蕭白』東京美術、2008年 (新書)大久保純一『北斎』岩波新書(カラー版)、2012年 その他、授業中に適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応します。		

授業テーマ:

観光・余暇の現代社会における役割を考える

授業の概要:

労働と余暇との関わりに気づかせ、国民生活の変化に対応した余暇・観光産業の発展を考察する。

到達目標:

知識・理解の点では、余暇・観光産業の成立には、主体的条件と客体的条件が必要であることを捉える。関心・意欲・態度の点では、余暇・観光産業の特質を理解する態度をつくる。

授業方法:

講義形式で進めます。必要に応じてプリントなどを配布します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	労働と余暇の関連性 その1 観光という言葉の由来	
2.	労働と余暇の関連性 その2 高度成長と社会変容	配付資料の読了
3.	労働と余暇の関連性 その3 結と講	
4.	戦後日本の労働と余暇 その1 高度成長期	配付資料のデータ分析
5.	戦後日本の労働と余暇 その2 1980年代	配付資料の読了・考察
6.	戦後日本の労働と余暇 その3 1990年代	配付資料の読了・考察
7.	近代社会に内発する余暇 その1 時間の観念	
8.	近代社会に内発する余暇 その2 イギリス大衆余暇成立史	配付資料の読了・考察
9.	近代社会に内発する余暇 その3 近代観光業の成立	配付資料のデータ分析
10.	近代社会に内発する余暇 その4 ロンドン万国博とトーマス・クック	
11.	国際観光の成立と発展 その1 戦前の国産観光、植民地と観光	配付資料の面積データ分析
12.	国際観光の成立と発展 その2 バリ観光の沿革	配付資料の読了
13.	国際観光の成立と発展 その3 造形された観光	配付資料の読了
14.	国際観光の成立と発展 その4 観光と異文化理解	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物は教室で解説し返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	知識・理解の到達目標の達成度
	授業参加	20%	関心・意欲・態度を小レポートで評価する

教科書:

参考書:

橘木俊詔「家計から見る日本経済」(岩波新書2004年)

武田晴人「シリーズ日本近現代史⑧高度成長」(岩波新書2008年)

永淵康之「バリ島」(講談社現代新書1998年)

伊藤俊治「バリ島芸術をつくった男-ヴァルター・シュピーースの芸術的人生-」(平凡社新書2002年)

海野弘「万国博覧会の20世紀」(平凡社新書2013年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

tkono@dwc.doshisha.ac.jp

438900

京都観光学概論

天野 太郎

授業テーマ: 京都における観光の現状とこれからのまちづくりにおける諸課題

授業の概要: 京都は、宮都としての長い歴史をもつと共に、「観光都市」としての側面を有している。この講義では、京都という地域がどのように形成されてきたのか、また観光という要素がどのように形成されてきたのか、その現状と課題について、京都以外の事例も踏まえながら多角的に紹介・解説する。

到達目標: 1: 観光学の基礎と、観光のもたらす効果と課題について理解する。
2: 京都地域における観光の実態と課題について、自ら考え、発信する力を養う。

授業方法: 講義形式 パワーポイントと配布資料で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業のガイダンス	配布資料の確認
	2. 観光学とは何か その定義の変遷と意味	配布資料の確認
	3. 日本と世界の観光に関する現状と課題(1) 統計から見た実態	配布資料の確認
	4. 日本と世界の観光に関する現状と課題(2)	配布資料の確認
	5. 観光ガイドブックの誕生と京都	配布資料の確認
	6. 「小京都」と京都観光	配布資料の確認
	7. 近世の観光ガイドブック・都名所図会の誕生	配布資料の確認
	8. 洛中洛外図屏風にみる中近世の京都観光(1)	配布資料の確認
	9. 洛中洛外図屏風にみる中近世の京都観光(1)	配布資料の確認
	10. 京都観光の現状と課題～統計資料から見たインバウンド観光の実態	配布資料の確認
	11. 京町家を活用した観光の可能性	配布資料の確認
	12. 京都観光のオーセンシティに関する課題	配布資料の確認
	13. 京都観光のメディア発信のありかた～番組作成を通じた課題1	配布資料の確認
	14. 京都観光のメディア発信のありかた～番組作成を通じた課題2	配布資料の確認・レポート提出に向けた準備作業
	15. 全体の総括	レポート提出に向けた準備作業

受講者へのメッセージやアドバイス: 京都観光は、イメージと実態にいくつかのズレが存在します。そうした問題を紹介しながら、これまでの京都観光と、これからの可能性について幅広く考えていきます。

フィードバックの方法: 毎回のコメントペーパーに対して、授業内で適宜紹介・解説を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席・コメントペーパー	50	出席状況の確認と、到達目標1の達成度について総合的に評価する。 到達目標2の達成度について、総合的に評価する。
	レポート	50	

教科書: 特になし

参考書: 天野太郎監修『『都名所図会』で歩く京都案内～イラストで見る200年前の京都』実業之日本社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業後の教室での対応のほか、オフィスアワーを中心として研究室にて随時対応する。

439000

観光経営論

大津 正和

授業テーマ:	観光に関わる各種産業における経営・マーケティングの特徴と課題		
授業の概要:	観光に関連する産業は、非常に幅広く、それらが直面する経営課題も多様である。本講義では、代表的な観光関連産業について、それぞれ具体的な事例を紹介しながら、観光経営への理解を深め、新たな課題に直面した際に解決策を考えられる能力の涵養をはかる。		
到達目標:	観光に関わる多様な産業に属する各企業特有の特徴を理解している。それぞれの産業に特有の条件下で、それらに対応できる経営・マーケティングはどのようなものかを考える能力を身につける。		
授業方法:	講義 教科書に沿って、観光に関連する経営・マーケティングについて知識の理解を行う講義と、現実の企業等の事例を通じて、教科書で得た知識から、より深く理解したり改善策を考えたりできる能力を養う講義とをほぼ半数ずつ実施する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	身近な観光に関連する企業活動について観察し整理して	
	2. 旅行業(第1章)	教科書の該当箇所の予習	
	3. 事例研究(旅行業)	教科書の該当箇所の復習	
	4. ホテル業(第2章)	教科書の該当箇所の予習	
	5. 事例研究(宿泊業)	教科書の該当箇所の復習	
	6. 航空輸送業(第3章)	教科書の該当箇所の予習	
	7. 事例研究(航空輸送業)	教科書の該当箇所の復習	
	8. 鉄道事業(第4章)	教科書の該当箇所の予習	
	9. 事例研究(鉄道または交通業)	教科書の該当箇所の復習	
	10. テマパーク(第5章)	教科書の該当箇所の予習	
	11. 事例研究(アミューズメント事業)	教科書の該当箇所の復習	
	12. 博物館・水族館・動物園(第6章)	教科書の該当箇所の予習	
	13. 事例研究(ミュージアム事業)	教科書の該当箇所の復習	
	14. 観光ビジネスの本質(第13章)	教科書の該当箇所の予習	
	15. まとめ	講義全体の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義部分に関して、教科書の該当部分を予習しておくこと、そして講義後に復習しておくことが重要である。特に、復習は次の週の事例研究の基礎となるので必須である。		
フィードバックの方法:	小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50	教科書で学んだ知識が身につけているか、またその知識を具体的な事例に当てはめて考えることができているかの程度
	試験	50	講義で学んだ知識が身につけているか、また事例で学んだ現実のホスピタリティマネジメントを考える能力が身につけているかの程度
教科書:	高橋・大津・吉田編『1からの観光』碩学舎, 2010		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)		

授業テーマ:

地域における観光振興事業の特徴、および現状と課題

授業の概要:

現在日本では、地域の活性化のために、観光振興を進めている地域が多数ある。しかし、これらの地域が観光振興において成果を挙げるためには、観光特有の特徴を理解し、それぞれの地域に特有の条件下で、それらに対応できる運営・地域マーケティングを実施しなければならない。本講義では、観光地域事業に関わる代表的な事例を紹介しながら、地域の観光事業への理解を深める。

到達目標:

観光に関わる自治体等の観光事業の特徴を理解している。それぞれの観光事業に特有の条件下で、それらに対応できる自治体等の運営はどのようなものかを考える能力を身につける。

授業方法:

講義 教科書に沿って、観光に関連する自治体等の観光事業について知識の理解を行う講義と、現実の観光事業等の事例を通じて、教科書で得た知識から、より深く理解したり改善策を考えたりできる能力を養う講義とをほぼ半数ずつ実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	身近な観光に関連する自治体活動について観察し整理してくる
2.	地域の観光まちづくり事業(第7章)	教科書の該当箇所の予習
3.	事例研究(観光まちづくり事業)	教科書の該当箇所の復習
4.	観光地の集客イベント事業(第8章)	教科書の該当箇所の予習
5.	事例研究(イベント事業)	教科書の該当箇所の復習
6.	サステナブル・ツーリズム(第9章)	教科書の該当箇所の予習
7.	事例研究(サステナブル・ツーリズム事業または自然環境を中心とした観光事業)	教科書の該当箇所の復習
8.	リゾート事業(第10章)	教科書の該当箇所の予習
9.	事例研究(リゾート事業)	教科書の該当箇所の復習
10.	スポーツ・ツーリズムと集客都市(第11章)	教科書の該当箇所の予習
11.	事例研究(スポーツ・ツーリズム事業または都市観光事業)	教科書の該当箇所の復習
12.	インバウンドの観光事業(第12章)	教科書の該当箇所の予習
13.	事例研究(インバウンド事業)	教科書の該当箇所の復習
14.	デスティネーションマーケティング(第14章)	教科書の該当箇所の予習
15.	まとめ	講義全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義部分に関して、教科書の該当部分を予習しておくこと、そして講義後に復習しておくことが重要である。特に、復習は次の週の事例研究の基礎となるので必須である。

フィードバックの方法:

小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	教科書で学んだ知識が身についているか、またその知識を具体的な事例に当てはめて考えることができているかの程度
	試験	50	講義で学んだ知識が身についているか、また事例で学んだ現実のホスピタリティマネジメントを考える能力が身についているかの程度

教科書:

高橋・大津・吉田編『1からの観光』碩学舎, 2010

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)

授業テーマ:

これからの観光をよりよく発展させるために必要とされるイノベーション

授業の概要:

現在日本では、経済的發展や地域振興のために、様々な領域で観光の活用が進められている。ただし、現状では、これらの取り組みの多くが従来の観光活動の延長線上にとどまっている。しかし、これまでの枠にとらわれない観光のイノベーションを実現しないと、単に数字だけではなく、質的な飛躍的な進歩は望めない。本講義では、徐々に現れ始めた革新的な事例を紹介しながら、観光におけるイノベーションの可能性への理解を深める。

到達目標:

現在日本の観光に関連する産業や自治体が抱える課題について理解する。観光における課題の解決に向けた新しい試みを考える能力を身に付ける。

授業方法:

講義 教科書に沿って、観光に関連する産業や自治体等における新たな取り組みについて知識の理解を行う講義と、現実の新たな観光ビジネス・事業等の事例を通じて、教科書で得た知識から、より深く理解したり改善策を考えたりできる能力を養う講義とをほぼ1:2の割合で実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	身近な観光に関連する企業や自治体活動の課題について観察し整理してくる
2.	観光ビジネスのイノベーション(序章)	教科書の該当箇所の予習
3.	航空産業におけるイノベーション(3章)	教科書の該当箇所の予習
4.	事例研究(航空産業(1))	教科書の該当箇所の復習
5.	事例研究(航空産業(2))	教科書の該当箇所の復習
6.	旅行業におけるイノベーション(7章)	教科書の該当箇所の予習
7.	事例研究(旅行業(1))	教科書の該当箇所の復習
8.	事例研究(旅行業(2))	教科書の該当箇所の復習
9.	宿泊業におけるイノベーション:事例研究(宿泊業(1))	宿泊産業の最近の動きについて観察し整理してくる
10.	事例研究(宿泊業(2))	前回講義の復習
11.	観光まちづくりにおけるイノベーション(10章)	教科書の該当箇所の予習
12.	事例研究(観光まちづくり)	教科書の該当箇所の復習
13.	官民協働による観光振興におけるイノベーション(14章)	教科書の該当箇所の予習
14.	事例研究(クールジャパン)	教科書の該当箇所の復習
15.	まとめ	講義全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

教科書を事前に読んで予習しておくことと、講義で学んだことを復習して事例研究に臨むように、準備学習が必要である。また、身の回りや自身が旅行に出かけたときなどに、意識して観察したり考えたりする習慣を持つことも大事である。

フィードバックの方法:

小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	60	教科書で学んだ知識が身についているか、またその知識を具体的な事例に当てはめて考えることができているかの程度
	試験	40	講義で学んだ知識が身についているか、また事例で学んだ現実のホスピタリティマネジメントを考える能力が身についているかの程度

教科書:

石井淳蔵・高橋一夫編『観光のビジネスモデル』学芸出版社, 2011

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)

授業テーマ:

授業の概要: 経済社会における保障システムとしての保険について論じる。

到達目標: 保険にかかる基礎的知識(具体的には、保険制度、保険会社、保険商品など)の修得を目標に掲げる。

授業方法: プリント・パワーポイントを使った授業方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
	2. くらしの中の保険(教科書第1章)	「ガイダンス」の内容に対する理解
	3. 保険の原理(教科書第2章)	「くらしの中の保険」に対する理解
	4. 保険の歴史(教科書第3章)	「保険の原理」に対する理解
	5. 現在の保険制度(教科書第4章)	「保険の歴史」に対する理解
	6. 保険契約者の保護(教科書第5章)	「現在の保険制度」に対する理解
	7. 金融機関としての保険会社(教科書第6章)	「保険契約者の保護」に対する理解
	8. 中間試験	「中間試験」の準備
	9. 保険会社の経営課題(教科書第7章)	「金融機関としての保険会社」に対する理解
	10. 生命保険商品(教科書第8章)	「保険会社の経営課題」に対する理解
	11. 火災保険(教科書第9章)	「生命保険商品」に対する理解
	12. 自動車保険(教科書第10章)	「火災保険」に対する理解
	13. その他の保険(教科書第11章)	「自動車保険」に対する理解
	14. 新しい保険の登場(教科書第14章)	「その他の保険」に対する理解
	15. まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 講義資料については、印刷資料として配付するとともに、マナビーにもアップする予定である。

フィードバックの方法: 中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間試験	50	到達目標に掲げた保険にかかる基礎的知識に関する理解度により評価する。
	期末試験	50	到達目標に掲げた保険にかかる基礎的知識に関する理解度により評価する。

教科書: 家森信善(編著)『はじめて学ぶ保険のしくみ(第2版)』中央経済社、2015年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: 教員のメールアドレス: mokura@dwc.doshisha.ac.jp

439400

人的資源論

福本 俊樹

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

企業は、「ヒト・モノ・カネ・情報」の4つの資源を活用して、日々の経営を行っています。本講義では、そのうちの「ヒト」の管理・活用のあり方について学びます。「ヒト」を動かすためにはどのような仕組みや考え方を持つことが重要なのか、また、「ヒト」のマネジメントに関してどのような問題が現実には生じているのかについて、体系的に理解していきます。

(1) 人的資源管理についての基礎知識を修得すること
(2) 企業における人事活動を理論的観点から把握・分析できるようになること

毎回の講義時に、講義にて学習した知識を用いて、実際の人事活動を分析する演習を行います。演習は、基本的には学生が個人で行うものですが、受講者数によっては、グループでの演習も取り入れる予定です。

授業内容	準備学習等の内容
1. 人的資源管理とは何か？	教科書第1章の予習・復習
2. 従業員の動機づけ	教科書第2章の予習・復習
3. 組織設計	教科書第3章の予習・復習
4. 採用・配置	教科書第4章の予習・復習
5. キャリア開発・人材育成	教科書第5章の予習・復習
6. 評価・考課	教科書第6章の予習・復習
7. 昇進・昇格	教科書第7章の予習・復習
8. 賃金・福利厚生	教科書第8章の予習・復習
9. 労使関係	教科書第10章の予習・復習
10. 退職	教科書第11章の予習・復習
11. ダイバーシティ・マネジメント	教科書第12章の予習・復習
12. 非正規雇用	教科書第13章の予習・復習
13. 裁量労働・在宅勤務	教科書第14章の予習・復習
14. ワーク・ライフ・バランス	教科書第15章の予習・復習
15. まとめ	

「ヒト」をうまく動かすためには、人間について深く知り、深く考えることが大切です。この講義では、人間とはどのような存在であるのかについて、いくつかの見方を提示しますが、並行して、人間を描くあらゆる文学・芸術・サブカル作品などにも貪欲に触れていって下さい。また、日常で出会う人々を詳細に観察する習慣を身につけて下さい。きっと、「ヒト」の管理にとって大いに役立つはずです。

マナービーで返却します(詳細は、初回講義時に説明します)

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	毎回の講義時に小テストを実施します。人的資源管理についての基礎知識を修得できたかどうかを評価します。
定期試験	60%	人的資源管理についての基礎知識を理解した上で、企業における人事活動を理論的観点から把握・分析できるかどうかを評価します。

上林憲雄・厨子直之・森田雅也『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣

奥林康司・平野光俊・上林憲雄『入門 人的資源管理』中央経済社
金井壽宏『経営組織』日経文庫

分析力, 思考力, 変化対応力

オフィスアワー, Emailなど(詳細は、初回講義時に説明します)

授業テーマ:			
授業の概要:	近頃よく耳にする「コミュニティ」とは何でしょうか。辞書を引けば、「人々の共同体」と出てきます。もっとやわらかい言い方をすれば、「人の集まり」「人のつながり」を指す言葉のようです。しかし、現代における「人々の共同体」とは、どのようなものなのでしょうか。価値観・ライフスタイル・趣味嗜好などが高度に多様化・個人化した現代において、私達は一体どのような意味で「つながっている」のでしょうか(あるいは、「つながっていない」のでしょうか)。本講義では、主に社会学的観点から、都市・職場・家族・町内会・ネットコミュニティなどのリアルな姿を探っていきます。その上で、現代のコミュニティをいかにマネジメントすることができるかを考察していきます。		
到達目標:	(1)各種コミュニティを学術的観点から考察・分析・理解できるようになること (2)コミュニティの問題点を発見し、マネジメント方法を考えられるようになること		
授業方法:	講義時に、講義内容を踏まえてコミュニティについて考察する演習を行います(回数は、5~10回程度を予定しています)。演習は、基本的には学生が個々人で行うものですが、受講者数によっては、グループでの演習も取り入れる予定です。なお、テーマによっては、ゲスト・スピーカーを招くことも予定しています。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション	教科書序章の予習・復習	
	2. 人間不在の都市計画・開発	教科書1章の予習・復習	
	3. 都市の危機と再生	教科書2章の予習・復習	
	4. 防犯がもたらす不安	教科書3章の予習・復習	
	5. サービス産業化する都市	教科書4章の予習・復習	
	6. 現代における家族のイメージ	教科書5章の予習・復習	
	7. 町内会の存在価値?	教科書6章の予習・復習	
	8. 労働問題、行政にできること	教科書7章の予習・復習	
	9. 高齢者の孤独	教科書8章の予習・復習	
	10. 新しい「絆」のゆくえ	教科書9章の予習・復習	
	11. 都市の「文化」	教科書10章の予習・復習	
	12. インターネット空間のコミュニティ	ゲスト・スピーカー、事後レポート作成	
	13. ITを活用した地域コミュニティのマネジメント	ゲスト・スピーカー、事後レポート作成	
	14. アニメが地方を救う、聖地巡礼の経済効果	ゲスト・スピーカー、事後レポート作成	
	15. コミュニティの今後	リーディング資料の予習・復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	私達は皆、誰かとつながったり、あるいは、つながらなかったりしながら、日々の生活を送っています。こうした「接続」と「分断」という観点から、私達が暮らすコミュニティを考えていきましょう。		
フィードバックの方法:	マナビーで返却します(詳細は、初回講義時に説明します)		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小レポート	50%	各講義において、講義内容を踏まえた小レポートを課します。講義内容が理解できているか、各種コミュニティに対する洞察が深まっているかによって評価します。
	期末レポート	50%	講義内容が理解できているか、各種コミュニティに対する洞察が深まっているかによって評価します。
教科書:	吉原直樹・近森高明(編)『都市のリアル』有斐閣		
参考書:	近森高明・工藤保則(編)『無印都市の社会学 どこにでもある日常空間をフィールドワークする』法律文化社 遠藤知巳(編)『フラット・カルチャー 現代日本の社会学』せりか書房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力, 思考力, コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー, Emailなど(詳細は、初回講義時に説明します)		

授業テーマ:

授業の概要: 私達がどのような人生を歩むことになるかは、私達が従事する仕事によって大きく左右されます。本講義では、仕事世界への参加という観点から、私達のキャリア形成について学びます。自分自身のキャリアを少しでもよいものにしていくにはどうすればいいか、学術的な知見、現代社会の情勢、人々の多様な生き方の事例などをもとに、考えていきましょう。

到達目標: (1)キャリア論についての基礎知識を修得すること
(2)学習した知識を活用し、自らのキャリア形成について考察・行動できるようになること

授業方法: 講義時に、学習した知識を用いて受講者自身のキャリア形成を考える演習を行います(回数は5~10回程度を予定しています)。演習は、基本的には学生が個々人で行うものですが、受講者数によっては、グループでの演習も取り入れる予定です。なお、テーマによっては、ゲスト・スピーカーを招くことも予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	教科書第1章の予習・復習
	2. 日本企業と外資系企業	リーディング資料の予習・復習
	3. 日本の雇用システムの変遷	リーディング資料の予習・復習
	4. バウンダリーレス・キャリア	教科書第2章の予習・復習
	5. キャリア・トランジション	教科書第2章の予習・復習
	6. キャリア・デザイン	教科書第3章の予習・復習
	7. キャリア・アンカー	リーディング資料の予習・復習
	8. 組織への参入: (1) RJP	教科書第4章の予習・復習
	9. 組織への参入: (2) 組織社会化	リーディング資料の予習・復習
	10. 生涯キャリア発達課題	教科書第5章の予習・復習
	11. 女性のキャリア	リーディング資料の予習・復習
	12. 社会的マイノリティのキャリア	リーディング資料の予習・復習
	13. 企業家のキャリア	リーディング資料の予習・復習
	14. キャリアと物語	リーディング資料の予習・復習
	15. 今後のキャリア発達に向けて	リーディング資料の予習・復習

受講者へのメッセージやアドバイス: 自分自身のキャリアについて、考え、行動していくというのは、とても難しいことではないでしょうか。将来像が明確に決まっている人はともかく、人によっては、雲をつかむように捉えどころのないことに思われるかもしれません。しかし、なにも人生計画を綿密に立てることだけがよいキャリアを歩む方法ではありません。肩の力を抜いて、時には寄り道などしながら、キャリアというものについて考えていきましょう。

フィードバックの方法: マナビーで返却します(詳細は、初回講義時に説明します)

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小レポート	50%	講義時の演習を踏まえて、小レポートを作成してもらいます。講義内容が理解できているか、自身のキャリア形成に対する考察ができているかによって評価します。
	期末レポート	50%	講義内容が理解できているか、自身のキャリア形成に対する考察ができているかによって評価します。

教科書: 金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書
加えて、リーディング資料を配布します。

参考書: エドガー・H・シャイン『キャリア・ダイナミクス』白桃書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力, 思考力, 変化対応力, 自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー, Emailなど(詳細は、初回講義時に説明します)

授業テーマ：

フィールドワークの理論と実際

授業の概要：

フィールドワーク(実施調査・野外研究・現地作業・野良仕事など)とは、生の体験の「現場」に身を置いた調査や作業、あるいは仕事を指し、質的研究を行う方法の一つである。
本授業では、第1にフィールドワークの理論及び質的研究の意義を理解する。
第2に、フィールドワークの諸技法(入門編)―例えば、各人が現場で主体的に観る・聞く・感じる・考える方法、それらを記録する練習、現場でのマナーとエチケット、エスノグラフィーの書き方など―を、主として「京田辺市」をフィールドとして調査し、具体的に理解・習得する。
第3に、調査体験報告会を通して、授業参加者の体験を共有・評価し、議論しあう。

到達目標：

最終的にテーマを決めた調査を実施する。その上で、調査報告(合評会)を通じて、フィールドワークの技法、意義を理解する。また、フィールドワーク技法を習得しつつも、調査・研究の倫理について学び習得する。

授業方法：

講義、ワークショップ、企画会議と議論、実地、報告会

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	フィールドワークとは何か(1)―疑似フィールド体験と記録体験から―	テキストを準備する。
2.	フィールドワークとは何か(2)―先達のエスノグラフィーに学ぶ―	第1回時の疑似体験レポートを完成させ、提出する。
3.	フィールドワークの技法(1)―先達が実施したフィールドワーク事例に学ぶ―	エスノグラフィーの意義を理解して授業に臨む。
4.	フィールドワークの技法(2)―質問項目とフォーマル/セミフォーマル/インフォーマル・インタビュー―	テキスト第1回目の小テストの準備をして授業に臨む
5.	フィールドワークの技法(3)―データ分類とデータ分析―	テキスト第2回目の小テストの準備をして授業に臨む。第1回目の採点を提出する。
6.	フィールドワーク計画(1)―具体的なフィールドワーク計画の企画会議―	テキスト第3回目の小テストの準備をして授業に臨む。第2回目の採点を提出する。
7.	フィールドワーク計画(2)―具体的なフィールドワーク計画の調査計画―	テキスト第4回目の小テストの準備をして授業に臨む。第3回目の採点を提出する。
8.	フィールドワークの理論(1)―質的・量的調査と仮説―	テキスト第5回目の小テストの準備をして授業に臨む。第4回目の採点を提出する。
9.	フィールドワークの理論(2)―客観性と主観性、信頼性と妥当性など―	テキスト第6回目の小テストの準備をして授業に臨む。第5回目の採点を提出する。
10.	フィールド調査の準備―依頼状を書く・インタビュー調査の準備―	個々人が行いたいフィールドワークを探し、考え、ノートに記録して授業に臨む。
11.	フィールドワークの倫理―マナー・エチケット・プライバシー―他	班のテーマ決めの材料を調べて授業に臨む。
12.	フィールドワークへ(1)	実際のフィールドワークの計画、計画修正案をグループで考え、記録して授業に臨む。調査対象者への依頼文を作成してくる。
13.	フィールドワークへ(2)	現地調査の記録をとっておく。
14.	フィールドワークへ(3)	現地調査の記録を整理する。
15.	最終合同報告会(終日)	報告会用資料を当日朝に提出できるようにしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：

(1)全6回のミニ試験は、総て確認の後に個々に返却する。
(2)フィールド調査の計画、計画遂行に関しては十分に相談にのり、随時助言を行う。
(3)最終報告会の内容は、一冊の活動記録冊子としてまとめ、全員に後日配布する。など

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	講義の内容に則して行う記述式試験(用語説明、内容理解、他)の評価。	30%程度	約6回の小テストでの総合点
	グループワークや最終報告会での取り組み姿勢、内容の充実度。	70%程度	主に最終報告会の報告内容を評価の核とする。但し、それまでの経緯についても優れた学びには加点し評価する。

教科書：

佐藤郁哉著『フィールドワーク増訂版一書を持って街に出よう―』新曜社　2006年増訂版（授業前半は、同書籍を用い必ず小テストを行う）

参考書：

佐藤郁哉著『フィールドワークの技法』新曜社　2002
佐藤郁哉著『質的データ分析法　―原理、方法、実践―』新曜社　2008
その他、複数のエスのグラフィーに関しては、折々配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法：

質疑応答は授業内・授業後に教室や研究室訪問等に対応する。さらなる質問等があった場合は、その都度適切な連絡方法を指示する。

授業テーマ:

地球環境問題、生物多様性、日本の伝統文化、持続可能な社会の構築、循環型社会、再生可能エネルギー、私たちの未来展望。

授業の概要:

この講義では、現在の地球や人類がどのようにして誕生したかを振り返り、現在の地球環境のいくつかの課題を分析して、これからの社会をどのようにすれば安全で安心出来る持続可能な循環型社会を作り上げられるかを、各自が選んだ具体的なテーマを通して考えてもらいます。

到達目標:

地球の誕生、人類の誕生、日本列島の誕生、日本人の起源、生物多様性、環境汚染、地球温暖化、再生可能エネルギー等についての基礎・基本的知識を習得すること。

授業方法:

主としてプリントを使用するが、最後はグループで決めたテーマについてプレゼンして頂きます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. はじめに:オリエンテーション この授業のすすめ方の説明。	この講義のシラバスを読んでくこと。
2. 地球と生命の誕生史	参考図書を読んでおくこと
3. 人類の誕生と進化	参考図書を読んでおくこと
4. 日本人の起源 ～日本人はどこから来たのか?～	参考図書を読んでおくこと
5. 日本列島の自然環境 ～アジアモンスーン、旧暦と新暦～	参考図書を読んでおくこと
6. 生物多様性について ～森林の働きと里山の多様性～	参考図書を読んでおくこと
7. 放射能とは? 原発の仕組み、放射能汚染	参考図書を読んでおくこと
8. 環境ホルモンとは? ダイオキシン、PCB	参考図書を読んでおくこと
9. 薬害の歴史: キノフォルム、サリドマイド、農薬	教科書をあらかじめ良く読んでおくこと
10. 気候変動とは? 異常気象、温暖化	参考図書を読んでおくこと
11. 再生可能エネルギーとは? 太陽光、風力、小水力、バイオマス、地熱の利用	参考図書を読んでおくこと
12. テーマの相談日 テーマの内容について相談する	テーマについて議論しておくこと
13. まとめ 期末試験	講義内容について総括する。
14. テーマについてグループ発表(1)	模造紙にまとめる。
15. テーマについてグループ発表(2)	模造紙にまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

①あらかじめ教科書や参考図書をよく読んでおくこと。
②毎回の授業内容について疑問や質問をリアクションペーパーに記入して下さい。

フィードバックの方法:

毎回の授業内容に関する質問があれば、次回の授業で説明します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回のコメントシート	10%	講義内容の理解度
期末試験	70%	講義内容の理解度
グループでの発表	20%	発表内容について

教科書:

有吉佐和子著、「複合汚染」(1979) 新潮文庫

参考書:

コルボーン、ダマルスキー、マイヤース著 奪われし未来(2001) 飛翔社
松井三郎等著 環境ホルモンの最前線(2002) 有斐閣
水野怜子著 新農薬ネオニコチノイドが日本を脅かす(2013) 七つ森書店
瀧井宏臣著 こどもたちのライフハザード(2004) 岩波書店
深井有著 地球はもう温暖化していない(2015) 平凡社
H.スベンマルク/N.コールダー著桜井邦朋監修青山洋訳(2010) 恒星社厚生閣
ブライアン・フェイガン著東郷えりか・桃井緑美子訳 気候代変動(2009)河出文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

授業支援システム(マナビー)を利用します。
URL <https://manavi.dwc.doshisha.jp/ct/login>

451400

自然環境体験論

神崎

清一、濱口

義信

授業テーマ:

自然体験学習とこども

授業の概要:

集中講義形式で行う(8月31日～9月2日を予定)
講義で基礎知識を学習した後、2・3日目に野外教育施設(リトリートセンター)にて体験学習の実習を行う。
また、班別で活動プログラムを開発する。

到達目標:

1)こどもの自然環境体験の重要性を中心にしつつ青少年や障がい者、高齢者にとってのの意義と可能性について学ぶ。2)自然環境体験活動の具体的な取り組みを行っている学校教育、NPOをはじめとした社会教育団体や企業が取り組んでいる実践事例についても学ぶ。3)「自分自身」「他者との関係や繋がり」「地域社会」や「国際社会」「私たちを取り巻く自然環境」を意識することができる。4)体験活動の日常化へと深化させる具体的なプログラムをつくり、指導することができる。

授業方法:

講義で基礎知識を学習した後、2・3日目に野外教育施設(リトリートセンター)にて体験学習の実習を行う。
また、班別で活動プログラムを開発する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 自然体験活動の意義(講義)	これまでの自然体験活動の経験についてまとめておくこと。 興味関心のある自然体験学習について資料を探しておくこと。
2. 自然体験活動の実際1／幼稚園、学校、NPOほか(講義)	
3. 自然体験活動の実際2／高齢者、障がい者ほか(講義)	
4. 自然体験活動の実際3／安全(講義)	
5. 自然体験活動の実習に向けて(講義)	
6. 自然体験活動の企画・立案の手法1(グループワーク)	
7. 自然体験活動の企画・立案の手法2(グループワーク)	講義で基礎知識を学習した後、2・3日目に野外教育施設(リトリートセンター)にて体験学習の実習を行う。 また、班別で活動プログラムを開発する。
8. 自然体験活動の企画の実施1(グループワーク)	
9. 自然体験活動の企画の実施2(グループワーク)	
10. 自然体験活動の企画の実施3(グループワーク)	
11. 自然体験活動の体験と指導1(体験学習)	
12. 自然体験活動の体験と指導2(体験学習)	
13. 自然体験活動の体験と指導3(体験学習)	
14. 自然体験活動の評価	
15. 自然体験活動のまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

宿泊を伴う体験学習であることに留意してほしい。交通費の半額と宿泊費補助が支給されます。
教材は、コピー教材ならびに資料を配布します。

フィードバックの方法:

課題ごとに毎回解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	60	講義・グループワークにすべて出席し、理論を学び体験すること。 積極的に授業・実習に参加することで深く理解し、自分の考え方を構築する。 実践し、企画・指導ができる。
授業・実習への参加度	20	
企画・発表	20	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

濱口義信先生を通して

授業テーマ:	子どもの異文化体験		
授業の概要:	現在、日本国籍をもつ6万人以上の小・中学生が海外で暮らしています。幼児期や高校生段階の子ども、国際結婚家庭の子どもも含めると、さらにその数は多くなります。また外国にルーツをもつ日本在住の子ども数も年々増加しています。子どもが文化間移動をしたり異文化体験をしたりすることは、子どもの発達や教育にどのような意味をもたらすのでしょうか。講義の中では、文化間移動を体験した子どもの適応や発達について取り上げるとともに、これらの子どもを保育機関や学校で受け入れる側の子どもや教師・保育者の異文化受容について、シミュレーションゲームなどを実際に体験しながら考えていきます。さらにそれらを踏まえた上で、子どもの発達段階を考慮した異文化間教育とは何かについて検討します。		
到達目標:	「知識・理解」 自分とは異なる文化的な環境にいる子どもや文化間移動を体験した子どもの発達・保育・教育の状況を理解している。 「関心・意欲・態度」 自分とは異なる文化的な環境にいる子どもや文化間移動を体験した子どもに関心をもっている。 「表現・技能・能力」 毎回の授業で要求されるコメントを誠実に記述し、レポート課題でも要求された内容を表記できる。		
授業方法:	講義、シミュレーションゲームなどで授業を行います。受講生同士の協働作業もあります。シミュレーションゲームはアクティブラーニング型の授業となります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 子どもの文化間移動	2. 海外・帰国児童生徒	3. 日本に在住する外国人児童生徒
	4. 国際結婚と国際児	5. 子どもの異文化適応1(シミュレーションゲーム)	6. 子どもの異文化適応2
	7. 文化によって創られるいい子像	8. 文化によって創られる母親らしさ	9. 文化間移動とアイデンティティ
	10. 文化間移動と言語発達1	11. 文化間移動と言語発達2	12. シミュレーションゲーム
	13. 子どもの異文化受容と異文化間教育	14. シミュレーションゲーム	15. まとめとシミュレーションゲームの振り返り
受講者へのメッセージやアドバイス:	第6回頃の講義の際にレポート課題が発表されます。レポート作成には十分な時間をかけることが必要です。講義についての予習は特に必要ありませんが、講義で学んだことをよく考えた上で、教育・保育実践に活かしたり、実生活で活用する姿勢が重要です。		
フィードバックの方法:	毎回記述するコメントシートの内容について、次の授業の最初に紹介します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席も含む授業への参加・態度	60%	出席回数 積極的に発言する。 シミュレーションゲームでは積極的に参加する。 特に3回行われるシミュレーションゲームに1回でも参加しなかった場合(公欠除く)や遅刻した場合には単位は取得できません。
	レポート	30%	授業で紹介した理論を用いて記述されている。 内容の詳細さと丁寧な考察。 わかりやすい文章で書かれている。
	試験(論述式)	10%	授業での内容を理解している。 授業で紹介した理論を具体的に活用するための内容が表記されている。 わかりやすい文章で書かれている。
教科書:	特に指定しません。授業中にプリントを配布します。		
参考書:	佐藤郡衛『国際化と教育』放送大学 2003(参考文献については図書館に所蔵されていますので、特に個人で購入する必要はありません。随時目を通してください。) 佐藤郡衛・吉谷武志編『ひとを分けるものつなぐもの』ナカニシヤ出版 2005 塘利枝子『子どもの異文化受容』ナカニシヤ出版 1997 塘利枝子編著『アジアの教科書に見る子ども』ナカニシヤ出版 2005 山本雅代・馬淵仁・塘利枝子編著『異文化間教育のとらえ直し』明石書店 2016 岡田努・榎本博明編著『パーソナリティ心理学へのアプローチ』金子書房 2008 榎本博明編著『自己心理学の最先端: 自己の構造と機能を科学する』あいり出版 2011		

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡
方法:

授業後や研究室で随時質問を受け付けます。わからないところはそのままにせずに、積極的に聞きにきてください。

451900

世界のこども政策

塘利枝子

授業テーマ:

世界のこども政策

授業の概要:

子どもの保育や教育を、各国のおとなたちはどのように保障しようとしているのでしょうか。海外での子育て支援政策、保育政策、教育政策など、特に行政の側面に焦点をあてて、日本と比較しながら学習します。各国のこれらの政策における長所や短所について理解すると共に、政策理念と現実社会とのずれをも検討しながら、各国の政策が子どもの育ちに実際どのような影響を与えているのかについても考えます。またシミュレーションゲームでは、各自が国家の政策決定者となり、他国家とのやりとりを通して、体験的に政策作成過程を理解していきます。

到達目標:

「知識・理解」
各国の子どもに関わる政策について理解するとともに、それらの政策を比較しながら子どもやその親への影響について理解している。
「関心・意欲・態度」
各国の政策と社会状況との関連について関心を持ち、シミュレーションゲームでは意欲的にグループ内のメンバーと関わり、積極的に話し合いを行う。
「表現・技能・能力」
毎回の授業で要求されるコメントを誠実に記述し、レポート課題でも要求された内容を表記できる。

授業方法:

前半は講義を中心に行いますが、自分自身が居住している地域の子育て政策を発表し、話し合う時間も設けられています。後半は政策シミュレーションゲームを体験します。シミュレーションゲームでは話し合い中心の授業となり、受講生同士の関わりがとて多いアクティブラーニング型の授業ですので、能動的に授業に参加することが求められます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	海外の子育て支援政策1(海外からみた日本の子育て支援の位置づけ)	日本の子育てをめぐる社会情勢に関する新聞報道等に目を通しておくこと
2.	海外の子育て支援政策2(フランスやスウェーデンでの子育て支援)	各国の社会情勢や特徴について事前に学習しておくこと
3.	海外の子育て支援政策3(中国・台湾・韓国の子育て支援)	各国の社会情勢や特徴について事前に学習しておくこと
4.	海外の保育政策1(スウェーデンやニュージーランドの保育政策)	各国の社会情勢や特徴について事前に学習しておくこと
5.	海外の保育政策2(中国・台湾・韓国の保育政策)	各国の社会情勢や特徴について事前に学習しておくこと
6.	海外の教育政策1(欧米の教育政策)	日本の教育政策について事前に学習しておくこと
7.	海外の教育政策2(東アジアの教育政策)	日本の教育政策について事前に学習しておくこと
8.	海外の教育政策3(フィンランドの教育政策と世界の教育政策のまとめ)	今まで授業で扱った教育政策について振り返りをしておくこと
9.	発表と話し合い	レポート課題で出された自分自身が居住している地域の子育て政策を発表しますので、レポート課題のコピーを持ってくるとともに、自分が書いた内容について振り返っておくこと
10.	シミュレーションゲーム(説明と練習)	世界の社会情勢や特徴について事前に学習しておくこと
11.	シミュレーションゲーム1	前回渡されたプリントの内容を熟読しておくこと
12.	シミュレーションゲーム2	前回のシミュレーションゲームの振り返りをしておくこと
13.	シミュレーションゲーム3	前回までのシミュレーションゲームの振り返りをしておくこと
14.	シミュレーションゲームまとめと話し合い	前回までのシミュレーションゲームの振り返りをしておくこと
15.	まとめと振り返り	シミュレーションゲーム全体の振り返りをしておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業の予習は特に必要ありませんが、新聞を積極的に読むなど日本や世界の社会情勢や子どもが置かれた状況に目を向ける必要があります。また授業内の話し合いに積極的に参加する姿勢が重要です。特に後半は話し合い中心の参加型の授業となります。レポート課題が前半で出されます。十分な時間をかけて調べまとめる必要があります。

フィードバックの方法:

毎回記述するコメントシートの内容について、次の授業の最初に紹介します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席も含む授業への参加・態度 レポート	40%	公欠以外の欠席や遅刻は認められません。
	40%	丁寧に取材がされている。 内容の詳細さと丁寧な考察。 わかりやすい文章で書かれている。
試験(論述式)	20%	授業での内容を理解している。 授業で紹介した政策を具体的に活用するための内容が表記に反映されている。 わかりやすい文章で書かれている。

教科書:

特に指定しません。授業中にプリントを配布します。

参考書:

池田充裕・山田千明編著『アジアの就学前教育』明石出版 2006

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力

教員との連絡方法:

授業後や研究室で随時質問を受け付けます。わからないところはそのままにせずに、積極的に聞きにきてください。

授業テーマ:

授業の概要: スポーツは国や宗教の違いを越えて同じ目標を共有する事ができるという人類の可能性を表現する文化であるが、その一方で、それぞれの国や社会によってスポーツのあり方が大きく異なっていることも事実である。この授業では、世界各地のこどもを取り巻くスポーツの現状を比較検討することによって、こども文化の多様性を明らかにすると共に、よりよい未来へ向かうスポーツの可能性を探求する。

到達目標: 様々な国や社会におけるスポーツの違いとその歴史的・社会的背景を認識することによってスポーツを通した国際理解を高めると同時に、世界的規模で開催されている代表的スポーツ大会の特徴と問題点を吟味することから国際協力と共生に寄与するスポーツのあり方を構想する。また、こどもの豊かな成長・発達のために行われている各国の取り組みを知り、我が国におけるこどもスポーツの改善の方策を探る。

授業方法: 講義を中心として授業を進めるが、出来る範囲で分担した課題の発表やディスカッションをする機会を設けて、受講者が主体的に取り組める授業にしたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	この授業で知りたいことを箇条書きにしてくる
2.	スポーツとは何か イギリス社会史とスポーツの成立	イギリス発祥スポーツのリストアップ
3.	イギリススポーツの文化的特徴とその理由	イギリス発祥スポーツのルール確認
4.	スポーツの発展とアメリカスポーツの展開	アメリカ生まれのスポーツのリストアップとルールの確認
5.	ドイツ・北欧生まれのスポーツの特徴とその背景	ドイツ・北欧生まれのスポーツのリストアップと内容の確認
6.	日本スポーツの特徴 ― 武道の概観と日本におけるスポーツの普及・発展	剣道と柔道の目的とルールの確認
7.	ヨーロッパとアメリカ大陸の民族スポーツ	ヨーロッパ、アメリカ大陸の民族スポーツのリストアップ
8.	アジアと日本の民族スポーツ	アジアと日本の民族スポーツのリストアップ
9.	スポーツの世界的普及とオリンピックの成立 ― 古代オリンピックと近代オリンピック	古代ギリシャの社会的特徴の確認
10.	スポーツの現代化と国際化 ― 近代オリンピックの歴史的変遷と課題	記憶に残るオリンピック内容のリストアップ
11.	多様な国際的スポーツ競技会の歴史と現状	ワールドカップとグラندスラム大会のあるスポーツ競技のリストアップ
12.	世界のこどもスポーツ	こどもスポーツの問題点を整理しておく
13.	スポーツによる国際協力	スポーツで国際協力になる活動を箇条書きにしておく。
14.	世界の共通文化としてのスポーツの可能性と課題	国際的に人気あるスポーツのリストアップ
15.	スポーツから見た国際理解と国際協力	授業全体を見返しておく

受講者へのメッセージやアドバイス: スポーツには世界中で人気のあるスポーツから、それぞれの文化や社会だけで行われ続けている独特のものまで多様です。そこに謝意や文化の特徴と人類に共通した特徴などが表れています。世界の共通語と言われるスポーツを題材として、文化の多様性を理解すると同時に、多様な人々が協力しながら共生するためのヒントを考えていきましょう。

フィードバックの方法: 基本的に次の授業時間にコメントシート等の内容を報告して前回授業の振り返りと今回授業のイントロダクションとして用いる。また必要に応じて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的取り組み	50	授業での発言や毎回のコメントシート
	授業課題	20	課題の達成度
	授業内容の全体的把握	30	最終コメントシートの内容

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

「風俗」という視点から、近代のこども像の変遷を考える

授業の概要:

前半は「少女」を、後半は「家族」を中心にします。
前半では、みなさんが描く「少女」のイメージを手がかりとして、ちりめん本、少女雑誌、文学作品などに描かれた風俗を通じて「少女」を考察します。
後半では、1990年代の映画、タレント本、音楽などを題材とし、特に「食卓」に注目しながら「家族」について考えます。

到達目標:

・「少女」や「家族」のイメージが作られた経緯と意図を理解する。
・こどもや家族をめぐって、現在問題となっていることに関心をもつ。
・現代の問題の発端は近代社会の形成期にあることを理解する。
・他教科で学んでいることと関連付けながら授業を受けることができる。
・問題意識をもって毎回の感想文が書ける。

授業方法:

講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の進め方と、近代のこども観(成長観)についてのオリエンテーション 作業＝「少女」のイメージを描いてみる	「少女」がどのように定義されているか調べてみよう。
2.	開国前後に欧米諸国から入ってきたこども向け作品の翻訳／日本から発信された作品などについて 作業＝邦訳名から原作を推量する	「ちりめん本」についてネットで調べ、美しい画像を見てみよう。
3.	日本初のグリム童話の邦訳「八つ山羊」	岩波文庫『日本児童文学名作集』(上)を読んでおこう。
4.	明日はおとなに「たけくらべ」の少年少女①	現代語訳「たけくらべ」(講談社ソフィア文庫)を読もう。
5.	明日はおとなに「たけくらべ」の少年少女②	こどもの頃に読んだ「雑誌」について思い出してみよう。明治・大正期の雑誌とどう違うかな。
6.	「少女」を作り出すメディア 少年少女向けの雑誌②	
7.	大正のハローワーク「八つの夜」① 作業＝「八つの夜」着せ替え人形	1910年代の女性はどうな仕事に就いていたのか調べてみよう。
8.	大正のハローワーク「八つの夜」②	現代かなづかいになっている「八つの夜」(春陽堂)を全編読んでおこう。
9.	「女生徒」のこころのなか 現実の自分とこうありたい自分 アニメ「女生徒」DVD	「女生徒」(太宰治)を読んでおこう。
10.	「一家団圓」とはどのように作り出されたか 横並びの食卓「家族ゲーム」DVD	「食卓と家族」(表真美)などを読むと理解が進むだろう。
11.	家族は解散可能か 「ホームレス中学生」と「幸せな食卓」	「ホームレス中学生」(田村裕)「幸せな食卓」(瀬尾まいこ)を読んでみよう。それぞれDVDも出ている。
12.	パジャマを着たこども 「パジャマガール」と「14歳」	「パジャマガール」(きどのりこ)「14歳」(千原ジュニア)を読んでみよう。
13.	家族の中の距離、地域の中の距離 「星の光は昔の光」	「星の光は昔の光」(川上弘美)を読んでみよう。
14.	歌に表れた家族 唱歌や童謡 CD	レポートの提出
15.	自分たちの言葉で歌う ザ・ブルーハーツとその時代 DVD	レポートの提出

受講者へのメッセージやアドバイス:

どの授業にも言えることですが、問題意識をもって受講することが大切です。大教室の授業なので、寝たり、他のことをしたりという誘惑も起こりますが、自分が取り組んでいくテーマを見つけよう！と思って聴いてください。およそ150年間の日本のこどもと風俗について、いくつかの視点から授業をしますから、あなたの問題意識を育てる種は、必ずこの中にあるはずです。

フィードバックの方法:

毎回提出してもらう感想文は貴重な反応として大切に読んでいます。
質問に対して個々に返事することはできませんが、授業中に口頭で取り上げるようにしています。また、共有していきたい感想については、何人かのものを併せてプリントにして配付します。(原則的に個人名は出しません。)同じ授業を受けた人が、こんなに深く考えているのに驚いた、という感想が寄せられることもたびたびあります。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	60%	出席し、その時間に学んだことについての感想がきちんと書いていれば「平常点」として加算する。
	レポート	40%	課題については授業中に詳しく指示する。

教科書:

特に定めない

参考書:

石澤小枝子、ちりめん本のすべて、三弥井書店
与謝野晶子児童文学全集『八つの夜』、春陽堂
表真美、食卓と家族、世界思想社
村瀬敬子、冷たいおいしさの誕生、論創社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で連絡してください。また、レポートの説明プリントを配付する際にEメールを記載します。

授業テーマ：音や色の体験、点字や介助の体験を通して、人とのつながりと心のバリアフリーを考え、自分自身と出会う

授業の概要：ボランティア活動の現実を紹介しながら、現場で起こる諸問題を共に考える。その中で、「障がい者」「健常者」、「強者」「弱者」の枠を超え、自分を含め、人間を深く豊かに捉えられるよう、五感を使っのての実習と授業内での話し合いを大切にする。美しいもの(芸術)、文化は、人間にとって大切な魂の糧であり、それらを通して、単なる「人助け」ではない、創造的な人とのつながりを体験できるボランティアの行為を、可能な限り授業のなかで実践する。

到達目標：自分自身を深く認識し、新しい世界を知り、開かれた心で人と接する力を養うことを目標とする

授業方法：手や体を通して表現し、色や音を楽しみながら、実際に人と触れ合う授業。五感を使って人と触れ合う喜びを伝え、それが障がいのある人やお年寄り等とのコミュニケーションの力となることを実感できるよう、具体的な実習を中心に授業を行う。また、実際のボランティア活動の現場から、成果やトラブル、社会の中で求められる役割を紹介し、毎回、各自が感じたことを発表し、話し合いながら授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	＜ボランティア活動の基本＞ 名前を名乗りあい、世界に一人の私を実感する。今イメージする「ボランティア像」について各自が思いを述べ合う。 小さな楽器を用いて「音」を体験し、即興での合奏を試みる。ー相手の音に耳をすませる体験ー (レポート:私について)	最初の授業では、準備は必要としない。授業後、授業を受ける前とあとで、自分のなかで変化があったかどうか確認する。
2.	＜色の体験1＞ クレヨン画による色の体験。評価されるための絵ではなく、自由に手を動かし、思いがけない色同士の調和を感じる。	出来上がった作品を各自持ち帰り、ブックカバー等身近に使用できるものに形を変える。
3.	＜ビデオ鑑賞1＞ 本学の先輩、井深八重氏の生涯を知り、予想外の出来事に立ち向かう心構えを考える。また、日本のハンセン病について歴史や患者の人々について学ぶ。	それぞれが、可能な範囲でハンセン病について調べる
4.	＜色の体験2＞ 水彩画による色の体験。水を媒介にする絵を通して、無数の色の出現と各自の個性を味わう。	準備、後片付け等、知らない学生との共同作業を積極的に行う。
5.	＜楽器創り1＞ 空き缶による楽器作り。捨てられるモノが創造的に生かされる面白さ、楽しさと、人との協働作業を体験する。	次回に備え、空き缶を用意する。
6.	4. で完成させた絵を楽器に貼る。 ＜楽器作り2＞ 5. で作った楽器を使ったグループ発表。絵、楽器作りなどこれまでの作業が「人を楽しませる」ことにつながったことを実感しながら、最後は全員で即興で合奏する。	次回に備え、グループにわかれ、楽器を使った発表を考える。
7.	＜ビデオ鑑賞2＞ あるハンセン病回復者の生き方に学ぶ。知らない世界があること、過酷な境遇にあっても、人のために生きる人が存在することを知り、人の心の豊かさに気づき、世界への関心を高める。	各グループで、発表を振り返り、改善点を話し合う。 (13. の授業準備として)
8.	＜私と他人について考える＞ 7. の授業の後に書いた手紙を音読し、録音する。(男性は盲人であるため。後日西村が郵送) 自分がどのような人間でありたいか、お互いに率直な声を聞きあう。	ビデオの主人公の男性(現在90歳、)にあてて、短い手紙を書く
9.	＜介助実習＞ 視覚障害者の誘導の実習。他人に自分の安全をゆだねる体験を通し、「信頼」を考える	特になし。
10.	＜点字1＞ 視覚障害者の立場を想像しながら、点字の基礎を学び、点字の名刺を作成する	町中での、障がいのある人への「声かけ」を可能な限り実践してみる
11.	＜点字2＞ 点字で、視覚障害者にあてて短い手紙を書く。	自分の名前だけ、点字での表記を覚える
12.	＜世界の子供に出会う＞ インドのスラムの子どもへの芸術教育の実践をDVD等で紹介し、異文化の人々と協力しあうための具体的なノウハウを学ぶ。	点字を打つ感触を体に記憶させる
13.	＜コミュニケーションの体験＞ 11. の授業で書いた手紙の返事を受け取り、見知らぬ人と気持ちを通わせる体験をする。またインドの子供たちに、絵やおり紙のプレゼントを作成する。	インドの子供たちに自分ができていることを考える
14.	＜実践＞ グループにわかれ、障がいのある人、お年寄り、子どもなどを対象にした、5分程度の「遊び」を発表しあう。	受け取った点字の「返事」をじっくりと読む。5.で作ったグループで、次回のために、「遊び」の内容を話し合う
15.	＜まとめ＞ 14. の発表と、授業で感じた事の分かち合い。	各グループごとに、準備から反省まで、発表の経過をまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス：ありのまま、楽な気持ちで受講してください。

フィードバックの方法：レポートについては、授業のなかでまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	到達目標「新しい世界を知る」、「開かれた心で人と接する」に関して、授業で体験したことが自分の言葉で表現できているか
	レポート	20	到達目標「自分自身を深く認識する」に関して、率直に自分と向き合っているか
	発表、討論	30	グループ発表での自分の役割とその達成度

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡
方法:

yuri-n@vmail.plala.or.jp

授業テーマ:	家族とジェンダー、家族を取り巻く社会・政策																																		
授業の概要:	本講義では、少子高齢化する家族の「生活とジェンダー課題、家族を取り巻く社会・政策等の関係」について講義する。既存の家族社会学領域の知見だけでなく、文化人類学、ジェンダー研究などが蓄積してきた家族に関する諸研究や諸理論を総合的に講義し、学際的かつ国際的視野にたち、家族の多様性・複雑性を理解できる人材の育成を目指す。																																		
到達目標:	(1)世界・日本には多様な家族の形態・つながりがあることを理解する。 (2)日本の家族制度(とくに、旧民法・新民法、日本国憲法)の特徴と変化を理解する。 (3)家族内の様々な役割とそのバリエーション等を学ぶ。																																		
授業方法:	講義と議論																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. マクロにみた日本の家族とその変容ー統計資料を用いながらー</td><td>とくに無い。</td></tr><tr><td>2. 高度経済成長期という特殊な時代と家族</td><td>統計からみた日本の家族の特徴をノート整理しておく。</td></tr><tr><td>3. 専業主婦の誕生・専従子育て者の誕生と「母性」・「父性」・「養育性」</td><td>高度経済成長期の日本の家族の特徴について、前回配布の資料を整理・理解しておく。</td></tr><tr><td>4. 日本の法律と家族ー旧民法に見る親子、夫婦、血族</td><td>高度経済成長期と1920年代の日本との共通点と差異点を整理し、課題とされたレポートにまとめる。</td></tr><tr><td>5. 日本の法律と家族ー新民法に見る親子、夫婦、血族</td><td>旧民法の特徴をノートに整理してくる。</td></tr><tr><td>6. 新民法に内包された諸問題ージェンダー視点からみた日本の家族・戸籍等</td><td>新民法の特徴をノートに整理してくる。</td></tr><tr><td>7. 兼業主婦と専業主婦、主夫と主婦ー性別役割分担を考えるー</td><td>法律からみた日本の家族の特徴を理解し、個々の疑問点をまとめておく。</td></tr><tr><td>8. 「しきたり雀」から考える私たちの暮らし</td><td>家庭内の夫婦の役割について、各自の理想、自分が育った家族の特徴についてノート整理しておく。</td></tr><tr><td>9. ドメスティック・バイオレンスと日本の法律・世界の法律</td><td>パロディー「しきたり雀」で注目した点、疑問点を記録してくる。</td></tr><tr><td>10. ドメスティック・バイオレンス事例と日本の政策</td><td>夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する(その1)。</td></tr><tr><td>11. 児童虐待と21世紀の日本社会</td><td>夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する(その2)。</td></tr><tr><td>12. 日本の報道紙にみる夫婦・親子の今日的問題について議論する。</td><td>夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する(その3)。</td></tr><tr><td>13. 世界の家族ースウェーデンの結婚と家族ー(ビデオ視聴から)</td><td>先の全3回の夫婦・親子問題に関する資料をまとめレポートを提出する。</td></tr><tr><td>14. 新生殖技術と家族</td><td>親子とテクノロジーに関わる情報を収集して授業にのぞむ。</td></tr><tr><td>15. ディスカッションー21世紀家族を創るー</td><td>今までの授業に関する疑問、意見をノートに整理してのぞむ。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. マクロにみた日本の家族とその変容ー統計資料を用いながらー	とくに無い。	2. 高度経済成長期という特殊な時代と家族	統計からみた日本の家族の特徴をノート整理しておく。	3. 専業主婦の誕生・専従子育て者の誕生と「母性」・「父性」・「養育性」	高度経済成長期の日本の家族の特徴について、前回配布の資料を整理・理解しておく。	4. 日本の法律と家族ー旧民法に見る親子、夫婦、血族	高度経済成長期と1920年代の日本との共通点と差異点を整理し、課題とされたレポートにまとめる。	5. 日本の法律と家族ー新民法に見る親子、夫婦、血族	旧民法の特徴をノートに整理してくる。	6. 新民法に内包された諸問題ージェンダー視点からみた日本の家族・戸籍等	新民法の特徴をノートに整理してくる。	7. 兼業主婦と専業主婦、主夫と主婦ー性別役割分担を考えるー	法律からみた日本の家族の特徴を理解し、個々の疑問点をまとめておく。	8. 「しきたり雀」から考える私たちの暮らし	家庭内の夫婦の役割について、各自の理想、自分が育った家族の特徴についてノート整理しておく。	9. ドメスティック・バイオレンスと日本の法律・世界の法律	パロディー「しきたり雀」で注目した点、疑問点を記録してくる。	10. ドメスティック・バイオレンス事例と日本の政策	夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する(その1)。	11. 児童虐待と21世紀の日本社会	夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する(その2)。	12. 日本の報道紙にみる夫婦・親子の今日的問題について議論する。	夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する(その3)。	13. 世界の家族ースウェーデンの結婚と家族ー(ビデオ視聴から)	先の全3回の夫婦・親子問題に関する資料をまとめレポートを提出する。	14. 新生殖技術と家族	親子とテクノロジーに関わる情報を収集して授業にのぞむ。	15. ディスカッションー21世紀家族を創るー	今までの授業に関する疑問、意見をノートに整理してのぞむ。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. マクロにみた日本の家族とその変容ー統計資料を用いながらー	とくに無い。																																		
2. 高度経済成長期という特殊な時代と家族	統計からみた日本の家族の特徴をノート整理しておく。																																		
3. 専業主婦の誕生・専従子育て者の誕生と「母性」・「父性」・「養育性」	高度経済成長期の日本の家族の特徴について、前回配布の資料を整理・理解しておく。																																		
4. 日本の法律と家族ー旧民法に見る親子、夫婦、血族	高度経済成長期と1920年代の日本との共通点と差異点を整理し、課題とされたレポートにまとめる。																																		
5. 日本の法律と家族ー新民法に見る親子、夫婦、血族	旧民法の特徴をノートに整理してくる。																																		
6. 新民法に内包された諸問題ージェンダー視点からみた日本の家族・戸籍等	新民法の特徴をノートに整理してくる。																																		
7. 兼業主婦と専業主婦、主夫と主婦ー性別役割分担を考えるー	法律からみた日本の家族の特徴を理解し、個々の疑問点をまとめておく。																																		
8. 「しきたり雀」から考える私たちの暮らし	家庭内の夫婦の役割について、各自の理想、自分が育った家族の特徴についてノート整理しておく。																																		
9. ドメスティック・バイオレンスと日本の法律・世界の法律	パロディー「しきたり雀」で注目した点、疑問点を記録してくる。																																		
10. ドメスティック・バイオレンス事例と日本の政策	夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する(その1)。																																		
11. 児童虐待と21世紀の日本社会	夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する(その2)。																																		
12. 日本の報道紙にみる夫婦・親子の今日的問題について議論する。	夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する(その3)。																																		
13. 世界の家族ースウェーデンの結婚と家族ー(ビデオ視聴から)	先の全3回の夫婦・親子問題に関する資料をまとめレポートを提出する。																																		
14. 新生殖技術と家族	親子とテクノロジーに関わる情報を収集して授業にのぞむ。																																		
15. ディスカッションー21世紀家族を創るー	今までの授業に関する疑問、意見をノートに整理してのぞむ。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	(1)全授業終了時に、必ず質疑を確認し、その内容は次回の授業に反映させる。 (2)さらに、必要なら次回の授業で補足資料を配付し説明する。																																		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>2～3回のレポート提出を求める</td><td>30%</td><td>・自分で深く思慮したレポートであること。 ・事実を正確に理解していること。 ・引用・参考文献が正確に明記されていること。</td></tr><tr><td>記述式試験を行う</td><td>70%</td><td>複数回のレポート内容を点検し、記述試験と総合して評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	2～3回のレポート提出を求める	30%	・自分で深く思慮したレポートであること。 ・事実を正確に理解していること。 ・引用・参考文献が正確に明記されていること。	記述式試験を行う	70%	複数回のレポート内容を点検し、記述試験と総合して評価する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
2～3回のレポート提出を求める	30%	・自分で深く思慮したレポートであること。 ・事実を正確に理解していること。 ・引用・参考文献が正確に明記されていること。																																	
記述式試験を行う	70%	複数回のレポート内容を点検し、記述試験と総合して評価する。																																	
教科書:	なし																																		
参考書:	適宜資料を配布する。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	質疑応答は授業内・授業後に教室や研究室訪問等に対応する。 初回授業で受講生には、質問対応用のメールアドレスを伝える。																																		

15. まとめ アニメと社会問題 将来のアニメーションについて
アニメ・ビジネス、ポケモン・ショック光過敏症事件、海外でのマンガ・アニメ文化の状況 アジア(韓国、中国、インド)CG(コンピュータ・グラフィック)3Dアニメの発達、CMアニメ、インターネット、MTV・コンサートのアニメ活用 「初音ミク」「アナと雪の女王」合唱現象
- 配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

授業計画に記載していない作品の映像も利用する。
授業で見せるアニメ作品は短く、一部分を見ることになるので、なるべくAVライブラリー、テレビ、レンタル・ビデオなどを利用して、全編全部を見る機会を作り、全体像を把握して欲しい。
参考資料として映像作品の紹介をするので、時間の作れる学生は、それらを見ることを希望する。就職活動等で欠席した学生は、配布プリントを読み、上記の方法などによって出来るだけ映像を見ること。

フィードバックの
方法:

受講生多数でディスカッションのできない場合は、出席票での記述にてコミュニケーションを図る。
出席票レポート、中間レポートの代表的な質問、理解の間違い等を授業においてを行う。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席票を兼ねたレポート	10	
レポート	10	オリジナリティー、論理的に説明できているかを基準とする。
期末レポート	80	到達目標を理解した上で、自分がどの立場をとるのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とし、オリジナリティーを評価する。

教科書:

適宜、プリントを配付。

参考書:

世界アニメーション映画史(著者:伴野孝司、望月信夫、出版:ぱるぷ)
日本のアニメ全史(編著:山口康男、出版:テン・ブックス)
図説テレビアニメ全書(編著:御園まこと、出版:原書房)
アニメーションの世界へようこそ(著者:山村浩二、出版:岩波ジュニア新書)
アニメーション学入門(著者:津堅信之、出版:平凡社新書)
「ジャパニメーション」はなぜ敗れるか(著者:大塚英志、出版:角川ONEテーマ21・角川書店)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、歴史認識、世界を見る眼、メディア・リテラシー

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応。Eメール(kaoru828@gray.plala.or.jp)

授業テーマ:	「数と式」とその社会への活用について																																		
授業の概要:	小学校や中学校で学習する「数」に関する事柄が、社会の事象のどのような場面でどのように使用されているかを考察していきます。小学校の算数で学習する「数」は、中学校では、文字を用いた式表現になります。この点が子どもたちのつまずきとなっています。この授業では、小学校から中学校へ移る過程で曖昧な点を明らかにし、異なった視点から見直します。																																		
到達目標:	1. 学校数学における数と式に関する内容の背景に関する知識を獲得し理解する。 2. 1の内容を活用する態度を身につける。																																		
授業方法:	講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 幅広くアイデアを見出すコツは何でしょうか。</td><td>創造的思考という用語を調べておく。 創造性思考の種類について復習する。</td></tr><tr><td>2. 等号＝にはどんな役割があるでしょうか。</td><td>学校で学んだ等号＝の役割を思い出しておく。 等号＝の数学的役割の種類について復習する。</td></tr><tr><td>3. 計算で用いる「式」の語源は何でしょうか。</td><td>学校で学んだ方程式を思い出しておく。 「式」「方程式」という用語を復習する。</td></tr><tr><td>4. 文字の式を用いるとなぜ計算がたやすくなるのでしょうか。</td><td>学校で学んだ文字式を思い出しておく。 文字式を用いる意義を復習する。</td></tr><tr><td>5. 順思考と逆思考とはどう違うのでしょうか。</td><td>順思考、逆思考の用語を調べておく。 どの学校段階で逆思考、順思考を用いるかを復習する。</td></tr><tr><td>6. 方程式の本当の意味は何でしょうか</td><td>学校で学んだ方程式を思い出しておく。 方程式と変数を復習する。</td></tr><tr><td>7. 日常の事象の中で方程式をどのように用いることができるでしょうか。</td><td>学校で学んだ方程式の応用を思い出しておく。 方程式の日常への適用を復習する。</td></tr><tr><td>8. 問題解決にはどんな段階があるでしょうか。</td><td>ポリアについて調べておく。 ポリアの4段階を生活に適用することを復習する。</td></tr><tr><td>9. 加減法と代入法とではどちらが大切でしょうか。</td><td>学校で学んだ連立方程式を思い出しておく。 加減法、代入法の各々の利点を復習する。</td></tr><tr><td>10. 不等式にはどんな種類があるでしょうか。</td><td>学校で学んだ不等式を思い出しておく。 学校で学んでいない不等式を復習する。</td></tr><tr><td>11. 不等式の両辺にマイナスの数をかけるとなぜ大小関係が変わるのでしょうか。</td><td>不等式の性質を思い出しておく。 不等式の性質の子どもへの指導方法を復習する。</td></tr><tr><td>12. 「関数」とはいったい何だったでしょうか。</td><td>学校で学んだ関数を思い出しておく。 関数概念を復習する。</td></tr><tr><td>13. 関数関係はどのようにして表現できるでしょうか。</td><td>関数関係という用語を思い出しておく。 関数、写像、関係などの用語を復習する。</td></tr><tr><td>14. 確率は実験で求めますか、計算で求めますか。日常のどんな場面で確率を使うでしょうか。</td><td>学校で学んだ確率を思い出しておく。 確率には数学的と統計的の2つがあることを復習する。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 幅広くアイデアを見出すコツは何でしょうか。	創造的思考という用語を調べておく。 創造性思考の種類について復習する。	2. 等号＝にはどんな役割があるでしょうか。	学校で学んだ等号＝の役割を思い出しておく。 等号＝の数学的役割の種類について復習する。	3. 計算で用いる「式」の語源は何でしょうか。	学校で学んだ方程式を思い出しておく。 「式」「方程式」という用語を復習する。	4. 文字の式を用いるとなぜ計算がたやすくなるのでしょうか。	学校で学んだ文字式を思い出しておく。 文字式を用いる意義を復習する。	5. 順思考と逆思考とはどう違うのでしょうか。	順思考、逆思考の用語を調べておく。 どの学校段階で逆思考、順思考を用いるかを復習する。	6. 方程式の本当の意味は何でしょうか	学校で学んだ方程式を思い出しておく。 方程式と変数を復習する。	7. 日常の事象の中で方程式をどのように用いることができるでしょうか。	学校で学んだ方程式の応用を思い出しておく。 方程式の日常への適用を復習する。	8. 問題解決にはどんな段階があるでしょうか。	ポリアについて調べておく。 ポリアの4段階を生活に適用することを復習する。	9. 加減法と代入法とではどちらが大切でしょうか。	学校で学んだ連立方程式を思い出しておく。 加減法、代入法の各々の利点を復習する。	10. 不等式にはどんな種類があるでしょうか。	学校で学んだ不等式を思い出しておく。 学校で学んでいない不等式を復習する。	11. 不等式の両辺にマイナスの数をかけるとなぜ大小関係が変わるのでしょうか。	不等式の性質を思い出しておく。 不等式の性質の子どもへの指導方法を復習する。	12. 「関数」とはいったい何だったでしょうか。	学校で学んだ関数を思い出しておく。 関数概念を復習する。	13. 関数関係はどのようにして表現できるでしょうか。	関数関係という用語を思い出しておく。 関数、写像、関係などの用語を復習する。	14. 確率は実験で求めますか、計算で求めますか。日常のどんな場面で確率を使うでしょうか。	学校で学んだ確率を思い出しておく。 確率には数学的と統計的の2つがあることを復習する。	15. まとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 幅広くアイデアを見出すコツは何でしょうか。	創造的思考という用語を調べておく。 創造性思考の種類について復習する。																																		
2. 等号＝にはどんな役割があるでしょうか。	学校で学んだ等号＝の役割を思い出しておく。 等号＝の数学的役割の種類について復習する。																																		
3. 計算で用いる「式」の語源は何でしょうか。	学校で学んだ方程式を思い出しておく。 「式」「方程式」という用語を復習する。																																		
4. 文字の式を用いるとなぜ計算がたやすくなるのでしょうか。	学校で学んだ文字式を思い出しておく。 文字式を用いる意義を復習する。																																		
5. 順思考と逆思考とはどう違うのでしょうか。	順思考、逆思考の用語を調べておく。 どの学校段階で逆思考、順思考を用いるかを復習する。																																		
6. 方程式の本当の意味は何でしょうか	学校で学んだ方程式を思い出しておく。 方程式と変数を復習する。																																		
7. 日常の事象の中で方程式をどのように用いることができるでしょうか。	学校で学んだ方程式の応用を思い出しておく。 方程式の日常への適用を復習する。																																		
8. 問題解決にはどんな段階があるでしょうか。	ポリアについて調べておく。 ポリアの4段階を生活に適用することを復習する。																																		
9. 加減法と代入法とではどちらが大切でしょうか。	学校で学んだ連立方程式を思い出しておく。 加減法、代入法の各々の利点を復習する。																																		
10. 不等式にはどんな種類があるでしょうか。	学校で学んだ不等式を思い出しておく。 学校で学んでいない不等式を復習する。																																		
11. 不等式の両辺にマイナスの数をかけるとなぜ大小関係が変わるのでしょうか。	不等式の性質を思い出しておく。 不等式の性質の子どもへの指導方法を復習する。																																		
12. 「関数」とはいったい何だったでしょうか。	学校で学んだ関数を思い出しておく。 関数概念を復習する。																																		
13. 関数関係はどのようにして表現できるでしょうか。	関数関係という用語を思い出しておく。 関数、写像、関係などの用語を復習する。																																		
14. 確率は実験で求めますか、計算で求めますか。日常のどんな場面で確率を使うでしょうか。	学校で学んだ確率を思い出しておく。 確率には数学的と統計的の2つがあることを復習する。																																		
15. まとめ																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	算数・数学が苦手だった人は「なるほど、そうだったのか」と思える機会となり、算数・数学が得意だった人は、この学びをきっかけとしてスキルアップできます。																																		
フィードバックの方法:	授業内の小演習では、受講生が発表し、それにコメントします。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験(持込可)</td><td>50</td><td>授業内容の知識の振り返りにより到達目標1を評価する。</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>50</td><td>積極的に授業に参加し、到達目標2を評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験(持込可)	50	授業内容の知識の振り返りにより到達目標1を評価する。	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標2を評価する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
定期試験(持込可)	50	授業内容の知識の振り返りにより到達目標1を評価する。																																	
授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標2を評価する。																																	
教科書:	プリントを配布する。																																		
参考書:	適宜紹介する。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力																																		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:

多文化・格差社会に着目した社会科・国際理解の教材開発研究

授業の概要:

・小学校社会科教科書を丹念に分析、検討し、社会科(地理, 歴史, 公民)の内容研究を行い、そのうえで、指導案、教材づくりをする。

・国際理解教育、特に、多文化、貧困、開発、平和、人権など、グローバルな世界について研究し、そのうえで、指導案、教材づくりをする。

到達目標:

知識理解:社会科教育及び国際理解教育の授業内容、授業づくりに関する理解を深めることができる。

技能:社会科教育及び国際理解教育の教材研究、授業づくりの技能を高めることができる。

関心・意欲・態度:社会科教育及び国際理解教育の教材研究、授業づくりの研究を通して、社会科教育、国際理解教育について関心を持つことができる。

授業方法:

現行教科書の分析、教材研究及び授業づくりのワークショップ、グループ活動

実践的には、ワークショップをはじめ、授業研究、フィールドワークなどを適宜取り入れる

ゼミの共同研究として、社会科や国際理解の教材作りをすることが多くなる

社内校を含めて近隣の小学校に作成した教材の「出前授業」に行くこともある

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、ゼミ開き/研究紹介	春休みの宿題
2.	春休みの宿題の共有	
3.	小学校社会科教科書の内容分析1(中学年1)(都道府県)	現行小学校社会科教科書の熟読
4.	小学校社会科教科書の内容分析2(中学年2)(防災安全)	現行小学校社会科教科書の熟読
5.	小学校社会科教科書の内容分析3(高学年1)(日本の産業1)	現行小学校社会科教科書の熟読
6.	小学校社会科教科書の内容分析4(高学年2)(日本の産業2)	現行小学校社会科教科書の熟読
7.	小学校社会科教科書の内容分析5(高学年3)(日本の歴史1)	現行小学校社会科教科書の熟読
8.	小学校社会科教科書の内容分析6(高学年4)(日本の歴史2)	現行小学校社会科教科書の熟読
9.	小学校社会科教科書の内容分析7(高学年5)(国際社会)	現行小学校社会科教科書の熟読
10.	小学校社会科教科書の内容分析のふりかえり	現行小学校社会科教科書の熟読
11.	国際理解教育の教材研究1(多文化)	参考文献の熟読
12.	国際理解教育の教材研究2(貧困)	参考文献の熟読
13.	国際理解教育の教材研究3(開発)	参考文献の熟読
14.	国際理解教育の教材研究4(平和)	参考文献の熟読
15.	国際理解教育の教材研究5(人権)	参考文献の熟読
16.	国際理解教育の教材研究のふりかえり	参考文献の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:

キャリアとして小学校教員をめざすほか、国内外での多文化、貧困に関わるフィールドでのこども支援をめざしてほしい。

必ず、課題図書を読み、パワーポイント等で発表できるようにしておく

別に、自分の追究すべき課題に対応したゼミ課題レポートを課す

フィードバックの方法:

グループ活動(話し合い、ワークショップ)へのコメント

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的に取り組んでいるか、討論への参加ができているか
ゼミ発表・レポート	30	積極的に取り組んでいるか、授業目標に到達しているか
最終レポート(約5000字)	50	授業目標に到達しているか

教科書:

参考書:

小学校社会科教科書(東京書籍、日本文教出版など)

田中治彦編(2016)『SDGSと開発教育』(学文社)

日本国際理解教育学会編(2015)『国際理解教育ハンドブック』(明石書店)

日本国際理解教育学会編(2010)『グローバル時代の国際理解教育』(明石書店)

原田智仁編(2015)『社会科教育のルネサンス』保育出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

e-mail、面談

授業テーマ:

「運動あそび」と「こどもスポーツ」の諸問題

授業の概要:

私たちは、これまでにない豊かな社会に生きている。しかし、この豊かさによる社会やライフスタイルの変化は、こどもたちの運動あそびやスポーツをはじめとする生活全般に大きな変化をもたらし、発育・発達や健康にも深刻な影響を与えている。この授業では、こどもたちが自らの力で生き生きと成長するための運動あそび・スポーツや、家庭・学校・地域社会等のあり方を実際の活動も経験しながら探っていく。

到達目標:

子どもの運動遊びやスポーツと関わる諸課題領域の広がりを知り、諸課題の内容とその解決の方向性を学ぶことで共通認識として、秋学期以降の学びの基礎を形成する。

授業方法:

講義・分担発表・ディスカッションと、実技やフィールドワークなどを並行して行い、総合的に授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	自身の興味領域やテーマなどを整理して授業に臨む
2.	運動あそびやこどものスポーツの諸問題を巡る課題領域の広がり 分担報告1	報告者はテーマを設定して事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
3.	運動あそびやこどものスポーツの諸問題を巡る課題領域の広がり 分担報告2	報告者はテーマを設定して事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
4.	運動あそびやこどものスポーツの諸問題を巡る課題領域の広がり 分担報告3	報告者はテーマを設定して事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
5.	こどもの発育発達と運動あそびやスポーツの関係1	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
6.	こどもの発育発達と運動あそびやスポーツの関係2	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
7.	運動あそびやこどものスポーツ各論 こどものライフスタイルの変化と運動あそび・スポーツの現状と課題1	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
8.	運動あそびやこどものスポーツ各論 こどものライフスタイルの変化と運動あそび・スポーツの現状と課題2	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
9.	運動あそびやこどものスポーツ各論 健康と遊びの観点から見たこどもの諸問題1	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
10.	運動あそびやこどものスポーツ各論 健康と遊びの観点から見たこどもの諸問題2	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
11.	運動あそびやこどものスポーツ各論 健康と遊びの観点から見たこどもの諸問題3	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
12.	運動あそびやこどものスポーツ各論 運動あそびやこどもスポーツと家庭・学校・地域社会1	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
13.	運動あそびやこどものスポーツ各論 運動あそびやこどもスポーツと家庭・学校・地域社会2	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
14.	運動あそびやこどものスポーツ各論 運動あそびやこどもスポーツと家庭・学校・地域社会3	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
15.	総合討議	春学期中のすべての発表や質疑応答を整理して授業に臨む

受講者へのメッセージやアドバイス:

応用演習テーマについての基本的認識を共有すると共に、自分の興味関心をより明確にして深める学期です。発表時はもちろん、それ以外の授業時間においても常に自分自身の課題として主体的に授業に参加することで興味と認識を深めて下さい。そうすることによって、自分の興味・関心の方向性や内容も明確になっていくでしょう。

フィードバックの方法:

それぞれの分担発表やそれに対する様々な意見などについて授業時間にそれぞれにまとめやコメントをする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加	40	積極的な意見発表など
	レポートと発表	40	課題の内容
	授業運営等への貢献	20	授業ゼミ内での役割分担など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	「数・量・形」の学び・算数科教育																																
授業の概要:	子どもは知識・技能をどのように獲得していくのか、大人は子どもにどのような学びの場を設定するのか、は重要な課題です。とりわけ、思考力・判断力・表現力を養うことは子どもへの教育実践で求められています。事象を整理して全体を把握することや筋道を立てて見通しをもつことは現代社会では不可欠となっています。この応用演習では、心理的要因をも含めて総合的な人間力を高めることを目指します。																																
到達目標:	1. 授業テーマに関する知識を獲得し技能を身につける。 2. 授業テーマに関わる資質を養う。 3. 授業テーマに関する関心・意欲・態度を向上する。																																
授業方法:	講義/演習/実技の混合																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>役割分担を確認し、自分のプレゼンテーションの準備を行う。</td></tr><tr><td>2. 算数的活動(平面図形)</td><td>ブロックを用いた教育実践について調べる。</td></tr><tr><td>3. 算数的活動(立体図形)</td><td>フレームを用いた立体づくりの教育実践を自分なりに考える。</td></tr><tr><td>4. 模擬実践(幼・保)その1</td><td>模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価しプラス面を学ぶ。</td></tr><tr><td>5. 模擬実践(幼・保)その2</td><td>模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。</td></tr><tr><td>6. 模擬実践(幼・保)その3</td><td>模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。</td></tr><tr><td>7. 模擬実践(幼・保)その4</td><td>模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。</td></tr><tr><td>8. 模擬授業(小)その1</td><td>模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。</td></tr><tr><td>9. 模擬授業(小)その2</td><td>模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。</td></tr><tr><td>10. 模擬授業(小)その3</td><td>模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。</td></tr><tr><td>11. 模擬授業(小)その4</td><td>模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。</td></tr><tr><td>12. 小学生との合同学習</td><td>小学生への学習支援について自己評価する。</td></tr><tr><td>13. 模範的授業の分析</td><td>ベテラン教師の授業映像から学んだことをまとめる。</td></tr><tr><td>14. 幼児教育・児童教育と教具</td><td>年齢段階に応じた教具のリストを作成する。</td></tr><tr><td>15. 振り返り・まとめ</td><td>本学期を振り返るとともに、次学期への準備事項をまとめる。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	役割分担を確認し、自分のプレゼンテーションの準備を行う。	2. 算数的活動(平面図形)	ブロックを用いた教育実践について調べる。	3. 算数的活動(立体図形)	フレームを用いた立体づくりの教育実践を自分なりに考える。	4. 模擬実践(幼・保)その1	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価しプラス面を学ぶ。	5. 模擬実践(幼・保)その2	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。	6. 模擬実践(幼・保)その3	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。	7. 模擬実践(幼・保)その4	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。	8. 模擬授業(小)その1	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。	9. 模擬授業(小)その2	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。	10. 模擬授業(小)その3	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。	11. 模擬授業(小)その4	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。	12. 小学生との合同学習	小学生への学習支援について自己評価する。	13. 模範的授業の分析	ベテラン教師の授業映像から学んだことをまとめる。	14. 幼児教育・児童教育と教具	年齢段階に応じた教具のリストを作成する。	15. 振り返り・まとめ	本学期を振り返るとともに、次学期への準備事項をまとめる。
授業内容	準備学習等の内容																																
1. オリエンテーション	役割分担を確認し、自分のプレゼンテーションの準備を行う。																																
2. 算数的活動(平面図形)	ブロックを用いた教育実践について調べる。																																
3. 算数的活動(立体図形)	フレームを用いた立体づくりの教育実践を自分なりに考える。																																
4. 模擬実践(幼・保)その1	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価しプラス面を学ぶ。																																
5. 模擬実践(幼・保)その2	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。																																
6. 模擬実践(幼・保)その3	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。																																
7. 模擬実践(幼・保)その4	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。																																
8. 模擬授業(小)その1	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。																																
9. 模擬授業(小)その2	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。																																
10. 模擬授業(小)その3	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。																																
11. 模擬授業(小)その4	模擬授業者は自分の実践を振り返る。子ども役の人は模擬授業を評価し、プラス面を学ぶ。																																
12. 小学生との合同学習	小学生への学習支援について自己評価する。																																
13. 模範的授業の分析	ベテラン教師の授業映像から学んだことをまとめる。																																
14. 幼児教育・児童教育と教具	年齢段階に応じた教具のリストを作成する。																																
15. 振り返り・まとめ	本学期を振り返るとともに、次学期への準備事項をまとめる。																																
受講者へのメッセージやアドバイス:																																	
フィードバックの方法:	模擬実践・模擬授業については、質疑とともに指導助言を行う。																																
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																														
「成績評価基準」:	模擬実践・模擬授業	50	到達目標1、2に伴う準備と実技の評価と到達目標3に伴う評価を行う。																														
	授業への参加度	50	模擬実践・模擬授業への質疑の参加度について到達目標3に伴う評価を行う。																														
教科書:	プリントを配布する。																																
参考書:	志水廣編、小学校算数科の指導 第2版、建帛社 志水廣、算数教科書の用語・記号・教え方 ガイドブック、明治図書 志水廣、算数教科書の定義・定理(性質) 事典、明治図書 さくまゆみこ、1つぶのおこめ、光村教育図書 はまのゆか、九九をとなえる王子さま、あかね書房																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、思いやる力																																
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業前後に教室内で応対																																

授業テーマ:

ことばの学び(国語教育)の研究

授業の概要:

ことばを学ぶことは、どういことなのか。文学を読むことを例にして考えていく。具体的には、新美南吉の児童文学作品を使って、作品と作家の生涯や風土の関わり、文学作品の読み方、教材研究と授業づくりの方法に習熟していく。

到達目標:

①作品と作家の生涯や風土の関わりについて、新美南吉作品を例に理解している。
②文学作品の読み方について、その方法を理解して、様々な作品の読みに応用しようとしている。
③教材研究と授業づくりの方法について、新美南吉作品を例に理解している。
④自分の研究課題を発見しようとしている。

授業方法:

最初は講義形式で、研究の基本的な方法について論じる。次に、演習形式で課題ごとに探究し、発表・討議を行う。発表担当を決めるので、発表者は事前に資料を読み込み、レジュメを作成する。発表が終わった後は、発表を振り返り、次の発表へつなげる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスを読んでおく。
2.	ことばの学びについての各人の問題意識を交流する。国語教育研究の現状と課題	ことばの学びについての自分の問題意識をまとめておく。
3.	作品と作家の生涯や風土の関わり～新美南吉作品を例に(1)	作品と作家の生涯や風土の関わりについて、学んだことをまとめておく。
4.	作品と作家の生涯や風土の関わり～新美南吉作品を例に(2)	作品と作家の生涯や風土の関わりについて、学んだことをまとめておく。
5.	文学作品の読み方～新美南吉作品を例に(1)	当日に取り扱う新美南吉作品を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとめておく。また、事後には学んだことをまとめておく。
6.	文学作品の読み方～新美南吉作品を例に(2)	当日に取り扱う新美南吉作品を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとめておく。また、事後には学んだことをまとめておく。
7.	文学作品の読み方～新美南吉作品を例に(3)	当日に取り扱う新美南吉作品を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとめておく。また、事後には学んだことをまとめておく。
8.	文学作品の読み方～新美南吉作品を例に(4)	当日に取り扱う新美南吉作品を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとめておく。また、事後には学んだことをまとめておく。
9.	教材研究と授業づくり～新美南吉作品を例に(1)教材研究から授業の構想へ	教材研究と授業づくりの内容について、事後にまとめておく。
10.	教材研究と授業づくり～新美南吉作品を例に(2)実践事例の検討①	配付した実践事例を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとめておく。また、事後には、実践事例の要点をまとめておく。
11.	教材研究と授業づくり～新美南吉作品を例に(3)実践事例の検討②	配付した実践事例を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとめておく。また、事後には、実践事例の要点をまとめておく。
12.	自分の研究課題を考える(1)先輩の卒論を読んでみる	事前に配付した先輩の卒業論文を読んでおく。
13.	自分の研究課題を考える(2)各人の問題意識の交流	事前に、自分の研究課題を考えておく。
14.	自分の研究課題を考える(3)関連する文献を読む	関連文献を読む。
15.	まとめ	これまでの授業を踏まえて、自分の問題意識をまとめていく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

ゼミに入って最初の学期なので、お互いが自己開示を恐れずに、心を開いて認め合いましょう。

フィードバックの方法:

毎回、授業で発表内容等についてコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席と授業への参加	40%	出席して積極的に発言しているかを評価する。
	発表	20%	内容の掘り下げがあり、質疑応答に的確に答えているかを評価する。
	まとめのレポート	40%	論理的に書けているか、内容に説得性があるか、自分なりの考え方を展開しているかを評価する。

教科書:

新美南吉『新美南吉童話集』ハルキ文庫、2006年
宮川健郎『物語もつと深読み教室』岩波ジュニア新書、2013年

参考書:

畑中章宏『ごん狐はなぜ撃ち殺されたのか―新美南吉の小さな世界』晶文社、2013年
保坂重政・遠山光嗣編『別冊太陽 新美南吉～「ごんぎつね」手袋を買いに」そして「でんでんむしのかなしみ」』平凡社、2013年
新美南吉・岸田今日子『新美南吉童話選集』第1巻～第3巻(児童文学朗読CDシリーズ)、エニー、2001年
新美南吉『新美南吉童話集』(朗読CD)上・下巻、パンローリング、2016年
新美南吉・黒井健『ごんぎつね(日本の童話名作選)』偕成社、1986年
新美南吉、マイケル・ブレーズ『ごんぎつね(ラダーシリーズ)』IBCパブリッシング、2006年
生野金三『改稿新美南吉研究 ごん狐の世界』萌文書林、2014年
府川源一郎『「ごんぎつね」をめぐる謎～子ども・文学・教科書』教育出版、2000年
日本国語教育学会『授業に生きる新美南吉童話』図書文化社、1995年
田中実・須貝千里『文学が教育にできること～「読むこと」の秘鑰』教育出版、2012年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

Eメール、オフィスアワー

授業テーマ：子どもを育む「大人・社会・制度」を学ぶ

授業の概要：子どもの姿・子どもをめぐる諸問題は、大人社会を映し出す鏡である。そこで、本演習では、子どもを育てている「大人と社会・制度」を、「知る力」、関連書籍を「読む力」、そして知識のストックを通して「考え方」を身に付けることを目的とする。

到達目標：・「知る力」・「読む力」・「考える力」の重要性に気づき、自ら身につけようとする。

授業方法：複数書籍・論文等の輪読、要旨作成、報告、ディスカッションなどを組み合わせる。（基礎力を身に付けるまでは、厳しく指導する。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 本演習のガイダンス。各自の自己紹介	演習のシラバスを読んでおく。各自の将来の進路に対する希望、関心のある出来事等を整理し、内面含む自己紹介の準備をして演習にのぞむ。
	2. 文献検索の方法を中心に、本学図書館・本学以外の図書館、インターネット等の活用方法を身につける。	本学図書館及びインターネットの利用方法について、疑問点をまとめておく。
	3. <文献課題の提示>: 特定の資料検索・資料収集の練習を行う。辞書・事典の活用方法、学内外の図書館の生かし方を学ぶ。	今までの図書館利用、インターネット利用について振り返り、どのような時にどのような方法でこれらを活用してきたのか、既存の経験を整理しておく。
	4. 受講生の「文献課題一覧」の紹介・比較検討、コメント	第3回の授業時に指示した「文献課題」を、できるだけ多く収集し、資料一覧を作成して、授業開始時に提出する。
	5. (1)書誌情報の記録法・カード化―書籍編 (2)盗作・剽窃・コピーペイト問題・ねつ造・改ざんなど: その1	各自が自分の好きな本、大事な書籍等を持参する。その際、その魅力を文章化してくる。
	6. (1)書誌情報の記録法・カード化―雑誌・論文編― (2)盗作・剽窃・コピーペースト問題・ねつ造・改ざん: その2	盗作・剽窃・コピーペースト問題等についてノート整理し、知的財産の侵害について、深く理解しておく。なお、疑問・質問等があれば整理しておく。
	7. 報道紙(全5社程度)から、同じ事件や社会問題を取り扱った記事を提示し、記述方法、内容、コメント等の類似点や相違点を比較検討し、表現の違いを学ぶ(その1)。	第4回終了時に指定した特定の記事・報道紙を収集し、内容を熟読して整理しておく。
	8. 報道紙(全5社程度)から、同じ事件や社会問題を取り扱った記事を提示し、記述方法、内容、コメント等の類似点や相違点を比較検討し、表現の違いを学ぶ(その2)。	第5回終了時に指定した特定の記事・報道紙を収集し、内容を熟読して整理しておく。
	9. 短い論文を読む(1)―レジュメをつくるということ―	第8回時に配布した短い論文を読み、レジュメを作成してくる。
	10. 短い論文を読む(2)―論文の構造を知る―	第9回時に配布した短い論文を読み、レジュメを作成してくる。
	11. 長めの論文を読む(3)―	第10回時に配布したやや長めの論文をペアでレジュメを作成してくる。
	12. ディベート準備を行う ―テーマは現在の社会・制度問題を取り扱う―	ディベートで対立した議論を行いたいテーマを見つけ、テーマに関わる資料を持参する。
	13. ディベートの実施と賛否両論の資料交換	確定したディベートテーマに関して図書、論文、インターネット等から、資料収集を行い持ち寄る。
	14. ディベート時に資料を生かし、賛否両論を記すレポートの書き方指導	ディベートで活用した全資料を、ゼミ生全員に配布する準備をしてくる。
	15. 各人が作成したレポートの合評会を行う。	各人がディベートに基づいて作成したレポートを、人数分複写して、演習開始時に皆に配布する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 学生の質疑応答には適宜答え、必要な諸資料を随時提供する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	積極的な演習参加	40	演習内での作業、意見発表を積極的に行う。
	レジュメ・レポート提出	60	レジュメ、レポート等を提出し、その内容の質を高めようとする努力が見られる。

教科書: 特になし

参考書: 演習時に適宜配布・指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法: メールアドレス、電話番号等を相互に知らせあい、適宜連絡を取れる体制をつくっておく。

授業テーマ:	文化と発達																																		
授業の概要:	基本的にテーマは自由ですが、主として3つの領域から各自テーマを選び、3、4年次生のゼミを通して卒業論文を作成します。また3年次生修了までにも、まとまった論文を書くことを目指します。 テーマ選びに関する1つ目の領域は文化間移動をする子どもたちの教育・保育や発達に関するものです。2つ目の領域は、子育て観や発達観の文化比較に関するものです。3つ目の領域は文化間移動や文化比較だけではなく、発達障害など臨床発達心理学に関するものです。いずれの領域、または2つ以上の領域にまたがるテーマを選んでも良いですが、フィールドワーク法、質問紙法、面接法などの心理学の方法論を用いて分析を行います。特に春学期はテーマ選びと文献解題を中心に、夏期休暇中に調査を行います。併せて「書く力」をつけることを目指します。																																		
到達目標:	「知識・理解」 研究方法について理解している。 論文の読み方や書き方について理解している。 「関心・意欲・態度」 ゼミ生同士の研究テーマにも関心をもち、積極的に質問やコメントをしながら、お互いの研究に貢献する態度をもつ。 「表現・技能・能力」 自分自身の研究テーマについての的確に表現できる技能を身に付けている。																																		
授業方法:	自分のテーマに沿って随時レジュメを作成し、発表形式で授業を行います。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. レジュメの書き方、文献検索の仕方</td><td>特にありません。</td></tr><tr><td>2. 社会科学の研究の進め方、研究倫理、情報倫理</td><td>前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。</td></tr><tr><td>3. 論文の読み方と書き方</td><td>前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。</td></tr><tr><td>4. 4年次生の発表を聞き、具体的に研究の進め方について学ぶ1</td><td>前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 4年次生の発表を聞き、具体的に研究の進め方について学ぶ2</td><td>前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。</td></tr><tr><td>6. 研究タイトル、目的発表</td><td>レジュメ作成</td></tr><tr><td>7. 論文検索の仕方</td><td>図書館のweb検索を事前に理解しておくこと。</td></tr><tr><td>8. 論文検索結果を持ち寄ってグループ討議</td><td>レジュメ作成</td></tr><tr><td>9. 模擬授業・保育</td><td>指導案作成</td></tr><tr><td>10. 模擬授業・保育</td><td>指導案作成</td></tr><tr><td>11. ワークショップ</td><td>特にありません</td></tr><tr><td>12. 模擬授業・保育</td><td>指導案作成</td></tr><tr><td>13. 模擬授業・保育</td><td>指導案作成</td></tr><tr><td>14. 文献解題発表(グループ討議)</td><td>レジュメ作成</td></tr><tr><td>15. 文献解題発表(グループ討議)</td><td>レジュメ作成</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. レジュメの書き方、文献検索の仕方	特にありません。	2. 社会科学の研究の進め方、研究倫理、情報倫理	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。	3. 論文の読み方と書き方	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。	4. 4年次生の発表を聞き、具体的に研究の進め方について学ぶ1	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。	5. 4年次生の発表を聞き、具体的に研究の進め方について学ぶ2	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。	6. 研究タイトル、目的発表	レジュメ作成	7. 論文検索の仕方	図書館のweb検索を事前に理解しておくこと。	8. 論文検索結果を持ち寄ってグループ討議	レジュメ作成	9. 模擬授業・保育	指導案作成	10. 模擬授業・保育	指導案作成	11. ワークショップ	特にありません	12. 模擬授業・保育	指導案作成	13. 模擬授業・保育	指導案作成	14. 文献解題発表(グループ討議)	レジュメ作成	15. 文献解題発表(グループ討議)	レジュメ作成		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. レジュメの書き方、文献検索の仕方	特にありません。																																		
2. 社会科学の研究の進め方、研究倫理、情報倫理	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。																																		
3. 論文の読み方と書き方	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。																																		
4. 4年次生の発表を聞き、具体的に研究の進め方について学ぶ1	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。																																		
5. 4年次生の発表を聞き、具体的に研究の進め方について学ぶ2	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。																																		
6. 研究タイトル、目的発表	レジュメ作成																																		
7. 論文検索の仕方	図書館のweb検索を事前に理解しておくこと。																																		
8. 論文検索結果を持ち寄ってグループ討議	レジュメ作成																																		
9. 模擬授業・保育	指導案作成																																		
10. 模擬授業・保育	指導案作成																																		
11. ワークショップ	特にありません																																		
12. 模擬授業・保育	指導案作成																																		
13. 模擬授業・保育	指導案作成																																		
14. 文献解題発表(グループ討議)	レジュメ作成																																		
15. 文献解題発表(グループ討議)	レジュメ作成																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業外でも課題をこなす必要があり、定められた時間外にもゼミを行いますので、積極的な参加と課題をこなす意志が不可欠です。夏期休暇中にも課題が出されます。欠席は教育実習等の公欠以外は認められません。5月か6月に宿泊合宿を行います。																																		
フィードバックの方法:	ゼミ内で課題を共有したり、研究室で個別相談にのります。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席を含む積極的な発表・討論</td><td>70%</td><td>毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。</td></tr><tr><td>レポート・論文等</td><td>30%</td><td>的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数以上のレポート・論文を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席を含む積極的な発表・討論	70%	毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。	レポート・論文等	30%	的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数以上のレポート・論文を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
出席を含む積極的な発表・討論	70%	毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。																																	
レポート・論文等	30%	的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数以上のレポート・論文を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。																																	
教科書:	特にありません。																																		
参考書:	授業時に随時個人の研究テーマに合わせて指定します。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力																																		
教員との連絡方法:	マナビーにゼミ生全員に関わることについては掲載します。 ゼミ内でのメイリングリストや個人メールを活用します。 研究室で個人相談を行います。																																		

授業テーマ:

創造的学びを挑発する学習環境デザイン

授業の概要:

プレイフル・ラーニングをキーワードに、「学び」「メディア」「デザイン」の3つの視点からこどもたちが仲間と共感しながら活動に没頭できる場のデザインについて考える。具体的には、様々なメディアを活用したワークショップを企画・実施し、評価・改善を行う。ゼミでは「学び」とは何かを根源的に問い直し、これからの時代に必要な学習環境デザインを考えていく。特に、こどもたちの創造力を刺激するための「空間」「活動」「道具(メディア)」「学びの共同体」のデザインを中心にプロジェクトを展開していく。多様なプロジェクトを通して、ビデオドキュメンテーションを含めたメディアスキルを磨いていく。新しいテクノロジーを未来の学びに活かしたいという情熱を持っている人にぜひ来てほしい。春学期は学習環境デザインのベースになる様々な理論を学習科学の文献を中心に読み進め、これらの知見を活かして、ワークショップデザインのための基本的な姿勢と技術を身につける。

到達目標:

(1)メディアテクノロジーを使ったワークショップのデザイン・運営・評価・改善ができる。
(2)学びの社会的構成について理論的に説明ができ、それを活かした活動をデザインできる。
(3)ビデオを使ってワークショップを撮影し、コンピュータで編集できる。

授業方法:

ゼミはレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みをつかって、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善する。学生によるプレゼンテーションや討論を頻繁に行う。協同でプロジェクトを行うので、かなりのコミットメントが要求される。積極的な参加が必要。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	創造的学びのためのメディアテクノロジー	教科書の第1章を読んでおく。ロー・ハイクメディアをどのように活用して創造的学びの環境をデザインするかについて自分の考え方をまとめておく。
2.	学びの社会的構成とラーニングデザイン 発達の最近接領域と憧れの最近接領域	場の理論としての「憧れの最近接領域」について自分なりの考えを整理しておく。
3.	学びへの動機づけとメタ認知 成長的マインドセットと固定的マインドセット	マインドセットとメタ認知の関係について自分なりの解釈をまとめておく。
4.	オブジェクトをベースにしたパワフルな学び Evocative Object(挑発的オブジェクト)が学びを活性化する	学びやコミュニケーションを活発にするオブジェクトの一つ選び、どのように活用できるかを具体的に説明できるようにしておく。
5.	6Csについて Collaboration, Communication, Content, Critical Thinking, Creative Innovation, Confidence	6Csの4レベルについて、今の自分がどのレベルにいるかを、プロットしてみる。
6.	リフレクション(省察)	Reflection-in-Action, Reflection-after-Action, Reflection-on-Actionのそれぞれの違いを整理しておく。
7.	学びの共同体	学びの共同体がもつカルチャーの重要性についてまとめておく。
8.	ドキュメンテーション技術	教科書のコラム1を読んでおく。
9.	ビデオ編集ワークショップ 撮影	携帯のビデオ機能を使って、撮影練習をしておく。
10.	ビデオ編集ワークショップ 編集	録画したビデオ素材をiMovieを使って編集する。
11.	ワークショップの構想(コンセプトデザイン)	教科書の第2章を読んでおく。 ワークショップデザインのコンセプトを考えておく。
12.	活動のデザイン(ツール開発を含む)	コンセプトを実現する活動を考え、特にワークショップを活性化するツールを決め、次週までに準備する。
13.	ワークショップの実施 ビデオドキュメンテーションも行う	ワークショップの準備をする。
14.	ワークショップの評価	ビデオを視聴しながらワークショップをふり返り、改善点を整理しておく。教科書の第3章を読んでおく。
15.	まとめ:リフレクションと秋学期への展望	授業全体をふり返ってリフレクションペーパー(最終レポート)を書く。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実践的研究を中心に展開するゼミです。かなりのコミットメントが要求されますが、とてもやりがいがありますので、一緒に授業を創っていきましょう。

フィードバックの方法:

グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ワークショップへの貢献度	30	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善、ドキュメンテーションを総合的に評価する。
	ディスカッション	20	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
	最終レポート	50	春学期の授業を通して実践的に経験したことを、理論と関係づけて自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:

上田信行・中原淳『プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来』三省堂 2013

参考書:

授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

基本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

授業テーマ：
授業の概要： 保育環境評価スケールを通して保育を見る目を育てる。
到達目標： 保育環境評価スケールが使えるようになる。
・スコアリングの理解
・評価観察のポイントを学ぶ
・項目の理解

授業方法： 演習形式。フィールドワークも行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション	保育環境評価スケールについて既習の内容について復習しておく。
	2.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（1）	学習予定の項目内容について理解しておく。
	3.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（2）	学習予定の項目内容について理解しておく。
	4.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（3）	学習予定の項目内容について理解しておく。
	5.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（4）	学習予定の項目内容について理解しておく。
	6.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（5）	学習予定の項目内容について理解しておく。
	7.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（6）	学習予定の項目内容について理解しておく。
	8.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（7）	学習予定の項目内容について理解しておく。
	9.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（8）	学習予定の項目内容について理解しておく。
	10.	保育フィールドワーク(1)	スケールの内容、評価方法について復習しておく。
	11.	保育フィールドワーク(2)	評価内容についてまとめる。
	12.	保育フィールドワーク(3)	評価内容についてまとめる。
	13.	保育フィールドワーク(4)	評価内容についてまとめる。
	14.	保育フィールドワーク(5)	評価内容についてまとめる。
	15.	まとめ	全体を振り返り、評価レポートを完成させておく。

受講者へのメッセージやアドバイス：
フィードバックの方法： 全体に解説。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法		評価基準
	受講態度	50%	スケールの各項目の意味を理解し的確なコメントができているか。
	レポート採点	50%	評価方法を理解し的確な評価レポートとなっているか。

教科書： 新・保育環境評価スケール①幼児版

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、プレゼンテーション力
教員との連絡方法： 授業の前後に応答。ウェブメール。

授業テーマ:	こどもと教師がともに学び育つ授業づくりを探究する	
授業の概要:	応用演習Ⅰでは、まず学校現場やこどもが育つ場で、いま何が起きているのか、それがどのように問題となっているのかをリサーチする。またリサーチするための方法も学んでいく。さらに、私たちが被教育体験のなかで構築してきた「授業」「学び」「こども」「教師」などに対する見方・考え方を見つめ直しながら、授業という場が〈こどもと教師の共に学び育つ場〉となるために求められることはどのようなことなのか、実践記録や先行研究図書を読むなかで探っていく。 ※春学期に1回ゼミ合宿を実施する。また福島県内でのフィールドワークも計画している。日程は受講者と相談する。	
到達目標:	(1) 自分が関心あるテーマや対象について現状や歴史的背景を知り、対象への関心をより一層高める。 (2) 研究に必要な考え方や研究方法とその意義について理解し、方法を駆使して研究を展開できる。 (3) ともに学ぶ仲間のよさを引き出しながら自分が果たすべき役割を見出し、協同学習ができる。	
授業方法:	毎回、受講者による小レポートや報告をすることでゼミを創る。したがって、ゼミで報告するための準備学習として、授業外でのリサーチ、資料作成も求められる。また、毎回冒頭で各自が最近気になっているニュースやトピックについて話題提供し、現代的課題へのアンテナを磨いていく。 ・報告担当者は報告内容の準備だけでなくディスカッションの柱立てを練っておく。 ・毎回の授業終了後に本時のリフレクションシートをまとめる。 ・こども、教師、学校をめぐって気になるニュースを各自がスクラップしていく。毎回担当者がその記事・資料をもとに話題提供できるように情報をストックしていく。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション／ゼミを学ぶ合う場にするために 2. いま学校現場で何が問題になっているのか(1)「問題」を見つける方法を知る 3. いま学校現場で何が問題になっているのか(2)「問題」を洗い出す 4. いま学校現場で何が問題になっているのか(3)「問題」を仕分ける 5. 問題を探究する方法を広げよう(1)「探究」とはどうか 6. 問題を探究する方法を広げよう(2)私にとっての「問い」をつくる 7. わたしの問題意識の芽を発表する(1) 8. わたしの問題意識の芽を発表する(2) 9. わたしの問題意識の芽を発表する(3) 10. 実践記録を読む(1)実践記録を調べる方法 11. 実践記録を読む(2)実践記録を読む意味 12. 実践記録を読む(3)実践記録を分析する方法 13. 実践記録を読む(4)実践記録からどう学ぶか 14. 問題を探究する方法を広げよう(3)研究課題を整理する 15. 春学期の学びをふり返る	本授業のシラバスを読んでくる。また、自己紹介の内容と方法を工夫して準備してくる。 自分の関心あるテーマや対象について語る準備をしてくる。また、前の回に配布された昨年度の先輩の研究冊子を読んで気になったことを整理しておく。 前の回に行った問題発見の方法をもとに自分の関心あるテーマ・対象に関する現状を知る方法を探してくる。 問題であると思っている理由が相手にわかるように説明できるように整理してくる。 前の回で学んだ方法をもとに、自分の関心あるテーマや対象についての問題をリサーチし始める。 複数ある問題の中で「私にとって」の問いとなるように自分の考えを整理してくる。 発表者は自分の発表について内容、方法ともに工夫して準備してくる。 発表者は自分の発表について内容、方法ともに工夫して準備してくる。また聴き手から受けた質問や意見について整理する。 発表者は自分の発表について内容、方法ともに工夫して準備してくる。また聴き手から受けた質問や意見について整理する。 前の回に配布された資料を読んで、わからないところを調べてくる。 前の回に考え、議論したことを読み返し、自分なりの考えを整理してくる。 前の回に分担した内容について自分なりの分析結果をわかりやすくまとめる。 前の回に分析した結果を踏まえ、実践記録を分析する意味を自分なりに考えて整理してくる。 実践記録を調べ、分析する手法を、自分の研究関心のある領域で具体化するための戦略を考えてくる。 これまでに学んだ内容についてノートや資料を見返して、自分の「授業」や「学び」に対する見方や考え方がどう変化したかをふり返っておく。
受講者へのメッセージやアドバイス:	「授業」というのはこどもが知識や技能を獲得するだけの場ではありません。もちろん、そうした側面もありますが、それ以上に「授業」という世界が〈こどもと教師がともに学び育つ場〉として機能するように「授業」を考えたり、つくり出したりしていくためには、私たちの学び直し、学びほぐしが欠かせません。 ゼミをつくるということは、一人ひとりの責任ある行動と、ともに学ぶ仲間に対する誠意ある対応を必要とします。したがって、教育実習や介護等体験の公欠を除いては原則として全回出席とし、誠意ある姿勢で学ぶことを求めます。	
フィードバックの方法:	(1) 毎回、ゼミの最後に記入するリフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。 (2) ゼミのなかで、グループ活動や発表したりした際には適宜その場でコメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。 (3) 自分の研究テーマ決定や進路に向けた相談については、必要に応じて随時行い、サポートする。	
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	評価基準
	毎回のゼミへの積極的な参加とリフレクションカードの記入	30 当日のゼミの内容に即して自分の考えや感じたことを具体的かつ個性的に記述できているか
	担当者としての報告(レジュメ作成やプレゼンを含む)	30 伝えるべき内容について必要な手続きを経て整理し、相手にわかりやすい方法を用いてプレゼンテーションできているか
	期末の課題レポート	40 自分の関心ある内容について受講の前後での見方や考え方にどう変化があったかを具体的に捉え記述できているか
教科書:	稲垣佳世子・波多野誼余夫(1989)『人はいかに学ぶか―日常的認知の世界』中公新書 昨年度の応用演習で製作した冊子は授業第1回で配布する。 その他、授業時に配布する資料はテキストとして用いるため、ファイリングしておく。	
参考書:	秋田喜代美(2012)『学びの心理学―授業をデザインする』左右社 今井むつみ(2016)『学びとは何か―〈探究人〉になるために』岩波新書 秋田喜代美(2000)『子どもをはぐくむ授業づくり―知の創造へ』岩波書店	

グループ・ディダクティカ編(2012)『教師になること、教師であり続けること—困難の中の希望』勁草書房
その他、授業時に随時紹介、指示する。

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

ゼミの内容などに関しては、第1回に配布する資料で教員の連絡先を知らせるほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。課題内容によってはマナビーも随時活用する。

授業テーマ:

理科の授業力と協同学習実践力の育成Ⅰ

授業の概要:

小学校で主体的で協同的な学びを実践できる教師の育成をめざす。学習内容の中心に理科教育と協同教育をおき、その理論と方法の理解と獲得のために、授業演習とマイクロティーチングを行いながら実践的な指導力を身につける。マイクロティーチングでは授業の構想から実験準備、実験道具の操作技能習得、指導案・ワークシートの作成と授業を作る一連の作業をすべて行う

到達目標:

・理科授業に関して発展的な知識や判断力を身につけることができる。
・各領域における実験・観察の技能と表現力を身につけることができる。
・実験を構想し、協同的な授業をデザインする力を身につけることができる。

授業方法:

2:演習, 3:実験実技演習(学内), 5:講義/演習の混合
理科の授業を中心にマイクロティーチングを実施します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（個人の学習状況と課題の把握、個人演習単元の決定）	小学校理科の授業内容と実験操作について知識・技能の確認を行っておく
2.	授業力育成演習1（指導案作成）	単元の授業構想と指導案の下書き
3.	授業力育成演習1（指導案修正）	指導案の作成作業
4.	授業力育成演習1（指導案完成）	指導案の修正作業
5.	授業力育成演習1（実験演習1）	実験内容と操作方法の確認 実験材料と道具の準備
6.	授業力育成演習1（実験演習2）	実験操作の再確認と材料の不足分の確認
7.	マイクロティーチング（模擬授業1）	模擬授業の予行
8.	マイクロティーチング（模擬授業2）	授業検討を受けて模擬授業の予行
9.	マイクロティーチング（模擬授業3）	授業検討を受けて模擬授業の予行
10.	マイクロティーチング（模擬授業4）	授業検討を受けて模擬授業の予行
11.	マイクロティーチング（模擬授業5）	授業検討を受けて模擬授業の予行
12.	マイクロティーチング（模擬授業6）	授業検討を受けて模擬授業の予行
13.	マイクロティーチング（模擬授業7）	授業検討を受けて模擬授業の予行
14.	教材開発研究と授業デザイン1	全模擬授業のふり返りと課題の明確化、協同学習の理論と方法の確認
15.	教材開発研究と授業デザイン2、及び、総括	授業のふり返り

受講者へのメッセージやアドバイス:

まず、小学校理科の授業内容と実験操作について知識・技能の確認を行い、理解の不十分な部分を確認しておきましょう。マイクロティーチングでは、より実践的な模擬授業を実施します。
可能であれば、学校ボランティア等を行い、教育現場での児童の実態に触れることを強くすすめます。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説し評価する。提出物は採点后、コメントを記入し返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	模擬授業	40	到達目標の知識理解や技能の活用を学習指導、実験技能、生徒指導の観点で評価する。
	レポート	30	到達目標の実験構想と協同学習をデザインする指導案や児童用ワークシートの完成度をもって評価する。
	授業への参加度	30	授業への積極的な参加と到達目標すべてに関わる内容と方法の理解度を討議場面等で評価する。

教科書:

プリントを配布する。

参考書:

授業中で随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等

授業テーマ:

多文化・格差社会に着目した社会科・国際理解の教材開発研究

授業の概要:

・小学校社会科教科書を丹念に分析、検討し、社会科(地理, 歴史, 公民)の内容研究を行い、そのうえで、指導案、教材づくりをする。

・国際理解教育、特に、多文化、貧困、開発、平和、人権など、グローバルな世界について研究し、そのうえで、指導案、教材づくりをする。

到達目標:

知識理解:社会科教育及び国際理解教育の授業内容、授業づくりに関する理解を深めることができる。

技能:社会科教育及び国際理解教育の教材研究、授業づくりの技能を高めることができる。

関心・意欲・態度:社会科教育及び国際理解教育の教材研究、授業づくりの研究を通して、社会科教育、国際理解教育について関心を持つことができる。

授業方法:

現行教科書の分析、教材研究及び授業づくりのワークショップ、グループ活動

実践的には、ワークショップをはじめ、授業研究、フィールドワークなどを適宜取り入れる

ゼミの共同研究として、社会科や国際理解の教材作りをすることが多くなる

社内校を含めて近隣の小学校に作成した教材の「出前授業」に行くこともある

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション、ゼミ開き/研究紹介	夏休みの宿題
夏休みの宿題の共有	
2. 小学校社会科教科書の内容分析3(高学年1)(日本の産業1)	現行小学校社会科教科書の熟読
3. 小学校社会科教科書の内容分析4(高学年2)(日本の産業2)	現行小学校社会科教科書の熟読
4. 小学校社会科教科書の内容分析5(高学年3)(日本の歴史1)	現行小学校社会科教科書の熟読
5. 小学校社会科教科書の内容分析6(高学年4)(日本の歴史2)	現行小学校社会科教科書の熟読
6. 小学校社会科教科書の内容分析7(高学年5)(国際社会)	現行小学校社会科教科書の熟読
7. 小学校社会科教科書の内容分析のふりかえり	現行小学校社会科教科書の熟読
8. 国際理解教育の教材研究1(多文化)	参考文献の熟読
9. 国際理解教育の教材研究2(貧困)	参考文献の熟読
10. 国際理解教育の教材研究3(開発)	参考文献の熟読
11. 国際理解教育の教材研究4(平和)	参考文献の熟読
12. 国際理解教育の教材研究5(人権)	参考文献の熟読
13. 国際理解教育の教材研究のふりかえり	参考文献の熟読
14. 先輩ゼミ生の卒業研究発表1	卒業研究の準備
15. 先輩ゼミ生の卒業研究発表1	卒業研究の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

キャリアとして小学校教員をめざすほか、国内外での多文化、貧困に関わるフィールドでのこども支援をめざしてほしい。

必ず、課題図書を読み、パワーポイント等で発表できるようにしておく

別に、自分の追究すべき課題に対応したゼミ課題レポートを課す

フィードバックの方法:

グループ活動(話し合い、ワークショップ)へのコメント

「成績評価方法」

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的に取り組んでいるか、討論への参加ができているか
ゼミ発表・レポート	30	積極的に取り組んでいるか、授業目標に到達しているか
最終レポート(約5000字)	50	授業目標に到達しているか

「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

小学校社会科教科書(東京書籍、日本文教出版など)

田中治彦編(2016)『SDGSと開発教育』(学文社)

日本国際理解教育学会編(2015)『国際理解教育ハンドブック』(明石書店)

日本国際理解教育学会編(2010)『グローバル時代の国際理解教育』(明石書店)

原田智仁編(2015)『社会科教育のルネサンス』保育出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

e-mail、面談

授業テーマ:

「運動あそび」と「こどもスポーツ」の諸問題

授業の概要:

応用演習Ⅰで整理した研究対象の広がりと多様な研究方法、それに受講者各自の興味関心を考慮に入れて、いくつかの研究テーマを設定してグループで研究を行い、研究レポートを作成する。さらに、レジメとパワーポイントのを作成してお互いに発表して意見交換を行う。

到達目標:

研究活動と発表を進める過程における他のメンバーとの意見交換などを通して、各個人の問題意識とそれに対応した主題・研究方法についての認識を深め、自律的な研究の方法を身につけることをこの授業の目標とする。

授業方法:

講義・分担発表・ディスカッションと、実技やフィールドワークなどを並行して行い、総合的に授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	オリエンテーション		自分のの興味関心内容をまとめておく
	2.	運動遊びやこどものスポーツをめぐる現代的課題概説		グループ分けと研究テーマを決めておく
	3.	運動あそびやこどものスポーツ巡る諸課題発表と質疑応答1	テーマ	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
	4.	運動あそびやこどものスポーツ巡る諸課題発表と質疑応答2	テーマ	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
	5.	運動あそびやこどものスポーツ巡る諸課題発表と質疑応答3	テーマ	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
	6.	運動あそびやこどものスポーツ巡る諸課題発表と質疑応答4	テーマ	報告者は発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
	7.	運動あそびやこどものスポーツの課題 問題点と解決方法を探る テーマ設定と資料収集1	共同研究の	各グループで発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。
	8.	運動あそびやこどものスポーツの課題 問題点と解決方法を探る テーマ設定と資料収集2	共同研究の	報告グループは発表レポートを作成し、事前にワードファイルで提出する。他のメンバーは発表準備
	9.	運動あそびやこどものスポーツの課題 問題点と解決方法を探る 資料の分担研究と報告の作成1		各グループは途中経過の発表資料を作成し、事前にワードファイルで提出する。
	10.	運動あそびやこどものスポーツの課題 問題点と解決方法を探る 資料の分担研究と報告の作成2		各グループは途中経過の発表資料を作成し、事前にワードファイルで提出する。
	11.	運動あそびやこどものスポーツの課題 問題点と解決方法を探る 資料の分担研究と報告の作成3		各グループは途中経過の発表資料を作成し、事前にワードファイルで提出する。
	12.	運動あそびやこどものスポーツの課題 問題点と解決方法を探る 発表、質疑応答と・討議1		報告グループは発表レポートとレジメ・パワーポイントを作成し、事前に提出する。他のメンバーは発表準備
	13.	運動あそびやこどものスポーツの課題 問題点と解決方法を探る 発表、質疑応答と・討議2		報告グループは発表レポートとレジメ・パワーポイントを作成し、事前に提出する。他のメンバーは発表準備
	14.	運動あそびやこどものスポーツの課題 問題点と解決方法を探る 発表、質疑応答と・討議3		報告グループは発表レポートとレジメ・パワーポイントを作成し、事前に提出する。他のメンバーは発表準備
	15.	報告書の作成製本	印刷と	報告書原稿全体の編集

受講者へのメッセージやアドバイス:

グループ研究をすることで、一つのテーマでも人によって問題関心の方向がさまざまであることを学び、グループ毎に意見や知恵を出すことで課題のいろいろな側面が明確になり、分担することによってより多くの資料を見ることが出来るので、内容の濃い研究を進めることが出来る。このプロセスを通して、次年度の卒業研究のテーマ設定や調べ方・書き方などの予備的トレーニングになる。

フィードバックの方法:

それぞれの研究過程における中間発表などについて授業時間にそれぞれにまとめやコメントをする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加	40	授業内での意見発表など
	レポートと途中経過発表	40	レポートの内容
	授業運営等への貢献	20	協同作業等の分担内容

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

yhamaguc@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

「数・量・形」の学び・算数科教育

授業の概要:

子どもは知識・技能をどのように獲得していくのか、大人は子どもにどのように学びの場を設定するのか、は重要な課題です。とりわけ、思考力・判断力・表現力を養うことは子どもへの教育実践で求められています。事象を整理して全体を把握することや筋道を立てて見通しをもつことは現代の社会では不可欠となっています。この応用演習では、心理的要因をも含めて総合的な人間力を目指します。

到達目標:

1. 授業テーマに関する知識を習得し理解する。
2. 授業テーマを実践するための資質を養う。

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	役割分担を確認する。
2. レジュメ発表と質疑(1)	発表者はレジュメを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
3. レジュメ発表と質疑(2)	発表者はレジュメを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
4. レジュメ発表と質疑(3)	発表者はレジュメを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
5. レジュメ発表と質疑(4)	発表者はレジュメを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
6. レジュメ発表と質疑(5)	発表者はレジュメを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
7. レジュメ発表と質疑(6)	発表者はレジュメを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
8. レジュメ発表と質疑(7)	発表者はレジュメを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
9. 教育実習の報告と質疑(1)	教育実習から学んだことをまとめる。
10. 教育実習の報告と質疑(2)	教育実習から学んだことをまとめる。
11. 卒業研究の進め方	卒業研究のテーマを各自考える。
12. 卒業研究の資料・文献の収集	卒業研究のテーマに即した資料・文献を整理する。
13. 卒業研究の題目と構想の発表会(1)	卒業研究に関する質疑をまとめる。
14. 卒業研究の題目と構想の発表会(2)	卒業研究に関する質疑をまとめる。
15. 振り返りとまとめ	本学期を振り返り、次年度の準備を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レジュメ発表については、補足説明を行います。
教育実習報告については、今後に向けての助言を行います。
卒業研究に関しては、計画作成に関して指導助言を行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レジュメ発表	50	到達目標1, 2に関して評価する。
授業への参加度	50	到達目標3について評価する。

教科書:

プリントを配布します。

参考書:

数学教育研究会、新訂 算数教育の理論と実際、聖文新社
算数科教育研究会、新編算数科教育研究(改訂版)、学芸図書
コンスタンス・カミイ、レズリー・ハウスマン、子どもが発明する算数、大学教育出版
加藤義信、資料でわかる認知心理学入門、ひとなる書房
内田伸子、幼児心理学への招待、サイエンス社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、授業前後に教室内で応対

授業テーマ:

ことばの学び(国語教育)の研究

授業の概要:

「国語」といわれるものを歴史・社会的に相対化しながら、ことばを学ぶことについて多角的に解明していく。これらの研究過程で、研究方法にも習熟していくことも目標にしている。応用演習ⅡではⅠでの学びを基礎として、各人の研究を深めていく。

到達目標:

①自分の研究課題を決めて、探究することができたか。
②研究方法について、理解することができたか。

授業方法:

演習形式でそれぞれの課題を深めていき、発表・討議を行う。発表担当者を決めるので、発表者は事前に資料を読み込み、レジュメを作成する。発表が終わった後は、発表を振り返り、内容を補足して、次の発表へつなげる。発表者以外は、話し合いに積極的に参加し、授業後は話し合いの内容を振り返っておく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスを読んでおく。
	2. 研究史調査から新しい課題の発見へ	自分の課題発見を事後にまとめておく。
	3. 研究課題の資料調査(1)	資料調査の方法について事後にまとめておく。
	4. 研究課題の資料調査(2)	資料調査の方法について事後にまとめておく。
	5. 資料調査の分析と検討(1)	資料分析の方法について、事後にまとめておく。
	6. 資料調査の分析と検討(2)	自分なりに資料にあたり、分析してみる。
	7. 資料調査の分析と検討(3)	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
	8. 資料調査の分析と検討(4)	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
	9. 資料調査の分析と検討(5)	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
	10. 資料調査の分析と検討(6)	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
	11. 分析結果を文章にまとめていく(1)	分析結果を論理的に文章に表現する。
	12. 分析結果を文章にまとめていく(2)	分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめておく。
	13. 分析結果を文章にまとめていく(3)	分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめておく。
	14. 分析結果を文章にまとめていく(4)	分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめておく。
	15. 全体の振り返りとまとめ	全体を振り返って、省察結果をレポートにまとめていく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

教育実習や授業等で忙しい時期です。自分の研究課題をしっかりと深めていきましょう。

フィードバックの方法:

毎回、授業で発表内容等についてコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席と授業への参加	40%	出席して積極的に発言しているかを評価する。
	発表	20%	内容の掘り下げがあり、質疑応答に的確に答えているかを評価する。
	レポート	40%	研究方法に自覚的にかつ論理的に書けているか、内容に説得力があるか、自分なりの考え方を展開しているかを評価する。

教科書:

無し

参考書:

全国大学国語教育学会編『国語科教育実践・研究必携』学芸図書、2009年
田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典 第四版』教育出版、2009年
日本国語教育学会編『国語教育辞典 新装版』朝倉書店、2009年
日本近代文学会『ハンドブック日本近代文学研究の方法』ひつじ書房、2016年
草原和博・溝口和宏・桑原敏典『社会科教育学研究法ハンドブック』明治図書、2015年
佐藤学・秋田喜代美他編『(岩波講座)教育変革への展望』全7巻 岩波書店、2016年
コルトハーヘン、武田信子訳『教師教育学～理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』学文社、2010年
浅井幸子他 編著『教師の声を聴く ～教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社、2016年
府川源一郎『明治初等国語教科書と子ども読み物に関する研究～リテラシー形成メディアの教育文化史』ひつじ書房、2014年
長田友紀『国語教育における話し合い指導の研究』風間書房、2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

Eメール、オフィスアワー

授業テーマ:	こどもを育む「大人・社会・制度」を学ぶーその2ー		
授業の概要:	応用演習Ⅱで習得した「知る力」・「読む力」・「考える力」をさらに鍛える。 その上で、「聞く力」・「聞いたことをまとめ考える力」を育成する。		
到達目標:	・「聞く力」の練習を経て、聞き取り調査実践ができたか。 ・「聞き取り調査内容」を整理し、データとして思索し、報告（発表）ができたか。		
授業方法:	調査準備の基礎力養成。聞き取り調査練習。報告資料作成。発表。ディスカッションなど。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	(1)秋学期の演習オリエンテーション (2)教育実習体験の省察・語る・聞き取るーその1ー	教育実習等の体験をまとめ、自分なりに整理し、演習にのぞむ。
	2.	教育実習体験の省察・語り・聞き取りーその2ー	演習参加者が語る教育実習体験者の共通点・差異点、特徴などをノートに整理してくる。
	3.	(1)聞き取り調査に対する全体像を学ぶー誰に、何を、なぜ聞くのかー (2)聞き取り調査から何が判るのか・何を考えたいのか	報道紙からインタビュー記事を複数みつけ出し、インタビューの目的、簡単な内容、伝えたいことの核心等をノート整理してくる。
	4.	(1)聞き取り調査に対する全体像を学ぶー誰に、何を、なぜ聞くのかー (2)聞き取り調査から何が判るのか・何を考えたいのか	「おしゃべり・対話・聞き取り調査の違い」に関する思索をレポートとしてまとめ、授業前に提出する。
	5.	聞き取り調査の事例紹介	演習生個人々が、誰を対象に聞き取り調査を行うか・行いたい案を練り、計画表を作成してくる。
	6.	質問項目を考え整理する。フェイスシートを作成する:その1。	調査対象者に何をどのように尋ねるのか、質問項目を記述・整理し、授業開始時に提出する:その1。
	7.	質問項目を考え整理する。フェイスシートを作成する:その2	調査対象者に何をどのように尋ねるのか、質問項目を記述・整理し、授業開始時に提出する:その2。
	8.	各自が聞き取り調査を実施する:その1	聞き取り調査内容の整理を行う。
	9.	各自が聞き取り調査を実施する:その2	聞き取り調査内容の整理を行う。
	10.	エスノグラフィー、あるいは聞き取り調査に基づく小論文を読む(1)	・第9回時終わりに配布された小論文を要約し持参する。 ・各自、聞き取り調査内容の整理をさらに行い続ける。
	11.	エスノグラフィー、あるいは聞き取り調査に基づく小論文を読む(2) この際、研究倫理について指導し、学ぶ	・第10回時終わりに配布された小論文を要約し持参する。 ・各自、聞き取り調査内容の整理をさらに行い続ける。
	12.	聞き取り調査内容の報告会(1)	ゼミ内での報告資料、報告方法を準備し、演習にのぞむ。
	13.	聞き取り調査内容の報告会(2)	ゼミ内での報告資料、報告方法を準備し、演習にのぞむ。
	14.	聞き取り調査を用いた論文に学ぶー「結果・考察」の導き方理解ー	第13回時終わりに配布された論文の要旨を作成し授業にのぞむ。
	15.	全体に対する質疑応答	「聞く力」・「聞いたことをまとめる力」に関し、理解できたこと、疑問に思っていることを整理してくる。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 学生の質疑応答には適宜答え、必要な諸資料を随時提供する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	調査とその内容	50	聞き取り調査前の、質問内容の立案・精査。聞き取り調査の実施とその報告のありかたに対して。
	レポート	50	折々提出するレポートの内容

教科書: なし

参考書: なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法: メールアドレス、電話番号等を相互に知らせあい、連絡可能な体制をつくっておく。

授業テーマ:

文化と発達

授業の概要:

春学期各自が決めたテーマに沿って、夏期休暇中に行った調査を発表すると共に、3年次生修了までにまとめた論文を書くことを目指します。特に秋学期は調査結果の整理の仕方を、それぞれの方法論にしたがって習得していきます。統計的な分析を行うことがあり、パソコンでエクセルやSPSSを用いることがありますので、質問紙法で調査を行う人は最低でもエクセルを使いこなせることが前提条件です。

到達目標:

「知識・理解」
研究方法や、論文の読み方や書き方について理解している。
自分のテーマの内容についての知識がある。
「関心・意欲・態度」
ゼミ生同士の研究テーマにも関心をもち、積極的に質問やコメントをしながら、お互いの研究に貢献する態度をもつ。
文献を積極的に読もうとする態度がある。
「表現・技能・能力」
自分自身の研究テーマについての的確に表現できる技能を身に付けている。

授業方法:

自分のテーマに沿って担当者はレジュメを作成し、発表形式で授業を行います。
教育実習の振り返り討議をします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
	2. 研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
	3. 研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
	4. 研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
	5. 卒業生を迎えての討議	発表担当者レジュメ作成
	6. 研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
	7. 研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
	8. 研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
	9. 研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
	10. 4年次生との懇談(採用試験や就職情報交換)	発表担当者レジュメ作成
	11. 研究内容発表、研究倫理	発表担当者レジュメ作成
	12. 研究内容発表	発表担当者レジュメ作成
	13. 研究内容発表	発表担当者レジュメ作成
	14. 研究内容発表グループ討議	発表担当者レジュメ作成
	15. 研究内容発表グループ討議	発表担当者レジュメ作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業外でも課題をこなす必要があり、定められた時間外にもゼミを行いますので、積極的な参加と課題をこなす意志が不可欠です。冬期休暇中にも課題が出されます。欠席は教育実習等の公欠以外は認められません。1月初旬に宿泊合宿を行います。その他、2月に私立学校やこども発達支援センター等の施設見学を行います。

フィードバックの方法:

ゼミ内で課題を共有したり、研究室で個別相談にのります。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む積極的な発表・討論	60%	毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 フィールドワークへの参加。
	レポート・論文等	40%	的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数以上のレポート・論文(30枚)を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。

教科書:

特にありません。

参考書:

授業時もしくは個別に随時個人の研究テーマに合わせて指定します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

マナビーにゼミ生全員に関わることについては掲載します。
ゼミ内でのメイリングリストや個人メールを活用します。
研究室で個人相談を行います。

授業テーマ:

創造的学びを挑発する学習環境デザイン

授業の概要:

春学期の研究をもとに、1)ワークショップ・デザイン・モデル、2)活動のデザイン、3)学びの空間とツールのデザイン、4)ドキュメンテーションの方法について検討し、多様なプロジェクトを全員で企画し、様々なフィールドで実験する。ワークショップをビデオで記録するドキュメンテーション技術も身につける。

到達目標:

(1)ワークショップ・デザイン・モデルについての自分なりの解釈を整理し、理解した内容をモデル化(図示)し、説明することができる。
(2)ワークショップやプロジェクトのデザイン・運営・評価・改善ができる。
(3)ワークショップをビデオで記録し、ドキュメンテーション映像を制作できる。

授業方法:

春学期での経験をベースに多様なワークショップの実践を重ねて行く。実践を通して、学びの経験をデザインするとはどのようなことかを実感しながら、ラーニングデザインの力を身につけてゆく。協同でプロジェクトを行うので、かなりのコミットメントが要求される。積極的な参加が必要。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ワークショップ・デザイン・モデルの検討	ワークショップ・デザイン・モデルについての自分なりの解釈を整理し、理解した内容をモデル化(図示)し、そのモデルを使って自分の言葉で説明してみる。
2.	ワークショップと21世紀型スキル	21世紀型スキルの具体的なイメージを描き、そのための学びの場のデザインをどのように創出するかを考え、まとめておく。
3.	学びの空間、ツール、活動をどうデザインするか	3要素を効果的に相互作用させるようなワークショップの企画書を書いてみる。
4.	ビデオを使ったドキュメンテーションの方法	携帯のビデオ機能を使って映像を撮り、iMovieで編集する。
5.	ワークショップデザイン1 -ワークショップの実施と評価-	ワークショップのアジェンダを書く。
6.	ワークショップデザイン2 -ワークショップの実施と評価-	ワークショップのアジェンダを書く。
7.	ワークショップデザイン3 -ワークショップの実施と評価-	ワークショップのアジェンダを書く。
8.	ワークショップデザイン4 -ワークショップの実施と評価-	ワークショップのアジェンダを書く。
9.	ワークショップデザイン5 -ワークショップの実施と評価-	ワークショップのアジェンダを書く。
10.	学外プロジェクトの構想	ゴールと内容を考える。
11.	アジェンダのデザイン	アジェンダを考えておく。
12.	プロジェクトの実施 ドキュメンテーションも行う	プロジェクトの準備をする。
13.	ビデオドキュメンテーションによるリフレクション	ビデオを視聴しながら、プロジェクト全体をふり返しておく。
14.	プロジェクトの評価	ゴールがどのように達成されたかをもとにプロジェクトの意味づけを行っておく。
15.	まとめ:授業全体のリフレクション	授業全体をふり返ってリフレクションペーパー(最終レポート)を書く。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実践的研究を中心に展開するゼミです。かなりのコミットメントが要求されますが、とてもやりがいがありますので、一緒に授業を創っていきましょう。

フィードバックの方法:

グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ワークショップへの貢献度	30	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善、ドキュメンテーションを総合的に評価する。
	プロジェクトへの貢献度	10	プロジェクトのアジェンダや運営の仕方を評価する。
	ディスカッション	10	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
	最終レポート	50	秋学期のイベントを通して実践的に経験したことを、理論と関係づけて自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:

使用しない。

参考書:

授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

基本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

保育環境評価スケールをとおして保育を見る目を養う

各自の関心のある項目について深く理解する

・自分の保育に対する関心・興味を育てる

・関心のある分野について探求を行う

授業方法:

授業内容によって講義, 協同学習, 観察実習, フィールドワークを取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	保育環境に関する各自の興味・関心について発表(全員)	自分の興味・関心のある分野について文献を探し、自分の考えをまとめる。
	2.	関連文献について概要の発表(全員)	自分の興味・関心について文献に即して自分の考えを文章で表現する。
	3.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
	4.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
	5.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
	6.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
	7.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
	8.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
	9.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
	10.	フィールドワーク(1)	スケールをよくよみ内容を把握しておく。
	11.	フィールドワーク	スケールをよくよみ内容を把握しておく。視点に沿ってのレポートを書く。
	12.	フィールドワーク	スケールをよくよみ内容を把握しておく。視点に沿ってのレポートを書く。
	13.	フィールドワーク	スケールをよくよみ内容を把握しておく。視点に沿ってのレポートを書く。
	14.	フィールドワーク	スケールをよくよみ内容を把握しておく。視点に沿ってのレポートを書く。
	15.	まとめ	卒業研究という視点を持ち、学習内容を振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

全体に解説

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法		評価基準
	受講態度	割合	50%
	レポート採点	割合	50%

スケールに興味をもって積極的な発言をしているか

自分の興味のある分野について掘り下げて考察することができているか

教科書:

新・保育環境評価スケール①3歳以上

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に応答。ウェブメール。

授業テーマ:	こどもと教師がともに学び育つ授業づくりを探究する		
授業の概要:	応用演習Ⅱでは、Ⅰでの学びを土台として、一人ひとりの問題意識の芽をさらにふくらませ、個人研究テーマの輪郭をはっきりさせていくことを一つの柱とする。自分が解明していくテーマに対する研究の進め方も学んでいく。もう一つの柱は、教育実習やさまざまな課外活動を通してこどもとともに授業やプロジェクトを創る営みを通して見てきた実践的課題(悩み、迷い、困り感)を洗い出し、多様なケースを想定した実践事例テキスト(ケース・スタディのためのテキスト)の執筆に取り組む。 ※秋学期に1回、近隣のフィールドワークを実施する。日程は受講者との相談で決める。 ※福島県内でのフィールドワークを計画している。		
到達目標:	(1)自分の研究関心に関する歴史的、社会的背景と現在の実態を理解して、研究の計画を立て、自分の研究を立ち上げる心構えをつくることができる。 (2)教育実習やインターンシップなど現場での学びの体験の中に埋め込まれている困難性を浮き彫りにして、自分の言葉で説明することができる。 (3)仲間と協同して学習スタイルをさらにブラッシュアップし、多彩な関心や才能を有機的に統合して、既成概念にとらわれない作品づくりに取り組むことができる。		
授業方法:	毎回、受講者による小レポートや報告からゼミを創る。また、各自の原稿を編集し、テキスト作りを行うための協働学習を主たる活動とする。ゼミで報告するための準備学習として授業外でのリサーチ、資料作成も求められる。 ・ケース・スタディのテキスト執筆・編集に必要な周辺事象のリサーチを進める。 ・報告担当者は報告内容の準備だけでなくディスカッションの柱立てを練っておく。 ・毎回の授業終了後に本時のリフレクションシートをまとめる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 応用演習Ⅱのオリエンテーション、ゼミの進め方のガイダンス／実習リフレクション 2. 教育実習におけるエピソード記録をつくる 3. 質的な研究方法を学ぶ(1) 4. 質的な研究方法を学ぶ(2) 5. ケース・スタディのためのテキストづくり(1)ケース・スタディとは何か 6. ケース・スタディのためのテキストづくり(2)ケースの条件を吟味する 7. ケース・スタディのためのテキストづくり(3)ケースを報告・検討する 8. ケース・スタディのためのテキストづくり(4)ケースを報告・検討する 9. ケース・スタディのためのテキストづくり(5)ケース・スタディのテキスト編集会議 10. 個人研究テーマを練り上げる 11. 個人研究テーマの報告・検討(1) 12. 個人研究テーマの報告・検討(2) 13. 卒業研究に向けての準備学習(1)卒業研究の計画書を作成する 14. 卒業研究に向けての準備学習(2)ゼミ4回生の卒業研究報告を聴く 15. 全体のふり返り / ケース・スタディのテキスト仕上げ	教育実習の記録を読み返し、報告したいエピソードを選び出しておく。 実習録や観察ノートを読み返し、エピソード記録を作るために必要な材料、情報を整理しておく。 前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。 前の回に考え、議論した内容を踏まえ、提示された問いに対する自分の考えをまとめておく。 昨年度の受講者が製作したテキストを読み、気になった点や参考になりたい点を書き出しておく。 前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。また自分の報告するエピソード記録を読み返しておく。 発表者は自分の発表の内容と方法を工夫して考え、準備をしておく。 発表者は自分の発表の内容と方法を工夫して考え、準備をしておく。また聴き手から受けたコメントや質問について調べ直しや考えの整理を行う。 第7・8時で行った報告検討をもとに、編集のコンセプトや装丁のデザインなど、アイデアを練っておく。また第9時以降、各自作業を進め、授業外でもグループで検討する。 個人研究のテーマについて夏季休暇以降、進めてきた内容について整理しておく。 個人研究テーマについて発表の内容と方法を工夫して考え、準備しておく。 個人研究テーマについて発表の内容と方法を工夫して考え、準備しておく。また、聴き手からもらった意見や質問について調べ直しや考えの整理を行う。 第11・12時の内容をふり返り、卒業研究の研究内容、研究方法、研究の目的などに関する計画書の素案を準備しておく。 4回生の発表を自分の卒業研究の計画に取り込むために、学ぶべき点について整理しておく。また4回生への質問メモを作成しておく。 第9時以降、授業外で進めてきた編集作業を整理し、テキストの原稿を完成させ、最終検討を行う準備をしておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	応用演習Ⅱでは、教育実習やインターンシップ、各自の個別の体験を複眼的、多角的にリフレクションし、その意味づけを協同して作っていく時間が主となります。自分ひとりでは気付かなかったことを仲間から得る貴重な学びです。さらにそうした学びを可視化し、作品として表現することで、研究を他者に向けて発信する練習を行います。協同で行う学習・研究を展開する上で、各自の責任ある行動と、ともに学ぶ仲間に対する誠意ある対応が必要です。したがって、教育実習や介護等体験などの公欠を除いては全員、毎回出席を原則とします。		
フィードバックの方法:	(1)毎回、ゼミの最後に記入するリフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。 (2)ゼミのなかで、グループ活動や発表したりした際には適宜その場でコメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。 (3)自分の研究テーマ決定や進路に向けた相談については、必要に応じて随時行い、サポートする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎回のゼミへの積極的な参加とリフレクションカードの記入	30	当日のゼミの内容に即して自分の考えや感じたことを具体的かつ個性的に記述できているか
	ケースメソッドのテキスト原稿の執筆、編集、提出	40	伝えるべき内容について必要な手続きを経て整理し、相手にわかりやすい方法を用いてプレゼンテーションできているか。また協働する仲間に対して果たすべき自分の役割を遂行できたか。
	個人研究テーマのレポート	30	自分の関心ある内容について、卒業研究に必要なとなる研究の計画に即して具体的に記述することができているか。
教科書:	応用演習Ⅰと同様 授業時に配布する資料もテキストとして用いるため、ファイリングしておく。		

参考書:	応用演習 I と同様 赤木和重・岡村由紀子(2013)『「気になる子」と言わない保育～こんなときどうする？考え方と手立て』ひとなる書房 鯨岡峻(2013)『子どもの心の育ちをエピソードで描く』ミネルヴァ書房 中嶋雄一編(2003)『心の保育を考えるcase67』Gakken 岡田加奈子・竹鼻ゆかり編(2011)『教師のためのケースメソッド教育』少年写真新聞社 安藤輝次編(2009)『学校ケースメソッドで参加・体験型の教員研修』図書文化 谷川俊太郎・松本美枝子(2008)『生きる』ナナロク社 谷川俊太郎withfriends(2008)『生きる わたしたちの思い』KADOKAWA/角川マガジnz 谷川俊太郎withfriends(2009)『生きる わたしたちの思い 第2章』KADOKAWA/角川マガジnz 小寺卓矢・石川晋・石川学級41名の生徒たち(2016)『わたしたちの「撮る教室」』学事出版
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡方法:	ゼミの内容などに関しては、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。課題内容によってはマナビーも随時活用する。

授業テーマ:

理科の授業力と協同学習実践力の育成Ⅱ

授業の概要:

小学校で主体的で協同的な学びを実践できる教師の育成をめざす。学習内容の中心に理科教育と協同教育をおき、その理論と方法の理解と獲得のために、理科授業法ワークショップと授業力育成演習を行いながら実践的な指導力を身につける。理科授業ワークショップでは理科の各分野における協同学習を体験する。また、授業力育成演習では、実験操作に関わる演習と学外で行う理科教室の企画運営、及び、インストラクターを体験する。

到達目標:

・理科授業に関して発展的な知識や判断力を身につけることができる。
・各領域における実験・観察の技能と表現力を身につけることができる。
・実験を構想し、協同的な授業をデザインする力を身につけることができる。

授業方法:

2:演習, 3:実験実技演習(学内), 4:実験実技演習(学外) 5:講義/演習の混合
ワークショップと授業力育成演習を大学の内外で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと授業力育成演習2(小学校理科の構成)	学習指導要領(理科)の確認
2.	授業力育成演習2(生命領域の実験技能を取り入れた協同学習)	生命領域に関わる知識・技能の復習
3.	授業力育成演習2(地球領域の実験技能を取り入れた協同学習)	地球領域に関わる知識・技能の復習
4.	授業力育成演習2(粒子領域の実験技能を取り入れた協同学習)	粒子領域に関わる知識・技能の復習
5.	授業力育成演習2(エネルギー領域の実験技能を取り入れた協同学習)	エネルギー領域に関わる知識・技能の復習
6.	理科授業法(協同学習理論)	挙動学習の基本的構成要素の確認
7.	理科授業法ワークショップ(ケースメソッド教材で学ぶ協同学習技法1)	事前に配布するケースメソッド教材の読み込み
8.	理科授業法ワークショップ(ケースメソッド教材で学ぶ協同学習技法2)	読み込んだ気づきの確認と課題発見
9.	理科授業法ワークショップ(ケースメソッド教材で学ぶ協同学習技法3)	課題の解決に向けた協同学習理論の適応
10.	授業力育成演習3(理科教室の開発)	実験道具と材料の準備
11.	授業力育成演習3(理科教室の準備)	実験道具の作成
12.	授業力育成演習3(理科教室の実践1)	実験指導のイメージトレーニング
13.	授業力育成演習3(理科におけるミュージアム活用)	ミュージアムの事前調査
14.	授業力育成演習3(理科教室の実践2)	実験指導のイメージトレーニング
15.	ふり返りと総括	卒業研究に向けた課題の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

応用演習Ⅰで実施したマイクロテーチングのふり返りを行い、授業作りに生かすことができますようにします。理科教室では、児童が目的意識を持って体験的に行える実験観察を企画し、運営します。また、水族館でのフィールドワークを行い、理科との関連を学びます。
可能であれば、教育現場の理科の実態に触れるためにも学校ボランティア等を強くすすめます。

フィードバックの方法:

教室やフィールドワークの現場でまとめて解説し評価する。
提出物は採点后、コメントを記入し返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	理科教室の演習	40	到達目標の知識理解や技能の理科指導場面における活用状況をもって評価する。
	発表・討論	30	到達目標の実験構想と協同学習の理解度をケース教材の読み取りと問題解決の方法が説明できるかで評価する。
	授業への参加度	30	授業への積極的な参加と到達目標すべてに関わる内容と方法の理解度を討議場面等で評価する。

教科書:

プリントを配布する。

参考書:

授業中で随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等

授業テーマ:	社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育演習		
授業の概要:	・現代のこどもの現状を中心に、多文化・開発・平和など地球的な課題の認識とその解決を探る中で、開発教育や国際理解教育、社会科教育など地球市民を育てるための教育について、その意義を理論的、実践的に考察していく。 ・その際、こどもを地球市民社会への参加と形成の主体として位置付け、「学習デザイン」論の観点から、「子どもの学び」と参加型学習の意義を明確にし、学びの内容と方法について、指導法や学習材の開発などを行なう。		
到達目標:	知識理解:社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育の内容と課題が理解できる。 技能:研究に関わる調査、探求、分析、表現に関わる技能を身につけることができる。 関心・意欲・態度:卒業論文の執筆に向けて、課題を把握し、研究を進めようとする意欲を持つことができる。		
授業方法:	自らが追究する課題の発表、話し合い、グループでのワークショップ、レポート(論文)の作成		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ゼミ開き、年間計画	春休みの宿題	
	2. 研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック1	研究課題図書、資料の分析、考察	
	3. 研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック2	研究課題図書、資料の分析、考察	
	4. 研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック3	研究課題図書、資料の分析、考察	
	5. 研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック4	研究課題図書、資料の分析、考察	
	6. 研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック5	研究課題図書、資料の分析、考察	
	7. 研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック6	研究課題図書、資料の分析、考察	
	8. 研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック7	研究課題図書、資料の分析、考察	
	9. 卒論準備(2名)1	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成	
	10. 卒論準備(2名)2	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成	
	11. 卒論準備(2名)3	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成	
	12. 卒論準備(2名)4	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成	
	13. 卒論準備(2名)5	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成	
	14. 卒論準備(2名)6	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成	
	15. 卒論準備(2名)7	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ゼミでの発表、グループ活動を重視します		
フィードバックの方法:	ゼミ発表、グループワークに対するコメント		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	40	積極的に取り組んでいるか
	ゼミ発表・レポート	30	積極的に取り組んでいるか
	最終レポート	30	授業目標に到達しているか
教科書:			
参考書:	社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育に関わる文献をゼミに詳しく紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	e-mail、面談		

授業テーマ:

健康と生活文化の諸問題―運動遊び・スポーツを中心として

授業の概要:

健康や運動遊び・スポーツや健康はこどもの健全な成長や発達にとって、不可欠な領域であるが、便利で豊かになった現代において、かえってさまざまなひずみや問題点が明らかになってきている。この授業では、応用演習で学んだ基本的知識と研究方法を用いて、受講生が各自の興味・関心に従って研究題目を設定し、研究方法と対象を明確にし、資料を収集・整理する。

到達目標:

卒業研究のテーマを明確にし、それに関連する文献や資料を収集して検討を加えることによって、卒業研究の方法や対象、内容などを決定する。

授業方法:

講義・分担発表・ディスカッションと、実技やフィールドワークなどを並行して行い、総合的に授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	自分の卒業研究テーマを設定して授業に臨む
	2. 研究の内容と方法、資料収集の範囲の設定 概説	自分の卒業研究の目次を作成して授業に臨む
	3. 研究の内容と方法についての発表と質疑・応答、討議1	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	4. 研究の内容と方法についての発表と質疑・応答、討議2	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	5. 研究の内容と方法についての発表と質疑・応答、討議3	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	6. 研究の内容と方法についての発表と質疑・応答、討議4	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	7. 主要資料紹介による研究の方向性の発表と質疑・応答、討議1	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	8. 主要資料紹介による研究の方向性の発表と質疑・応答、討議2	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	9. 主要資料紹介による研究の方向性の発表と質疑・応答、討議3	担当者は発表資料作成して事前に提出。
	10. 中間まとめ	ここまでの発表資料を見直して自分の研究テーマを設定しておく
	11. 研究報告作成のための論文構成 発表と質疑・応答1	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	12. 研究報告作成のための論文構成 発表と質疑・応答2	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	13. 研究報告作成のための論文構成 発表と質疑・応答3	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	14. 研究報告作成のための論文構成 発表と質疑・応答4	担当者は発表資料作成して事前に提出。
	15. 全体討議	発表等の資料や授業全体の討論などを整理して、自分なりの考えをまとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

大学での学びのひとつの総決算である卒業研究のテーマや内容・方法などを決定する重要な学期です。しっかりと調べて発表し、他のメンバーへのサジェスチョンなどを含め主体的に発表と討論に参加してください。

フィードバックの方法:

それぞれの分担発表やそれに対する様々な意見などについて授業時間にそれぞれにまとめやコメントをする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への主体的取り組み	40	授業内での意見発表など
	発表等の課題	40	発表資料と発表内容
	ゼミ活動の積極的参加	20	協同作業等の分担内容など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

yhamaguc@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 応用演習Ⅰ、応用演習Ⅱで学んだ知識を活用し、各自が設定しているテーマに基づいて研究を進め、その一部や進捗状況をレジュメ発表する。

到達目標: 1. 卒業研究テーマに必要な知識を習得し、理解する。
2. 卒業研究テーマを進め、関心・意欲・態度を高める。

授業方法: 演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
2.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
3.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
4.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
5.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
6.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
7.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
8.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
9.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
10.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
11.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
12.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
13.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
14.	卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。
15.	秋学期への打ち合わせ	卒業研究の進捗状況を各自確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
フィードバックの方法: 卒業研究テーマに基づいたレジュメ発表にコメントをし、卒業研究の進め方に対して助言する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レジュメ発表	50	到達目標1, 2について評価する。
	授業への参加度	50	レジュメ発表に対する質疑に積極的に参加したかを評価する。

教科書: 特に指定しない。

参考書: 卒業研究テーマに基づいて適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:

子どもの遊び・活動とその環境構成に関する研究(1)

授業の概要:

子どもの成長・発達に資する遊びや体験活動とその環境構成の可能性に関して、自らの問題意識や解明したい課題を明らかにするとともに、卒業研究論文を作成するための基本的な方法論を学ぶ。

到達目標:

・子どもの成長・発達に資する遊びや体験活動及び環境構成の具体的内容と方法について理解を深める。

・授業テーマの中から、特に関心のある内容について自らの研究テーマを絞り、研究計画と先行研究を学び、実証計画を立てる。

・研究成果をレポートにまとめ、今後の課題を明らかにする。

授業方法:

2回目から4回目までは、受講生各自の問題意識を明らかにしながら、研究の到達目標をそれぞれが語り合い、質疑・応答とディスカッションを行う。6回目から9回目は各自の関連する先行研究資料・文献の発掘とその書誌作成を行う。10回目から14回目は、実際の子どものを対象として学びを確かめる実践計画・その実施と振り返りを行う。1回目と5回目と15回目は適宜必要な講義と学生の発表、ディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	応用演習での学びの振り返り
	2. 問題と課題の意識化、討論(1)	関心テーマレジュメの作成
	3. 問題と課題の意識化、討論(2)	
	4. 問題と課題の意識化、討論(3)	
	5. 研究の見通しと計画	研究計画案の作成
	6. 関連資料・文献の探索(1)	探したい資料・文献リストの作成
	7. 関連資料・文献の探索(2)	見つけた資料・文献リストの作成
	8. 関連資料・文献からの学び(1)	資料・文献のまとめ、レジュメ作成
	9. 関連資料・文献からの学び(2)	資料・文献のまとめ、レジュメ作成
	10. 環境構成計画(1)	実験計画の作成
	11. 環境構成計画(2)	実践計画の修正案作成
	12. 環境構成計画(3)	
	13. 実践の振り返り(1)	実践の振り返りレポート
	14. 実践の振り返り(2)	実践の振り返りレポート
	15. 総括と今後の課題の確認	

受講者へのメッセージやアドバイス:

常に「なぜ」の問題意識をもって子育て・子育て環境を意識的に見ることを心がける。

フィードバックの方法:

提出物に対しては、添削後の返却や教室でまとめて解説するなどしてフィードバックする。ディスカッションや討議など口頭での発表については適宜コメントを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	30	論理性、仮説とその検証の整合性
	発表・討論	30	明快な口頭発表、批判的視点、他者への建設的意見
	実践研究	20	仮説と実験の整合性
	授業への参加度	20	積極的な意見発表や役割の分担

教科書:

授業において適宜紹介する。

参考書:

近藤幹生、保育とは何か、岩波新書
仙田 満、こどもと遊び、岩波新書
村瀬学、自閉症、ちくま新書
尾木直樹、「学び」という希望、岩波ブックレット

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力、

教員との連絡方法:

Eメール、電話

授業テーマ:	家族・文化・制度と子ども―卒業研究とテーマ設定―		
授業の概要:	卒業研究のためのテーマを定め、先行研究、自らの研究の方法論を定める。長文の卒業研究の書き方を学ぶ。同時に、卒業研究に関する研究倫理の指導も行う。		
到達目標:	(1)卒業研究のテーマを確定する。 (2)テーマに即した目次を立てることが出来る。 (3)テーマに即した先行研究等を複数見つけ、それらを熟読する。		
授業方法:	・ゼミ生の報告と全体のディスカッション ・教員による論文紹介と解説等		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. テーマ設定と報告、議論(1)		全14名が各自の卒業研究テーマ、目的、目次を記し、必要部数印刷して授業に臨むこと。
	2. テーマ設定と報告、議論(2)		第1回目の報告、議論を踏まえ、現在の各自の作成資料を必要に応じ修正してくること。
	3. テーマ設定と報告、議論(3)		第2回目の報告、議論を踏まえ、現在の各自の作成資料を必要に応じて修正してくること。
	4. テーマ設定と報告、議論(4)		第3回目の報告、議論を踏まえ、現在の各自の作成資料を必要に応じて修正してくること。
	5. 卒業論文の書き方(1)		全員が、先の報告と議論を踏まえ、卒業研究テーマ、目的文、目次を提出できる状態で持参すること。
	6. 卒業論文の書き方(2)		第5回時に配布した「卒業論文の書き方」冊子(本研究室独自のもの)を指定頁まで熟読し、不明点を整理してくること。
	7. 卒業論文の書き方(3)		第6回に続き、配布した冊子を指定頁まで熟読し、不明点を整理してくること。
	8. 先行研究の探し方、読み方(1)		各自の、目次と章立て、目的文を点検し、現時点でのそれらを清書し、授業開始前に提出する。
	9. 先行研究の探し方、読み方(2)		自らのテーマに関係する先行研究を持参する。
	10. 先行研究の読み込みと先行研究の書き方(1)		自らのテーマに関係する先行研究をさらに探し、持参する。
	11. 先行研究の読み込みと先行研究の書き方(2)		収集し読破した先行研究を記述し、授業前に提出する。
	12. 「研究の背景・目的」文の文章表記のこと(1)		自分の卒業研究の「研究の背景・目的」文を再検討の上、配布冊子に即して清書・印刷し、授業開始時に全員に配布する(1)
	13. 「研究の背景・目的」文の文章表記のこと(2)		自分の卒業研究の「研究の背景・目的」文を再検討の上、配布冊子に即し清書・印刷し、授業開始時に全員に配布する(2)
	14. 調査方法等の模索と確定		聞き取り調査の計画を立ててくる。
	15. 調査方法等の模索と確定		聞き取り調査の計画を加筆修正してくる。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	学生の質疑応答には適宜答え、必要な諸資料を随時提供する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	目的構成の適切さ	20%	春学期に卒業研究の目的を確立できていること。
	先行研究に対する学習	20%	各自の目的に沿う先行研究を複数見いだしていること。
	論文への取り組み	60%	自分の卒業研究テーマの理論化に意欲的であること。
教科書:	なし		
参考書:	なし		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力		
教員との連絡方法:	卒業研究の学生たちとはメールアドレス、電話等を相互に知らせあっているので適宜連絡を取り合うことができる。		

授業テーマ:	文化と発達																																		
授業の概要:	3年次の応用演習Ⅰ、Ⅱを踏まえて、3年次終了時までには作成した論文の再考を行います。そして4年次修了時までにはさらに完成された卒業論文を作成します。卒業論文のテーマとしては、子どもの文化間移動に関するもの、教育や発達に関するものを初め、自分が深めたいテーマを発表、討論しながら検討をしていきます。そして自分が研究の中で選んだ心理学の方法論をさらに身につけていきます。同時にゼミの中の他の学生が行っている方法論についても学んでいきます。夏期休暇中には卒業論文のための本調査を行います。集団討論も行いながら、コミュニケーション力を高めていきます。																																		
到達目標:	「知識・理解」 研究方法、論文の読み方や書き方について理解している。 自分の研究テーマに関連する文献に関する知識をもっている。 「関心・意欲・態度」 ゼミ生同士の研究テーマにも関心をもち、積極的に質問やコメントをしながら、お互いの研究に貢献する態度をもつ。 積極的に集団討論に参加しようとする態度が見られる。 「表現・技能・能力」 自分自身の研究テーマについての的確に表現できる技能を身に付けている。 自分の言いたいことを的確に表現できる技能と、集団をまとめる力を身に付けている。																																		
授業方法:	自分のテーマに沿ってレジュメを作成し、発表・討論形式で授業を行います。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 集団討論準備 応用演習Ⅱで見学した施設のリフレクション</td><td>資料の振り返り</td></tr><tr><td>2. 集団討論、研究倫理、情報倫理 統計検定の学習</td><td>資料作成</td></tr><tr><td>3. 集団討論 卒論発表</td><td>資料作成 担当者はレジュメ作成</td></tr><tr><td>4. 集団討論 卒論発表</td><td>資料作成 担当者はレジュメ作成</td></tr><tr><td>5. 集団討論 卒論発表</td><td>資料作成 担当者はレジュメ作成</td></tr><tr><td>6. 集団討論 卒論発表</td><td>資料作成 担当者はレジュメ作成</td></tr><tr><td>7. 発達検査勉強会</td><td>事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。</td></tr><tr><td>8. 新聞記事討論</td><td>新聞記事を選択し、熟読しておくこと。</td></tr><tr><td>9. 模擬授業・保育</td><td>担当者は指導案作成</td></tr><tr><td>10. 模擬授業・保育</td><td>担当者は指導案作成</td></tr><tr><td>11. ワークショップ</td><td>特にありません。</td></tr><tr><td>12. 新聞記事討論</td><td>新聞記事を選択し、熟読しておくこと。</td></tr><tr><td>13. 卒論発表</td><td>担当者はレジュメ作成</td></tr><tr><td>14. 卒論発表</td><td>担当者はレジュメ作成</td></tr><tr><td>15. 卒論発表(グループ討論)</td><td>レジュメ作成</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 集団討論準備 応用演習Ⅱで見学した施設のリフレクション	資料の振り返り	2. 集団討論、研究倫理、情報倫理 統計検定の学習	資料作成	3. 集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成	4. 集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成	5. 集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成	6. 集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成	7. 発達検査勉強会	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。	8. 新聞記事討論	新聞記事を選択し、熟読しておくこと。	9. 模擬授業・保育	担当者は指導案作成	10. 模擬授業・保育	担当者は指導案作成	11. ワークショップ	特にありません。	12. 新聞記事討論	新聞記事を選択し、熟読しておくこと。	13. 卒論発表	担当者はレジュメ作成	14. 卒論発表	担当者はレジュメ作成	15. 卒論発表(グループ討論)	レジュメ作成		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 集団討論準備 応用演習Ⅱで見学した施設のリフレクション	資料の振り返り																																		
2. 集団討論、研究倫理、情報倫理 統計検定の学習	資料作成																																		
3. 集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成																																		
4. 集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成																																		
5. 集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成																																		
6. 集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成																																		
7. 発達検査勉強会	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。																																		
8. 新聞記事討論	新聞記事を選択し、熟読しておくこと。																																		
9. 模擬授業・保育	担当者は指導案作成																																		
10. 模擬授業・保育	担当者は指導案作成																																		
11. ワークショップ	特にありません。																																		
12. 新聞記事討論	新聞記事を選択し、熟読しておくこと。																																		
13. 卒論発表	担当者はレジュメ作成																																		
14. 卒論発表	担当者はレジュメ作成																																		
15. 卒論発表(グループ討論)	レジュメ作成																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業外でも課題をこなす必要があり、定められた時間外にもゼミを行いますので、積極的な参加と課題をこなす意志が不可欠です。夏期休暇中にも課題が出されます。子育て広場等への参加も求められます。																																		
フィードバックの方法:	ゼミ内で課題を共有したり、研究室で個別相談にのります。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席を含む積極的な発表・討論</td><td>70%</td><td>毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。</td></tr><tr><td>レポート・論文等</td><td>30%</td><td>的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数以上のレポート・論文を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席を含む積極的な発表・討論	70%	毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。	レポート・論文等	30%	的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数以上のレポート・論文を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
出席を含む積極的な発表・討論	70%	毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。																																	
レポート・論文等	30%	的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数以上のレポート・論文を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。																																	
教科書:	特にありません。																																		
参考書:	授業時もしくは個別に随時個人の研究テーマに合わせて指定します。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	マナビーにゼミ生全員に関わることについては掲載します。 ゼミ内でのメイリングリストや個人メールを活用します。 研究室で個人相談を行います。																																		

授業テーマ:

デザイン・シンキングとブックレット制作

授業の概要:

スタンフォード大学のd.schoolのヴィジョンとカリキュラムを参考にしてデザイン・シンキングの目標と方法を分析し、実際にワークショップを通して実践をしていく。デザイン・シンキングのための学びの場をどうデザインするかが授業のポイントで、学生は実際のワークショップを企画・実施・評価・改善を行う。春学期はデザイン・シンキングのベースになる様々な文献を中心に読み進め、これらの知見を活かして、デザイン・シンキングのためのワークショップデザインの基本的な姿勢と技術を身につける。

到達目標:

(1)デザイン・シンキングについての自分なりの解釈を整理し、理解した内容をモデル化(図示)し、説明することができる。
(2)デザイン・シンキングを身につけるためのワークショップのデザイン・運営・評価・改善ができる。
(3)卒業制作研究のプロトタイプとしてミニブックレットを完成する。

授業方法:

ゼミはレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使って、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善する。プレゼンテーションや討論は頻繁に行う。情熱的で積極的な参加が必要。実践的な授業なので学期中にいくつかのプロジェクトを実施する。そのためのグループディスカッションや制作は授業外の時間を使って行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	スタンフォード大学のd.schoolのヴィジョンと方法	d.schoolのWebsiteを見て、ヴィジョンとミッションを確認しておく。
2.	デザイン・シンキングとは	デザイン・シンキングのステップをモデル化して、その内容をまとめておく。
3.	クリエイティブ・コンフィデンスとは何か	クリエイティブ・コンフィデンスについての基本的な考え方を自分なりにまとめておく。
4.	コラボラティブ・アプローチ	コラボレーションの意義と方法について考え、様々なアプローチを考え、それぞれをモデル化し、説明する。
5.	プロトタイピング ティンカリング・スタジオ	プロトタイピングの重要性について考え、ポイントを整理しておく。 サンフランシスコのExploratoriumのTinkering StudioのWebsiteを見ておく。
6.	デザイン・シンキングのための学びの場をどうデザインするか	どのようなワークショップが可能か考えてみる。
7.	デザイン・シンキングの社会的構成	他者とのコラボレーションの方法を考え、具体的なプロジェクトに落とし込む。
8.	チーム・ビルディングの方法	チームの重要性について考えておく。
9.	デザイン・シンキング・ワークショップのデザインと実施1	ワークショップの準備をする。
10.	リフレクション	ワークショップをふり返る。
11.	デザイン・シンキング・ワークショップのデザインと実施2	ワークショップの準備をする。
12.	リフレクション2	ワークショップをふり返る。
13.	ミニブックレット制作1 卒業制作研究のプロトタイプの制作	ミニブックレットを構想する。
14.	ミニブックレット制作2 卒業制作研究のプロトタイプの制作	ミニブックレットの制作を続ける。
15.	ミニブックレットのプレゼンテーション	ミニブックレットを完成し、最終レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実践的研究を中心に展開するゼミです。かなりのコミットメントが要求されますが、とてもやりがいがありますので、一緒に授業を創っていきましょう。

フィードバックの方法:

グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ワークショップへの貢献度	30	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善を総合的に評価する。
	ディスカッション	10	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
	ミニブックレット	30	ミニブックレットが研究テーマのプロトタイプとしての確に作成されているかを評価する。
	最終レポート	30	春学期のゼミ活動を通して実践的に経験したことを、理論と関係づけて自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:

授業中に資料を配布する。

参考書:

授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

基本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

授業テーマ:

授業の概要: 卒業研究の場を通して意見交換をし、お互いに学び合う。

到達目標: 卒業研究について研究計画がまとまり、半分程度進行している。

授業方法: 演習形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 卒業研究計画を立てる(全員)	章立てを考える(文章化)
	2. 個別発表と意見交換①	自分の計画に沿って研究を進める。
	3. 個別発表と意見交換②	自分の計画に沿って研究を進める。
	4. 個別発表と意見交換③	自分の計画に沿って研究を進める。
	5. 個別発表と意見交換④	自分の計画に沿って研究を進める。
	6. 個別発表と意見交換⑤	自分の計画に沿って研究を進める。
	7. 個別発表と意見交換⑥	自分の計画に沿って研究を進める。
	8. 個別発表と意見交換⑦	自分の計画に沿って研究を進める。
	9. 個別発表と意見交換⑧	自分の計画に沿って研究を進める。
	10. 個別発表と意見交換⑨	自分の計画に沿って研究を進める。
	11. 個別発表と意見交換⑩	自分の計画に沿って研究を進める。
	12. 個別発表と意見交換⑪	自分の計画に沿って研究を進める。
	13. 個別発表と意見交換⑫	自分の計画に沿って研究を進める。
	14. まとめ: 中間発表①	自分の研究の進行状況について発表の準備をする。
	15. まとめ: 中間発表②	自分の研究の進行状況について発表の準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 全体への解説。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	受講態度	50%	話し合いの内容を自分のこととして受け止めたかどうか。
	レポート発表	50%	着実に研究を遂行しているかどうか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後の応答。ウェブメール。

授業テーマ:

こどもと教師がともに学び育つ授業をデザインする

授業の概要:

それぞれに多様な関心や履歴を有する仲間とともに共通のテキストから学び、各自の教育実習体験を意味づけ、言語化する活動を通して培ってきた力をもとに、各自が納得のいく卒業研究のテーマを選定し、先行研究の知見に触れながら、テーマにふさわしい研究方法を見出していくことを通して、卒業研究の書き方を学ぶことを目指す。

到達目標:

(1) 卒業研究のテーマについてその選択の根拠や研究の必要性・可能性について理解しているとともに、それを相手にわかりやすく説明することができる。
(2) 卒業研究を行っていく上で必要となる研究方法、諸々の手続きについて理解し、活用できている。
(3) テーマを異にする仲間の研究内容や方法に対して責任を持って自分の見解を述べることができる。

授業方法:

各自の研究テーマに基づく研究の進捗状況を報告し、相互に検討しあう活動が主となる。また必要に応じて研究方法や論文の書き方に関するレクチャーも並行して行う。受講者の積極的参加と協同する学びによってゼミをつくる。
・ゼミの時間以外にも自分の研究テーマに関する内容の掘り下げ、研究方法の吟味を行うための相当な学習時間が必要となる。
・自分の研究テーマに関係する文献や資料のリストを定期的に更新させる必要がある。最低でも20冊の参考文献や資料が見つけ、読み込む作業を進める。
・読んで考えたことを定期的に文章化し、整理しておく。まとまった分量の文章をつくるためのこまめな文章化の作業を怠らない。
・ゼミの時間以外でも、書き進めた文章に対する添削を積極的に受ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 卒業論文を書く目的を知る	応用演習Ⅱの期末レポートを読み返し、春季休暇の間に進めた内容について整理しておく。
2. 各自のテーマに関する研究の進捗状況報告(1)	発表者は事前に資料をゼミメンバーと共有できるよう、計画的に余裕をもって発表の準備を行う。また、発表者以外は配布された資料を必ず読んで、質問やコメントを考えておく。
3. 各自のテーマに関する研究の進捗状況報告(2)	同上
4. 各自のテーマに関する研究の進捗状況報告(3)	同上
5. 各自のテーマに関する先行研究の検討(1)	発表者は事前に資料をゼミメンバーと共有できるよう、計画的に余裕をもって発表の準備を行う。また、発表者以外は配布された資料を必ず読んで、質問やコメントを考えておく。
6. 各自のテーマに関する先行研究の検討(2)	同上
7. 各自のテーマに関する先行研究の検討(3)	同上
8. 卒業論文の書き方に関する全体説明	昨年度の4回生が執筆した卒業研究論文のファイルを事前に閲覧し、書き方について気になる点を書き出しておく。
9. 卒業論文の書き方(1)序論・結論	前の回に配布された資料を読み、また前の回にレクチャーされた内容を見返しておく。
10. 卒業論文の書き方(2)本論	前の回に配布された資料を読み、また前の回にレクチャーされた内容を見返しておく。気がかりな点や質問を整理しておく。
11. 各自の研究報告(1)	発表者は事前に資料をゼミメンバーと共有できるよう、計画的に余裕をもって発表の準備を行う。また、発表者以外は配布された資料を必ず読んで、質問やコメントを考えておく。
12. 各自の研究報告(2)	同上
13. 各自の研究報告(3)	同上
14. 卒業論文の書き方に関する質疑応答	第11～13時の中で検討を受けたことをもとに、夏季休暇中に研究を深化発展させる上で確認しておきたいことを整理しておく。
15. 春学期のまとめと夏季休暇中の研究計画づくり	春学期までの到達点を確認し、夏季休暇中に進めるべき内容を項目化して書き出しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

卒業研究のテーマはこどもや教師の学び・育ちに関わるものの中から、各自の納得のいく研究テーマを選ぶことが望ましいです。また、テーマを異にする仲間の研究内容や方法からも学ぶことによって、研究としてのクオリティを高めていくようにします。さらに、夏季休暇中にも卒業研究のための調査を行う必要がありますので、進路実現のための様々な活動(採用試験や就職活動など)を考慮して計画的に進めていきます。

フィードバックの方法:

(1) 毎回、ゼミの最後に記入するリフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
(2) ゼミのなかで、グループ活動や発表したりした際には適宜その場でコメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。
(3) 自分の研究テーマ決定や進路に向けた相談については、必要に応じて随時行い、サポートする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文執筆のための準備学習	30	研究テーマに不可欠な内容の構成が練られているか、研究テーマにふさわしい研究方法が選ばれているか、先行研究に対する読み込みがなされているかを基準として評価する
ゼミでの報告	40	定期的に文章化し、自分の考えと先行研究の意見や事実とを区別して論理的かつ個性的に表現できているか、先行研究の文献・資料リストが定期的に更新されているかを基準として評価する。
研究仲間への質問・検討への積極的な参加・出席と毎回のリフレクションカードの記入	30	テーマを異にする研究仲間に対して建設的な意見や質問を行っているか、他者から学んだことを自分に生かす工夫を考えてリフレクションしているかどうかを評価する

教科書:

授業時に配布する資料類がテキストとなるため、ファイリングしておく。

参考書:

昨年度の応用演習Ⅰ・Ⅱで教科書や参考文献となっていたものを引き続き活用する。それ以外の参考文献はゼミの中で随時紹介、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

ゼミの内容などに関しては、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。課題内容によっては
マナビーも随時活用する。

授業テーマ:	理科の授業開発と協同学習研究Ⅰ																																		
授業の概要:	大学での学習活動の集大成として卒業論文を作成する。研究の柱として理科教育と協同学習をおき、その理論と方法を活用した実践的な学びを実現する。具体的には、理科の授業研究、実験・観察の開発研究、協同学習研究に関わるものから課題を設定し、課題解決の方法、情報収集と活用、実験観察、データの整理等を計画的に構成し、方針を立てると同時に研究を開始する。																																		
到達目標:	・理科の授業研究、実験・観察研究、協同学習研究、教師教育等から選択し研究を行うことができる。 ・研究テーマに関する情報を収集することができる。 ・予備実験観察や研究授業観察を行い、データを分析することができる。 ・卒業論文の作成に向けて構成計画と実践計画を立てることができる。																																		
授業方法:	2:演習, 3:実験実技演習(学内), 5:講義/演習の混合																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション(個人テーマ決定に向けて)</td><td>課題選択に向けて卒業生の卒業論文を読む</td></tr><tr><td>2. テーマと計画の確認</td><td>課題を絞り吟味する</td></tr><tr><td>3. 先行研究及び資料収集1</td><td>課題に関わる先行研究を読む</td></tr><tr><td>4. 先行研究及び資料収集2</td><td>課題に関わる先行研究を読む</td></tr><tr><td>5. 先行研究及び資料収集3</td><td>課題に関わる先行研究を読む</td></tr><tr><td>6. 予備観察実験と実験データ収集1</td><td>実験研究構想と計画を立てる</td></tr><tr><td>7. 予備観察実験と実験データ収集2</td><td>データを収集する</td></tr><tr><td>8. 予備観察実験と実験データ収集3</td><td>データを収集する</td></tr><tr><td>9. 実験データ分析と整理1</td><td>取得したデータの分析</td></tr><tr><td>10. 実験データ分析と整理2</td><td>取得したデータの表示方法を工夫して可視化作業をする</td></tr><tr><td>11. 実験データ分析と整理3</td><td>取得したデータの表示方法を工夫して可視化作業をする</td></tr><tr><td>12. 論文下書き1</td><td>論文の下書きを始める</td></tr><tr><td>13. 論文下書き2</td><td>論文の下書きをする</td></tr><tr><td>14. 論文下書き3</td><td>中間発表の原稿作成</td></tr><tr><td>15. 論文中間発表とまとめ</td><td>中間発表練習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション(個人テーマ決定に向けて)	課題選択に向けて卒業生の卒業論文を読む	2. テーマと計画の確認	課題を絞り吟味する	3. 先行研究及び資料収集1	課題に関わる先行研究を読む	4. 先行研究及び資料収集2	課題に関わる先行研究を読む	5. 先行研究及び資料収集3	課題に関わる先行研究を読む	6. 予備観察実験と実験データ収集1	実験研究構想と計画を立てる	7. 予備観察実験と実験データ収集2	データを収集する	8. 予備観察実験と実験データ収集3	データを収集する	9. 実験データ分析と整理1	取得したデータの分析	10. 実験データ分析と整理2	取得したデータの表示方法を工夫して可視化作業をする	11. 実験データ分析と整理3	取得したデータの表示方法を工夫して可視化作業をする	12. 論文下書き1	論文の下書きを始める	13. 論文下書き2	論文の下書きをする	14. 論文下書き3	中間発表の原稿作成	15. 論文中間発表とまとめ	中間発表練習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション(個人テーマ決定に向けて)	課題選択に向けて卒業生の卒業論文を読む																																		
2. テーマと計画の確認	課題を絞り吟味する																																		
3. 先行研究及び資料収集1	課題に関わる先行研究を読む																																		
4. 先行研究及び資料収集2	課題に関わる先行研究を読む																																		
5. 先行研究及び資料収集3	課題に関わる先行研究を読む																																		
6. 予備観察実験と実験データ収集1	実験研究構想と計画を立てる																																		
7. 予備観察実験と実験データ収集2	データを収集する																																		
8. 予備観察実験と実験データ収集3	データを収集する																																		
9. 実験データ分析と整理1	取得したデータの分析																																		
10. 実験データ分析と整理2	取得したデータの表示方法を工夫して可視化作業をする																																		
11. 実験データ分析と整理3	取得したデータの表示方法を工夫して可視化作業をする																																		
12. 論文下書き1	論文の下書きを始める																																		
13. 論文下書き2	論文の下書きをする																																		
14. 論文下書き3	中間発表の原稿作成																																		
15. 論文中間発表とまとめ	中間発表練習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	まず、卒業研究の個人テーマについて資料・情報の収集を行います。情報の収集にあたっては、本ゼミの卒業生が作成した卒業論文集等を参考とし、ゼミ担当と入念な調整を行います。																																		
フィードバックの方法:	教室やフィールドワークの現場で個別に解説し評価する。 提出物は採点后、コメントを記入し返却する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>卒業研究の実践発表・討論</td><td>40</td><td>到達目標のデータ収集や分析、研究の状況の進捗状況をもって評価する。</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>30</td><td>授業に積極的に参加し、到達目標すべてに関わる内容と方法の理解度によって評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	卒業研究の実践発表・討論	40	到達目標のデータ収集や分析、研究の状況の進捗状況をもって評価する。	授業への参加度	30	授業に積極的に参加し、到達目標すべてに関わる内容と方法の理解度によって評価する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
卒業研究の実践発表・討論	40	到達目標のデータ収集や分析、研究の状況の進捗状況をもって評価する。																																	
授業への参加度	30	授業に積極的に参加し、到達目標すべてに関わる内容と方法の理解度によって評価する。																																	
教科書:	プリントを配布する。																																		
参考書:	授業中で随時紹介する。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、自己管理能力																																		
教員との連絡方法:	授業前後に対応、オフィスアワー、Eメール等																																		

授業テーマ:	社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育演習		
授業の概要:	・現代のこどもの現状を中心に、多文化・開発・平和など地球的な課題の認識とその解決を探る中で、開発教育や国際理解教育、社会科教育など地球市民を育てるための教育について、その意義を理論的、実践的に考察していく。 ・その際、こどもを地球市民社会への参加と形成の主体として位置付け、「学習デザイン」論の観点から、「子どもの学び」と参加型学習の意義を明確にし、学びの内容と方法について、指導法や学習材の開発などを行なう。		
到達目標:	知識理解:社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育の内容と課題が理解できる。 技能:研究に関わる調査、探求、分析、表現に関わる技能を身につけることができる。 関心・意欲・態度:卒業論文の執筆に向けて、課題を把握し、研究を進めようとする意欲を持つことができる。		
授業方法:	自らが追究する課題の発表、話し合い、グループでのワークショップ、レポート(論文)の作成		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ゼミ開き、年間計画	夏休みの宿題	
	2. 卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック1	研究課題図書、資料の分析、考察	
	3. 卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック2	研究課題図書、資料の分析、考察	
	4. 卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック3	研究課題図書、資料の分析、考察	
	5. 卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック4	研究課題図書、資料の分析、考察	
	6. 卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック5	研究課題図書、資料の分析、考察	
	7. 卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック6	研究課題図書、資料の分析、考察	
	8. 卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック7	研究課題図書、資料の分析、考察	
	9. 卒論論文の執筆と指導(2名)1	論文執筆	
	10. 卒論論文の執筆と指導(2名)2	論文執筆	
	11. 卒論論文の執筆と指導(2名)3	論文執筆	
	12. 卒論論文の執筆と指導(2名)4	論文執筆	
	13. 卒論論文の提出	論文執筆	
	14. ゼミ卒論発表1	卒業論文の概要とパワーポイントの作成	
	15. ゼミ卒論発表2	卒業論文の概要とパワーポイントの作成	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ゼミでの発表を重視します		
フィードバックの方法:	ゼミ発表、論文執筆に対するコメント		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	20	積極的に取り組んでいるか
	ゼミ発表・レポート	30	積極的に取り組んでいるか
	最終レポート	50	授業目標に到達しているか
教科書:			
参考書:	社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育に関わる文献をゼミに詳しく紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	e-mail、面談		

授業テーマ:

健康と生活文化の諸問題―運動遊び・スポーツを中心として

授業の概要:

卒業研究Ⅰにおいて設定した主題に対応する研究方法を用いて、受講生が各自の興味・関心に従って設定したテーマについてまとめた内容を基礎として、さらなる資料を収集・整理を行い、それらに分析・検討を加え論文(もしくは研究レポート等)を作成する。

到達目標:

各自が設定したテーマについての論文(もしくは研究レポート)を作成し、概要、パワーポイントによるプレゼンテーションを行い、こども学科卒業研究発表会で発表する。

授業方法:

講義・分担発表・ディスカッションと個別指導を中心に、実技やフィールドワークなどを並行して行い、総合的に授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	研究課題をまとめておく
	2. 資料の収集状況と論文の見通しの発表1	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	3. 資料の収集状況と論文の見通しの発表2	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	4. 資料の収集状況と論文の見通しの発表3	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	5. 中間発表 発表と質疑・応答、討議1	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	6. 中間発表 発表と質疑・応答、討議2	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	7. 中間発表 発表と質疑・応答、討議3	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	8. 中間発表 発表と質疑・応答、討議4	担当者は発表資料作成して事前に提出。 他のメンバーは発表のための準備
	9. 各自の研究報告と討議1	発表準備(プレゼンテーション資料作成)と卒業研究作成
	10. 各自の研究報告と討議2	発表準備(プレゼンテーション資料作成)と卒業研究作成
	11. 各自の研究報告と討議3	発表準備(プレゼンテーション資料作成)と卒業研究作成
	12. 各自の研究報告と討議4	発表準備(プレゼンテーション資料作成)と卒業研究作成
	13. 全体討議1	卒業研究発表会用概要原稿作成
	14. 全体討議2	卒業研究文集、論文CDブック、発表用パネル作成
	15. 発表会用資料作成	卒業研究文集、論文CDブック、発表用パネル作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

自分の興味関心を明確にして客観的記述によってレポートを作成して発表するという4年間の学びの総決算です。学んだものをベースに自分の考えやこれからの方向性を明示するよう意欲的に取り組んでください。

フィードバックの方法:

それぞれの研究過程における中間発表などについて授業時間にそれぞれにまとめやコメントをする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業研究レポート	60	レポートの内容
	授業への積極的取り組み	20	授業内での意見発表など
	ゼミ活動の主体的参加	20	協同作業等の分担内容など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:			
授業の概要:	卒業研究Ⅰに引き続き、各自のテーマに基づいた卒業研究の進捗状況をレジュメ発表する。規定に基づいて卒業論文をまとめ、提出する。		
到達目標:	1. 卒業研究テーマに関する知識を習得し、理解する。 2. 卒業研究テーマに対する関心・意欲を高め、社会で活用する態度を身につける。		
授業方法:	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	2. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	3. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	4. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	5. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	6. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	7. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	8. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	9. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	10. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	11. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	12. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	13. 卒業研究テーマに関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	14. 卒業研究発表に関するレジュメ発表	発表者はレジュメを準備する。質疑の内容を各自まとめる。	
	15. 卒業研究発表会に向けての打ち合わせ	卒業研究発表会での準備事項をまとめる。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	卒業研究の進捗状況についてコメントし、進め方についての助言を行う。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レジュメ発表	30	到達目標1について評価する。
	卒業論文	50	到達目標1, 2について評価する。
	授業への参加度	20	レジュメ発表に対する質疑への参加について評価する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	卒業研究テーマに基づいて適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業前後に教室内で応対		

456604

卒業研究Ⅱ

笠間 浩幸

授業テーマ:	子どもの遊び・活動とその環境構成に関する研究(2)		
授業の概要:	子どもの成長・発達に資する遊びや体験活動とその環境構成の課題に関する自らの問題意識に基づき、疑問に思っていたことや解明しなかった課題について一定の研究成果をまとめる。研究成果は客観性と論理的構成を持つ論文として完成させるとともに、ゼミ生相互の評価を行いながら、今後も探求し続けることの大切さと意義を感じ合う。		
到達目標:	・子どもの成長・発達に資する遊びや体験活動及び環境構成の具体的内容と方法について、新たな視点からの可能性を追究する。 ・自らの研究テーマ沿って、仮説の設定と実践的検証を行い新たな環境構成の方法について考察を深める。 ・研究成果を論理的かつ客観性をもつ論文としてまとめるとともに、明瞭な口頭発表ができるようにする。		
授業方法:	基本的に個人研究の進展に沿ってレジュメやレポートの提出、発表を行ってもらい、コメントや全体での討論を中心に授業を進める。12回目以降は個人指導が中心となる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. ガイダンス、春学期の振り返り		春学期の到達点と課題のまとめ
	2. 研究計画の設定		研究スケジュールの確認
	3. 追試の実践計画(1)		実践研究計画の策定
	4. 追試の実践計画(2)		実践研究計画の策定・修正
	5. 仮説検証の実践的検証		子ども対象の実験検証
	6. 実践の振り返り		実験の振り返りまとめレポート
	7. 論文作成・文章の基本		
	8. 研究論文構成の検討(1)		卒業論文の章立て作成
	9. 研究論文構成の検討(2)		卒業論文の章立て作成・修正
	10. 中間報告会(1)		発表レジュメ作成
	11. 中間報告会(2)		発表レジュメ作成
	12. 論文作成個別指導(1)		研究論文の作成
	13. 論文作成個別指導(2)		研究論文の作成
	14. 論文作成個別指導(3)		研究論文の作成
	15. 総括		研究論文の完成
受講者へのメッセージやアドバイス:	常に「なぜ」の問題意識をもって子育て・子育て環境を意識的に見ることを心がける。批判的な視点から、資料を読み解くとともに、論理的な文章表現を心がけて書くことに専念する。		
フィードバックの方法:	提出物に対しては、添削後の返却や教室でまとめて解説するなどしてフィードバックする。ディスカッションや討議など口頭での発表については適宜コメントを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	最終論文	50	論理性、仮説課題と結果の整合性、方法論
	発表・討論	20	論旨の明快さ、建設的意見の発表
	研究実験	20	仮説と方法、結果の整合性
	授業への参加度	10	積極的参加、役割の達成
教科書:	適宜資料を配付する。		
参考書:	適宜資料を配付する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール、電話		

授業テーマ:	家族・社会・文化・制度と子ども(2)ー卒業研究を仕上げるー		
授業の概要:	卒業研究の内容を深め、論旨が整った文章表現に基づき、卒業研究としての論文を完成させる。		
到達目標:	自分が定めたテーマ・目的にそって、研究倫理を守りつつ、卒業研究を完成させること。		
授業方法:	・前半は全員参加によるゼミ ・後半は草稿に対する添削や個別指導を重視		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	目的、方法、先行研究について内容と文章の添削・推敲(1)	各自が自ら定めた研究テーマに対して、論理的流れをつくり、文章表現を工夫し、執筆した原稿を、適宜自ら添削し、構成し、推敲することを怠らない。
	2.	目的、方法、先行研究について内容と文章の添削・推敲(2)	各自が自ら定めた研究テーマに対して、論理的流れをつくり、文章表現を工夫し、執筆した原稿を、適宜自ら添削し、構成し、推敲することを怠らない。
	3.	具体的データの収集に関する検討	各自が自ら定めた研究テーマに対して、論理的流れをつくり、文章表現を工夫し、執筆した原稿を、適宜自ら添削し、構成し、推敲することを怠らない。
	4.	具体的データの収集と検討(1)	目的に即し、具体的データの収集を行う。
	5.	具体的データの収集と検討(2)	目的に即し、具体的なデータ収集を行う。
	6.	具体的データの収集と検討(3)	目的に即し、具体的なデータ収集を行う。
	7.	具体的データの収集と検討(4)	収集したデータの点検と文章化を行う。
	8.	具体的データの提示についての議論と文章化(1)	収集したデータの点検と文章化を行う。
	9.	具体的データの提示についての議論と文章化(2)	収集したデータの点検と文章化を行う。
	10.	本文に対する構成、添削、推敲。 さらに具体的データの提示についての議論と文章化(3)	「卒業研究」という大型作品の完成を目指す。
	11.	論文全体の構成の点検、確認、助言、推敲(1)	「卒業研究」という大型作品の完成を目指す。
	12.	論文全体の構成の点検、確認、助言、推敲(2)	論文全体を俯瞰的に見て、加筆修正を加えていく。
	13.	論文全体の構成の点検、確認、助言、推敲(3)ーとくに文献・引用等の点検を中心にー	論文全体を俯瞰的に見て、加筆修正を加えていく。
	14.	卒業研究の概要・要旨の書き方指導(1)	卒業研究全体をA42枚にまとめる文章を作成する。
	15.	卒業研究の概要・要旨の書き方指導(2)	A42枚にまとめた文章の推敲、検討、再検討を行う。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	学生の進捗状況を常に把握しておく。またそれらを勘案しながら、適時助言を与える。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	論文の完成度とその内容	50%	テーマに即し、具体的な調査や資料収集等を行い、それらを文章化しようと努力した。
	論文への意欲的取り組み	50%	自分の設定したテーマに対して、深く追求しようとする意欲を維持し続けた。
教科書:	なし		
参考書:	適宜指示		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己実現力、論理的思考力、筆力		
教員との連絡方法:	卒業研究の学生たちとはメールアドレス、電話等を相互に知らせあっているので、適宜連絡を取り合うことができる。		

授業テーマ:	文化と発達		
授業の概要:	春学期各自が決めたテーマに沿って、夏期休暇中に行った調査を分析すると共に、4年次終了までに卒業論文を作成します。特に秋学期は3年次で身につけた調査結果の処理の仕方をもとに、調査結果を多層的に検討していきます。秋学期終了時にはゼミ内で卒業研究発表会を行うとともに、学科全体での発表会にも参加します。		
到達目標:	「知識・理解」 研究方法、論文の読み方や書き方について理解している。 自分の研究テーマに関連する文献に関する知識をもっている。 「関心・意欲・態度」 ゼミ生同士の研究テーマにも関心をもち、積極的に質問やコメントをしながら、お互いの研究に貢献する態度をもつ。 積極的に集団討論に参加しようとする態度が見られる。 「表現・技能・能力」 自分自身の研究テーマについての的確に表現できる技能を身に付けている。 自分の言いたいことを的確に表現できる技能と、集団をまとめる力を身に付けている。 卒業論文を規定枚数以上作成し、充実した内容の論文になっている。		
授業方法:	自分のテーマに沿ってレジュメを作成し、発表形式で授業を行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 研究論文発表、研究倫理	担当者はレジュメ作成	
	2. 研究論文発表	担当者はレジュメ作成	
	3. 研究論文発表	担当者はレジュメ作成	
	4. 研究論文発表	担当者はレジュメ作成	
	5. 卒業論文相談会	レジュメ作成	
	6. 研究論文発表	担当者はレジュメ作成	
	7. 研究論文発表	担当者はレジュメ作成	
	8. 研究論文発表	担当者はレジュメ作成	
	9. 研究論文発表	担当者はレジュメ作成	
	10. 卒業論文修正相談会	レジュメ・本論作成	
	11. 研究論文発表	担当者はレジュメ作成	
	12. 研究論文発表	担当者はレジュメ作成	
	13. 卒業論文抄録発表	抄録作成	
	14. 卒業論文修正相談会	レジュメ・本論作成	
	15. 卒業論文完全版提出	卒業論文完全版	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業外でも課題をこなす必要があり、定められた時間外にもゼミを行いますので、積極的な参加と課題をこなす覚悟が不可欠です。1月初旬に宿泊合宿を行い、ゼミ内で自分の卒業論文について発表するとともに、学科全体での卒業研究発表会にも参加します。		
フィードバックの方法:	ゼミ内で課題を共有したり、研究室で個別相談にのります。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席を含む積極的な発表・討論	50%	毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。
	レポート・論文等	50%	的確なレジュメや論文を作成し、わかりやすく発表できる。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数以上のレポート・論文(50枚程度)を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。
教科書:	特にありません。		
参考書:	授業時もしくは個別に随時個人の研究テーマに合わせて指定します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	マナビーにゼミ生全員に関わることについては掲載します。 ゼミ内でのメイリングリストや個人メールを活用します。 研究室で個人相談を行います。		

授業テーマ:	卒業制作研究の完成と展覧会のデザイン		
授業の概要:	応用演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰで実践してきたことをベースにして、今までの研究プロセスをブックレットの形にしてまとめる。ワークショップやデザイン・シンキングで学んだことを中心にして、小グループで研究プロジェクトを進め、ゼミ生全員でブックレットを完成する。		
到達目標:	(1)卒業制作研究としてブックレットを協同で制作する。 (2)ブックレットの制作過程を通して、自分の学びを省察できる。 (3)ブックレットの展覧会をデザインする。		
授業方法:	ゼミはレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使って、実際にプロジェクトを企画・実施・評価・改善する。その成果をブックレットにまとめる。プレゼンテーションや討論は頻繁に行う。情熱的で積極的な参加が必要。グループディスカッションや制作は授業外の時間を使って行う。ブックレット作成は授業外の時間を使って頻繁に行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. ブックレットのデザイン		春学期にまとめたミニブックレットにもとづいて、最終的な卒業制作研究のテーマを考え、ブックレットの構想を立てる。
	2. 卒業制作研究案の発表		卒業研究のテーマ、研究内容と方法、そして、予測される結果を企画書の形でまとめる。
	3. 卒業制作研究案のリフレクションとプラン		卒業制作研究へ向けて研究計画を立てる。
	4. 卒業制作研究の背景となる理論の発表		卒業制作研究の背景となる理論の整理をし、まとめておく。
	5. 卒業制作研究のプロトタイプ発表1		卒業制作研究のプレゼンテーションスライドとレジュメを作成する。
	6. 卒業制作研究のプロトタイプ発表2		発表会でのコメントにもとづいて修正したプレゼンテーションスライドとレジュメを作成する。
	7. 卒業制作研究のプロトタイプ発表3		発表会でのコメントにもとづいて修正したプレゼンテーションスライドとレジュメを作成する。
	8. ブックレットの制作1		ブックレットを制作する。
	9. プレゼンテーション1 ブックレットのプレゼンテーション		プレゼンテーションの準備をする。
	10. ブックレットの制作2		引き続き、ブックレットを制作する。
	11. プレゼンテーション2		プレゼンテーションの準備をする。
	12. ブックレットの制作3		ブックレットを仕上げる。
	13. プレゼンテーション3		プレゼンテーションの準備をする。
	14. ブックレット展覧会		展覧会の準備をする。
	15. ブックレットの制作過程のリフレクティブ・プレゼンテーション		プレゼンテーションの準備と2年間のゼミ活動をふり返る。
受講者へのメッセージやアドバイス:	2年間のゼミでの学びをブックレットとして制作することの楽しみを味わってほしい。ブックレットの制作だけではなく、最終の発表会もライブで行うので、思い切ってゼミ活動を楽しみましょう。		
フィードバックの方法:	ブックレットの制作過程で、個別またはゼミ全体で、出来るだけ具体的に改善点を指摘しつつ、共に考えていく。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ブックレットの制作過程	30	ブックレットをグループでどのように構想し、書き上げ、改善し、納得のいく作品に創りあげたかのプロセスを評価する。
	展覧会とプレゼンテーション	20	ブックレットの制作過程を通して自分の学びを省察できたかどうかと展覧会でのパフォーマンスを総合して評価する。
	ブックレット	50	2年間の研究のまとめとして制作したブックレットを、学びのプロセスと共に評価する。
教科書:	授業中に資料を配布する。		
参考書:	授業中に適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	基本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。		

授業テーマ:			
授業の概要:	各自のテーマに沿って卒業研究を行う		
到達目標:	卒業研究の成果を作成・提出する		
授業方法:	個人指導及び全員での討議を行う		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 卒業研究の中間発表 2. 個人指導 3. 個人指導 4. 個人指導 5. 個人指導 6. 個人指導 7. 個人指導 8. 個人指導 9. 個人指導 10. 個人指導 11. 卒業研究提出に向けての仕上げ 12. 卒業研究提出に向けての仕上げ 13. 卒業研究の成果の提出 14. 卒業研究発表の要旨作成についての申し合わせ 15. 発表会に向けての資料作成	準備学習等の内容 発表に向けて資料の作成をする。 自分のテーマに沿って卒業研究を進める。 自分のテーマに沿って卒業研究を進める。 自分のテーマに沿って卒業研究を進める。 自分のテーマに沿って卒業研究を進める。 自分のテーマに沿って卒業研究を進める。 自分のテーマに沿って卒業研究を進める。 自分のテーマに沿って卒業研究を進める。 自分のテーマに沿って卒業研究を進める。 各章の内容の精査を図る。 全体の整合性を図る。 結論を明確にする。 全体を仕上げる。 全体を見直す。 事前の連絡事項に沿い、発表の要旨をまとめておく。 発表要旨の手直しをしておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	全体への解説。個人指導。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 受講態度 卒業研究	割合 30% 70%	評価基準 他の研究に対し自分なりの視点を持ってコメントができているか。発表会に向けての準備が適切に行えたか。 自分なりの視点があるか。計画的に研究に取り組んだか。結論は明確か。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に应对。ウェブメール。		

授業テーマ:	こどもと教師がともに学び育つ授業をデザインする		
授業の概要:	卒業研究Ⅱに引き続き、ゼミでの報告、検討を踏まえ、各自の卒業研究の内容の精度を高めると同時に、論理的思考に基づく論旨の整った文章表現を磨き、大学4年間で学びの集大成となる卒業研究論文を完成させる。 ★卒業研究発表会に向けた合宿検討会を実施する予定である。日時については受講者と相談する。		
到達目標:	(1)自分の研究テーマに基づく卒業研究論文を、論理的に説得力のある文章として完成することができる。 (2)ともに研究する仲間の研究成果や課題について生産的な議論を通して指摘しあうことができる。 (3)自分の研究の成果が待たれる現場や生かせる方法を見出そうとする姿勢を持っている。		
授業方法:	継続的に文献読解や調査を行いながら、各自の研究テーマに基づく論文の部分的草稿(下書き)を作成・報告し、伝えたい内容が的確に伝えられ、論旨の整った文章表現に洗練させていくための推敲をゼミで協同して行う。 ・事前準備としては、卒業論文を執筆する中で見えてきた悩みや困りごとに対して、限られた時間の中で仲間や教員から検討を受けられるように、報告のポイントを整理できるように努力する。 ・ゼミ後の復習では、仲間や教員からの添削、個別指導の結果に関するリフレクションを行い、論文執筆に検討結果を生かしていくための学習を怠らないようにする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 卒業研究Ⅱのオリエンテーション／卒業研究論文完成までの研究計画を整理する 2. 論文の草稿(下書き)の発表・検討(1) 3. 論文の草稿(下書き)の発表・検討(2) 4. 論文の草稿(下書き)の発表と検討(3) 5. 論文の結論の構成に関するレクチャー(1) 6. 論文の結論の構成に関するレクチャー(2) 7. 論文の草稿(下書き)の推敲(1) 8. 論文の草稿(下書き)の推敲(2) 9. 論文の草稿(下書き)の推敲(3) 10. 全体の構成の確かめ 11. 卒業研究論文の要旨集録原稿の書き方 12. 論文のまとめ(1) 13. 論文のまとめ(2) 14. 卒業研究論文のゼミ内報告会(3回生と合同) 15. 卒業研究発表会の準備	夏季休暇中に行った研究を踏まえ、秋学期の研究計画の見直しをしておく。 発表者は事前に資料をゼミメンバーと共有できるよう、計画的に余裕をもって発表の準備を行う。また、発表者以外は配布された資料を必ず読んで、質問やコメントを考えておく。 同上 同上 論文の書き方について卒業研究Ⅰで配布した資料を読み返し、結論の構成に関する不明点や疑問を整理しておく。 前の回で考え、議論したことを踏まえ、説得力のある結論の構成にするための工夫を考えておく。 発表者は事前に資料をゼミメンバーと共有できるよう、計画的に余裕をもって発表の準備を行う。また、発表者以外は配布された資料を必ず読んで、質問やコメントを考えておく。 同上 同上 推敲してきた原稿を読み返し、課題となっている点や困っている点を確認しておく。 昨年度配布された卒業研究要旨集録を読んで、自分の研究内容にふさわしい要旨集録のアイデアを練っておく。 課題となっている点を明確にし、質問や確認したいことを整理しておく。 論文の完成に向けて必要な諸々の手続きについて漏れがないかを確認しておく。 3回生に向けて研究発表するための資料の準備を行い、リハーサルをしておく。 卒業研究発表会で用いる資料の作成をしておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	各自の卒業論文の草稿(下書き)の報告に対して、ゼミ生全員参加で添削を行い、研究の進捗状況に応じて適宜、教員からの個別指導を行っています。したがって、規定の時間以外にもゼミを行うこともあり、自分の研究に対する責任ある行動と、ともに高めあう仲間に対する誠意ある対応が求められます。		
フィードバックの方法:	(1)毎回、ゼミの最後に記入するリフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。 (2)ゼミのなかで、グループ活動や発表したりした際には適宜その場でコメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。 (3)自分の研究テーマ決定や進路に向けた相談については、必要に応じて随時行い、サポートする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ゼミへの毎回の出席・参加とリフレクションカードの記入 仲間の研究に対する添削、検討への積極的参加 卒業研究論文の完成(内容と形式)	30 20 50	毎回の発表者や質問などゼミの内容にかかわって積極的に発言し、内容に即したリフレクションが書けているか 異なる研究テーマに関して生産的に質問や意見を述べる事ができているか 研究テーマを論じるにあたり妥当な内容構成になっているか、テーマにふさわしい研究方法が採用されているか、内容の妥当性、論理性、説得力ある文章表現にする努力がなされているかを基準として評価する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	ゼミ内で適宜紹介、指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	ゼミの内容などに関しては、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。課題内容によってはマネビーも随時活用する。		

456612

卒業研究Ⅱ

大黒 孝文

授業テーマ:

理科の授業開発と協同学習研究Ⅱ

授業の概要:

大学での学習活動の集大成として卒業論文を完成する。研究の柱として理科教育と協同学習をおき、その理論と方法を活用した実践的な学びを実現する。具体的には、理科の授業研究、実験・観察の開発研究、協同学習研究、教師教育等に関わるものから設定した課題解決を進め、収集したデータを分析・整理することで卒業論文として完成させる。

到達目標:

・卒論の研究テーマごとに討論・発表会を実施し研究内容の質の向上を図ることができる。

・卒業研究を継続し、情報を整理し、結果と考察を卒業論文としてまとめることができる。

・卒業研究を論文として公開し、発表することができる。

授業方法:

2:演習, 3:実験実技演習(学内), 5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 進捗状況と章構成の確認	中間発表時に指摘された課題解決のための方策をたてる
2. 章構成の再構築	卒論の章構成を再考する
3. 不足資料やデーターの収集1	不足データの収集を行う
4. 不足資料やデーターの収集2	不足データの収集と整理を行う
	データの可視化を行う
5. 論文の加筆1	論文を作成する
6. 論文の加筆2	論文を作成する
7. 論文の加筆3	論文を作成する
8. 論文の進捗状況確認	卒業論文作成の進捗状況をまとめ、発表の準備をする
9. 論文の修正1	論文の加筆修正をする
10. 論文の修正2	論文の加筆修正をする
11. 論文のまとめと発表交流1	論文の発表準備と微修正をする
12. 論文のまとめと発表交流2	論文の発表準備と微修正をする
13. 論文作成の振り返り	論文を完成し、要旨集を作成する
14. 卒業研究発表の準備	発表用ポスターを作成する
15. 卒業研究発表の最終準備と予行	発表準備と練習をする

受講者へのメッセージやアドバイス:

卒業研究は、大学生生活の学習活動の集大成です。個人テーマについて常に関心を持ち、資料・情報の収集や実験研究を積極的に行います。また、研究の進捗状況は、ゼミ担当に随時報告し、助言を得ながら研究を進めます。

フィードバックの方法:

卒業研究の作成に関しては、個別に解説し評価と助言を与える。
卒業論文は随時確認し、修正案を記入して返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究の実践	40	到達目標の情報整理や卒業論文の作成状況をもって評価する。
論文発表	30	到達目標の研究結果や考察、及び研究内容が説明できるかで評価する。
授業への参加度	30	授業に積極的に参加し、到達目標すべてに関わる内容について総合的に評価する。

教科書:

プリントを配布する。

参考書:

授業中に随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業前後に対応、オフィスアワー、Eメール等

授業テーマ:

タイ・スタディツアー（開発とこども支援について学ぶ）

授業の概要:

(1)開発教育の視点から、東南アジアの国との関係、構造的な格差、日本人としてのありようをみつめる。
(2)国際理解の視点から、互いの文化や習慣の違いと共通点を知り、相互理解を深める。
(3)国際交流の視点から、国を超えて顔と顔の見える人間同士の関係を作り、精神的にまたは具体的に平和のために協力し合える礎を築く。
(4)国際奉仕の視点から、現地の人の協力のもとにボランティア活動を行う。
以上の視点から、フィールドワークを通して、グローバルに課題となっているさまざまな視点を発見する。

到達目標:

知識理解:タイにおける開発と貧困の問題を通して、持続可能な開発とその目標（SDGs）について理解する。
技能:現地の人々との協力のもとに、コミュニケーションと異文化理解のスキルを高める。
関心・意欲・態度:活動に積極的に参加し、仲間とともに活動し、現地での課題を発見するとともに、帰国後も、世界や日本社会についての関心を持つ

授業方法:

対話、振り返り、話し合いなどワークショップ、グループワーク、発表などのプレゼンテーション、現地での活動などのパフォーマンス

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習1 オリエンテーション	特になし
2.	事前学習2 タイの社会問題についての学習1 学習目標の共有、危機管理の共有 グループによる探求	参考文献の熟読
3.	事前学習3 タイの社会問題についての学習2 グループによる発表 しおりの作成	参考文献の熟読
4.	事前学習4 宿泊研修 現地での活動、交流についての学習	参考文献の熟読、現地との交流のためのパフォーマンスの練習（歌、人形劇など）
5.	現地での活動1 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習（しおり）
6.	現地での活動2 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習（しおり）
7.	現地での活動3 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習（しおり）
8.	現地での活動4 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習（しおり）
9.	現地での活動5 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習（しおり）
10.	現地での活動6 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習（しおり）
11.	現地での活動7 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習（しおり）
12.	現地での活動8 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習（しおり）
13.	現地での活動9 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習（しおり）
14.	事後学習1 事後レポート（2000〜3000字） 学びの履歴、学習目標の自己評価	現地でのフィールドノートの点検 学びの評価基準の確認
15.	事後学習2 報告会	事後レポートの確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前、事後、現地での活動とも、参加度、積極性、集団行動への協力などが求められます。タイ語、英語、日本語など複言語への関心も高めてください。体験だけに終わらない深い学びを得るために現地ではしっかりとフィールドワークしてください。

フィードバックの方法:

事前学習におけるワークショップ、現地での活動における日々の振り返り、現地での学びのプレゼンテーション、事後レポート作成におけう指導と助言

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	事前、事後学習への参加度	20	積極的に取り組んでいるか、授業目標が達成できているか
	現地での活動への参加度	50	積極的に取り組んでいるか、授業目標が達成できているか
	現地での学びの発表	10	積極的に取り組んでいるか、授業目標が達成できているか
	事後レポート（報告書の作成）	20	積極的に取り組んでいるか、授業目標が達成できているか

教科書:

特になし

参考書:

田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編(2016)『SDGsと開発教育―持続可能な世界のための教育』学文社
秦辰也(2005)『タイ都市スラムの参加型まちづくり研究』明石書店
青山薫(2007)『「セックスワーカー」とは誰か―移住・性労働・人身取引の構造と経験』大月書店
秦辰也・新津 晃一編(1997)『転機に立つタイ―都市・農村・NGOから』風響社
櫻井義秀・道信良子(2010)『現代タイの社会的排除 教育、医療、社会参加の機会を求めて』梓出版社
綾部恒雄・林行夫編(2003)『タイを知るため60章』明石書店
江口信清・藤巻正己編『貧困の超克とツーリズム』明石書店
石森秀三編『観光の20世紀』ドメス出版
田中治彦(2008)『国際協力と開発教育―援助の近未来を探る』明石書店

秦辰也(1994)『アジア発、ボランティア日記』岩波書店

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

e-mail、現地での面談など

授業テーマ:

「大学での学び」・「現代こども学科での学び」とその技法
－想像的創造力と行動力を高める道筋のために－

授業の概要:

「ガクモン・スル」には、ある程度の技術が必要です。本演習では、大学での学びとは・現代こども学科での学びとは何かを、さらに、学びの技法にはどのような方法があるかを、理解することを目的としています。
そのため、少人数で全員参加の授業方式を採用し、1)「学生と学生」・「学生と教員」など双方向・多方向の学び方を、2) 参加・参画型のワークショップやディベート、ロールプレイなどを用いた方法を、3) 身体表現やコミュニケーションを伴う実践的技法を重視し身につけます。
学びと諸技法理解のために取り上げる具体的なテーマは、各教員によってそれぞれ提示されます。諸技法の水先案内人はクラスごとに異なりますが、基本となる目的は共通しています。

到達目標:

(1) 大学での学びのあり方とその技法を理解する。
(2) 現代こども学科での学びの特徴を理解し、複数の技法を身につけようとする。
(3) とくに、少人数、双方向、主体的参画型の学び技法の特徴と意義を身につけようとする。
(4) 学びの重要な技法として、研究・調査の倫理について知り、身に付ける。

授業方法:

全員参加の演習。毎回必ずレジュメやレポート提出を課し、それらに基づいてワークショップ・報告・議論する習慣を身につける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 「基礎演習マニュアル」の配布と基礎演習の運営方法のオリエンテーション、ガイダンス。	本演習の「シラバス」を必ず読んでくること。
2. 図書館オリエンテーション (なお、以降は担当教員と相談の上で下記の項目を計画的に進める)	第1回時に配布した「基礎演習・こども学演習マニュアル」の3頁までを熟読してくる。とくに3頁の図書館での検索に関しては、自分自身の疑問や質問を整理しておく。
3. 著書や論文を読む・参考にする・引用するということ	後日、各自が一人で図書館を訪れ、身につけた書籍・文献等の探し方について復習しておく。
4. インターネットの活用とマナー	図書館のオリエンテーションと第3回の授業をふまえ、「著書(単著・編著)、論文・雑誌論文・報道紙、エッセー、童話、絵本、ほか」等の違いや、「書誌情報」の確認・記録方法を習得し、ノート整理しておく。
5. 大学におけるレポートの書き方(1) ○事例を示しつつ全体構成(目的、方法、本論／結果、考察等)を学ぶ。 ○参考文献・引用文献の記述方法を学ぶ。	大学からのインターネット利用について、各自が実践・体験に基づく復習をしておく。その上で、不明点等は整理し質問としてまとめておく。
6. 大学におけるレポートの書き方(2) －盗用・剽窃か、引用・参考文献か－ レポート課題を課す	レポートを記す場合の、引用・参考文献の記述方法、その意義や重要性について、学んだことをノート整理する。
7. 社会調査を読む・読み込む	文献のコピーペースト等の行為が、盗作や剽窃という知的財産に対する犯罪であることを理解し、学んだことをノート整理する。指示された課題を提出する。
8. 社会調査を行ってみる・記述する	各自が学びをもとに、文献・資料等から「社会調査の資料」を探し、演習に持参する。
9. 社会調査の口頭発表－プレゼンの作法・技法・多様性	第8回で行った社会調査の結果と考察を口頭発表資料としてまとめ授業に臨む・持参する。
10. 事例調査の概要を学ぶ	第8回・第9回の社会調査の結果と考察、さらに引用・参考文献を加えレポートを作成し、授業時に提出する。
11. ディベートとは・対立する課題さがし	ディベート課題を複数考え、自分自身が臨む立ち位置(賛成・反対)を加えた資料を作成し、授業開始時に全員に配布できるように準備しておく。
12. ディベート課題の決定と準備	各自が挑戦するディベートのテーマに関する情報、資料、書籍、論文等を探し出し、授業時に持参する。
13. ディベート実践	「勝利すること」を目的として、ディベート実践の準備を仲間と行い、「実践」に臨む。
14. ディベートを素材に、レポートを書く－とくに論理的文章を書くということ－	ディベートで活用した賛否両論の全資料を、全員でシェアしておく。
15. まとめと質疑応答	「論理性」を重視したレポートを自分なりに作成し、授業時に提出する。引用・参考文献の記述方法も、学びに即して正確に記す。 また、本基礎演習全体を通しての学びや質問をノート整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

大学での学びの作法を身につける大切な授業となる。毎回きちんと出席し、4年間の大学生活を充実させて欲しい。

フィードバックの方法:

(1) 全授業時に、全員からの質疑応答を確認し、その内容は次回の授業に反映させる。
(2) 必要に応じて、次回授業で補足説明や補足資料等を配布し説明する。

「成績評価方法」・「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40%程度	新たな人間関係の中での、新しい学びであるため、講義の出席を重視する。
提出されたレジュメやレポートの内容	60%程度	提出物等を総合的に評価する。具体的な評価基準とその配分等は各担当教員が授業時に指示する。

教科書:

『基礎演習マニュアルー学問の基礎技術2017年度一』(初回配布)

参考書:

適宜指示します。

教員との連絡
方法:

初回授業時に、双方向の連絡方法、質疑応答用の連絡方法等につて、各教員が受講生に伝える。

457400

現代こども学概論

藤原 孝章、松崎 正治、上田 信行、吉永 紀子

授業テーマ:

現代こども学科4年間の学びとMy こども学へのイメージを創る

授業の概要:

①現代こども学科で4年間学んでいくための志向性を育てるために、自分なりのこども学のイメージをつくる。
②こども学の広領域性、総合性を理解するために、こどもを取り巻く社会問題とそれへの研究的アプローチの多様な事例を知る。(こどもと地球や社会との関わりの中での学び、こどもとことばの学び、こどもとカリキュラムなど)
③学生一人ひとりが「自分のこども学」を構築していくために、関心のあるテーマごとにグループを作って、課題と解決策を探究していき、その探究成果をプレゼンテーションし、成果を共有する。
④作業を通じて学生同士のコミュニケーション、協力、協働の仕方を学んでいく。

到達目標:

知識理解:こどもを取り巻く社会問題とそれへの研究的アプローチを知り、こども学の広領域性、総合性を理解する。
技能:グループ作業を通して、個々の関係性をたかめ、コミュニケーションする力、協力、協働の方法のスキルを高める。
関心・意欲・態度:学習観「Myこども学」の構築へ関心を高め、課題と解決策を探究し、プレゼンテーションの成果を共有することで、4年間の学習意欲を身につける。

授業方法:

グループ活動、課題の探求と成果の発表・プレゼンテーション、ふりかえり

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. こども学へようこそ 授業のガイダンス	特になし
2. 私とこども学 私の今と将来 仲間の発見 キューブトーク	特になし
3. こども学とは何か(全体の概観)	こどもをとりまく様々な課題の学習
4. 私のこども学①(こどもと地球)	こどもをとりまく様々な課題の学習
5. 私のこども学②(こどもと地球)	こどもをとりまく様々な課題の学習
6. 私のこども学③(こどもとメディア)	こどもをとりまく様々な課題の学習
7. 私のこども学④(こどもとことば)	こどもをとりまく様々な課題の学習
8. 課題発見のワークショップ:私のテーマ発見	こどもをとりまく様々な課題の学習
9. 班作りとグループ作業(1) テーマごとの班作り	こどもをとりまく様々な課題の学習
10. グループ作業(2) 班ごとに資料分析と編集	調査、資料探求(調べ活動)
11. グループ作業(3) 班ごとに資料分析と編集	調査、資料探求(調べ活動)
12. グループ作業(4) 班ごとに発表ツールの作成	調査、資料探求(調べ活動)、作業の補充
13. グループ作業(5) 班ごとに発表ツールの作成	調査、資料探求(調べ活動)、作業の補充
14. 作品発表(1) 仮発表→意見をもらって修整する	作業の補充
15. 作品発表(2) 本発表→意見をもらう 全体のリフレクション	作業の補充

受講者へのメッセージやアドバイス:

一般的な講義ではありません。、次の4つの視点を大切にしたいアクティブラーニングの授業です。①学び観の転換、②学びのエンパワーメント、③関係づくり(学びの仲間づくり)、④こども学科4年間の学びのまなざし(志向性)

フィードバックの方法:

毎時間のコメントカード、グループ作業(調べ活動、発表ツールの作成、発表内容)に対する指導と助言、リフレクションムービーを通した学びの確かめ。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	積極的に取り組んでいるか
グループ活動による作品発表	30	積極的に取り組んでいるか、授業目標に到達しているか
レポート	30	授業目標に到達しているか

教科書:

特になし

参考書:

授業で適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

e-mail、面談

授業テーマ:

授業の概要: 近世・近代・現代の「子ども」観の変遷について、学校教育や家庭教育との関係でみていきます。この授業を通じて、過去の日本社会のあり方や昔の教育・子どもの実態を学ぶことで、現代の教育問題や子ども問題の反省的な見方や捉え方を習得し、よりよい未来社会を創造するための手がかりを得ることが目的です。

到達目標: まずは、受講者それぞれが自明としている「子ども」について様々な捉えなおすことができるようになることが大きな目標です。そうした広い子ども観をもって、子どもをめぐる昨今の社会問題についても、批判的にみることができるようになること。そして、それらの課題についての具体的なアクションの可能性についても考えられるようになることが重要と考えられます。

授業方法: 基本は講義形式(PowerPointによる説明)ですが、受講者の規模やニーズによって適宜参加型(グループでの発表等)を求めることがあります。また、講義内容のさらなる理解のために、必要に応じて映像等を視聴します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス(講義の概要や受講に当たっての注意事項の説明、講義資料の配布)	一連の講義に関する注意事項について説明するのはこの日限りになるので、履修者は必ず出席すること。
2.	「子ども」とはだれか	「子ども」についてのイメージをいろいろに準備しておいてください。
3.	「子ども」の誕生	文献配布予定です。復習し、近世の子ども観について理解を深めておくこと。
4.	近代・学校化社会の成立と子ども :子どもと学校	資料配布予定です。復習し、近代の子ども観について理解を深めておくこと。
5.	近代・学校化社会の成立と子ども :子どもと家庭	資料配布予定です。復習し、近代の子ども観について理解を深めておくこと。
6.	日本の戦後教育史①	「敗戦」直後の日本社会のイメージについていろいろに考えて授業に臨んでください。
7.	日本の戦後教育史②	学習指導要領の変遷について簡単に予習しておいてください。
8.	変動する社会と子ども:子育ての格差	子育ての手がかり(雑誌・通信教材など)について簡単に情報を入力しておいてください。
9.	変動する社会と子ども:学校の中の子ども	資料配布予定です。復習し、現代の子ども観について理解を深めておくこと。
10.	変動する社会と子ども:教育病理	「教育病理」について具体的にイメージできるようにして授業に臨んでください。
11.	変動する社会と子ども:ジェンダー	ジェンダーについて基本的な理解をしたうえで、授業に臨んでください。
12.	変動する社会と子ども:障害児教育	資料配布予定です。復習をし、戦後障害児教育について理解を深めてください。
13.	変動する社会と子ども:子どもの貧困	子どもの貧困問題についてニュースなどで予習をして授業に臨んでください。
14.	「子ども」と「発達」を考える	レポートを書いてもらう予定です。これまでの授業で学んだことについて各自整理しておいてください。
15.	まとめ	第14回でのレポートの講評を含め、総まとめをします。

受講者へのメッセージやアドバイス:
フィードバックの方法: コメントペーパーで出た質問等については次回以降の授業時間内で解説します。レポート課題等については添削して返却します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席および出席中のコメントペーパー	40	基本的に出席重視。原則的に3分の1以上欠席者は評価外としますので、注意してください。コメントペーパーについても内容の適切さに応じてA、B、Cで評価し点数化します。
	授業時間内のレポート	30	内容の適切さに応じてA、B、Cで評価し点数化します。
	試験またはレポート課題	30	内容の適切さに応じて点数化します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡方法: 基本的には授業の前後に教室内で対応しますが、必要に応じてEmailなどでも対応します。アドレス等については授業時間のなかでお知らせします。

授業テーマ:	こどもの発達心理学		
授業の概要:	生涯発達をふまえながら、特に乳幼児期から児童期の発達を中心に、知覚、記憶、認知、対人関係、自己、情緒、ことばとコミュニケーション、遊びと友だち関係、社会的認知と社会的行動等に関する発達心理学の基礎を学習します。さらに発達障害に関する基礎的な知識の習得を通して、子どもの発達の諸相を見る基本的なものの見方と考え方を身につけることを目指します。 この授業の内容は2年次の「発達と学習の心理学」につながるものです。		
到達目標:	「知識・理解」 発達心理学の諸理論の基礎を理解している。 「関心・意欲・態度」 子どもの発達について関心を持ち、授業内の活動にも積極的に参加する。 「表現・技能・能力」 毎回行われる知識定着をはかる小テストにおいて7割以上の正答が見られ、レポート課題でも要求された内容を表記できる。		
授業方法:	講義を中心に行いますが、受講者同士の話し合いがある場合もあります。毎回授業の初めに知識定着のための小テストを行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 発達心理学とは	子どもに関心を持って臨んで下さい。	
	2. 発達のしくみ1	教科書 前回の復習	
	3. 発達のしくみ2	教科書 前回の復習	
	4. 知覚の発達	教科書 前回の復習	
	5. 記憶の発達	教科書 前回の復習	
	6. 認知の発達1	教科書 前回の復習	
	7. 認知の発達2	教科書 前回の復習	
	8. 対人関係の発達	教科書 前回の復習	
	9. 自己の発達	教科書 前回の復習	
	10. 情緒の発達	教科書 前回の復習	
	11. ことばとコミュニケーションの発達1	教科書 前回の復習	
	12. ことばとコミュニケーションの発達2	教科書 前回の復習	
	13. 遊びの発達と友だち関係	教科書 前回の復習	
	14. 社会的認知と社会的行動の発達	教科書 前回の復習	
	15. まとめと発達障害	教科書とノートを読んで学習内容をまとめておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回行われる小テストのための復習は必ずしておいてください。 教科書を事前に読んで毎回の授業の準備をしておいてください。 レポート課題が冬休みに出されます。十分な時間をかけて作成することが必要です。		
フィードバックの方法:	授業に数人から受けた質問に対しては、次回の授業で全体に対して話します。 わからないところは積極的に質問に来て下さい。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	20%	詳細に子どもの行動と考察が記述されている。 振り返りの感想が書かれている。 授業で学習した理論を引用しながら考察されている。
	小テスト	20%	毎回正答数
	試験(論述式)	40%	授業で学習した内容が的確に表現されている。 具体例が必要に応じて書かれている。 わかりやすい文章で書かれている。
	出席を含む積極的な授業態度	20%	積極的に授業に参加している。 質問を多くする。 出席回数(公欠以外の3回以上の欠席は単位取得不可能)
教科書:	繁多進監修 『新 乳幼児発達心理学』 福村出版 2010		
参考書:	柏木恵子 『発達の心理学』 萌文書林 2012 (図書館にあります。このほかにも発達心理学関係の本が多数図書館にありますので、随時目を通しておいて下さい。) 向田久美子 『発達心理学概論』 放送大学 2017		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理能力、		
教員との連絡方法:	授業後や研究室で随時質問を受け付けます。わからないところはそのままにせずに、積極的に聞きにきてください。		

授業テーマ:

子どもの生活と児童文化

授業の概要:

児童文化は、子どもの生活全般にかかわるものであるが、現代の子どもをとりまく文化的環境は多様化を極めている。とりわけ玩具や絵本など、乳幼児の身近な文化財については、その質量ともに大きな変容を示しており、それらを選択し手渡すおとなの役割が重要となっている。この授業では、児童文化財の活用・伝達をとおして、それらが子どもの心身の発達に及ぼす影響について考察する。

到達目標:

絵本・児童文学・紙芝居・人形劇・玩具などの児童文化財について、内容や表現を具体的に検討し、それらを選択する眼を養うとともに、子どもたちに手渡す方法や技術を習得する。
児童館や児童図書館、児童博物館等の施設について、児童文化的視点からそれらの必要性、機能性、および職員の専門性などの理解を深める。

授業方法:

講義が中心であるが、簡単な玩具や人形劇の制作も適宜おこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	児童文化とは何か	幼児期に出あった絵本や玩具について思い出しておく
2.	児童文化財 絵本の選択と種類	好きな絵本を見つけておく
3.	児童文化財 乳児絵本	あかちゃん絵本の必要性について考えておく
4.	児童文化財 物語絵本	さまざまな種類の絵本に出会う
5.	児童文化財 科学絵本	「かがくのとも傑作集」(福音館書店)の中から興味深い絵本を選んでおく
6.	児童文化財 昔話絵本	日本の五大昔話やグリム童話を読んでおく
7.	児童文化財 絵本の選択方法と読み方	子どもにとっての絵本の意義について考える
8.	児童文化財 幼年文学	日本の幼年文学に出会う
9.	児童文化財 詩	少年詩・児童詩に出会う
10.	児童文化財 紙芝居の特徴と演じ方	図書館等にある紙芝居を自分なりに演じてみる
11.	児童文化財 玩具の種類	子どもの頃遊んだ玩具を思い出しておく
12.	児童文化財 人形劇の歴史と種類	人形のデザインを考えておく
13.	児童文化財 指人形の制作	材料を準備する
14.	児童文化施設	地域の児童館や児童図書館について調べておく
15.	保育・幼児教育と児童文化	子どもの発達にとっての児童文化財の意義について自分なりにまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

自分自身が幼い頃に出合ったであろう児童文化財について、保育者の視点で考えます。自らの幼少期を振り返るとともに、現代の子どもの文化的環境にも常に関心をもってください。

フィードバックの方法:

毎回コメントおよび感想を提出。必要に応じて教室にて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	40%	到達目標である絵本・紙芝居・玩具などの児童文化財について、知識を深め、適切な選択眼を持っているかを評価する
	提出物	30%	講義した児童文化財や児童文化施設について、内容や特徴を的確に理解しているかどうかを評価する
	授業への参加度	30%	積極的な授業参加への姿勢と、児童文化財を適切に子どもたちに手渡す技術を習得できたかどうかを評価する

教科書:

川北典子・他編 子どもの生活と児童文化 創元社

参考書:

川北典子編著 子どもの育ちを支える児童文化 あいり出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室にて対応する

授業テーマ:	教育社会学へのいざない		
授業の概要:	本授業では、現代社会におけるさまざまな教育現象への社会学的なアプローチを学んでいきます。具体的には、①学力、②教科外教育、③教育・仕事・家族の連携、という3つのテーマを扱います。それぞれのテーマについて、読む、調べる、話し合うという活動を通して、受講生が主体的に学び、教育についての理解を深めていくことを目指します。		
到達目標:	1 教育社会学の初歩的な文献を、正確に読み取ることができる。 2 現代的な教育の現象について、客観的な情報を収集し、分析することができる。 3 現代社会における教育問題について、自分なりの意見を発信し、他者と議論することができる。		
授業方法:	講義／演習の混合		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	「今、教育についてどんな問題意識をもっているのか」、「この授業で、どんなことを学びたいのか」を整理する。教育に対する社会学的なアプローチについて学ぶ。	
	2. 教育社会学とは	志水ら(2014)の前半を読み、学力調査や学力格差について学ぶ。担当者は、レジュメを用意すること。	
	3. 学力を考える① 学力調査	志水ら(2014)の中盤を読み、学力格差の背景を理解する。担当者は、レジュメを用意すること。	
	4. 学力を考える② 学力格差	志水ら(2014)の後半を読み、学力格差を是正することに効果をあげている学校の特徴を学ぶ。担当者は、レジュメを用意すること。	
	5. 学力を考える③ 効果のある学校	内田(2015)の前半を読み、学校行事や部活動におけるリスクについて学ぶ。担当者は、レジュメを用意すること。	
	6. 教科外教育を考える① 組体操	内田(2015)の中盤を読み、学校が前提としがちな家庭のあり方について、批判的に考える。担当者は、レジュメを用意すること。	
	7. 教科外教育を考える② 2分の1成人式	内田(2015)の後半を読み、教師の働き方について考える。担当者は、レジュメを用意すること。	
	8. 教科外教育を考える③ 部活動顧問	本田(2014)の前半を読み、戦後の日本における教育や仕事、家族のあり方を学ぶ。担当者は、レジュメを用意すること。	
	9. 教育・仕事・家族の連携を考える① 教育ママ	本田(2014)の中盤を読み、戦後日本型循環モデルの成立と破たんについて学ぶ。担当者は、レジュメを用意すること。	
	10. 教育・仕事・家族の連携を考える② ネットカフェ難民	本田(2014)の後半を読み、新しい社会モデルについて構想する。担当者は、レジュメを用意すること。	
	11. 教育・仕事・家族の連携を考える③ ワーク・ライフ・バランス	教育の公正さや、現代社会で求められる学力について議論する。担当者は、論点を整理し、資料を用意すること。	
	12. 学力を考える④ 教育の公正さ	学校が担うべき責任や、教師の仕事について議論する。担当者は、論点を整理し、資料を用意すること。	
	13. 教科外教育を考える④ 教師の仕事	社会において教育はどのような機能を果たしているのか、これからの教育はいかにあるべきかを議論する。担当者は、論点を整理し、資料を用意すること。	
	14. 教育・仕事・家族の連携を考える④ 教育と社会	授業全体をふりかえって、現代社会における教育問題について議論する。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	テキストの講読や教育に関する調査、発表や議論を盛り込み、アクティブ・ラーニングを目指していきます。受講生の積極的な参加を望んでいます。 なお、受講生の状況に応じて、授業内容やテキストの一部を調整することがあります。		
フィードバックの方法:	授業では、質疑や議論の時間を多くとりますから、そこで随時応答していきます。 授業でのプレゼンテーションについては随時コメントし、学期内に力を伸ばしていけるようにします。 レポートは、コメントをつけて返却します。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	30%	文献の理解度(到達目標1)、教育現象に関する調査・分析の深まり(到達目標2)、プレゼンテーションの明快さや説得力(到達目標3)を評価します。
	討論	30%	教育問題について、自分の意見を的確に発信し、他者の意見を理解して議論を深めているかを基準とします(到達目標3)。
	レポート	40%	先行研究の理解(到達目標1)や客観的根拠を踏まえて(到達目標2)、自分の意見を説得力をもって表現できるかを基準とします(到達目標3)。
教科書:	志水宏吉・伊佐夏実、知念渉、芝野淳一『調査報告「学力格差」の実態』(岩波ブックレット、2014年) 内田良『教育という病—子どもと先生を苦しめる「教育リスク」—』(光文社新書、2015年) 本田由紀『社会を結びなおす—教育・仕事・家族の連携へ—』(岩波ブックレット、2014年)		
参考書:	志水宏吉『「つながり格差」が学力格差を生む』(亜紀書房、2014年) 本田由紀『教育の職業的意義—若者、学校、社会をつなぐ—』(ちくま新書、2009年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に声をかけてください。あるいは、shibuya@nara-edu.ac.jpにEメールしてください。その際、タイトルと差出人を忘れずに記してください。		

授業テーマ:

こどもの最善の利益の保障と家庭支援

授業の概要:

すべてのこどもには、生まれ育った環境によって左右されることなく、適切な養育を受け、健やかな発達を保障される権利があります。しかし児童虐待や家庭内暴力事件の増加、経済格差の影響を受けて貧困児童が増加するなど、こどもの権利が大きく侵害されているといっても過言ではありません。このような状況のなかで、家庭や地域を視座に入れた福祉実践が求められています。本授業では、こどもの権利擁護を図るために現代社会を取り巻く現状と課題を明確にするとともに、こどもの最善の利益のために何が必要かについて学びます。

到達目標:

(1)基本的な講義内容を理解する。(2)こども家庭福祉の基礎的理解を養い、こどもや家庭を取り巻く状況を説明することができる能力を身につける。(3)他者の意見をよく聴き、自分の意見を正確に伝えることのできる意欲や態度を養う。

授業方法:

教科書に基づき講義を行う。授業のなかで課題等について意見を求めますので、個人で自分の考えをまとめるとともに、またグループで討議し、その結果を発表し、学びを深める機会とします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと現代社会におけるこども家庭福祉の理念	シラバスを読んでくこと。
2.	こども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P13～24)
3.	こども家庭福祉と保育	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P25～36)
4.	こどもの人権擁護とこども家庭福祉	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P37～48)
5.	こども家庭福祉の制度と実施体制	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P49～60)
6.	こども家庭福祉の施設と専門職	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P61～72)
7.	少子化と子育て支援サービス	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P73～84)
8.	母子保健とこどもの健全育成	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P85～98)
9.	多様な保育ニーズへの対応	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P99～110)
10.	児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P111～122)
11.	社会的養護	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P123～134)
12.	障害のあるこどもへの対応	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P135～146)
13.	少年非行等への対応	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(P147～158)
14.	次世代育成支援とこども家庭福祉の推進	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読(159～170)
15.	保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク	授業の振り返りと、これまでに学んだことを整理する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

こどもの最善の利益を護るためには、こどもの置かれている現状を理解するとともに、こどもの立場に立って物事を考えていくことが必要です。こどもの健全育成を推進していくための知識、技術を身につけていきましょう。

フィードバックの方法:

提出物について、コメントをつけてへ教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30	積極的に授業に参加すること。発表や質問等は加点、受講マナー、居眠りや私語、携帯電話等の授業妨害は減点
	定期試験	70	到達目標のこども家庭福祉の基礎的理解度と、子どもや家庭を取り巻く状況を論理的に説明できるかを基準とする。

教科書:

公益財団法人 児童育成協会(監修) 新保幸男・小林理(編集)『児童家庭福祉 基本保育シリーズ③』中央法規出版

参考書:

浅井春夫(編著)『子ども福祉』建帛社
伊藤嘉余子・渋谷昌史(編著)『子ども家庭福祉』ミネルバ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応、Eメール toraya@osaka-seikei.ac.jp

授業テーマ:

子どもの居場所～子どもが育つ地域社会の構想～

授業の概要:

子ども支援事業のなかで、学校でも家庭でもない地域社会における「第三の居場所」「ナナメの関係」の重要性が認識されている。日本の自治体やNPOでは、つどいの広場事業、放課後児童対策、児童館、不登校・ひきこもり支援、中高生の居場所づくり、就労支援など様々な居場所づくりを実施している。
貧困問題の悪化・失業や雇用の不安定化など、子ども・若者の社会的排除・周辺化が進行している状況のなかで、自分の存在価値や自己有用観を喪失し、自分にも他人にも信頼することができず、あきらめている子どもが増えている。このような子ども・若者に、子どもの権利を保障し、目標や意欲を持って生きていける居場所の確保が急務である。
例:子ども食堂、学習支援、夜の居場所、フードバンク、

到達目標:

この講義では、子どもも地域も元気になっていく活動の事例を紹介する。さらに「子ども参加」と「自治体とNPOとの共働」の視点から、子どもの居場所づくりにおける地域社会の課題は何か、子どもの居場所づくりを通して、子どもにとってもすべての人にとっても「やさしいまち＝Child Friendly Cities＝CFC」をどのようにつくっていくのかを、学生の皆さんとともに議論を深める。

授業方法:

講義・議論
日本の地域社会で行われている居場所づくりの実践例を紹介する。学生の理解が進むようにできるだけ毎回映像を使う。(内容や順番は変更する可能性がある)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション あなたにとって居場所とは何か？	参考文献を配布
2.	子どもの居場所の歴史 その1 ～不登校の子どもの居場所・川崎市子ども夢パーク～	資料を配布して、復習を指示
3.	子どもの居場所の歴史 その2 ～地域の居場所がなくなる 地域の居場所から逃げる・児童虐待の増加、子育ての孤立化、犯罪による不安感の拡大 子どもと母親の居場所 ビーのビーの	資料を配布して、復習を指示
4.	小学生の放課後の居場所～アフタースクールの課題～	資料を配布して、復習を指示
5.	遊びと学びと働くがごちゃまぜ・子どもがつくるまち～ミニ・ミュンヘン(ドイツ)とキッズシティすいた(大阪)～	資料を配布して、復習を指示
6.	ディスカッション(1)～子どもにとって居場所とは何か？ ⇒子ども参加の視点から～	ディスカッションをもとに、中間レポートの作成
7.	食がつなぐ子どもと地域 ～東京池袋・「要町あさやけ子ども食堂」(夜の児童館)～	資料を配布して、復習を指示
8.	学習支援教室 →継続して関わること、子どもに聴く、居場所となる 「渡塾」あつとスクール 渡剛さん	資料を配布して、復習を指示
9.	「京都山科醍醐こどものひろば」の学生ボランティア活動(DVD視聴) 「トワイライト・ステイ」「ナイトステイ」 子ども縁による地域づくり	資料を配布して、復習を指示
10.	西成こども里 「いつでも、だれでも行くことができる」地域の包括的な居場所	資料を配布して、復習を指示
11.	「おかえり～非行に走る子どもたちの居場所」 中本 忠子(ちかこ)さん 食べて語ろう会(広島市中区)	資料を配布して、復習を指示
12.	家庭で家族と暮らす権利を奪われた15歳から20歳の子どもの居場所 自立援助ホームあらんの家	資料を配布して、復習を指示
13.	生活困窮世帯の子どもたちに文化的な体験をまるでシャワーを浴びるようにできる居場所を～神奈川県立田奈高校内カフェ「ぴっかりカフェ」の実践～	資料を配布して、復習を指示
14.	多文化の子どもたちの居場所～とよなか国際交流協会の実践～ ～多様な子どもを支えることがレジリエンス【resilience】の高い地域社会に～	資料を配布して、復習を指示
15.	まとめ:子どもが育つ地域社会の構想 ～「子どもにやさしいまち＝Child Friendly Cities＝CFC」をどうつくっていくか	議論をもとに期末レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回、できるだけ次回の講義に関する資料を配布するので、必ず読んで自分なりの意見を準備して講義に臨むこと。随時、確認作業を行うので、復習をしておくこと。

フィードバックの方法:

前回の質問には次回の冒頭に応答します。
またメールによる質問にも応答します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	議論・発表への積極的な参加	60	毎回授業の中でコメントペーパーを書いてもらう。そのペーパーの提出、内容に関する評価を重視する
	中間＋期末レポート	40	インターネットからのコピー＆ペーストについては、適切な引用ルールを踏んでいないものは大幅な減点対象とする

教科書:

特に指定はしません。毎回の講義時にレジュメと資料を配布

参考書： 子どもの権利条約総合研究所 編『子どもの居場所ハンドブック』日本評論社2013年
阿比留久美『『居場所』の批判的検討』『若者の居場所と参加』東洋館出版社 2012年
萩原建次郎「人間の発達観と子どもの現場」田中治彦編著『子どもと若者の居場所の構想』学陽書房、2001年
「特集・子どもの居場所づくり」『子どもの権利研究』第6号日本評論社 2005年
西野博之著『居場所のちから』教育史料出版会 2006年
内田宏明「子どもの居場所づくり」『子ども条例ハンドブック』、日本評論社、2008年
「アクターズスクール～放課後の子どもたちの居場所のいま～」『児童心理』臨時増刊|2009年2月号金子書房
池本美香編著『子どもの放課後を考える～諸外国との比較でみる学童保育問題～』 勁草書房2009年
『放課後児童クラブの』の可能性』児童心理2016年8月号 臨時増刊 金子書房
『いま、子どもの放課後はどうなっているのか』深谷昌志・深谷和子・高旗正人編 2006年 北大路書房

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

初回にメールアドレスを明記します。

授業テーマ:	開発途上国の子ども支援		
授業の概要:	開発途上国において、ユニセフ(国際連合児童基金)が子どもをどのように支援しているのかを学ぶ。ユニセフの使命の基本である「国連・子どもの権利条約」を踏まえながら、南アジアのバングラデシュを事例に、ユニセフの組織、政策の変遷、活動内容、各国政府・NGO・企業・市民との関係などについて考察する。		
到達目標:	学生には、この講義を通して、開発途上国の子どもの人権に関心をもち、日常生活の中で国際協力にどのように参加できるか考えてほしい。積極的に外部の学習会やNGOへの国内ボランティア活動、海外のスタディツアーなどに参加する意欲を期待する。		
授業方法:	講義 毎回視聴覚教材を使用 随時バズセッションを実施		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション・私とユニセフ	今後購読すべき参考文献を提示	
	2. ユニセフの組織と歴史、募金の流れ 開発途上国の子ども支援の方法・ユニセフの組織と歴史について	関連資料を配布して復習を指示	
	3. 子どもにはチカラがある～子どもの権利条約～	関連資料を配布して復習を指示	
	4. 「生きる権利」と乳幼児の保健・栄養・衛生～ラクの物語～	関連資料を配布して復習を指示	
	5. 「生きる権利」と乳幼児の保健・栄養・衛生その2 ユニセフの取り組み～	関連資料を配布して復習を指示	
	6. 「育つ権利」と初等教育 女子教育 その1 非識字体験	関連資料を配布して復習を指示	
	7. 「育つ権利」と初等教育 女子教育 その2 ユニセフの取り組み	関連資料を配布して復習を指示	
	8. 「ふせぐ権利」と児童労働	関連資料を配布して復習を指示	
	9. 「聴いてもらえる権利」とストリートチルドレン ～ダイヤモンドランキング～	関連資料を配布して復習を指示	
	10. 「気持ちをカタチにする権利」とストリートチルドレン ユニセフ包括的な実態調査と地元のNGOの取り組みを支援	関連資料を配布して復習を指示	
	11. ユニセフの政策転換 人権に基づくアプローチ(RBA) ～ジェンダーから見たストリートチルドレン～	関連資料を配布して復習を指示	
	12. 子ども買春とアドボカシー(政策提言)	関連資料を配布して復習を指示	
	13. 子ども買春とアドボカシー(政策提言)その2	関連資料を配布して復習を指示	
	14. 気候変動と子ども	関連資料を配布して復習を指示	
	15. 日本とユニセフ～東日本大震災と日本ユニセフ協会～まとめ	関連資料を配布して復習を指示	
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回、できるだけ次の講義に関する資料を配布するので、必ず読んで自分なりの意見を準備して講義に臨むこと。随時、確認作業を行うので、復習をしておくこと。		
フィードバックの方法:	毎回のふりかえりシートによる質問には次週応答する。 メールに対する質問にはその都度応答する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	議論・発表への積極的な参加	60	毎回授業の中でコメントペーパーを書いてもらう。そのペーパーの提出、内容に関する評価を重視する
	中間＋期末レポート	40	インターネットからのコピー＆ペーストについては、適切な引用ルールを踏んでいないものは大幅な減点対象とする
教科書:	特に指定しない 毎回の講義時にレジュメと資料を配布		
参考書:	ユニセフ『世界子供白書』各年版 ユニセフ駐日事務所		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	初回にメールアドレスを明記する		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

現代のこどもが直面している発育発達をはじめとする体の問題、遊びに関わる仲間づくりや自己実現、そして学校におけるいじめ問題など、スポーツが役割を果たすべき領域は多様である。また、従来の学校運動部中心だったスポーツも大きく変わろうとしている。このような大きな社会的変化の中で、こどもの心と体の豊かな成長を支えるこれからのこどもスポーツのあり方と、指導者に必要な資質を検討する。

こどもの発育・発達における運動遊びやスポーツの役割を体・動き・心の各側面から理解し、現実の問題点を把握してより良い成長を促進する環境設定や配慮のための工夫や対策を立案して実行することが出来る能力を身に付けることを目指す。

講義による資料提供を基礎として、そこから見出される諸課題についてグループ研究発表やディスカッション行い、受講者が主体的に取り組める授業にしたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	こどもスポーツの課題・問題点を箇条書きしておく
2.	現代社会におけるこどもの諸問題とスポーツ	子供の頃のスポーツ体験を整理しておく
3.	こどもの体の発育と運動	近年の体形の変化とその問題点を箇条書きにしておく
4.	こどもの健康・体力と運動	事前:こどもの健康問題を箇条書きしておく 事後課題:毎日の運動量を記録(一週間)、評価し、今後の改善方計画を立てる。
5.	こどもの運動能力と心の働き	運動能力の低下による問題点を箇条書きしておく
6.	運動・スポーツと人間形成の諸側面	自分の経験からスポーツが人間形成に役立つ点を箇条書きしておく
7.	こどもの遊びの現状と問題点	こどもの遊びの変化を箇条書きしておく
8.	スポーツから見たこどもを取り巻く遊び・運動環境	事前:家、地域、学校に分けて遊び環境の変化を箇条書きしておく 事後:自分の家(実家)周辺の遊び環境を調べてレポートする
9.	こどもの運動遊び・スポーツと総合型地域スポーツクラブ	住んでいる地域にある総合型地域スポーツクラブを調べておく
10.	総合型地域スポーツクラブの諸相	事後:自分の住んでいる地域の運動遊び環境の改善計画を立てる
11.	世界のこどもスポーツから学ぶもの	日本でこどもがスポーツをする場所・時間・組織などを整理しておく
12.	これからのこどもスポーツ環境論	運動遊びと競技スポーツをする場所を増やす方法を考える
13.	こどもスポーツ指導者の資質と指導法	運動遊びと競技スポーツでどのような指導者に会ったか、問題点と共に箇条書きにしておく
14.	こどもスポーツから変革する地域と社会	指導者・親の観点からこどもスポーツ改善の方法を箇条書きしておく
15.	こどもスポーツの諸問題と解決の方向性	授業で取り上げたテーマと資料を見直して自分なりの改善の方向性を考えておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

こどもにとって運動やスポーツは遊びであると共にからだと心を形成する中核となる活動です。現代社会の大きな変化の中で現実起こっている様々な問題点を整理し直し、こどもたちが自由に楽しむ中で、自然によりよい発育と発達を遂げていく環境を作るのは大人の責任です。受講者それぞれの体験と知恵を持ち寄ってこれからのこどもスポーツのあり方を考えていきましょう。

基本的に次の授業時間にコメントシート等の内容を報告して前回授業の振り返りと今回授業のイントロダクションとして用いる。また必要に応じて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的取り組み	50	授業への取り組みと毎回のコメントシート
	授業課題	20	課題の達成度
	授業内容の主体的把握	30	最終コメントシートの内容

教科書:

参考書:

永井 洋一、2004、スポーツは「良い子」を育てるか、NHK出版（生活人新書）
中山和義2008、スポーツから気づく大切なこと、実業之日本社
ジョン・J・レイティ、2009、脳を鍛えるには運動しかない！、NHK出版
佐保豊、2009、「日本のスポーツはあぶない」、小学館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

yhamaguc@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

多文化共生社会の中のこども支援

授業の概要:

・多文化化が進む日本社会。多様な文化を受け入れ共生していく価値観の育成が求められている。講義では、多文化社会が成立する歴史的背景(日系移民史)や世界の多文化社会の事例など、多文化のなかのこどもなどに焦点を当てながら、地球的課題の1つである「人の移動と共生」の問題をグローバルとローカルな視点からとらえて考察する。
・外国人のこどもの教育が重要な課題になっている日本の小学校。講義はこのようなこどもを理解するために必要な市民的資質について検討する。

到達目標:

知識理解:多文化社会が成立する歴史的背景(日系移民史)や世界の多文化社会の現状についての知識を獲得する。
技能:多文化社会における情報のリテラシーや多様性を受け入れるスキルを身につける
関心・意欲・態度:多文化に対する多様な立場や意見を踏まえて、多文化社会を形成していく資質を養う

授業方法:

講義、ワークショップ、グループ学習活動、学習の確認のための試験

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、エントリーシートの記入	1回目から出席すること
2.	最近の多文化共生をめぐる話題から1 ヘイトスピーチをめぐる動き	教科書・参考文献の熟読
3.	最近の多文化共生をめぐる話題から2 外国にルーツを持つ人々	教科書・参考文献の熟読
4.	世界システムの成立と日系移民(1) 日系移民史概観	教科書・参考文献の熟読
5.	世界システムの成立と日系移民(2) 日系移民史概観	教科書・参考文献の熟読
6.	多文化社会日本(1) 「ひょうたん島問題」1(地域の課題)	教科書・参考文献の熟読
7.	多文化社会日本(2) なぜ日本に外国人がやって来るか、どんな仕事に いているか	教科書・参考文献の熟読
8.	多文化社会日本(3) 「ひょうたん島問題」2(教育の課題)	教科書・参考文献の熟読
9.	多文化社会日本(4) ニューカマーの課題(こどもの教育など)	教科書・参考文献の熟読
10.	多文化社会日本(5) 在日外国人の課題	課題レポートの準備
11.	多文化社会をめぐる世界の課題(1) 欧米など各国の現状、社会的包摂の課題	課題レポートの準備
12.	多文化社会をめぐる世界の課題(2) 欧米など各国の現状、社会的包摂の課題	課題レポートの準備
13.	課題レポートの提出とグループ発表 (日本の事例、諸外国の事例)	課題レポートの準備
14.	レポート返却、ふりかえり	課題レポートの検討
15.	学びの確かめのための試験(持ち込み可)	講義資料、課題レポート、参考文献の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義型授業ではなく、アクティブラーニングとしての参加型学習を多用するので、授業方法自体が問題の発見、理解、解決をすすめていくものとなっている。したがって欠席、遅刻があると授業目標への到達が困難になります。
課題レポートを提出するので、あらかじめ紹介した参考文献(課題図書)をしっかりとよんでおくこと。

フィードバックの方法:

毎時間ごとの振り返りカード(コメントカード)への一言、課題レポートへのコメントと返却

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	ふりかえりやワークショップを含め、授業に積極的に取り組んでいるか
レポート課題	30	授業目標に到達しているか
学びの確かめのための試験	30	授業目標に到達しているか

教科書:

藤原孝章(2008)『シミュレーション教材「ひょうたん島問題」―多文化共生社会ニッポンの学習課題』明石書店

参考書:

田中宏(2013)『在日外国人(第三版)―法の壁、心の溝―』岩波書店
師岡康子(2013)『ヘイト・スピーチとは何か』岩波書店
藤巻秀樹(2012)『「移民列島」ニッポン―多文化共生社会に生きる』藤原書店
佐竹真明(2011)『在日外国人と多文化共生 地域コミュニティの視点から』明石書店
佐竹真明 メアリー・アンジェリン・ダアノイ(2006)『フィリピン―日本国際結婚 移住と多文化共生』めこん
ななころびやおき(2005)『ブエノス・ディアス、ニッポン』ラティーナ
リリアン・テルミ・ハタノ(2009)『マイノリティの名前はどのように扱われているのか―日本の公立学校におけるニューカマーの場合』ひつじ書房
朴一(2005)『「在日コリアン」ってなんでんねん』講談社
清水睦美・「すたんどばいみー」編(2009)『いちょう団地発！外国人の子どもたちの挑戦』岩波書店
野村進(1996)『コリアン世界の旅』講談社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

e-mail、面談

458500	こども英語論		大山 万容
授業テーマ:	「こどもに英語を教えること」を巡って、早期外国語教育についての基礎知識や、日本の小学校で外国語を教える教師として必要とされる知識・技能・態度を身に着けます。		
授業の概要:	「こどもに英語を教えること」を巡って、早期外国語教育についての基礎知識や、日本の小学校で外国語を教える教師として必要とされる知識・技能・態度を身に着けます。		
到達目標:	具体的に次の4つを目標とする。 目標(1) 学習指導要領およびその解説にある「小学校外国語活動」の要点を理解する。 目標(2) 早期外国語教育に関する基礎知識(例、臨界期仮説、指導法、ネイティブモデルなど)を身に着ける。 目標(3) 「小学校外国語活動」の模擬授業を行い、教師として必要な知識・態度・技能について知見を得る。 目標(4) 児童期の英語指導者として、自分自身の知識・技能・態度をふりかえり、自分の今後の課題を整理する。		
授業方法:	講義、発表、ディスカッション、チェックテストを取り混ぜて行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. イントロダクション 2. 児童期の外国語活動を考える(1) 3. 児童期の外国語活動を考える(2) 4. 児童期の外国語活動を考える(3) 5. グループによる模擬授業I(英語活動)1 6. グループによる模擬授業I(英語活動)2 7. 児童期の外国語活動を考える(4) 8. 児童期の外国語活動を考える(5) 9. 教室の中の多言語とバイリンガリズムの発展 10. 児童期の外国語活動を考える(6) 11. グループによる模擬授業1(英語+α活動) 12. グループによる模擬授業2(英語+α活動) 13. こども英語をめぐる文献レビュー1 14. こども英語をめぐる文献レビュー2 15. 全体の授業の振り返りと討論	準備学習等の内容 毎回の授業の進め方、授業全体のテーマについて確認する 発達段階と外国語教育について学ぶ 第二言語習得に関わる仮説を検討する CLIL(内容・言語統合型学習)と児童期の他の教科の状況について学ぶ CLIL(内容・言語統合型学習)と児童期の他の教科の状況について学ぶ 模擬授業の準備・実践と自己評価・ピア評価を行う 模擬授業の準備・実践と自己評価・ピア評価を行う 児童外国語教育を取り巻く日本の現状を検討する 多言語主義・複言語主義の発展について学ぶ バイリンガリズムの発展と移民の子どもの言語習得について知見を深める 複言語主義とヨーロッパの早期外国語教育、新しい教授法について学ぶ 模擬授業の準備・実践と自己評価・ピア評価を行う 模擬授業の準備・実践と自己評価・ピア評価を行う 文献を批判的に読み、グループで発表し、議論する 文献を批判的に読み、グループで発表し、議論する これまでの授業で学んだことを活用して、討論形式で情報に基づいた意見を述べる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	みなさんの英語の成績よりも、知識を生かして想像する力が重要になります。初めて学校で外国語を学ぶ子どものことを思い出したり、イメージしながら、授業にのぞんでください。		
フィードバックの方法:	毎回みなさんに提出してもらったコメントシートを元に、フィードバックを行います。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 発表 授業参加度 文献レポート	割合 50 30 20	評価基準 授業の構成、準備、実技を総合的に判断します 毎回コメントシートの記入 授業中に指示した文献について、まとめと分析を加えたレポートを提出します。
教科書:	『Hi, friends! 1』 東京書籍 『Hi, friends! 2』 東京書籍 柳瀬陽介・小泉清裕 『小学校からの英語教育をどうするか』 岩波ブックレット, 2015		
参考書:	François Grosjean, Bilingual: Life and Reality, Harvard University Press, 2012 大山万容 『言語への目覚め活動 複言語主義に基づく教授法』 くろしお出版, 2016 西山教行・大木充(編著) 『世界と日本の小学校の英語教育』 明石書店, 2015		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	最初の授業時に指示します。		

授業テーマ:	開発の中の子ども		
授業の概要:	・地球的課題の1つである貧困と開発の問題を、グローバル化や世界システムと関連づけながら、開発途上地域のこどもの現状とこども支援を中心に考察する ・開発途上地域におけるこどもの現状とこども支援から、日本のこどもの現状や学校教育の課題をふりかえることで、地球的な視野を身につけた市民的資質を育てる。		
到達目標:	知識理解:開発の中のこどもの現状と原因、グローバル化と貧困、貧困・開発問題への取組みを学習することを通して、持続可能な開発とその目標(SDGs)について知る。 技能:講義及びワークショップを通して、世界の貧困問題を発見し、探求し、こども支援のためのスキルを身につける。 関心・意欲・態度:持続可能な開発のための目標への関心を持ち、問題解決の態度を養う。		
授業方法:	講義、ワークショップ、グループ学習活動、学習の確認のための試験		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、エントリーシートの記入	1回目から出席のこと	
	2. 開発の中のこどもの現状と原因(1)(貧困と児童労働)	参考文献の熟読	
	3. 開発の中のこどもの現状と原因(2)(貧困と児童労働)	参考文献の熟読	
	4. 開発の中のこどもの現状と原因(3)(貧困と児童労働)	参考文献の熟読	
	5. グローバリゼーションと貧困(1)「貿易ゲーム」	参考文献の熟読	
	6. グローバリゼーションと貧困(2)「貿易ゲーム」のふりかえり、富の格差	参考文献の熟読	
	7. 貧困・開発問題への取組み(1)国際社会の取り組みMDGsからSDGsへ	参考文献の熟読	
	8. 貧困・開発問題への取組み(2)地球のステージ	参考文献の熟読	
	9. 貧困・開発問題への取組み(3)JICA,青年海外協力隊、NGO、企業の取り組みなど貧困	参考文献の熟読、課題レポートの準備	
	10. 貧困・開発問題への取組み(4)国際教育支援、誰のための支援か、参加型開発	参考文献の熟読、課題レポートの準備	
	11. 課題レポートとグループでの発表	参考文献の熟読、課題レポートの準備	
	12. 課題レポートの返却とふりかえり	参考文献の熟読	
	13. 貧困・開発問題への取組み(5)私たちにできること サプライチェーン	参考文献の熟読	
	14. 優秀レポート発表	課題レポートの検討、講義資料の検討	
	15. 全体ふりかえり、学びの確かめのための試験(持ち込み可)	参考文献、講義資料、課題レポートの熟読	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義型授業ではなく、アクティブラーニングとしての参加型学習を多用するので、授業方法自体が問題の発見、理解、解決をすすめていくものとなっている。したがって欠席、遅刻があると授業目標への到達が困難になります。課題レポートを提出するので、あらかじめ紹介した参考文献(課題図書)をしっかりとよんでおくこと。		
フィードバックの方法:	毎時間ごとのふりかえりカード(コメントカード)への一言、課題レポートへのコメントと返却		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	40	ふりかえりカードやワークショップを含め、授業に積極的に取り組んでいるか。
	レポート課題	30	授業目標に到達しているか。
	学びの確かめのための試験	30	授業目標に到達しているか
教科書:	特になし		
参考書:	田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編『SDGsと開発教育ー持続可能な世界のための教育』学文社 開発教育推進セミナー編(1999)『新しい開発教育のすすめ方ー地球市民を育てる現場からー』古今書院 キャロル・オフ(2007)『チョコレートの真実』英治出版 中村まり、山形辰史編(2013)『児童労働撤廃に向けてー今、私たちにできること』アジア経済研究所 ジェレミー シーブルック(2005)『世界の貧困ー1日1ドルで暮らす人びと』青土社 ロバート・チェンバース、野田直人・白鳥清志訳(2000)『参加型開発と国際協力ー変わるのはわたしたち』明石書店 渡部龍也(2010)『フェアトレード学ー私たちが創る新経済秩序』新評論 国際連合開発計画編(2010)『世界とつながるビジネス BOP市場を開拓する5つの方法』英治出版 サファイア・ミニ(2008)『おしゃれなエコが世界を救う 女社長のフェアトレード奮闘記』日経BP社 梁石日(2004)『闇の子供たち』幻冬舎文庫		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	e-mail、面談など		

授業テーマ：

身近なものをういた理科の実験やものづくりを実践していきます。

授業の概要：

身近なものを使って、簡単にできる理科実験・ものづくりを行っていきます。自ら実験・製作することにより、自然の不思議さ、理科のおもしろさ、ものづくりの大切さを体験します。

到達目標：

理科実験・ものづくりを通して、基本的な科学実験の知識を習得し、自分自身が理解し、つくる楽しさ、遊ぶ楽しさを感じていくことを目標に、実践していきます。
毎行われる実験やものづくりの目的、方法などを理解すること。
実験やものづくりの結果をまとめる能力を身に付ける。
また、教育者として子どもたちにどのように伝えることができるかを考え、安全に配慮して実験を実践できるように学びます。

授業方法：

毎回、一つのテーマに沿って、身近にあるものをういて理科の実験やものづくりなどを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の説明、安全に実験を行うための方法	実験を行うための安全管理について調べておくこと。
2.	固体の性質を使った遊び	
	風を感じるものづくり	風を利用したものがどのようなものがあるのかを調べておくこと。
3.	温度差を使用した実験	塩の性質について、まとめておくこと。
	塩の性質について	
	温度計の使い方	
4.	回転するものの性質実験	回転する性質のものがどのようなものがあるのかを予習しておくこと。
5.	砂糖の性質を用いた実験	砂糖の性質について、学習指導要領を参考にまとめておくこと。
6.	シャボン玉の性質実験	シャボン玉にはどのような特徴があるのかを調べておくこと。
7.	葉の不思議を調べよう	葉の様子を観察して、まとめておくこと。
8.	人工カプセルの製作	実験器具の使い方を復習しておくこと。
	実験器具の扱い方	
9.	酸性とアルカリ性の性質を調べよう	身近なものがどのような性質のものであるのかを調べておくこと。
	実験器具の使い方	
10.	季節を感じるものづくり	季節に応じたものづくりがどのようなものがあるのかを調べておくこと。
11.	伝統玩具の製作	カッターなど刃物の安全な使い方を再確認しておくこと。
12.	ろうそくを用いて燃焼の仕組みを知ろう	ものが燃えることについて、もう一度、学習指導要領を確認しておくこと。
13.	自然界の色を用いた実験	色について調べておくこと。
14.	身近なもので電池をつくらう	電池の範囲について、学習指導要領を確認しておくこと。
	電気の利用	
15.	温度管理の実験、総括	今まで学んだことについて、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス：

理科実験・ものづくりを通して、基本的な科学実験の知識を習得し、つくる楽しさ、遊ぶ楽しさを体験していきます。理科の得意ではない人でも、楽しくものづくりや理科実験ができるように工夫していきます。

フィードバックの方法：

提出物については、コメントをつけて返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	30	授業への積極的な参加度
	制作課題等	30	到達目標に応じた制作
	小レポート	40	到達目標に関するまとめ

教科書：

使用しません。

参考書：

文部科学省：小学校学習指導要領解説、理科編
授業の中で、紹介していきます。必要に応じてプリントを配布します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法：

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	児童文学の表現構造、社会的文脈、読者の文脈を明らかにしながら読む。		
授業の概要:	小学校教材に取り上げられることの多い様々な児童文学を読み解く。それを通して、児童文学研究の方法を学ぶ。また、その研究方法を応用して、各人が興味ある児童文学を研究し、発表する。		
到達目標:	①児童文学テキストを読む方法を理解している。 ②児童文学研究の方法を理解している。 ③ 児童文学研究方法を応用して、各人が興味ある児童文学を研究し、発表することができる。		
授業方法:	講義形式・演習形式など様々な形態を組み合わせている。ビデオ教材も使う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	シラバスを読んでおくこと。	
	2. 児童文学テキストの読み方(1) ロシア民話「おおきなかぶ」	テキストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。	
	3. 児童文学テキストの読み方(2) アーノルド・ローベル「おてがみ」	テキストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。	
	4. 児童文学テキストの読み方(3) レオ・レオニ「スイミー」	テキストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。	
	5. 児童文学テキストの読み方(4) 新美南吉「ごんぎつね」	テキストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。	
	6. 児童文学テキストの読み方(5) 宮澤賢治「注文の多い料理店」	テキストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。	
	7. 児童文学作家・作品についての探究活動(1) 作家・作品の選択と調査	各人が興味ある児童文学作品や作家について概要をまとめておく。	
	8. 児童文学作家・作品についての探究活動(2) 調査活動のまとめと発表準備	発表準備をしておく。	
	9. 児童文学作家・作品についての発表活動(1)グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。	
	10. 児童文学作家・作品についての発表活動(2)グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。	
	11. 児童文学作家・作品についての発表活動(3)グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。	
	12. 児童文学作家・作品についての発表活動(4)グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。	
	13. 児童文学作家・作品についての発表活動(5)グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。	
	14. 児童文学作家・作品についての発表活動(6)グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。	
	15. 全体の振り返りとまとめ	学んだことを振り返って、レポートを書く準備をする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	自分で調べてまとめ、発表する学習形態が学期の後半で続くので、積極的な授業参加が望まれる。		
フィードバックの方法:	授業で書いた内容について、次の授業で言及し交流する。また、発表についてコメントする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30%	授業に積極的に参加して発言したり書いたりしているかを評価する。
	提出物や発表	30%	テキストを読んだ正確に豊かに理解した感想になっているか、研究方法を踏まえた内容で聞いている人に分かりやすいプレゼンテーションになっているかを評価する。
	レポート	40%	児童文学研究の方法を理解して、論理的に深く掘り下げた内容になっているかを評価する。
教科書:	無し。テキストはプリントで配付する。		
参考書:	日外アソシエーツ編『日本児童文学史事典〜トピックス1945―2015』日外アソシエーツ、2016年 定松正『英米児童文学作品・登場人物事典』松柏社、2012年 藤田のぼる・宮川健郎・目黒強編『「場所」から読み解く世界児童文学事典』原書房、2014年 川端有子・小玉知子・水間千恵『「もの」から読み解く世界児童文学事典』原書房、2009年 渡部芳紀『宮沢賢治大事典』勉誠出版 2007年 日本イギリス児童文学会『英語圏諸国の児童文学 1～物語ジャンルと歴史 改訂版』ミネルヴァ書房、2013年 日本イギリス児童文学会『英語圏諸国の児童文学 2～テーマと課題』ミネルヴァ書房、2011年 桂宥子・高田賢一・成瀬俊一『英米児童文学の黄金時代―子どもの本の万華鏡』ミネルヴァ書房、2005年 本多英明『英米児童文学の宇宙～子どもの本への道しるべ』ミネルヴァ書房、2002年 日本イギリス児童文学会『英米児童文学ガイド～作品と理論』研究社、2001年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	Eメール、オフィスアワー		

授業テーマ:	ライフコースとジェンダー		
授業の概要:	この授業は、課題図書を熟読していく演習の形式に則り、社会現象を社会科学的に捉える視点を理解し身につけることを目標とする。今年度取り上げるのは、ライフコースとジェンダーについてである。具体的には、仕事・結婚・出産・子育てなどの局面において「男女の違い」がどのように表れるのか、その背景にはどのような社会的メカニズムがあるのかといった問題について考えていく、「女性活躍」が叫ばれる一方で「保育園落ちた、日本死ね」が流行語となるような社会状況を、規範的なレベルではなく経験的なレベルで考えていきたい。		
到達目標:	①大学卒業後のライフコース(仕事、結婚、出産、子育てなど)の現状に関する基礎的な知識を獲得する。 ②上記の知識をふまえ、日本社会におけるライフコースとジェンダーの問題について主体的に考える。 ③自らの考え・主張を他者に理解してもらうための表現能力を身につける。		
授業方法:	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業の概要、受講にあたっての注意事項の説明、発表割り当てなど)	シラバスの熟読	
	2. 日本社会における「男女格差」とは(各種インデックスの解説)	授業中に指定された課題への取り組み	
	3. 山田昌弘『女性活躍後進国ニッポン』第1章を読む	課題図書の熟読	
	4. 山田昌弘『女性活躍後進国ニッポン』第2章を読む	課題図書の熟読	
	5. 山田昌弘『女性活躍後進国ニッポン』第3章を読む	課題図書の熟読	
	6. 山田昌弘『女性活躍後進国ニッポン』第4章・終章を読む	課題図書の熟読	
	7. 山田昌弘『女性活躍後進国ニッポン』を振り返るディスカッション	課題図書の熟読	
	8. 「待機児童問題」とは何の「問題」なのか(映像資料視聴およびディスカッション)	授業中に指定された課題への取り組み	
	9. 本田由紀『社会を結びなおす』第1章を読む	課題図書の熟読	
	10. 本田由紀『社会を結びなおす』第2章を読む	課題図書の熟読	
	11. 本田由紀『社会を結びなおす』第3章を読む	課題図書の熟読	
	12. 本田由紀『社会を結びなおす』第4章を読む	課題図書の熟読	
	13. 本田由紀『社会を結びなおす』を振り返るディスカッション	課題図書の熟読	
	14. 「近代化」という視点から日本の家族・仕事・教育の問題を捉え返す	授業中に指定された課題への取り組み	
	15. まとめとふりかえり	授業中に指定された課題への取り組み	
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回の授業にて、課題図書の指定箇所に関する意見や疑問点をまとめた小レポートを全員に提出してもらいます。また、半期のうち必ず1回は発表を担当してもらいます。授業では、それらにもとづき議論・討論を行い、必要に応じて教員が追加資料などを用いて解説をします。授業時間外の学習・準備も相当に必要となりますので、そのつもりで受講して下さい。		
フィードバックの方法:	質問用紙・コメントペーパーについては、教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	40	日本社会におけるライフコースとジェンダーの問題について、到達目標①②に即し、正しい知識に基づき主体的に論じられているかどうかを評価する。
	小レポート	30	到達目標②に基づき、自分なりの意見・見解を提出できているかどうかを評価する。
	発表	15	到達目標③に基づき、他者に理解してもらえるプレゼンテーションとして十分な発表であったかどうかを評価する。
	授業への参加度	15	到達目標②③に基づき、自らの意見を他者にきちんと伝えられるような発言・討論ができたかどうかを評価する。
教科書:	山田昌弘『女性活躍後進国ニッポン』岩波書店、2015年 本田由紀『社会を結びなおす 教育・仕事・家族の連携へ』岩波書店、2014年		
参考書:	竹信三恵子『女性を活用する国、しない国』岩波書店、2010年 筒井淳也『仕事と家族』中央公論新社、2015年 筒井淳也『結婚と家族のこれから』光文社、2016年 山田昌弘『モテる構造 男と女の社会学』筑摩書房、2016年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、		
教員との連絡方法:	原則として、メールにて対応します(mishioka@mail.doshisha.ac.jp)。本務校が同志社大学ですので、面談が必要な場合などは個人研究室(京田辺キャンパス夢告館712号室)にお越しいただいても構いません。なお、授業の前後には十分な時間が取れない可能性が高いので、あらかじめご了承ください。		

授業テーマ:	子ども主体の幼児・児童教育		
授業の概要:	教育とは、広い意味で、「人間の文化的価値を伝承するシステム」であり、それらをとおして、一人ひとりが人間らしい人格を形成していく営みである。この授業では、現代日本の幼児・児童教育をめぐる種々の問題について着目し、子ども主体の教育の意味を考える。歴史的に顕著な特色をもつ実践を踏まえながら、保育・教育現場における「遊び」を例として、子ども自身の本当の生きる力につながる教育の意義を考察する。		
到達目標:	子どもが人間として守り育てられる環境についての知識を得るとともに、子ども自身がもつ能動的権利についての理解を深める。 子ども自身の生きる力につながる本当の教育とは何かを、広い視野をもって考える素地を身につける。		
授業方法:	講義が中心であるが、文献講読や個人・グループによる発表等も随時取り入れる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 子ども主体の教育とは 2. 「児童の権利に関する条約」にみる子どもの権利 3. 日本の幼児・児童教育①フレーベルの思想と倉橋惣三の実践 4. 日本の幼児・児童教育②野口幽香と二葉保育園 5. 日本の幼児・児童教育③京都の番組小学校と地域力 6. 子どもの権利と豊かな遊び体験 7. 遊びの意義と教育 8. 保育・教育現場における遊び①現状 9. 保育・教育現場における遊び②課題 10. 保育・教育現場における遊び③グループ学習 11. 保育・教育現場における遊び④グループ発表 12. 子どもを主体とする幼児・児童教育の実践①レッジョ・エミリア 13. 子どもを主体とする幼児・児童教育の実践②森のようちえん 14. 子どもが主体となる環境づくり 15. まとめー理想とする教育	「子ども主体」の意味を考える 「児童の権利に関する条約」を読む 事前配布する文献を読んでおく 事前配布する文献を読んでおく 事前配布する文献を読んでおく 子どもの豊かな遊びに必要な条件を考える 遊びと教育の関係を考える 現代の子どもの遊びをめぐる状況について調べておく 現代の子どもの遊びについての課題を挙げる グループ学習のテーマを考える 発表の準備をする 事前配布する文献を読んでおく 事前配布する文献を読んでおく 子どもが主体となる教育に必要な環境を考える 理想とすべき本当の教育について自分なりにまとめておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:	子どもにとって本当の意味で必要な教育とは何か、受講生一人ひとりの理想とする保育・教育を考える場にしたいと思います。積極的な参加を期待します。		
フィードバックの方法:	ほぼ毎回感想・コメントを提出。適宜、教室内で返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	40%	子ども自身の生きる力につながる本当の教育とは何かを、自分自身の言葉で表現できているかを評価する
	提出物	20%	子ども主体の教育を考えるために提示する資料について、内容を理解し、広い視野をもって考察できているかを評価する
	発表を含む授業への参加度	40%	子どもが人間として守り育てられる環境について、積極的な関心をもって調べ、適切に発表できているかを評価する
教科書:	適宜、プリントを配布する		
参考書:	適宜、授業中に紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内にて対応		

授業テーマ:

近現代日本の教育

授業の概要:

教育基本法が改正され10年が経過し教育改革が進められているところですが、その一方で、子供を取り巻く環境等様々な変化や課題も指摘されているところです。これら諸課題を検討し、これからの教育の在り様を考察するためには、これまでの教育を振り返ることが重要な意味を持つと考えます。
本講では、我が国近現代の学校教育の歴史について平易に紹介し、今日に至るまでの経緯について理解した上でこれからの教育について考察する基礎的な力を培うことを目指します。

到達目標:

① 明治期、大正期、昭和期、平成期以降の学校教育について理解する。
② 学校教育の歴史や今日的教育課題等に照らして、これからの教育について考察する。

授業方法:

講義形式を中心に行いますが、適宜グループ学習や発表も取り入れます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	近代以前の教育(1) ー古代中世の学校ー	講義の復習と次時の予習
2.	近代以前の教育(2) ー近世の学校ー	講義の復習と次時の予習
3.	明治期の学校教育(1) ー「学制」の制定、実施ー	講義の復習と次時の予習
4.	明治期の学校教育(2) ー京都の番組小学校ー	講義の復習と次時の予習
5.	明治期の学校教育(3) ー教学聖旨と教育議ー	講義の復習と次時の予習
6.	明治期の学校教育(4) ー義務教育制度の確立と教科書の国定化ー	講義の復習と次時の予習
7.	明治期の学校教育(5) ー義務教育制度の確立と義務教育六年制ー	講義の復習と次時の予習
8.	大正期の学校教育 ー臨時教育会議と教育改革ー	講義の復習と次時の予習
9.	昭和期の学校教育(1) ー中学校教育の改革ー	講義の復習と次時の予習
10.	昭和期の学校教育(2) ー国民学校の成立ー	講義の復習と次時の予習
11.	昭和期の学校教育(3) ー戦後の学校教育ー	講義の復習と次時の予習 教育基本法(新旧)を読む。
12.	昭和期の学校教育(4) ー教育基本法の成立ー	講義の復習と次時の予習 教育基本法(新旧)を読む。
13.	平成期以降の学校教育 ー教育基本法の全部改正と学習指導要領ー	講義の復習と次時の予習 これからの教育について自分なりの考えをまとめる。
14.	これからの教育を考える	講義の総復習 これからの教育について自分なりの考えをまとめる。
15.	教育の歴史のまとめ	教育の歴史とこれからの教育について考察しまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

課題レポート等コメントを付けて教室で返却します。
課題レポート等から得られた共通課題は、講義で解説します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	70%	①学校教育の歴史について理解度により評価する。 ②これからの教育について自らの考えをまとめることができるか評価する。
	課題レポート	20%	近現代の学校教育に関する課題に即したまとめているか評価する。
	授業への積極的参加及び態度	10%	積極的な態度で授業に参加しているかを評価する。

教科書:

適宜プリントを配布します。

参考書:

山住正己著『日本教育小史ー近・現代ー』岩波新書
海後宗臣・仲新・寺崎昌男著『教科書で見る近現代日本の教育』東京書籍

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:

「なぜ？」を問う

授業の概要:

「なぜ、そうなるのか」という問いかけに着目し、その疑問の根拠となっている論理的思考について考えます。小学校、中学校の算数・数学の題材を、不思議さに気づくという知的な遊びとして見直していきます。

到達目標:

1. 学校で習った算数・数学の題材とその背景に関する知識を習得し理解する。
2. 1)に関する関心・意欲・態度を高める。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 1980が9で割り切れることがなぜ一目でわかるのでしょうか。	4ケタの数が割り切れるかの見分け方を復習する。
	2. 30の約数がなぜ図で表せるのでしょうか。	学校で学んだ約数について思い出しておく。 約数を図で示す方法を復習する。
	3. 7973と2380の最大公約数がなぜ簡単に算出できるのでしょうか。	最大公約数という用語を調べておく。 ユークリッドの互除法を復習する。
	4. 24と36の公約数がなぜ図から見つけることができるのでしょうか。	学校で学んだ公約数を思い出しておく。 公約数を図で示す方法を復習する。
	5. 直角三角形の3辺の長さの数の組合せはなぜ規則的にわかるのでしょうか。	三平方の定理を思い出しておく。 ピタゴラス数について復習する。
	6. なぜマイナスの数が必要なのでしょう。日常の中でマイナスの数はどんなことに使われているのでしょうか。	正の数・負の数の加減を思い出しておく。 正の数・負の数の加減の指導法を復習する。
	7. プラスの数とマイナスの数の積はなぜマイナスの数なのでしょう。	正の数・負の数の乗除を思い出しておく。 正の数・負の数の乗除の指導法を復習する。
	8. なぜルートの数が必要なのでしょう。ルート2は日常の中でどんなところにあるのでしょうか。	学校で学んだ平方根を復習する。 ルートの数の日常での存在を復習する。
	9. ルート2とルート3を加えたとなぜなぜルート5にならないのでしょうか。	学校で学んだルートの数の加減を思い出しておく。 ルートの数の加減の法則を復習する。
	10. ルート2とルート3をかけるとなぜルート6なのでしょう。	学校で学んだルートの数の乗除を思い出しておく。 ルートの数に乗除の法則を復習する。
	11. 三角数、四角数・・・はどんな数でしょうか。なぜ計算でも求められるのでしょうか。	三角数、四角数、五角数、六角数を理解する。
	12. 格子点上の点を結んでいろいろな図形をかこう。どのような関係式が潜んでいるのでしょうか。	格子点という用語を調べておく。 格子点上の図形の性質を復習する。
	13. 円上の等間隔の点を結んでいろいろな図形をかこう。どのような規則性があるのでしょうか。	円上にできた図形の規則を復習する。
	14. 「ハッピーナンバー」「サッドナンバー」はどんな数でしょうか。それぞれどんな数のつながりがあるのでしょうか。	自然数を2つのつながりに「分けられることを復習する。
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

学校では学ばなかった算数・数学教材を学びます。

フィードバックの方法:

授業内の課題や活動については、授業中に解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験(持込可)	50	到達目標1の振り返りを評価する。
	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標2を評価する。

教科書:

必要に応じてプリントを配布する。

参考書:

必要に応じて紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

こどもの創造性を育てるプレイフル・ラーニング

授業の概要:

「学び」「メディア」「デザイン」をキーワードに、こどもたちが仲間と共感しながら活動に没頭できる場のデザインについて考える。プレイフル・ラーニングのコンセプトを核にした様々なワークショップを紹介し、プレイフルな学びのデザインについて学ぶ。授業のプロジェクトとしては、4人の学生が1チームになって、「メディアを媒介にした表現活動」と「経験のリフレクシオン」がアクティビティの軸となるようなワークショップをデザインし、実施する。この実践に埋め込まれている学びのプロセスを吟味し、改善のための手立てを考えていく。この授業は、人がワクワクするような学びを経験をするためには、どのようなワークショップをデザインすればいいかを実践的に学ぶことを目標としている。

到達目標:

(1)学習環境デザインのための4要素(空間・活動・ツール・学びの共同体)を理解し、この4つの要素を組み合わせるワークショップデザインができる。
(2)ワークショップを記録する意味を理解し、ヴィデオドキュメンテーションを制作することができる。
(3)実際におこなったワークショップを振り返り、リ・デザインして、実施、評価することができる。

授業方法:

授業は、レクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使って、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善する。実践的な授業なので学期中にいくつかのプロジェクトを実施する。そのためのグループディスカッションや制作は授業外の時間を使って行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	プレイフル・ラーニング	教科書の第1章を読んでおく。
2.	ワークショップ・デザインとコンストラクショニスト・ラーニング	ワークショップデザインの基底になる構成主義的学びの場をどうデザインすればいいかについて自分の考えをまとめておく。
3.	学習環境デザインのための4要素(空間・活動・ツール・学びの共同体)のモデル化	創造的な学びを触発する学びを4要素との関係でまとめる。
4.	ワークショップにおける活動・モデル・理論の三層構造	教科書の第1章3節を参照しながら、活動・モデル・理論の関係を可視化する。
5.	ワークショップにおけるラーニング・デザイナーの役割	ラーニング・デザイナーの役割について考えておく。
6.	ワークショップ・デザイン1 ゴールとコンセプト	教科書の第2章を読んでおく。 ワークショップのゴールとキーコンセプトについて考えておく。
7.	ワークショップ・デザイン2 空間とツールの開発	ワークショップを活性化する空間とツールを具体的にイメージする。 教科書のコラム3を読んでおく。
8.	ワークショップ・デザイン3 スタッフの役割分担	ワークショップを運営するチーム構成について考えておく。
9.	ワークショップ・デザイン4 アジェンダフォーマットの作成	ワークショップの時間軸に沿った活動の流れをイメージしておく。
10.	ワークショップ・デザイン5 ワークショップのドキュメンテーション	携帯のビデオ機能を使って撮影の練習と編集の仕方を試しておく。 教科書のコラム1を読んでおく。
11.	ワークショップの実施 1 グループごとに教室でワークショップを実施し、ドキュメンテーションも同時に行う。	ワークショップの準備をしておく。
12.	ワークショップの実施 2 リ・デザインしたワークショップを実施する。 ドキュメンテーションも同時に行う。	ワークショップをふり返り、どのように改善すればいいかを考えておく。
13.	ドキュメンテーションビデオの上映	ビデオを視聴して気づいたことを整理し、まとめておく。
14.	リフレクティブプレゼンテーション 2回のワークショップの総合的なふり返り	ビデオを視聴して省察し、その結果をリフレクションペーパーにまとめる。
15.	まとめ:プレイフルラーニングと学習環境デザイン	教科書の第3章を読んでおく。 最終レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業は、学習環境デザインのための理論と方法を学びつつ、その枠組みを使って、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善するというアクティブラーニングを実践するものなので、積極的な授業への参加と好奇心が必要です。ビデオの編集技術も学ぶので、テクノロジーに興味がある方は、ぜひ受講してください。

フィードバックの方法:

グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ワークショップへの貢献度	40	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善、ドキュメンテーションを総合的に評価する。どのようなリフレクションによってリ・デザインしたかを評価する。
	プレゼンテーション	10	ワークショップの企画プレゼンやリフレクションのコメントが的確であるかを評価する。
	最終レポート	50	ワークショップを通して実践的に経験したことを、理論と関係づけて自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:

上田信行・中原淳『プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来』三省堂 2013

参考書:

授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

基本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

授業テーマ:

教育評価の主体となって「こどもと教師のため」の評価を考える

授業の概要:

教育評価をめぐる学校教育の歴史をふりかえってみると、数多くの論争や議論がなされてきた。それほど「評価」は解決が容易ではない問題をいくつも抱えている領域である。
本授業では、教育実践における教育評価をめぐる複数のなぞについて考え、教育評価を実践していくための基本的な概念や方法を深く理解し、評価をめぐる新たな見方・考え方を構築して、こどもと教師の双方にとって望ましい教育評価のあり方を体験も交えながら探究する。

到達目標:

(1)教育評価に関する基礎的・基本的知識について理解する。
(2)教育評価が行われてきた日本の学校教育の歴史について関心を持ち、評価をめぐるさまざまな論争が行われてきた背景を詳しく知ろうとする。
(3)教育評価には2つの側面があるということについて知り、それらの意味を実現する方法を身につけようとする。

授業方法:

歴史的背景や基礎的・基本的な知識については、個人やグループで探究し、説明・発表する活動を通して深く理解することを重視する。その上で教員からの解説や講義を行い、より正確に理解できるようにする。
なお、グループ発表に関しては授業内だけでは準備ができないため、グループメンバーと協力、相談し、授業外にもグループワークができるようにしておく必要がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育評価論のオリエンテーション、授業の進め方に関するガイダンス。 わたしにとって「教育評価」とは何か～ブレインストーミング	本授業のシラバスを読んでくる。
2.	教育評価をめぐる5つのなぞを推理する	前の回に配布された資料を読み、わからない点を見つけ、専門的用語を調べて確かめておく。
3.	何のための評価なのか？～教育評価が向かう先を見据える	前の回で考え、議論した内容を整理し、提示された問いに対する自分の考えをまとめておく。
4.	誰が評価を行うのか？～教育評価の主体を考える	前の回に配布された資料を読み、問われた内容について自分なりの考えを整理しておく。
5.	いつ評価をするのか？～教育評価の機能を知る	前の回で考え、議論した内容を整理し、自分が学習者として体験していた評価と比べて自分なりの考えをまとめておく。
6.	何をどのように評価するのか？(1)評価の対象の違いを比べる	前の回に配布された資料を読み、問われた内容について自分なりの考えを整理しておく。資料中のわからないことばについてはあらかじめ調べて確かめておく。
7.	何をどのように評価するのか？(2)評価の方法の違いを比べる	前の回で考え、議論した内容を整理し、配布された追加資料を読んで、問われた点についての自分の考えをまとめておく。
8.	評価課題をリサーチする(1)こどもに習得させたい内容と方法を把握する	同じ関心を持つメンバーとグループづくりを行うため、これまでに学んできた内容の中で、より関心のある内容について、根拠をもって説明できるようにしておく。
9.	教育評価の歴史をさかのぼる～教育評価の現代的課題はどこから生まれたか	前の回に配布された資料を読み、わからない言葉について図書やインターネットで調べ学習を行っておく。
10.	評価課題をリサーチする(2)多様な評価方法を比べて使いこなす	グループで分担したことをもとにそれぞれが調べ、考えたことを整理して持参できるようにしておく。
11.	評価課題をつくってみよう	前の回までに調べ、検討してきた課題についてグループのメンバーで比較検討できるように準備しておく。
12.	評価課題を解いてみよう & 課題を洗練させよう	前の回につくった課題の意図や構成について読み返しておく。
13.	教育評価の仕組み・制度を考える～入試制度と学校間の接続に目を向けて	前の回に配布された資料を読み、内容についてわからないことを図書やインターネットで調べておく。
14.	「こどもと教師のための評価にするために」に関するグループ発表と相互批評	これまでに調べてきたことをグループで精査し、発表すべき内容を整理しておく。聴き手に印象深くなるよう発表の工夫を考え、リハーサルしておく。
15.	全体のまとめ	これまでの全14回で使用した資料やノートを読み返し、受講前と比べて学校教育の制度や学校運営に対する自分の見方・考え方がどう変化したかを考えておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

「評価」という言葉を聴くと、どのような場面やものを思い浮かべるでしょうか。学習者の側からみると、「学期末テスト」や「通知表」などが想起されることが多いことでしょう。たしかにそうした側面も含まれますが、「評価」にはもう一つ重要な側面があり、教師の仕事はこの2つの側面「評価」によって成り立っているといっても過言ではないのです。
教育評価をめぐる私たちの固定観念や先入観を見つめ直し、こどもと教師の双方にとって意味ある評価にしていく知恵と方法をともに探究してみませんか。

フィードバックの方法:

(1)毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
(2)授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎回の授業への積極的参加とリフレクションの提出	30	授業内容や問われたことに対して関連づけたりリフレクションになっているかどうか
	グループによる発表の制作、発表、提出	20	授業で学んだ内容を理解した上でそれらを個性的に統合して発表内容をつくらせているか
	定期試験(論述)	50	知っておくべき基礎的な知識を相互に関連づけて理解し、それを自分なりの言葉で説明することができているか

教科書:

文部科学省「児童生徒の学習評価の在り方について」(報告)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htmより閲覧・ダウンロード可
授業内で適宜配布する資料類を教科書として使用するため、ファイリングしておく

参考書:

松下佳代(2007)『パフォーマンス評価 子どもの思考と表現を評価する』日本標準ブックレット
田中耕治編(2010)『よくわかる教育評価(第2版)』ミネルヴァ書房
黒沢俊二(2004)『本当の教育評価とは何か 子どもの力を伸ばす評価の仕方』学陽書房
田中耕治編(2015)『新しい教育評価入門―人を育てる評価のために』有斐閣

吉田新一郎(2006)『テストだけでは測れない！人を伸ばす「評価」とは』日本放送出版協会
若き認知心理学者の会編(1996)『認知心理学者、教育評価を語る』北大路書房
キャロライン・ギップス／鈴木秀幸訳(2001)『新しい評価を求めて テスト教育の終焉』評論社
鹿毛雅治(2007)『子どもの姿に学ぶ教師～「学ぶ意欲」と「教育的瞬間」』教育出版
田中耕治編(2008)『新しい学力テストを読み解く』日本標準

分析力、思考力、創造力、変化対応力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

第1回に配布する資料に教員の連絡先を配布するほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。
履修者全員とのやりとりや、グループ・受講者相互の連絡については必要に応じてマナビーを活用する。

授業テーマ:

子どもを対象とした英語指導の在り方と小学校における外国語・外国語活動の在り方を理解し、教員としての指導力を向上させる。

授業の概要:

小学校で実施されている外国語・外国語活動の現状を知るとともに、教科として必修化されることを念頭に、学級担任の教師や英語指導者としての実践的な指導力の基礎基本を培う。また、幼稚園・保育園で行われている児童英語を理解し、導入期のポイントを理解する。加えて、小学校教員採用選考テスト(教職教養、一般教養等)の対策も同時に行う。

到達目標:

小学校教諭及び幼稚園教諭として、外国語(英語)指導ができる教員をめざす。

授業方法:

学習指導要領を基に、外国語・外国語活動の理論を理解するとともに、体験を通して指導力向上を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	日本における英語教育の歴史の変遷を調べる。
2.	小学校外国語・外国語活動の現状と課題	小学校における外国語教育の現状を調べる。
3.	小学校外国語・外国語活動の意義と目的	学習指導要領から、外国語教育の意義を読み取る。
4.	小学校外国語・外国語活動の指導内容	学習指導要領から、外国語教育の指導内容を読み取る。
5.	テキスト「英語ノート」と“Hi, friends!”の内容とその活用	様々なテキストから、指導方法を考える。
6.	小学校外国語・外国語活動のためのチーム・ティーチング(TT)	外国人とのチーム・ティーチングの問題点をまとめる。
7.	小学校外国語・外国語活動のための教材作成	効果的な教材を作成する。
8.	小学校外国語・外国語活動のための評価方法	評価方法、評価ポイントを考えてまとめる。
9.	小学校外国語・外国語活動における様々な課題の対処方法	外国語教育の課題や問題点をまとめる。
10.	保育英語・児童英語の考え方と在り方	外国語の導入期の課題をまとめる。
11.	小学校外国語・外国語活動の模擬授業準備(1)	授業案を作成する。
12.	小学校外国語・外国語活動の模擬授業準備(2)	授業案を校正し、効果の上がる授業を組み立てる。
13.	小学校外国語・外国語活動の模擬授業発表・討議(1)	模擬授業発表の準備をする。
14.	小学校外国語・外国語活動の模擬授業発表・討議(2)	模擬授業の問題点や改善策をまとめる。
15.	総括	授業で知ったこと、分かったこと、できたことをまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

今、小学校及び幼稚園の先生に求められている外国語(英語)の指導力は、一朝一夕に身に付くものではありません。この授業を通して、英語指導の基礎基本を学び、実践を通して指導力のある先生になってみませんか。

フィードバックの方法:

講義だけではなく、受講者が児童や指導者の立場になり、指導を体験する。その中で、ポイントや改善点をこちらから示し、指導力の向上を図る。また、教材・教具を作成し、受講者同士評価しあう。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小レポート	30%	内容
	模擬授業発表(TT)	30%	内容、流れ、リズム、メリハリ、効果
	教材・教具作成	30%	内容、企画力、創作力
	授業への取り組み	10%	積極性、出席率

教科書:

参考書:

文部科学省、『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』、東洋館出版社
菅正隆 他、『外国語活動評価づくり完全ガイドブック』、明治図書出版
菅正隆 他、『“Hi, friends!”指導案&評価づくりパーフェクトガイド』、明治図書出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

kan.masataka@osaka-shoin.ac.jp

授業テーマ:

特別支援教育について実践例を通して理解する

授業の概要:

障害児(者)の正しい理解と認識を深めるとともに、特殊教育から特別支援教育への移行を学習していく。平成19年度から始まった特別支援教育は、これまでの「場の教育」から「機会の教育」へと内容が変化している。その基本的な理念と内容について学ぶことで、特別支援教育の今日的課題を考察していきたい。
それらの学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、障害のある子ども一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。障害児(者)の問題は、人間発達の問題であり、全ての教育の基本になるものである。教職を目指すもの全てに必要な内容であり人としての人間観を育むことで、将来の進路に向けた資質向上につながるようにする。

到達目標:

<想像力・知的好奇心>新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲を持つことができる。
・特別支援教育の授業内容に関して、新たな興味や関心を持って調べることができる。
<思いやる力・自己実現力>社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心をもち、特に各障害について理解し、障害の有無にかかわらず、相手の立場に立って考え行動することができる。

授業方法:

5. 講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・オリエンテーション（本授業のねらいと授業計画・特別支援教育とは） ・授業シラバスの説明および、最初の導入としての特別支援教育、障害者理解の説明を行う。	○次回の予習として、特別支援教育関連の書籍を探し、目を通しておく。
2.	・特別支援教育の理念（特別支援教育の理念と意義について） ・特別支援教育の理念と意義について文部科学省の指導要録等を参考に理解する。	○次回の予習として、特別支援教育関連の書籍を読み、歴史についての質問を考えておく。
3.	・特殊教育から特別支援教育へ（特殊教育の歴史と特別支援教育への移行） ・特殊教育の歴史を知り、特別支援教育に移行した背景を理解する	○次回の予習として、知的障害者に関する書籍を読み、わからないところをチェックする。
4.	・知的障害児の教育（知的障害の理解と指導について） ・知的障害の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。	○次回の予習として、肢体不自由児についての書籍を読み、わからないところをチェックする。
5.	・肢体不自由児の教育（肢体不自由の理解と指導について） ・肢体不自由児の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。演習 ・授業外活動に関しての課題解決のためのグループワーク。	○次回の予習として、自閉症児についての書籍を読み、わからないところをチェックする。
6.	・自閉症児の教育（自閉症の理解と指導について） ・自閉症の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。	○次回の予習として、発達障害についての書籍を読み、わからないところをチェックする。
7.	・発達障害児の教育（発達障害の理解と指導について） ・自閉症以外の発達障害についての基礎的な理解と簡単に指導法について知る。	○次回の予習として、聴覚障害についての文献を読み、コミュニケーション手段について調べておく。
8.	・聴覚障害児の教育（聴覚障害の理解と指導について） 小テスト② ・聴覚障害の基礎的な理解とコミュニケーション手段について学ぶ。	○次回の予習として、視覚障害のコミュニケーションについて調べておく。
9.	・視覚障害児の教育（視覚障害の理解と指導について） ・視覚障害の基礎的な理解と点字等について学ぶ。点字理解のグループワーク。演習	○次回の予習として、病弱児についての文献を読み、わからないところをチェックしておく。
10.	・病虚弱児の教育（病虚弱の理解と指導について） ・病弱児の基礎的理解とホスピスについて学ぶ。	○次回のレポート提出に向けて、課題の整理とまとめを行う。
11.	・就学前の療育と卒業後の暮らし（就学前の療育の理解と卒業後の進路生活について） 中間レポート提出 ・幼児期の療育と卒業後の実態を知る。 ・授業外活動に関しての課題解決のためのグループワーク。	○次回の予習として、特別支援学校の教育課程について文部科学省のHPを参考にしておく。
12.	・特別支援教育の場と教育課程（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の理解について） ・特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の実態を理解し、教育課程の違いを知る。	○次回の予習として、特別支援教育の体制づくりについて予習しておく。
13.	・特別支援教育と学校体制作り ・特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制の確立及び センターの機能とその役割について学ぶ。	○今まで行ったことのあるボランティア、インターンシップ等のまとめをする。
14.	・個別の教育支援計画の理論（個別の指導計画と支援計画の理解） ・個別の指導計画と個別の教育支援計画の実態とアメリカとの比較をする。	○最終テストに向けて授業のまとめを行う。
15.	・まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

これから教職や保育所・養護施設等、人とかかわる職業を目指す方たちにとって原点となる講義です。人として最も大切な「ともに生きる」という考え方を学びましょう。

フィードバックの方法:

レポートに関しては教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	最終確認テスト	40	特別支援教育や各障害に対して新しい知識を獲得できたか。
	中間レポート	20	特別支援教育の授業内容に関して、新たな興味や関心を持って調べることができたか。
	発表、演習	20	グループワークや演習で各障害について理解し、障害の有無にかかわらず、相手の立場に立って考え行動する事ができたか。
	授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲を持つことができたか。
教科書:	特に使わない。毎回資料を配布する。		
参考書:	中尾繁樹編著 通常学級で使える「特別支援教育」ハンドブック 明治図書 湯浅恭正編集 よくわかる特別支援教育 ミネルバ書房		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	メール s-nakao@kuins.ac.jp		

授業テーマ:	PlayfulTVの実験		
授業の概要:	授業では、まず子ども向けテレビ番組の制作過程について概観する。『セサミ・ストリート』を例に、インストラクショナル・デザイン (ID) による番組開発の方法を紹介する。特に、番組改善のためのフォーマティブ・エバリュエーション (構成的評価) に焦点をあて、デザインとリサーチをどう融合していくかを検討する。その後、レクチャーで吟味したIDモデルをベースに、実際にミニ番組(PlayfulTV)のデザインに取り組む。具体的にはPlayfulTVプロジェクトを立ち上げ、15分のビデオ番組の企画・実施・評価・改善を行う。この授業は、グループで番組を制作するという経験とそのリフレクションを通して、コミュニケーションデザインとは何かを考え、コラボレーションの楽しさと難しさを実感してもらうことをめざしている。		
到達目標:	(1) 番組開発のためのインストラクショナル・デザインを理解し、実際の番組にそのアプローチを活かすことができる。 (2) グループで番組の企画書を作成し、プロトタイプ of 改定を通して15分番組を制作することができる。 (3) 制作を通して学ぶことの教育的意義について語ることができる。		
授業方法:	授業は、レクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使って、実際にPlayfulTVプロジェクトの実験を行う。コンピュータによる編集技術は前もって必要ないが、新しいメディアの積極的な活用方法を考えたいという情熱が必要。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 番組開発モデルとインストラクショナル・デザイン (ID)	番組開発のためのIDの方法について整理しておく。	
	2. Sesame StreetとCTWモデル	典型的な教育工学モデルとしてのCTWモデルを図示しておく。	
	3. 制作のためのコラボラティブ・アプローチ	コンテンツの専門家集団、プロダクションの専門家集団、リサーチの専門家集団のコラボレーションがどのようになされたを図示し、説明文を書いておく。	
	4. フォーマティブ・リサーチの方法	番組開発のためのフォーマティブ・リサーチ (形成的評価) の方法を図示して、その方法をまとめる。	
	5. 番組の企画と制作プラン	4人で1グループをつくり、共同で番組の企画書を作成する。	
	6. 企画発表会	企画発表会の準備をする。	
	7. ショート・ムービーの制作 1	番組の中で使用するインサートムービーをイメージしておく。	
	8. ショート・ムービーの制作 2	引き続き、番組の中で使用するインサートムービーを制作する。	
	9. ビデオ番組のプロトタイプ制作 1	15分の番組のプロトタイプを構想する。	
	10. ビデオ番組のプロトタイプ制作 2	引き続き、プロトタイプを制作する。	
	11. プロトタイプのフォーマティブ・リサーチ	プロトタイプを完成させる。	
	12. ビデオ番組のプレゼンテーション グループ1	フォーマティブ・リサーチ結果にもとづいて、プロトタイプを改善し、ヴィデオ番組を完成させる。	
	13. ビデオ番組のプレゼンテーション グループ2	フォーマティブ・リサーチ結果にもとづいて、プロトタイプを改善し、ヴィデオ番組を完成させる。	
	14. ビデオ番組のプレゼンテーション グループ3	フォーマティブ・リサーチ結果にもとづいて、プロトタイプを改善し、ヴィデオ番組を完成させる。	
	15. まとめ:「番組づくりを通して学ぶこと」の教育的意義を考える	PlayfulTVの制作過程をふり返る。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	番組づくりはとても楽しい作業なので、ぜひ参加してみてください。グループ作業が中心になりますが、コラボレーションの楽しさを体験することができます。ものをつくることの達成感を味わうこともできるので、みなさんの挑戦を期待しています。		
フィードバックの方法:	グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	番組制作への貢献度	30	グループで番組の企画書を作成し、制作し、フォーマティブリサーチを通してプロトタイプを改善し、番組を完成させるというIDアプローチの全プロセスを評価する。
	プレゼンテーション	10	番組の魅力をどうプレゼンテーションしたかを評価する。
	番組 (作品)	30	プロトタイプから完成への変化も含めて、番組の完成度を評価する。
	最終レポート	30	番組制作過程を通して経験したことを、理論と関係づけて自分の言葉で表現できているかを評価する。
教科書:	授業中に資料を配布する。		
参考書:	授業中に適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	基本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。		

授業テーマ:

演劇ワークショップとその効果について

授業の概要:

演劇ワークショップを受講し、「役を演じること」や「芝居を作る過程」を体験してみよう。
そこには、一般の学校教育では得にくい重要な能力の獲得や、適性の向上が潜んでいることを発見しよう。

到達目標:

決断力・観察力・表現力などの獲得。
協調性・論理性・感受性などの向上。

授業方法:

集中講義(3日連続)。服装は簡単な運動のできるもの(スカート不可)。
足下は素足・ジャズシューズ・バレエシューズ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 呼吸法・発声・滑舌の基礎について。	
	2. ゲーム・即興・1分間トークを体験する。	
	3. 台詞の術・動きの術について。	
	4. 作品研究① 台本の読み合わせ。	
	5. 作品研究② 班分け・配役をする。	1日目終了。 明日に向けて、自分の役の台詞を憶えておく。
	6. 作品研究③ 小返し稽古とダメ出しと手直し。	
	7. 作品研究④ 小返し稽古とダメ出しと手直し。	
	8. 作品研究⑤ 小返し稽古とダメ出しと手直し。	
	9. 作品研究⑥ 小返し稽古とダメ出しと手直し。	
	10. 作品研究⑦ 通し稽古とダメ出しと手直し。	2日目終了。 明日に向けて、自分の役の台詞をしっかりと憶えておく。
	11. 作品研究⑧ 通し稽古とダメ出しと手直し。	
	12. 作品研究⑨ 通し稽古とダメ出しと手直し。	
	13. 作品研究⑩ 通し稽古とダメ出しと手直し。	
	14. 作品研究⑪ 通し稽古とダメ出しと手直し。	
	15. 研究作品の発表会 互いの班でダメを出し合う。	3日目終了。
受講者へのメッセージやアドバイス:	元気に声を出し、体を動かしてみよう！ きっと皆さんにとって様々な発見がありますよ。	
フィードバックの方法:	コメントペーパー(授業の終わりに書く) ダメ出しシート(発表会後に書く)	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50	欠席が1日以上は不可とする。 体験したことから何を思ったか、どう感じたかを明確化できているかどうかを評価する。
	レポート	25	
	発表会での取り組み	25	自分の役割を理解した上で、どれほど積極的に取り組んでいるかどうかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

kiichirou8330@yohoo.co.jp

授業テーマ:

デジタルビデオ(ショートムービー)の制作

授業の概要:

授業では、コンピュータとビデオを使ってさまざまな映像制作とその発表会(ショート・ムービー・コレクション)を行う。iMovieというデジタル編集ソフトを使って、様々なショート・ムービーを協同で制作する。授業では、映像制作だけでなく、その発表の場であるコレクションのデザインも行う。映像編集のセンスを身につけることはもちろんであるが、「デザインを通して学ぶ」「コミュニティの中で学ぶ」ということのすばらしさを体験することが授業の目的である。コンピュータによる編集技術は前もって必要ないが、新しいテクノロジーに挑戦したいという気持ちが必要。

到達目標:

(1) iPadを使ってビデオ素材を撮り、それをiMovieで編集することができる。
(2) グループで番組のショートムービーを制作することができる。
(3) 「デザインを通して学ぶ」「コミュニティの中で学ぶ」ということの教育的意義について語ることができる。

授業方法:

授業は、コンピュータを使った映像編集の方法を学びながら、レクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。個人の作業と協同作業を通した作品づくりを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	編集とメタ認知	授業後、ショートムービーの制作に必要な認知的スキルについて整理し、ノートに書き出しておく。
2.	デジタル技術とノン・リニア編集 (iMovieを使って)	iPadを使つてのビデオ撮影の方法とiMovieの編集方法を練習する。 どんな逆転ムービーをつくらうかを考えておく。
3.	逆転ムービーの制作1 4名で1グループを編成し、逆転ムービーの動きを練習し、それをiPadで撮りながら動きを修正する。	逆転ムービーの動きを撮ったビデオを視聴して、編集案を考えておく。
4.	逆転ムービーの制作2 逆転素材の編集	逆転ムービーを完成させる。
5.	逆転ムービー発表会	他のグループの作品から触発された刺激をもとに、自分たちの逆転ムービーの改定案を考える。
6.	逆転ムービーの改定	改定した逆転ムービーを完成させる。
7.	改定した逆転ムービー発表会	2人でペアをつくり、お互いをインタビューする企画を考える。
8.	インタビュービデオ制作の企画	インタビューのリハーサルをしておく。
9.	インタビュービデオの撮影	ビデオをよく視聴して、編集案と、どんなテロップが必要かを考えておく。
10.	インタビュービデオの編集とテロップの作成	編集したインタビュービデオを視聴しておく。
11.	インタビュービデオの完成	発表会后、コメントをもとにリフレクションペーパーを書く。
12.	インタビュービデオ発表会1	発表会后、コメントをもとにリフレクションペーパーを書く。
13.	インタビュービデオ発表会2	今回の2つのプロジェクトを振り返りながら、気づいたことをまとめておく。
14.	逆転ムービーとインタビュームービーの制作過程のリフレクション	「デザインを通して学ぶ」「コミュニティの中で学ぶ」という意味を整理しておく。最終レポートを作成する。
15.	まとめ: ショートムービーづくりを通しての学び	

受講者へのメッセージやアドバイス:

番組づくりはとても楽しい作業なので、ぜひ参加してみてください。グループ作業が中心になりますが、コラボレーションの楽しさを経験することができます。ものをつくることの達成感を味わうこともできるので、みなさんの挑戦を期待しています。

フィードバックの方法:

ショートムービーのプロトタイプ of 発表会でのコメントを集約して、各グループに改定のポイントをアドバイスする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ムービー制作への貢献度	30	逆転ムービー、インタビュームービーの制作過程全体を評価する。どんな改善を繰り返して完成したか、その変化を評価する。
	プレゼンテーション	10	ショートムービーの魅力をどうプレゼンテーションしたかを評価する。
	ショートムービー作品	30	プロトタイプから完成への変化も含めて、番組の完成度を評価する。
	最終レポート	30	ショートムービーの制作過程で経験したことを、理論と関係づけて自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:

授業中に資料を配布する。

参考書:

授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

基本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

460200

教職演習

今井 敏博、大黒 孝文

授業テーマ:

理数教科の指導力をつける

授業の概要:

小学校教員を目指す教員志望大学生に必要な資質能力の一つに教科指導力がある。この教科指導力の中でも、特に教師の指導力不足や指導に対する自信がないとされている教科が理数教科である。本講座では、その理数教科である算数と理科の学習内容と指導法に着目し、小学校で算数と理科を教える自信と学習理解を伸張することをねらいとしている。

到達目標:

・教師としての算数科の学習内容理解と指導力を高める。

・教師としての理科の学習内容理解と指導力を高める。

・算数科・理科に対する関心と学ぶ意欲を高める。

授業方法:

1:講義, 2:演習, 5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション 算数・数学演習1	算数科の学習内容に関する自らの課題を明確にする
2. 理科演習1	理科の学習内容に関する自らの課題を明確にする
3. 算数・数学演習2	算数・数学演習1の類似問題の演習
4. 理科演習2	理科演習1の内容の類似問題の演習
5. 算数・数学演習3	算数・数学演習2の内容の類似問題の演習
6. 理科演習3	理科演習2の内容の類似問題の演習
7. 算数・数学演習4	算数・数学演習3の内容の類似問題の演習
8. 理科演習4	理科演習3の内容の類似問題の演習
9. 算数・数学演習5	算数・数学演習4の内容の類似問題の演習
10. 理科演習5	理科演習4の内容の類似問題の演習
11. 算数・数学演習6	算数・数学演習5の内容の類似問題の演習
12. 理科演習6	理科演習5の内容の類似問題の演習
13. 算数・数学演習7	算数・数学演習6の内容の類似問題の演習
14. 理科演習7	理科演習6の内容の類似問題の演習
15. 総括	全体のふり返り

受講者へのメッセージやアドバイス:

小学校算数・理科の学習内容に関心を持ち、学習内容に関して苦手な分野の学び直しを行います。そして、理解をより深めるために類似問題による演習を行います。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
算数と数学のテスト	40	到達目標の算数と数学に関する学習内容理解と思考力を客観的に評価する。
理科のテスト	40	到達目標の理科に関する学習内容理解と思考力を客観的に評価する。
授業への参加度	20	到達目標の関心と意欲の高まりを自己評価と他者評価を統合して評価する。

教科書:

プリント配布

参考書:

授業の中で紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に対応, オフィスアワー, Eメール等

授業テーマ:

指導者として、小学校・幼稚園で行われている外国語指導のねらいを深く理解し、英語指導者としての指導力(テクニック)の向上をめざす。

授業の概要:

様々な指導方法及び内容を理解し、実際に体験しながら、指導力の更なる向上を図る。

到達目標:

英語指導者としての高度な実践的指導力を身に付けた自立した指導者になるとともに、英語指導の達人をめざす。

授業方法:

各種の指導方法の在り方を理解しながら、実際に指導を体験する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	子どもに対する英語指導の効果についてイメージする。
2.	小学校外国語(外国語活動)の歌の指導と在り方	英語の様々な歌について調べる。
3.	小学校外国語(外国語活動)のチャンツの指導の在り方	リズムで、英語を読む。
4.	小学校外国語(外国語活動)のコミュニケーション活動の在り方	ゲームやアクティビティーを創作する。
5.	小学校外国語(外国語活動)の文字導入の在り方	アルファベットの効果的な指導方法を考える。
6.	小学校外国語(外国語活動)の教材・教具の在り方	効率の良い教材・教具を作成する。
7.	クラスルーム・イングリッシュの基礎基本	教室英語を調べる。
8.	電子黒板(ICT)の在り方と実践	アナログとデジタルの利点と欠点を考える。
9.	ショー・アンド・テル、紙芝居の在り方と実践	ショー・アンド・テルの原稿を作成する。
10.	英語劇の在り方と実践	読み聞かせの練習をする。
11.	小学校、中学校及び高等学校の連携の在り方	英語教育の効果的な連携の在り方をまとめる。
12.	小学校外国語(外国語活動)の授業案作成	模擬授業の指導案を作成する。
13.	小学校外国語(外国語活動)の模擬授業発表・討議(1)	模擬授業の指導案をもとに、ペアで授業の練習をする
14.	小学校外国語(外国語活動)の模擬授業発表・討議(2)	体験した模擬授業の課題、改善点をまとめる。
15.	総括	自立した指導者となっているか考え、課題を明確にする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

小学校外国語の指導者として、指導力の向上を図るには、実際に指導を体験してみることが大切です。これは、今後ますます社会的なニーズが広がり、教員として無くてはならない技能のなります。こども英語指導法とともに連続受講することで、指導者として完全に自立できると思います。

フィードバックの方法:

様々な指導方法を理解し、実践してみることで、課題や改善点を明確にし、テクニックを更に磨いてもらいます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート	30%	内容の適切さ
	模擬授業発表(TT)	30%	指導の適切さ、声の大きさ、企画力等
	教材・教具作成	30%	効果、企画力、創作力
	授業への取り組み	10%	積極性、、実践力、出席率

教科書:

参考書:

文部科学省、『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』、東洋館出版社

菅正隆 他、『外国語活動評価づくり完全ガイドブック』、明治図書出版

菅正隆 他、『“Hi, friends!”指導案&評価づくりパーフェクトガイド』、明治図書出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

kan.masataka@osaka-shoin.ac.jp

授業テーマ:	小学校における教育実践力を養成する。		
授業の概要:	京都府教育委員会との連携により、小学校現場に入って、学校における教育活動の諸相を学ぶ。とりわけ、教育実践力を高めることをねらいとしている。そのために、研究課題を決めて、学校での教育活動を観察したり実践したりして、実践的課題を明らかにしていく。		
到達目標:	①教育に対する使命感や倫理観を持ち、児童の成長や安全、健康を第一に考えて、目的や状況に応じた適切な言動をとろうとしている。 ②児童の発達や心身の状況を理解して児童との間に信頼関係を築こうとし、学級集団を把握して適切な指導を行おうとしている。 ③学習指導の基本的事項(教科等の知識や技能)を理解するとともに、学習指導案の作成や授業の進め方などの基本的な方法を身に付けようとしている。 ④自分の研究テーマについて、その課題解明に向けて、実践や文献などから学び続けようとする姿勢を持っている。		
授業方法:	学校現場における実践的な演習を中心とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 大学におけるオリエンテーションと事前指導	事前指導の内容から、小学校での実践への心構えをつくる。	
	2. 小学校におけるオリエンテーション	小学校現場に行く時の注意事項を再確認する。	
	3. 小学校現場における教育活動の観察(1)	観察した実習内容を実習簿に記録する。	
	4. 小学校現場における教育活動の観察(2)	観察した実習内容を実習簿に記録する。	
	5. 実践的な研究課題設定	実習校や大学の教員にも相談しながら、研究課題を考える。	
	6. 小学校現場における教育実践(1)	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録する。	
	7. 小学校現場における教育実践(2)	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録するとともに、中間報告会に向けて、実習校や大学の教員にも相談しながら、研究課題をまとめていく。	
	8. 研究課題に関する中間報告会	指摘された事項に基づいて、自分の研究課題と方法・内容を修整する。	
	9. 小学校現場における教育実践(3)	修整された研究課題(以下、研究課題)に即して、実習内容を実習簿に記録する。	
	10. 小学校現場における教育実践(4)	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録する。	
	11. 小学校現場における教育実践(5)	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録する。	
	12. 小学校現場における教育実践(6)	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録する。	
	13. 小学校現場における教育実践(7)	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録する。	
	14. 大学における事後指導	事後指導を承けて、実習校や大学の教員にも相談しながら、最終報告会に向けて研究課題をまとめていく。	
	15. 研究課題に関する最終報告会	指摘された事項に基づいて、自分の研究課題と方法・内容を省察する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	実際の学校現場に入って児童の指導にあたりますので、小学校および大学の先生との報告・連絡・相談を密に行うようにしましょう。		
フィードバックの方法:	研究課題の設定、中間報告会、最終報告会の機会に、個別または集団で、コメントする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実践現場における評価	50%	到達目標①②③に関する知識や理解度により評価する。
	事前事後指導および報告会の出席と発表	20%	出席して積極的に発言する態度により評価する。
	研究課題のレポート	30%	到達目標④に関する探究結果の論理性と内容の説得性を基準とする。
教科書:	無し		
参考書:	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編 平成20年8月(平成27年3月付録追加)』東洋館出版、2016年 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編 平成20年8月(平成27年3月付録追加)』東洋館出版、2016年 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』東洋館出版、2008年 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編 平成20年8月(平成27年3月付録追加)』東洋館出版、2015年 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編 平成20年8月(平成27年3月付録追加)』東洋館出版、2015年 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編 平成20年8月』東洋館出版、2008年 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編 平成20年8月』大日本図書、2008年 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編 平成20年8月』教育芸術社、2008年 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編 平成20年8月』日本文教出版、2008年 10. 文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編 平成20年8月』東洋館出版、2015年 11. 文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版、2008年 12. 文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編 平成20年8月』日本文教出版、2008年 13. 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版、2008年 14. 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版、2008年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、思いやる力、自己管理能力		

教員との連絡
方法:

Eメール、オフィスアワー

授業テーマ:

国際教育カリキュラム実施校におけるこども支援・外国語活動補助体験

授業の概要:

同志社国際学院初等部において、国際教育カリキュラム実施におけるこども支援・外国語活動(英語教育)補助に携わることにより、現代こども学科での学びを生かし国際教育カリキュラム(主としてインタナショナル・バカロレア:IB)への理解を深め、そこで学ぶこどもの理解と英語活用能力の向上を図り、教員として学校運営に参加するための資質と姿勢を身につける

到達目標:

知識理解目標:総合的な学習の時間における国際理解教育の学習内容に関する知識、インタナショナル・バカロレア:IBをベースとした探究活動に関する知識を獲得する
技能:国際教育のカリキュラム実施校におけるこども支援・外国語活動(英語教育)に関するスキル、コミュニケーション能力を獲得する
関心・意欲・態度:現代こども学科での学びを生かしたこども理解と教員として学校運営に参加するための資質と姿勢を獲得する

授業方法:

実地実習:国際教育カリキュラム実施校におけるこども支援、外国語活動(英語教育)補助に関する体験活動、事前事後指導:リフレクションとしての話し合い、学びの獲得についてのワークショップ、報告会での発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 事前指導1 オリエンテーション(6月を予定)	特になし
	2. 事前指導2 事前打ち合わせ(10月を予定)。 学科教員、参加学生、国際学院初等部教員	同志社国際学院初等部のカリキュラム(学校要覧の熟読)
	3. 事前指導3 国際教育カリキュラム、IBについての講義)	同志社国際学院初等部のカリキュラム(学校要覧)の熟読、 国際理解教育及びIBについての文献の熟読
	4. 事前指導4 実習校(同志社国際学院初等部)訪問	同志社国際学院初等部のカリキュラム(学校要覧)の熟読、 国際理解教育及びIBについての文献の熟読
	5. 体験実習1(終日) 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動(英語活動)補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム(学校要覧)の熟読、 国際理解教育及びIBについての文献の熟読
	6. 体験実習2(終日) 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動(英語活動)補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム(学校要覧)の熟読、 国際理解教育及びIBについての文献の熟読
	7. 体験実習3(終日) 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動(英語活動)補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム(学校要覧)の熟読、 国際理解教育及びIBについての文献の熟読
	8. 体験実習4(終日) 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動(英語活動)補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム(学校要覧)の熟読、 国際理解教育及びIBについての文献の熟読
	9. 体験実習5(終日) 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動(英語活動)補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム(学校要覧)の熟読、 国際理解教育及びIBについての文献の熟読
	10. 体験実習6(終日) 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動(英語活動)補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム(学校要覧)の熟読、 国際理解教育及びIBについての文献の熟読
	11. 体験実習7(終日) 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動(英語活動)補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム(学校要覧)の熟読、 国際理解教育及びIBについての文献の熟読
	12. 事後指導1 中間報告会	体験実習で得た資料、実習簿などの点検
	13. 事後指導2 振り返り	体験実習で得た資料、実習簿などの点検
	14. 事後指導3 最終報告会のための発表準備	体験実習で得た資料、実習簿などの点検
	15. 事後指導4 最終報告会	発表原稿(パワーポイント、レポート)

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前事後指導、体験実習を含め、実習校(同志社国際学院初等部)の教員、児童と関わることになります。教員としての自覚と責任を持つてのぞんでください。

フィードバックの方法:

体験実習期間における実習校訪問による指導助言、中間及び最終報告会における指導助言、実習簿の点検など

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	事前、事後活動への参加度	20	積極的に取り組んでいるか
	体験実習への参加度	30	積極的に取り組んでいるか
	中間及び最終報告会での発表	30	授業目標が達成できているか
	実習簿の記述内容	20	授業目標が達成できているか

教科書:

特になし

参考書:

日本国際理解教育学会編(2015)『国際理解教育ハンドブック』明石書店
日本国際理解教育学会編(2010)『グローバル時代の国際理解教育』明石書店
授業の過程で必要あるときは紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

e-mail、面談など

授業テーマ:	子ども産業における業務体験と遊びの環境開発		
授業の概要:	本インターンシップでは、子ども関連企業の企画開発部担当者の指導を受けながら、子どもの遊びに関する環境づくりと普及事業に参加し、環境創造の課題を得て、受講者自身も開発プロジェクトに取り組む。現場における実習経験を通してこれまでの現代子ども学科での理論的学びをさらに具体的・実践的に広げるとともに、就業体験を通して社会人、企業人として社会参加するための資質と姿勢を育成することを目指す。		
到達目標:	(1)子どもの遊びと遊び環境開発に関する基本的な視点と方法について理解する。 (2)企業が行っている子どもの遊び環境開発と遊び場運営の実際に積極的に触れ、その方法と課題、および可能性について学ぶとともに、自らも創造的イメージを持って取り組む。 (3)既成概念にとらわれず、新たな見方や考え方で課題プロジェクトに受講者同士で協力して取り組み、成果を発信することができる。		
授業方法:	現場での実践的な演習を中心とするが、それに加えて学内でのオリエンテーション、プロジェクト課題に関する調査学習、グループワークを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 大学におけるオリエンテーションと事前指導	選考時の課題レポートを読み返し、自身の実習計画の見通しを持つ。	
	2. 子ども関連企業の企画開発担当者によるガイダンスと実習課題の提示	企画開発部の担当者に対する自己紹介の内容と方法を考えておく。また自分が考える「子どもにとっての遊び環境の意味」を語れる準備をしておく。	
	3. 実習課題に対する調査学習とグループ・ディスカッション(学内)	第2時に提示された実習課題について、関連する図書や資料を検索し、レジュメをつくる。また、仲間と議論すべき内容を整理しておく。	
	4. 子ども関連施設への訪問調査・観察実習(1)京都市内(予定)	訪問する施設について予習をしておくとともに、実習課題に即した観察調査の計画を具体化しておく。	
	5. 子ども関連施設への訪問調査・観察実習(2)大阪市内(予定)	課題をもとに、これまでとは異なるフィールドでの調査・観察に向けた視点を明確にし、前回の実習と比較できるように準備しておく。	
	6. 子ども関連施設への訪問調査・観察実習(3)大阪市内(予定)	第5時に行った調査・観察をふり取り、第6時に行うべきことを明確にしておく。	
	7. 子ども関連施設への訪問調査・観察実習(4)神奈川県(予定)★合宿研修1日目	2泊3日の合宿研修において調査・観察すべきことの準備を整えておく。調査・観察に必要な道具や資料を完成させておく。	
	8. 子ども関連施設への訪問調査・観察実習(5)神奈川県(予定)とプロジェクト課題の決定★合宿研修2日目	第7時の調査・観察で明らかになったことを整理し、改善点をリフレクションする。第8時に決定予定のプロジェクト課題について、自分なりの考えをつくっておく。	
	9. 子ども関連施設への訪問調査・観察実習(6)神奈川県(予定)★合宿研修3日目	第7・8時に行った調査・観察をふり取り、決定したプロジェクト課題に基づいて第7時に行うべきことを明確にしておく。	
	10. 課題プロジェクトの進め方の確認とグループ・ワーク(学内)	合宿研修での成果と課題をレジュメにまとめ、課題プロジェクトに関する調査研究の見通しを持つ。	
	11. 課題プロジェクトに関するグループ・ワーク	これまでの調査・観察における成果と課題を整理し、グループディスカッションでさらに質の高いものにするための準備をしておく。	
	12. 課題プロジェクトのプレゼンテーション中間報告会(学内)	中間報告会の内容を精査して、聴き手の印象に残り、かつ報告内容の特徴にふさわしい方法でプレゼンテーションできるようにしておく。	
	13. グループ・ディスカッションとプレゼンテーションの準備と(学内)	前回の中間報告会での成果と課題を踏まえ、企業の本社でのプレゼンテーションに必要な材料や資料を準備しておく。	
	14. 課題プロジェクトのプレゼンテーション(企業の本社にて)	前回のプレゼンテーションリハーサルでの質疑応答の結果を受けて、規定の時間内に効果的にプレゼンテーションを行う準備をする。	
	15. 最終報告会(学内)	企業の本社でのプレゼンの成果と課題を踏まえ、インターンシップでの学びの総括として内容、方法双方に工夫のある報告ができるように準備し、リハーサルを行っておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	実際に企業の企画開発に参加して課題プロジェクトを行いますので、一人ひとりの責任ある行動が求められるとともに、受講者間はもちろん、企業の担当者、大学教員との報告・連絡・相談を密に行うことが必要です。		
フィードバックの方法:	(1)毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、その場で、もしくは次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行い、対応する。 (2)授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	事前・事後指導を含めた出席と毎回の感想カード	10	毎回の授業の課題やテーマに即したリフレクションが行われているかどうか
	プロジェクト課題の成果物と報告会でのプレゼンテーション	30	グループにおける自分の役割を明確に果たし、立てた課題に対して論理的かつ説得力のある成果が個性的に表現されているか
	調査・実習現場における評価	50	到達目標に基づいて総合的に評価する
	研究課題に関する個人レポート	10	課題プロジェクトにおける自身の変化を具体的にとらえ、記述することができているか
教科書:	特定の図書などは使用しないが、授業や実習先で配布される資料類をファイリングし、テキストとして使えるようにしておく。		
参考書:	野村寿子(1999)『遊びを育てる』協同医書出版社 松本英博(2009)『ヒット商品を生み出すネタ出し練習帳』翔泳社 ビジャイ・ゴビンダラジャン他 吉田利子訳(2012)『イノベーションを実行する―挑戦的アイデアを実現するマネジメント』エヌティティ出版		

アレックス・オスターワルダー他 関美和訳(2015)『バリュー・プロポジション・デザイン』翔泳社
笠間浩幸(2001)『〈砂場〉と子ども』東洋館出版社
仙田満(1992)『子どもとあそび—環境建築家の眼』岩波新書
仙田満(2016)『人が集まる建築 環境×デザイン×こどもの研究』講談社現代新書
石川祝男(2016)『大ヒット連発のバンダイナムコが大切にしているたった1つの考え方』サンマーク出版
その他、授業の中で随時紹介、指示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

授業内容に関する質問やその他、実習先への連絡が必要な場合は、授業担当者(吉永)に授業前後やオフィスアワーなどで直接、連絡・報告・相談をする。また、連絡先のメールアドレスは第1回のガイダンスで知らせるほか、マナビーも有効に活用する。

授業テーマ:	保育所における絵本製作体験		
授業の概要:	本インターンシップでは、松井ヶ丘保育園が実施する絵本製作プロジェクトに参加し、子どものための文化創造の意義と重要性、その具体的な方法を修得することを目的とする。継続的な保育の実習活動を通して、乳幼児期の子どもの発達に応じた興味関心を知り、保育士と園児の関係構築のプロセスを学び、発達に適した絵本環境のあり方について学びを深める。この体験を通して、社会人、企業人、保育者として社会参加するための資質と姿勢を育成することを目指す。		
到達目標:	(1)乳幼児期の子どもの発達に応じた興味関心と、絵本の持つ保育的価値と役割について理解する。 (2)子ども理解および絵本づくりの基本的な技術に基づいて、既成概念にとらわれない新たな発想で絵本の製作に協同して取り組む。 (3)製作した絵本の読み聞かせを行いながら、より子どもたちにふさわしい絵本の完成を目指すとともに、子どもの文化を創造することの意義を自らの言葉で語ることができる。		
授業方法:	保育現場での実践的な演習を中心とするが、それに加えて学内でのオリエンテーション、絵本製作に必要な知識や技術に関して調査学習やグループワークを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 大学におけるオリエンテーションと事前指導(学内)	選考時の課題レポートを読み返し、自身の実習計画の見通しを持つ。	
	2. 松井ヶ丘保育園の担当者によるガイダンスと実習の打合せ(保育所にて)	松井ヶ丘保育園の担当者に対する自己紹介の内容と方法を考えておく。また自分が考える「子どもにとっての絵本の意味」を語れる準備をしておく。	
	3. 過去に製作された絵本の分析と実習課題の確認(学内)	これまでに製作され、お借りした絵本すべてを読んで、自分なりの感想や意見をまとめておく。	
	4. 保育観察・保育指導援助実習(1)	第3時に確認した仮の実習課題を視点として保育観察ならびに保育指導援助ができる準備を整えておく。また、実習後は受講者相互でリフレクションを行う。	
	5. 保育観察・保育指導援助実習(2)	第4時の実習での成果と課題を踏まえ、第5時に行うべきことを整理しておく。また、実習後は受講者相互でリフレクションを行う。	
	6. 保育観察・保育指導援助実習(3)と絵本製作のコンセプトの検討	第5時の実習での成果と課題を踏まえ、第6時に行うべきことを確かめておく。また、これまでの実習をふり返り、絵本製作のコンセプトのアイデアを練っておく。	
	7. 絵本製作(1)	これまでの実習をふり返り、テーマ設定と素材選びの準備をしておく。	
	8. 絵本製作(2)	第7時の内容を踏まえ、絵本の構成についてのアイデアを練っておく。	
	9. 絵本製作(3)	第8時の内容をもとに、絵本の原画と文章を分担して進められるように準備しておく。	
	10. 絵本製作(4)	第9時に引き続き、分担した自分の役割を果たすために必要な資料や材料を準備しておく。	
	11. 製作した絵本の中間報告会(保育所にて)	製作した絵本について趣旨や意図を説明する準備を行うとともに、絵本の読み聞かせに向けた練習を行っておく。	
	12. 絵本の改良と読み聞かせのリハーサルを主としたグループ・ワーク(1)(学内)	中間報告会で受けた指摘や意見をもとに絵本の改良に必要な準備をしておく。	
	13. 絵本の改良と読み聞かせのリハーサルを主としたグループ・ワーク(2)(学内)	第12時に引き続き、絵本の改良に向けた準備を行うとともに、読み聞かせのリハーサルを行っておく。	
	14. 完成した絵本を用いた保育所での実習と、松井ヶ丘保育園実習担当者・保育士とのリフレクション(保育所にて)	完成した絵本を用いて行う実習の指導案を仕上げ、必要な道具を準備し、当日の状況に応じた対応ができるようにしておく。	
	15. 最終報告会(学内)	完成した絵本を用いた保育実習をリフレクションしたうえで、インターンシップでの学びの総括として内容、方法双方に工夫のある報告ができるようリハーサルをしておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	保育士と協同して、実際に保育に用いる絵本を製作するプロジェクトを行いますので、一人ひとりの責任ある行動が求められるとともに、受講者間はもちろん、保育所の担当者、保育士、大学教員との報告・連絡・相談を密に行うことが必要となります。		
フィードバックの方法:	(1)毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、その場で、もしくは次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行い、対応する。 (2)授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	事前・事後指導を含めた出席と毎回の感想カード	10	毎回の授業の課題やテーマに即したリフレクションが行われているかどうか
	製作した絵本と、報告会でのプレゼンテーション	30	グループにおける自分の役割を明確に果たし、設定したコンセプトに基づく絵本が内容的にも形式的にも水準を満たしているか。またプレゼンテーションが文脈や目的に応じて行われているか。
	保育実習の現場における評価	50	到達目標に基づいて総合的に評価する
	研究課題に関する個人レポート	10	絵本づくりプロジェクトにおける自身の変化を具体的にとらえ、記述することができているか
教科書:	特定の図書などは使用しないが、授業や実習先で配布される資料類をファイリングし、テキストとして使えるようにしておく。		
参考書:	赤羽末吉(1983)『私の絵本ろん』偕成社 谷本誠剛・灰島かり(2006)『絵本をひらく』人文書院 五味太郎(2005)『絵本を作る』ブロンズ新社 つるみゆき(2013)『絵本つくりかた』技術評論社 秋田喜代美・増田時枝(2009)『絵本で子育て—子どもの育ちを見つめる心理学』岩崎書店 松岡亨子(1987)『えほんのせかい こどものせかい』日本エディタースクール出版部 藤本朝巳(2015)『子どもと絵本—絵本のしくみと楽しみ方』人文書院		

脇朋子(2011)『子どもの育ちを支える絵本』岩波書店
その他、授業の中で随時紹介、指示する。

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

授業内容に関する質問やその他、実習先への連絡が必要な場合は、授業担当者(吉永)に授業前後やオフィスアワーなどで直接、連絡・報告・相談をする。また、連絡先のメールアドレスは第1回のガイダンスで知らせるほか、マナビーも有効に活用する。

授業テーマ:

「子ども学」を学ぶということ
—想像的創造力と行動力を高める道筋のために: その2—

授業の概要:

基礎演習Ⅰの成果を踏まえ、「こども学」というテーマを深く追究するための技法活用技術を向上させていく。例えば、これまでの学問が「こどもたちをどのような存在だと見なしにしているのか?」、「用いられた技法では、こどもについての何が明らかにされ、何は明らかにされないのか」、「用いられた技法は妥当だろうか」など、複数の技法の習得をとおして、諸技法を相対化する力などを身につけ、各自の問題意識が鮮明になることを目指す。また、自分たちの学びの足跡を明確にし、保持するための「マイネ・カルテ」記録法を習得する。
この授業は基礎演習同様、次の点を重視します。1)「学生と学生」「学生と教員」など双方向・多方向の学び、2)参加・参画型のワークショップやディベート、ロールプレイなどの活用、3)身体表現やコミュニケーションをとまなう実践的技法。
クラスにより水先案内人となる教員は異なるが、目的は共通している。

到達目標:

(1)こども学の複数の学び方や技法を習得する。
(2)マイネカルテの意義を理解し、記録法を身につける
(3)参画型ワークショップ、ロールプレイなど多様な学び方を理解し身につけようとする。
(4)こども学演習同様に、研究・調査・研究倫理の基礎を学び、身に付けていく。

授業方法:

全員参加の演習。毎回必ずレジュメやレポート提出等を課し、それらに基づいてワークショップ・報告・議論する習慣を身につける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 担当教員による演習の運営方法に関するオリエンテーション	各自が春学期とは異なる自己紹介の内容・方法を考えて初回授業に臨むこと。
2. マイネ・カルテとは	春学期に各自が受講した授業・演習のテキストやノートを持ち、各内容のエッセンスを振り返り、授業に臨む。
3. マイネ・カルテをつくる	第2回授業時の学びをもとに、1～2種のマイネ・カルテを自ら作成してくる。
4. マイネ・カルテを素材とした発表と意見交換	春学期の授業内容すべてをマイネカルテとして作成して授業にのぞむ。
5. 大学生活とキャリア・デザイン(1) —複数のキャリアを知ろう・学ぼう—	同志社女子大学卒業後の道筋について、自分の希望も含めどのようなさまざまな道筋があるか、できるだけ多くの道筋をノートに書き出してくる。
6. 大学生活とキャリア・デザイン(2) —キャリアに必要な資格等の検討—	各キャリアに資格は必要か否か、必要だとすると、どのような資格が必要なのか調べ、ノートに整理してのぞむ。
7. 大学生活とキャリア・デザイン(3) —ワークショップ等—	「私のキャリア・デザイン」を、レポート形式でまとめ持参する。
8. 読む力(1)	テキスト内の「学科推薦図書」の中から1冊を選び熟読する。その上で、自分の「お薦めポイント」を記録して、皆に配布出来るように印刷して授業に臨む。
9. 読む力(2)	第8回時に皆で紹介しあい、話し合った推薦図書のエッセンスをまとめ、ノート整理しておく。
10. 読む力(3)	「私の推薦図書」を複数見つけ、持参する。
11. 読書の意義と意味を考える	「私の推薦図書」について、1～2冊を選び、300字程度の推薦文を記し、人数分複写して授業に臨む。
12. ロールプレイ(1) —親を考える—	「読む力・読書」に関するレポートを作成し、授業前に提出する。
13. ロールプレイ(2) —幼い子どもを考える—	第1回目のロールプレイからの気づき、問題点、などをノートに整理しておく。
14. さまざまな学びの技法を振り返る(1)	ロールプレイがもたらす発見をノートに記述し、意見交換の素材として準備する。
15. こども学のさまざまな学び方—振り返りと意見交換—	今まで体験してきたワークショップ、ディベート、ロールプレイなど、様々な学び方の特徴、違い、意義、問題点や課題などを整理・記録して演習にのぞむ。

受講者へのメッセージやアドバイス:

大学での学びの作法を身につける大切な授業である。毎回きちんと出席し、4年間の大学生活を充実させること。

フィードバックの方法:

(1)総ての演習時に、全員からの質疑応答を確認し、その内容等は次回の授業に反映させる。
(2)必要に応じて、次回演習で補足説明を行う。あるいは補足資料を配布する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40%程度	卒業までのこども学の学び方習得を目指す演習であるため出席を重視する。授業時の参画のあり方を評価対象とする。
提出されたレジュメやレポートの内容	60%程度	提出物等を総合的に評価する。具体的な評価基準とその分配等は、各担当教員が授業時に指示する。

教科書:

『基礎演習マニュアル—学問の基礎技術2017年度—』(春学期の「基礎演習」時に配布したテキストをさらに活用)

参考書:

適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、何事にもリフレクションする力

教員との連絡方法:

初回授業時に、双方向の連絡方法・質疑応答対応の連絡方法等について、各教員が受講生に伝える。

授業テーマ:	「こども学」を専攻する学生にとって必要な「インフォメーション・リテラシー」を身につける。		
授業の概要:	授業ではコンピュータの基本操作からはじめて、電子メールの使い方、インターネットを使つての情報検索や文書検索の方法、レポート作成に必要な文書作成の基礎を学びます。コンピュータがはじめての人にもきめ細かに指導します。コンピュータがある程度使える人にとつても、同志社女子大学のネットワーク環境に親しみ、効果的な学びが出来るような授業デザインを考えています。		
到達目標:	1年生の基礎演習の授業では「しらべて」「まとめて」「つたえる」ことが学びの中心的活动になります。そのためには、情報検索、レジュメ作成、口頭発表、ディスカッションのための資料作成、フィールドワークや調査の結果を整理・分析し、レポートにまとめることが必要になってきます。「コンピュータ活用」ではこのような作業をサポートするコンピュータの基礎を学びます。		
授業方法:	情報処理教室で1人1台のパソコンを使い、実習形式で授業を行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス 文字入力	キーボード基本操作の確認	
	2. インターネット メール	インターネットとメールの基本操作の確認	
	3. Word(1)	Wordの基本操作	
	4. Word(2)	前回授業の復習	
	5. Word(3)	前回授業の復習	
	6. Word(4)	前回授業の復習	
	7. Excel(1)	Excelの基本操作	
	8. Excel(2)	前回授業の復習	
	9. Excel(3)	前回授業の復習	
	10. Excel(4)	前回授業の復習	
	11. Excel(5)	前回授業の復習	
	12. PowerPoint(1)	PowerPointの基本操作	
	13. PowerPoint(2)	前回授業の復習	
	14. PowerPoint(3)	前回授業の復習	
	15. PowerPoint(4)	前回授業の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	課題:教室でまとめて解説する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	タイピングテスト	10	到達目標に関する知識と理解度により評価する
	課題	20	
	小テスト	70	
教科書:	授業開始時に紹介します。		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

教職・保育職になる、教職・保育職であり続けるために何が必要か？

教育改革が叫ばれる中、常に教師というのは一つの争点で、近年の動向をみると、教師の「資質能力の向上」というキーワードはくり返し語られ、そのための諸制度の整備は急速に進められてきたが、学校現場で日々の実践に取り組む教師たちにとっては理不尽で正体不明の重圧としてのしかかるものばかりである。しかし、子どもと日々ともに学び、育とうとする教師たちの姿や語りは、これから教師を目指す私たちに力強いメッセージを届けてくれると同時に、私たち自身が子どもの育ちを支えるために学び続けることの重要性を認識させてくれる。今日、教師たちが直面する困難のありかを見つめ、その困難の中に希望をともに見出していくために求められる知見を、多彩な事例を手がかりに獲得していくことを本授業では目指す。

(1)教師が行う仕事の多様性について理解する。
(2)教師の仕事の特徴を、具体的な職務内容と関連づけて説明することができる。
(3)教師が現場で経験するさまざまな出来事や問題に関心を持ち、ケースとしてグループで議論・検討して問題に対処するために必要な資質能力を伸ばそうとする。

主として講義を行うが、その中でも個人やグループで考え、議論する活動は毎回行う。15回の中盤から後半にかけてケース・メソッドの教材づくりのグループワークを行う。
なお、教材づくりは授業内の時間では完成しないため、グループメンバーと協力、相談して授業外でのグループワークができるようにしておく必要がある。

授業内容

準備学習等の内容

本授業のシラバスを読んでくる

前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べてくる。

前の回に議論し、解説を聞いたことをもとに、指示された問いについて自分なりの考えを整理してくる。

前の回に配布された資料を読み、自分なりの考えを整理して準備しておく。

前の回にグループディスカッションした内容を見返し、わからなかったところを調べておく。

これまでに学んできた内容をもとに、自分が一番関心のあることについて整理しておく。関連するテーマについての図書を探して借りておく。

前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。

前の回に配布された資料を読み、提示された問いについて自分なりの考えをつくっておく。

前の回に配布された資料を読み、グラフやデータが意味していることを自分なりに考察しておく。

第6回以降、グループ内で分担して進めていた内容について整理し、話し合いに向けて資料を準備しておく。

前の回に配布された資料を読み、実践の映像を読み解くための視点をみつけておく。

前の回に視聴した映像についてメモしていたことを見返し、気になった点について自分なりの考えを整理しておく。

第10回以降、グループで制作してきた資料を完成させておく。

前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。

これまで学んできた資料やノートを見返し、教師という仕事についての見方や考え方についてどのように変化したかを整理しておく。

教師になりたい人も、迷っている人も、教師という仕事について、これまで児童生徒の側から見聞きして知っていたことだけが全てではないということを知れば、より一層、教師という仕事に対する関心が高まることでしょう。教師という仕事から見えてくる学校現場のいまを深く掘り下げていくことで、教師に求められることをより具体的に考えていくこともできます。教師という仕事に対する自分の先入観や固定観念をくつがえす楽しみを一緒に味わって学びましょう。

(1) 毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
(2) 授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

評価方法

割合

評価基準

毎回の授業への積極的参加とリフレクションの提出

25

授業内容や問われたことに対して関連づけたりリフレクションになっているかどうか

ケースメソッド集の作成、発表、提出

25

授業で学んだ内容を理解した上でそれらを個性的に統合して発表内容をつくらせているか

定期試験(論述)

50

知っておくべき基礎的な知識を相互に関連づけて理解し、それを自分なりの言葉で説明することができているか

文部科学省 教員の免許、採用、人事、研修等についての資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/01_h.htmより閲覧・ダウンロード可
授業内で適宜配布する資料類を教科書として使用するため、ファイリングしておく

グループ・ディダクティカ編(2012)『教師になること、教師であり続けること―困難の中の希望―』勁草書房
グループ・ディダクティカ編(2007)『学びのための教師論』勁草書房
秋田喜代美・佐藤学編(2006)『新しい時代の教職入門』有斐閣
石井順治・牛山栄世・前島正俊(1996)『教師が壁をこえるとき』岩波書店
山崎準二(2009)『教師という仕事・生き方(第2版)』日本標準
小柳和喜雄・久田敏彦・湯浅恭正編(2014)『新教師論』ミネルヴァ書房

赤井悟・柴本枝美(2014)『教師力を鍛えるケースメソッド123 学校現場で生じる事例とその対応』ミネルヴァ書房

赤木和重・岡村由紀子編(2013)『「気になる子」と言わない保育 こんなときどうする? 考え方と手立て』ひとなる書房

ラポム編集部(2003)『心の保育を考えるCase67』学習研究社

秋田喜代美(2011)『くらしの素顔』フレーベル館

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

第1回に配布する資料に教員の連絡先を配布するほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。
履修者全員とのやりとりや、グループ・受講者相互の連絡については必要に応じてマナビーを活用する。

授業テーマ:

授業の概要: 教職・保育職について具体的なイメージをつかみ、制度的な位置づけを知り、多角的に理解する。

到達目標: 1. 教職/保育職(幼稚園教諭、保育士、保育教諭)の法的位置づけを理解する。
2. 職務内容について知る。
3. 進路選択に資する。

授業方法: 講義と演習形式をとる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 教職・保育職をめざす目的意識を持つ。	テキストの目次、前書き部分を読んでおく。
2. 教育・保育制度内における教職・保育職の位置づけ	関連資料・テキストの該当部分を読んでおく。
3. 幼稚園教諭・保育士の日常業務について(1)	教職・保育職について自分なりのイメージをまとめておく。
4. 幼稚園教諭・保育士の日常業務について(2)	テキストの該当部分を読んでおく。
5. 「子どもの思いや育ちを理解する」ことについて	テキストの該当部分を読んでおく。
6. 「子どもと一緒に心と体を動かす」ことについて	テキストの該当部分を読んでおく。
7. 遊びの重要性	テキストの該当部分を読んでおく。
8. 遊びと学びの環境づくり	テキストの該当部分を読んでおく。
9. 豊かな文化や自然との出会いについて	テキストの該当部分を読んでおく。
10. 絵本環境について	テキストの該当部分を読んでおく。
11. 自然とのかかわりについて	テキストの該当部分を読んでおく。
12. 保護者支援、家庭との連携	テキストの該当部分を読んでおく。
13. 保育者の資質向上と同僚性について	テキストの該当部分を読んでおく。
14. 保育者の専門性について	テキストの該当部分を読んでおく。
15. まとめ	資料、テキストを通読しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 全体への解説。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参画	50%	積極的に発言したか。話し合いや共同の活動に自分なりの貢献をしたか。
定期試験	50%	設問に対する的確な回答・解答ができているか。

教科書: 汐見稔幸・大豆生田啓友『保育者論』 ミネルヴァ書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に対応。

授業テーマ:	学校教育における教育課程の理論的・実践的展開
授業の概要:	教育課程の基本的事項について理解を深め、教員として教育課程の編成、実施、評価、改善をになうことのできる力を身につけることのできる講義をめざす。具体的には、教育課程の基本的な考え方や仕組み、教育評価、教育課程の歴史の変遷、さらには、授業デザイン、カリキュラム・マネジメントを含めた教育課程の実践的な展開方法を学んでいく。
到達目標:	教育課程の基本的事項について理解を深め、教職としての基礎・基本を身につける。
授業方法:	基本的には講義形式。集団討議や意見発表も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 教育課程の意義と概念 2. 教育課程の法体系 3. 教育課程の歴史の変遷Ⅰ 4. 教育課程の歴史の変遷Ⅱ 5. 教育課程の歴史の変遷Ⅲ 6. 教育課程の思想と構造 7. 教育課程の編成 8. 教育課程と教育方法Ⅰ 9. 教育課程と教育方法Ⅱ 10. 教育課程と教育方法Ⅲ 11. 教育課程の評価 12. 教育課程と総合的な学習の時間 13. 教育課程と外国語活動 14. 教育課程実施上の配慮事項 15. まとめ	事前にシラバスを読んでおくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の法体系」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の歴史の変遷」資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の歴史の変遷」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の歴史の変遷」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の思想と構造」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の編成」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と教育方法」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と教育方法」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と教育方法」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の評価」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と総合的な学習の時間」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と外国語活動」の資料を熟読しておくこと。 事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程実施上の配慮事項」の資料を熟読しておくこと。 自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:	各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに、次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の予習をしておくこと。
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60%	到達目標、教育課程の基本的事項に関する理解度により評価する。課題への回答に適合した振り返りシートの提出により評価する。
	授業への参加意欲	40%	

教科書:	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』(東洋館出版社) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(東洋館出版社)

参考書:	文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』(東京書籍)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	こどもが輝く「安心と信頼」の学級・学校をつくりだすために大切なこと	
授業の概要:	児童理解と指導は、児童の人格の健全な発達を図るため、学校の教育活動全体を通じて行われる重要な機能である。 児童理解と指導の意義は、「問題行動」や「非行」等の対策という消極的な面にとどまるのではなく、すべての児童のより良い発達を目指し、一人ひとりの児童にとって充実した学校生活を作り出すためのものである。 1、「安心と信頼」の土台になる「こどもを好きになる」ための原則を知る。 2、「問題行動」をどう見るか。「こども観」「指導観」を深める。 3、キーワードは「つなぐ」こと。教育集団の力を理解する。 4、児童が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができる進路指導の理論と方法を学ぶ。 以上の4点を具体的な事例をもとに明らかにして、「こども観」を磨き、自分のめざす教師像をイメージ化する。 そのために、受講者が「学びあう仲間」として共に考え、語り合う時間を大切にする授業にしたい。	
到達目標:	1、学び合う仲間として、受講者が共に楽しみ、学びを深めることができる。 2、「問題行動」の背景や子どもと親の願いを理解しようとすることができる。 3、「児童理解と指導」の今日的な諸問題について関心をもって調べ、「子ども観」「指導観」を深めることができる。 4、「教育集団」の力について理解し、「つなぐ」ための教師の役割について考えることができる。 5、コメントカードやグループ討議を通して、多面的に問題をとらえ、集団的に問題の解決に取り組むことができる。 6、この授業のまとめとして、「手作り通信」をつくり、発表交流することができる。	
授業方法:	1、講義 ①講義の課題について事例や実践記録をもとに対話とグループ討論などを組み合わせて進める。 ②コメントカードなどをもとに手作りの講義通信を発行し、それを読み合って交流する。 ③講義の中で実践的なゲームなども取り入れ受講生の主体的な参加をめざす	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション「児童理解と指導の領域と機能」 キーワードは「つなぐ」こと。講義の概要、受講時の心得、講義通信の説明など	「教育に失敗は許されない」か？ 教職を目指す上での希望、不安や問題意識はどんなものか。最近の子どもと教育に関するニュースや関心のある社会問題は何か。自身を振り返ったり、情報を集めましょう。
	2. 「指導とは」 「つなぐ」か「切り裂く」か・・・生徒指導の土台となる「信頼関係」をどうつくるか。 児童・保護者との信頼関係をつくる。家庭訪問と学級懇談、学級通信・・・	「なめられたら終わり」か？ 児童や保護者と信頼関係を築く上で大切なものは何か。先生の「権威とは何か」これまでの体験や知識を元に考えよう。
	3. 学習が学級づくりの基本 「つながる」学習を。	「勉強嫌い」「面白くないし、やる気ない」という声にどう答えるか。 学校生活の大半は授業時間。今求められている「アクティブラーニング」とはどんなものか。子どもの瞳の輝く授業学習をどう作るか。「面白い授業体験」をもとに考えてみましょう。
	4. 「荒れ」なんて言わないで 「指導を受け容れる力」。(「問題行動」の陰には、発達課題や家庭の問題等の「教育課題」が)	「荒れも学級崩壊もない」？ 子どもの「問題行動」や「荒れ」と言われるものの実態や「学級崩壊」について調べたり、自身の体験を思い出して考えてみましょう。
	5. こどもを信じる」とは？ (1)トラブルを成長の糧に。「危機」を「好機」に。 「指導」を考える	「指導」とは何か？ 子どもを先生の思い通りに動かすことが指導ではない。「問題」が起きた時にどう対処すれば、ピンチがチャンスに変わるのか。優れた教育実践や自身の体験をもとに考えてみましょう。
	6. 「こどもを信じる」とは？ (2) 迷惑をかけなければ「やさしく」なれない。 (生活課題「虐待」家庭内暴力)	大事なものは「* * *を愛する心」* * *に入るのは「自分」「他者」どちらだと思う？ それはどうしてか。「少年事件」と「自尊感情」について調べてみよう。「迷惑」をかけた・かけられた経験も振り返って考えてみましょう。
	7. 「子どもを信じる」とは？ (3) 支えてくれるもの。「みんなひび割れ壺」。特別支援教育と生徒指導。	「生きる価値がない」と障碍をもった人を殺傷する事件があった。 こうした事件や考え方(「社会ダーウィニズム」)について調べよう。発達障がいや特別支援教育と生徒指導の関連について学んだことや体験をもとに考えてみましょう。
	8. 「こどもを信じる」とは？ (4)「いじめ」克服のすじみち。9. 10歳の発達の節目と「思春期」における「けんか、なかまはずし、・・・	「いじめゼロ」は可能か？「いじめは許せない」か？ 「いじめ事件」報道などからいじめの実態と原因について調べ、克服の道を調べよう。「いじめ指導」で一番大事なことは何か、やってはいけないことは何か、を考えよう。「いじめと自殺」の問題を「ウエルテル効果」やWHOの「自殺を予防する自殺事例報道のありかた」などについて調べて考えてみましょう。
	9. キーワードは「つなぐ」こと。特別活動を通して。 (1)「取り組みなしに発達はない」文化活動がこども力を育む。	「反省* * *と悪くなる」* * *の中に入るのは「させる」「しない」？ 子どもが「変わる」ために大切なものは何か。金森利朗や制野俊弘の実践を調べて学びましょう。
	10. キーワードは「つなぐ」こと。(課題レポート「手作り通信」発行のための技術習得。)	「手作り通信のテーマ」を何にするか考えよう。 「登校拒否」の実態と事例を調べよう。その克服と援助の取り組みについて事例をもとに考えてみましょう。
	11. キーワードは「つなぐ」こと (3)「学習権」と「進路指導」	「勉強は塾でするから、学校に来る意味がわからない。」と児童に言われたらどう答える？ 「ユネスコ学習権宣言」や「国際人権規約」「子どもの権利条約」「日本国憲法」「教育基本法」「児童憲章」などをもとに、キャリアガイダンスと関連付けた「学習権」について考えよう。
	12. キーワードは「つなぐ」こと。(家庭と学校) (4)「こどもの貧困」問題と「虐待」「少年事件」	「子どもの貧困問題」について調べ、児童虐待や「家庭内暴力」「少年事件」との関連を考えよう。 「子どもの貧困問題」にたいする学校と教育の課題、家庭との連携について考えてみましょう。

13. キーワードは「つなぐ」こと。(家庭と学校)「クレーム」は「つながる」チャンス。
(5)「クレーム」問題を考える。「モンスター」なんて言わないで。「困った親」は「困っている親」
14. キーワードは「つなぐ」こと。(課題レポート「手作り通信」の発表と交流(1))
教育集団(こども集団、父母集団、教師集団をつなぐ)家庭と学校のいい関係とは。「学級通信の力」
15. まとめ。(課題レポート「手作り通信」の発表と交流(2))
学生の不安や疑問に答えるとともに、めざす教育・教師像を交流する。
- 課題レポートの「手作り新聞」を完成させよう。
「クレーム問題」「モンスターペアレント」の事例について調べよう。「クレーム」を「つながるチャンス」に変えるために大切なことは何かを体験や学んだことをもとに考えてみましょう。
「手作り新聞」プレゼンテーションの準備をしよう。
ゆとり教育と「学力問題」などの教育問題について考えよう。
印刷配布された全員分の「手作り通信」を読んで、教育と子どもの問題を考えよう。
この授業で学んだことを振り返り、目指す教育・教師像を考えよう。教職への不安や疑問があれば質問できるようにまともておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:
今日の教育課題や社会問題を積極的に取り上げながら授業を進めていくので、本や雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど、メディアを通じた教育情報にできるだけ多く触れておくようにしましょう。
また、講義テーマを自分自身の体験に引き寄せて、問題意識を持って授業に参加しましょう。

フィードバックの方法:
コメントカードは全員分を講義通信に掲載して毎回紹介し、解説します。
最終レポートとなる「手作り通信」は、縮小印刷して全員分を配布し、一人1分のプレゼンテーションを行ってもらいます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポートに代わり手作り通信(B4大)を提出	70%	1、問題意識を持って調べたことや体験をもとにして記述し、自分なりの考察ができる。 2、読み手にわかりやすく興味をひく文章表現ができる。 3、グラフや表、イラストなどを活用して、読み手にわかりやすい紙面構成にすることができる。 4、文字の丁寧さと読み手の興味を引くレイアウトの工夫ができる。 5、1分間のプレゼンテーションで、聞き手の興味を引くように内容をわかりやすく伝えることができる。
	授業での発表や「受講コメントカード」	30%	1、グループ活動や対話・討論など、場に応じて学習活動に参加することができる。 2、これまでの体験や知識をもとに考察して、講義後のコメントカードにまとめることができる。

教科書: 特に指定しない。

参考書: 講義の都度、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義前や講義後に対応します。気軽に相談してください。

授業テーマ:

授業と遊びの道具箱を開発する

授業の概要:

小学校での魅力的な授業や幼稚園でのいきいきとした遊びを展開するためには、指導計画を綿密に組み立てるだけではなく、さまざまな授業や遊びの場面において、効果的な教育方法や技術(art)を適切に用いることが必要になる。本授業では、学びが生じるさまざまな要因に焦点を当て、それらを効果的に用いる方法を、電子機器を使用しないアンプラグドな教育技術からコンピューターなどを用いた教育技術まで広く学ぶ。教科書(プレイフル・シンキング)を協同で読み、ディスカッションを通してマインドセットと学びへの動機づけの関係を理解し授業デザインに活かす。この授業では、教育方法や技術を単なるテクニックとして捉えるのではなく、教師自身の実践哲学と深く関係するものであるということを提示する。

到達目標:

(1)学びとは、遊びとは何かについて深く省察し、自分の考えを、自分の言葉で説明することができる。
(2)マインドセットについて理解し、その考え方を活かした授業デザインができる。
(3)コンピュータやビデオなどの情報機器を積極的に授業デザインに取り入れることができる。

授業方法:

授業で多様な実践を紹介するだけでなく、受講者にも体験してもらうことによって理解を深める。可能な限り双方向のやり取りができる授業を行う。実践的な授業なので学期中にいくつかのプロジェクトを実施する。そのためのグループディスカッションや制作は授業外の時間を使って行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション -学びや遊びをデザインすること-	プレイフルシンキングの教科書の序章を読んでおく。オリエンテーションを通して理解した授業の目的や内容を振り返り、授業の意図を自分なりに描いてみる。
2. 教育方法と技術の基礎理論 -学びとは何か- 授業のデザインと学びの創造 Instructional Design(ID)とLearning Design(LD)の2つのアプローチについて学ぶ	IDとLDのアプローチの違いを理解し、どんな文脈でどのアプローチを取り入れるかを考え、自分なりの解釈をまとめておく。
3. 学びへの動機付け -こどもの知能観と達成動機 1- プレイフル・シンキング ジグソーメソッドを学びつつ、その方法を使って各章の理解を深める	プレイフル・シンキングの教科書を読んで、自分の担当の章をA41枚のレジュメにまとめ、発表の準備をしておく。
4. 学びへの動機付け -こどもの知能観と達成動機 2- プレイフル・シンキング ジグソーメソッドを学びつつ、その方法を使って各章の理解を深める	引き続き、プレイフルシンキングの教科書を読んで、先週担当した章以外の章をA41枚のレジュメにまとめ、発表の準備をしておく。
5. 構成主義的な学習環境をデザインする -協同と表現の学び-	構成主義的な学びの風景をイメージし、「協同と表現の学び」と結びつけてイメージを描く。
6. 学びを触発するプレイフル・ラーニング・デバイス -教材・教具、発問を考える-	学びを触発するメディアを1つ思い浮かべて、それを授業にどのように活かすかを、描いてみる。
7. デジタルメディアの可能性を探る -Scratch(こども向けコンピュータ言語)を例としてプログラミング教育を考える- コンピュータによるアニメーション制作の紹介	MIT Media labのWebsiteから自分のコンピュータにScratchソフトをダウンロードし、実際に簡単なプログラムを書いてみる。
8. ビデオによる授業評価 -ビデオによるドキュメンテーションと授業改善のための評価-	携帯のビデオアプリを使って撮影と編集の練習をやっておく。
9. 省察的実践家としての教師 -プロフェッショナルとしての教師像を描く-	プロフェッショナルとしての教師像を自分なりに描いてみる。
10. 学びについて語るラーニングカフェ1 -21世紀型スキルとは何か-	21世紀型スキルを、具体的な文脈とカリキュラムに位置付けてイメージし、どのようにすればそのスキルを獲得できるかを考え、まとめておく。
11. 学びについて語るラーニングカフェ2 -LOVE CHALLENGEとThe Spirit of YET-	学びへの動機づけについて、もう一度教科書を読み直しておく。
12. 五感を撮る 1 写真のプレゼンテーション	家と学校の間で感じた五感を携帯のカメラ機能を使って撮って、プリントアウトしてくる。
13. 五感を撮る 2 五感アルバムの制作	撮ってきた写真をレイアウトして五感アルバムのプロトタイプをつくっておく。
14. 五感を撮る 3 五感アルバムの展覧会	五感アルバムを完成させる。
15. まとめ:授業全体のリフレクション	授業全体をふり返ってリフレクションペーパー(最終レポート)を書く。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業そのものが「教育方法と技術」そのものなので、授業での経験を活かして将来小学校の授業や幼稚園での保育に活かしてもらいたい。とてもエキサイティングな教育方法の授業を展開するので楽しみにしてほしい。

フィードバックの方法:

グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ディスカッションへの貢献度	30	ジグソーメソッドによるグループ討論への責任ある知的貢献度をチェックして評価する。
五感アルバム	20	五感アルバムの写真、キャプション、編集後記などを総合的に吟味して評価する。
最終レポート	50	学びと遊びについて深く理解し、マインドセットや動機づけ理論をベースにし、コンピューターやビデオなどの情報機器を活かした授業デザインができているかどうかを評価する。

教科書:

上田信行『プレイフル・シンキングー仕事を楽しくする思考法』宣伝会議 2009

参考書:

講義中に紹介する

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡 方法:	基本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

授業テーマ:

私たちの「道徳教育」観を見つめ直す

授業の概要:

「道徳の時間」をめぐる近年のさまざまな議論をみると、いま日本の「道徳教育」は岐路に立たされていると言える。私たちが受けてきた「道徳の時間」をはじめとする道徳教育は、どのような成果をもたらし、あるいは、課題を残してきたのか、新たに教科化される「道徳」についての教育のあり方をめぐって考えるべき課題を整理し、具体的なトピックに基づきながら、私たちの内にある「道徳教育」観を見つめ直す手がかりをつかみ、「特別な教科 道徳」の実践に必要な考え方を明確にしていくことを目指す。

到達目標:

(1)道徳性を育てるための道徳教育について基本的な知識を身につける。
(2)道徳教育をめぐってこれまで行われてきた様々な議論や論争について知り、子どもの道徳性を育てることへの関心をもつ。
(3)道徳教育の実践を分析し、道徳の時間の指導計画や指導方法について理解したことを指導案の形に表現することができる。

授業方法:

毎回の授業では、資料読解や課題追究をめぐって個人やグループで考えることを重視しており、その上で教員からの解説や講義、実践や資料から体験的に学び、理解を確かなものにしていく学びを重視している。
指導案の作成においては授業外での作業や、グループによる相談、検討の時間が欠かせない。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 道徳教育論のオリエンテーション、授業の進め方に関するガイダンス／ブレーストーミング「私の道徳教育体験をふり返る」	本授業のシラバスを読んでおく
	2. 道徳教育は道徳的か？(1)道徳「教科化」の背景を探る～歴史に学ぶ	前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。
	3. 道徳教育は道徳的か？(2)副教材「心のノート」と「私たちの道徳」を批判的に分析する	前の回に考え、議論した内容を見直し、提示された問いに対する自分の考えを整理しておく。
	4. 道徳教育は道徳的か？(3)副教材を用いるために教師に必要な視点を探る	前の回に提示された調査結果に対して、疑問に思った点について図書やインターネットをもとに調べておく。
	5. 道徳教育を考える視点(1)わかっているのにできないのはなぜ？	前の回に配布された資料を読み、出された課題に対して自分なりの予想を立てておく。
	6. 道徳教育を考える視点(2)心情主義的道徳教育の何が問題か？	前の回に考え、議論した内容を見直し、提示された問いに対する自分の考えを整理しておく。
	7. 道徳教育を考える視点(3)道徳原理を理解すること	前の回に映像を視聴しながらメモした内容を読み返し、例についての自分なりの予想を立てておく。
	8. 道徳教育を考える視点(4)心情主義的道徳教育を乗り越えるために	前の回に考え、議論した内容を見直し、提示された問いに対する自分の考えを整理しておく。
	9. 道徳の授業づくり(1)「差別・偏見」はどうして生まれるのか～「青い目茶色い目」実践を読む	第8回までに学んだことをふり返り、道徳の授業を実際につくっていくために考えなければいけない点についてまとめておく。
	10. 道徳の授業づくり(2)「青い目茶色い目」実践を分析する	前の回に映像を視聴しながらメモした内容を読み返し、自分が気になった点、議論したい点を整理しておく。
	11. 道徳の授業づくり(3)読み物資料教材を分析する	自分が選んだ内容項目について、どのような授業展開ができそうかを構想し、適切だと思われる読み物資料を数点、選んでくる。
	12. 道徳の授業づくり(4)読み物資料教材を用いた授業実践を構想し、授業案をつくる	仲間と吟味して選んだ読み物資料の場面分析表を完成させ、中心発問と補助発問となり得る候補を考えておく。
	13. 道徳の授業づくり(5)授業案を相互批評して完成させる	授業案を完成させ、仲間に検討してもらいたい点を明確にしておく。
	14. 道徳の授業づくり(6)模擬授業を行い、相互批評する	模擬授業に必要なワークシートや資料を準備し、リハーサルをしておく。
	15. 全体のまとめ	これまでに学んできた内容について資料やノートを読み返し、道徳教育に対する自分の見方・考え方がどう変化したかを整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

道徳の授業が、子どもたちにとって本当に意味あるものになっていくためには何が必要なのでしょう。また、何をしたいのか、子どもの道徳性を育てる授業にするために、私たちの見方・考え方がどう変わる必要があるのかを、具体的な実践からともに探究していきます。

フィードバックの方法:

(1)毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
(2)授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	毎回の授業への積極的参加とリフレクションの提出	30	授業内容や問われたことに対して関連づけたりリフレクションになっているかどうか
	授業案の作成・提出	20	授業で学んだ内容を理解した上でそれらを個性的に統合して授業案をつくられているか
	定期試験(論述)	50	知っておくべき基礎的な知識を相互に関連づけて理解し、それを自分なりの言葉で説明することができているか

教科書:

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説編 道徳』東洋館出版
文部科学省 道徳教育に関する資料やデータ
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htmより閲覧・ダウンロード可
授業内で適宜配布する資料類を教科書として使用するため、ファイリングしておく

参考書:

松下良平(2011)『道徳教育はホントに道徳的か？ー「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター
松下良平(2002)『知ることのカー心情主義の道徳教育を超えて』勁草書房
入江曜子(2004)『教科書が危ないー「心のノート」と公民・歴史』岩波新書
岩川直樹・船橋一男編(2004)『「心のノート」の方へは行かない』寺子屋新書
中島義道(1997)『〈対話〉のない社会ー思いやりと優しさが圧殺するもの』PHP新書
文部科学省(2011)『小学校道徳読み物資料集』文溪堂
マイケル・サンデル／鬼澤忍訳(2014)『それをお金で買いますかー市場主義の限界』ハヤカワ・ノンフィクション文庫

マイケル・サンデル／鬼澤忍訳(2011)『これから「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫
郷原信郎(2009)『思考停止社会―「遵守」に蝕まれる日本』講談社現代新書
三宅晶子(2003)『「心のノート」を考える』岩波ブックレット

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

第1回に配布する資料に教員の連絡先を配布するほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。
履修者全員とのやりとりや、グループ・受講者相互の連絡については必要に応じてマナビーを活用する。

授業テーマ:	道徳教育における理論的かつ実践的指導方法についての考察		
授業の概要:	本科目においては、児童生徒の道徳性を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念(道徳あるいは道徳教育の意義、日本における道徳の歴史的変遷の視点、道徳性の発達、道徳規範、道徳教育における理論ならびに方法、これからの学校教育における道徳教育のあり方)を考察する。さらに、道徳の時間における指導方法や指導計画、指導内容(資料活用、発問作成)について学んでいく。		
到達目標:	児童生徒の道徳性(道徳的心情・判断力・実践意欲と態度など)を育成するための道徳教育の基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を確実に身につける。さらに、道徳授業の指導方法や指導内容に対応した指導案作成(資料活用、発問作成など)や模擬授業の基本的技能を修得できるようになること。		
授業方法:	講義と平行して、指導案を基にして、集団討議や模擬授業等を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 道徳教育の意義、目標	シラバスを事前に読んでおくこと。	
	2. 道徳教育の歴史	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。	
	3. 道徳教育と学習指導要領	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。	
	4. 道徳性の発達	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。	
	5. 道徳性と社会規範	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。	
	6. 道徳教育の方法Ⅰ(モラルジレンマ方式)	事前に配布している資料を使って復習をし、道徳教育の方法についての資料を読んでおくこと。	
	7. 道徳教育の方法Ⅱ(価値明確化方式)	事前に配布している資料を使って復習をし、道徳教育の方法についての資料を読んでおくこと。	
	8. 道徳授業の指導Ⅰ(教材の活用方法)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。	
	9. 道徳授業の指導Ⅱ(指導案作成の手順)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。	
	10. 道徳授業の指導Ⅲ(道徳授業の発問構成)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。	
	11. 道徳授業の指導Ⅳ(モラルスキルトレーニング活用授業)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。	
	12. 教育活動全体と道徳教育	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。	
	13. 道徳教育における評価	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読して自分なりに道徳教育の課題を考えておくこと。	
	14. 道徳教育の課題	事前に配布している資料を使って復習をしておくこと。	
	15. まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	指導案作成・提出	20%	課題に対応した指導案作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。
	発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。
	定期試験	50%	道徳教育の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。
教科書:	金光靖樹、佐藤光友編著『やさしく学ぶ道徳教育』(ミネルヴァ書房) 文部科学省 著『小学校学習指導要領解説 道徳編』(東洋館出版社)		
参考書:	授業中適宜指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

このところからだをはぐむ特別活動を探究する

授業の概要:

目標とされている「望ましい集団活動を通して人間形成を図ろうとする」特別活動とは具体的にどのような活動であり、こうした活動子どもたちの育ちにに応じていかんしてデザインしていく必要があるのか。本授業では、特別活動の目的や意義を具体的な実践記録を手がかりに追究することを通して、子どもたちのこのところからだをはぐむ特別活動のあり方を見出し、デザインするための視点を獲得していくことを目指す。

到達目標:

(1)特別活動の授業を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。
(2)子どもの心と体をはぐむ特別活動の展開の可能性に関心を持ち、自分なりの工夫の仕方を複数提案できるようにする。
(3)望ましい集団活動を通して人間形成を図ることはどのような計画と考え方によって実現するかについて根拠をもって自分なりに説明したり表現したりしようとする。

授業方法:

毎回の授業では資料読解、課題追究をめぐって個人やグループで考え検討する活動が中心となり、教員からの解説や講義を踏まえ、確かな理解を目指す。グループワークを通して活動プランを作成することも中盤から後半にかけて多くなる。
なお、活動プランは授業内の時間では完成しないため、メンバーと相談、協力して授業外でのグループワークを行うことができるようにしておく必要がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 特別活動論のオリエンテーション、授業の進め方に関するガイダンス／ブレインストーミング：特別活動ではどのような学びが期待されているのか	本授業のシラバスを読んでくる。
	2. 特別活動の年間指導計画をつくる	教科書で指定されたページを読み、わからないところを調べておく。
	3. 学級活動をつくる(1)係活動と当番活動	前の回に考え、議論した内容を読み返し、自分なりの考えを整理しておく。
	4. 学級活動をつくる(2)全員参加の学級会をつくるために何が必要か	指定された図書から自分が関心をもった実践について読み、気になった点や議論したい点について書き込みをしておく。
	5. 学級活動をつくる(3)集会活動で育みたい力とは	前の回に考え、議論した内容を読み返し、配布された資料と該当する教科書の頁を読んでから自分の考えをつくっておく。
	6. 特別活動と安全教育～救命講習を体験する	指定された動画と関連資料を事前にみておく。
	7. 学校行事をつくる(1)異年齢集団の活動を通して学校の文化をつくる	前の回に配布された資料を読んでおき、気になった点や議論したい点について書き込みをしておく。
	8. 学校行事をつくる(2)こどもにとって意味ある学校行事にするには	前の回に映像を視聴した際にメモをとったものを読み返し、学校行事に関する教科書の関連ページを読んでくる。
	9. チームによる学級活動・学校行事の企画づくり(1)デザイン	指定された範囲の中から自分がもっとも関心を持った内容を選び、それについて自分なりのアイデアをいくつか書き出しておく。
	10. 特別活動の基盤としての学級をつくる～仲間とのかかわりを豊かにする～	前の回に配布された資料を読み、提示された問いについて自分なりの仮説を立てておく。
	11. 児童会活動をつくる～こどもが主役の学校づくりに向けて	前の回に視聴した映像と該当する教科書の頁とを関連づけ、疑問に思ったことを洗い出しておく。
	12. チームによる学級活動・学校行事の企画づくり(2)準備	第9回以降、グループの中で分担していた内容を責任をもって整理し、わかりやすくメンバーに伝える工夫をしておく。
	13. チームによる学級活動・学校行事の企画を体験しよう	作成したプランをリハーサルしておき、必要となる道具や材料を整えておく。
	14. チームによる学級活動・学校行事体験のリフレクション	前の回に行ったアクティビティを映した動画を事前に視聴し、リフレクションの視点を考えておく。
	15. 全体のまとめ	これまでに学んできた内容について資料やノートを読み返し、特別活動に関する見方や考え方がどう変化したのかを整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

学校には、教科や総合的な学習の時間、道徳の時間のほかに「特別活動」という教育活動があります。「特別活動」と聞いて思い出すのは学級会や学校行事、クラブ活動など、こどもたちに比較的人気のある目立った活動が多いかもしれません。しかし、実は子どもたちが毎日登校してから下校するまでのうち、授業での学習時間を除いたほとんどすべての時間はこの「特別活動」にあたるものなのです。特別活動によって子どもたちの何を可能にしていけることができるのでしょうか。Learning by Doingを実践しながら共に探求していきましょう。

フィードバックの方法:

(1)毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
(2)授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎回の授業への積極的参加とリフレクションの提出	30	授業内容や問われたことに対して関連づけたりリフレクションになっているかどうか
	グループによるプランの制作、発表、提出	20	授業で学んだ内容を理解した上でそれらを個性的に統合して発表内容をつくらせているか
	定期試験(論述)	50	知っておくべき基礎的な知識を相互に関連づけて理解し、それを自分なりの言葉で説明することができているか

教科書:

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説編 特別活動』東洋館出版
文部科学省・国立教育政策研究所教育課程研究センター編(2013)『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』
www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j.pdfより閲覧・ダウンロード可
授業内で適宜配布する資料類を教科書として使用するため、ファイリングしておく

参考書:

岩瀬直樹(2011)『クラスづくりの極意』農文教
岩瀬直樹(2011)『よくわかる学級ファシリテーション①—かかわりスキル編—(信頼ベースのクラスをつくる)』解法出版社
金森俊朗(2003)『4年1組 命の授業—金森学級の35人』NHK出版
金森俊朗(2005)『希望の教室—金森学級からのメッセージ』角川書店

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(2014)『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)―特別活動指導資料』文溪堂

若狭蔵之助(1986)『子どもと学級―生きる力を育てる』東京大学出版会

埼玉県狭山市立堀兼小学校6年1組・岩瀬直樹・荻上由紀子(2010)『最高のクラスのつくり方』小学館

岩瀬直樹・ちよんせいこ(2011)『よくわかる学級ファシリテーション②―子どもホワイトボード・ミーティング編―』解法出版社

大阪多様性教育ネットワーク・森実(2014)『多様性の学級づくり―人権教育アクティビティ集』解法出版社

岩瀬直樹・甲斐崎博史・伊垣尚人(2013)『プロジェクトアドベンチャーでつくとっても楽しいクラス』学事出版

思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

第1回に配布する資料に教員の連絡先を配布するほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。

履修者全員とのやりとりや、グループ・受講者相互の連絡については必要に応じてマナビーを活用する。

授業テーマ：	学校教育における特別活動の意義と役割を考えよう。																																		
授業の概要：	特別活動論においては、児童生徒が望ましい集団活動を通じて、個性の伸張をはかり、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を考察する。さらに、学級活動などにおける指導方法や指導計画、指導内容について学んでいく。																																		
到達目標：	特別活動論においては、児童生徒が望ましい集団活動を通じて、個性の伸張をはかり、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な知識を獲得し、学級活動や学校行事を企画し実行できる力を身につけることを目標とする。																																		
授業方法：	講義と平行して、チームでつくる学級活動・学校行事の企画を基にして、集団討議や発表を行う。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 特別活動の意義</td><td>事前にシラバスを読んでおくこと。</td></tr><tr><td>2. 特別活動の理論と方法</td><td>事前に配布している「特別活動の理論と方法」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>3. 特別活動の歴史</td><td>事前に配布している「特別活動の歴史」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>4. 特別活動と生徒指導</td><td>事前に配布している「特別活動と生徒指導」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 特別活動と教育課程</td><td>事前に配布している「特別活動と教育課程」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>6. 特別活動と各教科、特別な教科道徳、総合的な学習の時間等との関連</td><td>事前に配布している「特別活動と各教科」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>7. 特別活動における評価</td><td>事前に配布している「特別活動における評価」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>8. 特別活動の内容(学級活動)</td><td>事前に配布している「学級活動」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>9. 特別活動の内容(児童会活動・クラブ活動)</td><td>事前に配布している「児童会活動・クラブ活動」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>10. 特別活動の内容(学校行事)</td><td>事前に配布している「学校行事」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>11. 特別活動の内容(ボランティア活動)</td><td>事前に配布している「ボランティア活動」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>12. 特別活動の実践①(チームでつくる学級活動・学校行事の企画づくり)</td><td>事前にどんな学級活動・学校行事を企画するのかを考案しておくこと。</td></tr><tr><td>13. 特別活動の実践②(チームでつくる学級活動・学校行事体験)</td><td>事前にどんな学級活動・学校行事を体験することが可能なのかを考えておくこと。</td></tr><tr><td>14. 特別活動の実践③(チームでつくる学級活動・学校行事体験の反省)</td><td>実践した体験を自分なりに整理しておくこと。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>自分なりに授業内容の総括をしておくこと。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 特別活動の意義	事前にシラバスを読んでおくこと。	2. 特別活動の理論と方法	事前に配布している「特別活動の理論と方法」の資料を使って予習しておくこと。	3. 特別活動の歴史	事前に配布している「特別活動の歴史」の資料を使って予習しておくこと。	4. 特別活動と生徒指導	事前に配布している「特別活動と生徒指導」の資料を使って予習しておくこと。	5. 特別活動と教育課程	事前に配布している「特別活動と教育課程」の資料を使って予習しておくこと。	6. 特別活動と各教科、特別な教科道徳、総合的な学習の時間等との関連	事前に配布している「特別活動と各教科」の資料を使って予習しておくこと。	7. 特別活動における評価	事前に配布している「特別活動における評価」の資料を使って予習しておくこと。	8. 特別活動の内容(学級活動)	事前に配布している「学級活動」の資料を使って予習しておくこと。	9. 特別活動の内容(児童会活動・クラブ活動)	事前に配布している「児童会活動・クラブ活動」の資料を使って予習しておくこと。	10. 特別活動の内容(学校行事)	事前に配布している「学校行事」の資料を使って予習しておくこと。	11. 特別活動の内容(ボランティア活動)	事前に配布している「ボランティア活動」の資料を使って予習しておくこと。	12. 特別活動の実践①(チームでつくる学級活動・学校行事の企画づくり)	事前にどんな学級活動・学校行事を企画するのかを考案しておくこと。	13. 特別活動の実践②(チームでつくる学級活動・学校行事体験)	事前にどんな学級活動・学校行事を体験することが可能なのかを考えておくこと。	14. 特別活動の実践③(チームでつくる学級活動・学校行事体験の反省)	実践した体験を自分なりに整理しておくこと。	15. まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 特別活動の意義	事前にシラバスを読んでおくこと。																																		
2. 特別活動の理論と方法	事前に配布している「特別活動の理論と方法」の資料を使って予習しておくこと。																																		
3. 特別活動の歴史	事前に配布している「特別活動の歴史」の資料を使って予習しておくこと。																																		
4. 特別活動と生徒指導	事前に配布している「特別活動と生徒指導」の資料を使って予習しておくこと。																																		
5. 特別活動と教育課程	事前に配布している「特別活動と教育課程」の資料を使って予習しておくこと。																																		
6. 特別活動と各教科、特別な教科道徳、総合的な学習の時間等との関連	事前に配布している「特別活動と各教科」の資料を使って予習しておくこと。																																		
7. 特別活動における評価	事前に配布している「特別活動における評価」の資料を使って予習しておくこと。																																		
8. 特別活動の内容(学級活動)	事前に配布している「学級活動」の資料を使って予習しておくこと。																																		
9. 特別活動の内容(児童会活動・クラブ活動)	事前に配布している「児童会活動・クラブ活動」の資料を使って予習しておくこと。																																		
10. 特別活動の内容(学校行事)	事前に配布している「学校行事」の資料を使って予習しておくこと。																																		
11. 特別活動の内容(ボランティア活動)	事前に配布している「ボランティア活動」の資料を使って予習しておくこと。																																		
12. 特別活動の実践①(チームでつくる学級活動・学校行事の企画づくり)	事前にどんな学級活動・学校行事を企画するのかを考案しておくこと。																																		
13. 特別活動の実践②(チームでつくる学級活動・学校行事体験)	事前にどんな学級活動・学校行事を体験することが可能なのかを考えておくこと。																																		
14. 特別活動の実践③(チームでつくる学級活動・学校行事体験の反省)	実践した体験を自分なりに整理しておくこと。																																		
15. まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス：	各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。																																		
フィードバックの方法：	教室でまとめて解説する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」：	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>企画作成・提出</td><td>20%</td><td>課題に対応した企画作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。</td></tr><tr><td>発表を含む授業への参加意欲</td><td>30%</td><td>課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>50%</td><td>特別活動の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	企画作成・提出	20%	課題に対応した企画作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。	発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。	定期試験	50%	特別活動の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
企画作成・提出	20%	課題に対応した企画作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。																																	
発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。																																	
定期試験	50%	特別活動の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。																																	
教科書：	文部科学省 著『小学校学習指導要領 特別活動編』(東洋館出版社)																																		
参考書：	文部科学省 著『中学校学習指導要領 特別活動編』(株式会社ぎょうせい)																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、																																		
教員との連絡方法：	授業の前後に教室内で対応する。																																		

授業テーマ:	幼稚園・保育所における教育・保育課程と指導計画																																	
授業の概要:	現代日本の就学前保育・幼児教育は、幼稚園、保育所、または幼保連携型認定こども園といった施設で実施されているが、いずれの場においても、教育・保育の全体計画は「教育課程」「保育課程」に基づいておこなわれる。この授業では、まず、乳幼児期の発達特性を踏まえ、遊びや環境をとおしておこなう教育・保育の意味と重要性を考察する。そして、教育・保育課程(カリキュラム)の基礎理論、指導計画の立て方など、幼稚園教育および保育所保育の基本について学習する。																																	
到達目標:	乳幼児の成長・発達と保育の課題を理解する。 保育内容の充実と質の向上に資する保育課程の編成と指導計画の作成について、その方法を具体的に身につける。 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を理解する。																																	
授業方法:	講義を中心に、映像教材等を用いながら進める。																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 保育所・幼稚園の役割</td><td>自らの幼児期の印象深かったできごと等を思い出しておく</td></tr><tr><td>2. 幼保連携型認定こども園の概要</td><td>子ども・子育て新制度と認定こども園について調べておく</td></tr><tr><td>3. 小規模保育と地域子育て支援</td><td>身近な地域子育て支援事業について調べておく</td></tr><tr><td>4. 日本の子どもおよび子育て・保育をとりまく状況①子どもおよび子育ての現状と課題</td><td>子ども・子育てに関する新聞記事等に着目する</td></tr><tr><td>5. 日本の子どもおよび子育て・保育をとりまく状況②保育・幼児教育の現状と課題</td><td>保育・幼児教育現場に関する新聞記事等に着目する</td></tr><tr><td>6. 教育・保育課程編成のための基本的視点①子どもとは何か</td><td>子どもとは何かについて、自分なりにまとめておく</td></tr><tr><td>7. 教育・保育課程編成のための基本的視点②乳幼児の成長・発達と保育</td><td>0、1、2歳児の発達について、特徴をまとめる</td></tr><tr><td>8. 教育・保育課程編成のための基本的視点③幼児期の成長・発達と保育</td><td>3、4、5歳児の発達について、特徴をまとめる</td></tr><tr><td>9. 教育・保育課程編成のための基本的視点④乳幼児期をととした子どもの成長と保育の課題</td><td>子どもの発達にかかわる保育の課題を考えておく</td></tr><tr><td>10. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題①日本の保育・幼児教育の歴史</td><td>事前に配布する文献資料を読んでおく</td></tr><tr><td>11. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題②法令上における教育課程および保育課程</td><td>法令上の教育・保育課程について調べておく</td></tr><tr><td>12. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題③幼稚園教育要領と教育課程、保育所保育指針と保育課程</td><td>幼稚園教育要領、保育所保育指針を読んでおく</td></tr><tr><td>13. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題④指導計画の実際</td><td>指導計画作成に必要な知識を復習する</td></tr><tr><td>14. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題⑤指導計画と保育実践(計画、実践、省察・評価、改善)</td><td>保育計画の意義について考える</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>到達目標達成に向けて復習する</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 保育所・幼稚園の役割	自らの幼児期の印象深かったできごと等を思い出しておく	2. 幼保連携型認定こども園の概要	子ども・子育て新制度と認定こども園について調べておく	3. 小規模保育と地域子育て支援	身近な地域子育て支援事業について調べておく	4. 日本の子どもおよび子育て・保育をとりまく状況①子どもおよび子育ての現状と課題	子ども・子育てに関する新聞記事等に着目する	5. 日本の子どもおよび子育て・保育をとりまく状況②保育・幼児教育の現状と課題	保育・幼児教育現場に関する新聞記事等に着目する	6. 教育・保育課程編成のための基本的視点①子どもとは何か	子どもとは何かについて、自分なりにまとめておく	7. 教育・保育課程編成のための基本的視点②乳幼児の成長・発達と保育	0、1、2歳児の発達について、特徴をまとめる	8. 教育・保育課程編成のための基本的視点③幼児期の成長・発達と保育	3、4、5歳児の発達について、特徴をまとめる	9. 教育・保育課程編成のための基本的視点④乳幼児期をととした子どもの成長と保育の課題	子どもの発達にかかわる保育の課題を考えておく	10. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題①日本の保育・幼児教育の歴史	事前に配布する文献資料を読んでおく	11. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題②法令上における教育課程および保育課程	法令上の教育・保育課程について調べておく	12. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題③幼稚園教育要領と教育課程、保育所保育指針と保育課程	幼稚園教育要領、保育所保育指針を読んでおく	13. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題④指導計画の実際	指導計画作成に必要な知識を復習する	14. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題⑤指導計画と保育実践(計画、実践、省察・評価、改善)	保育計画の意義について考える	15. まとめ	到達目標達成に向けて復習する	
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 保育所・幼稚園の役割	自らの幼児期の印象深かったできごと等を思い出しておく																																	
2. 幼保連携型認定こども園の概要	子ども・子育て新制度と認定こども園について調べておく																																	
3. 小規模保育と地域子育て支援	身近な地域子育て支援事業について調べておく																																	
4. 日本の子どもおよび子育て・保育をとりまく状況①子どもおよび子育ての現状と課題	子ども・子育てに関する新聞記事等に着目する																																	
5. 日本の子どもおよび子育て・保育をとりまく状況②保育・幼児教育の現状と課題	保育・幼児教育現場に関する新聞記事等に着目する																																	
6. 教育・保育課程編成のための基本的視点①子どもとは何か	子どもとは何かについて、自分なりにまとめておく																																	
7. 教育・保育課程編成のための基本的視点②乳幼児の成長・発達と保育	0、1、2歳児の発達について、特徴をまとめる																																	
8. 教育・保育課程編成のための基本的視点③幼児期の成長・発達と保育	3、4、5歳児の発達について、特徴をまとめる																																	
9. 教育・保育課程編成のための基本的視点④乳幼児期をととした子どもの成長と保育の課題	子どもの発達にかかわる保育の課題を考えておく																																	
10. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題①日本の保育・幼児教育の歴史	事前に配布する文献資料を読んでおく																																	
11. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題②法令上における教育課程および保育課程	法令上の教育・保育課程について調べておく																																	
12. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題③幼稚園教育要領と教育課程、保育所保育指針と保育課程	幼稚園教育要領、保育所保育指針を読んでおく																																	
13. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題④指導計画の実際	指導計画作成に必要な知識を復習する																																	
14. 教育・保育課程編成の意義と具体的課題⑤指導計画と保育実践(計画、実践、省察・評価、改善)	保育計画の意義について考える																																	
15. まとめ	到達目標達成に向けて復習する																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	教育・保育課程の編成や指導計画づくりの実際を学ぶために、まず、保育所・幼稚園の意義と役割、子どもとはどのような存在であるか、といった基本的な理解を深めてもらいたいと考えています。日々の生活のなかで、常に子どもをめぐる報道などにも留意しましょう。																																	
フィードバックの方法:	ほぼ毎回感想・コメントを提出。適宜、授業中に解説し、教室内で返却する。																																	
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>40%</td><td>乳幼児の成長・発達についての理解度や、保育課程編成と指導計画の作成方法を身につけられているかを評価する。</td></tr><tr><td>提出物</td><td>30%</td><td>乳幼児の成長・発達と現代の保育をめぐる課題についての理解度を評価する。</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>30%</td><td>積極的に授業に参加し、保育課程の編成と指導計画の作成について実践力を身につけることができたかを評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	40%	乳幼児の成長・発達についての理解度や、保育課程編成と指導計画の作成方法を身につけられているかを評価する。	提出物	30%	乳幼児の成長・発達と現代の保育をめぐる課題についての理解度を評価する。	授業への参加度	30%	積極的に授業に参加し、保育課程の編成と指導計画の作成について実践力を身につけることができたかを評価する。																					
評価方法	割合	評価基準																																
定期試験	40%	乳幼児の成長・発達についての理解度や、保育課程編成と指導計画の作成方法を身につけられているかを評価する。																																
提出物	30%	乳幼児の成長・発達と現代の保育をめぐる課題についての理解度を評価する。																																
授業への参加度	30%	積極的に授業に参加し、保育課程の編成と指導計画の作成について実践力を身につけることができたかを評価する。																																
教科書:	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 河邊貴子編著『教育課程 保育課程論』東京書籍																																	
参考書:	適宜、授業中に紹介する																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己実現力																																	
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。																																	

授業テーマ:

授業の概要: 就学前教育場面に即した幼児理解の目的と手法、背景にある考え方を理解する。

到達目標: 1. 幼児の発達を理解する。
2. 教師との関係性、環境構成、保育内容、指導計画と「幼児理解」の関連性を理解する。
3. 現状把握・計画・実践・振り返り・改善のサイクルを理解する。
4. 家庭教育との連携を視野に入れる。
5. 複数の観察、評価手法を知る。

授業方法: 講義と演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 幼稚園教育要領等の改訂について	改訂について既習の内容を復習しておく。
	2. 現状把握(観察)・計画・実践・振り返り(評価)・改善のサイクル	評価について既習の内容を復習しておく。
	3. 観察の手法	日常場面で「観察」を試しておく。
	4. SICsについて	資料を読んでSICsの概要を理解しておく
	5. エピソード記録について	資料を読んでエピソード記録に触れておく
	6. 子どもの発達について: 社会的発達・情緒的発達	テキスト62-67頁を読むとともに、既習の社会的・情緒的発達についての事項を復習しておく。
	7. 子どもの発達について: 認知的発達	テキスト67-71頁を読むとともに、既習の認知的発達についての事項を復習しておく。
	8. 子どもの発達について: 遊び	テキスト72-76頁を読むとともに、既習の遊びについての事項の復習をしておく。
	9. テキスト・サブスケール1 信頼、自信、自立の構築	保育環境評価スケール①幼児版と対比させて理解しておく
	10. テキスト・サブスケール2 社会的・情緒的な安定・安心	保育環境評価スケール①幼児版と対比させて理解しておく
	11. テキスト・サブスケール3 ことば・コミュニケーションを支え、広げる(1)	保育環境評価スケール①幼児版と対比させて理解しておく
	12. テキスト・サブスケール3 ことば・コミュニケーションを支え、広げる(2)	保育環境評価スケール①幼児版と対比させて理解しておく
	13. PEMQ(写真評価法)について	授業で学んだことをもとに保護者用インフォメーションポスターを作成する。
	14. 指導要録、保育要録、認定こども園こども要録について	資料に目を通しておく。
	15. まとめ	これまでの資料やテキストを読み返して重要点を確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 全体に解説

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出物	50%	課題の趣旨を理解した内容になっているか
	レポートによる定期試験	50%	わかりやすくまとまっているか。教育場面における幼児理解の特徴が理解できているか。

教科書: 「保育プロセスの質」評価スケール イラム・シラージ他 秋田喜代美・淀川裕美訳 明石書店

参考書: 幼稚園教育要領
幼稚園教育要領解説
文部科学省 幼児教育指導資料第5集『指導と評価に生かす記録』 チャイルド本社
保育環境評価スケール①幼児版 テルマ・ハームス他著 埋橋玲子訳 法律文化社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に対応。

授業テーマ:																																			
授業の概要:	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基軸として、教育・保育の目標、子どもの発達、保育の内容を総合的に理解する。																																		
到達目標:	1 教育・保育内容の歴史的変遷等を踏まえ、要領、指針等を基軸に、教育・保育の目標、子どもの発達、保育内容を物的・人的環境の在り方の視点を持ち、教育・保育の全体的構造を理解する。 2. 子どもの発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、子ども理解と保育内容、指導計画作成と関連付ける。 3. 養護と教育の一体的な展開、子どもの生活を基盤とした教育・保育の多様な展開について学ぶ。																																		
授業方法:	講義、演習形式を併用する。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 歴史的変遷を踏まえて保育制度を理解したうえで幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を対比し、就学前の教育・保育についての全体像を把握する(1)</td><td>既習の幼児教育課程総論の内容を復習しておく。</td></tr><tr><td>2. 歴史的変遷を踏まえて保育制度を理解したうえで幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を対比し、就学前の教育・保育についての全体像を把握する(2)</td><td>新たに得た知識を既習の内容と関連させておく。</td></tr><tr><td>3. 教育・保育の内容について子どもや子ども集団の発達と関連付け、観察や記録の観点をもち、子ども理解とともに全体像を把握する(1)</td><td>子どもの発達について既習の学習内容を振り返りながら、保育所保育指針の第2章を中心に該当部分を読んでおく。</td></tr><tr><td>4. 教育・保育の内容について子どもや子ども集団の発達と関連付け、観察や記録の観点をもち、子ども理解とともに全体像を把握する(2)</td><td>新たに得た知識を既習の内容と関連させておく。</td></tr><tr><td>5. 保育の評価についての基礎的な知識を得る(1)</td><td>「評価」についての自分の意見をまとめておく。</td></tr><tr><td>6. 保育の評価についての基礎的な知識を得る(2)。</td><td>新たな知見をもって「評価」についての考えを整理しておく。</td></tr><tr><td>7. 教育・保育のPDCAサイクルについて理解する(1)。</td><td>教育課程・指導計画について既習の学習内容を復習しておく。</td></tr><tr><td>8. 教育・保育のPDCAサイクルについて理解する(2)。</td><td>PDCAサイクルの考え方を復習しておく。</td></tr><tr><td>9. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:①養護と教育の一体的な展開</td><td>要領、指針等の該当部分を読んでおく。</td></tr><tr><td>10. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:②環境を通して行う。</td><td>要領、指針等の該当部分を読んでおく。</td></tr><tr><td>11. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:③遊びにより総合的に行う。</td><td>要領、指針等の該当部分を読んでおく。</td></tr><tr><td>12. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:④生活や発達の連促成に考慮する。</td><td>要領、指針等の該当部分を読んでおく。</td></tr><tr><td>13. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:⑤家庭、地域、小学校との連携を踏まえる。</td><td>要領、指針等の該当部分を読んでおく。</td></tr><tr><td>14. 要領、指針の改定について理解する。</td><td>指定された資料を読んでおく。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>資料、教科書等を通読しておく。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 歴史的変遷を踏まえて保育制度を理解したうえで幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を対比し、就学前の教育・保育についての全体像を把握する(1)	既習の幼児教育課程総論の内容を復習しておく。	2. 歴史的変遷を踏まえて保育制度を理解したうえで幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を対比し、就学前の教育・保育についての全体像を把握する(2)	新たに得た知識を既習の内容と関連させておく。	3. 教育・保育の内容について子どもや子ども集団の発達と関連付け、観察や記録の観点をもち、子ども理解とともに全体像を把握する(1)	子どもの発達について既習の学習内容を振り返りながら、保育所保育指針の第2章を中心に該当部分を読んでおく。	4. 教育・保育の内容について子どもや子ども集団の発達と関連付け、観察や記録の観点をもち、子ども理解とともに全体像を把握する(2)	新たに得た知識を既習の内容と関連させておく。	5. 保育の評価についての基礎的な知識を得る(1)	「評価」についての自分の意見をまとめておく。	6. 保育の評価についての基礎的な知識を得る(2)。	新たな知見をもって「評価」についての考えを整理しておく。	7. 教育・保育のPDCAサイクルについて理解する(1)。	教育課程・指導計画について既習の学習内容を復習しておく。	8. 教育・保育のPDCAサイクルについて理解する(2)。	PDCAサイクルの考え方を復習しておく。	9. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:①養護と教育の一体的な展開	要領、指針等の該当部分を読んでおく。	10. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:②環境を通して行う。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。	11. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:③遊びにより総合的に行う。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。	12. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:④生活や発達の連促成に考慮する。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。	13. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:⑤家庭、地域、小学校との連携を踏まえる。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。	14. 要領、指針の改定について理解する。	指定された資料を読んでおく。	15. まとめ	資料、教科書等を通読しておく。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 歴史的変遷を踏まえて保育制度を理解したうえで幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を対比し、就学前の教育・保育についての全体像を把握する(1)	既習の幼児教育課程総論の内容を復習しておく。																																		
2. 歴史的変遷を踏まえて保育制度を理解したうえで幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を対比し、就学前の教育・保育についての全体像を把握する(2)	新たに得た知識を既習の内容と関連させておく。																																		
3. 教育・保育の内容について子どもや子ども集団の発達と関連付け、観察や記録の観点をもち、子ども理解とともに全体像を把握する(1)	子どもの発達について既習の学習内容を振り返りながら、保育所保育指針の第2章を中心に該当部分を読んでおく。																																		
4. 教育・保育の内容について子どもや子ども集団の発達と関連付け、観察や記録の観点をもち、子ども理解とともに全体像を把握する(2)	新たに得た知識を既習の内容と関連させておく。																																		
5. 保育の評価についての基礎的な知識を得る(1)	「評価」についての自分の意見をまとめておく。																																		
6. 保育の評価についての基礎的な知識を得る(2)。	新たな知見をもって「評価」についての考えを整理しておく。																																		
7. 教育・保育のPDCAサイクルについて理解する(1)。	教育課程・指導計画について既習の学習内容を復習しておく。																																		
8. 教育・保育のPDCAサイクルについて理解する(2)。	PDCAサイクルの考え方を復習しておく。																																		
9. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:①養護と教育の一体的な展開	要領、指針等の該当部分を読んでおく。																																		
10. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:②環境を通して行う。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。																																		
11. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:③遊びにより総合的に行う。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。																																		
12. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:④生活や発達の連促成に考慮する。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。																																		
13. 5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する:⑤家庭、地域、小学校との連携を踏まえる。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。																																		
14. 要領、指針の改定について理解する。	指定された資料を読んでおく。																																		
15. まとめ	資料、教科書等を通読しておく。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	全体に解説																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>受講態度</td><td>60%</td><td rowspan="2">提出物の内容に基づく。 設問に対する確かな回答・解答ができているか。</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>40%</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	受講態度	60%	提出物の内容に基づく。 設問に対する確かな回答・解答ができているか。	定期試験	40%																										
評価方法	割合	評価基準																																	
受講態度	60%	提出物の内容に基づく。 設問に対する確かな回答・解答ができているか。																																	
定期試験	40%																																		
教科書:	幼稚園教育要領 フレーベル館 保育所保育指針 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 新・保育環境評価スケール①3歳以上版																																		
参考書:	幼稚園教育要領解説 フレーベル館 保育所保育指針解説書 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に対応																																		

授業テーマ:

領域「環境」に関わる保育指導法の理論と技術

授業の概要:

周囲の身近な環境に興味や関心をもって生活の中に取り込み、好奇心、探究心をもって関わる観点がしめされる領域「環境」のねらいや保育内容についての知識を理解し、教材研究や体験学習を通して具体的に保育指導法や技術を学ぶ。又、子どもが主体的に遊ぶために保育環境のありかたについてを学ぶ。

- 到達目標:
- ・子どもの発達と環境のかかわり方について理解する。
 - ・領域「環境」のねらいと内容を理解し、「体験・調べる・考える」を通して保育技術をつける。
 - ・子どもが自然とかかわる意義について考える。
 - ・子どもの好奇心・探究心や思考力の芽生えを豊かに育む環境や指導法について考える。
 - ・子どもと環境とのかかわりを可能にする保育環境のありかたについて考える。

授業方法:

5・講義/演習の混合。(スライドを用いての講義とグループ学習による討議や共同制作及び発表)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	保育における環境とは何か	教科書(テキスト)の用意
2.	領域「環境」のねらい及び内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針の各「環境」内容の項目を予習
3.	園の環境/子どもを主体とする環境環境がもつ可能性について事例:エピソードから考察	ひとつの遊びをきっかけに「紙飛行機」準備
4.	子どもの発達と環境とのかかわり(安心・安全・危機管理について)	テキストの予習(第5章)
5.	自然とのかかわり①「保育における飼育・栽培」	グループ学習「ポスターの題目」と役割分担を考える。
6.	自然とのかかわり②「四季を通して子どもと楽しむ時間」	授業内作成で完成しない場合は宿題。教材研究(保育の中で子どもと楽しむ時間)
7.	物とのかかわり①「物事の法則性に気づく」	グループ発表の準備 体験学習の準備物の用意
8.	物とのかかわり②教材研究「身のまわりのものをつかった工作」	テキストの予習「環境内容項目(02)」 テキストの予習「環境内容項目(06)」
9.	教材を研究し、保育指導案作成 身近な遊びから科学遊びをする。①「シャボン玉」	体験学習の準備 テキストの予習「環境内容項目(07)」 グループ発表の準備 テーマ「気づきの視覚化」 グループ発表
10.	科学遊びを考える(体験学習から考察)「体験・不思議・発見・考える」	テキストの予習「環境内容項目(08)」 テキストの予習 第3部「指導形態とカリキュラム」 玩具のリサーチ
11.	保育における「数量・図形・標識・文字」 「必要感について」	テキストの予習
12.	保育環境を考える 子どもが主体的に遊ぶために	保育環境の構成案について グループ発表
13.	保育環境を考える 「さまざまなあそび」	
14.	保育室の保育環境をデザインする	
15.	保育指導案(日案)について まとめと振り返り	
	保育者の役割について	子どもが主体的に遊ぶために

受講者へのメッセージやアドバイス:

教材研究や体験学習への意欲的な学びを期待しています。又、準備や片付けなども学びの一環です。みんなで協力し、演習室をきれいに使いましょう。

フィードバックの方法:

授業の振り返りの中で、まとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末レポート	50%	理論の理解度とレポートの丁寧な仕上がりに(遊びの意図)
	発表、討論	30%	それぞれの役割を担いながら、グループ発表
	授業への参加度	20%	講義や演習の積極的な参加

教科書:

田宮緑著「体験する・調べる・考える」領域「環境」 萌文書林
文部科学省「幼稚園教育要領解説書」フレーベル館
厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館

参考書:

新・保育環境評価スケール①3歳以上 テルマハームス他著 埋橋玲子(訳) 法律文化社
幼児保育 子どもが主体的にあそぶために 吉本和子 エイデル研究者
保育内容「環境」秋田喜代美編 みらい
幼児教育のデザイン 無藤隆著 東京大学出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

①子どもの感性を豊かにする自然とのふれあい
②いのちあふれる園庭のデザインプラン
③保育で役立つ日本の伝統文化

授業の概要:

①野外で子どもの感性を引き出すための様々な自然遊びを学びます。
②自然遊びの手法の習得が身に付いているかどうかを毎回試験します。
③幼稚園・保育園のいのちあふれる園庭プランをデザインして発表して頂きます。

到達目標:

①自然遊び・野遊びを身につけること。
②野外の生き物についての基礎的な知識の習得。
③保育に役立つ日本の伝統文化の基本的な理解

授業方法:

教科書を中心としますが、教室から外に出てこどもと自然とのふれあいを豊かにする自然遊びや野遊びをします。そして、今までにない新しい自然遊びや野遊びを考えて頂きます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに ～保育における環境とは何か～	教科書第1、4、5章を予習する
2.	領域環境のねらいと内容 ～いのちを大切にする保育～	教科書第2、8章を予習する。
3.	領域環境における環境 ～五感で楽しむ環境～	教科書第3、7章を予習する。
4.	自然に触れる意義 ～子どもと自然の結びつき～	教科書第9章を予習する。
5.	子どもと植物 ～植物栽培の意義と基礎知識～	教科書p60-65,p76-81を予習する。
6.	秋の散歩 ～秋の自然に気づき五感で感じる～	教科書第6章を予習する。 キャンパス内で自然観察
7.	子どもと植物 ～木の実、草の実で遊ぶ～	自然遊び 教科書p.70, ドングリ遊び
8.	子どもと植物 ～落ち葉、紅葉で遊ぶ～	クヌギ笛を鳴らすテスト 教科書p.74, 葉っぱで遊ぶ
9.	子どもと動物 ～動物飼育の意義と基礎知識～	教科書p.84-99,102 古新聞で遊ぶ
10.	保育における安全と危険 ～リスク管理を考える～	教科書第12、13章、p.101,104,106,108,19章 フロシキで遊ぶ
11.	冬の散歩 ～冬の自然に気づき、五感で感じる～	教科書p.72 キャンパスで自然遊び
12.	保育内容環境の指導に必要なこと	教科書のまとめ
13.	しめ縄づくり ～日本の伝統的習慣～	実際にもち米の稲藁からしめ縄を製作する。
14.	子どもの遊びを豊かにする園庭デザインの発表(1)	園庭デザインの発表 新しい自然遊びの提案レポート
15.	子どもの遊びを豊かにする園庭デザインの発表(2)	園庭デザインの発表

受講者へのメッセージやアドバイス:

①自分の生活する環境や大学のキャンパス等、身の回りの自然に関心を持って下さい。
②子どもと一緒に野外で活動できる技を身につけてください。
③楽しい自然遊びを身につけて、子どもと楽しく遊ぶ手法を身につけてください。

フィードバックの方法:

①毎回のリアクションペーパーに書かれた質問は次回の授業で答える。
②提出されたレポートは、2～3週間後に返却する。
③授業支援システムを通して、授業の準備を伝え質問や疑問に答える。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	リアクションペーパー	10%	授業内容が正しく理解されたかどうか
	レポート	70%	新しい自然遊びかどうか。オリジナリティの評価。
	園庭デザイン	20%	子どもの遊びを豊かにする園庭のデザインかどうか。

教科書:

田尻由美子・無藤隆編著 子どもと環境～基本と実践事例～(2012) 同文書院

参考書:

瀧井宏臣著 子どもたちのライフハザード (2004)岩波書店
日本保育学会編 わが国に置ける保育の課題と現状(1997) 世界文化社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業支援システム(マナビー)を利用します。
URL <https://manavi.dwc.doshisha.jp/ct/login>

授業テーマ： 幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された保育内容の領域「言葉」の授業である。この授業では、こどもがどのように言葉を獲得していくかという発達筋道、保育の中で言葉を豊かに育てることの意義、児童文化財などを通して言葉を豊かにするなど、理論と実際の両面を学ぶ事を目的としている。言葉は特に他の領域との関係が深い。またこどもはすべての生活の中で言葉を獲得していくという特色がある。授業内容は大きくは「言葉」のねらいと内容、言葉の発達、教材研究の三つの柱で構成され、保育に生かすという点に焦点をあてた授業を展開する。

授業の概要： (1)乳幼児期のことばの発達を知り、保育者としての保育の中での「ことば」の発達やひろがりへの援助方法や環境構成などを学ぶ。
(2)領域「言葉」と他の領域とのかかわりについて学び総合的な活動のなかでの「ことば」の役割について学ぶ。そして小学校「国語科」との関係についても学ぶ。
(3)保育の中で児童文化財を使う意義とねらいについて理解し、保育の中での文化の伝承と児童文化財（紙芝居、絵本、お話、パネルシアター、ペープサートなど）を学ぶ。
(4)保育のなかでどのように指導計画を構築し、保育内容「ことば」の実際の教授法も学ぶ。
(5)言葉の育ちにかかわる諸問題（気になることもへの支援として）

到達目標： こどもの発達を「言葉」領域の観点から捉え、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くこととする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことを目的とする保育内容についての知識、技術について具体的に学ぶ。

授業方法： ・発達段階に応じた絵本の分析及び読み語りする方法を熟知する。
・素話のためのお話を覚えて語る。
・パネルシアター・ペープサート・手袋人形などの製作
・具体的な児童文化財に積極的に参加し、予習する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1回：オリエンテーション	絵本の読み聞かせ及び保育士試験に必要な素話についてなどのガイダンスおこなう。
2.	第2回：「言葉」の意義について	三項関係について調べる。 順番に絵本の読み聞かせもおこなうため、絵本の選び方、持ち方、めくり方、読み方の説明も同時におこない、順番に読み聞かせの実際の方法に取り組む。
3.	第3回：ことばを育てるコミュニケーションと言葉	ほめることの意味について具体的に言葉選びをおこなう。順番に絵本の読み聞かせもおこなうため、絵本の選び方、持ち方、めくり方、読み方の説明も同時におこない、順番に読み聞かせの実際の方法に取り組む。
4.	第4回：領域「言葉」が目指しているもの	順番に絵本の読み聞かせもおこなうため、絵本の選び方、持ち方、めくり方、読み方の説明も同時におこない、順番に読み聞かせの実際の方法に取り組む。
5.	第5回：領域「言葉」と他の領域との関係	順番に絵本の読み聞かせもおこなうため、絵本の選び方、持ち方、めくり方、読み方の説明も同時におこない、順番に読み聞かせの実際の方法に取り組む。
6.	第6回：領域「ことば」と小学校「国語科」との関係	順番に絵本の読み聞かせもおこなうため、絵本の選び方、持ち方、めくり方、読み方の説明も同時におこない、順番に読み聞かせの実際の方法に取り組む。
7.	第7回：ことばを育てる児童文化財としての（絵本）を学ぶ。	保育の中での絵本の選び方について学ぶ。 絵本リストの作成
8.	第8回：ことばを育てる児童文化財としての（絵本）を学ぶ。	保育の中での読み語りする方法、語りする方法を学ぶ。実演。 そして保育の指導計画及び指導法について学び、模擬授業などもおこなう
9.	第9回：ことばを育てる児童文化財としての（紙芝居）を学ぶ。	保育の中での紙芝居の選び方、演じ方、保育の指導計画及び指導法について学び、模擬授業などもおこなう
10.	第10回：ことばを育てる児童文化財としての（ペープサート）を学ぶ。	保育の中でのペープサートの方法及び作り方と実践を学ぶ。保育の指導計画及び指導法について学ぶ。
11.	第11回：ことばを育てる児童文化財としての（ペープサート）を学ぶ。	保育の中でのペープサートの作り方と実践を学ぶ。保育の指導計画及び指導法について学び、模擬授業などもおこなう。
12.	第12回：ことばを育てる児童文化財としての（素話・ストーリーテリング・語りなど）を学ぶ。	保育の指導計画と指導法について学び、模擬授業などもおこなう。
13.	第13回：ことばを育てる児童文化財（パネルシアター）を学ぶ。	パネルシアターの製作及び実演。また、保育の指導計画と指導法について学ぶ。 絵具、筆、油性ペン、はさみなど。
14.	第14回：ことばを育てる児童文化財（パネルシアターの実演）を学ぶ。	パネルシアターの製作及び実演。また、保育の指導計画と指導法について学ぶ。 絵具、筆、油性ペン、はさみなど。
15.	第15回：ことばと国語教育—小学校教育へ	へー（諸課題についてグループディスカッションする。）

受講者へのメッセージやアドバイス： 自分の好きな絵本ではなく、保育環境としての絵本を考えていく。
また、実際に障がいのあるこどもや支援学校で子ども読書ボランティアとして長年携わっている者として、ブックスタート、図書ボランティアなどについても興味を持ってほしい。

フィードバックの方法： メールにて対応

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	読み聞かせの方法	20	選び方、持ち方、めくり方、読み方（各5点）
	絵本リスト	30	受講生全員の読んだ絵本のリスト作成及びその評価
	最終課題	50	最終日に課題を理解した内容であるかどうか

教科書：

参考書： 幼稚園教育要領
保育所保育指針
幼保連携型認定こども園教育・保育要領

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

kaneko@heian.ac.jp

授業テーマ:	豊かな表現は、豊かな保育環境から導き出されることを実践的に理解し、意欲的に学習する。保育者として豊かな表現者となるために、さまざまなイメージを豊かにしてくれる保育教材にふれ、楽しさや美しさを感じる心が育つようすすめていく。実際の保育場面の映像をみることによってさらに実践力を高めていくものとする。
授業の概要:	こどもの発達を「表現」の領域の観点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現することとおして、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目的とする保育内容としての知識、技術について具体的に学ぶ。とくにいろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性や生活の中で感じたことや考えたことを自分なりに表現すること、イメージを豊かにすることを中心に学んでいくものとする。またこどもと保育者が「表現者として育つ」こと、友達とのかかわりから相手の表現をうけとめ、自らの表現をより豊かにしていく過程を重視しつつ、理論と実践の両面から学ぶ。
到達目標:	1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための、知識、技術、判断力を習得する。 2. 子どもの発達を5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。 3. 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目標とする。
授業方法:	1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する 2. 子どもの発達を5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。そこから、具体的なねらいや活動の計画を考えていく。 3. リトミックやわらべ歌も体験する。 実際の保育場面の映像をみることによってさらに実践力を学ぶ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	保育内容「表現」のねらいについて	授業の内容に関してのガイダンス
2.	発達過程における表現活動 乳幼児期における感性と表現の発達と様々な表現活動の発達過程について	乳児から幼児までの発達段階の復習してくること。
3.	領域「表現」のねらい及び内容について	幼稚園教育要領、同解説を確認すること。
4.	ドキュメンテーションする 実際の保育場面から考察する 乳幼児の表現を支え育む環境とは 表現を豊かにする教材とは	保育現場の映像フォトランゲージから学ぶ。
5.	表現活動を考える(1)ーとくに描くことー 教材研究の方法及び教材の作成	保育現場の映像フォトランゲージから学ぶ。
6.	表現活動を考える(2)ーとくに歌とリズムー 指導計画の方法及び模擬授業と評価	こどもの歌を歌ってみる
7.	表現活動を考える(3)ーとくに歌とリズムー 指導方法について	歌遊びについて知る
8.	表現活動を考える(3) ①リトミックについて ②オルフについて ③コダーイについて	実際に動ける服装でおこなう
9.	表現活動を考える(4)ーとくに動きー 指導計画の方法及び模擬授業と評価	実際に動ける服装でおこなう
10.	身体的表現活動の目標(1) リズムと身体表現実際(美しさを経験し、美しさを表現する)	実際に動ける服装でおこなう
11.	身体的表現活動の目標(2) 歌うこと(わらべ歌を含む)と身体表現実際	実際に動ける服装でおこなう
12.	身体的表現活動の目標(3) ドラマと身体表現実際	実際に動ける服装でおこなう
13.	. 保育内容「表現」のまとめ(1) 仲間と共に味わい、共に表現する	実際に動ける服装でおこなう
14.	. 保育内容「表現」のまとめ(2) 作品発表会(表現をつくりだす喜びをあげよう)	実際に動ける服装でおこなう
15.	保育内容「表現」のまとめ(3)	実際に動ける服装でおこなう

受講者へのメッセージやアドバイス: 豊かな表現は、豊かな保育環境から導き出されることを実践的に理解し、意欲的に学習する。保育者として豊かな表現者となるために、さまざまなイメージを豊かにしてくれる保育教材にふれ、楽しさや美しさを感じる心が育つよう授業をすすめていくものである。

フィードバックの方法: グループでの考察および評価、質疑応答などの時間を設ける。
最後に全員が発表することによって自己評価につながるものである。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題レポート	30	フォトランゲージの学びからのレポート
	リズム表現	30	実際の動きをみて
	グループ発表	20	作品の総合評価
	発表後の総合考察	20	感想、反省、課題

教科書:

参考書: 幼稚園教育要領
幼稚園教育要領解説

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: kaneko@heian.ac.jp

授業テーマ:

保育内容(人間関係)

授業の概要:

乳幼児期の人間関係の発達の特徴を踏まえた上で、子ども同士、子どもと保育者、保護者と保育者の人間関係とそれらの支援の仕方について学びます。また近年増加する海外からの文化間移動をする子どもたちとその保護者への支援、発達障害の子どもとその保護者への支援など、現代的なテーマについても扱います。多様な人間関係の中で育つ子どもと保護者を支援し、質の高い保育とは何かについて考えます。

到達目標:

「知識・理解」
乳幼児期の発達心理学の諸理論の基礎と応用について理解している。
「関心・意欲・態度」
乳幼児期の発達や保育・教育、そしてその後の児童期への接続について関心を持ち、授業内の活動にも積極的に参加する。
「表現・技能・能力」
毎回行われる知識定着をはかる小テストにおいて7割以上の正答が見られ、レポート課題でも要求された内容を適切に表記したり、グループディスカッションや発表において積極的に発言する。

授業方法:

講義式の授業も行いますが、グループに分かれてのグループ討論、事例研究、教材研究、指導案の検討、模擬保育等も行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	乳幼児期の人間関係の発達	1年次と2年次に学習した発達の諸理論についての復習
2.	領域「人間関係」の成り立ち	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読してくること
3.	領域「人間関係」のねらいと内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読してくること
4.	個の充実と集団による育ち合い	1年次と2年次に学習した発達の諸理論についての復習
5.	環境構成者・援助者としての保育者の役割	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読してくること
6.	親子の人間関係の支援	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読してくること
7.	文化間移動をした親子への支援	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読してくること
8.	幼稚園・保育所・認定こども園指導案作成とグループ内発表1	指導案作成
9.	気になる子どもへの対処	2年次「発達と学習の心理学」で配布した発達障害に関するプリントに目を通しておくこと
10.	グループごとの模擬保育	グループごとに指導案を作成し、模擬保育の練習を十分にしておくこと
11.	子どもの人間関係の理解と保育場面におけるアセスメント1	2年次「発達と学習の心理学」で配布した発達障害に関するプリントに目を通しておくこと
12.	子どもの人間関係の理解と保育場面におけるアセスメント2	2年次「発達と学習の心理学」で配布した発達障害に関するプリントに目を通しておくこと
13.	子どもの人間関係の理解と保育場面におけるアセスメント3	2年次「発達と学習の心理学」で配布した発達障害に関するプリントに目を通しておくこと
14.	幼稚園・保育所・認定こども園指導案作成とグループ内発表2(子ども間の協力を要する教材研究)	指導案作成
15.	まとめとグループ内話し合い	マイネカルテ作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

グループごとの作業においては、グループ内で話し合うとともに、話し合いの内容をグループ内担当者はレポートにまとめて提出することが求められます。小テストも随時行いますので、1年次の「こどもの発達心理学」や2年次の「発達と学習の心理学」の内容を十分理解していることが授業を受ける前提条件となります。指導案作成や模擬保育も行いますので、教材研究や指導案作成に十分時間を取って下さい。

フィードバックの方法:

コメントシートの内容について次回の授業の最初に口頭で紹介したり、各グループで選ばれたベスト指導案をマナビーに掲載します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験(論述式)	60%	授業で学習した内容が的確に表現されている。 具体例が必要に応じて書かれている。 わかりやすい文章で書かれている。
	小テスト	10%	回答正答数
	レポート	30%	わかりやすい文章で書かれている。 文献を引用しながら論を展開している。 指導案では現実の保育活動で展開できる内容が記載されている。

教科書:

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(原本)』 チャイルド社

参考書:

授業中に指定します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業後や研究室で随時質問を受け付けます。わからないところはそのままにせずに、積極的に聞きにきてください。

授業テーマ:	保育内容(健康)
授業の概要:	子どもの発達を保育内容の「健康」領域の観点から捉え、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目的とする保育内容についての知識、技術について具体的に学ぶ。
到達目標:	1)領域「健康」の目標、ねらい、内容を理解し説明することができる。 2)子どもの身体の発達と運動能力の発達の特徴を理解する。 3)けがや事故の実態を理解し、安全指導に必要な知識や指導法を身につける。 4)発育発達段階に応じた運動遊びの指導案を作成し、授業実践力を身につける。
授業方法:	講義ならびに演習形式で開講する。なお、授業は1)～5)の流れで行なう。 1)本日の内容についての説明 2)基礎知識を学ぶ 3)応用的思考を試みる 4)まとめ／授業メモへのコメント記入 5)次回の予告

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 健康の概念について	自身の健康観について考える。
	2. 領域「健康」のねらいと内容について	健康の領域について、事前に幼稚園教育要領、保育所保育指針で予習する。
	3. 領域「健康」の内容の取扱いについて	健康の領域について、事前に幼稚園教育要領、保育所保育指針で予習する。
	4. 子どもの健康と食生活について	子どもの食の問題点について下調べをする。
	5. 子どもの健康と睡眠について	自身における睡眠の意義および日本の睡眠事情について調べる。
	6. 子どもの身体の発達について(1)	大人と子どもの身体の違いについて考える。
	7. 子どもの身体の発達について(2)	関連する範囲について提示する参考資料をもとに準備します。
	8. 子どもの体力・運動能力と動きの獲得について(1)	最新の子どもの体力・運動能力に関して、スポーツ庁のHPより調べる。
	9. 子どもの体力・運動能力と動きの獲得について(2)	関連する範囲について提示する参考資料をもとに準備します。
	10. 子どもにおける運動遊びの役割	関連する範囲について提示する参考資料をもとに準備します。
	11. 子どもと安全教育	危険の概念について、教科書を参考に調べる。
	12. 子どもの運動遊びの指導法について(動機づけの観点から)	関連する範囲について提示する参考資料をもとに準備します。
	13. 模擬保育(1):指導計画の作成と実践	教材研究および指導計画案の作成をおこなう。
	14. 模擬保育(2):指導計画の作成と実践	教材研究および指導計画案の作成をおこなう。
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:	
フィードバックの方法:	授業メモについて、コメントをつけて返却する。返却方法は教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	10	
	授業メモへのコメント	10	
	レポート＜教材研究／指導計画／模擬保育＞	20	到達目標④に関する理解したうえで、指導計画のまとめの仕上がり度合により評価する。
	定期試験	60	到達目標①②③④の理解度により評価する。

教科書:	
参考書:	幼稚園教育要領 保育所保育指針
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で応対

授業テーマ:	小学校国語科の教科指導法を学ぶ
授業の概要:	小学校の国語科教育に関する理論的知識とその実践的展開力を育てる。とりわけ、児童に国語学力をつけるために、児童の学習意欲の高め方、教材開発、教材研究、学習指導案作成、教育方法、評価、模擬授業、ティームティーチング(T.T.)の方法等について、具体的に指導していく。そして、小学校の教育実践全体を見渡しながら、学習指導を行う力量を形成していく。
到達目標:	①教材開発や教材研究、評価の方法を理解している。 ②学習指導案が書ける。 ③国語科の各領域についての学習指導方法を理解し、模擬授業でそれらを使える。
授業方法:	講義形式・演習形式など様々な形態を組み合わせている。毎時間スピーチ演習を行い、教科通信を発行してもらう。模擬授業を実施し、省察する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 国語科の授業づくりの理論と方法(1)～教材開発と教材研究の方法	学んだ内容をまとめておく。
	2. 国語科の授業づくりの理論と方法(2)～児童の学習意欲を高める教育方法(T.T.を含む)と、評価の方法	学んだ内容をまとめておく。模擬授業の班分けと担当領域にしたがって、前回到学んだことを活かして教材研究をしておく。
	3. 国語科の学習指導案の作成方法(1)	プロトタイプ of 練習用学習指導案を書いてみる。
	4. 国語科の学習指導案の作成方法(2)	模擬授業の班分けと担当領域にしたがって、前回到学んだことを活かして学習指導案を書く。
	5. 国語科の模擬授業(1)～読むこと領域①文学的文章教材—散文	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
	6. 国語科の模擬授業(2)～読むこと領域②文学的文章教材—韻文	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
	7. 国語科の模擬授業(3)～読むこと領域③説明的文章教材—下学年教材	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
	8. 国語科の模擬授業(4)～読むこと領域④説明的文章教材—上学年教材	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
	9. 国語科の模擬授業(5)～書くこと領域①論理的文章を書く	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
	10. 国語科の模擬授業(6)～書くこと領域②創作的文章を書く	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
	11. 国語科の模擬授業(7)～話すこと・聞くこと領域①スピーチをする	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
	12. 国語科の模擬授業(8)～話すこと・聞くこと領域②話し合いをする	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
	13. 国語科の模擬授業(9)～伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項領域①国語の特質の授業	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
	14. 国語科の模擬授業(10)～伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項領域②伝統的な言語文化の授業	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
	15. 全体のまとめ	模擬授業を振り返って、小学校国語科の授業実践をどのように進めればよいかをレポートにまとめる準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス: グループ学習が多いので、互いに協力し合い、補い合って進めていきましょう。

フィードバックの方法: 授業の中でコメントする。また模擬授業記録を作成して授業者に返す。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	スピーチ、授業通信	20%	スピーチの基本を踏まえて話しているか、通信を読者に興味を持ってもらえるように工夫しているかを評価する。
	模擬授業	30%	教材開発や教材研究、評価論を踏まえて、学習指導案を作成し、模擬授業を児童に分かりやすく組み立て、実践できているかを評価する。
	レポート	50%	模擬授業を振り返って、論理的に書けているか、内容に説得性があるか、自分なりの考え方を展開しているかを評価する。

教科書: 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編 平成20年8月(平成27年3月付録追加)』東洋館出版、2015年

参考書: 久米公『漢字指導の手引き 第7版』教育出版、2011年
シャーリー・クラーク『アクティブラーニングのための学習評価法 形成的アセスメントの実践的方法』関西大学出版部、2016年
東京都青年国語研究会編『子供の側に立つ国語の授業 主体的・協働的に学び合う国語単元学習』東洋館出版、2016年
日本作文の会編『「書くこと」の授業を豊かに 作文教育で「アクティブ・ラーニング」の先へ』本の泉社、2016年
中瀬正堯 編著『主体的な(読者)に育てる小学校国語科の授業づくり 辞典類による情報活用の実践的方略』明治図書、2016年
山元隆春・小倉国語の会『アクティブ・ラーニングの授業展開小学校国語科』東洋館出版社、2016年
細川太輔『こと・もの・ひと 3つの視点でデザインする』東洋館出版、2016年

寺井正憲・船橋国語教育の会『深い学びを実現する書き換え学習の授業づくり』 明治図書出版、2016年
全国大学書道学会『書の古典と理論』光村図書、2013年
書写書道教育教材研究会・加藤達成『大学書写・書道教育 改訂』第一法規出版、2012年
思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

Eメール、オフィスアワー

授業テーマ:

小学校社会科の授業実践と社会科教育の課題

授業の概要:

小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識を身に付ける。特に、社会科の主な指導方法を取り上げ、その特色と問題点などについて考えていく

到達目標:

知識理解:小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識を身に付けることができる。
技能:単元計画・学習指導案の作成や模擬授業などを通して、小学校社会科の授業実践の技能を高めることができる。
関心・意欲・態度:小学校社会科の教材や指導法、授業実践について関心を持つことができる。

授業方法:

講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(講義のすすめ方) エントリーシート(学びの履歴)から小学校社会科教育の意義と課題、状況論を探る。	初回から出席のこと
2.	小学校社会科の成立と変遷 初期社会科と問題解決学習、系統学習と現在、学力論と関連して	教科書、参考文献、授業資料の熟読
3.	小学校社会科の目標論、教科構造論、学習指導要領解説	教科書、参考文献、授業資料の熟読
4.	小学校社会科の授業構成と展開例、学習指導(1)中学年 社会科教科書分析1	教科書、参考文献、授業資料の熟読
5.	小学校社会科の授業構成と展開例、学習指導(2)高学年 社会科教科書分析2	教科書、参考文献、授業資料の熟読
6.	小学校社会科の授業構成と展開例、学習指導(3)高学年 社会科教科書分析3	小学校社会科単元計画・学習指導案の作成準備
7.	小学校社会科単元計画・学習指導案の提出(相互評価)	小学校社会科単元計画・学習指導案の作成準備
8.	小学校社会科単元計画・学習指導案の改善指導	小学校社会科単元計画・学習指導案の作成準備
9.	実習視察の様子、模擬授業グループ分け	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
10.	模擬授業(1)	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
11.	模擬授業(2)	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
12.	模擬授業(3)	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
13.	模擬授業のふりかえり	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
14.	社会科学学習指導案(改訂版)の提出と共有	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
15.	全体ふりかえり、学びの確かめのための試験(持ち込み可)	教科書、参考文献、授業資料、社会科単元計画・学習指導案の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:

単元計画・指導案の作成のために授業時間外に教材研究を相当数の時間をかけて行う。
模擬授業の準備のために相当数の時間をかける。

フィードバックの方法:

毎時間の講義対話カード(ふりかえりカード)へのコメント
単元計画・指導案の作成への改善コメントと改善指導案の提出
模擬授業へのコメント

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30	対話カードなど積極的に授業に取り組んでいるか
	課題(学習指導案の提出)	40	社会科単元計画学習指導案、模擬授業を含めて、積極的に取り組んでいるか
	学びの確かめのための試験	30	授業目標が達成されているか

教科書:

文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社、2008年

参考書:

原田智仁編(2015)『社会科教育のルネサンスー実践知を求めてー』保育出版社
澤井陽介(2016)『子供の思考をアクティブにする社会科の授業展開 小学校』東洋館出版社
原田智仁編(2010)『社会科教育のフロンティアー生きぬく知恵を育むー』保育出版社
社会系教科教育学会編(2010)『社会系教科教育研究のアプローチ～授業実践のフロムとフォー～』学事出版
日本社会科教育学会編(2008年)『社会科授業力の開発 小学校編 研究者と実践家のコラボによる新しい提言』明治図書出版
有田和正(2011)『有田式歴史教科書6年生社会科・授業カンベキ版』明治図書出版
日本社会科教育学会編(2012)『新版 社会科教育事典』ぎょうせい
社会認識教育学会編(2000)『改訂新版 初等社会科教育学』学術図書出版社
有田和正(1999)『「生きる力」を育む社会科授業』明治図書出版
佐藤正寿・長瀬拓也編(2016)『ゼロから学べる学小学校社会科授業づくり』明治図書出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

e-mailなど

授業テーマ:	小学校算数科の授業づくり		
授業の概要:	小学校算数科の学習指導要領の内容を習得した上で、算数科の授業づくりの方法を獲得する。具体的に学習指導案の作成に取り組み、模擬授業を通して教育実習にむけての技量を養います。		
到達目標:	1. 小学校算数科の授業づくりと授業方法についての知識を獲得し、模擬授業を通して理解を深める。 2. 算数科の教育実践への関心・意欲・態度を高める。		
授業方法:	実技演習(学内)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーションとグループ分け	グループで打合せをする。
	2.	算数科の学習指導案の書き方	算数科の授業づくりの方法を復習し、グループで確認する。
	3.	小学校第1学年の教材内容における模擬授業(1)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	4.	小学校第1学年の教材内容における模擬授業(2)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	5.	小学校第2学年の教材内容における模擬授業(1)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	6.	小学校第2学年の教材内容における模擬授業(2)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	7.	小学校第3学年の教材内容における模擬授業(1)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	8.	小学校第3学年の教材内容における模擬授業(2)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	9.	小学校第4学年の教材内容における模擬授業(1)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	10.	小学校第4学年の教材内容における模擬授業(2)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	11.	小学校第5学年の教材内容における模擬授業(1)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	12.	小学校第5学年の教材内容における模擬授業(2)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	13.	小学校第6学年の教材内容における模擬授業(1)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	14.	小学校第6学年の教材内容における模擬授業(2)	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
	15.	まとめ	算数科の授業づくりを低学年、中学年、高学年ごとにまとめる。
受講者へのメッセージやアドバイス:	実際に算数の授業を試み、経験することにより不安感をなくしましょう。		
フィードバックの方法:	模擬授業については、実践後に改善点をコメントします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	40	到達目標1についての振り返りを評価する。
	模擬授業実践	40	到達目標1の実践状況の評価する。
	授業への参加度	20	模擬授業実践の反省を到達目標2の視点から評価する。
教科書:	文部科学省、小学校学習指導要領解説 算数編(平成20年8月)、東洋館出版社		
参考書:	日本数学教育学会編、算数教育指導用語辞典 第4編、教育出版 原一夫、新任教師のしごと 算数科 授業の基礎基本、小学館		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	理科が大好きな児童・生徒を育てる教師になる
授業の概要:	小学校で理科を教える教師としての資質と能力の育成をめざして、①理科の授業を構成する力、②実験観察を指導する力、③授業場面で安全対策に配慮した環境を整備する力、④主体的で対話的な学びを実現する力、以上の力に着目した実践力を身につける。具体的にはケースメソッド教材を用いた演習によって理科教師としての観る力を育成し、次にグループティーチングによる模擬授業体験によって実践的指導力を身につけることができる。
到達目標:	・小学校の理科授業に関する4領域の知識や技能を活用することができる。 ・ケースメソッド教材を用いて、理科を教える教師としての観察力を身につけることができる。 ・模擬授業（グループティーチング）を実施し、理科を教える教師としての実践的指導力を身につけることができる。
授業方法:	1:講義、2:演習、3:実験実技演習(学内)、5:講義/演習の混合 グループティーチングでは4or5人が1グループとなり、指定された授業案をもとに1人が1時間の実験授業を実施する。その際、児童役の学生は記録係、トラブルメーカー1,2系の役割となり、実際の授業場面を想定した演習を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・ケースメソッド教材から授業の問題を読み取る	
2.	体験しよう協同学習（手回し発電機による大容量コンデンサーの蓄電実験）	ケースメソッド教材から読み取った問題をアクティブラーニング型授業にする方法を考える
3.	マンガで学ぶ理科指導法（協同学習法1）協同学習の理論と方法	春学期の理科授業での実験演習をふり返る
4.	マンガで学ぶ理科指導法（協同学習法2）協同学習の理論と方法	前時の授業を復習し、本時の内容を予習する
5.	エネルギー領域の実験開発（風で動く車をつくる）	車の設計図を描き、必要な材料をそろえる
6.	風で動く車の児童用ワークシート（準備・手順・実験・記録・ふり返り等）	児童用ワークシートの構想を立てておく
7.	粒子領域の実験1（カラメル焼に挑戦：実験書通りに実験は可能か）	カルメ焼の仕組みと確実にふくらませる方法を調べておく
8.	グループティーチングのオリエンテーション（グループ決定、授業配分と実験練習）	
9.	グループティーチングの準備（指導案検討、実験練習と準備）	担当する単元の理科教科書と指導書を確認し、実験内容を把握する
10.	グループティーチング（1）（実践的模擬授業と授業検討）	指導案と児童用ワークシート、及び、板書計画と実験準備を行う
11.	グループティーチング（2）（実践的模擬授業と授業検討）	前時をふり返り授業計画を立てる 指導案と児童用ワークシート、及び、板書計画と実験準備を行う
12.	グループティーチング（3）（実践的模擬授業と授業検討）	前時をふり返り授業計画を立てる 指導案と児童用ワークシート、及び、板書計画と実験準備を行う
13.	グループティーチング（4）（実践的模擬授業と授業検討）	前時をふり返り授業計画を立てる 指導案と児童用ワークシート、及び、板書計画と実験準備を行う
14.	アーギュメントスキルの理論と方法	
15.	グループティーチングのまとめと総括	グループティーチングのふり返りと提出物の準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 将来、小学校教員として理科の授業を行う自信を身につけるため、授業を観る力と実践的に指導する力を体験的に学びます。具体的には、ケースメソッド教材を用いた演習と1時間の授業を1人だけでやりきるグループティーチングを実施します。

フィードバックの方法: 実験演習においてはその場で評価し口頭で伝える。提出物は教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演習と実技	45	到達目標のグループティーチングにおける授業構成力や指導力を客観的に評価する。
	レポート	35	到達目標の理科授業に関する4領域の知識や技能を活用した制作物の完成度と性能で評価する。
	小テスト	20	到達目標のケースメソッド教材を用いた観察力を読み取った内容で評価する。

教科書: 小学校学習指導要領解説 理科編
プリント配布

参考書: 授業の中で紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等

授業テーマ:	生活科の授業と指導法		
授業の概要:	平成元年度の小学校学習指導要領改訂において新設された生活科は、学習方法や評価方法などにおいて他教科にはない特徴がある。本授業ではその学習方法や評価方法などを理解することを目的とする。さらに実際の現場で行われている生活科の授業を知ったり、学習指導案の検討や模擬授業を行ったりすることを通して、将来教壇に立つ者の実践的な力を培う。		
到達目標:	1. 生活科という教科の指導の内容や方法を確認し、理解を深める。 2. 現場で行われている授業を通して、子どもの実態を知り、適切な支援ができるようにする。 3. 模擬授業を行うことを通して、生活科の学習指導案の書き方や授業力の向上を図る。		
授業方法:	講義、模擬授業、ディスカッション		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 生活科の指導法～他教科との違い～ 2. 低学年の児童像 3. 指導案研究 4. 現場の授業 5. 指導案検討1 6. 指導案検討2 7. 模擬授業と授業分析・評価1 8. 模擬授業と授業分析・評価2 9. 模擬授業と授業分析・評価3 10. 模擬授業と授業分析・評価4 11. 模擬授業と授業分析・評価5 12. 模擬授業と授業分析・評価6 13. 模擬授業と授業分析・評価7 14. 模擬授業と授業分析・評価8 15. まとめとミニテスト	準備学習等の内容 「小学校学習指導要領解説 生活編」の「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」について目を通しておくこと 現在の低学年の児童の実態について情報を集めておくこと 「小学校学習指導要領解説 生活編」の「第5章 指導計画の作成と学習指導」について目を通しておくこと 自分が小学生時代の受けた生活科の授業を思い出したり、ボランティア先の小学校の生活科の授業を観察しておいたりしておくこと 模擬授業の単元・指導の内容を考えておくこと 模擬授業の内容および具体的な指導案を考えておくこと 模擬授業のコンセプトの発表および授業の準備(指導案の印刷・準備物の用意・発問等)をしておくこと 模擬授業のコンセプトの発表および授業の準備(指導案の印刷・準備物の用意・発問等)をしておくこと 模擬授業のコンセプトの発表および授業の準備(指導案の印刷・準備物の用意・発問等)をしておくこと 模擬授業のコンセプトの発表および授業の準備(指導案の印刷・準備物の用意・発問等)をしておくこと 模擬授業のコンセプトの発表および授業の準備(指導案の印刷・準備物の用意・発問等)をしておくこと 模擬授業のコンセプトの発表および授業の準備(指導案の印刷・準備物の用意・発問等)をしておくこと 模擬授業のコンセプトの発表および授業の準備(指導案の印刷・準備物の用意・発問等)をしておくこと 模擬授業のコンセプトの発表および授業の準備(指導案の印刷・準備物の用意・発問等)をしておくこと 模擬授業のコンセプトの発表および授業の準備(指導案の印刷・準備物の用意・発問等)をしておくこと これまでの授業内容を整理しておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	生活科という教科は、子どもの意欲と主体的な活動が核となる教科である。本授業でも、ただ講義を聞くという受動的な形ではなく、実際に指導案を書いたり、模擬授業を行ったりすることを中心に据える。そのことが教員採用試験に合格するという目の前の目標だけでなく、生涯に渡って児童や保護者に信頼される教員に繋がる道だからである。そのためにも「学ぶ」という素直な心と積極的な態度を学生諸君に望みたい。		
フィードバックの方法:	前時に記入した「振り返りプリント」を次の授業時に学生に返却する。その際、前時の授業の補足や個人の意見を全体に返すなどして、受講者全員の力量向上に繋げる。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 毎授業の振り返り 模擬授業・指導案作成 授業態度 ミニテスト	割合 20 30 30 20	評価基準 本時の授業内容がきちんと捉えられていたか 適切な指導案が書け、模擬授業が行えたか 積極的な姿勢で授業に臨んでいたか 授業全体の内容がきちんと捉えられていたか
教科書:	文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」 日本文教出版 森隆夫・嶋野道弘・足立登志也 他「せいかつ 上・下」(文部科学省検定済 教科書) 光村図書 春学期の「生活」で以上の書籍を購入した学生は、再度購入する必要はない。		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力, 思考力, 創造力, コミュニケーション力, 変化対応力, 自己実現力		
教員との連絡方法:	tadachi@jc.seibo.ac.jp		

授業テーマ： 小学校における音楽教育の意義を探究しながら、音楽科の指導計画・教材研究・指導法・評価に関する実践力を身に付ける。

授業の概要： 音楽科の授業は、表現(歌唱・器楽・創作)と鑑賞の二つの領域により構成されている。本授業では①歌唱共通教材《ふるさと》の三部合唱及び、《花》の二部合唱による歌唱と指揮法の実践を行い授業内で発表する。②模擬授業ではグループ学習による多様な題材の開発と授業の実践を行い、グループ単位によってレポートを作成する。そして、授業後の総括・発表・討論を経て音楽の授業に関する理解を深め、受講生はまとめの個人レポートを作成する。③音楽教育史の講義を聴き、受講生一人ひとりが興味・関心を抱いた事柄・人物・テーマについて関連する文献を読みレポートを作成する。④クラス音楽会を組織・運営し学校行事での音楽活動に参加するための基礎的能力を高める。

到達目標： 小学校において多様な題材による音楽の授業ができるようになる。
歌唱共通教材《ふるさと》(三部合唱)を三重唱で発表できる。
歌唱教材《花》の二部合唱による歌唱と指揮を実践することができる。
模擬授業を実践し、多様な題材の音楽授業を追求することができる。
日本音楽教育史の諸特徴を理解し、音楽教育の意義について意見を述べることができる。
クラス音楽会の企画運営ができるようになる。

授業方法： この授業では実技を伴う演習を主軸とするが、必要な場面で講義を導入する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 歌唱共通教材の学習1～《ふるさと》の三部合唱のパート練習	《ふるさと》の歌唱発表のため、グループによる歌唱練習の予習・復習。
2.	「小学校学習指導要領(音楽)」の説明 歌唱共通教材の学習2～《ふるさと》の三部合唱と指揮の学習	《ふるさと》の歌唱発表のため、グループによる歌唱練習の予習・復習。
3.	音楽科学習指導案の原理/形式/評価規準について 歌唱共通教材の学習3～《ふるさと》の歌唱発表(三重唱)	《ふるさと》の歌唱発表のため、グループによる歌唱練習の予習・復習。
4.	模擬授業の準備1 (題材選びと教材研究)	授業で提示した題材について調べ学習を行う。
5.	模擬授業の準備2 (指導案作成)	第3回の授業で示した音楽科学習指導案の原理・形式をもとに、グループで相談し指導案を作成する。配布資料(ワークシート他)も必要に応じて作成する。
6.	模擬授業1(世界の諸民族の音楽・身体表現)	模擬授業の記録・全受講生の感想の集約・改訂指導案を含むグループ単位の冊子の作成と提出。
7.	模擬授業2(日本の民謡・わらべうた)	模擬授業の記録・全受講生の感想の集約・改訂指導案を含むグループ単位の冊子の作成と提出。
8.	模擬授業3(日本の伝統音楽・ポピュラー音楽)	模擬授業の記録・全受講生の感想の集約・改訂指導案を含むグループ単位の冊子の作成と提出。
9.	模擬授業4(手作り楽器・音による感情表現)	模擬授業の記録・全受講生の感想の集約・改訂指導案を含むグループ単位の冊子の作成と提出。
10.	模擬授業の総括「しゃべり場」(討論)	八つの模擬授業を振り返り総括「しゃべり場」で討論するための準備。
11.	日本音楽教育史1(明治期・大正期)	講義内容を整理し関連文献を探す。
12.	日本音楽教育史2(昭和期・平成期) 歌唱教材《花》の二部合唱による歌唱と指揮の実践1	講義内容を整理し関連文献を探す。 《花》の二部合唱発表のための予習・復習。
13.	歌唱教材《花》の二部合唱による歌唱と指揮の実践2 クラス音楽会の準備	《花》の二部合唱発表のための予習・復習。 クラス音楽会での演奏曲の練習。 クラス音楽会のプログラムの作成。
14.	クラス音楽会の開催	次回の授業の総括のために全授業内容を振り返っておくこと。
15.	授業の総括	

受講者へのメッセージやアドバイス： 「小学校学習指導要領(音楽)」に提示され、小学校音楽教科書に掲載されているが、受講生の皆さんが小学校時代にあまり経験してこなかった多様な題材について、積極的に取り組んでほしい。

フィードバックの方法： 歌唱及び指揮の実践については授業内でコメントする。
模擬授業の実践については、模擬授業の総括「しゃべり場」(討論)で講評する。
模擬授業に関する提出レポート(1)グループ単位の冊子(2)個人のレポートについては授業の総括の際にまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	模擬授業に関するレポート	60%	到達目標「小学校において多様な題材による音楽の授業ができるようになる。」について(1)グループ単位の冊子(2)個人のレポートの2種によって理解度・達成度を評価する。
	教育史に関するレポート	10%	到達目標「日本音楽教育史の諸特徴を理解し、音楽教育の意義について意見を述べることができる。」についての理解度を評価する。
	歌唱及び指揮の実践	20%	到達目標「三重唱で発表できる。」「歌唱と指揮を実践することができる。」における達成度を評価する。
	授業への参加度	10%	積極的に授業に参加し、到達目標「クラス音楽会の企画運営」ができるようになったかを評価する。

教科書： 初等科音楽教育研究会編/『最新 初等科音楽教育法』(改訂版) 音楽之友社
(＊春学期開講の「音楽」(担当垣内)で同じ教科書を使用する)
『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール(kaki@kyokyo-u.ac.jp)並びに授業の前後に教室内で応答する。

授業テーマ:

子どもの感性や創造性、表現力を大切にしたい図画工作科が、小学校教育でいかなる意義があるのか？感性の成長・発達、創造性や自己表現、文化的な鑑賞の学習でいかに指導が可能か？図画工作科に関わる子どもの心の成長・発達に基礎を置きながら小学校における図画工作科の指導方法を実践的に研究する。指導力育成面では、図画工作科の指導計画・教材研究・指導法(子どもの心の理解の方法)・評価まで、必須な実践力を総合的に養う。

授業の概要:

この授業は、小学校の図画工作科はどう指導すべきか、目標構造・内容領域ならびに指導と評価はいかにあるべきか、基礎的な理解と実践力をつけていく。授業では、図画工作科の学習領域にいかなる教材が考えられるのか。教科書の事例研究と構造分析を通して研究する。そして創造教科の指導法を考案し、先生側の一方的な指導ではなく、子どもの思いや意見を取り上げる実践力形成にポイントを置く。教材研究から指導案の立案・模擬授業の実施までの基本的な「全過程」を学びながら実践的な指導力向上を目指す。教科指導は、内容と指導方法が密着した関係にある。教材研究をして、「発見」「発想」「遊び」など創造過程の特質を深く学び、教材を準備し指導過程を見通して準備していく過程を検討するしつかりした力量形成をはかり、子どもの主体性や個性を引きだす指導や評価はどうあるべきかを実践的に研究する。

到達目標:

【到達目標】

(1)小学校図画工作科のカリキュラムの目標と内容領域の基本的理解と経験を持つ。

(2)小学校の指導計画(年次・年間・題材など)の立案方法を知る。

(3)表現および鑑賞の教育の教材研究を深め、模擬授業の実施体験から教育実践の全体的なイメージをつかむ。

(4)子どもの心の理解を深め、注入教育を克服するカウンセリングマインド(傾聴)の指導法等の意義を考える。

(5)子どもの芸術的な作品や学習過程の多面的な評価方法を考える。

授業方法:

講義、班でのディスカッション、教材研究(実習)、教科書研究(実物の検証、班での発表)、傾聴技法(ペア学習)、模擬授業(班編制による演習)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 【現代の初等図画工作科教育に求められているもの】 ガイダンス(図画工作科教育の意義(子どもの感性・創造性から)、子どもの感性の素晴らしさ、情操教育、理想とする図画工作科の先生像(アクティブラーニング方式)、我が国の学習指導要領の基本構造と学習領域)、図工班の決定	『小学校学習指導要領解説 図画工作編 平成20年8月』、文部科学省 p.5～p.8 を読んで初回の授業に参加して下さい。
2. 【2. 教材研究】4つの教材のアクティブラーニング ① 造形遊びの教材研究 色水遊び(水と水彩絵の具世界)	水彩絵の具体験の予習
3. ② 大きな空間で遊ぶ(キラキラひらひらなど:新聞紙・スズランテープ、)	紙の材料体験の予習
4. ③ 鑑賞の教材研究 子どもの感じる心を育てる鑑賞題材 ―子どもの生活、わが国、世界の文化、地域の文化―	地域・日本・世界の美術(調べ学習)
5. ④ 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動の教材研究 『造形コース』の作品を1つ選んでつくる。	『造形コース』の題材から1つを5回目につくるので、教科書を見て決めてきて欲しい。材料集め。
6. 【3. 我が国の図画工作教育 ―「学習指導要領」、「図画工作科」の構造― ・年次計画、年間計画、授業計画 ・学習指導要領の内容編成、系統性	
7. 【4. 現行教科書の題材分析(事例から)】 題材研究:教科書を自分たちで手にして、班で、図画工作の教科書を読み、学年毎にどのような内容が取り扱われているかディスカッション・交流発表会をする。	児童用教科書を通読。
8. 【5. 創造性や感性を育成する指導法の工夫】 創造の「活動」をスタートさせることの重要性。子どもの自己表現を育てるカウンセリングマインド(傾聴技法)のスキルアップ ○指導者の授業の組み立てと舵取りの在り方 ○指導言(発問、質問、リード)の工夫	
9. 【6. 図画工作科の指導案の書き方、評価の方法】 造形遊びの指導案の書き方	
10. 【7. 模擬授業】教材研究をして模擬授業(マイクロティーチング)を組み立てる。 6月～7月の活動: 子どもの指導法を工夫し、導入部分10分間の模擬授業を行う。班編成1班人8～9程度 (1)教材研究(ボールペン・ドローイング)	造形遊びの指導案の作成
11. ◎指導案の分析・評価 「指導案のチェック&チェック」 予告:この指導案は、添削して返却します。 【8. 模擬授業】 準備① 題材の選択・決定、指導法の検討	ボールペンドローイング(作品)制作
12. 準備② 指導案のチェック、 授業提示物の作成、印刷方法の紹介	模擬授業の指導案作成 板書、提示物の準備など
13. 模擬授業の実施① 1班 2班 3班	実施準備
14. 模擬授業の実施② 4班 5班 6班	実施準備
15. 模擬授業の反省会、創造教科の評価方法	児童用コメント用紙を読んで参加

受講者へのメッセージやアドバイス:

小学校の子どもたちに教育実習等で出会い、輝くまなざしの期待に応えていくことは、皆さんにとっても子どもたちにとっても大きな経験だと思います。教職科目は、その時に役立てていただかなければいけない性質の授業です。教育現場につかれてもお役に立てる内容に向けて努力していきたいと思っています。

フィードバックの方法:

作品や課題は、返却します。ポートフォリオにためて積み上げて下さい。
対応した「学びのカルテ」を作成し中間評価を開示します。
指導案は、添削して一人づつに返却します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	教科書分析など各種、課題の提出	10	提出物のA、B、C評価の3段階評価
	教材研究(作品の試作など)	10	提出物のA、B、C評価の3段階評価
	指導案	10	提出物のA、B、C、D、Eの5段階評価
	模擬授業をふまえた「最終レポート」	60	A、B、C、D、Eの5段階評価
	予習のなど取り組み態度 意欲的な取り組みに加点します。	10	提出物のA、B、C評価の3段階評価
教科書:	・竹内博 監修、『造形コース』、日本色研事業株式会社 ・『小学校学習指導要領解説 ―図画工作編―』、文部科学省		
参考書:	・村田利裕編、『図工科ワークショップ＜3＞高学年編』、明治図書出版 ・東山 明(編集)『図工科ワークショップ＜4＞イメージと発想の展開編』、明治図書出版		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	e-mail: 講義の初回に受講者に示します。		

授業テーマ:

授業の概要: 児童が「生きる力」を育むために、家庭科教育が果たすべき役割を理解し、その実現に向かって、小学校家庭科の意義や特質を理解するとともに、実習及び製作等の実技技能を体験を通して身につける。また、実践的に学習指導ができる力の育成を目指し、学習指導案を作成し、模擬授業及び事後検討会(グループディスカッション)を実施する。

到達目標: ・家庭科教育の特質と小学校家庭科が果たす役割及び学習指導要領に示された目標と内容を理解することができる
・調理実習の計画を立てて、実施することができる
・手縫いやミシン縫いの基礎的技能を習得し、小物作りの計画を立て、実施することができる
・模擬授業の学習指導案を作成し、提示物の準備、発問・板書計画を立てて模擬授業を実施することができる
・模擬授業後のディスカッションを受けて、修正指導案を作成することができる

授業方法: 授業形態は、講義、実習、模擬授業。1～3回は講義。4～8回は実技実習。9～14回は模擬授業のための教材研究、学習指導案の作成、模擬授業。15回はまとめと振り返り。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション「家庭科で育てたい力」	『初等家庭科教育法』pp.22～32「家庭科で育てたい力」を事前に読んでおく。
2.	小学校「家庭」の目標と内容に即した指導法1(A「家庭生活と家族」 B「日常の食事と調理の基礎」)	『小学校学習指導要領解説家庭編』pp.8～36を事前に読んでおくこと。
3.	小学校「家庭」の目標と内容に即した指導法2(C「快適な衣服とすまい」 D「身近な消費生活と環境」)	『小学校学習指導要領解説家庭編』pp.37～53を事前に読んでおくこと。
4.	教材と指導法B(1)「調理実習」計画	『わたしたちの家庭科5・6』pp.45～49(ご飯とみそしるをつくらう)を事前に読み、調理実習の見通しを持っておくこと。
5.	教材と指導法B(2)「調理実習」実習	前時に立案した実習計画を見直し、実習時の協力体制と自分の役割等を確認しておくこと。エプロン・三角巾・マスクを持参すること。
6.	教材と指導法C(1)製作実習1(手縫いとボタン付け)	『わたしたちの家庭科5・6』pp.18～24を事前に読み、手縫いの基本、ボタンのつけ方などのイメージをつかんでおくこと。
7.	教材と指導法C(2)製作実習2(ミシンの操作とミシン縫い)	『わたしたちの家庭科5・6』pp.34～37を事前に読み、ミシンの部分の名称を確認し、ミシン縫いのイメージをつかんでおくこと。
8.	教材と指導法C(3)製作実習3(小物づくり)	『わたしたちの家庭科5・6』pp.22～24, p.50, pp.88～95を参考に製作するものと製作の手順をイメージしておくこと。
9.	模擬授業のための準備(教材決定・教材研究)	『わたしたちの家庭科5・6』を参考に模擬授業を実施する教材の候補を考えてくること。
10.	模擬授業のための準備(学習指導案の作成・評価観点及び評価方法)	指示するフォーマットで学習指導案を作成すること。単元全体を見通して本時案の評価観点を検討すること。
11.	模擬授業のための準備(学習指導案の検討・授業準備)	効果的な指導ができるように、提示物やワークシートを用意し、発問、板書の計画を立てておく。
12.	模擬授業とディスカッション(1)	授業者・児童など役割分担を決めて模擬授業を実施し、事後のディスカッションを受けて、修正指導案を作成すること。
13.	模擬授業とディスカッション(2)	授業者・児童など役割分担を決めて模擬授業を実施し、事後のディスカッションを受けて、修正指導案を作成すること。
14.	模擬授業とディスカッション(3)	授業者・児童など役割分担を決めて模擬授業を実施し、事後のディスカッションを受けて、修正指導案を作成すること。
15.	まとめと振り返り	修正指導案を持参すること。

受講者へのメッセージやアドバイス: ・作成した学習指導案は、模擬授業時に提出してください。修正指導案は、第15回目に提出してください。(返却はいたしません)

フィードバックの方法: 調理実習、製作実習で使用したワークシートは、採点をして返却する。
製作実習で、作成した作品(運針用布・小物づくり)は、採点して返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実習レポート・作品	40	調理実習・製作実習の計画と実施状況を評価する。
	学習指導案・模擬授業・修正指導案	30	指導案・修正指導案の提出と模擬授業時の授業者の態度を評価する
	授業への積極的参加度	30	理由が認められない欠席は減点する

教科書: 加地芳子・大塚眞理子編著『初等家庭科教育法』ミネルヴァ書房
内野紀子他著『わたしたちの家庭科5・6』開隆堂
文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版社

参考書: 文部科学省国立教育政策研究所『評価基準の作成、評価方法等の工夫のための参考資料(小学校家庭)』教育出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: dwc.kuroda@gmail.com

授業テーマ：	体育科の目標・内容と指導法		
授業の概要：	体育科の目標と内容について理解を深めるとともに、学習指導の方法等について理解を深めていく。特に、体育科の各運動領域の個別の運動の特性を踏まえた教材設定について理解を深め、実践的な指導力を身につけることを目標とする。		
到達目標：	1.小学校体育科の目標、指導内容、評価方法について理解する。 2.各運動領域の内容を理解し、指導方法と指導力を身に付ける。 3.小学校の指導案を作成し、模擬授業ができるようになる。		
授業方法：	実践に即した指導力を身につけるため、講義やディスカッション、グループワーク、実習など多様な形態の学習を組み合わせ て授業を進める。		
「授業内容」 および 「準備学習等の 内容」：	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. スピーチ「私はこんな体育の授業がしたい」ー自分の もつ“体育授業”のイメージはー	自分のこれまでの体育・スポーツ経験を振り返り、2、3分の スピーチができるようにまとめること	
	3. 体育科は何を教える教科なのか		
	4. 体育授業作りのために1ー「教師の資質」の視点か らー		
	5. 体育授業作りのために2ー学習指導要領にみる体 育科の目標・運動領域・技能の内容1ー	小学校学習指導要領解説・体育編にある体育の目標につい て確認しておくこと	
	6. 体育授業作りのために3ー学習指導要領にみる体 育科の目標・運動領域・技能の内容2ー	小学校学習指導要領解説・体育編にある体育の各領域の 区分について確認しておくこと	
	7. 体育授業作りのために4ー学習指導要領にみる体 育科の内容と授業の実際1(器械運動系・陸上運動 系)ー	器械運動系、陸上運動系の指導内容、留意点について、指 導要領解説を参照し、前時に配布したプリントに記入してくる こと	
	8. 体育授業作りのために5ー学習指導要領にみる体 育科の内容と授業の実際2(水泳系・ボール運動系) ー	ボール運動系、水泳系の指導内容、留意点について、指導 要領解説を参照し、前時に配布したプリントに記入してくるこ と	
	9. 体育授業作りのために6ー学習指導要領にみる体 育科の内容と授業実際3(表現系・体づくり運動)ー	表現運動系、体づくり運動の指導内容、留意点について、指 導要領解説を参照し、前時に配布したプリントに記入してくる こと	
	10. 体育授業作りのために7ー学習指導要領にみる体 育科の内容と授業実際4(保健領域)ー	保健領域の指導内容、留意点について、指導要領解説を参 照し、前時に配布したプリントに記入してくること	
	11. 体育科学習指導案作成についてー指導案作成のた めの知識とポイントー	他教科の指導案作成についてポイント、留意点を確認して おくこと	
	12. 体育科学習指導案の実際と授業ー運動の特性と教 材化の実際・学習評価の考え方ー	評価規準と評価基準の概念の相違について調べておくこと	
	13. 体育科指導案作成	各班の課題運動領域の指導案事例を収集し、参考資料を作 成しておくこと	
	14. 模擬授業		
	15. まとめ		
受講者への メッセージや アドバイス：			
フィードバックの 方法：	授業カードは抜粋した上で後日の授業の冒頭で紹介し、口頭にてコメントを加える。 宿題として配布したプリントについては次時の授業中にまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	50	「運動」の概念並びに到達目標である小学校体育科の目標、指導内容、評 価方法について理解しているかについて、積極的な授業参加の観点から評 価する。
	試験	40	到達目標1,2について総合的にできているかについて小論文形式の記述試 験にて評価する
	課題の発表・提出物の内 容	10	主に作成した指導案を対象に到達目標3の観点から、できばえについて評 価する
教科書：	小学校学習指導要領解説 体育編 ※授業中も参照する		
参考書：	松田恵示、「「遊び」から考える体育の学習指導」、創文企画 西村 清和、「遊びの現象学」、勁草書房		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力：	思考力、創造力、コミュニケーション力		
教員との連絡 方法：	授業前後の教室内で対応		

授業テーマ:

授業の概要: 環境を通しての保育について具体的なイメージをもつ。

到達目標: 1. 「環境を通して行う」教育について具体的に理解する。
2. 改訂幼稚園教育要領の成り立ちと特徴を理解する。
3. ドキュメンテーション、マインドマップ、写真評価法 (PEMQ) の手法になじむ。

授業方法: 講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 幼稚園教育要領等の改訂について	現行幼稚園教育要領解説の前文を読んでおく。
	2. 「幼児教育において育みたい資質・能力」と現行幼稚園教育要領	改定のポイントについて整理しておく。必要な資料をダウンロードしておく。
	3. 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の接続について	資料やテキストの該当部分を読んでおく。
	4. ドキュメンテーションについて	プロジェクト・アプローチについて調べておく。
	5. 保育実践「匂いから始まるプロジェクト」ドキュメンテーション作成	プロジェクト・アプローチの事例を調べておく。
	6. マインドマップについて	「匂い」プロジェクトのドキュメンテーションを完成させる。
	7. 保育実践「ありさんのけっこんしき」ドキュメンテーション作成	課題のマインドマップを完成させる
	8. 保育実践「ありさんのけっこんしき・その後」マインドマップの作成	「ありさん」のドキュメンテーションを完成させる。
	9. 写真評価法 (PEMQ) について	「ありさん・その後」のマインドマップを完成させる。
	10. 保育環境構成について	『保育環境評価スケール①幼児版』を読み、復習しておく。
	11. マインドマップを作成し、それをもとに指導案作成。	スケールの項目に沿ってのポイントをまとめる。
	12. 模擬保育実施	指導案完成。
	13. 模擬保育の振り返りと指導案の修正。	模擬保育で見つかった課題の整理。
	14. 指導案についての討議	修正指導案の完成。
	15. まとめ	資料、テキスト等を通読しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 全体に解説。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出物	70%	課題の趣旨を理解し、的確な内容になっているか。わかりやすいか。表現上の自分なりの工夫があるか。
	定期試験	30%	設問に対する的確な回答・解答ができているか

教科書: 幼稚園教育要領 フレーベル館
幼稚園教育要領解説 フレーベル館
保育環境評価スケール①幼児版 法律文化社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に対応。

授業テーマ:	教育実習および準備と反省		
授業の概要:	教育実習は教育現場において、教員となるための実践的な能力と態度を養うとともに教育に携わる者としての使命と責任を自覚することを目指すものである。実習園・実習校においては、現場教員の指導を受けながら実際に幼児・児童の指導にあたり、今まで大学で身につけた保育・教科・教職に関する専門知識や技術の実践的な仕上げを行う。事前指導では教育実習の意義・目的を明確にし、実習に関わる全体の概要を把握しながら、効果的な実習ができるよう模擬保育・模擬授業や必要と思われる準備を行い、教育実習性としての自覚と資質を高める。事後指導では、教育実習後の留意事項を整理するとともに教育実習で得た教師に必要な資質・能力の定着を図る。		
到達目標:	1. 事前指導において、教育実習に関する知識を習得し準備すべき留意事項を理解する。 2. 教育実習を通して、教育実践の技量を獲得するとともに教育実践への関心・意欲・態度を高める。 3. 事後指導において、各自の教育実習を振り返り、発表し合うことにより、よりよい教育実践の在り方に関する知識を得るとともにその根拠を理解し、教育実践への関心・意欲・態度を一層高める。		
授業方法:	教育実習事前指導は主に講義形式で行う。教育実習は、学生各自が幼稚園もしくは小学校で、指導の先生のもとで行う。教育実習後は留意事項の講義の後に反省会を発表形式で行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス、教育実習の意義と実習生としての心構え 2. 教育実習前の留意事項 3. 教育実習中の留意事項 4. 幼児・児童の実態把握と理解の実際 5. 幼稚園及び小学校の学校組織・学校経営・学級経営の実際 6. 保育、学習指導、特別活動、安全など指導の実際（模擬保育・模擬授業） 7. 幼児、生徒指導の実際と教育相談 8. 幼稚園、小学校での実習 9. 教育実習後の処理事項と留意事項 10. 教育実習から学んだ教職の意義（討議） 11. 教育実習から学んだ教育技術（討議） 12. 教育実習から学んだ児童理解（討議） 13. レポートの提出と検討及び自己の課題・自己評価 14. 教育実習と教職 15. 総括	教育実習に向けての文献や資料の整理し授業内容を復習する。 教育実習に向けての文献や資料の整理し授業内容を復習する。 教育実習にむけての文献や資料の整理し授業内容を復習する。 保育および授業の計画と観察記録の方法を理解し復習する。 保育および授業の計画と観察記録の方法を理解し復習する。 保育および授業の計画と観察記録の方法を理解し復習する。 生徒指導、教育相談の在り方を理解し復習する。 実習中は実習校・園の指導を受け実習簿に記述する。 教育実習校に実習簿を提出する。 グループで話し合ったことの発表を準備する。 グループで話し合ったことの発表を準備する。 グループで話し合ったことの発表を準備する。 教育実習研究テーマに基づいて各自の実践をレポートにまとめる。 教育実習の振り返りの討議をもとに、教職の意義を各自まとめる。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	提出書類や提出物を期限内に提出すること		
フィードバックの方法:	事後指導における教育実習の発表会で、教員が指導助言を行うことにより、教育実習全体に関するフィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実習校からの評価	50	到達目標2に関する評価
	教育実習簿	20	到達目標1, 2に関する評価
	教育実習課題レポート	10	到達目標1, 2に関する評価
	教育実習報告書	10	到達目標3に関する評価
	授業への参加	10	到達目標1, 3に関する評価
教科書:	プリント資料を配布する。		
参考書:	授業時に適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	担当教員教員のオフィスアワー、授業前後に教室内で応対		

授業テーマ:	・自己表現力・豊かな表現力を備えた保育(教育)者になるために実践・演習発表を通して即戦力的な引き出しを作る		
授業の概要:	幼児音楽教育の理論や方法を理解した上でその理論や方法を用いて保育実践ができるような力量を高めることを目的とし「幼児の音楽性を育む・音楽活動を創造する保育者になるため」といった内容を講義・演習します。保育指導案の立案・小さな音楽会を企画・立案し発表会を行う。		
到達目標:	* 本講義では、音楽的表現の保育内容について理解し、学生一人ひとりが楽しく表現活動に取り組み、音楽を通して自己表現力を高めていくことを目的とする。 * 模擬実習を通して豊かな感性と表現能力及びコミュニケーション力を高める。 * 幼児の音楽表現活動を理解し、指導計画の立案と援助が工夫できるようにする。		
授業方法:	・乳幼児の発達段階に応じて、実際に指導するための指導案や教材等を作成し、模擬授業の実践を通して幼児音楽のについての理解を深める。(実習形式での体験を通して得た気づきから、実践力を身につける) ・演習・実習を中心に進め、平易な講義も併用する。 ・幼児音楽における教育課程・保育課程をもとに、ねらいや環境の構成教師の援助と対応させて、指導計画を作成できるようにする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 幼児と音楽・表現について・オリエンテーション		
	乳幼児の音楽表現とは		
	2. (1)うたう活動 歌遊び 年齢別 こどもの歌の分類と実践 導法と指導例	歌唱指	各グループごとに小さな音楽にむけての内容を企画・立案するうえで必要なものを毎回各自で事前研究を行う
	3. (2)うたう活動 わらべうた ・わらべうたの定義と遊びの実習 ・旋律と歌い方		同上
	4. わらべうた総合実習・研究発表		同上
	5. ひく活動 ・楽器の基本的奏法 ・楽器の指導方法と指導例		タイムテーブルを立て練習法を各パートごとに考えてくる発表会にむけての企画運営を考える。
	6. 演奏のワークショップ・グループでの即興演奏発表		反省などとする配布されたプリントを宿題とする
	7. うごく活動 リトミックについて・基礎リズム (リズムの理念と定義)		プリント提出する
	8. うごく活動 リトミックについて ・実例・指導法		保育実践の内容研究をする。 実践に必要な教材研究をし、作成する。
	9. リズム遊びの実例 ことばと音の即興		保育実践内容の検討
	10. 幼児音楽における教育課程・保育課程の内容理解 ねらい・環境構成・教師の援助		指導案を作成し提出する。
	11. 保育案と指導計画の立て方 発達段階に応じた指導計画案の作成と指導方法		添削された指導案にもとづき、作成し直す。
	12. 模擬保育 指導計画案の模擬実技発表・評価(グループ討議)		最終の保育指導案提出。
	13. 模擬保育 指導計画案の模擬実技発表・評価(グループ討議)		
	14. 模擬保育 指導計画案の模擬実技発表・評価(グループ討議)		模擬保育の反省を書き加え保育指導案提出する。。
	15. 総括 (指導案・カリキュラムの検討)		
受講者へのメッセージやアドバイス:	幼児音楽を通して、保育者として、自己表現力を豊かなものに開発されることを望みます。		
フィードバックの方法:	保育実践の内容・指導案作成・教材研究については、一人ひとりに丁寧にかかわる。添削・撮影したビデオ分析しながら、その都度、見直したり反省会を行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点・授業態度	40	出席率・教材研究ができているか。課題に前向きに取り組む姿勢
	演習発表	30	グループ発表・プレゼンテーション・コミュニケーション力 模擬保育・表現・自己実現できているか
	提出物	30	レポート内容
教科書:	特になし(必要に応じてプリントを配布します)		
参考書:	必要に応じて授業の中で提示する プリント等、資料配布		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	メール・電話		

授業テーマ:

授業の概要: 日本における社会的養護の展開と現状を理解し、今後の課題や専門職の支援の在り方等について考察する。

到達目標: 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 社会的養護と児童家庭福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。
3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

授業方法: 講義形式を主体に実施し、適宜グループディスカッションなどを行う。
講義レジュメ・資料を多数用いるため、資料を整理・保管しやすいファイル等を用意しておいてください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会的養護の理念と概念	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
2.	児童家庭福祉の現状と社会的養護	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
3.	社会的養護と児童の権利	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
4.	社会的養護の歴史的変遷	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
5.	社会的養護に関する法制度	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
6.	社会的養護の実施体系	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
7.	家庭的養護の特質・基本原理	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
8.	家庭的養護の特質・基本原理	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
9.	施設養護の実際1－日常生活支援・治療的支援等	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
10.	施設養護の実際2－家族・地域支援等	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
11.	社会的養護とソーシャルワーク	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
12.	社会的養護の専門職－資質・倫理	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
13.	施設等の運営管理	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
14.	社会的養護の課題－地域福祉と被措置児童等の虐待防止	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。
15.	まとめ	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは、次回講義までに一読しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 適宜、講義アンケート等を活用する等、受講生の学習状況を把握し助言・補足説明等を実施する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	60	期末筆記試験(60点満点)における得点
	出席状況	40	全ての授業に出席したものを40点とし、欠席1回(-3)、欠席2回(-8)、欠席3回(-15)まで()のように減点する。欠席4回以上で出席点を0点とする。

教科書:

参考書: 有村大士ほか編『こども家庭福祉』ミネルヴァ書房.
相澤仁ほか編『社会的養護』中央法規出版.
相澤仁ほか編『社会的養護内容』中央法規出版.

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法: 連絡が必要であれば、e-mail:f-kura@sta.tenri-u.ac.jp へ連絡をください。

授業テーマ:

保育のために子どもの発達・心理を理解する

授業の概要:

保育対象となる乳幼児の発達に関する基礎的な知識を学び、理解を深め、それらを活用できる力を習得する。
厚生労働省により通知されている以下の3つの課題を授業目標とする。
1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
2. 生活や遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習のプロセスを理解する。
3. 保育における発達援助について学ぶ。

到達目標:

上記に挙げた授業目標をふまえて、乳幼児の発達メカニズムや学習のプロセスを理解し、その知識の活用に向けたイメージを形成する。そのため、実際に子どもの発達を援助し、保育指導に活かすための方法を考えてみたり、それを他者に理解できるように表現の形にできるように思考をまとめていく。

授業方法:

講義と園主を交えた形式で実施する。テーマによっては、個別のワークを行うこともあれば、小グループでのワークやディスカッションに基づき発表を行うこともある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	子ども理解における発達の把握	春学期に既習の発達心理学に関する専門用語を振り返っておく。
2.	個人差や発達過程に応じた保育	乳幼児の発達検査や観察法について既習の知識があれば振り返っておく。
3.	身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用	子どもの身体的発達について予習しておく。
4.	環境としての保育者と子どもの発達	子どもと養育者の愛着関係について理論を予習しておく。
5.	子ども同士のかかわりと関係づくり	子どもの人間関係についての発達を調べておく。
6.	子どもの集団と保育の環境	家庭と保育集団での子どもの育ちについて考えておく。現代の子どもの育つ環境についての問題についても調べてみる。
7.	子どもの生活と学び	子どもの生理的発達によってできることとしつけ(学習)によってできることの違いについて考える。
8.	基本的生活習慣の獲得	子どもが身に着けるべき習慣、行動について、年齢に応じた違いを考えておく。
9.	子どもの遊びと学び	子どもにとっての遊びの意義は何か、考えておく。
10.	主体性の形成	主体性を育む、発達の基盤は何か心理学的観点から考えておく。
11.	自己主張と自己抑制	子どもの発達において、自己主張ができるのはいつごろか、また他児・他者との関係を意識し始めるのはいつごろかについて調べておく。
12.	生涯にわたる生きる力の基礎を培う	乳幼児期に身につけておきたい基礎的な力は何かを考えておく。
13.	発達と学びの連続性と就学支援	就学後の学習生活と幼児期の集団生活の違いについて考える。
14.	発達援助における協働	「気になる子」「発達障害」について既習の知識を振り返ってまとめる。
15.	現代社会における子どもの発達と保育の課題	近年問題になっている、子どもを取り巻く社会現象や実際の課題についてまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

わからない専門用語については、予習復習で理解を深めておいてください。不明なことは質問等で解消できるようにしておいてください。
現代の子どもたちの育ちや保育に関する問題については、積極的に新聞、ニュース、文献等で情報を収集して問題意識を持ち、理解を深めておくことが望ましいです。

フィードバックの方法:

授業内でのプレゼンテーションには、随時コメントによるフィードバックをします。また、授業中の課題等の提出物については、採点し、可能な限りコメントをつけて最終授業までに、教室内で返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業中の課題	40%	授業内容の理解度、課題への思考力やその結果としての表現力を評価します。
	グループ発表	20%	グループでの自分の役割と達成度、またグループ発表の成果から見られる理解度や表現力を評価します。
	期末レポート	40%	到達目標にあるように、子どもの発達メカニズムや学習のプロセスを理解し、それを踏まえた援助や保育指導についての理解度や思考の深まりについて論理的な説明ができるかを評価します。

教科書:

参考書:

公益財団法人 児童育成協会監修／清水益治他編集 2015 保育の心理学Ⅱ 中央法規
公益財団法人 児童育成協会監修／杉村伸一郎他編集 2015 保育の心理学Ⅰ 中央法規
清水益治・無藤隆編著 2011 保育の心理学Ⅱ 北大路書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。Eメール等で連絡が必要な場合は、授業時に連絡先を提示します。

授業テーマ:

3歳未満児の育ちを支える

授業の概要:

講義・演習を通して、乳児保育の理念・内容・方法について理解する。

到達目標:

1. 乳児保育の理念と役割を理解する。
2. 3歳未満児を対象とした保育を環境を通した養護と教育の一体的実施として理解する。
3. 3歳未満児の発達を踏まえた生活と遊びの援助について体系的に理解する。

授業方法:

前半は講義形式、後半以降は視聴覚教材や実際に乳児保育に用いられる玩具等を使用し演習形式で授業を行う。
なお、後半ではグループ毎に課すテーマについて発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 乳児保育とは何か	教科書を熟読する
2.	乳児保育の歴史の変遷と現代的役割	保育原理・社会福祉等関連科目の復習
3.	3か月未満児の発達と保育内容	教科書を熟読する
4.	3か月から6カ月未満児の発達と保育内容	教科書を熟読する
5.	6か月から12カ月未満児の発達と保育内容	教科書を熟読する
6.	1歳から2歳未満児の発達と保育内容	教科書を熟読する
7.	2歳から3歳未満児の発達と保育内容	教科書を熟読する
8.	3歳未満児の保育における教育	保育原理等関連科目の復習
9.	3歳未満児の保育環境1保育所	教科書を熟読する
10.	3歳未満児の保育環境2乳児院	子ども家庭福祉等関連科目の復習
11.	摂食行動の発達と生活援助	子どもと保健等関連科目の復習
12.	排泄のメカニズムと生活援助	子どもと保健等関連科目の復習
13.	乳児保育における保育技術	教科書を熟読する
14.	保育と保護者支援・関係機関との連携	子ども家庭福祉・家庭支援論等関連科目の復習
15.	総括	これまでの授業内容を復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物および発表は授業内でコメントする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業参画度	30	講義・演習への参画の度合いを評価する
	グループ発表	20	グループ発表での役割と達成度、内容が到達目標2. 3を踏まえたものになっているかについて評価する
	レポート	50	到達目標1. 2. 3を踏まえた内容になっているか、まとめの仕上がり具合について評価する

教科書:

「乳児保育―一人ひとりが大切に育てられるために」吉本和子 エイデル研究所

参考書:

「乳児保育の実際～子どもの人格と向き合って～」コダーイ芸術教育研究所 明治図書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	専門職として保護者の子育てを支える		
授業の概要:	講義・演習を通じて保護者支援のための知識を技術を学ぶ		
到達目標:	1.保育相談支援の意義と原則を理解する 2.保育相談支援の実際を学び、内容や方法について理解する 3.保護者支援の基本を理解する 4.保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する		
授業方法:	講義とともにグループディスカッション、グループワーク等を取り入れながら進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション 保育相談支援とは	テキストを熟読する	
	2. 保育相談支援の意義	テキストを熟読する	
	3. 保育の特性と保育士の専門性を活かした支援	テキストを熟読する	
	4. 保育相談支援の基本(1)子どもの最善の利益	テキストを熟読する	
	5. 保育相談支援の基本(2)子どもの成長の喜びの共有	テキストを熟読する	
	6. 保育相談支援の基本(3)保護者の養育力の向上に資する支援	テキストを熟読する	
	7. 保育相談支援の基本(4)信頼関係を基本とした関わり、自己決定・秘密保持	テキストを熟読する	
	8. 保育相談支援の基本(5)地域の資源の活用・関係機関との連携	テキストを熟読する	
	9. 保護者支援の方法と技術(1)直接的援助に用いるもの	相談援助等関連科目の復習	
	10. 保護者支援の方法と技術(2)間接的援助に用いるもの	相談援助等関連科目の復習	
	11. 保護者支援の展開過程	相談援助等関連科目の復習	
	12. 保護者支援の計画、評価	相談援助等関連科目の復習	
	13. 保護者支援の実際(1)保育所	テキストを熟読する	
	14. 保護者支援の実際(2)保育所以外の児童福祉施設	テキストを熟読する	
	15. 総括	これまでの授業内容の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出物・発表については授業内でコメントする		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	30	授業に積極的に参画する度合いを評価する
	発表・討論	20	グループでの役割と達成度、内容については到達目標2.4についての理解を踏まえているかどうかについて評価する
	レポート	50	到達目標1. 3を踏まえ、論理的に記述されているかどうかについて評価する。
教科書:	保育相談支援 柏女霊峰・橋本真紀(編)ミネルヴァ書房		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後で教室内で対応する		

授業テーマ:	障がいのある子もない子も ともに育ちあう豊かな保育について考える。		
授業の概要:	障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について、障がいについて理解するとともに、こどもの理解や援助の方法、環境構成等を学ぶ。また、保育の計画、個別支援、育ち合う保育実践、保護者への支援や関係機関との連携および、こどもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題についての理解を深める。		
到達目標:	1. 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障がい児およびその保育について理解する。 2. 様々な障がいについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障がいのある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ちあう保育実践について理解を深める。 4. 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。		
授業方法:	演習 事例からその対応を演習にて考えることを通して、障がい児保育の実践において必要な考え方や知識の定着を図る。 ・できるだけ具体例を示して、保育現場での実態を想像し理解できるように進める。 ・教科書を予習をして授業にのぞむこと。 ・支援方法や実態把握に関して、グループディスカッションを行う。 ・必要に応じて要点を記載したプリントを配布するが、プリントを参考にしながら自分でノートを作成すること。 ・教科書を持参すること。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 障がい児保育を支える理念 (1)「障がい」の概念と障がい児保育の歴史の変遷 2. 障がい児保育を支える理念 (2)障がい児保育の基本 3. 障がい児保育の実際 子ども同士のかかわりと育ち合い・職員間の協働 4. 障がいの理解と保育における発達の援助 (1)知的障がい児の理解と援助 5. 障がいの理解と保育における発達の援助 (2)発達障がい児の理解と援助(ADHD、LD等 6. 障がいの理解と保育における発達の援助 (3)発達障がい児の理解と援助(PDD等) 7. 障がいの理解と保育における発達の援助 (4)肢体不自由児・病弱児の理解と援助 8. 障がいの理解と保育における発達の援助 (5)視覚障がい児の理解と援助 9. 障がいの理解と保育における発達の援助 (6)聴覚障がい児の理解と援助 10. 家庭及び関係機関との連携 (1)小学校との連携 (2)保護者や家族に対する理解と支援 (3)地域の専門機関等との連携 11. 家庭及び関係機関との連携 (4)個別の支援計画の作成 12. 障がい児保育の実際 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 13. 障がい児保育の実際 個々の発達を促す生活や遊びの環境 14. 障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題 (1)保健・医療における現状と課題 (2)福祉・教育における現状と課題 (3)支援の場の広がりとながり 15. まとめ	「この子らを世の光に」という言葉について事前学習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと 教科書を読んで予習をしておくこと 教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと 教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと 教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと 教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと 教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと 教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと 教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	障がい児を取り巻く現状について理解するとともに、その対応について何が大切なのか、自分で考えることを通して理解を深めていってほしいと考えています。		
フィードバックの方法:	授業内に出す課題については、その後の授業でコメントをする。 提出課題については、採点して返却する。 ≈30%、レポート30%、期末試験40%をもとに、総合的に判断する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標2～3について自分の考えを述べることができる。
	レポート	30	到達目標1～5を理解した上で、自分が考える保育についてその理由とともに具体的に説明ができるかを基準とする。
	期末試験	40	到達目標1～5に関する知識や理解度により評価する。特に到達目標2～4については、自分の目指す保育について論理的に説明できるかを基準とする。
教科書:	七木田敦編著『キーワードで学ぶ 障がい児保育入門』保育出版社		
参考書:	『キミヤーズの教材・教具 知的好奇心を引き出す』村上公也、赤木和重編著、クリエイツかもがわ 『新版 テキスト障害児保育』近藤直子ほか、全障研出版社 『気になる子と言わない保育』赤木和重、岡村由紀子編著、ひとなる書房 『わかってほしい！気になる子 自閉症・ADHDなどと向き合う保育』田中康雄監修、学研 『育てにくい子に悩む保護者サポートブック 保育者にできること』高山恵子監修、学研		

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

授業の概要: 社会的養護領域の中での具体的な支援場面において、期待される専門職としての知識・技術・倫理等を養成する。

到達目標: 1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。
3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。
4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。
5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。

授業方法: グループワークを中心とした演習形式で行う。
必要に応じて講義を追加する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 被措置児童等の権利擁護	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
2. 保育士等の倫理及び責務	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
3. 施設養護の特性及び実際	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
4. 家庭的養護の特性及び実際	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
5. 施設等における個別支援計画の作成	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
6. 施設等における日常生活支援に関する事例分析	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
7. 施設等における治療的支援に関する事例分析	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
8. 施設等における自立支援に関する事例分析	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
9. 家族支援に関する事例分析	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
10. 記録及び自己評価	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
11. 保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
12. ソーシャルワークの知識・技術とその応用	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
13. 施設の小規模化と地域資源の活用	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
14. 社会的養護の課題と展望	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
15. 総括	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: グループワークの発表に対するコメント、提出課題に対する評価等を通じて受講生の学習が深まるように支援する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
社会的養護に関する施設状況や利用者に対する支援等についての理解度を評価(発表・課題等)	65	65点:意欲的に課題に取り組み、かつクラス全体への貢献をしたもの。 55点:真摯に課題に取り組み、要求された課題を満たしたものの。 45点:課題達成にある程度の熱意が感じられるもの。 35点:課題に何らかのかたちで応えたものの。 25点:上記のどれにも該当しないもの。
演習に主体的に参加する姿勢を評価(主に出席回数)	35	授業への姿勢(出席回数を含む)は、以下のように評価する。 35点:全出席 30点:欠席1回 25点:欠席2回 20点:欠席3回 欠席4回以上については0点とする。

教科書:

参考書: 相澤仁・村井美紀編『社会的養護内容』中央法規出版。
有村大士ほか編『こども家庭福祉』ミネルヴァ書房。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法: 連絡が必要であればe-mail:f-kura@sta.tenri-u.ac.jp へ連絡してください。

授業テーマ:	子どもの心身の発育や機能の発達、疾病等について学び、子どもの保育保健の知識を得る																																		
授業の概要:	子どもの『健康』と『保健』の意義を知り、子どもの身体の解剖・生理や正常な発育・発達について学ぶ。 又、精神保健の現状と問題点や、保育施設の衛生・安全管理や母子保健事業について学ぶ。 身体も心も一人一人違う子ども達が発する小さなサインを見逃さず、現場で動ける保育士になれるように学ぶ。 保育士課程では次年度の『こどもの保健ⅠB』や『こどもの保健Ⅱ～演習Ⅱ』につながるものである。																																		
到達目標:	子どもの身体発育や運動・精神各機能の発達、またそれらの障害等の基礎的知識を理解していく。 保育士には子どもの安全と健康を守る責務がある。言い換えると『子どもの生命』を預かる職業である。この事を充分自覚し、子どもを育む立場として積極的・意欲的な姿勢を持って学ぶ。 単なる知識にとどまらず、常に現場に自分を想定し、その知識に基づいて正しい判断や行動がとれるようになる事を目標とする。又、日々社会で起こるニュースや問題点に常に目を向け、保育や医療の新しい情報・知識を得る習慣を身につける。																																		
授業方法:	講義形式																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 子どもの健康の概念と健康指標(実践と課題)</td><td>教科書「健康の概念・実践・課題」を読んでおく</td></tr><tr><td>2. 保健の意義・生物としてのヒトの成り立ち(生命の意義)</td><td>教科書「保健の意義・ヒトの成り立ち」部分を読んでおく</td></tr><tr><td>3. 子どもの成長・発達の経過、発育区分・発育の原則</td><td>教科書「子どもの発育・発達」部分を読んでおく</td></tr><tr><td>4. 胎児期・新生児期の身体的発育・発達の特徴と評価・問題点</td><td>教科書「胎児・新生児の発育・発達」部分を読んでおく</td></tr><tr><td>5. 乳児期・幼児期・学童期の身体的発育・発達の特徴と評価・問題点</td><td>教科書「乳幼児の発育・発達」部分を読んでおく</td></tr><tr><td>6. 子どもの運動機能及び精神機能の発達、情緒・行動の発達と保健</td><td>教科書「運動機能・精神機能」部分を読んでおく</td></tr><tr><td>7. 子どもの生理機能(呼吸機能)の特徴と関連疾患</td><td>教科書「呼吸機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認</td></tr><tr><td>8. 前半の確認テスト 子どもの生理機能(循環機能)の特徴と関連疾患</td><td>教科書「循環機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認</td></tr><tr><td>9. 子どもの生理機能(免疫・消化機能)の特徴と関連疾患</td><td>教科書「免疫・消化機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認</td></tr><tr><td>10. 子どもの生理機能(排泄・水分代謝機能)の特徴と関連疾患</td><td>教科書「泌尿器機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認</td></tr><tr><td>11. 子どもの生理機能(体温調節・内分泌機能)の特徴と関連疾患</td><td>教科書「体温・内分泌機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認</td></tr><tr><td>12. 子どもの生理機能(感覚・神経機能)の特徴と関連疾患</td><td>教科書「感覚・神経機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認</td></tr><tr><td>13. 子どもの生理機能(栄養・睡眠)の特徴と生活習慣や環境</td><td>教科書「栄養・睡眠」部分を読んでおく</td></tr><tr><td>14. 子どもの精神保健(家庭や社会環境、心の健康)問題点と課題</td><td>教科書「精神保健」部分を読んでおく</td></tr><tr><td>15. 子どもの精神保健(問題行動・虐待・発達障害)</td><td>教科書「精神保健」部分を読んでおく</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 子どもの健康の概念と健康指標(実践と課題)	教科書「健康の概念・実践・課題」を読んでおく	2. 保健の意義・生物としてのヒトの成り立ち(生命の意義)	教科書「保健の意義・ヒトの成り立ち」部分を読んでおく	3. 子どもの成長・発達の経過、発育区分・発育の原則	教科書「子どもの発育・発達」部分を読んでおく	4. 胎児期・新生児期の身体的発育・発達の特徴と評価・問題点	教科書「胎児・新生児の発育・発達」部分を読んでおく	5. 乳児期・幼児期・学童期の身体的発育・発達の特徴と評価・問題点	教科書「乳幼児の発育・発達」部分を読んでおく	6. 子どもの運動機能及び精神機能の発達、情緒・行動の発達と保健	教科書「運動機能・精神機能」部分を読んでおく	7. 子どもの生理機能(呼吸機能)の特徴と関連疾患	教科書「呼吸機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認	8. 前半の確認テスト 子どもの生理機能(循環機能)の特徴と関連疾患	教科書「循環機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認	9. 子どもの生理機能(免疫・消化機能)の特徴と関連疾患	教科書「免疫・消化機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認	10. 子どもの生理機能(排泄・水分代謝機能)の特徴と関連疾患	教科書「泌尿器機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認	11. 子どもの生理機能(体温調節・内分泌機能)の特徴と関連疾患	教科書「体温・内分泌機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認	12. 子どもの生理機能(感覚・神経機能)の特徴と関連疾患	教科書「感覚・神経機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認	13. 子どもの生理機能(栄養・睡眠)の特徴と生活習慣や環境	教科書「栄養・睡眠」部分を読んでおく	14. 子どもの精神保健(家庭や社会環境、心の健康)問題点と課題	教科書「精神保健」部分を読んでおく	15. 子どもの精神保健(問題行動・虐待・発達障害)	教科書「精神保健」部分を読んでおく		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 子どもの健康の概念と健康指標(実践と課題)	教科書「健康の概念・実践・課題」を読んでおく																																		
2. 保健の意義・生物としてのヒトの成り立ち(生命の意義)	教科書「保健の意義・ヒトの成り立ち」部分を読んでおく																																		
3. 子どもの成長・発達の経過、発育区分・発育の原則	教科書「子どもの発育・発達」部分を読んでおく																																		
4. 胎児期・新生児期の身体的発育・発達の特徴と評価・問題点	教科書「胎児・新生児の発育・発達」部分を読んでおく																																		
5. 乳児期・幼児期・学童期の身体的発育・発達の特徴と評価・問題点	教科書「乳幼児の発育・発達」部分を読んでおく																																		
6. 子どもの運動機能及び精神機能の発達、情緒・行動の発達と保健	教科書「運動機能・精神機能」部分を読んでおく																																		
7. 子どもの生理機能(呼吸機能)の特徴と関連疾患	教科書「呼吸機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認																																		
8. 前半の確認テスト 子どもの生理機能(循環機能)の特徴と関連疾患	教科書「循環機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認																																		
9. 子どもの生理機能(免疫・消化機能)の特徴と関連疾患	教科書「免疫・消化機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認																																		
10. 子どもの生理機能(排泄・水分代謝機能)の特徴と関連疾患	教科書「泌尿器機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認																																		
11. 子どもの生理機能(体温調節・内分泌機能)の特徴と関連疾患	教科書「体温・内分泌機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認																																		
12. 子どもの生理機能(感覚・神経機能)の特徴と関連疾患	教科書「感覚・神経機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認																																		
13. 子どもの生理機能(栄養・睡眠)の特徴と生活習慣や環境	教科書「栄養・睡眠」部分を読んでおく																																		
14. 子どもの精神保健(家庭や社会環境、心の健康)問題点と課題	教科書「精神保健」部分を読んでおく																																		
15. 子どもの精神保健(問題行動・虐待・発達障害)	教科書「精神保健」部分を読んでおく																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	高校で学んだ「生物」の教科書等で、基本的な身体のしくみ、働きを確認しておく																																		
フィードバックの方法:	授業内確認試験、及びレポートは教室で返却																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>50%</td><td>身体各分野の解剖・生理、及び発育・発達に関する知識</td></tr><tr><td>授業内確認試験</td><td>25%</td><td>授業第1回～7回の知識の確認</td></tr><tr><td>レポート</td><td>15%</td><td>精神保健に関わる問題や傷害を1つ調べ提出</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>10%</td><td>出席及び～ペーパー提出</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	50%	身体各分野の解剖・生理、及び発育・発達に関する知識	授業内確認試験	25%	授業第1回～7回の知識の確認	レポート	15%	精神保健に関わる問題や傷害を1つ調べ提出	授業への参加度	10%	出席及び～ペーパー提出																			
評価方法	割合	評価基準																																	
定期試験	50%	身体各分野の解剖・生理、及び発育・発達に関する知識																																	
授業内確認試験	25%	授業第1回～7回の知識の確認																																	
レポート	15%	精神保健に関わる問題や傷害を1つ調べ提出																																	
授業への参加度	10%	出席及び～ペーパー提出																																	
教科書:	佐藤 益子 編著『子どもの保健Ⅰ』(ななみ書房)																																		
参考書:	佐藤 益子 編著『子どもの保健Ⅱ』(ななみ書房) 巷野 吾朗 監修『最新 保育保健の基礎知識』(日本小児医事出版社)																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

464300

こどもの保健ⅠB

倉田 恵子

授業テーマ:	子どもの正常な心身の発育・発達を理解した上で、疾病や外傷等の処置、更に予防や安全対策の知識を得る																																		
授業の概要:	これは『子どもの保健ⅠA』に続く科目である。「ⅠA」で学んだ子どもの身体発育や生理機能を踏まえた上で、発育過程にある子ども達に特有な疾患の症状やケア、その予防について学ぶ。 子どもならではの難しさを理解し、正しい観察力や判断力、特に集団の中で予防医学的観点からも適切な対応をする為に、より具体的な知識を学ぶ。																																		
到達目標:	子どもに特有な疾患や症状、感染症について理解し、現場で正しく観察・判断する力を獲得する。 (1)子どもの疾病とその症状の特徴や対処を理解する。 (2)子どもの感染症と予防について理解する。 (3)子どものけがと応急処置について学ぶ。 (4)保育施設の衛生管理・安全管理・母子保健事業について学ぶ。																																		
授業方法:	講義形式																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 「子どもの保健ⅠA」の確認 子どもの観察のポイント</td><td>「子どもの保健ⅠA」を復習しておく</td></tr><tr><td>2. 子どもの生活習慣と環境(食事と歯)</td><td>教科書「生活習慣」の部分を読んでおく</td></tr><tr><td>3. 子どもの生活習慣と環境(排泄・清潔・衣類)</td><td>教科書「生活習慣」の部分を読んでおく</td></tr><tr><td>4. 子どもの症状(発熱・咳)と関連疾患及び対処</td><td>教科書「発熱・咳」を読んでおく</td></tr><tr><td>5. 子どもの症状(嘔吐・下痢／腹痛)と関連疾患及び対処</td><td>教科書「嘔吐・下痢」を読んでおく</td></tr><tr><td>6. 子どもの症状(脱水・発疹)と関連疾患及び対処</td><td>教科書「脱水・発疹」を読んでおく</td></tr><tr><td>7. アレルギー疾患(喘息・アトピー・じんましん)と対処</td><td>教科書「アレルギー」を読んでおく</td></tr><tr><td>8. 前半確認テスト 緊急症状と処置(誤飲・けいれん・呼吸停止)</td><td></td></tr><tr><td>9. 感染症(経路・分類) 予防接種(抗体のしくみ、現行の予防接種)</td><td>教科書「感染症・予防接種」を読んでおく</td></tr><tr><td>10. 子どもに多い感染症 (麻疹・風疹・突発性発疹)</td><td>教科書「感染症～麻疹・風疹・突発性発疹」を読んでおく</td></tr><tr><td>11. 子どもに多い感染症 (水痘・流行性耳下腺炎・その他)</td><td>教科書「水痘・流行性耳下腺炎」を読んでおく</td></tr><tr><td>12. 子どもの重大な疾患(先天性疾患)</td><td>教科書「先天性疾患」を読んでおく</td></tr><tr><td>13. 子どもの重大な疾患(後天性疾患)</td><td>教科書「後天性疾患」を読んでおく</td></tr><tr><td>14. 日常生活の支障をきたす疾病・問題行動</td><td>教科書「問題行動」を読んでおく</td></tr><tr><td>15. 子どもの事故と衛生管理・母子保健事業・子どもの保健のまとめ</td><td>教科書「安全管理・母子保健事業」を読んでおく</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 「子どもの保健ⅠA」の確認 子どもの観察のポイント	「子どもの保健ⅠA」を復習しておく	2. 子どもの生活習慣と環境(食事と歯)	教科書「生活習慣」の部分を読んでおく	3. 子どもの生活習慣と環境(排泄・清潔・衣類)	教科書「生活習慣」の部分を読んでおく	4. 子どもの症状(発熱・咳)と関連疾患及び対処	教科書「発熱・咳」を読んでおく	5. 子どもの症状(嘔吐・下痢／腹痛)と関連疾患及び対処	教科書「嘔吐・下痢」を読んでおく	6. 子どもの症状(脱水・発疹)と関連疾患及び対処	教科書「脱水・発疹」を読んでおく	7. アレルギー疾患(喘息・アトピー・じんましん)と対処	教科書「アレルギー」を読んでおく	8. 前半確認テスト 緊急症状と処置(誤飲・けいれん・呼吸停止)		9. 感染症(経路・分類) 予防接種(抗体のしくみ、現行の予防接種)	教科書「感染症・予防接種」を読んでおく	10. 子どもに多い感染症 (麻疹・風疹・突発性発疹)	教科書「感染症～麻疹・風疹・突発性発疹」を読んでおく	11. 子どもに多い感染症 (水痘・流行性耳下腺炎・その他)	教科書「水痘・流行性耳下腺炎」を読んでおく	12. 子どもの重大な疾患(先天性疾患)	教科書「先天性疾患」を読んでおく	13. 子どもの重大な疾患(後天性疾患)	教科書「後天性疾患」を読んでおく	14. 日常生活の支障をきたす疾病・問題行動	教科書「問題行動」を読んでおく	15. 子どもの事故と衛生管理・母子保健事業・子どもの保健のまとめ	教科書「安全管理・母子保健事業」を読んでおく		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 「子どもの保健ⅠA」の確認 子どもの観察のポイント	「子どもの保健ⅠA」を復習しておく																																		
2. 子どもの生活習慣と環境(食事と歯)	教科書「生活習慣」の部分を読んでおく																																		
3. 子どもの生活習慣と環境(排泄・清潔・衣類)	教科書「生活習慣」の部分を読んでおく																																		
4. 子どもの症状(発熱・咳)と関連疾患及び対処	教科書「発熱・咳」を読んでおく																																		
5. 子どもの症状(嘔吐・下痢／腹痛)と関連疾患及び対処	教科書「嘔吐・下痢」を読んでおく																																		
6. 子どもの症状(脱水・発疹)と関連疾患及び対処	教科書「脱水・発疹」を読んでおく																																		
7. アレルギー疾患(喘息・アトピー・じんましん)と対処	教科書「アレルギー」を読んでおく																																		
8. 前半確認テスト 緊急症状と処置(誤飲・けいれん・呼吸停止)																																			
9. 感染症(経路・分類) 予防接種(抗体のしくみ、現行の予防接種)	教科書「感染症・予防接種」を読んでおく																																		
10. 子どもに多い感染症 (麻疹・風疹・突発性発疹)	教科書「感染症～麻疹・風疹・突発性発疹」を読んでおく																																		
11. 子どもに多い感染症 (水痘・流行性耳下腺炎・その他)	教科書「水痘・流行性耳下腺炎」を読んでおく																																		
12. 子どもの重大な疾患(先天性疾患)	教科書「先天性疾患」を読んでおく																																		
13. 子どもの重大な疾患(後天性疾患)	教科書「後天性疾患」を読んでおく																																		
14. 日常生活の支障をきたす疾病・問題行動	教科書「問題行動」を読んでおく																																		
15. 子どもの事故と衛生管理・母子保健事業・子どもの保健のまとめ	教科書「安全管理・母子保健事業」を読んでおく																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	「子どもの保健ⅠA」の関連部分を復習し、内容を確認しておく																																		
フィードバックの方法:	授業内確認試験、及びレポートは教室で返却																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>50%</td><td>子どもの各症状、感染症と予防接種に関する知識確認</td></tr><tr><td>授業内確認試験</td><td>25%</td><td>発熱・咳・嘔吐・下痢の原因や処置の知識確認</td></tr><tr><td>レポート</td><td>15%</td><td>重大疾患を1つ調べて提出</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>10%</td><td>出席及び～ペーパー提出</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	50%	子どもの各症状、感染症と予防接種に関する知識確認	授業内確認試験	25%	発熱・咳・嘔吐・下痢の原因や処置の知識確認	レポート	15%	重大疾患を1つ調べて提出	授業への参加度	10%	出席及び～ペーパー提出																			
評価方法	割合	評価基準																																	
定期試験	50%	子どもの各症状、感染症と予防接種に関する知識確認																																	
授業内確認試験	25%	発熱・咳・嘔吐・下痢の原因や処置の知識確認																																	
レポート	15%	重大疾患を1つ調べて提出																																	
授業への参加度	10%	出席及び～ペーパー提出																																	
教科書:	佐藤 益子 編著『子どもの保健Ⅱ』(ななみ書房)																																		
参考書:	佐藤 益子 編著『子どもの保健Ⅰ』(ななみ書房) 巷野 吾朗 監修『最新 保育保健の基礎知識』(日本小児医事出版社)																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:	家庭支援の必要性と支援の概要を学ぶ		
授業の概要:	家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等、子育て家庭の支援体制および、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開関係機関の連携について理解する。		
到達目標:	1. 家庭の意義と機能について理解する 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する 3. 子育て家庭の支援に体制について理解する 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する		
授業方法:	講義形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 家庭の意義と機能	現代の子どもと家庭支援が求められる背景をみる。さらに家庭と家族とは、その意義や機能をする。教科書の関連頁を読んでおく	
	2. 家庭支援の必要性と保育士が行う家庭支援の原理	家庭支援の対象構造、理念、サービスからみた技術類型などを学ぶと共に、家庭支援の原理についてみる。教科書の関連頁を読んでおく	
	3. 現代家庭における人間関係	子どもと家庭、家庭と家族、親になるプロセス、乳幼児から思春期までの子どもと子育てについて学ぶ。教科書の関連頁を読んでおく	
	4. 地域社会の変容と家庭支援、男女協同参画社会とワークライフバランス	地域社会の変容からくる家庭支援を考える。さらに保育所や幼稚園による家庭支援についてもみる。育児休暇や働き方も。(育児相談Q&A1～2歳 レポート)	
	5. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源	子育て家庭の社会資源や関係機関と人、制度についてみる。教科書の関連頁を読んでおく	
	6. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	子育て支援の施策・次世代育成支援施策の推進について学ぶ。条約や法律も(育児支援Q&A 2～3歳 レポート)	
	7. 多様な支援の展開と関係機関との連携(1) 子育て支援サービスの概要	様々な子育て支援の方法をみる。特にひとり親家庭の支援についても学ぶ。教科書の関連頁を読んでおく	
	8. 多様な支援の展開と関係機関との連携(2) 保育所入所児童の家庭支援	保育所入所児及び特別なニーズを持つ親の支援。どんなものがあるか考えてみる。	
	9. 多様な支援の展開と関係機関との連携(3) 地域子育て家庭への支援	在宅家庭の支援、地域子育て支援センターや子育て広場などについて学ぶ。教科書の関連頁を読んでおく	
	10. 多様な支援の展開と関係機関との連携(4) 要保護児童及びその家庭に対する支援	児童虐待の歴史から定義、種類等々詳しく知り、その早期発見や支援の方法について学ぶ。虐待関連の記事を読んで、小レポート提喻津	
	11. 多様な支援の展開と関係機関との連携(5) 子育て支援における関係機関との連携	児童虐待や特別なニーズを持つ親子には一つの機関で行うより、各関係機関がその機関のもつストレンスを発揮し、連携してあたることなどがその技法など学ぶ	
	12. 多様な支援の展開と関係機関との連携(6)子育て支援サービスの課題	家庭への個別な援助活動、ソーシャルワーク、ケアワーク支援サービスなどを学ぶ、また子育て支援サービスの課題についてもまなぶ。教科書の関連頁を読んでおく	
	13. 家庭支援とペアレンティングプログラム	子育てスキルが伝承せず、地域コミュニティが崩壊する中、ペアレンティングプログラムの重要性が高まっている。様々なプログラムを知るとともに、DVDを見たりし、プログラム体験をする。	
	14. 描画からみられる子どもの心理と家庭	子どもの描画は保育には欠かせないものです。その描画を見ることで、子どもの発達や心理、家庭などの背景を読み解ける参考出来るよう実際の子どもの絵を見ながら学ぶ。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	家庭支援は身近なテーマです。そして、保育士が重要な役割を担っています。教科書で習うだけでなく、自分でも市役所や地域子育て支援センターに足を運んでみたり、市井の中の親子を見たりしながら家庭支援に思いを巡らせてください。		
フィードバックの方法:	各自、教科書を読んで授業に臨み、授業後は事例の解釈や制度理解を復習することが必要です。子育てQ&Aや各市が出している子育て支援冊子もレポートし実際の家庭支援をみていってほしい。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	70	ペーパーテストによる考查
	リアクションペーパー	30	課題を調べレポートにまとめる
教科書:	橋本真紀・山縣文治 編著『よくわかる家庭支援論』ミエルヴァ書房		
参考書:	松本園子・永田陽子・福川須美・堀口美智子著『実践 家庭支援論』[改訂版] ななみ書房 大豆生啓友・大田光洋・森上史郎 編『よくわかる子育て支援・家庭支援論』ミネルヴァ書房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、		
教員との連絡方法:	Eメール m-shirayama@chime.ocn.ne.jp		

授業テーマ:

保育におけるソーシャルワークを学ぶ

授業の概要:

保育士は保育のスペシャリストですが、社会福祉専門職としての側面も持っています。保育士は、子どもと子どもを取り巻く環境の両面を視野に入れた支援を行う、対人援助職です。この科目では、子どもにかかわる福祉専門職に必要な相談援助の知識と技術を学びます。

到達目標:

1. 相談援助の概要について理解する
2. 相談援助の方法と技術について理解する
3. 相談援助の具体的展開について理解する
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

授業方法:

演習形式です。受講生は出席して演習に参加してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	相談援助の理論 演習 アイスブレイク	相談援助の理論的枠組みを学びます。また、授業はグループで話し合ったり、調べたりしていきますので、グループ活動についても必要な決まりなど考えてきてください。
2.	相談援助の意義 演習 ストレngthス	相談援助の意義や相談援助の概要について学びます。参考教材でその部分を予習しておいてください。
3.	相談援助の機能について 演習 つなぐつながる連携	相談機能について学び、社会福祉援助技術の歴史的展開についても見ます。また、保育士がつながっていく市井の人々にはどのような活動をしているか調べておく。
4.	相談援助と奏者のワーク 演習 差別や抑圧	相談援助における位置づけ、理念・目的・価値や現代的意義について学ぶ。また、差別や抑圧を受けている人についても、なぜそのようなことが起こるのかも考えておいてください。
5.	相談援助の対象 演習 生活課題をとらえる	相談援助の対象について学ぶ。社会福祉援助技術の対象領域と活動分野についても見ておく
6.	相談援助の過程 演習 エコマップ	相談援助の過程について学ぶ。インテーク、アセスメント、プランニングの評価などを参考文献をみて調べておく。
7.	相談援助の技術 ・アプローチ 演習 聴く技術・面接の技術	面接の技術で必要と思われることを考えてきてください。
8.	演習 子どもとその家庭における福祉的課題	3回目に課題を出しますので、各グループで調べてきたことを色々な技法を駆使して発表していただきます。
9.	援助の具体的展開 1. 計画・記録・評価	計画・面接・記録・介入・評価・スーパービジョンについて学びます。下調べをしておいてください。
10.	援助の具体的展開 2. 関係機関との協働と多様な専門職との連携	困難な相談や、多様な相談援助に欠かせない関係機関との協働について学ぶ。関係機関や専門職について調べておいてください。
11.	援助の具体的展開 3. 社会資源の活用、調整、開発。	授業であることをあらかじめ下調べをしておいてください。
12.	演習 障害のある子どもと保護者への支援等の事例分析	例示した事例の下調べをしておく
13.	演習 虐待のあるこどもとその保護者への支援の分析	例示した事例の下調べをしておく
14.	演習 ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析	今までの中での訪問時の面接などロールプレイを実施しますので、一考しておいてください。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生のみなさんは「プロの卵」として扱います。授業への積極的な参加を求めます。発表力やグループ活動での各個人の役割なども重要になります。

フィードバックの方法:

復習をし、演習したことや聴く技術なども実際に色々な機会をとらえて実践してみる。疑問な所はどんどん質問してください。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演習への参加状況	50	記録、発表態度、グループ活動の状況など平常点と8回目の発表状況をみます。
	授業内容の習得状況	50	テストによる評価

教科書:

参考書:

松原康雄・村田典子・南野奈津子編著 「相談援助」中央法規
笠原千恵・小橋明子 「相談援助・保育相談支援」中山書店
片山義弘・季木明德 編著 「相談援助」[新版] 北大路書房
山田容 「対人援助の基礎」 ミネルヴァ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

メール m-shirayama@chime.ocn.ne.jp

464600

こどもの保健Ⅱ

倉田 恵子

授業テーマ:	講義及び演習を通して、子ども達の心身の健康を守る知識と、日常生活を援助するための技術を習得する																																		
授業の概要:	「こどもの保健ⅠA・ⅠB」で得た知識をさらに深く学ぶと共に『子どもの生命を預かっている』という認識のもと、子どもの安全と健康を守るための正確な知識、正しい判断、的確な技術等を、演習を通してより具体的に習得し、現場で対応できる為の各自のスキルアップを図る。																																		
到達目標:	(1)子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。 (2)子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。 (3)子どもの疾病・けがとその予防及び適切な対応について具体的に学び、技術を習得する。 (4)救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学び、技術を習得する。 (5)現代社会における心の健康問題や地域保健活動を理解する。																																		
授業方法:	講義及び演習																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><td>授業内容</td><td>準備学習等の内容</td></tr><tr><td>1. 学習の意義と目的、及び保健活動の計画・評価 (乳幼児の養護技術)</td><td>「養護技術」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる</td></tr><tr><td>2. 健康状態の観察と評価 (バイタルの測定と評価)</td><td>「バイタル」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる</td></tr><tr><td>3. 子どもの発育観察と評価(身体計測)</td><td>「身体測定」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる</td></tr><tr><td>4. 子どもの健康増進と保育環境 (乳幼児の衣類とその着脱～援助と自立)</td><td>「衣類と着脱」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる</td></tr><tr><td>5. 子どもの発達援助と保健活動 (乳幼児の排泄～援助と自立)</td><td>「排泄～おむつ」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる</td></tr><tr><td>6. 子どものけが(創傷・挫傷・火傷)と応急処置</td><td>「けがと応急処置」に関する予習、及び復習</td></tr><tr><td>7. 子どものけが(異物・捻挫・脱臼・骨折等)と応急処置</td><td>「けがと応急処置」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる</td></tr><tr><td>8. 前半確認テスト 子どもの疾病(各症状)予防と処置(感染症含む)</td><td></td></tr><tr><td>9. 子どもの生活習慣と心身の健康 子どもの身体の清潔(清拭・沐浴)</td><td>「沐浴」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる</td></tr><tr><td>10. 子どもの食事と栄養、及び歯の健康 (調乳・授乳・離乳食)</td><td>「調乳」に関する「けがと応急処置」に関する予習、及び復習</td></tr><tr><td>11. けがの応急手当 (包帯法～巻軸帯・三角巾)</td><td>「包帯法」に関する予習、及び復習</td></tr><tr><td>12. 応急手当法 (心肺蘇生法～人工呼吸・胸骨圧迫)</td><td>「心肺蘇生」に関する予習、及び復習</td></tr><tr><td>13. 応急手当法(AED使用法) けがの応急手当(誤飲・止血等)</td><td>「心肺蘇生とAED」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる</td></tr><tr><td>14. 個別の配慮～慢性疾患・アレルギー疾患や障害を持つ子どもの対応、心の健康問題と課題</td><td>「疾患や障害を持つ子ども」に関する予習、及び復習</td></tr><tr><td>15. 後半確認テスト 乳幼児健康診査と地域保健活動 集団の施設管理、衛生管理</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 学習の意義と目的、及び保健活動の計画・評価 (乳幼児の養護技術)	「養護技術」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる	2. 健康状態の観察と評価 (バイタルの測定と評価)	「バイタル」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる	3. 子どもの発育観察と評価(身体計測)	「身体測定」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる	4. 子どもの健康増進と保育環境 (乳幼児の衣類とその着脱～援助と自立)	「衣類と着脱」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる	5. 子どもの発達援助と保健活動 (乳幼児の排泄～援助と自立)	「排泄～おむつ」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる	6. 子どものけが(創傷・挫傷・火傷)と応急処置	「けがと応急処置」に関する予習、及び復習	7. 子どものけが(異物・捻挫・脱臼・骨折等)と応急処置	「けがと応急処置」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる	8. 前半確認テスト 子どもの疾病(各症状)予防と処置(感染症含む)		9. 子どもの生活習慣と心身の健康 子どもの身体の清潔(清拭・沐浴)	「沐浴」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる	10. 子どもの食事と栄養、及び歯の健康 (調乳・授乳・離乳食)	「調乳」に関する「けがと応急処置」に関する予習、及び復習	11. けがの応急手当 (包帯法～巻軸帯・三角巾)	「包帯法」に関する予習、及び復習	12. 応急手当法 (心肺蘇生法～人工呼吸・胸骨圧迫)	「心肺蘇生」に関する予習、及び復習	13. 応急手当法(AED使用法) けがの応急手当(誤飲・止血等)	「心肺蘇生とAED」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる	14. 個別の配慮～慢性疾患・アレルギー疾患や障害を持つ子どもの対応、心の健康問題と課題	「疾患や障害を持つ子ども」に関する予習、及び復習	15. 後半確認テスト 乳幼児健康診査と地域保健活動 集団の施設管理、衛生管理			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 学習の意義と目的、及び保健活動の計画・評価 (乳幼児の養護技術)	「養護技術」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる																																		
2. 健康状態の観察と評価 (バイタルの測定と評価)	「バイタル」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる																																		
3. 子どもの発育観察と評価(身体計測)	「身体測定」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる																																		
4. 子どもの健康増進と保育環境 (乳幼児の衣類とその着脱～援助と自立)	「衣類と着脱」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる																																		
5. 子どもの発達援助と保健活動 (乳幼児の排泄～援助と自立)	「排泄～おむつ」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる																																		
6. 子どものけが(創傷・挫傷・火傷)と応急処置	「けがと応急処置」に関する予習、及び復習																																		
7. 子どものけが(異物・捻挫・脱臼・骨折等)と応急処置	「けがと応急処置」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる																																		
8. 前半確認テスト 子どもの疾病(各症状)予防と処置(感染症含む)																																			
9. 子どもの生活習慣と心身の健康 子どもの身体の清潔(清拭・沐浴)	「沐浴」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる																																		
10. 子どもの食事と栄養、及び歯の健康 (調乳・授乳・離乳食)	「調乳」に関する「けがと応急処置」に関する予習、及び復習																																		
11. けがの応急手当 (包帯法～巻軸帯・三角巾)	「包帯法」に関する予習、及び復習																																		
12. 応急手当法 (心肺蘇生法～人工呼吸・胸骨圧迫)	「心肺蘇生」に関する予習、及び復習																																		
13. 応急手当法(AED使用法) けがの応急手当(誤飲・止血等)	「心肺蘇生とAED」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる																																		
14. 個別の配慮～慢性疾患・アレルギー疾患や障害を持つ子どもの対応、心の健康問題と課題	「疾患や障害を持つ子ども」に関する予習、及び復習																																		
15. 後半確認テスト 乳幼児健康診査と地域保健活動 集団の施設管理、衛生管理																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	特に実習に関しては積極的に行なう。 実習の準備や後片付けにも積極的に参加し、物品の扱い等も同時に学ぶ。																																		
フィードバックの方法:	教室で返却																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><td>評価方法</td><td>割合</td><td>評価基準</td></tr><tr><td>授業内確認テスト(前半)</td><td>25%</td><td>第1回～第7回までの内容の基礎知識の確認</td></tr><tr><td>授業内確認テスト(後半)</td><td>25%</td><td>第9回～第14回までの内容の基礎知識の確認</td></tr><tr><td>実習レポート</td><td>30%</td><td>演習の内容(8回分)を所定の用紙に簡潔にまとめる</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>20%</td><td>講義・演習に積極的に参加し、実技を正しく習得する</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業内確認テスト(前半)	25%	第1回～第7回までの内容の基礎知識の確認	授業内確認テスト(後半)	25%	第9回～第14回までの内容の基礎知識の確認	実習レポート	30%	演習の内容(8回分)を所定の用紙に簡潔にまとめる	授業への参加度	20%	講義・演習に積極的に参加し、実技を正しく習得する																			
評価方法	割合	評価基準																																	
授業内確認テスト(前半)	25%	第1回～第7回までの内容の基礎知識の確認																																	
授業内確認テスト(後半)	25%	第9回～第14回までの内容の基礎知識の確認																																	
実習レポート	30%	演習の内容(8回分)を所定の用紙に簡潔にまとめる																																	
授業への参加度	20%	講義・演習に積極的に参加し、実技を正しく習得する																																	
教科書:	白野 幸子 著『子どもの保健Ⅱ(演習)』(医歯薬出版株式会社)																																		
参考書:	佐藤 益子 編著『子どもの保健Ⅰ』(ななみ書房) 佐藤 益子 編著『子どもの保健Ⅱ』(ななみ書房) 巷野 吾朗 監修『最新 保育保健の基礎知識』(日本小児医事出版社)																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:

授業の概要: 小児の心身の発育に食生活が大きく関わっていることを理解し、その発育段階に応じた望ましい食生活と食育について学ぶ。具体的には健康的な食生活の意義と栄養に関する基礎知識、小児の発育段階に応じた食事、食物アレルギー等疾病時の食事について保育者としての基本的な知識、技術を得ることを目的とする。食育については地域・社会・文化・環境との関わりの中から食育を理解し、食育を実践できる力を習得する。また、この講義・実習を通して、学生自身の食生活を見直すきっかけとすることも目的とする。

到達目標: ・基本的な栄養・食生活に関する知識を理解できる
・小児の発育段階に応じた望ましい食生活について理解し、提示できる
・小児の食生活における諸問題等を理解し、保育者として食育を実践できる力を身につけ、提示できる。

授業方法: 講義法・演習形式とする。ペアワーク・グループワーク・グループディスカッション等を適宜行う。
◆コンセプトマップ作成: 事前学習によりコンセプトマップ作成に必要なキーワード(ラベル)を各自調べておく。単元終了毎にコンセプトマップを作製し、提出(5回予定)する。コンセプトマップ作成時にはグループで、理解内容を互いに補い、コンセプトマップの完成度を高める。
◆食育プレゼンテーション: 授業最終回にはグループで食育のプレゼンテーションを行う。
◆小テストを実施し知識の定着をはかる。
◆講義プリントおよび資料は適宜配布する。
◆調乳・離乳食は調理実習を行う予定である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 子どもの健康と食生活(1) 意義と必要性	自身の食生活、子どもたちの食生活について考えをまとめておく。
	2. 子どもの健康と食生活(2) 現状と課題	事前に配布された食事に関するデータについて発表できるようにまとめておく。
	3. 栄養に関する基本的知識(1) 栄養の基本的概念	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。
	4. 栄養に関する基本的知識(2) 栄養素の種類と機能	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。
	5. 栄養に関する基本的知識(3) 食事摂取基準、献立作成、調理と基本	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。
	6. 子どもの発育・発達と食生活(1) 乳児期	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。調乳実習の際には調乳の手技(教科書P66、67)を確認しておく。
	7. 子どもの発育・発達と食生活(2) 離乳期	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップを作成のための予習を行う。離乳食実習の際には、離乳食の作り方(教科書P77～79)を確認しておく。
	8. 子どもの発育発達と食生活(3) 幼児期	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。
	9. 子どもの発育・発達と食生活(4) 学童期	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。
	10. 食育の基本と内容(1) 食育における養護と教育の一体性、食育の内容と計画および評価、食育のための環境、地域・職員間の連携、保護者への支援	食育プレゼンテーションのテーマについて考えておく。
	11. 子どもの発育・発達と食生活(5) 生涯発達と食生活	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。食育プレゼンテーションの準備を行う。
	12. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。食育プレゼンテーションの準備を行う。
	13. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1) 疾病および体調不良	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。食育プレゼンテーションの準備を行う。
	14. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2) 食物アレルギー、障がい	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。食育プレゼンテーションの準備を行う。
	15. 食育の基本と内容(2) プレゼンテーション まとめ	食育プレゼンテーションの準備を行う。まとめのコンセプトマップ作成の準備を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 毎回振り返りシートを提出し、次回授業時に前回授業についてのフィードバックを行う。課題のフィードバックについては教室で返却し、内容については授業内でまとめて解説を行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	コンセプトマップ提出	30	単元ごとの理解度をコンセプトマップ中のラベル数、リンク数で評価する。(6点×5回)
	小テスト	20	基本的な栄養・食生活に関する知識、小児の発育段階に応じた望ましい食生活に関する理解度を評価する(5点×4回)
	食育プレゼンテーション	20	ルーブリック評価15% 相互評価5%
	授業内課題	15	グループワークの事前準備としての課題、理解度の説明・意見についての課題の期限内の提出を評価する。
	授業への積極的参加度	15	コンセプトマップ作成時のワーク、授業内ペアワークやグループワーク、調理実習時に積極的に授業に参加し、保育者として必要な栄養の知識、技術を得るための態度・意欲を評価する

教科書: 『子どもの食と栄養』高内正子監修 今津屋直子編(保育出版)

参考書：日本人の食事摂取基準[2015年版]厚生労働省（第1出版）

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡
方法：授業の前後に教室内で対応

464800

保育実習ⅠA

埋橋 玲子、馬場 ちはる

授業テーマ:	保育所保育の現場で実践的な学びを行う。		
授業の概要:	実習園で10日間の実習を行う。		
到達目標:	保育所の役割や機能を具体的に理解する。 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。		
授業方法:	保育所で観察・部分実習・責任実習等を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 保育所で10日間の実習を行う。	予防接種等健康状況の確認を行う。必要な手続きを行う。 実習園の概要、行事予定、1日の流れを理解しておく。実習生としての心構えを確認し、オリエンテーションの内容にもとづいて教材の準備等を行う。実習簿は指導者に読んでもらうことを想定し、丁寧に要領よく記入し、日々提出する。健康に留意する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	実習担当保育士より実習園で指導を受ける。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習園からの評価	70%	評価票の項目に基づく。
	実習ノート	30%	1日の目標と反省は対応しているか。わかりやすく書かれているか。簡潔に要点がまとめてあるか。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力		
教員との連絡方法:	実習先訪問時での応答およびウェブメール。		

授業テーマ:

社会的養護現場で実践的な学びを行う

授業の概要:

社会的養護の現場で10日間の実習を行う。

到達目標:

児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
観察や対象者とのかかわりを通して対象者への理解を深める。
既習の教科の内容を踏まえ社会的養護について総合的に学ぶ。
養護の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に学ぶ。
保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業方法:	実習先で指導者の指導に従い業務に従事する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 児童福祉施設等社会的養護の現場で10日間の実習を行う。	準備学習等の内容 実習施設で配属されたグループのデイリープログラムを理解し、対象児童の生活の様相を把握する。個別理解に努め、援助技術の習得に努めるとともに、社会的養護の目的や意義を理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

実習先からの評価による。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習先からの評価	70%	評価票の項目による。
	実習ノート	30%	一日の目標と反省は対応しているか。わかりやすく書かれているか。簡潔に要点がまとめてあるか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

訪問担当時の応答、ウェブメール

465000

保育実習指導ⅠA

埋橋 玲子、馬場 ちはる

授業テーマ:	保育所保育実習の準備を行う		
授業の概要:	保育所実習に必要な知識についての講義と、実技実習を行う。		
到達目標:	保育所保育実習の意義・目的を理解する。 実習内容を理解し、自らの課題を明確にする。 保育所入所児童の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 事後には実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。		
授業方法:	講義と模擬保育を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	保育所保育実習の概要、意義と目的、実習内容について	テキストの該当部分を通読
	2.	模擬保育	模擬保育の準備。指導案の構成の確認。
	3.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の明確化。子どもの姿からねらいを考える。
	4.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の明確化。ねらいに沿った内容を考える。
	5.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の明確化。子どもの予想される活動を考える。
	6.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の明確化。適切な言葉かけの内容を考える。
	7.	保育実習ⅠAの総括と自己評価	保育実習全体の振り返り
	8.	保育実習指導Ⅱに向けての課題の明確化	保育実習指導Ⅱに向けての課題の整理
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業時間内に全体に解説		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	受講態度	50%	受講態度は熱心であったか。積極的に自分の意見を述べることができたか。
	模擬保育実践	50%	指導案の内容が適切か。準備はよく考えられているか。落ち着いて実行できたか。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業時間の前後に教室内で対応。ウェブメール。		

465100

保育実習指導 I B

埋橋 玲子、馬場 ちはる

授業テーマ:	児童福祉施設等での実習を有意義なものにする。																				
授業の概要:	講義と実習内容の発表																				
到達目標:	児童福祉施設等での保育実習の意義・目的を理解する。 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 実習施設入所児童等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。																				
授業方法:	講義と演習、ケース研究																				
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 児童福祉施設等での保育実習の概要、意義・目的、実習内容について</td><td>テキストの該当部分の通読</td></tr><tr><td>2. 実習施設の種類とそれぞれの特性の理解</td><td>既習の教科科目内容の復習</td></tr><tr><td>3. 実習に際しての留意事項、入所児童等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構え</td><td>既習の教科科目内容の復習</td></tr><tr><td>4. 実習先別のケース研究</td><td>自己の事例のまとめ</td></tr><tr><td>5. 実習先別のケース研究</td><td>ケース研究内容の振り返りと課題の整理</td></tr><tr><td>6. 実習先別のケース研究</td><td>ケース研究内容の振り返りと課題の整理</td></tr><tr><td>7. 実習先別のケース研究</td><td>ケース研究の振り返りと課題の整理</td></tr><tr><td>8. 実習の総括と自己評価、課題の明確化</td><td>実習の総括、自己評価、課題の整理</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 児童福祉施設等での保育実習の概要、意義・目的、実習内容について	テキストの該当部分の通読	2. 実習施設の種類とそれぞれの特性の理解	既習の教科科目内容の復習	3. 実習に際しての留意事項、入所児童等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構え	既習の教科科目内容の復習	4. 実習先別のケース研究	自己の事例のまとめ	5. 実習先別のケース研究	ケース研究内容の振り返りと課題の整理	6. 実習先別のケース研究	ケース研究内容の振り返りと課題の整理	7. 実習先別のケース研究	ケース研究の振り返りと課題の整理	8. 実習の総括と自己評価、課題の明確化	実習の総括、自己評価、課題の整理		
授業内容	準備学習等の内容																				
1. 児童福祉施設等での保育実習の概要、意義・目的、実習内容について	テキストの該当部分の通読																				
2. 実習施設の種類とそれぞれの特性の理解	既習の教科科目内容の復習																				
3. 実習に際しての留意事項、入所児童等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構え	既習の教科科目内容の復習																				
4. 実習先別のケース研究	自己の事例のまとめ																				
5. 実習先別のケース研究	ケース研究内容の振り返りと課題の整理																				
6. 実習先別のケース研究	ケース研究内容の振り返りと課題の整理																				
7. 実習先別のケース研究	ケース研究の振り返りと課題の整理																				
8. 実習の総括と自己評価、課題の明確化	実習の総括、自己評価、課題の整理																				
受講者へのメッセージやアドバイス:																					
フィードバックの方法:	全体への解説																				
「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準																		
「成績評価基準」:	受講態度	50%	熱心に受講したか。テーマに沿って自分の意見を的確に述べたか。																		
	ケース発表	50%	実習施設の特性と実習内容が適切にまとめられているか。自己評価は的確か。わかりやすく伝えることができたか。																		
教科書:																					
参考書:																					
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力																				
教員との連絡方法:	授業前後の応答。ウェブメール。																				

465200

保育実習Ⅱ

埋橋　　玲子、馬場　　ちはる

授業テーマ：保育実習ⅠAの成果を踏まえ保育所保育の実践を学ぶ。

授業の概要：実習園で10日間の実習を行う。

到達目標：保育所の役割や機能を具体的に理解する。
観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。
保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。

授業方法：保育所で実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 保育実習ⅠAに引き続き、保育所で10日間の実習を行う。	保育実習ⅠAの内容を振り返り、自己の課題を明らかにしておく。いっそうの子ども理解に努め、援助スキルを高める。教材研究を深める。保育所保育指針を参照し、保育内容や発達過程の理解に努める。健康に留意する。実習記録は日々提出し、指導を仰ぐ。

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：保育実習先からの評価による

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習先からの評価	70%	成績評価票の項目による
	実習ノート	30%	1日の目標と反省は対応しているか。わかりやすく書かれているか。要点が簡潔にまとめているか。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：コミュニケーション能力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法：訪問時での応答、ウェブメール

465400

保育実習指導Ⅱ

埋橋 玲子、馬場 ちはる

授業テーマ:	保育所実習の準備を行う。		
授業の概要:	保育所保育実習に必要な知識についての講義と模擬保育。		
到達目標:	保育所保育実習の意義・目的を理解する。 保育所実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 保育所入所児童の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。		
授業方法:	講義と実技。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。保育所保育指針で発達過程について確認をする。	
	2. 模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。保育指針で保育士の援助の留意点について確認する。	
	3. 模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。表情や態度、立ち居振る舞いを見直す。	
	4. 模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。子どもの興味関心を引く環境設定について考える。	
	5. 模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。十分な教材研究を行う。	
	6. 保育所保育実習の留意事項、実習記録の記入方法について	実習記録簿の内容を確認	
	7. 保育所保育実習全体のふりかえりと自己評価	保育所保育実習内容の振り返り	
	8. 今後の学習における課題の明確化	今後の学習における課題の整理	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	全体に解説、		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	受講態度	50%	熱心に受講したか。自分の意見を的確に述べる事ができたか。
	模擬保育実践	50%	指導案の内容は適切であったか。十分な準備ができていたか。落ち着いて模擬保育ができたか。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後の応答。ウェブメール。		

授業テーマ:

保育における基礎的なピアノ演奏の修得

授業の概要:

幼児の音楽・リズム活動の指導に必要とされる基礎的なピアノ演奏の技能を身につける。教則本を基に、基礎的なピアノ奏法及び伴奏法を修得する。また、様々なピアノ楽曲を知り、レパートリーや音楽表現の幅を広げる目的で個々の進度に合わせた自由曲を個人レッスンの課題とする。グループレッスンでは、他者の演奏から学び、お互いの演奏技術のレベルアップを目指す。実習や保育現場で使用する楽曲を多数取り上げ、レパートリーの強化を行う。ピアノ奏法Ⅱに向け、弾き歌いの導入も取り入れる。

到達目標:

- ・基礎的なピアノ演奏技能の修得や楽典の理解
- ・ピアノ練習の習慣化
- ・グループレッスンや発表会を通して人前での演奏に慣れる
- ・保育現場で使用する楽曲のレパートリーを増やす
- ・幼児に音楽の楽しさ、美しさを伝えることができる音楽表現やピアノ奏法の修得

授業方法:

演習、実技
授業開始10分間は、全員で楽典や基礎的なピアノ奏法を学び、残り80分間でグループ別の個人レッスンをを行う。各自のレベルに応じた楽曲を選曲し、レッスンをする。発表会では、人前での演奏に慣れる事や様々な楽曲に親しむ機会にする。ピアノ練習を習慣化するために練習内容やレッスン受講時のアドバイス等を記録し、毎回レッスンにノートを持参すること。第15回目終了時にレッスンノートを提出すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 授業の進め方、評価について ピアノを弾く前に 課題曲の選曲や譜読みについて ピアノ実技	春休みの課題から1曲選び、レッスン受講時に弾けるように準備しておくこと レッスンノートの記録
2.	音程、主要三和音、コードネームについて ハ長調の伴奏付け 長音階について 和音、分散和音の奏法 ピアノ実技	ハ長調の主要三和音の予習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
3.	拍子とリズム 強弱、曲想、奏法を表す記号等 ト長調の伴奏付け ピアノ実技	ハ長調の主要三和音の復習 ト長調の主要三和音の予習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
4.	二長調の伴奏付け 三連符の奏法について ピアノ実技	ハ長調、ト長調の主要三和音の復習 二長調の主要三和音の予習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
5.	第1回発表会(自由曲) イ短調の伴奏付け 短音階について	ハ長調、ト長調、二長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
6.	ハ長調、ト長調、二長調の伴奏付けの振り返り ペダルについて ピアノ実技	ハ長調、ト長調、二長調の主要三和音の復習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
7.	ハ長調の伴奏付け いろいろな指使いについて ピアノ実技	ハ長調、ト長調、二長調の主要三和音の復習 ハ長調の伴奏付けの予習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
8.	変口長調の伴奏付け 転調について ピアノ実技	ハ長調、ト長調、二長調、ハ長調の主要三和音の復習 変口長調の伴奏付けの予習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
9.	ハ長調、変口長調の伴奏付けの振り返り ピアノ実技	ハ長調、ト長調、二長調、ハ長調、変口長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
10.	第2回発表会(課題曲＋自由曲) 弾き歌いについて	ハ長調、ト長調、二長調、ハ長調、変口長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
11.	移調について ピアノ実技	ハ長調、ト長調、二長調、ハ長調、変口長調の主要三和音の復習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
12.	移調について ピアノ実技	ハ長調、ト長調、二長調、ハ長調、変口長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録 移調の課題、提出
13.	第3回発表会に向けての準備 ピアノ実技	ハ長調、ト長調、二長調、ハ長調、変口長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
14.	第3回発表会に向けての準備 ピアノ実技	ハ長調、ト長調、二長調、ハ長調、変口長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
15.	まとめ 第3回発表会 (課題曲<バイエルより>+課題曲<歌唱伴奏曲>+自由曲)	発表会の課題曲の練習 レッスンノートの記録、提出 夏休み課題の提示

受講者への メッセージや アドバイス： フィードバックの 方法：	楽器演奏の修得は、日々の練習の積み重ねが大切なので、必ず練習をし、レッスンに臨んでほしい。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	30%	積極的に授業に参加し、意欲的にピアノの練習に取り組む態度や到達目標のレパートリーを増やすことができたかを評価する。
	出席及びレッスンノートの 記録	50%	毎回の授業に出席し、楽典の理解や様々なピアノ奏法、音楽表現の手法を修得し、それらの理解度により評価する。また、レッスンノートを記録することにより練習を習慣化し、振り返りや新たな課題を見つけ積極的に授業に取り組む態度を評価する。
	発表会における演奏	20%	人前での演奏における自己達成度及び発表会に向けての練習の積み重ね度により評価する。
教科書：	大学音楽教育研究グループ 教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開 教育芸術社 鈴木恵津子 富田英也 改訂ポケットいっぱいのおうた 実践子どものうた 簡単に弾ける144選 教育芸術社		
参考書：	幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育 教育芸術社		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力：	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法：	Email:nmatsui@dwc.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内で対応。		

授業テーマ:

保育における実践的なピアノ伴奏と弾き歌いの修得

授業の概要:

ピアノ奏法Ⅰで修得したピアノ奏法の基礎を応用、発展し、実際の保育現場で役立つ幼児の歌の弾き歌いができるように練習し、発表する。最終発表会は、実際の保育現場における様々な発表会を想定し、選曲する。幼児が楽しんで歌うことができるピアノ伴奏法を身につける。

到達目標:

・個人のレベルに合わせ楽譜に従って歌唱伴奏をすることができる
・実習や保育現場で即実践できるよう弾き歌いのレパートリーを増やす
・コードネームに従って伴奏付けをし、伴奏に簡単なアレンジをすることができる

授業方法:

演習、実技
弾き歌いの演習とグループによる個人ピアノレッスンを行う。
授業冒頭では、伴奏付けに必要な楽典や弾き歌いの演習を行い、弾き歌いの準備として発声練習を行う。
伴奏のアレンジや、コードネームによる伴奏付けの練習課題(プリント)の提出を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 歌唱楽曲の伴奏、弾き歌いについて 発声について	夏休みの課題の提出
2.	弾き歌いの演習① 旋律と伴奏のバランス 連弾奏 発声について	弾き歌い課題と連弾の練習 最終発表会の計画(選曲)
3.	弾き歌いの演習② 旋律と伴奏のバランス 連弾奏 発声について	弾き歌い課題と連弾の練習 最終発表会の計画(選曲)
4.	第1回ピアノ連弾発表会	弾き歌い課題と連弾の練習 最終発表会の計画(選曲)
5.	弾き歌いの演習③ コードネームによる伴奏付け 季節の歌、生活の歌	弾き歌い課題の練習 最終発表会の計画(伴奏練習、伴奏のアレンジ)
6.	弾き歌いの演習④ コードネームによる伴奏付け 季節の歌、生活の歌	弾き歌い課題の練習 コードネームによる伴奏付け課題の提出 最終発表会の計画、練習(伴奏練習、伴奏のアレンジ)
7.	弾き歌いの演習⑤ コードネームによる伴奏付け 自由曲	弾き歌い課題の練習 コードネームによる伴奏付け課題の提出 最終発表会の計画、練習(伴奏練習、伴奏のアレンジ)
8.	第2回弾き歌い発表会	弾き歌い課題の練習 コードネームによる伴奏付け課題の提出 最終発表会の計画、練習(伴奏練習、伴奏のアレンジ)
9.	弾き歌いの演習⑥ 移調奏 伴奏のアレンジ	最終発表会の練習
10.	最終発表会に向けて① 個人レッスン	最終発表会の練習 最終発表会計画表の作成
11.	最終発表会に向けて② 個人レッスン	最終発表会の練習 最終発表会計画表の作成
12.	最終発表会に向けて③ 個人レッスン+グループ練習	最終発表会の練習 最終発表会計画表の作成
13.	最終発表会に向けて④ 個人レッスン+グループ練習	最終発表会の練習 最終発表会計画表の作成
14.	リハーサル	最終発表会の練習
15.	まとめ 最終発表会	最終発表会の練習 最終発表会計画表の提出

受講者へのメッセージやアドバイス:

楽器演奏の修得は、日々の練習の積み重ねが大切なので必ず練習をしてレッスンに臨んでほしい。

フィードバックの方法:

質問は教室で解説する。提出物は添削し、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席及び課題の提出	40%	準備学習、授業の取り組みの態度・意欲を評価する。また、課題の提出によりコードネームによる伴奏付けの理解度を評価する。
	授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、弾き歌いのレパートリーを増やすことができたかを評価する。
	発表会	40%	人前での演奏における自己達成度及び発表会に向けての練習の積み重ね度により評価する。

教科書:

鈴木恵津子 富田英也 改訂ポケットいっぱい のうた 実践子どものうた 簡単に弾ける144選 教育芸術社

参考書:

みんなであうたおう！ たのしいこどものうた大全集202 ピアノ簡易伴奏つき 永岡書店
小林 美実 こどものうた200 保育実用書シリーズ チャイルド社
幼稚園・保育士養成課程 幼児のための音楽教育 教育芸術社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Email:nmatsui@dwc.doshisha.ac.jp
授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

カウンセリングマインドを活用するには一不登校、いじめ問題を教材として一

授業の概要:

不登校、いじめ問題を理解し、この問題を通して、教師による教育相談が校務分掌の一分野ではなく、学校教育全般に通底している考え方・カウンセリング・マインドであることを理解する。さらにカウンセリングマインドを活用した、不登校やいじめ事例への適切な対応について、グループ討議やロールプレイングによって深く考え、実践力を養う。

到達目標:

1.不登校、いじめ問題が教師としての喫緊の課題であることを理解する。
2.カウンセリングマインドを持って子どもたちに接することの大切さを実感し、特別なニーズを持つ子どもへの援助を適切に行う態度を養う。
3.不登校、いじめ問題は事後の対症療法的な対応のみならず、予防を視野に入れた総合的な援助が重要であることを理解する。

授業方法:

1：講義 教師の講義と、受講生のグループ討議、ロールプレイング、受講生全員による討議を組み合わせで行う。特にグループ討議を半数以上取り入れ、受講生の能動的な活動を促進する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	学校教育における教育相談の位置づけを知る。	(予習)不登校の定義を調べてくる
2.	不登校の歴史―海外の研究や国内での研究の変遷をたどり、不登校の概念が1980年代までに社会的に周知されてきた経過を理解する。	(予習)文部科学省の統計資料から、不登校の現状について、箇条書きでまとめる。
3.	不登校の現状―文部科学省の最新の統計資料に基づいて、我が国の不登校の現状と教育相談との関連を考える。	
4.	不登校のきっかけ―複数の研究から、不登校のきっかけについての分類を知り、不登校のきっかけについてグループで討議する。不登校のきっかけが複合的と言われる理由をグループで考える。	(復習)不登校原因に関して、授業を終えて、自分なりの考えを400字以内でまとめる。 (予習)スクールカウンセラーとはどのような業務を行い、教師とどのように連携しているのかを調べる。 (予習)教育支援センターの役割について調べる。
5.	不登校の対応―不登校への適切な対応やスクールカウンセラーなど、外部の専門家との連携について、グループ討議を通して考える。DVD資料を視聴して、視聴後、グループ討議し、さらに対応に関して課題を考える。	
6.	不登校支援機関―不登校の子どもたちにとって、心身ともに居場所の存在が重要な支援になることを理解する。	(復習)不登校の子どもたちにとって適切な居場所を提供するためにはどのような条件が必要かを箇条書きでまとめる。
7.	不登校と家族―不登校の子どもがいる家庭を想定し、家族の悩みを理解し、教師としての適切な支援について考える。DVD資料視聴後、グループ討議を通して、必要な支援をまとめる。	(予習)教育相談でのロールプレイングで基本的に必要なことを理解してくる。
8.	教師が設定した不登校事例での教育相談場面で、グループ内で役割を割り振り、ロールプレイングを体験する。次に役割を交代しさらに体験する。事後の感想をまとめ、各自の成果と課題を考える。	(復習)不登校に関しての教師から出された課題についてのレポートを作成する。 (予習)いじめの定義を調べる。
9.	いじめ現象に関して、統計資料からその内容に関しての知識を深める。	
10.	いじめ現象はなぜ、見えにくいのかについて、提示された複数の事例から、グループ討議を通して考える。	(予習)いじめ被害者への適切な支援について考えてくる。
11.	いじめ問題への対応について、グループ内で自分の考えを述べ、討議する。講義を通して、対応がマニュアル化できない事例性を基本としたものであることを理解する。	(予習)次週の授業で自分が演じる役作りをする。
12.	教師が設定したいじめを巡る教育相談場面で、グループ内で役割を割り振り、ロールプレイングを体験する。次に役割を交代しさらに体験する。事後の感想をまとめ、各自の成果と課題を考える。	(復習)いじめ現象に関しての教師から出された課題についてのレポートを作成する。
13.	児童期の特徴と不登校、いじめ問題―児童期の特徴をグループで討議し、これまでまとめた不登校問題、いじめ問題との関連を考察する。	
14.	前思春期の特徴と不登校、いじめ問題―前思春期の特徴をグループで討議し、これまでまとめた不登校問題、いじめ問題との関連を考察する。	
15.	まとめと振り返り ―これまで学んだ不登校、いじめ問題を通して学校教育における教育相談の重要性を考える―	(復習)レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

自身の中学校、高校時代を振り返り、辛かったことやネガティブな体験を相対化し、それらの体験を教師としての強みとして、子どもたちに還元できる授業となることを願っています。

フィードバックの方法:

・各自の発表に関して、その授業内あるいは次回の授業内でコメントをお返しします。
・提出されたレポートに関して、授業内で評価のポイントを解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	40%	到達目標1に関する知識や理解を適切に表現できているかを基準とする。
	グループ討議、ロールプレイ	40%	到達目標1の理解がなされているか、到達目標2、および3について、臨機応変で柔軟な思考力と実践的な力量があるかを基準とする。
	授業への積極的参加度	20%	到達目標1、2、3に関して、教師となることを自覚し、授業に主体的に取り組むことができる

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

1. 授業の前後に教室内で対応
2. メールによる(mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp)
3. 研究室訪問してください。(C444)

授業テーマ:	日本の国際理解教育とその背景の研究		
授業の概要:	日本の国際理解教育について、日本国際理解教育学会が編集した出版物をととして、理念や考え方、カリキュラムや授業単元を検証する		
到達目標:	国際理解教育の理念や考え方、カリキュラムや授業単元の検討をととして、国際理解教育の内容と方法および市民性育成の論理と実践にかんする知識理解を深める		
授業方法:	テキストに関する講義、購読レポート		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス	特になし
	2.	国際理解教育の景観、関連諸教育(概論)	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	3.	国際理解教育と地域社会	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	4.	国際理解教育と教師の育成	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	5.	キーコンピテンシーと国際理解教育	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	6.	ユネスコ理念、ユネスコ協同学校と国際理解教育の歩み	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	7.	国際理解教育の目標と内容構成、カリキュラム開発の先行実践	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	8.	国際理解教育の学力と評価、教材と教具	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	9.	参加型学習の創造とリフレクション	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	10.	国際理解教育の実践とその展望	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	11.	国際理解教育の実践(小学校の場合)	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	12.	国際理解教育の実践(中学校の場合)	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	13.	国際理解教育の実践(高等学校の場合)	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	14.	国際理解教育の国際動向(東アジア、欧米)	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
	15.	総括・まとめ	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
受講者へのメッセージやアドバイス:	教科書の熟読と毎回レポートを課す		
フィードバックの方法:	レポートへのコメント		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業、議論への参加度	25	積極的に取り組んでいるか
	毎回レポート	25	積極的に取り組んでいるか
	最終レポート	50	授業目標に到達しているか
教科書:	日本国際理解教育学会編(2015)『国際理解教育ハンドブック』明石書店		
参考書:	日本国際理解教育学会編(2010)『グローバル時代の国際理解教育―実践と理論をつなぐ―』明石書店		
	日本国際理解教育学会編(2012)『現代国際理解教育事典』明石書店		
	藤原孝章(2016)『グローバル教育の内容編成に関する研究―グローバルシティズンシップの育成をめざして―』風間書房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	e-mail		

授業テーマ:

持続可能な開発のための教育とその背景の研究

授業の概要:

グローバル教育や開発教育について、テキストの購読を通して、その理念や考え方、教育実践を検討する。

到達目標:

開発教育の理念や考え方、カリキュラムの検討をとおして、持続可能な開発のために教育の内容と方法および市民性育成の論理と実践に関する理解を深める。

授業方法:

テキストに関する講義、購読レポート

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	特になし
	2. 開発教育の歴史と理論	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	3. 開発教育の内容・方法・カリキュラム	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	4. 地域における開発教育の展開	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	5. MDGからSDGへ	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	6. さまざまな開発論	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	7. 環境問題とESD	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	8. 国際協力	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	9. 貧困と格差	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	10. 持続可能な生産と消費	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	11. 紛争と平和	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	12. 災害と開発	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	13. 子どもと若者、ジェンダー	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	14. 人の移動	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
	15. これからの世界と私たち (総括とまとめ)	教科書、参考文献の熟読、レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

教科書の熟読と毎回レポートを課す

フィードバックの方法:

レポートへのコメント

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業、議論への参加度	25	積極的に取り組んでいるか
	毎回レポート	25	積極的に取り組んでいるか
	最終レポート	50	授業目標に到達しているか

教科書:

田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編『SDGsと開発教育－持続可能な世界のための教育』学文社

参考書:

開発教育推進セミナー編(1999)『新しい開発教育のすすめ方―地球市民を育てる現場から―』古今書院
藤原孝章(2016)『グローバル教育の内容編成に関する研究-グローバルシティズンシップの育成をめざして-』風間書房
藤原孝章『シミュレーション教材「ひょうたん島問題」―多文化共生社会ニッポンの学習課題』明石書店、2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

e-mail

490900

国際交流システム特殊演習A I

加藤 敦

授業テーマ:	情報通信技術が社会・経済にもたらしたものは何か： 国や地域などマクロ的な「鳥の目」と企業や人など「虫の目」の双方からとらえよう。		
授業の概要:	情報化が企業並びに企業組織、人材に与える影響について、経営学の基礎理論・概念にもとづき、考察してゆく。 春学期はまずソフトウェアビジネスに関する基礎を学び、次にITサービス利用側・提供側の双方の視座からソフトウェアビジネスについて検討します。		
到達目標:	第1に情報化がビジネス上の戦略や企業組織、人材に与える影響について理解すること。 第2に情報化というテーマを学ぶために必要な、経営学における基本的な理論・概念を理解し知識として修得すること。 第3に先行研究サーベイ、論文の書き方、社会調査、研究倫理など研究者とリテラシーを修得すること。		
授業方法:	演習形式で行う。教員が各回のテーマに関連した文献を指示する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション：先行研究の探し方とサーベイ	各回ごとに予め参考資料を配布するので必ず読んでおくこと。また簡単なレジュメを用意しておくこと。
	2.	ソフトウェア・ビジネスの基礎(1)：ソフトウェアビジネスの全体像	同上
	3.	ソフトウェア・ビジネスの基礎(1)：ソフトウェアビジネスの全体像	同上
	4.	ソフトウェア・ビジネスの基礎(2)：経営資源とケイパビリティ	同上
	5.	ソフトウェア・ビジネスの基礎(3)：ソフトウェアビジネスを支える経営資源	同上
	6.	ソフトウェア・ビジネスの基礎(4)：我が国におけるIT活用	同上
	7.	ソフトウェア・ビジネスの基礎(4)：産業としてのソフトウェア	同上
	8.	研究倫理	同上
	9.	ソフトウェアビジネス各論(1): 情報化と組織	同上
	10.	ソフトウェアビジネス各論(2): システムエンジニアの人的資産	同上
	11.	ソフトウェアビジネス各論(3): ITベンチャー	同上
	12.	ソフトウェアビジネス各論(4): ITプロジェクト	同上
	13.	ソフトウェアビジネス各論(5): 地域間分業	同上
	14.	ソフトウェアビジネス各論(6): 国際分業	同上
	15.	復習、必要に応じ追加教材学習	同上
受講者へのメッセージやアドバイス:	ソフトウェア・ビジネスは若い産業であり、活気に満ち溢れています。この産業を学ぶことを通じて、国際的に通用する力を身につけよう。		
フィードバックの方法:	毎回作成するレジュメは授業中に公表します。また期末レポートはコメントをつけて返却いたします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標に照らし、満足のゆく水準に達したかどうかで評価します。
	レポート	50	期末レポート並びに授業の都度指示するレジュメについて、到達目標に照らし、総合的に評価します。
教科書:	加藤敦(2012)『ソフトウェア・ビジネス』晃洋書房		
参考書:	授業中に指示します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	電子メールを利用します。		

491000

国際交流システム特殊演習AⅡ

加藤 敦

授業テーマ:

ソフトウェア・ビジネスは若い産業であり、活気に満ち溢れています。この産業を学ぶことを通じて、国際的に通用する力を身につけよう。

授業の概要:

情報化が企業並びに企業組織、人材に与える影響について理解します。また、適宜、経営学の基礎的な理論並びに概念を紹介し、検討します。

到達目標:

秋学期は受講生と相談の上、ソフトウェアビジネスに関する学術論文や研究所等のレポートをセレクトし、読解します。さらに受講生が興味をいだいた分野を掘り下げ、先進事例を取り上げて研究し、可能なら現地調査を行います。

到達目標:

第1に情報化がビジネス上の戦略や企業組織、人材に与える影響について理解すること。
第2に情報化というテーマを学ぶために必要な、経営学における基本的な理論・概念を理解し知識として修得すること。
第3に先行研究サーベイ、論文の書き方、社会調査、研究倫理など研究者としてのリテラシーを修得すること。

授業方法:

演習形式で行う。教員が各回のテーマに関連した文献を指示する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:	各回ごとに予め参考資料を配布するので必ず読んでおくこと。また簡単なレジュメを用意しておくこと。
2.	ソフトウェア・ビジネスに関する先行論文研究(1)	同上
3.	ソフトウェア・ビジネスに関する先行論文研究(2)	同上
4.	ソフトウェア・ビジネスに関する先行論文研究(3)	同上
5.	ソフトウェア・ビジネスに関する先行論文研究(4)	同上
6.	ソフトウェア・ビジネスに関する先行論文研究(5)	同上
7.	ソフトウェア・ビジネスに関する先行論文研究(1)	同上
8.	先進事例の調査法	同上
9.	先進事例研究(1)	同上
10.	先進事例研究(2)	同上
11.	先進事例研究(3)	同上
12.	先進事例研究(4)	同上
13.	先進事例研究(5)	同上
14.	先進事例研究(6)	同上
15.	復習、必要に応じ追加教材学習	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

ソフトウェア・ビジネスは若い産業であり、活気に満ち溢れています。経営学の視座から、この産業を学ぶことを通じて、国際的なビジネスセンスを身につけることができます。

フィードバックの方法:

毎回作成するレジュメは授業中に公表します。また期末レポートを含め、授業に関する成果物は全てコメントをつけて返却いたします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標に照らし、満足する水準に達したかどうか評価します。
	レポート	50	期末レポート並びに授業の都度指示するレジュメについて、到達目標に照らし、満足する水準に達したかどうか評価します。

教科書:

加藤敦(2012)『ソフトウェア・ビジネス』晃洋書房

参考書:

授業中に指示いたします。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

電子メールを利用する。

491100

国際交流システム特殊演習B I

長岡 延孝

授業テーマ:

グローバル化する経済活動と環境保護との両立を目指して、現代社会の持続可能な発展の条件を探究する。

授業の概要:

良好な地球環境は、現代社会経済がそれに基づいて繁栄しながら人間の暮らしを豊かにするものであるし、また次世代が存続するにあたって重要な基盤をなしている。しかし、残念ながらこれまでの経済発展は、その基盤を掘り崩してきた。日本は経済発展を遂げる過程において、企業の生産過程で激甚公害を生み出し、広範な放射能汚染も引き起こしてしまった。こうした厳しい事実を踏まえ、人類が経済社会を存続させるための条件はどのようなものかを考察し、明らかにする必要がある。そのためにまず、人間の経済活動による環境負荷に関して、公害の時代から地球環境の時代までをふり返る。そして、環境問題のグローバル化やエネルギー・資源問題を受け、循環型社会の構築に向けてどのような政策や制度、あるいは企業経営が必要なのかについて多方向に考察・分析し、理解を深める

到達目標:

グローバル社会が取り組まねばならない環境問題について、理解と分析力を養うことによって、世界を視野に入れたビジネスパーソンの基礎力の養成を目標としている。

授業方法:

講義の形式で行い、ビデオやプリント等の教材を適宜使用する。また授業内容にかんする意見・感想を求め、議論を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
2. 環境保護主義の誕生と発展	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
3. 公害による被害と対策	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
4. レイチェル・カーソンの環境保護思想と人工化学物質	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
5. 公害からグローバル環境問題へ	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
6. 企業の対応(1):環境イノベーションの促進	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
7. 企業の対応(2):環境マネジメントの展開	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
8. 地球環境問題への対応:京都議定書の気候政策	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
9. 生物多様性と経済:ABS名古屋議定書とCBD戦略計画	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
10. 循環型社会の制度と政策形成	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
11. エコタウンとゼロエミッション:エコロジー的産業共生の構築	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
12. エネルギーと環境問題(1)	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
13. エネルギーと環境問題(2)	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
14. サステナブル都市のデザイン:交通と都市環境	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
15. 持続可能な社会とは	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

グローバルな環境問題やローカルな公害について、正しい理解をして対処法を考えてほしい。

フィードバックの方法:

感想、意見、質問に対してコメントし、議論を行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	課題を適切に設定し、資料を理解・整理し、論理的に主張を行っているか。

教科書:

長岡延孝編『サステナビリティの政策と経営』晃洋書房。

参考書:

長岡延孝『「緑の成長」の社会的ガバナンス』ミネルヴァ書房。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール

授業テーマ:	ヨーロッパの統合プロセスにみる公共政策の変容		
授業の概要:	ヨーロッパを対象にして、国民国家の諸政策がどのように変化し、政策の一部が超国家組織EUに移行してきたか、理解する。その際に、国民国家の形成以前から存在し近年活性化するミクロ地域との関係にも着目して、EUの政策の展開を考察する。こうしてヨーロッパでは、超国家組織、国民国家、地域レベルといった3層のガバナンスが形成されている。 現在、世界各地で国家間の協力や統合が進められており、その際にEUの事例が重要なモデルとなっている。国家利害の衝突する東アジアでも、平和と協力をめざすマクロ地域を構築する必要があるが、その際にヨーロッパの経験が役立つであろうと思われる。		
到達目標:	グローバル化が進む国際社会において、政策の変化プロセスを理解することにより、世界を見据えたビジネスパーソンの基礎力を養うことを目標にする。		
授業方法:	講義の形式で行い、適宜、ビデオやプリントの教材を使用する。講義内容にかんする感想と意見を求める。また、課題を設定して、その報告を求める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	2. EUの3層モデル	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	3. ミクロ地域(1): アルザス地方	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	4. ミクロ地域(2): スコットランド	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	5. ECSCとEECの形成	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	6. EC・EUの発展: 組織と政策形成	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	7. 自由貿易と地域統合	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	8. 東欧加盟後のEU	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	9. EU共通農業政策	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	10. 経済通貨同盟(1): 単一通貨ユーロの導入	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	11. 経済通貨同盟(2): ユーロの課題	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	12. EU環境政策・気候政策	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	13. EU共通移民政策	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
	14. EU地域政策: 地域間不均衡の是正	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと	
		15. グローバル化と地域主義	配布資料(またはmanabi掲載資料)をあらかじめ読んでおくこと
受講者へのメッセージやアドバイス:	新聞や報道番組を見て国際情勢を知り、各自が意見や主張を持ってください。		
フィードバックの方法:	意見、感想、質問についてコメントしたり、議論を行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	100	課題を的確に設定し、調査と整理を行い、自分の主張を論理的に行っているか。
教科書:			
参考書:	藤井良広『EUの知識』最新版、日経文庫。 加賀美雅弘ほか『ヨーロッパ学への招待』最新版、学文社。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール		

491500

現代社会システム特殊演習A I

朱 捷

授業テーマ:	中国の知恵・日本の知恵		
授業の概要:	ギリシア人が世界が何からなっているかを追い求めていたのに対して、中国人は人間がどうすればよりよく生きることができ かを思索し続けていたとされる。その意味において、中国文化は人間本位の文化である。数千年の歴史に、中国文化は人間 の生き方に深い思索と知恵を蓄積してきた。いっぽう、日本文化も人間の生き方に蘊蓄を積み重ねてきた。本演習は、生きる ことに関する中国人と日本人の知恵に焦点を当て、現代人がそこから何を学び取れるかを中心に考察していこうとする。		
到達目標:	○論語や中庸を通して、生き方に関する中国文化の知恵について初歩的な知識を持つ。 ○文献の読み方、調べ方を身につける。		
授業方法:	共通テキストを読み、参加者が順番に発表し、ディスカッションする方式で進める。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	シラバスをよく読んでくる	
	2. 論語講読	テキストを読んで課題を調べる	
	3. 論語講読	テキストを読んで課題を調べる	
	4. 論語講読	テキストを読んで課題を調べる	
	5. 論語講読	テキストを読んで課題を調べる	
	6. 論語講読	テキストを読んで課題を調べる	
	7. 論語講読	テキストを読んで課題を調べる	
	8. 論語講読	テキストを読んで課題を調べる	
	9. 論語講読	テキストを読んで課題を調べる	
	10. 論語講読	テキストを読んで課題を調べる	
	11. 中庸講読	テキストを読んで課題を調べる	
	12. 中庸講読	テキストを読んで課題を調べる	
	13. 中庸講読	テキストを読んで課題を調べる	
	14. 中庸講読	テキストを読んで課題を調べる	
	15. 総括	テキストを読んで課題を調べる	
受講者への メッセージや アドバイス:			
フィードバックの 方法:	採点してマナビーで返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	50	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを 基準とする。
	発表・討論	40	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうかを 評価する。
	授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。
教科書:	井波律子『論語入門』(岩波新書 2012年)		
参考書:	吉川幸次郎『中国の知恵』 吉川幸次郎『論語』上、下 山田慶児『混沌の海へ』 島田虔次『大学・中庸』		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡 方法:	マナビーの掲示板		

授業テーマ:	中国の知恵・日本の知恵		
授業の概要:	ギリシア人が世界が何からなっているかを追い求めていたのに対して、中国人は人間がどうすればよりよく生きることができるかを思索し続けていたとされる。その意味において、中国文化は人間本位の文化である。数千年の歴史に、中国文化は人間の生き方に深い思索と知恵を蓄積してきた。いっぽう、日本文化も人間の生き方に蘊蓄を積み重ねてきた。本演習は、生きることに関する中国人と日本人の知恵に焦点を当て、現代人がそこから何を学び取れるかを中心に考察していこうとする。		
到達目標:	○老子・莊子や『「いき」の構造』などを通して、生き方に関する中国や日本の知恵について初歩的な知識を持つ。 ○文献の読み方、調べ方を身につける。		
授業方法:	共通テキストを読み、参加者が順番に発表し、ディスカッションする方式で進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 老子講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	2. 老子講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	3. 老子講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	4. 老子講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	5. 老子講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	6. 莊子講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	7. 莊子講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	8. 莊子講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	9. 莊子講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	10. 莊子講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	11. 『「いき」の構造』講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	12. 『「いき」の構造』講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	13. 『「いき」の構造』講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	14. 『「いき」の構造』講読	テキストを読んで課題を調べる。	
	15. 総括	テキストを読んで課題を調べる。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	採点してマナビーで返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	50	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
	発表・討論	40	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうかを評価する。
	授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。
教科書:	蜂屋邦夫訳註『老子』(岩波文庫 2008年) 福永光司・興膳宏訳『莊子』内篇(ちくま学芸文庫 2013年) 九鬼周造『「いき」の構造』(岩波文庫 1979年)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板		

授業テーマ:	子ども・女性の身体をめぐる諸政策と自己決定権																																																		
授業の概要:	21世紀を生きる子どもや女性に取って、日本の制度・政策は適切かつ的確か。また、「母子政策」は地域社会や家庭生活にどのような影響を与え、一人一人の身体や健康をどのように規定しているのか。さらに、政策に組み込まれた個人には、どのような自己決定権が存在するのか。 こうした疑問を解明するため、リプロダクション(妊娠、出産、子育て、子育ち、等)やセクシュアリティに関する日本の諸政策と個人との関係を学び、諸外国のそれらと比較検討する。また、日本における「子どもと女性の自己決定権」についても考究する。 なお、本演習では、ジェンダー・センシティブな視点から研究することも重視する。加えて、毎回、各人が書籍をよみ、レジュメを作成し報告することを義務とする。さらに、大学院生として研究・調査の倫理を学び、身に付ける。																																																		
到達目標:	(1)子ども・女性の身体に関する法律とその中味を理解し、法律が運用されている現況の利点、問題点、課題等を正確に理解できる。 (2)深く思考し、必要な諸資料を自ら探し問題提起できる力を身に付ける。																																																		
授業方法:	受講生との協議によってテキストを決定し、発表とディスカッション形式で授業を行う。																																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th colspan="2">授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1.</td><td>演習内容・使用する文献等の紹介 研究倫理の基礎理解</td><td>各自が「子ども・女性と身体」に関する諸政策の中で、より深く学びたい政策を提案できるよう、事前に提案内容を考えて授業にのぞむ。</td></tr><tr><td>2.</td><td>日本の母子政策を学ぶ(1)一児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法など一</td><td>児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律の全文を複写し持参する。</td></tr><tr><td>3.</td><td>日本の母子政策を学ぶ(2)一児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法など一</td><td>児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から一つを選択し、同法を読み整理してくる。</td></tr><tr><td>4.</td><td>日本の母子政策を学ぶ(3)一児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法など一</td><td>児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から、前回とは異なる法律の一つを選択し、同法を読み整理してくる。</td></tr><tr><td>5.</td><td>日本の政策はどのようにつくられるのか一妊娠・出産関連政策を事例として一</td><td>児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から、前回とは異なる法律の一つを選択し、同法を読み整理してくる。</td></tr><tr><td>6.</td><td>日本の母子政策</td><td>3種の法律の特徴、政策過程について、視点別にノート整理ができています。</td></tr><tr><td>7.</td><td>世界の政策一リプロダクティブ・ヘルス/ライツが構成されるまで一</td><td>日本の母子政策の特徴を述べるができる。</td></tr><tr><td>8.</td><td>世界の政策一リプロダクティブ・ヘルス/ライツが構成されるまで一</td><td>前回配布したリプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史を配布資料を読みレジュメを作成してくる。</td></tr><tr><td>9.</td><td>世界の政策一避妊・人口妊娠中絶と自己決定権を事例として一</td><td>前回配布したリプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史資料(2)をよみ、レジュメを作成してくる。</td></tr><tr><td>10.</td><td>世界の政策一避妊・人口妊娠中絶と自己決定権を事例として(2)一</td><td>前回配布した避妊・人口妊娠中絶等に関する資料を読み、レジュメを作成し報告準備が出来ている。</td></tr><tr><td>11.</td><td>生殖技術と日本・家庭・夫婦(1)</td><td>自ら、第10回のテーマに基づく資料を探し、ゼミで当該資料を紹介できるようレジュメを作成してくる。</td></tr><tr><td>12.</td><td>生殖技術と日本・家庭・夫婦(2)</td><td>生殖技術に関する日本の動向(1)について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。</td></tr><tr><td>13.</td><td>生殖技術と日本・家庭・夫婦一誰が何を決めるのか一</td><td>生殖技術に関する日本の動向(2)について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。</td></tr><tr><td>14.</td><td>生殖技術と世界・家庭・夫婦一自己決定権を考える一</td><td>生殖技術に関する主に先進国を中心とした、世界の諸動向について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。</td></tr><tr><td>15.</td><td>まとめと議論</td><td>本授業から学んだ内容・疑問・各自の意見等を整理して授業にのぞむ。</td></tr></table>	授業内容		準備学習等の内容	1.	演習内容・使用する文献等の紹介 研究倫理の基礎理解	各自が「子ども・女性と身体」に関する諸政策の中で、より深く学びたい政策を提案できるよう、事前に提案内容を考えて授業にのぞむ。	2.	日本の母子政策を学ぶ(1)一児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法など一	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律の全文を複写し持参する。	3.	日本の母子政策を学ぶ(2)一児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法など一	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から一つを選択し、同法を読み整理してくる。	4.	日本の母子政策を学ぶ(3)一児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法など一	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から、前回とは異なる法律の一つを選択し、同法を読み整理してくる。	5.	日本の政策はどのようにつくられるのか一妊娠・出産関連政策を事例として一	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から、前回とは異なる法律の一つを選択し、同法を読み整理してくる。	6.	日本の母子政策	3種の法律の特徴、政策過程について、視点別にノート整理ができています。	7.	世界の政策一リプロダクティブ・ヘルス/ライツが構成されるまで一	日本の母子政策の特徴を述べるができる。	8.	世界の政策一リプロダクティブ・ヘルス/ライツが構成されるまで一	前回配布したリプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史を配布資料を読みレジュメを作成してくる。	9.	世界の政策一避妊・人口妊娠中絶と自己決定権を事例として一	前回配布したリプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史資料(2)をよみ、レジュメを作成してくる。	10.	世界の政策一避妊・人口妊娠中絶と自己決定権を事例として(2)一	前回配布した避妊・人口妊娠中絶等に関する資料を読み、レジュメを作成し報告準備が出来ている。	11.	生殖技術と日本・家庭・夫婦(1)	自ら、第10回のテーマに基づく資料を探し、ゼミで当該資料を紹介できるようレジュメを作成してくる。	12.	生殖技術と日本・家庭・夫婦(2)	生殖技術に関する日本の動向(1)について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。	13.	生殖技術と日本・家庭・夫婦一誰が何を決めるのか一	生殖技術に関する日本の動向(2)について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。	14.	生殖技術と世界・家庭・夫婦一自己決定権を考える一	生殖技術に関する主に先進国を中心とした、世界の諸動向について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。	15.	まとめと議論	本授業から学んだ内容・疑問・各自の意見等を整理して授業にのぞむ。		
授業内容		準備学習等の内容																																																	
1.	演習内容・使用する文献等の紹介 研究倫理の基礎理解	各自が「子ども・女性と身体」に関する諸政策の中で、より深く学びたい政策を提案できるよう、事前に提案内容を考えて授業にのぞむ。																																																	
2.	日本の母子政策を学ぶ(1)一児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法など一	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律の全文を複写し持参する。																																																	
3.	日本の母子政策を学ぶ(2)一児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法など一	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から一つを選択し、同法を読み整理してくる。																																																	
4.	日本の母子政策を学ぶ(3)一児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法など一	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から、前回とは異なる法律の一つを選択し、同法を読み整理してくる。																																																	
5.	日本の政策はどのようにつくられるのか一妊娠・出産関連政策を事例として一	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から、前回とは異なる法律の一つを選択し、同法を読み整理してくる。																																																	
6.	日本の母子政策	3種の法律の特徴、政策過程について、視点別にノート整理ができています。																																																	
7.	世界の政策一リプロダクティブ・ヘルス/ライツが構成されるまで一	日本の母子政策の特徴を述べるができる。																																																	
8.	世界の政策一リプロダクティブ・ヘルス/ライツが構成されるまで一	前回配布したリプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史を配布資料を読みレジュメを作成してくる。																																																	
9.	世界の政策一避妊・人口妊娠中絶と自己決定権を事例として一	前回配布したリプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史資料(2)をよみ、レジュメを作成してくる。																																																	
10.	世界の政策一避妊・人口妊娠中絶と自己決定権を事例として(2)一	前回配布した避妊・人口妊娠中絶等に関する資料を読み、レジュメを作成し報告準備が出来ている。																																																	
11.	生殖技術と日本・家庭・夫婦(1)	自ら、第10回のテーマに基づく資料を探し、ゼミで当該資料を紹介できるようレジュメを作成してくる。																																																	
12.	生殖技術と日本・家庭・夫婦(2)	生殖技術に関する日本の動向(1)について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。																																																	
13.	生殖技術と日本・家庭・夫婦一誰が何を決めるのか一	生殖技術に関する日本の動向(2)について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。																																																	
14.	生殖技術と世界・家庭・夫婦一自己決定権を考える一	生殖技術に関する主に先進国を中心とした、世界の諸動向について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。																																																	
15.	まとめと議論	本授業から学んだ内容・疑問・各自の意見等を整理して授業にのぞむ。																																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:																																																			
フィードバックの方法:	受講生が見落としている諸資料や補足資料を助言・補填しつつ、視野が広がるような助言指導を行う。																																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート</td><td>40%</td><td rowspan="2">指示した内容に則したレポートを提出していること。レポート内容には、引用・参考文献が明記され、その引用等が正確かつ適切であること。レジュメを用いて的的確な報告ができること。</td></tr><tr><td>報告</td><td>60%</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート	40%	指示した内容に則したレポートを提出していること。レポート内容には、引用・参考文献が明記され、その引用等が正確かつ適切であること。レジュメを用いて的的確な報告ができること。	報告	60%																																										
評価方法	割合	評価基準																																																	
レポート	40%	指示した内容に則したレポートを提出していること。レポート内容には、引用・参考文献が明記され、その引用等が正確かつ適切であること。レジュメを用いて的的確な報告ができること。																																																	
報告	60%																																																		
教科書:	授業中に指定する。																																																		
参考書:	授業中に指定する。																																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力																																																		
教員との連絡方法:	初回授業時に、質疑応答用のメールアドレスを受講生に伝える。																																																		

授業テーマ:	日本の出産施設とその変容からみた子ども・女性・政策		
授業の概要:	本演習では、日本の出産施設「助産所・病院・診療所」に焦点をあて、三種の施設の歴史的推移、背後にある医療政策、医療従事者の変遷、厚生労働政策、子どもと女性がおかれている位置などを理解し議論する。 こうした一つの事例分析資料を通して、「ユーザー・主体・政策」について議論しあう。なお、演習の中で基本となる研究の倫理に関する教育を徹底する。		
到達目標:	(1)日本の母子政策の特徴を理解する。 (2)事例資料を読むこと・読み込むことについて学ぶ。 (3)分析力、深い思考力とは何かを知り、身に付けようとする。		
授業方法:	発表とディスカッション形式で授業を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 研究および研究倫理とは 三種類の施設概要と変容に関する基礎知識の紹介	各自の現段階での興味、課題をのべ、自己紹介等できるよう準備してくる。	
	2. 三種類の施設概要と変容に関する基礎知識の紹介	授業で用いる資料の基礎知識をノート整理している。	
	3. 三種類の施設概要と変容に関する基礎知識の紹介	授業で用いる資料の基礎知識をノート整理している。疑問をまとめておく。	
	4. ゼミ生からの報告: 助産所の変容と衰退(1)	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってこること。	
	5. ゼミ生からの報告: 助産所の変容と衰退(2)	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってこること。	
	6. ゼミ生からの報告: 診療所の変容と日母産科看護学院(1)	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってこること。	
	7. ゼミ生からの報告: 診療所の変容と日母産科看護学院(2)	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってこること。	
	8. ゼミ生からの報告: 大型病院の変容と衰退(1)	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってこること。	
	9. ゼミ生からの報告: 病院の変容と衰退(2)	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってこること。	
	10. ゼミ生からの報告: 厚生労働政策の推移(1)	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってこること。	
	11. ゼミ生からの報告: 厚生労働政策の推移(2)	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってこること。	
	12. ディスカッション: ポリテックスとは	ディスカッションしたい項目・課題(1)を、思考し、提案できるようにしてくる。	
	13. ディスカッション: 医療政策とは	ディスカッションしたい項目・課題(2)を、思考し、提案できるようにしてくる。	
	14. ディスカッション: ユーザー・主体・政策について	日本の子ども政策、女性政策に対する自身の学びと意見をレポートとしてまとめてくる。	
	15. 第14回の続きとまとめ	日本の子ども政策・女性政策についての未来展望について考え、議論用の諸素材を持ち寄る。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	・全授業時に、必ず質疑を確認する。 ・その内容に応じて次回講義時に補足資料やレジュメを準備する。その上で、内容説明等を行う。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	30%	授業および授業内のディスカッションへの積極的参加
	報告	70%	提示した資料に対するレジュメ作成と報告
教科書:	授業中に指定する。		
参考書:	拙著『出産施設はなぜ疲弊したのか―日母産科看護学院・医療法改定・厚生諸政策のあゆみ―』、日本評論社、2015年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	初回授業で受講生には、質疑応答等のメールアドレスを伝え、スムーズな連絡方法を確立する。		

授業テーマ:

日常生活圏としての地域社会の意味を考察する

授業の概要:

地域振興は、今日、簡単な言葉では「まちづくり」と表現されている。国主導の地域開発と地域主導の地域振興との区別と関連を明確にする。

到達目標:

戦後わが国における地域社会の変容過程を構造的に理解し、その時々々の生活様式や地域生活問題の変遷をトレースする。そして、国民文化の一構成部分でありながら、国民文化と異なる種差性を持った地域固有の文化諸形態のなかに、地域社会の発展への萌芽があることを研究する。

授業方法:

テキストに基づいて地域社会研究の系譜を理解する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 地域社会とは政治的アンシュタルトである その1	マックス・ウェーバー都市論の学習
	2. 地域社会とは政治的アンシュタルトである その2	マックス・ウェーバー都市論の学習
	3. 地域社会とは政治的アンシュタルトである その3	マックス・ウェーバー都市論の学習
	4. 地域社会には支配勢力による統治と被支配勢力による支配への対抗運動がある その1	指定した文献の読了
	5. 地域社会には支配勢力による統治と被支配勢力による支配への対抗運動がある その2	指定した文献の読了
	6. 地域社会には支配勢力による統治と被支配勢力による支配への対抗運動がある その3	指定した文献の読了
	7. 地域社会には支配勢力による統治と被支配勢力による支配への対抗運動がある その4	指定した文献の読了
	8. 地域社会には支配勢力による統治と被支配勢力による支配への対抗運動がある その5	指定した文献の読了
	9. 地方自治と中央集権体制の確立の歴史 その1	指定した文献の読了
	10. 地方自治と中央集権体制の確立の歴史 その2	指定した文献の読了
	11. 地方自治と中央集権体制の確立の歴史 その3	指定した文献の読了
	12. 地方自治と中央集権体制の確立の歴史 その4	指定した文献の読了
	13. 京都の町衆の歴史 その1	中世の町衆
	14. 京都の町衆の歴史 その2	近世・近代の町衆
	15. 全体総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

先行研究の疑問点にはコメントを返す

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50%	発表・議論・研究視点の完成度で評価する
	報告の完成度	50%	レポートなどの完成度で評価する

教科書:

参考書:

拙稿「日本における地域社会の展開過程」(松永昌三編「近代日本文化の再発見」岩田書店2006年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

tkono@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

地域振興の現代的意義を探求する

授業の概要:

戦後日本における地域振興の思想発展を、シビルニマム論・地域主義・内発的発展論として整理し、それらの相違点を論じるなかで、現在が第四の地域振興思想の発展期であることを研究する。

到達目標:

国家主導の地域開発とは異なって、地域主導の発展策を地域振興(まちづくり)として理解し、その戦後の思想史的発展をつかむ。

授業方法:

テキストに基づいて地域社会研究の系譜を理解する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	地域社会の現状 その1	国勢調査データから見た国土構成
2.	地域社会の現状 その2	東京一極集中の問題点
3.	地域社会の現状 その3	地方の疲弊と「地方消滅」
4.	地域開発と地域振興 その1	国土総合開発計画の系譜
5.	地域開発と地域振興 その2	国土総合開発計画の系譜
6.	地域開発と地域振興 その3	国土総合開発計画の系譜
7.	地域開発と地域振興 その4	国土総合開発計画の系譜
8.	戦後日本における地域振興の思想的潮流(シビルニマム論・地域主義・内発的発展論)その1	シビルニマムとは？
9.	戦後日本における地域振興の思想的潮流(シビルニマム論・地域主義・内発的発展論)その2	シビルニマムとは？
10.	戦後日本における地域振興の思想的潮流(シビルニマム論・地域主義・内発的発展論)その3	地域主義の多様性
11.	戦後日本における地域振興の思想的潮流(シビルニマム論・地域主義・内発的発展論)その4	内発的発展論の思想
12.	現代日本における地域振興策・まちづくり(観光政策も含めて) その1	地域振興策の諸相(人口流出)
13.	現代日本における地域振興策・まちづくり(観光政策も含めて) その2	地域振興策の諸相(観光政策)
14.	現代日本における地域振興策・まちづくり(観光政策も含めて) その3	地域振興策の諸相(移住促進)
15.	全体総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

先行研究の意味をフィールド観察などで考察する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50%	発表・議論・研究視点の完成度で評価する
	報告の完成度	50%	レポートなどの完成度で評価する

教科書:

参考書:

拙稿「日本における地域社会の展開過程」(松永昌三編「近代日本文化の再発見」岩田書店2006年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

tkono@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	開発援助協力を切り口として理論と実践(現場)の両面から国際社会協力 の実相にアプローチする。		
授業の概要:	国際社会協力(開発援助)の基礎を理論と実践の両面から学ぶ。開発援助の動向や手法の解説に加えて、代表的援助実施機関を具体的に取り上げ、活動内容、組織の特徴、職員に求められる資質やスキルなどを分析し、実際の現場の状況についての理解を深める。開発援助を切り口として現代の国際社会の特徴や現実、或いは相場観などを具体的に体感できるような授業を目指す。		
到達目標:	開発援助の基礎的ボキャブラリーの獲得 国際社会についての相場観の獲得 プレゼンテーション力及び分析力の強化		
授業方法:	講義/演習の混合		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業計画の説明等(授業目的、授業内容、準備学習の内容、成績基準等の説明)		
	2. 開発援助総論I(援助ボキャブラリー)		
	3. 開発援助総論II(日本のODA)		
	4. 開発援助総論III(世界援助コミュニティの動向)		
	5. 小テスト実施(30分程度)		
	6. JICA(国際協力機構)の活動と展望I JICAの活動と展望II	JICA関連の小レポート(1枚課題)作成を課する。次回授業で発表。	
	7. JICA関連小レポートの発表と講評		
	8. JETRO(日本貿易振興機構)の活動と展望	JETRO関連の小レポート作成を課する。次回授業で発表。	
	9. JETRO関連小レポートの発表と講評		
	10. AMDA(特定非営利活動法人アムダ;旧称アジア医師連絡協議会)の活動と展望	援助NPO関連の小レポート作成を課する。次回授業で発表。	
	11. 援助NPO関連の小レポートの発表と講評		
	12. 世界保健機関(WHO)の活動と展望 世界銀行(IBRD)の活動と展望	援助国際機関関連の小レポート作成を課する。次回授業で発表。	
	13. 援助国際機関関連の小レポートの発表と講評	国際再生	
	14. 可能エネルギー機関(IRENA)の活動と展望 日本の国際社会協力は如何にあるべきか(自由討論)		
	15. 国際社会協力の世界(総括)		
受講者へのメッセージやアドバイス:	国際社会協力は間口が広く、ODAもボランティアも、国際機関もNPOも、商業活動も奉仕活動も、包含する。受講者が自らのキャリアパスを考える場合に検討に値する選択肢を提供する可能性もある。国際性、公共性、職業専門性などを兼ね備えた挑戦しがいのある分野だと言える。		
フィードバックの方法:	小テスト:採点して返却する。クラス全体としても講評する。 小レポート: 受講者は作成した小レポートを用いてプレゼンテーションを行う。授業の一環としてプレゼンテーションに対する講評を行う。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	20	積極的参加
	小テスト	30	開発援助の基本枠組みの理解
	発表(小レポート)・討論	50	発表の内容と表現力、討論への貢献
教科書:	教科書は使用しない。プリントなどを適宜授業で配布する。		
参考書:	外務省、2015年版開発協力白書 日本の国際協力、外務省		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール: yoshihiko.kamo@gmail.com		

教員との連絡
方法:

質問等がある場合は、以下の2つの方法で連絡をしてください。

①毎回の講義終了後、声をかけて、質問する。

②okajimk@osaka-ohtani.ac.jp にメールする。(なお、その場合は、メールの件名のところには「同志社女子大学 ○○○○
(氏名)」と書いてください。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

国際金融にかかる諸問題について論じる。

国際金融についての基礎的知識の修得を目標に掲げる。具体的には、外国為替や国際収支、為替政策などについて論じる。

授業方法:

授業参加者による発表(レジメを作成しての発表)および授業担当者による講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	国際決済と外国為替(前半)(教科書第1章)	「ガイダンス」の内容に対する理解 発表用レジメの作成
3.	国際決済と外国為替(後半)(教科書第1章) 外国為替市場と外国為替相場(前半)(教科書第2章)	「国際決済と外国為替(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
4.	外国為替市場と外国為替相場(後半)(教科書第2章)	「国際決済と外国為替(後半)および外国為替市場と外国為替相場(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
5.	国際収支と国際貸借(前半)(教科書第3章)	「外国為替市場と外国為替相場(後半)」に対する理解 発表用レジメの作成
6.	国際収支と国際貸借(後半)(教科書第3章) 国際通貨(前半)(教科書第4章)	「国際収支と国際貸借(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
7.	国際通貨(後半)(教科書第4章)	「国際収支と国際貸借(後半)および国際通貨(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
8.	国際金融市場(前半)(教科書第5章)	「国際通貨(後半)」に対する理解 発表用レジメの作成
9.	国際金融市場(後半)(教科書第5章) 企業の国際的展開と国際金融(前半)(教科書第6章)	「国際金融市場(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
10.	企業の国際的展開と国際金融(後半)(教科書第6章)	「国際金融市場(後半)および企業の国際的展開と国際金融(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
11.	金融のグローバル化と金融機関(前半)(教科書第7章)	「企業の国際的展開と国際金融(後半)」に対する理解 発表用レジメの作成
12.	金融のグローバル化と金融機関(後半)(教科書第7章) 通貨当局の為替政策(前半)(教科書第8章)	「金融のグローバル化と金融機関(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
13.	通貨当局の為替政策(後半)(教科書第8章)	「金融のグローバル化と金融機関(後半)および通貨当局の為替政策(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
14.	金融リスクの国際的管理(前半)(教科書第9章)	「通貨当局の為替政策(後半)」に対する理解 発表用レジメの作成
15.	金融リスクの国際的管理(後半)(教科書第9章)	「金融リスクの国際的管理(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中に実施する発表について、個別にコメント等するなどを通じて、フィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業中の発表	40	到達目標に掲げた国際金融についての基礎的知識が修得されたかを評価する。
	最終レポート	40	到達目標に掲げた国際金融についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
	授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなどによって、国際金融についての基礎的知識を得たかを評価する。

教科書:

上川孝夫・藤田誠一(編)『現代国際金融論(第4版)』有斐閣、2012年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

教員のメールアドレス:mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

国際金融にかかる諸問題について論じる。

国際金融についての基礎的知識の修得を目標に掲げる。具体的には、世界経済と国際金融との関わりおよび国際通貨体制について論じる。

授業参加者による発表(レジメを作成しての発表)および授業担当者による講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	グローバル・インバランスとその調整(前半)(教科書第10章)	「ガイダンス」の内容に対する理解 発表用レジメの作成
3.	グローバル・インバランスとその調整(後半)(教科書第10章)	「グローバル・インバランスとその調整(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
4.	開発金融の諸問題(前半)(教科書第11章)	
	開発金融の諸問題(後半)(教科書第11章)	「グローバル・インバランスとその調整(後半)および開発金融の諸問題(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
5.	グローバリゼーションと為替相場制度(前半)(教科書第12章)	「開発金融の諸問題(後半)」に対する理解 発表用レジメの作成
6.	グローバリゼーションと為替相場制度(後半)(教科書第12章)	「グローバリゼーションと為替相場制度(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
7.	変容する国際金融ガバナンス(前半)(教科書第13章)	
	変容する国際金融ガバナンス(後半)(教科書第13章)	「グローバリゼーションと為替相場制度(後半)および変容する国際金融ガバナンス(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
8.	パックス・ブリタニカの盛衰(前半)(教科書第14章)	「変容する国際金融ガバナンス(後半)」に対する理解 発表用レジメの作成
9.	パックス・ブリタニカの盛衰(後半)(教科書第14章)	「パックス・ブリタニカの盛衰(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
10.	パックス・アメリカナの時代(前半)(教科書第15章)	
	パックス・アメリカナの時代(後半)(教科書第15章)	「パックス・ブリタニカの盛衰(後半)およびパックス・アメリカナの時代(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
11.	EUの通貨統合と新たな課題(前半)(教科書第16章)	「パックス・アメリカナの時代(後半)」に対する理解 発表用レジメの作成
12.	EUの通貨統合と新たな課題(後半)(教科書第16章)	「EUの通貨統合と新たな課題(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
13.	アジア諸国の為替相場制度と地域通貨協調(前半)(教科書第17章)	
	アジア諸国の為替相場制度と地域通貨協調(後半)(教科書第17章)	EUの通貨統合と新たな課題(後半)およびアジア諸国の為替相場制度と地域通貨協調(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成
14.	金融のグローバル化と国際通貨体制(前半)(教科書第18章)	「アジア諸国の為替相場制度と地域通貨協調(後半)」に対する理解 発表用レジメの作成
15.	金融のグローバル化と国際通貨体制(後半)(教科書第18章)	「金融のグローバル化と国際通貨体制(前半)」に対する理解 発表用レジメの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中に実施する発表について、個別にコメント等するなどを通じて、フィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業中の発表	40	到達目標に掲げた国際金融についての基礎的知識が修得されたかを評価する。
	最終レポート	40	到達目標に掲げた国際金融についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
	授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなどによって、国際金融についての基礎的知識を得たかを評価する。

教科書:

上川孝夫・藤田誠一(編)『現代国際金融論(第4版)』有斐閣、2012年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

教員のメールアドレス:mokura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	International Business Communication for Career Development		
授業の概要:	経済のグローバル化により英語の位置が、ビジネスコミュニケーションとしてのコアツールになってきました。将来自分のキャリアに生かせる英語を学んでください。国際経済のなかにおけるビジネスがスムーズに行えるように、英語に対して新たな取り組みにチャレンジします。英語圏(アメリカ合衆国のみならず、イギリス、ニュージーランド、オーストラリア)における「言語や文化が関わる異文化コミュニケーション」に焦点をあて、実践キャリアデザインで役立つ英語を学んでもらいます		
到達目標:	ビジネスのグローバル化に伴い、英語によるコミュニケーションが必要な場面が多くなりました。国際間のコミュニケーションツールとしてのBusiness Communicationの基礎を学びます。「将来は海外で、または諸外国と活躍する」ための原動力をこの授業で身につけることができます。この授業では、英語を話すというトレーニングだけにとどまらず、ビジネスの場で必要不可欠となるインターネットを用いてビジネスに役立つ力も養います。そして最後には、実践英文履歴書、英文自己PR作成、また国際舞台では欠かすことのできない「英語プレゼンテーションの実際の場」を取り入れ、将来皆さんに待ち受けているビジネスステージで生かされるBusiness Communicationを学びます。		
授業方法:	DVDによるUp-to-dateなBusiness Tips、さらにビジネスキャリアにおける英語表現を実践します。パワーポイントやビデオによる講義も含め、学生の基礎的な、実践英語プレゼンテーションの方法のメソッドを行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス講義: イントロダクション	テキストの準備と簡単に目を通す	
	2. 英語スピーチ クリニック	ガイダンスに紹介したページを復習	
	3. Basicビジネス英会話(1)	テキストpart 1-2	
	4. Basicビジネス英会話(2)	テキストpart 3-6	
	5. Basicインターネットイングリッシュ(1)	テキストpart 7-10	
	6. Basicインターネットイングリッシュ(2)	テキストpart 11-13	
	7. 実践 英文履歴書作成(1)	レポート配布したものを自分なりに仕上げる	
	8. 実践 英文履歴書作成(2)	レポート配布したものを提出できるところまで完成させる	
	9. 英文自己PR作成(1)	レポート配布したものを自分なりに仕上げる	
	10. 英文自己PR作成(2)	レポート配布したものを提出できるところまで完成させる	
	11. 英語プレゼンテーション術とは	実際に英語プレゼンテーションの原稿を作る	
	12. 実践 英語プレゼンテーション基礎(1)	実際に英語プレゼンテーションの原稿を発表する練習をしてくる	
	13. 実践 英語プレゼンテーション基礎(2)	実際に英語プレゼンテーションの原稿を発表する練習をしてくる	
	14. 英語プレゼンテーション 実践(1)	プレゼンテーションの実際をイメージして仕上げる	
	15. 英語プレゼンテーション 実践(2)	プレゼンテーションの実際をイメージして仕上げてくる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	国際ビジネスマネージメントに20年関わってきました。その後、NZ、UKの大学で実践ビジネス、ビジネスキャリアデザインの教員を経て、現在、海外就職セミナー、海外転職セミナーも担当しています。授業はすべて英語で行いますが、バイリンガル教員ですので、質問は英語でも日本語でもOKです。講義中また、講義終了後でも、テキストの内容のみならず、実践的な内容の質問も遠慮なくしてください。教科書(CD付きテキスト)を前もって購入のうえ、CDを必ず聞いて聞き取れない箇所、わからなかった箇所をチェックしておいてください。Good luck!		
フィードバックの方法:	実践、パフォーマンスを中心に講義がすすみますので、必ず復習をして、講義にて発表の場面が多くあります。自分が学んだことを、より明確に、実践的に発表することが中心になります。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	40%	講義出席・参加点
	提出物	30%	ライティングレポートを3回程度提出あり
	クラスでの発表など	30%	プレゼンテーションなど
教科書:	Alex M. Hayashi/Yagi 第1版 (Business English コスモピア出版、2011年)		
参考書:	Naoki Kameda『Managing Global Business Communication』(丸善、2005)。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	mtmkalex23go@nifty.comまで		

授業テーマ:	Global Business Communication & Career Development		
授業の概要:	By globalizing economy, English has become a core tool for international communications. In this course students will have a golden opportunity to learn Business English for their future international careers. In this lecture a strong focus is placed on “Cross-Cultural Communication among English-speaking countries”(not only the United States of America but also U.K., New Zealand, Australia). New business tips, Business English Speech and English Presentation are introduced in this lecture. In the end, the students in this course will be able to utilize English in their business career development planning. “Let’s Globalize and Get a Good Job!!!”		
到達目標:	Students in this class will get to know how to express their ideas in business fields and to be able to make their English presentation in their future business scenes.		
授業方法:	DVD & PowerPoint & Recording are conducted in class so that students need to practice and speak in class.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Introduction of the Course 2. What is International Career Development? 3. Practice of International Career Development 4. Making an Effective Resume for International Careers 5. Finding your Assets and your Talents 6. Career Vision and its Philosophy 7. What is an International Businessperson? 8. Global Management 9. Cross-Cultural Communication 1 10. Cross-Cultural Communication 2 11. Negotiation Styles for International Business 12. Job Interviews for Global Employment Scenes 13. Business Presentation 1 14. Business Presentation 2 15. Business Presentation 3	Preparation (textbook) Textbook Part 1-3 Textbook Part 4-6 Textbook Part 7-9 Textbook Part 10-11 Textbook Part 12 Textbook Part 13 Textbook Part 14 Textbook Part 15 Textbook Part 15 Reports(1) Reports(2) Preparation for Presentation(1) Preparation for Presentation(2) Preparation for Presentation(3)	
受講者へのメッセージやアドバイス:	The lecture is given with the use of DVDs and PowerPoint. The appointed teacher is bilingual of English and Japanese. Students are welcomed to shoot questions either by English or Japanese. Trendy and practical teaching materials are provided.		
フィードバックの方法:	Business English and Business presentation are the most valued in this class. Students need to practice before coming to join the class.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class participation	40%	motivation to join the class
	Reports	30%	two times (reports)
	Presentation	30%	two times (English Presentation)
教科書:	『Let’s Cross Culture!』 The 4th Edition By Alex M. Hayashi (Asahi Culture、2016)		
参考書:	『Managing Global Business Communication』 By Naoki Kameda (Maruzen, 2005).		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力／Analytical ability, 思考力／Thinking power, 創造力／Creative ability, プレゼンテーション力／Presentation skill, コミュニケーション力／Communication skill, リーダーシップ／Responding to change, 自己管理能力／Self-managerial power, 自己実現力／Ability of self-realization		
教員との連絡方法:	mtmkalex23go@nifty.com		

授業テーマ:	企業、取引及び社会の国際化における情報システムの意義と課題について学んだ上で、プラットフォーム戦略やeマーケットプレイス、グローバルソーシャルメディアといった最新事例の研究を行う。																																		
授業の概要:	情報通信技術や交通手段の発展によって、世界がますます近くなってきています。特に、情報通信技術を駆使した様々な情報システムが企業や市場、社会の国際化の進展に大きく貢献しています。本講では情報システムによる国際化の進展を、①企業の国際化、②取引の国際化、③社会の国際化の三つの領域に分けて学習した上で、各領域における先進事例についてその特徴と課題について研究します。特に、国際基準や電子通貨、異文化コミュニケーションについては国際化に向けた重要なトピックとして取り上げる予定です。																																		
到達目標:	<インプットすべき知識> ・企業の国際化、取引の国際化、社会の国際化における特徴の理解 ・企業の国際化、取引の国際化、社会の国際化における問題点の理解 ・企業の国際化、取引の国際化、社会の国際化における情報システムの課題の理解 <アウトプットが期待される能力> ・国際情報システム事例の特徴整理 ・国際情報システム事例の課題抽出 ・国際情報システム事例の発表																																		
授業方法:	企業、取引及び社会の国際化の講義 企業、取引及び社会の国際化の事例研究																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. オリエンテーション(グローバル化の鍵を握る情報システム)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>2. グローバル化における三つの道(企業の国際化、取引の国際化、社会の国際化)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>3. 企業の国際化と情報システム(標準化、国際基準、クラウド)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>4. 取引の国際化と情報システム(ネットビジネス、国際物流、国際決済)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 社会の国際化と情報システム(ソーシャルメディア、多言語異文化コミュニケーション)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>6. 企業の国際化に向けた課題(標準化、人材育成、システム統合)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>7. 取引の国際化に向けた課題(規制対応、信用リスク、システム連携)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>8. 社会の国際化に向けた課題(アクセシビリティ、情報リテラシー、モラル教育)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>9. 企業システムのプラットフォーム化(XaaS、WebAPI、マッシュアップ)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>10. eマーケットプレイスによる国際調達</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>11. ソーシャルメディアによる外国人観光集客</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>12. 事例研究:ユニクロ(グローバルプラットフォーム)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>13. 事例研究:アマゾン(BtoCマーケットプレイス)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>14. 事例研究:アリババ(BtoBマーケットプレイス)</td><td>・講義内容については必ず復習しておくこと。</td></tr><tr><td>15. 事例研究の発表</td><td>・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。</td></tr></tbody></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション(グローバル化の鍵を握る情報システム)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	2. グローバル化における三つの道(企業の国際化、取引の国際化、社会の国際化)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	3. 企業の国際化と情報システム(標準化、国際基準、クラウド)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	4. 取引の国際化と情報システム(ネットビジネス、国際物流、国際決済)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	5. 社会の国際化と情報システム(ソーシャルメディア、多言語異文化コミュニケーション)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	6. 企業の国際化に向けた課題(標準化、人材育成、システム統合)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	7. 取引の国際化に向けた課題(規制対応、信用リスク、システム連携)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	8. 社会の国際化に向けた課題(アクセシビリティ、情報リテラシー、モラル教育)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	9. 企業システムのプラットフォーム化(XaaS、WebAPI、マッシュアップ)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	10. eマーケットプレイスによる国際調達	・講義内容については必ず復習しておくこと。	11. ソーシャルメディアによる外国人観光集客	・講義内容については必ず復習しておくこと。	12. 事例研究:ユニクロ(グローバルプラットフォーム)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	13. 事例研究:アマゾン(BtoCマーケットプレイス)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	14. 事例研究:アリババ(BtoBマーケットプレイス)	・講義内容については必ず復習しておくこと。	15. 事例研究の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション(グローバル化の鍵を握る情報システム)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
2. グローバル化における三つの道(企業の国際化、取引の国際化、社会の国際化)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
3. 企業の国際化と情報システム(標準化、国際基準、クラウド)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
4. 取引の国際化と情報システム(ネットビジネス、国際物流、国際決済)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
5. 社会の国際化と情報システム(ソーシャルメディア、多言語異文化コミュニケーション)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
6. 企業の国際化に向けた課題(標準化、人材育成、システム統合)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
7. 取引の国際化に向けた課題(規制対応、信用リスク、システム連携)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
8. 社会の国際化に向けた課題(アクセシビリティ、情報リテラシー、モラル教育)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
9. 企業システムのプラットフォーム化(XaaS、WebAPI、マッシュアップ)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
10. eマーケットプレイスによる国際調達	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
11. ソーシャルメディアによる外国人観光集客	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
12. 事例研究:ユニクロ(グローバルプラットフォーム)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
13. 事例研究:アマゾン(BtoCマーケットプレイス)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
14. 事例研究:アリババ(BtoBマーケットプレイス)	・講義内容については必ず復習しておくこと。																																		
15. 事例研究の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	インターネットの進展によって、ビジネスにおいても社会においても否が応でも国際化の流れに乗らざるを得なくなってきています。しかし、そこには語学だけの問題ではなく、政治や制度、文化といった容易には統一できない違いが存在しています。次世代を担うグローバルセンスを持った国際人材が一人でも多く輩出されることを期待しています。																																		
フィードバックの方法:	講義や演習内容に対する質疑応答や実習講評はできる限り教室にて行いますが、電子メールでもマナビーの掲示板でも対応します。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><thead><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr></thead><tbody><tr><td>出席・積極姿勢</td><td>50</td><td rowspan="2">講義内容を傾聴し、ディスカッションにも積極的に参加すること。 講義内容に関連するレポートをきちんと作成・提出すること。</td></tr><tr><td>レポート</td><td>50</td></tr></tbody></table>	評価方法	割合	評価基準	出席・積極姿勢	50	講義内容を傾聴し、ディスカッションにも積極的に参加すること。 講義内容に関連するレポートをきちんと作成・提出すること。	レポート	50																										
評価方法	割合	評価基準																																	
出席・積極姿勢	50	講義内容を傾聴し、ディスカッションにも積極的に参加すること。 講義内容に関連するレポートをきちんと作成・提出すること。																																	
レポート	50																																		
教科書:	レジメを前もって配布し、時事性のある内容は都度配布する。(教科書は使用しない。)																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能、Eメール(sugiura@sugi-sc.com)、授業の前後に教室内で対応																																		

準備学習等の内容

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・講義内容については必ず復習しておくこと。

・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。

授業テーマ:	企業の情報システムにおける国際化対応の具体的な取り組みを、①国際会計基準対応、②グローバルサプライチェーン、③オフショア開発、④グローバルITガバナンスの四つの領域に分けて学習した上で、各領域における先進事例についてその特徴と課題について研究する。		
授業の概要:	海外進出の有無に関係なく、企業のグローバル化は避けられなくなってきました。特に、情報システムは企業のビジネス活動に直結するものであり、そのスムーズな国際化への対応が企業のグローバル化成否の鍵を握っていると言っても過言ではありません。本講では企業の情報システムにおける国際化対応の具体的な取り組みを、①国際会計基準対応、②グローバルサプライチェーン、③オフショア開発、④グローバルITガバナンスの四つの領域に分けて学習した上で、各領域における先進事例についてその特徴と課題について研究します。		
到達目標:	<インプットすべき知識> ・国際会計基準対応における企業の情報システムの概要と課題の理解 ・グローバルサプライチェーンにおける企業の情報システムの概要と課題の理解 ・オフショア開発における企業の情報システムの概要と課題の理解 ・グローバルITガバナンスにおける企業の情報システムの概要と課題の理解 <アウトプットが期待される能力> ・企業情報システムの国際化の特徴整理 ・企業情報システムの国際化の課題抽出 ・企業情報システムの国際化事例の発表		
授業方法:	企業の情報システムにおける国際化対応の講義 企業の情報システムにおける国際化対応の事例研究		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. オリエンテーション(企業のグローバル化に不可欠となる情報システムの国際対応) 2. 国際会計基準対応と財務諸表 3. 国際会計基準対応とルール変更 4. 国際会計基準対応と情報システム 5. グローバルサプライチェーンと標準化 6. グローバルサプライチェーンと生産管理 7. グローバルサプライチェーンとCSR調達 8. オフショア開発と契約管理 9. オフショア開発と品質保証 10. オフショア開発とサービスマネジメント 11. グローバルITガバナンスとEA 12. グローバルITガバナンスとCOBIT 13. グローバルITガバナンスとアーキテクチャ 14. 事例研究:国際会計基準対応、グローバルサプライチェーン、オフショア開発、グローバルITガバナンス 15. 事例研究の発表	準備学習等の内容 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・講義内容については必ず復習しておくこと。 ・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	大企業やネットビジネス企業だけでなく、多種多様な企業が国際化の必要性に直面しています。企業会計や商取引、コーポレートガバナンスといった経営課題がグローバル化の進展の中で変化し、複雑・高度化する中で、ビジネスとITを理解し、さらにグローバルセンスを持った国際人材への需要がますます高まっています。国際会計基準や貿易実務、企業統治といったあまり聞き慣れないテーマが登場しますが、重要ポイントにフォーカスして詳説しますので、どうぞチャレンジしてみてください。		
フィードバックの方法:	講義や演習内容に対する質疑応答や実習講評はできる限り教室にて行いますが、電子メールでもマナビーの掲示板でも対応します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 出席・積極姿勢 レポート	割合 50 50	評価基準 講義内容を傾聴し、ディスカッションにも積極的に参加すること。 講義内容に関連するレポートをきちんと作成・提出すること。
教科書:	レジメを前もって配布し、時事性のある内容は都度配布する。(教科書は使用しない。)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能、Eメール(sugiura@sugi-sc.com)、授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ：ローカルな現場から読み解く環境問題

授業の概要：環境問題に対する関心が高まりをみせるなか、今日、あらためて環境と人間の関係性を問い直すことが求められています。他方で、環境と人間の関係性に関する文化人類学の成果・蓄積は、環境問題を理解する上でも有効な視点・方法論となる可能性を有しています。

以上を考慮に入れ、本講義では、世界のさまざまな地域・社会における環境問題を対象とした文化人類学的研究を取り上げ検討を行います。とくに、そこでは、環境問題に直面している現地の人びとの視点に立った理解を深めることを目指します。このような考察を通して、環境問題の本質を理解するとともに、文化人類学的な視点や方法についても積極的に考察をくわえる予定です。

到達目標：・環境問題を理解する上で有効な文化人類学の視点・方法論を習得する。
・「批判力」と「多角的視点」に基づくテキストの読解力を身に付ける。

授業方法：演習形式
・受講生の数によりますが、テキスト講読と質疑・討論による演習形式を予定しています。
・各回テーマとテキストを選定します。
・受講生の希望があれば、野外実習も行う予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	環境問題の人類学	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	環境人類学的視点Ⅰ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	環境人類学的視点Ⅱ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	環境人類学的視点Ⅲ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	森林破壊と地域住民Ⅰ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	森林破壊と地域住民Ⅱ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	「砂漠化」と地域住民Ⅰ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	「砂漠化」と地域住民Ⅱ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	野生生物の危機と地域住民Ⅰ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	野生生物の危機と地域住民Ⅱ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	ライフスタイルと持続可能な資源利用Ⅰ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	ライフスタイルと持続可能な資源利用Ⅱ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

14. 環境問題の解決に向けた一試論

事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

15. 全体総括

各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

本講義の受講生は、日頃から環境問題に関連する新聞報道やTVニュースなどのメディア情報をチェックしておくようにしておいてください。

フィードバックの
方法:

- ・各回のディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
- ・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
討論	30%	討論は、到達目標である「環境問題を理解する上で有効な文化人類学の視点・方法論」に基づいているか評価します。加えて、到達目標である「批判力」と「多角的視点」からなされているかも評価します。
授業への参加度	70%	到達目標である「批判力」と「多角的視点」を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

池谷和信(編)『地球環境問題の人類学』世界思想社

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、理論的思考

教員との連絡
方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

15. 全体総括

各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学び
どう理解したのか整理しておいてください。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

本講義の受講生は、日頃から民族問題に関連する新聞報道やTVニュースなどのメディア情報をチェックしておくようにして
おいてください。

フィードバックの
方法:

- ・各回のディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
- ・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
討論	30%	発表は、到達目標である「文化人類学に立脚した異文化(他者)理解の観点」に基づいているか評価します。加えて、到達目標である「批判力」と「多角的視点」からなされているか評価します。
授業への参加度	70%	到達目標である「批判力」と「多角的視点」からなされているかも評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書: 綾部恒雄(著)『現代世界とエスニシティ』弘文堂

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、理論的思考

教員との連絡
方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ:

こどものことばの教育の歴史的検討

授業の概要:

日本において、こどものことばの教育の基礎を作った西尾実の国語教育論を検討する。

到達目標:

①西尾実の国語教育論を通して、日本の国語教育がどのように生成してきたかを理解している。
②国語教育の歴史研究方法論を例として、教育系の歴史研究方法を理解している。

授業方法:

西尾実のテキストと関連文献を演習的に読み込む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスを読んでおくこと。
	2. ことばの教育の歴史	学んだ内容をまとめておく。
	3. 西尾実の人と生涯	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んでおく。
	4. 西尾実の国語教育論の全体構造	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んでおく。
	5. 西尾実の教育思想	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んでおく。
	6. 西尾実の読むことへの教育論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	7. 西尾実の読むことへの教育論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	8. 西尾実の読むことへの教育論(3)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	9. 西尾実の書くことへの教育論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	10. 西尾実の書くことへの教育論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	11. 西尾実の書くことへの教育論(3)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	12. 西尾実の聞くこと・話すことへの教育論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	13. 西尾実の聞くこと・話すことへの教育論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	14. 西尾実の聞くこと・話すことへの教育論(3)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	15. まとめ	これまで学んだ内容を総合して、レポートにまとめる準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

少人数で文献を読み発表するので、授業外の学習時間を多く必要とします。頑張りましょう。

フィードバックの方法:

授業中にコメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	50%	文献を正確に読み込み、関連情報を取り込んで的確にまとめているかを評価する。
	出席	20%	積極的に授業に参加して発言しているかを評価する。
	レポート	30%	日本の国語教育の歴史や研究方法を踏まえて、論理的かつ正確に表現し、深まった内容になっているかを評価する。

教科書:

プリント等を配布する。

参考書:

西尾実『国語教育辞典 復刻』朝倉書店、2001年
竹長吉正『西尾実、この多様にして複雑な存在―実践的国語教育論の構築者』創英社(三省堂書店)、2012年
野地潤家『国語科教育の創造を求めて―国語教育の聖地、長野に学ぶ』溪水社、2012年
渡辺哲男『「国語」教育の思想―声と文字の諸相』勁草書房、2010年
安良岡康作『西尾実の生涯と学問』三元社、2002年
岩島公『私の国語教育の形成―垣内松三・西尾実と単元学習』東洋館出版社 2000年
西尾実『西尾実国語教育全集』全10巻・別巻2 教育出版、1974年
桑原隆『言語活動主義・言語生活主義の探究～西尾実国語教育論の展開と発展』東洋館出版社、1998年
桑原隆『作文教育のダイナミズム～西尾実・清野甲子三・山下卓造の軌跡』東洋館出版社、1993年
西尾実・田近洵一『西尾実～現代国語教育論集成』明治図書出版 1993年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール、オフィスアワー

授業テーマ:

こどものことばの教育の歴史的検討

授業の概要:

日本において、こどものことばの教育の基礎を作った西尾実の国語教育論を検討する。

到達目標:

①西尾実の国語教育論を通して、日本の国語教育がどのように生成してきたかを理解している。
②国語教育の歴史研究方法論を例として、教育系の歴史研究方法を理解している。

授業方法:

西尾実のテキストと関連文献を演習的に読み込む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	シラバスを読んでおくこと。
	2. 西尾実の行的認識の教育論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	3. 西尾実の行的認識の教育論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	4. 西尾実の言語活動論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	5. 西尾実の言語活動論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	6. 西尾実の言語生活論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	7. 西尾実の言語生活論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	8. 西尾実の言語文化論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	9. 西尾実の言語文化論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	10. 西尾実の国語科教育の近代化論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	11. 西尾実の国語科教育の近代化論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	12. 西尾実の教師論	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	13. 西尾実の授業論	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	14. 西尾実の国語科教育学の構想	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテキストを読んで、レジュメにまとめておく。
	15. 全体のまとめ～西尾実国語教育論の成果と課題	これまで学んだ内容を総合して、レポートにまとめる準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

春学期受講生は慣れたと思いますが、授業外の学習時間を多く必要とします。引き続き頑張りましょう。

フィードバックの方法:

授業中にコメントします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表	50%	文献を正確に読み込み、関連情報を取り込んだ的確にまとめているかを評価する。
	出席	20%	積極的に授業に参加して発言しているかを評価する。
	レポート	30%	授業で学んだことを総合して、論理的かつ正確に表現し、深まった内容になっているかを評価する。

教科書:

プリント等を配布する。

参考書:

倉沢栄吉・野地潤家『朝倉国語教育講座 6 普及版 国語教育研究』朝倉書店、2012年
井上敏夫・浜本純逸『国語教育史研究～教科書を中心に見た』溪水社、2009年
田近洵一『現代国語教育史研究』富山房インターナショナル、2013年
田近洵一『戦後国語教育問題史 増補版』大修館書店、1999年
野地潤家『近代国語教育史研究』溪水社、2011年
野地潤家『国語教育学史研究』溪水社、2011年
野地潤家『国語教育学史』共文社、1993年
安直哉『国語教育における形象理論の生成と展開』東洋館出版社、2015年
浜本純逸『国語科教育の未来へ～国語科・日本語科・言語科』溪水社、2008年
浜本純逸『文学教育の歩みと理論』東洋館出版、2001年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール、オフィスアワー

授業テーマ:	子どもの文化間移動と社会・文化・歴史的文脈		
授業の概要:	子どもの文化間移動は、移動後の子どものアイデンティティ形成に大きな影響を与える。子ども自身の発達段階によっても、アイデンティティのあり方は異なってくるが、文化間移動前後の社会から受ける発達期待によっても、子どもは異なるアイデンティティを形成していく。春学期では、特に発達観、家族観に焦点をあて、子どもをとりまく社会・文化・歴史的文脈が子どもの育ちに及ぼす影響と意味について考える。		
到達目標:	「知識・理解」 文献検索の仕方についての知識がある。 文化と個の関係性について理解している。 「関心・意欲・態度」 自分とは異なる文化的な環境にいる子どもや文化間移動を体験した子どもに関心をもっている。 「表現・技能・能力」 毎回の授業で要求されるコメントを誠実に記述し、レポート課題でも要求された内容を表記できる。		
授業方法:	受講生との協議によってテキストを決定し、発表とディスカッション形式で授業を行う。参加者がレジュメを作成し、毎回必ず報告することを義務づける。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 文化の定義、研究倫理、情報倫理	卒業論文の概要が発表できるように準備しておくこと。	
	2. 異文化間心理学の文献解題	レジュメ作成	
	3. 異文化間心理学の文献解題	レジュメ作成	
	4. 異文化間心理学の文献解題	レジュメ作成	
	5. 文化心理学の文献解題	レジュメ作成	
	6. 文化心理学の文献解題	レジュメ作成	
	7. 文化間移動と子どもの発達	レジュメ作成	
	8. 文化間移動と子どもの発達	レジュメ作成	
	9. 歴史的文脈と子どもの発達	レジュメ作成	
	10. 歴史的文脈と子どもの発達	レジュメ作成	
	11. 文化と自己との関係性	レジュメ作成	
	12. 文化と自己との関係性	レジュメ作成	
	13. 文化と自己との関係性	レジュメ作成	
	14. 文化と自己との関係性	レジュメ作成	
	15. まとめと発表	レジュメ作成	
受講者へのメッセージやアドバイス:	レジュメ作成や関連論文を必ず読んでおいて下さい。レジュメ作成や報告は毎回ありますので、課題遂行時間を十分に取って下さい。		
フィードバックの方法:	毎回の授業の中でレジュメに対するコメントをしたり、研究の進め方について直接指導する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レジュメ作成や報告等の課題の遂行	80%	真摯に課題に取り組んでいる。 不明な点がわかっている。 文献をよく読み込んでいる。 わかりやすい文章で表記されている。
	出席	20%	毎回遅刻や早退をせずに出席している。 他の受講生の研究に対しても意見を述べることができる。
教科書:	特にありません。		
参考書:	塘 利枝子『子どもの異文化受容:異文化共生を育むための態度形成』ナカニシヤ出版 (1999) 塘 利枝子「グローバル化と発達支援」宮川充司・津村俊充・中西由里・大野木裕明編『スクールカウンセリングと発達支援』ナカニシヤ出版 14章 173-187. (2008) 塘 利枝子「東アジアの教科書に描かれた自己表出」榎本博明編著『自己心理学の最先端—自己の構造と機能を科学する—』あいり出版 (2011) 山本雅代・馬淵仁・塘 利枝子編著『異文化間教育のとらえ直し』明石書店 (2016) Lysgaard, S. Adjustment in a Foreign Society: Norwegian Fulbright Grantees Visiting the United States, International Social Science Bulletin,7,45-51. (1955) Cummins, J. The Cross-Lingual Dimensions of Language Proficiency: Implications for Bilingual Education and the Optimal Age Issue, TESOL Quarterly 14, 175-187. (1980) Adler, P. S. The Transitional Experience: An Alternative view of culture shock. Journal of Humanistic Psychology, 15(4), 13-23. (1975) Berry, J.W., Poortinga, Y.H., Segall, M.H., & Dasen, P.R. Cross-cultural Psychology. Cambridge University Press. (1992) Cummins, J. The Entry and Exit Fallacy in Bilingual Education, NABE Journal 4(3), 25-60. (1980)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	研究室で個人相談を行います。 個人メールを活用します。		

授業テーマ:	子どもの文化間移動と社会・文化・歴史的文脈		
授業の概要:	春学期で焦点をあてた子どもをとりまく社会・文化・歴史的な文脈と個体の発達との関係性を踏まえて、秋学期では、種々の文脈の中で子どもが文化間移動や異文化体験をする意味やそこで得られる異文化間能力について考える。特に文化間移動をする子どものアイデンティティの構築過程に焦点をあて、子どもの発達段階と受け入れ側の異文化受容との関係性をも考えながら、生涯発達の視点にたってこれらの問題をとらえる。		
到達目標:	「知識・理解」 自分の研究テーマについて理解している。 文化と個の関係性について理解している。 「関心・意欲・態度」 自分とは異なる文化的な環境にいる子どもや文化間移動を体験した子どもに関心をもっている。 様々な文献を読むようとする意欲がある。 「表現・技能・能力」 毎回の授業で要求されるコメントを誠実に記述し、レポート課題でも要求された内容を表記できる。		
授業方法:	受講生との協議によってテキストを決定し、発表とディスカッション形式で授業を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 異文化間教育学の文献解題、研究倫理、情報倫理	自分の研究テーマのレジュメ作成	
	2. 異文化間教育学の文献解題	レジュメ作成	
	3. 文化間移動とアイデンティティの発達	レジュメ作成	
	4. 文化間移動とアイデンティティの発達	レジュメ作成	
	5. 異文化間能力	レジュメ作成	
	6. 異文化間能力	レジュメ作成	
	7. フィールドワーク方法論	レジュメ作成	
	8. フィールドワーク方法論	レジュメ作成	
	9. フィールドワーク方法論	レジュメ作成	
	10. 調査結果の分析と考察	レジュメ作成	
	11. 調査結果の分析と考察	レジュメ作成	
	12. 調査結果の分析と考察	レジュメ作成	
	13. 調査結果の分析と考察	レジュメ作成	
	14. 調査結果の分析と考察	レジュメ作成	
	15. まとめと発表	レジュメ作成	
受講者へのメッセージやアドバイス:	レジュメ作成や関連論文を必ず読んでおいて下さい。レジュメ作成や報告は毎回ありますので、課題遂行時間を十分に取って下さい。		
フィードバックの方法:	毎回の授業の中でレジュメに対するコメントをしたり、研究の進め方について直接指導する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的な参加	30%	毎回他受講生の研究に対して意見や質問を述べることができる。 指定された文献だけではなく、関連文献を読み、適切なレジュメを作成できる。
	文献解題とレジュメ作成	40%	
	レポート作成	30%	フィールドワークを行い適切な分析ができる。 規定枚数以上のレポートを作成できる。
教科書:	特にありません。		
参考書:	Bronfenbrenner, U. The Ecology of Human Development. Cambridge, Mass: Harvard University Press.(1979)		
	Bronfenbrenner, U. Ecology of the family as a context for human development: Research perspectives.(1986)		
	Shaywitz,S. Overcoming dyslexia : a new and complete science-based program for reading problems at any level, Vintage Books. (2005)		
	佐藤郡衛・吉谷武志(編)『ひとを分けるものつなぐもの:異文化間教育からの挑戦』ナカニシヤ出版.(2005)		
	塘利枝子 言語間移動をする子どものコミュニケーション・対人関係・アイデンティティの発達支援 コミュニケーション障害学31(2), 81-89. (2014)		
	塘利枝子 発達心理学からみた異文化間能力:生涯発達の視点から異文化間能力のモデル化に向けて 異文化間教育 45 (2017)		
	Byram, M. From Foreign Language Education to Education for Intercultural Citizenship: Essays and reflections. Clevedon: Multilingual Matters. (2008)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	研究室で個人相談を行います。 個人メールを活用します。		

授業テーマ:

こどもの創造的表現とコミュニケーション活動を活性化するためのメディアテクノロジー

授業の概要:

この授業は、「学び」「メディア」「デザイン」の3つの視点から創造的な学びとメディアテクノロジーについて考える。具体的には、MIT Media Labで開発されているこども向けコンピュータ言語Scratchを使って、受講者自らアニメーションを作成する。Scratchプログラミングを学び、その経験を通して教育的意義を吟味していく。

到達目標:

(1) 創造的な学びとは何かを、プログラミング活動の文脈に即して説明できる。
(2) Scratchを使って、簡単なアニメーションやプレゼンテーションを作成することができる。
(3) メディアの教育的可能性について積極的に考えようとする。

授業方法:

授業はレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。コンピュータを使ってScratchのプログラミングを学ぶ。プログラミングの知識は前もって必要ないが、新しいメディアに積極的に挑戦したいという情熱が必要。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	創造的な学びのためのメディアテクノロジー -MIT Media LabのLifelong Kindergartenを例として-	MIT Media LabのLifelong KindergartenのWebsiteを参照して、彼らのヴィジョンとミッションを確認しておく。
2.	Scratchの背景となる構成主義的学習観	Lifelong KindergartenのWebsiteを参照して、構成主義的学習観を理解し、さらにScratch のWebsiteでプログラミングについてのイメージをつかんでおく。
3.	創造的、協同的、反省的思考にチャレンジする	ScratchIによる創造的学びの特徴を理解し、その教育学的背景を理解する。
4.	メタ認知とディバグging	プログラミンの学びにおける最重要概念のメタ認知とディバグgingについての理解を深めておく。
5.	Scratchプログラミング1	どんな作品を作りたいかを、ScratchのWebsiteの作品を見て、自分が挑戦したいプログラムを選ぶ。
6.	Scratchプログラミング2	簡単なプログラミングの操作を練習してみる。
7.	Scratchプログラミング3	実際に簡単な作品作りに取り組む。
8.	作品のプロトタイプのプレゼンテーションとグループディスカッション	授業後、他者の作品を見て気づいた点にもとづいて作品の改善を行う。
9.	Scratchプログラミング4	引き続き、プログラミングを行う。
10.	作品の発表会	作品（プログラム）を完成させる。
11.	Scratch Website(http://scratch.mit.edu/)の分析	ScratchのWebsiteの分析を行い、なぜ世界中のこどもたちが夢中になるかを考え、リフレクションペーパーにまとめる。
12.	.Scratch Websiteへ作品をアップする	最終作品をMedia LabのScratch SiteIにアップする準備をする。
13.	プログラミングを通しての学びを吟味する	プログラミングの経験を通して、どのような学びを得たのかをリフレクションペーパーにまとめる。
14.	学習科学とメディアテクノロジー	学習科学研究が教育実践に与える影響を、プログラミングだけではなく、メディアと学びの視点から考えておく。
15.	.学びの未来	最終レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

プログラミングに対しての予備知識やスキルは必要ではありませんが、新しいメディアを使った授業に挑戦してみたい人は大歓迎です。授業は、プログラミングを例にして、その背景にある構成主義的学習観や最新の学習科学の知見をワークショップにどう活かすを考えていくものです。とてもやりがいがありますので、一緒に授業を創っていきましょう。

フィードバックの方法:

グループディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	プログラミングへの貢献度	30	プログラミングの過程で、どのようにステップアップしていったかを評価する。作品の完成度も評価対象になる。
	プレゼンテーション	10	プレゼンテーションの内容が、プログラミングと学びのプロセスをふり返りながら行ったものであるかを評価する。
	ディスカッション	10	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
	最終レポート	50	授業を通して実践的に経験したことを、理論と関係づけて自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:

授業中に資料を配布する。

参考書:

授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる

495000

こどもコミュニケーション特論Ⅱ

上田 信行

授業テーマ:	こどもの創造的表現とコミュニケーション活動を活性化するためのワークショップ・デザイン		
授業の概要:	こどもコミュニケーション特論Iで、Scratchのプログラミングを学び、その教育的意義を吟味した。こどもコミュニケーション特論IIでは、Scratch Workshopのデザインの方法を学び、実際にワークショップを企画、実施、評価、改善を行う。ワークショップのドキュメンテーション技術も同時に学ぶ。		
到達目標:	(1)ワークショップ・デザインモデルを使って、Scratchを使ったワークショップのデザイン・運営・評価・改善ができる。 (2)Scratch Workshopをビデオで撮影し、iMovieを使って編集することができる。 (3)創造的学習環境としてのScratch Workshopの教育的意義を語ることができる。		
授業方法:	授業はレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使って、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善する。学生によるプレゼンテーションや討論を頻繁に行う。積極的な参加が必要。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ワークショップ・デザインの方法	授業後、創造的表現とコミュニケーションを活性化するためのワークショップ・デザインについて、授業でのディスカッションをもとにまとめておく。	
	2. 創造的、協同的、反省的な学びを創造する	春学期で学んだMIT Media LabのLifelong KindergartenのScratch Projectを創造的、協同的、反省的な学びの視点から分析してみる。	
	3. ワークショップ・デザインモデル -空間・活動・ツール・学びの共同体-	ワークショップデザインモデルの4要素について自分の言葉で表現してみる。	
	4. Scratch Workshopのゴールデザイン	Scratch Workshopを学びの文脈に位置付ける。	
	5. Scratch Workshopのアジェンダデザイン	Scratch Workshopのための空間、アクティビティ、ツール、参加者についてイメージしておく。	
	6. ドキュメンテーション -ビデオでワークショップの準備風景を撮る-	携帯のビデオ機能を使い撮影の練習をしておく。	
	7. ドキュメンテーション -iMovieで映像を編集する-	撮ったビデオ素材を確認しておく。	
	8. Scratch Workshopの実施 Workshopの様子をビデオで撮る	ワークショップの準備をする。	
	9. Scratch Workshopのリフレクションとリ・デザイン	ワークショップのビデオを視聴しておく。	
	10. 2回目のScratch Workshopの実施 Workshopの様子をビデオで撮る	アジェンダを改善し、ワークショップの準備をする。	
	11. 2回目のScratch Workshopのリフレクション	ワークショップのビデオを視聴しておく。	
	12. Scratch Workshopのプロモーションビデオ作成	2回分のドキュメンテーションビデオを視聴しておく。	
	13. Scratch Workshopの成果発表会	成果発表会の資料を作成する	
	14. 創造的学習環境としてのScratchプロジェクトを振り返る	Scratch Workshopを振り返りながら創造的表現・学び・コミュニケーションについて考えておく。	
	15. まとめ:テクノロジーと学びの未来	最終レポートの作成	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	プログラミング活動を軸にしたワークショップデザインに興味がある人はぜひ受講してください。ワークショップの運営やファシリテーションの方法が学べます。コンピュータを使ったビデオ編集も体験できるので、積極的に授業に参加してほしい。	
フィードバックの方法:	グループディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ワークショップへの貢献度	30	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善、ドキュメンテーションなどを総合的に評価する。
	プレゼンテーション	10	成果発表会のプレゼンテーションやリフレクションのコメントが的確であるかを評価する。
	ディスカッション	10	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
	最終レポート	50	ワークショップを通して実践的に経験したことを、理論と関係づけて自分の言葉で表現できているかを評価する。
教科書:	授業中に資料を配布する。		
参考書:	授業中に適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	基本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。		

授業テーマ:

現代のキリスト教と女性

授業の概要:

20世紀のキリスト教会では、解放の神学の影響を受けて、1970年代頃からフェミニスト神学運動が興隆した。その中で、従来価値中立的・客観的と信じられてきた伝統的聖書研究はテキストが書かれた当時の父権性社会から影響を受けており、女性が果たした貢献を考慮に入れていないと批判されるようになった。この授業では、キリスト教会における女性の働き、特に1970年代以降のフェミニスト神学運動に焦点をあて、アメリカのウーマニスト神学などマイノリティ女性からのフェミニスト神学への批判にも触れながら、現在までの運動の流れを検討したい。

到達目標:

1970年代以降のフェミニスト神学運動の流れと主要な著作を、批判的な視点を持ちながら理解できるようになること

授業方法:

演習形式。講義とテキスト講読、学生の発表、ディスカッションによって授業を進める。なお、受講学生との話し合いによって、フェミニスト神学をテーマとした著作の中から1冊を選んで講読する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 女性と宗教(1)	指定参考文献を予習してくること
	3. 女性と宗教(2)	指定参考文献を予習してくること
	4. ジェンダーとキリスト教(1)	指定参考文献を予習してくること
	5. ジェンダーとキリスト教(2)	指定参考文献を予習してくること
	6. 欧米のフェミニスト神学(1)	指定参考文献を予習してくること
	7. 欧米のフェミニスト神学(2)	指定参考文献を予習してくること
	8. ウーマニスト神学	指定参考文献を予習してくること
	9. アジアのフェミニスト神学	指定参考文献を予習してくること
	10. フェミニスト神学の作品を読む(1)	指定参考文献を予習してくること
	11. フェミニスト神学の作品を読む(2)	指定参考文献を予習してくること
	12. フェミニスト神学の作品を読む(3)	指定参考文献を予習してくること
	13. 学生の発表と期末レポート指導(1)	発表と期末レポートの準備をすること
	14. 学生の発表と期末レポート指導(2)	発表と期末レポートの準備をすること
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

受講生からの質問や意見について教室で解説し、提出されたレポートにはコメントをつけて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	50	発表テーマについての知識と理解度によって評価する
	期末レポート	50	取り扱うテーマについての理解度や考察の深さによって評価する

教科書:

なし。必要に応じて、講義資料を配布する。

参考書:

有賀夏紀『アメリカの20世紀 下』(中公新書)中央公論社、2002年
田中雅一・川橋範子『ジェンダーで学ぶ宗教学』世界思想社、2007年
川橋範子・黒木雅子『混在するめぐみーポストコロニアル時代の宗教とフェミニズム』人文書院、2004年
E.S.フィオレンツァ『彼女を記念してーフェミニスト神学によるキリスト教起源の再構築』日本キリスト教団出版局、2003年
C・クライスト/J・プラスカウ編『女性解放とキリスト教』新教出版社、1982年
以上の他、適宜授業中に紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワーを利用する他、メールcsaito@dw.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。

授業テーマ:

アメリカの歴史と宗教

授業の概要:

アメリカは、その植民地時代から、国家としてのアイデンティティを聖書とキリスト教を核とした枠組みによって表現し理解して来た。アメリカの宗教は、「市民宗教」として、その建国から今日に至るまでアメリカ社会を導き続けてきたと言われる。

しかし、アメリカ社会の宗教人口構成は、1965年の移民国籍法によって中南米やアジアからの移民が激増したことなどから、近年根本的な変化を遂げつつあると言われる。伝統的に「プロテスタント・キリスト教」社会だと考えられてきたアメリカ社会は、今日では、移民たちがイスラーム教、ヒンドウー教、仏教など、世界各地の宗教を持ち込んだことによって、宗教的にも複雑化を増している。この章では、そのようなアメリカ社会の現状を紹介しながら、さまざまな宗教習慣や価値観を持つ人々が集まってひとつの国家を形成しようとする中で提示される課題について考察する。

到達目標:

(1)アメリカの歴史のなかで宗教が果たしてきた役割について理解する

(2)多様化を増す今日のアメリカ社会のなかで、宗教はどのような様相を呈してゆくのかについて考察する

授業方法:

演習方式。講義と学生の発表・ディスカッションによって進める。

なお、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生と話し合った上で変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	
2. アメリカ史における宗教(1) 先住民の宗教	指定参考文献を予習してくること
3. アメリカ史における宗教(2) 植民地時代の宗教的状况	指定参考文献を予習してくること
4. アメリカ史における宗教(3) 大覚醒(信仰復興運動)、独立革命	指定参考文献を予習してくること
5. アメリカ史における宗教(4) 合衆国憲法と	指定参考文献を予習してくること
6. アメリカ史における宗教(5) キリスト教の海外伝道	指定参考文献を予習してくること
7. アメリカ史における宗教(6) 公民権運動	指定参考文献を予習してくること
8. アメリカ史における宗教(7) 女性解放運動とキリスト教:伝統的キリスト教へのチャレンジ	指定参考文献を予習してくること
9. 前半のまとめと振り返り	前半で学んだことを復習する
10. 多様化するアメリカ社会(1) 今日の宗教的状况1	指定参考文献を予習してくること
11. 多様化するアメリカ社会(2) 今日の宗教的状况2	指定参考文献を予習してくること
12. 多様化するアメリカ社会(3) アジア系移民と宗教	指定参考文献を予習してくること
13. 学生の発表と期末レポート指導(1)	発表と期末レポートの準備をする
14. 学生の発表と期末レポート指導(2)	発表と期末レポートの準備をする
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

受講生からの質問や意見について教室で解説し、提出されたレポートにはコメントをつけて返却する

「成績評価方法」・「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	50	発表テーマについての知識と理解度によって評価する
期末レポート	50	取り扱うテーマについての理解度や考察の深さによって評価する

教科書:

なし。必要に応じて、講義資料を配布する。

参考書:

有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史―テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣(有斐閣アルマ) 2002年

ダイアナ・L・エック『宗教に分裂するアメリカ』池田智訳、明石書店、2005年

森本あんり『アメリカ・キリスト教史―理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年

栗林輝夫『アメリカのキリスト教』栗林輝夫・西原廉太・水谷誠『総説キリスト教史3 近・現代篇』、日本キリスト教団出版局、2007年、pp. 21-116

ロナルド・タカキ『もう一つのアメリカン・ドリーム』安倍紀子・石松久幸訳、岩波書店、1996年

以上の他、適宜授業中に紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワーを利用する他、メールcsaito@dwc.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにする

授業テーマ:

人間が社会的な生き物である限り、他者との関わりあいとは避けては通れないものである。人は基本的に他者との関係によって、また、社会とのつながりを通じて自分という存在を知っていくとされる。しかしながら、他者との関わりあいとは常に容易なものではない。時として、自分の思いが相手に伝わらず焦燥感を抱いたり、相手の考えがうまく汲み取れず衝突してしまうといったことがあり得る。そのような他者との関わりあいをどう捉えるのか、また、それがうまくいかなかった場合にはどのように対処していくのかといったことがらはわたしたちにとって比較的重要な問題と言えるであろう。本講義では、これまでの社会心理学での研究を踏まえて、わたしと他者との関わりについての諸説、諸理論を説明し、実社会においても役立つようなより実践的な知見の確立を目指す。

授業の概要:

人は他者との関係性のなかに編み込まれている。私たちは他者の存在なくしては自らの存在を認識することさえも危うくなる。このような観点から、まず、私が他者と関わっていくということはどういうことなのかについて親密な他者との関係性に焦点を当て、話を進めていく。次に、私と集団や社会から受けている影響やそのネットワークの重要性について解説し、その後、社会や文化といった普段は気にもとめないような大きなものから影響を受けている私と、それと同時に、社会や文化に積極的に関わっていく存在でもある私について、日常的な出来事と関連させながら説明を行う。

到達目標:

(1)親密な対人関係を捉えるための概念を先行研究を踏まえ理解することができる。
(2)親密な対人関係と個人の適応性との関連について理解することができる。
(3)関係の特質や関係の継続性に寄与する要因について議論することができる。
(4)親密な対人関係での諸側面と個人の適応性との関係について議論することができる。
上記の到達目標の全ての到達目標の達成を求める。

授業方法:

講義を行うとともに学生に講義内容について発言を求め、討論を行いながら進めていく。また、時折、資料ビデオの視聴を行いながら、社会心理学について体系的に学習していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション・1章・わたしとは何か？(1)	講義の内容、評価方法の説明
2.	1章・わたしとは何か？(2)	心理学での自己の諸理論の紹介
3.	2章・わたしが他者と関わる時(1)	自己評価過程、自尊心、自己と適応
4.	2章・わたしが他者と関わる時(2)	対人認知、印象形成、ステレオタイプ
5.	3章・親密な関係の光と影(1)	青年期の愛着スタイル、自己成就予言
6.	3章・親密な関係の光と影(2)	好意と愛情、報酬の返報性、親密な関係の維持
7.	5章・他者に見せるわたし(1)	ソーシャルサポート、関係葛藤、DV
8.	5章・他者に見せるわたし(2)	自己呈示、セルフハンディキャッピング
9.	6章・集団に所属すること(1)	栄光浴、自己評価維持モデル
10.	6章・集団に所属すること(2)	他者からの影響、ネットワーク
11.	8章・社会のなかの落とし穴(1)	小さな世界問題、囚人のジレンマ
12.	8章・社会のなかの落とし穴(2)	悪質商法、クレーム行動
13.	9章・わたしの文化を越えて(1)	説得と承諾のメカニズム
14.	9章・わたしの文化を越えて(2)	文化とは何か、相互独立・相互協調
15.	総括	比較文化研究(欧米とアジアの違い) これまでの授業のまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

特になし

フィードバックの方法:

授業内で解説ならびにフィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	講義における発言や議論の内容	40	授業内容を理解し、適切な問題設定をできるかどうか
	講義末の小レポート	60	授業内容を理解し、各トピックについて適切な問題設定を行いながら、それらについて議論できるかどうか

教科書:

「わたしから社会へ広がる心理学」 金政祐司・石盛真徳編著 北樹出版

参考書:

「新編 社会心理学」 堀洋道・山本眞理子・吉田富二雄(編著) 福村出版
「史上最強図解よくわかる恋愛心理学」 金政祐司・相馬敏彦・谷口淳一(著) ナツメ社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

何か疑問等がある場合は、yukanema@otemon.ac.jpまでメールを送って下さい。

授業テーマ:	調査データの解析入門		
授業の概要:	調査によるデータ収集とその処理方法である統計法の基本を学習し、データの処理方法を実際に統計ソフト(SPSSなど)を用いて分析し、統計処理の技能を身につける。授業の前半は主に記述統計について、後半は平均値の差の検定(t検定、分散分析)や多変量解析(回帰分析、因子分析)について取り上げる。		
到達目標:	調査データの処理方法である統計法の基本を理解し、統計処理の技能を身につけることを目標とする。 また、どのような時にどのような統計処理を行うべきかについて学び、自らが収集したデータを分析できるようにすることを目標とする。		
授業方法:	1つの授業の中で、講義形式の解説と統計ソフトの操作方法の説明、演習を並行して行う形式で授業を進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション: データと変数	サンプルデータを用いた分析練習	
	2. 記述統計: データのまとめ方	サンプルデータを用いた分析練習	
	3. 2つの変数の関係を記述する	サンプルデータを用いた分析練習	
	4. 推測統計の基礎: 標本から母集団を推測する	サンプルデータを用いた分析練習	
	5. 統計的検定の考え方	サンプルデータを用いた分析練習	
	6. 相関係数の検定	サンプルデータを用いた分析練習	
	7. χ^2 検定	サンプルデータを用いた分析練習	
	8. 対応のないt検定	サンプルデータを用いた分析練習	
	9. 対応のあるt検定	サンプルデータを用いた分析練習	
	10. 参加者間一要因分散分析	サンプルデータを用いた分析練習	
	11. 参加者間二要因分散分析	サンプルデータを用いた分析練習	
	12. 参加者内一要因分散分析	サンプルデータを用いた分析練習	
	13. 単回帰分析と重回帰分析	サンプルデータを用いた分析練習	
	14. 因子分析	サンプルデータを用いた分析練習	
	15. 総合的演習	サンプルデータを用いた分析練習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	分析してみたいデータなどを事前に用意して授業に臨んでもらうとより授業内容への理解が進みます。		
フィードバックの方法:	提出物については授業内で確認して返却します。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業中の課題	100%	授業中に適宜実施する課題の中で、統計法の基本の理解度、統計処理の技能習得度、適切な統計処理法の選択ができるようになったかを評価する。
教科書:			
参考書:	山田剛史・村井潤一郎 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房 2004年 向後千春・富永敦子 統計学がわかる 技術評論社 2007年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	John Dewey, Democracy and Education		
授業の概要:	1916年の出版以来100年を超えたデューイの『民主主義と教育』の、とくにdemocracy思想とdemocratic educationの理論に検討を加える		
到達目標:	Democratic Educationの基礎的読解力を修得する。		
授業方法:	講読、ディスカッション		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 第一章 Education as a Necessity of Life(1)	該当箇所の予習、レジメ作成	
	2. 同上(2)	同上	
	3. 第二章 Education as a Social Function(1)	同上	
	4. 同上 (2)	同上	
	5. 第三章 Education as Direction (1)	同上	
	6. 同上(2)	同上	
	7. 第四章 Education as Growth(1)	同上	
	8. 同上(2)	同上	
	9. 第五章 Preparation, Unfolding, and Formal Discipline (1)	同上	
	10. 同上(2)	同上	
	11. 第六章 Education as Concervative and Progressive (1)	同上	
	12. 同上(2)	同上	
	13. 第七章 The Democratic Conception in Education (1)	同上	
	14. 同上(2)	同上	
	15. 同上(3)	同上	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	口頭、メール		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	資料、プレゼン	40	資料の精密さとプレゼンテーションの説得力
	英文読解力	20	正確な専門書読解力
	レポート	20	緻密な論理構成力を伴うか
	出席	20	全出席を基本とし、減点する
教科書:	John Dewey, Democracy and Education, Dover Publications, 2004.		
参考書:	Jim Garrison, Stefan Neubert, and Kersten Reich, Democracy and Education Reconsidered: Dewey after One Hundred Years, Routledge, 2016. 加賀裕郎、高頭直樹、新茂之編著『プラグマティズムを学ぶ人のために』、世界思想社、2017年.		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	口頭、メール		

授業テーマ:	John Dewey, Democracy and Education		
授業の概要:	春学期に続いて、Democracy and Educationの原理的箇所を中心とした読解を行い、続いて現代の代表的な民主主義論と比較検討する。今年度はAmy Gutmann, Democratic Educationを取り上げる。		
到達目標:	現代の哲学的な民主教育論、民主主義論について基礎的な知識と理解力を獲得することを目指す。		
授業方法:	講読とディスカッション		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	第八章 Aims in Education(1)	該当箇所の読解と資料準備
	2.	同上(2)	同上
	3.	第九章 Natural Development and Social Efficiency as Aims.	同上
	4.	同上(2)	同上
	5.	Amy Gutmannのデューイ批判を検討する	拙論「デューイ民主主義論は抑圧的か」を読んでおく。
	6.	Amy Gutmann, Democratic Educationの検討	拙論「現代の民主主義と教育」、「再帰的近代における民主的教育」を読んでおく
	7.	同上(2)	該当箇所の読解と資料準備
	8.	同上(3)	同上
	9.	同上(4)	同上
	10.	同上(5)	同上
	11.	同上(6)	同上
	12.	同上(7)	同上
	13.	デューイとガットマンの民主教育論の比較検討(1)	配布した一連の拙論を検討しておくこと
	14.	同上(2)	同上
	15.	同上(3)	同上
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	口頭、メール		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	資料とプレゼン	40	緻密な資料作成と説得力あるプレゼンテーション
	原書読解力	20	正確な英文専門書読解能力
	ディスカッション、レポート	20	緻密な論理と独創性
	出席	20	全出席を基本とし減点
教科書:	John Dewey, Democracy and Education, Dover Publications, 2004. Amy Gutmann, Democratic Education, Princeton University Press, 1987.		
参考書:	Jim Garrison, Stefan Neubert, and Kersten Reich, Democracy and Education Reconsidered: Dewey after One Hundred Years, Routledge, 2016. 加賀裕郎、高頭直樹、新茂之編著『プラグマティズムを学ぶ人のために』、世界思想社、2017年。 ジョン・デューイ『確実性の探求』(加賀裕郎訳)、東京大学出版会、2017年。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	口頭、メール		

授業テーマ:

情動・感情発達の理解

授業の概要:

感情は、人の行動の動機づけと相互に関連している。本講義では、感情と動機づけを中心に、その生涯にわたる発達の様相を概説する。さらに、感情研究の先行研究の文献購読により、情動―感情発達の理論に基づく心理的介入のあり方について考究する。

到達目標:

情動・感情の基本的な概念を理解し、その発達的变化を環境・社会の相互作用を含み包括的に捉えることができる。また情動・感情の発達研究の具体的な方法について理解し、説明することができる。

授業方法:

主には文献購読、発表を中心に授業を進行し、基本的な概念については講義形式で概説する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション・文献紹介	文献講読
	2. 感情とは	文献講読
	3. 感情と動機づけ	文献講読
	4. 感情と動機づけの発達	文献講読・発表準備
	5. 感情の研究(研究法)	文献講読・発表準備
	6. 感情の研究(研究計画)	文献講読
	7. 感情発達の論文検索・収集	文献収集
	8. 青年期の感情発達研究	文献講読・発表準備
	9. 成人期の感情発達研究	文献収集
	10. 感情の生涯発達研究	文献講読・発表準備
	11. 感情の加齢変化	文献収集
	12. 高齢期の感情発達	文献購読・発表準備
	13. 感情発達研究の実際	研究計画案作成
	14. 感情発達研究計画発表	文献講読
	15. 全体総括	レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講者には、毎週の文献講読および発表準備の課題を提示します。

フィードバックの方法:

購読・発表について授業時間内のコメントにより評価をフィードバックします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50	出席状況、授業への参加度 情動・感情の基本理論の理解度、感情の発達的变化や感情研究の方法を論理的に説明できるかを評価します。
	レポート	50	

教科書:

上淵寿共著、感情と動機づけの発達心理学、ナカニシヤ出版

参考書:

Lang,F.R. & Fingerman,K.L. (Eds), Growing Together, Cambridge University Press.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

情動・感情発達の理解に基づく心理的介入を学ぶ

授業の概要:

感情は、人の行動の動機づけと相互に関連している。本講義では、感情と動機づけを中心に、その生涯にわたる発達の様相を理解する。また研究論文の購読により、情動・感情発達の理解に基づく心理的介入の方法のあり方について理解する。

到達目標:

情動・感情の基本的な概念を理解し、その発達の变化を環境・社会の相互作用を含み包括的に捉えることができる。
情動・感情発達の理解に基づく心理的介入の方法を説明することができる。

授業方法:

主には、受講生の文献購読、発表を中心に授業を進行し、基本的な概念については講義形式で概説する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 心の働き	文献講読
	2. 発達の諸理論（発達段階論）	文献講読
	3. 学習と記憶の発達	文献講読
	4. 新生児の認知能力	文献講読・発表準備
	5. 乳児期の認知発達	文献講読・発表準備
	6. 幼児期の認知発達	文献講読
	7. 学童期の認知発達	文献講読
	8. 加齢にともなう認知機能の変化	文献講読・発表準備
	9. 情動の機能主義的理解	文献講読
	10. 情動とコミュニケーション	文献講読・発表準備
	11. 情動制御	文献講読
	12. 情動発達と文化	文献講読・発表準備
	13. 情動の生涯発達	文献講読
	14. 心の理論	文献講読
	15. 全体総括	まとめレポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講者には、毎週の文献講読および発表準備の課題を提示します。

フィードバックの方法:

購読・発表について授業時間内のコメントにより評価をフィードバックします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	50	出席状況、授業への参加度
	レポート	50	情動・認知の基本理論の理解度、認知機能の発達の变化や情動の研究方法を論理的に説明できるかを評価します。

教科書:

上淵寿共著、感情と動機づけの発達心理学、ナカニシヤ出版

参考書:

Lang,F.R. & Fingerman,K.L. (Eds), Growing Together, Cambridge University Press.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール

500100

データベース概論

伊藤 泰子

授業テーマ:

データベースの構築演習を通して、基礎知識・操作技術・構築能力を身につける。

授業の概要:

現在、多くの情報が「データ」としてコンピュータ上に収集され、利用されている。これらのデータを蓄積し、管理するための技術がデータベースである。日常的に利用する情報技術の多くの場面で、我々はデータベースを使っている。本科目では、データベースの基本的概念を概観し、一般的なデータモデルである関係型データベースの基礎理論、設計、操作を習得する。その上で、データベースシステムを使い、小規模なデータベースの構築演習を行う。

到達目標:

データベースの作成を通して、データベースの知識や操作だけでなく、利用者を意識したシステム作りを身につける。

授業方法:

実習中心に行う。
各自のPCを使用して授業を行うので、必ず持参すること。
(特に、初回授業でデータベースソフトのインストールを行うので、PCを忘れないこと。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション データベースとは、データベースの利用	
2. データベースの作成、フィールドの定義	
3. フィールドオプションの設定	データベースの機能を調べる
4. 検索とソート	検索演算子を調べる
5. レイアウトの基本	
6. レイアウトの応用、パート操作	
7. ボタンとスクリプト	ボタンスクリプト練習問題を完成させる
8. 計算・集計	
9. 関数の利用	関数を利用した練習問題を完成させる
10. リレーションの設定と活用	
11. データベースの設計	データベースの正規化資料を読んでおく
12. 画像の利用	今までの総合復習問題を完成させる
13. 課題作成 データベースの設計	作成するデータベースのテーマと機能を決めておく
14. 課題作成 データベースの構築	
15. 課題作成 データベースの構築	

受講者へのメッセージやアドバイス:

データベースの作成を通じて、利用者を意識したシステムを構築することを学ぼう。

フィードバックの方法:

提出した課題や宿題は、授業内で解説する。
授業外では、メールで質問等を受け付ける。

「成績評価方法」および「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加	30%	積極的に授業に参加し、演習するDBが作成できたかを評価
宿題・小テスト	30%	出題した練習問題の完成度やDBの知識、理解度に応じて評価
課題	40%	学習した内容を踏まえて作成したDBの機能性・操作性に応じて評価

教科書:

適宜、必要資料を提示・配布。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力

教員との連絡方法:

Eメール(yito@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

インターネットの理論的基礎と有効な活用法をユーザの立場で学ぶ

授業の概要:

ネットは私たちの暮らしや仕事のあり方を大きく変えてきました。この授業では、家の中や大学・企業内などのネットワーク(LAN)やインターネットの理論的基礎と有効な活用法をユーザの立場で学びます。

到達目標:

①【知識・理解】LANやインターネットのしくみと主な活用法を例をあげて説明できる。
②【関心・意欲・態度】情報の信頼性やセキュリティ、著作権を意識してネットワークを活用できる。
③【表現・技能・能力】Webやデータベースを問題解決のために効果的に利用できる。

授業方法:

授業は授業支援システム「マナビー」を使い、講義と実習を組み合わせるかたちで行います。実習にはアクティブラーニングとして、グループで行う学習活動(協働学習)やweb教材を使用する個別学習を取り入れます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス、Wi-Fi接続	
	2. 電子メールの使い方と基本的なマナー	小課題
	3. (糸電話を使って考える)ネットワークがつながる仕組み	
	4. (糸電話を使って考える)インターネットがつながる仕組み	小課題
	5. (マジックを使って考える)ネットで情報が送れる仕組み	小課題
	6. Web検索の基礎知識とテクニック	小課題
	7. 情報の信頼性や著作権を考慮したインターネット情報の活用	中間課題(協同学習)
	8. オンラインデータベースの活用	小課題
	9. ネットワークセキュリティ	小課題
	10. ホームページを作ろうー1	
	11. ホームページを作ろうー2	
	12. ホームページを作ろうー3	最終課題(個別学習)
	13. ホームページを作ろうー4	最終課題(個別学習)
	14. ホームページを作ろうー5	最終課題(個別学習)
	15. 学習のまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回、学科貸与のノートパソコン(MacBookAir)を使いますので、初回から忘れずに持参してください。付属のUSB EthernetアダプタとACアダプタも忘れないでください。

フィードバックの方法:

必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	参加姿勢(振り返りを含む)	20	到達目標①②の達成度を評価します。
	小課題	20	到達目標①②の達成度を評価します。
	課題	60	到達目標②③の達成度を評価します。 ※詳細についてはマナビーのコンテンツ「ガイダンス」に掲載します。

教科書:

参考書:

ラックサイバー・グリッド・ジャパン 『サイバー犯罪から身を守る30の知恵』 並木書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: デジタル方式にもとづいた様々な技術が、20世紀末から21世紀初頭にかけて、社会のなかに浸透し、私たちの生活を変容しつつある。周知のように、パーソナルコンピュータの小型化は、その動きを加速度的に促進する。タブレット型コンピュータやスマートフォンなどを用いて、これまでとは異なる様相の日常を私たちは経験しているのである。そうした変容をもたらすもののひとつとしてインターネットがある。インターネットという分散型ネットワークを介して、膨大な情報が流通・循環し、新たなコミュニケーションが構築されている。結果、インターネットは、私たちにとって、ひとつの新たな世界＝ネット世界となるのである。情報にかかわるこうした新たなコミュニケーションや世界におうじる倫理を理解し、思考し、その倫理観をもって行動を実践する力を養うことは、情報通信社会のなかで生活をおくる私たちにとって、重要課題のひとつとなっている。

よって本講義では、情報通信社会で活動する私たちにとって必須である、
(1)情報倫理にかかわる基礎的考察
(2)情報倫理にかかわる応用的考察
というふたつの考察をつうじ、情報倫理について理解を深め、それを思考し、その倫理観をもって社会で行動する力を養う。また、そのひとつの実践として研究倫理について学んでいく。

到達目標: 情報倫理について理解を深めること
情報倫理について思考し、その倫理観をもって社会で行動する力を養うこと

授業方法: 講義を中心とする。ただし具体的な事例を多数あつかうので、それらに関する映像や音の資料を視聴覚メディアやインターネットをかいして、必要に応じて提示する。また受講生が能動的に講義へ参加できるよう、受講生が発言し、ディスカッションを行う機会を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 情報倫理と現代の社会	参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	2. 基礎的考察(1):モノとしての情報	第1回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	3. 基礎的考察(2):リアルな仮想空間	第2回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	4. 基礎的考察(3):応用倫理としての情報倫理	参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	5. 基礎的考察(4):制御と情報(1)	参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	6. 基礎的考察(5):制御と情報(2)	第5回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	7. 基礎的考察(6):制御と情報(3)	第5回と第6回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	8. 応用的考察(1):情報技術、セキュリティ、犯罪(1)	参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	9. 応用的考察(2):情報技術、セキュリティ、犯罪(2)	第8回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	10. 応用的考察(3):個人情報とプライバシー(1)	第8回と第9回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	11. 応用的考察(4):個人情報とプライバシー(2)	第10回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	12. 応用的考察(5):知的所有権とコンテンツ(1)研究倫理など	参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	13. 応用的考察(6):知的所有権とコンテンツ(2)研究倫理など	第12回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	14. 応用的考察(7):知的所有権とコンテンツ(3)研究倫理など	第13回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読しておくこと
	15. 情報倫理の総括と今後	これまでの配布資料の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート	60	情報倫理について理解度、また情報倫理をめぐる独自の視点の構築を基準とする。
	授業内容のまとめの提出	20	授業をつうじて情報倫理についての理解度が上がったのかを評価する。
	授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、情報倫理をめぐる独自の視点を形成できるようになったかを評価する。

教科書:

参考書: 東浩紀『情報環境論集――東浩紀コレクションS』、講談社、2007年
高橋慈子、原田隆史、佐藤翔、岡部晋典『情報倫理――ネット時代のソーシャル・リテラシー』、技術評論社、2015年
さらに講義内でも適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法: オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:	情報の表現とその特徴を数学的な観点から学ぶ		
授業の概要:	情報化社会といわれる現代においては日々大量の情報がコンピュータによって処理されネットワークを介してやりとりされている。さてコンピュータによって扱われている情報とは何だろうか。どのような情報がどのような目的でどのように表現されるのだろうか。この授業では、情報の表現の特徴を数学的な観点から理解することを目指として、情報理論、符号理論、暗号理論にまつわるトピックを取りあげ、とくにコンピュータでの情報表現に基盤をおいて、その基礎を概説する。		
到達目標:	情報を効率的に表現するための仕組みを理解する。 情報のデータ表現の信頼性を高める仕組みを理解する。 情報のデータ表現に秘匿性を与える仕組みを理解する。 情報とそのデータ表現を区別してとらえる思考力を身につける。 情報のデータ表現の性質を数学的にとらえる思考力を身につける。		
授業方法:	基本的に講義により授業を進める。授業中に理解を深めるために演習にも適宜取り組む。また原則として毎回授業への質問・コメントの提出を求める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション、情報とデータ	授業でとりあげる「情報」と「データ」の意味付けを授業後によく振り返っておくこと。	
	2. 数値の表現(1) - さまざまな記数法	数値を表現する方法の多様性とそれぞれの特徴について予習し、授業後に復習すること	
	3. 数値の表現(2) - コンピュータでの自然数の表現など	2進法による自然数の表現の原理、またそれを一般化した位取り記法の原理について予習し、授業後に復習すること	
	4. 数値以外の情報の表現(1) - 文字の表現	文字情報の番号によるデータ表現、また字形のデータ表現について予習し、授業後に復習すること	
	5. 数値以外の情報の表現(2) - 画像の表現	アナログとデジタルの意味、デジタル画像の表現、デジタル化の原理(標準化と量子化)について予習し、授業後に復習すること	
	6. 情報を効率よく表現する(1) - 情報の符号化	情報源から得られる記号列を別の記号列で表現する方法、の基本、とくに瞬時符号、符号木による符号の表現について予習し、授業後に復習すること	
	7. 情報を効率よく表現する(2) - 符号化の効率を測る	符号の効率を表す指標として、記号の出現確率を用いて定義される平均符号長について予習し、授業後に復習すること	
	8. 情報を効率よく表現する(3) - 効率のよい符号化方法	ハフマン符号と情報源の拡大に基づく符号化方法について予習し、授業後に復習すること	
	9. 互いに関連する情報の符号化 - パターンをもった情報のモデル化と符号化	「言語」を例として記号列の出現パターンに特徴がある情報源(マルコフ情報源)について事前に学習し、授業後に復習すること	
	10. 情報の誤りを見つける・訂正する(1) - 誤りの検出と訂正の考え方	バーコードやQRコードなど身の回りにある誤り検出、誤り訂正について事前に学習し、授業で学んだことを復習すること	
	11. 情報の誤りを見つける・訂正する(2) - 誤りの検出	バイナリデータの具体的な誤り検出方法として、単一パリティ検査符号について、その原理、特徴を予習し、授業後に復習すること	
	12. 情報の誤りを見つける・訂正する(3) - 誤りの訂正	反復符号、ハミング符号という誤り訂正符号、符号語間のハミング距離と誤り検出・訂正の関係について予習し、授業後に復習すること	
	13. 秘密の情報を伝える(1) - 暗号の考え方	第三者から情報を秘匿する暗号でのアルゴリズムと鍵の役割、また暗号の安全性の考え方について予習し、授業後に復習すること	
	14. 秘密の情報を伝える(2) - 公開鍵暗号	古来より使われてきた共通鍵暗号の弱点とそれを克服した公開鍵暗号および電子署名について予習し、授業後に復習すること	
	15. まとめ	予め授業全体の学習内容をよく復習しておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	事前の準備なしに講義内容をその場で十分に理解するのは簡単ではないだろう。各トピックに入る前に配布する資料によって予習することが講義を理解する上で重要である。本科目では基本的に積み上げ型で学習を進めていくことになる。授業が進むにつれ前提となる事項が増えていくため、毎回の講義で分からなかったことがあれば復習で理解を補うことが重要である。理解を深めるには授業で紹介する参考書以外にも、複数の文献を参照して予習・復習に利用することが望ましい。		
フィードバックの方法:	原則として毎回授業に関する質問・コメントなどをフィードバックとして提出することを求める。それに対して講評をつけて次の回に返却するか、授業内で解説する。受講状況によって、マナビーを利用する場合がある。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末の総合評価	60	到達目標に照らしあわせて、情報とそのデータ表現を区別し、データ表現の効率性、信頼性、秘匿性という性質について理解し、数学的に扱うことができているかどうかを評価する。
	授業中の演習問題	20	授業で扱う各トピックについて、到達目標に照らしあわせて、基本的事項を理解し、思考できているかどうかを評価する。
	授業へのフィードバック	20	講義を注意深く聴き、その内容について何が分かっている、何が分かっているのかを理解した上で、そのことを適切に教員に伝えること、また授業内容について考えを巡らせ思考したことを適切に表現することができているかどうかを評価する。
教科書:			
参考書:	大村 平「情報数学のはなし」日科技連出版		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		

教員との連絡
方法:

メールでのコンタクトを基本とする。教員のアドレスは授業時に伝えるようにする。

500501、02

ソフトウェア概論

和氣 早苗

授業テーマ:

ソフトウェアを利用しての情報収集、分析、整理、運用、発信、そしてソフトウェア開発の概念について学ぶ

授業の概要:

macOSについてとその有用な活用方法、検索ツールを利用しての情報収集と情報の運用、ActiveMail等によるメールの仕組みと活用、SNSでのコミュニケーション、excel等を利用しての数値分析と表現、プログラミングツールを使っのプログラミング実習など、を実施する。ソフトウェアの使い方ではなく、何のために、どのように各種ソフトウェアを使っていくのかを中心に据えた学習を行う。

到達目標:

情報およびソフトウェアを活用しての問題解決、情報発信を行うための基礎知識およびスキルを習得する。

授業方法:

演習を含む講義形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション	教科書による予習復習および場合により課題の実施
2. 情報の検索と運用	教科書による予習復習および場合により課題の実施
3. 情報の検索: macの使い方を知る	教科書による予習復習および場合により課題の実施
4. データベース	教科書による予習復習および場合により課題の実施
5. ファイル・データ管理	教科書による予習復習および場合により課題の実施
6. インターネットコミュニケーション(メール)	教科書による予習復習および場合により課題の実施
7. 文書表現	教科書による予習復習および場合により課題の実施
8. インターネットコミュニケーション	教科書による予習復習および場合により課題の実施
9. 数値分析I	教科書による予習復習および場合により課題の実施
10. 数値分析II	教科書による予習復習および場合により課題の実施
11. ソフトウェアの種類と開発	配付資料等での予習復習
12. プログラミングI	配付資料等での予習復習
13. プログラミングII	配付資料等での予習復習
14. アルゴリズム	配付資料等での予習復習
15. まとめ	まとめ準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

配布macは毎回持ってきて下さい。

フィードバックの方法:

必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	15	参加姿勢で評価します。
授業内提出物および課題	15	提出回数および内容で評価します。
期末試験の結果	70	点数で評価しますが、必要最低点があります。

教科書:

本田直也監修、情報活用力、noa出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール(swake@dw.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	コンピュータのアーキテクチャについて学ぶ。		
授業の概要:	コンピュータアーキテクチャの概要を理解する。データ表現、2進数、16進数、論理回路、プロセッサの基本機能、記憶装置、入出力装置および計測と制御等の講義を行う。授業ではパソコンの組み立て演習を行う。		
到達目標:	(1)コンピュータの基本的な仕組みを理解してパソコンの基本的な選択や管理ができるようになる (2)コンピュータ開発の思想を理解する (3)常に最新の情報を入手しそれを利用できるようになることである。		
授業方法:	学期間中の通常講義に加えて、パソコン組み立て実習を行う。組み立て実習の日程は講義内にて調整する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. コンピュータの歴史と発展、様々な種類のコンピュータ	予習調査	
	2. IC(集積回路)とマイコン	教科書での予習復習	
	3. 0、1であらわされるデジタル情報、2進数	課題および教科書での予習復習	
	4. 基数変換(10進数、2進数、16進数)	課題および教科書での予習復習	
	5. 論理回路 ー組合せ回路、順序回路	課題および教科書での予習復習	
	6. 2の補数による減	課題および教科書での予習復習	
	7. 固定小数点、浮動小数点	課題および教科書での予習復習	
	8. パソコンのハードウェア ーインタフェースと周辺機器	課題および教科書での予習復習	
	9. パソコンのハードウェア ー記憶装置	課題および教科書での予習復習	
	10. パソコンのハードウェア ープロセッサ(演算装置、制御装置	課題および教科書での予習復習	
	11. 情報機器のスペックと選択	情報機器調査	
	12. まとめ	まとめ試験準備	
	13. パソコン組立実習(13回～15回については別途1日の日程で実習を行います。)	これまでの授業の復習	
	14. パソコン組立実習(13回～15回については別途1日の日程で実習を行います。)	これまでの授業の復習	
	15. パソコン組立実習(13回～15回については別途1日の日程で実習を行います。)	これまでの授業の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	PC組み立て実習への参加は単位取得の必須条件です。		
フィードバックの方法:	必要に応じて教室でまとめて解説します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	PC組み立て実習への参加		単位取得の前提条件(参加必須)
	授業への取り組み姿勢	25	参加姿勢で評価します。
	期末試験	50	点数で評価しますが、必要最低点があります。
	提出物	25	提出回数で評価しますが、必要最低回数があります。
教科書:	青木征男、情報の表現とコンピュータの仕組み、ムイスリ出版		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力		
教員との連絡方法:	Eメール(swake@dw.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

コンピュータの「活かし方」に気付く

授業の概要:

資料作成、調査の結果の整理・分析、レポート作成などに関する、Microsoft OfficeのWord、Excel、PowerPointの基本的な操作・活用方法を学びます。

到達目標:

Word・Excel・PowerPointの特徴を理解して、それぞれを活かした使い方をマスターする。

※当講義は、Word、Excel、PowerPointについて、基本的な操作から説明します。
MOS、P検、日商PC検定などのパソコン関連資格の有資格者、またはそれと同等レベルと思われる学生は、当講義の上級クラスの受講をお勧めします。上級クラスは、タイピングの結果に関わらず、希望者優先で選択できます。上級クラスを希望する場合は、当クラスではなく、上級クラスを選択してください。(授業が開始してから、授業のレベルに不満があっても、春・秋学期を通して途中でのクラス変更は一切できません。注意してください。)

授業方法:

情報処理実習室で一人一台のパソコンを使い、実習方式で授業を行います。(基本的にはWindowsでの操作になりますが、場合によっては、Macを利用することもあります。Mac利用の際は、前もって告知します。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス(講義の内容、試験・出席の評価方法の説明)・大学のパソコン環境の説明	当講義に関する重要事項を説明します。今後の受講に影響しますので、再履修者も必ず参加してください。
	2. コンピュータの基礎知識1	・Macを持参すること。 ・MacとWindowsPCとの違い、操作の違いなどを事前に考えておいてください。
	3. コンピュータの基礎知識2	・Macを持参すること。 ・MacとWindowsPCとの違い、操作の違いなどを事前に考えておいてください。
	4. Word・Excel・PowerPointのそれぞれの特徴と基礎知識	・入力スピード測定テスト(1回目)を行います。入力スピードの向上は、日々の練習が大切です。
	5. Microsoft Word1～文書作成その1	教科書のWordの部分を読んで、予習して臨んでください。
	6. Microsoft Word2～文書作成その2	・前回の内容を復習して臨んでください。
	7. Microsoft Excel1	教科書のExcelの部分を読んで、予習して臨んでください。
	8. Microsoft Excel2	・前回の内容を復習して臨んでください。
	9. Microsoft Excel3	・前回の内容を復習して臨んでください。
	10. 入力スピード測定2・Microsoft Excel4	・入力スピード測定テスト(2回目)を行います。入力スピードの向上は、日々の練習が大切です。 ・前回の内容を復習して臨んでください。
	11. PowerPoint1	教科書のPowerPointの部分を読んで、予習して臨んでください。
	12. PowerPoint2	・前回の内容を復習して臨んでください。
	13. Word・Excel・PowerPointの統合的な使い方	・ここまでで学んだWord・Excel・PowerPointの操作について、十分復習して臨んでください。
	14. 入力スピード測定3・ここまでの復習(小テストまたは課題)	・入力スピード測定テスト(3回目)を行います。入力スピードの向上は、日々の練習が大切です。 ・ここまでの内容について十分復習して臨んでください。
	15. 総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

みなさんは、これまでコンピュータに幾度となく触れてきたことでしょう。小・中・高校でも、コンピュータを使った授業を受けてきたことでしょう。

では、あなたは、コンピュータを活かしていますか？

これまでであなたが知っていることが「すべて」だと思っていないか？

もっといろんなことが、もっと簡単に、コンピュータでできるとしたら？

もっといろんな方法があることを知ったとしたら？

コンピュータの「活かし方」、見直してみませんか？

フィードバックの方法:

小テストを行った場合は、授業中に答え合わせをします。その他については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	入力スピード測定テスト	20	10分間で漢字仮名交じり文字の文章を何文字正確に打てるかを、3回のテストの平均文字数をもって採点します。
	その他	80	小テストまたは課題、および出席・受講態度などを総合して評価します。

教科書:

情報リテラシー 入門編～Windows 10・Office 2016対応 (FOM出版)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメールまたは授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

大学の研究活動に不可欠な「コンピュータ・リテラシー」を身につける。

授業の概要:

コンピュータの基本操作を確認しながら、実習を通して、応用レベルの操作方法まで習得します。

到達目標:

「コンピュータ活用基礎Ⅰ」の上級クラスとして位置し、Word・Excel・PowerPointの基本操作が出来る人を対象に、実践的な活用方法を身につけます。

授業方法:

情報処理室で1人1台のパソコンを使い、実習形式で授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 講義内容、試験出席等、評価方法の説明	特になし
2.	Word、Excel、PowerPointの基本操作の確認1	基本操作の確認
3.	Word、Excel、PowerPointの基本操作の確認2	基本操作の確認
4.	Word応用(1)	Wordの基本操作
5.	Word応用(2)	前回授業の復習
6.	Word応用(3)	前回授業の復習
7.	Word応用(4)	前回授業の復習
8.	Word応用(5)	前回授業の復習
9.	PowerPoint応用(1)	PowerPointの基本操作
10.	PowerPoint応用(2)	前回授業の復習
11.	PowerPoint応用(3)	前回授業の復習
12.	Excel応用(1)	Excelの基本操作
13.	Excel応用(2)	前回授業の復習
14.	Excel応用(3)	前回授業の復習
15.	Excel応用(4)	前回授業の復習

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

実技テスト:教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実技テスト・課題 平常点	70 30	到達目標に関する習熟度により評価する

教科書:

授業開始時に紹介します。

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

研究・調査・発表のためのコンピュータ活用方法を身につける。

授業の概要:

コンピュータ活用基礎Iでは、文書作成や情報整理に必要なコンピュータの基本的な操作を学びました。この授業では、研究・調査・発表のための具体的なコンピュータの活用方法を学びます。この授業は、互いに学び合うことができる「協働学習」の場です。グループワークを通して、互いにコンピュータの活用方法について学び、なおかつ、人とコラボレーションしながら1つのことを成し遂げるために必要なことを学んでください。(グループワークのメンバーは、こちらで決定します。)

到達目標:

商品企画を通じて、データの分析・調査・発表を行えること。また、そのために、自分で考える力を養うこと。
※春学期の「コンピュータ活用基礎I」で通常クラスを選択した場合は、秋学期も通常クラス(当講義)となります。上級クラスへの変更はできませんので、注意してください。

授業方法:

情報処理実習室で一人一台のパソコンを使い、実習方式で授業を行います。(基本的にはWindowsでの操作になりますが、場合によっては、Macを利用することもあります。Mac利用の際は前もって告知します。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス(講義の内容、評価方法の説明、グループワークの説明)	当講義に関する重要な内容を説明します。再履修者も必ず出席するよう努めてください。
2.	グループワーク1～班分け発表／リーダー・サブリーダーの選出/テーマの指定/アンケート作成時の注意点	グループのメンバーを発表しますので、欠席しないように十分注意してください。メンバー同士のコミュニケーションが十分図れるような手段を考えておいてください。
3.	グループワーク2～第1回アンケート用紙の作成	前回アンケート用紙について考察した内容を踏まえて、答えやすいアンケート用紙の作成に努めてください。
4.	グループワーク3～第1回アンケート実施(アンケートへの回答)	単にアンケートに回答するだけでなく、アンケートの各設問についてのレビューも行います。具体的な改善方法を明示できるよう、考えておいてください。
5.	グループワーク4～第1回アンケートの集計と考察	Excelを用いて、アンケート集計を行います。春学期の授業内容を十分復習して臨んでください。
6.	グループワーク5～商品企画1	
7.	グループワーク6～商品企画2	
8.	グループワーク7～商品企画3・第2回アンケート用紙の作成	第1回に実施したアンケートの内容を十分考察し、第2回目のアンケート実施に活かせるようにしてください。
9.	グループワーク8～第2回アンケート実施(アンケートへの回答)・商品設計1	
10.	グループワーク9～第2回アンケートの集計と考察・商品設計2	
11.	グループワーク10～商品設計3・投影チェック用スライド作成	
12.	グループワーク11～スライド作成/スライド投影チェック1	プレゼンテーションのスライドは、大きなスクリーンに投影します。プロジェクターとパソコンのモニターとの映り具合の違いを認識するようにしてください。
13.	グループワーク12～スライド作成仕上げ/スライド投影チェック2	前回で知り得たプロジェクターとパソコンのモニターとの映り具合の違いを踏まえ、微調整をしてください。
14.	グループワーク13～プレゼンテーション(発表)	全員で発表します。スムーズに、そしてみなさんの能力が最大限に活かされるように、十分練習して臨んでください。
15.	グループワーク～まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

グループワーク期間中の欠席や遅刻はグループワークからの十分な学びが得られなくなります。注意しましょう。グループワーク1～13の間で4回以上欠席した場合は、その理由に関係なく、グループワークに参加できていないものとし、単位を与えることが難しくなります。また、3回以内の欠席であっても、遅刻をした場合は、グループ点が大幅に減点されるため、合格点に達することができない場合があります。

フィードバックの方法:

プレゼンテーションについて、みなさんに評価していただきます。得点については、最後の回で発表します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	個人に対する評価	40%	プレゼン審査票の提出、グループワークへの貢献度、出席で評価します。
	グループ単位での評価	60%	グループ課題の提出、プレゼンテーションで評価します。

教科書:

情報リテラシー 入門編～Windows 10・Office 2016対応 (FOM出版)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Emailまたは授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

大学の研究活動に不可欠な「コンピュータ・リテラシー」を身につける。

授業の概要:

コンピュータの基本操作を確認しながら、実習を通して、高度な機能や操作方法まで習得します。
PowerPointではこれまでに習得したスキルを使ってプレゼンテーションを実施します。

到達目標:

「コンピュータ活用基礎Ⅱ」の上級クラスとして位置し、Word・Excel・PowerPointの基本操作が出来る人を対象に、実践的な活用方法を身につけます。

授業方法:

情報処理室で1人1台のパソコンを使い、実習形式で授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	Excelの操作
	Excel実践(1)	コンピュータ活用基礎Ⅰの復習
2.	Excel実践(2)	前回授業の復習
3.	Excel実践(3)	前回授業の復習
4.	Excel実践(4)	前回授業の復習
5.	Excel実践(5)	前回授業の復習
6.	PowerPoint実践(1)	PowerPointの操作
		コンピュータ活用基礎Ⅰの復習
7.	PowerPoint実践(2)	前回授業の復習
8.	PowerPoint実践(3)	前回授業の復習
9.	PowerPoint実践(4)	前回授業の復習
10.	PowerPoint実践(5)	前回授業の復習
11.	PowerPoint実践(6)	前回授業の復習
12.	Word実践(1)	Wordの操作
		コンピュータ活用基礎Ⅰの復習
13.	Word実践(2)	前回授業の復習
14.	Word実践(3)	前回授業の復習
15.	Word実践(4)	前回授業の復習

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

実技テスト:教室でまとめて解説する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実技テスト・課題	70	到達目標に関する習熟度により評価する PowerPointの授業内に一人ずつプレゼンテーションを実施します。
	平常点	30	

教科書:

授業開始時に紹介します。

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	プレゼンテーションの制作方法・発表技法の習得		
授業の概要:	世界の人々が交流し、経済をはじめとする社会システムがグローバル化する現在、他者に自分の意志を明確に伝え、相手を説得する技術は生きるための重要な力です。表現力の育成が一つの教育目標である情報メディア学科で学ぶ者にとって特に必要な能力でもあります。プレゼンテーションは、伝えたい内容を明確にし、相手に見せる諸資料を作成するフェーズと、人前で実際にプレゼンテーションを行うフェーズとがあります。また、コンピュータを使ったパワーポイントやホームページによるプレゼンテーションと、コンピュータを使わないプレゼンテーションの方法があります。この授業では、人にものごとを説明するための技法、説得するためのコツなど構成主義の方法でグループディスカッションを行いながら独自に開発していきます。しっかりとしたプレゼンテーションを行う前の準備段階の資料を問題マップという形で作成します。		
到達目標:	2回のプレゼンテーションを通して、将来にわたって使えるプレゼンテーションの技法を開発することを目指します。どこかに既にあるプレゼンテーションの表面的な方法論を習得するのではなく、自分達にあったプレゼンテーションの技法をクラス全体で構築していきます。		
授業方法:	講義と演習を組み合わせた授業を行います。ノート型パソコンを利用します。必要に応じてビデオ教材も利用します。また、グループに分かれての共同作業も授業の中に組み込まれています。プレゼン資料の評価は学生同士で行います。成績はグループの成果を重視します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. プレゼンテーションとは何か？	復習	
	2. プレゼンテーションが必要な社会状況になったのはなぜか？	復習	
	3. 試作プレゼンテーション作成1	グループでの事前準備を行う	
	4. 試作プレゼンテーション作成2	グループでの事前準備を行う	
	5. 試作プレゼンテーション作成3	グループでの事前準備を行う	
	6. 成果発表会1	グループでの事前準備を行う	
	7. ピアードィスカッションによる相互評価	ピアードィスカッションの準備	
	8. プレゼンテーション資料の作り方:問題マップからスライドへ	復習	
	9. プレゼンテーション資料の作り方:レポートからパワーポイントへ	復習	
	10. ファイナルプレゼンテーション作成1	グループでの事前準備を行う	
	11. ファイナルプレゼンテーション作成2	グループでの事前準備を行う	
	12. ファイナルプレゼンテーション作成3	グループでの事前準備を行う	
	13. 成果発表会2	グループでの事前準備を行う	
	14. 成果発表会	グループでの事前準備を行う	
	15. まとめとふりかえり	プレゼンの秘伝書作りを行う	
受講者へのメッセージやアドバイス:	プレゼンテーションを実際に行うために授業時間以外のグループ学習や調べ学習が発生します。グループ作業が好きな人には楽しい授業です。		
フィードバックの方法:	全授業の終了後、授業で学んだことを冊子にして配布します。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	成果物	70	プレゼンテーションの相互評価
	授業への積極的参加度	30	欠席回数が全授業回数の3分の1を超えた場合は評価対象とならないので注意するように。
教科書:	適宜指示		
参考書:	適宜指示		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	TAを通してアポイントメントを入れることが出来る		

授業テーマ:	プレゼンテーションの制作方法・発表技法の習得		
授業の概要:	世界の人々が交流し、経済をはじめとする社会システムがグローバル化する現在、他者に自分の意志を明確に伝え、相手を説得する技術は生きるための重要な力です。表現力の育成が一つの教育目標である情報メディア学科で学ぶ者にとって特に必要な能力でもあります。プレゼンテーションは、伝えたい内容を明確にし、相手に見せる諸資料を作成するフェーズと、人前で実際にプレゼンテーションを行うフェーズとがあります。また、コンピュータを使ったパワーポイントやホームページによるプレゼンテーションと、コンピュータを使わないプレゼンテーションの方法があります。この授業では、人にものごとを説明するための技法、説得するためのコツなど構成主義の方法でグループディスカッションを行いながら独自に開発していきます。しっかりとしたプレゼンテーションを行う前の準備段階の資料を問題マップという形で作成します。		
到達目標:	2回のプレゼンテーションを通して、将来にわたって使えるプレゼンテーションの技法を開発することを目指します。どこかに既にあるプレゼンテーションの表面的な方法論を習得するのではなく、自分達にあったプレゼンテーションの技法をクラス全体で構築していきます。		
授業方法:	講義と演習を組み合わせた授業を行います。ノート型パソコンを利用します。必要に応じてビデオ教材も利用します。また、グループに分かれての共同作業も授業の中に組み込まれています。プレゼン資料の評価は学生同士で行います。成績はグループの成果を重視します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. プレゼンテーションとは何か？	復習	
	2. プレゼンテーションが必要な社会状況になったのはなぜか？	復習	
	3. 試作プレゼンテーション作成1	グループでの事前準備を行う	
	4. 試作プレゼンテーション作成2	グループでの事前準備を行う	
	5. 試作プレゼンテーション作成3	グループでの事前準備を行う	
	6. 成果発表会1	グループでの事前準備を行う	
	7. ピアードィスカッションによる相互評価	ピアードィスカッションの準備	
	8. プレゼンテーション資料の作り方:問題マップからスライドへ	復習	
	9. プレゼンテーション資料の作り方:レポートからパワーポイントへ	復習	
	10. ファイナルプレゼンテーション作成1	グループでの事前準備を行う	
	11. ファイナルプレゼンテーション作成2	グループでの事前準備を行う	
	12. ファイナルプレゼンテーション作成3	グループでの事前準備を行う	
	13. 成果発表会2	グループでの事前準備を行う	
	14. 成果発表会	グループでの事前準備を行う	
	15. まとめとふりかえり	プレゼンの秘伝書作りを行う	
受講者へのメッセージやアドバイス:	プレゼンテーションを実際に行うために授業時間以外のグループ学習や調べ学習が発生します。グループ作業が好きな人には楽しい授業です。		
フィードバックの方法:	全授業の終了後、授業で学んだことを冊子にして配布します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	成果物	70	プレゼンテーションの相互評価
	授業への積極的参加度	30	欠席回数が全授業回数の3分の1を超えた場合は評価対象とならないので注意するように。
教科書:	適宜指示		
参考書:	適宜指示		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	TAを通してアポイントメントを入れることが出来る		

授業テーマ:

授業の概要: 私たちはメディアに取り囲まれ生活をおくっている。そのメディアとは、例えば、文字や印刷、写真や映画といった視覚メディア、また音楽プレイヤーや電話といった聴覚メディア、さらにはテレビやビデオといった電子メディアなど、非常に多岐にわたる。ただし注意しなければならないこととして、現在そうしたメディアはすべてコンピュータに収斂されていることである。例えば、小型コンピュータであるスマートフォンで私たちは写真を撮り、音楽を聴き、友人とメッセージをやり取りするであろう。しかしながら、たとえすべてのメディアがそれら自体で自律することなく、コンピュータ上のひとつの機能として存在するようになったとしても、私たちはそのメディア(機能)に応じた身体と場所を用意しているように思える。スマートフォンで写真を撮る場合、私たちは動きを止め、少し場所を強張らせる。なぜなのか。

この授業では、コンピュータが様々なメディアを呑み込んだ後も引き続きメディアと私たちの関係について理解を深め、現在のコンピュータを中心としたメディア実践に対して批判的なまなざしを獲得することを目指す。

到達目標: メディアについて理解を深めること
現在のコンピュータを中心としたメディア実践に対して批判的なまなざしを獲得すること

授業方法: 講義を中心とする。ただし具体的な事例を多数あつかうので、それらに関する映像や音の資料を必要に応じて提示する。また受講生が能動的に講義へ参加できるよう、受講生が発言し、ディスカッションを行う機会を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	メディアとはなにか	参考文献の該当箇所を精読すること
2.	文字というメディア	参考文献の該当箇所を精読すること
3.	印刷というメディア	第2回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読すること
4.	写真というメディア	第3回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読すること
5.	映画というメディア	第4回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読すること
6.	電信というメディア	参考文献の該当箇所を精読すること
7.	電話というメディア	参考文献の該当箇所を精読すること
8.	ラジオというメディア	第6回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読すること
9.	テレビというメディア	第6回と第7回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読すること
10.	ビデオというメディア	第9回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読すること
11.	コンピュータというメディア	第10回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読すること
12.	デジタルメディア(1)	参考文献の該当箇所を精読すること
13.	デジタルメディア(2)	第11回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読すること
14.	メディアと人間、生命	第12回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読すること
15.	メディア論をめぐる総括と今後	第11回と第12回、第13回の資料の復習 参考文献の該当箇所を精読すること これまでの配布資料の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート	60	メディアについての理解度、および現在のコンピュータを中心としたメディア実践に対する批判的なまなざしの有無を基準に評価する
	授業のまとめの提出	20	メディアについての理解度を基準に評価する
	授業への参加度	20	現在のコンピュータを中心としたメディア実践に対する批判的なまなざしの有無を基準に評価する

教科書:

参考書: 長谷正人編著『映像文化の社会学』、有斐閣、2016年
谷口文和、中川克志、福田裕大『音響メディア史』、ナカニシヤ出版、2015年
飯田豊編『メディア技術史—デジタル社会の系譜と行方』、北樹出版、2013年
吉見俊哉『メディア文化論——メディアを学ぶ人のための15話改訂版』、有斐閣、2012年
マーシャル・マクルーハン『メディア論——人間の拡張の諸相』栗原裕・河本仲聖訳、みすず書房、1987年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: われわれが世界を知るための知覚と認知のシステムは、さまざまなメディアからの情報を処理することで機能している。知覚情報処理のためのデータは、五官というメディアを経由し感覚情報として入力される。この講義では環境を知る機能を果たしている感覚器官の特性からはじめて、感覚から知覚が成立するプロセスについて解説する。知覚の法則はさまざまな芸術表現の中で生かされているばかりでなく、認知や知覚の誤りに関する法則はイリュージョンという現象を引き起こす。

到達目標: 知覚と認知の心理学に関する現象を大脳の情報処理のメカニズムに関連付けて解説していく。

授業方法: 講義では主に芸術表現と、その背後にある科学的な根拠について概説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	感覚、知覚、そして認知	心理学への招待 7. 感覚と知覚 (VHS)
2.	知覚情報処理	
3.	感覚量の特徴	
4.	五官	
5.	視覚(輪郭の知覚)	
6.	色覚	Newton別冊「感覚―驚異のしくみ」(2016.03.25)
7.	聴覚	ヒューチャーサイエンスシリーズ5「五感力を磨く」PHPムック 山口真美『視覚世界の謎に迫る―脳と視覚の実験心理学』講談社 A・F・T色彩検定公式テキスト3級編 日本音響学会『音のなんでも小事典―脳が音を聴くしくみから超音波顕微鏡まで』講談社 日本味と匂学会(編集)『味のなんでも小事典』講談社
8.	触覚・味覚・嗅覚	後藤倬男、田中平八(編集)『錯視の科学ハンドブック』東京大学出版会
9.	知覚: 図と地	
10.	簡潔化の法則	
11.	錯視と純粹知覚	だまされる脳―バーチャルリアリティと知覚心理学入門 (ブルーバックス)
12.	奥行き(3D)の知覚	
13.	不可能な図形	
14.	運動の知覚	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 出席票に質問欄を用意しています。各回の疑問点については翌週に解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標知覚過程の理解ができるようになったか評価する 記述式問題を出題する
	試験の結果	70	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	ヨーロッパ芸術文化の理解と作品制作の体験		
授業の概要:	本授業では、中世から近世、近代、現代に至るまで、時代とともに変化してきたヨーロッパにおける美術表現の歴史を、実際に現地へ赴いて概観します。各時代の主要作品における表現内容、表現形式の多様性について、理解を深めることが目的です。また並行して、メディアアートの手法を用いた作品制作ワークショップを開催する予定です。自ら創作し発信する立場として能動的に関わることによって、ヨーロッパの芸術文化のいっそう深い理解を促します。		
到達目標:	中世から近・現代に至る美術表現の変遷を理解する ワークショップを通じて、作品制作能力を養う		
授業方法:	事前授業、海外研修、事後課題を含む講義・演習・実習の総合的な授業		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 事前学習1 全体オリエンテーション、課題説明など		
	2. 事前学習2 フランス語会話の入門基礎講座	事前学習の復習	
	3. 事前学習3 アート・ワークショップ	〃	
	4. 事前学習4 西洋美術史	〃	
	5. 事前学習5 危機管理等説明会	〃	
	6. 事前学習6 西洋美術史プレゼンテーションおよびレポート提出	〃	
	7. ベニス(4泊) ベネツィア・ビエンナーレ他研修	ツアー内容の予習	
	8. パリ(7泊) ルーブル他研修＋アート・ワークショップ	〃	
	9. 研修後	レポート課題提出	
受講者へのメッセージやアドバイス:	事前学習を十分に行い、研修中は体調管理に努めてください。		
フィードバックの方法:	事前授業、研修中にアドバイスします。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	100	美術表現の変遷、表現の多様性についての理解を評価対象とします。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業内、研修中に直接連絡してください。		

503800

映像論

森 公一

授業テーマ：映像作品の表現分析

授業の概要：19世紀末に誕生した映像技術は、およそ100年の間に数々の技術的革新を経て多様な表現を産んできました。今やTVやインターネットにおける映像は、極めてスタンダードなコミュニケーションの手段となり、私たちの感性や思考に多大な影響を与えて続けています。一方デジタル技術の進化は、誰もが映像作品の表現者・発信者になれる能動的な状況を開きました。本講義ではこのような状況をふまえ、映像表現の先駆者たちが切り開いた多様な表現を取り上げて、その形式や内容の分析を行うことで、これからの映像表現を切り開く基礎力を養います。

到達目標：映像作品における表現の多様性についての理解
作品を分析する方法、批評する能力の獲得

授業方法：全体としては講義形式で進めますが、一部で演習も取り入れる予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 映画前史と映画の誕生	授業内容と関連のある作品を視聴すること
2. 物語表現のはじまりと映画文法の確立	〃
3. 古典的ハリウッドの形式特性	〃
4. 表現主義、印象主義、アバンギャルド	〃
5. モンタージュ派	〃
6. サイレント喜劇とトーキーによる映画表現の変化	〃
7. ハリウッド黄金期の映画表現	〃
8. 日本映画黄金期の表現 黒沢・小津・溝口の表現	〃
9. 広告の戦略的発想とCM	〃
10. 公共広告におけるCM	〃
11. アイデアの出し方	〃
12. 映画におけるサウンドの効果	〃
13. 視覚的音楽としての映像表現1	〃
14. 視覚的音楽としての映像表現2	試験にむけて振り返り学習を行うこと
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：多くの作品に触れて視野を広げてください。また一つの作品を何度も鑑賞し、分析力を養ってください。

フィードバックの方法：リフレクションペーパーの内容から抜粋し、次回授業にてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	表現の多様性についての理解度、および作品の分析批評能力を評価します。
リフレクションペーパー	20	積極的な授業参加や授業外での作品視聴、および自分の意見を表明していることを評価します。

教科書：

参考書：「世界映画全史」ジョルジュ・サドウール 国書刊行会
「映画技法のリテラシー」ルイス・ジネアッティ フィルムアート社
「スーパー・アヴァンギャルド映像術」フィルムアート社
「アート系映画徹底攻略」フィルムアート社
「映画演出法講義」エイゼンシュテイン 未来社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法：各授業の終了後に直接連絡してください。

授業テーマ:	マルチメディアと創造性		
授業の概要:	マルチメディアという用語は、いろいろな分野において異なった使い方をされている。たとえば、電子出版や家庭用AV機器の拡張機能やバーチャルリアリティを組み込んだゲーム機などがあげられるであろう。一方で、通信衛星や学術情報ネットワークを利用して遠隔地にあるキャンパスを繋いで遠隔授業を行うこともマルチメディア活用の一つの形態とされている。しかし、マルチメディアとは、文字情報、映像情報、音声情報などを単純に組み合わせただけのものではありえない。旧式のAV機器ですら、そのような機能を持っているからである。		
到達目標:	この科目ではマルチメディアにとっての基本条件と可能性について多角的に論じたい。		
授業方法:	マルチメディアは五官を通して、認知活動に対して様々な働きかけを意図的(または偶発的)に行っている。映画やTVは視覚と聴覚を介して情報を伝達するメディアである。この科目では情報の表現形式や活用方法について概説を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 教育改革とマルチメディア 2. 教育と情報メディア 3. デジタル情報とメディア 4. さまざまな記録メディア 5. マルチメディア表現の心理的効果 6. マルチメディアと意味のネットワーク 7. インタラクティブなメディア 8. 静止画の種類と処理 9. 動画の処理 10. 音響・音楽の効果 11. アウトライン処理装置としてのプレゼンテーション 12. 創造性とプレゼンテーション 13. 人工知能の可能性 14. CALL:語学学習におけるマルチメディアの活用 15. まとめ	マルチメディア教育部会(第12回) 議事要旨 「教材整備指針」の策定について(概要) 藤沢晃治「わかりやすい表現の技術」ブルーバックス(B1245) 心を動かす音の心理学 ― 行動を支配する音楽の力 Tak. アウトライナー実践入門 発想法―創造性開発のために(中公新書(136)) クリエイティブマインドセット 日経BP 人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの(角川EPUB選書) 竹内 理・三根 浩(編)『情報化社会と外国語教育』(成美堂)	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	出席票に質問欄を用意しています。各回の疑問点については翌週に解説します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目マルチメディアの基本が理解できるようになったか評価する
	試験の結果	70	記述式問題を出題する
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対		

授業テーマ:	本講義におけるプロダクトとは主に量産を前提とした工業製品を意味します。私たちの身の回りにはたくさんのプロダクトがあり、ごく当たり前にそれらを使って生活しています。では、どのような材料で、どのような技術や過程で製造されているのでしょうか？また、様々なプロダクトは、誰がどのようにデザインしているのでしょうか？		
授業の概要:	プロダクトデザインとはどのような分野なのかについての基礎知識の習得を目指します。デザイナーが知っておくべき様々な情報についての理解を深め、身の回りにあるプロダクトが生まれてくるプロセスを学びます。さらに、小演習を通じて実践するとともに、実社会で行われているブランディング事例を紹介し、デザイナーの思考方法や活動内容を理解します。		
到達目標:	小演習を通じて、与えられた条件や制約に対して、デザイナーとしてどのように理解し、対処すべきかといった方法論や心構えについての理解を深めながら、私たちの身の回りに常にあり、何気なく使っている様々なプロダクトについて、「使い手」としての視点に加え、「作り手」としての新たな視点を得ることを目標とします。		
授業方法:	2名の教員が前半、後半をそれぞれ担当します。講義形式と演習課題にグループワークで取り組む授業とします。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. ガイダンス デザインプロセス概要		デザイン分野の種類について調べておくこと
	2. デザインプロセス1:ユーザーと問題発見1 ライフスタイルとユーザーセグメント		自身のライフスタイルについて考えをまとめておくこと
	3. デザインプロセス2:ユーザーと問題発見2 データで見るユーザー像		日本や世界の人口データについて調べておくこと
	4. デザインプロセス3:アイデア展開の方法1 課題テーマの理解とキーワードで考える手法について		課題テーマについて既存事例を調べておくこと
	5. デザインプロセス4:アイデア展開の方法2 グループワーク1:KJ法による情報整理		
	6. デザインプロセス5:アイデア展開の方法3 グループワーク2:ブレーンストーミングとスケッチ		
	7. デザインプロセス6:アイデア展開の方法4 グループワーク3:プレゼンテーションと講評		プレゼンテーションの準備を行うこと
	8. デザインプロセス7:アイデア展開の方法5 提案書の作成と講評		提案書作成の準備を行うこと
	9. 商品とブランドのデザイン概要:自社ブランド商品『Y』開発の紹介		ブランド『Y』について調べておく
	10. 商品とブランドのデザイン:事例1 新素材に価値を見いだす		
	11. 商品とブランドのデザイン:事例2 技術をブランドにする		
	12. 商品とブランドのデザイン:事例3 コンセプトを具現化する		
	13. 商品とブランドのデザイン:事例4 既存技術で新市場へ		
	14. 商品とブランドのデザイン:事例5 チームで取り組むものづくり		
	15. 商品とブランドをデザイン:まとめ		これまでの内容を振り返り、まとめの準備を行うこと
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業で紹介された内容に基づいて、日頃から身の回りにある様々なプロダクトを観察するよう心がけることが良き復習となります。また、演習課題においては授業時間内及び時間外でのグループワークが必要です。		
フィードバックの方法:	教室内で適宜アドバイスをを行うとともに、各自のプレゼンテーション時に講評を行う。		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小演習時の提出物	70	作り手の視点を持った成果が認められる
	小演習のプレゼンテーション	30	分かりやすくかつ説得力のある伝達が行われている
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業初回に連絡方法を伝達する		

授業テーマ:

エンターテインメント(娯楽)とは、生産的な労働の合間に愉しむこと。エンターテインメント産業とは、そのエンターテインメント(娯楽)をビジネスとして成立させること。つまり自らが楽しむ所から、他人を楽しませる所への位相の転位を必要とする。21世紀の様々なエンターテインメントの表現的な構造と産業的な実態を知ることにより、情報化社会を生きる力を身に付ける。

授業の概要:

テレビ、映画、演劇、CM、音楽、テーマパークなど現在のエンターテインメントを実例を挙げて解析してゆく。表現者としてのクリエイターの立場からと、産業としての立場からと、受容する消費者の立場からと複層的に構造を見てゆく。それは、21世紀にどのような業界で働く者にとっても欠かせない就職ガイダンスの意味をも持つことになる。

到達目標:

これまでは消費者としての立場からのみ接していたエンターテインメントを、表現の視点からや産業としての視点から見ることに、大衆消費社会の各種の産業構造を見抜く洞察力を養う。自らが楽しむことと、他人を楽しませることを同時に知るためには他者に対する想像力が必要となる。エンターテインメントについて考えることは、人間について考えることであるから思考力や創造力や社会力を育てることでもある。

授業方法:

適宜、DVDによる映像や、CDによる音楽などの視聴覚素材を使いながらの講義形式で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	エンターテインメントとは？エンターテインメント産業とは？――娯楽は社会で働く活力を取り戻してくれる。	例題として提示されたテレビ番組や音楽を受講後に確認して復習する。
2.	テレビ産業の構造について――バラエティ番組『秘密のケンミンショー』を例として、番組の内容と制作費とCM広告費の関係を知る。	一時間のテレビ番組を、番組開始から終了までCMと内容項目に分析して書きだしてみる。
3.	視聴率はなぜ大事なのか――テレビドラマを例として視聴率の意味を知る。調査の方法や数字の及ぼす経済効果やタレント好感度などの指標について。	指示する時間帯のテレビ番組を、それぞれ視聴率を書き出して比較する。
4.	広告代理店とは何か――電通や博報堂などの広告代理店は何のために存在しているのか。広告代理店の仕事とはどのようなものなのか。	広告代理店の社名を10社以上調べて書きだしてくる。
5.	CMと商品について――あなたなら何を考えてCMを作るか。「サントリーBOSS」や「ソフトバンク」などのCMを見て、創り手の意図を考える。	あなたの好きなCMとその商品との対応や、好みの商品とそのCMとの対応を書きだしてくる。
6.	映画――映画製作と映画産業について。実際の映画製作のプロセス、配給会社とシネコン・スクリーン、興業収入など。	直近で見た映画について、映画タイトル・監督・主演・制作会社・上映劇場、を書きだしてくる。
7.	映画――宮崎アニメ『千と千尋の神隠し』を例に映画製作と配給とテレビ放映の関係を知る。製作委員会方式による多額の出資が大作映画を可能にしている。	『千と千尋の神隠し』のエンディングロールを見てくるか、スタッフロールを確認してくる。
8.	映画――映画のもたらす波及効果としてファッションの流行、グッズの販売、聖地巡礼の観光効果などがある。『ティファニーで朝食を』や『君の名は』を例に挙げる。	身の廻りにあるもので、映画に関係しているグッズがあれば調べてくる。
9.	メディアミックス――『涼宮ハルヒの憂鬱』や『金田一少年の事件簿』を例としてメディアミックスの構造を知る。原初のコンテンツを様々な表現に変形拡充させること。	原初のコンテンツから、派生した異なるメディアを見比べてみる。例えばマンガとアニメや、小説と映画など。
10.	アニメ・ゲームと音楽――『名探偵コナン』や『ドラゴンクエスト』を例にして、音楽の制作と販売や流通を考える。	好きなアニメや好きなゲームと、そこに流れている音楽とを別々の物として見聞かしてみる。
11.	音楽産業の21世紀的形態――CD・DVD・インターネットが共存する時代。『AKB48』という現象をどう捉えるか。	この授業の前週のテレビの音楽番組にどんな歌手が出演していたかを調べてくる。
12.	演劇――大学生同好会の小劇場から、劇団四季や宝塚歌劇団などの商業演劇まで。	日本にある演劇集団を10以上、事前に調べてくる。
13.	「TDL(東京ディズニーランド)」や「USJ(ユニバーサルジャパン)」などテーマパーク。体験型娯楽を可能にする巨大資本。「ひらかたパーク」や「海遊館」についても考える。	できれば、この回までにどこかの遊園地やテーマパークを体験しておく。
14.	エンターテインメント(娯楽)に対して、「お金」と「時間」を使う価値は誰がどう決めるのか。インターネットなどの新しいメディアやVR(ヴァーチャルリアリティ)などの新しい技術が発展するほど、生の現実的個別体験が意味を持つ。	この一年間で、あなたがエンターテインメント産業に対して使った「お金」と「時間」を振り返って書きだしてみる。
15.	まとめ	授業内容をしっかり振り返っておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

今まで無自覚に接してきた「エンターテインメント」を表現や産業といった面から、自覚的な視線でみるようにして下さい。それは現代の日本社会で働いて生きていく上で必ず役に立ちます。より賢く愉しむことは、より楽しく働くことにつながり、より充実した人生を送ることにつながります。

フィードバックの方法:

出席票にコメントを書いて下さい。授業内で答えていきます。また、授業前後に教室内で質問に応じます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む授業への参加態度	50%	出席回数・受講態度
	期末試験	50%	設問に対する解答の妥当性

教科書:

参考書:

吉村 誠『メディアから読み解く近現代日本の言語社会(仮)』ナカニシヤ出版
井上ひさし・平田オリザ『話し言葉の日本語』新潮社
他は適宜指示します。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:	情報産業の現状と課題及び情報化の事例について。		
授業の概要:	現代社会では情報技術があらゆる場面で活用されており、情報化を担う情報産業は、その役割、責任の面で非常に重要性を増しており、産業界にいても重要な位置を占めつつある。本授業では、情報産業の中核である情報サービス業の現状と課題について理解することを目的とする。業務の内容、情報システムの構築、運用、マネジメントに関する基礎的な知識を習得するとともに、情報技術の現代社会での応用事例として、企業、公共、教育福祉などを取り上げ、情報化の状況、今後の展開について学習する。		
到達目標:	情報サービス業界の特徴を理解し、説明できるようになる。 情報サービス業界における業務、仕事の進め方について理解し、説明できるようになる。 情報サービス業界で求められる人材像について理解し、説明できるようになる。		
授業方法:	講義形式が主体の授業とするが、授業の中で各自の意見を求める。また、特定のテーマで1～2回グループ討議を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス		
	2. 情報産業について		
	3. 情報サービス業界の形成		
	4. 情報サービス業界の状況1（ユーザ、独立）	ユーザ系の企業を調べる	
	5. 情報サービス業界の状況2（メーカー、外資）	メーカー系の企業を調べる	
	6. 企業の情報化		
	7. 公共分野での情報化	公共分野での情報化事例を調べる	
	8. 教育福祉分野での情報化	医療・福祉分野での情報化事例を調べる	
	9. 情報サービス業の仕事	企業の組織事例を調べる	
	10. 情報サービス業の職種		
	11. SEの仕事	システム開発業務について考える	
	12. プロジェクトマネージャの仕事	プロジェクトについて考える	
	13. 情報サービス業界で求められる人材像	SEに向いている人材像について考える	
	14. 情報化の新しい流れ 総括		
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	質問、レポートに対するフィードバックは教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	情報サービス業界の理解度
	出席を含む授業への参加態度	50	欠席は減点 準備学習とグループ討議での態度、意欲
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。		

授業テーマ:

能動的ジャーナリズムとの関わり

授業の概要:

前半は、ジャーナリズムに関する各メディアの特質について解説し、後半は受講者による記事作成の課題、およびそのプレゼンテーションを核とする。

到達目標:

ジャーナリズムというジャンルを借りて、受講者が個々に主体的にメディアとつながることを目標に据える。

授業方法:

講義と演習の併用

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
2.	新聞におけるジャーナリズム(基礎編)	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
3.	テレビにおけるジャーナリズム(基礎編)	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
4.	出版におけるジャーナリズム(基礎編)	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
5.	新聞におけるジャーナリズム(応用編)	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
6.	テレビにおけるジャーナリズム(応用編)	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
7.	出版におけるジャーナリズム(応用編)	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
8.	ネット社会におけるジャーナリズム(1)	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
9.	ネット社会におけるジャーナリズム(2)	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
10.	記事発表およびディスカッション①	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
11.	記事発表およびディスカッション②	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
12.	記事発表およびディスカッション③	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
13.	記事発表およびディスカッション④	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
14.	記事発表およびディスカッション⑤	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること
15.	記事発表およびディスカッション⑥および小テスト	日々のニュースに可能な限り触れ、講義で反映させること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」:	「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
		記事作成およびプレゼンテーション	60%	記事のクオリティおよびプレゼンテーションの完成度に応じて表する。
		授業態度	20%	授業内における積極的な発言等により評価する。
		小テスト	20%	課題に関する理解度により評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:

考えや想いを、相手に伝えることについて。

授業の概要:

広告制作のスキルを通して、自分の頭の中を整理したり、それを相手に伝えたりする手法を学び、実践します。

到達目標:

自分の心を見つめ、頭の中を整理し、それを相手になるべく正確に伝えられる。

授業方法:

広告制作のスキルを学びながら、実際に手を動かしてみる。(文章を書く、広告をつくる、書いたものつくったものを発表する。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1日目①:オリエンテーション・広告全般の基礎知識。	特になし
2.	1日目②:私自身がこれまでに関わって来た仕事とそのエピソード紹介。	特になし
3.	1日目③:過去の名作キャッチコピーの紹介と、それをもとに様々な商品のキャッチコピーを書く。	特になし
4.	1日目④:「私の好きな一言」をテーマに他者にその魅力を伝えるコラムを書く。一言は、歌詞でも、歴史上の人物の遺言でも、有名人の名言でも、友人からの一言でも、自由。	特になし
5.	2日目①:昨日書いたコラムを朗読して発表。	昨日の授業内で書き切れなかった場合のみ、始業時間に間に合う様に準備をお願いします。
6.	2日目②:「私の好きな食べ物」をテーマに他者にその魅力を伝える詩を書く。	特になし
7.	2日目③:書いた詩を朗読して発表。	特になし
8.	2日目④:私自身がこれまでに関わって来た仕事とそのエピソード紹介2	特になし
9.	3日目①:グループに別れ、ディベートを行う。	特になし
10.	3日目②:グループに別れ、ディベートを行う。	特になし
11.	3日目③:「私の好きなひと」をテーマに作文を書く。家族、恋人、友人、有名人、自分自身など好きな人について作文する。	特になし
12.	3日目④:「私の好きなひと」をテーマに作文を書く。	特になし
13.	4日目①:私自身の学生時代～就職活動で学んだことのエピソード紹介。	特になし
14.	4日目②:昨日書いた作文を朗読。	昨日の授業内で書き切れなかった場合のみ、始業時間に間に合う様に準備をお願いします。
15.	4日目③:昨日書いた作文を朗読。	昨日の授業内で書き切れなかった場合のみ、始業時間に間に合う様に準備をお願いします。

受講者へのメッセージやアドバイス:

2007年に同志社女子大学を卒業して2017年現在まで、(株)電通でコピーライター・CMプランナーをしています。就職活動を含めた10年の中で、自身が学んだことを皆さんへお伝えしながら、一緒に「伝えること」について見つめる4日間にしたいと思います。たくさん考え、たくさん書きます。課題は授業の中で完結できるよう工夫します。

フィードバックの方法:

授業内での課題発表後、その場でフィードバックします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	80%	授業への積極的な参加
	制作物・発表・討論内容	20%	制作物、発表、討論内容のクオリティ

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能など。

授業テーマ:

情報通信メディアを用いた学びや教育のあり方について理解を深め、社会のなかでそれを実践、活用する力を養う

授業の概要:

現在、私たちが「なにかを知ろう」とするとき、私たちはWeb上を検索し、即座にその「なにか」についての情報を集め、それについて理解を深める。またタブレット型コンピュータやスマートフォンという小型化されたパーソナルコンピュータによって、私たちはどこでも「なにかを知る」ことができる。もはや「学び」や「教育」は、固定化されたものではなく、流動的な時空間での営みとなっている。本講義では、情報通信メディアを活用し、これまでとは大きく変容している「学び」や「教育」の理論や実践、効果について様々な事例をつづいて理解を深めていく。また実際に情報通信メディアを通じた「学び」の教材を作成することで、新しい私たちの「学び」や「教育」についてさらに理解を深め、その知をきたるべき社会生活で活用する力をやしなっていく。

到達目標:

・現在の情報通信メディアを用いた「学び」や「教育」のあり方について理解すること

・情報通信メディアを用いた「学び」や「教育」を実践するための力を養うこと

授業方法:

グループワークを中心とする。第1回～第8回までは、理論的な考察を講義とグループワークで行う。また第9回～第15回は、ソフトウェアを使用してeラーニング用資料の作成をグループで行う。最後に成果をプレゼンテーションする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	メディアと「学び」	授業資料や参考文献、関連文献の読解。また教育にかんする情報を自身で集め、それらについて自身の見解をまとめること。
2.	【理論編】情報通信メディアと「学び」「教育」①:教育についての考え方の変化	授業資料や参考文献、関連文献の読解。また教育にかんする情報を自身で集め、それらについて自身の見解をまとめること。
3.	【理論編】情報通信メディアと「学び」「教育」②:eラーニング	授業資料や参考文献、関連文献の読解。またeラーニングにかんする情報を自身で集め、それらについて自身の見解をまとめること。
4.	【理論編】情報通信メディアと「学び」「教育」③:eラーニング(2)	授業資料や参考文献、関連文献の読解。またeラーニングにかんする情報を自身で集め、それらについて自身の見解をまとめること。
5.	【理論編】情報通信メディアと「学び」「教育」④:PF-NOTE	授業資料や参考文献、関連文献の読解。またPF-NOTEにかんする情報を自身で集め、それらについて自身の見解をまとめること。
6.	【理論編】情報通信メディアと「学び」「教育」⑤:授業リフレクションと種々のデジタルメディア	授業資料や参考文献、関連文献の読解。また教育にかんする情報を自身で集め、それらについて自身の見解をまとめること。
7.	【理論編】情報通信メディアと「学び」「教育」⑥:ゲームと「学び」「教育」	授業資料や参考文献、関連文献の読解。また学びと遊びにかんする情報を自身で集め、それらについて自身の見解をまとめること。
8.	【理論編】新たな「学び」・「教育」のあり方と古いあり方	ここまでの授業資料を再度確認し、自身の見解をまとめること
9.	【実践編】カムタジアを用いた「学び」の資料作成①:従来の「学び」の資料	ここまでの授業資料を再度確認し、自身の見解をまとめ、実践についての自身の考えをまとめること
10.	【実践編】カムタジアを用いた「学び」の資料作成②:新たな「学び」の資料(1)	ここまでの授業資料を再度確認し、自身の見解をまとめ、実践についての自身の考えをまとめること
11.	【実践編】カムタジアを用いた「学び」の資料作成③:新たな「学び」の資料(2)	ここまでの授業資料を再度確認し、自身の見解をまとめ、実践についての自身の考えをまとめること
12.	【実践編】カムタジアを用いた「学び」の資料作成④:新たな「学び」の資料(3)	ここまでの授業資料を再度確認し、自身の見解をまとめ、実践についての自身の考えをまとめること
13.	【実践編】カムタジアを用いた「学び」の資料作成⑤:新たな「学び」の資料(4)	ここまでの授業資料を再度確認し、自身の見解をまとめ、実践についての自身の考えをまとめること
14.	【実践編】カムタジアを用いた「学び」の資料作成⑥:新たな「学び」の資料の検証(1)	ここまでの授業資料を再度確認し、自身の見解をまとめ、実践についての自身の考えをまとめること
15.	【実践編】カムタジアを用いた「学び」の資料作成⑦:新たな「学び」の資料の検証(2)	ここまでの授業資料を再度確認し、自身の見解をまとめ、実践についての自身の考えをまとめること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート(1回)	20%	授業内容の理解度
	グループワークでの成果物とプレゼンテーション	50%	実践課題の達成度
	授業への積極的参加度	30%	自身の見解の形成

教科書:

なし

参考書:

渡部信一監修、東北大学大学院教育情報学研究部編『高度情報化時代の「学び」と教育』、東北大学出版会、2011年
文部科学省『教育の情報化に関する手引』、2010年（＊文部科学省HPでDL可能）
財団法人コンピュータ教育開発センター『学力向上ICT活用指導ハンドブック』、2008年（＊財団法人コンピュータ教育開発センターのHPでDL可能）
一般社団法人日本教育工学振興会『先生と教育行政のためのICT教育環境整備ハンドブック2013-2014』、2013年（＊一般社団法人日本教育工学振興会のHPでDL可能）
さらに講義内でも適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール(ymatsuta@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	自宅や小さなオフィス向け小規模ネットワークの作り方(基礎編)		
授業の概要:	本科目では、自宅や小さなオフィスの中にあるパソコンやデジタル機器をネットワーク(LAN)でつなぎ、インターネットへも接続できる知識と技術を実践的な方法で学びます。 本科目で学ぶ内容は、ネットの力で人々の暮らしや社会を支える職業に将来就きたいと考えている人にとってその基礎を培うものです。本科目に引き続き、「応用I」と「応用II」を学ぶと、さらに大きな規模(中小企業規模)のネットワークを構築・運営・管理できる知識と技術が身につきます。		
到達目標:	①【知識・理解】LANやインターネットにおける情報通信のしくみや方法をTCP/IPプロトコルと関係づけて説明できる。 ②【関心・意欲・態度】ネットワークに関わる技術動向や社会問題に関心をもち、進んでそれらの情報を知ろうとする。 ③【表現・技能・能力】必要なネットワーク設定を行って、パソコンをLANやインターネットへ接続できる。		
授業方法:	授業は授業支援システム「マナビー」を使い、講義と実習を組み合わせるかたちのアクティブラーニング形式で行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス パソコンのハードウェアとオペレーティングシステム		
	2. ネットワークへの接続 (1)小規模ネットワーク(LAN)で情報が届く仕組み(基礎)	授業内容の理解を深める演習・実習課題	
	3. ネットワークへの接続 (2)LANを作ってみよう		
	4. ネットワークへの接続 (3)LANをつないでネットを拡張しよう	授業内容の理解を深める演習・実習課題	
	5. ネットワークへの接続 (4)ネットからネットへパケットはどのように送られるか		
	6. ネットワークへの接続 (5)ネットワークの設計図	授業内容の理解を深める演習・実習課題	
	7. ネットワークへの接続 (6)家庭や小規模オフィス用のネットワーク機器		
	8. ISP経由のインターネット接続 (1)家庭や小規模オフィスからのインターネット接続	授業内容の理解を深める演習・実習課題	
	9. ISP経由のインターネット接続 (2)インターネットサービスプロバイダの仕事	ノートまとめ	
	10. 学内ネットワークの見学、LANケーブルを作ろう	見学の予習(下調べ) LANケーブル作り(授業時間内にできなかった場合)	
	11. ネットワークアドレッシング (1)IPアドレスの仕組みと計算方法	授業内容の理解を深める演習・実習課題	
	12. ネットワークアドレッシング (2)IPアドレスの仕組みと計算方法(続き)		
	13. ネットワークアドレッシング (3)パソコンとIPアドレス	授業内容の理解を深める演習・実習課題	
	14. ネットワークアドレッシング (4)IPアドレスとインターネット接続		
	15. まとめ	ノートまとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:	用意するもの:MacBookAir(初回の授業から使いますので必ず持参してください。付属のUSB EthernetアダプタとACアダプタも忘れないでください。)、教科書、A4サイズのノート(B5サイズのノートやルーズリーフは不可)		
フィードバックの方法:	ノートは採点后、コメントをつけて学科事務室にて返却します。 振り返りや演習・実習課題については必要に応じて教室でまとめて解説します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	最終試験	40	到達目標①の達成度を評価します。
	ノート	10	到達目標①②の達成度を評価します。
	演習・実習課題	20	到達目標①②③の達成度を評価します。
	実技課題	30	到達目標③の達成度を評価します。実技課題の達成を単位を与える必要条件とします。 ※詳細についてはマナビーのコンテンツ「授業と学習の進め方」に掲載します。
教科書:	アंक『TCP/IPの絵本』 翔泳社		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	卒業研究などで必要となる研究法ならびに統計手法を理解する																																		
授業の概要:	現代社会のさまざまな現象を理解するための最も有効な方法のひとつは、データを分析することです。しかし、データを適切に収集、分析、報告するために必要となるデータリテラシーは、情報化社会と言われて久しい現代社会においても、あまり普及していません。本講義では、データが私たちの生活に果たす役割について理解するとともに、卒業研究などで必要となる研究法ならびに統計手法を習得します。																																		
到達目標:	・データリテラシーに関する知識や考え方を理解する(知識・理解)。 ・独自の関心に基づいて調査を計画する(関心・意欲・態度)。 ・卒業研究などで必要となる研究法ならびにデータ解析の技能を身につける(表現・技術・能力)。																																		
授業方法:	原則として授業を前半と後半に分け、前半の授業では研究法および質問紙作成を中心とした演習、後半は統計解析ソフトウェア(SPSS)を用いたデータ解析実習中心とした演習を行います。授業内容の理解を確認するためのレポート課題、独自の関心に基づいて作成した調査計画書や調査質問紙などを定期的に提出してもらいます。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. イントロダクション</td><td>授業内容の復習</td></tr><tr><td>2. 研究法(1)データリテラシー</td><td>授業内容の復習、課題レポートの作成</td></tr><tr><td>3. 研究法(2)観察法</td><td>授業内容の復習</td></tr><tr><td>4. 研究法(3)面接法</td><td>授業内容の復習</td></tr><tr><td>5. 研究法(4)質問紙作成</td><td>授業内容の復習、課題レポートの作成</td></tr><tr><td>6. 研究法(5)調査法</td><td>授業内容の復習</td></tr><tr><td>7. 研究法(6)実験法</td><td>授業内容の復習</td></tr><tr><td>8. データ解析(1)記述統計</td><td>授業内容の復習、操作手順の復習</td></tr><tr><td>9. データ解析(2)相関分析</td><td>授業内容の復習、操作手順の復習</td></tr><tr><td>10. データ解析(3)推測統計</td><td>授業内容の復習、操作手順の復習</td></tr><tr><td>11. データ解析(4)検定法1</td><td>授業内容の復習、操作手順の復習</td></tr><tr><td>12. データ解析(5)検定法2</td><td>授業内容の復習、操作手順の復習</td></tr><tr><td>13. データ解析(6)検定法3</td><td>授業内容の復習、操作手順の復習</td></tr><tr><td>14. 研究計画書作成</td><td>授業内容の復習、課題レポートの作成</td></tr><tr><td>15. 総括</td><td>授業内容の復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. イントロダクション	授業内容の復習	2. 研究法(1)データリテラシー	授業内容の復習、課題レポートの作成	3. 研究法(2)観察法	授業内容の復習	4. 研究法(3)面接法	授業内容の復習	5. 研究法(4)質問紙作成	授業内容の復習、課題レポートの作成	6. 研究法(5)調査法	授業内容の復習	7. 研究法(6)実験法	授業内容の復習	8. データ解析(1)記述統計	授業内容の復習、操作手順の復習	9. データ解析(2)相関分析	授業内容の復習、操作手順の復習	10. データ解析(3)推測統計	授業内容の復習、操作手順の復習	11. データ解析(4)検定法1	授業内容の復習、操作手順の復習	12. データ解析(5)検定法2	授業内容の復習、操作手順の復習	13. データ解析(6)検定法3	授業内容の復習、操作手順の復習	14. 研究計画書作成	授業内容の復習、課題レポートの作成	15. 総括	授業内容の復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. イントロダクション	授業内容の復習																																		
2. 研究法(1)データリテラシー	授業内容の復習、課題レポートの作成																																		
3. 研究法(2)観察法	授業内容の復習																																		
4. 研究法(3)面接法	授業内容の復習																																		
5. 研究法(4)質問紙作成	授業内容の復習、課題レポートの作成																																		
6. 研究法(5)調査法	授業内容の復習																																		
7. 研究法(6)実験法	授業内容の復習																																		
8. データ解析(1)記述統計	授業内容の復習、操作手順の復習																																		
9. データ解析(2)相関分析	授業内容の復習、操作手順の復習																																		
10. データ解析(3)推測統計	授業内容の復習、操作手順の復習																																		
11. データ解析(4)検定法1	授業内容の復習、操作手順の復習																																		
12. データ解析(5)検定法2	授業内容の復習、操作手順の復習																																		
13. データ解析(6)検定法3	授業内容の復習、操作手順の復習																																		
14. 研究計画書作成	授業内容の復習、課題レポートの作成																																		
15. 総括	授業内容の復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	演習は段階的に進行しますので、毎回の講義の内容や統計ソフトの操作手順などをきちんと復習しておいてください。学期を通じて、質問紙作成や研究計画書などのレポートが課されます。この授業は演習が主なため、出席が重視されます。																																		
フィードバックの方法:	レポート課題や質問紙調査の結果などについては、教室でまとめて解説します。研究法やデータ解析などについての質問にも対応しますので、個別に相談してください。”																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート</td><td>60%</td><td>データリテラシー、質問紙作成、データ解析に関する理解度により評価する。</td></tr><tr><td>授業への積極的参加度</td><td>40%</td><td>積極的に授業に参加し、研究法ならびに統計手法が活用できるようになったかを評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート	60%	データリテラシー、質問紙作成、データ解析に関する理解度により評価する。	授業への積極的参加度	40%	積極的に授業に参加し、研究法ならびに統計手法が活用できるようになったかを評価する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
レポート	60%	データリテラシー、質問紙作成、データ解析に関する理解度により評価する。																																	
授業への積極的参加度	40%	積極的に授業に参加し、研究法ならびに統計手法が活用できるようになったかを評価する。																																	
教科書:	適宜プリントを配布します。																																		
参考書:	戸田山和久『新版 論文の教室ーレポートから卒論までー』(NHKブックス、2012) ISBN:4140911948 この授業だけでなく、卒論研究まで役に立つテキストです。読んでおいて下さい。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力																																		
教員との連絡方法:	Eメール(moikawa@mail.doshisha.ac.jp)																																		

授業テーマ:	マーケティングや社会調査で必要とされる統計手法を理解する		
授業の概要:	相関や回帰分析といった統計基礎から、独立性の検定などのノンパラメトリック検定、そして因子分析やクラスター分析など実践的な多変量解析まで順に学習して上で、Googleフォームを使ったアンケート実施(質問紙作成、配布、回収)を行っていただきます。そして、回収したアンケートデータに対するノンパラメトリック分析や多変量解析を実際に適用してみることによって、習得した統計知識を使いこなしてもらいます。		
到達目標:	<インプットすべき知識> ・統計学の基礎知識(母集団と標本 正規分布 平均と標準偏差 歪度と尖度 相関と回帰) ・パラメトリック検定とノンパラメトリック検定 ・多変量解析(重回帰分析 数値化理論 I 因子分析 クラスター分析) ・統計処理ソフトウェアによる解析方法(Excel、SPSS、EasyR) ・Googleフォームによるアンケート方法 <アウトプットが期待される能力> ・アンケート実施(企画から質問紙、配布、集計、評価まで)をやり遂げる力 ・アンケート回答に協力する協調性 ・ツールを積極的に使って習得するITリテラシー		
授業方法:	(1)統計理論の講義 (2)統計処理ソフトウェア(SPSSとEasyRを予定)を使った統計分析の演習※小レポートあり (3)GoogleフォームとSPSSによるアンケート調査の実習(企画、質問紙作成、配布、集計、評価)※期末レポートあり		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 調査統計手法の概要	参考文献に目を通しておくことが望ましい。	
	2. 調査統計手法の基礎:記述統計	前回講義内容について必ず復習しておくこと。	
	3. 調査統計手法の基礎:相関回帰	前回講義内容について必ず復習しておくこと。	
	4. 調査統計手法の基礎:多変量解析	前回講義内容について必ず復習しておくこと。	
	5. 調査統計手法の実践:Webアクセス解析(記述統計)	前回講義内容について必ず復習しておくこと。	
	6. 調査統計手法の実践:需要予測(相関回帰)	前回講義内容について必ず復習しておくこと。	
	7. 調査統計手法の実践:顧客満足度調査(多変量解析)	前回講義内容について必ず復習しておくこと。	
	8. 調査統計手法の実践:統計処理ソフトウェアSPSSの使い方	自習室を活用して操作方法の習熟をめざすこと。	
	9. 調査統計手法の実践:統計処理ソフトウェアEasyRの使い方	自習室を活用して操作方法の習熟をめざすこと。	
	10. 調査統計手法の実習:アンケート調査の企画	次回の実習までに作業を終わらせておくこと。	
	11. 調査統計手法の実習:アンケート調査の設計(質問紙作成)	次回の実習までに作業を終わらせておくこと。	
	12. 調査統計手法の実習:アンケート調査の実施(収集、入力)	次回の実習までに作業を終わらせておくこと。	
	13. 調査統計手法の実習:アンケート調査の実施(集計)	次回の実習までに作業を終わらせておくこと。	
	14. 調査統計手法の実習:アンケート調査の実施(分析)	次回の実習までに作業を終わらせておくこと。	
	15. 調査統計手法の実習:アンケート調査の実施(評価)		
	受講者へのメッセージやアドバイス:	データ分析ができる人材に対する社会的ニーズは高まる一方です。数学やITに対する苦手意識を持たずに積極的にチャレンジしてみてください。	
フィードバックの方法:	講義や演習内容に対する質疑応答や実習講評はできる限り教室にて行いますが、電子メールでもマナビーの掲示板でも対応します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席と授業の姿勢・態度	20%	アンケート実習を完成できるように、授業を継続して受けること
	小レポート(2回)	30%	アンケート実習を進めることによって自然とできあがる中間成果物を提出すること
	期末レポート	50%	アンケート実習を完成させることによって自然とできあがる最終成果物を提出すること
教科書:	レジュメを前もって配布し、時事性のある内容は都度配布する。(教科書は使用しない。)		
参考書:	『データ分析の基礎オフィシャルスタディノート』(日本統計学会 竹村 彰通他著) 『消費を見抜くマーケティング実践講座』(翔泳社 杉浦 司著) 『SPSSでやさしく学ぶアンケート処理』(東京図書 石村貞夫他著) 『フリー統計ソフトEZR(EasyR)で誰でも簡単統計解析』(南江堂 神田義伸著)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能、Eメール(sugiura@sugi-sc.com)、授業の前後に教室内で対応		

</

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席、課題提出、プレゼン、課外活動、期末レポート(個人・チーム)の各項目の達成度	それぞれ最高100%で評価	平均値を総合成績として最終評価を行います。特にプロジェクトに対する授業内外でのチームの活動内容と個人の積極的な貢献度が成績評価の重要なポイントとなります。
教科書:	授業内で適宜指示します。		
参考書:	授業内で適宜指示します。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	マナビーの掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

授業の概要:

プロジェクトの実践と企画の実現

科目全体の目標に沿ってプロジェクトを発展させ、各チームの個別目標に基づく企画を実行し、成果を発表します。各チームが自主的に選定・連携した外部協力先とのコラボレーションで商品開発やプロジェクト企画をさらに推進します。さらに「ユース・エンタプライズ」プログラムに沿って、チームや外部機関と積極的にディスカッションやプレゼンテーションを行い、フィールドワークも適宜行いつつ活動を発展させます。バーチャルな活動のみならず、校外授業(「トレードフェア京都」での模擬出店・11月下旬～12月初旬予定)等を通して実地の活動も体験します。外部連携先とのコミュニケーション密度を高め、確実に開発アイデアを具現化して、社会貢献することを目指します。

履修上の注意:

本科目では、社会的プロジェクトの実践体験と企業等、実社会との本格的な関わりに対して積極的な学習意欲のある学生、また、社会人／組織人としての自覚を持って協力的、積極的な活動ができる学生の受講を希望します。以下の点を十分に理解した上で履修を行ってください。

1) 本科目のプロジェクトは「eコマース研究I」から継続されます。「eコマース研究I・II」あわせての履修が基本的な前提となるので注意して下さい。なお「eコマース研究I」において編成したグループは、「eコマース研究II」においても継続する関係上、1年間同じ曜日講時の履修が基本となります。

2) 実存企業や団体等、外部とのコラボレーションを行うため、当初予定や内容に若干の変更が生じる可能性があります。実社会での組織活動同様、状況変化に対する理解と臨機応変な対応が望まれます。

3) 関口担当の「情報メディア演習」の履修希望者は、メディア文化、消費文化を立体的に学ぶ観点から、本科目を早い段階で履修することが望まれます。

※本科目の企業設立・運営はあくまでバーチャル(模擬、仮想)であり、それに伴って受講者に金銭的負担や各種リスクが生じることはありません。

到達目標:

・「eコマース研究I」のプロジェクトを継続し、外部機関との連携企画遂行、プロジェクト運営、チーム企画の実現を目標とします。

授業方法:

数人でチームを組み、それぞれ独立したチーム組織として商品開発やプレゼン、プロジェクト演習を行います。実在の企業や施設とのコラボレーションでアイデアの商品化、企画の具体化やイベント企画の実現を目指します。受講生には「教えてもらう」受け身の姿勢ではなく、あくまでも「自ら考え、行動する」積極性と責任感が要求されます。スケジュール調整の都合により、企業や外部団体へのプレゼンや各種行事を授業外に実施し、通常授業の振替を行う場合もあります(学期中1～2回程)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション(ユース・エンタプライズ [YE]のシステム説明)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
2. YE電子商取引システムに登録&広報活動と取引、前期実施した内容をシステム登録	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
3. YETレードフェア準備&広報活動と取引(1)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
4. YETレードフェア準備&広報活動と取引(2)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
5. YETレードフェア出席(11月中旬頃に校外授業を行い、通常授業の振替を予定)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
6. トレードフェア報告会(成果総括、反省)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
7. ビジネスプラン、商品企画の再構築	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
8. 開発商品、企画プロジェクトの更なる推進、完成度の向上(1)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
9. 開発商品、企画プロジェクトの更なる推進、完成度の向上(2)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
10. 売上アップの取り組みと経営の見直し(1)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
11. 支援企業、協力施設とのディスカッションと企画完成に向けての作業	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
12. 企画の最終調整、経営、営業成績の確認と分析	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
13. 支援企業、協力施設への最終ビジネスプレゼン	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
14. 支援企業、協力施設とプロジェクト推進計画についての討議	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
15. プロジェクト全体の総括、まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

1) 本科目では学生自身が自社ホームページの制作・運営を行うため、ホームページ作成、編集、更新等の基礎技術を修得済みであることが求められます。

2) 本科目では学内外でのプレゼンテーション、連携先とのやり取り、各種イベント参加など、授業外活動と自主的な課題遂行が求められます。毎年連携先やプロジェクトのテーマ、内容が異なる性質上、活動の質・量は活動状況や提携先の指示などにより随時変更されるため、臨機応変な対応力も必要とされます。

3) グループ活動及び各自の責任遂行能力が重要であり、相応の授業外作業時間と注力が必要です。しかしその分、社会に出てから即戦力として求められるマネジメント力、プロデュース力が養われます。努力した分だけ修得成果や実績評価が高まると考え、積極的に参画することが重要です。

4) 課外活動の際には他の授業や活動とのスケジュール調整に留意し、支障のないように心がけて下さい。本科目を最優先にさせるような強制は一切ありませんし、制度上の公式欠席はないため、自己の判断に基づいて活動指針を決め、社会人に要請されるセルフマネジメント力を養って下さい。ただし当然ながらサポート配慮、アドバイスはしっかり行っていくしますので、報告や相談は必ずこまめに行ってください。

5) 履修形態とグループによる授業運営の特質上、本科目では授業開始後の履修取り消しは原則として不可能なため、十分検討の上履修登録して下さい。

6) 本科目では現代ビジネスにおける企画開発を中心に実践を行います。会社経営や財務管理の総合的な知識修得には、経営・会計関連の他科目(「ストラテジー研究」等)を履修して補うと有効でしょう。

社会体験の先取りができる貴重なチャンスを活かすべく、各自・各チーム、自律的かつ積極的に課外を含めた活動を行って下さい。努力に比例して本科目独自のメリットが活かされ、受講者は社会の即戦力として活躍できる実力がつくはずですよ。

フィードバックの方法:

授業での全体解説、あるいは個別の質問や相談へのアドバイスを適宜行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席(授業への貢献)、課題提出、プレゼン、課外活動、期末レポート(個人・チーム)の各項目の達成度	それぞれ最高100%で評価	平均値を総合成績として最終評価を行います。特にプロジェクトに対する授業内外でのチームの活動内容と個人の積極的な貢献度が成績評価の重要なポイントとなります。
教科書:	授業内で適宜指示します。		
参考書:	授業内で適宜指示します。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	マナビーの掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	情報セキュリティの基本知識、重要性を理解する。		
授業の概要:	情報システムやネットワークは、企業活動や個人生活を営むうえで不可欠なインフラとなっており、それらに不具合が生じた場合の社会生活への影響は甚大で、情報セキュリティの果たす役割は、ますます重要性を増している。本授業では不正アクセス、ウイルス、情報システムの不具合などの脅威とは何か、また、脅威が社会生活へどのような影響をもたらすかについて事例を中心に理解したうえで、ファイアウォールや暗号、認証などの情報セキュリティ対策に関する基本知識を学習する。		
到達目標:	情報セキュリティ脅威の基本知識と社会生活への影響を理解し、説明できるようになる。 情報セキュリティ対策について理解し、説明できるようになる。 セキュリティ事件・事故の実例に興味・関心を持ち、対策を考える意欲を持つ。		
授業方法:	講義形式が主体の授業とするが、授業の中で各自の意見を求める。また、特定のテーマで1～2回グループ討議を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス		
	2. 情報セキュリティとは(情報資産とリスク、社会生活への影響)		
	3. 脅威の分類と概要(環境、人間)		
	4. 脅威(不正アクセス)	パスワード管理で実行していることをまとめる	
	5. 脅威(脆弱性)	フィッシング(偽サイト)問題について考える	
	6. 脅威(ウイルス)	メールに関する問題について考える	
	7. 脅威(プライバシー侵害、著作権侵害、携帯端末)	プライバシー侵害について調べる	
	8. 対策(ファイアウォール)	クラウドの脅威について考える	
	9. 対策(暗号技術)		
	10. 対策(認証技術、コンテンツ保護)	認証がなぜ必要か考える	
	11. 対策(運用対策、法令)	運用対策がなぜ必要か考える	
	12. 対策(制度、セキュリティポリシー)		
	13. セキュリティポリシー作成	個人情報漏洩事件について調べる	
	14. 脅威の現況 総括		
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	レポートに対するフィードバックは教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	情報セキュリティ脅威・対策の理解度
	出席を含む授業への参加態度	50	欠席は減点 準備学習とグループ討議での態度、意欲
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。		

授業テーマ:

Digital Humanities, Distant Reading, データサイエンス

授業の概要:

本講義ではまず、様々なタイプのテキストデータベースを分析するための方法論を解説する。それを基盤とし、データマイニング、テキストマイニング、トピックモデリングなど、Digital Humanitiesの最先端で実践されている分析手法に関するハンズオンを集中して行う。本科目の履修を通して受講者には、膨大な量のテキストデータの背後にどのようなパターン、現象の法則性があるのかを読み解くリテラシーを身につけてもらいたい。

到達目標:

情報メディアとしてのコンピュータ、加えて最近ではiPad/iPhone、Kindle等に代表されるモバイル・デバイスの爆発的な普及により、文書・資料の電子化が急速に進み、デジタルテキストの量は増加の一途を辿っている。これにともない、膨大なテキストデータの中から有益な情報を効率的に抽出するための情報解析技術の開発が学界のみならず産業界においても求められている。大規模なデジタルテキストデータの出現は、従来の人文学の理論・方法論や枠組みの再編を余儀なくしただけでなく、情報工学、統計数理学、行動科学など関連領域の知見を統合した新しい人文学 Digital Humanitiesを生み出した。本講義では様々なタイプのテキストデータベースを吟味しつつ、Digital Humanitiesの諸アプローチについて解説する。受講者には膨大な量のテキストデータの背後にどのようなパターン、現象の法則性があるのかを読み解くリテラシーを身に付けてもらいたい。

授業方法:

講義＋ハンズオンセッション：ハンズオンセッションではフリーのデータ解析パッケージRの基礎の基礎からはじめ、テキストデータベース処理のための基礎～中級テクニックのエクササイズをまず行う。最終的には、テキストマイニングの手法を実際に使って、データベースからどのようにして情報を掘り起こし可視化するかという一連のスキルを身に付けてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義ガイダンス:テキストデータベース論とは何か	MacやMacBook (Air)など、Mac OS Xを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。
2.	テキストデータベース基礎編(1): データベースとは? テキストとは?	MacやMacBook (Air)など、MacOSのターミナル.appの基本操作をあらかじめ学んでおいてほしい。
3.	テキストデータベース基礎編(2): 国内外のテキストアーカイブ事例 (Text-archives)	MacやMacBook (Air)など、MacOSのターミナル.appの基本操作をあらかじめ学んでおいてほしい。
4.	テキストデータベース基礎編(3): 言語コーパスの構築と活用 (Language corpora)	授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し、次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
5.	テキストデータベース基礎編(4): GoogleBooks: What to do with millions of books?	授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し、次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
6.	第一部まとめ	第一部で行ったことを一通り復習しておくこと。
7.	テキストデータベース実践・応用編(1): 検索技術を磨く	TextWrangler のマニュアルをダウンロードしておく。
8.	テキストデータベース実践・応用編(2): 正規表現の応用	Regular Expressionsの基礎固め。
9.	テキストデータベース実践・応用編(3): グラフィックスのテクニック	CasualConcをダウンロードし、マニュアルに目を通しておく。
10.	テキストデータベース実践・応用編(4): データマイニング	コーパスからTerm frequency matrixを生成する手順を復習しておく。
11.	テキストデータベース実践・応用編(5): テキストマイニング	CasualConcを用いたデータのVisualizationの基礎を復習しておく。
12.	テキストデータベース実践・応用編(6): トピックモデリング(1)	Topoc modeling for Historians (授業中に指示)に目を通しておく。
13.	テキストデータベース実践・応用編(7): トピックモデリング(2)	Gephiの使用法の基礎を復習しておく。
14.	第二部まとめ・発表(1)	発表の準備。
15.	第二部まとめ・発表(2)	発表の準備。

受講者へのメッセージやアドバイス:

本講義で学ぶデータ分析の方法のうち、テキストマイニングやトピックモデリングなど視覚化を応用するテクニックは、マーケットリサーチやバイオインフォマティクスなど他の分野でも応用の利くものなので、ぜひ習得して役立てていただければ幸いです。

フィードバックの方法:

講義用のコンパニオンウェブサイトを設置し、それを介してフィードバックを行う予定である。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	普段の授業への取り組み＋口頭発表	50%	1. 授業時に紹介したテキストデータ分析の方法論を自分で再現できるレベルまで飲み込めているかどうか、 2. 解析したデータの文化的解釈が客観的な説得を持っているかどうか
	学期末試験またはリポート	50%	1. 授業時に紹介したテキストデータ分析の方法論を自分で再現できるレベルまで飲み込めているかどうか、 2. 解析したデータの文化的解釈が客観的な説得を持っているかどうか 5回以上の欠席・遅刻があれば単位認定しないので、この点留意願いたい。

教科書:

なし

参考書:

石田 基広,『Rによるテキストマイニング入門』(森北出版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール (tabata@lang.osaka-u.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

人と情報機器、相互の関係およびそのデザイン(設計)について学ぶ

授業の概要:

人にとって、わかりやすい情報提示、使いやすいインタフェース、とはどういうものか、ユーザの特性、ニーズなどをベースに考察する。日常生活の道具におけるインタフェース(プロダクトデザイン)と、コンピュータのインタフェースの双方を対象とし、情報表示の方法、ユーザ特性とユニバーサルUI、情報システムの設計と管理、ユーザインタフェース評価手法などについて知る。また、新しいインタフェースのアプローチの紹介も行うと共に、社会や文化への影響を考察する。

到達目標:

情報を受ける人の視点に立った機能設計、インタフェース設計、コンテンツ制作ができるようになることを目標とする。最新のIT技術およびHIを知り、その社会や文化への影響を、肯定的にまた批判的に考察する。

授業方法:

演習や討議を含む講義形式にて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ヒューマンインタフェースとは ー人間側からものを見る	
	2. プロダクトデザイン	配布資料等での復習
	3. ユニバーサルデザイン	配布資料等での復習
	4. 操作性、認知性、快適性(1)	配布資料等での復習
	5. 操作性、認知性、快適性(2)	配布資料等での復習
	6. 操作性、認知性、快適性(3)	配布資料等での復習
	7. 行動のデザイン	配布資料等での復習
	8. 現在のインタラクション方式	配布資料等での復習
	9. スマフォUI分析	配布資料等での復習および課題
	10. HIの歴史	配布資料等での復習
	11. HIと基礎技術	配布資料等での復習
	12. HIと技術、最新トピック(1) ロボット(予定)	配布資料等での復習
	13. HIと技術、最新トピック(2) AI(予定)	配布資料等での復習および課題
	14. HIと技術、最新トピック(3) AI(予定)	配布資料等での復習
	15. まとめ	配布資料等での復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

必要に応じて教室でまとめて解説します。授業内でのレポートおよび授業態度(40%程度)、期末試験もしくは期末レポート(60%程度)の内容に基づき総合的に評価する。(ただし、各採点要素には必要最低点があり、また、採点比率も平均点等に準じて変動する可能性がある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み姿勢	30	参加姿勢で評価する
	期末試験もしくはレポート	60	内容に応じて評価する
	授業内での課題	10	提出回数および内容に応じて評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール(swake@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	エンターテインメント的見地に立つメディア研究		
授業の概要:	毎回ふたりの学生に自らのテーマに沿ったプレゼンテーションを課す。 同時にふたりの学生に座長を課す。 そのほかの学生にも毎回必ず発言することを課す。		
到達目標:	メディアに対する正しい認識のもと、大いに知識を深め、自らの研究テーマに反映させることを目標とする。		
授業方法:	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	2.	ガイダンス②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	3.	個人発表およびディスカッション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	4.	個人発表およびディスカッション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	5.	個人発表およびディスカッション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	6.	個人発表およびディスカッション④	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	7.	フィールドワーク	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	8.	個人発表およびディスカッション⑤	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	9.	個人発表およびディスカッション⑥	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	10.	個人発表およびディスカッション⑦	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	11.	個人発表およびディスカッション⑧	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	12.	個人発表およびディスカッション⑨	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	13.	個々のショートプレゼンテーション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	14.	個々のショートプレゼンテーション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	15.	個々のショートプレゼンテーション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	個人発表	40%	研究テーマに関するクオリティ
	発言力・質問力	30%	発表者への的を射た意見、および質問する力
	積極的姿勢	30%	ゼミに関わる全般的な態度
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーおよびゼミ終了後		

507702

情報メディア応用演習 I

川田 隆雄

授業テーマ：フィールド調査によるプロデュース能力研究

授業の概要：現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテインメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進し、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。このゼミではエンターテインメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュースの4つのジャンルにおけるプロデューサーのインタビュー調査を行い、分析研究を本格的に開始する。ゼミ生はグループに分かれて、プロデューサー型人材のインタビューを行い、データ収集、資質や行動パターンの分析を行う。2012年度から運用が開始されている、プロデューサーデータベース(iDUS)を利用して各グループで分析作業を行う。

到達目標：川田ゼミの特長であるインタビューの技法をマスターする。また、インタビューデータから分析を行う方法を身につける。本音でのディスカッションを習慣化する。

授業方法：授業はフィールド調査及び調査の発表とディスカッションによって進められる。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	プロデュース研究の方法論概説1	復習
	2.	プロデュース研究の方法論概説2	復習
	3.	プロデューサーデータベース(iDUS)使用方法解説	復習
	4.	インタビュー結果のディスカッション1	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	5.	インタビュー結果のディスカッション2	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	6.	インタビュー結果のディスカッション3	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	7.	インタビュー結果のディスカッション4	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	8.	インタビュー結果のディスカッション5	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	9.	インタビュー結果のディスカッション6	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	10.	インタビュー結果のディスカッション7	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	11.	インタビュー結果のディスカッション8	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	12.	インタビュー結果のディスカッション9	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	13.	インタビュー結果のディスカッション10	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	14.	インタビュー結果のディスカッション11	インタビュー結果のまとめ、発表準備
	15.	まとめとふりかえり	復習

受講者へのメッセージやアドバイス：事前のフィールド調査とそこで得られたデータの整理、分析、またレジメ作成などの作業が発生する。川田ゼミ独特の研究プロセスの醍醐味を味わえる1年間となるはずである。

フィードバックの方法：調査後の分析のフィードバックは授業中に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	70	出席と発表の有無。ゼミの授業では欠席が4回以上の場合単位が出ないので注意するように！
	成果物	30	プレゼン内容で評価

教科書：適宜指示

参考書：適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法：授業内でのコンタクトを基本とする

授業テーマ:

マルチメディアの教育的応用

授業の概要:

感覚メディアに対する情報は多様な方法で相互作用を示す。意図的に計画され、提供されるイリュージョンは私たちの興味をひき、面白さを感じさせる。しかし、メディア情報の中に偶然的に発生するイリュージョンは不注意やミスを誘発し予想できない事故に結びつく可能性がある。

到達目標:

この演習では、ヒトのメンタル・モデルとイリュージョンの関係について研究していく。

授業方法:

演習、制作、分析を組み合わせで行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	メディアに関する心理学的現象の研究	(図と地)
3.	メディアに関する心理学的現象の研究2	(多義図形)
4.	メディアに関する心理学的現象の研究3	(Illusion)
5.	課題の構想とプレゼンテーション	
6.	基本文献の収集・講読	各自の課題に沿った文献調査を行う
7.	制作1	
8.	制作2	
9.	制作3	
10.	制作過程の中間チェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進捗をチェックする
11.	プロトタイプ の提出	
12.	作品・レポートの手直し1	
13.	作品・レポートの手直し2	
14.	作品・レポートの提出・プレゼンテーション1	プレゼン力を養う
15.	作品・レポートの提出・プレゼンテーション2	プレゼン力を養う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	作品・レポート	50	積極的に授業に参加し、到達目標イリュージョン現象の理解ができるようになったか評価する
	プレゼンテーション	30	
	積極的参加度	20	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力

教員との連絡方法:

e-mail

授業テーマ:

京都府PR動画の制作プロジェクト

授業の概要:

本演習では、京都府(山城広域振興局)からの依頼に応じて、地域PRを目的とする動画コンテンツの制作プロジェクトを実施します。プロジェクトはプロデューサ+ディレクタをリーダーとする5名程度のチームによって編成し、メンバーの創意工夫を最大限に発揮した動画コンテンツの制作、および必要に応じてWEBページ、印刷物等の制作を行います。完成作品は京都府山城地域の広報として使用し、地域の活性化に貢献することを目的とします。

なお完成作品については10月上旬にローム記念館階段劇場にてプレゼンテーションを行う予定です。

参考 <https://www.youtube.com/user/CityOfKyoto>

到達目標:

目的に応じた魅力的な作品を完成させる

共同作業における責務を遂行する

適切に判断し行動するためのコミュニケーション能力を身につける

創造的な問題解決能力を身につける

授業方法:

演習・実習を中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション、テーマ決定とチーム編成	テーマに関わる情報収集や取材を行う
2. テーマ案に基づく企画ラフ案の検討	テーマに関わる情報収集や取材を行う
3. 京都府の担当部署より情報提供	テーマに関わる情報収集や取材を行う
4. 京都府の担当部署より情報提供	企画ラフ案のためのプレストを行う
5. 企画プレゼンテーション(授業内)	企画ラフ案のためのプレストを行う
6. 企画プレゼンテーション(授業内)	問題点の検討と修正案のミーティングを行う
7. 担当部署への企画プレゼンテーション	問題点の検討と修正案のミーティングを行う
8. 担当部署への企画プレゼンテーション	修正案をまとめ京都府の担当部署へ最終確認をとる、取材日程を調整する
9. 企画内容および撮影日程等の最終決定	修正案をまとめ京都府の担当部署へ最終確認をとる、取材日程を調整する
10. 企画内容および撮影日程等の最終決定	撮影等の取材を行う
11. 進捗状況の報告と修正1	撮影等の取材を行う
12. 進捗状況の報告と修正1	映像や音声の編集を行う
13. 進捗状況の報告と修正2	映像や音声の編集を行う
14. 進捗状況の報告と修正2	修正を行う
15. 合評(授業内)	プレゼンテーションに向けて手直しを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

チームのメンバーやクライアント、教員と積極的にコミュニケーションをとって行動してください。

フィードバックの方法:

制作の進捗に合わせてアドバイスをを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	100	完成作品の魅力や訴求力を評価します。 また各個人の共同作業における責務遂行、適切に判断し行動するためのコミュニケーション能力、創造的な問題解決能力については、チームへの貢献度を作品点に掛け合わせて評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

各授業後に直接連絡するか、kmori@dw.doshisha.ac.jpにメールしてください。

授業テーマ:

サブカルチャーの展開に関する研究

授業の概要:

卒業研究のテーマの設定・研究計画を策定し、具体的には、作品や作家の分析・ブームの仕掛け・メディアミックス人気・コミケやコスプレをはじめとした特有のコミュニケーション・町おこしや商品化でのキャラクター活用・海外での展開等、受講生の実体験や興味関心を踏まえた研究を行う。

到達目標:

1【知識・理解】研究の基礎的情報をもとにサブカルチャーについて理解し、説明ができる。
2【関心・意欲・態度】サブカルチャーについての問題提起や提案ができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力やコミュニケーション力、卒業研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:

講義、調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどを用いたゼミ形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 研究計画の策定(1)	研究計画書の作成
	3. 研究計画の策定(2)	研究計画書の作成
	4. 文献調査・フィールドワーク	研究の準備と実施
	5. ディスカッション(1)	
	6. 個人研究報告(1)	進捗報告の準備
	7. 個人研究報告(2)	進捗報告の準備
	8. 個人研究報告(3)	進捗報告の準備
	9. 個人研究報告(4)	進捗報告の準備
	10. ディスカッション(2)	
	11. プレゼンテーション(1)	資料作成等発表の準備
	12. プレゼンテーション(2)	資料作成等発表の準備
	13. プレゼンテーション(3)	資料作成等発表の準備
	14. ディスカッション(3)	
	15. 評価	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業時に口頭で行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み姿勢	50	到達目標の1を中心に評価する。
	レポート	30	到達目標の2・3を中心に評価する。
	発表	20	到達目標の2・3を中心に評価する。

教科書:

参考書:

全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』(年刊)
メディアクリエイト『ゲーム産業白書』(年刊)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール: mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

メディア文化史的思考の歴史と可能性

授業の概要:

メディア文化史上における多様なテーマにかんして、プロジェクト研究あるいは個人研究において理解を深める。また、参加者の関心に応じて、デジタルコンテンツの作成を計画するか、テキスト・データベースなどにも関心があるばあいには、設計ないし既存アーカイブの活用も可能。アナログからデジタルへの情報処理の転換が、人間社会にどのような変化をもたらしたのか、文化史と最近の成果物の利用面から考察する。理論と技術を一面的に論じるだけではなく、ヒューマンインタフェースと情報倫理も視野においた実践的な探求をめざしたい。これらの課題は、参加者全員で相互補助的に達成されることになる。

到達目標:

ゼミ構成員による共同作業(プロジェクト研究)を基本とする。従って、参加者は各人の成果についてつねに報告が求められ、参加者相互による支援と協調的解決とが要請される。「情報メディア演習」に引き続いて、
1)学術的調査と資料収集
2)論理的文章表現
3)プレゼンテーション
などの技法向上とメディアと情報の文化的変遷を総合的に分析し、継続的に理解を深めたい。

授業方法:

演習形式。個人およびプロジェクトによる調査、研究、発表討議を中心とする。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム(マナビー)を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入	実質的に「情報メディア演習」を継続・発展させる授業であることを意識して各人の問題意識を整理しておくこと。
2.	方法としてのプロジェクト研究	学期内に終了予定のプロジェクト研究の目標、作業工程、プレゼン準備などについて各グループにおいて事前相談をしておくこと。
3.	プロジェクト研究の課題設定－1	各グループでの作業を徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
4.	プロジェクト研究の課題設定－2	各グループでの作業を徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
5.	プロジェクト研究の実際－1	各グループでの作業をプレゼンテーションに向けて徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
6.	プロジェクト研究の実際－2	各グループでの作業をプレゼンテーションに向けて徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
7.	プロジェクト研究の実際－3 －中間報告－	中間報告ができるように各グループでの作業を徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
8.	プロジェクト研究の実際－4	各グループでの作業をプレゼンテーションに向けて徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
9.	プロジェクト研究の実際－5	各グループでの作業をプレゼンテーションに向けて徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
10.	プロジェクト研究のプレゼンテーション－1	各グループでのプレゼンテーションができるように準備を完了させておくこと。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
11.	プロジェクト研究のプレゼンテーション－2	各グループでのプレゼンテーションができるように準備を完了させておくこと。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
12.	個人研究の基礎－1	プロジェクト研究の経験を生かして、卒業研究にふさわしい各人の研究テーマについて考えておくこと。
13.	個人研究の基礎－2	プロジェクト研究の経験を生かして、卒業研究にふさわしい各人の研究テーマについて考えておくこと。
14.	個人研究の基礎－3	プロジェクト研究の経験を生かして、卒業研究にふさわしい各人の研究テーマについて考えておくこと。
15.	総括－卒業研究へー	事前配布資料や文献などにより「卒論」の意味と必要な準備について理解を深めておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

日常的関心をメディア論的思考によって探求することの意義と方法を各人の関心に応用できる可能性について理解を深めて欲しい。

フィードバックの方法:

クラスおよび授業支援システム(マナビー)利用による討議など。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況	40%	積極的にクラスに参加し、討議(マナビーを含む)議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。
	プロジェクト研究と発表	40%	プロジェクト内での貢献およびプレゼンテーションを基準として評価する。
	卒業研究への関心と着手	10%	各人の関心を卒業研究に結びつけようとする態度と着手状況によって評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、洞察力

教員との連絡
方法:

直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

本演習では「情報メディア演習」での学びを土台とし、文化とメディアをとりまく諸相について分析を行います。さまざまな分析対象から学生各自が興味のあるテーマを設定し、文献・資料の購読や各種調査に基づいて、独自の考察を進めます。

次年度の卒業演習・制作へとつながる個人研究の基礎を固めることが目標です。

受講生による発表を中心に、講義をまじえながら授業を進めます。学生各自の設定した発表テーマに関する講読文献と課題を毎回設定し、全員で討論を行います。各自の研究を深めると同時に、毎回さまざまな分野のトピックを学ぶことで、立体的な学際研究への視点を養ってゆきたいと考えています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業の概要と進め方の説明、必要事項についての討論と決定
2.	個人研究発表とディスカッション 基礎:発表(1)～(2)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
3.	個人研究発表とディスカッション 基礎:発表(3)～(4)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
4.	個人研究発表とディスカッション 基礎:発表(5)～(6)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
5.	個人研究発表とディスカッション 基礎:発表(7)～(8)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
6.	個人研究発表とディスカッション 基礎:発表(9)～(10)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
7.	個人研究発表とディスカッション 基礎:発表(11)～(12)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
8.	個人研究発表とディスカッション 発展:発表(1)～(2)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
9.	個人研究発表とディスカッション 発展:発表(3)～(4)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
10.	個人研究発表とディスカッション 発展:発表(5)～(6)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
11.	個人研究発表とディスカッション 発展:発表(7)～(8)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
12.	個人研究発表とディスカッション 発展:発表(9)～(10)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
13.	個人研究発表とディスカッション 発展:発表(11)～(12)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
14.	総括とポスターセッションに向けての準備(1)	各自の研究のまとめと発表準備、討論①
15.	総括とポスターセッションに向けての準備(2)	各自の研究のまとめと発表準備、討論②

受講者へのメッセージやアドバイス:

個人研究の目標設定から調査の実践、研究成果の発表とさらなる発展を実現するためには、授業内外での各自の弛みない努力が必須です。授業はおもに成果発表と討論や指導の場となりますので、毎回の授業前準備、授業後の軌道修正などが重要になります。したがって、資料収集、読解、分析、発表、といった研究活動全般を各自計画的に遂行し、自律的な学習活動を精力的に行う事が求められます。

フィードバックの方法:

授業時および授業外に必要なに応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
	授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
	各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
	その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、DWCLA10の総合的な向上が最終目標
教員との連絡 方法:	授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示します。

授業テーマ:	ヒューマンインタフェースおよびサイン音デザイン		
授業の概要:	卒業論文を全員で講読することを通し、研究実施の方法や論文の書き方を学ぶ。 クリティカルシンキング、ロジカルライティングについても同時に学ぶ。 自身の卒業研究テーマを定める。		
到達目標:	研究の目的設定や進め方について理解する。 客観的にデータを見ること、論理的・批判的に思考すること、論理的説明したり意見を述べることにについて理解する。 秋学期から開始する自身の研究テーマについて検討し、定める。		
授業方法:	輪講、ディスカッション等によるゼミ形式で行います。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	自身が興味のある研究テーマについて案をあげてみる。 卒業論文を読んで理解する。自分の発表の場合は、卒論内容説明の発表準備をする。 卒業論文を読んで理解する。自分の発表の場合は、卒論内容説明の発表準備をする。 卒業論文を読んで理解する。自分の発表の場合は、卒論内容説明の発表準備をする。 卒業論文を読んで理解する。自分の発表の場合は、卒論内容説明の発表準備をする。 卒業論文を読んで理解する。自分の発表の場合は、卒論内容説明の発表準備をする。 卒業論文を読んで理解する。自分の発表の場合は、卒論内容説明の発表準備をする。 卒業論文を読んで理解する。自分の発表の場合は、卒論内容説明の発表準備をする。 自身の研究テーマ案を考える 自身の研究テーマ案に関連する文献調査を行う 配付資料を熟読する。 配付資料を熟読する。 研究テーマおよび研究計画について討議の準備を行う。 研究テーマおよび研究計画について討議の準備を行う。	
	2. 卒業論文とは		
	3. 卒業論文輪講		
	4. 卒業論文輪講		
	5. 卒業論文輪講		
	6. 卒業論文輪講		
	7. 卒業論文輪講		
	8. 卒業論文輪講		
	9. 文献調査法		
	10. 文献調査法		
	11. クリティカルシンキング概説		
	12. ロジカルライティング概説		
	13. 研究テーマ決定へ向けての討議		
	14. 研究テーマ決定へ向けての討議		
	15. 4年生卒論中間発表への参加		
受講者への メッセージや アドバイス:	自主的な問題発見、学習を期待します。 毎回MacBookAirを持参ください。		
フィードバックの 方法:	教室内で全体もしくは個別に指導します。 場合によってはメールでの質問受け付け、指導も行います。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への取り組み姿勢	50	毎回の授業への参加姿勢で評価する。
	発表	30	発表の準備状況、内容の分かりやすさで評価する。
	提出物	20	提出物の提出状況および内容にて評価する。
教科書:	木下是雄、レポートの組み立て方、ちくま学芸文庫		
参考書:			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力		
教員との連絡 方法:	Eメール(swake@dw.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

学びや暮らしをサポートする情報メディア環境の研究

授業の概要:

本ゼミでは卒業演習・制作までの2年半をかけて、学びや暮らしをサポートする情報メディア環境のあり方を研究します。このテーマに迫るには様々な方法が考えられますが、本ゼミでは各自が自分の関心のあるテーマを取り上げて開発(コンテンツ制作やプログラミングなど)、実験・調査、実践(実際に試してみる)などの方法で研究を進めます。そして専門的な知識技能に加え、社会で必要とされる主体的に行動する力、考え抜く力、他者と協力して問題を解決する力などを身につけます。情報メディア応用演習Iでは、個人またはグループでテーマを設定し、研究計画書を作成し、準備的な研究を開始します。

到達目標:

①【知識・理解】先行研究(研究テーマに関わる領域で行われてきた研究)の内容や方法を説明できる。
②【関心・意欲・態度】研究テーマに関わる情報や社会的事象に常に関心を持ち、掘り下げて追究しようとする。
③【表現・技能・能力】適切な研究方法を選んで研究テーマに迫り、その成果をわかりやすく他者に伝えることができる。

授業方法:

研究そのものは授業時間外に各自で進めることとし、授業では進捗状況の発表とその内容についてのディスカッションを行います。発表の機会は1月に一回程度の頻度で回ってきます。また、通常の授業とは別に夏期休暇期間中に一泊二日でゼミ合宿を行います(同志社びわこリトリートセンターを予定)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究テーマの設定	
	2. 研究テーマの設定	研究の遂行と発表準備
	3. 参考資料の収集と準備的な研究	研究の遂行と発表準備
	4. 参考資料の収集と準備的な研究(続き)	研究の遂行と発表準備
	5. 参考資料の収集と準備的な研究(続き)	研究の遂行と発表準備
	6. 研究計画書の作成	研究の遂行と発表準備
	7. 研究計画書の作成(続き)	研究の遂行と発表準備
	8. 研究計画書の作成(続き)	研究の遂行と発表準備
	9. 研究の進捗状況について発表とディスカッション	研究の遂行と発表準備
	10. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	11. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	12. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	13. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	14. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	15. まとめと学習の振り返り	研究の遂行と発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

個別指導で対応しますが、必要に応じて教室でまとめて解説します。

フィードバックの方法:

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業に臨む姿勢(参加や積極性、発表など)	60	到達目標①②の達成度を評価します。
	成果物(発表資料など)	40	到達目標①③の達成度を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: 本授業では、「メディアと私たちの相互作用」に着目した個人研究を進めていく。受講生は研究のテーマと目的を具体的に設定し、資料調査(文献資料、視聴覚資料、インタビュー資料など)を行い、その成果をプレゼンテーションとレポートあるいは試作というかたちで提出する。以上を通じて、本授業では、卒業論文と卒業制作の完成にむけた基礎作りを目標とする。

到達目標: 卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の基礎を形成すること

授業方法: 演習
個人研究のプレゼンテーションおよび各研究内容にかんするディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	個人研究の内容整理しておくこと
2.	個人研究テーマと目的の設定	卒業研究の方法を確認しておくこと
3.	テーマと目的におうじた資料調査の方法	資料調査の方法について調べておくこと
4.	個人研究発表およびディスカッション(1)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
5.	個人研究発表およびディスカッション(2)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
6.	個人研究発表およびディスカッション(3)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
7.	個人研究発表およびディスカッション(4)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
8.	フィールドワーク	個人研究の内容を整理しておくこと
9.	個人研究発表およびディスカッション(5)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
10.	個人研究発表およびディスカッション(6)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
11.	個人研究発表およびディスカッション(7)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
12.	個人研究発表およびディスカッション(8)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
13.	成果のまとめとレビュー(1)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
14.	成果のまとめとレビュー(2)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
15.	成果のまとめとレビュー(3)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 添削して返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表、討論	80	個人発表での個人研究の達成度、討論では個々人の研究内容を踏まえた上で発言しているかを基準にして評価する
	授業への参加度	20	卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の基礎を形成したかという基準で評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法: オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

メディアコンテンツの制作プロジェクト

生活、文化、観光などをテーマとし、京都府（山城広域振興局）とのコラボレーションにより山城地区のPR動画制作プロジェクト(予定)を行います。プロジェクトはプロデューサーとディレクターをリーダーとする5ー6名のチームによって編成し、対象地区を振興するための映像コンテンツ制作に取り組みます。
チームごとに「何を、誰に、なぜ、どのように」伝えるかを検討し、それに沿って調査、企画、アイデア推敲、技術的検討、制作作業、発表という制作プロセスを進めます。その全工程において、各人が「今、何をすべきか」を判断し、適切に問題解決をしながら行動することが求められます。同時に、異なる興味、技術をもつ人とのコラボレーションを通して自分の視野を広げるとともに、共同作業における役割の分担とそれぞれの責務について実制作を通じて体験的に学ぶことをめざします。

1 制作プロセスにおいて、創造的かつ総合的な制作力と問題解決力を身につける。
2 自治体の担当部署との打ち合わせや調整など、外部機関とのやり取りを通して、社会とのコミュニケーション力を身につける。

演習・実習を中心に授業を進めます。チームごとにテーマを決め、企画から制作までを主体的に行います。

授業内容	準備学習等の内容
1. 課題内容のオリエンテーション、チームの結成	テーマについての調査
2. テーマ案に基づくラフ企画案検討	作品の企画構想
3. 自治体の担当部署より情報提供(予定)	作品の詳細企画と発表準備
4. 企画書の作成	作品の詳細企画と発表準備
5. 企画プレゼンテーション	プロトタイプ制作
6. 企画の手直しとプロトタイプ制作	プロトタイプ制作
7. 担当部署への企画プレゼンテーション	作品制作
8. 作品の制作	作品制作
9. 進捗状況の報告と内容の検討	作品制作
10. 作品の制作	作品制作
11. 進捗状況の報告と内容の検討	作品制作
12. 作品の制作	作品のブラッシュアップ
13. 進捗状況の報告と内容の検討	作品のブラッシュアップ
14. 作品の手直し	作品のブラッシュアップと発表準備
15. 合評	

作品制作過程において、チームごとに助言し、発表会において評価します。

評価方法	割合	評価基準
制作した作品	100	作品の完成度に、チームへの貢献度を勘案して評価する。

創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力

電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	エンターテインメント的見地に立つメディア研究		
授業の概要:	毎回ふたりの学生に自らのテーマに沿ったプレゼンテーションを課す。 同時にふたりの学生に座長を課す。 そのほかの学生にも毎回必ず発言することを課す。		
到達目標:	メディアに対する正しい認識のもと、大いに知識を深め、自らの研究テーマに反映させることを目標とする。		
授業方法:	演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	2.	ガイダンス②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	3.	個人発表およびディスカッション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	4.	個人発表およびディスカッション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	5.	個人発表およびディスカッション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	6.	個人発表およびディスカッション④	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	7.	フィールドワーク	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	8.	個人発表およびディスカッション⑤	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	9.	個人発表およびディスカッション⑥	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	10.	個人発表およびディスカッション⑦	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	11.	個人発表およびディスカッション⑧	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	12.	個人発表およびディスカッション⑨	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	13.	個々のショートプレゼンテーション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	14.	個々のショートプレゼンテーション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
	15.	個々のショートプレゼンテーション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	個人発表	40%	研究テーマに関するクオリティ
	発言力・質問力	30%	発表者への的を射た意見、および質問する力
	積極的姿勢	30%	ゼミに関わる全般的な態度
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーおよびゼミ終了後		

授業テーマ:	フィールド調査によるプロデュース能力研究		
授業の概要:	現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテインメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進し、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。このゼミではエンターテインメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュースの4つのジャンルにおけるプロデューサーのインタビュー調査を行い、分析研究を本格的に開始する。ゼミ生はグループに分かれて、プロデューサ型人材のインタビューを行い、データ収集、資質や行動パターンの分析を行う。2012年度から運用が開始されている、プロデューサーデータベース(iDUS)を利用して各グループで分析作業を行う。		
到達目標:	川田ゼミの特長であるインタビューの技法をマスターする。また、インタビューから分析を行う方法を身につける。本音でのディスカッションを習慣化する。		
授業方法:	授業はフィールド調査及び調査発表とディスカッションによって進められる。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 前期のプロデュース研究のふりかえり1	復習	
	2. 前期のプロデュース研究のふりかえり2	復習	
	3. プロデューサーデータベース(iDUS)使用方法の再確認	復習	
	4. インタビュー結果のディスカッション1	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	5. インタビュー結果のディスカッション2	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	6. インタビュー結果のディスカッション3	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	7. インタビュー結果のディスカッション4	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	8. インタビュー結果のディスカッション5	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	9. インタビュー結果のディスカッション6	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	10. インタビュー結果のディスカッション7	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	11. インタビュー結果のディスカッション8	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	12. インタビュー結果のディスカッション9	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	13. インタビュー結果のディスカッション10	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	14. インタビュー結果のディスカッション11	インタビュー結果のまとめ、発表準備	
	15. まとめとふりかえり	復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	事前のフィールド調査とそこで得られたデータの整理、分析、またレジメ作成などの作業が発生する。川田ゼミ独特の研究プロセスの醍醐味を味わえる1年間となるはずである。		
フィードバックの方法:	調査、分析のフィードバックは授業中に行う。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	70	出席と発表の有無。ゼミの授業では欠席が4回以上の場合単位が出ないので注意するように！ プレゼン内容
	成果物	30	
教科書:	適宜指示		
参考書:	適宜指示		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業内でのコンタクトを基本とする		

授業テーマ:

マルチメディアとメンタルモデル

授業の概要:

授業目標: マルチメディア技法は、打てば響くような迅速な情報の提示技術の側面を重視してきたが、この演習では、(1)認知システムとしてのこころ、(2)二重符号化による記憶のメカニズム、(3)認知理論に基づいたマルチメディア教材の設計、について演習と制作を目指していきたい。

到達目標:

こころの機能の仕組み(Mental Model)と記憶のメカニズムの特徴についてイリュージョンを手がかりに理解する。

授業方法:

演習、制作・著作を組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	メンタルモデルの基礎概念の解説	認知心理学 ― 知のアーキテクチャを探る 新版(有斐閣アルマ)
3.	記憶のメカニズムの特徴	
4.	ワーキングメモリーの特徴	
5.	メディアに関する心理的現象の研究	(Illusion)
6.	メディアに関する心理的現象の研究2	(閾下知覚)
7.	課題の構想とプレゼンテーション	各自の課題に沿った文献調査を行う
8.	制作1	
9.	制作2	
10.	制作3	
11.	制作過程のチェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進捗をチェックする
12.	プロトタイプの提出	
13.	作品・レポートの手直し	
14.	作品・レポートの提出・プレゼンテーション1	プレゼン力を養う
15.	作品・レポートの提出・プレゼンテーション2	プレゼン力を養う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	作品・レポート	50	積極的に授業に参加し、到達目標Mental Modelの理解ができるようになったか評価する
	プレゼンテーション	30	
	積極的参加度	20	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力

教員との連絡方法:

e-mail

507804

情報メディア応用演習Ⅱ

森 公一

授業テーマ:

個人テーマによる作品制作と発表

授業の概要:

自由テーマに基づく作品制作とその展示を行います。これまでに培った表現技法やノウハウに加え、各個人に応じた技術的課題を解決しながら、魅力的で独自性に富んだ作品の創造を目標とします。年度末に予定している進級制作展での成果発表を前提に、作品のテーマや形式に関連する情報の収集と分析研究、独自の表現形式や展示形式の立案、新しい制作ノウハウの習得、スケジュール管理や人的ネットワークの構築、作品の完成度を高める手直しなど、全てのプロセスを一貫してプロデュースすることを体験します。

到達目標:

独自の作品を創造し展示するための総合力を獲得する
クリエイティブ力: 作品の企画力、構想力、技術力、表現力など
マネジメント力: プレゼンテーション能力、スケジュール管理、資金管理など
プロデュース力: コミュニケーション力、組織運営・人材活用能力など

授業方法:

個別指導を中心に、中間・最終チェック、プレゼンテーションなどを盛り込み進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 春学期課題の発表について	ローム館での発表準備
2. ローム館での発表本番	ローム館での発表準備
3. ローム館での発表本番	個人研究プレゼンテーションの準備
4. 個人研究のプレゼンテーション	個人研究プレゼンテーションの準備
5. 個人研究のプレゼンテーション	企画案プレゼンテーションの準備1
6. 企画案プレゼンテーション1(個別面談)	企画案プレゼンテーションの準備1
7. 企画案プレゼンテーション1(個別面談)	企画案プレゼンテーションの準備2
8. 企画案プレゼンテーション2(個別面談)	企画案プレゼンテーションの準備2
9. 企画案プレゼンテーション2(個別面談)	作品制作
10. 中間チェック1(個別面談)	〃
11. 中間チェック1(個別面談)	〃
12. 中間チェック2(個別面談)	〃
13. 中間チェック2(個別面談)	作品の修正
14. 最終チェック(全員)	〃
15. 最終チェック(全員)	作品展示の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

個人作品の制作となるので、自己管理に努めてください。

フィードバックの方法:

個別面談や中間チェック、最終チェック、合評会においてアドバイスをを行います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	100	完成作品の質(クリエイティヴ力、マネジメント力、プロデュース力の成果)を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

各授業終了後に直接連絡するか、kmori@dwc.doshisha.ac.jpにメールして下さい。

授業テーマ:	サブカルチャーの展開に関する探究		
授業の概要:	「情報メディア演習」、「情報メディア応用演習Ⅰ」での学びを踏まえて、サブカルチャーに関するテーマで各自で課題を設定し、研究を行う。 4回生の卒業論文へと繋げるべく研究を進め、研究の中間まとめとして学科行事であるポスターセッションでの発表に参加する。		
到達目標:	1【知識・理解】研究の基礎的情報をもとにサブカルチャーについて理解し、説明ができる。 2【関心・意欲・態度】サブカルチャーについての問題提起や提案ができる。 3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力や自己管理能力、卒業研究に必要な技能を身に着ける。		
授業方法:	講義、調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどを用いたゼミ形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス		
	2. 文献調査・フィールドワーク	研究の準備と実施	
	3. ディスカッション(1)		
	4. 個人研究報告(1)	進捗報告の準備	
	5. 個人研究報告(2)	進捗報告の準備	
	6. 個人研究報告(3)	進捗報告の準備	
	7. 個人研究報告(4)	進捗報告の準備	
	8. ディスカッション(2)		
	9. 発表準備(1)	資料作成等発表の準備	
	10. 発表準備(2)	資料作成等発表の準備	
	11. プレゼンテーション(1)	資料作成等発表の準備とプレゼン練習	
	12. プレゼンテーション(2)	資料作成等発表の準備とプレゼン練習	
	13. プレゼンテーション(3)	資料作成等発表の準備とプレゼン練習	
	14. ディスカッション(3)		
	15. 評価		
受講者へのメッセージやアドバイス:	ポスターセッションは全員参加とする		
フィードバックの方法:	授業時に口頭で行う		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み姿勢	30	到達目標の1を中心に評価する。
	レポート	30	到達目標の2・3を中心に評価する。
	発表(ポスターセッションを含む)	40	到達目標の2・3を中心に評価する。
教科書:			
参考書:	全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』(年刊) メディアクリエイイト『ゲーム産業白書』(年刊)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメール: mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	メディア文化史的思考の歴史と可能性		
授業の概要:	「情報メディア応用演習Ⅰ」において探求されたメディア文化史上の諸問題および提案されたデジタル・コンテンツ、テキスト・データベースの実際的利用などの経験をもとに高度情報化社会のもつ特性を試論的に検討する。		
到達目標:	上記「授業概要」に沿って、参加者には積極的な関心と参加者相互による支援と協調的解決とが要請される。また、「情報メディア演習」「情報メディア応用演習Ⅰ」に引き続いて、 1)学術的調査と資料収集 2)論理的思考と文章表現 3)プレゼンテーション などの技法向上とメディアと情報の文化的変遷を総合的に分析し継続的に理解を深めたい。		
授業方法:	演習形式。個人研究を基礎とした研究発表討議を中心とする。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム(マナビー)を利用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 導入	2. 個人ベースの研究もしくは制作ー1	3. 個人ベースの研究もしくは制作ー2
	4. 方法の基礎ー1	5. 方法の基礎ー2	6. 課題の設定ー1
	7. 課題の設定ー2	8. 情報収集の実際ー1	9. 情報収集の実際ー2
	10. 調査の実際ー1	11. 調査の実際ー2	12. プレゼンテーションの実際ー1
	13. プレゼンテーションの実際ー2	14. プレゼンテーションの実際ー3	15. 総括ー卒業研究へー
受講者へのメッセージやアドバイス:	日常的関心をメディア文化史的思考によって探求することの意義と方法を各人の関心に応用して欲しい。		
フィードバックの方法:	クラスおよび授業支援システム(マナビー)利用による討議など。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況	30%	積極的にクラスに参加し、討議(マナビーを含む)議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。
	研究(個人)研究の理解度	30%	研究(個人)研究の意義と方法、実際について正しく理解できているかどうかを基準として評価する。
	研究(個人)研究への着手度	40%	学期最終時に、卒業研究の準備としての研究(個人)研究にどの程度着手されているかを基準として評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、洞察力		
教員との連絡方法:	直接またはE-mail E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

本演習では「情報メディア応用演習Ⅰ」での学びを土台に、文化とメディアをとりまく諸相についての分析を発展させます。学生各自が設定したテーマについて、文献・資料の購読や各種調査をさらに進め、独自の考察を深めてゆきます。

次年度の卒業演習・制作の基礎をしっかりと固める個人研究を行うことが目標です。

受講生による発表を中心に、講義をまじえながら授業を進めます。学生各自の設定した発表テーマに関する講読文献と課題を毎回設定し、全員で討論を行います。毎回さまざまな分野のトピックを学び、各自の立体的な学際研究へ応用することが重要です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業の概要と進め方の説明、必要事項についての討論と決定
2.	個人研究発表とディスカッション 応用:発表(1)～(2)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
3.	個人研究発表とディスカッション 応用:発表(3)～(4)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
4.	個人研究発表とディスカッション 応用:発表(5)～(6)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
5.	個人研究発表とディスカッション 応用:発表(7)～(8)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
6.	個人研究発表とディスカッション 応用:発表(9)～(10)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
7.	個人研究発表とディスカッション 応用:発表(11)～(12)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
8.	個人研究発表とディスカッション 深化:発表(1)～(2)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
9.	個人研究発表とディスカッション 深化:発表(3)～(4)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
10.	個人研究発表とディスカッション 深化:発表(5)～(6)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
11.	個人研究発表とディスカッション 深化:発表(7)～(8)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
12.	個人研究発表とディスカッション 深化:発表(9)～(10)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
13.	個人研究発表とディスカッション 深化:発表(11)～(12)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
14.	総括:ポスターセッションと卒業制作に向けた実践(1)	各自の研究成果の発表演習、発展的討論①
15.	総括:ポスターセッションと卒業制作に向けた実践(2)	各自の研究成果の発表演習、発展的討論②

受講者へのメッセージやアドバイス:

個人研究の目標設定から調査の実践、研究成果の発表とさらなる発展を実現するためには、授業内外での各自の弛みない努力が必須です。授業はおもに成果発表と討論や指導の場となりますので、毎回の授業前準備、授業後の軌道修正などが重要になります。したがって、資料収集、読解、分析、発表、といった研究活動全般を各自計画的に遂行し、自律的な学習活動を精力的に行う事が求められます。

フィードバックの方法:

授業時および授業外に必要な応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
	授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
	各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
	その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、DWCLA10の総合的な向上が最終目標
教員との連絡 方法:	授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示します。

507808

情報メディア応用演習Ⅱ

和氣 早苗

授業テーマ:

ヒューマンインタフェースおよびサイン音デザイン

授業の概要:

自身の卒業研究テーマを定め、個人あるいはグループ単位で研究を実施する。

到達目標:

研究計画を立て、実施し、必要に応じて修正する。
客観的にデータを読む。自身の意見を積極的に発言する。論理的説明したり意見を述べる。
ポスターセッションにてプレゼンを行う。

授業方法:

個別あるいはグループ単位での研究活動の実施。
毎回あるいは隔週で、実施した内容の報告および討議を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	
2. 研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
3. 研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
4. 研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
5. 研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
6. 研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
7. 研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
8. 研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
9. 研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
10. 研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
11. 研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
12. ゼミ内報告会	報告会準備
13. 研究活動の実施およびポスターセッション用ポスターの作成	ポスターの制作
14. 研究活動の実施およびポスターセッション用ポスターの作成	ポスターの制作、修正
15. 研究活動の実施およびポスターセッション用ポスターの作成	ポスターの制作、修正

受講者へのメッセージやアドバイス:

自主的な問題発見、学習を期待します。
毎回MacBookAirを持参ください。

フィードバックの方法:

教室内で全体もしくは個別に指導します。
場合によってはメールでの質問受け付け、指導も行います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	50	研究への取り組み姿勢で評価する。
発表(ポスターセッション)	30	準備状況、ポスター発表のわかりやすさで評価する。
成果物	20	半年間の研究成果で評価する。

教科書:

木下是雄、レポートの組み立て方、ちくま学芸文庫

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール(swake@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

学びや暮らしをサポートする情報メディア環境の研究

授業の概要:

本ゼミでは卒業演習・制作までの2年半をかけて、学びや暮らしをサポートする情報メディア環境のあり方を研究します。このテーマに迫るには様々な方法が考えられますが、本ゼミでは各自が自分の関心のあるテーマを取り上げて開発(コンテンツの制作やプログラミングなど)、実験・調査、実践(実際に試してみる)などの方法で研究を進めます。そして専門的な知識技能に加え、社会で必要とされる主体的に行動する力、考え抜く力、他者と協力して問題を解決する力などを身につけます。情報メディア応用演習Ⅱでは、Iで開始した研究を継続してさらに深め、発展させます。

到達目標:

①【知識・理解】先行研究(研究テーマに関わる領域で行われてきた研究)の内容や方法を説明できる。
②【関心・意欲・態度】研究テーマに関わる情報や社会的事象に常に関心を持ち、掘り下げて追究しようとする。
③【表現・技能・能力】適切な研究方法を選んで研究テーマに迫り、その成果をわかりやすく他者に伝えることができる。

授業方法:

研究そのものは授業時間外に各自で進めることとし、授業では進捗状況の発表とその内容についてのディスカッションを行います。発表の機会は1月に一回程度の頻度で回ってきます。ポスターセッション、進級制作展については、原則として全員参加とします。また、通常の授業とは別に夏期休暇期間中に一泊二日でゼミ合宿を行います(同志社びわこリトリートセンターを予定)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究の進捗状況について発表とディスカッション	研究の遂行と発表準備
	2. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	3. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	4. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	5. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	6. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	7. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	8. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	9. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	10. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	11. 研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
	12. ポスターセッション、進級制作展ガイダンス	ポスター制作、進級制作展準備
	13. ポスター制作、進級制作展準備	ポスター制作、進級制作展準備
	14. ポスター制作と発表練習、進級制作展準備(続き)	ポスター制作と発表練習、進級制作展準備(続き)
	15. ポスターセッション、進級制作展の準備、まとめ	ポスター制作と発表練習、進級制作展準備(続き)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個別指導で対応しますが、必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業に臨む姿勢(参加や積極性、発表など)	60	到達目標①②の達成度を評価します。また、自主学習や資格試験への挑戦を奨励し、その成果も本人からの申し出に基づいて加点します。
	成果物(発表資料、ポスター、出展作品など)	40	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール(yyoden@dw.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: 本授業では、「メディアと私たちの相互作用」に着目した個人研究を進めていく。受講生は研究のテーマと目的を具体的に設定し、資料調査(文献資料、視聴覚資料、インタビュー資料など)を行い、その成果をプレゼンテーションとレポートあるいは試作というかたちで提出する。以上を通じて、本授業では、卒業論文と卒業制作の完成にむけた基礎作りを目標とする。

到達目標: 卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の基礎を形成すること

授業方法: 演習
個人研究のプレゼンテーションおよび各研究内容にかんするディスカッション

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	個人研究の内容整理しておくこと
	2. 個人研究の進捗状況についての報告(1)	個人研究の内容整理しておくこと
	3. 個人研究の進捗状況についての報告(2)	個人研究の内容整理しておくこと
	4. 個人研究発表およびディスカッション(1)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	5. 個人研究発表およびディスカッション(2)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	6. 個人研究発表およびディスカッション(3)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	7. 個人研究発表およびディスカッション(4)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	8. フィールドワーク	個人研究の内容を整理しておくこと
	9. 個人研究発表およびディスカッション(5)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	10. 個人研究発表およびディスカッション(6)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	11. 個人研究発表およびディスカッション(7)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	12. 個人研究発表およびディスカッション(8)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	13. 成果のまとめとレビュー(1)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
	14. 成果のまとめとレビュー(2)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
	15. 成果のまとめとレビュー(3)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法: 添削して返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表、討論	80	個人発表での個人研究の達成度、討論では個々人の研究内容を踏まえた上で発言しているかを基準にして評価する
	授業への参加度	20	卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の基礎を形成したかという基準で評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡
方法: オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:

情報デザインに関する作品の制作と発表

授業の概要:

個人のテーマに従い、自らが創造した情報をかたちにする制作を行います。情報デザインされたものと、それを使う人・見る人との間のインターフェイスに関する考察と実装(制作)が目的です。年度末に開催予定の進級制作展での成果発表を前提に、新しい視点を持ち、適切な技術を使い、新しい表現やコミュニケーションの可能性を提示する作品・プログラムを制作・開発します。
企画、調査、制作・開発、フィニッシュワークの過程において、創造性、チャレンジ、地道な努力が求められます。

到達目標:

1 何をどう、どのような手法を使って表現するのか、そのためには何を解決し、何を勉強するのかを自主的に考える
2 企画に基づき制作をし、完成させる
3 制作したものを適切に発表する

授業方法:

個別のテーマに基づき、主体的に制作を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	情報メディア応用演習I 制作作品 発表会準備	発表準備
2.	情報メディア応用演習I 制作作品 発表会	
3.	情報メディア応用演習I 制作作品 発表会	企画書作成
4.	企画案チェック	企画の詳細化
5.	企画案チェック	企画の詳細化
6.	企画プレゼンテーション	作品制作
7.	企画プレゼンテーション	作品制作
8.	進捗状況・内容チェック	作品制作
9.	進捗状況・内容チェック	作品制作
10.	中間プレゼンテーション	作品制作
11.	中間プレゼンテーション	作品制作
12.	進捗状況・内容チェック	作品制作
13.	進捗状況・内容チェック	作品制作
14.	合評	
15.	合評	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

クラス内でのプレゼンテーション、個別ミーティングの場において、テーマや制作手法などについて助言し、議論します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	制作した作品	80	作品の完成度
	クラス内議論への参加度	20	プレゼンテーションにおける議論への積極的貢献

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

エンターテインメント見地に立つメディア研究

授業の概要:

卒業論文、制作における指導をおこなう。

到達目標:

他者との比較ではなく、個々人の掲げた目標到達、すなわち総決算である卒業論文、制作の完成に邁進してほしいと考えている。

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス①	卒業論文、制作に関する準備
2.	ガイダンス②	卒業論文、制作に関する準備
3.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(1)	卒業論文、制作に関する準備
4.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(2)	卒業論文、制作に関する準備
5.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(3)	卒業論文、制作に関する準備
6.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(4)	卒業論文、制作に関する準備
7.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(5)	卒業論文、制作に関する準備
8.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(6)	卒業論文、制作に関する準備
9.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(7)	卒業論文、制作に関する準備
10.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(8)	卒業論文、制作に関する準備
11.	卒業論文、制作進捗状況に関する個人発表(1)	卒業論文、制作に関する準備
12.	卒業論文、制作進捗状況に関する個人発表(2)	卒業論文、制作に関する準備
13.	卒業論文、制作進捗状況に関する個人発表(3)	卒業論文、制作に関する準備
14.	卒業論文、制作進捗状況に関する個人発表(4)	卒業論文、制作に関する準備
15.	卒業論文、制作進捗状況に関する個人発表(5)	卒業論文、制作に関する準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ゼミ内でまとめて指導

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文、制作に対するアプローチ	70%	受講者個人で当初立てた目標を大きな評価基準とする
	積極的態度	30%	必ず発言・質問をすることを課す

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:	プロデュースプロセスを自分の力で分析し卒論という形でまとめる																																		
授業の概要:	現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテインメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進し、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。このゼミでは3年生におこなったエンターテインメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュースの4つのジャンルにおけるプロデューサーのインタビュー調査から、プロデューサーの行動パターンや資質について、モデル化をとおして卒業論文作成の準備を行う。2012年度から運用が開始されている、プロデューサーデータベース(iDUS)を利用して、分析作業を行う。																																		
到達目標:	3年生で行った調査結果をもとに卒業論文のテーマを決め論文を書く過程から以下のことを到達目標とする。 (1)生のデータを自分で分析し独自の結論を導き出す (2)結論をモデルで表現する方法を確立する (3)卒業論文というまとまった文章として表現する方法を学ぶ (4)クラスメイトの論文にクリティカルな視点で評論することが出来るようになる																																		
授業方法:	演習室での一般授業、ディスカッションを併用する。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 卒業研究の方法論の概説</td><td>復習</td></tr><tr><td>2. 卒業研究の方法論解説(モデル化)</td><td>復習</td></tr><tr><td>3. プロデューサーモデルの発表1</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>4. プロデューサーモデルの発表2</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>5. プロデューサーモデルの発表3</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>6. プロデューサーモデルの発表4</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>7. プロデューサーモデルの発表5</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>8. プロデューサーモデルの発表6</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>9. プロデューサーモデルの発表7</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>10. プロデューサーモデルの発表8</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>11. プロデューサーモデルの発表9</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>12. プロデューサーモデルの発表10</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>13. 卒業論文作成に関する注意</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>14. 卒業論文作成に関する注意</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>15. まとめとふりかえり</td><td>復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 卒業研究の方法論の概説	復習	2. 卒業研究の方法論解説(モデル化)	復習	3. プロデューサーモデルの発表1	発表準備	4. プロデューサーモデルの発表2	発表準備	5. プロデューサーモデルの発表3	発表準備	6. プロデューサーモデルの発表4	発表準備	7. プロデューサーモデルの発表5	発表準備	8. プロデューサーモデルの発表6	発表準備	9. プロデューサーモデルの発表7	発表準備	10. プロデューサーモデルの発表8	発表準備	11. プロデューサーモデルの発表9	発表準備	12. プロデューサーモデルの発表10	発表準備	13. 卒業論文作成に関する注意	発表準備	14. 卒業論文作成に関する注意	発表準備	15. まとめとふりかえり	復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 卒業研究の方法論の概説	復習																																		
2. 卒業研究の方法論解説(モデル化)	復習																																		
3. プロデューサーモデルの発表1	発表準備																																		
4. プロデューサーモデルの発表2	発表準備																																		
5. プロデューサーモデルの発表3	発表準備																																		
6. プロデューサーモデルの発表4	発表準備																																		
7. プロデューサーモデルの発表5	発表準備																																		
8. プロデューサーモデルの発表6	発表準備																																		
9. プロデューサーモデルの発表7	発表準備																																		
10. プロデューサーモデルの発表8	発表準備																																		
11. プロデューサーモデルの発表9	発表準備																																		
12. プロデューサーモデルの発表10	発表準備																																		
13. 卒業論文作成に関する注意	発表準備																																		
14. 卒業論文作成に関する注意	発表準備																																		
15. まとめとふりかえり	復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒論を書くための調べ学習、執筆、また、中間発表のための準備など予習が多く含まれる。川田ゼミでの学びのまとめが卒論であり、このプロセスをそれぞれの学生が楽しむことを期待する。																																		
フィードバックの方法:	授業内でそれぞれの学生にフィードバックを行う。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への積極的参加度</td><td>70</td><td rowspan="2">出欠。ゼミでは4回以上欠席の場合単位がでないので注意をするように！ 授業内発表とレジメで評価する</td></tr><tr><td>成果物</td><td>30</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への積極的参加度	70	出欠。ゼミでは4回以上欠席の場合単位がでないので注意をするように！ 授業内発表とレジメで評価する	成果物	30																										
評価方法	割合	評価基準																																	
授業への積極的参加度	70	出欠。ゼミでは4回以上欠席の場合単位がでないので注意をするように！ 授業内発表とレジメで評価する																																	
成果物	30																																		
教科書:	適宜指示																																		
参考書:	適宜指示																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、思いやる力、変化対応力																																		
教員との連絡方法:	授業内での直接コンタクトを基本とする。																																		

507903

卒業演習・制作 I

三根 浩

授業テーマ:	マルチメディアを応用した作品・論文の制作																																
授業の概要:	「情報メディア演習・応用演習」において研究・制作を行ったテーマをさらに発展させる。また、それらの理論的裏付けについて理解を深め、論文として文章化するための手法について演習を行う。																																
到達目標:	作品または論文のプロトタイプを作成する。																																
授業方法:	演習、制作・著作を組み合わせで行う。																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td></td></tr><tr><td>2. 研究課題の検討</td><td></td></tr><tr><td>3. 各自の研究テーマに関わる情報収集</td><td>(インターネット検索)</td></tr><tr><td>4. 各自の研究テーマに関わる情報収集</td><td>(文献調査)</td></tr><tr><td>5. 各自の研究テーマに関わる文献・資料収集</td><td>(文献研究)</td></tr><tr><td>6. 課題の構想とプレゼンテーション1</td><td></td></tr><tr><td>7. 課題の構想とプレゼンテーション2</td><td></td></tr><tr><td>8. 制作1</td><td></td></tr><tr><td>9. 制作2</td><td></td></tr><tr><td>10. 制作3</td><td></td></tr><tr><td>11. 制作過程の中間チェック</td><td>各自の課題にそった制作・研究過程の進度をチェックする</td></tr><tr><td>12. プロトタイプの提出</td><td>各自の課題にそった制作・研究過程の骨子を作成する</td></tr><tr><td>13. 作品・論文の手直し</td><td></td></tr><tr><td>14. 作品・論文の提出・プレゼンテーション1</td><td>プレゼン力を養う</td></tr><tr><td>15. 作品・論文の提出・プレゼンテーション2</td><td>プレゼン力を養う</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション		2. 研究課題の検討		3. 各自の研究テーマに関わる情報収集	(インターネット検索)	4. 各自の研究テーマに関わる情報収集	(文献調査)	5. 各自の研究テーマに関わる文献・資料収集	(文献研究)	6. 課題の構想とプレゼンテーション1		7. 課題の構想とプレゼンテーション2		8. 制作1		9. 制作2		10. 制作3		11. 制作過程の中間チェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進度をチェックする	12. プロトタイプの提出	各自の課題にそった制作・研究過程の骨子を作成する	13. 作品・論文の手直し		14. 作品・論文の提出・プレゼンテーション1	プレゼン力を養う	15. 作品・論文の提出・プレゼンテーション2	プレゼン力を養う
授業内容	準備学習等の内容																																
1. オリエンテーション																																	
2. 研究課題の検討																																	
3. 各自の研究テーマに関わる情報収集	(インターネット検索)																																
4. 各自の研究テーマに関わる情報収集	(文献調査)																																
5. 各自の研究テーマに関わる文献・資料収集	(文献研究)																																
6. 課題の構想とプレゼンテーション1																																	
7. 課題の構想とプレゼンテーション2																																	
8. 制作1																																	
9. 制作2																																	
10. 制作3																																	
11. 制作過程の中間チェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進度をチェックする																																
12. プロトタイプの提出	各自の課題にそった制作・研究過程の骨子を作成する																																
13. 作品・論文の手直し																																	
14. 作品・論文の提出・プレゼンテーション1	プレゼン力を養う																																
15. 作品・論文の提出・プレゼンテーション2	プレゼン力を養う																																
受講者へのメッセージやアドバイス:																																	
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する																																
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																														
「成績評価基準」:	作品・論文	50	積極的に授業に参加し、到達目標マルチメディアの応用ができるようになったか評価する																														
	プレゼンテーション	30																															
	積極的参加度	20																															
教科書:																																	
参考書:																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																
教員との連絡方法:	e-mail																																

授業テーマ:

個人作品の企画制作と社会への発信

授業の概要:

本演習では、三年次までに培ったメディア表現の内容的・技術的成果や進級制作展における展示経験などをふまえ、さらにステップアップした作品制作プロジェクトを実施します。各自が独自の研究課題を設け、課題に沿った質の高い作品を完成させることが目標です。ギャラリー等での展示、コンペティションへの出品、WEBでの配信、出版・販売など、社会に対する具体的アクティビティを前提とするプロジェクトであり、最終的にどのような場所・局面においても必要とされる「自ら考え判断する力」や「積極的に行動する力」を養うことを目標とします。

到達目標:

質の高い作品を生み出し発信するための総合力を獲得する
クリエイティブ力: 作品の企画力、構想力、技術力、表現力など
マネジメント力: プレゼンテーション能力、スケジュール管理、資金管理など
プロデュース力: コミュニケーション力、組織運営・人材活用能力など

授業方法:

個別指導を中心に、中間・最終チェック、プレゼンテーションなどを盛り込み進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	テーマ研究をふまえた作品のプランと企画書の作成
	2. テーマ研究と作品企画のプレゼンテーション	〃
	3. テーマ研究と作品企画のプレゼンテーション	実験作品の制作
	4. プロトタイプ作品のプレゼン1(個別面談)	〃
	5. プロトタイプ作品のプレゼン1(個別面談)	〃
	6. プロトタイプ作品のプレゼン2(個別面談)	〃
	7. プロトタイプ作品のプレゼン2(個別面談)	作品の制作
	8. 中間チェック1(個別面談)	〃
	9. 中間チェック1(個別面談)	〃
	10. 中間チェック2(個別面談)	〃
	11. 中間チェック2(個別面談)	〃
	12. 最終チェック(該当者のみ)	〃
	13. 最終チェック(該当者のみ)	〃
	14. 作品プレゼンテーション	〃
	15. 作品プレゼンテーション	手直しと発信・発表の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

自己管理に努めてください。

フィードバックの方法:

制作の進捗に合わせてアドバイスをを行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	作品	100	完成作品の質(クリエイティヴ力、マネジメント力、プロデュース力の成果)を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

kmori@dwc.doshisha.ac.jpにメールしてください。

507905

卒業演習・制作Ⅰ

村木 美紀

授業テーマ：サブカルチャーに関する研究と制作の実践

授業の概要：「情報メディア演習」、「情報メディア応用演習Ⅰ,Ⅱ」で行ってきた研究の集大成として卒業論文を執筆する。
また、論文執筆後には卒業演習合同発表会で発表する。

到達目標：1【知識・理解】研究の基礎的情報をもとにサブカルチャーについて理解し、説明ができる。
2【関心・意欲・態度】サブカルチャーについての問題提起や提案ができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力や自己管理能力、卒業研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法：個人研究の発表やディスカッション等、講義・指導を含めたゼミ形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 個人研究発表(1)	進捗報告の準備
	3. 個人研究発表(2)	進捗報告の準備
	4. 個人研究発表(3)	進捗報告の準備
	5. ディスカッション(1)	
	6. 中間発表(1)	資料作成等発表の準備
	7. 中間発表(2)	資料作成等発表の準備
	8. ディスカッション(2)	
	9. 個人研究発表(4)	進捗報告の準備
	10. 個人研究発表(5)	進捗報告の準備
	11. 個人研究発表(6)	進捗報告の準備
	12. ディスカッション(3)	
	13. 中間発表(3)	資料作成等発表の準備
	14. 中間発表(4)	資料作成等発表の準備
	15. ディスカッション(4)	

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：授業時に口頭で行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み姿勢	30	到達目標の1・2を中心に評価する。
	論文	40	到達目標の1・2を中心に評価する。
	発表	30	到達目標の3を中心に評価する。

教科書：

参考書：全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』（年刊）
メディアクリエイト『ゲーム産業白書』（年刊）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法：Eメール：mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入	各回の授業は受講生のプレゼンテーションによって進められるので、各フェイズに沿った準備のための計画を考える。
2.	論文執筆の概要－1	論文執筆あるいは制作のための概要を把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
3.	論文執筆の概要－2	論文執筆あるいは制作のための概要を把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
4.	制作可愛い概要	論文執筆あるいは制作のための概要を把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
5.	論文または制作課題の検討－1	各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
6.	論文または制作課題の検討－2	各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
7.	論文または制作課題の検討－3	各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
8.	研究報告－1	研究の概要(全体)を把握し、各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議検討できるための準備をすること。
9.	研究報告－2	研究の概要(全体)を把握し、各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議検討できるための準備をすること。
10.	研究報告－3	研究の概要(全体)を把握し、各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議検討できるための準備をすること。
11.	研究報告－4	研究の概要(全体)を把握し、各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議検討できるための準備をすること。
12.	研究の再検討－1	これまでの概要理解に誤りや修正の必要はないか、プレゼンテーションによって批判的に検討することができるように準備をすること。
13.	研究の再検討－2	これまでの概要理解に誤りや修正の必要はないか、プレゼンテーションによって批判的に検討することができるように準備をすること。
14.	研究の再検討－3	これまでの概要理解に誤りや修正の必要はないか、プレゼンテーションによって批判的に検討することができるように準備をすること。
15.	総括－卒業論文・制作にむけて－	「卒業研究・制作Ⅱ」において論文または制作に直ちに着手できるようその準備を終えておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況	30%	積極的にクラスに参加し、討議(マナビーを含む)議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。
	個人研究の達成度	50%	個人研究の達成度を基準として評価する。
	他の受講者への質疑などによる支援	20%	自個のテーマだけではなく、他受講者の研究にも幅広く関心をもち、質疑などによって支援したかどうかを基準として評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、洞察力

教員との連絡
方法:

直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

507907

卒業演習・制作Ⅰ

松谷 容作

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容

準備学習等の内容

個人研究の内容整理しておくこと

個人研究の内容整理しておくこと

個人研究の内容整理しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと

個人研究の内容を整理しておくこと

ディスカッションのためのトピック

授業テーマ:

授業の概要: 本演習は、「情報メディア演習」「情報メディア応用演習I、II」で身につけた学術的知識を実践し、メディアの読解という受け手の発想からメッセージの発信者へとなれるよう、各自の研究課題に沿った最終成果物の制作を行います。授業は受講生による研究発表を中心に進めます。毎回それぞれの設定した卒業制作テーマに関する講読文献と課題を設定し、様々な分野のトピックについて理解を深めながら、各自の分析をより高次の物へと発展させてゆきます。

到達目標: 各自が目指す将来のキャリア・プランとプロジェクトを目的意識を持って連動させ、メディア時代の国際社会で即戦力となり、様々な文化の仕掛けを発信することを目指します。

授業方法: 文献購読や調査に基づく研究発表と、毎回のテーマに応じて設定した課題のディスカッション、理論や方法論などに関する講義によるゼミ形式で授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業の概要と進め方の理解、必要事項についての討論と決定準備
2.	個人研究の発展と卒業制作にむけた基本理念	これまでの研究の振り返りと今後の発展的研究計画の立案
3.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 応用: 発表(1)～(2)	発表者: 卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外: 発表されるテーマについての知識深化、討論準備
4.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 応用: 発表(3)～(4)	発表者: 卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外: 発表されるテーマについての知識深化、討論準備
5.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 応用: 発表(5)～(6)	発表者: 卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外: 発表されるテーマについての知識深化、討論準備
6.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 応用: 発表(7)～(8)	発表者: 卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外: 発表されるテーマについての知識深化、討論準備
7.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 応用: 発表(9)～(10)	発表者: 卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外: 発表されるテーマについての知識深化、討論準備
8.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 応用: 発表(11)～(12)	発表者: 卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外: 発表されるテーマについての知識深化、討論準備
9.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 発展: 発表(1)～(2)	発表者: 卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外: 発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
10.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 発展: 発表(3)～(4)	発表者: 卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外: 発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
11.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 発展: 発表(5)～(6)	発表者: 卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外: 発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
12.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 発展: 発表(7)～(8)	発表者: 卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外: 発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
13.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 発展: 発表(9)～(10)	発表者: 卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外: 発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
14.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション 発展: 発表(11)～(12)	発表者: 卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外: 発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
15.	総括と合評会	各自の卒業研究の深化と論文完成に向けた指針の策定と相互評価

受講者へのメッセージやアドバイス: 卒論は決して提出しさえすればよいという安易なものではありません。卒論完成・発表まで、綿密な計画に沿って、研究指導と研究課題の提出、修正を繰り返し行う厳格な作業が必要となります。個人指導に加えて、ペアやグループワーク等も取り入れ、成果物の完成度を高めます。こうした作業遂行においては、各自の研究における進捗管理、課外での自主研究と執筆の粘り強い学究活動が不可欠です。

フィードバックの方法: 授業時および授業外に必要なに応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
	授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
	各種課題	約30%	随時指示する提出物その他のタスク遂行
	その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

思考力、自己管理力、自己実現力、DWCLA10の力を総合的に発揮することが最終目標です。
授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示します。

授業テーマ:

ヒューマンインタフェースおよびサイン音デザインに関する卒業研究

授業の概要:

情報メディア応用演習II に引き続き、各自のテーマに基づいた研究を行う。

到達目標:

・研究計画を立てる

・計画に基づく研究および開発の実施

・研究進捗のプレゼンテーションおよびディスカッション

・ディスカッションに基づいた計画修正および研究実施

授業方法:

個別の研究討議、全体の研究発表などを実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	研究実施および討議の準備
	2. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	3. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	4. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	5. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	6. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	7. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	8. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	9. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	10. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	11. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	12. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	13. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	14. 研究実施および討議	研究実施および討議の準備
	15. 卒業研究進捗報告会(プレゼンテーション)	プレゼン準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

自主的に研究を遂行し、積極的に討議を行うことを求めます。
授業時間外でも研究を実施する必要があります。

フィードバックの方法:

直接あるいはメール等で個別にフィードバックを行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究への取り組みの姿勢	50	取り組みの姿勢を評価します
	研究成果	50	研究量や精度について評価しますが、各人のテーマにより難易度やアプローチが異なるため、評価基準は適宜変更します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール(swake@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:

学びや暮らしをサポートする情報メディア環境の研究

授業の概要:

本ゼミでは卒業演習・制作までの2年半をかけて、学びや暮らしをサポートする情報メディア環境のあり方を研究します。このテーマに迫るには様々な方法が考えられますが、本ゼミでは各自が自分の関心のあるテーマを取り上げて開発(コンテンツの制作やプログラミングなど)、実験・調査、実践(実際に試してみる)などの方法で研究を進めます。そして専門的な知識技能に加え、社会で必要とされる主体的に行動する力、考え抜く力、他者と協力して問題を解決する力などを身につけます。4年次の卒業演習・制作では、これまでに身につけた力を統合して3年次に行ってきた研究をさらに深化・発展させます。そして、卒業論文をまとめあげたり、ポートフォリオを完成させます。

到達目標:

①【知識・理解】自分の研究内容を理論や先行研究と関連づけて説明できる。
②【関心・意欲・態度】研究テーマに関わる情報や社会的事象に常に関心を持ち、掘り下げて追究しようとする。
③【表現・技能・能力】適切な研究方法を選んで研究テーマに迫り、その成果をわかりやすく他者に伝えることができる。

授業方法:

研究そのものは授業時間外に各自で進めることとし、授業ではその進捗状況を発表し、発表後にその内容について全員でディスカッションを行います。発表の機会は1月に一回程度の頻度で回ってきます。また、通常の授業とは別に夏期休暇期間中に一泊二日でゼミ合宿を行います(同志社びわこリトリートセンターを予定)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、研究の進捗状況について発表とディスカッション	研究の遂行と発表準備
2.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
3.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
4.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
5.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
6.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
7.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
8.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
9.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
10.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
11.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
12.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
13.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
14.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
15.	まとめと学習の振り返り	研究の遂行

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個別指導で対応しますが、必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業に臨む姿勢(参加や積極性、発表など)	60	到達目標①②の達成度を評価します。また、自主学習や資格試験への挑戦を奨励し、その成果も本人からの申し出に基づいて加点します。
	成果物(発表資料、卒論の下書き・作品など)	40	到達目標①③の達成度を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール(yyoden@dw.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

情報デザインに関する卒業制作の企画と実行

3年次までに行ってきた制作・研究活動成果の集大成として、個人のテーマに従い、自らが創造した情報をかたちにする研究を行い、作品・プログラム(アプリ)などを制作・開発します。情報デザインされたものとそれを使う人・見る人の間のインターフェイスに関する考察を行い、実装(制作)をします。新しい視点を持ち、適切な技術を使い、新しい表現やコミュニケーションの可能性を提示する研究・作品をめざします。
メディアコンテンツ制作技術、プログラミングなど、今まで学習した内容を踏まえ、制作過程でぶつかる問題に対して、具体的な解決方法を見つけ出し、自ら研究・制作を進めます。学期終了時には卒業制作の中間的結果を得られるように、また夏休み終了までに、制作・開発がほぼ完成するようなスケジュールで進めます。秋学期の卒業演習・制作IIでは、主にユーザテストやそれを受けての修正、社会化へ向けてのブラッシュアップ、展示などの後、制作報告書を作成します。

1 自らテーマを選択、問題設定を行い、制作計画を構想する
2 問題を解決するための、あるいは設定したテーマをかたちにするための調査、研究を行う
3 調制作計画を基に、制作、開発を行う

個別のテーマ、企画に従い、作品の制作を行います。進捗をクラス内でプレゼンテーションするとともに、個別ミーティングで報告してもらいます。

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	卒業制作の企画を構想する。 発表を準備する。
2. オリエンテーション	卒業制作の企画を構想する。 発表を準備する。
3. 制作・開発プロジェクトの企画構想の発表	制作を進める。
4. 制作・開発プロジェクトの企画構想の発表	制作を進める。
5. 進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。
6. 進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。
7. 進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。 発表を準備する。
8. 進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。 発表を準備する。
9. 中間プレゼンテーション	制作を進める。
10. 中間プレゼンテーション	卒業制作を進める。
11. 進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。
12. 進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。 発表を準備する。
13. 進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。 発表を準備する。
14. 合評	ブラッシュアップする。
15. 合評	ブラッシュアップする。

各自の主体的な研究・制作による成果に対し、クラス内でのプレゼンテーションや個別ミーティングの場において、情報提供、意見交換、助言を行います。

評価方法	割合	評価基準
制作作品	100	制作に取り組む姿勢、制作技術、進捗、テーマを適切に表現しているか、問題を適切に解決しているかの観点で評価します。

思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

エンターテインメント見地に立つメディア研究

授業の概要:

卒業論文、制作における指導をおこなう。

到達目標:

他者との比較ではなく、個々人の掲げた目標到達、すなわち総決算である卒業論文、制作の完成に邁進してほしいと考えている。

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス①	卒業論文、制作に関する準備
	2. ガイダンス②	卒業論文、制作に関する準備
	3. 卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(1)	卒業論文、制作に関する準備
	4. 卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(2)	卒業論文、制作に関する準備
	5. 卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(3)	卒業論文、制作に関する準備
	6. 卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(4)	卒業論文、制作に関する準備
	7. 卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(5)	卒業論文、制作に関する準備
	8. 卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(6)	卒業論文、制作に関する準備
	9. 卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(7)	卒業論文、制作に関する準備
	10. 卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(8)	卒業論文、制作に関する準備
	11. 卒業論文、制作提出にむけての最終指導(1)	卒業論文、制作に関する準備
	12. 卒業論文、制作提出にむけての最終指導(2)	卒業論文、制作に関する準備
	13. 口頭発表に向けての指導(1)	卒業論文、制作に関する準備
	14. 口頭発表に向けての指導(2)	卒業論文、制作に関する準備
	15. 総括	卒業論文、制作に関する準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ゼミ内でまとめて指導

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文、制作および口頭発表	80%	受講者個人で当初立てた目標を大きな評価基準とする
	積極的態度	20%	必ず発言・質問をすることを課す ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:	プロデュースプロセスを自分の力で分析し卒論という形でまとめる																																		
授業の概要:	現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテインメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進し、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。このゼミでは3年生におこなったエンターテインメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュースの4つのジャンルにおけるプロデューサーのインタビュー調査から、プロデューサーの行動パターンや資質について、モデル化をととして卒業論文作成の準備を行う。2012年度から運用が開始されている、プロデューサーデータベース(iDUS)を利用して、分析作業を行う。																																		
到達目標:	3年生で行った調査結果をもとに卒業論文のテーマを決め論文を書く過程から以下のことを到達目標とする。 (1)生のデータを自分で分析し独自の結論を導き出す (2)結論をモデルで表現する方法を確立する (3)卒業論文というまとまった文章として表現する方法を学ぶ (4)クラスメイトの論文にクリティカルな視点で評論することが出来るようになる																																		
授業方法:	演習室での一般授業、ディスカッションを併用する。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 卒業草稿の提出</td><td>卒論草稿の提出準備</td></tr><tr><td>2. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>3. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>4. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>5. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>6. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>7. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>8. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>9. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>10. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>11. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>12. 卒論草稿の発表</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>13. 卒業論文作成に関する注意</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>14. 卒業論文作成に関する注意</td><td>発表準備</td></tr><tr><td>15. まとめとふりかえり</td><td>復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 卒業草稿の提出	卒論草稿の提出準備	2. 卒論草稿の発表	発表準備	3. 卒論草稿の発表	発表準備	4. 卒論草稿の発表	発表準備	5. 卒論草稿の発表	発表準備	6. 卒論草稿の発表	発表準備	7. 卒論草稿の発表	発表準備	8. 卒論草稿の発表	発表準備	9. 卒論草稿の発表	発表準備	10. 卒論草稿の発表	発表準備	11. 卒論草稿の発表	発表準備	12. 卒論草稿の発表	発表準備	13. 卒業論文作成に関する注意	発表準備	14. 卒業論文作成に関する注意	発表準備	15. まとめとふりかえり	復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 卒業草稿の提出	卒論草稿の提出準備																																		
2. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
3. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
4. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
5. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
6. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
7. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
8. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
9. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
10. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
11. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
12. 卒論草稿の発表	発表準備																																		
13. 卒業論文作成に関する注意	発表準備																																		
14. 卒業論文作成に関する注意	発表準備																																		
15. まとめとふりかえり	復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒論を書くための調べ学習、執筆、また、中間発表のための準備など予習が多く含まれる。川田ゼミでの学びのまとめが卒論であり、このプロセスをそれぞれの学生が楽しむことを期待する。																																		
フィードバックの方法:	授業内でそれぞれの学生にフィードバックを行う。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業への積極的参加度</td><td>20</td><td rowspan="2">出欠。ゼミでは4回以上欠席の場合単位がでないので注意をするように！ 卒業論文の内容と授業への参加度で評価する ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。</td></tr><tr><td>成果物と授業への参加度</td><td>80</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業への積極的参加度	20	出欠。ゼミでは4回以上欠席の場合単位がでないので注意をするように！ 卒業論文の内容と授業への参加度で評価する ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。	成果物と授業への参加度	80																										
評価方法	割合	評価基準																																	
授業への積極的参加度	20	出欠。ゼミでは4回以上欠席の場合単位がでないので注意をするように！ 卒業論文の内容と授業への参加度で評価する ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。																																	
成果物と授業への参加度	80																																		
教科書:	適宜指示																																		
参考書:	適宜指示																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、思いやる力、変化対応力																																		
教員との連絡方法:	授業内での直接コンタクトを基本とする。																																		

授業テーマ:

マルチメディアによる作品と論文の制作

授業の概要:

個々のテーマに従ってマルチメディアに関連する研究・制作および論文化を行う。

到達目標:

卒業論文の完成。

授業方法:

演習、制作、および総合分析を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 研究課題の決定	
	3. 各自の研究テーマに関わる情報収集	インターネット検索
	4. 各自の研究テーマに関わる文献研究	文献調査
	5. 課題の構想とプレゼンテーション1	
	6. 課題の構想とプレゼンテーション2	
	7. 制作1	
	8. 制作2	
	9. 制作3	
	10. 制作過程のチェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進捗をチェックする
	11. 作品・論文のチェック	各自の課題にそった制作・研究成果が一定の水準に達したかチェックする
	12. 作品・論文の最終チェック	
	13. 作品・論文の提出	
	14. 制作成果のプレゼンテーション1	合同発表会に向けてプレゼン力を養う
	15. 制作成果のプレゼンテーション2	合同発表会に向けてプレゼン力を養う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室で個々に解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	作品・レポート	50	積極的に授業に参加し、到達目標各自の課題の理論的背景を十分に理解ができるようになったか評価する
	プレゼンテーション	30	
	積極的参加度	20	

※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

e-mail

授業テーマ:

ポートフォリオを兼ねた報告書の作成と口頭発表

授業の概要:

卒業演習・制作Ⅰの成果をふまえ、作品を社会に発信・発表するとともに、次のような項目を含んだポートフォリオを兼ねた報告書の作成を行います。
ポートフォリオ(作品写真など)、全体概要(研究の目的や動機、プロジェクトの全体像)、表現内容(作品のテーマや表現内容)、表現形式(作品の表現形式、技術等)、関連研究(作家・作品研究)、テーマ研究(文献研究または技術・技法研究)、社会への発表・発信(発表・発信の方法や鑑賞者の感想・意見など)、まとめ(全体のまとめ、感想、今後について)、参考(参考文献、引用文献)、その他(DVD、CD-ROM、本など)
テキストはおよそ10,000字を目安とします。報告書の提出後には、卒業研究合同発表会にて口頭発表を行います。

到達目標:

ふさわしいメディアを用いて作品を社会に発信・発表する
作品制作と発表に関わる全体を報告書としてまとめる
作品についての口頭発表を行う

授業方法:

個別面談を中心に行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	報告書の構成案、テーマ研究のプレゼンテーション	報告書の作成
2.	報告書の構成案、テーマ研究のプレゼンテーション	〃
3.	概要テキストのチェック1(個別面談)	〃
4.	概要テキストのチェック1(個別面談)	〃
5.	概要テキストのチェック2(個別面談)	〃
6.	概要テキストのチェック2(個別面談)	〃
7.	本文チェック1(個別面談)	〃
8.	本文チェック1(個別面談)	〃
9.	本文チェック2(個別面談)	〃
10.	本文チェック2(個別面談)	〃
11.	報告書+ポートフォリオの最終チェック(全員)	報告書の提出
12.	報告書+ポートフォリオの最終チェック(全員)	口頭発表のレジュメ作成
13.	口頭発表のレジュメ確認	口頭発表のレジュメ作成
14.	口頭発表のレジュメ確認	口頭発表のプレゼンテーションデータ作成
15.	口頭発表内容の確認	口頭発表の準備、リハーサル

受講者へのメッセージやアドバイス:

早い段階で作品を社会に発信・発表し、テキストの執筆を開始してください。

フィードバックの方法:

個別面談を中心にアドバイスをを行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	報告書と口頭発表	100	報告書や口頭発表の内容について、その質の高さや完成度を評価します。 ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

個別面談時に連絡するか、kmori@dwc.doshisha.ac.jpにメールしてください。

授業テーマ:	サブカルチャーに関する研究のまとめ		
授業の概要:	「情報メディア演習」、「情報メディア応用演習Ⅰ、Ⅱ」、「卒業演習・制作Ⅰ」で行ってきた研究の集大成として卒業論文を執筆する。 また、論文執筆後には卒業演習合同発表会にて発表を行う。		
到達目標:	1【知識・理解】研究の基礎的情報をもとにサブカルチャーについて理解し、説明ができる。 2【関心・意欲・態度】サブカルチャーについての問題提起や提案ができる。 3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力や自己管理能力、卒業研究に必要な技能を身に着ける。		
授業方法:	研究経過や結果の報告と、原稿の提出に基づく研究指導を中心としたゼミ形式		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス		
	2. 個人研究報告(1)	進捗報告の準備	
	3. 個人研究報告(2)	進捗報告の準備	
	4. 個人研究報告(3)	進捗報告の準備	
	5. 個人研究報告(4)	進捗報告の準備	
	6. 中間発表	資料作成等発表の準備	
	7. 個人研究報告(5)	進捗報告の準備	
	8. 個人研究報告(6)	進捗報告の準備	
	9. 個人研究報告(7)	進捗報告の準備	
	10. 個人研究報告(8)	進捗報告の準備	
	11. 卒業論文仕上げ	論文の執筆と修正	
	12. 卒業研究合同発表会の準備(1)	資料作成等発表の準備とプレゼン練習	
	13. 卒業研究合同発表会の準備(2)	資料作成等発表の準備とプレゼン練習	
	14. 卒業研究合同発表会の準備(3)	資料作成等発表の準備とプレゼン練習	
	15. 評価		
受講者への メッセージや アドバイス:	卒業演習合同発表会は全員参加とする		
フィードバックの 方法:	授業時に口頭で行う		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業論文	70	到達目標の1・2を中心に評価する。
	発表	30	到達目標の3を中心に評価する。 ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に 卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、 成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。
教科書:			
参考書:	全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』(年刊) メディアクリエイト『ゲーム産業白書』(年刊)		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力		
教員との連絡 方法:	Eメール: mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	メディアと文化史についての総合的考察		
授業の概要:	人類の知的達成の多くは、文字情報(テキスト)によって保存、伝達されてきた。本演習においては、「卒業演習・制作Ⅰ」とともに、主としてテキストというシステムの歴史性と、それがかわる文化についての総合的知見を前提にしたうえで、参加者各人の関心にしたがって研究もしくは作品の制作をおこなう。論文を執筆するにせよ、作品制作をめざすにせよ、高度情報化社会の特性を理解し、理論的、実践的に文化と情報の相関性に注目したい。したがって、作品制作の場合にもこのような観点からの解説論文が求められる。		
到達目標:	最終学年春学期までの作業と蓄積とによって、各人の関心にしたがった研究または作品を完成させることを目標とする。		
授業方法:	演習形式。個人研究を基礎とした研究発表討議を中心とする。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム(マナビー)を利用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 導入	各回の授業は受講生のプレゼンテーションによって進められるので、各フェイズに沿った報告ができるように準備の計画を立案する。	
	2. 論文執筆の実際－1	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況を報告できるように準備をすること。	
	3. 論文執筆の実際－2	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況を報告できるように準備をすること。	
	4. 論文執筆の実際－3	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況を報告できるように準備をすること。	
	5. 制作の実際－1	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況を報告できるように準備をすること。	
	6. 制作の実際－2	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況を報告できるように準備をすること。	
	7. 論文執筆の報告－1	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況と問題点、改善すべき点を報告できるように準備をすること。	
	8. 論文執筆の報告－2	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況と問題点、改善すべき点を報告できるように準備をすること。	
	9. 論文執筆の報告－3	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況と問題点、改善すべき点を報告できるように準備をすること。	
	10. 制作の報告－1	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況と問題点、改善すべき点を報告できるように準備をすること。	
	11. 制作の報告－2	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況と問題点、改善すべき点を報告できるように準備をすること。	
	12. 総合報告－1	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況について総合的な観点から報告できるように準備をすること。	
	13. 総合報告－2	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況について総合的な観点から報告できるように準備をすること。	
	14. 総合報告－3	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況について総合的な観点から報告できるように準備をすること。	
	15. 総括	提出された成果(卒論または作品)についての相互評価のための準備をすること。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒論・制作の完成を目標とするが、最終的には学科の卒論発表会までのすべての過程が授業の一環であり、評価の対象であると理解して欲しい。		
フィードバックの方法:	クラスおよび授業支援システム(マナビー)利用による討議など。		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況	30%	積極的にクラスに参加し、討議(マナビーを含む)議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。
	卒論または作品の完成度	50%	最終的な研究成果(卒論または作品)の完成度を基準として評価する。
	他の受講者への質疑などによる支援	20%	自個のテーマだけでなく、他受講者の研究にも幅広く関心をもち、質疑などによって支援したかどうかを基準として評価する。 ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、洞察力		
教員との連絡方法:	直接またはE-mail E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

授業の概要: 本授業では、「メディアと私たちの相互作用」に着目した個人研究を進めていく。受講生は研究のテーマと目的を具体的に設定し、資料調査(文献資料、視聴覚資料、インタビュー資料など)を行い、「卒業演習・制作Ⅰ」とあわせてその成果を論文あるいは制作物というかたちで提出する。以上を通じて、本授業では、卒業論文と卒業制作の完成を目標とする。

到達目標: 卒業論文と卒業制作の完成

授業方法: 演習
個人研究のプレゼンテーションおよび各研究内容にかんするディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	個人研究の内容整理しておくこと
	2. 個人研究の進捗報告(1)	個人研究の内容整理しておくこと
	3. 個人研究の進捗報告(2)	個人研究の内容整理しておくこと
	4. 個人研究発表およびディスカッション(1)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	5. 個人研究発表およびディスカッション(2)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	6. 個人研究発表およびディスカッション(3)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	7. 個人研究発表およびディスカッション(4)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	8. 個人研究発表およびディスカッション(5)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	9. 個人研究発表およびディスカッション(6)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	10. 個人研究発表およびディスカッション(7)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	11. 個人研究発表およびディスカッション(8)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	12. 個人研究発表およびディスカッション(9)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
	13. 成果のまとめとレビュー(1)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
	14. 成果のまとめとレビュー(2)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
	15. 成果のまとめとレビュー(3)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 添削して返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表、討論	80	個人発表での個人研究の達成度、討論では個々人の研究内容を踏まえた上で発言しているかを基準にして評価する
	授業への参加度	20	卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の深化を達成したかという基準で評価する ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法: オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:			
授業の概要:	本演習では、「情報メディア演習」「情報メディア応用演習Ⅰ、Ⅱ」「卒業演習・制作Ⅰ」で身につけた学術的知識を実践しつつ、個人研究の分析・調査・制作を継続し、最終成果物の発展・完成を目指します。		
到達目標:	受講生それぞれの設定した研究テーマに関する様々な分野の方法論・理論や文献資料について理解を深めながら、各自の研究成果を最終成果物(卒業論文)として完成させ、発表します。		
授業方法:	受講生による研究提示と卒業論文、制作等に関する指導を中心に授業を進めます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	イントロダクション	授業の概要と進め方の理解、必要事項についての討論と決定準備
	2.	卒業制作にむけた個人研究の経過報告(1)	これまでの研究経過報告の資料作成と発表等の準備①
	3.	卒業制作にむけた個人研究の経過報告(2)	これまでの研究経過報告の資料作成と発表等の準備②
	4.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導(アウトライン)	卒業論文アウトラインの作成準備
	5.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導 序論:(1)	卒業論文の原稿作成と指導を受けての改善①
	6.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導 序論:(2)	卒業論文の原稿作成と指導を受けての改善②
	7.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導 各章:(1)	卒業論文の原稿執筆継続と指導を受けての改訂①
	8.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導 各章:(2)	卒業論文の原稿執筆継続と指導を受けての改訂②
	9.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導 結論:(1)	卒業論文の結論部分執筆と指導を受けての改訂①
	10.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導 結論:(2)	卒業論文の結論部分執筆と指導を受けての改訂②
	11.	卒業制作の仮完成とゼミ内提出:確認・指導～最終作業	卒業論文の執筆および細部の確認・仕上げ作業
	12.	卒業制作の最終完成と提出	卒業論文の完成と提出に向けた最終作業
	13.	卒業演習・制作最終発表会準備(1)	卒業論文発表会の実施に向けた個人・グループでの各種準備作業①
	14.	卒業演習・制作最終発表会準備(2)	卒業論文発表会の実施に向けた個人・グループでの各種準備作業②
	15.	卒業演習・制作最終発表会(公開)	プレゼンテーションおよび質疑応答の準備
受講者へのメッセージやアドバイス:	卒論は決して提出しさえすればよいという安易なものではありません。卒論完成・発表まで、綿密な計画に沿って、研究指導と研究課題の提出、修正を繰り返す厳格な作業が必要となります。個人指導に加えて、ペアやグループワーク等も取り入れ、成果物の完成度を高めます。こうした作業遂行においては、各自の研究における進捗管理、課外での自主研究と執筆の粘り強い学究活動が不可欠です。		
フィードバックの方法:	授業時および授業外に必要なに応じて適切な方法で行います。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
	授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
	各種課題と成果物	約30%	卒業論文および随時指示する提出物その他のタスク遂行と完成度
	その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等 ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、自己管理能力、自己実現力、DWCLA10の力を総合的に発揮することが最終目標です。		
教員との連絡方法:	授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示します。		

授業テーマ:

ヒューマンインタフェースおよびサイン音デザインに関する卒業研究

授業の概要:

卒業演習Ⅰに引き続き、各自のテーマに基づいた研究を行う。卒業論文を執筆する。研究内容のプレゼンテーションを実施する。

到達目標:

・計画に基づく研究および開発の実施

・研究進捗のプレゼンテーションおよびディスカッション

・卒業論文の執筆

・研究プレゼンテーションの実施

授業方法:

個別の研究討議、論文執筆指導、全体のプレゼンテーション練習などを実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施および討議	研究の遂行および論文執筆
2.	論文執筆指導	研究の遂行および論文執筆
3.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
4.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
5.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
6.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
7.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
8.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
9.	論文執筆指導	研究の遂行および論文執筆
10.	論文執筆指導	論文執筆
11.	論文執筆指導	論文執筆
12.	論文執筆指導	論文執筆
13.	レジメ準備およびプレゼン準備	レジメ作成およびプレゼン作成
14.	レジメ準備およびプレゼン準備	レジメ作成およびプレゼン作成
15.	プレゼンテーション指導	プレゼン作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

自主的に研究を遂行し、積極的に討議を行うことを求めます。
授業時間外でも研究を実施および論文執筆を行う必要があります。

フィードバックの方法:

直接あるいはメール等で個別にフィードバックを行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究への取り組みの姿勢	40	取り組みの姿勢を評価します
	研究成果	40	研究量や精度について評価しますが、各人のテーマにより難易度やアプローチが異なるため、評価基準は適宜変更します。
	プレゼン	20	プレゼンの内容および態度を評価します ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール (swake@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:

学びや暮らしをサポートする情報メディア環境の研究

授業の概要:

本ゼミでは卒業演習・制作までの2年半をかけて、学びや暮らしをサポートする情報メディア環境のあり方を研究します。このテーマに迫るには様々な方法が考えられますが、本ゼミでは各自が自分の関心のあるテーマを取り上げて開発(コンテンツの制作やプログラミングなど)、実験・調査、実践(実際に試してみる)などの方法で研究を進めます。そして専門的な知識技能に加え、社会で必要とされる主体的に行動する力、考え抜く力、他者と協力して問題を解決する力などを身につけます。4年次の卒業演習・制作では、これまでに身につけた力を統合して3年次に行ってきた研究をさらに深化・発展させます。そして、卒業論文をまとめあげたり、ポートフォリオを完成させます。

到達目標:

①【知識・理解】自分の研究内容を理論や先行研究と関連づけて説明できる。
②【関心・意欲・態度】研究テーマに関わる情報や社会的事象に常に関心を持ち、掘り下げて追究しようとする。
③【表現・技能・能力】卒業論文またはポートフォリオを完成させ、その成果をわかりやすく他者に伝えることができる。

授業方法:

研究や卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作そのものは授業時間外に各自で進めることとし、授業ではその進捗状況を発表し、発表後にその内容について全員でディスカッションを行います。発表の機会は1月に一回程度の頻度で回ってきます。また、通常の授業とは別に夏期休暇期間中に一泊二日でゼミ合宿を行います(同志社びわこリトリートセンターを予定)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(卒業論文の書き方、ポートフォリオの制作方法)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
2.	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
3.	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
4.	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
5.	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
6.	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
7.	卒業論文・ポートフォリオのチェック	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
8.	卒業論文・ポートフォリオのチェック(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
9.	卒業論文・ポートフォリオの最終チェック	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
10.	卒業論文・ポートフォリオの最終チェック(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
11.	卒業論文・ポートフォリオの完成	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
12.	オリエンテーション(発表)	レジュメ、発表資料の作成
13.	レジュメの作成・チェック	レジュメ、発表資料の作成
14.	発表資料の作成・チェック	発表資料の作成と発表練習
15.	発表練習	発表練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個別指導で対応しますが、必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業に臨む姿勢(参加や積極性、発表など)	60	到達目標①②の達成度を評価します。また、自主学習や資格試験への挑戦を奨励し、その成果も本人からの申し出に基づいて加点します。
	成果物(発表資料、卒論・ポートフォリオなど)	40	到達目標①③の達成度を評価します。
			※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール(yyoden@dw.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

情報デザインに関係する卒業制作の完成と発表

授業の概要:

3年次までに行ってきた制作・研究活動成果の集大成として、個人のテーマに従い、自らが創造した情報をかたちにする研究を行い、作品・プログラム(アプリ)などを制作・開発します。情報デザインされたものとそれを使う人・見る人の間のインターフェイスに関する考察を行い、実装(制作)をします。新しい視点をもち、適切な技術を使い、新しい表現やコミュニケーションの可能性を提示する研究・作品をめざします。
卒業演習・制作Iで進めてきた研究・制作を完成させ、ユーザテストや展示・公開などの社会化を経て、制作報告書の作成を行います。加えて、学科で実施される卒業研究・制作発表会で成果を発表します。

到達目標:

1 調査、研究を基に、制作、開発を完成させる
2 制作、開発した成果を適切な方法で、テストあるいは社会に発信する
3 卒業制作の内容と考察をまとめた報告書を執筆する

授業方法:

各自で、研究・制作を完成させ、報告書の制作を進めます。そのプロセスにおいて、個別ミーティングで内容をチェックします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	制作報告書の作成のためのオリエンテーション	社会化の準備をする。
2.	卒業制作作品内容チェック	社会化の準備をする。
3.	卒業制作作品内容チェック	社会化の準備をする。
4.	制作報告書構成のチェック	発表を準備する。
5.	制作報告書構成のチェック	発表を準備する。
6.	作品最終プレゼンテーション	制作報告書を作成する。
7.	作品最終プレゼンテーション	制作報告書を作成する。
8.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
9.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
10.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
11.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
12.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
13.	制作報告書内容のチェック	口答発表を準備する。
14.	発表会の準備(予稿原稿の作成・リハーサル)	口答発表を準備する。
15.	発表会の準備(予稿原稿の作成・リハーサル)	口答発表を準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

各自で、研究・制作を完成させるプロセス、報告書の制作において、個別に助言を行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	制作報告書	90	次のような観点から、総合的に評価します。 ・卒業制作の内容が適切に説明されている ・関連する研究や作品を調査、研究した結果が述べられている。 ・ユーザテストや社会化を受けて、制作の成果を考察している。
	口答発表	10	卒業制作の目的、内容に沿った発表内容であるかどうかを評価します。 ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

電子メール: tariga@dw.doshisha.ac.jp

508101、02

映像演習

由良 泰人

授業テーマ:

映像制作の基礎

授業の概要:

課題制作を通して映像表現の多様性と撮影から編集までの制作の技術を学びます。

到達目標:

私たちは現在、無数の映像情報を受けとって生活をしています。もはや映像のない生活は考えられないものとなっているでしょう。その上、映像が扱われるメディアは膨れ上がり、テレビ画面だけでなく様々な場面で目にするようになっていきました。また、映像の製作環境もここ数年で大きく変わり、映像を制作することは特別なことではなくなりました。この授業では、そのような時代の映像を考え、制作することを目的としています。ビデオカメラの操作から撮影方法、編集の基礎的な技術から、映像表現とは何かを学び、自由に映像を扱うことを目標とします。

授業方法:

ビデオカメラとコンピュータを使用した実習を中心に、映像で伝えることを意識して考え、表現方法や可能性を4つの課題制作を通して学びます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容

準備学習等の内容

1. ガイダンス、参考作品上映

2. カメラ操作、課題1撮影

3. 映像編集説明1

4. 課題1合評

5. 撮影技術と照明

6. 映像編集説明2、デジタルビデオ概要

7. 映像編集説明3、課題2制作

8. 課題2合評

9. 映像編集説明4

10. 映像編集説明5

11. 課題3制作

12. 課題3合評

13. 課題4制作

14. 課題4制作

15. 課題4合評、まとめ

課題制作のために授業時間外での撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

撮影と制作が必要になります。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

合評時に各課題作品について個別に講評します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法

割合

評価基準

平常点

30%

平常点と制作プロセス、課題作品4作品の総合評価。

制作プロセス

20%

平常点と制作プロセス、課題作品4作品の総合評価。

課題4作品

50%

平常点と制作プロセス、課題作品4作品の総合評価。題作品については、発想力と完成度を重視します。

課

教科書:

なし。

参考書:

参考資料や映像作品を授業中に提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

Eメール、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ：撮影技法と映像表現

授業の概要：露出やレンズによる表現。映像の文法を踏まえたグループ制作による課題シナリオの制作。

到達目標：露出・被写界深度による表現、レンズの特性を理解する。
それぞれの特色を活かした表現を個人課題で制作する。
映像の文法である位置、動き、目線を理解する。
モンタージュ論に基づくカットの構成を工夫する。
グループワークを通じ映像制作のノウハウと各パートの役割を理解する。
同じシナリオであっても設定や演出によって内容が大きく変わることを体験する

授業方法：前半は機材の使い方、カメラで出来る映像表現を講義・演習で行う。中盤は映像の文法と言われる約束事を講義で行う。終盤は課題のシナリオを用い映像制作の制作過程を実習し一本の作品を制作する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業概要 使用機材の基本操作	
	2. 露出とは(絞り、シャッタースピード、感度の関係)・被写界深度の応用	配布プリントの予習
	3. レンズの特性	復習として各テーマの課題を制作し提出
	4. カラーグレーディング DaVinci Resolveの基本操作	配布プリントの予習・演習室のMacにインストール済み
	5. カメラワークの基本	機材の基本操作の復習
	6. 特機 レール・ジブの使い方	動きのある映像を意識的に記憶しておく
	7. スタジオライティングの基本	
	8. フレーミングと映画の約束事	
	9. モンタージュ	
	10. 基本シナリオ配布 完成シナリオの作成	グループ内で内容を検討。共通認識を持っておく
	11. ロケハン・巻盤作成・機材準備	
	12. 課題撮影1	各パートで必要機材のチェックと操作を復習
	13. 課題撮影2	
	14. 編集	事前にある程度編集しておく
	15. 合評	

受講者へのメッセージやアドバイス：自分で見て感じたこと(インプット)を映像としてどう表現し伝えるか(アウトプット)を常に意識して受講して欲しい

フィードバックの方法：個人課題については総評を配布・グループ制作については最終回に合評

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	個人課題	40%	到達目標である露出・被写界深度・レンズの特性を理解した上で、出題テーマに即した作品が制作できているかを基準とする
	グループワークによる成果物	30%	グループ内でのディスカッションと自分の担当した役割の参加度を基準とする
	出席を含む授業への積極的参加度	30%	積極的に授業に参加し、疑問点は質問等で解消し知識・技術の習得に努めたか

教科書：使用しない

参考書：「アンセル・アダムスの写真術—The Negative」 岩崎美術社 (著), Ansel Adams (原著), 梅沢 篤之介 (翻訳)
「映画の文法—実作品にみる撮影と編集の技法」 紀伊國屋書店 ダニエル・アリホン (著), 岩本 憲児 (翻訳), 出口 丈人 (翻訳)
「映画術 ヒッチコック・トリュフォー」 晶文社 フランソワ トリュフォー (著), アルフレッド ヒッチコック (著) 山田 宏一 (翻訳), 蓮實 重彦 (翻訳)
「マスターショット100 低予算映画を大作に変える撮影術」 フィルムアート社 クリストファー・ケンワーシー (著), 吉田俊太郎 (翻訳)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法：Eメール (ttakemur@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

Dreamweaverによるウェブサイト製作

授業の概要:

Webデザインにまつわる包括的な知識を得るために、1つウェブサイトを作成させるという課題を設け、企画やコンテンツ制作そしてDreamweaverというアプリケーションをつかったHTML+CSSコーディングを行ないます。

到達目標:

1・ウェブサイトの企画書とはどのようなものかを学び、授業内で1つ完成させる。そして計画的に製作をすすめることができるようになる。
2・HTMLとCSSを使用した基本的なレイアウトのウェブサイトを1つ完成させる。そのなかで、Dreamweaver等の必須アプリケーションの技術力の向上を目指す。
3・WWWにまつわる基礎的知識と、ウェブサイトデザインにまつわる専門的な知識の学習を行い、製作するウェブサイトに反映できるようにする。
4・広く世界中に手軽に情報をつたえることのできるメディアとしてのウェブサイトの本質を理解するために、様々なウェブサイトを分析的に見られるようになる。また、Webデザインにまつわるリテラシー(著作権問題等)を向上させる。

授業方法:

5:講義/演習の混合
講義形式による、ウェブサイトの製作における基礎的な知識の習得、実技形式によるHTMLおよびアプリケーションの使用法体得、そしてそれらを統合し、自らコンセプトからディレクション、製作までこなした「ウェブサイト」を作成させるという制作課題で進めていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 授業の進め方について	
	2. Dreamweaver 基礎編 1 各種操作ウインドウについて	HTMLの復習をしておく。
	3. Dreamweaver 基礎編 2 コーディングにまつわる操作	
	4. Dreamweaver 基礎編 3 レイアウトにまつわる操作、CSSの基礎知識	
	5. Dreamweaver 基礎編 4 レイアウトにまつわる操作、CSSの活用	前週わからなかったことがあった場合は復習しておく。
	6. 関連アプリケーション1 IllustratorによるデザインとWEB用書き出し	アプリケーションの基礎的な使い方などの技術的な面で不安な部分は復習しておく。
	7. 関連アプリケーション2 PhotoshopによるデザインとWEB用書き出し	企画書を作成しはじめておく。ウェブサイトに掲載するコンテンツを制作する。
	8. 関連アプリケーション3 動的コンテンツをつくるために javascript、flashなどの連携	企画書の完成に向けて製作を進める。
	9. 課題製作1 ウェブサイトをひとつ完成させる 企画書を完成させプレゼンテーションする	授業内で提示された条件を理解し、ウェブサイトの企画書を完成させておく。
	10. 課題製作2 企画書に基づき画面デザインを行う1	
	11. 課題製作3 企画書に基づき画面デザインを行う2	
	12. 課題製作4 企画書に基づきコーディングを行う1	合評時に間に合うように制作を進める。
	13. 課題製作5 企画書に基づきコーディングを行う2 サイト制作ヒアリング	合評時に間に合うように制作を進める。
	14. 課題製作6 企画書に基づきコーディングを行う3	合評時に間に合うように制作を進める。
	15. まとめと振り返り 完成サイトをサーバにアップロードし、インターネット上に公開する。合評、講評。	合評時に間に合うように制作を進める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

手軽に世界中に情報を発信したり収集できたりするインターネット環境を使いこなす知識や経験は、現代に必須のスキルとなりつつあります。自らコンセプトからディレクション、製作までこなしたウェブサイトを1つ制作することを通じて、技術力の向上を図ります。また、制作者として情報発信に対する視点を深め、ウェブにまつわるリテラシー(著作権問題等)の学習、そしてWebデザインに欠かせない情報デザインという概念についても学びます。自らのスケジュールと照らし合わせて、授業時間内に完成できないと判断した制作物(ウェブサイト)は、授業時間外に制作場所と時間を確保して完成できるよう努めてください。
※単位認定は60点以上だが、「ウェブデザイン実務士」の資格を希望する者は、70点以上の評価を得る必要があります。

フィードバックの方法:

・レポート コメントをつけて教室で返却する
・制作物 授業内で解説・コメント・アドバイスする
・まとめファイル 提出後、添削して後日情報メディア事務室にて返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	40%	積極的に授業に参加し、制作を行う態度や意欲を評価する。
	制作課題提出、発表	40%	到達目標2と3を踏まえ、課題の制作と提出、授業内プレゼンテーション、そしてその完成度を評価する。
	企画書/レポート	20%	到達目標1と4を踏まえ、ウェブサイト制作に必要な知識が深まったかや、ウェブリテラシーが向上したか等を基準として評価する。

教科書:

特にはありません。自分に適したHTML辞書やWebデザインの基礎的な知識が得られる書籍を選んで使用して下さい

参考書:

授業内で適時紹介していきます。HTML5&CSS3デザインブック、HTML5&CSS3標準デザイン講座。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール、授業の前後に教室内で対応

508602、04、05

Webデザイン

林 圭太

授業テーマ:

WEBサイト制作における基礎知識と技法の習得

授業の概要:

スマートフォンに代表される通信デバイスが一般化する中、WEBサイトの在り方も大きく変化している。しかし、WEB視聴メディアがどう変化しようとも、サイト情報を魅力的に伝えるグラフィックレイアウトの習得は常に重要な技術となる。将来的にも応用可能なインターフェイスデザインや情報のレイアウト習得を中心に学習する。

到達目標:

1.HTML+CSSのコーディングの基礎的理解
2.「Dreamweaver」の基礎知識、具体的制作に係る技法習得
3.廃れない普遍的な知識と技術
4.企画したWEB課題制作
5.制作プレゼンテーション

授業方法:

PC設置教室にて、「Photoshop」「Illustrator」「Dreamweaver」などのアプリケーションを使用し、実習を進めていく。課題企画では面談指導を行い、授業最終では制作課題を自らプレゼンテーションし、学外公開可能なサーバにアップロードする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション、WEB制作について インタラクシ ン(ボタン)を検討する	
2. 試行1: インタクションを企画する(ウェブサイトにお けるボタンデザイン)	参考になるインターフェイスデザインをチェック
3. 試行2: HTMLにおけるインタクションを考える	
4. HTML基礎1: コーディングの概念と基本構造	参考になるWEBサイトを調査、研究
5. HTML基礎2: タグのバリエーションと画像処理	参考になるWEBサイトを調査、研究
6. Dreamweaver基礎1: 基本操作とページデザイン、リ ンク設定、フォーム	参考になるWEBサイトを調査、研究
7. Dreamweaver基礎2: CSSとレイアウト機能	
8. Dreamweaver基礎3:インターフェイス、特殊なインタ クシ ョンの設定	
9. 企画:オリジナルウェブサイトを立案する	具体的なWEBサイトの立案する、個別制作相談
10. 課題制作	企画のブラッシュアップとテキスト、画像など素材収集
11. 課題制作	画像など素材収集
12. 課題制作	画像など素材収集、レイアウト
13. 課題制作	コーディング、レイアウト
14. 課題プレゼンテーション1	
15. 課題プレゼンテーション2、サーバにアップロードし、 インターネット上(学内)に公開	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

日常的に目にし、活用しているWEBサイトの特徴をクリエイターの視線に立って見直してほしい。

フィードバックの
方法:

最終授業時のプレゼンテーション時に、教室でまとめて解説する

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
制作課題	40%	授業最終日の制作課題で、自身で企画された内容が、情報として整理され 使いやすいインターフェイスと共にレイアウトされているか
課題発表	20%	到達目標を踏まえた上で、制作内容を的確に表現できているか
授業への参加度	40%	積極的に授業に参加し、Webデザインに関する知識・技術の習得に努めた か

教科書:

なし

参考書:

「Dreamweaver CC スーパーリファレンス for Windows&Macintosh」 外間かおり ソーテック社

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能、E メール(keitem70@gmail.com)を利用、授業の前後に教室内で応対

参考書:	授業内で進度に合わせて紹介します。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力
教員との連絡 方法:	Eメールにて行うこと。アドレスは授業内で指示する

授業テーマ:	デザインのための基本ツール1																																		
授業の概要:	Photoshopでの基本的な画像処理、Lightroomでは画像データの管理と整理を学習します。Illustratorを使ってイラストを描いたり、文字設定の基礎を学んだ後、簡単なレイアウトに挑戦します。 学期末には個人のデザインアイデアをもとにした応用問題でPhotoshop、LightroomとIllustratorを共に使用しながら作品を作ってもらいます。																																		
到達目標:	・デザインのための基礎技法として、作業の土台となるコンピュータや周辺機器を自由自在に使いこなすために必要な知識と技術を習得します。 ・春学期のメディアデザインIでは、グラフィックデザインやウェブデザイン、アニメーション、映像の制作を行う際に必要な画像データの作成方法を身につけます。																																		
授業方法:	各回の授業テーマに沿った概説と課題制作を授業内に行います。課題制作で使用する素材(画像やテキスト)は授業時間外に各自で用意してください。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. Macの基本操作:ファイルの取り扱い・ファイルのネーミング・フォルダーの構造・色彩(RGB, cmYk)</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>2. Photoshop 1:画像の取り込み、スキャナー、デジタルカメラ、スマートフォン</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>3. Photoshop 2:選択範囲、レイアウト操作、色調補正</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>4. Photoshop 3:画像の修正と加工</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>5. Photoshop 4:アウトプット、エクスポート(様々なファイル形式)印刷</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>6. Lightroom:写真管理、整理と編集</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>7. Illustrator 1:ファイルのセットアップ</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>8. Illustrator 2:図形とベジェ曲線の描画</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>9. Illustrator 3:簡単なグリッド設定、文字設定(和文を欧文の書体の選択)</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>10. Illustrator 4:文字設定(カーニングとトラッキング、文字組みの単位、段落設定、行揃え)</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>11. Illustrator, Photoshop, Lightroom を利用した実跡課題:ポスターのデザイン(印刷用とオンライン)</td><td>授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。</td></tr><tr><td>12. 実践課題</td><td></td></tr><tr><td>13. 実践課題</td><td></td></tr><tr><td>14. 実践課題</td><td></td></tr><tr><td>15. プレゼンテーション、ポスターとプロジェクトのドキュメンテーションの提出</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. Macの基本操作:ファイルの取り扱い・ファイルのネーミング・フォルダーの構造・色彩(RGB, cmYk)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	2. Photoshop 1:画像の取り込み、スキャナー、デジタルカメラ、スマートフォン	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	3. Photoshop 2:選択範囲、レイアウト操作、色調補正	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	4. Photoshop 3:画像の修正と加工	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	5. Photoshop 4:アウトプット、エクスポート(様々なファイル形式)印刷	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	6. Lightroom:写真管理、整理と編集	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	7. Illustrator 1:ファイルのセットアップ	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	8. Illustrator 2:図形とベジェ曲線の描画	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	9. Illustrator 3:簡単なグリッド設定、文字設定(和文を欧文の書体の選択)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	10. Illustrator 4:文字設定(カーニングとトラッキング、文字組みの単位、段落設定、行揃え)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	11. Illustrator, Photoshop, Lightroom を利用した実跡課題:ポスターのデザイン(印刷用とオンライン)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。	12. 実践課題		13. 実践課題		14. 実践課題		15. プレゼンテーション、ポスターとプロジェクトのドキュメンテーションの提出			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. Macの基本操作:ファイルの取り扱い・ファイルのネーミング・フォルダーの構造・色彩(RGB, cmYk)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
2. Photoshop 1:画像の取り込み、スキャナー、デジタルカメラ、スマートフォン	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
3. Photoshop 2:選択範囲、レイアウト操作、色調補正	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
4. Photoshop 3:画像の修正と加工	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
5. Photoshop 4:アウトプット、エクスポート(様々なファイル形式)印刷	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
6. Lightroom:写真管理、整理と編集	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
7. Illustrator 1:ファイルのセットアップ	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
8. Illustrator 2:図形とベジェ曲線の描画	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
9. Illustrator 3:簡単なグリッド設定、文字設定(和文を欧文の書体の選択)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
10. Illustrator 4:文字設定(カーニングとトラッキング、文字組みの単位、段落設定、行揃え)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
11. Illustrator, Photoshop, Lightroom を利用した実跡課題:ポスターのデザイン(印刷用とオンライン)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。																																		
12. 実践課題																																			
13. 実践課題																																			
14. 実践課題																																			
15. プレゼンテーション、ポスターとプロジェクトのドキュメンテーションの提出																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	提出物(ポスターとプロジェクトのドキュメンテーション)に対する受講生へのフィードバックは教室でまとめて解説します。																																		
「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準																																
「成績評価基準」:	授業への参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標の修得に努めたか																																
	コンピュータに関する理解度	30	各回の授業内容を理解しているかどうか																																
	課題制作	40	課題の完成度																																
教科書:	なし																																		
参考書:	Photoshop: http://www.adobe.com/jp/products/photoshop/beginner.html Lightroom: https://helpx.adobe.com/jp/lightroom/how-to/manage-all-your-photos.html																																		

Illustrator : <http://www.adobe.com/jp/products/illustrator/beginner.html>

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力

教員との連絡
方法:

Eメールにて行うこと。アドレスは授業内で指示する

授業テーマ:

デザインのための基本ツール2

授業の概要:

タイポグラフィとレイアウトをテーマにAdobe InDesignを利用したDTP(デスクトップパブリッシング)の基礎を学習します。同時に複数のページを、統一したデザインコンセプトのもとにレイアウトし、デザインをシステムとして考える冊子創りを経験します。

到達目標:

・春学期のメディアデザインをふまえ、印刷媒体上でのグラフィックデザインの技法を身につけます。
・文字組みや色の原理、プリント技術などコンピュータ上でのデザインに必要な各種の知識を学ぶことにより、コンピュータを利用したデザインワークに対する理解を深めます。

授業方法:

各回の授業テーマに沿った概説と課題制作を授業内に行います。課題制作で使用する素材(画像やテキスト)は授業時間外に各自で用意してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	基本操作: InDesignの基本操作(ファイルのセットアップ)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
2.	基本操作: 書体の基礎知識	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
3.	文字組み: 和文と欧文・書体の選択	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
4.	文字組み: 文字設定(欧文・アナログ: カーニングとトラッキング)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
5.	文字組み: 文字設定(和文と欧文: カーニングとトラッキング、文字組みの単位)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
6.	文字組み: 段落設定/行揃え/禁則処理(和文と欧文)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
7.	レイアウト設定: 画像の配置・簡単な図形とベジェ曲線の描画	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
8.	レイアウト設定: 共通アイテムの配置(グリッド設定・マスターページ)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
9.	レイアウト設定: 共通アイテムの配置(文字スタイルと段落スタイル)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
10.	アウトプットの準備: 印刷・製本	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
11.	InDesign を利用した実践課題: 冊子のデザイン(印刷用)	授業内で配布・提示したデータを使って繰り返し自主的なトレーニングを実践してください。また、日常的に見る印刷物やウェブサイト、映像コンテンツなどのデザインに関して各自で調査・研究するようにしてください。
12.	実践課題	
13.	実践課題	
14.	実践課題	
15.	プレゼンテーション、冊子とプロジェクトのドキュメンテーションの提出	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物(冊子とプロジェクトのドキュメンテーション)に対する受講生へのフィードバックは教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標の修得に努めたか
	コンピュータに関する理解度	30	各回の授業内容を理解しているかどうか
	課題制作	40	課題の完成度
教科書:	なし		

参考書:

ミルキイ・イソベ/紺野慎一著『組む。InDesignでつくる、美しい文字組版』bnn、2010年
向井祐一著『日本語の組版の考え方』誠文堂新光社、2008年
InDesignのチュートリアル: <https://helpx.adobe.com/jp/indesign.html>

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

思考力、創造力

Eメールにて行うこと。アドレスは授業内で指示する

授業テーマ:

授業の概要: World Wide Webをメディアとして情報を表現・伝達する際に必要となる、基本的な技術のうちスタイルシートとJavaScriptを取り上げる。推奨される規約に従い、スタイルシートを使ってWebページの内容と体裁(スタイル)を分離して記述することは、アクセシビリティの高いWebページを制作するという観点から重要である。また、JavaScriptは、リッチな体験をユーザに与える動的なWebコンテンツ、インタラクションをもつWebコンテンツの制作には欠かせない重要なキー技術の一つである。この2つの技術を中心に、Webをメディアとした情報表現のための技術を学習する。

到達目標: 本科目では、次の点を目標に学習をすすめる。
(1) スタイルシートの記述と役割を理解する。
(2) スタイルシートを使って、Webページのレイアウトができる。
(3) JavaScriptの基本を理解する。
(4) JavaScriptを使い、Webページ上でのマウス操作やキーボード入力に応じた処理を記述できる。

授業方法: ノート型コンピュータを使用し、講義と演習を交えた授業を行う。
授業の進展に応じ、学期を通じて5回程度、Webコンテンツ制作演習の宿題を出す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Webメディアを取り巻く状況	授業内容の理解
	2. スタイルシートによるレイアウト演習	授業内容の理解
	3. スタイルシートによるレイアウト演習	授業内容の理解、演習Webサイトの制作
	4. JavaScriptの基本	授業内容の理解
	5. オブジェクトのメソッドとプロパティ	授業内容の理解
	6. マウス操作に応答するインタラクション1	授業内容の理解、演習Webページの制作
	7. 関数の記述	授業内容の理解
	8. 制御構造	授業内容の理解、演習Webページの制作
	9. マウス操作に応答するインタラクション2	授業内容の理解
	10. フォームに応答するインタラクション1	授業内容の理解
	11. フォームに応答するインタラクション2	授業内容の理解、演習Webページの制作
	12. ダイナミックHTMLを使った動的Webコンテンツ1	授業内容の理解
	13. ダイナミックHTMLを使った動的Webコンテンツ2	授業内容の理解
	14. Ajaxを使った動的Webコンテンツ	授業内容の理解
	15. 総合的演習	演習Webコンテンツの制作

受講者へのメッセージやアドバイス: ネットワーク概論で学んだ内容を前提とするが、必要に応じて復習を行う。
積み重ねの授業内容となるので、毎回の授業終了後の復習が、理解を深め、不明点を認識するために必要。

フィードバックの方法: 提出された演習Webページに対して必要に応じてコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	宿題として提出したWebコンテンツの完成度	100%	仕様を満たして機能するかどうか 新規の工夫

教科書: 改訂新版 インターネット講座 有賀妙子・吉田智子・大谷俊郎 北大路書房

参考書: やさしいJavaScriptのきほん 高橋麻奈 SBクリエイティブ
JavaScriptハンドブック 清野克行 SBクリエイティブ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: Eメール (tariga@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

社会に必要な文章力と他者文章を批評する能力の構築

授業の概要:

デジタル化が加速する現代こそアナログ的思考力・表現力が必要とされるのもまた事実である。この授業では、自己のライティングスキルを把握し将来を見据えたスキルを修得することを第1ステージ、現代社会において求められるライティングスキルの理解と修得が第2ステージ、他者のライティングスキルを評価する能力の構築を第3ステージとして授業を進めていく。

到達目標:

1.ライティングスキルにおける自己の課題を認識し克服できる
2.将来を意識し必要なライティングスキルを構築し修正方法を認識できる
3.他者文章をライティングスキルに即して正しく評価できる

授業方法:

講義と演習を繰り返しながら授業を進めていく。文章作品の作成、同じテーマで作成された他者作品の批評、返却された自己作品の修正を1つのサイクルする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス①「ライティングスキルとは」&ライティングスキルの自己確認①「必要なライティングスキル」	授業内容の復習と次回授業の予習が1時間程度必要である。
2.	ガイダンス②「求められるライティングスキル」&ライティングスキルの自己確認②「ライティングスキルの分析」	授業内容の復習と次回授業の予習が1時間程度必要である。
3.	ライティングスキル基礎①「文法」	授業内で選出された優秀作品と返却された自己作品について1時間程度の確認と修正が必要である。
4.	ライティングスキル基礎②「語彙」	授業内で選出された優秀作品と返却された自己作品について1時間程度の確認と修正が必要である。
5.	ライティングスキル基礎③「段落と構成」	授業内で選出された優秀作品と返却された自己作品について1時間程度の確認と修正が必要である。
6.	ライティングスキル応用①「コンセプト理解」	授業内で選出された優秀作品と返却された自己作品について1時間程度の確認と修正が必要である。
7.	ライティングスキル応用②「読者理解」	授業内で選出された優秀作品と返却された自己作品について1時間程度の確認と修正が必要である。
8.	ライティングスキル応用③「総理解」	授業内で選出された優秀作品と返却された自己作品について1時間程度の確認と修正が必要である。
9.	中間課題の確認	授業内容の復習と次回授業の予習が1時間程度必要である。
10.	中間課題の批評と修正	授業内で選出された優秀作品と返却された自己作品について1時間程度の確認と修正が必要である。
11.	ライティングスキル発展①「ナレーション」	授業内で選出された優秀作品と返却された自己作品について1時間程度の確認と修正が必要である。
12.	ライティングスキル発展②「企画書」	授業内で選出された優秀作品と返却された自己作品について1時間程度の確認と修正が必要である。
13.	最終課題の確認	授業で学んだ内容の復習と次回授業の予習が1時間程度必要である。
14.	最終課題の他己評価	授業内で選出された優秀作品と返却された自己作品について1時間程度の確認と修正が必要である。
15.	ライティングスキルの自己確認③「将来像とライティングスキル」	授業内容と全15回の復習が1時間程度必要である。

受講者へのメッセージやアドバイス:

ライティングスキルは幼少期から積み重ねた能力だけではない。方法論を理解しセンスを磨けば、ライティングスキルの修得は今からでも十分可能である。また、自分では気づいていない未知のライティングスキルが自己の中に眠っている可能性もある。この授業では個人が必要とするライティングスキルに合わせて指導する。評価においても、ライティングスキルの完成度だけではなく、修得度も十分考慮する。早い段階で自分のライティングスキルを把握し、将来を見据えた上で必要とされるライティングスキルは何かを明確にして授業に臨んでほしい。

フィードバックの方法:

作品:他者が添削した上でコメントをつけて返却する
各回の感想:教室でまとめて解説する
中間・最終課題:添削しコメントをつけて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	通常課題	30%	作品のクオリティと修正力を総合的に評価する
	授業への積極的参加	20%	授業への積極的な参加と感想レポートでの理解度を総合的に評価する
	中間・最終課題	30%	作品のクオリティと自己課題の到達度、他者作品の批評レベルを総合的に評価する
	他者批評	20%	評価基準に基づいた他者批評のクオリティと正確性を総合的に評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。内容によってはEメールでの対応も可能

授業テーマ:

ライティングの基本を学んで、インターネットで世界に発信しよう Learning Basic English Writing Skills for the Internet

授業の概要:

この授業では、インターネットの中にある膨大な英語の世界を探訪し、英語ライティングの基礎を学習するものである。

到達目標:

“授業の前半では、インターネット世界を探訪し、後半ではインターネット子供向けのK12-Webサイトを利用しながら、英語ライティングの基礎的訓練を行う。
セメスターの終盤では英語のホームページを実際に作成し、英語のライティングスキルやインターネットの為の英語の特徴を学んでいく。英語のWebページには日本語のページとは違う特有のレイアウトや決まり事があり、情報メディア学科に学ぶ者にとって有効な、英語によるページデザインの基本についても学習する。”

授業方法:

講義に加えて、グループ作業、ピアディスカッション、発表などを併用する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	この授業はアクティブラーニングの要素が含まれており、随時、事前・事後のグループ学習を行う
	2. 英語のインターネットサイトの楽しさを知る1 (HP, Blog, Twitter等)	
	3. 英語のインターネットサイトの楽しさを知る2 (HP, Blog, Twitter等)	宿題の英作文を行う
	4. 英語のインターネットサイトの楽しさを知る3 (HP, Blog, Twitter等)	宿題の英作文を行う
	5. インターネットを使ったライティングのための文法学習1	宿題の英作文を行う
	6. インターネットを使ったライティングのための文法学習2	宿題の英作文を行う
	7. インターネットを使ったライティングのための文法学習3	宿題の英作文を行う
	8. K12のサイトを参考にライティングの練習1	グループ発表のための準備を行う
	9. K12のサイトを参考にライティングの練習2	グループ発表のための準備を行う
	10. 英語のホームページの特徴を学ぼう1	グループ発表のための準備を行う
	11. 英語のホームページの特徴を学ぼう2	事前・事後のグループ学習を行う
	12. ホームページを実際にグループで作成する1	事前・事後のグループ学習を行う
	13. ホームページを実際にグループで作成する2	事前・事後のグループ学習を行う
	14. ホームページの発表	事前・事後のグループ学習を行う
	15. 授業の振り返り、質疑応答など	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ライティングの課題提出	30%	英語のライティングの上達状況进行评估する
	発表	20%	内容・構成・完成度を評価する
	グループ学習への参加度と出席	50%	グループ内での作業の参加状況も評価する

教科書:

なし

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール(stoda@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	インターネットを使って、笑いの世界に挑戦しよう Using the Internet to Connect with the World of Laughter		
授業の概要:	英語の文化圏では笑いは生活の中で重要な意味を持つ。日々のコミュニケーションの中には、日本とは比べものにならない量の笑いが入り込んでおり、笑いを理解し、使いこなさなければ、英語の文化圏に入り込むことは難しいといえる。インターネットの世界にも笑いはふんだんに入り込んでいる。この授業では英語文化圏の様々な笑いにインターネットの素材をおして親しんでいく。		
到達目標:	学生各自が英語の笑いを創造し、そのプロセスでライティング、英語文法を指導していく。また、ピアディスカッションも併用しグループ学習も行う。これらのプロセスをとおして、ライティングスキルやインターネットによるコミュニケーションの方法を学んでいく。		
授業方法:	講義に加えて、グループ作業、ピアディスカッション、発表などを併用する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション	この授業はアクティブラーニングの要素が含まれており、随時、事前・事後のグループ学習を行う	
	2. インターネットサイトをとおした笑いの諸相(米国の笑い)		
	3. インターネットサイトをとおした笑いの諸相(米国の笑い)	宿題の英作文を行う	
	4. インターネットサイトをとおした笑いの諸相(米国の笑い)	宿題の英作文を行う	
	5. インターネットサイトをとおした笑いの諸相(イギリスの笑い)	宿題の英作文を行う	
	6. インターネットサイトをとおした笑いの諸相(イギリスの笑い)	宿題の英作文を行う	
	7. インターネットサイトをとおした笑いの諸相(他の英語圏の笑い)	宿題の英作文を行う	
	8. 英語的笑いの創造(ブログで発信・添削)	グループ発表のための準備を行う	
	9. 英語的笑いの創造(ブログで発信・添削)	グループ発表のための準備を行う	
	10. 英語的笑いの創造(ブログで発信・添削)	グループ発表のための準備を行う	
	11. 英語的笑いの創造(ブログで発信・添削)	事前・事後のグループ学習を行う	
	12. 英語的笑いの創造(ブログで発信・添削)	事前・事後のグループ学習を行う	
	13. 発表1	事前・事後のグループ学習を行う	
	14. 発表2	事前・事後のグループ学習を行う	
	15. 授業の振り返り、質疑応答など		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ライティングの課題提出	30%	英語のライティングの上達状況进行评估する
	発表	20%	内容・構成・完成度を評価する
	グループ学習への参加度と出席	50%	グループ内での作業の参加状況も評価する
教科書:	なし		
参考書:	未定		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能、Eメール(stoda@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ：異文化間コミュニケーションのための英語運用能力向上

授業の概要：本講義では英語圏の映画・テレビドラマなどを題材に、使用されている英語を注意深く観察することにより、いかにして言語コミュニケーションが実現されているか、また優れた話し手はいかに巧みにことばを操作してコミュニケーション効果を高めているかを読み解く。具体的には、英語圏の映画、ドラマなどを繰り返し見て、英語の使用パターンの把握練習をする。受講者が受け身の講義にならないよう、題材の内容について、随時英語で質疑応答を行う。講義中は、単語の語義説明、言い換えを含め、内容理解問題等に関する質疑応答などを全て英語で実施する。

到達目標：本講義では英語圏の映画・テレビドラマなどを題材に、使用されている英語を注意深く観察することにより、いかにして言語コミュニケーションが実現されているか、また優れた話し手はいかに巧みにことばを操作してコミュニケーション効果を高めているかを読み解く。正確な英文読解力、聴解力を涵養すると共に、自分のメッセージを分かりやすい英語で伝えるトレーニングを行う。

授業方法：英語圏の映画、ドラマなどを繰り返し見て、英語の使用パターンの把握練習をする。受講者が受け身の講義にならないよう、題材の内容について、随時英語で質疑応答を行う。講義中は、単語の語義説明、言い換えを含め、内容理解問題等に関する質疑応答などを全て英語で実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 講義ガイダンス:映像メディアにおけるコミュニケーション	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	2. 文脈と意味:発話とそれがなされる文脈や場面がいかに言葉の意味を規定するかを観察する	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	3. Andy Meets Miranda	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	4. Andy's First Day at Runway	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	5. Miranda, the Almighty	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	6. 第一部まとめ: ことばと視点はいかに深く結びついているか	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	7. Andy's Metamorphosis	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	8. Andy Performs a Miracle	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	9. Andy's Stock Goes Up	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	10. 第二部まとめ: 言葉に現れる視点の違いをキャッチする	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	11. Andy's Dilemma	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	12. A Night in Paris	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
	13. A Plot against Miranda	各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)

14. Andy's Final Choice
- 各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。
音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
15. 全体の総括:まとめと口頭発表
- 各ユニットのスク립トを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。
音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

英語で自己表現することは慣れないうちはかなり抵抗感を伴うかもしれませんが、授業を通して繰り返しトレーニングをすることで英語でのアウトプットの垣根を低くできるはずです。間違いを恐れず積極的な発言に努めていただければと思います。

フィードバックの
方法:

講義用のコンパニオンウェブサイトを設置し、それを介してフィードバックを行う予定である。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業での指名発表	50%	英語での説明を的確に理解し、基本的な語彙、構文を用いて単語、フレーズ、センテンスの意味の説明ができるようになっているかどうかを基準に判断する。
挙手による発言	50%	英語での説明を的確に理解し、基本的な語彙、構文を用いて単語、フレーズ、センテンスの意味の説明ができるようになっているかどうかを基準に判断する。

5回以上の欠席・遅刻があれば単位認定しないので、この点留意願いたい。

教科書:

The Devil Wears Prada／映画総合教材「プラダを着た悪魔」(著者)Aline Brosh McKenna
(編著)神谷久美子／Kim R. Kanel 松柏社 ISBN 978-4-88198-636-3

参考書:

Longman Dictionary of Contemporary English (『ロングマン現代英英辞典』)
Collins COBUILD English Dictionary, Collins COBUILD Advanced Learners' English Dictionary

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール(tabata@lang.osaka-u.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	アニメーション作品等の表現分析		
授業の概要:	アニメーションやゲームは、現代の日本文化の一翼を担う表現ジャンルであるとともに、私たちの精神に重大な影響を及ぼすメディア表現だと言えるでしょう。本講義では、こうしたアニメーション作品やゲーム作品の表現の多様性(形式的、テーマ的、歴史的、文化的)をふまえつつ、いくつかの重要な作品の表現分析を行います。具体的には、日本および世界のアニメーション作品の中から、表現形式や表現内容に関する際だった特徴をもつ作品を取り上げ、各作品におけるテーマ・コンセプトや表現手法の分析を行い、作品批評のための基礎的な能力を養います。		
到達目標:	アニメーション作品やゲーム作品における表現の多様性についての理解 作品を分析する方法、批評する能力の獲得		
授業方法:	全体としては講義形式で進めますが、一部で演習も取り入れる予定です。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	導入:授業概要のオリエンテーション	授業内容と関連のある作品を視聴すること
	2.	映像原理としてのアニメーション	〃
	3.	日本アニメの系譜	〃
	4.	アニメーション作品の形式分析1	〃
	5.	アニメーション作品の形式分析2	〃
	6.	世界のアニメーション表現1 ソビエト	〃
	7.	世界のアニメーション表現2 チェコ	〃
	8.	世界のアニメーション表現3 チェコ	〃
	9.	世界のアニメーション表現4 西ヨーロッパ	〃
	10.	世界のアニメーション表現5 カナダ	〃
	11.	アニメーション作品の批評	〃
	12.	3DCGアニメーション	〃
	13.	コンピュータ・ゲームの変遷	〃
	14.	インタラクティブ・メディアと表現	試験にむけて振り返り学習を行う
	15.	まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:	多くの作品に触れて視野を広げてください。また一つの作品を何度も鑑賞し、分析力を養ってください。		
フィードバックの方法:	リフレクションペーパーの内容から抜粋し、次回授業にてフィードバックします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80	表現の多様性についての理解度、および作品の分析批評能力を評価します。
	リフレクションペーパー	20	積極的な授業参加や授業外での作品視聴、および自分の意見を表明していることを評価します。
教科書:			
参考書:	『アニメーション学入門』津堅信之 平凡社新書		
	『スタジオジブリ絵コンテ全集』宮崎駿 徳間書店		
	『シュヴァンクマイエルの世界』ヤン・シュヴァンクマイエル 国書刊行会		
	『テレビゲーム文化論―インタラクティブ・メディアのゆくえ』榊山寛 講談社現代新書		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	各授業の終了後に直接連絡してください。		

授業テーマ:	アニメーション作品 + デジタル絵本作品の制作		
授業の概要:	アニメーション作品は、言葉では伝えにくい動きの感覚や複雑な感情を視聴者に与えてくれます。それは映画創世記の切り絵アニメーションの時代から、今日のデジタル技術を活用したインタラクティブなアニメーションに至るまで、長い歴史の変遷を経て培われた表現です。この授業では、こうしたアニメーションならではの表現特性をふまえた作品の制作にチャレンジしていただきます。「感覚と感情」をテーマとする短編アニメーションの作品制作(グループワーク)と、アニメーションにインタラクティブ性を加えたデジタル絵本作品(個人)の制作を行います。		
到達目標:	魅力的な作品を創作すること アニメーションの特性をふまえた表現力の獲得 インタラクティブ性ふまえた表現力の獲得		
授業方法:	表現することを主眼とする演習とします。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 2. 短編アニメ作品 撮影技法の基本 3. アニメーション技法1 ピクシレーション 4. アニメーション技法2 ストップモーション 5. アニメーション技法3 平面アニメーション 6. 企画プレゼンテーション 7. 映像・サウンド編集の手法 8. 作品プレゼンテーション(合評) 9. デジタル絵本作品 Directorの基本構造 10. インタラクティブのための基礎プログラミング 11. オーサリング1(絵のインタラクション) 12. オーサリング2(映像のインタラクション) 13. 企画チェックとサンプルムービーの視聴 14. 制作と中間チェック 15. 提出準備		撮影技法の復習 アニメーション技法1の復習 アニメーション技法2の復習 アニメーション技法3の復習、作品の企画立案、サンプル作品の視聴 企画案の修正と撮影 撮影素材と音声素材の編集 Director基本構造の復習 基礎プログラミングの復習 オーサリング1の復習 オーサリング2の復習、作品の企画立案 企画案の修正と制作 制作 後日にサーバーへの提出
受講者へのメッセージやアドバイス:	できるだけ多くのサンプル作品を視聴し、作品制作の参考にしてください。		
フィードバックの方法:	作品の企画プレゼンテーション時や合評の際にアドバイスをします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 作品	割合 100	評価基準 短編アニメーション作品についてはアニメーションの特性をふまえた表現、デジタル絵本についてはインタラクティブ性ふまえた表現であることをふまえつつ、作品の魅力を評価の対象とします。
教科書:			
参考書:	『アートアニメーションの素晴らしき世界』エスクエイアマガジンジャパン 『ユーロ・アニメーション』フィルムアート社 『MM Director MXスーパーマニュアル』大里美幸 オーム社 『MM Director MX Lingo スーパーマニュアル』大里美幸 オーム社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力		
教員との連絡方法:	授業終了後に直接連絡してください。		

授業テーマ:	造形の構成要素と表現		
授業の概要:	アイデアを形にするために必要となる基礎的な知識を習得します。 前半では造形の構成要素について理解を深め、後半では現代の様々な造形について、それらの歴史的な背景にも目を向け、造形表現について考察を深めます。		
到達目標:	色彩に関する基礎的な知識を学び、配色技法を用いて配色をすることができる。 構成原理及び視覚言語について理解を深め、表現技術を高める。 現代造形についての考察を深め、ものづくりにおける発想を広げる。		
授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 現代の造形について		
	2. 色彩について1 色と光、色名と表色系	PCCS、マンセル表色系について理解を深めておく。	
	3. 色彩について2 色彩の心理、色彩調和	寒色、暖色の持つイメージについて考察する。	
	4. 色彩について3 色彩構成と配色技法	配色技法を用いて、テキスタイルのパターンを制作する。	
	5. 形態と心理 「図」と「地」の関わり		
	6. タイポグラフィとエディトリアルデザイン 様々な書体とレイアウト	セリフ体、サンセリフ体など、書体の持つイメージについて考察する。	
	7. 現代の構成学 テクノロジーの発展、メディアと造形		
	8. 写真と広告	ビジュアルランゲージ及びボディランゲージについて予習しておく。	
	9. イラストレーションの変遷	イラストレーションを用いた印刷物や広告に目を向けておく。	
	10. 絵画と色彩 色材の発展	印象派の作品や、抽象表現主義の作品について予習しておく。	
	11. 現代の造形要素 新しい技術		
	12. 現代造形の動向と考察1 1960年代を中心に	授業で取り上げた作品について各自考察を深める。	
	13. 現代造形の動向と考察2 インスタレーションの成立と展開	サイト・スペシフィシティについて予習しておく。	
	14. 現代造形の動向と考察3 社会との関わり		
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	気に入っている衣料品や雑貨の配色をよく見るようにしてください。 デザイン、美術作品ともに、どのような素材、要素で構成されているかを観察するようにしてください。		
フィードバックの方法:	小テストは実施した次の週に解答・解説します。 課題は教室で返却します。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	10%	構成要素に関する理解度により評価する。
	課題	20%	構成原理、視覚言語に関する理解度及び表現技術により評価する。
	試験	70%	構成原理及び視覚言語に関する知識と理解度、現代造形についての考察力により評価する。
教科書:			
参考書:	『越境する造形 近代の美術とデザインの十字路口』 永井隆則編著 晃洋書房 『TOCOL公式テキスト ベーシック』 株式会社リリス		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応します。		

授業テーマ:

手と頭を使って描く

授業の概要:

アイデアを形にするために必要な基礎的技術を習得します。
手作業で制作するため、鉛筆、絵具、クロッキー帳などの画材が必要となります。

到達目標:

観察力を養い、表現技術を高める。
レイアウトを実践し、画面構成力をつける。

授業方法:	実技	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. コラージュ	定規、カッター、はさみ、のり、いらない雑誌を用意しておく。
	2. 植物クロッキー	様々な線を描くトレーニングをしておく。
	3. 人物クロッキー	人物の全体像を描くトレーニングをしておく。
	4. 生物写真の模写	模写する写真(A4程度)を準備しておく。イラストレーションで描かれている図鑑などを見ておく。
	5. 生物写真の模写	
	6. モダンテクニック	モダンテクニックにはどのようなものがあるか調べておく。
	7. モダンテクニックを素材にした半立体イラストレーション1	
	6で制作した作品を用いて、5で描いた生物を別の形で表現する。	
	8. モダンテクニックを素材にした半立体イラストレーション2	
	9. イラストレーション1 用紙をカットして、イラストレーションブックの内容を考える。	絵本やイラストレーションを用いた印刷物などをよく観察しておくこと。
	10. イラストレーション2 イラストレーションブックを作る	レタリングに使用するフォントを選び、作品サイズに合わせて文字を印刷しておくこと。
	11. イラストレーション3 イラストレーションブックを作る	
	12. 紙粘土細工による立体イラストレーション1	紙粘土細工を雑誌の表紙に使用することを想定して、テーマを決めてくる。 紙粘土細工を制作して乾燥しておく。
	13. 紙粘土細工による立体イラストレーション2 紙粘土細工に着彩する。	
	14. 紙粘土細工による立体イラストレーション3 作品撮影をし、各自パソコンにデータを取り込み、雑誌の表紙をデザインする。	テーマに合わせて撮影の際の演出を考えてくる。 パソコンで表紙のデザインを制作して印刷する。
	15. まとめと合評	制作で力を入れたところを説明できるようにしておく。
受講者へのメッセージやアドバイス:	クロッキー帳を持ち歩き、思い浮かんだアイデアを描き止めるようにしてください。 絵本や広告のイラストレーションに目を向けるようにしてください。	
フィードバックの方法:	課題は教室での返却時にまとめて解説します。	

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度 課題	20% 80%	積極的に授業に参加し、表現技術を習得できているかを評価する。 表現技術及びアイデア、画面構成力により評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。

授業テーマ:

DAWソフトによる音楽制作、及び音声加工編集

授業の概要:

現代の音楽制作、音声加工編集に於いて不可欠なツールであるDAW(Digital Audio Workstation)ソフトを構成する3つの技術「オーディオ」「MIDI」「シンセサイズ」に関して、その基本と相互の関係を理解しながらソフトの操作を習得します。同時に、最低限必要な音楽理論、及び、ポップミュージックで使用される主な楽器の構造や奏法、また、映像に対する音楽・ナレーション・効果音の処理を学びます。

到達目標:

- ・オーディオ、MIDI、シンセサイズ、それぞれの役割と関係の理解。
- ・主なエフェクトの使用法と動作原理の理解。
- ・既成素材だけでなく、独自のメロディやリズムパターンを使用した音楽制作。
- ・ナレーションや効果音等、音声全般の加工編集技術習得。

授業方法:

情報メディア演習室にて講義と演習を行います。動画や図解などを多く使用した講義で概念を理解し、サブモニターとプロジェクトでソフトの操作説明を見ながら、実際に操作を体験して、音楽制作と音声加工編集の技術を身に付けていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	シンセサイズ、MIDI、オーディオの基礎知識／Logic Pro X 基本操作	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
2.	初歩的な音楽理論(1)拍子とテンポ／MIDIレコーディングと編集	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
3.	初歩的な音楽理論(2)楽譜と音符の基礎知識／Loop(既成の音素材)を活用した音楽制作	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
4.	デジタル音声の知識／テンポの制御／オートメーション	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
5.	オーディオの加工(波形レベルでの編集)	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
6.	MIDIの知識／GM準拠MIDIファイル作成	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
7.	初歩的な音楽理論(3)音階、調性／ドラムセットの知識／リズムパターン作成	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
8.	オーディオ素材とテンポの整合／楽器用アンプの役割／ミックス	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
9.	シンセサイザーの主な構成要素／音色合成の基本	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
10.	オーディオ素材からテンポを検出する／ピッチ制御／ヴォコーダーの原理と活用	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
11.	生演奏録音素材のミックス／エフェクト(EQ,Comp,Gate,Reverb)の活用	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
12.	効果音の処理(音量、定位、音質、残響の制御による、映像と音の同期)	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。
13.	作品制作に関して説明／MA(ナレーション、効果音、音楽のミックス)	予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立ててください。

14. 三次元音響／サラウンド／仮想サラウンドミックス
15. ラウドネス運用基準／MIDIによる映像の制御
(Quartz Composer 概要)

予習(事前準備)は特に必要ありませんが、前回までの配布資料で、それまでの要点を再確認しておくとい良いでしょう。資料は全てブラウザで閲覧する方式です。重要な説明、ソフトの操作方法などは動画にして組み込んであるので、復習に役立てて下さい。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

毎回、授業内で作成したファイルを提出してもらい、これによって出席、及び授業への参加度を確認し、成績評価に用います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と提出物	85%	授業を理解し、技術を活用できたかを評価します。
作品制作	15%	到達目標の達成度を総合的に評価します。

教科書: 指定しない

参考書: 特に無し

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

Eメール(mkato@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	音の表現		
授業の概要:	サウンドデザインBでは、コンピュータを使用した音の編集技術の基礎を学び、作品制作を通して、音の表現／音のデザインについて学ぶ。また、一般的な音楽領域だけでなく、電子音響音楽やサウンドアートなどの領域をクロスしつつ、音の可能性を探求していく授業である。		
到達目標:	① 「音の表現」の歴史・文化的背景や可能性に関する知識を修得すること。 ② 「音の表現」の技能・能力を修得すること。		
授業方法:	講義とコンピュータを使用した演習を行う。(5:5の割合の予定) また講義・演習の中でディスカッションをおこなう。 1～2回、8～10回は講義をおこなう。他の回は演習を中心におこなう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. ガイダンス サウンドデザインとは何か？		予習: 音の表現とは何か、自分なりの考えをまとめておくこと。
	2. そもそも音楽とは何か？～音楽の受容と嗜好の変遷～		予習: 好きな音楽をまとめておくこと。復習: 好きな音楽の歴史・文化的背景を考察すること。
	3. 演習: サウンドロゴの制作 DAWと音声合成ソフトを用いて		予習: サウンドロゴとは何かを調べておくこと。
	4. 演習: サウンドロゴの制作 DAWと音声合成ソフトを用いて		復習: 自分が制作した作品、他学生の作品をよく聴くこと。
	5. 公共空間のサウンドデザインについて ～音のサイン、BGM、環境音楽～		予習: 身の回りの音を意識して聴くこと。復習: 情報・メッセージを解りやすく伝えるためには、どういう工夫が必要か考察すること。
	6. 演習: 公共空間のサウンドデザイン～音のサイン～		予習: 身の回りのサイン音をよく聴くこと。
	7. 演習: 公共空間のサウンドデザイン～音のサイン～		復習: 自分が制作した作品、他学生の作品をよく聴くこと。
	8. サウンドスケープについて		予習: 自分にとって心地の良い音／音環境とはなにか考察しておくこと。
	9. 電子音響音楽について ～ミュージックコンクレート、ラジオドラマ、サウンドアート～		復習: 電子音響音楽について更に自分で調べてみること。
	10. 電子音響音楽から効果音への応用		予習もしくは復習: 映画・TV等を観た際に、効果音を意識して聴くこと。
	11. 演習: 効果音的音響作品の制作		復習: 制作途中の作品をよく聴くこと。
	12. 演習: 効果音的音響作品の制作		復習: 自分が制作した作品、他学生の作品をよく聴くこと。
	13. 演習: 最終課題 オリジナル作品の制作		復習: 制作途中の作品をよく聴くこと。
	14. 演習: 最終課題 オリジナル作品の制作		復習: 制作途中の作品をよく聴くこと。
	15. 演習: 最終課題制作～最終課題作品提出 発表～		復習: 自分が制作した作品、他学生の作品をよく聴くこと。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	制作した作品に対してコメントする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	60%	積極的に授業に参加し、到達目標①を評価する。
	課題制作発表	40%	作品制作発表で、到達目標②を評価する。
教科書:	コピーにてオリジナル資料配布		
参考書:	授業時に紹介		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	Eメール (mail@neus318.com)、授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

写真表現の基礎知識と多様性を学ぶ

授業の概要:

機材の基本操作から、多岐にわたる写真表現を学び、制作者の立場で写真を体感する。主に授業前半では技術を、後半では表現力を磨く。

- 到達目標:
- ・デジタル一眼レフカメラの基本操作
 - ・表現内容に適した撮影
 - ・基本的なスタジオライティング
 - ・画像編集の基礎知識
 - ・写真表現の多様性を学習
 - ・写真を使った自己表現力の向上
 - ・写真表現物に対する自己の見解を言葉にする

授業方法:

撮影に使用するカメラは大学の貸出し用デジタル一眼レフ、もしくは各自所有のものを使用。個人、または演習室のパソコンを使用して画像編集と作品集編集を行います。テーマに即して完成した作品を授業最終日に合評形式でプレゼンテーションします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	写真を使った表現について、初回から簡単なグループワークをしてもらいます。
2.	撮影基礎知識1	参考文献などに目を通しておくことでより深い理解が得られるでしょう。
3.	撮影基礎知識2	参考文献などに目を通しておくことでより深い理解が得られるでしょう。
4.	スタジオ撮影1	スタジオライティングによる人物撮影。光線の方向、質について学びます。
5.	画像編集基礎および講評1	ここまで撮影したデータをチェックしておいてください。
6.	スタジオ撮影2	スタジオライティングによる静物撮影。被写体となるものを持参してください。
7.	画像編集基礎および講評2	ここまで撮影したデータをチェックしておいてください。
8.	写真表現の多様性について	9から取り組むテーマ制作のための心づもりしておくとうまい。
9.	テーマ制作、表現について	テーマ制作のために、取り組む予定のテーマについて心づもりしておくとうまい。
10.	写真表現 テーマ撮影1	各自の撮影に必要な段取り(ロケハンや協力者への依頼等)をしておきましょう。
11.	写真表現 テーマ撮影2	各自の撮影に必要な段取り(ロケハンや協力者への依頼等)をしておきましょう。
12.	画像編集 応用1	各自の表現内容に必要な画像編集技術など、質問したいことをまとめておきましょう。
13.	画像編集 応用2	各自の表現内容に必要な画像編集技術など、質問したいことをまとめておきましょう。
14.	画像編集 応用3	各自の表現内容に必要な画像編集技術など、質問したいことをまとめておきましょう。
15.	合評	出力や制作物のまとめ等、合評に向けた最終チェックをしつかりしておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業内で学習した技術は反復して使用することによって身につきます。またこの授業ではテーマ撮影の内容により、学外での撮影が必要と認められるものについて、授業時間外の撮影を課すことがあります。

フィードバックの方法:

課題制作物は合評時に採点し、基本的には当日返却を予定しています。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題作品	70%	撮影や編集の技術力と理解度、表現力により評価する。
	プレゼンテーション	10%	作品など成果発表時に自己表現力の度合いを評価する。
	授業への積極的参加度	20%	授業への積極的参加度 積極的に授業に参加し、写真表現物に対する自己の見解が述べられるか等を評価する。

教科書:

授業中に指示

参考書:

「写真図解でわかりやすい まりこ先生が教える イチバンやさしい写真の教室」
山本まりこ著 株式会社インプレス刊 1,300円 + 税

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	3DCG(静止画)の基礎的な知識、技術の習得。																																																		
授業の概要:	CGは視覚的に見えないものをコンピュータを使って可視化する技術です。視覚はコミュニケーションの重要な手段であり、情報を可視化できることはよりの確に情報を伝達することを可能にします。さまざまな情報を可視化するCGは重要な情報メディアのひとつといえるでしょう。 本科目では3DCG(3dimension Computer Graphics)に注目し、静止画における3DCGの基礎的な知識と技術を学ぶことを目標とします。実際に3DCGソフト(Maya)を使用し制作プロセスを実践的に学ぶことで、コンピュータを使ったビジュアライゼーションの幅を広げていきます。																																																		
到達目標:	1.3DCGの操作環境が理解できる。 2.モデリングができる。(ポリゴンオブジェクト、およびのコンポーネントの操作や加工ができる) 3.マテリアル、テクスチャ(プロシージャ、画像データ)の違いを理解、またUVテクスチャの設定ができる。 4.カメラやライトの設定ができる。 5.レンダラーなどの種類を把握し、静止画像のレンダリングができる。 6.企画書(課題目標)を作成し、課題制作が行える。																																																		
授業方法:	本科目は実技・実験・実習の授業形態となります。 3DCGソフト(Maya)を使用し、静止画における3DCGの基礎的な知識と技術の習得を目的とします。 授業の1～8回目までは、練習課題を通して3DCGの基礎的なスキルを学びます。 9回目以降は各自の企画書にもとづき課題作品を制作します。																																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th colspan="2">授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1.</td><td>オリエンテーション 基本環境とオブジェクト操作</td><td>3DCGソフトの基本環境とオブジェクト操作。</td></tr><tr><td>2.</td><td>モデリング1 プリミティブ図形によるモデリング</td><td>プリミティブ図形を組み合わせてモデリングを行う。</td></tr><tr><td>3.</td><td>モデリング2 ポリゴンモデルと加工1</td><td>ポリゴンモデルを加工する様々なツールを使う。</td></tr><tr><td>4.</td><td>モデリング3 ポリゴンモデルと加工2</td><td>コンポーネントの操作と加工するツールを使う。</td></tr><tr><td>5.</td><td>シェーディング1 マテリアル</td><td>マテリアル設定の流れをつかみ、パラメータの設定を行う。</td></tr><tr><td>6.</td><td>シェーディング2 テクスチャ</td><td>プロシージャと画像データの設定。</td></tr><tr><td>7.</td><td>シェーディング3 UVマッピング</td><td>UVマッピングで画像データを貼り付ける。</td></tr><tr><td>8.</td><td>ライト/シャドウ/カメラ</td><td>カメラやライティング設定で魅力的な構図をつくる。</td></tr><tr><td>9.</td><td>課題制作</td><td>各自の企画書にもとづき課題制作に取り組む。</td></tr><tr><td>10.</td><td>課題制作</td><td></td></tr><tr><td>11.</td><td>課題制作</td><td></td></tr><tr><td>12.</td><td>課題制作</td><td></td></tr><tr><td>13.</td><td>課題制作</td><td></td></tr><tr><td>14.</td><td>レンダリング</td><td>静止画のレンダリングを行う。</td></tr><tr><td>15.</td><td>課題制作</td><td></td></tr></table>	授業内容		準備学習等の内容	1.	オリエンテーション 基本環境とオブジェクト操作	3DCGソフトの基本環境とオブジェクト操作。	2.	モデリング1 プリミティブ図形によるモデリング	プリミティブ図形を組み合わせてモデリングを行う。	3.	モデリング2 ポリゴンモデルと加工1	ポリゴンモデルを加工する様々なツールを使う。	4.	モデリング3 ポリゴンモデルと加工2	コンポーネントの操作と加工するツールを使う。	5.	シェーディング1 マテリアル	マテリアル設定の流れをつかみ、パラメータの設定を行う。	6.	シェーディング2 テクスチャ	プロシージャと画像データの設定。	7.	シェーディング3 UVマッピング	UVマッピングで画像データを貼り付ける。	8.	ライト/シャドウ/カメラ	カメラやライティング設定で魅力的な構図をつくる。	9.	課題制作	各自の企画書にもとづき課題制作に取り組む。	10.	課題制作		11.	課題制作		12.	課題制作		13.	課題制作		14.	レンダリング	静止画のレンダリングを行う。	15.	課題制作			
授業内容		準備学習等の内容																																																	
1.	オリエンテーション 基本環境とオブジェクト操作	3DCGソフトの基本環境とオブジェクト操作。																																																	
2.	モデリング1 プリミティブ図形によるモデリング	プリミティブ図形を組み合わせてモデリングを行う。																																																	
3.	モデリング2 ポリゴンモデルと加工1	ポリゴンモデルを加工する様々なツールを使う。																																																	
4.	モデリング3 ポリゴンモデルと加工2	コンポーネントの操作と加工するツールを使う。																																																	
5.	シェーディング1 マテリアル	マテリアル設定の流れをつかみ、パラメータの設定を行う。																																																	
6.	シェーディング2 テクスチャ	プロシージャと画像データの設定。																																																	
7.	シェーディング3 UVマッピング	UVマッピングで画像データを貼り付ける。																																																	
8.	ライト/シャドウ/カメラ	カメラやライティング設定で魅力的な構図をつくる。																																																	
9.	課題制作	各自の企画書にもとづき課題制作に取り組む。																																																	
10.	課題制作																																																		
11.	課題制作																																																		
12.	課題制作																																																		
13.	課題制作																																																		
14.	レンダリング	静止画のレンダリングを行う。																																																	
15.	課題制作																																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	各自の課題作品の企画、制作に結びつけられるように授業の復習をこころがけて下さい。 ※使用ソフトはアカウント登録することで、サイトからダウンロード可能です。																																																		
フィードバックの方法:	企画書:教室で解説します。 課題作品:教室で解説します。 ※提出物はデータ提出になりますので、返却しません。																																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>企画書</td><td>20%</td><td>到達目標を踏まえた目的を設定しているかを基準とします。</td></tr><tr><td>課題作品</td><td>60%</td><td>到達目標を踏まえた制作ができているかを基準とします。</td></tr><tr><td>受講態度</td><td>20%</td><td>授業に参加し、到達目標を順次蓄積できているかを評価します。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	企画書	20%	到達目標を踏まえた目的を設定しているかを基準とします。	課題作品	60%	到達目標を踏まえた制作ができているかを基準とします。	受講態度	20%	授業に参加し、到達目標を順次蓄積できているかを評価します。																																						
評価方法	割合	評価基準																																																	
企画書	20%	到達目標を踏まえた目的を設定しているかを基準とします。																																																	
課題作品	60%	到達目標を踏まえた制作ができているかを基準とします。																																																	
受講態度	20%	授業に参加し、到達目標を順次蓄積できているかを評価します。																																																	
教科書:	適宜資料を配布します。																																																		
参考書:	田島キヨミ『Autodesk Mayaキャラクターモデリング造形力矯正バイブル』ボーンデジタル(2013) イマジカデジタルスケープ バウハウス・エンタテインメント・グループ『Autodesk Maya トレーニングブック 3』ワークスコーポレーション(2011) 田中憲二他『Autodesk Maya ビジュアルリファレンス 3』ワークスコーポレーション(2011)																																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、自己実現力																																																		
教員との連絡方法:	Eメール(smd0701k@gmail.com)、授業の前後に教室内で対応																																																		

授業テーマ: 3DCGアニメーションの表現技術の習得。

授業の概要: 3DCG(3dimension Computer Graphics)は印刷媒体、映像媒体、ゲームなどのエンターテインメントからアートまで、幅広く利用されています。そこでは技術力だけではなく豊かな表現力も重視されています。「CGデザインⅡ」では、「CGデザインⅠ」での基礎力をベースに、アニメーションの表現技術を学び、動画の表現力を養うことを目標とします。また3DCGソフトだけではなく、モーションキャプチャによるモーションデータを活用した動画作りも試みます。

到達目標：

1. キーフレームアニメーションが設定できる。
2. グラフエディタでアニメーションの調整ができる。
3. パスアニメーションを作成できる。
4. IKとFKの違いを理解し、ポーンを設定できる。
5. バインドとバインドの調整ができる。
6. HumanIKを利用して、モーションデータを設定できる。
7. 動画のレンダリングができる。
8. 企画書、絵コンテを作成し、課題制作を行える。

授業方法： 本科目は実技・実験・実習の授業形態となります。
3DCGソフト(Maya)を使用し、アニメーションの表現技術の習得を目的とします。
授業の1～8回目までは、練習課題を通してアニメーションの表現技術を学びます。
9回目以降は各自の企画書にもとづき課題制作に取り組み、3DCGアニメーションを制作します。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	HumanIKとモーションデータでキャラクターを動かす。
2.	キーフレームアニメーション	キーフレームアニメーションの基本設定と動きの調整。
3.	パスアニメーション	堅い物体と柔らかい物体をパスアニメーションで動かす。
4.	キャラクターモデリング	キャラクターモデリングのコツをつかむ。
5.	キャラクターUVマッピング	UVマッピングでキャラクターの顔などを張り付ける。
6.	ジョイントとスケルトン(ボーン)/HumanIK	IKとFKを理解し、キャラクターにボーンを設定する。
7.	バインド/歩行アニメーション	キャラクターとボーンのバインド調整。キーフレームで歩行させる。
8.	HumanIK/モーションデータ	HumanIKとモーションデータでキャラクター動かし、バイクする。
9.	課題制作	各自の企画書、絵コンテにもとづき課題制作に取り組む。
10.	課題制作	
11.	課題制作	
12.	課題制作	
13.	課題制作	
14.	レンダリング	動画のレンダリングを行う。
15.	課題制作	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 企画・絵コンテ:教室で解説します。
課題作品:教室で解説します。
※提出物はデータ提出になりますので、返却しません。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	企画・絵コンテ	20%	到達目標(1, 2)か(2, 3)か(4, 5, 6)のいずれかを踏まえた目的を設定しているかを基準とします。
	課題作品	60%	到達目標(1, 2)か(2, 3)か(4, 5, 6)のいずれか、および(7, 8)を踏まえた制作ができたかを基準とします。
	受講態度	20%	授業に参加し、到達目標を順次蓄積できているかを評価します。

教科書： 適宜資料を配布します。

参考書:

- Kenny Roy他『Maya キャラクターアニメーション -How to Cheat in Maya 日本語版』ボーンデジタル (2014)
- Jahirul Amin他『MAYA キャラクタークリエーション -プロが教えるフォトリアル人体制作術』ボーンデジタル (2016)
- Eric Keller他『Mayaビジュアルエフェクト -Maya Visual Effects The Innovator's Guide Second Edition 日本語版』ボーンデジタル (2014)
- 北田 栄二『Maya実践ハードサーフェスモデリング:プロップと背景から学ぶワークフロー (CG Pro Insights) 』ボーンデジタル (2015)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

教員との連絡
方法： Eメール(smd0701k@gmail.com)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

マルチメディアゲームの企画立案、プロトタイプ制作とプレゼンテーション

授業の概要:

授業内では主にゲームに関する講義と、Flashの導入部分を中心にレクチャーします。特に授業計画7以降は、プロトタイプを完成させるために各自が企画した内容に基づき、書籍及びインターネット上の資料、サンプルなどを授業外でリサーチしてください。授業内では進捗を見ながら授業外で学習しきれなかった点を重点的にレクチャーします。

到達目標:

・マルチメディアゲームの制作に必要な技術／知識の範囲の理解

・マルチメディアゲームの制作に対する意欲

・コンテンツを企画立案する技能・能力

授業方法:

2:演習

演習室およびメディアサポートセンターの機材を利用した実習となります。コンピュータなどは基本的に演習室のものを利用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	オリエンテーションで紹介した周辺情報をリサーチすること
	2. Flashによるゲーム制作基礎(マウス／キーボードインタラクション)	授業ないで紹介したプログラムを復習すること
	3. Flashによるゲーム制作基礎(アニメーション／文字表示)	授業ないで紹介したプログラムを復習すること
	4. Flashによるゲーム制作基礎(音声／BGM再生)	授業ないで紹介したプログラムを復習すること
	5. Flashによるゲーム制作基礎(ヒットテストと分岐)	授業ないで紹介したプログラムを復習すること
	6. Flashによるゲーム制作基礎(調整／デバッグ)	企画立案をしていくこと
	7. ミニゲームの作成	ミニゲームを企画立案し、形にすること
	8. ミニゲームの講評	他者のアイデアや方法を復習すること
	9. ゲームの企画立案(立案)	企画立案をしていくこと
	10. オリジナルゲームのプロトタイプ制作	オリジナルゲームの制作を進めておくこと
	11. オリジナルゲームのプロトタイプ制作(中間チェック)	オリジナルゲームの制作を進めておくこと
	12. オリジナルゲームのプロトタイプ制作	オリジナルゲームの制作を進めておくこと
	13. オリジナルゲームのプロトタイプ制作	オリジナルゲームの制作を進めておくこと
	14. オリジナルゲームのプロトタイプ制作	オリジナルゲームの制作を進めておくこと
	15. プレゼンテーション(実演／講評)	他者のアイデアや方法を復習すること

受講者へのメッセージやアドバイス:

好奇心を持って授業に参加してください。

フィードバックの方法:

授業内で講評会を行い、学生間の作品のアイデアや方法を共有できるようにします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間のミニゲームの発表	50%	必要な技術／知識の範囲の理解度の評価
	最終のオリジナルゲームの発表	50%	コンテンツを企画立案する技能・能力の評価
			2回以上の無断欠席、あるいは最終プレゼンテーションに不参加の場合は原則単位取得を認めません。

教科書:

なし

参考書:

授業内で紹介します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール(mashimo@seian.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

現代社会を、美術表現を通して形成される思考によって捉える、現代美術理解。

授業の概要:

20世紀は美術において最も大きな変革のあった時代といわれています。この授業では主に第二次世界大戦以後から現在までの美術を概観し、社会現象に対する反映概念によって生み出される今日の表現や行為、表象について考察します。

到達目標:

後期印象派から現在の美術表現までを旅するものと考えて下さい。また、現代美術の展覧会鑑賞、写真作品制作を通して自身の眼と感性によって理解を深め、現代美術の良き理解者であるとともに、今日の美術(あるいはアート)を楽しめる存在になって欲しいと考えます。

授業方法:

スライドを使った講義を中心に行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスを良く読んで、質問がある場合は準備をしてきて下さい。
2.	20世紀美術の冒険	ゴッホ、セザンヌ、エルンスト、マグリットについて下調べをしてきて下さい。
3.	ポスト印象派からシュルレアリスムまで	抽象表現主義の概念を下調べしておいてください。
4.	ジャクソン・ポロックと抽象表現主義	ジャコモッティの絵画と彫刻作品を良く見ておいてください。
5.	戦後アメリカ美術(デ・クーニング、マーク・ロスコ他)	2人の作品を画集やネットの画像でよく見ておいて下さい。
6.	アルベルト・ジャコモッティと戦後ヨーロッパ美術(ジャン・デュビュッフエ、イヴ・クライン他)	1970年代のアメリカの消費社会について下調べをしてきてください。む
7.	対話型鑑賞	アース・ワーク、ランド・アートの概念について下調べしてきてください。
8.	ホロックとジャコモッティの作品を鑑賞します	「もの派」について調べてみてください。
9.	アンディ・ウォーホルとポップ・アート	リレーショナル・アートについて下調べをしてきてください。
10.	消費文化と大衆性	縄文文化について調べておいてください。
11.	美術館からの逃走	伊藤若冲の絵をよく見ておいてください。
12.	アース・ワーク、ランド・アートの世界	写真や映像表現で、興味のある作家がいたら調べてみてください。
13.	クリスト&ジャンヌ＝クロードを中心に	小テストはこれまでの授業の振り返りです。
14.	1970年以後の日本現代美術	興味のあったもの二つを選び、調べ直しておいて下さい。
15.	「物質と非物質」をテーマに	写真課題はこの授業時間に撮るか、既に撮影したものを提出して下さい。
	リレーショナル・アートの現在(北茨城芸術祭、愛知トリエンナーレ他)	自身の作品について話せるように準備してきてください。
	縄文と現代-比較芸術論の視点で	これまでの授業を振り返るとともに、芸術の、あるいはアートの社会的機能とは何かという問題に少し触れたいと考えています。
	可愛い系の系譜	
	伊藤若冲から奈良美智、そして初音ミクまで	
	写真・映像表現の現在(やなぎみわ、杉本博司他)	
	小テスト	
	写真課題「私と世界」	
	「私と世界」写真作品紹介	
	これまでの14回の授業の総括として、現代における美術の可能性について触れたいと思います。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

展覧会をたくさん見て、本物の作品に触れてください。眼も心も豊かになると思います。

フィードバックの方法:

授業中にまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	鑑賞レポート	30%	自身の眼で見て捉えた言葉でレポートが書かれているかが評価のポイントです。
	写真作品	30%	作品として評価します。
	小テスト	20%	講義内容が正確に伝わっているかが判断基準です。
	振り返りシート	20%	毎授業を自身の言葉で言語化できているかの確認です。

教科書:

なし

参考書:

授業時に適時知らせます。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

okamoto@kuad.kyoto-art.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 私たちの日常・非日常の生活や価値観、消費行動などに作用する「文化の仕掛け」のうち、「楽しさ」をめぐる場に注目して読み解きます。日本の現代都市におけるアミューズメント空間として定着し、今では身近な存在として発展した異文化由来のテーマパークを中心に、それらが発展してきた背景、空間構造や演出、ビジネスの仕組み等、さまざまな仕掛けについて事例分析を行いながら、多角的な文化分析の視点を養います。

到達目標: 現代都市の日常・非日常をめぐるメディアの時空間における「楽しさ」の仕掛けを読み解くことをねらいとします。これまで身近なものとして無意識に接してきた事象や空間に隠された深い意味に気づき、メディアや社会を新たな視点から総合的に理解することがこの授業の目標です。

授業方法: 講義形式のみならず、トピックに関連する課題について、個人およびグループによる授業内ディスカッションや論述課題などの作業なども取り入れた授業を行う予定。併せて、映像資料の視聴や画像資料参照などを積極的に活用して課題の提示と実施を行い、要点理解を深めます。解説等は、パソコンとプロジェクターを使用したプレゼンテーションを中心に進めるので、適宜ノートを取り、重要な論点を把握して課題に取り組んで下さい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション:授業概要や進め方等について	授業概要の事前理解
	2. 現代都市の消費文化やメディアに関する基礎概念および分析視点について	文化をめぐる様々なトピックの予備知識獲得
	3. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(1)問題提起・出題	トピックとなる事例についての事前学習①
	4. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(1)分析・討論	出題された課題についての資料収集と討論準備①
	5. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(1)解説	事例についてのさらなる情報収集と理解、分析。解説を理解するための予備知識の獲得①
	6. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(2)問題提起・出題	トピックとなる事例についての事前学習②
	7. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(2)分析・討論	出題された課題についての資料収集と討論準備②
	8. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(2)解説	事例についてのさらなる情報収集と理解、分析。解説を理解するための予備知識の獲得②
	9. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(3)問題提起・出題	トピックとなる事例についての事前学習③
	10. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(3)分析・討論	出題された課題についての資料収集と討論準備③
	11. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(3)解説	事例についてのさらなる情報収集と理解、分析。解説を理解するための予備知識の獲得③
	12. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(4)問題提起・出題	トピックとなる事例についての事前学習④
	13. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(4)分析・討論	出題された課題についての資料収集と討論準備④
	14. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間についての事例分析(4)解説	事例についてのさらなる情報収集と理解、分析。解説を理解するための予備知識の獲得④
	15. 現代都市の娯楽文化をめぐる時空間:まとめと今後の展望	これまで得た知識の総合的な理解と復習

受講者へのメッセージやアドバイス: 日々変転する実社会の状況やメディアの発展についての探求を行うため、毎回授業内外での調査や考察課題を設定する予定です。受講者は指示に従い、個人やグループでの活動を通して具体的な分析課題について積極的に取り組むことが求められます。

フィードバックの方法: 授業時および授業外に必要なに応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業内での活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
	授業外での活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
	各種課題	約30%	随時指示する調査、レポート提出など各種課題やタスクの遂行
	その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業時に連絡します。その他必要に応じて適宜指示します。

授業テーマ:

授業の概要: 私たちは日々の生活のなかでいつもコミュニケーションをとっている、あるいはとろうとしている。こうしたコミュニケーションのなかで、通常、私たちは、人間同士が互いに考えや気持ちを理解しあい、うまくいくコミュニケーションを「よい」とみなし、「わかりあう」コミュニケーションとして積極的な意味をみいだす。反対に、考えや気持ちの理解が不十分で、うまくいかないコミュニケーションを「よくない」とみなし、「わかりあおうとしない」コミュニケーションとして消極的に判断する。よって、私たちは、「わかりあうのがよいコミュニケーションである」と思いこみ、「わかりあおうとしない、よくないコミュニケーション」を切り捨てようとしているのではないであろうか。

しかしながら、コミュニケーションとはそのような一面的なものではなく、「わからない」を軸として、うまくいくコミュニケーションとうまくいかないコミュニケーションをどちらも含み込む多様な、豊かなものである。そして、そうしたコミュニケーションの集まりが、社会を形成するのである。

本授業は、様々なコミュニケーションの具体例をあつかいながら、うまくいくコミュニケーションとうまくいかないコミュニケーションを包括する豊かなコミュニケーションを理解し、現在のコミュニケーションのあり方を批判的に問う力を養う。

到達目標: コミュニケーションについて理解を深めること
現在のコミュニケーションのあり方を批判的に問う力を養う

授業方法: 講義を中心とする。ただし、コミュニケーションの具体的な事例を多数あつかうので、それらに関する映像や音の資料を必要に応じて提示する。また受講生が能動的に講義へ参加できるよう、受講生が発言し、ディスカッションを行う機会を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	うまくいくコミュニケーションとうまくいかないコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
2.	対話というコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
3.	遊戯としてのコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
4.	儀礼演技としてのコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
5.	パラドックスとしてのコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
6.	接続としてのコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
7.	権力としてのコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
8.	恋愛というコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
9.	笑いというコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
10.	友愛というコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
11.	家族というコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
12.	いじめとフラット化するコミュニケーション(1)	参考文献の該当箇所を精読すること
13.	いじめとフラット化するコミュニケーション(2)	参考文献の該当箇所を精読すること
14.	非生命体とのコミュニケーション	人工知能やロボットなどの新聞記事を読んでおくこと
15.	優しい関係、コミュニケーション	これまでの配布資料の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート	60	コミュニケーションについての理解度、および現代のコミュニケーションにたいする批判的な視点の有無を基準に評価する
	授業のまとめの提出	20	コミュニケーションについての理解度を基準に評価する
	授業への参加度	20	現代のコミュニケーションにたいする批判的な視点の有無を基準に評価する

教科書:

参考書: 長谷正人・奥村隆編『コミュニケーションの社会学』、有斐閣アルマ、2009年
西村大志・松浦雄介編『映画は社会学する』、法律文化社、2016年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:	写真史・写真論																																
授業の概要:	写真の登場から現代にいたるまで表現や利用方法の変遷を追いつつ、それぞれの時代における社会との関係を文化論的な視点から考察する。写真作品をつくることが目的ではないので注意すること。																																
到達目標:	・写真について基本的な歴史や理論を知ること ・写真と社会や文化との関係について考察すること ・私たちの身の回りの写真について批判的に考察すること																																
授業方法:	スライドとレジュメを中心に授業を進めます。																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. イントロ:授業の進め方</td><td>シラバスの確認</td></tr><tr><td>2. 写真前史と写真の登場</td><td>授業内で紹介した参考文献の確認</td></tr><tr><td>3. 初期写真(1)</td><td>レジュメや参考文献の確認</td></tr><tr><td>4. 初期写真(1)</td><td>レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認</td></tr><tr><td>5. 19世紀の写真(1)</td><td>レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認</td></tr><tr><td>6. 19世紀の写真(2)</td><td>レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認</td></tr><tr><td>7. 授業内小テスト(1)</td><td>キーワードを中心に、これまでの授業内容の復習</td></tr><tr><td>8. 写真と科学</td><td>レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認</td></tr><tr><td>9. 身体と写真</td><td>レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認</td></tr><tr><td>10. 報道写真</td><td>レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認</td></tr><tr><td>11. 広告写真</td><td>レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認</td></tr><tr><td>12. 授業内小テスト(2)</td><td>キーワードを中心に、これまでの授業内容の復習</td></tr><tr><td>13. モダニズム写真</td><td>レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認</td></tr><tr><td>14. ポストモダニズム写真</td><td>レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認</td></tr><tr><td>15. デジタル写真と表現</td><td>レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. イントロ:授業の進め方	シラバスの確認	2. 写真前史と写真の登場	授業内で紹介した参考文献の確認	3. 初期写真(1)	レジュメや参考文献の確認	4. 初期写真(1)	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認	5. 19世紀の写真(1)	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認	6. 19世紀の写真(2)	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認	7. 授業内小テスト(1)	キーワードを中心に、これまでの授業内容の復習	8. 写真と科学	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認	9. 身体と写真	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認	10. 報道写真	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認	11. 広告写真	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認	12. 授業内小テスト(2)	キーワードを中心に、これまでの授業内容の復習	13. モダニズム写真	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認	14. ポストモダニズム写真	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認	15. デジタル写真と表現	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認
授業内容	準備学習等の内容																																
1. イントロ:授業の進め方	シラバスの確認																																
2. 写真前史と写真の登場	授業内で紹介した参考文献の確認																																
3. 初期写真(1)	レジュメや参考文献の確認																																
4. 初期写真(1)	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認																																
5. 19世紀の写真(1)	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認																																
6. 19世紀の写真(2)	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認																																
7. 授業内小テスト(1)	キーワードを中心に、これまでの授業内容の復習																																
8. 写真と科学	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認																																
9. 身体と写真	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認																																
10. 報道写真	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認																																
11. 広告写真	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認																																
12. 授業内小テスト(2)	キーワードを中心に、これまでの授業内容の復習																																
13. モダニズム写真	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認																																
14. ポストモダニズム写真	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認																																
15. デジタル写真と表現	レジュメや参考文献、授業内で紹介した作家や作品の確認																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	写真は19世紀以降、芸術としてに限らず、さまざまなかたちで応用されてきました。この授業では社会や科学、芸術において、写真がいかに利用されてきたのかを学び、そのことが現在の写真理解に何をもたらすのかについて考えます。授業内で紹介する参考図書や展覧会、作品などを積極的に参照するようにしてください。																																
フィードバックの方法:	授業内でおこないます。																																
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																														
「成績評価基準」:	授業内小テスト	50	授業内容を理解できているかを確認する																														
	期末レポート	30	授業で学んだことを応用できるかを確認する																														
	授業への参加態度	20	適宜、アンケートやペーパーを回収する																														
教科書:																																	
参考書:	多木浩二、『写真論集成』、岩波現代文庫 西村清和、『視線の物語・写真の哲学』、講談社選書メチエ																																
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力																																
教員との連絡方法:	授業の前後、メールなど																																

授業テーマ:	文字、テキスト、次世代メディア、そして人間		
授業の概要:	従来のテキスト・メディアはデジタル化されることによって、多次元的な再利用と加工とを可能にした。それは、現代社会における基礎的情報概念とコミュニケーションとに一大変革を迫ることになった。本講義においては、今日に至るメディア文化の歴史の変遷の過程をたどり、高度情報化社会の現状と将来を展望したい。代表的な学説史を紹介しながら、メディア的視点による文化史の再構築を試論的に論じる。あわせて情報化が社会にもたらした影響とメディア文化史が理解した人間と社会に潜む基本的な問題についても考察する。		
到達目標:	人類史をメディア文化の視点から総合的に考察するので、受講者には幅広い知的関心が求められる。歴史の把握は同時に次世代への展望に繋がることを理解することを到達目標とする。最終的には、今日的課題である情報とモラルの関係についても本質的な検討を加えたい。		
授業方法:	講義形式を基本とする。受講者数との関係で可能であれば、一部には少人数によるグループ討議なども導入する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. メディアとは何か ー課題と概要ー	事前配布の資料などを手がかりに、メディアの歴史的起源についての関心を整理しておくこと。	
	2. 図像と文字の歴史	事前配布の資料などを手がかりに、メディアの歴史的起源についての関心を整理しておくこと。	
	3. 音声の文化と文字の文化	事前配布の資料などを手がかりに、メディアの歴史的起源についての関心を整理しておくこと。	
	4. 文字文化の影響	事前配布の資料などを手がかりに、メディアの歴史的起源についての関心を整理しておくこと。	
	5. 口碑、碑文から写本へ	事前配布の資料などを手がかりに、写本メディアについての歴史的関心を整理しておくこと。	
	6. 写本と社会	事前配布の資料などを手がかりに、写本メディアについての歴史的関心を整理しておくこと。	
	7. グーテンベルクの衝撃	事前配布の資料などを手がかりに、印刷メディアの展開と影響についての歴史的関心を整理しておくこと。	
	8. 印刷メディアと近代社会の誕生	事前配布の資料などを手がかりに、印刷メディアの展開と影響についての歴史的関心を整理しておくこと。	
	9. メディアとしての言語	事前配布の資料などを手がかりに、印刷メディアの展開と影響についての歴史的関心を整理しておくこと。	
	10. 翻訳言語と文化・社会	事前配布の資料などを手がかりに、印刷メディアの展開と影響についての歴史的関心を整理しておくこと。	
	11. マス・メディアの誕生	事前配布の資料などを手がかりに、新聞、テレビ、ラジオなどの歴史的影響について関心を整理しておくこと。	
	12. 電子メディアの革新性	事前配布の資料などを手がかりに、新聞、テレビ、ラジオなどの歴史的影響について関心を整理しておくこと。	
	13. 現代メディアの課題	事前配布の資料などを手がかりに、高度情報化社会が内包する諸問題についての関心を整理しておくこと。	
	14. メディア文化による人類史とは	メディア文化史的視点の特質について論点を整理しておくこと。	
	15. まとめ	全回の講義について、総合的に復習をし、疑問点を整理しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義において紹介する文献や事象についてはできるだけ追跡をし、とくに関連する文献については複数冊を読了すること。毎回の復習を中心とした準備学習を継続して欲しい。		
フィードバックの方法:	毎回のコメントシートに寄せられた感想と質問を中心に翌週の授業で共有し、応答する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	55%	「授業の概要」および「到達目標」として設定されている事項についての理解度を中心に評価する。
	授業への参加度	45%	毎回の出席とコメントシートへの積極的記入によって評価するが、多数の受講生が予測されるため、小グループでの討議は評価対象とはしない。
教科書:	多岐にわたる内容であるので、教科書はしていないが、参考文献などは教室において指示する。		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、洞察力		
教員との連絡方法:	直接またはE-mail E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

相手の心に届く声の作り方やし方を知ること、女性として魅力的な話し方や伝え方を身につけましよう。

授業の概要:

伝えたいことを相手に伝えるために、声のトーンやスピード、抑揚や間の取り方などを工夫すると、伝える力はみるみる身に付きます。身体は声を奏でる楽器。自分にしか出せない良い声が誰にでもあります。呼吸法や発声法の基礎から朗読、スピーチまで、実践的に楽しく学んでいけるようなカリキュラムを用意しています。人前で話すことが苦手だという方には、緊張といかに付き合うかという「あがり症」対策もお教えします。元朝日放送のアナウンサーであり、現在は臨床心理士として社交不安の高いクライアントのカウンセリングも務める講師の経験や知識を活かして、「就活面接の受け応えに役立てたい」「将来プレゼンテーションが得意になるように備えたい」「同性とも異性とも会話を楽しめるようになりたい」「プロの喋り手を目指したい」など、多種多様な学生たちのニーズに応じていきたいと思っています。

到達目標:

声を出すことに意識を持って取り組むことで、自分自身の声の可能性やコミュニケーションの新たな魅力を発見する。

授業方法:

実践的、体験的なエクササイズを通して、基礎からステップを踏んで伝える力や聴く力を身につけていきます。講義と演習、スピーチの達人たちの映像を見ながらのディスカッションなど、五感をフルに使ってもらいながら授業を進めていきたいと考えています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、自己紹介	
	2. 魅力的な声の作り方(1) 呼吸法、腹式呼吸、リラクセーション技法	腹式呼吸の練習
	3. 魅力的な声の作り方(2) 自分だけの良い声を見つける	
	4. 魅力的な声の作り方(3) 発声法、滑舌	滑舌の練習
	5. 朗読(1) 意味をつかむ <ミニテスト①>	
	6. 心に響く話し方(1) 話すことの基本、ボディランゲージ	
	7. 心に響く話し方(2) 抑揚、間の取り方、伝えたいことを伝えるための技術	
	8. 心に響く話し方(3) シチュエーションに合わせた伝え方	
	9. 朗読(2) 正確に音読する <ミニテスト②>	
	10. 人生が変わるコミュニケーション術(1) 話を弾ませるための傾聴、あいづち	
	11. 人生が変わるコミュニケーション術(2) アサーション・信頼を育むための自己主張の技術	
	12. 人生が変わるコミュニケーション術(3) 失敗を乗り越える方法、感情コントロール	
	13. 朗読(3) 情感を込める <ミニテスト③>	最終発表の原稿の準備
	14. 就活面接時の受け答え、自己PR、表情の作り方など	プレゼンテーションの練習
	15. 最終発表「プレゼンテーション」	

受講者へのメッセージやアドバイス:

人前で話すことに自信のない人、自分の声があまり好きじゃない人にも、出来るところからトライしていただければ結構です。是非参加してくださいね。これからの人生、話すことから逃れることはできません。どうせ逃れられないのなら、少しでもコミュニケーションを好きになれると楽しいことが一気に増えます。前向きにチャレンジしてみてください。

フィードバックの方法:

最終発表「プレゼンテーション」に関しては、各自の希望に応じて個別の講評を伝えます。連絡の方法などは授業時に提示させていただきます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加	60%	出欠、授業中の参加意欲などを評価
	平常筆記	30%	授業の振り返りを中心とした3回のミニテスト(10×3)
	発表	10%	最終発表「プレゼンテーション」の技術や内容の評価

教科書:

なし(授業中にレジュメを配布します)

参考書:

村田好夫著「アナウンス技術論」
NHK出版「日本語発音アクセント辞典」

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

tomomi1972426@gmail.com

授業テーマ:

デジタルアーカイブの目的と課題、ビジネス活用について考える。

授業の概要:

情報化の進展に伴い、ミュージアム、メディア、地域・自治体などのさまざまな分野でデジタルアーカイブの整備が進んでおり、その目的も、保存、公開から観光、ビジネスなどへ広がりがつつある。本授業では、デジタルアーカイブの推進役であるアーキビストとして要求される基礎的な知識の習得を目標として、デジタルアーカイブの構築に関する知識、デジタル化、画像処理などの情報処理技術を学習する。また、美術館、博物館、自治体、企業などのデジタルアーカイブの事例を通して、アーカイブの目的、課題、ビジネスへの活用について考える。

到達目標:

デジタルアーカイブの内容、目的、課題について理解し、説明できるようになる。
デジタルアーカイブ構築に必要な情報技術について理解し、説明できるようになる。
デジタルアーカイブの事例に興味・関心を持ち、新しいアーカイブについて考える意欲を持つ。

授業方法:	講義形式が主体の授業とするが、授業の中で各自の意見を求める。また、特定のテーマで1〜2回グループ討議を行う。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. デジタルアーカイブとは1（分野）	デジタルアーカイブの目的について考える
	3. デジタルアーカイブとは2（構築手順）	デジタルアーカイブの課題について考える
	4. デジタルアーカイブの構築（ハードウェア、ソフトウェア）	
	5. デジタル化の基礎知識	
	6. 画像処理技術の応用	
	7. 地理情報システム GISとは	
	8. デジタルアーカイブ事例1（ミュージアム）	ミュージアムの事例を調べる
	9. デジタルアーカイブ事例2（図書館 公文書館）	図書館の事例を調べる
	10. デジタルアーカイブ事例3（メディア）	メディアの事例を調べる
	11. デジタルアーカイブ事例4（地域・自治体）	地域・自治体の事例を調べる
	12. デジタルアーカイブ事例5（GIS）	GISの事例を調べる
	13. デジタルアーカイブ事例6（産業）	産業の事例を調べる
	14. これからのデジタルアーカイブ 総括	新しいアーカイブについて考える
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

質問、レポートに対するフィードバックは教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	デジタルアーカイブの理解度
	出席を含む授業への参加態度	50	欠席は減点 準備学習とグループ討議での態度、意欲

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

人間と超越性、その形と解釈

授業の概要:

本来、人間の次元を超越した宗教世界は不可視であるが、宗教をめぐる多様なメディアは、その見えないことを本質とする世界を表現してきた。極論すれば、宗教メディアは不可視を可視化することによって成立してきたのである。本クラスにおいては、文学、絵画、映画、音楽、漫画、アニメ作品などに描かれた不可視の世界を具体的に検証し、表現の特性と解釈の可能性について探求する。

到達目標:

宗教と無関係に成立したと思われるがちなメディアに内包された宗教的ロジックについても探求の対象とするが、事例研究を中心にするので、受講者には解釈における共同作業が求められる。最終的にはその共同的解釈の成果をクラス内で発表することが求められる。

授業方法:

講義形式だけではなく、授業期間の後半には参加者による分析作業とプレゼンテーション、グループと全体の討議などを導入し、総合的な学習ができるように配慮する。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム(マナビー)を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	メディアと宗教 －問題の発見－	配布資料などにより、メディアと宗教との類似的観点について整理しておくこと。
2.	遠近法の中の宗教的世界	配布資料などにより、キリスト教図像がどのような意味で読み解かれる可能性を有しているのかを考えてみる。
3.	キリスト教図像の場合－1	配布資料などにより、キリスト教図像がどのような意味で読み解かれる可能性を有しているのかを考えてみる。
4.	キリスト教図像の場合－2	配布資料などにより、仏教図像がどのような意味で読み解かれる可能性を有しているのかを考えてみる。
5.	仏教図像の場合	メディアアートの特性について関心を整理し、そこに宗教的思考との類似性が把握できないか検討してみる。
6.	メディアアートと宗教性	過去において視聴経験のあるアニメ作品の解釈について、論点を整理してみる。
7.	アニメ作人のなかの宗教性 －宮崎駿、新海誠の世界－	共同作業としての関心、課題、探求方法、プレゼンテーションまでの過程にどのように参加し得るのかについて準備する。
8.	プロジェクトによる探求	共同作業としての関心、課題、探求方法、プレゼンテーションまでの過程に積極的に参加し、プロジェクト内での貢献をはたすこと。
9.	プロジェクトによる探求	共同作業としての関心、課題、探求方法、プレゼンテーションまでの過程に積極的に参加し、プロジェクト内での貢献をはたすこと。
10.	プロジェクトによる探求	共同作業としての関心、課題、探求方法、プレゼンテーションまでの過程に積極的に参加し、プロジェクト内での貢献をはたすこと。
11.	プロジェクトによる探求	共同作業としての関心、課題、探求方法、プレゼンテーションまでの過程に積極的に参加し、プロジェクト内での貢献をはたすこと。
12.	宗教的思考のメディア表現 －その実際と解釈－	プロジェクト研究の成果発表の直前に、具体的な事例をクラス全体で検討する。プロジェクト研究における経験を踏まえて、メディアと宗教性についての関心を整理しておくこと。
13.	探求成果の発表(プレゼンテーション)	プロジェクト探求の成果を発表できるように準備しておくこと。
14.	探求成果の発表(プレゼンテーション)	プロジェクト探求の成果を発表できるように準備しておくこと。
15.	現代世界における宗教的表象のネットワーク	プロジェクト探求も含めて全回の総括的内容を講義するので、総合的な復習をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

担当者による講義のみではなく、プロジェクト研究を導入した授業となるので受講者には、他者と共同で新しいメディア解釈の可能性を探究しようとする高い意欲をもって参加して欲しい。また、「プロジェクトによる探求回」においては、各回の講義主題と受講者数との関係で変更することがあるが、随時、教室において指示する。

フィードバックの方法:

講義回においては、コメントシートに寄せられた感想と質問を中心に翌週の授業で共有し、応答する。また、プロジェクト探求においては、その都度の疑問や途中成果なども含めて随時クラス内で共有し、問題を解決したい。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加	45%	コメントシートへの積極的記入も含めて毎回の出席状況を中心に評価する。
	プロジェクト研究	55%	プロジェクトの成果およびプロジェクト内での貢献によって評価する。

教科書:

多岐にわたる内容であるので、とくに教科書は指定しない。参考文献は教室において指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力、洞察力

教員との連絡方法:

直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

家庭や小さなオフィス向けの小規模ネットワークの作り方

授業の概要:

本科目では、無線LAN(Wi-Fi)、スイッチ、ルータなどネットワーク機器の初歩的な操作方法、動作のしくみ、セキュリティ対策などを実際の機器を使った実習と講義を通して学びます。そして、家庭や小さなオフィス向けの小規模ネットワーク(LAN)を設計・構築・運営できる実践的な知識と技術を身につけます。

到達目標:

①【知識・理解】ネットワーク機器の初歩的な操作方法、動作のしくみ、セキュリティ対策などをTCP/IPプロトコルの知識と関連つけて説明できる。
②【関心・意欲・態度】ネットワークに関わる技術動向や社会問題に関心をもち、進んでそれらの情報を知ろうとする。
③【表現・技能・能力】無線LAN、スイッチ、ルータで構成される小規模ネットワークを構築できる。

授業方法:

授業は授業支援システム「マナビー」を使い、講義と実習を組み合わせるかたちで行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 情報ネットワークの復習	授業内容の理解を深める演習・実習課題
	2. ネットワークサービス:クライアントとサーバ(FTP,DNS,WWW)のやりとり	
	3. // :パケットを確実に高速に届けるプロトコル(TCP/UDP)	
	4. // :パソコン、スイッチ、サーバで構成されるLAN(ローカル・エリア・ネットワーク)を作る	授業内容の理解を深める演習・実習課題
	5. 無線テクノロジー:様々な無線通信テクノロジー、無線LANの基礎知識	
	6. // :無線LANのセキュリティ対策	
	7. // :第3回で作ったLANを無線LAN対応にアップグレードする	授業内容の理解を深める演習・実習課題
	8. 基本的なセキュリティ:ネットワークへの脅威	
	9. // :様々な攻撃方法とセキュリティ対策の基本	
	10. // :ファイアウォール	授業内容の理解を深める演習・実習課題
	11. ネットワーク機器の設定:ルータの基礎知識	
	12. // :ルータの初歩的な操作方法	
	13. // :パソコン、スイッチ、ルータで構成されるLANを作る	授業内容の理解を深める演習・実習課題
	14. // :ルータを使って離れたLAN同士をつなぐ	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

本科目は「情報ネットワーク」の続編であり実践編でもあります。「情報ネットワーク」を履修してもっと実践的な知識や技術を身につけたいと思った人や、進路としてIT系企業やネットビジネスをやっている企業への就職を考えている人はぜひ履修してください。
授業では毎回ノートパソコンを使用しますので、初回から持ってくるようにしてください。

フィードバックの方法:

ノートは採点后、コメントをつけて学科事務室にて返却します。
演習課題については必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	最終試験	40%	到達目標①の達成度を評価します。
	ノート	10%	到達目標②の達成度を評価します。
	演習・実習課題	20%	到達目標①③の達成度を評価します。
	実技課題	30%	到達目標③の達成度を評価します。実技課題の達成を単位を与える必要条件とします。
			※詳細についてはマナビーのコンテンツ「授業と学習の進め方」に掲載します。

教科書:

なし

参考書:

アンドリュー・S・タネンバウム『コンピュータネットワーク 第5版』日経BP社
竹下隆史『マスタリングTCP/IP 入門編 第5版』オーム社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	企業向けの小～中規模ネットワークの作り方																									
授業の概要:	「情報ネットワーク応用I」で学んだ知識・技術を基礎として、ルーティングやアドレッシングの知識、ルータやスイッチなどネットワーク機器の動作のしくみと操作方法、ネットワークの設計方法などを実際の機器を使った実習と講義を通して学びます。そして、企業向け中規模ネットワーク(LAN)の構築・運営・管理に必要な実践的な知識と技術の基礎を身につけます。																									
到達目標:	①【知識・理解】ルーティングやアドレッシングの知識、ルータやスイッチなどネットワーク機器の動作のしくみと操作方法、ネットワークの設計方法などをTCP/IPプロトコルの知識と関連づけて説明できる。 ②【関心・意欲・態度】ネットワークに関わる技術動向や社会問題に関心を持ち、進んでそれらの情報を知ろうとする。 ③【表現・技能・能力】スイッチ、ルータで構成される中規模ネットワークを構築できる。																									
授業方法:	授業は授業支援システム「マナビー」を使い、講義と実習を組み合わせるかたちで行います。																									
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 情報ネットワーク応用Iの復習</td><td rowspan="2">授業内容の理解を深める演習・実習課題</td></tr><tr><td>2. ルーティング: ルーティングテーブルからパケットの経路を決める手順</td></tr><tr><td>3. " : ルーティングの基礎、「静的ルーティング」を試してみる</td><td rowspan="3">授業内容の理解を深める演習・実習課題</td></tr><tr><td>4. " : 「動的ルーティング」を試してみる</td></tr><tr><td>5. " : ルーティングテーブル自動更新のしくみ</td></tr><tr><td>6. " : IPv4アドレスとサブネット化</td><td rowspan="3">授業内容の理解を深める演習・実習課題</td></tr><tr><td>7. " : IPv4アドレスの枯渇問題とIPv6</td></tr><tr><td>8. " : クラスレスルーティング</td></tr><tr><td>9. " : 中規模ネットワーク対応の「動的ルーティング」を動かす</td><td rowspan="2">授業内容の理解を深める演習・実習課題</td></tr><tr><td>10. " : 中規模ネットワーク対応の「動的ルーティング」を動かす(続き)</td></tr><tr><td>11. ネットワーク機器の管理: ルータの管理</td><td rowspan="4">授業内容の理解を深める演習・実習課題</td></tr><tr><td>12. " : スwitchの基本設定</td></tr><tr><td>13. WAN接続</td></tr><tr><td>14. ネットワークの設計</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>ノートまとめ</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 情報ネットワーク応用Iの復習	授業内容の理解を深める演習・実習課題	2. ルーティング: ルーティングテーブルからパケットの経路を決める手順	3. " : ルーティングの基礎、「静的ルーティング」を試してみる	授業内容の理解を深める演習・実習課題	4. " : 「動的ルーティング」を試してみる	5. " : ルーティングテーブル自動更新のしくみ	6. " : IPv4アドレスとサブネット化	授業内容の理解を深める演習・実習課題	7. " : IPv4アドレスの枯渇問題とIPv6	8. " : クラスレスルーティング	9. " : 中規模ネットワーク対応の「動的ルーティング」を動かす	授業内容の理解を深める演習・実習課題	10. " : 中規模ネットワーク対応の「動的ルーティング」を動かす(続き)	11. ネットワーク機器の管理: ルータの管理	授業内容の理解を深める演習・実習課題	12. " : スwitchの基本設定	13. WAN接続	14. ネットワークの設計	15. まとめ	ノートまとめ		
授業内容	準備学習等の内容																									
1. 情報ネットワーク応用Iの復習	授業内容の理解を深める演習・実習課題																									
2. ルーティング: ルーティングテーブルからパケットの経路を決める手順																										
3. " : ルーティングの基礎、「静的ルーティング」を試してみる	授業内容の理解を深める演習・実習課題																									
4. " : 「動的ルーティング」を試してみる																										
5. " : ルーティングテーブル自動更新のしくみ																										
6. " : IPv4アドレスとサブネット化	授業内容の理解を深める演習・実習課題																									
7. " : IPv4アドレスの枯渇問題とIPv6																										
8. " : クラスレスルーティング																										
9. " : 中規模ネットワーク対応の「動的ルーティング」を動かす	授業内容の理解を深める演習・実習課題																									
10. " : 中規模ネットワーク対応の「動的ルーティング」を動かす(続き)																										
11. ネットワーク機器の管理: ルータの管理	授業内容の理解を深める演習・実習課題																									
12. " : スwitchの基本設定																										
13. WAN接続																										
14. ネットワークの設計																										
15. まとめ	ノートまとめ																									
受講者へのメッセージやアドバイス:	本科目は「情報ネットワーク応用Ⅰ」の続編です。 授業では毎回ノートパソコンを使用しますので、初回から持ってくるようにしてください。																									
フィードバックの方法:	ノートは採点后、コメントをつけて学科事務室にて返却します。 演習課題については必要に応じて教室でまとめて解説します。																									
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>最終試験</td><td>40%</td><td>到達目標①の達成度を評価します。</td></tr><tr><td>ノート</td><td>10%</td><td>到達目標②の達成度を評価します。</td></tr><tr><td>演習・実習課題</td><td>20%</td><td>到達目標①③の達成度を評価します。</td></tr><tr><td>実技課題</td><td>30%</td><td>到達目標③の達成度を評価します。実技課題の達成を単位を与える必要条件とします。 ※詳細についてはマナビーのコンテンツ「授業と学習の進め方」に掲載します。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	最終試験	40%	到達目標①の達成度を評価します。	ノート	10%	到達目標②の達成度を評価します。	演習・実習課題	20%	到達目標①③の達成度を評価します。	実技課題	30%	到達目標③の達成度を評価します。実技課題の達成を単位を与える必要条件とします。 ※詳細についてはマナビーのコンテンツ「授業と学習の進め方」に掲載します。										
評価方法	割合	評価基準																								
最終試験	40%	到達目標①の達成度を評価します。																								
ノート	10%	到達目標②の達成度を評価します。																								
演習・実習課題	20%	到達目標①③の達成度を評価します。																								
実技課題	30%	到達目標③の達成度を評価します。実技課題の達成を単位を与える必要条件とします。 ※詳細についてはマナビーのコンテンツ「授業と学習の進め方」に掲載します。																								
教科書:	なし																									
参考書:	アンドリュース・S・タネンバウム『コンピュータネットワーク 第5版』日経BP社 竹下隆史『マスタリングTCP/IP 入門編 第5版』オーム社																									
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																									
教員との連絡方法:	Eメール(yyoden@dw.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応																									

授業テーマ:																																			
授業の概要:	プログラムは、仕事(処理)の手順をコンピュータへ指示するものであり、業務用ソフトからゲーム、携帯アプリまで、さまざまなプログラムを私たちは使っている。この科目ではプログラムを制作するのに必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。加えて、プログラミング基礎の学習を通し、さまざまな状況で必要になる数理的思考力(Computational Thinking)を習得する。																																		
到達目標:	本科目では、次の点をめざす。 (1) 変数・配列・制御構造などすべてのプログラミング環境に共通する基礎概念を理解する。 (2) クラス・メソッドなどオブジェクト指向プログラミングの基礎概念を理解する。 (3) GUIをもつシンプルな機能のプログラムを作成できる。 (4) プログラム作成を通し、数理的思考力 (Computational Thinking)を養う。																																		
	【注意】 「プログラミングAI」と「プログラミングAII」は連続した授業であるため、両方を履修することが望ましい。																																		
授業方法:	ノート型コンピュータを使用し、講義と演習を交えた授業を行う。 プログラミング言語としてJava言語を使う。 授業の進展に応じ、学期を通じて5回程度、プログラム制作演習の宿題を出す。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーションと開発環境の準備</td><td>授業内容の理解</td></tr><tr><td>2. オブジェクトとクラス</td><td>授業内容の理解</td></tr><tr><td>3. オブジェクトの作成とメソッド呼び出し</td><td>授業内容の理解</td></tr><tr><td>4. 変数, 演算子, 制御構造1</td><td>授業内容の理解、演習プログラムの制作</td></tr><tr><td>5. 制御構造2</td><td>授業内容の理解</td></tr><tr><td>6. 配列</td><td>授業内容の理解、演習プログラムの制作</td></tr><tr><td>7. クラスライブラリ</td><td>授業内容の理解</td></tr><tr><td>8. クラスの定義(メソッド、コンストラクタの定義)</td><td>授業内容の理解、演習プログラムの制作</td></tr><tr><td>9. マルチスレッド</td><td>授業内容の理解</td></tr><tr><td>10. グラフィカルユーザインターフェース(GUI)の基礎</td><td>授業内容の理解</td></tr><tr><td>11. GUIコンポーネントの配置</td><td>授業内容の理解</td></tr><tr><td>12. イベント処理――アクションイベント(ボタン)</td><td>授業内容の理解、演習プログラムの制作</td></tr><tr><td>13. イベント処理――アクションイベント(コンボボックス、テキストフィールド)</td><td>授業内容の理解</td></tr><tr><td>14. イベント処理――マウスイベント</td><td>授業内容の理解</td></tr><tr><td>15. 基本グラフィックス</td><td>授業内容の理解、演習プログラムの制作</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーションと開発環境の準備	授業内容の理解	2. オブジェクトとクラス	授業内容の理解	3. オブジェクトの作成とメソッド呼び出し	授業内容の理解	4. 変数, 演算子, 制御構造1	授業内容の理解、演習プログラムの制作	5. 制御構造2	授業内容の理解	6. 配列	授業内容の理解、演習プログラムの制作	7. クラスライブラリ	授業内容の理解	8. クラスの定義(メソッド、コンストラクタの定義)	授業内容の理解、演習プログラムの制作	9. マルチスレッド	授業内容の理解	10. グラフィカルユーザインターフェース(GUI)の基礎	授業内容の理解	11. GUIコンポーネントの配置	授業内容の理解	12. イベント処理――アクションイベント(ボタン)	授業内容の理解、演習プログラムの制作	13. イベント処理――アクションイベント(コンボボックス、テキストフィールド)	授業内容の理解	14. イベント処理――マウスイベント	授業内容の理解	15. 基本グラフィックス	授業内容の理解、演習プログラムの制作		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーションと開発環境の準備	授業内容の理解																																		
2. オブジェクトとクラス	授業内容の理解																																		
3. オブジェクトの作成とメソッド呼び出し	授業内容の理解																																		
4. 変数, 演算子, 制御構造1	授業内容の理解、演習プログラムの制作																																		
5. 制御構造2	授業内容の理解																																		
6. 配列	授業内容の理解、演習プログラムの制作																																		
7. クラスライブラリ	授業内容の理解																																		
8. クラスの定義(メソッド、コンストラクタの定義)	授業内容の理解、演習プログラムの制作																																		
9. マルチスレッド	授業内容の理解																																		
10. グラフィカルユーザインターフェース(GUI)の基礎	授業内容の理解																																		
11. GUIコンポーネントの配置	授業内容の理解																																		
12. イベント処理――アクションイベント(ボタン)	授業内容の理解、演習プログラムの制作																																		
13. イベント処理――アクションイベント(コンボボックス、テキストフィールド)	授業内容の理解																																		
14. イベント処理――マウスイベント	授業内容の理解																																		
15. 基本グラフィックス	授業内容の理解、演習プログラムの制作																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	積み重ねの授業内容となるので、理解を深め、不明点を認識するために、毎回の授業終了後の復習が必要。																																		
フィードバックの方法:	提出された演習プログラムに対して必要に応じてコメントを付けて返却する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>宿題として提出した演習プログラムの完成度</td><td>100%</td><td>仕様を満たして機能するかどうか ソースコードの可読性 新規の工夫など</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	宿題として提出した演習プログラムの完成度	100%	仕様を満たして機能するかどうか ソースコードの可読性 新規の工夫など																												
評価方法	割合	評価基準																																	
宿題として提出した演習プログラムの完成度	100%	仕様を満たして機能するかどうか ソースコードの可読性 新規の工夫など																																	
教科書:	立木秀樹・有賀妙子「すべての人のためのJavaプログラミング 第2版」 共立出版																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力																																		
教員との連絡方法:	Eメール (tariga@dw.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:

授業の概要: プログラムは、仕事(処理)の手順をコンピュータへ指示するものであり、業務用ソフトからゲーム、携帯アプリまで、さまざまなプログラムを私たちは使っている。この科目ではプログラムを制作するのに必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。加えて、プログラミング基礎の学習を通し、さまざまな状況で必要になる数理的思考力(Computational Thinking)を習得する。

到達目標: プログラムは、仕事(処理)の手順をコンピュータへ指示するものであり、業務用ソフトからゲーム、携帯アプリまで、さまざまなプログラムを私たちは使っている。プログラムを制作するのに必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。このようなプログラム作成に関する知識は、動的なWebコンテンツを制作する場合にも役に立つ。本科目では、次の点をめざす。

- (1) 変数・配列・制御構造などすべてのプログラミング環境に共通する基礎概念を理解する。
- (2) クラス・メソッドなどオブジェクト指向プログラミングの基礎概念を理解する。
- (3) GUIをもつシンプルな機能のプログラムを作成できる。
- (4) プログラム作成を通し、数理的思考力 (Computational Thinking)を養う。

【注意】
「プログラミングAI」と「プログラミングAⅡ」は連続した授業であるため、両方を履修することが望ましい。

授業方法: ノート型コンピュータを使用し、講義と演習を交えた授業を行う。
プログラミング言語としてJava言語を使う。
授業の進展に応じ、学期を通じて5回程度、プログラム制作演習の宿題を出す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーションと開発環境の準備	授業内容の理解
	2. オブジェクトとクラス	授業内容の理解
	3. オブジェクトの作成とメソッド呼び出し	授業内容の理解
	4. 変数, 演算子, 制御構造1	授業内容の理解、演習プログラムの制作
	5. 制御構造2	授業内容の理解
	6. 配列	授業内容の理解、演習プログラムの制作
	7. クラスライブラリ	授業内容の理解
	8. クラスの定義(メソッド、コンストラクタの定義)	授業内容の理解、演習プログラムの制作
	9. マルチスレッド	授業内容の理解
	10. グラフィカルユーザインターフェース(GUI)の基礎	授業内容の理解
	11. GUIコンポーネントの配置	授業内容の理解
	12. イベント処理――アクションイベント(ボタン)	授業内容の理解、演習プログラムの制作
	13. イベント処理――アクションイベント(コンボボックス、テキストフィールド)	授業内容の理解
	14. イベント処理――マウスイベント	授業内容の理解
	15. 基本グラフィックス	授業内容の理解、演習プログラムの制作

受講者へのメッセージやアドバイス: 積み重ねの授業内容となるので、理解を深め、不明点を認識するために、毎回の授業終了後の復習が必要。

フィードバックの方法: 提出された演習プログラムに対して必要に応じてコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	宿題として提出した演習プログラムの完成度	100%	仕様を満たして機能するかどうか ソースコードの可読性 新規の工夫など

教科書: 立木秀樹・有賀妙子「すべての人のためのJavaプログラミング 第2版」 共立出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: Eメール (tariga@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

「プログラミングAI・AII」で学んだJava言語でGUIの技術・知識を深め、そのJava言語でスマホアプリ(アンドロイドアプリ)を作成する。

授業の概要:

「プログラミングAI・AII」でのJavaプログラミング基礎の習得を前提に、その知識や技術を発展させ実用的なプログラミングのスマホアプリ(アンドロイドアプリ)に活用できるように繋げる。

実用的なプログラミングとは、今世の中で急速に普及している携帯端末(スマートフォン・タブレット)で利用されているアプリケーションプログラムを作成することである。

アンドロイドOSを採用している携帯端末では、「プログラミングAI・AII」で学んだ「Java言語」を使用してアプリケーションプログラムが作成されている。春学期に習得したJava言語の知識と技術を活かしてアンドロイドアプリ作成へとスライドしていく。

統合開発環境ソフト(Eclipse)を利用しJava言語で効率よくプログラミング開発を行うことを学び、Eclipseに似た開発環境ソフト(AndroidStudio)を利用し、パソコン上でアンドロイドアプリケーションプログラムを作成・実行し、最終的には実機の携帯端末にダウンロードし、実際に利用するところまで演習し自分でアプリ開発を行い公開することができるようになることを目標とする。

【注意】

「プログラミングAIII」と「プログラミングAIV」は連続した授業であるため、両方を履修することが望ましい。

到達目標:

- ・「Java言語」を利用して、オリジナルなグラフィックスを作成してファイルに出力することができる。
- ・統合開発環境「Eclipse」を使用して「Javaプログラミング開発」ができる。
- ・「Java言語」を利用して、「マウスやキー操作によるイベント処理プログラミング」ができる。
- ・開発環境「AndroidStudio」を使用して「アンドロイドアプリ」が作成できる。
- ・「アンドロイドアプリ」で「イベント処理プログラミング」ができる。
- ・作成した「アンドロイドアプリ」を実機にダウンロードすることができる。
- ・作成した「アンドロイドアプリ」を実機で動作させることができる。

授業方法:

- ・授業形態は、「講義」と「実習」を組み合わせる。
- ・演習室のコンピュータ(Windows)を使用する。
- ・プログラミング言語としてJava言語を使用する。
- ・授業の中で、学習ポイントに焦点を当てた実習問題を実施し提出を伴う場合もある。
- ・統合開発環境Eclipseを利用してJavaプログラミングを行う。
- ・開発環境AndroidStudioを利用してアンドロイドアプリ開発を行う。
- ・開発したアンドロイドアプリを実機(スマートフォン、タブレット)にダウンロードして使用してみる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション・基礎の復習	「プログラミングAⅠ・Ⅱ」のJavaの文法内容の復習をして授業に臨む。
2. イベント処理1(イベントの基本復習)	「プログラミングAⅠ・Ⅱ」のイベントの復習をして授業に臨む。
3. 基本グラフィックスの描画1(基本)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。
4. 基本グラフィックスの描画2(演習)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。
5. 統合開発環境ソフト「Eclipse」の説明・体験	Eclipseの使用方法を復習しておく。
6. イベント処理2(マウスイベント、マウスモーションイベント)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。
7. イベント処理3(キーイベント・アニメーション)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。
8. JAVA言語総合復習小課題	Javaのイベントを復習しておく。小課題を完成させる。
9. アンドロイドプログラミング1(環境準備・体験)	AndroidStudioの使用方法を復習しておく。
10. アンドロイドプログラミング1(基本)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。
11. アンドロイドプログラミング2(GUI)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。
12. アンドロイドプログラミング3(イベント)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。
13. アンドロイドプログラミング4(サンプルアプリケーション作成)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。
14. アンドロイドプログラミング5(実機演習)	
15. アンドロイドプログラミング6(課題制作)	課題を完成させる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

- ・「プログラミングAⅠ・Ⅱ」のイベントの学習内容を元にして、「プログラミングAⅢ・Ⅳ」のイベントの学習内容で更に理解を深めて、「アンドロイドアプリ」のイベントに繋げる。
- ・授業内での練習問題の解答ソースは、授業後に配布フォルダに置くので、必ず復習しておく。
- ・疑問点は個別質問時間に質問してクリアしておく。

フィードバックの方法:

- ・提出問題は、授業でまとめて解説をし、参考ソースを配布フォルダで公開する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小課題	30%	問題の条件を満足した内容であるかの到達点で評価する。
評価課題	70%	課題の条件を満足した内容で、評価基準への到達点で評価する。

教科書:

「すべての人のためのJavaプログラミング 第2版」(立木秀樹・有賀妙子: 共立出版)[「プログラミングAI・AII」共通]

「Android Studioではじめる 簡単Androidアプリ開発」(有山圭二: 技術評論社)

参考書:

Java™ Platform, Standard Edition 7API 仕様ドキュメント

<http://docs.oracle.com/javase/7/api/>

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力、全体構成本力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール(hkitabay@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	「プログラミングAI・AII」で学んだJava言語でGUIの技術・知識を深め、そのJava言語でスマホアプリ(アンドロイドアプリ)を作成する。																																		
授業の概要:	「プログラミングAI・AII」でのJavaプログラミング基礎の習得を前提に、その知識や技術を発展させ実用的なプログラミングのスマホアプリ(アンドロイドアプリ)に活用できるように繋げる。 実用的なプログラミングとは、今世の中で急速に普及している携帯端末(スマートフォン・タブレット)で利用されているアプリケーションプログラムを作成することである。 アンドロイドOSを採用している携帯端末では、「プログラミングAI・AII」で学んだ「Java言語」を使用してアプリケーションプログラムが作成されている。春学期に習得したJava言語の知識と技術を活かしてアンドロイドアプリ作成へとスライドしていく。 統合開発環境ソフト(Eclipse)を利用しJava言語で効率よくプログラミング開発を行うことを学び、Eclipseに似た開発環境ソフト(AndroidStudio)を利用し、パソコン上でアンドロイドアプリケーションプログラムを作成・実行し、最終的には実機の携帯端末にダウンロードし、実際に利用するところまで演習し自分でアプリ開発を行い公開することができるようになることを目標とする。 【注意】 「プログラミングAIII」と「プログラミングAIV」は連続した授業であるため、両方を履修することが望ましい。																																		
到達目標:	・「Java言語」を利用して、オリジナルなグラフィックスを作成してファイルに出力することができる。 ・統合開発環境「Eclipse」を使用して「Javaプログラミング開発」ができる。 ・「Java言語」を利用して、「マウスやキー操作によるイベント処理プログラミング」ができる。 ・開発環境「AndroidStudio」を使用して「アンドロイドアプリ」が作成できる。 ・「アンドロイドアプリ」で「イベント処理プログラミング」ができる。 ・作成した「アンドロイドアプリ」を実機にダウンロードすることができる。 ・作成した「アンドロイドアプリ」を実機で動作させることができる。																																		
授業方法:	・授業形態は、「講義」と「実習」を組み合わせる。 ・演習室のコンピュータ(Windows)を使用する。 ・プログラミング言語としてJava言語を使用する。 ・授業の中で、学習ポイントに焦点を当てた実習問題を実施し提出を伴う場合もある。 ・統合開発環境Eclipseを利用してJavaプログラミングを行う。 ・開発環境AndroidStudioを利用してアンドロイドアプリ開発を行う。 ・開発したアンドロイドアプリを実機(スマートフォン、タブレット)にダウンロードして使用してみる。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション・基礎の復習</td><td>「プログラミングAⅠ・Ⅱ」のJavaの文法内容の復習をして授業に臨む。</td></tr><tr><td>2. イベント処理1(イベントの基本復習)</td><td>「プログラミングAⅠ・Ⅱ」のイベントの復習をして授業に臨む。</td></tr><tr><td>3. 基本グラフィックスの描画1(基本)</td><td>授業で作成したプログラムソースを復習しておく。</td></tr><tr><td>4. 基本グラフィックスの描画2(演習)</td><td>授業で作成したプログラムソースを復習しておく。</td></tr><tr><td>5. 統合開発環境ソフト「Eclipse」の説明・体験</td><td>Eclipseの使用方法を復習しておく。</td></tr><tr><td>6. イベント処理2(マウスイベント、マウスモーションイベント)</td><td>授業で作成したプログラムソースを復習しておく。</td></tr><tr><td>7. イベント処理3(キーイベント・アニメーション)</td><td>授業で作成したプログラムソースを復習しておく。</td></tr><tr><td>8. JAVA言語総合復習小課題</td><td>Javaのイベントを復習しておく。小課題を完成させる。</td></tr><tr><td>9. アンドロイドプログラミング1(環境準備・体験)</td><td>AndroidStudioの使用方法を復習しておく。</td></tr><tr><td>10. アンドロイドプログラミング1(基本)</td><td>授業で作成したプログラムソースを復習しておく。</td></tr><tr><td>11. アンドロイドプログラミング2(GUI)</td><td>授業で作成したプログラムソースを復習しておく。</td></tr><tr><td>12. アンドロイドプログラミング3(イベント)</td><td>授業で作成したプログラムソースを復習しておく。</td></tr><tr><td>13. アンドロイドプログラミング4(サンプルアプリケーション作成)</td><td>授業で作成したプログラムソースを復習しておく。</td></tr><tr><td>14. アンドロイドプログラミング5(実機演習)</td><td></td></tr><tr><td>15. アンドロイドプログラミング6(課題制作)</td><td>課題を完成させる。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション・基礎の復習	「プログラミングAⅠ・Ⅱ」のJavaの文法内容の復習をして授業に臨む。	2. イベント処理1(イベントの基本復習)	「プログラミングAⅠ・Ⅱ」のイベントの復習をして授業に臨む。	3. 基本グラフィックスの描画1(基本)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。	4. 基本グラフィックスの描画2(演習)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。	5. 統合開発環境ソフト「Eclipse」の説明・体験	Eclipseの使用方法を復習しておく。	6. イベント処理2(マウスイベント、マウスモーションイベント)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。	7. イベント処理3(キーイベント・アニメーション)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。	8. JAVA言語総合復習小課題	Javaのイベントを復習しておく。小課題を完成させる。	9. アンドロイドプログラミング1(環境準備・体験)	AndroidStudioの使用方法を復習しておく。	10. アンドロイドプログラミング1(基本)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。	11. アンドロイドプログラミング2(GUI)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。	12. アンドロイドプログラミング3(イベント)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。	13. アンドロイドプログラミング4(サンプルアプリケーション作成)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。	14. アンドロイドプログラミング5(実機演習)		15. アンドロイドプログラミング6(課題制作)	課題を完成させる。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション・基礎の復習	「プログラミングAⅠ・Ⅱ」のJavaの文法内容の復習をして授業に臨む。																																		
2. イベント処理1(イベントの基本復習)	「プログラミングAⅠ・Ⅱ」のイベントの復習をして授業に臨む。																																		
3. 基本グラフィックスの描画1(基本)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。																																		
4. 基本グラフィックスの描画2(演習)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。																																		
5. 統合開発環境ソフト「Eclipse」の説明・体験	Eclipseの使用方法を復習しておく。																																		
6. イベント処理2(マウスイベント、マウスモーションイベント)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。																																		
7. イベント処理3(キーイベント・アニメーション)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。																																		
8. JAVA言語総合復習小課題	Javaのイベントを復習しておく。小課題を完成させる。																																		
9. アンドロイドプログラミング1(環境準備・体験)	AndroidStudioの使用方法を復習しておく。																																		
10. アンドロイドプログラミング1(基本)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。																																		
11. アンドロイドプログラミング2(GUI)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。																																		
12. アンドロイドプログラミング3(イベント)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。																																		
13. アンドロイドプログラミング4(サンプルアプリケーション作成)	授業で作成したプログラムソースを復習しておく。																																		
14. アンドロイドプログラミング5(実機演習)																																			
15. アンドロイドプログラミング6(課題制作)	課題を完成させる。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	・「プログラミングAⅠ・Ⅱ」のイベントの学習内容を元にして、「プログラミングAⅢ・Ⅳ」のイベントの学習内容で更に理解を深めて、「アンドロイドアプリ」のイベントに繋げる。 ・授業内での練習問題の解答ソースは、授業後に配布フォルダに置くので、必ず復習しておく。 ・疑問点は個別質問時間に質問してクリアにしておく。																																		
フィードバックの方法:	提出問題は、授業でまとめて解説をし、参考ソースを配布フォルダで公開する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>小課題</td><td>30%</td><td>問題の条件を満足した内容であるかの到達点で評価する。</td></tr><tr><td>評価課題</td><td>70%</td><td>課題の条件を満足した内容で、評価基準への到達点で評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	小課題	30%	問題の条件を満足した内容であるかの到達点で評価する。	評価課題	70%	課題の条件を満足した内容で、評価基準への到達点で評価する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
小課題	30%	問題の条件を満足した内容であるかの到達点で評価する。																																	
評価課題	70%	課題の条件を満足した内容で、評価基準への到達点で評価する。																																	
教科書:	「すべての人のためのJavaプログラミング 第2版」(立木秀樹・有賀妙子: 共立出版)[「プログラミングAI・AII」共通] 「Android Studioではじめる 簡単Androidアプリ開発」(有山圭二: 技術評論社)																																		
参考書:	Java™ Platform, Standard Edition 7API 仕様ドキュメント http://docs.oracle.com/javase/7/api/																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力、全体構成本力																																		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能、Eメール(hkitabay@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:

Perlを使ったWebプログラミングを学習する

授業の概要:

プログラム言語Perlを利用して、動的なWebコンテンツを作成する。
Webの情報を単に受け取るだけの利用者ではなく、インタラクティブな情報発信の技術を養い、プログラミングの技術、Webサーバのしくみ、CGIのしくみ、ファイルやディレクトリのアクセス権の設定など、Webにおける一歩進んだ知識・技術を身につける。

到達目標:

プログラミング技術を習得し、自分で意図したように動作するプログラムを作成することを通して、技術習得の実感し、コンピュータを操る楽しさを味わう。

授業方法:

実習中心に行う。
2回目以降、必ず各自のPCを持参すること。
(初回授業はPCを使用しない。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、Webに関連する基礎知識、開発環境の構築	
	2. 変数、文字列の利用	
	3. 基本制御構造 1	基本制御構造の種類役割を調べる
	4. 基本制御構造 2	
	5. リスト、ハッシュ	リスト、ハッシュのサンプルプログラムを解説する
	6. フォーム部品の利用	
	7. フォームデータの処理・利用	フォームデータの処理のサンプルプログラムを解説する
	8. 計算、比較、ソート 1	ソート命令を調べる
	9. 計算、比較、ソート 2	
	10. 文字列の操作	
	11. ファイルの操作 1	ファイルの種類・操作を調べる
	12. ファイルの操作 2	
	13. サーバへのアップロード(パーミッションの設定)	各種ファイルのパーミッションを考える
	14. ファイル共有を使用したCGI課題制作	最終課題のプログラムを考える
	15. ファイル共有を使用したCGI課題制作	

受講者へのメッセージやアドバイス:

実習を通じてWebの仕組みの理解し、プログラム作成することで論理的思考を養おう。

フィードバックの方法:

提出した課題や宿題は、授業内で解説する。
授業外では、メールで質問等を受け付ける。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業参加	30%	積極的に授業に参加し、演習問題が作成できたかを評価
	宿題	30%	出題した演習問題が正常動作するかを評価
	小テスト	10%	プログラムの知識、理解度に応じて評価
	課題	30%	学習した内容を踏まえて完成したプログラムの難易度に応じて評価

教科書:

適宜、必要資料を配布。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力

教員との連絡方法:

Eメール(yito@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

Web用プログラミング言語PHPを使って実践的なWebページ作成を学習する

授業の概要:

Webサイト作成に特化したプログラム言語PHPを利用して、状況に応じて変化するWebコンテンツを作成する。HTMLのようにWebの情報を単純に表示するだけでなく、Webブラウザからの入力によって、Webページの表示内容を変化させることで、対話的な情報提供の技術を習得する。具体的には、プログラミングの技術、Webサーバのしくみ、ファイル操作、データベース操作など、Webにおける一歩進んだ知識および実用技術を身につける。

到達目標:

・World Wide Webの仕組みとHTMLによるWebページ記述の意味を理解
・基礎的なプログラミング能力の習得
・データベースの仕組みの理解、ならびに、データベース操作能力の習得

授業方法:

コンピュータを使った演習を中心に行い、プログラミング能力の向上のため、適宜、課題プログラムの作成を各自で行う。回を追うごとに高度なプログラミングを実施する。一度でも授業を欠席すると、その後のプログラミングが非常に困難になる。欠席した場合の個別フォローは行わないので、各自で学習すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	1. オリエンテーション、Webの仕組みとPHPの特徴	事前にHTMLを理解し、Webページの作成能力を身につけておくこと
	2. PHPを利用するための準備	WebサーバとWebクライアントの仕組みを復習しておくこと
	3. Webフォームから入力データの処理（変数と配列）	
	4. 条件に応じた処理の変更（条件分岐）	復習課題プログラムにより条件分岐の理解を深めておくこと
	5. 条件に応じた処理の繰り返し（ループ）	復習課題プログラムにより繰り返しの理解を深めておくこと
	6. プログラミングの流れの把握（フローチャート）	フローチャートの記述方法を復習しておくこと
	7. 理解度の確認（演習プログラム）	ここまでがプログラミングの基本なので、理解が不十分なところは必ず演習プログラムを作成すること
	8. ファイルからのデータの取得	
	9. ファイルへのデータの保存	復習課題プログラムによりファイル操作の理解を深めておくこと
	10. データベースからのデータの取得	
	11. データベースへのデータの保存	復習課題プログラムによりデータベースの概念と仕組みの理解を深めておくこと
	12. 最終課題プログラム：課題設定	作成したい最終課題プログラムを事前に考えておくこと
	13. 最終課題プログラム：プログラムの設計	フローチャートの記述方法を再度確認しておくこと
	14. 最終課題プログラム：プログラムの作成	
	15. 最終課題プログラム：プログラムの動作確認と不具合の修正	

受講者へのメッセージやアドバイス:

プログラミングは、授業時間中だけではの作業では、全く習得できないと言っても過言ではないので、授業時間以外にも積極的に課題プログラムに取り組む姿勢が必要。

フィードバックの方法:

課題プログラムの提出後の授業時間中にプログラム作成の考え方をまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	最終課題レポート	80%	作成したプログラムの難易度およびプログラムの動作説明の明確さによって評価する。プログラムが動作し、必要最低限の機能が実現されていない場合は不可になる。
	途中の課題レポート	20%	課題プログラムの完成度によって評価する。
	授業への参加度		最終課題レポートより欠席1回あたり5%減

教科書:

特に指定しない。適宜、必要資料を配布

参考書:

「PHP+MySQLマスターブック」、マイナビ、永田順伸 著、2014年1月発行、ISBN: 978-4839947590

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

デジタル音響の基礎、録音技術、サウンド編集

授業の概要:

聴覚の特性と音の物理的特徴を関連付けて学習することで、サウンドメディアの性質を知る。アナログ音響とデジタル音響についての理解、音の高さ、大きさ、音色とは何であるか等を、講義と聴取実験、サウンド制作等の演習を通して学ぶ。またメディア制作にて必要となる、録音について解説を行うとともに実践を数回にわたり実施する。

到達目標:

①録音技術の習得
③サウンドデザインの実践およびサウンド作成技術の習得
②基本的な音の物理の理解

授業方法:

講義および演習の組み合わせ
1～9回までは講義と演習の組み合わせで行う。10回目は実技試験を予定している。12～14回は講義形式にて実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 音を聞こう～サウンドスケープ～録音	
	2. マイク解説、録音解説および録音実験	録音課題の実施
	3. 録音講評および再録音	
	4. サウンドデザイン	
	5. 実習と解説:音の加工と編集①（オーディオ編集、シンセサイズ）	最終課題に向けての構想を練る
	6. 実習と解説:音の加工と編集②（映像に対するサウンドの編集）	最終課題に向けての構想を練る
	7. 実習と解説:音の加工と編集③（MIDIレコーディング、オーディオレコーディング）	最終課題への取り組み
	8. 実習と解説:音の加工と編集④（曲をつくる）	最終課題への取り組み
	9. 実習:自主制作時間	最終課題への取り組み
	10. 講演:サウンドデザインの実際（予定）	実技試験へ向けての復習
	11. 実技試験	最終課題への取り組み
	12. 講義:音の物理（波形、周波数とピッチ、正弦波、可聴域）	最終課題への取り組み
	13. 講義:周波数と音楽、音色（音階と周波数、音律、周波数スペクトルと音色）	最終課題への取り組み
	14. 講義:音の知覚と認知と心理（音の定位、音の聞こえ、音響心理等）	最終課題への取り組み
	15. 最終課題講評	

受講者へのメッセージやアドバイス:

サウンドを作り出す側、扱う側に立つときに必要となる基礎技術を習得します。音響機器（ハードおよびソフト）の扱い等が含まれます。

フィードバックの方法:

録音課題については口頭でコメントを返します。最終課題については講評会にて個別に評価を口頭で伝えます。欠席者等についてはメールにて個別に評価を伝えます。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への出席	20%	積極的に授業に参加し、知識・技術の習得に努めたか
	試験	40%	到達目標の理解度により評価する
	課題	40%	到達目標の達成度を総合的に評価する
			ただし、各採点要素には必要最低点があり、また、採点比率も平均点等に準じて変動する可能性がある

教科書:

指定しない

参考書:

中村健太郎「音のしくみ」ナツメ社
日本音響学会編「音のなんでも小事典」講談社ブルーバックス

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール(swake@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

デジタル画像処理の基礎

授業の概要:

コンピュータを利用したデジタル画像は、絵画、写真、フィルムなどが担ってきた記録／再現の役割を果たすだけではなく、様々な情報を視覚表現と結びつける事によって、医療、産業、広告や芸術作品など様々な分野で応用されています。この授業ではデジタル画像に関する基本的な仕組みについて講義し、デジタル画像に関する具体的な応用事例を多く紹介していきます。

到達目標:

デジタル画像の基礎が理解できる
デジタル画像の画像解析などの事例を知ることができる
デジタル画像の3次元表現／プロジェクションマッピングなどの事例を知ることができる

授業方法:

毎週、デジタル画像処理の解説や、デジタル画像が応用されている様々な例を紹介します。授業残り2回は、授業内で解説した画像処理に関する技術を実際に体験してもらい、どのような応用が可能かについて、体験を通して考えていただき、最終レポートとしてまとめてもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. アナログ画像とデジタル画像(1)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	2. アナログ画像とデジタル画像(2)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	3. デジタル画像の圧縮と形式(1)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	4. デジタル画像の圧縮と形式(2)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	5. デジタル画像の加工処理(1)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	6. デジタル画像の加工処理(2)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	7. デジタル画像の解析(1)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	8. デジタル画像の解析(2)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	9. デジタル画像の解析(3)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	10. デジタル画像と投影技術(1)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	11. デジタル画像と投影技術(2)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	12. データ・ビジュアライゼーション(1)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	13. データ・ビジュアライゼーション(2)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	14. デジタル画像処理の体験(1)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること
	15. デジタル画像処理の体験(2)	講義で紹介した周辺情報をリサーチすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

好奇心を持って受講してください。授業は無断欠席／無断遅刻2回以上で原則単位不可となります。

フィードバックの方法:

出席カードに講義の内容に関する質問がある場合は、次週の授業でフィードバックします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート課題	100	レポート課題を通してデジタル画像技術特有の仕組みや表現に対する理解力を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

Eメール(mashimo@seian.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: スマートフォンと呼ばれる携帯電話を筆頭に、携帯端末が日常的な道具として人々の生活の中に入り込み、それとともにさまざまな種類の携帯端末用のプログラム(アプリケーション)が開発されている。従来、専門的・高度な知識をもったエンジニアだけが開発を担っていたが、開発ツールの公開により、アイデアをもつデザイナーやユーザ自身が開発できる環境が整いつつある。本科目では、iPhone/iPod touchを対象に、その上で動作するプログラム作成に必要な基礎的知識・技術を学ぶ。

到達目標: (1) プログラム言語であるObjective-Cの基本を理解する。
(2) 開発ツールXcodeとそれが提供するプログラミング環境の基本を理解する。
(3) シングルビューのシンプルな機能のアプリを制作できる。

授業方法: 情報メディア学科演習室にて、講義と演習を交えた授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーションと開発環境Xcodeの説明	授業内容の理解
	2. C言語の基礎	授業内容の理解
	3. Objective-C言語の基礎	授業内容の理解
	4. テキストの入力と出力を行うアプリの制作	授業内容の理解
	5. テキストの入力と出力を行うアプリの制作	授業内容の理解
	6. 簡単な計算を行うアプリの制作	授業内容の理解
	7. 簡単な計算を行うアプリの制作	授業内容の理解
	8. ボタンとイベント処理	授業内容の理解
	9. ボタンとイベント処理	授業内容の理解
	10. ボタンとイベント処理	授業内容の理解
	11. ボタンとイベント処理	授業内容の理解
	12. アニメーションを表示するアプリの制作	授業内容の理解
	13. アニメーションを表示するアプリの制作	授業内容の理解
	14. 小テストと確認	授業内容の理解
	15. オリジナルアプリ作成	授業内容の理解、オリジナルアプリの制作

受講者へのメッセージやアドバイス: プログラムを学習したことがなくても、理解できるように、基礎的なところから授業を進める。
ただし、積み重ねの授業内容となるので、毎回の授業終了後の復習が、理解を深め、不明点を認識するために必須。

フィードバックの方法: 授業内で、解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	30%	プログラミング基礎知識の理解の程度
	演習で制作したプログラムの内容	70%	仕様を満たして機能するかどうか、新規の工夫など

教科書: 教科書は指定せず、適宜資料を配布。

参考書: iPhoneアプリ開発の教科書 森 巧尚 マイナビ
詳細！Objective-C iPhoneアプリ開発 入門ノート 大重美幸 株式会社ソーテック社
iOSの教科書-iPhone/iPadアプリを開発しよう！ 赤松正行 <http://akamatsu.wook.jp/>

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: Eメール (tariga@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: スマートフォンと呼ばれる携帯電話を筆頭に、携帯端末が日常的な道具として人々の生活の中に入り込み、それとともにさまざまな種類の携帯端末用のプログラム(アプリケーション)が開発されている。従来、専門的・高度な知識をもったエンジニアだけが開発を担っていたが、開発ツールの公開により、アイデアをもつデザイナーやユーザ自身が開発できる環境が整いつつある。本科目では、iPhone/iPod touchを対象に、その上で動作するプログラム作成に必要な基礎的知識・技術を学ぶ。

到達目標: (1) プログラム言語であるObjective-Cの基本を理解する。
(2) 開発ツールXcodeとそれが提供するプログラミング環境の基本を理解する。
(3) 画面遷移のあるシンプルな機能のアプリを制作できる。

授業方法: 情報メディア学科演習室にて、講義と演習を交えた授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Objective-Cの概要復習	授業内容の理解
	2. ジェスチャを扱うアプリの制作	授業内容の理解
	3. ジェスチャを扱うアプリの制作	授業内容の理解
	4. 画面遷移があるアプリの制作	授業内容の理解
	5. 画面遷移があるアプリの制作	授業内容の理解
	6. 画面遷移があるアプリの制作	授業内容の理解
	7. 時間を扱うアプリの制作(画像の回転、イベント処理)	授業内容の理解
	8. 時間を扱うアプリの制作(画像の回転、イベント処理)	授業内容の理解
	9. 時間を扱うアプリの制作(画像の回転、イベント処理)	授業内容の理解
	10. 日付を扱うアプリの制作(選択用、制御用UI部品の処理)	授業内容の理解
	11. 日付を扱うアプリの制作(選択用、制御用UI部品の処理)	授業内容の理解
	12. 画像を扱うアプリの制作	授業内容の理解
	13. 画像を扱うアプリの制作	授業内容の理解
	14. 小テストと確認	授業内容の理解
	15. 最終演習課題の説明と制作準備	授業内容の理解、オリジナルアプリの制作

受講者へのメッセージやアドバイス: プログラミングBⅡでの内容を理解していることを前提に授業を進める。
ただし、積み重ねの授業内容となるので、毎回の授業終了後の復習が、理解を深め、不明点を認識するために必須。

フィードバックの方法: 授業内で、解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	30%	プログラミング基礎知識の理解の程度
	演習で制作したプログラムの内容	70%	仕様を満たして機能するかどうか、新規の工夫など

教科書: 教科書は指定せず、適宜資料を配布。

参考書: iPhoneアプリ開発の教科書 森 巧尚 マイナビ
詳細！Objective-C iPhoneアプリ開発 入門ノート 大重美幸 株式会社ソーテック社
iOSの教科書-iPhone/iPadアプリを開発しよう！ 赤松正行 <http://akamatsu.wook.jp/>

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: Eメール(tariga@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

企画をするということ

授業の概要:

いくつかの企画テーマを私が設定する。受講者はその課題に対し、オリジナルの企画を提示し、プレゼンテーションする。

到達目標:

授業レベルを超えた、実社会に役立つ企画能力の取得を目標とする。

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	企画をするという柔軟な思考を養う準備
2.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(1)	企画・プレゼンテーションの準備
3.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(2)	企画・プレゼンテーションの準備
4.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(3)	企画・プレゼンテーションの準備
5.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(4)	企画・プレゼンテーションの準備
6.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(5)	企画・プレゼンテーションの準備
7.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(6)	企画・プレゼンテーションの準備
8.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(7)	企画・プレゼンテーションの準備
9.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(8)	企画・プレゼンテーションの準備
10.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(9)	企画・プレゼンテーションの準備
11.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(10)	企画・プレゼンテーションの準備
12.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(11)	企画・プレゼンテーションの準備
13.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(12)	企画・プレゼンテーションの準備
14.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(13)	企画・プレゼンテーションの準備
15.	個人あるいは少人数グループによる企画、プレゼンテーション、ディスカッション(14) ＋小テスト	企画・プレゼンテーションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内にまとめて解説

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	個人発表	60%	企画能力およびプレゼンテーション能力トータルでの評価とする
	積極的態度	20%	毎回発言することを求める
	小テスト	20%	自らの企画能力の向上を願みた小テスト

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:

この講義はモノやコトをゼロからそして自ら生み出せる人になるための総合講義。知識伝授型ではなく自らの気づきや学びにより前に踏み出せる力を養成する。

授業の概要:

時代はプロデュース能力を求めている。改良するのではなく新しい価値観の創造が必要な時代。セルフプロデュースから企画プロデュースまで学ぶ。モノやコトを作り出したり、企画を伝えるためのプレゼンテーションをするプロセスには大事な約束事がある。この授業の中ではその約束事を様々な方法により一つ一つ説明し進行する。

到達目標:

発想力、企画力、プレゼンテーション力、コミュニケーション能力の質的向上

授業方法:

映像、リスニング、ゲスト講師、グループワークなど立体的な体験実践型講義の実施。座って聴くだけではなく自らの頭で発想しそれを実践的に紡ぎ出すワークショップが中心

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	セルフプレゼンテーション 誰でも自分のことを確実に伝えることのできる”マンガラ法”での自己紹介方法の学び(1分間自己紹介あり)	人前で話のがラクになる5つの魔法 金光サリー著 第三の波 アルビン・トフラー著
2.	プロデュースするとは何か 価値の創造とは何か	ZERO TO ONE ピーター・ディール 著
3.	新たな価値を作り出すヒント 価値は自らが作り出す	コンテンツの秘密 川上量生 著
4.	自分だけの協会を作る1 グループワークショップ 自分の好きなことわかることから始める	学びを仕組みに変える新家元制度 前田出 著
5.	自分だけの協会を作る2 オリジナルアイデアの出し方	THE PLATFORM 尾原和啓 著
6.	自分だけの協会を作る3 オリジナル協会のプレゼンテーション	
7.	メディアの勉強 マーシャル・マクルーハンに学ぶ	メディア論 マーシャル・マクルーハン
8.	時代はFREEに FREEは誰でも始められる使える”力”	FREE クリス・アンダーソン 著
9.	ウォルトディズニーから学ぶクリエイティブ ディズニーランドだけではなくウォルトが作り出した新しい価値とは何か	ディズニー伝説 ボブ・トーマス 著
10.	稀有のプロデューサー千利休から「価値の作り方」のハウツウを学ぶ	へうげもの(漫画) 山田芳裕 著
11.	SHAREと社会企業の関係 新しい時代のキーワードは「シェアリングエコノミー」と「ソーシャルワーキング」	SHARE(シェア) レイチェル・ボッツマン ルー・ロジャース
12.	自分たちで社会企業立ち上げる1 グループワーク team作り	チェンジメーカー 渡邊菜々 著
13.	自分たちで社会企業を立ち上げる2 グループワーク 社会の問題をビジネスで解決する	
14.	自分たちで社会企業を立ちあげる3 グループワーク マネタイズ方法	
15.	オリジナル社会企業プレゼンテーション	

受講者へのメッセージやアドバイス:

自分の能力の自信のない人必要な授業と考えています。能力は自らの意思の力で作るのです。だから大丈夫。そのことを一緒に学び作り出すために勉強しましょう。事前学習であげている本は必ず読まねければいけない本ではなく読んでいると理解が早いと理解してください。

フィードバックの方法:

レポート提出及び授業すべてで感想文提出(出席カードに記入)

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席率	70	出席カードにより査定
	レポート	15	数回のレポート提出内容により査定
	授業態度	15	授業中査定

教科書:

参考書:

人前で話のがラクになる5つの魔法
金光サリー 著
第三の波
アルビン・トフラー 著
ZERO TO ONE
ピーター・ディール 著
コンテンツの秘密
川上量生 著
学びを仕組みに変える新家元制度
前田出 著
THE PLATFORM
尾原和啓 著
メディア論
マーシャル・マクルーハン

FREE
クリス・アンダーソン著
ディズニー伝説
ボブ・トーマス著
SHARE(シェア)
レイチェル・ボッツマン
ルー・ロジャース

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡
方法:

email

514101、02

放送番組制作

影山 貴彦

授業テーマ: ものをつくるということ

授業の概要: 講義前半は番組を制作する際のマインドを受講者が把握できるよう、放送に関する多岐にわたる事項を教科書に基づいて解説する。後半はグループに分かれミニ番組の制作、発表へと移行する。

到達目標: 番組制作の喜び、あるいは難しさを講義で得る知識とともに習得することを目標とする。

授業方法: 講義と演習、実習の併用

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	ガイダンス	ものづくりに対するマインドを各人がイメージ	
	2.	教科書に基づく解説(1)	視聴を含むテレビの考察	
	3.	教科書に基づく解説(2)	視聴を含むテレビの考察	
	4.	教科書に基づく解説(3)	視聴を含むテレビの考察	
	5.	教科書に基づく解説(4)	視聴を含むテレビの考察	
	6.	教科書に基づく解説(5)	視聴を含むテレビの考察	
	7.	教科書に基づく解説(6)	視聴を含むテレビの考察	
	8.	ミニ番組制作に向けての解説	視聴を含むテレビの考察	
	9.	番組制作(1)	番組制作への準備、実践	
	10.	番組制作(2)	番組制作への準備、実践	
	11.	番組制作(3)	番組制作への準備、実践	
	12.	番組制作(4)	番組制作への準備、実践	
	13.	制作発表(1)	プレゼンテーションの準備	
	14.	制作発表(2)	プレゼンテーションの準備	
	15.	制作発表(3)＋小テスト	プレゼンテーションの準備	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 講義内でまとめて解説

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ミニ番組制作および発表	50%	完成のクオリティよりもプロセスを重視する
	積極的態度	30%	必ず毎回発言することを求める
	小テスト	20%	制作したミニ番組に対する振り返りを主として評価する

教科書: 「テレビのゆくえ」(世界思想社)影山貴彦著

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー

授業テーマ:

映像というメディアについて、主に演出と構成方法について探求する。

授業の概要:

前半を講義、後半を実習と言う流れで進め、映像作品をアニメ、実写TVドラマ、劇場用映画、各種PV、TVゲーム、その他に分けて紹介し比較する事でそれぞれの内容を分析、製作者の意図を探る。またCM制作現場の記録映像や編集作業そのものを、PC画面またはプロジェクターを通して学生に見てもらうことで、人がどういう作業をすることで作品が作られていくのかを感じ取ってもらう。演習では企画書、シナリオ、画コンテなどの描き方を学び、自分が監督のポジションに立った際にすべきことを学ぶ。本授業では創造力を身につけるにはまず分析力を身につけなければならないと考え、数々の名作と言われる作品を分析し、理解力を高めるところからはじめる。これらによって学生が将来、創作活動をする際の手助けとなればと願う。

到達目標:

さまざまな映像作品を理解し、その設計図を予想できるようになること。

授業方法:

講義・演習の混合。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 講師の自己紹介も兼ねこれまでにやってきたCM作品などをビデオで解説、授業の流れを説明 ガイダンス	参考文献を読んでいただくことをお勧めします。
	2. 演出技法を学ぶ① アニメ監督「宮崎駿」の作品を分析する事で演出技法を学ぶ	宮崎駿作品を何か見ておいてください。
	3. 演出技法を学ぶ② 宮崎駿の初期の作品「名探偵ホームズ」の分析 他	起承転結と三幕構成法について調べておいてください。
	4. 演出技法を学ぶ③ 自分が演出家の立場に立った時にすべきこと 他	映像表現における演出家の仕事とは何かを調べておいてください。
	5. 演出技法を学ぶ④ アニメ映画「おおかみこどもの雨と雪」の構成分析で三幕構成法を学ぶ	おおかみこどもの雨と雪の映画を見ておいてください。
	6. 演出技法を学ぶ⑤ アニメ映画「おおかみこどもの雨と雪」の構成分析でログラインの書き方を学ぶ	ログラインとは何かを調べておいてください。課題としてログライン製作が出ます。
	7. 演出技法を学ぶ⑥ アニメ映画「おおかみこどもの雨と雪」の構成分析でプロットの書き方を学ぶ	シナリオワークにおけるプロットとは何かを調べておいてください。課題としてプロット製作が出ます。
	8. 企画書、シナリオの具体例の紹介①	ノートPCかノート、筆記用具を持参し、メモを取りながら自分が作る物語を創作し始めてください。
	9. 企画書、シナリオの具体例の紹介②	ノートPCかノート、筆記用具を持参し、メモを取りながら自分が作る物語を創作し始めてください。
	10. 画コンテの製作 描き方を学ぶ	鉛筆や消しゴム(できれば練り消し)鉛筆削り等を持参ください。
	11. 演出の上でのカメラワークにおいて、撮影でのカット割りやスタッフワークの仕組みを学ぶ①	撮影現場がどのようになっているか、演出部、撮影部、照明部、録音部について等など、検索して調べておいてください。
	12. 演出の上でのカメラワークにおいて、撮影でのカット割りやスタッフワークの仕組みを学ぶ②	監督とプロデューサーの違いにおいて検索して調べておいてください。
	13. 映像編集の実際 編集ソフト上でのTVCM製作の作業をスクリーンで見ながら、編集とは何かを学ぶ①	映像編集とは何かを調べておいてください。できればウインドウズムービーメーカーや簡単な編集ソフトを実使用して試してみてもおいてください。
	14. 映像編集の実際 編集ソフト上でのミュージックビデオや劇場用映画製作の作業をスクリーンで見ながら、編集とは何かを学ぶ②	何かしらのTVや映画のメイキングなど舞台裏が撮影されている動画を、ネット検索したりして見ておいてください。
	15. TV、劇場、YOUTUBE等の比較において映像の公開先を探る 授業のまとめ 他	これまでに課題として提出した映画のプロットと照らし合わせ、どのような公開先がふさわしいか、公開先について調べておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

特に専門的な知識や技能を必要とする授業ではありませんが、授業では物語を製作していただく課題があります。絵コンテ製作の演習もありますので、鉛筆などの筆記用具が必要です。

フィードバックの方法:

課題への評価を授業を通じてまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題の発表	50	プロット等の完成度を見る。企画力10%、表現力20%、プレゼンテーション能力20%とする。
	授業内容の把握度	50	授業で出した課題を通じて、理解できているかを評価する。

教科書:

参考書:

CG&映像しくみ事典—完全カラー図解 第2版
SAVE THE CATの法則 本当に売れる脚本術 ブレイク・スナイダー著
シド・フィールドの脚本術 シドフィールド著
魂の演技レッスン22 ステラ・アドラー著
ビデオ「撮影 編集」 ノート Uシネマ・カンパニー編著

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

基本的には授業内、授業前後の場合は友和館の非常勤講師控室を訪ねていただく。それ以外はマナービー、またはメールにて。

514300

プロデュース論A

川田 隆雄

授業テーマ：プロデュース学の概論授業

授業の概要：現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテインメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデュース学は様々なプロデュースを行うための必要な総合的な能力を研究する学問分野である。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進し、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。この授業ではエンターテインメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュースの4つのジャンルに共通なプロデュース能力を解説し実践応用が出来る準備を行う。

到達目標：プロデュースという現代的な行為に関する明確なイメージを持つことができるようになる。また、プロデュースのプロセスを時系列で理解することができるようになる。最終的に自分でもプロデュースの企画ができるようになることを目指す。

授業方法：授業はオンキャンパス：講義の方法で進められる。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. プロデュース学のガイダンス	特になし
	2. ビジョン(思いつき)を育む方法1	復習
	3. ビジョン(思いつき)を育む方法2	復習
	4. ビジョン(思いつき)を育む方法3	復習
	5. 思いつきから構想へ1	復習
	6. 思いつきから構想へ2	復習
	7. 実現環境とスキーム作り1	復習
	8. 実現環境とスキーム作り2	復習
	9. 実現環境とスキーム作り1実現環境とスキーム作り3	復習
	10. プロジェクトの実行と管理1	復習
	11. プロジェクトの実行と管理2	復習
	12. プロジェクトの実行と管理3	復習
	13. 社会化の達成と成果の評価1	復習
	14. 社会化の達成と成果の評価2	復習
	15. まとめとふりかえり	全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス：プロデューサーの行動パターンについて総合的に講じる授業である。将来何らかの形でプロデュースとう行為に関わりたい学生の受講を希望する。

フィードバックの方法：授業中のディスカッションを通じ学生さんの疑問や発展的質問に答える

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席率と授業への参加度	30	出欠と授業での発言数
	最終の試験	60	試験の点数(レポートの場合もある)

教科書：適宜指示

参考書：適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法：授業内でのコンタクトを基本とする。

授業テーマ:

真のプロデューサーとは

授業の概要:

前半では、代表的なメディアプロデューサーを例に挙げながらプロデューサーとはいかなる存在なのかを解説しつつ、ミニプレゼンテーションを重ねる。最終的に、セルフプロデュースをキーワードとしたメディアプロデュースの成果を形として発表する。

到達目標:

「真のプロデュース」とは何なのかを講義を通して理解してもらいつつ、セルフプロデュースの意義を把握することを目標とする。

授業方法:

講義および演習の併用

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	プロデュースとは何か、各人がイメージしておく
2.	メディアプロデュースの解説(1)	メディア系で活躍するプロデューサーを調査、考察
3.	メディアプロデュースの解説(2)	メディア系で活躍するプロデューサーを調査、考察
4.	メディアプロデュースの解説(3)	メディア系で活躍するプロデューサーを調査、考察
5.	メディアプロデュースの解説(4)	メディア系で活躍するプロデューサーを調査、考察
6.	個人およびグループでのプレゼンテーション(1)	プレゼンテーションに対する取り組み
7.	個人およびグループでのプレゼンテーション(2)	プレゼンテーションに対する取り組み
8.	個人およびグループでのプレゼンテーション(3)	プレゼンテーションに対する取り組み
9.	個人およびグループでのプレゼンテーション(4)	プレゼンテーションに対する取り組み
10.	個人およびグループでのプレゼンテーション(5)	プレゼンテーションに対する取り組み
11.	セルフプロデュースに基づくプレゼンテーション解説	プレゼンテーションに対する取り組み
12.	セルフプロデュースに基づくプレゼンテーション(1)	プレゼンテーションに対する取り組み
13.	セルフプロデュースに基づくプレゼンテーション(2)	プレゼンテーションに対する取り組み
14.	セルフプロデュースに基づくプレゼンテーション(3)	プレゼンテーションに対する取り組み
15.	セルフプロデュースに基づくプレゼンテーション(4) + 小テスト	プレゼンテーションに対する取り組み

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内でまとめて解説

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	講義内でのプレゼンテーション	60%	長短さまざまなプレゼンテーションに挑戦してもらうが、プロセスを大いに評価基準とする
	積極的態度	20%	毎回の発言を求める
	小テスト	20%	セルフプロデュースの振り返りを主とする

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:	IT時代の情報サービス産業の起業を考えよう		
授業の概要:	インターネットの社会への急速な普及を背景に情報サービス産業は、我々の日常生活に浸透しはじめている。情報サービス産業はeコマースに代表されるようなインターネットによる物品の購入システムに留まらず、付加価値情報の提供、ASP (application service provider)、e-learningシステムなど、さまざまなビジネス形態が登場しはじめている。同女を卒業する学生の多くが卒業後この分野で活躍することは想像に難くない。この授業では20世紀の日本の経済システムを概観した後、21世紀に発展を続ける情報サービス産業の動態を考察する。そして、情報サービス産業を起業していくために必要な基本的知識を修得、起業企画書作成、財務の基本的知識などを学ぶ。最終的にはこの授業を受講した学生さんから未来のアントロプルスアー(起業家)が育つことを期待する。		
到達目標:	この授業で以下の点についての学習を行う ・日本の経済の発展経緯を時系列で把握する。 ・ビジネスが成立する状況について具体的に理解する ・起業にあたって必要な財務の基本について学ぶ ・現代の情報ビジネスの諸相について学ぶ ・起業するための企画書を書き、クラスメイトとアイデアをシェアする		
授業方法:	講義形式と演習形式の授業を織りまぜて行う。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 概論	復習	
	2. 日本の経済活動の特徴1	復習	
	3. 日本の経済活動の特徴2	復習	
	4. 企業に必要な財務:損益計算書とバランスシート	復習	
	5. 企業に必要な財務:損益計算書とバランスシート	小テスト準備	
	6. 情報サービス産業とは何か?	復習	
	7. 多様な情報サービス産業のビジネス形態	復習	
	8. 多様な情報サービス産業のビジネス形態	復習	
	9. 起業に必要な知識の取得	復習	
	10. 起業シミュレーション1	起業シミュレーションの準備	
	11. 起業シミュレーション2	起業シミュレーションの準備	
	12. 起業シミュレーション3	起業シミュレーションの準備	
	13. 発表会1	発表準備	
	14. 発表会2	発表準備	
	15. まとめとふりかえり	特になし	
受講者へのメッセージやアドバイス:	起業するための基本的知識、財務諸表の見方、起業のための企画書の作成などの宿題が出る。将来、ビジネスを起こしたい学生の受講を歓迎する。		
フィードバックの方法:	授業内でフェードバックを行う		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席率と授業への参加度	40	出欠とTAの記録。欠席が授業回数の4回を超えた場合、成績をつける対象とならないので注意するように。
	小テストと試験	60	小テスト(レポートの場合もありえある)と最終の試験の結果
教科書:	適宜指示		
参考書:	適宜指示		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業内でのコンタクトを基本とする。		

授業テーマ:

営利企業のマネージメントの概論をベースに、非営利組織にも応用できる“集団を率いて、目的を達成する”しくみと考え方を学ぶ。

授業の概要:

この授業は、現代のグローバル社会・情報化社会ではとてつもなく複雑で、またスピーディーに変貌する”マネージメント”という概念を15回の授業で理解しようとする意欲的なクラスである。その方法として、学生自身の将来を設計し、それを満足できるように実現するためのセルフプロデュース、セルフマネージメントの考え方からはじめ、次にビジネスの目的・構造を解説した上で、ビジネスにおけるマネージメントも担当できる程度の知識にも触れる。

到達目標:

情報産業においても、所属集団の力を凝縮し、メンバー全員が目的を共有して、求める結果をつくり出すマネージメント力は、リーダーには欠かせません。
現代のように組織そのものも複雑になり、グローバル化、競争激化、顧客要求の多様化、変化のスピードアップ等、マネージメントを混乱させる原因にことかかないようになると自分なりに“マネージメントとは何か？”ということをしっかり把握しておかないと“管理の為の管理はやっているが結果が出ない”“目標が達成できない”ということになります。この“マネージメントとは、何か？”ということを明確にし、自分なりにマネージメントに挑戦できるーと自信を持つようにするのがこの授業の目的です。

授業方法:

単純なレクチャーのみでは経営専攻ではない学生にとってあまりにも身近ではなく抽象的であるので、できるだけ自分自身のトピックスと組み合わせ、ワークショップを並行して進行する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスとオリエンテーション マネージメント研究で何を勉強すべきか？	自分の将来像について考える
2.	・ビジネスの概要現代のビジネスをとりまく背景 ・セルフプロデュースの目的設定	セルフプロデュースの目的を整理する
3.	・ビジネスの概要 超優良企業のビジネスシステム ・セルフプロデュースの発案のやり方	
4.	・経営戦略について 超優良企業の戦略策定の実際 ・セルフプロデュースの実現の方法	セルフプロデュースのレポート作成
5.	・経営戦略について 財務的観点と利益の重要性	自分でやりたいビジネスを考える
6.	・マーケティングとは マーケティングに含まれる仕事の内容 ・ビジネスモデルについて	ビジネスモデルを設計してみる
7.	・マーケティングとは ブランドビルディング	ブランドビルディングのレポート作成
8.	・マーケティングとは 購買を発生させるしくみ	
9.	・マーケティングとは 販売の考え方	マネージメントの本・記事にふれる
10.	・企業でマネジャーがやるべきことやってはいけないこと ・アカウンタビリティとコンピテンシー	自分の強み・弱みについてチェックする
11.	・組織開発の概要(戦略、組織、文化、行動について) ・マネージメントの歴史	
12.	・組織開発の実例 ・組織の人事(能力・意欲・考え方)	
13.	・組織文化をつくりだす要素とは何か？	授業についての質問をつくる
14.	質疑応答	授業についての質問をつくる
15.	まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
	レポート	25	授業の理解度を総合的に評価し、理解した内容を説得力をもって説明できるかをチェックする。
	授業への参加	25	積極的に授業に参加したかどうかを評価する。

教科書:

参考書: 授業で説明する

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、自己実現力

教員との連絡
方法:

jun.asano@gmail.com

授業テーマ:

組織内プロデューサーの戦略

授業の概要:

様々な思いを持って企業に就職や転職をするものの、なかなか力を発揮できない人がいる一方で、次々と新しいことを仕掛け、思いついたものをカタチにして拡げていく人がある。このように企業に所属しながら新たな価値を創造する人を企業内起業家(インハウスプロデューサー)という。彼らは一体どのような視点を持って行動しているのか、どのような方法でプロジェクトを進めているのか、様々な障壁に対してどのような戦略を持って乗り越えていくのかについて学ぶ。そして、志を持ち自ら考え行動して「新たな価値」を創造する人材となり、将来活躍することを期待する。

到達目標:

(A)プロジェクトを進める上でのプロセスを、自身の体験やケーススタディと照らし合わせながら概念を理解する。
(B)組織の構造を理解し、その中で自身を成長させるための観点を理解する。

授業方法:

講義形式で進行するが、テーマごとにグループ討議を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス:組織内プロデューサーの役割	
	2. 着想の手法:テーマを考える(1)	ケーススタディを通じて概念を理解する
	3. 着想の手法:テーマを考える(2)	参考書籍を通じて概念を理解する
	4. 着想の手法:テーマを考える(3)	
	5. 発案の手法:ストーリーを伝える戦略(1)	アイディアをストーリー化することで概念を理解する
	6. 発案の手法:ストーリーを伝える戦略(2)	参考書籍を通じて概念を理解する
	7. 発案の手法:ストーリーを伝える戦略(3)	
	8. 実現の手法:プロジェクトを推進させる戦略(1)	自身がチームで取り組んだ事象を通じて概念を理解する
	9. 実現の手法:プロジェクトを推進させる戦略(2)	
	10. 実現の手法:プロジェクトを推進させる戦略(3)	レポート課題1を通じて、プロジェクトを進める上での戦略を俯瞰する
	11. 組織づくりの戦略(1)	
	12. 組織づくりの戦略(2)	
	13. 自分を育むための戦略(1)	参考書籍を通じて概念を理解する
	14. 自分を育むための戦略(2)	
	15. 組織づくり及び自分を育むための戦略のまとめ	レポート課題2を通じて、自己成長のための戦略を考える

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	40	積極的に授業へ参加し、到達目標の2つの観点が自身のことに引きつけて考えられるようになったかを評価する。
	レポート1	30	到達目標Aについて概念を理解し、ケーススタディを通じて説明できているかを基準とする。
	レポート2	30	到達目標Bについて、自身の成長に引きつけて内省化できているかを基準とする。

教科書:

参考書:

滝本哲史／戦略がすべて／新潮新書
ジム・コリンズ／ビジョナリーカンパニー②飛躍の法則／日経BP
堺屋太一／組織の盛衰／PHP文庫
田坂広志／人は誰もが「多重人格」／光文社新書
田坂広志／知性を磨く「スーパージェネラリスト」の時代／光文社新書

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

変化対応力、自己実現力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	経営戦略の基礎知識とIT活用型ビジネスモデルについて。		
授業の概要:	経営環境の目まぐるしい変化、グローバリズムの進展による競争激化などを背景に、企業の存続、成長に向けて経営戦略の重要性がますます高まっている。本授業では、事業戦略、組織・人事、マーケティングなどの経営戦略の基本的な知識を習得するとともに、データベースの営業戦略への活用やデジタルメディアによるマーケティング、AI、ビッグデータなどの先進技術をベースにした新規事業戦略、ビジネスモデルの構築について学習する。また、各テーマにおける経営戦略事例を題材に、戦略的な考え方、ものの見方について理解を深める。		
到達目標:	経営戦略の基本的な知識とその活用方法を理解し、説明できるようになる。 IT活用型ビジネスモデルの特徴を理解し、説明できるようになる。 経営戦略の実例に興味・関心を持ち、戦略的に考える意欲を持つ。		
授業方法:	講義形式が主体の授業とするが、授業の中で各自の意見を求める。また、特定のテーマで数回グループ討議を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス	
	2.	経営戦略の全体像	
	3.	組織戦略 事例	組織のメリット・デメリットについて考える
	4.	人事戦略 事例	モチベーションアップの方法について考える
	5.	マーケティング戦略の基礎知識	
	6.	マーケティング戦略 事例	商品プロモーションについて調べる
	7.	IT戦略の基礎知識	
	8.	IT戦略 事例1	売上データの活用について考える
	9.	IT戦略 事例2	コンビニについて調べる
	10.	デジタルマーケティングの基礎知識	
	11.	デジタルマーケティング 事例	ネットビジネスについて調べる
	12.	ビジネスモデル基礎知識	
	13.	ビジネスモデル 事例1	ビッグデータ IoTの活用事例を調べる
	14.	ビジネスモデル 事例2 総括	AIの活用事例を調べる
	15.	まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	質問、レポートに対するフィードバックは教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	経営戦略、ビジネスモデルの理解度
	出席を含む授業への参加態度	50	欠席は減点
			準備学習とグループ討議での態度、意欲
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。		

授業テーマ:

メディアエンターテインメントにおける「華」

授業の概要:

「華」をキーワードに、エンターテインメントを主眼としたメディアの考察を行う。

到達目標:

メディアの研究を始める学生を対象に、受動的でなく能動的にメディアを捉える能力を得ることを最低限の目標として据える

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
2.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(1)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
3.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(2)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
4.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(3)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
5.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(4)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
6.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(5)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
7.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(6)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
8.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(7)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
9.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(8)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
10.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(9)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
11.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(10)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
12.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(11)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
13.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(12)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
14.	メディアの中にある「華」※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(13)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
15.	総括および小テスト	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内でまとめて行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業における積極性	50%	聴く力、発言力および、出席カードへの自由記述欄の内容など
	小テスト	50%	いかに講義で得たことを身に着けているかを確認する

教科書:

参考書:

「百恵讃～学生たちと先生の山口百恵」(晃洋書房)影山貴彦著

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:

エンターテインメント的見地に立つメディア研究

授業の概要:

毎回ふたりの学生に自らのテーマに沿ったプレゼンテーションを課す。
同時にふたりの学生に座長を課す。
そのほかの学生にも毎回必ず発言することを課す。

到達目標:

メディアに対する正しい認識のもと、大いに知識を深め、自らの研究テーマに反映させることを目標とする。

授業方法:

演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
2.	ガイダンス②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
3.	個人発表およびディスカッション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
4.	個人発表およびディスカッション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
5.	個人発表およびディスカッション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
6.	個人発表およびディスカッション④	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
7.	フィールドワーク	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
8.	個人発表およびディスカッション⑤	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
9.	個人発表およびディスカッション⑥	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
10.	個人発表およびディスカッション⑦	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
11.	個人発表およびディスカッション⑧	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
12.	個人発表およびディスカッション⑨	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
13.	個々のショートプレゼンテーション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
14.	個々のショートプレゼンテーション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
15.	個々のショートプレゼンテーション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	個人発表	40%	研究テーマに関するクオリティ
	発言力・質問力	30%	発表者への的を射た意見、および質問する力
	積極的姿勢	30%	ゼミに関わる全般的な態度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワーおよびゼミ終了後

515002

情報メディア演習

川田 隆雄

授業テーマ:

プロデュース学の研究のための基礎的学習

授業の概要:

現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテインメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。このゼミではエンターテインメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュース、教育プロデュースのいずれかのジャンルで実践応用を目指す人材とプロデュース能力の分析研究を行う2種類の人材を募集する。この授業ではプロデュース学が基礎とするセルフプロデュースについて参考文献を読みプロデュース能力の基本について理解のきっかけとする。

到達目標:

この授業では以下の点の学習に重点が置かれる
・セルフプロデュースについて深い理解に到達する
・文献を読んで、内容を把握し、それをレジメにまとめて発表する
・本音でディスカッションに臨む態度を養う

授業方法:

授業は演習形態で進められる。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス	特になし
2. プロデューステクノロジーの概要解説	特になし
3. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
4. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
5. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
6. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
7. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
8. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
9. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
10. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
11. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
12. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
13. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
14. テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
15. まとめとふりかえり	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

大部のテキストをクラスで精読するため、毎週、テキストを読む予習の課題が出る。また、グループで内容を発表するためグループごとの資料制作の予習も発生する。

フィードバックの方法:

授業への参加度60%、ゼミ全体への貢献度20%、成果物20%で評価する

「成績評価方法」

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度と貢献度	80	出欠と授業での発表の様子
成果物	20	作成されたレジメを評価する

「成績評価基準」:

教科書:

適宜指示

参考書:

適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業内での直接コンタクト

授業テーマ:	マルチメディアと教育		
授業の概要:	マルチメディアは、人間の精神活動に即してインタラクティブに応答する、打てば響くような情報システムである。マルチメディアが普及し始めてから、かなりの年月が経過し、インターネット上やミュージアムなどにおいて多くのマルチメディア情報が実現されている。これらの情報の中には、誰にとっても興味深く楽しみながら利用できるものと、ただ画像と音声とが並べられているだけで興味をあまり引かないものが見受けられる。		
到達目標:	マルチメディア情報における、このような違いの心理学的側面を実態に即して調査し分析することを目標としたい。		
授業方法:	演習、調査・制作、プレゼンテーションを総合的に実践する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. マルチメディアの基本概念の解説	実践マルチメディア-コミュニケーション能力に差をつける	
	3. マルチメディア・データの種類について		
	4. マルチメディア・データの操作法(1)	第三版 入門マルチメディア	
	5. マルチメディア・データの操作法(2)		
	6. マルチメディア・データの操作法(3)		
	7. 課題の構想とプレゼンテーション	文献調査	
	8. 制作1		
	9. 制作2		
	10. 制作3		
	11. 制作過程のチェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進捗をチェックする	
	12. プロトタイプの提出	各自の課題にそった制作・研究過程の骨子を作成する	
	13. 作品・レポートの手直し		
	14. 作品・レポートの提出・プレゼンテーション1	プレゼン力を養う	
	15. 作品・レポートの提出・プレゼンテーション2	プレゼン力を養う	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室で個々に解説する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	作品・レポート	50	積極的に授業に参加し、到達目標マルチメディアの基礎的な理解ができるようになったか評価する
	プレゼンテーション	30	
	積極的参加度	20	
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	e-mail		

授業テーマ:	公共CM作品の制作		
授業の概要:	本授業では、公共CM作品の制作を行います。第一段階は、現代社会における多様な問題の中から、各自が特に関心のある問題を一つとりあげ、調査を行い、発表とディスカッションを行います。ここでは社会における問題の発見とその共有が課題です。第二段階は、発表・ディスカッションを経て共有したテーマの中からいくつかのテーマを絞り込み、グループ毎に作品の企画・制作を進めます。ここでは社会における問題解決の一つの方法として、視聴者のAIDMA(注意を喚起し、関心を抱かせ、欲求を生み、記憶させ、行動を促す)をふまえた公共CM作品を共同制作することが課題です。最後に、AC(公共広告機構)における学生公共広告賞への応募を通じて、社会へと投げかけることを目標とします。		
到達目標:	魅力的な作品を制作し的確にメッセージを伝える 共同作業における責務を自覚する コミュニケーションの大切さを知る 創造的な問題解決のための基礎力を養う		
授業方法:	作品の企画・制作を中心とする演習を行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. テーマ研究の発表1 2. テーマ研究の発表2 3. 公共CMサンプル作品の研究発表1 4. 公共CMサンプル作品の研究発表2 5. 社会問題の研究発表1 6. 社会問題の研究発表2、グループ分け 7. テーマのプレゼンテーション 8. 企画ラフ案のプレゼンテーション 9. 演出案のプレゼンテーション 10. コンテ動画のプレゼンテーションと検討 11. テスト作品のプレゼンテーションと検討1 12. テスト作品のプレゼンテーションと検討2 13. 作品プレビュー1 14. 作品プレビュー2 15. 合評	準備学習等の内容 テーマ研究の発表準備 公共CMサンプル作品の研究発表準備1 公共CMサンプル作品の研究発表準備2 社会問題の研究発表準備1 社会問題の研究発表準備2 テーマの調査と発表準備 企画ラフ案の検討 演出案の検討 コンテ動画の作成 テスト作品の作成1 テスト作品の作成2 本番撮影と編集 修正1 修正2	
受講者へのメッセージやアドバイス:	情報収集活動やコミュニケーション活動を繰り返し実施してください。		
フィードバックの方法:	授業内でアドバイスをを行います。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 作品	割合 100	評価基準 完成作品の魅力やメッセージの訴求力を評価します。 また各個人の共同作業における責務遂行、適切に判断し行動するためのコミュニケーション能力、創造的な問題解決能力については、チームへの貢献度を作品点に掛け合わせて評価します。
教科書:			
参考書:	『公共広告が社会を変えるー日米ACの歩みと全貌』植条 則夫著、電通 『世界の公共広告ー世界は「公共広告」のテーマに満ち満ちている』金子 秀之著、研究社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	各授業の終了後に直接連絡するか、kmori@dwc.doshisha.ac.jpにメールしてください。		

授業テーマ:

企業インタビューおよび会社案内の制作を通じたメディア研究

授業の概要:

大学と地域企業を結ぶ人材育成プロジェクトである「志プロジェクト」に参加し、アクティブラーニングを意識した取り組みを行います。そして、地域の企業を対象に、企業を知り、企画・インタビュー・撮影・パンフレット制作を行うことで、コミュニケーション力や卒業研究に必要な技能を身に着けることを目的とします。

到達目標:

1【知識・理解】企業研究や企業訪問で得た情報を基にして、地域企業の活動内容をわかりやすく紹介できる。
2【関心・意欲・態度】社会人としての基本的なマナーを身につけるとともに、責任感や協調性をもって他者と接することができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力やコミュニケーション力、卒業研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:

講義、調査、ディスカッション等を用いたゼミ形式で、アクティブラーニングを意識した活動を行います。
企業訪問および成果発表のために学外での活動を2回予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	企業研究に関わる基礎知識の習得、会社案内の研究	グループワーク、発表のための事前・事後学習
3.	訪問先企業の決定、取材計画の策定	グループワーク、発表のための事前・事後学習
4.	アポイントメント、インタビューのロールプレイ練習	グループワーク、発表のための事前・事後学習
5.	進捗状況の報告、会社案内制作(1)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
6.	進捗状況の報告、会社案内制作(2)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
7.	進捗状況の報告、会社案内制作(3)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
8.	中間報告会(ラフデザイン発表)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
9.	進捗状況の報告、会社案内制作(1)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
10.	進捗状況の報告、会社案内制作(2)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
11.	進捗状況の報告、会社案内制作(3)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
12.	学内報告会(完成版発表)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
13.	最終調整、発表準備(1)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
14.	最終調整、発表準備(2)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
15.	志プロジェクト報告会(訪問先企業の関係者を招いての最終成果発表)	グループワーク、発表のための事前・事後学習

受講者へのメッセージやアドバイス:

余田ゼミ、和氣ゼミとの3ゼミ合同で行います。
毎回MacBookAirを使用するので、初回から持参してください。

フィードバックの方法:

必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み姿勢	40	到達目標2の達成度を中心に評価します
	発表	30	到達目標1, 3の達成度を中心に評価します
	成果物	30	到達目標1, 3の達成度を中心に評価します

教科書:

参考書:

『採用ブランディング-採用サイト・入社案内のコンテンツ&デザイン事例集』 ビー・エヌ・エヌ新社
『構成・レイアウトで魅せる 企業案内グラフィックス』 パイインターナショナル
『伝達力のある 企業案内グラフィックス―幅広い業種の会社案内・入社案内・コンセプトブック・CSRレポート特集』 パイインターナショナル
シータス&ゼネラルプレス 『企業イメージを劇的にアップさせる新しい広報ツールの作り方、考え方。』 エムディエヌコーポレーション

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	メディアと人間の歴史ー過去から未来へー																																		
授業の概要:	人間はメディアによって社会を形成してきたが、一方で、メディアによってくり返して作り変えられてきた存在でもある。その視点から、人間とメディアとの関わりを考える。具体的には、キリスト教や宗教、哲学、思想、文学、美術、音楽、倫理など、これまで人類が蓄積してきた知の遺産をメディア論や情報理論の立場から探求するための方法について検討する。広範な領域への関心が必要であるが、ぎゃくに、どんな関心からでもアプローチすることも可能である。																																		
到達目標:	(3～4年次演習も含めて)基本的にゼミ構成員による共同作業として実施される。したがって、以下の基礎的技法に習熟し、共同的に検討する準備期間とする。 1)学術的調査と資料収集 2)認識と伝達の基礎的理論 3)論理的文章表現 4)プレゼンテーション 具体的には、「授業の概要」に添った論考の読解作業を基本とする。その作業において、上記の諸技法が応用され、問題意識の共同化が計られる。参加者は、各人の関心にもとづいて文化とメディアの関係を中心に研究計画の立案をはじめめる。具体的作業は3年次演習に引き継がれる。																																		
授業方法:	演習形式。プロジェクト作業を中心とし、その成果の報告(プレゼンテーション)も求められる。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 導入</td><td>実質的には2年半におよぶゼミでの学習計画についておよその計画を構想しておくこと。</td></tr><tr><td>2. 主要文献の紹介</td><td>指示された文献について、概要を把握しておくこと。</td></tr><tr><td>3. 論理的思考の基礎-1</td><td>プロジェクトによる文献の読解を開始できるように準備を進める。</td></tr><tr><td>4. 論理的思考の基礎-2</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続すること。</td></tr><tr><td>5. 文献講読の方法-1</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続すること。</td></tr><tr><td>6. 文献講読の方法-2</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続すること。</td></tr><tr><td>7. プレゼンテーションの技法-1</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続すること。</td></tr><tr><td>8. プレゼンテーションの技法-2</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続すること。</td></tr><tr><td>9. 文献からプレゼンテーションへ-1</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。</td></tr><tr><td>10. 文献からプレゼンテーションへ-2ー中間報告(プレゼンテーション)ー</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続し、中間報告(プレゼンテーション)の準備を完了しておくこと。</td></tr><tr><td>11. 文献からプレゼンテーションへ-3</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。</td></tr><tr><td>12. 文献からプレゼンテーションへ-4</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。</td></tr><tr><td>13. 文献からプレゼンテーションへ-5ー最終報告(プレゼンテーション)ー</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続し、最終報告(プレゼンテーション)の準備を完了しておくこと。</td></tr><tr><td>14. 文献からプレゼンテーションへ-6ー最終報告(プレゼンテーション)ー</td><td>プロジェクトによる文献の読解を継続し、最終報告(プレゼンテーション)の準備を完了しておくこと。</td></tr><tr><td>15. 総括ーさらなる研究のためにー</td><td>全回の授業をふり返り、3年次以降のゼミを継続するためにはどのような準備が必要か、整理しておくこと。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 導入	実質的には2年半におよぶゼミでの学習計画についておよその計画を構想しておくこと。	2. 主要文献の紹介	指示された文献について、概要を把握しておくこと。	3. 論理的思考の基礎-1	プロジェクトによる文献の読解を開始できるように準備を進める。	4. 論理的思考の基礎-2	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。	5. 文献講読の方法-1	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。	6. 文献講読の方法-2	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。	7. プレゼンテーションの技法-1	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。	8. プレゼンテーションの技法-2	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。	9. 文献からプレゼンテーションへ-1	プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。	10. 文献からプレゼンテーションへ-2ー中間報告(プレゼンテーション)ー	プロジェクトによる文献の読解を継続し、中間報告(プレゼンテーション)の準備を完了しておくこと。	11. 文献からプレゼンテーションへ-3	プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。	12. 文献からプレゼンテーションへ-4	プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。	13. 文献からプレゼンテーションへ-5ー最終報告(プレゼンテーション)ー	プロジェクトによる文献の読解を継続し、最終報告(プレゼンテーション)の準備を完了しておくこと。	14. 文献からプレゼンテーションへ-6ー最終報告(プレゼンテーション)ー	プロジェクトによる文献の読解を継続し、最終報告(プレゼンテーション)の準備を完了しておくこと。	15. 総括ーさらなる研究のためにー	全回の授業をふり返り、3年次以降のゼミを継続するためにはどのような準備が必要か、整理しておくこと。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 導入	実質的には2年半におよぶゼミでの学習計画についておよその計画を構想しておくこと。																																		
2. 主要文献の紹介	指示された文献について、概要を把握しておくこと。																																		
3. 論理的思考の基礎-1	プロジェクトによる文献の読解を開始できるように準備を進める。																																		
4. 論理的思考の基礎-2	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。																																		
5. 文献講読の方法-1	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。																																		
6. 文献講読の方法-2	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。																																		
7. プレゼンテーションの技法-1	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。																																		
8. プレゼンテーションの技法-2	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。																																		
9. 文献からプレゼンテーションへ-1	プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。																																		
10. 文献からプレゼンテーションへ-2ー中間報告(プレゼンテーション)ー	プロジェクトによる文献の読解を継続し、中間報告(プレゼンテーション)の準備を完了しておくこと。																																		
11. 文献からプレゼンテーションへ-3	プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。																																		
12. 文献からプレゼンテーションへ-4	プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。																																		
13. 文献からプレゼンテーションへ-5ー最終報告(プレゼンテーション)ー	プロジェクトによる文献の読解を継続し、最終報告(プレゼンテーション)の準備を完了しておくこと。																																		
14. 文献からプレゼンテーションへ-6ー最終報告(プレゼンテーション)ー	プロジェクトによる文献の読解を継続し、最終報告(プレゼンテーション)の準備を完了しておくこと。																																		
15. 総括ーさらなる研究のためにー	全回の授業をふり返り、3年次以降のゼミを継続するためにはどのような準備が必要か、整理しておくこと。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	メディア文化史的方法による探求の基本を理解し、4年次における「卒業研究・制作」に繋げる研究・学習の準備をして欲しい。あわせて、小グループ(プロジェクト)における研究・学習の進化についても経験を積むことになるので、他者との共同についても高い意欲をもって参加して欲しい。																																		
フィードバックの方法:	小グループ(プロジェクト)は随時組み替えながら、問題意識がクラス全体で共有されるように配慮しながら進めたい。グループ討議、クラス内討議は一部授業支援システム(マナビー)も利用して行われる。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席状況</td><td>50%</td><td>積極的にクラスに参加し、討議(マナビーを含む)議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。</td></tr><tr><td>プロジェクト研究</td><td>50%</td><td>プロジェクト内およびクラスでの貢献を基準として評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席状況	50%	積極的にクラスに参加し、討議(マナビーを含む)議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。	プロジェクト研究	50%	プロジェクト内およびクラスでの貢献を基準として評価する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
出席状況	50%	積極的にクラスに参加し、討議(マナビーを含む)議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。																																	
プロジェクト研究	50%	プロジェクト内およびクラスでの貢献を基準として評価する。																																	
教科書:	多岐にわたる内容であるので、とくに教科書は指定しないが、参考文献はクラスにおいて指示する。																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、洞察力																																		
教員との連絡方法:	直接またはE-mail E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp																																		

授業テーマ:

授業の概要: 私たちの日常／非日常には、さまざまなメディア空間やメディアイベントが存在しています。テーマパークなど都市の商業施設や、キャラクターグッズやブランド商品などの消費をめぐる文化現象、プライダルやバレンタインなどのイベント等は全て広義のメディアといえます。そしてそれらに接する際に人々が受ける感動や「ワクワク感」の裏側には、実はさまざまな「仕掛け」が隠されているのです。幅広い概念として身近なメディアをとらえ、そのメッセージや仕掛けを見抜く視点を養うことで、現代の消費文化をめぐる色々な疑問や仕組みが見えてきます。また、理論的な学びや消費者としての視点で考えるだけでなく、企業との連携活動により、文化を仕掛ける立場からプロジェクトを実施します(例:伝統・地場産業の振興をめざした「京都和婚」のプロデュース)。企業との協働作業を通じて独自企画を立案～具現化し、実社会にリリースすることを目指したグループ活動が主軸となります。実践的な演習を通して、ユニークな消費文化を創造する行動力や企画力をはじめ、社会の即戦力となる総合的な実力を養いましょう。

到達目標: 学期中は企業とのコラボレーションも積極的に取り入れてゼミのプロジェクト計画を設定し、フィールドワークや各種調査を実施します。その過程で、個人あるいはグループでの調査・分析、プレゼンテーションなどを行い、研究とその実践の両面から具体的な成果を出すことを目指します。

授業方法: グループワークを基本とし、調査研究、企画立案、プレゼンテーション、ディスカッションを総合的に組み込んだゼミ形式で行います。受講生は指導に基づきつつ自律的、実践的な活動を行い、プロジェクトの目標実現を目指します。企画の実効性を高めるため、随時各所へのフィールドワークや会社・店舗訪問等を行い、各関連業界における専門家からの学びも取り入れてゆきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション(1)ゼミ開始にあたって	ゼミとプロジェクトについての事前理解
	2. イントロダクション(2)プロジェクトの進め方など	ゼミとプロジェクトについての具体的な理解
	3. プロジェクト・基礎(フィールドワーク)準備(1)	収集が必要な情報の検討
	4. プロジェクト・基礎(フィールドワーク)準備(2)	情報の獲得方法の具体的な検討
	5. フィールドワークの実践	必要な情報の現地における収集準備
	6. フィールドワーク後のまとめ(1)	収集した情報の整理と分析
	7. フィールドワーク後のまとめ(2)	収集した情報の統合と更なる分析
	8. プロジェクト・応用 グループ発表(1)	分析結果の発表準備①
	9. プロジェクト・応用 グループ発表(2)	分析結果の発表準備②
	10. プロジェクト・発展 調査研究実践と発表(1)	発展的情報収集の実施と討論、プレゼンテーション準備①
	11. プロジェクト・発展 調査後討論実践と発表(2)	発展的情報収集の実施と討論、プレゼンテーション準備②
	12. プロジェクト・完成 プレゼンテーション準備(1)	プロジェクトの完成に向けた具体的活動と関連作業①
	13. プロジェクト・完成 プレゼンテーション準備(2)	プロジェクトの完成に向けた具体的活動と関連作業②
	14. プロジェクト・完成 最終プレゼンテーション	プロジェクトの完成発表準備
	15. プロジェクトの総括と発展・継続に向けての作業	改善点の把握と今後に向けての発展的な指針作成

受講者へのメッセージやアドバイス: グループワークによるプロジェクト実践を行い、総合的な演習による学びを通して調査研究を実践に結び付けるプロセスを習得します。そのためには、チームや個人による授業内外での積極的、発展的、自主的な活動が求められます。こうした実践から各種の学習技法を体得することで、卒業制作へとつながる個人研究の土台作りをします。

フィードバックの方法: 授業時および授業外に必要なに応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業内での活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
	授業外での活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外での取り組み
	各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
	その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、DWCLA10のの力をバランスよく養うことが目標です。

教員との連絡方法: 授業時に連絡します。その他必要に応じて適宜指示します。

授業テーマ:

企業インタビューおよび会社案内の制作を通じたメディア研究

授業の概要:

大学と地域企業を結ぶ人材育成プロジェクトである「志プロジェクト」に参加し、アクティブラーニングを意識した取り組みを行います。そして、地域の企業を対象に、企業を知り、企画・インタビュー・撮影・パンフレット制作を行うことで、コミュニケーション力や卒業研究に必要な技能を身に付けることを目的とします。

到達目標:

①【知識・理解】企業研究や企業訪問で得た情報を基にして、地域企業の活動内容をわかりやすく紹介できる。
②【関心・意欲・態度】社会人としての基本的なマナーを身につけるとともに、責任感や協調性をもって他者と接することができる。
③【表現・技能・能力】プレゼンテーション力やコミュニケーション力、卒業研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:

講義、調査、ディスカッション等を用いたゼミ形式で、アクティブラーニングを意識した活動を行います。
企業訪問および成果発表のために学外での活動を2回予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 企業研究に関わる基礎知識の習得、会社案内の研究	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	3. 訪問先企業の決定、取材計画の策定	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	4. アポイントメント、インタビューのロールプレイ練習	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	5. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習、企業訪問
	6. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習、企業訪問
	7. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習、企業訪問
	8. 中間報告会（ラフデザイン発表）	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	9. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	10. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	11. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	12. 学内報告会（完成版発表）	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	13. 最終調整、発表準備	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	14. 最終調整、発表準備	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	15. 志プロジェクト報告会（訪問先企業の関係者を招いての最終成果発表）	グループワーク、発表のための事前・事後学習

受講者へのメッセージやアドバイス:

和氣ゼミ、村木ゼミとの3ゼミ合同で行います。
毎回MacBookAirを使用するので、初回から持参してください。

フィードバックの方法:

必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み姿勢	40	到達目標②の達成度を中心に評価します。
	発表	30	到達目標①③の達成度を中心に評価します。
	成果物	30	到達目標①③の達成度を中心に評価します。

教科書:

参考書:

『採用ブランディング-採用サイト・入社案内のコンテンツ&デザイン実例集』 ビー・エヌ・エヌ新社
『構成・レイアウトで魅せる 企業案内グラフィックス』 パイインターナショナル
『伝達力のある 企業案内グラフィックス―幅広い業種の会社案内・入社案内・コンセプトブック・CSRレポート特集』 パイインターナショナル
シータス&ゼネラルプレス 『企業イメージを劇的にアップさせる新しい広報ツールの作り方、考え方。』 エムディエヌコーポレーション

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール (yyoden@dw.doshisha.ac.jp), 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

冊子研究

授業の概要:

デジタル方式にもとづいた様々なメディアが出現し、現在、メディアと身体の関係は、これまでのものとは異なる様相を呈している。本講義では、こうしたメディアと身体の新たな関係について、また新たな関係と従来のものとの差異について、ゼミ生それぞれの観点やテーマから検討する力((1)文献資料調査、(2)視聴覚資料調査、(3)インタビュー資料調査、(4)プレゼンテーション)を養うことを目標とする。
具体的には、ゼミ生がグループをくみ、メディアと身体の関係に着目した様々な活動(たとえば、アート、デザイン、ビジネス、理論、キュレーションなど)をしている人物にインタビューを行い、それをまとめ冊子を作成する。

到達目標:

冊子の完成

授業方法:

演習
グループワークおよびグループでのプレゼンテーション、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	身の回りの冊子を収集し精読すること
2.	冊子研究(1): 資料調査	身の回りの冊子を収集し精読すること
3.	冊子研究(2): 資料調査	身の回りの冊子を収集し精読すること
4.	冊子研究(3): 冊子全体のテーマ設定	身の回りの冊子を収集し精読すること
5.	冊子研究(4): インタビューのテーマ設定とインタビューイの選定	身の回りの冊子を収集し精読すること インタビューイについて理解を深めること
6.	冊子研究(5): インタビューのテーマ設定とインタビューイの選定	身の回りの冊子を収集し精読すること インタビューイについて理解を深めること
7.	冊子研究(6): インタビューイの調査	身の回りの冊子を収集し精読すること インタビューイについて理解を深めること
8.	冊子研究(7): 冊子全体のデザイン設定	身の回りの冊子を収集し精読すること
9.	冊子研究(8): インタビュー取材	インタビューイについて理解を深めること
10.	冊子研究(9): インタビュー取材	インタビューイについて理解を深めること
11.	冊子研究(10): インタビュー取材	インタビューイについて理解を深めること
12.	冊子研究(11): 資料整理	インタビュー内容をまとめること
13.	冊子研究(12): 資料整理	インタビュー内容をまとめること
14.	冊子研究(13): 成果報告	これまでの作業をまとめること
15.	冊子研究(14): 成果報告	これまでの作業をまとめること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

添削して返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表、討論	100	冊子完成への準備とグループワークでの態度・意欲を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:

メディアデザインのための技術習得と習作

授業の概要:

情報を理解しやすい、利用しやすい、あるいはインパクトのある「かたち」で提供するための発想や方法を考え、それをWebページ、映像、アニメーション、あるいはプログラムとして生み出すのが、本科目を出発点とするゼミ活動の目標です。
2年次は自分が使う表現手法について勉強を積む期間です。今後の個人テーマに沿った作品・プログラムの制作・開発に必要となる技術を自主的に学びながら、「時間の経過 :The Passage of Time」をテーマに学んだ技術を使い、習作の制作・開発を行います。制作した最終作品は、授業終了後Web公開や学内ギャラリー展示などの方法で公開します。

- 到達目標:
- 1 自分で目標として設定した基礎技術を習得する
2 自分で作品を構想し、そのねらいを説明する
3 調査、研究をもとに、制作過程を実行し、作品を完成する

授業方法:

スタートアップのための演習ならびに、個別の企画に基づく習作の制作を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Outstanding works プレゼンテーション	
2.	オリエンテーション	修得する基礎技術の目標設定
3.	技術習得目標の発表	
4.	「時間」の特徴を考える	課題演習の実施
5.	「時間」の特徴を考える演習	
6.	The Passage of Time 作品制作 準備	課題作品の企画構想と発表の準備
7.	The Passage of Time 作品制作 企画プレゼンテーション	課題作品の制作
8.	The Passage of Time 演習 進捗状況・内容チェック	課題作品の制作
9.	The Passage of Time 演習 進捗状況・内容チェック	課題作品の制作と発表の準備
10.	中間プレゼンテーション	課題作品の制作
11.	The Passage of Time 演習 進捗状況・内容チェック	課題作品の制作
12.	The Passage of Time 演習 進捗状況・内容チェック	課題作品の制作
13.	Webサイトによる公開準備	Webページの制作と発表の準備
14.	合評	発表の準備
15.	合評	展示の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

技術の習得や、表現方法の調査は、個人あるいは同じ技術や表現方法を使うメンバがグループで、勉強を行います。「時間」をテーマとしたプロトタイプ作品の制作は、準備としての演習を行った後、それぞれの企画に従って制作を進めます。

フィードバックの方法:

習作の制作過程において、個別に助言を行います。また、発表会では成果に対してコメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題作品	70	調査、勉強を踏まえて、構想した作品を制作できたかを評価
	発表、討論	30	発表会での適切な説明、討論への積極的参加を評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

企業インタビューおよび会社案内の制作を通じたメディア研究

授業の概要:

大学と地域企業を結ぶ人材育成プロジェクトである「志プロジェクト」に参加し、アクティブラーニングを意識した取り組みを行います。そして、地域の企業を対象に、企業を知り、企画・インタビュー・撮影・パンフレット制作を行うことで、コミュニケーション力や卒業研究に必要な技能を身に付けることを目的とします。

到達目標:

①【知識・理解】企業研究や企業訪問で得た情報を基にして、地域企業の活動内容をわかりやすく紹介できる。
②【関心・意欲・態度】社会人としての基本的なマナーを身につけるとともに、責任感や協調性をもって他者と接することができる。
③【表現・技能・能力】プレゼンテーション力やコミュニケーション力、卒業研究に必要な技能を身につける。

授業方法:

講義、調査、ディスカッション等を用いたゼミ形式で、アクティブラーニングを意識した活動を行います。
企業訪問および成果発表のために学外での活動を2回予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 企業研究に関わる基礎知識の習得、会社案内の研究	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	3. 訪問先企業の決定、取材計画の策定	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	4. アポイントメント、インタビューのロールプレイ練習	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	5. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習、企業訪問
	6. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習、企業訪問
	7. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習、企業訪問
	8. 中間報告会(ラフデザイン発表)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	9. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	10. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	11. 進捗状況の報告、会社案内制作	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	12. 学内報告会(完成版発表)	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	13. 最終調整、発表準備	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	14. 最終調整、発表準備	グループワーク、発表のための事前・事後学習
	15. 志プロジェクト報告会(訪問先企業の関係者を招いての最終成果発表)	グループワーク、発表のための事前・事後学習

受講者へのメッセージやアドバイス:

余田ゼミ、村木ゼミとの3ゼミ合同で行います。
毎回MacBookAirを使用するので、初回から持参してください。

フィードバックの方法:

必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み姿勢	40	到達目標②の達成度を中心に評価します。
	発表	30	到達目標①③の達成度を中心に評価します。
	成果物	30	到達目標①③の達成度を中心に評価します。

教科書:

参考書:

『採用ブランディング-採用サイト・入社案内のコンテンツ&デザイン実例集』 ビー・エヌ・エヌ新社
『構成・レイアウトで魅せる 企業案内グラフィックス』 パイインターナショナル
『伝達力のある 企業案内グラフィックス―幅広い業種の会社案内・入社案内・コンセプトブック・CSRレポート特集』 パイインターナショナル
シータス&ゼネラルプレス 『企業イメージを劇的にアップさせる新しい広報ツールの作り方、考え方。』 エムディエヌコーポレーション

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール (swake@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	情報のデザイン:グラフィックデザインとコンテンツ	
授業の概要:	デザインには、造形的に美しくすること以上に、視覚的な方法を利用しコミュニケーションをする役目があります。デザイン研究とは、一方では多様なデザインスタイル、デザイナーそしてデザイン領域に関して研究することを言います。また、デザインメソッドを利用し、研究内容をビジュアル化することによって、複雑なコンテンツを解りやすく表すこともできます。このゼミでは、タイポグラフィ、イラストレーション、写真、色彩とレイアウトをエディトリアルデザイン、本の装丁、CI、広告、情報デザインからウェブデザインなどでまとめながらコンテンツに適したデザインを考案していきます。研究の基になるテーマは、ゼミのイントロダクションで紹介しします。またテーマを合わせて、海外の大学とのコラボレーションも検討しています。	
到達目標:	・テーマに関心を持ち、個々の考え方を展開する。 ・複雑なコンテンツを理解する。 ・グラフィックデザインの要素を使用しながらコンテンツを解りやすくビジュアル化する。 ・テーマに、そして自らのスキル・長所に合わせてデザインスタイル、そしてデザインツールを選択する。 ・表現力・技能を伸ばす。	
授業方法:	講義、調査研究、グループディスカッションとプレゼンテーション等を総合的に組み込んだゼミ形式にて行います。受講生は指導に基づきつつ自律的にプロジェクトを進めていきます。また、前半のテーマ研究にあたっては、研究発表を行っていただきます。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション1:テーマ研究の発表	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	2. イントロダクション2:テーマの決め方・デザインプロジェクトの進め方	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	3. プロジェクトの準備1:テーマに関する研究	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	4. プロジェクトの準備2:テーマに関する研究	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	5. プロジェクトの準備3:テーマに関する研究	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	6. プロジェクトの準備4:コンテンツを見せるデザイン様式	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	7. プロジェクトの準備5:コンテンツを見せるデザイン様式	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	8. プロジェクトの実行1:コンテンツのビジュアル化	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	9. プロジェクトの実行2:コンテンツのビジュアル化	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	10. プロジェクトの実行3:コンテンツのビジュアル化	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	11. プロジェクトの実行4:コンテンツのビジュアル化	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	12. プロジェクトの実行5:コンテンツのビジュアル化	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	13. プロジェクトの仕上げ1:プロダクション	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	14. プロジェクトの仕上げ2:プレゼンテーションの準備	授業でのフィードバックを元にプロジェクトを進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。卒業制作のベースになる個人研究つなげることも可能です。
	15. 最終プレゼンテーションとプロジェクトのドキュメンテーションの提出	

フィードバックの方法： 個々の発表・プレゼンテーション、そして提出物（デザインプロジェクト）に対して教室でまとめてフィードバック・解説します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への取り組み	30	発言力・質問力
	アイデア・コンセプトの独創性	30	ディスカッションとプレゼンテーション等
	課題制作における完成度	40	課題の完成度

教科書： なし

参考書： 授業内で進度に合わせて紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法： Eメールにて行うこと。アドレスは授業内で指示します。

授業テーマ:

授業の概要: 20世紀に入り、テレビなど電子メディアが登場し、瞬く間に家庭内に普及し、人びとや社会に大きな影響を与えた。そして前世紀末から今世紀に入り、デジタルメディアが日常生活へ浸透し、私たちの日常の光景は様変わりしている。とりわけインターネットは、私たちにとってもはや目新しいものではなく、常時接続が自然な状態となり、私たちのコミュニケーションのあり方を変容させている。こうしたポストインターネット時代におけるマスコミュニケーションについて考えるのならば、インターネットは、これまでのマスコミュニケーションを相対化したと言えるであろう。結果、マスコミュニケーションは新たなフェーズに入りつつあるのだ。
本授業は、こうした新たな時代におけるマスコミュニケーションをインターネットによる相対化を通じて捉え直し、現代のマスコミュニケーションについて理解を深めていく。

到達目標: 現代のマスコミュニケーションについて理解を深めていくこと
現代のマスコミュニケーションを批判的な態度で捉え直す力を養うこと

授業方法: 講義を中心とする。ただし、コミュニケーションの具体的な事例を多数あつかうので、それらに関する映像や音の資料を必要に応じて提示する。また受講生が能動的に講義へ参加できるよう、受講生が発言し、ディスカッションを行う機会を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ポストインターネットの時代とマスコミュニケーション、マスメディア	参考文献の該当箇所を精読すること
2.	新たな時代のマスコミュニケーション	参考文献の該当箇所を精読すること
3.	マスコミュニケーションと向き合うこと:メディアコンテンツ(1)	参考文献の該当箇所を精読すること
4.	マスコミュニケーションと向き合うこと:メディアコンテンツ(2)	第3回の資料を復習すること 参考文献の該当箇所を精読すること
5.	テレビジャーナリズムの変化:マスメディアと大衆(1)	参考文献の該当箇所を精読すること
6.	テレビジャーナリズムの変化:マスメディアと大衆(2)	第5回の資料を復習すること 参考文献の該当箇所を精読すること
7.	インターネットとジャーナリズム(1)	参考文献の該当箇所を精読すること
8.	インターネットとジャーナリズム(2)	第7回の資料を復習すること 参考文献の該当箇所を精読すること
9.	デジタルメディア社会におけるテレビのあり方(1)	社会の中でのテレビの役割についてまとめること
10.	デジタルメディア社会におけるテレビのあり方(2)	第9回の資料を復習すること 社会の中でのテレビの役割についてまとめること
11.	デジタルメディア社会におけるテレビのあり方(3)	第11回の資料を復習すること 社会の中でのテレビの役割についてまとめること
12.	マスメディア、グローバルとローカル(1)	参考文献の該当箇所を精読すること
13.	マスメディア、グローバルとローカル(2)	第12回の資料を復習すること 参考文献の該当箇所を精読すること
14.	マスメディア、グローバルとローカル(3)	第13回の資料を復習すること 参考文献の該当箇所を精読すること
15.	マスコミュニケーションの今後	これまでの配布資料の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小レポート	60	現代のマスコミュニケーションについての理解度、および現代のマスコミュニケーションにたいする独自の視点の有無を基準に評価する
	授業のまとめの提出	20	現代のマスコミュニケーションについての理解度を基準に評価する
	授業への参加度	20	現代のマスコミュニケーションにたいする独自の視点の有無を基準に評価する

教科書:

参考書: 小田原敏、アンジェロ・イシ編『叢書現代の社会学とメディア研究第4巻マスコミュニケーションの新時代』、北樹出版、2014年
マーク・スタインバーグ『なぜ日本は＜メディアミックスする国＞なのか』、大塚英志監修、中川謙訳、角川学芸出版、2015年
遠藤英樹・松本健太郎編著『空間とメディア―場所の記憶・移動・リアリティ』、ナカニシヤ出版、2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

実習(就労体験)を通じた、情報メディア関連業種への理解と学科での学びの深化

授業の概要:

実習先は「データベース開発」「eコマース」「広告制作」「映像制作」分野ごとに各1社を予定しています。各社での実習内容は下記の通りです。
・データベース開発企業:データベース管理ソフト「ファイルメーカー」を使った開発業務の内容と流れを体験することで、システム構築の面白さを実感するとともに、IT企業活動およびIT産業の全体像を把握します。
・eコマース企業:広告、受注、制作、納品、Webサイトの管理など、eコマースビジネスの根幹業務全体を経験し、消費者ではなく、運営者(企業)の立場からネットビジネスを理解します。
・広告制作企業:広告総合制作事業会社において、現場体験を通して具体的な職業観、特にクライアントの課題やニーズに応じて企画やアイデアを提供する視点を学びます。
・映像制作企業:映像制作(ポストプロダクション)を主とする企業において、映像制作現場での実務を体験します。
加えて、事前研修にてビジネスマナーなど社会人として求められる常識を身につけ、事後研修では実習内容の報告を行います。
※実習先企業の都合により、実習予定等が変更・延期となる場合があります。

到達目標:

情報メディアに関連するビジネスを展開する企業において、実習(就労体験)を行います。それを通し、この業種への理解を深め、働くことの意義や責任、キャリアデザインを考える機会とします。

授業方法:

[1] 事前指導
・キャリアサポートセンター「インターンシップI」事前指導講義に2日間参加
・学科でのオリエンテーション
[2] 実習
・実習先でのインターンシップ実習(8月下旬～9月上旬にかけての連続した10日間程度)
実習後は報告書を作成
[3] 事後指導
・研修内容の報告(10月上旬実施予定)
実習内容を発表し、意見交換を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 事前指導:キャリアサポートセンターによるオリエンテーション	インターンシップ先の業界・業務や、基礎ビジネスマナーに関する書籍等で、事前学習を行ってください。
	2. 事前指導:キャリアサポートセンターによるオリエンテーション	事前指導講義内容の復習
	3. 事前指導:学科によるオリエンテーション	事前指導講義内容の復習
	4. 事前指導:実習先での事前打ち合わせ	
	5. インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
	6. インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
	7. インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
	8. インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
	9. インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
	10. インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
	11. インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
	12. インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
	13. インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
	14. インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
	15. 事後指導:学科でのインターンシップ報告会	インターンシップ実習内容に関する報告書を作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

実習中のヒアリング、および事後指導において個別実施します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習先の評価	80	実習先からの報告に基づき、評価します
	発表およびレポート	20	事後指導における報告内容に基づき、評価します

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

事前指導において指示します。

授業テーマ：Reading, writing and listening to internetrelated media, oral communication

授業の概要：A discussion and blog writing media course using computers and popular internet content

到達目標：Knowledge: Students will learn basic blogging skills. Current news topics and vocabulary to discuss media content will be learned.
Motivation: The content of this course will come from a variety of real media sources appropriate to the students' level and interests including online news, movie and product reviews, podcasts, YouTube and other sources.
Ability: The objective of this course is to improve students ability and confidence understanding and responding to internet-based media content and themes. Students will learn to make and maintain a blog in English and to upload various kinds of medie including audio and video.

授業方法：This course will be an active learning course. Students will be responsible for regular class discussions and short presentations or videos. There is also computer work which will be done in a lab style format.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: Overview and intro to class blog, avatar creation	Prepare self iIntroduction and interview questions
2.	Student blogs, design, and self introduction post	Read news article from listand prepare to discuss
3.	Movie Reviews 1 – Discussion, vocabulary, movie quiz posts	Weekly reflection news post. Finish movie quiz.
4.	Movie Reviews 2 – Movie review structure 1	Weekly reflection news post. Write movie review
5.	Movie Review 3 – Post review and embed YouTube video.	Weekly reflection news post. Finish movie review post.
6.	Product Reviews 1 – Discussion, vocabulary, website searches	Weekly reflection news post. Finish Amazon product post.
7.	Product Review 2 – Product review structure	Weekly reflection news post. Write your product review.
8.	Product Review 3 – Video editing and upload	Weekly reflection news post. Finish product review post.
9.	Product review 4 – Final edit and project completion	Weekly reflection news post. Complete work as needed.
10.	Review and workshop	Weekly reflection news post.
11.	Commercial 1 – Discussion, vocabulary, research	Weekly reflection news post. Commercial analysis.
12.	Commercial 2 – Topic development, story board	Weekly reflection news post. Write commercial script.
13.	Commercial 3 – Story board and recording	Weekly reflection news post. Complete storyboard.
14.	Commercial 4 Final edit and upload	Weekly reflection news post. Complete commercial.
15.	Consolidation and Review	Review course material.

受講者へのメッセージやアドバイス：Try to finish homework before class so you are ready to participate. If you have questions in class please ask. We work with computers every class, so sometimes you will need to be patient.

フィードバックの方法：You will receive feedback on weekly assignments, posts and projects verbally in class, and also through comments on your blog.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Paricipation and Attitude	30%	
	Weekly Assignments	30%	Your weekly assignments will be graded on accuracy, content, and writing level.
	Projects	40%	Your projects will be graded on the same criteria as assignments, and also on creativity and style.

教科書：There is no textbook for this class. Internet media will be the primary source of material. Occasional handouts and additional material will be supplied by the teacher as needed.

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力

教員との連絡方法：Eメール(powerunimedia@gmail.com)

授業テーマ:

Developing communication skills.

授業の概要:

This is a highly communicative class. A text is used as a base, but there is a lot of diviation depending on the groups ability to communicate.

到達目標:

* The objective of this course is to develop your communicative ability and knowledge in English.
* It is hoped you will be motivated to participate in pair and group discussions to increase your communicative ability.

授業方法:

1. This is a communication class mainly.
2. Pair and group work are used to ellicit communication.
3. This class is 99% English.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the course and you introductions to each other. An explanation of what we will be doing with the textbook.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
	2. Unit 1. Have you two met? Relationships.	
	3. Continuation of Unit 1. Have you two met? Relationships. Small Quiz on Unit 1.	
	4. Unit 2. You must be excited. Emotions.	
	5. Continuation of Unit 2. You must be excited. Emotions. Small Quiz on Unit 2.	
	6. Unit 3. Where should I go? You must be excited.	
	7. Continuation of Unit 3. Where should I go? You must be excited. Small Quiz on Unit 3.	
	8. Unit 4. I love that. Opinion Adjectives.	
	9. Continuation of Unit 4. I love that. Opinion Adjectives.	
	10. Small Quiz on Unit 4.	
	11. Very important unit. Unit 5. What's your excuse? Problems and reasons.	
	12. Continuation of Unit 5. What's your excuse? Problems and reasons.	
	13. Quiz on Unit 5.	
	14. Unit 6. What's it like there? Cultural symbols and traditions.	
	15. Continuation of Unit 6. What's it like there? Cultural symbols and traditions. Small Quiz on Unit 6.	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Though not part of the course, extensive reading of easy books of your choice is one of the best educational tools possible for learning vocabulary in context.

フィードバックの方法:

This is a communication class basically, so feedback is quite quick. Quizzes are marked in class as a group activity.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance, class participation, and attitude.	33%	Understanding course objectives, actively participate in class
	Small unit quizzes.	33%	
	Hand in homework.	34%	

教科書:

English Firsthand 2. New English Firsthand Series. Helgesen, Brown, Wiltshier. Pearson Longman.

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

Reading, writing and listening to internetrelated media, oral communication

授業の概要:

A discussion and blog writing media course using computers and popular internet content

到達目標:

Knowledge: Students will learn basic blogging skills. Current news topics and vocabulary to discuss media content will be learned.
Motivation: The content of this course will come from a variety of real media sources appropriate to the students' level and interests including online news, movie and product reviews, podcasts, YouTube and other sources.
Ability: The objective of this course is to improve students ability and confidence understanding and responding to internet-based media content and themes. Students will learn to make and maintain a blog in English and to upload various kinds of medie including audio and video.

授業方法:

This course will be an active learning course. Students will be responsible for regular class discussions and short presentations or videos. There is also computer work which will be done in a lab style format.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: Overview and intro to class blog, avatar creation	Prepare self iIntroduction and interview questions
2.	Student blogs, design, and self introduction post	Read news article from listand prepare to discuss
3.	Music Reviews 1 – Discussion, vocabulary, music profile posts	Weekly reflection news post. Finish movie quiz.
4.	Music Reviews 2 – Music review structure 1	Weekly reflection news post. Write movie review
5.	Music Reviews 3 – Post review and embed YouTube video.	Weekly reflection news post. Finish movie review post.
6.	News Report 1 – Discussion, vocabulary, website searches	Weekly reflection news post. Finish news analysis post.
7.	News Report 2 – Product review structure	Weekly reflection news post. Write your news report.
8.	News Report 3 – Video editing and upload	Weekly reflection news post. Finish news report post.
9.	9 News Report 4 – Final edit and project completion	Weekly reflection news post. Complete work as needed.
10.	Review and workshop	Weekly reflection news post.
11.	Public Service Announcement (PSA) 1 – Discussion, vocabulary, research	Weekly reflection news post. PSA analysis.
12.	Public Service Announcement 2 – Topic development, story board	Weekly reflection news post. Write PSA script.
13.	Public Service Announcement 3 – Story board and recording	Weekly reflection news post. Complete storyboard.
14.	Public Service Announcement 4 Final edit and upload	Weekly reflection news post. Complete PSA.
15.	Consolidation and Review	Review course material.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Try to finish homework before class so you are ready to participate. If you have questions in class please ask. We work with computers every class, so sometimes you will need to be patient.

フィードバックの方法:

You will receive feedback on weekly assignments, posts and projects verbally in class, and also through comments on your blog.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Paricipation and Attitude	30%	
	Weekly Assignments	30%	Your weekly assignments will be graded on accuracy, content, and writing level.
	Projects	40%	Your projects will be graded on the same criteria as assignments, and also on creativity and style.

教科書:

There is no textbook for this class. Internet media will be the primary source of material. Occasional handouts and additional material will be supplied by the teacher as needed.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール(powerunimedia@gmail.com)

授業テーマ:

To continue developing communication skills.

授業の概要:

This class will continue to be a highly communicative class. A text is used as a base, but there is a lot of diviation depending on the groups ability to communicate.

到達目標:

1. This class will continue to be mainly a communication class.
2. Pair and group work are used to ellicit communication.
3. This class is 99% English.

授業方法:

1. There will be no final examination, however, there will be small unit quizzes and some homework corresponding to the unit's theme required.
2. Class attendance.
3. In class participation.
4. Small unit quizzes, and hand in homework.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the course for new students whom have joined the class. An explanation of what we will be doing.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
	2. Unit 7. Do you remember when....? Personal experiences and past events.	
	3. Continuation of Unit 7. Do you remember when....? Personal experiences and past events.	
	4. Small Quiz on Unit 7.	
	5. Unit 8. Let's have a party! Leisure time activities.	
	6. Continuation of Unit 8. Let's have a party! Leisure time activities. Small Quiz on Unit 8.	
	7. Unit 9. What should I do? Personl problems.	
	8. Continuation of Unit 9. What should I do? Personl problems.	
	9. Small Quiz on Unit 9.	
	10. Unit 10. Tell me a story. Traditional and modern story elements.	
	11. Continuation of Unit 10. Tell me a story. Traditional and modern story elements. Small Quiz on Unit 10.	
	12. Unit 11. In my opinion. Agreement and disagreement language.	
	13. Continuation of Unit 11. In my opinion. Agreement and disagreement language.. Quiz on Unit 11.	
	14. Unit 12. It' my dream! Dreams and goals.	
	15. Continuation of Unit 12. It' my dream! Dreams and goals. Small quiz on 12.	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Though not part of the course, extensive reading of easy books of your choice is one of the best educational tools possible for learning vocabulary in context.

フィードバックの方法:

This class will continue to be a communication class basically, so feedback is quite quick. Quizzes are marked in class as a group activity.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance, class participation, and attitude.	33%	Understanding course objectives, actively participate in class
	Small unit quizzes.	33%	
	Hand in homework.	34%	

教科書:

English Firstrand 2. New English Firstrand Series. Helgesen, Brown, Wiltshier. Pearson Longman.

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

メディアの英語を通して学ぶcritical thinking/critical analysis

授業の概要:

本講義ではニュースメディアや、ドラマ、映画、コマーシャルなどの映像メディアで使用されている英語を注意深く観察することにより、メディア英語の特徴を読み解く。具体的には、TVコマーシャル、ドラマや、映画のシーンなどを繰り返し見て、英語の使用パターンの把握練習をする。受講者が受け身の講義にならないよう、題材の内容について、随時英語で質疑応答を行う。講義中は、単語の語義説明、言い換えを含め、内容把握問題、映画の特定のシーンに関する質疑応答などを全て英語で実施する。

到達目標:

本講義ではニュースメディアや、ドラマ、映画、コマーシャルなどの映像メディアで使用されている英語を注意深く観察することにより、メディア英語の特徴を読み解く。正確な英文読解力、聴解力を涵養すると共に、自分のメッセージを英語で伝えるトレーニングを行う。

授業方法:

TVコマーシャル、ドラマや、映画のシーンなどを繰り返し見て、英語の使用パターンの把握練習をする。受講者が受け身の講義にならないよう、題材の内容について、随時英語で質疑応答を行う。講義中は、単語の語義説明、言い換えを含め、内容把握問題、映画の特定のシーンに関する質疑応答などを全て英語で実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義ガイダンス:映像メディアにおける英語とは	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
2.	メディアと視点がいかに英語に反映されているか	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
3.	映像メディアにおける英語1: 語彙	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
4.	映像メディアにおける英語2: 音	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
5.	メディア英語における語彙項目の繰り返し(linguistic repetition) 1	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
6.	メディア英語における語彙項目の繰り返し(linguistic repetition) 2	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
7.	メディア英語における変奏: (‘elegant’ variation) 1	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
8.	メディア英語における変奏: (‘elegant’ variation) 2	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
9.	メディア英語におけるコロケーション (Collocation: 語と語の結び付き) 1	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
10.	メディア英語におけるコロケーション (Collocation: 語と語の結び付き) 2	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
11.	メディア英語とSemantic Prosody 1	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
12.	メディア英語とSemantic Prosody 2	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
13.	スタイル(style) 1	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)

14. スタイル(style) 2
15. 全体の総括:まとめと口頭発表
1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。
 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)
 1. 各ユニットのスクリプトを熟読し、各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。
 2. 音読練習(とくに、チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り返し返しておくこと！)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

英語で自己表現することは慣れないうちはかなり抵抗感を伴うかもしれませんが、授業を通して繰り返しトレーニングをすることで英語でのアウトプットの垣根を低くできるはずです。間違いを恐れず積極的な発言に努めていただければと思います。

フィードバックの
方法:

講義用のコンパニオンウェブサイトを設置し、それを介してフィードバックを行う予定である。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業での指名発表	50%	英語での説明を的確に理解し、基本的な語彙、構文を用いて単語、フレーズ、センテンスの意味の説明ができるようになっているかどうかを基準に判断する。
挙手による発言	50%	英語での説明を的確に理解し、基本的な語彙、構文を用いて単語、フレーズ、センテンスの意味の説明ができるようになっているかどうかを基準に判断する。

5回以上の欠席・遅刻があれば単位認定しないので、この点留意願いたい。

教科書: The September Issue／映画総合教材『ファッションが教えてくれること』(編著)板倉巖一郎／野村昌司／Suzanne Bonn／志賀奈月美 松柏社 ISBN 978-4-88198-722-3

参考書: Longman Dictionary of Contemporary English (『ロングマン現代英英辞典』)
Collins COBUILD English Dictionary, Collins COBUILD Advanced Learners' English Dictionary

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール(tabata@lang.osaka-u.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	現代文化とメディアをめぐるトピックス:基礎理論と実践(A)		
授業の概要:	総合的な英語力を高めながら現代のグローバル文化を理解する基礎力を身につけます		
到達目標:	グローバル化する現代文化の真相をとらえ、広義のメディアをめぐる諸相読解には、広範な分析方法や理論の援用が重要となる。本科目の目標は、さまざまな英語文献の講読を通して問題の所在を探り、メディア文化の考察に必要な基礎知識を修得しつつ、研究への応用力を養うことである。多様なジャンルの論題を通して、複雑な様相を呈しつつある「メディア」の本質をとらえ、総合的な英語力(リーディング、語彙・表現、リスニング、スピーキング、プレゼンテーション)の強化と学術知識の獲得を目指す。		
授業方法:	・各種の資料・素材を使用し、毎回のトピックに沿って英語文献を講読・発表し、必要に応じて英語サマリー等を提出してもらう(上記トピックは受講者の興味分野や状況により随時変動する場合あり)。また、発表および討論では全員、極力英語を使うよう心がける。英語力強化の実践的学習に加え、必要に応じて毎回のトピックやメディア文化に関するレクチャーや解説を行う。 ・受講者には英語文献を読解するために必要な英語力と毎回の課題履行力、ならびに関連分野についての学際的な基礎知識が求められる。 ・英語文献の講読・発表は、受講人数に応じてグループ単位での作業もあり得る。毎回の出席と、個人のみならずグループ成員としての責任ある態度・課題遂行が求められる。 ・講読・発表後に英語でディスカッションを行う。受講生は予備知識、補足知識の獲得を含めて課題箇所をしっかりと予習し、積極的に議論に参加することが必須となる。 ・理論から実践への流れを踏まえ、授業で学んだ知識から各自の設定した具体的なトピックについて分析を行う。授業内では順番に英語発表等をしてもらう。 ・授業では発表、討論において積極的に英語を使用し、英語での意見表明やコミュニケーションをはかる努力が求められる。 ※初回授業で授業方法などの説明や授業運営指針の策定等を行うので必ず出席のこと。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	2. 文化理解の理論と方法論(基礎理論)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	3. 文化理解の理論と方法論(応用事例)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	4. 現代文化とメディアをめぐる諸問題(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	5. 現代文化とメディアをめぐる諸問題(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	6. メディアと社会の変容(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	7. メディアと社会の変容(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	8. ポピュラー・カルチャーの状況(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	9. ポピュラー・カルチャーの状況(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	10. グローバル化と現代日本文化(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	11. グローバル化と現代日本文化(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	12. 多文化間コミュニケーションと国際理解(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	13. 多文化間コミュニケーションと国際理解(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	14. 様々なボーダーと社会システム(ジェンダーなど)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。	
	15. 総括		
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業では積極的に英語でコミュニケーションを行い、活発な質疑応答やディスカッションを実践するよう心がけて下さい。関口担当の「情報メディア演習」の登録者は、履修指導に沿って本科目を受講してください。		
フィードバックの方法:	全体への解説ならびに個別の質問や相談へのアドバイスをを行います。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業における講読発表、スピーチ、練習問題、学期内課題・学期末課題の提出、積極的な授業参加態度や予復習、出席状況の各項目の達成度	それぞれ最高100%で評価	平均値を総合成績として最終評価を行う。チーム作業を伴う場合は、チーム全体の達成度と個人の責任遂行にともなう貢献度が重要となる。

教科書:	当面は設定しない。
参考書:	授業内で随時指示する。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡 方法:	マナビ—の掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ：現代文化とメディアをめぐるトピックス：基礎理論と実践（B）

授業の概要：総合的な英語力を高めながら現代のグローバル社会で活動するための実践力を身につけます

到達目標：グローバル化する現代文化の真相をとらえ、広義のメディアをめぐる諸相読解には、広範な分析方法や理論の援用が重要となる。本科目の目標は、さまざまな英語文献の講読を通して問題の所在を探り、メディア文化の考察に必要な基礎知識を修得しつつ、研究への応用力を養うことである。多様なジャンルの論題を通して、複雑な様相を呈しつつある「メディア」の本質をとらえ、総合的な英語力（リーディング、語彙・表現、リスニング、スピーキング、プレゼンテーション）の強化と学術知識の獲得を目指す。

授業方法：・各種の資料・素材を使用し、毎回のトピックに沿って英語文献を講読・発表し、必要に応じて英語サマリー等を提出してもらう（上記トピックは受講者の興味分野や状況により随時変動する場合あり）。また、発表および討論では全員、極力英語を使うよう心がける。英語力強化の実践的学習に加え、必要に応じて毎回のトピックやメディア文化に関するレクチャーや解説を行う。
・受講者には英語文献を読解するために必要な英語力と毎回の課題履行力、ならびに関連分野についての学際的な基礎知識が求められる。
・英語文献の講読・発表は、受講人数に応じてグループ単位での作業もあり得る。毎回の出席と、個人のみならずグループ成員としての責任ある態度・課題遂行が求められる。
・講読・発表後に英語でディスカッションを行う。受講生は予備知識、補足知識の獲得を含めて課題箇所をしっかりと予習し、積極的に議論に参加することが必須となる。
・理論から実践への流れを踏まえ、授業で学んだ知識から各自の設定した具体的なトピックについて分析を行う。授業内では順番に英語発表等をしてもらう。
・授業では発表、討論において積極的に英語を使用し、英語での意見表明やコミュニケーションをはかる努力が求められる。
※初回授業で授業方法などの説明や授業運営指針の策定等を行うので必ず出席のこと。
※多彩なトピックをタイムリーに取り上げ、毎回実践的に文化理論を踏まえた事例の発表・討論と分析を行う。受講者の関心領域によっては、適宜トピックの追加、順番・内容の変更なども有り得る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
2.	文化理解の理論と方法論（基礎理論）	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
3.	文化理解の理論と方法論（応用事例）	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
4.	メディアをめぐる諸問題	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
5.	現代文化をめぐる諸問題	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
6.	メディアの進化	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
7.	社会の変容	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
8.	消費文化の発展プロセス(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
9.	消費文化の発展プロセス(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
10.	文化のグローバル化	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
11.	国際化と現代日本文化	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
12.	コミュニケーションをめぐる諸相	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
13.	異文化理解の状況	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
14.	文化研究をめぐる流れと現状	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス：授業では積極的に英語でコミュニケーションを行い、活発な質疑応答やディスカッションを実践するよう心がけて下さい。関口担当の「情報メディア演習」の登録者は、履修指導に沿って本科目を受講してください。

フィードバックの方法：全体への解説ならびに個別の質問や相談へのアドバイスをを行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業における講読発表、スピーチ、練習問題、学期内課題・学期末課題の提出、積極的な授業参加態度や予復習、出席状況の各項目の達成度	それぞれ最高100%で評価	平均値を総合成績として最終評価を行う。チーム作業を伴う場合は、チーム全体の達成度と個人の責任遂行にともなう貢献度が重要となる。

教科書:	当面は設定しない。
参考書:	授業内で随時指示する。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡 方法:	マナビーの掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

グローバルな経済構造の変化の中で、一方では少子高齢社会日本において「女性の活躍推進」と言われるように、女性の能力の活用と社会参加の促進は喫緊の課題とされている。しかし他方では女性の生活をとりまく社会状況、固定的なジェンダー役割を含む社会意識は、それらに連動していない現状もある。こういった現状にある若い世代の女性の人生設計の一助となるよう、社会のしくみを共に考える講義を進めていきたい。

授業の概要:

本講義では女性のキャリア形成について、関連するデータを参照しつつ、社会的背景、社会意識と政策展開、それらにおけるグローバルな視点も取り入れ解説する。また、「ブラック企業」「女子力」「おひとりさま」などの今日のキーワードも交えながら、女性のライフコースの各ステージに関し各自の視点で考える作業も行っていく。

到達目標:

今日の女子学生のキャリア形成においては、日本ならびに国際的な社会的趨勢を知るとともに、自らの人生設計を各自の希望にそって実現していくにあたって知っておくべき情報、とくに高等教育で学んだ知識を、知識に留めず社会に活かすことが重要となる。本講義では、各自が自律したキャリアを創造していくための基本的知見の習得を目標としている。「少し昔」とは異なる女性に求められるジェンダー規範の現状を皆で考える機会、社会的情勢や政策の展開、また女性が社会に出る際に知っておきたい制度的基本情報の提供もめざす。

授業方法:

配布資料や映像資料、パワーポイント等による資料提示による講義を基本とする。3回程度のアンケートやミニレポートを実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:現代社会における「女性の活躍推進」、男女共同参画社会におけるキャリア設計	授業時に作成したライフコーススケジュールの確認。関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
2.	働く女性の変遷:イメージから見る女性のライフコースとキャリア	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
3.	女性のライフコース1:現代女性にとっての恋愛・結婚・パートナーシップ	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
4.	女性のライフコース2:妊娠・出産と女性	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
5.	女性のライフコース3:親子の関係性(親との関係・子育て・介護)	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
6.	国際社会の動向:各国のジェンダー政策	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
7.	労働とは何か:労働をめぐる諸問題・性別役割分業など	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
8.	女性の労働とは:女性労働の特徴と社会のしくみ、女性の保護と平等など	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
9.	男女の問題としてのワークライフバランス:企業の取り組み、制度の現状	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
10.	日本の働く女性の歴史と男女雇用機会均等法(1):働く女性のしんどさ今むかし	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
11.	日本の働く女性の歴史と男女雇用機会均等法(2):均等法を知り、考える	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
12.	女、「おひとりさま」で生きる可能性:単身で生きることを想定した人生・キャリア設計とは	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
13.	女性の「困りごと」いろいろ:女性のキャリアが続きにくい理由、女性の貧困、女同士の関係性、「女子力」を求められる? etc.	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
14.	男女平等に実現可能なキャリアのあり方とは:機会の平等と結果の平等、ポジティブ・アクションの是非	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
15.	様々なキャリアのあり方の可能性、全体のまとめ	ライフコースの再確認。関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ワーク内容の共有。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席態度・ミニレポート	30	自分の視点でのワーク
	最終筆記試験	70	自分の視点と授業内容の把握。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

araki_2017_renraku@yahoo.co.jp

515900

グラフィックデザイン論

高木 穂子

授業テーマ:

グラフィックデザイン概論

授業の概要:

グラフィックデザインは比較的新しい分野です。「グラフィックデザイン」という用語は、1922年にWilliam Addison Dwigginsによって初めて使われました。以来、グラフィックデザインはタイポグラフィ、色彩、イラストレーションと写真をつなぎ、観る者を説得、指導、また時には誘惑もします。この授業では歴史的な観点から国際的に多様なグラフィックデザインの諸相を考察します。

到達目標:

・グラフィックデザインの歴史に関心を持たせる。

・デザインスタイルの国際的なつながりを理解する。

・作り手、かつまた受け手としてデザインを「読む」ために必要な知識を概観します。

授業方法:

各回ごとにテーマを設定した講義を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容

1. グラフィックデザインとは

2. タイポグラフィエイジの始まり: グーテンベルグの発明(15世紀以後)

3. ポスターデザイン: 印刷技術の発展とジャポニズムの影響(19世紀のヨーロッパ)

4. 科学とグラフィックデザイン: オットー・ノイラートとフリッツ・カーン

5. ノイエ・テュポグラフィとタイポフォト: アヴァンギャルドとバウハウス

6. 第二次世界大戦前の日本: グラフィックデザインの芽生え

7. グラフィックデザインとプロパガンダ

8. 世界大戦後のヨーロッパとアメリカ: スイスとアメリカのタイポグラフィ

9. 日本のモダングラフィックデザイン

10. システムとしてのグラフィックデザイン: オリンピックとCI計画

11. デザインのデジタル化

12. グラフィックのアニメーション: 映画のタイトルデザイン他

13. 国際化とデザイン: インフォメーションデザイン

14. Webデザイン

15. グラフィックデザインのこれから: 多言語使用のデザイン

準備学習等の内容

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。

授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・

授業テーマ:	作品を制作しながら、グラフィックデザインの基礎力を身につける		
授業の概要:	グラフィックデザインとは、文字、画像、配色、レイアウトを利用して平面設計しながら情報やメッセージを伝達する手段です。またグラフィックデザインは広範囲の平面上のデザイン分野の総称でもあります。ポスター、タイポグラフィ、エディトリアルデザイン、本の装丁、CI、広告、情報デザインからウェブデザインまでが、グラフィックデザインの関連項目とされています。前半の授業では、グラフィックデザインの基礎を毎週の課題に合わせて実践します。後半では、自由課題を通してデザインの骨組になるアイデア、メッセージとコンセプトといった内容上の基礎を、視覚デザインと結びつけます。なお後半の自由課題の元になるテーマは年度ごとに変更します。		
到達目標:	・テーマに関心を持ち、個々の考え方を展開する。 ・グラフィックデザインの要素を使用しながらコンテンツを解りやすくビジュアル化する。 ・テーマに、そして自らのスキル・長所に合わせてデザインスタイル、そしてデザインツールを選択する。		
授業方法:	前半では、各回の授業テーマに沿った概説と課題制作を授業内に行います。後半では、主に課題作品のフィードバックをおこないます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション:グラフィックデザインについて	授業でのフィードバックを元に作品を進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。	
	2. タイポグラフィ 1:書体の見分け方(和文と欧文)	授業でのフィードバックを元に作品を進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。	
	3. タイポグラフィ 2:書体を生かしたデザイン	授業でのフィードバックを元に作品を進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。	
	4. タイポグラフィ 3:文字を配置するデザイン	授業でのフィードバックを元に作品を進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。	
	5. イラストレーション 1:物事をイラストで表す	授業でのフィードバックを元に作品を進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。	
	6. イラストレーション 2:簡素化とシステム、ピクトグラム	授業でのフィードバックを元に作品を進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。	
	7. 色彩構成:色彩の文化的要素・調和	授業でのフィードバックを元に作品を進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。	
	8. 平面構成:簡単なグリッドを使ったレイアウト	授業でのフィードバックを元に作品を進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。	
	9. 自由課題のテーマの紹介	授業でのフィードバックを元に作品を進行してください。授業内で取り上げたデザイン作家・作品に関して、各自で調査・研究を深めてください。	
	10. 自由課題 1:アイデアに関するディスカッション	授業でのフィードバックを元に自由課題を進行してください。	
	11. 自由課題 2:デザインスタイルの発生と発達	授業でのフィードバックを元に自由課題を進行してください。	
	12. 自由課題 3:レイアウトを通してコンテンツのヒエラルキーを表す	授業でのフィードバックを元に自由課題を進行してください。	
	13. 自由課題 4:デザインに関するディスカッション	授業でのフィードバックを元に自由課題を進行してください。	
	14. 自由課題 5:デザインに関するディスカッション	授業でのフィードバックを元に自由課題を進行してください。	
	15. レビューと講評、プレゼンテーションとプロジェクトのドキュメンテーションの提出		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	個々の提出物(宿題と自由課題の作品)に対して教室でまとめてフィードバック・解説します。		
「成績評価方法」: 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への取り組み	30	積極的に授業に参加し、到達目標の修得に努めたか
	デザインに関する理解度	20	各回の授業内容を理解しているかどうか
	課題制作における完成度	50	課題の完成度
教科書:	なし		
参考書:	授業内で進度に合わせて紹介します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	Eメールにて行うこと。アドレスは授業内で指示します。		

授業テーマ:

デジタルツールを利用したビジュアルコミュニケーションデザイン

授業の概要:

情報の収集から編集、そして視覚表現まで、グラフィックデザインのプロセスについて、コンピュータを利用したデジタル環境での演習をおこなう。

到達目標:

1 ビジュアルコミュニケーションデザインについての、さまざまな理論や技法を理解すること
2 理論や技法を踏まえた上で、自己の感性や思考を視覚的に定着させる作品制作に取り組むこと
3 グラフィックデザインにおけるデジタル環境の、表現ツールおよび表現メディアとしての特性について考察すること

授業方法:

各授業テーマに沿った概説講義と、コンピュータを利用した演習および課題作品の制作をおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のアウトライン、グラフィックデザインにおける画面空間	シラバスを読んでおくこと
2.	課題[ビジネスカードのデザイン] 1. 文字と視覚表現を考える	課題[ビジネスカードのデザイン]に向けてビジネスカードの収集をおこなう
3.	課題[ビジネスカードのデザイン] 2. CIとVI	授業前に更新される講義資料ウェブサイトを閲覧しておくこと
4.	課題[ページレイアウトでのテキスト操作] 1. ページの基本構造	課題[ビジネスカードのデザイン]の制作に取り組む
5.	課題[ページレイアウトでのテキスト操作] 2. テキストに関わるツールの扱い	課題[ページレイアウトでのテキスト操作]の制作に取り組む
6.	雑誌の体裁	授業前に更新される講義資料ウェブサイトを閲覧しておくこと
7.	課題[雑誌レイアウトの解析] 1. デザインエレメントの計測	課題[雑誌レイアウトの解析]の制作に取り組む
8.	課題[雑誌レイアウトの解析] 2. レイアウトフォーマットを探る	課題[雑誌レイアウトの解析]の制作に取り組む
9.	DTPのプロセスとワークフロー	授業前に更新される講義資料ウェブサイトを閲覧しておくこと
10.	課題[雑誌のデザイン] 1. 企画構想に向けて	授業前に更新される講義資料ウェブサイトを閲覧しておくこと
11.	課題[雑誌のデザイン] 2. コンセプトシートのチェック、ビジュアルイメージを整える	課題[雑誌のデザイン]コンセプトシートの制作に取り組む
12.	課題[雑誌のデザイン] 4. テキスト素材および図形素材の取り扱い	課題[雑誌のデザイン]素材収集に取り組む
13.	課題[雑誌のデザイン] 5. 画像素材の取り扱い	課題[雑誌のデザイン]組版作業に取り組む
14.	課題[雑誌のデザイン] 6. コンプリヘンシブレイアウトの出力	課題[雑誌のデザイン]組版作業に取り組む
15.	課題[雑誌のデザイン] 7. レビューと講評、授業の総括	授業前に更新される講義資料ウェブサイトを閲覧しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義資料ウェブサイトのURL <http://www.headheart.com/lecture/gd2/gd20101.html>
演習や課題制作において、積極的かつ能動的な受講と制作への取り組みが望まれる。

フィードバックの方法:

課題作品1〜3については、授業内で個別に解説する。
課題作品4については、授業内でレビューの上まとめて講評をおこなう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業毎のショートレポート	20%	毎回の授業終了前にショートレポートのテーマを発表する テーマに沿った文章表現ができているかを基準とする
	課題作品 1 課題[ビジネスカードのデザイン]プリントアウトおよびデータ 2 課題[雑誌レイアウトの解析]作業結果のチェック 3 課題[雑誌のデザイン]コンセプトシートのチェック 4 課題[雑誌のデザイン]カンブおよび	80%	到達目標1および2の観点から課題作品を評価する

教科書:

特に指定しない

参考書:

「表現メディアの編集と表現」有賀妙子, 渡部隆志, 由良泰人 共著 実教出版株式会社
「ブランディングデザインの裏側」Landor Associates 監修 ピエ・ブックス
「レイアウトデザインのルール」オブスキュアインク 著 ワークスコーポレーション
「Grid Systems in Graphic Design」Josef Muller-Brockmann 著 Arthur Niggli
「広告コピー概論」植条則夫 著 宣伝会議

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール(takashi@osakac.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

印刷物を作りながら、グラフィックデザインの基礎力を身につける

授業の概要:

グラフィックデザインの基礎力向上のために、3つの課題を設け、実際に印刷物の製作を行いながら分析や振り返りを行なっ
ていきます。

到達目標:

1・授業内で提示される3つの課題に創造的にとりくみ、その成果を授業内でプレゼンテーションする。
2・製作の際に、コンピュータやDTP用のアプリケーションを使用し、技術力の向上を目指す。
3・グラフィックデザイン・情報デザインとはなにか、みずからの考えを深め言語化できるようになる。
4・制作物や製作中のメモなどをまとめたファイルをつくることで、みずからの制作物の傾向が分析できるようになる。

授業方法:

5:講義/演習の混合
基本的なDTPツールの使い方の習得を目的とした実践と、解説・ディスカッションによる情報デザインについての講義が進めら
れます。2~7回目、8~11回目、12~14回目で、3つの制作課題に取り組み、最後授業内でプレゼンテーションします。15回目に、
そのまとめとなるファイルの合評を行います。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 授業の進め方について	
	2. ワーク1: 分析する／街中に溢れている印刷物を収 集・分類する	街中にある印刷物を10枚以上あつめて授業に持参できる よう準備しておく。
	3. ワーク2: 真似してみる／製作1 街中にある印刷物 をひとつ、画像・文字・色・紙などなるべくそっくりに作 る	印刷物を1つ選び、どう真似するか方法を考えておく。アプリ ケーションの基礎的な使い方などの技術的な面で不安な部 分は復習しておく。
	4. ワーク2: 真似してみる／製作2 配置(レイアウト)に ついて学ぶ	定規で印刷物を徹底的に測っておく。授業当日も定規を持 参する。
	5. ワーク2: 真似してみる／製作3 文字について学ぶ	Fontbookを使って、真似する印刷物に使われているフォント と同じものはないか、検証しておく。
	6. ワーク2: 真似してみる／製作4 写真やイラストにつ いて、色について、校正について学ぶ	
	7. ワーク2: 真似してみる／製作物合評 完成品を元に 印刷物を構成する要素を分析する	合評時に間に合うように制作を進める。
	8. ワーク3: マニュアルを作る／製作1 文字のないレ シビをつくる(企画、スケッチ)	課題をどのように制作するかアイデアをたくさんあげておく。
	9. ワーク3: マニュアルを作る／製作2 状況の図案化 のバリエーションについて学ぶ	
	10. ワーク3: マニュアルを作る／製作3 意味づけを 持った配置(レイアウト)について学ぶ	
	11. ワーク3: マニュアルを作る／製作物合評 相手に よって変動する要素を分析する	合評時に間に合うように制作を進める。
	12. ワーク4: 自由課題: 広告をつくる／製作1 場所や 相手、内容を決めて作る広告	実際に使われている広告をいろいろあつめて分析しておく。
	13. ワーク4: 自由課題: 広告をつくる／製作2 質の高い 印刷物にするための気配りや工夫について学ぶ	どのように広告するか、企画を深めて書類化しておく。
	14. ワーク4: 自由課題: 広告をつくる／製作物合評 意 図と企画が実現できているか分析する	合評時に間に合うように制作を進める。
	15. まとめと振り返り ファイルプレゼンテーション／制作 物を通じて情報を視覚的にデザインするとは何かを 考える	各自が用意したクリアファイルブックに、制作物や配布資料 などを入れていき、最後には自分用のグラフィックデザイン・ 情報デザインの参考書になるように準備しておく。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

コミュニケーションの場で情報メディアとデザインが結びつく時、グラフィックの要素は強い印象とともに伝達されます。それら
要素の力や使い方を知り、活用していくことによって、実社会の中でよりよいコミュニケーションが図れるような力を養います。
制作課題は大変と感ずることがあるかもしれませんが、課題を通じてグラフィックデザインの実力とそれにまつわる考えを深め
ることができるようになっていきますので是非チャレンジしてください。自らの制作スケジュールと照らし合わせて、授業時間内に
完成できないと判断した制作物(印刷物)は、授業時間外に制作場所と時間を確保して完成できるよう努めてください。

フィードバックの
方法:

・レポート コメントをつけて教室で返却する
・制作物 授業内で解説・コメント・アドバイスする
・まとめファイル 提出後、添削して後日情報メディア事務室にて返却する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	40%	積極的に授業に参加し、制作を行う態度や意欲を評価する。
	制作課題提出、発表	50%	到達目標1と2を踏まえ、課題の制作と提出、授業内プレゼンテーション、そ してその完成度を評価する。
	レポート	10%	到達目標3と4を踏まえ、複数のレポートを通じて、思考の深化や気づきの 言語化が積極的にあつたか等を基準として評価する。

教科書:

特にはありません。たくさん入るクリアファイルを1冊用意しておいてください。

参考書:

授業内で適時紹介していきます。
カラー図解 DTP&印刷スーパーしくみ事典 (Works books)
DTP 印刷 デザインの基本 (玄光社MOOK)
なるほどデザイン<目で見て楽しむ新しいデザインの本。>

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	メディアアート作品の表現分析		
授業の概要:	芸術活動とは、私たちが生きる世界や私たち自身がいかなるものであるかを、創造的表現を通じて探ろうとする行為だと言えます。その意味でアーティストによる創作活動は、生きることの根底におけるコミュニケーション活動なのです。本講義ではそのようなアーティストたちによる創作の軌跡、とりわけメディアテクノロジーを表現の手段として用いた実験的作品を取り上げ、それらの作品が示す表現の多様性(テーマ性、形式性、文化性、歴史性など)の分析を行います。前半はコンピュータ以前、主としてビデオを用いた表現実験に注目し、後半はコンピュータ以降のメディアテクノロジーを応用したインターメディア的表現に注目します。		
到達目標:	メディアアート作品における表現の多様性についての理解 作品を分析する方法、批評する能力の獲得		
授業方法:	全体としては講義形式で進めますが、一部で演習も取り入れる予定です。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業概要のオリエンテーション	授業内容と関連のある作品を調査・分析すること	
	2. メディアアート入門1 芸術×技術	〃	
	3. メディアアート入門2 芸術×科学	〃	
	4. ナム＝ジュン・パイク ビデオをアートに	〃	
	5. オノ・ヨーコ インストラクションとしてのアート	〃	
	6. ジェニー・ホルツァー テキストとメディア	〃	
	7. インゴ・ギュンター 世界理解の方法	〃	
	8. ビル・ヴィオラ 宗教画としてのビデオ	〃	
	9. ゲイリー・ヒル 言語論へのアプローチ	〃	
	10. ジェームス・タレル 光の体験	〃	
	11. メディアアート作品の批評	〃	
	12. S.ライヒ+B.コロット 神話と歴史	〃	
	13. 坂本龍一 マルチメディア・オペラ	〃	
	14. ダムタイプ マルチメディアと身体表現	試験にむけて振り返り学習を行うこと	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	多くのメディアアート作品に触れて視野を広げてください。また一つの作品を何度も鑑賞し、分析力を養ってください。		
フィードバックの方法:	リフレクションペーパーの内容から抜粋し、次回授業にてフィードバックします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80	表現の多様性についての理解度、および作品の分析批評能力を評価します。
	リフレクションペーパー	20	積極的な授業参加や授業外での作品視聴、および自分の意見を表明していることを評価します。
教科書:			
参考書:	『メディアアートの教科書』フィルムアート社		
	『スーパー・アヴァンギャルド映像術』CineLesson14 フィルムアート社		
	『映像表現の創造特性と可能性』情報デザインシリーズvol.4 角川書店		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	各授業の終了後に直接連絡してください。		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

フィジカルコンピューティングによるマルチメディア技術の理解

授業内では主にArduinoを用いた動くおもちゃ／作品の企画からプロトタイプ制作に必要な電子技術の導入までをレクチャーします。授業計画7以降は、プロトタイプを完成させるために各自が企画した内容に基づき、書籍及びインターネット上の資料、サンプルなどを授業外でリサーチしてください。授業内では進捗を見ながら授業外で学習しきれなかった点を重点的にレクチャーします。

・フィジカルコンピューティング活用に必要な技術／知識の範囲の理解
・フィジカルコンピューティングを活用する意欲
・フィジカルコンピューティングによって作品を企画立案する技能・能力

2:演習
演習室およびメディアサポートセンターの機材を利用した実習となります。コンピュータなどは基本的に演習室のものを利用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	オリエンテーションで紹介した周辺情報をリサーチすること
	2. プロトタイプツールの紹介 (Arduino, Kinect, USB-KEY8, ブレッドボード)	授業ないで紹介したプログラム等を復習すること
	3. プロトタイピングツールを使ってみる1 (はんだづけ・簡単な電子回路)	授業ないで紹介したプログラム等を復習すること
	4. プロトタイピングツールを使ってみる2 (入力・センサに反応させる)	授業ないで紹介したプログラム等を復習すること
	5. プロトタイピングツールを使ってみる3 (出力・LEDを光らせる)	授業ないで紹介したプログラム等を復習すること
	6. プロトタイピングツールを使ってみる4 (処理・思い通りに動かすには)	授業ないで紹介したプログラム等を復習すること
	7. プロトタイピングツールによる電子おもちゃまたはメディアアート作品の制作 (企画・アイデア出し)	作品の企画を行ってくること
	8. プロトタイピングツールによる電子おもちゃまたはメディアアート作品の制作	作品の制作を進めておくこと
	9. プロトタイピングツールによる電子おもちゃまたはメディアアート作品の制作	作品の制作を進めておくこと
	10. プロトタイピングツールによる電子おもちゃまたはメディアアート作品の制作 (中間チェック)	作品の制作を進めておくこと
	11. プロトタイピングツールによる電子おもちゃまたはメディアアート作品の制作	作品の制作を進めておくこと
	12. プロトタイピングツールによる電子おもちゃまたはメディアアート作品の制作	作品の制作を進めておくこと
	13. プロトタイピングツールによる電子おもちゃまたはメディアアート作品の制作 (最終チェック)	作品の制作を進めておくこと
	14. 制作物のプレゼンテーション1	作品の制作を進めておくこと
	15. 制作物のプレゼンテーション2	他者のアイデアや方法を復習すること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

好奇心を持って授業に参加してください。

授業内で講評会を行い、学生間の作品のアイデアや方法を共有できるようにします。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	電子おもちゃのプロトタイプの完成度	50%	基本的にオリジナル電子楽器の企画内容、プロトタイプの完成度で評価。
	電子おもちゃのプロトタイプのプレゼンテーション	50%	基本的にオリジナル電子楽器の企画内容、プロトタイプの完成度で評価。
			ただし2回以上の無断欠席、あるいは最終プレゼンテーションに不参加の場合は原則単位取得を認めません。

教科書:

なし

参考書:

Arduinoをはじめよう

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

Eメール (mashimo@seian.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

情報を伝えるビジュアル表現の形と意味を考える

授業の概要:

情報デザインとは、人と物や出来事、さらには環境とつなぐさまざまな「情報」を整理し、構造化し、視覚化するための手法と捉えることができます。
この授業では、おもに静的な視覚情報に関わるデザインを対象として、視覚情報の知覚や認知のされ方を理解し、それを基に適切な情報の表現について考察します。段階的な演習を通して、観察力、洞察力、構想力、表現力などデザインマインドの基礎力を養成することを目的とします。

- 到達目標:
- 1 ビジュアルデザインの要素について理解する

2 視覚情報の認知のされ方を理解する

3 視覚情報を観察し、観察結果をもとに視覚的要素のもつ意味を考える

4 アイディアの発想法について理解し、アイディアを構想をする

授業方法:

講義と、それに関連した演習課題の制作を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業の概要、視覚的コミュニケーションデザインについて	
	2. デザインを構成する要素	
	3. 演習1 知覚の傾向を探るビジュアルイメージ採集（講義）	課題制作の準備
	4. 演習1 知覚の傾向を探るビジュアルイメージ採集（課題説明）	課題制作
	5. 演習1 知覚の傾向を探るビジュアルイメージ採集（レビューと自己評価シートの作成）	
	6. 演習2 ピクトグラムの設計（講義）	課題制作の準備
	7. 演習2 ピクトグラムの設計（課題説明）	課題制作
	8. 演習2 ピクトグラムの設計（レビューと自己評価シートの作成）	
	9. 演習3 情報を表すビジュアル変数（講義）	課題制作の準備
	10. 演習3 情報を表すビジュアル変数（課題説明）	課題制作
	11. 演習3 情報を表すビジュアル変数（レビューと自己評価シートの作成）	
	12. 演習4 ビジュアルイメージと意味（講義）	課題制作の準備
	13. 演習4 ビジュアルイメージと意味（課題説明）	課題制作
	14. 演習4 ビジュアルイメージと意味（レビューと自己評価シートの作成）	
	15. 授業の総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

演習課題のレビュー時にコメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題作品	70	完成度
	授業への積極的参加度	30	学生相互評価や発表へのコメントなどの貢献を評価

教科書:

参考書:

表現メディアの編集と表現, 有賀妙子, 渡部隆志, 由良泰人, 実教出版
Design rule index:デザイン, 新・25+100の法則, William Lidwell, Kritina Holden, Jill Butler, ビー・エヌ・エヌ新社
ピクトさんの本, 内海慶一, ビー・エヌ・エヌ新社
Sign, icon and pictogram:記号のデザイン, Rayan Abdullah, Roger Hubner, ビー・エヌ・エヌ新社
インフォグラフィックス, 木村博之, 誠文堂新光社
身近なダイアグラム, パイインターナショナル
映像の修辞学, ロラン・バルト, 筑摩書房
誰のためのデザイン, D.A.ノーマン, 新曜社
発想法—創造性開発のために, 川喜田二郎, 中公新書
知の編集術, 松岡正剛, 講談社現代新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

マンガの魅力に触れる

授業の概要:

本講義では、我々にとって身近な存在であるマンガについて学ぶ。マンガは特有のメディアであることを理解したのちに、作り手と読者の観点を整理し、文化的背景・社会での位置づけ・その展開等を解説し、マンガ文化を多角的に考察していく。「マンガ文化論A」では日本のマンガを、「マンガ文化論B」では海外のマンガを主たる対象とする。

到達目標:

【知識・理解】マンガメディアの特徴を知るとともに、マンガ文化の位置づけを認識する。
【関心・意欲・態度】ディスカッションへの積極的な参加やコメントペーパーのまとめを通じ、マンガ文化について説明できる力を身に着ける。
【表現・技能・能力】授業時のワークショップやレポートを通じて学んだことを明確にし、問題提起や提案を行う。

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	ワークショップを実施予定 一授業時に説明するマンガの記号に注意していくつかの作品に目を通しておくこと
	2. マンガのリテラシー(1)	
	3. マンガのリテラシー(2)	ワークショップを実施予定 一授業時に説明するマンガの記号に注意していくつかの作品に目を通しておくこと
	4. マンガのリテラシー(3)	簡単な4コママンガを制作予定 一授業時に提示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
	5. 出版物としてのマンガ	書店や図書館での取り扱いの現状について確認しておくこと
	6. マンガの出版・流通	デジタルマンガについて複数のサイトを通じて作品に目を通しておくこと
	7. マンガの消費と創造	可能な限り、マンガ家や出版社について取り上げられるTV番組や報道を視聴しておく
	8. マンガと映像	アニメや実写化を取り巻く環境を理解するため、ニュース・新聞・雑誌の特集等に注目する
	9. マンガとゲーム	ゲームを取り巻く環境を理解するため、ニュース・新聞・雑誌の特集等に注目する
	10. オタク文化とカワイイ文化	オタク文化・カワイイ文化を取り巻く環境を理解するため、ニュース・新聞・雑誌の特集等に注目する
	11. クールジャパン	事前に提示する経済産業省等の関連資料に目を通しておくこと
	12. 町おこし／マンガミュージアム	フィールドワークの実施
	13. イマドキのマンガ事情	マンガ文化を取り巻く環境を理解するため、ニュース・新聞・雑誌の特集等に注目する
	14. マンガを学問する	
	15. 総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

・作品研究や作家研究を主としていないこと、「マンガ文化」がテーマのためマンガが出てこない回もあることを理解しておくこと
・外部講師による講演を予定

フィードバックの方法:

授業時に口頭で行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み姿勢	50	到達目標の1・2を中心に評価する。
	レポート	50	到達目標の3を中心に評価する。

教科書:

参考書:

全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』(年刊)
メディアクリエイト『ゲーム産業白書』(年刊)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

E-メール: mmuraki@doshisha.ac.jp

授業テーマ:

世界のマンガ文化

授業の概要:

日本で日常的にマンガを楽しんでいる人でも、海外のマンガ作品を読んだことがある人はあまり多くないのが現状である。本講義では、アジア、ヨーロッパ、北米、南米など、普段目にする事の少ない様々な地域のマンガ作品や作家について紹介し、海外のマンガ文化に対する理解を深める。日本のマンガ文化・市場とも比較しながら、それぞれのマンガ文化の特徴やその原因について考察する。

到達目標:

・世界中のマンガ文化とマンガ産業に対する視野を広げる。
・各マンガ文化を現在の形にした原因について様々な視点から考え、発言する。
・作品や作家について理解・分析し、その特徴について紹介(プレゼンテーション)する。

授業方法:

1: 本講義では、各言語圏のマンガの歴史とマンガ文化の特徴について論じる。
また、マンガ作品を読み、テーマ・表現技法・出版形態などについても考察する。
(受講者はそれぞれ1回のプレゼンテーションを行う。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス、日本のマンガ文化(1)	日本のマンガ文化について復習する。
	2. 日本のマンガ文化(2) ーマンガ制作ワークショップー	マンガ制作に使用する画材や、制作過程について予習する。
	3. フランス語圏のマンガ文化(1)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	4. フランス語圏のマンガ文化(2)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	5. スペイン語圏のマンガ文化	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	6. ドイツ語圏のマンガ文化	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	7. ヨーロッパ諸言語圏のマンガ文化	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	8. アジア言語圏のマンガ文化(1)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	9. アジア言語圏のマンガ文化(2)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	10. アジア言語圏のマンガ文化(3)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	11. アジア言語圏のマンガ文化(4)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	12. 英語圏のマンガ文化(1)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	13. 英語圏のマンガ文化(2)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
	14. 現場見学(京都国際マンガミュージアム)	授業前に京都国際マンガミュージアムの機能や特徴について確認する。
	15. 授業の振り返り、質疑応答など	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物やプレゼンテーションのフィードバックは、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	50%	積極的に授業に参加し、世界のマンガ文化の特徴について様々な視点から考えるようになったかを評価する。
	プレゼンテーション	30%	作家や作品について理解・分析し、自分の見解を明確に説明できたかを評価する。
	レポート	20%	テーマに関する自分の経験や考えを論理的に述べられるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール(suya@kyotomm.jp)

授業テーマ:Development of Speaking Skills

授業の概要:Students will prepare for the TOEFL iBT test.

到達目標:This course has two main purposes: (1) To provide students with more skills for speaking in English, in particular, to be able to speak about a familiar topic clearly and coherently and (2) to prepare them for the Independent Speaking Task of the TOEFL iBT test.

授業方法:Practical Training – Each class consists of three parts: (1) practicing speaking skills; (2) going over the assigned homework; and (3) making speeches on an assigned topic and answering questions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction	Plan individualized supplemental practice
	2. TOEFL speaking skills	Homework and tailored supplemental practice
	3. Fluency	Homework and tailored supplemental practice
	4. Impromptu speaking	Homework and tailored supplemental practice
	5. Pronunciation	Homework and tailored supplemental practice
	6. Intonation	Homework and tailored supplemental practice
	7. Midterm	Homework and tailored supplemental practice
	8. Accuracy	Homework and tailored supplemental practice
	9. Organizational structure	Homework and tailored supplemental practice
	10. Theme development	Homework and tailored supplemental practice
	11. Coherence	Homework and tailored supplemental practice
	12. Complexity	Homework and tailored supplemental practice
	13. Vocabulary development	Homework and tailored supplemental practice
	14. Paragraph details and examples	Homework and tailored supplemental practice
	15. Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:Speaking is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT.

フィードバックの方法:Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
	Midterm	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
	Final	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:Send Email to Catherine Oki
沖 キャサリン <coki@dwc.doshisha.ac.jp>

授業テーマ:

Development of Speaking Skills

授業の概要:

Students will prepare for the TOEFL iBT test.

到達目標:

This course has two main purposes: (1) To provide students with more skills for speaking in English, in particular, to be able to speak about a familiar topic clearly and coherently with confidence and (2) to refine speaking skills using the criteria for the Independent Speaking Task of the TOEFL iBT test.

授業方法:

Practical training – Each class consists of three parts: (1) practicing speaking skills; (2) going over the assigned homework; and (3) making speeches about the topic given before and answering questions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Independent Learning Review	Plan individualized supplemental practice
	2. Quantitative and qualitative goals	Homework and tailored supplemental practice
	3. Public Academic Speaking	Homework and tailored supplemental practice
	4. Presentations	Homework and tailored supplemental practice
	5. Presentations	Homework and tailored supplemental practice
	6. Test simulations	Homework and tailored supplemental practice
	7. Midterm	Homework and tailored supplemental practice
	8. Focus on contents	Homework and tailored supplemental practice
	9. Motivational strategies	Homework and tailored supplemental practice
	10. Focus on delivery	Homework and tailored supplemental practice
	11. Peer feedback	Homework and tailored supplemental practice
	12. Self evaluations	Homework and tailored supplemental practice
	13. Presentations	Homework and tailored supplemental practice
	14. Presentations	Homework and tailored supplemental practice
	15. Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

Speaking is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
	Midterm	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
	Final	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Send Email to Catherine Oki
沖 キャサリン <coki@dwc.doshisha.ac.jp>

550301～08

Academic Writing I

S.Herder、J.Kuzel、B.Quinn、沖

キャサリン

授業テーマ:

Academic Writing Skills

授業の概要:

Students will prepare for the TOEFL iBT and IELTS test.

到達目標:

This course has two main purposes: (1) To provide students with more academic writing skills in English, in particular, to be able to write clear paragraphs and short essays, and (2) to prepare them for the Independent and Integrated Writing Tasks on the TOEFL iBT or IELTS test.

授業方法:

Practical Training – In a typical class, students will focus on a target writing convention or skill and practice exercises either individually or collaboratively. Homework will consist of writing exercises designed to further focus student's attention on the target writing skill.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Course introduction	Plan individualized supplemental practice
2. What is writing?	Homework and tailored supplemental practice
3. Writing for the TOEFL iBT or IELTS	Homework and tailored supplemental practice
4. Writing fluency	Homework and tailored supplemental practice
5. About the paragraph	Homework and tailored supplemental practice
6. Data driven writing feedback	Homework and tailored supplemental practice
7. Independent TOEFL Question	Homework and tailored supplemental practice
8. Midterm	Homework and tailored supplemental practice
9. Integrated TOEFL Question	Homework and tailored supplemental practice
10. Vocabulary Development	Homework and tailored supplemental practice
11. Organizational Structure	Homework and tailored supplemental practice
12. IELTS Academic Question	Homework and tailored supplemental practice
13. Writing conventions – Cohesion	Homework and tailored supplemental practice
14. Writing conventions – Coherence	Homework and tailored supplemental practice
15. Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

Writing is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT or IELTS.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, such as sentence length, lexical density, academic vocabulary, and overall reading level of their writing.

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
Midterm	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.
Final	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.

教科書:

Will vary depending on class level

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Send Email to your Instructor. You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

授業テーマ:	Academic Writing Skills		
授業の概要:	Students will prepare for the TOEFL iBT and IELTS test.		
到達目標:	This course has two main purposes: (1) To provide students with more academic writing skills in English, in particular, to be able to write clear paragraphs and short essays, and (2) to prepare them for the Independent and Integrated Writing Tasks on the TOEFL iBT or IELTS test.		
授業方法:	Practical Training – In a typical class, students will discuss topics, develop ideas and write outlines or focus on a target language skill and practice exercises either individually or interactively. Homework will consist of writing exercises designed to further focus student’s attention on the target writing skill.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	Independent learning review	Plan individualized supplemental practice
	2.	Process	Homework and tailored supplemental practice
	3.	Summary	Homework and tailored supplemental practice
	4.	Analysis paragraph	Homework and tailored supplemental practice
	5.	Analysis paragraph	Homework and tailored supplemental practice
	6.	Analysis paragraph	Homework and tailored supplemental practice
	7.	Cause and effect paragraph	Homework and tailored supplemental practice
	8.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
	9.	Cause and effect paragraph	Homework and tailored supplemental practice
	10.	Persuasive paragraph	Homework and tailored supplemental practice
	11.	Persuasive paragraph	Homework and tailored supplemental practice
	12.	Persuasive paragraph	Homework and tailored supplemental practice
	13.	Introduction to APA style	Homework and tailored supplemental practice
	14.	In-text citations	Homework and tailored supplemental practice
	15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice
受講者へのメッセージやアドバイス:	Writing is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT or IELTS test.		
フィードバックの方法:	Students receive formative feedback in class through a drafting and revising cycle of learning, and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in class using online technology software, such as sentence length, lexical density, academic vocabulary, and overall reading level of their writing.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students’ efforts.
	Midterm	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.
	Final	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.
教科書:	Texts will vary depending on skill level.		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Send Email to your Instructor. You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.		

授業テーマ:	Developing academic reading skills, enhancing motivation for academic reading, and reading collaboratively with members of skill class		
授業の概要:	The main aims of this course are to develop students' academic reading skills and enhance their motivation for academic reading. To achieve them, they need to enrich academic vocabulary, develop metalinguistic knowledge about grammar, improve reading skills, have knowledge about paragraph and get used to academic reading materials. In this course reading materials for the TOEFL ITP, TOEFL iBT, IELTS, academic passages, passages in the Super English, and papers are used. Students are required to read these materials carefully before class.		
到達目標:	(1) To get more than 5,000 mileage of Super English and read collaboratively with members of skill class. (2) To improve students' reading skills so that they can read quickly, accurately, analytically, and critically. (3) To increase the amount of academic English vocabulary and have sufficient grammatical knowledge so that they become a good academic reader. (4) To obtain a high score in the reading portion of the TOEFL iBT, TOEFL ITP, and IELTS. (5) To read reading materials carefully, in particular, check unknown academic vocabulary.		
授業方法:	Students can improve basic reading skills by reading materials in the Super English, TOEFL iBT, and IELTS reading sections collaborately, actively, and enthusiastically. They also can develop English grammar and vocabulary skills by engaging in parcticing the Super English. Before class, students are required to read and answer questions to passages in these reading materials given before as homework. In particular, students read TOEFL iBT tests collaboratively with some members in skill class. They read the same passages on the computer screen and answer questions in the classroom. New questions are given in the classroom. After reading within time pressure, they need not only give correct answers but also explain why the answer is correct. Reading strategies to improve readings skills are provided by the instructor. Also, vocabulary strategies, i.e., how to increase the number of vocabulary will also be given. To talk about what students have read is very important to improve reading skills. It is important to cooperate fully with partners during class. All reading materials in the Super English and vocabularies in TOEFL iBT and IELTS reading materials will be given as in the Mid-term and Final Exams.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	Introduction of the course: Self introduction, course introduction, and diagnostic test.	To get full scores of materials in the Super English
	2.	Basic reading skills: strategies for fact finding questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	3.	Basic reading skills: strategies for reference questions	To get full scores of materials in the Super English
	4.	Basic reading skills: strategies for inference questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	5.	Basic reading skills: strategies for author's intention questions	To get full scores of materials in the Super English
	6.	Basic reading skills: strategies for restatement questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	7.	Basic reading skill: strategies for summary questions	To get full scores of materials in the Super English
	8.	Academic reading skills & feedback	Review grammar questions, vocabulary, reading strategies.
	9.	Basic reading skills: category questions	To get full scores of materials in the Super English
	10.	Basic reading skills: vocabulary questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	11.	Basic reading skills: discourse questions	To get full scores of materials in the Super English
	12.	Basic reading skills: titling questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	13.	Basic reading skills: paragraph summary questions	To get full scores of materials in the Super English
	14.	Basic reading skills: note taking skills	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
15.	Academic reading skills & feedback	Review grammar questions, vocabulary, reading strategies.	
受講者へのメッセージやアドバイス:	Academic reading seems to be difficult, but in fact it is very interesting.		
フィードバックの方法:	Students' homework sheets need to be submitted in every class and checked by the instructor. Also, results of mid-term and final exams are given in the form of a sheet of paper.		

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	E-mail and Manabi

授業テーマ:

Developing academic reading skills, enhancing motivation for academic reading, reading collaboratively with members of skill class, and developing critical reading skills

授業の概要:

Based on what students have learned through Intensive Reading I, this course continues to aim at developing students' academic reading skills, enhancing their motivation for academic reading, and reading collaboratively with members of skill class. In addition to these aims, critical reading skills need to be developed in this course. To achieve them, students need to enrich academic vocabulary, develop metalinguistic knowledge about grammar, improve reading skills, have knowledge about paragraph, get used to academic reading materials, and read materials critically. Also, it is very important to read materials used in this class collaboratively with members of the same skill class. In this course reading materials for the TOEFL ITP, TOEFL iBT, IELTS, academic passages, passages in the Super English, and papers are used. Students are required to read these materials carefully before class.

到達目標:

(1) To get more than 10,000 mileage of Super English
(2) To improve students' reading skills so that they can read more quickly, accurately, analytically, and critically.
(3) To increase the amount of academic English vocabulary and have more sufficient grammatical knowledge so that they become a good academic reader.
(4) To obtain a higher score in the reading portion of the TOEFL iBT, TOEFL ITP, and IELTS.
(5) To read reading materials carefully, in particular, check unknown academic vocabulary.

授業方法:

Students can improve basic reading skills by reading materials in the Super English, TOEFL iBT, and IELTS reading sections collaboratively, actively, and enthusiastically. They also can develop English grammar and vocabulary skills by engaging in practicing the Super English. Before class, students are required to read and answer questions to passages in these reading materials given before as homework. In particular, students read TOEFL iBT tests collaboratively with some members in skill class. They read the same passages on the computer screen and answer questions in the classroom. New questions are given in the classroom. After reading within time pressure, they need not only give correct answers but also explain why the answer is correct. Reading strategies to improve readings skills are provided by the instructor. Also, vocabulary strategies, i.e., how to increase the number of vocabulary will also be given. To talk about what students have read is very important to improve reading skills. It is important to cooperate fully with members of a skill group during and outside class. All reading materials in the Super English and vocabularies in TOEFL iBT and IELTS reading materials will be given as in the Mid-term and Final Exams.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction of the course: Self introduction, course introduction, and diagnostic test.	To get full scores of materials in the Super English
	2. Basic reading skills: strategies for fact finding questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	3. Basic reading skills: strategies for reference questions	To get full scores of materials in the Super English
	4. Basic reading skills: strategies for inference questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	5. Basic reading skills: strategies for author's intention questions	To get full scores of materials in the Super English
	6. Basic reading skills: strategies for restatement questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	7. Basic reading skill: strategies for summary questions	To get full scores of materials in the Super English
	8. Academic reading skills & feedback	Review grammar questions, vocabulary, reading strategies.
	9. Basic reading skills: category questions	To get full scores of materials in the Super English
	10. Basic reading skills: vocabulary questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	11. Basic reading skills: discourse questions	To get full scores of materials in the Super English
	12. Basic reading skills: titling questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	13. Basic reading skills: paragraph summary questions	To get full scores of materials in the Super English
	14. Basic reading skills: note taking skills	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
	15. Academic reading skills & feedback	Review grammar questions, vocabulary, reading strategies.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Academic reading is very interesting for you. Let's enjoy reading.

フィードバックの方法:

Students' homework sheets need to be submitted and checked by the instructor almost in every class. Also, results of mid-term and final exams are given in the form of a sheet of paper.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Mileage of Super English and collaborative learning	20	Based on the criteria of course objective (1), total mileage of Super English is evaluated. Also, collaboration within members of a skill class is evaluated.
	Homework & participation	10	Based on the criteria of course objective (5), students' level of preparation and that of participation are evaluated.
	Mid-term Exam	30	Based on the criteria of course objectives (2) & (3), students' reading skills are evaluated.
	Final Exam	40	Based on the criteria of course objectives (2) & (3), students' reading skills are evaluated.

教科書:

Educational Testing Service (ETS), Official TOEFL iBT Tests with Audio, Volume 1. Mc Graw Hill

参考書:	神部孝、TOEFLテスト英単語3800、旺文社
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	E-mail、マナビー

授業テーマ:

Developing English listening skills

授業の概要:

Students will practice listening skills in the context of the TOEFL iBT Independent Listening Task by listening for both dialogues and lecture-type passages similar in topic and style to those that English-speaking university students encounter in their life and academic settings. Students will learn how to listen actively, take notes, and re-organize ideas from their notes. In a typical class, students will be required to listen to either a certain conversation or a lecture for homework, answer some content-based questions regarding the passage, analyze the content and the strategies to understand the passage, and follow some impromptu listening tasks. Various topics will be discovered in this course by listening and analyzing the dialogues and lectures, so background knowledge will often be necessary.

到達目標:

This course has three main purposes:
(1) To improve students' listening skills
(2) To develop their listening strategies, in particular to provide them with skills for note-taking
(3) To prepare them for the Independent Listening Task of the TOEFL iBT

授業方法:

Practical Training – Each class consists of four parts:
(1) vocabulary and listening quiz
(2) analysis of the quiz by providing background information and strategies to overcome the difficulties
(3) post-listening activities such as discussing using notes and summarizing in English/Japanese
(4) portfolio filing for ongoing record of accomplishment and reflection.
The class is conducted mainly in English.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction	Read syllabus thoroughly and plan individualized supplemental practice
	2. Preview test and overview of TOEFL iBT part 1	Homework and tailored supplemental practice
	3. Preview test and overview of TOEFL iBT part 2	Homework and tailored supplemental practice
	4. Chapter 1 Vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	5. Chapter 2 Vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	6. Chapter 3 Vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	7. Chapter 4 Vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	8. Midterm test	Homework and tailored supplemental practice
	9. Midterm test review	Homework and tailored supplemental practice
	10. Supplemental listening exercises 1	Homework and tailored supplemental practice
	11. Supplemental listening exercises 2	Homework and tailored supplemental practice
	12. Supplemental listening exercises 3	Homework and tailored supplemental practice
	13. Chapter 5 Vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	14. Chapter 6 Vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	15. Chapter 7 Vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	16. Final review and consolidation	Prepare for a set of final assignments and discussion

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class and summative evaluation through midterm and final review tests. Students also receive immediate feedback in every class using online automatic grading system. A set of homework assignments submitted in every class is returned to students in subsequent classes with comments.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and participation	20	Students are expected to attend and participate actively by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
	Homework and quiz	30	Students are expected to make relevant and extended contributions to discussions, and to prepare for the review quiz and discussions, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
	Midterm and final	50	Students are expected to prepare for the term-review tests, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).

教科書:

P. Edmunds, N. Mckinnon, and J. Zeter, Developing Skills for the TOEFL iBT, Compass Publishing
J. Beaumont, NorthStar Building Skills for the TOEFL iBT, Pearson Longman
Handouts

参考書:

To be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power, and Communication skill

教員との連絡方法:

Office hour, after class, and/or by email

授業テーマ:

Developing English listening skills

授業の概要:

Students will practice listening skills in the context of the TOEFL iBT Independent Listening Task by listening for both dialogues and lecture-type passages similar in topic and style to those that English-speaking university students encounter in their life and academic settings. Students will learn how to listen actively, take notes, and re-organize ideas from their notes. In a typical class, students will be required to listen to either a certain conversation or a lecture for homework, answer some content-based questions regarding the passage, analyze the content and the strategies to understand the passage, and follow some impromptu listening tasks. Various topics will be discovered in this course by listening and analyzing the dialogues and lectures, so background knowledge will often be necessary.

到達目標:

This course has three main purposes:
(1) To improve students' listening skills
(2) To develop their listening strategies, in particular to provide them with skills for note-taking
(3) To prepare them for the Independent Listening Task of the TOEFL iBT

授業方法:

Practical Training – Each class consists of four parts:
(1) vocabulary and listening quiz
(2) analysis of the quiz by providing background information and strategies to overcome the difficulties
(3) post-listening activities such as discussing using notes and summarizing in English/Japanese
(4) portfolio filing for ongoing record of accomplishment and reflection.
The class is conducted mainly in English.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction Preliminary (summer) homework review Unit 1 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Read syllabus thoroughly and plan individualized supplemental practice
	2. Unit 2 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	3. Unit 3 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	4. Unit 5 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	5. Unit 8 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	6. Unit 9 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	7. Unit 10 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	8. Midterm test	Homework and tailored supplemental practice
	9. Supplemental listening exercises (Moc Test) for TOEFL iBT 1	Homework and tailored supplemental practice
	10. Supplemental listening exercises (Moc Test) for TOEFL iBT 2	Homework and tailored supplemental practice
	11. Chapter 1 & 2 vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	12. Chapter 3 & 4 vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	13. Chapter 5 & 6 vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	14. Chapter 7 vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
	15. Final review and consolidation	Prepare for a set of final assignments and discussion

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class and summative evaluation through midterm and final review tests. Students also receive immediate feedback in every class using online automatic grading system. A set of homework assignments submitted in every class is returned to students in subsequent classes with comments.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and participation	20	Students are expected to attend and participate actively by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
	Homework and quiz	30	Students are expected to make relevant and extended contributions to discussions, and to prepare for the review quiz and discussions, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
	Midterm and final	50	Students are expected to prepare for the term-review tests, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).

教科書:

P. Edmunds, N. Mckinnon, and J. Zeter, Developing Skills for the TOEFL iBT, Compass Publishing
J. Beaumont, NorthStar Building Skills for the TOEFL iBT, Pearson Longman
Handouts

参考書:

To be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power, and Communication skill

教員との連絡
方法:

Office hour, after class, and/or by email

授業テーマ:

Academic Expectations in a Foreign University

授業の概要:

Preparation for Overseas Classwork and Presentations

到達目標:

The main objective of this course is to help students to acquire the speaking skills they will need in order to effectively participate in academic settings in countries where English is the primary language. Students will develop their ability to actively take part in university lectures, discussions, and presentations. Students will prepare their Study Abroad Poster Presentation in this class.

授業方法:

Practical Training – Lessons will include practice using a variety of English skills with the main focus on speaking skills.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction	Plan individualized supplemental practice
2.	“Public Speaking and Presentation” Activities	Homework and tailored supplemental practice
3.	Discussion Topic #1	Homework and tailored supplemental practice
4.	Individual Presentation Topic Selection (and Demonstration)	Homework and tailored supplemental practice
5.	Discussion Topic #2	Homework and tailored supplemental practice
6.	Discussion Topic #3	Homework and tailored supplemental practice
7.	Individual Presentations	Homework and tailored supplemental practice
8.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
9.	Discussion Topic #4	Homework and tailored supplemental practice
10.	Academic Style Discussions	Homework and tailored supplemental practice
11.	Introduction to PowerPoint and Poster Presentations	Homework and tailored supplemental practice
12.	Poster Presentation Draft	Homework and tailored supplemental practice
13.	Poster Presentation Editing and Practice Sessions (with feedback)	Homework and tailored supplemental practice
14.	Final Poster Presentations	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course offers a valuable opportunity to practice skills you will be expected to do while studying abroad. The more effort you make now among friends, the more successful you will be abroad.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and Participation	50	Students are expected to attend and participate actively.
	Midterm	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
	Final	30	Study Abroad Poster Presentation, assessed based on contents and delivery.

教科書:

No textbook. There are handouts and online PDFs.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Send Email to your Instructor. You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

授業テーマ:

Academic Writing Skills

授業の概要:

Development of Integrative Writing Skills

到達目標:

This course has two main purposes: (1) To provide students with a general introduction to integrated nature of academic skills for reading, listening, note taking writing, and writing in English, and (2) to prepare them for the integrated writing question on the TOEFL iBT test.

授業方法:

Practical Training – In a typical class, students will focus on a target writing convention or skill and practice exercises either individually or collaboratively. Homework will consist of writing exercises designed to further focus student's attention on the target writing skill.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction	Plan individualized supplemental practice
	2. Taking notes	Homework and tailored supplemental practice
	3. Reading skills	Homework and tailored supplemental practice
	4. Summarizing	Homework and tailored supplemental practice
	5. Paraphrasing	Homework and tailored supplemental practice
	6. Listening skills	Homework and tailored supplemental practice
	7. Synthesizing	Homework and tailored supplemental practice
	8. Midterm	Homework and tailored supplemental practice
	9. Writing integrated response	Homework and tailored supplemental practice
	10. Vocabulary skills	Homework and tailored supplemental practice
	11. Synthesizing 2	Homework and tailored supplemental practice
	12. Writing integrated response	Homework and tailored supplemental practice
	13. Peer editing	Homework and tailored supplemental practice
	14. Feedback	Homework and tailored supplemental practice
	15. Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

Writing is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, such as sentence length, lexical density, academic vocabulary, and overall reading level of their writing.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
	Midterm	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.
	Final	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

Send Email to John Kuzel
jkuzel@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Academic Writing Skills

授業の概要:

Students will prepare for the TOEFL iBT test.

到達目標:

This course has two main purposes: (1) To provide students with a general introduction to integrated writing in English, and (2) to prepare them for the Integrated Writing portion of the TOEFL iBT test.

授業方法:

Practical Training – Students will focus on developing their skills in summarizing and responding to academic materials much in the same way that would be required of them if they were studying in a country where English was the medium of instruction.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Independent learning review	Plan individualized supplemental practice
	2. Reading Review	Homework and tailored supplemental practice
	3. Summarizing Review	Homework and tailored supplemental practice
	4. Listening/ Guessing	Homework and tailored supplemental practice
	5. Synthesizing	Homework and tailored supplemental practice
	6. Writing Integrated Response	Homework and tailored supplemental practice
	7. Peer Editing/ Check	Homework and tailored supplemental practice
	8. Midterm	Homework and tailored supplemental practice
	9. Grammar Skills	Homework and tailored supplemental practice
	10. Citing Review	Homework and tailored supplemental practice
	11. Paraphrasing Review	Homework and tailored supplemental practice
	12. Timed Writing	Homework and tailored supplemental practice
	13. Peer Editing	Homework and tailored supplemental practice
	14. Feedback	Homework and tailored supplemental practice
	15. Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

Writing is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, such as sentence length, lexical density, academic vocabulary, and overall reading level of their writing.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
	Midterm	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
	Final	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Send Email to John Kuzel
jkuzel@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Academic Writing Skills

授業の概要:

Academic Essay Writing in English

到達目標:

To introduce students to the skills and conventions of an English language academic paper. Students will be introduced to some basic research methods and have an opportunity to experience doing research before going abroad. Students will be required to produce an APA style literature review.

授業方法:

Practical Training – Students will engage in classroom tasks in much the same way as they will when studying abroad. This may include student-led workshops, peer review and editing, in-class research exercises, deconstruction of model papers, and group discussion. Feedback will be given of the draft stages of student's work and students are expected to modify their work in subsequent drafts accordingly.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction	Plan individualized supplemental practice
	2. Brainstorming and choosing a topic	Homework and tailored supplemental research
	3. Reading and narrowing the focus	Homework and tailored supplemental research
	4. Reading and developing a thesis statement	Homework and tailored supplemental research
	5. Finding sources in the library	Homework and tailored supplemental research
	6. Finding sources online	Homework and tailored supplemental research
	7. Exploring Research Methodologies 1	Homework and tailored supplemental research
	8. Midterm	Homework and tailored supplemental research
	9. Exploring Research Methodologies 2	Homework and tailored supplemental research
	10. Exploring Research Methodologies 3	Homework and tailored supplemental research
	11. Exploring Research Methodologies 4	Homework and tailored supplemental research
	12. Essentials in a Literature Review	Homework and tailored supplemental research
	13. Drafting and Re-drafting	Homework and tailored supplemental research
	14. Developing References	Homework and tailored supplemental research
	15. Conclusion	Homework and tailored supplemental research

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course offers a valuable opportunity to practice skills you will be expected to do while studying abroad. The more effort you make now among friends, the more successful you will be abroad.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class through a drafting and revising cycle of learning, and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in class using online technology software, such as sentence length, lexical density, academic vocabulary, and overall reading level of their writing.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Midterm	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.
	Final	50	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.

教科書:

No textbook. There are handouts and online PDFs.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力, 自己管理力

教員との連絡方法:

Send Email to your Instructor. You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

授業テーマ:

Developing presentation skills for academic purposes

授業の概要:

The main objective of this course is to help students develop the skills necessary to carry out accurate academic-related presentations in English. Students will mainly (although not exclusively) work in groups in order to organize, prepare and perform academic presentations in class.

到達目標:

Every class will be divided into four parts: a) a short test based on a reading given as homework; b) a short presentation (5 minutes or less) in groups, based on the topic of the reading; c) a public repetition of the previous presentation (four people per class); and d) mini-workshop on a presentation or pronunciation-related skill. Active participation of all students is expected.

授業方法:	Pair or group workshop and/or activities. Short lectures on a specific topic, followed by individual or group activities.	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction	
	2. Frequent pronunciation and intonation problems	Reading assignment and presentation preparation
	3. Preparation and organization of a presentation (brainstorming)	Reading assignment and presentation preparation
	4. Delivery 1: Voice tone, body language, eye contact	Reading assignment and presentation preparation
	5. Delivery 2: Stressing, emphasizing and pausing	Preparation for group presentation
	6. Group presentation preparation	Preparation for group presentation
	7. Midterm: short group presentations	Reading assignment and presentation preparation
	8. Presentation-related materials: visual aids 1 (handouts)	Reading assignment and presentation preparation
	9. Presentation-related materials: visual aids 2 (handouts)	Reading assignment and presentation preparation
	10. Timing, rhythm and pace	Reading assignment and presentation preparation
	11. Building audience rapport	Reading assignment and presentation preparation
	12. Asking questions and proper answering	Preparation for group presentation
	13. Group presentation preparation	Final rehearsal and preparation
	14. Final (long) group presentations 1	Final rehearsal and preparation
	15. Final (long) group presentations 2	

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class aims at providing you with a friendly, comfortable, English-speaking atmosphere that allows you to voice your opinions about a wide range of topics. Be active, participative and challenge yourself constantly.

フィードバックの方法:

Students will be given weekly feedback on Manavi.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and participation	10%	Attendance to the class
	Weekly mini-tests	20%	Weekly tests on Manavi
	Workshop and group activities	15%	Weekly group presentations
	Public individual presentation (repetition)	5%	Public repetition of group presentation (once)
	Midterm (short) presentation	25%	Poster session
	Final (long) presentation	25%	Group presentation with audiovisuals

教科書:

参考書:

Reynolds, G. (2011). Presentation zen. New Riders.
McMahon, R. (2013). Presenting different opinions. Tokyo: Nan'un-do.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

mcorrea@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Developing presentation skills for academic purposes

授業の概要:

The main objective of this course is to continue assisting students' development of the abilities necessary to carry out accurate academic-related presentations in English. At the end of the semester, students will be able to carry out an individual, academic presentation in English, in front of a large audience.

到達目標:

Every class will be divided into four parts: a) a short test based on a reading given as homework; b) a short presentation (10 minutes) in groups, based on the topic of the reading and additional research; and c) a mini-workshop on a presentation or pronunciation-related skill. Active participation of all students is expected.

授業方法:

Pair or group workshop and/or activities. Short lectures on a specific topic, followed by individual or group activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction	
	2. Deciding on a topic and making an outline	Reading assignment and presentation preparation
	3. Developing appropriate visual aides (PowerPoint slides 1)	Reading assignment and presentation preparation
	4. Developing appropriate visual aides (PowerPoint slides 2)	Reading assignment and presentation preparation
	5. Choosing the tone, pace and rhythm	Preparation for individual presentation
	6. Individual presentation preparation	Preparation for individual presentation
	7. Midterm: short presentations 1	Preparation for individual presentation
	8. Midterm: short presentations 2	Reading assignment and presentation preparation
	9. Strong beginning, interesting ending and anxiety control	Reading assignment and presentation preparation
	10. Reviewing sources, balancing content and form	Reading assignment and presentation preparation
	11. Making and answering questions at a presentation	Preparation for individual presentation
	12. Individual presentation preparation 1	Preparation for individual presentation
	13. Individual presentation preparation 2	Preparation for individual presentation
	14. Final (long) presentations 1	Preparation for individual presentation
	15. Final (long) presentations 2	

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class aims at providing you with a friendly, comfortable, English-speaking atmosphere that allows you to voice your opinions about a wide range of topics. Be active, participative and challenge yourself constantly.

フィードバックの方法:

Students will be given weekly feedback on Manavi.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and participation	10%	Attendance to the class
	Weekly mini-tests	20%	Weekly tests on Manavi
	Workshop and group activities	20%	Weekly group presentations
	Midterm individual presentation	25%	Individual presentation in a small group
	Final individual presentation	25%	Individual presentation in front of a large audience

教科書:

参考書:

Reynolds, G. (2011). Presentation zen. New Riders.
McMahon, R. (2013). Presenting different opinions. Tokyo: Nan'un-do.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

mcorrea@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

To motivate students to read extensively and to have an interest in reading in English.

授業の概要:

(1) Students will be introduced to a wide range of reading materials in English from around the world.
(2) Students will read, discuss and write about the reading materials.
(3) Students will extensively read a number of books of their choice (a minimum of 500 pages over the semester).
(4) Students will be encouraged to think critically about what they read.
(5) Students will gain both confidence in their ability to read and motivation to read further.

到達目標:

(1) To enhance reading skills by increasing vocabulary, expanding world knowledge and developing ability to deal with difficult sentences.
(2) To apply reading strategies such as skimming and scanning.
(3) To have independent attitude for reading. It is crucial to increase input opportunities outside the class.

授業方法:

In the first half of each class, students will read and discuss up-to-date issues from newspapers, journals, and web pages.
In the second half of the class, students will read a part of a book to discuss issues about the book.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: How to find books to read, write a book report	Read the course syllabus.
2.	English newspapers in Japan (Japan Times); Desert flower 1	Find a book to read. Finish reading at least 30 pages.
3.	News from NHK online; Desert flower 2	Finish reading at least 60 pages.
4.	Oral presentation(OP) and Submission of Book Reports 1, Notebook 1	Finish reading at least 100 pages.
5.	News from BBC web page, Notebook 2	Finish reading at least 150 pages.
6.	Local newspaper in Britain, The Reason I Jump	Finish reading at least 200 pages.
7.	Local newspaper in the USA, My Stroke of Insight 1	Finish reading at least 250 pages.
8.	Oral presentation(OP) and Submission of Book Reports 2, To kill a mockingbird 1	Finish reading at least 300 pages.
9.	Local newspaper in Canada, To kill a mockingbird 2	Finish reading at least 330 pages.
10.	Local newspaper in Australia, Food inc. 1	Finish reading at least 350 pages.
11.	Local newspaper in New Zealand, Food inc. 2	Finish reading at least 380 pages.
12.	Oral presentation(OP) and Submission of Book Reports 3, The Diary of a Yong Girl 1	Finish reading at least 400 pages
13.	Open Courseware at MIT (You tube) and The Joy Luck Club1	Finish reading at least 450 pages.
14.	Oral presentation(OP) and Submission of Book Reports 4, The Joy Luck Club 2	Finish reading at least 500 pages.
15.	Course conclusion	Review

受講者へのメッセージやアドバイス:

Please ensure to complete the worksheet provided in class prior to coming to the next class.
You are also expected to find and read books of your choice according to the schedule provided.

フィードバックの方法:

Evaluate and return all the worksheets submitted in class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Exam	40%	Evaluate how well students demonstrate and apply the knowledge of the materials covered in class.
	Book reports	40%	A total of 4 book reports must be submitted. Each book report is evaluated based on the criteria given in each lecture and on an assignment sheet.
	Attendance and contribution to the class	10%	Evaluate how actively students will engage in a group discussion and presentation.
	Oral presentation about the books	10%	Evaluate how actively students will participate in the oral presentation by summarizing and making comments.

教科書:

N/A

参考書:

N/A

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking power, presentation skill, communication skill, self-managerial power

教員との連絡方法:

E-mail address will be announced in class.

授業テーマ:

ビジネス逐次通訳に挑戦してみよう！

授業の概要:

刻々と変化するグローバルな環境で働くには、通訳を依頼している暇は無い。自らが直接英語でビジネスをし、また時には社内通訳を引き受けることにもなる。簡単なビジネス通訳、例えば、社内パーティーの司会通訳、自社企業案内通訳、商談・接待通訳などができれば、ビジネスパフォーマンスも上がり、社内からの信頼アップにもつながるだろう。現役通訳士としての経験や勉強法も紹介する。

到達目標:

半年後の春学期の同時通訳にトライできるよう、秋学期では通訳の様々な訓練法を紹介しながら英日・日英の逐次通訳のスキルの習得を目指す。

授業方法:

L3を用いて、音声を聞きながらシャドーイング、ディクテーション、メモ取り、リプロダクションを反復練習し、通訳パフォーマンスにつなげていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	通訳の種類と訓練法	持ち帰りの音声を聞いてシャドーイング、ノートテキング、訳出の準備又は通訳の反復練習
2.	メモ取りのコツ	同上
3.	アテンド通訳(接待・観光) 英日	同上
4.	アテンド通訳(接待・観光) 日英	同上
5.	リプロダクション	同上
6.	アテンド通訳(企業) 英日	同上
7.	アテンド通訳(企業) 日英	同上
8.	Test 1	同上
9.	アテンド通訳(工場視察) 英日	同上
10.	アテンド通訳(工場視察) 日英	同上
11.	商談通訳(商品説明) 英日	同上
12.	商談通訳(商品説明) 日英	同上
13.	Test 2	同上
14.	ウエルカムスピーチ通訳 英日	同上
15.	ウエルカムスピーチ通訳 日英	同上
	Test 3	同上
	Review	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

就職先で英語を使う予定の人、通訳をしてみたい人におすすめの講座。きちんと通訳の訓練法を学んで通訳技術をアップさせてみよう。

フィードバックの方法:

授業内で解説

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Test 1	30	通訳パフォーマンスだけでなく、ノートテキングしたメモも評価対象になる。
	Test 2	30	同上
	Test 3	40	同上

教科書:

なし

参考書:

授業内で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

授業テーマ:

ビジネス同時通訳に挑戦してみよう！

授業の概要:

刻々と変化するグローバルな環境で働くには、通訳を依頼している暇は無い。自らが直接英語でビジネスをし、また時には社内通訳を引き受けることにもなる。簡単なビジネス通訳、例えば、社内パーティーの司会通訳、自社企業案内通訳、商談・接待通訳などができれば、ビジネスパフォーマンスも上がり、社内からの信頼アップにもつながるだろう。現役通訳士としての経験や勉強法も紹介する。

到達目標:

今期はサイトトランスレーション、パラフレージングといった訓練法に力を入れ、簡単なものであれば同時通訳できるよう繰り返し練習したい。

授業方法:

まずは音声を聞いて逐次通訳→同時通訳につながるようにサイトトランスレーション、パラフレージング→音声を聞きながら同時通訳練習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 同時通訳の種類と訓練法	持ち帰りの音声を聞いてシャドーイング、ノートテキング、訳出の準備又は通訳の反復練習
	2. 原稿を使用してサイトトランスレーション	同上
	3. スピーチ1 英日 逐次通訳&サイトトランスレーション、	同上
	4. スピーチ1 同時通訳演習	同上
	5. Test 1英日同時通訳	同上
	6. 企業視察通訳 日英逐次1	同上
	7. 企業視察通訳 日英逐次2	同上
	8. 企業視察通訳 日英サイトトランスレーション	同上
	9. 企業内通訳 日英同時通訳	同上
	10. Test 2 日英逐次通訳	同上
	11. Test 3 日英同時通訳	同上
	12. スピーチ2 逐次通訳 英日	同上
	13. スピーチ2 同時通訳 英日	同上
	14. Test 4	同上
	15. Review	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

就職先で英語を使う予定の人、通訳をしてみたい人におすすめです。きちんと通訳の訓練法を学んで通訳技術をアップさせましょう。

フィードバックの方法:

授業内で解説

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Test 1	25	通訳パフォーマンスだけでなく、ノートテキングしたメモも評価対象になる。
	Test 2	25	同上
	Test 3	25	同上
	Test 4	25	

教科書:

なし

参考書:

授業内で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

授業テーマ:

授業の概要: This course examines the history of Japan from the Jomon Period to the Postwar. It reviews the main events and also considers the lives of ordinary Japanese, particularly in the early modern (Edo) and modern (Meiji to Postwar) periods.

到達目標: This course has three main aims: 1. to review and further develop students' knowledge of Japanese history; 2. to engage and acquaint students with the historical background of the world they inhabit; 3. to give students the analytical and language skills needed to research, discuss, and interpret Japanese history in English

授業方法: Each class begins with an interactive lecture, where students in pairs or small groups will be asked to discuss and respond to the material. After the lecture, group discussions on the lecture topic will take place, followed by an individual written response. Every 3-4 weeks, students will present the results of their historical research to their group. Groups change after each presentation.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction: what is history and why study it?	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp. 5-26)
2.	Quiz on previous class Early Years to the Heian Period	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp. 27-42). Begin research on hometown in this period.
3.	Quiz on previous class Medieval Japan I	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp. 27-42). Finish research on hometown in this period.
4.	Quiz on previous class Medieval Japan II Report on hometown research	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp. 42-50). Begin research on hometown in this period.
5.	Quiz on previous class Tokugawa Rule I	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp. 50-62). Continue research on hometown in this period.
6.	Quiz on previous class Tokugawa Rule II	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp. 62-67). Finish research on hometown in this period.
7.	Quiz on previous class Tokugawa Rule III Report on hometown research	Review of lecture notes from weeks 2-7.
8.	Midterm test	Reading preparation for next class (textbook, pp. 68-74).
9.	The Meiji Period I	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp. 74-79). Begin research on hometown in this period.
10.	Quiz on previous class The Meiji Period II	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (handout). Finish research on hometown in this period.
11.	Quiz on previous class The Meiji Period III Report on hometown research	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp. 83-88). Begin research on hometown in this period.
12.	Quiz on previous class The road to war I	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp. 89-97). Continue research on hometown in this period.
13.	Quiz on previous class The road to war II	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp. 98-104). Finish research on hometown in this period.
14.	Quiz on previous class The Postwar Report on hometown research	Review of lecture notes from weeks 9-14.
15.	Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: All quizzes and individual written responses are returned to students with a grade and comments in classroom

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class participation and attitude	20%	Assessed via individual written response on understanding and engagement with lecture, reading and discussion topics.
	Review quizzes	15%	
	Research and oral report	15%	Assessed via research notes on depth and interest of research.
	Midterm test	25%	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical, clear and analytical report.
	Final test	25%	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical, clear and analytical report.

教科書: John J. Gillespie, Japan: A Short History, IBC Publishing, 2006

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

Contact me by email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before or after class or during my office hour (Wednesday 3rd period).

授業テーマ:

授業の概要: This course examines the cultures of Japan from an anthropological and cultural studies perspective. It focuses on customs and arts, and pays special attention to their diversity, historical contexts and how they have changed over time.

到達目標: This course has three main aims: 1. to review, develop, and broaden students' knowledge and understanding of Japanese culture; 2. to engage and acquaint students with the historical roots and background of Japanese culture; 3. to give students the analytical and language skills needed to research, discuss, and interpret Japanese culture in English.

授業方法: Each class begins with an interactive lecture, where students in pairs or small groups will be asked to discuss and respond to the material. After the lecture, group discussions on the lecture topic will take place, followed by an individual written response. Every 3-4 weeks, students will present the results of their cultural research to their group. Groups change after each presentation.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Course introduction: What is "Japan"? Who is "Japanese"? What is "Japanese Culture"?	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Imamura, "The Japanese Family").
2. Quiz on previous class Family Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Johnson and Johnson, "Daily Life in Japanese High Schools"). Begin research on Family Cultures.
3. Quiz on previous class School Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class ("Traditional Employment Practices in Japan"). Finish research on Family Cultures.
4. Quiz on previous class Work Cultures Report on Family Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Sosnoki, "Nihon Kaoku"). Begin research on Work Cultures.
5. Quiz on previous class Housing Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Sosnoki, Nihon Ryori). Continue research on Work Cultures.
6. Quiz on previous class Food Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Buckley, "Play"). Finish research on Work Cultures.
7. Quiz on previous class Cultures of Play Report on Work Cultures	Review of lecture notes from weeks 2-7.
8. Midterm test	Reading preparation for next class (Sosnoki, "Kimono").
9. Fashion Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class ("A Short History of Japanese Cinema"). Begin research on Fashion Cultures.
10. Quiz on previous class Visual Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Garcia, "A Brief History of Japanese Music"). Finish research on Fashion Cultures.
11. Quiz on previous class Music Cultures Report on Fashion Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Avella, "Kawaii: The Culture of the Cute"). Begin research on Aesthetic Cultures.
12. Quiz on previous class Aesthetic Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Kelts, "Japanamerica"). Continue research on Aesthetic Cultures.
13. Quiz on previous class Global Japanese Culture	Review of lecture notes for quiz. Finish research on Aesthetic Cultures.
14. Quiz on previous class Course Review Report on Aesthetic Cultures	Review of lecture notes from weeks 9-14.
15. Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: All quizzes and individual written responses are returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20%	Assessed via individual written response on understanding and engagement with lecture, reading and discussion topics.
Review quizzes	15%	
Research and oral report	15%	Assessed via research notes on depth and interest of research.
Midterm test	25%	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical, clear and analytical report.
Final test	25%	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical, clear and analytical report.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), Manabi, or see me before/after class or during my office hour (Wednesday 3rd period).

授業テーマ:

Contemporary Japanese Literature

授業の概要:

This course is a chronological review of some of the most important literary works in Japan. Each week, students will be given a reading assignment, mainly short stories from some of the best-known modern Japanese authors. Students are expected to read each text before class, and to prepare a short comment about it to share with the class.

到達目標:

This course has three main objectives:

1) Help students acquire and/or reinforce their knowledge of Japanese literature. This aims at enhancing their ability to think about Japanese society, culture and history in a critical and innovative way.

2) Provide students with the tools necessary to introduce (and discuss about) Japanese literature in a foreign language. In order to do this, we will work with reading comprehension, presentation skills and vocabulary building.

3) Offer students a fresh, new vision of Japanese literature, in order for them to use it as a tool for effective intercultural exchange and global comprehension.

There will be a reading assignment every week. Although the readings will be offered in English as well as in Japanese, both the vocabulary test and the discussion ill be based on the English version.

Students will chose one of the assigned authors, and carry out a presentation introducing the author and his/her work.

授業方法:

Reading assignment, vocabulary review and test, group discussion, short presentation

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction and guidelines.	Reading assignment and written response to the text
	2. Lafcadio Hearn: "Yuki-onna"	Reading assignment and written response to the text
	3. Natsume Soseki: "Ten nights of dream"	Reading assignment and written response to the text
	4. Akutagawa Ryunosuke: "In a forest"	-
	5. Movie discussion: Kurosawa Akira's "Rashomon" (1950)	Reading assignment and written response to the text Response to the film
	6. Tanizaki Junichiro: "A tattoo"	Reading assignment and written response to the text
	7. Dazai Osamu: "Run, Melos!"	Reading assignment and written response to the text
	8. Kawabata Yasunari: "Palm-of-the-hand stories" (selection)	Reading assignment and written response to the text
	9. Mishima Yukio: "The pearl"	Reading assignment and written response to the text
	10. Ogawa Yoko: "The last hour of the Bengal tiger"	Reading assignment and written response to the text
	11. Tsutsui Yasutaka: "The girl who leapt through time"	-
	12. Movie discussion: Hosoda Mamoru's "The girl who leapt through time" (2006)	Reading assignment and written response to the text Response to the film
	13. Murakami Haruki: "On seeing the 100% perfect girl one beautiful April morning"	Preparation for final presentation
	14. Student's final presentations 1	Preparation for final presentation
	15. Student's final presentations 2	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Rediscover the pleasure of reading the Japanese classics, this time in English. This course is an opportunity to know more about some of the best-known Japanese cultural productions: literary works.

フィードバックの方法:

Weekly feedback on Manavi. Feedback about results of group discussion to be given at the end of each class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Vocabulary tests	20%	Comprehension of reading assignment
	Discussion and group work	20%	Capacity to analyze a literary text; use of English language for group discussions
	Presentations	30%	Proper introduction of an author (short presentation), and proper analysis of a literary work (final presentation)
	Final essay	30%	Proper analysis of a literary work; written English expression

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法:

mcorrea@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Introduction to Contrastive Study of Japanese and English

授業の概要:

This course serves as an introduction to contrastive study of Japanese and English and provides a general overview of several issues concerning related areas. Students are expected to develop the following skills through the course: (1) to understand several important key terms and concepts of contrastive study of Japanese and English and (2) to improve an output of oral presentation focusing on the related topics based on their own interest.

到達目標:

Students are expected to (1) understand basic ideas on Contrastive Study of Japanese and English and (2) apply the contents of the class activities based on the group-oriented methods to their own presentation.

授業方法:

The course is divided into two parts: the lecture in English and Japanese) delivered by the instructor and the presentation (in English) given by a student (or students).

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to Linguistics and Contrastive Linguistics	Read a related section of the textbook.
	2. Some Properties of Language and Languages	Read a related section of the textbook.
	3. Topics of Phones 1 (Phonetics)	Read a related section of the textbook.
	4. Topics of Phones 2 (Phonology)	Read a related section of the textbook.
	5. Topics of Words 1 (Morphology)	Read a related section of the textbook.
	6. Topics of Words 2 (Word Formation)	Read a related section of the textbook.
	7. Topics of Meaning 1 (Semantics)	Read a related section of the textbook.
	8. Topics of Meaning 2 (Pragmatics)	Read a related section of the textbook.
	9. Topics of Language and Society 1 (Theories)	Read a related section of the textbook.
	10. Topics of Language and Society 2 (Applications)	Read a related section of the textbook.
	11. Topics of Language and Culture 1 (Theories)	Read a related section of the textbook.
	12. Topics of Language and Culture 2 (Applications)	Read a related section of the textbook.
	13. Topics of Nonverbal Communications 1 (Theories)	Read a related section of the textbook.
	14. Topics of Nonverbal Communications 2 (Applications)	Read a related section of the textbook.
	15. Summary	Read related sections of the textbook.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to fully prepare for and review the contents of the class activities based on the individual or group-oriented methods.

フィードバックの方法:

Feedback will be given at the beginning of each class to review important points and issues in the last class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class participation including attendance:	20	Students will be partly graded on attendance and class participation. Students absent from more than one-third of the classes will NOT be allowed to take the final examination.
	Oral presentation	30	Students will be partly graded on discussion, oral presentation, quizzes during the class.
	Final examination	50	Students will be partly graded on the final exam.

教科書:

山内信幸・北林利治共編『英語学へのアプローチ』英宝社

参考書:

References and other materials are to be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power, Presentation skill, Communication skill, Ability of self-realization

教員との連絡方法:

Contact by email: nyamauch@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	Traditional Japanese Arts		
授業の概要:	This an art history survey course on Traditional Japanese Arts with a focus the city of Kyoto. This is a reading and discussion course designed for students who enjoy expressing their opinions and improving their presentation and discussion skills		
到達目標:	The aim of this course is to examine a variety of traditional Japanese arts in order to: 1. consider the relevance of traditional Japanese arts to our modern lives 2. consider what we might learn about traditional arts to enrich our lives 3. consider to what extent they form some part of our cultural identity 4. imagine possibilities for re-imagining traditional arts in the present 5. learn how traditional Japanese arts are viewed from a foreign perspective The purpose is to give students the opportunity to form and express original ideas and reach conclusions in English.		
授業方法:	Students will be expected to conduct individual research on topics related to Japanese traditional arts, make a presentation and lead a discussion. Students will be required to prepare short written assignments in order to be ready for in-class discussion. Students will work together to compare and discuss the readings and answers for the study questions.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Course Introduction and Survey: Aesthetic terms Decorative Art of the Momoyama	Homework and individual research	
	2. Shoguns and Art: “Kyoto, City of Unification”	Homework and individual research	
	3. The Kano School of Painting	Homework and individual research	
	4. Hasegawa Tohaku	Homework and individual research	
	5. Sen no Rikyu: Wabi Sabi	Homework and individual research	
	6. The Art of Noh	Homework and individual research	
	7. A Kyôgen play	Homework and individual research	
	8. Mid-term presentations	Homework and individual research	
	9. Woodblock Printing: From Ukiyoe to Modern Beauty	Homework and individual research	
	10. Kabuki	Homework and individual research	
	11. Bunraku	Homework and individual research	
	12. Basho and the Art of Haiku	Homework and individual research	
	13. The Arts of the Geisha	Homework and individual research	
	14. Traditional Japanese Cuisine: Art of Sushi	Homework and individual research	
	15. Final presentations		
受講者へのメッセージやアドバイス:	Use a English English dictionary and be prepared to express ideas and opinions in English.		
フィードバックの方法:	Questionnaires.		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	20%	Students are required to attend two-thirds of all classes
	Participation	20%	Students are expected to participate in English.
	Homework	10%	Homework will be using paraphrasing and citations.
	Quizzes	10%	Quizzes will be based on readings and lectures.
	Midterm Presentation	15%	
	Final Presentation	25%	
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	jkuzel@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

Cultural and social background of Britain

授業の概要:

The aim of this course is to give students enough basic information and knowledge about Britain to start academic research on comparing the cultures of Japan, Britain and other English speaking countries.

到達目標:

Students will learn the cultural and social background of Britain along with its relationship with the Commonwealth countries, including Australia, New Zealand and Canada, while practicing the basic presentation and note-taking skills.

授業方法:

Each class consists of three parts:
(1) Quiz on the content learnt in the previous lecture of this course (10 min.);
(2) Presentation given by a group of 3 to 5 students, which reviews the previous week's lecture of this course (20 min.);
(3) Lecture (55-60 min.).

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction & Identity 1: 'The British Isles' & 'Very British'	
	2. Identity 2: 'Influences', 'Empire' & 'In English'	Review & Preparation with reading materials
	3. Institutions 1: 'Politics', 'The Monarchy', 'A world role' & 'Being British'	Review & Preparation with reading materials
	4. Institutions 2: 'The British year' & 'Many faiths'	Review & Preparation with reading materials
	5. Everyday: 'Coming to Britain', 'At home' & 'In the family'	Review & Preparation with reading materials
	6. Education: 'At school' & 'At college'	Review & Preparation with reading materials
	7. Working Life: 'Finding a job' & 'The economy', & Food	Review & Preparation with reading materials
	8. The Arts: 'Film and theatre', 'Music', 'The classics' & 'Modern life'	Review & Preparation with reading materials
	9. The Media: 'In the news' & 'On TV and radio'	Review & Preparation with reading materials
	10. Leisure: 'At the shop', 'Sport' & 'Free time'	Review & Preparation with reading materials
	11. Getting Around: 'In the street', 'Around town', 'On the road' & 'Trains'	Review & Preparation with reading materials
	12. Regions 1: 'In the country' & 'Environmental Issues'	Review & Preparation with reading materials
	13. Regions 2: 'London', 'The South' & 'The Midlands and the North'	Review & Preparation with reading materials
	14. Regions 3: 'Scotland', 'Wales' & 'Northern Ireland'	Review & Preparation with reading materials
	15. Assessment	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Taught in English all through the course.

フィードバックの方法:

Feedback on the weekly quiz and the presentation will be given in class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Final Report	50	Forty-five multiple-choice questions and another thirty questions to check the knowledge about British culture.
	Weekly Quizzes	20	Ten multiple-choice questions to review the content of lecture from previous week.
	Research & Presentation	20	Will be evaluated if the summary of previous week's lecture is appropriate enough and the research topic is clear enough.
	Attendance & Contribution to the class	10	Regular attendance will be required. More than five times of absence automatically means to fail this course.

教科書:

Handouts

参考書:

TBA

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

In the classroom or through email

授業テーマ:	Cultural and social backgrounds of the United States and Canada		
授業の概要:	This course seeks to introduce students to area studies as a core of international studies, focusing on the United States and Canada. The aim of the course is to provide a basic grasp of how the people lead a daily life and achieve a civil society in the two countries in North America. Covering a wide range of fields, the course will provoke students to think about contemporary issues relating to cultures and societies, and also will help them to take a first step toward academic approaches to such matters. Information will be given visually and aurally in English and explained in Japanese, so that students will be able to deepen understanding of events in North America by themselves.		
到達目標:	1) Students can acquire basic knowledge of people, society, and culture of the United States and Canada from the text in English. 2) Students understand the differences between the United States and Canada, and between these countries and Japan. 3) Students can explain what the social and cultural situations of the United States and Canada are like and how they were created.		
授業方法:	Lecture and In-class quizzes.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Introduction	Read the syllabus.	
	2. Basic facts of the United States	Write a book report.	
	3. Basic facts of Canada	Write a book report.	
	4. Ethnic and racial diversity in the United States	Read the text in advance.	
	5. Government and politics in the United States (1)	Read the text in advance.	
	6. Government and politics in the United States (2)	Read the text in advance.	
	7. Traditional American values and beliefs	Read the text in advance.	
	8. Cultural issues of the United States	Read the text in advance.	
	9. Multiculturalism and globalization of Canada	Read the text in advance.	
	10. Political institutions and public policy in Canada (1)	Read the text in advance.	
	11. Political institutions and public policy in Canada (2)	Read the text in advance.	
	12. Regionalism of Canada	Read the text in advance.	
	13. Cultural issues of Canada	Read the text in advance.	
	14. American society and Canadian society in a comparative perspective	Read the text in advance.	
	15. Overview	Overall review	
受講者へのメッセージやアドバイス:	Bring your attention to the contents, not English.		
フィードバックの方法:	On Manabie.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and participation	25%	Reflection papers.
	In-class quizzes	25%	Degree of knowledge acquisition and accurate reading of the text.
	Final examination	50%	Degree of knowledge acquisition and explanation capability.
教科書:	Handouts.		
参考書:	To be announced.		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	By email or in classroom.		

授業テーマ:

Historical Background of Britain and the Commonwealth

授業の概要:

This course is designed for the DIS students who will be studying in the following autumn in Britain or in either of the Commonwealth countries in Oceania: Australia or New Zealand to study about their historical background.

到達目標:

The aim of the course is to give knowledge on history of Britain and the Commonwealth well enough to start the academic research on comparative culture in the universities of those English speaking countries. Students will learn the historical background of Britain and the Commonwealth countries, practicing the presentation and discussion skills.

授業方法:

Each class consists of three parts:
(1) Quiz (10 min.)
(2) Presentation and discussion conducted by the students (15-20 min.)
(3) Lecture (55-60 min.).

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	
	2. Britons, Celts and Romans & Saxons, Danes and Normans	Preparation with reading materials
	3. Late-medieval struggles	Review & Preparation with reading materials
	4. Renaissance, reformation and revolution 1	Review & Preparation with reading materials
	5. Renaissance, reformation and revolution 2	Review & Preparation with reading materials
	6. Towards internal stability and external expansion	Review & Preparation with reading materials
	7. Political reforms, Industrial Revolution and imperial rule	Review & Preparation with reading materials
	8. Midterm examination	
	9. Britain and Ireland	Review & Preparation with reading materials
	10. History of Australia 1	Review & Preparation with reading materials
	11. History of Australia 2	Review & Preparation with reading materials
	12. History of New Zealand 1	Review & Preparation with reading materials
	13. History of New Zealand 2	Review & Preparation with reading materials
	14. Britain and the Commonwealth, and the course review	Review & Preparation with reading materials
	15. Assessment	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Taught in English all through the course.

フィードバックの方法:

Feedback on the weekly quiz and the presentation will be given in class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Final Report	30	Writing test to check the knowledge about Ireland, Oceania, and the Commonwealth of Nations.
	Midterm examination	30	Writing test to check the knowledge on British history.
	Weekly Quizzes	10	Ten questions to review the content of lecture from previous week and another ten to check the preparation.
	Research & Presentation	20	Will be evaluated if the research topic is clear enough and if the procedure of research is appropriate.
	Attendance & Contribution to the class	10	Regular attendance will be required. More than five times of absence automatically means to fail this course.

教科書:

Handouts

参考書:

TBA

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

In the classroom or through email

553300

Historical View of North America／北米史

鈴木 健司

授業テーマ:	Historical backgrounds of the United States and Canada		
授業の概要:	The purpose of this course is to examine fundamental topics in the history of the United States and Canada, for students who are supposed to study in those countries. Taking up North America altogether, the course will provide a larger picture of history, which would not be achieved by focusing on each country separately. Covering notable events, which affected the direction of the two countries, the course will help students foster historical perspectives and penetrating views to understand current affairs of North America.		
到達目標:	1) Students acquire basic knowledge of history of the United States and Canada. 2) Students understand the differences of nation building process between the United States and Canada. 3) Students can explain what the historical experiences of Americans and Canadians were like.		
授業方法:	Lecture and In-class quizzes.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Introduction	Read the syllabus.	
	2. North America as colonies	Read the text in advance.	
	3. Revolution and counterrevolution	Read the text in advance.	
	4. Making of American democracy	Read the text in advance.	
	5. The Civil War	Read the text in advance.	
	6. Confederation of Canada	Read the text in advance.	
	7. Frontier	Read the text in advance.	
	8. Immigration and Americanism	Read the text in advance.	
	9. Canada after Confederation	Read the text in advance.	
	10. Civil rights movement	Read the text in advance.	
	11. Creating a nation of Canada	Read the text in advance.	
	12. America since 1960s	Read the text in advance.	
	13. Principles of U.S. foreign policy	Read the text in advance.	
	14. North America after September 11	Read the text in advance.	
	15. Overview	Overall review	
受講者へのメッセージやアドバイス:	Be aware of the issues while reading.		
フィードバックの方法:	On Manabie.		
「成績評価方法」および「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and participation	25%	Reflection papers.
	In-class quizzes	25%	Degree of knowledge acquisition and accurate reading of the text.
	Final examination	50%	Degree of knowledge acquisition and explanation capability.
教科書:	Handouts.		
参考書:	To be announced.		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	By email or in classroom.		

授業テーマ:	キリスト教的世界観と現代世界の諸問題		
授業の概要:	長いキリスト教の歴史は、世界の諸宗教、諸思想、諸芸術、諸文化との出会いと葛藤を繰り返しながら、今日の状況を迎えている。キリスト教はそのイメージとは異なって、固有の体系としてよりも、それぞれの地域と時代の局面において多様に展開した宗教として理解すべきである。こうした問題意識を共有しながら、キリスト教の歴史と思想、また各地域における展開の独自性、世界観についても具体例を紹介しながら概観する。		
到達目標:	現代世界においてキリスト教が直面する諸問題について、宗教思想と倫理、政治社会、文化的側面から分析検討を行う。その際には、キリスト教思想の骨子をパウロの神学に求め、新約聖書におけるパウロの言説を分析し、かれの言説と対話しながら「授業内容」に記した目的を達成したい。		
授業方法:	各回の主題は講義とともに随時実施を予定している小グループでの討議によって深化される。受講者には主体的な関心と能動的な参加を期待している。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム(マナビー)を利用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 導入－課題の設定－	各人のキリスト教についてのイメージを整理しておくこと。	
	2. 世界の宗教－神理解の多様性－	配布の資料などを手がかりに、キリスト教以外の宗教についても簡単な説明ができるようにしておくこと。	
	3. 日本の宗教－カミと神－	日本の宗教的伝統について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと。	
	4. アジアの諸宗教－仏教、ヒンドウー、儒教－	配布の資料などを手がかりに、アジアにおける宗教についてヒンドウー教や仏教を中心に簡単な説明ができるようにしておくこと。	
	5. キリスト教の基本的性格－論理と歴史－	世界史におけるキリスト教の動向についての知識を整理しておくこと。	
	6. キリスト教の論理－パウロへの招き－	配布資料などを手がかりに、パウロの生涯について簡単に理解しておくこと。	
	7. 宗教的体験と思索－異文化のなかのパウロー	配布資料などを手がかりに、宗教を文化として観察するだけでなく、内在的な論理として機能し得ることについても理解をしておくこと。	
	8. 特殊と普遍－パウロの回心－	配布資料や聖書の該当箇所などを手がかりに、パウロの宗教体験とその影響についておよその理解を得ておくこと。	
	9. 初期キリスト教の概要－ヘレニズム世界の事情－	配布資料などを手がかりに、ヘレニズム世界の概要について理解を得ておくこと。	
	10. 思索と実践－ガラテヤ書の成立事情－	「ガラテヤ書」(新約聖書)を中心にパウロ書簡を通読しておくこと。	
	11. キリスト教の倫理－人間であること－	「ガラテヤ書」(新約聖書)を中心にパウロ書簡を通読しておくこと。	
	12. キリスト教の自己理解－セクト主義との葛藤－	「ガラテヤ書」(新約聖書)を中心にパウロ書簡を通読しておくこと。	
	13. キリスト教の人間理解－エゴイズムの超克－	「ガラテヤ書」(新約聖書)を中心にパウロ書簡を通読しておくこと。	
	14. 宗教間の葛藤と対話－新しい課題にむけて－	配布資料などを手がかりに、宗教観が形成される論理について、整理しておくこと。	
	15. まとめ	全回の授業内容について、総合的に復習しておくこと。	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	キリスト教のみならず、現代世界が内包する矛盾と課題についても理解を深めたいと考えている。世界各地におけるキリスト教とその他の宗教との関係についても論及するので、受講者には積極的な関心を期待したい。また、多岐の主題に触れることになるので、準備学習のみならず毎回の復習も大切にしたい。関連する文献など複数冊を講義終了時まで読了することを目的とすること。	
フィードバックの方法:	毎回のコメントシートに寄せられた感想と質問を中心に翌週の授業で共有し、応答する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50%	「授業の概要」および「到達目標」として設定されている事項についての理解度を中心に評価する。
	小グループでの討議など	15%	随時導入される小グループでの討議を中心に、クラスでの発言による貢献の度合いを評価する。
	授業への参加度	35%	毎回の出席とコメントシートへの積極的な記入によって評価する。
教科書:	多岐にわたる内容であるので、とくに教科書は指定しないが、参考文献はクラスにおいて指示する。		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、洞察力		
教員との連絡方法:	直接またはE-mail E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:Short stories and other texts from the English-speaking world

授業の概要:This course is an introduction to a variety of literary works written in English (mainly, but not exclusively, short texts by North American and British authors), as well as an exploration on the deep connection between literature and historical, social and political transformations.

到達目標:The main objective of this course is to explore some literary texts according to certain thematic guidelines such as race, gender and socio-political transformations. We will see how historical and social changes are reflected in this selection of short literary pieces. This course will NOT deal with the issue of "national literature" nor try to find "Americanness" or "Britishness" in the said works. Rather, it will provide students with the chance to have a wider, more critical understanding of literature, and acquire the historical and socio-cultural elements necessary to discuss about topics such as ethnicity, feminism and sexuality, post-colonialism, etc.

授業方法:Short lectures, group discussion, presentations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction and guidelines	Reading assignment and written response to the text
	2. Where does American Literature begin? (Iroquois literature)	Reading assignment and written response to the text
	3. Native American narrators today (Sherman Alexie)	Reading assignment and written response to the text
	4. Slave narrative in the 18th Century (Olaudah Equiano)	Reading assignment and written response to the text
	5. Slave narrative from a woman's perspective (Harriet Beecher Stowe)	-
	6. Film (12 Years a Slave)	Reading assignment and written response to film
	7. Afroamerican women and letters (Toni Morrison)	Reading assignment and written response to the text
	8. Women and Victorian literature (Virginia Woolf)	Reading assignment and written response to the text
	9. Family and literature through a woman's eyes (Alice Munro)	Reading assignment and written response to the text
	10. Other sexualities, other narratives (Oscar Wilde)	Reading assignment and written response to the text
	11. Mental illness and literature: A horror story (Edgar A. Poe)	Reading assignment and written response to the text
	12. Merry Christmas and an unhappy social tale (Charles Dickens)	Reading assignment and written response to the text
	13. Literature without borders (Sandra Cisneros)	Preparation of final presentation
	14. Final presentation	Preparation of final presentation
	15. Final presentation	-

受講者へのメッセージやアドバイス: Literature is one of the most powerful tools for self-expression, contestation and freethinking. It is a way or reconstructing history, of understanding the world, of gaining a deeper comprehension about oneself. This course is an invitation to let yourself be touched and moved by literature.

フィードバックの方法: Weekly feedback for written assignment on Manavi. Feedback on the results of group discussion to be given at the end of each class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and participation	20%	Attendance to class and active participation both in group discussion and in class discussion
	Weekly written response	25%	Comment about the reading assignment (on Manavi)
	Group work (discussion report)	25%	Report on group discussion; use of English for discussion
	Final presentation	30%	Capacity to read and analyze a literary text, using the tools learned throughout the semester

教科書:

参考書: Baym, N. (2013). The Norton anthology of American literature. New York and London: W. W. Norton & Co.
Byatt, A. S. (2009). The Oxford book of English short stories. New York: Oxford University Press.
Oates, J. C. (2013). The Oxford book of American short stories. New York: Oxford University Press.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、

教員との連絡方法: mcorrea@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Asian Culture: India to Japan

授業の概要:

This four-day intensive course will take students on a journey from India to Japan, via the Silk Road. We will explore Asian cultural heritages, highlighting continuities and interconnections by way of transmissions of concepts and forms. We will study selected Indian, Chinese and Japanese World Heritage Sites and Intangible Cultural Heritages, as well as certain Japanese National Treasures and Important Cultural Properties, situating specific case studies into the broader context of an Asian network of exchanges. Two field trips in the form of on-site classes will be woven into the course: one to Yakushiji in Nara, and another to Sanjūsangendō and the Kyoto National Museum.

到達目標:

The aim of this course is to familiarize students with Asian cultural heritages in the context of a vast network of exchanges of ideas and forms, so that they can recognize interconnections and continuities stretching from India to Japan.

授業方法:

This is a four-day intensive course. The language of instruction is English. Classes consist of lectures, in-class discussion, video clips and reading materials. Students are expected to write brief reflection papers. Quizzes will occasionally be held, and a final exam will take place on the last day of the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction: World Heritage and Intangible Cultural Heritage in Asia	Reading
	2. India: Introduction	Reading
	3. India: World Heritage Sites	
	4. India: Intangible Cultural Heritages	Reflection paper
	5. Silk Road: Xuanzang's Travels to India	Reading and questions
	6. Silk Road: Xuanzang's Travels to India	
	7. Nara Temples and the Silk Road Heritage: Yakushiji and Xuanzang	
	8. Nara Temples and the Silk Road Heritage: Yakushiji and Xuanzang	Reflection paper
	9. Japan: World Heritage Sites, National Treasures and Important Cultural Properties	
	10. Japan: World Heritage Sites, National Treasures and Important Cultural Properties	
	11. Sanjūsangendō: National Treasures and Important Cultural Properties	
	12. Kyoto National Museum: National Treasures and Important Cultural Properties	Reflection paper
	13. Rāma Story in Asia, from India to Japan: Literature, Performing Arts (Intangible World Heritage), Visual Arts (World Heritage), and Animation	Reading
	14. Rāma Story in Asia, from India to Japan: Literature, Performing Arts (Intangible World Heritage), Visual Arts (World Heritage), and Animation	
	15. Conclusion	Study for final examination

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are recommended to review the geography of Asia and to read general information about UNESCO World Heritage and Intangible Cultural Heritage before the course:
World Heritage Information Kit (2008)
http://whc.unesco.org/documents/publi_infokit_en.pdf

Intangible Cultural Heritage website
<http://www.unesco.org/culture/ich/index.php?lg=EN&pg=home>
<http://www.unesco.org/culture/ich/index.php?pg=00011>

フィードバックの方法:

Comments on reflection papers and contributions to discussions.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Quizzes and reflection papers	30%	Based on knowledge, thinking power and analytical ability.
	Contribution to discussion	30%	Based on knowledge, thinking power and analytical ability.
	Final exam	40%	Based on knowledge, thinking power and analytical ability.

教科書:

There is no textbook. Readings will be distributed in class.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking power, communication skill

教員との連絡方法:

Ask in the classroom before and/or during the class

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

This course introduces the basic concepts, theories, and issues in the field of International Relations, paying particular attention to the effects of globalisation on world politics.

This course has three main aims: 1. to review, develop, and broaden students' knowledge and understanding of international relations; 2. to engage and acquaint students with the role of Japan and themselves within world politics; 3. to give students the analytical and language skills needed to research, discuss, and interpret international relations in English.

Each class begins with an interactive lecture, where students in pairs, small groups, or as a class will be asked to discuss and respond to the material. After the lecture, group discussions and analysis of a case study in connection to the lecture topic will take place, followed by an individual written response. Method of instruction may vary depending on class atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Baylis, "Theories of World Politics").
2.	Quiz on previous class Theories of IR	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class ("Saddam Hussein, the UN, and the Iraq War").
3.	Quiz on previous class The Key Actors 1: States and IGOs	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Harari, "Terrorism: The Theatre of Fear").
4.	Quiz on previous class The Key Actors 2: Non-state organisations	Review of lecture notes for quiz and preparation for next class ("Globalisation" documentary).
5.	Quiz on previous class IR and Globalisation: Introduction	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Wilkinson, "Multinational Corporations").
6.	Quiz on previous class IR and Globalisation Issues 1: The Rise of TNCs	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Knowles, "Flip-Flops"). Presentation preparation.
7.	Quiz on previous class IR and Globalisation Issues 2: Global Production and Consumption	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Volger, "Environmental Issues: Introduction"). Presentation preparation.
8.	Quiz on previous class IR and Globalisation Issues 3: Environmental Issues	Review of lecture notes for quiz. Presentation preparation.
9.	Quiz on previous class Group presentations	Presentation preparation.
10.	Group presentations	Reading preparation for next class ("Darwin's Nightmare and Global Inequalities").
11.	IR and Globalisation Issues 4: Global Inequalities I	Review of lecture notes for quiz.
12.	Quiz on previous class IR and Globalisation Issues 5: Global Inequalities II	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Wright, "The Ethical Dilemma Facing Customers").
13.	Quiz on previous class IR and Globalisation Issues 6: Consumer Choices and Change	Review of lecture notes for quiz.
14.	Quiz on previous class IR and Globalisation Issues 7: Social Movements	
15.	Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

All quizzes and individual written responses are returned to students with a grade and comments in classroom. Essay outlines are checked and given back with individual comments and advice.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class participation and attitude	30%	Assessed via individual written response on understanding and engagement with lecture, reading and discussion. topics.
	Review quizzes	20%	
	Presentations	20%	Assessed on quality of research, slides, and presentation.
	Final paper	30%	Assessed on quality of research and essay content, written style, format and organisation.

教科書:

参考書:

John Baylis, Steve Smith, and Patricia Owens, The Globalisation of World Politics, Oxford University Press, 2011 (5th ed.)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力, 思いやる力, 変化対応力

Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class or during my office hour (Wednesday 3rd period).

授業テーマ:

Culture and Communication: From Theory to Practice

授業の概要:

We will be looking at how your interpretation and knowledge can lead to a misunderstanding between individuals from different cultures. We will also discuss foreign language education and Japanese language education from the perspective of intercultural communication. Students are expected to be well prepared to be active participants in the classroom

到達目標:

The aim of this course is to help students become more aware of the cultural factors that influence communication.

授業方法:

1. lecture
-class discussions, group works and student presentations in English and Japanese

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction	
2.	Introduction to Intercultural Communicadtion	Reading assignments Reflection paper
3.	Introduction to Intercultural Communication	Reading assignments Reflection paper
4.	Communication and Culture	Reading assignments Reflection paper
5.	Communication and Culture	Reading assignments Reflection
6.	Cultural Perception and Values	Readining assignments Reflection paper
7.	Language and Culture	Reading assignments Reflection paper
8.	Nonverbal communication and Culture	Reading assignments Reflection paper
9.	Nonverbal communication and Culture	Reading assignments Reflection paper
10.	Intercultural communication and Language Education	Reading assignments Reflection paper
11.	Intercultural communication and Language Education	Reading assignments Reflection paper
12.	Intercultural communication and Language Education:Group work #1	Preparation for the group project
13.	Intercultural communication and Language Education:Group work #2	Preparation for the group project
14.	Group presentation	written assignment
15.	Group presentation	written assignment

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

offer a comment

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance/Class Participation	20%	
	Weekly assignments	25%	reflection papers
	Presentation	25%	group project
	Writing work	30%	research paper

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

ytsujimotodwcla@gmail.com

授業テーマ:	Understanding the gendered society		
授業の概要:	This course will enable you to understand how society is divided by gender and that different cultures have similar patterns of imbalanced power relationships between men and women and between dominant and minority groups.		
到達目標:	1. To understand how male–female power relationships are constructed across different sectors in society 2. To gain knowledge about feminist perspectives and theories 3. To be able to interpret and analyze actual cases of gender issues based on feminist perspectives		
授業方法:	Lectures, presentations by students, and discussions will be combined.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. Orientation about the course 2. What do we know about “gender”? 3. Feminist theories: Liberal feminism 4. Feminist theories: Radical feminism 5. Feminist theories: Marxist feminism 6. Feminist theories: Postmodern feminism 7. Feminist theories: Black feminism 8. Feminist theories: Global feminism 9. Debate about gender issues 10. Gender issues around the world – presentation and discussion ① 11. Gender issues around the world – presentation and discussion ② 12. Gender issues around the world – presentation and discussion ③ 13. Gender issues around the world – presentation and discussion ④ 14. Gender issues in Japan – presentation and discussion ⑤ 15. Conclusions: The current state of women and action plan	準備学習等の内容	To read and understand handouts To read and understand handouts To read and understand handouts To read and understand handouts To read and understand handouts To read and understand handouts To read and understand handouts To read and understand handouts To prepare for the debate To gather information on gender issues/To prepare for the presentation To gather information on gender issues/To prepare for presentations To gather information on gender issues/To prepare for presentations To gather information on gender issues/To prepare for presentations To gather information on gender issues/To prepare for presentations
受講者へのメッセージやアドバイス:	Your active participation with diverse perspectives will be highly appreciated.		
フィードバックの方法:	Worksheets will be returned with comments.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 Class participation Worksheets Final paper	割合 40% 20% 40%	評価基準 Attendance, active participation in class, presentations Expression of own ideas on feminist issues Understanding of feminist theories and gender issues
教科書:	Handouts will be provided in class.		
参考書:	Kimmel, Michael (2011) The Gendered Society. Oxford, UK: Oxford University Press.		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	E-mail: emiyake@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

日英バイリンガル教育インターンシップ実習体験

授業の概要:

同志社国際学院(DIA)は、日英バイリンガル小学校である6年生の初等部とインターナショナルスクールであり12年制の国際部(DISK)の二つの学校から構成されている。本インターンシップの目的は、初等部で実践されている日英バイリンガル教育を実践している教員の補助を通して、児童の学習を観察しながら、バイリンガル教育方法と成果を学ぶことにある。同志社国際学院初等部は2011年4月に開講した同志社大学附属の小学校であり、文部科学省の学習指導要領と世界標準のカリキュラム(国際バカロレア資格)に基づいて、教育が行われている。現在初等部では、6年間を通して授業の約55%を英語で、約45%を日本語で行っている。また、初等部は並立するDISKと共に授業の一部、学校行事、放課後活動を共同で行っている。本インターンシップでは、学生は初等部におけるバイリンガル教育の実習補助を担当する。具体的には、指導教員の授業の準備補助、授業中の児童への個別指導(例、理解できない児童への補助指導)、担任の事務補助を担当する。また、DISKとの共同の授業、学校行事、放課後活動にも積極的に参加し、児童が交流しやすいように補助活動を行う。

到達目標:

(1)事前指導を通して、同志社国際学院の理念・教育を理解する。(2)インターンシップを通して、日英バイリンガル教育を体験し、教育現場の中で働く意味を理解できる。(3)インターンシップ体験を教師や他の学生に発表することを通して、自身の体験を振り返り、働く意味を考えることができる。

授業方法:

本実習は事前指導、実習、事後指導に分かれる。事前指導では、バイリンガル教育及び同志社国際学院について理解する。2月に10日間実習を予定している。事後指導は、報告会を通して、実習全体を振り返る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前指導:インターンシップの心構え及び本インターンシップの紹介	インターンシップの目的を理解し、同志社国際学院について事前に調べておく。どのようなインターンシップにしたいか事前に考えておく。
2.	事前指導:International school及びImmersion educationの特徴、探求の単元(Unit of Inquiry)	International school、Immersion educationの特徴及び探求の単元について調べ、A4用紙1枚にまとめる。教科書の決められた所を読み、自分の意見を整理しておく。
3.	事前指導:学習指導要領と小学校教育	学習指導要領及び小学校教育の特徴について事前に調べ、A4用紙1枚にまとめる。教科書の決められた所を読み、自分の意見を整理しておく。
4.	事前指導:小学校における英語教育	小学校における英語教育について調べ、A4用紙1枚にまとめる。教科書の決められた所を読み、自分の意見を整理しておく。
5.	事前指導:小学校における教科指導と特別活動	小学校における教科指導及び特別活動の特徴について調べ、A4用紙1枚にまとめる。教科書の決められた所を読み、自分の意見を整理しておく。
6.	事前指導:小学生の心理	小学生の心理について調べ、A4用紙1枚にまとめる。教科書の決められた所を読み、自分の意見を整理しておく。
7.	事前指導:同志社国際学院における一日及び教員としての心構え(同志社国際学院訪問)	同志社国際学院訪問に際して、インターンシップに臨む心構え等を準備しておく。
8.	バイリンガル教育インターンシップ実習 1	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
9.	バイリンガル教育インターンシップ実習 2	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
10.	バイリンガル教育インターンシップ実習 3	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
11.	バイリンガル教育インターンシップ実習 4	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
12.	バイリンガル教育インターンシップ実習 5	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
13.	バイリンガル教育インターンシップ実習 6	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
14.	バイリンガル教育インターンシップ実習 7	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
15.	事後指導:報告会	実習してきた内容を担当者及び国際教養学科の1年次生に報告する資料の準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

バイリンガル教育インターンシップ実習は、バイリンガル教育を体験し、小学校教育のあり方を同志社国際学院の教育担当者の立場から見つめることができる。実習に行ける人数は限られるが、積極的な応募に期待する。

フィードバックの方法:

事前指導に関しては、毎回事前に調査してきたことに関して授業の中でフィードバックする。また、A4用紙にまとめたものは、コメントして、次週に返却する。実習中は、実習中の訪問や実習簿を通してフィードバックする。事後指導については、報告会での発表後、発表に関してコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	事前指導	20	事前指導における毎回の課題の達成度及び授業中の発言の内容により評価する。
	インターンシップ実習	60	実習中の態度及び実習内容に関して、担当者が実習中の訪問を通して実習中の取り組み具合や実習簿の完成度により評価する。
	事後指導	20	実習に関する発表内容についてその達成度、到達目標(3)を踏まえた上で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

E-mail

授業テーマ：国際化社会を生き抜くための適切な表現方法を身につける。

授業の概要：グローバル化が進展するこれからの社会で生きていくためには、単に英語が使えるというだけでなく、率直かつ明確に自分の主張を相手に伝える力が不可欠である。明確さを重要視する言語習慣を培ってきた英語圏へ赴き、異なる文化を有する人々と接していく際には、これが基本的かつ最も重要な技術となる。
この授業では、留学や卒業論文作成の準備段階として、日本語と英語という二つの言語について、率直で明確な表現方法を身につけるための知識の習得と演習を行う。なかでもこれら両言語で事実や情報を正確に伝える方法や自分の意見や意図を論理的かつ研究倫理におけるグローバル・スタンダードに則った方法で正しく他人に伝える方法に力点を置く。

到達目標：(1) 日本語と英語の書き言葉におけるわかりやすい文、段落、説明、要約について必須事項を習得する。
(2) 日本語と英語で事実や情報を正確に伝える方法や自分の意見を論理的に他人に伝える方法を習得する。
(3) 充実した留学にするために会得しておくべき知識とスキルについて幅広く学ぶ。

授業方法：この授業では、留学や卒業論文作成の準備段階として大きく分けて3つの事柄を扱う。
まず、日本語と英語の書き言葉における表現技術を身につけることである。母語で正確に文章が書けなければ外国語でこれを行うことは出来ない。そこで、日本語におけるわかりやすい文、段落、説明、要約について必須事項を体得する。同様に、英語におけるparagraphの構成についても実践を行いながら身につけていく。
次に、口頭発表やディスカッションの技能を修得するために、日本語と英語両方の言語で、自分の意見を筋道を立てて他人に伝える技術を身につける。これに慣れなければ、留学先大学でのseminarやtutorialといった少人数クラスで発言することは困難である。論旨を組み立ててわかりやすく事実を伝え、論理的に考え、他者の意見に耳を傾け、これに応答するという力を日英両言語について培う。
最後に、留学のとりわけアカデミックな側面に関する事前学習である。留学を成功させるためには何を準備すればよいのか、その心構えから効率的な学習の在り方、レポート作成法など、充実した留学にするために会得しておくべき知識とスキルについて幅広く学ぶ。
教科書と配付資料に沿って講義を行い、時間内外の練習と課題を通じて、基礎的なスタディ・スキルとコミュニケーション・スキルを養う。各回の授業で出される課題(日本語、英語による記述式)を翌週に提出する。授業は各回のテーマや内容によって日本語と英語を適宜使い分ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
2.	スケジュール管理とタイム・マネージメント	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
3.	図書館オリエンテーション	
4.	英語による書類の表記方法(住所・氏名等の英語表記)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
5.	日英両言語の文章によるコミュニケーションの作法	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
6.	日英両言語で講義のポイントを掴む(Note Taking)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
7.	プレゼンテーションの基礎	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
8.	英語によるプレゼンテーションの実践(1)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
9.	英語によるプレゼンテーションの実践(2)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
10.	英語によるプレゼンテーションの実践(3)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
11.	論理構成法の基礎(1)(Logical Thinking)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
12.	論理構成法の基礎(2)(Paragraph Writing)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
13.	論理構成法の基礎(3)(Essay Writing)	授業で学んだ知識を習得した上で、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
14.	留学先選択と研究分野の選定	留学先についてあらかじめ情報収集し各々の希望留学先について検討する。
15.	まとめ	授業で学んだ内容を総復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：毎回の授業で提出される課題作文等は、添削して原則教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	40	到達目標(1),(2),(3)に関する理解度により評価する。担当教員全員が、全クラス同一基準で総合的に評価する。
	出席・受講態度	40	積極的に授業に参加し、到達目標(1),(2),(3)ができるようになったかを評価する。5回を超えて欠席した場合は単位を与えない。
	毎回の提出物(宿題)	20	到達目標(1),(2),(3)に関する理解度とどの程度独自の視点を論理的かつ説得力をもって表明できるかを基準とする。

教科書：大井恭子、上村妙子、佐野キム・マリー『ライティング・パワー』研究社資料を配布する。

参考書：授業中に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

授業テーマ：国際化社会を生き抜くための適切な表現方法を身につける。

授業の概要：グローバル化が進展するこれからの社会で生きていくためには、単に英語が使えるというだけでなく、率直かつ明確に自分の主張を相手に伝える力が不可欠である。明確さを重要視する言語習慣を培ってきた英語圏へ赴き、異なる文化を有する人々と接していく際には、これが基本的かつ最も重要な技術となる。
この授業では、留学や卒業論文作成の準備段階として、日本語と英語という二つの言語について、率直で明確な表現方法を身につけるための知識の習得と演習を行う。なかでもこれら両言語で事実や情報を正確に伝える方法や自分の意見や意図を論理的かつ研究倫理におけるグローバル・スタンダードに則った方法で正しく他人に伝える方法に力点を置く。

到達目標：(1) 日本語と英語の書き言葉におけるわかりやすい文、段落、説明、要約について必須事項を習得する。
(2) 日本語と英語で事実や情報を正確に伝える方法や自分の意見を論理的に他人に伝える方法を習得する。
(3) 充実した留学にするために会得しておくべき知識とスキルについて幅広く学ぶ。

授業方法：この授業では、留学や卒業論文作成の準備段階として大きく分けて3つの事柄を扱う。
まず、日本語と英語の書き言葉における表現技術を身につけることである。母語で正確に文章が書けなければ外国語でこれを行うことは出来ない。そこで、日本語におけるわかりやすい文、段落、説明、要約について必須事項を体得する。同様に、英語におけるparagraphの構成についても実践を行いながら身につけていく。
次に、口頭発表やディスカッションの技能を修得するために、日本語と英語両方の言語で、自分の意見を筋道を立てて他人に伝える技術を身につける。これに慣れなければ、留学先大学でのseminarやtutorialといった少人数クラスで発言することは困難である。論旨を組み立ててわかりやすく事実を伝え、論理的に考え、他者の意見に耳を傾け、これに応答するという力を日英両言語について培う。
最後に、留学のとりわけアカデミックな側面に関する事前学習である。留学を成功させるためには何を準備すればよいのか、その心構えから効率的な学習の在り方、レポート作成法など、充実した留学にするために会得しておくべき知識とスキルについて幅広く学ぶ。
教科書と配付資料に沿って講義を行い、時間内外の練習と課題を通じて、基礎的なスタディ・スキルとコミュニケーション・スキルを養う。各回の授業で出される課題(日本語、英語による記述式)を翌週に提出する。授業は各回のテーマや内容によって日本語と英語を適宜使い分ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
2.	事実文と意見文の分析 (Fact vs. Opinion)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
3.	絵・詩・テキストの分析 (Critical Reading)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
4.	文章の論理構成 (1)(Comparison and Contrast)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
5.	文章の論理構成 (2)(Cause and Effect)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
6.	文章の論理構成 (3)(Argumentation)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
7.	中間試験	授業で学んだ内容を総復習する。
8.	討論の技法 (Discussion Skills) (1)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
9.	討論の技法 (Discussion Skills) (2)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
10.	レポートの書き方 (Thesis Statement) (1)	授業で学んだ知識を習得した上で、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
11.	レポートの書き方 (Thesis Statement) (2)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
12.	レポートの書き方 (Thesis Statement) (3)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
13.	英語での志望理由書の書き方 (Statement of Purpose)	授業で学んだ知識を習得した上で、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
14.	留学先選択と研究分野の選定	留学先についてあらかじめ情報収集し各々の希望留学先について検討する。
15.	まとめ	授業で学んだ内容を総復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：毎回の授業で提出される課題作文等は、添削して原則教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験(中間+期末)	40	到達目標(1),(2),(3)に関する理解度により評価する。担当教員全員が、全クラス同一基準で総合的に評価する。
	出席・受講態度	40	積極的に授業に参加し、到達目標(1),(2),(3)ができるようになったかを評価する。5回を超えて欠席した場合は単位を与えない。
	毎回の提出物(宿題)	20	の視点を論理的かつ説得力をもって表明できるかを基準とする。

教科書：大井恭子、上村妙子、佐野キム・マリー『ライティング・パワー』研究社資料を配布する。

参考書：授業中に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

授業テーマ:	研究方法の基礎を学び、留学中の個人研究テーマの大枠を決定する。		
授業の概要:	研究方法の基礎を学び、留学中の研究のテーマ大枠を決定する。 この授業は、一年次の「Seminar in International Studies I・II／国際教養演習I・II」の基礎の上に築かれるものであり、その成果は、留学中の「Tutorial I・II／実地研究指導I・II」および帰国後の「Senior Seminar I・II／卒業研究I・II・III」に活かされる。		
到達目標:	(1) 留学中の研究テーマを選定するために必要となる研究方法の基礎について学ぶ。 (2) 留学中の研究テーマについて、その大枠を決定する。		
授業方法:	オリエンテーション、研究の基礎、ディスカッションの方法、研究方法の概説については基本的に講義形式で行い、各担当者から指定されたテキストを読み、課題について考え、グループワークやディスカッションなどと組み合わせて授業を構成する。授業中は他者の意見に耳を傾け、わからないことは質問し、また自らの意見を述べる積極的な態度が期待される。 4回から8回の授業では、各回に出題される課題についてミニレポートを書く。 学期末までに、各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを定め、研究計画をポスターセッションで発表できるように準備する。研究テーマの設定に関しては、特に3,10,11,12,15回の授業において、ディスカッションやアドバイザー教員の指導を受けながら段階的に具体化し決定していく。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. アカデミック・リサーチの基礎 2. 図書館ガイダンス 3. 研究テーマ選定に関する指導 (1) 4. アカデミック・リサーチの実践 (1) 5. アカデミック・リサーチの実践 (2) 6. アカデミック・リサーチの実践 (3) 7. アカデミック・リサーチの実践 (4) 8. アカデミック・リサーチの実践 (5) 9. ポスター・セッション・ガイダンス 10. 研究テーマ選定に関する指導 (2) 11. 研究テーマ選定に関する指導 (3) 12. 研究テーマ選定に関する指導 (4) 13. ポスター・セッション (1) 14. ポスター・セッション (2) 15. 研究テーマ選定に関する指導 (5)	各自の関心に基づいて留学中の研究テーマについて関心と可能性を探る。 各自の関心に基づいて留学中の研究テーマについて関心と可能性を探る。 各自の関心に基づいて留学中の研究テーマについて関心と可能性を探る。 (1) 配付資料等を読み、グループワークやディスカッションに備える。 (2) 課題のミニレポートを書く。 (3) 各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを検討する。 (1) 配付資料等を読み、グループワークやディスカッションに備える。 (2) 課題のミニレポートを書く。 (3) 各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを検討する。 (1) 配付資料等を読み、グループワークやディスカッションに備える。 (2) 課題のミニレポートを書く。 (3) 各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを検討する。 (1) 配付資料等を読み、グループワークやディスカッションに備える。 (2) 課題のミニレポートを書く。 (3) 各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを検討する。 (1) 配布資料等を読み、グループワークやディスカッションに備える。 (2) 課題のミニレポートを書く。 (3) 各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを検討する。 各自の関心に基づいて留学中の研究テーマを定め、研究計画をポスターセッションで発表できるように準備する。 各自の関心に基づいて留学中の研究テーマを定め、研究計画をポスターセッションで発表できるように準備する。 各自の関心に基づいて留学中の研究テーマを定め、研究計画をポスターセッションで発表できるように準備する。 各自の関心に基づいて留学中の研究テーマを定め、研究計画をポスターセッションで発表できるように準備する。 ポスター・セッションの発表資料を作成する。 ポスター・セッションの発表資料を作成する。 ポスター・セッションで得たフィードバックをもとに各自の留学中の研究テーマについて研究計画書を作成する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	グループワークやディスカッションなどを通して意見交換しながら、各自の研究テーマを選定していく。授業中は他者の意見に耳を傾け、わからないことは質問し、また自らの意見を述べる積極的な態度が求められる。		
フィードバックの方法:	ミニレポートは各教員が添削して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席と受講態度	40	積極的に授業に参加し、到達目標の(1)の理解度と、ディスカッションやグループワークの際に、到達目標(2)を踏まえた発言をしているかを評価する。5回を超えて欠席した場合は単位を与えない。
	提出物(ミニレポート)	30	到達目標(1)の理解度と到達目標(2)を踏まえた論理的思考ができているかを基準とする。
	ポスター発表および最終レポート	30	到達目標(1)の理解度と到達目標(2)を踏まえた論理的思考ができているかを基準とする。
教科書:	配布資料		
参考書:	授業中に適宜指示する。		

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力
教員との連絡 方法:	オフィスアワー、授業の前後に教室内で対応、Eメール

授業テーマ:

比較文化研究

授業の概要:

国家に帰属するとは何を意味するのか。1, 2年次における習得内容と国際教養留学を通して得られた知識を踏まえ、イギリスをひとつの事例として、国家、国民性、ひいては国に帰属する人々のアイデンティティについて様々な角度から検討を行う。

到達目標:

資料収集の仕方やアカデミックな文章の組み立て方などを練習しながら、4年次の卒業研究II/IIIに必要な土台作りを行う。

授業方法:

各週2名が発表を担当し、教科書の内容の要約とこれを踏まえた問題提起を行った後、各々の意見を交えながら討議を行う。当然、全員が毎週20頁ほどの英文を読んで授業に臨むことが前提となる。基本的な部分は日本語で講義を行うが、適宜、英語による討議を交えて授業を運営する。
また、並行して個別研究の進捗状況についても随時報告してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション	
	2. The Land of Lost Content	教科書該当箇所を熟読
	3. Funny Foreigners	教科書該当箇所を熟読
	4. The English Empire	教科書該当箇所を熟読
	5. 個別研究発表(1)	各自報告準備
	6. 'True Born Englishmen' and Other Lies / We Happy Few	教科書該当箇所を熟読
	7. The Parish of the Senses	教科書該当箇所を熟読
	8. Home Alone	教科書該当箇所を熟読
	9. There Always Was an England	教科書該当箇所を熟読
	10. The Ideal Englishman	教科書該当箇所を熟読
	11. Meet the Wife	教科書該当箇所を熟読
	12. Old Country, New Clothes	教科書該当箇所を熟読
	13. 個別研究発表(2)	各自報告準備
	14. 個別研究発表(3)	各自報告準備
	15. 総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

登録者数によっては、授業方法に若干の変更があり得る。

フィードバックの方法:

・教科書を扱う回については、各週に扱われる章を熟読の上、討議に積極的に参加し得る態勢で授業に臨むこと。また、毎週授業終了後には、当日中にその日の討議に関するコメントや補足の意見などを電子メールで担当教員に提出すること。これによって知識の定着と柔軟な思考力を培う。
・個別研究発表については、所定の項目について資料を作成し、これをもとに卒業研究の構想および進捗状況に関する報告を行うこと。

「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	30	立論の明確さと、適切な資料を用いた論証の合理性
	プレゼンテーション	20	与えられたテーマのなかで適切に焦点が絞られ問題提起と検討が為されているか否か
	司会および討議への参加度	30	積極的な聴き方と建設的意見の提示
	出席	20	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。

教科書:

Jeremy Paxman, The English: A Portrait of A People, Penguin Books, 1999.

参考書:

TBA

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

The role of language in journalism, psychology, media, women’s studies, and culture

授業の概要:

This seminar course deals with various topics such as the English language, journalism, psychology, media, women's studies, movie, language acquisition, and study abroad. Each class has different topics, but the whole seminar course has a shared theme. It is the role of language in our life. In other words, the course introduces various topics related to language. Such a study is called applied linguistics (応用言語学), in particular this course focuses on discourse analysis (談話分析), which will be explained in class. In this course, students think, analyze, discuss the role of language in our society. It is very important for students to prepare for tasks given before class.

到達目標:

(1) To have interest in topics in this course, (2) To make sufficient preparation for a task given before class and discuss the task actively in class, (3) To present a mini-project in class and participate discussion about the project positively in class, (4) To write a good report about the mini-project.

授業方法:

It is important for students to prepare sufficiently for tasks every class. The task for the next week is given a week before. An instructor explains how to do it. Students need to prepare for it. Based on the preparation, presentations and discussions are conducted throughout the class. In this seminar class, both English and Japanese are used.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction, self-introduction, attitude toward seminar class, and how to enjoy seminar class are given.	To read the syllabus of this course, and understand the content of and attitude toward the course.
2.	The Future of the English Language/未来における英語という言葉はどうなるのか? British English, American English からWorld Englishesへ	To read a paper named “the future of English” before class and prepare for discussion in class.
3.	Journalism and Language 1: 日本語と英語の新聞の言語はどのように使われているのだろうか?	To read Japanese and English newspapers and examine how language is used in the newspaper.
4.	Journalism and Language 2: 信頼されている雑誌では広告、言語、写真はどのように使われているのだろうか?	To examine how a quarterly magazine is constructed for readers.
5.	Media and Language 1: 戦争報道の過去と現在: 戦争はどのように報道されてきたのであろうか?	To examine how wars are reported in media (newspaper, magazine, TV, movie, and web page).
6.	Language in the Advertisement: 日本で使用される広告と海外で使われる広告の共通点と相違点とは何か?	To choose a favorite advertisement in media and examine how pictures and words are used for readers.
7.	Language in Movie: Photograph, language, and background music in the movie. 映画の中で映像、台詞、音楽はどのような働きをしているのか?	To choose a favorite movie and examine how photograph, language, and background music are constructed.
8.	Cultural Psychology (文化心理学): 「ボスだけを見る欧米人みんなの顔までみる日本人」という考え方は正しいか?	To read an article on cultural psychology and prepare for discussion in class.
9.	Women, Marriage, Higher-education, and Discrimination: 「キルギスにおける誘拐結婚」「カンボジアにおけるHIV」について考える。	To read an article and photographs created by a woman photojournalist and prepare for discussion in class.
10.	Study abroad, self-efficacy, self-development, and English proficiency: 留学によって英語力、独立心、自己効力感が高まるのか?	To read a paper on study abroad, English proficiency, and motivation and prepare for discussion in class.
11.	Second Language Acquisition, Foreign/Second Language Teaching, Language Policy in Japan: 21世紀の日本の英語教育はどうあるべきか?	To examine the Course of Study made by MEXT (文科省), reflect on students' learning English in secondary school, and consider a better way for second language learning in Japan.
12.	Library orientation/図書館オリエンテーション: 良いレポートや卒論を書くためには、どのように図書館を利用したらよいのか?	To reflect on students' use of library and know how to search materials in library for a report and graduation thesis before class.
13.	Mini Project Work 1, Presentation of research questions and literature review: 今まで学んだことを振り返り、研究課題、先行研究を調べて発表する。	To create students' own research questions and write literature review.
14.	Mini Project Work 2, Presentation of research questions, literature review, and method: 再度研究課題と先行研究を見直し、研究方法を考える。	To review research questions and literature review, and to write method of research.
15.	Mini Project Work 3, Presentation of research questions, literature review, method, and results, discussion, and conclusion: 研究課題、先行研究、研究方法を見直し、結果・考察・結論を出す。	To review research questions, literature review, and method, and to write results, discussion, and conclusion.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Let’s enjoy considering the roles of English and Japanese in journalism, psychology, media, women’s studies, and culture.

フィードバックの方法:

Students’ homework sheets need to be submitted and commented by not only an instructor but also students in the seminar class. Also, a report on mini project is commented and given by the instructor.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Participation in class	10	Based on the course objective (1), students’ levels of participation are evaluated in every class.
	Preparation for tasks and discussion in class	40	Based on the course objective (2), students’ levels of preparation are checked and evaluated in every class.
	Mini project	20	Based on the course objective (3), students’ contribution to discussion about mini project is evaluated.
	Final report	30	Based on the course objective (4), students’ final reports are evaluated from the viewpoints of logical thinking, originality, analytic ability, and use of English.

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:
E-mail, マナビー

授業テーマ:	Speech Communication: Exploring Ethnographic Performance		
授業の概要:	This is a project-based performance course. In oral interpretation, speakers read from a pre-selected passage, interpreting it through the use of body and voice techniques. A special focus is placed upon the actual words and significance of the text, as well as the character development throughout the selection. This course provides students with the basic principles and performance techniques of oral interpretation as a foundation for the senior-year project of ethnographic performance for social change. Throughout the coursework, students will improve oral performance skills, including breathing, voice quality, pronunciation, eye-contact, posing, and other vocalic manipulations, such as pacing, volume, and intonation. Emphasis is placed on analysis, exercise, rehearsal, and oral performance of poetry, prose, children's literature, and dramatic scenes from plays and musicals.		
到達目標:	Upon successful completion of this course, students will be able to: (1) develop understanding and appreciation of the intellectual, emotional, and aesthetic content of written texts, (2) develop skills in vocal variation and body language necessary for effective performance, and learn how to critically listen, analyze, and respond to performances, (3) determine a theme for graduation thesis (in the senior year), (4) participate in one theatrical performance/presentation on stage (either in-college or intercollegiate festival such as Oral Communication Festival 2017 in Tokyo in December) as a team with one performance. The purpose is to allow students to enjoy using and testing the skills they have developed in class within the ultimate crucible of learning, "the real world" as a global citizen.		
授業方法:	Each class will consist of short lectures, guided hands-on workshop of performance techniques and pronunciation, thorough group discussion, preparation, rehearsals, portfolio, and oral performances, followed by a written report on the performance analyses. After a short lecture that will introduce basic principles and key concepts of new theories, students are welcomed to ask questions, respond to the queries, and discuss their viewpoints. Because much can be learned from the performances of others, students will be required to observe and make oral/written comments on all performances. The lecture will be delivered mainly in Japanese, and partially in English depending on a topic. Students may choose to use either English or Japanese in their class work. As requested by students, one overnight-stay session (off campus) may be scheduled for more discussion and presentation rehearsals.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Project overview and introduction Building a learning community	Reading of a syllabus	
	2. Principles of ethnographic performance and oral interpretation	Reading of related materials, and preparation for discussion	
	3. Principles of ethnographic performance and oral interpretation	Reading of related materials, and preparation for discussion	
	4. Determining the theme of the project	Reading of related materials, and preparation for discussion	
	5. Creating the script (in English) compiling research results	Reading of related materials, and preparation for discussion	
	6. Creating the script (in English) compiling research results	Reading of related materials, and preparation for discussion	
	7. Rehearsing and experimenting staging possibilities	Reading of related materials, and preparation for rehearsals	
	8. Rehearsing and experimenting staging possibilities	Reading of related materials, and preparation for rehearsals	
	9. Rehearsing and experimenting staging possibilities	Reading of related materials, and preparation for rehearsals	
	10. Rehearsing and experimenting staging possibilities	Reading of related materials, and preparation for rehearsals	
	11. Give a public performance and generate a discussion among the audience	Reading of related materials, and preparation for discussion and rehearsals	
	12. Attending Inter-college Oral Communication Festival/Competition	Reading of related materials, and preparation for discussion and rehearsals	
	13. Critique and review discussion	Reading of related materials, and preparation for discussion	
	14. Brainstorming for a theme for Graduation Thesis	Drafting a theme and topic for graduation thesis and preparation for discussion	
	15. Final review and consolidation	Drafting a theme and topic for graduation thesis and preparation for discussion	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	Each student is necessary for this course to "work". The instructor will try to encourage students to participate in every way she can, but it is up to the students themselves to make this course either come alive or wither away. NOTE: Tentative plan in 授業目標, one of the most exciting and unique challenges of Senior Seminar I, II, and III is that students are required to participate in one intercollegiate or academic conference. The purpose is to allow students to enjoy using and testing the knowledge and skills they have developed in class within the project-based activity. It is a lot of fun, and students will learn so much more from really participating and observing others and reviewing judges' comments than they could ever learn just from readings and discussion.	
フィードバックの方法:	Students receive formative feedback for each oral presentation and project preparation in class and summative evaluation through a draft of graduation thesis.		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and participation	30	Students are expected to attend and participate actively by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1),(2),(3) and (4).Rehearsal logs are not graded, but thoroughness will be acknowledged and rewarded.
	project performances, preparation, written analyses, peer observation/evaluation	40	Students are expected to prepare for a project performance and all other in-class activities, in order to achieve the course objectives(1),(2) and (4).
	final written paper	30	Students are expected to prepare for a project performance and all other in-class activities, in order to achieve the course objectives(3).
教科書:	Handouts		

参考書: To be announced in class

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、批判的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法: Contact me by email, or see me before or after class or during my office hour.

授業テーマ:	北米地域研究		
授業の概要:	地域研究のさまざまな手法を通して、外国の文化や社会に関わる諸問題について研究する方法を学び、4年次で卒業論文を執筆するための準備とする。アメリカ合衆国及びカナダの現状や歴史に関する事象を取り上げて、資料を読み解き議論することによって、知見を深めていく。受講者各自が英語圏諸国に関わる事柄を主題として、研究テーマと研究方法を定めるところまでを、当面の到達目標とする。 学術的研究のために必要な基礎的概念や思考方法に習熟することが科目の目的であるから、留学環境の疑似再現や語学訓練のために敢えて英語を使用する、ということとはしない。なお、受講者は、アメリカ、カナダに留学した者や留学時の研究テーマとしてアメリカ・カナダ研究を掲げた者に限定しない。		
到達目標:	1) 個人研究及び授業内の議論の前提として、アメリカ合衆国とカナダの社会と文化に関する論点の所在について、基本的な事柄を理解する。 2) 個人研究のテーマを設定し、先行研究をふまえてテーマに関する基本的事項を整理したうえで、自らの研究課題を具体的に限定し、調査方法を明確化する。		
授業方法:	受講者の発表とそれに基づく討議、およびグループワークを中心に授業を進める。扱う内容によって、講義、文献の講読、映像資料の視聴等を適宜、交える。個人研究については、段階を踏んで完成に導けるよう、個別に指導を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	ゼミ選考時の研究計画を見直し、関連する学問分野について学んでおく	
	2. 研究テーマの設定と資料の活用に関する演習 (1)	研究計画書の作成 (研究テーマを明確化する)	
	3. 研究テーマの設定と資料の活用に関する演習 (1)	研究計画書の作成 (研究資料について調べる)	
	4. 論文執筆のための図書館ガイダンス	研究計画書の作成 (先行研究を読む)	
	5. 分担テーマに基づく発表 (1)	研究計画書の作成 (先行研究を読む)	
	6. 分担テーマに基づく発表 (2)	研究計画書の作成 (先行研究を読む)	
	7. 分担テーマに基づく発表 (3)	研究計画書の作成 (先行研究を読む)	
	8. 分担テーマに基づく発表 (4)	研究計画書の作成 (研究方法を具体化する)	
	9. 論文執筆に関する演習 (1)	研究計画書の作成 (論文構成を具体化する)	
	10. 個人研究中間報告 (1)	発表の準備 (研究テーマに関する基本的事実を整理する)	
	11. 個人研究中間報告 (2)	発表の準備 (研究テーマに関する基本的事実を整理する)	
	12. 個人研究中間報告 (3)	発表の準備 (研究テーマに関する基本的事実を整理する)	
	13. 個人研究中間報告 (4)	発表の準備 (研究テーマに関する基本的事実を整理する)	
	14. 論文執筆に関する演習 (2)	研究計画の概要を再確認する	
	15. 総括	研究計画の概要を文章化する	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	研究計画書及び論文の途中原稿の提出を課し、そのチェックと添削及び面談によって個別に指導する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席および授業への積極的な参加姿勢	40%	発表後の討論における発言など、クラスや他の受講者の学習に対する積極的な貢献の程度
	発表	30%	内容の適切性、構成の論理性、論点の明確性、及びプレゼンテーション技術
	学期末レポート	30%	個人研究について、問題の所在と研究方法が明確に示され、研究テーマに関する基本的事実が自身の問題意識との関わりで適切に整理されていること 授業回数の2/3以上出席すること、及び指示する要領に従って発表を行いレポートを提出することを、単位取得の必要条件とする。
教科書:	使用しない。授業に必要な資料は、適宜、配付する。		
参考書:	授業の際に、適宜、紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	Eメール。授業後に教室内で対応。		

授業テーマ:

Cross-cultural representations of Japan and the West

授業の概要:

This course focuses on the history and analysis of Japan-West visual representations from 1850s to the present-day.

到達目標:

This course has five main aims: 1. to develop students' understanding of, and ability to discuss, cross-cultural representations of Japan-West within their political, social, and cultural contexts; 2. to further help students become engaged, active, and critical readers of visual and other texts; 3. to review and develop students understanding of key concepts within cultural and literary studies; 4. to give students the support and guidance needed to do their graduation research; 5. to continue developing students' skills of discussion, debate, presentation, critical thinking, academic writing and opinion exchange in English.

授業方法:

This course is taught using a mix of interactive lectures, small group and class discussions, and student presentations on research. Every week, students are expected to read about the theme in preparation for the next class. In addition, throughout the semester, students will read around their own research topic and write research reports (annotated bibliographies) about what they have read for submission. Method of instruction may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	Presentation preparation.
	2. Presentation 1 Writing a research paper	Reading preparation for next class.
	3. Interpreting visual texts	Reading preparation for next class.
	4. Orientalism?: Representations from the Perry mission to Japan	Reading preparation for next class.
	5. Fantasy and Japan: Japonisme	Reading preparation for next class.
	6. Representing the enemy: Propaganda, 1905-1945	Reading preparation for next class.
	7. Nation Branding and the Tokyo Olympics, 1940, 1964, 2020	Reading preparation for next class.
	8. Geopolitics and gender: Hollywood movies in Japan, 1950-60s I	Reading preparation for next class.
	9. Geopolitics and gender: Hollywood movies in Japan, 1950-60s II	Presentation preparation.
	10. Library orientation	Presentation preparation.
	11. Presentation 2	Reading preparation for next class.
	12. Exoticism and power: Japanese women in the eyes of western men	Reading preparation for next class.
	13. Self-orientalism?: Japanese images of Japan, postwar to today	Presentation preparation.
	14. Presentation 3	
	15. Presentation 3	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Annotated bibliographies and final paper are returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class participation and attitude	30%	
	Research reports	20%	Assessed on depth and relevance of reading, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.
	Presentations	30%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.
	Final paper	20%	Assessed on depth and relevance of reading, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class or during our office hours (Wednesday 3rd period, T504).

授業テーマ:

Culture, society and art

授業の概要:

This seminar is an introduction to developing a research in the field of human sciences, and to some of the most important issues and theories connected to these.

到達目標:

This seminar has two main goals: First, it will provide students with the basic tools for designing a research project. They will receive an orientation on bibliographic search and academic writing for the field of humanities and cultural studies. Students will engage in detailed, critical and analytic reading of texts. They will be encouraged to find their own personal ideas, original interpretations and possible comparisons between the texts of their choice. Second, this seminar will serve as an introduction to the field of cultural studies and to the theories that have helped understand culture, society, and their productions.

授業方法:

The semester will be divided into two units. The first part will deal with practical matters related to the development of the final research. The second part will deal with the main issue of this seminar: culture and its study. For the first part there will be no reading assignments additional to the weekly reading reports, pertinent to each student's research. However, for the second one there will be mandatory reading assignments on occasion.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction, course outline	-
	2. Library orientation	-
	3. Defining a topic of research and structuring the research question	Defining research topic interests
	4. Research methods for the social sciences: Quantitative methods	-
	5. Research methods for the social sciences: Qualitative methods	Reading report 1
	6. Structure and development of the paper: Outlining and scheduling	Reading report 2
	7. Citing and referencing (APA style)	Reading report 3
	8. Introduction to cultural studies: Language and culture	Reading report 4
	9. Individual meeting	Reading report 5
	10. Culture and representation: Media and advertisement	Reading report 6
	11. Culture and power: Forms of inequality	Reading report 7
	12. Culture and place: the local and the global	Reading report 8
	13. Culture and sexuality: Gender matters	Reading report 9 Preparation for final presentation
	14. Students' presentations	Preparation for final presentation
	15. Students' presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス:

This seminar is an invitation to think critically about society, culture, history, gender and media. Finding your own personal opinion among the many voices that surround these topics is a must for any student interested in this seminar.

フィードバックの方法:

Comments to the reading reports will be given during individual meeting. Group feedback after group work.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20%	Active participation in class; use of English; capacity to express personal ideas; cooperation and interest in the topics
	Senior's final presentation	5%	Written response to the final presentation of Senior students' graduation research
	Reading reports (9)	45%	Weekly reading reports
	Final presentation	30%	Ability to summarise information gathered and present research advancement

教科書:

Handouts

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法:

mcorrea@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Exploring Leadership

授業の概要:

This course will explore the field of leadership studies with three clear outcomes in mind: 1) Students will be able to understand and explain both a general overview of leadership studies, and furthermore, discuss their own specialized area of this field; 2) Students will identify and nurture their own natural leadership abilities, while at the same time focus on and develop areas of leadership that they deem necessary for their own future; and finally, 3) Students will collaborate on developing their dissertation topic, narrow down a research question or thesis statement, propose a plan for primary research, and complete a detailed initial outline of their working plan.

到達目標:

This course aims to meet the following objectives: 1) Build a learning community, 2) Create a study system using online tools for research (Evernote, Google Drive, Google Scholar, etc), 3) Start building an online annotated bibliography, and 4) Complete a detailed outline for a successful dissertation

授業方法:

Seminar – Each class will be comprised of a short lecture and a discussion of the assigned readings. All members of the learning community will take turns leading discussions. Students are expected to be prepared for discussions in two ways: 1) they must have read and understood the assigned readings, and 2) they must prepare questions and offer opinions in order to create lively and meaningful discussions.
Students are expected to do three oral presentations and one final essay throughout the course.

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Introduction to Leadership Studies Building a learning community Implementing communication networks	Reading, summary, discussion preparation
2. Definitions of leadership Looking through the literature to see what we already know	Reading, summary, discussion preparation
3. The Changing Nature of Leadership	Reading, summary, discussion preparation
4. Oral Presentations 1 – “What I learned abroad” How can I identify, nurture and improve my own leadership skills?	Reading, summary, discussion preparation
5. Research on Leadership – The Relational Leader Model	Reading, summary, discussion preparation
6. Online technology for primary and secondary research	Reading, summary, discussion preparation
7. Leadership Styles	Reading, summary, discussion preparation
8. Understanding Soft Skills of Leadership	Reading, summary, discussion preparation
9. Public Lecture of the Society for International Studies	Reading, summary, discussion preparation
10. Online Annotated Bibliography	Reading, summary, discussion preparation
11. Global Human Resources (gurobaru jinzai) and its relation to our department	Reading, summary, discussion preparation
12. Survey writing process – Job Hunting Beliefs and Actions	Reading, summary, discussion preparation
13. Study Abroad Impact on Development of Skills and Changes in Beliefs	Reading, summary, discussion preparation
14. Understanding Change and Strategies for Change	Reading, summary, discussion preparation
15. Final Online Submission – “My specialization: what, why, and how”	Reading, summary, discussion preparation

受講者への
メッセージや
アドバイス:

Students wishing to get the most out of this course must consider the following:

1. Do you have a clear understanding of how much effort is required to read and understand weekly assignments, to lead or participate in thought-provoking discussions, and to communicate clearly and effectively with classmates and the teacher?

2. Do you want to take ideas and concepts from this course in order to apply them to your own career, your life, and your community upon completion of these studies?

3. Are you willing to be an equal member of the learning community by finding an effective role that suits you best?

This course will begin by creating a challenging and supportive learning community, then document both the process of our explorations and the results of our research, and finally, we will package it all for future classes to use to continue the learning process.

フィードバックの
方法:

Ongoing Formative Feedback via online comments, a transparent challenges and completion system, and face-to-face meetings.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	40	Students are expected to attend and participate actively.
Oral Presentations	30	Based on a rubric for contents and delivery
Final	30	Based on a checklist of outline criteria

教科書:

No textbook. A series of handouts and online PDFs.

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Send Email to Steven Herder
sherder@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

日本と英語圏の比較文化研究

授業の概要:

3年次秋学期の「Senior Seminar I/卒業研究 I」における学習内容を踏まえながら、この春学期で各自の卒業研究にとってその基盤となる背景や既往の研究成果などに関して引き続き情報収集を進める。

到達目標:

春学期終了時には、論文の構成および背景情報の整理に当たるChapter 1草稿を作成し提出。

授業方法:

週2回授業のメリットを活かしながら進捗状況に関する報告を各回4名のペースで続けていく。各報告には司会者を設け、発表内容の要約および討議の運営を行ってもらう。論文作成作業は基本的に英語で行うが、春学期には日本語のブラッシュアップにも力を注ぐ。この成果を元に夏の間に各自論文執筆を進め、ゼミ合宿での中間報告を経て秋学期を迎える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. a. イントロダクション / b. 個別研究報告 (1)	各自報告準備
	2. a. 個別研究報告 (2) / b. 個別研究報告 (3)	各自報告準備
	3. a. 個別研究報告 (4) / b. 個別研究報告 (5)	各自報告準備
	4. a. 個別研究報告 (6) / b. 個別研究報告 (7)	各自報告準備
	5. a. 個別研究報告 (8) / b. 個別研究報告 (9)	各自報告準備
	6. a. 個別研究報告 (10) / b. 個別研究報告 (11)	各自報告準備
	7. a. 個別研究報告 (12) / b. 個別研究報告 (13)	各自報告準備
	8. a. 個別研究報告 (14) / b. 個別研究報告 (15)	各自報告準備
	9. a. 個別研究報告 (16) / b. 個別研究報告 (17)	各自報告準備
	10. a. 個別研究報告 (18) / b. 個別研究報告 (19)	各自報告準備
	11. a. 個別研究報告 (20) / b. UAFS-DIS Panel Discussion	各自報告準備
	12. a. 個別研究報告 (21) / b. 個別研究報告 (22)	各自報告準備
	13. a. 個別研究報告 (23) / b. 個別研究報告 (24)	各自報告準備
	14. a. 個別研究報告 (25) / b. 個別研究報告 (26)	各自報告準備
	15. a. 個別研究報告 (27) / b. 個別研究報告 (28)	各自報告準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

セミナー形式で個々の研究報告および意見交換を行いながら各々の方向性と手順を修正しながら進めていくので、とにかく一人ひとりが自分の研究を計画的かつ着実に進めていくことが主たる目標である。一方で、他のゼミ生の研究についても関心を注ぎ、積極的に意見を述べることで自分自身の関心事との関連性を見極め、知見を広めるというセミナーの利点を十分に活かすよう心がけること。

フィードバックの方法:

各回、意見交換を行いながら理解度の確認と研究の方向性を見定めていく。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末レポート	40	立論の明確さと、適切な資料を用いた論証の合理性
	個別研究報告	20	与えられたテーマのなかで適切に焦点が絞られ問題提起と検討が為されているか否か
	司会および討議への参加度	20	積極的な聴き方と建設的意見の提示
	出席	20	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。

教科書:

配布資料

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

Bilingualism, second language acquisition, language awareness, and language teaching

授業の概要:

This seminar deals with two main fields: bilingualism and second language acquisition (SLA) including teaching English/Japanese as a second language, and intercultural communication (IC). The goal of this seminar is to reflect on L1 (Japanese) and L2 (English) through these fields, to write introduction, literature review, formulate research questions, and method. They need to finish writing at least three chapters of a graduation essay by the end of the course: introduction, review of literature and method. First, students need to decide their own themes for graduation essays by reading many papers. They can choose any topic related to these fields. They also need to review literature on their themes and establish a method of study. They are expected to implement their research during the summer holidays and the results will be discussed in Senior Seminar III. Also, basic information about how to write a graduation essay and how to use statistics in research is given by the instructor, for instance, interview skills, basic knowledge of EXCEL and SPSS, and how to write a paper in English, and translation skills. Finally, they need to think and plan a project work for themselves.

到達目標:

(1) To write three chapters of a graduation thesis: introduction, literature review, and method logically; (2) To conduct a pilot study and revise the method of research; (3) To understand basic statistics of research; (4) To have an oral presentation of graduation thesis; (5) To do assignments.

授業方法:

There are two seminar classes in a week: A classes and B classes. The contents of these classes are fundamentally different. A classes will mainly focus on students' presentation and discussion about their research. Before presentation of their research, they will read papers on bilingualism, SLA and IC. They will discuss the assigned homework readings related to these topics and give oral presentations on these topics. B classes will mainly focus on methods of data analysis (interview, questionnaire, and observation), how to write a paper, basic knowledge of statistics, and use of EXCEL and SPSS. Also, they need to think and plan a project work in this seminar.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	A: Introduction of the course and how to read a paper, B: Introduction of research methods	A: To understand the course by reading the syllabus; B: To understand the course by reading the text on research methods.
2.	A: Reading a paper on bilingualism and discussion, B: Introduction to research methods (What are good papers?)	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
3.	A: Reading a paper on Second Language Acquisition (SLA) and discussion, B: Introduction to research methods (Interview skills).	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
4.	A: Reading a paper on SLA and discussion, B: Introduction to research methods (Computer skills 1: How to use EXCEL).	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
5.	A: Reading a paper on Intercultural Communication and discussion, B: Introduction to research methods (Computer skills 2: How to use SPSS).	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
6.	A: Reading a paper on communication and discussion, B: Introduction to research methods (Computer skills 3: How to use SPSS).	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
7.	A: Reading a paper and discussion, B: Introduction to research methods (Basic Statistics).	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
8.	A: To make research questions and summarize literature review 1, B: Introduction to research methods (How to collect and analyze data 1: making items of a questionnaire).	A: To decide research questions and summarize literature review 1 ; B: To read the text on research methods and make items of a questionnaire.
9.	A: To make research questions and summarize literature review 2, B: Introduction to research methods (How to collect and analyze data 2: Revise the items of the questionnaire).	A: To decide research questions and summarize literature review 2; B: To revise the items of the questionnaire.
10.	A: To make research questions and summarize literature review 3, B: Introduction to research methods (How to collect and analyze data 3: Revised the items of the questionnaire),	A: To decide research questions and summarize literature review 3; B: To revise the items of the questionnaire.
11.	A: To make research questions and summarize literature review 3, B: How to collect and analyze data 4: Pilot study 1).	A: To decide research questions and summarize literature review 2; B: To collect data of Pilot study.
12.	A: To write Introduction, B: How to collect and analyze data 5: Pilot study 2.	A: To write Introduction; B: To collect data of Pilot study.
13.	A: To write Literature review, B: How to collect and analyze data 6: Pilot study 3.	A: To write Literature review; B: To collect data of Pilot study.
14.	A: To write Method; B: To revise the paper.	A: To write Method; B: To analyze the data.
15.	A: To revise the paper; B: To submit the paper.	A: To write Method; B: To analyze the data.

受講者へのメッセージやアドバイス:

To research is interesting.

フィードバックの方法:

Feedback of assignments given every class is provided during class. After a presentation students are given coments not only from an instructor but also from other students. A final academic report is assessed by the instructor and the comments are given students throught Manabi.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	final academic report	50	Based on Course Objective (1), (2) and (3), the content of students' final academi report is evaluated.
	presentation	30	Based on Course Objective (4), students' final academi report is evaluated from the viewpoints of delivery, content, and use of English.
	assignment	20	Based on Course Objective (5), students' assignment is evaluated from the viewpoints of originality and English.

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡 方法:	E-mail、マナビー

授業テーマ:

The study of language, education, and intercultural communication

授業の概要:

In this course, students will explore the social, cultural, and psychological aspects of language and communication, as well as the art of language learning/teaching, through designing and carrying out the participants' own research projects, which will be developed as their graduation theses. As one of the most exciting and unique challenges of this course, students will participate in one intercollegiate or academic conference. The purpose is to allow participants to enjoy using and testing the knowledge and skills they have developed in class within the ultimate crucible of learning, that is, the real world. It is a lot of fun, and participants will surely learn so much more from really participating and observing others and reviewing judges' comments than they could ever learn just from reading about it.

到達目標:

Upon successful completion of this course, students will be able to:
(1) explore the social, cultural, and psychological aspects of language and communication, as well as the art of language learning/teaching, through designing and carrying out their research projects, which will be developed as their graduation theses
(2) produce a draft of the thesis statement, literature review, and method of their graduation theses
(3) create an outline of ethnographic performance project

授業方法:

(1) Guidance sessions will provide students with skills and knowledge to polish their own graduation theses through workshops and discussion.
(2) In the report and discussion session, the assigned students make oral presentations on their research projects. Each student is scheduled to do the presentation four times in the semester to present her progress in the research and questions for discussion. Each student must also submit short critical entries (reflection) after discussion in class, which are filed to her portfolio.
(3) In the ethnographic performance project, students collaborate with each other and create and stage ethnographic performances about the selected theme. This is a whole class project. Each student is required to contribute to the project, and active participation and contribution to the group preparation (both in and outside classes), rehearsal sessions, presentation, and portfolio filing is strongly recommended.
(4) The guidance sessions are conducted mainly in Japanese, but participants are strongly advised to use English to report on their graduation theses and discuss in class.
(5) As requested by students, one overnight-stay session (off campus) may be scheduled for more discussion, rehearsals, and improvement of the drafts.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Week 1: Introduction: review of the previous semester, overview and guidance for graduation thesis, scheduling	Reading a syllabus
2.	Week 2: Guidance for creating and staging ethnographic performance (group project)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
3.	Week 3: Guidance for creating and staging ethnographic performance (group project)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
4.	Week 4: Brainstorming and discussion in group, library hunting, writing session	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
5.	Week 5: Brainstorming and discussion in group, library hunting, writing session	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
6.	Week 6: Presentation on research project and discussion 1-1, 1-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
7.	Week 7: Presentation on research project and discussion 1-3, 1-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
8.	Week 8: Presentation on research project and discussion 2-1, 2-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
9.	Week 9: Presentation on research project and discussion 2-3, 2-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
10.	Week 10: UAFS-DIS Panel Discussion week (preparation and application)	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
11.	Week 11: Presentation on research project and discussion 3-1, 3-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
12.	Week 12: Presentation on research project and discussion 3-3, 3-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
13.	Week 13: Presentation on research project and discussion final-1, final-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
14.	Week 14: Presentation on research project and discussion final-3, final-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
15.	Week 15: Consolidation: guidance for graduation thesis, scheduling	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback for each oral presentation and project preparation in class and summative evaluation through a draft of graduation thesis.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and contribution	20	Students are expected to attend and participate actively by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
	Oral presentations	40	Students are expected to prepare for oral presentations and all other in-class activities, in order to achieve the course objectives (1) and (2).
	Graduation Thesis drafts	40	Students are expected to prepare for oral presentations as a group and all other in-class activities, in order to achieve the course objectives (1) and (2).

教科書: Handouts

参考書: To be announced in class

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、批判的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法: Contact me by email, or see me before or after class or during my office hour.

授業テーマ:

北米地域研究

授業の概要:

外国の文化や社会に関わる事象を分析、考察するための基本的な枠組みについて理解を深めながら、批判的思考能力を磨くことをめざす。また、秋学期での卒業論文完成に向けて、各自の個人研究が着実に進展するよう導く。受講者間で互いの研究から学び、それを高め合うことができる場としたい。年度中にゼミ合宿の実施を予定している。

到達目標:

1) 個人研究及び授業内の議論の前提として、アメリカ合衆国とカナダの社会と文化に関する論点の所在について、理解を深める。
2) 個人研究のテーマについて、背景となる事実をふまえたうえで、設定した問題について適切な方法で調査を行い、明らかにした事実を整理して文章化する。

授業方法:

受講者の発表とそれに基づく討議、およびグループワークを中心に授業を進める。扱う内容によって、講義、文献の講読、映像資料の視聴等を適宜、交える。個人研究については、段階を踏んで完成に導けるよう、個別に指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	A. イントロダクション B. 研究計画に関するガイダンス	研究・論文執筆
2.	A. 論文執筆に関するガイダンス B. 北米地域研究に関するガイダンス	研究・論文執筆
3.	A. 論文執筆に関する演習 (1) B. 論文執筆に関する演習 (2)	研究・論文執筆
4.	A. 個人研究発表と討議 (1) B. 個人研究発表と討議 (2)	研究・論文執筆
5.	A. 個人研究発表と討議 (3) B. 個人研究発表と討議 (4)	研究・論文執筆
6.	A. 個人研究発表と討議 (5) B. 個人研究発表と討議 (6)	研究・論文執筆
7.	A. 北米地域研究に関する演習 Michael Adams, Fire and Ice (1) B. 北米地域研究に関する演習 Michael Adams, Fire and Ice (2)	テキストを事前に読む
8.	A. 北米地域研究に関する演習 Michael Adams, Fire and Ice (3) B. 北米地域研究に関する演習 Michael Adams, Fire and Ice (4)	テキストを事前に読む
9.	A. 北米地域研究に関する演習 Michael Adams, Fire and Ice (5) B. 北米地域研究に関する演習 Michael Adams, Fire and Ice (6)	テキストを事前に読む
10.	A. 論文執筆に関する演習 (3) B. 論文執筆に関する演習 (4)	研究・論文執筆
11.	A. 個人研究発表と討議 (7) B. 個人研究発表と討議 (8)	研究・論文執筆
12.	A. 個人研究発表と討議 (9) B. 個人研究発表と討議 (10)	研究・論文執筆
13.	A. 個人研究発表と討議 (11) B. 個人研究発表と討議 (12)	研究・論文執筆
14.	A. 論文執筆に関する演習 (5) B. 論文執筆に関する演習 (6)	研究・論文執筆
15.	A. 総括 B. 総括	研究・論文執筆

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

研究計画書及び論文の途中原稿の提出を課し、そのチェックと添削及び面談によって個別に指導する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席および授業への積極的な参加姿勢	30%	発表後の討論における発言など、クラスや他の受講者の学習に対する積極的な貢献の程度
	発表	30%	内容の適切性、構成の論理性、論点の明確性、及びプレゼンテーション技術
	論文(途中まで)	40%	個人研究について、先行研究をふまえて研究テーマに関する基本的事実が示され、自分自身による調査結果の概要が整理されていること

教科書:

使用しない。適宜、ハンドアウトを配付する。

参考書:

Kate L. Turabian, A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers, 8th edition (Chicago: The University of Chicago Press, 2013)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール。授業後に教室内で対応。

授業テーマ:

Cultural studies

授業の概要:

This course is focused on thinking about, analysing, and comparing cultures from the perspective of cultural studies, with a particular focus on Japan and issues of representation in written and visual texts.

到達目標:

This course has three main aims: 1. to further develop students' understanding of, and ability to discuss and analyse, "culture" and its representation; 2. to give students the support and guidance needed to do their graduation research; 3. to continue developing students' skills of discussion, debate, presentation, critical thinking, academic writing and opinion exchange in English.

授業方法:

Each week, there are two classes. Generally, one class focuses on cultural studies topics, and the other on research methodologies and students' own research. The course is taught using a mix of interactive lectures, small group and class discussions, and student presentations on research. Most weeks, students are expected to read about the topic in preparation for the next class. In addition, throughout the semester, students work on developing, planning and conducting their own research. Method of instruction may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Introduction	
	2. Intro to research methods (RM)	
2.	1. Research discussions	
	2. Research discussions	
3.	1. Constructing “Japaneseness”	Reading preparation for next class.
	2. Japanese women, desire, and “the West” I	
4.	1. RM: Qualitative research 1 (participant observation)	Reading preparation for next class.
	2. Japanese women, desire, and “the West” II	
5.	1. RM: Quantitative research 1 (surveys)	Reading preparation for next class.
	2. Hafu, media images, and public opinions	
6.	1. RM: Quantitative research 2 (text analysis using coding)	Reading preparation for next class.
	2. Race and beauty in women's magazines	
7.	1. RM: Qualitative research 2 (interpretative text analysis)	Presentation preparation
	2. Father figures in postwar Japanese cinema I	
8.	1. Presentations 1	Reading preparation for next class.
	2. Presentations 1	
9.	1. Father figures in postwar Japanese cinema II	Reading preparation for next class.
	2. Research discussions	
10.	1. The Japanese schoolgirl: fantasies, realities, representations	Presentation preparation
	2. Research discussions	
11.	1. Presentation 2	Presentation preparation
	2. UAFS-DIS Panel Discussion	
12.	1. Presentation 2	Reading preparation for next class.
	2. Presentation 2	
13.	1. Asia-Pacific war and memory	Reading preparation for next class.
	2. Asia-Pacific War on film I	
14.	1. Asia-Pacific War on film II	Reading preparation for next class.
	2. Research discussions	
15.	1. Asia-Pacific War in manga/anime	
	2. Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

All written work is returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class participation and attitude	30%	
	Homework	10%	Assessed on quality of engagement with material and written style.
	Presentations	20%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.
	Paper 1	20%	Assessed on depth and relevance of reading, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.
	Paper 2	20%	Assessed on depth and relevance of reading, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Contact me via email (aelliott@dw.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class or during our office hours (Wednesday 3rd period, T504).

授業テーマ:

Identity and culture: National and Gender Identities

授業の概要:

This seminar deals with the topic of identity from two perspectives: national identity, its relation with ethnic issues and our perceptions of “inside” and “outside”; and gender identity, or the social construction of femininity/masculinity. Throughout this seminar students will not only be introduced to the basic notions and theories related to these topics, but will also be encouraged to find their own voices, opinions and ideas about them.

到達目標:

This seminar aims at becoming a strong introduction to the notion of identity, and to two of the main issues connected with it: national identity and gender identity. It also aims at becoming the place for students’ exchange of opinions, questions and ideas. In order to make this possible, students will carry out regular presentations about the progress of their research. They are expected to start organising the information hitherto collected, and to write the first drafts of their graduation paper.

授業方法:

This seminar will meet twice a week. The first weekly meeting (A) will focus on students’ research papers. The second weekly meeting (B) will deal mainly with theoretical lectures followed by workshops and other activities. According to the number of students, the number of individual presentations carried out per semester may vary.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	(A) Introduction (B) Review of last semester. Culture and politics: the issue of identity.	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
2.	(A) Bibliography revision, structure and development. (B) Japan and the notion of mono ethnicity	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
3.	(A) Individual meeting 1 (B) Immigration and immigrants	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
4.	(A) Individual meeting 2 (B) Bicultural identities (ハーフ)	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
5.	(A) Individual meeting 3 (B) Minority discourse	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
6.	(A) Individual meeting 4 (B) East and West (inside and outside)	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
7.	(A) Individual meeting 5 (B) Postwar Japan (what did we learn from war?)	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
8.	(A) Presentations 1 (B) Challenging nationalism in a post-global era	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
9.	(A) Presentations 2 (B) Culture and the body: sex, sexuality	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
10.	(A) DIS-UAFS Panel Discussion (B) Masculinities and femininities	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
11.	(A) Presentations 3 (B) Gender and gender roles	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
12.	(A) Presentations 4 (B) Feminist theory	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
13.	(A) Presentations 5 (B) Homosexuality (queer theory)	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
14.	(A) Organizing ideas in paragraphs (B) Gender equality politics	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
15.	(A) Writing the paper (B) Wrap-up, conclusion, planning fall semester	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

At individual meetings, students will be given detailed feedback about the process and advancement of their research. Presentations will provide the opportunity of students to receive comments and feedback from their peers.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20%	Attendance and active participation in classes and discussions; ability to give feedback and/or ask questions to peers; capacity to express own, well-constructed arguments.
	First draft	25%	First draft of graduation paper.
	Second draft	25%	Second draft of graduation paper.
	Presentation	30%	Ability to summarise information gather about research topic; capacity to present their research in a well-organised, persuasive way.

教科書:

Handouts.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

mcorrea@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Exploring Leadership

授業の概要:

Continuing to explore leadership while job hunting and doing primary research

到達目標:

This course aims to continue exploring leadership in a systematic and thought-provoking way. Using an experiential approach, known in the literature as a cycle of experience, reflection, generalization and application, our learning community will pursue a deeper understanding of leadership, specifically within the construct of application.

授業方法:

Seminar – A classes: Students will need to come to class prepared to be active learners. This means not only reading and understanding a text, but also preparing questions and opinions about the text. Students will be assigned leadership roles as facilitators, active listeners and group reporters. B classes: Students will be led through the essentials of researching and writing an academic graduation thesis. Students will need to demonstrate their understanding of concepts through peer teaching and oral presentations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. “A classes” will continue to explore current issues and concepts in the field of leadership through readings, discussions and student presentations. “B classes” will focus on how to research and write an excellent graduation thesis. A) Leadership skills assessment B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	2. A) Seeing others perspectives B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	3. A) Gender & leadership B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	4. A) Culture & leadership B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	5. A) Communication & leadership B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	6. A) Ethics & leadership B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	7. A) Assumptions & leadership B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	8. A) Decision making & leadership B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	9. A) Community & leadership B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	10. A) Community building & leadership B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	11. UAFS – DIS Panel Discussion	Ongoing primary and secondary research
	12. A) Group dynamics & leadership B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	13. A) Conflict & leadership B) Academic Research and Writing Workshop	Ongoing primary and secondary research
	14. A) & B) Final Student Presentations I	Ongoing primary and secondary research
	15. A) & B) Final Student Presentations II	Ongoing primary and secondary research

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a very busy time juggling many deadlines and expectations. Stay healthy and keep in touch with me and your classmates. Support one another and work hard.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class through a drafting and revising cycle of learning, and summative feedback through regular submissions of work. Students also receive immediate feedback in class using online technology software and peer feedback.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and Participation	50	Students are expected to attend and participate actively.
	Final Presentation	50	Presentation on Primary Research is oral using a PowerPoint slideshow, and is assessed based on a rubric of contents and delivery.

教科書:

No textbook. There are handouts and online PDFs.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Send Email to Steven Herder
sherder@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

日本と英語圏の比較文化研究

授業の概要:

春学期の「Senior Seminar II/卒業研究 II」に引き続き各自卒業論文執筆作業を進める。

到達目標:

進捗状況について報告を継続し、最終的に英語で卒業論文を完成させる。

授業方法:

春学期同様、進捗状況に関する報告を各回4名のペースで続けていく。各報告には司会者を設け、発表内容の要約および討議の運営を行ってもらう。第7週くらいを目処に一度全体をまとめあげ、以降は細かな問題点の解消と修正作業に入る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. a. イントロダクション / b. 個別研究報告 (1)	各自報告準備
	2. a. 個別研究報告 (2) / b. 個別研究報告 (3)	各自報告準備
	3. a. 個別研究報告 (4) / b. 個別研究報告 (5)	各自報告準備
	4. a. 個別研究報告 (6) / b. 個別研究報告 (7)	各自報告準備
	5. a. 個別研究報告 (8) / b. 個別研究報告 (9)	各自報告準備
	6. a. 個別研究報告 (10) / b. 個別研究報告 (11)	各自報告準備
	7. a. 個別研究報告 (12) / b. 個別研究報告 (13)	各自報告準備
	8. a. 個別研究報告 (14) / b. 個別研究報告 (15)	各自報告準備
	9. a. 個別研究報告 (16) / b. 個別研究報告 (17)	各自報告準備
	10. a. 個別研究報告 (18) / b. 個別研究報告 (19)	各自報告準備
	11. a. 個別研究報告 (20) / b. 個別研究報告 (21)	各自報告準備
	12. a. 個別研究報告 (22) / b. 個別研究報告 (23)	各自報告準備
	13. a. 個別研究報告 (24) / b. 個別研究報告 (25)	各自報告準備
	14. a. 個別研究報告 (26) / b. 個別研究報告 (27)	各自報告準備
	15. a. 個別研究報告 (28) / b. 総括	各自報告準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

セミナー形式で個々の研究報告および意見交換を行いながら各々の方向性と手順を修正しながら進めていくので、とにかく一人ひとりが自分の研究を計画的かつ着実に進めていくことが主たる目標である。一方で、他のゼミ生の研究についても関心を注ぎ、積極的に意見を述べることで自分自身の関心事との関連性を見極め、知見を広めるというセミナーの利点を十分に活かすよう心がけること。

フィードバックの方法:

各回、意見交換を行いながら理解度の確認と研究の方向性を見定めていく。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	40	立論の明確さと、適切な資料を用いた論証の合理性
	個別研究報告	20	与えられたテーマのなかで適切に焦点が絞られ問題提起と検討が為されているか否か
	司会および討議への参加度	20	積極的な聴き方と建設的意見の提示
	出席	20	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。

教科書:

配布資料

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:	Bilingualism, second language acquisition, language awareness, and language teaching		
授業の概要:	This seminar focuses on bilingualism, language awareness, education, psychology, and SLA. By the end of this seminar students need to submit a graduation paper and perform a project work. Regarding a graduation paper, students need to discuss the results gained from their research and discuss the results from various viewpoints. Also, they need to write a conclusion of the paper. The presentation of a graduation thesis is held in January. They have the presentation in English for about 10 minuets, so they need to practice it before the presentation.		
到達目標:	(1) To write five chapters of a graduation thesis: introduction, literature review, method, discusion, and conclusion; (2) To report results and discuss them from various points of view; (3) To have oral presentations of graduation thesis.		
授業方法:	A classes: Students will mainly present their research results and discuss them from various points of view. B classes: Students will write papers in the computer lab, being given advice on research.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	A: Course Introduction, B: Writing a graduation paper: revising introduction, literature review.	To read syllabus and understand the course.
	2.	A: Report on results 1,B: Writing a graduation paper 2: revising method.	A: To analyze results 1 and prepare for presentation of results, B:To revise introduction, literature review, and method.
	3.	A: Report on results 2, B: Writing a graduation paper 3: Revising Introduction, literature review, and method.	A: To analyze results 2 and prepare for presentation of results, B:To revise introduction, literature review, and method.
	4.	A: Report on results 3, B: Writing a graduation paper 4: How to write a table.	A: To analyze results 3 and prepare for presentation of results, B:To learn how to write a table.
	5.	A:Report on discussion 1, B: Writing a graduation paper 5: How to write a figure.	A: To prepare for discussion in the paper, B: To learn how to write a figure.
	6.	A: Report on discussion 2, B: Writing a graduation paper 6: How to use statistics.	A: To prepare for discussion in the paper, B: To learn about basic statitics.
	7.	A: Report on discussion 3, B: Writing a graduation paper 7: Writing results (1).	A: To prepare for discussion in the paper, B: To revise results.
	8.	A: 1st report on conclusion 1, B: Writing a graduation paper 8: Writing results and discussion.	A: To prepare for conclusion in the paper, B: To wite results and discussion.
	9.	A: Report on conclusion 2, B: Writing a graduation paper 9: Writing Discussion.	A: To prepare for conclusion in the paper, B: To revise discussion.
	10.	A: Paper presentation 1, B: Paper presentation 2: Writing Conclusion.	A: To prepare for discussion in the paper, B: To write conclusion.
	11.	A: Research project 1, B: Research project 2	A: To prepare for research project 1, B: To prepare for research project 2.
	12.	A: Research project 3, B: Research project 4	A: To prepare for research project 3, B: To prepare for research project 4.
	13.	A: Presentation of graduation thesis 1, B: Presentation of graduation thesis 2	A: Preparation for presentation of graduation thesis 1, B: Preparation for presentation of graduation thesis 2
	14.	A: Preparation for presentation of graduation thesis 3, B: Presentation of graduation thesis 4.	A: Preparation for presentation of graduation thesis 3, B: Preparation for presentation of graduation thesis 4.
	15.	A: Feedback of graduation thesis and reflection on writing a thesis. B:Feedback of graduation thesis and reflection on writing a thesis	A: To check a graduation thesis, B: To revise a graduation thesis.
受講者へのメッセージやアドバイス:	Finish writing a graduation thesis is just like reaching the top of the mountain.		
フィードバックの方法:	Feedback of assignments given every class is provided during class. After a presentation students are given coments not only from an instructor but also from other students. A final graduation thesis is assessed by the instructor and the comments are given students throught Manabi and in class.		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Graduation thesis	50	Based on Course objectives (1), Students' graduation theses are evaluated from the viewpoints of analysis, logical way of writing, originality, and the English language.
	Oral presentation of thesis	20	Based on Course objective (3), students' oral presentations are evaluated from the viewpoints of contents, delivery, and the English language.
	Homework	30	Based on Course objective (2), students' homework is evaluated from the viewpoints of content.
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	E-mail、マナビー		

授業テーマ:

The study of language, education, and intercultural communication

授業の概要:

In this course, students will explore the social, cultural, and psychological aspects of language and communication, as well as the art of language learning/teaching, through designing and carrying out the participants' own research projects, which will be developed as their graduation theses. As one of the most exciting and unique challenges of this course, students will participate in one intercollegiate or academic conference. The purpose is to allow participants to enjoy using and testing the knowledge and skills they have developed in class within the ultimate crucible of learning, that is, the real world. It is a lot of fun, and participants will surely learn so much more from really participating and observing others and reviewing judges' comments than they could ever learn just from reading about it.

到達目標:

Upon successful completion of this course, students will be able to:
(1) explore the social, cultural, and psychological aspects of language and communication, as well as the art of language learning/teaching, through designing and carrying out their research projects, which will be developed as their graduation theses
(2) complete their graduation theses
(3) create and perform the ethnographic performance on stage in an intercollegiate performance competition/festival

授業方法:

(1) Guidance sessions will provide students with skills and knowledge to polish their own graduation theses through workshops and discussion.
(2) In the report and discussion session, the assigned students make oral presentations on their research projects. Each student is scheduled to do the presentation four times in the semester to present her progress in the research and questions for discussion. Each student must also submit short critical entries (reflection) after discussion in class, which are filed to her portfolio.
(3) In the ethnographic performance project, students collaborate with each other and create and stage ethnographic performances about the selected theme. This is a whole class project. Each student is required to contribute to the project, and active participation and contribution to the group preparation (both in and outside classes), rehearsal sessions, presentation, and portfolio filing is strongly recommended.
(4) The guidance sessions are conducted mainly in Japanese, but participants are strongly advised to use English to report on their graduation theses and discuss in class.
(5) As requested by students, one overnight-stay session (off campus) may be scheduled for more discussion, rehearsals, and improvement of the drafts.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Week 1: Introduction: review of the previous semester, overview and guidance for graduation thesis, scheduling	Reading a syllabus
2.	Week 2: Presentation on research project and discussion 1-1, 1-2	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
3.	Week 3: Presentation on research project and discussion 1-3, 1-4	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
4.	Week 4: Presentation on research project and discussion 2-1, 2-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
5.	Week 5: Presentation on research project and discussion 2-3, 2-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
6.	Week 6: Presentation on research project and discussion 3-1, 3-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
7.	Week 7: Presentation on research project and discussion 3-3, 3-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
8.	Week 8: Creating ethnographic performance: research project (1) (2)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
9.	Week 9: Creating ethnographic performance: research project (3) (4)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
10.	Week 10: Rehearsing ethnographic performance: research project (1) (2)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
11.	Week 11: Rehearsing ethnographic performance: research project (3) (4)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
12.	Week 12: Rehearsing ethnographic performance: research project (5) (6)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
13.	Week 13: Presentation on research project and discussion Final-1, Final-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
14.	Week 14: Presentation on research project and discussion Final-3, Final-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
15.	Week 15: Consolidation: thesis review, guidance for editing	Editing a research paper for publishing

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback for each oral presentation and project preparation in class and summative evaluation through a series of drafts of graduation thesis.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and contribution	10	Students are expected to attend and participate actively by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
	Oral presentations and ethnographic performance project	40	Students are expected to prepare for oral presentations and all other in-class activities, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
	Graduation Thesis drafts	50	Students are expected to prepare for oral presentations as a group and all other in-class activities, in order to achieve the course objectives (1) and (2).

教科書: Handouts

参考書: To be announced in class

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、批判的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法: Contact me by email, or see me before or after class or during my office hour.

授業テーマ:

北米地域研究

授業の概要:

外国の文化や社会に関わる事象を分析、考察するための基本的な枠組みについて理解を深めながら、批判的思考能力を磨くことをめざす。また、秋学期での卒業論文完成に向けて、各自の個人研究が着実に進展するよう導く。受講者間で互いの研究から学び、それを高め合うことができる場としたい。年度中にゼミ合宿の実施を予定している。

到達目標:

1) 個人研究及び授業内の議論の前提として、アメリカ合衆国とカナダの社会と文化に関する論点の所在について、理解を深める。
2) 研究成果をもとに分析・考察を行い、論文(日本語版)を完成させる。
3) 論文(英語版)を完成させる。

授業方法:

受講者の発表とそれに基づく討議、およびグループワークを中心に授業を進める。扱う内容によって、講義、文献の講読、映像資料の視聴等を適宜、交える。個人研究については、段階を踏んで完成に導けるよう、個別に指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	A. イントロダクション B. 研究の進捗状況報告	研究の進捗状況報告の準備
2.	A. 論文執筆に関する演習(1) B. 論文執筆に関する演習(2)	研究・論文執筆
3.	A. 個人研究発表と討議(1) B. 個人研究発表と討議(2)	研究・論文執筆
4.	A. 個人研究発表と討議(3) B. 個人研究発表と討議(4)	研究・論文執筆
5.	A. 個人研究発表と討議(5) B. 個人研究発表と討議(6)	研究・論文執筆
6.	A. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (1) B. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (2)	テキストを事前に読む
7.	A. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (3) B. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (4)	テキストを事前に読む
8.	A. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (5) B. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (6)	テキストを事前に読む
9.	A. 論文執筆に関する演習(3) B. 論文執筆に関する演習(4)	研究・論文執筆
10.	A. 個人研究発表と討議(7) B. 個人研究発表と討議(8)	研究・論文執筆
11.	A. 個人研究発表と討議(9) B. 個人研究発表と討議(10)	研究・論文執筆
12.	A. 個人研究発表と討議(11) B. 個人研究発表と討議(12)	研究・論文執筆
13.	A. 卒業論文発表会リハーサル(1) B. 卒業論文発表会リハーサル(2)	卒業研究発表会用の発表準備
14.	A. 論文完成に向けた作業と演習(1) B. 論文完成に向けた作業と演習(2)	研究・論文執筆
15.	A. 総括 B. 総括	研究成果と論文の見直し

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

研究計画書及び論文の途中原稿の提出を課し、そのチェックと添削及び面談によって個別に指導する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席および授業への積極的な参加姿勢	30%	発表後の討論における発言など、クラスや他の受講者の学習に対する積極的な貢献の程度
	発表	30%	内容の適切性、構成の論理性、論点の明確性、及びプレゼンテーション技術
	論文	40%	主題、論理構成、資料の活用、言語表現(日本語・英語)が適切であること。完成までに所定の回数の提出を行って、その都度指導を受けていることを前提とする。 卒業研究発表会で発表を行うことを、単位取得のための要件とする。正当な理由なく欠席の場合は、単位を与えない。

教科書:

使用しない。適宜、ハンドアウトを配付する。

参考書:

Kate L. Turabian, A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers, 8th edition (Chicago: The University of Chicago Press, 2013)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール。授業後に教室内で対応。

授業テーマ:

Cultural studies

授業の概要:

This course is focused on thinking about, analysing, and comparing cultures from the perspective of cultural studies, with a particular focus on Japan and issues of representation in written and visual texts.

到達目標:

This course has three main aims: 1. to further develop students' understanding of, and ability to discuss and analyse, "culture" and its representation; 2. to give students the support and guidance needed to complete their graduation research; 3. to continue developing students' skills of discussion, debate, presentation, critical thinking, academic writing and opinion exchange in English.

授業方法:

Each week, there are two classes. Generally, one class focuses on cultural studies topics, and the other on students' own research. The course is taught using a mix of interactive lectures, small group and class discussions, and student presentations on research. Most weeks, students are expected to read about the topic in preparation for the next class. In addition, throughout the semester, students work on completing their own research. Method of instruction may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Introduction and peer review	Reading preparation for next class.
2.	2. Body and culture I	
	1. Body and culture II	Reading preparation for next class.
	2. Research discussions	
3.	1. Representing Japan on film I	Reading preparation for next class.
	2. Representing Japan on film II	
4.	1. Presentation 1	
	2. Presentation 1	
5.	1. Presentation 1	
	2. Presentation 1	
6.	1. Research discussions	Reading preparation for next class.
	2. Research discussions	
7.	1. (Multi/Mono) ethnicity and Japan	Reading preparation for next class.
	2. Hospitality: Welcoming the other?	
8.	1. Presentation 2	
	2. Presentation 2	
9.	1. Presentation 2	Reading preparation for next class.
	2. Presentation 2	
10.	1. Cross-cultural analysis of university education I	Reading preparation for next class.
	2. Cross-cultural analysis of university education II	
11.	1. Presentation 3	
	2. Presentation 3	
12.	1. Presentation 3	
	2. Presentation 3	
13.	1. SS Workshop preparation	
	2. SS Workshop preparation	
14.	1. SS Workshop self-reflection	
	2. Thesis review/bunshu plan	
15.	1. Thesis review/bunshu plan	
	2. Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are required to make a presentation at the Senior Seminar Workshop to pass the course. Those who are absent from the workshop for no justifiable reason will be denied credits.

フィードバックの方法:

All written work is returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class participation and attitude	30%	
	Presentations (inc. Senior Seminar Workshop)	20%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.
	Graduation thesis drafts	20%	Assessed on depth of research, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.
	Graduation thesis final	30%	Assessed on depth of research, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class or during our office hours (Wednesday 3rd period, T504).

授業テーマ:

Culture and family systems

授業の概要:

This seminar is the last step of a reflection about culture. In the previous two semesters, we dealt with the notion of culture and its relation to power, and with the relationship between culture and identity. This semester focuses on the specific topic of family, and tries to analyze several factors related to it and to the changes and effects it produces in our society.

到達目標:

The purpose of this seminar is to deal with the topic of family as a cultural system, and to analyse its transformations. Several issues related to it, such as maternity, procreation, familial identity, etc., will be discussed. Throughout this seminar, students will not only be introduced to the basic notions and theories related to these topics, but they will work on producing independent and critical thoughts about them.
A second objective of this seminar is to continue developing their research. At the end of this course, students are expected to produce the final version of their graduation paper. Students will continue improving their academic skills and critical reading.
This seminar aims at becoming the place for students' exchange of opinions, questions, and ideas. In order to make this possible, students will carry out regular presentations about the progress of their research.

授業方法:

This seminar will meet twice a week. The first weekly meeting (A) will focus on methodological issues and on the developing of students' research papers. The second weekly meeting (B) will deal mainly with theoretical lectures followed by workshops and other activities. According to the number of students, the number of individual presentations carried out per semester may vary.
Students are required to make a presentation at the Senior Seminar Workshop (Graduation Research Final Presentation) in order to pass the course. Failing to attend this workshop with no justifiable reason will be denied credits.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	(A) Introduction. Review of last semester. Guidelines and outline. (B) Organising your final paper	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
2.	(A) Reviewing APA style (B) History of the family: A global overview	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
3.	(A) Individual meeting 1 (B) Family system in Japan	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
4.	(A) Individual meeting 2 (B) Japanese wedding industry	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
5.	(A) Individual meeting 3 (B) Blood ties and adoption	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
6.	(A) Individual meeting 4 (B) East and West (inside and outside)	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
7.	(A) Individual meeting 5 (B) Postwar Japan (what did we learn from war?)	Reading assignment (B) and preparation for individual meeting (A)
8.	(A) Individual meeting 6 & Presentations 1 (B) Maternity and Japan	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
9.	(A) Presentations 2 (B) Women vs. Mothers vs. Girls	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
10.	(A) Presentations 3 (B) Paternity (the father's role in society)	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
11.	(A) Presentations 4 (B) Low birthrate issue	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
12.	(A) Presentations 5 (B) Family law reform in postwar Japan	Reading assignment (B) and preparation for presentation (A)
13.	(A) Presentations 6 (B) Abortion: women in and out of the family	Reading assignment (B)
14.	(A) Review of Graduation Research Presentation (反省会) (B) Families in literature	-
15.	(A) Families in film (そして、父になる) (B) Final feedback and conclusion	-

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

At individual meetings, students will be given detailed feedback about the process and advancement of their research. Presentations will provide the opportunity of students to receive comments and feedback from their peers.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20%	Attendance and active participation in classes and discussions; ability to give feedback and/or ask questions to peers; capacity to express own, well-constructed arguments.
	First draft	25%	First draft of graduation paper.
	Second draft	25%	Second draft of graduation paper.
	Presentation	30%	Ability to summarise information gather about research topic; capacity to present their research in a well-organised, persuasive way.

教科書:

Handouts.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

教員との連絡
方法:

mcorrea@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Exploring Leadership

授業の概要:

This course aims to incorporate the accumulated wisdom about concepts within leadership into an original, research-based, well-written graduation thesis.

到達目標:

Students will have had one year to explore, reflect and do original research into this vast yet timely topic. The process of completing an excellent graduation thesis requires explaining/defending research through oral presentations to their peers, and then drafting and redrafting until the message is clear.

授業方法:

Seminar – A classes: Students will need to come to class prepared to be active learners. This means not only reading and understanding a text, but also preparing questions and opinions about the text. Students will be assigned leadership roles as facilitators, active listeners and group reporters. B classes: Students will lead each other through writing an academic graduation thesis. Students will need to demonstrate their understanding of concepts through peer teaching and oral presentations, as well as their problem-solving skills by seeking advice from the professor and peers.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	“A classes” will continue to explore current issues and concepts in the field of leadership through readings, discussions and student presentations. “B classes” will focus on graduation thesis drafting, professor & peer feedback and redrafting. A) Making decisions in groups B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
2.	A) Team and group roles B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
3.	A) Understanding complex groups B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
4.	A) Organizational systems B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
5.	A) Factors in individual change B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
6.	A) Facilitating change in groups B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
7.	A) A model of leadership development B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
8.	A) Collective action B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
9.	A) Public Lecture of the Society for International Studies B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
10.	A) Finding your niche B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
11.	A) Appreciative inquiry B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
12.	A) Positive Psychology B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
13.	A) Self-renewal B) Drafting, feedback and redrafting workshop	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
14.	A) Final Student Presentations I B) Final Student Presentations I	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.
15.	A) Final Student Presentations I B) Final Student Presentations I	Dissertation drafting, revising and re-drafting. Data analysis and discussion of outcomes.

受講者へのメッセージやアドバイス:

You are becoming a semi-expert in your chosen topic. Work hard to synthesize what you have learned, and work harder to be able to communicate those lessons clearly and convincingly in your dissertation and your dissertation presentation.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class through a drafting and revising cycle of learning, and summative feedback through regular submissions of work. Students also receive immediate feedback in class using online technology software and peer feedback.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and Participation	50	Students are expected to attend and participate actively.
	Final Essay	50	Essay assessment is based on a rubric addressing contents and delivery.

教科書:

No textbook. There are handouts and online PDFs.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Send Email to Steven Herder
sherder@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ：国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。

授業の概要：国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。

到達目標：(1) 国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。
(2) 自らを知り、同志社を知り、発信する力を手にする。

授業方法：(1) 教職員による講義と解説、およびそれに伴う実習。重要事項説明会では各回の授業時間内に理解度確認テストを行う。説明会の欠席者や大幅な遅刻者には、同講義のDVD視聴とそれに関するレポートを課して「学期内の挽回」を図らせ、課題が適切に提出された場合は出席扱いとする。
(2) フィールドワークを含む課題を与え、後日ゼミ単位で成果報告会を行う。
(3) TOEIC受験。
準備学習としては、以下の3点である。
(1) 留学先で自分の国や大学について適切に説明ができるように、フィールドワークで使用した資料等を活用して、留学前に準備しておく。
(2) 重要事項説明会で配付される資料を熟読して、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について、留学前に十分に理解しておく。
(3) 留学中の通信や危機管理のために必要な機器やシステムについて、その使用方法を留学前に十分に理解し、実際に試用しておく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション (1)	配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。
2.	イントロダクション (2)	配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。
3.	留学申請に関する説明会	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
4.	国際教養留学オリエンテーション	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
5.	新島襄と留学——同志社を知る(講義)	留学先で自分の国や大学について適切に説明ができるように、講義とフィールドワークで使用した資料等を活用して、留学前に準備しておく。
6.	新島襄と留学——同志社を知る(フィールドワーク)	留学先で自分の国や大学について適切に説明ができるように、講義とフィールドワークで使用した資料等を活用して、留学前に準備しておく。
7.	重要事項説明会 (1)	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
8.	重要事項説明会 (2)	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
9.	重要事項説明会 (3)	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
10.	重要事項説明会 (4)	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
11.	新島襄と留学——同志社を知る(成果報告)	留学先で自分の国や大学について適切に説明ができるように、講義とフィールドワークで使用した資料等を活用して、留学前に準備しておく。
12.	TOEIC IP	テストの準備をする。
13.	Locator説明会	配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。
14.	重要事項説明会 (5)	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
15.	UAFS-DIS パネルディスカッション	留学先で自分の国や大学について適切に説明ができるように、講義とフィールドワークで使用した資料等を活用して、留学前に準備しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス：上記の授業内容に加えて、留学前準備として渡航手続き(航空券・査証)に関する説明会を実施する。希望者のみとし、その出席は任意とする。

フィードバックの方法：重要事項説明会(1)～(5)の授業内で行う理解度確認テストは、マークシートで解答し、正解と解説をその授業内で即時に行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	100	積極的に授業に参加し、到達目標(1)と(2)に関する知識の構築度と理解度により評価する。 1) 出欠確認を厳格に行う。出席および課題提出がすべて行われ、重要事項説明会の理解度確認テストが満点の場合、100点とする。 2) 欠席1回につき13点を、遅刻1回につき7点を減じ、重要事項説明会の理

解度確認テスト(各回10点満点)の結果に応じて点数を減じる。合計が60点を下回った場合は、単位を与えない。
3) 体調不良等でやむを得ず欠席もしくは遅刻した場合でも、担当者からDVD視聴およびレポート提出が指示され、開講学期内にこれが行われた場合は出席扱いとし、減点も行わない。
4) 私語や居眠りなど、受講態度に著しい問題のあるときは、欠席もしくは遅刻と同等の評価を行う。
5) 初回「イントロダクション」および最終回「重要事項説明会(5)」を欠席もしくは遅刻し、学期内の挽回を行わなかった場合は、単位を与えない。

教科書： 資料を配布する。

参考書： 開講時に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法： オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

授業テーマ:

留学中の個別研究指導および学習支援

授業の概要:

留学先大学において個別研究を進展させる。また、学習・研究活動を取り巻く留学全般の充実を図る。

到達目標:

(1) 留学先大学において個別研究を進展させる。
(2) 学習・研究活動を取り巻く留学全般の充実を図る。

授業方法:

留学前は個別面談による指導。留学中は、基本的に電子メールを介した指導。中間報告にはオンライン会議システムを用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	留学全般に関する出発前指導	各自の留学先での学びと留学準備全般に関して、説明会や資料をもとに知識の確認を行う。
2.	個別研究に関する事前指導	(1) 各自の研究計画に沿って留学先での個別研究のテーマを定める。 (2) 個別研究に関する文献を読む。
3.	留学一月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
4.	留学一月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
5.	留学二月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
6.	留学二月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
7.	留学三月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
8.	留学三月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
9.	留学四月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
10.	留学四月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
11.	留学五月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
12.	留学五月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
13.	留学六月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
14.	留学六月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
15.	個別研究に関する中間報告	(1) 各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。 (2) 中間報告のための資料を作成する。 (3) 中間報告のためのオンライン会議システムの動作確認を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

担当教員や学科事務室から特別な指示がある場合は適宜それに従う。連絡に支障をきたさないよう、電子メールのチェックを日頃より習慣付けておくこと。

フィードバックの方法:

毎月のMonthly Reportは、添削してコメントを添えて電子メール(添付ファイル)で返却する、または、マナビーで返却する。返却方法は担当教員により異なる。中間報告は、オンライン会議システムにより、発表の際に口頭でフィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Monthly Report on Researchの提出	30	到達目標(1),(2)を達成していく過程を、明確かつ論理的に説明できるかを基準とする。未提出や提出の遅れなどが著しい場合は単位を与えない。
	Monthly Report on Study Abroadの提出	30	到達目標(2)を達成していく過程を、客観的かつ分析的に報告できるかを基準とする。未提出や提出の遅れなどが著しい場合は単位を与えない。
	個別研究に関する中間報告	40	到達目標(1)の進捗状況を、資料を用いて論理的かつ分析的に口頭発表できるかを基準とする。個別研究の中間報告を行わなかった場合は単位を与えない。

教科書:

資料を配布する。

参考書:

適宜、開講時に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

留学事前指導期間は、オフィスアワー、授業の前後に対応、Eメール。
留学中は、Eメールもしくはオンライン会議システム。

555901～04

Tutorial II／実地研究指導Ⅱ

潟山 健一、飯田 毅、鈴木 健司、A.C.Elliott

授業テーマ:

留学中の個別研究指導および学習支援

授業の概要:

留学先大学において個別研究を進展させる。また、学習・研究活動を取り巻く留学全般の充実を図る。

到達目標:

(1) 留学先大学において個別研究を進展させる。
(2) 学習・研究活動を取り巻く留学全般の充実を図る。

授業方法:

各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。留学中は基本的に電子メールを介した指導。帰国後は留学報告会準備および研究報告書作成の指導。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 留学七月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
2. 留学七月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
3. 留学八月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
4. 留学八月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
5. 留学九月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
6. 留学九月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
7. 留学十月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
8. 留学十月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
9. 留学十一月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
10. 留学十一月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
11. 留学十二月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
12. 留学十二月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
13. 研究報告書作成に関する指導	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究の成果をレポートにまとめる。
14. 国際教養留学報告会の準備に関する指導	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究の成果をポスター発表する準備をする。
15. 国際教養留学報告会(個別研究に関する成果報告)	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究の成果をポスター発表する準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

担当教員や学科事務室から特別な指示がある場合は適宜それに従う。連絡に支障をきたさないよう、電子メールのチェックを日頃より習慣付けておくこと。

フィードバックの方法:

毎月のMonthly Reportは、添削してコメントを添えて電子メール(添付ファイル)で返却する、または、マナビーで返却する。返却方法は担当教員により異なる。国際教養留学報告会での口頭発表は、発表の際に口頭でフィードバックを行う。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Monthly Report on Researchの提出	30	到達目標(1),(2)の進捗状況を、明確かつ論理的に説明できるかを基準とする。未提出や提出の遅れなどが著しい場合は単位を与えない。
Monthly Report on Study Abroadの提出	30	到達目標(2)の進捗状況を、客観的かつ分析的に報告できるかを基準とする。未提出や提出の遅れなどが著しい場合は単位を与えない。
留学報告会ポスター発表	10	到達目標(1)の進捗状況を、明確かつ論理的に口頭発表できるかを基準とする。
留学報告書	10	到達目標(2)の進捗状況を、客観的かつ分析的に記述形式で報告できるかを基準とする。留学報告書が未提出の場合は、単位を与えない。
研究報告書	20	到達目標(1)の進捗状況を、明確かつ論理的に論文としてまとめられるかを基準とする。研究報告書が未提出の場合は、単位を与えない。

教科書:

資料を配布する。

参考書:

適宜、開講時に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

留学中は、Eメールもしくはオンライン会議システム。
留学事後指導期間は、オフィスアワー、授業の前後に対応、Eメール。

授業テーマ:	An Emphasis on Japan's Growing Multicultural Society		
授業の概要:	In the age of globalization, the world and its many frontiers have become larger and yet at the same time undeniably smaller. As people across nations and borders become increasingly more connected, there are also attempts to define, differentiate and identify one's "own" "culture," "tradition" and "way of life" that delineates the two entities of "us" and "them." Within the milieu of migratory movements, immigration, emigration and temporary sojourn and domicile, how do we define local and global, micro and macro communities? What role does nation, ethnicity, race, and citizenship play in the concept of multiculturalism? Where do we belong and how do we position ourselves within the emergence and growth of multiculturalism? We will examine various writings that depict and discuss the broad issues of multicultural societies in order to understand and familiarize ourselves with the socio-cultural and political impact of such diversity and difference. First, we will closely read basic theoretical discussions of communities, nation, ethnicity and race. We will then analyze specific countries, Japan in particular, and their formation, development and transition in encountering diverse and multi-ethnic populations.		
到達目標:	Students will become familiar with the basic concepts, as well as arguments and debates concerning multiculturalism. They will also gain first-hand knowledge of specific countries such as Japan and its governmental policies in dealing with the increasing number of diverse minority groups, along with its historical and social transition. By the end of the semester, students will have conducted their own research, and be able to present it in an oral and written form for evaluation.		
授業方法:	Lecture, student presentations and discussion of required readings, general discussion		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Course Introduction. Academic Presentation Methods	Write a short summary of culture and identity	
	2. Students share their writings. What is Culture and Identity? Lecture and Discussion.	Read Chapter 1 from Kidd on Culture and Identity.	
	3. Group Discussion on social identity, agency, structure, tradition, power, institution, class, hierarchy	Read Chapter 2 from Kidd.	
	4. Introduction to multiculturalism	Read introduction from Modood; Watson	
	5. Multicultural Societies: An Inquiry	Prepare for Reading Test	
	6. Midterm Reading Test. Group work and discussion on presentation	Prepare for group work and discussion on presentation	
	7. Group work and discussion on presentation	Prepare for group work and discussion on presentation	
	8. Group Presentation on a Multicultural Society	Memorize presentation script	
	9. Group Presentation on a Multicultural Society	Memorize presentation script	
	10. Multicultural Japan. Lecture and discussion	Read Graburn, Tierney's Multiculturalism in the New Japan	
	11. Reading comprehension test. Discussion	Prepare short final research topic proposal	
	12. Group discussion on research topic proposal	Prepare for individual final presentation	
	13. Start of final presentations	Memorize script	
	14. Final presentations	Memorize script	
	15. Final presentations. Final discussion.	Final Class	
受講者へのメッセージやアドバイス:	Keep up with the reading. Do the homework. Participate actively in discussions. Take notes during lectures. Syllabus will be adjusted according to the student's levels.		
フィードバックの方法:	Fill in the blank tests focusing on learned vocabularies, concepts and theories will be graded and returned. Periodic writing assignments will be returned with comments. Evaluation by the instructor as well as feedback by classmates will contribute for students' future improvement.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Group Presentation	20%	Each member of the group must demonstrate equal contribution. Powerpoint required. Scripts must be memorized
	Tests on Readings	20%	Tests will assess the students' in-class and outside preparation
	Midterm	30%	Comprehensive reading assessment
	Final Presentation	30%	Powerpoint and handout required. Script must be memorized
教科書:	Reading list and materials will be distributed in-class.		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	Analytical ability, Creative ability, Presentation Skill		
教員との連絡方法:	Instructor's contact information will be given in class.		

授業テーマ:

Human Ecology and Sustainable Development.

授業の概要:

Human ecology is about relationships between people and their environment. Although humans are part of the ecosystem, it is useful to think of human – environment interaction as interaction between the human social system and the rest of the ecosystem. Sustainable development can be defined as meeting present needs without compromising the ability of future generations to meet their own needs.
Ecologically sustainable development is about keeping ecosystems healthy.

到達目標:

To provide a basic introduction to Human Ecology and Sustainable Development.
To investigate, using various case studies, the reality of the environmental problems facing our planet in the 21st Century.

授業方法:

This course is a lecture course, but students are expected to actively participate in class discussions.
Multimedia will be used to facilitate learning, but this is a student-centered lecture course. This means students are responsible for their learning.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction	pre-reading
	2. What is Human Ecology?	pre-reading handout review of lecture
	3. What is Sustainable Development?	pre-reading handout review of lecture
	4. Populations	pre-reading handout review of lecture
	5. Human Populations	pre-reading handout review of lecture
	6. Population regulation/ explosion	pre-reading handout review of lecture
	7. Ecosystems and Social Systems	pre-reading handout review of lecture
	8. Ecosystem Change	pre-reading handout review of lecture
	9. Comparison of natural, agricultural and urban ecosystems	pre-reading handout review of lecture
	10. Ecological change	pre-reading handout review of lecture
	11. Human-induced change	pre-reading handout review of lecture
	12. Coevolution and coadaptation of human social systems and ecosystems	pre-reading handout review of lecture
	13. Ecosystem services	pre-reading handout review of lecture
	14. Perceptions of nature	pre-reading handout review of lecture
	15. Conclusion	pre-reading handout review of lecture

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a challenging course. All students must do a considerable amount of reading before each class. This reading is essential! If you do not do the reading, then the short quizzes will be very difficult. There will often be a short quiz at the start of class. Also, everyone will have to complete worksheet in the class. These worksheets should be completed to a high level. You must impress me! Preparation is the key!

フィードバックの方法:

In-class discussions

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Final test	40	essay style answers
	Mid-term test	40	essay style answers
	Participation	20	discussion participation

教科書:

No Textbook.
Handouts will be provided.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

pstrefford@cc.kyoto-su.ac.jp

授業テーマ:

International Development

授業の概要:

This course will take a multi-disciplinary approach focusing on human development – the development of greater quality of life for humans.
This course will focus on development issues, such as the following: foreign aid, governance, healthcare, education, poverty reduction, gender equality, disaster preparedness, infrastructure, economics, human rights, environment, etc.

到達目標:

To provide a basic introduction to International Development.
To investigate, using various case studies, the reality of International Development in the early 21st Century.

授業方法:

This is a lecture course, but students are expected to actively participate in class discussions.
This course will utilize multimedia to facilitate learning, but more importantly, this course uses a student-centered approach to learning. This means that students are responsible for their learning.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	review textbook
	2. History of development	pre-read assigned pages review textbook
	3. Concept of Development	pre-read assigned pages review textbook
	4. Development and Globalization	pre-read assigned pages review textbook
	5. Theories of Development- Introduction	pre-read assigned pages review textbook
	6. Theories of Development- Modernization and Structuralism	pre-read assigned pages review textbook
	7. Theories of Development- Dependency and Neo-liberalism	pre-read assigned pages review textbook
	8. Theories of Development- Culture and post-developmentalism	pre-read assigned pages review textbook
	9. Actors in Development- the State	pre-read assigned pages review textbook
	10. Actors in Development- OECD states	pre-read assigned pages review textbook
	11. Actors in Development- non-OECD states	pre-read assigned pages review textbook
	12. Actors in Development- International Financial Institutions	pre-read assigned pages review textbook
	13. Actors in Development- UN Family	pre-read assigned pages review textbook
	14. Actors in Development- Non-state actors	pre-read assigned pages review textbook
	15. Conclusions	review textbook

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a challenging course. All students must do a considerable amount of reading before each class. This reading is essential!
Preparation is the key!

フィードバックの方法:

in-class discussion

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	mid-term test	40	essay style
	final test	40	essay style
	participation	20	in class discussions

教科書:

Patrick Strefford
International Development Studies with a focus on East Asia: Part I: Making our Framework [Kindle Edition]

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

pstrefford@cc.kyoto-su.ac.jp

授業テーマ:

Development of Speaking Skills

授業の概要:

Students will prepare for speaking sections of the TOEFL iBT and IELTS test.

到達目標:

This course has two main purposes: (1) To provide students with instruction, skills and opportunities to be able to speak clearly, academically, and coherently, and (2) to prepare them for the Speaking section of the TOEFL iBT test and IELTS test.

授業方法:

Practical Training – Each class consists of three parts: (1) practicing speaking skills; (2) going over the assigned homework; and (3) making speeches on an assigned topic and answering questions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction	Plan individualized supplemental practice
	2. TOEFL speaking skills for Questions 1–6	Homework and tailored supplemental practice
	3. The Importance of Fluency	Homework and tailored supplemental practice
	4. Impromptu Speaking and Output	Homework and tailored supplemental practice
	5. Pronunciation	Homework and tailored supplemental practice
	6. Intonation, Stress, Volume and Clarity	Homework and tailored supplemental practice
	7. Midterm	Homework and tailored supplemental practice
	8. Accuracy	Homework and tailored supplemental practice
	9. Organizational structure	Homework and tailored supplemental practice
	10. Theme development	Homework and tailored supplemental practice
	11. Coherence	Homework and tailored supplemental practice
	12. Complexity	Homework and tailored supplemental practice
	13. Vocabulary development	Homework and tailored supplemental practice
	14. Paragraph details and examples	Homework and tailored supplemental practice
	15. Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to use resources such as the library, the ESSR, and online software to prepare and review for classes. Students will have access to easy graded readers in the library, they will use the ESSR to transcribe answers they recorded in class, and they will use Skype or LINE to do homework or give feedback to one another. They will be expected to reflect on their learning and continually find new ways to improve themselves.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
	Midterm	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
	Final	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.

教科書:

Textbooks will vary depending on skill level.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Send Email to your Instructor. You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

授業テーマ:

Development of Speaking Skills

授業の概要:

Students will prepare for the TOEFL iBT and IELTS test.

到達目標:

This course has two main purposes: (1) To provide students with more instruction, skills and opportunities for speaking clearly, and coherently with confidence and (2) to refine speaking skills using the criteria for the Speaking section of the TOEFL iBT test and IELTS test.

授業方法:

Practical Training

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Independent Learning Review	Plan individualized supplemental practice
	2. Quantitative and qualitative goals	Homework and tailored supplemental practice
	3. Public Academic Speaking	Homework and tailored supplemental practice
	4. Interview Skills	Homework and tailored supplemental practice
	5. Presentations	Homework and tailored supplemental practice
	6. Test simulations	Homework and tailored supplemental practice
	7. Midterm	Homework and tailored supplemental practice
	8. Focus on contents	Homework and tailored supplemental practice
	9. Motivational strategies	Homework and tailored supplemental practice
	10. Focus on delivery	Homework and tailored supplemental practice
	11. Peer feedback	Homework and tailored supplemental practice
	12. Self evaluations	Homework and tailored supplemental practice
	13. Focus on IELTS	Homework and tailored supplemental practice
	14. Presentations	Homework and tailored supplemental practice
	15. Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

Speaking is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
	Midterm	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
	Final	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.

教科書:

Texts will vary depending on skill level.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Send Email to your Instructor. You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

授業テーマ:

Developing Academic Skills

授業の概要:

Students will learn about and practice macro skills needed for the TOEFL iBT and IELTS test, within a Content and Language Integrated Learning (CLIL) environment.

到達目標:

This course has two main purposes:
1. To provide students with instruction, macro skills, and opportunities for speaking and writing clearly, coherently, and with confidence in preparation to take the TOEFL iBT test and IELTS test.
2. To provide students with issues related content in a specific academic field connected to International Studies

授業方法:

Active Learning and Practical Training

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to Content and Language Integrated Learning (CLIL)	Plan individualized supplemental practice
	2. Online Tools for Success Google Drive, Grammarly, UsingEnglish, Compleat Lexical Tutor, Vocabulary.com	Homework and tailored supplemental practice
	3. Fluency for Speed – Typing, Speed Reading, Extensive Reading	Homework and tailored supplemental practice
	4. Introduction to International Studies Course Issues	Homework and tailored supplemental practice
	5. Listening and Note-taking System	Homework and tailored supplemental practice
	6. Compare and Contrast 1	Homework and tailored supplemental practice
	7. Paraphrasing 1	Homework and tailored supplemental practice
	8. Midterm	Homework and tailored supplemental practice
	9. Summarizing 1	Homework and tailored supplemental practice
	10. Reporting 1	Homework and tailored supplemental practice
	11. Active vs. Passive Vocabulary	Homework and tailored supplemental practice
	12. Brainstorming 1	Homework and tailored supplemental practice
	13. Persuasion with Details, Reasons, and Examples	Homework and tailored supplemental practice
	14. Individual or Group Presentations	Homework and tailored supplemental practice
	15. Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

You need to develop skills you can use this year to succeed with the TOEFL or IELTS test. You can use many of these skills throughout your four years of university. You also need to begin to explore topics and issues that you would like to research while you are abroad as well as upon your return to Japan in your 3rd year. This course is a very good opportunity for you to grow and develop.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in each class and summative feedback through midterm and final tests. Students receive immediate feedback in class from peers, from the instructor and by using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
	Midterm	20	Tests are oral or written, with assessment based on contents and delivery.
	Final	20	Tests are oral or written, with assessment based on contents and delivery.

教科書:

Texts will vary depending on skill level.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Send Email to your Instructor. You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

授業テーマ:

Developing Academic Skills

授業の概要:

Students will learn about and practice macro skills needed for the TOEFL iBT and IELTS test, within a Content and Language Integrated Learning (CLIL) environment.

到達目標:

This course has two main purposes:
1. To provide students with instruction, macro skills, and opportunities for speaking and writing clearly, coherently, and with confidence in preparation to take the TOEFL iBT test and IELTS test.
2. To provide students with issues related content in a specific academic field connected to International Studies

授業方法:

Active Learning and Practical Training

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Autonomous Learning Reflection	Plan individualized supplemental practice
2.	Listening and Note-taking 2	Homework and tailored supplemental practice
3.	Paraphrasing 2	Homework and tailored supplemental practice
4.	Summarizing 2	Homework and tailored supplemental practice
5.	Reporting 2	Homework and tailored supplemental practice
6.	Compare and Contrast 2	Homework and tailored supplemental practice
7.	Persuasion with Details, Reasons, and Examples 2	Homework and tailored supplemental practice
8.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
9.	Review of Readings to date	Homework and tailored supplemental practice
10.	Brainstorming 2	Homework and tailored supplemental practice
11.	Final Essay Project References, in-text citations, thesis statement	Homework and tailored supplemental practice
12.	Essay Components	Homework and tailored supplemental practice
13.	APA Style	Homework and tailored supplemental practice
14.	Draft 1	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

You need to develop skills you can use this year to succeed with the TOEFL or IELTS test. You can use many of these skills throughout your four years of university. You also need to begin to explore topics and issues that you would like to research while you are abroad as well as upon your return to Japan in your 3rd year. This course is a very good opportunity for you to grow and develop.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in each class and summative feedback through midterm and final tests. Students receive immediate feedback in class from peers, from the instructor and by using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
	Midterm	20	Tests are oral or written, with assessment based on contents and delivery.
	Final	20	Tests are oral or written, with assessment based on contents and delivery.

教科書:

Texts will vary depending on skill level.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Send Email to your Instructor. You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

授業テーマ:	Bioethics: The meaning of life in present-day society																																		
授業の概要:	With the advancement of technology and its closeness to daily life, the question of what life means has become more and more pressing. This course is an invitation to review basic notions of ethics and biotechnology, while using English as a tool for communicating complex thoughts and strong arguments in favor or against certain ethical issues.																																		
到達目標:	This class has two main objectives: 1) To introduce students to the topic of Bioethics and help them acquire some theoretical tools to understand the basic notions, problems, discussions and perspectives about this issues in contemporary society. 2) To help students continue using, improving and expanding their linguistic skills in English, by means of reading, writing and talking about a topic connected to the field of bioethics.																																		
授業方法:	Reading comprehension tests, group discussion, class argumentation																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. Introduction, guidelines. What is Bioethics?</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>2. Informed consent</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>3. Assisted reproduction: IVF, Artificial Insemination</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>4. Surrogacy</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>5. Abortion</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>6. Eugenics, Disabilities</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>7. Life support, Euthanasia, and Assisted suicide</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>8. Organ donation</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>9. Sex reassignment treatment</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>10. Ecology and ethics</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>11. Genetically modified foods</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>12. Vegetarianism and veganism</td><td>Reading assignment, preparation for test</td></tr><tr><td>13. Research on animals, Entertainment with animals</td><td>Preparation for presentation</td></tr><tr><td>14. Final presentations 1</td><td>Preparation for presentation</td></tr><tr><td>15. Final presentations 2</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. Introduction, guidelines. What is Bioethics?	Reading assignment, preparation for test	2. Informed consent	Reading assignment, preparation for test	3. Assisted reproduction: IVF, Artificial Insemination	Reading assignment, preparation for test	4. Surrogacy	Reading assignment, preparation for test	5. Abortion	Reading assignment, preparation for test	6. Eugenics, Disabilities	Reading assignment, preparation for test	7. Life support, Euthanasia, and Assisted suicide	Reading assignment, preparation for test	8. Organ donation	Reading assignment, preparation for test	9. Sex reassignment treatment	Reading assignment, preparation for test	10. Ecology and ethics	Reading assignment, preparation for test	11. Genetically modified foods	Reading assignment, preparation for test	12. Vegetarianism and veganism	Reading assignment, preparation for test	13. Research on animals, Entertainment with animals	Preparation for presentation	14. Final presentations 1	Preparation for presentation	15. Final presentations 2			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. Introduction, guidelines. What is Bioethics?	Reading assignment, preparation for test																																		
2. Informed consent	Reading assignment, preparation for test																																		
3. Assisted reproduction: IVF, Artificial Insemination	Reading assignment, preparation for test																																		
4. Surrogacy	Reading assignment, preparation for test																																		
5. Abortion	Reading assignment, preparation for test																																		
6. Eugenics, Disabilities	Reading assignment, preparation for test																																		
7. Life support, Euthanasia, and Assisted suicide	Reading assignment, preparation for test																																		
8. Organ donation	Reading assignment, preparation for test																																		
9. Sex reassignment treatment	Reading assignment, preparation for test																																		
10. Ecology and ethics	Reading assignment, preparation for test																																		
11. Genetically modified foods	Reading assignment, preparation for test																																		
12. Vegetarianism and veganism	Reading assignment, preparation for test																																		
13. Research on animals, Entertainment with animals	Preparation for presentation																																		
14. Final presentations 1	Preparation for presentation																																		
15. Final presentations 2																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	Feedback on group work to be given at the end of each class; feedback to written test to be given a week or two after the test.																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>Attendance</td><td>20%</td><td>Attendance to class and active participation in it; use of English in the classroom; ability to interact, argument, and discuss.</td></tr><tr><td>Mini test</td><td>25%</td><td>Weekly reading comprehension tests.</td></tr><tr><td>Group discussion</td><td>25%</td><td>Active involvement in group discussion; reporting of discussion results to the rest of the class.</td></tr><tr><td>Final presentation</td><td>30%</td><td>Research and presentation about one topic on the field of bioethics.</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	Attendance	20%	Attendance to class and active participation in it; use of English in the classroom; ability to interact, argument, and discuss.	Mini test	25%	Weekly reading comprehension tests.	Group discussion	25%	Active involvement in group discussion; reporting of discussion results to the rest of the class.	Final presentation	30%	Research and presentation about one topic on the field of bioethics.																			
評価方法	割合	評価基準																																	
Attendance	20%	Attendance to class and active participation in it; use of English in the classroom; ability to interact, argument, and discuss.																																	
Mini test	25%	Weekly reading comprehension tests.																																	
Group discussion	25%	Active involvement in group discussion; reporting of discussion results to the rest of the class.																																	
Final presentation	30%	Research and presentation about one topic on the field of bioethics.																																	
教科書:	Handouts																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	mcorrea@dwc.doshisha.ac.jp																																		

授業テーマ:

Sustainability: Soil, Soul and Society

授業の概要:

This course will explore the theme of Sustainability: Soil, Soul & Society through various articles about each of the three S's. "Soil, Soul, and Society" was coined by world-renowned Indian philosopher, Satish Kumar, and will set the tone throughout the course. We will take a solutions-oriented approach, focusing on the solutions, not only the problems. Students will practice discussing the explored theme in small and large group discussions.

到達目標:

To develop reading in discussion skills in English while exploring the theme of Sustainability.

授業方法:

Instruction will include lectures, in-class discussions, and presentations prepared by students.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction: Soil, Soul and Society	To be determined
	2. Soil 1: Food	To be determined
	3. Soil 2: Forests	To be determined
	4. Soil 3: Pollution	To be determined
	5. Group Discussion A	To be determined
	6. Soul 1: Happiness	To be determined
	7. Soul 2: Productivity	To be determined
	8. Soul 3: Community	To be determined
	9. Group Discussion B	To be determined
	10. Society 1: Learning from the past	To be determined
	11. Society 2: Sharing economy	To be determined
	12. Society 3: Innovation	To be determined
	13. Group Discussion C	To be determined
	14. Final Papers Due	To be determined
	15. Final Discussion	To be determined

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class will require that the student prepare for class discussions by reading the assigned materials and preparing readings and questions to share with the larger group. Students will be expected to write a final reflection paper and participate in the final class discussion.

フィードバックの方法:

Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Participation	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor.
	Discussion	25	Students will be marked for how frequently they participate in in-class discussions. They will be given time to prepare to comment, but will be expected to show initiative in discussions.
	Final Paper		The final paper will be reflection paper on all materials covered in class. Students will be expected to show an understanding and thoughtfulness to the course content.
	Homework		Out of class assignments will consist of preparation for discussions and the final paper. Students can expect to require not more than 1 hour of preparation per week outside of class.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkimdoshisha@gmail.com

授業テーマ:

Popular Music and Society

授業の概要:

In this course, we will survey the connections between popular music and society from roughly the 1920s until the present. The course will largely, but not exclusively, focus on key social events and cultural trends in the United States and United Kingdom. Along the way we will look at such issues as race, censorship, technology, political and social protest, sexuality and gender, and subcultures.

到達目標:

Students will develop their critical thinking skills and expand their knowledge of key political, social and artistic changes in the 20th century through readings, lectures, essay writing, research and presentations.

授業方法:

Lecture, reading and discussion.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Popular music and race: America and the birth of the blues; Country meets blues and the birth of rock and roll. Motown, Stax civil rights and soul music; The Dawn of hip hop	Reading: handouts provided
	2. Popular music and race: America and the birth of the blues; Country meets blues and the birth of rock and roll. Motown, Stax civil rights and soul music; The Dawn of hip hop	Reading: handouts provided
	3. Popular music and race: America and the birth of the blues; Country meets blues and the birth of rock and roll. Motown, Stax civil rights and soul music; The Dawn of hip hop	Reading: handouts provided Short presentation preparation
	4. Popular music and race: America and the birth of the blues; Country meets blues and the birth of rock and roll. Motown, Stax civil rights and soul music; The Dawn of hip hop	Reading: handouts provided
	5. The 1960s: Bob Dylan and protest music; The Beatles and the British Invasion; San Francisco and the Hippy movement	Reading: handouts provided
	6. The 1960s: Bob Dylan and protest music; The Beatles and the British Invasion; San Francisco and the Hippy movement	Reading: handouts provided
	7. The 1960s: Bob Dylan and protest music; The Beatles and the British Invasion; San Francisco and the Hippy movement	Reading: handouts provided Short presentation preparation
	8. Anarchy in the UK. Punk comes to Margaret Thatcher's England. 1970s New York: Punk, disco and gay subculture.	Reading: handouts provided
	9. Anarchy in the UK. Punk comes to Margaret Thatcher's England. 1970s New York: Punk, disco and gay subculture.	Reading: handouts provided
	10. Anarchy in the UK. Punk comes to Margaret Thatcher's England. 1970s New York: Punk, disco and gay subculture.	Reading: handouts provided Short presentation preparation
	11. MTV and the '80s, Rock Against Reagan; Seattle's Grunge subculture, heavy metal and rap in the '90s.	Reading: handouts provided
	12. How music got free: technology and popular music	Prepare first essay draft Reading: handouts provided
	13. How music got free: technology and popular music	Reading: handouts provided
	14. Final Presentations	Prepare final essay draft
	15. Final Presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Please come to class prepared to think and speak in English. Students who enjoy history and popular music AND reading and talking about these subjects will get the most out of this class.

フィードバックの方法:

Students will receive written comments on essays and other written work, as well as recommendations on how to improve presentation skills.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Final essay	20	A 5 page academic essay
	Final presentation	20	10 minute final Powerpoint presentation
	Class discussion	30	Participation for and discussions of readings and research.
	Homework	30	Readings and various other assignments

教科書:

参考書:

Brian Longhurst, Popular Music and Society, Polity, May 2007
The Rolling Stone History of Rock and Roll, Random House
Elijah, Wald, Escaping the Delta: Robert Johnson and the Invention of the Blues, Amistad, December 2004
Ben Yagoda, The B Side: The Death of Tin Pan Alley and the Rebirth of the Great American Song, Riverhead Books, January 2015
Stephen Witt, How Music Got Free, June 14, 2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

bquinn@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Issues in Education: Factors that continue to influence educational change

授業の概要:

With continuing research on how humans learn, technological advancement, and market and political forces, education continues to evolve. This class is a chance for students to talk about educational goals, the means for achieving them and potential for future change. Using various reading materials, students have the opportunity to think about and discuss the various forms that education can take, keeping in mind influences like learning theory, technology, politics, and business.

到達目標:

This class has two main objectives: 1) To use learning theory as a vehicle for evaluating current and future educational change. 2) To help students develop their English through reading, writing and discussing topics related to educational change.

授業方法:

Readings, comprehension quizzes, group and class discussions

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to Class Introduction to Learning Theories	Reading assignment, preparation for quiz
	2. Purpose of Education	Reading assignment, preparation for quiz
	3. Measuring Success: Growth versus Performance	Reading assignment, preparation for quiz
	4. Flipped Classrooms	Reading assignment, preparation for quiz
	5. Free Schools	Reading assignment, preparation for quiz
	6. Single-gender Schools	Reading assignment, preparation for quiz
	7. Bilingual Schools	Reading assignment, preparation for quiz
	8. English as a Global Language	Reading assignment, preparation for quiz
	9. Politics of Education	Reading assignment, preparation for quiz
	10. Is Earlier Better?	Reading assignment, preparation for quiz
	11. The Business of Education	Reading assignment, preparation for quiz
	12. Learning Fads	Reading assignment, preparation for quiz
	13. Research on Play in Learning	Preparation for Final Presentation
	14. Final Presentation 1	Preparation for Final Presentation
	15. Final Presentation 2	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback on discussion in class. Feedback on quizzes one to two weeks after.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20%	Coming to and actively participating in group and class discussions; showing your preparedness, critical thinking skills and ability to interact in English.
	Quizzes	25%	Weekly reading comprehension quizzes
	Group Discussion	25%	Active involvement and feeding back information from small group discussions to whole class. Participating in but not dominating discussions and encouraging other's to contribute.
	Final Presentation	30%	Research and presentation about a topic in Education

教科書:

Handouts

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

coki@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Intercultural Communication

授業の概要:

The course will explore a variety of topics in Intercultural Communication. Students will have an opportunity to develop research, presentation, writing and discussion skills, as well as discuss the merits and detriments of multilingual societies. This is a reading and discussion course designed for students who enjoy expressing their opinions and improving their presentation and discussion skills.

到達目標:

The course will be focused on different issues related to Intercultural Communication and students will be asked to consider the implications of the what they have learned in the class to their own language learning and overseas experience, and finally to apply them to the consideration of creating a multilingual Japan. Students will gain a broader perspective on learning English as a second language and be introduced to some of the basic principles of Comparative Culture.

授業方法:

Students will be expected to conduct individual research on a topic related to intercultural communication, make a presentation and lead a discussion. Students will be required to prepare short written assignments in order to be ready for in-class discussion. Students will be able to discuss various aspects of Japanese culture and compare Japanese society and culture with other cultures of interest.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Identity: examination and discussion of the characteristics, feelings or beliefs that form personal identity	Homework and individual research.
	2. Values: deciding right from wrong and making difficult decisions	Homework and individual research.
	3. Culture shock: the stress of living in a new and different culture	Homework and individual research.
	4. “Fools Rush In”: the joys and trials of cross-cultural marriage	Homework and individual research.
	5. Culture in language: language is a reflection of the culture of the people who speak it	Homework and individual research.
	6. Body language and customs: nonverbal communication	Homework and individual research.
	7. Individualism: to be or not to be a team player	Homework and individual research.
	8. Politeness: examination and discussion of how different cultures show courtesy and respect. Mid-term assignment due	Homework and individual research.
	9. Communication styles: the different ways people in other cultures express themselves	Homework and individual research.
	10. Gender and culture: cultural differences in expectations of gender roles	Homework and individual research.
	11. “Bend it like Beckham”: gender, diversity and multiculturalism	Homework and individual research.
	12. Diversity: different cultures that exist within a country or society	Homework and individual research.
	13. Social change: change to promote progressive values	Homework and individual research.
	14. Global community: the power of social media and global culture	Homework and individual research.
	15. Final presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Use an English English dictionary. Be prepared to speak English.

フィードバックの方法:

Questionnaires.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	25%	Students are require to attend two-thirds of all classes.
	Participation	25%	Participate in English
	Homework	20%	Short essays
	Quizzes	20%	Quiz for each topic
	Final presentation	10%	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

jkuzel@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Discussing controversial issues around the world

授業の概要:

This course is an invitation to think about some controversial and present-day topics from a humanistic, global perspective, while avoid the use of stereotypical or disengaged opinions.

到達目標:

The objective of this course is to give students the basic tools to carry out logical, accurate, well-structured, and respectful discussions related to present-day topics. Students will not only learn the methodology of a debate but will also be encouraged to make use of their previously acquired knowledge, to find their own voice and opinion, to become an active, critical listener, and to bring a new, creative and individual perspective to the subjects that will be discussed.

授業方法:

Each class will begin with an introduction and/or review of the issues to be discussed, as well as to some methodological tools. Next, a discussion or debate will be held.
Before every class, you are expected to carry out a simple topic research, complete some reading exercises and prepare the vocabulary related to the topic. After the discussion, you will write a summary/review of what has been done and will keep track of your learning process through an activity log.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction, guidelines of the course	Reading and preparation for discussion
	2. Internet security	Reading and preparation for discussion. Written summary/review.
	3. Nuclear energy	Reading and preparation for discussion. Written summary/review.
	4. TPP	Reading and preparation for discussion. Written summary/review.
	5. Tokyo Olympics 2020	Reading and preparation for discussion. Written summary/review.
	6. Genetically modified food	Reading and preparation for discussion. Written summary/review.
	7. Gay marriage	Preparation for midterm debate. Written summary/review.
	8. Mid-term debate	Reading and preparation for discussion.
	9. Article 9	Reading and preparation for discussion. Written summary/review.
	10. Death penalty and the right to die	Reading and preparation for discussion. Written summary/review.
	11. Grade skipping	Reading and preparation for discussion. Written summary/review.
	12. Seniority vs. Performance	Reading and preparation for discussion. Written summary/review.
	13. Animal rights	Reading and preparation for discussion. Written summary/review.
	14. School discipline	Preparation for final debate.
	15. Final debate	Written summary/review.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Group feedback to be given after each class. Feedback to written response on Manavi.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20%	Attendance to class and active participation in it; use of English in the classroom
	Preparation and homework	20%	Preparation for following week's class; written homework, etc.
	Written summary/review	20%	Weekly written review of the topics covered in the previous class (on Manavi)
	Mid term debate	20%	Ability to debate with solid and persuasive arguments
	Final debate	20%	Ability to debate with solid and persuasive arguments

教科書:

Ueda, I., Ueda, T., Taoka, Ch, and Yoneoka, E. (2014). Pros and cons: Discussing today's controversial issues. Tokyo: Gengage Learning.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

mcorrea@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Discussing controversial issues from around the world

授業の概要:

This course provides an opportunity for students to think about controversial issues that affect the lives of citizens around the world, by developing their humanistic and global perspectives in order to avoid stereotypical or surface thinking.

到達目標:

This class has four main objectives. 1) To give student the tools to engage in logical, informed and well-structured discussions about current, controversial topics in a respectful manner. 2) To learn the methodology of debate through which they can find and express their own ideas and opinions. 3) To link global issues to regional or national issues and visa-versa. 4) To be compassionate, active listeners, willing to learn from others' perspectives, in light of their own past and growing knowledge base.

授業方法:

Classes will begin with an introduction to or review of a topic to be discussed, in addition to methodological debate techniques. After, discussions and debates will be held using student prepared materials.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to the course and debating	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	2. Cellphone Use	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	3. Climate Change	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	4. The Mentally Ill	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	5. Terrorism	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	6. Selling Organs	Written summary and opinion/review. Preparation for mid-term debate
	7. Mid-term debate	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	8. Diplomatic Immunity	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	9. Olympic Judging	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	10. Selling Babies	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	11. Designer Babies	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	12. Insider Trading	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	13. Addiction	Reading, finding local or global links to the topic, writing comprehension and discussion questions, written summary and opinion/review.
	14. Diet and Health	Written summary and opinion/review. Preparation for mid-term debate
	15. Final Debate	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Discussion feedback at the end of each class. Written assignment feedback after one to two weeks.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance	20%	Coming to and participating in class, using English to discuss and debate
	Topic Sheets	20%	Preparing related articles to link topics to present-day national or global news stories with student-prepared comprehension and discussion questions
	Written Opinions/review	20%	Weekly writings on the topic covered in the previous class
	Mid-term Debate	20%	Using informed and persuasive arguments to effectively debate about a topic
	Final Debate	20%	Using informed and persuasive arguments to effectively debate about a topic

教科書:

Handouts

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

coki@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: This course offers an introduction to the main themes, topics, and approaches of Japanese Studies. In particular, it focuses on the society and culture of Japan from an anthropological and cultural studies perspective, paying special attention to diversity and changes over time.

到達目標: This course has four main aims: 1. to introduce students to the key disciplinary themes, topics, and approaches of Japanese Studies; 2. to review, develop, and broaden students' knowledge and understanding of Japanese society and culture; 3. to engage and acquaint students with the historical roots and background of Japanese society and culture; 4. to give students the analytical and language skills needed to research, discuss, and interpret Japanese society and culture in English.

授業方法: Each class begins with a student presentation on the previous weeks' topic, followed by a review quiz. After this, there is an interactive lecture, where students in pairs or small groups are asked to discuss and respond to the material. After the lecture, group discussions on the lecture topic will take place, followed by an individual written response. Method of instruction may vary depending on class atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Defining Japan and the Japanese I: introduction	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
2. Defining Japan and the Japanese II: different approaches and theories	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
3. Rituals in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
4. Space in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
5. Gender in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
6. Religious Beliefs in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
7. Aesthetics in Japan I: yugen to shibui	Review of lecture notes from weeks 2–7.
8. Midterm test	Reading preparation for next class.
9. Aesthetics in Japan II: cuteness	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
10. Fashion Cultures in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
11. Food Cultures in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
12. Visual Cultures in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
13. Global Japanese Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
14. Defining Japan and the Japanese III: course review	Review of lecture notes from weeks 9–14.
15. Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: All quizzes and individual written responses are returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20%	Assessed via individual written response on understanding and engagement with lecture, reading and discussion topics.
Review quizzes	15%	
Presentations	15%	Assessed on depth and interest of research, quality of slides and presentation.
Midterm test	25%	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical, clear and analytical report.
Final test	25%	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical, clear and analytical report.

教科書:

参考書: Yoshio Sugimoto (ed.), The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture, CUP, 2009
Brian J. McVeigh, Interpreting Japan: Approaches and applications for the classroom, Routledge, 2014
Jennifer Robertson (ed.), A Companion to the Anthropology of Japan, Blackwell, 2005
Yoshio Sugimoto, An Introduction to Japanese Society, CUP, 2010 (3rd ed.)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Contact me via email (aelliott@dw.doshisha.ac.jp), Manabi, or see me before/after class or during my office hour (Wednesday 3rd period)

授業テーマ:

Cultural Issues in Japan – Japanese Popular Culture and Media

授業の概要:

Thanks to digital technologies and the expansion of the mass media online, popular culture has acquired an unmatched pervasiveness in the 21st century. This class aims to advance the students' understanding of Japanese popular culture in particular, and its study across the world especially from a media studies' perspective. Throughout the term, the students are expected to expand their familiarity with the media of popular culture, and to develop an awareness of production and consumption related aspects. In the meantime, an engagement with contemporary Japanese culture on a critical and academic level will be encouraged.

The class will be conducted in English.

到達目標:

* Improving the students' knowledge and understanding of Japanese popular culture,
* Transforming the basic familiarity with the media of popular culture into an advanced awareness of production and consumption related issues,
* Encouraging and improving the skills for engagement with contemporary Japanese culture on a critical and academic level.

授業方法:

Classes will feature lectures followed by discussions. Visual material will be provided for each class. Students are highly encouraged to raise questions and participate in discussions.
Throughout the semester, three short reports on weekly reading assignments will be handed in.
In the last three weeks of the semester, the students will make class presentations. Based on the presentations, a research paper will be submitted by the end of the term.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction of the Course Description and Class Policies	No outside class work
	2. Defining “Popular Culture”	Reading assignment: “What is Popular Culture?” by John Storey
	3. Popular Culture in Japan I – Earlier forms of Popular Media	Reading assignment: Excerpt from Japanese Popular Culture and Globalisation by William M. Tsutsui
	4. Popular Culture in Japan II – Contemporary forms of Popular Media	Reading assignment: Excerpt from Popular Culture, Globalization and Japan, ed. by Matthew Allen and Rumi Sakamoto
	5. “Cool Japan” and its Building Blocks	Reading assignment: “‘Cool Japan’: Industrial Policy for Cultural Industries” by Tim Craig
	6. Consuming Pop Culture in Japan I – “Otaku”	Reading assignment: Excerpt from Debating Otaku, ed. by Patrick W. Galbraith, Thiam Huat Kam and Björn-Ole Kamm
	7. Consuming Pop Culture in Japan II – “Fujoshi”	Reading assignment: “The Possibilities of Research on Fujoshi in Japan” by Midori Suzuki
	8. Consuming Japanese Pop Culture Outside Japan – Constructing Japan?	Reading assignment: “Re-imagining ‘Japan’: Beyond the Inter-national Governance of Cultural Diversity” by Kōichi Iwabuchi
	9. Pop Culture in the Internet Age – “Media Convergence”	Reading assignment: Excerpt from Convergence Culture by Henry Jenkins
	10. Japan’s “Media Mix”	Reading assignment: Excerpt from Anime’s Media Mix by Marc Steinberg
	11. Intermedial relations – Games as they appear in Anime	Video assignment for discussion (Sword Art Online, Episode 1)
	12. Critically Approaching the Media of Popular Culture	Reading assignment: “Adventures in Media and Cultural Studies: Introducing the Key Works” by Douglas M. Kellner and Meenakshi Gigi Durham
	13. Class Presentations	No outside class work
	14. Class Presentations	No outside class work
	15. Class Presentations	No outside class work

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Explanations regarding the short reports will be made in classroom.
Feedback for presentations will also be given in classroom.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	30	Minimum required attendance is 12 classes.
	Class participation	30	Participation in class (class discussions, comments, and questions) Three short reports on weekly reading assignments
	Class Presentation	20	Present an outline of your paper to the class to receive feedback from other students
	End of term paper	20	Main criteria for evaluation: Efficient use of theoretical sources Well developed argument Clarity and coherence of the paper Format and length

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

selencalik@gmail.com

授業テーマ: Subtitle: Understanding the Modern and Contemporary History and Politics of Japan

授業の概要: This course will systematically study and debate the contents of the textbook: "Governing Japan – Divided Politics in a Resurgent Economy" (Fourth Edition) by J. A. A. Stockwin. Through interactive lectures/seminars/debates/research/reading and writing projects (including research journals, notebooks and short essays) and discussion, students will develop and deepen their knowledge and critical understanding of Modern and Contemporary Japanese History and Politics.

到達目標: * Development of student knowledge, critical thinking, reading, writing, research and discussion skills.

* Development of student motivation to fully comprehend the course theme.

* Development of student ability to achieve the required course skills.

授業方法: "Method of Instruction is stated in Course Contents" (Please note: 1. All classes will be conducted in English. 2. Deadlines for all course work essays will be announced in class, as the semester proceeds.)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Outline and textbook/supplementary books/materials – introduction/explanations; Course Outlines etc. distributed; student self-intro. questionnaire; initial textbook reading/note-taking set.	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	2. Introduction: Why Japan and Its Politics Matter	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	3. Historical Background: Japan’s Emergence as Modern State and the Politics of War, 1853 – 1945	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	4. Social Background: How far Social Norms and Behaviour Influence Politics	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	5. Political Reconstruction and Development, 1945 – 1989	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	6. One Step Forward and One Step Back: Attempting Political Reform in the 1990s	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	7. New Politics for the New Millennium: The Koizumi Effect	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	8. Who Runs Japan?	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	9. Parliament and Parliamentary Elections: The Changing Character of Electioneering	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	10. The Politics of Party: The Liberal Democrats and their Rivals	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	11. Some Problems of the Constitution	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	12. Issues of Foreign Policy and Defence	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	13. Issues of Foreign Policy and Defence	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	14. Conclusions: The Analytical Challenge of Japanese Politics	Weekly work in “On-Going” Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
	15. Review of the semester’s work and suggestions for further reading, research and study.	Weekly work in “On-Going” Research Journals; continuation of textbook and associated readings and note-taking; continuous self-study and research

受講者への
メッセージや
アドバイス:

Students are required to buy and read carefully through the set textbook during the semester, as instructed, as this will facilitate, enhance and deepen your experience of learning. Please regard the expenditure on your textbook as an important investment in your academic and intellectual development. (However, I will consider the usage of weekly, chapter photocopies, on a case-by-case basis, if absolutely necessary.) Further details of what is expected of you, and of what you can expect of me, will be clearly explained to you in the first class, when you receive your Course Outlines. (Any changes to the weekly schedule will be announced in class.)

フィードバックの方法:	All "On-Going" Research Journals and Notebooks will be collected by me on a regular basis, at approximately 4 – week intervals during the semester, and will be read, commented on, graded by me and returned to the students on a regular basis. 3 or 4 short, coursework essays will be written by students over the course of the semester and will be read, corrected, commented on and returned to the students on a regular basis. (Any further oral feedback will be given on an individual basis in the classroom at convenient times.		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Continuous Assessment	20%	Class Attendance
	Continuous Assessment	20%	Class Participation and Attitude
	Continuous Assessment	30%	"On Going" Research Journals and Mini-Presentations
	Continuous Assessment	30%	Coursework Essays and Notebooks
教科書:	Stockwin, J. A. A. , "Governing Japan – Divided Politics in a Resurgent Economy", (Fourth Edition) Blackwell Publishing, Year: 2010, ISBN 978-1-4051-5416-1		
参考書:	Baerwald, Hans H. , "Party Politics in Japan", Allen & Unwin, Year: 1986, ISBN: 0-04-320184-9 Curtis, Gerald I. , "The Logic of Japanese Politics – Leaders, Institutions and the Limits of Change", Columbia University Press, Year: 1999, ISBN: 0-231-10843-5 Thayer, Nathaniel B. , "How The Conservatives Rule Japan", Princeton University Press, Year: 1969, L. C. Card: 69-17398 McCargo, Duncan, "Contemporary Japan", (Third Edition), palgrave/macmillan, Year: 2013, ISBN: 978-0-230-24869-4 Goto-Jones, Christopher, "Modern Japan – A Very Short Introduction", Oxford University Press, Year: 2009, ISBN: 978-0-19-923569-8 Kohno, Masaru, "Japan's Postwar Party Politics", Princeton University Press, Year: 1997, ISBN: 978-0-691-01596-1 Murphy, R. Taggart, "Japan and the Shackles of the Past", Oxford University Press, Year: 2014, ISBN: 978-0-19-061958-9 Kersten, Rikki, "Democracy in Postwar Japan – Maruyama Masao and the search for autonomy", Routledge, Year: 2014, ISBN: 978-0-415-86957-7 Karube, Tadashi, (Trans. by David Noble), "Maruyama Masao – and the Fate of Liberalism in Twentieth-Cetury Japan", International House of Japan, Year: 2008, ISBN: 978-0-415-58743-3 Hook, Glenn D., Gilson, Julie, Hughes, Christopher W., Dobson, Hugo, "Japan's International Relations – Politics, Economics and Security", (Third Edition), Routledge, Year: 2012, ISBN: 978-0-415-58743-3		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、		
教員との連絡方法:	gwarries@hotmail.com		

授業テーマ:	The Mental and the Social in Contemporary Japan
授業の概要:	This course focuses on: 1. Hikikomori; 2. Depression, and 3. Identity. It is divided in three portions. Our approach is based on recent books, articles, and videos related to contemporary Japan. We focus on psychological, anthropological and sociological data and reflections.
到達目標:	The course has 3 aims: 1. To develop students' understanding and ability to discuss social and mental health issues in contemporary Japan; 2. To help students develop their critical and reflexive skills. 3. To reinforce presentation and discussion skills.
授業方法:	The course is divided in three portions. Each class focuses on a short article (2 pages) or video (5 minutes). Discussion is encouraged.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. General Introduction : Hikikomori, Depression, and Identity in Contemporary Japan	Read the account of Miss A (Tajan 1., p.60-63)
	2. Part 1-1: Hikikomori : School Non-Attendance (futoukou)	Read the account of Mr Maruyama and Miss Hayashi (Tajan 2., p.285-287)
	3. Part 1-2: Hikikomori : From School Non-Attendance to Hikikomori	Watch a BBC video interview of hikikomori toujisha Kobayashi Shun
	4. Part 1-3: Hikikomori : Social Welfare and Community Support	Read the account of Mr B. (Tajan 2., p.290-293)
	5. Part 1-4: Hikikomori : Surviving Hikikomori	Prepare written response 1
	6. Part 2-1: Depression: Mental Disorders and Society	Depression Case 4.2 (p.77-78) in DSM-5 clinical cases (ed. J. Barnhill)
	7. Part 2-2: Depression: What is Depression ?	Read Asahi Shinbun's article about Takahashi Matsuri's death
	8. Part 2-3: Depression: Death by Overwork and Overwork Depression	Read Kitanaka's book extract (page number will be disclosed later)
	9. Part 2-4: Depression: Gendering Depression	Prepare written response 2
	10. Part 3-1: Identity: Gender Inequality	Watch video: "Is Japan really sexless?" available at: https://www.youtube.com/watch?v=Y9qujIImY6M
	11. Part 3-2: Identity: Couples, Marriage and Family	Read Text (text will be disclosed later)
	12. Part 3-3: Identity: Identity Crisis and the Declining Birthrate	Prepare written response 3
	13. Guidance on how to prepare the final presentation	Make a first draft of the final presentation and rehearse
	14. Presentation's rehearsal and feedback	Revise the presentation and rehearse
	15. Final Presentation	

受講者へのメッセージやアドバイス: Students interested in psycho-social issues are highly welcome. Students are responsible for watching videos and reading articles' and books' extracts in their own time. Videos, articles' and books' extracts will be seen/read and discussed in class. Students don't have to buy any books or articles (copies will be distributed).

フィードバックの方法: Written responses are returned to the students with a grade and comments in the classroom. Final presentation will be rehearsed one time in the classroom: guidance and comments to improve presentation skills are provided.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class participation and attitude	30%	
	Written responses	30%	Assessed on ability to summarize, clarity of expression, quality of analysis, and written style. In total, 3 responses are required.
	Presentation	40%	Assessed on ability to summarize, clarity of expression, quality of research and analysis, slides and presentation style.

教科書:

参考書: Adolescents' school non-attendance and the spread of psychological counselling in Japan (Tajan Nicolas)
 Japanese post-modern social renouncers: An exploratory study of the narratives of hikikomori subjects (Tajan Nicolas)
 "Suicide of young Dentsu employee as due to overwork" Asahi Shinbun available online at <http://www.asahi.com/ajw/articles/AJ201610080036.html>
 DSM-5 clinical cases (ed. J. Barnhill)
 Depression in Japan Psychiatric Cures for a Society in Distress (Kitanaka Junko)
 The New Paradox for Japanese Women: Greater Choice Greater Inequality (Tachibanaki Toshiaki)
 Women and Men in Japan 2016 (Gender Equality Bureau) available online at http://www.gender.go.jp/english_contents/pr_act/pub/pamphlet/women-and-men16/index.html

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法: Contact me at: n.tajan2@gmail.com or see me before/after class (Wednesday 3rd period).

授業テーマ:

Art as a Tool for Representation and Peacebuilding

授業の概要:

This course will give an introduction to Peace and Conflict theory and examine how art plays an important role in the nonviolent representation of minority and traditional cultures in Japan and around the world.

到達目標:

To research minority and traditional cultures within Japan and how art plays a role in the nonviolent representation of those cultures in a Peace & Conflict Studies framework.

授業方法:

The class will consist of lectures, discussion, and student research.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction and Orientation: Art as a Tool for Representation and Peacebuilding	To be determined
	2. Lecture: Foundational introduction to Peace and Conflict Theory	To be determined
	3. Lecture: Understanding Violence	To be determined
	4. Lecture: Minority and Traditional Cultures in Japan	To be determined
	5. Lecture: Identity and Culture	To be determined
	6. Lecture: Conflict Analysis	To be determined
	7. Student Presentations II: Case Studies	To be determined
	8. Lecture: Dialogue and Peacebuilding	To be determined
	9. Lecture: Nonviolence	To be determined
	10. Student Presentations/Discussion III: Case Studies	To be determined
	11. Lecture: Reconciliation and Healing	To be determined
	12. Lecture: Peacebuilding in Japan and the world	To be determined
	13. Final Papers Due	To be determined
	14. Final Presentations I	To be determined
	15. Final Presentations II	To be determined

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to complete all assignments on time and review lecture notes. Constructive and respectful participation in group work and discussions in class is expected. Punctual and regular attendance is mandatory.

フィードバックの方法:

Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Participation	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor.
	Homework	25	Out of class assignments will consist of preparation for presentations and the final paper. Students can expect to require not more than 1 hour of preparation per week outside of class.
	Presentations	25	Presentations will be graded based on depth of knowledge of material covered in class, and preparation outside of class.
	Final Paper	25	The final paper will be a 1-2 page research paper based on a case study of the student's interest. The paper will need to show a depth of understanding of the subject matter and analysis of the case study.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkimdoshisha@gmail.com

授業テーマ:

Learn marketing on inbound tourism from a global perspective

授業の概要:

The number of international tourist arrival in 2016 exceeded 1.2 billion and is expected further grow to 1.8 billion by 2030 according to United Nations World Tourism Organization (UNWTO). Inbound tourism has become one of the world's fastest growing sectors in recent years. Governments around the world are increasingly recognizing the power of tourism to boost their nation's economic development and prosperity. Competition for visitors has become ever more intense across the globe. Marketing plays a key role to achieve success in inbound tourism.

The prime objective of this course is that students gain well-rounded understanding of inbound tourism with a clear focus on the United States of America (US), Canada, Britain and Japan. Students are required to submit a report in English and give a presentation in English about its summery. Further instruction is to be announced during class.

到達目標:

Through this course students will be able to learn the followings;

(1) Gain understanding of inbound tourism as well as its technical terms used in a global tourism industry.

(2) Learn principle of destination marketing.

(3) Acquire basic knowledge on tourism strategy and policy in the US, Canada, Britain and Japan.

授業方法:

(1) This course will be taught in English occasionally in Japanese when needed. Materials are used written in English and Japanese.

(2) This course will be taught through a combination of lectures and class discussion as well as students' presentation.

(3) Inbound tourism promotional tools including TV commercial, footage and film developed by those countries will be shared during class to facilitate communication.

(4) Lecture schedule stated above is subject to change depending on students' understanding.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation (introduction and course digest)	Grasp the whole picture of international tourism through United Nations World Tourism Organization (UNWTO)'s website; http://www2.unwto.org/en/
2.	What is happening right now in a global tourism?	Read materials, textboks and references, which is to be announced during class.
3.	What is inbound tourism? Why do people go overseas? How do people choose a destination?	Read materials, textboks and references, which is to be announced during class.
4.	Why is inbound tourism important for nation, region and cities?	Read materials, textboks and references, which is to be announced during class.
5.	Who heads up inbound tourism?	P.Kotler, J.Bowen and J. Makens, Pearson, "Marketing for Hospitality and Tourism", Pearson, 2014. Read (17) 'Destination Marketing'.
6.	Destination marketing for inbound tourism	P.Kotler, D. Haider and I. Rein, "Marketing Places", Free Press, 1993. Read (6) Designing the place's Images, and (7) Distributing the place's images and messege.
7.	Strategic Image Management (SIM) and its case studies	Grasp the whole picture of the US on Brand USA; https://www.thebrandusa.com/
8.	Inbound tourism in the US	Grasp the whole picture of Canada on Destination Canada; https://www.destinationcanada.com/
9.	Inbound tourism in Canada	Grasp the whole picture of UK on VisitBritain; https://www.visitbritain.org/
10.	Inbound tourism in Britain	Grasp the whole picture of Japan on Japan National Tourism Organization (JNTO); http://www.jnto.go.jp/jpn/ Try to understand how Japanese central government (Ministry of Land Infrastructure Transport and Tourism) is involved with inbound tourism from their website; http://www.mlit.go.jp/kankocho/
11.	Inbound tourism in Japan	Read materials, textboks and references, which is to be announced during class.
12.	Inbound tourism by guest speaker (TBD)	Prepare for the presentation in discussion with the group.
13.	Students' presentation and group discussion	Prepare for the presentation in discussion with the group.
14.	Students' presentation and group discussion	Review what you have learned once again prior to the final quiz.
15.	Summery	Continue to keep abreast of the latest on international tourism.

受講者へのメッセージやアドバイス:

(1) Ensure to review what you learn at each class. All students are required to take a quiz at the beginning at each class.

(2) Students are encouraged to keep abreast of the latest news on inbound tourism across the countries. Pay attention to see who (nation, region, cities) are doing what with whom (public and private sectors).

(3) Students are required to conduct a group discussion about the above (2) at each class.

フィードバックの方法:

Feedback methods can be provided individually or the groups during class. When students have or leave questions on a minute paper it could be fed back to everyone at next class. Report submitted from a student will be returned individually with teacher's comments.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation	30	Class participation includes attendance and minute paper.
Quiz	30	
Report	20	
Presentation	20	

教科書:

To be introduced during class

参考書:

To be introduced during class

教員との連絡
方法:

Feel free to contact me by e-mail on yujiyujiyujiyujiji@gmail.com, or talk to me after class.

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

This course focuses on: 1. Japanese cinema, explored through analysis of selected Japanese films; 2. cinematic form, explored through analysis of film clips from Japan, Hollywood and other cinemas.

This course has four main aims: 1. to develop students' understanding of, and ability to discuss, the social, cultural, political and other contexts of Japanese film; 2. to help students become engaged, active, and critical readers of film, able to interpret and discuss cinematic form fluently and confidently; 3. to consider “national cinema” in relation to Japan; 4. to continue developing students' skills of discussion, debate, presentation, critical thinking, academic writing and opinion exchange in English.

This course is divided into five pairs of classes. The first class deals with a topic related to form. The second class focuses on analysis of a Japanese film. Each class begins with an interactive lecture, where students in pairs, small groups, and as a class will be asked to discuss and respond to the material. In the case of the form class, after the lecture, group discussions and analysis of a given film(s) using the lecture material, will take place. Students take notes about the discussion, and these notes will be collected twice during the semester. In the case of the Japanese film class, after the lecture, students write an individual written response. At the end of the semester, the class reviews the question of “Japanese cinema” and students give a presentation, using the analytical skills developed in class, on a formally and thematically interesting Japanese film of their choice. Method of instruction may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	Reading preparation for next class (Sikov, “Chapter 1”).
	2. Form 1: Mise-en-scène	Film and worksheet: Tokyo Story.
	3. Film 1: Tokyo Story	Reading preparation for next class (Sikov, “Chapter 2”).
	4. Form 2: Camera movement	Film and worksheet: The Mourning Forest.
	5. Film 2: The Mourning Forest	Reading preparation for next class (Sikov, “Chapter 3”).
	6. Form 3: Cinematography	Film and worksheet: Woman in the Dunes.
	7. Film 3: Woman in the Dunes	Reading preparation for next class (Sikov, “Chapter 4 & 6”).
	8. Form 4: Editing	Film and worksheet: Tampopo.
	9. Film 4: Tampopo	Reading preparation for next class (Sikov, “Chapter 5”).
	10. Form 5: Sound	Film and worksheet: Rashomon.
	11. Film 5: Rashomon	Reading preparation for next class (Sikov, “Chapter 10”).
	12. Japanese cinema and genre 1	Presentation preparation.
	13. Japanese cinema and genre 2	Presentation preparation.
	14. Final presentations	
	15. Final presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Every second week, students are expected to watch actively, while taking notes, a full feature-length film before the next class. This is an essential part of the course. Students are responsible for finding and viewing the film in their own time.

All notes (when collected) and individual written responses are returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class participation and attitude	20%	
	Discussion notes	10%	Assessed via collected notes on focus and depth of engagement with lecture and discussion material.
	Written responses	30%	Assessed on engagement with reading and lecture material, quality of analysis, and written style.
	Final presentation	40%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

Ed Sikov, Film Studies: An Introduction, Columbia University Press, 2009

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

Contact Prof. Correa (mcorrea@dw.doshisha.ac.jp) or Prof. Elliott (aelliott@dw.doshisha.ac.jp) via email, on Manabi, or see us before/after class or during our office hours (Correa: Monday, 2nd period (T606), Elliott: Wednesday 3rd period (T504).

授業テーマ:	Britishness of British Music		
授業の概要:	This course divides British music into three sections: classical, folk and pop, and tries to find their characteristic features, which could be called Britishness and considers the relationship between the nation and music.		
到達目標:	The aim of the course is to gain an aspect to see music in a political context. Students are always expected to consider what the Japanese-ness of Japanese culture, while learning about British music.		
授業方法:	A lecture based course. Every two weeks, there will be a quiz to check students' understandings.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	Introduction	
	2.	Classical music (1): Toneless society?	Preparation with reading materials
	3.	Classical music (2): Christianity and Music	Review & Preparation with reading materials
	4.	Classical music (3): Empire and Music	Review & Preparation with reading materials
	5.	Classical music (4): Politics and Music	Review & Preparation with reading materials
	6.	Folk music (1): Community and Music	Review & Preparation with reading materials
	7.	Folk music (2): Folksong Revival 1	Review & Preparation with reading materials
	8.	Folk music (3): Folksong Revival 2	Review & Preparation with reading materials
	9.	Folk music (4): Music and Tradition	Review & Preparation with reading materials
	10.	Pop music (1): Music and Mass Media	Review & Preparation with reading materials
	11.	Pop music (2): R&R and 1950s	Review & Preparation with reading materials
	12.	Pop music (3): The Beatles and 1960s	Review & Preparation with reading materials
	13.	Pop music (4): Pop, Rock and Politics	Review & Preparation with reading materials
	14.	Music and society	Review & Preparation with reading materials
	15.	Assessment	
受講者へのメッセージやアドバイス:	Taught in English all through the course.		
フィードバックの方法:	Feedback on the quiz will be given in class.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Final Report	30	Writing test to check the knowledge about Ireland, Oceania, and the Commonwealth of Nations.
	Quizzes	60	Writing test to check the knowledge on British music studied in the previous two weeks.
	Attendance & Contribution to the class	10	Regular attendance will be required. More than five times of absence automatically means to fail this course.
教科書:	配布資料		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	In the classroom or through email		

授業テーマ:

Modern America Through 20 Cultural Innovators

授業の概要:

This class is designed to give students an understanding of how the USA developed a rich and compelling popular culture that was attractive enough to spread to many other countries and societies over the past century.

到達目標:

Students will learn about the specific role of certain individuals, many of them Jewish or Italian immigrants or African-American migrants to the north.. These individuals were able to use their outsider status and cultural background to remake the culture of urban America in the areas of music, theater, movies, comics and dance.

授業方法:

Students will make groups to discuss the videos and images shown in class and then work on both presentations and reports. Their grades will be based on the research and the critical thinking skills that they demonstrate in their academic essays and mini group presentations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction & Charlie Chaplin and Louise Brooks (Silent Movies)	Read uploaded manabe handouts
	2. Jean Harlow and Clara Bow (Fashion through the Movies)	Read uploaded manabe handouts
	3. Louis Armstrong, Duke Ellington and Benny Goodman (Jazz as American Music	Read uploaded manabe handouts
	4. Superman-(How Jerry Siegel and Joe Shuster invented the Comic hero)	Read uploaded manabe handouts
	5. In class presentations	None
	6. Nicholas Brothers, Gene Kelly & Shirley Temple (The Power of Dance)	Read uploaded manabe handouts
	7. Oscar Hammerstein and Jerome Robbins (The American Musical)	Read uploaded manabe handouts
	8. Frank Sinatra and Elvis Presley (Pop Music and Fandom)	Read uploaded manabe handouts
	9. James Dean and Marilyn Monroe (Movie Stars and the power of tragedy)	Read uploaded manabe handouts
	10. In-class presentations	None
	11. Elia Kazan and Stanley Kramer (Movies for Educating America)	Read uploaded manabe handouts
	12. J. Leiber &M. Stoller & C. King (How immigrants Invented Pop Music)	Read uploaded manabe handouts
	13. Berry Gordy and Michael Jackson (From Black Culture to world pop music)	Read uploaded manabe handouts
	14. Walt Disney and Michael Eisner (Disney and Modern Entertainment)	Read uploaded manabe handouts
	15. In class assessment	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Although this class deals with popular culture, it will be built around academic articles and documentaries which take popular culture seriously.

フィードバックの方法:

You will get regular feedback on your reports and comments made on a special in-class “Attendance and Comment card.”

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Reports	80%	There will be three reports on three different topics
	Presentations in small groups	20%	You will give presentations in small groups based on your reports

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

michael@world.ryukoku.ac.jp

授業テーマ:

Themes in Comparative Religion

授業の概要:

This course will explore selected aspects of religion, such as architecture, pilgrimage, festivals and food, in comparative perspective, by juxtaposing Japanese examples with corresponding examples from all over the world. We will examine the effects of globalization on religion and discuss the impact of World Heritage status, of the Internet, and of film/television on religious sites and practices.

到達目標:

The objective of this course is to familiarize students with themes in comparative religion, to develop their analytical abilities and thinking power through comparative study, and enhance their presentation skills.

授業方法:

The language of instruction will be English. The format of the classes will include lectures, some DVD viewing, discussion, and student presentations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course Introduction	
	2. Religious Architecture: Symbolism, Preservation, and Reconstruction	Religious architecture chart homework
	3. Shikoku Henro Pilgrimage	Pilgrimage reading and questions
	4. Camino de Santiago Pilgrimage	Comparative pilgrimage questions
	5. Discussion: Comparing Pilgrimage Cultures	Comparative pilgrimage questions
	6. Presentations: Mt. Kailas, Mt. Putuo, Benares, Jerusalem, Mecca	Student presentation preparation
	7. Seasonal/Agricultural Festivals: Planting, Growing, Harvesting	
	8. Festivals of the Dead: Obon, Halloween, Dia de los Muertos	Halloween reading and questions
	9. Reenactment Festivals	Kumbha Mela questions
	10. Transplanting Festivals and Sacred Sites: Dio de los Milagros Festival in Hamamatsu and Ganges River in New York	
	11. Religion and Food: Offerings and Taboos	Food chart homework
	12. Religion and Food: Fasting and Feasting	Student presentation preparation
	13. Religion and Sports	Student presentation preparation
	14. Religion and Dance/Performing Arts	Student presentation preparation
	15. Conclusion	Study for course review test

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Comments on assignments returned in class, review test.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	participation and attitude	15%	attendance and participation in class discussion
	homework assignments	20%	timely completion of homeworks
	two short presentations	40%	research and presentation skills
	review test	25%	knowledge and thinking power

教科書:

There will be no textbook. Materials will be distributed in class.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking power, presentation skills

教員との連絡方法:

Ask in the classroom before and/or during the class

授業テーマ:

Understand how to communicate with people from diverse cultural backgrounds in order to become a global citizen

授業の概要:

This course is a combination of theory and application of intercultural communication. Intercultural communication is a field of study that looks into how people from different cultural backgrounds communicate, analyzes the significant similarity and difference among the communication patterns, and explores norms and strategies for communication in order to appreciate and effectively communicate with diverse individuals. Students will understand how to communicate with people from diverse cultural backgrounds in a global society, acquiring analytical skills and insights into what social, psychological, cognitive, affective, and linguistic aspects of culture and communication, and develop critical thinking.

到達目標:

At the end of the course, the students will:
(1) have major concepts and theories of intercultural communication
(2) understand how to apply the theories to various intercultural scenes and analyze the situations
(3) explore norms and strategies for communication in order to appreciate and effectively communicate with people from different cultural backgrounds as a global citizen

授業方法:

Each class will be comprised of a lecture, a set of mini-projects and a group-presentation based on the assigned readings, and a discussion. A comprehension quiz based on the previous week's content might be conducted depending on a topic. The class is conducted both in English and Japanese depending on a topic. For example, when we discuss Japanese communication-style in a sociolinguistic/psycholinguistic perspective or comparative analysis, we will actively use Japanese language as a communication tool.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction: What is intercultural communication?	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	2. What is culture shock?	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	3. Dealing with culture shock (1)	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	4. Dealing with culture shock (2)	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	5. What is communication style?	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	6. What is verbal communication? (1)	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	7. What is verbal communication? (2)	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	8. What is non-verbal communication? (1)	Review of lecture and workshop notes, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	9. What is non-verbal communication? (2)	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	10. Identity and communication	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	11. Sociolinguistic perspectives: case study-US	Review of lecture and workshop notes, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	12. Sociolinguistic perspectives: case study-English vs. Japanese	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	13. Intercultural communication skill (1)	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	14. Intercultural communication skill (2)	Review of lecture notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
	15. Consolidation	Review all the lecture notes and mini-projects

受講者へのメッセージやアドバイス:

Some of the topics and reading assignments above may be subject to minor alternations.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback for each short quiz and mini-project in class and summative evaluation through a term test.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and participation	20	Students are expected to attend and participate actively by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
	Oral presentations and mini-projects	30	Students are expected to prepare for oral presentations as a group and all other in-class activities, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
	in-class quizzes	20	Students are expected to prepare for each quiz, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
	final exam	30	Students are expected to prepare for the test, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).

教科書:

Handouts

参考書:

References and other materials are to be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

Contact me by email, or see me before or after class or during my office hour.

授業テーマ:	Understanding key issues in comparative and international education		
授業の概要:	This course will enable you to understand that education system is an important part of social infrastructures and effective education policies can shape the way human resources develop for the advancement of a nation state.		
到達目標:	1. To gain knowledge about different perspectives and theories in comparative and international education 2. To be able to interpret and analyze educational issues in both developed and developing countries from different perspectives and theories 3. To understand the global trends shaping education and to critically think about the challenges facing education		
授業方法:	Lectures, presentations by students, and discussion will be combined.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. Orientation about the course		
	2. Structural-functionalist perspectives in comparative education: Modernization theory, Human capital formation theory	To read and understand handouts	
	3. Marxist Perspectives in comparative education: Dependency theory, Liberation theory	To read and understand handouts	
	4. Postmodernism and Poststructuralism, Reproduction Theory, Effective Schools	To read and understand handouts	
	5. Education around the world – presentation and discussion ①	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations	
	6. Education around the world – presentation and discussion ②	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations	
	7. Education around the world – presentation and discussion ③	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations	
	8. Education around the world – presentation and discussion ④	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations	
	9. Education around the world – presentation and discussion ⑤	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations	
	10. Education around the world – presentation and discussion ⑥	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations	
	11. Debate on educational issues	To prepare for the debate	
	12. How does educational attainment affect participation in the Labor Market? (from Education at a Glance 2016, OECD)	To read and understand handouts	
	13. What are the earnings advantage from Education? (from Education at a Glance 2016, OECD)	To read and understand handouts	
	14. How are social outcomes related to education? (from Education at a Glance 2016, OECD)	To read and understand handouts	
	15. Conclusions – What have we learned about the key issues in comparative and international education?		
受講者へのメッセージやアドバイス:	I hope this course will help you smoothly transition to your study abroad by understanding different education systems around the world.		
フィードバックの方法:	Midterm papers will be graded and returned with comments in class.		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class participation	40%	Attendance, active participation in class, presentations
	Midterm paper	30%	Understanding of education systems, writing skills
	Final paper	30%	Analytical skills applied to educational issues, writing skills
教科書:	Handouts will be distributed in class.		
参考書:	OECD (2016) Education at a Glance 2016: OECD Indicators. OECD Publishing. Phillips, D. & Schweisfurth, M. (2011) Comparative and International Education: An Introduction to Theory, Method, and Practice. Continuum. Stromquist, N. (2013) 'Women's education in the twenty-first century', in Arnove, R., Torres, C. and Franz, S. (eds), Comparative Education, Rowman & Littlefield Publishers, Inc. pp.175-200.		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	E-mail (emiyake@dwc.doshisha.ac.jp)		

授業テーマ:

International Relations in East Asia

授業の概要:

The East Asian region is perhaps the success story of post- World War Two economic development. And, as the economies of East Asia have become increasingly integrated, linkages between these societies have also become both deeper and broader.
However, the region is also facing considerable challenges. Security issues are dominant, examples being the Korean peninsula, and territorial disputes. Environmental/ natural resource issues provide another set of key challenges.

到達目標:

This course will begin by outlining the prominent theories of international relations, which will then become the tools we use to analyze the important issues and challenges facing Japan in East Asia. We will pick up a number of prominent case studies from contemporary East Asia, and investigate from the perspective of Japan's international relations.

授業方法:

This is a lecture course, but students are expected to actively participate in class discussions.
This course will utilize multimedia to facilitate learning, but more importantly, this course uses a student-centered approach to learning. This means that students are responsible for their learning.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	review Introduction read chapter one
	2. Social Science and International Relations	review chapter one read chapter two
	3. The Modern inter-state system	review chapter two read chapter three
	4. history and theory of IR-1	review chapter three, part one read chapter three, part two
	5. history and theory of IR-2	review chapter three, part two read chapter four
	6. Realism	review chapter four read chapter five
	7. Liberalism	review chapter five read chapter six
	8. Marxism	review chapter six read chapter seven
	9. Constructivism	review chapter seven read chapter eight
	10. Feminism	review chapter eight read chapter nine
	11. foreign policy	review chapter nine, part one read chapter nine, part two
	12. state actors	review chapter nine, part two read chapter ten, part one
	13. Non-state actors- 1	review chapter two, part one read chapter ten, part two
	14. Non-state actors- 2	review chapter ten, part two read conclusion
	15. Conclusions	review conclusion

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a challenging course. All students must do a considerable amount of reading before each class. This reading is essential!
Preparation is the key!

フィードバックの方法:

in-class discussion

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	mid-term test	40	essay style
	final test	40	essay style
	participation	20	in class discussions

教科書:

Noah Y. McCormack and Patrick W. Strefford
International Relations: A Concise Introduction
(Bookway)
ISBN: 978-4-86584-014-8

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

pstrefford@cc.kyoto-su.ac.jp

授業テーマ:

This course aims to introduce students to fundamental concepts, key issues, problems and some of the solutions businesses use across national borders to make their business operations successful. Non-business major students will learn a wide range of practical issues that international businesses must deal with to make their business operations successful. Among such issues are: the international business environment comprising different cultures, national legal and administrative systems, diverse customer preferences, organizational models and operational strategies. Practical case studies are used in this course to enhance students' understanding of the course content. It is therefore expected that in the process of acquiring business knowledge, students will also learn applicable terminologies, vocabulary and fluency necessary for working internationally.

授業の概要:

This course helps students to understand the role of international business in our daily lives. Through case studies of a range of businesses, from small organizations to large multinational companies, this course exposes students to the challenges and opportunities international business face in the contemporary global system.

到達目標:

This course seeks to introduce students to basic concepts in international business so that students can understand how international business operations work. By studying about international business, students are also expected to learn applicable key concepts and terminologies.

授業方法:

This course is taught through a combination of lecture and discussion method. Based on in-class discussion of content materials and lectures, students are expected to learn not only new knowledge, but also to improve their mastery of vocabulary, grammar and English fluency. Each lecture topic is accompanied by questions for discussions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to International Business	Reading
	2. Theories of International Business	Reading
	3. Case Study	Reading
	4. International Business and National Politics	Reading
	5. Global Organizational Frameworks for International Business	Reading
	6. Multinational Enterprises and Foreign Direct Investment	Reading
	7. Case Study & Mid-Term Test	
	8. National Cultures and International Business	Reading
	9. International Corporate Cultures	Reading
	10. International Human Resource Management	Reading
	11. Case Study	Reading
	12. Modes of Internationalization	Reading
	13. Organization of Multinational Enterprises	Reading
	14. Case Study	Reading
	15. Review and Final Test	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are required to do the assigned readings for each lecture session to allow them to fully understand content, and also to be able to actively participate in class discussions. In addition, students are encouraged to proactively access online learning resources for the main textbook to review each topic, to self-test, and gain some tips on how to revise learned material.

フィードバックの方法:

In-class revision sessions, and post-midterm test review session

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class Attendance and Class Discussion participation	20%	Attendance and Group Discussion (individual contribution)
	Mid-Term Test	40%	Written Test
	Final test	40%	Written Exam

教科書:

International Business: Challenges and Choices (Paperback- March 22, 2013. Authors: Alan Sitkin & Nick Bowen .Publisher: Oxford Univ Pr (Txt); 2 edition (March 22, 2013). ISBN-10: 0199646961, ISBN-13: 978-0199646968. Release Date: March 22, 2013

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

naimai@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

各国の観光への取組みと観光関連産業の概要及びビジネスの仕組

授業の概要:

観光は「平和へのパスポート」と呼ばれ、国際観光を振興することは単に経済的な効果だけでなく相互理解を深め国際平和への貢献も期待できる。この講義では、各国の観光振興への取組みと観光関連企業の活動について具体的な事例を基に学ぶことで、観光の基本的な知識を得、マーケティングを中心とした経営に関する理論についての理解を深める。また事例を通して成功要因を分析する思考力を身に付ける。

到達目標:

- ・観光の基本的な知識、成功要因の理解、ビジネス・モデルの理解、関連理論の理解
- ・新聞やテレビ、インターネットなどで取り上げられる観光に関する情報に関心をもつ。
- ・受け身で講義を聞くのではなく、自分自身で問題意識を持ち自分の頭で考える。
- ・小テストは自分の理解した内容を紙の上で表現するプレゼンテーションの場であると捉え、ポイントを的確かつわかりやすく表現する工夫をすること。

授業方法:

PowerPointによる講義を行う。前半の各国の観光への取組みでは、様々な観光形態の成功の要因について、後半の観光ビジネスでは、観光関連産業の概要とビジネスの仕組み及びビジネスを支える理論について、具体的な事例を基に学んでいく。講義の最後に学習した内容の理解を確認する小テストを行うことがある(3～4回程度)。なお、講義は日本語で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション／観光と観光学	以下を中心に復習しておくこと ①観光の定義、意義、構造など ②観光の発生と発達の背景
2.	国際観光動向とわが国におけるインバウンドへの取組み	以下を中心に復習しておくこと ①日本政府観光局のインバウンド誘致の活動 ②インバウンドで成功している地域の取組み
3.	世界遺産登録とその影響	以下を中心に復習しておくこと ①世界遺産の種類 ②登録による影響 ③世界遺産を管理するための方法
4.	各国の観光への取組み(1)MICEとIR	以下を中心に復習しておくこと シンガポールが成功した要因
5.	各国の観光への取組み(2)リゾート開発	以下を中心に復習しておくこと ①リゾートの種類 ②リゾート開発の方式 ③リゾートの事業形態
6.	各国の観光への取組み(3)民泊と農村観光(グリーンツーリズム)	以下を中心に復習しておくこと 民泊が地域に与える影響
7.	各国の観光への取組み(4)食と観光(フードツーリズム)	以下を中心に復習しておくこと フードツーリズムの構造
8.	各国の観光への取組み(5)医療と観光(メディカルツーリズム)	以下を中心に復習しておくこと ①メディカルツーリズムの発生要因 ②メディカルツーリズムの要件
9.	観光ビジネス(1)旅行業	以下を中心に復習しておくこと ①成功要因 ②関連理論
10.	観光ビジネス(2)宿泊業	以下を中心に復習しておくこと ①成功要因 ②関連理論
11.	観光ビジネス(3)航空輸送業	以下を中心に復習しておくこと ①成功要因 ②関連理論
12.	観光ビジネス(4)空港運営	以下を中心に復習しておくこと 空港民営化の形態
13.	観光ビジネス(5)鉄道事業	以下を中心に復習しておくこと ①開発利益の内部化のビジネス・モデル ②鉄道事業者の様々な取組み
14.	観光ビジネス(6)テーマパーク	以下を中心に復習しておくこと ①テーマパークの事業特性 ②ビジネス・モデル
15.	各回のポイントについての復習	必要があれば授業の際に質問できるよう、1～14回までに学習した内容について復習し、疑問点や理解が不足していると思われるところがないか確認しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

普段から日本をはじめとした様々な国・地域の観光や観光関連企業の活動に興味を持ち、テレビや新聞、インターネットのニュースや観光を取り上げた書籍、テレビ番組などの情報を集めておく。講義で学習した内容については、上記の準備学習等の内容を中心にポイントを整理しておくこと。

フィードバックの方法:

小テストについては、模範解答を実施翌週の講義でフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60	観光の基本的な知識や関連する理論などの理解度によって評価する。
	小テスト	40	講義のポイントの理解度によって評価する。

教科書:

参考書:

高橋一夫、大津正和、吉田順一編著、1からの観光、碩学舎
宗田好史、なぜイタリアの村は美しく元気なのか、学芸出版社
ケビン・フライバーグ、ジャッキー・フライバーグ著、小幡照雄訳、破天荒、日経BP社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡
方法:

Eメール: s-yamato@narapu.ac.jp

授業テーマ: A practical guide to feature writing in journalism and understanding how the media works

授業の概要: In International Journalism we will look at journalism in practice and theory. Features are just one component of journalism, but by studying them and writing our own features we will use the core concepts of journalism, drafting ideas, reporting, fact checking, gathering information and writing, to tell stories.
From a theoretical viewpoint we will look at how journalism works: which stories are told? who is telling them? how do we evaluate and trust sources? is journalism ever truly objective?

到達目標: Be able to write a feature of up 2,000 words
Understand the components of feature writing: pitching, drafting, interviewing, reporting and editing.
Understand the role of journalism and a journalist
Look at selected case studies to evaluate and critique how and who journalism works for in our societies

授業方法: Seminar and practical training

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Course introduction. Who we are (students and teacher) and what media to we consume?	Analyzing a feature I (assigned)
What is a feature and what makes a strong feature?	
How is journalism different to other forms of communication?	
2. Class discussion: in groups discuss feature assigned for h/w.	Objectivity and journalism: a strange, but necessary relationship (assigned)
Different types of features & where do feature ideas come from?	
Developing feature ideas	
3. Class discussion: between objectivity and subjectivity, when reporters become the story	Writing your pitch (assigned)
Pitching a story	
4. Pitch ideas in class (to class)	Analyzing a feature II (assigned)
Drafting your feature	
Kissha clubs in Japan: access journalism	
5. The components of a feature: Leads and nut-grafs	Prepare draft of first feature
Censorship: what is it and how is it enforced from North Korea to voluntary censorship?	
6. Interviewing techniques & Quotes	Analyzing a feature III and working on your own feature
The rise and fall of fake news – class discussion	
7. Style guide: how to write everything from numbers, dates and titles in journalism	Finish first draft of feature (up to 1,500 words)
8. Reading and editing first drafts	Finish first draft
Class discussion: are journalists trusted? Is journalism trustworthy? Why this matters?	
9. Hand in final version of first feature	Analyzing a feature III
Leaks and whistle blowers: the role of the internet in journalism	
10. Teaming up: Feature 2, in pairs, up to 2,000 words.	Develop at least two pitches for feature 2, to be presented in next class
Developing ideas	
11. Class discussion: social media and journalism, – the role of 'citizen reporters'	Analyzing a feature IV
Pitch feature 2	
12. Feature 2: problems and troubleshooting I	Work on feature 2
Class discussion: ethics in journalism 1	
13. Turn in first draft of feature 2	Analyzing a feature V
Class discussion: ethics in journalism 2	
14. Return first draft	Work on edits in Feature 2
Class discussion: The media's role in the rise of Donald Trump and the assault on facts and the truth	
15. Turn in final draft (results to be given on Manavi)	
Class discussion on key topics of the course: feature writing, the role of journalism in our lives, and story telling	

受講者へのメッセージやアドバイス: It would be desirable if students could follow the news media as much as possible, both in Japan and international news.

フィードバックの方法: Return to students with comments in class room, explanations in class room and using Manavi.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Class attendance	15	Please try to attend all classes
	Features (x2)	50	Your features will be graded
	Class discussions and presentation	35	Your participation in class is vital, especially in class discussion

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法: class room consultation
jj.odonoghue@gmail.com

授業テーマ:

Introduction to Linguistics: Core topic for the study of language

授業の概要:

This course serves as an introduction to linguistics and provides a general overview of several issues concerning related areas. Students are expected to develop the following skills through the course: (1) to understand important key terms and concepts of linguistics and (2) to improve an output of oral presentation focusing on the related topics based on their own interest.

到達目標:

Students are expected to (1) understand basic ideas on Linguistics and (2) apply the contents of the class activities based on the group-oriented methods to their own presentation.

授業方法:

The course is divided into two parts: the lecture in English and Japanese) delivered by the instructor and the presentation (in English) given by a student (or students).

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Orientation	Read related topics of the textbook.
	2. Some Properties of Language	Read related topics of the textbook.
	3. Sound (basics: Phonetics)	Read related topics of the textbook.
	4. Sound (basics: Phonology)	Read related topics of the textbook.
	5. Sound (applications)	Read related topics of the textbook.
	6. Word (basics: Morphology)	Read related topics of the textbook.
	7. Word (basics: Word Formation)	Read related topics of the textbook.
	8. Word (applications)	Read related topics of the textbook.
	9. Sentence (basics: definitions of grammar)	Read related topics of the textbook.
	10. Sentence (basics: Generative grammar)	Read related topics of the textbook.
	11. Sentence (applications)	Read related topics of the textbook.
	12. Meaning (basics: Semantics)	Read related topics of the textbook.
	13. Meaning (basics: Pragmatics)	Read related topics of the textbook.
	14. Meaning (applications)	Read related topics of the textbook.
	15. Summary	Read related topics of the textbook.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to fully prepare for and review the contents of the class activities based on the group-oriented methods.

フィードバックの方法:

Feedback will be given at the beginning of each class to review important points and issues in the last class.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Class participation including attendance:	20	Students will be partly graded on attendance and class participation. Students absent from more than one-third of the classes will NOT be allowed to take the final examination.
	Oral presentation	30	Students will be partly graded on discussion, oral presentation, quizzes during the class.
	Final examination	50	Students will be partly graded on the final exam.

教科書:

石黒昭博・山内信幸他『現代の言語学』金星堂

参考書:

References and other materials are to be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power, Presentation skill, Communication skill, Ability of self-realization

教員との連絡方法:

Contact by email: nyamauch@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

Let's master English sound system theoretically and practically!

授業の概要:

This course provides students with the basic knowledge and ground rules of English sound sytem. Together with the theoretical presentation of speech production mechanism and peimary phonetic terminology, students will get extensive training on English pronunciation and phonetic transcription (namely the International Phonetic Alphabet) throughout the course.

到達目標:

Upon successful completion of this course, students will be able to:
(1) understand and describe basic theoretical concepts in English sound system
(2) acquire expertise in analyzing phonological phenomena to become familiar with English pronunciation
(3) use the phonetic alphabets as a tool to improve pronunciation
(4) and of course, improve English pronunciation

授業方法:

This is a lecture course. However, in order to acquire practical knowledge on the English sound mechanism and skills to listen accurately and speak fluently, plenty of try-outs time for pronouncing English sounds will be provided in each session. The classes will be conducted in both English and Japanese, depending on a topic. Students are strongly advised to use English to check and reform their own English pronunciation; as well as to use Japanese (or their first language) to cognitively check and reform their understanding of expertise and sound mechanisms. Active participation will be crucial.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction of the course: What is the study of phonetics? What is articulatory phonetics?	Read the syllabus. Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.2-7, handouts)
2.	Airstream mechanisms: What is abdominal breathing? What are the vocal organs?	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.8-12, 181-183, handouts)
3.	English dialects and world Englishes	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.17,18-20, 163-170, handouts)
4.	Phonetic transcriptions	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.17, 18-20, 181-183, handouts)
5.	Transcription and articulation of vowel sounds	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.12, 25-54)
6.	Places and manners of articulation of consonants	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.12, 55-85)
7.	Phones and allophones, complementary distribution	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.12, 20-21, 55-85, handouts)
8.	Midterm test	Review of the lecture notes from weeks 1-7
9.	Stress and rhythm (1)	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.88-103, handouts)
10.	Stress and rhythm (2)	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.94-103, handouts)
11.	Sound reduction	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.104-112, handouts)
12.	Coarticulation and linking	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.113-120, handouts)
13.	Stress, rhythm, and intonation	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.121-133, handouts)
14.	What is acoustic phonetics? What is auditory phonetics?	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.136-155, handouts)
15.	Conclusion	Review of the lecture notes from weeks 9-14.

受講者へのメッセージやアドバイス:

英語の音について理論的に学び、かつ実践的な発音指導、発音矯正ワークショップも伴う授業である。積極的な参加姿勢を期待する。

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback for each short quiz and in-class activity and summative evaluation through miterm and final.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and participation	40	Students are expected to attend and participate actively by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2), (3) and (4).
	Midterm	30	Students are expected to prepare for the midterm test, in order to achieve the course objectives (1), (2), (3) and (4).
	Final	30	Students are expected to prepare for the final test, in order to achieve the course objectives (1), (2), (3) and (4).

教科書:

佐藤 寧・佐藤 努『現代の英語音声学』(金星堂)
K. Yoshida ed., English Sounds & Penmanship, Bun-eido
Handouts

参考書:

Peter Ladefoged& Keith Johnson, A Course in Phonetics (7th edition), 2014, Wadsworth Pub Co.
To be announced in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

Contact me by email, or see me before or after class or during my office hour.

授業テーマ:

An exploration of interrelationship between languages and societies focusing especially on English-speaking societies and cultures.

授業の概要:

This course examines the complex relationship between culture and language. After completing an overview of the major issues in the field of sociolinguistics, the class will focus on the interplay of culture and language in the formation of social identities and modes of communication. Topics will include how language shapes perceptions, the effects of geography and class on language, the role of gender differences on language usage, and language standardization.

到達目標:

The course objectives for this course are to encourage students to reflect carefully on the issues presented in the readings. The course also aims to improve English-language ability. Weekly reading passages and related homework assignments, brief lectures, and student-led discussions are designed to improve each of the four basic language skills.

授業方法:

The instructor will lecture briefly each week to introduce the next week’s topic and help the students to become familiar with major concepts addressed each week. The majority of each session will be devoted to student-centered discussion.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: Defining the issues in sociolinguists	Ronald Wardhaugh. “Language and Culture” from An Introduction to Sociolinguists, p. 215–36
2.	Linguistic relativity: How far the Whorfian Hypothesis?	“But Is It Language?” from Scope p. 50–54 and the video “Can Apes Really Talk?” from Slate Magazine
3.	The nature of language: Can apes really talk?	“Language as a Weapon” and “A Global Role for the Japanese Language” from Suzuki Takao’s Reflections on Japanese Language and Culture, p. 119–134
4.	Language, the state and culture: What is to become of the Japanese language?	Tsuda Yukio. “Critical Studies of the Dominance of English and the Implications for International Communications” from “The Japanese and the English Language: An Interdisciplinary Study of Anglicized (Americanized) Japan” in Japan Review No. 10 (1998), p. 219–36 and “Stop Being ‘Happy Slaves’ of English Hegemony” from Asahi Evening News
5.	The Politics of English: Dominated languages and cultures	Johnny Cash. “A Boy Named Sue”: YouTube Video
6.	Naming Practices and dialects: “A Boy Named Sue”	Review of the readings and topics from first weeks of the course
7.	Mid-term review of topics and quiz	Anna Wierzbicka. “Are Emotions Universal or Culture-Specific?” and “Describing the Indescribable” in Semantics, Culture and Cognition: Universal Concepts in Culture-Specific Configurations Oxford University Press
8.	Language and emotion: Do Americans know setsunasa?	“Language and Gender,” from Ronald Wardhaugh’s An Introduction to Sociolinguistics, p. 309–24
9.	Language and gender differences:	“The Sex Difference Evangelists: The Next Best-seller” by Amanda Schaffer in Slate and Slate V Videocast: “Sex Difference: The Science”
10.	Language and gender (continued): Sex Difference Evangelists	“Language and Disadvantage” in Ronald Wardhaugh. An Introduction to Sociolinguistics, pp. 325–31, ‘Why Can’t the English Learn to Speak?’ From My Fair Lady: YouTube & text
11.	Language and disadvantage: Questions of class and race	Stanley M. Novak. “American Shibboleth: Ebonics” and/or Ronald Alan Perry. “African American English”
12.	Black English: The Ebonics plague?	“The N-word and Richard Pryor,” “Should [the] Worst Racial Slur be in the Dictionary?” and “The N-word” from the On The Media website, and “The Word Nigger: Richard Pryor & George Carlin” on YouTube
13.	Taboo Tongues: The N word in America.	“Australian English” from Anna Wierzbicka, Semantics, Culture and Cognition: Universal Concepts in Configurations, p. 373–394
14.	How many Englishes?: The Australian case.	Review of major concepts and readings from the second half of the course
15.	Conclusion: Final review quiz	

受講者へのメッセージやアドバイス:

The readings for this class are very challenging, but the content should prove rewarding to all who struggle with it.

フィードバックの方法:

Homework assignments and quizzes will be returned to students with written comments.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Participation and attitude	30%	Degree and quality of participation in classroom activities such as discussions
	Homework	30%	Quality and completeness of responses to homework assignments
	Quizzes	40%	Quality of responses to midterm and final review quizzes

教科書:

Students are not required to purchase a textbook. Students will be supplied readings on a weekly basis.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Please contact the instructor prior to or after class to arrange a meeting.

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

This is an introductory course covering basic principles and approaches of modern English language education.

The aims of this course are to introduce common approaches used in modern language education. By the end of the course, students will have been exposed to important educational themes such as: the history and development of language pedagogy, the current movement towards communicative instruction, provision of meaningful feedback to language learners, and basic assessment principles.

Most lessons will consist of three components: an introductory lecture to the lesson's theme, group discussion of questions relating to that theme and assigned readings, and a practicum-type activity in which the theory being studied is then implemented in a concrete fashion by the students. Students will also need to keep a reaction journal in which they respond to readings related to pedagogical principles under study.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Course introduction	Reading and/or journal assignment
	2. A history of language pedagogy	Reading and/or journal assignment
	3. Current language pedagogy: Japanese and Western approaches	Reading and/or journal assignment
	4. Current language pedagogy: Passive skills (reading and listening)	Reading and/or journal assignment
	5. Current language pedagogy: Active skills (speaking and writing)	Reading and/or journal assignment
	6. Current language pedagogy: Communicative approaches	Preparation for mid-term project
	7. Mid-term group project presentations	Preparation for mid-term project
	8. Mid-term group project presentations	Reading and/or journal assignment
	9. Current language pedagogy: Providing feedback	Reading and/or journal assignment
	10. Current language pedagogy: Introduction to assessment	Reading and/or journal assignment
	11. Current language pedagogy: Rubrics and assessment	Reading and/or journal assignment
	12. Current language pedagogy: Testing and assessment	Reading and/or journal assignment
	13. Preparation for final project	Preparation for final project
	14. Final project	Preparation for final project
	15. Final project	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

This course will be taught entirely in English. Students are expected to participate in English to the best of their ability.

Feedback will be provided through individual comments on written work (journals) and scores and comments on groupwork (mid-term project) and individual projects (final assignment).

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance	20	No more than 3 absences allowed
	Journal assignments	40	Response (both in writing and class discussion) to weekly articles related to education
	Mid-term project	20	A group assignment related to educational approaches
	Final project	20	

教科書:

Class materials will be prepared and distributed by the instructor.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

pneff@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	Discuss bilingualism bilingually!		
授業の概要:	This seminar course deals with topics of bilingualism and bilingual education. In particular, it focuses on bilingual people in Japan, theories of bilingualism, and cognitive aspects of bilingualism. Since students have learned English not only in Japan but also English-speaking countries before choosing this course, their experiences of learning help them understand bilingualism, bilingual education, and second language education. A second purpose of this course is to develop both English and Japanese academic skills. They must read English and Japanese materials before class, present their task in English or Japanese, and discuss in English or Japanese. Students are required to read a ten-page English and Japanese paper and chapter of a book.		
到達目標:	(1) To be able to have a presentation about bilingualism; (2) To have basic knowledge about bilingualism; (3) To read a paper on bilingualism correctly and critically; (4) To have discussions about topics of each class in Japanese and English; (5) To write a report on bilingualism.		
授業方法:	In this course every class has its own themes written below. Students are required to read a paper on bilingualism or second language acquisition before class. Both Japanese and English papers are used in this course. When Japanese papers are used in class, students are required to do assignments and discuss in English. On the other hand, students use Japanese when they are given English materials. Thus, both English and Japanese are used in class. Class is conducted bilingually. The class is conducted the following order: students' presentation of a topic of class, questions and answers about the presentation, and discussions about topics given before. All students must have a presentation once in the course.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. Introduction of the course: Objectives of this course; Assignments; Group making; Assessment.		To read a syllabus and understand the content of the course.
	2. What is bilingual? How do you measure bilingual abilities?		To read a paper on the definition of bilingual and classify bilingual people and prepare for discussion in English.
	3. Is it possible for Japanese people to become bilingual?		To read a mini paper in Japanese and prepare for discussion in English.
	4. Is it possible for minority people in Japan to become bilingual?		To read a mini paper in Japanese and prepare for discussion in English.
	5. Misunderstanding about bilingual people and bilingualism.		To read a mini paper in Japanese and prepare for discussion in English.
	6. Is it possible for Korean people in Japan to become bilingual?		To read a mini paper in Japanese and prepare for discussion in English.
	7. Theories of bilingualism 1 (バイリンガルに関する理論): the Balanced Theory (均衡仮説)		To read a part of a book on Balanced Theory and prepare for discussion in Japanese.
	8. Theories of bilingualism 2 (バイリンガルに関する理論): Common Underlying Proficiency Model (共有基底言語能力モデル)		To read a part of a book on the Common Underlying Proficiency Model and prepare for discussion in Japanese.
	9. Theories of bilingualism 3 (バイリンガルに関する理論): Thresholds Theory (しきい理論)		To read a part of a book on the Thresholds Theory and prepare for discussion in Japanese.
	10. The Role of Code Switching and Code Mixing (言語切り替え): Why do people switch languages when they are speaking?		To read a part of a book on the role of code switching and code mixing and prepare for discussion in Japanese.
	11. Discussion in Japanese: Do you think bilinguals are superior to monolinguals in terms of intelligence?		To read a part of a book on the relationship between monolinguals and intelligence in Japanese.
	12. Discussion in English: Are bilinguals superior to monolinguals in terms of metalinguistic awareness (メタ言語意識)?		To read a part of a book on the role of metalinguistic awareness and prepare for discussion in Japanese.
	13. Discussion in English: Are bilinguals superior to monolinguals in terms of communication sensitivity?		To read a part of a book on communication sensitivity between monolinguals and bilinguals and prepare for discussion in Japanese.
	14. Mini-project 1: To create a research question and summarize literature review on it.		To create a research question and summarize literature review on it.
	15. Mini-project 2: To review a research question and examine literature review on it.		To review a research question and literature review on it.
受講者へのメッセージやアドバイス:	Students need to prepare for class for about an hour for every class. Without sufficient preparation, they cannot join discussions in class.		
フィードバックの方法:	In every class, students are required to submit assignment worksheets prepared before class. The worksheets are given back to them next week with some comments by an instructor. A final report is assessed and comments are given through Manabi.		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Oral presentation	20	Based on the course objective (1), students' oral presentation skills are evaluated from the viewpoint of content and English.
	Assignment and mini project	20	Based on the course objective (2), students' home worksheets are evaluated to what extent they prepare for class.
	Participation & Discussion in class	20	Based on the course objectives (3) & (4), students' participation and discussion skill are evaluated to what extent they get involved in them.
	Report	40	Based on the course objective (5), students' reports are evaluated from the viewpoints of content, originality, and English.
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		

教員との連絡
方法:

E-mail、マナビー

授業テーマ:

Theory and Practice of Global Leadership

授業の概要:

This course is an introduction to the study of leadership theories and their applications in a global perspective. Throughout the course, we will inquire what makes an effective leader from various points of view.

到達目標:

At the end of the course, the students will:
1. have a better understanding of basic leadership theories.
2. understand how to apply different leadership theories to various business situations.
3. gain some insights into their own leadership styles.

授業方法:

Active Learning – Classes will consist of lectures, group discussions, presentations and activities. First, each leadership theory will be explained in a lecture format. Then a series of discussions, pair work and group activities will be undertaken. Classes will be interactive, allowing the students to ask and answer questions.

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction	Reading, summary writing, and discussion preparation
	2. Global Jinzai – Does it affect me? Globalization – Does it affect me?	Reading, summary writing, and discussion preparation
	3. Changing Leadership Styles	Reading, summary writing, and discussion preparation
	4. Grit – Perseverance over time	Reading, summary writing, and discussion preparation
	5. Zest For Life	Reading, summary writing, and discussion preparation
	6. What is Confidence?	Reading, summary writing, and discussion preparation
	7. Confidence – Boosting vs Developing	Reading, summary writing, and discussion preparation
	8. Confidence – The Confidence Gap	Reading, summary writing, and discussion preparation
	9. Mindsets – Fixed vs Growth	Reading, summary writing, and discussion preparation
	10. Ambition – Want vs Deserve	Reading, summary writing, and discussion preparation
	11. Emotional Intelligence	Reading, summary writing, and discussion preparation
	12. Gravitas – A Top 3 Leadership Trait Japanese CEOs	Reading, summary writing, and discussion preparation
	13. New Corporate Leaders – Uniqlo, Rakuten	Reading, summary writing, and discussion preparation
	14. Nadeshiko Brand	Reading, summary writing, and discussion preparation
	15. Humor and Leadership	Reading, summary writing, and discussion preparation

受講者への
メッセージや
アドバイス:

As you prepare to enter society, there are many lessons to be taken from this course that can immediately be applied to the business world.

フィードバックの
方法:

Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, and by recording themselves and analyzing output.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
	Homework	40	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
	Final Project	30	Final project assessment is based on a rubric addressing contents and delivery.

教科書:

No textbook. There are handouts and online PDFs.

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Send Email to Steven Herder
sherder@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

ミュージカル・プロダクション・プロジェクト
『The Sound of Music』より「Do-Re-Mi」の舞台上演

授業の概要:

この授業は、学芸学部の音楽学科、情報メディア学科、国際教養学科の3学科の学生がミュージカル上演という1つの同じ目標に向かって共同研究と協働制作に取り組む、「ミュージカル・プロダクション・プロジェクト」である。最終目標として、ブロードウェイ・ミュージカル、『The Sound of Music』より「Do-Re-Mi(ドレミの歌)」のフルコーラスを含むシーンの英語による舞台上演を試みる。英語音声表現(発声・発音)、歌唱、身体表現(ダンス振付)、演技指導、ステージデザイン、広報デザイン、ドキュメンテーション(RTV)など、様々な角度からプロジェクトを組み、上演に向けてすべてを自分たちで作りあげていく。それぞれに学びの特徴を持つ3学科の特性の融合と交流の可能性を最大限に活かし、舞台上演するキャストとそれを裏舞台で支えるスタッフとして一致団結してエンターテインメント性に富んだミュージカル・パフォーマンスを創造してほしい。
受講に際して、舞台上での歌唱や演技経験、英語スキル、および舞台製作の経験の有無等は問わない。エンターテインメント性に富んだミュージカル上演を成功させるために、各々が自分の技能やスキルを活かし、または新しいスキルの開拓に尽力し、コラボレーションの中にやりがいを見出し、ステージ・クラブティングを楽しみ、意欲的にプロジェクトに取り組む姿勢と心構えを期待する。

到達目標:

(1)ミュージカル『The Sound of Music』より「Do-Re-Mi(ドレミの歌)」を含むシーンの英語による舞台上演をおこなう。
(2)キャストとスタッフの様々なプロジェクトのワーキング・グループにより、ミュージカル上演に向けた共同研究と協働作業をおこなう。
(3)ミュージカル制作過程を「相手の意見に耳を傾けながら、自分の意思や発想を相手に伝え、協働し目標を達成していく」訓練の機会であると意識的に捉え、自身のコミュニケーション・ストラテジーを開拓し、各プロジェクトにおいてそれぞれがリーダーシップの構築を試み、自己効力感を高める。

授業方法:

(1)作品研究、脚本分析、背景知識(歴史・社会・文化背景・英語・ホディーランゲージ)などは、学期が始まる前に反転授業として全体およびグループ別の事前学習をおこなう。
(2)歌唱、英語、ボイス・トレーニング、演出、振付、ドキュメンテーション、ステージ・デザイン、広報(DTP)などは、ワークショップ形式での全体指導に加えて各プロジェクト・グループでディスカッションと情報交換を密にする。各学科の教員(プロフェッショナル)による講義と指導により学生リーダーを養成し、peer coachingをおこなう。
(3)キャスト(配役)およびスタッフの決定は、希望を募り必要に応じて簡単なオーディションを実施する。
(4)各プロジェクトの成果を結集させリハーサルを繰り返し、最終の上演を12月に予定する。
(5)上演後は、ビデオを観て振り返りをおこなう。作品研究と背景研究成果、各プロジェクト作業はレポートにまとめる。制作から上演までの過程は、RTV(リアルタイム・ビデオ)としてドキュメンテーション・ビデオを制作する。
(6)授業は日本語で進める。ただし、英語の脚本はすべて英語で書かれたものを使用する。発音指導やプレゼンテーション指導も英語(台本)を使用することから英語に触れる機会は比較的多い。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. イントロダクション 上演に必要な舞台知識 キャスティングおよびスタッフ決定	事前学習として作品と台本の内容および各スタッフ作業の内容を十分に理解しておく。
2. 歌唱指導、英語指導、ドキュメンテーション指導(各プロフェッショナルによるオリエンテーション)	学んだことの復習と次回への準備
3. 各プロジェクトによる共同・協働作業、ディスカッション、情報共有 英語と演技指導	学んだことの復習と次回への準備
4. 各プロジェクトによる共同・協働作業、ディスカッション、情報共有 英語と演技指導	学んだことの復習と次回への準備
5. 各プロジェクトによる共同・協働作業、ディスカッション、情報共有 英語と演技指導	学んだことの復習と次回への準備
6. 各プロジェクトによる共同・協働作業、ディスカッション、情報共有 英語と演技指導	学んだことの復習と次回への準備
7. 歌唱指導、英語指導、ドキュメンテーション指導(各プロフェッショナルによる見極めと指導)	学んだことの復習と次回への準備
8. リハーサルと振り返り 各プロジェクト・ワーク	学んだことの復習と次回への準備
9. リハーサルと振り返り 各プロジェクト・ワーク	学んだことの復習と次回への準備
10. リハーサルと振り返り 各プロジェクト・ワーク	学んだことの復習と次回への準備
11. リハーサルと振り返り 各プロジェクト・ワーク	学んだことの復習と次回への準備
12. ドレス・リハーサル ゲネ・プロ	学んだことの復習と次回への準備
13. ミュージカル上演	学んだことの総復習と最終上演への準備
14. ビデオ鑑賞と振り返り 各プロジェクト・ワークのまとめとドキュメンテーション(RTV)の編集	学んだことの復習と次回への準備
15. まとめ	最終成果をレポートにまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

15週の限られた期間で制作からリハーサルを経て上演までをおこなう試みである。第1回目の授業からミュージカル制作の実働に取り組むため、秋学期開始前に受講者の顔合わせと事前指導を実施する予定である。実施要領については追って連絡する。また、リハーサルの日程や内容は進捗状況により変動することがあるため、掲示やEメールをよく確認すること。演技・役柄、振付、各スタッフ・ワークに応じた服装と履物で授業に臨むこと。各プロジェクト間での情報共有を密にすること。英語によるミュージカル・パフォーマンスを成功させるための共同研究と協働作業が必須となるので、受講者一人ひとりが受け身ではなく積極的に仲間と関わり、交流を楽しみ、意欲的にプロジェクトに取り組む姿勢と心構えをなによりも期待する。

フィードバックの方法:

英語、演技、歌唱指導などは、ワークショップ形式の全体指導とキャストに対する個別指導によりフィードバックをおこなう。また、英語、歌唱、ドキュメンテーション等の指導者(プロフェッショナル教員)が重点的に学生リーダーを養成することにより、peer coaching(学生間でのコーチング)も可能にする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業への積極的参加度	40	積極的に授業に参加し、到達目標(1),(2),(3)が達成できたかを評価する。
ミュージカルへの取り組み	40	各プロジェクトにおける創造的な表現活動の積極性に重点を置き、到達目標(1),(2),(3)が達成できたかを評価する。
レポート	20	到達目標(1),(2),(3)について、どの程度独自の視点を論理的かつ説得力をもって表明できるかを基準とする。

教科書:

配布資料

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

オフィスアワー、授業の前後に教室内で対応、Eメール

授業テーマ:

国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。

授業の概要:

国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。また、留学に必要な英語能力を証明するためのテストであるTOEFLについて理解し、国際教養留学先となる国と協定留学大学について知る。

到達目標:

(1) 国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。
(2) TOEFLを知り、留学先を知る。

授業方法:

ビデオ(オンライン)視聴を反転授業として事前に課す、もしくは授業内でのビデオ視聴を踏まえ、講義および討論を行う。TOEFL受験に関しては、アカウント作成等の事前準備をワークショップ形式で指導し、実際のTOEFL受験に際しての各種手続きを各自が責任を持って遂行できるように備える。講義の欠席者や大幅な遅刻のあった学生には同講義の録画DVD視聴とそれに関するレポートを課し、「学期内の挽回」を図らせる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
2.	留学のための基礎知識(CIEE)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
3.	TOEFL iBT アカウント作成説明会	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
4.	国別留学先説明会(オセアニア)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
5.	TOEFL Complete Practice Test	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
6.	TOEFL iBT (1) 受験	テストの準備をする。
7.	国別留学先説明会(アメリカ)(1)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
8.	国別留学先説明会(アメリカ)(2)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
9.	国別留学先説明会(イギリス)(1)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
10.	国別留学先説明会(イギリス)(2)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
11.	UAFS-DIS パネルディスカッション	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
12.	TOEFL ITP 受験(団体受験)	テストの準備をする。
13.	国別留学先説明会(カナダ)(1)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
14.	国別留学先説明会(カナダ)(2)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
15.	総括	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

上記の15回の授業内容に加えて、「留学のための基礎知識」に関する説明会を1回実施する予定である。留学に関する各種手続きを適正に行うための必須事項であり、出席を求める。

フィードバックの方法:

国別留学先説明会の回に提出する課題は、提出状況と内容をチェックして担当者から次の授業内で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	100	(1)積極的に授業に参加し、到達目標(1),(2)の理解度により評価する。 (2)出欠確認を厳格に行い、原則、出席および課題提出がすべて行われれば100点とする。 (3)欠席1回につき13点を、遅刻1回につき7点を減じ、合計が60点を下回った場合は、単位を与えない。 (4)体調不良等でやむを得ず欠席もしくは遅刻した場合でも、録画DVD視聴およびレポート提出が指示され、開講学期内にこれが行われた場合は出席扱いとし、減点も行わない。 (5)私語や居眠りなど、受講態度に著しい問題のあるときは、欠席もしくは遅刻と同等の評価を行う。 (6)初回「イントロダクション」および最終回「総括」を欠席もしくは遅刻し、学期内の挽回を行わなかった場合は、単位を与えない。

教科書:

Handouts

参考書:

適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、授業の前後に教室内で対応、Eメール

授業テーマ:

国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。

授業の概要:

国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。また、留学に必須となる英語能力を証明するためのテストであるTOEFLの得点向上を目指し、国際教養留学先の選定を行う。

到達目標:

(1) 国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。
(2) TOEFLの得点向上を目指す。
(3) 国際教養留学先の選定を行う。

授業方法:

講義およびグループ討論を行う。TOEFL受験は、各種手続きを各自が責任を持って遂行する。講義の欠席者や大幅な遅刻のあった学生には同講義の録画DVD視聴とそれに関するレポートを課し、「学期内の挽回」を図らせる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
2.	留学先情報の読み方 (1)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
3.	留学先情報の読み方 (2)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
4.	英語による個人情報の記載方法	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
5.	留学先選択に関する個別指導面談	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
6.	国際教養留学報告会 (1)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
7.	国際教養留学報告会 (2)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
8.	3年次生・4年次生による留学先大学別説明会 (1)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
9.	3年次生・4年次生による留学先大学別説明会 (2)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
10.	国際教養留学説明会 (1)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
11.	TOEFL iBT (2) 受験 (各自申し込み)	テストの準備をする。
12.	3年次生・4年次生による留学先大学別説明会 (3)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
13.	3年次生・4年次生による留学先大学別説明会 (4)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
14.	国際教養留学説明会 (2)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
15.	総括	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

上記の授業内容に加えて、「留学先担当者による説明会」が複数回催されるが、その出席は任意とする。

フィードバックの方法:

留学先大学別説明会の回に提出する課題は、提出状況と内容をチェックして担当者から後の授業内で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	100	(1) 積極的に授業に参加し、到達目標(1),(2)の理解度により評価する。 (2) 出欠確認を厳格に行い、原則、出席および課題提出がすべて行われれば100点とする。 (3) 欠席1回につき13点を、遅刻1回につき7点を減じ、合計が60点を下回った場合は、単位を与えない。 (4) 体調不良等でやむを得ず欠席もしくは遅刻した場合でも、録画DVD視聴およびレポート提出が指示され、開講学期内にこれが行われた場合は出席扱いとし、減点も行わない。 (5) 私語や居眠りなど、受講態度に著しい問題のあるときは、欠席もしくは遅刻と同等の評価を行う。 (6) 初回「イントロダクション」および最終回「総括」を欠席もしくは遅刻し、学期内の挽回を行わなかった場合は、単位を与えない。

教科書:

配布資料

参考書:

適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、授業の前後に教室内で対応、Eメール

授業テーマ:	マルチメディアの心理学的側面の研究																																	
授業の概要:	印刷や放送という媒体は、19世紀から20世紀にかけての近代文化に大きな影響を与えてきました。これらの媒体は、情報を大量に複製できる特性から、大衆メディア(新聞、ラジオ、テレビなどのマスメディア)を発展させました。近年のパーソナルなコンピュータ環境と高速大容量のインターネットの普及は、新しいメディアを通して、wwwやSNSによる新しい文化の表現形やスマフォ文化と呼ばれる現象を産み出しつつあります。																																	
到達目標:	この演習では、私たちが新しいメディア社会からどのような影響を受けてきているのかについて心理学的側面から考察していきたい。																																	
授業方法:	演習、プレゼンテーションを組み合わせる。																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 教育メディアとしてのマルチメディア</td><td>マルチメディアと教育 加藤 潤</td></tr><tr><td>2. 教育と情報</td><td></td></tr><tr><td>3. マルチメディア表現</td><td>第三版 入門マルチメディア 西原清一</td></tr><tr><td>4. マルチメディアとプレゼンテーション1</td><td>アウトライナー実践入門 ～「書く・考える・生活する」創造的アウトライン・プロセッシングの技術</td></tr><tr><td>5. マルチメディアとプレゼンテーション2</td><td>同上</td></tr><tr><td>6. 視覚情報メディア</td><td>視覚心理入門―基礎から応用視覚まで 単行本 映像情報メディア学会</td></tr><tr><td>7. 色覚とマルチメディア</td><td>マンガでわかる色のおもしろ心理学 サイエンス・アイ新書</td></tr><tr><td>8. 錯視とマルチメディア</td><td>別冊日経サイエンス(#198)「脳が生み出すイリュージョン」</td></tr><tr><td>9. 聴覚とマルチメディア</td><td>言葉をおぼえるしくみ: 母語から外国語まで (ちくま学芸文庫)</td></tr><tr><td>10. MIDI</td><td></td></tr><tr><td>11. デジタル音源とmp3</td><td></td></tr><tr><td>12. 動画の種類と処理</td><td>大人の科学 Vol.15「紙フィルム映写機」</td></tr><tr><td>13. インターネットにおけるマルチメディア表現</td><td></td></tr><tr><td>14. wwwとイメージ表象</td><td></td></tr><tr><td>15. インタラクティブなメディア</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 教育メディアとしてのマルチメディア	マルチメディアと教育 加藤 潤	2. 教育と情報		3. マルチメディア表現	第三版 入門マルチメディア 西原清一	4. マルチメディアとプレゼンテーション1	アウトライナー実践入門 ～「書く・考える・生活する」創造的アウトライン・プロセッシングの技術	5. マルチメディアとプレゼンテーション2	同上	6. 視覚情報メディア	視覚心理入門―基礎から応用視覚まで 単行本 映像情報メディア学会	7. 色覚とマルチメディア	マンガでわかる色のおもしろ心理学 サイエンス・アイ新書	8. 錯視とマルチメディア	別冊日経サイエンス(#198)「脳が生み出すイリュージョン」	9. 聴覚とマルチメディア	言葉をおぼえるしくみ: 母語から外国語まで (ちくま学芸文庫)	10. MIDI		11. デジタル音源とmp3		12. 動画の種類と処理	大人の科学 Vol.15「紙フィルム映写機」	13. インターネットにおけるマルチメディア表現		14. wwwとイメージ表象		15. インタラクティブなメディア		
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 教育メディアとしてのマルチメディア	マルチメディアと教育 加藤 潤																																	
2. 教育と情報																																		
3. マルチメディア表現	第三版 入門マルチメディア 西原清一																																	
4. マルチメディアとプレゼンテーション1	アウトライナー実践入門 ～「書く・考える・生活する」創造的アウトライン・プロセッシングの技術																																	
5. マルチメディアとプレゼンテーション2	同上																																	
6. 視覚情報メディア	視覚心理入門―基礎から応用視覚まで 単行本 映像情報メディア学会																																	
7. 色覚とマルチメディア	マンガでわかる色のおもしろ心理学 サイエンス・アイ新書																																	
8. 錯視とマルチメディア	別冊日経サイエンス(#198)「脳が生み出すイリュージョン」																																	
9. 聴覚とマルチメディア	言葉をおぼえるしくみ: 母語から外国語まで (ちくま学芸文庫)																																	
10. MIDI																																		
11. デジタル音源とmp3																																		
12. 動画の種類と処理	大人の科学 Vol.15「紙フィルム映写機」																																	
13. インターネットにおけるマルチメディア表現																																		
14. wwwとイメージ表象																																		
15. インタラクティブなメディア																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																		
フィードバックの方法:	教室で個々に解説する																																	
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																															
「成績評価基準」:	演習への積極的参加度	30	15回の演習で取り上げるテーマや文献についてセメスターの間に各自の興味があるものを分担する。																															
	プレゼンテーション	30																																
	レポート	40																																
教科書:																																		
参考書:	マルチメディアと教育 加藤 潤 第三版 入門マルチメディア 西原清一																																	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力																																	
教員との連絡方法:	e-mail																																	

授業テーマ:

聖書とキリスト教の表象性とその解釈

授業の概要:

本演習は聖書原典を参観しながら、参加者による共同作業によって、聖書本文の背景にある歴史と宗教思想とを抽出し、ユダヤ・キリスト教的文化における影響を総合的に考察することを目的とする。

到達目標:

聖書文学において表象された多くのイメージは、人間の根源的思考と論理とに対応し、そのメディア的性格は、特定宗教の教団性を超えて文化史における基層を形成してきた。狭義における聖書解釈学ではなく、メディア文化史における基礎的考察として広範な検討を加える。

授業方法:

クラス内での発表および討議を中心にして各回のテーマについて理解する。部分的に演習形式を導入するがクラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム(マナビー)を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論 メディア的表象と宗教	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
2.	旧約(ヘブライ語)聖書のメディア論的理解	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
3.	新約聖書のメディア論的理解	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
4.	旧約(ヘブライ語)聖書と新約聖書の連続と非連続	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
5.	旧約(ヘブライ語)聖書と新約聖書の連続と非連続	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
6.	旧約(ヘブライ語)聖書のキリスト教的理解	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
7.	聖書文学における宇宙論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
8.	聖書文学における時間論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
9.	聖書文学における生命論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
10.	聖書文学における正義論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
11.	聖書文学における神論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
12.	聖書文学における聖霊論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
13.	聖書文学における倫理的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
14.	総括 メディアと宗教的論理ー1	現代における宗教的表象についての見解を整理しておくこと。
15.	総括 メディアと宗教的論理ー2	現代における宗教的表象についての見解を整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回のテーマについて、クラス内で指示する参考文献を手がかりにして予習をして出席すること。クラス内の討議はこの予習を前提としておこなう。

フィードバックの方法:

クラス内および授業支援システム(マナビー)による質疑による。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	クラスにおける発表	50%	テーマ毎に担当者を決めての発表を基本とするがその準備と内容、クラスへの貢献度によって評価する。
	学期末レポート	30%	全回の授業を反映したレポートの内容を基準として評価する。
	授業への参加度	20%	出席状況だけではなく、クラスでの質疑による貢献などによって評価する。

教科書:

多岐にわたる内容であるので、特定のテキストによらない。

参考書:

参考ウェブサイトも含め、学期当初に教室において指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、洞察力

教員との連絡方法:

直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 現代の都市メディア研究には、消費文化を読み解く深い洞察力が必要である。本演習の目標は、国内外における高度な学術文献の講読を通して、消費文化論、都市とメディアの研究にかかわる最新の理論を修得し、実践的な研究活動を実現することにある。高度な専門的理論書ならびに諸外国語(英語、仏語等)による一次文献資料の外書購読を質・量ともに高め、精力的にこなしてゆく。

到達目標: 研究遂行に必要な文献資料の読解力のみならず各種理論を修得し、メディア研究の能力向上をはかる。各自の研究に援用すべき学術手法や理論を踏まえた課題に毎回取り組むことで都市とメディアに関する分析を深める。

授業方法: 受講者には毎回20-30頁程度の外国語文献(英語、フランス語など)ならびに関連する高度な日本語文献を講読した上で独自の考察を発表してもらう。その後、修得した講読文献の理論的知見および研究技法に基づき個人研究発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業概要についての事前理解と予備知識の獲得
2.	都市メディア研究総論(1)	都市とメディアに関する文献の購読、把握①
3.	都市メディア研究総論(2)	都市とメディアに関する文献の購読、把握①
4.	都市メディア関連の国内外文献講読と諸理論の把握(1)	都市とメディアに関する海外文献の広範な収集と積極的購読、理論の理解①
5.	都市メディア関連の国内外文献講読と諸理論の把握(2)	都市とメディアに関する海外文献の広範な収集と積極的購読、理論の理解②
6.	都市メディア関連の国内外文献講読と諸理論の把握(3)	都市とメディアに関する海外文献の広範な収集と積極的購読、理論の理解③
7.	都市メディア関連の国内外文献講読と諸理論の把握(4)	都市とメディアに関する海外文献の広範な収集と積極的購読、理論の理解④
8.	都市メディア分析試論(受講者による研究発表と討論(1))	多数の海外文献の購読と理論理解に基づく研究テーマ設定と個人発表準備①
9.	都市メディア分析試論(受講者による研究発表と討論(2))	多数の海外文献の購読と理論理解に基づく研究テーマ設定と個人発表準備②
10.	都市メディア分析試論(受講者による研究発表と討論(3))	多数の海外文献の購読と理論理解に基づく研究テーマ設定と個人発表準備③
11.	都市メディア分析試論(受講者による研究発表と討論(4))	多数の海外文献の購読と理論理解に基づく研究テーマ設定と個人発表準備④
12.	都市メディア分析試論(受講者による研究発表と討論(5))	多数の海外文献の購読と理論理解に基づく研究テーマ設定と個人発表準備⑤
13.	学期末の研究成果報告と合評会(1)	研究発表の総括と発表、資料作成、質疑応答の準備①
14.	学期末の研究成果報告と合評会(2)	研究発表の総括と発表、資料作成、質疑応答の準備②
15.	全体総括	総合的な理論の復習と理解

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業内容及び授業方法に基づき、受講者には関連理論についての基盤的な学術知見と研究レベルでの外国語運用能力および毎回の課題遂行の遵守と確実な授業参加が求められる。また、授業出席や活発な議論実践に加え、課外での自主的学究活動(文献購読やフィールドワーク等)を精力的に行う事が必要である。

フィードバックの方法: 授業時および授業外に必要なに応じて適切な方法で行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
	授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
	各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
	その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示する。

授業テーマ:

マルチメディアの心理学的応用

授業の概要:

World wide web (www)は、コンピュータネットワークを誰でも使用できる身近な文化にしたといえよう。ユーザーが使いやすい
便利な環境が整備された一方で、セキュリティの脆弱性やユーザーの匿名性が多いネットワーク環境は、モラルの低下や著作
権の侵害などの副作用を伴っていた。

到達目標:

この演習では、匿名性の問題に関連する心理学的背景を理解するとともに、実名性を高め、ユーザーが高いモラルを持てる
ような、より高度な文化的貢献が果たせるネットワーク環境の整備について考察したい。

授業方法:

講義、演習、プレゼンテーションを組み合わせで行う。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. マルチメディアとモラル	
	2. マルチメディアと著作権 (1) 知的所有権	マルチメディアと著作権 (岩波新書)
	3. マルチメディアと著作権 (2) 著作権制度	
	4. マルチメディアと著作権 (3) 著作人格権	
	5. wwwと匿名性	インターネットの光と影Ver.5: 被害者・加害者にならないための 情報倫理入門 情報教育学会
	6. プライバシーの保護	
	7. 個人情報の保護	ソーシャルメディア時代の個人情報保護Q&A 単行本(ソフト カバー) 第二東京弁護士会
	8. 匿名性の心理	
	9. 実名性を高める工夫	
	10. セキュリティと情報管理	情報セキュリティ読本―IT時代の危機管理入門 単行本 情 報処理推進機構
	11. ネットワークと情報倫理	
	12. リアリティ(VRとAR)	
	13. 認知学習とマルチメディア	
	14. 人工知能の可能性	人工知能は人間を超えるか (角川EPUB選書)
	15. マルチメディアの教育的応用	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

教室で個々に解説する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	演習への積極的参加度	30	
	プレゼンテーション	30	
	レポート	40	積極的に授業に参加し、到達目標ネットワーク環境の理解ができるように なったか評価する

教科書:

参考書:

辰巳丈夫(2000).『情報化社会と情報倫理』(第2版) 共立出版。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法:

e-mail

授業テーマ:	表象文化としての聖書		
授業の概要:	主としてユダヤ・キリスト教における絵画を中心とした諸芸術における聖書の表象の痕跡を辿りながら、メディア文化史において形成されてきた聖書のイメージの意味と役割についての検討を課題とする。メディア文化の基礎的性格を理解するために総合的な立場から分析をおこなう。		
到達目標:	聖書本文の言語芸術的性格に注目し、参加者による共同作業によって、文化史におけるその受容と発展について概略的に把握することを目的とする。		
授業方法:	クラス内での発表および討議を中心にして各回のテーマについて理解する。部分的に演習形式を導入するがクラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム(マナビー)を利用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 序論 旧約(ヘブライ語)聖書における創世記	事前配布の資料などを手がかりに、世界の創世神話についての概略を理解しておくこと。	
	2. ユダヤ教における創世神話	事前配布の資料などを手がかりに、ユダヤ教および旧約聖書における創世神話についての概略を整理しておくこと。	
	3. キリスト教における創世神話	事前配布の資料などを手がかりに、キリスト教はどのような世界像をユダヤ教から継承してきたのかその概略を整理しておくこと。	
	4. 古代における創世神話の絵画的展開	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのように描かれてきたのかその代表例ついて概略を整理しておくこと。	
	5. 中世における創世神話の絵画的展開－1	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのように描かれてきたのかその代表例ついて概略を整理しておくこと。	
	6. 中世における創世神話の絵画的展開－2	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのように描かれてきたのかその代表例ついて概略を整理しておくこと。	
	7. 近代における創世神話の絵画的展開－1	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのように描かれてきたのかその代表例ついて概略を整理しておくこと。	
	8. 近代における創世神話の絵画的展開－2	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのように描かれてきたのかその代表例ついて概略を整理しておくこと。	
	9. 創世神話における神論と自然論、およびその表象	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのようにコミュニケーション・メディアを提供してきたのか、問題意識を整理しておくこと。	
	10. 創世神話における人間論とその表象	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのようにコミュニケーション・メディアを提供してきたのか、問題意識を整理しておくこと。	
	11. 古代的世界観と創造神話	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのようにコミュニケーション・メディアを提供してきたのか、問題意識を整理しておくこと。	
	12. 中世的世界観と創造神話	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのようにコミュニケーション・メディアを提供してきたのか、問題意識を整理しておくこと。	
	13. 近代的世界観と創造神話	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのようにコミュニケーション・メディアを提供してきたのか、問題意識を整理しておくこと。	
	14. 総括 表象化された世界の理解－1	文化史的視点から獲得された創世神話の表象と現代における世界観との相違について概略を整理しておくこと。	
	15. 総括 表象化された世界の理解－2	文化史的視点から獲得された創世神話の表象と現代における世界観との相違について概略を整理しておくこと。	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回のテーマについて、クラス内で指示する参考文献を手がかりにして予習をして出席すること。クラス内の討議はこの予習を前提にしておこなう。	
フィードバックの方法:	クラス内および授業支援システム(マナビー)による質疑。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	クラス内における発表	50%	テーマ毎に担当者を決めての発表をききほんとするがその準備と内容、クラスへの貢献度によって評価する。
	学期末レポート	30%	全回の授業を反映したレポートの内容を基準として評価する。
	授業への参加度	20%	出席状況だけでなく、クラスでの質疑による貢献などによって評価する。
教科書:	多岐にわたる内容であるので、特定のテキストによらない。		
参考書:	参考ウェブサイトも含め、学期当初に教室において指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、洞察力		
教員との連絡方法:	直接またはE-mail E-mail: nnakamur@dw.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

授業の概要: 本講座では、消費文化を中心に現代都市を研究し、その発展的な分析を実現するため、国内外の研究動向を見極めつつ、専門領域における高度な理論を幅広く把握する。各自の設定する研究目標達成に必須となる、分析テーマや関連事象に関するリサーチならびに論考を通じた学究活動のみならず、その成果を効果的に発表(口頭・学位・学術論文)する能力を涵養する。

到達目標: メディアと都市をめぐる高度な文献講読にとどまらず、リサーチや収集データの読解、さらには成果の発表に至る方法論を、研究実践の中から獲得することが狙いである。

授業方法: 受講者には毎回20-30頁程度の外国語文献(英語、フランス語など)ならびに関連する高度な日本語文献を講読発表してもらう。その後、修得した講読文献の理論的知見および研究技法に基づき個人研究発表を行う。従って受講者には関連理論に関する基盤的な学術知見と高度な外国語運用能力に加え、精力的な課題遂行と授業参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業概要の理解と必要な予備知識の獲得
2.	学術研究技法総論(1)	課題文献の購読と理解①
3.	学術研究技法総論(2)	課題文献の購読と理解①
4.	学術研究技法総論(3)	課題文献の購読と理解③
5.	主要分野の理論修得(1)	課題文献のさらなる購読と理論についての深層的理解①
6.	主要分野の理論修得(2)	課題文献のさらなる購読と理論についての深層的理解②
7.	主要分野の理論修得(3)	課題文献のさらなる購読と理論についての深層的理解②
8.	文献購読と発表(海外書中心)(1)	海外文献の購読・理解に基づく課題プレゼンテーション、資料作成、質疑応答準備①
9.	文献購読と発表(海外書中心)(2)	海外文献の購読・理解に基づく課題プレゼンテーション、資料作成、質疑応答準備②
10.	文献購読と発表(海外書中心)(3)	海外文献の購読・理解に基づく課題プレゼンテーション、資料作成、質疑応答準備③
11.	受講者個別の研究成果発表と討論(1)	修得知識の応用と実践に基づく個人研究及び発表、討論準備①
12.	受講者個別の研究成果発表と討論(2)	修得知識の応用と実践に基づく個人研究及び発表、討論準備②
13.	受講者個別の研究成果発表と討論(3)	修得知識の応用と実践に基づく個人研究及び発表、討論準備③
14.	研究技法および理論の実践にむけた課題と展望	発表時に得たコメントおよび修得理論をふまえた各自の研究についての課題発見と今後の研究指針作成、討論準備
15.	全体総括	総合的な理論と知識の復習

受講者へのメッセージやアドバイス: 受講者には関連理論についての基盤的な学術知見と高度な外国語運用能力および毎回の課題遂行の遵守と確実な授業参加が求められる。また、授業内容及び授業方法に基づき、授業出席や発表に伴う活発な議論実践に加え、課外での自主的学究活動(文献購読やフィールドワーク等)を精力的に行う事が必要である。

フィードバックの方法: 授業時および授業外に必要な応じて適切な方法で行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
	授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
	各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
	その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示する。

授業テーマ:

学びを助けるインストラクショナルデザイン

授業の概要:

インストラクショナルデザインとは、授業や教材についてその教育効果や効率、魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して教材や授業を実現するプロセスのことをいう。本科目では、ADDIEモデルなどインストラクショナルデザインの基礎理論を学び、それを応用して短時間で学べる簡単なテキスト教材を作成する。あわせて、そのベースとなっている学習理論(心理学)、メディア技術などについても理解を深める。

到達目標:

①【知識・理解】インストラクショナルデザインの基礎理論について例をあげて説明できる。
②【表現・技能・能力】インストラクショナルデザインの基礎理論を活用して、テキスト教材を作成できる。

授業方法:

講義と演習を組み合わせで行う。授業進度にあわせて毎回少しずつ課題を出す。その課題を次の授業のときに発表してもらい、それを受けてディスカッションを行う。また、授業時間外に教材開発も進めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	教材をイメージする	授業内容に関わる課題
2.	教材作りをイメージする	授業内容に関わる課題
3.	教材の責任範囲を明らかにする:学習目標の設定	授業内容に関わる課題
4.	教材の責任範囲を明らかにする:学習目標の設定(続き)	授業内容に関わる課題
5.	テストを作成する	授業内容に関わる課題
6.	教材の構造を見きわめ、独学を支援する作戦をたてる(教授方略)	授業内容に関わる課題
7.	教材企画書を作成する	授業内容に関わる課題
8.	教材企画書を作成する(続き)	授業内容に関わる課題
9.	教材パッケージを作成する	授業内容に関わる課題
10.	教材パッケージを作成する(続き)	授業内容に関わる課題
11.	教材パッケージを作成する(続き)	授業内容に関わる課題
12.	形成的評価を実施する	授業内容に関わる課題
13.	教材を改善する	授業内容に関わる課題
14.	教材を改善する(続き)	授業内容に関わる課題
15.	まとめと学習の振り返り	最終課題

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加姿勢	30	到達目標①の達成度を評価します。
	課題	30	到達目標①の達成度を評価します。
	最終課題(テキスト教材)	40	到達目標②の達成度を評価します。

教科書:

鈴木克明 『教材設計マニュアル―独学を支援するために』(北大路書房)

参考書:

R.K. ソーヤー 『学習科学ハンドブック 第二版』(北大路書房)
市川 尚, 根本 淳子 『インストラクショナルデザインの道具箱101』(北大路書房)
鈴木克明 『研修設計マニュアル: 人材育成のためのインストラクショナルデザイン』(北大路書房)
向後千春 『上手な教え方の教科書 ～ 入門インストラクショナルデザイン』(技術評論社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

メディア表現制作に必要となるプログラミング知識の習得

コンピュータプログラムはメディアコンテンツの制作において表現の幅を広げる技術のひとつである。特にインタラクティブな要素をもつコンテンツの制作にはかかせない道具である。従来コンピュータ科学の教育を受けたプログラマーが専門的にプログラムを作成していたが、ソフトウェア開発環境の発展にともない、非プログラマー(コンピュータを利用する分野の知識があり、「何をするか、したいか」知っている人)がプログラムを作ることが比較的容易に可能となった、本科目では、アートデザイン分野で広く使われるプログラミング環境Processingを取り上げ、プログラミング技法を習得するとともに、メディア表現に関するプログラム制作演習を行い、プログラムが作り出す表現を学ぶ。

1 プログラミングの基礎知識を理解する
2 インタラクティブなモーショングラフィックスのプログラムを作成する

コンピュータを使い、講義ならびに演習・実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Processingの概要、開発環境の準備	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
	2. プログラム要素、描画の基礎	授業内容の理解
	3. 制御構造1	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
	4. 制御構造2	授業内容の理解
	5. マウス操作への応答	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
	6. 関数	授業内容の理解
	7. イベント処理	授業内容の理解
	8. 図形の運動と位置の計算	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
	9. 配列	授業内容の理解
	10. フラクタル図形の描画(再帰関数)	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
	11. 画像の描画	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
	12. クラス1	授業内容の理解
	13. クラス2	授業内容の理解
	14. 総合的制作演習	演習プログラムの作成
	15. 総合的制作演習	演習プログラムの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生のプログラミングの知識・経験により、必要に応じて、上記の授業内容を変更することがある。

フィードバックの方法:

提出された課題に対して、授業内でコメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演習課題	100	課題の達成度

教科書:

参考書:

Processing:ビジュアルデザイナーとアーティストのためのプログラミング入門、Casey Reas、Ben Fry、ビー・エヌ・エヌ新社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

アート表現のためのリサーチワークとコンセプトワーク

授業の概要:

本演習は、メディアを用いた作品制作と発表を行うことを前提に、その準備段階に必要なプレプロダクション(リサーチワークとコンセプトワーク)を経験することが目的です。具体的には各自が重視する研究テーマや問題意識をふまえ、それらと関わりの深いアート作品の事例調査を行います。また作品事例における表現形式や表現内容の分析に加えて、作品批評文献の調査と分析、学術文献の調査と分析を行うことで、自らの研究テーマをより明確に位置づけるとともに、そのテーマと人間・社会との根源的な関係を探求します。こうしたリサーチと分析の結果をふまえ、表現すべき作品の基本コンセプトとしてまとめます。

到達目標:

アートに関わるリサーチ能力や分析力の獲得
アート表現の前提となるコンセプトワーキング能力の獲得

授業方法:

調査・分析の発表、文献研究の成果発表を中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	個人研究発表の準備
	2. 個人研究の発表	作品事例のサーベイ1
	3. 作品事例の発表とディスカッション1	作品事例のサーベイ2
	4. 作品事例の発表とディスカッション2	作品事例のサーベイ3
	5. 作品事例の発表とディスカッション3	作品事例のサーベイ4
	6. 作品事例の発表とディスカッション4	作品批評文献資料のサーベイ1
	7. 批評文献資料の発表とディスカッション1	作品批評文献資料のサーベイ2
	8. 批評文献資料の発表とディスカッション2	作品批評文献資料のサーベイ3
	9. 批評文献資料の発表とディスカッション3	作品批評文献資料のサーベイ4
	10. 批評文献資料の発表とディスカッション4	テーマに関連する学術文献のサーベイ1
	11. 学術文献資料の発表とディスカッション1	テーマに関連する学術文献のサーベイ2
	12. 学術文献資料の発表とディスカッション2	テーマに関連する学術文献のサーベイ3
	13. 学術文献資料の発表とディスカッション3	テーマに関連する学術文献のサーベイ4
	14. 学術文献資料の発表とディスカッション4	作品基本コンセプトの立案
	15. 作品基本コンセプトの発表	レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

積極的な情報収集と発表の準備を行ってください。

フィードバックの方法:

授業内でアドバイスします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究レポート	100	作品事例の研究、作品批評文献の研究、テーマに関する学術文献の研究をふまえた研究レポートを評価対象とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力自己管理能力

教員との連絡方法:

授業終了後に直接連絡、またはkmori@dwc.doshisha.ac.jpにメールしてください。

591200

表現文化特殊演習D

和氣 早苗

授業テーマ:	工学的観点からヒューマンインタフェース(人間とメディア／情報機器の接点)に関わる実験もしくはデザイン, 設計を行い, それに関する評価, 分析を行う		
授業の概要:	ヒューマンインタフェース(HI)に関わる研究を実施する。 研究テーマは受講生の興味を尊重し, 教員から提案を行い, 協議のもと決定する。研究の形態は, 実験実施, もしくは何らかのインタフェース設計, あるいはデザインとなる。一例としてはサイン音デザイン, 音声インタフェース設計, Webアクセシビリティ評価, 等が考えられる。		
到達目標:	現状のHIから問題点を抽出し, 問題解決のための道筋をつける力, また研究の実施にあたって自ら行うべき事を計画し 遂行する力を養う。		
授業方法:	研究指導および討議		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 研究テーマの設定		
	2. 研究テーマの設定	テーマ設定のための事前調査	
	3. 研究テーマの設定	テーマ設定のための事前調査	
	4. 研究計画	研究計画立案	
	5. 研究計画	研究計画立案	
	6. 研究の実施(HIに関わる実験もしくは設計, デザイン)	研究や実験の準備等	
	7. 研究の実施(HIに関わる実験もしくは設計, デザイン)	研究や実験の準備等	
	8. 研究の実施(HIに関わる実験もしくは設計, デザイン)	研究や実験の準備等	
	9. 研究の実施(HIに関わる実験もしくは設計, デザイン)	研究や実験の準備等	
	10. 研究の実施(HIに関わる実験もしくは設計, デザイン)	研究や実験の準備等	
	11. 研究の実施(HIに関わる実験もしくは設計, デザイン)	研究や実験の準備等	
	12. 研究の実施(HIに関わる実験もしくは設計, デザイン)	研究や実験の準備等	
	13. 研究の実施(HIに関わる実験もしくは設計, デザイン)	研究や実験の準備等	
	14. 研究の実施(HIに関わる実験もしくは設計, デザイン)	研究や実験の準備等	
	15. 中間結果報告(プレゼンテーション)	報告準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	個別に研究指導および討議を実施する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究への取り組みの姿勢	50	取り組みの姿勢を評価する
	研究成果およびプレゼン	50	成果およびプレゼン内容を評価する
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメール(swake@dwc.doshisha.ac.jp), 授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

インストラクショナルデザインに基づくICT活用学習の設計

授業の概要:

インストラクショナルデザインの応用的・発展的な理論およびそのベースとなっている最近の学習理論、学習におけるICT活用法について学ぶ。そして、効果的・効率的・魅力的なICT活用学習を設計するために必要とされる実践的な知識と技術を修得する。

到達目標:

①【知識・理解】インストラクショナルデザインの応用的・発展的な理論、学習におけるICT活用法について例をあげて説明できる。
②【表現・技能・能力】インストラクショナルデザインを活用して、ICT活用学習を設計できる。

授業方法:

講義と演習を組み合わせで行う。授業進度にあわせて毎回少しずつ課題を出す。その課題を次の授業のときに発表してもらい、それを受けてディスカッションを行う。また、授業時間外に教材開発も進めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	インストラクショナルデザインとテクノロジー(IDT)の歴史1	授業内容に関わる課題
2.	インストラクショナルデザインとテクノロジー(IDT)の歴史2	授業内容に関わる課題
3.	学習と教授の理論とモデル: 構成主義1	授業内容に関わる課題
4.	学習と教授の理論とモデル: 構成主義2	授業内容に関わる課題
5.	学習と教授の理論とモデル: 学習科学1	授業内容に関わる課題
6.	学習と教授の理論とモデル: 学習科学2	授業内容に関わる課題
7.	学習と教授の理論とモデル: 学習意欲・意志とパフォーマンス1	授業内容に関わる課題
8.	学習と教授の理論とモデル: 学習意欲・意志とパフォーマンス2	授業内容に関わる課題
9.	IDTにおける新しい方向性: eラーニングとインストラクショナルデザイン	授業内容に関わる課題
10.	IDTにおける新しい方向性: 学習オブジェクト	授業内容に関わる課題
11.	IDTにおける新しい方向性: ネットワーク・Web2.0とつながった学習者	授業内容に関わる課題
12.	IDTにおける新しい方向性: リッチメディアを賢く使う	授業内容に関わる課題
13.	IDTにおける新しい方向性: ゲームと学習	授業内容に関わる課題
14.	IDTにおける新しい方向性: 仮想世界(バーチャルワールド)でデザインする	授業内容に関わる課題
15.	まとめ	最終課題

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加姿勢	30	到達目標①の達成度を評価します。
	課題	30	到達目標①の達成度を評価します。
	最終課題	40	到達目標②の達成度を評価します。

教科書:

R.A.リーサー, J.V.デンプシー『インストラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題』(北大路書房)

参考書:

R.K. ソーヤー『学習科学ハンドブック 第二版』(北大路書房)
市川 尚, 根本 淳子『インストラクショナルデザインの道具箱101』(北大路書房)
鈴木克明『研修設計マニュアル: 人材育成のためのインストラクショナルデザイン』(北大路書房)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

コンピュータプログラムを使ったインタラクティブなメディア表現の制作

授業の概要:

インタラクティブなメディアコンテンツの制作を行う。表現文化特殊演習Bでの学習内容と理解に基づき、自分のアイデアを形にしたプログラム(メディア表現)を制作する。メディアデザインの表現手法のひとつとしてプログラムは重要な役割をもつ。マウスやキーボードに加え、音やジェスチャーにインタラクティブに応答するメディア表現を制作することで、ユーザの行為とプログラムの論理との新しい関係性を探る。資料を読み解きながら、数理が生み出す形とふるまいの面白さを表現するプログラムの作成を行う。

到達目標:

1 プログラミングの知識を深める
2 音声や画像認識、ジェスチャーへ応答する方法を理解する
3 インタラクティブなメディアコンテンツの構想、設計、開発のプロセス全体を自主的に行う

授業方法:

コンピュータを使い、講義ならびに演習・実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	音声ファイルの再生	授業内容の理解
2.	音に応答するプログラム1	授業内容の理解
3.	音に応答するプログラム2	授業内容の理解、演習プログラムの作成
4.	音に応答するプログラム3	授業内容の理解、演習プログラムの作成
5.	カメラ画像の処理	授業内容の理解
6.	カメラ画像に応答するプログラム1	授業内容の理解
7.	カメラ画像に応答するプログラム2	授業内容の理解、演習プログラムの作成
8.	カメラ画像に応答するプログラム3	授業内容の理解、演習プログラムの作成
9.	指のジェスチャーに応答するプログラム1	授業内容の理解
10.	指のジェスチャーに応答するプログラム2	授業内容の理解、演習プログラムの作成
11.	指のジェスチャーに応答するプログラム3	授業内容の理解、演習プログラムの作成
12.	課題プログラムの構想	プログラムの作成
13.	課題プログラムの制作	プログラムの作成
14.	課題プログラムの制作	プログラムの作成
15.	課題プログラム展示準備	

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生のプログラミングの知識・経験により、必要に応じて、上記の授業計画・内容を変更することがある。

フィードバックの方法:

提出された課題に対して、授業内でコメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演習課題	100	課題の達成度

教科書:

参考書:

Processing:ビジュアルデザイナーとアーティストのためのプログラミング入門、Casey Reas、Ben Fry、ビー・エヌ・エヌ新社
Nature of Code -Processingではじめる自然現象のシミュレーション、Daniel Shiffman、ポーンデジタル

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

591500

表現文化発展演習C

森 公一

授業テーマ:メディアを活用した作品の創作

授業の概要:本演習では、メディアを活用した芸術表現の可能性を探求することを目的に、個人テーマに基づく作品の制作と発表を行います。「表現文化特殊演習C」において行ったリサーチワークやコンセプトワークをふまえ、具体的な作品として完成させるとともに、学外のギャラリーなどにおいて展示・発表することをゴールとします。
各自の研究テーマを独自の形式によって表現することを目指し、企画案のプレゼンテーションとディスカッションを通じた修正、実験作品のプレゼンテーションとディスカッションを通じた修正を繰り返し行います。

到達目標:各自の研究テーマを独自の形式によって表現する
作品にふさわしい形式で展示し発表する

授業方法:プレゼンテーションとディスカッションを中心とする演習形式で進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	個人テーマ・コンセプト案の準備1
2. 個人テーマ・コンセプトの確認1	個人テーマ・コンセプト案の準備2
3. 個人テーマ・コンセプトの確認2	企画案の準備1
4. 企画案のプレゼンと検討1	企画案の準備2
5. 企画案のプレゼンと検討2	企画修正案の準備1
6. 企画修正案のプレゼンと検討1	企画修正案の準備2
7. 企画修正案のプレゼンと検討2	実験作品の準備1
8. 実験作品の確認と検討1	実験作品の準備2
9. 実験作品の確認と検討2	実験作品修正版の準備1
10. 実験作品修正版の確認と検討1	実験作品修正版の準備2
11. 実験作品修正版の確認と検討2	作品制作1
12. 作品の中間チェックと検討1	作品制作2
13. 作品の中間チェックと検討2	作品制作3
14. 作品のプレゼンと展示計画1	作品制作4
15. 作品のプレゼンと展示計画2	展示準備

受講者へのメッセージやアドバイス:考えて創り、創って考える、幾度も修正を繰り返しながら独自の表現を模索してください。

フィードバックの方法:企画プレゼンテーションや制作途中においてアドバイスをを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	100	各自の研究テーマが独自の形式によって魅力的に表現されているかを評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:各授業内で直接連絡、またはkmori@dw.doshisha.ac.jpにメールしてください。

591600

表現文化発展演習D

和氣 早苗

授業テーマ:

工学的観点からヒューマンインタフェース(人間とメディア／情報機器の接点)に関わる実験もしくはデザイン, 設計を行い, それに関する評価, 分析を行う

授業の概要:

春学期に引き続き、ヒューマンインタフェース(HI)に関わる研究を実施する。
研究テーマは受講生の興味を尊重し、教員から提案を行い、協議のもと決定する。研究の形態は、実験実施、もしくは何らかのインタフェース設計、あるいはデザインとなる。一例としてはサイン音デザイン、音声インタフェース設計、Webアクセシビリティ評価、等が考えられる。

到達目標:

現状のHIから問題点を抽出し、問題解決のための道筋をつける力、また研究の実施にあたって自ら行うべき事を計画し 遂行する力を養う。また報告書作成、プレゼンテーション実施の力を身につける。

授業方法:

研究、報告書執筆指導および討議

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 研究進捗の確認と今後の計画	
2. 実験の分析、あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
3. 実験の分析、あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
4. 実験の分析、あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
5. 実験の分析、あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
6. 実験の分析、あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
7. 実験の分析、あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
8. 実験の分析、あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
9. 研究報告プレゼンテーション	プレゼン準備
10. プレゼン再考	プレゼン準備
11. 再プレゼンテーション	プレゼン準備
12. 報告書作成および指導	報告書作成
13. 報告書作成および指導	報告書作成
14. 報告書作成および指導	報告書作成
15. 振り返り	振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個別に研究指導および討議を実施する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究への取り組みの姿勢	50	取り組みの姿勢を評価する
研究成果および報告書	50	成果および報告書内容を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

Eメール(swake@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	メディア文化史における聖書の表象		
授業の概要:	メディア文化の基層としての宗教性を探求する。		
到達目標:	聖書のイメージの特質を文献性、思想性、表象性において理解し、ユダヤ・キリスト教文化における展開を歴史的に詳解する。また、グーテンベルクによる活版印刷技術とそれによって印刷された聖書が果たしたメディア文化史における革命的意味についても考証を加える。これらのふたつの目標を達成することによって、メディア文化史における聖書の表象についての基本的輪郭を得たい。		
授業方法:	講義と演習形式を併用する。資料配付および一部討議は授業支援システム(マナビー)を利用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 序論 宗教文化におけるメディア的理解	宗教文化におけるメディア的表象の具体例を提示できるようにしておくこと。	
	2. 聖書のメディア的理解	事前配布の資料などを手がかりに、当該テーマについて理解を深めておくこと。	
	3. 文献としての聖書	事前配布の資料などを手がかりに、当該テーマについて理解を深めておくこと。	
	4. 聖書の空間論	事前配布の資料などを手がかりに、当該テーマについて理解を深めておくこと。	
	5. 聖書の時間論	事前配布の資料などを手がかりに、当該テーマについて理解を深めておくこと。	
	6. 聖書の表象的理解	過去の授業と配布資料などを手がかりに、当該テーマについて一定の説明ができるようにしておくこと。	
	7. 絵画芸術における聖書の表象的展開(古代・中世)	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。	
	8. 絵画芸術における聖書の表象的展開(近代)	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。	
	9. 絵画芸術における聖書の表象的展開(近代～現代)	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。	
	10. 音楽芸術における聖書の表象的展開	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。	
	11. 日本近代文学における聖書の受容	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。	
	12. グーテンベルク革命とその影響	配布資料などを手がかりに、印刷メディアが文化史において残した影響について整理しておくこと。	
	13. 現代メディアにおける宗教性	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。	
	14. 総括 宗教文化の基層としてのメディア理解－1	過去の授業と配布資料などを手がかりに、当該テーマについて一定の説明と議論ができるようにしておくこと。	
	15. 総括 宗教文化の基層としてのメディア理解－2	過去の授業と配布資料などを手がかりに、当該テーマについて一定の説明と議論ができるようにしておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回のテーマについて、クラス内で指示する参考文献を手がかりにして予習をして出席すること。クラス内の討議はこの予習を前提にしておこなう。		
フィードバックの方法:	クラス内および授業支援システム(マナビー)による質疑。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	クラスにおける発表	50%	テーマ毎に担当者を決め手の発表を基本とするがその準備と内容、クラスへの貢献度によって評価する。
	学期末レポート	30%	全回の授業を反映したレポートの内容を基準として評価する。
	授業への参加度	20%	出席状況だけでなく、クラスでの質疑による貢献などによって評価する。
教科書:	多岐にわたる内容であるので、特定のテキストによらない。		
参考書:	参考ウェブサイトも含め、学期当初に教室において指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、洞察力		
教員との連絡方法:	直接またはE-mail E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

サブカルチャーの力

授業の概要:

本講義では、大衆文化の中でもマンガ・アニメ・ゲーム・ライトノベルといったサブカルチャーを対象に、それぞれの現状を把握し、特有のコミュニケーション・国内外におけるメディア戦略・今後の展開について検証する。

到達目標:

1【知識・理解】大衆文化について理解し、わかりやすく説明できる。
2【関心・意欲・態度】問題提起やディスカッションへの積極的な参加ができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力や研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:

講義、ディスカッション、プレゼンテーション等を総合的に用いる

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	大衆文化ーサブカルチャーとは	経済産業省等の関連文献に目を通しておくこと
2.	クールジャパンとメディア戦略(1)	経済産業省等の関連文献に目を通しておくこと
3.	クールジャパンとメディア戦略(2)	資料作成等発表の準備
4.	個人発表及びディスカッション(1)	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
5.	マンガ(1)	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
6.	マンガ(2)	資料作成等発表の準備
7.	個人発表及びディスカッション(2)	授業時に指示する映像やwebサイトに目を通しておくこと
8.	アニメ(1)	授業時に指示する映像やwebサイトに目を通しておくこと
9.	アニメ(2)	資料作成等発表の準備
10.	個人発表及びディスカッション(3)	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
11.	ゲーム	資料作成等発表の準備
12.	個人発表及びディスカッション(4)	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
13.	ライトノベル	資料作成等発表の準備
14.	個人発表及びディスカッション(5)	
15.	サブカルチャーの今後の展望	

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講人数や受講者の興味・感心によって若干の変更を加える場合がある

フィードバックの方法:

授業時に口頭で行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み姿勢	50	到達目標の1・2を中心に評価する
	発表	25	到達目標の3を中心に評価する
	レポート	25	到達目標の3を中心に評価する

教科書:

参考書:

全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』(年刊)
メディアクリエイト『ゲーム産業白書』(年刊)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール: mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	学習環境をデザインする		
授業の概要:	この授業では「学び」をコミュニケーションデザインの視点から吟味する。コミュニケーションによって生成される学びの場を学習環境と呼び、ワークショップをデザインすることを通して実践的理論を学ぶ。授業は、学習科学や教育工学の研究知見を参照しながら、ワークショップを実際にデザイン、実施、評価、改善するというプロジェクト型の学習形態をとる。特に、表現とリフレクションのためのメディアの役割に焦点をあて、コミュニケーションを活性化するワークショップの開発を行う。		
到達目標:	(1)学習環境デザインのための実践的理論を理解し、それをもとにして実際のワークショップのアジェンダをつくることができる。 (2)ワークショップを実際に 実施、評価、改善することができる。 (3)表現とリフレクションのためのビデオの役割を理解し、実際にビデオドキュメンテーションの制作ができる。		
授業方法:	授業はレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みをつかって、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善する。学生によるプレゼンテーションや討論を頻繁に行う。積極的な参加が必要。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 学びとコミュニケーションのデザイン	シラバスを読んでくること。	
	2. ワークショップの体験と解説	教科書を読んで、重要な概念をノートに書いておく。	
	3. Science of Playfulness -楽しさを科学する学習科学の新しい領域-	前回の授業でのワークショップ体験を省察して、リフレクションペーパーにまとめておく。	
	4. 学習環境デザインとワークショップ -構成主義的アプローチと教育工学モデル-	教科書の第1章を読んで、ワークショップデザインの基底になる「構成主義的学びの場」について理解を深めておく。	
	5. 省察的实践家としてのワークショップ・デザイナー -実践知としてのメタ認知的スキル-	授業の後、学びにおけるリフレクションの重要性を理解し、メタ認知的スキルとの関係で整理しておく。	
	6. ワークショップ・デザインⅠ デザインモデル	教科書の第2章を読んでおく。	
	7. ワークショップ・デザインⅡ ファシリテーションの方法	ワークショップの流れに沿って、どのように参加者をファシリテイトすればいいかイメージしておく。	
	8. ワークショップ・デザインⅢ ドキュメンテーションビデオの制作方法	リアルタイムドキュメンテーション(RTV)の意味づけをしておく。教科書のコラム1を読んでおく。	
	9. ワークショップのアジェンダ作成	ワークショップのアジェンダの項目を考えておく。	
	10. ワークショップの実施 ワークショップ+ドキュメンテーション	ワークショップの準備をしておく。特に、空間、活動、ツール、参加者の確認をする。	
	11. ドキュメンテーション・ビデオの編集-	ワークショップで撮った映像を見直しておく。	
	12. ワークショップの評価と改善	教科書の第3章を読んでおく。	
	13. ワークショップ成果のプレゼンテーションの準備	ワークショップの企画・運営・評価・改善点を整理しておく。	
	14. ワークショップの成果発表会	授業の後、プレゼンテーションのコメントをもとにリフレクションペーパーを書く。	
	15. コミュニケーションデザインとメディアテクノロジー	最終レポートの作成	
受講者へのメッセージやアドバイス:	実践的研究を中心に展開する授業です。かなりのコミットメントが要求されますが、とてもやりがいがありますので、一緒に授業を創っていきましょう。		
フィードバックの方法:	プレゼンテーションやグループディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ワークショップへの貢献度	30	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善、ドキュメンテーションなどを総合的に評価する。
	プレゼンテーション	10	成果発表会でのワークショップの意味づけや改善点が的確かどうかを評価する。
	ディスカッション	10	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
	最終レポート	50	授業を通して実践的に経験したことを、理論と関係づけて自分の言葉で表現できているかを評価する。
教科書:	上田信行・中原淳『プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来』三省堂 2013		
参考書:	授業中に適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	基本的には、授業の前後に教室内で対応する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。		

授業テーマ:

メディア芸術の表現特性の研究

授業の概要:

表象芸術特論では、映画・写真などの映像メディアを用いた芸術表現に着目し、それらの表現特性を探究することを目的とします。具体的には映画論や写真論などの文献資料の講読、及び関連する作品の分析を通じて、映像表現形式の多様性や変遷史についての理解を深めます。またこのようなプロセスを経た後、特定の作家とその作品を選択して調査を行い、研究成果の発表を行う予定です。

到達目標:

映画・写真などメディア芸術の表現特性の理解
特定の作家・作品の表現を分析する能力の獲得

授業方法:

文献の輪読とディスカッションを中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	文献研究1 発表とディカッション	担当する文献の発表準備
3.	〃	〃
4.	〃	〃
5.	〃	〃
6.	〃	〃
7.	〃	〃
8.	文献研究2 発表とディスカッション	〃
9.	〃	〃
10.	〃	〃
11.	〃	〃
12.	〃	〃
13.	〃	作家・作品研究の発表準備
14.	作家・作品研究のプレゼンテーション	〃
15.	〃	

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業の進行にあわせて、情報収集、プレゼン資料の作成に努めてください。

フィードバックの方法:

ディスカッション時にアドバイスします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート課題	100	メディア芸術の表現特性をふまえた上で、特定の作家・作品の表現についての分析内容を評価対象とする。

教科書:

参考書:

『写真のキーコンセプト 現代写真の読み方』デイヴィッド・ベイト
『映画というテクノロジー経験』長谷正人
『映画術』塩田明彦
『filmmaker's eye』グスタボ・メルカード
『ハリウッド リライティング バイブル』リンダ・シガー
『原始の光(影の光学)』リビット水田堯
『スペキュラティヴ・デザイン』アンソニー・ダン、フィオーナ・レイビー

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業内で直接連絡するか、kmori@dwc.doshisha.ac.jpにメールしてください。

592400

芸術文化特論

椎名 亮輔

授業テーマ:

現代における音楽文化の再検討

授業の概要:

本講義では、「現代音楽」と呼ばれる芸術分野の諸相を検討し、その美学的背景を考えるのを目標とする。そのために、「現代音楽」について重要な発言を残している哲学者・著作家・作曲家たち、たとえば、Adorno、Boulez、Lyotard、Meyer、Benitez、近藤譲、Cage、Stockhausen、Luc Ferrari、Ivanka Stoianoba、Daniel Charlesなどのテキストを、なるべく原文によって、読み解いて行く。

到達目標:

多様な「現代音楽」の諸相を知り、その美学的背景を理解する。そのために、積極的に授業に参加して、テキスト読解を進める。それを通して、「現代音楽」についての自分自身の理解を深め、発表する。

授業方法:

テキストを事前に読み解いておき、授業中に講義によって解説を受け、それに基づき討論をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. Adorno1	Adorno1のテキストを読み解いておく
2. Adorno2	Adorno2のテキストを読み解いておく
3. Boulez	Boulezのテキストを読み解いておく
4. Lyotard	Lyotardのテキストを読み解いておく
5. Meyer1	Meyer1のテキストを読み解いておく
6. Meyer2	Meyer2のテキストを読み解いておく
7. Benitez	Benitezのテキストを読み解いておく
8. 近藤譲1	近藤譲1のテキストを読み解いておく
9. 近藤譲2	近藤譲2のテキストを読み解いておく
10. Cage1	Cage1のテキストを読み解いておく
11. Cage2	Cage2のテキストを読み解いておく
12. Stockhausen	Stockhausenのテキストを読み解いておく
13. Luc Ferrari	Luc Ferrariのテキストを読み解いておく
14. Stoianova	Stoianovaのテキストを読み解いておく
15. Daniel Charles	Daniel Charlesのテキストを読み解いておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内において、適宜コメント、解説を行う

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	50	きちんと予習をして、授業に積極的に参加し、ディスカッションを行っているかについて評価する
レポート	50	多様な「現代音楽」の諸相を知り、その美学的背景を理解して、自分自身の理解を深め表現できているか評価する。

教科書:

適宜プリントを配布する

参考書:

適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール：rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

現代社会におけるプロデュースプロセスの応用研究： 集団制作特論では、プロデュースの過程で生じるプロデューサーと組織とのコミュニケーションやマネジメントの問題を深く理解することを目指す。

授業の概要:

メディアを駆使して、システムやコンテンツを制作するためには、プロジェクトの過程で発生するさまざまな要素をコントロールし、一つの統合した作品を作り出す必要がある。「集団制作特論」ではプロデュース行為における諸要素のコントロール方法を分析し包括的研究を行う。 講義では2つのテーマを主に扱う。一つは集団をコントロールすべきリーダーシップ、もう一つは集団での人間関係をいかに円滑にするかのマネジメントである。

到達目標:

人間集団の中で作品を制作して行く上で、不可欠な組織の生成、維持、役割分担、リーダーシップ、組織マネジメントなど組織人として社会に活躍できる人材の養成を目指す。

授業方法:

15回のうち、前半は講義形式で理論を解説し、後半は事例を基に学生と教員が議論したり、学生がパワーポイントで研究発表をしたりする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. プロデュースプロセスの研究1 2. プロデュースプロセスの研究2 3. プロデューサーが行う組織環境のあり方 4. プロデューサーの組織におけるリーダーシップのあり方1 5. プロデューサーの組織におけるリーダーシップのあり方2 6. 現場での問題発見、問題解決の視点 7. プロジェクトマネジメントの研究 8. プロデューサーの組織におけるマネジメントとは 9. 組織マネジメントの一般原則への理解 10. 組織運用上の事例研究1 11. 組織運用上の事例研究2 12. 組織運用上の事例研究3 13. 組織運用上の事例研究4 14. 研究発表1 15. 研究発表2		授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと 授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

集団制作特論においては集団内での人の動き、心理、効率化など経営学、心理学、人間関係を主に研究するため、日頃から人間関係や人間の心理に興味、関心を持って講義に臨んでいただきたい。

フィードバックの方法:

毎回の講義で終了前の15分に小レポートを作成してもらい、その次の講義でそのレポートへのフィードバックを行う。さらに全体の3分の2以降は学生主体の議論や研究の中で常に教員とのやり取りを通じてフィードバックが行われる。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業態度	10	到達目標を理解した上で、授業に積極的に参加していたか
	小レポート	10	授業内容を理解した上で、適切に整理されているか
	事例研究	15	授業の内容を事例から読み取り応用できているか
	研究発表	15	授業全体の流れを理解して、その内容に沿った発表になっているか
	期末レポート	50	授業で学習した内容を理解したレポートになっているか

教科書:

参考書:

人生に役立つ経営学 三恵社 雑賀憲彦
経営戦略入門 ふくろう出版 雑賀憲彦

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力

教員との連絡方法:

メール、電話等

授業テーマ:	言語およびその科学的研究法についての基礎的な知識を解説する		
授業の概要:	情報やメディアを論じるときには言語を扱うことが重要となる。本講義では、言語とその研究方法についての基礎的な知識を身につけ、言語情報を適切に扱う能力を身につけることを目的とする。特に、言語の形式的側面(音、文字など)と機能的側面(何が伝わるのか)の両方にわたるさまざまな現象をとりあげ、形式と機能の規則的な関係を理解する。 20世紀以降の言語学の方法論は、言語を客観的・科学的な研究対象と見るのが基本であるが、そのような考え方について学び、データと理論の関係、反証可能性(どのような証拠をあげたら理論をくつがえしたことになるのか)などに関して自覚的に研究を進める能力を身につけることを目標とする。 今日の言語の研究はいくつかの下位分野に分かれて研究されるのが普通である。本講義でも、現代言語学のさまざまな分野を一通り解説することを予定するが、受講生の専攻や関心によって、それぞれに一番適した形で、言語学に通じる考え方を習得することを目指す。また、心理学、情報科学などの隣接分野との関係も明らかにしていきたい。		
到達目標:	1. 言語とその自覚的な分析方法についての基礎的な知識を身につける。 2. 言語情報を適切に扱う能力を身につける。 3. 反証可能性を理解した上で、科学的な研究を進める能力を身につける。 4. 自分の母語を客観的に見ることができる。 5. 心理学、情報科学、社会学などの隣接分野との関係を理解する。		
授業方法:	下記授業計画に沿って、教科書に従って講義形式で進めていくが、適宜、宿題を出し、解答の収集・添削・返却・講評のサイクルを混ぜていく。 おおむね、教科書の1つの章を2、3週かけて解説していく。各章末には練習問題があるので、2、3週間に1度の頻度で課題として解答してもらうことになる。 以下は目次にそって週ごとに扱う部分を示すが、受講生の専攻分野、関心、および進行状況を見て、適宜、省略したり、順番を入れ替えたり、巻末の補遺の部分を解説することも考える。 また、順調に進展したら、補助教材も配布する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 導入。言語とは何か。言語学の下位分野。反証可能性とは。 2. 第1章 語のしくみ。単語と文の違い。複合語、派生語、語形成。 3. 第2章 音声のしくみ。調音音声学。調音法と音の種類。 4. 第2章 続き。音韻論。音素の認定。音韻素性。音韻規則。 5. 第5章 意味と論理。意味とは何か。真理条件。 6. 第5章 続き。正しい推論と間違った推測。 7. 第5章 続き。文を超える意味。 8. 第6章 ことばのパリエーション。言語内制約と社会的制約。 9. 第6章 続き。社会的制約。 10. 第6章 続き。言語のスタイルと調査方法。 11. 第4章 言語習得の考え方。子どもと言語。遺伝と環境。 12. 第3章 文のしくみ。文を構成する要素。意味役割。文の組み立て方。 13. 第3章 続き。文の埋め込み。疑問文と否定文。 14. 第3章 続き。文の構成素同士の関係。 15. これからの学習の方向性	特に予習は必要としないが、復習は期待する。復習の際に不明なところが明らかになったら翌週質問すること。 前回の概説を踏まえた上で、授業に臨むこと。 第1章の内容を踏まえた上で、授業に臨むこと。 音声学の基礎的な知識を踏まえた上で、授業に臨むこと。 意味について自覚的な意識をもって、授業に臨むこと。 前回の意味に関する概説を踏まえた上で、授業に臨むこと。 文内の意味に関する基本的な考え方を踏まえた上で、授業に臨むこと。 言語と言語外の条件について自覚的な意識をもって、授業に臨むこと。 前回の言語と社会の関係を踏まえた上で、授業に臨むこと。 前回の言語の社会的側面を理解した上で、授業に臨むこと。 子どもの言語の獲得に関して自覚的な意識をもって、授業に臨むこと。 文の構造と意味の関係について自覚的な意識をもって、授業に臨むこと。 前回の文の構造に関する基礎的な知識を踏まえた上で、授業に臨むこと。 より複雑な構造をもつ文について理解した上で、授業に臨むこと。 今学期で学んだことを自分なりに振り返って、授業に臨むこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	この授業の内容は、一部かなり専門的になりますが、事前の知識は必要ありません。授業中にわからないところがあれば、遠慮なく質問して、わからないままにすませないようにしてください。 終わったときに何らかの得るものが、一人一人にあることを期待しています。		
フィードバックの方法:	基本的に授業中にどんどん意見を言ってもらいます。 あまり多くはありませんが、提出物に関しては翌週にコメントを付けて返します。 その他、適宜、下の連絡法を活用してコミュニケーションをはかっていきたいと思います。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業中に出す課題および、(もしあれば)期末のレポート	80	出欠は課題の提出状況で判断するので、休んだ場合には、後から提出するなどして、全て提出するように注意すること。
	授業中の態度	20	少人数なので、授業中の積極的な参加を期待する。
教科書:	郡司隆男・西垣内泰介(編)『ことばの科学ハンドブック』(研究社, 2004)		
参考書:	授業中に指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力		
教員との連絡方法:	gunji@shoin.ac.jp あるいは LINE で		

授業テーマ:

人間の情報処理過程を探る

授業の概要:

0世紀の心理学では、人間の意識過程が関わっている「認知」の働きは、ブラックボックス装置として心理学の研究対象から除外されました。人間の「認知」活動である言語をモデル化するためには、多くのパラメータを同時に解析する必要があります。電子計算機の出現は、情報理論の発展を促し、人間のこころを精巧なコンピュータとしてシミュレーションするための情報処理モデルの提案を可能にしました。

到達目標:

この講義では、こころの「モデル」に関連する代表的な理論、とくにワーキング・メモリーについて考察することを目標にします。

授業方法:

講義、演習、プレゼンテーションを組み合わせで行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	記憶の仕組	『グラフィック 認知心理学』サイエンス社
2.	ワーキング・メモリー	別冊日経サイエンス「心を探る―記憶と知覚の脳科学」
3.	記憶の方略	「記憶力の脳科学」大和書房
4.	検索と忘却	
5.	カテゴリー化と概念	「メタ認知の促進と育成: 概念的理解のメカニズムと支援」北大路書房
6.	概念の構造	
7.	知識と表象	「意識はいつ生まれるのか」(亜紀書房)
8.	語彙的表象	
9.	スキーマ理論	御領謙他、「最新認知心理学への招待[改訂版]心の働きとしくみを探る」
10.	イメージと表象	
11.	注意と処理	
12.	帰納的推理	「生きてはたらく論理的思考力」東洋館出版社
13.	演繹的推理	
14.	問題解決	梅棹忠夫著作集11 知の技術
15.	問題解決2	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室で個々に解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	講義への積極的参加度	30	
	プレゼンテーション	30	
	レポート	40	積極的に授業に参加し、到達目標ワーキング・メモリーの理解ができるようになったか評価する

教科書:

参考書:

塩見 邦雄 (編集)『対話で学ぶ認知心理学』 ナカニシヤ出版
森 敏昭, 井上 毅, 松井 孝雄 (著)『グラフィック 認知心理学』サイエンス社
御領謙他、「最新認知心理学への招待[改訂版]心の働きとしくみを探る」 サイエンス社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

e-mail

授業テーマ:

情報文化専攻における研究の進め方と研究倫理

授業の概要:

情報文化専攻で研究を進めていくために必要な研究法と研究倫理を学びます。具体的には研究テーマの設定方法、文献検索や文献研究の方法、実証的研究の方法、研究計画の立て方、研究発表や論文の書き方、データ分析の方法などを受講生各自が自分の研究テーマと関連づけて学んでいきます。また、研究活動における不正行為の例を取り上げ、研究倫理についても学びます。情報文化専攻で行われる研究には、実証的・実験的なもの、理論的・報告的なものの2つのタイプが考えられます。そのため、どちらのタイプでも参考になる内容を取り上げるようにします。

到達目標:

①【関心・意欲・態度】公正性、誠実さ、高潔さをもって研究を遂行する。
②【表現・技能・能力】適切な方法で研究テーマを設定し、文献検索を行い、文献研究または実証的研究を行い、研究発表や論文を書くことができる。

授業方法:

講義と演習を組み合わせで行います。授業進度にあわせて毎回少しずつ課題を出します。その課題を次の授業のときに発表してもらい、それを受けてディスカッションを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究をはじめる前に: 修士課程の2年間で何を身につけるか?	
2.	研究をはじめる前に: 研究とは何をするのか?	
3.	研究テーマとリサーチ・クエスチョン	授業内容に関係する課題
4.	文献研究の方法	授業内容に関係する課題
5.	情報収集や文献検索の方法1	授業内容に関係する課題
6.	情報収集や文献検索の方法2	授業内容に関係する課題
7.	実証的研究の方法論(量的な研究)	授業内容に関係する課題
8.	実証的研究の方法論(質的な研究、その他の研究)	授業内容に関係する課題
9.	研究計画の立て方	授業内容に関係する課題
10.	研究発表の方法	授業内容に関係する課題
11.	データ分析の方法1	授業内容に関係する課題
12.	データ分析の方法2	授業内容に関係する課題
13.	論文の書き方	授業内容に関係する課題
14.	研究倫理1	授業内容に関係する課題
15.	研究倫理2	授業内容に関係する課題

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加姿勢	30	到達目標①②の達成度を評価します。
	課題	30	到達目標①②の達成度を評価します。
	最終課題	40	到達目標②の達成度を評価します。

教科書:

参考書:

S.M. ロス,G.R. モリソン(訳 向後千春、清水克彦、余田義彦、鈴木克明)『教育工学を始めよう—研究テーマの選び方から論文の書き方まで』(北大路書房)
APA アメリカ心理学会『APA論文作成マニュアル』(医学書院)
ダン・レメニイ『社会科学系大学院生のための研究の進め方 修士・博士論文を書くまえに』(同文館出版)
日本学術振興会『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』
山田剛史、林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門:研究のための8つの力』(ミネルヴァ書房)
藤田真文、岡井崇之『プロセスが見えるメディア分析入門—コンテンツから日常を問い直す』(世界思想社)
福原俊一『リサーチ・クエスチョンの作り方』(特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構)
山内繁『エンジニアのための人を対象とする研究計画入門』丸善出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール(yyoden@dw.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

エンターテインメントとしてのマスメディア

授業の概要:

放送をベースに据えつつ、映画・広告・インターネット・出版あるいは新聞なども視野に入れながら、「今」を捉えたメディアエンターテインメント研究へのアプローチを試みる講義を予定している。

到達目標:

各人がメディアに関する興味ある題材を選び、それに対する造詣を深められることを目標とする。

授業方法:

講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	メディアに対して受講者が抱くイメージを膨らませておく
2.	個人発表からディスカッションへ移行(1)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
3.	個人発表からディスカッションへ移行(2)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
4.	個人発表からディスカッションへ移行(3)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
5.	個人発表からディスカッションへ移行(4)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
6.	個人発表からディスカッションへ移行(5)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
7.	個人発表からディスカッションへ移行(6)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
8.	個人発表からディスカッションへ移行(7)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
9.	個人発表からディスカッションへ移行(8)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
10.	個人発表からディスカッションへ移行(9)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
11.	個人発表からディスカッションへ移行(10)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
12.	個人発表からディスカッションへ移行(11)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
13.	個人発表からディスカッションへ移行(12)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
14.	個人発表からディスカッションへ移行(13)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
15.	総括	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業を通して全体に行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	個人発表	50%	3〜4回担当する個人発表においてメディアへの造詣の深まりを評価の基準とする
	積極的態度	50%	毎回発言を求めてゆく

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:

エンターテインメントとしてのマスメディア～笑いを軸として～

授業の概要:

放送をベースに据えつつ、映画・広告・インターネット・出版あるいは新聞なども視野に入れながら、「今」を捉えたメディアエンターテインメント研究の中でも、この講義においては「笑い」をキーワードとする。

到達目標:

各人がメディアに関する造詣を能動的に深めることを目標とする

授業方法:

講義と演習の併用

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	メディアに対して持つ各人のイメージを膨らませておく
2.	個人発表およびディスカッション(1)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
3.	個人発表およびディスカッション(2)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
4.	個人発表およびディスカッション(3)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
5.	個人発表およびディスカッション(4)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
6.	個人発表およびディスカッション(5)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
7.	個人発表およびディスカッション(6)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
8.	個人発表およびディスカッション(7)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
9.	個人発表およびディスカッション(8)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
10.	個人発表およびディスカッション(9)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
11.	個人発表およびディスカッション(10)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
12.	個人発表およびディスカッション(11)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
13.	個人発表およびディスカッション(12)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
14.	個人発表およびディスカッション(13)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
15.	総括	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	個人発表	50%	メディアの造詣を深める結果をもたらしているかを評価の基準とする
	積極的態度	50%	毎回必ず個人での発言を課す

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:	プロデュース学を研究するための発展研究 -社会学のアプローチを学ぶ-		
授業の概要:	学部ではプロデューサー型人材の諸相について、実際のプロデューサーにインタビューを行い自らでデーターを収集しモデルを作成してきた。大学院においては、プロデュース行為の研究を科学的に行う方法論を身につけるため、プロデュース学が学問的アプローチの基礎としている社会学の研究の方法を学ぶ。最新の社会学の動向をピックアップして、プロデュース学を学ぶ者が社会的視点を獲得することを目指す。特に、コミュニケーション系の社会学をベースに学ぶ。		
到達目標:	大学院生にとって必要なレベルの読解力、理解力を身につける。		
授業方法:	課題図書の精読と講義を併用する。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イントロダクション1	特になし	
	2. イントロダクション2	特になし	
	3. コミュニケーションの社会学の理解1	復習	
	4. コミュニケーションの社会学の理解2	復習	
	5. コミュニケーションの社会学の理解3	復習	
	6. コミュニケーションの社会学の理解4	復習	
	7. コミュニケーションの社会学の理解5	復習	
	8. コミュニケーションの社会学の理解6	復習	
	9. コミュニケーションの社会学の理解7	復習	
	10. コミュニケーションの社会学の理解8	復習	
	11. コミュニケーションの社会学の理解9	復習	
	12. コミュニケーションの社会学の理解10	復習	
	13. コミュニケーションの社会学の理解11	復習	
	14. コミュニケーションの社会学の理解12	復習	
	15. まとめとふりかえり	特になし	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業で扱う内容が難解な部分もあるので、復習が推奨される。		
フィードバックの方法:	授業内で行う		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席率と授業への参加度	80	出欠と授業への参加の様子
	最終レポート	20	最終レポートにより評価
教科書:	適宜指定		
参考書:	適宜指定		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業中のコンタクトを基本とする。		

授業テーマ:

プロデュース学を研究するための発展研究 -社会構成主義的アプローチを学ぶ-

授業の概要:

社会学とともに、プロデュース学がよりどころとしているのが経営学である。プロデュース行為を成功させるためには、経営学の一分野である、組織論やリーダーシップ論などが重要になってくる。しかし経営学を取り巻く環境は急速に変化し、古典的な経営学はもはや現代社会とマッチしない状況も出てきている。そのような状況の中、プロデュース学が研究プロセスの中で重要な視点であると注目しているのが社会構成主義的アプローチである。社会構成主義は多様な分野にまたがる学際的テーマであるが、経営学の分野またプロデュース学の分野でプロデューサ型人材の成功へのプロセスを明らかにしていくことを可能とする視点である。社会構成主義には多様な学派が存在するが、この授業では、アメリカにおける社会構成主義の中心的理論家、ケネス・ガーゲンの著作をピックアップしプロデュース学と社会構成主義との関係を考察していく。

到達目標:

大学院生にとって必要なレベルの読解力、理解力を身につける。

授業方法:

課題図書 of 精読と講義を併用する。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション1	特になし
	2. イントロダクション2	特になし
	3. 社旗構成主義の理解1	復習
	4. 社旗構成主義の理解2	復習
	5. 社旗構成主義の理解3	復習
	6. 社旗構成主義の理解4	復習
	7. 社旗構成主義の理解5	復習
	8. 社旗構成主義の理解6	復習
	9. 社旗構成主義の理解7	復習
	10. 社旗構成主義の理解8	復習
	11. 社旗構成主義の理解9	復習
	12. 社旗構成主義の理解10	復習
	13. 社旗構成主義の理解11	復習
	14. 社旗構成主義の理解12	復習
	15. まとめとふりかえり	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業で扱う内容が難解な部分があるので、復習が推奨される。

フィードバックの方法:

授業内で行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席率と授業への参加度	80	出欠と授業への参加の様子
	最終レポート	20	最終レポートにより評価

教科書:

適宜指定

参考書:

適宜指定

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業中のコンタクトを基本とする。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	メディアリテラシーに関わる諸概念とその時代的変遷 (1)文献研究と議論	
2.	〃 (2)	授業内容に関連した課題
3.	文献研究と議論(続き)	
4.	マスメディア時代に求められたメディアリテラシー (1)文献研究と議論	授業内容に関連した課題
5.	〃 (2)	授業内容に関連した課題
6.	指導法・教材の事例研究	
7.	〃 (3)	授業内容に関連した課題
8.	指導法・教材の事例研究	
9.	〃 (4)	授業内容に関連した課題
10.	指導法・教材の比較検討	
11.	インターネット時代に求められるメディアリテラシー (1)文献研究と議論	授業内容に関連した課題
12.	〃 (2)	授業内容に関連した課題
13.	指導法・教材の事例研究	
14.	〃 (3)	授業内容に関連した課題
15.	指導法・教材の事例研究	
16.	〃 (4)	授業内容に関連した課題
17.	指導法・教材の比較検討	
18.	ソーシャルメディア時代に求められるメディアリテラシー (1)文献研究と議論	授業内容に関連した課題
19.	〃 (2)	授業内容に関連した課題
20.	指導法・教材の設計	
21.	〃 (3)	授業内容に関連した課題
22.	指導法・教材の設計	
23.	〃 (4)	授業内容に関連した課題
24.	指導法・教材の設計	
25.	まとめと学習の振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加姿勢	30	到達目標①の達成度を評価します。
	課題の提出・発表	30	到達目標①の達成度を評価します。
	最終課題	40	到達目標①③の達成度を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

授業テーマ:	電子書籍の現状と展開		
授業の概要:	本講義では、電子書籍の歴史的経緯を確認したのちに、電子書籍元年から今日までの電子書籍の現状を把握し、今後の展開について検証する。		
到達目標:	1【知識・理解】電子書籍について理解し、わかりやすく説明できる。 2【関心・意欲・態度】問題提起やディスカッションへの積極的な参加ができる。 3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力や研究に必要な技能を身に着ける。		
授業方法:	講義、ディスカッション、プレゼンテーション等を総合的に用いる		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 電子書籍7年？	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	2. 大手も撤退したこれまでの電子書籍	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	3. 誰が電子書籍を愛読するのか	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	4. 無料の電子書籍:著作権フリー、作品発表の場、宣伝広報目的	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	5. 有料の電子書籍	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	6. 電子書籍だからできること	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	7. 電子書籍端末	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	8. 書デジとデジタル教科書	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	9. 電子図書館	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	10. 電子書籍の出版流通	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	11. 紙の本のゆくえ	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと	
	12. 電子書籍の展望		
	13. 個人発表(1)	資料作成等発表の準備	
	14. 個人発表(2)	資料作成等発表の準備	
	15. 個人発表(3)	資料作成等発表の準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:	受講人数や受講者の興味・感心に応じて若干の変更を加える場合がある		
フィードバックの方法:	授業時に口頭で行う		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組み姿勢	50	到達目標の1・2を中心に評価する
	発表	25	到達目標の3を中心に評価する
	レポート	25	到達目標の3を中心に評価する
教科書:			
参考書:	インプレス総合研究所編『電子書籍ビジネス調査報告書』(年刊)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	Eメール:mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

古今和歌集を読む

授業の概要:

意匠、商品名等にまで多大な影響を与え続けてきた『古今和歌集』を、自分たちの言葉で解説することを出発点として、和歌という詩形のレトリックについて学び、日本文化において「和歌」コンテンツを持つ様々な広がりを探究する。また、季節にあわせた歌を選ぶことによって、日本文化における四季折々の自然のモチーフについての理解を深める。

到達目標:

①和歌のしくみを知る(知識・理解)
②古今和歌集の歌の表象を読み解く(関心・理解・態度)

授業方法:

講義とディスカッションによって歌を一つずつ読み解いていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 古今和歌集についての概論	特に用意は必要ない
	2. 秋上の歌を読む	マナビー上に指示する
	3. 秋上の歌を読む	マナビー上に指示する
	4. 秋下の歌を読む	マナビー上に指示する
	5. 秋下の歌を読む	マナビー上に指示する
	6. 物名の歌を読む	マナビー上に指示する
	7. 恋の歌を読む	マナビー上に指示する
	8. 恋の歌を読む	マナビー上に指示する
	9. 冬の歌を読む	マナビー上に指示する
	10. 冬の歌を読む	マナビー上に指示する
	11. 雑の歌を読む	マナビー上に指示する
	12. 雑の歌を読む	マナビー上に指示する
	13. 春上の歌を読む	マナビー上に指示する
	14. 春上の歌を読む	マナビー上に指示する
	15. 離別の歌を読む	マナビー上に指示する

受講者へのメッセージやアドバイス:

予備知識はまったく必要ない。日本文学の根幹となって現代にも影響を与えている歌集とその言葉の世界を十分に味わうこと。また、受講期間中は常に関心のアンテナをはり、『古今和歌集』に関係すると思われる意匠等を見つけた場合には次回授業時に持ち寄ったり、授業支援システム「まナビー」にアップするなどして、共有すること。

フィードバックの方法:

授業中に解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への貢献度	70%	資料や知識を適切に使い、授業時に共同で行う古今和歌集のテキストの読解に斬新で有益なアイデアを提供できたか。(知識・理解・関心・意欲・態度)
	まとめの成果物の作成	30%	授業期間を通じて学んだ内容を各自の工夫した方法を用いて表現できたか。(表現・技能)

教科書:

『古今和歌集』全歌と、何らかの注釈が載っている本を各自選んで1冊用意すること(『古今和歌集』とあっても、抜粋の場合があるので注意)。

参考書:

小町谷照彦『古今和歌集』(ちくま学芸文庫)
渡部泰明『和歌のルール』(笠間書院)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール(アドレスは授業時に開示する)

授業テーマ:

授業の概要: ボーダーレス化する現代の国際社会と連動し、こんにちのメディア状況も急速に変転するとともに、メディアをめぐる問題の所在もグローバル化、超域化の様相を呈している。そうした動態的文化状況に即応しつつ総合的なメディア研究を実践するために、文化領域および学問分野や方法論における既存の枠組みを超えてさまざまな課題を的確にとらえ、連動する文化的諸相との相互関係からそのメカニズムを体系的に分析する。

到達目標: 本科目では各時代の社会や多様な属性を持つ文化集団の価値観、言語や日常・非日常をめぐる文化記号システムといった要素やメディアをめぐる産業と消費、さらには異文化との接触にもとづく既存文化の変容など、総合的かつ動態的なメディア文化の探究を主要な課題とする。

授業方法: 実地の調査活動や文化比較分析、英語のみならず諸外国語の専門文献を中心とする高難度なメディア関係資料の読解により、多様化するメディアを立体的に読み解く分析力を養う。さらに関連領域の諸理論の運用によって、複雑化する文化のメカニズムの構造的な相関を独自の視点から探究する。調査研究活動におけるグローバルな受発信力を養うべく、受講者の自律的な調査分析、発表活動を重視しながら、高度な文化社会科学系メディア研究を実践してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業概要と必要予備知識の把握と習得
2.	学術研究技法総論(1)	指定課題文献の探査、購読①
3.	学術研究技法総論(2)	指定課題文献の探査、購読②
4.	主要関連分野の理論把握と修得(1)	主要関連分野の指定課題文献に基づく理論把握と事前学習①
5.	主要関連分野の理論把握と修得(2)	主要関連分野の指定課題文献に基づく理論把握と事前学習②
6.	諸外国の第一次文献を中心とした文献購読と発表(1)	欧米を中心とした指定外国語文献の購読に基づく発表準備①
7.	諸外国の第一次文献を中心とした文献購読と発表(2)	欧米を中心とした指定外国語文献の購読に基づく発表準備②
8.	研究技法および理論の実践にむけた発展演習(1)	これまでに修得した諸理論と研究技法の総合的把握、試論の構築およびプロポーザル①
9.	研究技法および理論の実践にむけた発展演習(2)	これまでに修得した諸理論と研究技法の総合的把握、試論の構築およびプロポーザル②
10.	超域文化分析試論: 受講者による研究発表と討論(1)	分析技法および考察のための諸理論をふまえた事例研究発表の準備①
11.	超域文化分析試論: 受講者による研究発表と討論(2)	分析技法および考察のための諸理論をふまえた事例研究発表の準備②
12.	超域文化分析試論: 受講者による研究発表と討論(3)	分析技法および考察のための諸理論をふまえた事例研究発表の準備③
13.	学期末の研究成果検証(1)	各発表についての総合的・客観的評価とディスカッションの準備①
14.	学期末の研究成果検証(2)	各発表についての総合的・客観的評価とディスカッションの準備②
15.	全体の総括と展望	全体についての振り返り、質疑応答の準備

受講者へのメッセージやアドバイス: 受講者には毎回20-30頁程度の外国語文献(英語を中心に仏語、西語等欧州系言語の一次資料も含む)ならびに関連する高度な日本語文献を講読の上発表してもらう。その後、修得した講読文献の理論的知見および研究技法に基づき個人研究発表を実施する。その為、受講者には関連理論に関する基盤的な学術知見と高度な外国語運用能力の研鑽、ならびに精力的な課題遂行と円滑な授業運営を導く準備が必須である。

フィードバックの方法: 授業時および授業外に必要なに応じて適切な方法で行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
	授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外での取り組み
	各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
	その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示する。

授業テーマ:

ユーザインタフェース設計についての知識を深める。具体的な機器についての、聴覚情報表示、視覚情報表示、インタラクション設計、あるいはそれらを実現するための基礎技術について論文および文献購読を通して学ぶ。

授業の概要:

現在までのところの標準的なユーザインタフェース(UI)は、ディスプレイによる視覚的情報表示とボタン選択型のUIであるが、今後はウェアラブル機器の増加や、ヒューマノイド型ロボット等の増加が必至である。ここでは視覚情報よりもむしろ、音、音声、対話等の聴覚情報(音)によるインタラクションが重要となってくることが予想される。AI技術の急速な発展も注目である。本科目ではこのような状況を視野に入れ、ユーザインタフェースのあり方について、まずは書籍講読、既存研究調査を通して知識を習得し、考察を行う。

到達目標:

最新のUI技術に関する知識を得る。
それらの社会への影響についての多面的な討議を通して、将来を予測する力を育成する。

授業方法:

論文、文献の購読、内容解説および討議を受講生および教員で実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. UIおよびそれに関する基礎技術についての文献調査	調査した文献の概要整理および選択
	3. UIおよびそれに関する基礎技術についての文献調査	調査した文献の概要整理および選択
	4. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	5. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	6. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	7. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	8. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	9. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	10. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	11. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	12. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	13. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	14. 論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
	15. 技術動向についての振り返り	まとめレポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

必要に応じて教室でまとめたの解説、個別の指導を行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への取り組みの姿勢	50	取り組みの姿勢を評価します。
	プレゼンおよび課題の内容	50	内容の理解度を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール (swake@dw.doshisha.ac.jp), 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: 担当者未定につき、掲示により連絡するので確認すること。

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1.	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

授業テーマ:	調理技術の基本を科学的に学ぶ		
授業の概要:	実習を受講するにあたっての心得や身支度から計量、だしの取り方、クロロフィル、アントシアニンを含む野菜の取り扱い方などを習得しながら炊飯、汁物、和え物、酢の物、煮物、焼き物、揚げ物などの料理を仕上げる。また寒天、カラギーナン、ゼラチンについても学ぶ。 なお、管理栄養士専攻は1年次開講の調理科学、食物科学専攻は2年次開講の調理科学Ⅰ、Ⅱと共通の内容となる。		
到達目標:	基本的調理法を各調理操作別に理解し、確実に調理操作ができる。 調理科学実験的な内容を実習で行うことにより、調理技術ならびに各食材の調理性を科学的に理解する。 安全性に留意した調理操作ができる。 おいしくかつ栄養的な料理のあり方を考える力を養う。 レポートをまとめることにより、料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解し、説得力をもって説明できる力を養う。		
授業方法:	授業の展開は実習内容の説明・デモンストレーション・実習・試食・後片付け・レポート課題の説明の順で行う。 実習は班に分かれて行う。1班5～6名で構成される。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション・調理における計量と廃棄率 3講時:調理実習室の使用方法および実習についての説明 4講時:調理における計量と廃棄率の実習についての説明 5講時:実習、後片づけ、実習結果のまとめ、レポートの書き方の説明	掲示板を確認し、必要な持ち物などもれなく準備をしておくこと。
	2.	第2回 野菜のゆで方(1)クロロフィルの実験、えんどう御飯、味噌汁、ほうれん草の胡麻和え 3講時:野菜のゆで方(クロロフィルの実験)、野菜の切り方、米の洗い方・炊き方、煮干しだしの取り方などについての説明 4講時:デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	3.	第3回 だしの取り方、しそご飯、かき玉汁、鰯の煮付け 3講時:だしの取り方、魚の調理などについての説明 4講時:デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	4.	第4回 白飯、吸物、炊き合わせ、漬け物、抹茶水羊羹 3講時:煮物、寒天の調理性などについての説明 4講時:デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	5.	第5回 炊き込みご飯、焼き物、酢の物、Fruits jelly 3講時:焼き物、酢の物、魚の三枚卸し、カラギーナンの調理性についての説明 4講時:デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	6.	第6回 野菜のゆで方(2)アントシアニンの実験、白飯、茶碗蒸し、茄子の煮物、揚げ茄子の田楽 3講時:アントシアニン実験、蒸し調理、茄子の調理性などについての説明 4講時:デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	7.	第7回 白飯、青椒牛肉絲、涼拌三絲(涼拌粉絲)、ジャスミンティゼリー 3講時:青椒牛肉絲、涼拌三絲の調理法、炒め調理、ゼラチンの調理性についての説明 4講時:デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	8.	第8回 まとめ	これまで配布されたプリントの見直しと返却されたレポートを読み返しておくこと。
受講者へのメッセージやアドバイス:	実習は全て出席することが原則。遅刻、早退、欠席およびレポート未提出には厳正に対処する。		
フィードバックの方法:	提出されたレポートは、評価を行い、できる限り次の回に返却する。レポートはコメントがついている場合と教室でまとめて解説する場合がある。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席、貢献度および実習態度	50	実習は全て出席することが原則。出席した上で、積極的に実習に参加し、到達目標である調理技術の向上と科学的根拠の理解、衛生管理ができるようになったかを評価する。遅刻、早退、欠席には厳正に対処する。 到達目標である料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解した上で、それぞれの評価についてどの程度独自の視点があるか、また説得力を持って説明できるかを基準とする。
	レポートおよび試験	50	
教科書:	本学独自の実習プリント 下村道子・和田淑子編著「新調理学」(光生館)		

「食品成分表」注：日本食品標準成分表2015(七訂)をデータベースとした図書(女子栄養大出版部)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)

参考書：

山崎清子ほか編著「新版 調理と理論」(同文書院)
安藤真美ほか著「たのしい調理－基礎と実習－第5版」(医歯薬出版)
松崎政三ほか編著「映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス」(学際企画)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡
方法：

実習の前後に教室内で対応(あるいはオフィスアワー)

授業テーマ:

調理技術を科学的に学ぶほか、西洋料理や日本の行事食を通して食文化について学ぶ

授業の概要:

西洋料理の基礎、各種ソース(フレンチドレッシング、マヨネーズソース、ベシャメルソース、エスパニョールソース、カラメルソースなど)の習得からケーキ、クッキーなどのデザート類、さらに、行事食である正月料理、寿司などの実習を行う。なお、管理栄養士専攻は1年次開講の調理科学、食物科学専攻は2年次開講の調理科学Ⅰ、Ⅱと共通の内容となる。

到達目標:

調理科学実習Ⅱに引き続き、
基本的調理法を各調理操作別に理解し、確実に調理操作ができる。
用いる多種多様の調理素材について、それらの調理性を科学的に理解する力を養う。
西洋料理(ソースを中心)の基本を学び、調理技術を向上させる。
和食の調理技術を向上させる。
日本の行事食を知り、伝統食について理解し、伝承していく力を養う。

授業方法:

授業の展開は実習内容の説明・デモンストレーション・実習・試食・後片付け・レポート課題の説明の順で行う。
実習は班に分かれて行う。1班5～6名で構成される。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 第1回 Fried fish、Salade de fruits de mer、French dressing、Pomme de terre l'anglaise 3講時:揚げ物調理、鰯の手開き、いかのさばき方などについて説明 4講時:デモンストレーションと実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	掲示板を確認し、必要な持ち物などもれなく準備しておくこと。
	2. 第2回 Macaroni au gratin、Salad in season、Mayonnaise sauce、Custard pudding 3講時:ホワイトルウ、ドレッシング、オープン調理などについての説明 4講時:デモンストレーションと実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	3. 第3回 Consomme brunoise、Poulet a la romaine、Garniture、Cookies 3講時:ブラウンルウ、ホワイトルウ、ブイヨンの取り方などについての説明 4講時:デモンストレーションと実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	4. 第4回 Strawberry short cake、Salade de fruits、Tea 3講時:卵・小麦粉の調理性、果物の扱い方、紅茶のいれ方などについての説明 4講時:デモンストレーションと実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	5. 第5回 正月料理 3講時:正月料理についての説明 4講時:デモンストレーションと実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	6. 第6回 ちらし寿司、巻き寿司、吸い物、白玉団子 3講時:お寿司についての説明 4講時:デモンストレーションと実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	7. 第7回 Choux a la creme、Coffee 3講時:シューの調理、カスタードクリーム、コーヒーのいれ方についての説明 4講時:デモンストレーションと実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	8. 第8回 まとめ	これまで配布されたプリントの見直しと返却されたレポートを読み返しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実習は全て出席することが原則。遅刻、早退、欠席およびレポート未提出には厳正に対処する。

フィードバックの方法:

提出されたレポートは、評価を行い、できる限り次の回に返却する。レポートはコメントがついている場合と教室でまとめて解説する場合がある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席、貢献度および実習態度	50	実習は全て出席することが原則。出席した上で、積極的に実習に参加し、到達目標である調理技術の向上と科学的根拠の理解、衛生管理ができるようになったかを評価する。遅刻、早退、欠席には厳正に対処する。 到達目標である料理の仕上がりおよびその仕上りの理由を科学的に理解した上で、それぞれの評価についてどの程度独自の視点があるか、また説得力を持って説明できるかを基準とする。
	レポートおよび試験	50	

教科書:

本学独自の実習プリント
下村道子・和田淑子編著「新調理学」(光生館)
「食品成分表」注:日本食品標準成分表2015(七訂)をデータベースとした図書(女子栄養大出版部)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)

参考書:

山崎清子ほか編著「新版 調理と理論」(同文書院)
安藤真美ほか著「たのしい調理－基礎と実習－第5版」(医歯薬出版)

松崎政三ほか編著「映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス」(学際企画)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡
方法:

実習の前後に教室内で対応(あるいはオフィスアワー)

授業テーマ:

授業の概要: 家庭で扱う、電気・電子機器のしくみやエネルギーについて考える。これらを構成する、機械・電気・電子の基礎と応用について理解する。さらに、それぞれの基礎領域が複合された、家庭電気機器の構造・原理をシステム全体も含めて理解する。

到達目標: 1. 家庭における各種家庭電気機械を構成する、機械と電気に分けて講義を行い、両者の複合例である、身近な電気機器類の原理と構造が理解できる。
2. 「機械」に関して、機械材料や機械要素・機構を、「電気」に関して、電気の原理やしぐみなどの基礎知識をそれぞれ理解できる。さらに、情報処理を含めた簡単な制御システムについても理解できる。
3. 家庭における各種家庭電気機械に関し、環境問題やエネルギー問題も含めて総合的に考え、家庭電気機器等の安全な使用法、保守と管理についても理解できる。さらに、それらの知識を、活用して思考する力を身につける。

授業方法: 講義を主とするが、演習も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	概要（人間とエネルギーの関わり）	単位に関する基礎的理解。
2.	家庭のエネルギー（ガス、電気等のエネルギーについて）	1. 2のエネルギーに関する理解。
3.	家庭における電気機器の利用（家庭生活と電気機器等全般について）	JISIに関する理解。
4.	家庭電気機器の材料（金属、プラスチック、複合材料について）	
5.	機械基礎（1）（ネジ、ボルト、バネ等機械部品について）	
6.	機械基礎（2）（機構・構造について）	機械基礎に関する復習。
7.	電気基礎（1）（発電、送電、電池について）	
8.	電気基礎（2）（モーター、発電機について）	電気理論の基礎理解。
9.	エレクトロニクス（電子）（通信、真空管、半導体素子等について）	電気記号に関する知識。
10.	情報処理を含めた制御システム（マイクロコンピュータ等情報機器について）	
11.	家庭電気機器（1）（住生活関係における電気機器について）	
12.	家庭電気機器（2）（食生活関係における電気機器について）	電気機器（調理等）に関する基礎知識。
13.	家庭電気機器（3）（衣生活関係における電気機器について）	電気機器（衣料）に関する基礎知識。
14.	各種電気機器のまとめ（家庭用電気機器の総括）	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 配布資料や、授業の終わりに行う演習問題については、理解しておくこと。

フィードバックの方法: 添削して教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	60	到達目標にある機械および電気に関する理解度を評価する。
	講義中に行う演習	10	当日の講義内容に関する理解度を評価する。
	授業における意欲、態度	30	当日の講義内容に対する態度・意欲を評価する。

教科書: 授業内容に応じ資料プリントを配布する。

参考書: 新家庭機械・電気(医歯薬出版(株))
家庭機械・電気・電子(理工学社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: Eメール(sekine@kyokyo-u.ac.jp)または授業前後に教室内で対応

授業テーマ:

コンピュータとインターネットを活用する能力を身につける

授業の概要:

実際にパソコンを使いながら、パソコンのしくみ、キーボード操作、日本語入力、描画・画像編集、ワープロ、表計算の初歩的な操作方法を学びます。また、ネットワークのしくみと安全な利用方法について学びます。

到達目標:

(1)パソコンやインターネットで何ができるのか、どんな利用がされているのかについて知ります。
(2)パソコンやインターネットを安全に利用するための基礎知識を身につけます。
(3)自学でパソコンやインターネットの活用能力を高めていくための基礎を身につけます。

授業方法:

教科書に沿った講義と実習を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要と受講における注意点、大学のコンピュータとネットワークの利用方法について説明します。	教科書の準備
2.	コンピュータを使う時の姿勢や使用環境、基本用語、Windowsの基本操作について解説します。	教科書の予習 宿題:パソコン用語集の作成 ドリル問題
3.	テキストエディタを使って、テキストデータの入力と保存、ファイル形式、文字コードについて学習します。	教科書の予習 ドリル問題
4.	ブラインドタッチの練習ソフトを使って、タッチタイピングの練習をします。 各キーの働きや使い方、ショートカットキーについて学習します。	教科書の予習 ドリル問題
5.	日本語入力の練習をします。日本語入力のためのソフトウェアIMEの設定について説明します。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習
6.	World Wide Webのしくみと利用、電子メールのしくみと利用について学習します。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習
7.	描画ソフト「ペイント」とプレゼンテーションソフト「パワーポイント」の描画機能を使って、ラスター画像とベクトル画像を描き、描画方法と画像の違いについて知ります。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習
8.	現在使われている描画のためのソフトウェア、画像データのファイル形式について学びます。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習
9.	ファイルの保存先である補助記憶装置、ファイルの移動やコピー、フォルダを使った整理、ファイルパス、ショートカットの利用について学びます。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習 Proself内にフォルダを作成し、ファイル整理する
10.	ワープロソフト「ワード」の基本的な利用法について学びます。	教科書の「ワード」の操作方法のチュートリアルを行う 宿題:ワードの基本操作の練習ファイルを完成させる
11.	「ワード」の実践的な利用として、ワードを使ったチラシづくりとパソコン用語集の作成を行います。	ワード宿題の提出 第2講とその回の宿題として作成したパソコン用語集のファイル
12.	表計算ソフト「エクセル」の基本的な利用方法について学びます。	宿題:エクセルの基本操作の練習ファイルを完成させる
13.	表計算ソフト「エクセル」の実践的な利用として、家計簿の入力と集計、グラフ作成を行います。	エクセル宿題の提出
14.	デジタルとは何か、ビットとバイト、文字コード、色の表現について学びます。	教科書と講義資料の予習
15.	講義・実習を通して学んだ知識と操作方法について、学習成果の確認を行います。	講義・実習を通して学んだ知識と操作方法についての復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

パソコンについての事前の知識は必要としません。まったくの初歩から解説します。

フィードバックの方法:

質問については、直接あるいはメール等で適宜受け付けます。また、毎回、出席確認とともに、授業の感想・意見を提出してもらい、授業の内容や方法の見直しを行っています。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	タッチタイピング	10	100字/分以上、誤打率5%以内の入力ができること
	基本用語	30	授業内で行う小テストの結果
	操作	50	宿題の提出と小テストの結果
	授業への積極的参加度	10	11回以上の出席

教科書:

奥村 晴彦(著)「基礎からわかる情報リテラシー 改訂2版」技術評論社, 2014年1月

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

メール

授業テーマ:	コンピュータ・リテラシー アカデミック・ライティング																																		
授業の概要:	情報化社会においてコンピュータを使うことは必要不可欠である。この講義では、インターネットやワープロソフトを使って、情報のコミュニケーション技術の習得を目標とする。 具体的には、インターネットを使った情報検索、電子メールによる情報伝達、ワープロを使った文章技術の習得などを行う。																																		
到達目標:	・タイピングがストレスなくできる ・インターネットで情報を検索することができる ・電子メールにより情報を伝達することができる ・情報をまとめ文書として発信することができる																																		
授業方法:	講義・演習・課題で進める。資料およびデータファイルは授業中に配布。また、毎回タイピング練習および10分間入力を行う。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション Windowsの基本操作</td><td>自分のPC環境について調べておく</td></tr><tr><td>2. 日本語入力 タッチタイピング練習</td><td>タイピングの練習をする</td></tr><tr><td>3. ファイル操作</td><td>講義で使用するソフトについて、その種類を把握する</td></tr><tr><td>4. インターネット 情報検索</td><td>ブラウザの種類を把握し、インターネットサービスについて調べる</td></tr><tr><td>5. 電子メール</td><td>DWCLA・Webメールにログインしてみる</td></tr><tr><td>6. Word1 基本操作 ページ設定</td><td>日本語入力について確認しておく</td></tr><tr><td>7. Word2 ビジネス文書の基礎知識</td><td>ビジネス文書の種類を調べる</td></tr><tr><td>8. Word3 表の作成</td><td>身近にあるさまざまな表をチェックする</td></tr><tr><td>9. Word4 図形描画</td><td>インターネットで画像検索を試みる</td></tr><tr><td>10. Word5 レポート演習(表紙・脚注など)</td><td>図の取り扱いについて復習しておく</td></tr><tr><td>11. Word6 レポート演習(目次など)</td><td>文書の表示形式について確認しておく</td></tr><tr><td>12. 総合練習1 Web評価</td><td>インターネットで情報検索について復習しておく</td></tr><tr><td>13. 総合練習2 Web比較</td><td>複数の同テーマのサイトについて相違点を見える</td></tr><tr><td>14. 総合練習3 最終課題レポート作成</td><td>レポートの形式について復習しておく</td></tr><tr><td>15. 総合練習4 最終課題レポート作成</td><td>今まで学んだことを見直しておく</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション Windowsの基本操作	自分のPC環境について調べておく	2. 日本語入力 タッチタイピング練習	タイピングの練習をする	3. ファイル操作	講義で使用するソフトについて、その種類を把握する	4. インターネット 情報検索	ブラウザの種類を把握し、インターネットサービスについて調べる	5. 電子メール	DWCLA・Webメールにログインしてみる	6. Word1 基本操作 ページ設定	日本語入力について確認しておく	7. Word2 ビジネス文書の基礎知識	ビジネス文書の種類を調べる	8. Word3 表の作成	身近にあるさまざまな表をチェックする	9. Word4 図形描画	インターネットで画像検索を試みる	10. Word5 レポート演習(表紙・脚注など)	図の取り扱いについて復習しておく	11. Word6 レポート演習(目次など)	文書の表示形式について確認しておく	12. 総合練習1 Web評価	インターネットで情報検索について復習しておく	13. 総合練習2 Web比較	複数の同テーマのサイトについて相違点を見える	14. 総合練習3 最終課題レポート作成	レポートの形式について復習しておく	15. 総合練習4 最終課題レポート作成	今まで学んだことを見直しておく		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション Windowsの基本操作	自分のPC環境について調べておく																																		
2. 日本語入力 タッチタイピング練習	タイピングの練習をする																																		
3. ファイル操作	講義で使用するソフトについて、その種類を把握する																																		
4. インターネット 情報検索	ブラウザの種類を把握し、インターネットサービスについて調べる																																		
5. 電子メール	DWCLA・Webメールにログインしてみる																																		
6. Word1 基本操作 ページ設定	日本語入力について確認しておく																																		
7. Word2 ビジネス文書の基礎知識	ビジネス文書の種類を調べる																																		
8. Word3 表の作成	身近にあるさまざまな表をチェックする																																		
9. Word4 図形描画	インターネットで画像検索を試みる																																		
10. Word5 レポート演習(表紙・脚注など)	図の取り扱いについて復習しておく																																		
11. Word6 レポート演習(目次など)	文書の表示形式について確認しておく																																		
12. 総合練習1 Web評価	インターネットで情報検索について復習しておく																																		
13. 総合練習2 Web比較	複数の同テーマのサイトについて相違点を見える																																		
14. 総合練習3 最終課題レポート作成	レポートの形式について復習しておく																																		
15. 総合練習4 最終課題レポート作成	今まで学んだことを見直しておく																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	各回のテーマに沿った課題が毎時間課せられるが、授業時間内にできなかった場合は欠席した時は資料やプリントを参考に解答し提出すること。 タイピングは基本なので、各自練習すること。																																		
フィードバックの方法:	授業内課題(提出物)については、課題ごとに教室でまとめて解説後、不備があった場合は個別に指摘、指導。 最終課題は採点して返却。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>タイピング</td><td>10%</td><td>入力文字数とその伸び率</td></tr><tr><td>授業内課題</td><td>40%</td><td>各回の課題の提出</td></tr><tr><td>最終課題</td><td>50%</td><td>技術的な内容と文章から評価</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	タイピング	10%	入力文字数とその伸び率	授業内課題	40%	各回の課題の提出	最終課題	50%	技術的な内容と文章から評価																						
評価方法	割合	評価基準																																	
タイピング	10%	入力文字数とその伸び率																																	
授業内課題	40%	各回の課題の提出																																	
最終課題	50%	技術的な内容と文章から評価																																	
教科書:	プリントを配布																																		
参考書:	30時間でマスター「Office2010」実教出版																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	Eメール kokamoto@dwc.doshisha.ac.jp																																		

授業テーマ:	情報とコンピュータ ― 全般的な知識・理解と基礎技能の向上 ―
授業の概要:	第I部 ファイルとコンピュータ、第II部 ネットワーク、第III部 バイナリファイルの3部構成からなり、情報の単位やコンピュータの基本的な構成(ハードウェアとソフトウェア)から始まって、様々な種類のファイルの作成やそれらのOS(MS-Windows)上での管理、さらにネットワークの仕組みや実際のアプリケーションの操作説明や演習(キー入力テストを含む)を行なう。できるだけ広く一般的な内容を扱い、「情報処理Ⅱ」へ進むための前段階と位置づける。
到達目標:	コンピュータの初歩的な操作経験(キー入力、マウス操作、MS-Windows やワープロソフトウェアの基本操作、情報倫理)を終えた学生が、コンピュータとネットワーク全般の知識を系統的に身につけ、種々の基本操作技術を習得することを目指す。
授業方法:	食物栄養科学科の共通教科書(山本作成)に基づいた講義が中心で、パソコンやネットワークによる演習も行う。原則として、定期試験以外の全ての授業を情報処理教室で実施する。第II部の中で、第I部の内容についての技能試験を行う。宿題も適宜与え、提出を求める。キー入力能力のテストも毎月一回程度のペースで実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業目標や進め方、本学のコンピュータ環境を説明する。ビットやバイトなど情報の単位、外部メディア(USB メモリ)の抜き差しについて説明する。	教科書、USBメモリを用意し、ユーザID と初期パスワードを確認する。教科書 0.1「本書について」と第1 章1.1.2節まで読み、問題を1.5 まで解く。
2.	様々なファイル、テキストとバイナリの違いを説明し、キー入力能力を確認する。	キー入力練習 (Keyboard Master) で入力速度50(文字/分)以上、誤打率6% 以内をクリアする。
3.	ハードウェアの構成と個々のデバイスについて説明し、テキストファイルの作成を演習する。	教科書第2章「ハードウェアの構成とテキストファイルの作成」を読む。
4.	ソフトウェアの種類と階層構造を概説し、テキストの編集技術を教える。	教科書第3章「ソフトウェアの階層構造とテキストファイルの編集」を読む。
5.	ドライブとフォルダによるファイルの管理について概説する。	教科書第4章「ファイルとフォルダ(ディレクトリ)」を読む。
6.	エクスプローラを使った MS-Windows でのフォルダ作成やファイル管理を説明し、演習する。	教科書第5章「MS-Windows におけるフォルダー操作とファイル管理」を読む。
7.	LANとインターネットなどネットワーク全般について概説する。	教科書第6章「コンピュータ・ネットワーク とインターネット」を読む。
8.	E-mail とWWWの仕組みを概説し、E-mail の送受信や WWW での情報検索と保存について演習する。	教科書第7章「インターネット上のメッセージ伝達と情報検索: E-mail と WWW」を読む。
9.	DOS, UNIX 上でのコマンドによるファイル操作を説明し、演習する。	教科書第8章「DOS, UNIX上のコマンド操作とインターネット上のファイル転送: FTP」を読む。
10.	インターネット上でのファイルのアップ・ダウンロードを演習する。	教科書第8章「DOS, UNIX上のコマンド操作とインターネット上のファイル転送: FTP」を読む。
11.	ピクセルと色の RGB16進法表現を説明し、ビットマップ・ファイルの作成やファイル容量の認識について演習する。	教科書第9章「画像ファイル」を読む。
12.	ワープロ文書ファイルの作成、PDF、Word の基本機能、フォントの選択などについて説明し、演習する。	教科書第10章「ワード・プロセッシング」を読む。
13.	MS-Word での数式挿入、文書形式と保存、文字列編集、印刷、表作成、罫線、計算などについて説明し、演習する。	教科書第11章「Word の実践」を読む。
14.	MS-PowerPoint によるスライド作成を説明し、演習する。	教科書第12章「スライド・プレゼンテーション」を読む。
15.	MS-Excel を紹介し、その基本操作(セル選択とデータ入力)について説明、演習する。	教科書第13章「スプレッドシート」を読む。

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業開始までに、必ず学内のPCにログインし、キー入力練習(入力速度50文字/分以上、誤打率6% 以内)をしておいてください。

フィードバックの方法: 宿題に対して事後に解説し、評価結果の詳細を掲示する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	20%	授業中に説明を聞き、指定された演習を PC で実行できる。
	PC技能	18%	毎月1回のキー入力テストの正打数/min の平均値と技能テストで評価された第I部の内容に関する技能を合算する。
	定期試験	45%	授業内容全般の知識の定着度を筆記試験で評価する。
	宿題	17%	教科書各章末の宿題に対してメールや印刷物で提出されたものを評価する。

教科書: 『情報処理 I Computers & Files 2017 Autumn』(同女生協で販売予定)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室で、あるいは電子メール。

授業テーマ:	アンケート調査を題材とした文書作成・集計・プレゼンテーション		
授業の概要:	情報処理Iでは、パソコンや情報処理技術を広く学んだはずですが、情報処理IIでは、そのうちのワープロ、表計算、プレゼンテーションの3つに絞って、それらを実際に勉強や仕事に活かせるようになるまで、細かく解説していきます。 例題として、アンケート調査をとりあげます。具体的には、以下の作業となります。 1. ワープロソフトを使って回答しやすい調査票を作成する 2. 表計算ソフトを使って調査結果の集計と解析を行う 3. ワープロソフトを使って読みやすい調査報告書を作成する 4. プレゼンテーションソフトを使って調査報告書の内容をわかりやすく発表する		
到達目標:	アンケート調査の実施は、社会科学系の学生にとって必須の技術です。そのほかの学生にとっても、仮説の設定と実証という卒業研究にも役立つ基本的なプロセスです。さらに、パソコンを利用するための基本的で汎用的な技術をひとつとおり要求され、卒業後、仕事にも役立つものです。単にパソコンの操作方法を受け身で学ぶのではなく、自ら設定したテーマで、考え、工夫しながら、現代の情報処理技術の利用方法を知る、これが本講の目標です。		
授業方法:	受講者には、各自で「〇〇の人には××の人が多い」という形で仮説を考えてもらい、実際にアンケート調査を行い、その結果を分析してもらいます。授業は、そのために必要な手順を説明するという形で進めていきます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 解題:社会調査とは何か、なぜ必要か、何がわかるのか、について解説します。 2. 調査計画:過去の仮説なども紹介しながら「〇〇の人には××の人が多い」という形の仮説を立てます。誰にどのくらいの数の調査をしたらよいか、について解説します。 3. 調査票の作成:調査票作成における留意点を解説します。受講生は、自ら立てた仮説を実証できるような調査票をワープロソフトを使って作成します。 4. アンケートの実施方法について解説します。収集したデータをエクセルに入力する方法を練習します。 5. エクセルに入力したアンケートのデータを集計する方法について学びます。 6. エクセルを使ってクロス集計を行う方法について学びます。 7. エクセルを使って、データを読み替えたり変換することによって柔軟な集計を可能にする方法を学びます。 8. エクセルを使って、集計結果をグラフ化する方法を学びます。 9. ワードによる調査報告書の書き方について学びます。 10. ワードによる調査報告書にグラフを張り付ける方法について学びます。 11. ワードによる調査報告書に表を挿入する方法について学びます。 12. パワーポイントの基本について学びます。 13. パワーポイントを使って、調査結果を説明するプレゼン資料を作成する方法を学びます。 14. パワーポイントによる調査結果のプレゼン資料にグラフと表を挿入し、アニメーションの設定する方法について学びます。 15. 見やすく効果的な報告書の作成方法について解説し、各自作成した調査報告書とプレゼン資料の改善する方法について考えます。	受講を迷っている場合も、初回は必ず出席してください。 「〇〇の人には××の人が多い」という形で仮説を考えてくる。 コメントに従って、仮説を具体的なものに修正し、質問項目を考える。 自分で考えた仮説を、コメントに従って修正し、完成させる宿題:エクセルの基本操作の復習 自分の調査票を作成し、アンケートを実施する 自分のアンケート調査結果の回収、エクセルに入力する 自分のアンケート調査結果の回収、エクセルに入力する 自分のアンケート調査結果を集計してみる 宿題:ワードの基本操作の復習 自分の調査結果を報告書にまとめる作業にとりかかる 自分の調査報告書の作成 自分の調査報告書を完成させる 自分の調査についてプレゼン資料の作成にとりかかる 自分の調査についてのプレゼン資料を作成する 自分の調査報告書とプレゼン資料を完成させ、提出する	
受講者へのメッセージやアドバイス:	自分で仮説を考えて、自分でアンケートをして、集計して、その結果を人に伝えるという体験をしてみます。授業では、ステップごとにアドバイスしながら、作業に必要な技術を一つずつ教えていきます。		
フィードバックの方法:	仮説の設定や調査票の作成は、授業支援システム(マナビー)の掲示板等を使って、双方向で行います。課題を仕上げる上での質問は、授業時間およびメール等で随時受け付けます。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	30%	11回以上の出席
	宿題	20%	2回提出とその内容
	課題	50%	操作の正確さ(Word、Excel、PowerPoint)、課題の理解、がんばり、仮説または結果の面白さ
教科書:	無し		
参考書:	無し		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	メール		

授業テーマ:	表計算とプレゼンテーション																																		
授業の概要:	情報処理Ⅰで学んだことを踏まえ、表計算ソフトを使って数値データを分析し、わかりやすく表現し、伝達するための技術を学ぶ。また、プレゼンテーションソフトを使って、効果的な口頭発表の方法を学ぶ。																																		
到達目標:	・タイピングが正確に素早くできる ・Excelで関数を使って数値データを分析できる ・Excelで作成したグラフを使ってレポートを作成できる ・PowerPointを使ってプレゼンテーションができる																																		
授業方法:	入力練習・説明・実習で行う。各回に課題を作成して提出する。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 表計算ソフトとは データ入力と表の作成</td><td>表計算ソフトで何ができるのか調べておく</td></tr><tr><td>2. 四則演算 合計と平均</td><td>配布された資料を読んでおく</td></tr><tr><td>3. さまざまな関数</td><td>配布された資料を読んでおく</td></tr><tr><td>4. 順位と絶対参照</td><td>配布された資料を読んでおく</td></tr><tr><td>5. IF関数による条件判定</td><td>配布された資料を読んでおく</td></tr><tr><td>6. IF関数の応用</td><td>配布された資料を読んでおく</td></tr><tr><td>7. グラフ作成</td><td>配布された資料を読んでおく</td></tr><tr><td>8. インターネットからのデータベース検索</td><td>ネット上のデータベースについて、どんなものがあるか、調べておく</td></tr><tr><td>9. ExcelとWordの連携</td><td>Officeソフトの連携について調べておく</td></tr><tr><td>10. Excelのまとめ</td><td>学んだことを見直しておく</td></tr><tr><td>11. PowerPointとは 基本的な操作(1)</td><td>パワーポイントで何ができるか調べておく</td></tr><tr><td>12. 基本的な操作(2)</td><td>配布された資料を読んでおく</td></tr><tr><td>13. 課題作成(1)</td><td>発表の資料を集めストーリーを考えておく</td></tr><tr><td>14. 課題作成(2)</td><td>作成したファイルを仕上げておく</td></tr><tr><td>15. 発表と評価</td><td>発表の準備とリハーサルをしておく</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 表計算ソフトとは データ入力と表の作成	表計算ソフトで何ができるのか調べておく	2. 四則演算 合計と平均	配布された資料を読んでおく	3. さまざまな関数	配布された資料を読んでおく	4. 順位と絶対参照	配布された資料を読んでおく	5. IF関数による条件判定	配布された資料を読んでおく	6. IF関数の応用	配布された資料を読んでおく	7. グラフ作成	配布された資料を読んでおく	8. インターネットからのデータベース検索	ネット上のデータベースについて、どんなものがあるか、調べておく	9. ExcelとWordの連携	Officeソフトの連携について調べておく	10. Excelのまとめ	学んだことを見直しておく	11. PowerPointとは 基本的な操作(1)	パワーポイントで何ができるか調べておく	12. 基本的な操作(2)	配布された資料を読んでおく	13. 課題作成(1)	発表の資料を集めストーリーを考えておく	14. 課題作成(2)	作成したファイルを仕上げておく	15. 発表と評価	発表の準備とリハーサルをしておく		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 表計算ソフトとは データ入力と表の作成	表計算ソフトで何ができるのか調べておく																																		
2. 四則演算 合計と平均	配布された資料を読んでおく																																		
3. さまざまな関数	配布された資料を読んでおく																																		
4. 順位と絶対参照	配布された資料を読んでおく																																		
5. IF関数による条件判定	配布された資料を読んでおく																																		
6. IF関数の応用	配布された資料を読んでおく																																		
7. グラフ作成	配布された資料を読んでおく																																		
8. インターネットからのデータベース検索	ネット上のデータベースについて、どんなものがあるか、調べておく																																		
9. ExcelとWordの連携	Officeソフトの連携について調べておく																																		
10. Excelのまとめ	学んだことを見直しておく																																		
11. PowerPointとは 基本的な操作(1)	パワーポイントで何ができるか調べておく																																		
12. 基本的な操作(2)	配布された資料を読んでおく																																		
13. 課題作成(1)	発表の資料を集めストーリーを考えておく																																		
14. 課題作成(2)	作成したファイルを仕上げておく																																		
15. 発表と評価	発表の準備とリハーサルをしておく																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	使用するPCの環境を調べ、バージョンの違いなどによる互換などについて把握しておくこと。各回のテーマに沿った課題が毎時間課せられるが、授業時間内にできなかった場合や欠席した時は、資料やプリントを参考に解答し提出すること。																																		
フィードバックの方法:	授業内課題(提出物)については、課題ごとに教室でまとめて解説後、不備があった場合は個別に指摘、指導。Excel課題については採点して返却。PowerPoint課題については、発表を小グループで相互評価したものを各自まとめるが、それに関して全体的にコメントする。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>タイピング</td><td>10%</td><td>入力文字数とその伸び率</td></tr><tr><td>授業内課題</td><td>30%</td><td>各回の課題の提出</td></tr><tr><td>Excel課題</td><td>30%</td><td>技術的な内容とレポート内容から評価</td></tr><tr><td>PowerPoint課題</td><td>30%</td><td>技術的な内容と作品から評価</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	タイピング	10%	入力文字数とその伸び率	授業内課題	30%	各回の課題の提出	Excel課題	30%	技術的な内容とレポート内容から評価	PowerPoint課題	30%	技術的な内容と作品から評価																			
評価方法	割合	評価基準																																	
タイピング	10%	入力文字数とその伸び率																																	
授業内課題	30%	各回の課題の提出																																	
Excel課題	30%	技術的な内容とレポート内容から評価																																	
PowerPoint課題	30%	技術的な内容と作品から評価																																	
教科書:	プリントを配布																																		
参考書:	「30時間でマスターOffice2010」実教出版																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力																																		
教員との連絡方法:	Eメール kokamoto@dwc.doshisha.ac.jp																																		

授業テーマ:	(食物栄養分野への応用を含む) 表計算とデータ解析の技能習得、マークアップ言語プログラミング
授業の概要:	まず、MS-Excel (以下、Excel と表記) の標準操作 (表作成・計算、グラフ化) を身につける。次に、食物栄養分野で得られる実験データに対する数学的、統計的解析 (細菌の増殖データの対数変換と線形回帰分析、動物実験データの比較検定) を Excel で実践する。最後に、「情報処理Ⅰ、Ⅱ」の総決算として、2種のマークアップ言語を使った HP 作成 (HTML) と印刷文書作成 (LaTeX) を演習し、一般プログラミングの概念やプロセスを擬似的に理解させる。
到達目標:	「情報処理Ⅰ」を踏まえ、表計算とデータ解析、マークアップ言語プログラミングに関する知識と技術を獲得し、食物栄養科学科の専門学習に役立てる。
授業方法:	食物栄養科学科の共通テキスト (山本作成) を使い、情報処理教室での講義とパソコンによる演習が中心である。データ分析に必要な数学や統計的側面について補足講義を行う。情報処理Ⅰに比べ、演習の比重が高い。宿題も適宜与え、提出を求める。第Ⅳ部内では章間の連結性が高く、特に Excel の宿題は翌週の授業へ進むために必要なものを含む。第Ⅳ部終了後に Excel の技能試験を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Excel の基本操作 (セル選択とデータ入力) を復習した後、データ操作 (書式設定とシート上の編集) を説明し、演習する。	情報処理Ⅰの教科書第13章「スプレッドシート」を読んで復習する。本科目の教科書第Ⅳ部第14章「データ操作と合計計算」の前半を読む。 教科書第14章「データ操作と合計計算」の後半を読む。
2.	Excel の基本操作として合計計算を練習し、その演習として、「朝食の栄養計算モデル」表を作成する。数式作成やセル参照の基本を説明・演習する。	
3.	「成分表を使った朝食の栄養計算」の事例を通して絶対参照と相対参照の違い (混合参照) を理解させ、文字列や数式のコピー操作を使って効率よく栄養計算表を完成させる。	教科書第15 章「Excel の操作: 数式」の後半と第16 章「Excel の操作: 関数とグラフ」の前半を読む。
4.	Excel でのグラフ作成法を説明・演習する。栄養計算結果を Excel でグラフ化し、グラフのデータソースを操作する。	教科書第16 章「Excel の操作: 関数とグラフ」の後半と第17 章「Excel の操作: グラフのカスタマイズ」の前半を読む。
5.	前回作成したグラフの各要素をカスタマイズ (書式設定) し、グラフを完成させる。	教科書第17 章「Excel の操作: グラフのカスタマイズ」の後半を読む。
6.	Excel で「細菌の増殖データ」を分析するための準備として、菌数-時間データの表と散布図グラフを作成する。	第18章「Excel によるデータ分析: 対数散布図グラフと線形回帰直線」の18.1節「散布図グラフ」までを読む。
7.	Excel の対数 (LOG) 関数を使って、菌数-時間データを線形化し、散布図グラフを作成する。	「食物学のための数学と物理」あるいは教科書付録Aの「細菌の増殖」と「指数・対数関数」を予復習する。第18章「Excel によるデータ分析: 対数散布図グラフと線形回帰直線」の18.2節「対数変換によるデータ系列の線形化」を読む。 基礎統計学の「相関係数」を復習する。第18章「Excel によるデータ分析: 対数散布図グラフと線形回帰直線」の18.3節「細菌の増殖の線形回帰分析」を読む。
8.	最小2乗法に基づく線形回帰分析法を概説した後、線形化された菌数-時間データ系列に近似直線として回帰直線を追加し、平均世代時間を求める。	情報処理Ⅰのデータ転送 (FTP) と基礎統計学の「平均」と「標準偏差」を復習する。第19 章「Excel によるデータ分析: 平均と標準偏差」の19.2節「データの基礎統計分析」までを読む。
9.	Excel で「動物実験データ」を比較分析するための準備として、ラットの解剖 (タブ区切りテキスト) データを FTP サーバから取得し、Excel に取り込み、各ラット群の基礎統計量として平均値と標準偏差を Excel の関数で求め、表を完成させる。	基礎統計学の「統計的仮説検定: 2つの平均値の差の検定」を復習する。第20 章「Excel: 統計的検定・データの並べ換え・動的貼り付け・印刷」の20.1 節を読む。 第20 章「Excel: 統計的検定・データの並べ換え・動的貼り付け・印刷」の 20.1 節と 20.2 節を熟読する。
10.	平均値を棒グラフで表示させ、誤差範囲 (標準偏差) を挿入する。2群の平均値間の有意差検定に備えて、その概要を解説する。	第20 章「Excel: 統計的検定・データの並べ換え・動的貼り付け・印刷」の20.3節以降を読む。
11.	2つのラット群の特性値分布の分散 (F検定) および平均値 (t検定) 間の有意差検定を説明し、Excel で実践する。	
12.	動物実験データを使って、Excel におけるデータの並べ換えと動的貼り付けを演習する。Excel 上での表やグラフの印刷法を説明する。	第Ⅳ部全体を復習し、教科書付録B「Excel 技能課題」を解き、Excel の技能テストに備える。第Ⅴ部第21 章「プログラミングとマークアップ言語」を読む。 教科書第22 章「HTML によるマークアップ」を読む。
13.	第Ⅳ部の内容 (Excel) に関する技能テストを実施する。第Ⅴ部の第一段階として、プログラミングとマークアップ言語の概要を説明する。	
14.	HP 作成用マークアップ言語である HTML を使って HP 「にんにく風味カルボナーラの調理」のソースを編集し、ブラウザで出力する。見出し・表・箇条書き作成、図とリンク、背景と文字の色調整などを演習する。	
15.	印刷文書用マークアップ言語である LaTeX を使って「にんにく風味カルボナーラの調理」の TeX ソースを編集し、コンパイルして出力する。見出し、表、箇条書き、図、参照などを演習する。	教科書第23 章「TeX によるマークアップ」を読む。

受講者へのメッセージやアドバイス:	この科目は情報処理Ⅱの後継科目ですが、より実践的で演習中心に授業が進行します。情報処理Ⅰ、数学、統計学の知識・技能を獲得しているだけでなく、各回の予習 (教科書を読む) と毎回の宿題も含めた実践的な復習が必須です。これらの授業外学習に基づいた本科目の履修により、非常に高い教育効果を得るでしょう。
フィードバックの方法:	宿題に対して事後に解説し、評価結果の詳細を掲示する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	20%	授業中に説明を聞き、指定された演習を PC で実行できる。
	PC 技能	22%	毎月1回のキー入力テストの正打数/min の平均値と Excel 技能テストの採点結果を合算する。
	定期試験	38%	授業内容全般の知識の定着度を筆記試験で評価する。
	宿題	20%	教科書各章末の宿題に対してメールや印刷物で提出されたものを評価する。

教科書：『情報処理Ⅱ Using Computers in the Life Sciences and Beyond 2017 Spring』（同女生協で販売予定）

参考書：

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
方法：授業の前後に教室で、あるいは電子メール。

601260

保育学実習

村瀬 学

授業テーマ:	幼稚園での保育実習		
授業の概要:	幼稚園で、乳幼児の保育実習体験をする。		
到達目標:	実習を通して、乳幼児の発達の理解と、保育施設の理解を深め、保育・幼児教育に関わるものとしての必要な知識、技能、態度を身につける。		
授業方法:	保育実習施設での2日間の実習指導を受ける		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション① 実習園について理解を深める	幼稚園の概要を調べる。関連法規、保育所指針などを調べる
	2.	オリエンテーション② 幼児教育に求められるものを学ぶ	実習生の心構え、幼稚園の年間行事など調べる。保育記録のつけ方を学ぶ。
	3.	事前指導 保育と遊び①	乳幼児の発達の即した遊びを調べる。
	4.	事前指導 保育と遊び②	乳幼児の発達の即した遊びを調べる。
	5.	事前指導 保育と遊び③	乳幼児の発達の即した遊びを調べる。
	6.	幼稚園での実習①	実習一日目。
	7.	幼稚園での実習② 2日間の実習	実習二日目。
	8.	実習報告書 実習簿の記入、提出	実習の振り返り。実習で学んだことの整理。
	9.	反省会、レポートの作成、発表。	実習の振り返り。実習で学んだことの整理。
	10.	反省会と討論。	今後の教育者としての自覚につなげるための議論をする。
	11.	反省会と討論。	今後の教育者としての自覚につなげるための議論をする。
	12.	反省会と討論。	今後の教育者としての自覚につなげるための議論をする。
	13.	反省会と討論。	今後の教育者としての自覚につなげるための議論をする。
	14.	反省会と討論。	今後の教育者としての自覚につなげるための議論をする。
	15.	実習全体のまとめ。	全体のまとめをレポートにする。
	受講者へのメッセージやアドバイス:	たくさん幼児向けの絵本を読み、歌などを覚えておく。ダンゴムシなどに触れるようにしておく。	
フィードバックの方法:	実習の様子を訪問して確認し、実習先の先生のアドバイスを学生に伝える。実習簿を通して反省会で議論する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実習園からの評価	65	実習園の評価にもとずく。
	実習簿	15	丁寧に観察、実践の記録が書けているか。
	提出物	10	その他、幼児の遊びの補助遊具の作成と提出。
	出席、欠席	10	厳しく減点する
教科書:	そのつど指示する。		
参考書:	そのつど指示する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力 すべての獲得が必要とされる。		
教員との連絡方法:	メールでのやりとりを基礎とする。		

授業テーマ:

実習先によって以下の個別テーマを持つ。
A: 地域子育て支援の体験実習
B: 商品開発につながる研究業務体験
C: 模型製作・ディスプレイデザイン会社における制作業務体験
D: 人と機械をつなぐものづくり現場における各種業務体験

授業の概要:

A～Dいずれかの実習先で指導を受けながら実習する。
実習スケジュールはA、B、C、D共に、以下の通りを予定している。
①事前指導—学科におけるオリエンテーション、キャリア支援部によるオリエンテーション
②実地実習—夏季休暇中(8月～9月の12日間〔原則、月～金の2週間〕)
③事後指導—学科におけるインターンシップ報告会、キャリア支援部による事後指導
なお、実習生の選考方法については、別途掲示により周知する。

到達目標:

A: 本インターンシップでは「社会福祉法人曙福祉会 あけぼのこども園」において担当者の指導を受けながら、園内で実施されている保育実践に参加する。本プログラムは、保育第一線の現場でしか得られない経験を通して、子育て支援の本質を理解し、保育専門職あるいは社会人として子育て問題を解決する方法や視野を育んでいくことを目的に実施される。
B: 本インターンシップでは「パナソニック株式会社エコソリューションズ社ライティング事業グループ」において担当者の指導を受けながら、研究・開発等の業務活動に参加する。機能性や快適性の向上を目指した照明ソフトの開発に関連する取り組みを通じて、電機メーカーにおける研究業務に対する理解を深める。
C: 本インターンシップでは「株式会社さんけい」において担当者の指導を受けながら、模型製作業務に従事する。当該株式会社は、博物館展示のための古建築模型製作を中心に、ミュージアムグッズの企画、展示室・ショールーム等のディスプレイ設計・施工等の業務を展開しており、高度な模型製作技術は全国的に評価が高い。ものづくりの現場を体験し、模型製作技術を習得するとともに、建物の造りや仕組みについての理解を深める。
D: 本インターンシップでは「IDEC株式会社」において担当者の指導を受けながら、社内で実施されている業務活動に参加する。当該株式会社は、「ものづくりの現場をより安全で快適な環境に」、「くらしのシーンをより豊かに」をモットーに、制御機器の開発やシステム構築、環境・エネルギーや農業ソリューション等を多岐に渡って取り組んでいることから、本学科の教育目標によく合致している。このインターンシップを通じて、制御機器メーカーにおける各種業務に対する理解を深め、学内での講義や実習を社会での実践に活用する手法を学ぶ。また、社内外における交流を通して、社会人・企業人としての資質を向上させる。

授業方法:

4月に説明会を実施、5月に教員によって実習希望者を面接し、成績なども考慮の上、総合的に選考する。実習先毎に、担当教員および実習現場の担当者の指導の下で実施計画に沿って研修する。事前・事後指導は、教員およびキャリア支援部により、学内で実習生合同で行われる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	A: 社会福祉法人曙福祉会 あけぼのこども園(受入可能人数:2名) ・実習内容に関しては、説明会にて詳細を紹介する予定。	実地実習に必要な基礎知識・技術の獲得に努めること。
2.	B: パナソニック株式会社エコソリューションズ社ライティング事業グループ(受入可能人数:2名) ・実習内容に関しては、説明会にて詳細を紹介する予定。	実地実習に必要な基礎知識・技術の獲得に努めること。
3.	C: 株式会社さんけい(受入可能人数:2名) ・実習内容に関しては、説明会にて詳細を紹介する予定。	実地実習に必要な基礎知識・技術の獲得に努めること。
4.	D: IDEC株式会社(受入可能人数:2名) ・実習内容に関しては、説明会にて詳細を紹介する予定。	実地実習に必要な基礎知識・技術の獲得に努めること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前指導では担当教員の指導の下、実習先の業務研究および実習に必要な知識の復習など、入念に準備する。実習期間中、実習簿に必要事項を毎日記載し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、担当教員による指導を受ける。

フィードバックの方法:

提出物はコメントを付け返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	積極的参加度	30%	事前・事後指導を含めた出欠状況
	実習簿	30%	担当教員が実習簿を基に総合評価
	報告会	20%	事後に開催される報告会での報告・質疑応答
	実習状況	20%	実習先巡回時の評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

担当教員が連絡方法等を個別に指示する。

授業テーマ:	食物科学の専門性を生かしたインターンシップ。実習先によって以下の個別テーマを持つ。 A. 商品開発につながる研究業務体験、B. クッキングスクール運営業務体験、C. 酒造会社における品質管理・商品開発業務体験、D. 総合酒類食品企業における研究開発業務体験
授業の概要:	A～Dいずれかの実習先で担当者の指導を受けながら、以下の実習を行う。 A. 研究所内で実施されている研究・開発・消費者啓発活動に参加する(江崎グリコ株式会社・健康科学研究所)。 B. クッキングスクールのインストラクター業務やその運営業務を体験する(ラ・キャリエール クッキングスクール)。 C. 酒造会社で飲料の製造工程における品質管理、商品開発などを体験する(梅乃宿酒造株式会社)。 D. 総合酒類食品企業での研究開発と品質・衛生管理を体験する(サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社・水科学研究所) なお、下記「授業内容」のうち、「事前・事後指導(学内)」は食物栄養科学科での合同オリエンテーションと合同報告会、およびキャリアサポートセンターによる事前・事後指導を指す。また、実習先での内容は全て過去の実績に基づいた予定であり、実習先の都合によって変更や募集先のものの中止もありうる。実施年度における実際の現場実習内容は、学科の合同オリエンテーションの中で実習先別に説明される。
到達目標:	食品会社における基礎研究や商品企画・開発・評価など、食物科学専攻に特化した内容のインターンシップ研修を行うことで、本専攻での専門的学習を深め、広げるとともに、現場での就業体験によって社会人、企業人としての資質を育てる。実習経験を通して、食品会社における研究業務に対する理解を深め、学内での講義や実験実習が社会での実践につながることを学ぶ(A)。また、商品企画・開発の流れ、ネーミングやパッケージング、商品コンセプト作り、クッキングスクール運営など、学内の授業だけでは得られない実践的学びを積む(B～D)。
授業方法:	受講人数は A. 1名、B. 1名、C. 1名、D. 2名。4月に説明会を実施、5月に食物科学専攻教員によって実習希望者を面接し、成績なども考慮の上、総合的に選考する。実習先毎に、その担当教員および実習現場の担当者の指導下で実施計画に沿って研修する。事前・事後指導は、食物科学専攻担当教員およびキャリア支援部により、学内で実習生合同で行なわれる。合同報告会は専攻内で公開され、実習生が司会進行を務める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	A. (1) 事前指導(学内) (2) 実習(指導者:江崎グリコ社内担当者、場所:江崎グリコ健康科学研究所) 実習1日目:オリエンテーション 実習2～11日目:商品開発、研究補助、栄養指導補助等 インターンシップ期間中に健康科学研究所で実施されている研究・開発業務を体験する。 実習2～11日目の適切な日に教員が巡回 (3) 事後指導(学内)	応募に当たって、4月に開催予定の募集説明会に出席する。事前・事後指導で必要な書類等を不備なく作成し、期限内に提出する。実習中、毎日実習簿に必要事項を記入し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、学内実習担当者による指導を受ける。
2.	B. (1) 事前指導(学内) (2) 実習(指導者:大和学園、ラ・キャリエールクッキングスクール担当者、場所:ラ・キャリエールクッキングスクール) 実習1,2日目:オリエンテーション・集合研修 実習3～5日目:スクール運営業務体験 実習6～8日目:インストラクター業務補助体験 実習9～10日目:実習内容発表会・総括 実習期間の適切な日に教員が巡回 (3) 事後指導(学内)	応募に当たって、4月に開催予定の募集説明会に出席する。事前・事後指導で必要な書類等を不備なく作成し、期限内に提出する。実習中、毎日実習簿に必要事項を記入し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、学内実習担当者による指導を受ける。
3.	C. (1) 事前指導(学内) (2) 実習(指導者:梅の宿社内担当者、場所:梅の宿) 実習1日目:オリエンテーション、製造工場見学 実習2,3日目:製品成分の分析実習、微生物に関する衛生実習 実習4～10日目:製造工程における品質管理、商品開発等のプレゼンテーション 実習期間の適切な日に教員が巡回 (2) 事後指導(学内)	応募に当たって、4月に開催予定の募集説明会に出席する。事前・事後指導で必要な書類等を不備なく作成し、期限内に提出する。実習中、毎日実習簿に必要事項を記入し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、学内実習担当者による指導を受ける。
4.	D. (1) 事前指導(学内) (2) 実習(指導者:水科学研究所社内担当者、場所:水科学研究所) 実習1日目:オリエンテーション、研究所見学 実習2～4日目:水の官能評価 実習5,6日目:国産ミネラルウォーターの化学分析、成分マッピングと水の新価値提案 実習7日目:発表会とまとめ 実習期間の適切な日に教員が巡回 (2) 事後指導(学内)	応募に当たって、4月に開催予定の募集説明会に出席する。事前・事後指導で必要な書類等を不備なく作成し、期限内に提出する。実習中、毎日実習簿に必要事項を記入し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、学内実習担当者による指導を受ける。

受講者へのメッセージやアドバイス:	受講のための選考がありますが、興味のある人は積極的に応募してください。この科目履修は社会(食品企業)への実践的参加を伴い、通常の学内授業とは全く異なる形態で行われます。実習生に選ばれた人は事前指導の内容を十分に理解し、実習の目的意識と同志社女子大生としての責任感を持って実習に臨み、事後指導も含め、最後まで積極的に参加してください。得られるものは非常に大きく、貴重な経験となるでしょう。
フィードバックの方法:	事前指導以降、各実習先担当教員が実習生からの提出物や報告内容に対して個別に対応する。合同報告会では参加者から質疑応答を受け、また参加者の感想文を後日実習生に回覧することで、プレゼンテーションした実習内容が相手にうまく伝わったかどうかを確認する。最終的に実習簿を返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	積極的参加度	25%	事前・事後指導(学内) および実習期間中の出欠席状況
	実習成績報告書	25%	実習先が判断する事項別および総合評価の評点合計
	実習状況	25%	担当教員が実習簿を基に実習状況を総合評価する。
	合同報告会	25%	事後に開催されるS専攻インターンシップⅡ 合同報告会での報告・質疑応答・運営協力姿勢に対して、出席担当教員全員の合議で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	事前指導以降、担当教員と研究室その他学内で直接連絡、あるいは E-mail で連絡。

授業テーマ:

生物学の基礎学力をつける。

授業の概要:

高校生物の内容からスタートして、専門科目の授業についていけるようにします。扱う内容は、生物の体をつくる物質、酵素の働き、呼吸のしくみ、細胞の構造と働き、細胞分裂の過程としくみ、生殖・発生と遺伝子の働き、動物のホメオスタシス(恒常性)です。

到達目標:

大学受験で生物を学んでいない学生を対象としていますので、生物の基礎学力をつけることを目標としています。

授業方法:

パワーポイントを使用し、適宜、質疑応答をします。授業の最初に毎回10分程度、小テストを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業についての説明 科学的方法 生物の特性	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 序章、1章
2.	生物の体をつくる物質とその働き 1 生元素、無機物	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 2章2－3
3.	生物の体をつくる物質とその働き 2 有機物	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 2章3
4.	細胞の構造と働き	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 2章4－5
5.	細胞分裂	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第7章2
6.	生殖	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 7章2、8章1
7.	発生	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 8章2－5
8.	ATPと酵素の働き	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 4章1、3
9.	呼吸	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 4章1
10.	遺伝子の働き1	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 3章1－2、7章1
11.	遺伝子の働き2	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 3章3－4
12.	細胞間の情報伝達	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 5章、6章
13.	人のからだ1	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 9章
14.	人のからだ2	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 10章
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業の最初に行う小テストは、前回の授業の復習テストですので、遅刻しないようにしてください。

フィードバックの方法:

小テストの解答、解説等は、授業中に行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	毎回の授業で行う小テストの内容が理解できているかを確認する試験を行いますので、小テストを受けて、よく復習をしておいてください。

教科書:

和田 勝／著 高田耕司／編集協力
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第3版
羊土社
3,200円＋税 2015/11/27 発行 B5判 334ページ ISBN 978-4-7581-2065-4

参考書:

吉里勝利ほか
スクエア最新図説生物neo
第一学習社
925円
藤井 恒
高校の生物が根本からわかる本 細胞・代謝・発生・遺伝編 (社会人・大学生のための理数系再入門テキスト)
中経出版
1,600円＋税
枅内 新・左巻 健男(編著)
新しい高校生物の教科書―現代人のための高校理科 (ブルーバックス)
講談社
1,200円＋税

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業前または授業後に教室で対応します。

授業テーマ:

授業の概要: 本講義は高校にて化学を修得しなかった新入生を主な対象として化学の全くの初歩からわかり易く解説する事で化学的基礎知識を確実に自分のものとして吸収し活用出来るように努める。
物質を構成する原子の構造、物質中の原子や分子、イオンの結びつき、物質量の取り扱い、溶液の性質、酸と塩基、酸化と還元など専門科目の理解・習得に必要な項目を中心に学習する。また、実験系実習科目で必要とされる濃度の計算について学習する。

到達目標: (1) 物質を構成する原子と分子の構造を理解する。
(2) 実験実習等で使用されるmolの定義を理解し、濃度計算ができる。
(3) 溶液の性質、pH、緩衝液、中和滴定、酸化還元などを理解する。

授業方法: 5. 講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション 有効数字について	
	2. 原子と分子とイオンについて	
	3. 元素の周期表と原子の電子配置	当日、配布したプリントの復習
	4. 様々な化学結合と極性、分子間力	当日、配布したプリントの復習
	5. 原子量、分子量(式量)について molの概念について 化学反応式と量的反応について	当日、配布したプリントの復習
	6. 濃度(質量パーセント濃度・モル濃度) 密度(比重)の概念	当日、配布したプリントの復習
	7. 濃度換算 ～ 質量パーセント濃度⇔モル濃度 ～	当日、配布したプリントの復習
	8. 小テスト 酸と塩基の定義について 対数法則について	当日、配布したプリントの復習 指数、対数法則の復習
	9. pHの概念と溶液のpHについて 酸・塩基の強弱と電離度(α)	当日、配布したプリントの復習
	10. 緩衝液について 中和反応と塩について 中和滴定について	当日、配布したプリントの復習
	11. 中和滴定と規定度について	当日、配布したプリントの復習
	12. 逆滴定	当日、配布したプリントの復習
	13. 酸化と還元について	当日、配布したプリントの復習
	14. 酸化剤と還元剤について	当日、配布したプリントの復習
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テストの質問等は教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席を含む授業の参加・態度	10	出席カードに確認問題を解き、その出来具合に応じて出席点を付与する。
	小テスト	30	
	期末試験	60	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: nito@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ：子どもの多様な姿を追求する。

授業の概要：乳児、幼児、少年、青年と変化する「児童」の成長を、ただ個人の発達の相において見るだけではなく、「歴史の中に現れてきた子ども」「文化の中に現れてきた子ども」「社会政策の中に現れてきた子ども」「法の中の子ども」「映画の中の子ども」など、できるだけ多方面から取り上げ理解を深める。

到達目標：① 固定化してみている子ども像を打ち破る。
② 自分の子ども時代を見なおす。
③ 子どもも創造者であることを知る。
④ そして知的な関心を広げ、探究意欲を深める。

授業方法：講義の形式。パワポや映像は毎回使う。しかし、一方通行にならないよう、毎回感想をメールで送ってもらい、それを次の週に指名は伏せて全員の分をプリントして配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 子どもとは何か。「となりのトトロ」を通して、新しい見方を提示する。	調べもののやり方の説明。
	2. 4歳児の力とは何か。はじめてのおつかいの分析。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	3. 歌と子ども。わらべ唄、唱歌、童謡、アニメソングの歴史を知る。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	4. 絵本の魅力。絵本から何を学ぶのか。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	5. 親子とは何か。児童虐待について考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	6. 小学生とは何か。算数や理科を学ぶことの意味を考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	7. 少年期を越えるとき。10歳の壁について考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	8. 13歳問題を考える。大人への通過儀礼のあり方について考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	9. 青春と歌。自分を表現するものとしての歌について考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	10. コルチャック先生と児童の権利条約を考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	11. 少年法の問題を考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	12. 子どもと動物物語を考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	13. 宮崎駿のアニメの世界を考える。 その①	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	14. 宮崎駿のアニメの世界を考える。 その②	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
	15. 成人年齢を考える。	授業の全体を振り返り、レポートに向けての要点を説明する。

受講者へのメッセージやアドバイス：子どもの先入観をすてて子どもを見る努力をする。

フィードバックの方法：授業が一方通行にならないよう、毎回感想をメールで送ってもらい、質問や疑問にはコメントをつけ、それを次の週に指名は伏せて全員の分をプリントして配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポートの提出	60	授業の意図をよく汲んでレポートを書いているかどうか。
	メールでの感想の提出	30	自分で、疑問を持ち、課題を調べようとしているかどうか。
	出席、欠席	10	厳しく採点する。授業の三分の一の欠席があれば不可とする。

教科書：随時、指示する。

参考書：随時、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：メールでのやりとり。

授業テーマ:

安全性・機能性・快適性の各側面から適切な住宅選択ができる力を養う

授業の概要:

住居学全般にわたる基礎事項について学ぶ

到達目標:

住居学の基礎知識を身につける

授業方法:

スライドによる講義、ビデオ等による空間の理解とディスカッション、住生活調査など

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	住まいの目的、住要求と住意識	具体的な住要求から、自身のもつ住意識について考える
2.	起居様式、食寝分離と就寝分離	自宅での生活行為と起居様式を書き出し、気づいたことをまとめる
3.	ダイニングキッチン の成立	自宅キッチンのワークトライアングルを測定し、調理作業のしやすさとの関係を考察する
4.	公私室分離、nLDK型平面プラン	自宅のLDK空間について、その構成と使い方をまとめる
5.	住空間の理解(グループワーク)	ディスカッション内容をグループごとにまとめて考察する
6.	LDK空間 課題発表	様々な発表内容から、LDK空間の在り方について再考する
7.	子ども室	子ども部屋としての自室、これからの子ども室の在り方について考える
8.	高齢者の住生活	高齢者の暮らしに関する資料を収集する
9.	安全／安心の住まい	自宅の安全性について確かめる
10.	住まいの環境	自宅の照明、換気設備の設置状況について見直し、考察する
11.	住生活調査-グループワーク	グループごとにテーマに基づき、調査項目を考える
12.	住生活調査-調査実施	調査結果をまとめる
13.	近代住宅の変遷	住生活調査結果を分析し、プレゼンテーションの資料を作成する
14.	住生活調査-発表会	調査結果、分析方法、発表内容を見直す
15.	まとめ	これまでの学びをまとめ、これからの住生活に適したプランを考える

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

課題の提出はマナビーや課題用紙にて実施(最終授業で返却します)

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	20	課題提出状況、提出物の内容により評価 グループ課題ではグループメンバーは同一評価点となります
	課題	20	
	試験	60	

教科書:

私たちの住居学 サスティナブル社会の住まいと暮らし、理工学社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

マナビー

授業テーマ:			
授業の概要:	健康は日常の食生活と深い関わりを持っている。そのため、私たち一人一人が食について正しい知識を身につけることが不可欠である。本講義では、栄養学・食品学・食品衛生学などの基本を学ぶ。「食」に関する氾濫する情報を正しく判断できる知識を身につけることを望む。		
到達目標:	・自分の食生活に関心をもつ。 ・食品を安全に取り扱う方法を理解する。 ・健康な日常生活をおくるために必要は栄養学と食品学の基礎を身につける。 ・日々の生活の中にある日本の食文化について関心をもつ。		
授業方法:	講義形式(一部グループ発表も実施する。) なお、授業開始時に、指名する受講者2名に、食に関する一言報告(1-3分程度)をお願いする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 食物とは 食品の安全性－食中毒とその予防1 2. 食品の安全性－食中毒とその予防2 3. 食品の安全性と表示－農薬、食品添加物、アレルギー他 4. 健康的な食生活－食事摂取基準 5. 健康的な食生活－食品群・食事バランスガイド 6. 栄養素とその機能－炭水化物・脂質 7. 栄養素とその機能－たんぱく質・ミネラル1 8. 栄養素とその機能－ミネラル2 9. 栄養素とその機能－ビタミン・食物繊維 10. 健康的な食生活－咀嚼 11. 食の体調調節機能－概説 12. 食の体調調節機能－特定保健用食品 13. 食と年中行事 14. 食と京都 15. まとめ	教科書の「食中毒」に関して記載の箇所を読んでおく。 食中毒に関する課題シートを完成させる。 食中毒予防に関する課題シートを完成させる。 教科書の「食品の表示」「食品添加物」に関して記載の箇所を読んでおく。 食品の安全性と表示に関する課題シートを完成させる。 教科書の「食事摂取基準」に関して記載の箇所を読んでおく。 食事記録シートを完成させる。 教科書の「食品群」「食事バランスガイド」に関して記載の箇所を読んでおく。 教科書の「栄養素」「炭水化物」「脂質」に関して記載の箇所を読んでおく。 教科書の「たんぱく質」に関して記載の箇所を読んでおく。 教科書の「無機質」に関して記載の箇所を読んでおく。 教科書の「ビタミン」「食物繊維(通常、炭水化物の項に併記)」に関して記載の箇所を読んでおく。 教科書の「生活習慣病」に関して記載の箇所を読んでおく 消費者庁のHPIにある「健康や栄養に関する表示の制度」「機能性表示食品に関する情報」を読んでおく。 消費者庁のHPIにある「健康や栄養に関する表示の制度」「機能性表示食品に関する情報」を読んでおく。 正月料理に関するレポートを完成させる。 全講義内容の復習を開始する。 全講義内容を復習する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	出席カードの自由記述欄には、その日の講義に関する感想、意見を必ず記載してください。また、授業内容にかかわらず、食に関する質問があれば、自由に記載してください。		
フィードバックの方法:	提出物の中で知識の整理に役に立つものは、原則、添削して授業中に返却する。出席カードに書かれた質問については、できるだけ次回以降の授業中に回答する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	提出物(レポート)	20	食に関する基礎知識の理解度、食生活への関心度を評価する。
	授業への参加度	20	出席カードの自由記述欄のコメントを含めて、食生活に関する関心度を評価する。
	定期試験	60	食に関する基礎知識の習得度を評価する。
教科書:	石井克枝(監修)『新カラーチャート食品成分表』教育図書		
参考書:	適宜資料を配布する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、変化対応力、自己管理力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーならびに授業前後に教室内で対応		

授業テーマ:	生活のなかの衣服		
授業の概要:	「生活のなかの衣服」をテーマに、わたしたちの衣生活を文化的・歴史的な視点と科学的な視点から考えます。健康的で豊かな衣生活を営むための基本的な知識を学ぶとともに、衣生活についての見識を広め理解を深めることを目指します。		
到達目標:	①衣服の時代性や地域性に関する基本的な知識を身につける ②衣服とその素材の種類や性能に関する基本的な知識を身につける ③衣服に関する知識を自身の生活に結びつけて理解することができる		
授業方法:	テキストをもちいて講義形式で行います。適宜、体験的な要素を取りいれながら進めます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 衣服と人間 一ひとはなぜ装うのか	テキストpp.1～3	
	2. 衣服の起源と類型	テキストpp.3～13	
	3. 気候風土と装い	テキストpp.46～48	
	4. 民族と衣服	テキストpp.48～56	
	5. 西洋の衣生活の変遷① 古代・中世	テキストpp.14～20	
	6. 西洋の衣生活の変遷② 近世	テキストpp.20～25	
	7. 西洋の衣生活の変遷③ 近現代	テキストpp.25～31	
	8. まとめ		
	9. 衣服の素材① 繊維	テキストpp.57～61	
	10. 衣服の素材② 糸・布	テキストpp.61～64	
	11. 衣服の素材③ 布の性能	テキストpp.64～68	
	12. 衣服の品質と管理	テキストpp.117～121,pp.121～124,pp.103～116	
	13. 衣服の手入れ	テキストpp.125～134	
	14. 衣服の廃棄とリサイクル	テキストpp.135～139	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	採点またはコメントを記して返却します		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	40	授業へ積極的に参加し、到達目標①～③に関する理解度を評価する
	小レポート等	10	到達目標③の観点から、レポートや作業における視点や姿勢を評価する
	試験	50	おもに、到達目標①②について評価する
教科書:	佐々井啓、大塚美智子編著『衣生活学』 朝倉書店		
参考書:	岡田宣子編著『ビジュアル衣生活』建帛社 山口庸子、生野晴美編著『新版 衣生活論 持続可能な消費に向けて』 アイ・ケイ コーポレーション 酒井豊子、藤原康晴 編著『ファッションと生活—現代衣生活論 (放送大学教材)』放送大学教育振興会		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー マナビーの掲示板機能		

授業テーマ：女性が健康に生きるために

授業の概要：現代の人々の最大の関心の一つである健康、医療、高齢をキーワードに講義を行う

到達目標：健康、老化に関する関心と確かな知識を得る

授業方法：講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 健康について(村上)	関連分野の予習をして臨む
	2. 女性の健康、疾患予防(村上)	関連分野の予習をして臨む
	3. 健康と幸福感について(村上)	関連分野の予習をして臨む
	4. ライフサイクル、思春期、成人期、中年期(村上)	関連分野の予習をして臨む
	5. ライフサイクル、老年期(村上)	関連分野の予習をして臨む
	6. 現代の疾病構造〔総論〕(村上)	関連分野の予習をして臨む
	7. 疾患(疾患各論1)(高橋)	関連分野の予習をして臨む
	8. 疾患(疾患各論2)(高橋)	関連分野の予習をして臨む
	9. 女性における医学的諸問題(総論)(高橋)	関連分野の予習をして臨む
	10. 女性における医学的諸問題(疾患各論1)(高橋)	関連分野の予習をして臨む
	11. 女性における医学的諸問題(神経疾患各論2)(杉山)	関連分野の予習をして臨む
	12. 女性における医学的諸問題(精神疾患各論3)(杉山)	関連分野の予習をして臨む
	13. 老化(心と体)について(高橋)	関連分野の予習をして臨む
	14. 高齢社会と介護、医療、緩和医療について(杉山)	関連分野の予習をして臨む
	15. 総括	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：レポート

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	60	講義内容の理解度により評価する
	授業への積極的参加度	40	

教科書：配布資料

参考書：授業で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法：授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	真に豊かでゆとりある消費生活の確立をめざして「流通経済と消費」のあり方を考える		
授業の概要:	消費生活のあり方は、生産および流通のあり方と密接に関連しあっている。流通は、生産と消費の仲立ちをする経済活動（マーケティング・卸売・小売業など）である。 今日、生産・流通は、IT革命・規制緩和・グローバル化と大競争時代の到来によって、再編・淘汰が進行し、複雑で深刻な諸問題を抱えている。それとともに消費生活・消費者問題も国際化し、多発・深刻化している。 本講義では、消費生活・消費者問題との関連で、下記のような「流通経済と消費」の実態および理論と課題・対策・法制度について明らかにする。		
到達目標:	本講義を通して、(1)真に豊かでゆとりある消費生活の確立、(2)消費者の権利と自立支援の確立、(3)科学的な認識力と実践力を有し、消費者の権利と責任をを自覚した、賢く自立した勤労生活者や家庭科教員、生活専門家の養成を目指している。		
授業方法:	(1)講義形式で授業を行う。その際、理解を助けるため、適宜、経済社会問題関連のビデオを視聴したり、新聞記事切抜きなどの資料を配布し解説したりする。 (2)授業を前半と後半に分けて、それぞれ1回ずつ授業関連の基礎的論文を採り上げ、その内容のまとめと批評のレポート作成を課す。これは、準備・補充の主体的学習にも通じる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		
	準備学習等の内容		
	1.	オリエンテーション	* 配布し説明したシラバスおよび「レポートの課題とレポートの提出期限」の資料の復習・再確認。 * 説明しなかった就活情報関連の新聞記事の通読・予習 * 口頭での補足説明を再確認。 * 左記補講(1)の関連の新聞記事切抜き資料は、大事な箇所マークペンで線を引ながら精読し保存してノート作り。
	2.	「流通経済と消費」の位置づけ・問題意識と課題と方法 補講(1)就活状況について	(1)授業前半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。
	3.	商品流通と消費の基礎理論	(2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引ながら精読し保存してノート作り・提出。
	4.	消費生活を支える卸売・小売業の流通の基礎理論	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
	5.	マーケティングの基礎理論	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
	6.	中小零細な小売業(商店街など)と巨大小売業(大手の百貨店やスーパーなど)の流通	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
	7.	中小零細な小売業(系列専門店など)と巨大小売業(大手の専門量販店やコンビニなど)の流通	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
	8.	中小零細な卸売業と巨大な総合商社の流通・事業活動 (1) 中小零細卸売業	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。 上記(1)の前半の課題については、次週レポートの提出。
	9.	中小零細な卸売業と巨大な総合商社の流通・事業活動 (2) 巨大総合商社	(1)授業後半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。
	10.	巨大メーカーのマーケティングと消費者(1) 巨大メーカーのマーケティングの実態	(2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引ながら精読し保存してノート作り・提出。
	11.	巨大メーカーのマーケティングと消費者(2) 消費者のニーズとウオンツ	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
	12.	現代流通の情報ネットワーク化と消費者 (1) メーカー系列、小売主導型流通ネットワークの展開	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
	13.	現代流通の情報ネットワーク化と消費者 (2) インターネットによる消費者参加型流通ネットワークの展開	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
	14.	流通と流通政策および「まちづくり」対策	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。
	15.	総括 真に豊かでゆとりある消費生活の確立をめざして「流通経済と消費」のあり方	上記(1)の後半の課題については、当日レポートの提出。
受講者へのメッセージやアドバイス:	(1)一夜漬けで丸暗記した知識や理論は、テストで良い点を取るのに役立ちますが、思考力や創造力などの向上には繋がりません。筆記をしながら、理解する努力を積み重ねて頭に刻み込まれた知識や理論は思考力や創造力の向上に繋がるとともに、問題解決や新しいものを創造する力にもなります。そこに学びの喜びがあり楽しみがあります。時間を掛けて理解する個人的な努力を怠らないで下さい。 (2)授業では、大事なことをメモしながら聴講する習慣を身に付けて下さい。集中力を維持し居眠りも防ぐことができます。		
フィードバックの方法:	成績評価した各自の2つのレポートおよびノートは、成績公表後に、研究室前に長机および表示付きのカゴを置いて一括返却いたします。当カゴは科目別・学科別・専攻別・学籍番号別に分類され設置されていますので、容易に各自の提出物を一括して取り出すことができます。 受け取りに来ずに長期間放置されている場合は、督促状を出します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	(1)2つのレポートのまとめ	30%	(1)タイトルと目次の作成、(2)まとめ(各節ごとに要点の箇条書きや模式図を用いて/文章の丸写しはダメ/まとめ用紙枚数に上限なし)、当内容の質(的確さや簡単明瞭など)と量で評価。
	(2)2つのレポートのコメント・感想	20%	内容の質(的確さや独自性など)と量(文章4〜5行では短すぎる。できるだけ半ページ以上。行数に上限なし。)
	(3)ノートのメモ・板書	10%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(4)ノートのビデオのメモ・感想	15%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(5)ノートの資料の線引精読	10%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(6)出席とノート提出	15%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
教科書:	講義資料は、適宜、授業中に配布する。		

参考書： 加藤義忠・齋藤雅通・佐々木保幸編著『現代流通入門』有斐閣ブックス、2007年
日経MJ(流通新聞)編『日経MJトレンド情報源 流通・消費2017勝者の法則』日本経済新聞社、2016年

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡
方法： e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内や研究室内で対応。

授業テーマ:	生態学の観点から考える		
授業の概要:	自然は生態系との関わりで色々な面を覗かせる。生態系は自然を構成することもある一方で、自然を破壊することもある。自然環境を考えるにあたり、生態系についてその知識を深め、自然環境との関わりについて主に保全・管理の観点から学ぶ。また、その自然環境が及ぼす地域社会との関わりについて学ぶことで、広い視野で自然環境について考える。		
到達目標:	・生態系について知識を深める ・生態系を考慮した自然環境保全・管理について、地域社会との関わりを理解する		
授業方法:	講義形式で行なう		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	2.	生態系のしくみ	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	3.	生物多様性とその分布	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	4.	植物の生活	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	5.	生態遷移の概要	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	6.	動物の生活	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	7.	生態系崩壊と自然保護	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	8.	地球環境問題による影響	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	9.	化学物質などによる生態系への影響	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	10.	ライフスタイルの変化による環境への影響	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	11.	生態系保全に向けたアプローチ	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	12.	自然再生に向けた取組み(生物多様性の保全、環境関連政策)	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	13.	自然再生に向けた取組み(公園、河川、新エネルギー)	予習として、授業時に出題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める。
	14.	地域社会における環境保全活動	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	15.	まとめ	学んだ内容について整理しておくことを求める。
受講者へのメッセージやアドバイス:	私たちがどのような生活を送るかによって、自然環境も変化していることに留意し、受講することを望む。		
フィードバックの方法:	個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席及び課題提出	30	積極的に授業に参加し、生態系や自然環境について理解しようとしているかを評価する。
	定期試験	70	生態系について知識を深め、生態系を考慮した自然環境の保全・管理について、地域社会との関わりについて理解しているかを評価する。
教科書:			
参考書:	日本生態系協会編「環境を守る最新知識(第2版)」信山社サイテック 石井一郎・湯澤昭=編著「環境計画学総論」鹿島出版会		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、思いやる力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール、マナビー掲示板機能を利用		

授業テーマ:

経済発展の裏面にある環境問題を「見える化」し、持続可能な環境・社会のための、経済(ビジネス・科学技術)のあり方を考察するとともに、環境政治とそれが形成された各国間の力関係及び歴史的経過にも関心をもつ。

授業の概要:

私たちが当然のものと享受している快適な都市及び都市的生活様式を成立させている商品・サービス・インフラが入手されるには、グローバルな経済、政治力学、最先端の科学技術が生み出す功罪の下で、世界の国々・地域の人々が担う多段階の過程(材料調達―生産―流通―消費―廃棄・再利用)がある。そして、そこには、それぞれの資源・製品・産業・関連する国々の事情ごとに、環境と経済をめぐる様々な位相(問題点・課題)があることを学ぶ。

到達目標:

1. 都市への人口集中、交通、エネルギー消費、物質の消費とリサイクル、水環境の保全、大気汚染とヒートアイランドの問題点について、具体的な事例を検討する。
2. 身近な製品・サービス・インフラを製品ライフサイクルの視点から観察し、そこにおける問題点を探る。
3. 上記2の作り手(生産現場)について調べ、多様な視点から問題点を探る。
4. ニュースに親しむ習慣をつける。(①環境をめぐる紛争、②環境ビジネス・経営、③環境ガバナンス・政策)
5. 経済学の初歩的な考え方・アプローチにふれる。

授業方法:

毎回、ニュース・特集番組を独自編集したDVDとパワーポイントによる講義をベースとするが、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、若干の準備学習を受講生へのタスクとし、クラス全体の意見交流に努めたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	<オリエンテーション> ・授業の進め方、・準備学習の説明 ・「環境経済学」と「経済と環境」について	シラバスを読んでくること。
2.	<食と科学技術>～遺伝子組み換えから考える「経済と環境」 ・農業の工業化 ・遺伝子組み換えと品種改良 ・誰のための遺伝子組み換えか？ ・生物多様性	スーパー等で、大豆あるいはとうもろこし等を素材とした食品・菓子の外袋の食品表示をみてくること。(持参できればなおよい。)
3.	<食とグローバル経済>～コーヒー豆から考える「経済と環境」 ・グローバルアグリ大企業・TPP ・食の南北問題・フェアトレード ・バーチャルウォーター ・スローフード・フードマイレージ	ペットボトル(水・緑茶・紅茶)、コーヒー(缶・コンビニ、スターバックス)マクドナルド(ハンバーガー等)、食品缶詰(水産物)のうち、どれか一つを食し、気づいたことをメモしてくるこ
4.	<食と地域再生>～地方衰退から考える「経済と環境」 ・日本の農業・農村・農家の現状 ・農林水産業が担う公共的多面的な役割 ・産業政策に関する国際比較	自分の1週間分の食べたものを簡単にメモしてくること。
5.	<都市と環境問題>～都市構造から考える「経済と環境」 ・都市と環境の関わり ・都市の環境問題 ・都市が環境に与える負荷	都市と農村の違いについて考えてくること。
6.	<都市環境問題と交通政策>～人の移動から考える「経済と環境」 ・交通需要における都市と地方の事情の違い ・総合交通政策・モーダルシフト・トラム ・交通権・まちの賑わい	京都市交通局のホームページをみてくること。
7.	<エコカーと低炭素化社会>～クルマから考える「経済と環境」 ・自動車の社会的費用 ・自動車産業の存在感 ・AIと自動運転・燃料電池と低炭素社会 ・都市構造改革・DSM	AI(人工知能)について調べてくること。
8.	中間まとめと意見交流	
9.	<生活環境問題としての景観保全>～京都市景観条例から考える「経済と環境」 ・京都市の景観保全の取り組みの歴史 ・コミュニティとガバナンス ・ローカルルール・条例・法律	自分が好きな景観を選び、なぜ好きかという理由についてメモしてくること。
10.	<家と都市のリサイクル>～空き家から考える「経済と環境」 ・増加し続ける日本の空き家と住宅政策 ・リノベーションと中古住宅市場 ・住宅貧乏物語	おおよそ35歳くらいの自分の暮らしをバーチャルに設定してみてください。(どこで、どのような家に住んでいたいのか？！)
11.	<「住まう」という哲学・思想>～政策の国際比較から考える「経済と環境」 ・経済政策としての住宅政策 ・社会政策・居住福祉としての住宅政策 ・都市空間の住み分け(分節化)と格差	ネット等で、被災者住宅について調べてくること。
12.	<国土とインフラストラクチャーの保全>～インフラ劣化から考える「経済と環境」 ・インフラの劣化(上下水道の更新、幼稚園・学校・公民館等の統廃合、鉄道・バス路線の廃止、施設の老朽化)・自然災害の人災化	自分の出身地のまちの商店街、小中学校、公民館の現在について調べてくること。
13.	<エコな社会とは？>～電力自由化から考える「経済と環境」 ・原子力発電の社会的費用 ・再生可能エネルギー・電力自由化 ・減エネ／省エネ／節エネ／創エネ	ネット等で、大阪ガスと関西電力の電力プランを比較してくるこ
14.	<環境ガバナンス>～国際会議から考える「経済と環境」 ・COPでは何が話し合われたか ・地政学、環境政治という分野	ネット等で、企業のCSRとして環境関連のプロジェクトについて調べてくること。

15. まとめ

受講者への
メッセージや
アドバイス:

1. 社会人基礎力の一つとして、経済学や経営学の考え方にふれよう。
2. 社会的事象を考察するための態度として、複眼的思考に慣れよう。
3. 環境問題に取り組む姿勢として、学際的知識の重要性を知ろう。
4. 自分の眼でみて、自分の頭で考えよう。(問題発見能力、考察能力、現場重視の実践力)
5. ビジネスや政治・政策に関する報道や記事に親しもう。

フィードバックの
方法:

1. 各単元の終わりに(全体で4回程度)、授業への感想・質問等のミニミニ・レポートを求めることがある。それに応える事項を後続の授業に組み込む。
2. 従来から、授業終了後及びメールによる個人質問にかなりの時間をあてているので、遠慮なく活用してほしい。
3. 中間まとめのコマにおいて、授業への希望、評価を求め、その内容を後半の授業に反映する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	論述中心。記述の論理性とともに、実践的なアプローチを重視する。
出席及びペーパー提出	30%	公欠を除く欠席の許容範囲は概ね全体の3分の1とする。単元が進む節目の回では、準備・事後学習ペーパーを指示に従って提出する。
実践的、積極的な授業参加	20%	積極的な意見交流など、集団学習に積極的に参加する態度を重視する。

教科書: 教科書は指定しません。教科書の代わりに、各单元ごとに体系的なレジュメと資料を配布します。相当枚数になるので、ファイル綴じにして、毎回、持参のこと。

参考書: 花木啓佑著「環境学入門<10> 都市環境論」岩波書店、2004年
その他は、授業中、適宜、紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション、思いやる力

教員との連絡
方法: メール及び面談。(直接、意見交換を希望する場合は、事前にメールでアポイントをとってください。)

授業テーマ:

授業の概要: 毎日みている景色がどのようにして今日に至ってきたのか、まちづくりの中でどのような配慮がなされて景観が成り立っているのか、歴史的背景を基に学ぶ。また、近年進められている景観デザインを取り上げ、地域に調和したデザインの必要性、その考え方について、自然景観、都市景観のほか、道路、橋と言った構造物における景観を取り上げることで、広く景観について学ぶ。

到達目標: ・景観がどのように成り立ちているのかを理解する
・景観とまちづくりとの関連性について考える

授業方法: 講義で学んだ知識をグループ学習によって深める。
講義では、景観の成り立ちについて、その経緯と景観を構成する要素について学習する。そのうえで、身近な景観に対し、グループごとに景観評価を行うことでその理解を深める。また、必要に応じて学外見学実習を行なう。その場合は、授業の中で日程調整を実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	2. 日本人の景観意識	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	3. 日本の近代化と都市景観	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	4. 景観の概念と景観デザイン	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	5. 景観整備の手法	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	6. 景観と色彩デザイン	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	7. 多様な景観とその成り立ち(自然景観)	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	8. 多様な景観とその成り立ち(都市景観)	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	9. 多様な景観とその成り立ち(構造物と景観)	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	10. 町並み・景観を生かしたまちづくり	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	11. 京都市の景観条例	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	12. 京都市の景観を考える(グループ学習)1	課題に対するグループでの事前調べを求める。
	13. 京都市の景観を考える(グループ学習)2	課題に対するグループでの事前調べを求める。
	14. 京都市の景観を考える(グループ学習)3	課題の発表に向けたグループでの事前準備を求める。
	15. 日本における景観政策の現状と課題	学んだ内容について整理しておくことを求める。

受講者へのメッセージやアドバイス: 目の前にひろがる町並みや田舎の風景に対し、どのような点が自身にとって魅力的に感じるのか、また魅力を落とすものと感じるのか、その意識を持ちつつ受講することを望みます。

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、景観の成り立ちやまちづくりとの関連性について考えようとしているかを評価する。
	グループ学習・発表	50	学んだことを踏まえ、問題提起とそれに適した景観ができているかを評価する。

教科書:

参考書: 日本まちづくり協会編「景観工学」理工図書
土岐寛著「日本人の景観認識と景観政策」日本評論社
佐々木葉著「景観とデザイン」オーム社
市坪誠・谷平考・溝上裕二・小川総一郎・砂本文彦著「景観デザイン」コロナ社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール、マナビー掲示板機能を利用

授業テーマ:

生態系の循環構造の現在・未来を公害史から考える。

授業の概要:

生態系の循環構造が私たち人間の社会生活とどのように結びついているのかについて、理解を深める。生態系とその外側にある地下資源にどうかかわるのかによって、人間は生態系を豊かにすることも、逆に破壊することもできる。日本には、明治期に始まる足尾銅山鉱毒事件、現在進行中のアスベスト公害、福島原発事故による放射能汚染など破壊の例が多いが、江戸時代に始まる植林にみられるような環境改善の努力もみられる。本講義ではこうした歴史や現在の事例にふれながら、破壊と改善の両面を学び、今後の私たちが豊饒な環境を享受しうる方向はどのようなものであるかを検討する。

到達目標:

各回で取り上げる公害に関するトピックを、わたしたちの暮らしと照らし合わせながら、生態系の循環構造という視野から理解する。

授業方法:

原則として講義形式で行う。ただし、受講者の人数や理解力に応じて当該テーマに関するリサーチペーパーの作成や討論を求める場合がある。各回、授業内容に関わる視聴覚資料を活用する。適宜、資料を配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義概要 講義全体を概括するとともに、生態系の循環について概説する。	関連文献の準備(授業内容に即した文献を検索しておくこと)
2.	古代の水銀公害 奈良の大仏築造に伴う水銀中毒を出発点として公害問題を検討する。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
3.	戦乱期の森林乱伐と江戸時代の列島緑化 乱伐で荒れた国土を出発点にした徳川幕府と諸藩が、用材の必要に応じて日本列島の緑化に乗り出した経緯を概観する。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
4.	幕末期の灯火燃料増加による乱伐 夜間労働のために使用する灯火燃料のマツの根を掘り返したことによる田上山などの禿山化を概観する。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
5.	鉱山公害と近代工業の発達 足尾銅毒事件にみられる公害の放置・拡大とそれを教訓とした別子銅山の対応の違いを検討する。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
6.	水俣病、カネミ油症などの続発 チッソ工場の有機水銀垂れ流しに端を発する現代の公害を食品汚染の視点を中心に概観する。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
7.	経済成長と公害国会 イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど高度経済成長の負の遺産:公害激発と政府対応の問題点を探る。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
8.	パルプ公害と廃棄物利用 黒液発電によるパルプ廃液の悪臭・水汚染の防止にみる廃棄物利用の経済性についてみていく。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
9.	ダム問題にみる地域社会の存亡 下笠ダムとハッ場ダムの比較検討から地域社会のありようを考える。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
10.	国際的になった公害・環境問題 1973年のオイルショックを契機とした工場の海外移転とその利害得失を検討する。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
11.	アスベスト汚染の顕在化 「静かな時限爆弾」とよばれるアスベストが、便利で安価ゆえに広範に使用され続けた経過を探り、現在も発症者の続く状況を考える。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
12.	放射能汚染の予感 大規模な汚染を予告したもんじゅ事故、JCO事故などにみる原子力政策の問題点を検証、またイラク戦争などで国際問題になった劣化ウランについてもふれる。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
13.	福島原発事故と再生可能エネルギー 2011年3月11日の地質災害と原発事故で変わりつつある日本のエネルギー政策を循環の輪を中心に考える。	当該部分の予習(授業内容に関する情報収集や文献の参照)
14.	まとめ その(1)	全体の復習をしていくこと
15.	まとめ その(2)	全体の復習をしていくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

意見交換など積極的な授業参加を歓迎します。

フィードバックの方法:

授業内容に関する受講者からの質疑については、適宜コメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況	10	原則として毎回の出席と真摯な態度が求められる。
	各回の小レポート	40	各回の内容や視聴覚資料についての理解度を重視する。
	期末試験	50	授業内容の基本的な理解を問う。

教科書:

使用しない。

参考書:

必要に応じて授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

電子メール: sogawa@mail.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 服装は多くの情報を内包し、また様々な情報の発信源でもある。この科目では、服装における情報について、先行研究の結果をふまえたうえで各自の衣生活を見つめ直し、考察を行う。また、図書・雑誌・新聞記事・実物資料などからの情報収集の重要性とその活用について講義し、課題を通して理解を深める。

到達目標: 1. 服装に関する情報収集の方法とその活用について知る。
2. 服装情報に関わる知識を習得する。
3. 服装の情報について考察し、理解を深める。
4. 服装への関心を高め、豊かな衣生活を探る能力を養う。

授業方法: 講義形式の授業。配布プリント、画像、映像により授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 身装の起源と機能	
2.	身近な情報源(1)文献資料, インターネットとデジタル情報	インターネットによる情報検索を行い、レポートを作成して提出する。
3.	身近な情報源(2)実物資料	実物資料の鑑賞を行い、レポートを作成して提出する。
4.	服装情報の多様性	
5.	服装によるコミュニケーション	
6.	衣服表示の情報	繊維製品の表示例をあげ、得られる情報について調べる。
7.	衣服の構成(1) ボディとパターン	
8.	衣服の構成(2) アイテムとディテール	
9.	衣服の構成(3) シルエット	
10.	服装における異文化の影響(1)西洋	
11.	服装における異文化の影響(2)日本	
12.	情報と流行現象	
13.	アパレル産業におけるファッション提案	
14.	被服行動と現代のファッション	
15.	まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 提出物は採点して返却する。授業時に紹介して、解説をする場合もある。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	40	到達目標1, 2の知識や到達目標3, 4の理解度、自らの考えを論理的に説明できるかを評価する。
	レポート	40	課題のねらいを理解し、取り組んだ内容を独自の視点から述べているかを評価する。
	参加度	20	積極的・意欲的に授業に参加したかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡
方法: マナビーの掲示板機能, 授業の前後に教室内で応対, オフィスアワー

授業テーマ:	日本服飾史		
授業の概要:	衣服を着るということは極めて個人的な行為ですが、同時に社会的、文化的な意味をもっています。本講座では、古代から現代までの日本服飾史に関することがらを絵画や文学作品のなかからとりあげ、日本の釈迦的、文化的特性に照らし合わせながら考えます。形、色彩、模様、制度、習慣、流行などさまざまな切り口から服飾にアプローチし、生活文化にたいする理解を深めます。		
到達目標:	①各時代の日本の服飾について基本的な知識を身につける。 ②日本の服飾史において衣服と生活文化の関連性を考えることができる。 ③日本の服飾史を現代の衣生活と関連づけて考えることができる。		
授業方法:	テキスト、視聴覚資料をもちいて講義形式で行います。京都市内の現地調査等をレポート課題にする場合があります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 服飾と文化 つくる・着る		
	2. 服制のはじまり 原始から古代へ	テキストpp.1～34	
	3. 唐風から和様へ① 和様の開花	テキストpp.35～49	
	4. 唐風から和様へ② 重ね色目	テキストpp.49～54	
	5. 武家服飾の確立① 武家服飾の変化	テキストpp.55～68	
	6. 武家服飾の確立② ばさらの意匠	テキストpp.68～72	
	7. 小袖の開花① 小袖の変遷	テキストpp.73～88	
	8. 小袖の開花② 「いき」の成立	テキストpp.89～96	
	9. 小袖の開花③ 「いき」の色と模様	テキストpp.89～96	
	10. 洋服の浸透と和装の変化① 洋装のはじまり	テキストpp.97～101	
	11. 洋服の浸透と和装の変化② ハイカラとモダン	テキストpp.102～122	
	12. 世界のモードの中で① 戦時中の衣生活	テキストpp.123～128	
	13. 世界のモードの中で② 洋裁文化の生成	テキストpp.128～132	
	14. 世界のモードの中で③ 復興から既製服時代へ	テキストpp.132～137	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	採点またはコメントを記して返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	40	授業に参加する積極的な姿勢と、到達目標①について評価する。 到達目標②③に関する調査結果などの完成度および独自性を基準とする。 到達目標①の理解度と到達目標②③を論理的に説明できるかを基準とする。
	レポートなど	20	
	試験	40	
教科書:	小池美絵、野田ひろみ、吉村佳子著『概説 日本服飾史』 光生館		
参考書:	橋本澄子編『着物の歴史』 河出書房新社 増田美子編『日本服飾史』 東京堂出版		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー マナビーの掲示板機能		

授業テーマ:

本講義は前半で近代化過程における日本(森治子)、後半で第2次世界大戦後の東西ドイツ、および統一ドイツ(爲政雅代)のそれぞれの生活文化について歴史的に考察する。

授業の概要:

森治子…生活文化とは私たちが日常生活を営むときの方法や様式、またそれらを支えている感性である。日本の近代化の過程は、ひとびとのライフスタイルが西洋化してきた過程であるといえることができるが、この講義では、日本的なものと西洋的なものの融合によって生み出された新しい文化をとりあげ、日常生活の文化的な構成要素や特徴を検討する。また、文化をとらえる視点を養うために、考現学を中心とした風俗研究の手法についても学ぶ。

爲政雅代…敗戦後に東西に分断され、廃墟から復興した西ドイツと社会主義体制のもとにおかれた東ドイツは、様々な問題を抱えながらも、それぞれ独自の生活文化を形成して発展を遂げた。その東西ドイツがようやく再統一されたが、現在に至るまで新たな社会問題で悩んでいる。西ドイツ、東ドイツ、統一ドイツの諸問題を検討することで、戦後ドイツの独自の生活文化の実態を歴史的な分析を通じて把握する。

到達目標:

森治子…1.日本文化の特徴や特質について理解を深め、自分の言葉で説明できるようになる。
2.流行や美意識などの観点から文化をとらえる方法を習得する。
3.生活における価値や社会問題について関心を持ち、自ら考える力を身につける。

爲政雅代…テーマごとに戦後ドイツが抱えてきた問題の本質を理解する。戦後ドイツの独自の生活文化の実態を把握する。

授業方法:

森治子…主として講義だが、必要に応じてビデオ教材を用い、映画やテレビドラマなどから当時の生活を考える。
爲政雅代…講義形式で授業をおこなうが、授業内ではプリントを配布し、スクリーンで写真やDVDなどを提示することで理解を深めることができるように心がける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ライフスタイルと生活に対する視点-今和次郎と考現学-【森治子】	自分にとっての理想の暮らしについて考えをまとめておくこと。
2.	近代の社会と生活のスタイル(1)洋風生活の導入(博覧会、百貨店)【森治子】	考現学について復習しておく。
3.	近代の社会と生活のスタイル(2)すまいの近代化【森治子】	2回目の授業のさいに説明する。
4.	近代の社会と生活のスタイル(3)食卓の近代化【森治子】	3回目の授業のさいに説明する。
5.	近代の社会と生活のスタイル(4)生活美学とジャポニスム【森治子】	事典等でジャポニスムということばを調べておく。
6.	戦時下の社会と生活【森治子】	5回目の授業で説明する。
7.	戦後の社会と生活の変化【森治子】	6回目の授業で説明する。
8.	崩壊社会(戦争被害、難民流入、住宅不足、食糧不足)【爲政雅代】	授業内容の復習
9.	「経済の奇跡」(大衆消費社会への突入、家電製品・自動車・旅行)【爲政雅代】	授業内容の復習
10.	学生運動と社会変化(若者と女性の活躍、学生運動、新しい社会運動)【爲政雅代】	授業内容の復習
11.	環境保護と脱原発(環境へのまなざし、緑の党、ゴミ問題、反原発運動、脱原発)【爲政雅代】	授業内容の復習
12.	東ドイツの生活文化(社会主義経済、消費行動、子供たちの活動)【爲政雅代】	授業内容の復習
13.	統一ドイツの東西格差(心の壁、映画『グッバイ・レーニン』、映画『善き人のためのソナタ』)【爲政雅代】	授業内容の復習
14.	移民国家ドイツ(移民問題の発生、トルコ人の移民、統合政策、難民流入)【爲政雅代】	授業内容の復習
15.	まとめ【爲政雅代】	これまでの授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

森治子…授業のさいには参考文献のほかに、授業に関連する映画、展覧会、イベントなどの情報を紹介します。自分にとって未知の文化に触れる機会があれば積極的に参加するなど、ふだんから文化や芸術に触れる機会をたくさんつくってください。

フィードバックの方法:

森治子…レポート:採点して返却する
コメントペーパー:教室でまとめて解説する
質問用紙:コメントをつけて返却する

爲政雅代…授業内で提出を求めた小レポートについては返却はしないが、教室で総評をおこなう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	30	レポートの配点が30%、授業時に求める感想文やミニレポートの配点が20%として総合的に評価する。【森治子】
	授業時に求める感想文やミニレポート	20	
	定期試験	40	到達目標に関する理解度で評価する。【爲政雅代】
	授業内レポート	10	

教科書:

森治子…使用しない。
爲政雅代…指定しない。

参考書:

森治子…授業時に紹介する。
爲政雅代…初回授業においてプリントで配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

森治子…授業の前後に教室内で対応
爲政雅代…授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

異文化に触れよう！！

授業の概要:

隣の国、韓国と日本は様々な意味において密接な関係の歴史を共有してきた中、痛い過去も存在し、その溝は埋まらないまま時間が流れてきた。
しかし近年、韓流というブームによって日本社会の大衆文化は一転し、両国の関係改善に希望が見えてきたように感じる。若い世代に於いて、歴史は過去の産物として薄れている現在、隣国の歴史、文化、社会について基礎知識を習得し、理解を深めることで、今後世界の関心がアジアに向いている世界情勢の中で、日本と韓国がアジアの核心役割が出来ると展望する。

到達目標:

近いとはいえ、国境を越えると様々な文化の違いが存在する。しかし文化の違いは“知る”ことによって、理解することも受け入れることも可能である。この授業を通して、韓国文化以外の異文化に遭遇する際、戸惑うことなく、開かれたマインドで接することが出来る。

授業方法:

テキストの内容を中心に、参考映像や写真資料用いて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、授業の目的と進め方(アンケート)、教材、資料、評価の方法について。	テキスト 6, 7, 8ページを予習
	2. 韓国の地理と歴史、世界遺産『仏国寺』	
	3. 映画をとおして韓国の一面に触れる(韓国で流行っている整形手術についての価値観を覗く)。	
	4. 映画をとおして韓国の一面に触れる(韓国で流行っている整形手術についての価値観を覗く)。	テキスト25, 26, 27ページを予習
	5. ハングル文字Ⅰ(ハングルの成立とその背景、仕組み)。	
	6. ハングル文字Ⅱ(ハングルの読み書きを学ぶ、ハングルで自分の名前と住所を書いてみる)。	
	7. 韓国の伝統音楽(パンソリ、仮面劇、サムルノリ)	スマートフォンを用いてハングルを打つので、ハングルアプリをダウンロードしてくる。 テキスト75, 76ページと59, 60, 61ページを予習
	8. K-POPの紹介。今日のK-POPが存在するまでの韓流音楽の道のり。	テキスト13～21ページ予習
	9. 韓国の食文化について。(プルゴギーとキムチ)	
	10. 韓国の住居の古今。伝統家屋「ハンオク」について。特にオンドル文化について。	
	11. 韓国の服飾の古今。	テキスト31, 32, 33ページ予習
	12. 韓国の冠婚葬祭	テキスト37, 38ページ予習 テキスト47, 48, 49ページ予習
	13. 韓国の兵役制度、テコンドー(跆拳道)について。	
	14. 朝鮮通信使。	
	15. まとめ、テスト	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末テスト	50	教員が用意するテスト用紙に回答を記入 授業の内用、感想、質問について、毎回配られるカードに指定の分量を書いて提出。
	毎回提出する授業の感想	40	
	授業への参加度	10	
教科書:	授業時に指示		

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業初日に講義室にて告知する

授業テーマ：暮らしのなかの造形と美 ー海外からの受容と国内での変容ー

授業の概要：アジアの東端に位置するわが国は、中国の影響を受けながらも、独自の美意識に基づいて蒔絵や着物など工芸品を作り出した。また、16世紀にはヨーロッパの文化が伝わり、桃山時代の服飾にはその影響がうかがえる。暮らしのなかで使われる工芸品には、その風土と文化圏で育まれた造形と美意識が投影されている。日本の工芸や服飾の歴史を通じて、わが国で培われてきた暮らしの美を探り、国際化が著しい現代における伝統的な文化について考える。

到達目標：・日本の伝統的な文化(美術)がどのように成立したのかを理解する。
・日本の伝統的な文化(美術)の特色を自分の言葉で表現する。

授業方法：1:講義 毎回一つのテーマを掲げ、配付資料をもとに授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本美の特質 〈中国・西洋との比較から〉 日本の美にはどのような特質がうかがえるのかを西洋や中国と比較しながら、表出・造形・美・象徴の視点から考察する。	源豊宗『日本美術の流れ』序章を参照
2.	亀甲と洲浜 〈ねねの小袖文様の源泉を探る〉 中国で生まれた亀甲と日本独自の洲浜の文様が結びつく事例として高台院の小袖を取り上げ、文様の成立の背景を探る。	丹沢巧『服飾の中心にある美的感情』p117-p154、p188-p218
3.	雲気と蓮華 〈玉虫厨子を中心に〉 古代において万物生成の根本と考えられた中国の「気」とインドの「蓮華」がどのように造形化されたかを考察する。	井上正『岩波日本美術の流れ2 7-9世紀の美術』p3-p18
4.	正倉院宝物に見られる文様 〈西方的文様を中心に〉 正倉院宝物に見られる文様について、ペルシャで生まれた文様が東漸し、その意味と表現が変化する様子を概観する。	林良一『シルクロード』p149-p198
5.	古代の錦 〈経錦から緯錦へ〉 古代中国で生まれた経錦がペルシャへ伝来し、緯錦へと変化し、再び東アジアへ伝来する様子を示し、その文化的背景を考える。	横張和子『シルクロード染織史』p71-p203
6.	意匠の手法 〈散らし〉 平安時代には国風化によって、日本独自の工芸意匠が生まれた。「散らし」をキーワードにして平安時代の意匠の特質を考える。	千野香織『岩波日本美術の流れ3 10-13世紀の美術』p44-p65
7.	文芸の意匠 〈歌や物語をあらわすデザイン〉 平安時代に発達した和歌や物語は、文字として伝えられただけでなく、蒔絵や着物の意匠に取り込まれて展開した。その歴史的変遷を述べる。	京都国立博物館『工芸にみる古典文学意匠』、大阪市立美術館『うた・ものがたりのデザイン』いずれも展覧会図録
8.	高僧の袈裟 〈鎌倉時代の中国染織の受容〉 禅宗が興隆した宋代から元代にかけて、禅僧が往来し、袈裟がもたらされた。袈裟を通して鎌倉時代の中国染織の受容について考察する。	京都国立博物館『高僧と袈裟』展覧会図録
9.	日本国王の服装 〈足利義満と豊臣秀吉の事例から〉 中国の対外政策である冊封は、周辺諸国の首長を国王として認定し、身分に応じた服装を下賜した。日本国王として足利義満と豊臣秀吉の事例を考察する。	河上繁樹「服装から見た足利義満の冊封に関する小論」(『人文論究』62-4)、同「豊臣秀吉の日本国王冊封に関する冠服について」(『学叢』20)
10.	南蛮ファッション 〈武将たちの舶来趣味〉 16世紀になって、ポルトガルやスペイン人が来日し、ヨーロッパの文化をもたらした。その影響を受け、武将たちの間で起こった南蛮趣味について検証する。	丹野郁『南蛮服飾の研究』
11.	高台寺の刺繍聖母子像 〈マリアはどこから来たのか〉 京都の高台寺に伝来する刺繍の聖母子像について、イコノロジー的に検証し、さらにその制作地、制作時期、伝来について考察する。	河上繁樹「高台寺伝来の「刺繍聖母子像」について」(『美術史を愉しむー多彩な視点』所収)
12.	祭りとタペストリー 〈祇園祭の懸装品はどこから来たのか〉 祇園祭、大津祭、長浜祭の装飾品に用いられたベルギー・ブラバン製の一連のタペストリーについて、その主題や伝来について検討する。	大津市歴史博物館編『町人文化の華ー大津祭』展覧会図録
13.	着物になった「さらさ」 〈遊女が好んだエキゾチックな染物〉 江戸時代初期に輸入された更紗は、日本人の好むところとなり、きものに用いられ、やがて日本独自の染色法を生んだ。国内における更紗の変遷をたどる。	小笠原小枝「近世初期風俗画に顕れたインド更紗I」(東京国立博物館研究誌『MUSEUM』563号)

14. ジャポニズムと服飾
〈ヨーロッパの日本受容〉
欧米におけるジャポニズムの一現象として、欧米人がキモノを着、さらにキモノの要素を服装に取り込んだ。日本の着物が欧米の服飾に与えた影響について考える。
15. 総括〈授業をふり返って〉
海外から受容した文化(美術)を日本の暮らしのなかにどのように受け入れ、自国の文化(美術)へ変えたのか、日本のアイデンティティーとは何かを考える。
- 京都服飾文化財団『モードのジャポニズム』展覧会図録
- これまでの配付資料を参考にする。

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業は、配付資料をもとに進めます。配付資料は、授業支援システム「マナビー」を通じて、毎回授業前にPDFにして配信します。授業の前にダウンロードして、予習し、授業に臨んでください。
授業は、出席するのが前提ですので、出席点を加算することはありません。また、15回のうち6回以上欠席した場合は、不合格とします。

フィードバックの方法:
授業期間中には、とくに提出物はありません。毎回の授業後に質問を受け付けます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験	100	授業の理解度を試験問題の配点に応じて評価する。

教科書:
とくに指定しない。

参考書:
「準備学習等の内容」を参照

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力

教員との連絡方法:
kawakami@kwansei.ac.jp

授業テーマ:	インテリアデザインの基礎知識を学ぶ																																		
授業の概要:	インテリアは使用者、生活者などこれら人間が快適に行為行動できるようにデザインされることが重要である。インテリアデザインは、人間の手が扱うナイフやフォーク、身体を支える椅子、食事行為をするテーブルなどや、さらには行為する人間を取り巻く空間へと広がる。このインテリアスペースにおいては部屋の形状、空間量、素材、色彩、照明計画などをデザインする。このようにインテリアデザインは人間を起点に考えられている。本講義では人間にとって快適なインテリアデザインを理解するためにその基礎的事項について学ぶ。																																		
到達目標:	・インテリアデザインの基礎的知識を習得する ・空間構成やインテリアの形状など身近なものに対して関心を抱き、論理的に捉える態度を身に付ける																																		
授業方法:	講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. ガイダンス、インテリアデザインの概要</td><td>・教科書に目を通しておく</td></tr><tr><td>2. インテリア空間</td><td>・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する</td></tr><tr><td>3. インテリアエレメント</td><td>・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する</td></tr><tr><td>4. インテリアスタイル</td><td>・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する ・住宅やインテリア関連の雑誌に目を通す</td></tr><tr><td>5. 家具デザイン</td><td>・教科書に目を通しておく ・身の回りの家具の寸法を測ったり、デザインを観察する</td></tr><tr><td>6. ウィンドウトリートメント</td><td>・教科書に目を通しておく ・身の回りの窓装飾を観察する ・住宅やインテリア関連の雑誌に目を通す</td></tr><tr><td>7. ライティングデザイン</td><td>・教科書に目を通しておく ・自宅で使用されている照明の種類を確認しておく ・飲食店や物販店などコンセプトによって照明がどのように異なるかを観察する</td></tr><tr><td>8. インテリア設備</td><td>・教科書に目を通しておく ・自宅のキッチンのレイアウトを確認する</td></tr><tr><td>9. マテリアルコーディネート</td><td>・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などの内装材を観察する</td></tr><tr><td>10. カラーコーディネート</td><td>・教科書に目を通しておく ・自身の好きな飲食店のカラーコーディネートを観察する</td></tr><tr><td>11. 人間工学</td><td>・教科書に目を通しておく ・身の回りの家具の寸法を測ったり、デザインを観察する</td></tr><tr><td>12. 室内環境</td><td>・教科書に目を通しておく ・自宅の窓の位置及び大きさを観察し、満足な点及び改善点を考える</td></tr><tr><td>13. インテリア計画と発想、インテリアデザインのプロセスと評価</td><td>・教科書に目を通しておく ・自宅での家事のしやすさを評価する。満足な点及び改善点を考える</td></tr><tr><td>14. ユニバーサルデザイン、サスティナブルデザイン</td><td>・教科書に目を通しておく ・街の中で行動をしていて不便と感じること、及びその理由を考える</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ガイダンス、インテリアデザインの概要	・教科書に目を通しておく	2. インテリア空間	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する	3. インテリアエレメント	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する	4. インテリアスタイル	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する ・住宅やインテリア関連の雑誌に目を通す	5. 家具デザイン	・教科書に目を通しておく ・身の回りの家具の寸法を測ったり、デザインを観察する	6. ウィンドウトリートメント	・教科書に目を通しておく ・身の回りの窓装飾を観察する ・住宅やインテリア関連の雑誌に目を通す	7. ライティングデザイン	・教科書に目を通しておく ・自宅で使用されている照明の種類を確認しておく ・飲食店や物販店などコンセプトによって照明がどのように異なるかを観察する	8. インテリア設備	・教科書に目を通しておく ・自宅のキッチンのレイアウトを確認する	9. マテリアルコーディネート	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などの内装材を観察する	10. カラーコーディネート	・教科書に目を通しておく ・自身の好きな飲食店のカラーコーディネートを観察する	11. 人間工学	・教科書に目を通しておく ・身の回りの家具の寸法を測ったり、デザインを観察する	12. 室内環境	・教科書に目を通しておく ・自宅の窓の位置及び大きさを観察し、満足な点及び改善点を考える	13. インテリア計画と発想、インテリアデザインのプロセスと評価	・教科書に目を通しておく ・自宅での家事のしやすさを評価する。満足な点及び改善点を考える	14. ユニバーサルデザイン、サスティナブルデザイン	・教科書に目を通しておく ・街の中で行動をしていて不便と感じること、及びその理由を考える	15. まとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. ガイダンス、インテリアデザインの概要	・教科書に目を通しておく																																		
2. インテリア空間	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する																																		
3. インテリアエレメント	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する																																		
4. インテリアスタイル	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する ・住宅やインテリア関連の雑誌に目を通す																																		
5. 家具デザイン	・教科書に目を通しておく ・身の回りの家具の寸法を測ったり、デザインを観察する																																		
6. ウィンドウトリートメント	・教科書に目を通しておく ・身の回りの窓装飾を観察する ・住宅やインテリア関連の雑誌に目を通す																																		
7. ライティングデザイン	・教科書に目を通しておく ・自宅で使用されている照明の種類を確認しておく ・飲食店や物販店などコンセプトによって照明がどのように異なるかを観察する																																		
8. インテリア設備	・教科書に目を通しておく ・自宅のキッチンのレイアウトを確認する																																		
9. マテリアルコーディネート	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などの内装材を観察する																																		
10. カラーコーディネート	・教科書に目を通しておく ・自身の好きな飲食店のカラーコーディネートを観察する																																		
11. 人間工学	・教科書に目を通しておく ・身の回りの家具の寸法を測ったり、デザインを観察する																																		
12. 室内環境	・教科書に目を通しておく ・自宅の窓の位置及び大きさを観察し、満足な点及び改善点を考える																																		
13. インテリア計画と発想、インテリアデザインのプロセスと評価	・教科書に目を通しておく ・自宅での家事のしやすさを評価する。満足な点及び改善点を考える																																		
14. ユニバーサルデザイン、サスティナブルデザイン	・教科書に目を通しておく ・街の中で行動をしていて不便と感じること、及びその理由を考える																																		
15. まとめ																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業中のスマートフォン、私語、居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとする。講義の最後に小テストを行ったりレポートを課すことがある。																																		
フィードバックの方法:	添削して返却する																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>平常点</td><td>20</td><td>積極的に授業に参加し、到達目標ができるようになったかを評価する。</td></tr><tr><td>小テスト、レポート</td><td>30</td><td>到達目標の知識によって論理的に説明できるかを基準とする</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>50</td><td>到達目標に関する知識により評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	平常点	20	積極的に授業に参加し、到達目標ができるようになったかを評価する。	小テスト、レポート	30	到達目標の知識によって論理的に説明できるかを基準とする	定期試験	50	到達目標に関する知識により評価する。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
平常点	20	積極的に授業に参加し、到達目標ができるようになったかを評価する。																																	
小テスト、レポート	30	到達目標の知識によって論理的に説明できるかを基準とする																																	
定期試験	50	到達目標に関する知識により評価する。																																	
教科書:	図解テキスト・インテリアデザイン、小宮容一 他(著)、井上書院																																		
参考書:	講義中に適宜紹介する																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力																																		
教員との連絡方法:	マナビーでの掲示板機能、Eメール、授業前後に教室内で応対																																		

授業テーマ:			
授業の概要:	本講座では、服飾デザインを理解するために必要な知識を学び、現代の服飾デザインにもちいられる方法論をととしてデザインを分析的に把握する力を養います。はじめに、デザインおよびデザイン理論に関する基本的な知識を学びます。次に、服飾デザインの基本的なプロセスをたどるとともに、簡単なファッション・イラストを描くことなどによってデザインに対する理解を深めます。		
到達目標:	①造形の基本原理から服飾デザインを分析的にとらえる、知識と能力を修得する ②服飾デザインを感性的な面から理解し、表現する方法を身につける		
授業方法:	前半は講義形式で、後半は一部に演習を取り入れながらすすめます。ファッション雑誌などの資料および、マーカー、カラーカード、色鉛筆などの用具は各自準備してください。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. アパレル製品におけるデザインの役割	テキストpp1～2	
	3. 造形の基本原理	テキストp3	
	4. 構成とバランス	テキストpp9～11	
	5. シルエットとライン	テキストp12	
	6. 形（点と線）	テキストpp3～4	
	7. 色（色相とトーン）	テキストpp13～14	
	8. 色（配色）	テキストpp15～18	
	9. ファッション・イラストレーションの描き方（ブラウス）		
	10. ファッション・イラストレーションの描き方（スカート）		
	11. アイテムとディティール	テキストpp22～29	
	12. ファッションとイメージ	テキストpp30～31	
	13. ファッションとイメージ		
	14. 服飾デザインの創造性		
	15. 提出課題のふりかえりとまとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出課題は採点して返却します		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	40	積極的に授業に参加し、到達目標①②にむけて意欲的にとりくんだかを評価する
	課題	60	到達目標①②について課題をととして評価する
教科書:	授業内で配布します		
参考書:	『改訂アパレルデザインの基礎－衣服デザイン・色彩論』日本衣料管理協会 2004年		
	『文化ファッション大系 服飾関連専門講座③ 服飾デザイン』文化服装学院編 文化出版局 2005 年		
	『服飾デザイン論』文化出版局 2002年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板機能		

615060

服飾材料・整理学

小林 政司

授業テーマ：服飾の素材と消費

授業の概要：衣服の素材や使われ方に関する知識は、購入から消費に至るまで快適な衣生活を送るうえで必要不可欠なものである。また、こうした基礎知識は、目的に合わせた服飾デザインや被服製作を行う際にも当然必要な基盤となる。人間に欠くことのできない衣生活への活用を目標とし、見かけだけではなく真の「お洒落」を目指して、服飾の素材(被服材料)とその消費(被服整理)について学ぶ。

到達目標：服飾に関連する素材とその消費に関する基礎知識を得る。(知識・理解)
環境に関心を持ちながら、その素材および製品を利用できるようになる。(関心・態度)
衣服の制作、購入、消費に必要な能力を身に付ける。(技能・能力)

授業方法：講義:スライド提示や板書を行いながら授業を進める。(授業中および復習時のノート作成を推奨する。)ビデオなども活用する予定である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 服飾の材料・整理について	シラバスの確認
	2. 繊維とは何か	衣服が何からできているのかを考察
	3. 繊維の種類と性質(天然繊維)	自分の衣服の素材を調査
	4. 繊維の種類と性質(化学繊維)	組成表示の調査
	5. 糸・布の種類	繊維分野の復習
	6. 布の性質	衣服の着心地について考察
	7. 新素材と加工	「衣服の素材調査」レポート作成
	8. 衣服の消費	なぜ衣服を洗浄するのかを考察
	9. 汚れの種類と性質	衣服の汚れ方を観察
	10. 洗剤の成分(界面活性剤)	衣料用洗剤の成分表示調査
	11. 界面活性剤・洗浄補助剤の性質	家庭用洗浄剤の成分表示調査
	12. 洗浄の条件	衣服洗浄の実践
	13. 衣服の洗浄	商業洗濯について調査
	14. 漂白・柔軟仕上げ	「衣服洗浄の実践」レポート作成
	15. まとめ	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス：日ごろからファッションや衣服に関心と興味を持ち、授業に臨んでいただきたい。また、本授業で得た知識をぜひ日常生活でも活用してください。

フィードバックの方法：質問、コメントに関しては、必要に応じて教室でまとめて解説、返答する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60	服飾に関連する素材とその消費に関する基礎知識の獲得の度合いを基準とする。
	レポート	30	「衣服の素材調査」、「衣服洗浄の実践」などについて3つの到達目標を意識した考察がどの程度できているかを基準とする。
	授業への参加度	10	授業ごとに配布する出席カードに記入したコメント内容への到達目標の反映の度合いを基準とする。

教科書：別途指示する(プリント配布予定)

参考書：「衣服材料の科学」 島崎 恒蔵、林 正之、団野 哲也、森 俊夫 (建帛社)
「被服管理学」 増子 富美、牛腸 ヒロミ、後藤 純子、米山 雄二、梅澤 典子、小林 政司、生野 晴美、齊藤 昌子、藤居 真理子 (朝倉書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法：Eメールを利用(アドレスは授業時に伝える)

授業テーマ:	生活健康学		
授業の概要:	ウエルネス健康学を基本に幼児期から老年期に至るまでの各ライフステージに適した健康な生活を考え、どのように生き、どのように死を迎えるかを考えることが良いかについて学んでいく。また、人生をより良く送るには、人間関係も良好であることも重要な要素であることを体験学習、実習をとおして学び理解する。		
到達目標:	健康を広く、大きくとらえるウエルネスの健康概念を中心にして、どのような生活を送るのが良いかについて常に考えていく習慣を養うことを目標とする。また、体験学習、実習には積極的に参加することを目標とする。		
授業方法:	講義、レポートによる発表、体験学習、実習。必要に応じて視覚教材を使用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業に関するオリエンテーション	シラバスを確認	
	2. ウエルネスの理論について	ウエルネスの意味を調べておく	
	3. いろいろな健康の概念	健康についての情報を調べておく	
	4. 健康な生活とは	自身の健康観について考えておく	
	5. コミュニケーション実習としての体験学習(1)	グループワークに向けての心構えをしておく	
	6. 死の受容とデス・ラーニングについての学び(1)	死生観について考えておく	
	7. 死の受容とデス・ラーニングの学び(2)	死生観について考えておく	
	8. 余暇とタイムマネジメント	時間管理について考えておく	
	9. ホスピタリティと人間関係についての学びと実習	ホスピタリティについて考えておく	
	10. ストレスマネジメントについての学びとストレスチェック	ストレスに関する情報を調べておく	
	11. リラクセーションについて	リラクセーションに関する情報を調べておく	
	12. 健康とアルコールについて	お酒について情報を調べておく	
	13. 健康とたばこについて	たばこについて情報を調べておく	
	14. コミュニケーション実習としての体験実習(2)	グループワーク向けの心構えをしておく	
	15. まとめ振り返り		
受講者へのメッセージやアドバイス:	体調管理を心掛けてください。また、グループワーク発表には積極的に参加してください。		
フィードバックの方法:	教室にて全体に解説、返却する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題レポート	70%	到達目標健康な生活について考える力を養う必要を理解し、どの程度独自の視点があるかを基準に評価する。
	発表、話し合い	15%	グループ発表での自分の役割とその達成度、積極的なかわり方の態度・意欲を評価する。
	授業への参加度	15%	積極的に授業に参加し、他者との良好なかわり方を評価する。
教科書:			
参考書:	野崎泰明、ウエルネスマネジメント、メッツ出版 野崎泰明、ウエルネスの理論と実践、メッツ出版		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思いやる力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業後教室にて		

616060

介護概論

榎本 妙子、岡山 寧子、橋本 秀実、三橋 美和

授業テーマ:

健康長寿に向けた介護について考える

授業の概要:

介護を取り巻く状況をふまえ、介護の重要性を考えると共に、健康長寿に向けた予防的ケア、生活機能低下への予防と対応、介護者への支援、住環境からみた介護のあり方などを考える。また、地域でみまもる看護、海外の保健医療事情についても考える。

到達目標:

高齢社会の介護を取り巻く状況を理解する。また、介護をめぐる社会状況を様々な角度から考えることができる。

授業方法:

DVD等を用いながらの講義およびディスカッションなどを取り入れて授業を展開する。
毎回の授業終了時に、授業への意見・質問等の小用紙への記載を求め、次の授業時に反映する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 介護とは何か(1):介護を取り巻く状況、超高齢時代(岡山)	「高齢者にとっての社会」のイメージ
2. 介護とは何か(2):介護と看護、医療的ケア(岡山)	前回授業のレジメの確認
3. 高齢者の日常(橋本)	前回授業のレジメの確認
4. 介護保険(1)(三橋)	前回授業のレジメの確認
5. 介護保険(2)(三橋)	前回授業のレジメの確認
6. 健康について考える(榎本)	前回授業のレジメの確認
7. 高齢者問題の現状と課題(榎本)	前回授業のレジメの確認
8. 地域で見守る看護～保健師の活動～(榎本)	前回授業のレジメの確認
9. 保健医療福祉の連携(榎本)	前回授業のレジメの確認
10. 生活環境を整える(1)安心・安全な介護環境(三橋)	前回授業のレジメの確認
11. 生活環境を整える(2)住環境整備の実際(三橋)	前回授業のレジメの確認
12. 日常生活支援:睡眠と休養(三橋)	前回授業のレジメの確認
13. 介護を必要とする子どもをめぐる問題(橋本)	前回授業のレジメの確認
14. 海外の保健医療事情(橋本)	前回授業のレジメの確認
15. まとめ	前回までの授業内容を総合的に復習する

受講者へのメッセージやアドバイス:

超高齢社会を迎え、自分と家族および社会全体の介護についていっしょに考えたいと思います。

フィードバックの方法:

講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。

「成績評価方法」

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加・授業態度	30	出席を含む授業への参加・授業態度、期末試験により総合的に評価する。
期末試験	70	

「成績評価基準」:

出席を含む授業への参加・授業態度、期末試験により総合的に評価する。

教科書:

教科書は使用しない。必要な資料はプリントとして配布する。DVD等を教材として使用する。

参考書:

講義中に、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

講義前後で対応する。

授業テーマ:

知的財産法を通して学ぶビジネスの世界

授業の概要:

世界では、物や方法の発明・商品のデザイン・ネーミングなどによってビジネスを展開しており、日常生活を豊かにするために、私たちは本や映画等に接しています。これらの分野は、知的財産、あるいは、知的財産権に関する分野で、授業を通じてビジネスにおいてどのようにして知的財産権が用いられているのかを学んでいきます。

到達目標:

どのようなものが、どの知的財産権を保護する法律で守られるのかについてイメージができるようになり、発明、デザイン、商品名等がどの種類の知的財産権で保護を受けられるのかを考えるようになる力を身につけることを到達目標とします。

授業方法:

講義:30～40パーセント(受講者数確定時期により調整します。)
ディスカッション・グループワーク:60～70パーセント。5～6人のグループを複数もうけ、グループワークやディスカッションを行います。

班分けは、履修登録が確定後に行います。履修登録が確定するまでは、知的財産法の大きな枠組みについて講義を行う。班分け後の授業においては、各回で与えられたテーマについて、グループ内で検討、討議をしてもらい、授業終了後に各班からワークシートを提出してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション、授業の進め方についての説明。身の回りの知的財産権。	教科書UNIT1、UNIT6の素読。
	2. 発明とは発明者とは	教科書2 UNIT2の素読。
	3. 著作権で保護されるものとは	教科書UNIT8の素読
	4. デザインの保護	教科書UNIT13の素読
	5. 会社名、商品名等を守る商標権	教科書UNIT14の素読
	6. 営業秘密	教科書UNIT15の素読
	班分け(履修者名簿が確定している場合)	
	7. (グループ討議)どのような発明を保護すべきか。現在、法律が与えている保護の内容で十分といえるか。	教科書 UNIT2の精読。前の週までに配布するワークシートの質問内容を事前に受講者各自で検討しておく。
	8. (グループ討議)発明者とは誰か。DVD(ドラマ)の状況が日本で起きた場合に、発明者はどのような証拠により救済を求められるか。	教科書UNIT4の発明者、冒認出願について精読しておく。前の週までに配布するワークシートの質問内容を受講者自身で検討しておく。
	9. (グループ討議)特許権が侵害されたらどうすべきか。逆に、特許権侵害であると訴えられたらどのような対応が可能か。	教科書UNIT7の素読。前の週までに配布するワークシートの質問内容を受講者自身で検討しておく。
	10. (グループ討議)私たちはどのような方法で他人の著作物に接すればよいか。	教科書UNIT10,11の素読。前の週までに配布するワークシートの質問内容を事前に受講者各自で検討しておく。
	11. (グループ討議)著作権侵害はどのようにして判断されるか。一般論としての判断基準は妥当であるといえるか。また、DVD(ドラマ)の事例の判断は適当であるといえるか。	前の週までに配布するワークシートの質問内容を事前に受講者各自で検討しておく。
	12. (グループ討議)著作権はどの範囲まで制限されるべきか。著作権法の下における程度の保護で足りるといえるか。	教科書UNIT11の素読。前の週までに配布するワークシートの質問内容を事前に受講者各自で検討しておく。
	13. (グループ討議)商標権の管理を怠るとどのような事態が生じるか。DVDを鑑賞を通じて事例の分析を行う。	教科書UNIT14の素読。前の週までに配布するワークシートの質問内容を事前に受講者各自で検討しておく。
	14. (グループ討議)不正競争防止法上の品質等誤認惹起行為について議論をする。	教科書UNIT15の素読。前の週までに配布するワークシートの質問内容を事前に受講者各自で検討しておく。
	15. まとめ	授業の総括

受講者へのメッセージやアドバイス:

・教科書は4月に改訂版が出版される予定です。旧版発行時から、法律の改正などの影響で教科書の内容が変わる予定ですので、必ず第2版を入手してください。
・就職活動等の事情で授業を欠席する場合は、グループワークにおける作業の評価を代替の課題に取り組むことで評価の対象とします。欠席をする際に、「代替の課題による評価を希望しない」場合は連絡しなくても構いませんが、提出をしない場合は、成績評価に影響しますので、注意してください。

フィードバックの方法:

・グループ討議の評価については、授業中に可能な限り行い、それが難しい場合は、マナビー掲示板を通じて行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	グループワークにおける評価	70	グループワークにおける自分の役割と到達度、討論では、与えられた課題に対する到達目標を踏まえて発言をしているかを評価する。
	定期試験	30	各法律に則ってどのようなものが知的財産権として保護されているのか説得的に説明できているかどうかを基準とする。

教科書:

茶園成樹編『知的財産法入門』(第2版)、有斐閣、2017年4月刊行予定

参考書:

特許庁 はじめての方へ～私たちの身の回りのアイデア、デザインなど～
<https://www.jpo.go.jp/beginner/indexj.html>
経済産業省 不正競争防止法の概要
<http://www.meti.go.jp/policy/economy/chizai/chiteki/pdf/2016unfaircompetitiontextbookr2.pdf>
学校における教育活動と著作権
http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/gakko_chosakuken.pdf

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後に教室内で対応。

授業テーマ:

食物・栄養と健康

授業の概要:

この講義では、私たちの健康の推進や疾病の予防・治療に密接に関係している食物成分の特徴と機能を学び、健康のために何をどれだけ摂取すればいいのかを学ぶ。また、食品・食物の安全性について学ぶ。さらに生活習慣病予防のために、こうした基礎知識を実際の食生活にどう活かすのか議論する。

- 到達目標:
1. 食物中の栄養成分の特徴と機能を理解する。

2. 健康のために各栄養成分をどれだけ摂取すればいいのか理解する。

3. 食物・栄養の観点から生活習慣病の予防を理解する。

4. 食品表示、栄養成分表示、保健機能表示について理解する。

4. 食物・栄養と健康に関する基礎知識を実際の生活に活かす力を身につける。

授業方法:

講義形式で行う。プリントを配布し、PowerPointスライドを使って講義する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品の特性(食物とは・栄養とは・栄養素とは・食品とは・食品に必要な要素とは)	特に必要なし。
2.	1日に必要な栄養 一食事摂取基準(エネルギー必要量)	前回の授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
3.	主要栄養素(炭水化物)	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
4.	主要栄養素(炭水化物)炭水化物の食事摂取基準と摂取上の注意	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
5.	主要栄養素(タンパク質)タンパク質の食事摂取基準と摂取上の注意	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
6.	主要栄養素(脂質)脂質の食事摂取基準と摂取上の注意	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
7.	微量栄養素(ビタミン)ビタミンの食事摂取基準と摂取上の注意	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
8.	微量栄養素(ミネラル)ミネラルの食事摂取基準	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
9.	健康と栄養(肥満を防ぐ)健康と栄養(高血圧を防ぐ)	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
10.	健康と栄養(糖尿病を防ぐ)健康と栄養(貧血を防ぐ)	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
11.	健康と栄養(骨粗鬆症を防ぐ)	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
12.	食品表示、栄養成分表示	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
13.	健康志向の食品	前回までの授業内容を配布プリントを使って復習し、理解しておく。
14.	食品加工と食品添加物―食品添加物の安全性と利用法	前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
15.	まとめ	これまでの授業内容を配布プリント・ノートを使ってまとめ、復習し、理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

出席することなく、講義の内容を理解することは難しい。また知識の積み重ねが必要である。配布されたプリントをもとによく復習しておく、次の授業の理解が進む。授業では教科書を使用しないが、関連する食品学、食物学、栄養学関係の本は図書館にたくさんあるので、キーワードを積極的に調べて理解を深めておくとよい。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80%	到達目標に掲げた食物・栄養と健康に関する知識、理解度により評価する。
	授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標に掲げた食物・栄養と健康に関する知識の理解度を総合的に評価する。

教科書:

使用しない。

参考書:

中村 豊〔著〕:『よくわか栄養学の基本と仕組み』、秀和システム
井上正子〔監修〕:『栄養学と食のきほん事典』、西東社
中村丁次〔監修〕:『栄養の基本がわかる図解辞典』(成美堂出版)
その他、食品学、栄養学関係の本

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。
オフィスアワー(研究室U311b)で対応。

授業テーマ:

対人心理学の基礎的モデル・理論を理解し、現実の人間関係を客観的にとらえる力を高める。

授業の概要:

社会的動物である人間は、他者との対人関係や集団における人間関係から直接的・間接的に影響を受けて生活している。対人関係心理学の授業では、これまで心理学の分野で行われてきた多くの実証研究や理論的論考を紹介しながら、対人関係の専門的基礎知識を学習することを第一の目標とする。そして、そのような対人関係についての心理学の基本的な考え方や知識について学ぶことによって、自分自身とまわりの人々との対人関係について客観的に考える力を高めることを第二の目標とする。

到達目標:

(1)対人関係心理学の基礎的モデル・理論について説明することができる。
(2)現実の人間関係を対人関係心理学的観点から説明することができる。

授業方法:

講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 対人関係心理学とは何か	教科書の該当箇所の熟読
	2. わたし(自己)とは何か?:自己概念と自己理解	教科書の該当箇所の熟読
	3. わたしが他者を見る時、他者と関わる時(1):対人認知の正確性とバイアス	教科書の該当箇所の熟読
	4. わたしが他者を見る時、他者と関わる時(2):愛着スタイルと対人関係	教科書の該当箇所の熟読
	5. 親密な関係の光と影(1):好意と愛情	教科書の該当箇所の熟読
	6. 親密な関係の光と影(2):一体感とソーシャルサポート	教科書の該当箇所の熟読
	7. 他者に見せるわたし:自己呈示と自尊心	教科書の該当箇所の熟読
	8. 対人コミュニケーション(1):さまざまなコミュニケーション・モデルとコミュニケーション・チャネル	教科書の該当箇所の熟読
	9. 対人コミュニケーション(2):日常のコミュニケーションと自己開示	教科書の該当箇所の熟読
	10. 集団に所属することと他者とのつながり(1):集団の魅力と同調	教科書の該当箇所の熟読
	11. 集団に所属することと他者とのつながり(2):社会的ジレンマ	教科書の該当箇所の熟読
	12. うわさ・流言:連鎖的コミュニケーションへの対応	教科書の該当箇所の熟読
	13. 社会とつながるわたし:キャリア選択に関する問題と理論	教科書の該当箇所の熟読
	14. 社会の中の落とし穴:苦情・クレーム行動と悪質商法	教科書の該当箇所の熟読
	15. 文化と心の関わり	教科書の該当箇所の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 学習支援システムにより講評を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末レポート	70	現実の人間関係を客観的にとらえ、なおかつ対人関係心理学的な概念や理論を活用して問題解決の方法について、適切に考察できているのかで評価を行う。
	授業内でのミニレポート	30	対人関係心理学の基礎的モデル・理論について理解できているのか授業内のミニレポートで評価を行う。

教科書: 金政祐司・石盛真徳(編著) わたしから社会へ広がる心理学 北樹出版 2006

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業以外での連絡は、学習支援システムにより行う。

授業テーマ:

「パンクロック」で表出される「青年像」の社会心理学的解析

授業の概要:

「子ども」から「大人」への過渡期として位置づけられる青年期に関して、(1)自我の目覚めや性的機能の発現に伴う自己の内面への拡大、(2)親からの心理的独立など、種々の心理学的特徴が明らかにされてきた。しかしながら、近年、時代条件の変化と関連しながら青年期自体が変貌し、青年期が拡大した(早期開始＝低年齢化と延長＝青年期への滞留)。それに伴い、青年期自体の過渡期的性質の消失が指摘され、心理学で構築された従来の青年期の枠組みの再構築が迫られている。この講義では、ロック音楽を通して青年期の心性の一端を明らかにし、青年期の変貌の心理学的意味を明らかにする。1970年代半ばに米国の若者の間で発生し、英国で確立した「パンクロック」に焦点をあてる。「パンクロック」は、近年日本の若者でも確固たる音楽領域として認知され、そこで表出される歌詞は、基本的に青年期の心性(心の不安定さ＝揺れ、既存社会への反発、将来の自己展望)を骨格にして形成されている。この講義では、日本の「パンクロック」に焦点をあて、表出されている歌詞をテキストとして青年期の心性がどのように構築されているのかを捉えたい。

到達目標:

講義を通じて、いわゆるロック音楽が、その時代や社会の青年のあり方と関連した文化現象であることを理解する。

授業方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
	2. パンクロックと青年	前回の講義主題の確認
	3. 青年の誕生と存在の危うさ	同上
	4. 未来に向かう青年	同上
	5. 未来に向かわない青年	同上
	6. 仲間関係の神秘	同上
	7. 隔絶する「自分」の発見	同上
	8. 自己中心化する「自分」	同上
	9. 照れる恋愛	同上
	10. 変形化する恋愛感覚	同上
	11. 生き続けることの意味	同上
	12. 柔らかな反抗	同上
	13. 再び、荒野へ	同上
	14. 青年の行方	同上
	15. 総括	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:

1週間に一度は「流行歌」(かつての流行歌でもOK)と向き合おう。その「流行歌」がなぜ多くの人々の心と共振しているのかを考えよう。そして、講義で学習した心理学用語を用いて、その「流行歌」がもつ「ちから」を分析してみよう。

フィードバックの方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
	小課題(含 マナビー)	30	授業への集中と理解

教科書:

諸井克英著『ハイロウズの掟―青年のかたち―』<晃洋書房>

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー

授業テーマ:

「ゼロ年代」における若者によるアニメ・メディアミックスの受容

授業の概要:

2000年以降のわが国の若者をターゲットして創出された「ライトノベル・アニメ・コミック」の相互関連メディアを対象として、これらのメディア創造物を受容する若者の心性の基底にある心理学的メカニズムの解明を行います。これらのメディア創造物の基底には、わが国の'90年代のバブル経済の崩壊と冷戦の終結に伴う「自由だが冷たい(わかりにくい)社会」への直面に曝された若者の心理的状況がある(宇野, 2008)。このような状況の中で、「セカイ系」の出現や「コミュニケーションとしての作品消費」という新たなパラダイムである「日常系」の流れが出現しています。この講義では、このような「ゼロ年代」以降のアニメ・メディアミックスの状況に焦点をあて、作品分析や当該作品の若者の受容形態を通して、現代の若者の心性を明らかにする。

到達目標:

アニメやコミックが創出する虚構世界を通して、同時代の人々の心性を理解しよう。

授業方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
	2. 現実(reality)構築の心理学的原理	前回の講義主題の確認
	3. '60・'70年代アニメの素描―「魔法使いサリー」と「天才バカボン」―	同上
	4. アニメ・メディアミックスの現状―「涼宮ハルヒの憂鬱」を例として―	同上
	5. 世界融解としての「ゼロ年代」	同上
	6. 分裂するところの世界からカヘ―「ブギーポップは笑わない」―	同上
	7. 「セカイ系」的世界観の構築における「母性」回帰―「最終兵器彼女」―	同上
	8. 反復される日常への「コミュニケーション消費」志向―「けいおん！」―	同上
	9. 生活の「島宇宙」化―再び「涼宮ハルヒの憂鬱」―	同上
	10. 現実世界の「空気」の投影から「解決」へ	同上
	11. 自然畏怖と日本アイデンティティの喚起―「太陽の黙示録」―	同上
	12. 格差社会における浮遊層の覚醒―「東のエデン」―	同上
	13. ゲスト・スピーカー・タイム―我が国の雑誌メディアのかたち― ＜関西ウオーカー編集長篠原氏を予定＞	同上
	14. まとめ	同上
	15. 評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:

1週間に一度はアニメやコミックと向き合い、その作品ががなぜ人々の心と共振しているのかを考えよう。

フィードバックの方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
	小課題(含 マナビー)	30	授業への集中と理解

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー

授業テーマ:

家族関係の社会心理学

授業の概要:

青少年の「事件」が起きるたびに、背景に「家族の変容」という言説がメディアを通して流布される。我々にとって「家族」とは何か曖昧なまま、「家族の大切さ」という感情的言説を機軸にして、「家族価値への回帰」が唱導される。本講義では、第二次大戦後の我が国の家族像の変遷を辿りながら、我々にとって「家族」とはそもそも何かを心理学的に明らかにする。

到達目標:

1週間に一度は、自分のまわりの対人関係を観察し、「社会における男と女のあり方」について考えてみよう。そのために、活字メディアやニュース映像などにも積極的に接触し、観察の幅と深さを増そう。この反復によって、自分の人生デッサンの手がかりを得よう。

授業方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
2.	変容する家族	前回の講義主題の確認
3.	結婚価値の変貌	同上
4.	夫婦関係の社会心理学的特徴	同上
5.	夫婦関係を支える社会心理的スキル	同上
6.	恋愛の罟	同上
7.	成長する夫婦関係	同上
8.	夫婦関係の危機への対処	同上
9.	理想とする「夫婦」像の変遷	同上
10.	多様な夫婦像の創出	同上
11.	ゲストスピーカータイム（「天王寺動物園」・園長の「牧愼一郎」氏を予定）	同上
12.	シングルは幸せか	同上
13.	夫婦関係の未来	同上
14.	家族の行方	同上
15.	評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:

1週間に一度は周囲に存在する様々な「家族」を観察しよう。

フィードバックの方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
	小課題(含 マナビー)	30	授業への集中と理解

教科書:

諸井克英著『夫婦関係学への誘い―揺れ動く夫婦関係―』＜ナカニシヤ出版＞

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー

授業テーマ:

居住環境の快適性

授業の概要:

居住環境の快適性の「はかりかた」について、講義や実習、課題(演算含む)を通して学ぶ

到達目標:

居住環境を快適にするための工夫ができるようになる

授業方法:

スライドを用いた講義、および測定機器を用いた実習、演習課題、課題発表など

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	人と熱環境	温熱三要素について再確認し、身の周りの熱環境に関する快／不快の要因について考察する
2.	建物と熱	熱と建物に関する事項について復習する
3.	人と光環境	明視四要素について再確認し、身の周りの視対象物の明視性が損なわれる事象について考察する
4.	光をはかる	測光量の種類と定義について復習する
5.	測定実習(グループワーク)	測定結果を分析／考察し、発表資料を作成する
6.	光をはかる(グループ発表)	身の周りの視作業空間の照明条件について考察する
7.	光源の種類と特徴	各自の住宅における照明器具を調査し、その光環境下での明視性、雰囲気を考察する
8.	光源の種類と特徴(課題発表)	空間や視作業に求められる照明の要件についてまとめる
9.	住まいと日照	住生活における窓の役割について考察する
10.	昼光照明	標準時と真太陽時について理解する
11.	照明器具と光のデザイン	照明器具に関するデザイン事例などを、雑誌やインターネットから収集し、その光の特性について考察する
12.	人と音環境	音の三要素について理解する
13.	建物と音	音の反射、吸収、透過について理解する
14.	人と空気環境	換気の手法について理解する
15.	まとめ	これまでの内容を整理し、居住生活を快適にするために必要な要件をまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

課題はマナビーにて提出確認し、グループワークは授業中に発表／ディスカッションします

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	15	課題の提出状況、提出物の内容で評価 グループ課題については、グループメンバーは同一評価点となります
	演習課題	15	
	試験	70	

教科書:

図解住居学 5.住まいの環境、彰国社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

マナビーまたはe-mail

授業テーマ:	人間生活学への招待:大学における学びに向けて																		
授業の概要:	新入生が大学での学びにスムーズに適応できるように、10名前後の小グループで編成されたクラスにて学びを深めます。人間生活学科の全専任教員が担当する基礎教育科目であります。基礎的な演習を通して、人間生活学の専門分野の基礎的知識を学ぶだけでなく、その学習過程で大学における教育活動の目的を考え、アカデミックスキルを身につけると共に、教員と学生、学生間の人間関係を深め、人間生活学への理解と興味を高めることを目標とします。各クラス担当教員が初年度のアドバイザーを兼ね、新入生の大学生活へのサポートを行います。 春学期を通して1人専任教員が授業を担当します。また、担当者の関心や専門性、受講生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。「基礎演習特別講義」として、1学年全体の学びの機会(4回)も提供される予定です。																		
到達目標:	人間生活学への理解と興味を高める。																		
授業方法:	演習形式によって行われます。																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション</td><td rowspan="15">講義以外の事前事後学習(発表の準備や報告等)が期待されます。詳細は各担当教員が決め、教室にて説明します。</td></tr><tr><td>2. 大学における学び1</td></tr><tr><td>3. 大学における学び2</td></tr><tr><td>4. 大学における学び3</td></tr><tr><td>5. 大学における学び4</td></tr><tr><td>6. 基礎演習特別講義1. 人間生活学科での学びに向けて</td></tr><tr><td>7. 大学における研究1</td></tr><tr><td>8. 大学における研究2</td></tr><tr><td>9. 人間生活学科での学びと研究1</td></tr><tr><td>10. 人間生活学科での学びと研究2</td></tr><tr><td>11. 基礎演習特別講義2. ゼミナール科目での学びⅠ</td></tr><tr><td>12. 基礎演習特別講義3. ゼミナール科目の学びⅡ</td></tr><tr><td>13. 人間生活学科での学びと研究3</td></tr><tr><td>14. 基礎演習特別講義4. 卒業生によるキャリア講演会</td></tr><tr><td>15. まとめ</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション	講義以外の事前事後学習(発表の準備や報告等)が期待されます。詳細は各担当教員が決め、教室にて説明します。	2. 大学における学び1	3. 大学における学び2	4. 大学における学び3	5. 大学における学び4	6. 基礎演習特別講義1. 人間生活学科での学びに向けて	7. 大学における研究1	8. 大学における研究2	9. 人間生活学科での学びと研究1	10. 人間生活学科での学びと研究2	11. 基礎演習特別講義2. ゼミナール科目での学びⅠ	12. 基礎演習特別講義3. ゼミナール科目の学びⅡ	13. 人間生活学科での学びと研究3	14. 基礎演習特別講義4. 卒業生によるキャリア講演会	15. まとめ
授業内容	準備学習等の内容																		
1. オリエンテーション	講義以外の事前事後学習(発表の準備や報告等)が期待されます。詳細は各担当教員が決め、教室にて説明します。																		
2. 大学における学び1																			
3. 大学における学び2																			
4. 大学における学び3																			
5. 大学における学び4																			
6. 基礎演習特別講義1. 人間生活学科での学びに向けて																			
7. 大学における研究1																			
8. 大学における研究2																			
9. 人間生活学科での学びと研究1																			
10. 人間生活学科での学びと研究2																			
11. 基礎演習特別講義2. ゼミナール科目での学びⅠ																			
12. 基礎演習特別講義3. ゼミナール科目の学びⅡ																			
13. 人間生活学科での学びと研究3																			
14. 基礎演習特別講義4. 卒業生によるキャリア講演会																			
15. まとめ																			
受講者へのメッセージやアドバイス:																			
フィードバックの方法:	個々の提出物については、コメントを付け教室で返却します。																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席、発表・レポート</td><td>50%、50%</td><td>全員毎回出席が原則。具体的な運用は、各担当教員が決定しますが、おおむね授業への積極的参加50%、発表・レポート内容50%として総合的に評価します。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席、発表・レポート	50%、50%	全員毎回出席が原則。具体的な運用は、各担当教員が決定しますが、おおむね授業への積極的参加50%、発表・レポート内容50%として総合的に評価します。												
評価方法	割合	評価基準																	
出席、発表・レポート	50%、50%	全員毎回出席が原則。具体的な運用は、各担当教員が決定しますが、おおむね授業への積極的参加50%、発表・レポート内容50%として総合的に評価します。																	
教科書:	担当教員によっては、教科書を使用することもあるので、その場合には指示に従ってあらかじめ準備が必要となります。																		
参考書:																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力																		
教員との連絡方法:	担当教員がオリエンテーションで説明します。																		

授業テーマ:

社会行動を支える心理学的メカニズム

授業の概要:

社会心理学は、日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として、そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。本講義では、実験や調査によって得られた種々の研究知見を系統的に呈示しながら、社会行動を支える心理学的メカニズムの理解を目指します。

到達目標:

社会行動の支える心理学的メカニズムに関する理解と分析力

授業方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
	2. 社会心理学の課題と方法(1)	前回の講義主題の確認
	3. 同上(2)	同上
	4. 対人的コミュニケーションの枠組み(1)	同上
	5. 同上(2)	同上
	6. 同上(3)	同上
	7. 対人関係の親密化(1)	同上
	8. 同上(2)	同上
	9. 恋愛関係の形成と進展(1)	同上
	10. 同上(2)	同上
	11. 同上(3)	同上
	12. 集団・社会における個人(1)	同上
	13. 同上(2)	同上
	14. まとめ	同上
	15. 評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:

1週間に一度は、自分や周りの人たちの対人関係の様子を自己観察しよう。

フィードバックの方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
	小課題(含 マナビー)	30	授業への集中と理解

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー

授業テーマ:

真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして

授業の概要:

21世紀は、少子・高齢社会の時代であるとともに、男女共同参画社会＝ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)社会形成の必然性をもった時代でもある。少子・高齢社会は、人手不足・長時間労働・格差社会でもある。男女共同参画社会とは、男女が共にゆとりをもって仕事と家事・育児・介護を両立し、家庭および社会で対等にお互いを活かしあえる男女平等社会のことである。
くらしの経済学は、生活および生活環境との関連で、家庭経済を中心とする生活経済を主要な研究対象とする専門分野である。

到達目標:

本講義では、真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして、(1)生活(家庭)経済が、ライフコース別、世帯形態別、ライフステージ別にどのような状況にあるのか、さらに(2)下記のような生活および生活環境から、どのような影響を受け、逆にどのような影響を与えているのか、その実態および理論と課題・対策について明らかにする。
生活とは家計構造・消費構造・貯蓄・負債構造の変化や女性の社会進出などの生活構造の変化である。生活環境とは、①地域経済・国民経済・国際経済・地球環境、②少子・高齢化対策や男女共同参画社会の形成などの諸環境の総体である。

到達目標:

本講義を通して、現代の生活(家庭)経済問題に対する理解を深めるとともに、それに対する的確な問題意識と科学的な認識力および実践力を養成する。

授業方法:

(1)講義形式で授業を行う。その際、理解を助けるため、適宜、経済社会問題関連のビデオを視聴したり、新聞記事切抜きなどの資料を配布し解説したりする。
(2)授業を前半と後半に分けて、それぞれ1回ずつ授業関連の基礎的論文を採り上げ、その内容のまとめと批評のレポート作成を課す。これは、準備・補充の主体的学習にも通じる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	* 配布し説明したシラバスおよび「レポートの課題とレポートの提出期限」の資料の復習・再確認。 * 説明しなかった資料「心身の健康は規則正しい日常生活から！」の通読・予習
2.	生活科学の研究対象と目的と方法 ーくらしの経済学の位置づけ 補講(1)心身の健康について、(2)大学生生活の過ごし方や諸注意、(3)ブラックアルバイについて	* 配布し説明した左記資料の復習と再確認 * 左記補講(1)～(3)関連の新聞記事切抜き資料は、大事な箇所マークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り。
3.	くらしの経済学の研究対象と方法と課題	* 配布し説明した左記資料の復習と再確認
4.	日本の市場経済と生活経済(1)少子・高齢・人手不足社会の実態	(1)授業前半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。 (2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。
5.	日本の市場経済と生活経済(2)長時間労働・格差社会の実態	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求
6.	生活経済の収入と支出	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求
7.	生活経済の資産管理	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求
8.	生活経済の税金・社会保険料と生活保障	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求
9.	ライフコース別にみた生涯収支とジェンダー	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求 上記(1)の前半の課題については、次週レポートの提出。
10.	単身世帯・共稼ぎ世帯の生活経済とジェンダー	(1)授業後半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。 (2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。
11.	子育て世帯の生活経済とジェンダー	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求
12.	若年者の就労・ワーキングプア問題と生活経済	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求
13.	男女共同参画社会＝ワーク・ライフ・バランス社会の形成と生活経済(1)男女共同参画社会とは	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求
14.	男女共同参画社会＝ワーク・ライフ・バランス社会の形成と生活経済(2)ワーク・ライフ・バランス社会とは	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求
15.	総括 真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして	上記(1)の後半の課題については、当日レポートの提出。

受講者へのメッセージやアドバイス:

(1)一夜漬けで丸暗記した知識や理論は、テストで良い点を取るのに役立ちますが、思考力や創造力などの向上には繋がりません。筆記をしながら、理解する努力を積み重ねて頭に刻み込まれた知識や理論は思考力や創造力の向上に繋がるとともに、問題解決や新しいものを創造する力にもなります。そこに学びの喜びがあり楽しみがあります。時間を掛けて理解する個人的な努力を怠らないで下さい。
(2)授業では、大事なことをメモしながら聴講する習慣を身に付けて下さい。集中力を維持し居眠りも防ぐことができます。

フィードバックの方法:

成績評価した各自の2つのレポートおよびノートは、成績公表後に、研究室前に長机および表示付きのカゴを置いて一括返却いたします。当カゴは科目別・学科別・専攻別・学籍番号別に分類され設置されていますので、容易に各自の提出物を一括して取り出すことができます。
受け取りに来ずに長期間放置されている場合は、督促状を出します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	(1)2つのレポートのまとめ	30%	(1)タイトルと目次の作成、(2)まとめ(各節ごとに要点の箇条書きや模式図を用いて/文章の丸写しはダメ/まとめ用紙枚数に上限なし)、当内容の質(的確さや簡単明瞭など)と量で評価。
	(2)2つのレポートのコメント・感想	20%	内容の質(的確さや独自性など)と量(文章4～5行では短すぎる。できるだけ半ページ以上。行数に上限なし。)
	(3)ノートのメモ・板書	10%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(4)ノートのビデオのメモ・感想	15%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(5)ノートの資料の線引精読	10%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(6)出席とノート提出	15%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。

教科書:	教科書は使用しない。講義資料は、適宜、授業中に配布する。
参考書:	御船美智子編著『家庭生活の経済』放送大学教育振興会、1996年 日本家政学会家庭経済学部会編『21世紀の生活経済と生活保障』建帛社、1997年 小谷正守・伊藤セツ編著『消費経済と生活環境』ミネルヴァ書房、1999年 日本家政学会家庭経済学部会編『多様化するライフスタイルと家計』建帛社、2002年 日本家政学会家庭経済学部会関東地区会編『少子高齢社会と生活経済』建帛社、2004年 日本家政学会家庭経済学部会編『規制改革と家庭経済の再構築』建帛社、2007年 伊藤セツ・川島美保共編著『三訂 消費生活経済学』光生館、2008年
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡 方法:	e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内や研究室内で対応。

授業テーマ:	人間生活と社会福祉		
授業の概要:	社会福祉という言葉は、ミクロには、心理的援助のような直接的に人びとの生活支援に焦点づけられる言葉として、また、マクロには、国政レベルでの政策策定のような間接的に生活支援活動の客観的条件を整備する言葉として多様に使われている。授業では、社会福祉のアウトライン、すなわち、(1)歴史・思想、(2)政策・制度、(3)実践・方法について基礎的理解をうながしながら、人間生活における社会福祉の意義について考察する。そして同時に、日米比較研究の視点から、日本の社会福祉の基本課題について考える。今日、日本の社会福祉は、自由化、市場化をキーワードにアメリカ型へと移行している。日本の将来を見渡すうえで、アメリカの現状と課題を掘り起こし、それと比較する作業は極めて有効である。		
到達目標:	ボランティア・学生が知っておきたい社会福祉の基礎知識を修得する。		
授業方法:	講義中心、適宜資料を配布する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 社会福祉学を学ぶにあたって	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	2. 社会福祉のあゆみと考え方	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	3. 家族支援の方法(1)	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	4. 家族支援の方法(2)	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	5. 社会福祉の施設・機関、法と行財政(1)－高齢者施設を中心に－	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	6. 社会福祉の施設・機関、法と行財政(2)－米国・台湾の高齢者施設との比較－	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	7. 社会福祉実践(ソーシャルワーク)の固有性、意義と目標	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	8. ソーシャルワーク専門職の成立と発展	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	9. 子ども虐待への援助・介入活動－治療教育を中心に－	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	10. 教育と福祉－スクールソーシャルワーカーの活動－	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	11. 子どもの病気と医療(病棟)保育	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	12. 障がいがある人への理解と支援	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	13. 貧困、医療・介護問題と生活保障	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	14. 社会福祉の日米比較－現状と課題－	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
	15. 授業のふりかえりとまとめ、補足的な説明	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	30	出席を含む授業への参加・態度およびレポート内容
	定期試験	70	ルーブリックによる達成度評価
教科書:	くらしに活かす福祉の視点－ボランティア・学生が知っておきたい基礎知識－(ミネルヴァ書房)		
参考書:	アメリカの対人援助専門職－ソーシャルワーカーと関連職種の日米比較－(ミネルヴァ書房)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業前後に対応		

622360

生活と環境

齋藤 朱未

授業テーマ:

まちを見る, まちを考える

授業の概要:

毎日生活している環境である“まち”がどのように形成されているのか、誰がつくっているのか、どのようにつくっているのか、「まちづくり」として学ぶ。まちづくりと言ってもその視点は様々である。そのため、住民の視点、行政の視点、土地のあり方など... 多様な観点でまちをとらえ、まちづくりとは何か、どのような手法があるのかを理解することで、これからの生活環境について考えていく。

到達目標:

まちづくりとは何か、どのような手法があるのかを理解する

授業方法:

講義形式を基本とし、数回のグループ学習を行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 地域とは	学んだ内容について整理しておくことを求める。
2. まちづくりとは	学んだ内容について整理しておくことを求める。
3. まちづくりの枠組み	学んだ内容について整理しておくことを求める。
4. 住民主体のまちづくり	学んだ内容について整理しておくことを求める。
5. 地域コミュニティとまちづくり	学んだ内容について整理しておくことを求める。
6. 土地利用の変化とまちづくり	学んだ内容について整理しておくことを求める。
7. 安全安心なまちづくり	学んだ内容について整理しておくことを求める。
8. 生きものと暮らすまちづくり	学んだ内容について整理しておくことを求める。
9. 地域固有の資源とまちづくり	学んだ内容について整理しておくことを求める。
10. 地域資源とその活用(グループ学習)	京都・大阪府内の地域資源を活用したまちづくりについて、グループごとに調べておくことを求める。
11. 町並み・景観を生かしたまちづくり	学んだ内容について整理しておくことを求める。
12. 地域商業とまちづくり	学んだ内容について整理しておくことを求める。
13. 食によるまちづくり	学んだ内容について整理しておくことを求める。
14. 郷土食によるまちづくり(グループ学習)	グループごとに郷土食について調べ、まちづくりへの活用方法を検討するための情報を収集しておくことを求める。
15. まとめ	学んだ内容について整理しておくことを求める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

身のまわりには色んな決まりや考えをもとにつくられた環境がある。私たち一人ひとりがまちをつくる重要な要素であることを認識し、受講することを望む。

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び課題提出	30	積極的に授業に参加し、まちづくりについて理解しようとしているかを評価する。
定期試験	70	まちづくりとは何か、どのように行なわれているのか、その手法を理解しているかを評価する。

教科書:

参考書:

森岡清志編「地域の社会学」有斐閣アルマ
石原武政・西村幸夫「まちづくりを学ぶ」有斐閣ブックス
佐々木一成「観光振興と魅力あるまちづくり」学芸出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー, Eメール, マナビー掲示板機能を利用

授業テーマ:

貧困と戦争に苦しむ子どもたち

授業の概要:

戦争や貧困などの地球的課題とその中で生きている子どもたちの現実を知り、問題を解決するための取組みについて学んでいく。また、それぞれの課題の背景にある政治、経済の仕組みについても理解を深めていく。
その上で、私たち自身の生活がこれらの地球規模の課題といかにつながっているのかを考え、日常生活の中で国際協力にどのように貢献できるのか検討していく。

到達目標:

・国際社会が抱える貧困、紛争の基本的な事項と、子どもに与える影響について理解できる。
・グループでの討議やワークショップを通じて、他者の主張を理解して、自分の意見や考えとの違いを調整し、お互いに納得のできる結論を得ることができる。

授業方法:

講義だけでなく、シミュレーション、ゲームなどのワークショップやグループ討議といった学生が主体的に考える形式で進めていく。
また、写真やDVDなど視聴覚教材も活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、貧困とは	
	2. 貧困と子ども①飢える子どもたち	
	3. 貧困と子ども②ストリートチルドレン	
	4. 貧困の原因を考える	
	5. 貧困と子ども③ファストファッションと児童労働	所有する日用品がどの国から来たのか調査する
	6. 貧困と子ども④スマホと児童労働	
	7. 貧困と子ども⑤教育	
	8. 戦争はなぜ起こるのか	1～7回までの内容について小テスト
	9. 紛争下の子ども①シリア内戦	
	10. 紛争下の子ども②子ども兵士	
	11. 紛争下の子ども③難民	
	12. 紛争下の子ども④難民と国際支援	
	13. 日本に暮らす世界の子どもたち①在日韓国朝鮮人	居住する自治体の在留外国人の概要について調べる
	14. 日本に暮らす世界の子どもたち②ニューカマー	8～13回までの内容について小テスト
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

単に出席するのではなく「参加」が評価となるので、ワークショップ、ディスカッション等に積極的に取り組むことを期待します。

フィードバックの方法:

採点して教室で返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	30	内容理解+文章力
	授業への参加度	50	
	提出物及び小テスト	20	

教科書:

必要に応じてレジュメと資料を配布。

参考書:

ユニセフ(国連児童基金)『世界子供白書』(各年版)
初瀬龍平・松田哲・戸田真紀子編著『国際関係のなかの子どもたち』晃洋書房、2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

豊かな「いのち」を求め

授業の概要:

私たちを取り巻く文明社会は「進歩」という言葉の下、様々な不可能な事柄を可能な事柄に転じてきました。このような社会に向き合いつつ、人間の本質を真摯に探究し、将来への歩みを探っていく予定です。特に、生命の領域において起こっている事象(人工授精、脳死、臓器移植等)に焦点を当て、内在する問題を考察します。不完全である人間が互いにその生命を認め、賛美するために、今日の時代状況における生命観を再考します。

到達目標:

1. 昨今、生命の領域において起こっている事象(人工妊娠中絶、人工授精、体外受精、脳死、臓器移植等)の課題に関して、考察を加えます。
2. 近現代社会の人間観を疑いつつ、人間の本質を探求し、自分なりの生命観を構築します。

授業方法:

主に講義形式で行いますが、状況に応じグループディスカッション等も尊重したいです。映像資料(複数)をも提供する予定です。詳細は初回の講義で説明します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(講義目標の提示)生命を「問う」とは。	シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する。
2.	生命観の再考 生命倫理学とは何か	配布プリントや参考文献により、昨今の生命事象の課題を整理する。
3.	命の始まりの領域での事象と課題(人工妊娠中絶等を巡り)1	配布プリントや参考文献により、人工妊娠中絶の実情と課題を整理する。
4.	命の始まりの領域での事象と課題(人工授精等を巡り)2	配布プリントや参考文献により、人工授精、体外受精の実情と課題を整理する。
5.	生命倫理との対話 生殖医療を中心に	配布プリントや参考文献により、生殖補助医療の実情と課題を整理する。
6.	将来への展望 宗教的観点との対話から	配布プリントや参考文献により、多様な生命観に関して学びを深め、整理する。
7.	自己の「いのち」観への疑い	配布プリントや参考文献により、近現代の生命観に考察を加え、整理する。
8.	生命の終わりの領域での事象	配布プリントや参考文献により、昨今の死の事象を整理する。
9.	脳死とは	配布プリントや参考文献により、脳死の実態を整理する。
10.	脳死と臓器移植	配布プリントや参考文献により、脳死移植の課題を整理する。
11.	移植医療を巡り	配布プリントや参考文献により、移植医療の可能性と課題を整理する。
12.	生命倫理との対話 終末期医療を中心に	配布プリントや参考文献により、終末期医療の現実を整理しつつ、死生観を探り、自身の考察を加える。
13.	将来への展望 宗教的観点との対話から	多様な死生の文化を整理しつつ、生命観構築に向けた思索を深め、整理する。
14.	将来へ向け1:ホスピスの可能性を巡り	いわゆる生命の質を尊重する視座の意義と課題を整理する。
15.	将来へ向け2:豊かな「いのち」を求めて―死生観への探究	自身の生命観構築のための論理構成を考え、まとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。レポート作成に向けての資料収集を含めた事前学習等が必要です。講義で扱ったテーマや生命に関する諸問題に関して、受講生同士による議論や他の方々との議論等を通し、自分自身の思索を深めることが期待されます。

フィードバックの方法:

毎回の授業内で、講義の学びを深めるコメントペーパーを作成します。受講生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	クラスへの出席・関与	50	授業ごとのコメントシートの提出。講義内容の理解度及び自身の問題意識により評価します。
	学期末レポート	50	的確なテーマを設定し、到達目標への取り組み状況及び自身の課題としての論理構成力により評価します。

教科書:

毎講義、プリントを配布します。

参考書:

教室にて随時紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します(オフィスアワー、Eメールなど)。

授業テーマ:

文化・伝統・歴史の中で伝えられてきた児童文化を考える。

授業の概要:

主に、日本の古代の文化に現れる子どもの姿から、江戸時代、近代までの子どもの姿の変遷をたどる。

到達目標:

地域や、その国の文化・伝統・歴史が、子どもに及ぼす影響を見つめる。そして、日本だけではなく、ヨーロッパも含めて、児童文化の継承のされ方を考え、理解力と知的な関心を広げ、探究意欲を深める。

授業方法:

講義形式だが、当時の時代の映像をたくさん見て一緒に考える

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 竹取物語(かぐや姫)のおもしろさ	授業全体のオリエンテーション
	2. 御伽草子(一寸法師など)のおもしろさ	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	3. 吉備の国と鬼退治の話(桃太郎)のおもしろさ	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	4. 『もののけ姫』と出雲文化	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	5. 古事記のおもしろさ① 日本誕生。イザナキ、イザナミの物語。火の神、黄泉国。	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	6. 古事記のおもしろさ② スナノオと八俣のオロチの物語。	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	7. 古事記のおもしろさ③ オオクニヌシといなばのしろうさぎの話。	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	8. グリム童話① グリム兄弟。蛙の王様。鉄のハンス。	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	9. グリム童話② ラプンツェル。シンデレラ。	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	10. アンデルセン童話① アンデルセンの生涯。マッチ売りの少女	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	11. アンデルセン童話② 赤い靴 スズの兵隊、雪の女王	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	12. クリスマス、サンタクロースについて	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	13. 正月とは何か、しめ縄、鏡餅について	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	14. ウランの発見者 キュリー夫妻について	今回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
	15. 火と鉄の物語の全体を振り返る	授業全体を振り返り、レポートに向けての要点を説明する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本古代の物語の豊かさに注目してください。

フィードバックの方法:

授業の後、出席カードの提出と共に、帰ってからメールの感想送ることを義務づけている。その感想メールに書かれた疑問や質問に答える形で、次の週に全員の感想を名前を伏せてプリントして配布している。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポートの提出	60	授業の意図を汲んでレポートをかいているかどうか。
	メールでの感想	30	自分で疑問を持ち課題を調べようとしているかどうか。
	出席・欠席	10	三分の一の欠席で、成績は不可とする

教科書:

随時指示する

参考書:

村瀬学『宮崎駿再考』平凡社新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、が獲得される。

教員との連絡方法:

メールでのやりとりを基礎にしている。

授業テーマ:

映像文化と、映像で育つ子どもを考える

授業の概要:

戦後の、テレビ、映画などに登場する少年、少女のヒーローの変化を追い、なぜそういう変化が生じていったのか考える。

到達目標:

特に、テレビ、映画、アニメ、ゲーム、インターネットなどの映像の文化を通して、子どもたちは何を学んでいるのか。またそういう映像文化の制作者達は、何を考えて、映像作品を送り出しているのか考え、理解力と知的な関心を広げ、探究意欲を深める。

授業方法:

講義形式だが、当時の時代の映像をたくさん見て一緒に考える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	戦後は「ゴジラ」から始まった	授業全体のオリエンテーション
2.	鉄腕アトムの誕生	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
3.	ウルトラマンとは何だったのか	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
4.	アルプスの少女ハイジと名作物アニメ	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
5.	名作物アニメと原作の違いについて	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
6.	ディズニーとディズニーランドについて	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
7.	トイ・ストーリーと人形の世界について	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
8.	宮崎駿の世界①	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
9.	宮崎駿とサン＝テクジュペリ	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
10.	宮沢賢治の世界を考える①	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
11.	宮沢賢治の世界を考える②	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
12.	ディズニーの新しいアニメ①	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
13.	ディズニーの新しいアニメ②	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
14.	宮崎駿の世界②	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
15.	戦後の映像文化の全体を振り返る	授業全体を振り返り、レポートに向けての要点を説明する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

自分の子ども時代の映像体験をしっかりと思い出す努力をしてください。

フィードバックの方法:

授業の後、出席カードの提出と共に、帰ってからメールの感想送ることを義務づけている。その感想メールに書かれた疑問や質問に答える形で、次の週に全員の感想を名前を伏せてプリントして配布している。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポートの提出	60	授業の意図を汲んでレポートをかいているかどうか。
	メールでの感想の提出	30	自分で疑問を持ち課題を調べようとしているかどうか。
	出席・欠席	10	三分の一の欠席で、成績は不可とする

教科書:

随時指示する。

参考書:

村瀬学『宮崎駿の「深み」へ』平凡社新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、が獲得される。

教員との連絡方法:

メールのやりとりを基礎にしている。

授業テーマ：子ども、発達、教育、心理学

授業の概要：子ども(発達と教育)心理学は、古典的には「発達」、「教授・学習」、「パーソナリティと適応」、「測定・評価」という4つの領域を取り扱ってきた。特に本科目では、前者3領域を重点的に学び、近年取り上げられることの多い発達障害についてや教育に関する諸問題についても検討していく。

到達目標：生まれたばかりの乳児は、自分と他者や外界との境界がはっきりせず、自他未分化な存在乳幼児期から児童期の子どもにおける人格、感情、認知などの発達の変化に関する著名な理論を取り上げ、これらの変化が「なぜ」その時期に起こるのか、そこに「どのような」要因が関与しているのか、また「どのようにして」変化が生じてくるのかを概説する。具体的には、乳幼児期の子どもの発達過程の学習を通して、1)子どもの発達の変化にかかわる要因、2)現代における子どもや家族の問題、を理解することを目標とする。

授業方法：基本的には講義形式で行う。必要に応じてDVD等の視聴覚教材を用い、感想を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(子どもの発達を考える)	授業計画の作成
2.	子どもの発達と支援(1)運動機能の発達	ウィークリーレポートの作成
3.	子どもの発達と支援(2)情動の発達	ウィークリーレポートの作成
4.	子どもの発達と支援(3)社会性の発達	ウィークリーレポートの作成
5.	子どもの発達と支援(4)ことばの発達	ウィークリーレポートの作成
6.	子どもの発達と支援(5)認知・思考の発達	ウィークリーレポートの作成
7.	発達初期の子どもの能力と自我:発達の不思議	中間(課題)レポートの作成
8.	乳児の社会的能力:親子間のコミュニケーションの始まり	中間(課題)レポートの作成
9.	発達障害児とその支援(1)保育現場を中心に	中間(課題)レポートの作成
10.	発達障害児とその家族(2)学校現場を中心に	中間(課題)レポートの作成
11.	人格形成における理論的枠組み	ウィークリーレポートの作成
12.	感情・情動における理論的枠組み	ウィークリーレポートの作成
13.	認知・思考における理論的枠組み	ウィークリーレポートの作成
14.	認知・言語発達支援についての現代的問題(教育問題)	能力の向上自己評価(学期末)
15.	到達度確認と授業目標確認授業	まとめ

受講者へのメッセージやアドバイス：本科目は、子どもの発達を理解するうえで役に立つ。自分・自己の成長及び発達を見つめなおしてほしい。なお、講義中の私語・飲食・携帯電話の使用を禁止する。20分以降の遅刻は認めない。

フィードバックの方法：1.予習・復習:配布プリントに基づき、学習を進めてください。2.参考文献:授業中に適宜紹介します。3.授業内課題:5〜6回程度、行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	到達度確認テスト	70	満点を70点換算する。
	小課題・授業内レポート	20	満点を20点換算する。
	出席状況・受講態度など	10	満点を10点換算する。

教科書：とくに指定しない。

参考書：石上浩美・矢野正、教育心理学、嵯峨野書院
中澤潤、よくわかる教育心理学、ミネルヴァ書房
無藤隆・岡本祐子・大坪治彦、よくわかる発達心理学、ミネルヴァ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法：Eメール: ai814059@hotmail.co.jpまたはyano@tezukayama.ac.jpまで、大学名・学生番号・氏名を入力のこと。

授業テーマ:	親子関係、保育、愛着、乳幼児、心理学		
授業の概要:	知覚と運動、認知、言語、社会性、自己といった複数の領域における乳幼児の発達を保育所保育指針の「発達過程」の記述を軸に解説する。また、乳幼児のよりよい発達を考えるにあたって、望まれる働きかけについて検討していく。愛着や児童虐待などの親子間に存在する社会的な問題、心理学的な問題についてそれぞれ考究する。		
到達目標:	生まれたばかりの乳児は、自分と他者や外界との境界がはっきりせず、自我未分化な存在であるといわれている。いつ頃、どのようにして、他者とは独立な存在である自分を分かっていくのだろうか。自己の認識の始まりから、次第に子どもが様々な思い、気持ち、考えをもつようになっていく発達過程や、子どもが様々な行動を学習する過程について理解する。それらを踏まえ、養育者をはじめとする周囲の人々との関係性のなかで、子どもは何を体験し、何を育まれることが大切なのかを心理学の立場から考える。具体的には、1)子どもの自己、情動、社会性の発達、2)子どもをめぐる問題とその支援方法、について理解することを目標とする。		
授業方法:	基本的には講義形式で行う。必要に応じてDVD等の視聴覚教材を用い、感想を求める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(ヒトの親子関係の特徴)	授業計画の作成	
	2. 自己と情動の発達(1)自己の発達	ウィークリーレポートの作成	
	3. 自己と情動の発達(2)情動の発達	ウィークリーレポートの作成	
	4. 幼児期の友達関係(1)幼児期前期の友達関係と大人の関わり	ウィークリーレポートの作成	
	5. 幼児期の友達関係(2)仲間関係の広がり	中間(課題)レポートの作成	
	6. 乳幼児期の家族関係(1)乳児期の親子の愛着	中間(課題)レポートの作成	
	7. 乳幼児期の家族関係(2)幼児の「しつけ」をめぐる問題	中間(課題)レポートの作成	
	8. 乳幼児期の家族関係(3)幼児の行動的問題に対処するには	中間(課題)レポートの作成	
	9. 発達障害児とその家族(1)発達障害とは	ウィークリーレポートの作成	
	10. 発達障害児とその家族(2)発達障害児とその家族への支援	ウィークリーレポートの作成	
	11. 発達障害児とその家族(3)気になる子どもと保育所の役割	ウィークリーレポートの作成	
	12. 子どもから大人への移行期(1)青年期における身体的発達と心理	ウィークリーレポートの作成	
	13. 子どもから大人への移行期(2)青年期における自己概念	ウィークリーレポートの作成	
	14. 子どもから大人への移行期(3)親からの自立とアイデンティティの形成	能力の向上自己評価(学期末)	
	15. 到達度確認と授業目標確認授業	まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本科目は、自分が親や保育者になったときにきっと役に立つはずである。また、これまで自分を育ててくれた親に感謝する気持ちを持ちたい。なお、講義中の私語・飲食・携帯電話の使用を禁止する。20分以降の遅刻は認めない。		
フィードバックの方法:	1.予習・復習:配布プリントに基づき、学習を進めてください。2.参考文献:授業中に適宜紹介します。3.授業内課題:5～6回程度、行います。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	到達度確認テスト	70	満点を70点換算する。
	小課題・授業内レポート	20	満点を20点換算する。
	出席状況・受講態度など	10	満点を10点換算する。
教科書:	とくに指定しない。		
参考書:	矢野正・柏まり、保育と人間関係、嵯峨野書院 平木典子・柏木恵子、日本の親子、金子書房 氏家達夫・高濱裕子、親子関係の生涯発達心理学、風間書房 矢野正、生徒指導論、ふくろう出版		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール: ai814059@hotmail.co.jpまたはyano@tezukayama.ac.jpまで、大学名・学生番号・氏名を入力のこと。		

授業テーマ:

うたのちから・ことばの想いー音楽社会心理学への誘いー

授業の概要:

わが国の'60年代後半から'70年代初頭かけて、歌の「作り手」と「歌い手」を一致させるフォーク・ブームが現れた。このブームは、音楽ジャンルとしてのJ-Popの「曙」として位置づけられるだけでなく、若者自身が自らの心性を表出する「形式」を獲得したともいえる。この講義では、'60年代後半から現在に至るまでにわが国で流通している音楽の「歌詞」を通して、青年の心性の分析を試みる。

到達目標:

講義を通じて、いわゆる流行歌(はやりうた)が、その時代や社会のあり方と 관련된文化現象であることを理解する。

授業方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC、スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 講義全体の概要と目的	講義内容の大筋の理解
	2. 音楽社会心理学とは何か?	前回の講義主題の確認
	3. 埋め込まれた不安から希望へーYUI が蘇らせる伝統的青年像ー〔1〕	同上
	4. 同上〔2〕	同上
	5. 恋愛への誘いー斉藤和義が構成する恋愛の掟ー〔1〕	同上
	6. 同上〔2〕	同上
	7. 時代との対峙『浜田省吾』が構成する戦後の軌跡ー〔1〕	同上
	8. 同上〔2〕	同上
	9. 人生を語らず『吉田拓郎』が描く生の継続ー〔1〕	同上
	10. 同上〔2〕	同上
	11. ゲスト・スピーカー・タイムーエンタテインメントとしてのプロレスのかたちー〈設定開講日・演題は変更の可能性あり〉TORU「道頓堀プロレス」所属・プロレスラー〔高校卒業後、プロレスラーを目指し、インディーズ団体で修行後、現所属。'13年6月「第2代プロレスリング紫焰タッグ王者」'15年5月「道頓堀プロレス認定・第2代WDWタッグ王者」戴冠〕	同上
	12. 弱さの開示から夢の追求へー『ザ・マスミサイル』が構成する青年の掟ー〔1〕	同上
	13. 同上〔2〕	同上
	14. まとめ	同上
	15. 評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:

1週間に一度は「流行歌」(かつての流行歌でもOK)と向き合おう。その「流行歌」がなぜ多くの人々の心と共振しているのかを考えよう。そして、講義で学習した心理学用語を用いて、その「流行歌」がもつ「ちから」を分析してみよう。

フィードバックの方法:

講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC、スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
	小課題(含 マナビー)	30	授業への集中と理解
教科書:	諸井克英著『ことばの想いー音楽社会心理学への誘いー』(ナカニシヤ出版)		

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー

授業テーマ:

生と死(Life and Death)の文化・価値への再考 ―生活と生命を巡り―

授業の概要:

近現代社会において、命の問題は心身二元論的視座から処理される傾向があります。しかし、昨今、いわゆる西洋の文化を背景とした「近代的な学知」の偏狭さへ疑義が生じてきています。そこで、本講義では3名の担当者がそれぞれの専門領域から生と死を巡る言説を紹介することを通し、医学等の専門的な学知の間の壁を越え、新たな知の構築へ挑戦します。

到達目標:

1. 生と死を巡る現象に関して、宗教、法律、医療の各現場より再検討を加えます。
2. 各自の問題意識に根差し、担当者を通しての学びを統合し、自らの死生観を構築します。

授業方法:

主に講義形式で行うが、状況に応じグループディスカッション等も尊重して行きたい。ビデオ等の資料(複数)をも提供する予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション 2. 現代社会(生活の場)における「生と死」:問題の所在―具体的な死の現象を紹介しつつ、死とは何であろうか考察する。 3. 死はどう語られてきたか 死生学とは:なぜ、死生学が先行研究を紹介しつつ、死との向き合いを探る。 4. 死の受容を巡り:E・キューブラー・ロスやアルフォンス・デーケン、柏木の死の受容のプロセスを紹介しつつ、死の受容の根本問題に考察を加える。不条理の理をいかに構築していくのか。 5. 生と死の法律学(法学オリエンテーション) 内容 (1)法とは何か? (2)法実証主義と自然法論 (3)自己決定権とパターンリズム 6. クローン人間の産生はなぜ許されないのか?(法学オリエンテーション) 内容 (1)クローン技術規制法の紹介 (2)「人間の尊厳」について(法的視点から) (3)第5回の内容に基づき、具体的に考えてみる(思考方法の提示)。 7. 人工妊娠中絶と法 内容 (1)ナチス「生命の泉」計画(一部、ナチス関連ビデオ使用)、安楽死の紹介 (2)刑法上の堕胎罪規定についての説明 (3)(旧)優生保護法・母体保護法の紹介 (4)選択的人工妊娠中絶or遺伝子操作を題材に、学生による討論 8. 脳死と臓器移植 内容 (1)脳死状態についての説明 (2)臓器移植法の紹介 (3)改正臓器移植法について (4)改正臓器移植法の問題点の整理 (5)学生による討論 9. 安楽死と尊厳死 内容 (1)尊厳死について(諸外国・わが国の概要) (2)安楽死について(諸外国・わが国の概要) (3)尊厳死・安楽死の問題点の整理 (4)現実の姿、実際の現場を知ることの重要性の示唆 10. 病院における生と死 現代医療における生と死について、その現状と問題点を明らかにする。 11. 終末期ケア 特にがん患者の終末期医療をとりあげ、ホスピス・緩和ケアを紹介する。 12. 死別と悲嘆 絶望的状况の中で生きる意味について問う。 13. 生と死の意味 死別後の悲嘆について、またそのケアについて考察する。 14. 死への準備 誰もがいつか必ず迎える死について、どのような準備をしたらよいかを探る。 15. 死生学の可能性を巡り	オリエンテーション 現代社会(生活の場)における「生と死」:問題の所在―具体的な死の現象を紹介しつつ、死とは何であろうか考察する。 死はどう語られてきたか 死生学とは:なぜ、死生学が先行研究を紹介しつつ、死との向き合いを探る。 死の受容を巡り:E・キューブラー・ロスやアルフォンス・デーケン、柏木の死の受容のプロセスを紹介しつつ、死の受容の根本問題に考察を加える。不条理の理をいかに構築していくのか。 生と死の法律学(法学オリエンテーション) 内容 (1)法とは何か? (2)法実証主義と自然法論 (3)自己決定権とパターンリズム クローン人間の産生はなぜ許されないのか?(法学オリエンテーション) 内容 (1)クローン技術規制法の紹介 (2)「人間の尊厳」について(法的視点から) (3)第5回の内容に基づき、具体的に考えてみる(思考方法の提示)。 人工妊娠中絶と法 内容 (1)ナチス「生命の泉」計画(一部、ナチス関連ビデオ使用)、安楽死の紹介 (2)刑法上の堕胎罪規定についての説明 (3)(旧)優生保護法・母体保護法の紹介 (4)選択的人工妊娠中絶or遺伝子操作を題材に、学生による討論 脳死と臓器移植 内容 (1)脳死状態についての説明 (2)臓器移植法の紹介 (3)改正臓器移植法について (4)改正臓器移植法の問題点の整理 (5)学生による討論 安楽死と尊厳死 内容 (1)尊厳死について(諸外国・わが国の概要) (2)安楽死について(諸外国・わが国の概要) (3)尊厳死・安楽死の問題点の整理 (4)現実の姿、実際の現場を知ることの重要性の示唆 病院における生と死 現代医療における生と死について、その現状と問題点を明らかにする。 終末期ケア 特にがん患者の終末期医療をとりあげ、ホスピス・緩和ケアを紹介する。 死別と悲嘆 絶望的状况の中で生きる意味について問う。 生と死の意味 死別後の悲嘆について、またそのケアについて考察する。 死への準備 誰もがいつか必ず迎える死について、どのような準備をしたらよいかを探る。 死生学の可能性を巡り	シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する。 日常生活における、生と死の事象に関して整理する。 配布資料や参考文献により、死生学の背景を整理する。 配布資料や参考文献により、死の受容受容に関する学びを深め、整理する。 日常生活と法律の関わりを整理する。 配布資料や参考文献により、法的立場から、生命事象を分析し、整理する。 配布資料や参考文献により、法的立場から、人工妊娠中絶の課題を分析し、整理する。 配布資料や参考文献により、法的立場から、脳死、臓器移植の課題を分析し、整理する。 配布資料や参考文献により、法的立場から、安楽死・尊厳死の課題を分析し、整理する。 配布資料や参考文献により、現代の医療現場における生死的事象を整理する。 配布資料や参考文献により、医療現場における終末期ケアに関する学びを深める。 配布資料や参考文献により、医療現場における死別の課題に関して整理する。 配布資料や参考文献により、医療現場における悲嘆の課題に関して整理する。 配布資料や参考文献により、医療現場における死の準備に関する学びを深め、整理する。 全体講義をふりかえり、自身の生命観構築のための論理構成を考え、まとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

1回〜4回と15回は小崎(宗教文化から)が担当。5回〜9回は谷(法の現場から)が担当。10回〜14回は山本(医療の現場から)が担当。受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。
3つのレポート作成に向けての資料収集を含めた事前事後学習等が必要です。

フィードバックの方法:

講義で扱ったテーマに関して、受講生同士による議論や他の方々との議論等を通し、自分自身の思索を深めることが期待されます。
毎回の授業内で、講義の学びを深めるコメントペーパーを作成します。
学生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	クラスへの出席と貢献	30	授業ごとのコメントペーパーによる授業理解度及び思考内容により評価します。
	死の文化に関するレポート	20	担当者より提示した課題に対する分析力や思考力を総合的に評価します。
	生と死の法律学に関するレポート	25	担当者より提示した課題に対する分析力や思考力を総合的に判断します。
	医療現場の生死に関するレポート	25	担当者より提示した課題に対する分析力や思考力を総合的に判断します。

教科書:

配布資料により対応します。

参考書:	講義中に紹介します。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力
教員との連絡 方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します(メールなど)。

授業テーマ:

青年期を取り巻く社会生活上の諸問題に対する臨床心理学的検討

授業の概要:

私たちが認識する現実や社会における諸問題は、人間関係のなかで構成されています。人間関係は人びとが織りなすコミュニケーション(相互作用)様式・様相の特徴として見立てられます。したがって、どのような問題もコミュニケーションというものから切り離すことはできません。にもかかわらず、コミュニケーションあるいは人間関係という概念は、漠然とした理解のもと無定義に用いられることも少なくありません。この授業では、臨床心理学、とくに短期療法(ブリーフセラピー)の背景理論である「人間コミュニケーションの語用論」「社会構成主義(social constructionism)」の考え方を切り口に、青年期を取り巻く具体的・日常的問題を取り上げながら、コミュニケーションの性質や機能、そして社会や人間関係に対する理解を深めていくことを目指します。

到達目標:

「知識・理解」コミュニケーションに対する語用論的理解、社会構成主義に対する理解を深める。
「関心・意欲・態度」青年期を取り巻く諸問題に対する相対主義的な好奇心・価値観・態度をもつ。
「表現・技能・能力」コミュニケーションにおける柔軟な視点、表現技術をもてる。

授業方法:

レジュメ、視聴覚教材を使った講義およびディスカッション。受講者の関心やニーズに柔軟に応じるため、シラバス記載の内容は適宜変更される場合があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	ニュース・メディアからの情報収集、身近な人間関係等の観察を通じて、青年期における諸問題に関心を持つ。
2.	現代社会における青年期を取り巻く諸問題の把握	ニュース・メディアからの情報収集、身近な人間関係等の観察を通じて、青年期における諸問題に関心を持つ。
3.	コミュニケーション連鎖(相互作用)としての人間関係	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
4.	人間コミュニケーションの悪循環と良循環(1)ー解決努力が問題を維持する	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
5.	人間コミュニケーションの悪循環と良循環(2)ー解決とは何か	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
6.	人間コミュニケーションの語用論(1)ーコミュニケーションとはなにか	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
7.	人間コミュニケーションの語用論(2)ーコミュニケーションの性質・機能	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
8.	人間コミュニケーションの語用論(3)ーパラドキシカルなコミュニケーション	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
9.	構成主義・社会構成主義(1)ー問題が問題とみなされるとき	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
10.	構成主義・社会構成主義(2)ー現実の社会的構成	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
11.	TVドラマ『リーガル・ハイ』で考える社会構成主義(1)	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
12.	TVドラマ『リーガル・ハイ』で考える社会構成主義(2)	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
13.	変化を生むコミュニケーション(1)ーリフレーミング	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
14.	変化を生むコミュニケーション(2)ーコンプリメント	授業でのディスカッションのために、日常生活上の諸問題、社会問題をコミュニケーション理論、社会構成主義的観点から分析・考察する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では一方的な知識の習得を求めるのではなく、授業内でのディスカッション・対話を通じて人間関係やコミュニケーションというものについての知的好奇心が刺激されることを望みます。授業への参加度を高く評価しますので、積極的な発言を期待します。

フィードバックの方法:

提出されたコメントペーパーは適宜講義内で扱い、まとめて解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度、コメントペーパー	70	講義・ディスカッションへの積極的参加やコメントペーパーの内容によって到達目標「知識・理解」「関心・意欲・態度」「表現・技能・能力」を評価する。
	定期試験	30	「知識・理解」「表現・技能・能力」の到達度合によって評価する。

教科書:

参考書:

Gergen, K. J. 1999 An invitation to Social Construction. London: Sage. (東村知子 訳 2004 あなたへの社会構成主義 ナカニシヤ出版)
Watzlawick, P., Bavelas, J. B. & Jackson, D. D. 1967 Pragmatics of human communication W. W. Norton. (山本和朗 監訳 1998 人間コミュニケーションの語用論 二瓶社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡
方法:

授業後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能。

授業テーマ:

授業の概要: 社会が複雑になり、人々の生活もかつて経験したことのないような問題に遭遇するということもめずらしくないような時代です。ファミリーセラピーを学ぶことにより、家族理解、家族支援の視点を養っていききたい。ファミリーセラピーは治療の技術ではありません。ものの見方、考え方なのです。個人・家族の問題だけでなく、人間集団、地域へのアプローチにも使えるものなのです。そしてさらにファミリーセラピーの新しい展開である構成主義アプローチについても学び併せてそれらのものの見方考え方にも理解を進めていききたいと思います。

到達目標: 家族理解。家族支援の視点を養う。

授業方法: 講義、演習、ビデオ

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに	授業に合わせ参考文献を紹介します。また資料配布もしますので理解を深めてください。課題を出すこともありますのでしっかりとやってください
2.	ファミリーセラピーとは	〃
3.	ファミリーセラピーの歴史	〃
4.	ファミリーセラピーの視点から家族の理解を深める	〃
5.	身近な家族問題をファミリーセラピーの視点で理解する	〃
6.	ファミリーセラピーの基礎となる理論を学ぶ	〃
7.	ファミリーセラピー理論を学ぶ	〃
8.	ロールプレーで体験しながら学ぶ	〃
9.	構成主義の考え方を学ぶ	〃
10.	構成主義アプローチの特徴を理解する	〃
11.	ソリューション・フォーカスト・アプローチの考え方を理解する	〃
12.	ソリューション・フォーカスト・アプローチ入門ビデオ	〃
13.	ソリューション・フォーカスト・アプローチの技法を学ぶ	〃
14.	日本での展開	〃
15.	まとめ	〃

受講者へのメッセージやアドバイス: 参考文献一覧を渡し授業内容に合わせて紹介していきます。

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	80	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
	提出物	20	

教科書: 使用しない。(必要に応じて資料を配布する。)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	こころの健康をライフサイクルと生活の場から考える。		
授業の概要:	ライフサイクルと生活の場という2つの視点から、「こころ」のありようについて基礎的知識を習得する。また、危機的状況に伴う心理的問題について理解を深める。		
到達目標:	1. ライフサイクルにおける発達段階と課題について理解することができる。 2. 危機的状況における心理的問題とその看護について理解することができる。 3. それぞれの発達段階で見られる精神疾患について理解することができる。 3. 生活の場としての学校及び職場という視点からメンタルヘルスを考えることができる。		
授業方法:	講義形式とグループワークによる演習形式を組み合わせる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション:「こころ」の健康とは		
	2. ライフサイクルと発達の見方「こころ」の健康と現代社会	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	3. 胎児期、乳幼児期から学童期までの「こころ」の発達と課題	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	4. トピックス:発達障害	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	5. 思春期・青年期の「こころ」の発達と課題	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	6. 学校における精神保健	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	7. トピックス:摂食障害	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	8. トピックス:統合失調症	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	9. 成人期の「こころ」の発達と課題	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	10. 危機的状況にある人の心理的問題とその看護	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	11. 危機的状況にある人の家族の心理的問題とその看護	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	12. 女性と精神保健	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	13. 職場における精神保健	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	14. トピックス:うつ病	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
	15. 老年期における「こころ」の発達と課題	講義までにマナビーにアップした資料を熟読しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義で使用する資料は事前にマナビーにアップします。		
フィードバックの方法:	提出していただいたレポートは内容を確認の上、返却いたします。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポートの提出:4つのトピックスについて、興味関心のあるものを選び、A42枚以内でレポートを作成し、提出すること。なお、詳細はマナビーにて伝達する。	30	レポート内容を確認し、A(よくできている)、B(できている)、C(もう少し)、D(不十分)の4段階で評価し、C以上を合格とする。
	定期試験	70	
	統合評価	100	
		60点以上を合格とする。	
教科書:	講義中に適宜紹介する。		
参考書:	講義中に適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	ykimura@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

授業の概要: 私たちは様々な生活資源を用いて生活をつくっている。この授業では、その生活資源の中でも、特にカネとヒトに焦点をあてて解説していく。課題として「家計簿」をつけることによって自分の生活を振り返り、今後の生活設計に役立てる。そして、経済社会の動きを体感するために株式学習ゲームを活用する。また、現代社会における、家族、家族関係、家族の機能についても解説する。

到達目標: ・生活資源について説明できるようになる。
・経済社会におけるモノとお金の循環について理解し、説明できるようになる。
・自らの生活設計に基づき、生活資源の管理・運用ができるようになる。
・現代の家族関係・家族機能について理解し、説明できるようになる。
・生活資源について、多面的にとらえ、その現状や問題点等を把握し、考察できるようになる。

授業方法: 講義を基本とするが、学生の発言等を求めることもある。必要に応じて視聴覚教材(ビデオ等)も使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション-「生活」とは？	各自の生活について、予め振り返っておく。
2.	生活経営の基盤となるもの-生活資源	生活資源とは何か、各自で予め考えておく。
3.	家計収入と家計調査-家計簿をつけてみる	各自の収支状況について、予め振り返っておく。支出を中心に、1ヶ月間、家計簿をつける。
4.	家庭経済と国民経済-経済社会のしくみ、経済循環、株式学習ゲーム	新聞、テレビ、Web等で報道される経済ニュース等の情報に触れておく。配付された株式学習ゲームの資料を基に、約2か月間ゲームを行う。毎週、状況報告書を提出する。
5.	家族関係・家族機能の変化-近代家族、現代家族	「あなたにとって家族とは」という問いかけに対して、予め考えておく。
6.	生活時間と家事労働	各自の生活活動、それに費やす時間について、予め振り返っておく。
7.	家計支出と費目別変化-経済構造の変化に伴う消費・生活の変化	各自の家計簿で、支出費目ごとに集計をしておく。
8.	家族周期と個人のライフコース、ライフステージ-あなたのライフデザイン	各自の夢や目標について、予め考えておく。
9.	生活設計-若年者の生活と労働	若年者の置かれている現状について、Web等で調べておく。
10.	生活設計-シングルペアレント	シングルペアレントの置かれている現状について、Web等で調べておく。
11.	生活設計-高齢期の生活	高齢者の置かれている現状について、Web等で調べておく。
12.	社会保障施策-年金	新聞、テレビ、Web等で報道される年金に関するニュース等の情報を調べておく。
13.	社会保障施策-医療	新聞、テレビ、Web等で報道される医療に関するニュース等の情報を調べておく。
14.	社会保障施策-介護	新聞、テレビ、Web等で報道される介護に関するニュース等の情報を調べておく。
15.	家族と地域・社会生活-自助・共助・公助、セーフティネット	新聞、テレビ、Web等で報道される社会保障に関するニュース等の情報を調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物は教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題	40	家計簿の提出及び分析の度合、株式学習ゲームの状況報告書の提出回数及び分析の度合を基準とする。
	レポート	55	各自が選んだテーマについての実態、問題点等の把握の度合、またそれに対する考察、独自の視点があるかを基準とする。
	授業への参加姿勢・受講態度	5	皆出席を前提とする。遅刻・欠席については減点対象として、厳正に対処する。

教科書:

参考書: 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著『よくわかる現代家族』、ミネルヴァ書房、2009年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応、マナビーの掲示板機能

授業テーマ:

授業の概要: かつての日本人のくらしは、必要なものを必要なだけ生産し、手直ししながら大切に使うものでした。大量生産・大量消費社会といわれて久しい現代においても、いまだ、かつての日本人の生活を継承しているものがあります。この講座では、伝統の継承を実践する方々を講師にむかえ、つくり手の立場と使い手の立場の双方から日本の伝統的な生活様式についての理解を深めます。

到達目標: ①日本の伝統的なもののづくりについてその現状を興味をもって理解し考えることができる
②日本の伝統的なくらしについてその現状を興味をもって理解し考えることができる
③日本の伝統的な生活様式を自身の生活と結びつけて捉えることができる

授業方法: つくり手の立場からは、久保田、川邊、土本が、使い手の立場からは山中が、全体のとりまとめは平光が担当しオムニバス形式で進める。京都市内の京町家での授業と学内でのワークショップ形式の授業を各1回予定しており時間割上の制約によって指定時間帯以外の実施となるが、詳細は初回に伝える。校外学習の収容定員を考慮し履修者数は40名を上限とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 担当:平光	
2.	和風家屋の装飾 担当:久保田(久保田美簾堂)	講師について基本情報を認識する
3.	和風家屋の装飾 ①形式と種類	前回の授業を振り返る
4.	和風家屋の装飾 ②製作工程	前回の授業を振り返る
5.	和風家屋の装飾 ③使用事例と今後の展望	
6.	京町家のくらし 担当:山中恵美子(京まちや平安宮)	講師について基本情報を認識する
7.	①四季のしつらい・年中行事	
8.	京町家のくらし ②衣食住	前回の授業を振り返る
9.	京町家のくらし ③広報と伝承	前回の授業を振り返る
10.	染織工芸(京友禅) 担当:川邊祐之亮(ジャパンスタイルシステム)	講師について基本情報を認識する
11.	①技法と種類	
12.	染織工芸(京友禅) ②製作工程	前回の授業を振り返る
13.	染織工芸(京友禅) ③これからの京友禅	
14.	染織工芸(染色補正) 担当:土本孝則(京きもの御手入処土本)	講師について基本情報を認識する
15.	①染色補正の役割	
16.	染織工芸(染色補正) ②しみ抜き・洗い張りの技術と技法	前回の授業を振り返る
17.	染織工芸(染色補正) ③着物の再生と悉皆業	前回の授業を振り返る
18.	総括 担当:平光	これまでの授業を振り返り、伝統的なもののづくりやくらしについて自身の考えをまとめる
19.	評価 担当:平光	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 日本家屋の装飾、京町家のくらし、染織工芸(京友禅)、染織工芸(染色補正)の4テーマについてレポートの提出を課します。レポートは採点し返却します。授業時間内に小テストを実施します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	40	興味・関心をもって授業に積極的に参加することができたか、各回の授業への感想等を含めて評価する
	レポート	40	到達目標①～③について理解度と独自の視点で考えられたかを基準とする
	小テスト	20	到達目標①②についての理解度と到達目標③について柔軟かつ積極的な姿勢で捉えられるかを基準とする

教科書: なし

参考書: 山中恵美子『よそさんは京都のことを勘違いしたはる』学習研究社 2003年
『京都 手仕事帖(京のめぐりあい)』暮らす旅舎 2014年
『京のめぐりあい 水の都 京都』暮らす旅舎 2014年
澤田美恵子、中野仁人『京の工芸ものがたり』理論社 2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

伝統と未来 ～ 京友禅の着物の世界 ～

授業の概要:

京都は古くから日本の染織文化の中心地として栄え、その伝統の技と美が時代を超えて受け継がれてきた。その代表的な京友禅の着物を通じて歴史や技術を学び、実際にモノづくりを体感・体験することで友禅を身近に感じ、伝統ある着物に対する理解をより一層深め、これからの伝統産業としての着物のあり方、またその未来について共に考えていきたい。

到達目標:

思考力・創造力・変化対応力

授業方法:

定員を30名までに限定しており、程良い距離感で授業をする。全体的に講義を行い、必要に応じて映像やプリントを使用する。また着物の作品展見学や京友禅の職人の工房見学、さらに染色などの実習体験を行う。その為に時間の都合上、講義を振替の上、見学・実習は土曜日に時間を設定します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 伝統産業の京友禅と染匠	
	2. 京友禅の手描染と型染の解説	
	3. 京友禅の技と匠に直接ふれる(工房見学)	自分が着てみたいと思う着物のデザインを考える
	4. 京友禅の技と匠に直接ふれる(工房見学)	自分が着てみたいと思う着物のデザインを考える
	5. 友禅染の歴史と京友禅の現状	
	6. 京友禅作品展の見学	自分が着てみたいと思う着物のデザインを制作する
	7. 京友禅作品展の見学	自分が着てみたいと思う着物のデザインを制作する
	8. 着物の知識と魅力	
	9. 京友禅の技を実習・体験する(彩色)	
	10. 京友禅の技を実習・体験する(彩色)	
	11. 伝統産業と先端産業の出会い「京友禅の他分野への展開事例」	
	12. 京友禅の技を実習・体験する(金彩)	
	13. 京友禅の技を実習・体験する(金彩)	
	14. 伝統産業の新しい歩み方と次世代への引継ぎ	
	15. 総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

着物に対する近年の難しくて煩わしいイメージを払拭し、着物文化の魅力を学んで着物をもっと身近に感じて好きになってもらいたい。

フィードバックの方法:

自分が着てみたいと思う着物のデザインを提出してもらい、それを教室で評価する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	25	到達目標 思考力、創造力によって伝統染織の認識を評価する。 到達目標 変化対応力で着物などの将来の展望について、独自の視点がある程度あるか評価する。
	授業への参加度	50	積極的に授業に参加して講義を受けなければ知識が身につかない。従って授業の最後に必ず講義に対するコメントを提出してもらい、到達目標 思考力、創造力が身に付いたかを評価する。
	実習作品の評価と実習態度	25	到達目標 変化対応力は技術的評価よりも一生懸命、まじめに取り組んでいるかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

衣生活に関する科学実験の基礎的知識と方法の習得

授業の概要:

快適な衣生活を実践する上で必要となる衣生活学に関する科学的知識及び基礎的な実験方法・技術を習得する。実験内容として、服飾材料の性質、繊維製品の染色と加工法、衣服の洗浄から管理・保存について取り上げる。

到達目標:

①被服素材の性能を、実験により科学的にとらえることができる。
②被服の洗浄(洗濯、漂白など)の方法、その効果を確認、管理に必要な知識を得る。
③被服素材の染色工程を通して、染色のメカニズムと技術を習得する。
④実験を通じて、洞察力と技術力を身につける。

授業方法:

実験・実習形式で15回の授業を行う。3～5名で1班を編成し、班毎に実験を行う。
定員:30名

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 科学実験のガイダンス	手引き書を前もってよく読み、実験内容を理解しておく。
	2. 技術の習得	手引き書を前もってよく読み、実験内容を理解しておく。
	3. 界面現象	授業終了後はレポートを作成することで、さらなる理解を深める。
	4. 繊維の鑑別(燃焼性・耐薬品性・呈色・着色鑑別実験)①	手引き書を前もってよく読み、実験内容を理解しておく。
	5. 繊維の鑑別(燃焼性・耐薬品性・呈色・着色鑑別実験)②	授業終了後はレポートを作成することで、さらなる理解を深める。
	6. 再生紙の製造	手引き書を前もってよく読み、実験内容を理解しておく。
	7. 洗濯のしくみ(ドライと水洗)	授業終了後はレポートを作成することで、さらなる理解を深める。
	8. 布の吸水速度の測定	手引き書を前もってよく読み、実験内容を理解しておく。
	9. 石鹼の製造	授業終了後はレポートを作成することで、さらなる理解を深める。
	10. 布の加工とその評価(しわ加工・柔軟加工・のり付け加工)	手引き書を前もってよく読み、実験内容を理解しておく。
	11. 洗剤水溶液の性質	授業終了後はレポートを作成することで、さらなる理解を深める。
	12. 衣料用洗濯糊の性質	手引き書を前もってよく読み、実験内容を理解しておく。
	13. 染み抜き	授業終了後はレポートを作成することで、さらなる理解を深める。
	14. 冬の装いに関する実験	手引き書を前もってよく読み、実験内容を理解しておく。
	15. 天然染料(西洋茜)による染色	授業終了後はレポートを作成することで、さらなる理解を深める。 手引き書を前もってよく読み、実験内容を理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは、採点后、授業中に返却し解説を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	25	実験への参加の意欲、取り組み姿勢を評価する。
	授業態度	25	団体行動を取りながら全員が協力して取り組んでいるかを評価する。
	レポート	50	授業内容の理解度と、意味や解釈を的確に考察できているかを評価する。

教科書:

『衣生活学実験』(手引き書)を配布する。

参考書:

参考書及び参考資料は授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に、教室内にて対応。

授業テーマ:

くらしの中の色彩

授業の概要:

色彩の基本を学んだ上で、実生活における色彩の効果を考える

到達目標:

色が見える仕組みを理解し、色彩に関する知識を身につける

授業方法:

スライドを用いた講義、色彩に関する実習課題による

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	色彩とは	色を見る(感じる)ために必要な3つの要素について再確認する
2.	光と色	光の波長について復習する
3.	視覚と色	色が見える仕組み、特に視細胞について復習しておく
4.	物体と色	赤いリンゴが見える仕組みを、他者に説明できるようにする
5.	様々な色の見え方(感じ方)	身の周りの対比効果や同化現象をとりあげ、考察する
6.	色を使ったコミュニケーション	色の表現方法について理解を深める
7.	色を定量的に扱う(混色系表色系)	混色について学び、混色系表色系について理解を深める
8.	混色実習	回転混色による混色について理解し、実習結果を考察する
9.	色を定量的に扱う(顕色系表色系)	顕色系表色系について理解を深める
10.	配色の基礎	PCCS表色系について理解を深め、基本的な配色ができるようにする
11.	配色の応用	インテリア分野における配色について、自身の好みの配色を選定し考察する
12.	明視性と心理効果	日常生活における色彩イメージについて考察する
13.	ユニバーサルデザインと色覚	色覚異常の人や高齢者の色の見えについて理解を深める
14.	配色課題-課題発表	様々な配色事例について考察する
15.	まとめ	生活における色彩の効果についてまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

課題はマナビーまたは配布資料による(最終授業までに返却する)

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	15	
	課題	15	課題提出状況、提出内容による
	試験	70	

教科書:

色と光の能力テストTOCOL公式テキストBASIC、株式会社リリス
インテリア・カラー・ブック、日本色研事業株式会社
fashion color co-ordante work paper、日本色研事業株式会社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

マナビーまたはe-mailによる

授業テーマ:	「国際社会福祉(活動)」への視点		
授業の概要:	「国際社会福祉(活動)」という言葉は次の三つの意味で使われる。①高齢化の問題のように、複数の国に(国境を越えて)共通する福祉問題への対応、②国際機関やNGOなどの開発途上国に対する福祉援助活動、③移民や外国人労働者とその家族の福祉などのように、国内における社会福祉の国際的な問題への対応。授業では、アジアを中心に(一部北欧を含め)、社会福祉の動向と課題を広く理解することとおして、異なる文化や価値観に対する理解や尊敬の念、寛容さを養ってもらいたい。そのうえで「国際社会福祉(活動)」がもつ実践や思想を、自分の生活や人生の問題として受け止め吟味されることを期待したい。		
到達目標:	「国際社会福祉(活動)」への視点を深める。		
授業方法:	世界各国の社会福祉に詳しい学外の講師を含むオムニバス形式で行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業のねらい、進め方、評価の仕方)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	2. なぜ今「国際社会福祉(活動)」か?	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	3. 光の音符とインドとの「出会いからつながりへの道」	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	4. 「知ることを楽しむには?」ーインドという国の面白さ、歴史などー(1)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	5. 「知ることを楽しむには?」ーインドという国の面白さ、歴史などー(2)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	6. 「国際協力と福祉をともに考える」ー光の教室での具体的取り組みを再現しー(1)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	7. 「国際協力と福祉をともに考える」ー光の教室での具体的取り組みを再現しー(2)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	8. デンマークの社会と福祉(1) ゲストスピーカー招聘	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	9. デンマークの社会と福祉(2) ゲストスピーカー招聘	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	10. 台湾の社会と福祉(1)ー世界最低の出生率と世界最高の人口増加速率ー	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	11. 台湾の社会と福祉(2)ー増大する大陸・東南アジア出身配偶者と深刻化するDV問題ー	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	12. 台湾の社会と福祉(3)ー介護を担う東南アジアからの出稼ぎ労働者たちー	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	13. 台湾の社会と福祉(4)ー幼児教育・保育法の制定と幼保一元化の推進ー	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	14. 台湾の社会と福祉(5)ーシルバーマーケット推奨政策とシニアタウンの拡大ー	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	15. 日本が学ぶべきこと	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	出席を含む授業への参加・態度およびレポート内容
	定期試験	70	ルーブリックを用いた達成度評価
教科書:			
参考書:	台湾の社会福祉ー歴史・制度・実践ー(ミネルヴァ書房)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業前後に対応		

授業テーマ:	子ども家庭危機の局面に児童福祉の視点からどう対応するのか		
授業の概要:	子ども・配偶者虐待、非行、傷病・障害、失業・経済破綻、別離・失踪等などの子ども家庭危機に対する支援の方法について児童福祉の視点から考察し、家族が知っておきたい基礎知識の獲得を目指す。危機とは危険であると同時に好機である。従来の殻を破って新しい家族を創り出す変容の機会であり、その局面に対するすばやい対応が求められている。しかし実際そうした危機に対応できずに、問題をより一層深刻化させている現実も少なくない。授業では、こうした事例を踏まえて、問題の掘り起こし(何が問題か?)と対処の仕方(どうするか?)を2本の柱として展開する。		
到達目標:	子ども家庭問題のアセスメント法の基礎を修得する。		
授業方法:	エクササイズ、ケーススタディ、グループディスカッションなどを積極的にとりいれ、参加型授業に留意したい。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 子ども家庭問題の理解―「子ども一家庭・地域―福祉」の三点観測―	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	2. 子ども家庭危機支援の学びに向かって(1)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	3. 子ども家庭危機支援の学びに向かって(2)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	4. 事例検討:A子のケース	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	5. 子ども家庭危機支援の担い手たちと施設・機関(1)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	6. 子ども家庭危機支援の担い手たちと施設・機関(2)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	7. 事例検討:B子のケース	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	8. 事例検討:C夫のケース	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	9. ひとり親家族とくらしの支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	10. 子どもの成長と地域における子育て支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	11. 障がい乳幼児の療育と家族(親)支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	12. 子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援事業計画	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	13. 事例検討:D夫のケース	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	14. 子ども・若者育成支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
	15. ふりかえりとまとめ、補足的な説明	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	出席を含む授業への参加・態度およびレポート内容
	定期試験	70	ルーブリックを用いた達成度評価
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業前後に対応		

授業テーマ:	環境に配慮し、頑丈で長持ちかつ安全で快適な住まいづくりの基礎を学ぶ。
授業の概要:	住まいはどのような仕組みで建てられているのか、どのような材料を必要とするのか、住まいづくりに必要な基礎知識を習得する。そのため、建築物の躯体構造から仕上げまでの全体構成に関する仕組みや住まいに求められる性能を学び、構成材料の特性と構造、居住環境との関係を理解する。さらに、住まいやその構成材料が地球温暖化問題や資源環境問題など、持続的循環(サステナブル)社会の形成にどのように関わっているかについて学ぶ。
到達目標:	1. 建築物の構成、備えるべき性能、機能についての最低限必要な事項を理解し、安全で快適な住まいが備えるべき要件について理解する。 2. 習得した知識により安全で快適な住まいの前提条件である構造安全性、耐久性、住まい手としての維持管理の重要性について説明できる。
授業方法:	講義を主とするが、適宜ビデオ教材の視聴を行い、より深い理解が得られるように配慮する。なお、教科書以外の内容については、資料を配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 建築物の構成方法の基本的な仕組みについて: 住まいの材料、構造はそれぞれの地域の気候、風土と密接に関わっている。	教科書の各章の扉部分に記載された章の概要をよく読んでおくこと。
	2. 住まいの構造について: 伝統的な住まいは地域の気候風土に調和する材料が多く用いられてきたが、その構造は使用される材料に基づいて決まることが多い。	海外も含めて好きな地方の住宅や建築にはどのようなものがあるか調べてみること。
	3. 構造材料の特性と空間の構築について(1): 木材・木質材料、木造	住宅展示場などで、どのような内外装材料が使用されているかパンフレットなどを収集しておく理解が深まる。
	4. 構造材料の特性と空間の構築について(2): コンクリート、鉄、鉄筋コンクリート造、鉄骨造	住宅展示場などで、どのような内外装材料が使用されているかパンフレットなどを収集しておく理解が深まる。
	5. インテリア・エクステリア材料の特性とその機能について(1): 金属、石材、セラミックス、ガラス、プラスチック	住宅展示場などで、どのような内外装材料が使用されているかパンフレットなどを収集しておく理解が深まる。
	6. インテリア・エクステリア材料の特性とその機能について(2): 木材・木質材料、紙、繊維、断熱材	住宅展示場などで、どのような内外装材料が使用されているかパンフレットなどを収集しておく理解が深まる。
	7. 住まいづくりと法規: 建築基準法、生活基本法、品確法(住宅性能表示制度)、長期優良住宅促進法	国土交通省のホームページで各法律の目的、概要、一般向け広報パンフなどに目を通しておくこと。
	8. 木質系住宅の構造と構法について(1): 伝統工法、在来軸組工法	各部位の名称の表記、漢字が正しく読めるようにしておくこと。
	9. 木質系住宅の構造と構法について(2): ツーバイフォー構法、その他の木質構法	この工法は北米における工法が基礎になっている。北米の住まいと日本の住まいの違いについて調べておくこと。
	10. ソーラーハウス・スマートハウス: 自然と共生するための仕組み	10～13回目の学習内容は地球温暖化問題、エネルギー資源問題、廃棄物処理問題などと関連している。WEBなどで現状のポイントを予習しておく理解が深まる。
	11. 住まいの構造・材料と環境問題について(1): 高断熱・高気密住宅、省エネルギー、住まいと健康被害、シックハウス	10～13回目の学習内容は地球温暖化問題、エネルギー資源問題、廃棄物処理問題などと関連している。WEBなどで現状のポイントを予習しておく理解が深まる。
	12. 住まいの構造・材料と環境問題について(2): サステナブルな住まい、エコマテリアル、建築材料のリサイクル	10～13回目の学習内容は地球温暖化問題、エネルギー資源問題、廃棄物処理問題などと関連している。WEBなどで現状のポイントを予習しておく理解が深まる。
	13. 長持ちする住まいについて: 耐久性、維持管理、材料の劣化とその対策	10～13回目の学習内容は地球温暖化問題、エネルギー資源問題、廃棄物処理問題などと関連している。WEBなどで現状のポイントを予習しておく理解が深まる。
	14. 住まいの安心・安全について: 住まいで発生する事故の実態とその対策、防犯対策	住んでいる府県の警察本部のホームページで防犯関連の資料に触れておくこと。
	15. まとめ	第14週目までの配布資料を整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: 通学途上で建設中の住宅などがあれば、よく観察しておく学習の理解に役立つ。住宅展示場、住設機器などのショールームも積極的に見学して、パンフレットなどを収集することも最新の情報に触れることができる。

フィードバックの方法: 質問などは教室でまとめて解説する。試験については採点して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	到達目標1及び2について、必要不可欠な項目についての理解度や知識を評価する。
	授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、疑問点、不明点などは質問できることを評価する。

教科書: 図解住居学3 住まいの構法・材料、土井正・宮野道雄・田原賢・小林敬一郎著、彰国社刊

参考書: 私たちの住居学―サステナブル社会の住まいと暮らし、中根芳一編著、理工学社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法: 授業前後に教室内及びEメールで対応する。アドレスは授業中に開示する。

授業テーマ： 日常から非日常における住まいの防災や安全について考える力を付与する

授業の概要: 住宅設計や生活の質を考える場合、快適性、利便性に加えて安全性は欠くことのできない重要な要素のひとつである。本講義では地震などの自然災害のみならず火災や住宅内事故などの日常災害をも対象として、そのメカニズムと防災・安全対策について講じる。また、犯罪も取り上げて住棟配置やコミュニティの中での防犯計画について述べる。

到達目標: 受講生は住宅をはじめとする各種建物における防災・安全性の確保に関して説明および計画できるようになる。

授業方法: パワーポイントによる図表や動画を用いた講義

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

1. ガイダンス 住まいの防災・安全・安心
2. 地震災害① 地震のメカニズム、地盤と震害
3. 地震災害② 耐震・免震・制震
4. 地震災害③ 地震火災・津波、避難行動
5. 地震災害④ 室内の安全、人的被害
6. 平常時火災① 住宅火災の実態
7. 平常時火災② 防火設備、避難計画
8. 台風・洪水災害① 台風、洪水、水害
9. 台風・洪水災害② 水防、避難行動
10. 犯罪
11. 雪氷災害
12. 日常災害① 日常災害と非日常災害
13. 日常災害② バリアフリーとユニバーサルデザイン
14. 日常災害③ 高齢者の住まいの安全対策
15. まとめ

準備学習等の内容

シラバスを読んで授業の概要についてだまかに理解する
地震のメカニズム、地盤等に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
建物の耐震・免震・制震等に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
地震火災・津波、避難行動に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
地震時の室内の安全、人的被害に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
住宅火災に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
防火設備、避難計画に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
台風、洪水、水害に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
水防、避難行動に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
住まいの防犯に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
住まいの雪氷災害に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
日常災害と非日常災害に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
バリアフリーとユニバーサルデザインに関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
高齢者の住まいの安全対策に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
各回の配布資料を理解し、関連する文献、資料、記事、論文等を読んでおく

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: レポート課題に対してコメントを返します

「成績評鑑方法」
「成績評鑑基準」:

評価方法	割合	評価基準
テスト	80	到達目標に明示している点
レポート	20	災害事象の理解度

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡
方法:

講義内容等に関する質問は毎回の講義時に受け付ける

授業テーマ:

授業の概要: 「ソー活」などともいわれ、就職活動にも「ソーシャルネットワークサービス」は利用が不可欠な昨今、情報の伝達・発信・収集などにおいて、インターネットの利用が不可欠な現在、FaceBook、twitter、LINE、Youtubeなどの新しく登場したコミュニケーション技術について学ぶ。
また、最新ITの情報やニュースなどを紹介していく。

到達目標: 前半は、ネットワーク（LAN）やインターネットの理論的基礎と利用法の基礎の機能を理解し、電子メールをはじめとするコミュニケーションツールを活用できるよう情報受信の能力を養う。
後半は、実際にこれらのコミュニケーションツールを活用し情報発信やその技術について学んでいく。
また、実際にソーシャルネットワーク・サービスを使用するにあたりスマートフォンやタブレットなどの機器が最近では不可欠なので、モバイルツールの最新ニュースや情報などを紹介し、理解を深めていく。

授業方法: 1
授業はPowerPointとビデオを使用した講義を主体に行う。パーソナルコンピュータについては、逐次紹介するSNSサービスの設定などを自身のアカウントと比べたりするのに使用してもらえればと思っています。Facebook等のSNSサービスのアカウントを取得し実習を行いたいと考えているが、個人情報などの問題があるのでオリエンテーション時に学生とコンセンサスを取り実習の内容は考えていきたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション～ソーシャルネットワーク・サービスとは	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
2.	インターネットのしくみ1 ネットワークの基礎知識、ドメイン・WWW	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
3.	インターネットのしくみ2 メール・コンピュータの構成要素・電波帯域	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
4.	インターネットコミュニケーションツールの紹介及び利用 1 (twitter mixi facebook Ustream など)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
5.	インターネットコミュニケーションツールの紹介及び利用 2 (Blog LINE Instagram など)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
6.	インターネットコミュニケーションツールの紹介及び利用 3 (スマートフォンなどを利用したSNSの利用)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
7.	インターネットコミュニケーションツールの紹介及び利用 4 (さまざまなSNSサービス)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
8.	ネット・コミュニケーションでの利点・欠点 (炎上・誹謗中傷などの負の部分やSNSの利点などを紹介)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
9.	さまざまな新しい技術の紹介 (プロジェクションマッピング・AR等の技術の紹介)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
10.	就活とソーシャルネットワーク・サービス～ソーシャルリクルーティングの世界～	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
11.	SNS関連の様々なアプリやサービス～SNSを使いやすくする、様々なサービス～	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
12.	インターネットコミュニケーションツールの利用 1 (twitter、facebook等のコミュニケーションツールの活用方法)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
13.	インターネットコミュニケーションツールの利用 2 (twitter、facebook等のコミュニケーションツールの活用方法)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
14.	インターネットコミュニケーションの授業を受けてのレポート (特設URLからのWeb提出。)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
15.	総括・まとめ	授業の進み具合により内容が多少前後したり、新しい技術の登場や技術の陳腐化、利用数減など旬の要素によって内容が変更になることがある。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法： いろいろな質問事項などに関してのフィードバックは、教室でまとめて解説したり個別に返答する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	50	授業への積極的参加度合い提出物に関して評価
	レポート/発表	50	5段階査定で、55～46、45～36、35～26、25～16、15～0点

教科書： 特に指定しない。必要に応じてプリント(PDF)及びPowerPointのデータを配布。

参考書： 特に指定しない。必要に応じてプリント(PDF)及びPowerPointのデータを配布。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法： メール及び直接声かけいただいで大丈夫です。

授業テーマ：	音や色の体験、点字や介助の体験を通して、人とのつながりと心のバリアフリーを考え、NPO活動の実践について学ぶ	
授業の概要：	ボランティア活動の現実を紹介しながら、現場で起こる諸問題を共に考える。そのなかで、「障がい者」「健常者」、「強者」「弱者」の枠を超え、自分を含め、人間を深く豊かにとらえられるよう、五感を使っての実習と授業内での話し合いを大切にする。美しいもの(芸術)、文化は、人間にとって大切な魂の糧であり、それらを通して、単なる「人助け」ではない、創造的な人との繋がりを体験できるボランティアの行為を、可能な限り授業の中で実践する。	
到達目標：	自分自身を深く認識し、新しい世界を知り、開かれた心で人と接する力を養うことを目標とする。	
授業方法：	手や体を通して表現し、色や音を楽しみながら、実際に人と触れ合う授業。五感を使って人と触れ合う喜びを伝え、それが障がいのある人やお年寄り等とのコミュニケーションの力となることを実感できるよう、具体的な実習を中心に授業を行う。また、実際のボランティア活動の現場から、成果やトラブル、社会の中で求められる役割を紹介し、毎回、各自が感じたことを発表し、話し合いながら授業を進める。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容 1. <ボランティア活動の基本> 名前を名乗りあい、世界に一人の私を実感する。今イメージする「ボランティア像」について各自が思いを述べ合う。 小さな楽器を用いて「音」を体験し、即興での合奏を試みる。一相手の音に耳を済ませる体験(レポート：私について) 2. <色の体験1> クレヨン画による色の体験。評価されるための絵ではなく、自由に手を動かし、思いがけない色同士の調和を感じる。 3. <ビデオ鑑賞1> 本学の先輩、井深八重氏の生涯を知り、予想外の出来事に立ち向かう心構えを考える。また、日本のハンセン病について歴史や患者の人々について学ぶ。 4. <色の体験2> 水彩画による色の体験。水を媒介にする絵を通して、無数の色の出現と、各自の個性を味わう。 5. <楽器つくり1> 空き缶による楽器作り。捨てられるモノが創造的に生かされる面白さ、楽しさと、人との協働作業を体験する。 4. で完成させた絵を楽器に貼る。 6. <楽器創り2> 5. で作った楽器を使ったグループ発表。絵、楽器作りなどこれまでの作業が、「人を楽しませる」ことに繋がったことを実感しながら、最後は全員で即興で合奏する。 7. <ビデオ鑑賞2> あるハンセン病回復者の生き方に学ぶ。自分の知らない世界があること、過酷な境遇にあっても人のために生きる人が存在することを知り、人間の尊厳に気づき、世界への関心を高める。 8. <私と他人について考える> 7. の授業のあとに書いた手紙を音読し、録音する。(男性は盲人であるため。 声のメッセージは、後日西村が郵送する)自分がどのような人間でありたいか、お互いに率直な声を聞き合う。 9. <介助実習> 視覚障害者の誘導の実習。他人に自分の安全をゆだねる体験を通し、「信頼」を考える。 10. <点字1> 視覚障害者の立場を想像しながら、点字の基礎を学び、点字の名詞を作成する。 11. <点字2> 点字で、視覚障害者に短い手紙を書く。 12. <世界の子どもに出会う> インドのスラムの子どもへの芸術教育の実践をDVD等で紹介し、他の国際NGOの活動も踏まえ、異文化の人々と協力しうための具体的なノウハウを学ぶ。 13. <コミュニケーションの体験> 11. の授業で書いた手紙の返事を受け取り、見知らぬ人と気持ちを通わせる体験をする。また、インドの子ども達に絵や折り紙などのプレゼントを作成する。 14. <実践> グループにわかれ、障がいのある人、お年寄り、子どもを対象にした5分程度の遊びを発表しあう。また、国内のNPOがそれらの人たちに、どんな働きかけをしているかを知る。 15. <まとめ> 14. の発表、これまでの授業で感じたことの分かち合い。	準備学習等の内容 最初の授業では準備は必要としない。授業後、うける前とあ とで、自分のなかで変化があったかどうか 確認する 出来上がった作品を各自持ち帰り、ブックカバー等身近に使用できるものに形を変える。 それぞれが、可能な範囲でハンセン病について調べる 準備、後片付けなど、知らない学生との共同作業を積極的 に行う。 次回に備え、空き缶を用意する 次回に備え、グループにわかれ、楽器を使った発表を考える 各グループで、発表を振り返り、 改善点等を話し合う(13. の授業に備えて) ビデオの主人公の男性(現在90歳)にあてて、短い手紙を 書く 特になし 町中での、障がいのある人への声かけを、可能な限り実践 してみる 自分の名前の点字表記を覚える 点字を打つ感触を体に記憶させる 世界の子ども達に自分ができることを考える 受け取った点字の「返事」をしっかりと読む。5. で作ったグ ループで、次回のために「遊び」の内容を話し合う 各グループごとに、準備から反省まで。発表の経過をまとめ る それぞれが、クラス全員の顔を認識できているか確認しあう
受講者へのメッセージやアドバイス：	身構えず、ありのままの楽な気持ちで受講してください。	

フィードバックの方法： レポートについては、授業のなかでまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	到達目標「新しい世界を知る」、「開かれた心で人と接する」に関して、授業で体験したことが自分の言葉で表現できているか
	レポート	20	到達目標「自分自身を深く認識する」に関して、率直に自分と向き合えているか
	発表、討論	30	グループ発表での自分の役割とその達成度

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法： Eメール yuri-n@vmail.plala.or.jp

授業テーマ:	誰もが公平な満足を得られる豊かなモノづくり環境づくり		
授業の概要:	超高齢社会の到来や安全安心思想の浸透を背景に、ユニバーサルデザインが社会に広まりつつあります。それにより、様々なニーズをもつ人々への配慮が居住環境や生活用具にも取り入れられるようになりました。本来、健康者も障がい者も存在しません。子どもや高齢者、心身機能に配慮が必要な人々はもちろんのこと、外国人や左利きユーザなど、全ての人に使いやすさ、安全性、快適性などを公平に提供できるよう、環境、道具、情報、サービス等をデザインすることがユニバーサルデザインの基本です。本論はこうしたユニバーサルデザインの考え方や活かし方を、生活科学、人間工学、設計論に基づき解説します。		
到達目標:	上述の授業内容に基づき、ユニバーサルデザインを生活の中に適切に応用できる知識や能力を身につけることを目標としています。具体的には次のとおりです。 ・ユニバーサルデザインの視点的獲得 ・ユニバーサルデザインを具体化するための手法の獲得 ・ユニバーサルデザインの質を評価する手法の獲得 ・ユニバーサルデザインの対象となる人々の心身機能の理解 ・様々なニーズをもつ人々への思いやりの心		
授業方法:	全体は3部構成となっています。講義主体ですが、第Ⅲ部の机上演習ではグループワークも一部取り入れながら簡単な課題を遂行します。また、スライドを多用し、わかりやすさに配慮します。なお、毎時間終了時に授業に関するコメント・質問等をカードに記入して提出してもらい、翌週の授業時にそれに対して回答します。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 【イントロダクション】 ユニバーサルデザインとは何か 2. 【第Ⅰ部：企画・デザインの方法と評価】 ①モノづくりとユニバーサルデザイン ーデザインに必要な4要素 3. ②ユニバーサルデザインの進め方 ーつくり手から使い手に渡るまで 4. ③ユニバーサルデザインの調査と評価 ー人の特性をデザインに落とし込む 5. ④誰もが安全なモノづくり ーヒトはエラーを犯す動物である 6. 【第Ⅱ部：ユニバーサルデザインのための心身機能の理解】 ①人のかたちと寸法 ー平均値だけではモノはつくれない 7. ②人の姿勢と動作 ー悪い姿勢が体を壊す 8. ③人の感覚機能 ー我々の感覚は五感だけではない 9. ④人の視力と視覚機能 ー我々はモノをどの様に見ているのか 10. ⑤加齢と居住環境 ー高齢者への配慮とは 11. 【第Ⅲ部：机上演習 ー仮想製品の企画】 ①演習(1)演習に先立つ復習 12. ②演習(2)対象ユーザとニーズの抽出 (グループ演習) 13. ③演習(3)ユニバーサルデザイン製品の企画づくり 14. ④演習の講評、ユニバーサルデザインの歴史と考え方 15. 【終章：総括と今後の課題】 課題レポート		予め、ユニバーサルデザインと思われる事例を見て歩いてください。授業後には、ユニバーサルデザインを誤解していたと気づくはずです。 授業後に、ユニバーサルデザインに備えるべき要素を身近な製品に当てはめて考えてみてください。 授業後に、デザインプロセスが多くのステップから成り立つことを理解したうえで、自分が興味のある製品をユニバーサルデザイン化することを考えてみてください。 授業で得た調査や評価の手法を応用し、興味のある製品を分析し、ユニバーサルデザイン面で欠けている点、問題となる点を抽出してみてください。 予め、身近にある家電製品等のマニュアルに記載されている使用上の注意を調べておいてください。この回では誰でも安全に使えるようにすることを考えます。 予め、街中の設備・施設や家庭内の道具等が自分の寸法に合っているか調べてみてください。この回は人の心身機能の個人差が大きいことを学びます。 授業で学んだ悪い姿勢や動作を、実際の生活の中で見つけてみてください。またその影響が配慮の必要な人々にとって大きくなることも理解してみてください。 授業で学んだ感覚の種類を再度整理してみてください。その内容が次の授業の内容に繋がります。 現実のモノと、それを見て感じたイメージが同じか否かを改めて実感してみてください。感覚機能の特性を理解しておかないとユニバーサルデザインもうまくなりません。 第Ⅱ部の内容を再度整理しておいてください。この回ではそれに基づき、高齢者への配慮事項を考えます。 予め、これまでの授業の流れを簡単におさらいしておいてください。この回では演習に先立ち、再度ユニバーサルデザインの考えや事例等を紹介します。 この回の演習で得た知識やアイデアを基に、自分で企画したい新しい製品のイメージを膨らませてください。次の回にそれを具体的に企画してもらいます。 前回の復習を継続させ、より具体的な提案に結びつく内容を考えておいてください。この回はその企画案を簡単にまとめ提出してもらいます。 これまでの一連の授業で得た知識や考えに基づき、ユニバーサルデザインに対する自分の考えを構築してみてください。 これまでの授業を再度振り返り、予め自分の考えをまとめておいてください。それを課題レポートとして授業内で作成してもらいます。
受講者へのメッセージやアドバイス:	この授業は、出席し一緒に考えてもらうことを最重要と捉えています。そのため、フィードバックの方法や成績評価等もそれに基づくものになっています。		
フィードバックの方法:	毎回授業の最後に、その授業に対する感想、意見、もし質問があればそれもコメント用紙に記入して提出してもらいます。翌週の授業時に全体の感想や意見を紹介すると共に、個別の質問についても回答します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席＋コメント	80	毎回提出されたコメント用紙の内容に基づき、その授業に対する勤勉度・理解度等に基づき評価
	レポート	20	机上演習時の提出物および最終回に作成する課題レポートから、理解度・達成度に基づき評価
教科書:			

参考書:	日本人間工学会(編)「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」共立出版 岡田明(編著)「初めて学ぶ人間工学」理工図書 (社)人間生活工学研究センター(編)「ワークショップ 人間生活工学 第1巻～第4巻」丸善 山岡俊樹, 岡田明「応用人間工学の視点に基づくユーザインタフェースデザインの実践」海文堂
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内等に対応

授業テーマ:

「いのち」の創造

授業の概要:

生命の領域で起きている昨今の事象に向き合いながら、21世紀を生きる私たちの生命を再考し、自らの生命観の構築を目指す。具体的には人工授精、体外受精、人工妊娠中絶、脳死、臓器移植、自殺、安楽死、尊厳死等の事柄を扱いながら、各自の生命観、死生観を構築していきます。その際、研究倫理についての学びも深めます。

到達目標:

1. 近現代社会における「生と死」の具体的事象に内在する新たな課題を探求します。
2. その課題に対峙すべき思想を探究します。
3. 自分自身の死生観を批判的に再考し、新しい視座を模索します。

授業方法:

ゼミナール形式(発表、質疑応答、討議)。グループで課題に向き合い、各自の学びを深めます。必要に応じ、講義も行う予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 演習の意義と可能性	シラバスにより、本演習の概要、目標、要求課題などに関する学びを深める。
2.	グループワーク1 コンセンサスゲームを通し	配布資料や参考文献により、グループ学習の意義などを整理する。
3.	グループワーク2 ロールプレイングゲームを通し	配布資料や参考文献により、グループ学習の意義などを整理する。
4.	発表テーマの予備議論	発表に向けた予備議論が実施できるよう資料収集、資料分析など。
5.	発表及び全体討議: 立場固定のディベート (生殖医療の課題等) 1	グループ議論のための配布資料準備、及び、議論の要点を整理。
6.	発表及び全体討議: 立場固定のディベート (生殖医療の課題等) 2	グループ議論のための配布資料準備、及び、議論の要点を整理。
7.	前半発表のふりかえり	配布資料や参考文献を用いて、前半の議論のポイントに対する自己の意見構築。
8.	発表、執筆の技法	グループ発表の内容を振り返り、議論を深めるべきポイントの整理。
9.	後半発表に向けた予備議論	後半のグループ発表に向けて、論点の整理。研究倫理に関する学びを深め、整理する。
10.	発表及び全体討議: 立場固定のディベート (脳死、臓器移植の課題等) 1	グループ議論のための配布資料準備、及び、議論の要点を整理。
11.	発表及び全体討議: 立場固定のディベート (脳死、臓器移植の課題等) 2	研究倫理に則した発表への工夫。
12.	後半発表ふりかえり	グループ議論のための配布資料準備、及び、議論の要点を整理。
13.	今日的課題整理1 自己決定をめぐり	研究倫理に則した発表への工夫。
14.	今日的課題整理2 多様性をめぐり	グループ発表の内容を振り返り、議論を深めるべきポイントの整理。
15.	春学期全体のまとめと秋学期に向けた課題確認。夏季 休暇中の自学自習活動への指示	発表経験を振り返り、客体化することの意義などを深め、整理する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

各自・各グループ最低2回は発表の機会を提供する予定です。ディベート形式の討論(人工妊娠中絶の是非、臓器移植の是非等)を通し、課題を探究する予定です。グループ発表(討議、批評等)の準備を含め、講義時間以外に種々の課題が提供される予定です。事前の文献資料の調査、事前事後のグループ討議、さらに、学期末レポートの作成のための資料収集などが期待されます。

フィードバックの方法:

講義の学びを深めるコメントペーパーを作成します。時には、受講生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを用います。学生からのコメントは演習内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ディベート参加・報告書作成	40	20%×2回ディベート報告書作成。発表整理力、発表内容の思考力、論点分析力によって評価します。
	クラス討議への関与・コメント	20	10%×2回の発表に対するコメントペーパーを作成します。他のグループ発表の理解度、批判力、思考力により評価します。
	演習レポートの作成	40	提示されたレポート課題に対する思考力、分析力などを総合的に判断します。

教科書:

配布資料を準備します。

参考書:

教室にて指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します(オフィスアワー、Eメールなど)。

授業テーマ:

授業の概要: 福祉は専門家に任せるものではなく、一般の市民・学生や関連職種の人たちも一緒に取り組むべきものです。しかし、今日では、それが福祉専門家の方法・技術と考えられて、わたしたち「人間」の「生活」に結びつけることが難しくなっています。だからこそ、福祉専門家ではない「わたしたち」が、さまざまな福祉の問題をめぐって「できる」こと「すべき」こと、あるいは「すべきでない」ことについて考えることは大切です。演習では、こうした作業を通して、福祉専門家にしがちであった社会福祉を一般の市民・学生に戻していくという視点から、社会福祉の再検討を試みます。

到達目標: 社会福祉の専門知識を修得する。

授業方法: 教室における講義、学外での体験学習、レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議。併せて、映画のビデオやDVDを活用しながら、当事者の人権の問題、人間としての生きざまの過程、まわりの人びとの支援の状況、社会的な時代背景や価値について考えます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会福祉の基本的なあゆみ	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	社会福祉および福祉関連制度の利用の仕組み	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	貧困問題と生活の保障	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	社会福祉の支援の仕方	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	社会福祉の関連職種とボランティア	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	子ども・配偶者虐待と援助	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	子どもの成長と地域における子育て支援	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	少年非行の法と臨床	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	家族と高齢者介護	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	高齢期のお金とくらしのデザイン	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	高齢者居住施設のこれから	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	障害をもつ人とのかかわり	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	障害乳幼児の療育と家族支援	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	精神障害をもつ人の自立と社会参加	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	これからの社会福祉	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席・発表レポート	50 50	出席を含む演習への参加・態度および発表内容 ルーブリックを用いた達成度評価

教科書: くらしに活かす福祉の視点―学生・ボランティアが知っておきたい基礎知識―(ミネルヴァ書房)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール等の利用

授業テーマ:	社会心理学(日常を計量する)		
授業の概要:	社会心理学は、日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として,そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。演習では、「社会心理学」という学問ツールに触れることによって,だれもが「体感」している日常素材を対象として「心の冒険」をし,卒業後の「社会」の中で自己成長を遂げるステップにすることを目標とします。とりわけ,学問領域だけでなく,実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力を身につけることも併せて目指します。 3年次の応用演習では、(1)卒業研究に必要なスキルの習得、(2)卒業研究課題への取り組みの着手と目標とします。(1)では統計ツールの学習に加え、フィールド研究(大学構内・外での「観察」体験―ストリート・ウォッチングなど―)なども行います。この演習の最終目標は,各人が築きあげた成果を卒業研究としてまとめることです。これは、「感想文」とは異なり、あくまでも社会心理学という学問ツールの適用結果としての論文の形にします。これによって,演習生のキャンパス・ライフのアカデミックな部分を「形」として残したいと思います。		
到達目標:	社会心理学研究に関する基礎的スキルの習得		
授業方法:	1時間30分の授業時間のみが「学習時間」ではなく,その合間に多くの「作業・学習時間」が必要となります。とりわけ、フィールド研究のために時間外の作業が必要となります。「皆出席」を前提に、各自が「期間中」にどのくらい格闘したかを評価の対象とします。フィールド研究にはグループで従事します。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC、スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 演習の概要の説明・確認 2. 統計ツールSPSSの基礎－1－ 3. 統計ツールSPSSの基礎－2－ 4. フィールド(観察)研究の準備－1－ 5. フィールド(観察)研究の準備－2－ 6. 統計ツールSPSSの基礎－3－ 7. 統計ツールSPSSの基礎－4－ 8. フィールド(観察)研究計画－1－ 9. フィールド(観察)研究計画－2－ 10. 統計ツールSPSSの基礎－5－ 11. 統計ツールSPSSの基礎－6－ 12. フィールド(観察)研究実施－1－ 13. フィールド(観察)研究実施－2－ 14. フィールド(観察)研究整理－1－ 15. フィールド(観察)研究整理－2－	準備学習等の内容 本演習のシラバスでの確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 前回演習作業の確認 演習全体での作業確認	
受講者へのメッセージやアドバイス:	準備学習(予習・復習)等の内容: 授業と授業の間の1週間にこそ、自己進歩があることを忘れないようにしましょう。		
フィードバックの方法:	演習時の応答およびマナビー		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 出席と出席時の作業状況 課題の進展状況	割合 50 50	評価基準 授業時の熱心さ 時間外活動の熱心さ
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、時代を駆け抜ける力		
教員との連絡方法:	マナビーおよび日常的接触		

授業テーマ:

居住環境の快適性を「はかる」

授業の概要:

光や色の測定方法について学ぶと同時に、演習課題にグループで取り組み、照明器具をデザインする。また、研究倫理について学ぶ。

到達目標:

生理的・心理的に快適な居住環境を実現するために必要な事柄を、演習を通して学ぶ。

授業方法:

グループ実習、グループ課題、照明器具の製作

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	演習の概要説明、グループ課題の決定	グループごとに研究概要発表に向けて資料作成に着手する
2.	調査課題の概要・調査手法の検討(グループワーク)	調査の概要について理解し、調査手法を検討する
3.	調査課題-グループディスカッション	他者からの意見をまとめ、各グループの計画を見直す
4.	測定機器の使用方法-光の測定	使用方法についてまとめ、使用方法を他者に解説できるようにする
5.	測定機器の使用方法-視認性の測定	使用方法についてまとめ、使用方法を他者に解説できるようにする
6.	測定機器の使用方法-色の測定	使用方法についてまとめ、使用方法を他者に解説できるようにする
7.	照明器具の取り扱い	発光の仕組みについて理解し、照明デザインのための基礎知識を理解する
8.	調査課題-データ収集	データを分析し、発表準備をする
9.	調査課題-中間発表	グループごとに反省点をまとめ、残りの分析に向けて目標をたてる
10.	照明器具のデザイン課題	照明器具のデザイン例を調べ、自身のデザインコンセプトをまとめる
11.	光と視覚の特性	色の見えの個人差について理解を深める
12.	照明器具の製作	光源の性質について理解し、デザインに反映させる
13.	調査課題-データ分析	発表会に向けて、発表資料を準備する
14.	照明器具デザイン発表	秋学期の作品集の制作に向けて、データを整理する
15.	調査課題-中間発表 卒論テーマについて	各自の卒論テーマの設定にむけて課題を整理する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中にディスカッションしながらフィードバックする。
照明デザイン作品は研究室で保管、授業中に返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	30	
	課題	70	課題内容、なおグループ課題ではグループメンバーは同一評価点となります

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

マナビー及びe-mailによる

授業テーマ:	生活文化とファッション産業		
授業の概要:	現在、服飾文化の領域は衣服を中心とする領域にとどまらず生活者のライフスタイル全体にまで広がっています。そのなかでファッションには、モノとしての機能以上に人々の多様化するライフスタイルを表現するメディアとしての役割がもたらわれています。演習では、わたしたちの身のまわりにあるファッション関連のモノや商品の現状に目を向け、フィールドワークや調査などをおしてそれらの意図や背景、方法論などについて理解を深め、ファッション産業の仕組みや流れを学びます。調査結果をもとに新しい商品の企画書を作成し、これからの展望をえがくことを目指します。また、今後の研究活動に向けて研究方法や研究倫理について学びます。		
到達目標:	①ファッション産業の構造やしぐみを学び、製品への理解を深める ②調査をおしてファッション関連商品の市場を把握する ③調査結果を踏まえて新しい商品を企画する ④プレゼンテーションとして新しい商品の魅力を表現し意図を説明する		
授業方法:	学内での講義、演習のほか、学外での調査、企業見学などを予定しています。見学先や時間制約の都合上、授業時間外や補講日以外に実施する場合があります。また一部は、グループ・ワークですすめます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. オリエンテーション／研究倫理について学ぶ 2. 事例調査の方法と分担 3. 事例調査と報告(Web調査) 4. 事例調査と報告(売場調査) 5. 事例調査と報告(見学と聞き取り) 6. 企画にむけての意見交換 7. 企画書の作成(目的とコンセプト) 8. 企画書の作成(需要と背景) 9. 企画書の作成(デザインとイメージ) 10. プレゼンテーションの準備(概要・役割分担) 11. プレゼンテーションの準備(PP作成) 12. プレゼンテーションの準備(リハーサル) 13. プレゼンテーション 14. まとめ 15. 学外見学		調査結果をまとめて配布資料を作成 調査結果をまとめて配布資料を作成 調査結果をまとめて配布資料を作成 企画についてグループ内で随時話し合いをすすめる 企画についてグループ内で随時話し合いをすすめる 企画についてグループ内で随時話し合いをすすめる プレゼンテーションにむけて作業をすすめる プレゼンテーションにむけて作業をすすめる プレゼンテーションにむけて作業をすすめる
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出物については採点して返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度 調査報告 企画とプレゼンテーション	30 20 50	積極的に授業に参加し、到達目標①について評価する 到達目標②について、視点の適切さとまとめの仕上がり进行评估する 到達目標③④について、グループワークにおける態度・意欲とプレゼンテーションの創造性や完成度を評価する
教科書:	なし		
参考書:	授業中に指示します		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板機能		

授業テーマ:

授業の概要: 身のまわりの「環境」と「社会」について理解するため、地域社会の現状について地域資源の観点から、その現状を把握する。さらに、地域活性化に向けた取り組み、生活していく中で関わりのある土地や交通といった事柄に触れることで、私たちの生活を豊かにしている資源の存在を認識し、身近な社会や環境の動きに関心を高める。
また、研究倫理についても指導することで、卒業研究をはじめとした研究への心構えを理解する。

到達目標: 身近な環境と社会に対して知識を深める

授業方法: ゼミナール形式を基本とする。課題に対してグループで向き合い、調べ、発表することで授業を進める。必要に応じて講義や学外見学実習を行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	オリエンテーションの内容を整理しておくことを求める。
	2. 身近な環境問題と地球社会の概念	予習として、授業時に課題されたキーワードについて調べ、レジュメを作成しておくことを求める。
	3. 地域資源とは	予習として、授業時に課題されたキーワードについて調べ、レジュメを作成しておくことを求める。
	4. 地域社会の現状把握(1)	出題された課題について、グループごとに調べることを求める。
	5. 地域社会の現状把握(2)	出題された課題について、グループごとに調べることを求める。
	6. 地域社会の現状把握(3)	出題された課題について、グループごとに調べた内容の発表準備を行なうことを求める。
	7. 社会調査とは	予習として、授業時に課題されたキーワードについて調べ、レジュメを作成することを求める。
	8. 定性的データと定量的データについて	予習として、授業時に課題されたキーワードについて調べ、レジュメを作成することを求める。
	9. 文献調査とインタビュー調査について	予習として、授業時に課題されたキーワードについて調べ、レジュメを作成することを求める。
	10. 都市農村交流とは	予習として、授業時に課題されたキーワードについて調べ、レジュメを作成することを求める。
	11. 土地利用のあり方とまちづくり	予習として、授業時に課題されたキーワードについて調べ、レジュメを作成することを求める。
	12. 住民参画のあり方とまちづくり	予習として、授業時に課題されたキーワードについて調べ、レジュメを作成することを求める。
	13. 地域環境とまちづくり(1)	出題された課題について、グループごとに調べることを求める。
	14. 地域環境とまちづくり(2)	出題された課題について、グループごとに調べることを求める。
	15. 地域環境とまちづくり(3)	出題された課題について、グループごとに調べた内容の発表準備を行なうことを求める。

受講者へのメッセージやアドバイス: 「身のまわりの環境がどのように出来上がっているのか?」、「なぜ、このような文化が生まれたのか?」、「よく考えてみたらわからない」という疑問を大切にし、身のまわりに存在しているものについて関心を高めて受講することを望む。

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、その知識を深めようとしたかを評価する。
	発表, 討論	50	グループ作業において、得た知識に対し理解した上で発言しているか、内容を整理しているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: オフィスアワー, Eメール, マナビー掲示板機能を利用

授業テーマ:

被服学分野のアイデアソースを探る

授業の概要:

被服学分野の研究事例を紹介し、研究への関心を深める。実際に、被服学分野の諸側面からのアプローチを試みる課題に取り組むことで視野を広げ、卒業研究への手がかりとする。また、デザイン画やスワッチなどの制作や調査にも取り組む。さらに、研究倫理についても学ぶ。

到達目標:

1.被服学分野の研究対象や手法の事例を知る。
2.被服学分野の研究を進める上で必要となる基礎的な技術力、分析力、考察力、発想力、創造力を身につける。
3.効果的なプレゼンテーションの重要性について理解する。

授業方法:

ゼミナール形式を基本とし、授業内容によって実習や学外見学等の形式をとることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・被服ができるまで	
2.	被服学の研究対象と研究手法	
3.	デザインの発想(1)	デザイン画の制作
4.	デザインの発想(2)	デザイン画の制作
5.	プレゼンテーションとディスカッション デザインの発想(3)	デザイン画の制作
6.	被服制作のアイデアソース(1) 素材	スワッチの制作
7.	被服制作のアイデアソース(2) 技法	スワッチの制作
8.	被服制作のアイデアソース(3) スワッチ	スワッチの制作
9.	プレゼンテーションとディスカッション 被服材料収集のための調査計画	スワッチのまとめ
10.	被服材料収集のための調査	調査
11.	被服材料収集に関する情報交換	調査のまとめ 提示資料の作成
12.	課題についてのデザイン(1)	デザインのための資料収集
13.	課題についてのデザイン(2)	デザイン考案
14.	プレゼンテーションの手法	プレゼンテーションの準備
15.	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物は授業時に解説を加えて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出物	40	到達目標1の理解度、到達目標2の習得度を評価する。
	発表とディスカッション	30	到達目標3の理解度を評価する。
	参加度	30	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能, Eメール

授業テーマ:

「いのち」の創造

授業の概要:

「人の命」とは何だろうか？近現代を振り返ると、目覚しい文明の進歩に心を奪われます。しかしながら、それらの進歩は私たちが豊かに世界へと導いたのであろうか。平和や幸福を求めてきた人間社会であるにもかかわらず、いまだ、地域紛争、民族紛争が地球上で絶えません。地域共同体においても、様々な要因により、命が脅かされています。私たちの社会の中にある課題に向き合いつつ、自己に内在する問題意識を探究します。真に豊かな「いのち」とは何か、その本質を問いつつ、各自の卒業論文へのテーマを模索する予定です。

到達目標:

私たちの生活(くらし)の中に課題を探ります。
前半:自分の学習歴(自分史)を振り返り、自己に内在する問題意識を探究する予定です。
後半:先達の思考に向き合い、自己の研究テーマを探します。

授業方法:

ゼミナール形式(発表、質疑応答、討議)。全体を小グループに分け、各グループ発表等を通し、課題に向き合い、多種多様な議論形式を用いて課題を深めます。状況に応じて、講義的なことも実践します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	演習の意義確認と	シラバスにより演習内容、到達目標、要求課題などを整理する。春学期の学びを整理する。
2.	自分史について	自身の学習の歴史(記録)を振り返り、自分自身に内在する問題意識に関して、深め、整理する。
3.	発表及び全体討議: 自分史を通し、自己の問題意識探究1	過去の学びを振り返り、自己の問題意識を整理し、個人発表に備える。発表予定者は配布資料を準備。
4.	発表及び全体討議: 自分史を通し、自己の問題意識探究2	過去の学びを振り返り、自己の問題意識を整理し、個人発表に備える。 受講生相互の議論を通し、問題意識を深め、整理する。 発表予定者は配布資料を準備。
5.	発表及び全体討議: 自分史を通し、自己の問題意識探究3	過去の学びを振り返り、自己の問題意識を整理し、個人発表に備える。 発表者、受講者の議論の整理と深化。 発表予定者は配布資料を準備。
6.	発表及び全体討議: 自分史を通し、自己の問題意識探究4	過去の学びを振り返り、自己の問題意識を整理し、個人発表に備える。 他の受講者からのコメントなどを通し、自己客体化に挑戦する。
7.	文献学習に関して	配布資料や参考文献を通し、文献学習の意義などを整理し、深める。
8.	課題テキスト批評 1	共通の課題テキストに関する、要約、及び、批評をA4判1枚にまとめる。資料分析と資料批評を中心に整理し、個人発表に備える。 発表予定者は配布資料を準備。
9.	課題テキスト批評 2	共通の課題テキストに関する、要約、及び、批評をA4判1枚にまとめる。資料分析と資料批評を中心に整理し、個人発表に備える。 発表予定者は配布資料を準備。
10.	課題テキスト批評 3	共通の課題テキストに関する、要約、及び、批評をA4判1枚にまとめる。資料分析と資料批評を中心に整理し、個人発表に備える。 発表予定者は配布資料を準備。
11.	自由テキスト紹介1	共通の課題テキストに関する、要約、及び、批評をA4判1枚にまとめる。要約を中心に整理し、個人発表に備える。
12.	自由テキスト紹介2	共通の課題テキストに関する、要約、及び、批評をA4判1枚にまとめる。要約を中心に整理し、個人発表予定者は配布資料を準備。 表に備える。
13.	卒業論文トピック発表1	卒業論文のテーマに関して、その概略を整理し、発表に備える。 発表予定者は配布資料を準備。
14.	卒業論文トピック発表2	卒業論文のテーマに関して、その概略を整理し、発表に備える。 発表予定者は配布資料を準備。
15.	秋学期の課題確認。来年度に向けた自学自習活動への指示	秋学期全体の学びから、演習レポート作成ための論点を整理し、構成を考える。資料収集の段取りを確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

各自・各グループ最低2回は発表の機会を提供する予定です。
ディベート形式の討論(人工妊娠中絶の是非、臓器移植の是非等)を通し、課題を探究する予定です。
グループ発表(討議、批評等)の準備を含め、講義時間以外に種々の課題が提供される予定です。事前の文献資料の調査、事前事後のグループ討議。さらに、学期末レポートの作成のための資料収集など。

フィードバックの方法:

講義の学びを深めるコメントペーパーを作成します。時には、受講生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを用います。学生からのコメントは演習内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	自分史	10	報告書作成。発表整理力、発表内容の思考力、論点分析力によって評価します。
	ブックレビュー	30	15%×2回 報告書作成。発表整理力、発表内容の思考力、論点分析力によって評価します。
	卒業論文トピック	10	報告書作成。発表整理力、発表内容の思考力、論点分析力によって評価します。
	演習貢献(コメントなど)	10	発表に対するコメントペーパーを作成します。他のグループ発表の理解度、批判力、思考力により評価します。
	演習レポートの作成	40	提示されたレポート課題に対する思考力、分析力などを総合的に判断します。

教科書:	教室にて指示
参考書:	教室にて指示
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡 方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します(オフィスアワー、Eメールなど)。

授業テーマ:

授業の概要: 社会福祉関係機関・施設においては、多様な支援活動が展開されています。本演習では、「応用演習Ⅰ」で学んだ『くらしに活かす福祉の視点－ボランティア・学生、市民が知っておきたい基礎知識－』についての知見を発展させるために、より具体的な支援の在り方について、以下を中心に実践的な演習を行います。
(1)福祉の利用者・家族の主体的なあり方を“顔が見える”ように具体的に紹介します(利用者理解)。
(2)生活の視点から福祉問題の現状と課題について考えます(問題の掘り起こし)。
(3)社会福祉実践を中心に生活支援の方法について学習します(対処の仕方)。

到達目標: 社会福祉の専門知識を修得する。

授業方法: 教室における講義、レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議をととして、社会福祉学について基礎的知識を会得しながら、学習への動機づけを深めていきます。一部で社会福祉施設・機関、組織・団体での見学実習を予定します(事前学習→見学実習→見学実習レポートの作成→実習報告→全体討議と段階的に進めていきます)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 利用者・家族主体の生活支援とはなんだろうか	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	2. 利用者理解 その1	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	3. 利用者理解 その2	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	4. 利用者理解 その3	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	5. 問題の掘り起こし その1	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	6. 問題の掘り起こし その2	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	7. 問題の掘り起こし その3	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	8. 対処の仕方 その1	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	9. 対処の仕方 その2	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	10. 対処の仕方 その3	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	11. 困難事例のケーススタディ その1	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	12. 困難事例のケーススタディ その2	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	13. 困難事例のケーススタディ その3	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	14. 困難事例のケーススタディ その4	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	15. 再び利用者・家族主体の生活支援とはなんだろうか	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席・発表	50	出席を含む演習への参加・態度および発表内容
	レポート	50	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書: くらしに活かす福祉の視点－学生・ボランティアが知っておきたい基礎知識－(ミネルヴァ書房)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール等を利用

授業テーマ:	社会心理学(日常を計量する)		
授業の概要:	社会心理学は、日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として,そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。演習では、「社会心理学」という学問ツールに触れることによって,だれもが「体感」している日常素材を対象として「心の冒険」をし,卒業後の「社会」の中で自己成長を遂げるステップにすることを目標とします。とりわけ,学問領域だけでなく,実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力を身につけることも併せて目指します。 3年次の応用演習では、(1)卒業研究に必要なスキルの習得、(2)卒業研究課題への取り組みの着手と目標とします。(1)では統計ツールの学習に加え、フィールド研究(大学構内・外での「観察」体験―ストリート・ウォッチングなど―)なども行います。この演習の最終目標は,各人が築きあげた成果を卒業研究としてまとめることです。これは、「感想文」とは異なり、あくまでも社会心理学という学問ツールの適用結果としての論文の形にします。これによって,演習生のキャンパス・ライフのアカデミックな部分を「形」として残したいと思います。		
到達目標:	社会心理学研究に関する基礎的スキルの習得		
授業方法:	1時間30分の授業時間のみが「学習時間」ではなく,その合間に多くの「作業・学習時間」が必要となります。とりわけ、フィールド研究のために時間外の作業が必要となります。「皆出席」を前提に、各自が「期間中」にどのくらい格闘したかを評価の対象とします。フィールド研究にはグループで従事します。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC、スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 春学期演習のまとめと秋学期演習の概要の説明・確認	本演習のシラバスでの確認	
	2. 統計ツールSPSSの応用－1－	前回演習作業の確認	
	3. 統計ツールSPSSの応用－2－	前回演習作業の確認	
	4. 質問紙(計量)研究の準備－1－	前回演習作業の確認	
	5. 質問紙(計量)研究の準備－2－	前回演習作業の確認	
	6. 統計ツールSPSSの応用－3－	前回演習作業の確認	
	7. 統計ツールSPSSの応用－4－	前回演習作業の確認	
	8. 質問紙(計量)研究計画－1－	前回演習作業の確認	
	9. 質問紙(計量)研究計画－2－	前回演習作業の確認	
	10. 統計ツールSPSSの応用－5－	前回演習作業の確認	
	11. ゲストスピーカータイム(キャリアカウンセラー「須澤」氏を予定)	前回演習作業の確認	
	12. 質問紙(計量)研究実施－1－	前回演習作業の確認	
	13. 質問紙(計量)研究実施－2－	前回演習作業の確認	
	14. 質問紙(計量)研究整理－1－	前回演習作業の確認	
	15. 質問紙(計量)研究整理－2－	演習全体での作業確認	
受講者へのメッセージやアドバイス:	準備学習(予習・復習)等の内容: 授業と授業の間の1週間にこそ、自己進歩があることを忘れないようにしましょう。		
フィードバックの方法:	演習時の応答およびマナビー		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席と出席時の作業状況	50	授業時の熱心さ
	課題の進展状況	50	時間外活動の熱心さ
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、時代を駆け抜ける力		
教員との連絡方法:	マナビーおよび日常的接触		

授業テーマ：	ヨーロッパの文化の源にある「異形なもの」を考える		
授業の概要：	ヨーロッパの産業革命以降の近代に芽ばえた児童文学、児童文化の特異な諸相を調べる。		
到達目標：	① 産業革命が人々にもたらしたものを知る。 ② 産業革命が児童文化に及ぼした影響を調べる。 ③ 技術革新が現代の児童文化に及ぼした影響を知る。 ④ そして自分独自の知的な関心を広げ、探究意欲を深める。		
授業方法：	講義形式と発表形式の組み合わせ。パワポや映像も使う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容	
	1. イギリスの産業革命について 2. フランケンシュタインについて 3. ガリバー旅行記について 4. 不思議の国のアリスについて 5. ピーターパンについて 6. ジーゼルとハイド 宝島について 7. 美女と野獣について 8. ディズニーの作品 その① 9. ディズニーの作品 その② 10. ディズニーの作品 その③ 11. 宮崎駿とジブリの作品 その① 12. 宮崎駿とジブリの作品 その② 13. 宮崎駿とジブリの作品 その③ 14. 宮崎駿とジブリの作品 その④ 15. 産業革命から、現在の技術革新までの、児童文化のまとめ	発表の仕方のオリエンテーション シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 シラバスのテーマに沿って、グループに分かれて調べ、パワーポイントで発表。 最後に、発表のまとめの冊子作りをする	
受講者へのメッセージやアドバイス：	産業革命という人類の大きな技術革新の時代に関心を向ける		
フィードバックの方法：	パワーポイントの発表での質疑応答が大事。		
「成績評価方法」「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
	パワポの発表 冊子作り 出席・欠席・遅刻	65 25 10	幅広く調べているか。わかりやすく発表できているか。 反省も含め、まとめの冊子がうまくできているか。 遅刻・欠席には厳しく対応する。
教科書：	随時指示する。		
参考書：	随時指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力 すべてが求められる。		
教員との連絡方法：	ラインを使って、毎回打ち合わせをする。		

授業テーマ：居住環境の快適性を「提案する」

授業の概要：生理・心理的に快適な居住環境を実現するために必要な事柄を、演習や学外見学実習を通して学ぶ。
また、各自のテーマに基づき、必要な資料を収集する。

到達目標：居住環境の快適性を提案するための評価手法を見つける

授業方法：ゼミナール形式によるディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 卒業論文テーマについて 照明デザイン作品集の編集について	各自で卒業論文のテーマを考える 作品集の編集について検討する 研究ノートの記録方法について学ぶ
	2. 文献調査1	興味ある内容について、資料を収集しまとめる
	3. 文献調査2	興味ある内容について、資料を収集しまとめる
	4. 卒論テーマ発表1	各自の卒論テーマについて、議論内容をもとに再考する
	5. 卒論テーマ発表2	各自の卒論テーマについて、議論内容をもとに再考する
	6. 先行研究調査1	先行研究についてまとめ、整理する
	7. 先行研究調査2	先行研究についてまとめ、整理する
	8. 研究手法の検討1	研究手法についてまとめ、考察する
	9. 研究手法の検討2	研究手法についてまとめ、考察する
	10. 研究手法の検討3	研究手法についてまとめ、考察する
	11. 研究スケジュールの立案1	卒業論文提出までの全体の計画を見据えた上で、具体的なスケジュールを立案する
	12. 研究スケジュールの立案2	卒業論文提出までの全体の計画を見据えた上で、具体的なスケジュールを立案する
	13. 研究スケジュールの立案3	卒業論文提出までの全体の計画を見据えた上で、具体的なスケジュールを立案する
	14. 各自の研究テーマに関するプレゼンテーション1	これまでのディスカッションを踏まえ、研究テーマに関するプレゼンテーション資料を作成する
	15. 各自の研究テーマに関するプレゼンテーション2	これまでのディスカッションを踏まえ、研究テーマに関するプレゼンテーション資料を作成する

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：授業中にディスカッションしながらフィードバックする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	30	各自のテーマに対する取り組み、進捗状況による
	課題	70	

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法：マナビーおよびe-mailによる

授業テーマ:	現代の服飾文化		
授業の概要:	服飾文化の対象は広くて多様です。とくに現代の服飾文化に関する研究は問題意識や方法論が多岐に及びます。演習では、現代の服飾文化のなかでとくに注目すべきテーマについて、各自で対象を絞って調査し結果をまとめて報告することをおして、基本的な調査方法や文献の読解方法を学びます。演習の終盤には、卒業論文にむけて、各自の興味関心に相応しい研究テーマの設定を目指します。		
到達目標:	①資料や情報を収集する方法を修得する ②資料や情報を適切に扱い読み解く力を身につける ③意見や考えを論理的に説明し伝える力を身につける		
授業方法:	ゼミナール形式を基本とし、必要に応じて講義も行います。学外見学は日時を変更して実施する場合があります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. 先行研究の紹介と解説	配布資料を読む	
	3. 文献講読1	配布資料を読む	
	4. 文献講読2	配布資料を読む	
	5. 論文の基本構造		
	6. 論文の調査方法		
	7. 資料の種類と探し方		
	8. レポート発表1	レポートを作成する	
	9. レポート発表2	レポートを作成する	
	10. レポート発表3	レポートを作成する	
	11. 卒業論文にむけて		
	12. テーマ発表1	プレゼンテーションを準備する	
	13. テーマ発表2	プレゼンテーションを準備する	
	14. まとめ		
	15. 学外見学		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業中に直接伝える		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	授業に参加し、背積極的に意見や考えを表明できる 到達目標①～③について、レポートやプレゼンテーションをとおして評価する
	課題	70	
教科書:	授業中に指示します		
参考書:	授業で紹介します		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー マナビー掲示板		

授業テーマ:			
授業の概要:	身のまわりの「環境」と「社会」について、より理解を深めるため、計画学の観点で地域社会について見つめていく。そのために必要な情報収集として先行研究の調べ方、論文の読み方について学ぶ。その後、各自の関心をもとに、個々で地域環境と社会に対する課題を設定し、調べ、発表する。また、自身で調べた内容について意見を受けることで、理解の深化、自身の関心の掘り起こしを行い、最終的には、卒業論文のテーマを設定する。		
到達目標:	・地域環境と地域社会に対し、計画学の観点から問題提起と情報収集ができる。 ・卒業研究にむけて、各自の興味や関心に沿った研究テーマを設定する。		
授業方法:	ゼミナール形式を基本とする。学生が関心ある地域における事象や課題等について調べ、発表し、ディスカッションすることを主とする。そのため、学生の主体的な作業実施によって授業を進める。また、必要に応じて学外見学実習を行なう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 2. 文献の探し方と読み方 3. 地域環境と社会に対する課題探究 1－1 4. 地域環境と社会に対する課題探究 1－2 5. 地域環境と社会に対する課題探究 1－3 6. 地域環境と社会に対する課題探究 1－4 7. 先行研究と課題の設定 1 8. 先行研究と課題の設定 2 9. 先行研究と課題の設定 3 10. 先行研究と課題の設定 4 11. 地域環境と社会に対する課題探究 2－1 12. 地域環境と社会に対する課題探究 2－2 13. 地域環境と社会に対する課題探究 2－3 14. 地域環境と社会に対する課題探究 2－4 15. 卒業論文の方向性確認	オリエンテーションの内容を整理しておくことを求める。 学んだことを整理しておくことを求める。 自身の関心のある事柄について、何が疑問なのか、何が面白そうなのか、レジュメの作成を求める。 自身の関心のある事柄について、何が疑問なのか、何が面白そうなのか、レジュメの作成を求める。 自身の関心のある事柄について、何が疑問なのか、何が面白そうなのか、レジュメの作成を求める。 自身の関心のある事柄について、何が疑問なのか、何が面白そうなのか、レジュメの作成を求める。 自身の関心のある事柄について、何が疑問なのか、何が面白そうなのか、レジュメの作成を求める。 関心ある事柄に係わる論文について、その内容をまとめ、レジュメを作成することを求める。 関心ある事柄に係わる論文について、その内容をまとめ、レジュメを作成することを求める。 関心ある事柄に係わる論文について、その内容をまとめ、レジュメを作成することを求める。 自身の関心のある事柄について、レジュメの作成を求める。 自身の関心のある事柄について、レジュメの作成を求める。 自身の関心のある事柄について、レジュメの作成を求める。 自身の関心のある事柄について、レジュメの作成を求める。 卒業論文のテーマ、目的等の方向性について整理し、レジュメの作成を求める。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	「おもしろそう」よりも、「何が問題なのか」に注意し、身の回りに存在しているものについて関心を高めて受講することを望む。		
フィードバックの方法:	個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、卒業研究のテーマ設定に向け、取り組んでいるかを評価する。
	発表、討論	50	発表において、問題提起とそれに適した情報収集ができているかを評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール、マナビー掲示板機能を利用		

授業テーマ:	被服学分野の研究資料を探る		
授業の概要:	被服学分野の文献資料や実物資料の収集方法や扱い方を紹介し、課題への取組みを通して理解を深める。課題の成果については、プレゼンテーションとディスカッションを行い、問題提起と解決のための方法について検討する。また、卒業研究での各自のテーマを探る。		
到達目標:	1.被服学分野の文献資料や実物資料の収集方法や扱い方について知る。 2.情報収集と分析力、考察力、企画力、提案力を身につけ、研究を自ら計画・実行していく姿勢を養う。 3.効果的なプレゼンテーションの手法を身につける。		
授業方法:	ゼミナール形式を主体とするが、授業内容によって実習や学外見学等の形式をとることもある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. 情報収集(1)		
	3. 情報収集(2)		
	4. 情報収集(3)		
	5. 情報収集(4)		
	6. 課題についての調査と分析(1)	調査計画	
	7. 課題についての調査と分析(2)		
	8. 課題についての企画・提案		
	9. 課題についてのレポート作成	レポート作成	
	10. プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備	
	11. モノ作りの現場(1)		
	12. モノ作りの現場(2)		
	13. モノ作りの現場(3)	プレゼンテーションの準備	
	14. 卒業論文のテーマと研究方法	テーマおよび方法について考える	
	15. 研究準備と今後の課題	レポート作成	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	添削して返却する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出物	40	到達目標1の理解度、到達目標2の習得度を評価する。
	発表とディスカッション	30	到達目標3の習得度を評価する。
	参加度	30	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。
教科書:			
参考書:	授業中に指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能, Eメール		

授業テーマ:			
授業の概要:	本講義では、日本における住まいと、これとの対応関係を中心とした生活様式の変容プロセスを跡づけるとともに、現代社会における生活様式と住空間について、生活単位の個人化や女性のライフスタイルの多様化、少子高齢化等とかかわる住まい手側の変化、超高層住宅をはじめとする住空間の変化、家事やケアワークなど、住空間で提供されるサービスの提供形態の変化という3つの観点から、検討すべき課題を提示し、論点を整理する。		
到達目標:	1)モダンリビングの思想や日本の住まいの変容過程等、生活様式と住空間に関する基礎的な知識を習得する。 2)住まいと家族の相互性やライフスタイルの多様性を理解し、そのあり方について自ら考える力を身につける。 3)生活様式と住空間との関係性について、検討すべき課題や提案を論理的にまとめ、表現する能力を身につける。		
授業方法:	講義を中心にすすめ、そのなかで適宜、学生に意見発表やレポート作成を指示する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 本講義で何を学ぶかー住生活をめぐる課題について考える	本授業で学びたいことについて、考えをまとめておくこと。	
	2. 住まいの特質と家族と住まいの関係性	「適切な住居」とはどのような住まいかについて調べ、まとめておくこと。	
	3. 土着的な住まいと計画された住まい	風土に根差した住まいの例をあげ、その特徴をまとめておくこと。	
	4. 近代家族の誕生とモダンリビング	「近代家族」という概念につて調べておくこと。	
	5. 日本における住まいの近代化(1)明治～昭和戦前期	新島襄の住宅の外観や間取りの特徴を調べておくこと。	
	6. 日本における住まいの近代化(2)戦災復興期から高度経済成長期	女性建築家浜口ミホについて調べておくこと。	
	7. 日本における住まいの近代化(3)建築家が提案した住まい	住んでみたい住宅の間取りとそこで展開される住生活について、考えをまとめておくこと	
	8. 住まいの計画と住まい方調査	『日本の住まい』等を著し、「食寝分離」論を唱えた西山卯三について調べておくこと。	
	9. 都市の居住空間と住まい方	同潤会アパートについて、調べておくこと。	
	10. 住宅事情の地域性	住空間のあり方が地域によって異なる理由を考えておくこと。	
	11. 女性のライフスタイルと住まい	男女の生活時間の違いを調べておくこと。	
	12. 高齢者の暮らし方と住まい	高齢者の住まいをめぐる課題を調べておくこと。	
	13. 子どもの発達と住まい	子ども部屋に関する意見をまとめておくこと。	
	14. 住生活の安定と向上に向けて	住生活基本法について調べておくこと。	
	15. まとめ	生活様式と住空間について、学んだことを整理しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本講義では、家族や住まいという誰もが経験している対象を取り上げます。普段、学習の対象として意識化することが減多にない問題だけに、あらためて考えるといろいろな気づきが生まれるはずです。準備学習を行い、講義に臨んでください。		
フィードバックの方法:	提出物については教室でまとめて解説するほか、適宜、コメントをつけて返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	到達目標1)に関する知識や、到達目標2)の理解度を評価基準とする。
	授業への参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標2)および3)ができるようになったかを評価する。
	レポート	20	到達目標3)を理解したうえで、自分の立場を明確にして、その理由を論理的に説明できるかを基準とする。
教科書:			
参考書:	中根芳一編『私たちの住居学 サステナブル社会の住まいと暮らし』理工学社、2006年 西山卯三『日本の住まいⅠ～Ⅲ』勁草書房、1980年 鈴木成文『住まいを読むー現代日本住居論』建築資料研究社、1999年 住田昌二『現代住まい論のフロンティアー新しい住居学の視角』ミネルヴァ書房、1996年 住田昌二『現代日本ハウジング史 1914～2006』ミネルヴァ書房、2015年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール (hinokidani@aol.com)		

授業テーマ:

近代の京都や女性をめぐる住居や建築、都市の歴史を学ぶ。

授業の概要:

近代の京都における住居や建築、都市の独自の営み、また女性建築家の活動について、具体的な人物や建物、街並みなどを通して論じる。

到達目標:

近代の京都における住居や建築、都市の独自の営み、また女性建築家の活動について、具体的な人物や建物、街並みなどを通して理解することを目標とする。

授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. ガイダンス(笠原)		特になし
	2. 京都の近代建築(笠原)		特になし
	3. 京都に足跡を残した建築家1:伊東忠太(笠原)		特になし
	4. 京都に足跡を残した建築家2:武田五一(笠原)		特になし
	5. 京都に足跡を残した建築家3:W.M.ヴォーリズ(笠原)		特になし
	6. 京都に足跡を残した建築家4:本野精吾(笠原)		特になし
	7. 京都に足跡を残した建築家5:上野伊三郎と上野リチ(笠原)		特になし
	8. 京都に足跡を残した建築家6:藤井厚二(笠原)		特になし
	9. 京都に足跡を残した建築家7:村野藤吾(笠原)		特になし
	10. 女性建築家1:林雅子(笠原)		特になし
	11. 女性 建築家2:長谷川逸子(笠原)		特になし
	12. 女性建築家3:妹島和世(笠原)		特になし
	13. 京都の郊外住宅地①(中嶋)		特になし
	14. 京都の別荘地開発と南禅寺界隈の近代和風建築(中嶋)		特になし
	15. 京都の郊外住宅地②(中嶋)		特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート課題	100	授業を理解しつつ、課題内容に的確に答えられているかどうか。

教科書:

なし

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

キャリアに関わる心理学の理論や関連知識を学び、自分自身のキャリア形成に活用することを目指す科目です。

授業の概要:

「キャリア」とは心理学、社会学、経営学、教育学に関わるテーマといわれています。本科目では、その中でも心理学領域の学びを深めます。具体的には「発達心理学」「性格心理学」「社会心理学」等からキャリアに関する領域の知見を得て、自らのキャリア形成に活用することを授業目標とします。自分はどのような者で、これからどんな方向性のキャリアを形成してゆくのか。自分が大切にしている価値観や行動原則とは何か、を明らかにするための知識や技能が得られる授業です。キャリアに関わる心理学の理論を理解して、自分自身のキャリアを自律的に形成する糧としてください。

到達目標:

①キャリア形成に関わる心理学の理論を理解できる ②キャリア形成に関わる社会情勢及び行政・法制度等を理解できる ③自分自身のキャリアについて考えを持ち言語化し対話ができる ④自分自身のキャリア形成に資する学習や情報収集、経験等に対する意欲が高まりすすんで行動できる

授業方法:

毎回授業の要点を記載したレジュメを配布し、パワーポイントの映写により講義を進行します。講義が中心であるが、理論を理解した上で、現実に応じてはめて考えるケース討議を毎回行います。ペアワーク、グループワークによる対話を行います。ワークシートを用いたりDVD鑑賞を基に、自らのキャリアをイメージし言語化する習慣をつける。授業内で発表、質問を自主的に行った場合は加点します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:キャリアとは何か、キャリアと心理学の関係、この授業の学びの意義	キャリア、という言葉に関するトピックや書籍を読んでおく。
2.	女性のキャリア形成:戦後日本の女性キャリアの変化、結婚・出産の現状と自己の価値観振り返り	自分の周りの社会人女性の方に、差し支えない範囲でワークキャリアとライフキャリアについてお話を聞いておく。
3.	心理学とキャリア:心理学の領域と歴史、キャリアに関わる心理学の概説	心理学に関する記事、書籍を読み、関心のあるトピックを挙げておく。
4.	自己の形成:エリクソンの発達段階論、自我同一性とモラトリウムを考える	モラトリウム、という言葉について書籍等で調べ、自分の周りに実際にある事例を挙げておく。
5.	自己と社会との関わり:レヴィンの場の理論、フリーター・ニートを考える	フリーター、ニート、という言葉について書籍等で調べ、特にフリーター(非正規雇用社員)のキャリア形成上のメリット・デメリットについて考えをまとめておく。
6.	自己の性格をどうとらえるか:ユングのタイプ論とクレッチマーの特性論	自分の周りの親しい方に、差し支えない範囲で自分の性格について尋ね、客観的な評価を聞いておく。
7.	動機づけと行動の関係:ハーズバーグの二要因理論とデシンの内発的・外発的動機づけ	自分が動機づけられた(何かを見聞きしたり、言われたりして、意欲が高まり行動につながった)経験について振り返っておく。
8.	ライフラインチャート作成:自らのライフキャリアを振り返り価値観を明らかにする	自分の印象に残っているライフイベントについて振り返っておく。
9.	職業選択と適応の理論:パーソンズの特性因子理論と3段階プロセス	自分が将来就きたい職業について、ウェブや雑誌、書籍等で調べておく。
10.	自分と職業の組み合わせ:ホランドのキャリア選択理論とRIASECモデル	キャリアセンターに行き、「求人票」を見て自分の将来のキャリアをイメージしておく。
11.	職業選択とワークライフバランス:スーパーのキャリア発達理論「ライフステージ」と「ライフロール」	自分が理想とするワークキャリア・ライフキャリアを実践している方の事例を調べておく。
12.	自己の価値観の根本からキャリアを考える:シャインのキャリア・アンカー理論	自分が過去にしてきた最も大きな意思決定について、なぜその選択をしたのかまとめておく。
13.	社会変化に対応するキャリア形成の姿勢:シュロスバーグのトランジションモデル	自分が将来のキャリアを考える上で活用できるものやひとつについてリスト化し、それぞれにどのような支援を期待できるかについてまとめておく。
14.	キャリア形成の視野を自分らしく広げるために:克蘭ボルツのブランドハブスタンス論	これまでのキャリアを振り返り、想定外だったことに遭遇した時の自分自身の思考と行動について振り返っておく。
15.	まとめ	これまでの講義内容を概観しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

自分自身のキャリア形成には汎用的な『正解』はなく、その答えは自分自身の中にあります。おぼろげなキャリアイメージを明確にし、自分自身が満足し周囲と協調しながらキャリア形成を行いたいと思う方に受講していただきたい科目です。人と話すのが苦手だと感じていたり、自分が考えていることを話すのが不得手だと思う方は、大学時代になさっておくべきトレーニングだと考えて受講されることもお勧めします。

フィードバックの方法:

毎回講義テーマに関する小レポートを提出していただき、それを採点評価して翌週に教室で返却しています。これらは評価基準(採点基準)の60%に当たります。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	30	到達目標①キャリア形成に関わる心理学の理論に関する知識や、到達目標②キャリア形成に関わる社会情勢及び行政・法制度に関する理解度により評価する
	レポート	60	到達目標①及び②を理解した上で、到達目標③自分自身のキャリアについて考えを持ち言語化する、の達成度により評価する。
	授業への参加度	10	授業に積極的に参加し、到達目標④自分自身のキャリア形成に資する学習や情報収集、経験等に対する意欲が高まりすすんで行動できる、の達成度により評価する。

教科書:

参考書:

アイデンティティとライフサイクル、E.H.エリクソン著、誠信書房
キャリア・アンカー、エドガー・H・シャイン著 金井壽宏訳、白桃書房
性格心理学への招待、詫間武俊他著、サイエンス社
新版キャリアの心理学 渡辺三枝子編著 ナカニシヤ出版
キャリア・コンストラクションワークブック、安達智子・下村英雄編著、金子書房
女子のキャリア、海老原嗣生著、ちくまプリマー新書
新版組織の心理学、田尾雅夫著、有斐閣
その幸運は偶然ではないんです!、J.D.克蘭ボルツ著、ダイヤモンド社
詳解大学生のキャリアガイダンス論、若松養亮・下村英雄著、金子書房

パーソナリティ心理学、榎本博明他著、アルマ有斐閣

思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応します。メールでの問い合わせも受け付けます。メールアドレス: chiakimt●cc.kyoto-su.ac.jp: ●
に@を入力すること

授業テーマ:	流行現象を考える		
授業の概要:	ファッションは「時代を映す鏡」といわれるように、人々の意識や社会のあり方と深く関わっています。本講座では、ファッションを流行現象としてとらえ、その社会における果すべき役割について考えます。18世紀にファッションが産業化されることにはじまり、19世紀の流行の制度化、20世紀のファッションの大衆化を経て、21世紀の今、わたしたちの身のまわりで起こっていることまで、年代を追って進めます。		
到達目標:	①ファッション史の基本的な知識を学ぶ ②ファッションの史的展開を理解する ③身の周りのファッションに関わる現象について問題意識を持って捉える ④自分自身の衣生活をファッションという側面から客観的に考える態度を身につける		
授業方法:	講義/演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション ― ファッションと流行	前回の授業内容を振り返る	
	2. モードの中心、パリの誕生	参考文献等を読む(詳細は授業で説明)	
	3. オートクチュールという制度	前回の授業内容を振り返る	
	4. 手仕事の現場	前回の授業内容を振り返る	
	5. ココ・シャネルの革新性	前回の授業内容を振り返る	
	6. プレタポルテの時代へ	店舗や製品を事前調査する	
	7. メディアとファッション	前回の授業内容を振り返る	
	8. ファッションのジャポニスム	参考文献等を読む(詳細は授業で説明)	
	9. 三宅一生の場合	前回の授業内容を振り返る	
	10. コム・デ・ギャルソンの場合	店舗や製品を事前調査する	
	11. リアルクローズとSPA	前回の授業内容を振り返る	
	12. ファストファッションの方法論	参考文献等を読む(詳細は授業で説明)	
	13. グローバリゼーションの問題点	前回の授業内容を振り返る	
	14. 新しい「ものづくり」の挑戦	前回の授業内容を振り返る	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出したレポートは授業中または授業終了後に採点して返却します		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	40	積極的に授業に参加し、到達目標④を身に付けたかを評価します
	レポート・小テスト	20	到達目標①②を踏まえ、具体的な事象と結びつけて理解し説明できるかを基準とします
	試験	40	到達目標①②の理解度と③④について独自の視点があるか、論理的に説明できるかを基準とします
教科書:			
参考書:	ジョアン フィンケルシュタイン 『ファッションの文化社会学』 せりか書房 2007年 ソースタイン ヴェブレン 『有閑階級の理論』 ちくま学芸文庫 1998年 ジャン ボードリヤール 『消費社会の神話と構造』 紀伊國屋書店 1995年 深井晃子『ジャポニスム イン ファッション：海を渡ったキモノ』 平凡社 1994年 エリザベス・L. クライン 『ファストファッション: クローゼットの中の憂鬱』 春秋社 2014年 ピエトラ リボリ 『あなたのTシャツはどこから来たのか?―誰も書かなかったグローバリゼーションの真実』 東洋経済新報社 2007年 伊藤 和子『ファストファッションはなぜ安い?』 コモンズ 2016年 深井晃子『ジャポニスム イン ファッション：海を渡ったキモノ』 平凡社 1994年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビー掲示板機能		

授業テーマ:	染色の基本的な技法を学ぶ		
授業の概要:	作品制作をとおして平面デザインの基本的な方法論を学ぶとともに、染色の技法を修得し素材や色彩にたいする感性を磨きます。フェルト、型染め、デジタルプリントの各技法の特徴を理解しそれに適したデザインを創作し、作品として仕上げます。		
到達目標:	①平面デザインの基礎知識を学ぶ ②フェルトの基本的な技法を修得する ③染色(型染め)の基本的な技法を修得する ④デジタル・プリントの基本的な技法を修得する		
授業方法:	定員を20名とし、実習を基本とします。 作業によっては補講期間内に実施する場合があります。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. ニードル・フェルトの基礎知識	制作工程を事前学習する	
	3. ニードル・フェルトの技法		
	4. フェルト(コースター)の色とデザイン	制作工程を事前学習する	
	5. フェルト(コースター)の技法		
	6. 型染めの基礎知識	制作工程を事前学習する	
	7. 型染め(バンダナ)のデザイン	作例を調査しデザイン案を考える 素材となる写真や画像を準備する	
	8. 型染め(バンダナ)の型制作		
	9. 型染め(バンダナ)の技法		
	10. 型染め(バンダナ)の技法	制作工程を事前学習する	
	11. デジタル・プリントの基礎知識	制作工程を事前学習する	
	12. デジタル・デザインの技法	作例を調査しデザイン案を考える 素材となる画像を準備する	
	13. デジタル・デザインの技法		
	14. デジタル・プリントの作品仕上げ	制作工程を事前学習する	
	15. 提出課題のふりかえりとまとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	各回の達成目標を理解し、必要に応じて授業時間外にも作業するなど進行状況は各自で管理してください。準備物等は授業内に連絡します。		
フィードバックの方法:	作品完成後、課題シートを作成し提出してください。課題シートにはコメントをつけて返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	40	授業の進行に合わせて作業を進め、意欲的に取り組むかを評価する。 到達目標①～④について作品における発想、デザイン、作業などの点から評価する。
課題作品	60		
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板機能		

授業テーマ:

住居製図の基礎

授業の概要:

住居製図に必要な基礎を身につける

到達目標:

設計に必要な基礎知識を学ぶとともに、基本的な製図技術と技法を習得し、住宅のLDKプランを計画する

授業方法:

課題説明・実習を基本とし、最終課題ではプレゼンテーションを行う。なお履修定員を20名とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス(製図用具の説明、レタリング課題説明)	必要な道具を揃え、レタリングの準備をする
2.	レタリング	レタリングの基本技術を身につける
3.	線の練習	線の種別を理解し、線の細／太を区別して描けるようになる
4.	図面表現の基礎	図面の基礎的用語について理解し、図面記号を覚える
5.	模写課題1(RC造)-平面図	平面図を描く
6.	模写課題1(RC造)-断面図、立面図	断面図、立面図を描く
7.	模写課題1(RC造)-仕上げ	図面全体を整える
8.	模写課題2(木造)-平面図	平面図を描く
9.	模写課題2(木造)-断面図、立面図	断面図、立面図を描く
10.	模写課題2(木造)-仕上げ	図面全体を整える
11.	LDK空間のプランニング-エスキース	次の課題に備え、LDK空間のプランニング事例を収集する
12.	LDK空間のプランニング-平面図	空間プランを提案する
13.	LDK空間のプランニング-断面図	平面図を描く
14.	LDK空間のプランニング-仕上げ	断面図を描く
15.	LDK空間のプランニング-課題発表会	図面全体を整える
		課題発表会での指摘に基づき、必要に応じて手直しする

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業外に作業する必要がありますので、よく考えて履修してください
履修前年度の12～1月に履修希望調査を行いますので掲示板に注意し、必ず予備登録をしてください

フィードバックの方法:

提出課題は実習準備室にて保管しています。卒業までに返却しますが、それまでに必要があれば申し出てください。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	40	実習に取り組む姿勢・態度
	課題	60	課題内容

教科書:

建築ドリル:空間表現の基礎を学ぶ、学芸出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

マナビーおよびe-mailによる

授業テーマ:	住居設計の基礎を身につける																																		
授業の概要:	住まい手の家族構成・ライフサイクル・生活行為等の諸条件を設定し、周辺環境に配慮した、これからのあるべき住環境を設計するための知識・技法を身に付ける。また住居設計に加え、パース作図や模型製作を行いプレゼンテーション技法を身に付ける。過去の住宅デザインに学び、個性あふれる未来に向けた住宅を構想する力を養う。																																		
到達目標:	1. 機能性及び合理性ある空間設計のための知識を身に付ける 2. 空間構成やインテリアの形状など身近なものに対して関心を抱き、論理的に捉える態度を身に付ける 3. 他者に理解しやすい表現技法やプレゼンテーション能力を身に付ける																																		
授業方法:	実習																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. ガイダンス:実習の内容、課題説明</td><td>・日頃から住宅や建築に対する意識を高める ・身の回りの寸法測定を行い、スケール感を養う ・製図手法を復習しておく ・教科書に目を通す</td></tr><tr><td>2. パース作図1:パース作図の手法を説明し、授業内で作図を行う。消点の設定、パースグリッドの作図を行う。</td><td>・インテリアや建築の雑誌に目を通し、描くインテリアパースのイメージを膨らませる ・配布プリントを用いて住宅模型の概要や製作内容について予習する</td></tr><tr><td>3. パース作図2:パース作図1で描いたグリッドを用いてインテリアパースを完成させる。</td><td></td></tr><tr><td>4. 模型製作1:模型材料、模型の作り方の説明をし、授業内で模型製作を行う。平面図及び断面図から模型に必要なパーツ及びその寸法を決定し、パーツを製作する。</td><td>・模型の対象とする建物の空間構成や特徴について、平面図や断面図を用いてよく考える ・住宅や建築関連の雑誌に目を通し、空間設計の工夫や各ライフスタイルが求める家の在り方などについて学ぶ ・住宅や建築関連の雑誌に目を通し、デザインやコンセプトについて学ぶ ・居室や家具、段差など身の回りの寸法を測り設計の参考にする</td></tr><tr><td>5. 模型製作2:模型製作1で製作したパーツを組み立て模型を完成させる</td><td>・身の回りの住宅や建築物を観察し、外観デザインや周辺環境との調和の工夫などについて学ぶ</td></tr><tr><td>6. 住宅設計1:課題説明、エスキース(動線、ゾーニング)</td><td>・周辺環境との調和の仕方や開口部の開け方など、実例や参考となる図書を見ておく</td></tr><tr><td>7. 住宅設計2:エスキース(平面スケッチ)</td><td>・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・製図方法の図書を見ておく</td></tr><tr><td>8. 住宅設計3:エスキース(断面、立面)</td><td>・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・製図方法の図書を見ておく</td></tr><tr><td>9. 住宅設計4:エスキース(外部)</td><td>・前課題のパース作図技法もしくは模型製作技法の復習をしておく</td></tr><tr><td>10. 住宅設計5:製図(配置図、平面図)</td><td>・各図面やパースなどの配置、見栄えを確認しておく</td></tr><tr><td>11. 住宅設計6:製図(平面図)</td><td>・プレゼンテーションの練習をしておく</td></tr><tr><td>12. 住宅設計7:製図(断面図、立面図)</td><td></td></tr><tr><td>13. 住宅設計8:パース作図もしくは模型製作</td><td></td></tr><tr><td>14. 住宅設計9:プレゼンボードの仕上げ</td><td></td></tr><tr><td>15. 住宅設計10:課題発表</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. ガイダンス:実習の内容、課題説明	・日頃から住宅や建築に対する意識を高める ・身の回りの寸法測定を行い、スケール感を養う ・製図手法を復習しておく ・教科書に目を通す	2. パース作図1:パース作図の手法を説明し、授業内で作図を行う。消点の設定、パースグリッドの作図を行う。	・インテリアや建築の雑誌に目を通し、描くインテリアパースのイメージを膨らませる ・配布プリントを用いて住宅模型の概要や製作内容について予習する	3. パース作図2:パース作図1で描いたグリッドを用いてインテリアパースを完成させる。		4. 模型製作1:模型材料、模型の作り方の説明をし、授業内で模型製作を行う。平面図及び断面図から模型に必要なパーツ及びその寸法を決定し、パーツを製作する。	・模型の対象とする建物の空間構成や特徴について、平面図や断面図を用いてよく考える ・住宅や建築関連の雑誌に目を通し、空間設計の工夫や各ライフスタイルが求める家の在り方などについて学ぶ ・住宅や建築関連の雑誌に目を通し、デザインやコンセプトについて学ぶ ・居室や家具、段差など身の回りの寸法を測り設計の参考にする	5. 模型製作2:模型製作1で製作したパーツを組み立て模型を完成させる	・身の回りの住宅や建築物を観察し、外観デザインや周辺環境との調和の工夫などについて学ぶ	6. 住宅設計1:課題説明、エスキース(動線、ゾーニング)	・周辺環境との調和の仕方や開口部の開け方など、実例や参考となる図書を見ておく	7. 住宅設計2:エスキース(平面スケッチ)	・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・製図方法の図書を見ておく	8. 住宅設計3:エスキース(断面、立面)	・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・製図方法の図書を見ておく	9. 住宅設計4:エスキース(外部)	・前課題のパース作図技法もしくは模型製作技法の復習をしておく	10. 住宅設計5:製図(配置図、平面図)	・各図面やパースなどの配置、見栄えを確認しておく	11. 住宅設計6:製図(平面図)	・プレゼンテーションの練習をしておく	12. 住宅設計7:製図(断面図、立面図)		13. 住宅設計8:パース作図もしくは模型製作		14. 住宅設計9:プレゼンボードの仕上げ		15. 住宅設計10:課題発表		日頃より住居に関心をもつこと。設計が始まる前から様々な住宅や建築物を見るように習慣づけること。	
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. ガイダンス:実習の内容、課題説明	・日頃から住宅や建築に対する意識を高める ・身の回りの寸法測定を行い、スケール感を養う ・製図手法を復習しておく ・教科書に目を通す																																		
2. パース作図1:パース作図の手法を説明し、授業内で作図を行う。消点の設定、パースグリッドの作図を行う。	・インテリアや建築の雑誌に目を通し、描くインテリアパースのイメージを膨らませる ・配布プリントを用いて住宅模型の概要や製作内容について予習する																																		
3. パース作図2:パース作図1で描いたグリッドを用いてインテリアパースを完成させる。																																			
4. 模型製作1:模型材料、模型の作り方の説明をし、授業内で模型製作を行う。平面図及び断面図から模型に必要なパーツ及びその寸法を決定し、パーツを製作する。	・模型の対象とする建物の空間構成や特徴について、平面図や断面図を用いてよく考える ・住宅や建築関連の雑誌に目を通し、空間設計の工夫や各ライフスタイルが求める家の在り方などについて学ぶ ・住宅や建築関連の雑誌に目を通し、デザインやコンセプトについて学ぶ ・居室や家具、段差など身の回りの寸法を測り設計の参考にする																																		
5. 模型製作2:模型製作1で製作したパーツを組み立て模型を完成させる	・身の回りの住宅や建築物を観察し、外観デザインや周辺環境との調和の工夫などについて学ぶ																																		
6. 住宅設計1:課題説明、エスキース(動線、ゾーニング)	・周辺環境との調和の仕方や開口部の開け方など、実例や参考となる図書を見ておく																																		
7. 住宅設計2:エスキース(平面スケッチ)	・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・製図方法の図書を見ておく																																		
8. 住宅設計3:エスキース(断面、立面)	・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・製図方法の図書を見ておく																																		
9. 住宅設計4:エスキース(外部)	・前課題のパース作図技法もしくは模型製作技法の復習をしておく																																		
10. 住宅設計5:製図(配置図、平面図)	・各図面やパースなどの配置、見栄えを確認しておく																																		
11. 住宅設計6:製図(平面図)	・プレゼンテーションの練習をしておく																																		
12. 住宅設計7:製図(断面図、立面図)																																			
13. 住宅設計8:パース作図もしくは模型製作																																			
14. 住宅設計9:プレゼンボードの仕上げ																																			
15. 住宅設計10:課題発表																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	各課題の提出作品に対して採点をして返却をする。																																		
フィードバックの方法:	各課題の提出作品に対して採点をして返却をする。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準																																
	授業への参加度	20	授業に参加し、課題に対して積極的に取り組んでいるかを評価する。																																
	課題成果品	80	到達目標1及び2によって得られた知識を積極的に取り入れ、それを反映させて仕上げた作品であるかを評価する。																																
教科書:	インテリア設計士テキスト・実技編、日本インテリア設計士協会、(編集・発行)																																		
参考書:	暮らしから描く間取りのつくり方ーおすすめプラン120、吉田桂二(著)、彰国社 誰も教えてくれない建築模型のつくり方、建築知識(編)、エクスナレッジ(発行) 新しい建築の製図、学芸出版社																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力																																		
教員との連絡方法:	マナビーでの掲示板機能、Eメール、授業前後に教室内で応対																																		

授業テーマ:

インテリア設計の基礎を身に付ける

授業の概要:

周辺環境・客層・メニュー等の諸条件を設定し、快適で魅力的なカフェの食事空間を設計するための知識・技法を身に付ける。家具・照明・食器・メニュー等のデザインを立案し、スケッチ・平面図・展開図・パース・等を作成することにより、設計意図に基づいたインテリア計画を学び、インテリア空間を設計する力を養う。

到達目標:

1. インテリアスタイルの内容や違いを理解し、その効果について考えられる
2. 空間構成やインテリアの形状など身近なものに対して関心を抱き、論理的に捉える態度を身に付ける
3. 他者に理解しやすい表現技法やプレゼンテーション能力を身に付ける

授業方法:	実習	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス:実習の内容、課題説明	・日頃から住宅や建築に対する意識を高める ・自宅や商業施設等のインテリアを観察する ・製図手法を復習しておく
	2. インテリアスタイルシートの作成1:課題説明、インテリアスタイルの決定	・インテリア関連の雑誌に目を通し、どのようなインテリアコーディネートがあるか知識を得る ・自身の好きなインテリアスタイルを考える ・シート作成のための材料を揃えておく
	3. インテリアスタイルシートの作成2:スタイルシートの作成	
	4. パースの彩色1:課題説明、彩色方法の説明	・配布資料を用いて彩色方法の基礎知識を学ぶ
	5. パースの彩色2:パースの彩色	・彩色に必要な材料を揃え、彩色の練習をしておく
	6. カフェのインテリア設計1:課題説明、コンセプト及びインテリアスタイルの決定	・カフェのコンセプトを考えておく ・積極的にカフェを訪問し、設計の参考にする
	7. カフェのインテリア設計2:エスキース(平面・断面スケッチ)	・積極的にカフェを訪問し、設計の参考にする ・雑誌などからデザインの工夫を学ぶ
	8. カフェのインテリア設計3:エスキース(家具、窓装飾、内装材)	・積極的にカフェを訪問し、設計の参考にする ・雑誌などからデザインの工夫を学ぶ
	9. カフェのインテリア設計4:エスキース(照明、食器、グリーン、看板)	・積極的にカフェを訪問し、設計の参考にする ・雑誌などからデザインの工夫を学ぶ
	10. カフェのインテリア設計5:製図(平面図、展開図)	・積極的にカフェを訪問し、設計の参考にする ・雑誌などからデザインの工夫を学ぶ ・製図技法を復習しておく
	11. カフェのインテリア設計6::プレゼンボードの作成(3DインテリアデザイナーNeo使用)	・インテリアのプレゼンボードのイメージを考えておく
	12. カフェのインテリア設計7:プレゼンボードの作成(3DインテリアデザイナーNeo使用)	・3Dソフトを用いたプレゼンボードの作成手法の復習を行う
	13. カフェのインテリア設計8:パース作図	・パースの作図手法を配布資料より予習しておく
	14. カフェのインテリア設計9:彩色、仕上げ	・前課題の彩色方法の復習をしておく
	15. カフェのインテリア設計10:課題発表	・プレゼンテーションの練習をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

各課題の提出作品に対して採点をして返却をする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	20	授業に参加し、課題に対して積極的に取組んでいるかを評価する。 到達目標1及び2によって得られた知識を積極的に取り入れ、それを反映させて仕上げた作品であるかを評価する。
	課題成果品	80	

教科書:

参考書:

3DインテリアデザイナーNeoによるとびきり贅沢なプレゼンテーション、河村容治他(著)、メガソフト株式会社(発行)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

マナビーでの掲示板機能、Eメール、授業前後に教室内で対応

授業テーマ:

テーマを持ち寄って街をつくろう

授業の概要:

どのような種類の建築でも共用部分は必ずある。共用部分とは玄関や縁側、ホールや回廊など外と内との境界にあるものことだ。建築のおもしろさは、いかに共用分を作るかにかかっている。この授業では個別のテーマの技術的側面へは深入りせず、共用部分を具体的に考えることで建築のおもしろさを知ること眼目を置く。

到達目標:

共同作業を通して建築の面白さや楽しさを知る。

授業方法:

演習、講義、ミーティングの繰り返しで進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス、各自テーマ設定	どんな種類の建築を学びたいか予め考えてほしい。
2. 敷地を眺めながら全体のレイアウトを考える	図書館で各自のテーマについての事例を探しておく。
3. 各自のテーマについてのミーティング	自分ならどんなものを作るかを考えておく。
4. 同上	
5. 共用部分についての講義	
6. 共用部分についてのミーティング	
7. 細部のチェックについてのミーティング	
8. 図化(フリーハンドによる)	
9. 同上	
10. 模型づくり	
11. 模型づくり	
12. 模型づくり	
13. 模型づくり	
14. 模型づくり	
15. 模型づくり	

受講者へのメッセージやアドバイス:

建築の超入門編的な位置づけなので臆することなく参加してほしい。特に知識や技量を要求するものではなく、建築の見せどころを演習を通して感じ取ってほしい。

フィードバックの方法:

当日書いたものなどを預かることはあるが、後日返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模型の分担部分	60%	共同で制作した模型の担当部分を評価対象とする。評価するのは模型づくりの技術ではなく構想力と想像力である。
ミーティングへの参加度	40%	ミーティングへの積極的な取り組みを評価する。

教科書:

参考書:

アサダワタル「住み開き、家から始めるコミュニケーション」筑摩書房2012

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

Eメール nrn45881@nifty.com

授業テーマ:	被服製作に必要な基礎的知識・技術を身につける		
授業の概要:	設計、裁断、縫製の工程を中心に、被服製作に必要な知識と技術を学ぶための実習を行う。配布するワークシートをベースに、各自が製作した標本作品や撮影した写真を添付したり、解説を記入する等してまとめ、被服製作の基礎資料となる実習ノートを完成させる。 この科目は、被服製作実習(平面構成・立体構成・応用)の履修の条件となる。 また、教職課程の「家庭」教科に関する科目である。		
到達目標:	1.被服製作に関わる基礎的知識を身につける。 2.被服製作に関わる基礎的技術を身につける。 3.被服製作の意義を理解する。 4.習得した知識と技術をまとめ、伝える力を身につける。		
授業方法:	授業目標に準じたクラスサイズで実習を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション・裁縫用具の種類と使い方・被服材料の種類と扱い方		
	2. 手縫いの基礎1 (並縫い・耳ぐけ・三つ折りぐけ・千鳥がけ)	課題を完成させる。	
	3. 直線ミシン各部の名称と使い方	課題を完成させる。	
	4. ロックミシン各部の名称と使い方	課題を完成させる。	
	5. ミシン練習 (ギャザースカート)	課題を完成させる。	
	6. 手縫いの基礎2 (普通まつり・たてまつり・奥まつり・かんぬきどめ・)	課題を完成させる。	
	7. 接着芯類の扱い方	課題を完成させる。	
	8. あきの始末1 (ファスナーとベルト)	課題を完成させる。	
	9. あきの始末2 (ボタン・ボタンホール・ストロングホック・スナップボタン)	課題を完成させる。	
	10. 人体各部の名称と採寸・体型とパターン	課題を完成させる。	
	11. 被服の構成1 (基本パターン)	課題を完成させる。	
	12. 被服の構成2 (基本形スカートの製図)	課題を完成させる。	
	13. 被服製作の流れ1 (製図・裁断・印つけ)	課題を完成させる。	
	14. 被服製作の流れ2 (縫製・仕上げ)	課題を完成させる。	
	15. 被服製作の流れ3 (着装・評価) 実習ノートの整理	課題を完成させる。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業中に完成しなかった課題がある場合は、次回までに各自で完成させて授業に臨むこと。		
フィードバックの方法:	提出物は添削して授業時に返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	参加度	40	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。
	作品	30	到達目標1,2の習得度を評価する。
	実習ノート	30	到達目標3,4の理解度を評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能, 授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

ブラウス・スカートの製作

授業の概要:

「被服製作実習基礎」で習得した知識と技術を踏まえ、洋服の基本アイテムであるブラウスおよびスカートの製作を行う。被服製作の一連の流れを実習を通して体験し、基礎的な洋裁の知識と技術の習得を目指す。また、本科目は教職課程の「家庭」教科に関する科目であり、家庭科の被服分野の指導方法についてもあわせて学習する。

到達目標:

1.被服における立体構成の基礎知識を身につける。
2.基礎的な洋裁技術を習得する。
3.洋服製作の工程を把握し、モノ作りの意義を理解する。
被服製作実習の指導方法もあわせて習得する。

授業方法:

授業概要に準じたクラスサイズで実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ブラウスの製作(1) 採寸とパターン作成	
2.	ブラウスの製作(2) 製図とパターンの整理	パターンを完成させる。
3.	ブラウスの製作(3) 用布の見積りと裁断、芯地貼り、印付け(チャコペーパーとルレットを使用)	本縫いの準備
4.	ブラウスの製作(4) 本縫い(衿作り、身頃縫い合わせ)	本縫いを進める。
5.	ブラウスの製作(5) 本縫い(袖作り、縫い代のしまつ)	本縫いを進める。
6.	ブラウスの製作(6) 本縫い(衿付け、裾のしまつ)	本縫いを進める。
7.	ブラウスの製作(7) 本縫い(袖付け、ボタンホール、ボタン付け)	ブラウスを完成させる。
8.	スカートの製作(1) 採寸と製図(パターン展開)	パターンを完成させる。
9.	スカートの製作(2) 用布の見積りと裁断、印付け	本縫いの準備をする。
10.	スカートの製作(3) 仮縫いと補正	仮縫いチェックの準備をする。
11.	スカートの製作(4) 本縫い(ダーツ・脇・後中心縫い合わせ)	本縫いを進める。
12.	スカートの製作(5) 本縫い(ファスナー付け)	本縫いを進める。
13.	スカートの製作(6) 本縫い(裾上げ、ベルト作り)	本縫いを進める。
14.	スカートの製作(7) 本縫い(ベルト付け、ホック付け、糸ループ付け)	本縫いを進める。
15.	着装と評価	着装写真の撮影準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中に完成しなかった課題がある場合は、次回までに各自で完成させて授業に臨むこと。

フィードバックの方法:

提出物は採点して返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	作品	50	到達目標1,2の習得度と到達目標3の理解度により評価する。
	レポート	20	到達目標3を理解し、作品および製作工程について考察・解説できるかを評価する。
	参加度	30	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能, Eメール

授業テーマ:

浴衣(女物単衣長着)の製作

授業の概要:

日本の伝統服飾文化である和服の中から浴衣を取り上げ、その製作実習を通して平面構成や着装に関する知識と理解を深め、和服の基礎的技術と浴衣の製作方法を習得する。

到達目標:

教職課程の必須科目であることから、浴衣製作時に家庭科の被服製作実習の指導法も合わせて習得し、基本縫いを初めとする教材標本も作製しながら実習を行う。

授業方法:

授業目標に準じたクラスサイズで自習を行う。
標本などを用いて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	和裁に必要な用具と材料
	2. 基本寸法	浴衣の各部名称・構成・寸法
	3. 裁断	用尺の見積もりと裁断
	4. しるし付け(へら)	しるし付け(へら)
	5. 本縫い	袖作り
	6. 本縫い	裾下、背縫い
	7. 本縫い	揚げ縫い
	8. 本縫い	衽付け、衽くけ
	9. 本縫い	脇縫い、脇くけ
	10. 本縫い	裾くけ
	11. 本縫い	襟付け
	12. 本縫い	襟くけ
	13. 本縫い	袖付け
	14. 仕上げ	仕上げ
	15. 着付け	浴衣と帯の着付け

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業説明を受け、指示された箇所まで製作を行い次回の授業にのぞむこと。欠席その他、個人的な理由で生じた進度の遅れは自主的に補修して、翌週までに取り戻すこと。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題製作	70	
	授業への積極的参加度	30	出席及び、作品製作に対する意欲

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

電話、メールにて

授業テーマ:

浴衣(女物単衣長着)の製作

授業の概要:

日本の伝統服飾文化である和服の中から浴衣を取り上げ、その製作実習を通して平面構成や着装に関する知識と理解を深め、和服の基礎的技術と浴衣の製作方法を習得する。

到達目標:

教職課程の必須科目であることから、浴衣製作時に家庭科の被服製作実習の指導法も合わせて習得し、基本縫いを初めとする教材標本も作製しながら実習を行う。

授業方法:

授業目標に準じたクラスサイズで自習を行う。
標本などを用いて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	和裁に必要な用具と材料
2.	基本寸法	浴衣の各部名称・構成・寸法
3.	裁断	用尺の見積もりと裁断
4.	しるし付け(へら)	しるし付け(へら)
5.	本縫い	袖作り
6.	本縫い	裾下、背縫い
7.	本縫い	揚げ縫い
8.	本縫い	衽付け、衽くけ
9.	本縫い	脇縫い、脇くけ
10.	本縫い	裾くけ
11.	本縫い	襟付け
12.	本縫い	襟くけ
13.	本縫い	袖付け
14.	仕上げ	仕上げ
15.	着付け	浴衣と帯の着付け

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業説明を受け、指示された箇所まで製作を行い次回の授業にのぞむこと。欠席その他、個人的な理由で生じた進度の遅れは自主的に補修して、翌週までに取り戻すこと。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題製作	70	
	授業への積極的参加度	30	出席及び、作品製作に対する意欲

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

電話、メールにて

授業テーマ:

ワンピースドレスの製作

授業の概要:

「被服製作実習基礎」「被服製作実習(立体構成)」で習得した知識と技術を発展させ、洋服の基本アイテムであるワンピースドレスの製作を行う。特に、材料およびデザインに応じた製作手法、意図するシルエットの創出について実習を通して検討し、洋服製作に関する知識と技術および感性を磨き、応用力を養う。

到達目標:

1.被服における立体構成の知識を深める。
2.洋裁技術の応用力を養う。
3.より良い洋服製作のための工程を理解し、モノ作りの感性を磨く。

授業方法:

授業概要に準じたクラスサイズで実習を行う。
プリント、標本などを用いて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	採寸とデザイン	採寸のための服装を準備する。 デザインの参考資料を収集する。
2.	パターン作成	パターンを完成させる。
3.	用布の見積りと表地の裁断、印付け	使用材料を準備する。
4.	仮縫い	仮縫いを完成させる。
5.	仮縫い補正とパターン修正	仮縫い作品の試着の準備をする。
6.	見返し・裏地・芯地の裁断、芯地貼り、印付け	見返し・裏地・芯地用パターンを作成する。
7.	本縫い(1)(ダーツ、縫い代の始末)	本縫いを進める。
8.	本縫い(2)(表身頃、見返し)	本縫いを進める。
9.	本縫い(3)(表スカート、ウエスト接ぎ)	本縫いを進める。
10.	本縫い(4)(コンシールファスナー、脇)	本縫いを進める。
11.	本縫い(5)(裏身頃、裏スカート、裏ウエスト接ぎ)	本縫いを進める。
12.	本縫い(6)(表裏合わせ)	本縫いを進める。
13.	本縫い(7)(裾の始末、あきの始末)	本縫いを進める。
14.	本縫い(8)(仕上げ)	作品を完成させる。
15.	着装と評価	作品着装写真の撮影準備をする。 使用材料の整理をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中に完成しなかった課題がある場合は、次回までに各自で完成させて授業に臨むこと。

フィードバックの方法:

提出物は添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	作品	50	到達目標1, 2の習得度と到達目標3の理解度により評価する。
	レポート	20	到達目標3を理解し、作品および製作工程について考察・解説できるかを評価する。
	参加度	30	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、Eメール

授業テーマ:	消費者問題の実態および課題・対策と真に豊かでゆとりある消費生活の確立		
授業の概要:	近年、消費生活はきわめて便利で豊かになったようにみえるが、その一方では有害・欠陥商品・サービスによる消費者被害や、若者・主婦・高齢者を狙った悪質商法などの取引・契約に係わるトラブルが多発し深刻化している。生産・流通のグローバル化とともに、消費者問題もグローバル化し、最近、インターネットによる国内のみならず国際的な電子商取引に係わる消費者被害も増加している。 本講義では、生産・流通・販売・消費との関連で、消費者問題の理論および実態と課題・対策・法制度について明らかにする。		
到達目標:	本講義を通して、(1)真に豊かでゆとりある消費生活の確立、(2)消費者の権利と自立支援の確立、(3)科学的な認識力と実践力を有し、消費者の権利と責任をを自覚した、賢く自立した勤労生活者や家庭科教員、生活専門家の養成を目指している。		
授業方法:	(1)講義形式で授業を行う。その際、理解を助けるため、適宜、経済社会問題関連のビデオを視聴したり、新聞記事切抜きなどの資料を配布し解説したりする。 (2)授業を前半と後半に分けて、それぞれ1回ずつ授業関連の基礎的論文を採り上げ、その内容のまとめと批評のレポート作成を課す。これは、準備・補充の主体的学習にも通じる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	* 配布し説明したシラバスおよび「レポートの課題とレポートの提出期限」の資料の復習・再確認。 * 説明しなかった就活情報関連の新聞記事の通読・予習 * 口頭での補足説明を再確認。 * 左記補講(1)の関連の新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り。	
	2. 消費者問題論の位置づけ・問題意識と課題と方法補講(1)就活情報	(1)授業前半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。 (2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。	
	3. 消費者問題の定義と範囲	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	4. 消費者問題の実態と発生要因	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	5. 消費者問題・消費者運動・消費者政策の歴史	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	6. 消費者保護基本法と消費者保護行政	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	7. 消費者基本法と消費者の権利	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	8. 商品の安全性をめぐるトラブルと製造物責任(PL)法(1)製造物責任法とは	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。 上記(1)の前半の課題については、次週レポートの提出。	
	9. 商品の安全性をめぐるトラブルと製造物責任(PL)法(2)消費者被害の事例・判例の検討	(1)授業後半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。 (2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。	
	10. サービスの安全性をめぐるトラブルと関連法制度	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	11. 商品・サービスの取引・契約をめぐるトラブルと特定商取引法(1)特定商取引法とは	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	12. 商品・サービスの取引・契約をめぐるトラブルと特定商取引法(2)消費者被害の事例・判例の検討	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	13. 消費者契約法と消費者の権利(1)消費者契約法とは	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	14. 消費者契約法と消費者の権利(2)消費者被害の事例・判例の検討	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	15. 総括 消費者問題の実態および課題・対策と真に豊かでゆとりある消費生活の確立	上記(1)の後半の課題については、当日レポートの提出。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	(1)一夜漬けで丸暗記した知識や理論は、テストで良い点を取るのに役立ちますが、思考力や創造力などの向上には繋がりません。筆記をしながら、理解する努力を積み重ねて頭に刻み込まれた知識や理論は思考力や創造力の向上に繋がるとともに、問題解決や新しいものを創造する力にもなります。そこに学びの喜びがあり楽しみがあります。時間を掛けて理解する個人的な努力を怠らないで下さい。 (2)授業では、大事なことをメモしながら聴講する習慣を身に付けて下さい。集中力を維持し居眠りも防ぐことができます。		
フィードバックの方法:	成績評価した各自の2つのレポートおよびノートは、成績公表後に、研究室前に長机および表示付きのカゴを置いて一括返却いたします。当カゴは科目別・学科別・専攻別・学籍番号別に分類され設置されていますので、容易に各自の提出物を一括して取り出すことができます。 受け取りに来ずに長期間放置されている場合は、督促状を出します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	(1)2つのレポートのまとめ	30%	(1)タイトルと目次の作成、(2)まとめ(各節ごとに要点の箇条書きや模式図を用いて/文章の丸写しはダメ/まとめ用紙枚数に上限なし)、当内容の質(的確さや簡単明瞭など)と量で評価。
	(2)2つのレポのコメント・感想	20%	内容の質(的確さや独自性など)と量(文章4～5行では短すぎる。できるだけ半ページ以上。行数に上限なし。)
	(3)ノートのメモ・板書	10%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(4)ノートのビデオのメモ・感想	15%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(5)ノートの資料の線引精読	10%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
	(6)出席とノート提出	15%	この質および量の程度で授業中の態度や意欲が分かる。
教科書:	講義資料は、適宜、授業中に配布する。		
参考書:	国民生活センター編『消費者問題と消費者保護』第一法規、1990年 日本消費者教育学会編『新・消費者保護論』光生館、1994年 吉田良子編著『消費者問題入門(第3版)』建帛社、2006年 御船美智子編著『消費者科学入門』光生館、2006年 消費者庁企画課編『ハンドブック消費者2014』		

国民生活センター編『くらしの豆知識』

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内や研究室内で対応。

授業テーマ:

身近な環境を理解し、自らの生き方を検討する

授業の概要:

環境問題というと、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨といったことのみを捉えがちである。しかし、環境問題は私たちの生活において多様なかたちで密接にかかわっている。その多様にかかわる環境問題に対し、次世代育成としての環境教育の観点から私たちの生活を見直し、考え、他者に伝えることの意味、その方法について学ぶ場として授業を進めていく。

到達目標:

・環境問題に対する社会の動きを理解する

・持続可能な社会のために、自身ができることを考えることができる

授業方法:

講義形式を基本とし、数回のグループ学習を行なう。また、必要に応じて学外見学実習を行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	2. 豊かさや環境教育	課題として与えられた文章を事前に読了しておくことを求める。
	3. 環境教育の概要・目的	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	4. 身近な環境調べ(グループ学習)	自身の地域のごみ分別について、事前に調べレポートとして提出することを求める。
	5. 環境教育の対象1	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	6. 環境教育の対象2	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	7. 環境教育の方法とプログラム	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	8. フードマイレージ買い物ゲーム(グループ学習)	フードマイレージについて、自身で調べ整理しておくことを求める。
	9. 世界における環境教育	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	10. 子どもの遊びと環境教育	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	11. 自然体験プログラム(グループ学習)	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	12. 企業と環境教育	学習した内容を基に、企業のSCRや環境活動について自身で調べ、レポートにまとめることを求める。
	13. 社会の中の環境教育	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	14. 環境教育プランの作成(グループ学習)	学んだ内容について整理しておくことを求める。
	15. まとめ	学んだ内容について整理しておくことを求める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

身のまわりの環境問題について、自身がどのように関わっているのか、これからの社会が持続可能なものとなるためにはどのように生活していくべきなのかを考えながら受講することを望む。

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	20	環境問題に関する社会の動きを理解するため、身近な環境について調べ、整理できているかを評価する。
	出席及び課題提出	30	積極的に授業に参加し、社会の動きを理解し、自身ができることを考えようとしているかを評価する。
	定期試験	50	環境問題に対する社会の動きを理解し、自身ができることを考えることができるかを評価する。

教科書:

参考書:

ミハエル・エンデ作「モモ」岩波少年出版文庫

水山光春編著「よくわかる環境教育」ミネルヴァ書房

井上有一・今村光章編「環境教育学」法律文化社

小澤紀美子編著「持続可能な社会を創る環境教育論」東海大学出版部

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール、マナビー掲示板機能を利用

授業テーマ:

授業の概要: 講義科目で学習した生活に関わる身近なテーマについて、実験・実習を通して、科学的に検証・分析・考察する。
「家庭科教育法」履修者が、教材研究事例として活用することを視野にいれて実施する。

到達目標: 1. 講義科目で学習した知識について、本質的・科学的に理解を深める。
2. 生活者として具体的な行動改善につなげられる意識を養う。
3. 自然科学の実験の基礎的知識と方法を修得する。

授業方法: 1グループ4人程度、8グループ程度で実験・実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	レポートの作成
2.	布の構造	レポートの作成
3.	絹の特徴と真綿	レポートの作成
4.	綿引実習	レポートの作成
5.	妊婦・障がい者疑似体験	レポートの作成
6.	水の種類と特性	レポートの作成
7.	乳化応用実習	レポートの作成
8.	食品中の糖度および塩分の測定	レポートの作成
9.	でんぷんの調理特性	レポートの作成
10.	大豆蛋白の凝固	レポートの作成
11.	果物・清涼飲料水のビタミンCの検出	レポートの作成
12.	繊維の鑑別1(溶解・染色)	レポートの作成
13.	繊維の鑑別2(燃焼)	レポートの作成
14.	羊毛のフェルト化	レポートの作成
15.	布の吸水性試験	レポートの作成
	布の漂白・蛍光増白	レポートの作成
	繊維製品の取り扱い絵表示	調査・レポートの作成
	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物は添削して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	参加度	60	授業参加への積極性・意欲的態度を評価する。欠席と遅刻については厳正に対処し、減点する。
	レポート	40	到達目標を理解した上で、実験・実習の記録と考察をまとめているか評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法: マナビーの掲示板機能, 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

ライフステージにおける健康課題を理解し、健康的に過ごすための知識とその方法について学修する

授業の概要:

ライフステージにおける健康課題を理解するとともに、家庭において起こりうる事故や感染症への対応、健康的な日常生活を過ごすために必要な健康管理に役立つ知識や実践方法を学ぶ

到達目標:

1. ライスステージにおける健康課題を理解できる
2. 自分の体の情報を読み取るバイタルサインを知り、その方法を理解できる
3. 家庭で起こりうる事故と感染症を理解し、その対処方法を理解できる
4. 生活習慣病にならないために子ども時代の過ごし方を考える

授業方法:

講義・講義・演習の混合、講義・実技の混合、演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護とは 家庭における看護 光木	
2.	疾病構造の変化と保健・医療・福祉の政策 光木	2025年問題とは何かを公的資料で確認しておく
3.	自分の体の情報を読み取るバイタルサイン:呼吸・体温 當目	起床時(活動前)の体温を測定しておく
4.	自分の体の情報を読み取るバイタルサイン:筋力・関節可動域 當目	事前配布資料に目を通しておく
5.	自分の体の情報を読み取るバイタルサイン:血圧・脈拍 小笠	起床時(活動前)の1分間の脈拍数を測定しておく 自分の身体で脈拍が触れる場所を探し、事前配布資料に記載しておく
6.	家庭で起こりうる事故への対処①(骨折・熱傷・傷・溺水・熱中症) 小笠	骨折、熱傷(やけど)、外傷、溺水、熱中症が起きたときに、自分ならどのような対処をするか、体験を振り返ったり考えたりしておく
7.	家庭で起こりうる事故への対処②(ショック・心停止) 小笠	事前に紹介するAEDのゲームアプリをインストールし、体験しておく
8.	家庭での感染症の予防と発症時の対応①(インフルエンザ・ノロウイルス・食中毒) 葉山	食中毒を予防するために自分ならどのような行動をとるか、事前に考えておく
9.	家庭での感染症の予防と発症時の対応②(マスク・咳嗽・手洗いの正しい方法) 葉山	手洗いの演習を行うので、事前配布資料内の手洗いの正しい方法について目を通しておく
10.	ライフステージの特性と家族の発達段階 光木	事前配付資料に目を通しておく
11.	生活習慣病にならないために子ども時代の過ごし方を考える① グループ演習 光木	子どもの食生活・運動・睡眠・無理なダイエット・喫煙について最近の現状と課題を調べておく
12.	生活習慣病にならないために子ども時代の過ごし方を考える② グループ演習 光木	子どもの食生活・運動・睡眠・無理なダイエット・喫煙について政策を調べておく
13.	生活習慣病にならないために子ども時代の過ごし方を考える③ グループ発表 光木	グループワークでまとめた内容をPPTで発表するため、プレゼン準備をする。
14.	住み慣れた家で看取る 光木	自分の最後に過ごしたい場所は病院か在宅か、またその理由は何かを考えておく
15.	まとめ 光木	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

グループ発表は、教室でまとめて解説する。提出物についてはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	到達目標1に関する知識と到達目標4に関する理解度より評価する
	発表、討論	10	グループ発表での自分の役割とその達成度、尊んでは到達目標4を踏まえた上で発言しているかを評価する
	授業への参加度	40	積極的に授業に参加し、到達目標2と到達目標3ができるようになったかを評価する

教科書:

特になし 必要に応じて資料を配布する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する

授業テーマ:	消費者の権利と責任と自立、消費者市民社会実現のための消費者教育		
授業の概要:	消費者問題の変遷や消費者トラブルの現状を認識し、消費者の権利と責任と自立、くらしを守る法律、消費者教育に関する政策や法律など、消費生活や消費者教育に関する基礎的な知識を実生活と関係づけて学ぶ。また、企業、行政、学校の具体的な消費者教育と啓発の取組をとおして、適切な消費者教育教材や消費者教育の現状について理解する。さらに社会、経済、環境などを考えた消費行動ができる消費者市民による持続可能な消費者市民社会実現のための消費者教育(以下、消費者市民教育)の基本的な考え方や重要性を理解し、今後の消費者市民教育の取組や推進について考える。		
到達目標:	・消費生活や消費者教育に関する基礎的な知識を習得する。 ・消費者市民としての消費行動を理解し、できることから実践する力を身につける。 ・消費者市民教育について理解し、具体的な取組や推進について考えることができる。		
授業方法:	講義形式で行うが、理解を深めるため必要に応じて資料(プリント)のほかに視聴覚教材や実物教材の活用、事例研究を行う。授業中に学習内容に応じた課題を出し解答しながら授業を進めることが多い。消費者問題とくらしを守る法律では、身近な消費者被害の事例研究や対策をとおして、消費者の権利と責任と自立、消費者教育の重要性などについて解説する。また、企業、行政、学校における消費者市民教育の取組では、行政や企業が作成した教材(リーフレットやゲームなど)と実践例により具体的に説明する。第14週にまとめのレポートを作成し、第15週に各自が収集した消費生活情報を交換(発表)する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 消費生活情報 2. 消費者トラブルの現状 3. 消費者問題の発生と変遷 4. 主な問題商法と危害・危険情報 5. 消費者政策と消費者教育 6. くらしを守る法律(事例研究) 7. わが国の消費者教育の歴史と展開 8. 消費者の権利と責任と自立 9. 消費者市民教育の展開と推進 10. 企業における消費者市民教育の取組 11. 行政における消費者市民教育の取組 12. 学校における消費者市民教育の取組 13. 企業と行政と学校の取組のまとめ(実践例紹介) 14. まとめと振り返り(レポート作成) 15. 消費生活情報交換(発表)	講義内容をまとめる 講義内容をまとめる 事前配付のプリントを読み消費者問題がなぜ起こるかを考えておく 事前配付のプリントの問題商法について調べ被害に遭わないための対策を考えておく 事前配付のプリントを読み消費者教育の重要性について考えておく 事前配付のプリントを読みくらしを守る法律について理解しておく 講義内容をまとめる 消費者の権利と責任、消費者の自立について事前にまとめておく 消費者市民としての具体的な消費行動をまとめる 企業の消費生活関連資料について検討した結果をまとめる 消費者教育授業案と消費者啓発の替え歌を作るための準備をしておく 教材研究を基に適切な消費者教育教材の条件をまとめる 実践例を基に企業と行政と学校の効果的な連携についてまとめる これまでの学習内容を総合的に復習しレポート作成の準備をしておく 発表内容をまとめ効果的な発表方法を考えておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:	消費生活や消費者教育に常に関心を持ち、必要に応じて情報を収集しまとめておくこと		
フィードバックの方法:	授業中に行った課題については授業中に解説し、提出物は原則として提出物ごとに採点して返却する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50%	到達目標の消費者教育などに関する知識や到達目標の消費者市民教育についての理解度と、それらを論理的に説明できているかを評価する
	提出課題	40%	各回の課題のそれぞれの到達目標に関する知識と理解度と意欲により評価する。10回程度の課題の総合評価とする
	発表	10%	到達目標のすべてを踏まえたうえで適切な情報を収集し効果的に発表しているかを評価する
教科書:	使用しない		
参考書:	授業中に必要に応じて紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で質問などに応じる		

授業テーマ:

住まいをめぐる日本の文化と歴史を学び、理解する。

授業の概要:

住まいは都市に固有の存在ではないが、都市の住まいは特有である。したがって主たるテーマは、都市および都市の住まい、そして在地の住まいである。第一に、前近代における都市の成立と形成、展開、近代以降の都市のあり方、第二に都市の住まいの成立と展開、第三に在地の住まい、その地域性、階層性、文化性について学ぶ。さらに近現代、未来の都市と住まいの連続性、不連続性についても展望する。

到達目標:

東アジア東端の地、日本の住まいをめぐる、文化と歴史の独自性と普遍性について学び、理解し、正しく伝え、表現できる能力と感性を涵養する。

授業方法:

教科書に沿って講義します。要点をパワーポイントによって揭示し、あわせて関連する写真を映写しつつ詳述します。パワーポイントの内容は、PDFをマナビーに予め提示します。また理解の確認と定着を図るため、随時、演習問題(小テスト)を実施します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 日本住宅史の全体像	教科書の目次を通読し、全体像を把握しておく。
	2. 日本古代の都城	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	3. 平安京の空間構造	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	4. 平安京の都市化と公家の住まい	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	5. 京都御所などの見学	京都御所あるいは見学予定の住まいについて、見学の詳細について授業時に説明した内容を確認しておく。
	6. 寝殿造の本質と住宅史の原理	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	7. 都市住宅としての町屋	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	8. 中世の住まい	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	9. 中世から近世の住まい	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	10. 近世の住まい、都市と集落	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	11. 数寄屋と茶室	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	12. 近世民家の成立	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	13. 民家の地域性と普遍性	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	14. 近代化、西洋化と住まいの変容	教科書とともに、PDFをダウンロードし、通読しておく。
	15. まとめ	これまでに学習した内容について全体を通して再確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本史に関する高校卒業レベル(日本史B)の知識が必要です。授業(金曜)までに、授業時に映写するパワーポイントの内容は、マナビーにPDFで公開しますので、教科書の該当箇所とともに事前に一読しておいてください。また授業で学習した内容の理解を深めるため、現地に積極的に出向き実見することを心がけてください。

フィードバックの方法:

授業時に実施する小テスト(演習問題)や提出されたレポートなどについて、教室でまとめて解説、講評する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60	到達目標に関する理解度により評価する。理解度とその説明力、表現力が十分涵養されているかを基準とする。
	演習問題(小テスト)	25	授業への参加度ならびに、授業内容を的確に把握し、理解できたかを評価する。
	レポート	15	到達目標に関する課題について、その達成度と各自の創造性ならびに表現力について評価する。

教科書:

藤田勝也ほか、日本建築史、昭和堂

参考書:

日本建築学会編、日本建築史図集(新訂版もしくは、新訂第二版)、彰国社
西山良平・藤田勝也・鈴木久男編、平安京の地域形成、京都大学学術出版会
西山良平・藤田勝也編、平安京と貴族の住まい、京都大学学術出版会
西山良平・藤田勝也編、平安京の住まい、京都大学学術出版会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。また質問、問い合わせ等、Eメールでも対応します。
fujitama@kansai-u.ac.jp

授業テーマ:	食物栄養科学(食品学・栄養学・調理科学)を学ぶために必要とする基礎的な有機化学を学ぶ。																																		
授業の概要:	有機化合物の命名法や官能基の特徴と反応性および反応のメカニズムについて有機電子論的に理解できるよう努める。また、日常生活と関わりの深い有機化合物や取り扱いに注意を要する薬品についても学ぶ。有機化合物の分類と官能基の化学的性質に基づく反応性について各論的に説明する。また、有機化合物に名称をつけたり、文献検索ができるようにIUPAC命名法の使い方について説明し、演習も取り入れる。																																		
到達目標:	食品学、栄養学を学ぶ上で必要とする基礎的な有機化学の知識を修得することが目標である。食品成分や生体分子に対して有機化学的な見方ができるようにして「生化学」(2年次に履習)への橋渡しとする。																																		
授業方法:	講義、時にはDVD映像も使用する。有機化合物の命名法や反応性の理解を促すために問題演習も行う。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 炭素原子と有機化合物、アルカン</td><td>高等学校で未履修の学生もいるので初回は特に求めない。</td></tr><tr><td>2. アルケン、シス・トランス異性体</td><td>炭素原子と有機化合物、アルカンを復習</td></tr><tr><td>3. アルケン、アルキン、付加反応</td><td>アルケン、シス・トランス異性体を復習</td></tr><tr><td>4. ベンゼン、求電子置換反応</td><td>アルケン、アルキン、付加反応を復習</td></tr><tr><td>5. 芳香族化合物の求電子置換反応</td><td>ベンゼン、求電子置換反応を復習</td></tr><tr><td>6. アルコール(1)</td><td>芳香族化合物の求電子置換反応を復習</td></tr><tr><td>7. アルコール(2)</td><td>アルコール(1)を復習</td></tr><tr><td>8. フェノール(1)</td><td>アルコール(2)を復習</td></tr><tr><td>9. フェノール(2)、エーテル</td><td>フェノール(1)を復習</td></tr><tr><td>10. アルデヒド、ケトン、ヘミアセタール、糖類の性質</td><td>フェノール(2)、エーテルを復習</td></tr><tr><td>11. カルボン酸、脂肪酸の性質</td><td>アルデヒド、ケトン、ヘミアセタール、糖類の性質を復習</td></tr><tr><td>12. エステル、リン酸エステル</td><td>カルボン酸、脂肪酸の性質を復習</td></tr><tr><td>13. アミン、アルカロイド</td><td>エステル、リン酸エステルを復習</td></tr><tr><td>14. アミド、ペプチド結合、アミノ酸など両性電解質の性質</td><td>アミン、アルカロイドを復習</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>アミド、ペプチド結合、アミノ酸など両性電解質の性質を復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 炭素原子と有機化合物、アルカン	高等学校で未履修の学生もいるので初回は特に求めない。	2. アルケン、シス・トランス異性体	炭素原子と有機化合物、アルカンを復習	3. アルケン、アルキン、付加反応	アルケン、シス・トランス異性体を復習	4. ベンゼン、求電子置換反応	アルケン、アルキン、付加反応を復習	5. 芳香族化合物の求電子置換反応	ベンゼン、求電子置換反応を復習	6. アルコール(1)	芳香族化合物の求電子置換反応を復習	7. アルコール(2)	アルコール(1)を復習	8. フェノール(1)	アルコール(2)を復習	9. フェノール(2)、エーテル	フェノール(1)を復習	10. アルデヒド、ケトン、ヘミアセタール、糖類の性質	フェノール(2)、エーテルを復習	11. カルボン酸、脂肪酸の性質	アルデヒド、ケトン、ヘミアセタール、糖類の性質を復習	12. エステル、リン酸エステル	カルボン酸、脂肪酸の性質を復習	13. アミン、アルカロイド	エステル、リン酸エステルを復習	14. アミド、ペプチド結合、アミノ酸など両性電解質の性質	アミン、アルカロイドを復習	15. まとめ	アミド、ペプチド結合、アミノ酸など両性電解質の性質を復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 炭素原子と有機化合物、アルカン	高等学校で未履修の学生もいるので初回は特に求めない。																																		
2. アルケン、シス・トランス異性体	炭素原子と有機化合物、アルカンを復習																																		
3. アルケン、アルキン、付加反応	アルケン、シス・トランス異性体を復習																																		
4. ベンゼン、求電子置換反応	アルケン、アルキン、付加反応を復習																																		
5. 芳香族化合物の求電子置換反応	ベンゼン、求電子置換反応を復習																																		
6. アルコール(1)	芳香族化合物の求電子置換反応を復習																																		
7. アルコール(2)	アルコール(1)を復習																																		
8. フェノール(1)	アルコール(2)を復習																																		
9. フェノール(2)、エーテル	フェノール(1)を復習																																		
10. アルデヒド、ケトン、ヘミアセタール、糖類の性質	フェノール(2)、エーテルを復習																																		
11. カルボン酸、脂肪酸の性質	アルデヒド、ケトン、ヘミアセタール、糖類の性質を復習																																		
12. エステル、リン酸エステル	カルボン酸、脂肪酸の性質を復習																																		
13. アミン、アルカロイド	エステル、リン酸エステルを復習																																		
14. アミド、ペプチド結合、アミノ酸など両性電解質の性質	アミン、アルカロイドを復習																																		
15. まとめ	アミド、ペプチド結合、アミノ酸など両性電解質の性質を復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回の授業をスムーズに理解するためには、前回に学んだ授業内容を十分に復習して次回の授業に臨むことが重要である。特に授業中に行った演習問題や教科書の章末問題(略解あり)を解くことによって知識を整理し、理解を深め、また思考力を養うことができる。また、教科書に記載の無い事柄であっても重要な事項(反応のメカニズム、食物栄養科学との関わりなど)を説明するので、配布した教材プリントやノート等を見て毎回の授業後に復習を怠らないことが大切である。																																		
フィードバックの方法:	レポート課題として出題した問題演習は、授業中に解説・解答を行う。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席状況、レポート等の平常点</td><td>15</td><td>平常の学習状況</td></tr><tr><td>中間テスト</td><td>35</td><td>問題演習採点評価</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>50</td><td>問題演習採点評価</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席状況、レポート等の平常点	15	平常の学習状況	中間テスト	35	問題演習採点評価	定期試験	50	問題演習採点評価																						
評価方法	割合	評価基準																																	
出席状況、レポート等の平常点	15	平常の学習状況																																	
中間テスト	35	問題演習採点評価																																	
定期試験	50	問題演習採点評価																																	
教科書:	原田義也著『生命科学のための有機化学I—有機化学の基礎』東京大学出版会																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	Eメールで連絡、または直接オフィスアワーに面談対応																																		

授業テーマ:

基礎統計

授業の概要:

今後統計法を使えるようになるための基礎的知識を獲得し、さらに実際にデータ分析の初歩ができるようになるために、講義形式で授業を行うが、可能な限り、主にエクセルを用いての統計分析のデモも行う。

到達目標:

統計学の基礎のために必要な知識を身につけること。
度数分布表の作成、ヒストグラムの描画、および平均、分散、標準偏差、相関係数のなどの基本統計量を計算できるようになること。
推測統計の基礎として、母平均の95%信頼区間、二つの母平均の差の検定(t検定)、 χ^2 検定、無相関の検定などに関する数値の計算とその読み方を理解すること。

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 統計と調査 尺度の種類など	エクセルもしくはそれに類する表計算ソフトの基本操作が出来るようになっておくこと。具体的には、エクセル等を開いて、数値を入力し保存する作業がスムーズに出来ること。
	2. 度数分布表とヒストグラム	ソフトを使用して、データを入れて、度数分布表とヒストグラムが描けるようになること。およびその意味がわかること。
	3. 基礎統計量(代表値・分散・標準偏差)	事前配布のレジュメに目を通し、平均と分散について予習しておくこと。
	4. 基礎統計量その2(代表値・分散・標準偏差)	ソフトを使用して、データを入れて、平均、分散、標準偏差を算出できること。
	5. 正規分布とデータの標準化	事前配布のレジュメに目を通し、正規分布について予習しておくこと。
	6. 母平均の推定 その1	標準誤差について事前に予習しておくこと。
	7. 母平均の推定 その2 95%信頼区間を求める	確率分布について事前に予習しておくこと。
	8. 母平均の推定 その3 95%信頼区間を求める	95%信頼区間の意味を事前に予習しておくこと。
	9. 統計的仮説検定 その1 統計的検定とは	統計的仮説検定の基本的考え方、すなわち、帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域などの用語について、事前配布したレジュメを読んでおくこと。
	10. 統計的仮説検定 その2-1 2つの平均値の差の検定	t検定について、帰無仮説、対立仮説を具体的に理解できるように、事前配布したレジュメを読んでおくこと。
	11. 統計的仮説検定 その2-2 2つの平均値の差の検定	エクセル等を用いてt値が出せるようにしておくこと。
	12. 統計的仮説検定 その3 度数の検定	カイ2乗検定について、帰無仮説、対立仮説を具体的に理解できるように、事前配布したレジュメを読んでおくこと。
	13. 相関係数 その1 相関係数の計算方法	分散の復習と共分散について予習しておくこと。
	14. 相関係数 その2 無相関の検定	統計的仮説検定について復習し、無相関の検定のt値が出せるようにしておくこと。
	15. まとめ	これまでの内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では、理論の理解も大事にしますが、実際にデータを分析できるようになることを目指します。エクセルやナンバーズなどの表計算ソフトはむろんのこと、SPSSやRといった統計専用のソフトにも触れてみてください。統計分析の能力は、将来武器になります。

フィードバックの方法:

授業の終わりにコメントペーパーを配布するので、そこに質問等を記入すること。必要があれば次の回にコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	80%	100点満点の試験を行い、80%に換算し、宿題の点と併せて期末得点とする。到達目標に対して、具体的なデータを提示し、必要な数値の計算およびその意味を正しく理解できているかによって評価する。
	宿題	20%	宿題をすべて提出した場合は20点とし、提出量に比例して点数を配分する。よって宿題の半分を出した場合は10点とする。

教科書:

参考書:

高橋信「マンガでわかる統計学」オーム社
小島寛之「完全独習 統計学入門」ダイヤモンド社
宮川公男「基本統計学」有斐閣
柳井久江「4Steps エクセル統計」星雲社
菅民郎「Excelで学ぶ統計解析入門」オーム社
羽山博「できる やさしく学ぶExcel統計入門 難しいことはパソコンにまかせて 仕事で役立つデータ分析ができる本」インプレス
米谷学「7日間集中講義! Excel統計学入門: データを見ただけで分析できるようになるために」オーム社
門脇香奈子「できるExcel ピボットテーブル データ集計・分析に役立つ本」インプレス

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメールにて受け付ける。メールアドレスは、授業開始後に提示する。

授業テーマ：	動物・植物組織の観察と微生物の培養を通じ生物の知識と実験手技を学ぶ	
授業の概要：	本実験は生物試料の正しい扱い方と観察、及び無菌操作による微生物の培養方法を学ぶことを目標としている。顕微鏡の正しい使い方を習得した上で、細胞や花粉、植物内含有物を顕鏡観察する。他にもニワトリの筋肉、硬骨、軟骨等の動物組織の観察も行う。このことにより、大学入学までに学んできた内容をより詳細に理解することを目的とする。また、培養実験では、器具の洗浄・滅菌、培地の調製・滅菌、無菌操作の必要性を理解し、これらの手技を習得する。市販の納豆から納豆菌を分離培養することで、純粋培養の必要性や分離できた納豆菌の生理機能を理解し、環境微生物試験では、私たちの生活に密着したカビ類、細菌類の観察と同定を行う。植物組織培養実験では、市販のにんじんからカルスを誘導する。生物試料の統計処理方法及び推定・検定の基礎を統計ソフトを用いて実習する。	
到達目標：	実験データは、毎回レポートで報告することになる。レポートは、独りよがりな内容になることなく、その実験内容を知らない自分の家族に読んでもらっても理解してもらえるような真心のこもった内容にすることを目標に、社会人になってからも必要な第三者に発信する術を身につける。次年次以降の本格的な実験実習のためにも基本的な実験手技を習得することを目的とする。 培養実験では、器具の準備や培地の調製を含め、菌体の培養開始から観察までに数か月を要し、各回完了型の内容になるとは限らない。そのため、いつどの実験を何のために行うか、いつまでにそのレポートを書き終えるか等の中長期的スケジュール管理ができるようにする。	
授業方法：	毎回、最初に実験の内容説明、基本的知識の確認を行ってから実験にはいる。難しい手技は必ず教員が学生にデモンストレーションを行う。クラス半分が顕微鏡実験、もう半分が培養実験を行い、次回その内容をローテーションする授業形態をとる回が何度かあるため、学生はどちらの実験をするかを把握して実験に臨む必要がある。顕微鏡実験は個人で、培養実験は班単位での実験となる。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容 1. 光学顕微鏡の使い方 マツ科、ユリ科の花粉細胞の顕鏡とスケッチ・マイクロメーターを用いた花粉の大きさの測定 2. 器具の洗浄・培地作成・無菌操作の習得 実験器具の洗浄方法と使用方法を学び、納豆菌やカルス等を培養するための培地を作成しその滅菌方法を学ぶ。ガスバーナーの正しい使い方を確認しガスバーナーの元での無菌操作を習得する。 3. 貯蔵デンプン・鐘乳体の観察とスケッチ ジャガイモ・サツマイモ塊根、バナナのデンプン粒、インドゴムの鐘乳体の観察とスケッチを行う。 4. 環境微生物試験 空中に浮遊している細菌やカビ類を経時的に寒天平板で捕捉し、質的・量的に調査する。手のひらの微生物検査を手洗い前と手洗い後に行い、どちらが質的・量的に汚染度が高いか検討する。希釈法による土壌細菌の分離も行う。 5. レポートの書き方について 文章の書き方とグラフ・表の作成方法を講義する。環境微生物試験の観察と考察 6. 細胞分裂と原形質分離の観察 タマネギの鱗茎細胞を観察する。タマネギ根端の細胞分裂の各ステージを観察・スケッチし、各ステージの所要時間を算出する。 7. 納豆菌の分離培養から釣菌まで 市販の納豆から納豆菌を分離し、後日釣菌を行う。 8. 微細藻類の同定と形態的特徴のスケッチ・動物組織の観察とスケッチ 鴨川水系の微細藻類を観察し実際の大きさを顕微鏡下で測定し同定する。手羽先の解剖及び筋肉組織・軟骨・硬骨の観察とスケッチ。 9. 納豆菌を使った実験・植物組織培養 納豆菌のグラム染色と芽胞染色実験並びにアミラーゼ、プロテアーゼ、DNase活性の有無を調べる酵素活性試験。植物組織培養では、MS培地を調製し市販のにんじんからカルスを誘導する。 10. パラフィン法による連続切片の作成とHE染色 アサリの組織でヘマトキシリン・エオシンの二重染色を行う。染色に至るまでの組織の固定・脱水・透徹・パラフィン浸透・ミクロトームで連続切片作成といった組織染色の基本的な工程を学ぶ。 11. 観察の結果・考察 納豆菌の酵素活性試験、カルス、HE染色の観察と写真撮影。 12. 植物色素の同定・ヒトの核型分析 ホウレンソウから抽出した光合成色素をペーパークロマトグラフィーにより分離し、分離された色素が何か同定する。ヒトの核型分析は、配布する核型資料の染色体配列を分析する。 13. 生物統計(1) モデルを用い、平均値・分散・標準偏差・相関等をEXCELで実習。実際に、ムラサキハナマメの長径・短径を各自で測定し、統計処理を行う。 14. 生物統計(2) モデルを用い、推定と検定をEXCELで実習。	準備学習等の内容 顕微鏡の部位名称及び基本的な使い方を予習する。観察試料の花粉はどのような形態をしているのか、予測してノートに書いておく。花粉の大きさの測定もするので、マイクロメーターの使い方も予習する。 細菌類やカビ類を培養するためには、なぜ器具の洗浄・滅菌及び培地の調製・滅菌、無菌操作が必要なのかを考える。ガスバーナーの使い方を予習する。GPY培地の組成を確認しておく。 観察試料の貯蔵デンプン粒の形態を調べておく。未熟と完熟バナナでの貯蔵デンプン粒の量の違いを予測する。鐘乳体とはインドゴムの葉のどの組織に存在し、主成分は何かを調べておく。インドゴムの葉からどのようにプレパラートを作成するか予習する。 空中落下細菌は寒天培地の暴露時間と暴露場所における菌体コロニー数や種類にどのような変化が起きるか予測しておく。手のひらの微生物検査については手洗い前と手洗い後の菌体数に明白な違いが出るにはどのように実験を行えばよいかを考えておく。土壌細菌試験は、試料である土壌の希釈方法を予習する。 ここまでで提出してきたレポートを通して書き方がわからなかった点などをまとめておき、この機会に質問してもよい。土壌1g中の菌体数の算出方法を予習する。 タマネギの鱗茎細胞の膜構造について予習する。細胞周期と細胞分裂の違いについて学んでおく。細胞分裂各ステージの特徴的な染色体の形態を確認しておく。 分離培養と釣菌をする目的を考えておく。分離培養はどのように培養できれば成功か予習する。約1ヶ月にわたって行う実験のため、実験ノートの付け方に気を付ける。レポートは全行程を1冊にまとめて提出する。 本講座の最初の実験で使用したマイクロメーターを教員の説明なしで使いこなせるか。筋肉組織、軟骨・硬骨組織はどのような構造をしているか予習する。 納豆菌が持つ酵素を学習しておく。『カルス』という言葉の意味を調べる。またMS培地とこれまで調製してきた培地との大きな調製方法の違いを確認しておく。 組織の固定・脱水・透徹・パラフィン浸透・ミクロトームで連続切片作成等、様々なステップを踏んで染色へと進むが、なぜこれらのステップを踏む必要があるのか理由を学習しておく。ヘマトキシリンとエオシンは各々何を何色に染色するか予習する。 酵素活性試験の評価方法を予習する。にんじんから誘導したカルスはどんな色でどのような形状かテキストのカラー写真等で確認しておく。 ペーパークロマトグラフィーの原理を学習しておく。ホウレンソウの光合成色素の種類を確認し、Rf値の算出方法を予習する。核型分析の基本的ルールを学習しておく。 基本統計量、度数分布表とヒストグラム、散布図と相関についてできる限り知識を深めておく。 メンデルの法則とメンデルの法則に則らない遺伝について、高校生物のレベルでいいので復習しておく。

15. 寒天培地の処理・器具の洗浄 実験が完了した培地の処理方法を確認しておく。
これまでの実験で使った寒天培地の滅菌と洗浄。ガラス器具の洗浄。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

予習は実験内容を把握し、まず自分で結果の予測をたてましょう。ただ単に頭で考え予測するのではなく、実験ノートになぜそのように予測するか理由を述べておきましょう。そうすることで、レポート作成時に、実際の結果と自分の予測の比較がしっくりできるようになります。また、調べるべきキーワードや実験原理、実験方法を予習しておくことで、実験中にわからない言葉がないように、2歩3歩先を読んで作業ができるようになります。実験中困っている学生を気遣える思いやりの気持ちをもって実験を行えるようにしましょう。

フィードバックの
方法:

レポートの書き方について、学生の大半が陥る書き方の不備にはその都度クラス全体にアナウンスを行う。不備の多いレポート内容に関しては、学生本人もどのように書いたらいいのかわからない部分もあるかと思うので、個人的に指導を行うことで学生の気づきを促す。何度かはレポートを返却し教員の添削内容を学生に確認してもらう(そのレポートは再度提出)。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	極端に事実と異なるスケッチは減点対象となる。 テキストに挙げている通り、レポートの基本的構成で書かれているか。 結果が数値で出る場合は途中式を省略せず記載する。数値の羅列ではなく、表やグラフで整理する。その際、どの数値を図式化したら効果的かをよく考えて行う。 考察は、現象のみを述べるのではなく、その現象に至った理由や自分の予測と結果の比較、結果と文献的に言われている事との比較を論理的に述べる。 出席が原則である。 関心・意欲・態度の悪い場合は減点対象となる。
出席状況・実験態度		

教科書:

同志社女子大学 生活科学部 食物栄養科学科 生物学研究室 編『生物学実験』

参考書:

高校の生物図説は大変役に立ちます。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

生物学研究室(U214b)にて、質問や連絡を受け付ける。急な連絡の場合は電話でも受け付ける。教員不在の際は、助手が対応し追って教員が対応する。

授業テーマ:

食品や食品成分、生体成分を用い、化学実験において基本的な原理や実験手法を学ぶ。

授業の概要:

食物栄養科学科で行う最初の基礎実験として、はじめに、研究倫理について学ぶ。化学的な項目について実験を行い、基本的な器具の名称やその扱い方、試薬の調製法、実験データの整理の仕方などを学ぶ。実験内容としては、まず、定性試験では糖質とアミノ酸の呈色反応を、定量実験では中和滴定とキレート滴定を行う。次にクロマトグラフィーでは吸着クロマトグラフィーである薄層クロマトグラフィーと、分配クロマトグラフィーであるペーパークロマトグラフィーを行う。その他、緩衝作用の強さの測定、ポリフェノール量の測定、塩析・電気泳動法によるタンパク質の分離を行う。

到達目標:

・それぞれの実験の原理や反応について理解する
・実験へ積極的に参加し、様々な器具の取り扱いに慣れる
・レポート(目的、序論、方法、結果、考察、感想、参考文献)が書けるようになる

授業方法:

一人またはグループで実験を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	基礎事項 ①研究倫理について ②実験器具の名称とその取り扱い方	
2.	基礎事項 ①数値の取り扱い方 ②酸・塩基の取り扱い方、試薬の調製法	
3.	糖、アミノ酸、タンパク質の呈色反応 ①説明、試薬の調製 ②定性分析	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬や反応について、あらかじめ辞典や参考書などを用いて性質など調べておく。
4.	中和滴定(食酢中の酢酸濃度測定) ①説明、試薬の調製 ②中和滴定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。中和滴定について原理を学んでおく。
5.	レポートの書き方(1) ①数値の取り扱い方 ②考察の書き方(その1)	
6.	薄層クロマトグラフィー(トマトに含まれるアミノ酸の分離) ①説明、ガラス細工 ②試薬の調製、薄層クロマトグラフィー	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬についてもあらかじめ辞典や参考書などを用いて性質など調べておく。
7.	ペーパークロマトグラフィー(ビタミンB2、ビタミンB12)の分離 ①説明、試薬の調製 ②ペーパークロマトグラフィー、吸収スペクトルとモル吸光係数の測定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬についてもあらかじめ辞典や参考書などを用いて性質など調べておく。
8.	分配比の測定(ビタミンB2、ビタミンB12を用いた分配比の測定) ①説明、試薬の調製 ②分配比の測定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。
9.	レポートの書き方(2) ①グラフの描き方 ②考察の書き方(その2)	
10.	キレート滴定(牛乳中のCa量の測定) ①説明、試薬の調製 ②キレート滴定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬についてもあらかじめ辞典や参考書などを用いて性質など調べておく。
11.	緩衝値 β の測定 ①説明、試薬の調製 ②緩衝値 β の測定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。緩衝作用とはどのような性質なのか、緩衝作用を持つ物質にはどのような特徴があるのか調べておく。
12.	食品中のポリフェノール量の測定 ①説明、試薬の調製 ②ポリフェノール量の測定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。食品中に含まれるポリフェノールについてどのようなものがあるか調べておく。
13.	塩析法によるタンパク質の分離 ①説明、試薬の調製 ②塩析法による血清タンパク質の分離	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬や塩析についてもあらかじめ辞典や参考書などを用いて調べておく。
14.	電気泳動法によるタンパク質の分離 ①説明、試薬の調製 ②電気泳動、電子とメーターによる解析	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬や電気泳動法についてもあらかじめ辞典や参考書などを用いて調べておく。
15.	まとめ ①実験結果のまとめ、レポート要点の再確認 ②実験器具の整理	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出されたレポートは、添削した後返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	85	目的、序論、方法、結果、考察などレポートに必要な項目が書けているかを評価する
	実験への参加度	15	出席および実験に取り組む態度を評価する

教科書:

研究室で作成した実験書を配布する。

参考書:

図書館にある実験に関する書籍を都度利用すること

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、実験の前後に実験室内で対応

授業テーマ:

食物科学および関連分野で求められる数学的取り扱い(指数・対数・微分)

授業の概要:

食物を科学的に探求する際に、その理論的な内容や実験データの解析に時折、数学的な側面が現れる。「細菌の増殖」と「落下運動」という生物と物理の具体的な事例を通して高校数学Ⅱ、Ⅲレベルの解析学(指数・対数・微分)を学習し、対数変換によるデータの線形化や1次反応速度式の解など、大学での一般的な取扱い方を身につける。2年次「情報処理Ⅱ」、「食品物性学」や3年次「食品加工・物性学実験」に進む準備科目でもある。

到達目標:

食物科学及び関連分野での数学的取り扱い、特に指数・対数・微分の考え方と、諸現象の解析への実際の適用に慣れさせる。

授業方法:

基本、教科書に沿って講義形式で進める。高校数学Ⅰ(1次関数、2次関数)程度を理解し、指数関数や対数を初めて学ぶ人に対応する。講義に演習(教科書掲載の問題)を混ぜる。ほぼ毎回、理解度を確認し、授業を活性化するために、毎回、クリッカー・テストを実施し、結果次第で話し合いの時間を設ける場合もある。前半の内容(指数、対数、線形化)について、一度、実践的な課題レポートを出す。各テーマの理解を深め、かつ新入生としての学習動機を高めるために、上級生の実験授業の様子や装置・結果の画像や映像を見せることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	数の計算、自然数から実数への拡張、乗法の繰り返しとしての「べき乗」の導入	大学に入学するまでの「数と計算」を復習し(自然数→整数→有理数→実数)、教科書第1章「細菌の増殖と指数関数」全体を読む。
2.	「べき乗(指数計算)」から「指数関数」を導入する。指数法則を一般化(指数:自然数→整数→有理数)して、 2^0 , 2^{-1} , $2^{0.5}$ を計算で導く。	教科書1.2節の前半を熟読して、問1.3を考える(計算により答えを導く)。
3.	a^x ($a=2, 3, 10$) の計算値から関数: $y=2^x$, 3^x , 10^x のグラフを描く。 $x=0$ での傾きが1になる底 a の値を考える($e=2.71828\cdots$ の導入)。	問1.3を復習し、 e の説明を熟読し、意味を考える。
4.	ここまでのまとめ(復習・確認)の後、関数 e^x の変化形や漸近的な振る舞い($x\rightarrow$ 無限大)を考える。指数に係数が含まれる指数関数: $2^{[bx]}$, $e^{[bx]}$ を導入する。宿題1のヒントを与える。	問1.4を考え、少なくとも最初の4つの関数のグラフを書く。1.2節の後半を何度も読み、考える。宿題1に取り組み、提出する。
5.	宿題1を講評・解説する。一般的な指数関数 $e^{[bt]}$ から速度定数の概念を導入し、菌の増殖モデル $2^{[t/T]}$ と平均世代時間を導入する。指数計算の逆演算として対数計算を導入する。	1.1節と1.2節の前半を読み直す。第2章2.1節「対数関数」の前半を読み、問2.1を考える。
6.	第1章「指数関数」の全体復習後、対数計算の確認(問2.1, 2.2)。	問2.1, 2.2 を考えて解く。
7.	対数計算の公式 (2.1)「積の対数＝対数の和」、(2.2), (2.4), (2.5) を証明し、計算問題で理解度確認。	公式 (2.1), (2.2), (2.4), (2.5) を証明する。
8.	対数計算の復習テスト。細菌の増殖データを対数変換で線形化し、平均世代時間を求める方法を説明する。これに関する課題レポートを与え、内容と解き方を説明する。	問2.5を解き、対数計算を復習し、2.3節を読む。授業後、課題レポートに取り組み。グラフ用紙で菌数－時間、およびそれを線形化した常用対数(菌数)－時間グラフを作成し、その傾きから平均世代時間を求めて、提出する。
9.	自由落下する物体の2秒後の瞬間速度を考え、微分のアイデアを導入する。	前章の課題レポートに取り組みつつ、第3章「量の変化と微分」の2.2節「落体の運動と変化する`速度`」を読む。
10.	課題レポートの結果を講評する。落下運動の瞬間速度の求め方を整理し、導関数を導入する。	3.2, 3.3節を読む。
11.	導関数や2階導関数の値と関数の増減との関係。代数(0, 1, 2, 3次)関数の導関数をまとめる。	3.3節を読み、問3.4 と 3.5および宿題3(3次関数の導関数とグラフ)を考える。
12.	指数関数 e^x の導関数を導入し、 $e^{[kx]}$ の導関数へ拡張する。	第4章「いろいろな関数の導関数と微分公式」を4.2節「指数関数の導関数」まで読み、公式 (4.2) を証明して、問4.2を考える。
13.	「関数の定数倍や和」の微分公式を導入し、前回の結果から関数 $ae^{[kx]}$ が満たす関係式を考える。	4.3節「微分公式(和、定数倍)」を読み、問4.3を解く。
14.	細菌の増殖を微分方程式で表し、その一般解を指数関数として求める。時刻0での初期条件から特解を求め、増殖速度定数と平均世代時間の関係を導く。	第5章「細菌の増殖と微分方程式」を5.2節まで読む。
15.	細菌の死滅を微分方程式で表し、ある時刻での初期条件から特解を求める。5.4節「章末問題」を説明し、未解説部分(第2章の例題2.4と章末問題、宿題4.2などを)を補足する。	5.3節「細菌の死滅」を読み、宿題5を解く。授業後、5.4節「章末問題」を考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:

本学科の入学生には、自然科学を扱う際に必要な数学的な知識と使用経験が欠けていることが多く、本科目のねらいはその弱点を補うことです。本科目の積極的な学修によって、高等学校で身につけられなかった知識と経験を補って欲しい。最初につまずくと後で理解することが難しいので、最初から予・復習の時間を確保して取り組むことが重要です。

フィードバックの方法:

授業中にクリッカーで行われる小テストでは、正解と選択分布が即座にスライド提示される。課題レポートでは、研究室に一人ずつ直接対面提出させ、その場でグラフや平均世代時間の適否・正誤を確認し、不適当な場合は問題点を指摘し、再提出を促す。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業の積極的参加度と理解度を見るためのクリッカー小テスト	30%	クリッカーテストで判断される出欠席状況と正解数
	課題レポート	20%	レポート結果の採点結果
	定期試験	50%	採点結果

教科書:

『食物学のための数学と物理』(担当者作成、同女生協で販売)

参考書:

各自が高校時代に使っていた数学の教科書や参考書など。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡
方法:

授業後、教室で、またオフィスアワーなど、公務時間以外に研究室で対応する。

授業テーマ:	食品成分の化学的理解		
授業の概要:	食品・食物について学び、研究するためには、基本的知識として食品がどのような成分からできているのか、どのような特質を持つものかを知っておかねばならない。食品化学Iでは、食品中の主要成分(水・タンパク質・脂質)及び重要な微量成分(無機質・ビタミン)の化学構造、化学的性質、分離分析法などについて学ぶ。さらに、食品の貯蔵・加工・調理の過程で、これらの食品成分にどのような動的変化が起こるのか、また成分間にどのような相互作用が起こるのか、食品品質との関係から学ぶ。		
到達目標:	1. 食品成分(水・タンパク質・脂質及び無機質・ビタミン)の化学構造、化学的性質、分離・分析法などについて理解する。 2. 各成分と食品品質との関係を理解する。 3. 食品の貯蔵・加工・調理の過程で、食品成分にどのような動的変化が起こるのか、また、成分間でどのような相互作用が起こるのかを理解し、食品品質への影響を理解する。 4. 以上のような食品に関する基礎知識を身につけ、食物科学専攻の他の科目の学びに備える。		
授業方法:	講義形式で行う。教科書および配布プリントに従って進める。PowerPointスライドも併用する。授業は口頭での説明が中心となるので、しっかりと聞いてメモ・ノートを取る。毎回授業の初めに理解度確認のミニテストを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 人間と食べ物 食品の成分	教科書を用意しておくこと。	
	2. 食品と水(水の理化学的性質)	ミニテストに向けて、前回の授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	3. 食品と水(食品中の水の状態と食品品質)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	4. 食品中のタンパク質(総論・アミノ酸)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	5. 食品中のタンパク質(アミノ酸の性質・タンパク質の構造)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	6. 食品中のタンパク質(タンパク質の分類・タンパク質の性質)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	7. 食品中のタンパク質(タンパク質の性質・タンパク質の定量・酵素)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	8. 食品中の脂質(脂質の定義と分類)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	9. 食品中の脂質(脂肪酸・単純脂質)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	10. 食品中の脂質(複合脂質・誘導脂質・油脂の理化学的試験)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	11. 食品中の脂質(油脂の理化学的性質・油脂の融点)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	12. 食品中の無機質	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	13. 食品中のビタミン	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	14. 健康志向の食品	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。	
	15. まとめ	前回までの授業内容を教科書・配布プリント・ノートを使って総まとめし、復習し、理解しておく。	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	できるだけ繰り返し説明するつもりだが、化学の学びは積み重ねであるので、授業は前回までの内容を理解していることが前提となる。 毎回授業の初めに行うミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントについて復習し、理解しておくこと。 また、教科書の予習など次回の授業への積極的準備は授業内容の理解度を高めることになる。 この科目は、今後食品学関係の各科目を学んでいくための基礎となる科目であるので、秋学期の食品化学IIとセットにして、しっかりと学習して基礎学力をつけていただきたい。	
フィードバックの方法:	ミニテストは教室内でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度及びミニテスト	40%	授業への積極的参加度及び毎授業ごとのミニテストで確認する到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により評価する。
	定期試験	60%	到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により評価する。
教科書:	森田潤司〔編著〕:『新訂 食品学総論』、樹村房		
参考書:	他出版社から出ている『食品学』『食品化学』『食品学総論』関係の本で各自理解しやすいものを参考に学習するとよい。 生化学関係の本も参考になる。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で応対。 オフィスアワー(U311b)で応対。		

授業テーマ:	食品成分の化学的理解		
授業の概要:	食品・食物について学び、研究するためには、基本的知識として食品の成分とその特質について知っておかねばならない。食品化学Ⅱでは、春学期の食品化学Ⅱに続き、食品中の主要成分(糖質)、重要な微量成分(色素・香りなど)の分類、化学構造、化学的性質について学ぶ。さらに食品の貯蔵・加工・調理の過程で、これらの食品成分にどんな動的变化が起こるのか、さらに、食品の貯蔵・加工・調理の過程で、これらの食品成分にどのような動的变化が起こるのか、また成分間にどのような相互作用が起こるのか、食品品質との関係から学ぶ。		
到達目標:	食品の成分とその特質についての知識を身につける。 1. 食品中の主要成分(糖質)、重要な微量成分(色素・香りなど)の分類、化学構造、化学的性質について理解する。 2. 各成分と食品品質との関係を理解する。 3. 食品の貯蔵・加工・調理の過程で、食品成分にどのような動的变化が起こるのか、また、成分間でどのような相互作用が起こるのかを理解し、食品品質への影響を理解する。 3. 以上のような食品に関する基礎知識を身につけ、食物科学専攻の他の科目の学びに備える。		
授業方法:	講義形式で行う。教科書および配布プリントに従って進める。PowerPointスライドも併用する。授業は口頭での説明が中心となるので、しっかりと聞いて適宜メモ・ノートを取ること。毎回授業の初めに理解度確認のミニテストを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 食品中の糖質1 総論・糖質の分類 2. 食品中の糖質2 単糖 3. 食品中の糖質3 単糖誘導体 4. 食品中の糖質4 オリゴ糖 5. 食品中の糖質5 甘味料としての糖質 6. 食品中の糖質6 単純多糖 7. 食品中の糖質7 複合多糖 8. 食品中の色・味・香り成分(嗜好成分)1 9. 食品中の色・味・香り成分(嗜好成分)2 10. 食品の成分と特性の変化1 加熱による変化、酵素反応など 11. 食品の成分と特性の変化2 加熱による変化、酵素反応など 12. 食品の成分と特性の変化3 加熱による変化、酵素反応など 13. 食品の成分と特性の変化4 脂質の酸化的劣化 14. 食品の成分と特性の変化5 脂質酸化の防止法 15. まとめ	教科書を用意しておくこと。 ミニテストに向けて、前回の授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。 前回までの授業内容を教科書・配布プリント・ノートを使って総まとめし、復習し、理解しておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	できるだけ繰り返し説明するつもりだが、化学の学びは積み重ねであるので、前回までの授業の内容を理解していることが前提となる。 毎授業の初めに理解度確認のミニテストを行い、その成績も評価するので、前回までの授業内容を教科書・配布プリントについて復習して理解しておくこと。 また、教科書の予習など次回の授業への積極的準備は授業内容の理解度を高めることになる。 この科目は、今後食品学関係の各科目を学んでいくための基礎となる科目であるので、春学期の食品化学Ⅰとセットにして、しっかりと学習して基礎学力をつけていただきたい。		
フィードバックの方法:	ミニテストは教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度及びミニテスト	40%	授業への積極的参加度及び毎授業ごとのミニテストで確認する到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により評価する。
	定期試験	60%	到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により評価する。
教科書:	森田潤司〔編著〕:『新訂 食品学総論』、樹村房		
参考書:	他出版社から出ている『食品学』『食品化学』『食品学総論』関係の本で各自理解しやすいものを参考に学習するとよい。 生化学関係の本も参考になる。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で対応。 オフィスアワー(U311b)で対応。		

フィードバックの方法：質問、感想については、マナビーでコメントを返す。また、必要に応じて授業中に全体へ向けてコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	90	授業で学んだ内容に対する理解度を評価する
	授業への参加度	10	授業の理解度や予習・復習などに対して自己評価を行っているかについて評価する

教科書：三輪一智・中 恵一，系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[2] 生化学, 医学書院

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法：オフィスアワーまたはマナビーの掲示板機能・アンケート機能を利用

授業テーマ:

栄養素の機能について理解する。

授業の概要:

私達が健康な生活を営むためには適切な栄養摂取が不可欠であり、市場に出回る多種多様な食品の中から適正な食品を選択する能力が求められている。そこで、人が生命を維持し、健康を保ち、活動するために食物として摂取する栄養素は生体内でどのように変化し、エネルギー源や身体構成成分として利用されるのかを学び、健康の保持増進、疾病の予防における栄養の役割について学ぶ。

到達目標:

栄養の概念、摂食行動と生体リズム、消化吸収のメカニズム、糖質・脂質・たんぱく質の栄養的役割、ビタミン・無機質の栄養、生活習慣病と栄養について理解することを目標とする。

授業方法:

授業は教科書と配布プリントを用い、パワーポイントで示しながら講義形式で行う。単元終了毎に小テストを行って理解の定着を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養と健康(生活習慣病、加齢と食生活)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
2.	摂食行動	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
3.	生体リズム	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
4.	栄養素の消化(口腔、胃、小腸における消化)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
5.	栄養素の吸収、大腸における発酵・吸収と機能性非栄養成分	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
6.	糖質および脂質の栄養(エネルギー源としての働き)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
7.	糖質の栄養(血糖値の調節、他の栄養素との関係)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
8.	脂質の栄養(脂質の量と質の評価、必須脂肪酸)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
9.	たんぱく質の栄養(体たんぱく質の合成と分解)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
10.	たんぱく質の栄養価(生物価、アミノ酸価)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
11.	ビタミンの栄養(脂溶性ビタミン)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
12.	ビタミンの栄養(水溶性ビタミン)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
13.	無機質の栄養	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
14.	生活習慣病と栄養	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

本科目は、「生化学」の講義内容と密接に関係があるので、その内容を十分理解しておくこと。授業に先立ち、教科書の関連ページを熟読すること。復習としては、授業で得た知識を整理しノートにまとめる。理解できないことは、そのままにせず、参考図書で確認したり、積極的に質問すること。

フィードバックの方法:

単元終了毎に行う小テストについては、採点して返却し、解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	到達目標の摂食行動と生体リズム、消化吸収のメカニズム、糖質・脂質・たんぱく質の栄養的役割、ビタミン・無機質の栄養、生活習慣病と栄養に関する知識と理解度により評価する。
	小テスト	30%	それぞれの単元内容に関する知識と理解度により評価する。

教科書:

「新食品・栄養科学シリーズ 基礎栄養学」第4版(化学同人)

参考書:

他の出版社から出版されている栄養学関係の本を参考にするとよい。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で、または研究室で応対

授業テーマ:

食物科学分野の専門英語

授業の概要:

担当教員の4人がそれぞれのテーマを持ってリレー式で授業を行う。最初の5回は科学分野の英語研究論文について基礎・概論的な講義を行ない(スミス)、それを踏まえて6回目以降に他の教員(真部、山田、山本)が、応用・各論的な授業を展開し、最後にまとめを行う。

到達目標:

広く食物科学に関する事柄や研究論文、最近の話題の中からテーマを選んで英文を講読することにより、食物科学分野の知識を英語で読み取る力を養うとともに、卒業後、グローバル社会を生き抜く武器や道具としての英語力を向上させる。

授業方法:

講義以外にグループで課題に取り組んでもらい分かったことを発表してもらう形式を用いる。7回、8回は、グループ別に発表を行う。12～14回では、PowerPoint スライドで解説を進め、その中で準備学習・理解度判定のためのクリッカー小テストを実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 理系英語論文の全体的な構成を学ぶ。Abstract(要旨)の役割と情報構造について学ぶ。Abstractに頻出する表現を学ぶ。(スミス担当)	科学の研究論文というジャンルには特定の言語的特徴があるので、そのパターンを理解することを学習するが、初回に限っては特に予習は求めない。
	2. 課題①の発表。Introduction(序文)の役割と情報構造について学ぶ。Introductionに頻出する表現を学ぶ。(スミス担当)	課題①: Abstractの読解。科学分野の英語研究論文における言語特徴を理解する。
	3. 課題②の発表。Methods(研究方法)の役割と情報構造について学ぶ。Methods(研究方法)に頻出する表現を学ぶ。(スミス担当)	課題②: Introductionの読解。論文の各セクションの役割を理解する。
	4. 課題③の発表。Results(結果)とDiscussion(考察)の役割と情報構造について学ぶ。Results(結果)とDiscussion(考察)に頻出する表現を学ぶ。(スミス担当)	課題③: Resultsの読解。論文の各セクションを構成する情報の流れを理解する。
	5. 課題④の発表。まとめと振り返り。(スミス担当)	課題④: Results & Discussionの読解。論文の各セクションを構成する情報の流れを理解する。
	6. 【読解と解説】調理・食事に関わる英語1ー 意外と知らない調理に関わる単語について学ぶ。(真部担当)	身の回りにあるカタカナ表記の調理器具、調理法について、正しい英単語(スペル)を調べておく。
	7. 【読解と解説】調理・食事に関わる英語2ーレシピを読み解く。(真部担当)	各グループで、6回に配当された和食の英文レシピを読み解き、適切な日本語で説明できるよう準備する。
	8. 【読解と解説】調理・食事に関わる英語3ー学術論文に記載される調理法を読み解く&調理科学に関するテキストを理解する。(真部担当)	各グループで、7回に配当された英語論文の方法に記載された加工調理法を適切な日本語で説明できるよう準備する。
	9. 【読解と解説】食品機能や食品衛生に関する英文のトピックス記事を読んで理解する。(山田担当)	事前に配付されたトランス脂肪酸に関する資料を読んでおく。
	10. 【読解と解説】外国の食文化や食習慣に関連する食べ物について書かれた英文を読んで理解する。(山田担当)	事前に配付されたワインに関する資料を読んでおく。
	11. 【読解と解説】食品分析に関する英文の実験マニュアルを読んで原理と操作手順を理解し、実行できるようにする。(山田担当)	事前に配付されたHPLCによる香辛料の成分分析に関する実験マニュアルを読んでおく。
	12. 【読解と解説】英文の基本要素と文型、態を復習し、食物に関する英語論文事例を使って、「英文の構造」を捉えることを指導する。(山本担当)	事前に配付された資料を読み、論文の第Ⅰ節を読解する。
	13. 【読解と解説】食物に関する英語論文事例を使って、「英文の構造(要素・文型・態)」を捉える訓練を行う。(山本担当)	配付論文の第Ⅰ節および第Ⅱ節第1パラグラフを読解する。
	14. 【読解と解説】食物に関する英語論文事例を使って、英文(構造と意味)を深く理解する訓練を行う。(山本担当)	配付論文の第Ⅱ節第2, 3パラグラフを読解する。
	15. まとめ	全体を通して学習したことへの復習・総括。

受講者へのメッセージやアドバイス:

各担当教員が用意した資料を配布する日時と場所を、事前に生活科学部の掲示板でお知らせするので取りに来てください。準備学習の各欄に記載したように概ね共通している事は、各担当教員が配付した教材のプリントを前もって精読することが望まれるという事である。この際に、特殊な専門用語などは別として、辞書を使用した単語の意味調べは必要である。7・8回については、グループ別に発表してもらうので、グループ内に当日欠席者が出ても発表できるようにグループ内で知識を共有しておいてください。

フィードバックの方法:

原則として、提出物の課題を出した場合は授業中に解答をする。また、授業中に課題についてグループで相談しながら答えを発表してもらい、正解を確認する。さらに、クリッカーで行われる授業中の小テストでは、正解と選択分布が即座にスライド提示される。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業参加度	32	出欠席状況とグループ学習における貢献度
	提出物等を含む定期試験評価	68	採点結果(12～14回分についてはクリッカーテストの正解率も考慮する)

教科書:

テーマに応じた内容の英書を一部抜粋した資料か、研究論文などをプリントにして配付する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

メール連絡および授業の前後で対応する(スミス)。他の教員(真部、山田、山本)は授業後に教室、またはオフィスアワーなど公務時間以外に研究室で対応する。

授業テーマ:

授業の概要: 日常的に広く用いられる食品を材料にして、調理過程における食品成分の化学変化を実験により検証する。

到達目標:

- ・汎用実験器具が適切に使用できる。
- ・実験の流れを理解し、所属する実験班が段取りよく適切に実験できるよう貢献できる。
- ・実験結果を適切に図表と文章で説明し、考察することができる。
- ・食品化学・調理科学の講義で学んだ食品成分の化学変化を理解する。

授業方法: 毎回、授業開始時に実験方法の詳細を説明するので、それに従って実験を実施する。
8－11回は、実験を班ごとに組み立て、成果発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	①実験実施上の諸注意 ②レポートの書き方1	化学実験で習った実験器具の名称を復習しておく。 他の学生実験(2年・3年)で返却されたレポートを見直し、レポートの書き方等を確認しておく。
2.	①白米の洗浄・浸漬による成分の溶出(実験方法の説明と実施) ②白米の洗浄・浸漬による成分の溶出(実施)	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしておく。
3.	①米の種類によるデンプンの構造と吸水速度の相違(実験方法の説明と実施) ②米の種類によるデンプンの構造と吸水速度の相異(実施)	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしておく。
4.	①レポートの書き方2 ②ビタミンCの定量法について－インドフェノールの力価測定	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしておく。
5.	①野菜の部位によるビタミンC含量の相違(実験方法の説明と実施) ②野菜の部位によるビタミンC含量の相違(実施)	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしておく。
6.	①加熱によるビタミンC含量の変化(実験方法の説明と実施) ②加熱によるビタミンC含量の変化(実施)	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしておく。
7.	①磨砕・副材料添加によるビタミンC含量の変化(実験方法の説明と実施) ②磨砕・副材料添加によるビタミンC含量の変化(実施)	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしておく。
8.	①調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題 実験立案、個別実技試験 ②調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題 実験立案、個別実技試験	1回に配布されたテキストの該当箇所を読んでおく。
9.	①調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題 実験実施 ②調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題 実験実施	立案した実験操作の詳細を班内で共有しておく。 レジメの目的・方法を作成しておく。
10.	①調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題 実験結果のまとめ ②調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題 実験結果レジメ作成	実験結果をまとめておく。 実験結果から得られた知見は何かを考える。
11.	①調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題 実験発表 ②調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題 実験発表	発表用原稿を作成し、どのように発表するかを班内で共有しておく。
12.	①タンパク質の凝固(実験方法の説明と実施) ②タンパク質の凝固(実施)	1回に配布されたテキストの該当箇所を読んでおく。
13.	①加熱による肉のうま味成分の溶出(実験方法の説明と実施) ②加熱による肉のうま味成分の溶出(実施)	1回に配布されたテキストの該当箇所を読んでおく。
14.	①加熱による卵の凝固および消化性(実験方法の説明と実施) ②加熱による卵の凝固および消化性(実施)、SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動のデモンストレーション	1回に配布されたテキストの該当箇所を読んでおく。
15.	①電気泳動結果の解説、非酵素的褐変(実験方法の説明と実施) ②非酵素的褐変(実施)	1回に配布されたテキストの該当箇所を読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: レポートは、添削して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実験参加態度	50	実験操作の適切性、段取り力、コミュニケーション力から評価する。
	自由課題実験への取り組み	15	8-11回における、実験内容の理解、貢献度、プレゼンテーション力から評価する。
	レポート	35	実験に対する理解度(文献の探索と活用、図表の表記の適切性、文章の適切性を含む)から評価する。本実験にて説明したレポートの書き方に従って作成されていない場合、提出期限を遅れた場合は減点する(差し替え再提出は認めない)。提出受け取り期限までに未提出のレポートがあった場合は、不合格とする。

教科書:	研究室作成のテキスト(1回に配布)
参考書:	香西みどり『調理がわかる物理・化学の基礎知識』光生館 学術雑誌掲載の論文
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力
教員との連絡 方法:	オフィスアワーおよび実験の前後に実験室内で対応

授業テーマ:	食品素材の成分や加工食品に使用されている食品添加物を分析対象として、化学的手法と機器分析の併用で定性定量分析を行う。また、食品衛生監視員や食品衛生管理者の資格を得るために必要な基本的知識と実験手法を学ぶ。
授業の概要:	授業日程(月・火)のカレンダーにより、各クラスで実験項目の順番を入れ替えることがあるが、実験課題はどのクラスも同じである。化学的手法と機器分析の併用で実験を行う。食品成分や食品添加物を抽出し、分画、精製、同定また定量分析を行うスキルを学ぶとともに実験データについて解析、考察する。
到達目標:	2年生で学んだ化学実験の基礎に立って、食品素材(鶏卵、野菜、果実、香辛料など)に含まれている栄養・嗜好成分や、加工食品に使用されている食品添加物の定性定量分析を行う。実験操作としては化学的手法と機器分析の併用で行い、微量成分の取扱い方、前処理の方法、クロマトグラフィー、さらに分光学的方法(スペクトルの解析)により、化合物の構造や性質について考察する姿勢を養うことを目標とする。
授業方法:	各実験の始めに約30分間、実験方法の要点について説明し、安全確実に実験を行うための注意点を挙げる。実験はグループ単位で協力して行い、実験装置の組立や使用法を学生が自分で安全にミス無く行えるようにトレーニングする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	卵黄脂質のケン化反応、コレステロールと脂肪酸の分離。卵白アルブミンの分離と透析。	実験マニュアル精読	
	2.	卵黄に含まれるコレステロールと脂肪酸の分離、同定。コレステロールの定性試験。	実験マニュアル精読	
	3.	卵黄に含まれる脂肪酸のメチル化。FID-GCによる脂肪酸組成の決定。	実験マニュアル精読	
	4.	柑橘精油成分d-limoneneの同定とUSDA公定法に準じた定量分析。	実験マニュアル精読	
	5.	卵白アルブミンのローリー法による定量分析。酵素トリプシンによるカゼインの加水分解。	実験マニュアル精読	
	6.	シナモンに含まれるケイヒ酸、ケイヒアルデヒドの抽出と分画。	実験マニュアル精読	
	7.	シナモンに含まれるケイヒ酸、ケイヒアルデヒドのクロマトグラフィーによる精製。	実験マニュアル精読	
	8.	シナモンに含まれるケイヒ酸、ケイヒアルデヒドのスペクトル測定による同定。	実験マニュアル精読	
	9.	合成保存料(ソルビン酸カリウム)を吸光分析により定量するための検量線の作成。(TBA発色法)	実験マニュアル精読	
	10.	チクワに使用されている合成保存料(ソルビン酸カリウム)の定量分析。(TBA発色法)	実験マニュアル精読	
	11.	赤ワインに含まれているポリフェノール色素のpHによる色調の変化と色差の測定、およびエタノールの分離。	実験マニュアル精読	
	12.	赤ワインに含まれているエタノール含有量のFID-GCによる定量分析。	実験マニュアル精読	
	13.	福神漬に使用されている合成着色料の同定。(ポリアミドカラム法)	実験マニュアル精読	
	14.	GC-MSの演示実験(水道水の異臭物質)。定量分析に関する計算演習。食品衛生に関する機器分析の文献講読。	実験マニュアル精読	
	15.	まとめと演習	定量分析(濃度計算)の復習	

受講者へのメッセージやアドバイス: 実験を安全確実に、そしてスムーズに行うためには事前に配布してある実験操作マニュアルのプリントを読んでおくことが必要である。実際に器具や機器を見て扱わないとイメージしにくい点はあると思われるが、一通り操作手順を前もって読んでおくことが大切である。また、実験後にレポートを書いて提出しなければならない。実験で扱う食品成分や食品添加物に関して、自分に不足している知識や曖昧な事柄は、他の講義科目で使用している教科書や文献を調べて明確にしておく必要がある。

フィードバックの方法: リポートを書く際に必要な実験データのまとめ方や計算過程で誤り易い個所を誘導問題にしてプリントにしてある。実験の後のデータを整理する時間に演習を行い、プリントを添削して返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	15	出席および実験に取り組む姿勢・態度など
	リポート	65	実験データのまとめ方・計算過程・考察
	定期試験	20	問題演習採点評価

教科書: 実験マニュアル冊子を配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法: Eメール、または直接オフィスアワーに面談

授業テーマ:

加工食品の製造実習、物性測定とデータ解析の習得、食品学的考察、レポート作成とプレゼンテーション

授業の概要:

様々な加工食品を実際に製造してその原理や方法を体得する。食品のレオロジー特性(応力-ひずみ、クリープ)を測定し、「食品物性学」で修得したデータ解析を実践する。さらに、官能評価を実行し、統計的に検定する。これらの結果から、材料の違いが食品の物性や嗜好性にどのように影響するのかを考察する。また、食品の熱分析(DTA+TGD)を行い、加熱が食品成分にもたらす物理化学変化を分析、考察する。指定された条件(材料やコンセプト)に合わせて、パンやアイスクリームを創作する。

到達目標:

食品の加工・物性測定(解析)・官能評価の方法を実践的に習得し、結果を食品学的に考察する能力を獲得するとともに、実験レポートの書き方と発表(PowerPointプレゼンテーション)スキルを向上させる。

授業方法:

実験テキストとオリエンテーションに基づき、学生が自主的に実験する。いろいろ調製と熱分析には材料選択の自由がある。製造された加工食品を試食する。パンとアイスクリームの製造実習では、与えられたテーマに沿ったオリジナル食品の開発を求め、口頭発表(3 min)させる。3種の物性実験のうち、2種について、終了後 10日ほどでレポートを提出させる。残り1種の物性実験について、グループ単位でクラス全員の前で口頭発表(8-9 min)させる(リハーサル指導も有り)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションⅠ: 一般的注意、いろいろのテクスチャー測定と熱分析のデモンストレーション、パンとアイスクリームの課題説明	自分のグループと日程を把握し、実験テキスト 0.1節「食品加工・物性学実験の一般的注意」を読む。
2.	オリエンテーションⅡ: 熱分析のデモンストレーション、パンとアイスクリームの課題調整、レポートの書き方指導	オリエンテーションⅠで配付された資料を読み、パンとアイスクリームの課題を考える。
3.	米粉加工食品(いろいろ)の調製、レオメータ測定の練習、官能評価用紙の準備	「食品物性学」第3章3.3節「テクスチャー特性」を復習する。いろいろ試料の加工原理とを把握し、材料変更と官能評価項目を考える。
4.	レオメータによるいろいろのテクスチャー測定と官能評価	いろいろ試料のテクスチャー測定と官能評価結果について、考察を準備する。
5.	中華麺とうどんの製造と試食	前週の実験「いろいろのテクスチャー」の結果をまとめてレポート(プレゼンテーション)作成。
6.	ソーセージの製造と試食	前週の実験「いろいろのテクスチャー」の結果をまとめてレポート(プレゼンテーション)作成。次週「熱分析」の試料を覚えて選択・報告する。
7.	食品の熱分析(A班)と解析・考察指導、豆腐製造のための大豆洗浄と浸漬	実験テキスト 3.4.1節「示差熱分析の原理」を読む。
8.	食品の熱分析(B班)、(木綿・絹ごし)豆腐の製造	自分の試料の成分を調べて、加熱による変化、反応を考える。
9.	創作パンの製造(ドウの1次発酵)、ジャムの製造(水さらしまで)、コーヒー豆の焙煎	前週の実験「食品の熱分析」の結果をまとめてレポート(プレゼンテーション)作成。創作パンの調製法を考える。
10.	創作パンの製造(ドウの2次発酵と焼成)と試食)、ジャムの製造(煮詰めと試食)、コーヒーの抽出と試食	前週の実験「食品の熱分析」の結果をまとめてレポート(プレゼンテーション)作成。
11.	寒天ゲル試料(砂糖入りと無し)の調製、レオロジー理論の復習	「食品物性学」3.1節「応力-ひずみ特性」と3.2節「破断特性」および第4章「固状食品のクリープ特性(静的微小変形)」を復習する。
12.	クリープメータを用いた寒天ゲルの応力-ひずみ測定とクリープ測定	レポート(発表)に備えて、寒天のゲル化とゲルの物性を文献で調べておく。
13.	創作アイスクリームの製造、コンニャクの製造と試食	前週の実験「寒天ゲルのレオロジー」のデータを解析して、レポート(プレゼンテーション)にまとめる。創作アイスクリームの調製法を考える。
14.	カマボコの製造と試食、創作アイスクリームの試食	前週の実験「寒天ゲルのレオロジー」のデータを解析して、レポート(プレゼンテーション)にまとめる。
15.	発表会	2週ないし3週前に実施した実験に関するプレゼンテーションを準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

「食物学のための数学と物理」、「情報処理Ⅰ、Ⅱ」、「食品物性学」の集大成であり、「食品化学Ⅰ、Ⅱ」、「調理科学Ⅰ、Ⅱ」、「食品加工貯蔵学」などの実践的総合科目です。これまでに修得した知識を存分に駆使して測定データを解析・考察し、加工食品製造と開発に挑んでください。2本書いてもらってレポートを文章・体裁・内容すべて細かくチェックします。プレゼンテーションも大小、リハーサル合わせて4回してもらいます。これら盛りだくさんの内容を真剣に取り組めば、能力・技術すべての面で大きく向上するでしょう。

フィードバックの方法:

提出された物性実験レポートを添削・採点の上、授業中に返却する(講評を加えることもある)。試食した加工食品について、評価コメントする。プレゼンテーションのリハーサルに対して修正箇所を指摘し、本番では全員でクリッカーで相互評価し、感想を書かせて後に発表者に渡す。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業参加度	36%	授業に対する参加・取り組み姿勢
	レポート(発表)・試食	64%	発表(1回)を含むレポート2本(内容と完成度)および製造された加工食品の目視と試食(豆腐とコンニャクは外観のみ)による評価

教科書:

『食品加工・物性学実験』(研究室作成、授業開始までに実験室で配付)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業中、実験室や研究室で。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

微生物や植物細胞などを実験材料に用い、実験実習を通じて基礎的なバイオテクノロジー（細胞培養・細胞融合・遺伝子操作・バイオリアクター）の知識と実験手法を体験的に習得する。

①基本的なバイオテクノロジーの技術について、実験実習を通じて体験的に理解できる。
②実験の前提となる無菌操作技術が身につく。
③一般的な科学実験に共通する基礎的な実験器具を正しく使うことができるようになる。
④班員と協力して安全に実験を遂行する態度が身につく。
⑤体験的に理解したことを参考文献等で調べて再学習し、客観的、論理的な文章にしてレポートにまとめることができる。

講義と実習形式の組み合わせで授業を行う。グループで実験を行うが、実験内容により操作は1名～複数名で行う。生物を対象としているため、準備、培養、結果観察を含め1つの実験が数回にわたるので、複数の実験を同時並行で行う。以下に示す授業内容は、月、火曜日連続での実験日を基本として組み立てているが、クラスによっては祝日等により実験の順番を入れ替えることがある。特に冬期休暇など授業期間内に長期休暇が入る場合は、実験日以外の日に結果観察日を設けることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
1.	〈実験実習の全体説明〉 〈実験1〉微生物の分離と同定(1-1 ジャガイモからの菌の分離)		
	2.	〈実験1〉微生物の分離と同定(1-1 分離した菌の純培養) 〈実験2〉微生物の増殖に対する保存料の効果	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	3.	〈実験2〉微生物の増殖に対する保存料の効果(結果観察) 〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験(4-2 培地作成)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	4.	〈実験1〉微生物の分離と同定(1-2 酸素要求度および乳糖分解能試験) 〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験(4-1 緩衝液作成)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	5.	〈実験1〉微生物の分離と同定(1-1 分離した菌の植え継ぎ) 〈実験1〉微生物の分離と同定(1-3 胞子染色)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	6.	〈実験1〉微生物の分離と同定(1-4 グラム染色) 〈実験3〉固定化酵素によるバイオリアクター実験(方法説明)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	7.	〈実験3〉固定化酵素によるバイオリアク(実験3)固定化酵素によるバイオリアクター実験(3-1 酵素の固定化、標準曲線作製) 〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験(4-1 試験菌の前培養)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	8.	〈実験3〉固定化酵素によるバイオリアクター実験(3-2 糖の定量) 〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験(4-1 試験菌液の調製)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	9.	〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験(4-2 食品添加物の変異原性試験) 〈実験5〉微生物での遺伝子工学実験(5-1 プラスミド保有菌の培養)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	10.	〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験(4-2 総菌数の測定) 〈実験5〉微生物での遺伝子工学実験(5-1 プラスミドDNAの調製)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	11.	〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験(4-2 突然変異菌数の測定) 〈実験5〉微生物での遺伝子工学実験(5-2 制限酵素でのプラスミドDNAの切断と電気泳動)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	12.	〈実験5〉微生物での遺伝子工学実験(5-3 形質転換) 〈実験7〉植物細胞のプロトプラスト化と細胞融合(試薬等の調製)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	13.	〈実験6〉抗生物質の力価測定 〈実験7〉植物細胞のプロトプラスト化と細胞融合(方法説明)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	14.	〈実験7〉植物細胞のプロトプラスト化と細胞融合(7-1 プロトプラスト化) 〈実験7〉植物細胞のプロトプラスト化と細胞融合(7-2 細胞融合)	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
	15.	〈実験結果のまとめ、レポート要点の再確認〉 〈実験道具の整理、掃除〉	実験内容、レポート作成に関して質問があれば、あらかじめまとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

実験中は細大漏らさずメモを取り、実験後記憶が薄れないうちにすぐレポート作成に取り掛かること。序論、考察を記入するに当たっては、図書館で参考となる書籍等を自分で探してレポート作成に役立てること。

レポート（計7本）のうち2本は添削したものを授業内で返却し、次回提出分の参考になるよう解説を行う。残り5本は次年度各自に返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	70	到達目標①②⑤について、レポートで評価する。実験1～7まで各10点満点で評価する。
	実験時の態度・参加度	30	到達目標③④について、実験中の態度・積極的参加度で評価する。

レポート提出の遅滞、欠席・遅刻	レポート提出の遅滞、欠席・遅刻については、特別な理由がない限り減点する。

教科書:	研究室作成の実験テキストを配布する。

参考書:	

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

季節食、行事食を日本、西洋、中国料理の多方面から学ぶ

授業の概要:

調理科学実習ⅠおよびⅡの内容をさらに応用・発展させた調理を行う。具体的には日常の献立はもちろん、四季の客膳調理、行事食などの調理を行う。
2年次開講の調理科学Ⅰ、Ⅱの共通の内容となる。

到達目標:

日常の献立はもちろん、四季の客膳調理、行事食などに応用する能力を養う。
調理技術を向上させるだけでなく、衛生管理にも留意した調理操作が確実にできる。
レポートをまとめることにより、料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解し、独自の視点を持って、かつ説得力をもって説明できる力を養う。
なお、調理科学実習Ⅰ、Ⅱおよび調理科学Ⅰ、Ⅱで学んだ基本的調理理論、副次的調理操作の科学、調理素材の調理性および調理技術を実際に活用、発展させる実習である。

授業方法:

授業の展開は実習内容の説明・デモンストレーション・実習・試食・後片付け・レポート課題の説明の順で行う。
実習は班に分かれて行う。1班4～5名で構成される。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1回 木の芽和え、若竹汁、筍御飯 4講時: たけのこの扱い方、食材の調理特性の説明、食文化の説明、デモンストレーション、実習 5講時: 盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	掲示板を確認し、必要な持ち物などもれなく準備しておくこと。
	2. 第2回 Crevette a la francaise, butter rice, Green Asparagus Salad, Bavarois 4講時: フランス料理について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時: 盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	3. 第3回 八宝菜、凉拌海、炒飯、杏仁豆腐 4講時: 中国料理について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時: 盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	4. 第4回 Spaghetti alla bolognese, Insalata mista, Gelo alle frutta 4講時: イタリア料理について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時: 盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	5. 第5回 Choux a la creme, Petites Bouche a la Bohemienne, Le gumes marine, Ice tea 4講時: シューの調理について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時: 盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	6. 第6回 てんぷらくえび2種、きす、さつまいも、青唐、しいたけ、なす、はじかみしょうが など>、とうがんの冷やし鉢、桜ふりかけご飯(またはじゃこご飯)、お手軽くずまんじゅう 4講時: てんぷらについて、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時: 盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	7. 第7回 焼き物<スズキ>、わかめスープ、三色ナムル<人参、ほうれん草、豆もやし>、海鮮チヂミ、ヤクシク 4講時: 韓国料理について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時: 盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	8. 第8回 調理理論の復習および各実習のふりかえり	これまで配布されたプリントの見直しと返却されたレポートを読み返しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実習は全て出席することが原則。遅刻、早退、欠席およびレポート未提出には厳正に対処する。

フィードバックの方法:

提出されたレポートは、評価を行い、できる限り次の回に返却する。レポートはコメントがついている場合と教室でまとめて解説する場合がある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席、貢献度および実習態度	50	実習は全て出席することが原則。出席した上で、積極的に実習に参加し、到達目標である調理技術の向上と科学的根拠の理解、衛生管理ができるようになったかを評価する。遅刻、早退、欠席には厳正に対処する。
	レポートおよび試験	50	到達目標である料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解した上で、それぞれの評価についてどの程度独自の視点があるか、また説得力を持って説明できるかを基準とする。

教科書:

本学独自の実習プリント
「食品成分表」注: 日本食品標準成分表2015(七訂)をデータベースとした図書(女子栄養大出版部)

参考書:

山崎清子ほか編著「新版 調理と理論」(同文書院)
安藤真美ほか著「たのしい調理ー基礎と実習ー第5版」(医歯薬出版)
松崎政三ほか編著「映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス」(学際企画)
下村道子・和田淑子編著「新調理学」(光生館)

「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)	
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力
教員との連絡 方法:	実習の前後に教室内で対応(あるいはオフィスアワー)

授業テーマ:

季節食、行事食を日本、西洋、中国料理の多方面から学ぶ

授業の概要:

調理科学実習ⅠおよびⅡの内容をさらに応用・発展させた調理を行う。具体的には秋の日本料理、西洋料理、中国料理およびクリスマス料理、正月料理にも適応できる料理を実習する。
2年次開講の調理科学Ⅰ、Ⅱと共通の内容となる。

到達目標:

日常の献立はもちろん、四季の客膳調理、行事食などに应用する能力を養う。
調理技術を向上させるだけでなく、衛生管理にも留意した実習が確実にできる。
レポートをまとめることにより、料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解し、独自の視点をもって、かつ説得力をもって説明できる力を養う。
なお、調理科学実習Ⅰ、Ⅱおよび調理科学Ⅰ、Ⅱで学んだ基本的調理理論、副次的調理操作の科学、調理素材の調理性および調理技術を実際に活用、発展させる実習である。

授業方法:

授業の展開は実習内容の説明・デモンストレーション・実習・試食・後片付け・レポート課題の説明の順で行う。
実習は班に分かれて行う。1班4～5名で構成される。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1回 栗御飯、吸物、かますの幽庵焼、さつまいもの黄金煮 4講時:秋の日本料理について、食材の調理特性、食文化などの説明、デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	掲示板を確認し、必要な持ち物などもれなく準備をしておくこと。
	2. 第2回 白飯、古滷肉、炒滑蛋、西米椰汁 4講時:溜菜について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	3. 第3回 Fricassees de volaille、Onion gratin、Soute de brocoli、Soute de champignons、Gelee au vin rouge 4講時:ブイヨンについて、食材の調理特性、食文化などの説明、デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	4. 第4回 Hors-d'Oeuvre Varies、Puree a la Paysanne、Tea 4講時:オードブルについて、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	5. 第5回 おにぎり、かぶら蒸し、Plum cake、Coffee 4講時:蒸し物調理、クリスマスケーキについて、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	6. 第6回 幕の内弁当＜正月料理＞、赤だし味噌汁 4講時:弁当およびお節料理について説明、デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	7. 第7回 特別食＜離乳食＞ 4講時:授乳・離乳支援ガイドについて説明、デモンストレーション、実習 5講時:盛付け、試食、仕上がりに対する評価、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
	8. 第8回 包丁技術指導および各実習のふりかえり	これまで配布されたプリントの見直しと返却されたレポートを読み返しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実習は全て出席することが原則。遅刻、早退、欠席およびレポート未提出には厳正に対処する。

フィードバックの方法:

提出されたレポートは、評価を行い、できる限り次の回に返却する。レポートはコメントがついている場合と教室でまとめて解説する場合がある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席、貢献度および実習態度	50	実習は全て出席することが原則。出席した上で、積極的に実習に参加し、到達目標である調理技術の向上と科学的根拠の理解、衛生管理ができるようになったかを評価する。遅刻、早退、欠席には厳正に対処する。
	レポートおよび試験	50	到達目標である料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解した上で、それぞれの評価についてどの程度独自の視点があるか、また説得力を持って説明できるかを基準とする。

教科書:

本学独自の実習プリント
「食品成分表」注:日本食品標準成分表2015(七訂)をデータベースとした図書(女子栄養大出版部)

参考書:

山崎清子ほか編著「新版 調理と理論」(同文書院)
安藤真美ほか著「たのしい調理－基礎と実習－第5版」(医歯薬出版)
松崎政三ほか編著「映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス」(学際企画)
下村道子・和田淑子編著「新調理学」(光生館)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力
教員との連絡 方法:	実習の前後に教室内で対応(あるいはオフィスアワー)

授業テーマ:	微生物の一般性状の概説と食品への利用		
授業の概要:	本科目は食品衛生管理者/食品衛生監視員任用資格のための必修科目である。食品衛生における重要な項目の一つである食中毒は微生物によって引き起こされることから、授業の前半部分ではわれわれの生活に身近な微生物の一般性状と増殖に関わる環境因子について説明する。後半では伝統的な発酵食品の製造に果たす微生物の役割、微生物の代謝産物の利用などを概説する。最後に、バイオテクノロジーの基礎的な知識について簡単に解説することで、次年度の「食品バイオテクノロジー」「食品バイオテクノロジー実験」への橋渡しをする。		
到達目標:	①カビ、酵母、細菌類、ウイルスの一般性状とそれらの生育要因について理解できる。 ②微生物の食品への利用(加工、醸造、代謝産物の利用、バイオテクノロジーへの応用)について理解が深まる。 ③毎授業、記述式の復習問題を提出することにより、正しい知識を要約して文章化できるようになる。		
授業方法:	毎回講義形式で教科書と板書を中心に授業を行う。必要に応じてプリント、ビデオ教材、教材提示機等を用いる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 微生物学の発展	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	2. 微生物一般について	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	3. 微生物の種類と性質(カビ)	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	4. 微生物の種類と性質(酵母、キノコ)	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	5. 微生物の種類と性質(細菌類)	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	6. 微生物の種類と性質(放線菌)	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	7. 微生物の生育と環境因子	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	8. ウイルスとファージ	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	9. 食品中の微生物相	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	10. 発酵食品に果たす微生物の役割(アルコール飲料)	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	11. 発酵食品に果たす微生物の役割(醤油、味噌、乳製品など)	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	12. 微生物の代謝産物の利用(アミノ酸、核酸など)	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	13. 微生物の代謝産物の利用(抗生物質)	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。	
	14. バイオテクノロジーへの応用	復習問題の採点結果を確認し、まとめに向けて全体的に復習すること。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	高校生物の知識や「生化学」「食品衛生学」で学んだことを踏まえた内容になるので、既存の知識を活用すること。授業全体を通じて、生命の起源である微生物は基本的にわれわれ高等動物と同じシステムをもつ生物体であることを理解し、ヒトと環境や食物との関係について広い視野に立って思考できるようになることを期待する。		
フィードバックの方法:	毎授業の最後に復習問題を課し次の授業で回収したものについて、翌週の授業冒頭で模範解答の一例を教材提示機で示し、解説する。 14回目の授業において、それまでの復習問題(5点満点)の結果を表にして掲示する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	90	到達目標①②(第2回以降の授業内容のすべて)に関する理解度により評価する。
	復習問題	10	毎回5点満点で採点し、平均点を2倍して10点満点で評価に加える。
	授業への参加度	0	まじめに授業に出席したかを参考までに評価する。
教科書:	木村光 編、食品微生物学 改訂版、培風館		
参考書:	児玉徹 熊谷英彦 編、食品微生物学 食品の科学⑤、文永堂出版 村田容常 渋井達郎 編、食品微生物学(新スタンダード栄養・食物シリーズ16)、東京化学同人		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

食の安全

授業の概要:

食品衛生とは、飲食物によって発生する健康上の危害を防止し、人の生命と健康を守ることである。近年、社会構造の変遷とともに、食品の生産、貯蔵、流通、加工などの技術が進歩し、世界各地から様々な食品が輸入され、日本人の食生活は世界的に見ても稀なほど豊かになった。しかしその反面、輸入感染症の増加や、農薬や抗生物質の食品中への残留が問題となり、食品の安全確保の重要性はいっそう高まっている。
この授業では、時代に対応した食品衛生の基本的知識を身につけ、食の安全に対する科学的な視点を養う。

- 到達目標:
1. 食品の生物的・化学的・物理的な変質要因および有害物質に関する基礎的知識を身につける。

2. 食品衛生行政および関連法規や基準について、その目的を理解する。

3. 食に関する「安全」と「安心」の違いを理解し、科学的態度を身につける。

授業方法:

講義（教科書を使用）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品衛生行政と関連法規	教科書の関連する部分を読んでおく。
2.	食品と微生物	教科書の関連する部分を読んでおく。
3.	細菌性食中毒(1)	教科書の関連する部分を読んでおく。
4.	細菌性食中毒(2)	教科書の関連する部分を読んでおく。 ＜授業後＞細菌性食中毒の概要をまとめる。
5.	ウィルス性食中毒	教科書の関連する部分を読んでおく。
6.	自然毒食中毒	教科書の関連する部分を読んでおく。
7.	化学性食中毒	教科書の関連する部分を読んでおく。
8.	経口感染症	教科書の関連する部分を読んでおく。
9.	経口寄生虫疾患	教科書の関連する部分を読んでおく。
10.	食品の変質とその防止	教科書の関連する部分を読んでおく。
11.	有害物質による食品汚染	教科書の関連する部分を読んでおく。
12.	食品添加物	教科書の関連する部分を読んでおく。 ＜授業後＞身の周りの食品に使われている食品添加物を調査する。
13.	食品衛生対策	教科書の関連する部分を読んでおく。
14.	食の安全と環境	教科書の関連する部分を読んでおく。
15.	まとめ	前回までの内容を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは採点し返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	筆記試験	70	到達目標1に関する知識と2に対する理解度、および3について科学的態度が身についているかどうかにより評価する。
	レポート	30	到達目標1のうち、課題とした内容に関する理解度により評価する。

教科書:

細貝祐太郎他編 新食品衛生学要説 医歯薬出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	食品のテクスチャーとレオロジー		
授業の概要:	食品のおいしさには物理的因子(テクスチャー)も影響し、その定量化にはレオロジー(物体の変形や流動の物理)の方法が有用である。本科目では、テクスチャー用語と基礎レオロジー概念(ひずみ、応力、破断、弾性と粘性、粘度)を解説し、測定データの解析法を習得させることで、3年次「食品・加工物性学実験」に備える。		
到達目標:	・食品のテクスチャー用語を理解する。 ・ひずみと応力の意味を理解し、実験条件や変形長と荷重からそれらを計算できる。 ・固状食品の応力-ひずみ曲線を解析し、初期弾性率と破断特性を求め、それらの意味を解釈できる。 ・固状食品のクリープ(ひずみ-時間)曲線を4要素モデル解析し、静的粘弾性率を求めることができる。 ・ずり応力とずりひずみの意味を理解する。 ・液状食品のずり応力-ずりひずみ曲線とニュートン流動の粘度を理解する。		
授業方法:	毎回、自作の教科書に基づく講義に演習を混ぜ、クリッカー小テストによって理解度を確認する。実践的な課題に2回取り組んでもらい、レポートを提出してもらう。講義の流れの中で代表的な物性実験映像をプロジェクトで見せる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.食品のおいしさに対するテクスチャーの重要性を説明し、テクスチャー用語と測定例を紹介する。 2.食品の変形から「ひずみ」を、物体の運動から「力」をそれぞれ導入する。 3.「重力の法則」から質量と重力の関係を理解する。「応力」を導入し、食品に加えられる応力とひずみの関係を考察する。 4.「応力-ひずみ曲線」の特性として「初期弾性率」と「破断特性(ひずみ、応力、エネルギー)」を導入し、初期弾性率の求め方を説明する。レポート課題1「Excelによる応力-ひずみ曲線の作成および破断特性量と初期弾性率の決定」を配付し、説明する。 5.初期弾性率と破断特性を復習した後、食品を2回圧縮(貫入)することで定義されるテクスチャー特性量(硬さ、付着性、凝集性など)を導入する。 6.レポート課題1の結果を講評した後、成績上位者にコンニャクゼリーと寒天ゼリーを試食・官能評価させる。ここまでのまとめと応用として、「コンニャクゼリーのおいしさと危険性(窒息事故)の原因」を考察する。 7.食品のクリープ測定結果(応力一定下でのひずみの時間変化)に対する弾性と粘性の存在を認識し、弾性モデル(ばね)の性質(フックの法則)を学ぶ。 8.1次関数の微分を確認し、粘性モデル(ダッシュポット)の性質(応力とひずみ速度の比例関係とその解)を学ぶ。 9.弾性モデルと粘性モデルを直列につなげたマックスウェル・モデルを導入し、加重・除重期におけるひずみの時間変化を考える。 10.弾性モデルと粘性モデルを並列につなげたフォークト・モデルを導入する。指数関数の性質(微分やグラフ)を確認し、加重期におけるひずみの時間変化(フォークト方程式の解)を考える。 11.マックスウェル・モデルとフォークト・モデルを直列につなげた4要素モデルを導入し、加重期におけるひずみの時間変化を構築する。 12.クリープ測定データを4要素モデルで解析し、4つの粘弾性率を導く方法を解説する。レポート課題2「Eクリープ曲線と4要素モデル解析」を配付する。 13.演習を通して、クリープ測定結果に対する4要素モデル解析の手続きを理解する。 14.液状食品の流動特性を記述するために「ずり速度」と「ずり応力」の概念を導入する。 15.ずり速度がずり応力に比例するニュートン流動を考え、「粘度」を導入する。演習として水のデータから粘度を求める。	教科書の第1章「食品の嗜好性・テクスチャー・物性的アプローチ」を読む。 第2章「物体のひずみと応力」の2.1節「物体の変形とひずみ」と2.2.1節「基本的な物理量と単位」と2.2.2節「力」を読む。「食物学のための数学と物理」を復習し、自由落下加速度の計算問題2.2を解く。 教科書の第2章2.2.2節「重力(万有引力)」を読み、問題2.3、2.4を解く。2.2.3節「応力」を読み、問題2.5-2.8を解く。 教科書の第3章「固状食品の応力-ひずみ特性」の3.1節「応力-ひずみ特性」と3.2節「破断特性」を読む。 教科書の第3章3.3節「テクスチャー特性」を読む。 「コンニャクゼリーはなぜおいしく、危険なのか」を考えながら、前回までの内容を復習する。 教科書の第4章「固状食品のクリープ特性(静的微小変形)」を4.2.2節「弾性モデル:ばね」まで読む。Youtubeで「高校物理 弾性力」を視聴する。 「食物学のための数学と物理」の「微分」を復習し、本科目の教科書4.2.3節「粘性モデル:ダッシュポット」を読み、問題に取り組む。 教科書4.3節「直列2要素モデル:マックスウェル・モデル」の内容を予め自分で考えて構築する。 数学的準備として「食物学のための数学と物理」の第1章「指数関数」と第4章「指数関数の微分」を復習し、本科目の教科書4.4節「粘弾性モデル:フォークト・モデル」の内容(空白部)を自分で考えて埋める。 教科書4.5節「4要素モデル」の内容(空白部)を自分で考えて埋める。 教科書4.6節「4要素モデルによるクリープ測定結果の解析」を読みながら、空白部を自分で考えて埋める。 教科書4.6節の問題4.2、4.3を読み、解く。 教科書の第5章「液状食品の流動特性」の5.1節「ずり速度とずり応力」を読む。 教科書5.2節「ニュートン流動と粘度」を読み、問題5.1、5.2を解く。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本科目の準備科目であった1年次「食物学のための数学と物理」をしっかり復習して授業に臨んでください。また、本科目は3年次「食品加工・物性学実験」の準備科目です。本科目で理論的な内容をしっかり修得して実験科目に備えてください。		
フィードバックの方法:	毎回のクリッカー小テスト結果をスライドで提示する。2回のレポート課題を締め切り後の授業で採点の上返却・講評する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度・理解度	25%	クリッカーテストによって授業への準備度、積極的参加度、授業内容の理解度を評価する。
	レポート課題(2回)	30%	授業で展開した理論がどの程度身についたかを実践的な課題(実験データの解析)に対する結果の完成度で評価する。
	定期試験	45%	食品のテクスチャー、ひずみと応力、破断特性、クリープ特性(粘弾性)と解析モデル、粘度など、食品物性学の基礎概念に対する理解度や運用力により評価する。素点をべき(指数≒0.8)乗変換して過剰な広がりや緩和する。
教科書:	担当者作成の『食品物性学』(同女生協で販売予定)		

参考書:	川端晶子『食品物性学』(建帛社) 松本幸雄『食品の物性とは何か』(弘学出版)
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	授業後、教室で、またオフィスアワーなど、公務時間以外に研究室で対応する。

授業テーマ:	何故加工食品となるのか？																																		
授業の概要:	現在、おびただしい数の加工食品が市場を賑わせている。しかし、その原料や製造方法などは、消費者に余り知られていない。そのことが、ある時には消費者の不安を駆り立てる原因にもなっている。食品加工貯蔵学では、食品は生物との見地から、食品加工の基礎、各種貯蔵法の原理及び加工食品は如何に食品成分の特性を活かして製造されているのかを学ぶことで、加工食品に対する正しい知識を体得することを目指す。さらに、疾病予防を目的として開発された加工食品や食品の安全性、食商品学についても教授する。																																		
到達目標:	食品学総論・各論の知識を基礎として 1. 食品素材から加工食品となる仕組みを科学的に説明できる。 2. どうして食品の保存・貯蔵ができるのか？その原理を解説できる。 3. 食品の表示方法の成り立ちがわかる。 4. 特定保健用食品や遺伝子組み換え食品を正しく理解できる。 以上のことから 1. 加工食品に関する事象や課題に関心を持つようになる。 2. 加工食品にまつわる事象を科学的な視点で捉えることができるようになる。 3. 加工食品に関する事象についてプレゼンテーションできるようになる。																																		
授業方法:	テキストを用いて上記項目を順次解説する。また必要により、プリントの配布およびPower Pointの使用などを行う。隔週、講義終了後に20分程度の小テストを行う。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 農産食品の加工(穀類・豆類・いも類)</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>2. 農産食品の加工(野菜類・果実類など)</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>3. 畜産食品の加工(畜肉類)</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>4. 畜産食品の加工(乳類・卵類など)</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>5. 水産食品の加工(冷凍品)</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>6. 水産食品の加工(乾燥品・練り製品など)</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>7. 食用油脂および調味食品</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>8. 嗜好食品およびインスタント食品(嗜好飲料・アルコール飲料など)</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>9. 食品の加工の原理</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>10. 食品の保存法(低温による保存など)</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>11. 食品の保存法(燻煙による保存など)</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>12. 食品の安全性</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>13. 加工食品の規格と表示制度</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>14. 食商品学・遺伝子組み換え食品</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>使用テキスト該当部分を予め予習のこと</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 農産食品の加工(穀類・豆類・いも類)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	2. 農産食品の加工(野菜類・果実類など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	3. 畜産食品の加工(畜肉類)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	4. 畜産食品の加工(乳類・卵類など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	5. 水産食品の加工(冷凍品)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	6. 水産食品の加工(乾燥品・練り製品など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	7. 食用油脂および調味食品	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	8. 嗜好食品およびインスタント食品(嗜好飲料・アルコール飲料など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	9. 食品の加工の原理	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	10. 食品の保存法(低温による保存など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	11. 食品の保存法(燻煙による保存など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	12. 食品の安全性	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	13. 加工食品の規格と表示制度	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	14. 食商品学・遺伝子組み換え食品	使用テキスト該当部分を予め予習のこと	15. まとめ	使用テキスト該当部分を予め予習のこと		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 農産食品の加工(穀類・豆類・いも類)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
2. 農産食品の加工(野菜類・果実類など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
3. 畜産食品の加工(畜肉類)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
4. 畜産食品の加工(乳類・卵類など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
5. 水産食品の加工(冷凍品)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
6. 水産食品の加工(乾燥品・練り製品など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
7. 食用油脂および調味食品	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
8. 嗜好食品およびインスタント食品(嗜好飲料・アルコール飲料など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
9. 食品の加工の原理	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
10. 食品の保存法(低温による保存など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
11. 食品の保存法(燻煙による保存など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
12. 食品の安全性	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
13. 加工食品の規格と表示制度	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
14. 食商品学・遺伝子組み換え食品	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
15. まとめ	使用テキスト該当部分を予め予習のこと																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	小試験の解説を行う。解説をもとに復習のこと。重要事項を記憶し、定着させることでその他の事項との相関が深まります。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>試験</td><td>100</td><td>知識・理解が到達目標に達しているかどうかを基準とする。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	試験	100	知識・理解が到達目標に達しているかどうかを基準とする。																												
評価方法	割合	評価基準																																	
試験	100	知識・理解が到達目標に達しているかどうかを基準とする。																																	
教科書:	新 食品・栄養科学シリーズ「食品加工学(第2版)第6刷」西村公雄・松井徳光編(化学同人)																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	授業終了後研究室にお訪ねください。不在時は随時連絡いたします。																																		

632760

食品バイオテクノロジー

井沢 真吾

授業テーマ:

食品の製造・加工におけるバイオテクノロジーや遺伝子組換え技術の有用性と危険性について学び、将来、食のプロフェッショナルとしてあるいは母となった場合に適切に判断できるような知識と判断力を身につける。

授業の概要:

食品の製造・加工におけるバイオテクノロジーについて具体的な例と共に学ぶ。

到達目標:

バイオテクノロジーおよび遺伝子組換え技術の利用に関して、食のプロフェッショナルとして適切に判断できるような知識と判断力を身につける。

授業方法:

スライド・動画・プリントを用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 概略	ニュース・新聞など関連情報に目を通す
2. チーズとバイオテクノロジー技術	配布プリントを中心とする予習復習
3. トレハロースの製造と食品加工	配布プリントを中心とする予習復習
4. 漬物と腸内細菌	配布プリントを中心とする予習復習
5. 発酵食品と腸管免疫	配布プリントを中心とする予習復習
6. 乳酸菌関連食品・バクテリオシン	配布プリントを中心とする予習復習
7. 寒天とゼラチン	配布プリントを中心とする予習復習
8. トマトと遺伝子組換え	配布プリントを中心とする予習復習
9. デカフェコーヒー豆	配布プリントを中心とする予習復習
10. Btコーンと米国畜産業	配布プリントを中心とする予習復習
11. 米国の食を取り巻く動向	配布プリントを中心とする予習復習
12. 巨大産業と種の支配	配布プリントを中心とする予習復習
13. 子供には何を食べさせたら良いのか？	配布プリントを中心とする予習復習
14. 日本と世界の食の将来	配布プリントを中心とする予習復習
15. 総括と小論文作成	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

食品に利用されているバイオテクノロジー技術について、その利便性や安全性について考えていきます。暗記等は不要ですが、しっかり自分自身の意見をもつことを求めます。関連企業の紹介なども行います。

フィードバックの方法:

講義中およびメールでの質問・ディスカッションに対応する。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
講義への出席	70	出席・遅刻・欠席の割合で評価します。
小論文	30	適宜、各自の考えを記述・提出させる。

教科書:

なし

参考書:

講義内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、リーダーシップ、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール thioredoxin @ kit.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 官能評価とは、物質の特性を人間の五感によって評価・測定することである。人間の感覚という「あいまいさ」のあるものから、いかに信憑性の高いデータをえるかが重要な課題である。そこで、官能評価を準備、実施、データ収集・解析の順に概説する。

到達目標: ・官能評価を実施するのに必要な味覚・嗅覚・おいしさに関する知識を身につける。
・官能評価の立案・実施・解析を適切に行うために必要な基本的な知識と考え方を習得する。

授業方法: 講義形式（一部、体験学習を含む）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 官能評価とは	調理科学の教科書等に記載の「おいしさ」「官能評価」に関わる部分を読んでおく。
	2. 味・味覚	1回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
	3. におい・嗅覚	2回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
	4. おいしさの情報処理	3回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
	5. 官能評価に影響する因子	4回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
	6. 実施計画1: パネル・試料	5回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
	7. 実施計画2: 質問紙・検査室	6回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
	8. まとめ-官能評価の準備-	7回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
	9. 比較法: 2点比較法・3点比較法	8回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
	10. 順位法1: スピアマンの順位相関係数	9回の講義内容について、コメントシートにまとめる。 教科書に記載の練習問題のうち、講義中にできなかった問題を解答しておく。
	11. 順位法2: Kendallの一致性の係数	10回の講義内容について、コメントシートにまとめる。 教科書に記載の練習問題のうち、講義中にできなかった問題を解答しておく。
	12. 評点法: 分散分析と多重比較	11回の講義内容について、コメントシートにまとめる。 教科書に記載の練習問題のうち、講義中にできなかった問題を解答しておく。
	13. 多変量解析	12回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
	14. 官能評価の計画立案	13回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
	15. まとめ	本講義の全体を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: 専門フードスペシャリスト資格試験を受験する人は、試験日までに、『三訂食品の官能評価・鑑別演習』の官能評価に関するところを、講義の進度に関わらず自主的に学習することをお勧めします。

フィードバックの方法: コメントペーパーは教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	26	コメントペーパーの内容も考慮し、官能評価の実施に必要な基本知識を、講義を通して理解しようとしているかを評価する。
	小テスト&レポート	9	官能評価の解析法の理解度により評価する。
	定期試験	65	官能評価の実施に必要な基本知識(周辺知識を含む)の理解度を評価する。

教科書: (公社)日本フードスペシャリスト協会『三訂食品の官能評価・鑑別演習』建帛社
授業中に配布する冊子を併用する。

参考書: 古川秀子『おいしさを測る 食品官能検査の実際』幸書房
古川秀子・上田玲子『続 おいしさを測る 食品開発と官能評価』幸書房
日本官能評価学会(編)『官能評価士テキスト』建帛社
今井悦子・安原安代『健康を考えた調理科学実験』アイ・ケイコーポレーション

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: オフィスアワーまたは授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	食品の生産から流通、消費まで		
授業の概要:	食品が私たちの手元に届くまでには、生産・加工・流通という多段階にわたる複雑なプロセスをたどるため、その現状や実態は見えにくい。そこで本講義では、食生活の変化、食品が消費者に届くまでの仕組み、生産・加工・流通にかかわる事業主体の行動や各段階の特徴について説明する。私たちが直面している食をめぐる問題や課題についても取り上げる。		
到達目標:	食生活の変化とその背景を理解する。 フードシステムの各段階(生産・加工・流通)における事業者の行動や、各段階の特徴についての知識を習得する。 フードシステムをめぐる問題や課題を考えられるようにする。		
授業方法:	テキストを用いて講義を授業を行う。毎回レジュメを配布する。スライドやビデオ教材を活用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス:食生活や食品生産・流通の仕組みを理解する意義について、フードシステムという概念をもとに説明する。	特になし	
	2. 食生活の変化:現在の私たちの食生活の特徴について理解する。食生活形態の変化や、変化の要因について説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 1週間の食生活について、外食・中食・内食という視点で分類してみる。	
	3. 品目別食品消費の変化:コメ、野菜、畜産物などの品目別消費量の変化や、食の変化を示すキーワードについて学ぶ。	テキストの該当部分を読んでくること。 1週間の食生活について、米を食べた頻度／量を記録すること。	
	4. 卸売市場:生鮮品の流通に大きな役割を果たしている卸売市場について説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 中央卸売市場を1つ取り上げ、調べてみる。	
	5. 卸売流通:加工食品を扱う食品問屋(食品卸)について、その役割と近年の動向を説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 食品卸会社を1つ取り上げ、調べてみる。	
	6. 小売流通:食品小売業について学ぶ。主にチェーン展開しているスーパーマーケットを取り上げ、その運営の仕組みや商品政策について説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 チェーン展開しているスーパーマーケットを取り上げ、調べてみる。	
	7. 外食産業:主にチェーンレストランを取り上げ、その運営の仕組みや食材供給システムについて解説する。	テキストの該当部分を読んでくること。 外食店を1つ取り上げ、その特徴を調べてみる。	
	8. 中食産業:主にコンビニエンスストアを取り上げ、その運営の仕組みや今後の動向などについて説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 コンビニエンスストアの特徴をまとめてみる。	
	9. 第4回～第8回の授業に関する具体的な事例について学ぶ(ビデオ教材)。	これまでの授業や、テキストの該当部分で分からなかったところをまとめる。	
	10. 主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性を学ぶ。第10回は、米、小麦粉製品、青果物、畜産物、食肉、牛乳、鶏卵などを取り上げる。	テキストの該当部分を読んでくること。 米、小麦粉製品、青果物、畜産物、食肉、牛乳、鶏卵の中から、2品目取り上げ、その流通や消費の特徴を調べてみる。	
	11. 主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性を学ぶ第11回は、大豆加工品、調味料、菓子、茶・コーヒー類、清涼飲料、酒類などを取り上げる。	テキストの該当部分を読んでくること。 大豆加工品、調味料、菓子、茶・コーヒー類、清涼飲料、酒類から2品目取り上げ、その流通や消費の特徴を調べてみる。	
	12. フードビジネスによるマーケティングを理解する。マーケティングの基礎的な用語を理解する。	テキストの該当部分を読んでくること。 フードマーケティングの事例を調べてみる。	
	13. 環境問題と食:食にかかわる環境問題、また環境保全のための国や企業の取り組みについて解説する。さらに食品廃棄・ロスの現状についても説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 食に関する環境問題にはどのようなことがあるか、調べてみる。	
	14. 食品の安全確保のための考え方や、そのための仕組みを解説する。リスクアナリシスの仕組みと、企業における食品安全管理システム(HACCPなど)を学ぶ。	テキストの該当部分を読んでくること。 HACCPなどの安全確保システムについて、調べてみる。	
	15. まとめ	特になし	
受講者へのメッセージやアドバイス:	日ごろから食に関することに興味を持ち、新聞・ニュース等を通じて情報を収集すること。事前にテキスト(授業予定分)を読んでおくこと。授業終了後に課題を提示するので、次回の授業時に提出すること。		
フィードバックの方法:	毎回授業後に提出してもらった感想で出された質問については、次回の授業時にまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80	到達目標に示した3つの点の理解度と、これらを簡潔に説明できるかを基準とする。
	授業への参加度	20	授業への積極的な参加と、課題の提出を基準とする。
教科書:	日本フードスペシャリスト協会編、三訂 食品の消費と流通、建帛社、2016年		
参考書:	高橋正朗・清水みゆき編著、食料経済―フードシステムからみた食料問題―、オーム社、2016年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	Eメールおよび授業前後に教室内で対応する		

授業テーマ:

社会・環境要因と健康との関連について学ぶ。

授業の概要:

医療技術が発展し我々は長く生きることが可能になった。しかしその一方で、高齢化、慢性疾患の増加などの疾病構造の変化、医療費の増加などに伴う問題が社会に生じ、日常的な健康増進や病気の予防、長く幸せに生活すること、効率的な医療の達成がますます重要な時代となっている。
そこで本講義では、社会・環境要因が我々の健康状態に及ぼしうる影響について学び、健康増進と疾病予防のために個人や集団レベルで実施可能な対策について考える。

到達目標:

健康の定義、公衆衛生の定義、健康増進や疾病予防の考え方、保健統計の概要、集団の健康状態、疾病の測定と評価方法、健康に関わる社会制度と保健対策について理解することを目標とする。

授業方法:

教科書と配布資料を用い、パワーポイントで示しながら講義形式で行う。小テストを行って理解の定着を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会と健康: 公衆衛生の概念、健康の概念、健康の定義と目的	教科書p1-9を読み、予習と復習を行う。
2.	社会と健康: 予防医学の段階、プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション、公衆衛生の歴史など	教科書p1-9を読み、予習と復習を行う。
3.	保健統計: 人口動態統計、人口動態統計、生命表	教科書p10-21を読み、予習と復習を行う。
4.	保健統計: 傷病統計、その他の保健統計	教科書p21-27を読み、予習と復習を行う。
5.	疫学: 疫学の概念、疫学の指標、疫学の方法	教科書p28-36を読み、予習と復習を行う。
6.	疫学: バイアスと交絡、スクリーニングとその適用、根拠に基づく保健対策	教科書p37-46を読み、予習と復習を行う。
7.	生活習慣の現状と対策: 生活習慣病、身体活動、喫煙、飲酒、口腔保健行動、ストレス	教科書p56-69を読み、予習と復習を行う。
8.	生活習慣の現状と対策: 生活習慣病、身体活動、喫煙、飲酒、口腔保健行動、ストレス	教科書p56-69を読み、予習と復習を行う。
9.	主要疾患の疫学: 生活習慣病と成人保健、主要部位のがん、循環器疾患、代謝疾患(肥満症・糖尿病など)	教科書p70-77を読み、予習と復習を行う。
10.	主要疾患の疫学: 骨粗鬆症、口腔疾患、精神疾患、感染症など	教科書p78-98を読み、予習と復習を行う。
11.	保健行政: 地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保健	教科書p99-131を読み、予習と復習を行う。
12.	保健行政: 地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保健	教科書p99-131を読み、予習と復習を行う。
13.	環境保健: 人間生活と環境、環境汚染と健康、環境衛生	教科書p132-160を読み、予習と復習を行う。
14.	社会保障: 社会保障の概念、医療制度、介護保険制度と社会福祉制度	教科書p161-176を読み、予習と復習を行う。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業に先立ち、教科書の関連ページを読む。授業後、理解できないことはそのままにせず、各自調べたり、積極的に質問すること。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70	到達目標の健康増進や疾病予防の考え方、健康に関わる社会制度と保健対策に関する知識と理解度により評価する。
	小テスト・授業への積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、健康増進と疾病予防のために個人や集団レベルで実施可能な対策について考えることができたかを評価する。

教科書:

松村幸・中山健夫編集 栄養科学シリーズNEXT「公衆衛生学 社会・環境と健康」第3版（講談社サイエンティフィク）

参考書:

必要に応じて授業時に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

「食」の視点から健康な生活を考え、それを実践できる栄養学

授業の概要:

①栄養に関する基礎知識を確認し、現在の食事摂取基準について学ぶ。
②年代別に必要な栄養に関する知機器を学ぶ
③食品表示や健康食品について学ぶ
④提出課題を4回実施します
離乳食の試食や高齢者体験、食品表示の実際や栄養計画、活動計画の発表などを毎年取り入れています。命の芽生えから生命の炎が燃え尽きるまでの「食」に関する知識を網羅し、実践に活かせる力を涵養します。これにより、記録したり、課題をまとめたり、自分で企画・立案する能力やそれを発表する事でプレゼンテーション能力の獲得の一助としています。

到達目標:

①生活習慣の3本柱の一つである「栄養・食生活」に関して単に栄養だけではなく、生活習慣としての「栄養・食生活」に関する知識や情報を提供することにより、今後の人生の中でより良い生活習慣の習得する
②これからの自分の人生や家族の健康な生活に役立つ知識を確実に身に付ける
③食品選択の指標となる食品表示について理解する

授業方法:

毎回の授業では講義目標を明確に提示します。そして各講義の内容に合わせて講師が作成した資料を配布し、主としてその資料に沿って講義します。応用栄養学の教科書も補足的に使用します。特に特論については、講師が最新の資料を用意します。提出課題は4回で (1)は食事記録 (2)は食品表示 (3)は栄養評価と栄養計画 (4)は栄養教育です。また計画作成後はその計画の発表の場を設けて講師の講評や学生からの意見を共有します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと基礎知識チェック 講義の進め方、教科書・参考図書の紹介 出欠や評価について 提出課題(1)	受講前の科目全体の事前学習として中学や高校で学んだ栄養や食事についての知識を確認しておくのが望ましい。
2.	第1章 栄養ケア・マネジメント 事摂取基準の基礎的理解 「何をどれだけ食べているの」「何をどれだけ食べればいいの」を確認しよう	第2章 食 復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
3.	第3章 成長 発達 加齢 年齢による体や心の変化を知る	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
4.	第4章 妊娠期 授乳期 安心・安全な妊娠と出産のために	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
5.	第5章 新生児期 乳児期 健やかな発育・発達のために 試食 安心・安全な妊娠と出産のために	離乳食の 復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
6.	第6章 成長期(幼児期 学童期 思春期) 成長期に大切なこと 栄養と食習慣 自分で判断して食事を選ぶ大切さ	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
7.	特論 食品表示について 実際の食品の表示を確かめてみよう 提出課題(2)	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
8.	第7章 成年期 働く世代の生活習慣病の予防のために	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
9.	第8章 高齢期 豊かな老後を送るには一高齢者の体と心を知る	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
10.	中間のまとめ 自分や家族の栄養計画を立ててみよう 提出課題(3)	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
11.	特論 食中毒と健康食品 な食生活を考える	安心・安全 復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
12.	第10章 環境と栄養 ストレスや熱中症から身を守るには	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
13.	食から支える地域での生活 食を通じた地域の活動計画を立てる 提出課題(4)	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
14.	活動計画発表会 食育の実際を共有しよう	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。
15.	まとめ	復習を確実に実施する事で講義内容の理解を期待する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

疑問や質問があればその講義中に解決することが望ましい

フィードバックの方法:

毎回の講義内容について実践に向けての確認をしたり、提出課題については講義の中で受講者同士の意見や講師の講評を共有する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	85%	定期試験の成績
	出席状況等	15%	出席状況、提出課題や講義中の態度により評価します

教科書:

「栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学」 羊土社

参考書:

第1回の講義時や必要に応じて講師が提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力／Analytical ability, プレゼンテーション力／Presentation skill, 自己管理力／Self-managerial power, 自己実現力／Ability of self-realization

教員との連絡
方法:

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応します

授業テーマ:	生活のなかの衣服		
授業の概要:	「生活のなかの衣服」をテーマに、わたしたちの衣生活を文化的・歴史的な視点と科学的な視点から考えます。健康的で豊かな衣生活を営むための基本的な知識を学ぶとともに、衣生活についての見識を広め理解を深めることを目指します。		
到達目標:	①衣服の時代性や地域性に関する基本的な知識を身につける ②衣服とその素材の種類や性能に関する基本的な知識を身につける ③衣服に関する知識を自身の生活に結びつけて理解することができる		
授業方法:	テキストをもちいて講義形式で行います。適宜、体験的な要素をとりいれながら進めます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 衣服と人間 一ひとはなぜ装うのか	テキストpp.1～3	
	2. 衣服の起源と類型	テキストpp.3～13	
	3. 気候風土と装い	テキストpp.46～48	
	4. 民族と衣服	テキストpp.48～56	
	5. 西洋の衣生活の変遷① 古代・中世	テキストpp.14～20	
	6. 西洋の衣生活の変遷② 近世	テキストpp.20～25	
	7. 西洋の衣生活の変遷③ 近現代	テキストpp.25～31	
	8. まとめ		
	9. 衣服の素材① 繊維	テキストpp.57～61	
	10. 衣服の素材② 糸・布	テキストpp.61～64	
	11. 衣服の素材③ 布の性能	テキストpp.64～68	
	12. 衣服の品質と管理	テキストpp.117～121,pp.121～124,pp.103～116	
	13. 衣服の手入れ	テキストpp.125～134	
	14. 衣服の廃棄とリサイクル	テキストpp.135～139	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	採点またはコメントを記して返却します。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	40	授業へ積極的に参加し、到達目標①～③に関する理解度を評価する。
	小レポート等	10	到達目標③の観点から、レポートや作業における視点や姿勢を評価する。
	試験	50	おもに、到達目標①②について評価する。
教科書:	佐々井啓、大塚美智子 編著『衣生活学』 朝倉書店		
参考書:	岡田宣子 編著『ビジュアル衣生活』建帛社 山口庸子、生野晴美 編著『新版 衣生活論 持続可能な消費に向けて』 アイ・ケイ コーポレーション 酒井豊子、藤原康晴 編著『ファッションと生活―現代衣生活論（放送大学教材）』放送大学教育振興会		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー マナビーの掲示板機能		

授業テーマ:			
授業の概要:	妊産褥婦、乳幼児の特性と、女性のライフサイクル、乳幼児の発達段階に応じた日常生活の援助について講義する。		
到達目標:	妊産褥婦とその家族の特性と、女性のライフサイクルに応じた日常生活の支援方法を理解できる。 乳幼児の健全な成長・発達を理解し、成長・発達を支援するための保育に関する基本的知識が習得できる。 人のライフステージにおける乳幼児期の意義とその重要性を踏まえ、乳幼児を取り巻く環境、子育ての現状や課題、子どもと家族への支援について理解できる。		
授業方法:	講義・演習(グループワーク含む) ビデオ、DVD教材を使用する 授業テーマについての意見・感想・質問等の小用紙への記載を求め、授業に反映する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション: 保育、看護について考える[岡山]		
	2. 家族と子育て(1): 出産を取り巻く環境[和泉]	わが国の出産の状況に関心を向ける	
	3. 家族と子育て(2): 新生児の特徴とケア[和泉]	前回の授業資料内容を理解しておく	
	4. 家族と子育て(3): 育児期の家族の特徴と支援[和泉]	前回の授業資料内容を理解しておく	
	5. 新生児、乳児の発育・発達(1): 発育・発達と妊娠期の過ごし方[植松]	街中で目にする妊娠女性の存在に関心を向ける	
	6. 新生児、乳児の発育・発達(2): 発育・発達と栄養[植松]	自分自身の栄養(食事)を振り返っておく	
	7. 新生児、乳児の発育・発達(3): 発育・発達と睡眠[植松]	自分自身の睡眠を振り返っておく	
	8. 乳幼児の成長発達の原則[萩本]	前回までの授業資料内容を理解しておく	
	9. 乳幼児の成長発達の特徴[萩本]	前回の授業資料内容を理解しておく	
	10. 乳幼児の認知発達の特徴[萩本]	前回の授業資料内容を理解しておく	
	11. 予防接種と子どもへのプレパレーション(心理的準備)[川崎]		
	12. 幼児の生活: 子どもの事故と生活環境[川崎]	子どもの事故に関するニュース等に関心をもち読んでおく	
	13. 保育するうえで「気になる子ども」と発達検査[川崎]		
	14. 子どもの成長・発達とメンタルヘルス[大江]	健康な子どもの成長・発達、女性のライフサイクルを復習する	
	15. まとめ [和泉]	授業内容を振り返っておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業についての意見・感想・質問等の小用紙に対する解説やコメントは教室でまとめて行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	60%	到達目標である妊産褥婦や乳幼児の特性とその支援方法を理解できたかを評価する
	授業への参加度	40%	積極的に授業に参加し、上記の到達目標を達成しようとする意欲や態度を評価する
教科書:	教科書は使用しない。必要な資料はプリントとして配布する。DVD等を教材として使用する。		
参考書:	講義中に適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

授業の概要: 私たちは様々な生活資源を用いて家庭における生活をつくっている。この授業では、その生活資源の中でも、特にカネとヒトに焦点をあてて解説していく。課題として「家計簿」をつけることによって自分の生活を振り返り、今後の生活設計に役立てる。そして、経済社会の動きを体感するために株式学習ゲームを活用する。また、現代社会における、家族、家族関係、家族の機能についても解説する。

到達目標: ・生活資源について説明できるようになる。
・経済社会におけるモノとお金の循環について理解し、説明できるようになる。
・自らの生活設計に基づき、生活資源の管理・運用ができるようになる。
・現代の家族関係・家族機能について理解し、説明できるようになる。
・生活資源について、多面的にとらえ、その現状や問題点等を把握し、考察できるようになる。

授業方法: 講義を基本とするが、学生の発言等を求めることもある。必要に応じて視聴覚教材(ビデオ等)も使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション-「家庭生活」とは？	各自の家庭生活について、予め振り返っておく。
2.	家庭経営、生活経営の基盤となるもの-生活資源	生活資源とは何か、各自で予め考えておく。
3.	家計収入と家計調査-家計簿をつけてみる	各自の収支状況について、予め振り返っておく。支出を中心に、1ヶ月間、家計簿をつける。
4.	家庭経済と国民経済-経済社会のしくみ、経済循環、株式学習ゲーム	新聞、テレビ、Web等で報道される経済ニュース等の情報に触れておく。配付された株式学習ゲームの資料を基に、約2ヶ月間ゲームを行う。毎週、状況報告書を提出する。
5.	家族関係・家族機能の変化-近代家族、現代家族	「あなたにとって家族とは」という問いかけに対して、予め考えておく。
6.	生活時間と家事労働	各自の生活活動、それに費やす時間について、予め振り返っておく。
7.	家計支出と費目別変化-経済構造の変化に伴う消費・生活の変化	各自の家計簿で、支出費目ごとに集計をしておく。
8.	家族周期と個人のライフコース、ライフステージ-あなたのライフデザイン	各自の夢や目標について、予め考えておく。
9.	生活設計-若年者の生活と労働	若年者の置かれている現状について、Web等で調べておく。
10.	生活設計-シングルペアレント	シングルペアレントの置かれている現状について、Web等で調べておく。
11.	生活設計-高齢期の生活	高齢者の置かれている現状について、Web等で調べておく。
12.	社会保障施策-年金	新聞、テレビ、Web等で報道される年金に関するニュース等の情報を調べておく。
13.	社会保障施策-医療	新聞、テレビ、Web等で報道される医療に関するニュース等の情報を調べておく。
14.	社会保障施策-介護	新聞、テレビ、Web等で報道される介護に関するニュース等の情報を調べておく。
15.	家族と地域・社会生活-自助・共助・公助、セーフティネット	新聞、テレビ、Web等で報道される社会保障に関するニュース等の情報を調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物は教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題	40	家計簿の提出及び分析の度合、株式学習ゲームの状況報告書の提出回数及び分析の度合を基準とする。
	レポート	55	各自が選んだテーマについての実態、問題点等の把握の度合、またそれに対する考察、独自の視点があるかを基準とする。
	授業への参加姿勢・受講態度	5	皆出席を前提とする。遅刻・欠席については減点対象として、厳正に対処する。

教科書:

参考書: 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著『よくわかる現代家族』、ミネルヴァ書房、2009年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応、マナビーの掲示板機能

授業テーマ:

身体の構造や機能と運動の関係について学ぶ

授業の概要:

健康の保持・増進のためには適度な身体運動が必要であるが、身体運動は瞬発的な無酸素性運動と持久的な有酸素性運動の要素に分けられる。無酸素性運動で筋・骨格系を鍛え、有酸素性運動で呼吸・循環系を鍛え、さらにスポーツなどの巧みな動作による脳・神経系への刺激、ホルモン系の活性によりからだの恒常性が保たれる。このような身体のしくみと運動の関係について基本的な構造や機能を学ぶ。

到達目標:

身体運動や各種スポーツと健康の関わりについて知見を広める。授業への積極的な取り組みや課題に対する提出物において理解した知識をまとめ、各自の発表において表現力を高める。

授業方法:

講義と各自の発表含めた方法で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 運動と健康について日常生活を振り返る	一日24時間の身体活動量について多い日と少ない日、以前と現在の相違点などを考えておく
2. 筋・骨格系と運動	筋肉や骨と身体運動との関わりについて調べておこう
3. 筋力および筋電図の測定方法	筋力の測定にはどんな方法があるか考えてみよう
4. 脳・神経系と運動	身体運動を行う時の神経系のしくみについて調べておこう
5. バランス機能の測定方法	バランス機能の測定で新しいアイデアを考えてみよう
6. 呼吸・循環系と運動	呼吸数、心拍数、血圧について調べておこう
7. 呼吸代謝の測定方法	エネルギー消費量を求める方法を考えてみよう
8. エアロバイクによる持久力の測定方法	エアロバイクについて調べてみよう
9. 運動時の心拍数と血圧について	運動中の心拍数と血圧はどのように変化するかしらべてみよう
10. 無酸素性と有酸素性運動について	瞬発的な運動か持久的な運動かどちらが得意か考えてみよう
11. 血中乳酸の分析方法	疲労する増えるけれどもエネルギー源にもなる乳酸について考えてみよう
12. ホルモンと運動の関係	いろいろなホルモンについて調べてみよう
13. 基礎体温および運動時の体温について	女性の特徴である基礎体温の変化などについて調べてみよう
14. 健康増進のための適切な身体運動	身体の各部位の構造や機能、そして健康を保つ方法について復習しておく
15. 成長期や高齢期におけるスポーツについて	年齢に合わせた身体運動について考えてみよう

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業期間中に1～2回、各自の興味のある項目について発表するために、関連書物による定説やインターネット等による最新情報をまとめておく。

フィードバックの方法:

提出物は教室で返却しまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加・態度	40	授業への参加状況进行评估する
提出物・テスト	40	予習、授業の取り組みにおける理解を評価する
発表	20	各自の発表時の資料や表現力を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

634360

フードスペシャリスト論

河田 照雄

授業テーマ:

フードスペシャリストの意義とその概念および活用について講義する。現代の食生活について考える。

授業の概要:

食の多様化が進む現在、生産者の顔が消費者に見えにくくなってきており、様々な問題を生むようになってきている。このようなことから、両者の乖離をとりもつ専門知識を持った職業人の存在が望まれるようになってきた。この社会的要請にこたえて登場したのが、フードスペシャリストである。この科目では、フードスペシャリストの意義とその概念および活用について講義する。

到達目標:

フードスペシャリストとして不可欠な知識を得ることを目標とする。

授業方法:

教科書を用いて順次解説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. フードスペシャリストとは	教科書の該当項目の章を熟読する
2. おいしさの追求	教科書の該当項目の章を熟読する
3. 食生活の変遷と消費行動	教科書の該当項目の章を熟読する
4. 食の消費現場とこれに対応する食産業	教科書の該当項目の章を熟読する
5. 食品の品質規格	教科書の該当項目の章を熟読する
6. 食に関する表示	教科書の該当項目の章を熟読する
7. 食糧の流通	教科書の該当項目の章を熟読する
8. 食品の鮮度と熟度、および鑑別検査の概要	教科書の該当項目の章を熟読する
9. 食物の安全性	教科書の該当項目の章を熟読する
10. 食に関する消費者の保護	教科書の該当項目の章を熟読する
11. 食の情報とその活用	教科書の該当項目の章を熟読する
12. 現代の食卓の課題	教科書の該当項目の章を熟読する
13. 食環境と食育	教科書の該当項目の章を熟読する
14. フードスペシャリストの展望	教科書の該当項目の章を熟読する
15. まとめ	教科書の「索引」を利用し、フードスペシャリストに関する幅広い知識の集約につとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の講義の中で指摘する「ポイント」について、その日のうちに必ず復習すること。

フィードバックの方法:

コメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	到達目標に対しての態度・意欲を評価
課題レポート	10	課題項目に関する理解度により評価
期末試験	70	到達目標に関する理解度により評価

教科書:

日本フードスペシャリスト協会編『四訂フードスペシャリスト論(第3版)』建帛社

参考書:

河田昌子著『新版 お菓子「こつ」の科学』柴田書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

毎回の講義の後およびメールで連絡可能(メールアドレスは授業時に知らせる)。

授業テーマ:	おいしさの本質やホスピタリティ、伝統的な食文化、マナーなどを修得し、より質の高いフードコーディネートを提案できる能力を養う。		
授業の概要:	「食情報」が氾濫し、食の選択基準がより複雑化するなど、食環境が大きく変化し続けている現在、必要な「栄養摂取としての食」のみならず、「文化としての食」や「おもてなし」の重要性が世界的に注目されている。この授業では、日本をはじめ世界の食文化や調理文化、テーブルウェアの知識とその演出法、サービスマナーなどの基礎知識を学ぶとともに、食ビジネスや食消費トレンドなどの最新情報も交えて解説する。		
到達目標:	(1)おいしさの本質やホスピタリティ、世界の食文化、マナーなどの知識がある。 (2)より質の高い食生活をトータルに演出、コーディネートできる。 (3)フードスペシャリスト資格試験に合格できる能力を習得する。		
授業方法:	講義を基本とするが、学生によるグループ発表やディスカッションを積極的に取り入れる。 知識の確認や応用にフードスペシャリスト資格認定試験の過去問題を解くなど、試験を意識した授業内容となる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. フードコーディネートの基本理念	教科書の該当範囲を読んで予習しておく。	
	2. おいさとフードコーディネート	教科書の該当範囲を読んで予習しておく。	
	3. 食事の文化(1) 食のタブーと宗教現代の食事文化	教科書の該当範囲を読んで予習しておく。	
	4. 食事の文化(2)日本の食事の歴史	教科書の該当範囲を読んで予習しておく。	
	5. 食事の文化(3)特別な日の食事	グループ発表の準備(パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく)	
	6. 食事の文化(4)諸外国の食事文化	グループ発表の準備(パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく)	
	7. 食卓のコーディネートとマナー(1) 日本料理	グループ発表の準備(パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく)	
	8. 食卓のコーディネートとマナー(2) 中国料理	グループ発表の準備(パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく)	
	9. 食卓のコーディネートとマナー(3) 西洋料理	グループ発表の準備(パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく)	
	10. メニュープランニング(1) メニュープランニングの要件	グループ発表の準備(パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく)	
	11. メニュープランニング(2) 料理様式とメニュー開発	グループ発表の準備(パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく)	
	12. 食空間のコーディネート	グループ発表の準備(パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく)	
	13. フードサービスマネジメント		
	14. 食企画の実践コーディネート		
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業には必ず教科書を用意し、指示した重要な語句や用語、図表をチェックすること。 予習やグループ発表の準備にも教科書を活用し、親しんでおくこと。 教科書の補填として配布するプリント、資料にも目を通し、内容を理解しておくこと。 知識の確認や応用に、フードスペシャリスト資格試験の過去問題を解いてみること。		
フィードバックの方法:	毎回提出するコメントペーパーの質問や意見、要望には、その都度「教室でまとめて対応、解説する」。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	40%	積極的に授業に参加し、発言など授業への貢献度や受講態度を基準とする。
	発表	30%	準備学習とグループ発表での自分の役割とその達成度、態度・意欲を評価する。
	期末試験	30%	フードコーディネートに関する知識や理解度により評価する。
教科書:	『三訂フードコーディネート論』(公社)日本フードスペシャリスト協会編 (建帛社)		
参考書:	『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』(公社)日本フードスペシャリスト協会編 (建帛社)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメールを利用		

授業テーマ:	充実した人生の基礎となる健康な食生活について学ぶ		
授業の概要:	充実した人生の基礎となる食生活について、京都や日本の食文化、食生活の現状と課題、食の機能など食に関する様々な視点から学び、自らの健康な食生活について考え実践する力を養う。		
到達目標:	ユネスコ無形文化遺産に登録された和食の特徴を理解する。食生活の現状と課題を理解する。ライフステージと食生活について理解する。自らの健康な食生活について考え実践する力を養う。		
授業方法:	授業は、教科書、パワーポイント、映像を用いて講義形式で行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. ガイダンス ユネスコ無形文化遺産に登録された和食の特徴について理解する		
	2. 京都の食文化―季節の行事と食べ物―		
	3. 食生活の現状と課題		事前に配布する食事記録用紙に記入する。
	4. 茶と暮らし		
	5. 食生活の概念、食の機能		教科書で下調べを行う。
	6. ライフステージと食		ライフステージと食について下調べを行う。
	7. 食と健康―ダイエットの落とし穴―		食と健康について下調べを行う。
	8. もてなしとマナー		箸の持ち方、マナーについて下調べを行う。
	9. 献立の基本「一汁三菜」		
	10. 和食の基本「だし」と「調味料」		家庭あるいは下宿で使う「だし」と「調味料」について下調べを行う。
	11. 家庭料理の役割		
	12. 食物アレルギーと食品表示		食物アレルギーと食品表示について下調べを行う。
	13. 外来の食文化		
	14. これからの食生活		事前に配布する食事記録用紙に記入する。
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	和食や様々な視点での食の学びを通して、健康で充実した人生の基礎となる食生活を自ら考え実践する力を養う授業となることを願っています。		
フィードバックの方法:	採点して返却する。教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	到達目標であるユネスコ無形文化遺産に登録された和食に関する知識や、食生活の現状と課題、健康な食生活などについて論理的な説明ができるか否かを基準とする。
	授業の参加度	50	主体的に授業に参加し、健康な食生活について自ら考え発表することができるか否かを評価する。
教科書:	岡崎光子編著、食生活論、光生館		
参考書:	京都府立大学大学院 食事科学研究室編、和食の散歩道、久美株式会社 福田靖子他、「食生活論」第3版。朝倉書房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール、あるいは授業の前後に教室で対応する。 メールアドレスは、初回授業に伝える。		

634660

生活科学概論

山本 寿、川崎 祐子、真部 真里子、村上 恵、山田 恭正、米田 祐子、吉井 美奈子

授業テーマ：食物科学専攻での学びと「生活科学」

授業の概要：食物科学専攻新入生を対象として、大学生生活全般と食物科学専攻の学びに必要な知識や心構え、食物分野のトピックス、生活科学の入門的内容を講義する。

到達目標：食物科学専攻での4年間の学びを概観するとともに、興味を持って自主的に大学で学ぶ姿勢を身につける。また、生活全般における人と環境の相互作用、並びに家庭生活が人間生活において果たす役割を生活科学的視点から概観し、身近な課題に目を向けて考察する態度や能力を身につける。

授業方法：前半6回の授業を食物科学専攻アドバイザーの教員6名が1回ずつリレー方式で、後半9回を生活科学領域を専門とする教員がそれぞれ講義する。必要に応じてパワーポイント・スライド、資料、ビデオ等を使用し、学生に問いかける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 食物科学専攻における学び。キャリアデザインと免許・資格	入学時に配布された「履修要項・シラバス」と「免許・資格関係履修要項」の食物科学専攻に関係する箇所に通し、授業日に必ず持参する。
	2. 食物科学専攻における学び。4年間の勉学について	「履修要項・シラバス」にある「修学上の基本事項」の中の「授業」と「成績」を読んでおく。
	3. 食物科学専攻における学び。健やかな学生生活の過ごし方	入学時に配布された「学生生活のしおり」を参考に大学生活を思い描き、それらを支える健康的な生活について話し合える準備をしておく。
	4. 食物科学専攻における学び。情報処理とレポート作成	情報処理教室のPCにログインし、MS-Wordで「調理科学実習」のレポートを作成する、キーボードマスターを練習する」など、本学の情報処理環境に慣れておく。授業日までに作成した調理科学実習のレポート(印刷物)を持参する。
	5. 食物科学専攻における学び。消費者として(食品表示の見方)	身近にある食品の包装紙やパッケージに記載されている食品表示を見ておく。
	6. 食物科学専攻における学び。本学の歴史と調理学	調理科学実習1回目のオリエンテーションで配付される資料を読み返しておく。
	7. 食物科学への関心と学問的展開	教科書『仮題:今こそ家政学』(開隆堂出版)の「序章:生活をするということ」の章を読み、前もって自分の意見をまとめておく。
	8. 生活科学とは	教科書『仮題:今こそ家政学』(開隆堂出版)の中にあるコラムの内容を前もって読んでおく。
	9. 生活科学と家政学	教科書『仮題:今こそ家政学』(開隆堂出版)の「第1部:命をはぐくむ」の内容を前もって読んでおく。
	10. 生活科学の研究領域と研究方法	教科書『仮題:今こそ家政学』(開隆堂出版)の「第1部:命をはぐくむ」の内容を前もって読んでおく。
	11. 家庭の機能・家庭生活	教科書『仮題:今こそ家政学』(開隆堂出版)の「第2部:人とつながる」の内容を前もって読んでおく。
	12. 生活科学の社会的展開	教科書『仮題:今こそ家政学』(開隆堂出版)の「第2部:人とつながる」の内容を前もって読んでおく。
	13. 生活科学の学問的展開(1)	教科書『仮題:今こそ家政学』(開隆堂出版)の「第3部:暮らしをつくる」の内容を前もって読んでおく。
	14. 生活科学の学問的展開(2)	教科書『仮題:今こそ家政学』(開隆堂出版)の「第3部:暮らしをつくる」の内容を前もって読んでおく。
	15. まとめ	教科書『仮題:今こそ家政学』(開隆堂出版)の「おわりに」の内容を前もって読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス：食物科学専攻のオリエンテーションの科目であり、前半では、この専攻に関わる専任教員が順に登場します。各教員がそれぞれの立場から発するメッセージやアドバイスを吸収し、この専攻での4年間の学びのスタートにつなげてください。後半では、食物科学が含まれる、より広い学問分野である「生活科学」の視点や方法を紹介します。身近な生活全般に存在する様々な課題を生活科学的視点から眺め、解決法を考えましょう。

フィードバックの方法：「調理科学実習」の「まとめ」の時間(春学期最終週)を利用し、教室でまとめて解説する。「免許・資格」に関しては、過去数年受講生から受けたよくある質問に対する答えを資料にして授業内で配付する。新たな質問にはマナビーで回答する。第7回以降、提出したワークシート等を一部教室で返却する。また、前の授業で質問や出た意見を次の授業で紹介・追加説明する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	28%	出欠席状況と授業への積極的な参加姿勢
	前半6回の提出物	24%	提出物の完成度
	後半9回の提出物と定期試験	48%	提出物の完成度と試験採点結果

教科書：第1回目の授業には「履修要項・シラバス」と「免許・資格関係履修要項」を使用する。第7回目以降の授業では、『仮題:今こそ家政学』(「家政学のじかん」編集委員会著、開隆堂出版)を使用する。適宜、資料を配付する。

参考書：「若手研究者が読む『家政学原論』」2006 亀高京子監修 家政教育社
「家政学の未来―生活・消費・環境のニュー・パラダイム」松岡明子編著 有斐閣
「変わる家族 変わる食卓」岩村暢子 頸草書房
「近代家族の成立と終焉」上野千鶴子 岩波書店
「近代国家と家族モデル」西川祐子 吉川弘文館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法：授業後、教室で。専任教員の場合、オフィスアワーなどで研究室でも対応する。

授業テーマ:

雇用労働問題、および「食と農」の視点から日本の政治・経済・国民生活(家族・家庭経済を含む)について講義する。

授業の概要:

6年前の東日本大震災・福島第一原発事故により、私たちの社会は「文明史の転換」を求められるにいたった。脱経済成長至上主義、原発と抱き合わせの政治の中央集権体制打破、脱原発のエネルギーシフト、メタボ消費文化の脱却、食料の地産地消など、3.11の教訓を生かす途について数多く論じられた。しかし、その後の推移は時代の課題に逆行するものである。こうした中、雇用および食と農、環境に焦点を当て、日本の政治・経済・国民生活、家族・女性・青年・子どもをめぐる課題について考えていく。
アメリカン・スタンダードの世界的普遍化にほかならない市場原理主義の経済のグローバル化は結局、資本主義の歴史において80年前の世界大恐慌に匹敵する世界同時不況をもたらし破綻した。日本の国内では「構造改革」を標榜した「規制緩和」によって雇用の矛盾が一挙に露呈している。その究極の姿が「少子化」、「雇用身分社会」、「ブラック企業」、「子どもの貧困」である。
一方、もともと矛盾をはらんだ日米関係はここに来て、国民生活の視点で見るとその利益に反する形を先鋭的に露呈するにいたった。それがTPP、つまり環太平洋戦略的経済連携協定であった。それはいったん大筋合意にいたった後、トランプ大統領の誕生により流れたものの、「米国第1」の2国間の貿易交渉に移る公算が大きい。TPPの目はなくなったが、それ以上に国民生活、食料、環境は大きく損なわれ危険性が強まったといえる。このままでは地域経済の破綻、「地方消滅」の現実化も状況的に歯止めがなく、スピードアップするだけである。
現在、若者を中心に、人間らしい生活ができない層の大量発生を見ている。このまま行くと、2、30年後には日本社会は確実に「人間の再生産の危機」に瀕する。その前に家族・家庭は黄昏の時代を迎える。20年後の生涯未婚率は男性30%、女性24%と予測されている。雇用をめぐる矛盾だけではない。人の糧をつくり、人が住まいし生活する日本の国土と環境を保つ産業としての農林漁業、地域としての農山漁村は「いのちの里」である。そのいのちの里が経済のグローバル化＝自由貿易による経済格差・地域格差の拡大の中、生産と地域の担い手の不足に喘いでいる。数年前、「地方消滅」がショッキングに論じられるに至った。20年後の家族をめぐる状況は現在の農山村の限界集落の状況、つまり家族を形成する若者や子どもの激減、消失という社会のあり方に時代を先取りした形で示されている。農林漁業の衰退は人間生存にとって基本的な食料基盤の崩壊を意味するものである。
このように、現在の世界と日本からは、経済成長至上主義、過度の効率優先、大量生産・大量消費・大量廃棄に特徴づけられる社会経済システムが歴史の暗礁に乗り上げ、大きな歴史的転換期に直面していることが読み取れる。講義ではその一端に光を当て、社会の持続可能な発展に向けてわが国がいかなる課題を抱えているかを具体的に考察する。世界の中の日本という視点を重視する一方、現場の実態をリアルに浮き彫りにすること、さらに現場の人間の生活感を反映させることに留意しつつ授業を行う。視点をロー・アングルに設定した授業をめざす。

到達目標:

①授業で扱う雇用労働問題および食料・農業・環境問題、生活・家族・地域の問題に関し、講義の内容について十分な理解を持っていたく。
②当該問題に関し、受講生が関心・意欲を持って自習、自由研究を進めることをめざす。
③受講生には、政治経済関係の基本文献や新聞の社説、政治経済記事、経済データを「読む意欲と能力」を身につけていただくとともに、思考力を鍛え、理解したことや考えたことを適格な言葉で表現する能力を養っていただく。

授業方法:

講義を中心とする。なお、適宜ビデオ鑑賞をしたり新聞記事を配布して、身近に理解してもらう工夫をする。毎回レジメと資料を配布し、それをもとに講義をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 講義ガイダンスとビデオ鑑賞(「派遣法誕生 前篇」)	
2. 日本型雇用システムと家族・女性	
3. 日本の雇用の「多様化」と差別の温存―「正規」と「非正規」を考える	
4. 雇用身分社会と派遣労働	
5. 格差社会と子どもの貧困	
6. 格差社会と少子化	
7. ブラック企業と若者の生活	
8. 労働の均等待遇―安倍政権の「働き方」改革を考える	
9. ビデオ鑑賞(「食卓の上の自由化」)	
10. 戦後史から考える―日本農業と食料問題	
11. 日米関係とTPP―その意味するもの	
12. 日本の国のかたちと農林漁業	
13. 地域社会の再生と「地方消滅」論	
14. 農林漁業と環境問題、国民生活	
15. 授業のまとめ―〈雇用〉と〈食と農〉から日本を考える	

受講者へのメッセージやアドバイス:

学生にお願いしておきたいことがある。一生懸命授業に取り組むが、わずか10数回の授業では理解も高が知れていることを承知していただきたい。講義の2つのテーマのうちどちらでも構わないので、関心があるテーマについて関連文献による自習、自由研究を勧める。

フィードバックの方法:

①従業員に対する質問を歓迎します。質問は小レポート用紙に記入して提出してください。次の授業でお答します。
②ビデオ鑑賞を2回行う予定です。その感想も小レポート用紙にまとめて提出してください。提出は自由ですが、成績評価に加味させていただきます。
③授業に関連した自由研究を大いに歓迎します。適宜レポートを提出してください。提出は自由ですが、成績評価に加味させていただきます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートまたは試験	70	理解の度合いと表現力
授業への参加度	30	出席率と授業に対する意欲の度合い

教科書:

使用しない。毎回レジメと新聞記事等の資料を配布して授業を行う。

参考書:

中野麻美『労働ダンピング』岩波新書、湯浅誠『反貧困』岩波新書
橋本俊紹『日本の経済格差』岩波新書、堤未果『ルポ 貧困大国アメリカ』岩波新書、斉藤貴男『機械不平等』文春文庫
森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書、濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書
阿部彰『子どもの貧困』岩波新書

今野晴貴『ブラック企業』文春文庫
暉峻衆三『日本農業の150年』有斐閣、井上ひさし『コメの話』新潮文庫
鈴木宣弘『食の戦争』文春新書、鈴木宣弘・木下順子『ここが間違っている！ 日本の農業問題』家の光協会、同『TPPと日本の国益』大成出版社、田代洋一『食料自給率を考える』筑波書房ブックレット
小田切徳美『農山村再生』岩波ブックレット、藻谷浩介・NHK増田寛也『地方消滅』中公新書、広島取材班『里山資本主義』角川新書
吉岡斉『原発と日本の未来』岩波ブックレット、大島堅一『原発のコスト』岩波新書
その他適宜授業中に指摘する。

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、社会人力

メールを通して連絡してください。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

授業テーマ:

調理過程を科学的に理解する。

授業の概要:

各食材の調理性について、調理操作と食品成分の化学反応を関連づけながら学習する。また新しい食材や最近の食に関わるニュースも取り上げながら解説する。
調理科学実習Ⅰ、Ⅱおよび調理科学実習Ⅲ、Ⅳで取り扱う調理素材について、調理過程における変化を科学的に把握する。

到達目標:

調理の意義・目的を理解する。
植物性食品および動物性食品の調理による変化を科学的に理解する。
食にかかわる情報を見極め、正しく伝えられる能力を養う。

授業方法:

講義形式で行う。必要に応じてプリント、パワーポイント教材などを用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 調理学の概要 意義、調理学の目的と範囲 植物性食品の調理性1 炭水化物の基礎	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	2. 植物性食品の調理性2 米の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	3. 植物性食品の調理性3 小麦粉、その他穀類・雑穀の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	4. 植物性食品の調理性4 いも類、豆類・種実類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	5. 植物性食品の調理性5 野菜・山菜・果実類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	6. 植物性食品の調理性5 海藻・キノコ類の調理 動物性食品の調理性1 タンパク質の基礎、食肉類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	7. 動物性食品の調理性2 魚介類の調理 卵類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	8. 動物性食品の調理性3 乳類の調理 その他食品1 でんぷんの調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	9. その他食品1 脂質の基礎・油脂の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	10. その他食品2 ゲル化食品(ゲル形成素材)の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	11. 調味料1 砂糖、食塩の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	12. 調味料2 しょうゆ、みその調理 食酢類、だし類(うま味料)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	13. 調味料3 香辛料の調理 飲料類 アルコール、茶、コーヒー、飲料水	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	14. 調理の疑問を科学する 半年間学んできた内容と日常の調理操作との関連	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	15. まとめ	前回まで学んだことを見直しておく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度 ＋小テスト(レポート)	20	質問に答えるなど積極的に授業に参加し、なおかつ調理による食品の変化に関する知識、理解度により評価する。 到達目標である調理による食品の変化、調理の意義について科学的かつ論理的に説明できるかを基準に評価する。
	定期試験	80	

教科書:

下村道子・和田淑子編著「新調理学」(光生館)
※調理科学実習Ⅰで購入している場合は、改めて購入する必要はない。
※再履修者は教科書が変更になっているため、注意すること。

参考書:

山崎清子ほか編著「新版 調理と理論」(同文書院)
木戸詔子・池田ひろ編著「新食品・栄養科学シリーズ 調理学第3版」(化学同人)
洪川祥子・畑井朝子編著「ネオエスカ 調理学」(同文書院)
「食品成分表」日本食品標準成分表2015(七訂)のデーターベース使用の書籍(女子栄養大)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)

(公社)日本フードスペシャリスト協会編「調理学」(建帛社)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応 あるいはオフィスアワー

授業テーマ:

調理過程を科学的に理解する。

授業の概要:

食品のおいしさについてその基本的要因を学び、おいしさの本質とは何かを科学的観点から考察する。また、調理科学Ⅱに続き、食品の調理操作(調味や加熱)の意味や調理器具の扱い方を知ることにより、調理素材のより良い取り扱い方を科学的根拠に基づき総合的に考察できる力を養う。さらに、必要な栄養素量や献立作成法、食文化についても学ぶ。

到達目標:

調理操作、調味操作について科学的に理解する。
食事計画(献立作成)の概要を理解する。
食文化(特に和食)について調理との関係を理解する。
自身の食生活にも目を向け適切な食事ができるようになる。

授業方法:

講義形式で行う。必要に応じてプリント、パワーポイント教材などを用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 調理学の概要 意義、調理学の目的と範囲 調理と嗜好性1 食べ物のおいしさに関与する要因と変動	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	2. 調理と嗜好性2 嗜好の評価 調理操作論1 非加熱操作	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	3. 調理操作論2 非加熱操作(冷却・凍結・解凍) 加熱操作(熱の伝わり方)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	4. 調理操作論3 加熱操作(加熱法の種類)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	5. 調理操作論3 加熱操作(加熱法の種類) 調味操作	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	6. 調理設備・器具・エネルギー源	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	7. 新調理システム	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	8. 食事計画論1 食事の意義・役割、種類 日常食の食事計画(食事摂取基準)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	9. 食事計画論2 日常食の食事計画(食品成分表)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	10. 食事計画論3 食事バランスガイド 日常食の食事計画(献立作成)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	11. 食事計画論4 ライフステージ別食事 高齢者の摂食機能と調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	12. 食事計画論5 特別食の食事計画 調理文化論1 日本の食事の歴史と文化	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	13. 調理文化論2 外国の食事の歴史と文化	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	14. 調理による栄養成分および物性の変化	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	15. まとめ	前回まで学んだ内容を見直しておく。講義後には、ポイントをノートにまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度 ＋小テスト(レポート)	20	質問に答えるなど積極的に授業に参加し、なおかつ調理による食品の変化に関する知識、理解度により評価する。
	定期試験	80	到達目標である調理操作、食事計画、食文化について科学的かつ論理的に説明できるかを基準に評価する。

教科書:

下村道子・和田淑子編著「新調理学」(光生館)
※調理科学実習Ⅰで購入している場合は、改めて購入する必要はない。
※再履修者は教科書が変更になっているため、注意すること。

参考書:

山崎清子ほか編著「新版 調理と理論」(同文書院)
木戸詔子・池田ひろ編著「新食品・栄養科学シリーズ 調理学第3版」(化学同人)
洪川祥子・畑井朝子編著「ネオエスカ 調理学」(同文書院)
「食品成分表」日本食品標準成分表2015(七訂)のデータベース使用の書籍(女子栄養大)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)

(公社)日本フードスペシャリスト協会編「調理学」(建帛社)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応 あるいはオフィスアワー

授業テーマ:

食品分野で汎用される分析機器の基本原理と構成、そしてデータの利用方法について学ぶ。食品衛生監視員と食品衛生管理者の資格を取得するために必須の科目で、実践的な知識を得て理解を深める。

授業の概要:

分光学（紫外、可視、赤外、原子吸光）の基礎、分離分析（TLC、GC、HPLCなど各種クロマトグラフィー）や電気化学的測定法の基本原理、そして質量分析（GC-MS）などの機器分析について食品分野で実際に使用する上で必要とする基礎的な知識を得る。

到達目標:

食品の製造や品質管理を行う企業の現場、また大学や公的機関等の研究の場において機器分析が普及している。本授業では食品分野で汎用される主な分析機器の基本原理と構成、そして得られる情報の解釈と利用の仕方について基礎的な理解が得られることを目標とする。

授業方法:

講義（プリントを配布）、適宜実際に機器分析を行っているDVD映像を使用して説明する。また、問題演習も行う。

	授業内容	準備学習等の内容
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	1. 糖度計（屈折率計）	高等学校で化学を履修していない学生も受講しているので、初回は特に求めない。
	2. 分光学の基礎、電磁波	糖度計（屈折率計）の復習
	3. 分光光度計(UV,VIS)	分光学の基礎、電磁波の復習
	4. 比色計、カロテノイドの分析におけるFieser-Kuhn則	分光光度計(UV,VIS)の復習
	5. 赤外吸収スペクトルの見方 (IR)	比色計、カロテノイドの分析におけるFieser-Kuhn則の復習
	6. 分光測色色差計	赤外吸収スペクトルの見方 (IR) の復習
	7. 原子吸光光度計	分光測色色差計の復習
	8. 電気化学的測定法、電極（プローブ）、Nernstの式、pHメーター	原子吸光光度計の復習
	9. 分離分析（クロマトグラフィー）の基礎、分離モード	電気化学的測定法、電極（プローブ）、Nernstの式、pHメーターの復習
	10. ガスクロマトグラフィー（GC）	分離分析（クロマトグラフィー）の基礎、分離モードの復習
	11. 高速液体クロマトグラフィー（HPLC）	ガスクロマトグラフィー（GC）の復習
	12. 定量分析、絶対検量線法と内部標準法	高速液体クロマトグラフィー（HPLC）の復習
	13. 質量分析（GC-MS）、イオン化、揮発性誘導体	定量分析、絶対検量線法と内部標準法の復習
	14. MSスペクトルの見方、マスフラグメンテーションの基本的な解析	質量分析（GC-MS）、イオン化、揮発性誘導体の復習
	15. まとめ	MSスペクトルの見方、マスフラグメンテーションの基本的な解析の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

本科目については、適切な教科書はほとんど無いと思われる。理工学部の学生を対象にした専門書は多いが難解で理解は困難であろう。授業で使用する教材のプリントと板書した内容を筆記したノートを見ながら、毎回の授業後に復習することが重要である。食品衛生監視員と食品衛生管理者の資格を取得するために必須の科目であるので、機器分析について基本的な原理を理解し、実践的な知識を得ようとする姿勢が大切である。

フィードバックの方法:

リポート課題として出題した問題演習は、授業中にヒントを与えたり解説を行う。

	評価方法	割合	評価基準
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	出席状況、課題リポート等の平常点	30	平常の学習状況（復習を重視）
	定期試験	70	問題演習採点評価

教科書:

プリントを配布する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール、または直接オフィスアワーに面談

授業テーマ:			
授業の概要:	京都の料理と菓子の伝統を支える調理技術や調理法ならびに精神を学ぶことによって、日本の食文化・食生活に対する理解を深める。		
到達目標:	・京都の料理と菓子の伝統文化に触れることによって、京都、ひいては日本の食文化・食生活への関心を高める。 ・「もてなしの心」の本質を理解し、日常の健全な食生活の在り方を自分なりに考察する。 ・【菓子】和菓子の歴史や種類を学び、京菓子の奥深さと日本人の感性を理解する。 ・【料理】種々の調理技術や調理法の食品学・調理科学的合理性を理解する。		
授業方法:	受講人数は40名。受講希望者多数の場合は選考する。選考方法は、1年次秋学期の必修科目にて説明する(選考には一部、1年次の成績も考慮する)。 授業は、3名の教員がリレー式で担当する。 4月:講義を中心とする(一部課題内容の発表を含む) 5月:講義と実践を含む演習【菓子】 6月:講義(デモンストレーションを含む)【料理】 7月:講義とグループ学習(発表会を含む)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 【講義】日本の食文化、京の食文化の変遷ー料理編	新入生オリエンテーション期間に実施した京料理マナー体験、「食生活論」の講義で学んだ京の食文化に関する内容を復習しておく。	
	2. 【講義】日本の食文化、京の食文化の変遷ー菓子編	1回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	3. 【グループ学習】京菓子で使用する用語	2回の講義中に配当された京菓子に関する用語について調べ、まとめておく。	
	4. 【講義と実践】季節の菓子	2、3回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	5. 【講義と実践】干菓子(打物、押し物他)	4回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	6. 【講義と実践】工芸菓子	5回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	7. 【講義と実践】季節の菓子と上生菓子	6回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	8. 【講義(含実演)】京料理のだし	7回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	9. 【講義(含実演)】京野菜	8回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	10. 【講義(含実演)】京料理と魚	9回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	11. 【講義(含実演)】京料理と日々の食生活	10回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	12. 【グループ学習】京料理に関する学び(8～11回)の振り返り	11回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	13. 【グループ学習】各グループごとに、12回で選んだテーマについて発表	グループごとに、12回で決めたテーマについて発表できるように学習記録にまとめる。	
	14. 【グループ学習】京菓子に関する学び(4～7回)の振り返り	4～7回の内容を復習しておくこと。	
	15. 京菓子に関するまとめ	14回の内容をコメントペーパーにまとめておく。	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	登録者多数の場合は選考がありますが、見る機会の少ない技術を目の当たりにする貴重な機会ですので、興味のある人は、まずは登録してください。受講可能となった場合は、選考に漏れた人がいることをしっかりと認識して、積極的な態度で受講ねがいます。 なお、5月には、上履き・調理用白衣・三角巾・手拭用タオルが必要になります。6月にも上履き・手拭用タオルを使用します。	
フィードバックの方法:	コメントペーパーの内容については、必要に応じて、教室でまとめてコメントする。 学習記録の一部は、発表会に活用するので、発表会においてコメントする。		
「成績評価方法」および「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業参加度	50	受講態度・コメントシートの内容・忘れ物有無によって、この講義への関心の高さと理解度を評価する。
	発表	40	京料理に対する理解と関心の高さを評価する。
	レポート	10	京菓子・和菓子への理解と関心の高さを評価する。
教科書:	適宜資料を配布する。		
参考書:	伏木亨、熊倉功夫『だしとは何か』アイ・ケイコーポレーション 日本料理アカデミー監修『日本料理大全 プロローグ』シュハライニシアティブ 石橋郁子(文)、宮野正喜(写真)『京菓子歳時記 末富の十二か月』光村推古書院 江原絢子、石川尚子(編)『日本の食文化 その伝承と食の教育』アイ・ケイコーポレーション		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	原則、授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:	京都の食文化を支える食材について学びながら「食」への理解を深める		
授業の概要:	京都は歴史的に日本の料理文化をリードしてきた都市であり、いまなお奥深い伝統に培われた食文化が暮らしの中に生きている。本講義では、そんな京都の食文化を支える食材について取り上げ、生産される現場の様子や歴史的背景を紹介しながら、食をめぐる多様な価値観や意味を考察する。		
到達目標:	京都の食文化の成り立ちをひもとくことで、「食」の本質を見つめ直し、身近なところから視野を広げてもらうのがねらいである。		
授業方法:	講義形式で行う。必要に応じてパワーポイント、DVD、資料などを用いる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 京都の風土と食		
	2. 京野菜1		
	3. 京野菜2		
	4. 京の水と加工品(豆腐、ゆば)		
	5. 精進料理1	『典座教訓・赴粥飯法』を読む	
	6. 精進料理2	『典座教訓・赴粥飯法』を読む	
	7. 宇治茶	『喫茶養生記』を読む	
	8. 和菓子1		
	9. 和菓子2		
	10. 日本酒1		
	11. 日本酒2		
	12. 畜産物の歴史と京都		
	13. 暦と食		
	14. 京料理とだし		
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	京都の食文化の本質に迫っていくと、日本文化のユニークさや意外な特徴を知ることができます。客観的に日本文化を考えてみたい人に、ぜひ、受講してもらいたいと思います。		
フィードバックの方法:	教務課を通じて連絡してください。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	
	平常点およびレポート	20	授業中に出す課題やレポートで評価
教科書:			
参考書:	長友麻希子著『につぼん食探見』京都新聞出版センター刊 『典座教訓・赴粥飯法』講談社学術文庫 『栄西・喫茶養生記』講談社学術文庫		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	教務課を通じて		

授業テーマ:

授業の概要: 食文化とは社会集団、地域、時代等において共有され習慣化された食物摂取に関する生活様式である。その形成には各文化圏の風土、歴史、社会等のさまざまな要因が関与し、利用する食物や料理、食事作法、嗜好や美味の概念などに反映されている。
本授業では食文化形成の諸要因をふまえ、いくつかの類型から世界の食文化を概観する。次に日本の食文化について特徴を理解したうえで、それが形成されてきた歴史を学び、次世代へ継承する意義を考える。

到達目標: 食文化形成の諸要因を理解し、多様な食文化を客観的に評価する視点と受容できる感性を身につける。
日本の食文化の特徴と、その成立の歴史を理解する。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	食文化成立の要因、類型と伝播	復習: 要点の整理、参考文献による学習
2.	さまざまな食文化: 米を主食とする食文化	復習: 要点の整理、参考文献による学習
3.	〃 : 牧畜社会の食文化	復習: 要点の整理、参考文献による学習
4.	〃 : 味と香りによる類型	復習: 要点の整理、参考文献による学習
5.	〃 : 社会の規約	復習: 要点の整理、参考文献による学習
6.	日本の食文化: 特徴的な食材と加工調理	復習: 要点の整理、参考文献による学習
7.	〃 : 様式と習慣	復習: 要点の整理、参考文献による学習
8.	〃 : 行事食の種類と成立の背景	復習: 要点の整理、参考文献による学習
9.	〃 : 多様な地域性	復習: 要点の整理、参考文献による学習
10.	日本の食文化史: 古代	復習: 要点の整理、参考文献による学習
11.	〃 : 中世	復習: 要点の整理、参考文献による学習
12.	〃 : 近世1	復習: 要点の整理、参考文献による学習
13.	〃 : 近世2	復習: 要点の整理、参考文献による学習
14.	〃 : 近代	復習: 要点の整理、参考文献による学習
15.	まとめ	復習: 要点の整理、参考文献による学習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 質問については授業時まとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	70%	到達目標に関する理解度を評価する
	受講姿勢	30%	受講姿勢を通し積極的な学習態度を評価する

教科書:

参考書: 江原絢子・石川尚子編著『日本の食文化「和食」の継承と食育』アイ・ケイコーポレーション、2016
渡辺実『日本食生活史』吉川弘文館、2007
熊倉功夫『日本料理の歴史』吉川弘文館、2007
原田信男『和食と日本文化』小学館、2005
石毛直道『世界の食べもの 食の文化地理』講談社、2013
石毛直道監修『世界の食文化』農山漁村文化協会、2003-2007

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業前後に教室内で対応

授業テーマ:

授業の概要: 食生活や栄養が健康増進あるいは疾病の一次予防・重症化予防とどのように関係しているのか理解を深めるとともに、健康管理の視点から食生活や栄養のあり方を学ぶ。食品化学で学んだ食品成分の特性と栄養学で学んだ栄養素の機能に関する知識を実際の食生活にどのように活用すればよいかを理解する。

到達目標: ・健康管理に対する正しい情報を習得し、根拠のない情報と区別できる。
・健康管理に関して得られた知識を実生活に活かそうとする態度を身につける。

授業方法: 講義形式。3人の担当者がリレー方式で担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品と機能性	食品学の教科書等に記載の食の機能性と表示に関する部分を読んで、復習しておく。
2.	食と行動科学	1回目の講義時に指示したレポートをまとめる。
3.	食とカウンセリング	2回目の講義内容を復習しておく。
4.	三大栄養素	教科書P40～58を事前に読んでおく。
5.	ビタミン	教科書P61～64を事前に読んでおく。
6.	ミネラル	教科書P58～60を事前に読んでおく。
7.	食に関する教育(食育基本法、6つの基礎食品、食事バランスガイド、食事摂取基準など)	教科書P76～85、107～112を事前に読んでおく。
8.	行動療法と食行動の変容	7回目に指示した食事バランスガイドに則った食事記録を書いて提出する。
9.	ライフステージから見た食と健康1(胎児期、乳児期)	8回目に指示したセルフチェック表を記入する。 教科書P129～134を事前に読んでおく。
10.	ライフステージから見た食と健康2(離乳期、幼児期)	8回目に指示したセルフチェック表を記入する。 教科書P135～140を事前に読んでおく。
11.	ライフステージから見た食と健康3(学童期、成人期、高齢期)	8回目に指示したセルフチェック表を提出する。 教科書P140～148を事前に読んでおく。
12.	食の健康に与える影響(生活習慣病、メタボリックシンドロームと食事、運動)	教科書P149～168を事前に読んでおく。
13.	食物アレルギーの基礎知識	食物アレルギーについて知っていることをまとめておく。
14.	アレルギーと生活習慣病予防のための食事	前回授業で配布した資料を熟読して理解しておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 7、8回目の課題はコメントを付けて教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30	授業に積極的に参加し、正しい情報を積極的に入手しようとする態度・意欲を評価する。
	レポート	15	授業内容の理解度と知識を実生活に活用する姿勢がある。かを基準とする。
	定期試験	55	健康管理に関する正しい知識の習得度により評価する。

教科書: (公社)日本フードスペシャリスト協会編『三訂栄養と健康』(建帛社)

参考書: 伊藤節子『講談社現代新書 親と子の食物アレルギー』(講談社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

安全性・機能性・快適性の各側面から住居学の基礎を学ぶ

授業の概要:

住居学の基礎知識を学ぶ

到達目標:

住居学全般にわたる基礎事項について学び、設計製図の基礎を身につける

授業方法:

スライドによる講義、および設計製図実習による

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	住まいの目的、住要求と住意識	具体的な住要求から、自身のもつ住意識について考察する
2.	起居様式、食寝分離と就寝分離	自宅での生活行為と起居様式を書き出し、気づいたことをまとめる
3.	ダイニングキッチンの成立	自宅キッチンのワークトライアングルを測定し、調理作業のしやすさとの関係を考察する
4.	公私室分離、nLDK型平面プラン	自宅のLDK空間について、その構成を使い方をまとめる
5.	子ども室	子ども部屋としての自室、これからの子ども室の在り方について考える
6.	高齢者の住生活	高齢者の暮らしに関する資料を収集する
7.	安全安心の住まい	自宅の安全性について確かめる
8.	住まいの環境	自宅の照明、換気設備の設置状況について見直し、考察する
9.	近代住宅の変遷	現代の平面計画の成立過程について復習する
10.	住空間の設計計画-基礎	空間の設計に先立ち、様々な設計事例を収集する
11.	設計製図の基礎	平面図の描き方、基礎的な図面記号について理解する
12.	LDK空間の設計計画-エスキース	空間プランを提案する
13.	LDK空間の設計計画-平面図	平面図を描く
14.	LDK空間の設計計画-仕上げ	図面全体を整える
15.	まとめ	快適なLDK空間をつくる手法についてまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

家庭科教員免許を取得希望する学生さんのための科目です

フィードバックの方法:

ミニ課題はマナビー上で、設計製図課題は実習準備室で管理します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	15	
	演習	10	提出物の内容により評価します
	設計製図	15	課題内容、課題に取り組む態度が評価の対象となります なお、設計製図が提出されない場合、単位を取得できません
	試験	60	

教科書:

私たちの住居学 サスティナブル社会の住まいと暮らし、理工学社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

マナビーまたはe-mail

635660

被服製作実習基礎Ⅰ

戸田 賀志子

授業テーマ:

衣服の製作に必要なとされる基礎的な知識と技術を身につける

授業の概要:

繊維製品を取り扱う上で必要となる基礎的な知識を学ぶ。あわせて、作品を製作するための技術として、手縫い、ミシン縫いの基礎を習得する。その後、テーマに応じた作品の製作実習を通じ、知識と技術をより確実なものにする。また、衣服の構成(立体)理解するために、二部式衣服の上衣(ブラウス)、下衣(スカート)の製図方法も学習する。学びの仕上げとして、ワークシートに記入したり、各自が授業中に製作した作品や写真を添付した実習ノートを作成する。

到達目標:

・衣服製作に必要な縫製の基礎的技術、製作方法を習得する。
・作品製作実習を通じて、計画性をともなう課題への取り組み方(分析力、自己管理能力)、創造性の発揮の仕方(創造力、思考力)を身につける。

授業方法:

授業目標に準じたクラスサイズで実習を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	「被服製作実習基礎Ⅰ」についての説明。受講に関する諸注意。
2. 裁縫道具の種類と使い方 手縫いの基礎①	秋学期を通じて用いる裁縫道具について種類と使用法を学習する。
3. 手縫いの基礎②	手縫いの基礎として「並縫い」を学ぶ。
4. ミシンの使い方 ミシン縫いの基礎①	手縫いの基礎として「半返し縫い」、「本返し縫い」、「奥まつり縫い」を学ぶ。
5. ミシン縫いの基礎②	普通ミシンとロックミシン各部の名称を知り、使用方法を学習する。
6. 部分縫い	ミシン縫いの基礎として「直線縫い」を実践する。
7. 袋物の製作① 袋物の製作① ポーチ	針目のサイズと仕上がりの関係を学ぶ。
8. 袋物の製作② 巾着 その1	ロックミシンの縫製法を体得する。
9. 袋物の製作② 巾着 その2	ボタンの付け方、カギホックの付け方、ボタンホールの製作方法を学び、実践する。
10. 袋物の製作③ バッグ その1	材料の準備、見積もり
11. 袋物の製作③ バッグ その2	型紙の配置、布地裁断および縫製。
12. 胴部原型の製図(文化式)	ファスナーのつけ方を学ぶ。
13. 胴部の製図① 引き伸ばし その1	型紙の作成・配置、布地裁断およびロックミシン。
14. 胴部の製図② 引き伸ばし その2	縫製と紐通しの方法を学び実践する。
15. スカートの製図	A4サイズのトートバッグの製作。
	型紙の作成・配置・印つけ、布地裁断。
	持ち手の縫製。
	ロックミシン、縫製。
	採寸、製図
	前回作成した原型をもとに、身頃の引き伸ばし製図を行う。
	前回作成した型紙をもとに、衿、袖の製図を行う。
	採寸、製図

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中に完成しなかった部分については、次回の授業までに各自が完成させること

フィードバックの方法:

提出物や次回の授業で、課題を理解し実行できているかを精査し、正しい技術の習得、作品の製作・完成へと導く。提出物は、コメントをつけて教室で返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出作品(基礎縫い、袋物、製図)	60	縫製の基礎を理解し、所定の方法で正しく製作できているかを評価する。
授業への参加度	40	積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるかを評価する。

教科書:

なし

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業終了後に教室で対応する。
メールアドレスは初回の授業で伝える。

授業テーマ:

ブラウスとスカートを製作することによって、「被服製作実習基礎Ⅰ」での学習内容をマスターする。

授業の概要:

「被服製作実習基礎Ⅰ」で作成した型紙を用いてブラウスとスカートを製作する。
以下の条件のもとデザインは各自の習熟度に応じて選ぶ。ブラウスは前開き、衿、袖つきのデザイン、スカートは裏布つき、ファスナーとベルトがついているもの。ブラウスは8回、スカートは7回の授業で製作する。

到達目標:

・ブラウスと裏布つきスカートの製作を通して、「被服製作実習基礎Ⅰ」で習得した知識と技術を活用する力を培う。
・立体構成に関する知識と理解を深める。

授業方法:

授業目標に準じたクラスサイズで実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ブラウス製作 型紙配置、裁断、しるしつけ	用布の見積もりを行い、前・後ろ身頃、衿、袖の裁断としるしつけを行う。
2.	ブラウス製作 仮縫い	各部位を縫い合わせ仮縫いを行う
3.	ブラウス製作 仮縫い補正 本縫い(ダーツ)	仮縫いを行ったブラウスを試着し、必要に応じて補正を行う。 ダーツからミシン縫いを行う。
4.	ブラウス製作 本縫い(身頃縫い合わせ)	身頃各部位を縫い合わせる(肩、脇、裾)。
5.	ブラウス製作 本縫い(衿つくり、縫い代のしまつ)	衿をつくる。 身頃の縫い代をロックミシンでしまつする。
6.	ブラウス製作 本縫い(袖つくり、裾のしまつ、芯地つけ)	袖をつくる。 裾をしまつし、身返しに芯地をつける。
7.	ブラウス製作 衿つけ	第5講で製作した衿を身頃につける。
8.	ブラウス製作 袖付け、ボタンホール、ボタンつけ	第6講で製作した袖を身頃につける。 ボタンホールをあけ、ボタンをつける。
9.	スカート製作 型紙配置、裁断、しるしつけ	用布の見積もりを行い、前・後ろ身頃スカート、ベルトの裁断としるしつけを行う。 切りじつけを学ぶ。
10.	ブラウス着装採点 スカート製作 仮縫い、補正	完成したブラウスを着装し採点を行う。 仮縫いを行ったスカートを試着し、必要に応じて補正を行う。
11.	スカート製作 本縫い 裏スカート裁断、しるしつけ	スカートの本縫い(ダーツ・脇、後ろ中心縫い合わせ、縫い代のしまつ) 裏スカートを裁断し、しるしをつける。
12.	スカート製作 本縫い(ファスナーつけ) 裏スカート本縫い	表スカートにファスナーをつける。 裏スカートの本縫いを行う。
13.	スカート製作 表スカートと裏スカートのとじ合わせ ベルトつくり	表スカートと裏スカートをウエストでとじ合わせる。 ベルト布にベルト芯をつける。
14.	スカート製作 ベルトつけ、裾あげ、カギホックつけ	スカートにベルトをつける。 裾をあげ、カギホックをつける。
15.	スカート製作 ループつけ、仕上げ、着装採点	表スカートと裏スカートの間にループをつける。 完成したスカートを着装し採点を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業の課題に到達しなかった場合は、次回の授業までに各自が完成させること。

フィードバックの方法:

次回の授業で、課題を理解し実践できているかを精査し、正しい製作、作品完成へと導く。
提出物はコメントをつけて、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	作品(ブラウス・スカート)	60	提出期日を守っているか。 「被服製作実習基礎Ⅰ」で習得した技術が作品に反映されているか。
	授業への参加度	40	積極的に授業に参加し、作品製作に取り組んでいるか。

教科書:

なし

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力、

教員との連絡方法:

初回の授業でメールアドレスを伝える。

授業テーマ:	栄養素の代謝(主に糖質、脂質)を学ぶ																																																	
授業の概要:	生化学Iでは、口から摂取した栄養素(糖質、脂質)が体の中でどのように代謝されていくのかを中心に学ぶ。正常な状態での代謝を理解することで、次年度以降に履修する臨床病態学や臨床栄養学で疾患の成因や栄養食事療法などを理解することが出来るようになる。																																																	
到達目標:	・授業で学ぶ内容について、理解し、自分で説明することが出来るようになる ・授業で学んだ内容を復習し、国家試験対策にも使えるノート作りを行う 毎回の授業の理解度、予習・復習を行ったかについて自己評価し、マナビーに記録する																																																	
授業方法:	講義																																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th></th><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1.</td><td>人体の構成(身体構成成分、真核細胞と原核細胞)【1A-a, d】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>2.</td><td>人体の構成(細胞膜、細胞小器官)【1A-b】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>3.</td><td>人体の構成(細胞小器官つづき、細胞骨格)【1A-b】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>4.</td><td>酵素(一般的性質、酵素の分類、特異的作用、補酵素)【3D-a, b, d】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>5.</td><td>酵素(酵素反応速度論)【3D-b】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>6.</td><td>酵素(阻害様式、活性の調節、アロステリック酵素)【3D-b, d】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>7.</td><td>生体エネルギーと代謝(独立栄養と従属栄養、異化・同化、酸化・還元)【3A-a, b, 3B-a】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>8.</td><td>生体エネルギーと代謝(生体酸化、酸化的リン酸化)【3A-c, 3B-b, c, 3C-a, b】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>9.</td><td>糖質の代謝(解糖系)【4B-a】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>10.</td><td>糖質の代謝(クエン酸回路、ペントースリン酸回路)【4B-b, c】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>11.</td><td>糖質の代謝(グリコーゲンの合成・分解、糖新生)【4B-d, e】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>12.</td><td>糖質の代謝(その他糖質の代謝、グルクロン酸経路、血糖の調節)【4B-d】 脂質の代謝(トリグリセリドの分解)【4C-b】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>13.</td><td>脂質の代謝(トリグリセリドの合成、脂肪酸の分解)【4C-a, b】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>14.</td><td>脂質の代謝(脂肪酸の合成、不飽和脂肪酸の代謝、エイコサノイドの代謝、ケトン体の代謝)【4C-a, c, e】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr><tr><td>15.</td><td>脂質の代謝(コレステロールの代謝、脂質の輸送とリポタンパク質)【4C-f, g】</td><td>事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。</td></tr></table>		授業内容	準備学習等の内容	1.	人体の構成(身体構成成分、真核細胞と原核細胞)【1A-a, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	2.	人体の構成(細胞膜、細胞小器官)【1A-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	3.	人体の構成(細胞小器官つづき、細胞骨格)【1A-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	4.	酵素(一般的性質、酵素の分類、特異的作用、補酵素)【3D-a, b, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	5.	酵素(酵素反応速度論)【3D-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	6.	酵素(阻害様式、活性の調節、アロステリック酵素)【3D-b, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	7.	生体エネルギーと代謝(独立栄養と従属栄養、異化・同化、酸化・還元)【3A-a, b, 3B-a】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	8.	生体エネルギーと代謝(生体酸化、酸化的リン酸化)【3A-c, 3B-b, c, 3C-a, b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	9.	糖質の代謝(解糖系)【4B-a】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	10.	糖質の代謝(クエン酸回路、ペントースリン酸回路)【4B-b, c】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	11.	糖質の代謝(グリコーゲンの合成・分解、糖新生)【4B-d, e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	12.	糖質の代謝(その他糖質の代謝、グルクロン酸経路、血糖の調節)【4B-d】 脂質の代謝(トリグリセリドの分解)【4C-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	13.	脂質の代謝(トリグリセリドの合成、脂肪酸の分解)【4C-a, b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	14.	脂質の代謝(脂肪酸の合成、不飽和脂肪酸の代謝、エイコサノイドの代謝、ケトン体の代謝)【4C-a, c, e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	15.	脂質の代謝(コレステロールの代謝、脂質の輸送とリポタンパク質)【4C-f, g】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。	
	授業内容	準備学習等の内容																																																
1.	人体の構成(身体構成成分、真核細胞と原核細胞)【1A-a, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
2.	人体の構成(細胞膜、細胞小器官)【1A-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
3.	人体の構成(細胞小器官つづき、細胞骨格)【1A-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
4.	酵素(一般的性質、酵素の分類、特異的作用、補酵素)【3D-a, b, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
5.	酵素(酵素反応速度論)【3D-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
6.	酵素(阻害様式、活性の調節、アロステリック酵素)【3D-b, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
7.	生体エネルギーと代謝(独立栄養と従属栄養、異化・同化、酸化・還元)【3A-a, b, 3B-a】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
8.	生体エネルギーと代謝(生体酸化、酸化的リン酸化)【3A-c, 3B-b, c, 3C-a, b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
9.	糖質の代謝(解糖系)【4B-a】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
10.	糖質の代謝(クエン酸回路、ペントースリン酸回路)【4B-b, c】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
11.	糖質の代謝(グリコーゲンの合成・分解、糖新生)【4B-d, e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
12.	糖質の代謝(その他糖質の代謝、グルクロン酸経路、血糖の調節)【4B-d】 脂質の代謝(トリグリセリドの分解)【4C-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
13.	脂質の代謝(トリグリセリドの合成、脂肪酸の分解)【4C-a, b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
14.	脂質の代謝(脂肪酸の合成、不飽和脂肪酸の代謝、エイコサノイドの代謝、ケトン体の代謝)【4C-a, c, e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
15.	脂質の代謝(コレステロールの代謝、脂質の輸送とリポタンパク質)【4C-f, g】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	『高校生物』や本学で学ぶ『生物の基礎』、『栄養素の化学』を土台に知識を更に積み上げていくので、授業が始まる前までにしっかり復習しておくこと。講義は一つ一つ代謝について学ぶことになり、新しい言葉がたくさん出てきます。毎回の予習・復習がとても大事となってきますので、コツコツ頑張ってください。『生化学I』と同時に開講する『基礎栄養学I』とは重なる部分が多いので、知識を上手く構築していった下さい。																																																	
フィードバックの方法:	質問、感想については、マナビーでコメントを返す。また、必要に応じて授業中に全体へ向けてコメントする。																																																	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	授業で学んだ内容に対する理解度を評価する
	授業への参加度	5	授業への理解度や予習・復習などに対して自己評価を行っているかについて評価する
	ノート提出	15	後々まで使えるノート作りが出来ているかを評価する
教科書:	林 典夫・廣野治子, シンプル生化学【改訂第6版】, 南江堂		
参考書:	遠藤克己、栄養の生化学 1-2-3 改訂第3版、南江堂		
	藺田勝、栄養科学イラストレイテッド演習版 生化学ノート 改訂第2版、羊土社		
	田村隆明、スッキリわかる！グングン身につく！生化学ドリル、南山堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーまたはマナビーの掲示板機能・アンケート機能を利用		

授業テーマ:

栄養素の代謝(タンパク質・アミノ酸、核酸)、細胞内情報伝達について学ぶ

授業の概要:

生化学Ⅱでは、生化学Ⅱに引き続き、代謝の一部(タンパク質・アミノ酸、核酸)について学ぶ。さらにタンパク質の生合成、遺伝子発現について理解し、遺伝情報の伝達、代謝調節のための情報伝達などについて学習する。これらを学習することにより、臨床病態学や臨床栄養学で学ぶ代謝異常症などの理解につながる。

到達目標:

・授業で学ぶ内容について、理解し、自分で説明することが出来るようになる

・授業で学んだ内容を復習し、国家試験対策にも使えるノート作りを行う

・毎回の授業の理解度、予習・復習を行ったかについて自己評価し、マナビーに記録する

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. アミノ酸・タンパク質の代謝(非必須アミノ酸の生合成、アミノ基転移反応、タンパク質・アミノ酸の異化)【4A-a, b, c】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	2. アミノ酸・タンパク質の代謝(尿素回路、特殊生成物: ポルフィリン、クレアチニン、生理活性アミン、一酸化窒素)【4A-d, e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	3. アミノ酸・タンパク質の代謝(生理活性ペプチド、タンパク質の合成・分解)【4A-f, g】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	4. 核酸の構造(核酸の基本構造、ヌクレオシドとヌクレオチド)【2D-a】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	5. 核酸の構造・機能(DNA、RNA、遺伝子、ゲノム、染色体)【2D-a, b, c, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	6. 核酸の代謝(プリン・ピリミジンヌクレオチドの分解)【2D-e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	7. 核酸の代謝(プリン・ピリミジンヌクレオチドの合成)【2D-e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	8. タンパク質の生合成(細胞周期、複製、転写)【2D-g】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	9. タンパク質の生合成(翻訳)【2D-h】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	10. タンパク質の生合成(タンパク質の翻訳後修飾)、遺伝子操作・解析【2D-f, i】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	11. 遺伝子発現の調節(原核生物・真核生物)	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	12. 情報伝達の機構(細胞間情報伝達、シグナル伝達の概要)【5A-a, c】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	13. 情報伝達の機構(受容体による情報伝達)【5A-c】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	14. 情報伝達の機構(細胞内シグナル伝達)【5A-d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

質問、感想については、マナビーでコメントを返す。また、必要に応じて授業中に全体へ向けてコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	授業で学んだ内容に対する理解度を評価する
	授業への参加度	5	授業の理解度や予習・復習などに対して自己評価を行っているかについて評価する
	ノート提出	15	後々まで使えるノート作りが出来ているかを評価する

教科書:	林 典夫・廣野治子, シンプル生化学【改訂第6版】, 南江堂
参考書:	遠藤克己、栄養の生化学 1-2-3 改訂第3版、南江堂 藺田勝、栄養科学イラストレイテッド演習版 生化学ノート 改訂第2版、羊土社
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理力
教員との連絡 方法:	オフィスアワーまたはマナビーの掲示板機能・アンケート機能を利用

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

人間の体の構造と各種の臓器や器官の働きについて学ぶ。

人体の構造と機能について分子レベルから細胞,組織,臓器レベルまで階層的・系統的に理解することを目指す。さらに人が健康な生活を送るために必要な栄養学を理解でき、疾病の予防やその成り立ちと快復の促進など他の専門科目に対する学習の基礎知識を身に付けることを目標とする。

教科書ならびに配付資料を用いて液晶プロジェクターでの授業資料の提示説明および板書で講義する。

	授業内容	準備学習等の内容
1.	人体の区分と解剖学用語	本講義の到達目標を理解し、講義に臨むこと。
2.	分子から細胞まで、細胞小器官の機能	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
3.	組織と膜	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
4.	皮膚の構造と機能	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
5.	骨格系の構成器官の構造と機能Ⅰ: 骨格系の概略、体幹の骨	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
6.	骨格系の構成器官の構造と機能Ⅱ: 体肢の骨	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
7.	筋系の構成器官の構造と機能Ⅰ: 筋の種類、骨格筋の形状・構造、作用	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
8.	筋系の構成器官の構造と機能Ⅱ: 主要骨格筋	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
9.	神経系の構成器官の構造と機能Ⅰ: 神経系の構成・機能、脳室と脳脊髄液	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
10.	神経系の構成器官の構造と機能Ⅱ: 中枢神経系、末梢神経系	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
11.	神経系の構成器官の構造と機能Ⅲ: 自律神経系	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
12.	感覚器系の構成器官の構造と機能Ⅰ: 体性感覚および特殊感覚(味覚・嗅覚・聴覚)の構造と機能	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
13.	感覚器系の構成器官の構造と機能Ⅱ: 特殊感覚(視覚・平衡覚)の構造と機能	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
14.	内分泌系の構成器官の構造と機能Ⅰ: 内分泌系の概要、内分泌腺(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体)	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
15.	内分泌系の構成器官の構造と機能Ⅱ: 内分泌腺(副腎、心臓、腎臓、肝臓、消化器、性腺、胎盤、脂肪組織、血管内皮)	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

講義内容をより深く理解するために、図書館での視聴覚機器利用、資料室での標本観察およびラーニングcommonsでの情報収集・ディスカッションを行い、学習度を深めることが望ましい。

毎回の小テストについては、順次返却する。
また毎回の講義においてルーブリックを作成しており、毎回の講義受講後の理解度など自己評価を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	60	講義で学習した内容全体を出題範囲とし、理解度を評価する。
	平常小テスト	30	毎回講義の始めの予習テストおよび数回の確認テストの内容を評価する。
	受講態度	10	毎回の講義の出席状況や講義中の質問や応答など講義への参加度と貢献度を評価する。また私語や無断退室など受講上好ましくない行為に対してはマイナス評価を与える。

教科書: エキスパート 管理栄養士養成シリーズ 解剖生理学(化学同人) 高野康夫 2012 (ISBN9784-7598-12374)

参考書: 「人体機能生理学」(第8改訂第5版) 杉晴夫(編著)、宮崎俊一 等(著)、南江堂、2009 (ISBN9784-5242-53647)
「ギャノン生理学原書24版」ウィリアム・F. ギャノン、キム・E. バレット(著)、岡田康伸(監訳)、医学書院、2014 (ISBN9784-6210-87176)
「バーン/レヴィ カラー基本生理学」板東武彦、小山省三(監訳)、西村書店、2003 (ISBN9784-8901-33062)
「解剖生理学図鑑 ヒトのからだの全てが初心者でもわかる決定版！！」アドルフ・ファーラー、ミハエル・シュンケ(著)、大久保真人(監訳)、ガイアブックス、2013 (ISBN9784-8828-28648)
「カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで」フレデリック・H. マティーニ、マイケル・J. ティモンズ(著)、井上貴央(監訳)、西村書店、2003 (ISBN9784-8901-33055)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法: E-mailにて連絡(kaibouseiriadachi@gmail.com)

授業テーマ:

授業の概要: 解剖生理学I に続いて残りの人間の体の器官系の構造と働きについて学ぶ(血液学、心臓血管系、リンパ系と生体防御、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、人体発生学)。

到達目標: (1) 血液および心臓血管系の構成器官の構造と機能について理解できる。
(2) 特異的・非特異的生体防御機構について理解できる。
(3) 呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系の構成器官の構造と機能を理解できる。
(4) ホメオスターシス(体温・体液・電解質)について理解できる。
(5) 人体発生・再生医療について理解できる。

授業方法: 教科書ならびに配付資料を用いて液晶プロジェクターでの授業資料の提示説明および板書で講義する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	血液の構成要素と機能	本講義の到達目標を理解し、講義に臨むこと。
2.	心臓血管系の構成器官の構造と機能 I: 心臓、血液循環	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
3.	心臓血管系の構成器官の構造と機能 II: 胎児循環、血管構造、循環生理学	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
4.	リンパ系と生体防御	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
5.	内部環境の恒常性(体液、電解質、体温)とエネルギー代謝	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
6.	呼吸器系の構成器官の構造と機能 I: 呼吸器系構成器官の構造	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
7.	呼吸器系の構成器官の構造と機能 II: 呼吸器系構成器官の機能	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
8.	消化器系の構成器官の構造と機能 I: 口腔、咽頭、食道、胃	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
9.	消化器系の構成器官の構造と機能 II: 小腸、大腸	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
10.	消化器系の構成器官の構造と機能 III: 肝臓、胆嚢、膵臓	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
11.	泌尿器系の構成器官の構造と機能: 泌尿器系構成器官の構造	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
12.	泌尿器系の構成器官の構造と機能: 泌尿器系構成器官の機能	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
13.	生殖器系の構成器官の構造と機能 I: 男性生殖器	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
14.	生殖器系の構成器官の構造と機能 I: 女性生殖器	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
15.	人体発生と再生医療	医学用語、特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので、事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス: 講義内容をより深く理解するために、図書館での視聴覚機器利用、資料室での標本観察およびラーニングコモンズでの情報収集・ディスカッションを行い、学習度を深めることが望ましい。

フィードバックの方法: 毎回の小テストについては、順次返却する。
また毎回の講義においてルーブリックを作成しており、毎回の講義受講後の理解度など自己評価も行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	60	講義で学習した内容全体を出題範囲とし、理解度を評価する。
	平常小テスト	30	毎回講義の始めの予習テストおよび数回の確認テストの内容を評価する。
	受講態度	10	毎回の講義の出席状況や講義中の質問や応答など講義への参加度と貢献度を評価する。また私語や無断退室など受講上好ましくない行為に対してはマイナス評価を与える。

参考書： 「人体機能生理学」(第8改訂第5版) 杉晴夫(編著)、宮崎俊一 等(著)、南江堂、2009 (ISBN9784-5242-53647)
「ギャンング生理学原書24版」ウィリアム・F. ギャンング, キム・E. バレット(著)、岡田康伸(監訳)、医学書院、2014 (ISBN9784-6210-87176)
「バーン/レヴィ カラー基本生理学」板東武彦、小山省三(監訳)、西村書店、2003 (ISBN9784-8901-33062)
「解剖生理学図鑑 ヒトのからだの全てが初心者でもわかる決定版！！」アドルフ・ファーラー、ミハエル・シュンケ(著)、大久保真人(監訳)、ガイアブックス、2013 (ISBN9784-8828-28648)
「カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで」フレデリック・H. マティーニ、マイケル・J. ティモンズ(著)、井上貴央(監訳)、西村書店、2003 (ISBN9784-8901-33055)

基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

授業テーマ:

食べ物と健康及び食品成分の化学的理解

授業の概要:

管理栄養士として食べ物と健康の関わりについて理解するためには、基本的知識として、食品がどのような成分からできており、どのような性質を持っているか知っておかなければならない。食品の知識なくして、おいしく栄養性が高く安全な食べ物の提供はできないからである。この講義では、食品成分の化学的諸性質、栄養特性、物性、安全性などについて全般的基礎知識を学ぶ。

到達目標:

1. 食べ物と・環境との関わりについて理解する。
2. 食品の分類、食品成分表について理解する。
3. 食品の主要成分とその性質を理解する。
4. 食品の嗜好成分、有害成分とその性質、食品の物性を理解する。
5. 食品の保蔵・加工・調理の過程で起こる食品成分の化学的・物理的変化と食品品質の関係を理解する。
6. 食品の機能と表示について理解する。
7.. 1～6を通して、2年次以降の食品学・調理学関係の科目はじめ、専門科目を学ぶための基礎的学力を身につける。

授業方法:

講義形式で教科書に従って進める。PowerPointスライドも併用する。授業は口頭での説明が主となるので、しっかりと聞いてメモ・ノートを取っていただきたい。
できるだけ繰り返し説明するつもりだが、毎回の授業は前回までの内容を理解していることが前提となる。
そこで、毎授業の初めに、前回の授業内容の理解度を確認するためのミニテストを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	人間と食品 食品の歴史的変遷、食と環境 語句の定義	教科書を用意しておくこと。
2.	食品中の水分(1)	ミニテストに向けて、前回の授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
3.	食品中の水分(2)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
4.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化 ータンパク質ー(1)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
5.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化 ータンパク質ー(2)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
6.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化 ータンパク質ー(3)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
7.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化 ー糖質ー(1)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
8.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化 ー糖質ー(2)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
9.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化 ー糖質ー(3)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
10.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化 ー脂質ー(1)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
11.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化 ー脂質ー(2)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
12.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化 ー無機質・ビタミンー	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
13.	食品中の嗜好成分の化学・変化(1)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
14.	食品中の嗜好成分の化学・変化(2)	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。
15.	食品成分の酸化的劣化とその防止	ミニテストに向けて、前回までの授業内容を教科書・配布プリントを使って復習し、理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業内容の復習・まとめ・予習など、次回の授業とミニテストへの準備が必要となる。
教科書に従って授業を進めるので予習・復習はしやすいであろう。
なお、授業時間数の関係で教科書記載の全ての項目について解説できないが、管理栄養士国家試験ではその全てが対象となるので、自学自習をして頂きたい。質問にはいつでも応じる。

フィードバックの方法:

ミニテストは教室内でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60%	到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により評価する。
	出席及びミニテスト	40%	授業への積極的参加度及び毎授業ごとのミニテストで確認する到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により総合的に評価する。

教科書:

森田潤司・成田宏史 編:新食品・栄養科学シリーズ『食品学総論(第3版)』(化学同人)

参考書:

他出版社から出ている『食品学総論』『食品化学』『食品学』『生化学』関係の本のなかで各自で理解しやすいもので学習を深めるとよい。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後に教室内で対応。
オフィスアワー(U311b)で対応。

授業テーマ:	食の安全について理解する	
授業の概要:	人の生命維持や健康の維持・増進には、食物の摂取は一日も欠かすことはできず、摂取する食物は栄養的に価値があると同時に衛生的に安全なものではない。食品はその生産から消費にいたる過程で、微生物や寄生虫による汚染、農薬、有害金属、放射性物質等による汚染や食品成分の変化により生じる有害物質の混入を受けている。また、種々の食品添加物も使用されている。本講義では、これら多岐にわたる要因について学び、正しく理解することにより、食品の安全性を確保するための知識を修得する。	
到達目標:	・病原性微生物、化学物質等による食品の汚染と防止対策について理解している。 ・食品の安全性を踏まえた食品の取り扱いを理解している。 ・食品衛生関係法規および食品衛生行政について理解している。	
授業方法:	教科書および配布資料を用い、プロジェクターでの資料提示説明および板書により講義する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1.食品衛生関係法規と食品衛生行政 2.食品中の微生物 3.食品の変質と変質の防止 4.1～3回目までの小テスト、食中毒の概要と発生状況 5.微生物による食中毒 6.自然毒による食中毒 7.化学物質による食中毒 8.食品による感染症・寄生虫症 9.4～8回目までの小テスト、カビ毒、農薬による食品汚染 10.PCB、ダイオキシン、有害性金属による食品の汚染 11.放射性物質、内分泌かく乱物質、食品成分の変化により生成する化学物質 12.食品添加物 13.9～12回目までの小テスト、食品の器具・容器包装、食品の新しい安全性問題 14.食品衛生管理 15.まとめ	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。 授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。 授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。 小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。 授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。 授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。 授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。 小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。 授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。 授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。 小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。 授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。 1～14回目の内容を徹底的に復習し、理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

疑問点があれば、授業終了後、積極的に質問に来てください。
小テストを3回行う予定にしているので、各自、まとめノートを作成するなどして、充分復習しておいてください。また、日頃より積極的に食品衛生学に関する新しい情報を収集して、自ら学ぶ姿勢を示してほしい。

フィードバックの方法：小テストの解答用紙を回収後、その場で正解を示し、各自に間違った箇所の確認をさせる。さらに、問題の解説を行う。翌週、平均点や点数分布を公表する。定期テストの結果は、希望者に対して、点数または採点済みの答案用紙を開示する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	75	到達目標である病原性微生物、化学物質等による食品の汚染と防止対策についての理解度、食品衛生関係法規および食品衛生行政についての理解度より評価する。
	小テスト	20	到達目標としている項目について復習を充分に行い、理解しているかを評価する。
	授業への取組状況	5	積極的に授業に参加し、到達目標としている項目について意欲を持って学習しているかを評価する。

教科書：市川富夫 編 新 食品・栄養科学シリーズ 食べ物と健康5「食品衛生学」 化学同人

参考書：川井英雄・丸井正樹・川村堅 編著 カレント「食べ物と健康:食品衛生学」 建帛社
小塚 諭 編著 「イラスト食品の安全性」[第2版] 東京教学社
篠田純男・成松鎮雄・林泰資 著 「食品衛生学」[第3版] 三共出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法：随時研究室内で対応する。

授業テーマ:	何故加工食品となるのか？		
授業の概要:	現在、おびただしい数の加工食品が市場を賑わせている。しかし、その原料や製造方法などは、消費者に余り知られていない。そのことが、ある時には消費者の不安を駆り立てる原因にもなっている。食品加工学では、食品学総論・食品学各論で会得した知識を元に、食品は生物との見地から、加工食品は如何に食品成分の特性を活かして製造されているのか、及び各種貯蔵法の原理を学ぶことで、加工食品に対する正しい知識を体得することを目指す。さらに、疾病予防を目的として開発された加工食品や遺伝子組み換え食品の安全性および食品の表示についても教授する。		
到達目標:	食品学総論・食品学各論の知識を基礎として、 1. 食品素材から加工食品となる仕組みを科学的に説明できる。 2. どうして食品が保存できるのか？その原理を解説できる。 3. 食品の表示方法の成り立ちが分かる。 4. 特定保健用食品や遺伝子組み換え食品を正しく理解できる。 以上のことから 1. 加工食品に関する事象や課題に関心を持つようになる。 2. 加工食品にまつわる事象を科学的な視点で捉えることができるようになる。 3. 加工食品に関する事象についてプレゼンテーションできるようになる。		
授業方法:	テキストを用いて下記項目を順次解説する。また必要により、プリントの配布およびPower Pointの使用などを行う。原則的に2週間毎に一度、その日の講義内容についてグループディスカッションを行い、皆の前でプレゼンテーションをしてもらう。また、隔週、講義終了後に20分程度の小試験を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 農産食品の加工(穀類・豆類・いも類) 2. 農産食品の加工(野菜類・果実類など) 3. 畜産食品の加工(畜肉類) 4. 畜産食品の加工(乳類・卵類など) 5. 水産食品の加工(冷凍品) 6. 水産食品の加工(乾燥品・練り製品など) 7. 食用油脂および調味食品 8. 嗜好食品およびインスタント食品(嗜好飲料・アルコール飲料など) 9. 食品の加工原理 10. 食品の保存法 11. 食品の包装 12. 加工食品の規格と表示制度 13. 加工食品の規格と表示制度 14. 遺伝子組み換え食品 15. まとめ	準備学習等の内容 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと 使用テキスト該当部分を予め予習のこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	管理栄養士専攻生は、最終的に国家試験に受からねばなりません。もちろん、それが最終目標ではありませんが、国家試験に合格しないと管理栄養士としてのスタートラインには立てません。地道に幅広く知識を蓄える必要があります。こつこつと知識を積み重ねて行きましょう。		
フィードバックの方法:	マナビーを使って小試験の解説を行う。必ず、解説を元に復習のこと。国家試験合格のためには、丁寧に学び、重要事項を記憶し、まとめておくことが、重要です。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 試験	割合 100	評価基準 知識・理解が到達目標に達しているかどうかを基準とする。
教科書:	新 食品・栄養科学シリーズ「食品加工学(第2版)第6刷」西村公雄・松井徳光 編(化学同人)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー以外の時間でも、講義・実験実習・会議などがなければ研究室にあります。随時お訪ね下さい。		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

公衆栄養学の概念、国や地域等の健康、栄養問題の現状と課題を知る。また、これらに対応するための栄養政策について知る。

地域や職域等の健康、栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する方法を理解することを目標とする。また公衆栄養に関連する法律や施策の理解、活用法について理解することを目指す。

教科書などを用い、講義を行う。必要に応じて、教材提示機を使用する。該当する管理栄養士国家試験問題を、解く。

	授業内容	準備学習等の内容
1.	公衆栄養の概念	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。
2.	社会環境と健康・栄養問題	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
3.	健康状態の変化	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
4.	食事の変化	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
5.	食生活の変化・食環境の変化	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
6.	わが国の公衆栄養活動 1 管理栄養士制度、母子保健、高齢者医療の確保法など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
7.	わが国の公衆栄養活動 2 健康フロンティア戦略、特定保健健診など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
8.	公衆栄養関連法規 1 地域保健法、健康増進法など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
9.	公衆栄養関連法規 2 食育基本法、栄養士法など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
10.	国民・健康栄養調査	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
11.	1.実施に関連する指針、ツール 1 食生活指針、食事バランスガイドなど	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
12.	実施に関連する指針、ツール 2 アクティブガイド、健康のための身体運動指針など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
13.	国の健康増進基本方針と地方計画	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
14.	食育推進と地方計画	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
15.	まとめ	公衆栄養Ⅰの範囲の管理栄養士国家試験問題を確実に解けるように、ノートを完成させましょう。

教科書中心に授業を行いますので、事前に予習してきてください。授業のパワーポイントは事前にマナビーに配布します。授業終了後まとめのノートを作成してください。各単元の学習が終了した時点で、ノート提出を課題とします。1週目の授業で配布する予定表の指定日までに提出してください。

小テスト、ノート提出の結果を返却します。

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	国家試験問題を解き、解説できる能力(50%)と、キーワード・重要項目について簡単に論述できる能力(50%)を確認します。
ノート提出・小テスト	35	ノート提出はキーワードや重要項目が網羅されており、理解されているか確認し、3段階で評価します。小テストは数値化して加点します。
出席状況	5	出席数を点数化し、欠席・遅刻を減点します。

公衆栄養学 光生館
2017年度版管理栄養士栄養士必携 日本栄養士会

国民健康・栄養の現状 第一出版
公衆栄養マニュアル 南山堂
公衆衛生マニュアル 南山堂
日本人の食事摂取基準 2015年版 第一出版

分析力、思考力、自己実現力

オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、授業の前後に教室内で対応します

授業テーマ:			
授業の概要:	栄養疫学、食事摂取基準の意義、公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムの展開、諸外国の状況		
到達目標:	: 地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を疫学的手法を用いて収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。		
授業方法:	教科書などを用い、講義を行う。必要に応じて、教材提示機を使用する。該当する管理栄養士国家試験問題を、解く。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 栄養疫学の概要・暴露情報としての食事摂取量	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	2. 食事摂取量の測定方法 食事記録、24時間思い出し法	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	3. 食事摂取量の評価方法 食物摂取頻度調査など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	4. 公衆栄養に役立つ疫学的手法の概略 研究デザインとEBN	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	5. 食事摂取基準 策定の基礎理論と活用の基礎理論	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	6. 食事摂取基準について 日本人の食事摂取基準2015年版 活用の実際 (1)	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	7. 食事摂取基準について 日本人の食事摂取基準2015年版 活用の実際 (2)	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	8. 食事摂取基準について 日本人の食事摂取基準2015年版 活用の実際 (3)	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	9. 公衆栄養マネジメントと公衆栄養アセスメント	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	10. 公衆栄養プログラムの目標設定	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	11. 公衆栄養プログラムの目標設定	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	12. 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	13. 諸外国の健康・栄養政策	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	14. 公衆栄養プログラムの展開	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、印刷してきてください。	
	15. まとめ	公衆栄養学Ⅱの範囲の管理栄養士国家試験問題を確実に解けるように、ノートを完成させましょう。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	教科書中心に授業を行いますので、事前に予習してきてください。授業のパワーポイントは事前にマナビーに配布します。授業終了後まとめのノートを作成してください。各単元の学習が終了した時点で、ノート提出を課題とします。1週目の授業で配布する予定表の指定日まで提出してください。		
フィードバックの方法:	小テスト、ノート提出の結果を返却します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60	国家試験問題を解き、解説できる能力(50%)と、キーワード・重要項目について簡単に論述できる能力(50%)を確認します。
	ノート提出・小テスト	35	ノート提出はキーワードや重要項目が網羅されており、理解されているか確認し、3段階で評価します。小テストは数値化して加点します。
	出席状況	5	出席点を点数化し、欠席・遅刻は減点します。
教科書:	「公衆栄養学I」で使用のもの(公衆栄養学 光生館) 2017年度版管理栄養士栄養士必携 日本栄養士会 日本人の食事摂取基準2015年版 第一出版		
参考書:	公衆栄養マニュアル 南山堂 公衆衛生マニュアル 南山堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーの提示版機能、授業の前後に教室内で対応します。		

授業テーマ：

人間を取り巻く社会・環境要因と健康との関わりについて学ぶ

授業の概要：

公衆衛生学は社会・環境と健康に関する学問であり、ひとりひとりの努力と組織化された社会活動によって、疾病を予防し、肉体的および精神的健康の維持増進をはかる科学であり技術である。本講義では、まず、公衆衛生の概念を理解した後、現在のわれわれの健康をめぐる状況を把握するために衛生統計を学ぶ。さらに、疫学、生活習慣病の現状と対策および環境衛生などについても学び、健康に関して幅広い知識を得る。

到達目標：

・わが国における健康・疾病の現状を統計的情報に基づいて理解している。
・疫学の方法について理解し、統計的手法を使用できる能力を修得している。
・環境と健康の関係について理解している。

授業方法：

教科書および配布資料を用い、プロジェクターでの資料提示説明および板書により講義する。配布資料中には空欄部があるので、授業中に各自が埋めて資料を完成させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	公衆衛生の概念・健康の概念	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
2.	人口静態統計	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
3.	人口動態統計	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
4.	生命表、傷病統計	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
5.	1～4回目の小テスト、疫学の概念、疫学の指標	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
6.	疫学の方法、バイアスと交絡	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
7.	スクリーニングとその適用	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
8.	根拠に基づく保健対策、疫学研究と倫理	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
9.	5～8回目の小テスト、環境汚染と健康影響、公害、環境汚染の現状と環境基準	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
10.	地球環境問題	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
11.	上水道、下水道、廃棄物処理	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
12.	気候、空気、温熱条件、ダイオキシン、放射線	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
13.	9～12回目の小テスト、身体活動、運動の現状と対策	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
14.	喫煙行動、飲酒行動、睡眠、休養、歯・口腔健康の現状と対策	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
15.	まとめ	1～14回目の内容を徹底的に復習し、理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス：

疑問点があれば、授業終了後、積極的に質問に来てください。小テストを3回行う予定にしているので、各自、まとめノートを作成するなどして、充分復習しておいてください。また、公衆衛生学は社会と密接に関係しているので、日頃より積極的に情報の収集をするなどして、自ら学ぶ姿勢を示してほしい。

フィードバックの方法:	小テストの解答用紙を回収後、その場で正解を示し、各自に間違った箇所の確認をさせる。さらに、問題の解説を行う。翌週、平均点や点数分布を公表する。定期テストの結果は、希望者に対して、点数または採点済みの答案用紙を開示する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	75	到達目標である統計的情報に基づいた健康・疾病の現状についての理解度、到達目標である疫学に関する理解度、環境と健康の関係についての理解度により評価する。
	小テスト	20	到達目標としている項目について十分に復習を行い、理解しているかを評価する。
	授業への取組状況	5	積極的に授業に参加し、到達目標としている項目について意欲を持って学習しているかを評価する。
教科書:	松村幸・中山健夫 編 栄養科学シリーズNEXT「公衆衛生学 社会・環境と健康」第3版 講談社サイエンティフィク		
参考書:	「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 北田善三・須崎尚 編著 カレント「社会・環境と健康:公衆衛生学」第2版 建帛社 鈴木庄亮他監修 「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂 田中平三他編集 健康・栄養科学シリーズ「社会・環境と健康」改訂第4版 南江堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	随時研究室内で対応する。		

授業テーマ：生活習慣病に対する予防および衛生行政について学ぶ

授業の概要：人が身体的、精神的に健康で健やかな生活を送るためには、健康を維持し、病気になる前の予防が重要である。そのためには、ひとりひとりの努力が必要であるが、社会全体の組織的活動も重要となってくる。本講義では、公衆衛生学Iで学んだ健康をめぐる状況を基に、主要疾患の疫学と予防対策、感染症、保健行政および関連法規について学んでいく。このことにより、保健・医療・福祉・介護システムの中で栄養に関してマネージメントを行う能力を養う。

到達目標：・主要疾患の疫学と疾病予防対策についての専門的知識を持ち、栄養との関係を理解している。
・わが国における保健行政を理解している。
・社会保障・福祉制度について理解している。

授業方法：教科書および配布資料を用い、プロジェクターでの資料提示説明および板書により講義する。配布資料中には空欄部があるので、授業中に各自が埋めて資料を完成させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	生活習慣病の概念、悪性新生物の疫学と予防対策	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
2.	循環器疾患、代謝疾患、骨・関節疾患、歯科疾患の疫学と予防対策	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
3.	自殺、不慮の事故、虐待、暴力、精神疾患の疫学と予防対策	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
4.	感染症成立の要因、感染症法、主な感染症とその予防、結核	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
5.	1～4回目の小テスト、社会保障の概念、社会保険制度	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
6.	医療制度、医療費	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
7.	社会福祉行政、高齢者福祉	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
8.	地域保健	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
9.	母子保健	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
10.	5～9回目の小テスト、高齢者の医療の確保に関する法律、特定健康診査・特定保健指導	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
11.	高齢者保健・介護	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
12.	産業保健	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
13.	10～12回目の小テスト、学校保健	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
14.	国際保健	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
15.	まとめ	1～14回目の内容を徹底的に復習し、理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス：疑問点があれば、授業終了後、積極的に質問に来てください。小テストを3回行う予定にしているので、各自、まとめノートを作成するなどして、充分復習しておいてください。また、公衆衛生学は社会と密接に関係しているので、日頃より積極的に情報の収集をするなどして、自ら学ぶ姿勢を示してほしい。

フィードバックの方法：小テストの解答用紙を回収後、その場で正解を示し、各自に間違った箇所の確認をさせる。さらに、問題の解説を行う。翌週、平均点や点数分布を公表する。定期テストの結果は、希望者に対して、点数または採点済みの答案用紙を開示する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	75	到達目標である主要疾患の疫学と予防対策、保健行政、社会保障・福祉制度についての理解度により評価する。
	小テスト	20	到達目標としている項目について復習を充分に行い、理解しているかを評価する。
	授業への取組状況	5	積極的に授業に参加し、到達目標としている項目について意欲を持って学習しているかを評価する。

教科書：松村宰・中山健夫 編 栄養科学シリーズNEXT「公衆衛生学 社会・環境と健康」第3版 講談社サイエンティフィック（公衆衛生学Iで使用した教科書）

参考書：「国民衛生の動向」厚生労働統計協会
「国民の福祉の動向」厚生労働統計協会
北田善三・須崎尚 編著 カレント「社会・環境と健康:公衆衛生学」第2版 建帛社
鈴木庄亮他監修「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂
田中平三他編集 健康・栄養科学シリーズ「社会・環境と健康」改訂第4版 南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法：随時研究室内で対応する。

授業テーマ:

生化学の研究に必要な基本的な実験技術や原理を学ぶ。

授業の概要:

i) 大腸菌からDNAを抽出し、部分精製し、定量する。
ii) パン酵母から酵素インペルターゼを抽出し、部分精製する。その酵素標品を用いて、酵素活性を測定し、比活性、精製倍率、収率を求める。その前提となるタンパク質の定量法、還元糖の定量法について習得する。さらに、酵素の重要な諸性質を実験によって確認し、酵素反応とは何かを学ぶ。
iii) あわせて、フローチャートの書き方や実験レポートの書き方を学ぶ。

到達目標:

生化学の研究に必要なDNAの分離精製法、酵素の分離精製法、酵素実験の基礎技術を習得すること。
1. 試薬調製法を理解する。
2. 細胞からのDNAの抽出法、精製法、抽出されたDNAの定量法を習得し、その原理を理解する。
3. パン酵母からの酵素インペルターゼの抽出法、部分精製法を習得する。その酵素標品を用いたインペルターゼ活性測定法を習得する。その前提となるタンパク質の定量法、還元糖の定量法について習得する。
4. 酵素の最適pH、最適温度、活性化エネルギー、Km とVmax、酵素阻害剤と阻害の型など、酵素のもつ諸性質について理解する。
5. フローチャートを書くことで、実験を的確に遂行する能力を身につける。
6. レポートを書くことで、発表のための能力を身につける。

授業方法:

研究室作成のテキストを使用する。数名のグループで実験を行い、各個人でレポートを作成する。
初回に実験項目全般の内容説明を行う。以後は、毎回授業の最初に実験方法の詳細説明と諸注意を行い、その後実験に入る。結果をまとめた後で、解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	実験の全体説明と演習 ①実験を始める前に・器具の確認 ②実験ノートの書き方・実験レポートの書き方 ③演習（試薬の調製法・フローチャートの書き方）	掲示板に掲示される諸注意をよく読んで、準備して実験室に来ること。
2.	大腸菌からのDNAの抽出と定量（その1） ①実験の方法と原理の説明 ②菌体からのDNAの抽出 ③DNAの精製 実験の間に小テスト（試薬の調製法）	授業までにテキスト内容を予習し、実験のプロトコルをフローチャートで作成して提出。 小テストに向けての復習。
3.	大腸菌からのDNAの抽出と定量（その2） ①実験の方法と原理の説明 ②リン含量によるDNAの定量・紫外吸収測定によるDNAの定量 ③ジフェニルアミン法によるDNAの定量 結果のまとめ	授業までに各実験のプロトコルをフローチャートで作成して提出。 あわせて検量線グラフの作成と提出。 実験レポート(1)の作成に向けて実験内容の研究とその後の展開を考える。
4.	酵母インペルターゼの部分精製とその性質（その1） ①実験の方法と原理の説明 ②酵母インペルターゼの抽出（画分Iの調製） ③酵母インペルターゼの部分精製－熱処理－（画分IIの調製） 結果のまとめ	授業までに実験のプロトコルをフローチャートで作成して提出。 実験レポート(1)の作成・提出。
5.	酵母インペルターゼの部分精製とその性質（その2） ①実験の方法と原理の説明 ②酵母インペルターゼの部分精製－アルコール分画－（画分IIIの調製） ③結果のまとめ	授業までに実験のプロトコルをフローチャートで作成して提出。 実験レポート(2)の作成に向けて実験内容の研究とその後の展開を考える。
6.	酵母インペルターゼの部分精製とその性質（その3） ①実験の方法と原理の説明 ②ソモギー・ネルソン法による還元糖の定量（標準曲線の作成） ③画分Iのインペルターゼ活性の測定（予備実験）（ソモギー・ネルソン法による測定） 結果のまとめ	授業までに各実験のプロトコルをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 実験レポート(2)の作成に向けて実験内容の研究とその後の展開を考える。
7.	酵母インペルターゼの部分精製とその性質（その4） ①実験の方法と原理の説明 ②各画分のインペルターゼ活性の測定（ソモギー・ネルソン法による測定） ③結果のまとめ（総インペルターゼ活性（unit）・収率を求める）	授業までに実験のプロトコルをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 実験レポート(2)の作成・提出。
8.	酵母インペルターゼの部分精製とその性質（その5） ①実験の方法と原理の説明 ②ハトリ－ローリー法によるタンパク質の定量（標準曲線の作成） ③各画分のタンパク質の定量（ハトリ－ローリー法による測定） 結果のまとめ（各画分の比活性・精製倍率・収率を求める）	授業までに実験のプロトコルをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。
9.	酵母インペルターゼの部分精製とその性質（その6） ①実験の方法と原理の説明 ②インペルターゼによるスクロース加水分解量と反応時間との関係（ソモギー・ネルソン法による測定） ③インペルターゼによるスクロース加水分解速度に対する酸素量の効果（ソモギー・ネルソン法による測定） 結果のまとめ	授業までに実験のプロトコルをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 実験レポート(3)の作成・提出。
10.	酵母インペルターゼの部分精製とその性質（その7） ①実験の方法と原理の説明 ②インペルターゼの反応速度に対するpHの影響（ソモギー・ネルソン法による測定） ③結果のまとめ（最適pHを求める） 演習（酵素反応の速度論的解析）	授業までに実験のプロトコルをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 実験レポート(4)の作成・提出。

11. 酵母インペルターゼの部分精製とその性質(その8) ①実験の方法と原理の説明 ②インペルターゼの反応速度に対する基質濃度の影響(ソモギー・ネルソン法による測定) ③結果のまとめ(K_m値・V_{max}を求める) 演習(活性化エネルギーの求め方) 12. 酵母インペルターゼの部分精製とその性質(その9) ①実験の方法と原理の説明 ②インペルターゼの反応速度に対する温度の影響(ソモギー・ネルソン法による測定) ③結果のまとめ(反応最適温度と活性化エネルギーを求める) 13. 酵母インペルターゼの部分精製とその性質(その10) ①実験の方法と原理の説明 ②グルコースオキシダーゼ法によるグルコースの定量(標準曲線の作成) インペルターゼの反応速度に対する尿素、ラフィノース及びアラビノースによる濃度の影響(グルコースオキシダーゼ法による測定) ③結果のまとめ(インペルターゼの反応速度の50%を阻害する尿素、ラフィース及びアラビノースの濃度を求める) 演習(酵素阻害剤の型と阻害の機構) 14. 酵母インペルターゼの部分精製とその性質(その11) ①実験の方法と原理の説明 ②インペルターゼの反応速度に対する基質濃度の影響並びに尿素、ラフィノース及びアラビノースの影響(グルコースオキシダーゼ法による測定) ③結果のまとめ(K_m値とV_{max}ならびにK_m'値とV_{max}を求め、さらに、阻害の型を決定し、阻害定数K_iを求める) 15. まとめ ①小テスト(実験の背景理論など) ②実験の後片付け・器具の整理 ③まとめ	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 テキストで指示する演習を提出。 実験レポート(5)の作成・提出。 授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 テキストで指示する演習を提出。 実験レポート(6)の作成・提出。 授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 実験レポート(7)の作成・提出。 授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 テキストで指示する演習を提出。 実験レポート(8)の作成に向けて実験内容の研究とその後の展開を考える。	小テストに向けての復習。 実験レポート(8)の作成(提出は第16回目)。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実験内容を理解して実験に臨むために、また、実験をスムーズに行うために、受講者には毎回の授業までにテキスト内容を予習し各実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出することを求める。テキストで指示する演習もしておくことが必要となる。
また、小テストの準備のための復習、レポート作成に向けての実験内容の研究とその後の展開を考えることが重要となる。
授業後は実験レポートを期日厳守で提出しなければならない。

フィードバックの方法:

レポートはコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小テストによる理解度	35%	到達目標1-4に掲げた試薬濃度の計算、調製法、実験原理が理解できているかを評価する。
	実験レポートによる理解度	40%	レポートの形式、まとめの仕上がり度から到達目標2-4である実験の内容が理解できているかを評価する。また、到達目標6により的確に報告できているかを評価する。 レポートが提出されなければ評価できない。
	実験への参加度	25%	出席を含む実験の取り組み態度と理解度ならびにフローチャートの提出状況から到達目標1-5ができるようになったかを評価する。

教科書: 研究室作成のテキスト『生化学実験法』を配布する。

参考書: 配布テキスト中に記載

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応。
オフィスアワー(研究室U311b)で対応。

授業テーマ:

加工原理を体得し、貯蔵中に生じる成分変化を理解する。

授業の概要:

本実験では、発酵食品(味噌・パンなど)、食品成分の凝固を利用した加工食品(うどん・チーズ・豆腐・マーマレード・かまぼこなど)およびその他の加工食品(アイスクリーム・コーヒー豆の焙煎など)を実際に製造するとともに、加工食品の製造・貯蔵中の食品成分(還元糖・アミノ態窒素量・塩基性窒素量など)の変化を追跡することで、加工食品の製造原理や、製造中並びに貯蔵中に生じる成分変化を理解する。

到達目標:

加工食品の製造および食品の保存を体験することで、食品加工学を中心とする食品に関する科目で学んだ知識を体得する。
1. どうして食素材から加工食品が出来るのか(たとえば、何故、小麦タンパク質からパンができあがるのか)、含まれる成分の役割を理解できるようになる。
2. また、保存中の変化についても、具体的に理解できるようになる。

授業方法:

1グループ2～3名で実験を行なう。実験をスムーズに進行させるため、受講者には予め実験の方法をまとめたものを各自提出してもらう。レポートは、毎週必要と判断した項目につき提出させる。また、レポートの考察内容につきグループディスカッションを行い、皆の前でプレゼンテーションをしてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	発酵食品の製造(味噌・パンなど)	実験当日までに、味噌やパンの製造方法に付きマニュアルを提出させる。
2.	食品成分の凝固を利用した加工食品の製造(うどん・中華麺・マーマレードなど)	実験当日までに、うどん・中華麺・マーマレードなどの製造方法に付きマニュアルを提出させる。
3.	食品成分の凝固を利用した加工食品の製造(かまぼこ・フレッシュチーズなど)	実験当日までに、かまぼこ・フレッシュチーズなどの製造方法に付きマニュアルを提出させる。
4.	その他加工食品の製造(アイスクリーム・コーヒー豆の焙煎など)	実験当日までに、アイスクリーム・コーヒー豆の焙煎などの製造方法に付きマニュアルを提出させる。
5.	製造中の成分変化(味噌調製直後の還元糖量およびアミノ態窒素量の測定)	実験当日までに、味噌調製直後の還元糖量およびアミノ態窒素量の測定方法に付きマニュアルを提出させる。
6.	製造中の成分変化(味噌熟成後の還元糖量およびアミノ態窒素量の測定)	
7.	貯蔵中の成分変化[牛乳(微生物量・タンパク質の変性度測定による)・魚肉(揮発性塩基窒素量測定による)の鮮度判定]	実験当日までに、牛乳(微生物量・タンパク質の変性度測定による)・魚肉(揮発性塩基窒素量測定による)の鮮度判定方法に付きマニュアルを提出させる。
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

実験は、実際に体験することが肝要です。従いまして、講義とは異なり出席を重視いたします。実験中、事故が起こることがないように、常に神経をとがらせ、今の操作の意味を考えましょう。それを元に、次に何をするか頭の中で常に整理しておきましょう。積極的に参加することが大切です。

フィードバックの方法:

レポートの考察内容につきグループディスカッションを行い、皆の前でプレゼンテーションをもらう。その際、発表内容に関するコメントを与えることで、行った実験内容・意義に付きフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	40	レポートとしての体裁が整っているか。実験結果に付き適切な考察がなされているかなどを評価基準とする。
	平常試験	10	基本的な計算能力が備わっているかを評価する。
	授業への積極的参加	50	まじめに実験に取り組んでいるかを評価する。

教科書:

教科書は、用いない。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー以外の時間でも、講義・実験実習・会議などがなければ研究室にあります。随時、お訪ね下さい。

授業テーマ:

有機化学の基礎的知識と三大栄養素である炭水化物(糖質)、脂質、タンパク質の化学

授業の概要:

炭水化合物(糖質)、脂質、タンパク質の化学構造と性質について有機化学的な基礎的知識、理解を得ることによって生化学への基盤とする内容である。

到達目標:

「生化学」「基礎栄養学」で学ぶ生体における代謝や分子生物学の基礎を理解するためには、生体分子の化学に関する知識が必要である。本科目では、三大栄養素である炭水化物(糖質)、脂質、タンパク質の化学構造と性質について、有機化学的な視野を持って生化学、栄養学を学ぶための導入的な科目とすることを目標とする。

授業方法:

基本的には教科書に沿って授業を進めていくが、適宜、高等学校レベルの有機化学の内容(未履修者も少数受講)を復習しながら授業を進めていく。また、分子モデルを見せたり、反応に関する問題演習を取り入れて理解を促す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 単糖類の構造、投影法(Fischer/Haworth)、ヘミアセタール	高等学校で化学を未履修である学生も少数受講しているので初回は特に求めない。
	2. 旋光性と変旋光、還元糖と非還元糖	単糖類の構造、投影法(Fischer/Haworth)、ヘミアセタールの復習
	3. 単糖類の誘導体、酸化、還元、脱水反応	旋光性と変旋光、還元糖と非還元糖の復習
	4. 二糖類、グリコシド結合(結合様式)	単糖類の誘導体、酸化、還元、脱水反応の復習
	5. 代表的な二糖類とその性質	二糖類、グリコシド結合(結合様式)の復習
	6. 多糖類、デンプン、セルロース、グリコーゲン	代表的な二糖類とその性質の復習
	7. 単純脂質、トリグリセリド、ケン化反応	多糖類、デンプン、セルロース、グリコーゲンの復習
	8. 飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、幾何異性体(cis, trans)、トランス脂肪酸、(中間試験)	単純脂質、トリグリセリド、ケン化反応の復習
	9. 複合脂質、ステロイド	飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、幾何異性体(cis, trans)、トランス脂肪酸、(中間試験)の復習
	10. α -アミノ酸	複合脂質、ステロイドの復習
	11. α -アミノ酸、両性電解質	α -アミノ酸の復習
	12. ペプチド、脱水縮合と加水分解	α -アミノ酸、両性電解質の復習
	13. ポリペプチド、タンパク質	ペプチド、脱水縮合と加水分解の復習
	14. タンパク質、高次構造	ポリペプチド、タンパク質の復習
	15. まとめと演習	タンパク質、高次構造の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業をスムーズに理解するためには、前回到学んだ授業内容を十分に復習して次回の授業に臨むことが重要である。特に授業中に行った演習問題を繰り返し解くことによって知識を整理し、理解を深め、また思考力を養うことができる。また、教科書に記載の無い事柄であっても教材のプリントを配布して、重要な事項(反応のメカニズム、食物栄養科学との関わりなど)を解説しているのでノート等も見復習を怠らないようにすることが大切である。

フィードバックの方法:

レポート課題として出題した問題演習は、授業中にヒントを与えたり解説・解答を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況、課題レポート等の平常点	15	平常の学習状況
	中間試験	35	問題演習採点評価
	定期試験	50	問題演習採点評価

教科書:

豊田正武・田島眞(編)『食物・栄養系のための基礎化学』丸善(株)出版事業部

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール、または直接オフィスアワーに面談

授業テーマ:	給食経営管理の概念、給食の資源とその活用、食事計画の基本的知識について学ぶ。																																	
授業の概要:	本講義では、管理栄養士国家試験ガイドラインの【1給食の概念】【2給食経営管理の概念】【3A栄養・食事のアセスメント、3B食事の計画】、【4A品質と標準化】【5C事故・災害時対策】【6A生産(調理)施設・設備設計】について解説する。食事計画に必要な、食事摂取基準を活用した給与栄養目標量の設定、食品構成の作成方法、食品成分表の活用方法など、献立計画については演習形式で行う。																																	
到達目標:	(1)給食の意義及び給食経営管理の概念について理解していること (2)給食の資源とその活用について理解していること (3)対象者個別の栄養状態、嗜好に配慮した栄養・食事計画に必要な給与栄養目標量の設定方法、食品構成の作成方法、食品成分表の活用方法、食事摂取基準を活用した献立計画に必要な基礎知識を身につけること																																	
授業方法:	講義が中心であるが、演習やグループ学習も取り入れる。																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. 給食経営管理論の概念と栄養士法との関連について解説する【1A】。</td><td>【復習】管理栄養士が行う”栄養の指導”とは何か説明できる。自分は誰のためにどのような食事を提供できるようになりたいかを考える。 【予習】健康増進法における特定給食施設の位置づけ、給食施設における管理栄養士の役割について調べる。</td></tr><tr><td>2. 健康増進法における特定給食の位置づけ、給食を提供する施設と関連法規、給食経営管理における栄養・食事管理と経営管理について解説する。災害時対策について解説する【1B, 5C】。＜災害時の食支援＞</td><td>【復習】特定給食施設とは何か、特定給食施設における管理栄養士に求められる能力とは何かを説明できる。 【予習】給食のサブシステムについて調べる。</td></tr><tr><td>3. 給食の生産・提供システムについて解説する【1B, 2A, 5C】。＜新調理システムの概要＞</td><td>【復習】トータルシステムとサブシステムを説明できる。 【予習】給食管理の意義と目的、給食の資源、給食の外部委託について調べる。</td></tr><tr><td>4. 給食の資源、給食業務の外部委託について解説する【2B】。</td><td>【復習】経営管理とは何か、経営管理の5つのプロセスとは何か、契約方式について説明できる。 【予習】組織の原則、給食の組織、マーケティングミックスについて調べる。</td></tr><tr><td>5. 給食経営と組織の構造・組織形態、リーダーシップとマネジメント、給食におけるマーケティングの活用について解説する【2C, 2D】。</td><td>【復習】組織の原則、給食の組織、マーケティングミックスの例を説明できる。 【予習】食事摂取基準のエネルギーと栄養素の指標について調べる。</td></tr><tr><td>6. 日本人の食事摂取基準とその活用(総論、指標)の解説を行う【3B】。 1-5回の授業内容について小テストを行う。</td><td>【復習】食事摂取基準のエネルギーと栄養素の指標を説明できる。 【予習】食事摂取基準を活用したアセスメント、食事計画について調べる。</td></tr><tr><td>7. 日本人の食事摂取基準とその活用2(活用の基礎理論)と20代女性の給与栄養目標量の設定について解説を行う【3B】。レポート課題として20代女性の給与栄養目標量の設定を行う。</td><td>【復習】食事摂取基準の摂取源、摂取期間、対象集団などを説明できる。食事摂取基準を活用した個人のアセスメント、食事計画をDRIsの指標を用いて設定できる。 【予習】献立作成基準、食品構成、食品群別荷重平均成分表について調べる。</td></tr><tr><td>8. 給与栄養目標量からの食品構成表の作成方法について解説する【3B】。レポート課題として食品構成を作成する。</td><td>【復習】献立作成基準、食品構成、食品群別荷重平均成分表が説明できる。食品構成表が作成できる。 【予習】まあじ1尾を焼いて食べる時のエネルギーを計算する(生、焼きの場合)。</td></tr><tr><td>9. 給食における食品成分表を活用した栄養価計算の方法について解説する【3B】。</td><td>【復習】生の食材および調理による重量変化を考慮した栄養価が計算できる。 【予習】一汁二菜の献立を考える。</td></tr><tr><td>10. 食品構成を活用した栄養・食事計画の立案、食品成分表を活用した栄養価計算の方法について解説する【3B】。＜献立名人にないりたい＞＜学食栄養士＞</td><td>【復習】食品構成表を活用して期間献立を計画するプロセスが説明できる。 【予習】一汁二菜の献立を考える。</td></tr><tr><td>11. 給与栄養目標量・食品構成表を参考にした献立作成、作業指示書の書き方、原価計算について解説する【3B】。＜給食が育む和食のミライ＞</td><td>【復習】原価計算とレシピの作成ができる。献立の栄養価が計算できる。 【予習】給食の品質、生産管理について調べる。</td></tr><tr><td>12. 給食の品質と生産計画、作業工程、給食の品質保証システムについて解説する【4A, 4D】。＜機内食のセントラルキッチン＞</td><td>【復習】自分が考えた献立の作業工程を作成できる。品質についてまとめる。 【予習】大量調理施設衛生管理施設「施設設備の構造」についてまとめる。</td></tr><tr><td>13. 給食におけるHACCPシステムの運用、大量調理施設衛生管理マニュアルと基本的な厨房設備・施設管理(基準と関連法規)との関連について解説する【5A,6A,6B】。レポート課題として個人を対象とした1日3食分の献立計画、作業工程計画、調理レポートについて解説する。</td><td>【復習】大量調理施設衛生管理マニュアルと施設設備の構造について復習する。 【予習】品質の評価、指標について調べる。1日分の献立作成レポートに取り組む。</td></tr><tr><td>14. 品質評価の指標、方法について解説する【4A】。</td><td>【復習】品質の評価、指標についてまとめる。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td></tr></tbody></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 給食経営管理論の概念と栄養士法との関連について解説する【1A】。	【復習】管理栄養士が行う”栄養の指導”とは何か説明できる。自分は誰のためにどのような食事を提供できるようになりたいかを考える。 【予習】健康増進法における特定給食施設の位置づけ、給食施設における管理栄養士の役割について調べる。	2. 健康増進法における特定給食の位置づけ、給食を提供する施設と関連法規、給食経営管理における栄養・食事管理と経営管理について解説する。災害時対策について解説する【1B, 5C】。＜災害時の食支援＞	【復習】特定給食施設とは何か、特定給食施設における管理栄養士に求められる能力とは何かを説明できる。 【予習】給食のサブシステムについて調べる。	3. 給食の生産・提供システムについて解説する【1B, 2A, 5C】。＜新調理システムの概要＞	【復習】トータルシステムとサブシステムを説明できる。 【予習】給食管理の意義と目的、給食の資源、給食の外部委託について調べる。	4. 給食の資源、給食業務の外部委託について解説する【2B】。	【復習】経営管理とは何か、経営管理の5つのプロセスとは何か、契約方式について説明できる。 【予習】組織の原則、給食の組織、マーケティングミックスについて調べる。	5. 給食経営と組織の構造・組織形態、リーダーシップとマネジメント、給食におけるマーケティングの活用について解説する【2C, 2D】。	【復習】組織の原則、給食の組織、マーケティングミックスの例を説明できる。 【予習】食事摂取基準のエネルギーと栄養素の指標について調べる。	6. 日本人の食事摂取基準とその活用(総論、指標)の解説を行う【3B】。 1-5回の授業内容について小テストを行う。	【復習】食事摂取基準のエネルギーと栄養素の指標を説明できる。 【予習】食事摂取基準を活用したアセスメント、食事計画について調べる。	7. 日本人の食事摂取基準とその活用2(活用の基礎理論)と20代女性の給与栄養目標量の設定について解説を行う【3B】。レポート課題として20代女性の給与栄養目標量の設定を行う。	【復習】食事摂取基準の摂取源、摂取期間、対象集団などを説明できる。食事摂取基準を活用した個人のアセスメント、食事計画をDRIsの指標を用いて設定できる。 【予習】献立作成基準、食品構成、食品群別荷重平均成分表について調べる。	8. 給与栄養目標量からの食品構成表の作成方法について解説する【3B】。レポート課題として食品構成を作成する。	【復習】献立作成基準、食品構成、食品群別荷重平均成分表が説明できる。食品構成表が作成できる。 【予習】まあじ1尾を焼いて食べる時のエネルギーを計算する(生、焼きの場合)。	9. 給食における食品成分表を活用した栄養価計算の方法について解説する【3B】。	【復習】生の食材および調理による重量変化を考慮した栄養価が計算できる。 【予習】一汁二菜の献立を考える。	10. 食品構成を活用した栄養・食事計画の立案、食品成分表を活用した栄養価計算の方法について解説する【3B】。＜献立名人にないりたい＞＜学食栄養士＞	【復習】食品構成表を活用して期間献立を計画するプロセスが説明できる。 【予習】一汁二菜の献立を考える。	11. 給与栄養目標量・食品構成表を参考にした献立作成、作業指示書の書き方、原価計算について解説する【3B】。＜給食が育む和食のミライ＞	【復習】原価計算とレシピの作成ができる。献立の栄養価が計算できる。 【予習】給食の品質、生産管理について調べる。	12. 給食の品質と生産計画、作業工程、給食の品質保証システムについて解説する【4A, 4D】。＜機内食のセントラルキッチン＞	【復習】自分が考えた献立の作業工程を作成できる。品質についてまとめる。 【予習】大量調理施設衛生管理施設「施設設備の構造」についてまとめる。	13. 給食におけるHACCPシステムの運用、大量調理施設衛生管理マニュアルと基本的な厨房設備・施設管理(基準と関連法規)との関連について解説する【5A,6A,6B】。レポート課題として個人を対象とした1日3食分の献立計画、作業工程計画、調理レポートについて解説する。	【復習】大量調理施設衛生管理マニュアルと施設設備の構造について復習する。 【予習】品質の評価、指標について調べる。1日分の献立作成レポートに取り組む。	14. 品質評価の指標、方法について解説する【4A】。	【復習】品質の評価、指標についてまとめる。	15. まとめ		
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 給食経営管理論の概念と栄養士法との関連について解説する【1A】。	【復習】管理栄養士が行う”栄養の指導”とは何か説明できる。自分は誰のためにどのような食事を提供できるようになりたいかを考える。 【予習】健康増進法における特定給食施設の位置づけ、給食施設における管理栄養士の役割について調べる。																																	
2. 健康増進法における特定給食の位置づけ、給食を提供する施設と関連法規、給食経営管理における栄養・食事管理と経営管理について解説する。災害時対策について解説する【1B, 5C】。＜災害時の食支援＞	【復習】特定給食施設とは何か、特定給食施設における管理栄養士に求められる能力とは何かを説明できる。 【予習】給食のサブシステムについて調べる。																																	
3. 給食の生産・提供システムについて解説する【1B, 2A, 5C】。＜新調理システムの概要＞	【復習】トータルシステムとサブシステムを説明できる。 【予習】給食管理の意義と目的、給食の資源、給食の外部委託について調べる。																																	
4. 給食の資源、給食業務の外部委託について解説する【2B】。	【復習】経営管理とは何か、経営管理の5つのプロセスとは何か、契約方式について説明できる。 【予習】組織の原則、給食の組織、マーケティングミックスについて調べる。																																	
5. 給食経営と組織の構造・組織形態、リーダーシップとマネジメント、給食におけるマーケティングの活用について解説する【2C, 2D】。	【復習】組織の原則、給食の組織、マーケティングミックスの例を説明できる。 【予習】食事摂取基準のエネルギーと栄養素の指標について調べる。																																	
6. 日本人の食事摂取基準とその活用(総論、指標)の解説を行う【3B】。 1-5回の授業内容について小テストを行う。	【復習】食事摂取基準のエネルギーと栄養素の指標を説明できる。 【予習】食事摂取基準を活用したアセスメント、食事計画について調べる。																																	
7. 日本人の食事摂取基準とその活用2(活用の基礎理論)と20代女性の給与栄養目標量の設定について解説を行う【3B】。レポート課題として20代女性の給与栄養目標量の設定を行う。	【復習】食事摂取基準の摂取源、摂取期間、対象集団などを説明できる。食事摂取基準を活用した個人のアセスメント、食事計画をDRIsの指標を用いて設定できる。 【予習】献立作成基準、食品構成、食品群別荷重平均成分表について調べる。																																	
8. 給与栄養目標量からの食品構成表の作成方法について解説する【3B】。レポート課題として食品構成を作成する。	【復習】献立作成基準、食品構成、食品群別荷重平均成分表が説明できる。食品構成表が作成できる。 【予習】まあじ1尾を焼いて食べる時のエネルギーを計算する(生、焼きの場合)。																																	
9. 給食における食品成分表を活用した栄養価計算の方法について解説する【3B】。	【復習】生の食材および調理による重量変化を考慮した栄養価が計算できる。 【予習】一汁二菜の献立を考える。																																	
10. 食品構成を活用した栄養・食事計画の立案、食品成分表を活用した栄養価計算の方法について解説する【3B】。＜献立名人にないりたい＞＜学食栄養士＞	【復習】食品構成表を活用して期間献立を計画するプロセスが説明できる。 【予習】一汁二菜の献立を考える。																																	
11. 給与栄養目標量・食品構成表を参考にした献立作成、作業指示書の書き方、原価計算について解説する【3B】。＜給食が育む和食のミライ＞	【復習】原価計算とレシピの作成ができる。献立の栄養価が計算できる。 【予習】給食の品質、生産管理について調べる。																																	
12. 給食の品質と生産計画、作業工程、給食の品質保証システムについて解説する【4A, 4D】。＜機内食のセントラルキッチン＞	【復習】自分が考えた献立の作業工程を作成できる。品質についてまとめる。 【予習】大量調理施設衛生管理施設「施設設備の構造」についてまとめる。																																	
13. 給食におけるHACCPシステムの運用、大量調理施設衛生管理マニュアルと基本的な厨房設備・施設管理(基準と関連法規)との関連について解説する【5A,6A,6B】。レポート課題として個人を対象とした1日3食分の献立計画、作業工程計画、調理レポートについて解説する。	【復習】大量調理施設衛生管理マニュアルと施設設備の構造について復習する。 【予習】品質の評価、指標について調べる。1日分の献立作成レポートに取り組む。																																	
14. 品質評価の指標、方法について解説する【4A】。	【復習】品質の評価、指標についてまとめる。																																	
15. まとめ																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義の内容は、学内の実習や校外実習、臨地実習を通して、知識がつながり理解が深まるものである。断片的にとらえず、知識や経験を統合させることが大切である。実習後にノートを見直し、理解を深めること。																																	
フィードバックの方法:	レポートはコメントをつけて返却する。																																	
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><thead><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr></thead><tbody><tr><td>小テスト</td><td>15</td><td>到達目標(1)(2)の理解度を基準とする。</td></tr><tr><td>レポート課題を含む授業への参加・態度</td><td>20</td><td>到達目標(3)に関するレポートの内容により評価する。</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>65</td><td>到達目標(1)(2)(3)の理解度により評価する</td></tr></tbody></table>	評価方法	割合	評価基準	小テスト	15	到達目標(1)(2)の理解度を基準とする。	レポート課題を含む授業への参加・態度	20	到達目標(3)に関するレポートの内容により評価する。	定期試験	65	到達目標(1)(2)(3)の理解度により評価する																					
評価方法	割合	評価基準																																
小テスト	15	到達目標(1)(2)の理解度を基準とする。																																
レポート課題を含む授業への参加・態度	20	到達目標(3)に関するレポートの内容により評価する。																																
定期試験	65	到達目標(1)(2)(3)の理解度により評価する																																

教科書:	「給食経営管理論」 化学同人新食品・栄養科学シリーズ 「日本人の食事摂取基準」 第一出版 「日本食品標準成分表」 「栄養士・管理栄養士のためのなぜ？どうして？(4)給食経営管理論」 メディックメディア
参考書:	「ひと目でわかる料理の教科書基本編」 新星出版社 「材料の下ごしらえ百科」 主婦と生活社 「体脂肪計タニタの社員食堂」 大和書房 「せんぼ東京高輪病院 500kcal台のけんこう定食」 ワニブックス 「東京・足立区の給食室 毎日食べたい12栄養素バランスごはん」 泰文堂
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ：	給食管理の中心となる、生産管理、衛生管理、安全管理、給食経営管理の資源と給食施設での活用や展開について学ぶ。	
授業の概要：	本講義では、管理栄養士国家試験ガイドラインの【3C食事計画の実施、評価、改善】【4B原価、4C食材、4D生産（調理）と提供】【5給食の安全・衛生】、【6給食の施設・設備】【7給食の人事】について解説する。	
到達目標：	(1)給食の原価管理、食材管理、生産管理、安全・衛生管理の基本を身につけること (2)食事摂取基準を活用した集団の栄養・食事計画ができること (3)様々な給食施設での資源(人、物、金、設備、方法)の活用と給食施設に応じた給食の評価の方法を理解すること (4)大量調理施設衛生管理マニュアルに準じて衛生的な生産計画ができること	
授業方法：	講義が中心で演習を取り入れることがある。ビデオ教材を活用する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容 1. 衛生管理の目的と食中毒・感染症について解説する。事故への対応、安全対策について解説する(5A)。＜食中毒予防＞ 2. HACCPシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理について解説する(5ABC)。課題として、大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた献立計画・調理レポートを行う。 3. 基本的な厨房設備・施設管理(基準と関連法規)について解説する(6AB)。＜学校給食の衛生管理＞ 4. 給食の原価・売上・経費について解説する(4B)。 5. 給食の食材・購買管理、在庫管理について解説する(4C)。 6. 給食の生産と提供に関する大量調理の特性と標準化について解説する(4A, 4D)。 7. 給食の大量調理の調理特性と標準化について解説する(4A, 4D)。 8. 健康増進法における特定給食施設の位置づけについて解説する(1AC)。1-7回の授業内容について小テストを行う。 9. 事業所給食における食事摂取基準を活用した集団の栄養・食事計画の実施について解説する(1AC, 3ABC)。課題として、大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた献立計画・調理レポートを行う。 10. 事業所給食の実際について解説する。事業所給食における給食の評価、摂取量の把握、栄養教育について解説する(1AC, 3ABC)。 11. 児童福祉施設・学校給食の実際について解説する。児童福祉施設・学校給食における給食の評価、摂取量の把握、栄養教育について解説する(1AC, 3ABC)。＜学校栄養士＞病院給食の実際、入院時食事療養制度について解説する。病院給食における給食の評価、摂取量の把握、栄養教育について解説する(1AC, 3ABC)。 12. 病院給食の実際、入院時食事療養制度について解説する。病院給食における給食の評価、摂取量の把握、栄養教育について解説する(1AC, 3ABC)。＜食べて治す＞ 13. 高齢者福祉施設の給食の実際について解説する。高齢者福祉施設における給食の評価、摂取量の把握、栄養教育について解説する(1AC, 3ABC)。＜訪問栄養指導士＞ 14. 給食の人事・教育訓練について解説する(7A)。 15. まとめ	準備学習等の内容 【復習】細菌性食中毒とウイルス性の食中毒の原因物質、潜伏期間、主な症状を覚える。 【予習】大量調理施設衛生管理マニュアルを3回読み、目次を書きだす。 【復習】衛生管理を重視した献立課題に取り組む。 【予習】大量調理施設衛生管理マニュアルを読む。 【復習】大量調理施設衛生管理マニュアルの「施設設備の構造」「施設設備の管理」「器具等の洗浄・殺菌マニュアル」をまとめる。 【予習】給食の原価構成、直接費、間接費、経費、損益分岐点の計算式、固定費、変動費、ABC分析についてまとめる 【復習】材料費、労務費、経費について説明できる。損益分岐点の計算ができる。固定費、変動費、ABC分析が説明できる。 【予習】食材の購入方法、検収項目、大量調理施設衛生管理マニュアルの「食品の保管温度」についてまとめる。 【復習】食材の購入方法が説明できる。契約方法が説明できる。1か月にかかった食材料の計算式がかけられる。発注の計算式がかけられる。 【予習】調理場における衛生管理&調理技術マニュアルを読んで、該当箇所をノートにまとめる。 【復習】施設ごとの給食のオペレーションが理解できる。生産計画と人員配置、調理工程、作業工程を考えた計画書の作成方法が理解できる。 【予習】給食のシステムについてまとめる。作業区分別の使用機器についてまとめる。 【復習】大量調理の調理特性を少量調理と比べて説明できる。生産性を高める合理化の方法を説明できる。基本の少量調理ができる。 【予習】事業所給食の栄養・食事計画の章をまとめる。 【復習】健康増進法の栄養士・管理栄養士配置規定についてまとめる。 【予習】給食管理を目的とした食事摂取基準の適用についてまとめる。 【復習】食事摂取基準2010年版の給食管理を目的とした食事摂取基準の適用について整理する。 【予習】事業所給食の目的、栄養士、管理栄養士の配置規定についてまとめる。 【復習】事業所での栄養士配置規定を説明できる。集団の給与エネルギーおよび給与栄養目標量の設定の考え方を理解し、設定できる。 【予習】児童福祉施設の栄養士、管理栄養士の配置規定についてまとめる。 【復習】児童福祉施設、学校給食の栄養士配置規定や基づく法律について整理する。委託できる業務、学校給食実施基準についてまとめる。 【予習】病院の栄養士、管理栄養士の配置と関連法規、入院時食事療養制度、栄養管理体制、治療食の分類、病院が自ら実施すべき業務について調べる。 【復習】入院時食事療養Ⅰの基準が説明できる、加算の対象が説明できる。病院給食の委託の範囲、院外調理のシステムや保管温度が説明できる。病院栄養士の配置規定が説明できる。 【予習】高齢者・介護福祉施設の名称、特徴と栄養士配置規定についてまとめる。介護保険施設について調べる。 【復習】高齢者施設の種類と特徴、栄養士配置規定についてまとめる【予習】OFTとOFF-JT、従業員の雇用形態についてまとめる。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	小テスト	15	到達目標(1)～(3)の理解度を評価基準とする
	レポート課題を含む授業 への参加・態度	20	到達目標(2)(4)に関するレポートの提出内容により評価する
	定期試験	65	到達目標(1)～(4)の理解度により評価する

教科書：「給食経営管理論」 化学同人新食品・栄養科学シリーズ
「日本人の食事摂取基準」 第一出版
「日本食品標準成分表」
「栄養士・管理栄養士のためのなぜ？どうして？(4)給食経営管理論」 メディックメディア
「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」(学建書院)

参考書：

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡
方法：授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

日本人の食事摂取基準策定の基礎理論を理解し、ライフステージに応じた栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方とその方法を学ぶ。

授業の概要:

日本人の食事摂取基準策定の基礎理論を理解する。それを踏まえて、個人の身体状況、栄養状態、心理・社会的状況及び環境に応じた栄養ケア・マネジメントのプロセスを習得する。また、ライフステージ別の栄養ケア・マネジメントでは妊娠期・授乳期の栄養、乳児期の栄養について深く学習する。

到達目標:

・日本人の食事摂取基準の基礎理論を理解できる。
・栄養ケア・マネジメントの意義およびプロセスについて理解できる。
・妊娠期、授乳期および乳児期の身体の特徴について説明でき、栄養ケア・マネジメントについて理解できる。

授業方法:

スライド、配付資料やDVDなどを適宜使用した講義形式による授業が中心であるが、グループワークや発表を行うこともある。事前に課題(予習内容)を提示する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	応用栄養学の目的 (1) 栄養ケア・マネジメントとは (2) 日本人の食事摂取基準とは	事前に2～6回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
2.	食事摂取基準: 策定の基本的事項と留意点	事前に2～6回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
3.	食事摂取基準の活用に関する基本的事項—食事摂取基準の対象特性について	事前に2～6回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
4.	エネルギー摂取基準の基本的事項	事前に2～6回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
5.	エネルギー必要量のライフステージ別の特徴	事前に2～6回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
6.	たんぱく質摂取基準の基本的事項およびライフステージ別の特徴	事前に7～8回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
7.	栄養ケア・マネジメントの定義とプロセス (1) 行動計画とモニタリング (2) 栄養アセスメントの方法	事前に7～8回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
8.	栄養ケア・マネジメントにおける目標設定 (1) 行動計画とモニタリング (2) 評価と栄養計画の修正	事前に9～13回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
9.	妊娠期の栄養 (1) 妊娠の生理 (2) 分娩と産褥の生理	事前に9～13回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
10.	授乳期の栄養 (1) 授乳の生理 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア	事前に9～13回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
11.	妊娠期・授乳期の疾病と栄養ケア	事前に9～13回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
12.	新生児・乳児期の栄養 (1) 新生児の分類と生理的变化 (2) 乳児の体について	事前に9～13回目に関する課題を提示するので、教科書を読み込んでまとめる。(詳細は随時説明する。)
13.	乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア (1) 乳児期の栄養補給法と栄養ケア (2) 授乳・離乳の支援ガイドの概要 (3) 早産児、低出生体重児の栄養療法	
14.	授乳・離乳の支援(ゲストスピーカーによる栄養ケアの事例紹介を含む)	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個々の提出物において、教室で解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	まとめのテスト	60	日本人の食事摂取基準策定の基礎理論、妊娠期・授乳期・乳児期の栄養ケア・マネジメントについての理解度により評価する。
	小テスト	30	
	レポートおよび授業への参加度	10	

教科書:

新食品・栄養科学シリーズ 応用栄養学, 化学同人
日本人の食事摂取基準, 第一出版
栄養ケア・マネジメント 基礎と概念, 医歯薬出版

参考書:

栄養士・管理栄養士のためのなぜ? どうして? ⑥基礎栄養学/応用栄養学, メディックメディア
栄養科学イラスト例テッド 応用栄養学, 羊土社
栄養科学シリーズNEXT 応用栄養学, 講談社サイエンティフィク

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

研究室および授業前後の教室内で対応

授業テーマ:

幼児期から思春期の栄養マネジメントの概要と運動やスポーツ選手の栄養管理を中心に

授業の概要:

管理栄養士として、ヒトを対象としたQOL(生活の質)維持向上していくためには、ライフステージごとの特徴(発育・発達・加齢)における生体内変化を理解し、栄養マネジメントを行うことが重要である。そこで本科目は、ライフステージの中の幼児期から思春期に関して学ぶ。また、最近では運動やスポーツを行っている選手を対象とした栄養マネジメントのニーズが高まっている。そこで競技力向上や健康維持・増進のために運動やスポーツ選手の栄養補給法や栄養マネジメントを具体的な事例を用いて学ぶ。

到達目標:

● 幼児期の発育・発達の評価方法を学び幼児食や保育所給食の内容の理解ができる。● 学童期の成長スパートの状況を理解し、ふさわしい栄養摂取内容が理解できる。● 思春期の生理的特徴を理解し、栄養ケア計画が作成できるようになる。● 健康づくりや競技力向上のために個人や集団の対象者のアセスメントと栄養教育ができる知識を学べる。

授業方法:

PCやDVDの活用、配布資料や教材を適宜使用し、講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. 幼児期の栄養 1) 発育・発達と栄養アセスメント	春学期に応用栄養学Iで学修した「日本人の食事摂取基準2015」の総論部分の予習
2.	1. 幼児期の栄養 2) 栄養ケアの方法と保育所給食	発育・発達とおやつの意義についての予習
3.	2. 学童期の栄養 1) 発育・発達と栄養アセスメント	学童期の成長スパートについての予習
4.	2. 学童期の栄養 アの方法と学校給食	学校給食と栄養教諭について予習
5.	3. 思春期の栄養 発達と栄養アセスメント	1) 発育・思春期におけるホルモンの変化について予習
6.	3. 思春期の栄養 病態・疾患・生活習慣と栄養ケアの方法	2) 栄養と貧血と摂食障害についての予習
7.	4. 運動と栄養 動とエネルギー代謝	1) 身体活エネルギー産生についての予習
8.	4. 運動と栄養 スポーツと体力 3) 運動と健康増進	2) 運動・健康づくりと栄養摂取についての予習
9.	5. 競技力向上と栄養管理 けと栄養マネジメント	1) 期分 トレーニングと栄養管理についての予習
10.	5. 競技力向上と栄養管理 くりとたんぱく質	2) 体づ 体タンパクの合成についての予習
11.	5. 競技力向上と栄養管理 ナづくりと糖質	3) スタミ グリコーゲンの代謝についての予習
12.	5. 競技力向上と栄養管理 コーゲンローディング	4) グリ 糖質の分解についての予習
13.	5. 競技力向上と栄養管理 ディショニングづくりとミネラル、ビタミン、水分補給	5) コン 熱中症についての予習
14.	5. 競技力向上と栄養管理 期と栄養補給法	6) 試合 試合時の環境についての予習
	7) 女性アスリート	
15.	5. 競技力向上と栄養管理 ポーツ選手の栄養教育の実際と評価	8) ス 栄養教育の手法についての予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

ライフステージに即した知識をもとに管理栄養士としての職業観を醸成していきましょう。

フィードバックの方法:

質問等があれば次週に適宜対応。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	管理栄養士国家試験に要する知識を含む内容
	出席及び授業終了時の提出物	20	本字の授業内容をまとめる

教科書:

新食品・栄養科学シリーズ
応用栄養学 編 灘本知憲・宮谷秀一 第4版 化学同人

参考書:

サクセス管理栄養士講座 応用栄養学 ライフシリーズ別 監修 社団法人全国栄養士養成施設協会 社団法人日本栄養士会 第一出版
管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 第1巻 栄養ケア・マネジメント 基礎と概念 特定非営利活動法人日本栄養改善学会 監修／木戸康博・小倉嘉夫 ほか編 医歯薬出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

初回の講義時に説明。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	成人期の特性と生活習慣	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。
2.	成人期の栄養と疾患・病態1 肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
3.	成人期の栄養と疾患・病態2 高血圧、脂質異常症、心筋梗塞など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
4.	成人期の疾病別ガイドラインの利用	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
5.	成人期の栄養アセスメント	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
6.	成人期の栄養ケア	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。事前に配布したケースワークを行います。
7.	更年期の特性と更年期の栄養状態	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
8.	更年期の栄養アセスメントと栄養ケア	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。事前に配布したケースワークを行います。
9.	高齢期の特徴と高齢期の栄養状態	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
10.	高齢期の特徴と高齢期の栄養状態	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
11.	高齢期の特徴と高齢期の栄養状態	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。事前に配布したケースワークを行います。
12.	環境と栄養 1 ストレス応答と栄養・特殊環境と栄養ケア	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
13.	環境と栄養 2 低温・高温環境と栄養、高圧・低圧環境と栄養	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
14.	特殊栄養 無重力環境と栄養など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

教科書中心に授業を行いますので、事前に予習してきてください。授業のパワーポイントは事前にマナビーに配布します。授業終了後まとめのノートを作成してください。各単元の学習が終了した時点で、ノート提出を課題とします。1週目の授業で配布する予定表の指定日まで提出してください。成人期、更年期、高齢期の最後の週にはケースワークをします。事前に内容を確認し、必要な資料を持参してください。

フィードバックの方法:

小テスト、ノート提出の結果を返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60	国家試験問題を解き、解説できる能力(50%)と、キーワード・重要項目について簡単に論述できる能力(50%)を確認します。
	ノート提出・小テスト	35	ノート提出はキーワードや重要項目が網羅されており、理解されているか確認し、3段階で評価します。小テストは数値化して加算します。
	出席状況	5	出席数を点数化し、欠席・遅刻を減点します。

教科書:

応用栄養学Ⅰ、Ⅱで使用する「応用栄養学」化学同人を継続使用
2017年度版管理栄養士栄養士必携 日本栄養士会

参考書:

「栄養ケア・マネジメント」医歯薬出版
日本人の食事摂取基準2015年版 第一出版
国民健康・栄養の現状 第一出版
診療ガイドラインUP-TO-DATE メディカルビュー

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、授業の前後に教室内で対応します

授業テーマ:

疾患の成因と病態、治療

授業の概要:

解剖生理学、基礎栄養学で学んだことを理解していることを前提として、臨床病態学Ⅱ、Ⅲとあわせて臨床現場で管理栄養士として働くために必要な医学的知識を分野別に学ぶ科目である。この科目が最初に履修する科目であるため、前半は総論として臨床医学の基礎を学び、後半では各論に入る。少しでも理解しやすいように、比較的理解を促すために消化管の疾患からスタートする。

到達目標:

総論:疾患診断の基礎、カルテの読み方、疾患の治療の理解
各論:消化管疾患、肝・胆・膵疾患、循環器疾患の病態の理解

授業方法:

講義中心である。理解を助けるためにビデオを使用することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	疾患の診断:問診のとり方、カルテの書き方・読み方	教科書第2章の予習
2.	前回授業内容に関する小テスト 疾患の診断:主な症候の理解	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第2章の予習
3.	前回授業内に関する小テスト 疾患の治療:治療の方法、エビデンスに基づく治療	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第3章の予習
4.	前回授業内容に関する小テスト 疾患の治療:薬物の体内動態、薬物代謝に及ぼす食品の影響	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第3章の予習
5.	前回授業内容に関する小テスト 消化管の疾患:口腔、食道	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 口腔、食道の解剖生理学の復習 第10章の予習
6.	前回授業内容に関する小テスト 胃・十二指腸の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 胃・十二指腸の解剖生理学、消化吸收の機構についての復習 第10章の予習
7.	前回授業内容に関する小テスト 胃・十二指腸の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第10章の予習
8.	前回授業内容に関する小テスト 炎症性腸疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 栄養素の吸収についての復習 小腸、大腸の解剖生理学の復習 第10章の予習
9.	前回授業内容に関する小テスト 大腸の疾患、その他の消化管の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第10章の予習
10.	前回授業内容に関する小テスト 肝臓の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 肝臓の解剖生理学の復習 第10章の予習
11.	前回授業内容に関する小テスト 肝臓の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 肝臓における代謝の復習 第10章の予習
12.	前回授業内容に関する小テスト 胆道の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 胆道系の解剖生理学の復習 第10章の予習
13.	前回授業内容に関する小テスト 膵臓の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 膵臓の解剖生理学の復習 第10章の予習
14.	前回授業内容に関する小テスト 循環障害	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第11章の予習
15.	まとめ	これまでの授業内容の総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

解剖生理学、基礎栄養学の知識が身についていることを前提とした授業内容である。本教科の予習の際に、解剖生理学。基礎栄養学の関連部分を復習をすることにより学習効果が高まる。

必ず、授業用のノートを作成し、予習をしてくること。

フィードバックの方法:

毎回、授業の初め(9:00)に前回授業で行った内容についての小テストを行い、復習の習慣をつけて知識の定着を図る。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト	39	40点/100点　まとめの試験と合算して60点以上を合格とする。遅刻して受けなかった回の小テストは0点となる
	まとめの試験	60	60点/100点　小テスト、出席点と合算して60点以上を合格とする
	出席	1	初回の講義には小テストを行わないので出席点1点とする 遅刻は0点

教科書:

伊藤節子編　臨床病態学　化学同人

参考書:

配布資料(授業中に配布)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業終了後

授業テーマ:	疾患の成因と病態、治療			
授業の概要:	解剖生理学、基礎栄養学で学んだことを理解していることを前提として、臨床病態学Ⅰ、Ⅲとあわせて臨床現場で管理栄養士として働くために必要な医学的知識を分野別に学ぶ。授業内容に示した疾患の各論を学ぶ。			
到達目標:	循環器疾患の病態と治療の理解 脳血管障害、神経疾患、老年期の疾患の病態と治療の理解 腎尿路系の疾患の病態と治療の理解 内分泌系疾患、骨・筋肉疾患の病態と治療の理解 呼吸器系疾患の病態と治療の理解 血液疾患の病態と治療の理解			
授業方法:	講義が中心である。理解を促すためにビデオを使用する場合がある。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容		
	1. 循環器系疾患	循環障害についての復習 心・血管系の解剖生理学の復習 第11章の予習		
	2. 前回授業内容に関する小テスト 循環器系疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 心・血管系の解剖生理学の復習 第11章の予習		
	3. 前回授業内容に関する小テスト 脳血管障害	第11章の予習 前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第12章の予習		
	4. 前回授業内容に関する小テスト 老年期の疾患 神経系疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第12章の予習		
	5. 前回授業内容に関する小テスト 腎・尿路系の構造と働き	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 腎・尿路系の解剖生理学の復習 第13章の予習		
	6. 前回授業内容に関する小テスト 糸球体疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第13章の予習		
	7. 前回授業内容に関する小テスト 尿細管間質性疾患、酸・塩基平衡	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第13章の予習		
	8. 前回授業内容に関する小テスト 腎血管系・尿路系疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第13章の予習		
	9. 前回授業内容に関する小テスト 腎不全	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第13章の予習		
	10. 前回授業内容に関する小テスト 内分泌系疾患(糖尿病を除く)	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 内分泌系の解剖生理学の復習 第14章の予習		
	11. 前回授業内容に関する小テスト 骨代謝と筋・骨格疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第14章の予習		
	12. 前回授業内容に関する小テスト 呼吸器疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 呼吸器系の解剖生理学の復習 第15章の予習		
	13. 前回授業内容に関する小テスト 血液疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 造血系の解剖生理学の復習 第16章の予習		
	14. 前回授業内容に関する小テスト 血液疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第17章の予習		
15. まとめ				
受講者へのメッセージやアドバイス:	解剖生理学、基礎栄養学の知識が身についていることを前提とした授業内容である。本教科の予習の際に、解剖生理学。基礎栄養学の関連部分を復習することにより学習効果が高まる。			
	必ず、授業用のノートを作成し、予習をしてくること。			
フィードバックの方法:	毎回、授業の初め(9:00)に前回授業で行った内容についての小テストを行い、復習の習慣をつけて知識の定着を図る。			
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	小テスト	39	39点/100点	授業の復習問題(3点×13回)
	まとめの試験	60	60点/100点	
	出席	1	小テストを行わない1回目の出席点	1/100点
教科書:	伊藤節子編著、臨床病態学、化学同人し			
参考書:	配布資料(授業中に配布)			

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

授業終了後

授業テーマ:

食素材を考える。

授業の概要:

食品学各論では、主要な食品材料を取り上げ、(1)それらの特質・機能を解説する。さらに、(2)各食品に含まれる成分が、健康に対して与える役割・疾病予防への関与を考え、(3)これら各成分が食物としての特性にどのように活かされているのかについても解説する。以上の事柄を学ぶことで、各種食品素材についての正しい知識を習得する。

到達目標:

生化学・食品学総論の知識を基礎として、各食素材の成分と特徴について学ぶ。
以上のことを理解することにより
1. 食素材に関する事象や課題に関心を持つようになる。
2. 食素材にまつわる事象を科学的な視点で捉えることができるようになる。
3. 食素材に関する事象についてプレゼンテーションできるようになる。

授業方法:

テキストを用いて下記項目を順次解説する。また必要により、プリントの配布およびPower Pointの使用などを行う。原則的に2週間にて一度、その日の講義内容についてグループディスカッションを行い、皆の前でプレゼンテーションをしてもらう。また、隔週、講義終了後に20分程度の小試験を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	農産食品(穀類:米、小麦:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
2.	農産食品(穀類:大麦,とうもろこし,そば;いも類:さつまいも,じゃがいも;その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
3.	農産食品(いも類:やまのいもなど;種類類:ごま,落花生など:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
4.	農産食品(豆類:大豆,小豆など;野菜類:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
5.	農産食品(野菜類:キャベツ,レタスなど:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
6.	農産食品(果実類:りんご,なしなど;きのこ類:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
7.	農産食品(きのこ類:しいたけ,まつたけなど)および水産食品(藻類):その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
8.	畜産食品(食肉類:うし,ぶたなど:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
9.	畜産食品(食肉類:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
10.	畜産食品(卵類:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
11.	畜産食品(乳類:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
12.	畜産および水産食品(乳類および魚介類:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
13.	水産食品(魚介類の死後変化と鮮度など)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
14.	加工食品の素材(油脂類,糖類など:その成分と特徴)	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

管理栄養士専攻生は、最終的に国家試験に受からねばなりません。もちろん、それが最終目標ではありませんが、国家試験に合格しないと管理栄養士としてのスタートラインには立てません。地道に幅広く知識を蓄える必要があります。こつこつと知識を積み重ねていきましょう。

フィードバックの方法:

マナビーを使って小試験の解説を行う。必ず、解説を元に復習のこと。国家試験合格のためには、丁寧に学び、重要事項を記憶し、まとめておくことが、重要です。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	100	知識・理解が到達目標に達しているかどうかを基準とする。

教科書:

新 食品・栄養科学シリーズ「食品学各論(第3版)」瀬口正晴・八田一 編(化学同人)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー以外の時間でも、講義・実験実習・会議などがなければ研究室にあります。随時お訪ね下さい。

授業テーマ:

臨床栄養学に流れる共通の考え方や基礎となる事項を学ぶ

授業の概要:

専門科目としての臨床栄養学は傷病者や障がい者の栄養管理の実践を学ぶ。本講義はそのスタートにあたり、管理栄養士の職業倫理、医療分野における活動の基本的な理念、医療や福祉制度、栄養管理のプロセスの基本となる概念や必要な知識を学ぶ。講義はこれらの事項について単元を設けて解説する。関係が深い科目は、臨床病態学、応用栄養学、給食経営管理、基礎栄養学、解剖生理学、生化学、社会福祉学等幅広いので、関連科目の振り返りを考慮しながら講義を進めたい。

到達目標:

医療者としての管理栄養士の職業倫理、患者中心の医療など医療分野における活動の基本的な理念を学び理解する。医療・介護制度と傷病者・障がい者の栄養管理の制度上のしくみについて理解する。臨床分野の栄養ケアを栄養評価(評価方法と栄養診断)、栄養必要量算定、栄養補給や栄養教育などの栄養管理計画の作成と実施・モニタリング・カルテの記述などの一連のプロセスに分解し、これらの基礎知識を理解する。

授業方法:

授業形態は講義ですが、予習を重視するため、講義に当たり当日内容の基本的事項について予め問いかけを行います。また配布資料、資料提示等を適宜用います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床栄養学の意義と目的	傷病者への栄養学的な介入によって、患者に何がもたらされるかを、身体的側面、心理的側面、QOL(生活の質)の3つの視点で予習すること
2.	医療と臨床栄養	専門職として最も重要な職業倫理について、栄養士・管理栄養士の職業倫理を調べる。患者中心の医療、チーム医療等の基本と管理栄養士の役割について調べる。
3.	医療制度の基本	我が国の医療保険制度の基本および栄養に関する診療報酬について調べてくる。
4.	福祉・介護と臨床栄養	障害に関する基本的な分類方法や考え方および、我が国の介護保険制度の基本と栄養関連の介護報酬制度を調べておく。
5.	栄養ケア・マネジメント(栄養管理のプロセス)の概要	栄養ケア・マネジメントの概念と国際標準化されてきた、栄養管理のプロセスを調べておく。
6.	栄養状態の評価(栄養アセスメント)ー1	栄養スクリーニング、主観的包括的評価(SGA)および栄養状態の指標としての臨床診査、エネルギー摂取および消費量などの評価方法について調べておく
7.	栄養状態の評価(栄養アセスメント)ー2	栄養状態の指標として、窒素出納値、身体計測と身体構成成分、血液検査などからの評価方法について調べておく
8.	栄養状態の判定(栄養診断)	栄養状態の評価(栄養アセスメント)の結果に基づいた、栄養状態の判定法について調べておく。
9.	栄養介入(栄養管理計画の策定と実施)	栄養管理計画を策定するために必要な事項をあらかじめ列挙しておく。エネルギー補給量の設定について調べておく。
10.	栄養管理のモニタリングと評価	栄養管理を実施にあたり、モニタリング(経過観察)する項目の選定方法を調べておく。
11.	栄養補給方法ー経静脈栄養法	経静脈栄養補給の種類、特徴、合併症について調べておく。
12.	栄養補給方法ー経腸栄養法(経口および経管栄養法)	経管栄養法(チューブ栄養)の種類、特徴、合併症および使用される栄養剤の種類と特徴を調べる。病院食の種類と特徴を調べる。
13.	傷病者・要介護者への栄養教育	患者教育を行う場面としてどのような場合が考えられるか。行動変容を可能とする栄養教育とはどのようなものかを調べておく
14.	食物と薬剤の相互作用	食品が薬剤の吸収や作用に影響を与える場合の例、薬剤が食欲や栄養素の吸収や体内利用に影響を与える例について調べておく。
15.	まとめ	1ー14回目までの重要事項について整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習を行っていることを前提に講義を進めるので、講義ノートとは別に予習ノートを作成し必ず予習をすること。予習を行う際、興味深い点や疑問点などを明確にしておき、講義においてそれらを深めたり解決すること。講義において未解決点が残った場合は、講義終了後質問紙に書いて提出するか、口頭で質問してください。予習ノートは2回目から提出してもらいます。

フィードバックの方法:

質問等に対しては、内容によって判断し個別に応じるか、教室でまとめて解説します。提出された予習ノートは確認し、必要に応じてコメントをつけて、次週返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	上記到達目標に関する知識や理解度により評価する
	予習ノート	30%	予習を通じて意欲的に授業に参加し、上記到達目標を達成しようとしているかを評価する
	出欠席の取り扱い		60%の出席率を下回った場合、欠席数1回につき2点減点する。

教科書:

「エッセンシャル臨床栄養学」第8版2刷 佐藤和人 本間健 小松龍史編著(医歯薬出版)

参考書:

「栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方・考え方・ケーススタディ」奈良信雄著(医歯薬出版)
「国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル」日本栄養士会監訳(第一出版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワーまたは授業前後教室内で対応します。

授業テーマ:

傷病者における栄養管理プロセスを理解する

授業の概要:

管理栄養士が対象者の栄養管理を実施するための手法として、国際的に標準化された「栄養管理プロセス」について学ぶ。これは栄養管理の一連のながれを規定したもので、近年、我が国を含む多くの国々で導入された方法である。ここでは対象者を傷病者に限定し、栄養管理プロセスの特徴の1つである栄養診断の方法や記録方法を中心に、課題症例を検討することで理解し、習得する。

到達目標:

・栄養管理プロセスの全体像を理解する。
・対象者の栄養状態を判定(栄養診断)する技能を習得する。
・栄養診断の結果を決められた様式で診療録に記述する能力を習得する。

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 栄養管理プロセスと用語マニュアルについて	これまで広く認知されてきた栄養ケアマネジメントについて理解しておく。
	2. 栄養診断と記録方法について	基本的な記録方法とされているSOAP形式について理解しておく。
	3. 栄養スクリーニングと栄養アセスメントについて	これまでに学習した栄養スクリーニングと栄養アセスメントの内容を復習しておく。
	4. 栄養診断と栄養介入について	
	5. 症例1(過栄養)の病態の解説と栄養状態の特徴について	
	6. 症例1(過栄養)の栄養アセスメント、栄養診断、介入計画の検討と記録について	提示症例に対する栄養アセスメントを各自で検討しておく。
	7. 症例2(低栄養)の病態の解説と栄養状態の特徴について	
	8. 症例2(低栄養)の栄養アセスメント、栄養診断、介入計画の検討と記録について	提示症例に対する栄養アセスメントを各自で検討しておく。
	9. 症例3(周術期患者)の病態の解説と栄養状態の特徴について	
	10. 症例3(周術期患者)の栄養アセスメント、栄養診断、介入計画の検討と記録について	提示症例に対する栄養アセスメントを各自で検討しておく。
	11. 症例4(消化器疾患患者)の病態の解説と栄養状態の特徴について	
	12. 症例4(消化器疾患患者)の栄養アセスメント、栄養診断、介入計画の検討と記録について	提示症例に対する栄養アセスメントを各自で検討しておく。
	13. 症例5(腎臓疾患患者)の病態の解説と栄養状態の特徴について	
	14. 症例5(腎臓疾患患者)の栄養アセスメント、栄養診断、介入計画の検討と記録について	提示症例に対する栄養アセスメントを各自で検討しておく。
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	90	栄養管理プロセスの理解と習得レベルを評価。
	授業への積極的参加度	10	栄養診断ができるようになったかを評価。

教科書:

監訳(公社)日本栄養士会／国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル／第一出版

参考書:

佐藤和人、本間健、小松龍史編／エッセンシャル臨床栄養学第8版／医歯薬出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

疾病ごとの病態に対応した栄養管理方法の根拠と基本を学ぶ

授業の概要:

専門科目としての臨床栄養学は傷病者や障がい者の栄養管理の実際を学ぶ。臨床栄養学ⅠとⅡで学んだ総論的なまなびに引き続き各論前半の科目に該当する。各疾患における栄養管理を病態と栄養学を理論的に結びつけつつ、栄養管理のプロセスを学ぶ。傷病者の栄養管理を関係が深い科目は、臨床栄養学Ⅰ／Ⅱ、臨床病態学、応用栄養学、給食経営管理学、基礎栄養学、解剖生理学、生化学、社会福祉学等幅広いので、関連科目の振り返りを考慮しながら講義を進めたい。

到達目標:

栄養管理や栄養指導の実務において、特に重要性の高い生活習慣と関わりの深い疾患を中心に、病態や栄養生理代謝と食生活の関係、発症の予防と治療、経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターの解釈、栄養管理計画の立案、モニタリングと評価などについて理解する。

授業方法:

授業形態は講義ですが、予習を重視するため、講義に当たり当日内容の基本的事項について予め問いかけを行います。また配布資料、資料提示等を適宜用います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床栄養学の各論を学ぶにあたって、科目間の関連や管理栄養士実務との関連を考えてみる。	
2.	肥満と肥満症 (1)病態と栄養代謝と食生活・生活習慣など	肥満と肥満症の定義は何か、肥満の分類、基準基本的な事項を復習しておく。肥満患者の食生活の評価方法を調べておく。減量時の栄養管理の基本的な考え方を調べる。
3.	肥満と肥満症 (2)栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	減量時の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく
4.	糖尿病 (1)糖尿病の病態(1型・2型)と栄養代謝の関連、食生活・生活習慣など	糖尿病の病態と治療について1型糖尿病、2型糖尿病を区別して説明できるように復習しておく。使用する経口血糖降下剤についてその作用機序とともに調べておく。
5.	2型糖尿病 (2)栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	2型糖尿病患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。糖尿病治療ガイドラインの食事療法関連項目を調べておく。
6.	2型糖尿病 (3)血糖コントロール・合併症・患者教育	血糖コントロールの目標値、合併症の種類など栄養食事指導に必要な事項を調べるとともに、その手法について調べる。糖尿病治療のための食品交換表を調べる。
7.	1型糖尿病 病態栄養、インスリン療法と食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	1型糖尿病患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。
8.	脂質異常症・痛風 病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	脂質異常症患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。動脈硬化性疾患予防ガイドラインの栄養関係事項を調べる。
9.	高血圧 病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	高血圧患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。高血圧治療ガイドラインの栄養関連項目を調べる。
10.	心疾患・脳卒中 病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	心疾患・脳卒中患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。
11.	脂肪肝 病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	脂肪肝患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。脂肪肝の原因を栄養状態との関連で調べておく
12.	貧血 鉄代謝・鉄利用と食事、鉄欠乏性貧血、検査データの解釈、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	鉄欠乏性貧血患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。鉄の吸収に影響を与える要因を説明できるようにしておく
13.	骨・歯・栄養欠陥 生活習慣や環境の影響、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	骨疾患患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。歯周病と糖尿病の関係についてしらべておく。PEMの分類を説明できるように調べておく。
14.	神経性無食欲症 病態と治療、生活習慣や環境の影響、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	神経性無食欲症患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。
15.	まとめ	重要事項の再点検をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習を行っていることを前提に講義を進めるので、講義ノートとは別に予習ノートを作成し必ず予習をすること。予習を行う際、興味深い点や疑問点などを明確にしておき、講義においてそれらを深めたり解決すること。講義において未解決点が残った場合は、講義終了後質問紙に書いて提出するか、口頭で質問してください。予習ノートは2回目から提出してもらいます。

フィードバックの方法:

質問等に対しては、内容によって判断し個別に応じるか、教室でまとめて解説します。提出された予習ノートは確認し、必要に応じてコメントをつけて、次回返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	上記到達目標に関する知識や理解度により評価する
	予習レポート	30%	予習を通じて意欲的に授業に参加し、上記到達目標を達成しようとしているかを評価する

出欠席の取り扱い

60%の出席率を下回った場合、欠席数1回につき2点減点する。

教科書:

「エッセンシャル臨床栄養学」第8版2刷 佐藤和人 本間健 小松龍史編著(医歯薬出版)

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

分析力、思考力、自己管理力、自己実現力

オフィスアワーまたは授業前後教室内で対応します。

授業テーマ:

疾病ごとの病態に対応した栄養管理方法の根拠と基本を学ぶ

授業の概要:

専門科目としての臨床栄養学は傷病者や障がい者の栄養管理の実際を学ぶ。臨床栄養学Ⅲに引き続き各論後半の科目に該当する。各疾患における栄養管理を病態と栄養学を理論的に結びつけつつ、栄養管理のプロセスを学ぶ。傷病者の栄養管理を関係が深い科目は、臨床栄養学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ、臨床病態学、応用栄養学、給食経営管理学、基礎栄養学、解剖生理学、生化学、社会福祉学等幅広いので、関連科目の振り返りを考慮しながら講義を進めたい。

到達目標:

栄養管理や食事療養において、通常の食生活とは異なる特別な栄養成分の調整を必要としたり、中心静脈栄養法など特殊な栄養療法を必要とするなど、管理栄養士が臨床の現場で重要な役割を求められる疾患を中心に、病態や栄養生理代謝と栄養管理の関係、患者の栄養管理や経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターの解釈、治療薬などについて知識を得る。

授業方法:

授業形態は講義ですが、予習を重視するため、講義に当たり当日内容の基本的事項について予め問いかけを行います。また配布資料、資料提示等を適宜用います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. 消化器疾患(1) 胃潰瘍、胃がんなどの病態栄養、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	2. 消化器疾患(2) 炎症性腸疾患の病態栄養、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	3. 消化器疾患(3) 肝炎、肝硬変の病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	4. 消化器疾患(4) 胆石・胆嚢炎・膵炎の病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	5. 腎疾患(1) 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎盂腎炎、慢性腎臓病(CKD)の病態栄養の理論的背景	
	6. 腎疾患(2) 慢性腎臓病(CKD)の概念・腎機能と栄養管理、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	7. 腎疾患(3) 糖尿病性腎症、人工透析などの栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	8. 呼吸器疾患 肺炎、慢性閉塞性肺疾患などの病態栄養、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	9. 内分泌・代謝疾患 甲状腺機能亢進症などの病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	10. 免疫・アレルギー アレルギー性疾患、自己免疫疾患の病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	11. 感染症 慢性消耗性疾患などの病態栄養、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	12. 外科(1) 外科侵襲時の代謝と栄養管理、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価など(クリイティカルケアを含む)	
	13. 外科(2) 消化器の外科手術と病態と栄養代謝、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	14. 小児期の疾患 先天性代謝異常、小児腎疾患、小児糖尿病などの病態栄養、食生活・生活習慣、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習を行っていることを前提に講義を進めるので、講義ノートとは別に予習ノートを作成し必ず予習をすること。予習を行う際、興味深い点や疑問点などを明確にしておき、講義においてそれらを深めたり解決すること。講義のにおいて未解決点が残った場合は、講義終了後質問紙に書いて提出するか、口頭で質問してください。予習ノートは2回目から提出してもらいます。

フィードバックの方法:

質問等に対しては、内容によって判断し個別に応じるか、教室でまとめて解説します。提出された予習ノートは確認し、必要に応じてコメントをつけて、次回返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	上記到達目標に関する知識や理解度により評価する
	予習ノート	30%	予習を通じて意欲的に授業に参加し、上記到達目標を達成しようとしているかを評価する
	出欠席の取り扱い		60%の出席率を下回った場合、欠席数1回につき2点減点する。
教科書:	「エッセンシャル臨床栄養学」第8版2刷 佐藤和人 本間健 小松龍史編著(医歯薬出版)		

参考書:

「栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方・考え方・ケーススタディ」奈良信雄著(医歯薬出版)
「国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル」日本栄養士会監訳(第一出版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーまたは授業前後教室内で対応します。

授業テーマ：	栄養教育の基礎理論の修得	
授業の概要：	栄養教育の概念として、栄養教育の目的・目標や栄養教育の対象や場を学び、栄養教育のための理論的基礎として、栄養教育に活用される行動科学理論やモデル、そして行動変容技法の概念と方法を学ぶ。また、栄養教育基礎技術として、カウンセリングやコーチングについて学ぶ。さらに栄養教育と食環境、組織や地域への展開についても学ぶ。	
到達目標：	栄養学基礎理論を基に国民の栄養・食生活の現状をふまえて、栄養教育の概念を理解する 実践能力を養うのに必要な栄養教育に関する基礎的な理論と方法を習得する 社会・生活環境や健康・栄養状態の特徴に基づいた栄養教育の基礎的な展開について理解する	
授業方法：	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容 1. 栄養教育の概念 栄養士・管理栄養士の定義、役割について 2. 栄養教育と健康教育について 3. 栄養教育の背景（歴史等）について 4. 栄養教育と関係法規等について 5. 栄養教育と食環境の関わりについて 6. 栄養教育に関連する生活指導について（運動・休養を中心に） 7. 栄養教育に関連する生活指導について（飲酒・喫煙を中心に） 8. 栄養教育の概念についての小テスト 栄養教育と食行動変容について 9. 栄養教育と行動変容のモデルや理論1（事例についてディスカッション） 10. 栄養教育と行動変容のモデルや理論2（事例についてのディスカッション） 11. 栄養教育と行動変容のモデルや理論3（事例についてのディスカッション） 12. 栄養教育と行動科学の部分の小テスト 栄養教育実施のための技術1（コミュニケーションについて） 13. 栄養教育実施のための技術2（カウンセリング・コーチングについて）	準備学習等の内容 教科書とノートの用意する。 該当部分の教科書を読む。 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 小テストの勉強 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討等を行うので、事前に配布された事例についてまとめておく。 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討等を行うので、事前に配布された事例についてまとめておく。 小テストの勉強 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討等を行うので、事前に配布された事例についてまとめておく。

14. 栄養教育とコミュニケーションについて的小テスト
 栄養教育実施のための技術3(プレゼンテーションについて)
 (事例についてディスカッション)
- 小テストの勉強
 該当部分の教科書を読む。
 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。
 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
 授業で事例検討等を行うので、事前に配布された事例についてまとめておく。
15. まとめ
- いままで配布された資料や自分で作成した授業ノートを復習する

受講者への
 メッセージや
 アドバイス:

管理栄養士を「人間の健康の維持・増進、疾病の発症予防・重症化予防、および生活の質 (quality of life; QOL) の向上を目指して、望ましい栄養状態・食生活の実現に向けての支援と活動を、栄養学・健康科学等関連する諸科学をふまえて実践できる専門職」ととらえ、上記の支援と活動に関する理論や方法を中心に学びます。

フィードバックの
 方法:

レポート課題は、教室で集めて採点後に教室にて返却する。レポート解説は教室でまとめて行う。また、マナビーにてレポート提出や解説を行うこともある。

「成績評価方法」
 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	10	レポート課題を正しく理解して、適切な方法で調べ、自分の考えを論理的に説明できるかを基準とする。
小テスト	30	教科書の単元終了後に小テストを数回行い、その平均点を評価とする。
定期試験	60	栄養教育の概念及び栄養教育のための理論や方法の基礎知識や理解度により評価する。加えて、社会・生活環境や健康・栄養状態の特徴に基づいた栄養教育の基礎的な展開の知識や理解を合わせて評価する。

教科書:

栄養科学シリーズ NEXT 栄養教育論, 笠原賀子・川野因 編, 講談社サイエンティフィク
 問題思考型 栄養教育論 Ver. 4, 小野章史 編

参考書:

獲得が期待される
 基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡
 方法:

オフィスアワー

授業テーマ:

栄養教育を効果的に実践できるように栄養教育に関する理論や方法、技術等への理解を深める。
栄養教育マネジメントを理解する。

授業の概要:

栄養教育論Ⅰで学んだことを前提に、個人および集団の健康・栄養状態の評価や判定に基づく個別的、専門的、医療的な栄養教育が行えるよう、栄養教育マネジメントおよび栄養教育に関わる理論と方法について理解を深める。具体的には、管理栄養士(専門家)としての「栄養」の知識や技術を、対象者(学習者)の状態やニーズに合わせて「食事」「食生活」の支援として活用できるように学びを深める。また、栄養教育により対象者(学習者)がよりよい食生活が行えるような栄養教育の在り方(内容、計画、すすめ方等)を学ぶ。

到達目標:

栄養教育論Ⅰの知識や理解を基に栄養教育マネジメントについて理解する
具体的には、健康・食物摂取に影響を及ぼす要因、栄養教育における目標設定、栄養教育の計画立案、栄養教育プログラムの実施、栄養教育の評価、栄養教育マネジメントで用いられる理論やモデルについての知識を有し、各項目について理解していること
ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育の展開の知識と理解を深めること

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 栄養教育マネジメント1(マネジメントサイクルについて)	教科書とノートの用意をする。 該当部分の教科書を熟読する。
2. 栄養教育マネジメント2(栄養教育におけるアセスメントおよび学習者の把握について)	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
3. 栄養教育マネジメント3(栄養教育の目標設定について)	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
4. 栄養教育マネジメント4(栄養教育の計画立案について)	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
5. 小テスト 栄養教育マネジメント5(栄養教育の形態や実践的な方法について)	小テストの勉強 該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
6. 栄養教育マネジメント6(栄養教育の評価について)	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
7. 栄養教育マネジメント7(栄養教育マネジメントで用いる理論やモデルについて)	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
8. 小テスト 妊娠・授乳期の栄養教育について (事例検討)	小テストの勉強 該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。
9. 乳幼児期の栄養教育について (事例検討)	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。
10. 学童期・思春期の栄養教育について (事例検討)	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。
11. 成人期の栄養教育について (事例検討)	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。

12.	高齢期の栄養教育について (事例検討)	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。
13.	傷病者・障がい者と栄養教育 (事例検討)	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。
14.	小テスト 諸外国の栄養教育の動向	小テストの勉強 該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
15.	まとめ	いままで配布された資料や自分で作成した授業ノートを復習する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

レポート課題は、教室で集めて採点後に教室にて返却する。レポート課題解説は教室でまとめて行う。また、マナビーにてレポート提出や解説を行いこともある。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	10	レポート課題を正しく理解して、適切な方法で調べ、自分の考えを論理的に説明できるかを基準とする。
小テスト	30	教科書の単元終了後に小テストを数回行い、その平均点を評価とする。
定期試験	60	栄養教育マネジメントについての知識と理解度により評価する。加えて、ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育の展開についても知識と理解度を評価する。

教科書: 栄養科学シリーズ NEXT 栄養教育論, 笠原賀子・川野因 編, 講談社サイエンティフィク
問題思考型 栄養教育論, 小野章史 編

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、授業後に対応します

授業テーマ:

栄養食事指導におけるカウンセリングの方法と実際

授業の概要:

栄養教育論I、IIで学んだことを前提に、医療分野における専門知識や技術を実際の栄養治療としてどのように活かしていくか学ぶ。また、問題解決のための分析する力や積極的に行動する重要性を学び自己成長につなげる。

到達目標:

個人や集団の栄養状態の評価、判定および個別の栄養教育プログラムが作成でき、そのプログラムが「学習者によって実際に実行される」ため、必要な栄養カウンセリングが行えるようになることを目標とする。

授業方法:

教科書、配布資料、教材等を用いた講義形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	医療の現状と栄養管理業務(管理栄養士の業務とNCM)	医療機関における管理栄養士の業務であるNCM(栄養ケア・マネジメント)を理解しておく。
2.	栄養食事指導における記録－POSの実際－	POSのSOAP(叙述式)記録方法を調べておく。
3.	栄養食事指導－食事療法と患者の心理－	食事療法を行う患者の実行度と問題点を調べておく。
4.	栄養食事指導－糖尿病患者に対する食事療法－	糖尿病の病態、病状と食事療法について調べておく。
5.	医療の場におけるコミュニケーション技術	コミュニケーションの方法を調べておく。
6.	セルフケア学習と支援	患者のケア行動の内容を調べておく。
7.	コーチングの技術	コーチングとは何かを調べておく。
8.	栄養食事指導－肥満と食事－	肥満の病態、病状とダイエット法について調べておく。
9.	特定保健指導における積極的支援の問題点と栄養教育	特定保健指導のリスク分類を調べておく。
10.	脂質異常症の栄養ケアプランと栄養教育	脂質異常症の病態、病状等について調べておく。
11.	高血圧症の栄養ケアプランと栄養教育	高血圧症の病態、病状等について調べておく。
12.	腎臓疾患の栄養ケアプランと栄養教育	腎臓疾患の病態、病状等について調べておく。
13.	消化器疾患の栄養管理と栄養食事指導	クローン病の病態、病状等について調べておく。
14.	栄養食事指導と患者の疑問	栄養食事指導時における患者のコミュニケーション内容を調べておく。
15.	管理栄養士・栄養士の職業倫理(臨床栄養学と調査・研究)	生命倫理のあり方について調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

臨床栄養学全般にわたって復習をしておくこと。また、臨地実習で体験した対人コミュニケーションの技法や問診などの内容を確認しておくこと。

フィードバックの方法:

学生の意見、評価、疑問・質問等については適宜対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	100%	60点以上

教科書:

「栄養士のためのカウンセリング論」石井 均 編著 健帛社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

下記のメールアドレスに連絡する。
fukui.t@shuubun.ac.jp

授業テーマ： 栄養士・管理栄養士に関する縦断的な専門知識・技術を統合し、管理栄養士として「栄養の指導」ができるよう総合的な能力を養う。

授業の概要： 管理栄養士として必要な専門知識、技術を統合するため、今まで学習してきたことを基礎に応用力、問題解決能力を高め、現在の社会のニーズ、学習者(対象者)に即した対人的な栄養業務が展開できるよう、栄養教育現場を想定して体験的に学習をすすめる。

到達目標： 栄養教育プログラムの基本的な案を立て、指導案を作成することができる
栄養教育プログラムの評価について適切な評価法を選択することができる
栄養教育プログラムや指導案に沿って教育媒体・教材を選択し、作成することができる
栄養教育の基本的な技能を基に模擬集団栄養教育を行うことができる
行った栄養教育について評価案を基に、分析・評価ができる

授業方法： 演習・実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	前半:オリエンテーション 後半:栄養マネジメントについて、栄養ケア・マネジメントにおける評価について	事前学習として、栄養ケア・マネジメントについて今まで学んだことを復習しておく 授業後学習として、食品目安量の課題を行う
2.	前半:集団栄養教育の実際1(栄養教育の企画、指導案作成) 後半:集団栄養教育の実際2(栄養教育の教材・媒体、評価法の検討)	事前学習として、集団栄養教育の方法等についてこれまでの授業で習ったことを復習しておく また、指導案が書けるように資料等を調べて準備しておく 授業後学習として、指導案や評価案を仕上げてくる
3.	前半:模擬集団栄養教育準備(リーフレット案作成) 後半:模擬集団栄養教育準備(リーフレット作成)	事前学習として、栄養教育における効果的な教材について理解を深めておく 授業後学習として、模擬集団栄養教育のリーフレットを仕上げてくる
4.	前半および後半:模擬集団栄養教育準備(栄養教育の媒体・教材の作成)	事前学習として、模擬集団栄養教育の媒体・教材が作成できるよう資料を探して準備しておく 授業後学習として、模擬集団栄養教育の媒体(教材)を仕上げてくる
5.	前半:模擬集団栄養教育準備(評価表などの作成) 後半:模擬集団栄養教育準備(プレゼンテーションのリハーサル)	事前学習として、評価案から評価表が作成できる準備をする 授業後学習として、リハーサルを行っての反省・感想を基に改善点を修正しておく
6.	前半および後半:模擬集団栄養教育(プレゼンテーションと評価)	事前学習として、模擬栄養教育が出来るように仕上げてくる 授業後学習として、模擬教育後のレポート課題を行う
7.	前半および後半:模擬集団栄養教育(プレゼンテーションと評価)	事前学習として、模擬栄養教育が出来るように仕上げてくる 授業後学習として、模擬教育後のレポート課題を行う
8.	前半および後半:まとめ(総合評価を全体で行う)	事前学習として、7回目で配布した資料を読み込んでおく 授業後学習として、模擬教育後のレポート課題を仕上げる

受講者へのメッセージやアドバイス： グループ別にテーマ(種々の疾患、または栄養上配慮の必要な学習者(集団栄養教育現場)を想定)に沿った模擬集団栄養教育を立案、計画、実施、評価を行う。その中で、Plan、Do、See・Check、Act を体験的に学び、効果的な栄養教育方法(教材等)や栄養ケア・マネジメントに必要な事柄について総合的に学ぶ。

フィードバックの方法： レポートや課題提出は演習内に行います。レポート等提出物の返却は実習後に返却します。レポートや課題指導は演習中に行います。一部の課題はマナビーを用いて提出・返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	演習への参加度	40	演習に積極的に参加して、到達目標に掲げる技能の獲得ができ、課題が解決されているかを基準とする。また、管理栄養士として積極的に栄養問題に取り組もうとする意欲や態度も評価する。
	提出物	30	作成された指導案、媒体・教材およびレポートにより評価を行う。評価は、作成物が栄養学的に正しい根拠があるものか、栄養教育を行う対象や場に合っているか、また、栄養教育前の分析が正しい方法で適切にできているか、評価を正しく出来ているかを確認する。
	発表、討論	30	個人またはグループ発表や討論において、適切な方法で調査し、まとめた自分の意見を自分の言葉で述べることができるか、また論理的で根拠のある意見が述べられているかを基準とする。加えて、他人の意見を十分聞き、人への理解を深めているかどうかを評価する。

教科書： 栄養科学シリーズ NEXT 栄養教育論実習 片井加奈子・川上貴代・久保田恵 編 講談社サイエンティフィク

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法： オフィスアワー、演習中にアポイントを取ることも可能です。

656760

総合演習B

小松

龍史、今井

具子、神田

知子、片井

加奈子、倉橋

優子

授業テーマ:

校外・臨地実習の事前・事後指導

授業の概要:

この授業は校外・臨地実習の総合的な事前指導と給食の運営(校外実習)、臨床栄養IおよびII(臨地実習)、給食経営管理実習(臨地実習)、公衆栄養学実習(臨地実習)それぞれの事前指導を行う。
また、この授業計画は15回であるが、総合演習Bに相当する部分は7.5回分であり、7.5回分は校外・臨地実習時間にあてる。

到達目標:

基礎教科・専門教科の知識や技術を統合し、校外・臨地実習で課題発見・解決できるよう今までの学習内容の理解を深める
臨床・福祉・給食経営管理・行政などの施設で活躍する専門家(管理栄養士)による特別講義により、実践活動の場における
栄養士・管理栄養士の業務について学ぶ
臨地・校外実習に臨む心構えを学ぶ

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 校外・臨地実習全般についての説明	春学期に参加した臨地・校外実習報告会の資料をもう一度読み返しておく
2. 校外・臨地実習についての心構え	予習として、1回目に配布した資料等を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめたレポートを課す
3. 給食の運営、給食経営管理についての特別講義	予習として、実習要録の給食の運営、給食経営管理の部分を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめたレポートを課す
4. 病院実習についての特別講義	予習として、実習要録の臨床栄養管理の部分を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめたレポートを課す
5. 高齢者の保健・福祉についての特別講義	予習として、福祉施設について調べてくること、また嚥下について理解を深めておくこと 復習として、授業内容をまとめたレポートを課す
6. 行政栄養士の業務・役割についての特別講義	予習として、実習要録の公衆栄養学の部分を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめたレポートを課す
7. 病院実習施設配当調整	予習として、配当に関する資料を読み込んでくること 復習として、病院実習での課題を考えておくこと(個人)
8. 病院実習に関する4年生との懇談会、課題研究(グループワーク)	予習として、春学期に行った臨地・校外実習報告会の冊子を読み返しておくこと 復習として、病院実習での課題を考えておくこと(グループ)
9. 給食の運営実習配当調整	予習として、配当に関する資料を読み込んでくること 復習として、給食の運営実習での課題を考えておくこと(個人)
10. 給食の運営実習に関する4年生との懇談会、課題研究(グループワーク)	予習として、春学期に行った臨地・校外実習報告会の冊子を読み返しておくこと 復習として、給食の運営実習での課題を考えておくこと(グループ)
11. 公衆栄養学実習についての説明と4年生との懇談会(グループワーク)	予習として、春学期に行った臨地実習報告会の冊子を読み返しておくこと 復習として、授業内容をまとめておくこと
12. 臨地校外実習でのインシデント・アクシデントについて(グループワーク)	予習として、春学期に行った臨地実習報告会の冊子を読み返しておくこと 復習として、グループワークの内容をまとめておくこと
13. 実習に関する連絡・確認事項、諸注意(1)	予習として、実習課題を仕上げておくこと 復習として、授業内容をまとめておくこと、必要書類を記入してくること、実習に向けてグループで情報を共有しておくこと
14. 実習に関する連絡・確認事項、諸注意(2)	予習として、13回目に配布した資料等を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめておくこと、必要書類を記入してくること、実習に向けてグループで事前課題を行うこと
15. 実習に関する連絡・確認事項、諸注意(3)	予習として、14回目に配布した資料等を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめておくこと、実習に向けてグループで事前課題を仕上げておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

学外指導者の都合など諸般の事情により一部順序が入れ替わったり、内容を変更する場合がある。総合演習Bの最初の授業時に確定した授業計画を配布する。

フィードバックの方法:

レポートは授業中または決められた提出期限までに担当者に提出する。そして、採点後、実習中または実習後に返却を行う。
実習課題については、添削指導後、授業中に返却を行う。その際、教室でまとめて指導を行う。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	60	授業やグループワークに積極的に参加し、授業目標を到達しようとする姿勢や意欲、態度より評価する。また、校外・臨地実習の事前・事後学習への積極的な取り組みを評価する。
提出物	40	レポートについては、管理栄養士の業務や役割を認識し、校外・臨地実習に対する準備や心構えについて、今の自分の状況を鑑み、これからの課題やそのための解決策について論述されているかを基準とする。 課題研究については、自ら設定した実習目標について、適切な方法で調査し、課題や課題解決策が立てられているか、そしてその実践がなされているかを基準とする。

教科書:

実習要録 配布資料(プリント等)

参考書:

日本人の食事摂取基準 第一出版
管理栄養士・栄養士必携 第一出版
管理栄養士・栄養士のための困りごと相談ハンドブック(日本栄養士会監修)新日本法規
給食実務必携 第一出版
認知症ケアと予防に役立つ栄養療法 クリエイツかもがわ

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、授業後にも対応します。

授業テーマ： 管理栄養士専攻での4年間の学びの総まとめ

授業の概要： 管理栄養士として必要な下記の分野における知識と理解力を修得する。
社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論

到達目標： 管理栄養士に必要な知識・理解と応用力を評価するため、全ての試験結果と授業への参加度の合計が60点に達していること。

授業方法： 各回の授業は講義形式で行う。随時最新の情報を織り交ぜながら、プリントを配付し、パワーポイント・スライドまたは教材提示機を用いて分かりやすく各分野の内容を解説する。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="256 385 331 472">No.</th> <th data-bbox="331 385 855 472">授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="256 472 331 501">1.</td> <td data-bbox="331 472 855 501">オリエンテーションー卒業演習の概要</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 501 331 533">2.</td> <td data-bbox="331 501 855 533">人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 533 331 564">3.</td> <td data-bbox="331 533 855 564">人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(解剖生理学)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 564 331 595">4.</td> <td data-bbox="331 564 855 595">人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(臨床病理学)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 595 331 627">5.</td> <td data-bbox="331 595 855 627">基礎栄養学</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 627 331 656">6.</td> <td data-bbox="331 627 855 656">応用栄養学</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 656 331 687">7.</td> <td data-bbox="331 656 855 687">栄養教育論</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 687 331 719">8.</td> <td data-bbox="331 687 855 719">臨床栄養学</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 719 331 750">9.</td> <td data-bbox="331 719 855 750">社会・環境と健康</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 750 331 781">10.</td> <td data-bbox="331 750 855 781">オリエンテーションー栄養士免許・管理栄養士免許について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 781 331 813">11.</td> <td data-bbox="331 781 855 813">食べ物と健康(食品衛生学)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 813 331 842">12.</td> <td data-bbox="331 813 855 842">食べ物と健康(食品学)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 842 331 873">13.</td> <td data-bbox="331 842 855 873">公衆栄養学</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 873 331 904">14.</td> <td data-bbox="331 873 855 904">給食経営管理論</td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 904 331 936">15.</td> <td data-bbox="331 904 855 936">まとめ</td> </tr> </tbody> </table>	No.	授業内容	1.	オリエンテーションー卒業演習の概要	2.	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)	3.	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(解剖生理学)	4.	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(臨床病理学)	5.	基礎栄養学	6.	応用栄養学	7.	栄養教育論	8.	臨床栄養学	9.	社会・環境と健康	10.	オリエンテーションー栄養士免許・管理栄養士免許について	11.	食べ物と健康(食品衛生学)	12.	食べ物と健康(食品学)	13.	公衆栄養学	14.	給食経営管理論	15.	まとめ	準備学習等の内容 授業外に実施される理解度確認試験に合わせて、該当する分野のまとめノートの作成と予習を行うこと。各回の授業後には、授業内容と照らし合わせて各自まとめノートを修正しつつ復習を行うこと。
No.	授業内容																																	
1.	オリエンテーションー卒業演習の概要																																	
2.	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)																																	
3.	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(解剖生理学)																																	
4.	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(臨床病理学)																																	
5.	基礎栄養学																																	
6.	応用栄養学																																	
7.	栄養教育論																																	
8.	臨床栄養学																																	
9.	社会・環境と健康																																	
10.	オリエンテーションー栄養士免許・管理栄養士免許について																																	
11.	食べ物と健康(食品衛生学)																																	
12.	食べ物と健康(食品学)																																	
13.	公衆栄養学																																	
14.	給食経営管理論																																	
15.	まとめ																																	

受講者へのメッセージやまとめノートの作成に当たっては、各科目の教科書、授業ノートのほかに、参考資料として「管理栄養士栄養士必携」「日本人の食事摂取基準」「国民健康・栄養の現状」「国民衛生の動向」などを使用すること。

フィードバックの方法： 複数回のオリエンテーションおよび各科目担当教員や国家試験対策室において個人面談によりフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度および9月以降の理解度確認試験の成績	60	管理栄養士として必要な知識・理解と応用力を評価するため、全ての試験結果と授業への参加度の合計が60点に達していること。
	まとめ試験	40	

教科書: 各科目で使用した教科書および補足プリント

参考書： 管理栄養士・栄養士必携，日本栄養士会
日本人の食事摂取基準2015年度版，第一出版
国民健康・栄養の現状―厚生労働省国民健康・栄養調査報告より―，第一出版
国民衛生の動向，厚生労働統計協会
その他のものはオリエンテーション，授業等で学生に周知する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

教員との連絡方法： 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ： 食事計画を栄養計画、献立計画、生産計画（衛生管理計画含む）などによる総合計画と位置づけて実習する。

授業の概要： 管理栄養士が関与する食事提供は嗜好面、栄養面、経済面、衛生面など、品質を保証するために計画的に行われなければならない。特定給食施設での栄養・食事管理はもちろん、在宅者への栄養教育においても適切な食事計画と調理の指導が要求されることから、実践力の基礎となる知識と技術を体得する。

到達目標： (1)給食提供の基礎となる、栄養計画、献立作成、調理・配膳作業計画、経営計画（原価管理）、衛生管理計画を含めた総合的な知識と技術を身につけることを目標とする。

授業方法： 食事計画、準備作業、調理を伴う実習、振り返り、まとめの順で授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	(1)食事計画実習の目的について概説。 (2)生産管理の概要と栄養計画について概説。 (3)組織と役割分担、レポート課題についての説明。 (4)衛生管理・安全管理について演習。 (5)モデル献立(和食・洋食)の生産管理の説明および作業分担の確認。	【復習】衛生管理に関するレポート 【予習】モデル献立(和食)の予習と調理の練習
2.	(1)給食経営管理実習室の設備を使用したモデル献立(和食)の実習。 (2)モデル献立(和食)の試食・衛生管理の実践・まとめ。 (3)喫食量の測定。	【復習】実習に関するレポート 【予習】モデル献立(洋食)の予習と調理の練習
3.	(1)給食経営管理実習室の設備を使用したモデル献立(洋食)の実習。 (2)モデル献立(洋食)の試食・衛生管理の実践・まとめ。	【復習】実習に関するレポート 【予習】試作献立①の計画と調理
4.	(1)モデル献立実習を振り返り、作業管理、衛生管理、安全管理の評価とまとめ。 (2)試作献立①の計画(実習室でのシミュレーションを含む)。試作献立①の作業分担および衛生管理のポイントを確認。 (3)給食経営管理ソフトの使用法の説明と実習。	【予習】(1)調理実技テストの課題(テスト日までに各自練習) (2)試作献立①の予習と調理の練習
5.	(1)給食経営管理実習室の設備を使用した試作献立①の実習。 (2)試作献立①の試食・衛生管理の実践・まとめ。	【復習】試作献立①の実習の反省と改善方法に関するレポート 【課題】給与栄養目標量の設定と食品構成表の作成レポート 【予習】試作献立②の計画と調理 【予習】試作献立②の予習と調理の練習
6.	管理、安全管理の評価とまとめ。 (2)試作献立②の計画(実習室でのシミュレーションを含む)。試作献立②の作業分担および衛生管理のポイントを確認。 (3)調理に関する実技テスト	
7.	(1)給食経営管理実習室を使用した試作献立②の実習 (2)試作献立②の試食、衛生管理の実践・まとめ	【復習】試作献立②の実習の反省と改善方法に関するレポート 【予習】試作献立①②の改善案の作成と調理
8.	(1)試作献立②の振り返り、作業管理、衛生管理、安全管理の評価とまとめ。 (2)反省と改善案の発表。	【課題】事業所給食を対象とした調理レポート

受講者へのメッセージやアドバイス： 実習は全て、「調理を伴う予習」を行った上で出席することが原則である。

フィードバックの方法： レポートはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席および実習態度	55%	到達目標(1)のために、調理を伴う予習をした上での実習態度を評価する
	調理に関する実技テスト	10%	到達目標(1)のために必要となる技術を評価する。
	レポート等の提出物	35%	到達目標(1)のために必要となる視点で書かれているかを基準とする。

教科書： 「日本食品標準成分表」
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)
「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」(学建書院)
「給食経営管理論実習-給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解」(医歯薬出版)

参考書： 「なぜ？ どうして？ 給食経営管理論」(メディックメディア)
「日本人の食事摂取基準」(第一出版)
「大量調理」(学研書院)
新食品・栄養科学シリーズ「給食経営管理論」(化学同人)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法： 授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ：

食品一般成分分析法の体得

授業の概要：

食品成分表に掲載されている一般成分（水分・灰分・タンパク質・脂質・食物繊維・糖質）の測定法を体得する。

到達目標：

食品学総論で学んだ食品の一般成分含量を各自用意した食品を用いて測定する。この実験を通して、
1. 一般成分測定を体得できるとともに、
2. 何故、各成分が測定値が含まれているか理解できるようになる。

授業方法：

1グループ2～3名で実験を行なう。実験をスムーズに進行させるため、受講者には予め実験の方法をまとめたものを各自提出してもらう。レポートは、毎週必要と判断した項目につき提出させる。また、レポートの考察内容に付きグループディスカッションを行い、皆の前でプレゼンテーションをしてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容
	1. 実験の心構えおよび試薬の調製 クロマトグラムの原理解説	使用テキスト該当部分を予め予習のこと。
	2. 水分（常圧加熱乾燥法による）および水分活性	実験当日までに、水分（常圧加熱乾燥法による）および水分活性に関する実験マニュアルを提出する。
	3. 灰分	実験当日までに、灰分に関する実験マニュアルを提出する。
	4. タンパク質（ケルダール法による分解）	実験当日までに、タンパク質（ケルダール法による分解）に関する実験マニュアルを提出する。
	5. タンパク質（ケルダール法による蒸留）	実験当日までに、タンパク質（ケルダール法による蒸留）に関する実験マニュアルを提出する。
	6. 脂質（ソックスレー抽出法による）	実験当日までに、脂質（ソックスレー抽出法による）に関する実験マニュアルを提出する。
	7. 食物繊維（酵素-重量法による）および糖質	実験当日までに、食物繊維（酵素-重量法による）および糖質に関する実験マニュアルを提出する。
	8. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：

実験は、実際に体験することが肝要です。従いまして、講義とは異なり出席を重視いたします。実験中、事故が起こることがないように、常に神経をとがらせ、今の操作の意味を考えましょう。それを元に、次に何をするか頭の中で常に整理しておきましょう。積極的に参加することが大切です。

フィードバックの方法：

レポートの考察内容に付きグループディスカッションを行い、皆の前でプレゼンテーションをもらう。その際、発表内容に関するコメントを与えることで、行った実験内容・意義に付きフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」：	レポート	40	レポートとしての体裁が整っているか。実験結果に付き適切な考察がなされているかなどを評価基準とする。
	平常試験	10	基本的な計算能力が備わっているかを評価する。
	授業への積極的参加	50	まじめに実験に取り組んでいるかを評価基準とする。

教科書：

大鶴 勝編「食品学実験」(朝倉書店)

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：

オフィスアワー以外の時間でも、講義・実験実習会議などがなければ研究室にあります。随時お訪ね下さい。

授業テーマ:

チーム医療をめざして

授業の概要:

医療分野においてチーム医療の担い手の一員として管理栄養士が参加する機会が増えてきた。また個別の栄養管理計画を全入院患者に作成されるようになった。また栄養サポートチームにおける管理栄養士の役割も高まっている。そこで臨床栄養活動に必要な基本的手技を学び、これらの技術を身につけるとともに、栄養管理や栄養指導を行う対象となる疾患を重点的にとりあげ、具体的な症例についてSGA、ODAに基づく実践的な栄養アセスメントの方法、最新の臨床栄養情報をもとにたてる栄養療法のプランとその結果の評価法をグループワークを通して学ぶ。

到達目標:

臨床における栄養管理に必要な身体計測、食事調査、身体兆候の観察などの栄養アセスメントの基本的主義を繰り返し練習することにより習得させる。グループワークにより症例検討を通して栄養管理のプロセスを模擬体験し、科学的根拠に基づいた栄養管理計画を立案能力をつけるとともに、医療チームの中で栄養の専門職としてコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成する。障がい者や患者等の疑似体験あるいは栄養アセスメント作業をお互いに行うことを通して対象者への思いやりや守秘義務などの倫理観を養う

授業方法:

(1)本実習では栄養アセスメント技術の習得のために身体計測(皮下脂肪厚の測定など)、身体徴候の観察・問診などは反復実習を行う。さらにチーム医療でのコミュニケーション、ファシリテーション、リーダーシップなどの能力を高めるために、70%以上の実習テーマはグループワークにより実施する。
(2)シラバスに記載した項目はグループにより交代しながら実施する。またテーマにより必要な時間や回数が異なるため、記載順に1回づつ実施するものではない。
(3)記載したすべての項目を実施する予定であるが、必要に応じて若干の変更を加える場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. 【臨床栄養アセスメントA】タンパク質・エネルギー栄養失調の栄養アセスメント・身体徴候の観察と問診・身体計測(上腕三頭筋部、肩甲骨下部など)	2. 【臨床栄養アセスメントB】エネルギー摂取量の評価、24時間思い出し法、食品交換表を活用した簡易評価、食生活状況の評価、食生活状況調査(問診)	レポートの作成
	3. 【臨床栄養アセスメントC】エネルギー消費量の評価、身体活動レベルの評価、ハリスベネディクトの式などによる基礎代謝量の推定	レポートの作成
	4. 【臨床栄養アセスメントD】空腹時および食後のエネルギー代謝測定とRQ	レポートの作成
	5. 13-15. 【臨床栄養アセスメントE】体組成の評価(生体インピーダンス法)、たんぱく質栄養状態の評価(クレアチニン身長係数、窒素出納値の推定など)	レポートの作成
	6. 【栄養スクリーニング】模擬病院における栄養スクリーニングと主観的包括的評価(SGA)	レポートの作成
	7. 【強制栄養法の基本】中心静脈栄養セッティングおよび経腸栄養セッティング、水分管理(水分出納と水分管理計画)	レポートの作成
	8. 【栄養管理計画実習A】グループワークによる経腸栄養適用患者(経鼻胃管・胃瘻)の栄養管理計画の作成(人体モデルによる模擬実習含む)	レポートの作成
	9. 【栄養管理計画実習B】グループワークによる中心静脈栄養適用患者の栄養管理計画の作成(人体モデルによる模擬実習含む)	レポートの作成
	10. 【栄養管理計画実習C】グループワークによる糖尿病症例の栄養管理計画作成	レポートの作成
	11. 【栄養管理計画実習D】グループワークによる慢性腎臓病症例の栄養管理計画作成	レポートの作成
	12. 【栄養管理計画実習F】グループワークによる消化器疾患症例の栄養管理計画作成	レポートの作成
	13. 【栄養管理計画実習E】グループワークによる肝臓病症例の栄養管理計画作成	レポートの作成
	14. 【高齢者・要介護】嚥下評価、ベッド、介護食器活用、高齢者等模擬体験衣料による体験、車いす活用、褥瘡モデルスケッチなど	レポートの作成
	15. 実習のまとめ	レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

復習として、毎回の実習に対するレポートを次回実習時に提出する。実習では反復して行うテーマも多くあるので実習レポートはその回だけでなく、過去の実習結果と比較するなど、創造的で多面的なレポート作成が求められる。

フィードバックの方法:

レポートを確認して返却する。必要に応じて個別にあるいは全体にレポート作成の助言を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席回数分のレポート評価	70%	本科目は実習であるため出席していないと評価されない。レポートは3段階評価 グループワークでの発表や質疑応答など総合評価
	グループワークでの発表や質疑応答など総合評価	30%	

教科書:

配布資料および臨床病態学および臨床栄養学で用いた教科書等

参考書:

糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 (日本糖尿病協会・文光堂)
国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル(日本栄養士会監訳・第一出版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡
方法:

オフィスアワーまたは授業前中後教室内で対応します。

授業テーマ：

おもな疾病の栄養管理に必要な食事形態や栄養成分の調整や献立の立案

授業の概要：

テーマごとに解説を行うとともに、特に医療分野に用いられる治療食献立の作成と治療食の作成実習を行う。

到達目標：

傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養マネジメントを実践するうえで必要な、治療食を考え実践できることを目標とする。

授業方法：

講義の後、グループ単位で、課題に適した食事計画(献立作成)(宿題)と、試作実習、試食および評価を行い発表する。なお、実習の一部内容に関して必要に応じて変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 治療食の基本(1) ・治療食および実習説明と平成28年度診療報酬改訂の解説 ・一般的な食事計画(献立)の立て方 ・常食から軟菜食への展開による1日分の食事計画(献立作成) ・軟菜食(4品)、ソフト食の試作、試食	復習として実習レポートを作成し、次回の実習時に提出する。
	2. 治療食の基本(2) ・腎臓病食・潰瘍食・心臓病食について ・常食から各疾患食(形態・成分制限食)への展開 ・課題の症例に対し栄養アセスメントを行い、栄養ケアプランを作成、それに基づいた1日分の食事計画(献立作成) ・常食(2品)→脂質制限食の実習、試食 ・嚥下食の実習(摂食障害時の食事の工夫)	医療において用いられる病態に対応した複数献立を基軸になる食種から展開する方法について予習しておく
	3. 治療食の基本(3) ・糖尿病食について(食品交換表演習) ・課題の症例に対し栄養アセスメントを行い、栄養ケアプランを作成 それに基づいた1日分の食事計画(献立作成) ・低エネルギー料理の試作、試食、代用甘味料・エネルギー調整品の試飲、試食	糖尿病食品交換表について予め予習しておく。
	4. 治療食の基本(4) ・腎臓病について(食品交換表演習) ・課題の症例に対し栄養アセスメントを行い、栄養ケアプランを作成、それに基づいた1日分の食事計画(献立作成) ・治療用特殊食品を用いた単品の試作、試食	慢性腎臓病の病態と栄養管理について予習しておく
	5. 治療食の試作と評価(1) ・一般食の常食から軟菜食(全粥・五分粥)、特別食(心臓病食・潰瘍食・肺炎食)への展開:第1・2回で作成した展開食の試作、試食、評価	食事形態が異なる場合における献立の関係、調理方法の違いなどを調べておく
	6. 治療食の試作と評価(2) ・糖尿病食:第3回で作成した糖尿病食の試作、試食、評価	第3回で作成した献立をあらかじめよく読んで、調理手順等を記述しておく。
	7. 治療食の試作と評価(3) ・腎臓病食:第4回で作成した腎臓病食の試作、試食、評価	第4回で作成した献立をあらかじめよく読んで、調理手順等を記述しておく。
	8. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：

限られた時間と回数で治療食献立の作成と調理を行うことから、十分に予習をして臨んでください。

フィードバックの方法：

実習時気づいた点を指摘するとともに、完成度の高い献立を共有できるようにしたい。

「成績評価方法」: 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実習態度、献立・レポートの提出物	60%	実習態度、レポート等の提出物、試験により総合的に評価します
	試験	40%	

教科書：

糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版
糖尿病性腎症の食品交換表 第2版
腎臓病の食品交換表 第8版 治療食の基準

参考書：

日本食品標準成分表2015年版(2016年4月以降市販される予定)
「日本人の食事摂取基準2015年版」
栄養科学シリーズNEXT「臨床栄養管理学実習」講談社サイエンティフィック

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法：

実習時および前後の時間帯に対応するようにしたい。

授業テーマ:	ライフステージ別の栄養ケア・マネジメント		
授業の概要:	妊娠期、乳幼児期、学童期、青年期、高齢期における生理的变化に応じた栄養状態の特徴を理解した上で、各ライフステージの事例を用いて栄養アセスメントを行い、栄養問題を検出する。それを基に目標設定、行動計画、モニタリング計画を立案することで、栄養ケア・マネジメントのプロセスを学ぶ。		
到達目標:	栄養アセスメントに必要な評価法について説明でき、事例を用いて栄養ケア・マネジメントを実施できる。		
授業方法:	グループで調理を伴う実習や事例検討を行う。実習テーマごとにレポートを提出する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 妊娠期および乳児期の栄養マネジメント 1) 実習内容および課題の説明 2) 妊娠期の栄養アセスメントと妊婦疑似体験 3) 乳児の栄養管理 ① 調乳の方法と実習 ② 市販ミルクの試飲と評価	◆妊婦疑似体験と調乳のレポート	
	2. 離乳期の栄養マネジメント 1) 離乳食について 2) 離乳食実習 3) 市販離乳食の試飲と評価	◇離乳食実習の予習 ◆離乳食実習のレポートと市販離乳食に関するまとめ	
	3. 妊娠期および高齢期の栄養マネジメント 1) 妊娠期の栄養マネジメント 2) 高齢期の栄養マネジメント 3) 事例検討についてグループワーク	◆事例検討の復習	
	4. 青年期女性の栄養マネジメントと展開食献立計画 1) 青年期女性の栄養マネジメント(臨床栄養学実習Aとの連携) ① 栄養アセスメントと栄養問題の抽出 ② 目標設定と栄養管理計画とモニタリング計画 2) 各自が実施したマネジメントについてグループワーク 3) 成人期の献立から離乳期、高齢期への展開食献立計画	◆青年期女性の栄養マネジメントについて考察	
	5. 展開食献立の実習 1) 調理 2) グループ発表 3) 評価とまとめ	◇展開食献立の予習 ◆展開食献立のレポート	
	6. 幼児期・学童期の栄養マネジメント 1) 幼児期および学童期の栄養管理:発表 2) 食物アレルギー児への対応(特定給食施設における個別対応など) 3) 幼児期・学童期・高齢期の間食献立計画	◇幼児期・学童期の栄養管理に関する発表の準備 ◆本時の発表について考察	
	7. 青年期女性の栄養マネジメント-モニタリング-と間食献立の実習 1) 青年期女性の栄養マネジメント-モニタリング-(臨床栄養学実習Aとの連携) ① 栄養アセスメントと経過の評価 ② 目標設定の妥当性の検討 ③ 栄養管理計画の修正 2) モニタリング結果についてグループワーク 3) 幼児期・学童期・高齢期の間食献立の実習	◆青年期女性の栄養マネジメント-モニタリング-のまとめ ◇間食献立の予習 ◆間食献立レポート	
	8. まとめ 1) 各ライフステージ事例検討の評価 2) 栄養マネジメントのまとめ		
	受講者へのメッセージやアドバイス:	必ず出席し、レポートを全て提出すること。	
フィードバックの方法:	個々の提出物(レポート課題)は採点して返却し、教室で解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度および実習態度	40	
	レポート課題および発表	60	課題の完成度、発表態度を評価する。
教科書:	配付プリント 応用栄養学 第4版, 化学同人 栄養ケア・マネジメント 基礎と概念, 医歯薬出版 日本人の食事摂取基準, 第一出版 食品成分表		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	研究室および授業前後の教室内で対応		

授業テーマ:

栄養素の役割や機能を実験を通して理解する。

授業の概要:

基礎栄養学の講義で得た知識を基に栄養素の役割や機能について実験を通して理解すること。また、栄養学を学ぶための実験手法の基礎を習得すること。
ビタミンの実験は1つの材料を用いて、各グループで異なる操作を施して実験を行い、最後に結果を発表する。レポートにはそれらをもとに考察したことを書く。ラットの実験は、クラス全体で摂食群4匹、絶食群4匹の実験結果がでる。実験項目毎に結果を発表し、レポートには各自、2群間の有意差検定も行って考察したことを書く。

到達目標:

①栄養成分の分析では、ビタミンを取り上げ、食品中のビタミンB2およびビタミンCについて種々の操作を行って残存するビタミン量を測定することによってその性質を理解する。
②生理現象などがヒトとよく似ているラットを用いて摂食群と絶食群を作成し、栄養素の摂取と生体内代謝との関係を、血液および肝臓中の各種成分分析や酵素活性を測定することによって理解する。
③実験は、グループでの共同作業である。グループの中で、積極的に実験に関わり、協力して実験を進めることができる。

授業方法:

基礎栄養学実験は1単位の実験であるので、実験回数は3コマ続きで7.5回である。1回目はその0.5回分に相当する。1グループ6～7名で実験を行う。初回に実験項目全般についての内容を説明し、以後は当日の実験操作上の注意点を述べる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 基礎栄養学実験に関する全体説明 (1)基礎栄養学実験全体の内容説明 (2)基礎栄養学実験全体の内容説明	
	2. 栄養成分の分析 — 酸処理、アルカリ処理、UV照射後の牛乳中のビタミンB2量の測定 (Lumiflavin法) (1)実験操作の説明及び実験(牛乳のpH処理、光照射処理) (2)実験(残存するビタミンB2の抽出とLumiflavin法による測定) (3)結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。ビタミンB2の性質、牛乳中のビタミンB2量を調べる。
	3. 標準食で飼育されたラットを対照として、絶食による血液中生体成分および肝機能への影響をみる 1)血糖値および血漿中遊離脂肪酸量の測定 (1)ラットの飼育条件及び組織重量の説明 (2)血糖値及び遊離脂肪酸測定の実験操作説明及び実験 (3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。基礎栄養学Ⅰで解説した摂食時、絶食時の生体内代謝について復習する。
	4. 2)肝臓中のグルコース6ホスファターゼ活性の測定 (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験 (3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。基礎栄養学Ⅰで解説した摂食時、絶食時の生体内代謝について復習する。
	5. 3)肝酵素液中のタンパク質の測定および肝臓中のグリコーゲン量の測定(1)(グリコーゲンの抽出・分解) (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験 (3)実験及びグルコース6ホスファターゼ活性の結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。基礎栄養学Ⅰで解説した摂食時、絶食時の生体内代謝について復習する。
	6. 4)肝臓中のグリコーゲン量の測定(2)(グリコーゲン分解液中のグルコース定量) (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験 (3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。基礎栄養学Ⅰで解説した摂食時、絶食時の生体内代謝について復習する。
	7. 5)血漿中アルブミン量の測定および実験結果の整理 (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験及び結果のまとめ (3)実験結果の整理と有意差検定	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。基礎栄養学Ⅰで解説した摂食時、絶食時の生体内代謝について復習する。
	8. 栄養成分の分析 — 大根中のビタミンC量の測定 (Indophenol比色法) (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験及び結果のまとめ (3)小テスト及びまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。ビタミンCの性質、大根および人参中のビタミンC量を調べる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実験には、事前にテキストを読み、実験操作についてはノートにフローチャートで作成して臨むこと。内容については、すでに基礎栄養学で学んだことなので、教科書をよく読んで予習しておくこと。レポートは指定した日時までに提出することになるが、実験結果などは、その都度まとめ、整理しておくこと。
実習の進め方やレポートの書き方等、詳しいことは第1回目の授業で説明する。
事前連絡なしの欠席遅刻は厳禁とする。
レポート提出が遅れた場合は減点の対象とする。

フィードバックの方法:

レポートはコメントをつけて返却する。不備のある場合は再提出を求める。
教室でまとめて解説する場合もある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む実験への積極的参加度	40%	到達目標③を踏まえ、実験操作予習の有無、実験内容の理解度、実験態度により評価する。
	レポート	50%	到達目標①、②を踏まえて、全ての項目について序論、方法、結果、考察、参考文献が適切に記載されていることにより評価する。
	小テスト	10%	実験結果算出の理解度により評価する。

教科書:

研究室作成の「基礎栄養学実験」を配布する。

参考書:

実験内容に関係するすべての本が参考となる。

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力
教員との連絡 方法:	授業前後に実験室内で応対

授業テーマ:

人への栄養教育の実際を実習を通して学ぶ。

授業の概要:

栄養教育論で学んだ理論や方法、技術を基に、個人または集団の健康を回復、維持、増進できるよう栄養情報を駆使して、総合的に栄養教育プログラムを作成、実行できる能力を養う。また、そのプログラムを判断、評価する栄養教育の技術的体系を体験的に習得する。そして、栄養教育を「人への理解」という観点からとらえ、実践力や問題解決能力を高める。

到達目標:

栄養教育方法に対する理解を深めるとともに、人へ栄養教育を行う姿勢を身につける
栄養教育における効果的な教材・媒体への理解を深め、作成・活用することができるようになる
栄養教育を行う際の基本的な技能(カウンセリングやコーチング)を身につける
栄養教育プログラムの基本的な案を立てることができる

授業方法:

実習・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. コンピューターを活用した栄養教育媒体について 1)実習全般についてのオリエンテーション 2)効果的な栄養教育の媒体・教材についてディスカッションを行う 3)MS-WORDを利用した媒体作成	事前学習として (1)栄養教育論の「媒体・教材」の部分を読んでくること (2)学生食堂で卓上メモを活用した集団栄養教育を行うと想定し、食堂利用者の食生活上の問題点とその改善策を考えるための資料を集めてくること 復習として、MS-WORDを利用した媒体を仕上げてくること
	2. 手描きによる栄養教育媒体について 1)栄養教育媒体案作成 2)手描きによる栄養教育媒体の作成 3)媒体作成および評価(自己評価・他者評価)	事前学習として (1)栄養教育論の「媒体・教材」の部分を読んでくること (2)学生食堂でポスターを活用した集団栄養教育を行うと想定し、食堂利用者の食生活上の問題点とその改善策を考えるための資料を集めてくること 復習として、手描きによる媒体を仕上げてくること
	3. 栄養教育に必要なプレゼンテーション技術について 1 1)効果的なプレゼンテーションに必要な技術についてディスカッションを行う 2)プレゼンテーション案作成 3)MS-POWER POINT、ペイントソフトを活用したプレゼンテーション教材作成	事前学習として、配布した資料を読み込んでくること 復習として、MS-POWER POINTを一度使ってみること
	4. 栄養教育に必要なプレゼンテーション技術について 2 1)MS-POWER POINT、ペイントソフトを活用したプレゼンテーション教材作成 2)プレゼンテーションの実際と評価(自己評価・他者評価) 3)集団討議法を用いて討議を行う	事前学習として、集団討議法について理解を深めてくること 復習として、プレゼンテーションの他者評価を分析し、自己評価とともに振り返りを行う
	5. 模擬個人栄養教育の実際 1)臨床栄養ソフトを用いた模擬栄養教育 2)コーチングを取り入れた栄養教育について(ロールプレイ演習)	事前学習として、糖尿病の栄養管理について復習してくること、コーチングについて今まで習ったことを基に理解を深めてくること 復習として、個人栄養教育の手順について振り返りを行っておくこと
	6. 栄養教育に必要なカウンセリング基礎技術 1)「聴く」ことの体験 2)話し手の気持ちを受け止めるということの体験	事前学習として、5回目に示した課題を行ってくること 復習として、「傾聴」について理解を深めておくこと
	7. 行動科学を活用した栄養教育の実際 1)気持ちを表現する体験 2)気持ちを大切にしたかわりについて 3)ケーススタディを活用した栄養教育ロールプレイ演習	事前学習として、6回目に示した課題を行ってくること 復習として、行動科学理論の実際について理解を深めておくこと
	8. まとめ ビデオ教材を用いてディスカッション	事前学習として、7回目に配布した資料を読み込んでくること 復習として、これまでの内容をまとめて整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

実習は、個人で課題を進めるものと、グループで協同して行うものがある。

フィードバックの方法:

レポート課題は実習中に集め、実習後に採点の上、返却する。また、一部マナビーによる課題の提出・フィードバックを行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実習への参加度	40	実習・演習に積極的に参加して、到達目標に掲げる知識や技能の獲得が出来ているかを基準とする。また、管理栄養士として積極的に課題発見・課題解決を行おうとする意欲や態度も評価する。
	提出物	40	作成された指導案、媒体・教材およびレポートにより評価を行う。評価は、作成物が栄養教育理論に則っているか、栄養教育を行う対象や場に合っているか、また、栄養教育前の分析が正しい方法で適切にできているか、評価を正しく出来ているかを確認する。
	発表、討論	20	個人またはグループ発表や討論において、自分の意見を自分の言葉で述べるができるか、また論理的で根拠のある意見が述べられているかを基準とする。加えて、他人の意見を十分聞き、人への理解を深めているかどうかを評価する。

教科書:

栄養科学シリーズ NEXT 栄養教育論実習 片井加奈子・川上貴代・久保田恵編 講談社サイエンティフィク

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、実習中にアポイントを取ることも可能です。

授業テーマ:

Plan(計画)Do(実行)Check(確認)Action(対応)のマネジメントサイクルに基づき、100食の食事提供を体験する。

授業の概要:

特定給食の管理・運営に関する一連の業務について実習を通じて学ぶ。

到達目標:

(1)大量調理法、作業手順、調理器具や調理機器の使用法の習得に加え、経営管理、栄養・食事管理、衛生・安全管理、食教育など管理栄養士として必要な知識と技術を習得する。

授業方法:

給食経営管理実習室を使用して、100食分の食事提供の計画・試作・実習を行う。時間割等の都合上、クラスによって実習内容の順番が異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	(1)試作実習の計画について説明。 (2)栄養管理計画、発注書作成の実習。 (3)作業計画、衛生管理計画。原材料保存実施のための準備。 (4)献立①②の作業管理と衛生管理のポイントを確認。	【課題提出】事業所給食の献立作成レポート提出 【予習】試作献立①②の予習と調理の練習
2.	(1)献立①および献立②の試作実習 (2)検食および検食簿記入，試食，後片付け，まとめ。	【復習】実習に関するレポート 【予習】献立①の100食調理にむけての計画と調理
3.	(1)試作実習の評価と改善点の検討。 (2)献立①について100食提供の栄養管理，作業管理，衛生管理等の計画。作業管理，衛生管理のポイントについて確認。 (3)献立①について100食提供の原価管理，食材料管理，食環境と食教育等の計画。	【復習】実習に関するレポート 【予習】献立①の100食調理に向けての予習と調理の練習
4.	(1)献立①について100食の食事提供(検食を含む)。 (2)献立①について試食，後片付け，実習の振り返り	【復習】実習に関するレポート 【予習】献立②の100食調理にむけての計画と調理
5.	(1)献立①の100食提供の振り返り。 (2)献立②について100食提供の栄養管理，作業管理，衛生管理等の計画。作業管理，衛生管理のポイントについて確認。	【予習】献立②の100食調理に向けての予習と調理の練習
6.	(1)献立②について100食の食事提供(検食を含む)。 (2)献立②について試食，後片付け，実習の振り返り	【復習】実習に関するレポート
7.	(1)献立①②の品質評価 (2)インシデントレポートの作成。 (3) 保存用実習報告書の作成。 (4)フードサービスとマネジメントについてグループワークの実施。 (5)事業所給食を想定した費用分析	【復習】喫食者アンケートのまとめ 【課題】給食経営管理実習報告書の作成
8.	(1)実習内容の反省点を整理し発表。 (2)給食経営管理実習のまとめ。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

実習は全て、「調理を伴う予習」を行った上で出席することが原則である。

フィードバックの方法:

レポートはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席および実習態度	60%	到達目標(1)のために、調理を伴う予習をした上での実習態度を評価する 到達目標(1)のために必要となる視点で書かれているかを基準とする。
	レポート等の提出物	40%	

教科書:

「日本食品標準成分表」
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)
「給食経営管理論実習-給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解」(医歯薬出版)
「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」(学建書院)

参考書:

「なぜ？どうして？給食経営管理論」(メディックメディア)
「大量調理」(学研書院)
新食品・栄養科学シリーズ「給食経営管理論」(化学同人)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:			
授業の概要:	栄養政策、栄養疫学、栄養マネジメントについて、各自又はグループで模擬体験し、レポートにまとめる。		
到達目標:	公衆栄養学で学習した知識に基づき、地域や個人の健康、栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を自ら収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する方法を体験する。また総合的な公衆栄養教育プログラムの作成、実施、評価の総合的マネジメントを模擬体験する。		
授業方法:	各自ITCを活用して資料を収集し分析・評価する演習と、グループ単位で調査または公衆栄養アセスメントを行い、プログラムを作成し、発表資料を作成する演習とを組み合わせで行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 栄養情報の検索・収集とEBN 2. 栄養アセスメントの実際 3. 健康日本21第2次と第2次食育推進基本計画の地方計画の実際 4. 地域の健康作りのための食環境整備の実際 5. 栄養調査データ解析の実際 6. アセスメントからプログラム計画へ（1） 7. アセスメントからプログラム計画へ（2） 8. プログラムの発表	準備学習等の内容 課題についてのグループワークのあと、各自でパソコンを使った情報収集を行います。 公衆栄養学の教科書、第4章 3 食事摂取量の測定方法を読んでおいてください。 公衆栄養学の教科書、第3章 6 国の健康増進基本方針と地方計画を読んでおいてください。 公衆栄養学の教科書、第6章 2 食環境でくりのためのプログラムの展開を読んでおいてください。 公衆栄養学の教科書、第4章 2暴露情報としての食事摂取量と、4 食事摂取量の評価方法を読んでおいてください。 グループワークとして、アセスメント結果より、問題点を抽出して、公衆栄養学プログラムを作成します。 グループワークの続きを行います。プログラムの内容、目標、評価方法等を考え、パワーポイントにまとめます。 各班が作成した公衆栄養学プログラムを発表し、質疑応答を行い、評価します。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	個人の演習とグループワークを組み合わせで行います。パソコンの扱いが苦手な学生も、基本的な操作をマスターし、パソコンを使って健康教育等の資料の収集や作成ができるようになりますようにしましょう。		
フィードバックの方法:	退出されたレポートにコメントを返します。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 レポート提出 発表 出席状況	割合 50 40 10	評価基準 各レポートを数値化して評価します。提出遅れ、未提出は減点の対象です。 発表内容、プレゼンより評価します。 原則、全回出席が基本です。欠席・遅刻は減点します。
教科書:	適宜資料を配布します。		
参考書:	公衆栄養学 光生館（公衆栄養学I、IIと同じテキスト）		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、授業の前後に教室内で対応します		

658360

臨床病態学Ⅲ

伊藤 節子

授業テーマ:

疾患の成因と病態、治療

授業の概要:

解剖生理学、基礎栄養学で学んだことを理解していることを前提として、臨床病態学Ⅰ、Ⅱで学んだこととあわせて疾患の病態を理解して治療について学ぶ科目である。臨床現場で管理栄養士として働くために必要な臨床医学の知識を中心に講義する。特に、臨床病態学Ⅲを履修する時期には生化学で糖質、脂質、タンパク質を学んでいるはずであるので、その知識を習得していることを前提にして授業を進めていくため、関連科目の復習と教科書の予習が必要である。

到達目標:

血液疾患の病態と治療について理解する
免疫・アレルギー疾患の病態と治療について理解する
小児と成人の違いについて理解し、小児期に遭遇する疾患の病態と治療について理解する
生化学の知識を整理して糖質代謝の異常による疾患の病態と治療について理解する
生化学の知識を整理して脂質代謝の異常による疾患の病態と治療について理解する
生化学の知識を整理してタンパク質・核酸代謝の異常による疾患の病態と治療について理解する
栄養障害、摂食障害による疾患の病態と治療について理解する
これまで学んだ疾患の病態を病理学・組織学的に理解する
再興感染症、新興感染症を含めた感染症、臨床検査などを総合的に理解する

授業方法:

講義が中心である。理解を助けるためにビデオを使用することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 血液疾患	第17章の予習
2. 免疫・アレルギー疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第18章の予習
3. 免疫・アレルギー疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第18章の予習
4. 小児の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第19章の予習
5. 小児の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第19章の予習
6. 糖質代謝とその異常	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 生化学(糖質代謝)の復習 第5章の予習
7. 糖質代謝とその異常	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 生化学(糖質代謝)の復習 第5章の予習
8. 脂質代謝とその異常	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 生化学(脂質代謝)の復習 第6章の予習
9. 脂質代謝とその異常生化学(糖質代謝)の復習	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 生化学(脂質代謝)の復習 第6章の予習
10. タンパク質、核酸の代謝とその異常	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 生化学(タンパク質代謝)の復習 第7章の予習
11. 栄養障害、摂食障害	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 基礎栄養学の復習 第8章、9章の予習
12. 疾患による細胞、組織の変化	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第1章の予習
13. 疾患による細胞、組織の変化	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第1章の予習
14. 再興感染症、新興感染症、臨床検査	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第4章の予習
15. まとめ	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

解剖生理学、基礎栄養学の知識が身についていることを前提とした授業内容である。本教科の予習の際に、解剖生理学、基礎栄養学、生化学の関連部分を復習をすることにより学習効果が高まる。

必ず、授業用のノートを作成し、予習をしてくること。

フィードバックの方法:

毎回、授業の初め(9:00)に前回授業で行った内容についての小テストを行い、復習の習慣をつけて知識の定着を図る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	39	39点/100点 授業の復習問題(3点 x 3回)
まとめの試験	60	60点/100点
出席点	1	小テストを行わない1回目の出席点

教科書:

伊藤節子編著、臨床病態学、化学同人

参考書:

配布資料(授業中に配布)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業終了後

授業テーマ:	動物・植物組織の観察と微生物の培養を通じ生物の知識と実験手技を学ぶ
授業の概要:	本実験は生物試料の正しい扱い方と観察、及び無菌操作による微生物の培養方法を学ぶことを目標としている。顕微鏡の正しい使い方を習得した上で、細胞や花粉、植物内含物物を顕鏡観察する。このことにより、大学入学までに学んできた内容をより詳細に理解することを目的とする。また、培養実験では、器具の洗浄・滅菌、培地の調製・滅菌、無菌操作の必要性を理解し、これらの手技を習得する。市販の納豆から納豆菌を分離培養することで、純粋培養の必要性や分離できた納豆菌の生理機能を理解し、環境微生物試験では、私たちの生活に密着したカビ類、細菌類の観察と同定を行う。生物試料の統計処理方法及び推定・検定の基礎を統計ソフトを用いて実習する。
到達目標:	実験データは、毎回レポートで報告することになる。レポートは、独りよがりな内容になることなく、その実験内容を知らない自分の家族に読んでもらっても理解してもらえるような真心のこもった内容にすることを目標に、社会人になってからも必要な第三者に発信する術を身につける。次年次以降の本格的な実験実習のためにも基本的な実験手技を習得することを目的とする。 培養実験では、器具の準備や培地の調製を含め、菌体の培養開始から観察までに数か月を要し、各回完了型の内容になるとは限らない。そのため、いつどの実験を何のために行うか、いつまでにそのレポートを書き終えるか等の中長期的スケジュール管理ができるようにする。
授業方法:	毎回、最初に実験の内容説明、基本的知識の確認を行ってから実験にはいる。難しい手技は必ず教員が学生にデモンストレーションを行う。クラス半分が顕微鏡実験、もう半分が培養実験を行い、次回その内容をローテーションする授業形態をとる回が何度かあるため、学生はどちらの実験をするかを把握して実験に臨む必要がある。顕微鏡実験は個人で、培養実験は班単位での実験となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 基礎(1)実験器具の名称、実験器具の取り扱い方 基礎(2)数値の取り扱い方 基礎(3)酸、塩基の取り扱い方、試薬の調製法	有効数値について調べる。 定量用器具の種類を調べておく。
2.	光学顕微鏡の使い方 マツ科、ユリ科、キク科の花粉細胞の顕鏡とスケッチ ミクロメーターを用いた花粉の大きさの測定	顕微鏡の部位名称及び基本的な使い方を予習する。観察試料の花粉はどのような形態をしているのか、予測してノートに書いておく。花粉の大きさの測定もするので、ミクロメーターの使い方も予習する。
3.	培養の基礎 器具の洗浄・培地作成・無菌操作の習得 実験器具の洗浄方法と使用方法を学び、納豆菌を培養するための培地を作成しその滅菌方法を学ぶ。	細菌類やカビ類を培養するためには、なぜ器具の洗浄・滅菌及び培地の調製・滅菌、無菌操作が必要なのか考える。ガスバーナーの使い方を予習する。GPY培地の組成を確認しておく。
4.	貯蔵デンプン・タマネギの鱗茎細胞・鍾乳体の観察とスケッチ ジャガイモ・サツマイモ塊根、バナナのデンプン粒、インドゴムの鍾乳体の観察とスケッチを行う。	観察試料の貯蔵デンプン粒の形態、タマネギの鱗茎細胞の膜構造を調べておく。未熟と完熟バナナでの貯蔵デンプン粒の量の違いを予測する。鍾乳体とはインドゴムの葉のどの組織に存在し、主成分は何かを調べておく。インドゴムの葉からどのようにプレパラートを作成するか予習する。
5.	納豆菌の分離・釣菌、納豆菌を使った実験 市販の納豆から納豆菌を分離し増殖させる。納豆菌のグラム染色と芽胞染色実験並びにアミラーゼ、プロテアーゼ、DNase活性の有無を調べる酵素活性試験。	分離培養と釣菌をする目的を考えておく。分離培養はどのように培養できれば成功か予習する。納豆菌が持つ酵素の種類について学習しておく。約1ヶ月にわたって行う実験のため、実験ノートの付け方に気を付ける。レポートは全工程を1冊にまとめて提出する。
6.	植物色素の同定・細胞分裂の観察 ホウレンソウから抽出した光合成色素をペーパークロマトグラフィーにより分離し、分離された色素が何か同定する。タマネギ根端の細胞分裂の各ステージを観察・スケッチし、各ステージの所要時間を算出する。	ペーパークロマトグラフィーの原理を学習しておく。ホウレンソウの光合成色素の種類を確認し、Rf値の算出方法を予習する。細胞周期と細胞分裂の違いを学んでおく。細胞分裂各ステージの染色体の特徴的な形態を確認しておく。
7.	環境微生物試験 空中に浮遊している細菌やカビ類を経時的に寒天平板で捕捉し、質的・量的に調査する。手のひらの微生物検査を手洗い前と手洗い後に行い、どちらが質的・量的に汚染度が高いか検討する。希釈法による土壌細菌の分離も行う。	空中落下細菌は寒天培地の暴露時間と暴露場所における菌体コロニー数や種類にどのような変化が起きるか予測しておく。手のひらの微生物検査については手洗い前と手洗い後の菌体数に明白な違いが出るにはどのように実験を行えばよいかを考えておく。土壌細菌試験は、試料である土壌の希釈方法を予習する。
8.	生物統計 モデルを用い、平均値・分散・標準偏差・相関等をEXCELで実習。実際に、ムラサキハナマメの長径・短径を各自で測定し、統計処理を行う。	基本統計量・度数分布表とヒストグラム、散布図と相関についてできる限り知識を深めておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習は実験内容を把握し、まず自分で結果の予測をたてましょう。ただ単に頭で考え予測するのではなく、実験ノートになぜそのように予測するか理由を述べておきましょう。そうすることで、レポート作成時に、実際の結果と自分の予測の比較がしつかりできるようになります。また、調べるべきキーワードや実験原理、実験方法を予習しておくことで、実験中にわからない言葉がないように、2歩3歩先を読んで作業ができるようになります。実験中困っている学生を気遣える思いやりの気持ちをもって実験を行えるようにしましょう。

フィードバックの方法:

レポートの書き方について、学生の大半が陥る書き方の不備にはその都度クラス全体にアナウンスを行う。不備の多いレポート内容に関しては、学生本人もどのように書いたらいいのかわからない部分もあるかと思うので、個人的に指導を行うことで学生の気づきを促す。何度かはレポートを返却し教員の添削内容を学生に確認してもらう(そのレポートは再度提出)。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	100	極端に事実と異なるスケッチは減点対象となる。 テキストに挙げている通り、レポートの基本的構成で書かれているか。 結果が数値で出の場合は途中式を省略せず記載する。数値の羅列ではなく、表やグラフで整理する。その際、どの数値を図式化したら効果的かをよく考えて行う。 考察は、現象のみを述べるのではなく、その現象に至った理由や自分の予測と結果の比較、結果と文献的に言われている事との比較を論理的に述べる。 出席が原則である。 関心・意欲・態度の悪い場合は減点対象となる。
教科書:	同志社女子大学 生活科学部 食物栄養科学科 生物研究室 編 『生物学実験』		

参考書:	高校の生物図説は大変役に立ちます。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡 方法:	生物学研究室(U214b)にて、質問や連絡を受け付ける。急な連絡の場合は電話でも受け付ける。教員不在の際は、助手が対応し追って教員が対応する。

授業テーマ:

食品や食品成分、生体成分を用い、化学実験において基本的な原理や実験手法を学ぶ。

授業の概要:

食物栄養科学科で行う最初の基礎実験として、はじめに、研究倫理について学ぶ。化学的な項目について実験を行い、基本的な器具の名称やその扱い方、試薬の調製法、実験データの整理の仕方などを学ぶ。実験内容としては、まず、定性試験では糖質とアミノ酸の呈色反応を、定量実験では中和滴定を行う。次にクロマトグラフィーでは吸着クロマトグラフィーである薄層クロマトグラフィーと、分配クロマトグラフィーであるペーパークロマトグラフィーを行う。その他、緩衝作用の強さの測定、ポリフェノール量の測定、塩析・電気泳動法によるタンパク質の分離を行う。

到達目標:

・それぞれの実験の原理や反応について理解する

・実験へ積極的に参加し、様々な器具の取り扱いに慣れる

・レポート(目的、序論、方法、結果、考察、感想、参考文献)が書けるようになる

授業方法:

一人またはグループで実験を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 基礎①研究倫理について、実験器具の名称と取り扱い方 基礎②数値の取り扱い方 基礎③酸、塩基の取り扱い方、試薬の調製法	
2.	糖、アミノ酸、タンパク質および脂質の呈色反応 ①説明、試薬の調製 ②定性分析(糖、アミノ酸、タンパク質) ③定性分析(脂質)	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬や反応について、あらかじめ辞典や参考書などを用いて性質など調べておく。
3.	中和滴定(食酢中の酢酸濃度測定) ①説明、試薬の調製 ②中和滴定(水酸化ナトリウムの力価測定) ③中和滴定(食酢中の酢酸濃度の測定)	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。中和滴定について原理を学んでおく。
4.	薄層クロマトグラフィー(トマトに含まれるアミノ酸の分離) ①説明、ガラス細工 ②試薬・試料の調製 ③薄層クロマトグラフィー	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。薄層クロマトグラフィーについて原理を学んでおく。
5.	分配クロマトグラフィー(ビタミンB2とビタミンB12) ①説明、試薬の調製 ②ペーパークロマトグラフィー、吸収スペクトルとモル吸光係数の測定 ③分配比の測定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。ペーパークロマトグラフィー、吸収スペクトル、モル吸光係数について調べて学んでおく。
6.	食品中のポリフェノール量の測定 ①説明、試料の調製 ②ポリフェノール量の測定 ③結果のまとめ(検量線作成、計算)	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。食品中に含まれるポリフェノールについてどのようなものがあるか調べておく。
7.	緩衝値βの測定 ①説明、緩衝値βの測定 ②緩衝値βの測定(つづき) ③結果のまとめ(グラフ作成、計算)	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。緩衝作用とはどのような性質なのか、緩衝作用を持つ物質にはどのような特徴があるのか調べておく。
8.	血清タンパク質の分離(塩析法と電気泳動法) ①説明、試薬の調製 ②塩析法による血清タンパク質の分離 ③電気泳動、デンストメーターによる解析	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。血清や塩析、電気泳動についてあらかじめ辞典や参考書などを用いて調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出されたレポートは、添削し、返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	85	目的、序論、方法、結果、考察などレポートに必要な項目が書けているかを評価する
	授業への参加度	15	出席および実験に取り組む態度を評価する

教科書:

研究室で作成した実験書を配布する。

参考書:

図書館にある実験に関する書籍を都度利用すること

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、実験の前後に実験室内で対応

授業テーマ:

管理栄養士が知っておきたい「社会福祉」の基礎的専門知識

授業の概要:

「社会福祉」という言葉は、心理的・個別的援助、アドボカシー、仲裁、社会計画、地域組織化、社会資源の発掘とその発展への努力等々、直接的に人びとの生活支援に焦点づけられた言葉として、また国政レベルでの政策策定や地方自治体レベルでの行政活動を中心にして間接的に人びととその生活支援活動の客観的条件を整備する言葉として多様に使われている。担当者は、毎回の授業テーマの設定に際して、本教科が管理栄養士養成課程において開講される科目であることに留意しながら展開する。子ども、高齢者や傷病・障害がある人の家庭や地域の問題を「社会福祉」の視点から考察し、保健・医療・福祉・保育・介護システムの概要について管理栄養士が知っておきたい基礎的専門知識の獲得を目指す。

到達目標:

管理栄養士が知っておきたい「社会福祉」の基礎的専門知識を修得する。

授業方法:

スライドやDVD教材を活用しながら具体的かつ経験的に修得できるようにしていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 社会福祉の概念と歴史	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	2. 社会福祉の施設・機関、法と行財政―高齢者施設を中心に―	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	3. 社会福祉の方法・技術―家族ソーシャルワークを中心に―	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	4. 社会福祉の専門職および関連職種―国家資格、任用資格、公的資格など―	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	5. 貧困、医療・介護問題と生活保障	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	6. 社会福祉実践（ソーシャルワーク）の固有性、意義と目標	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	7. 子ども・配偶者虐待への援助・介入活動―事例検討：A子のケース―	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	8. 少年非行の法と臨床―事例検討：B子のケース―	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	9. 子どもの病気と医療（病棟）保育	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	10. 子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援事業計画	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	11. 高齢者介護と家族（在宅）支援	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	12. 高齢期の住宅・居住環境対策とくらしのデザイン	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	13. 障がい乳幼児の療育と家族（親）支援	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	14. 世界の社会福祉―北米の社会福祉―	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
	15. 世界の社会福祉―東アジアの社会福祉―	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	30	出席を含む授業への参加・態度およびレポートの内容 ルーブリックを用いた達成度評価
	定期試験	70	

教科書:

くらしに活かす福祉の視点―学生・ボランティアが知っておきたい基礎知識―（ミネルヴァ書房）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業前後に対応

授業テーマ:	給食の運営(校外実習)		
授業の概要:	学内で履修した食事計画実習や給食経営管理実習などで学んだことを基に、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する専門的知識と技術を実践活動の場で学び、体得する		
到達目標:	・適切な給食実務を行うために必要な専門的知識や技術の統合を図る ・給食サービスを提供する場における栄養士(管理栄養士)のあり方や役割、重要性を理解する ・実習終了後の報告会および事後指導に出席し各実習施設での実習内容を共有して学びを深める		
授業方法:	実習施設へおもむき実習を行う		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ・総合演習Bおよびその授業時間内に設定している給食の運営実習の事前指導にて校外実習の理解を深め、実習の目標設定および課題研究を行う。 ・福祉施設、病院、事業所等の実践活動の場において実習を行い(事前に設定した)課題解決を進める。また新たな課題発見・解決に取り組む。 ・事後指導に出席し各実習施設での実習内容を振り返りまとめる。 ・実習報告会に参加してプレゼンテーションやグループワークを行うと共に、各実習施設での実習内容を共有して、給食の運営がどのように行われているか理解を深める。	予習として ・福祉施設、病院、事業所等の実践活動の場において円滑に実習が行えるように、それぞれの施設の特徴を調べ、そこで働く栄養士(管理栄養士)の役割について理解を深めておく。 ・実習に行く前に課題研究(事前課題)を進める。 ・実践活動の場で新たな課題発見および解決ができるように、実習要録を始め、授業で習ったことを復習しておき、給食の運営に関する理解を深めておく。 ・各施設から予習課題がある場合は、その課題を行う。 復習として ・実習要録や実習報告書を完成させる。 ・実習終了後の事後指導に参加して実習の学びを深める。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	・施設によっては事前オリエンテーション等に参加する。 ・実習内容やスケジュールは個々の実習施設によって異なる。 ・実習終了後、事後指導を受けて報告会を行う(報告会の準備や運営等も含む)。 ・校外実習45時間のうち事前・事後指導時間に5時間をあてる。		
フィードバックの方法:	提出物は実習終了後に返却する。一部マナビーを使って返却することもある。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	事前指導への参加度	10	事前指導(グループワークも含む)への積極的態度和ともに提出物の内容も評価する。
	校外実習施設での実習修得	80	実習への積極的参加とともに、課題解決や新たな課題発見、課題解決への意欲や態度も評価する。
	事後指導および報告会への参加度	10	事後指導(グループワークも含む)への積極的態度和ともに校外実習要録などの提出物の内容も評価する。
教科書:	事前指導(総合演習Bなど)で配布された資料、臨地・校外実習要録、配布資料(実習施設からの指示書等)など		
参考書:	給食実務必携 第一出版 日本人の食事摂取基準 第一出版 管理栄養士・栄養士必携 第一出版 認知症ケアと予防に役立つ栄養療法 クリエイトかもがわ 保育所給食と子どものゆたかな育ち かもがわ出版		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板機能(一部担当教員)、Eメール		

授業テーマ:	臨床栄養学実習Ⅰ(臨地実習)		
授業の概要:	学内で履修した授業や実習などで学んだことを基に、医療機関における栄養管理業務を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学ぶ		
到達目標:	・医療機関における栄養部門の役割や組織を知る ・傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理を行えるよう、栄養アセスメントに基づいた栄養管理計画の作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解する ・医療機関における栄養部門の役割を理解する		
授業方法:	病院へおもむき実習を行う		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 実践活動の場(病院)で課題発見・問題解決に取り組み、専門的知識および技術の統合を図る。 ・医療における管理栄養士のあり方、役割、重要性について理解する。 ・傷病者の栄養管理に必要な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について理解する。 ・医療施設の組織と栄養部門の機能について理解する。 ・患者との面談や種々の医療職種とのコミュニケーションを通じて、患者中心の医療やチーム医療のあり方を学ぶ。 ・実習終了後に反省会を行い、各実習施設での実習内容を共有することで学びを深める。 ・施設によっては事前オリエンテーション等に参加する。 ・実習内容やスケジュールは個々の医療機関によって異なる。 ・実習終了後、事後指導を受けて報告会を行う(報告会の準備や運営等も含む)。 ・臨地実習45時間のうち実習事前指導および実習終了後の事後指導計5時間を含む。	準備学習等の内容 総合演習Bにおいて十分な予習を行うとともに、各実習施設からの予習課題を行ったうえで、臨地実習に臨む。 復習として、事後指導を受けるとともに各グループ単位で実習内容のプレゼンテーションを行う。さらに実習要録や実習報告書を作成する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出物は実習後返却する。一部マナビーを使って返却することもある。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 事前指導への参加度 校外実習施設での実習修得 事後指導および報告会への参加度	割合 10 80 10	評価基準 事前指導(グループワークも含む)への積極的態度和ともに提出物の内容も評価する。 実習への積極的参加とともに、課題解決や新たな課題発見・課題解決への意欲や態度も評価する。 事後指導(グループワークも含む)への積極的態度和ともに校外実習要録などの提出物の内容も評価する。
教科書:	実習要録 配布資料(プリント等)		
参考書:	エッセンシャル臨床栄養学 日本食品標準成分表 管理栄養士技術ガイド 日本人の食事摂取基準 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール		

授業テーマ:	臨床栄養学実習Ⅱ(臨地実習)		
授業の概要:	学内で履修した授業や実習で学んだことを基に、医療機関における栄養管理を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学ぶ		
到達目標:	・傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理について理解を深める ・医療・介護制度やチーム医療における管理栄養士の役割、業務について理解を深める		
授業方法:	病院へおもむき実習を行う		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 ・実践活動の場(病院)で、栄養管理を総合的にとらえて課題発見・問題解決に取り組み、専門的知識および技術の統合を図る。 ・栄養管理の実施におけるチーム医療・職種間の連携の具体例について経験する。 ・患者とのコミュニケーションをとりながら栄養管理およびその効果の評価を行う。 ・症例の検討を通して、個別栄養管理のアプローチ法を学ぶ。 ・実習終了後に反省会を行い、各実習施設での実習内容を共有することで学びを深める。	準備学習等の内容 総合演習Bにおいて十分な予習を行うとともに、各実習施設からの予習課題を行ったうえで、臨地実習に臨む。復習として、事後指導を受けるとともに各グループ単位で実習内容のプレゼンテーションを行う。さらに実習報告書、実習要録を作成する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	・臨床栄養学実習Ⅰ(臨地実習)と連続して実習を行なう。受け入れ施設数が限られているため受講者の調整を行なう場合がある。 ・上記授業内容は例であり医療機関により実習スケジュールや内容は異なる。 ・臨地実習45時間の内、実習事前指導および実習終了後の事後指導計5時間を含む。		
フィードバックの方法:	提出物は実習終了後に返却する。一部マナビーを使って返却することもある。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 事前指導への参加度 校外実習施設での実習修得 事後指導および報告会への参加度	割合 10 80 10	評価基準 事前指導(グループワークも含む)への積極的態度和ともに提出物の内容も評価する。 実習への積極的参加とともに、課題解決や新たな課題発見・課題解決への意欲や態度も評価する。 事後指導(グループワークも含む)への積極的態度和ともに校外実習要録などの提出物の内容も評価する。
教科書:	実習要録 配布資料(プリント等)		
参考書:	エッセンシャル臨床栄養学 日本食品標準成分表 管理栄養士技術ガイド 日本人の食事摂取基準 糖尿病食品交換表		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール		

給食經營管理實習(臨地實習)

小松 龍史、今井 具子、神田 知子、片井 加奈子、倉橋 優子

授業テーマ: 給食経営管理実習(臨地実習)

授業の概要： 学内で履修した授業や実習で学んだことを基に、医療部門における給食経営管理を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学ぶ

到達目標：
・給食の運営や関連の資源（食品流通、食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、衛生面全般のマネジメントを行う能力を養う。
・組織管理や品質管理などのマネジメントの基本的な考え方を学ぶ。

授業方法: 病院へおもむき実習を行う。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	・病院の実践の場において、給食経営管理を行う管理栄養士の業務を理解し、課題発見、問題解決に取り組む。 ・給食全般のマネジメントができるよう視野を広げ、特定の業務(調理作業の分析、喫食者訪問、食材料の管理、衛生管理、食事オーダーなど)について検討する。 ・喫食者のアンケートや業務のプロセス評価など給食経営に必要な種々の評価法を知る。 ・給食経営に必要なコンピュータシステムの概要を知り、システムの利用が栄養部門業務にどのような効果や影響をもたらしているかを考察する。 ・実習終了後に反省会を行い、各実習施設での実習内容を共有することで学びを深める。	総合演習Bにおいて十分な予習を行うとともに、各実習施設からの予習課題を行ったうえで、臨地実習に臨む。 復習として、事後指導を受けるとともに各グループ単位で実習内容のプレゼンテーションを行う。さらに実習報告書、実習要録を作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス：
臨床栄養学Ⅰ(臨地実習)と連続して医療機関において実習する。本実習は臨床栄養学Ⅱ(臨地実習)との二者択一となるため受講者の調整を行なう場合がある。
医療機関により実習スケジュールや内容は異なる。
臨時実習45時間の内、事前指導および実習終了後の事後指導計5時間を含む。

フィードバックの方法: 提出物は実習終了後に返却する。一部マナビーを使って返却することもある。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	事前指導への参加度	10	事前指導(グループワークも含む)への積極的態度和ともに提出物の内容も評価する。
	校外実習施設での実習修得	80	実習への積極的参加とともに、課題解決や新たな課題発見・課題解決への意欲や態度も評価する。
	事後指導および報告会への参加度	10	事後指導(グループワークも含む)への積極的態度和ともに校外実習要録などの提出物の内容も評価する。

教科書: 実習要録 配布資料(プリント等)

参考書: 日本食品標準成分表
管理栄養士技術ガイド
日本人の食事摂取基準
糖尿病食品交換表第7版

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール

授業テーマ：

栄養の基本的概念及びその意義を理解する

授業の概要：

健康な生活を営むためには適切な栄養摂取が不可欠であり、市場に出回る多種多様な食品の中から適正な食品を選択する能力が求められている。そこで、人が生命を維持し、健康を保ち、活動するために食物として摂取する栄養素は生体内でどのように変化し、エネルギー源や身体構成成分として利用されるのかを学び、健康の保持増進、疾病の予防における栄養の役割について学ぶ。

到達目標：

栄養の概念、日本人の食生活の現状、摂食行動と生体リズム、消化吸収のメカニズム、糖質・脂質・たんぱく質の代謝と相互変換、糖質・脂質・たんぱく質の栄養的役割について理解することを目標とする。

授業方法：

授業は教科書と配布プリントを用い、パワーポイントで示しながら講義形式で行う。単元終了毎に小テストを行って理解の定着を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 栄養の概念とその歴史	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	2. 栄養と健康(日本の食生活の現状、生活習慣病)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	3. 摂食行動(摂食の調節、食欲)、食事のリズムとタイミング	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	4. 消化器系器官の構造と機能	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	5. 口腔、胃における消化と小腸膜消化と吸収	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	6. 大腸における発酵・吸収と機能性非栄養成分	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	7. 糖質の栄養(1)(糖質の体内代謝、糖質代謝の臓器差)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	8. 糖質の栄養(2)(血糖とその調節)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	9. 糖質の栄養(3)(他の栄養素との関係)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	10. 脂質の栄養(1)(脂質の臓器間輸送、脂質代謝の臓器差)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	11. 脂質の栄養(2)(食後・食間期の脂質代謝、コレステロール代謝の調節)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	12. 脂質の栄養(3)(脂質の量と質の評価、必須脂肪酸)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	13. たんぱく質の栄養(1)(たんぱく質・アミノ酸の代謝)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	14. たんぱく質の栄養(2)(半減期、アミノ酸の臓器間輸送)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：

本科目は、同時に開講されている「生化学」の講義内容と密接に関係するので、その内容を自分で結び付けて理解すること。授業に先立ち、教科書の関連ページを熟読すること。復習としては、授業で得た知識を整理しノートにまとめる。理解できないことは、そのままにせず、参考図書で確認したり、積極的に質問すること。

フィードバックの方法：

単元終了毎に行う小テストについては、テスト終了後すぐに解説を行って知識の定着を図る。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	到達目標の摂食行動と生体リズム、消化吸収のメカニズム、糖質・脂質・たんぱく質の代謝と相互変換、糖質・脂質・たんぱく質の栄養的役割に関する知識と理解度により評価する。
	小テスト	30%	それぞれの単元内容に関する知識と理解度により評価する。
教科書：	「新食品・栄養科学シリーズ 基礎栄養学」第4版(化学同人)		

参考書：

他の出版社から出版されている基礎栄養学関係の本を参考にするとよい。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法：

授業の前後に教室内で、または研究室で応対

授業テーマ:	栄養の基本的概念及びその意義を理解する
授業の概要:	健康な生活を営むためには適切な栄養摂取が不可欠であり、市場に出回る多種多様な食品の中から適正な食品を選択する能力が求められている。そこで、人が生命を維持し、健康を保ち、活動するために食物として摂取する栄養素は生体内でどのように変化し、エネルギー源や身体構成成分として利用されるのかを学び、健康の保持増進、疾病の予防における栄養の役割について学ぶ。
到達目標:	たんぱく質の栄養については、基礎栄養学Ⅰで解説済みであるので、Ⅱではその栄養価の判定について理解する。糖質、脂質、たんぱく質の栄養と関連づけて、ビタミン、無機質および水分・電解質の栄養学的な機能および作用機構について理解する。エネルギー代謝について、また、栄養と遺伝素因との関係についても学び、生体反応の個人差を理解し、個別対応の栄養教育を行う上での基礎的な知識を習得することを目指す。
授業方法:	授業は教科書と配布プリントを用い、パワーポイントで示しながら講義形式で行う。単元終了毎に小テストを行って理解の定着を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	たんぱく質の栄養価	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
2.	ビタミンの栄養(1)(脂溶性ビタミンA、D)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
3.	ビタミンの栄養(2)(脂溶性ビタミンE、K、水溶性ビタミンB1)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
4.	ビタミンの栄養(3)(水溶性ビタミンB2、B6、ナイアシン、パントテン酸)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
5.	ビタミンの栄養(4)(水溶性ビタミン葉酸、B12、ピオチン、C)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
6.	無機質の栄養(1)(無機質の分類と一般的機能)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
7.	無機質の栄養(2)(カルシウム、リン、マグネシウム、フッ素、ナトリウムと塩素、カリウム)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
8.	無機質の栄養(3)(鉄、銅、ヨウ素、マンガン、セレン、亜鉛、クロム・モリブデン、硫黄)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
9.	水・電解質の代謝(1)(生体内での水の機能と水の出納)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
10.	水・電解質の代謝(2)(電解質の代謝)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
11.	エネルギー代謝(1)(エネルギー代謝の概念とエネルギー消費量)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
12.	エネルギー代謝(2)(エネルギー代謝の測定法及び臓器別エネルギー代謝)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
13.	遺伝子発現と栄養(1)(遺伝形質と栄養の相互作用)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
14.	遺伝子発現と栄養(2)(後天的遺伝子変異と栄養素・非栄養素成分)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 本科目は、同時に開講されている「生化学」の講義内容と密接に関係するので、その内容を自分で結び付けて理解すること。授業に先立ち、教科書の関連ページを熟読すること。復習としては、授業で得た知識を整理しノートにまとめる。理解できないことはそのままにせず、参考図書で確認したり、積極的に質問すること。

フィードバックの方法: 単元終了毎に行う小テストについては、テスト終了後すぐに解説を行って知識の定着を図る。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	到達目標のたんぱく質の栄養価、ビタミンおよび無機質の栄養、水・電解質の代謝、エネルギー代謝、遺伝子発現と栄養に関する知識と理解度により評価する。
	小テスト	30%	それぞれの単元内容に関する知識と理解度により評価する。

教科書: 「新食品・栄養科学シリーズ 基礎栄養学」第4版(化学同人)を使用する。

参考書: 他の出版社から出版されている基礎栄養学関係の本を参考にするとよい。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で、または研究室で対応

授業テーマ:

調理過程を科学的に理解する。

授業の概要:

食品を衛生的に栄養的に摂取するため手法や調理過程でおこるさまざまな成分の反応、またはおいしさについて科学的に学ぶ。

到達目標:

調理の意義・目的を理解する。
植物性食品および動物性食品の調理による変化を科学的に理解する。
調理操作、調味操作について科学的に理解する。
食事計画(献立作成)の概要を理解する。
食文化(特に和食)について調理との関係を理解する。

授業方法:

講義形式で行う。必要に応じてプリント、パワーポイント教材などを用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 調理学の概要 意義、調理学の目的と範囲 調理と嗜好性1 食べ物のおいしさに関与する要因と変動	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	2. 調理と嗜好性2 嗜好の評価 植物性食品の調理性1 炭水化物の基礎	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	3. 植物性食品の調理性2 米、小麦粉の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	4. 植物性食品の調理性3 その他穀類・雑穀の調理 いも類、豆類・種実類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	5. 植物性食品の調理性3 野菜・山菜・果実類の調理 海藻・キノコ類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	6. 動物性食品の調理性1 タンパク質の基礎、食肉類の調理 魚介類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	7. 動物性食品の調理性2 魚介類の調理 卵類、乳類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	8. その他食品1 でんぷんの調理 脂質の基礎・油脂の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	9. その他食品2 ゲル化食品(ゲル形成素材)の調理 調味料1 砂糖の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	10. 調味料2 食塩、しょうゆ、みその調理 食酢類、だし類(うま味料) 香辛料の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	11. 飲料類 アルコール、茶、コーヒー、飲料水 調理操作論1 調理操作の基礎・非加熱調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	12. 調理操作論2 加熱操作	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	13. 調理操作論3 調味操作 調理設備・器具・エネルギー源	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	14. 食事計画論 食事の意義・役割、種類 日常食・特別食の食事計画	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
	15. 調理文化論 日本・外国の食文化 まとめ	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度 ＋小テスト(レポート)	20	質問に答えるなど積極的に授業に参加し、なおかつ調理による食品の変化に関する知識、理解度により評価する。
	定期試験	80	到達目標である調理による食品の変化、調理の意義、食文化について科学的かつ論理的に説明できるかを基準に評価する。

教科書:

下村道子・和田淑子編著「新調理学」(光生館)
※調理科学実習Iで購入している場合は、改めて購入する必要はない。

参考書:

山崎清子ほか編著「新版 調理と理論」(同文書院)
木戸詔子・池田ひろ編著「新食品・栄養科学シリーズ 調理学第3版」(化学同人)
洪川祥子・畑井朝子編著「ネオエスカ 調理学」(同文書院)
「食品成分表」日本食品標準成分表2015(七訂)のデーターベース使用の書籍(女子栄養大)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

分析力、思考力、自己管理力
授業の前後に教室内で対応 あるいはオフィスアワー

授業テーマ:

保健統計と疫学の基本的な考え方を理解し、手法や問題点を学ぶ。

授業の概要:

社会・環境と健康に関する公衆衛生の課題について、実習書と教科書を用いて説明する。受講生は情報処理機器を使用して実習する。レポートは次の実習日に提出する。2～7回目の実習では、上記の内容に加えて6名程度のグループに分かれ、グループ毎に質問紙調査の企画、目的や仮説の設定、調査票の作成、プリテスト、実査、集計、解析、報告書作成までを行う。8回目にパワーポイントを用いた報告会を実施する。

到達目標:

実習書を熟読して、情報処理機器を適切に使いこなすことができるようになる。
Word、Excelを用いて、わかりやすい図表の示し方とレポート・報告書の書き方を習得する。
プレゼンテーションの資料作成手順や発表の作法を習得する。

授業方法:

パワーポイントによる実習内容の説明とデモンストレーションを行う。受講生は情報処理機器を使用して、実習書に従って課題を実習する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと保健統計 1) 実習概要の説明と諸注意 2) 主な保健統計情報の収集方法と活用 (1) 公衆衛生学実習A全体の基本事項及び内容の説明、実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習
2.	データ収集・標本抽出方法、データの種類と尺度、調査票の作成 (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
3.	データ解析(1): 単純集計、クロス集計、代表値、散布度 (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
4.	データ解析(2): 散布図、分割表、相関係数、統計的推論、回帰分析 (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
5.	疫学に使用する指標の算出 (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
6.	記述疫学研究、分析疫学研究(横断研究) (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
7.	分析疫学研究(コホート研究、症例対照研究)、介入研究、バイアスと交絡 (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
8.	まとめ (1) まとめ (2) まとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前に各回の実習箇所を一読し、内容を理解した上で授業に出席すること。
実習の進め方やレポートの書き方等、詳しいことは第1回目の授業で説明する。
レポート提出が遅れた場合は減点の対象とする。

フィードバックの方法:

レポートはコメントをつけて返却する。
教室でまとめて解説する場合もある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習への積極的参加度と実習態度	40	積極的に実習に参加し、実習書に従って情報処理機器を使用できるかを評価する。グループ学習では、自分の役割を踏まえて適切なプレゼンテーション資料を作成しているかを評価する。
	レポート	60	実習した内容に関して、Word、Excelを用いてレポートを作成する。仕上がり度合と独自の視点があるかを評価する。

教科書:

福富和夫他著「保健統計・疫学」改訂5版（南山堂）

参考書:

日本疫学会監修「はじめて学ぶ やさしい疫学 ―疫学への招待―」改訂第2版（南江堂）
村松幸・中山健夫編集「栄養科学シリーズ NEXT 公衆衛生学」第3版（講談社サイエンティフィク）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

種々の実験手法を学ぶとともに、環境、食の安全について考える

授業の概要:

われわれの生活の周辺には、温度、空気、水、騒音などの物理的環境要因、農薬、有害金属、食品添加物などの化学的環境要因、動植物、微生物などの生物学的環境要因が存在し、それらが相互に関連し合って人間の健康に影響を与えている。本実習では、近郊の河川水や市販の食品を試料とし、河川水の水質検査、食品添加物の定性・定量分析、油脂の変質試験、食品や河川水中の菌数の測定、室内環境の測定を行い、環境や食の安全に関する知識を修得する。また、種々の化学実験手法や微生物実験の手法について学ぶ。

到達目標:

・種々の化学実験、微生物実験、環境測定実験の分析手法を習得している。

・環境や食の安全に対して関心を持ち、実験内容を理解している。

・実験結果より科学的根拠に基づいた考察ができ、適切な報告書の作成ができる。

授業方法:

1グループ5～6名程度で実験を行う。初回到全般についての説明や諸注意を行う。毎回当日の実験内容の解説を行った後、グループ単位で実験を行う。各回の実験レポートは次の実験日に提出する。提出したレポートは添削後、再提出を求めることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション ①公衆衛生学実習B全体の実験の基本事項およびレポートの書き方の説明 ②公衆衛生学実習B全体の実験内容の説明 ③マイクロピペッターの使い方の練習と確認実験	配布されたテキストを一読し、理解を深めておく。
2.	水質試験:亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、アンモニア性窒素、COD、リン酸性リン、pH ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ	実験箇所を一読して実験内容を理解し、テキストの検量線の作成部分の空欄を埋めておく。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
3.	食品添加物の定性分析:ソルビン酸、亜硫酸塩、着色料(天然着色料、合成着色料) ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ	実験箇所をあらかじめ一読し、実験内容を理解した上で、授業に出席する。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
4.	食品添加物の定量分析:亜硝酸塩の定量 ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ	実験箇所を一読して実験内容を理解し、テキストの検量線の作成部分の空欄を埋めておく。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
5.	油脂の変質試験:チオバルビツール酸価、酸価 ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ、微生物実験の準備	実験箇所をあらかじめ一読し、実験内容を理解した上で、授業に出席する。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
6.	食品及び環境中の微生物試験:一般生菌数、大腸菌群 ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ	実験箇所を一読して実験内容を理解し、テキストの空欄のシャーレ枚数を記入しておく。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
7.	室内環境の測定:気温、気湿、気動(気流)、二酸化炭素、一酸化炭素、粉じん、騒音、照度 ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ	実験箇所をあらかじめ一読し、実験内容を理解した上で、各班測定箇所を考えておく。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
8.	まとめ ①各班室内環境の測定結果の比較・報告会 ②まとめ	室内環境の測定結果のまとめを行い、各班の結果比較に備える。比較報告をすることにより行った実験内容をより深く理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実験手技を習得するだけでなく、実験に関連した内容や法律についての理解を深めるよう努めてください。また、毎回のレポート作成により、実験結果から考察できる能力を養うとともに、将来必要となる報告書や論文の書き方を学んでほしいと思います。

フィードバックの方法:

提出レポートは添削後、不備やミスがあった場合はコメント付きで次の実験日に返却し、再提出を求める。また、全員の添削結果もその折、教室でまとめて解説し、レポート作成の注意点を指導する。コメント付の採点レポートの返却は全てのクラスの実験終了後に行う。

「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習への積極的参加度と実習態度	40	実験中の実験への取り組み態度より到達目標である実験手技の修得、実験への理解度を評価する。
	レポート	60	レポートより到達目標である実験への理解力、考察能力、報告書作成能力を評価する。レポート提出が遅れた場合は減点の対象とする。

教科書:

研究室作成のテキストを配布

参考書:

保田仁資「食品衛生学実験」東京化学同人
蔵楽正邦・松村學・栗原文男・叶多謙蔵・小林とこ子「環境衛生学実験」第2版 建帛社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

随時研究室内で対応する。

授業テーマ:

臨床病態学の実践

授業の概要:

管理栄養士として正しく理解しておくことが栄養指導に不可欠である疾患を取り上げ、カルテの読み方や検査データの見方を具体的な症例を通して学び、グループごとに発表し、その内容について質疑応答を行うことにより理解を深める。食物アレルギー対応の社会的ニーズが高まっている中で管理栄養士として理解すべき正しい知識と対応を身につけることができることを目指す。

到達目標:

1. カルテの読み方、データの読み方、正しい情報の得方を学び、内容をクラスメートに正しく伝える
2. 疾患の病態と治療の理解
3. 集団における食物アレルギー児への対応と個別対応の違いを理解する
4. 食物アレルギー対応のための食事は特別なものではないことを理解し、栄養面の充足をする方法を具体的に学ぶ

授業方法:	グループ学習と発表	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 実習の説明 課題の配布と説明 課題作成の要点の説明 担当症例の決定 2. 6つの疾患について、グループごとに要点をまとめ、発表の準備をする 3. 担当者による症例提示と病態、治療についての発表とそれに対する質疑応答 1. クロウン病 2. 潰瘍性大腸炎 4. 担当者による症例提示と病態、治療についての発表とそれに対する質疑応答 3. 肝硬変による肝不全 4. 胃がんの術前術後管理と栄養障害 5. 担当者による症例提示と病態、治療についての発表とそれに対する質疑応答 5. 慢性腎臓病と腎不全 6. 高血圧 6. 食物アレルギーの疫学、病態、対応の理解 容器包装された加工食品のアレルギー表示の読み方についての実習 7. 安全な食物アレルギー対応食を提供するための工夫についてグループごとに話し合い、その結果を発表 (保育所給食、学校給食、病院給食、給食提供会社における対応) 8. 持参した卵、牛乳、小麦を使用しない献立の内容を栄養価も含めて幼児期に適したものかどうかをグループごとに検証し、修正したものを発表	準備学習等の内容 配布資料を熟読 担当症例についてのデータを熟読し、病態、治療をまとめて発表の準備をする 担当症例についてのデータを熟読し、病態、治療をまとめて発表の準備をする 担当症例についてのデータを熟読し、病態、治療をまとめて発表の準備をする 配布資料に基づく予習 加工食品のアレルギー表示例の収集 配布資料に基づく予習 給食提供における安全な食物アレルギー対応食の提供の原則を各自まとめておく 卵、牛乳、小麦を使用せずに幼児期の栄養面の充足を図った献立の作成と栄養価の計算による検証

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

実習時間中に発表内容について訂正やコメントをすることによりフィードバックする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席および授業態度	60	出席点 8点x7+4点=60点 スマホ、内職などは1回につき4点減点
	症例発表の評価	20	正しい情報を得て発表できるかどうかを評価
	食物アレルギー対応に関する評価	20	食物アレルギー対応の理解度と、食物アレルギー児の栄養学的特性をふまえた献立作成ができるかどうかを評価

教科書:

伊藤節子編著 臨床病態学 化学同人(臨床病態学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで使用しているもの)

参考書:

必要な資料は実習中に配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

実習時間中に適宜

授業テーマ:

ヒトの身体の生理的機能について実験を通して理解する。

授業の概要:

解剖生理学で学んだ知識を実験により確認し、栄養学を理解し応用するためのヒトの身体の構造と機能について理解を深める。
唾液アミラーゼ活性の測定は、各自の唾液を用いて1人ずつ行う。感覚器系の実験は、2人1組になって行う。赤血球数、白血球数の測定は、こちらで準備したラットの新鮮血を用いて1人ずつ行う。ラットの解剖は1グループ、2匹のラットを解剖する。尿検査は、グループで2人の尿を採取して行う。

到達目標:

①消化器系の実験では各自の唾液アミラーゼを用いて実験を行い、消化全般について理解する。
②感覚器系の実験では体性感覚である重量感覚と空間閾値、味覚について理解する。
③血液検査、尿検査を通してそれぞれの検査項目の臨床的意義を理解し、栄養指導における活用を考える。
④ラットの解剖を通してヒトの身体の構造および機能について理解する。
⑤実験は、グループでの共同作業である。グループの中で、積極的に実験に関わり、協力して実験を進めることができること。

授業方法:

解剖生理学実験は1単位の実験であるので、実験回数は3コマ続きで7.5回である。8回目はその0.5回分に相当する。1グループ6～7名で実験を行う。初回に実験項目全般についての内容を説明し、以後は当日の実験操作上の注意点を述べる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 解剖生理学実験に関する全体説明 (1)実験に際しての諸注意 (2)解剖生理学実験全体の内容説明 (3)レポート作成について、試薬の濃度計算テスト	
	2. 消化器系実験(唾液アミラーゼによる消化ーアミラーゼ活性の測定、唾液腺の消化能力の差の測定ー) (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験 (3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。
	3. 消化器系実験(唾液アミラーゼによる消化ー唾液アミラーゼの最適pH、熱安定性ー) (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験 (3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。
	4. 感覚器系実験(味覚) (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験 (3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。
	5. 感覚器系実験(空間閾値及び重量感覚) (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験 (3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。
	6. 血液検査(赤血球数、白血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリット値、血液及び血漿の比重) (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験 (3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。検査項目についてヒトの基準値を調べておくこと。
	7. ラットの解剖(ラットの解剖を通して人体の構造・機能を考える) (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験 (3)実験及び結果のまとめ、実験終了時には動物の霊に対して感謝し黙祷を捧げる	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。
	8. 尿検査(尿の一般性状) (1)実験操作の説明及び実験 (2)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実験には、事前にテキストを読み、実験操作をノートにフローチャートで作成して臨むこと。内容については、すでに1年次の解剖生理学で学んだことなので、教科書を読んで予習しておくこと。レポートは指定した日時までに提出すること。実習の進め方やレポートの書き方等、詳しいことは第1回目の授業で説明する。
事前連絡なしの欠席遅刻は厳禁とする。
レポート提出が遅れた場合は減点の対象とする。

フィードバックの方法:

レポートはコメントをつけて返却する。不備のある場合は再提出を求める。
教室でまとめて解説する場合もある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む実験への積極的態度	45%	到達目標⑤を踏まえ、実験操作予習の有無、実験内容の理解度、実験態度により評価する。
	レポート	50%	到達目標①～④を踏まえ、全ての項目について序論、方法、結果、考察、参考文献が適切に記載されていることにより評価する。
	小テスト	5%	試薬の濃度計算の理解度により評価する。

教科書:

研究室作成の「解剖生理学実験」を配布する。

参考書:

実験内容に関係するすべての本が参考となる。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業前後に実験室内で対応

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

微生物、植物、動物などを対象に、遺伝子組換えなどによるより有用な性質を持つ個体を育種する技術について解説する。また、これらの技術の安全性と、社会に及ぼす影響について考える。さらに、作物中から染色体を抽出し、特定のDNA配列の検出技術に触れる。

到達目標:

①遺伝子工学などの手法を利用した有用生物の開発について理解を深める。
②基礎的な遺伝子工学の操作ができるようになる。

授業方法:

「コメ品種のDNA鑑定の実際」では実験操作のデモンストレーションを含む演習形式、その他は講義形式で行う。自分で調べた論文の内容について口頭で発表する。
演習的内容に関しては90分の授業枠には収まらないため、隔週で2コマ連続で行うことがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	遺伝子組換え、細胞融合などによる新規作物の開発について (全体的なオリエンテーション)	
2.	遺伝子組換え技術とPCRの原理	PCRの原理について実験書を調べておくこと。
3.	遺伝子組換え技術に関連する文献の検索	
4.	文献の発表と方法論の検討	調べた論文の内容についてわかりやすく解説できるよう発表準備をすること。 実験書を熟読して予習しておくこと。
5.	コメ品種のDNA鑑定の実際 (作物中からのゲノムDNAの抽出-1)	
6.	コメ品種のDNA鑑定の実際 (作物中からのゲノムDNAの抽出-2)	実際に操作した内容について、実験ノートに整理しておくこと。
7.	コメ品種のDNA鑑定の実際 (ゲノムDNAの精製-1)	実験書を熟読して予習しておくこと。
8.	コメ品種のDNA鑑定の実際 (ゲノムDNAの精製-2)	実際に操作した内容について、実験ノートに整理しておくこと。
9.	コメ品種のDNA鑑定の実際 (ゲノムDNAの定量-1)	実験書を熟読して予習しておくこと。
10.	コメ品種のDNA鑑定の実際 (ゲノムDNAの定量-1)	実際に操作した内容について、実験ノートに整理しておくこと。
11.	コメ品種のDNA鑑定の実際 (PCRによる目的遺伝子の増幅-1)	実験書を熟読して予習しておくこと。
12.	コメ品種のDNA鑑定の実際 (PCRによる目的遺伝子の増幅-2)	実際に操作した内容について、実験ノートに整理しておくこと。
13.	コメ品種のDNA鑑定の実際 (目的遺伝子の電気泳動-1)	実験書を熟読して予習しておくこと。
14.	コメ品種のDNA鑑定の実際 (目的遺伝子の電気泳動-2)	実際に操作した内容について、実験ノートに整理しておくこと。
15.	結果の評価および発表	実験ノートを基に、得られた結果について説明できるよう準備しておくこと。最終的にレポートにまとめて提出すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

実験原理や結果の発表に際して、その場で解説を加え内容を補完する。
レポートは添削して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	到達目標①については序論での調べ物を通じて、②については方法、結果、考察の記述により達成度合いを評価する。
	発表	30	到達目標①②に照らして、自分が理解した内容をわかりやすく説明できるかを評価する。
	授業への参加度	20	到達目標②について毎回予習をしたうえで演習に臨んでいるか授業中の態度により評価する。

教科書:

必要に応じてプリント等を配布する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

水溶性コロイドとしての食品素材のレオロジー特性と反応過程、モデル解析と反応機構

授業の概要:

基礎的な数学(指数・対数・微分)の知識と学部レベルの食品物性学の理論的知識(テクスチャー、応力-ひずみ特性、クリープ特性のための解析モデルなど)、それらに応用した食品物性学実験(解析を含む)の経験を踏まえ、食品素材である多糖類やタンパク質の水溶性コロイドの性質をレオロジー的側面から研究する方法論を実例に沿って習得する。特に、食品ハイドロコロイドがゲル化や糊化・老化などの動的な変化、すなわち反応状態にあるとき、その過程を速度論的に捉える考え方と解析法を身につけさせ、反応機構についても考察させる。

到達目標:

学部レベルの食品物性学の理論的知識と実験・解析経験に、より高度で精細な取扱いを積み上げ、研究レベルを向上する。

授業方法:

講義に加えて、データ解析に取り組ませることで、実践的な研究訓練を施す。場合によっては、機器を使った実験を経験させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	物体の圧縮変形と力学：ひずみと応力	教科書「食品物性学」第2章「物体のひずみと応力」と「食物学のための数学と物理」第3章を復習する。
2.	応力-ひずみ特性(初期弾性率、破断・テクスチャー特性)	「食品物性学」第3章「固状食品の応力-ひずみ特性」を復習する。
3.	破断測定とテクスチャー測定(実験と解析)	「食品加工・物性学実験」第1, 2章を復習し、持参する。
4.	クリープ特性と粘弾性要素(数学的補足：微分)	「食品物性学」第4章「固状食品のクリープ特性(静的微小変形)」4.2節と「食物学のための数学と物理」第3章を復習する。
5.	粘弾性(Maxwell と Voigt) モデル(数学的補足：微分方程式)	「食品物性学」4.3, 4.4節と「食物学のための数学と物理」第1～4章を復習する。
6.	4要素モデル(理論)	「食品物性学」4.5, 4.6節を復習する。
7.	クリープ曲線の 4要素モデル解析(実例による演習)	「食品物性学」4.6節と「食品加工・物性学実験」第2章を復習する。
8.	ずりひずみとずり応力・ニュートン流動と粘度・非ニュートン流動	「食品物性学」第5章「液状食品の流動特性」を読む。
9.	物体の振動変形(数学的補足：三角関数)	高校数学の「三角比」を復習し、「食品物性学」第6章「食品の動的粘弾性(微小振動変形)」を 6.1.2節まで読む。
10.	動的粘弾性：貯蔵弾性率と損失弾性率	「食品物性学」第6章「食品の動的粘弾性(微小振動変形)」6.1.3節「貯蔵弾性率と損失弾性率」と 6.1.4節「動的粘弾性とゲル化」を読む。
11.	実例：ヒエ・タピオカ・ヤマモミ混合麺の応力-ひずみ特性と評価	配付資料(論文等)を読む。
12.	実例：牛乳/豆乳- κ -カラギーナン混合系のゲル化過程(動的粘弾性)とゲルの応力-ひずみ特性に及ぼす pH と Caイオン添加の影響	配付資料を読む。
13.	実例：デンプンの等温熱水糊化における粘度増大過程に対する反応速度解析と糊化機構	配付資料を読む。
14.	実例：デンプンの等室温NaOH糊化における粘度増大過程に対する反応速度解析と糊化機構	配付資料を読む。
15.	実例：デンプンの等温熱水および室温NaOH糊化における動的粘弾性の変化と糊化/ゲル化移行現象	配付資料を読む。

受講者へのメッセージやアドバイス:

学部で食品物性学を学んだ人は、理論や実験・解析レポートを復習しておいてください。初めて、この分野を学ぶ人は事前に学部の「食品物性学」の教科書を手に入れ予習しておいてください。これらを理解するためには、学部の「食物学のための数学と物理」で扱う程度の「指数・対数関数とその微分」の知識と運用力が必要です。

フィードバックの方法:

提出物を返却し、講評・解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常点	70%	出欠席状況と小テストなどの採点結果
	レポート(発表)	30%	完成度

教科書:

「食品物性学」(自著、学部用教科書として同女生協で販売、所持者は新規購入不要)
「食品加工・物性学実験」(自著、学部用教科書として同女生協で販売、所持者は新規購入不要)
各回の授業テーマに沿った論文などの配付資料

参考書:

「食物学のための数学と物理」(自著、学部用教科書として同女生協で販売、所持者は新規購入不要)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

随時、研究室で。

授業テーマ:

食物栄養科学関連データの統計学的解析と解釈

授業の概要:

食物栄養科学の研究にあたって必要となるデータ収集の方法およびその統計学的解析方法を解説するとともに、受講者各自が統計解析ソフトSPSSを使用して、データ処理と解析を実習形式で習得する。授業では各自の研究テーマで困っているデータ処理の事例や悩んでいる解析等についても、ケーススタディとして取り上げて解決法を探る。

到達目標:

食物栄養科学関連のデータを統計学的に解析し、その結果を解釈する能力を得ることを目標とする。すなわち、
1) 栄養調査や臨床検査等のデータを集団として評価して、その意味を解釈することができる
2) 集団の中における個人の位置を的確に評価して、その意味を解釈することができる
3) 集団間の種々の指標の差の比較を行い、評価して、その意味を解釈することができる
4) 集団間、種々の指標間の関連を解析し、評価して、その意味を解釈することができる
5) 観察集団に存在する偏りや、観察値の誤差を評価して、その意味を解釈することができる
6) 栄養指導等の介入前後の種々の指標の変化を解析し、評価して、その意味を解釈することができる
7) 疫学的手法の初歩を理解する
8) 上記の解析を行うために統計ソフト(SPSS) を使うことができる
ことを到達目標とする。

授業方法:

講義と演習(コンピュータによるSPSSを使用した課題演習) により進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	母集団と標本集団	教科書の通読 (復習に重点を置くこと)
2.	分布の把握と代表値(統計量)ーヒストグラム、箱ひげ図、散布図、クロス分割表、平均値・分散・標準偏差、標準誤差、変動係数、中央値、パーセント点、最頻値	教科書の通読・高校数学の復習 (復習に重点を置くこと)
3.	測定 の 尺度、検定と推定	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
4.	標本集団の観察データから母集団の平均値、割合を推定するー信頼区間	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
5.	標本集団間の平均値の比較ーStudent t検定、分散分析、多重比較の問題	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
6.	標本集団間の平均値の比較ーStudent t検定、分散分析、多重比較の問題	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
7.	標本集団間の割合・分布の比較ーカイ2乗検定、Fisherの正確確率検定、カテゴリ変数に関するWilcoxonの順位和検定	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
8.	「対応のある」標本の比較ーpaired t検定、符号付きWilcoxon順位和検定	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
9.	くり返し測定の評価	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
10.	関連の評価ー相関係数、順位相関係数、オッズ比	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
11.	量反応関係の評価方法ーCochrane-Armitage検定、回帰分析等	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
12.	系統誤差とランダム誤差、信頼性と妥当性	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
13.	偏りと交絡	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
14.	疫学的手法と因果推論	教科書・参考文献の通読 (復習に重点を置くこと)
15.	まとめ ただし、受講学生の進達度に応じて適宜修正することがある。	これまでの疑問点をまとめておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

研究を遂行するにあたり、各自がデータ収集の方法や解析の方法をいろいろと試行していると思われる。その中で見つけた具体的な課題をもって講義に臨むことが望ましい。

フィードバックの方法:

少人数の対面式の授業なので、講義と実習の都度、各自の理解度合いを確認して進行する。また、レポートを通して理解不足の点をフィードバックする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	40	
	レポート	60	取り組み方と正答率

教科書:

岸学 『SPSSIによるやさしい統計学 第2版』<紙版書籍> (オーム社) 東京

参考書:

市原清志 『バイオサイエンスの統計学ー正しく活用するための実践理論』 (南江堂) 東京
石村貞夫 『SPSSIによる統計処理の手順』 (東京図書) 東京
石村貞夫 『SPSSIによる分散分析と多重比較の手順』 (東京図書) 東京
石村貞夫、子島潤 『SPSSIによる線形混合モデルとその手順』 (東京図書) 東京

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

第1講時にEメールアドレスを知らせる。

授業テーマ:	食品成分変化の分子生化学的理解		
授業の概要:	食品化学、食品生化学分野の最近の進展やトピックスについて学び、食品成分及びその変化と生体機能の関わりについて分子レベルで理解を深める。		
到達目標:	食品成分と生体機能の関わりについて分子レベルで理解する。 トピックスについて調査、発表、討論する技能を身につける。		
授業方法:	配布プリント資料などを使って進める講義及び成書や英語原著論文の購読と発表を含む演習を行う。 受講者が目指している専門分野とこれまでの学習背景を考慮して授業計画は変更することもある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業計画、分子生化学について	特になし。	
	2. 酸素と生体	前回までの復習。	
	3. 酸素の化学、活性酸素、ラジカル	演習発表の準備。	
	4. 食品成分の化学変化－脂質の酸化その1	前回までの復習。	
	5. 食品成分の化学変化－脂質の酸化その2	演習発表の準備。	
	6. 食品成分の化学変化－たんぱく質の酸化	前回までの復習。	
	7. 食品成分の化学変化－糖質の酸化	演習発表の準備。	
	8. 食品成分の化学変化－核酸の酸化	前回までの復習。	
	9. 食品成分の化学変化－ビタミンの酸化	演習発表の準備。	
	10. 食品成分の化学変化－色素成分の酸化	前回までの復習。	
	11. 食物関連生活習慣病と活性酸素 その1	演習発表の準備。	
	12. 食物関連生活習慣病と活性酸素 その2	前回までの復習。	
	13. 酸化防御機構 その1	演習発表の準備。	
	14. 酸化防御機構 その2	前回までの復習。	
15. 食事設計と機能性食品その1	演習発表の準備。		
16. 食事設計と機能性食品その2	前回までの復習。		
17. まとめ	前回までの総まとめ。		
受講者へのメッセージやアドバイス:	発表を求めるのでその準備が必要である。		
フィードバックの方法:	教室内でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50%	トピックスについて、食品成分と生体機能の関わりが分子レベルで理解できているか、また、調査結果のまとめりと仕上がりがり度合を評価する。
	発表、討論	50%	準備学習の度合、発表技能・態度、討論へ意欲を評価する
教科書:	資料プリントを配布。 本を使用する場合は授業中に示す。		
参考書:	井上正康 〔編著〕:『活性酸素と医食同源』、共立出版 仁木悦雄・野口範子・内田浩二 〔編〕:『酸化ストレスマーカー』、学会出版センター など適宜示す。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で応対。 オフィスアワー(U311b)で応対。		

694160

食品生理活性物質分析論

山田 恭正

授業テーマ:	色、味、香に関する食品成分の化学構造と感覚機能(食品の第二次機能)、そして二次機能成分の機器分析法とデータの解析			
授業の概要:	食品の色、味、香に関する研究は化学、生理学、神経科学、脳科学の広範囲に渡って多角的に行われている複合分野である。本科目では食品に由来する色、味、香に関する物質科学の観点から授業を行い、研究に必要な機器分析について学習する。			
到達目標:	食品に由来する機能性物質のうちで、食品の第二次機能成分を取り上げる。食品の第二次機能とはヒトの感覚器に訴える機能のことで、色、味、香に関する成分が、その研究対象である。特に味覚、嗅覚を刺激する食品成分の化学構造と感覚機能、そして機器分析の方法について理解を深めることを目標とする。			
授業方法:	講義、また理解を促すためにテーマと関連のある外書や文献の講読を行う。また、二次機能成分の機器分析によって得られたデータの見方、解析法に関する演習を行う。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容		
	1. 味覚物質の種類と性質(五基本味)	味覚物質の種類と性質(五基本味)について学部で使用した教科書の復習		
	2. 味覚物質の種類と性質(五基本味)	味覚物質の種類と性質(五基本味)に関する英文教材の講読		
	3. 味覚物質の種類と性質(五基本味)	味覚物質の種類と性質(五基本味)に関する英文教材の講読		
	4. 五基本味以外の味覚に関連する食品成分	五基本味以外の味覚に関連する食品成分について下調べ		
	5. 香気成分の種類と性質	香気成分の種類と性質について学部で使用した教科書の復習		
	6. 香気成分の種類と性質	香気成分の種類と性質に関する英文教材の講読		
	7. 香気成分の種類と性質	香気成分の種類と性質に関する英文教材の講読		
	8. 視覚情報に関連する生体分子	視覚情報に関連する生体分子について下調べ		
	9. 質量分析MSの種類と原理	質量分析MSの種類と原理について下調べ		
	10. 質量分析MSの種類と原理	質量分析MSの種類と原理に関する英文教材の講読		
	11. ガスクロマトグラフ質量分析計GCMSの構成	ガスクロマトグラフ質量分析計GCMSの構成について下調べ		
	12. ガスクロマトグラフ質量分析計GCMSの利用	ガスクロマトグラフ質量分析計GCMSの利用に関する英文教材の講読		
	13. ガスクロマトグラフ質量分析計GCMSの利用	ガスクロマトグラフ質量分析計GCMSの利用に関する英文教材の講読		
	14. MSスペクトル(マスフラグメンテーション等)の解析	MSスペクトル(マスフラグメンテーション等)の解析に関する英文教材の講読		
	15. まとめ	MSスペクトル(マスフラグメンテーション等)の解析について復習		
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業後に知識を系統的に整理するための復習が大切である。また、自主的にインターネットなどを利用して食品の二次機能に関連する境界領域の進展を理解する姿勢を養う。			
フィードバックの方法:	必要に応じて授業中に面談			
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	授業中の発表	30	討論とプレゼンテーションの内容	
	課題レポート	70	最新の文献紹介等のまとめ方	
教科書:	プリントを配布			
参考書:				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力			
教員との連絡方法:	オフィスアワーに直接面談			

授業テーマ:

環境汚染物質の動態を知ることにより、環境汚染やヒトへの健康影響を考える

授業の概要:

物質による環境汚染の影響を理解し、対策を進めるためには、汚染状況や発生源を明らかにし、環境動態を把握する必要がある。重金属やダイオキシンなど多様な物質の具体的な汚染状況、環境中での挙動および化学的特性を知ることにより、ヒトへの健康影響も推察することができる。また、環境や人体中のこれら物質を正確に測定することにより、環境汚染物質の環境中での挙動やヒトの健康に及ぼす影響を評価することができる。本授業では、人間の生活に影響する環境汚染物質と健康との関わりについて考え、理解を深めることを目的とする。

到達目標:

・環境汚染物質の動態と健康影響について理解している。

・環境汚染物質の動態と健康影響についてディスカッションができる。

・環境汚染物質の動態と健康影響についての確かなプレゼンテーションができる。

授業方法:

パワーポイントや配布資料を用いた講義とグループディスカッションにより、各課題に対する知識を深める。その後、関連する文献を各自で検索し、資料としてまとめて発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	汚染物質の環境中における動態および生物濃縮	授業でわからなかった専門用語については、各自で調べて、理解を深めておく。
2.	重金属の環境動態	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
3.	重金属の健康影響(1)	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
4.	重金属の健康影響(2)	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
5.	重金属の環境動態と健康影響－文献調査、発表	1～4回目の内容に関連する文献を検索し、資料としてまとめて発表できるよう準備をする。発表後のディスカッションで生じた疑問点について、解決しておく。
6.	有機塩素化合物の環境動態	業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
7.	有機塩素化合物の健康影響	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
8.	ダイオキシン類の環境動態	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
9.	ダイオキシン類の健康影響	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
10.	有機塩素化合物の環境動態と健康影響－文献調査、発表	6～7回目の内容に関連する文献を検索し、資料としてまとめて発表できるよう準備をする。発表後のディスカッションで生じた疑問点について、解決しておく。
11.	ダイオキシン類の環境動態と健康影響－文献調査、発表	8～9回目の内容に関連する文献を検索し、資料としてまとめて発表できるよう準備をする。発表後のディスカッションで生じた疑問点について、解決しておく。
12.	内分泌かく乱物質の環境動態	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
13.	内分泌かく乱物質の健康影響	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
14.	内分泌かく乱物質の環境動態と健康影響－文献調査、発表	12～13回目の内容に関連する文献を検索し、資料としてまとめて発表できるよう準備をする。発表後のディスカッションで生じた疑問点について、解決しておく。
15.	まとめ	1回目～14回目までの内容について総合的にディスカッションをするので、充分復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

幅広い分野の専門知識を持つことは、自分が目指す専門分野で独創性や創造性を発揮するためには不可欠です。知識を深めるよう積極的に授業に参加してください。

フィードバックの方法:

ディスカッションの時間を設け、意見交換を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	40	環境汚染物質の動態と健康影響について理解した上でディスカッションに参加しているかを評価する。
	レポート	30	環境汚染物質の動態と健康影響について適切な説明ができているかを基準とする。
	発表	30	環境汚染物質の動態と健康影響について深く理解した上で発表しているかを基準とする

教科書:	資料を配布する。
参考書:	水川薫子・高田秀重 著「環境汚染化学ー有機汚染物質の動態から探る」丸善出版 桜井 弘 編「生命元素事典」オーム社 その他 関連資料および文献などを適宜紹介
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力
教員との連絡 方法:	随時研究室内で対応する。

授業テーマ:

授業の概要: 担当者が、今まで食品プロセス学の研究者として行ってきた研究の履歴につき講義し、加工食品をどのように研究対象として捉えるかにつき教授する。関連論文などを紹介し、幅広く食品プロセス学に関する理解を深める。

到達目標: 1. 食品プロセス学とは、どのような研究分野であるのか理解できるようになる。
2. 食品をどのように捉えるれば、研究となるのかその方法が分かるようになる。
3. 研究論文の体裁を理解できる。
4. 研究論文を読み解くすが身につく。
5. 自分の力で研究論文を書き上げる能力が向上する。

授業方法: 担当者が著した論文(ほぼ英文)を読み合わせしながら順次説明および討議する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 活性酸素が、タンパク質ゲル状食品の品質を改良する -ビタミンCの食品品質改良効果- 導入	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	2. 活性酸素が、タンパク質ゲル状食品の品質を改良する -ビタミンCの食品品質改良効果- (卵白アルブミンを用いて)	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	3. 活性酸素が、タンパク質ゲル状食品の品質を改良する -ビタミンCの食品品質改良効果- (魚肉筋原繊維タンパク質を用いて)	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	4. 活性酸素が、タンパク質ゲル状食品の品質を改良する -ビタミンCの食品品質改良効果- (小麦タンパク質、大豆タンパク質などを用いて)	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	5. 何故、鶏のクリーム煮を真空調理法で加熱するとホワイトソースの分離が生じるのか? -その機構-	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	6. ヒアルロン酸は、冷凍変性防止剤として使用できるのか? -ヒアルロン酸の新たな機能性-	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	7. 前半まとめ	1-6の項目に付き予めまとめておくこと。
	8. マッピング法による最適化条件の検索 -膨化劣化が生じないシューペーストの製造法-	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	9. 糖化鶏肉タンパク質の機能改変 -その歴史- (魚肉に糖を付加させると機能改変が生じる)	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	10. 糖化鶏肉タンパク質の機能改変 -その実践- (魚より安定性の高い恒温動物の肉(鶏肉)では、どのような機能改変が生じるのか)	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	11. 糖化鶏肉タンパク質の機能改変 -その実践- (マッピング法を用いて、機能性を最大限に引き出す試み)	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	12. 低温加熱による肉質軟化機構	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	13. トマト中に存在するアンギオテンシンI交換酵素阻害物質の検索	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	14. 本当に鉄剤をお茶で飲んででは、いけないのか? -女子大生を対象とした調査について-	こちらで準備した関連論文につき、読んでおくこと。
	15. 後半まとめ	8-14の項目に付き予めまとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 論文を読み解きながら、討議をすることでその場でフィードバックして行く。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む授業への参加・態度	100	論文内容を十分理解できているかを評価基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー以外の時間でも、講義・実験実習・会議などがなければ研究室にあります。随時お訪ね下さい。

授業テーマ:

食嗜好を左右する要因を探るために必要な知識と評価方法を身につける。

授業の概要:

味覚、嗅覚に関する基礎知識と食品官能評価の基礎を講義で概説した後、受講生自身で、これらに関する一次文献を検索し、文献の理解に必要な統計学、心理学、生理学的な知識を自ら補充しつつ、内容をパワーポイントにまとめて発表する。また、自らテーマを決めて、模擬官能評価を実施する。

到達目標:

- ・味やにおいの認識メカニズムを理解できる。
- ・学術論文に記載された研究内容を理解できる。
- ・目的に応じた官能評価を計画立案できる。

授業方法:

1～5回までは講義を行い、6～9回は論文紹介準備と論文紹介、10～15回は模擬官能評価の実施とまとめを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. この授業の進め方に関する説明（受講生の受講目的も確認する） 2. 【講義】味やにおいの認識メカニズム ①感覚器について	この講義を受講する目的を簡単にまとめておく。
2.	2. 【講義】味やにおいの認識メカニズム ②味覚・嗅覚の認識メカニズム（開始時に前回の疑問点を確認する）	前回の授業内容を簡潔にまとめ、疑問点を解消しておく。解消できなかった疑問点を挙げておく。
3.	3. 【講義】食嗜好を左右する要因について（開始時に前回の疑問点を確認する）	前回の授業内容を簡潔にまとめ、疑問点を解消しておく。解消できなかった疑問点を挙げておく。
4.	4. 【講義】食品官能評価法 ①準備（開始時に前回の疑問点を確認する）	前回の授業内容を簡潔にまとめ、疑問点を解消しておく。解消できなかった疑問点を挙げておく。
5.	4. 【講義】食品官能評価法 ①準備 ②解析（開始時に前回の疑問点を確認する）	前回の授業内容を簡潔にまとめ、疑問点を解消しておく。解消できなかった疑問点を挙げておく。
6.	5. 【講義】文献の探し方（開始時に前回の疑問点を確認する） 6. 紹介用論文の検索 講義内容で興味をもった内容に合致した一次文献を検索し、紹介用論文を決定する。	前回の授業内容を簡潔にまとめ、疑問点を解消しておく。解消できなかった疑問点を挙げておく。ここまでの講義内容で興味をもった項目を3つ挙げておく。
7.	7. 論文紹介準備 参考文献を用いて、紹介用論文の内容を十分に理解し、PPを用いて内容紹介ができるよう準備する。	紹介用論文を決定し、あらかじめ入手しておく。
8.	7. 論文紹介準備 参考文献を用いて、紹介用論文の内容を十分に理解し、PPを用いて内容紹介ができるよう準備する。	前回の授業時間でできなかった準備を補っておく。
9.	8. 論文紹介 論文紹介と質疑応答	PPを使った発表ができるように、準備する。
10.	9. 【講義】模擬官能評価の進め方 10. 模擬官能評価計画書作成 随時、担当教員と相談しながら作成する。	どんな官能評価を実施したいか、目的等を自分なりに整理しておく。
11.	11. 模擬官能評価準備 随時、担当教員と相談しながら準備する。	計画書の不十分な点を補い、完成させておく。
12.	12. 模擬官能評価の予備試験 予備試験を実施し、検査方法が適切か確認する。不適切な箇所があった場合は修正する。	予備試験の具体的な手順をまとめておく。
13.	13. 模擬官能評価の実施	模擬官能評価が適切に実施できるように具体的な手順をまとめておく。
14.	14. 模擬官能評価結果の解析	模擬官能評価の生データを整理しておく。
15.	15. 模擬官能評価総括（発表） 模擬官能評価についてPPを使って発表。	模擬官能評価の目的から考察までを発表できるようPPを作成しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

不確かなことがあれば、随時、担当教員に相談すること。

フィードバックの方法:

講義: 授業開始時に、前回の講義の疑問点を受講生から挙げてもらい、その場で解説する。
発表: 発表終了後の質疑応答の中でコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50%	講義開始時に実施する前回講義の振り返りによって、学びへの積極性と理解度を判断する。 模擬官能評価の取り組みによって、官能評価の計画立案力を評価する。
	発表	50%	文献紹介発表によって、学術論文の理解力を評価する。 模擬官能評価のまとめの発表によって、官能評価に対する理解度を判断する。

教科書:

適宜、資料を配布

参考書:

日本官能評価学会編『官能評価士テキスト』建帛社
今田純雄著『食べることの心理学』有斐閣選書
大越ひろ・新宮英夫編著『食の官能評価入門』光生館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、授業前後に教室内にて対応

授業テーマ:

栄養管理・給食管理におけるPDCAサイクルと食事摂取基準の活用

授業の概要:

栄養管理・給食管理におけるPDCAサイクルと食事摂取基準の適用「日本人の食事摂取基準」は何をどれくらい食べればよいかを示した食事摂取量のガイドラインである。しかし、給食管理において食事摂取基準をどのように活用するかについては実践的な研究報告が少なく、科学的根拠が不足している。マネジメントサイクルに沿った栄養管理や給食管理業務において、食事摂取基準を活用するための留意点や限界などにも触れ、実践するための考え方を学ぶ。

到達目標:

(1) 栄養管理・給食管理に関連する文献の発表を行い、自分の考えを説明できる

授業方法:

講義とディスカッションにより行う。また、関連する文献や研究をまとめて紹介する課題を与える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 食事摂取基準の基本的知識について解説する。	
	2. 栄養管理・給食管理におけるPDCAサイクルと食事摂取基準の適用について解説する。	
	3. 食事摂取量の把握方法について解説する。(1) 食事記録法、24時間思い出し法、陰膳法	
	4. 食事摂取量の把握方法について解説する。(2) 食物摂取頻度調査票、食事歴法質問票	【予習】関連論文を発表するための文献を検索し、発表の準備を行う
	5. 栄養計画、食事計画と品質管理の精度について解説する。	
	6. PDCAサイクルに基づく保育所給食の栄養管理・給食管理について解説する。	
	7. PDCAサイクルに基づく学校給食の栄養管理・給食管理について解説する。	【予習】関連論文を発表するための文献を検索し、発表の準備を行う
	8. PDCAサイクルに基づく事業所給食の栄養管理・給食管理について解説する。	
	9. PDCAサイクルに基づく一般治療食患者等の栄養管理・給食管理について解説する。	
	10. 高齢者および障がい者施設における栄養管理・給食管理について解説する。	【予習】関連論文を発表するための文献を検索し、発表の準備を行う
	11. 栄養管理報告書に基づく栄養管理実施状況の評価について解説する。	
	12. 給食管理において食事摂取基準を活用する上での問題点、限界について解説する。	
	13. 栄養管理・給食管理に関する研究事例紹介(1) 学内実習の研究事例	【予習】関連論文を発表するための文献を検索し、発表の準備を行う
	14. 栄養管理・給食管理に関する研究事例紹介(2) 学校給食、事業所の研究事例	
	15. 栄養管理・給食管理に関する研究事例紹介(3) 病院、福祉施設の研究事例	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席を含む授業への参加・態度	50%	授業に積極的に参加し、自分の考えが述べられているかを基準とする。
	課題の発表	50%	到達目標(1)の理解度を基準とする。

教科書:

プリントを用いる。

参考書:

「PDCAサイクルと食事摂取基準による栄養管理・給食管理」建帛社
「日本人の食事摂取基準」第一出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

調理による食品の機能性の変化について学ぶ

授業の概要:

食品はほとんどの場合、生ではなく調理することによって食されている。調理操作(主に加熱調理)により、食品のもつ特性は、物理的・化学的変化を起こし、嗜好性だけでなく、栄養性・機能性を向上させる。伝統的な食事として今日まで受け継がれてきた調理法は、その食品のおいしさを最大限に引き出し、栄養的にも優れた調理法であることが明らかにされつつある。この講義ではこれまで学んだ調理科学を基礎とし、調理操作による食品の機能性(一次機能、二次機能、三次機能)への影響について資料や論文を紹介しながら理解を深める。

到達目標:

調理による食品の変化を栄養学的・物性学的・組織学的観点から理解する。
調理と水の関係を理解する。
食文化と調理の関係を理解する。

授業方法:

配布資料、教材を用いた講義とディスカッション、および演習(プレゼンテーション)を行う。
可能であれば、実験実習を行う場合もある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品の機能性	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。15回目のプレゼンテーションに向けて、論文を検索しておく。
2.	調理機能学とは	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
3.	加熱調理操作について(基礎)	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
4.	調理形態と栄養1(ビタミン)	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
5.	調理形態と栄養2(ミネラル・その他)	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
6.	調理による食品物性の変化	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
7.	調理による食品組織の変化	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
8.	加熱調理と植物性食品	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
9.	加熱調理と動物性食品	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
10.	加熱調理と調味料	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
11.	調理と食文化	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
12.	調理と水1(水の硬度について)	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
13.	調理と水2(水の硬度と西洋料理)	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
14.	調理と水3(水の硬度と和食)	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
15.	まとめ(プレゼンテーション) 授業にかかわる内容の論文について、レジュメを用いて発表を行う。	授業にかかわる内容の論文について、レジュメを作成しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ディスカッション・積極性	60	到達目標の栄養学的・物性学的・組織学観点から発言しているかを評価する。
	プレゼンテーション	40	選択した論文について、論理的に説明できるかを基準に評価する。

教科書:

こちらから配布する資料

参考書:

「食品調理機能学」田村真八郎、川端晶子編著 建帛社
「新しい食学をめざして 調理学からのアプローチ」吉田集而、川端晶子編著 建帛社
「光琳選書(6)調理と水」久保田昌治、石谷孝佑、佐野洋編著 光琳
「クッカリサイエンス001 加熱上手はお料理上手」日本調理科学会監修 建帛社
「クッカリサイエンス002 だしの秘密」日本調理科学会監修 建帛社
「クッカリサイエンス003 野菜をミクロの眼で見る」日本調理科学会監修 建帛社

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応 あるいはオフィスアワー

授業テーマ:

病態時のエネルギー・たんぱく質代謝等を踏まえた栄養管理の基本と栄養ケア・プロセスの活用

授業の概要:

臨床における栄養管理を行う際のバックグラウンドとなる専門的知識や技術について、エビデンスの収集を組み込みながら、考察していく。水分・電解質管理、エネルギー消費量の評価、たんぱく質必要量の推計など、学部教育より深めた基礎知識の習得を図ったうえで、栄養管理のプロセスへの応用力を習得させるためにグループワークを含めた授業を展開する。

到達目標:

基礎分野および臨床分野におけるエネルギーやたんぱく質の栄養状態の管理に加え、浮腫・脱水に關与する水の管理の重要性と対処法を理解し、チーム医療において管理栄養士が適切に栄養管理の役割を果たせる知識と技術を養う。国際標準化された栄養ケアプロセスを理解しつて応用できる能力を養う

授業方法:

講義またはグループ討議を行う。講義時間の最初に講義予定範囲の中からテーマを提示し、そのテーマに沿ったグループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. 脱水や浮腫、下痢など水分および電解質の管理を必要とする場合の基礎知識	2. 輸液や経腸栄養における水分、電解質管理の実際	脱水・浮腫のメカニズムを調べておく
	3. 人のエネルギー消費量推計方法の理論と実際(1) 間接熱量測定	関連専門書で知らべておく
	4. 人のエネルギー消費量推計方法の理論と実際(2) 間接熱量測定	特になし
	5. 傷病者のエネルギー代謝変動(1) 周術期、クリティカルケア	特になし
	6. 傷病者のエネルギー代謝変動(2) COPD、感染症、癌など	各疾患のエネルギー変動に関するエビデンスを収集・評価しておく。
	7. 人のたんぱく質必要量に関する基礎理論と実際(1) 窒素出納試験	各疾患のエネルギー変動に関するエビデンスを収集・評価しておく
	8. 人のたんぱく質必要量に関する基礎理論と実際(2) 臨床応用	日本人の食事摂取基準に採用されているたん白質推定平均必要量の根拠を調べておく。
	9. 人のたんぱく質必要量に及ぼす身体活動や生体因子の影響	臨床分野の文献検索をしておく
	10. 人のたんぱく質必要量とエネルギー代謝の関係	臨床分野の文献検索をしておく
	11. 栄養制御の手段としての栄養ケアプロセス(1) 概念	栄養ケアプロセス用語マニュアルを確認しておく
	12. 栄養制御の手段としての栄養ケアプロセス(2) 栄養アセスメントに基づく栄養診断	栄養診断用語を整理しておく
	13. 栄養制御の手段としての栄養ケアプロセス(3) 栄養介入	栄養介入の実際について、事例研究を行っておく
	14. 症例検討	症例をあらかじめ提示するので、栄養管理プロセスに準じて栄養管理計画を立ててくる
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

特に予習を行っていないと、グループ討議(ディスカッション)が成立しない。文献検索を丁寧に行うこと。

フィードバックの方法:

授業時の討論を通してフィードバックします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60%	上記到達目標に関する知識や理解度により評価する
	ディスカッション	40%	グループワークを通したディスカッションにおいて上記到達目標を達成するための積極性と根拠のある発言ができているかを評価する

教科書:

参考書:

たんぱく質・アミノ酸の新栄養学 岸恭一・木戸康博編(講談社サイエンティフィック)
国際標準化のための栄養ケアプロセスマニュアル 日本栄養士会監訳(第一出版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後またはオフィスアワーにて対応します

授業テーマ:	食物アレルギー		
授業の概要:	食物アレルギーの基礎から臨床まで、特に栄養指導に必要な食物の抗原性についての理解を深め、食物アレルギー児に関わる専門職に求められることを具体的に学ぶ		
到達目標:	食物アレルギー児に関わる専門職に求められることを具体的に学ぶことにより、個別対応、給食対応を可能にする		
授業方法:	セミナー形式で行う		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 食物アレルギーの定義と分類	教科書の熟読	
	2. 食物アレルギーの症状と疫学	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	3. 食物アレルゲンの特徴	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	4. 食物アレルギーの診断	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	5. 食物アレルギーが起こる仕組み	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	6. 食物荒れるイーが治る仕組み	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	7. 食物アレルギー児の経過	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	8. 食物アレルギーの治療の基本	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	9. 原因療法としての食事療法	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	10. 調理による食物の低アレルゲン化(鶏卵)	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	11. 調理による食物の低アレルゲン化(その他の食物)	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	12. 食物アレルギー児の献立作成の基本	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	13. 誤食を起こさないための給食提供	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	14. 対症療法	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
	15. まとめ	教科書の熟読 発表内容のまとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	前回授業のフィードバックを毎回の授業中に行う		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表内容	70	毎回のセミナー中の発表内容で評価する
	レポート	30	課題に対するレポートの内容で評価する
教科書:	伊藤節子 乳幼児の食物アレルギー 診断と治療社		
参考書:	適宜文献を用意する(授業中に配布)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業後および研究室訪問		

授業テーマ:			
授業の概要:	教科書に沿って概略を習得した後、最新論文より関連するトピックスを議論します。		
到達目標:	個人、集団レベルの栄養状況を把握するためには食事調査が重要である。食事調査の種類とその特徴を理解し、得られた食事データの意味と疫学的解析の手法を理解する。また栄養と深く関わる身体計測、生理データ、遺伝子、環境と栄養との関連を学び、栄養疫学研究から得られた知見のヘルスプロモーションへの応用について理解を深める。		
授業方法:	講義と関連文献の講読、討論を行う。受講生の数によるが、3週に1度程度、各学生が論文発表を行う予定。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 栄養疫学の概要	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	2. 食物と栄養素	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	3. 食事調査方法の種類とその特徴	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	4. 食事調査とIT	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	5. 食パターンを考える	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	6. 生体指標の信頼性	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	7. 生体指標の信頼性	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	8. 身体計測、生理データの種類と信頼性	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	9. 研究デザインの種類と特徴	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	10. 研究デザインの種類と特徴	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	11. 栄養疫学からヘルスプロモーションへ1 エコロジカルスタディの動向	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	12. 栄養疫学からヘルスプロモーションへ2 栄養疫学と施策)	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	13. 栄養疫学からヘルスプロモーションへ3 栄養疫学と社会貢献	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	14. データ解析の実際	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	15. 栄養疫学のこれから	教科書の該当する章を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	教科書を事前に予習してきてください。授業内で紹介した関連文献等より、論文紹介をしてもらいます。興味を持った多くの論文に触れるようにしておいてください。	
フィードバックの方法:	授業中の討論や論文紹介についてコメントします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	論文紹介	50	論文紹介の内容、準備状況、プレゼンについて評価します。
	討論	30	論文紹介でのディスカッションについて評価します。
	授業態度	10	他学生の論文紹介への参加態度を評価します。
	出席状況	10	出席数を点数化し、欠席・遅刻は減点します。
教科書:	第2版 食事調査のすべて 栄養疫学 田中平三監訳、Walter Willett原著 第一出版		
参考書:	食事評価法マニュアル 市川博充翻訳 Frances E Thompson原著 医歯薬出版 1997年 わかりやすいEBNと栄養疫学 佐々木敏 同文書院 2008年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、授業の前後に教室内で対応します		

授業テーマ:

真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして

授業の概要:

21世紀は、少子・高齢社会の時代であるとともに、男女共同参画社会＝ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)社会形成の必然性をもった時代でもある。少子・高齢社会は、人手不足・長時間労働・格差社会でもある。男女共同参画社会とは、男女が共にゆとりをもって仕事と家事・育児・介護を両立し、家庭および社会で対等にお互いを活かしあえる男女平等社会のことである。
生活経済学は、生活および生活環境との関連で、家庭経済を中心とする生活経済を主要な研究対象とする専門分野である。本演習では、真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして、(1)生活(家庭)経済が、ライフコース別、世帯形態別、ライフステージ別にどのような状況にあるのか、さらに(2)生活および生活環境から、どのような影響を受け、逆にどのような影響を与えているのか、その実態および理論と課題・対策・法制度について共同学習し研究する。生活とは家計構造・消費構造・貯蓄・負債構造の変化や女性の社会進出などの生活構造の変化である。生活環境とは、①地域経済・国民経済・国際経済・地球環境、②少子・高齢化対策や男女共同参画社会の形成などの諸環境の総体である。

到達目標:

本演習を通して、今日の生活(家庭)経済問題に対する理解を深め、それらに対する確かな問題意識と科学的な認識力および実践力を養成するとともに、研究能力およびデザイン能力、実践能力を養成する。
なお、院生は公正な研究活動を推進するため、生活科学研究科長による研究倫理教育を別途受講しなければならない。

授業方法:

本演習では、生活(家庭)経済学関連の文献・資料を採り上げ、主にゼミナール形式(レジュメの作成・輪番制報告・質疑応答・コメント・討論等)で授業を行う。その際、理解を助け深めるため、関連ビデオを適宜視聴したり、新聞記事の切り抜きなどの資料を配布し解説したりする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 打合せ	
2.	生活科学・生活経済学の研究対象と方法と目的・課題(1)報告	①報告者は、担当の論文を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメントを述べる、という報告レジュメを作成しなければならない。 ②報告者以外の人は、すべてコメンテーターとして質問やコメント、論点開示ができる程度に、指定の論文を通読・予習をしてゼミに臨まねばならない。
3.	生活科学・生活経済学の研究対象と方法と目的・課題(2)質疑応答・コメント・討論	③配布した報告関連の新聞資料等は、論文内容の理解を深めるために役立つので、しっかり精読すること。 ④コメンテーターは、少なくとも1回の質問・コメントを準備してゼミに臨まねばならない。
4.	少子・高齢社会・人手不足・長時間労働・格差社会の実態(1)報告	同上①②
5.	21世紀の少子・高齢社会と男女共同参画社会＝ワーク・ライフ・バランス社会形成の必然性(2)報告	同上①②
6.	21世紀の少子・高齢社会と男女共同参画社会＝ワーク・ライフ・バランス社会形成の必然性(3)質疑応答・コメント・討論	同上③④
7.	労働政策と女性の就業と生活経済(1)報告	同上①②
8.	労働政策と女性の就業と生活経済(2)質疑応答・コメント・討論	同上③④
9.	若年者の就労問題と生活経済(1)報告	同上①②
10.	若年者の就労問題と生活経済(2)質疑応答・コメント・討論	同上③④
11.	単身家計・共稼ぎ家計と女性の経済力(1)報告	同上①②
12.	単身家計・共稼ぎ家計と女性の経済力(2)質疑応答・コメント・討論	同上③④
13.	生涯家計と高齢期のライフステージ(1)報告	同上①②
14.	生涯家計と高齢期のライフステージ(2)質疑応答・コメント・討論	同上③④
15.	総括 くらし支援の生活経済学	

受講者へのメッセージやアドバイス:

(1)一夜漬けで丸暗記した知識や理論は、テストで良い点を取るのに役立ちますが、思考力や創造力などの向上には繋がりません。筆記をしながら、理解する努力を積み重ねて頭に刻み込まれた知識や理論は思考力や創造力の向上に繋がるとともに、問題解決や新しいものを創造する力にもなります。そこに学びの喜びがあり楽しみがあります。時間を掛けて理解する個人的な努力を怠らないで下さい。
(2)授業では、大事なことをメモしながら聴講する習慣を身に付けて下さい。集中力を維持し居眠りも防ぐことができます。

フィードバックの方法:

授業中の私のコメント・感想・討論・指導を通してフィードバック
e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jpでフィードバック

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	(1)レジュメ・報告	40%	レジュメ・報告の内容の質と量
	(2)質問・コメント・討論	30%	* 質疑応答・コメント・討論の内容の質と量 * 討論への参加度
	(3)授業態度を含む出席 席重視	30%	ゼミへの積極的参加を伴う出席数を重視

教科書:

教科書は使用しない。講義資料は、適宜、授業中に配布する。

参考書:

御船美智子編著『家庭生活の経済』放送大学教育振興会、1996年
日本家政学会家庭経済学部会編『多様化するライフスタイルと家計』建帛社、2002年
日本家政学会家庭経済学部会関東地区会編『少子高齢社会と生活経済』建帛社、2004年
日本家政学会家庭経済学部会編『規制改革と家庭経済の再構築』建帛社、2007年
伊藤セツ・川島美保共編著『三訂 消費生活経済学』光生館、2008年

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡
方法:

e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内や研究室内で対応。

授業テーマ:	服飾文化の現状と課題		
授業の概要:	近年、日本のアパレル産業やテキスタイル産業は生産拠点を海外へ写し国際競争力を追求し、その一方で日本国内の各産地は新たな局面を迎えています。本演習では、日本のファッション産業の現状を見直し、「創造的なモノづくり」という視点から服飾文化の将来の展望を考えます。はじめは講義形式ですすめ、つぎに受講生はその内容を受けて各自で対象を定めて調査し、結果の報告と意見交換によって互いの認識を深めます。		
到達目標:	①日本のファッション産業の現状を認識する。 ②調査をとおして「つくり手」の現状のなかでの対応を知る。 ③調査をとおして「つくり手」の立場から今後の課題を考える。		
授業方法:	講義、フィールドワーク、ゼミナール形式ですすめます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ファッション産業の現状		
	2. ファッション産業の現状に関する調査 ①調査の対象とテーマ	調査計画を考える	
	3. ファッション産業の現状に関する調査 ②調査	調査をすすめる結果をまとめる	
	4. ファッション産業の現状に関する調査 ③調査結果の報告と意見交換	調査をすすめる結果をまとめる	
	5. 国内産地のこころみ		
	6. 事例研究① 調査の目的と方法	調査計画を考える	
	7. 事例研究① 調査	調査をすすめる	
	8. 事例研究① 調査	調査をすすめる結果をまとめる	
	9. 事例研究① 報告と意見交換	調査をすすめる結果をまとめる	
	10. 「モノづくり」の保護と育成		
	11. 事例研究② 調査の目的と方法	調査計画を考える	
	12. 事例研究② 調査	調査をすすめる	
	13. 事例研究② 調査	調査をすすめる	
	14. 事例研究② 報告と意見交換	調査をすすめる結果をまとめる	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業内でコメントし、適宜、評価を記して返却します。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	40	授業へ積極的に参加し、自分の意見や感想を表明できるかを基準とする。到達目標①～③についてそれぞれレポートを課し、テーマの独創性、調査の精度、考察の深さなどを基準に評価します。
	レポート	60	
教科書:			
参考書:	授業中に指示します		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー マナビーの掲示板機能		

授業テーマ:			
授業の概要:	私たちは常に衣服を身につけて行動し、生活の間では多くのテキスタイルに囲まれて過ごしている。本演習では被服やテキスタイルに関わるモノ作りの視点から考察を深める。		
到達目標:	1.被服関連のモノ作りについての知見を広める。 2.豊かなくらしを指向する発想力や創造力を養う。 3.提案力・議論力を養う。		
授業方法:	課題に応じた調査および制作に各自で取り組み、その成果の発表と討論を中心に授業を進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	2. 被服デザインの基礎		
	3. 被服材料とテキスタイル		
	4. 染めの技法(1)調査・制作	染めに関する調査・制作に取り組む。	
	5. 染めの技法(2)調査・制作	染めに関する調査・制作に取り組む。	
	6. 染めの技法(3)プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備を行う。	
	7. 織りの技法(1)調査・制作	織りに関する調査・制作に取り組む。	
	8. 織りの技法(2)調査・制作	織りに関する調査・制作に取り組む。	
	9. 織りの技法(3)プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備を行う。	
	10. 被服構成の造形技法(1)調査・制作	造形技法に関する調査・制作に取り組む。	
	11. 被服構成の造形技法(2)調査・制作	造形技法に関する調査・制作に取り組む。	
	12. 被服構成の造形技法(3)プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備を行う。	
	13. 歴史的衣装にみる染織と造形技法(1)見学	見学レポートを作成する。	
	14. 歴史的衣装にみる染織と造形技法(2)ディスカッション		
	15. 総括とポートフォリオ作成		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出物は採点し、授業中に解説を加えて返却する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出物	50	到達目標1,2の理解度・習得度により評価する。
	発表とディスカッション	30	到達目標3の習得度により評価する。
	参加度	20	授業の取り組みに対する意欲、態度を評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能, Eメール		

授業テーマ:

授業の概要: 私たちが生活していく中で、その地域特有の習慣・文化などと密に接することがある。それら地域に根付いている習慣・文化などを地域資源として考え、地域資源が置かれている現状、その管理・継承について学ぶ。また、地域資源を活用したまちづくりのあり方として、観光資源として取り上げることで、多様な地域資源の管理・継承方法について学ぶ。

到達目標: ・地域資源とは何かを理解する
・地域資源が置かれている現状を把握し、今後の管理・継承のあり方について検討する

授業方法: 講義とディスカッションにより進めていく。ディスカッションは各回で取り上げる資源についてテーマを定め、そのテーマについて関心のある事柄についてまとめてくる。その内容について発表してもらい、ディスカッションを行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	地域資源とは	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
2.	地域資源の種類とその管理主体	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
3.	地域資源（自然資源と生業）	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
4.	地域資源（土地資源）	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
5.	地域資源（郷土芸能）	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
6.	地域資源（地域由来の生活様式）	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
7.	地域資源（郷土食）	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
8.	地域資源（人材）	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
9.	都市農村交流とは	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
10.	ニュー・ツーリズム	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
11.	エコ・ミュージアム	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
12.	教育的ツーリズム	授業時に課題されたキーワードについて調べ、整理しておくことを求める
13.	地域資源と都市農村交流の検討①	学んだ内容について整理しておくことを求める
14.	地域資源と都市農村交流の検討②	学んだ内容について整理しておくことを求める
15.	地域資源の問題と今後の可能性について	学んだ内容について整理しておくことを求める

受講者へのメッセージやアドバイス: 生活の中にあって当然と感じているものについて、その活かし方、残し方について、受講者の積極的な意見を期待する。

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、地域資源について理解しようと努めているかを評価する。
	レポート	50	得た知識に対し、地域資源の現状、管理・継承について理解しているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール、マナビー掲示板機能を利用

授業テーマ:

快適な居住環境と環境調査手法

授業の概要:

快適な居住環境をつくるために必要となる環境調査手法について学び、調査結果から設計解を得る手法を、実践により会得する

到達目標:

物理的・心理的に快適に過ごすために必要となる居住環境要素について学び、特に光・視環境に関する物理・心理量の把握を目的とした演習問題を課して具体例を習熟させる。

授業方法:

講義およびフィールド調査、課題発表とディスカッションによる

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	環境調査の概要と設計への応用	調査テーマの模索
2.	データ収集の基礎	データ収集手法に関する文献・資料の収集
3.	データ分析の基礎	データ収集手法に関する文献・資料の収集
4.	テーマ・目標の設定	調査テーマに基づく資料の収集、調査対象の設定
5.	関連文献調査	調査テーマに基づく資料の収集、発表準備
6.	関連文献調査結果発表	発表時のディスカッションに対する改善案の作成
7.	調査概要の立案	調査計画の具体化
8.	データ収集手法の選択	データ収集に関する各種資料の分析
9.	データ収集	データの整理・分類、データ収集に関する発表資料の作成
10.	データ収集結果発表	発表時のディスカッションに対する改善案の作成
11.	データ分析手法の選択	データ分析に関する各種資料の収集
12.	データ分析	データ分析結果の発表資料作成
13.	データ分析結果発表	発表時のディスカッションに対する改善案の作成
14.	調査結果の評価のための手法	各種評価指標に関する調査
15.	調査結果の評価・発表	発表時のディスカッションに対する改善案の作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中のディスカッションを通してフィードバックする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	20	
	調査演習の発表・議論	40	調査結果のプレゼンテーション、他者の発表時のディスカッションなど
	調査報告レポート	40	

教科書:

よりよい環境創造のための環境心理調査手法入門 日本建築学会編 技報堂出版 2000

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

e-mailによる

授業テーマ:

真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして

授業の概要:

生活経済学は、生活および生活環境との関連で、家庭経済を中心とする生活経済を主要な研究対象とする専門分野である。生活経済学は、(1)生活(家庭)経済が、ライフコース別、世帯形態別、ライフステージ別にどのような状況にあるのか、さらに(2)生活および生活環境から、どのような影響を受け、逆にどのような影響を与えているのか、その実態および理論と課題・対策・法制度について明らかにする。生活とは家計構造・消費構造・貯蓄・負債構造の変化や女性の社会進出などの生活構造の変化である。生活環境とは、①地域経済・国民経済・国際経済・地球環境、②少子・高齢化対策や男女共同参画社会の形成などの諸環境の総体である。本演習では、真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして、①国際貿易における内外価格差の問題、②輸入食品の安全性問題、③世界と日本の食料・農業問題などの生活環境問題に焦点を当て、それらの影響について共同学習し研究する。

到達目標:

本演習を通して、今日の生活(家庭)経済問題に対する理解を深め、それらに対する的確な問題意識と科学的な認識力および実践力を養成するとともに、研究能力およびデザイン能力、実践能力を養成する。
なお、院生は公正な研究活動を推進するため、生活科学研究科長による研究倫理教育を別途受講しなければならない。

授業方法:

本演習では、生活(家庭)経済学関連の文献・資料を採り上げ、主にゼミナール形式(レジュメの作成・輪番制報告・質疑応答・コメント・討論等)で授業を行う。その際、理解を助け深めるため、関連ビデオを適宜視聴したり、新聞記事の切り抜きなどの資料を配布し解説したりする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション 打合せ	
	2. 中国など新興国では、どうしてあんなにモノを超格安につくれるのか！？ ーその実態とカラクリを科学的に明らかにするー(1)報告	①報告者は、担当の論文を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメントを述べる、という報告レジュメを作成しなければならない。 ②報告者以外の人は、すべてコメンテーターとして質問やコメント、論点開示ができる程度に、指定の論文を通読・予習をしてゼミに臨まねばならない。 同上①②
	3. 中国など新興国では、どうしてあんなにモノを超格安につくれるのか！？ ーその実態とカラクリを科学的に明らかにするー(2)報告	
	4. 中国など新興国では、どうしてあんなにモノを超格安につくれるのか！？ ーその実態とカラクリを科学的に明らかにするー(3)質疑応答・コメント・討論	③配布した報告関連の新聞資料等は、論文内容の理解を深めるために役立つので、しっかり精読すること。 ④コメンテーターは、少なくとも1回の質問・コメントを準備してゼミに臨まねばならない。
	5. 日本における中国産輸入食品の超格安の実態およびメカニズムと品質・安全性問題(1)報告	同上①②
	6. 日本における中国産輸入食品の超格安の実態およびメカニズムと品質・安全性問題(2)報告	同上①②
	7. 日本における中国産輸入食品の超格安の実態およびメカニズムと品質・安全性問題(3)質疑応答・コメント・討論	同上③④
	8. 世界と日本の食料・農業問題(1)報告	同上①②
	9. 世界と日本の食料・農業問題(2)報告	同上①②
	10. 世界と日本の食料・農業問題(3)質疑応答・コメント・討論	同上③④
	11. 食品の安全性・安心性(1)報告	同上①②
	12. 食品の安全性・安心性(2)質疑応答・コメント・討論	同上③④
	13. 農水産物の輸出入の仕組み(1)報告	同上①②
	14. 農水産物の輸出入の仕組み(2)質疑応答・コメント・討論	同上③④
	15. 総括 真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして	

受講者へのメッセージやアドバイス:

(1)一夜漬けで丸暗記した知識や理論は、テストで良い点を取るのに役立ちますが、思考力や創造力などの向上には繋がりません。筆記をしながら、理解する努力を積み重ねて頭に刻み込まれた知識や理論は思考力や創造力の向上に繋がるとともに、問題解決や新しいものを創造する力にもなります。そこに学びの喜びがあり楽しみがあります。時間を掛けて理解する個人的な努力を怠らないで下さい。
(2)授業では、大事なことをメモしながら聴講する習慣を身に付けて下さい。集中力を維持し居眠りも防ぐことができます。

フィードバックの方法:

授業中の私のコメント・感想・討論・指導を通してフィードバック
e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jpでフィードバック

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	(1)レジュメ・報告	40%	レジュメ・報告の内容の質と量
	(2)質問・コメント・討論	30%	* 質疑応答・コメント・討論の内容の質と量 * 討論への参加度
	(3)授業態度を含む出席率重視	30%	ゼミへの積極的参加を伴う出席数を重視

教科書:

教科書は使用しない。講義資料は、適宜、授業中に配布する。

参考書:

伊藤セツ・川島美保共編著『三訂 消費生活経済学』光生館、2008年
高橋正郎編著『食料経済(第4版)』理工学社、2010年
日本農業市場学会編『食料・農産物の流通と市場Ⅱ』筑波書房、2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法： e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内や研究室内で対応。

696060

こころのデザイン特殊演習A

村瀬 学

授業テーマ:	児童文化における「仮想の生き物」の存在を考える。		
授業の概要:	ギリシア神話から現代のファンタジーまでの、仮想の生き物、幻獣の変身・メタモルフォーゼの存在とデザインをかんがえる。		
到達目標:	なぜ人類は「仮想の生き物」を作らなくては暮らすことができなかったのか、子どもたちはその「仮想の生き物」の物語をなぜ面白がるのか、その原理的な考察を深め、理解力と知的な関心を広げ、探究意欲を深める。		
授業方法:	講義形式。映像もふんだんに使う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 「仮想の生き物」「幻獣」についての概要の説明	授業の進め方のオリエンテーション	
	2. 幻獣の文化史(古代篇)①	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	3. 幻獣の文化史(古代篇)②	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	4. 幻獣の文化史(古代篇)③	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	5. 幻獣の文化史(古代篇)④	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	6. 幻獣の文化史(中世・近世篇)①	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	7. 幻獣の文化史(中世・近世篇)②	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	8. 幻獣の文化史(中世・近世篇)③	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	9. 幻獣の文化史(中世・近世篇)④	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	10. 幻獣の文化史(近代・現代篇)①	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	11. 幻獣の文化史(近代・現代篇)②	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	12. 幻獣の文化史(近代・現代篇)③	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	13. 幻獣の文化史(近代・現代篇)④	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
	14. 幻獣の文化史(近代・現代篇)⑤	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。	
15. 幻獣史の全体のまとめ	授業全体のまとめのレポートの説明をする。		
受講者へのメッセージやアドバイス:	物語をたくさん読んでください。		
フィードバックの方法:	定期的に小冊子をつくり、それまでの考察を掲載してゆく。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎回の発表。 出席・欠席	80 20	毎回の調べものはよくできて発表できているか。 厳しく採点する。
教科書:	随時指示する		
参考書:	随時指示する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	メールでのやりとりが基本		

授業テーマ:

授業の概要: 今日、福祉サービスの規制緩和(自己負担・自己責任原則)の流れのなかで、市民(利用者)サイドの福祉選択が問われる場面が確実に増えている。福祉サービスを利用者・家族だけで主体的に組み立て活用できる時代になった。本演習では、こうした現状をふまえ、生き方と選択の多様化という視点から、市民(利用者)と福祉の関係をめぐる課題を確認していく。そして、“福祉専門家まかせ”にしがちであった社会福祉を、再び一般の市民(利用者)の手に取り戻すことを目指したい。

到達目標: 社会福祉の専門知識を修得する。

授業方法: 教室における講義、学外での実習、レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会福祉の基本的な考え方とあゆみ	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	社会福祉および福祉関連制度の利用の仕組み	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	社会福祉に働く人びと	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	社会福祉の援助の仕方	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	社会福祉の関連職種とボランティア	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	子ども虐待と援助	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	子どもの成長と地域における子育て支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	少年非行の法と臨床	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	家族と高齢者介護	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	高齢期のお金とくらしのデザイン	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	高齢者居住施設のこれから	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	障害をもつ人とのかかわり	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	障害乳幼児の療育と家族支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	これからの社会福祉	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	ふりかえりとまとめ、補足的な説明	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席・発表	50	出席を含む授業への参加・態度および発表内容
	レポート	50	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業前後に対応

授業テーマ:

日常の暮らしので人々が発現する諸行動を社会心理学の視点から理解することを試みる。

授業の概要:

社会心理学とは、社会の中で人々が繰り広げる様々な行動を素材として、そのような行動を発現させるこころのメカニズムを明らかにする学問である。この演習では、社会心理学の基本的な方法(実験、観察、面接・調査)を学習し、その上で恋愛や被服などの具体的な社会行動に関する研究の方法を具体的に習得する。つまり、「仮説の設定→検証方法の立案→実施→解析」という一連の研究過程を具体的に経験させ、種々の社会行動を支えるこころのメカニズム理解の方法を身につける。とりわけ、仮説の妥当性を客観的に査定するための有力な方法として種々の統計的検定を駆使できる力を育む。つまり、学問領域だけでなく実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力を磨く。

到達目標:

社会行動解析のための基礎スキルの習得

授業方法:

講義と受講生による報告。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC、スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会心理学とは何か	本授業のシラバスの確認
2.	社会心理学の基本的な方法(1)	前回授業の確認
3.	同上 (2)	前回授業の確認
4.	統計処理の基本－SPSS操作－ (1)	前回授業の確認
5.	統計処理の基本－SPSS操作－ (2)	前回授業の確認
6.	実験(観察)条件の設定－SPSSによる平均値比較－ (1)	前回授業の確認
7.	実験(観察)条件の設定－SPSSによる平均値比較－ (2)	前回授業の確認
8.	事象間の関連性の探索－SPSSによる相関分析－ (1)	前回授業の確認
9.	事象間の関連性の探索－SPSSによる相関分析－ (2)	前回授業の確認
10.	事象を喚起する原因の探索－SPSSによる重回帰分析－ (1)	前回授業の確認
11.	事象を喚起する原因の探索－SPSSによる重回帰分析－ (1)	前回授業の確認
12.	事象を喚起する原因の探索－SPSSによる重回帰分析－ (2)	前回授業の確認
13.	諸事象のまとまりの探索-SPSSによる因子分析- (1)	前回授業の確認
14.	諸事象のまとまりの探索-SPSSによる因子分析- (2)	前回授業の確認
15.	実データの処理実践	前回授業の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業と授業の間の1週間にこそ、自己進歩があることを忘れないに。

フィードバックの方法:

授業時やマナビーの利活用。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況(note takingや課題整理も含む)	70	事前準備と授業時の熱心さ
	課題	30	完成度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー、日常の接触

授業テーマ：生活の中のいのち理解

授業の概要：演習ゆえに参加者の主体的な関与が期待されます。参加者による生命林学に関する多種多様なテキストに対する批評を通し、参加者自身の問題意識を開拓します。さらに、昨今の生命倫理学が直面している課題等への提言の構築を模索します。尚、第2回から第12回まではテキストに掲載された論考を中心に学びます。13回、14回は別途資料に基づき昨今の倫理的課題に関心を払いつつ、クラス内討議を深め、全体のまとめとします。

到達目標：1. 多様化した生活空間の中で、自明の理とされてきた既存概念(生命観、人間観)に再検討をとおし、いのちに対する理解を深化します。
2. 生命倫理関連の基本文献を通し、「自己決定権」(self-determination)、「自律性原理」(autonomy)など、いのちに対する議論、概念の枠組みを学びます。
3. 「所有」、「公共」、「他者」、「身体」をキーワードに、自律性原理のみでは立ち行かぬ課題へ対峙すべく思想構築への手がかりを探求します。

授業方法：演習ゆえに参加者の主体的な関与が期待されます。参加者によるテキスト批評を通し、参加者自身の問題意識を開拓すると共に、昨今の課題等への提言を構築する努力を期待します。尚、第2回から第12回まではテキストに掲載された論考を中心に学びます。13回、14回は別途資料に基づき昨今の倫理的課題に関心を払いつつ、クラス内討議を深め、全体のまとめとします。
参加自身により、将来に向けた一提言を構築する事が求められます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 本演習の授業計画、授業目標、評価方法等の解説および発表予定を決定します。	シラバスにより、本演習の概要、目標、要求課題などに関する学びを深める。
2.	人格と生命(1) 「生命の尊厳と生命の質は両立可能か」	当該テーマ(尊厳)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
3.	人格と生命(2) 「医学における人格の概念」	当該テーマ(人格)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
4.	人格と生命(3) 「人格性の基準」	当該テーマ(パーソン論)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
5.	生命操作と倫理基準(1)「人工妊娠中絶の擁護」	当該テーマ(プロ・ライフ、プロ・チョイス)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
6.	生命操作と倫理基準(2)「嬰兒は人格を持つか」	当該テーマ(QOL)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
7.	死と生命倫理(1) 「レイチャルスの安楽死論に依て」	当該テーマ(安楽死)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
8.	死と生命倫理(2) 「倫理学と安楽死」	当該テーマ(自己決定)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。
9.	治療と実験を巡り(1)「医師と患者の『同意』の意味」	当該テーマ(同意)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。
10.	治療と実験を巡り(2) 動物の生存権	当該テーマ(動物の生存権)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
11.	死とは何か(1) 「死の定義-倫理的・哲学的・政策的混乱-」	当該テーマ(死)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
12.	死とは何か(2) 「死の判定基準の法制的定義」	当該テーマ(死の判定)に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
13.	所有とは何か 「所有的個人主義」への問い	所有と近代社会に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
14.	他者を巡り レヴィナスからの問いかけ	他者論に関する資料(レジュメ、小論)の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
15.	将来的課題を巡り	演習全体をふりかえり、自身の論考の構成を検討する。

受講者へのメッセージやアドバイス：受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。
受講学生の主体的な学習が期待されます。受講学生自身によるテキスト批評などを通し、自身の問題意識を開拓すると共に、昨今の課題等へ積極的に関与する事が期待されます。

フィードバックの方法：毎回の授業内で、講義の学びを深めるリアクションペーパーを作成します。
受講生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	クラス内でのテキスト批評	40	担当したテキスト批評における、読解力、批判力を基準にします。
	クラス討議への参加および貢献	30	発表内容に基づく議論に関与し、討議を深めるために貢献(建設的議論)内容を基準にします。
	演習レポート	30	文献資料及び一次資料等を収集し、演習に即したレポートを作成します。当該レポート作成に関する批判力、洞察力、思考力を基準とします。 詳細は最初のクラスにおいて説明する予定です。

教科書：H.T.エンゲルハート、H.ヨナス他(加藤尚武、飯田亘之編)『バイオエシックスの基礎-欧米の「生命倫理」論』東海大学出版会 1988

参考書：加藤尚武／加茂直樹編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社 1998。
坂本百大、青木清、山田卓生 編著『21世紀のグローバル・バイオエシックス生命倫理』北樹出版 2005。
木村利人他編『バイオエシックスハンドブック-生命倫理を超えて-』法研 2003。

宮本久雄、金泰昌編『他者との出会い』東京大学出版会 2007.
大庭健、鷺田清一編『所有のエチカ』ナカニシヤ出版 2000..
熊野純彦、吉澤夏子編『差異のエチカ』ナカニシヤ出版 2004.

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力。

教員との連絡
方法:

授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します(オフィスアワー、Eメールなど)。

授業テーマ:

「幻想の生き物」と「幻想の地理学」について知る。

授業の概要:

物語でしめされる「幻想の生き物」の多様性と、その生き物の住む「幻想の地理学」「幻想の衣食住」の多様性について知る。

到達目標:

「幻想の生き物」の住む大地、世界のデザインを知り、理解力と知的な関心を広げ、探究意欲を深める。

授業方法:

講義形式。映像もふんだんに観る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 幻想の地理学の説明。	授業の進め方のオリエンテーション
	2. 自然科学の地理学から、物語の世界デザインへ ①	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	3. 自然科学の地理学から、物語の世界デザインへ ②	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	4. 自然科学の地理学から、物語の世界デザインへ ③	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	5. 自然科学の地理学から、物語の世界デザインへ ④	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	6. アニメ・映画・小説の世界デザインへ ①	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	7. アニメ・映画・小説の世界デザインへ ②	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	8. アニメ・映画・小説の世界デザインへ ③	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	9. アニメ・映画・小説の世界デザインへ ④	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	10. アニメ・映画・小説の世界デザインへ ⑤	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	11. アニメ・映画・小説の世界デザインへ ⑥	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	12. アニメ・映画・小説の世界デザインへ ⑦	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	13. アニメ・映画・小説の世界デザインへ ⑧	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	14. アニメ・映画・小説の世界デザインへ ⑨	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	15. 物語の世界デザイン全体のまとめ。	物語の世界デザイン全体のまとめを冊子にする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

物語をたくさん読んでください。

フィードバックの方法:

定期的に小冊子をつくり、それまでの考察を掲載してゆく。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	80	毎回の調べものはよくできて発表できているか。
	出席・欠席	20	厳しく採点する。

教科書:

そのつど指示する

参考書:

そのつど指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

メールのやりとりが基本

授業テーマ:

授業の概要: 社会福祉関係機関および各種社会福祉施設においては、多様な社会福祉援助活動が展開されている。本演習では、ソーシャルワークの個別援助技術と集団援助技術についての知見を発展させるために、より具体的な支援のあり方について、専門的な演習を行う。とりわけ、今日の福祉最前線で有効性が注目される“Family Centered Social Work Practice”を主テーマとして、家族ソーシャルワーク実践についての学びを深める。

到達目標: 家族ソーシャルワークの方法の修得

授業方法: 教室における講義、学外での実習、レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	家族中心ソーシャルワークとは—家族実践におけるその有効性—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	ソーシャルワークと心理臨床—近似性の拡大—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	アメリカのヘルピング・プロフェッション	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	ソーシャルワーク専門職の成立と発展—歴史的な経緯と資格、養成教育—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	境界線上の新しい専門性の模索—重複免許をめぐって—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	マリッジ&ファミリー・セラピスト	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	ヒューマンサービス・ワーカー—その役割とソーシャルワーカーとの関連性—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	ナーシングホーム—高齢者の暮らしを支える専門家たち—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	スクールソーシャルワーカー—コネチカット州ハートフォード市の実践—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	コネチカット・チルドレンズ・プレイス—虐待を受けた子どもの治療教育—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	クリアリングハウスのヒューマンサービス—嗜癖とソーシャルワーカー—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	チャイルドライフ・スペシャリスト—病棟保育の考え方—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	クリニカル・ソーシャルワーカー—個人開業と社会福祉—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	日米の比較から—家族支援の新方向—	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	ふりかえりとまとめ、補足的な説明	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席・発表レポート	50 50	出席を含む授業への参加・態度および発表内容 ルーブリックを用いた達成度評価

教科書: アメリカの対人援助専門職—ソーシャルワーカーと関連職種の日米比較—(ミネルヴァ書房)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業前後に対応

696660

こころのデザイン発展演習C

諸井 克英

授業テーマ:

人の行動や意識の基底にある心理学的メカニズムを客観的に明らかにするために、具体的な研究デザインを構築する。

授業の概要:

受講生それぞれが興味ある事象(人の行動や意識に関わる事象)を同定し、それに関する先行研究を収集する。そのうえで、先行研それぞれの目的・方法・結果・研究成果を理解する。これらの作業に基づいて、焦点とする事象を限定し、その基底にある心理メカニズムを実証的に明らかにするための研究デザインを立案する。

到達目標:

社会心理学の枠組みに立脚した、人の行動や意識に関わる事象に関する基礎的研究デザインの立案。

授業方法:

講義と受講生による報告。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 興味ある事象(人の行動や意識に関わる事象)の同定 (1)	本授業のシラバスの確認
2. 興味ある事象(人の行動や意識に関わる事象)の同定 (2)	前回授業の確認
3. 関連先行研究の収集 (1)	前回授業の確認
4. 関連先行研究の収集 (2)	前回授業の確認
5. 関連先行研究の読解 (1)	前回授業の確認
6. 関連先行研究の読解 (2)	前回授業の確認
7. 関連先行研究の読解 (3)	前回授業の確認
8. 焦点とする事象の限定 (1)	前回授業の確認
9. 焦点とする事象の限定 (2)	前回授業の確認
10. 研究デザインの構築 (1)	前回授業の確認
11. 研究デザインの構築 (2)	前回授業の確認
12. 研究デザインの構築 (3)	前回授業の確認
13. 研究デザインの実践に向けて	前回授業の確認
14. 総括 (1)	前回授業の確認
15. 総括 (2)	前回授業の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業と授業の間の1週間にこそ、自己進歩があることを忘れないに。

フィードバックの方法:

授業時やマナビーの利活用。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況(note takingや課題整理も含む)	70	事前準備と授業時の熱心さ
課題	30	完成度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビー, 日常の接触

授業テーマ:	真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして		
授業の概要:	21世紀は、少子・高齢社会の時代であるとともに、男女共同参画社会＝ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)社会形成の必然性をもった時代でもある。少子・高齢社会は、人手不足・長時間労働・格差社会でもある。男女共同参画社会とは、男女が共にゆとりをもって仕事と家事・育児・介護を両立し、家庭および社会で対等にお互いを活かしあえる男女平等社会のことである。 生活経済学は、生活および生活環境との関連で、家庭経済を中心とする生活経済を主要な研究対象とする専門分野である。生活経済学は、(1)生活(家庭)経済が、ライフコース別、世帯形態別、ライフステージ別にどのような状況にあるのか、さらに(2)生活および生活環境から、どのような影響を受け、逆にどのような影響を与えているのか、その実態および理論と課題・対策・法制度について明らかにする。生活とは家計構造・消費構造・貯蓄・負債構造の変化や女性の社会進出などの生活構造の変化である。生活環境とは、①地域経済・国民経済・国際経済・地球環境、②少子・高齢化対策や男女共同参画社会の形成などの諸環境の総体である。 本講義では、真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして、(1)生活(家庭)経済、(2)消費者問題・消費者運動・消費者行政、(3)一般商品と食品の流通と消費に関する理論および実態と課題・対策・法制度について体系的に明らかにする。キーワードは、家計の個別化・社会化・情報化・国際化・ワーキングプア、ジェンダー、少子・高齢社会、男女共同参画社会、ワーク・ライフ・バランス社会、循環型社会などである。		
到達目標:	本講義を通して、今日の生活(家庭)経済・消費生活・消費者問題・流通経済に対する理解を深め、それらに対する的確な問題意識と科学的な認識力および実践力を養成するとともに、研究能力およびデザイン能力、実践能力を養成する。 なお、院生は公正な研究活動を推進するため、生活科学研究科長による研究倫理教育を別途受講しなければならない。		
授業方法:	(1)講義形式で授業を行う。その際、理解を助けるため、適宜、経済社会問題関連のビデオを視聴したり、新聞記事切抜きなどの資料を配布し解説したりする。 (2)授業を前半と後半に分けて、それぞれ1回ずつ授業関連の基礎的論文を採り上げ、その内容のまとめと批評のレポート作成を課す。これは、準備・補充の主体的学習にも通じる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. (1)オリエンテーション (2)生活経済学特論の対象と方法と課題	* 左記(1)関連の配布し説明したシラバスおよび「レポートの課題とレポ・ノートの提出期限」の資料の再確認。 * 左記(1)関連の就活情報の新聞記事の通読・再確認 * 左記(2)関連の新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存して自主的にノート作り。	
	2. 少子・高齢・人手不足・長時間労働・格差社会の市場経済と生活経済	(1)授業前半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。 (2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。	
	3. 男女共同参画社会＝ワーク・ライフ・バランス社会の市場経済と生活経済	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	4. 生活経済の収入と支出	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	5. 生活経済の資産管理	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	6. 生活経済の税金・社会保険料と生活保障	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	7. 消費者保護基本法・消費者基本法と消費者の権利と消費者行政	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	8. 商品・サービスの安全性問題と課題・対策・消費者法制度	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。 上記(1)の前半の課題については、次週レポートの提出。	
	9. 商品・サービスの取引・契約問題と課題・対策・消費者法制度	(1)授業後半のレポートの課題。配布した基礎的論文資料を精読してよく理解し、その内容を要点の箇条書きや模式図などを用いて的確にまとめ、最後にコメント・感想を述べ提出。 (2)視聴した関連ビデオは、内容メモ及び感想をノートに記録し提出。(3)新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り・提出。	
	10. 一般商品の流通と消費の理論および実態と課題・対策・法制度	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	11. 食料・農産物の流通と消費の理論および実態と課題・対策・法制度	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	12. 食料・農産物の安全性問題と安全・安心確保の課題・対策・法制度	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	13. 現代企業のマーケティングと消費者の理論および実態と課題・対策・法制度	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	14. 現代流通のIT化と消費者の理論および実態と課題・対策・法制度	引き続き、上記(1)(2)(3)の課題を追求。	
	15. 総括 真に豊かでゆとりある「くらし」の確立をめざして	上記(1)の後半の課題については、当日レポートの提出。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	(1)一夜漬けで丸暗記した知識や理論は、テストで良い点を取るのに役立ちますが、思考力や創造力などの向上には繋がりません。筆記をしながら、理解する努力を積み重ねて頭に刻み込まれた知識や理論は思考力や創造力の向上に繋がるとともに、問題解決や新しいものを創造する力にもなります。そこに学びの喜びがあり楽しみがあります。時間を掛けて理解する個人的な努力を怠らないで下さい。 (2)授業では、大事なことをメモしながら聴講する習慣を身に付けて下さい。集中力を維持し居眠りも防ぐことができます。		
フィードバックの方法:	授業中の私のコメント・感想・討論・指導を通してフィードバック e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jpでフィードバック		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	(1)2つのレポートのまとめ	50%	(1)タイトルと目次の作成、(2)まとめ(各節ごとに要点の箇条書きや模式図を用いて/文章の丸写しはダメ/まとめ用紙枚数に上限なし)、当内容の質(的確さや簡単明瞭など)と量で評価。
	(2)2つのレポのコメント・感想	20%	内容の質(的確さや独自性など)と量(文章4～5行では短すぎる。できるだけ半ページ以上。行数に上限なし。)
	(3)授業態度を含む出席率重視	30%	授業への積極的参加を伴う出席数を重視

教科書:	教科書は使用しない。講義資料は、適宜、授業中に配布する。
参考書:	御船美智子編著『家庭生活の経済』放送大学教育振興会、1996年 日本家政学会家庭経済学部会編『多様化するライフスタイルと家計』建帛社、2002年 日本家政学会家庭経済学部会関東地区会編『少子高齢社会と生活経済』建帛社、2004年 日本家政学会家庭経済学部会編『規制改革と家庭経済の再構築』建帛社、2007年 伊藤セツ・川島美保共編著『三訂 消費生活経済学』光生館、2008年 吉田良子編著『消費者問題入門(第3版)』建帛社、2006年 加藤義忠・齋藤雅通・佐々木保幸編著『現代流通入門』有斐閣ブックス、2007年 日経MJ(流通新聞)編『日経MJトレンド情報源 流通・消費2017勝者の法則』日本経済新聞社、2016年 高橋正郎編著『食料経済(第4版)』理工学社、2010年 日本農業市場学会編『食料・農産物の流通と市場Ⅱ』筑波書房、2008年
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理力
教員との連絡 方法:	e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内や研究室内で対応。

授業テーマ:

ジャポニズムと服飾

授業の概要:

19世紀の西欧ではジャポニズムといわれる日本趣味の流行が見られました。この釣友は表面的な流行にはとどまらず、日本の美術や工芸は西欧の視覚表現に少なからぬ影響を及ぼし、その影響はアール・ヌーヴォーやアール・デコといわれる国際的な装飾芸術運動へと繋がっていきます。本講座では、ジャポニズムにおいて日本の服飾や染織工芸が西欧に及ぼした影響をとおりて、日本の服飾の特質をとらえることを目指します。また、現代のジャポニズムといわれる事例を取り上げ、現代の日本の服づくりの課題を考えます。

到達目標:

①近代服飾史とその時代背景を理解する。
②日本と西欧の具体的な影響関係を読み取り説明することができる。
③現代の日本の服づくりについて授業のテーマに沿った視点から考察することができる。

授業方法:

講義形式を基本に、一部演習を取り入れてすすめます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション ジャポニズムの時代	
2.	海を渡ったキモノ	配布プリントを通読
3.	テキスタイルにみる日本の影響	配布プリントを通読
4.	服飾にみる日本の影響①	配布プリントを通読
5.	服飾にみる日本の影響②	配布プリントを通読
6.	アール・ヌーヴォー	配布プリントを通読
7.	アール・デコ	配布プリントを通読
8.	事例研究① ジャポニズムの実例	
9.	事例研究① 報告と意見交換	レポートを作成
10.	現代のジャポニズム①	配布プリントを通読
11.	現代のジャポニズム②	配布プリントを通読
12.	事例研究② 現代の実例	
13.	事例研究② 報告	レポートを作成
14.	事例研究② 意見交換および考察	
15.	補足とまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中にコメントし、評価を記して返却します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	30	授業へ積極的に参加し、到達目標①ができるかを基準とする。 到達目標②③について、レポートの完成度と報告や意見交換での積極的な姿勢を基準とする。
	レポート	70	

教科書:

参考書:

深井晃子 『ジャポニズムインファッションー海を渡ったキモノ』 平凡社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー マナビーの掲示板機能

授業テーマ:

授業の概要: 快適な衣生活を実現させる要素はなにか。これには、動きやすさといった身体的側面、TPOへの適合や帰属集団の表出といった社会的側面、入手価格・管理経費・保管スペースといった経済的側面などが複合的に関連している。この講義では、そのような多様な側面を意識しながら、デザインと構成の視点から衣生活のあり方について考察し、議論を深める。

到達目標: 1.快適な衣生活のための多様な要素について理解する。
2.デザインと構成の視点から衣生活を捉える思考力を身につける。
3.提案力・議論力を養う。

授業方法: 講義および講義内容に関連するテーマの演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 衣服生産の流れ	
	3. 被服デザインの要素	
	4. ライフスタイルと被服デザイン	ワードローブを調査する。
	5. イメージと被服デザイン	
	6. 時代を表すファッション分析(1)1910年代	
	7. 時代を表すファッション分析(2)1920年代	
	8. 時代を表すファッション分析(3)1930-1950年代	1930-1950年代のファッション画像資料を収集する。
	9. 時代を表すファッション分析(4)1960-1970年代	1960-1970年代のファッション画像資料を収集する。
	10. 時代を表すファッション分析(5)現在	新聞・雑誌・カタログより写真資料を収集する。
	11. 良いデザイン(1)事例研究	良いデザインの事例を探す。
	12. 良いデザイン(2)プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえ、レポートを作成する。
	13. 悪いデザインと改良プラン(1)事例研究	悪いデザインの事例を探す。
	14. 悪いデザインと改良プラン(1)プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえ、レポートを作成する。
	15. これからの衣生活デザイン	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 添削して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出物	50	到達目標1, 2,の理解度、習得度により評価する。
	発表とディスカッション	30	到達目標3の習得度により評価する。
	参加度	20	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: マナビーの掲示板機能, Eメール

697060

食と栄養学特論

森田 潤司

授業テーマ:	食・栄養と健康		
授業の概要:	「くらしのデザイン」をする際に重要な健康について、食を通じた栄養の役割から学ぶ。まず、各栄養素が健康の維持・増進、疾病の予防のために果たす役割、生理機能について学び、それぞれのライフステージにおいて、何をどのような割合で摂取するのが望ましいのか考える。各回の授業では現代の食生活におけるトピックスを取り上げ、食・栄養と健康の関係の重要性と将来の「生活デザイン」構築において「食・栄養と健康」の問題どう組み込めるかを考える。		
到達目標:	1.各栄養素が健康の維持・増進、疾病の予防のために果たす役割、生理機能について理解できる。 2.ライフステージにおいて、何をどのような割合で摂取するのが望ましい理解できる。 3.食・栄養と健康の関係の重要性に気づき、将来の「生活デザイン」構築において「食・栄養と健康」の問題を組み込みことができるようになる。		
授業方法:	配布プリント教材などに従って進める講義と受講者の発表を含む演習形式を混合して行う。授業計画の詳細は、受講者数、受講者の専門分野やこれまでの学習背景を考慮して、立てる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業計画、健康と栄養の現状	特になし。	
	2. ライフステージと栄養について 食・栄養・栄養学とは	前回までの復習。	
	3. 身体活動と栄養－エネルギー摂取基準を中心に－	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	4. 糖質の栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	5. たんぱく質の栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	6. 脂質の栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	7. ビタミンの栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	8. ミネラルの栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	9. 機能性成分と健康 その1	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	10. 機能性成分と健康 その2	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	11. 生活習慣病と栄養 その1	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	12. 生活習慣病と栄養 その2	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	13. 食品表示・栄養成分表示 その1	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	14. 食品表示・栄養成分表示 その2	前回までの復習。 演習発表の準備。	
	15. まとめ・「生活デザイン」構築と「食・栄養・健康」の関係	前回までの復習。 演習発表の準備。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	成書の講読をもとに学ぶが知識の積み重ねで理解が深まるので復習はあたりまえである。また、各項目にいて各自の発表を含む演習を行うのでその準備が必要である。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50%	到達目標1,2に関する調査結果のまとめりと仕上がり度合を評価する。
	発表、討論	50%	準備学習の度合、発表技能・態度、到達目標3を踏まえて討論しているかを評価する。
教科書:	使用する場合は授業中に示す。		
参考書:	国立健康・栄養研究所 監修:『健康・栄養食品アドバイザーースタッフ・テキストブック』、第一出版 厚生労働省「日本人の食事摂取基準2015年版」策定検討委員会報告書:『日本人の食事摂取基準(2015年版)』、第一出版		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。 オフィスアワー(研究室U311b)で対応。		

授業テーマ:

授業の概要: 環境問題に対し、さまざまな立場の人がさまざまな内容を広く社会に述べている。そのような中で、自身の考えに近い人はいらるだろうか？立場が違ふことで考え方が違っているかもしれない。それにより考えが違ふひとを排除するのではなく、お互いの置かれている状況を踏まえ、今後の環境のあり方について考えることが必要なのではないか？そのための基礎として、多様な考えや活動について学ぶ。

到達目標: 環境問題の多様さを理解し、その知識を深める

授業方法: 講義とディスカッションにより進めていく。ディスカッションは各回で取り上げるテーマについて関心のある事柄についてまとめ、その内容について発表し、ディスカッションを行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス 2. 環境問題の現状① 3. 環境問題の現状② 4. リスクから考える① 5. リスクから考える② 6. 失われた環境① 7. 失われた環境② 8. 環境を守る① 9. 環境を守る② 10. 当事者性から考える① 11. 当事者性から考える② 12. 公正と正義① 13. 公正と正義② 14. 公正と正義③ 15. 学習内容の整理と今後の環境との関わり		学んだ内容を自身の中で整理しておくことを求める。 課題文献を読了し、自身の中で整理しておくことを求める。 授業内で出たキーワードについて調べ、レジュメとして整理することを求める。 課題文献を読了し、自身の中で整理しておくことを求める。 授業内で出たキーワードについて調べ、レジュメとして整理することを求める。 課題文献を読了し、自身の中で整理しておくことを求める。 授業内で出たキーワードについて調べ、レジュメとして整理することを求める。 課題文献を読了し、自身の中で整理しておくことを求める。 授業内で出たキーワードについて調べ、レジュメとして整理することを求める。 課題文献を読了し、自身の中で整理しておくことを求める。 授業内で出たキーワードについて調べ、レジュメとして整理することを求める。 課題文献を読了し、自身の中で整理しておくことを求める。 授業内で出たキーワードについて調べ、レジュメとして整理することを求める。 課題文献を読了し、自身の中で整理しておくことを求める。 授業内で出たキーワードについて調べ、レジュメとして整理することを求める。 課題文献を読了し、自身の中で整理しておくことを求める。 授業内で出たキーワードについて調べ、レジュメとして整理することを求める。

受講者へのメッセージやアドバイス: 生活していくなかで環境に対し思うことは人それぞれであることを意識し、受講することを望む。

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、その内容について理解し、知識を深めようと努めているかを評価する。
	レポート	50	環境問題の多様さを理解しているかを評価する。

教科書: 西城戸誠・船戸修一編者「環境と社会」人文書院

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール、マナビー掲示板機能を利用

授業テーマ:	快適な地域のまちづくり		
授業の概要:	地域や住まいの環境や生活環境の問題を対象として、中心市街地の活性化という視点から捉え、地域環境や居住環境に対する快適性に関して考察することを目的とする。具体的には、実地のフィールドワークを通して対象地域における市街地の空地問題や防災上の課題、コミュニティーの維持・活性化等、学生の問題意識も交えつつテーマを設定し、地理学的(人文・自然)、観光学などの視点から人と環境との関わりについて考察するとともに、これからの快適なまちづくりのあり方について考究する。		
到達目標:	1: 快適な環境のありかたの歴史的変遷と現状を理解する。 2: 快適で安全なまちづくりについて分析・発信する力を養う。		
授業方法:	講義と現地見学、発表を合わせて行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに 講義の概要とガイダンス	配布資料の確認	
	2. 京都における住環境の歴史的景観1	配布資料の確認	
	3. 京都における住環境の歴史的景観2	配布資料の確認	
	4. 京都における現在の住環境のありかた～京町家の保存と活用1	配布資料の確認・現地学習の準備	
	5. 京都における現在の住環境のありかた～京町家の保存と活用2	配布資料の確認・現地学習の準備	
	6. 快適な環境づくりにおけるコミュニティーの果たす役割①高齢者を生かしたまちづくり	配布資料の確認	
	7. 快適な環境づくりにおけるコミュニティーの果たす役割②中心市街地における多世代型交流の実例	配布資料の確認	
	8. 防災と環境1 東日本大震災被災地における実例	配布資料の確認	
	9. 防災と環境2 仮設住宅の持つ課題	配布資料の確認	
	10. 快適な環境と観光のありかた	配布資料の確認・アンケートの作成準備	
	11. 快適な環境と観光のありかた SD法を用いた快適度の調査	配布資料の確認・アンケートの作成準備	
	12. 快適な観光と観光のありかた 通年型観光と快適度	配布資料の確認・アンケートの作成準備	
	13. 快適なまちづくりとは～先行研究の報告と討議	配布資料の確認・アンケートの作成準備	
	14. 快適なまちづくりとは～これからの衛生的なまちづくりへの報告と討議	配布資料の確認・アンケートの作成準備	
	15. 全体の総括	資料の取りまとめ・報告準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	講義中、講義後の教室並びに研究室にて対面で実施する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席、コメント	50	到達目標1を十分に理解しているかどうかを評価する。
	授業内での発表	50	到達目標2を達成しているかどうかを評価する。
教科書:	特になし		
参考書:	必要に応じて適宜指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業中・後の教室、研究室、マナビーを活用する。		

697360

居住環境デザイン特論

奥田 紫乃

授業テーマ:	居住環境の評価法		
授業の概要:	知覚による居住環境の評価法について学ぶ		
到達目標:	光の物理量から視覚心理・生理反応を予測する手法を概説し、それらの手法を活用した環境の解析・制御手法を理解する		
授業方法:	内容に応じて、スライドによる講義、演習、演習発表を行う		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	光環境の測定(1)測定機器使用方法	測光機器の使用方法について理解する
	2.	光環境の測定(2)測光量について	測光量(照度・輝度)と明るさの関係について具体的に考察する
	3.	光環境の測定(3)昼光率の測定	測定結果に基づき、窓の性能について考察する
	4.	光環境の測定(4) 分光放射輝度の測定	物体表面の色の見えについて理解する
	5.	感覚量測定の基礎	感覚量の取り扱い(対数値)について予習・復習する
	6.	明視性の評価(1) 視認能力の測定法	視認能力の測定について理解する
	7.	明視性の評価(2) 等視力曲線、等読みやすさ曲面	チャートの読み取り方を理解する
	8.	明視性の評価(3) モデリング評価・シルエット現象	生活の中のモデリング・シルエット現象について考察する
	9.	明視性の評価(3) 色の見えの評価法	各種演色評価のための指標について理解する
	10.	印象の測定	段階尺度法、ME法について理解する
	11.	評価構造の測定	SD法、評価グリッド法について理解する
	12.	視環境の評価	物理量と視認能力・主観評価との関係について理解する
	13.	設備の性能評価	照明設備に関する測定・性能評価について情報収集する
	14.	住宅性能の評価	住宅性能表示制度
	15.	環境評価に関するまとめ	これまでの学びをレポートにまとめる
	受講者へのメッセージやアドバイス:		
フィードバックの方法:	授業中のディスカッションを通してフィードバックする		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	20	
	演習課題	40	
	レポート	40	レポートの客観性、論理性など
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	e-mailによる		

授業テーマ:	児童文化の担い手の作家を考える。		
授業の概要:	児童文化の担い手の作家、4人(グリム・アンデルセン・宮沢賢治・宮崎駿)を中心に考える。		
到達目標:	作家の個性が切り開いた。児童文化の世界デザインの豊かさを知り、理解力と知的な関心を広げ、探究意欲を深める。		
授業方法:	講義形式。映像もふんだんに観る。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	4人(グリム・アンデルセン・宮沢賢治・宮崎駿)の概要の説明	授業の進め方のオリエンテーション
	2.	グリムの世界①	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	3.	グリムの世界②	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	4.	グリムの世界③	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	5.	アンデルセンの世界①	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	6.	アンデルセンの世界②	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	7.	アンデルセンの世界③	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	8.	宮沢賢治の世界①	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	9.	宮沢賢治の世界②	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	10.	宮沢賢治の世界③	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	11.	宮崎駿の世界①	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	12.	宮崎駿の世界②	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	13.	宮崎駿の世界③	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	14.	その他の作家達	今回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
	15.	作家の個性が切り開く世界のまとめ	物語の世界デザイン全体のまとめを冊子にする。
受講者へのメッセージやアドバイス:	物語をたくさん読んでください。		
フィードバックの方法:	定期的に小冊子をつくり、それまでの考察を掲載してゆく。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表	80	毎回の調べものはよくできて発表できているか。
	出席・欠席	20	厳しく採点する。
教科書:	そのつど指示する。		
参考書:	そのつど指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	メールでのやりとりが基本		

授業テーマ:

授業の概要: 現代の家族をめぐって、個人が多様な生活スタイルを選択する可能性や、家庭生活の新しい多面的なあり方がクローズアップされている。本講義では、まず、子どもにとっての今日的な家族状況をふまえ、そこに起こり生じている現象やその意味について、“子ども、家庭・地域、福祉の三点観測”を実施する。そして次に、子どもの健全育成、自立支援、権利擁護などの個別の施策を統合した地域子育て支援策に必須のアセスメント法の構築を試みる。

到達目標: 家族支援のためのアセスメント法の修得

授業方法: 教室における講義、学外での実習、レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	家族援助とアセスメント—その基礎理解—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	アセスメントが求められる社会的背景と発展	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	子ども家庭ソーシャルアセスメントのプロセス	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	子ども家庭ソーシャルアセスメントの機能と専門職の役割	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	子ども家庭ソーシャルアセスメントに必要な知識・技術(1)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	子ども家庭ソーシャルアセスメントに必要な知識・技術(2)	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	子ども家庭ソーシャルアセスメント実践の場	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	地域子育て支援策とアセスメント	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	子ども家庭福祉・福祉関連法とアセスメント	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	子ども家庭ソーシャルアセスメントの実際—子ども虐待と危機介入—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	子ども家庭ソーシャルアセスメントの実際—保育所における家族援助—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	子ども家庭ソーシャルアセスメントの実際—児童館と子どもの居場所づくり—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	子ども家庭ソーシャルアセスメントの実際—地域における子育てニーズの発見—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	子ども、家庭・地域、福祉の三点観測	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	ふりかえりとまとめ、補足的な説明	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席・発表	50	出席を含む授業への参加・態度および発表内容
	レポート	50	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業前後に対応

授業テーマ:	社会心理学の枠組みにそって、わが国の家族変容の基底にある心理学的メカニズムの理解をする。		
授業の概要:	青少年の事件が起きるたびに、「家族の変容」という言説が流布される。「家族とは何なのか」曖昧なまま、「家族の大切さ」という感情的言説を機軸にした「家族価値への回帰」が唱導されるのである。本講義では、第二次大戦後の我が国の家族像の変遷を辿りながら、「家族とは何なのか」を探究する。つまり、(1)対人関係に関する普遍的システム、(2)時代条件の変容の関数として創出・衰退するシステムという観点から、社会心理学や家族心理学で得られている諸知見を整理しながら、「家族」を論じる。		
到達目標:	社会心理学の枠組みに立脚した、家族関係を理解・分析する力。		
授業方法:	講義と受講生による報告。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC、スマホで可能)、授業に関する告知や授業理解の確認を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 家族心理学の課題	本授業のシラバスの確認	
	2. 家族関係の定義とその変容	前回授業の確認	
	3. 夫婦関係の現状	前回授業の確認	
	4. 結婚関連指標の現状	前回授業の確認	
	5. 結婚価値の変貌	前回授業の確認	
	6. 夫婦関係の社会心理学的特徴	前回授業の確認	
	7. 夫婦関係を支える心理学的メカニズム	前回授業の確認	
	8. 恋愛の罭	前回授業の確認	
	9. 夫婦関係の段階的進展	前回授業の確認	
	10. 夫婦関係の危機への対処	前回授業の確認	
	11. 理想とする「夫婦」像の変遷	前回授業の確認	
	12. 多様な夫婦像の創出	前回授業の確認	
	13. シングルは幸せか	前回授業の確認	
	14. 夫婦関係の未来	前回授業の確認	
	15. 総括	前回授業の確認	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業と授業の間の1週間にこそ、自己進歩があることを忘れないに。		
フィードバックの方法:	授業時やマナビーの利活用。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席状況(note takingや課題整理も含む)	70	事前準備と授業時の熱心さ
	課題	30	完成度
教科書:	諸井克英著『夫婦関係学への誘い』(ナカニシヤ出版)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、時代を駆け抜ける力		
教員との連絡方法:	マナビー、日常の接触		

授業テーマ:	生活に根ざしたいのちの倫理探求		
授業の概要:	多様化した生活状況の中で、既存概念では計りしえない課題(受精卵売買、臓器売買、家族内殺傷事件等)が生じています。それらに対峙すべく倫理・思想(人間の関係性・人間観)を探究します。倫理探究の極みは超越的なものとの関与を否定し得ません。即ち、「宗教」という視座の意義に注目すべきであります。本講義では、具体的歴史・文化・生活の中で育まれてきたユダヤ・キリスト教の知恵と文化に対する批判検討を通し、生活に根ざした倫理・思想の考察を深める予定です。		
到達目標:	1. 生命倫理学の基礎概念(善行、自己決定、公正、無害)を意義と課題を考察します。 2. QOLやSPLの背景としてのキリスト教文化に関して学びを深めます。 3. 「正義と平等」「自己と他者」「親密圏と公共圏」をキーワードとし、生活に根ざした倫理・思想の考察を深めます。		
授業方法:	主に講義形式で行うが、参加者による討論、映像資料等の提示も予定しています。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	本講義の授業計画、授業目標、評価方法等の解説および本講義の問題提起。	シラバスを通し、講義内容、到達目標、評価基準などの理解を深める。
	2. 生命倫理とは何か	「医の倫理」から「バイオエシックス」そして「生命倫理」。	配布プリントや参考文献により、医の倫理、バイオエシックスの歴史的背景に関する先行研究を深め、整理する。
	3. 生命倫理の基礎(1)	4つの原則(「自己決定」、「善行」、「公正」、「無害」)を巡り生命倫理の基礎理論の概略に触れつつ、多元主義時代の倫理学の可能性を探究する。	配布プリントや参考文献により、生命倫理の基礎的学びを深める。 とくに、4つの原則の内実を整理する。
	4. 生命倫理の基礎(2)	ケアの倫理とパーソン論の内実を探究する。さらに、新たに期待されている「ライフエシックス」としての方向性を提示する。	配布プリントや参考文献により、パーソン論に関する学びを深め、整理する。
	5. 出生を巡る生命倫理(1)	人工妊娠中絶に内在する課題を探究にする。	配布プリントや参考文献により、人工妊娠中絶の実情などを整理する。
	6. 出生を巡る生命倫理(2)	人工授精、体外受精に内在する課題を探究する。	配布プリントや参考文献により、体外受精の実情などを整理する。
	7. 出生を巡る生命倫理(3)	生殖技術の背後にある課題を巡り、特に権利と人権の視座から検討を加える。	配布プリントや参考文献により、プロ・ライフ、プロ・チョイスに関して整理する。
	8. 死を巡る生命倫理	脳死、安楽死、尊厳死という現象に内在する課題を探究する。	配布プリントや参考文献により、脳死、安楽死などの実情などを整理する。
	9. 臓器移植と生命倫理	臓器移植に内在する課題を探究する。特に、本人の自己決定と家族の同意を巡る課題に焦点を当てる。	配布プリントや参考文献により、臓器移植の実情などを整理する。
	10. 死生の文化と生命倫理(1)	生命の質(QOL)、生命の尊厳(SOL)を巡り、その内実を探究する。	配布プリントや参考文献により、QOL、SOLに関して学びを深め、整理する。
	11. 死生の文化と生命倫理(2)	いのちの語り(呻き、ためらい、痛み)への向き合い-旧約聖書の語り-	配布プリントや参考文献により、死生の文化に関する学びを深め、整理する。
	12. 死生の文化と生命倫理(3)	いのちの語り(呻き、ためらい、痛み)への向き合い-新約聖書の語り-	配布プリントや参考文献により、死生の文化に関する学びを深め、整理する。
	13. 生命倫理の将来展望(1)	他者、公共の視座から	配布プリントや参考文献により、他者論に関する学びを深め、整理する。
	14. 生命倫理の将来展望(2)	スピリチュアリティの視座から	配布プリントや参考文献により、スピリチュアルケアに関する学びを深め、整理する。
	15. 生命倫理の将来展望(3)	新しき視座を求めて	配布プリントや参考文献により、講義全体の学びを振り返り、整理する。学期末レポートに向けた構成を考え、まとめる。
受講者へのメッセージやアドバイス:	受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。あらかじめ配布された資料(小論など)に関してレビューすることが期待されます。		
フィードバックの方法:	講義で扱ったテーマに関して、受講生による議論や他の方々との議論等を通し、自分自身の思索を深めることが期待されます。毎回の授業内で、講義の学びを深めるリアクションペーパーを作成します。受講生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	リアクションペーパー	50	毎回の講義後、講義内容に関する意見等(200字程度)を求めます。講義内容への理解度及び受講者の思考力を基準にします。
	学期末レポート	50	参考文献、講義中の紹介文献等の中から、関心のある論考3点を選び、テキスト批評を行い、講義内容にとの対話を通したレポート作成します。的確なテーマを設定し、到達目標への取り組み状況及び自身の課題としての論理構成力により評価します。詳細は最初のクラスにおいて説明する予定です。
教科書:	特に指定しない。講義ごとにレジュメ等を配布する予定です。		
参考書:	加藤尚武／加茂直樹編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社 1998. 木村利人他編『バイオエシックスハンドブック-生命倫理を超えて-』法研 2003. 山根純佳『産む産まないは女の権利か フェミニズムとリベラリズム』勁草書房 2004. 江原由美子『自己決定権とジェンダー』岩波書店 2002. 小松美彦『自己決定権は幻想である』洋泉社 2004. 宮本久雄、金泰昌編『他者との出会い』東京大学出版会 2007.		

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

分析力、思考力、創造力。

授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します(オフィスアワー、Eメールなど)。

授業テーマ:	生活といのちの文化		
授業の概要:	近現代社会において、人間の生死の問題は心身二元論的視座から処理される傾向が強かったようです。しかし、昨今、いわゆる西洋の文化を背景とした「近代的な学知」の偏狭さへ疑義が生じてきています。医学等の専門的な学知の間の壁を越え、新たな知の構築への挑戦が期待されています。そこで、既存の生命観を再考し、多様化した生活空間の只中で、宗教文化との対話などを通し、新たな「いのちの文化」(価値観) のデザイン構築を実践します。		
到達目標:	1. 近現代社会の思想潮流を整理し、理解します。 2. とくに、西洋文化的視座(二元論的思考)の可能性と課題を探究します。 3. 宗教文化を始め、生命に関する多様な価値観との出会いを通し、いのちの文化のデザインを構築します。		
授業方法:	演習形式、状況によっては講義をおこなう。能動的学習を目指してディベートなども取り入れます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション 本演習の授業計画、授業目標、評価方法等の解説および発表予定を決定します。	シラバスにより、本演習の概要、到達目標、要求課題などを整理する。
	2.	近現代社会の思想潮流1 自律概念と自己決定	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、自立概念に関する論稿のブックレビューを行い、議論を整理する。コメント資料作成。
	3.	近現代社会の思想潮流2 正義とは何か	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、正義に関する論稿のブックレビューを行い、議論を整理する。コメント資料作成。
	4.	近現代社会の思想潮流3 功利主義の意義と課題	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、功利主義に関する論稿のブックレビューを行い、議論を整理する。コメント資料作成。
	5.	いのちの思想1 バイオエシックスとは	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、指定の論稿のブックレビューを行い、議論を整理する。コメント資料作成。
	6.	いのちの思想2 自己決定権を巡り	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、自己決定権の是非に関する論稿のブックレビューを行い、議論を整理する。コメント資料作成。
	7.	いのちの思想3 死生学、生命学等との対話	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、指定の論稿のブックレビューを行い、議論を整理する。コメント資料作成。
	8.	宗教文化といのち1 のち	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、指定の論稿のブックレビューを行い、議論を整理する。
	9.	宗教文化といのち2	新約聖書といのち
	10.	宗教文化といのち3	キリスト教思想の意義と課題
	11.	ポストモダン社会におけるいのち1	多文化社会といのちの文化
	12.	ポストモダン社会におけるいのち2	身体論といのち
	13.	ポストモダン社会におけるいのち3	他者論といのち
	14.	将来へ向けて	
	15.	全体のまとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:	発表のための事前準備、事後報告が必要です。先行研究批判のための種々の準備(資料収集、資料分析など)が必要です。		
フィードバックの方法:	毎回の授業内で、講義の学びを深めるリアクションペーパーを作成します。受講生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	クラスにおけるテキスト批評	30	担当したテキスト批評における、読解力、批判力を基準にします。
	クラス討議への参加および貢献	30	発表内容に基づく議論に関与し、討議を深めるために貢献(建設的議論)内容を基準にします。
	演習レポートの作成	40	文献資料及び一次資料等を収集し、本演習到達目標に即したレポートを作成します。当該レポート作成に関する批判力、洞察力、思考力を基準とします。詳細は最初のクラスにおいて説明する予定です。
教科書:	教室にて指示します。		

参考書:	詳細は最初のクラスにおいて参考文献表を提示します。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力。
教員との連絡 方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します(オフィスアワー、Eメールなど)。

授業テーマ:	酸化ストレスと疾患の関係、その防御システムについて理解する。		
授業の概要:	生体内で発生する活性酸素種が生体成分を攻撃して酸化変性を誘発し、これが組織障害を引き起こして様々な疾患の発症に繋がっている。また、我々の生体には極めて巧妙な防御システムが構築されており、恒常性が維持されているが、防御システムは生活習慣や加齢により弱まるので、これを高めることが、疾病予防の重要な課題である。ここでは、これらについて考え、理解を深める。		
到達目標:	①関連する文献を講読し、酸化ストレスと疾患の関係について理解できる。 ②関連する文献を講読し、酸化ストレスに対する防御について理解できる。 ③抗酸化作用の測定では、実験計画を立てて実施し、データのまとめができる。		
授業方法:	配布資料を用いた講義と演習および実験を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業計画)		
	2. 活性酸素と酸化ストレス	配布資料を熟読する。	
	3. 活性酸素の生成機構(1)ミトコンドリア電子伝達系	配布資料を熟読する。	
	4. 活性酸素の生成機構(2)キサンチンオキシダーゼ	配布資料を熟読する。	
	5. 抗酸化システム	配布資料を熟読する。	
	6. 疾患と酸化ストレス(糖尿病)	配布資料を熟読する。	
	7. 疾患と酸化ストレス(高血圧)	配布資料を熟読する。	
	8. 疾患と酸化ストレス(動脈硬化)	配布資料を熟読する。	
	9. 植物性食品と抗酸化作用(1)	配布資料を熟読する。	
	10. 植物性食品と抗酸化作用(2)	配布資料を熟読する。	
	11. 酸化ストレスマーカーの測定(バイオマーカー測定法)	文献を読み実験計画を立てる。	
	12. 活性酸素消去系酵素の測定(1)SOD	文献を読み実験計画を立てる。	
	13. 活性酸素消去系酵素の測定(2)GSH-Px	文献を読み実験計画を立てる。	
	14. 活性酸素消去系酵素の測定(3)Catalase	文献を読み実験計画を立てる。	
	15. 全体のまとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。		
フィードバックの方法:	教室で解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	60%	到達目標①、②の理解度を、授業での発表内容、討議への参加状況をもって評価する。
	レポート	40%	到達目標③については、文献を読んだの実験計画書、実験結果のまとめをもって評価する。
教科書:	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書:	随時紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で応対		

授業テーマ:

食育を科学的に理解し、実践する力を養う。

授業の概要:

「食」とは自身の健康維持のみならず、子孫へ健康に命をつないでいく重要な行為である。健全で心豊かな「食」を実現するためにあらゆる世代において食育が必要であることから、子どもの食育だけにとどまらず中高年や高齢者の食育についても考える。本講義では、理論的かつ実践的に食育を考えていきたい。

到達目標:

日本人の食の現状と課題を栄養摂取状況、食習慣、ライフステージ、食環境の視点から分析し、論ずることができる。

授業方法:

毎回、講義とグループディスカッションを併用する。また、関連する資料をまとめて発表するという課題を与える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	食育の定義について	事前に関連資料を紹介するので、読み込んでおく。
2.	日本人の食をめぐる現状と課題:食習慣とビタミン・ミネラル摂取状況との関連	国民健康栄養調査結果、食事摂取基準、微量栄養素に関する最新の文献を予習する。
3.	日本人の食をめぐる現状と課題:食習慣と脂質摂取状況との関連	国民健康栄養調査結果、食事摂取基準、微量栄養素に関する最新の文献を予習する。
4.	日本人の食をめぐる現状と課題:食の安全、食料自給率の低下	国民健康栄養調査結果、食事摂取基準、微量栄養素に関する最新の文献を予習する。
5.	日本人の食をめぐる現状と課題:ライフステージ別の食習慣の問題点	国民健康栄養調査結果、食事摂取基準、微量栄養素に関する最新の文献を予習する。
6.	食事摂取基準の理解と食育での活用	国民健康栄養調査結果、食事摂取基準、微量栄養素に関する最新の文献を予習する。
7.	食に対する価値観および食に関する知識や調理習慣の変化	調理経験と食事観、食習慣、自己肯定感等に関する最新の文献を参照し、意見をまとめる。
8.	欧米における食をめぐる現状	国内外の食育事例を紹介するので、それについて意見をまとめる。
9.	アジアにおける食をめぐる現状	国内外の食育事例を紹介するので、それについて意見をまとめる。
10.	幼児の食育事例検討	国内外の食育事例を紹介するので、それについて意見をまとめる。
11.	学童の食育事例検討	国内外の食育事例を紹介するので、それについて意見をまとめる。
12.	妊婦および乳幼児への食育の実際	国内外の食育事例を紹介するので、それについて意見をまとめる。
13.	中学・高校生、大学生への食育の実際	国内外の食育事例を紹介するので、それについて意見をまとめる。
14.	働く世代、高齢者への食育の実際	国内外の食育事例を紹介するので、それについて意見をまとめる。
15.	全体のまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室で解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポートおよび授業への参加度	40	
	課題の発表	30	統計資料や学術論文に関する考えから科学的分析力を評価する。
	討論での発言状況	30	論理的思考力の成長度合いを評価する。また、プレゼンテーション力やコミュニケーション力についても成長度合いを評価する。

教科書:

参考書:

関連資料および文献などを適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

研究室内で対応

授業テーマ:	ヒトのからだの情報を正しく理解した上で栄養教育を行うことの大切さを授業・演習・実験を通して学ぶ		
授業の概要:	栄養の代謝を踏まえ、証拠に基づいた栄養教育について理解を深める		
到達目標:	・栄養素を摂取した「からだ」がどのような生理過程を経て栄養素を利用していかを栄養素と個々の器官を関連させて学ぶ ・栄養関連情報を駆使した栄養教育について理解を深める		
授業方法:	講義と一部演習（プレゼンテーション）及び実験を行う		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	分子栄養学について	予習として、分子栄養学について調べてくる 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	2.	リン酸の吸収と排泄の仕組み（食事のリン酸代謝への影響）	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	3.	リン酸の血中濃度調節機構（腎不全と高リン血症）	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	4.	海藻類の腸内環境改善効果について（食品の持つ機能性について）	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	5.	糖代謝の制御メカニズムについて	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	6.	肥満の制御メカニズムについて	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	7.	テラーメイド栄養学について	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	8.	運動と栄養について	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	9.	運動選手と栄養教育	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	10.	プレゼンテーション演習1	予習として、課題についてプレゼンテーション準備を行う 復習として、プレゼンテーションの評価を行う
	11.	プレゼンテーション演習2	予習として、課題についてプレゼンテーション準備を行う 復習として、プレゼンテーションの評価を行う
	12.	プレゼンテーション演習3	予習として、課題についてプレゼンテーション準備を行う 復習として、プレゼンテーションの評価を行う
	13.	エビデンスに基づいた栄養教育を考える	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	14.	情報の栄養教育への活用について	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
	15.	ビデオフォーラムとまとめ	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業全体のまとめを行っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:	
フィードバックの方法:	レポートは授業中に提出を求め、返却も授業中に行います。マナビー上で提出・返却を行うこともあります。レポート指導は授業中にまとめて行います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	40	積極的に授業に参加し、到達目標ができるようになったかを評価する
	レポート	30	課題について、適切な方法で調べまとめた上で、自分の考えを論理的に説明できるかを基準とする。
	発表、討論	30	課題について、適切な方法で調べてまとめ、効果的な媒体・教材を用いて発表でき、かつその内容が栄養学的に正しいかどうかを基準とする。また、他人の発表を意欲的に聞き、積極的に討論に参加することも基準とする。

教科書:

参考書:	テラーメイド個人対応栄養学 日本栄養・食糧学会監修 合田敏尚・岡崎光子編集 建帛社 栄養・食品機能とトランスポーター 日本栄養・食糧学会監修 竹谷豊・薩秀夫・伊藤美紀子・武田英二編集 建帛社 これからの栄養教育論 Isbel R. Contento著 足立己幸・衛藤久美・佐藤都喜子 監訳 第一出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、メール、マナビー

授業テーマ:			
授業の概要:	食品中に含まれる栄養成分は、身体の構成成分やエネルギー源として利用されるほかに体内での代謝調節にも深く関わっている。この授業では栄養素や栄養学と関連する遺伝子について取り上げ、理解を深める。		
到達目標:	・栄養素と栄養学に関する遺伝子についての知識を深める ・自分が興味のある分子栄養学に関する論文を検索し、講読し、発表する		
授業方法:	講義、演習発表		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 分子生物学の基礎1		
	2. 分子生物学の基礎2		
	3. 栄養素と遺伝子1(糖質)	糖質の代謝について授業前までに復習しておくこと。グルコーストランスポーターについて教科書を読んでおくこと。	
	4. 栄養素と遺伝子2(アミノ酸)	アミノ酸の代謝、細胞内情報伝達について復習しておくこと。	
	5. 栄養素と遺伝子3(脂質)	脂質の代謝について復習しておくこと。	
	6. 栄養素と遺伝子4(ビタミン)	ビタミンA、βカロテンについて復習しておくこと。	
	7. 栄養素と遺伝子5(ビタミン)	ビタミンD、ビタミンEについて復習しておくこと。	
	8. 栄養素と遺伝子6(微量金属)	微量金属について復習しておくこと。	
	9. 栄養素と遺伝子(ミネラル)		
	10. 栄養学と関連する遺伝子1(メタボリックシンドローム)	メタボリックシンドロームとは何か予習しておくこと。	
	11. 栄養学と関連する遺伝子2(肥満)		
	12. 栄養学と関連する遺伝子3(肥満)		
	13. 栄養学と関連する遺伝子4(味覚)		
	14. 栄養学と関係する遺伝子5(寿命)		
	15. まとめ(プレゼンテーション)	自分が興味のある栄養素に関連する遺伝子についての論文を取り上げ、パワーポイントを用いて発表を行う	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	演習発表(プレゼンテーション)については、発表中にコメントを行う。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、理解が深まっているかについて評価する
	演習発表(プレゼンテーション)	50	論文を正確に理解できているか評価する
教科書:	佐久間慶子、栄養と遺伝子のはなし(第3版)、技報堂出版		
参考書:	中村桂子、松原謙一監訳、Essential細胞生物学 原書第4版、南江堂 中村桂子、松原謙一監訳、細胞の分子生物学 第5版、ニュートンプレス		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー		

授業テーマ:	食物栄養科学分野の研究課題の探索とプレゼンテーション力の習得		
授業の概要:	修士論文とさらなる学術的目標を達成するためには、研究テーマに関連した専門領域の国内外の研究動向を把握し、研究成果を有効に発表することが必要である。また、研究に携わる者としての国際的な倫理観を身につけ、その基本的姿勢をもって研究をデザインする力を習得しなければならない。そこで、本演習では、食物栄養科学分野の英語研究論文の講読を通して、研究倫理に則った実験・調査等の研究手法を理解し、研究の発展的展開を考える力を身につける。また、同時に、論文内容をプレゼンテーションすることによって、研究成果発表力を養成すると共に、演習Ⅱにつなげる。		
到達目標:	専門分野の英語研究論文を読み込んでわかりやすくプレゼンテーションできる。		
授業方法:	講義、文献講読、受講者の発表、ディスカッションなどにより授業を構成する。プレゼンテーションは、あらかじめレジュメを作成の後、教員と学生の前でパワーポイント・スライドにて行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業オリエンテーション	研究テーマに関連した専門領域の英語論文の講読に当たって、あらかじめ日本語訳を行い、専門用語等の内容を調べておくこと。発表当日のディスカッションに備え、関連する先行研究の論文も合わせて読んでおくこと。また、プレゼンテーションに必要なレジュメ、スライドは授業内に全て作成し終えることができないので、授業時間外で作成する必要がある。	
	2. 食物栄養科学分野の研究発展に有用な文献とは1 —文献検索手法		
	3. 食物栄養科学分野の研究発展に有用な文献とは2 —文献検索の実践		
	4. 食物栄養科学分野の文献の講読		
	5. 食物栄養科学分野の文献の講読		
	6. 食物栄養科学分野の文献紹介とは—分かりやすい プレゼンテーションのためのレジュメ、スライド作り		
	7. 食物栄養科学分野の文献紹介—プレゼンテーション		
	8. プレゼンテーションの講評と修正		
	9. 食物栄養科学分野の文献検索		
	10. 食物栄養科学分野の文献の講読		
	11. 食物栄養科学分野の文献の講読		
	12. プレゼンテーションのためのレジュメ、スライド作成		
	13. 食物栄養科学分野の文献紹介—プレゼンテーション		
	14. プレゼンテーションの講評と修正		
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室内で解説する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	50	プレゼンテーション力と質疑応答力で評価する。
	発表	50	
教科書:	なし		
参考書:	随時紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	研究室内で対応		

授業テーマ:	食物栄養科学分野の研究課題の探索とプレゼンテーション力の習得		
授業の概要:	修士論文とさらなる学究的目標を達成するためには、研究テーマに関連した専門領域の国内外の研究動向を把握し、研究成果を有効に発表することが必要である。また、研究に携わる者としての国際的な倫理観を身につけ、その基本的姿勢をもって研究をデザインする力を習得しなければならない。そこで、本演習では、食物栄養科学分野の英語研究論文の講読を通して、研究倫理に則った実験・調査等の研究手法を理解し、研究の発展的展開を考える力を身につける。また、同時に、論文内容をプレゼンテーションすることによって、研究成果発表力を養成する。		
到達目標:	専門分野の英語研究論文を読み込んでわかりやすくプレゼンテーションできる。		
授業方法:	講義、文献講読、受講者の発表、ディスカッションなどにより授業を構成する。プレゼンテーションは、あらかじめレジュメを作成の後、教員と学生の前でパワーポイント・スライドにて行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業オリエンテーション	研究テーマに関連した専門領域の英語論文の講読に当たって、あらかじめ日本語訳を行い、専門用語等の内容を調べておくこと。発表当日のディスカッションに備え、関連する先行研究の論文も合わせて読んでおくこと。また、プレゼンテーションに必要なレジュメ、スライドは授業内に全て作成し終えることができないので、授業時間外で作成する必要がある。	
	2. 食物栄養科学分野の研究発展に有用な文献とは1—文献検索手法		
	3. 食物栄養科学分野の研究発展に有用な文献とは2—文献検索の実践		
	4. 食物栄養科学分野の文献の講読		
	5. 食物栄養科学分野の文献の講読		
	6. 食物栄養科学分野の文献紹介とは—分かりやすいプレゼンテーションのためのレジュメ、スライド作り		
	7. 食物栄養科学分野の文献紹介—プレゼンテーション		
	8. プレゼンテーションの講評と修正		
	9. 食物栄養科学分野の文献検索		
	10. 食物栄養科学分野の文献の講読		
	11. 食物栄養科学分野の文献の講読		
	12. プレゼンテーションのためのレジュメ、スライド作成		
	13. 食物栄養科学分野の文献紹介—プレゼンテーション		
	14. プレゼンテーションの講評と修正		
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室内で解説する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	50	プレゼンテーション力と質疑応答力で評価する。
	発表	50	
教科書:	なし		
参考書:	随時紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	研究室内で対応		

授業テーマ:

医療分野の管理栄養士業務について実地研修(インターンシップ)を行うことにより、体得する。

授業の概要:

医療機関において1年間にわたり実地研修を行い、医療分野の管理栄養士としての基本的能力を養う。特に1年間で到達すべきコンピテンシーを業務分野ごとに明示されたレベルに到達できることを目標とする。

到達目標:

インターンシップにより実施する研修分野と到達すべきコンピテンシーの概要は次の通り。
<インターンシップにおけるスキルの到達目標>
レベルⅠ当該項目を知っているが経験がない
レベルⅡ当該項目を指導下で実践できる。(経験はあるが単独ではできない)
レベルⅢ当該項目を単独で実践できる
レベルⅣ当該項目を熟練し指導できる

授業方法:

医療機関においての実地修練であることから、管理栄養士だけでなく、医師、コメディカルスタッフ、事務職、調理師等関連職者から実地指導を受ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. 医療人として、管理栄養士として、組織人としての基本的な態度、行動をとる (目標レベルⅢ)	2. 栄養管理 (1)栄養評価 (目標レベルⅢ) (2)栄養管理計画 (目標レベルⅢ) (3)栄養補給法 (目標レベルⅡ～Ⅲ) (4)食事摂取量調査 (目標レベルⅢ) (5)医療連携 (目標レベルⅠ～Ⅲ)	特に医療における管理栄養士の職業倫理について、既存資料、webサイト、日本栄養士会生涯教育などにより、研鑽しまとめておく。 栄養管理プロセスの基本、特に栄養評価に基づく栄養診断について学習しておく。
	3. 栄養指導 行動科学的な手法を用いた指導ができる、など (目標レベルⅡ～Ⅲ)	認知行動療法などの栄養指導において応用される介入手法について学習しておく。
	4. チーム医療への参加、クリニカルパスの運用 (目標レベルⅡ)	医療における様々な医療チームの現状と診療報酬上に多職種連携がどのように評価されているかを学習しておく。
	5. 給食経営管理 (1)献立作成 (目標レベルⅡ～Ⅲ) (2)調理・配膳 (目標レベルⅠ～Ⅲ) (3)食材料管理 (目標レベルⅡ～Ⅲ) (4)給食の評価 (目標レベルⅡ～Ⅲ)	給食経営管理においてポイントとなる業務を理解するために、医師によるオーダーから、配食に足るまでの情報の流れと関連業務を総括して述べられる準備をしておく。
	6. リスクマネジメント (1)医療安全管理 (目標レベルⅠ～Ⅲ) (2)院内感染対策 (目標レベルⅠ～Ⅱ) (3)食品衛生管理 (目標レベルⅠ～Ⅱ) (4)災害時緊急対策 (目標レベルⅠ～Ⅱ)	食事の安全安心を含め、医療現場におけるリスク管理を、患者、医療者、施設などそれぞれの視点からまとめておく
	7. 栄養関連会議に出席し意見を述べる。(目標レベルⅠ)	栄養関連の会議の種類、出席者、必要な資料等について調べておく。
	8. 部門運営 (費用対効果、労働基準法など含む) (目標レベルⅠ～Ⅱ)	栄養部門業務を俯瞰して図式し、人員配置、業務の概要、合理的な運営方法などについて検討しておく。労働基準法、労働安全衛生法などを調べておく。
	9. 研究活動 (テーマ設定、計画、実施、まとめ、論文作成) (目標レベルⅡ～Ⅲ)	1年次から研究テーマについて、指導教員、現地指導者と十分に話し合っておく。人を対象とした医学研究の倫理審査について、学習しておく。
	10. 専門分野の知識の習得 (目標レベルⅢ)	特に医療における管理栄養士に必要な専門知識や技術について把握し、学会誌等をとおして新しい知識の習得に努める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

インターンシップは、受け身で研修すると十分に効果をもたらしません。常に与えられた課題について、事前準備を怠らず、実地研修に臨むこと。報告、連絡、相談を心がけること。すべての研修内容は、管理栄養士が求められるスキルを習得し患者の治療に最大限に貢献するために行うものであることを忘れてはいけない。

フィードバックの方法:

指導教員は学生およびインターンシップ指導者と密接に連携し、実習内容の確認および、スキルの到達度の点検を実施する。点検により研修内容の修正や研修量の調整を行い、最大限に研修効果を得るよう連携する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	出席率60%未満の場合は0点とする
	到達度評価	50	コンピテンシー表の記載により到達度を評価

教科書:

用いない

参考書:

給食経営管理実務ガイドブック 富岡和夫編著(同文書院)
国際標準化のための栄養ケアプロセスマニュアル 日本栄養士会監訳(第一出版)
静脈経腸栄養ガイドライン(第3版) 日本静脈経腸栄養学会編集(照林社)
エッセンシャル臨床栄養学第8版 佐藤和人、本間健、小松龍史編(医歯薬出版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力、思考力、変化対応力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

電話、メール等による

授業テーマ:

授業の概要: 化学物質や医薬品をその化学的・物理的性質に基づいて分析するための基本的知識と技能の修得を目的とし、化学分析における試薬・器具・計量器の取り扱い方、データ処理法、化学平衡に基づいた定量法である容量分析法および汎用される機器分析法の基本的な技術と知識を習得させる。

到達目標:

- ・測定値を適切に取り扱うことができる
- ・各種分析装置を用いて、試料の分析を実施できる

授業方法： 実習テキスト、パワーポイント、DVD教材を用いて実習講義を行う。
容量分析用滴定装置、分光光度計、高速液体クロマトグラフィー装置、薄層クロマトグラフィー装置を学生が自ら操作して試料の分析を行う。
個人または2～3人のグループで実習を行う。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

1. 器具・計量器の取扱い方法
(C2-(1)-①分析の基本1)
2. 実験値を用いた計算および統計処理法、定量分析
用標準液の調製と標定
(C2-(1)-①分析の基本2; C2-(3)-②定量分析1)
3. 電気滴定法: 水素イオン濃度 (pH) の測定、電気滴定
の原理と操作法の修得 (C2-(2)-①酸と塩基2,3; C2-
(3)-②定量分析5)
4. 酸塩基滴定 (電位差滴定法): 日本薬局方収載医薬
品の容量分析の実施 (C2-(3)-②定量分析1,5)
5. キレート滴定: キレート滴定の原理と操作法の修得
(C2-(2)-②各種の化学平衡1; C2-(3)-②定量分析
6. キレート滴定: 日本薬局方収載医薬品の容量分析の
実施 (C2-(2)-②各種の化学平衡1; C2-(3)-②定量
分析5)
7. 酸化還元滴定: 酸化還元滴定の原理と操作法の修
得 (C2-(2)-②各種の化学平衡3,4; C2-(3)-②定量
分析4)
8. 酸化還元滴定: 日本薬局方収載医薬品の容量分析
の実施 (C2-(2)-②各種の化学平衡3,4; C2-(3)-②
定量分析5)
9. 紫外可視吸光度法: 紫外可視吸光度法の原理と操
作法の修得 (C3-(4)-①分光分析法1)
10. 紫外可視吸光度法: 日本薬局方収載医薬品の定量
分析の実施 (C3-(4)-①分光分析法1)
11. 薄層クロマトグラフィー: クロマトグラフィーの種類、特
徴、分離機構の修得 (C2-(5)-①クロマトグラフィー
1,2)
12. 薄層クロマトグラフィー: 薄層クロマトグラフィーを用
いた分離分析、日本薬局方収載医薬品の確認試
験・純度試験の実施 (C2-(5)-①クロマトグラフィー
13. 液体クロマトグラフィー: 液体クロマトグラフィーで用
いられる装置の構成と検出法の修得 (C2-(5)-①ク
ロマトグラフィー1,3)
14. 液体クロマトグラフィー: 液体クロマトグラフィーを用
いた分離分析、日本薬局方収載医薬品の定量分析
の実施 (C2-(5)-①クロマトグラフィー1,3)
15. データのまとめ方、レポートの作成法

準備学習等の内容

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解析する

「成績評鑑方法」
「成績評鑑基準」：

評価方法

割合

評估基準

授業への積極的参加度	50	無断欠席が1回以上ある場合は単位を認めないことがある
レポート	40	分析結果のまとめの仕上がり度合と考察
実習態度	10	積極的に技術を習得する意欲を評価する

教科書： 医薬品分析化学実習テキスト(実習時に無料配布)

参考書：第十七改正日本薬局方解説書（廣川書店発行）

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡
方法:

電子メール

授業テーマ:	生薬学に関する知識及び技能の習得																																		
授業の概要:	生薬が医薬品であり、漢方処方製剤の原料となっていることを認識する。日本薬局方に収載されている生薬について、外部形態の観察、スケッチを行い、また局方規定生薬及び生薬由来医薬品は薬局方の条文に沿って確認試験を行うことにより、生薬に対する理解を深めることを目的とする。また、代表的な漢方処方製剤の構成生薬について、ルーペを用いて鑑別、スケッチを行い、数種の漢方処方については煎剤の調製を行い、匂い、色調、味を体験するなど薬学コアカリキュラムC5(1)、(2)、E2(10)を習得する。																																		
到達目標:	1. 薬用植物の外部的特徴を理解する能力の習得。 2. 薬用植物から有効成分を単離する能力の習得。 3. 外観及び確認試験により生薬を判別する能力の習得。 4. 漢方処方を構成する生薬を理解する能力の習得。																																		
授業方法:	おおよそ2人1組または個人単位で、実習室にて実験する。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. No.1(1) 薬用植物の観察、スケッチ:薬用植物園にて実習……………C5(1)–1–1),2),4)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>2. No.1(2) 薬用植物の観察、スケッチ:薬用植物園にて実習……………C5(1)–1–1),2),4)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>3. No.2(1) 薬用植物から医薬品の抽出・分離:茶葉からのカフェインの抽出・分離……………C5(2)–3–1)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>4. No.2(2) 薬用植物から医薬品の抽出・分離:茶葉からのカフェインの抽出・分離……………C5(2)–3–1)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>5. No.2(3) 薬用植物から医薬品の抽出・分離:茶葉からのカフェインの抽出・分離……………C5(2)–3–1)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>6. No.3(1) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(医薬品の確認試験–1)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>7. No.3(2) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(医薬品の確認試験–2)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>8. No.3(3) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(未知試料の確認試験–1)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>9. No.3(4) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(未知試料の確認試験–2)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>10. No.4(1) 生薬の鑑定:生薬の生、刻みの観察、鑑定……………C5(1)–2–1),–3–1),–4–3)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>11. No.4(2) 生薬の鑑定:生薬の生、刻みの観察、鑑定……………C5(1)–2–1),–3–1),–4–3)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>12. No.5(1) 漢方方剤の調製:漢方方剤の構成生薬の鑑定と煎じ薬の調製(構成生薬のスケッチ)……………E2(10)–1–3),–2–2)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>13. No.5(2) 漢方方剤の調製:漢方方剤の構成生薬の鑑定と煎じ薬の調製(漢方方剤の調製)……………E2(10)–1–3),–2–2)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>14. No.6(1) 生薬を用いた軟膏製剤の作成:紫雲膏の作成(紫雲膏の調製)……………C5(2)–3–1), E(10)–1–3),–2–2)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr><tr><td>15. No.6(2) 生薬を用いた軟膏製剤の作成:紫雲膏の作成(紫根の色素の定量)……………C5(2)–3–1), E(10)–1–3),–2–2)</td><td>配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. No.1(1) 薬用植物の観察、スケッチ:薬用植物園にて実習……………C5(1)–1–1),2),4)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	2. No.1(2) 薬用植物の観察、スケッチ:薬用植物園にて実習……………C5(1)–1–1),2),4)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	3. No.2(1) 薬用植物から医薬品の抽出・分離:茶葉からのカフェインの抽出・分離……………C5(2)–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	4. No.2(2) 薬用植物から医薬品の抽出・分離:茶葉からのカフェインの抽出・分離……………C5(2)–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	5. No.2(3) 薬用植物から医薬品の抽出・分離:茶葉からのカフェインの抽出・分離……………C5(2)–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	6. No.3(1) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(医薬品の確認試験–1)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	7. No.3(2) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(医薬品の確認試験–2)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	8. No.3(3) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(未知試料の確認試験–1)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	9. No.3(4) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(未知試料の確認試験–2)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	10. No.4(1) 生薬の鑑定:生薬の生、刻みの観察、鑑定……………C5(1)–2–1),–3–1),–4–3)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	11. No.4(2) 生薬の鑑定:生薬の生、刻みの観察、鑑定……………C5(1)–2–1),–3–1),–4–3)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	12. No.5(1) 漢方方剤の調製:漢方方剤の構成生薬の鑑定と煎じ薬の調製(構成生薬のスケッチ)……………E2(10)–1–3),–2–2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	13. No.5(2) 漢方方剤の調製:漢方方剤の構成生薬の鑑定と煎じ薬の調製(漢方方剤の調製)……………E2(10)–1–3),–2–2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	14. No.6(1) 生薬を用いた軟膏製剤の作成:紫雲膏の作成(紫雲膏の調製)……………C5(2)–3–1), E(10)–1–3),–2–2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。	15. No.6(2) 生薬を用いた軟膏製剤の作成:紫雲膏の作成(紫根の色素の定量)……………C5(2)–3–1), E(10)–1–3),–2–2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. No.1(1) 薬用植物の観察、スケッチ:薬用植物園にて実習……………C5(1)–1–1),2),4)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
2. No.1(2) 薬用植物の観察、スケッチ:薬用植物園にて実習……………C5(1)–1–1),2),4)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
3. No.2(1) 薬用植物から医薬品の抽出・分離:茶葉からのカフェインの抽出・分離……………C5(2)–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
4. No.2(2) 薬用植物から医薬品の抽出・分離:茶葉からのカフェインの抽出・分離……………C5(2)–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
5. No.2(3) 薬用植物から医薬品の抽出・分離:茶葉からのカフェインの抽出・分離……………C5(2)–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
6. No.3(1) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(医薬品の確認試験–1)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
7. No.3(2) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(医薬品の確認試験–2)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
8. No.3(3) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(未知試料の確認試験–1)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
9. No.3(4) 生薬の確認試験:生薬を原料とする医薬品の確認試験(未知試料の確認試験–2)……………C5(1)–4–2),4) アドC5–3–1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
10. No.4(1) 生薬の鑑定:生薬の生、刻みの観察、鑑定……………C5(1)–2–1),–3–1),–4–3)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
11. No.4(2) 生薬の鑑定:生薬の生、刻みの観察、鑑定……………C5(1)–2–1),–3–1),–4–3)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
12. No.5(1) 漢方方剤の調製:漢方方剤の構成生薬の鑑定と煎じ薬の調製(構成生薬のスケッチ)……………E2(10)–1–3),–2–2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
13. No.5(2) 漢方方剤の調製:漢方方剤の構成生薬の鑑定と煎じ薬の調製(漢方方剤の調製)……………E2(10)–1–3),–2–2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
14. No.6(1) 生薬を用いた軟膏製剤の作成:紫雲膏の作成(紫雲膏の調製)……………C5(2)–3–1), E(10)–1–3),–2–2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
15. No.6(2) 生薬を用いた軟膏製剤の作成:紫雲膏の作成(紫根の色素の定量)……………C5(2)–3–1), E(10)–1–3),–2–2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	レポートを添削して返却する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席、実験への取り組み 態度 レポート</td><td>50 50</td><td>欠席及び取り組む態度により減点する。 レポートのまとめの仕上がり度合により評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席、実験への取り組み 態度 レポート	50 50	欠席及び取り組む態度により減点する。 レポートのまとめの仕上がり度合により評価する。																												
評価方法	割合	評価基準																																	
出席、実験への取り組み 態度 レポート	50 50	欠席及び取り組む態度により減点する。 レポートのまとめの仕上がり度合により評価する。																																	
教科書:	生薬学実習書を配布 わかりやすい化学実験—基本操作とチェックポイント— 著者 津波古充朝 他(廣川書店)																																		
参考書:	第十七改正日本薬局方解説書(学生版)日本薬局方解説書編集委員会編(廣川書店) パートナー生薬学改訂第3版 竹谷孝一、木内文之、小松かつ子編(南江堂) カラーグラフィック薬用植物第4版 北中進、寺林進、高野明人編(廣川書店)																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力																																		
教員との連絡方法:	オフィスアワー																																		

授業テーマ: 生化学の講義で学んだ知識を用いて実験の原理を理解し、基本的な生化学的、分子生物学的手法を習得する。

授業の概要:

1. 酵素学実習
本実習では本来生体で行われている酵素と基質との反応を試験管内において人工的に構成した条件下で行い、産生される生成物を化学反応によって検出し、酵素活性を測定する。これらの実験を通して、酵素反応の基本的な性質を理解する。また、酵素反応に阻害剤を添加してその影響を観察することにより、阻害剤がどのようなメカニズムで酵素反応を阻害するかについて学ぶ。
2. PCR法実習
本実習では、口腔粘膜細胞を材料とし、PCR法を利用してアルデヒドデヒドロゲナーゼ2遺伝子の遺伝子型の判定を行う操作を通して、PCR法の原理を理解し、遺伝子工学の分野で一般的に行われる操作を学ぶ。

到達目標:

1. 酵素学実習
- C6 生命現象の基礎(3) 生命活動を担うタンパク質 【(3)酵素】
 - 1) 生物の生体反応を触媒するタンパク質である酵素の性質を理解する。
 - 2) 酵素活性に対する阻害剤の影響を観察することにより、酵素研究の基礎を学ぶ。
 - 3) 酵素反応速度論(ミカエリス・メンテンの理論)を理解する。

2. PCRによる遺伝子型解析
C6 生命現象の基礎(4) 生命情報を担う遺伝子 【(6)組換えDNA】
PCR法の原理を理解し、遺伝子工学の分野で一般に行われる操作を学ぶと共に、遺伝子診断やテラーメイド医療の現場で
実際行われるPCR法による遺伝子型決定法の実際に触れることを目的とする。

授業方法： 2～6名を1班として、各項目の実習内容を実習日程に基づいてローテーションにより進行する。
実験操作はプロトコルを作成するなど十分な予習に努めること。また、実習当日は担当教員の説明を遵守すること。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体説明(酵素学実習、PCR法実習)、 ピペットマン操作練習	WEB学習支援システムの動画を見て予習し、当日の教員の 操作指示を理解した上で確実に行えるようにする。
2.	酵素学実習・酵素ラクターゼによる乳糖分解機構	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレ ーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコルを 作成する。
3.	酵素学実習・グルテストセンサーによるグルコースの 測定	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレ ーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコルを 作成する。
4.	酵素学実習・酵素反応における産生物の経時変化	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレ ーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコルを 作成する。
5.	酵素学実習・酵素反応における基質特異性	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレ ーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコルを 作成する。
6.	酵素学実習・酵素反応におけるpH, 温度の影響	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレ ーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコルを 作成する。
7.	酵素学に関する講義・課題	
8.	PCRによる遺伝子型解析・表現型の解析(アルコール パッチテスト)	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレ ーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコルを 作成する。
9.	PCRによる遺伝子型解析・染色体DNA抽出	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレ ーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコルを 作成する。
10.	PCRによる遺伝子型解析・PCR PCRによる遺伝子 型判定	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレ ーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコルを 作成する。
11.	PCRによる遺伝子型解析・アガロースゲル電気泳動	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレ ーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコルを 作成する。
12.	PCRによる遺伝子型解析・遺伝子型と表現型の解析	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレ ーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコルを 作成する。
13.	遺伝子型に関する講義・課題	
14.	総合説明・再実験	
15.	総合説明・再実験	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: レポートを添削後返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加度	10	無断欠席の場合には単位を認めない。 遅刻厳禁。提出期限を過ぎたレポートは原則的に受理しない。内容に不備のあるレポートの提出は減点の対象となり、再提出を課す。
	実習態度	10	
	レポート等	80	

教科書： 酵素学実習とPCR法実習で1部，動物実験実習で1部の実習書を配布する。

参考書: 生物化学実験法1還元糖の定量法 第2版 福井作蔵 著
生物化学実験法2蛋白質の定量法 第3版 菅原 潔、副島正美 著
薬学領域の生化学(廣川書店)編集 伊東 晃 藤木博太

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力

WEB学習支援システムの掲示板等

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	滅菌法と無菌操作I: 代表的な滅菌法の理解 コアカリC8(3)⑤	実習書を読み事前学習を行う
2.	滅菌法と無菌操作II: 代表的な滅菌法の習得 コアカリC8(3)⑥2	実習書を読み事前学習を行う
3.	滅菌法と無菌操作III: 主な消毒薬の適切な使用 コアカリC8(3)⑤および⑥2	実習書を読み事前学習を行う
4.	滅菌法と無菌操作IV: 無菌操作法の理解と習得 コアカリC8(3)⑥2	実習書を読み事前学習を行う
5.	細菌の分離培養及び同定I: 細菌の分離培養の実施 コアカリC8(3)⑥3	実習書を読み事前学習を行う
6.	細菌の分離培養及び同定II: 細菌の液体培養法の習得 コアカリC8(3)⑥2	実習書を読み事前学習を行う
7.	細菌の分離培養及び同定III: グラム染色の実施 コアカリC8(3)⑥1	実習書を読み事前学習を行う
8.	細菌の分離培養及び同定IV: 菌種同定に用いられる生化学的試験法の理解 コアカリC8(3)⑥3	実習書を読み事前学習を行う
9.	細菌の分離培養及び同定V: 選択培地等を用いた細菌の同定 コアカリC8(3)⑥3	実習書を読み事前学習を行う
10.	抗菌薬感受性試験: 液体希釈法 コアカリE2(7)①1	実習書を読み事前学習を行う
11.	抗菌薬感受性試験: 軟寒天培地の利用による阻止円形成 コアカリE2(7)①1	実習書を読み事前学習を行う
12.	感染と免疫I: リポ多糖によるマクロファージ系培養細胞の刺激 コアカリC8(1)①②③	実習書を読み事前学習を行う
13.	感染と免疫II: マクロファージ系培養細胞によるNO産生量の測定 コアカリC8(1)①②③	実習書を読み事前学習を行う
14.	感染と免疫IV: 沈降反応を利用した抗原の検出 コアカリC8(2)②4	実習書を読み事前学習を行う
15.	感染と免疫V: 免疫染色による抗原の検出 コアカリC8(2)②4	実習書を読み事前学習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前に実習書を配布する。その内容に従い事前学習と復習を行うこと。

フィードバックの方法:

必要に応じて面談等を行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	80	原則として、実習に全て出席した者を成績評価の対象とする。レポートの採点は実習内容の理解度に基づき行う。
	授業態度	20	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワーの活用

授業テーマ:	衛生薬学領域で重要な試験項目について、衛生薬学的意義・原理の理解、基本操作の修得、並びに自然科学者としての心構えや態度の涵養		
授業の概要:	我々の生命や健康は環境(食品、水、空気、嗜好品)から摂取する様々な化学物質により影響を受けることから、これら化学物質の摂取量・曝露量を把握する必要がある。本実習では、衛生薬学領域で重要な試験項目である空気試験、水質試験、食品試験、裁判化学試験に含まれる以下の(1)～(4)の各項目について実習を行う。 (1)空気試験:カタ冷却力、感覚温度、二酸化炭素、ホルムアルデヒド D2-(2)-④-2 (2)水質試験:過マンガン酸カリウム消費量、アンモニア性窒素 D2-(2)-③-5 (3)食品試験:着色料、糖質 D1-(3)-①-2 (4)裁判化学試験:性別判定、指紋検出 D2-(1)-①-7		
到達目標:	各試験項目の意義、原理、操作、試薬の意味を説明できる。 試薬の調整法、器具・装置の取り扱いに関する基本的知識と技術を修得する。 実験・研究に携わる自然科学者としての心構えや態度を身につける。		
授業方法:	1日目は実習項目の概要説明の後、実習に必要な器具・機器の準備ならびに試薬類の調整を行い、2日目から各項目について実習を行う。実習項目は12あるが、項目によって1人、2人1組または4人1組で操作を行う。実習項目毎に、操作上の重要な点や注意点、並びに研究災害防止のうえで留意すべき点を説明する。その後に実習に入るが、実習中並びに実習終了後に、行った操作や得られた結果について討議することにより、実習項目の衛生薬学的意義や測定原理についての理解を深める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	1日目3講時 実習項目の概要および原理、諸注意、レポートの書き方等の説明	2日目に実習する項目について、測定原理と操作の概要を把握する。
	2.	1日目4講時 使用する器具の洗浄	
	3.	1日目5講時 使用する試薬の調製	
	4.	2日目3講時 空気試験:カタ冷却力測定(カタ温度計法)、二酸化炭素濃度測定(検知管法) D2-(2)-④-2	本日の実習で得られた実験結果を図表等にまとめるとともに、結果に対する考察を行い、レポートを記載する。 3日目に行う項目について、測定原理と操作の概要を把握する。
	5.	2日目4講時 空気試験:感覚温度の算出 D2-(2)-④-2	
	6.	2日目5講時 空気試験:ホルムアルデヒド濃度測定(HPLC法) D2-(2)-④-2	
	7.	3日目3講時 水質試験:過マンガン酸カリウム消費量測定(1) 試薬の調製、標定 D2-(2)-③-5	本日の実習で得られた実験結果を図表等にまとめるとともに、結果に対する考察を行い、レポートを記載する。 4日目に行う項目について、測定原理と操作の概要を把握する。
	8.	3日目4講時 水質試験:過マンガン酸カリウム消費量測定(2) 検体の測定 D2-(2)-③-5	
	9.	3日目5講時 水質試験:アンモニア性窒素濃度測定(インドフェノール法) D2-(2)-③-5	
	10.	4日目3講時 食品試験:着色料同定(TLC法) D1-(3)-②-5	本日の実習で得られた実験結果を図表等にまとめるとともに、結果に対する考察を行い、レポートを記載する。 5日目に行う項目について、測定原理と操作の概要を把握する。
	11.	4日目4講時 食品試験:糖質分析(酵素法)(1) グルコース、フルクトース D1-(3)-①-2	
	12.	4日目5講時 食品試験:糖質分析(酵素法)(2) スクロース D1-(3)-①-2	
	13.	5日目3講時 裁判化学試験:性別判定試験(1) PCR D2-(1)-①-7	本日の実習で得られた実験結果を図表等にまとめるとともに、結果に対する考察を行い、レポートを記載する。
	14.	5日目4講時 裁判化学試験:性別判定試験(2) 電気泳動解析 D2-(1)-①-7	
	15.	5日目5講時 裁判化学試験:指紋検出(ニンヒドリン反応法) D2-(1)-①-7	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本実習で行う操作や用いる機器の測定原理はいずれも、薬学領域で広く用いられている基盤的なものである。その原理をしっかりと理解することが重要である。		
フィードバックの方法:	提出のレポートは採点したのち、所属研究室ごとに返却する。		

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実習への取り組み態度	70%	スムーズに実習を開始できているか、適切な操作を行っているか、必要な操作や注意を省略していないかなど、実習に臨む態度を評価する。実習に全て出席した者を成績評価の対象とする。
	レポート	30%	測定の目的や原理が正しく理解できているか、得られた結果が適切にまとめられているか、その結果をどのように考察しているか、を基準とする。

教科書:

参考書:

「衛生試験法・要説」日本薬学会編(金原出版)4,800円

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡
方法:

Eメール: rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、マナビーの掲示板、随時に研究室で対応

授業テーマ:	薬理学的手法の習熟とデータ解釈																								
授業の概要:	薬理学I、IIおよびIIIの講義で学んだ知識を定着させ、個々の薬物や生体機能の調節メカニズム、治療薬の臨床応用について理解を深める。また、自律神経系、中枢神経系に作用する薬物の薬効の評価法を学ぶ。あわせて、動物実験に伴う倫理的な問題についても学習する。																								
到達目標:	1. 中枢神経系に作用する薬物の作用について、行動薬理学的な観点から評価法を実践できる(知識・技能)。 2. 鎮痛薬の効力の検定法を理解し、効力の違いを測定できる(知識・技能)。 3. 心臓の機能に影響を及ぼす薬物の効果を測定し、薬物の作用メカニズムを説明できる(知識・技能)。 4. 呼吸器系に影響を及ぼす薬物の効果を測定し、薬物の作用メカニズムを説明できる(知識・技能)。 5. 消化管機能に影響を及ぼす薬物の効果を測定し、薬物の作用メカニズムを説明できる(知識・技能)。 6. 動物愛護の観点から生命倫理を正しく理解し、実践できる(知識・態度)。 7. 実験記録の記載方法、レポートの作成方法について学び、実践できる(知識・技能)。																								
授業方法:	学生は小グループに分かれ、以下の15項目を1日に3項目ずつ巡回する。従って、学生によって順番は異なる場合がある。講義と実習、その後にSGD(small group discussion)を課す。																								
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 第一日目3講時: 中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価 実習 E2(1)③-1,5,6,7,12</td><td rowspan="3">配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。</td></tr><tr><td>2. 第一日目4講時: 中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価</td></tr><tr><td>3. 第一日目5講時: 中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価small group discussion (SGD)</td></tr><tr><td>4. 第二日目3講時: 痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定 実習 E2(1)③-2,12</td><td rowspan="3">配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。</td></tr><tr><td>5. 第二日目4講時: 痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定</td></tr><tr><td>6. 第二日目5講時: 痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定 small group discussion (SGD)</td></tr><tr><td>7. 第三日目3講時: 心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察 実習 E2(1)①1-4、E2(3)①1-6</td><td rowspan="3">配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。</td></tr><tr><td>8. 第三日目4講時: 心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察</td></tr><tr><td>9. 第三日目5講時: 心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察small group discussion (SGD)</td></tr><tr><td>10. 第四日目3講時: 循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察 実習 E2(1)①1-4、E2(3)①1-6、E2(4)①1-4</td><td rowspan="3">配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。</td></tr><tr><td>11. 第四日目4講時: 循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察</td></tr><tr><td>12. 第四日目5講時: 循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察 small group discussion (SGD)</td></tr><tr><td>13. 第五日目3講時: 消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察 実習 E2(1)①1-4、E2(4)②6</td><td rowspan="3">配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。</td></tr><tr><td>14. 第五日目4講時: 消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察</td></tr><tr><td>15. 第五日目5講時: 消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察 small group discussion (SGD)</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 第一日目3講時: 中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価 実習 E2(1)③-1,5,6,7,12	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。	2. 第一日目4講時: 中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価	3. 第一日目5講時: 中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価small group discussion (SGD)	4. 第二日目3講時: 痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定 実習 E2(1)③-2,12	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。	5. 第二日目4講時: 痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定	6. 第二日目5講時: 痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定 small group discussion (SGD)	7. 第三日目3講時: 心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察 実習 E2(1)①1-4、E2(3)①1-6	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。	8. 第三日目4講時: 心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察	9. 第三日目5講時: 心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察small group discussion (SGD)	10. 第四日目3講時: 循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察 実習 E2(1)①1-4、E2(3)①1-6、E2(4)①1-4	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。	11. 第四日目4講時: 循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察	12. 第四日目5講時: 循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察 small group discussion (SGD)	13. 第五日目3講時: 消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察 実習 E2(1)①1-4、E2(4)②6	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。	14. 第五日目4講時: 消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察	15. 第五日目5講時: 消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察 small group discussion (SGD)		
授業内容	準備学習等の内容																								
1. 第一日目3講時: 中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価 実習 E2(1)③-1,5,6,7,12	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。																								
2. 第一日目4講時: 中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価																									
3. 第一日目5講時: 中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価small group discussion (SGD)																									
4. 第二日目3講時: 痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定 実習 E2(1)③-2,12	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。																								
5. 第二日目4講時: 痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定																									
6. 第二日目5講時: 痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定 small group discussion (SGD)																									
7. 第三日目3講時: 心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察 実習 E2(1)①1-4、E2(3)①1-6	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。																								
8. 第三日目4講時: 心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察																									
9. 第三日目5講時: 心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察small group discussion (SGD)																									
10. 第四日目3講時: 循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察 実習 E2(1)①1-4、E2(3)①1-6、E2(4)①1-4	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。																								
11. 第四日目4講時: 循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察																									
12. 第四日目5講時: 循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察 small group discussion (SGD)																									
13. 第五日目3講時: 消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察 実習 E2(1)①1-4、E2(4)②6	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。																								
14. 第五日目4講時: 消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察																									
15. 第五日目5講時: 消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察 small group discussion (SGD)																									
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回の授業で扱われるテーマに関して、実習書を参考にしながら自主的に様々な資料(下記の参考文献はその一例)にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。 スモールグループディスカッション(SGD)の内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておき、実習期間が終了したのちに提出すべきレポートに活かせるようにしておくこと。 なお、追加の指示がある場合には、授業時に資料として配付するとともに、マナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。																								
フィードバックの方法:	SDGで討論した内容については各回の授業終了時までには解決できるようにする。また、授業内容に対する質問・疑問等への回答をマナビーにアップロードする。レポートについては採点后、できるだけ早い時期にアドバイザーを通して返却し復習の機会に役立てること。																								
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート課題</td><td>100</td><td>無断欠席があった場合は単位は認めない。成績は実験レポート(課題への解答を含む)を100点満点で評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート課題	100	無断欠席があった場合は単位は認めない。成績は実験レポート(課題への解答を含む)を100点満点で評価する。																		
評価方法	割合	評価基準																							
レポート課題	100	無断欠席があった場合は単位は認めない。成績は実験レポート(課題への解答を含む)を100点満点で評価する。																							
教科書:	実習書を配付する。																								
参考書:	今井正・宮本英七監修、標準薬理学第7版、医学書院 高木敬次郎・亀山 勉監修、最新基礎薬理学第3版、広川書店(薬理学Iの教科書) 加藤隆一・田中千賀子編集、New薬理学改訂第6版、南江堂 越前宏俊著、図解薬理学第2版、医学書院 重信弘毅・石井邦雄編集、パートナー薬理学、南江堂																								
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力																								

教員との連絡
方法:

質問等があれば随時各担当者の研究室 まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメールにて事前に連絡する方が望ましい。なお、科目代表者である藤井を通して質問をすることもできる(E-mail:tfujii@dw.doshisha.ac.jp)。

授業テーマ:

授業の概要:

コンパートメントモデルを基本にした薬物速度論、ならびにタンパク結合に関連した知識(組織分布)を実験で確かめる。(薬学モデルコアカリキュラムのC13-(4)およびC13-(5)に対応)

到達目標：

薬物動態学ⅠおよびⅡで学ぶ速度論(1次消失速度定数、クリアランス、タンパク結合率と分布の関係)について、実習を通じて体得させる。

授業方法:

実習は5日間(1日3コマ)を利用し、1グループ3人程度で各実験を順次行う。

「授業内容」

授業内容

準備学習等の内容

および
「準備学習等の内
容」:

1. 1-コンパートメントモデルを用いた薬物動態のシミュレーションの解説(1)
静脈内投与時における薬物濃度の経時変化および解析方法についての説明
C13-(5)-1-1)~3)、C13-(5)-1-6)~7)、C13-(5)-1-9)、C13-(5)-1-11)
2. 1-コンパートメントモデルを用いた薬物動態のシミュレーションの解説(2)
経口投与時における薬物濃度の経時変化および解析方法についての説明
C13-(5)-1-1)~3)、C13-(5)-1-6)~7)、C13-(5)-1-9)、C13-(5)-1-11)
3. 平衡透析法によるタンパク結合実験の解説
(1) 透析法によるタンパク結合定数の測定の原理と解析
(2) タンパク結合実験による血液一組織間分布平衡のシミュレーションの原理と解析
C13-(4)-2-4)、5)
4. 1-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(1)
(1) 急速静注後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション
(2) 体内動態パラメータの算出と考察(一次速度定数およびクリアランスの理解)
C13-(5)-1-1)~3)、C13-(5)-1-6)~7)、C13-(5)-1-9)、C13-(5)-1-11)
5. 1-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(2)
(1) 急速静注後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション
(2) 体内動態パラメータの算出と考察(一次速度定数およびクリアランスの理解)
C13-(5)-1-1)~3)、C13-(5)-1-6)~7)、C13-(5)-1-9)、C13-(5)-1-11)
6. 1-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(3)
(1) 急速静注後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション
(2) 体内動態パラメータの算出と考察(一次速度定数およびクリアランスの理解)
C13-(5)-1-1)~3)、C13-(5)-1-6)~7)、C13-(5)-1-9)、C13-(5)-1-11)
7. 1-コンパートメントモデルを用いた経口投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(1)
(1) 経口投与後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション
(2) 体内動態パラメータの算出と考察(一次吸収速度定数の理解)
C13-(5)-1-1)~3)、C13-(5)-1-6)~7)、C13-(5)-1-9)、C13-(5)-1-11)
8. 1-コンパートメントモデルを用いた経口投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(2)
(1) 経口投与後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション
(2) 体内動態パラメータの算出と考察(一次吸収速度定数の理解)
C13-(5)-1-1)~3)、C13-(5)-1-6)~7)、C13-(5)-1-9)、C13-(5)-1-11)
9. タンパク結合定数の測定と解析(1)
平衡透析法によるアルブミン水溶液のタンパク結合の測定
タンパク結合率の算出と各種プロットからのタンパク結合定数の解析
C13-(4)-2-4)~5)、C13-(4)-2-4)~7)
10. タンパク結合定数の測定と解析(2)
平衡透析法によるアルブミン水溶液のタンパク結合の測定
タンパク結合率の算出と各種プロットからのタンパク結合定数の解析
C13-(4)-2-4)~5)、C13-(4)-2-4)~7)

薬物動態学ⅠおよびⅡのテキストをよく読んで、1-コンパートメントモデルとその代表的なパラメータについて理解しておく。

薬物動態学ⅠおよびⅡのテキストをよく読んで、1-コンパートメントモデルとその代表的なパラメータについて理解しておく。

薬物動態学ⅠおよびⅡのテキストをよく読んで、薬物の血漿中でのタンパク結合とそのパラメータについて理解しておく。

実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

11.	タンパク結合定数の測定と解析(3) 平衡透析法によるアルブミン水溶液のタンパク結合の測定 タンパク結合率の算出と各種プロットからのタンパク結合定数の解析 C13-(4)-2-4)~5)、C13-(4)-2-4)~7)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
12.	タンパク結合定数の測定と解析(4) 平衡透析法によるアルブミン水溶液のタンパク結合の測定 タンパク結合率の算出と各種プロットからのタンパク結合定数の解析 C13-(4)-2-4)~5)、C13-(4)-2-4)~7)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
13.	1-コンパートメントモデルを用いた点滴静脈内投与後の薬物動態の解析 体内動態パラメータの算出と考察（投与量と定常状態の薬物濃度の関係およびクリアランスへの影響） C13-(5)-1-1)~3)、C13-(5)-1-6)~7)、C13-(5)-1-9)、C13-(5)-1-11)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
14.	2-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与時の薬物動態の解析(1) (1) 2-コンパートメントモデルによる血中濃度－時間データの解析 (2) 薬物動態学的パラメータの算出と理解 C13-(5)-1-1)~3)、C13-(5)-1-6)~7)、C13-(5)-1-9)、C13-(5)-1-11)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
15.	2-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与時の薬物動態の解析(2) (1) 2-コンパートメントモデルによる血中濃度－時間データの解析 (2) 薬物動態学的パラメータの算出と理解 C13-(5)-1-1)~3)、C13-(5)-1-6)~7)、C13-(5)-1-9)、C13-(5)-1-11)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

薬物動態学ⅠおよびⅡで学習した内容を理解しておく、実習を通してその内容が視覚化され理解しやすくなる。

フィードバックの
方法:

実習中に実験方法や解析方法について随時解説や質問に答えるとともに、提出したレポートを採点して返却する

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習への参加度	40	実習の全日程に出席し、積極的に実習に取り組む
実習態度	10	
レポート	50	実習書に従い期日までに作成し、提出

教科書:

実習書

参考書:

薬物動態学Ⅰの講義テキストならびに授業ビデオ
薬物動態学Ⅱの講義テキストならびに授業ビデオ

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、想像力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

学内電子メール

授業テーマ： 薬物の体内での挙動を理解し、医薬品製剤の設計および製剤評価のための基本的知識・技術の修得

授業の概要： 薬剤学実習では、薬物の体内動態、製剤化および製剤の評価のための基本的な知識・技術を習得する。具体的には、水流シミュレーターを用いた1コンパートメントモデルによる薬物体内動態の速度論的解析と理解。顆粒剤、カプセル剤、錠剤の作製、分解反応速度論に基づく注射剤の有効期限の決定、製剤均一性試験法(含量均一性試験、質量偏差試験)および医薬品の溶出試験法などを学修する。

到達目標：

1. 吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学に関する基本事項を修得する
2. 薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する
3. 薬物と製剤材料に関する基本的事項を修得する
4. 製剤の種類、製造、品質に関する基本的事項を修得する
5. 薬物の投与剤形や薬物体内動態の制御法などを工夫したDDSに関する基本的事項を修得する

授業方法： 各項目の実習を2～3名のペアを組み、実習日程に基づいて進行する。実習作業に関連する説明は、各項目の開始時に各項目の担当教員が行うので、その指示に従うこと。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(1) ① 急速静注後の血中薬物濃度の経時的变化をシミュレーション ② 体内動態パラメータの算出と考察(1次速度定数およびクリアランスの理解) E4-(1)、(2)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
2.	1-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(2) ① 急速静注後の血中薬物濃度の経時的变化をシミュレーション ② 体内動態パラメータの算出と考察(1次速度定数およびクリアランスの理解) E4-(1)、(2)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
3.	1-コンパートメントモデルを用いた経口投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(1) ① 経口投与後の血中薬物濃度の経時的变化をシミュレーション ② 体内動態パラメータの算出と考察(1次吸収速度定数の理解) E4-(1)、(2)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
4.	1-コンパートメントモデルを用いた経口投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(2) ① 経口投与後の血中薬物濃度の経時的变化をシミュレーション ② 体内動態パラメータの算出と考察(1次吸収速度定数の理解) E4-(1)、(2)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
5.	タンパク結合定数の測定 ① 平衡透析法によるアルブミン水溶液の透析と非結合型薬物濃度の測定 E4-(1)、(2)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
6.	タンパク結合定数の解析(1) ① 薬物のタンパク結合率の算出 E4-(1)、(2)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
7.	タンパク結合定数の解析(2) ① 各種プロットからの薬物のタンパク結合定数の解析 E4-(1)、(2)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
8.	顆粒剤・カプセル剤・錠剤の作成 ① 押し出し造粒法による顆粒剤の作製 ② カプセル剤の作製 ③ 打錠器を用いた錠剤の作製 E5-(1)、(2)、(3)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
9.	注射剤の有効期限の決定法(1) ① 薬物の分解反応に速度論を適用した薬物の分解速度定数の決定 ② 薬物の分解反応に速度論を適用した薬物の分解半減期の決定 ③ 通常の取り扱いを行なう環境下に暴露した医薬品の含量を測定することによる医薬品の有効期限の決定 E5-(1)、(2)、(3)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
10.	注射剤の有効期限の決定法(2) ① 薬物の分解反応に速度論を適用した薬物の分解速度定数の決定 ② 薬物の分解反応に速度論を適用した薬物の分解半減期の決定 ③ 通常の取り扱いを行なう環境下に暴露した医薬品の含量を測定することによる医薬品の有効期限の決定 E5-(1)、(2)、(3)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

11.	製剤均一性試験法 (1) 作製した錠剤に対して含量均一性試験を適用する E5-(1)、(2)、(3)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
12.	製剤均一性試験法 (2) 作製したカプセル剤に対して質量偏差試験を適用する E5-(1)、(2)、(3)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
13.	溶出試験法 (1) 調製したカプセル剤について溶出試験法を適用する E5-(1)、(2)、(3)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
14.	溶出試験法 (2) 調製した錠剤について溶出試験法を適用する E5-(1)、(2)、(3)	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
15.	まとめ 本実習を通じて得られた知識について到達度確認テストを実施する。	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

実習書は予め配布するので、実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておくこと。実習講義および到達度確認テストの実施日程については別途通知する

フィードバックの
方法:

演習問題等については実習中に解説する。レポートについては採点后に返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
到達度確認試験	20%	成績評価は、出席点(30%)、レポート点(30%)、実習試験(20%)、態度(20%)とし、それらの総合(100点)として評価する。合計60点以上で合格とする。なお、たとえ合計が60点以上であった場合でも、出席点を満たさない限り、合格として取り扱わない。また、出席点を満たしている場合であっても、実習レポートの一部を提出しなかった場合、提出期限を過ぎて提出した場合、レポートを提出しなかった場合などは態度点あるいはレポート点から減点す
実習レポート	30%	
出席及び実習に臨む姿勢	50%	

教科書:

2017年度薬剤学実習書およびプリントを配布する

参考書:

薬物動態学Iの講義テキストならびに授業ビデオ
薬物動態学IIの講義テキストならびに授業ビデオ
物理薬剤学の講義テキスト
製剤学の講義テキスト

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

薬剤学実習に関して質問等がある場合は、科目代表者(芝田信人)の下記メールアドレスまで
nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ：	症例を把握し、適切な薬物治療を実際に提案することをめざす。		
授業の概要：	症状、徴候、検査内容を読み取り、薬物を検討し、症例につき討議して薬物療法を考える。さらに、心音や呼吸音の聴取、血圧測定、心電図等の基本的な検査法、疾患における特徴ある所見などを高機能シミュレーターにて実際に体験し学習を進める。文献情報やエビデンスを確認する。C-14 (1),(2),(3),(4), C-15 (1),(2)		
到達目標：	基礎医学、薬理学、薬物治療学の知識を基礎として、提示された症例について実際に薬物治療を提案する。臨床では患者さんの疾患を理解しカルテを読み薬物治療を提案できる力が必要とされる。		
授業方法：	実技体験、実習、討論を行い、解説にパワーポイント、ビデオを用いる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 提示された患者さんの症候、検査結果を分析する。 2. 高機能シミュレーターを用い、徴候、理学的所見を理解する。 3. 脈、呼吸、血圧について、高機能シミュレーターを用いた体験の実習をおこなう。 4. 尿所見、血液、組織等の検査を理解する。 5. 高機能シミュレーターを用い、心電図、心音、呼吸音の体験の実習をおこなう。 6. エコー、内視鏡などの検査を体験的に理解する。 7. 症例につき模擬カルテ形式で提示し討論する。疾患の総合的理解を深める。文献情報やエビデンスを確認する。 8. 模擬症例提示で急性疾患における薬物治療の実習を行う。 9. 慢性疾患につき理解を深め処方を検討する。 10. 症例につき討論し、薬物治療の基礎となる疾患の総合的理解を深める。 11. 症例につき討論し、薬物治療の基礎となる疾患の総合的理解を深める。文献情報やエビデンスを確認する。 12. 症例につき討論し、薬物治療の基礎となる疾患の総合的理解を深める。文献情報やエビデンスを確認する。 13. 症例につきグループでカルテ形式で提示された症例を討論し、薬物治療内容を決定する。疾患、薬に関する臨床的な質問に答える。 14. 症例につきグループでカルテ形式で提示された症例を討論し、薬物治療内容を決定する。疾患、薬に関する臨床的な質問に答える。 15. 症例につきグループでカルテ形式で提示された症例を討論し、薬物治療内容を決定する。疾患、薬に関する臨床的な質問に答える。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。 機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。	
受講者へのメッセージやアドバイス：			
フィードバックの方法：	レポート		
「成績評価方法」「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
	出席、授業態度 レポートおよび小試験	80% 20%	総合的に評価する。 総合的に評価する。
教科書：	資料配布		
参考書：	資料配布		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法：	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:																					
授業の概要:	免疫、感染症、および関連する疾病や生体制御の基本的メカニズムについて学習する。コアカリを超えたアドバンストな内容である																				
到達目標:	免疫、感染症、および関連する疾病や生体制御の基本的メカニズムについてアドバンストな内容を習得する																				
授業方法:	授業形式は講義を基本とし、オムニバス形式をとる。																				
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 細菌感染時の自然免疫応答(食作用、炎症応答など) コアカリC10(1)(2)(3)</td><td>オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須</td></tr><tr><td>2. 新興再興感染症I: 概論、各論(新型インフルエンザ等) コアカリC10(1)(2)(3)</td><td>オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須</td></tr><tr><td>3. 新興再興感染症II: 各論(HIV、プリオン、癌と感染症など) コアカリC10(1)(2)(3)</td><td>オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須</td></tr><tr><td>4. 免疫と医療(自然免疫とアジュバント開発、ワクチンなど) コアカリC10(1)(2)(3)</td><td>オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須</td></tr><tr><td>5. 細菌感染症に対する化学療法(新たな抗菌化合物の発見と開発のための取り組み) コアカリC10(1)(2)(3)</td><td>オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須</td></tr><tr><td>6. 免疫・感染と疾患(炎症性骨破壊)、炎症・TLRシグナル伝達による骨免疫制御 コアカリC10(1)(2)(3)</td><td>オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須</td></tr><tr><td>7. 感染と共生(院内分離型MRSAとミツバチ脳に感染するウイルスを題材にして) コアカリC10(1)(2)(3)</td><td>オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須</td></tr><tr><td>8. まとめのレポート作成</td><td>事前に出題された課題に対する準備</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 細菌感染時の自然免疫応答(食作用、炎症応答など) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須	2. 新興再興感染症I: 概論、各論(新型インフルエンザ等) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須	3. 新興再興感染症II: 各論(HIV、プリオン、癌と感染症など) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須	4. 免疫と医療(自然免疫とアジュバント開発、ワクチンなど) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須	5. 細菌感染症に対する化学療法(新たな抗菌化合物の発見と開発のための取り組み) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須	6. 免疫・感染と疾患(炎症性骨破壊)、炎症・TLRシグナル伝達による骨免疫制御 コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須	7. 感染と共生(院内分離型MRSAとミツバチ脳に感染するウイルスを題材にして) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須	8. まとめのレポート作成	事前に出題された課題に対する準備		
授業内容	準備学習等の内容																				
1. 細菌感染時の自然免疫応答(食作用、炎症応答など) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須																				
2. 新興再興感染症I: 概論、各論(新型インフルエンザ等) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須																				
3. 新興再興感染症II: 各論(HIV、プリオン、癌と感染症など) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須																				
4. 免疫と医療(自然免疫とアジュバント開発、ワクチンなど) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須																				
5. 細菌感染症に対する化学療法(新たな抗菌化合物の発見と開発のための取り組み) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須																				
6. 免疫・感染と疾患(炎症性骨破壊)、炎症・TLRシグナル伝達による骨免疫制御 コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須																				
7. 感染と共生(院内分離型MRSAとミツバチ脳に感染するウイルスを題材にして) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須																				
8. まとめのレポート作成	事前に出題された課題に対する準備																				
受講者へのメッセージやアドバイス:																					
フィードバックの方法:	必要があれば個別に面談等を行う																				
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>まとめの課題レポート</td><td>60</td><td rowspan="2">出席回数5回以上の学生を評価対象とする</td></tr><tr><td>授業態度(出席等)</td><td>40</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	まとめの課題レポート	60	出席回数5回以上の学生を評価対象とする	授業態度(出席等)	40												
評価方法	割合	評価基準																			
まとめの課題レポート	60	出席回数5回以上の学生を評価対象とする																			
授業態度(出席等)	40																				
教科書:																					
参考書:																					
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己実現力																				
教員との連絡方法:	オフィスアワーの活用、研究室の訪問																				

授業テーマ:

薬剤師の専門的能力を臨床における薬物治療で活かすために
ー薬理学的見地から治療薬についての確な説明および処方の提案などを目指してー

授業の概要:

臨床で薬剤師が処方支援を依頼されることが多い治療薬の薬理を把握して、模擬症例への薬剤の選択を、作用・副作用などを考慮し選択する。講義項目の順序は変更することがある。また臨床現場の薬剤師を講師として招く。

到達目標:

薬物は生体に作用をもたらすものであるが、臨床ではその時に望ましい作用発揮する薬物を治療薬と考える。臨床薬理学は治療薬の安全で適正な使用のために必須の薬理学である。この授業では薬剤師が臨床で薬物治療を支援することが多い項目について、臨床薬理学的概念で個々の患者の最適な薬剤選択を可能とすることを旨とする。

授業方法:

予め提示した課題に対しての発表や討議を主として授業を行うが、必要に応じてパワーポイント・プリントを用いた講義形態をとる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床薬理学導入講義および課題説明	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
2.	睡眠に影響する薬 C14-(4)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
3.	消化器機能に影響する薬 C14-(2)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
4.	排尿に影響する薬 C14-(3)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
5.	がん治療薬 1 C14-(4),(5)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
6.	がん治療薬 2 C14-(4),(5)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
7.	アレルギー治療薬 C14-(4)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
8.	まとめ	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

がん専門薬剤師の先生を招聘して講義を行うため、講義内容の順番を変更することがあります。第1回目に予定を提示します。授業では積極的に発言してください。

フィードバックの方法:

授業時に解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席および授業に対する態度(発表・発言)	40	積極的に授業へ参加したかを評価する。
	レポートおよび確認テスト	60	レポートは予習であり、提出が無ければ減点する。確認テストは到達目標を十分に理解できているかを評価する。

教科書:

今までに購入した薬理書
課題にある薬品の添付文書(医薬品医療機器情報ホームページ: <http://www.info.pmda.go.jp/> で入手可能)

参考書:

アプライドセラピューティクス(じほう)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

hnakanis@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	漢方医学を理解する		
授業の概要:	東洋医学, 特に医療現場で広く用いられている漢方医学について概説する. 漢方医学は中国伝統医学の湯液療法を日本独自で発展した日本の伝統医学である. 現代医療において漢方処方の需要が日増しに増加しており, 医療現場で活躍する薬剤師として漢方に対する知識は欠かすことが出来ない. 本講義では, 漢方方剤の適用に対する基礎的な「証」を正しく認識し, 時に外来講師(ゲストスピーカー)による講義を加え, 医療現場に必要な漢方医学知識を修得する.		
到達目標:	漢方方剤の適用に対する基礎的な「証」を正しく認識し, 医療現場に必要な漢方医学知識の修得		
授業方法:	パワーポイントなどを利用し, 講義を行う.		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	東洋医学概論.....C-7(3)-1-1, 2	授業内容に該当する部分の教科書を読み, 参考書, インターネットを使い, 調査すること.
	2.	漢方医学の基礎知識.....C-7(3)-1-2, 3, 4	授業内容に該当する部分の教科書を読み, 参考書, インターネットを使い, 調査すること.
	3.	診断と治療.....C-7(3)-1-4, 5	授業内容に該当する部分の教科書を読み, 参考書, インターネットを使い, 調査すること.
	4.	漢方処方の特徴.....C-7(3)-1-6, 7, C-7(3)-2-1	授業内容に該当する部分の教科書を読み, 参考書, インターネットを使い, 調査すること.
	5.	漢方薬の副作用.....C-7(3)-2-2	授業内容に該当する部分の教科書を読み, 参考書, インターネットを使い, 調査すること.
	6.	漢方治療の実際(ゲストスピーカー)....C-7(3)-2-1, 2	課せられた課題に対し, 教科書だけでなく, 参考書なども使い調査すること.
	7.	現代のトピック(1).....C-7(3)-2-1, 2	課せられた課題に対し, 教科書だけでなく, 参考書なども使い調査すること.
	8.	現代のトピック(2).....C-7(3)-2-1, 2	課せられた課題に対し, 教科書だけでなく, 参考書なども使い調査すること.
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	質問者に対して研究室で解説する. (中村) メール(knaruhas@dw.doshisha.ac.jp)にて対応する. (成橋)		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	欠席により減点する.
	提出レポート	70	レポートのまとめの仕上がり具合により評価する.
教科書:	現代医療における漢方薬改訂第2版 日本生薬学会監修 (南江堂)		
参考書:	学生のための漢方医学テキスト 日本東洋医学会学術教育委員会編 (南江堂) 入門漢方医学 日本東洋医学会学術教育委員会編 (南江堂)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力, 思考力, 創造力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー (中村) メール(knaruhas@dw.doshisha.ac.jp)にて対応する. (成橋)		

授業テーマ:	感染症の予防ならびに治療に果たす薬剤師の役割を考える。		
授業の概要:	1)院内感染と市中感染の実態について理解する。 2)世界規模で蔓延する耐性菌による感染症の実態と対策を理解する。 3)院内肺炎、市中肺炎、医療介護関連肺炎診療ガイドラインについて理解する。 4)有効・安全な感染症治療を実践するために、主だった抗菌薬および抗真菌薬のPK-PD理論に基づく適正使用のあり方を理解する。 5)耳鼻咽喉科クリニックでの感染症治療の取り組み例を理解し、医療現場での薬剤師のあるべき職能を想起する。 6)症例検討を通して、感染症治療における薬剤師の役割を思考する。 C10(3), C11(3)-3		
到達目標:	1)院内感染と市中感染の実態について説明できる。 2)世界規模で蔓延する耐性菌による感染症の実態と対策を説明できる。 3)院内肺炎、市中肺炎、医療介護関連肺炎診療ガイドラインについて説明できる。 4)有効・安全な感染症治療を実践するために、主だった抗菌薬および抗真菌薬のPK-PD理論に基づく適正使用のあり方を説明できる。 5)耳鼻咽喉科クリニックでの感染症治療の取り組み例を理解し、医療現場での薬剤師のあるべき職能を想起できる。 6)症例検討を通して、感染症治療における薬剤師の役割、特に抗菌薬適正使用支援に即応できる実践力を身につける。 C10(3), C11(3)-3		
授業方法:	Power Pointによる映写ならびに配布資料を用いた講義(第1回、第3回、第5回は森田が、第2回はゲストスピーカーの前田雅子先生が、第4回は松元が、それぞれ担当する)と、少人数グループによる症例検討(Team Based Learning)を中心とした演習を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 科学的な感染症治療薬の使用法・総論	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(3年次の臨床薬剤学I、4年次の模擬病院薬局実習で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(3年次の臨床薬剤学Iで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(3年次の臨床薬剤学Iで修得済み)	
	2. 院内肺炎、市中肺炎および医療・介護関連肺炎に対する診療ガイドラインと、各種耐性菌による感染症とどう戦うか	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(3年次の臨床薬剤学I、4年次の模擬病院薬局実習で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(3年次の臨床薬剤学Iで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(3年次の臨床薬剤学Iで修得済み)	
	3. 耳鼻咽喉科領域における抗菌薬の適正使用に向けた薬剤師の役割(ゲストスピーカー: まえた耳鼻咽喉科クリニック薬剤師・前田雅子先生	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(3年次の臨床薬剤学I、4年次の模擬病院薬局実習で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(3年次の臨床薬剤学Iで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(3年次の臨床薬剤学Iで修得済み)	
	4. 抗真菌薬の適正使用	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(3年次の臨床薬剤学I、4年次の模擬病院薬局実習で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(3年次の臨床薬剤学Iで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(3年次の臨床薬剤学Iで修得済み)	
	5. 抗HIV薬の適正使用	HIV感染症の臨床と抗HIV薬の適正使用ならびに薬剤師が果たす役割について解説する。	
	6. 症例検討(その1)	症例の問題点に着眼できるためには、第1回～第5回までの講義内容の復習と理解が必須である。	
	7. 症例検討(その2)	症例の問題点に着眼できるためには、第1回～第5回までの講義内容の復習と理解が必須である。	
	8. 症例検討(その3)	症例の問題点に着眼できるためには、第1回～第5回までの講義内容の復習と理解が必須である。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(3年次の臨床薬剤学I、4年次の模擬病院薬局実習で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(3年次の臨床薬剤学Iで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(3年次の臨床薬剤学Iで修得済み)		
フィードバックの方法:	毎回の症例検討(少人数グループによるteam-based learning)時に出席した各班からの見解に対して、リアルタイムにフィードバックを行う。		

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	症例検討のレポート	50%	症例検討に際し、第1回～第4回の講義内容を礎とした思考ができているかという観点で評価する。
	少人数グループでの意見交換の態度	30%	積極的に意見交換を行っているか、相手の意見に耳を傾けているか、について評価する。
	毎回の受講態度	20%	出席状況と各回の受講を通しての「気づき」を評価する。
教科書:	毎回、オリジナル資料を配布する。 今日の治療薬 2017年版(南江堂)(2016年版以前のものでもかまわない)、もしくは治療薬ハンドブック2017年版(じほう)(2016年版以前のものでもかまわない)		
参考書:	日常診療に役立つ抗感染症薬のPK-PD 戸塚恭一 監修 ユニオンエース社 感染症のチーム医療 専門医の処方意図を探れ 三笠桂一、森田邦彦 編集 南江堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメール		

授業テーマ:	薬理学研究の最近の進歩		
授業の概要:	4年次までの「薬理学」あるいは関連の授業において、生理機能、病態生理、「薬」の作用メカニズムと生理機能に及ぼす影響などを学んできたはずである。本特論では、アセチルコリン、イオンチャネル、インクレチン、ストレス、細胞死、がん、アルツハイマー型認知症をテーマとして取り上げ、それぞれの領域における最近の研究手法、研究の進捗状況、新規治療薬の開発などについて学ぶ。また、臨床研究論文を読み進めるのに必要な種々の臨床統計解析手法の解釈・選択法についても一部学ぶ。		
到達目標:	1. オータコイドとしてのアセチルコリンの役割を説明できる。 2. 消化管ホルモンと新規糖尿病治療薬について説明できる(知識)。 3. イオンチャネルの心臓における役割について説明できる(知識)。 4. がん治療における最近の進歩について説明できる(知識)。 5. 神経細胞死のメカニズムについて説明できる(知識)。 6. ストレスに対する細胞の応答メカニズムを説明できる(知識)。 7. 最新のアルツハイマー病治療について説明できる(知識)。 8. 臨床論文を理解するための統計解析法について説明できる(知識・技能)。 9. レポートとして学習内容に対する自分の理解をまとめることができる(知識・技能)。		
授業方法:	パワーポイント(ビデオが映写の場合もある)もしくは配付資料にしたがって主に担当者が講義することにより進める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業ガイダンス、アセチルコリン研究における最近の進歩 C13(3)-4 (藤井)	アセチルコリンの役割についてできるだけ調べておく。	
	2. 消化管ホルモンと新規糖尿病治療薬 C8(3)-2 C13(3)-5 C14(3)-5 (漆谷)	消化管ホルモンの役割についてできるだけ調べておく。	
	3. イオンチャネルの薬理、心臓作用薬 C13(1)-4-1),2) C14(2)-2-2),3) (土田)	イオンチャネルについてできるだけ調べておく。	
	4. がん研究における最近の進歩 C8(2), C14(2), C17(3) (天ヶ瀬)	がんについてできるだけ調べておく。	
	5. 脳虚血後の神経細胞死のメカニズムC13(2)-1-4) (間下)	細胞死についてできるだけ調べておく。	
	6. ストレス応答研究における最近の進歩 C13(2)-1-5),6) (水川)	細胞へのストレスについてできるだけ調べておく。	
	7. アルツハイマー病治療薬開発における最近の進歩 C13(2)-1-4) (高鳥)	アルツハイマー病についてできるだけ調べておく。	
	8. まとめと振り返り (藤井)		
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回の授業で扱われるテーマに関して、自主的に様々な資料にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておき、提出すべきレポートに活かせるようにしておくこと。疑問などが生じた場合には、担当者が紹介する資料を参照する、担当者に質問するなどして、積極的に問題解決をはかること。 なお、追加の指示がある場合には、授業時に資料として配付するとともに、マナビー・Vivi-linkにもその情報をアップロードするので常に確認すること。		
フィードバックの方法:	レポートは採点(コメント)しできるだけ早い時期にアドバイザーを通して返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート課題	100	課題の選び方、レポートの作成方法、採点基準については、第1回目の授業の際に指示する。
教科書:	特に指定しない。授業中に必要な資料を配付する。		
参考書:	授業中に適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	質問等があれば随時各担当者の研究室を訪問し解決しておくこと。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール等にて事前に連絡する方が望ましい。なお、科目代表者の藤井を通して質問することができる(E-mail:tfujii@dwc.doshisha.ac.jp)。		

授業テーマ:

分子構造を核として医薬品の有機化学的理解を深める

授業の概要:

医薬品構造の目的別最適化の有機化学について学ぶ。

到達目標:

医薬品構造の多彩さの中に統一的理解を求めるとともにその医薬品の成立ちを理解する。

授業方法:

講義、演習及びブレインストーミング。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	創薬理論科学概論 C17 (1) (2) (3)	
2.	低分子医薬品 C17 (1) (2) (3)	低分子医薬品の例を調べておく
3.	高分子医薬品 C17 (1) (2) (3)	高分子医薬品の例を調べておく
4.	微生物由来医薬品 C17 (1) (2) (3)	微生物由来医薬品の例を調べておく
5.	植物由来医薬品 C17 (1) (2) (3)	植物由来医薬品の例を調べておく
6.	半合成医薬品 C17 (1) (2) (3)	半合成医薬品の例を調べておく
7.	合成医薬品 C17 (1) (2) (3)	合成医薬品の例を調べておく
8.	医薬品構造の設計 C17 (1) (2) (3)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

メール、口頭、面談

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	質疑応答を含む平常時試験	100	60点以上

教科書:

プリントを配布する

参考書:

ブルース有機化学上下(富岡清等 監訳、化学同人)
メディシナルケミストリー(北川 勲、柴崎正勝、富岡 清 監訳、丸善)
人名反応に学ぶ有機合成戦略(富岡 清 監訳、化学同人)
化学マスター講座 有機化学(大島幸一郎、富岡 清、水野一彦 共著、丸善)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業時及びオフィスアワー

授業テーマ:	ゲノムサイエンスと創薬科学の先端的理解		
授業の概要:	ポストゲノムの時代になり、ゲノムの制御機構は分化・発生とも関連して、従来よりもより複雑で高度であることが明らかに成りつつある。また、創薬科学の手法も構造生物学、bioinformaticsやin silico創薬の発達により、劇的に変化しつつあり、chemical genomics等の新しい学問分野も生まれつつある。本講義では最新のゲノム科学、ポストゲノムとしての蛋白質科学、シード探索を中心とした創薬科学、機能分子デザイン、健康・環境物質分子との関わり、レギュラトリーサイエンス等について、広範な視点からゲノム創薬を理解する。		
到達目標:	歴史的な背景から最新の先端的事例まで、広範な視点から、ゲノムサイエンスや創薬科学を学ぶ。		
授業方法:	オムニバス形式の講義(1-5, 8: 桑原, 6: 根木, 7: 眞田)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ゲノム創薬科学 1 ゲノム科学 – ゲノムの高次制御機構と創薬、抗癌医薬 – C4 (1), C4 (3), C6 (2), C6 (4)	講義に関連する課題・文献を調査し、レポートとしてまとめる。	
	2. ゲノム創薬科学 2 ゲノム科学 – 細胞核のダイナミクス – C6 (1)	講義に関連する課題・文献を調査し、レポートとしてまとめる。	
	3. ゲノム創薬科学 3 ポストゲノムにおける転写因子 – Zinc finger etc. – C6 (3)	講義に関連する課題・文献を調査し、レポートとしてまとめる。	
	4. ゲノム創薬科学 4 先端的創薬手法 – Bioinformatics, in silico 創薬, Chemical genomics, etc. – C4 (1), C4 (3)	講義に関連する課題・文献を調査し、レポートとしてまとめる。	
	5. ゲノム創薬科学 5 ゲノムの初期化と再生医療 – C6 (4)	講義に関連する課題・文献を調査し、レポートとしてまとめる。	
	6. ゲノム創薬科学 6 ポストゲノムにおける機能分子デザイン – 亜鉛フィンガー、ヘム、ペプチド etc.	講義に関連する課題・文献を調査し、レポートとしてまとめる。	
	7. ゲノム創薬科学 7 健康と環境に関わる小分子を通じたゲノム調節 – アリル炭化水素受容体を中心に	講義に関連する課題・文献を調査し、レポートとしてまとめる。	
	8. ゲノム創薬科学 8 総括	講義に関連する課題・文献を調査し、レポートとしてまとめる。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ゲノムサイエンスと創薬科学の先端的理解に向けての一步にしてもらいたいと考えている。		
フィードバックの方法:	各教員が講義後に復習として、レポート課題を課して提出させ、授業外での自主的な調査・分析並びに課題の解決能力の育成を促す。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート又は、テスト	100	レポート又は、テストを元に、総合的に評価する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	特に指定しない。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、Eメールの利用、授業の前後に教室内で対応、等		

授業テーマ:

新薬の研究開発に至る過程について、分野の専門家をゲストに招き、説明を受けながら、勉強をする。

授業の概要:

”医薬品をつくる”における“医薬品の開発と生産”および”製剤化のサイエンス”、さらに詳しくは、医薬品開発と生産の流れ(C17-(1))、リード化合物の創製と最適化(C17-(2))、治験(C17-(4))、および DDS(C16-(3)):(薬学教育モデル・コアカリキュラム対応)

到達目標:

将来、医薬品開発と生産に参画できるようになるために、医薬品開発の各プロセスについて基本的知識を修得し、合わせてそれらを実施する上で求められる適切な態度を身につける。

1) 医薬品開発と生産の流れ(C17-(1)): 医薬品開発と生産の実際を理解するために、医薬品創製と製造の各プロセスに関する基本的知識を修得し、社会的重要性に目を向ける態度を身につける。

3) 治験(C17-(4)): 医薬品開発において治験がどのように行われるかを理解するために、治験に関する基本的知識とそれを実施する上で求められる適切な態度を身につける。

4) DDS(C16-(3)): 薬物治療の有効性、安全性、信頼性を高めるために、薬物の投与形態や薬物体内動態制御法などを工夫したDDSに対する基本的知識を修得する。

授業方法:

製薬企業の専門家を招聘し(3コマ)、生の情報を伝えてもらう。

講義資料(レジメ)を配布する。パワーポイントを使う。座席は指定し、出席を採る。授業に関する教員および学生間の双方向の連絡には、学内メールを用いる(学生は、学内メールを携帯へ転送しておくことが望まれる)。本科目についての情報は、薬学部のHP(Vivi-Link)にその都度、期限を切って掲載する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	新薬の位置づけ: 医薬品の種類(一般薬対医療用薬、新薬対ジェネリック医薬品)、医薬品の市場、疾患とunmetニーズ、製薬会社と新薬開発(M&A)、新薬開発費	Vivi-Linkに掲示する課題(レポ1)を翌週に提出
到達目標: C17-(1)		
2.	ジェネリック医薬品の開発、めざすところ(ゲストスピーカー①)、高付加価値を付与した製品開発。	Vivi-Linkに掲示する課題(レポ2)を翌週に提出
到達目標: C16-(3)、C17-(1)		
3.	製薬会社における製剤、DDS研究開発(ゲストスピーカー②)	Vivi-Linkに掲示する課題(レポ3)を翌週に提出
到達目標: C16-(3)、C17-(1)		
4.	新薬の臨床開発、製造販売承認を得るまでのプロセス、市販後調査、後期臨床試験(ゲストスピーカー③)	Vivi-Linkに掲示する課題(レポ4)を翌週に提出
到達目標: C17-(1)、C17-(4)		
5.	医薬品開発における薬動学的解析法(PK/PD解析): 各種解析モデル、Winnonlin を用いた解析法、ヒステリシス(時計まわり、反時計まわり)、ハイレスク薬の PK/PD 解析の事例	Vivi-Linkに掲示する課題(レポ5)を翌週に提出
到達目標: C17-(2)、C17-(3)		
6.	医薬品の評価法(同等性試験): 同等性(BE) と生物学的利用率、吸収率を決める要素(溶解性と粘膜透過性)、ジェネリック医薬品の同等性試験、高分子薬の同等性(バイオシミラー)、BE 試験のデザイン(クロスオーバー試験)、統計解析手法(同等性の判定基準)	Vivi-Linkに掲示する課題(レポ6)を翌週に提出
到達目標: C17-(2)、C17-(3)		
7.	医薬品のライフサイクルマネジメント(LCM): 特許(発明、特許出願、特許期間)とライセンス、製品の LCM とDDS(持続性製剤、粘膜投与システム、プロドラッグ、標的製剤、高付加価値製剤)、ペプチドの DDS(リュープロレリン、インスリン、GH、PTH)、口腔内崩壊錠(タケブロン)と配合剤の戦術(アクトス、プロプレス)	Vivi-Linkに掲示する課題(レポ7)を翌週に提出
到達目標: C16-(3)、C17-(1)		
8.	まとめ	Vivi-Linkに掲示する課題(レポ8)を翌週に提出

受講者へのメッセージやアドバイス:

レポートは特に理解度、レポート作成に使った時間などを確認に、次の講義の時間に、全員に返却する。必要あれば講義で追加の説明を行う。

フィードバックの方法:

質問欄(レポート記載用紙の質問欄に記載されてものにていては、個別に答えるとともに、必要な場合には次の講義で、受講者全員に解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	聴講態度	14%	積極的に聴講した場合、一講義につき2点、7回の講義で、最大14点を与える。毎講義において、その内容の理解度、疑問点、啓発された内容などを、自己記録として、講義出席記録表に記入させ、聴講態度を確認する。
	レポート	35%	毎講義におけるレポート提出(最大35点): 一回のレポートにつき、5点、最大35点(他人のレポートの転写は、転写元も含め、減点対象となる)。
	最終試験	50%	総合評価＝出席点＋レポートの得点＋(100－出席点－レポートの得点)×最終試験の正答率

教科書:	新薬開発論テキスト(毎講義に使う部分をコピーし学生に配布する)
参考書:	創薬科学・医薬化学(薬学教育モデル・コアカリキュラム)、化学同人、2010年 医薬品の開発と生産(スタンダード薬学シリーズ8)、化学同人、2010年 創薬化学、東京化学同人、2016年 新薬創製への招待(創薬から市販後臨床試験まで)、共立出版、2003年
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己実現力
教員との連絡 方法:	Vivi-Linkに掲示および学内電子メール

授業テーマ：

授業の概要：

到達目標：

授業方法：

真の薬剤師としてはばたくために ～模擬実習～

薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を学び取らせる。

卒業後、医療に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、すでに修得してきた基礎系科目ならびに実務・臨床系科目の内容を応用しつつ、調剤、製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度の各項目、すなわち実務実習モデルコアカリキュラムD1の実習および演習事項を修得する。また、薬学モデルコアカリキュラムのC13(5)-1～2およびC15(1)-1～5のうちの実習項目についても修得する。

オリジナルな実習書と教科書に沿って実習を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	◎代表的な処方せん例の鑑査のシミュレート ◎処方せん例に従って、計数調剤をシミュレート ◎処方せん例に従って、計量調剤をシミュレート ◎調剤された医薬品の鑑査をシミュレート D1(2)-13)～16)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
2.	◎代表的な処方せん例の鑑査のシミュレート ◎処方せん例に従って、計数調剤をシミュレート ◎処方せん例に従って、計量調剤をシミュレート ◎調剤された医薬品の鑑査をシミュレート D1(2)-13)～16)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
3.	◎疑義照会をシミュレート D1(3)-10)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
4.	◎代表的な配合変化の組合せとその理由 ◎特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察 ◎代表的な配合変化を検出 ◎体内電解質の過不足の判断と補正 D1(3)-2)～3), D1(4)-18), 20)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
5.	◎代表的な院内製剤を調製 ◎基本的な無菌操作 ◎抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技 ◎代表的な輸液と注射薬の混合調製 D1(4)-14)～16)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
6.	◎毒薬・劇薬の管理と取扱い ◎麻薬・向精神薬の管理と取扱い D1(4)-9)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
7.	◎患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)の把握 ◎患者接遇に際しての配慮 ◎適切な言葉を選び、適切な手順での服薬指導 D1(6)-5)～6), 9)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
8.	◎代表的な医薬品についての適切な服薬指導 ◎共感的な態度での患者インタビュー ◎患者背景に配慮した服薬指導 ◎代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる D1(6)-11)～14)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
9.	◎代表的な医薬品についての適切な服薬指導 ◎共感的な態度での患者インタビュー ◎患者背景に配慮した服薬指導 ◎代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる D1(6)-11)～14)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
10.	◎代表的な医薬品についての適切な服薬指導 ◎共感的な態度での患者インタビュー ◎患者背景に配慮した服薬指導 ◎代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる D1(6)-11)～14)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
11.	◎薬物血中濃度モニタリング(TDM)の実際 C13(5)-1-4), 10)～12), C13(5)-2-3)～5)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
12.	◎医薬品情報の実際 C15(1)-1～6	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
13.	総合実習(事前学習のまとめ)－1 D1(7)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
14.	総合実習(事前学習のまとめ)－2 D1(7)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。
15.	総合実習(事前学習のまとめ)－3 D1(7)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムーズに出来るように繰り返し復習すること。

受講者へのメッセージやアドバイス：

自己評価日誌は必要事項を実習開始までに記載して実習に臨むこと。

フィードバックの方法：

実習時に各指導教員からコメント。自己評価日誌やレポートは確認して実習時に返却。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート内容	20	担当教員の評価基準による
	毎回の実習に臨む態度	30	担当教員の評価基準による
	総合実習における知識・技能・態度の評価	50	担当教員の評価基準による

教科書:	本学オリジナルの「模擬病院・薬局実習」テキスト 治療薬マニュアル2017年版または今日の治療薬2017年版解説と便覧のうちいずれか一方(すでに2015～2016年版を購入済みならばそれでも良い)。
参考書:	「薬学生のための病院・薬局実習の手引き」近畿地区薬学部学生実務実習に関する協議会監修、日本病院薬剤師会近畿ブロック／日本薬剤師会大阪・近畿ブロック編(じほう) 薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選600 日本薬学会編 じほう。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力
教員との連絡 方法:	実習前後に連絡を取って下さい。

中西 弘和、阿南 節子、小谷 晶子、伊賀 勝美、漆谷 徹郎、川崎 清史、羽森 真
美、天ヶ瀬 葉子、上野 貴之、榎本 光伯、川村 暢幸、菅野 陽介、木津 良一、喜里山
暁子、桑原 淳、眞田 法子、芝田 信人、白井 隆一、杉浦 伸一、高鳥 悠記、高橋
玲、土田 勝晴、富岡 清、中村 憲夫、成橋 和正、西村 亜佐子、根木 滋、藤井
健志、間下 雅士、松元 加奈、水川 裕美子、宮脇 あかり、

授業テーマ:	真の薬剤師としてはばたくために ～実務実習～
授業の概要:	病院薬剤師業務の実体験を通じて、大学講義と実務医療の知識及び技術をつなげるとともに、医療に対する真摯な態度を習得する。
到達目標:	卒業後、薬剤師として医療に参画できるようになるために、過去4年間にわたる薬学教育で修得してきた基礎系科目ならびに実務・臨床系の講義および実習科目の内容を応用しつつ、調剤、製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度の各項目、すなわち実務実習モデルコアカリキュラムD2の実習および演習事項を修得する。
授業方法:	実務実習近畿地区調整機構によって割り当てられた実習病院施設に赴き、現地の指導薬剤師による指導のもとに実務実習を55日間にわたって遂行する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

- 授業内容
- ◎患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。
◎病院内での患者情報の流れを図式化できる。
◎病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。
◎生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。
◎医療の担い手を守るべき倫理規範を遵守する。
◎職務上知り得た情報について守秘義務を守る。
◎薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる。
◎処方せん(外来、入院患者を含む)の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。
◎病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。
 - ◎処方せん(麻薬、注射剤を含む)の形式、種類および記載事項について説明できる。
◎処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる。
◎代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。
◎薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。
◎適切な疑義照会の実務を体験する。
◎薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。
 - ◎処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそえができる。(技能)
◎錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。(技能)
◎調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。
◎代表的な医薬品の剤形を列挙できる。
◎代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。(技能)
◎医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。
◎代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。
◎異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。
 - ◎毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。(技能)
◎一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)
◎散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能)
◎調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的な取扱いができる。(技能)
◎細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。
◎特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)
◎錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)
◎調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)
 - ◎患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる。(知識・技能)
◎患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。
◎自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。
◎お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる。
◎期待する効果が十分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における適切な対処法について提案する。(知識・態度)

準備学習等の内容

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

6.
 - ◎注射剤調剤の流れを概説できる。
 - ◎注射処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる。(技能)
 - ◎代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。(技能)
 - ◎適切な疑義照会の実務を体験する。(技能)
 - ◎処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる。(知識・技能)
 - ◎注射剤(高カロリー栄養輸液など)の混合操作を実施できる。(技能)
 - ◎注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
 - ◎毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる。(技能)
 - ◎細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。
 - ◎特別な注意を要する注射剤(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)
 - ◎調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する。(技能)
7.
 - ◎リスクマネジメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる。
 - ◎調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。
 - ◎商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。
 - ◎医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する。(態度)
 - ◎インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネジメントについて討議する。(態度)
 - ◎職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる。(態度)
 - ◎実習中に生じた諸問題(調剤ミス、過誤、事故、クレームなど)を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる。(技能)
8.
 - ◎医薬品管理の流れを概説できる。
 - ◎医薬品の適正在庫の意義を説明できる。
 - ◎納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。
 - ◎医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。
 - ◎納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる。
 - ◎同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。
 - ◎院内における医薬品の供給方法について説明できる。
 - ◎請求のあった医薬品を取り揃えることができる。(技能)
9.
 - ◎麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する。(技能)
 - ◎毒薬、劇薬を適切に取り扱うことができる。(技能)
 - ◎血漿分画製剤の取扱いを体験する。(技能)
 - ◎法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。(態度)
 - ◎医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる。
 - ◎代表的な同種・同効薬を列挙できる。
10.
 - ◎医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる。
 - ◎院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる。
 - ◎緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる。
 - ◎患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる。
 - ◎医薬品の基本的な情報を、文献、MR(医薬情報担当者)などの様々な情報源から収集できる。(技能)
 - ◎DIニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する。(技能)
 - ◎医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)
 - ◎医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する。(知識・技能)
 - ◎医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する。(技能・態度)
 - ◎患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する。(技能・態度)
 - ◎情報提供内容が適切か否かを追跡できる。(技能)

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

11.
 - ◎病棟業務における薬剤師の業務(薬剤管理、与薬、リスクマネジメント、供給管理など)を概説できる。
 - ◎薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明できる。
 - ◎病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する。(知識・技能・態度)
 - ◎医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。(技能)
 - ◎病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。(技能・態度)
 - ◎診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。(技能)
 - ◎報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した情報を正確に記載できる(薬歴、服薬指導歴など)。(技能)
 - ◎収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。(技能)
 - ◎患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。(技能)
 - ◎使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。
 - ◎臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。
12.
 - ◎医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。(技能・態度)
 - ◎患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。(技能・態度)
 - ◎薬に関する患者の質問に分かり易く答える。(技能・態度)
 - ◎患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。(知識・技能)
 - ◎代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。(知識・技能)
 - ◎代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる。(知識・技能)
 - ◎患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。(技能・態度)
 - ◎患者に共感的態度で接する。(態度)
 - ◎患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。(技能)
 - ◎期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。(知識・技能)
 - ◎副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。(知識・態度)
13.
 - ◎治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。(態度)
 - ◎適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。(態度)
 - ◎院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(軟膏、坐剤、散剤、液状製剤(消毒薬を含む)など)(技能)
 - ◎無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(点眼液、注射液など)(技能)
14.
 - ◎実際の患者例に基づきTDMのデータを解析し、薬物治療の適正化について討議する。(技能・態度)
 - ◎患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。(態度)
 - ◎患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感じとる。(態度)
 - ◎患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)
 - ◎生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度)
 - ◎医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度)
 - ◎職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)
15. 実習のまとめ

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 実務医療の現場に学生として参加し患者さんに接することになるため、言葉遣いや身だしなみに注意するとともに自己の健康管理に注意する。

フィードバックの方法: 担当指導薬剤師からのメッセージおよび直接指導

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席態度	60	担当薬剤師の評価基準に従う

教科書:	特には指定しない。必要に応じてプリント配布
参考書:	治療薬マニュアル2016年版 薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選600 日本薬学会編 じほう。 今日の治療薬2017年版解説と便覧など(いずれもすでに2015～2016年版を購入済みならばそれでも良い)。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、自己管理能力
教員との連絡 方法:	各指導薬剤師の指示に従う

天ヶ瀬 葉子、羽森 真美、芝田 信人、阿南 節子、小谷 晶子、伊賀 勝美、上野 貴之、漆谷 徹郎、榎本 光伯、川崎 清史、川村 暢幸、菅野 陽介、木津 良一、喜里山 暁子、桑原 淳、眞田 法子、白井 隆一、杉浦 伸一、高鳥 悠記、高橋 玲、土田 勝晴、富岡 清、中西 弘和、中村 憲夫、成橋 和正、西村 亜佐子、根木 滋、藤井 健志、間下 雅士、松元 加奈、水川 裕美子、宮脇 あかり、

授業テーマ： 地域の保険薬局において薬学を実践する
授業の概要： 配分された地域の保険薬局において以下の項目を中心に実習を行う

- 1)実務実習を始めるにあたっての態度を学ぶ
2)保険薬局での調剤業務の流れ
3)処方せんの受付
4)服薬指導の実践実習
- 到達目標： 1)実務実習を始めるにあたって
SBO 1 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。
SBO 2 医療の担い手を守るべき倫理規範を遵守する。
SBO 3 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。
SBO 4 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。
2)保険薬局での調剤業務の流れ
SBO 5 調剤業務全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。
SBO 6 保険薬局として指定される条件を、薬局の設備と関連付けて具体的に説明できる。
3)処方せんの受付
SBO 7 処方せん受付時の対応および注意事項について説明できる。
SBO 8 初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。
SBO 9 初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。
SBO10 処方せん受け付け時の対応ができる。
4)服薬指導の実践実習
SBO11 患者に共感的態度で接する。
SBO12 患者との会話を通して、病態、服薬状況、服薬上の問題点などを把握できる。
SBO13 患者にわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。

授業方法： 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構ならびに地方の地区調整機構によって配当された保険薬局において、11週間の実務実習を実施する。実務指導は、各保険薬局に勤務する実務経験が5年以上の指導薬剤師が行う。実習期間中には担当教員が現地を訪問し、実習項目の到達度をチェックすることにより形成的評価を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬局アイテムと管理(1)《薬局アイテムの流れ》(P101) P101-1薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。 P101-2薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる。 P101-3薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。 《薬局製剤》(P102) (P-103) P102-1代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。 P103-1代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
2.	薬局アイテムと管理(2)《薬局アイテムの管理と保存》(P104) P104-1医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。 P104-2納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目(使用期限、ロットなど)を列挙できる。 P104-3薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。(知識・技能) 《特別な配慮を要する医薬品》P105 P105-1麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。 P105-2毒物、劇物の取扱いについて説明できる。 P105-3法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。(態度)	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
3.	情報のアクセスと活用(1)《薬剤師の心構え》(P201) P201-1医療の担い手を守るべき倫理規範を遵守する。(態度) P201-2職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

4. 情報のアクセスと活用(2)《情報の入手と加工》
(P202、P203、P204、P205、P206、P207)
P202-1医薬品の基本的な情報源(厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸など)の種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる。(知識・技能)
P-202-2 基本的な医薬品情報(警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など)を収集できる。(技能)
P203-1処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)
P204-1薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)
P205-1緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。
P206-1問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。(知識・技能)
P207-1医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる。(知識・技能)
《情報の提供》(P-208、P-209、P-210)
P208-1入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)
P209-1入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。(技能・態度)
P210-1患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。(態度)
5. 薬局調剤を実践する(1)《保険調剤業務の全体の流れ》(P301)
P301-1保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。
P301-2保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。
《処方せんの受付》(P-302、P-303、P-304、P-305、P-306、P-307、P-308)
P302-1処方せん(麻薬を含む)の形式および記載事項について説明できる。
P302-2処方せん受付時の対応および注意事項(患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など)について説明できる。
P302-3初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。
P303-1初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。
P304-1処方せん受付時の対応ができる。(技能・態度)
P304-2生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度)
P304-3患者が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度)
P304-4患者との会話などを通じて、服薬上の問題点(服薬状況、副作用の発現など)を把握できる。(技能)
《処方せんの鑑査と疑義照会》(P-305、P-306、P-307、P-308)
P305-1処方せんが正しく記載されていることを確認できる。(技能)
P305-2処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。(知識・技能)
P306-1薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。(知識・技能)
P307-1疑義照会の行い方を身につける。(知識・態度)
P308-1疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。(技能・態度)

実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと

予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと

予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

6. 薬局調剤を実践する(2)《計数・計量調剤》(P309、P310、P311、P312、P313、P314)
P309-1薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる。
P310-1処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能)
P310-2錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。(技能)
P310-3代表的な医薬品の剤形を列挙できる。
P310-4医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。
P310-5代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。
P310-6同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。
P310-7異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。
P310-8代表的な同種・同効薬を列挙できる。
P310-9代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。(技能)
P311-1一回量(一包化)調剤を必要とするケースについて説明できる。
P311-2一回量(一包化)調剤を実施できる。(技能)
P312-1錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)
P313-1散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能)
P313-2調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的取扱いができる。(技能)
P314-1毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。(技能)
P314-2特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)
7. 薬局調剤を実践する(3)《計数・計量調剤の鑑査》(P315)
P315-1調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)
8. 薬局調剤を実践する(4)《服薬指導の基礎》(P316、P317、P318、P319、P320)
P316-1適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。(知識・技能)
P317-1薬歴管理の意義と重要性を説明できる。
P317-2薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。(知識・技能)
P317-3薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。
P318-1妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。
P319-1患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。(技能)
P320-1自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。
9. 薬局調剤を実践する(5)《服薬指導入門実習》(P321)
P321-1指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。(技能)
P321-2薬歴簿を活用した服薬指導ができる。(技能)
P321-3患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。(技能)
P321-4お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。(技能)
《服薬指導実践実習》(P322)
P322-1患者に共感的態度で接する。(態度)
P322-2患者との会話を通じて病態、服薬状況(コンプライアンス)、服薬上の問題点などを把握できる。(技能)
P322-3患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。(技能・態度)
P322-4患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。(技能・態度)
P322-5入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)

実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと

予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと

予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと

予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと

予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

10. 薬局調剤を実践する(6)《調剤録と処方せんの保管・管理》(P323、P324、P325)
P323-1調剤録の法的規制について説明できる。
P323-2調剤録への記入事項について説明できる。
P323-3調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。
P324-1調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。
P325-1処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。
《調剤報酬》(P326、P327)
P326-1調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書(レセプト)を作成できる。(技能)
P327-1薬剤師の技術評価の対象について説明できる。
《安全対策》(P328、P329、P330、P331、P332、P333)
P328-1代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。(知識・態度)
P329-1名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列举できる。
P330-1特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など)を列举できる。
P331-1調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列举できる。
P332-1調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。(態度)
P332-2過誤が生じたときの対応策を討議する。(態度)
P333-1インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。
11. 薬局カウンターで学ぶ(1)《患者・顧客との接遇》(P401、P402、P403)
P401-1かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。(態度)
P401-2患者、顧客に対して適切な態度で接する。(態度)
P402-1疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度)
P403-1医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)
《一般用医薬品・医療用具・健康食品》(P404、P405)
P404-1セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。(技能)
P405-1顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。
12. 薬局カウンターで学ぶ(2)《カウンター実習》顧客対応実習:(P406)
P406-1顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度)
P406-2顧客が必要とする情報を的確に把握する。(技能・態度)
P406-3顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。(技能・態度)
P406-4入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)
《カウンター実習》健康管理実習:(P407)
P407-1疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度)
P407-2セルフメディケーションのための一般用医薬品・医療用具などを適切に選択・供給できる。(技能)
P407-3医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)
P407-4患者・顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。

実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと

予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと

予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること。

実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと

予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

13. 地域で活躍する薬剤師(1)《在宅医療》(P501、P502)
P501-1訪問薬剤管理指導業務について説明できる。
P501-2在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。
P502-1薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。(態度)
《地域医療・地域福祉》(P503、P504、P505)
P503-1病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。
P504-1当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。
P505-1当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。(知識・技能)
《災害時医療と薬剤師》(P506、P507)
P506-1緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。
P507-1緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。
14. 地域で活躍する薬剤師(2)《地域保健》(P508、P509、P510、P511、P512、P513、P514、P515)
P508-1学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる。
P509-1地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明できる。
P510-1麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割について説明できる。
P511-1日用品に係る薬剤師の役割について説明できる。
P511-2日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。
P512-1誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスできる。(知識・技能)
P513-1生活環境における消毒の概念について説明できる。
P514-1話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。
《地域対応実習》(P515)
P515-1日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。
P515-2誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスができる。(知識・技能)
P515-3生活環境における消毒の概念について説明できる。
P515-4話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。
15. 薬局業務を総合的に学ぶ《総合実習》(P601、P602)
P601-1薬局業務を総合的に実践する
P602-1患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる。(態度)
P602-2薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の予後とQOLの改善に貢献していることを感じとる。(態度)
- 実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと
- 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
- 実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと
- 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

受講者への
メッセージや
アドバイス:

社会人としてのマナーや節度をもって実習に望むこと

フィードバックの
方法:

実習期間中の出席点を60%とし、残りの40%については、実習期間中における毎日の実習日誌、週単位の実習日誌および保険薬局の指導薬剤師が評価する実習態度を参考にして評価を行う(100点満点)。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	60%	指定された実習日数55日を満たすこと
実習状況および態度	40%	指導薬剤師、担当教員の形勢評価を基準とする

教科書: 特に指定しない。近畿地区調整機構編集の実務実習書、実務実習に関するワークおよび薬学基礎に関するワークを配布する。

参考書: 今日の治療薬(南江堂)、治療薬マニュアル(医学書院)
ビジュアル薬剤師実務シリーズ上、下巻 上村直樹編集(羊土社)
薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品600 日本薬学会編(じほう)
服薬指導・看護に役立つ(よくわかる)治療薬ブック(照林社)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: 実習先でトラブルがあった場合は、担当教員、あるいは科目代表者(芝田信人、nshibata@dw.doshisha.ac.jp)まで連絡すること

授業テーマ:	数学の基礎力を磨き、薬学に必要な数学的な考え方につなげる	
授業の概要:	薬学専門科目を学ぶために必要とされる数学的な基礎力を養うことを目的とする。具体的には、将来、電子軌道、化学反応速度論、薬物体内動態を学ぶ準備として、数学を道具として用いる方法の習得と数学的思考力の向上を目指す。内容は、高等学校の数学Ⅱ、数学Ⅲで学習する微分法、積分法、さらにそれらを基礎とした常微分方程式論が中心である。数学的な厳密性を追求することよりも、数学を薬学の道具として使うことに重点をおく。また化学反応を数理的に捉えることによって、自然科学における数学の役割を理解することも目標の一つである。この内容は、薬学新コアカリキュラムの薬学準備教育(7)薬学基礎としての数学・統計学に準拠する	
到達目標:	1. 単位と有効数字の意味を理解し、薬学の計算に応用できる 2. 薬学に必要な指数関数・対数関数の取り扱いができる 3. 微分・積分の基本事項を理解し、それらを用いた薬学計算ができる 4. 調剤に必要な濃度計算ができる 5. 薬学関連のグラフの正しい取り扱いができる	
授業方法:	出席は毎回取る。授業は指定するテキストに従って行う。授業中に理解力確認のための小テストを数回行う。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 数と式 ①繁分数 ②文字式 ③連立方程式 ④2次方程式	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	2. 確率 ①条件付確率 ②反復試行の確率 ③代表値	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	3. 三角関数	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	4. 指数と累乗根 ①正の指数 ②科学的表記方 ③負の指数 ④指数法則 ⑤平方根 ⑥累乗根 ⑦分数・少数の指数	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	5. 対数 ①指数と対数 ②対数計算の規則	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	6. グラフ ①1次関数のグラフ ②指数関数と型対数グラフ ③逆数でプロットするグラフ ④逆数と対数値でプロットするグラフ	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	7. 単位 ①物理量 ②SI単位 ③物理量をあらわす記号と単位 ④SI接頭語 ⑤SI組立単位 ⑥固有名称と記号を持つSI組立単位 ⑦非SI単位 ⑧無次元の物理量 ⑨単位の変換	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	8. 計量 ①誤差 ②有効数字 ③測定値を用いる計算 ④質量と物質質量 ⑤濃度 ⑥希釈 ⑦密度	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	9. 微分・積分(1) ①微分・積分の感覚 ②平均変化率 ③極限 ④傾きと導関数	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	10. 微分・積分(2) ①積や商の微分 ②合成関数の微分 ③指数関数および対数関数の微分	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	11. 微分・積分(3) ①三角関数の微分 ②高次関数の微分 ③偏微分	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	12. 微分・積分(4) ①不定積分 ②定積分	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
	13. 微分方程式 ①0次反応 ②1次反応 ③2次反応	講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること

14. 微分方程式の応用(1) 講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
 ①並行反応
 ②逐次反応
 ③平衡反応
15. 微分方程式の応用(2) 講義の前に、教科書の関連する部分を熟読すること
 ①シュレディンガー方程式
 ②その他

受講者へのメッセージやアドバイス: 高校で習った数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを復習しておくこと。数学Ⅲを履修していなくても心配はない。

フィードバックの方法: 講義中に練習問題の解説を行う

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末テスト	50%	出席状況、小テストの得点、よび期末試験の得点をもとに、100点満点(出席および小テスト30%、課題レポート20%、期末試験50%)で評価し、60点以上を合格とする。
	出席状況及び小テスト	30%	
	課題レポート	20%	上記評価基準により不合格となった場合には、追加レポートを課す。

教科書: Liberal Arts 基礎数学、青木宏光・西来寺文明 著、京都廣川書店

参考書: 高校で使用した数学の教科書や参考書
 理系なら知っておきたい数学の基本ノート(微分積分編)佐々木隆宏 中経出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: 講義に関する質問等は、下記のメルアドまで
 nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

薬学専門化学の基礎を学ぶ

授業の概要:

薬学部での専門科目学習において重要な化学系各講義を理解するための化学的基礎学力および知識の習得を目指す。高校化学の復習・補完および有機化学、生命物理化学、医薬品分析化学など薬学専門化学系科目の導入知識の習得を目指す。

到達目標:

原子の構造と周期律、化学結合についての化学的基礎知識の習得及び理解。
化学結合論に基づいた代表的な化合物の立体構造の推察力及び表現力の獲得。
有機化合物の構造と命名法の理解と代表的な化合物の命名能力の獲得。
酸と塩基、酸化と還元、無機化学などの化学平衡論や化学反応論の知識の習得及び理解。
化学平衡論や化学反応論に基づいた化学量論的計算力の獲得。

授業方法:

講義。
板書を中心に講義を行い、必要に応じてPower Point等の視覚教材を用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	原子の基本構造、原子と元素、原子の電子配置 準備(5)①-1,2,3	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
2.	原子の電子軌道、電子軌道と元素の化学的性質、電子のエネルギーと原子の安定性 準備(5)①-4,5 C1(1)①-1,2	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
3.	化学結合と分子の構造、化学結合の分類、共有結合と分子軌道法、共有結合と混成軌道 準備(5)②-1,2,3 C1(1)①-1,2	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
4.	混成軌道と化合物の立体構造(1) C1(1)①-2,3	講義内容の復習および自己演習
5.	混成軌道と化合物の立体構造(2) C1(1)①-2,3	講義内容の復習および自己演習
6.	分子間力、極性と双極子モーメント、極性と電気陰性度、水素結合とファンデルワールス力 準備(5)②-1,2,3 C1(1)②-1,2,3,4,5,6,7	講義内容の復習および自己演習
7.	有機化合物の定義、分類、構造、命名法(1) 準備(5)②-5 C3(1)①-1,2,3,4 C3(1)②-1,2,3,4,5,6 C3(3)①-1	高校化学の教科書の復習、講義内容の復習および自己演習
8.	有機化合物の定義、分類、構造、命名法(2) 準備(5)②-5 C3(1)①-1,2,3,4 C3(1)②-1,2,3,4,5,6 C3(3)①-1	講義内容の復習および自己演習
9.	有機化合物の定義、分類、構造、命名法(3) 準備(5)②-5 C3(1)①-1,2,3,4 C3(1)②-1,2,3,4,5,6 C3(3)①-1	講義内容の復習および自己演習
10.	分子の溶解と溶液、溶解度、溶液の濃度、溶液の性質(1) 準備(5)③-1,2,3 準備(5)④-1 C1(2)⑥-1	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
11.	分子の溶解と溶液、溶解度、溶液の濃度、溶液の性質(2) 準備(5)③-1,2,3 準備(5)④-1 C1(2)⑥-1	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
12.	酸と塩基の定義、酸と塩基の強さ、濃度と電離度 準備(5)③-4、C2(2)①-1,2	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
13.	可逆反応と化学平衡、化学平衡の移動、反応速度、無機化学 準備(5)③-1,2,3,4,5 C1(3)①-1,2,3,4,5,6,7	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
14.	水のイオン積とpH、中和と塩の加水分解、緩衝液、塩の溶解平衡 準備(5)③-4 C2(2)①-1,2,4	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義での学習内容は、高校化学の復習に基づく化学的基礎知識を60%、薬学専門化学系科目の導入知識を40%に設定している。1年次秋学期以降に受講する薬学専門化学系科目の準備として、本講義の学習内容はほぼ完全に理解・習得することが望ましい。

フィードバックの方法:

平常時試験の結果や解説を講義中に実施する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常時試験	45%	到達目標:化学的基礎知識の習得度及び理解度により評価する。 到達目標:化学結合論に基づいた化合物の立体構造の推察及び表現できるかを評価の基準とする。
	定期試験	45%	到達目標:有機化合物の構造と命名法の理解度及び命名能力を評価の基準とする。 到達目標:化学平衡論や化学反応論の知識の習得度及び理解度により評価する。 到達度:化学平衡論や化学反応論に基づいた化学量論的計算力を評価の基準とする。
	授業への参加度	10%	出席度を評価の基準とする。

教科書:

新編基礎化学(金原 粂監修、実教出版)
理系なら知っておきたい「化学の基本ノート・物理化学編」(岡島光洋著、KADOKAWA)・・・基礎物理化学と共通の教科書

参考書:

高校の化学基礎、化学の教科書及び副教材(化学図説など)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーおよび講義の前後に対応する。

授業テーマ:

ヒトを知る

授業の概要:

薬学教育コアカリキュラムのうち、生物系の基礎科目および専門科目を学んでいくために必要・不可欠な生物学における基本的な概念について学習する。具体的には、まず、原核・真核生物の細胞を構築している各化学成分(タンパク質、脂質、糖質)の構造・性質、機能などを学習する。次に、生命の成り立ちを器官レベルで理解することは、薬の作用メカニズムなどを理解するための基礎となる。化学成分が細胞を構成し、細胞を単位として組織が構成され、さらに組織から各臓器が構築されて系を形成することにより、高度に統合された生命現象が営まれている仕組みを学習する。ただし、高校の生物学I・II(生物の進化を除く)の理解と発展的学習を中心に授業を進め、各項目についてあまり深く掘り下げない。

- 到達目標:
1. 細胞を構成する細胞小器官について説明できる(知識)。

2. 遺伝子の構造と役割を説明できる(知識)。

3. たんぱく質の合成の仕組みを説明できる(知識)。

4. 生体内で情報伝達を行う重要な物質について説明できる(知識)。

5. エネルギー産生のメカニズムを説明できる(知識)。

6. ヒトにおける恒常性がどのような仕組みで調節されているか説明できる(知識)。

授業方法:

1. プリテストによる予習状況の確認(5分)

2. パワーポイントによる講義(75分)

3. ポストテスト(口頭試問またはミニテスト)による理解度の確認(10分)クリッカーを使用する場合もある。

毎回の授業における疑問・質問を随時受け付けているので、プリテスト用紙に積極的に記入するように心がけること。なお、プリテストは予備知識の確認あるいは準備状況を確認するために実施している。成績評価や出席管理のために実施しているわけではない。したがって、他人に成りすまして提出されたプリテストが発見された場合、実施が取りやめられることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	生物学とは(授業ガイダンスを含む)	生物学とは何かについてあらかじめ調べておくこと。
2.	ヒトの成り立ち B C6(1), C7(1),(2)	ヒトを構成する組織・器官にはどのようなものがあるか調べておくこと。
3.	生命体の基本単位としての細胞 B C6(1)	細胞小器官についてあらかじめ調べておくこと。
4.	細胞を構成する成分1 B C6(2)	
5.	細胞を構成する成分2 B C6(3)	
6.	生命情報を担う遺伝子1 B C6(4)	遺伝子についてあらかじめ調べておくこと。
7.	生命情報を担う遺伝子2 B C6(4)	
8.	生命活動を担うタンパク質 B C6(3)	たんぱく質の特徴について調べておくこと。
9.	生理活性分子とシグナル分子 B C6(2)	
10.	生体エネルギー B C6(5)	アデノシン三リン酸(ATP)についてあらかじめ調べておくこと。
11.	生体の機能調節1 B C7(1)	ヒトにおける恒常性に関わる仕組みについてあらかじめ概要を調べておくこと。
12.	生体の機能調節2 B C7(2)	
13.	身体をまもる B C8(1)	
14.	総合学習、質疑応答(最近の話題を含む)	第13回までの授業内容について各自疑問点を明らかにし、質問を準備すること。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業で、予習状況もしくは予備知識に関するプリテストを実施するので、教科書の指定された範囲をあらかじめ読んでおくこと。また、自主的に様々な資料(下記の参考文献はその一例)にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。指定された教科書1冊だけで学習するのではなく、疑問を感じたら、様々な資料にあたって問題解決をはかること。授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。なお、追加の指示がある場合には、授業時に資料として配付するとともに、マナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。

フィードバックの方法:

前回の授業に対する質問・疑問等への回答は、次回の授業の冒頭で行う。定期試験の問題および解答はマナビーにアップロードするので、各自自己採点し不明の点は必ず質問すること(メール可)。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	多肢選択式試験	100	定期試験(多肢選択式により40問を出題)に対する妥当な正答率(最低合格基準:Minimum Pass Level)により合格を判定する。最低合格基準は第14回目の授業の授業の際、もしくはマナビーにて試験実施前に公表する。なお、最低合格基準は目標達成度の60%を超えない範囲で設定され、この基準を満たした場合に単位が認定される。中間試験は行わない。出席点はない。

教科書:

薬学の基礎としての生物学 日本薬学会編 東京化学同人

参考書:

石川統編、生物学入門、東京化学同人
石川統監訳、ケイン生物学、東京化学同人
村松瑛子・安田正秀著、＜基礎固め＞生物、化学同人
塩川光一郎著、生命科学を学ぶ人のための大学基礎生物学、共立出版
中村桂子監訳、細胞の分子生物学(第4版)、ニュートンプレス
谷口直之・米田悦啓編、医学を学ぶための生物学(改訂2版)、南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室(憩水館6階W602)まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール(tfujii@dwc.doshisha.ac.jp)にて事前に連絡する方が望ましい。

授業テーマ:

薬物の効果を客観的に評価するにはどうすればよいのかを知ろう。

授業の概要:

統計学は、確率の計算が基本であるために、微積分を基本とする数式ありきで学ぶことが当然のこととされているために難解なものとして受け取られがちです。しかしながら、研究データや医療現場で用いられるデータで用いられる統計学は、けっして難解なものではなく、分かってしまえばとても簡単です。一方で、確率の計算は、所詮偶然と受け取られることも多く、客観的にどのように判定すべきなのかを知っていることは大切です。授業では、統計学に対する世界観が変わるようにしたいと思います。将来、治験コーディネータや医薬品開発業務に携わりたいと考える方には必須の知識です。できる限り具体的な状況（臨床データ）を想定しながら、将来必ず役に立つ統計解析の手法を身につけることができる授業にしたいと思っています。

- 到達目標:
1. 基本統計量とは何かを説明でき、実際に計算することができる(知識・技能)。

2. 統計学的な有意差とはどのようなことを説明でき、実際に計算することができる(知識・技能)。

3. 仮説検定と推定の違いについて説明できる(知識)。

4. t検定について説明でき、実際に計算することができる(知識・技能)。

5. 分散分析法および多重比較法について説明できる(知識)。

6. χ^2 検定について説明できる(知識)。

7. 相関係数について説明できる(知識)。

8. 一次回帰分析法について説明できる(知識)。

9. 生存時間解析法について説明でき、実際にグラフを読み取ることができる(知識・技能)。

10. ジェネリック医薬品が製造承認を得るのに必要な要件について説明できる(知識)。

11. 多変量解析法について説明できる(知識)。

12. Evidence Based Medicine(証拠のある医療)について説明できる(知識)。

13. 第1種の過誤と第2種の過誤について説明できる(知識)。

授業方法:

1. プリテストによる予習状況の確認(5分)

2. パワーポイントによる講義(75分)

3. ポストテスト(口頭試問またはミニテスト)による理解度の確認(10分)クリッカーを使用する場合もある。

毎回の授業における疑問・質問を随時受け付けているので、プリテスト用紙に積極的に記入するように心がけること。なお、プリテストは予備知識の確認あるいは準備状況を確認するために実施している。成績評価や出席管理のために実施しているわけではない。したがって、他人に成りすまして提出されたプリテストが発見された場合、実施が取りやめられることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬学の世界における統計学:統計解析の必要性とは A(2)	
2.	データをどうあらわすのが良いのか:基本統計量とは E3(1)–5–1	基本統計量についてあらかじめ調べておくこと。
3.	薬物の効果があるとはどういうこと:有意とは E3(1)–5–2	統計学における有意差とはどのようなことかあらかじめ調べておくこと。
4.	薬物の効果の評価には、はやり、すたりがあるよ:仮説検定と推定とは E3(1)–5–2,5	
5.	実際に2群の比較をしてみよう: t-検定とは E3(1)–5–2,3,5	
6.	実際に3群以上の比較をしてみよう:多重比較とは(分散分析とポストテスト)E3(1)–5–5	
7.	時間経過はどう評価するか:繰り返しありの場合の分散分析とは E3(1)–5–5	
8.	薬効の確率的な評価: χ^2 検定とは D1(1)–3, E3(1)–5–4	
9.	関連の強さはどう考えるのか:相関係数とは E3(1)–5–6	
10.	医薬品の命への影響をどう評価するか:生存時間解析とは E3(1)–5–7	
11.	ジェネリック医薬品の評価ってどうしているの:同等性の解析とは E3(1)–4, E3(1)–6	ジェネリック医薬品についてあらかじめ調べておくこと。
12.	臨床検査データを同時に解析するにはどうするか:多変量解析とは E3(1)–4	多変量解析について事前に調べておくこと。
13.	誤るとはどういうことか:第一種の過誤と第二種の過誤とは E3(1)–5	2つの過誤についてあらかじめ調べておくこと。
14.	統計計算の実際:Excel他ソフトウェアの利用法とは E3(1)–5–5, E3(1)–6、質疑応答	第13回までの授業内容について各自疑問点を明らかにし、質問を準備しておくこと。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業で、予習状況もしくは予備知識に関するプリテストを実施するので、教科書の指定された範囲をあらかじめ読んでおくこと。また、自主的に様々な資料(下記の参考文献はその一例)にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。指定された教科書1冊だけで学習するのではなく、疑問を感じたら様々な資料にあたって問題解決を図ること。授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。なお、追加の指示がある場合はマナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。できるだけ多数の書籍を読んでほしいが、下記の参考文献がわかりやすい。授業中にも随時紹介する。

フィードバックの方法:

前回の授業内容に対する質問・疑問等への回答を授業の冒頭に紹介する。定期試験の問題および解答はマナビーにアップロードするので、各自自己採点し不明の点は必ず質問すること(メール可)。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	多肢選択式の定期試験	100	定期試験(多肢選択式により40問を出題)に対する妥当な正答率(最低合格基準: Minimum Pass Level)により合格を判定する。最低合格基準は第14回目の授業の授業の際、もしくはマナビーにて試験実施前に公表する。なお、最低合格基準は目標達成度の60%を超えない範囲で設定され、この基準を満たした場合に単位が認定される。中間試験は行わない。出席点はない。

教科書:

竹内正弘監訳、ハーバード大学講義テキスト生物統計学入門、丸善

参考書:

浜田知久馬著、学会・論文発表のための統計学―統計パッケージを誤用しないために、真興交易医書出版部
足立堅一著、統計学超入門、篠原出版新社
足立堅一監訳、EBM実践のための統計学的Q&A、篠原出版新社

野村英樹・松倉知晴著、本当はやさしい臨床統計、中山書店

分析力、思考力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室(憩水館6階W602)まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール(tfujii@dwc.doshisha.ac.jp)にて事前に連絡する方が望ましい。

授業テーマ:

薬学専門科目である物理化学の導入編であり、薬学関連の物理化学の基礎的内容に関する興味および理解を深める。

授業の概要:

薬学は「薬物」を扱う学問である。薬物が物質である以上、「物理化学」を抜きにしては、種々の薬学専門領域の理解が中途半端なものになる。本講義では高校物理および化学の内容を復習しながら、大学で学ぶ物理化学の土台を築くことを目標とする。

到達目標:

物理および物理化学の重要項目の内容について講義および演習を通して理解を深め、アドバンスな薬学専門分野に対応できる基礎学力を身に着ける。

授業方法:

基本的には指定した教科書の内容に従って講義を進めるが、適宜パワーポイント、プリント等を利用する。講義内容の理解を深める目的で小テストを実施する。また、授業内容によってはレポートを課す場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 物理化学で使う基礎数学：薬学で用いる指数、対数、微分・積分の基礎計算	特になし
	2. 物質の三態と気体の性質（その1）：物質の三態と状態変化、三態の状態図（相図）、気液平衡と蒸気圧、混合溶液の状態変化と状態図、気体の圧縮と圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則 C1(2)-総論、C1(3)-物理平衡	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	3. 物質の三態と気体の性質（その2）：アボガドロの法則、気体の状態方程式、混合気体と分圧の法則、理想気体と実在気体、ファンデルワールスの状態方程式C1(2)-総論-1,2	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	4. 化学反応とエネルギー（その1）：内部エネルギー、熱力学第一法則（エネルギー保存の法則） C1(2)-エネルギー-1,2,3,5,7,9	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	5. 化学反応とエネルギー（その2）：発熱・吸熱反応、ヘスの法則、エンタルピー C1(2)-エネルギー-1,2,3,5,7,9	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	6. 化学反応とエネルギー（その3）：エントロピー、熱力学第二法則、熱力学第三法則C1(2)-エネルギー-1,2,4,5	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	7. 化学反応とエネルギー（その4）：化学反応変化の方向とギブス自由エネルギー C1(2)-エネルギー-1,2,4,5	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	8. 化学反応速度（その1）：化学反応速度式、反応の進行とエネルギー変化 C1(4)-反応速度-1,2,5,8	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	9. 化学反応速度（その2）：活性化エネルギー、反応の遷移状態と反応中間体 C1(4)-反応速度-1,2,5,8	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	10. 化学反応速度（その3）：代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応など）、薬物動態の基礎	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	11. 化学平衡（その1）：可逆反応と化学平衡、平衡定数 C1(3)-溶液の化学	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	12. 化学平衡（その2）：化学平衡の移動、ルシャトリエの原理、化学ポテンシャルの基礎C1(3)-溶液の化学	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	13. 酸化還元反応（その1）：酸化と還元、酸化数	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	14. 酸化還元反応（その2）：酸化剤・還元剤と半反応式、酸化還元反応式、代表的な化学電池C1(3)-電気化学-1,2	毎講義の最後に次の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。
	15. まとめ	これまでの全講義内容について総復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

物理や物理化学は数式が多く用いられて敬遠されがちですが、自然現象を数式で表現するのが物理や物理化学の本質です。そのあたりを講義では丁寧に説明し理解を促していきますので、皆さんもがんばってついてきてください。どうぞよろしくお願いします。

フィードバックの方法:

毎回の授業の疑問点を出席カードに書いてもらい、その中の重要だと思われる事項についてはマナビーなどを通して随時答えていく。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト(レポートを含む)	20	毎回の講義の基礎的な理解度による
	定期試験	80	講義全体の総合的な理解度による

教科書:

理系なら知っておきたい化学の基本ノート 物理化学編(岡島洋 著、中経出版)
新編基礎化学(金原稔 監修、実教出版)

参考書:

薬学物理化学 第5版(松島美一 監修、廣川書店)
物理化学の基礎づくり (C. ローレンス、A. ロジャー、R. コンプトン 著、伊藤公一 訳、化学同人)
生命科学系のための物理化学 (R. Chang 著、岩澤康裕、北川禎三、濱口宏夫 訳、東京化学同人)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、

教員との連絡方法:

マナビー
snegi@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

臨床医学、医療倫理、医療制度について学ぶ

授業の概要:

医療の進歩は著しく、新しい医療技術の登場は、その恩恵を受ける一方で新たな倫理、法問題を提示してきた。医療の安全性、情報の開示、根拠に基づいた医療、自己決定権、インフォームドコンセント、生命の尊厳、QOLなどの重要な概念を理解しておく必要がある。医学、医療の歴史、医療の社会経済的背景、先端の医療、新たな社会的倫理的問題について共に考える。

到達目標:

医療人として医療に対する確かな考え方が得られるよう講義を行う。

授業方法:

講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	医学、医療の歴史（村上） A (1),(2),(3), B (1)	関連のあるところを予習して臨む。
2.	医の倫理（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
3.	自己決定権、守秘義務、個人情報（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
4.	情報の開示、インフォームドコンセント、医療と安全性（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
5.	根拠に基づいた医療、エビデンスについての考え方（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
6.	細胞、組織、疾患、病理学（高橋） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
7.	疾患と薬（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
8.	医療資源の配分、医療費（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
9.	生命の誕生と生殖医療（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
10.	緩和医療（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
11.	細胞膜活動電位（土田） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
12.	受容体、細胞内情報伝達（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
13.	細菌、ウイルスの世界（川崎） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
14.	老年医学（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
15.	まとめ	関連のあるところを復習して臨む。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポート

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	60	講義内容の理解度で評価
	出席、授業態度	10	
	レポート	30	

教科書:

授業にて説明

参考書:

森岡恭彦ほか編著「新医学概論」産業図書
伏木信次ほか編集「生命倫理と医療倫理」金芳堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

授業テーマ：高齢者の健康をまもる看護・介護のあり方を考える

授業の概要：超高齢化など、現代の社会変動に沿った保健医療福祉分野の状況をふまえ、人々の健康の回復・維持・増進にむけた看護・介護のあり方を学ぶ。ここでは、高齢者の健康に焦点をあて、生活機能や認知機能からみた看護・介護のあり方について考える。F(4)①,② F(5)①

到達目標：

1. 高齢者と社会、看護・介護について理解できる。

2. 高齢者の生活機能低下の予防・回復に向けての食生活、活動性、排泄などへの援助技術について理解できる。

3. 認知症ケアについて理解できる。

4. 高齢者の安心・安全な暮らしをまもる看護や家族支援について理解できる

授業方法：講義、演習
ビデオ、DVD教材を使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護・介護とは何か:介護を取り巻く状況、介護と看護(岡山)	
2.	看護・介護と健康:エイジングと健康長寿(岡山)	配布プリント、参考書等を読み復習
3.	日常生活の援助技術(1) 食生活(1)(小松)	食生活・栄養摂取について学習
4.	日常生活の援助技術(2) 食生活(2)(小松)	配布プリント、参考書等を読み復習
5.	日常生活の援助技術(3) 可動性の維持①(岡山・山縣)	
6.	日常生活の援助技術(4) 可動性の維持②(岡山・山縣)	配布プリント、参考書等を読み復習
7.	認知症ケア(1)(杉原)	
8.	認知症ケア(2)(杉原)	配布プリント、参考書等を読み復習
9.	日常生活の援助技術(5) 排泄①(岡山)	
10.	日常生活の援助技術(6) 排泄②(岡山)	配布プリント、参考書等を読み復習
11.	日常生活の援助技術(7) (岡山)	配布プリント、参考書等を読み復習
12.	安心・安全な生活をまもる(事故や災害などへの対応)(岡山)	最近の高齢者事故を調べておく
13.	「介護家族」を考える(岡山)	家族による介護を調べる
14.	「大往生を看取る」を考える(岡山) DVD視聴	事前配布プリントの予習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：この超高齢社会、高齢者の健康長寿、そのためにあるべき看護や介護について共に考えてみませんか。

フィードバックの方法：コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験・レポート	70	到達目標1～4の理解度により評価
	出席度、授業態度	30	出席状況、授業中の態度により評価

教科書：

参考書：講義中に、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法：基本的に授業の前後に対応、マナビーの掲示板機能

授業テーマ:

分析化学の薬学における位置づけ、役割、応用

授業の概要:

分析化学は薬学領域のすべての分野において医薬品や生体成分などの化学物質の性質を理解する上で必須の基礎科学である。そこで、分析化学の薬学における位置づけや役割を十分認識させ、単位系、濃度の表し方、化学計算などの分析化学における基本的な事項を理解させる。その上で、無機・有機化合物の定性反応の原理、分析化学における不可欠な基礎概念である化学平衡について講義し、化学反応などにおける量的関係の基礎理論となる化学平衡論を学習させる。さらに、日本薬局方収載医薬品を例にして理論の実際への応用について学習させる。

到達目標:

・単位系、濃度の表し方、化学計算などの分析化学における基本的な事項をを修得する。

・無機・有機化合物の定性反応の原理を修得し、定性分析の日本薬局方医薬品への応用を理解する。

・化学平衡論を修得する。

授業方法:

教科書、配布プリントに基づき、パワーポイント等の視覚教材を使用して講義する。授業計画の单元ごとに演習課題を課し、各单元ごとの理解度を確認する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 分析化学入門: 分析化学とは。薬学での分析化学の位置づけ	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。
	2. 分析化学の基本的事項: 物理量と単位。国際単位系	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。
	3. 分析化学の基本的事項: 濃度の単位。物理量と濃度(C2-(1)-①分析の基本2)	講義内容の理解度を教科書(No.2)の演習問題で確認すること。
	4. 分析化学の基本的事項: 分析データの取扱い(C2-(1)-①分析の基本2)	講義内容の理解度を教科書(No.2)の演習問題で確認すること。
	5. 定性分析: 無機イオンの定性分析(C2-(3)-①定性分析1; C3-(5)-①無機化合物・錯体5)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。
	6. 定性分析: 無機定性分析の日本薬局方医薬品への応用(C2-(3)-①定性分析2)	講義内容の理解度を教科書(No.2)の演習問題で確認すること。
	7. 定性分析: 有機官能基の定性分析(C2-(3)-①定性分析2; C3-(3)-③1; ④1・2・3; ⑤1官能基の性質と反応)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。
	8. 定性分析: 有機定性分析の日本薬局方医薬品への応用。(C2-(3)-①定性分析2)	教科書(No.1)及び参考図書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。
	9. 演習: 定性分析、濃度	演習課題のレポートを提出させ、講義内容の理解度を認識させる。
	10. 化学平衡論: イオン強度、活量、活量係数(C1-(2)-⑥溶液の性質2.4)、溶液の化学平衡、解離平衡式、平衡定数(C1-(2)-④化学平衡の原理2.3)	講義内容の理解度を教科書(No.2)の演習問題で確認すること。
	11. 化学平衡論: 酸塩基平衡の基礎(C2-(2)-①酸・塩基平衡1; C3-(1)-①基本事項5)	講義内容の理解度を教科書(No.2)の演習問題で確認すること。
	12. 化学平衡論: 酸塩基の解離とpH(C2-(2)-①酸・塩基平衡2)	講義内容の理解度を教科書(No.2)の演習問題で確認すること。
	13. 化学平衡論: 弱酸弱塩基の化学種とpH分布(C2-(2)-①酸・塩基平衡2)	講義内容の理解度を教科書(No.2)の演習問題で確認すること。
	14. 化学平衡論: 緩衝液(C2-(2)-①酸・塩基平衡4)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。
	15. まとめ	教科書、参考図書及び配布資料に基づいて講義内容をまとめ、総復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	45	到達目標に関する知識・理解度により評価する
	平常試験	45	定性反応の原理・応用に関する理解度により評価する。
	演習課題	10	演習課題の正解率により評価する

教科書:

コンパス分析化学(安井 裕之 編集)(南江堂)
演習を中心とした薬学生の分析化学(嶋田 健次 編集)(廣川書店)

参考書:

第十七改正日本薬局方解説書(廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

電子メール

授業テーマ:

授業の概要: 生体の4大成分である糖、脂質、アミノ酸、ヌクレオチドの構造と機能を含む化学的な諸性質を習得し、生化学を学ぶ上での基礎を固める。

到達目標: 生化学IIは、初めて生化学を学ぶ学生を対象に、生体物質及びタンパク質化学の基礎を体系的に講義する。生命現象を分子レベルで理解し、生命の営みを化学の立場でとらえることを目的とする。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション・アミノ酸 C6 生命現象の基礎(2) 生命現象を担う分子【(3)アミノ酸】	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
2.	タンパク質の構造と機能 C6 生命現象の基礎(3) 生命活動を担うタンパク質【(1)タンパク質の構造と機能】	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
3.	タンパク質分析法 C6 生命現象の基礎(3) 生命活動を担うタンパク質	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
4.	糖と多糖 C6 生命現象の基礎(2) 生命現象を担う分子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
5.	脂肪酸と脂質 C6 生命現象の基礎(2) 生命現象を担う分子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
6.	生体膜の構造と機能 C6 生命現象の基礎(1)細胞の構造と機能 【(1)細胞膜】	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
7.	ヌクレオチド C6 生命現象の基礎(2) 生命現象を担う分子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
8.	酵素反応機能 C6 生命現象の基礎(3) 生命活動を担うタンパク質 【(3)酵素】	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
9.	酵素反応速度論 C6 生命現象の基礎(3) 生命活動を担うタンパク質 【(3)酵素】	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
10.	複製・転写・PCR-I C6 生命現象の基礎(4) 生命情報を担う遺伝子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
11.	複製・転写・PCR-II C6 生命現象の基礎(4) 生命情報を担う遺伝子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
12.	翻訳 C6 生命現象の基礎(4) 生命情報を担う遺伝子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
13.	ビタミンと微量元素 C6 生命現象の基礎(2) 生命現象を担う分子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
14.	代謝概説・総合演習	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等に関して、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的な参加度	4	
	小テスト	6	
	レポート等	10	
	定期試験	80	総合点が60点以上で合格

教科書: 生化学I講義テキスト(配布)
キャンベル・ファーレル生化学(廣川書店)第6版 川寄敏祐 金田典雄 監訳

参考書: ストライヤー生化学(東京化学同人)第5版入村達郎他訳
Voet & Voet Biochemistry 3rd Edition, Wiley
薬学領域の生化学(廣川書店)編集 伊東 晃 藤木博太

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: オフィスアワー等、授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

授業テーマ:

人体の解剖学的構造と生理機能

授業の概要:

1)人体の構造について、器官別のマクロ的構造から顕微鏡的・分子的微細構造に至るまでを系統的に学ぶ。
2)人体の機能について、器官・組織・細胞レベルおよびそれぞれの相互関係を学ぶ。
3)上記1)2)は、特に疾病の発生機序や病態(病理学)あるいは薬物・毒物の作用(薬学)との関係に重点を置く。
4)機能形態学IおよびIIの両方をあわせて解剖・組織学および生理学の全般に相当する知識を得る。
5)薬学教育モデル・コアカリキュラムのC6(1)～(7),C7(1)(2)に相当する内容を含む。

到達目標:

1)人体の生理機能について形態学的な根拠をもってわかりやすく簡潔に他者に説明できる。
2)疾病の成り立ちや薬物・毒物の作用に関連の深い細胞や組織の機能について、その恒常性の維持のメカニズムをわかりやすく簡潔に他者に説明できる。
3)上記1)と2)について、少人数で相互に議論することができる。

授業方法:

インタラクティブな講義形式による。あらかじめ設定された授業のポイントを予習で準備し、授業当日に教員と、あるいは学生同士でディスカッションしながら理解を深めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ヒトの身体の構成とホメオスタシス	ヒトの身体の構成 ホメオスタシスとその維持機構
2.	身体の構造	解剖学の基礎用語 骨格系・筋系 身体の区分と内臓の位置関係
3.	生命現象減少を担う細胞の構造と機能(1)	細胞膜 膜輸送 細胞間コミュニケーション
4.	生命現象減少を担う細胞の構造と機能(2)	細胞膜 膜輸送 細胞間コミュニケーション
5.	循環器系・リンパ系(1)	循環器系(心臓と血管) リンパ管とリンパ節
6.	循環器系・リンパ系2(2)	循環器系(心臓と血管) リンパ管とリンパ節
7.	消化器系(1)	消化器系の構造 口腔・咽頭・上部消化管・下部消化管・神経支配
8.	消化器系(2)	消化器系の構造 口腔・咽頭・上部消化管・下部消化管・神経支配
9.	肝臓・胆嚢・脾臓(1)	肝臓の機能 コレステロール代謝 薬物代謝 胆汁産生と排泄 膵臓の外分泌機能
10.	肝臓・胆嚢・脾臓(2)	肝臓の機能 コレステロール代謝 薬物代謝 胆汁産生と排泄 膵臓の外分泌機能
11.	神経系(1)	神経系の基礎 中枢神経系 末梢神経系
12.	神経系(2)	神経系の基礎 中枢神経系 末梢神経系
13.	感覚器系(1)	感覚器 眼・視覚系 耳・聴覚と平衡覚 鼻・嗅覚系 舌・味覚
14.	感覚器系(2)	感覚器 眼・視覚系 耳・聴覚と平衡覚 鼻・嗅覚系 舌・味覚
15.	まとめ	すべての項目の復習と確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。

フィードバックの方法:

1)フィードバックをしながら授業を進める。
2)出席票のコメント欄に疑問点や意見を書いておくと次回の授業でフィードバックする。
3)オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100%	課題について人体の機能と構造の両面から理解して説明できるかを重点に評価する。

教科書:

グラフィカル機能形態学(編著:馬場広子)京都廣川書店

参考書:

トートラ人体の構造と機能 第2版(Gerard J. Tortora著)丸善
キクタンメディカル1. 人体の構造編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社)
キクタンメディカル2. 診療と臨床検査編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社)
キクタンメディカル3. 症候と疾患編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社)
キクタンメディカル6. 薬剤編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)他(アルク社)

Dr.レイの病理学講義 改訂2版 編著 高橋玲 著 北澤莊平(金芳堂)

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、授業の前後教室内

授業テーマ:	人体の解剖学的構造と生理機能		
授業の概要:	1) 人体の構造について、器官別のマクロ的構造から顕微鏡的・分子的微細構造に至るまでを系統的に学ぶ。 2) 人体の機能について、器官・組織・細胞レベルおよびそれぞれの相互関係を学ぶ。 3) 上記1) 2) は、特に疾病の発生機序や病態(病理学) あるいは薬物・毒物の作用(薬学)との関係に重点を置く。 4) 機能形態学IおよびIIの両方をあわせて解剖・組織学および生理学の全般に相当する知識を得る。 5) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのC6(1)～(7),C7(1)(2)に相当する内容を含む。		
到達目標:	1) 人体の生理機能について形態学的な根拠をもってわかりやすく簡潔に他者に説明できる。 2) 疾病の成り立ちや薬物・毒物の作用に関連の深い細胞や組織の機能について、その恒常性の維持のメカニズムをわかりやすく簡潔に他者に説明できる。 3) 上記1)と2)について、少人数で多面的に議論することができる。		
授業方法:	インタラクティブな講義形式による。あらかじめ設定された授業のポイントを予習で準備し、授業当日に教員と、あるいは学生同士でディスカッションしながら理解を深めていく。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 筋系	筋組織の構造 骨格筋 心筋 平滑筋	
	2. 呼吸器系	呼吸器系の概要 呼吸とその調節機構	
	3. 血液・血液凝固・線溶系(1)	血液について 止血と血液凝固・線溶系 血液型	
	4. 血液・血液凝固・線溶系(1)	血液について 止血と血液凝固・線溶系 血液型	
	5. 泌尿器系(1)	体液について 腎臓の構造と機能 排尿機構	
	6. 泌尿器系(2)	体液について 腎臓の構造と機能 排尿機構	
	7. 体液調節(1)	体液量および浸透圧の調節 体液の酸塩基平衡	
	8. 体液調節(2)	体液量および浸透圧の調節 体液の酸塩基平衡	
	9. 皮膚・体温調節(1)	皮膚の役割 体温調節機構	
	10. 皮膚・体温調節(2)	皮膚の役割 体温調節機構	
	11. 内分泌系(1)	視床下部下垂体系 松果体	
	12. 内分泌系(2)	甲状腺 副甲状腺 副腎 睪臓	
	13. 生殖器系(1)	男性生殖器 女性生殖器 生殖腺	
	14. 生殖器系(2)	男性生殖器 女性生殖器 生殖腺	
	15. まとめ	すべての総復習と確認	
受講者へのメッセージやアドバイス:	医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。		
フィードバックの方法:	1)フィードバックをしながら授業を進める。 2)出席票のコメント欄に疑問点や意見を書いておく次回授業でフィードバックする。 3)オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	100%	課題について人体の機能と構造の両面から理解して説明できるかを重点に評価する。
教科書:	グラフィカル機能形態学(編著:馬場広子)京都廣川書店		
参考書:	トートラ人体の構造と機能 第2版 (Gerard J. Tortora著) 丸善 キクタンメディカル1. 人体の構造編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル2. 診療と臨床検査編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル3. 症候と疾患編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル6. 薬剤編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)他(アルク社) Dr.レイの病理学講義 改訂2版 編著 高橋玲 著 北澤荘平 (金芳堂)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		

教員との連絡方法： オフィスアワー、授業の前後教室内にて

授業テーマ:

化学薬品、生物薬品の定量分析

授業の概要:

目的物質の存在量を知るための定量分析法である重量分析法、容量分析法、生化学的分析法のそれぞれについて具体的な定量法・試験法の原理を理解させ、各分析法の無機薬品、有機薬品、生物薬品への適応や応用を日本薬局方収載医薬品を例にして学習させる。

到達目標:

・化学物質の分析で得られる測定値の取り扱いに関する基本的事項を修得する。
・溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得する。
・化学物質の定量分析に関する基本的事項を修得する。
・臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。

授業方法:

教科書、配布プリントに基づき、パワーポイント等の視覚教材を使用して講義する。授業計画の單元ごとに演習課題を課し、各単元の理解度を確認する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 定量分析総論: 定量分析法、分析法バリデーション (C2-(1)-①分析の基礎3)	教科書 (No.1) で講義内容を予め予習しておくこと。
	2. 重量分析法: 揮発法、抽出法、沈殿法 (C2-(3)-②定量分析6,7)	教科書 (No.1) 及び参考図書 (No.1) で講義内容を予め予習しておくこと。
	3. 容量分析法: 中和滴定法 (C2-(2)-①酸・塩基平衡1; C2-(3)-②定量分析1)	講義内容の理解度を教科書 (No.2) の演習問題で確認すること。
	4. 容量分析法: 非水滴定法 (C2-(3)-②定量分析1)	講義内容の理解度を教科書 (No.2) の演習問題で確認すること。
	5. 容量分析法: キレート滴定法 (C2-(2)-②各種の化学平衡1; C2-(3)-②定量分析2)	講義内容の理解度を教科書 (No.2) の演習問題で確認すること。
	6. 容量分析法: 沈殿滴定法 (C2-(2)-②各種の化学平衡2; C2-(3)-②定量分析3)	講義内容の理解度を教科書 (No.2) の演習問題で確認すること。
	7. 容量分析法: 酸化還元滴定法 (C2-(2)-②各種の化学平衡3; C2-(3)-②定量分析4)	講義内容の理解度を教科書 (No.2) の演習問題で確認すること。
	8. 容量分析法: 滴定終点検出法 (指示薬法、電気的終点検出法)	講義内容の理解度を教科書 (No.2) の演習問題で確認すること。
	9. 演習: 重量分析法、容量分析法	演習課題のレポートを提出させ、講義内容の理解度を認識させる。
	10. 生物学的分析法: 代表的な分析法 (C2-(6)-②分析技術1)	教科書 (No.1) 及び参考図書 (No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	11. 生物学的分析法: 酵素分析法 (C2-(6)-②分析技術3)	教科書 (No.1) 及び参考図書 (No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	12. 生物学的分析法: 酵素免疫測定法 (C2-(6)-②分析技術2)	教科書 (No.1) 及び参考図書 (No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	13. 生物学的分析法: ラジオイムノアッセイ (C2-(6)-②分析技術2)	教科書 (No.1) 及び参考図書 (No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	14. 試料の前処理、保存 (C2-(6)-①分析の準備1)	教科書 (No.1) 及び参考図書 (No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	15. まとめ	教科書、参考図書及び配布資料に基づいて講義内容をまとめ、総復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説し、返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	45	各種定量分析の原理、操作法および応用例を説明できるかを基準とする
	平常試験	45	化学薬品、生物薬品の定量分析に関する理解度により評価する。
	演習課題レポート	10	演習課題の正解率により評価する

教科書:

コンパス分析化学 (安井 裕之 編集) (南江堂)
演習を中心とした薬学生の分析化学 (嶋田 健次 編集) (廣川書店)

参考書:

第十七改正日本薬局方解説書 (廣川書店)
薬剤師に必要な臨床機器分析 (秋澤 俊史 編集) (廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

物理的原理に基づく分析機器による化学物質の量的・質的分析法の理解

授業の概要:

医薬品等の物質の特性や量を正確・精密に分析するには、物理化学的原理に基づいて開発された機器分析法が多用される。現在汎用されている各種の機器分析法の原理を理解させ、医薬品等の化学物質の特性解析や定量への応用について日本薬局方収載医薬品を例にして学習させる。

到達目標:

・機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項を修得する。
・分離分析法に関する基本的事項を修得する。

授業方法:

教科書、配布プリントに基づき、パワーポイント等の視覚教材を使用して講義する。授業計画の单元ごとに演習課題を課し、各単元の理解度を確認していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 電磁波を利用した組成分析、特性解析および構造解析 (C1-(1)-③原子・分子の挙動1,2)	教科書 (No.1, No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	2. 組成分析: 紫外可視吸光度法 (C2-(4)-①分光分析法1)	講義内容の理解度を教科書 (No.3) の演習問題で確認すること。
	3. 組成分析: 蛍光光度法 (C2-(4)-①分光分析法2)	講義内容の理解度を教科書 (No.3) の演習問題で確認すること。
	4. 組成分析: 原子吸光光度法、発光分析法、化学発光分析法、ICP (C2-(4)-①分光分析法4)	講義内容の理解度を教科書 (No.3) の演習問題で確認すること。
	5. 特性解析: 旋光度・旋光分散・円二色性 (C2-(4)-①分光分析法5)	講義内容の理解度を教科書 (No.3) の演習問題で確認すること。
	6. 特性解析: 粉末X線回折測定法、屈折率測定法 (C2-(4)-④X線分析法2)	教科書 (No.1, No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	7. 特性解析: 熱分析法、粘度測定法 (C2-(4)-⑤熱分析1,2)	教科書 (No.1, No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	8. 構造解析: 赤外分光分析法 (C2-(4)-①分光分析法3; C3-(4)-②赤外吸収1,2)	講義内容の理解度を教科書 (No.3) の演習問題で確認すること。
	9. 構造解析: 核磁気共鳴スペクトル分析法 (C2-(4)-②NMR測定法1; C3-(4)-①核磁気共鳴1,2,2,3,4,5)	教科書 (No.1, No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	10. 構造解析: 核磁気共鳴スペクトル解析演習 (C3-(4)-①核磁気共鳴1,2,3,4,5)	講義内容の理解度を教科書 (No.3) の演習問題で確認すること。
	11. 構造解析: 質量分析法 (C2-(4)-③質量分析1; C3-(4)-③質量分析1,2,3,4)	教科書 (No.1, No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	12. 分離分析: 液体クロマトグラフィー (C2-(5)-①クロマトグラフィー1,3)	教科書 (No.1, No.2) で講義内容を予め予習しておくこと。
	13. 分離分析: ガスクロマトグラフィー (C2-(5)-①クロマトグラフィー1,4)	講義内容の理解度を教科書 (No.3) の演習問題で確認すること。
	14. 分離分析: 薄層クロマトグラフィー、電気泳動法 (C2-(5)-①クロマトグラフィー1,2; C2-(5)-②電気泳動1)	講義内容の理解度を教科書 (No.3) の演習問題で確認すること。
	15. まとめ	教科書、参考図書及び配布資料に基づいて講義内容をまとめ、総復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	45	各種機器分析の原理と応用例を説明できるかを基準とする
	平常試験	45	機器分析法の原理に関する理解度により評価する。
	演習課題のレポート	10	演習課題の正解率により評価する

教科書:

薬学領域の機器分析学(財津 潔、鶴田 泰人 編集)(廣川書店)
コンパス分析化学(安井 裕之 編集)(南江堂)
演習を中心とした薬学生の実験化学(嶋田 健次 編集)(廣川書店)

参考書:

第十七改正日本薬局方解説書(廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

電子メール

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

医薬品や環境汚染物質、放射線の健康影響

我々の身の回りには極めて数多くの化学物質や電磁波が存在し、人に対して有害な作用を示すものも多い。我々は日常生活の中で或いは職業上の作業の中で有害環境因子に恒常的に曝露されており、有害環境因子は重要な健康リスクとなっている。本科目では、以下の D2(1)-① ～ ④ の項目について学ぶ。
D2(1)-① 化学物質の毒性
D2(1)-② 化学物質の安全性評価と適正使用
D2(1)-③ 化学物質による発がん
D2(1)-④ 放射線の生体への影響

化学物質や放射線などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるために、化学物質・放射線の毒性などに関する基本的事項を修得する。
D1(1)-① ～ D1(2)-④ の各項目は更に幾つかの小項目から構成されている。各小項目の到達目標は配布プリントに記載する。

講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、その内容に従って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを使用し、必要に応じて板書する。
また、4週に1回つつ計4回、講義時間の中で30分程度を用いて平常試験を行う。

	授業内容	準備学習等の内容
1.	化学物質の毒性 D2(1)-①-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
2.	化学物質の毒性 D2(1)-①-2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
3.	化学物質の毒性 D2(1)-①-3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
4.	化学物質の毒性 D2(1)-①-4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
5.	化学物質の毒性 D2(1)-①-5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
6.	化学物質の毒性 D2(1)-①-6	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
7.	化学物質の毒性 D2(1)-①-7	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
8.	化学物質の安全性評価と適正使用 D2(1)-②-1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
9.	化学物質の安全性評価と適正使用 D2(1)-②-3、4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
10.	化学物質の安全性評価と適正使用 D2(1)-②-5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
11.	化学物質による発がん D2(1)-③-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
12.	化学物質による発がん D2(1)-③-2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
13.	化学物質による発がん D2(1)-③-3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
14.	放射線の生体への影響 D2(1)-④-1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
15.	放射線の生体への影響 D2(1)-④-3、4	今回の講義内容を復習し理解を深める。

平常試験については講義室でまとめて解説する。質問事項については随時、講義室または研究室で対応する。

評価方法	割合	評価基準
平常試験	100%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

「薬物代謝学-医療薬学・毒性学の基礎として」 加藤紘一、鎌滝哲也 編（東京化学同人）3,990 円
「薬毒物と生体との相互作用」 中澤泰男 著（南山堂）4,078 円
「裁判化学 薬毒物の毒性と試験法」 濱田 昭 ほか著（南山堂）5,460 円

分析力、思考力

Eメール: rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応。

授業テーマ:

授業の概要: 薬学教育コアカリキュラムC8微生物と免疫のうち、(3)微生物の基本、と(4)病原体としての微生物、の内容をすべて含む。

到達目標: 微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)の特徴と性質を学習する。さらに病原性微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)の各論、およびこれら病原性微生物に対する化学療法の基礎を学習する。

授業方法: 講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション・微生物学概論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
2.	細菌総論I(細菌の形態と構造、増殖)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
3.	細菌総論II(遺伝と代謝)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
4.	真菌・原虫総論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
5.	ウイルス総論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
6.	消毒と滅菌、感染と共生	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
7.	感染症概論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
8.	病原細菌各論I(グラム陽性球菌、グラム陰性球菌)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
9.	病原細菌各論II(グラム陽性好気性桿菌、グラム陰性好気性桿菌、嫌気性菌)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
10.	病原細菌各論III(抗酸菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
11.	病原性ウイルス各論I(DNAウイルス)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
12.	病原性ウイルス各論II(RNAウイルス、レトロウイルス)、プリオン感染症	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
13.	病原性真菌・原虫各論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
14.	化学療法概論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
15.	まとめ	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習を行うこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

【薬学教育モデルコアカリキュラムと授業計画との対応 (2015年度以降入学生用)】

C8生体防御と微生物

(3)微生物の基本

【(1)総論】

1. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。ー授業計画1、2、3、4、5

【(2)細菌】

1. 細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。ー授業計画2、3

2. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。ー授業計画2

3. 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。ー授業計画3

4. 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。ー授業計画3

5. 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。ー授業計画3、14

6. 代表的な細菌毒素について説明できる。ー授業計画6、7

【(3)ウイルス】

1. ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。ー授業計画5

【(4)真菌・原虫・蠕虫】

1. 真菌の性状を概説できる。ー授業計画4

2. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。ー授業計画4

【(5)消毒と滅菌】

1. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。ー授業計画6

2. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。ー授業計画6

(4)病原体としての微生物

【(1)感染の成立と共生】

1. 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。ー授業計画6

2. 日和見感染と院内感染について説明できる。ー授業計画7

【(2)代表的な病原体】

1. DNAウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。ー授業計画11

2. RNAウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLVなど)について概説できる。ー授業計画12

3. グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など)について概説できる。ー授業計画8

4. グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。ー授業計画8、9

5. グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。ー授業計画9、10

6. 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。ー授業計画10

7. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。ー授業計画10

8. 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。ー授業計画13

9. 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。ー授業計画13

E2薬理・病態・薬物治療

(7)病源微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬

- (1)抗菌薬
1. 以下の抗菌薬の薬理および臨床適応を説明できる。－授業計画14
- (2)抗菌薬の耐性
1. 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。－授業計画14

フィードバックの方法：
必要に応じて面談等を行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	100	点数に応じて評価

教科書：
薬学領域の微生物学・感染症学・化学療法学 第2版 西島正弘・後藤直正・増澤俊幸・河村好章 編 廣川書店

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法：
オフィスアワーの活用

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

1)生体エネルギーの産出と蓄積;2)主要な代謝回路;3)遺伝情報;4)分子生理学などの側面から、生体内の物質がどのような反応経路で変換・生成されるのか、また、エネルギー代謝がどのようにして行われるか、など生命現象の基本メカニズムについて解説する。

生化学Ⅱは、生化学Ⅰで生体内成分の構造と機能について学んだ学生のために、その続編として開講する。

主に液晶プロジェクター・ビデオなどを用いて授業を行うが、適宜、小テストを行う。学生によるオーラルプレゼンテーションの授業方式も採用する予定である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	エネルギー代謝―解糖系 C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
2.	エネルギー代謝―クエン酸回路 C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
3.	エネルギー代謝―電子伝達と酸化リン酸化Ⅰ C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
4.	エネルギー代謝―電子伝達と酸化リン酸化Ⅱ C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
5.	エネルギー代謝―脂質代謝Ⅰ C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
6.	エネルギー代謝―脂質代謝Ⅱ。 C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
7.	炭素系代謝回路総論 C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
8.	窒素代謝(アミノ酸の同化)Ⅰ C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
9.	窒素代謝(アミノ酸の同化)Ⅱ C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
10.	窒素代謝(ヌクレオチドの代謝)Ⅰ C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
11.	窒素代謝(ヌクレオチドの代謝)Ⅱ C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
12.	膜チャンネル・受容体とポンプ C6 生命現象の基礎(6)細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
13.	細胞の構造とオルガネラの機能 C6 生命現象の基礎((1)細胞の構造と機能	生化学Ⅱ講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
14.	代謝回路の概説・総合演習	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テストに関して、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的な参加度	4	
	小テスト	6	
	レポート等	10	
	定期試験	80	総合点が60点以上で合格

教科書:

生化学Ⅱ講義テキスト(配布)
キャンベル・ファーレル生化学(廣川書店)第6版 川寄敏祐 金田典雄 監訳

参考書:

ストライヤー生化学(東京化学同人)第5版入村達郎他訳
薬学領域の生化学(廣川書店)編集 伊東 晃 藤木博太
Voet & Voet Biochemistry 3rd Edition, Wiley

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー等、授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

授業テーマ:

授業の概要:

本講義は、真核生物の分子生物学を中心に、遺伝情報と疾患、遺伝情報と医薬について理解するための基礎を学ぶ。さらに、遺伝子改変を利用した高等真核生物の高次機能の解析を取り上げ、疾患と遺伝子、疾患モデル動物、ポストゲノムへの展開、iPS細胞と再生などのトピックスも紹介する。

到達目標:

生命機能を担う遺伝子について理解すると同時に、遺伝子工学の基礎を修得する。

授業方法:

主に液晶プロジェクター・ビデオなどを用いて授業を行うが、資料をWebで配布する。適宜、小テストを行う。学生によるオーラルプレゼンテーションの授業方式も採用する予定である。単に暗記するだけでなく、「なぜ、どうして?」といった疑問を放置せずに、1つ1つの生命現象を正確に理解してほしい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス(分子生物学のアウトライン) C7 人体の成り立ちと生体機能の調節(1)人体の成り立ち	予習テストを実施する
2.	原核生物と真核生物 C6 生命現象の基礎(1)細胞の構造と機能	予習テストを実施する
3.	細胞周期と細胞分裂 C6 生命現象の基礎(7)細胞の分裂と死	予習テストを実施する
4.	遺伝子発現と染色体の構造 C6 生命現象の基礎(4)生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
5.	DNA複製・修復・組み換え C6 生命現象の基礎(4)生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
6.	遺伝子発現制御と分化(セントラルドグマ) C6 生命現象の基礎(4)生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
7.	遺伝子工学の基礎1 C6 生命現象の基礎(4)生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
8.	遺伝子工学の基礎2 C6 生命現象の基礎(4)生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
9.	遺伝改変動物の作製-I トランスジェニック動物の作製と応用 C6 生命現象の基礎(4)生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
10.	遺伝改変動物の作製-II 遺伝子破壊動物&クローン動物 C6 生命現象の基礎(4)生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
11.	基礎免疫 C8 生体防御と微生物(1)身体をまもる	予習テストを実施する
12.	変異・疾患モデル動物と疾患原因遺伝子の解明 C6 生命現象の基礎 (7)細胞の分裂と死	予習テストを実施する
13.	iPS細胞、DNAチップ、ポストゲノムへの展開 C6 生命現象の基礎(1)細胞の構造と機能(7)細胞の分裂と死	予習テストを実施する
14.	分子生物学総合演習I	
15.	分子生物学総合演習II	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

予習テストに関して、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席、中間試験等	20	
	定期試験	80	総合成績が60点以上で合格

教科書:

『コンパス分子生物学』創薬・テラーメイド医療に向けてー 第2版 南江堂 編集 荒牧弘範 大戸茂弘
分子生物薬学講義テキストを配布する。

参考書:

分子生物学の基礎 第4版 著編者 George M.Malacinski 川喜田 正夫(東京化学同人)
Essentials of Molecular Biology. 4th ed. 著編者 Malacinski, George M.(Jones & Bartlett Publishers Inc.)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー等、授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

授業テーマ:

病態時の生体機能変化と診断の基礎

授業の概要:

薬がいかにして効くかを扱うのが薬理学、実際の病気に対する治療戦略を扱うのが薬物治療学であるが、これらの基礎になる部分、すなわち、病気ではどのように生理機能が乱れているかを理解する必要がある。学ぶべき多くの病態が存在するが、同時進行する病態生化学と分担して担当する。薬学コアカリキュラムでカバーすべき疾患を網羅するが、感染症、アレルギーは扱わない。また、正常と異常を区別するのに必須な生物統計学を重視する。

到達目標:

生体膜の電気的興奮の機序を学んで、電気生理学の基礎を理解し、病的異常性を生物統計学により判定することを学ぶ。これに基づき、精神神経疾患、呼吸器、消化器、血液、感覚器、腎臓における代表的な疾患の原因と病態生理学的変化を説明できるようにする。薬学コアカリキュラムでは、C7-(2)、E1-(2)、E3-(1)-5、及びE2のうち、薬物治療の基礎となる病態生理部分を扱う。

授業方法:

パワーポイントによる講義(同一画面のプリントを配布)
小テストによる要点の確認
マナビーにアップした資料による演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論、興奮性膜、心臓刺激伝達系 C7(1)-4、C7(2)-1	膜電位計算用Excelファイルをマナビーにアップするので、これに各自数値を入れて、膜電位変化をシミュレーションしてみよう
2.	臨床検査と基準値 E1(2)-2、E3(1)-5	1年次秋学期の「生物統計学」の復習と応用問題なので、「生物統計学」のノートを復習しておこう
3.	ベイズ思考と臨床判断	考え方は難しいので、詳細に解説したファイルをマナビーにアップするので、繰り返し読んで理解しよう
4.	神経生理と精神神経疾患(1) E2(1)-3	参考となる画像がマナビーにリンクされているので、これを見ておく。また、参考となる映画を紹介するので、機会をみてみておこう。
5.	精神神経疾患(2) E2(1)-3	参考となる画像がマナビーにリンクされているので、これを見ておく。また、参考となる映画を紹介するので、機会をみてみておこう。
6.	筋・呼吸器系疾患 E2(1)-2、E2(4)-1	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
7.	自律神経 E2(1)-1	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
8.	中間テストと問題解説 消化器系疾患 E2(4)-2	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
9.	肝・胆嚢・膵臓系疾患 E2(4)-2	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
10.	血液疾患 E2(3)-2	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
11.	感覚器系疾患 E2(6)	マナビーに聴覚、平衡感覚に関するシミュレーション動画がリンクされているので、各自見ておく
12.	腎・泌尿器系疾患 E2(3)-3	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
13.	代謝・内分泌系疾患 E2(5)	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
14.	生物統計学再び: χ^2 検定 E3(1)-5、6	マナビーに演習問題がアップされているので、各自解いておく
15.	まとめ	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

一回ごとの講義内容を予習復習によりその都度理解するように習慣づけること。試験直前の、小テストの答えの丸暗記は将来の役に立たない。問題の意味を理解するように。

フィードバックの方法:

質問のための研究室訪問は随時。マナビー掲示板への投稿も歓迎。基本的に、小テストの正解と解説はマナビーにファイルとしてアップする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間テスト	50	選択肢問題、計算問題による客観テスト。
	期末テスト	50	選択肢問題、計算問題による客観テスト。

教科書:

(1回ごとにプリント配布)

参考書:

市田、辻、秋葉編、「疾病と病態生理」 南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

憩水館6階W606
turushid@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	薬物により引き起こされる生体機能の変化を知り、医薬品による治療メカニズムを考察できるようになる。		
授業の概要:	薬理学I, IIおよびIV(3年次に開講)の3科目で薬理学の基本原理、医薬品が病気の症状を改善するメカニズムについて学ぶ。		
到達目標:	1. 薬理学の基本概念について説明できる(知識)。 2. 薬物の作用メカニズムについて概要を説明できる(知識)。 3. 受容体理論について説明でき、用量反応曲線の読み取りができる(知識・技能)。 4. 神経伝達物質受容体の情報伝達のメカニズムを説明できる(知識)。 5. 末梢神経系の構成を説明できる(知識)。 6. 自律神経系に作用する薬物(アゴニスト・アンタゴニスト)について説明できる(知識)。 7. 運動神経系に作用する薬物について作用メカニズムと臨床応用を説明できる(知識)。 8. 局所麻酔薬の作用メカニズムと臨床応用を説明できる(知識)。 9. 全身麻酔薬の作用メカニズムと臨床応用を説明できる(知識)。 10. 上記6から9に該当する薬物の構造式の特徴について説明できる(知識)。		
授業方法:	授業方法: 1. プリテストによる予習状況の確認(5分) 2. パワーポイントによる講義(75分) 3. ポストテスト(口頭試問またはミニテスト)による理解度の確認(10分) を原則とするが、随時指名して回答させるので、積極的な授業参加を期待する。 毎回および演習ではクリッカーによる回答をする場合がある。なお、プリテストは予備知識の確認あるいは準備状況を確認するために実施している。成績評価や出席管理のために実施しているわけではない。したがって、他人に成りすまして提出されたプリテストが発見された場合、実施が取りやめられることがある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 薬理学とは:E1(1)①1, 9 2. 薬理学総論1―薬物の作用メカニズム・生体機能制御系:E1(1)③-5, 7 3. 薬理学総論2―受容体理論:E1(1)①1 4. 神経伝達物質と受容体1:E1(1)①2 5. 神経伝達物質と受容体2:E1(1)①2 6. 末梢神経系全般:E2 7. 自律神経系に作用する薬物1―交感神経系1(作用薬):E2(1)①1 8. 自律神経系に作用する薬物2―交感神経系2(拮抗薬・遮断薬):E2(1)①1,3 9. 自律神経系に作用する薬物3―副交感神経系1(作用薬):E2(1)①2 10. 自律神経系に作用する薬物4―副交感神経系2(拮抗薬・遮断薬):E2(1)①2,3 11. 運動神経系に作用する薬物:E2(1)②2 12. 局所麻酔薬:E2(1)②1 13. 中枢神経系に作用する薬物1 全身麻酔薬:E2(1)③1 14. 質問・薬理学 I の範囲内における薬理学の最新の知見 15. まとめ	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。 第13回までの授業内容について各自疑問点を明らかにし、質問を準備しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回の授業で、予習状況もしくは予備知識に関するプリテストを実施するので、教科書の指定された範囲をあらかじめ読んでおくこと。また、自主的に様々な資料(下記の参考文献はその一例)にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。指定された教科書1冊だけで学習するのではなく、疑問を感じたら様々な資料にあたって問題解決を図ること。授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。なお、追加の指示がある場合はマナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。		
フィードバックの方法:	前回の授業内容に対する質問・疑問等への回答を授業の冒頭に紹介する。定期試験の問題および解答はマナビーにアップロードするので、各自自己採点し不明の点は必ず質問すること(メール可)。		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	多肢選択式の定期試験	100	定期試験(多肢選択式により40問を出題)に対する妥当な正答率(最低合格基準: Minimum Pass Level)により合格を判定する。最低合格基準は第14回目の授業の授業の際、もしくはマナビーにて試験実施前に公表する。なお、最低合格基準は目標達成度の60%を超えない範囲で設定され、この基準を満たした場合に単位が認定される。中間試験は行わない。出席点はない。
教科書:	今井正・宮本英七監修、標準薬理学 第7版、医学書院		
参考書:	竹内孝治・岡淳一郎編集 最新薬理学 第3版 廣川書店 重信弘毅・石井邦雄編集 パートナー薬理学 南江堂 加藤隆一・田中千賀子編集 New薬理学 第6版 南江堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室(憩水館6階W602)まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール(tfujii@dwc.doshisha.ac.jp)にて事前に連絡する方が望ましい。		

授業テーマ:	薬の基本的性質から医薬品の製造に至るまでの過程において、必要な基礎的知識を習得する。
授業の概要:	1 物質の状態および相互変換過程を解析できるようになるために、熱力学の基本的知識を学習する。 2 複雑な系における物質の状態および相互変換過程を熱力学に基き解析できるようになるために、溶液および電気化学に関する基本的知識を学習する。 3 物質の変換過程を理解するために、化学反応速度論、および反応速度に影響を与える諸因子に関する基本的知識を学習する。 4 薬物と製剤材料の性質を理解し、応用するために、それらの物性に関する基本的知識を学習する。 5 医薬品およびその製剤の安定性に関する理解を深めるため、化学反応速度に影響を与える諸因子に関する基本的知識を学習する。 6 医薬品の溶解性および溶解速度に関する基本的知識を学習する。 7 医薬品の用途に応じた適切な剤形を調製するために、製剤の種類、有効性、安全性、品質などに関する基本的な知識と、調製を行う際の基本的知識を学習する。 8 様々な製剤技術を応用した現行の代標的な医薬品製剤あるいはDDS製剤について学習する。
到達目標:	1. 薬物と製剤材料の物性に関連する基本的事項を修得する。 2. 物質の変換過程を理解するために、反応速度論に関する基本的事項を修得する。 3. 溶液中の化学平衡に関する基本事項を修得する。 4. 薬物の携帯や薬物体内動態の制御方などを工夫したDDSに関する基本事項を修得する。
授業方法:	本講義は物理化学の知識を医薬品の製造関連分野へと発展させたものであるので、必要と判断した場合には物理化学の復習を取り入れながら授業を進める。講義は教科書に準拠して進める。期末試験(80分)と出席点を加味し、60点以上を合格とする(100点満点)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション (1)講義の概要、薬剤学の定義と関連学問領域(物理化学、日本薬局方、調剤学)の解説 (2)講義に関する演習問題の学習法の解説	教科書の該当箇所を3回読む
	2. 結晶および粉体の物理化学的性質 (1)結晶と無晶形(結晶多形、溶媒和物、固体分散体) (2)複合体形成(キレート化合物、分子複合体、包接化合物) (3)安定度定数の測定法 E-E5-(1)-①-1～5	
	3. 反応速度論Ⅰ (1)反応速度と反応次数 (2)反応速度式(0次反応、1次反応、2次反応) (3)複合反応(平行反応、連続反応、可逆反応) C-C1-(3)-①-1～7	教科書の該当箇所を3回読む
	4. 反応速度論Ⅱ (1)反応速度に影響する因子(温度、触媒、イオン強度、誘電率) (2)医薬品の分解(加水分解、酸化、光分解) (3)医薬品の安定化(化学的修飾、難溶性塩形成、複合体形成) (4)医薬品の安定性試験のガイドライン C-C1-(3)-①-1～7	教科書の該当箇所を3回読む
	5. 反応速度論Ⅲ (1)反応速度に影響する因子(温度、触媒、イオン強度、誘電率) (2)医薬品の分解(加水分解、酸化、光分解) (3)医薬品の安定化(化学的修飾、難溶性塩形成、複合体形成) (4)医薬品の安定性試験のガイドライン C-C1-(3)-①-1～7	教科書の該当箇所を3回読む
	6. 溶液と溶解現象Ⅰ (1)希薄溶液の束一性 (2)フレンステッドとローリーの酸・塩基 C-C2-(2)-①-1～4、②-1～4	教科書の該当箇所を3回読む
	7. 溶液と溶解現象Ⅱ (1)pKaとHenderson-Hasselbalchの式 (2)pKaと解離度 (3)pKaと油水分配 (4)pKaと溶解度 C-C2-(2)-①-1～4、②-1～4	教科書の該当箇所を3回読む
	8. 固体の溶解現象 (1)固体の溶解(Noyes-Whitneyの式、Nernst-NoyesWhitneyの式、Higuchiの式、Hixson-Cro-wellの式) (2)溶解性の改善 E-E5-(1)-①-1～5	教科書の該当箇所を3回読む
	9. 界面化学Ⅰ (1)表面過剰エネルギーと表面張力、Gibbusの等温吸着式 (2)表面張力測定法 E-E5-(1)-③-1～4	教科書の該当箇所を3回読む
	10. 界面化学Ⅱ (1)界面活性剤の性質(曇点、クラフト点) (2)ミセル形成と界面活性剤の作用 (3)HLB、要求HLB値、ぬれ、JP収載界面活性剤の特徴 E-E5-(1)-③-1～4	教科書の該当箇所を3回読む

11. 分散系
(1)コロイド分散系の性質(運動学的性質、光学的性質、電気的性質、DLVO理論、電気二重膜、コロイドの安定性、吸着)
(2)サスペンション
(3)エマルション
E-E5-(1)-③-1～4 教科書の該当箇所を3回読む
12. レオロジー I
(1)ニュートン流動と非ニュートン流動(塑性流動、準塑性流動、準粘性流動、チキソトロピー、粘度の温度依存性)
(2)粘弾性(マクスウェルモデル、フォークトモデル)
E-E5-(1)-②-1～2 教科書の該当箇所を3回読む
13. レオロジー II
(1)レオロジーの測定法(回転粘度計、動的粘弾性測定、毛細管粘度計、落球粘度計、分散系の粘度、製剤のレオロジー測定)
(2)高分子溶液の粘度(相対粘度、比粘度、還元粘度、粘度法による高分子の分子量の決定)
E-E5-(1)-②-1～2 教科書の該当箇所を3回読む
14. 拡散と膜透過
(1)フィックの拡散法則(拡散、フィックの第1法則、フィックの第2法則、Nernst-Noyes-Whitneyの式)
(2)膜透過とDDS(DDSの基本概念、リポゾームとDDSへの適用、リピッドマイクロソフェア)
E-E5-(3)-①-1～2、②-1～3 教科書の該当箇所を3回読む
15. 15 まとめ 1～14の範囲について学力の確認を行う

受講者への
メッセージや
アドバイス:

事前に教科書を読むのと読まないのでは理解度に大きな差が出ますので、講義を受ける前には必ず該当箇所を3回読んでく
ること。

フィードバックの
方法:

薬剤師国家試験問題に関連する演習問題を配布するが、講義中に解説を行う。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末テスト	91%	100点満点中91点
出席及び積極的参加度	9%	ランダムに3回出席を取る。3点/1回とし、最高9点を期末テストに加算する。

教科書: 金尾義治 他編「NEW パワーブック 物理薬剤学・製剤学」(廣川書店)

参考書: 嶋林三郎 他編「製剤への物理化学」(廣川書店)
辻 彰 他編「わかりやすい物理薬剤学(第4版)」(廣川書店)
薬学教育モデル・コアカリキュラム対応コアカリ・マスター vol. 1(薬学ゼミナール)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡
方法:

質問等は以下のメルアドまで。
nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	薬物の体内動態および薬物動態解析の基礎編	
授業の概要:	医療薬学(E)における薬の生体内運命(E4)の中の薬物の体内動態(E4(1))および薬物動態の解析(E(2)): (基礎編) (薬学教育モデル・コアカリキュラム対応)	
到達目標:	1) 薬物の体内動態(E4(1)): 薬物の生体内運命を理解するために、①生体膜透過、②吸収、③分布、④代謝、⑤排泄の過程に関する基本的知識とそれらを解析するための基本的技能を修得する(基礎編)。 2) 薬物動態の解析(E4(2)): 薬効や副作用を体内の薬物動態から定量的に理解できるようになるために、薬物動態の理論的解析(①薬物速度論)に関する基本的知識と技能を修得する(基礎編)。	
授業方法:	指定した教科書を使う。パワーポイントを使う。授業ビデオを撮影する。座席は指定し、出席を採る。授業に関する教員および学生間の双方向の連絡には、学内メールを用いる(学生は、学内メールを携帯へ転送しておくことが望まれる)。本科目についての情報(授業ビデオ、レポート記入用紙、追加課題等)は、薬学部のHP(Vivi-Link)にその都度、期限を切って掲載する。時間外学習として1コマにつき90分を想定し、レポート課題を課す。学生は授業ビデオを見て復習することができる。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 導入(薬物動態学の意義): 薬物動態と速度論の関係、投与様式と血中濃度の変化、速度論のきまり(単位) 時間外学習とレポート課題: 微積分、化学反応速度論、濃度の計算	テキストに記載したレポート課題を行い、Viivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記入し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-①、②、③、④、⑤およびE4(2)-①	
	2. 吸収(全般): ADME、消化管の解剖学、薬物吸収、膜輸送、胃排泄時間、生物学的利用率、初回通過効果とその回避、各種経粘膜投与経路 時間外学習とレポート課題: 濃度変化の計算、CBT、国試過去問題等	テキストに記載したレポート課題を行い、Viivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記入し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-①、②およびE4(2)-①	
	3. 分布(全般): 薬物の組織分布、血液—組織間分配平衡、血液脳関門、血液胎盤関門、薬物の分布容積 時間外学習とレポート課題: 濃度変化の計算、CBT、国試過去問題等	テキストに記載したレポート課題を行い、Viivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記入し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-③およびE4(2)-①	
	4. 代謝(全般)(その1): 肝臓の解剖学、肝代謝、代謝酵素、CYP、プロドラッグ 時間外学習とレポート課題: 濃度変化の計算、CBT、国試過去問題等	テキストに記載したレポート課題を行い、Viivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記入し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-④およびE4(2)-①	
	5. 代謝(全般)(その2): 第1相反応、第2相反応、肝消失型薬物 時間外学習とレポート課題: 濃度変化の計算、CBT、国試過去問題等	テキストに記載したレポート課題を行い、Viivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記入し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-④およびE4(2)-①	
	6. 復習: 第1回～6回の復習 薬動学(クリアランスと分布容積の概念): 濃度とその単位、関係式とディメンジョン、油水2液分配系における濃度変化の計算、分布容積の定義、瞬時分配平衡モデルと分布容積、液入れ替えモデルと一次反応、クリアランスの概念、半減期 時間外学習とレポート課題: 片対数グラフ、一次速度論	テキストに記載したレポート課題を行い、Viivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記入し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-①、②、③、④、⑤およびE4(2)-①	
	7. 中間試験 薬動学(クリアランスと分布容積の概念)(第6回からの続き) 時間外学習とレポート課題: 中間試験問題の確認	テキストに記載したレポート課題を行い、Viivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記入し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-①、②、③、④およびE4(2)-①	
	8. 排泄(全般): 腎臓の解剖学、腎排泄、糸球体ろ過、尿細管分泌と再吸収、トランスポーター 胆汁排泄、腸肝循環、唾液・乳汁排泄、腎排泄型薬物 到達目標: E4(1)-⑤およびE4(2)-① 時間外学習とレポート課題: 1次速度論(基礎物理化学復習)	テキストに記載したレポート課題を行い、Viivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記入し、翌週提出する。
	9. 薬動学(1-コンパートメントモデル、急速静注における速度論): 1-コンパートメントモデル、速度式(微分方程式)、血中濃度の式、片対数プロット、半減期、消失速度定数 時間外学習とレポート課題: 国試過去問題等	テキストに記載したレポート課題を行い、Viivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記入し、翌週提出する。
	到達目標: E4(2)-①	
	10. 薬動学(定速静注および反復投与における速度論): 速度式と血中濃度の式、定常状態下の血中濃度、蓄積率 時間外学習とレポート課題: 国試過去問題等	テキストに記載したレポート課題を行い、Viivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記入し、翌週提出する。
	到達目標: E4(2)-①	

11. 薬動学(経口投与における速度論):経口投与後の血中濃度式、吸収速度定数、フリップフロップ現象、残差法による吸収速度定数の見積もり
時間外学習とレポート課題:国試過去問題等
- 到達目標:E4(2)-①
12. 薬動学(バイオアベイラビリティ):生物学的利用率(速度的、量的BA、絶対的BA、相対的BA)、生物学的同等性、初回通過効果、吸収率
時間外学習とレポート課題:国試過去問題等
- 到達目標:E4(2)-①
13. 薬動学(腎クリアランス):腎排泄速度、腎クリアランス、糸球体ろ過速度、分泌クリアランス、再吸収、クレアチニンクリアランス
時間外学習とレポート課題:国試過去問題等
- 到達目標:E4(2)-(1)
14. 薬物動態解析の総復習
計算問題62問の解説
- 到達目標:E4(1)-①、②、③、④、⑤およびE4(2)-①
15. まとめ
- 返却レポートを整理し、復習する。
- 到達目標:E4(1)-①、②、③、④、⑤およびE4(2)-①

受講者へのメッセージやアドバイス:
フィードバックの方法:
「成績評価方法」
「成績評価基準」:

毎回のレポートにおいては、時間外学習時間ならびに講義内容の理解度を1から5段階に分けて表示させるようにしており、勉強しない学生や理解が進んでいない学生には、教員が、個別に注意をする。

講義において、レポート課題を課す。学生はその課題を学内NETに掲載するレポート提出用紙に記入し、次の講義時間に提出する。提出されたレポートはタイムリーに学生に返却する。見本となるレポートについては、名前を伏せて、NETに掲載する。学生はそれを参考にして、どの箇所が誤りかを自分で確認し、自習する。

評価方法	割合	評価基準
出席およびレポート	10%	10点満点(出席10回以上および全レポートの提出、この条件を満たさない場合、1件につき1点減点;ゼロ点が下限)
中間試験	40%	
最終試験	100%	総合評価=出席点+中間試験の得点+(100-出席点-中間試験の得点)x最終試験の正答率

小数点は切り上げる。
試験成績の自己管理:中間試験、最終試験は、提示される正解表を元に自己採点ができる。

追試験時の成績評価:

- ・単なる病気(診断書あり)で欠席した場合、追試験(100点満点)の得点のみが総合評価の対象となる。
- ・本学が認めるインフルエンザ等の伝染病、忌引き等で欠席した場合は、出席点+中間試験の結果が加えられる(上記の方法)。

教科書:
対話と演習で学ぶ薬物速度論 伊賀勝美他、廣川書店、2008年
NEWパワーブック生物薬剤学 金尾義春他、廣川書店、2016年
薬物動態学Iテキスト(配布)、伊賀勝美

参考書:
コンパス生物薬剤学 岩城正宏他、南江堂、2010年
薬と疾病I.薬の効くプロセス スタンダード薬学シリーズ6、東京化学同人、2007年
本日の治療薬2016、南江堂
治療薬マニュアル2016、医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:
Vivi-Linkおよび学内電子メール

授業テーマ:	食品に含まれる栄養成分や有害物質と健康の関わり																																		
授業の概要:	ヒトが生きていくうえで食品の摂取は必要不可欠であることは言うまでもない。食品の摂取は栄養を摂取するためであるが、食品には自然毒や有害成分が含まれる場合もあり、これらの摂取は、生命や健康のリスクとなる。本科目では、以下の D1 (3)-① ～ ③ の項目について学ぶび、健康維持に必要な栄養を科学的に理解するために栄養素、代謝、食品の安全性と衛生管理などに関する基礎知識を習得する。 D1 (3)-① 栄養 D1 (3)-② 食品機能と食品衛生 D1 (3)-③ 食中毒と食品汚染																																		
到達目標:	食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品の機能、食品の安全性に関わる諸因子、衛生管理に関する基本的事項を修得する。 D1 (3)-① ～ ③ の各項目は更に幾つかの小項目から構成されている。各小項目の到達目標は配布プリントに記載する。																																		
授業方法:	講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、その内容に従って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを使用し、必要に応じて板書する。 また、4週に1回づつ計4回、講義時間の中で30分程度を用いて平常試験を行う。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 栄養 D1 (3)-①-1、2</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>2. 栄養 D1 (3)-①-3、4</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>3. 栄養 D1 (3)-①-5</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>4. 栄養 D1 (3)-①-6</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>5. 栄養 D1 (3)-①-7、8</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>6. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-1</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>7. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-2</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>8. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-3</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>9. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-4</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>10. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-5</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>11. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-6</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>12. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-7</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>13. 食中毒と食品汚染 D1 (3)-③-1</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>14. 食中毒と食品汚染 D1 (3)-③-2</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>15. 食中毒と食品汚染 D1 (3)-③-3</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深める。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 栄養 D1 (3)-①-1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	2. 栄養 D1 (3)-①-3、4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	3. 栄養 D1 (3)-①-5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	4. 栄養 D1 (3)-①-6	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	5. 栄養 D1 (3)-①-7、8	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	6. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	7. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	8. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	9. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	10. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	11. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-6	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	12. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-7	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	13. 食中毒と食品汚染 D1 (3)-③-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	14. 食中毒と食品汚染 D1 (3)-③-2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	15. 食中毒と食品汚染 D1 (3)-③-3	今回の講義内容を復習し理解を深める。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 栄養 D1 (3)-①-1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
2. 栄養 D1 (3)-①-3、4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
3. 栄養 D1 (3)-①-5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
4. 栄養 D1 (3)-①-6	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
5. 栄養 D1 (3)-①-7、8	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
6. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
7. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
8. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
9. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
10. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
11. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-6	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
12. 食品機能と食品衛生 D1 (3)-②-7	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
13. 食中毒と食品汚染 D1 (3)-③-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
14. 食中毒と食品汚染 D1 (3)-③-2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
15. 食中毒と食品汚染 D1 (3)-③-3	今回の講義内容を復習し理解を深める。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	平常試験については講義室でまとめて解説する。質問事項については随時、講義室または研究室で対応する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>平常試験</td><td>100%</td><td>到達目標に関する知識や理解度により評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	平常試験	100%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。																												
評価方法	割合	評価基準																																	
平常試験	100%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。																																	
教科書:																																			
参考書:	「食品衛生学」 篠田純男、成松鎮雄、林 泰資 共著（三共出版）2,400 円 「衛生薬学 健康と環境」 日本薬学会 編（東京化学同人）6,100 円																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	Eメール: rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応。																																		

授業テーマ:	薬学領域における無機化学および放射化学の有用性の総合的理解		
授業の概要:	生物は種々の元素の多彩で、かつ特異な化学反応性を巧みに利用して生命活動を行っている。本講義の前半では、薬学領域における無機化学、特に生体内における微量元素の働きや無機元素を含む医薬品の作用機序など生物無機化学を中心に紹介する。 また、放射線の発見は物理学と化学の世界に大きな変革をもたらし、やがて医学利用されるまで発展した。本講義の後半は、薬学にとって必要な放射線の基礎知識や放射性医薬品など放射性同位元素の医学における利用について紹介する。		
到達目標:	講義を通して、無機化学、生物無機化学の基礎、および放射化学の基礎を学び、薬学分野にそれら知識を応用できるようになることを目標とする。		
授業方法:	パワーポイントを主に用い、適宜板書を行う。授業は配布するテキストをベースに行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 薬学領域における無機化学の必要性	特になし。	
	2. 原子の構造と電子の振舞い(C1-1)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	3. 化学結合と錯体化学(C1-1)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	4. 元素の化学(生体必須元素と毒性元素)(C4-1)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	5. 金属を含むタンパク質・酵素(C6-1)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	6. 生体内酸化還元(C6-1)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	7. 金属を含む医薬品(C14-2)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	8. 原子核と放射能(C1-1)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	9. 放射線と物質との相互作用(C1-1)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	10. 放射線測定(C1-1)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	11. 放射性同位元素の製造と利用(C1-1)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	12. 放射線と生体(C12-1)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	13. 放射性医薬品と画像診断(C2-2)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	14. 薬学領域における放射性同位元素の利用(C2-2)	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト(教科書)の対応項目を予習する。	
	15. まとめ	これまでの全講義内容を総復習する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	無機化学および放射化学は薬学の基礎から応用、実務分野まで幅広く関与してくる内容である。 特に、国家試験に関係の深い項目、例えば元素と疾患・金属含有医薬品・放射性壊変・物理的診断法・放射性医薬品などについては、授業内容の復習と問題演習を必ず行うことが望ましいです。 皆さんと一緒に頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。		
フィードバックの方法:	毎回の授業の疑問点を出席カードに書いてもらい、その中の重要だと思われる事項についてはマナビーなどを通して随時答えていく。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小テスト(レポートを含む)	20	毎回の講義の基礎的な理解度による
	定期試験	80	毎回の講義の総合的な理解度による
教科書:			
参考書:	NEW放射化学・放射薬品学(佐治英郎・関 興一 編著、廣川書店、3,800円) ベーシック薬学教科書シリーズ4 無機化学(青木 伸 編著、化学同人、2,800円) 薬学領域の放射科学(佐治英郎 監修、廣川書店、4000円)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、		
教員との連絡方法:	マナビーシステム e-mail:snegi@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

無から有を生み出す創薬を理解できる有機化学のアドバンスト基盤

授業の概要:

創薬の原点も目標も新たな有機化合物の創出であるため、有機化学を核として医薬品創製とその作用機序について専門的な授業を展開する。

到達目標:

リード化合物発見、リード化合物最適化、分子の構造変換、化学構造と薬理作用の相互関係、医薬品の立体化学と生物活性の相互関係、医薬品のキラリティー、光学活性化合物の有機化学について、合成経路や反応機構を交えながらさまざまな医薬品の創製について概説し、創薬を理解できる有機化学知識と学力を身につけさせる。もっとかいつまんで表現すると有機化合物であるヒトと有機化合物である医薬品との反応を理解する有機化学基盤の構築を目指す。

授業方法:

講義を中心とした授業を行う。板書、プリントおよびプロジェクターを使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	医薬品と生体分子の化学構造相関 C4(1)-①-1,2, ②-1,2,3,4, C4(2)-④-1,2, C4(3)-①-1	ブルース有機化学該当項の熟読
2.	循環器作用薬の有機化学 C4(2)-②-2, C4(3)-②-1,2, ③-2	ブルース有機化学該当項の熟読
3.	循環器作用薬として機能する複素環 C4(3)-④-2,6, ⑤-1,3, ⑦-1	ブルース有機化学該当項の熟読
4.	オータコイドと関連薬物の有機化学 C4(2)-①-1,2, ②-1, ③-1,2	ブルース有機化学該当項の熟読
5.	オータコイドと関連薬物のコンポーネント C4(2)-①-1,2, ②-1, ③-1,2	ブルース有機化学該当項の熟読
6.	オータコイドと関連薬物に含まれる複素環 C4(2)-①-1,2, ②-1, ③-1,2	ブルース有機化学該当項の熟読
7.	抗菌薬の有機化学 C4(2)-②-1, C4(3)-③-1,3	ブルース有機化学該当項の熟読
8.	抗菌薬に含まれる複素環 C4(3)-④-3,4,5	ブルース有機化学該当項の熟読
9.	抗悪性腫瘍薬の有機化学 C4(3)-③-1, ⑥-1,2,3	ブルース有機化学該当項の熟読
10.	抗悪性腫瘍薬と生体高分子 C4(3)-③-1, ⑥-1,2,3	ブルース有機化学該当項の熟読
11.	抗ウイルス薬の有機化学 C4(2)-②-3, C4(3)-③-1,3	ブルース有機化学該当項の熟読
12.	抗ウイルス薬と生体分子 C4(2)-②-3, C4(3)-③-1,3	ブルース有機化学該当項の熟読
13.	中枢神経作用薬の有機化学 C4(3)-④-6, ⑤-2,4,6	ブルース有機化学該当項の熟読
14.	中枢神経作用薬と生体内分子 C4(3)-④-6, ⑤-2,4,6	ブルース有機化学該当項の熟読
15.	総合演習 C4(2)-④-1,2, C4(3)-①-1	ブルース有機化学該当項の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

メール、口頭、面談

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	90	60点以上
	平常時試験	10	60点以上

教科書:

ブルース、有機化学、富岡清等訳、化学同人

参考書:

北川 勲、柴崎正勝、富岡 清 監訳、メディシナルケミストリー、丸善

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業時及びオフィスアワー

授業テーマ：

分析技術の臨床応用

授業の概要：

薬学教育モデル・コアカリキュラム「C2化学物質の分析－(6)臨床現場で用いる分析技術」を中心に、薬学研究や臨床現場で分析技術を適切に利用するための代表的な分析法の基本知識を習得する。
医薬品分析化学Ⅰ・Ⅱ及び機器分析学で習得した分析原理や分析技術に関する知識を基盤とし、臨床化学分析法、臨床物理的診断法、薬毒物分析法としての応用と適用を理解・習得する。

到達目標：

臨床分析の試料の取り扱いや精度管理についての知識の習得及び理解。
臨床化学分析法（臨床検体検査法）に用いられる分析技術についての基礎知識の習得及び理解。
臨床画像検査法（臨床生体検査法）に用いられる分析技術についての基礎的知識の習得及び理解。

授業方法：

講義。
配布プリントを使用し、必要に応じて板書及びPower Point等の視覚教材を用いて説明する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床分析の準備 臨床検体の前処理及び取扱い 臨床分析の単位と精度管理及び標準物質の意義 C2(6)①-1,2	講義内容の復習および自己演習
2.	臨床化学分析(1) 臨床分析で用いる代表的な分析法 酵素を用いた分析法の原理及び臨床応用 C2(6)②-1,3	講義内容の復習および自己演習
3.	臨床化学分析(2) 免疫反応を用いた分析法の原理及び臨床応用 C2(6)②-2	講義内容の復習および自己演習
4.	臨床化学分析(3) センサーの原理及び臨床応用 ドライケミストリーの原理及び臨床応用 C2(6)②-4	講義内容の復習および自己演習
5.	臨床化学分析(4) 電気泳動法の原理 キャピラリー電気泳動法の原理 C2(5)②-1	講義内容の復習および自己演習
6.	臨床化学分析(5) 薬毒物中毒における生体試料の取扱い 中毒原因物質や乱用薬物のスクリーニング法 C2(6)②-1	講義内容の復習および自己演習
7.	臨床化学分析(6) 薬毒物の管理や取扱い基準・制度 C2(6)②-1	講義内容の復習および自己演習
8.	臨床画像検査(1) 心電図の基礎 C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
9.	臨床画像検査(2) 心電図の基礎的解析法 C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
10.	臨床画像検査(3) 超音波診断法 C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
11.	臨床画像検査(4) X線検査、X線CT C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
12.	臨床画像検査(5) X線造影剤、血管造影、心臓カテーテル、MRI、MRI造影剤 C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
13.	臨床画像検査(6) 核医学検査、放射性医薬品 C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
14.	臨床画像検査(7) 放射性医薬品の管理及び取扱い C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：

薬学教育モデル・コアカリキュラムの「C2 化学物質の分析－(6)臨床現場で用いる分析技術」を中心に講義を実施する。薬学共用試験CBT及び薬剤師国家試験の受験や薬剤師として将来活動するするために必要な知識であるので、積極的に講義に参加して欲しい。

フィードバックの方法：

平常時試験の結果や解説を講義中に実施する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常時試験	45%	到達目標：臨床分析の試料の取り扱いや精度管理についての知識の習得度及び理解度により評価する。
	定期試験	45%	到達目標：臨床化学分析法（臨床検体検査法）の基礎知識の習得度及び理解度により評価する。
	授業への参加度	10%	到達目標：臨床画像検査法（臨床生体検査法）の基礎知識の習得度及び理解度により評価する。
			出席度を評価の基準とする。

教科書：

参考書：

臨床検査学講座・臨床化学検査学第2版（浦山修他著、医歯薬出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、自己表現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーおよび講義の前後に対応する。

授業テーマ:

授業の概要: 天然医薬品化学は、重要な薬理活性を有する天然物質を医薬品の素材として探索する学問である。天然薬物をもとにして開発された医薬品が数多く用いられていることを紹介し、天然物質がもつ様々な生理活性について説明する。また、一般的な分類法に従って天然物質の生合成経路について解説する。次いで、生物評価を併用した天然物質の分離精製と単離した化合物の構造決定について解説する。最後に天然から薬を見つける流れについて概説する。

到達目標: 1. 天然薬物をもとにして開発された医薬品を理解する。
2. 天然物質の構造からその生合成経路を判断する。
3. 天然薬物から生物活性物質の単離方法を分析する。
4. 生物活性物質の化学構造を分析する。

授業方法: 板書およびPowerPointを使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	天然医薬品:天然医薬品とリード化合物(1)(C5(2)-1-1,4, C5(2)-4-1,2, アドC5-4-3)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
2.	天然医薬品:天然医薬品とリード化合物(2)(C5(2)-1-1,2,3, C5(2)-4-1,2, アドC5-4-1,2)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
3.	天然医薬品:天然医薬品とリード化合物(3)(C5(2)-1-1,5, C5(2)-4-1,2,3, アドC5-4-4)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
4.	天然医薬品:シーズの開拓(アドC5-5-1,2)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
5.	天然医薬品:天然医薬品資源(アドC5-5-3,4)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
6.	天然有機化合物の研究法:抽出と分離精製(1)(C5(2)-3-1)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
7.	天然有機化合物の研究法:抽出と分離精製(2)(C5(2)-3-1)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
8.	天然有機化合物の研究法:構造解析法(1)(C5(2)-3-1, C3(4)-2-2, 3-4, 4-1)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
9.	天然有機化合物の研究法:構造解析法(2)(C5(2)-3-1, C3(4)-1-5, 4-1)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
10.	微生物由来の医薬品:微生物が生み出す医薬品(抗生物質)(1)(C5(2)-2-1,2)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
11.	微生物由来の医薬品:微生物が生み出す医薬品(抗生物質)(2)(C5(2)-2-1,2)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
12.	微生物由来の医薬品:微生物が生み出す医薬品(抗生物質)(3)(C5(2)-2-1,2)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
13.	微生物由来の医薬品:抗生物質の生産(C5(2)-2-1,2)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
14.	微生物由来の医薬品:微生物の利用(C5(2)-2-1,2)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく、講義中に説明した内容についても十分復習すること。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 質問者に対して研究室で解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業中に実施する小テスト(中間試験)	50	到達目標1, 2に関する理解度により評価する。
	定期試験	50	到達目標3, 4に関する理解度により評価する。

教科書: なし。プリントを配布する。

参考書: 化学系薬学Ⅲ 自然が生み出す薬物(日本薬学会編, 東京化学同人)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法: オフィスアワー

授業テーマ:

社会における集団の健康と疾病

授業の概要:

健康の保持・増進のためには、疾病の治療とともに疾病の予防が重要である。疾病の治療は、一人一人の個別の状況に合わせて行われるが、予防にあたっては、個人の状況のみならず、集団としての特徴を把握することが重要である。本科目では、次の D1(1)-① ～ D1(2)-⑤ の項目について学ぶ。
D1(1)-① 健康と疾病の概念
D1(1)-② 保険統計
D1(1)-③ 疫学
D1(2)-① 疾病の予防とは
D1(2)-② 感染症とその予防
D1(2)-③ 生活習慣病とその予防
D1(2)-④ 母子保健
D1(2)-⑤ 労働衛生

到達目標:

人々(集団)の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、また、健康を理解し疾病の予防に貢献できるようにするために、保険統計や疫学に用いられる種々の指標とその意味、感染症・生活習慣病・職業病など現代の疾病の現状とその予防に関する基礎事項を修得し、集団を対象とする公衆衛生学の考え方を身につける。
D1(1)-① ～ D1(2)-⑤ の各項目は更に幾つかの小項目から構成されている。各小項目の到達目標は配布プリントに記載する。

授業方法:

講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、その内容に従って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを使用し、必要に応じて板書する。
また、4週に1回づつ計4回、講義時間の中で30分程度を用いて平常試験を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 健康と疾病の概念 D1(1)-①-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
2. 保健統計 D1(1)-②-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
3. 保健統計 D1(1)-②-2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
4. 保健統計 D1(1)-②-3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
5. 疫学 D1(1)-③-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
6. 疫学 D1(1)-③-2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
7. 疫学 D1(1)-③-3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
8. 疫学 D1(1)-③-4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
9. 疾病の予防とは D1(2)-①-1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
10. 疾病の予防とは D1(2)-②-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
11. 疾病の予防とは D1(2)-②-2、3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
12. 疾病の予防とは D1(2)-②-4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
13. 生活習慣病とその予防 D1(2)-③-1、2、3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
14. 母子保健 D1(2)-④-1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
15. 労働衛生 D1(2)-⑤-1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

平常試験については講義室でまとめて解説する。質問事項については随時、講義室または研究室で対応する。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常試験	100%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:

参考書:

「公衆衛生学」 眞野喜洋 編 (文光堂) 5,500 円
「予防医学・公衆衛生学」 岸 玲子、古野純典、大前和幸、小泉昭夫 編 (南江堂) 6,000 円
「衛生薬学 健康と環境」 日本薬学会 編 (東京化学同人) 6,100 円

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

Eメール: rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

日常生活も含めてヒトの活動は、自然環境や生態系との相互作用の中で行われており、自然環境や生態系の汚染・破壊は、生活環境の悪化や健康の損失につながる。本科目では、地球環境と生命の相互作用、人類が直面している深刻な地球規模の環境問題、生活環境を維持するための水や空気、廃棄物の取扱いと法規制などに関する基礎知識を修得し、人為活動と自然環境・生態系の相互作用を理解するために、薬学教育モデル・コアカリキュラム「D2環境(2)生活環境と健康」の各項目について学ぶ。
D2-(2)-① 地球環境と生態系
D2-(2)-② 環境保全と法的規制
D2-(2)-③ 水環境
D2-(2)-④ 大気環境
D2-(2)-⑤ 室内環境
D2-(2)-⑥ 廃棄物

地球生態系や生活環境を保全し維持できるようになるために、環境汚染物質などの成因、測定法、生体への影響、汚染防止、汚染除去法などに関する基本的事項を修得する。
D2-(2)-① ～ ⑥ の各項目は更に幾つかの小項目から構成されている。各小項目の到達目標は配布プリントに記載する。

事前に講義内容をまとめたプリントを配布し、その内容に従って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを使用し、必要に応じて板書する。
また、4週に1回づつ計4回、講義時間の中で30分程度を用いて平常試験を行う。

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地球環境と生態系 D2-(2)-①-2、3、4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
2.	地球環境と生態系 D2-(2)-①-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
3.	地球環境と生態系 D2-(2)-①-1、5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
4.	環境保全と法的規制 D2-(2)-②-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
5.	環境保全と法的規制 D2-(2)-②-2、3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
6.	水環境 D2-(2)-③-1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
7.	水環境 D2-(2)-③-3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
8.	水環境 D2-(2)-③-4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
9.	水環境 D2-(2)-③-5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
10.	水環境 D2-(2)-③-6	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
11.	大気環境 D2-(2)-④-1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
12.	大気環境 D2-(2)-④-2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
13.	大気環境 D2-(2)-④-3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
14.	室内環境 D2-(2)-⑤-1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
15.	廃棄物 D2-(2)-⑥-1、2、3	今回の講義内容を復習し理解を深める。

平常試験については講義室でまとめて解説する。質問事項については随時、講義室または研究室で対応する。

	評価方法	割合	評価基準
	平常試験	100	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

「環境」 武田 健、太田 茂 編（化学同人） 4,400円
「衛生薬学 健康と環境」 日本薬学会 編（東京化学同人） 6,100 円

分析力、思考力

Eメール:rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	免疫学概論:免疫系の細胞(リンパ球、貪食細胞)、免疫系の組織(骨髄、胸腺、リンパ節) コアカリC8(1)①②③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
2.	自然免疫I:自然免疫系の特徴、補体系 コアカリC8(1)①1, 2, 3	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
3.	自然免疫II:貪食細胞、Toll様受容体によるパターン認識 コアカリC8(1)①	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
4.	抗原提示I:MHCの構造と種類、抗原提示(抗原ペプチドとの結合)のメカニズム コアカリC8(1)③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
5.	抗原提示II:T細胞による抗原認識、CD抗原 コアカリC8(1)③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
6.	T細胞の種類と役割 コアカリC8(1)③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
7.	サイトカイン:サイトカインの種類と役割 コアカリC8(1)③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
8.	異物の多様性に対応する仕組みI:抗体の種類と構造、T細胞受容体の構造 コアカリC8(1)③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
9.	異物の多様性に対応する仕組みII:遺伝子再編成、B細胞の発生と分化および活性化、クローン選択説、ヘルパーT細胞との相互作用 コアカリC8(1)③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
10.	自己と非自己の識別:免疫寛容のメカニズム コアカリC8(1)①	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
11.	微生物感染と免疫応答:細菌感染、ウイルス感染、寄生虫感染に対する免疫応答の特徴 コアカリC8(2)①	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
12.	免疫疾患とその治療法I:アレルギーの分類と発症機構、自己免疫疾患、炎症の発症機構 コアカリC8(2)①	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
13.	免疫疾患とその治療法II:移植免疫、腫瘍免疫、先天性・後天性免疫不全症候群、ワクチン、抗体製剤 コアカリC8(2)①②	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
14.	免疫を利用した技術:沈降・凝集反応、免疫化学的測定法、モノクローナル抗体・ポリクローナル抗体 コアカリC8(2)②	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
15.	まとめ	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習を行うこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

必要に応じて面談等を行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	100	点数に応じて評価

教科書:

わかりやすい免疫学、市川厚・田中智之 編集、廣川書店

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワーの活用

授業テーマ:	内分泌・代謝疾患について医学・薬学領域での必要な知識を習得する。																																
授業の概要:	内分泌・代謝疾患について、実践症例を元にグループ学習を行い、授業ごとに発表をすることで、全体討論の場を構築していく。																																
到達目標:	DWCLA10の到達を目標とする。具体的には、症例を予習することで分析力・思考力をトレーニングし、授業中のdiscussionで、コミュニケーション能力、リーダーシップ、思いやる力を養う。さらに個々の発表でプレゼン力、自己表現力を養い、様々な意見について応答することで、変化対応力が身についていく。これらの工程を15週にわたって行うことは、かなりの時間と労力を要し、自己管理なしでは継続はかなわない。また、症例は臨床現場での実際に起こった状況を想定しており、一概な対応ではなく、自らの創造力を発展させ独創的な意見を発掘できるように導いていく。																																
授業方法:	チュートリアル方式																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. チュートリアル方式の説明と授業全体のオーバービューを行う。医療倫理を題材に、演習を行う。</td><td>教科書(Endocrinology 生協で販売)を各自用意。</td></tr><tr><td>2. 糖尿病(1) 糖代謝に関与する生理活性物質について学習し、糖尿病の成因について理解する。E(5)①-1</td><td>実践症例(教科書13、14ページ)の設問について予習、回答する。</td></tr><tr><td>3. 糖尿病(2) インスリン強化療法についてその意義と患者さんへの対応を学習する。近年、開発されている新薬の有効性を病態に応じて解説する。E(5)①-1</td><td>実践症例(教科書15、16ページ)の設問について予習し、回答する。</td></tr><tr><td>4. 糖尿病(3) メタボリックシンドロームについて、特に運動・食事療法がなぜ有用なのかを解説し、患者さんへのコンプライアンスの重要性と薬剤師の役割を解説する。E(5)①-1</td><td>実践症例(教科書23、24ページ)の設問について予習し、回答する。</td></tr><tr><td>5. 糖尿病(4) 糖尿病が基礎疾患として何故重要なのか？実際の大学病院で薬学実習生が体験した症例を元に、合併症について生化学的に学習する。また、生化学検査値について学習する。E(5)①-1</td><td>実践症例(教科書30、31ページ)の設問について予習し、回答する。生化学検査値について、糖尿病診断に用いられる数値を事前に確認する。</td></tr><tr><td>6. 糖尿病(5) 糖尿病に合併する急性疾患の危険性、対応する薬剤師の重要性を認識する。急性疾患での糖代謝について解説する。E(5)①-1</td><td>実践症例(教科書32-34ページ)の設問について予習し、回答する。糖尿病治療薬について病態から分類し、その作用機序を確認しておく。</td></tr><tr><td>7. 高尿酸血症と痛風 尿酸代謝と食事・アルコールの影響を学習する。これらの病態の進展や、他の疾患から2次的に起こる尿酸代謝の亢進を理解する。E(5)①-3</td><td>実践症例(教科書43、44ページ)の設問について予習し、回答する。</td></tr><tr><td>8. 脂質異常症(1) 脂質代謝とその破綻に伴う病態について解説する。講義4で行ったメタボリックシンドロームを脂質を中心に復習を兼ねて学習する。E(5)①-2</td><td>実践症例(教科書60、61ページ)の設問について予習し、回答する。</td></tr><tr><td>9. 脂質異常症(2) 近年、脂質代謝の中でも重要視される逆輸送経路の必要性和合併する疾患について解説する。講義形式に慣れてきた段階なので、設問を授業中に加えて、予習なしのdiscussionを試みる。E(5)①-2</td><td>実践症例(教科書62ページ)の設問について予習し、回答する。脂質代謝経路を確認しておきましょう。</td></tr><tr><td>10. 甲状腺機能関連疾患(1) 甲状腺機能亢進症について学習する。治療に際して留意する副甲状腺機能についても解説する。E(5)②-2</td><td>実践症例(教科書80-82ページ)の設問について予習し、回答する。カルシウム代謝について学習しておきましょう。</td></tr><tr><td>11. 甲状腺機能関連疾患(2) 甲状腺機能低下症について学習する。人の恒常性について認識し、他の代謝疾患との関連性を解説する。E(5)②-2</td><td>実践症例(教科書83、84ページ)の設問について予習し、回答する。</td></tr><tr><td>12. 下垂体関連疾患 視床下部・脳下垂体に関連する疾患について、Cushing症候群を症例にあげ解説する。E(5)②-5</td><td>実践症例(教科書95、96ページ)の設問について予習し、回答する。ホルモンのフィードバック機構について整理しておきましょう。</td></tr><tr><td>13. 骨粗鬆症 骨代謝について分子レベルで解説する。講義10解説したカルシウム代謝(生理学的)と骨平衡について学習する。E(2)③-2</td><td>実践症例(教科書105ページ)の設問について予習し、回答する。骨粗鬆症治療薬の作用機序を調べておきましょう。</td></tr><tr><td>14. フィードバック 教科書の課題について、重要な部位を解説し学生へのフィードバックを行う。講義時間に余裕があれば、新たな症例を提示し、その場でdiscussinを行う。</td><td>教科書の課題を整理し、回答を構築しておく。課題は講義1から13まで多数あるので、順次行っていくことが大切です。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>全体を通して学習しておく。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. チュートリアル方式の説明と授業全体のオーバービューを行う。医療倫理を題材に、演習を行う。	教科書(Endocrinology 生協で販売)を各自用意。	2. 糖尿病(1) 糖代謝に関与する生理活性物質について学習し、糖尿病の成因について理解する。E(5)①-1	実践症例(教科書13、14ページ)の設問について予習、回答する。	3. 糖尿病(2) インスリン強化療法についてその意義と患者さんへの対応を学習する。近年、開発されている新薬の有効性を病態に応じて解説する。E(5)①-1	実践症例(教科書15、16ページ)の設問について予習し、回答する。	4. 糖尿病(3) メタボリックシンドロームについて、特に運動・食事療法がなぜ有用なのかを解説し、患者さんへのコンプライアンスの重要性と薬剤師の役割を解説する。E(5)①-1	実践症例(教科書23、24ページ)の設問について予習し、回答する。	5. 糖尿病(4) 糖尿病が基礎疾患として何故重要なのか？実際の大学病院で薬学実習生が体験した症例を元に、合併症について生化学的に学習する。また、生化学検査値について学習する。E(5)①-1	実践症例(教科書30、31ページ)の設問について予習し、回答する。生化学検査値について、糖尿病診断に用いられる数値を事前に確認する。	6. 糖尿病(5) 糖尿病に合併する急性疾患の危険性、対応する薬剤師の重要性を認識する。急性疾患での糖代謝について解説する。E(5)①-1	実践症例(教科書32-34ページ)の設問について予習し、回答する。糖尿病治療薬について病態から分類し、その作用機序を確認しておく。	7. 高尿酸血症と痛風 尿酸代謝と食事・アルコールの影響を学習する。これらの病態の進展や、他の疾患から2次的に起こる尿酸代謝の亢進を理解する。E(5)①-3	実践症例(教科書43、44ページ)の設問について予習し、回答する。	8. 脂質異常症(1) 脂質代謝とその破綻に伴う病態について解説する。講義4で行ったメタボリックシンドロームを脂質を中心に復習を兼ねて学習する。E(5)①-2	実践症例(教科書60、61ページ)の設問について予習し、回答する。	9. 脂質異常症(2) 近年、脂質代謝の中でも重要視される逆輸送経路の必要性和合併する疾患について解説する。講義形式に慣れてきた段階なので、設問を授業中に加えて、予習なしのdiscussionを試みる。E(5)①-2	実践症例(教科書62ページ)の設問について予習し、回答する。脂質代謝経路を確認しておきましょう。	10. 甲状腺機能関連疾患(1) 甲状腺機能亢進症について学習する。治療に際して留意する副甲状腺機能についても解説する。E(5)②-2	実践症例(教科書80-82ページ)の設問について予習し、回答する。カルシウム代謝について学習しておきましょう。	11. 甲状腺機能関連疾患(2) 甲状腺機能低下症について学習する。人の恒常性について認識し、他の代謝疾患との関連性を解説する。E(5)②-2	実践症例(教科書83、84ページ)の設問について予習し、回答する。	12. 下垂体関連疾患 視床下部・脳下垂体に関連する疾患について、Cushing症候群を症例にあげ解説する。E(5)②-5	実践症例(教科書95、96ページ)の設問について予習し、回答する。ホルモンのフィードバック機構について整理しておきましょう。	13. 骨粗鬆症 骨代謝について分子レベルで解説する。講義10解説したカルシウム代謝(生理学的)と骨平衡について学習する。E(2)③-2	実践症例(教科書105ページ)の設問について予習し、回答する。骨粗鬆症治療薬の作用機序を調べておきましょう。	14. フィードバック 教科書の課題について、重要な部位を解説し学生へのフィードバックを行う。講義時間に余裕があれば、新たな症例を提示し、その場でdiscussinを行う。	教科書の課題を整理し、回答を構築しておく。課題は講義1から13まで多数あるので、順次行っていくことが大切です。	15. まとめ	全体を通して学習しておく。
授業内容	準備学習等の内容																																
1. チュートリアル方式の説明と授業全体のオーバービューを行う。医療倫理を題材に、演習を行う。	教科書(Endocrinology 生協で販売)を各自用意。																																
2. 糖尿病(1) 糖代謝に関与する生理活性物質について学習し、糖尿病の成因について理解する。E(5)①-1	実践症例(教科書13、14ページ)の設問について予習、回答する。																																
3. 糖尿病(2) インスリン強化療法についてその意義と患者さんへの対応を学習する。近年、開発されている新薬の有効性を病態に応じて解説する。E(5)①-1	実践症例(教科書15、16ページ)の設問について予習し、回答する。																																
4. 糖尿病(3) メタボリックシンドロームについて、特に運動・食事療法がなぜ有用なのかを解説し、患者さんへのコンプライアンスの重要性と薬剤師の役割を解説する。E(5)①-1	実践症例(教科書23、24ページ)の設問について予習し、回答する。																																
5. 糖尿病(4) 糖尿病が基礎疾患として何故重要なのか？実際の大学病院で薬学実習生が体験した症例を元に、合併症について生化学的に学習する。また、生化学検査値について学習する。E(5)①-1	実践症例(教科書30、31ページ)の設問について予習し、回答する。生化学検査値について、糖尿病診断に用いられる数値を事前に確認する。																																
6. 糖尿病(5) 糖尿病に合併する急性疾患の危険性、対応する薬剤師の重要性を認識する。急性疾患での糖代謝について解説する。E(5)①-1	実践症例(教科書32-34ページ)の設問について予習し、回答する。糖尿病治療薬について病態から分類し、その作用機序を確認しておく。																																
7. 高尿酸血症と痛風 尿酸代謝と食事・アルコールの影響を学習する。これらの病態の進展や、他の疾患から2次的に起こる尿酸代謝の亢進を理解する。E(5)①-3	実践症例(教科書43、44ページ)の設問について予習し、回答する。																																
8. 脂質異常症(1) 脂質代謝とその破綻に伴う病態について解説する。講義4で行ったメタボリックシンドロームを脂質を中心に復習を兼ねて学習する。E(5)①-2	実践症例(教科書60、61ページ)の設問について予習し、回答する。																																
9. 脂質異常症(2) 近年、脂質代謝の中でも重要視される逆輸送経路の必要性和合併する疾患について解説する。講義形式に慣れてきた段階なので、設問を授業中に加えて、予習なしのdiscussionを試みる。E(5)①-2	実践症例(教科書62ページ)の設問について予習し、回答する。脂質代謝経路を確認しておきましょう。																																
10. 甲状腺機能関連疾患(1) 甲状腺機能亢進症について学習する。治療に際して留意する副甲状腺機能についても解説する。E(5)②-2	実践症例(教科書80-82ページ)の設問について予習し、回答する。カルシウム代謝について学習しておきましょう。																																
11. 甲状腺機能関連疾患(2) 甲状腺機能低下症について学習する。人の恒常性について認識し、他の代謝疾患との関連性を解説する。E(5)②-2	実践症例(教科書83、84ページ)の設問について予習し、回答する。																																
12. 下垂体関連疾患 視床下部・脳下垂体に関連する疾患について、Cushing症候群を症例にあげ解説する。E(5)②-5	実践症例(教科書95、96ページ)の設問について予習し、回答する。ホルモンのフィードバック機構について整理しておきましょう。																																
13. 骨粗鬆症 骨代謝について分子レベルで解説する。講義10解説したカルシウム代謝(生理学的)と骨平衡について学習する。E(2)③-2	実践症例(教科書105ページ)の設問について予習し、回答する。骨粗鬆症治療薬の作用機序を調べておきましょう。																																
14. フィードバック 教科書の課題について、重要な部位を解説し学生へのフィードバックを行う。講義時間に余裕があれば、新たな症例を提示し、その場でdiscussinを行う。	教科書の課題を整理し、回答を構築しておく。課題は講義1から13まで多数あるので、順次行っていくことが大切です。																																
15. まとめ	全体を通して学習しておく。																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	医療は、常にヒトと対峙してこそ本来の価値と治療を行う方向性が見えてきます。また、医療を実践するに自分一人では成し遂げられず、医療チームの一員として信頼され、機能することが重要です。本講義では、DWCLA10に基づき、医療人として必要な知識と実践能力を構築していくことを目標としています。積極的な授業への参加を希望します。																																
フィードバックの方法:	教科書の課題、症例の回答については講義ごとに解説する。試験・レポートについては、講義終了後、答案・レポートの開示を個別に行う。開示の方法と時間は、各自、教員へのアポイントを取って確認する。																																

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70	出題された内容について、理論的説明がなされているがkey wordを設定して採点を行う。
	授業中の発表・討論	30	毎回の授業でopen discussionを行い、発表者は次回にレポートを提出する。これらについて一回につき最高10点満点で採点する。

教科書: Endocrinology (4月から大学生協で販売)

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: hmatsuno@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

血液・循環器疾患について薬剤師・医療従事者として必要な知識を習得する。
薬害について、その経緯・経過を知ることによって医療従事者の責任と知識の重要性を認識する。

授業の概要:

血液・循環器関連疾患について、実践症例を用いてグループ学習を行い、授業ごとに発表をすることで、全体討論の場を構築していく。

到達目標:

DWCLA10の到達を目標とする。具体的には、症例を予習することで分析力・思考力をトレーニングし、授業中のdiscussionで、コミュニケーション能力、リーダーシップ、思いやる力を養う。さらに個々の発表でプレゼン力、自己表現力を養い、様々な意見について応答することで、変化対応力が身についていく。これらの工程を15週にわたって行うことは、かなりの時間と労力を要し、自己管理なしでは継続はかなわない。また、症例は臨床現場での実際に起こった状況を想定しており、一概な対応ではなく、自らの創造力を発展させ独創的な意見を発掘できるように導いていく。

授業方法:	チュートリアル方式																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. Overview 血液に関する基礎的知識の確認、循環器に関する基礎的知識の確認、および今シリーズの全体像を解説して今期の目標を示す。</td><td>教科書(Blood & Circulation 生協にて9月後半より販売)を購入しておいてください。</td></tr><tr><td>2. 貧血(1)鉄欠乏性貧血 体内の鉄代謝を確認して欠乏による貧血の成員を解説する。各血球成分が分化・成熟する過程を解説する。E(3)–②–3</td><td>教科書実践症例(ページ31–33)を予習しましょう。課題26・28について調べましょう。</td></tr><tr><td>3. 貧血(2)再生不良性貧血 汎血球減少症を示す病態について解説する。また、溶血性貧血についても解説する。E(3)–②–3</td><td>教科書実践症例(ページ35)を予習しましょう。課題30・31について調べましょう。</td></tr><tr><td>4. 白血病 今回は、症例は授業時に示します。それを元にdiscussionを行います。血液の癌、とも言われる様々な白血病を解説します。E(3)–②–5</td><td>課題33・34を調べておいてください。予習をしていないとdiscussionができません。症例は、授業当日示します。</td></tr><tr><td>5. 血栓症(1)血小板 血小板関連疾患について解説する。止血血栓と病的血栓、血小板機能障害が示す遺伝的疾患(血友病など)も解説する。E(3)–②–1,2</td><td>教科書実践症例(ページ58・59)を予習しましょう。課題37・38について調べましょう。</td></tr><tr><td>6. 血栓症(2)凝固・線溶 凝固と線溶について解説する。抗凝固剤は広範囲に使われ、病態との関連に注意が必要である。また、検査値を理解する重要性を解説する。E(3)–②–2</td><td>教科書実践症例(ページ61・62)を予習しましょう。課題39について調べましょう。</td></tr><tr><td>7. 循環器疾患(1)狭心症 虚血性心疾患について解説する。心臓の自動能やAPDについて基礎的知識を確認する。E(3)–①–3</td><td>教科書実践症例(ページ78・79)を予習しましょう。課題46–48について調べましょう。</td></tr><tr><td>8. 循環器疾患(2)心不全 右心系、左心系における血液胴体と不全に伴う病態について解説する。E(3)–②–2</td><td>教科書実践症例(ページ81–83)を予習しましょう。課題49について調べましょう。</td></tr><tr><td>9. 循環器疾患(3)不整脈 心筋におけるAPD・自動能につて解説する。また、致死性の不整脈を発症する病態について解説する。E(3)–②–1</td><td>教科書実践症例(ページ97)を予習しましょう。課題55を調べておきましょう。</td></tr><tr><td>10. 循環器疾患(4)不整脈(合併症) 基礎疾患(糖尿病)を有する患者さんが、心疾患を示した場合どのような変化が病態に見られるか、薬剤が及ぼす影響についても解説する。E(3)–②–1</td><td>教科書実践症例(ページ110–113)を予習しましょう。課題58・59について調べましょう。</td></tr><tr><td>11. 循環器疾患(5)高血圧 血圧の調節因子について解説する。2次的に高血圧を示す疾患について解説する。E(3)–②–4</td><td>教科書実践症例(ページ127)を予習しましょう。課題60について調べましょう。</td></tr><tr><td>12. 循環器疾患(6)高血圧(腎性高血圧) 応用編として、高血圧患者が急性疾患を呈した場合薬物用法がどのように対応されるか解説する。また、RAA系の生体内での多様性についても解説する。E(3)–②–4</td><td>症例は、11回の講義終了後示します。課題63を調べておきましょう。</td></tr><tr><td>13. 循環器疾患(7)高血圧(仮面高血圧) 健康診断などでは、正常範囲を示しながら生活内で高血圧を呈する疾患が存在します。これらの危険性、薬剤師としての関わり方などを解説します。E(3)–②–4</td><td>症例は、12回の講義終了後示します。高血圧に関するまとめを各自しておきましょう。</td></tr><tr><td>14. 薬害 これまでに、様々な薬害が現れ、多数の人を犠牲ににしてきました。中には、人為的要素が薬害の広範化を示したようなケースもあります。医療従事者として知っておきましょう。A(1)–③–5,6,7</td><td>薬害について知っている事、どのくらいありますか？症例は授業中に示します。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>講義1–14を復習しましょう。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. Overview 血液に関する基礎的知識の確認、循環器に関する基礎的知識の確認、および今シリーズの全体像を解説して今期の目標を示す。	教科書(Blood & Circulation 生協にて9月後半より販売)を購入しておいてください。	2. 貧血(1)鉄欠乏性貧血 体内の鉄代謝を確認して欠乏による貧血の成員を解説する。各血球成分が分化・成熟する過程を解説する。E(3)–②–3	教科書実践症例(ページ31–33)を予習しましょう。課題26・28について調べましょう。	3. 貧血(2)再生不良性貧血 汎血球減少症を示す病態について解説する。また、溶血性貧血についても解説する。E(3)–②–3	教科書実践症例(ページ35)を予習しましょう。課題30・31について調べましょう。	4. 白血病 今回は、症例は授業時に示します。それを元にdiscussionを行います。血液の癌、とも言われる様々な白血病を解説します。E(3)–②–5	課題33・34を調べておいてください。予習をしていないとdiscussionができません。症例は、授業当日示します。	5. 血栓症(1)血小板 血小板関連疾患について解説する。止血血栓と病的血栓、血小板機能障害が示す遺伝的疾患(血友病など)も解説する。E(3)–②–1,2	教科書実践症例(ページ58・59)を予習しましょう。課題37・38について調べましょう。	6. 血栓症(2)凝固・線溶 凝固と線溶について解説する。抗凝固剤は広範囲に使われ、病態との関連に注意が必要である。また、検査値を理解する重要性を解説する。E(3)–②–2	教科書実践症例(ページ61・62)を予習しましょう。課題39について調べましょう。	7. 循環器疾患(1)狭心症 虚血性心疾患について解説する。心臓の自動能やAPDについて基礎的知識を確認する。E(3)–①–3	教科書実践症例(ページ78・79)を予習しましょう。課題46–48について調べましょう。	8. 循環器疾患(2)心不全 右心系、左心系における血液胴体と不全に伴う病態について解説する。E(3)–②–2	教科書実践症例(ページ81–83)を予習しましょう。課題49について調べましょう。	9. 循環器疾患(3)不整脈 心筋におけるAPD・自動能につて解説する。また、致死性の不整脈を発症する病態について解説する。E(3)–②–1	教科書実践症例(ページ97)を予習しましょう。課題55を調べておきましょう。	10. 循環器疾患(4)不整脈(合併症) 基礎疾患(糖尿病)を有する患者さんが、心疾患を示した場合どのような変化が病態に見られるか、薬剤が及ぼす影響についても解説する。E(3)–②–1	教科書実践症例(ページ110–113)を予習しましょう。課題58・59について調べましょう。	11. 循環器疾患(5)高血圧 血圧の調節因子について解説する。2次的に高血圧を示す疾患について解説する。E(3)–②–4	教科書実践症例(ページ127)を予習しましょう。課題60について調べましょう。	12. 循環器疾患(6)高血圧(腎性高血圧) 応用編として、高血圧患者が急性疾患を呈した場合薬物用法がどのように対応されるか解説する。また、RAA系の生体内での多様性についても解説する。E(3)–②–4	症例は、11回の講義終了後示します。課題63を調べておきましょう。	13. 循環器疾患(7)高血圧(仮面高血圧) 健康診断などでは、正常範囲を示しながら生活内で高血圧を呈する疾患が存在します。これらの危険性、薬剤師としての関わり方などを解説します。E(3)–②–4	症例は、12回の講義終了後示します。高血圧に関するまとめを各自しておきましょう。	14. 薬害 これまでに、様々な薬害が現れ、多数の人を犠牲ににしてきました。中には、人為的要素が薬害の広範化を示したようなケースもあります。医療従事者として知っておきましょう。A(1)–③–5,6,7	薬害について知っている事、どのくらいありますか？症例は授業中に示します。	15. まとめ	講義1–14を復習しましょう。
授業内容	準備学習等の内容																																
1. Overview 血液に関する基礎的知識の確認、循環器に関する基礎的知識の確認、および今シリーズの全体像を解説して今期の目標を示す。	教科書(Blood & Circulation 生協にて9月後半より販売)を購入しておいてください。																																
2. 貧血(1)鉄欠乏性貧血 体内の鉄代謝を確認して欠乏による貧血の成員を解説する。各血球成分が分化・成熟する過程を解説する。E(3)–②–3	教科書実践症例(ページ31–33)を予習しましょう。課題26・28について調べましょう。																																
3. 貧血(2)再生不良性貧血 汎血球減少症を示す病態について解説する。また、溶血性貧血についても解説する。E(3)–②–3	教科書実践症例(ページ35)を予習しましょう。課題30・31について調べましょう。																																
4. 白血病 今回は、症例は授業時に示します。それを元にdiscussionを行います。血液の癌、とも言われる様々な白血病を解説します。E(3)–②–5	課題33・34を調べておいてください。予習をしていないとdiscussionができません。症例は、授業当日示します。																																
5. 血栓症(1)血小板 血小板関連疾患について解説する。止血血栓と病的血栓、血小板機能障害が示す遺伝的疾患(血友病など)も解説する。E(3)–②–1,2	教科書実践症例(ページ58・59)を予習しましょう。課題37・38について調べましょう。																																
6. 血栓症(2)凝固・線溶 凝固と線溶について解説する。抗凝固剤は広範囲に使われ、病態との関連に注意が必要である。また、検査値を理解する重要性を解説する。E(3)–②–2	教科書実践症例(ページ61・62)を予習しましょう。課題39について調べましょう。																																
7. 循環器疾患(1)狭心症 虚血性心疾患について解説する。心臓の自動能やAPDについて基礎的知識を確認する。E(3)–①–3	教科書実践症例(ページ78・79)を予習しましょう。課題46–48について調べましょう。																																
8. 循環器疾患(2)心不全 右心系、左心系における血液胴体と不全に伴う病態について解説する。E(3)–②–2	教科書実践症例(ページ81–83)を予習しましょう。課題49について調べましょう。																																
9. 循環器疾患(3)不整脈 心筋におけるAPD・自動能につて解説する。また、致死性の不整脈を発症する病態について解説する。E(3)–②–1	教科書実践症例(ページ97)を予習しましょう。課題55を調べておきましょう。																																
10. 循環器疾患(4)不整脈(合併症) 基礎疾患(糖尿病)を有する患者さんが、心疾患を示した場合どのような変化が病態に見られるか、薬剤が及ぼす影響についても解説する。E(3)–②–1	教科書実践症例(ページ110–113)を予習しましょう。課題58・59について調べましょう。																																
11. 循環器疾患(5)高血圧 血圧の調節因子について解説する。2次的に高血圧を示す疾患について解説する。E(3)–②–4	教科書実践症例(ページ127)を予習しましょう。課題60について調べましょう。																																
12. 循環器疾患(6)高血圧(腎性高血圧) 応用編として、高血圧患者が急性疾患を呈した場合薬物用法がどのように対応されるか解説する。また、RAA系の生体内での多様性についても解説する。E(3)–②–4	症例は、11回の講義終了後示します。課題63を調べておきましょう。																																
13. 循環器疾患(7)高血圧(仮面高血圧) 健康診断などでは、正常範囲を示しながら生活内で高血圧を呈する疾患が存在します。これらの危険性、薬剤師としての関わり方などを解説します。E(3)–②–4	症例は、12回の講義終了後示します。高血圧に関するまとめを各自しておきましょう。																																
14. 薬害 これまでに、様々な薬害が現れ、多数の人を犠牲ににしてきました。中には、人為的要素が薬害の広範化を示したようなケースもあります。医療従事者として知っておきましょう。A(1)–③–5,6,7	薬害について知っている事、どのくらいありますか？症例は授業中に示します。																																
15. まとめ	講義1–14を復習しましょう。																																

受講者へのメッセージやアドバイス:

秋学期では、よりいっそうの積極的なDiscussionへの参加を希望します。講義期間中、最低一回は発表しましょう。

フィードバックの方法:

教科書の課題、症例の回答については講義ごとに解説する。試験・レポートについては、講義終了後、答案・レポートの開示を個別に行う。開示の方法と時間は、各自、教員へのアポイントを取って確認する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	70	出題された内容について、理論的説明がなされているかkey wordを設定して採点を行う。
	発表・レポート	30	毎回の授業でopen discussionを行い、発表者は次回にレポートを提出する。内容について一回につき最高10点満点で採点する。

教科書:	Blood & Circulation (9月後半に生協にて販売)
参考書:	
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	hmatsuno@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	毒性発現機序と毒性評価		
授業の概要:	すべての薬は毒であり、すべての毒は薬になり得る。物質を生体に作用させれば、必ず何らかの効果が得られるはずであり、それを毒性と呼ぶか、薬効と呼ぶかは判断する側の価値観に過ぎない。本講では、物質と生体の相互作用を、「毒性」という面から解説する。医薬品毒性学と医療安全性学を通年講義とみなし、この二つの講義で、薬学コアカリキュラムの毒性関係の項目を網羅する。なお、毒性発現の分子機構、および生体側の免疫反応以外の防御機構に関しては、毒性学的に重要でありながら薬学コアカリキュラムにはほとんど含まれていない。これらの項目は本講義で独自なものとして入れ込んでいる。		
到達目標:	代表的な毒物の毒性発現機構、生体の解毒機構、代表的な臓器毒性、中毒への対処法を理解する。また、毒性評価に必須な生物統計を駆使できるようにする		
授業方法:	教科書に沿ってパワーポイントで講義し、教科書に記載されていないものはプリントを配布。毎回小テストを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 生物統計学 χ^2 検定, Kaplan-Meier法 E3(1)-5、E3(1)-6, 7	マナビーにアップした演習問題を理解する	
	2. 毒性学の歴史、毒性の考え方 D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	3. 毒性評価の理論的背景、各種毒性学専門用語の定義と解説 D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	4. 毒性発現の分子機構 C6(7), D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	5. 生体防御・解毒機構 C6(7), D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	6. 天然毒性物質—I D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	7. 天然毒性物質—II D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	8. 中間テスト、医薬品の副作用:概論 E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	9. 肝毒性 D2(1), E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	10. 腎毒性 D2(1), E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	11. 消化器毒性・呼吸器毒性 D2(1), E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	12. 神経行動毒性 D2(1), E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	13. 循環器・血液毒性 D2(1), E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	14. 臨床中毒学 D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
	15. まとめ	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	次学期の医療安全性学を合わせて通年講義とみなし、この二つの講義で、薬学コアカリキュラムの毒性関係の項目を網羅する。教科書は共通である。		
フィードバックの方法:	小テストの正解や解説は基本的にマナビーにアップ。それに基づいた質問などは随時研究室を訪問。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	中間試験	50	知識を問う選択肢問題・計算問題。7回までの講義範囲。
	定期試験	50	知識を問う選択肢問題・記述問題。7回までの講義範囲とは重複しない
教科書:	漆谷編、「医薬品安全性学」 ベーシック薬学教科書シリーズ、化学同人		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	turushid@dwc.doshisha.ac.jp 憩水館6F W606 に随時		

授業テーマ:	薬物により引き起こされる生体機能の変化を知り、医薬品による治療メカニズムを考察できるようになる。		
授業の概要:	薬理学Ⅰ、ⅡおよびⅣの3科目で薬理学の基本概念、医薬品が病気の症状を改善するメカニズムについて学ぶ。特に、中枢神経系、循環器系および消化器系に作用する薬物の作用メカニズムを学ぶ。		
到達目標:	1. てんかんの治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 2. うつ・躁病の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 3. 統合失調症の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 4. パーキンソン病の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 5. 認知症の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 6. 種々の鎮痛薬の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 7. 心不全の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 8. 虚血性心疾患の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 9. 不整脈の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 10. 高血圧症の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 11. 利尿薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 12. 消化器系疾患の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。 13. 上記1から13該当する薬物の構造式の特徴について説明できる(知識)。		
授業方法:	1. プリテストによる予習状況の確認 2. パワーポイントによる講義 3. ポストテストにより理解度の確認 を原則とするが、随時指名して回答させるので積極的は授業参加を期待する。なお、プリテストは予備知識の確認あるいは準備状況を確認するために実施している。成績評価や出席管理のために実施しているわけではない。したがって、他人に成りすましてプリテストが提出された場合、実施が取りやめられる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 中枢神経系に作用する薬物2 てんかん:E2(1)③7 2. 中枢神経系に作用する薬物3 うつ・そう・不安神経症:E2(1)③5,6 3. 中枢神経系に作用する薬物4 統合失調症:E2(1)③4 4. 中枢神経系に作用する薬物5 パーキンソン病:E2(1)③9 5. 中枢神経系に作用する薬物6 アルツハイマー型認知症・脳血管疾患・中枢性筋弛緩薬・中枢興奮薬:E2(1)③3,8,10,14 6. 中枢神経系に作用する薬物7 麻薬性鎮痛薬・非麻薬性鎮痛薬・片頭痛:E2(1)③2,3 7. 循環器系に作用する薬物1 急性心不全・慢性心不全:E2(3)①2 8. 循環器系に作用する薬物2 虚血性心疾患(心筋梗塞・狭心症):E2(3)①3 9. 循環器系に作用する薬物3 不整脈:E2(3)①1 10. 循環器系に作用する薬物4 高血圧症:E2(3)①4 11. 循環器系に作用する薬物5 利尿薬:E2(3)③1 12. 消化器系1 胃・炎症性腸疾患:E2(4)②1,2 13. 消化器系2 消化管運動・肝・膵・胆道系:E2(4)②3,4,5,6,7,8 14. 質問・薬理学Ⅱの範囲内における薬理学の最新の知見 15. まとめ	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 第13回までの授業内容について各自疑問点を明らかにし、質問を準備しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回の授業で、予習状況もしくは予備知識に関するプリテストを実施するので、教科書の指定された範囲をあらかじめ読んでおくこと。また、自主的に様々な資料(下記の参考文献はその一例)にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。指定された教科書1冊だけで学習するのではなく、疑問を感じたら様々な資料にあたって問題解決を図ること。授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。なお、追加の指示がある場合はマナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。		
フィードバックの方法:	前回の授業内容に対する質問・疑問等への回答を授業の冒頭に紹介する。定期試験の問題および解答はマナビーにアップロードするので、各自自己採点し不明の点は必ず質問すること(メール可)。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	多肢選択式の定期試験	100	定期試験(多肢選択式により40問を出題)に対する妥当な正答率(最低合格基準:Minimum Pass Level)により合格を判定する。最低合格基準は第14回目の授業の授業の際、もしくはマナビーにて試験実施前に公表する。なお、最低合格基準は目標達成度の60%を超えない範囲で設定され、この基準を満たした場合に単位が認定される。中間試験は行わない。出席点はない。
教科書:	今井正・宮本英七監修、標準薬理学 第7版、医学書院		
参考書:	竹内孝治・岡淳一郎編集、最新薬理学 第3版、廣川書店 重信弘毅・石井邦雄編集、パートナー薬理学、南江堂 加藤隆一・田中千賀子編集、New薬理学 第6版、南江堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室(憩水館6階W602)まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール(tfujii@dw.doshisha.ac.jp)にて事前に連絡する方が望ましい。		

授業テーマ:	疾患理解に基づいて薬物治療を提示することができる																																		
授業の概要:	医療において薬物治療は重要な位置を占めている。薬剤師は医師や他の医療専門職等と協力して適切な薬物療法に貢献し医療の質を高める役割と責任が期待されている。薬物治療学Iでは、消化器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、病原微生物感染症、アレルギー疾患、悪性腫瘍などの各疾患の総合的な理解と薬物療法につき学ぶ。																																		
到達目標:	薬剤師は薬物療法に貢献し医療の質を高める役割が期待されている。そのためには、医学、薬学に精通し、個々の患者に応じた薬の選択ができなければならない																																		
授業方法:	講義形式																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 症候、検査 E1 (2) (2) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>2. 消化器疾患 E2 (4) (2) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>3. 消化器疾患 E2 (2) (2) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>4. 消化器疾患 E2 (2) (2) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>5. 循環器疾患 E2 (3) (1) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>6. 循環器疾患 E2 (2) (1) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>7. 循環器疾患 E2 (2) (1) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>8. 高血圧 E2 (2) (1) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>9. 呼吸器疾患 E2 (4) (1) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>10. 呼吸器疾患 E2 (4) (1) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>11. アレルギー疾患 E2 (2) (2) (高橋)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>12. 感染症Ⅰ E2 (7) (3) (高橋)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>13. 感染症Ⅱ E2 (7) (3) (高橋)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>14. 悪性腫瘍 E2 (7) (7) (8) (高橋)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>関連分野の復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 症候、検査 E1 (2) (2) (村上)	関連基礎分野の予習	2. 消化器疾患 E2 (4) (2) (村上)	関連基礎分野の予習	3. 消化器疾患 E2 (2) (2) (村上)	関連基礎分野の予習	4. 消化器疾患 E2 (2) (2) (村上)	関連基礎分野の予習	5. 循環器疾患 E2 (3) (1) (村上)	関連基礎分野の予習	6. 循環器疾患 E2 (2) (1) (村上)	関連基礎分野の予習	7. 循環器疾患 E2 (2) (1) (村上)	関連基礎分野の予習	8. 高血圧 E2 (2) (1) (村上)	関連基礎分野の予習	9. 呼吸器疾患 E2 (4) (1) (村上)	関連基礎分野の予習	10. 呼吸器疾患 E2 (4) (1) (村上)	関連基礎分野の予習	11. アレルギー疾患 E2 (2) (2) (高橋)	関連基礎分野の予習	12. 感染症Ⅰ E2 (7) (3) (高橋)	関連基礎分野の予習	13. 感染症Ⅱ E2 (7) (3) (高橋)	関連基礎分野の予習	14. 悪性腫瘍 E2 (7) (7) (8) (高橋)	関連基礎分野の予習	15. まとめ	関連分野の復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 症候、検査 E1 (2) (2) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
2. 消化器疾患 E2 (4) (2) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
3. 消化器疾患 E2 (2) (2) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
4. 消化器疾患 E2 (2) (2) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
5. 循環器疾患 E2 (3) (1) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
6. 循環器疾患 E2 (2) (1) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
7. 循環器疾患 E2 (2) (1) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
8. 高血圧 E2 (2) (1) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
9. 呼吸器疾患 E2 (4) (1) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
10. 呼吸器疾患 E2 (4) (1) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
11. アレルギー疾患 E2 (2) (2) (高橋)	関連基礎分野の予習																																		
12. 感染症Ⅰ E2 (7) (3) (高橋)	関連基礎分野の予習																																		
13. 感染症Ⅱ E2 (7) (3) (高橋)	関連基礎分野の予習																																		
14. 悪性腫瘍 E2 (7) (7) (8) (高橋)	関連基礎分野の予習																																		
15. まとめ	関連分野の復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	レポート																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>試験</td><td>90</td><td rowspan="2">講義内容の理解度により評価する</td></tr><tr><td>出席、授業態度、意欲</td><td>10</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	試験	90	講義内容の理解度により評価する	出席、授業態度、意欲	10																										
評価方法	割合	評価基準																																	
試験	90	講義内容の理解度により評価する																																	
出席、授業態度、意欲	10																																		
教科書:	授業にて指示																																		
参考書:	授業にて指示																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:	疾患を理解し適切な薬物治療を提案できる																																		
授業の概要:	医療において薬物治療は重要な位置をしめる。薬剤師は医師や他の医療専門職と協力して患者さんのため適切な薬物療法を提供し医療の質を高める役割と責任が期待されている。薬物治療学Ⅱでは、薬物治療学Ⅰに続き、血液疾患、代謝性疾患、感覚器疾患、皮膚疾患、神経疾患、骨・関節の疾患、移植医療、高齢者医療と薬物療法を学ぶ。さらに症候、病態、検査法を理解し、症例検討も行う																																		
到達目標:	適切な薬物療法を理解できる																																		
授業方法:	講義形式																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 血液学 C-14 (2) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>2. 血液疾患 C-14 (2) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>3. 代謝性疾患 C-14 (3) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>4. 感覚器疾患 C-14 (4) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>5. 皮膚疾患 C-14 (4) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>6. 腎疾患 C-14 (3) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>7. 肝疾患 C-14 (4) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>8. 神経疾患 C-14 (3) (岸本)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>9. 神経疾患 C-14 (3) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>10. 大脳認知機能、認知症 C-14 (1),(2),(3),(4), C-15 (1),(2) (村上)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>11. 骨・関節の疾患 C-14 (4) (高橋)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>12. 移植、自己免疫疾患 C-14 (1),(4) (高橋)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>13. 移植、自己免疫疾患 C-14 (1),(4) (高橋)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>14. 悪性腫瘍 C-14 (1),(3),(4) (高橋)</td><td>関連基礎分野の予習</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>関連分野の復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 血液学 C-14 (2) (村上)	関連基礎分野の予習	2. 血液疾患 C-14 (2) (村上)	関連基礎分野の予習	3. 代謝性疾患 C-14 (3) (村上)	関連基礎分野の予習	4. 感覚器疾患 C-14 (4) (村上)	関連基礎分野の予習	5. 皮膚疾患 C-14 (4) (村上)	関連基礎分野の予習	6. 腎疾患 C-14 (3) (村上)	関連基礎分野の予習	7. 肝疾患 C-14 (4) (村上)	関連基礎分野の予習	8. 神経疾患 C-14 (3) (岸本)	関連基礎分野の予習	9. 神経疾患 C-14 (3) (村上)	関連基礎分野の予習	10. 大脳認知機能、認知症 C-14 (1),(2),(3),(4), C-15 (1),(2) (村上)	関連基礎分野の予習	11. 骨・関節の疾患 C-14 (4) (高橋)	関連基礎分野の予習	12. 移植、自己免疫疾患 C-14 (1),(4) (高橋)	関連基礎分野の予習	13. 移植、自己免疫疾患 C-14 (1),(4) (高橋)	関連基礎分野の予習	14. 悪性腫瘍 C-14 (1),(3),(4) (高橋)	関連基礎分野の予習	15. まとめ	関連分野の復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 血液学 C-14 (2) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
2. 血液疾患 C-14 (2) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
3. 代謝性疾患 C-14 (3) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
4. 感覚器疾患 C-14 (4) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
5. 皮膚疾患 C-14 (4) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
6. 腎疾患 C-14 (3) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
7. 肝疾患 C-14 (4) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
8. 神経疾患 C-14 (3) (岸本)	関連基礎分野の予習																																		
9. 神経疾患 C-14 (3) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
10. 大脳認知機能、認知症 C-14 (1),(2),(3),(4), C-15 (1),(2) (村上)	関連基礎分野の予習																																		
11. 骨・関節の疾患 C-14 (4) (高橋)	関連基礎分野の予習																																		
12. 移植、自己免疫疾患 C-14 (1),(4) (高橋)	関連基礎分野の予習																																		
13. 移植、自己免疫疾患 C-14 (1),(4) (高橋)	関連基礎分野の予習																																		
14. 悪性腫瘍 C-14 (1),(3),(4) (高橋)	関連基礎分野の予習																																		
15. まとめ	関連分野の復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	レポート																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>試験</td><td>90</td><td rowspan="2">講義内容の理解度により評価する</td></tr><tr><td>出席、授業態度、意欲</td><td>10</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	試験	90	講義内容の理解度により評価する	出席、授業態度、意欲	10																										
評価方法	割合	評価基準																																	
試験	90	講義内容の理解度により評価する																																	
出席、授業態度、意欲	10																																		
教科書:	授業にて説明																																		
参考書:	授業にて説明																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:	真の薬剤師として、はばたくために ～実務実習事前学習・基礎編～		
授業の概要:	薬剤師業務の基本である処方箋に基づく調剤、疑義照会、医薬品の安定性与管理、リスクマネジメント等に関する基礎ならびに薬剤師の使命について学習する。		
到達目標:	安全で適正な薬物療法を遂行するために、処方箋の書式、医薬品の各種剤形、医薬品の供給与管理、基本的な計数・計量調剤の技法、疑義照会の基本、ならびに現代医療のなかで薬剤師に求められている職能の基本的事項を修得する。		
授業方法:	配布プリント、Power Point映写を中心として講義するほか、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、学生はこれらの課題に対する答案を期限内に提出し、翌週の講義で解説を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。適宜教科書も用いる。 第1回～第2回、第10回～第14回を森田が、第3回～第6回と第9回を中西が、第7回と第8回を杉浦がそれぞれ担当する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 薬剤師業務の展望と社会からの期待(その1)。 旧薬学コアカリキュラム:A(2)-1～2, A(2)-2, A(3)-5-1, B(1)-2, C18(3)-2, D1(1)-1～3	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2)各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。	
	2. 薬剤師業務の展望と社会からの期待(その2)。 旧薬学コアカリキュラム:A(2)-1～2, A(2)-2, A(3)-5-1, B(1)-2, C18(3)-2, D1(1)-1～3	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2)各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。	
	3. 処方せんの基礎、処方せんと調剤-1 旧薬学コアカリキュラム:D1(2)-1-1)～4)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2)各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。	
	4. 処方せんと調剤-2 旧薬学コアカリキュラム:D1(2)-1-5)～6), D1(2)-2-8)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2)各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。	

5. 処方せんと調剤-3
旧薬学コアカリキュラム：D1(2)-2-7), D1(2)-2-9)
 6. 処方せんと調剤-4
旧薬学カリキュラム：D1(2)-2-11), D1(3)-1-2)
 7. 処方せんと調剤-5
旧薬学コアカリキュラム：D1(2)-2-11), D1(3)-1-2)
 8. 製剤化の基礎
旧薬学コアカリキュラム：D1(4)-3
 9. 注射薬・輸液
旧薬学コアカリキュラム：D1(4)-4
- 調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要があります。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。
- 1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要があります。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。
- 1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要があります。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。
- 1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要があります。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。
- 1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

10. 疑義照会-1
旧薬学コアカリキュラム:D1(3)-1
11. 疑義照会-2
旧薬学コアカリキュラム:D1(3)-2
12. 重大な副作用の初期症状、警告、禁忌
旧薬学コアカリキュラム:D1(3)-2
13. リスクマネージメント-2
旧薬学コアカリキュラム:D1(5)-2
14. 医薬品の管理と供給
旧薬学コアカリキュラム:D1(5)-2D1(4)-1

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

15. まとめ

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

フィードバックの
方法:

第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、翌週の講義で解説(フィードバック)を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
マナビーでの課題	30	課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、各回5点満点で計30点満点とする。
期末試験	70	第1回～第14回の全範囲を対象とした多肢選択式および記述式の期末試験問題70点満点とする。

教科書: わかりやすい調剤学 第6版 廣川書店
毎回の講義時に配布するオリジナル資料

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、Eメール

授業テーマ:

真の薬剤師として、はばたくために ～実務実習事前学習・基礎編～

授業の概要:

臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱを一系統の科目とみなし、この2科目で薬物療法の実施に際して薬剤師が主導的役割を果たすべき事項、すなわちPK-PD理論に基づく各種薬剤の適正使用のあり方をはじめ、有効性をできるだけ高め、副作用発現を未然に回避あるいは早期発見に努めるための臨床薬剤師としての職能を系統立てて理解する。これらの内容はいずれも5年次の実務実習先で修得する実践的スキルおよび知識の基礎をなすものであり、領域としては、薬物血中濃度モニタリングに基づく患者個々への投与設計のあり方、感染症の予防と治療における薬物療法の適正化、炎症・アレルギー疾患治療薬の適正使用、呼吸器疾患治療薬の適正使用について、薬学モデルコアカリキュラム E:医療薬学のE4(2)②TDMと投与設計、F:薬学臨床の(2)処方箋に基づく調剤、(3)薬物療法の実践、を対象領域とする。

到達目標:

薬物血中濃度モニタリングによる投与設計領域、感染症の予防と治療領域、炎症・アレルギー疾患治療領域、呼吸器疾患治療領域を対象に、患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、患者の容体を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

授業方法:

配布プリント、Power Point映写を中心として講義するほか、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、学生はこれらの課題に対する答案を期限内に提出し、翌週の講義で解説を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。適宜教科書も用いる。
第1回～第8回、第10回～第14回を森田が、第9回を松元が、それぞれ担当する。

授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
1.	薬物動態の解析(TDM)-1 薬学コアカリキュラム:E4(2)②	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭ににした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。	
	2.	薬物動態の解析(TDM)-2 薬学コアカリキュラム:E4(2)②	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭ににした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
	3.	薬物動態の解析(TDM)-3 薬学コアカリキュラム:E4(2)②	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭ににした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

4. 消毒と滅菌、感染症の予防、感染症の治療(その1)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
5. 感染症の治療(その2)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
6. 感染症の治療(その3)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
7. 感染症の治療(その4)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

8. 感染症の治療(その5)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
9. 感染症の治療(その6)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
10. 感染症の治療(その7)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
11. 炎症・アレルギー疾患の治療(その1)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

12. 炎症・アレルギー疾患の治療(その2)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

13. 呼吸器疾患の治療(その1)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

14. 呼吸器疾患の治療(その2)
薬学コアカリキュラム:F(3)

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

15. まとめ

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

フィードバックの
方法:

第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、翌週の講義で解説(フィードバック)を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	マナビーの課題	30	課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、各回5点満点で計30点満点とする。
	期末試験	70	第1回～第14回の全範囲を対象とした多肢選択式および記述式の期末試験問題70点満点とする。
教科書:	今日の治療薬2017年版(南江堂)(2016年版以前のものでかまわない)、もしくは治療薬ハンドブック(じほう)(2016年版以前のものでかまわない)。 毎回配布するオリジナル資料		
参考書:	日常診療に役立つ抗感染症薬のPK-PD 戸塚恭一 監修 ユニオンエース社 感染症のチーム医療 専門医の処方意図を探れ 三笠桂一、森田邦彦 編集 南江堂		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	オフィスアワー、Eメール		

授業テーマ:	薬物の体内動態および動態解析の基礎および応用編	
授業の概要:	医療薬学(E)における薬の生体内運命(E4)の中の薬物の体内動態(E4(1))および薬物動態の解析(E(2)): (基礎および応用編)(薬学教育モデル・コアカリキュラム対応)	
到達目標:	1) 薬物の体内動態(E4(1)): 薬物の生体内運命を理解するために、①生体膜透過、②吸収、③分布、④代謝、⑤排泄の過程に関する基本的知識とそれらを解析するための基本的技能を修得する(基礎および応用編)。 2) 薬物動態の解析における薬物速度論(E4(2)①): 薬効や副作用を体内の薬物動態から定量的に理解できるようになるために、薬物動態の理論的解析に関する基本的知識と技能を修得する(基礎および応用編)。 3) 薬物動態解析におけるTDMと投与計画(E4(2)②): 個々の患者に応じた投与計画を立案できるようになるために、薬物治療の個別化に関する基礎知識と技能を修得する。(基礎および応用)	
授業方法:	指定した教科書を使う。パワーポイントを使う。授業ビデオを撮影する。座席は指定し、出席を採る。授業に関する教員および学生間の双方向の連絡には、学内メールを用いる(学生は、学内メールを携帯へ転送しておくことが望まれる)。本科目についての情報(授業ビデオ、レポート記入用紙、追加課題等)は、薬学部のHP(Vivi-Link)にその都度、期限を切って掲載する。時間外学習として1コマにつき90分を想定し、レポート課題を課す。学生は授業ビデオを見て復習することができる。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 薬動学(反復投与と投与計画): 定常状態における平均血中濃度、蓄積率、投与間隔、負荷投与量 時間外学習課題とレポート課題: 国試過去問題等	テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。
	到達目標: E4(2)-①、②、応用1(蓄積率を説明し、計算できる)	
	2. 分布(血漿タンパク結合): 平衡反応、Scatchardプロット、両逆数プロット、競合阻害、非競合阻害、組織分配係数 時間外学習課題とレポート課題: 国試過去問題等	テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-③、E4(2)-①、応用2(タンパク結合における競合について説明できる)、応用3(代謝排泄における血漿タンパク結合の影響について説明できる)	
	3. 薬動学(モーメント解析法、2-コンパートメントモデル): モデル非依存型解析法、台形法によるAUCの計算、MRT、MAT、2-コンパートメントモデル 時間外学習課題とレポート課題: 国試過去問題等	テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。
	到達目標: E4(2)-①、応用4(速度論における連立微分方程式の意味を説明できる)	
	4. 薬動学(肝固有クリアランス): 酵素反応(Michaelis-Mentenの式、Lineweaverプロット)、well-stirred model、肝固有クリアランス、肝抽出率、経口クリアランス 時間外学習課題とレポート課題: 国試過去問題等	テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-④、E4(2)-①、応用5(肝代謝における速度論式について説明できる)	
	5. 薬動学(非線形動態): 非線形動態のタイプ、消失過程の飽和、代謝阻害と誘導における速度論 時間外学習課題とレポート課題: 国試過去問題等	テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-④、E4(2)-①、応用6(ミカエリス-メンテン式を用いて代謝の飽和を説明できる)	
	6. 薬動学(クリアランス理論の応用): 吸収速度と吸収率、臓器クリアランスと全身クリアランスの関係、初回通過効果、未変化体尿中排泄率、生理学的モデル 第1回から6回の復習、国試過去問題の解説 時間外学習課題とレポート課題: 国試過去問題等	テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-④、E4(2)-①、応用7(腎排泄速度と血中濃度との関係を説明できる)、応用8(生物学的利用率と臓器クリアランスとの関係を説明できる)	
	7. 中間試験 その他の薬物動態解析法: 導入	テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-③、④、E4(2)-①	
	8. 薬動学(その他の薬物動態解析法): 臨床試験、母集団薬物速度論、PK/PDモデル解析 時間外学習課題とレポート課題: CBT、国試過去問題等	テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-③、④、E4(2)-①、②、応用9(生理学的モデルについて説明できる)、応用10(PK/PD解析について説明できる)、応用11(母集団薬物速度論について説明できる)	
	9. 吸収と分泌(生体膜透過)(その1): pH分配仮説、単純拡散(Fickの法則)、特殊輸送(ミカエリスメンテンの式) 時間外学習課題とレポート課題: 国試過去問題等	テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。
	到達目標: E4(1)-①、②、③	

10. 吸収と分泌(生体膜透過)(その2):特殊輸送(ミカエリスメンテンの式)、トランスポーター(ABC、SLC)、膜動輸送
時間外学習課題とレポート課題:国試過去問題等
到達目標:、到達目標:E4(1)-①、②、③、応用12(組織移行、分泌機構を説明できる)、応用13(臓器に発現しているトランスポーターの種類を説明できる)
11. 薬物動態変動(その1):代謝酵素の変動による薬物動態変動、遺伝子多型、非線形動態
時間外学習課題とレポート課題:国試過去問題等
到達目標:E4(2)-①、②、応用14(動態変動に遺伝子多型が関与する薬物の例を列挙し、説明できる)
12. 薬物動態変動(その2):年齢、病態、妊娠、肥満、血流あるいはタンパク濃度の変動と薬物動態変動
時間外学習課題とレポート課題:CBT、国試過去問題等
到達目標:E4(2)-①、②、応用15(年齢、病態による薬物動態の変動を説明できる)
13. 薬物動態変動(その3):薬動力学的相互作用(消化管、肝、腎)、代謝阻害、代謝誘導、吸収阻害、CYP、Pgp
到達目標:E4(1)-②、③、④、E4(2)-①、②
14. TDM(Therapeutic Drug Monitoring):対象薬、有効血中濃度、中毒症状、サンプリング、測定法
時間外学習課題とレポート課題:国試過去問題等
到達目標:E4(2)-②
15. まとめ

テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。

テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。

テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。

テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。

テキストに掲載したレポート課題を思内、Vivi-Linkに掲載したレポート提出用紙に記載し、翌週提出する。

返却レポートを整理し、復習する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

毎回のレポートにおいては、時間外学習時間ならびに講義内容の理解度を1から5段階に分けて表示させるようにしており、勉強しない学生や理解が進んでいない学生には、教員が、個別に注意をする。

講義において、レポート課題を課す。学生はその課題を薬学HP(Vivi-Link)に掲載するレポート提出用紙に記入し、次の講義時間に提出する。提出されたレポートはタイムリーに学生に返却する。見本となるレポートについては、名前を伏せて、Vivi-Linkに掲載する。学生はそれを参考にして、どの箇所が誤りかを自分で確認し、自習する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席およびレポート	10%	10点満点(出席10回以上および全レポートの提出、この条件を満たさない場合、1件につき1点減点;ゼロ点が下限)
中間試験	40%	
最終試験	100%	総合評価=出席点+中間試験の得点+(100-出席点-中間試験の得点)×最終試験の正答率
		小数点は切り上げる。 試験成績の自己管理:中間試験、最終試験は、提示される正解表を元に自己採点ができる。 追試験時の成績評価: ・単なる病気(診断書あり)で欠席した場合、追試験(100点満点)の得点のみが総合評価の対象となる。 ・本学が認めるインフルエンザ等の伝染病、忌引き等で欠席した場合は、出席点+中間試験の結果が加えられる(上記の方法)。

教科書: NEWパワーブック生物薬剤学 金尾義春他、廣川書店、2016年
対話と演習で学ぶ薬物速度論、伊賀勝美他、廣川書店、2008年
薬物動態学IIテキスト(配布)、伊賀勝美

参考書: コンパス生物薬剤学」岩城正宏他、南江堂、2016年
薬と疾病I.薬の効くプロセス スタンダード薬学シリーズ6、東京化学同人、2016年
本日の治療薬2016、南江堂
治療薬マニュアル2016、医学書院

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡
方法:

Vivi-Linkならびに学内電子メール

授業テーマ:	薬物代謝、薬物相互作用																																																
授業の概要:	医療の発展に伴い、薬物の重要性は高まっており、薬物療法における併用など複雑化してきている。薬物が効力を発揮するには、薬物自体が生体への薬理作用を有することが必須となるが、臨床使用では、薬物の薬物動態特性が重要となってくる。薬物動態には、薬物代謝酵素や薬物トランスポーターなどの機能タンパク質が重要な役割を担っており、近年は、分子生物学的にも解明されつつある。これらに関する基礎知識は、臨床薬剤師として薬物療法に関与する上で十分理解すべき事項である。本講義では、機能タンパク質の中でも、臨床で、最も重要な役割を担っている薬物代謝酵素について、基礎的な知識を身につけ、臨床でおこる事象を理解できること、すなわち、薬学的メカニズムと臨床エビデンスを説明できることを目標とする。																																																
到達目標:	種々の薬物代謝に関与する酵素と酵素反応の機序を説明できる。 薬物代謝反応による薬の薬効と毒性の変化の例を挙げて説明できる。 薬効に個人差や人種差が生じる要因を列挙し、その違いを説明できる。 薬物代謝酵素の遺伝的多型が薬物治療時及ぼす影響を代表例を示して説明できる。 薬物動態学的機序によって起こる薬物相互作用について、例を挙げて説明できる。																																																
授業方法:	講義形式 (指定教科書を中心とし、適宜、プリント等を配布する)																																																
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. くすりの体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる(C13-4代謝1)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>2. 初回通過効果について説明できる(C13-4代謝8)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>3. 肝および固有クリアランスについて説明できる(C13-4代謝9)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>4. 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる(C13-4代謝3)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>5. シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる(C13-4代謝4)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>6. くすりの酸化・還元、加水分解反応について具体的な例を挙げて説明できる(C13-4代謝5, 6)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>第一相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる(C12-1化学物質の代謝・代謝的活性化2)</td><td></td></tr> <tr> <td>7. くすりの抱合について具体的な例を挙げて説明できる(C13-4代謝6)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>第二相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる(C12-1化学物質の代謝・代謝的活性化3)</td><td></td></tr> <tr> <td>8. 前半まとめ</td><td>第1回目から第7回目までの講義内容について、十分に復習をしておく。</td></tr> <tr> <td>9. 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる(C13-4代謝2)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>10. プロドラッグについて薬物代謝酵素と関連づけて説明できる(C13-4代謝7)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>11. 小児の発達に伴う薬物代謝酵素活性の変化を説明できる(C13-4代謝7)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>加齢に伴う薬物代謝酵素活性の変化を説明できる(C13-4代謝7)</td><td></td></tr> <tr> <td>疾病による薬物代謝酵素の変化について説明できる(C13-4代謝7)</td><td></td></tr> <tr> <td>12. 薬物代謝酵素の遺伝子多型の臨床的意義について概説できる(C13-4代謝7)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>薬物代謝酵素の遺伝子多型の人種差について説明できる(C13-4代謝7)</td><td></td></tr> <tr> <td>薬物代謝酵素の遺伝子多型の診断法について説明できる(C15-3遺伝的素因2,3)</td><td></td></tr> <tr> <td>薬物代謝酵素の個人差に関係する外的因子である誘導や阻害現象を例に挙げて説明できる(C13-4代謝7)</td><td></td></tr> <tr> <td>13. 薬物代謝阻害を原因とする薬物相互作用とその臨床的意義について説明できる(C13-4相互作用1)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>14. 薬物代謝誘導を原因とする薬物相互作用とその臨床的意義について説明できる(C13-4相互作用1)</td><td>教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。</td></tr> <tr> <td>薬物代謝酵素が関与する、薬物-薬物間、薬物-食物間相互作用を列挙し、説明できる</td><td></td></tr> <tr> <td>15. まとめ</td><td>第1回目から第14回目までの講義内容について、十分に復習をしておく。</td></tr> </tbody> </table>	授業内容	準備学習等の内容	1. くすりの体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる(C13-4代謝1)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	2. 初回通過効果について説明できる(C13-4代謝8)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	3. 肝および固有クリアランスについて説明できる(C13-4代謝9)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	4. 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる(C13-4代謝3)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	5. シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる(C13-4代謝4)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	6. くすりの酸化・還元、加水分解反応について具体的な例を挙げて説明できる(C13-4代謝5, 6)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	第一相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる(C12-1化学物質の代謝・代謝的活性化2)		7. くすりの抱合について具体的な例を挙げて説明できる(C13-4代謝6)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	第二相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる(C12-1化学物質の代謝・代謝的活性化3)		8. 前半まとめ	第1回目から第7回目までの講義内容について、十分に復習をしておく。	9. 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる(C13-4代謝2)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	10. プロドラッグについて薬物代謝酵素と関連づけて説明できる(C13-4代謝7)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	11. 小児の発達に伴う薬物代謝酵素活性の変化を説明できる(C13-4代謝7)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	加齢に伴う薬物代謝酵素活性の変化を説明できる(C13-4代謝7)		疾病による薬物代謝酵素の変化について説明できる(C13-4代謝7)		12. 薬物代謝酵素の遺伝子多型の臨床的意義について概説できる(C13-4代謝7)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	薬物代謝酵素の遺伝子多型の人種差について説明できる(C13-4代謝7)		薬物代謝酵素の遺伝子多型の診断法について説明できる(C15-3遺伝的素因2,3)		薬物代謝酵素の個人差に関係する外的因子である誘導や阻害現象を例に挙げて説明できる(C13-4代謝7)		13. 薬物代謝阻害を原因とする薬物相互作用とその臨床的意義について説明できる(C13-4相互作用1)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	14. 薬物代謝誘導を原因とする薬物相互作用とその臨床的意義について説明できる(C13-4相互作用1)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。	薬物代謝酵素が関与する、薬物-薬物間、薬物-食物間相互作用を列挙し、説明できる		15. まとめ	第1回目から第14回目までの講義内容について、十分に復習をしておく。
授業内容	準備学習等の内容																																																
1. くすりの体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる(C13-4代謝1)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
2. 初回通過効果について説明できる(C13-4代謝8)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
3. 肝および固有クリアランスについて説明できる(C13-4代謝9)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
4. 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる(C13-4代謝3)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
5. シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる(C13-4代謝4)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
6. くすりの酸化・還元、加水分解反応について具体的な例を挙げて説明できる(C13-4代謝5, 6)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
第一相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる(C12-1化学物質の代謝・代謝的活性化2)																																																	
7. くすりの抱合について具体的な例を挙げて説明できる(C13-4代謝6)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
第二相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる(C12-1化学物質の代謝・代謝的活性化3)																																																	
8. 前半まとめ	第1回目から第7回目までの講義内容について、十分に復習をしておく。																																																
9. 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる(C13-4代謝2)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
10. プロドラッグについて薬物代謝酵素と関連づけて説明できる(C13-4代謝7)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
11. 小児の発達に伴う薬物代謝酵素活性の変化を説明できる(C13-4代謝7)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
加齢に伴う薬物代謝酵素活性の変化を説明できる(C13-4代謝7)																																																	
疾病による薬物代謝酵素の変化について説明できる(C13-4代謝7)																																																	
12. 薬物代謝酵素の遺伝子多型の臨床的意義について概説できる(C13-4代謝7)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
薬物代謝酵素の遺伝子多型の人種差について説明できる(C13-4代謝7)																																																	
薬物代謝酵素の遺伝子多型の診断法について説明できる(C15-3遺伝的素因2,3)																																																	
薬物代謝酵素の個人差に関係する外的因子である誘導や阻害現象を例に挙げて説明できる(C13-4代謝7)																																																	
13. 薬物代謝阻害を原因とする薬物相互作用とその臨床的意義について説明できる(C13-4相互作用1)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
14. 薬物代謝誘導を原因とする薬物相互作用とその臨床的意義について説明できる(C13-4相互作用1)	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。																																																
薬物代謝酵素が関与する、薬物-薬物間、薬物-食物間相互作用を列挙し、説明できる																																																	
15. まとめ	第1回目から第14回目までの講義内容について、十分に復習をしておく。																																																
受講者へのメッセージやアドバイス:	臨床的な科目を理解する上で重要な基礎を学びます。																																																
フィードバックの方法:	適宜、質問を受け付ける。 また、到達度に関する評価点を学期中間時点で学生に知らせる。																																																

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	5	講義への出席回数ならびに授業への取り組み
	試験	95	筆記試験による評価

教科書: 医療薬物代謝学(鎌滝哲也・高橋和彦・山崎浩史編、医学評論社)

参考書: 薬物代謝学-医療薬学・毒性学の基礎として-第3版(加藤 隆一・山添 康・横井 毅 編, 東京化学同人)
新薬剤学 3版(原島秀吉 編集, 南江堂)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡
方法: メール: knaruhas@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ：真の薬剤師として、はばたくために ～応用編～

授業の概要：臨床薬剤学Ⅰ、Ⅱを一系統の科目とみなし、この2科目で薬物療法の実施に際して薬剤師が主導的役割を果たすべき事項、すなわちPK-PD理論に基づく各種薬剤の適正使用のあり方をはじめ、有効性をできるだけ高め、副作用発現を未然に回避あるいは早期発見に努めるための臨床薬剤師としての職能を系統立てて理解する。これらの内容はいずれも5年次の実務実習先で修得する実践的スキルおよび知識の基礎をなすものであり、薬学コアカリキュラムC8(4)、C10(3)、C13(1)、C13(3)～C13(5)、C14(2)～(5)、C15(2)、D1(2)-2、D1(5)～(6)のうちの基本的な部分に該当する。

到達目標：消化器系疾患、精神神経系疾患、がん化学療法、緩和ケア、糖尿病、循環器疾患、血液疾患、臓器移植医療に対する薬物療法の基本と、薬剤師が果たすべき有効性・安全性向上への職能発揮のあり方について説明できる。

授業方法：配布プリント、Power Point映写を中心として講義するほか、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、学生はこれらの課題に対する答案を期限内に提出し、翌週の講義で解説を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。適宜教科書も用いる。
第1回～第4回、第9回～第14回は森田が、第5回～第8回は中西が、それぞれ担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 消化器系疾患治療薬(その1) 旧薬学コアカリキュラム:C14(2)-1-2)、C14(2)-4-2)～5)、D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
	2. 消化器系疾患治療薬(その2) 旧薬学コアカリキュラム:C14(2)-1-2)、C14(2)-4-2)～5)、D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
	3. 精神疾患治療薬-1 旧薬学コアカリキュラム:C14(2)-1-2)、C14(4)-1-2)～3)、D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

4. 精神疾患治療薬－2
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)－1-2), C14(4)－1-2)～3), D1(2)－2
5. 抗悪性腫瘍薬－1
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)－1-2), C14(5)－7-2)、C14(5)－8, C14(5)－9-2)～3), D1(2)－2
6. 抗悪性腫瘍薬－2
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)－1-2), C14(5)－7-2)、C14(5)－8, C14(5)－9-2)～3), D1(2)－2
7. 緩和ケア－1
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)－1-2), C14(4)－8, D1(2)－2

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。

2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

8. 糖尿病治療薬
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2, C14(2)-2-4
～5), D1(2)-2
9. 心臓・血管系疾患治療薬－1
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2, C14(2)-2-2
～3), D1(2)-2
10. 心臓・血管系疾患治療薬－2
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2, C14(2)-2-4
～5), D1(2)-2
11. 心臓・血管系疾患治療薬－3
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2, C14(2)-2-4
～5), D1(2)-2
- 臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。
- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
- 臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。
- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
- 臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。
- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

12. 血液・造血器疾患治療薬－1
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)－1-2), C14(2)－3-2)～4), D1(2)－2
13. 血液・造血器疾患治療薬－2
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)－1-2), C14(2)－3-2)～4), D1(2)－2
14. 臓器移植に用いられる薬剤
旧薬学コアカリキュラム：C14(2)－1-2), C14(2)－3-2)～4), D1(2)－2

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

15. まとめ

受講者への
メッセージや
アドバイス:

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

- 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
- 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
- 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

フィードバックの
方法:

第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、翌週の講義で解説(フィードバック)を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
マナビーでの課題	30	課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、各回5点満点で計30点満点とする。
期末試験	70	第1回～第14回の全範囲を対象とした多肢選択式および記述式の期末試験問題70点満点とする。

教科書: 今日の治療薬2017年版(南江堂)(2016年版以前のものでかまわない)、もしくは治療薬ハンドブック(じほう)(2016年版以前のものでかまわない)。
毎回配布するオリジナル資料

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、Eメール

授業テーマ:

授業の概要: 薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供するために、医薬品情報ならびに患者から得られる情報の収集、評価、加工などに関する基本的知識を修得する。
調剤学や臨床薬剤学等の講義で学んだことの情報源は何か、それらの情報をどの様に評価・加工し、臨床現場に提供していくべきなのかを考える力を身につける。
模擬病院薬局実習や実務実習事前学習と連動して授業を進める。

到達目標:

- ・医薬品として必須の情報を列挙できる
- ・医薬品情報にかかわっている職種を列挙し、その役割を説明できる
- ・医薬品の開発過程や市販後に得られる情報の種類を列挙できる
- ・医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる
- ・医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。
- ・厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。
- ・医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけと用途を説明できる。
- ・医薬品添付文書(医療用、一般用)に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。
- ・医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。
- ・医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。
- ・医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。
- ・主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。
- ・代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。
- ・EBMの基本概念と有用性について説明できる。
- ・EBM実践のプロセスを概説できる。
- ・NBM(Narrative-Based Medicine)について概説できる。
- ・臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など)の長所と短所を概説できる。
- ・メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。
- ・真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。
- ・臨床適用上の効果指標(オッズ比、必要治療数、相対危険度など)について説明できる。
- ・薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。
- ・患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。
- ・問題志向型システム(POS)を説明できる。
- ・SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	医薬品と医薬品情報 C15(1)1-1)	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
2.	医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料 C15(1)2-1),2)	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
3.	医薬品情報に関わる職種とその役割 C15(1)-2)	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
4.	厚生労働省、製薬企業などの発行する資料とその特徴 C15(1)2-3)	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
5.	医薬品添付文書と医薬品インタビューフォーム C15(1)2-4),5),6)	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
6.	医薬品の開発過程、市販後に得られる情報 C15(1)1-3),4)	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
7.	治験の意義と業務、治験における薬剤師の役割 C17(4)1,2	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
8.	医薬品情報に関係する法律と制度 C15(1)1-5)、C15(2)2-7)	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
9.	医薬品情報データベース C15(1)4	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
10.	EBM(Evidence-Based Medicine)とNBM(Narrative-Based Medicine) C15(1)5	講義当日に配布する練習問題を次回までにやってくること。
11.	患者情報 C15(2)1	講義当日に配布する練習問題を次回までにやってくること。
12.	問題志向型システム(POS) C15(2)2	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
13.	チーム医療における情報 C15(2)2	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
14.	医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理 C15(1)(2)	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
15.	まとめ	これまでの講義内容や練習問題を十分に復習し臨むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 毎回配布する練習問題について、次回以降の講義中に解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	到達目標全般に関する知識や理解度により評価する。

教科書:

参考書: 村直樹監修・編集、下平秀夫編集 ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 羊土社

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で応対、Eメール

授業テーマ:	代表的な内科疾患を学び薬物療法につき理解を深める		
授業の概要:	内科学は医学の中心的位置にある学問分野であり、薬物療法の基本ともいえる分野である。薬剤師は医学の進歩に対応して他の医療専門職と共に医学、薬学を生涯学び続けることが必要である。疾患について自ら学んでゆけるための基礎力となるようにする。		
到達目標:	この分野を学ぶことにより、将来、患者さんへの対応能力、薬物療法に対する力を養うことを目指す。		
授業方法:	講義形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	抗血栓療法 C-14 (1),(2)	関連基礎分野を予習
	2.	皮膚疾患 C-14 (1),(4)	関連基礎分野を予習
	3.	高血圧 C-14 (1),(2)	関連基礎分野を予習
	4.	循環器疾患 C-14 (1),(2)	関連基礎分野を予習
	5.	糖尿病 C-14 (1),(3)	関連基礎分野を予習
	6.	精神疾患 C-14 (3)	関連基礎分野を予習
	7.	上部、下部消化管疾患 C-14 (1),(2)	関連基礎分野を予習
	8.	代謝性疾患 C-14 (1),(2)	関連基礎分野を予習
	9.	肝疾患、膵、胆道疾患 C-14 (1),(2)	関連基礎分野を予習
	10.	骨粗しょう症 C-14 (1),(3),(4)	関連基礎分野を予習
	11.	内分泌疾患 C-14 (1),(3)	関連基礎分野を予習
	12.	免疫疾患 C-14 (1),(4)	関連基礎分野を予習
	13.	腎疾患 C-14 (1),(3)	関連基礎分野を予習
	14.	神経疾患 C-14 (1),(3)	関連基礎分野を予習
	15.	まとめ	復習
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	レポート		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験	90	講義内容の理解度により評価する
	出席、態度、関心	10	
教科書:	授業にて説明		
参考書:	授業にて説明		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

医療人としての薬剤師に関連した法規及び制度の知識を修得する。

授業の概要:

薬事法規・制度は薬剤師の資格を得るために、薬学部で学ばなければならない必修科目である。本講義で扱う薬事関係法規としては、医薬品医療機器等法(薬事法)、薬剤師法、医療法、医師法・歯科医師法・保健師助産師看護師法、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、大麻取締法・あへん法、毒物及び劇物取締法、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法、薬害と副作用被害に関する制度、製造物責任法、社会保障制度関係法規(健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法)、血液供給体制等について学ぶことになる。

到達目標:

薬剤師は患者の生命に直接関わる医薬品などを広範に取り扱い、国民の身体・健康を守らなければならないことを理解するために医療に関連した法律の知識を必要とする。各種法律の精神とその施行に関する基本的知識を修得し、それらを遵守する態度を身につけることを目標にする。併せて医療制度の変化とコミュニティーファーマシーの役割についても学ぶ。

授業方法:

教科書に沿って講義し、小テストを組み込んで理解度を確認する。講義は教科書を主体とし、必要に応じてパワーポイントを使う他、必要と思われる資料については随時プリントを配布して講義を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬剤師を取り巻く法律と制度 1	[1]医療の担い手としての使命(C18-(1)) 1. 薬剤師と倫理的責任 2. 民事的責任・刑事的責任・行政的責任 3. インフォームド・コンセントの定義、必要性 4. 個人情報保護の保護に関する法律など [2]法令の構成(C18-(1)-2-1) 1. 法令の構成 2. 憲法と薬事関係法規との関連 3. 薬剤師と法令 [3]医薬品医療機器等法-1(C18-(1)-2-2) [3]-1 法の目的及び用語の定義等 1. 法の目的 2. 国、地方自治体、関係業態、医療関係者等の責務 3. 用語の定義
2.	薬剤師を取り巻く法律と制度 2	医薬品医療機器等法-2(C18-(1)-2-2) 4. 地方薬事審議会、薬事・食品衛生審議会 [3]-2 薬局 [3]-3 医薬品等の製造販売業及び製造業、登録認証機関 1. 製造販売業 2. 製造業 [3]-4 承認制度等 1. 医薬品、医薬部外品、化粧品の製造販売の承認制度 2. 医療機器、体外診断用医薬品の承認等の制度 3. 再生医療等製品の販売業
3.	薬剤師を取り巻く法律と制度 3	医薬品医療機器等法-3(C18-(1)-2-2) [3]-5 販売業等 1. 医薬品の販売業及び医療機器の販売業・賃貸業 2. 医療機器の販売業・賃貸業及び修理業 3. 再生医療等製品の販売業 [3]-6 基準及び検定、医薬品等の取扱い 1. 医薬品等の基準及び検定 2. 医薬品等の取扱い [3]-7 広告・安全対策 1. 医薬品等の広告 2. 安全対策
4.	薬剤師を取り巻く法律と制度4	医薬品医療機器等法-3(C18-(1)-2-2) [3]-5 販売業等 1. 医薬品の販売業及び医療機器の販売業・賃貸業 2. 医療機器の販売業・賃貸業及び修理業 3. 再生医療等製品の販売業 [3]-6 基準及び検定、医薬品等の取扱い 1. 医薬品等の基準及び検定 2. 医薬品等の取扱い [3]-7 広告・安全対策 1. 医薬品等の広告 2. 安全対策
5.	薬剤師を取り巻く法律と制度5	[4]薬剤師法(C18-(1)-2-3) 1. 薬剤師の任務 2. 薬剤師免許 3. 薬剤師の届出など [5]医療法(18-(1)-2-4) 1. 法の目的 2. 医療施設 3. 薬剤師の員数など

6.	薬剤師を取り巻く法律と制度6	[6]医師法・歯科医師法・保健師助産師看護師法(C18-(1)-2) I 医師法・歯科医師法 1. 医師(歯科医師)の任務 2. 非医師(非歯科医師)の医業の停止 3. 処方せんの交付義務など II 保健師助産師看護師法 1. 法の目的 2. 定義 3. 非看護師の業務停止 4. 医療行為の禁止 [7]血液供給体制 1. 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律 2. 血液製剤の供給体制と需要状況 [8]管理薬に関する規制(C18-(1)-3) I 麻薬及び向精神薬取締法(C18-(1)-3-1) I-1 麻薬 1. 用語の定義 2. 免許 3. 禁止及び制限 4. 取扱いなど I-2 向精神薬(C18-(1)-3-1) 1. 用語の定義 2. 免許 3. 禁止及び制限など II 覚せい剤取締法(C18-(1)-3-2) 1. 法制定の経緯 2. 法の目的 3. 用語の定義 4. 指定 III 大麻取締法(C18-(1)-3-3) 1. 用語の定義 2. 禁止及び制限事項 3. 免許及び取扱い IV あへん法(C18-(1)-3-3) 1. 法の目的 2. 国の独占権 3. 用語の定義など [9]毒物及び劇物に関する規制(C18-(1)-3-4) I 毒物及び劇物取締法 1. 法制定の経緯 2. 法の目的 3. 用語の定義など [1]健康被害救済制度(C18-(1)-2-6) I 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法 1. 救済制度発足の経緯 2. 法の目的 3. 用語の定義など [2]薬害(C17-(1)-8-1) 1. 薬害とは 2. 代表的な薬害例 [3]製造物責任(C18-(1)-2-7) 1. 製造物責任法(PL法)
7.	薬剤師を取り巻く法律と制度7	
8.	薬剤師を取り巻く法律と制度8	
9.	薬害と副作用被害	
10.	社会保障制度と薬剤経済 1	[1]社会保障制度(C18-(2)) 1. 日本における社会保障制度のしくみ(C18-(2)-1-1) 2. 社会保障制度の中での医療保険制度の役割(C18-(2)-1-2) 3. 介護保険制度のしくみなど(C18-(2)-1-3) [2]医療保険制度(C18-(2)) 1. 日本の医療保険制度(C18-(2)-2-1) 2. 医療保険のしくみ(C18-(2)-2-2) 3. 医療保険の種類など(C18-(2)-2-3) [3]薬剤経済・医療統計(C18-(2)) 1. 国民医療費の動向 2. 医療費の内訳 3. ジェネリック医薬品の役割 4. 医薬品生産額など
11.	社会保障制度と薬剤経済 2	
12.	地域薬局	[1]地域薬局・薬剤師(C18-(3)) 1. 地域薬局の役割 2. 在宅医療・居宅介護における薬剤師の役割 3. 学校薬剤師の役割など [2]医薬分業(C18-(3)) 1. 医薬分業のしくみ(C18-(3)-2-1) 2. 医薬分業の意義(C18-(3)-2-1) 3. 医薬分業の現状(C18-(3)-2-1) 4. 「かかりつけ薬局」の意義(C18-(3)-2-1) [3]医薬品流通(C18-(3)) 1. 医薬品流通

13. 医薬品の開発・治験1
 - [1]医薬品開発とのコンセプト(C17-(1)-1-2)
 1. 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子
 2. 希少疾病に対する医薬品開発の重要性
 - [2]医薬品の承認(C17-(1)-4-3)
 1. 医薬品の承認までのプロセス
 2. 非臨床試験の目的と実施概要
 3. 臨床試験の目的と実施概要など
 - [3]承認後の制度(C17-(1)-4-3)
 1. 製造販売後調査制度(PMS)
 2. 再審査制度
 3. 再評価制度など
14. 医薬品の開発・治験2
 - [4]医薬品の製造と品質管理(C17-(1)-6-1)
 1. 医薬品の品質管理の意義と薬剤師の役割
 2. 環境保全に配慮すべき点とその対処法
 - [5]規範(C17-(1)-6-1)
 1. GLP
 2. GCP
 3. GMPなど
 - [6]治験の意義と業務(C17-(4))
 1. ヘルシンキ宣言について(C17-(4)-1-1)
 2. 治験の意義(C17-(4)-1-2)
 3. 治験(第I、第IIおよび第III)の概要など(C17-(4)-1-3)
 - [7]治験における薬剤師の役割
 1. 治験における薬剤師の役割
 2. 治験コーディネーターの業務と責任
 3. 非験者に説明すべき項目など
15. まとめ
 - [1]まとめ

受講者へのメッセージやアドバイス: 講義内容の理解を深めるために、講義の順番が変更になる場合がある。また、難しい法律用語と言い回しがあるため、それに慣れ、正しい解釈ができることが重要である。膨大な範囲となるため常々整理しておくことを勧める。

フィードバックの方法: 小テストの解説とパワーポイントによるまとめ

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席と態度	60	授業への参加と積極性
	小テスト	40	正解率

教科書: 薬学必修講座 薬学と社会2017年度版 薬学教育センター編 評言者(内容毎年改訂)

参考書: 薬事関係法規 三輪亮寿ら著 南江堂
薬事関係法規・制度解説 塩原義則・著 廣川書店
よくわかる改正薬事法株式会社ドーモ編 薬事日報社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法: ssugiura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

消化器と婦人科領域の疾患について医学・薬学領域での必要な知識を獲得する。

授業の概要:

消化器・婦人科領域の疾患について、実践症例を元にグループ学習を行い、授業ごとに発表をすることで、全体討論の場を構築していく。

到達目標:

DWCLA10の到達を目標とする。具体的には、症例を予習することで分析力・思考力をトレーニングし、授業中のdiscussionで、コミュニケーション能力、リーダーシップ、思いやる力を養う。さらに個々の発表でプレゼン力、自己表現力を養い、様々な意見について応答することで、変化対応力が身についていく。これらの工程を15週にわたって行うことは、かなりの時間と労力を要し、自己管理なしでは継続はかなわない。また、症例は臨床現場での実際に起こった状況を想定しており、一概な対応ではなく、自らの創造力を発展させ独創的な意見を発掘できるように導いていく。

授業方法:

チュートリアル方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Overview 今学期の講義となる消化管と生殖器に関する基礎的な知識を確認する。	教科書Gastroenterology & Gynecology(4月から販売)を生協で購入してください。
	2. 上部消化器疾患(1)胃潰瘍 ピロリ菌による胃潰瘍について解説する。C-14(2)	実践症例(教科書15・16ページ)について予習してください。課題67について調べてください。
	3. 上部消化管疾患(2)食道関連疾患 食道関連疾患(胃食道逆流症・食道アカラシアなど)を解説する。食事やアルコールがこれあの疾患に及ぼす影響を解説する。C-14(2)	実践症例(教科書18・25ページ)について予習してください。課題64について調べてください。H2ブロッカーとPPIIについて胃や食道疾患に対する使用方法を調べておきましょう。
	4. 上部消化管疾患(3)機能性胃腸症 胃の酸分泌機構を確認し、薬剤などによる胃機能障害がもたらす障害について解説する。C-14(2)	実践症例(教科書20・21ページ)について予習してください。課題68について調べてください。
	5. 上部消化管疾患(4)ダンピング症候群 胃の外科的切除がもたらす病態について解説する。また、胃癌についても解説する。C-14(2)	実践症例(教科書23ページ)について予習してください。
	6. 下部消化管疾患(1)クローン病 小腸と大腸の機能について確認する。クローン病と潰瘍性大腸炎について解説する。C-14(2)	実践症例(教科書37・38・45・46ページ)について予習してください。炎症性サイトカインについて調べておきましょう。
	7. 下部消化管疾患(2)薬剤性大腸炎 薬剤が原因となる下部消化管の障害は多い。大腸炎を中心に解説する。C-14(2)	実践症例(教科書40ページ)について予習してください。腸内フローラについて調べておきましょう。
	8. 下部消化管疾患(3)過敏性腸症候群 IBSの病態と大腸癌について解説する。大腸癌については遺伝子解析が進んでおり、遺伝子の多段階発がんについても解説する。	実践症例(教科書42・43ページ)について予習してください。Cell Cycleについて調べましょう。癌遺伝子や癌抑制遺伝子について調べましょう。
	9. 肝臓・膵臓関連疾患(1)膵炎 慢性・急性膵炎について解説する。膵臓の外分泌機能、胆嚢の機能について確認する。C-14(2)	実践症例(教科書59・60ページ)について予習してください。
	10. 肝臓・膵臓関連疾患(1)肝炎 肝炎について様々な病態を解説する。肝臓は、薬物代謝に置いて重要な役割を果たしており、機能障害はすべての薬物治療に影響する。C-14(2)	実践症例(教科書61・62ページ)について予習してください。
	11. 免疫と感染症(1)膠原病 関節リウマチとベーチェット病について解説する。C-14(3)	実践症例(教科書68・69ページ)について予習してください。
	12. 免疫と感染症(2)ウイルス感染症 インフルエンザと風邪症候群について解説する。C-14(3)	実践症例(教科書82・83ページ)について予習してください。
	13. 婦人科領域の疾患(1)生殖 妊娠や性感染症について解説する。不妊治療、妊娠時の薬物療法、性感染症に伴う合併症などについて基礎的知識を確認する。C-14(4)	実践症例(教科書96・105-108ページ)について予習してください。
	14. 婦人科領域の疾患(2)子宮内膜症 子宮内膜症や子宮がん・子宮頸がんについて解説する。C-14(4)	実践症例(教科書98・100ページ)について予習してください。
	15. まとめ	1-14の講義について復習しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

3回シリーズの最後です。来年からは臨床実習です。より実践的に学習に取り組んでください。

フィードバックの方法:

教科書の課題、症例の回答については講義ごとに解説する。試験・レポートについては、講義終了後、答案・レポートの開示を個別に行う。開示の方法と時間は、各自、教員へのアポイントを取って確認する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	70	出題された内容について、理論的説明がなされているがkey wordを設定して採点を行う。
	発表・レポート	30	毎回の授業でopen discussionを行い、発表者は次回にレポートを提出する。これらについて一回につき最高10点満点で採点する。

教科書:

Gastroenterology & Gynecology (4月より生協にて販売)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

hmatsuno@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

地域医療の重要な担い手である薬局薬剤師の社会的役割を理解し、国民から求められる薬剤師像を考える。

医療の高度化・複雑化、少子高齢化の進展に伴い、薬局・薬剤師には最適な薬物療法を提供する医療の担い手としての役割が期待されている。又、国民の健康意識への高まり、多様な価値観に応える為には高い倫理観と使命感を持って自ら判断し行動することが求められる。
現医療制度下で質の高い薬学的サービスを提供するために、これまでに修得した知識、技能、コミュニケーション力を総合的な実践力に変え患者に寄り添う医療人を目指す。
薬局の日常業務、在宅医療でのエピソードを紹介し、臨場感あふれる授業を計画している。

1. 薬局の管理運営に必要な法制度、経済等に関して学ぶ(知識)
2. 質の高い薬学的サービスを提供するための技能、態度を修得する。(技能・態度)
3. 長期実務実習における薬局業務(疑義照会、服薬指導、薬歴管理、在宅医療、医薬品情報管理、一般用医薬品販売等)について理解する。(知識・技能・態度)
4. 地域に貢献する薬剤師の社会活動(学校薬剤師、保健予防活動等)を理解する。(知識)
5. 地域における薬剤師の役割および薬局の展望についても考える。(知識・技能・態度)

講義:配布プリント、必要に応じてパワーポイントを使用する。適宜教科書も用いる。
関連する医療ニュース等を取り上げ、薬局・薬剤師を取り巻く環境についての情報を共有し討議を行う。
No.1ー15 は授業の概要を示したもので、講義の順番は変更されることがある。

授業内容	準備学習等の内容
1. 薬局の果たすべき役割、薬局の組織と業務:A2、C18(1)	常に医療・健康・福祉に関するニュースに関心を持ち、特に興味をもったものについては、概要をまとめる。
2. 医薬分業とかかりつけ薬局:C18(2)	主に保険調剤に関する関係法規及び調剤業務全般について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
3. 社会保障制度と医療保険制度:C18(2)	社会保障制度、医療保険制度の仕組みや福祉、介護保険制度等について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
4. 保険調剤の仕組みと調剤報酬:C18(1)、C18(2) 現行の診療報酬制度に薬剤師業務をあてはめ薬剤師の役割を考える。	薬剤師業務について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
5. 保険調剤業務の実際と調剤支援システム:C18(2)	調剤支援システム、電子薬歴等の長所・短所等を考える。
6. 患者中心の薬歴管理と疑義照会:C15(2) 患者中心の薬歴管理のための問題抽出する(POS)能力を磨くための事例を考える。	薬歴管理のための問題抽出するPOSについて4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
7. 服薬支援とコミュニケーションスキル:A2 服薬支援するためのコミュニケーションスキル、傾聴、共感の重要性を考える。	服薬支援するためのコミュニケーションスキル、傾聴、共感の重要性について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
8. 薬局における医薬品情報の収集と提供:C11(3)、C18(3) 患者、地域住民の健康意識、セルフメディケーションの支援のためのスキルを磨く。	セルフメディケーションについて4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
9. 薬局におけるリスクマネジメント:C18(1) ヒアリハットに目を向け自ら考え行動する力を磨く。	ヒアリハットについて4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
10. 在宅医療と地域医療マネジメント:C18(3)	増々重要性を増す在宅)医について多職種連携を考え、薬剤師のするべき役割を考える。
11. 一般用医薬品と薬局医薬品・薬局製剤:C18(3) リスク分類、薬局製剤の意義等薬機法を下に整理する。薬局におけるトリアージも学習する。	一般用医薬品のリスク分類、薬局製剤の意義等薬機法について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
12. プライマリケア薬剤師とセルフメディケーション:C11(3)、C18(3) 地域住民の健康意識が高まりを見せるなかセルフメディケーションの支援として薬剤師の役割を考える。	セルフメディケーションの支援として薬剤師の役割について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
13. 地域保健活動(学校薬剤師、市民講座、スポーツファーマシスト等):C18(3)	調剤業務、医薬品の供給のみならず薬剤師の幅広い職能について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
14. 薬局薬剤師の専門性とかかりつけ薬局:C18(3) 求められる薬剤師像と薬局の展望	薬剤師法第一条に謳われる薬剤師の職能に目お向け国民に求められる薬剤師像を考える。
15. まとめ	

主に保険調剤に関する関係法規及び調剤業務全般について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
常に医療・健康・福祉に関するニュースに関心を持ち、特に興味をもったものについては、概要をまとめる。

講義は配布プリント、必要に応じてパワーポイントを使用する。適宜教科書も用いる。
医療に関するニュース等を取り上げ、薬局・薬剤師を取り巻く環境についての情報を共有し討議を行う。
No.1ー15 は授業の概要を示したもので、講義の順番は変更されることが有る。

評価方法	割合	評価基準
レポート	10%	地域医療での薬剤師の社会的役割について自身の考えをまとめた薬剤師像(倫理観、使命感)を評価する。
期末試験	80%	授業全般を通して、高い倫理観と使命感を持って自ら判断し行動し、患者に寄り添う薬剤師として問題点を抽出、解決する能力(総合力)を評価する。
出席・授業態度	10%	授業に積極的に参加し、医療を取り巻く問題点に対し積極的に討議に参加したかを評価。

上村直樹、平井みどり監修 新ビジュアル薬剤師実務シリーズ上/下 薬剤師業務の基本/調剤業務の基本(羊土社)

日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズ9「薬学と社会」(東京化学同人)
「薬学生のための病院・薬局実習の手引き」近畿地区薬学部学生実務実習に関する協議会監修、日本病院薬剤師会近畿ブロック/日本薬剤師会大阪・近畿ブロック編(じほう)
日本薬剤師会監修平成28年度版 保険薬局Q&A薬局・薬剤師業務のポイント/(じほう)
日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会監修 薬学性・薬剤師のためのヒューマニズム (羊土社)
浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集 今日の治療薬 (南江堂)

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:	医薬品の安全性保証		
授業の概要:	画期的な新薬候補を見いだしたからといって、それが即座に医薬品になるわけではない。臨床での使用にあたっては、厳密な安全性の保証を行う必要がある。これは研究者が恣意的に行うものでなく、法律やガイドラインによって規定されている。本講では、医薬品開発に必要な安全性試験の基盤の理解と、試験法の実際について解説する。医薬品毒性学と医療安全性学を通年講義とみなし、この二つの講義で、薬学コアカリキュラムの安全性試験関係の項目を網羅するが、毒性試験法の実際の解説、緊急安全性情報の具体例の解説、および「オーミックスと安全性研究」の大部分は、コアカリキュラム外の独自の項目である。また、薬害の講義の1コマを使用して、薬害被害者の生の声を聞く機会をもつ。		
到達目標:	安全性試験法の理解 薬害を知り、倫理性の醸成と、薬害を避けるための方策 臨床現場における医薬品による健康被害の実態の理解と、薬剤師としての心構えの醸成		
授業方法:	教科書に従って講義。教科書にない資料はプリント配布がファイルをマナビーにアップ		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 序論. 薬物開発と安全性研究 E3(1)	教科書の当該個所を予習しておくこと	
	2. 薬害―1 A(1)③	教科書の当該個所を予習しておくこと	
	3. 薬害―2 A(1)③	教科書の当該個所を予習しておくこと	
	4. 薬害―3 A(1)③	教科書の当該個所を予習しておくこと	
	5. 安全性試験概論, 一般毒性、トキシコネティクス E3(1)	教科書の当該個所を予習しておくこと	
	6. 薬物依存性 B(2)③ D1(1)①	教科書の当該個所を予習しておくこと	
	7. 薬物アレルギー、免疫毒性 E1(4)	教科書の当該個所を予習しておくこと	
	8. 薬害被害者の方の講演とレポート A(1)③	講義2～4を復習し、自分なりの考えをまとめて講演に臨むこと。1時間の講演後、30分でレポートを完成させて提出しなければならない	
	9. 遺伝毒性、発がん性試験 E1(4) E3(1)	教科書の当該個所を予習しておくこと	
	10. 生殖・発生毒性、皮膚毒性 E1(4) E3(1)	教科書の当該個所を予習しておくこと	
	11. 内分泌毒性、感覚器毒性、筋肉、骨毒性 E1(4) E3(1)	教科書の当該個所を予習しておくこと	
	12. 緊急安全性情報(1) E3(1)	マナビーに資料が提示されるので、講義前後に参照すること	
	13. 緊急安全性情報(2) E3(1)	マナビーに資料が提示されるので、講義前後に参照すること	
	14. 安全性速報、オーミックスと安全性研究 E3(1)	マナビーに資料が提示されるので、講義前後に参照すること	
	15. まとめ	マナビーにアップした小テストで復習しておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	薬害の講義の1コマを使用して、薬害被害者の生の声を聞く機会をもつ。シラバス入稿時点では、講演者・日程とも未定である。この講演会の日程は被害者の方の都合が優先されるので、8回目とは限らない。詳細は第1回目の講義のときに通知される。		
フィードバックの方法:	薬害被害者講演会後には、講演者との質疑応答の時間が設けられ、また次の講義ではフィードバックを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	薬害被害者講演会についてのレポート	40	講演内容の重要な点をまとめているか。自分なりの視点が表現できているか。事実誤認、認識不足がないか。
	定期試験	60	2, 3, 4, 8以外が出題範囲
教科書:	「医薬品安全性学」漆谷徹郎編、化学同人(前期「医薬品毒性学」と共通)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力		
教員との連絡方法:	turushid@dw.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

医療経済学の中で特に薬剤に関連する事項を学ぶ。

授業の概要:

日本の人口動態と国民医療費について理解し、医療政策、診療報酬制度、医療保障制度について理解する。また医薬品市場とジェネリックについての動向を学ぶ。医療の質や医療安全について理解し、費用効果分析について学ぶ。さらに医療統計の見方・考え方を理解し、EBM(Evidence-Based Medicine)について、理解を深める。

到達目標:

「患者が質の高い医療を受ける権利」を保障する仕組みを理解するため、医薬品の経済的側面に関する基礎的知識を学ぶ。我が国の医療制度と国民医療費の現状を学び、薬剤に関連する様々な指標を理解する。また医療関連資料を理解するに当たってのEBM(Evidence-Based Medicine)について更に詳しく学ぶ。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 概論とオリエンテーション B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	2. 医薬品市場の動向 国民医療費の動向B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	3. 医療の質と医療安全の指標 B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	4. 医療政策についての費用効果分析 B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	5. 個々の薬剤や医療技術についての費用効果分析 B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	6. 国際的な社会保障制度と日本の社会保障制度の変遷B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	7. 日本の医療保険制度 現状と問題点B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	8. 診療報酬 B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	9. DPC制度 B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	10. ジェネリック医薬品 B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	11. EBM(Evidence-Based Medicine) 医療統計の見方・考え方1 B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	12. EBM(Evidence-Based Medicine) 医療統計の見方・考え方2 B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	13. 医療の質と経済性評価 B(3)	厚生労働省 統計一覧参照
	14. ハイリスク医薬品の考え方 B(3)	日本病院薬剤師会 ハイリスク薬に関する業務ガイドライン参照
	15. 病院経営の実際、薬局経営の実際 B(3)	病院情報局参照 http://hospia.jp/

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50%	到達目標に対する理解度で評価する
	小テスト	50%	

教科書:

特に定めない

参考書:

必要時配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、変化対応力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

臨床検査における総論および各論を学習する。

授業の概要:

臨床検査の原理、方法、結果の評価、精度管理などについて基本的な知識を習得する。

到達目標:

薬剤師が関わるあらゆる医療場面での検査項目について、その基本的な原理、意義、結果の解釈、および精度管理について理解することを目標とする。臨床検査学に共通して用いられる用語や検査技術についての基礎知識を最初に学ぶ。次に、臨床の各分野における具体的な検査項目を学ぶ。最後に、症例解析を行い、基礎知識の実践的な応用を試みる。薬学教育モデル・コアカリキュラムのC14(1)に相当する内容を含む。

授業方法:

スライド投影と配布プリントを用いた講義を主体とし、適宜、教員・学生間および学生・学生間のインタラクティブなディスカッションを挿入して理解を高める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床検査総論(高橋)	検査の基準値 臨床検査の精度管理 国際単位
2.	尿・糞便・穿刺液・髄液・精液検査(高橋)	体液の分類、採取方法および特徴 体液の保存方法
3.	体液・電解質・酸塩基平衡検査(杉浦)	電解質の種類、組成、生理的役割 酸塩基平衡における肺と腎の役割 アシドーシス・アルカローシス
4.	臨床化学検査(高橋)	AST, ALT, LDH, ALP、ChE
5.	血液・血栓・止血検査(高橋)	血漿と血清 血液成分の組成 血液凝固のカスケード 線維素溶解系
6.	免疫血清・輸血・移植関連検査(高橋)	MHC・HLA抗原 抗原・抗体のtitration 血液型の種類
7.	細菌・寄生虫・ウイルス・リケッチア・クラミジア検査(高橋)	代表的な感染症の病原体
8.	染色体・遺伝子関連・病理検査(高橋・ゲストスピーカー)	染色体の構成 転座・欠失・増幅 FISH法 パパニコロー染色
9.	消化器機能検査(村上)	胃液の分泌調節機構 消化における肝・膵のはたらき
10.	腎機能検査(村上)	クレアチニン クレアチニクレアランス BUN
11.	循環機能検査・循環器画像検査(山内)	血圧測定の原理 心電図測定 ドップラーエコー
12.	呼吸(気管支・肺)機能検査・呼吸器画像検査(山内)	スパイロメトリー 1秒率・肺活量 閉塞性障害と拘束性障害
13.	神経・筋機能・感覚機能検査(高橋)	脳波の波形分類 筋電図 末梢神経伝導検査
14.	症例検討(村上/高橋)	再生不良性貧血および細菌性気管支肺炎の際の検査項目と期待される検査値
15.	まとめ	すべての項目の復習と確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。

フィードバックの方法:

1)フィードバックをしながら授業を進める。
2)出席票のコメント欄に疑問点や意見を書いておく次回授業でフィードバックする。
3)オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100%	100点満点で評価する。

教科書:

参考書:

臨床検査法提要 改訂第33版(金原出版株式会社)
迷路にはまらない臨床検査値の読み方・考え方(日本医事新報社)
異常値の出るメカニズム第3版(医学書院)
今日の臨床検査2011-2012(南江堂)
薬剤師のための臨床検査の知識 改訂4版著 池田千恵子(じほう)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、分析力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、授業の前後教室内にて

授業テーマ:	日本薬局方の役割と意義		
授業の概要:	「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に規定された日本薬局方は、繁用される医薬品や医療上重要な医薬品の公的な品質基準及びその品質評価に必要な試験方法などを規定した医薬品の標準書であり、その構成と内容を理解した上で、薬剤師業務、薬事業務、医薬品製造業務における薬局方の果たす役割は何かを学ぶ。		
到達目標:	・日本薬局方の意義と構成について説明できる。 ・日本薬局方収載の一般試験法の内容を説明できる。		
授業方法:	教科書、配布プリントに基づき、パワーポイント等の視覚教材を使用して講義する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 薬局方の歴史と役割 (B-(2)-②日本薬局方8)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	2. 通則、生薬総則 (C5-(1)-④生薬の同定と品質評価2)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	3. 製剤総則1 (E5-(2)-①代表的な製剤1, 2, 3, 4, 5, 6 E5-(3)-②放出制御3)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	4. 製剤総則2 (E5-(2)-①代表的な製剤1, 2, 3, 4, 5, 6 E5-(3)-②放出制御3)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	5. 一般試験法(化学的試験法) (C2-(3)-①定性分析2)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	6. 一般試験法(物理的試験法1) (E5-(1)-④薬物及び製剤材料の物性)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	7. 一般試験法(物理的試験法2) (C1-(2)-③自発的な変化5; C2-(4)機器を用いる分析法)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	8. 一般試験法(紛体物性測定法、生物学的・生化学的・微生物学的試験法) (C2-(3)-②定量分析)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	9. 一般試験法(製剤試験法1) (E5-(2)-②製剤化と製剤試験法1)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	10. 一般試験法(製剤試験法2) (E5-(2)-②製剤化と製剤試験法4)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	11. 一般試験法(容器・包装材料試験法、滅菌法) (E5-(2)-②製剤化と製剤試験法3; C8-(3)-⑤消毒と滅菌1, 2)	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	12. 医薬品各条1	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	13. 医薬品各条2	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	14. 医薬品各条3	教科書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。	
	15. まとめ	教科書、参考図書及び配布資料に基づいて講義内容をまとめ、総復習しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	100 %	薬局方の構成と内容の理解度と、その役割を論理的に説明できるかを基準とする。
教科書:	第十七改正日本薬局方解説書(廣川書店)		
参考書:	HANDY INTELLIGENCE 日本薬局方(京都廣川書店)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	電子メール		

授業テーマ:

薬学基礎知識の醸成と実践薬学のための礎の構築(1)

授業の概要:

病態の治療に用いられる薬物の物性や特性について、基礎科学的な立場から総合的に学修し、医療現場で遭遇するであろう様々な疾病の薬物治療において薬剤師として科学的な側面からアプローチするためのスキルを学ぶ。

到達目標:

実務実習事前学習IAは、実務実習事前学習IBの講義・演習に向けての基礎編であり、基礎理論を「使える知識」として確実なものとするを第1の目的とする。また、病院実務実習・薬局実務実習に先立ち、大学内において、薬物治療に関連する様々な薬剤師業務の展開に必要な問題解決型の思考を培うことをも目的とする。本講義では、実際の現場で遭遇するであろう病態をさらに深く理解するとともに、それら病態の治療に用いられる薬物の物性や特性について、基礎科学的な立場からの理解を深める。また、これらの知識を病院実務実習・薬局実務実習の現場で実践して応用展開できるよう、臨床現場対応能力を育成することにも主眼が置かれる。

授業方法:

講義:配布プリント、Power Point映写、適宜教科書を用いて進める。演習:主として小テストによりCBT形式の演習を行い、適宜解説を取り入れる。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	医薬品の創製と応用(1)担当:富岡 清 有機化学①: 医薬品製造学に関する基礎事項の理 解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
2.	生命物理分野での医薬品と応用(1) 担当:桑原 淳 物理化学①: 物理化学に関する基礎事項の理解と 演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
3.	天然資源に起因する医薬品と応用 担当:中村憲夫 生薬学: 天然資源学に関する基礎事項の理解と演 習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
4.	病態生化学の基礎と応用 担当:松野 浩之 生化学②: 病態生化学に関する基礎事項の理解と 演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
5.	機能形態学の基礎と応用 担当:高橋 玲 機能形態学:機能形態学に関する基礎事項の理解と 演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
6.	衛生化学・公衆衛生学 担当:木津良一 衛生化学①: 衛生化学・公衆衛生学に関する基礎 事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
7.	到達度確認テスト:担当 中西 1～6週目までの到達度確認テスト	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
8.	肝臓疾患の病態生理、薬物治療と副作用の確認、 症例解析および処方解析 担当:森田邦彦 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
9.	神経・筋肉系疾患 担当:森田邦彦 神経・筋肉系疾患の病態生理、薬物治療と副作用の 確認、症例解析および処方解析 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
10.	精神系疾患・消化器系疾患 担当: 芝田信人 精神系・消化器系疾患の病態生理、薬物治療副作 用の確認、症例解析および処方解析 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
11.	セルフメディケーションの基礎(1)担当:吉岡ゆうこ セルフメディケーションの基礎①: セルフメディケー ションに関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～ S606、S701	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
12.	セルフメディケーションの基礎(2)担当:吉岡ゆうこ セルフメディケーションの基礎②:セルフメディケー ションに関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～ S606、S701	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
13.	セルフメディケーションの基礎(3)担当:吉岡ゆうこ セルフメディケーションの基礎③:セルフメディケー ションに関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～ S606、S701	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
14.	医療保険制度 担当: 杉浦伸一 医療保険制度の中での薬剤師の役割について S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。
15.	呼吸器系疾患 担当: 中西弘和 呼吸器系疾患の病態生理、薬物治療副作用の確 認、症例解析および処方解析 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前 に予め見直しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

確認テストはCBT形式の問題とする。確認テスト(70%)、出席状況(30%)とを点数化して評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはしない。

フィードバックの方法:

講義:配布プリント、Power Point映写、適宜教科書を用いて進める。演習:主として小テストによりCBT形式の演習を行い、適宜解説を加える。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	確認テスト	70	到達目標である使える知識の理解度を評価する。
	出席状況	30	授業を積極的に受けているかを評価する。

教科書： 特に指定はしないが、必要時にはプリントを配布する。

参考書： ビジュアル薬剤師実務シリーズ上下巻 上村直樹監修 羊土社
今日の治療薬2016年版解説と便覧 浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集 南江堂
薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選600 日本薬学会編 じほう
その他、これまでに使用した関連する教科書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法： 各教員ごとに対応する

授業テーマ:

薬学基礎知識の醸成と実践薬学のための礎の構築(2)

授業の概要:

病態の治療に用いられる薬物の物性や特性について、基礎科学的な立場から総合的に学修し、医療現場で遭遇するであろう様々な疾病の薬物治療において薬剤師として科学的な側面からアプローチするためのスキルを学ぶ。

到達目標:

実務実習事前学習ⅡAは、実務実習事前学習ⅡBの講義・演習に向けての基礎編であり、基礎理論を「使える知識」として確実なものとするを第1の目的とする。また、病院実務実習・薬局実務実習に先立ち、大学内において、薬物治療に関連する様々な薬剤師業務の展開に必要な問題解決型の思考を培うことをも目的とする。本講義では、実際の現場で遭遇するであろう病態をさらに深く理解するとともに、それら病態の治療に用いられる薬物の物性や特性・薬剤師業務についての基礎科学的・基礎臨床的な立場からの理解を深める。また、これらの知識を病院実務実習・薬局実務実習の現場で実践して応用展開できるよう、臨床現場対応能力を育成することにも主眼が置かれる。

授業方法:

各教員が担当する科目をオムニバス形式で実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	処方箋の書式と疑義照会(1)(2) 担当: 森田邦彦 処方せんの見方と疑義照会の重要性を認識し、不適切な処方せんの発見につなげるスキルを磨く S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
2.	臓器移植医療(1)(2) 担当: 森田邦彦 臓器移植医療に関連する疾病の理解と処方解析の考え方を理解する S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
3.	医療コミュニケーション (1)(2) 担当: 光岡千賀子・西村亜佐子 服薬指導およびチーム医療におけるコミュニケーションの技法を理解する S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
4.	輸液・NST・栄養管理(1)(2) 担当: 杉浦伸一 術後等の輸液療法における輸液・高カロリー輸液の調製法と栄養管理に関するスキルを磨く S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
5.	臨床検査値の読み方(1)(2) 担当: 高橋 玲 臨床検査値の読み方を理解して患者の病状を把握し、医薬品投与設計に役立てるスキルを磨く S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
6.	フィジカルアセスメント(1)(2) 担当: 村上元庸 フィジカルアセスメント: 薬剤師のためのフィジカルアセスメント活用法の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
7.	医療現場に必要な情報収集(1)(2) 担当: 松元加奈 インターネットや様々な情報源を利用し、医療に必要な情報を得る S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
8.	医療現場に必要な情報収集(3)(4) 担当: 松元加奈 インターネットや様々な情報源を利用し、医療に必要な情報を得る S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
9.	薬事関係法規 担当: 杉浦伸一 薬事関連法規: 薬事関連法規に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
10.	分析化学② 担当: 前川 定性分析に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
11.	薬理学① 担当: 藤井健志 薬理学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
12.	薬理学③ 担当: 土田勝晴 薬理学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
13.	到達度確認テスト 担当: 中西弘和 CBT形式の問題	12週目までの講義内容についての平常試験を行う。
14.	ハイリスク薬の管理・医療安全①② 担当: 阿南節子 ハイリスク薬に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。
15.	高齢者における薬物投与設計①② 担当: 芝田信人 高齢者における薬物投与設計: 薬物動態の知識をベースにした薬物投与設計の臨床実践法 S101～S107、S201～S211、S301～S306	シラバスに沿って、各講義の関連科目の教科書を講義の前に予め見直しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

到達度確認テスト(70%)、出席状況(30%)とを点数化して評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはしない。

フィードバックの方法:	講義:配布プリント、Power Point映写、適宜教科書を用いて進める。演習:主として小テストによりCBT形式の演習を行い、適宜解説を加える。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	確認テスト	70%	到達目標である使える知識の理解度を評価する。
	出席状況	30%	授業を積極的に受けているかを評価する。
教科書:	特に指定はしない。必要に応じてプリントを配布する。		
参考書:	ビジュアル薬剤師実務シリーズ上・下巻 上村直樹監修 羊土社 今日の治療薬2017年版解説と便覧 浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集 南江堂 薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選600 日本薬学会編 じほう。 その他、これまでに使用した関連する教科書		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力		
教員との連絡 方法:	各教員ごとに対応する		

授業テーマ:	応用薬学実践のための技能・態度を身に付ける(1)		
授業の概要:	実務実習事前学習IBは、実務実習事前学習IAで学習した薬学の基礎知識をさらに発展させ、応用実践に向けての薬学的スキルを磨くものであり、病院実務実習・薬局実務実習に先立ち、大学内で調剤、服薬説明、疑義照会などさまざまな薬剤師業務に必要な項目についての基本的技能・態度を習得することを目標とする。また、薬学の基礎知識を実践の場で応用展開するためのさまざまな方法論を学習し、自己解決能力を育むことを目的とする。具体的には、臨床現場で遭遇する様々な病態を理解し、それらの症例や処方解析を題材として適切な薬物治療を施すための薬学的方法論を学習し、薬物の治療効果や副作用を診断するためのスキルを身に付ける。		
到達目標:	1. 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活動をする臨床現場で必要な心構えと薬学管理の基本的な流れを把握する 2. 処方せんに基づく調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的な調剤業務を修得する 3. 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、てきせつに患者情報を収集したうえで、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・評価できる能力を修得する 4. 医療機関や地域で、他職種が県警・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における他職種のやくわりと意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案ができる 5. 地域での保険、医療、福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリーケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解する		
授業方法:	具体的には、臨床現場で遭遇する様々な病態を理解し、それらの症例や処方解析を題材として適切な薬物治療を施すための薬学的方法論を学習し、薬物の治療効果や副作用を診断するためのスキルを身に付ける。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 医薬品の創製と応用(2) 担当:白井隆一 有機化学②: 医薬品製造学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	2. 生命物理分野での医薬品と応用(2) 担当:根木 滋 物理化学②: 物理化学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	3. 生化学の基礎と応用(1) 担当:和田戈虹 生化学①: 生化学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	4. 微生物学の基礎と応用 担当:川崎 清史 微生物学:微生物学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	5. 薬物動態学 担当: 伊賀勝美 薬物動態学:薬剤学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	6. 環境衛生学・食品衛生学 担当: 木津良一 環境衛生学と食品衛生学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	7. 到達度確認テスト① 担当:芝田信人	第1週目～第6週目の内容について到達度の確認を行う。	
	8. 腎臓・泌尿器系疾患 担当: 松元加奈 呼吸器系疾患の病態生理、薬物治療副作用の確認、症例解析および処方解析 S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	9. 血液・造血器疾患 担当:松元加奈 呼吸器系疾患の病態生理、薬物治療副作用の確認、症例解析および処方解析 S101～S107、S201～S211、S301～S306	1週目から8週目の配布資料を学習すること	
	10. 内分泌・代謝疾患 担当: 中西弘和 内分泌・代謝疾患の病態生理、薬物治療副作用の確認、症例解析および処方解析 S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	11. 一般医薬品の相談販売(1) 担当:吉岡ゆうこ 一般医薬品の分類と薬局者対応のためのコミュニケーション S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	12. 一般医薬品の相談販売(2) 担当:吉岡ゆうこ 一般医薬品の相談販売 S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	13. 一般医薬品の相談販売(3) 担当:吉岡ゆうこ セルフメディケーション支援のためのスキル S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	14. 薬局管理 担当: 光岡千賀子 薬局経営および関連する薬剤師の行方について理解する S101～S107、S201～S211、S301～S306	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと	
	15. 到達度確認テスト② 10週から14週までの学力の到達度を確認するテストを行う	1週目から14週目までの内容について到達度の確認を行う。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	到達度確認テスト①はCBT形式の問題を巣津題する。到達度確認テスト②は記述式の問題を出題する。到達度確認テスト(70%)、出席状況(30%)とを点数化して評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはしない。		
フィードバックの方法:	講義:配布プリント、Power Point映写、適宜教科書を用いて進める。演習:主として小テストによりCBT形式の演習を行い、適宜解説を加える。		

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	到達度確認テスト	70%	到達度確認テスト(70%)、出席状況(30%)とを点数化して評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはしない。
	出席状況	30%	
教科書:	特に指定はしないが、これまでに使用した教科書や参考書等を持参すること。プリントを配布する。		
参考書:	これまでに使用した関連する教科書 ビジュアル薬剤師実務シリーズ上下 上村直樹監修 羊土社 今日の治療薬2012年版解説と便覧 浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集 南江堂 薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選600 日本薬学会編 じほう。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	質問等は科目代表教員(芝田信人)のメルアドまで。 nshibata@dw.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

応用薬学を実践できる薬剤師としてはばたくために～応用編～

授業の概要:

病院実務実習・薬局実務実習に先立って、すでに修得してきた基礎系科目ならびに実務・臨床系科目の内容を応用しつつ、調剤、製剤、服薬指導、セルフメディケーション、フィジカルアセスメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度の各項目に関連する講義・演習事項を修得する。

到達目標:

1. 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活動をする臨床現場で必要な心構えと薬学管理の基本的な流れを把握する
2. 処方せんに基づく調剤業務をあんぜんで適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的な調剤業務を修得する
3. 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、てきせつに患者情報を収集したうえで、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・評価できる能力を修得する
4. 医療機関や地域で、他職種が県警・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における他職種のやくわりと意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案ができる
5. 地域での保険、医療、福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリーケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解する

授業方法:

講義:配布プリント、Power Point映写、適宜、これまでの講義に使用した教科書を用いて進める。
演習:主としてTBL(team-based learning)の手法を取り入れ、少人数グループ制で実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	治療薬物血中濃度測定(TDM)(1)(2)担当: 森田邦彦 血中薬物濃度の測定手順と投与設計 S101～S107、S201～S211、S301～S306	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	2. 感覚器用剤(1)(2)担当: 森田邦彦 感覚器用剤に関連する疾病の理解と処方解析の考え方を理解する S101～S107、S201～S211、S301～S306	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	3. 医薬品配合変化(1)(2)担当: 成橋和正 調剤や注射調製時に注意すべき配合変化を理解し、対処法を理解する S101～S107、S201～S211、S301～S306	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	4. 妊婦授乳婦における薬物療法(1)(2)担当: 阿南節子・西村亜佐子 妊婦・授乳婦における薬物治療と処方解析の考え方を理解する S101～S107、S201～S211、S301～S306	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	5. 臨床検査値の読み方(3)(4)担当: 高橋 玲 臨床検査値の読み方を理解して患者の病状を把握し、医薬品投与設計に役立てるスキルを磨く S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	6. フィジカルアセスメント(3)(4)担当: 村上元庸 フィジカルアセスメント:薬剤師のためのフィジカルアセスメント活用法の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	7. 緩和ケア(1)(2)担当: 中西弘和 ガン化学療法時や末期ガン医療における疼痛管理のスキルを磨く S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	8. 在宅医療①② 担当: 光岡千賀子 在宅における薬物治療管理を理解する S101～S107、S201～S211、S301～S306、S601～S606	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	9. 医薬品の分析と応用(1)担当: 山内雄二 分析化学①: 医薬品製造学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	10. 物理薬剤学の理解と演習 担当: 芝田信人	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
物理薬剤		
11.	学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	
	薬理学② 担当: 漆谷徹郎 薬理学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	12. 製剤学の理解と演習 担当: 芝田信人	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
臨床製剤		
13.	学に関する基礎事項の理解と演習 S101～S107、S201～S211、S301～S306	
	到達度確認テスト① 担当: 芝田信人	これまでの講義内容や配布したプリントより出題される
	14. 糖尿病患者における薬物療法(1)(2)担当: 中西弘和 糖尿病の病態の理解と処方解析の考え方を理解する S101～S107、S201～S211、S301～S306	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
	15. 到達度確認テスト② 担当: 芝田信人	これまでの講義内容や配布したプリントより出題される

受講者への メッセージや アドバイス:	到達度確認テスト①はCBT形式の問題を巢津題する。到達度確認テスト②は記述式の問題を出題する。到達度確認テスト(70%)、出席状況(30%)とを点数化して評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはしない。		
フィードバックの 方法:	講義:配布プリント、Power Point映写、適宜教科書を用いて進める。演習:主として小テストによりCBT形式の演習を行い、適宜解説を加える。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	到達度確認テスト(中間)	35%	確認テストは五者選択式あるいは記述式の問題とする。確認テスト(中間、期末合わせて70%)、出席状況(30%)とを点数化して評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはしない。
	到達度確認テスト(期末)	35%	確認テストは五者選択式あるいは記述式の問題とする。確認テスト(中間、期末合わせて70%)、出席状況(30%)とを点数化して評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはしない。
	出席状況	30%	確認テストは五者選択式あるいは記述式の問題とする。確認テスト(中間、期末合わせて70%)、出席状況(30%)とを点数化して評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはしない。 以上の評価により不合格となった場合には、レポート課題をを課す
教科書:	特には指定しない。必要時にはプリントを配布する		
参考書:	ビジュアル薬剤師実務シリーズ上/下 上村直樹監修 羊土社。 今日の治療薬2012年版解説と便覧 浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集 南江堂。 薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選600 日本薬学会編 じほう これまでに使用した関連する教科書		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	質問等がある場合は科目代表(芝田信人)のメルアドまで。 nshibata@dw.doshisha.ac.jp		

授業テーマ：臨床薬学と臨床医学の統合

授業の概要：疾患の特徴、薬物治療について正しい知識と対処法を身につける。

到達目標：疾患の特徴、薬物治療について正しい知識と対処法を身につける。

授業方法：講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 臨床医学（村上） C-14	関連基礎分野の予習
	2. 消化器疾患（村上） C-14、(2)(3)	関連基礎分野の予習
	3. 骨粗鬆症（村上） C-14(1)(3)(4)	関連基礎分野の予習
	4. 認知機能障害（村上） C-14（3）	関連基礎分野の予習
	5. 悪性腫瘍の遺伝子診断と治療（高橋） C-14(5)	関連基礎分野の予習
	6. 現在の再興・新興感染症の現状（1）（高橋） C-14(5)	関連基礎分野の予習
	7. 現在の再興・新興感染症の現状（2）（高橋） C-14（5）	関連基礎分野の予習
	8. 薬学分野によける地域医療の展望（ゲストスピーカー）	関連基礎分野の予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法：レポート

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	100	講義内容の理解度により評価する

教科書：指定なし

参考書：授業で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法：授業の前後に教室内で対応

719500

薬剤管理指導特論

中西弘和、阿南節子

授業テーマ:

薬剤師が関わる薬剤管理指導の重要性を理解し、様々な疾患における薬剤管理指導の実際を学ぶ。

授業の概要:

医療現場で薬剤師が遭遇する重要な疾患群(循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病、悪性腫瘍など)について、病態・診断・治療を理解する。また、近年、特に薬剤師の役割が注目されている輸液管理・集中治療室の薬剤管理の概要についても学ぶ。薬物療法については、安全で有効な薬物療法に対する薬剤師の役割の重要性を理解する。

到達目標:

医療安全、医療の質の向上の観点から、チーム医療において薬剤師が主体的に薬物治療に関わることが必要とされている。さらに薬剤管理指導では、薬剤師が個々の患者に対し適正で安全な薬物治療を実施することが必要である。この授業では、実臨床における薬剤管理指導業務を行うための実践力の修得を目指す。

授業方法:

講義形式、演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容

準備学習等の内容

1. 循環器疾患(高血圧、高脂血症)の薬剤管理指導

示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。

2. 呼吸器疾患(喘息、COPD)の薬剤管理指導

示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。

3. 糖尿病の薬剤管理指導

示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。

4. 悪性腫瘍の薬剤管理指導

示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。

5. 輸液管理・栄養管理が必要な患者に対する薬剤管理指導

示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。

6. 心疾患患者に対する薬剤管理指導

示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。

7. 集中治療室の患者に対する薬剤管理指導

示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。

8. まとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室内でまとめて解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法

割合

評価基準

出席および授業に対する態度

40%

レポートおよび確認テスト

60%

到達目標に対する理解度で評価

教科書:

今日の治療薬(南江堂)または治療薬マニュアル(医学書院)(できるだけ最新版)

参考書:

病気がみえる(メディックメディア)
アプライドセラピューティックス(じほう)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

719600

臨床栄養学特論

杉浦 伸一

授業テーマ：臨床栄養とチーム医療

授業の概要：栄養療法は主疾患の治療の補助療法であるとともに疾病の原因ともなる。特に高齢者の低栄養は骨折や誤嚥性肺炎の原因となっており医療費を圧迫する原因でもある。本講義では、臨床栄養の基礎から臨床応用までを学ぶとともにNST (Nutrition Support team)などのチーム医療についても学ぶ

到達目標：臨床栄養における栄養素の代謝を学ぶことで簡単な処方設計ができることを目標とする

授業方法：講義の理解を助けるためのパワーポイントを使用。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 基礎栄養学理論1	水分電解質代謝
	2. 基礎栄養学理論2	静脈栄養の理論
	3. 基礎栄養学理論3	高カロリー輸液の理論と実際
	4. 基礎栄養学理論4	経腸栄養療法の理論と実際 (糖質・脂質・タンパク質のバランス)
	5. 臨床栄養学理論1	病態別栄養療法の実例(肝臓疾患・腎臓疾患・がんなど)
	6. 臨床栄養学理論2	肥満と治療
	7. チーム医療の実例1	外部講師(医師または薬剤師)による実例的な栄養療法の講義
	8. チーム医療の実例2	外部講師(医師または薬剤師)による実例的な栄養療法の講義
	受講者へのメッセージやアドバイス:	外部講師との日程調整により授業内容が前後する場合があります。1回目の講義で詳細を伝える。
フィードバックの方法:	小テストの解説により講義内容をフィードバックする	

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席・態度	60	講義に対する積極性を評価 得点
	小テスト	40	

教科書：特になし

参考書：症例から学ぶ輸液療法(じほう)
輸液療法のポイント(ジェフコーポレーション)
輸液処方実践問題集(じほう)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、自己評価力

教員との連絡方法：ssugiura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

薬学専門知識の統合的理解

授業の概要:

多様な職域・業務環境における薬剤師業務の観点からこれまでの学習内容を統合的に再編成して、薬学専門領域の重要事項を学習する。薬学部の全教員が分担して全体で 120 コマの演習を行なう。これを 15 回に分けて記しているの、1 回は 8 コマ分の内容を含んでいる。なお、記載の講義順は暫定的であり、実際には担当教員のスケジュールに合わせて配分するので、実際の順番とは異なる。120 コマのうち 4 コマを使って平常試験を 2 回行なう。

到達目標:

講義科目と実習科目を通して学習し身につけてきた知識、技能および態度を基礎とし、更に問題解決能力や応用力を高め、薬学専門知識の統合的理解を目的とする。

授業方法:

必要に応じて補助教材(プリントなど)用い、板書またはパワーポイントにより講義・演習を行う。授業の一定進行ごとに平常試験を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	・物質の物理的性質 — A 物質の構造、B 物質の状態、C 物質の変化	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
	・化学物質の分析 — A 化学平衡、B 化学物質の訂正と定量、C 分析技術の臨床応用	
	2.	
	・生体分子の構造 — A 生体分子の解析法、B 生体分子の立体構造と相互作用	
	・化学物質の性質と反応 — A 化学物質の基本的性質、B 有機化合物の骨格、C 官能基、D 化学物質の構造決定	
	3.	
	・ターゲット分子の合成 — A 官能基の導入・変換、B 複雑な化合物の合成	
	・生体分子・医薬品の化学 — A 生体分子のコアとパーツ、B 医薬品のコアとパーツ	
	4.	
	・天然物由来薬物 — A 薬になる動植物、B 薬の宝庫としての天然物	
	・医薬品の開発と生産 — A リード化合物の創製と最適化	
	5.	
	・生命体の成り立ち — A 器官の構造と機能、B 細胞の構造と機能、C 生体の機能調節、D 生命体の誕生、E 微生物・ウイルス	
	6.	
	・分子レベルの生命理解 — A 細胞を構成する分子、B 遺伝子、C タンパク質、D 生体エネルギー代謝、E 生理活性分子とシグナル分子、F 遺伝子操作・遺伝子工学、G 免疫・生体防御	
	・感染症と生体防御 — A 免疫系の破綻と制御、B 感染症	
7.	・健康 — A 栄養と健康、B 社会・集団と健康、C 疾病の予防	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
	・環境 — A 化学物質の生体への影響、B 生活環境と健康	
	8.	
	・薬物の効き方(1) — A 薬の作用機序、B 自律神経に作用する薬、C 知覚神経・運動神経系に作用する薬、D 中枢神経系に作用する薬、E 循環器系に作用する薬、F 腎に作用する薬	
	9.	
	・薬物の効き方(2) — H 消化器系に作用する薬、I ホルモンと薬、J 代謝系に作用する薬、K 血液・造血系に作用する薬、L 炎症・アレルギーと薬、M 感染症と薬	
	・平常試験(1)	
	10.	
	・薬物の体内動態 — A 薬の作用と生体内運命、B 体内動態の変動要因、C 薬物動態の解析	
	・製剤 — A 製剤材料の性質、B 製剤化、C DDS	
	11.	
	・薬物治療 — A 体の変化、B 疾患と薬物治療、C 病原微生物・悪性新生物	
	・薬物治療に役立つ情報 — A 医薬品情報、B 館じゃ情報、C テーラーメイド薬物治療	
	12.	
	・薬学と社会 — A 薬剤師を取り巻く法律と制度、B 薬害と副作用被害、C 社会保険制度と薬剤経済、D 地域薬局	
	・医薬品の開発と生産 — A 医薬品開発、B 治験	
13.	・ヒューマニズム — A 生と死、B 医療の担い手としてのこころ構え、C 対人業務	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
	・薬剤師業務 — A 薬剤師業務の基礎、B 処方せん、C 疑義照会、D 調剤、E 医薬品の管理と供給、F リスクマネジメント、G 服薬指導と患者情報、H 現代医療の中の生薬・漢方薬	
	14.	
	・病院業務 — A 病院における調剤、B 医薬品管理、C 情報の取扱い、D 病等業務	
	15.	
	・薬局業務 — A 薬局で取り扱う医薬品等と管理、B 薬局における調剤、C 薬局対面業務、D 地域における業務	
	・平常試験(2)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

この演習は薬剤師国家試験出題範囲を網羅する形で行われるが、出題が予想されるすべての内容を扱うことは時間的に不可能である。演習問題はあくまでも例示であるので、それから発展させる形で関係する領域を深く自己学習することが求められる

フィードバックの方法:

講義での演習問題については、講義中、或は終了後に、正答と解説が提示される。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常試験	100	平常試験の成績で評価する。ただし、履修者数及び授業の進行状況により、受講者と相談の上で成績評価基準を変更する場合がある。

教科書： これまでの授業で使用してきた教科書を使用する。必要に応じてプリントを配布する。

参考書： これまでの授業で使用してきた教科書を使用する。必要に応じてプリントを配布する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡
方法： オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールの利用、授業の前後に教室内で応対、等。

授業テーマ:	薬学専門知識の統合的理解
授業の概要:	多様な職域・業務環境における薬剤師業務の観点からこれまでの学習内容を統合的に再編成して、薬学専門領域の重要事項を学習する。薬学部全教員が分担して全体で120コマの演習を行なう。これを15回に分けて記しているのので、1回は8コマ分の内容を含んでいる。なお、記載の講義順は暫定的であり、実際には担当教員のスケジュールに合わせて配分するので、実際の順番とは異なる。120コマのうち4コマを使って平常試験を2回行なう。
到達目標:	講義科目と実習科目を通して学習し身につけてきた知識、技能および態度を基礎とし、更に問題解決能力や応用力を高め、薬学専門知識の統合的理解を目的とする。
授業方法:	必要に応じて補助教材(プリントなど)用い、板書またはパワーポイントにより講義・演習を行う。授業の一定進行ごとに平常試験を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:		授業内容	準備学習等の内容
1.	・物質の物理的性質 — A 物質の構造、B 物質の状態、C 物質の変化 ・化学物質の分析 — A 化学平衡、B 化学物質の訂正と定量、C 分析技術の臨床応用		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
2.	・生体分子の構造 — A 生体分子の解析法、B 生体分子の立体構造と相互作用 ・化学物質の性質と反応 — A 化学物質の基本的性質、B 有機化合物の骨格、C 官能基、D 化学物質の構造決定		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
3.	・ターゲット分子の合成 — A 官能基の導入・変換、B 複雑な化合物の合成 ・生体分子・医薬品の化学 — A 生体分子のコアとパーツ、B 医薬品のコアとパーツ		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
4.	・天然物由来薬物 — A 薬になる動植物、B 薬の宝庫としての天然物 ・医薬品の開発と生産 — A リード化合物の創製と最適化		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
5.	・生命体の成り立ち — A 器官の構造と機能、B 細胞の構造と機能、C 生体の機能調節、D 生命体の誕生、E 微生物・ウイルス		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
6.	・分子レベルの生命理解 — A 細胞を構成する分子、B 遺伝子、C タンパク質、D 生体エネルギー代謝、E 生理活性分子とシグナル分子、F 遺伝子操作・遺伝子工学、G 免疫・生体防御 ・感染症と生体防御 — A 免疫系の破綻と制御、B 感染症		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
7.	・健康 — A 栄養と健康、B 社会・集団と健康、C 疾病の予防 ・環境 — A 化学物質の生体への影響、B 生活環境と健康		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
8.	・薬物の効き方(1) — A 薬の作用機序、B 自律神経に作用する薬、C 知覚神経・運動神経系に作用する薬、D 中枢神経系に作用する薬、E 循環器系に作用する薬、F 腎に作用する薬		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
9.	・薬物の効き方(2) — H 消化器系に作用する薬、I ホルモンと薬、J 代謝系に作用する薬、K 血液・造血系に作用する薬、L 炎症・アレルギーと薬、M 感染症と薬 ・平常試験(1)		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。 平常試験(1)
10.	・薬物の体内動態 — A 薬の作用と生体内運命、B 体内動態の変動要因、C 薬物動態の解析 ・製剤 — A 製剤材料の性質、B 製剤化、C DDS		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
11.	・薬物治療 — A 体の変化、B 疾患と薬物治療、C 病原微生物・悪性新生物 ・薬物治療に役立つ情報 — A 医薬品情報、B 患者情報、C テーラーメイド薬物治療		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
12.	・薬学と社会 — A 薬剤師を取り巻く法律と制度、B 薬害と副作用被害、C 社会保険制度と薬剤経済、D 地域薬局 ・医薬品の開発と生産 — A 医薬品開発、B 治験		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
13.	・ヒューマニズム — A 生と死、B 医療の担い手としてのこころ構え、C 対人業務 ・薬剤師業務 — A 薬剤師業務の基礎、B 処方せん、C 疑義照会、D 調剤、E 医薬品の管理と供給、F リスクマネジメント、G 服薬指導と患者情報、H 現代医療の中の生薬・漢方薬		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
14.	・病院業務 — A 病院における調剤、B 医薬品管理、C 情報の取扱い、D 病等業務		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
15.	・薬局業務 — A 薬局で取り扱う医薬品等と管理、B 薬局における調剤、C 薬局対面業務、D 地域における業務 ・平常試験(2)		各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。 平常試験(2)

受講者へのメッセージやアドバイス：この演習は薬剤師国家試験出題範囲を網羅する形で行われるが、出題が予想されるすべての内容を扱うことは時間的に不可能である。演習問題はあくまでも例示であるので、それから発展させる形で関係する領域を深く自己学習することが求められる。

フィードバックの方法: 講義での演習問題については、講義中、或は終了後に、正答と解説が提示される。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常試験	80	平常試験の成績に出席状況を加味して評価する。ただし、履修者数及び授業の進行状況により、受講者と相談の上で成績評価基準を変更する場合がある。
	出席	20	
教科書:	これまでの授業で使用してきた教科書を使用する。必要に応じてプリントを配布する。		
参考書:	これまでの授業で使用してきた教科書を使用する。必要に応じてプリントを配布する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメールの利用、授業の前後に教室内で対応、等。		

授業テーマ:	製薬企業および医薬品規制機関での業務に薬学の専門知識がどのように活かされているか	
授業の概要:	製薬企業においては、厚生労働省から医薬品の製造販売承認を得るために必要な資料の収集や作成、これらの資料に基づく承認申請書の作成、作成された資料のPMDAへの申請などが重要な薬事業務であり、製造販売が承認されてはじめて医薬品を製造し販売することができる。医薬品の製造業務においては、製造工程管理や品質管理がGMPやGQPを遵守して行われる。また、販売した医薬品については、GVPIに従い市販後の安全性を確保していく必要があり、必要に応じて、GPSPIに従って製造販売後の調査・試験が実施される。このように、製薬企業では多種多様な業務が展開されており、皇漢堂では一般用医薬品について薬学部で学ぶ専門知識が製薬企業の活動に必須のものであることを受講生に学ばせる。一方、医薬品の製造工程管理や品質管理は医薬品の有効性と安全性を保証するために極めて重要であり、その管理は国内外において厳しく規制されている。これらの管理において必須となる標準物質は日本薬局方に規定され、公的に製造・頒布されており、日本においてはRS財団が厚生労働省の監督下でこの業務を担っている。このような医薬品規制に関わる業務も薬学を修めた者が担う重要なものであり、RS財団での標準物質の製造・頒布業務の体験を通して医薬品規制への関与・寄与の一端を学ばせる。	
到達目標:	本インターンシップでは、製薬企業として皇漢堂製薬株式会社(皇漢堂)および医薬品規制機関として一般財団法人 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 大阪事業所(RS財団)のいずれかにおける体験実習を通して、製薬企業や医薬品規制機関での多様な業務の一端を実際を体験することを目的とする。	
授業方法:	(1)キャリア支援部及び医療薬学科による事前指導、(2)皇漢堂製薬(株)、(一財)医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団大阪事業所での体験実習、(3)医療薬学科での実習報告および事後指導	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. キャリア支援部による講習1(事前指導)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	2. キャリア支援部による講習2(事前指導)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	3. 医療薬学科による事前指導	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	4. オリエンテーション(皇漢堂) オリエンテーション(RS財団)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	5. 薬事部実習(皇漢堂) 標準物質と計量標準並びに日本薬局方標準品に関する講義(RS財団)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	6. 品質保証部実習(皇漢堂) 化学薬品標準品の品質評価実習(確認試験)(RS財団)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	7. 製剤学予備実習(皇漢堂) 化学薬品標準品の品質評価実習(確認試験)(RS財団)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	8. 錠剤試製実習(皇漢堂) 化学薬品標準品の品質評価実習(定量試験)(RS財団)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	9. 製剤試験実習(溶出試験等)(皇漢堂) 化学薬品標準品の品質評価実習(定量試験)(RS財団)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	10. 製剤試験実習(製剤均一試験、定量試験等)(皇漢堂) 生物薬品標準品の品質評価実習(RS財団)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	11. 製造販売承認申請書作成実習(皇漢堂) 生物薬品標準品の品質評価実習(RS財団)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
	12. 品質管理部実習(皇漢堂) 日本薬局方標準品最終製品の製造実習(RS財団)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。

13.
生産工場見学(皇漢堂)
実習のまとめとプレゼンテーション(RS財団)

製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造
工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、お
よび医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質
評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連
する各種専門用語の意味を理解する。
14.
医療薬学科による事後指導

製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造
工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、お
よび医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質
評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連
する各種専門用語の意味を理解する。
15.
体験実習報告会(医療薬学科)

製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造
工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、お
よび医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質
評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連
する各種専門用語の意味を理解する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

実習報告会

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前指導・体験実習・実 習報告会への出席	30	60%で合格とする
実習先指導者の評価	60	
実習報告会の評価	10	

教科書: なし

参考書: なし

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡
方法:

訪問

阿南 節子、森田 邦彦、中西 弘和、芝田 信人、白井 隆一、杉浦 伸一、富岡 清、
和田 戈虹、成橋 和正、松元 加奈、天ヶ瀬 葉子、榎本 光伯、菅野 陽介、川村 暢
幸、宮脇 あかり、水川 裕美子、西村 亜佐子、山本 康友、安川 淳一朗

授業テーマ:	早期体験(化学実験、生物実験、調剤技術)		
授業の概要:	将来、薬剤師となるべく、薬剤師に関連する多様な側面を体験・経験する。		
到達目標:	調剤の初歩技術を習得し、医療薬学科の学生として学習に対する目的意識を高める。 化学実験・生物実験を通して、科学者としての薬剤師の脂質の礎を築く。 身体の不自由な高齢者の疑似体験を通していつくしみの「心」を磨くとともに、医療人としての精神を養う。 A-(1), (2), (4), B-(1), (4)		
授業方法:	講義、演習、実習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 調剤実習① 手洗いの種類と手洗いの方法を学ぶ。 身の回りの汚染と手洗いの重要性を学ぶ。 (パームスタンプによる手の汚染を測定する)	各自で手洗いの種類とその方法を繰り返し練習する。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	2. 調剤実習② 消毒薬の調製を行う。 消毒薬の効果をパームスタンプにより測定知る。	調製に関する計算が出来るようにする。 調製に用いる器具の名称を覚え、正しい使用方法を身につける。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	3. 調剤実習③ 散薬の秤量、手分包を行う。	天秤を正しく設置し、正しく使用できるようにする。 散薬瓶、スパーテルの正しい持ち方を身につける。 手分包、分包紙の折り方を身につける。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	4. 調剤実習④ 軟膏・クリーム製剤の調製を行う。	調製に用いる器具の名称を覚え、正しい使用方法を身につける。 使用する薬品について調べる。 「薬局製剤」について理解する。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	5. 調剤実習⑤ 坐薬の調製を行う。	調製に用いる器具の名称を覚え、正しい使用方法を身につける。 使用する薬品について調べる。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	6. フィジカルアセスメント 血圧測定を行う。	聴診器、血圧計を正しく使用し、血圧測定が出来るようにする。 「フィジカルアセスメント」について理解する。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	7. Automated External Defibrillator (AED) の使用を体験する。	AEDが何であるかを理解する。 AEDがどのような場面で使用されるのかを理解する。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	8. 高齢者体験する。	高齢者をはじめ、体の不自由な人の疑似体験をし、健常者との違いを理解する。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	9. 化学実験① メチルオレンジを合成する。	有機化学合成の基礎的な実験を行う。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	10. 化学実験② Fischer法によるエステル合成によりフルーツの香りを作る。	有機化学合成の基礎的な実験を行う。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	11. 生化学実験 動物解剖実習を行う。	マウスを用いほ乳類の基本的な臓器、器官の位置や名称を理解する。 実習前にテキストの各臓器の空欄を埋めてくる。 実習後、レポートを作成し理解を深める。	
	12. Problem Based Learning (PBL) -1-	シナリオから、問題点を抽出し、書籍、インターネット等を用いて、問題点の解決策を見いだす。 グループでのディスカッションを行う。	
	13. Problem Based Learning (PBL) -2-	プレゼンテーションマテリアルを作成する。	
	14. Problem Based Learning (PBL) -3-	プレゼンテーションマテリアルを作成する。	
	15. Problem Based Learning (PBL) -4-	プレゼンテーションを行う。質疑応答、を行う。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	将来、薬剤師になる上で、医療に関連する多くのことを体験します。 この経験が後の講義・実習での礎となり、将来の自分の薬剤師像を膨らませます。		
フィードバックの方法:	教員が、随時、質問を受け付け、適時、アドバイスを行う。		

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	30	出席状況ならびに各回の積極的取り組み状況
	レポート	30	レポートの提出状況ならびにレポートの内容
	確認テスト	40	確認テストの成績
教科書:	本学オリジナルテキスト(開講時に配布します)		

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	メール knaruhas@dwc.doshisha.ac.jp (成橋)

授業テーマ：	早期体験(薬剤師の臨床)		
授業の概要：	将来、薬剤師となるべく、薬剤師に関連する多様な側面を体験・経験する。		
到達目標：	患者や医療スタッフと良好なコミュニケーションをとるための基本技能である「接遇」や「マナー」を習得する。 実際の医療現場を見学し、薬剤師の使命・役割を理解する。 薬害の実態を薬害被害者の話を聞くことで理解し、医療人としての薬剤師の姿勢を考える。 A-(1), (2), (3), (4), (5), B-(1), (4), F-(1)①, ②, ③, F-(4), (5)		
授業方法：	講義、演習、見学		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」：	授業内容	準備学習等の内容	
	1. コミュニケーション・マナー講座 (1)	あいさつ等における一般的なマナーや、相手の気持ちを考 えた接遇について考え、日常で実践する。 演習後、レポート作成。	
	2. コミュニケーション・マナー講座 (2)	ビジネスシーンにおけるマナーや、コミュニケーションについ て考える。 演習後、レポート作成。	
	3. コミュニケーション・マナー講座 (3)	医療現場における患者への接遇について考える。 演習後、レポート作成。	
	4. コミュニケーション・マナー講座 (4)	医療現場における医療スタッフとのコミュニケーションのあり 方について考える。 演習後、レポート作成。	
	5. 病院見学 病院薬剤師の業務を見学。	病院薬剤師の業務を理解する。 見学後、感想文の作成。	
	6. 薬局見学 薬局薬剤師の業務を見学。	薬局薬剤師の業務を理解する。 見学後、感想文の作成。	
	7. 病院・薬局見学の成果プレゼンテーションマテリアル の作成 (1)	病院・薬局見学に基づき、その成果をグループごとにポス ター形式で作成する。(1)	
	8. 病院・薬局見学の成果プレゼンテーションマテリアル の作成 (2)	病院・薬局見学に基づき、その成果をグループごとにポス ター形式で作成する。(2)	
	9. 病院・薬局見学の成果プレゼンテーションマテリアル の作成 (3)	病院・薬局見学に基づき、その成果をグループごとにポス ター形式で作成する。(3)	
	10. 病院見学の成果プレゼンテーション	プレゼンテーションを行い、ディスカッション、質疑応答	
	11. 薬局見学の成果プレゼンテーション	プレゼンテーションを行い、ディスカッション、質疑応答	
	12. フィジカルアセスメント	血圧計を正しく使えるようにする。 各自で血圧測定の練習をする。 血圧の値の高低について理解する。	
	13. 日本の薬剤師の活躍を知る。	日本における薬剤師の病院薬局・調剤薬局での役割や医療 における位置づけや役割を理解する。 レポートを作成し理解を深める。	
	14. 海外の薬剤師の活躍を知る。	世界各国における薬剤師の役割や医療における位置づけ や役割を理解する。 レポートを作成し理解を深める。	
	15. 薬害被害者から薬害の実態をお話いただく	薬害について事前に調べる。 話を聞き、感想文を作成する。	
受講者への メッセージや アドバイス：	将来、薬剤師になる上で、医療に関連する多くのことを体験します。 この経験が後の講義・実習での礎となり、将来の自分の薬剤師像を膨らませます。		
フィードバックの 方法：	教員が、随時、質問を受け付け、適時、アドバイスをを行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	出席状況ならびに各回の積極的取り組み状況
	レポート	30	レポートの提出状況ならびにレポートの内容
	確認テスト	40	確認テストの成績
教科書：	キャリアデザインワークプロフェッショナル社会人 コミュニケーション・マナー編(ホルス出版) 稲本 恵子(著), 白井 弘子(著), 中村 真典(著)		
参考書：			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理 力、自己実現力		
教員との連絡 方法：	メール knaruhas@dw.doshisha.ac.jp (成橋)		

授業テーマ: 医療人としての薬剤師の役割・在り方を知る

授業の概要：

1. 薬学の専門家として必要な基本姿勢を身に着けるために、医療社会における薬学の役割、薬剤師の使命を知り、どのように薬学が発展してきたかを理解する。
2. 生命の尊さを認識し、人の誕生から死ぬまでの間に起こりうる様々な問題を通して医療における倫理の重要性を学ぶ。
3. 常に社会に目を向け、生涯にわたって医療を通して社会に貢献できるようになるために必要な心構えを身に着ける。
4. 医療の担い手の一員である薬学専門家として、患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するための基本的知識、技能、態度を学ぶ。

到達目標：

1. 医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、やぐがいょうしに置ける役割を理解し、薬剤師としての使命感を身に付ける
2. 倫理的問題に対して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身に付け、医療の担い手としての感性を養う
3. 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ網力を身に付ける
4. 医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身に付ける
5. 生涯にわたって水から学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承するイオクと行動力を身に付ける。

授業方法： 各項目はパワーポイント、教科者、板書、配布する講義テキストで要点を解説する。講義内容に関連する小テストを数回行う。また、授業内容に関連する課題について数回のレポート提出を課す。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬学部で学ぶべきこと 薬学の使命、6年制薬学教育 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
2.	薬剤師の歴史と使命 薬剤師の誕生・成長・現在・未 来の薬剤師 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
3.	日・米・独の薬剤師 日本の薬剤師、アメリカの薬剤 師、ドイツの薬剤師の比較 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
4.	薬が作用する仕組み くすり、痛み、病気から薬学つ ていうものを考える A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
5.	医薬品の開発 医薬品の設計、研究開発、臨床試 験、承認申請までの過程、および研究倫理を考える A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
6.	医療人としての心構え 医療の目的、命の尊厳、先進 医療と倫理、薬剤師の医療の中での役割 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
7.	医療行為に関わる心構え 医のこころ、薬剤師に とっての臨床とは A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
8.	薬剤師の活動分野 社会の薬剤師に対する期待、 病院・薬局薬剤師、在宅医療、学校薬剤師、セルフメ ディケーション A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
9.	臨床コミュニケーション(1) 自己のコミュニケーシ ョン能力の理解と認識 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
10.	臨床コミュニケーション(2) 患者の心理の理解、家族 心理の理解、臨床コミュニケーションの実際 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
11.	PBL 小グループに分かれて薬剤師の態度に関する テーマについて討議し、発表を行う。テーマについて は第10講が終了したときに通知する。 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
12.	将来の薬剤師像を描く(1) あなたは将来どのような薬 剤師になりますか 医療における暗黙知(文字に表し難い知識)を形式 知(サイエンス)と結合するための情報を提供すること により、自然科学を学んだ唯一の医療人である薬 剤師という職業の面白さを例示する。 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。
13.	将来の薬剤師像を描く(2) 薬剤師に必要な知識・技 術・態度とは 薬剤師に必要な知識がどのような情報から成り立ってい るのか、また、それを実践する技術とは何か、さらに その技術を実践する態度について事例をあげて解 説する。 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒュー マニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟 読すること。

14. チーム医療の実践 チーム医療とチーム医療にかかわるためのスキル
A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)
B-(1)、(2)、(3)、(4)
15. まとめ
1～14回までのすべての範囲についての学力を確認する
- 教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒューマニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟読すること。
- 教科書に指定した、薬学生のための基礎シリーズ1 ヒューマニズム薬学入門、笠原 忠・越前宏俊 共編(培風館)を熟読すること。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

小テスト(20%)、レポート(20%)、期末試験(60%)でもって評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合、期末試験や小テストのみでたとえ60%以上であっても合格としない。中間試験は実施しない。期末試験の再試験は実施しないが、不合格の場合、課題レポートの提出を課す。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	60%	出席および小テスト(20%)、レポート(20%)、期末試験(60%)でもって評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合、期末試験や小テストのみでたとえ60%以上であっても合格としない
出席および小テスト	20%	
レポート	20%	

上記評価基準により不合格の場合は、さらに課題レポートの提出を課す

教科書:

スタンダード薬学シリーズII1 薬学総論、日本薬学会編(東京化学同人)
薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選600、日本薬学会、じほう

参考書:

薬学教育改訂モデル・コアカリキュラム(配布する)
海外の薬剤師を訪ねて、岡部 進著(新興医学出版)
人間の尊厳と科学 山本邦夫著(京都廣川書店)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

講義に関する質問等がある場合は、科目代表者(芝田信人、nshibata@dw.doshisha.ac.jp)まで連絡すること

授業テーマ:	医療倫理の基本を理解する。		
授業の概要:	まず、人の「生」と「死」について考える。グリーフ(悲嘆)の心理とグリーフケアについても理解する。世界的な医療倫理の考え方の変遷を学び、なぜ医療倫理が重要であるのかの経緯を学ぶ。薬剤師の倫理については、新薬開発、実際に日本で起きたいくつかの薬害と生命倫理、生殖医療や遺伝子治療についても理解する。		
到達目標:	生命の誕生、「死」、「インフォームドコンセント」など、医療における様々な状況における倫理的問題を通じ、医療倫理の基本と重要性を理解する。		
授業方法:	講義、その他		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション A(1)	日本薬剤師会 薬剤師倫理規定参照	
	2. 誕生にかかわる生命倫理 A(1)	日本生命倫理学会 HP参照	
	3. 終末期医療と生命倫理 A(2)	日本生命倫理学会 HP参照	
	4. 日本人の死生観と死の看取り 映画鑑賞「おくりびと」 A(2)	日本生命倫理学会 HP参照	
	5. グリーフ(悲嘆)の心理とグリーフケア A(2)	日本生命倫理学会 HP参照	
	6. 医療者―患者関係におけるコミュニケーション A(3)	日本生命倫理学会 HP参照	
	7. 医療倫理の変遷 A(1)A(2)	日本生命倫理学会 HP参照	
	8. 薬剤師倫理規定のながれ A(1)A(2)	日本薬剤師会 薬剤師倫理規定参照	
	9. 患者の権利と生命倫理 A(1)A(2)	世界医師会 リスボン宣言 参照	
	10. 臨床研究の倫理 A(1)A(2)	厚生労働省HP 「治験」参照	
	11. 新薬開発の倫理 A(1)A(2)	厚生労働省HP 「治験」参照	
	12. 薬害と生命倫理 映画鑑賞「典子は今」 A(1)A(2)	厚生労働省「薬害を学ぼう」参照	
	13. 生殖医療と生命倫理 A(1)A(2)	日本生命倫理学会 HP参照	
	14. 遺伝子医療と倫理 A(1)A(2)	日本生命倫理学会 HP参照	
	15. 総括A(1)A(2)	日本生命倫理学会 HP参照	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	50%	医療倫理の基本についての理解度を評価する
	小テスト レポート	50%	
教科書:	特に定めない		
参考書:	必要時配布する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、コミュニケーション力、思いやる力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:

生命科学に関わる物理化学理論の修得.

授業の概要:

物理化学は量子力学、統計力学や熱力学を基にして、自然科学全般に通じる概念や原理の根幹を担っており、単に化学だけでなく、生物学や医療薬学とも密接な関連性を持つ。生命現象を定量的に取り扱うための理論を学ぶ。本講義では巨視的な系の観点から熱力学、溶液論や電解質について、物理化学の基本的な考え方を理解し、生体や薬物等の系に適用できるようにする。また、各項目で必要に応じて、高校物理の内容にも触れる。

到達目標:

物理化学が生体に如何に適用できるかという観点から、物理化学の諸原理について、明確な「イメージ(心像)」を持てるようにする。

授業方法:

講義形式。適宜、板書とプロジェクターを利用。教科書等に準拠したプリントを配布。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論:物理化学における物理量と単位, 数学的表現 – SI単位と組立単位, 微積分, 微分方程式	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
2.	熱力学 1 – 熱力学第1法則 – 熱, 仕事, 状態関数 C1 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
3.	熱力学 2 – 熱力学第2, 第3法則 – Carnot サイクル, エントロピー C1 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
4.	熱力学 3 – Gibbs自由エネルギー – 熱力学関数 C1 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
5.	熱力学 4 – 化学ポテンシャルと化学平衡 C1 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
6.	熱力学 5 – 気体の分子運動とエネルギーの量子化 – van der Waals 状態方程式, Boltzmann分布 C1 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
7.	溶液論 1 – 希薄溶液と束一性 C1 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
8.	溶液論 2 – 分子間相互作用 C1 (1)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
9.	溶液論 3 – 表面状態とコロイド分散系 C1 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
10.	相平衡 1 – 相平衡の熱力学 C1 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
11.	相平衡 2 – 多成分系の状態図 C1 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
12.	電解質溶液 1 – 酸と塩基, 塩 C2 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
13.	電解質溶液 2 – 電気伝導, 電流, Ohmの法則, Debye-H ickel理論 C2 (2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
14.	電気化学と化学電池 C1(2)	講義時に, 設問・課題を課したり, 各章・単元ごとに, 教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し, 復習を強力に推奨。講義時にも, 前回の内容を要約して復習。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

復習を非常に重視しています。教科書の演習問題や国家試験に関連した設問を通して、自主的な学習を勧めています。物理化学理論の理解を深めてほしいと思います

フィードバックの方法:

各章の演習問題の自主学習成果に対して、教員自作の解説・解答を示す。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	中間試験又は、小試験・レポート等で理解度を計り、定期試験で総合的に評価する。

参考書:	「生命科学のための物理化学」(上・下)D.Eisenberg, D.Crothers 著(培風館) 「アトキンスの物理化学」(上・下)P.W. Atkins 著(東京化学同人)
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力
教員との連絡 方法:	オフィスアワー, マナビーの掲示板機能, Eメールの利用, 授業の前後に教室内で対応, 等

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

有機化学の学びを通して『くすりの性質』を正しく理解するための能力を身につける。

問題演習や小テストを交えながら講義を進め、多様な有機化学反応を理解できる学力を身につける。

講義および問題演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	電子構造と結合・酸と塩基 C3(1)(1)～(2)	教科書予習
2.	有機化合物の基礎－命名法、物理的性質、および構造の表示法 C3(1)(1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
3.	アルカン－構造、命名法、熱力学 C3(1)(1)～(2) C3(2)(1)	教科書予習および前回講義の復習
4.	シクロアルカン－構造、命名法・熱力学 C3(1)(1)～(2) C3(2)(1)	教科書予習および前回講義の復習
5.	アルケン－反応性の基礎・熱力学と速度論 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
6.	アルケンの反応－有機電子論 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
7.	アルケンの反応－付加反応1 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
8.	アルケンの反応－付加反応2 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
9.	アルケンの反応－付加反応3 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
10.	立体化学－原子の空間配置、付加反応における立体化学1 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
11.	立体化学－原子の空間配置、付加反応における立体化学2 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
12.	ハロゲン化アルキルの求核置換反応1 C3(1)(1)～(2) C3(3)(1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
13.	ハロゲン化アルキルの求核置換反応2 C3(1)(1)～(2) C3(3)(1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
14.	ハロゲン化アルキルの求核置換反応3 C3(1)(1)～(2) C3(3)(1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
15.	まとめ	前回講義の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義を集中して聴き、その時に理解するよう努める。復習を怠らずわからないまま放置しないようにする。授業動画を最大限に活用する。

フィードバックの方法:

小テスト
課題
授業動画
マナビーでのドリル

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	80%で合格
	平常時試験	10	
	課題提出	10	

教科書:

ブルース有機化学 第7版・上巻(大船泰史・他監訳、化学同人)
ブルース有機化学 第7版・下巻(大船泰史・他監訳、化学同人)

参考書:

ブルース有機化学 第7版・問題の解き方(英語版)(化学同人)
有機化学explorer(竹本佳司・他編、京都廣川書店)
ベーシック薬学教科書シリーズ5 有機化学(夏莉英昭・他編、化学同人)
ブラウン・ブーン 基本有機化学 第3版(池田正澄・他監訳、廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

教授室を訪問

授業テーマ:	生命科学に関わる物理化学理論の修得，生体分子や薬物分子の構造・物性への理解。																																		
授業の概要:	本講義では生命物理化学Ⅰに引き続いて，微視的な系の観点から分子構造論や分光学の基礎となる電磁波と物質の相互作用について解説する。生命現象を深く理解するには，それらを物理化学の原則に照らして，分子レベルで解析することが重要である。そこで，物理化学が如何に生体に適用できるかという観点から種々の分光学的手法について，主として測定原理を解説する。																																		
到達目標:	物理化学が生体に如何に適用できるかという観点から，物理化学の諸原理について，明確な「イメージ(心像)」を持てるようにし，生体分子や薬物分子を「かたち」として把握できるようにする。																																		
授業方法:	講義形式。適宜，板書とプロジェクターを利用。教科書等に準拠したプリントを配布。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 化学反応速度論 1－n次反応速度式，反応次数(n)決定法，放射崩壊と放射平衡 等 C1 (3)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>2. 化学反応速度論 2－複合反応，触媒反応(酸・塩基触媒,酵素)，反応速度と温度(Arrhenius式) 等 C1 (3)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>3. 化学反応速度論 3－衝突理論と遷移状態理論 等 C1 (3), C4 (2)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>4. 化学反応速度論 4－酵素反応速度論，阻害形式，等 C1 (3), C4 (2)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>5. 輸送過程－拡散と溶解速度，Fickの法則，固体の溶解，粘度，粘性抵抗(沈降，遠心分離，電気泳動)，レオロジー等 C2 (5)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>6. 元素－金属・非金属，錯体の構造と機能，電子状態，量子数 C3 (5)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>7. 量子化学 1－前期量子論 C1(1)－1-1)～4)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>8. 量子化学 2－量子力学の原理－波動方程式 C1(1)－1-1)～4)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>9. 量子化学 3－化学結合と分子構造－分子軌道 C1(1)－1-1)～4)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>10. 分光学 1－電磁波と物質の相互作用 C1 (1), C2 (4)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>11. 分光学 2－吸収，蛍光，燐光，旋光性，円偏光二色性，レーザー 等 C2 (4)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>12. 分光学 3－核磁気共鳴，X線回折 等 C2 (4)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>13. 放射線と放射能 C1 (1)</td><td>講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。</td></tr><tr><td>14. 生体分子の解析－核酸・蛋白質，相互作用 等 C4 (1)</td><td></td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 化学反応速度論 1－n次反応速度式，反応次数(n)決定法，放射崩壊と放射平衡 等 C1 (3)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	2. 化学反応速度論 2－複合反応，触媒反応(酸・塩基触媒,酵素)，反応速度と温度(Arrhenius式) 等 C1 (3)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	3. 化学反応速度論 3－衝突理論と遷移状態理論 等 C1 (3), C4 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	4. 化学反応速度論 4－酵素反応速度論，阻害形式，等 C1 (3), C4 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	5. 輸送過程－拡散と溶解速度，Fickの法則，固体の溶解，粘度，粘性抵抗(沈降，遠心分離，電気泳動)，レオロジー等 C2 (5)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	6. 元素－金属・非金属，錯体の構造と機能，電子状態，量子数 C3 (5)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	7. 量子化学 1－前期量子論 C1(1)－1-1)～4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	8. 量子化学 2－量子力学の原理－波動方程式 C1(1)－1-1)～4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	9. 量子化学 3－化学結合と分子構造－分子軌道 C1(1)－1-1)～4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	10. 分光学 1－電磁波と物質の相互作用 C1 (1), C2 (4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	11. 分光学 2－吸収，蛍光，燐光，旋光性，円偏光二色性，レーザー 等 C2 (4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	12. 分光学 3－核磁気共鳴，X線回折 等 C2 (4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	13. 放射線と放射能 C1 (1)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。	14. 生体分子の解析－核酸・蛋白質，相互作用 等 C4 (1)		15. まとめ			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 化学反応速度論 1－n次反応速度式，反応次数(n)決定法，放射崩壊と放射平衡 等 C1 (3)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
2. 化学反応速度論 2－複合反応，触媒反応(酸・塩基触媒,酵素)，反応速度と温度(Arrhenius式) 等 C1 (3)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
3. 化学反応速度論 3－衝突理論と遷移状態理論 等 C1 (3), C4 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
4. 化学反応速度論 4－酵素反応速度論，阻害形式，等 C1 (3), C4 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
5. 輸送過程－拡散と溶解速度，Fickの法則，固体の溶解，粘度，粘性抵抗(沈降，遠心分離，電気泳動)，レオロジー等 C2 (5)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
6. 元素－金属・非金属，錯体の構造と機能，電子状態，量子数 C3 (5)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
7. 量子化学 1－前期量子論 C1(1)－1-1)～4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
8. 量子化学 2－量子力学の原理－波動方程式 C1(1)－1-1)～4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
9. 量子化学 3－化学結合と分子構造－分子軌道 C1(1)－1-1)～4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
10. 分光学 1－電磁波と物質の相互作用 C1 (1), C2 (4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
11. 分光学 2－吸収，蛍光，燐光，旋光性，円偏光二色性，レーザー 等 C2 (4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
12. 分光学 3－核磁気共鳴，X線回折 等 C2 (4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
13. 放射線と放射能 C1 (1)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨。講義時にも，前回の内容を要約して復習。																																		
14. 生体分子の解析－核酸・蛋白質，相互作用 等 C4 (1)																																			
15. まとめ																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	復習を非常に重視しています。教科書の演習問題や国家試験に関連した設問を通して，自主的な学習を勧めています。物理化学の理論の理解を深めてほしいと思います																																		
フィードバックの方法:	各章の演習問題の自主学習に対して，自作の解説・解答を示す。																																		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																																
「成績評価基準」:	定期試験	100	中間試験又は，小試験・レポート等で理解度を計り，定期試験で総合的に評価する。																																
教科書:	「基礎薬学 物理化学」 桐野 豊 編(廣川書店)																																		

参考書:	「生命科学のための物理化学」(上・下) D.Eisenberg, D.Crothers 著 (培風館) 「アトキンスの物理化学」(上・下) P.W. Atkins 著 (東京化学同人)
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力
教員との連絡 方法:	オフィスアワー, マナビーの掲示板機能, Eメールの利用, 授業の前後に教室内で対応, 等

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

有機化学の学びを通して『くすりの性質』を正しく理解するための能力を身につける。

問題演習や小テストを交えながら講義を進め、多様な有機化学反応を理解できる学力を身につける。

講義および問題演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ハロゲン化アルキルの脱離反応1 C3 (1) (1)~(2) C3 (3) (1)~(2)	教科書予習
2.	ハロゲン化アルキルの脱離反応2 C3 (1) (1)~(2) C3 (3) (1)~(2)	教科書予習および前回講義の復習
3.	アルキンの反応 C3 (1) (1)~(2) C3 (3) (1)~(2)	教科書予習および前回講義の復習
4.	ジエンの反応 C3 (1) (1)~(2) C3 (2) (2) C3 (3) (1)~(2)	教科書予習および前回講義の復習
5.	アルコール・エーテル・エポキシドの反応 C3 (1) (1)~(2) C3 (3) (3)	教科書予習および前回講義の復習
6.	ベンゼンの反応、芳香族性 C3 (1) (1)~(2) C3 (2) (3)	教科書予習および前回講義の復習
7.	置換ベンゼンの反応1 C3 (1) (1)~(2) C3 (2) (3)	教科書予習および前回講義の復習
8.	置換ベンゼンの反応2 C3 (1) (1)~(2) C3 (2) (3)	教科書予習および前回講義の復習
9.	カルボニル化合物ー求核アシル付加反応 C3 (1) (1)~(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
10.	カルボニル化合物ー求核付加・脱離反応 C3 (1) (1)~(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
11.	カルボニル化合物ー求核アシル置換反応 C3 (1) (1)~(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
12.	カルボニル化合物ー α 、 β ー不飽和カルボニル化合物の反応 C3 (1) (1)~(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
13.	カルボニル化合物ー α 炭素上での反応1 C3 (1) (1)~(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
14.	カルボニル化合物ー α 炭素上での反応2 C3 (1) (1)~(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
15.	まとめ	教科書予習および前回講義の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義を集中して聴き、その時に理解するよう努める。復習を怠らずわからないまま放置しないようにする。授業動画を最大限に活用する。

フィードバックの方法:

小テスト
課題
授業動画
マナビーでのドリル

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	80%で合格
	平常時試験	10	
	課題提出	10	

教科書:

ブルース有機化学 第7版・上巻(大船泰史・他監訳、化学同人)
ブルース有機化学 第7版・下巻(大船泰史・他監訳、化学同人)

参考書:

ブルース有機化学 第7版・問題の解き方(英語版)(化学同人)
有機化学explorer(竹本佳司・他編、京都廣川書店)
ベーシック薬学教科書シリーズ5 有機化学(夏苅英昭・他編、化学同人)
ブラウン・プーン 基本有機化学 第3版(池田正澄・他監訳、廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

教授室を訪問

授業テーマ:	天然の医薬品である生薬について学ぶ																																																		
授業の概要:	我々人類は種々の天然薬物資源をそのままあるいは加工調製し、生薬として利用してきた。生薬が伝統医学における薬として、また現代医薬品の原料として利用されていることを理解する。生薬を正しく利用し、疾病の治療に有効な薬物を提供する。ために、薬用植物の基本的な分類、外部形態的特徴、薬用部位、特徴成分および生薬に関する概論(歴史、品質評価)、を学ぶ。また各論では生薬の成分、薬効、漢方処方(薬学教育モデル・コアカリキュラムC5)について学習する。																																																		
到達目標:	1. 薬用植物の基本的な分類、外部形態的特徴、薬用部位、特長成分を理解する。 2. 生薬の歴史、品質評価を理解する。 3. 各生薬の基原植物、薬用部位、成分、薬効、漢方処方を理解する。																																																		
授業方法:	主として板書によるが、時にパワーポイントなどの映像を利用し、理解度を深めるため適宜、課題を出し、小テストを行う。																																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th colspan="2">授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1.</td><td>生薬と生薬学、生薬の利用.....アドC5-5-4)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>2.</td><td>生薬の歴史.....アドC5-1-1), -2-1), -5-2)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>3.</td><td>生薬の基原植物の形態と分類.....C5(1)-1-2), 3), -</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>4.</td><td>生薬の成分(1).....</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>5.</td><td>生薬の成分(2).....</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>6.</td><td>生薬の品質評価.....</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>7.</td><td>生薬の生産と流通.....アドC5-</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>8.</td><td>生薬の薬理作用.....C5(1)-</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>9.</td><td>生薬各論:藻類、真菌類、裸子植物の生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>10.</td><td>生薬各論:クワ科、タデ科などの生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>11.</td><td>生薬各論:モクレン科、キンボウゲ科の生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>12.</td><td>生薬各論:アケビ科、ツヅラフジ科などの生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>13.</td><td>生薬各論:ボタン科、ケシ科、バラ科の生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>14.</td><td>生薬各論:マメ科などの生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>15.</td><td>まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容		準備学習等の内容	1.	生薬と生薬学、生薬の利用.....アドC5-5-4)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	2.	生薬の歴史.....アドC5-1-1), -2-1), -5-2)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	3.	生薬の基原植物の形態と分類.....C5(1)-1-2), 3), -	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	4.	生薬の成分(1).....	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	5.	生薬の成分(2).....	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	6.	生薬の品質評価.....	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	7.	生薬の生産と流通.....アドC5-	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	8.	生薬の薬理作用.....C5(1)-	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	9.	生薬各論:藻類、真菌類、裸子植物の生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	10.	生薬各論:クワ科、タデ科などの生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	11.	生薬各論:モクレン科、キンボウゲ科の生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	12.	生薬各論:アケビ科、ツヅラフジ科などの生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	13.	生薬各論:ボタン科、ケシ科、バラ科の生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	14.	生薬各論:マメ科などの生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	15.	まとめ			
授業内容		準備学習等の内容																																																	
1.	生薬と生薬学、生薬の利用.....アドC5-5-4)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
2.	生薬の歴史.....アドC5-1-1), -2-1), -5-2)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
3.	生薬の基原植物の形態と分類.....C5(1)-1-2), 3), -	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
4.	生薬の成分(1).....	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
5.	生薬の成分(2).....	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
6.	生薬の品質評価.....	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
7.	生薬の生産と流通.....アドC5-	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
8.	生薬の薬理作用.....C5(1)-	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
9.	生薬各論:藻類、真菌類、裸子植物の生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
10.	生薬各論:クワ科、タデ科などの生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
11.	生薬各論:モクレン科、キンボウゲ科の生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
12.	生薬各論:アケビ科、ツヅラフジ科などの生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
13.	生薬各論:ボタン科、ケシ科、バラ科の生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
14.	生薬各論:マメ科などの生薬.....C5(1)-1-1), -2, -3, -	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																																	
15.	まとめ																																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																																			
フィードバックの方法:	質問者に対して研究室で解説する。																																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>50</td><td>到達目標3に関する理解度により評価する。</td></tr><tr><td>授業中に実施する小テスト(中間試験)</td><td>50</td><td>到達目標1, 2に関する理解度により評価する</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	50	到達目標3に関する理解度により評価する。	授業中に実施する小テスト(中間試験)	50	到達目標1, 2に関する理解度により評価する																																									
評価方法	割合	評価基準																																																	
定期試験	50	到達目標3に関する理解度により評価する。																																																	
授業中に実施する小テスト(中間試験)	50	到達目標1, 2に関する理解度により評価する																																																	
教科書:	パートナー生薬学改訂第3版 竹谷孝一、木内文之、小松かつ子編(南江堂)																																																		
参考書:	第十七改正日本薬局方解説書(学生版) 日本薬局方解説書編集委員会編(廣川書店)																																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力																																																		
教員との連絡方法:	オフィスアワー																																																		

授業テーマ:	調剤を通じて医療に貢献できる薬剤師を目指す																	
授業の概要:	調剤は薬剤師に認められた法的権限であるが、1992年の第2次医療法改訂以前の調剤は単に医師の処方箋に記載された通りに医薬品を調合することが最も重要とする狭義の調剤であった。しかし、インフォームド・コンセントに基づく患者主体の疾病治療を展開してゆく中で、副作用の予防や治療効果の確認までもが調剤に関連する薬剤師の業務として拡大した。したがって、医師や歯科医師の処方が医学的に妥当であるかの判断(処方監査)、医薬品の相互作用や重複投与の防止、患者への充実した服薬指導、患者の薬剤服用歴・指導内容の記録と管理、副作用の予防や早期発見と対策、後発医薬品の選択あるいは患者の様態の把握など、医薬品が関わる多様な臨床場面の全てを含めたものが薬剤師が行う広義の調剤として位置づけられている。講義では、以上のような広義の調剤を行いうる薬剤師を目指し、おもに調剤の基本的な知識・態度について学習する。																	
到達目標:	1. 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活動をする臨床現場に必要な心構えと薬学管理の基本的な流れを把握する 2. 処方せんに基づく調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的な調剤業務を修得する 3. 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、てきせつに患者情報を収集したうえで、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・評価できる能力を修得する 4. 医療機関や地域で、他職種が県警・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における他職種のやくわりと意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案ができる 5. 地域での保険、医療、福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリーケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解する																	
授業方法:	教科書、Power Point映写を中心として講義する他、適宜プリントを配布する。																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 薬剤師業務の変遷と今後展望(担当: 芝田) ① 医療における薬剤師の使命 ② チーム医療体系の変化 ③ 調剤の概念 ④ 処方せんの基礎 ⑤ 処方監査 ⑥ 薬袋 ⑦ 薬剤の交付 ⑧ 患者への医薬品情報提供と服薬指導 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)</td><td>講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと</td></tr><tr><td>2. 薬剤師倫理と態度(担当: 芝田) ① 医療の担い手としての倫理規範 ② 身だしなみ・言葉使い ③ 薬局に関する法令 ④ 守秘義務・個人情報の保護 ⑤ 病院薬剤師に求められる倫理 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)</td><td>講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと</td></tr><tr><td>3. 調剤の実際(担当: 西村) ① 処方せんの種類 ② 処方せん受付とインタビュー・接遇 ③ 処方せん監査の手順 ④ 疑義照会の手順 ⑤ 一般名処方 ⑥ 後発医薬品(ジェネリック) F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)</td><td>講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと</td></tr><tr><td>4. 各種剤形の定義(担当: 芝田) ① 錠剤 ② カプセル剤 ③ 散剤および計量計算 ④ 水剤および計量計算 ⑤ 軟膏 ⑥ 様々な外用剤 ⑥ 薬袋の作成(内服薬、水薬ラベル、外用薬、頓服薬) ⑦ 簡易懸濁法 ⑧ 薬理学レポートⅠ F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)</td><td>講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと 薬理学レポートⅠは、1～4回目の講義に出てきた薬剤を対象とする</td></tr><tr><td>5. 薬剤交付と情報提供(担当: 西村) ① 薬剤の交付 ② 服薬指導 ③ 薬歴の記録 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)</td><td>講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと</td></tr><tr><td>6. 計数調剤の実際(中西) ① 計数調剤の特徴 ② 計数調剤の手順 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)</td><td>講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと</td></tr><tr><td>7. 計量調剤の実際(担当: 中西) ① 散剤計量調剤 ② 内容液剤計量調剤 ③ 一包化・分割・粉碎調剤 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)</td><td>講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 薬剤師業務の変遷と今後展望(担当: 芝田) ① 医療における薬剤師の使命 ② チーム医療体系の変化 ③ 調剤の概念 ④ 処方せんの基礎 ⑤ 処方監査 ⑥ 薬袋 ⑦ 薬剤の交付 ⑧ 患者への医薬品情報提供と服薬指導 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと	2. 薬剤師倫理と態度(担当: 芝田) ① 医療の担い手としての倫理規範 ② 身だしなみ・言葉使い ③ 薬局に関する法令 ④ 守秘義務・個人情報の保護 ⑤ 病院薬剤師に求められる倫理 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと	3. 調剤の実際(担当: 西村) ① 処方せんの種類 ② 処方せん受付とインタビュー・接遇 ③ 処方せん監査の手順 ④ 疑義照会の手順 ⑤ 一般名処方 ⑥ 後発医薬品(ジェネリック) F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと	4. 各種剤形の定義(担当: 芝田) ① 錠剤 ② カプセル剤 ③ 散剤および計量計算 ④ 水剤および計量計算 ⑤ 軟膏 ⑥ 様々な外用剤 ⑥ 薬袋の作成(内服薬、水薬ラベル、外用薬、頓服薬) ⑦ 簡易懸濁法 ⑧ 薬理学レポートⅠ F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと 薬理学レポートⅠは、1～4回目の講義に出てきた薬剤を対象とする	5. 薬剤交付と情報提供(担当: 西村) ① 薬剤の交付 ② 服薬指導 ③ 薬歴の記録 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと	6. 計数調剤の実際(中西) ① 計数調剤の特徴 ② 計数調剤の手順 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと	7. 計量調剤の実際(担当: 中西) ① 散剤計量調剤 ② 内容液剤計量調剤 ③ 一包化・分割・粉碎調剤 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと	
授業内容	準備学習等の内容																	
1. 薬剤師業務の変遷と今後展望(担当: 芝田) ① 医療における薬剤師の使命 ② チーム医療体系の変化 ③ 調剤の概念 ④ 処方せんの基礎 ⑤ 処方監査 ⑥ 薬袋 ⑦ 薬剤の交付 ⑧ 患者への医薬品情報提供と服薬指導 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと																	
2. 薬剤師倫理と態度(担当: 芝田) ① 医療の担い手としての倫理規範 ② 身だしなみ・言葉使い ③ 薬局に関する法令 ④ 守秘義務・個人情報の保護 ⑤ 病院薬剤師に求められる倫理 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと																	
3. 調剤の実際(担当: 西村) ① 処方せんの種類 ② 処方せん受付とインタビュー・接遇 ③ 処方せん監査の手順 ④ 疑義照会の手順 ⑤ 一般名処方 ⑥ 後発医薬品(ジェネリック) F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと																	
4. 各種剤形の定義(担当: 芝田) ① 錠剤 ② カプセル剤 ③ 散剤および計量計算 ④ 水剤および計量計算 ⑤ 軟膏 ⑥ 様々な外用剤 ⑥ 薬袋の作成(内服薬、水薬ラベル、外用薬、頓服薬) ⑦ 簡易懸濁法 ⑧ 薬理学レポートⅠ F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと 薬理学レポートⅠは、1～4回目の講義に出てきた薬剤を対象とする																	
5. 薬剤交付と情報提供(担当: 西村) ① 薬剤の交付 ② 服薬指導 ③ 薬歴の記録 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと																	
6. 計数調剤の実際(中西) ① 計数調剤の特徴 ② 計数調剤の手順 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと																	
7. 計量調剤の実際(担当: 中西) ① 散剤計量調剤 ② 内容液剤計量調剤 ③ 一包化・分割・粉碎調剤 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと																	

8. 外用薬調剤の実際(担当: 中西)
① 外用薬調剤の一般的注意事項
② 軟膏剤の混合調剤
③ 薬理学レポートⅡ
9. F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)
注射調剤の実際(担当: 杉浦)
① 注射剤調剤の流れ
② 注射剤の投与経路
③ 安全性・品質の確保
④ 電解質輸液・注射療法の基本
⑤ 注射剤・輸液の混合(無菌調製)
⑥ 薬理学レポートⅡ
10. F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)
調剤薬監査(担当: 中西)
① 調剤薬監査の流れ
② 調剤薬監査の手順
11. F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)
医薬品の管理と供給(担当: 杉浦)
① 医薬品管理の目的
② 品質管理
③ 在庫管理
④ 法的管理が義務付けられている医薬品
12. F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)
禁忌症(担当: 杉浦)
① 特定の疾病に対する投与禁忌薬
② 肝障害患者・腎障害患者に禁忌の薬剤
③ 妊婦ならびに授乳婦に禁忌の薬剤
④ 年齢別禁忌
⑤ 薬理学レポートⅢ
13. F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)
リスクマネジメント(担当: 杉浦)
① リスクマネジメントとは
② ハイリスク医薬品管理
③ 院内における医療安全管理
14. F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)
薬物相互作用・副作用(担当: 芝田)
① 薬物動態学的相互作用
② 薬力学的相互作用
15. F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)
15. まとめ

講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと

薬理学レポートⅡは、5～8回目の講義に出てきた薬剤を対象とする

講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと

薬理学小テストⅠは、5～8回目の講義に出てきた薬剤を対象とする

講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと

講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと

講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと

薬理学レポートⅢは、9～12回目の講義に出てきた薬剤を対象とする

講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと

講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと

1回～14回までの講義内容について総合的に復習する。また、3回の薬理学レポートに出てきた代表的な薬物の一般名、薬理作用、効能についても良く理解しておくこと

受講者への
メッセージや
アドバイス:

講義中に出てくる薬剤は、医療現場での使用頻度が高く、実際に薬剤師国家試験にも頻出であるものばかりなので、それら薬剤の一般名、薬理作用、効果効能についても良く学習しておくこと。期末テストでは、これら薬剤の一般名、薬理作用、効能についても合わせて出題する

フィードバックの
方法:

演習等の解説は講義中に行う。また、課題レポートに対する解答例はマナビーにアップする。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末テスト	70%	期末テスト(70%)、レポート(20%)および出席状況(10%)の合計100点満点により成績を評価する。なお、期末テストおよびレポート点のみにより60点を超える場合であっても、出席回数が15回のうち9回以下である場合は合格の対象外とする。
レポート	20%	
出席状況及びレポート	10%	

以上の評価基準により不合格となった場合には課題レポートを課す

教科書: コンパス調剤学、矢野芳巳、牧野和隆 編集、南江堂
薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品選600、日本薬学会、じほう

参考書: スタンダード薬学シリーズⅡ1 薬学総論 I. 薬剤師としての基本事項 日本薬学会編 東京化学同人

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

講義に関する質問等は、科目代表者(芝田)の下記のメールアドレスまで連絡してください
nshibata@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

有機化学の学びを通して『くすりの性質』を正しく理解するための能力を身につける。

問題演習や小テストを交えながら講義を進め、多様な有機化学反応を理解できる学力を身につける。

講義および問題演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	酸化・還元反応1 C3(1)(1) C3(2)(2) C3(3)(3)~(4)	教科書予習
2.	酸化・還元反応2 C3(1)(1) C3(2)(2) C3(3)(3)~(4)	教科書予習および前回講義の復習
3.	酸化・還元反応3 C3(1)(1) C3(2)(2) C3(3)(3)~(4)	教科書予習および前回講義の復習
4.	アミン・ヘテロ環化合物 C3(1)(1) C3(3)(5)~(7) C3(3)(3)~(4)	教科書予習および前回講義の復習
5.	炭水化物1 C6(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
6.	炭水化物2 C6(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
7.	アミノ酸 C6(2)(3)	教科書予習および前回講義の復習
8.	ペプチド、たんぱく質 C6(2)(4)	教科書予習および前回講義の復習
9.	脂質 C6(2)(1)	教科書予習および前回講義の復習
10.	核酸1 C6(2)(5)	教科書予習および前回講義の復習
11.	核酸2 C6(2)(5)	教科書予習および前回講義の復習
12.	触媒作用、補酵素1 C6(2)(6)	教科書予習および前回講義の復習
13.	触媒作用、補酵素2 C6(2)(6)	教科書予習および前回講義の復習
14.	触媒作用、補酵素3 C6(2)(6)	教科書予習および前回講義の復習
15.	まとめ	前回講義の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義を集中して聴き、その時に理解するよう努める。復習を怠らずわからないまま放置しないようにする。授業動画を最大限に活用する。

フィードバックの方法:

小テスト
課題
授業動画
マナビーでのドリル

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	80	80%で合格
	平常時試験	10	
	課題提出	10	

教科書:

ブルース有機化学 第7版・上巻(大船泰史・他監訳、化学同人)
ブルース有機化学 第7版・下巻(大船泰史・他監訳、化学同人)

参考書:

ブルース有機化学 第7版・問題の解き方(英語版)(化学同人)
有機化学explorer(竹本佳司・他編、京都廣川書店)
ベーシック薬学教科書シリーズ5 有機化学(夏苅英昭・他編、化学同人)
ブラウン・プーン 基本有機化学 第3版(池田正澄・他監訳、廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

教授室を訪問

授業テーマ:

疾病の原因、成り立ちおよび臓器・組織での形態学的・機能的変化を学ぶ。

授業の概要:

ヒトにおける疾病における病態メカニズムを理解し、薬物による病態制御に応用できる基礎的知識を学ぶ。基礎病理学と臨床病理学をあわせて、病理学の総論および各論について学習する。

到達目標:

1)ヒトの疾患について、原因および個体・臓器・組織・細胞・遺伝子・タンパクレベルにおける病的変化(代謝異常、退行性変化、炎症、腫瘍、循環障害など)を理解する。さらに、薬物作用との関連について考察できる。
2)基本的な疾患名、病理所見、疾患分類について日本語と英語の正しい記載を理解し、使用することができる。
3)薬学教育モデル・コアカリキュラムのC6(1)～(7),C7(1)(2),E2(1)～(7)に相当する内容を含む。

授業方法:

インタラクティブな講義形式による。あらかじめ設定された授業のポイントを準備し、授業当日に教員と、および学生同士でディスカッションできる状態にすることを目標とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	細胞損傷・適応(1)	低酸素ストレス フリーラジカル・活性酸素 壊死とアポトーシス 肥大、過形成、萎縮、低形成
2.	細胞損傷・適応(2)	低酸素ストレス フリーラジカル・活性酸素 壊死とアポトーシス 肥大、過形成、萎縮、低形成
3.	炎症	急性炎症・慢性炎症 炎症における白血球の役割 特異的炎症・非特異的炎症
4.	感染症(1)	日和見感染 カタル性炎症・壊疽 敗血症 真菌症 ウイルス感染症
5.	感染症(2)	日和見感染 カタル性炎症・壊疽 敗血症 真菌症 ウイルス感染症
6.	免疫異常	細胞性免疫と液性免疫 アレルギーの分類 自己免疫疾患
7.	循環障害・血液異常	鬱血と充血 梗塞の定義 出血傾向の原因 浮腫のメカニズム 心不全の分類
8.	腫瘍(1)	腫瘍の定義 良性腫瘍と悪性腫瘍 退形成 上皮内癌
9.	腫瘍(2)	前癌病変 悪性腫瘍の転移様式 ホルモン依存性癌 腫瘍マーカー
10.	先天異常・遺伝性疾患	染色体異常症 単一遺伝子病 多因子遺伝病
11.	代謝異常	タンパク質代謝異常 脂質代謝異常 糖質代謝異常 核酸代謝異常 無機物代謝異常
12.	循環器	虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞) 心筋症 心内膜炎 大動脈解離 高血圧
13.	造血系・リンパ系(1)	貧血の分類と成因 急性白血病と慢性白血病 血小板の異常 悪性リンパ腫 伝染性単核症
14.	造血系・リンパ系(2)	貧血の分類と成因 急性白血病と慢性白血病 血小板の異常 悪性リンパ腫 伝染性単核症
15.	まとめ	すべての疾患の復習と確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。

フィードバックの方法:

1)フィードバックをしながら授業を進める。
2)出席票のコメント欄に疑問点や意見を書いておくと次回の授業でフィードバックする。
3)オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100%	100点満点で評価する。

教科書: Dr.レイの病理学講義 改訂2版 編著 高橋 玲 著 北澤 莊平 金芳堂

参考書: トップジャーナルの症例集で学ぶ医学英語 監修・著 高橋玲(アルク社)
キクタンメディカル1. 人体の構造編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社)
キクタンメディカル2. 診療と臨床検査編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社)
キクタンメディカル3. 症候と疾患編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社)
キクタンメディカル6. 薬剤編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)他(アルク社)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡
方法: オフィスアワー、授業の前後教室内

授業テーマ:	天然の医薬品である生薬について学ぶ																																	
授業の概要:	世界各地で使用されている天然薬物は、動植物および鉱物を人間に適用しながら長年の経験などにより種々選択され、今日に伝承されている。これらの天然薬物は、現在も医薬品材料として直接あるいは間接的に使用されるとともに、食品、香粧品あるいは農薬などにも用いられている。生薬学は天然薬物に関する総合的分野であり、薬学にのみ存在する学問である。生薬は現在医療現場で使用されている漢方処方の構成原料であり、これら構成生薬の薬効、成分を良く理解しておく必要がある。本講義では生薬の成分、薬効、漢方処方について概説する。																																	
到達目標:	1. 各生薬の基原動植物、薬用部位、成分、薬効、漢方処方を理解する。																																	
授業方法:	主として板書によるが、時にパワーポイントなどの映像を利用し、理解度を深めるため適宜、課題を出し、小テストを行う。																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 生薬各論:ミカン科、ニガキ科、ヒメハギ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>2. 生薬各論:クロウメモドキ科、ウコギ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>3. 生薬各論:セリ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>4. 生薬各論:マチン科、リンドウ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>5. 生薬各論:アカネ科、ヒルガオ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>6. 生薬各論:ムラサキ科、シソ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>7. 生薬各論:ナス科、ゴマノハグサ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>8. 生薬各論:キキョウ科、キク科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>9. 生薬各論:オモダカ科、ユリ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>10. 生薬各論:アヤメ科、イネ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>11. 生薬各論:ショウガ科、ラン科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>12. 生薬各論:動物生薬(1).....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>13. 生薬各論:動物生薬(2).....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>14. 生薬各論:鉱物生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)</td><td>授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 生薬各論:ミカン科、ニガキ科、ヒメハギ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	2. 生薬各論:クロウメモドキ科、ウコギ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	3. 生薬各論:セリ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	4. 生薬各論:マチン科、リンドウ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	5. 生薬各論:アカネ科、ヒルガオ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	6. 生薬各論:ムラサキ科、シソ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	7. 生薬各論:ナス科、ゴマノハグサ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	8. 生薬各論:キキョウ科、キク科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	9. 生薬各論:オモダカ科、ユリ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	10. 生薬各論:アヤメ科、イネ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	11. 生薬各論:ショウガ科、ラン科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	12. 生薬各論:動物生薬(1).....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	13. 生薬各論:動物生薬(2).....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	14. 生薬各論:鉱物生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。	15. まとめ		
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 生薬各論:ミカン科、ニガキ科、ヒメハギ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
2. 生薬各論:クロウメモドキ科、ウコギ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
3. 生薬各論:セリ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
4. 生薬各論:マチン科、リンドウ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
5. 生薬各論:アカネ科、ヒルガオ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
6. 生薬各論:ムラサキ科、シソ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
7. 生薬各論:ナス科、ゴマノハグサ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
8. 生薬各論:キキョウ科、キク科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
9. 生薬各論:オモダカ科、ユリ科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
10. 生薬各論:アヤメ科、イネ科などの生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
11. 生薬各論:ショウガ科、ラン科の生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
12. 生薬各論:動物生薬(1).....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
13. 生薬各論:動物生薬(2).....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
14. 生薬各論:鉱物生薬.....C5(1)-1-1)、-2、-3、-4-4)、5)	授業中に説明した内容について十分に見直し、復習すること。																																	
15. まとめ																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																		
フィードバックの方法:	質問者に対して研究室で解説する。																																	
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																															
「成績評価基準」:	定期試験	50	到達目標1に関する理解度により評価する。																															
	授業中に実施する小テスト(中間試験)	50	到達目標1に関する理解度により評価する。																															
教科書:	パートナー生薬学改訂第3版 竹谷孝一、木内文之、小松かつ子編(南江堂)																																	
参考書:	第十七改正日本薬局方解説書(学生版)日本薬局方解説書編集委員会編(廣川書店)																																	

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

授業テーマ:

無から有を生み出す創薬を理解する有機化学基盤の構築

授業の概要:

創薬の原点も目的も新たな機能性有機化合物の創出であるため、医薬品創製に必須の専門的な有機化学を核とする授業を展開する。

到達目標:

周期表を基礎とし、C=Oで表現されるカルボニル基の有機化学的な理解と応用、有機金属反応剤の理解と応用、酸化還元の基本理解、官能基選択的反応、位置選択的反応、立体選択的反応の理解と応用、分子の構造変換法、不斉合成法をも含む光学活性化合物の有機化学を学び、創薬を理解できる有機化学知識と学力を身につける。

授業方法:

講義、小テスト、問題演習を中心とした授業を行う。
板書、プリントおよびプロジェクターを使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	創薬有機化学総論 C4(1)-①-1,2, ②-1,2,3,4	ブルース有機化学該当項の熟読
2.	医薬品の分子設計 C4(3)-①-1, ②-1,2, ③-1,2,3	ブルース有機化学該当項の熟読
3.	分子の合成－官能基の変換 酸化と還元 C3(2)-②-1, C4(2)-①-1,2	ブルース有機化学該当項の熟読
4.	分子の合成－官能基選択性と保護基 C3(3)-①-1, C4(2)-②-1,2,3	ブルース有機化学該当項の熟読
5.	分子の合成－有機金属1 C3(3)-②-1,2, C4(2)-③-1,2	ブルース有機化学該当項の熟読
6.	分子の合成－有機金属2 C3(3)-②-1,2, C4(2)-④-1,2	ブルース有機化学該当項の熟読
7.	分子の合成－位置選択的反応1 C3(2)-②-1,2,3, C4(3)-④-1,2,3	ブルース有機化学該当項の熟読
8.	分子の合成－位置選択的反応2 C3(3)-④-3, C4(3)-④-4,5,6	ブルース有機化学該当項の熟読
9.	分子の合成－立体選択的反応1 C3(1)-②-3,6,7, C4(3)-⑤-1,2	ブルース有機化学該当項の熟読
10.	分子の合成－立体選択的反応2 C3(2)-④-1,3, C4(3)-⑤-3,4	ブルース有機化学該当項の熟読
11.	分子の合成－官能基の導入1 C3(3)-③-1,2, C4(3)-⑤-5	ブルース有機化学該当項の熟読
12.	分子の合成－官能基の導入2 C3(3)-①-1, C4(3)-⑥-1,2	ブルース有機化学該当項の熟読
13.	分子の合成－光学活性化合物 C3(1)-②-2,3,5, C4(3)-⑥-3	ブルース有機化学該当項の熟読
14.	分子の合成－不斉合成 C3(1)-②-2,3,5 C4(3)-⑦-1	ブルース有機化学該当項の熟読
15.	創薬ターゲット分子の総合演習 C3(2)-③-1,3,4,5, C3(3)-②-1,2,3, C3(3)-④-1,2,3	ブルース有機化学該当項の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

メール、口頭、面談

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	90	60点以上
	平常時試験	10	60点以上

教科書:

ブルース有機化学(富岡清等訳、化学同人)
講義プリント

参考書:

メディシナルケミストリー(北川 勲、柴崎正勝、富岡 清 監訳、丸善)
人名反応に学ぶ有機合成戦略(富岡 清 監訳、化学同人)
創薬化学 ー有機合成からのアプローチー (北 泰行・平岡哲夫 編、東京化学同人)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業時及びオフィスアワー

授業テーマ:

1) 疾病の原因、成り立ちおよび臓器・組織での形態学的・機能的変化を学ぶ。
2) 疾病における病態メカニズムを理解し、薬物による病態制御に応用できる基礎的知識を学ぶ。

授業の概要:

ヒトにおける疾病における病態メカニズムを理解し、薬物による病態制御に応用できる基礎的知識を学ぶ。基礎病理学と臨床病理学をあわせて、病理学の総論および各論について学習する。

到達目標:

1) ヒトの疾患について、原因および個体・臓器・組織・細胞・遺伝子・タンパクレベルにおける病的変化(代謝異常、退行性変化、炎症、腫瘍、循環障害など)を理解する。さらに、薬物作用との関連について考察できる。
2) 基本的な疾患名、病理所見、疾患分類について日本語と英語の正しい記載を理解し、使用することができる。
3) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのC6(1)～(7), C7(1)(2), E2(1)～(7)に相当する内容を含む。

授業方法:

インタラクティブな講義形式による。あらかじめ設定された授業のポイントを準備し、授業当日に教員とディスカッションできる状態にすることを目標とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	呼吸器	気管支喘息 肺塞栓症 急性呼吸窮迫症候群 肺癌の組織型と治療法 気管支肺炎と間質性肺炎
2.	口腔・消化器	食道静脈瘤 慢性胃炎・自己免疫性胃炎 胃癌 イレウス 薬剤性大腸炎
3.	口腔・消化器	アメーバ赤痢 潰瘍性大腸炎 クローン病 大腸腺腫・大腸癌
4.	肝・胆・膵	ウイルス性肝炎 薬剤性肝炎 肝硬変 肝細胞癌 胆石症 急性膵炎・慢性膵炎
5.	泌尿器	糸球体腎炎 間質性腎炎 糖尿病性腎症 腎盂腎炎 尿路結石症
6.	生殖器	前立腺肥大 前立腺癌 子宮内膜症 子宮頸癌・体部癌 乳腺症
7.	内分泌(1)	クッシング病・クッシング症候群 尿崩症 甲状腺腫 原発性アルドステロン症 糖尿病
8.	内分泌(2)	副甲状腺機能亢進症 副腎機能低下症 褐色細胞腫 多発性内分泌症
9.	筋・骨格系	骨粗鬆症 変形性関節症 痛風 関節リウマチ 重症筋無力症
10.	脳・神経系(1)	脳圧亢進症 脳梗塞・脳出血・くも膜下出血 パーキンソン病 髄膜炎 脳腫瘍
11.	脳・神経系(2)	プリオン病 筋委縮性側索硬化症 脊髄小脳変性症 脳浮腫
12.	皮膚(1)	湿疹・皮膚炎症候群 蕁麻疹 単純ヘルペス 母斑・母斑症
13.	皮膚(2)	扁平上皮癌・有棘細胞癌 中毒疹・薬疹 ボーエン病/表皮内有棘細胞癌 皮膚真菌症
14.	感覚器	白内障・緑内障 糖尿病性網膜症 うっ血乳頭 中耳炎 メニエール病
15.	まとめ	すべての項目の復習および確認

受講者へのメッセージやアドバイス:	医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。		
フィードバックの方法:	1)フィードバックをしながら授業を進める。 2)出席票のコメント欄に疑問点や意見を書いておく次回でフィードバックする。 3)オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100%	100点満点で評価する。
教科書:	Dr.レイの病理学講義 改訂2版 編著 高橋 玲 著 北澤荘平 金芳堂		
参考書:	トッpjジャーナルの症例集で学ぶ医学英語 監修・著 高橋玲(アルク社) キクタンメディカル1. 人体の構造編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル2. 診療と臨床検査編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル3. 症候と疾患編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル6. 薬剤編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)他(アルク社)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後教室内		

授業テーマ:	真の薬剤師として、はばたくために ～実務実習事前学習・基礎編～
授業の概要:	薬剤師業務の基本である処方箋に基づく調剤、疑義照会、医薬品の安定性与管理、リスクマネジメント等に関する基礎ならびに薬剤師の使命について学習する。 薬学コアカリキュラムでは、F 薬学臨床(1)、(2)、(3)の領域が相当する。
到達目標:	安全で適正な薬物療法を遂行するために、処方箋の書式、医薬品の供給与管理、疑義照会の基本、副作用の察知に向けた初期症状、入院患者ならびに在宅患者への服薬指導等、現代医療のなかで薬剤師に求められている職能の基本的事項を修得する。
授業方法:	配布プリント、Power Point映写を中心として講義するほか、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、学生はこれらの課題に対する答案を期限内に提出し、翌週の講義で解説を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。適宜教科書も用いる。 第1回～第10回、第13回～第14回を森田が、第11回～第12回を松元が、それぞれ担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬剤師業務の展望と社会からの期待および調剤学Ⅰの総復習(その1)。 薬学コアカリキュラム:F(1)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2)各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
2.	薬剤師業務の展望と社会からの期待および調剤学Ⅰの総復習(その2)。 薬学コアカリキュラム:F(2)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2)各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
3.	処方箋調剤と疑義照会(その1) 薬学コアカリキュラム:F(2)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2)各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
4.	処方箋調剤と疑義照会(その2) 薬学コアカリキュラム:F(2)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2)各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

5. 処方箋調剤と疑義照会(その3)
薬学コアカリキュラム:F(2)

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
6. 処方箋調剤と疑義照会(その4)
薬学コアカリキュラム:F(2)

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
7. 重大な副作用の初期症状(その1)
薬学コアカリキュラム:F(3)

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
8. 重大な副作用の初期症状(その2)
薬学コアカリキュラム:F(3)

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
9. 警告・禁忌
薬学コアカリキュラム:F(3)

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

10. リスクマネジメント 薬学コアカリキュラム:F(3)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
11. 服薬指導(その1) 薬学コアカリキュラム:F(3)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
12. 服薬指導(その2) 薬学コアカリキュラム:F(3)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
13. 医薬品管理と供給(その1) 薬学コアカリキュラム:F(2)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
14. 医薬品管理と供給(その2) 薬学コアカリキュラム:F(2)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

15. まとめ

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にはかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～2)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。

1) 今までに修得した基礎薬学科目(例えば生化学や物理化学など)の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。

2) 各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

フィードバックの
方法:

第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、翌週の講義で解説(フィードバック)を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
マナビーでの課題	30	課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、各回5点満点で計30点満点とする。
期末試験	70	第1回～第14回の全範囲を対象とした多肢選択式および記述式の期末試験問題で、70点満点とする。

教科書:

毎回、オリジナルな資料を配布する。

参考書:

調剤学 I で教科書として用いた「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ上下」羊土社

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、Eメール

授業テーマ:

薬理及び病態・薬物治療のうちの自律・体性神経系、循環器系、腎臓、呼吸器系、抗炎症、脂質糖代謝、一部の悪性腫瘍薬等の分野に関し、薬物の主作用、作用機序、副作用と適応される疾病との関連を基礎的レベルまで掘り下げて理解し、最適な治療を考へる力を養うための学習を行う。

授業の概要:

薬理作用の真の理解のためには、病態、生理、生化学、化学構造等の情報に基づいて、病態の成り立ちと薬物作用との関連を分子レベルまで掘り下げて正確に理解することが不可欠である。臨床適応もその先におのずと見えてくることが多い。薬効を論理的に説明できる力を高め、臨床現場での適正な薬物選択の判断力アップに繋げることを目指す。
なお同時並行で実施される薬理学実習の一部内容と関連した項目もあり、それについても理解を深めたい。

到達目標:

薬理学及び関連領域の基礎知識の習得、また薬理と病態への関心を高める。それら知識を十分理解しそれを活用して疾病の薬物治療を的確に行える能力を養う。

授業方法:

5.講義と理解度を判定する試験の組み合わせ。プリントとパワーポイントを併用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	神経細胞膜の生理学、電気生理学の基礎と薬 E2(1)①② E2(3)①	既に薬理学I, II(あるいは関連科目)で習った細胞膜のイオン輸送を勉強しておく
2.	神経生理学、心臓生理学の基礎と薬 E2(1)①② E2(3)①	神経や心筋の機能と薬の復習をしておく
3.	自律神経系の基礎及びその作用薬 E2(1)①	自律神経系と主な薬を復習しておく
4.	自律神経系の基礎及びその作用薬 E2(1)①	自律神経系と主な薬を復習しておく
5.	交感神経系に作用する薬物 E2(1)①、E2(3)①	自律神経系中交感神経系を復習しておく、典型的な薬の復習をしておく
6.	心臓血管系に作用する薬物:心不全治療薬、抗不整脈薬 E2(3)①	心不全治療薬、抗不整脈薬各カテゴリー別に主要な薬を復習しておく
7.	心臓血管系に作用する薬物:抗不整脈薬、抗高血圧薬 E2(3)①	抗不整脈薬、抗高血圧薬各カテゴリー別に主要な薬を復習しておく
8.	小括 (理解度確認)	分からなかった内容はここで復習する
9.	心臓血管系に作用する薬物:抗高血圧薬 虚血性心疾患治療薬(抗凝固薬含む) E2(3)①②	抗高血圧薬、虚血性心疾患治療薬各カテゴリー別に主要な薬を復習しておく
10.	腎臓に作用する薬物(主に利尿薬) E2(3)③	利尿薬を各カテゴリー別に主要な薬を復習しておく
11.	呼吸器系(気管支喘息・去痰・呼吸興奮薬)に作用する薬物 E2(4)①	呼吸器系薬物を各カテゴリー別に主要な薬を復習しておく
12.	代謝性疾患治療薬:脂質異常症治療薬、糖尿病治療薬、抗尿酸血症薬 E2(5)①	脂質・糖代謝性疾患について復習しておく
13.	炎症に作用する薬物 E2(2)①	炎症特にNSAIDについて復習しておく
14.	抗悪性腫瘍薬:化学療法剤・分子標的薬 E2(7)⑧	抗悪性腫瘍薬について復習しておく
15.	まとめ	全体の復習をする

受講者へのメッセージやアドバイス:

既に学習したこと(薬理学I, II、薬理実習その他関連科目)を復習して臨むと理解が容易になる。教科書は下記に挙げた教科書で良いが、他の薬理学教科書も内容は類似なので構わない。 主要な資料は全て配布する。

フィードバックの方法:

知識、理解度確認テストの後は解説を行う、行えない場合は解説用紙を別途配布するので自分で勉強することが必須である。不明な点はその都度質問に応ずる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	中間テスト	50	正答率
	期末テスト	50	正答率

教科書:

標準薬理学 宮本英七 他 医学書院 ★ 現在薬理学I, IIで使用中
(すでにこれら以外の教科書を使用している人はそれでも良いが、心配な人はあらかじめ土田に相談してください)
最新基礎薬理学第3版 竹内孝治、岡淳一郎 編 広川書店 ★ 既に持っている学生はこれでもよい
(すでにこれら以外の教科書を使用している人はそれでも良いが、心配な人はあらかじめ土田に相談してください)

参考書:

イラスト薬理学 柳沢輝行他 丸善
治療薬イラストレイテッド 山田信博他 羊土社
はじめの一步のイラスト薬理学 石井邦雄 羊土社
グッドマン・ギルマン薬理書(第11版) 上下 廣川書店 (辞書代わり、全てを詳細に網羅して解説)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

ktsuchid@dw.doshisha.ac.jpに連絡してください(自分の名前を必ず書いてください)。

授業テーマ:	薬物が製剤化され、審査・承認を経て医薬品となる過程、その医薬品が臨床現場で患者に対して臨床使用される過程を学習し、加えて臨床現場で使用される特殊製剤を学習することにより、医薬品を適正に使用するための薬剤師としての基本姿勢・知識を修得し、能力を醸成する。																				
授業の概要:	以下の製剤化のサイエンスを学修する E3(1)①、E5(1)～(3) 1 薬物と製剤材料の性質を理解し、応用するために、それらの物性に関する基本的知識を学修する。 2 医薬品開発と生産の実際を理解するために、医薬品創製と製造の各プロセスに関する基本的知識を学習し、社会的重要性に目を向ける態度を身につける。 3 製剤の製造法と製剤用機器の基本的知識を学修する。 4 医薬品の用途に応じた適切な剤形を調製するために、製剤の種類、有効性、安全性、品質などに関する基本的な知識と、調製を行う際の基本知識を学修する。 5 病院・薬局における医薬品の管理と供給を正しく行うために、内服薬、注射剤などの取り扱い、および院内製剤・薬局製剤に関する基本的知識を学修する。																				
到達目標:	1. 薬物と製剤材料の物性に関する基本的事項を修得する 2. 製剤の種類、製造、品質などに関する基本的事項を修得する 3. 薬物の投与剤形や薬物体内動態の制御法などをくふうしたDDSに関する基本的事項を修得する																				
授業方法:	本講義は物理薬剤学の知識を医薬品製剤各論へと発展させたものであるため、必要と判断した場合には物理薬剤学の復習を取り入れながら授業を進める。																				
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 製剤の基礎物理化学 ① 粒子・粉体の性質 ② 溶液と溶解現象 ③ 界面化学 以上、物理薬剤学の復習</td><td>シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。</td></tr> <tr> <td>2. 医薬品の開発(1) ① 非臨床試験 ② 製剤化試験 ③ 薬物動態試験 ④ 薬理学的試験 ⑤ 毒性試験 ⑥ 臨床試験</td><td>シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。</td></tr> <tr> <td>3. 医薬品の開発(2) ① 医薬品開発における国際協調 ② 医薬品医療機器総合機構の役割 ③ 医薬品開発に係る厚生労働省令 ④ 製造販売後の安全監視体制 ⑤ 医薬品の製造と品質管理</td><td>シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。</td></tr> <tr> <td>4. 日本薬局方 ① 日本薬局方の厚生 ② 日本薬局方通則 ③ 製剤総則と製剤各論</td><td>シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。</td></tr> <tr> <td>5. 経口投与する製剤(1) ① 速放性政治後放出制御製剤 ② 錠剤 ③ カプセル剤 ④ 顆粒剤 ⑤ 散剤 ⑥ 関連する単位操作と局方一般試験法・容器</td><td>シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。</td></tr> <tr> <td>6. 経口投与する製剤(2) ① 経口液剤 ② シロップ剤 ③ 経口ゼリー剤 ④ 製剤添加物 ⑤ 関連する局方一般試験法・容器</td><td>シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。</td></tr> <tr> <td>7. 口腔内に適用する製剤 ① 口腔用錠剤 ② 口腔用液剤 ③ 口腔用スプレー剤 ④ 口腔用半固形剤 ⑤ 関連する一般試験法・容器</td><td>シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。</td></tr> <tr> <td>8. 注射により投与する製剤 ① 注射剤 ② 無菌製剤の等張化 ③ 透析に用いる製剤 ④ 関連する局方一般試験法・容器</td><td>シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。</td></tr> <tr> <td>9. 気管支・肺に適用する製剤 ① 吸入剤 目に投与する製剤 ① 点眼剤 ② 眼軟膏剤 耳に投与する製剤 鼻に投与する製剤 腔に適用する製剤 ① 腔錠 ② 腔用坐剤 関連する局方一般試験法・容器</td><td>シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。</td></tr> </tbody> </table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 製剤の基礎物理化学 ① 粒子・粉体の性質 ② 溶液と溶解現象 ③ 界面化学 以上、物理薬剤学の復習	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。	2. 医薬品の開発(1) ① 非臨床試験 ② 製剤化試験 ③ 薬物動態試験 ④ 薬理学的試験 ⑤ 毒性試験 ⑥ 臨床試験	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。	3. 医薬品の開発(2) ① 医薬品開発における国際協調 ② 医薬品医療機器総合機構の役割 ③ 医薬品開発に係る厚生労働省令 ④ 製造販売後の安全監視体制 ⑤ 医薬品の製造と品質管理	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。	4. 日本薬局方 ① 日本薬局方の厚生 ② 日本薬局方通則 ③ 製剤総則と製剤各論	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。	5. 経口投与する製剤(1) ① 速放性政治後放出制御製剤 ② 錠剤 ③ カプセル剤 ④ 顆粒剤 ⑤ 散剤 ⑥ 関連する単位操作と局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。	6. 経口投与する製剤(2) ① 経口液剤 ② シロップ剤 ③ 経口ゼリー剤 ④ 製剤添加物 ⑤ 関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。	7. 口腔内に適用する製剤 ① 口腔用錠剤 ② 口腔用液剤 ③ 口腔用スプレー剤 ④ 口腔用半固形剤 ⑤ 関連する一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。	8. 注射により投与する製剤 ① 注射剤 ② 無菌製剤の等張化 ③ 透析に用いる製剤 ④ 関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。	9. 気管支・肺に適用する製剤 ① 吸入剤 目に投与する製剤 ① 点眼剤 ② 眼軟膏剤 耳に投与する製剤 鼻に投与する製剤 腔に適用する製剤 ① 腔錠 ② 腔用坐剤 関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。
授業内容	準備学習等の内容																				
1. 製剤の基礎物理化学 ① 粒子・粉体の性質 ② 溶液と溶解現象 ③ 界面化学 以上、物理薬剤学の復習	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。																				
2. 医薬品の開発(1) ① 非臨床試験 ② 製剤化試験 ③ 薬物動態試験 ④ 薬理学的試験 ⑤ 毒性試験 ⑥ 臨床試験	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。																				
3. 医薬品の開発(2) ① 医薬品開発における国際協調 ② 医薬品医療機器総合機構の役割 ③ 医薬品開発に係る厚生労働省令 ④ 製造販売後の安全監視体制 ⑤ 医薬品の製造と品質管理	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。																				
4. 日本薬局方 ① 日本薬局方の厚生 ② 日本薬局方通則 ③ 製剤総則と製剤各論	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。																				
5. 経口投与する製剤(1) ① 速放性政治後放出制御製剤 ② 錠剤 ③ カプセル剤 ④ 顆粒剤 ⑤ 散剤 ⑥ 関連する単位操作と局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。																				
6. 経口投与する製剤(2) ① 経口液剤 ② シロップ剤 ③ 経口ゼリー剤 ④ 製剤添加物 ⑤ 関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。																				
7. 口腔内に適用する製剤 ① 口腔用錠剤 ② 口腔用液剤 ③ 口腔用スプレー剤 ④ 口腔用半固形剤 ⑤ 関連する一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。																				
8. 注射により投与する製剤 ① 注射剤 ② 無菌製剤の等張化 ③ 透析に用いる製剤 ④ 関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。																				
9. 気管支・肺に適用する製剤 ① 吸入剤 目に投与する製剤 ① 点眼剤 ② 眼軟膏剤 耳に投与する製剤 鼻に投与する製剤 腔に適用する製剤 ① 腔錠 ② 腔用坐剤 関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。																				

10. 皮膚などに適用する製剤 ① 外用固形剤 ② 外用液剤 ③ スプレー剤 ④ 軟膏剤 ⑤ クリーム剤 ⑥ ゲル剤 ⑨ 貼付剤 ⑩ 関連する局方一般試験法・容器 11. その他の製剤 ① 生物学的製剤 ② 放射性医薬品 ③ 生薬関連製剤 ④ 関連する局方一般試験法・容器 12. 製剤試験法 包装材料試験法 13. ドラッグデリバリーシステム(DDS)(1) ① DDSの目的 ② 放出制御型製剤 ③ 経口投与製剤に視る様々なDDS製剤 ④ 外用放出制御型製剤 14. ドラッグデリバリーシステム(DDS)(2) ① 標的部位志向(ターゲッティング) ② EPR効果 ③ 微粒子キャリアー ④ 遺伝子治療製剤のターゲッティング 15. まとめ 1～14までの範囲において学力の確認を行う。	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。 シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。 シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。 シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。 シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス: 医薬品の剤形を理解することは、薬理学と同等に重要です。現行の局方収載の剤形は多岐にわたるので、それぞれの特徴を理解することが重要です

フィードバックの方法: 演習問題等の解説は講義中に行う

「成績評価方法」		「成績評価基準」:	
評価方法	割合	評価基準	
期末テスト	71%	出席はアットランダムに3回とる。小テストを2回行う。小テスト(20%)、期末テスト(71%)、出席状況(9%)を合計して評価点とする(100点満点)。	
出席及びテスト	29%		
期末試験に不合格の場合は、別途レポートを課すことによって判定する。			

教科書: 三嶋基弘 他著「臨床製剤学(改訂第3版)」(南江堂)

参考書: 平野裕之、市川秀樹 著 Handy Intelligence 日本薬局方、京都廣川書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: 講義に関する質問等は、下記のメルアドまで連絡してください
nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	薬物により引き起こされる生体機能の変化を知り、医薬品による治療メカニズムを考察できるようになる。		
授業の概要:	薬理学Ⅰ、ⅡおよびⅣの3科目で薬理学の基本概念、医薬品が病気の症状を改善するメカニズムについて学ぶ。		
到達目標:	1. 内分泌系に作用する薬物の作用メカニズムを説明できる(知識)。 2. オータコイドについてを説明できる(知識)。 3. 抗アレルギー薬の作用メカニズムを説明できる(知識)。 4. リウマチに作用する薬物の作用メカニズムを説明できる(知識)。 5. 免疫系に作用する薬物の作用メカニズムを説明できる(知識)。 6. 呼吸器系に作用する薬物の作用メカニズムを説明できる(知識)。 7. 血液系に作用する薬物の作用メカニズムを説明できる(知識)。 8. 上記1から7に該当する薬物の構造式の概要を説明できる。		
授業方法:	1. プリテストによる予習状況の確認 2. パワーポイントによる講義 3. ポストテストにより理解度の確認 を原則とするが、随時指名して回答させるので積極的は授業参加を期待する。なお、プリテストは予備知識の確認あるいは準備状況を確認するために実施している。成績評価や出席管理のために実施しているわけではない。したがって、他人に成りすましてプリテストが提出された場合、実施が取りやめられる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 内分泌系に作用する薬物 全般:E2(5) 2. 内分泌系に作用する薬物 全般:E2(5) 3. 内分泌系に作用する薬物 全般:E2(5) 4. 内分泌系に作用する薬物 全般:E2(5) 5. 内分泌系に作用する薬物 全般:E2(5) 6. オータコイド1:E2(2)① 7. オータコイド1:E2(2)① 8. 抗アレルギー薬:E2(2)② 9. リウマチの治療薬:E2(2)②、③ 10. 免疫系に作用する薬物:E2(2)② 11. 呼吸器系1:E2(4)① 12. 呼吸器系2、血液系1 E2(3)②、E2(4)① 13. 血液系2 第20章E2(3)② 14. 質問・薬理学Ⅳの範囲内における薬理学の最新の知見 15. まとめ	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。 第13回までの授業内容について各自疑問点を明らかにし、質問を準備しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回の授業で、予習状況もしくは予備知識に関するプリテストを実施するので、教科書の指定された範囲をあらかじめ読んでおくこと。また、自主的に様々な資料(下記の参考文献はその一例)にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。指定された教科書1冊だけで学習するのではなく、疑問を感じたら様々な資料にあたって問題解決を図ること。授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。なお、追加の指示がある場合はマナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。		
フィードバックの方法:	前回の授業内容に対する質問・疑問等への回答を授業の冒頭に紹介する。定期試験の問題および解答はマナビーにアップロードするので、各自自己採点し不明の点は必ず質問すること(メール可)。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	多肢選択式の定期試験	100	定期試験(多肢選択式により40問を出題)に対する妥当な正答率(最低合格基準:Minimum Pass Level)により合格を判定する。最低合格基準は第14回目の授業の際、もしくはマナビーにて試験実施前に公表する。なお、最低合格基準は目標達成度の60%を超えない範囲で設定され、この基準を満たした場合に単位が認定される。中間試験は行わない。出席点はなし。
教科書:	今井正・宮本英七監修、標準薬理学 第7版、医学書院		
参考書:	竹内孝治・岡淳一郎編集、最新薬理学 第3版、廣川書店 重信弘毅・石井邦雄編集、パートナー薬理学、南江堂 加藤隆一・田中千賀子編集、New薬理学 第6版、南江堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室(憩水館6階W602)まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール(tfujii@dw.doshisha.ac.jp)にて事前に連絡する方が望ましい。		

授業テーマ:

代表的な内科疾患を学び薬物療法につき理解を深める。

授業の概要:

内科学は医学の中心的位置にある学問分野であり、薬物療法の基本ともいえる分野である。この分野を学ぶことにより、将来、患者さんへの対応能力、薬物療法に対する力を養うことを目指す。薬剤師は医学の進歩に対応して他の医療専門職と共に医学、薬学を生涯学び続けることが必要である。疾患について自ら学んでゆけるための基礎力となるようにする。

到達目標:

薬物療法に対する力を養う

授業方法:

講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 抗血栓療法 C-14 (1),(2) (村上)	関連基礎分野の予習
	2. 皮膚疾患 C-14 (1),(4) (村上)	関連基礎分野の予習
	3. 高血圧 C-14 (1),(2) (村上)	関連基礎分野の予習
	4. 循環器疾患 C-14 (1),(2) (村上)	関連基礎分野の予習
	5. 精神疾患 C-14 (3) (村上)	関連基礎分野の予習
	6. 上部、下部消化管疾患 C-14 (1),(2) (村上)	関連基礎分野の予習
	7. 代謝性疾患 C-14 (1),(2) (村上)	関連基礎分野の予習
	8. 肝疾患、膵、胆道疾患 C-14 (1),(2) (村上)	関連基礎分野の予習
	9. 骨粗しょう症 C-14 (1),(3),(4) (村上)	関連基礎分野の予習
	10. 内分泌疾患 C-14 (1),(3) (村上)	関連基礎分野の予習
	11. 免疫疾患 C-14 (1),(4) (高橋)	関連基礎分野の予習
	12. 腎疾患 C-14 (1),(3) (村上)	関連基礎分野の予習
	13. 神経疾患 C-14 (1),(3) (村上)	関連基礎分野の予習
	14. 呼吸器疾患 (村上) C-14 (1)	関連基礎分野の予習
	15. まとめ (村上)	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポート

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	90	講義内容の理解度により評価する
	出席、態度、関心	10	

教科書:

授業にて説明

参考書:

授業にて説明

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:			
授業の概要:	有機化学実験を通して『くすりの性質』を正しく理解するための能力と技術を身につける。		
到達目標:	有機化学実験の基本操作および安全な化学実験操作、各種実験器具の使用方法、使用目的を理解させる。さらに試薬や医薬品等の有機化合物を混合した検体を分液ロート、ろ過、再結晶、クロマトグラフィーで分離・精製し、得られた各有機化合物の融点、定性試験を検討する。さらには誘導体の合成により未知検体の同定を行い、化学実験により有機化合物の分離と構造決定を行うための基本的原理・操作・技術・方法を習得させる。		
授業方法:	実習前講義、実験実習、グループディスカッション、実習レポート提出によりおこなう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 1.安全教育(3講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。	
	2. 2.実験器具の取り扱い、試薬調製、ガラス細工(4講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。	
	3. 3.分液漏斗による有機化合物未知検体(酸性)の分離精製・融点測定、同定1～3(5講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。	
	4. 4-6.分液漏斗による有機化合物未知検体(塩基性)の分離精製・融点測定、同定1～4(3・4・5講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。	
	5. 7-9.アセチルサリチル酸の合成、精製と融点測定(3・4講時)、ケイヒ酸の合成(5講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。	
	6. 10-12.ケイヒ酸の合成、精製と融点測定(3. 4講時)有機定性分析(5講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。	
	7. 13-15.クロラムフェニコールアミンの絶対配置決定、スペクトルによる構造解析(3. 4講時)総合討論(5講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	単に作業をこなすのではなく、原理や操作の意味を考え、注意深く観察する。		
フィードバックの方法:	グループディスカッションとレポートの返却		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実技	40	60%以上で合格
	実習レポート	40	
	グループディスカッション	20	
教科書:	有機化学実習書(医薬品製造化学研究室・創薬有機化学研究室編) わかりやすい化学実験(化学と生物 実験ライン1、津波古他、廣川書店)		
参考書:	薬学部教育研究における防災安全の手引(同志社女子大学薬学部医療薬学科) 学生のための化学実験安全ガイド(徂徠他、東京化学同人) 有機分析(百瀬 勉、廣川書店)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	研究室を訪問		

授業テーマ： 薬物分子・生体分子の物性と構造

授業の概要: 生命物理化学の講義で学んだ理論や原理が薬物分子や生体分子に対して、どのように適用されるかを、実際の医薬品を用いて実験を行って確かめる。また、bioinformaticsの観点からPCを用いて核酸や蛋白質の機能構造解析を行い、生体分子や薬物分子の立体構造について、理解を深める。

到達目標： 物理化学の基礎事項を理解させる。

授業方法: 実験実習をグループ単位で実施する, 実験結果について, PBL等も踏まえながら, 討論等を行う.

「授業内容」	授業内容
① 基礎知識の整理と確認 ② 基礎知識の応用問題の練習 ③ 基礎知識の発展問題の練習 ④ 基礎知識のまとめと振り返り	① 基礎知識の整理と確認 ② 基礎知識の応用問題の練習 ③ 基礎知識の発展問題の練習 ④ 基礎知識のまとめと振り返り

準備学習等の内容

「準備学習等の内
容」:

1. 緩衝液の調製:緩衝液のpHについて C2 (2)
2. 薬物の定量:サリチル酸の定量 - 紫外可視吸収スペクトル (検量線) C2 (4), C4 (3)
3. 薬物の定量:アスピリンの定量 - 紫外可視吸収スペクトル (試料) C2 (4), C4 (3)
4. 薬物の物性:アスピリンの加水分解 - 擬1次反応 C1 (3), C4 (3)
5. 薬物の物性:アスピリンの加水分解 - 反応速度定数 C1 (3), C4 (3)
6. 薬物の物性:アスピリンの加水分解 - 反応速度定数の温度依存性 C1 (3), C4 (3)
7. 薬物の物性:アスピリンの加水分解 - Arrhenius式と活性化エネルギー C1 (2), C4 (3)
8. 薬物の物性:希薄溶液の束一性 - 凝固点降下度の測定 (蒸留水) C1 (2), C4 (3)
9. 薬物の物性:希薄溶液の束一性 - 溶質の分子量決定 (試料) C1 (2), C4 (3)
10. 生体分子の立体構造:核酸 C4 (1)
11. 生体分子の立体構造:蛋白質 C4 (1)
12. 生体分子の立体構造:薬物分子相互作用 C4 (1)
13. コンピューターを用いたDNA解析 C4 (1)
14. コンピューターを用いた蛋白質解析 C4 (1)
15. コンピューターを用いた蛋白質2次構造予測 C4 (1)

[illegible]

受講者への 実験実習をグループ単位で実施し、その原理や実験結果について、討論等を行う。

メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: グループの実習データファイルを、実習者各自に還元して情報の共有を行っている。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	50	実習を体験することが重要であるので、出席が原則である。
	実習レポート	50	

教科書：「生命物理化学実習書」(生命物理化学研究室 編)
「基礎薬学 物理化学」 桐野 豊 編(廣川書店)

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

実習中に実習室内で対応の他、オフィスアワー、E-mail 等に対応.

授業テーマ:	問題解決能力の醸成 薬学アドバンスト教育A～F																												
授業の概要:	研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。																												
到達目標:	薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。																												
授業方法:	実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。																												
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1)薬学における研究の位置づけ。 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。 G(1)－1)～4) 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) (2)研究に必要な法規範と倫理。 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。 G(2)－1)～3) 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) (3)研究の実践。 研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。 G(3)－1)～6) 1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能) 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能) 3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> <tr> <td>13. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td>テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。</td></tr> </tbody> </table>	授業内容	準備学習等の内容	1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1)薬学における研究の位置づけ。 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。 G(1)－1)～4) 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) (2)研究に必要な法規範と倫理。 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。 G(2)－1)～3) 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) (3)研究の実践。 研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。 G(3)－1)～6) 1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能) 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能) 3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。	13. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
授業内容	準備学習等の内容																												
1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1)薬学における研究の位置づけ。 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。 G(1)－1)～4) 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) (2)研究に必要な法規範と倫理。 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。 G(2)－1)～3) 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) (3)研究の実践。 研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。 G(3)－1)～6) 1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能) 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能) 3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												
13. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。																												

14.

それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
15.

それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。

受講者への
メッセージや
アドバイス：
フィードバックの
方法：

全員毎回出席が原則。

指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	積極的な研究態度	50	指導教員の個々の評価基準
	発表・研究論文内容	50	指導教員の個々の評価基準

教科書：

それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

参考書：

それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

各教員で対応

授業テーマ:			
授業の概要:	医療法人社団石鎚会による寄付講座である。病院における薬物治療の実際を学ぶ。		
到達目標:	病院や調剤薬局で薬剤師として働くにあたり、処方内容の意図や疾病状態との関連を理解できるように、また、医師や看護師、その他医療専門職とコミュニケーションがとれるよう、基礎知識を現場感覚で身につける。		
授業方法:	特別講師が原則60～70分間講義し、その後、講義内容について質疑応答を行う。コーディネーターは授業の前後に導入とまとめを行う。なお、各回の授業内容は予定であり、講義の順序は変更になることがある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	2. ICT(感染管理)活動	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	3. NST(栄養サポートチーム)の活動	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	4. 漢方薬を用いた治療	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	5. 薬剤投与を中心にDR.G形式(学生参加型授業)	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	6. メタボ・循環器疾患治療における薬剤投与の役割	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	7. 医療安全～薬剤師の立場から～	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	8. 脳卒中について	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	9. 皮膚科疾患に対する医薬品選定	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	10. 骨粗鬆症の投薬管理	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	11. 妊婦の投薬管理	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	12. 抗菌薬の採用と管理／小児医療における投薬管理	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	13. 重症患者集中治療における薬剤師の果たす役割	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	14. がん治療における化学療法～乳がんを中心に～	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	15. アレルギーと薬剤	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと。	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	6年次生には、実務実習で習得した知識や体験を深めることができるとともに、実務実習で経験できなかった診療科領域の薬物療法についても学ぶことができ、有意義な科目となる。4年次生にとっても、実務実習に向けて各診療科の最前線に触れることができる。	
フィードバックの方法:	毎回の講義のあとに質疑応答を行い、そこで出された質問等について解説することを通じてフィードバックする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	50	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
	レポート(課題は講義中に発表)	50	
教科書:	指定しない。		
参考書:	参考資料は各講義ごとに紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	E-mail: rkizu@dw.doshisha.ac.jp、講義室および研究室で随時対応。		

授業テーマ:	解剖学および生理学について正しく理解する																																		
授業の概要:	この講義では、人体を、細胞、細胞よりなる組織、組織よりなる臓器、諸臓器よりなるシステム(系)、システムの統合された人体ととらえ、すべてが関連しあっていることを学ぶ。																																		
到達目標:	人体の基本的な構造と機能について正しい知識を身につける。																																		
授業方法:	講義形式																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 解剖生理学の基礎</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>2. 皮膚</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>3. 骨</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>4. 骨格筋</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>5. 造血系</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>6. 循環器系</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>7. 呼吸器系</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>8. 内分泌系</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>9. 消化器系</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>10. 神経系</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>11. 腎、泌尿器系</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>12. 生殖系</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>13. 感覚器系</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>14. 免疫系</td><td>教科書にて該当する分野の予習</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 解剖生理学の基礎	教科書にて該当する分野の予習	2. 皮膚	教科書にて該当する分野の予習	3. 骨	教科書にて該当する分野の予習	4. 骨格筋	教科書にて該当する分野の予習	5. 造血系	教科書にて該当する分野の予習	6. 循環器系	教科書にて該当する分野の予習	7. 呼吸器系	教科書にて該当する分野の予習	8. 内分泌系	教科書にて該当する分野の予習	9. 消化器系	教科書にて該当する分野の予習	10. 神経系	教科書にて該当する分野の予習	11. 腎、泌尿器系	教科書にて該当する分野の予習	12. 生殖系	教科書にて該当する分野の予習	13. 感覚器系	教科書にて該当する分野の予習	14. 免疫系	教科書にて該当する分野の予習	15. まとめ	復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 解剖生理学の基礎	教科書にて該当する分野の予習																																		
2. 皮膚	教科書にて該当する分野の予習																																		
3. 骨	教科書にて該当する分野の予習																																		
4. 骨格筋	教科書にて該当する分野の予習																																		
5. 造血系	教科書にて該当する分野の予習																																		
6. 循環器系	教科書にて該当する分野の予習																																		
7. 呼吸器系	教科書にて該当する分野の予習																																		
8. 内分泌系	教科書にて該当する分野の予習																																		
9. 消化器系	教科書にて該当する分野の予習																																		
10. 神経系	教科書にて該当する分野の予習																																		
11. 腎、泌尿器系	教科書にて該当する分野の予習																																		
12. 生殖系	教科書にて該当する分野の予習																																		
13. 感覚器系	教科書にて該当する分野の予習																																		
14. 免疫系	教科書にて該当する分野の予習																																		
15. まとめ	復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	レポート																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>試験</td><td>80</td><td rowspan="2">講義内容の理解度により評価する</td></tr><tr><td>レポート</td><td>20</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	試験	80	講義内容の理解度により評価する	レポート	20																										
評価方法	割合	評価基準																																	
試験	80	講義内容の理解度により評価する																																	
レポート	20																																		
教科書:	人体の構造と機能 (1) 解剖生理学 医学書院																																		
参考書:	授業で紹介																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

授業テーマ:

基盤病理学看護を行う際に必要となる疾病の原因、成り立ちおよび臓器・組織での形態学的・機能的変化を学ぶ。

授業の概要:

身体や細胞の構造と機能の面から疾病の成り立ちを理解し、治療につながる知識を得る。疾病に共通する病理学総論と各臓器・組織に特異的な病変に関する病理学各論を組み合わせて体系的に学ぶ。

到達目標:

1)ヒトの疾患について、原因および個体・臓器・組織・細胞・遺伝子・蛋白レベルにおける病的変化(代謝異常、退行性変化、炎症、腫瘍、循環障害など)を理解し、簡潔に説明することができる。
2)基本的な疾患名、病理所見、疾患分類について日本語と英語の正しい記載を理解し、使用することができる。

授業方法:

インタラクティブな講義形式による。あらかじめ設定された授業のポイントを準備し、授業当日に教員と、あるいは学生同士でとディスカッションできるように事前に学習することを前提とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	細胞損傷・適応, 炎症	細胞ストレス アポトーシスと壊死 活性酸素 急性炎症における血管の役割 炎症における白血球の役割
2.	循環障害・血液異常, 感染症	梗塞の定義 浮腫のメカニズム 血栓形成機構・止血機構 日和見感染
3.	免疫異常, 腫瘍	アレルギーの分類 自己免疫疾患 腫瘍の定義 退形成・分化・悪性度 悪性腫瘍の転移様式
4.	先天異常・遺伝性疾患, 代謝異常	高窒素血症 高アンモニア血症 染色体異常症
5.	循環器	心筋梗塞と狭心症 本態性高血圧と二次性高血圧 心不全 動脈硬化症
6.	造血器	貧血の分類とその成因 急性白血病と慢性白血病 伝染性単核症 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫
7.	呼吸器	気管支喘息 肺塞栓症 慢性閉塞性肺疾患 間質性肺炎と気管支肺炎 急性呼吸窮迫症候群 肺癌の組織型と治療
8.	口腔・消化管	口腔癌・食道癌 食道静脈瘤 イレウス 偽膜性大腸炎 炎症性腸疾患
9.	肝・胆・膵	ウィルス性肝炎 肝硬変 胆石・胆嚢炎 急性膵炎・慢性膵炎
10.	泌尿器・生殖器	糸球体腎炎 糖尿病性腎症 間質性腎炎 ネフローゼ
11.	内分泌	子宮内膜症 子宮頸癌 尿崩症 バセドウ病 原発性アルドステロン症
12.	筋・骨格系	糖尿病とその合併症 骨粗鬆症と骨軟化症 変形性関節症 重症筋無力症 関節リウマチ
13.	脳・神経系	脳梗塞・脳出血・くも膜下出血 パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症
14.	皮膚・感覚器	湿疹・皮膚炎症候群 じんま疹 母斑 皮膚癌
15.	まとめ	すべての項目の復習と確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。

フィードバックの方法:

1)フィードバックをしながら授業を進める。
2)出席票のコメント欄に疑問点や意見を書いておく次回授業でフィードバックする。
3)オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	100%	100点満点で評価する。
教科書:	Dr.レイの病理学講義 改訂2版 編著 高橋 玲 著 北澤莊平 金芳堂		
参考書:	トップジャーナルの症例集で学ぶ医学英語 監修・著 高橋玲(アルク社) キクタンメディカル1. 人体の構造編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル2. 診療と臨床検査編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル3. 症候と疾患編 監修・執筆 高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル4. 保健医療編 監修 高橋玲(Dr.レイ) 執筆 押味貴之(アルク社) キクタンメディカル5. 看護とケア編 監修 高橋玲(Dr.レイ) 執筆 平野美津子(アルク社)		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡 方法:	オフィスアワー、授業の前後教室内		

授業テーマ:

授業の概要: 看護にとって重要な領域である感染症を理解するために、微生物の種類や特徴を学ぶ。そして、感染症の原因となる特定の病原体の性質や特徴について学ぶ。また、感染や伝播を予防するための方法を学ぶ。さらに、感染を防ぐ免疫系の基本的なしくみや、その破綻による自己免疫疾患等の疾病について学ぶ。

到達目標: 微生物の種類や特徴を学ぶことにより、感染症の原因となる特定の病原体の性質や特徴を理解する。また、感染や伝播を予防するための方法を理解する。さらに、感染を防ぐ免疫系の基本的なしくみや、その破綻による自己免疫疾患等の疾病について理解する。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. イントロダクション、微生物(細菌、ウイルス、真剣、原虫)概論	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	2. 細菌の性質1(形態、特徴)	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	3. 細菌の性質2(培養、栄養、遺伝)	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	4. ウイルスの性質(構造、特徴、増殖)	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	5. 真菌と原虫(構造、特徴、増殖)	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	6. 自然免疫(食細胞、受容体、炎症、補体)	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	7. 獲得免疫(抗原提示、T細胞、B細胞、抗体)	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	8. 免疫寛容、自己免疫疾患、アレルギー、ワクチン	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	9. 感染源・感染経路から見た感染症、滅菌と消毒	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	10. 感染症の治療(抗菌薬、抗ウイルス薬、薬剤耐性)	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	11. 感染症の現状	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	12. 病原細菌	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	13. 病原ウイルス	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	14. 病原原虫・病原真菌	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
	15. まとめ	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:
フィードバックの方法: 必要に応じて面談等を行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	100	得点に応じて評価する

教科書: 微生物学（南島洋一、吉田真一、永淵正法 著）医学書院

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
教員との連絡方法: 分析力、思考力、自己管理能力
オフィスアワーの活用

授業テーマ:

人の健康にとって栄養がいかに重要かを理解するとともにその基本的概念と知識を習得する。

授業の概要:

栄養学の基本について解説し、人の健康と栄養がいかに密接にかかわっているかを理解できるように講義を進める。また将来の看護専門職として患者への栄養支援が管理栄養士等の他職種との連携や栄養ケア計画の実際について解説する。

到達目標:

栄養学の基本を理解するとともに、人間栄養学の取り組みがなぜ必要なのかを授業を通じて考える。

授業方法:

授業形態は講義で、配布資料、資料提示等を適宜用います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養とは何かを人間栄養学の視点から考える	
2.	栄養素の基本知識(糖質と脂質を中心として)	教科書等で該当部分を予習すること
3.	栄養素の基本知識(たん白質を中心として)	教科書等で該当部分を予習すること
4.	栄養素の基本知識(主要な水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン)	教科書等で該当部分を予習すること
5.	栄養素の基本知識(マクロミネラルと微量元素-日本人が欠乏しやすいミネラルを中心として)	教科書等で該当部分を予習すること
6.	食品の種類と含有栄養素の特徴	教科書等で該当部分を予習すること
7.	栄養素の消化と吸収	教科書等で該当部分を予習すること
8.	栄養素の体内代謝(エネルギー代謝を含む)	教科書等で該当部分を予習すること
9.	日本人の食事摂取基準	教科書等で該当部分を予習すること
10.	ライフステージと栄養(小児期・成長期・妊娠・授乳期)	教科書等で該当部分を予習すること
11.	ライフステージと栄養(成人期・高齢期)	教科書等で該当部分を予習すること
12.	栄養ケア・マネジメント(チーム医療による栄養管理を含む)	教科書等で該当部分を予習すること
13.	栄養状態の評価と判定	教科書等で該当部分を予習すること
14.	疾病の食事療法(糖尿病・肥満・慢性腎臓病を中心に)	教科書等で該当部分を予習すること
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

看護実践の中で栄養学の重要性を感じられるとともに、栄養学の面白さをできるだけ感じてもらえるよう努力するので、興味をもって受講してほしい。予習を重視する。毎回の講義の終了前に次回の事前学習範囲を告げるので、次回講義までにその範囲を教科書だけでなく参考図書その他の文献等で予習を行う。

フィードバックの方法:

質問があれば積極的に申し出てください。個別または必要があれば全体に返します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100%	上記到達目標に関する知識や理解度により評価する

教科書:

中村丁次 他「系統看護講座 人体の構造と機能(3)栄養学」

参考書:

授業の中で適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

キャンパスが離れているので授業の前後もしくは電話やメールで問い合わせてください。TEL075-251-4236 email; tkomatsu@dwc.doshisha.ac.jp 生活科学部臨床栄養管理栄養学研究室

授業テーマ:	薬物効果の基礎的理解																																		
授業の概要:	医師や薬剤師のような、直接処方や調剤に携わる職種以外でも、医療関連職であれば、薬に関する専門的知識が求められる。この講義では、薬物治療の理論的基盤である薬理学の入門編として、個々の薬物の詳細には立ち入らず、一般的な薬物作用について概観し、今後の専門教育の基礎を気づくことを目標とする。																																		
到達目標:	解剖・生理学や薬理学の基礎知識が固まっていれば、具体的な薬物療法に関係する看護のポイントは講義や実習、更に現場での経験を積みめば必ず身についてくる。重要なのは、基礎知識を固めておくことである。教科書は指定するが、このうち、病態生理学的部分に焦点を絞ることによって、前期の科目の定着と、以降の科目への橋渡しに必要な知識の獲得を目指す。																																		
授業方法:	教科書の指定された部分をパワーポイントにより講義する。教科書にない資料はマナビーにアップする。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 基礎知識1:薬理学とは・薬物の作用点</td><td>教科書4－22を予習 マナビーアップする資料を参照</td></tr><tr><td>2. 基礎知識2:薬物動態学、薬物相互作用、薬物開発</td><td>教科書22－45を予習</td></tr><tr><td>3. 自律神経系</td><td>教科書132－146 マナビーにアップする神経系の図を暗記すること</td></tr><tr><td>4. 高血圧、狭心症</td><td>教科書184－194</td></tr><tr><td>5. 心不全、不整脈、利尿</td><td>教科書195－206</td></tr><tr><td>6. 脂質異常症、血液・呼吸</td><td>教科書207－226</td></tr><tr><td>7. 中枢1:麻酔、催眠、不安、精神病、うつ</td><td>教科書152－172</td></tr><tr><td>8. 中枢2:パーキンソン病、てんかん、麻薬性鎮痛薬</td><td>教科書172－181</td></tr><tr><td>9. 抗炎症薬、免疫・アレルギー</td><td>教科書118－129、102－111 マナビーにアップする資料参照</td></tr><tr><td>10. 感染症1</td><td>教科書 62－88</td></tr><tr><td>11. 感染症2</td><td>教科書 62－88</td></tr><tr><td>12. がん</td><td>教科書 90－100 マナビーにアップする資料参照</td></tr><tr><td>13. 消化器、生殖・泌尿器</td><td>教科書 227－238</td></tr><tr><td>14. 代謝・内分泌</td><td>教科書 242－256</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>配布したまとめの資料を参照</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 基礎知識1:薬理学とは・薬物の作用点	教科書4－22を予習 マナビーアップする資料を参照	2. 基礎知識2:薬物動態学、薬物相互作用、薬物開発	教科書22－45を予習	3. 自律神経系	教科書132－146 マナビーにアップする神経系の図を暗記すること	4. 高血圧、狭心症	教科書184－194	5. 心不全、不整脈、利尿	教科書195－206	6. 脂質異常症、血液・呼吸	教科書207－226	7. 中枢1:麻酔、催眠、不安、精神病、うつ	教科書152－172	8. 中枢2:パーキンソン病、てんかん、麻薬性鎮痛薬	教科書172－181	9. 抗炎症薬、免疫・アレルギー	教科書118－129、102－111 マナビーにアップする資料参照	10. 感染症1	教科書 62－88	11. 感染症2	教科書 62－88	12. がん	教科書 90－100 マナビーにアップする資料参照	13. 消化器、生殖・泌尿器	教科書 227－238	14. 代謝・内分泌	教科書 242－256	15. まとめ	配布したまとめの資料を参照		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 基礎知識1:薬理学とは・薬物の作用点	教科書4－22を予習 マナビーアップする資料を参照																																		
2. 基礎知識2:薬物動態学、薬物相互作用、薬物開発	教科書22－45を予習																																		
3. 自律神経系	教科書132－146 マナビーにアップする神経系の図を暗記すること																																		
4. 高血圧、狭心症	教科書184－194																																		
5. 心不全、不整脈、利尿	教科書195－206																																		
6. 脂質異常症、血液・呼吸	教科書207－226																																		
7. 中枢1:麻酔、催眠、不安、精神病、うつ	教科書152－172																																		
8. 中枢2:パーキンソン病、てんかん、麻薬性鎮痛薬	教科書172－181																																		
9. 抗炎症薬、免疫・アレルギー	教科書118－129、102－111 マナビーにアップする資料参照																																		
10. 感染症1	教科書 62－88																																		
11. 感染症2	教科書 62－88																																		
12. がん	教科書 90－100 マナビーにアップする資料参照																																		
13. 消化器、生殖・泌尿器	教科書 227－238																																		
14. 代謝・内分泌	教科書 242－256																																		
15. まとめ	配布したまとめの資料を参照																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	看護師として必須のアイテムについては、まとめた資料を配布するので、最低限これらを頭に入れ、その上で発展学習に臨む姿勢を養ってほしい。																																		
フィードバックの方法:	クリッカーを用いた小テストを行い、その場で採点したうえで解説する。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>定期試験</td><td>100</td><td>必須アイテム(100%)に関しては前もって資料を配布</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	定期試験	100	必須アイテム(100%)に関しては前もって資料を配布																												
評価方法	割合	評価基準																																	
定期試験	100	必須アイテム(100%)に関しては前もって資料を配布																																	
教科書:	吉岡、泉、井関編、「薬理学」系統看護学講座、専門基礎分野、疾病のなりたちと回復の促進③、医学書院																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	turushid@dw.doshisha.ac.jp, 憩水館6F606にて随時																																		

授業テーマ:

主要疾患の症候、病態生理、治療法の理解。

授業の概要:

疾患、治療法を医学的に正しく理解し、看護理論に応用できる力を獲得する。

到達目標:

疾患、治療法を医学的に正しく理解し、看護に応用できる力を獲得する。

授業方法:

講義形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 外科学総論	教科書全般に目を通しておくこと。
	2. 脳神経疾患の外科治療1	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	3. 脳神経外科の外科治療2	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	4. 運動器疾患の外科治療1	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	5. 運動器疾患の外科治療2	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	6. 腎・泌尿器疾患の外科治療	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	7. 婦人科疾患の外科治療	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	8. 消化器疾患の外科治療1	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	9. 消化器疾患の外科治療2	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	10. 乳腺疾患の外科治療1	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	11. 乳腺疾患の外科治療2	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	12. 創傷治癒1	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	13. 創傷治癒2・再建	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	14. 麻酔	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
	15. まとめ	これまでの授業の復習をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

コメントペーパー等による。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	

教科書:

系統看護学講座 別巻「臨床外科看護総論」「臨床外科看護各論」(医学書院)

参考書:

適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

授業テーマ:

主要疾患の症候、病態生理、治療法の理解

授業の概要:

疾患を医学的に正しく理解し、看護理論に応用できる力を獲得する。

到達目標:

疾患を医学的に正しく理解し、看護に応用できる力を獲得する。

授業方法:

講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 総論 糖尿病	教科書にて予習
	2. 糖尿病	教科書にて予習
	3. 呼吸器疾患	教科書にて予習
	4. 呼吸器疾患	教科書にて予習
	5. 循環器疾患	教科書にて予習
	6. 循環器疾患	教科書にて予習
	7. 消化器疾患	教科書にて予習
	8. 消化器疾患	教科書にて予習
	9. 消化器疾患	教科書にて予習
	10. 消化器疾患	教科書にて予習
	11. 腎疾患	教科書にて予習
	12. 血液疾患	教科書にて予習
	13. 神経疾患	教科書にて予習
	14. 認知症	教科書にて予習
	15. まとめ	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポート

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	試験	80	講義内容の理解度により評価する
	レポート、意欲、授業態度	20	

教科書:

看護のための臨床病態学

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:																																			
授業の概要:	こころのしくみを理解し、現代社会におけるこころの健康の維持・増進における課題と精神保健の役割を理解する。																																		
到達目標:	1. 精神科医療の歴史的変遷を理解することができる。 2. 精神科医療の対象となる疾患及び治療について理解することができる。 3. こころの健康における諸概念や理論を理解することができる。 4. 生活場面におけるこころの健康問題と精神保健の役割について理解することができる。																																		
授業方法:	講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 精神医学 総論</td><td>配布した資料をもとに、【精神医学 総論】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>2. 統合失調症</td><td>配布した資料をもとに、【統合失調症】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>3. 気分障害</td><td>配布した資料をもとに、【気分障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>4. 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害</td><td>配布した資料をもとに、【神経症性障害】【ストレス関連障害及び身体表現性障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>5. 中毒性障害、物質関連障害</td><td>配布した資料をもとに、【中毒性障害】【物質関連障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>6. 児童思春期精神障害(発達障害・パーソナリティ障害)</td><td>配布した資料をもとに、【児童思春期精神障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>7. 老年精神医学</td><td>配布した資料をもとに、【老年精神医学】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>8. コンサルテーション・リエゾン精神医学</td><td>配布した資料をもとに、【コンサルテーション・リエゾン精神医学】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>9. こころの健康とは</td><td>WHOによる健康の定義について予め確認しておくこと、</td></tr><tr><td>10. ストレス</td><td>現在、自身が経験しているストレス源と対処方法について確認しておくこと、</td></tr><tr><td>11. 危機理論とリスクマネジメント</td><td>【危機理論】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>12. ライフサイクルと精神保健</td><td>【エリクソンの発達段階及びそれぞれの発達段階における課題】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>13. 生活の場と精神保健</td><td>【家庭・学校・職場、それぞれにおいて生じやすい精神的な問題】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること</td></tr><tr><td>14. さまざまな社会病理現象</td><td></td></tr><tr><td>15. ゲストスピーカー:WRAPを活用したストレス対処</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 精神医学 総論	配布した資料をもとに、【精神医学 総論】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	2. 統合失調症	配布した資料をもとに、【統合失調症】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	3. 気分障害	配布した資料をもとに、【気分障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	4. 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	配布した資料をもとに、【神経症性障害】【ストレス関連障害及び身体表現性障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	5. 中毒性障害、物質関連障害	配布した資料をもとに、【中毒性障害】【物質関連障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	6. 児童思春期精神障害(発達障害・パーソナリティ障害)	配布した資料をもとに、【児童思春期精神障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	7. 老年精神医学	配布した資料をもとに、【老年精神医学】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	8. コンサルテーション・リエゾン精神医学	配布した資料をもとに、【コンサルテーション・リエゾン精神医学】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	9. こころの健康とは	WHOによる健康の定義について予め確認しておくこと、	10. ストレス	現在、自身が経験しているストレス源と対処方法について確認しておくこと、	11. 危機理論とリスクマネジメント	【危機理論】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	12. ライフサイクルと精神保健	【エリクソンの発達段階及びそれぞれの発達段階における課題】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	13. 生活の場と精神保健	【家庭・学校・職場、それぞれにおいて生じやすい精神的な問題】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること	14. さまざまな社会病理現象		15. ゲストスピーカー:WRAPを活用したストレス対処			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 精神医学 総論	配布した資料をもとに、【精神医学 総論】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
2. 統合失調症	配布した資料をもとに、【統合失調症】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
3. 気分障害	配布した資料をもとに、【気分障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
4. 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	配布した資料をもとに、【神経症性障害】【ストレス関連障害及び身体表現性障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
5. 中毒性障害、物質関連障害	配布した資料をもとに、【中毒性障害】【物質関連障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
6. 児童思春期精神障害(発達障害・パーソナリティ障害)	配布した資料をもとに、【児童思春期精神障害】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
7. 老年精神医学	配布した資料をもとに、【老年精神医学】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
8. コンサルテーション・リエゾン精神医学	配布した資料をもとに、【コンサルテーション・リエゾン精神医学】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
9. こころの健康とは	WHOによる健康の定義について予め確認しておくこと、																																		
10. ストレス	現在、自身が経験しているストレス源と対処方法について確認しておくこと、																																		
11. 危機理論とリスクマネジメント	【危機理論】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
12. ライフサイクルと精神保健	【エリクソンの発達段階及びそれぞれの発達段階における課題】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
13. 生活の場と精神保健	【家庭・学校・職場、それぞれにおいて生じやすい精神的な問題】について、マインドマップを活用し、事前に整理すること。作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること																																		
14. さまざまな社会病理現象																																			
15. ゲストスピーカー:WRAPを活用したストレス対処																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	精神疾患とその治療について学ぶ機会は8回しかありません。貴重な機会ですので、事前準備をして受講してください。																																		
フィードバックの方法:	提出していただいたマインドマップは確認の上、講義までにコメントを入れて返却します。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>事前学習</td><td>20</td><td>事前学習の内容を確認し、A(良くできた)、B(できた)、C(もう少し)、D(不十分・未提出)の4段階で評価する。 C以上を合格とする。</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>80</td><td></td></tr><tr><td>総合評価</td><td>100</td><td>60点以上を合格とする。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	事前学習	20	事前学習の内容を確認し、A(良くできた)、B(できた)、C(もう少し)、D(不十分・未提出)の4段階で評価する。 C以上を合格とする。	定期試験	80		総合評価	100	60点以上を合格とする。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
事前学習	20	事前学習の内容を確認し、A(良くできた)、B(できた)、C(もう少し)、D(不十分・未提出)の4段階で評価する。 C以上を合格とする。																																	
定期試験	80																																		
総合評価	100	60点以上を合格とする。																																	
教科書:	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 第5版 医学書院																																		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 第5版 医学書院																																		
参考書:	講義中に適宜紹介する。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	ykimura@dwc.doshisha.ac.jp																																		

授業テーマ:

小児疾患の病態・治療について理解する。
女性生殖疾患の病態・治療と妊娠の生理について理解する。

授業の概要:

育成医療は、受胎にはじまり小児・思春期を経て次の世代を生み育てるまでの一連の過程における身体的・精神的問小児に多題を扱う医療であり、小児科学と生殖医療・産婦人科学で構成する。
[小児科学]
小児に多い疾患・特有の疾患の病態、診断、治療、予後について、小児期各期(新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)および系統別に学習する。
[生殖医療・産婦人科学]
女性生殖器の構造と機能、女性生殖疾患に関わる病態・治療法(月経異常、性感染症、不妊と不育症、周産期の異常、腫瘍)について学習する。

到達目標:

1)小児に多い疾患の病態・診断・治療法について理解する
2)女性生殖器の構造と機能、女性生殖疾患やハイリスク妊産婦の病態・治療法について理解する

授業方法:

1:講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	小児科学(1)総論、血液疾患・腫瘍性疾患(白血病、悪性腫瘍)	教科書の該当部分を読んでおくこと
2.	小児科学(2)アレルギー疾患(喘息、食物アレルギーなど)、腎泌尿器疾患(ネフローゼ症候群など)	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
3.	小児科学(3)感染症	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
4.	小児科学(4)循環器疾患(先天性心疾患、川崎病など)、遺伝性疾患(ダウン症候群など)	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
5.	小児科学(5)消化管疾患(肥厚性幽門狭窄、閉塞、腸重責、先天性疾患など)	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
6.	小児科学(6)内分泌代謝異常(糖尿病、代謝異常など)	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
7.	小児科学(7)脳神経疾患(低酸素脳症、脳性麻痺、てんかんなど)	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
8.	女性生殖器の構造、機能、主な症状、主な診察・検査と治療・処置	教科書の該当部分を読んでおくこと
9.	婦人科疾患(1)性分化疾患、臓器別疾患	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
10.	婦人科疾患(2)機能的疾患	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
11.	産科学(1)妊娠の生理、正常妊娠	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
12.	産科学(2)分娩の要素	前回の授業料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
13.	産科学(3)妊娠・分娩の異常	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
14.	不妊症、不育症、性感染症、受胎調節法	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

・1回の授業で進む量と内容が多いので、教科書の章末の「ゼミナール」の復習と課題を確認して要点を整理して下さい。
・授業の進行については、授業の開始時までにマナビーによりお知らせします。授業内容により使う教科書が異なりますので注意して下さい。

フィードバックの方法:

質問用紙、コメントペーパー等に対しては、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』医学書院(授業内容1-7)
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器』医学書院(授業内容8-10,14)
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論』医学書院(授業内容11-14)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	健康心理学の理解、その知識と技法の健康維持増進への活用		
授業の概要:	健康心理学とは、健康の維持と増進、疾病の予防と治療、ヘルスシステムや健康政策の分析や改善などに行動科学の知識と技術で関与する心理学の一領域であり、健康で幸福な人生を実現するための比較的新しい学際的心理学である。ストレスとその対処法、ソーシャルサポート、パーソナリティ(行動様式)と疾患との関連性、ライフスタイル、自己効力感のテーマを取り上げ、健康心理学について理解を深める。		
到達目標:	健康心理学についての理解を深め、その知識と技法を自分の心身の健康に役立てる力を身につける。		
授業方法:	5.講義/演習の混合、講義ではDVD、パワーポイント、プリント等を活用する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 健康心理学とは	「健康とは」について考える	
	2. ストレスのメカニズム(1) 生理学的ストレス:セリエ	前回の授業の復習をしておく	
	3. ストレスのメカニズム(2) 生理学的ストレス:アロスタシス	前回の授業の復習をしておく	
	4. ストレスのメカニズム(3) 心理社会的ストレス:社会的適応尺度	・前回の授業の復習をしておく ・大学生活でストレスを感じた事象とその時の対処方法やその後の経過を考えておく 前回の授業の復習をしておく	
	5. ストレスのメカニズム(4) 心理社会的ストレス:ストレスコーピング	前回の授業の復習をしておく	
	6. ストレスのメカニズム(4) 心理社会的ストレス:事例による検討	前回の授業の復習をしておく	
	7. ストレスコーピングの分析、リラックス法について	前回の授業の復習をしておく	
	8. 身体的緊張のセルフチェック(演習)	前回の授業の復習をしておく	
	9. リラックス法の体験と生理的ストレスの評価方法(演習)		
	10. 健康行動と生活習慣の形成(1)動機づけ	マズローの欲求について学習しておく	
	11. 健康行動と生活習慣の形成(2)セルフモニタリング	・前回の授業の復習をしておく ・理想的な生活習慣について考える	
	12. パーソナリティと健康	前回の授業の復習をしておく	
	13. 幸福・ウェルビーイングについて	前回の授業の復習をしておく	
	14. 幸福・ウェルビーイング:事例による検討	前回の授業の復習をしておく	
	15. まとめ	これまでの授業の復習をしておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:	日々の生活での体験を教材に、自己の思考・行動パターンに気づけるように、個人のワークやディスカッションを取り入れて授業をすすめます。		
フィードバックの方法:	コメントペーパー等に対するのフィードバックは教室でまとめて解説する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60	ストレスのメカニズムに関する知識やその評価方法に関する理解度により評価する。
	授業への参加度	40	積極的に授業に参加し、授業内容に関連した自己の思考や行動パターンを客観的に発表できるかを評価する。
教科書:			
参考書:	松本千明『健康行動理論の基礎』 医歯薬出版 島井哲志・長田久雄・小玉正博(編)『健康心理学・入門』 有斐閣 日本健康心理学会編『健康心理学概論』 実務教育出版社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメール、授業の前後に教室内で応対		

授業テーマ:			
授業の概要:	疫学の基礎知識や方法論を講義することによって、データを読み取る力の習得を目指す。 公衆衛生看護における疫学指標と調査方法を講義する。		
到達目標:	疫学は人間集団における健康状態とそれに関連する要因の分布を明らかにし、その結果から健康障害の要因追及および、予防やQOLの向上に役立つ情報を得ることを目的としている。疫学における原因追及の進め方、疫学の各種の研究手法、既存のデータの利用、疫学研究における倫理について学習する。 各種保健統計指標の正しい読み取り方、解釈の仕方を学習し、主要な疾患のリスク要因から予防までを総合的に理解する。さらに人間集団の健康問題の解決へと繋げることを目指す。		
授業方法:	基本的に、教科書に沿った講義形式で実施する。 適宜、補助資料を配布、パワーポイント等を使用する。 講義の中で練習問題を解くことがあるため、指示があった場合は電卓を準備すること。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 疫学とは(萩本)	教科書をの該当箇所を読んでおくこと	
	2. 疾病頻度の測定 疫学指標(萩本)	前回までの講義内容を理解するとともに、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	3. 疾病頻度の測定 相対危険と寄与危険(萩本)	前回までの講義内容を理解し、マナビーで示した計算問題を解いておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	4. 疫学研究方法 記述疫学、生態学的研究、横断研究(萩本)	前回までの講義内容を理解し、マナビーで示した計算問題を解いておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	5. 疫学研究方法 コホート研究、症例対象研究(萩本)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	6. 疫学研究方法 介入研究(萩本)	前回までの講義内容を理解し、マナビーで示した計算問題を解いておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	7. 偏りと交絡 誤差(萩本)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	8. 偏りと交絡 交絡因子(萩本)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	9. 偏りと交絡 標準化(萩本)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	10. 因果関係、エビデンス(萩本)	前回までの講義内容を理解し、マナビーで示した計算問題を解いておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	11. スクリーニング(萩本)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	12. 既存のデータ(萩本)	前回までの講義内容を理解し、マナビーで示した計算問題を解いておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	13. 公衆衛生看護と疫学①(榎本)	前回までの講義を復習しておく	
	14. 公衆衛生看護と疫学②(榎本)	前回までの講義を復習しておく	
15. まとめ	14回分の講義内容を総合的に復習すること		
受講者へのメッセージやアドバイス:	疫学は、専門用語も多く、皆さんが今まで馴染みのない思考過程をする部分もあり、入門時のハードルが高い学問です。しかし、それほど難しいことを述べているものではありませんし、疫学の基礎を身につけることによって、教科書やニュースなどで取り上げられるデータやトピックなどを正しく理解できるようになります。 皆さんが一つ一つ理解を進めていけるように講義を進めていきます。		
フィードバックの方法:	講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	100	疫学の基礎知識や代表的な指標の計算方法が身についているかを評価する。
教科書:	中村好一著:「基礎から学ぶ楽しい疫学」(医学書院) 第4版 公衆衛生看護学. Jp インターメディカル		
参考書:	「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力		
教員との連絡方法:	講義前後およびメール、マナビーの掲示板などで対応する。		

授業テーマ:	社会における集団の健康と疾病																																		
授業の概要:	健康の保持・増進のためには、疾病の治療とともに疾病の予防が重要である。疾病の治療は、一人一人の個別の状況に合わせて行なわれるが、予防にあたっては、個人の状況のみならず、集団としての特徴を把握することが重要である。本科目では、次の(1)～(6)の項目について学び、現代における疾病の現状とその予防に関する基礎知識を習得し、集団を対象とする公衆衛生学の考え方を身につける。 (1) 公衆衛生の概念 (2) 感染症とその予防 (3) 食品保健と栄養 (4) 生活習慣病 (5) 産業保健 (6) 生活環境の保全																																		
到達目標:	現代における疾病の現状とその予防に関する基礎知識を修得する。 集団を対象とする公衆衛生学の考え方を身につける。 (1)～(6)の各項目は更に幾つかの小項目から構成されている。各小項目の到達目標は配布プリントに記載する。																																		
授業方法:	講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、その内容に従って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを使用し、必要に応じて板書する。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 公衆衛生の概念</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>2. 感染症とその予防1 感染症の動向と感染症法</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>3. 感染症とその予防2 感染症の予防</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>4. 感染症とその予防3 主な感染症</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>5. 食品保健と栄養1 食品の安全</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>6. 食品保健と栄養2 食品衛生管理</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>7. 食品保健と栄養3 国民の栄養</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>8. 生活習慣病1 生活習慣病の現状と対策</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>9. 生活習慣病2 健康日本21と健康増進法</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>10. 産業保健1 健康に影響を与える労働環境</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>11. 産業保健2 職業性疾病とその予防・対策</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>12. 生活環境の保全1 地球環境の問題</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>13. 生活環境の保全2 生活環境(水、大気、土壌、環境ホルモン)</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>14. 生活環境の保全3 ごみ・廃棄物の処理</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>今回の講義内容を復習し理解を深める。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 公衆衛生の概念	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	2. 感染症とその予防1 感染症の動向と感染症法	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	3. 感染症とその予防2 感染症の予防	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	4. 感染症とその予防3 主な感染症	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	5. 食品保健と栄養1 食品の安全	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	6. 食品保健と栄養2 食品衛生管理	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	7. 食品保健と栄養3 国民の栄養	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	8. 生活習慣病1 生活習慣病の現状と対策	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	9. 生活習慣病2 健康日本21と健康増進法	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	10. 産業保健1 健康に影響を与える労働環境	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	11. 産業保健2 職業性疾病とその予防・対策	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	12. 生活環境の保全1 地球環境の問題	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	13. 生活環境の保全2 生活環境(水、大気、土壌、環境ホルモン)	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	14. 生活環境の保全3 ごみ・廃棄物の処理	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。	15. まとめ	今回の講義内容を復習し理解を深める。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 公衆衛生の概念	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
2. 感染症とその予防1 感染症の動向と感染症法	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
3. 感染症とその予防2 感染症の予防	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
4. 感染症とその予防3 主な感染症	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
5. 食品保健と栄養1 食品の安全	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
6. 食品保健と栄養2 食品衛生管理	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
7. 食品保健と栄養3 国民の栄養	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
8. 生活習慣病1 生活習慣病の現状と対策	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
9. 生活習慣病2 健康日本21と健康増進法	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
10. 産業保健1 健康に影響を与える労働環境	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
11. 産業保健2 職業性疾病とその予防・対策	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
12. 生活環境の保全1 地球環境の問題	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
13. 生活環境の保全2 生活環境(水、大気、土壌、環境ホルモン)	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
14. 生活環境の保全3 ごみ・廃棄物の処理	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。																																		
15. まとめ	今回の講義内容を復習し理解を深める。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	質問事項については随時、講義室または研究室で対応する。																																		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準																																
「成績評価基準」:	定期試験	60%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。																																
	レポート	40%	到達目標を踏まえつつ、課題を論理的に分かりやすく説明できているかを基準として評価する。																																
教科書:																																			
参考書:	「わかりやすい公衆衛生学」清水忠彦・佐藤拓代 編(ヌーヴェルヒロカワ)2,200円 「公衆衛生」芦野由利子 他著(医学書院)2,200円 「わかりやすい公衆衛生学」平野かよ子、山田和子 他編(メディカ出版)3,200円																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力																																		
教員との連絡方法:	Eメール:rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、講義室および研究室で随時対応。																																		

授業テーマ:	看護師に関する法的基礎知識と法的責任		
授業の概要:	看護職として必要な法的な知識と思考方法を学びます。関係法令の知識は、看護師国家試験でも必要な知識であり、これを習得することは重要ですが、それ以上に、きちんとした資料、現実の姿をふまえた上で、しっかりと理由とともに、自分の意見を持つという姿勢は、看護職として非常に大切な素養となります。映像資料等を活用しつつ、生命倫理の問題と合わせて、看護師とは何か、何が求められるのか、万一事故等が起こった時にどうなるのか、といった重要な問題を扱っていきます。		
到達目標:	看護専門職として必要な法的知識を修得する。 看護師の法的地位・責任について理解する。 生命倫理問題について、法的な視点から考察できる。		
授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 法学オリエンテーション(1) 法とは何か？	テキストのはしがきを熟読しておくこと。また医療問題を取りあげた書籍を読んだり、ドラマ・映画等を観たりしておくこと。	
	2. 法学オリエンテーション(2) 国家と法 自然法論と法実証主義	配布レジュメのほか、テキスト第1章「A 法の概念をよく読んで内容を理解しておくこと。	
	3. 法学オリエンテーション(3) 自己決定権とパターンリズム	自然法論と法実証主義との対立、自己決定権思想とばたーなりズムの対立を理解し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。	
	4. 生命倫理と法 優生思想と医療 ハンセン病問題	第2回・第3回の講義内容をふまえ、優生思想、ハンセン病問題について、書籍やインターネット等を活用して、理解を深めておくこと。	
	5. 医療と法(1) 医療事故の現状 看護師の法的責任①	公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページ等から、医療事故の現状について調べておくこと。	
	6. 医療と法(2) 看護師の法的責任②	配布レジュメを参考に、看護師の法的責任(刑事上の責任、民事上の責任、行政上の責任)について内容を理解しておくこと。	
	7. 医事法(1) 法の概念・分類 衛生法	法配布レジュメのほか、テキスト第一章「B 法の分類」「C 衛生法」をよく読んで内容を理解しておくこと。	
	8. 医事法(2) 厚生行政のしくみ	法配布レジュメのほか、テキスト第一章「D 厚生行政のしくみ」をよく読んで内容を理解しておくこと。	
	9. 看護法(1) 保健師助産師看護師法①	配布レジュメのほか、テキスト第二章「I A 保健師助産師看護師法」をよく読んで内容を理解しておくこと。	
	10. 看護法(2) 保健師助産師看護師法② 看護師等の人材確保の促進に関する法律	配布レジュメのほか、テキスト第二章「I B 看護師等の人材確保の促進に関する法律」をよく読んで内容を理解しておくこと。	
	11. 医事法 医師法 医療法 医療関係資格法	配布レジュメのほか、テキスト第二章「II A 医師法」をよく読んで内容を理解しておくこと。	
	12. 保健衛生法 薬害・薬禍 B型肝炎 母体保護法	過去の薬禍・薬害問題について、各自で調べ、整理しておくこと。 B型肝炎とその救済策について整理しておくこと。	
	13. 薬務法・環境衛生法・環境法	配布レジュメのほか、テキスト第三～4章をよく読んで内容を理解しておくこと。	
	14. 社会保険法・福祉法・労働法	配布レジュメのほか、テキスト第六～九章をよく読んで内容を理解しておくこと。	
	15. まとめ	配布レジュメを中心に、講義内容を復習しておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	法律というと、難解で自分とは無関係なもの、と思われがちですが、実は、私たちの生活、とりわけ、看護師の業務とは密接に関連しています。法を守ることは、まず第一に患者さんを守ること、次に自分自身や自分の同僚を守ることとってください。できるだけ興味を持ってもらえるように工夫して進めていきたいと思います、日ごろから、映画やドラマ、小説などで、医療と法の問題に接しておいてください。		
フィードバックの方法:	授業において全体に講評するほか、マナビーを活用して行います。		
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	100	社会の仕組みや、社会に存在している諸問題について、まず興味・関心を持ってください。そして、自分から積極的に情報を集め、しっかりと考え、さらに自分にできることを行動に移すように心がけてください。 到達目標にある、法に関する基本原理・原則の理解、法学の諸分野における問題点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。
教科書:	『看護関係法令』(医学書院)		
参考書:	大谷 實『新 いのちの法律学 生命の誕生から死まで』(悠々社、2011年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力		

教員との連絡
方法:

オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

授業テーマ:			
授業の概要:	家族を理解するため諸理論を理解し、家族を対象としたアセスメント方法と支援について学習する。		
到達目標:	(光木)[家族看護の理論と健康課題を抱える成人期患者家族への看護] 看護の対象である家族を理解するための家族機能・構造・発達等に関する考え方を学習し、療養している成人期患者を支える家族の事例をとおして家族アセスメント方法と支援について理解できる。 (杉原)[高齢者を介護する家族への看護] 加齢に伴う疾病・障害を持ちながら在宅・施設で生活する高齢者とその家族を総合的に理解し、家族全体の課題として捉える視点とアセスメントについて理解できる。さらに介護という課題を担う家族がセルフケア機能を発揮できるための支援について理解できる。 (和泉)[子どもをもつ家族への支援] 少子高齢化が進む現代社会の中で育児をする家族の現状と親役割の獲得過程について、さらに疾病・障害をもつ子どもと家族について学習をし、その支援方法について理解できる。		
授業方法:	随時視聴覚教材・個人ワーク・グループワークを取り入れながら講義を行います。演習では与えられた課題を個人ワークやグループワークを通して完成しクラスで共有します。なお詳細は初回に説明を行います。講義資料はその都度配布する予定です。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 家族看護学とは (光木)		
	2. 家族とは (和泉)	自分の家族観について考えて(イメージして)おく	
	3. 看護学における家族の理解 ジェノグラムとエコマップ(光木)	事前配付資料に目を通しておく	
	4. 家族支援に関する諸理論(家族発達理論・家族システム理論・家族ストレス対処理論) (光木)	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。	
	5. 家族看護アセスメントの方法と実際 (光木)	提示された内容を視聴しておく	
	6. 看護学における家族の理解を深める(GW)(杉原)	第2回講義で作成したレポートをもとに家族観について再考しておく	
	7. 療養している成人期患者の家族への看護 (光木)	提示された内容を視聴しておく	
	8. 要介護高齢者の家族への看護 (杉原)	教科書p282～293に目を通しておく	
	9. 認知症の人の家族への看護 (杉原)	事前配布資料に目を通しておく	
	10. 在宅療養者の家族への看護 (杉原)	事前配布資料に目を通しておく	
	11. 新しい命を迎える家族の支援 (和泉)	教科書p170～190に目を通しておく	
	12. 新生児期から思春期の子どもと暮らす家族の支援(和泉)	教科書p170～191に目を通しておく	
	13. 疾病・障害をもつ子どもと家族の支援 (和泉)	教科書p191～224に目を通しておく	
	14. 看護学における家族の理解を深める(GW発表)(杉原)	発表資料の作成と準備	
	15. まとめ (和泉・杉原・光木)		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	個々の提出物はコメントをつけて返却する 発表については随時講義内でコメントする		
「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	60	看護職者としての家族への支援方法に対する基礎知識の習得度を評価する
	発表・討論	10	発表資料の内容と討論における参加態度を評価する
	態度	20	積極的に個人ワークやグループワークを行い、主体的に学習しているか評価する
	出席	10	積極的に授業に参加し、主体的に学習しているか評価する
教科書:	鈴木和子, 渡辺裕子『家族看護学 理論と実践 第4版』(日本看護協会出版会, 2005)		
参考書:	講義中に、適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワーおよび講義の前後に教室内で対応する		

授業テーマ: 統計学の基礎と統計的手法の理解

授業の概要： 看護職実務上や看護研究に必要な統計的な基礎知識や統計的手法を修学する。データの集計方法など推計学の基本的事項を扱った上で、統計的検定の方法とその解釈の仕方について学習する。
アンケート調査による統計処理を行い、結果のまとめ、発表のプロセスを通して、地域や学校における保健活動や健康管理に必要な情報検索、情報の収集・分析方法等を学ぶ。

到達目標：

- 1) 統計的な基礎知識について理解する
- 2) 表計算ソフト、統計処理ソフト、スライドソフトの使い方および推測統計学の考え方を理解する。

授業方法: 5:講義/演習の混合

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	基礎統計量(統計用語とさまざまな代表値): 藤井	前回の授業資料内容を理解しておくこと
2.	母集団と標本(パラメトリック・ノンパラメトリックデー タ): 藤井	前回の授業資料内容を理解しておくこと
3.	基礎統計量(分散、標準偏差、標準誤差): 藤井	前回の授業資料内容を理解しておくこと
4.	統計的検定と統計的推論の考え方: 藤井	前回の授業資料内容を理解しておくこと
5.	相関係数と回帰分析: 藤井	前回の授業資料内容を理解しておくこと
6.	χ^2 検定(分割表): 藤井	前回の授業資料内容を理解しておくこと
7.	2つの平均を比較する(t検定): 藤井	前回の授業資料内容を理解しておくこと
8.	3つ以上の平均を比較する(分散分析と多重比較): 藤井	前回の授業資料内容を理解しておくこと
9.	質問紙調査票の作り方: 眞鍋	
10.	質問紙調査票の作成と調査依頼、データ入力表の 作成: 眞鍋	グループでテーマに沿った調査項目を作成し、調査票を作 成する。調査票は、期日までにマナビーを用いて送信する
11.	データ収集・入力、エクセルの操作方法: 眞鍋	授業日までにグループで作成した調査票を用いて調査を实 施する
12.	SPSS操作方法(1): 眞鍋	授業日までにエクセルにデータを入力、再確認し、期日ま でにマナビーを用いて送信する
13.	SPSS操作方法(2): 眞鍋	
14.	報告書の作成: 小松	報告書の着眼点や構成を考えておく
15.	報告書発表・まとめ: 小松	

受講者へのメッセージやアドバイス:

- ・主体的に学習し、理解を深めようとする姿勢が求められます。
- ・授業内容9でグループを構成し、それ以降はグループ単位で学習をすすめていきます。
- ・授業で扱った内容については、教科書、参考文献もしくはweb等の解説ページをあたり、理解を深めてください。
- ・授業内容11-14では、USBメモリーを準備してください。

フィードバックの方法: 質問やコメントペーパー等に対する受講生へのフィードバックは教室でまとめて解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	授業内容1～8について統計的な基礎知識の理解度により評価する
	授業への参加度	30	積極的に授業に参加し、毎回の課題への取り組み状況により評価する
	報告書	20	質問紙調査結果のまとめの仕上がり度合

教科書： 畠慎一郎・田中多恵子 SPSS超入門 インストールからはじめるデータ分析 東京図書

参考書： 浜田知久馬 学会・論文発表のための統計学—統計パッケージを誤用しないために 真興交易医書出版部
足立堅一 統計学超入門 篠原出版新社
野村英樹・松倉知晴 本当はやさしい臨床統計 中山書店
内田治 すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析(第5版) 東京図書
内田治 すぐわかるSPSSによるアンケートの統計的検定 東京図書

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

教員との連絡方法： 授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

看護の概念と看護職の役割

授業の概要:

看護学生が看護学について初めて学ぶ科目である。看護は主要な4つの概念で構成されている。「看護の対象となる人間、対象の目的となる健康、対象がおかれている環境」を知ることによって「看護」とは何かを考える。また、看護学を学ぶ導入として医療チームや看護倫理について学習する。

到達目標:

1) 看護学の導入として、看護の概念や定義、専門職としての看護、看護の対象者の特徴を学ぶことを通して、看護学についての理解を深める基盤とする。
2) 医療における自己決定権と患者の権利擁護について理解する

授業方法:

テキストやレジュメを使って講義形式で行い、適宜、グループワークを取り入れる。
必要に応じて、視聴覚資料や参考文献の資料を用いる。小笠講師、野々口助手、天野助手も補助者として担当することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1.看護学コースガイダンス(當目・片山)	教科書を読み、教科書の構成を確認する。
2.	2.看護の概念と定義、学問としての看護学(當目)	教科書を読み、教科書の構成を確認する。
3.	3.保健・医療・福祉における看護職の役割(當目)	チームの中の看護職を考えるので、医療チームについて事前学習する。
4.	4.看護の主要概念:人間とは何かの理解1グループワーク(當目)	人間に関する本・記事などを読んでくる。
5.	5.看護の主要概念:人間とは何かの理解2グループワーク及び発表(當目)	人間に関する本・記事などを読んでくる。
6.	6.看護の主要概念:健康とは何かの理解1グループワーク(當目)	健康に関する本・記事などを読んでくる。
7.	7.看護の主要概念:健康とは何かの理解2グループワーク及び発表(當目)	健康に関する本・記事などを読んでくる。
8.	8.看護の主要概念:環境とは何かの理解1グループワーク(當目)	環境(自然環境・社会環境)に関する本・記事を読んでくる。
9.	9.看護の主要概念:環境とは何かの理解2グループワーク及び発表(當目)	環境(自然環境・社会環境)に関する本・記事を読んでくる。
10.	10.看護の類似概念:介護との違い1グループワーク及び発表(當目)	介護や介護職について調べてくる。
11.	11.看護の類似概念:介護との違い2グループワーク及び発表(當目)	介護や介護職について調べてくる。
12.	12.健康ステージと看護(片山)	健康に関する本・記事などを読んでくる。
13.	13.ライフサイクルと看護(片山)	人間に関する本・記事などを読んでくる。
14.	14.医療における自己決定権と患者の権利擁護(片山)	現代の医療に関する本・記事などを読んでくる。
15.	15.看護のインフォームドコンセントと個人情報の管理(片山)	チームの中の看護職の役割について考えてくる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

グループワーク発表に向けて、グループ間自己学習が必要となる。
自分の身近な体験や、社会、家族、健康などの様々な問題に関心を持ち、積極的にグループワークに参加できる準備をする。

フィードバックの方法:

概念ごとに全てのグループの成果をまとめて配布する。また、グループ発表時は教員よりコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業後小レポート	20	各授業後の理解度を基準とする
	課題レポート	50	授業を通して看護の概念を自分自身がどのように考えたかを文献を引用しながら述べているかどうかを基準とする。
	授業への参加度	30	グループワークでの発言や出席状況を基準とする。

教科書:

ライダー 島崎玲子他編著:看護学概論 看護追及へのアプローチ第3版, 医歯薬出版会(2015)
増田れい子『看護―ベッドサイドの光景』岩波新書

参考書:

日本看護協会出版会監修『新版看護者の基本的責務:定義・概念/基本法/倫理』日本看護協会出版会(2016)
日本看護協会編『日本看護協会看護業務基準集2007年改訂版』日本看護協会出版会(2007)
立川昭二『病気の社会史』岩波文庫(2007)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー マナビーの掲示板

授業テーマ:	看護理論を知る		
授業の概要:	看護理論とは、看護の本質の探究であり、看護実践の軸となるものです。ナイチンゲールの時代から現代までの理論の発展を学ぶことで看護の基本を理解し、ヘンダーソンの理論を通じて病のある人をどのように理解していくか、そして、どう関わっていくかを学習します。		
到達目標:	1. 看護実践における看護理論の必要性について理解する 2. 看護理論の発展を通して看護の基本について理解する 3. 代表的な看護理論を用いて看護の対象者を理解することを体験する		
授業方法:	指定の書籍3冊を読み込みます。主要な看護理論を学び、患者事例を分析します。個人での発表や学生グループでの討議・発表を行います。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 看護理論とは 2. ナイチンゲール「看護覚え書き」 3. グループワーク①環境と衛生 4. グループワーク②生活と看護の役割 5. 発表①環境と衛生 6. 発表②生活と看護の役割 7. 様々な看護理論家とその理論「私たちの健康の体験」 8. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 9. ヘンダーソン「看護の独自性とケア」 10. トラベルビー「人間関係と体験の意味」 11. ロイ「内的・外的環境と適応」 12. 患者体験の理解「基本的ニード」 13. 患者体験の理解「体験の意味」 14. 日本の看護と「安全・安楽・自立」 15. 「私の看護観」	看護を受けた体験と看護を行った体験」を思い出しておいてください。 「看護覚え書き」に目を通す。 「看護覚え書き」の指定の章を読んでおく。 「看護覚え書き」の指定の章を読んでおく。 「新版 愛、深き淵より」1章を読んでおく。 「新版 愛、深き淵より」2章を読んでおく。 「新版 愛、深き淵より」をすべて読んでおく。 「看護の基本となるもの」序章を読んでおく。 「看護の基本となるもの」をすべて読んでおく。 演習記録を作成する。 演習記録を作成する。 演習記録を作成する。 演習記録を提出する。 「看護の基本となるもの」をすべて読んでおく。 自分の看護観を書きまとめておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	各回で事前学習やレポートを指示します。その都度、丁寧に確実に行ってください。自分自身の日常や身近な人々にあてはめながら、看護の基本を理解しましょう。		
フィードバックの方法:	学生の発表やグループワークの発表、演習課題にコメントし、演習記録の修正や最終レポートに活かすことができるようにします。各回授業にてミニッツペーパーを配布します。記載された疑問点や理解状況には次の回にて回答します。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業・グループワークへの参加度	30	授業やグループワークへの参加状況、グループでの発表を評価します。
	演習課題	40	到達目標2と3の達成状況を評価します。
	最終レポート	30	到達目標2と3が達成できたかどうか、到達目標1ができたかどうかを評価します。
教科書:	ヴァージニアヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子訳(2006):看護の基本となるもの新装版 日本看護協会出版会 星野富弘(2000):新版 愛、深き淵より 学研パブリッシング フロレンス・ナイチンゲール著 湯楨ます他訳(2011):看護覚え書改訳第7版 現代社		
参考書:	茂野香おる他(2015):系統看護学講座 基礎看護学第16版基礎看護技術Ⅰ, 医学書院		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、思いやる力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビー掲示板		

751901、02	ヘルスアセスメント			片山 由加里
授業テーマ:	バイタルサインの測定技術を習得する。看護アセスメントの最初のステップを理解する。			
授業の概要:	ヘルス(健康)アセスメントは保健・医療・福祉チームに共通する医療専門職のアセスメントです。外観の観察やバイタルサインの測定技術はフィジカル(身体)アセスメントの中核になります。ヘルス(健康)アセスメントは看護職独自のアセスメント(看護過程としての看護アセスメント)としても重要であり、思考技術が看護アセスメントの最初のステップ(望ましい状態や基準値との比較)になります。			
到達目標:	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を説明できる 2. バイタルサインの観察・測定が正確にできる 3. 主観的情報と客観的情報を区別し、望ましい状態や基準値と比較分析・解釈できる			
授業方法:	基礎看護学実習室にて、看護師役・患者役になりながら技術を修得します。自己の技術のふりかえりや観察結果のアセスメントのために演習記録を作成します。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1. ヘルスアセスメントとは		Nursing Skills視聴「接遇マナー」	
	2. 全体の外観、観察と報告		Nursing Skills視聴「病室の環境整備」	
	3. 実習室①ヘルスアセスメントの環境		Nursing Skills視聴「手指衛生」	
	4. 身体計測、健康歴の聴取		Nursing Skills視聴「身体計測(身長・体重・腹囲)」	
	5. バイタルサインとは		Nursing Skills視聴「腋窩検温:バイタルサインの測定」	
	6. 実習室②血圧測定		ユニフォーム着用と身だしなみ	
	7. 実習室③身体計測		Nursing Skills視聴「血圧:バイタルサインの測定」	
	8. 体温、呼吸の観察		24時間リズムの体温を測定する	
	9. 脈拍・血圧の観察		バイタルサイン観察の自己練習(PSC利用)	
	10. 実習室④バイタルサイン測定		バイタルサイン観察の自己練習(PSC利用)	
	11. 実習室⑤対象者の観察と看護		バイタルサイン観察の自己練習(PSC利用)	
	12. ヘルスアセスメントの実際		演習記録を作成する	
	13. ヘルスアセスメントの記録		血圧測定の自己練習(PSC利用)	
	14. 実習室⑥総合(安全・安楽・自立)		血圧測定の自己練習(PSC利用)	
	15. まとめと振り返り		教科書の該当章を理解しておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:	限られた時間内で正確な技術を身に付けるために、授業への積極的な参加と集中力が必要です。確実に修得するまで、実習室やPSセンターにきて練習しましょう。同時進行している「体のしくみ」も踏まえながら各回で解らないところがないようにし、「看護学概論」、「看護理論」の学修と併せて、科目終了直後の「基礎看護学実習Ⅰ」にて療養患者に関わるための必要最低限の態度を身に付けます。			
フィードバックの方法:	実習室での技術修得は複数教員による少人数制をとり、各学生に直接的にコーチングしていきます。観察方法や技術修得を振り返るための演習記録に対しては解説やコメント等で指導していきます。			
「成績評価方法」・「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	授業への参加度	10	講義および実習室の演習に参加し、クラスやグループに貢献できているかどうかを評価します。	
	演習記録	20	授業目標2を理解し、授業目標3の達成度を評価します。	
	筆記試験	30	授業目標1、2、3に対する知識と理解度を評価します。	
	実技試験	40	バイタルサインの観察の手技が正確にできるかどうかの実技試験をひとりずつ実施します。	
教科書:	茂野香おる他(2015):系統看護学講座 基礎看護学第16版基礎看護技術Ⅰ 医学書院 角濱春美他(2015):看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術第2版 メヂカルフレンド社			
参考書:	阿曾洋子(2011):基礎看護技術第7版 医学書院 山内豊明(2011):フィジカルアセスメントガイドブック第2版 医学書院 藤崎都(2012):フィジカルアセスメント完全ガイド第2版 学研			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力			
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板			

授業テーマ:

フィジカルの情報収集技術とアセスメントする方法を修得する

授業の概要:

解剖生理に関する基礎的な知識を前提とし、患者への的確な問診と看護者の体表面から行う身体観察を通して、情報を正確に収集する方法を理解する。
また、収集した情報を基準値や標準値と比較することにより、情報を的確に分析する方法を理解する。
学習する単位としては、循環器系、呼吸器系、運動器系、消化器系、泌尿器系、脳神経系、生殖系を含む。

到達目標:

1. 的確に問診やフィジカルイグザミネーション(視診、触診、打診、聴診)を行うために必要な基礎的知識を習得することができる。
2. 的確に問診やフィジカルイグザミネーション(視診、触診、打診、聴診)を行い、正確な身体の情報を得ることができる。
3. 得られた身体の情報について、基準値や標準値と比較し分析することができる。

授業方法:

授業は、講義、デモンストレーション、演習より構成される。なお、デモンストレーションや演習では、シミュレーター教材を用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目のオリエンテーション フィジカルアセスメントとは 生殖の基礎知識	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習)
2.	活動・休息の基礎知識【体表解剖・胸郭/循環器系】	教科書関連ページを読む(予習)
3.	活動・休息のフィジカルアセスメント【体表解剖・胸郭】(デモンストレーション・実技演習)	プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
4.	活動・休息のフィジカルアセスメント【循環器系】(デモンストレーション・実技演習・アセスメント)	プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
5.	活動・休息の基礎知識【呼吸器系】	教科書関連ページを読む(予習)
6.	活動・休息のフィジカルアセスメント【呼吸器系】(デモンストレーション・実技演習・アセスメント)	プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
7.	活動・休息の基礎知識【運動器系】	教科書関連ページを読む(予習)
8.	活動・休息のフィジカルアセスメント【運動器系】(デモンストレーション・実技演習・アセスメント)	プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) グループでレポート課題を行う(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
9.	摂取・栄養の基礎知識【消化器系①】	教科書関連ページを読む(予習)
10.	摂取・栄養のフィジカルアセスメント【消化器系①】(デモンストレーション・実技演習・アセスメント)	プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
11.	摂取・栄養の基礎知識【消化器系②】	教科書関連ページを読む(予習)
12.	摂取・栄養のフィジカルアセスメント【消化器系②】(デモンストレーション・実技演習・アセスメント)	ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
13.	分泌・排泄のフィジカルアセスメント【直腸・肛門/泌尿器系】(基礎知識・実技演習・アセスメント)	教科書関連ページを読む(予習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
14.	知覚・認知のフィジカルアセスメント【脳神経系】(基礎知識・実技演習・アセスメント)	教科書関連ページを読む(予習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
15.	まとめ	全学習範囲の総復習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

各單元ごとに課したレポートに、コメントをつけて返却します。
また、学生の技術に対し、コメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	記述試験	50%	到達目標1. の理解度より評価する。
	演習態度	30%	到達目標1. 2. の達成度や態度、意欲より評価する。
	レポート	20%	到達目標2. 3. を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し配慮をもって技術を達成できたかを基準とする。

教科書:

フィジカルアセスメントがみえる、MEDIC MEDIA
山内豊明、フィジカルアセスメントワークブック、医学書院

参考書:

横山美樹、はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社
山内豊明、フィジカルアセスメントガイドブック第2版、医学書院
岡崎美智子編、根拠がわかる基礎看護技術、メヂカルフレンド社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワーを活用してください。

752300	看護過程論			片山	由加里、木村	静、下岡	ちえ
授業テーマ:	問題解決技法を用いて個別的な看護方法を導き出す						
授業の概要:	看護過程の一連のプロセス、すなわち、根拠のある看護援助を立案する方法を学びます。療養するひとりの人物の理解とその情報は複雑で膨大ですが、全ての回を使って段階的に進めることでその全容を把握します。看護理論の枠組みを用いて患者情報に基づく健康問題を抽出し、個別的な援助を立案します。1年次から学習してきたアセスメントは観察とその分析・解釈の段階から援助に至る段階へと進むこととなります。						
到達目標:	1. 問題解決技法を用いた看護過程論を根拠に基づく看護(EBN)として理解できる 2. 事例における個別的な看護方法を導き出すことができる 3. 看護過程の展開を演習記録として適切に表現することができる						
授業方法:	各回で段階的に示される課題を遂行しながら、事例を分析します。事例分析は学生個々で展開しますが、学生同士のグループワークを活用します。						
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容					
	1. 看護過程と臨床判断:看護の問題解決技法	1年次に学修した「アセスメント」について復習しておく。					
	2. 看護が扱う健康問題とその根拠(EBN)	事例中の疾患の病態生理を学修する。					
	3. 情報収集(観察・測定、コミュニケーション、記録物)	健康知覚-健康管理に必要な患者の情報(能力)は何であるかをリストアップしてくる					
	4. 情報の解釈(健康知覚-健康管理)	事例を読み、指示する領域に関する箇所をマーキングしてくる。					
	5. 情報の解釈(栄養、排泄)	事例を読み、指示する領域の情報整理(望ましい状態や基準値との比較分析)をしてくる。					
	6. 情報の解釈(活動、休息)	事例を読み、指示する領域の情報分析・解釈(健康問題の抽出)をしてくる。					
	7. 情報の解釈(認知・知覚)	事例を読み、全ての領域の情報整理と分析・解釈をしてくる。					
	8. 情報の解釈(心理、社会、スピリチュアル)	指示する諸疾患の病態関連図を作成する。					
	9. 情報の統合(関連図、看護診断の抽出)	考え得る全ての健康問題を入れ込んだ看護関連図を作成する。					
	10. 看護診断のリストアップ	各健康問題の優先性を検討し、看護診断リストを作成する。看護診断の根拠と看護の方向性を記載する。					
	11. 看護計画立案:目標	指示する看護診断の看護目標を作成する。					
	12. 看護計画立案:計画	指示する看護診断の看護計画を作成する。					
	13. 実施と評価	1日の看護計画を作成する。					
	14. 看護記録、実習記録	看護計画と看護診断の評価を作成する。					
	15. 看護実践と看護過程:状況下の思考と行動	実習記録の書き方について理解し、解らないところを整理しておく。					
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回、課題があります。授業は課題を実施した上で臨む必要があります。既習科目の十分な知識はもちろん、事例に伴う新たな知識も必要になります。殆どの回でグループワークを行います、その成立のためにも、前もって各自が課題を遂行していることが不可欠となります。科目終了直後の「基礎看護学実習Ⅱ」において、受け持ち療養患者に看護するための必須の技術となります。確実に習得しましょう。						
フィードバックの方法:	学生が作成・提出した課題を用いて、どのように事例展開をしていくかという修正点や改善点を説明します。また、自らの作成した課題がどの程度の到達状況にあるのかが判り、最終的な目標が達成できるように、その内容や程度がどうかを段階的に各自に示します。						
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準				
	演習記録	50	演習記録を添削し、到達目標2と3ができるようになったかを評価します。				
	グループワークへの参加度	30	グループワークでの発言や貢献度を評価します。				
	授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標1ができたかどうかを評価します。				
教科書:	マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳(2009) アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院						
参考書:	茂野香おる他(2015):系統看護学講座 基礎看護学第16版基礎看護技術Ⅰ 医学書院 T.ヘザー・ハードマン／上鶴 重美原書編集、日本看護診断学会監訳、上鶴重美訳(2015)NANDA-I看護診断 定義と分類 2015-2017原書第10版 医学書院						
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力						
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板						

授業テーマ:

自らが持つ看護コミュニケーション力を高める。

授業の概要:

第1回～第4回、第15回:
実習や日常の体験に照らし合わせ、看護のコミュニケーションの理解を深めます。
自らが持つ看護コミュニケーション力を高め、援助的関係の形成や看護の対象者へのコミュニケーション技術を習得します。
第5回～第14回:
看護者として援助的人間関係の構築に必要なコミュニケーションの基礎的知識について学習します。
また、コミュニケーション技法を活用し、より良い人間関係の構築を目指したコミュニケーションを行う力を身に付けます。

到達目標:

第1回～第4回、第15回:
1. 援助的関係の形成とコミュニケーションについて理解する
2. 看護の対象者のコミュニケーションについて理解する
3. 自己の理解を深め、受容と共感における他者との関係づくりの力を養う

授業方法:

第5回～第14回:
1. コミュニケーションの理論や技法に関する基礎的知識を理解することができる
2. コミュニケーション技法を実践的に活用する能力を習得することができる

第1回～第4回、第15回:
看護のコミュニケーションの基本について解説した後、各自の実習や日常体験を「プロセスレコード」等によって振り返り、学生グループ間で討議や発表を行います。
5～14:
授業は、講義、グループディスカッション、グループ発表より行います。
基礎看護学実習Ⅰでの患者とのコミュニケーションの振り返りも行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	コミュニケーションとは:人の中にある意味と私たちを取り巻く状況(片山)	教科書(精神看護出版)の該当章を読んでおく。
2.	私たちのコミュニケーションの傾向:対立場面と感情(片山)	教科書(精神看護出版)の該当章を読んでおく。
3.	コミュニケーション技法、援助する人・援助を受ける人(片山)	各自が体験した実習や日常の場面を「プロセスレコード」に書き起こす。
4.	自己理解と他者理解、プロセスレコード(片山)	「プロスレコード」を完成させる。
5.	人間関係を構築するためのコミュニケーションの基本(木村)	授業内容を復習する
6.	実習体験の振り返り【患者とのコミュニケーション】①グループディスカッション(木村)	実習体験の振り返りに関するレポートを作成して臨む
7.	実習体験の振り返り【患者とのコミュニケーション】②グループ発表、まとめ(木村)	グループ発表原稿を準備して臨む
8.	看護者に求められるコミュニケーション①【看護コミュニケーションとは、コミュニケーションの構成要素】(木村)	授業内容を復習する
9.	看護者に求められるコミュニケーション②【コミュニケーション技術の実際、共感、傾聴】(木村)	授業内容を復習する
10.	コミュニケーションに問題のある場面の振り返り①【プロセスレコードの活用の実際】(木村)	授業内容を復習する
11.	コミュニケーションに問題のある場面の振り返り②グループディスカッション(木村)	レポートを作成して臨む
12.	コミュニケーションに問題のある場面の振り返り③グループ発表、まとめ(木村)	グループ発表原稿を準備して臨む
13.	日常生活の援助場面におけるコミュニケーション①グループディスカッション(木村)	グループディスカッション内容を整理する
14.	日常生活の援助場面におけるコミュニケーション①グループ発表、まとめ(木村)	グループ発表原稿を準備して臨む
15.	看護のコミュニケーションとは:多様性との共生、保健・医療・福祉チームの協働(片山)	教科書(医学書院)の該当章を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:

基礎看護実習Ⅰや自分自身の日々の体験、感情や感覚を大切に、講義やグループワークに積極的に参加してください。また、看護コミュニケーションは独立して修得できるものではなく、看護学の専門知識を必要としますので、他の授業科目も十分に学修を進めてください。

フィードバックの方法:

第1回～第4回、第15回:
「プロセスレコード」などの演習記録やグループ発表に対して教員よりコメントします。
第5回～第14回:
発表やレポートに対し、コメントします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	40	授業に積極的に参加し、グループワークの発言や到達目標が達成できるかを評価する。
	レポート	60	到達目標を理解した上で、到達目標に関する実践について論理的に説明できるかを演習記録(プロセスレコード)から評価する。
	欠席		減点する

教科書:

第1回～第4回、第15回:
杉本 なおみ(2013):改訂医療者のためのコミュニケーション入門 精神看護出版
第1回～第4回、第15回:
茂野香おる他(2015):系統看護学講座基礎看護学第16版基礎看護技術Ⅰ 医学書院
第5回～第14回:
適時プリント等を配付する。

参考書:

第1回～第4回、第15回:
アーネスティン・ウィーデンバック著池田明子訳(2007):新装版コミュニケーション 日本看護協会出版会
第1回～第4回、第15回:
阿曾洋子(2011):基礎看護技術第7版 医学書院
第5回～第14回:
適時紹介する。

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力
教員との連絡 方法:	オフィスパワー、マナビー

授業テーマ:	生体リズムとその調整方法の理解																																		
授業の概要:	「24時間社会」と言われる今日、生体リズムと生活習慣病やうつ病との関連が明らかにされる等、日常生活やビジネス、ヘルスケアの他、子どもの成長や教育にも生体リズムを整えることの重要性が指摘されている。看護職においては患者の生体リズムを整え、疾病の予防や治癒を促進するだけでなく、看護師自身の健康、ストレスマネジメントのためにも重要である。特に夜勤やシフトワークは、人間の生体リズムにとって過酷な仕事環境である。生体リズムやシフトワークに関する理解を深め、その調整のスキルを身につけることは、身体への負担が少なく、医療事故やミスを防ぐ上でも重要である。科学的根拠に基づいた知識と技術を理解し、睡眠改善策の提案や援助方法について学習する。																																		
到達目標:	1)生体リズムや睡眠に関する知識や評価方法、睡眠改善技術を理解できる。 2)自分自身の睡眠や生体リズムのモニタリングとその評価ができ、睡眠改善策や援助方法について提案できる。 3)提案した睡眠改善策や生体リズムの調整方法について実践できる。																																		
授業方法:	1.講義																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 睡眠改善学総論</td><td>教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>2. 睡眠障害</td><td>前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>3. 睡眠知識教育の重要性(1)</td><td>前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>4. 睡眠知識教育の重要性(2)</td><td>前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>5. 睡眠中の生命現象(1)</td><td>前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>6. 睡眠中の生命現象(2)</td><td>前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>7. 睡眠と生体リズム(1)</td><td>前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>8. 睡眠と生体リズム(2)</td><td>前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>9. 睡眠環境、運動と睡眠</td><td>前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>10. 社会と睡眠、子どもと睡眠</td><td>前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>11. 睡眠の評価技術</td><td>前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>12. セルフモニタリング課題の検討・グループワーク</td><td>前回の授業内容の理解とセルフモニタリングから自分の睡眠の課題を考えること</td></tr><tr><td>13. グループワークの発表、睡眠相談・睡眠改善技術</td><td>前回までの授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>14. 看護職・介護職の睡眠</td><td>前回までの授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>これまでの授業内容を見直すこと</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 睡眠改善学総論	教科書の該当部分を読んでおくこと	2. 睡眠障害	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	3. 睡眠知識教育の重要性(1)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	4. 睡眠知識教育の重要性(2)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	5. 睡眠中の生命現象(1)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	6. 睡眠中の生命現象(2)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	7. 睡眠と生体リズム(1)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	8. 睡眠と生体リズム(2)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	9. 睡眠環境、運動と睡眠	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	10. 社会と睡眠、子どもと睡眠	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	11. 睡眠の評価技術	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	12. セルフモニタリング課題の検討・グループワーク	前回の授業内容の理解とセルフモニタリングから自分の睡眠の課題を考えること	13. グループワークの発表、睡眠相談・睡眠改善技術	前回までの授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	14. 看護職・介護職の睡眠	前回までの授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと	15. まとめ	これまでの授業内容を見直すこと		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 睡眠改善学総論	教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
2. 睡眠障害	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
3. 睡眠知識教育の重要性(1)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
4. 睡眠知識教育の重要性(2)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
5. 睡眠中の生命現象(1)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
6. 睡眠中の生命現象(2)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
7. 睡眠と生体リズム(1)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
8. 睡眠と生体リズム(2)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
9. 睡眠環境、運動と睡眠	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
10. 社会と睡眠、子どもと睡眠	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
11. 睡眠の評価技術	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
12. セルフモニタリング課題の検討・グループワーク	前回の授業内容の理解とセルフモニタリングから自分の睡眠の課題を考えること																																		
13. グループワークの発表、睡眠相談・睡眠改善技術	前回までの授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
14. 看護職・介護職の睡眠	前回までの授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと																																		
15. まとめ	これまでの授業内容を見直すこと																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	8/29～31の期間に集中講義で授業を行います。																																		
フィードバックの方法:	コメントペーパー等に対するのフィードバックは、教室でまとめて解説する。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席及びコメントペーパー提出</td><td>40</td><td>到達目標1)2)に関する問題意識や関心度を評価する。</td></tr><tr><td>セルフモニタリング課題への取り組み</td><td>10</td><td>準備学習とグループワークでの到達目標2)3)の態度・意欲を評価する。</td></tr><tr><td>レポート</td><td>50</td><td>到達目標1)2)を理解した上で、問題点を明らかにし、その理由を説得力をもって説明できるか、実現可能な具体的な対策を立案しているかを基準とする。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席及びコメントペーパー提出	40	到達目標1)2)に関する問題意識や関心度を評価する。	セルフモニタリング課題への取り組み	10	準備学習とグループワークでの到達目標2)3)の態度・意欲を評価する。	レポート	50	到達目標1)2)を理解した上で、問題点を明らかにし、その理由を説得力をもって説明できるか、実現可能な具体的な対策を立案しているかを基準とする。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
出席及びコメントペーパー提出	40	到達目標1)2)に関する問題意識や関心度を評価する。																																	
セルフモニタリング課題への取り組み	10	準備学習とグループワークでの到達目標2)3)の態度・意欲を評価する。																																	
レポート	50	到達目標1)2)を理解した上で、問題点を明らかにし、その理由を説得力をもって説明できるか、実現可能な具体的な対策を立案しているかを基準とする。																																	
教科書:	日本睡眠改善協議会, 基礎講座 睡眠改善学, ゆまに書房																																		
参考書:	応用講座 睡眠改善学, 日本睡眠改善協議会, ゆまに書房 ぐっすり眠れる3つの習慣, 田中秀樹, ベスト新書																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応																																		

基礎看護学実習Ⅰ

木村 静、片山 由加里、葉山 有香、小笠 美春、下岡 ちえ、植松 紗代、山縣 恵
美、川崎 友絵、大江 真人、笹谷 絵里、東 真理

授業テーマ:

授業の概要： 実習を通して、入院患者における療養環境を知り、療養生活への支援から看護の役割について学ぶ。さらに、ヒューマンケアの基本として倫理的態度を養い、看護への興味や関心を高めることを狙いとする。
なお、学生は、臨地実習において、入院患者の療養生活を観察し、看護師が行っている療養生活への支援場面を見学する。

到達目標:

1. 入院患者を取り巻く療養環境を知ることができる。
2. 療養生活への支援に関する看護の役割を知ることができる。
3. 看護職者として必要な倫理的態度を身につけることができる。

授業方法： 学生は5日間実習を行う。
実習初日(7/31までの1日間)と最終日(8/7)は学内、2～4日目は臨地実習(7/31～8/4の5日間のうち3日間)である。
1病棟につき学生5～6名程度とし、1名の教員が1病棟を担当する。
なお、3名の実習助手(天野功士、野々口陽子、田村沙織)も実習指導を行う。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	実習1日目:実習オリエンテーション(学内実習)	実習要綱・実習要項を読み、体調を整えて、万全の姿勢で臨む
2.	実習2日目:病院・病棟オリエンテーション/看護活動の見学(臨地実習)	日々の記録を行う
3.	実習3日目:療養環境の観察/療養生活への支援場面の見学(臨地実習)	日々の記録を行う
4.	実習4日目:療養環境の観察/療養生活への支援場面の見学(臨地実習)	日々の記録を行う
5.	実習5日目:実習のまとめ・発表会(学内実習)	実習全体を振り返り、まとめの記録を行い臨む 発表会の準備を行う

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法： 実習最終日に担当教員が個人面談を実施する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習内容(知識、技術、態度)	100%	到達目標1. 2. 3. の理解度、達成度、態度、意欲より総合的に評価する。

教科書：實習要綱、實習要項、配布資料

参考書： フローレンス・ナイチンゲール著、湯楨ますほか訳、看護覚え書一看護であること 看護でないこと一、現代社
ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ますほか訳、看護の基本となるもの、日本看護協会出版会
東京医科大学看護専門学校編著、よくわかる看護者の倫理綱領、照林社

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理
力、自己実現力

教員との連絡方法： オフィスアワーを活用してください。

授業テーマ： 看護の方法を理解する

授業の概要： 入院療養患者を受け持ち、受け持ち患者と援助的関係をつくる。受け持ち患者に対する看護の体験を通して、看護過程の展開方法を学ぶ。

到達目標:

1. コミュニケーションを通して受け持ち患者との援助的関係をつくることができる。
2. 受け持ち患者の看護を体験できる。
3. 受け持ち患者の情報収集から計画立案までの看護過程のプロセスを習得できる。
4. 看護職者として必要な倫理的態度を身につけることができる。

授業方法： 学生は複数の実習病院に分かれて、2週間(10日間)の実習を行います。実習期間は準備・予備日も含めて、9月1日～15日です。実習病棟別に学生グループで行動します。
3名の実習助手(天野功士、野々口陽子、田村沙織)も実習指導を行います。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションを受け、基礎看護学実習Ⅱ実習要項に従って進めます。担当教員と病院の実習指導者による指導のもと、受け持ち患者とコミュニケーションをとり、診療補助の見学と生活援助の体験をします。患者の理解・情報分析や看護計画を病棟や学内のカンファレンスで発表・討議し、看護過程を展開・実践することで、看護実践力の基礎を習得します。指定された毎日の記録提出により記録物の指導も受け、看護過程の理解を深めます。	オリエンテーションを受け、基礎看護学実習Ⅱ実習要項を理解し、十分な予習をして実習に臨んでください。とくに、バイタルサインの観察、フィジカルエグザム、生活援助技術を中心に技術練習をしておいてください。また、看護過程の展開についてもやり方で解らないところがないようにしておいてください。さらに、入院患者や病棟の特徴に伴って、各実習指導教員が事前学習を指示する場合があります。

受講者へのメッセージやアドバイス：
欠席は原則として認めません。実習期間前から健康管理に注意し、実習施設への移動も含めて実習中の生活を整えるように行動してください。実習に関する学内等での説明会を必ず受け、実習に必要な持ち物や記録類の管理ができるようにしてください。各実習施設や担当教員からの予習課題を含め、既習科目の復習を含めて十分な予習を行ってください。ひとりひとりの学生にとって個別的な臨床学習環境になります。大変貴重な機会ですので万全の態勢で臨み、様々な状況下において主体的に行動できるようにしましょう。

フィードバックの方法: 原則として教員1名が学生5～7名の1グループを担当し、実習時間中は常に担当教員も看護ユニフォームを来て実習病棟に在住します。少人数制をとり、実習指導者と共に直接指導をすることで、学生がその時その場で看護実践をふりかえりながら、看護実践力を習得できるようにしていきます。学生は記録指導も毎日受け、実践の実際の客観的な振り返りや実践の言語化と記録化についても修得します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	患者とのコミュニケーション	15	「患者とのコミュニケーション」を3項目で評価します。
	看護の体験	25	「看護の体験」を5項目で評価します。
	看護過程の展開	35	「看護過程の展開」を7項目で評価します。
	看護職者としての倫理的態度	10	実習に積極的に参加したかどうかを含めて、「看護者としての倫理的態度」を減点法で評価します。
	カンファレンスへの参加度	15	3回のカンファレンス各々を5段階で評価します。

教科書： マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳(2009) アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断
医学書院
茂野香おる他(2015): 系統看護学講座 基礎看護学第16版基礎看護技術Ⅰ 医学書院
角濱春美他(2015): 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術第2版 メヂカルフレンド社

参考書： 実習要項、配布資料(プリント等)
T. ヘザー・ハードマン／上鶴 重美原書編集、日本看護診断学会監訳、上鶴重美訳(2015)NANDA-I看護診断 定義と分類 2015-2017原書第10版 医学書院
藤崎郁(2012):フィジカルアセスメント完全ガイド第2版 学研

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

マナビー掲示板機能、オフィスアワー

授業テーマ:	成人期の発達段階と成人期を取り巻く社会環境及び疾病構造		
授業の概要:	人生の中で成人期が最も長い期間であり、成人期の対象は罹患する疾病も非常に多岐にわたっている。成人期の発達段階を踏まえて、成人期にある対象を取り巻く今日の健康問題がどのような影響を与えるかを学習する。また、成人期にある対象が疾病を有した場合に、急性期、慢性期、回復期、終末期という経過別の特徴的な看護の導入を学習する。		
到達目標:	1)ライフサイクルからみた成人期の特徴を理解し、成人保健の動向と課題及び保健・医療・福祉システムを学ぶ。 2)成人を取り巻く今日の健康問題を明らかにし、現状と取り組みを理解し、医療・看護支援のあり方を探究することができる。		
授業方法:	講義と演習グループワークで行う。補助者として葉山講師、小笠講師、野々口助手、田村助手、天野助手も担当する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 成人看護学とは(当日)		
	2. 成人保健の動向と保健医療福祉対策 (光木)		
	3. 健康状態が急激に変化し急性の状態にある人への看護(当日)		
	4. 生活機能障害を有する人への看護(当日)		
	5. 慢性的な経過をたどる健康障害を有する人への看護(光木)		
	6. 人生の最期のときを迎える人への看護(光木)		
	7. 成人を取り巻く今日の健康問題の明確化1:グループ演習(当日・光木)	成人期の健康問題として何が話題・トピックスとなっているか調べておく。	
	8. 成人を取り巻く今日の健康問題の現状:グループ演習(当日・光木)	成人期の健康問題のトピックスに対してどのような現状かを調べておく。	
	9. 成人を取り巻く今日の健康問題への取り組み:グループ演習(当日・光木)	成人期の健康問題のトピックスに対してどのような施策がとられているかを調べておく。	
	10. 成人を取り巻く今日の健康問題の課題:グループ演習(当日・光木)	成人期の健康問題のトピックスに対して残された課題として何があるかを調べておく。	
	11. 成人を取り巻く今日の健康問題の課題:グループ発表1(当日・光木)	グループワークでまとめた内容をPPTで発表するため、プレゼン準備をする。	
	12. 成人を取り巻く今日の健康問題の課題:グループ発表2(当日・光木)	グループワークでまとめた内容をPPTで発表するため、プレゼン準備をする。	
	13. 成人看護に有用な理論と概念1:ストレス理論・危機理論(当日)	クリティカルな状況にある患者に対して有用なストレス理論・危機理論を事前学習する。	
	14. 成人看護に有用な理論と概念2:セルフケア理論・自己効力理論(光木)	教科書p.216～224、p.260～268までを読んでおく。	
	15. 成人看護領域のエキスパートナースの役割と活動(ゲストスピーカー)	専門看護師制度や認定看護師制度について事前学習する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	成人期にある対象者を取り巻く今日の健康問題を理解するために、新聞・雑誌・ニュースなどで取り上げられるトピックスに関心を持つておく。		
フィードバックの方法:	各グループが発表する内容はレジメとして配布する。小テストは次の授業で回答を示す。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題レポート	60	到達目標2に対しての達成度を評価する。
	授業への参加度	15	積極的に参加しているか評価する。
	発表・討論時の参加度	15	到達目標1・2に対しての達成度を評価する。
	小テスト	10	授業内容の理解度を評価する。
教科書:	ナーシンググラフィカ 成人看護学(1)成人看護学概論 MCメディカ出版		
参考書:	新体系看護学 成人看護概論・成人保健 メヂカルフレンド社 成人看護学 成人看護学概論 NOUVELLE HIROKAWA 系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学〔1〕 医学書院		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビー掲示板		

授業テーマ:

手術療法により健康状態がクリティカルな状況にある患者の周手術期看護

授業の概要:

成人期を対象に、健康状態が急激に変化する急性期看護、特に手術療法に伴う看護援助方法を学ぶ。成人患者が手術による身体的、精神的、社会的な変化に適応するために、手術や麻酔が身体に及ぼす影響、手術を受ける患者の心理状態、手術前・中・後の身体的管理方法とその状態における日常生活援助方法について学習する。事前学習のためにマナビー上で動画配信したり、術後の患者の状態を再現したシミュレーションモデル人形を活用し、アクティブラーニングを行う。

- 到達目標:
1. 周手術期の定義を述べることができる。

2. 周手術期患者の不安・心配の定義を説明できる。

3. 手術の伴う生体反応および麻酔の影響を述べることができ、看護援助方法を説明できる。

4. 手術室看護について説明できる。

5. 手術に伴う生体損傷とその修復過程のアセスメントおよび看護援助の方法を説明できる。

6. 術後合併症のアセスメントと看護援助の方法を説明できる。

7. 術後の疼痛管理、輸液管理、創傷管理、ドレーン管理について看護援助の方法を説明できる。

8. 手術前オリエンテーションの必要性と方法を説明できる。

9. シミュレーションモデル人形で再現した手術1時間後の患者情報を収集することができる。

10. シミュレーションモデル人形で再現した手術1時間後の患者情報を根拠に基づいてアセスメントできる。

授業方法:

講義を受けてから、それに関連する看護演習を実施する。また、術後管理看護アセスメントは個人及びグループワークで行う。補助者として野々口助手、天野助手も担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	急性期・周手術期の患者の心理的側面 手術の不安・心配・ストレス(当日)	
2.	手術患者の身体的側面 手術に伴う生体反応(当日)	
3.	手術患者の身体的側面 手術に伴う麻酔の影響(当日)	前回の授業内容を復習しておく。
4.	手術前検査と患者の準備(小笠)	前回の授業内容を復習しておく。
5.	手術室看護1 安全対策、事故対策(小笠)	前回の授業内容を復習しておく。
6.	手術室看護2 手術室看護師の役割(小笠)	前回の授業内容を復習しておく。
7.	手術後合併症の予防と早期発見 呼吸器・循環器(当日)	演習室でシミュレーションモデル人形を用いて説明するため、呼吸器・循環器合併症について事前学習する。
8.	手術後合併症の予防と早期発見 消化器・泌尿器・術後せん妄・感染症(当日)	演習室でシミュレーションモデル人形を用いて説明するため、消化器・泌尿器・術後せん妄・感染症について事前学習する。
9.	手術後の疼痛管理・輸液管理・創傷管理・ドレーン管理((小笠)	演習室でシミュレーションモデル人形を用いて説明するため、疼痛・輸液・創傷・ドレーン管理について事前学習する。
10.	手術後の看護1 術後のケア シミュレーションモデルによる術後患者のケア演習(当日・小笠)	術後1時間の患者をシミュレーションモデル人形で再現するので、情報収集できるように自己学習する。
11.	手術後の看護2 術後のケア シミュレーションモデルによる術後患者のケア演習(当日・小笠)	術後1時間の患者をシミュレーションモデル人形で再現するので、情報収集した内容をアセスメントできるように自己学習する。
12.	手術後の看護3 術後のケア シミュレーションモデルによる術後患者のケア演習(当日・小笠)	術後1時間の患者をシミュレーションモデル人形から得た情報をアセスメントできるように自己学習する。
13.	手術後の看護4 術後のケア シミュレーションモデルによる術後患者のケア演習(当日・小笠)	術後1時間の患者をシミュレーションモデル人形から得た情報をアセスメントできるように自己学習する。
14.	集中治療室における看護ケア(ゲストスピーカー)	クリティカルケア領域のエキスパートナースについて学習しておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

術後合併症及び術後管理については演習室でシミュレーションモデル人形を用いて再現する。知識面は事前にマナビー上で動画提供するので、必ず事前学習してから演習に臨むこと。

フィードバックの方法:

術後観察に関する質問は学生間共有するためマナビー掲示板を活用し、受け付ける。術後観察アセスメントシートは個人およびグループ評価する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60	周手術期の看護についての知識を評価する
	術後観察アセスメント個人用紙	10	術後1時間の患者情報を収集する根拠が示されているか評価する。
	術後観察アセスメントグループ用紙	10	術後1時間の患者の状態のアセスメントとその後のケアについて示されているか評価する。
	病態生理レポート	5	事例の病態を理解しているか評価する。
	授業への参加度	15	積極的に授業や演習に参加しているか評価する。

教科書:

竹内登美子編:高齢者と成人の周手術期看護1 外来／病棟における術前看護、医歯薬出版、2012年
竹内登美子編:高齢者と成人の周手術期看護2 術中／術後の生体反応と急性期看護、医歯薬出版、2012年

参考書:

鎌倉やよい:周手術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護、医学書院、2008年
野村実:周手術期管理ナビゲーション、医学書院、2014年
疾患別看護過程セミナー 総合改訂版、医学芸術社、2006年
長谷川雅美・林優子編:疾患と看護過程実践ガイド、医学芸術社、2005年
竹内佐智恵編:周手術期看護、MCメディカ出版、2009年
富田幾枝:新看護観察のキーポイントシリーズ 急性期・周手術期看護、中央法規、2013年
中村美知子:周手術期看護 安全・安楽な看護の実践、インターメディカ、2016年
竹末芳生、藤野智子:術後ケアとドレーン管理、照林社、2014年
中田精三:手術室看護の知識と実際、メディカ出版、2009年
村上美好:写真でわかる臨床看護技術、インターメディカ、2007年

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
教員との連絡
方法：

分析力、思考力、創造力

オフィスアワー、マナビー上掲示板

授業テーマ:

機能障害を持った対象者のリハビリテーション看護

授業の概要:

本授業では健康状態が回復期にある成人患者に対する看護援助方法を講義する。また、成人患者が手術後や受傷後、社会復帰に向けてのリハビリテーションを行うための方法を学ぶ。具体的には、筋力増強訓練方法や歩行訓練方法である。また、手術療法が適応となる運動機能が障害された患者の看護過程の展開方法を学習する。

到達目標:

1. 障害受容や価値転換論、ステージ理論について説明できる。
2. 日常生活動作(ADL)の概念と評価方法および自立のための看護援助方法を説明できる。
3. 早期離床の意義と二次合併症の予防のための看護について説明できる。
4. 筋力増強訓練について説明ができ、適切な技術を身につける。
5. 呼吸機能訓練について説明ができ、適切な技術を身につける。
6. 松葉杖歩行、杖歩行の指導方法の説明ができる。
7. 疾患に応じた退院指導のためのパンフレットを作成できる。
8. 運動機能障害、呼吸機能障害、循環機能障害、感覚機能障害の対象者へのリハビリテーションプログラムの特徴と患者教育方法について説明できる。
9. 手術療法が適応となる運動機能が障害された患者の看護過程の展開方法を実施できる。

授業方法:

講義と演習を組み合わせる。補助者として野々口助手、天野助手も担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 障害受容論、価値転換論、ステージ理論(当日)	
	2. 日常生活動作自立への援助-日常生活動作の考え方と評価方法(当日)	
	3. 早期回復への援助-早期離床、二次障害の予防(小笠)	
	4. 運動機能障害、呼吸機能障害、循環機能障害、感覚機能障害のリハビリテーションプログラム(小笠)	
	5. 行動変容と退院指導の方法論(当日)	事前に退院指導を行う疾患を伝えるので、患者教育の要素について自己学習する。
	6. 呼吸機能訓練:腹式呼吸・胸式呼吸・器具を用いた呼吸訓練方法(小笠)	術後合併症と関連付けて考えるように復習しておく。
	7. 筋力増強訓練方法:意義・方法と体験(当日)	事前のマナビー上で動画を提示するので、予習しておく。
	8. 松葉杖歩行、杖歩行の指導方法(小笠)	事前にマナビー上で動画を提示するので、予習しておく。
	9. 手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法1:看護過程の思考方法(当日・小笠)	病態生理のレポートを作成しておく。
	10. 手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法2:情報収集(当日・小笠)	必要な情報を事前に整理し、アセスメントできるようにしておく。
	11. 手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法3:ゴードン分類(当日・小笠)	必要な情報を事前に整理し、アセスメントできるようにしておく。
	12. 手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法4:関連図作成(当日・小笠)	収集した情報から関連図の下案を作成しておく。
	13. 手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法5:情報の統合と問題点の抽出(当日・小笠)	関連図から考えられる情報を統合し、仮の問題点を導き出しておく。
	14. 手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法6:看護目標とケア計画(当日・小笠)	ケア計画を立てるための資料を収集しておく。
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

リハビリテーション看護では主に整形外科や脳神経外科の運動機能を障害された患者への援助を学ぶ。また、手術療法が適応となる運動機能障害のある患者の看護過程を展開するので、成人急性期看護援助論の学習内容を復習し、看護過程の展開の授業に臨む。

フィードバックの方法:

看護過程の展開は個別指導でフィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	到達目標1～6、8の理解度を評価する。
	看護過程	30	到達目標9の達成度を評価する。
	授業への参加度	15	積極的な授業参加を評価する。
	退院パンフレット	5	到達目標7の達成度を評価する。

教科書:

奥宮暁子:ナースングラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護, MCメディカ出版(2017)

参考書:

落合芙美子:新体系 看護学全書別巻, リハビリテーション看護, メジカルフレンド社(2015)
酒井郁子:看護学テキストNICEリハビリテーション看護, 南江堂(2010)
石鍋圭子:リハビリテーション専門看護, 医歯薬出版(2004)
鈴木愉:ナースのためのリハビリテーションレクチュア, 文光堂(2001)
宮川哲夫:動画でわかるスクイーミング, 中山出版(2006)
日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会:呼吸器リハビリテーションマニュアル-患者教育の考え方と実践-, 照林社(2007)
石鍋圭子:リハビリテーション看護実践テキスト, 医歯薬出版(2008)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィースアワー、マナビー上掲示板

授業テーマ:			
授業の概要:	慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者とその家族の特徴を理解し、慢性的な健康課題とともに生きることを支える看護援助に必要な理論と方法を教授する。		
到達目標:	1. 慢性的な健康課題を持ちながら生活する成人患者とその家族の特徴を理解できる 2. 疾病管理と療養生活のセルフマネジメントとそれを支える諸理論について説明できる 3. 疾病管理と療養生活のセルフマネジメントを推進する看護援助方法（対象理解・援助方法・評価の方法）を説明できる 4. 慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者の疾病管理と療養生活のセルフマネジメントの実際を理解できる		
授業方法:	講義、講義・演習の混合		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 慢性的な健康課題をもちながら生活する患者とその家族の特徴、慢性疾患の疫学・予防と治療の特徴・今後の課題と施策 光木		
	2. セルフマネジメントとは:セルフマネジメントを支える諸理論① 光木	セルフマネジメントのための主要概念の動画を視聴する 事前に提示された教科書の範囲を予習しておく	
	3. セルフマネジメントとは:セルフマネジメントを支える諸理論② 光木	医学モデルとエンパワメントモデルの動画を視聴する 事前に提示された教科書の範囲を予習しておく	
	4. セルフマネジメントを推進する看護方法:セルフマネジメントの過程 光木	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく	
	5. 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援① 光木	膵臓の機能と解剖、糖尿病の定義・原因・種類・検査・症状・治療方法等の事前課題を行っておく	
	6. 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援② 光木	糖尿病の理解を深め、前回の授業内容でわからない点を明らかにしておく	
	7. 慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント支援① 葉山	肺の機能と解剖、呼吸不全の定義・診断基準・原因・治療等の事前課題を行っておく	
	8. 慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント支援① 葉山	呼吸不全の理解を深め、前回の授業でわからない点を明らかにしておく	
	9. 慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援① 光木	心臓の機能と解剖、慢性心不全の定義・原因・症状・治療方法・憎悪因子等の事前課題を行っておく 心電図の動画を視聴し課題を行っておく	
	10. 慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援② 光木	慢性心不全の理解を深め、前回の授業でわからない点を明らかにしておく	
	11. 腎不全とともに生きるセルフマネジメント支援 ゲストスピーカー	腎臓の機能と解剖、腎不全の定義・原因・症状・検査・治療方法等の事前課題を行っておく	
	12. 肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援① 葉山	肝臓の機能と解剖、肝硬変の定義・分類・症状・検査・治療方法等の事前課題を行っておく	
	13. 肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援② 葉山	肝硬変の理解を深め、前回の授業でわからない点を明らかにしておく	
	14. 難病とともに生きるセルフマネジメント支援 葉山	筋萎縮性側索硬化症の定義・原因・診断基準・検査・症状・治療方法等の事前課題を行っておく	
	15. まとめ 光木 葉山		
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業の2/3以上の出席により定期試験が受けられます。欠席しないように自己の体調管理をお願いします。第5回、7回、9回、11回、12回14回の事前課題は、授業前日13時までにマナビーに提出してください。		
フィードバックの方法:	事前課題についてはコメントをいれて返却する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	70	到達目標1～4に関する知識と理解度により評価する
	レポート(事前課題)	30	到達目標4に必要な専門的知識を事前に学習できているかを基準に評価する
教科書:	安酸史子他、ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント、メディカ出版		
参考書:	鈴木久美他、成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える、南江堂 浅野嘉延他、看護のための臨床病態学、南山堂		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメールを利用 光木 smitsuki@dw.doshisha.ac.jp 葉山 yhayama@dw.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

授業の概要: 成人慢性期看護援助論Aで学んだ知識に基づき、慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者の看護援助方法について学修する。さらに、成人患者を対象とした診療や療養に伴う援助技術を学修する。

到達目標: 1.糖尿病をもちながら生活する患者、COPD患者に対するセルフマネジメント支援のためのアセスメントおよび看護計画を立案できる。2.看護計画に基づきセルフケア能力を高めるための患者教育方法を理解できる。3.慢性的な健康課題を持ちながら生活する成人患者への看護実践において必要となる輸液管理、インスリン自己注射、呼吸管理等を安全に行うための援助方法を実践的に習得する。

授業方法: 講義、講義と演習を組み合わせで行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	成人慢性期援助論Bの進め方 葉山・光木	
2.	講義(治療薬の安全管理:ME器機取り扱い)葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
3.	演習(治療薬の安全管理:ME器機取り扱い)葉山・光木	事前に提示された動画や資料を見て手順等を理解しておく。
4.	演習(点滴静脈内注射の実施、輸液管理、持続静脈内点滴注射実施中の寝衣交換)葉山・光木	事前に提示された動画や資料を見て手順等を理解しておく。
5.	演習(点滴静脈内注射の実施、輸液管理、持続静脈内点滴注射実施中の寝衣交換)葉山・光木	事前に提示された動画や資料を見て手順等を理解しておく。
6.	演習(持続静脈内点滴注射実施中の患者の観察)葉山・光木	事前に提示された動画や資料を見て手順等を理解しておく。
7.	演習「患者の疾病管理と療養生活のセルフマネジメントを推進するための看護計画」(1) グループワーク① 葉山・光木	事前に提示された事例について、各自課題をした上でグループワークに臨む。
8.	演習「患者の疾病管理と療養生活のセルフマネジメントを推進するための看護計画」(2) グループワーク② 葉山・光木	7回目授業のグループワークについて、決められた箇所までグループで完成させておく。
9.	演習(血糖測定とインスリン自己注射) 光木	事前に提示された動画を見て手順等を理解しておく。
10.	演習(呼吸器ケア) 葉山	事前に提示された教科書の範囲を復習し、動画を見て手順等を理解しておく。
11.	演習「患者の疾病管理と療養生活のセルフマネジメントを推進するための看護計画」(3) 発表① 葉山・光木	当日、発表順を決定して各グループの看護計画を発表するので、発表準備をしておく。担当事例以外の事例にも目を通して理解しておく。
12.	演習「患者の疾病管理と療養生活のセルフマネジメントを推進するための看護計画」(4) 発表② 葉山・光木	当日、発表順を決定して各グループの看護計画を発表するので、発表準備をしておく。担当事例以外の事例にも目を通して理解しておく。
13.	演習(患者教育ロールプレイ①) 光木	当日、発表順を決定して各グループでロールプレイを行うので、担当事例以外の事例にも目を通して理解しておく。
14.	演習(患者教育ロールプレイ②) 光木	当日、発表順を決定して各グループでロールプレイを行うので、担当事例以外の事例にも目を通して理解しておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業の2/3以上の出席により定期試験が受けられます。欠席しないように自己の体調管理をお願いします。

フィードバックの方法: 事前課題についてはコメントを入れて返却する。その他、質問等に対して教室でまとめてコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表、討論	20	グループ発表での自分の役割とその達成度、準備学習とグループワークでの到達目標1・2の理解度を評価する。
	レポート(事前課題)	30	到達目標2・3に関する知識や理解度により評価する
	定期試験	50	到達目標1～3に関する知識や理解度により評価する

教科書: 安酸史子、鈴木純恵、吉田澄恵編、ナースিং・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント、メディカ出版、2015

参考書: 阿曾洋子ら著、基礎看護技術 第7版、医学書院、2011
吉田みつ子ら監修、写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ、2012

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力

教員との連絡方法: Eメールを利用 光木 smitsuki@dw.doshisha.ac.jp 葉山 yhayama@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: がんに対する治療として、主に薬物療法、放射線療法を取り上げ、それらの治療を受ける患者・家族に対する看護について学修する。合わせて、がんの終末期にある患者・家族の苦痛とその援助方法について学修する。

到達目標: 1.がん患者の症状マネジメント・疾病管理の方法が理解できる。 2.薬物療法を受ける患者と家族への基本的な看護援助方法が理解できる。 3.放射線療法を受ける患者と家族への基本的な看護援助方法が理解できる。 4.終末期にあるがん患者への看護援助方法が理解できる。 5.がんで化学放射線療法を受ける患者の看護過程を展開し、治療中の患者に対する看護計画が立案できる。

授業方法: 講義、講義と演習を組み合わせで行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	がん患者の症状マネジメント・疾病管理① 葉山	
2.	がん患者の症状マネジメント・疾病管理② 葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
3.	がん治療と看護 薬物療法を受ける患者の看護① 葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
4.	がん治療と看護 薬物療法を受ける患者の看護② 葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
5.	がん治療と看護 放射線療法を受ける患者の看護① 葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
6.	がん治療と看護 放射線療法を受ける患者の看護② 葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
7.	終末期にある人々への看護援助(緩和ケア) 光木	全人的苦痛(トータルペイン)について学修しておく。
8.	終末期にある人々への看護援助方法(症状緩和・疼痛コントロール) 光木	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。提示された資料に目を通しておく。
9.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開①)看護過程の思考方法 (光木・葉山)	病態生理を作成しておく。
10.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開②)情報収集 (光木・葉山)	必要な情報を事前に整理し、アセスメントできるようにしておく。
11.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開③)ゴードン分類 (光木・葉山)	必要な情報を事前に整理し、アセスメントできるようにしておく。
12.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開④) 関連図作成(光木・葉山)	収集した情報から関連図の下案を作成しておく。
13.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開⑤) 情報の統合と問題点の抽出(光木・葉山)	関連図から考えられる情報を統合し、仮の問題点を導き出しておく。
14.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開⑥)看護目標とケア計画(光木・葉山)	ケア計画を立てるための資料を収集しておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: コメントペーパー等に対して、教室でまとめてコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的態度	10	到達目標2および3を理解したうえで積極的に授業に参加し、到達目標5ができるようになったかを評価する
	定期試験	60	到達目標1～4に関する知識や到達目標5の到達度により評価する
	看護過程	30	到達目標5の到達度により評価する

教科書: 小松浩子ら編、系統看護学講座 別巻 がん看護学、医学書院、2015

参考書: 恒藤暁、内布敦子編、系統看護学講座 別巻 緩和ケア 第2版、医学書院、2014

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Eメールを利用 光木 smitsuki@dw.doshisha.ac.jp 葉山 yhayama@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

全身麻酔で手術を受ける患者を受け持つことで周手術期看護・リハビリテーション看護を学ぶ。

授業の概要:

成人看護学領域ならびに関連領域科目で学習した理論、知識、技術を適用して、手術を受ける患者と家族を多面的に、総合的に理解し、根拠に基づいた看護ケアを実施する。そのため、周手術期およびリハビリテーション期の特性に応じた対象の個別的な看護過程を展開する能力を修得する。さらに、本実習を通して看護学生としての看護観を培う。

- 到達目標:
1. 患者の疾患に伴う病態生理を理解することができる。

2. 根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、受け持ち患者に適応できる。

3. 問題解決方法を活用し、受け持ち患者の個別性に応じた看護過程を展開できる。

4. 患者の術前の全身状態をアセスメントし、維持・改善のための援助を実施できる。

5. 手術に伴う生体反応、麻酔の影響および生体損傷とその修復過程をアセスメントし、術後の看護援助を実施できる。

6. 術後合併症を予防するためのアセスメントに基づいた看護援助を実施できる。

7. 手術に伴う日常生活動作(ADL)の変化を評価し、適切なセルフケア援助を実施できる。

8. 早期離床と二次障害の予防を促すための看護援助を実施できる。

9. 受け持ち患者の社会復帰に向けてのリハビリテーションの目標を設定し、看護援助を実施できる。

10. 患者の疾患および個別性に応じた療養指導ならびに退院指導ができる。

11. 受け持ち患者の看護援助を振り返り、自己の看護について考察できる。
- 授業方法:

1. 学生4～6名を1グループとし、3週間の実習を行う。

2. 実習初日に病院・病棟の概要についてのオリエンテーションを受ける。

3. 事前学習として、受け持ち患者に必要とされる看護技術について学内演習を行う。

4. 事前学習として、受け持ち患者の病態生理および術前・術中・術後看護のレポートを作成する。

5. 全身麻酔で手術を受ける患者を1名を受け持ち、看護過程の展開を行う。

6. 受け持ち患者の周手術期・リハビリテーション期のケアを教員、臨地実習指導者および担当看護師の指導のもと実施する。

7. 病棟実習中盤と最終日に学生カンファレンスを行い、受け持ち患者への看護実践の振り返りを行う。

8. 事後学習として学内で受け持ち患者の看護過程を評価・修正し、学習成果としてまとめる。

9. 実習を通して自己の実習を評価するとともに、教員からの面接評価を受け、今後の学習課題を明確にする。

10. 野々口助手、天野助手も臨床実習病棟で指導にあたる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 主に急性期病院で3週間の実習を行う。全身麻酔で手術を受ける患者を受け持ち、周手術期の患者の状況に合わせて外科系病棟、手術室および集中治療室で実習する。そのため成人看護学領域ならびに関連領域科目で学習した理論、知識、技術を適用して、術前・術中・術後および回復期の特性に応じた根拠に基づいた個別的な看護過程を展開する。また、カンファレンスなどから学びを共有し、学生自身のクリティカル看護およびリハビリテーション看護に対する看護観を深める。	術式に関わらず周手術期看護・回復期看護に共通した内容の予習を行う。そのうえで、実習病棟の特徴的な疾患、治療、処置、検査についても事前に知らせるので各々をノートにまとめておく。受け持ち患者が決定したら、当該疾患の病態生理(疫学、解剖生理、検査、治療、処置、看護)をレポートにまとめ提出する。手術室および集中治療室の特徴や看護のポイントをまとめておく。成人急性期看護援助論および成人リハビリテーション期援助論の資料はファイル綴じにして実習に必携する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

成人急性期看護学実習では既習の成人疾病外科学治療学、成人急性期援助論および成人リハビリテーション期援助論の学習内容が重要なので、必ず復習する。また、看護の展開が早いので、事前学習を十分行い、準備性・予測性ができるようになっておく。免疫力が低下している対象者を受け持つので、健康管理には注意する。

フィードバックの方法:

実習担当教員が実習病棟にいるため、その都度ケアのフィードバックは行う。また、看護過程の展開は随時個別指導し、受け持ち患者の看護に反映させる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度・態度	20	実習日数の4/5の出席が評価の基準となる。
	事前学習	20	共通の事前学習・患者の個別の事前学習の内容を評価する。
	看護過程の展開	40	情報の解釈・アセスメント・看護の方向性、問題抽出、計画が個別性を踏まえたものになっているか、ケアの根拠を文献を活用して述べているか、計画に沿って実践できたかを基準に評価する。
	日々の看護実践記録	20	SOAPで記述でき、根拠を示してアセスメントができ、看護の方向性が示されていることを基準に評価する。

教科書:

関連科目の教科書全て

参考書:

関連科目の参考文献全て

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

実習指導教員が病棟にいるので、随時報告する。急用時のみ教員の携帯に連絡する。

授業テーマ:	慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者とその家族への看護援助方法を実施する。また終末期にある患者とその家族への看護援助方法を理解する。																																		
授業の概要:	成人看護学領域ならびに関連領域科目で学習した理論、知識、技術を適用して検査や治療を受ける患者と家族を多面的に、総合的に理解し、根拠に基づいた看護ケアを実施する。慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者および終末期にある患者の特性に応じた対象の個別的な看護過程を展開する能力を修得する。また、終末期にある患者を全人的に理解し、その人らしさを支える看護援助方法を理解する。実習を通して看護学生としての看護観を培う。																																		
到達目標:	1. 根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、受け持ち患者に活用できる。 2. 問題解決方法を活用し、受け持ち患者の個別性に応じた看護過程が展開できる。 3. 患者の治療前の身体的・心理的・社会的状態を把握でき、維持・改善のための援助ができる。 4. 治療および検査を受ける患者の身体的影響をアセスメントし、治療中の看護援助ができる。 5. 病気とともに生活する患者の治療に伴う心理的・社会的問題についてアセスメントし、治療中の看護援助ができる。 6. 患者のセルフケア能力をアセスメントし、病気とともに生活する患者に適したセルフケア援助ができる。 7. 医療チームとの連携と調整を理解し、看護者としての役割を実践できる。 8. 家族の状況を理解し、療養を継続していくうえで家族がどのような役割を担っているか説明できる。 9. 長期療養を行う患者に必要な社会資源が理解できる。 10. その人らしい人生の最期を生き抜くことの意味を理解し、必要な援助を理解できる。 11. 医療の中で生じる倫理的な課題と看護者の役割について理解できる。																																		
授業方法:	学生は、3週間(15日間)臨地実習を行う。1週間のうち病院内実習は3～4日/週、大学内での演習や記録の指導は1～2日/週。なお1名の実習助手(田村沙織)も実習指導を行う。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 病院内実習:実習オリエンテーション</td><td>成人慢性期援助論AとBの授業資料を整理して活用できるようにする</td></tr><tr><td>2. 学内演習:受け持ち患者の病態生理必要な看護技術の練習</td><td>受け持ち患者の病態生理を作成するための資料を準備する。練習が必要な看護技術項目のナースングスキルを視聴しておく</td></tr><tr><td>3. 病院内実習</td><td>実習目標と行動計画を作成しておく</td></tr><tr><td>4. 病院内実習</td><td>前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく</td></tr><tr><td>5. 病院内実習(カンファレンス)</td><td>上記に加え、カンファレンス資料を作成しておく</td></tr><tr><td>6. 病院内実習</td><td>前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく</td></tr><tr><td>7. 病院内実習</td><td>前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく</td></tr><tr><td>8. 学内演習:受け持ち患者の看護過程の展開、必要な看護技術の練習</td><td>上記に加え、受け持ち患者の看護過程の展開の記録物を作成しておく</td></tr><tr><td>9. 病院内実習</td><td>前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく</td></tr><tr><td>10. 病院内実習</td><td>前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく</td></tr><tr><td>11. 病院内実習</td><td>前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく</td></tr><tr><td>12. 病院内実習</td><td>前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく</td></tr><tr><td>13. 病院内実習(カンファレンス)</td><td>上記に加え、カンファレンス資料を作成しておく</td></tr><tr><td>14. 学内演習:「終末期患者とその家族への看護について」、記録の整理</td><td>前日の実習記録を作成し、受け持ち患者の看護過程の展開の記録物を作成しておく</td></tr><tr><td>15. 学内演習:「医療の中で生じる倫理的な課題と看護者の役割について」、記録の整理まとめ、個人面接</td><td>最終提出に向けて必要な記録物を作成する</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 病院内実習:実習オリエンテーション	成人慢性期援助論AとBの授業資料を整理して活用できるようにする	2. 学内演習:受け持ち患者の病態生理必要な看護技術の練習	受け持ち患者の病態生理を作成するための資料を準備する。練習が必要な看護技術項目のナースングスキルを視聴しておく	3. 病院内実習	実習目標と行動計画を作成しておく	4. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく	5. 病院内実習(カンファレンス)	上記に加え、カンファレンス資料を作成しておく	6. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく	7. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく	8. 学内演習:受け持ち患者の看護過程の展開、必要な看護技術の練習	上記に加え、受け持ち患者の看護過程の展開の記録物を作成しておく	9. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく	10. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく	11. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく	12. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく	13. 病院内実習(カンファレンス)	上記に加え、カンファレンス資料を作成しておく	14. 学内演習:「終末期患者とその家族への看護について」、記録の整理	前日の実習記録を作成し、受け持ち患者の看護過程の展開の記録物を作成しておく	15. 学内演習:「医療の中で生じる倫理的な課題と看護者の役割について」、記録の整理まとめ、個人面接	最終提出に向けて必要な記録物を作成する		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 病院内実習:実習オリエンテーション	成人慢性期援助論AとBの授業資料を整理して活用できるようにする																																		
2. 学内演習:受け持ち患者の病態生理必要な看護技術の練習	受け持ち患者の病態生理を作成するための資料を準備する。練習が必要な看護技術項目のナースングスキルを視聴しておく																																		
3. 病院内実習	実習目標と行動計画を作成しておく																																		
4. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく																																		
5. 病院内実習(カンファレンス)	上記に加え、カンファレンス資料を作成しておく																																		
6. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく																																		
7. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく																																		
8. 学内演習:受け持ち患者の看護過程の展開、必要な看護技術の練習	上記に加え、受け持ち患者の看護過程の展開の記録物を作成しておく																																		
9. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく																																		
10. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく																																		
11. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく																																		
12. 病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく																																		
13. 病院内実習(カンファレンス)	上記に加え、カンファレンス資料を作成しておく																																		
14. 学内演習:「終末期患者とその家族への看護について」、記録の整理	前日の実習記録を作成し、受け持ち患者の看護過程の展開の記録物を作成しておく																																		
15. 学内演習:「医療の中で生じる倫理的な課題と看護者の役割について」、記録の整理まとめ、個人面接	最終提出に向けて必要な記録物を作成する																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	今まで学んできた科目の知識や技術を使い、有意義な実習を行ってください。実習の2/3以上の出席により評価の対象となります。欠席しないようにセルフマネジメントしてください。																																		
フィードバックの方法:	日々の記録物はコメントをつけて個別に返却する																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>実習への参加態度や記録物</td><td>100</td><td>到達目標がどの程度できるようになったかにより評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	実習への参加態度や記録物	100	到達目標がどの程度できるようになったかにより評価する。																												
評価方法	割合	評価基準																																	
実習への参加態度や記録物	100	到達目標がどの程度できるようになったかにより評価する。																																	
教科書:	関連科目で使用した教科書及び授業配布の資料等																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力																																		
教員との連絡方法:	実習場所や演習時にその都度対応する。必要時マナビ-の掲示板機能を利用する。 Eメールを利用 光木 smitsuki@dw.doshisha.ac.jp 葉山 yhayama@dw.doshisha.ac.jp																																		

授業テーマ:			
授業の概要:	精神に健康問題を抱える人と家族の特徴を理解し、こころの健康の保持増進及び回復を援助するために必要な精神看護の役割と機能を学ぶ。		
到達目標:	1. 精神保健医療福祉の現場を理解できる。 2. 精神に健康問題を抱える人と家族の特徴を理解できる。 3. 精神看護学に必要な諸概念を理解できる。 4. 精神看護に関連する理論・モデルを理解できる。		
授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 「こころのケア」と現代社会		
	2. 精神看護学とその課題		
	3. 国内外の精神科医療の現状と課題 No.1	配布した資料をもとに、国内の精神科医療の現状と課題について整理しておくこと。	
	4. 国内外の精神科医療の現状と課題 No.2	配布した資料をもとに、精神科医療の現状と課題について整理しておくこと。	
	5. 精神障害者と精神科医療の変化	配布した資料をもとに、精神科医療の変遷について、自身の意見をまとめておくこと。	
	6. 精神障害とは		
	7. 個別性と普遍性		
	8. 精神看護学の基本的な考え方		
	9. 精神看護に関連する諸概念: QOL, リカバリー	【QOLリカバリー】について、マインドマップを活用し、講義前日までにマナビーにより提出すること。	
	10. 精神看護に関連する諸概念: スティグマ, アドボカシー	【スティグマ・アドボカシー】について、マインドマップを活用し、講義前日までにマナビーにより提出すること。	
	11. 精神看護に関連する諸概念: ノーマライゼーション, エンパワメント, アドヒアランス	【ノーマライゼーション, エンパワメント, アドヒアランス】について、マインドマップを活用し、講義前日までにマナビーにより提出すること。	
	12. 精神看護学に関連する理論・モデル: 人間関係論	【ペプロウ】について、図書等を利用し、整理しておくこと。	
	13. 精神看護学に関連する理論・モデル: セルフケア理論	【オレム】について、図書等を利用し、整理しておくこと。	
	14. 精神看護学に関連する理論・モデル: ストレス・脆弱性モデル		
	15. 看護活動の基盤となる倫理原則		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	提出していただいたマインドマップは講義までに、コメントを入れ返却する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	事前学習	20	提出されたマインドマップについて確認し、A(良くできた), B(できた), C(もう少し), D(不十分・未提出)の4段階で評価する。C以上を合格とする。
	定期試験	80	
		100	
教科書:	系統看護学講座 専門分野2 精神看護の基礎 第5版 医学書院		
	系統看護学講座 専門分野2 精神看護の展開 第5版 医学書院		
参考書:	講義中適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	ykimura@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:

授業の概要: 精神に健康問題を抱える人と家族に必要な基本的な看護援助について学習する。

到達目標: 1. さまざまな視点から対象を理解する方法を学ぶ。
2. 精神看護におけるコミュニケーション技法の特徴を理解できる。
3. 患者－看護者関係成立・進展のための援助技術の特徴を理解できる。
4. 精神看護における日常生活援助技術の特徴を理解できる。

授業方法: 講義形式とグループワークによる演習形式を組み合わせる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	患者－看護者関係成立・進展のための看護技術: 基本的態度・援助	配布する【ペプロウの患者－看護者関係】について熟読し、整理しておくこと。
2.	患者－看護者関係成立・進展のための援助技術: 各段階における援助技術	配布する【ペプロウの患者－看護者関係】について熟読し、整理しておくこと。
3.	精神看護におけるコミュニケーション技法	
4.	患者－看護者関係成立・進展のための援助技法: プロセスレコードの実際	
5.	患者－看護者関係成立・進展のための援助技法: ロールプレイの実際	
6.	看護過程に共通する技術: 精神状態のアセスメント (No.1)	【精神機能】【精神状態のアセスメント】について、事前に整理しておく。
7.	看護過程に共通する技術: 精神状態のアセスメント (No.2)	
8.	看護過程に共通する技術: 社会的状態のアセスメント	【社会的状態のアセスメントの視点】について、事前に整理しておく。
9.	看護過程に共通する技術: 日常生活のアセスメント	【日常生活のアセスメントの視点】について、事前に整理しておく。
10.	日常生活援助技術: 活動と休息	
11.	日常生活援助技術: 食事と栄養	
12.	日常生活援助技術: 排泄と清潔	
13.	日常生活援助技術: 身だしなみ、身の回りの整理・整頓及び管理	
14.	精神看護におけるインフォームドコンセント	【インフォームドコンセント】について、事前に整理しておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出されたプロセスレコードについては、内容を確認し、コメントを入れて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	ロールプレイに基づいてプロセスレコードを作成する。	30	ロールプレイの実施内容ではなく、十分に看護場面を再構成し、振り返ることができているかを評価の基準とする。A(良くできている), B(できている), C(もう少し), D(不十分, 未提出)の4段階で評価し, C以上を合格とする。
	定期試験	70	
	総合評価	100	60点以上を合格とする。

教科書: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 第5版 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 第5版 医学書院

参考書: 講義中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要: 精神に健康問題を抱える人と家族を理解し、個別的・具体的な看護援助について考える基礎的能力を養う。

到達目標: 1. 精神症状をアセスメントする視点を理解し、必要なマネジメント技術について考えることができる。
2. 精神障害者の入院時の生活環境と制限に関する特徴を理解し、必要な援助技術について考えることができる。
3. 薬物療法と精神科リハビリテーションにおける援助技術の特徴と役割を理解できる。
4. 精神障害者の退院促進と生活支援技術の特徴と役割を理解できる。
5. 精神に健康問題を抱える人と家族の事例を用いて看護過程を展開できる能力を養う。

授業方法: 講義形式とグループワークによる演習形式を組み合わせる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	症状マネジメント技術:興奮, 多弁・多動	【興奮, 多弁・多動】を呈する精神疾患について、マインドマップを活用し、整理しておくこと。なお、マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する。
2.	症状マネジメント技術:幻覚・妄想	【幻覚・妄想】を呈する精神疾患について、マインドマップを活用し、整理しておくこと。なお、マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する。
3.	症状マネジメント技術:無為・自閉, 抑うつ, 拒否	【無為・自閉】、【抑うつ】、【拒否】を呈する精神疾患について、マインドマップを活用し、整理しておくこと。なお、マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する。
4.	症状マネジメント技術:不安・強迫	【不安】、【強迫】を呈する精神疾患について、マインドマップを活用し、整理しておくこと。なお、マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する。
5.	症状マネジメント技術:せん妄・昏迷	【せん妄】、【昏迷】を呈する精神疾患について、マインドマップを活用し、整理しておくこと。なお、マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する。
6.	精神科入院時の生活環境と制限に関する援助	【精神医療における法律】と【入院形態】について、マインドマップを活用し、整理しておくこと。なお、マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する。
7.	薬物療法と精神科リハビリテーションの援助技術:薬物療法	【精神科医療で用いられる薬物】について、マインドマップを活用し、整理しておくこと。なお、マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する。
8.	薬物療法と精神科リハビリテーションの援助技術:精神科リハビリテーション	【精神科リハビリテーション】について、マインドマップを活用し、整理しておくこと。なお、マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する。
9.	精神障害者の退院促進と生活支援技術	【精神障害者の退院促進】について、マインドマップを活用し、整理しておくこと。なお、マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する。
10.	グループワーク:看護過程:情報収集とアセスメント(精神的・身体的・社会的情報)	配布する事例について、熟読して精神的・身体的・社会的情報について、情報を整理し、アセスメントをする。
11.	グループワーク:看護過程:情報収集とアセスメント(セルフケア)	1. グループワークで得た学びを自身の記録に追記する。
12.	グループワーク:看護過程:全体としての理解の仕方	2. セルフケアについて、情報を整理し、アセスメントをする。
13.	グループワーク:看護過程:看護問題の明確化と具体的・個別性のある看護目標・計画	アセスメントに基づき、関連図を作成する。
14.	看護過程:グループ発表	関連図から看護問題を抽出し、看護目標をあげ、看護計画を立案する。
15.	看護過程:グループ発表	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出された看護過程記録については、内容を確認の上、返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	看護過程記録	30	記載内容を確認し、A(よくできている)、B(できている)、C(もう少し)、D(不十分)の4段階で評価し、C以上を合格とする。
	事前学習課題への取り組み	20	9回の事前学習課題のうち、少なくとも6回以上は提出すること。なお、提出された事前学習はA(よくできている)、B(できている)、C(もう少し)、D(不十分)の4段階で評価し、C以上を合格とする。
	定期試験	50	
	総合評価	100	60点以上を合格とする。

教科書: 精神看護学Ⅰ(第6版):ヌーヴェルヒロカワ
精神看護学Ⅱ(第6版):ヌーヴェルヒロカワ

参考書: 講義中適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

753900

精神看護学実習

木村 洋子、大江 真人

授業テーマ：精神看護学実習（臨地実習）

授業の概要：精神疾患を有する対象と援助的関係を構築し、看護過程の展開を通して対象を理解する視点を学び、必要な看護実践を行う基礎的能力を養う。

到達目標：1. 援助的関係を構築できる。
2. 看護過程を展開し、対象を理解する視点を学び、必要な看護実践を行うことができる。
3. 精神科医療における対象への倫理的配慮の必要性を理解することができる。
4. 学生として品行を備え、対象を尊重した態度と自ら学ぶ姿勢を持ち、実習に臨むことができる。

授業方法：実習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 精神疾患を有する対象を受け持ち、援助的関係を構築し、看護過程を展開する。 ・実習スケジュール: 2単位, 90時間(1単位, 45時間/週)。 ・実習施設および週単位の実習計画・実習日程については実習要項を参照すること。 ・実習の進め方: <実習前> 事前学習課題の設定および学習内容の確認を行う。実習オリエンテーションを行う。 <実習中> ・実習初日に施設・病棟オリエンテーションを行う。 ・毎日のカンファレンス: (目的) 学習上の問題を解決する。 ・中間カンファレンス: (目的) 受け持ち対象者のニーズにあった具体的かつ個別的な看護計画の立案を行う。 ・最終カンファレンス: (目的) 実践を評価して学びを深める。	<事前学習> 1. 援助的関係の基盤となる態度・技術および行き詰まりを解決する方法について 2. 精神科医療の対象とする主な精神疾患(統合失調症, 気分障害)の症状, 身体的, 心理・社会的治療と看護について 3. 精神科医療で行われている行動制限(入院形態, 処遇, 隔離・拘束など)の法的根拠について 4. 精神病患者監護法(1900年)以降, 精神障害者を取り巻く法律の変遷を踏まえ, 精神障害者がどのように処遇されてきたかについて。 5. 精神保健福祉施策と社会資源の現状について A4用紙にまとめ, 実習オリエンテーション(精神看護学実習)時に教員に退出すること。なお, 枚数については制限しない。

受講者へのメッセージやアドバイス：看護学部実習要綱及び精神看護学実習要項参照すること。なお、実習オリエンテーションは特別な事情を除き欠席は認めない。日程・場所については追って通知する。実習期間中は5分の4以上の出席を求める。

フィードバックの方法：毎日の実習記録については、その日のうちに確認し、返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	総合評価(実習到達度・提出記録等)	100	60点を合格とする。

教科書：

参考書：実習中適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	子どもと女性・母親およびその家族の健康問題、看護の役割について学ぶ		
授業の概要:	生涯発達の視点から子どもと女性・母親およびその家族の健康問題、看護の役割について学ぶ。 [ウイメンズヘルス] 女性のライフサイクル各期を通したウイメンズヘルス(生涯をととした女性の健康)の観点から、看護の対象である女性の身体的・心理的・社会的特徴と健康問題、看護の役割について学ぶ。リプロダクティブヘルスの概念、周産期医療の現状、母子保健の動向、ライフサイクル各期における女性と家族の健康について学習する。 [小児看護学] 小児看護の対象である子どもを理解するため、子どもを取り巻く社会の状況、小児医療の現状、家族の状況、成長発達、発達理論などを学習し、子どもと家族を支えるための小児看護の役割について理解する。		
到達目標:	1)周産期医療の現状、母子保健の動向について理解する。 2)リプロダクティブヘルスの概念、女性の身体的・心理的・社会的特徴と健康問題や看護の役割について理解する。 3)現在の小児医療、小児看護、小児保健の概要や問題点などを理解する。		
授業方法:	1.講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 女性とリプロダクティブヘルス ケアの背景となる理論、担い手とその役割 [眞鍋]		
	2. 日本における周産期医療の現状 [眞鍋]	居住地域で出産のできる施設を調べてみる	
	3. 発展途上国における周産期医療の現状 [眞鍋]	前回の講義内容を理解する	
	4. ライフサイクル各期における女性と家族の健康(1) 母性準備期、母性成熟期 [眞鍋]	自分自身の月経周期、日数を確認しておく	
	5. ライフサイクル各期における女性と家族の健康(2) 胎児の環境としての母体 [眞鍋]	前回の講義内容を理解する	
	6. ライフサイクル各期における女性と家族の健康(3) 出産、育児 [眞鍋]	前回の講義内容を理解する	
	7. 母子保健の動向と現状 [眞鍋]	前回までの講義内容を理解する	
	8. 子どもの理解、子どもを取り巻く環境[萩本]	教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	9. 子どもに関する諸統計[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	10. 子どもの権利、小児看護の課題[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	11. 母子保健、学校保健、感染症対策[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	12. 子どもの成長発達の特徴[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	13. 小児看護で用いられる理論の概要[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	14. 児童虐待[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと	
	15. まとめ	これまでの講義内容を見直すこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	・子どもや女性・母親およびその家族の健康問題や医療の現状と看護の役割について理解が深められるように適宜、補助資料の配布やビデオ、DVD教材を使用して、授業を進めていきます。 ・授業の進行については、授業の開始時までにはマナビーによりお知らせします。		
フィードバックの方法:	講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80	到達目標1)2)3)に関する知識や理解度により評価する
	授業への参加度	20	到達目標1)2)に関する関心度を確認する(授業内容1-7部分)
教科書:	奈良間美保他著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論、医学書院(授業内容8-14の際に使用)		
参考書:	国民衛生の動向、厚生労働統計協会		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力		
教員との連絡方法:	講義前後およびメール、マナビーの掲示板などで対応する。		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

子どもの特徴、成長発達、子どもや家族にとっての疾病や障がいの意味について講義する。

子どもの成長・発達を理解し、各発達段階の特徴に応じた日常生活のあり方や支援方法を多角的に学習する。また、子どもに特徴的な健康問題を理解し、それが子どもや家族に及ぼす影響を考えるとともに、様々な健康レベルにある子供とその家族に必要な看護の在り方を学習する。

基本的に、教科書に沿った講義形式で実施する。
適宜、補助資料を配布、パワーポイント等を使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	各期の成長発達 新生児	母子保健看護概論を振り返っておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
2.	各期の成長発達 乳児期	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
3.	各期の成長発達 幼児期前期	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
4.	各期の成長発達 幼児期後期	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
5.	各期の成長発達 学童期・思春期	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
6.	成長発達の評価、子どもの栄養	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
7.	疾病や障がい子どもや家族へ及ぼす影響と看護	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
8.	子どもに起こる主要症状と看護①(機嫌・不機嫌、痛み、発熱など)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
9.	子どもに起こる主要症状と看護②(消化器症状、電解質異常、脱水など)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
10.	子どもに起こる主要症状と看護③(呼吸・循環器系の症状など)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
11.	子どもに起こる主要症状と看護④(神経症状など)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
12.	急性期にある子どもと家族への看護	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
13.	慢性期にある子どもと家族への看護、継続看護	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
14.	終末期にある子どもと家族への看護	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
15.	まとめ	14回分の講義内容を総合的に復習すること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	授業目標が達成できているかどうかを評価する。

教科書:

参考書:

奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論」(医学書院)

奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論」(医学書院)

山元恵子監修:「写真でわかる小児看護技術」(インターメディカ)

講義時に適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

分析力、思考力、創造力、思いやる力

講義前後およびメール、マナビーの掲示板などで対応する。

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

子どもや家族に必要な看護を見出し、実践する能力を養う

子どもの成長発達や様々な健康レベルを考え、小児に特有な看護技術について学習するとともに、看護を受ける子どもやその家族の思いについて理解する。また、子どもとその家族の健康問題に対するアセスメント能力を習得するために、看護過程の展開について学ぶ。

講義、演習、グループワークの形式で構成する。
講義は、資料の配布、パワーポイント等を使用して実施する。
演習は、3つのグループに分かれ、グループごとに実施する。
看護過程演習は、5-6名のグループに分かれ、グループごとに1紙面事例について展開し、看護計画を立案、指導計画を立てる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ハイリスク新生児への看護	母子保健看護概論を振り返っておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
2.	重症心身障害のある子どもと家族への看護(独立行政法人 国立病院機構 南京都病院 看護師)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
3.	子どもと事故防止、安全、救命救急	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
4.	演習ガイダンス	前回までの講義内容を理解しておくこと
5.	演習① フィジカルアセスメント バイタルサイン	演習の事前課題、事後課題を行うこと
6.	演習② フィジカルアセスメント 身体計測	演習の事前課題、事後課題を行うこと
7.	演習③ 輸液管理	演習の事前課題、事後課題を行うこと
8.	演習④ 栄養	演習の事前課題、事後課題を行うこと
9.	ブレパレーション、プレイセラピー	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
10.	看護過程演習① ガイダンス、事例紹介	演習の事前課題、事後課題を行うこと
11.	看護過程演習② アセスメント、問題リスト	演習の事前課題、事後課題を行うこと
12.	看護過程演習③ 関連図、看護計画立案	演習の事前課題、事後課題を行うこと
13.	看護過程演習④ 指導計画立案、資料作成	演習の事前課題、事後課題を行うこと
14.	看護過程演習⑤ 発表	演習の事前課題、事後課題を行うこと
15.	まとめ	14回分の講義内容を総合的に復習すること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	授業目標が達成できているかどうかを評価する。
	演習課題及び看護過程の記録	50	演習課題、レポート、看護課程の記録を総合的に評価する。

教科書:

参考書:

奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論」(医学書院)

奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論」(医学書院)

山元恵子監修:「写真でわかる小児看護技術」(インターメディカ)

講義時に適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

講義前後およびメール、マナビーの掲示板などで対応する。

授業テーマ:

授業の概要: 疾病あるいは障がいがある小児とその家族を総合的に理解し、小児看護を実践するための基礎的能力を身につけるとともに、小児看護の役割と機能への理解を深める。

到達目標: 1. 疾病あるいは障がいがある小児とその家族について総合的に理解することができる。
2. 疾病あるいは障がいがある小児とその家族の看護上の問題を、問題解決のプロセスを踏まえて解決することができる。
3. 疾病あるいは障がいがある小児とその家族の成長発達段階、健康レベルに応じて個別に行われる看護援助を実践することができる。
4. 小児看護の専門職者としての態度を養う。

授業方法: 2週間(10日間)実習を行う。学生1グループを 4～6名とし、各病院に配置する。1病棟に1名の教員を配置する。
原則学生1名で1名の患児とその家族を継続的に受け持つ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	総合病院の小児科病棟、小児外科病棟、もしくは小児科を含む混合病棟にて実習を行う。2週間の実習中、原則1名の疾病あるいは障がいのある小児を受け持つ。 患児とその家族を総合的(身体的、精神的、社会的、成長発達など)に理解するため、患児や家族、病棟のスタッフ、他職種とのコミュニケーション、カルテ、日々の看護援助、患児との遊びや学習から情報を収集し、問題解決プロセスを用いて全体像を把握し、必要な看護上の問題を導き出す。導き出した看護上の問題点を解決するため、個別性のある看護を計画し、実施、評価する。 受持ち患児やその家族に必要な看護援助、患児との遊びや学習支援を実践し、個別性のある看護援助の実践能力を高める。 病棟でのカンファレンス、反省会、実習終了後の反省会を通じて、他の学生の経験を共有し、学びを深める。	実習前には、母子保健看護概論、小児看護援助論A・B、成育医療学で学習した内容を復習し、予習課題を行ったうえで実習に望む。 実習中には、実習記録をすすめるとともに、翌日に必要な看護援助の学習、準備を行う。 実習後には、学びを振り返り、自己の課題を明確にして、次の実習につなげる。

受講者へのメッセージやアドバイス: 実習期間前から体調を整え、万全の姿勢で臨んでください。

フィードバックの方法: 各グループに1名の教員を配置し、臨地実習指導者と協力しながら適宜実施する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習内容(出席日数、実習内容、実習態度、実習記録)	100	実習目標の達成度

教科書: 実習要項、配布資料
奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論」(医学書院)
奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論」(医学書院)
山元恵子監修:「写真でわかる小児看護技術」(インターメディカ)

参考書: 適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: 実習時指定する。

授業テーマ:

ライフサイクルにおける女性の心身の健康の保持増進

授業の概要:

ライフサイクルにおける女性のこころとからだの健康の保持増進にかかわる知識と技術に関する授業を行う

到達目標:

思春期、性成熟期、老年期にわたる女性のライフステージにおける健康問題と支援方法を理解できる。
シミュレーション学習を通して、ウイメンズヘルスや周産期における支援技術を習得できる。

授業方法:

パワーポイントやDVD教材、配布資料を用いて講義する。
周産期におけるシミュレーション学習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	リプロダクティブヘルス(1) 月経周期、月経随伴症状	女性生殖器「性周期と性ホルモン(p28～32)」 「月経異常・月経随伴症状(p171～176)」を読んでおく
2.	リプロダクティブヘルス(2) 妊孕力をはぐくむ(性感染症、HPV、人工妊娠中絶)	女性生殖器「思春期の特徴と疾患、治療、看護の特徴(p11～12)」 「性感染症(p198～202)」を読んでおく
3.	リプロダクティブヘルス(3) 更年期～老年期	女性生殖器「更年期の特徴と疾患、治療、看護の特徴(p12～13)」 「更年期障害(p176～178)」 「高齢女性に起こりやすい女性生殖器疾患患者の看護(p264～p269)」を読んでおく
4.	リプロダクティブヘルス(4) 不妊・出生前診断	母性看護学各論「出生前診断(p14～20、23～26)」 「不妊治療と看護(p27～55)」を読んでおく
5.	褥婦と新生児の健康状態のアセスメント(1)	母性看護学各論「産褥期における看護(p308～353)」を読んでおく
6.	褥婦と新生児の健康状態のアセスメント(2)	母性看護学各論「新生児期における看護(p254～305)」 「産褥期における看護(p308～353)」を読んでおく
7.	褥婦と新生児の健康状態のアセスメント(3)	母性看護学各論「新生児期における看護(p254～305)」 「産褥期における看護(p308～353)」を読んでおく
8.	新生児期における看護	母性看護学各論「新生児の看護(p296～300)」 沐浴を読んでおく
9.	リプロダクティブヘルス(5) 基礎体温と生活習慣のセルフモニタリング	事前に測定した自身の基礎体温(2ヶ月間)、生活習慣セルフモニタリングの結果を概観、アセスメントする
10.	リプロダクティブヘルス(6) 基礎体温と生活習慣のセルフモニタリングの分析	発表に向け資料を準備する
11.	育児支援における児童館の役割	
12.	周産期シミュレーション学習(1)	周産期にかかわる(ウイメンズヘルス援助論Bも含む)授業の復習
13.	周産期シミュレーション学習(2)	周産期にかかわる(ウイメンズヘルス援助論Bも含む)授業の復習
14.	周産期シミュレーション学習(3)	周産期にかかわる(ウイメンズヘルス援助論Bも含む)授業の復習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説・コメントする

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	筆記試験	70	女性の健康問題に関する知識とアセスメント能力、支援方法の理解度を評価する
	発表・討論	20	女性の健康問題と支援方法、自己管理能力の育成方法に関する準備学習と理解度、習得状況から評価する
	出席・態度	10	積極的に授業に参加し、グループワークでの態度・意欲も評価する

教科書:

系統看護学講座 専門Ⅱ「母性看護学各論」母性看護学2 医学書院(成育医療学で使用した教科書)
系統看護学講座 専門Ⅱ「女性生殖器」成人看護学9 医学書院(成育医療学で使用した教科書)

参考書:

松本千明著「医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎」医歯薬出版株式会社
堀忠雄他監修「基礎講座 睡眠改善学」ゆまに書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後における直接連絡

授業テーマ:

授業の概要: 周産期における母子とその家族のアセスメントとケアについて学習する。

到達目標: 周産期～育児期にある母子の生理的・心理的・社会的特徴や変化、母子を取り巻く環境を理解できる。
周産期～育児期にある母子の援助方法を理解し、技術を習得できる。
ウェルネスの視点から看護過程の展開ができる。

授業方法: 教科書、パワーポイント、DVD教材を用いて講義する。
演習、グループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 産褥期における看護 (1)退行性変化、進行性変化	母性看護学各論「産褥期における看護(p308～312、320～349、484～500)」を読んでおく
	2. 産褥期における看護 (2)心理社会的変化、育児支援	母性看護学各論「産褥期における看護(p312～320、330～331、349～353、503～510)」を読んでおく
	3. 新生児期における看護 (1)新生児の病態生理Ⅰとケア	母性看護学各論「新生児期における看護(p254～306)」を読んでおく
	4. 新生児期における看護 (2)新生児の病態生理Ⅱとケア	前回の授業内容を理解しておく
	5. 新生児期における看護 (3)新生児の異常	母性看護学各論「新生児の異常と看護(p456～483)」を読んでおく
	6. 妊娠期における看護 (1)妊娠期の身体的、心理・社会的特性とその変化	母性看護学各論「妊娠期における看護(p58～86、358～392)」を読んでおく
	7. 妊娠期における看護 (2)妊婦と胎児の経過と診断	母性看護学各論「妊娠期における看護(p87～174、393～400)」を読んでおく
	8. 妊娠期における看護 (3)	母性看護学各論「妊娠期における看護(p95～102)」レオポルド触診法、胎児心拍数陣痛図(ノンストレステスト)を読んでおく
	9. 妊娠期における看護 (4) 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント グループワーク	母性看護学各論「妊娠期における看護(p58～174)」を読んでおく
	10. 妊娠期における看護 (5) 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント グループ発表	発表に向け資料を準備する
	11. 地域における子育て支援 ゲストスピーカー	
	12. 分娩期における看護 (1)分娩の要素と経過	母性看護学各論「分娩期における看護(p178～204、401～432)」を読んでおく
	13. 分娩期における看護 (2)産婦と胎児の健康状態のアセスメント	母性看護学各論「分娩期における看護(p205～250、433～455)」を読んでおく
	14. 分娩期における看護 (3)分娩施設やバースプラン	母性看護学各論「分娩期における看護(p178～250)」を読んでおく
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説・コメントする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	70%	周産期～育児期にある母子の特徴とその援助方法の理解度を評価する。
	発表・討論	20%	ウェルネスの視点を持った母子の看護過程展開に関する理解度を、準備学習、習得状況から評価する。
	出席・態度	10%	積極的に授業に参加し、グループワークでの態度・意欲も評価する。

教科書: 系統看護学講座 専門Ⅱ「母性看護学各論」母性看護学2 医学書院(成育医療学で使用した教科書)

参考書: 井上裕美他監修「病気がみえるVol.10 産科」メディックメディア
水野克己他「よくわかる母乳育児」へるす出版
佐世正勝他「ウエルネスからみた母性看護過程」医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法: オフィスアワーおよび授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

高齢者の健康長寿への看護

授業の概要:

少子・超高齢社会が進展する中で、高齢者を取り巻く社会状況や日々の暮らし、心身の加齢変化など「高齢期を生きぬくこと」を理解し、健康長寿に向けての看護について学ぶ。健康増進のための介護予防支援、健康回復・維持のための支援のあり方を理解し、高齢者の生活を支える保健医療福祉分野における社会資源やそれらの連携について学ぶ。

- 到達目標:
1. 高齢者の健康と生活について説明することができる。

2. 高齢者の健康長寿に向けての保健・医療・福祉について説明することができる。

3. 高齢者の心身の加齢変化、中でも生活機能の低下について説明することができる。

4. 高齢者とのコミュニケーションのあり方について考えることができる。

授業方法:

講義、演習
ビデオ、DVD教材を使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 高齢看護学の展開（健康長寿を考える）（岡山）	
	2. 数字からみた高齢者の姿、高齢者の健康と生活（岡山）	配布プリント、参考書等を読み復習
	3. 社会の中の高齢者像(1)(小松)	高齢者の生活背景理解に必要な戦後の歴史的な出来事を調べる
	4. 老いの自覚、高齢者の体とところ(1)(岡山)	配布プリント、参考書等を読み復習
	5. 健康長寿と保健・医療・福祉(1)（岡山）	
	6. 健康長寿と保健・医療・福祉(2)（岡山）	配布プリント、参考書等を読み復習
	7. 社会の中の高齢者像(2)(小松)	課題にそったレポート作成
	8. 高齢者の生活機能を考える（岡山）	配布プリント、参考書等を読み復習
	9. 事例から「要介護状態になる」を考える(岡山)	
	10. 老いの自覚、高齢者の体とところ(2)(岡山)	配布プリント、参考書等を読み復習
	11. 高齢者とのコミュニケーション(1)(小松)	看護コミュニケーション論の復習
	12. 高齢者とのコミュニケーション(2)演習(小松)/老いの自覚、高齢者の体とところ(3)演習(岡山)	事前配布プリントの予習、配布プリント、参考書等を読み復習
	13. 高齢者のコミュニケーション(2)演習(小松)/老いの自覚、高齢者の体とところ(3)演習(岡山)	事前配布プリントの予習、配布プリント、参考書等を読み復習
	14. 高齢者看護における倫理的課題(小松)	看護者の倫理綱領を読み復習
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

この超高齢社会、高齢者の健康長寿について共に考えてみませんか。

フィードバックの方法:

コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席度・授業態度	30	出席状況、授業中の態度により評価
	レポート	20	到達目標1、3、4の理解度により評価
	試験	50	到達目標1～4の理解度により評価

教科書:

系統看護学講座 老年看護学 医学書院

参考書:

講義中に、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

基本的に授業の前後に対応、マナビーの掲示板機能

授業テーマ:	健康長寿を考える:高齢者の安心・安全な暮らしへの支援、生活機能低下の予防・回復への看護		
授業の概要:	高齢期における加齢変化や疾病等により生じうる生活機能の低下について、低下のメカニズムや日常生活への影響などを理解し、その予防や回復のために必要な看護方法を学ぶ。高齢者看護援助論Aでは、生活機能を予防し、安心・安全で自立した暮らしへの援助および生活機能低下からの回復に向けての援助について学ぶ。また、認知機能低下のある高齢者への看護についても学ぶ。そして高齢者のエンドオブライフケアについて考える。		
到達目標:	1. 生活機能低下(フレイル・サルコペニア・生活不活発病など)の予防・回復への援助の基本を修得する。2. 骨折した高齢者の生活機能回復に向けての看護の基本を修得する。3. 事故予防や災害看護、服薬支援など安心・安全で自立した生活に向けての援助の基本を修得する。4. 認知機能低下のある高齢者への看護の基本を修得する。5. 高齢者のエンドオブライフケアの理解を深める。		
授業方法:	講義、演習。DVD等を用いての講義、グループワークの実施。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業ガイダンス、生活機能低下の予防・回復への援助(1)フレイル・サルコペニア、生活不活発病の予防	高齢者の生活機能低下を調べる	
	2. 生活機能低下の予防・回復への援助(2)転倒・骨折の予防 入院中の転倒・転落リスクへの対応	配布資料の復習	
	3. 生活機能低下の予防・回復への援助(3)転倒・骨折予防の取り組み・足病変への対応	配布資料の復習	
	4. 生活機能低下の予防・回復への援助(4)骨折した高齢者への看護	配布資料の復習	
	5. 安心・安全で自立した生活への援助(1)活動と休息のバランス、せん妄への対応	活動と休息のバランスを調べる	
	6. 安心・安全で自立した生活への援助(2)事故や災害、エコノミー症候群などへの対応	高齢者に多い事故を調べる	
	7. 安心・安全で自立した生活への援助(3)脱水・暑熱障害への対応	高齢者の熱中症を調べる	
	8. 安心・安全で自立した生活への援助(4)服薬支援、痛み、感染症などへの対応	高齢者における薬物療法を調べる	
	9. 認知機能低下のある高齢者の看護(1)認知症の病態と治療、対応の仕方	認知症について調べる	
	10. 認知機能低下のある高齢者の看護(2)認知症高齢者への看護、認知症予防	配布資料の復習	
	11. 認知機能低下のある高齢者の看護(3)認知症のある高齢者との暮らし(介護家族への看護)DVD視聴	配布資料の復習	
	12. 認知機能低下のある高齢者の看護(4)認知症のある高齢者との暮らし(地域で支える)	配布資料の復習	
	13. 「生きぬく」を考える(1)様々な最期	高齢者のエンドオブライフケアを調べる	
	14. 「生きぬく」を考える(2)大往生を看取る(DVD視聴を通して)	配布資料の復習	
	15. まとめ	1～14回目の授業内容をまとめる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	人々の健康長寿をめざすために、どんな看護が必要かを共に考えていきましょう。		
フィードバックの方法:	コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	30	授業への参加態度
	レポート	20	レポート提出状況・内容
	試験	50	到達目標1～5の修得状況
教科書:	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で対応、マナビーの掲示板機能		

授業テーマ:	健康長寿を考える:リハビリテーションを受ける高齢者、および生活の場で療養生活を送る高齢者に対する生活機能再構築に向けた看護																																		
授業の概要:	高齢期における加齢変化や疾病等により生じる生活機能の低下について、低下のメカニズムや日常生活への影響などを理解し、その予防や回復のために必要な看護方法を学ぶ。高齢者看護援助論Aに続いて、本科目では、特にリハビリテーションを受ける高齢者や生活の場で療養生活を送る高齢者に対する、生活機能再構築に向けた看護を学ぶとともに、高齢者看護における看護技術や看護過程の展開についても学ぶ。																																		
到達目標:	1. 高齢者のリハビリテーションのプロセスと看護の基本を身につける。 2. 脳血管疾患患者に対する看護の基本を身につける。 3. 生活機能低下を認める高齢者に対する食事に関連した援助技術が習得できる。 4. 生活機能低下を認める高齢者に対する排泄に関連した援助技術が習得できる。 5. 高齢者看護における看護過程の展開について理解し、事例に対する看護過程が展開できる。																																		
授業方法:	講義、演習。DVD等を用いながらの講義、実習室等での看護技術演習、シミュレーション学習、およびグループワークを行う。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 高齢者のリハビリテーションのプロセスと看護(1):回復期から維持期に向けた支援</td><td>教科書「老年看護学」第7章B. 保健医療福祉施設における看護を読む 前回の講義レジュメを復習する</td></tr><tr><td>2. 高齢者のリハビリテーションのプロセスと看護(2):生活の場(介護施設)における支援</td><td></td></tr><tr><td>3. 脳血管疾患患者に対する看護(1):回復期リハビリテーション病棟での看護①</td><td>・教科書「老年看護学」第6章B. ①脳卒中 ・教科書「老年看護 病態・疾患論」第4章B. ①脳血管障害を読む 前回の講義レジュメを復習する</td></tr><tr><td>4. 脳血管疾患患者に対する看護(2):回復期リハビリテーション病棟での看護②</td><td></td></tr><tr><td>5. 生活機能再構築に向けた援助(1):食事への援助(食事の工夫、口腔ケア援助)</td><td>・教科書「老年看護学」第5章B. 食事・食生活 ・教科書「老年看護 病態・疾患論」第2章C. ④嚥下障害を読む</td></tr><tr><td>6. 生活機能再構築に向けた援助(2):食事への援助(演習:口腔ケア援助)</td><td>ナーシングスキル:「口腔ケア」、「義歯の取り扱い」を学習する</td></tr><tr><td>7. 高齢者看護における看護過程の展開のフレームおよびアセスメントツール</td><td>高齢者看護援助論Aで実施した看護過程展開演習の復習</td></tr><tr><td>8. 生活機能再構築に向けた援助(3):排泄への援助(排便)</td><td>・教科書「老年看護学」第5章C. 排泄 ・教科書「老年看護 病態・疾患論」第2章C. ③便秘を読む</td></tr><tr><td>9. 生活機能再構築に向けた援助(4):排泄への援助(オムツを着用している高齢者への援助)</td><td>ナーシングスキル:「排泄のケア:排便障害」、「排泄介助:ポータブルトイレ」、「排便介助」、「排尿介助」、「おむつ交換」を学習する</td></tr><tr><td>10. 生活機能再構築に向けた援助(5):排泄への援助(シミュレーション学習)</td><td>ナーシングスキル:「おむつ交換」、「陰部洗浄」を学習する</td></tr><tr><td>11. 事例展開1:回復期リハビリテーション病棟入院中の高齢者への看護①</td><td>第7回授業の復習</td></tr><tr><td>12. 事例展開1:回復期リハビリテーション病棟入院中の高齢者への看護②</td><td>事例展開の個人ワークの実施</td></tr><tr><td>13. 事例展開2:特別養護老人ホームへ入所している高齢者への看護</td><td>事例展開の個人ワークの実施</td></tr><tr><td>14. 高齢者の閉じこもりを考える</td><td>高齢者の閉じこもりについて学習する</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>これまでの授業の復習</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 高齢者のリハビリテーションのプロセスと看護(1):回復期から維持期に向けた支援	教科書「老年看護学」第7章B. 保健医療福祉施設における看護を読む 前回の講義レジュメを復習する	2. 高齢者のリハビリテーションのプロセスと看護(2):生活の場(介護施設)における支援		3. 脳血管疾患患者に対する看護(1):回復期リハビリテーション病棟での看護①	・教科書「老年看護学」第6章B. ①脳卒中 ・教科書「老年看護 病態・疾患論」第4章B. ①脳血管障害を読む 前回の講義レジュメを復習する	4. 脳血管疾患患者に対する看護(2):回復期リハビリテーション病棟での看護②		5. 生活機能再構築に向けた援助(1):食事への援助(食事の工夫、口腔ケア援助)	・教科書「老年看護学」第5章B. 食事・食生活 ・教科書「老年看護 病態・疾患論」第2章C. ④嚥下障害を読む	6. 生活機能再構築に向けた援助(2):食事への援助(演習:口腔ケア援助)	ナーシングスキル:「口腔ケア」、「義歯の取り扱い」を学習する	7. 高齢者看護における看護過程の展開のフレームおよびアセスメントツール	高齢者看護援助論Aで実施した看護過程展開演習の復習	8. 生活機能再構築に向けた援助(3):排泄への援助(排便)	・教科書「老年看護学」第5章C. 排泄 ・教科書「老年看護 病態・疾患論」第2章C. ③便秘を読む	9. 生活機能再構築に向けた援助(4):排泄への援助(オムツを着用している高齢者への援助)	ナーシングスキル:「排泄のケア:排便障害」、「排泄介助:ポータブルトイレ」、「排便介助」、「排尿介助」、「おむつ交換」を学習する	10. 生活機能再構築に向けた援助(5):排泄への援助(シミュレーション学習)	ナーシングスキル:「おむつ交換」、「陰部洗浄」を学習する	11. 事例展開1:回復期リハビリテーション病棟入院中の高齢者への看護①	第7回授業の復習	12. 事例展開1:回復期リハビリテーション病棟入院中の高齢者への看護②	事例展開の個人ワークの実施	13. 事例展開2:特別養護老人ホームへ入所している高齢者への看護	事例展開の個人ワークの実施	14. 高齢者の閉じこもりを考える	高齢者の閉じこもりについて学習する	15. まとめ	これまでの授業の復習		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 高齢者のリハビリテーションのプロセスと看護(1):回復期から維持期に向けた支援	教科書「老年看護学」第7章B. 保健医療福祉施設における看護を読む 前回の講義レジュメを復習する																																		
2. 高齢者のリハビリテーションのプロセスと看護(2):生活の場(介護施設)における支援																																			
3. 脳血管疾患患者に対する看護(1):回復期リハビリテーション病棟での看護①	・教科書「老年看護学」第6章B. ①脳卒中 ・教科書「老年看護 病態・疾患論」第4章B. ①脳血管障害を読む 前回の講義レジュメを復習する																																		
4. 脳血管疾患患者に対する看護(2):回復期リハビリテーション病棟での看護②																																			
5. 生活機能再構築に向けた援助(1):食事への援助(食事の工夫、口腔ケア援助)	・教科書「老年看護学」第5章B. 食事・食生活 ・教科書「老年看護 病態・疾患論」第2章C. ④嚥下障害を読む																																		
6. 生活機能再構築に向けた援助(2):食事への援助(演習:口腔ケア援助)	ナーシングスキル:「口腔ケア」、「義歯の取り扱い」を学習する																																		
7. 高齢者看護における看護過程の展開のフレームおよびアセスメントツール	高齢者看護援助論Aで実施した看護過程展開演習の復習																																		
8. 生活機能再構築に向けた援助(3):排泄への援助(排便)	・教科書「老年看護学」第5章C. 排泄 ・教科書「老年看護 病態・疾患論」第2章C. ③便秘を読む																																		
9. 生活機能再構築に向けた援助(4):排泄への援助(オムツを着用している高齢者への援助)	ナーシングスキル:「排泄のケア:排便障害」、「排泄介助:ポータブルトイレ」、「排便介助」、「排尿介助」、「おむつ交換」を学習する																																		
10. 生活機能再構築に向けた援助(5):排泄への援助(シミュレーション学習)	ナーシングスキル:「おむつ交換」、「陰部洗浄」を学習する																																		
11. 事例展開1:回復期リハビリテーション病棟入院中の高齢者への看護①	第7回授業の復習																																		
12. 事例展開1:回復期リハビリテーション病棟入院中の高齢者への看護②	事例展開の個人ワークの実施																																		
13. 事例展開2:特別養護老人ホームへ入所している高齢者への看護	事例展開の個人ワークの実施																																		
14. 高齢者の閉じこもりを考える	高齢者の閉じこもりについて学習する																																		
15. まとめ	これまでの授業の復習																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。事例展開については、事例ごとに解説を行う。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>出席・授業への積極的参加度</td><td>30</td><td>出席および授業中の発言、態度と、到達目標3～4の到達度により評価する</td></tr><tr><td>レポート</td><td>20</td><td>到達目標2～5に関するレポートの仕上がり度合いから評価する</td></tr><tr><td>試験</td><td>50</td><td>到達目標1～5の理解度により評価する</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	出席・授業への積極的参加度	30	出席および授業中の発言、態度と、到達目標3～4の到達度により評価する	レポート	20	到達目標2～5に関するレポートの仕上がり度合いから評価する	試験	50	到達目標1～5の理解度により評価する																						
評価方法	割合	評価基準																																	
出席・授業への積極的参加度	30	出席および授業中の発言、態度と、到達目標3～4の到達度により評価する																																	
レポート	20	到達目標2～5に関するレポートの仕上がり度合いから評価する																																	
試験	50	到達目標1～5の理解度により評価する																																	
教科書:	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応、マナビーの掲示板機能																																		

高齢者看護学実習

小松 光代、岡山 寧子、杉原 百合子、山縣 恵美

授業テーマ: さまざまな健康レベルの高齢者とその家族を深く理解し、高齢者のQOL向上を目指した看護を学ぶとともに、多職種における連携・協働について理解する。

授業の概要： 入院加療中もしくは施設・在宅で生活する高齢者の生活像および健康状態を理解し、加齢変化や疾病に伴う日常生活障害のある高齢者に対してQOLを踏まえた援助を学ぶ。また、地域包括ケアシステムの理解を深め、高齢者の暮らしを支える保健・医療・福祉領域における協働・連携と看護職に求められる役割について考える。

到達目標：

1. 入院加療中の高齢者や、介護保険における施設サービスを利用する高齢者との関わりを通して、日常生活に障害のある高齢者の生活像および健康状態を全人的に捉える視点を持つことができる
2. 高齢者の尊厳・権利の擁護を基盤に置き、生活の再構築を図りQOL向上に向けた援助および地域での生活を見据えた適切な在宅療養移行支援を計画し実践することができる
3. 高齢者と家族を包括的に支援するためのチームアプローチとその中での看護の役割について理解できる
4. 介護保険法における在宅および地域密着型サービスを利用する高齢者との関わりを通して要介護状態にある高齢者の理解を深めると共に、望ましい日常生活への援助を理解する
5. 看護職の倫理原則や社会人のマナーを理解し遵守できる

授業方法： 回復期リハビリテーション病棟あるいは介護老人保健施設、および介護保険関連施設にて実習を行う。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

準備学習等の内容

1. ・初日は学内において全体オリエンテーションを受け、実習方法、実習場所の概要、注意事項等について把握する。
・回復期リハビリテーション病棟あるいは介護老人保健施設にて高齢者を1名受け持ち、看護過程を展開し、看護援助を行う。
・疾病や加齢変化に伴う日常生活障害のある高齢者に対してQOLを踏まえた援助を行う。
・高齢者と家族を支援するためのチームアプローチと、その中での看護の役割を把握する。
・介護保険関連施設の実習では、要介護状態にある高齢者の日常生活への援助を行うとともに、地域包括ケアシステムについての理解を深める。
・最終日には全体カンファレンスを行い、実習における学びを共有し、学びを深める。
- ・既習の高齢者看護学概論・援助論の学習内容を復習し、指示された事前学習を行い、実習に臨む。
・実習後には指示された内容で実習のまとめを行い、実習目標に沿って学びを整理する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法： 実習記録については、適宜コメントをつけて返却する。
カンファレンスにおいては、随時時間内にコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席状況・実習態度	30	主体的・積極的に実習に参加しているか評価する
	実習記録	70	到達目標1～5の到達度によって評価する

教科書： 北川公子ほか、系統看護学講座 老年看護学、医学書院
鳥羽研二ほか、系統看護学講座 老年看護 病態・疾患編、医学書院
実習要項（配布）

参考書： 山田律子ほか、生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図、医学書院
 亀井智子ほか、根拠と事故防止からみる老年看護技術、医学書院
 マージョリー・ゴードン著、アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断、医学書院

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法： 実習に帯同している場合は適宜連絡・報告を行う。それ以外は教員の連絡先を適宜提示する。

授業テーマ:	在宅療養者と家族の療養生活を支える看護:在宅看護のしくみと特徴		
授業の概要:	在宅療養者と家族の療養生活を支える看護援助について学習するとともに、在宅療養を支えるしくみ、社会資源、多職種・関係機関との連携における看護職の役割について学ぶ。		
到達目標:	1.在宅看護の歴史的変遷と現状から看護職の役割を理解できる 2.在宅療養を支える法・制度、社会資源および多職種・関係機関との連携における看護職の役割について説明することができる。 3.在宅療養を支援するための看護過程や援助の特徴を理解できる 4.在宅療養者と家族、地域の特性に応じた支援の方法を理解できる 5.在宅療養者と家族の倫理的問題や権利保障について理解できる		
授業方法:	講義、演習。DVDやビデオを用いた講義、実習室での演習およびグループワークを行う		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.在宅看護の特徴、歴史的変遷と在宅療養を支える看護職の役割	病院内と在宅療養の相違点と共通点について調べておく	
	2.訪問看護の対象と場、家族への支援	在宅看護の提供方法について教科書を読み学習しておく。	
	3.在宅看護に関わる法令・制度とその活用	在宅療養者の利用できる介護保険サービス、社会資源等について教科書を読んでおく	
	4.在宅看護の提供方法と看護過程の展開の特徴	看護過程の展開について復習しておく	
	5.在宅における基本的な援助技術(1)訪問看護場面のコミュニケーション、面接技術	看護コミュニケーション論の復習	
	6.訪問看護場面のシミュレーション(演習)	配布資料を参考に事前学習をする	
	7.要介護状態にある高齢者と家族への支援	要介護認定、要介護の要因を学習しておく	
	8.在宅における基本的な援助技術(2)排便コントロール	排泄ケアについて復習しておく ナースングスキルの洗腸・排便を視聴しておく	
	9.在宅療養者と家族へのエンドオブライフケア(1)見取りケアの基本	エンドオブライフケアの復習をしておく	
	10.在宅療養者と家族へのエンドオブライフケア(2)見取りケアの実際	前回の配布資料に目をとおしておく	
	11.在宅療養する神経系難病患者と家族への支援(1)療養経過と看護の基本	神経系難病と看護について復習しておく	
	12.在宅療養する神経系難病患者と家族への支援(2)看護過程の展開	講義の資料に目を通し復習 看護過程の課題を作成	
	13.在宅で療養する小児と家族への支援	長期療養となり在宅に移行する小児疾患の病態と看護について学習しておく	
	14.在宅療養者と家族の倫理的問題と権利保障、意思決定支援	権利擁護、倫理綱領について学習しておく	
	15.まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	超高齢社会の日本における在宅看護の魅力や療養者と家族の望むその人らしい生き方の支援について一緒に考えましょう		
フィードバックの方法:	コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。 個々の提出物は、講義の中で返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	20	到達目標3への知識や理解度により評価する
	定期試験	60	到達目標1～5への知識や理解度により評価する
	出席度・授業態度	20	積極的に授業に参加し、主体的に学習しているか評価する
教科書:	系統看護学講座 在宅看護論 医学書院		
参考書:	講義中に適宜紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	講義前後、メール、オフィスアワーで対応する マナビーの掲示機能を活用する		

授業テーマ:	在宅療養者と家族の療養生活を支える看護:在宅療養者と家族への看護の実際とチームケア		
授業の概要:	在宅療養者と家族の生活像をイメージしながら、訪問看護で提供される看護技術と患者・家族指導の方法・留意点を学習し、保健・医療・福祉職の相互連携による在宅チームケアの実際について理解する。		
到達目標:	1.在宅療養者への健康管理と日常生活援助および医療的処置の技術を理解できる。 2.医療依存度の高い在宅療養者への支援の実際について理解できる。 3.介護家族への介護指導方法、相談・援助技術(緊急時や災害時の対応含む)を理解できる。 4.病院・施設から在宅への移行支援(退院支援)と住環境、介護・福祉用具について学ぶ。 5.地域包括支援センターの機能と役割について学ぶ。		
授業方法:	講義/演習。DVD等を用いながらの講義、実習室等での演習、およびグループワークを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.在宅看護の展開に必要な保健・医療・福祉の連携	教科書第4章G①～④に目を通しておく	
	2.病院から施設・在宅への継続看護:退院支援	教科書第3章B①～④に目を通しておく	
	3.在宅における基本的な援助(1)食生活・嚥下・経管栄養	教科書第6章B②、C④に目を通しておく	
	4.在宅における基本的な援助(2)排泄・移動・清潔	教科書第6章B③～⑤に目を通しておく	
	5.療養者の自立を促し、介護者の負担を軽減する介護・福祉用具、住環境	事前配布資料に目を通しておく	
	6.在宅療養者と家族への援助技術:在宅での物品の工夫(演習)	事前配布資料に目を通しておく	
	7.医療依存度の高い療養者と家族への支援(1):尿道カテーテル・ストーマ管理	教科書第6章C②～③に目を通しておく	
	8.医療依存度の高い療養者と家族への支援(2):在宅酸素療法・人工呼吸療法	教科書第6章C⑥～⑧に目を通しておく	
	9.医療依存度の高い療養者と家族への支援(3):皮膚管理・褥瘡	ナーシングスキル手技リスト57:褥瘡のアセスメント・予防を確認しておく	
	10.医療依存度の高い療養者と家族への支援(4):在宅での輸液療法(HPN,CVポート)	ナーシングスキル手技リスト226:皮下埋め込み型ポートを確認しておく	
	11.訪問看護場面における訪問看護師のリスクマネジメント(1)災害時における支援	教科書第5章C⑥に目を通しておく	
	12.訪問看護場面における訪問看護師のリスクマネジメント(2)感染防止・安全の管理	教科書第5章C⑤に目を通しておく	
	13.地域包括支援センターの機能と看護職の役割	事前配布資料に目を通しておく	
	14.海外における在宅ケアの現状と課題	事前配布資料に目を通しておく	
	15.まとめ	これまでの資料に目を通しておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。個々の提出物は講義の中で返却する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60	到達目標1～5に関する知識や理解度により評価する
	レポート	20	到達目標1.4に関する知識や理解度により評価する
	出席・態度	20	積極的に授業に参加し、主体的に学習しているか評価する
教科書:	河原加代子ほか、系統看護学講座 在宅看護論、医学書院		
参考書:	講義中に適宜紹介する		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	講義の前後およびオフィスアワーで対応する。マナビーの掲示板機能。		

在宅看護学実習

小松 光代、岡山 寧子、杉原 百合子、橋本 秀実、三橋 美和、山縣 恵美

授業テーマ：在宅療養者と家族を対象とした訪問看護を通して、訪問看護師の役割、在宅療養を支援する関係機関、多職種連携について理解する

授業の概要: 在宅で療養する様々な疾病、健康レベル、ライフサイクルにある人々と家族を対象として、看護援助の方法、家族支援、法制度や社会資源、保健・医療・福祉関連機関との連携について学び、看護過程が展開できる基礎的な能力を習得する。

到達目標:

1. 在宅で療養する人と家族の意向を尊重した訪問看護の基本を学ぶ。
2. 在宅で療養する人と家族を対象に、暮らしの場における看護過程の展開ができ、指導者とともに可能な看護援助を一部実施できる。
3. 地域包括ケアシステム構築過程の実際や在宅療養を継続するための関係機関との連携、社会資源の活用について学ぶ。
4. 在宅療養者と家族を支援する訪問看護師の機能と役割を理解できる。
5. 看護職の倫理原則を理解し遵守できる。

授業方法: 訪問看護ステーションおよび保健医療福祉関係機関で実習する。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	在宅療養の場で既習の知識と技術を統合し、在宅療養者と家族が住み慣れた地域で生活を継続するための訪問看護計画を立案、指導者とともに看護援助を一部実施し評価する。在宅療養者を支える様々な社会資源を視野に入れながら訪問看護を体験し、看護師の役割と様々な関係機関と訪問看護ステーションの多職種協働、連携の実際を学ぶ。地域包括ケアシステム構築の現状と課題、看護職の役割を理解できる。各施設での実習終了後は、学内で学びを共有し、さらに理解を深める。	事前学習をするとともに、在宅で頻度の高い援助技術において、e-learningにより学習する。受け持ちが想定される療養者の看護過程や患者教育、家族への指導方法について復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス： 実習受け入れ施設が限られており、遠方となる場合がある。事前に調整を行う予定である。施設により、実習スケジュールが異なる場合があるので、事前の指示に注意を払うようにする。
在宅療養者を支援する訪問看護を通して、在宅で療養する意義について考えましょう。
療養者と家族の生活が、様々なサービスに支えられて実現していることを知りましょう。

フィードバックの方法: 実習記録は、コメントをつけて返却する。
カンファレンスについては、時間内にコメントをする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習施設での実習修得	70	実習目標1～5の到達度を評価する
	実習態度及び出席度	20	主体的な学習や実習中の倫理的態度と積極的な行動、出席状況
	事前学習	10	事前学習レポートを評価する

教科書： 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院

参考書： 角田直枝,よくわかる在宅看護.Gakken.
押川真喜子,写真でわかる訪問看護アドバンス,インターメディカ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法： 実習に帯同している場合は、適宜連絡、報告を行う。それ以外は、教員の連絡先を適宜提示する。

授業テーマ:	公衆衛生看護の概念、目的、対象と方法、活動の場の特性を学ぶ		
授業の概要:	公衆衛生看護の概念、変遷、機能、目的について学ぶとともに、保健師・養護教諭の行う活動の対象と方法、特性について理解する。また、地域・学校・事業所で展開される公衆衛生看護活動とそれぞれの関係職種との連携、役割について学習する。		
到達目標:	公衆衛生看護の概念、対象と方法および地域・学校・事業所で展開される公衆衛生看護活動とそれぞれの関係職種との連携、役割について考察することができる。		
授業方法:	講義および適宜グループワークを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 公衆衛生看護学の概念と機能 2. 公衆衛生看護学における健康のとらえ方 3. 公衆衛生看護活動の対象 4. 公衆衛生看護活動方法 5. 公衆衛生看護の活動分野(1) 行政における保健師の活動 6. 公衆衛生看護の活動分野(2) 学校における養護教諭の活動 7. 公衆衛生看護の活動分野(3) 事業所における保健師の活動(ゲストスピーカー) 8. 地域・学校等におけるヘルスプロモーション活動 9. 公衆衛生看護の歴史と発展(1) 創成期の公衆衛生看護 10. 公衆衛生看護の歴史と発展(2) 第2次世界大戦後の保健師活動 11. 社会環境の変化と公衆衛生看護 12. 地域・学校等における保健医療福祉システムの連携 13. グループ支援・組織化 14. 公衆衛生看護の展望 15. まとめ	テキストp.3-7を読んでおく 前回の授業のまとめと健康とは何かについて考えておく 前回の授業のまとめとテキストp.8-9を読んでおく 前回の授業のまとめとテキストp.8-9を読んでおく 前回の授業のまとめとテキストp.60-63を読んでおく 前回の授業のまとめとテキストp.431-444を読んでおく 前回の授業のまとめとテキストp.445-465を読んでおく 前回の授業のまとめとテキストp.13-17を読んでおく 前回の授業のまとめとテキストp.21-27を読んでおく 前回の授業のまとめとテキストp.27-36を読んでおく 前回の授業のまとめとテキストp.69-78を読んでおく 前回の授業のまとめとテキストp.49-54を読んでおく 前回の授業のまとめとテキストp.148-157を読んでおく 前回までの授業のまとめをしておく 前回までの授業の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:	本科目は2年次配当の看護専門科目であるため、看護学に関する基礎的内容は、自己学習のうえ授業に臨んでください。		
フィードバックの方法:	講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントを講義時に行う。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席および毎回のまとめ提出を含む授業への参加・態度	20	出席および毎回のまとめ提出を含む授業への参加・態度、課題、期末試験を総合して行う。
	課題	30	出席および毎回のまとめ提出を含む授業への参加・態度、課題、期末試験を総合して行う。
	期末試験	50	出席および毎回のまとめ提出を含む授業への参加・態度、課題、期末試験を総合して行う。
教科書:	『第4版 公衆衛生看護学. Jp』荒賀直子・後閑容子編 インターメディカル		
参考書:	『これからの保健医療福祉行政論』星旦二・麻原きよみ編 日本看護協会出版会 『新版保健師業務要覧』日本看護協会監修 日本看護協会出版会 『健康相談の理論と実際』三木とみ子・徳山美智子編 ぎょうせい 『国民衛生の動向・厚生指標 増刊』厚生労働統計協会 『社会環境と健康 健康管理概論第3版』講談社サイエンティフィク		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力		
教員との連絡方法:	講義前後で対応する		

授業テーマ:

授業の概要: 個人および集団の特性や健康レベルに応じた保健行動獲得のための支援技術である「健康教育」について、その意義と基本的な方法を学ぶ。

到達目標: 1.健康教育の意義を理解し、基本的な理論や方法について理解する。
2.健康教育の一連のプロセスを理解し、具体的な展開技術を学ぶ。

授業方法: 教科書及び配布資料を用いた講義とグループ演習で展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	健康教育とは何か ー理念、目的、意義ー	教科書の該当箇所の予習
2.	健康教育の発展過程	前回の授業の振り返りと教科書の該当箇所の予習
3.	保健行動とは	〃
4.	健康教育に用いる理論	〃
5.	健康教育の方法(1) 対象規模別にみた種類と特徴	〃
6.	健康教育の方法(2) 媒体の種類と特徴	〃
7.	健康教育のプロセス(1) 企画	〃
8.	健康教育のプロセス(2) 実施	〃
9.	健康教育のプロセス(3) 評価	〃
10.	健康教育の企画(1) ニーズアセスメントとテーマの設定	健康教育の企画に必要な資料の準備・作成等(グループでの作業を含む)
11.	健康教育の企画(2) 実施方法の選定と企画案の作成	〃
12.	健康教育の企画(3) 指導案・媒体の作成	〃
13.	健康教育の企画(4) 評価計画の作成	〃
14.	健康教育の実施	健康教育の実施に必要な資料準備・発表練習等(グループでの作業を含む)
15.	健康教育の評価 ー企画評価・実施評価・結果評価の実際ー	健康教育の評価に必要な資料の準備・作成等(グループでの作業を含む)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50%	主に講義内容の理解度により評価する
	レポート	10%	提出期限・レポート内容により評価する
	授業(主にグループ演習)への取り組み状況	40%	授業(主にグループ演習)への参加態度と取り組み内容により評価する

教科書: 荒賀直子・後閑容子編、公衆衛生看護学.jp 第4版、インターメディカル

参考書: 講義中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法: 講義前後で対応する。

授業テーマ:	世界の人々の健康と国際協力について考える。		
授業の概要:	世界の健康問題と国際保健協力の概要について学びます。これまで主として病を持つ個人の健康の回復に向けた看護について学んできた視野を広く世界に向けて、世界の健康格差とその解消に向けた取り組みについて学びます。		
到達目標:	(1)国際保健協力の歴史と世界の健康問題の解決に向けた取り組みについて説明することができる。 (2)世界の健康問題を解決するための組織とその概要、日本の国際保健医療協力の組織と働きについて述べるができる。 (3)世界の主要な健康問題の概要を述べるができる。 (4)日本に暮らす外国人の健康問題とその背景について述べるができる。		
授業方法:	授業は講義とディスカッション、グループワークとプレゼンテーションにより行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. コースオリエンテーション 国際保健とは何か	シラバス, テキストの目次とP10に目を通しておく	
	2. 国際保健医療協力機関とその働き	テキスト第1章P10-28を読む。	
	3. 世界の健康問題の解決に向けた取り組み1	グループワークを進める	
	4. 世界の健康問題の解決に向けた取り組み2	グループワークをまとめる	
	5. 世界の人々の健康 国家間・国家内での格差	資料を読む	
	6. 世界の健康問題1	テキストp65-81, p92-99, p211-227, p127-149, p153-177に目を通す	
	7. 世界の健康問題2	グループワークを進める	
	8. プライマリヘルスケアの実際	テキストP40-48を読む	
	9. 人口問題/難民支援/災害支援	テキストP152-177, 資料を読む	
	10. リプロダクティブヘルス	テキストP65-81を読む	
	11. 子どもの健康	テキストP92-99を読む	
	12. 感染症	テキストP211-227を読む	
	13. 文化とはなにか 異文化理解	資料を読む	
	14. 移民の健康と倫理 在日外国人の背景と健康問題	P101-125を読む	
	15. まとめ	テキストと資料を復習する	
受講者へのメッセージやアドバイス:	事前学習(おもにテキスト、資料を読む)をして臨み、疑問点を授業で解決して、事後学習(学びと感想)で自らの考えをまとめていきましょう。		
フィードバックの方法:	プレゼンテーションや課題については授業中に全体にフィードバックします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験	30	目標(1)～(4)について評価する。
	プレゼンテーション	40	目標(1)～(3)について評価する。
	小テストおよび課題	30	日常の学習状況について評価する。
教科書:	田代順子監修. ワークブック国際保健・看護基礎論. ピラールプレス		
参考書:	川野雅資監修. 看護学実践 Science of Nursing 国際看護学. ピラールプレス 日本国際保健医療学会編. 国際保健医療学. 杏林書院		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力		
教員との連絡方法:	研究室(H506)在室時は対応可能。マナビー掲示板またはEmailでの連絡も可能。		

授業テーマ：	看護研究の意義、研究倫理、研究手法、プロセスについて基礎的知識を学ぶ		
授業の概要：	看護研究の意義、研究倫理、文献検索の方法、量的・質的研究の手法について学び、研究計画立案のプロセスを習得する		
到達目標：	1.看護研究の意義、プロセスについて理解できる 2.文献検索、文献検討の方法を習得できる 3.看護研究の基本的な一連の方法を理解できる 4.研究倫理について理解し、研究計画の立案のプロセスが習得できる		
授業方法：	講義及び学生による発表、学生間での討論、教員の指導により授業を展開する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容 1. 看護研究の意義とプロセス(小松) 2. 研究倫理と研究計画(小松) 3. 文献検索の実際(和泉、杉原) 4. 文献検討の意義と方法(小松) 5. 量的研究(実態調査研究・因果検証型研究・実験研究)の方法(1)(和泉) 6. 量的研究(実態調査研究・因果検証型研究・実験研究)の方法(2)(和泉) 7. 文献検討のまとめ(和泉) 8. 文献検討のまとめ(発表)(和泉、杉原、小松) 9. 質的研究の方法(1)事例研究(杉原) 10. 質的研究の方法(2)質的記述的研究(杉原) 11. 看護研究の計画の作成(杉原) 12. 質的研究の方法(3)質的記述的研究の実際①(杉原) 13. 質的研究の方法(4)質的記述的研究の実際②(杉原) 14. 看護研究の計画の発表(小松、杉原、和泉) 15. 看護研究の計画の発表(小松、杉原、和泉)	準備学習等の内容 興味のある看護の領域、キーワードを考えておく 興味のある看護の領域、キーワードを考えておく。倫理綱領を復習しておく 文献検索のデータベースの名称を調べておく 論文の構成を復習しておく 事前配布資料に目を通しておく 事前配布資料に目を通しておく 収集した文献に目を通しておく 発表資料の作成 事前配布資料に目を通しておく 事前配布資料に目を通しておく 「2.研究計画と看護研究における倫理的配慮」で配布した資料を読み返す 事前配布資料に目を通しておく 事前配布資料に目を通しておく 発表資料の作成 発表資料の作成	
受講者へのメッセージやアドバイス：			
フィードバックの方法：	個々の提出物はコメントをつけて返却する 発表については随時講義内でコメントする		
「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法 発表・討論 レポート 出席・態度	割合 30 60 10	評価基準 発表および討論での知識・技能の習得度を評価する 看護研究の基礎知識・技能の習得度を評価する 積極的に授業に参加し、主体的に学習しているか評価する
教科書：	教科書は使用しない。必要な資料はプリントとして配布する。		
参考書：	講義中に、適宜紹介する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、		
教員との連絡方法：	講義の前後およびメール、オフィスアワーで対応する		

授業テーマ:	看護実践能力の習得と自己課題の明確化		
授業の概要:	1)看護職者としての基本的な姿勢の習得、既習得の知識を選択・統合した臨床判断能力の育成とそれに基づく看護実践能力を習得する 2)状況設定のシミュレーション学習や臨地実習で遭遇することの多い場面設定による看護OSCEにより、自己の課題を明らかにし自己学習へとつなげる。 3)自分を理解し他者との関係を深めることにより、積極的にコミュニケーションを取ることの重要性に気づき、キャリア形成に必要なものを理解する。 4)文章を読み解く力やレポートの書き方、論理的な思考プロセスを理解し、そのスキルを習得する。		
到達目標:	1)看護職者としての基本的な姿勢の習得、既習得の知識を選択・統合した臨床判断能力の育成とそれに基づく看護実践能力を習得する。 2)状況設定のシミュレーション学習や臨地実習で遭遇することの多い場面設定による看護OSCEにより、自己の課題を明らかにし自己学習へとつなげる。 3)自分を理解し他者との関係を深めることにより、積極的にコミュニケーションを取ることの重要性に気づき、キャリア形成に必要なものを理解する。 4)文章を読み解く力やレポートの書き方、論理的な思考プロセスを理解し、そのスキルを習得する。		
授業方法:	5.講義/演習の混合		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス キャリア学習(1)マインドマップ作成・自己理解		
	2. キャリア学習(2) キャリア論、自己理解 キャリアカウンセラー:山崎聡子		
	3. キャリア学習(3) ヒューマンスキル、目標をもつことの大切さ キャリアカウンセラー:山崎聡子		
	4. キャリア学習(4) 1年間の目標の設定・ポートフォリオの活用方法、先輩看護職からのメッセージ	1-3の授業内容を振り返り、自己理解を深める	
	5. 看護学科の領域紹介		
	6. 教員研究室訪問	マインドマップを完成させ、マップを用いて自己紹介ができるように準備する	
	7. アカデミックリーディングの基礎		
	8. アカデミックライティングの基礎(1) 講議	7.の授業内容を復習し、理解を深める	
	9. アカデミックライティングの基礎(1) グループワーク	7.8.の授業内容の復習と期日までにレポートを作成し、提出する	
	10. 日常生活における感染予防 ゲストスピーカー:感染管理認定看護師		
	11. 臨地実習の意義・目的、学習のプロセス、健康管理、安全管理、個人情報保護、身だしなみ、挨拶な	10.の授業内容の復習	
	12. シミュレーション学習(1) 臨地実習場面	①事前学習をマナビーなどで知らせる ②基礎看護学Ⅰの実習要項を読んでおく 事前配付資料およびPSCでのDVD視聴 事前学習のポイントをマナビーなどで知らせる	
	13. シミュレーション学習(2) 一次救命処置(BLS)		
	14. 看護OSCE(客観的臨床能力試験)と振り返り		
	15. 先輩看護職からのメッセージ「看護の魅力」 ゲストスピーカー		
受講者へのメッセージやアドバイス:	学士力や看護実践能力の段階的なステップアップを目指します。自己学習の課題は、看護技術e-learningやPSCを活用して主体的に学習を進めてください。2年次生の授業参画も計画しています。		
フィードバックの方法:	アカデミックライティングのレポートについてはコメントや添削して返却する。 質問用紙やコメントペーパー等に対するフィードバックは教室でまとめて解説する。 シミュレーション学習・看護OSCEは時間内にフィードバックをする。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標1)2)3)ができるようになったかを評価する。
	課題レポート	20	到達目標4)を理解した上で、アカデミックライティングのレポートの完成度で評価する
	シミュレーション学習・看護OSCE	20	積極的に授業に参加し、到達目標1)2)ができるようになったかを評価する。
	自己学習に取り組む姿勢	10	ナーシングパスポートやプラクティカルサポートセンターでの取り組む姿勢を評価する
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメールを利用、授業の前後に教室内で応対		

授業テーマ：看護実践能力の習得と自己課題の明確化

授業の概要：1)看護職としての必要な知識・技術・態度を選択・統合した臨床判断能力の育成及び強化を行い、それに基づく看護実践能力を習得する
2)状況設定のシミュレーション学習や臨地実習で遭遇することの多い場面設定による看護OSCEにより、自己の課題を明らかにし自己学習へとつなげる。
3)自分を理解し他者との関係を深めることにより、積極的にコミュニケーションを取ることの重要性に気づき、キャリア形成に必要なものを理解する。
4)文章を読み解く力やレポートの書き方、論理的な思考プロセスを理解し、そのスキルを習得する。

到達目標：1)看護職としての必要な知識・技術・態度を選択・統合した臨床判断能力の育成及び強化を行い、それに基づく看護実践能力を習得する。
2)状況設定のシミュレーション学習や臨地実習で遭遇することの多い場面設定による看護OSCEにより、自己の課題を明らかにし自己学習へとつなげる。
3)自分を理解し他者との関係を深めることにより、積極的にコミュニケーションを取ることの重要性に気づき、キャリア形成に必要なものを理解する。
4)文章を読み解く力やレポートの書き方、論理的な思考プロセスを理解し、そのスキルを習得する。

授業方法：5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス キャリア学習(1)1年間の目標の設定・ポートフォリオ	1年次の目標に対する評価をしておく
2.	キャリア学習(2) マインドマップ作成・自己理解	
3.	キャリア学習(3)「勤労観・職業観、価値観・能力」 キャリアカウンセラー:山崎聡子	1.2.の授業内容を振り返っておく
4.	キャリア学習(4)「社会との関わりを通して自己理解を深める」 キャリアカウンセラー:山崎聡子	1.2.の授業内容を振り返っておく
5.	アカデミックリーディングの基礎(1)	
6.	アカデミックリーディングの基礎(2)	5.の授業内容を復習する
7.	アカデミックリーディングの基礎(3)	・5.6.の授業内容を復習する ・事前課題する
8.	臨地実習における感染予防 ゲストスピーカー:感染管理認定看護師	
9.	臨地実習の意義・目的、学習のプロセス、健康管理、安全管理、個人情報保護など	・8.の授業内容を復習する ・基礎看護学実習Ⅱの実習要項を読んでおく ・基礎看護学実習Ⅱでの経験を想起しておく
10.	ヒューマンケアの基本「倫理的実践力について考える」	
11.	シミュレーション学習(1) 臨床場面	事前学習をマナビーなどで知らせる
12.	シミュレーション学習(2) 一次救命処置(BLS)	1年次の学習内容を復習する
13.	模擬患者やシスターアドバイザー体験からの学び	
14.	看護OSCE(客観的臨床能力試験)と振り返り	事前学習のポイントをマナビーなどで知らせる
15.	先輩看護職からのメッセージ「看護の魅力」 ゲストスピーカー	

受講者へのメッセージやアドバイス：学士力や看護実践能力の段階的なステップアップを目指します。自己学習の課題は、看護技術e-learningやPSCを活用して主体的に学習を進めてください。

フィードバックの方法：質問用紙やコメントペーパー等に対するフィードバックは教室でまとめて解説する。
シミュレーション学習・看護OSCEは時間内にフィードバックをする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標1)2)3)ができるようになったかを評価する。
	課題レポート	20	到達目標4)を理解した上で、アカデミックリーディングのレポートの完成度で評価する
	シミュレーション学習・看護OSCE	20	積極的に授業に参加し、到達目標1)2)ができるようになったかを評価する。
	自己学習に取り組む姿勢	10	ナーシングパスポートやプラクティカルサポートセンターでの取り組む姿勢を評価する

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：Eメールを利用、授業の前後に教室内で応対

授業テーマ： 看護実践能力の習得と自己課題の明確化、キャリア学習と学士力の養成

授業の概要： 領域別実習前に既習の知識や技術を用いた看護実践能力の確認や実習に備えた学習を行う
専門職となるためのキャリア学習をする。学士力(リーディング、ライティング、プレゼンテーションの力)を育成する。

到達目標： 1.看護職としての必要な知識・技術・態度を選択・統合した臨床判断能力の育成及び強化を行い、それに基づく看護実践能力を習得する
2.臨床実習で遭遇することの多い場面設定によるOSCEにより、自己の課題を明らかにし、自己学習へのつなげる
3.看護職としてのキャリア形成に向けた準備ができる
4.情報リテラシー(情報活用力)を修得し、課題にそった文献検索とレポートが作成できる

授業方法: 講義ならびに少人数の演習形式とする

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

準備学習等の内容

1.	振り返りと1年間の目標設定、ポートフォリオの作成	ポートフォリオを振り返り目標を考えておく
2.	「看護職としてのキャリアをイメージする」(外部講師)	自身の看護職としてのキャリアについて考えておく
3.	「キャリア実現にむけた大学生活」(外部講師)	自身の看護職としてのキャリアについて考えておく
4.	「キャリアを考慮した就職先の選び方」	自身の看護職としてのキャリアについて考えておく
5.	学士力「情報収集・情報整理力(文献検索)」	文献検索の方法を復習する
6.	学士力「課題発見・アカデミックライティング④」	課題資料を作成する
7.	領域別実習前オリエンテーション① (臨地実習の意義・目的、学習のプロセス、事前学習、客観的臨床能力試験課題提示)	実習要綱を読む
8.	領域別実習前オリエンテーション② (感染予防、健康管理について)	感染予防について復習しておく
9.	領域別実習前オリエンテーション③ (安全管理、個人情報保護について)	医療安全と個人情報の保護について復習しておく
10.	領域別実習前オリエンテーション④ (成人急性期、成人慢性期)	実習要項を読んでおく。実習の事前学習をする
11.	領域別実習前オリエンテーション⑤ (小児看護学、ウィメンズヘルス)	実習要項を読んでおく。実習の事前学習をする
12.	領域別実習前オリエンテーション⑥ (高齢者看護学、在宅看護学)	実習要項を読んでおく。実習の事前学習をする
13.	領域別実習前オリエンテーション⑦ (精神看護学)	実習要項を読んでおく。実習の事前学習をする
14.	領域別実習前オリエンテーション⑧ (チーム医療:多職種との役割と連携)	配布資料に目をとめておく
15.	客観的臨床能力試験と振り返り	配布資料に目をとめ、技術練習をしておく

受講者へのメッセージや
看護実践総合演習Ⅰ、Ⅱで学習したことを基礎に、領域別実習前に看護実践能力を高めましょう。
キャリア学習や学士力高める学習を通して、専門職となるステップを着実に進めましょう。

フィードバックの方法: 個々の提出物はコメントをつけて返却する
発表については随時講義内でコメントする

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法

割合

評估基準

試験	40	到達目標1,2の知識と理解。技術、態度の到達により評価する
レポート	30	到達目標3,4の知識と理解。技術、態度の到達により評価する
出席・態度	30	主体的に学習する態度

教科書: 教科書は使用しない。必要な資料はプリントとして配布する。

参考書： 講義中に、適宜紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法： 講義の前後およびメール、オフィスアワーで対応する

授業テーマ:	臨床における倫理的問題と解決方法		
授業の概要:	保健・医療の進展に伴い、看護の分野では様々なジレンマが生じている。看護職はこれらの倫理的問題に対する高い感受性と倫理感が求められる。そこで医療倫理・看護倫理の原則を基盤として倫理的問題に対する解決へのプロセスを教授する。		
到達目標:	1. 倫理の定義と生命倫理・医療倫理・臨床倫理・看護倫理の違いを理解できる。 2. 生命倫理の原則・看護倫理の原則が説明できる。 3. 医療の現場で生じている倫理的問題を抽出し、説明できる。 4. 倫理的問題解決に向けた意思決定支援方法について理解できる。 5. 事例を分析することで、意思決定支援のアプローチ方法を習得できる。 6. 看護専門職としての倫理的態度を習得することができる。		
授業方法:	講義とグループワーク 小笠講師、野々口助手、天野助手も担当する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 倫理とは何か-生命倫理・医療倫理・臨床倫理・看護倫理-		
	2. 価値とは何か-ダックスコワートの事例を通して-		
	3. 専門職の倫理:看護者の倫理綱領	看護学概論で既習の看護者の倫理綱領を復習する	
	4. 看護の倫理原則とジレンマ	事前の教科書の生命倫理の原則を予習する	
	5. インフォームドコンセントと守秘義務	事前の教科書のインフォームドコンセントを予習する	
	6. 医療の中の倫理的問題の明確化	今日の医療における倫理的問題を調べておく	
	7. 医療の中の倫理的問題の検討	今日の医療における倫理的問題を調べておく	
	8. 医療の中の倫理的問題の共有1	今日の医療における倫理的問題のトピックスをまとめてPPTを準備する	
	9. 医療の中の倫理的問題の共有2	今日の医療における倫理的問題のトピックスをまとめてPPTを準備する	
	10. 看護事例による倫理的問題解決への意思決定支援方法1		
	11. 看護事例による倫理的問題解決への意思決定支援方法2		
	12. 看護事例による意思決定方法を用いた事例分析1:グループワーク1	意思決定方法を用いた事例分析を事前検討し、グループワークに参加する	
	13. 看護事例による意思決定方法を用いた事例分析1:グループワーク2	意思決定方法を用いた事例分析を事前検討し、グループワークに参加する	
	14. 看護事例による意思決定方法を用いた事例分析1:発表・まとめ	意思決定方法を用いた事例分析の結果を発表できるように準備しておく	
	15. 看護事例による意思決定方法を用いた事例分析2:課題		
受講者へのメッセージやアドバイス:	臨地実習前に倫理的感性を養い、倫理的判断能力を修得することは重要である。保健・医療・看護の中で生じている倫理的問題に関心を持っておくこと。		
フィードバックの方法:	医療の中での倫理的問題は発表により共有する。また、意思決定方法を用いた事例分析については最後に分析例を提示する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加態度	15	積極的に授業に参加する。
	事例分析4の提出	50	目標2・4・5の達成度を評価する
	倫理問題の発表	20	目標3を踏まえた上で問題を明確にしているか評価する。
	事例分析1の提出	15	目標2・4・5の理解度を評価する
教科書:	松葉祥一:系統看護学講座, 別巻, 看護倫理, 医学書院(2016) 手島恵:2016年度版看護者の基本的責務, 日本看護協会出版会(2016年)		
参考書:	小西恵美子:看護倫理よい看護・よい看護師への道しるべ, 南江堂(2010) 吉田みつ子:看護倫理見ているものが違うことから起こること, 医学書院(2013) ジョイス・E・トンプソン:看護倫理のための意思決定10のステップ, 日本看護協会出版会(2004) 香川知晶:命は誰のものか, ディスカバリー携書(2009) サラ T.フライ :看護実践の倫理―倫理的意思決定のためのガイド, 日本看護協会出版会(2010) 2010/4		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビー上掲示板		

授業テーマ:

授業の概要: 学校保健は、学校における児童・生徒等の健康の保持増進を図り、学校教育目標の達成に寄与することを目指して行われる活動である。学校保健に関する知識を習得し、学校保健活動の円滑な実施と成果の確保のために必要な養護教諭の役割について理解することを目的とする。 学校保健活動を推進するために、保健管理、保健教育、組織活動についての基礎的な理論を系統的に学習し、現代的な健康課題に適切に対応していくための知識や技能について学ぶ。

到達目標: 「知識・理解」
(1)学校保健(保健教育・保健管理・組織活動)を理解し説明できる。
(2)学校保健活動の法的根拠について理解することができる。
(3)学校保健活動の推進に当たっての養護教諭の役割について理解することができる。 「関心・意欲・態度」
(1)現代社会が抱える様々な健康課題や教育的課題を積極的に見出すことができる。
(2)健康課題や教育的課題を意欲的に発表できる。
「表現・技能・能力」
(1)児童・生徒が抱える様々な健康問題と社会的背景の関連性を考えることができる。
(2)児童・生徒が抱える様々な健康問題の解決策を考えることができる。

授業方法: 講義、演習が中心です。毎回発表、討論があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. はじめに 学校保健とは	
	2. 学校保健の考え方・領域構造・運営と担当者	教科書をよく読んでください。
	3. 子どもの体と心/子どもの体・子どもの心・ヘルスプロモーション	教科書をよく読んでください。
	4. 健康の評価/健康情報の収集と活用・健康診断・健康相談	教科書をよく読んでください。
	5. 疾病や健康障害/心臓病検診・検尿・眼科疾患・歯・肥満傾向など	教科書をよく読んでください。
	6. 感染症とその対策/学校感染症・予防接種・性感染症など	教科書をよく読んでください。
	7. 養護教諭が行う救急処置/救急処置と養護	教科書をよく読んでください。
	8. 心の健康問題/心の危険信号・心身症状・不登校・対応と担い手	教科書をよく読んでください。
	9. 特別支援教育と健康/特別支援教育・発達障害・病弱教育など	教科書をよく読んでください。
	10. 保健室の役割/養護教諭・保健指導・健康相談	教科書をよく読んでください。
	11. 学校安全/事故災害の防止・安全教育と安全管理の実際	教科書をよく読んでください。
	12. 学校環境衛生/日常点検・照度・騒音・空気・学校給食・飲料水	教科書をよく読んでください。
	13. 学校給食/意義とねらい・施設と管理・食生活指導計画	教科書をよく読んでください。
	14. 学校保健の推進/学校保健計画と学校保健組織活動・学校保健の沿革・行政体型・法律	教科書をよく読んでください。
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 学校保健の法的根拠、学校保健活動の推進に当たっての養護教諭の役割について理解するために一緒に学びましょう。

フィードバックの方法: 毎回、コメントペーパーを書いていただき、その内容についてフィードバックしていきたいと思います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	学校保健に関する知識・理解度により評価する。
	レポート	10%	学校保健に関する知識・理解度により評価する。
	発表、討論	10%	学校保健に関する知識・理解度により評価する。
	授業への参加度	10%	積極的に授業に参加しているか評価する。

教科書: 改訂 学校保健(東山書房)

参考書: 学校保健実務必携(学校保健・安全実務研究会編)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: nookawa@tamateyama.ac.jp

授業テーマ: 基礎薬学領域で必須とされる実験技術の習得

授業の概要: 技術指導を受けながら実験技術の習得

到達目標: 基礎薬学領域で必須とされる実験技術の理解

授業方法: 各研究室を巡回して技術指導を受けながら与えられた課題を行う。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	光学活性体の選択的合成	有機化学教科書の熟読
2.	光学活性体の純度分析	有機化学教科書の熟読

3.	NMRによる化学構造解析	有機化学教科書の熟読
4.	MALDI-TOFF-MASによる構造解析	有機化学教科書の熟読
5.	微生物ゲノムのPCRによる高感度検出	教科書の熟読
6.	微生物の形質転換と薬剤耐性検出	教科書の熟読
7.	遺伝子クローニング技術1	教科書の熟読
8.	遺伝子クローニング技術2	教科書の熟読
9.	真核細胞への蛍光プローブ導入技術	教科書の熟読
10.	細胞内蛍光プローブの観察法	教科書の熟読
11.	遺伝子発現解析 1 プロモーター解析	教科書の熟読
12.	遺伝子発現解析 2 定量PCR	教科書の熟読
13.	遺伝子操作によるタンパク質の生産	教科書の熟読
14.	発現タンパク質の精製	教科書の熟読
15.	X線構造解析のシミュレーション	教科書の熟読

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	課題に対する理解
	出席	50	全出席

教科書： 隨時指定する。

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法： 口頭、面談、メール等

授業テーマ:	生体高分子の構造・機能及び、医療への応用を理解し、その解析技術を学ぶ		
授業の概要:	化学と生物学とのインターフェイスとして重要な蛋白質や遺伝子などの生体機能分子による機能発現と制御機構を中心に、生体機能を化学的に追究するとともに、その解析法についても学び、併せて薬物作用との関連性について概説する。		
到達目標:	特に、生体における癌化や老化の諸問題に関連して、生体機能・細胞機能の仕組みやその制御の分子レベルでの理解を深め、その基礎の上に立った新しい薬物開発の重要性を示す。本授業を通じて、博士論文作成に必要な問題提起と問題解決能力の科学的素養を養うことを目指している。		
授業方法:	解説講義と論文購読を主として、必要に応じてプリントを配布。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、概論 生体高分子の特性 2. 遺伝子の構造と機能 DNAとRNAの役割 3. 遺伝子解析技術 遺伝子解析・操作法 4. 遺伝子解析技術 遺伝子発現制御法 5. 蛋白質の構造と機能 蛋白質の折り畳み 6. 蛋白質の解析技術 質量分析法、NMR、X線構造解析法、蛍光測定法 7. 蛋白質の解析技術 人工蛋白質の創製 8. 蛋白質の解析技術 遺伝子と蛋白質の相互作用 9. Computer Aided Design DNAを標的としたデザイン 10. Computer Aided Design 蛋白質を標的としたデザイン 11. Computer Aided Design DNA-蛋白質複合体を標的としたデザイン 12. 疾患関連遺伝子と遺伝子診断・遺伝子治療 13. 疾患関連タンパク質と薬物デザイン 14. 最新の研究事例1 15. 最新の研究事例2	生体高分子の特性を調査し、列挙する DNAとRNAの役割を調査し、列挙する 遺伝子解析・操作法を調査し、列挙する 遺伝子発現制御法を調査し、列挙する 蛋白質の折り畳みを調査し、列挙する 質量分析法、NMR、X線構造解析法、蛍光測定法を調査し、列挙する 人工蛋白質の創製例を調査し、列挙する 遺伝子と蛋白質の相互作用について調査し、列挙する DNAを標的としたデザインについて調査し、列挙する 蛋白質を標的としたデザインについて調査し、列挙する DNA-蛋白質複合体を標的としたデザインについて調査し、列挙する 疾患関連遺伝子と遺伝子診断・遺伝子治療について調査し、列挙する 疾患関連タンパク質と薬物デザインについて調査し、列挙する 最新の研究事例について調査し、列挙する 最新の研究事例について調査し、列挙する	
受講者へのメッセージやアドバイス:	生体分子や薬物分子を化学的に解析する手法を学んで、生命現象をより深く理解し、先端的な問題解決のための科学的素養を養ってほしい。		
フィードバックの方法:	実験の進め方、結果のまとめ方と考察、論文の書き方等に有用な項目については、特に復習を必ず行うことを強調している。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題レポート	40	授業での評価を含めて総合的に評価する。
	定期試験	60	
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	随時指定する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能、Eメールの利用、授業の前後に教室内で対応、等。		

授業テーマ:

授業の概要: 医薬品の標的分子の多くは生体内酵素や内因性リガンドの受容体であり、これら標的分子との分子間相互作用や共有結合形成といった化学的事象を介して期待される薬理作用を発現する。また、生体内反応で化学修飾されて活性本体に変貌するものもある。こうした多機能化合物である医薬品の立体化学を含めた構造解析、物性解析、結合性解析、反応性解析を基盤技術として、精密有機合成による医薬品機能創製を交えて、医薬品の分子機能の基本設計概念と先端を解説する。

到達目標: 医薬品分子の合成と生体分子との相互作用を理解する。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1.医薬品機能発現緒論	教科書の予習
2.	2.分子間力1 強い力	教科書の予習および前回講義の復習
3.	3.分子間力2 弱い力	教科書の予習および前回講義の復習
4.	4.共有結合形成1 酵素機能阻害	教科書の予習および前回講義の復習
5.	5.共有結合形成2 受容体機能阻害	教科書の予習および前回講義の復習
6.	6.生体内高分子構造の立体化学解析	教科書の予習および前回講義の復習
7.	7.医薬品分子構造の立体化学解析	教科書の予習および前回講義の復習
8.	8.医薬品分子構造のコンホメーション解析	教科書の予習および前回講義の復習
9.	9.医薬品分子構造と生体内高分子構造の計算化学的素描	教科書の予習および前回講義の復習
10.	10.生体内高分子と医薬品低分子との相互作用解析	教科書の予習および前回講義の復習
11.	11.生体内分子と医薬品分子との相互作用－薬理活性相関	教科書の予習および前回講義の復習
12.	12.医薬品分子構造の合成化学的供給法1	教科書の予習および前回講義の復習
13.	13.医薬品分子構造の合成化学的供給法2	教科書の予習および前回講義の復習
14.	14.医薬品分子構造の機能評価法	教科書の予習および前回講義の復習
15.	15.医薬品精密有機化学合成法の現状と未来	前回講義の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: ディスカッションとレポート返却

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席	30	70%で合格
	演習、総合討論	30	
	課題、レポート提出	40	

教科書: 創薬化学(長野哲雄、夏莉英昭、原 博 編、東京化学同人)

参考書: 大学院講義有機化学I. 分子構造と反応・有機金属化学(野依良治、柴崎正勝、鈴木啓介、玉緒皓平、中筋一弘、奈良坂紘一 編、東京化学同人)
大学院講義有機化学II. 有機合成化学・生物有機化学(野依良治、柴崎正勝、鈴木啓介、玉緒皓平、中筋一弘、奈良坂紘一 編、東京化学同人)
創薬化学 -有機合成からのアプローチ-(北 康行、平岡哲夫 編、東京化学同人)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: 教授室を訪問

授業テーマ:	医薬品分子の構造と活性の相関		
授業の概要:	医薬品は人類の病に対する挑戦の証であり人類が積み重ねてきた英知の結晶である。その分子構造と薬理活性の相関を中心主題として、種々の構造間相互作用と官能基間相互作用の理論と実際、並びに構造と薬理活性発現の分子論的機構の理解について解説する。また、これら分子構造間相互作用の物理化学的及び化学的確認法と、それら分子構造の設計、化学合成法、およびこれらを基盤とする最先端医薬品構造機能相関化学の現状と展望についても概説する。更に医薬品創製を支える根源的発想についても俯瞰する。		
到達目標:	医薬品分子の構造と活性の相関の理解		
授業方法:	講義、演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 医薬品構造機能相関論緒論	有機化学教科書の熟読	
	2. 医薬品分子構造の発想の源流	有機化学教科書の熟読	
	3. 分子骨格構造と薬理活性相関の基礎	有機化学教科書の熟読	
	4. 分子官能基構造と薬理活性相関の基礎	有機化学教科書の熟読	
	5. 定量的構造活性相関解析理論QSAR	有機化学教科書の熟読	
	6. マッピング手法による構造活性相関理論の進展	有機化学教科書の熟読	
	7. 分子複合体の核磁気共鳴分析	有機化学教科書の熟読	
	8. 分子骨格構造の最適化法の基礎	有機化学教科書の熟読	
	9. 分子骨格構造の先端的最適化法	有機化学教科書の熟読	
	10. 分子官能基構造の最適化法の基礎	有機化学教科書の熟読	
	11. 分子官能基構造の先端的最適化法	有機化学教科書の熟読	
	12. 格構造構築法の進歩	有機化学教科書の熟読	
	13. 官能基構築法の進歩	有機化学教科書の熟読	
	14. 分子配座固定による活性の最適化手法	有機化学教科書の熟読	
	15. 構造機能相関学が拓く新規医薬品展望	有機化学教科書の熟読	
受講者へのメッセージやアドバイス:	頭を空っぽにして新事実の5W1Hを楽しむ		
フィードバックの方法:	あらゆる手法		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	30	70点以上
	期末試験	50	70点以上
	平常時試験	20	70点以上
教科書:	北川勲、柴崎正勝、富岡清 監訳、メディシナルケミストリー、丸善		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	口頭、面談、メール等		

授業テーマ:																																			
授業の概要:	微生物の感染と生体の防御機構について、その捉え方、現状の理解、将来の課題、について学習する																																		
到達目標:	感染の成立のための微生物側の戦略とそれを防ぐ宿主応答を分子レベルで理解することにより、感染症治療の根本となる知識と応用力を養成する。まず、細菌とウイルスの構造、増殖、生合成と代謝の仕組みを解説する。そして感染に対する生体側の免疫応答機構を分子レベルで解説する。次に代表的な病原体を例として取り上げて、その感染の成立に関わる現象や諸因子について宿主との関わりを中心に解説する。さらに最新の研究事例を取り上げて感染の分子機構を理解するための研究の切り口を示す。																																		
授業方法:	輪読、輪講形式																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 授業オリエンテーション、微生物感染概論</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>2. 細菌総論Ⅰ: 構造と特徴、増殖機構</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>3. 細菌総論Ⅱ: 生合成と代謝</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>4. ウイルス総論: 構造と特徴、増殖機構、細胞・組織傷害の機構</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>5. 感染と宿主応答Ⅰ: 自然免疫の仕組み</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>6. 感染と宿主応答Ⅱ: 自然免疫受容体による微生物認識と応答</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>7. 感染と宿主応答Ⅲ: 獲得免疫の誘導、記憶の仕組み</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>8. 感染と宿主応答Ⅳ: ワクチンとアジュバント</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>9. 感染の成立Ⅰ: 二成分制御系による細菌の宿主環境適応</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>10. 感染の成立Ⅱ: 細菌のエフェクターとTypeⅢ分泌系</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>11. 感染の成立Ⅲ: 細菌の薬剤耐性機構</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>12. 感染の成立Ⅳ: 病原体の宿主免疫回避機構</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>13. 新興再興感染症</td><td>講義中に示された資料を基にして復習を行う</td></tr><tr><td>14. 最新の研究事例Ⅰ</td><td>最新の研究論文を用いた学習では事前に論文を熟読しておくことが必要</td></tr><tr><td>15. 最新の研究事例Ⅱ</td><td>最新の研究論文を用いた学習では事前に論文を熟読しておくことが必要</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 授業オリエンテーション、微生物感染概論	講義中に示された資料を基にして復習を行う	2. 細菌総論Ⅰ: 構造と特徴、増殖機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う	3. 細菌総論Ⅱ: 生合成と代謝	講義中に示された資料を基にして復習を行う	4. ウイルス総論: 構造と特徴、増殖機構、細胞・組織傷害の機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う	5. 感染と宿主応答Ⅰ: 自然免疫の仕組み	講義中に示された資料を基にして復習を行う	6. 感染と宿主応答Ⅱ: 自然免疫受容体による微生物認識と応答	講義中に示された資料を基にして復習を行う	7. 感染と宿主応答Ⅲ: 獲得免疫の誘導、記憶の仕組み	講義中に示された資料を基にして復習を行う	8. 感染と宿主応答Ⅳ: ワクチンとアジュバント	講義中に示された資料を基にして復習を行う	9. 感染の成立Ⅰ: 二成分制御系による細菌の宿主環境適応	講義中に示された資料を基にして復習を行う	10. 感染の成立Ⅱ: 細菌のエフェクターとTypeⅢ分泌系	講義中に示された資料を基にして復習を行う	11. 感染の成立Ⅲ: 細菌の薬剤耐性機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う	12. 感染の成立Ⅳ: 病原体の宿主免疫回避機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う	13. 新興再興感染症	講義中に示された資料を基にして復習を行う	14. 最新の研究事例Ⅰ	最新の研究論文を用いた学習では事前に論文を熟読しておくことが必要	15. 最新の研究事例Ⅱ	最新の研究論文を用いた学習では事前に論文を熟読しておくことが必要		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 授業オリエンテーション、微生物感染概論	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
2. 細菌総論Ⅰ: 構造と特徴、増殖機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
3. 細菌総論Ⅱ: 生合成と代謝	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
4. ウイルス総論: 構造と特徴、増殖機構、細胞・組織傷害の機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
5. 感染と宿主応答Ⅰ: 自然免疫の仕組み	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
6. 感染と宿主応答Ⅱ: 自然免疫受容体による微生物認識と応答	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
7. 感染と宿主応答Ⅲ: 獲得免疫の誘導、記憶の仕組み	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
8. 感染と宿主応答Ⅳ: ワクチンとアジュバント	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
9. 感染の成立Ⅰ: 二成分制御系による細菌の宿主環境適応	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
10. 感染の成立Ⅱ: 細菌のエフェクターとTypeⅢ分泌系	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
11. 感染の成立Ⅲ: 細菌の薬剤耐性機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
12. 感染の成立Ⅳ: 病原体の宿主免疫回避機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
13. 新興再興感染症	講義中に示された資料を基にして復習を行う																																		
14. 最新の研究事例Ⅰ	最新の研究論文を用いた学習では事前に論文を熟読しておくことが必要																																		
15. 最新の研究事例Ⅱ	最新の研究論文を用いた学習では事前に論文を熟読しておくことが必要																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:																																			
フィードバックの方法:	必要に応じて個別面談によりフィードバックを行う																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>授業態度(平常点)</td><td>40</td><td rowspan="2">課題の理解、取り組む姿勢等で判断 内容で判断する</td></tr><tr><td>レポート</td><td>60</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	授業態度(平常点)	40	課題の理解、取り組む姿勢等で判断 内容で判断する	レポート	60																										
評価方法	割合	評価基準																																	
授業態度(平常点)	40	課題の理解、取り組む姿勢等で判断 内容で判断する																																	
レポート	60																																		
教科書:	微生物感染学(光山正夫編、南山堂)																																		
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	オフィスアワーの活用																																		

授業テーマ:

病態を分子レベルで理解する

授業の概要:

病気とその治療法を本質的に理解するためには病態を分子レベルで解析する必要がある。本講義では代表的な病態として糖尿病、感染症、骨粗鬆症、腎臓疾患を取り上げ、それぞれの病態の生化学的な背景、遺伝子操作を含めた病態モデル、治療薬の分子ターゲットに関する最新の知見を示す。更に、最新の研究事例を取り上げ、討論形式で問題点等を議論することにより薬物治療の根本となる知識と応用力を養成する。

到達目標:

病態の分子メカニズムに関する最新の知見、解析手法等を学術論文より習得する。

授業方法:

論文の輪読、研究の生データ討論、学生間の議論など、いわゆる“セミナー形式”で行う。基本的には、1週間前にトピックスに関連する論文を配布し、授業ではその内容に関して討論する。授業の形式は、先ず、基本的な知識の講義を土台にして、それに基づき、各人にテーマを与えるので、それについて自主的に調べて考えをまとめるとともに、お互いに発表し、議論し合う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション、病態の生化学的解析法概論	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	2. 遺伝子改変動物と病態モデル	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	3. 糖尿病の生化学的解析1 病因論・病態モデル	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	4. 糖尿病の生化学的解析2 治療の分子ターゲット・最新の研究事例	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	5. 感染症の生化学的解析1 病原性微生物の貪食・殺菌作用のメカニズム	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	6. 感染症の生化学的解析2 抗酸菌感染の分子機序	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	7. 骨粗鬆症の生化学的解析1 病因論	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	8. 骨粗鬆症の生化学的解析2 病態モデル	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	9. 骨粗鬆症の生化学的解析3 治療の分子ターゲット	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	10. 骨粗鬆症の生化学的解析4 最新の研究事例	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	11. 腎臓疾患の生化学的解析1 病因論	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	12. 腎臓疾患の生化学的解析2 病態モデル	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	13. 腎臓疾患の生化学的解析3 治療の分子ターゲット	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	14. 腎臓疾患の生化学的解析4 最新の研究事例	論文を熟読し、発表内容を準備する。
	15. 最新の研究事例解析	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

講義での討論を通して、理解を深める。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業での発表評価	50	総合点が70点以上で合格
	課題の準備やレポート	50	

教科書:

特に指定しない。必要に応じてプリントなどの配布資料を配る。

参考書:

随時指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

電子メール等

授業テーマ:

医療薬学領域で必須とされる先端技術の修得

授業の概要:

医療薬学領域で必須とされる先端技術を修得しておくことは、将来いかなる分野で専門性を発揮する場合も有用である。本実習では、各担当教員の研究室を巡回することによって、各領域の最新の技術を修得する。

到達目標:

薬効薬理試験の最新技術(1～3)は藤井、毒性試験の最新技術と毒性評価・予測法(4～6, 9)、特にオーミックステクノロジーの応用は漆谷、病理組織標本(光顕、電顕)の作成法、特殊染色法や遺伝子マーカーを用いた診断・評価法(7, 8, 10～12)は高橋、環境物質の毒性発現解析法と微量分析法(13, 14)は木津、医薬品成分分析法(15)は前川が担当し、それぞれの技術が研究過程で必要になった時取り組めるように、また、関連論文の理解の一助となることを目標とする。漆谷を責任教員とし、実習全体の統括・評価を行う。

授業方法:

各研究室を巡回して技術指導を受けながら与えられた課題を実践する。実験実施時間に関しては担当教員と相談して適宜配分する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬効評価法1 摘出臓器を用いた評価	担当教員である藤井教授と事前に相談・討議しておく
2.	2.薬効評価法2 生体位での評価 — 遺伝子改変動物を用いて	担当教員である藤井教授と事前に相談・討議しておく
3.	3.薬効評価法3 薬物受容体解析法 — 突然変異導入受容体発現細胞を用いて	1～3をまとめて課題のレポートを作成
4.	医薬品毒性評価法1 in vivoにおける臓器障害評価・血液生化学 — データベースを活用したフェノタイプアンカリング法の実際	担当教員である漆谷教授と事前に相談・討議しておく
5.	医薬品毒性評価法2 in vitroにおける細胞毒性評価 — 遺伝子導入細胞を用いた毒性パスウェイ解析の実際	担当教員である漆谷教授と事前に相談・討議しておく
6.	医薬品毒性評価法3 遺伝子発現変化とバイオインフォマティクス — システムズバイオロジーをトキシコゲノミクスへ応用する	4～6をまとめて課題のレポートを作成
7.	病理診断:病理組織標本作成法 — 酵素抗体法・蛍光抗体法に応用できる固定・薄切・抗原賦活化	担当教員である高橋教授と事前に相談・討議しておく
8.	8.病理診断:電子顕微鏡標本作成法 — 細胞の超微細構造解析および免疫電顕への応用	担当教員である高橋教授と事前に相談・討議しておく
9.	病理診断:病理組織による病態評価1 薬物誘起性障害 — 細胞傷害の形態学および分子レベルでの解析	担当教員である高橋教授と事前に相談・討議しておく
10.	病理診断:病理組織による病態評価2 癌の診断・評価 — 癌細胞の悪性度・増殖速度の評価(mitotic index、labelling index、DNA合成に関与するタンパク群の発現、FACSとの組み合わせ)	担当教員である高橋教授と事前に相談・討議しておく
11.	病理診断:病理組織による病態評価3 血液学的評価 — 薬物治療における腫瘍マーカーと病態との関係性	担当教員である高橋教授と事前に相談・討議しておく
12.	病理診断:病理組織による病態評価4 in situ hybridization — 主としてfluorescence in situ hybridization (FISH)法により、腫瘍細胞の形態学的特徴やクローン性との関連について考察	7～12をまとめて課題のレポートを作成
13.	環境汚染物質の細胞毒性発現シグナル解析 — 毒物応答性核内受容体による発現制御	担当教員である木津教授と事前に相談・討議しておく
14.	環境汚染物質・生体成分の微量分析法	13～14をまとめて課題のレポートを作成
15.	医薬品品質評価のための成分分析法	担当教員である前川教授と事前に相談・討議しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

実習中適宜、及びコメントを付けたレポートの返却

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実験・課題レポート	100	与えられた課題の達成度

教科書:

参考書:

最新の関連文献をその都度指定

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

各担当教員の研究室を直接訪問する

授業テーマ:

医薬品開発時の安全性保証

授業の概要:

臨床での医薬品の安全な使用を保証するためには、分子レベルにおける毒性発現機構、生体防御機構の理解が必須である。これらの概説の後、医薬品使用時に臨床現場における有害作用発生を早期に察知し、これを軽微なうちに回避するのに必要な基礎知識を供する。また、安全性研究に導入されつつある最新技術、特に遺伝子解析やオミクス技術について解説し、医薬品を支える安全性試験についても即戦力となる知識と応用力を養う。

到達目標:

医療安全性に関する基礎・臨床の最先端英文論文を読解し、批判的に吟味する能力を身につけ、自身の研究テーマとの関連性において応用・考察することを可能とする。

授業方法:

前半は、学部授業で扱えなかった安全性関連の専門知識を講義し、後半は、最新の論文をレビューしながら最先端の研究動向を把握し、最後に課題論文について学生自身がレビューを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、安全性試験概論	学部における毒性・安全性に関する講義内容を復習しておくこと
2.	生体防御の分子機構1 酸化ストレス除去機構	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
3.	生体防御の分子機構2 異常タンパク質除去機構	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
4.	生体防御の分子機構3 アポトーシスの分子機構	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
5.	生体防御の分子機構4 遺伝子修復機構	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
6.	毒性発現機構:変異原性の分子機構	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
7.	臓器毒性各論1 肝臓毒性とその検定法	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
8.	臓器毒性各論2 腎臓、消化器毒性とその検定法	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
9.	安全性試験法の実際と関連論文のレビュー	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと。
10.	メタボロミクス、プロテオミクス手法による安全性評価と関連論文のレビュー	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
11.	最新の注目すべき英文論文のレビュー(1)	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
12.	最新の注目すべき英文論文のレビュー(2)	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
13.	課題論文の学生によるレビュー(1)	課題論文は、学期後半に与えられる
14.	課題論文の学生によるレビュー(2)	課題論文は、学期後半に与えられる
15.	課題論文の学生によるレビュー(3)	課題論文は、学期後半に与えられる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レビュー時に適宜

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	論文レビュー	100	論文内容の理解度と批判的論点の明確さ

教科書:

指定しない。関連論文は最新のものを適宜指定する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

憩水館6階、W606

授業テーマ:	薬効の科学的な解析法を学ぶ。																																		
授業の概要:	医薬品は基礎および臨床場でのバックグラウンドとして必須の知識を身につける。																																		
到達目標:	1. 臨床論文を読み進めるのに必要な統計解析法を理解し、実践できる(知識・技能)。 2. 受容体機能の解析法を説明できる(知識)。 3. 細胞内情報伝達の仕組みの解析法を説明できる(知識)。 4. 生理活性物質の機能と解析法を説明できる(知識)。 5. 生命倫理の観点から動物愛護と実験動物倫理について説明でき、実践できる(知識・態度)。 6. 薬理薬効試験法について説明できる(知識)。 7. 種々の病態モデル動物の有用性について説明できる(知識)。																																		
授業方法:	第1～3回授業を矢野、第4～15回授業を藤井が担当する。 パワーポイントもしくは配付資料にしたがって進める。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 生物統計学1 調査・解析方法の種類</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>2. 生物統計学2 解析方法の選択と解釈</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>3. 生物統計学3 臨床統計への応用と統計パッケージの利用方法</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>4. 薬物受容体理論と受容体機能解析法</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>5. 薬効評価の指標1:細胞内情報伝達系</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>6. 薬効評価の指標2:生理活性物質</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>7. 実験動物と動物試験、生命倫理</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>8. 薬効薬理試験法1 摘出臓器を用いた試験</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>9. 薬効薬理試験法2 培養細胞を用いた試験</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>10. 病態モデルと治療薬開発1 中枢性疾患</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>11. 病態モデルと治療薬開発2 循環系疾患</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>12. 病態モデルと治療薬開発3 消化器系・アレルギー性疾患</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>13. 病態モデルと治療薬開発4 遺伝子改変動物</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>14. 将来期待される治療薬の分子ターゲット</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr><tr><td>15. 最新の研究事例解析:基礎研究と臨床研究</td><td>事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 生物統計学1 調査・解析方法の種類	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	2. 生物統計学2 解析方法の選択と解釈	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	3. 生物統計学3 臨床統計への応用と統計パッケージの利用方法	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	4. 薬物受容体理論と受容体機能解析法	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	5. 薬効評価の指標1:細胞内情報伝達系	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	6. 薬効評価の指標2:生理活性物質	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	7. 実験動物と動物試験、生命倫理	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	8. 薬効薬理試験法1 摘出臓器を用いた試験	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	9. 薬効薬理試験法2 培養細胞を用いた試験	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	10. 病態モデルと治療薬開発1 中枢性疾患	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	11. 病態モデルと治療薬開発2 循環系疾患	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	12. 病態モデルと治療薬開発3 消化器系・アレルギー性疾患	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	13. 病態モデルと治療薬開発4 遺伝子改変動物	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	14. 将来期待される治療薬の分子ターゲット	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。	15. 最新の研究事例解析:基礎研究と臨床研究	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 生物統計学1 調査・解析方法の種類	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
2. 生物統計学2 解析方法の選択と解釈	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
3. 生物統計学3 臨床統計への応用と統計パッケージの利用方法	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
4. 薬物受容体理論と受容体機能解析法	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
5. 薬効評価の指標1:細胞内情報伝達系	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
6. 薬効評価の指標2:生理活性物質	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
7. 実験動物と動物試験、生命倫理	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
8. 薬効薬理試験法1 摘出臓器を用いた試験	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
9. 薬効薬理試験法2 培養細胞を用いた試験	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
10. 病態モデルと治療薬開発1 中枢性疾患	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
11. 病態モデルと治療薬開発2 循環系疾患	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
12. 病態モデルと治療薬開発3 消化器系・アレルギー性疾患	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
13. 病態モデルと治療薬開発4 遺伝子改変動物	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
14. 将来期待される治療薬の分子ターゲット	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
15. 最新の研究事例解析:基礎研究と臨床研究	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	毎回の授業で、予習しておくべき項目を指示するので、自主的に様々な資料にあたって専門用語や進捗状況を理解しておくように努力しておくこと。特に英語論文を資料として用いることが多いので、できる限り不明な語彙の意味は調べておき、最低限、実験方法および図・表の内容を確認しておくこと。 授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。 なお、追加の指示がある場合には、授業時に資料として配付するとともに、マナビーに情報をアップロードするので常に確認すること。																																		
フィードバックの方法:	前回の授業内容に対する質問・疑問等への回答を授業の冒頭に紹介する。講義の各段階において、基礎事項の理解度や学習達成度を確認するレポートを課す。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート課題</td><td>100</td><td>講義の各段階において、基礎事項の理解度や学習達成度を確認するレポートを課す。レポート課題への作成の取組み方(10%)、理解度(20%)などを基に、その内容(70%)を総合的に評価する。レポート未提出者は評価の対象外となる。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート課題	100	講義の各段階において、基礎事項の理解度や学習達成度を確認するレポートを課す。レポート課題への作成の取組み方(10%)、理解度(20%)などを基に、その内容(70%)を総合的に評価する。レポート未提出者は評価の対象外となる。																												
評価方法	割合	評価基準																																	
レポート課題	100	講義の各段階において、基礎事項の理解度や学習達成度を確認するレポートを課す。レポート課題への作成の取組み方(10%)、理解度(20%)などを基に、その内容(70%)を総合的に評価する。レポート未提出者は評価の対象外となる。																																	
教科書:	特に指定しない。																																		
参考書:	授業中に適宜紹介する。																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力																																		
教員との連絡方法:	オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室(憩水館6階W602)まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール(tfujii@dw.doshisha.ac.jp)にて事前に連絡の方が望ましい。																																		

準備学習等の内容

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

授業テーマ:

医薬品の開発及び品質確保

授業の概要:

「レギュラトリーサイエンス」の概念を説明し、それを踏まえて、医薬品開発・医薬品の品質及び安全性、医薬品の品質試験法に関する各種ガイドラインの概要を講義し、更には医薬品の新しい品質評価の在り方や医薬品開発における薬局方の役割について教授する。

到達目標:

医薬品の開発、製造、品質確保、有効性及び安全性の保証に関わる行政的規制基準はその多くが科学的合理性の下で国際的に調和されたものであることを理解し、科学技術の進展に伴う新機能剤形医薬品の品質確保などに要求される新たな規制基準の策定や医薬品承認審査業務などに対応できる知識と能力を養成する。

授業方法:

講義とディスカッションを組み合わせる授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:レギュラトリーサイエンスとは	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
2.	医薬品開発に関するGXP・ガイドラインとその国際調和	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
3.	医薬品の品質及び安全性の確保に関するGXP・ガイドラインとその国際調和	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
4.	医薬品の試験方法並びに判定基準に関するGXP・ガイドラインとその国際調和	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
5.	事例研究	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
6.	医薬品の有効性と安全性を担保するための品質規格に求められる要件	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
7.	医薬品の品質評価のあり方と新しい品質評価技法	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
8.	新機能剤形医薬品に求められる品質評価技法	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
9.	事例研究	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
10.	日本薬局方の役割及び構成等の変遷並びに外国薬局方との比較	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
11.	薬局方の国際調和	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
12.	薬局方の医薬品製造販売承認審査における役割と利用	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
13.	医薬品製造販売承認審査システムの国際比較	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
14.	自然科学的合理性と社会科学的視点に立脚した医薬品製造販売承認審査	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
15.	総合討論	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」(豊島・黒川 編著:南山堂)を読み、授業内容部分を予習及び復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

課題に対するレポートの講評、個別質問に対する担当教員の見解を講義前に行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	口頭試問	50	全出席を前提とし、質疑応答態度を含めて評価する。
	出題課題へのレポート	50	レポート提出を前提とし、その内容を評価する。口頭試問の成績と合わせて70点以上で合格とする。

教科書:

特に指定しない。授業ごとに資料を配布する。

参考書:

医薬品のレギュラトリーサイエンス(豊島・黒川 編著:南山堂)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

E-mailでの対応、研究室での対面対応。

授業テーマ:

環境物質の有害作用発現の分子機構を理解する

授業の概要:

身の回りの有害化学物質について、その有害作用が発現される分子機構ならびに有害作用の評価法に関する先端知識を習得する。更に、講義内容に関連した最新の研究論文を題材として、研究の着眼点、実験方法、得られた結果に対する考察などについて討論する。

到達目標:

代表的な有害化学物質について、有害作用発現の分子メカニズムを説明できる。
代表的な有害作用評価法について原理や操作について説明できる。

授業方法:

講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、その内容に従って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを用いて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、生態系と環境物質概論	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
2.	環境毒性物質各論1 重金属	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
3.	環境毒性物質各論2 農薬	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
4.	環境毒性物質各論3 大気汚染物質・室内環境とシックハウス	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
5.	環境毒性物質各論4 天然毒性物質	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
6.	微量物質の分析・検出法	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
7.	リスク評価法1 環境物質、食品添加物、残留農薬の疫学	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
8.	リスク評価法2 医薬品のリスク評価とメガスタディー	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
9.	ダイオキシンとAh受容体の分子機構	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
10.	内分泌攪乱物質の分子機構	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
11.	変異原性物質のリスク評価法	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
12.	環境汚染物質と代謝活性化	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
13.	食物連鎖と生体内蓄積	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
14.	最新の研究事例解析1 毒性メカニズム	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
15.	最新の研究事例解析2 環境アセスメント	今回の講義内容を復習し理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

質問事項については随時、講義室または研究室で対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
	レポート	50%	到達目標を踏まえつつ、課題を論理的に分かりやすく説明できているかを基準として評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

Eメール: rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応。

授業テーマ:	薬物体内動態の変動要因の理解と薬物治療への反映		
授業の概要:	医薬品を臨床で使用する場合、薬剤師が直面するのは多くが薬剤学的問題である。適切な薬物治療を施すには、薬が体の中でどのように動き、どのように効くのかを理解しなければならない。また、実践的な医薬品の使用は様々な病態のもとでの使用となるので、病態が薬物の体内動態に如何に影響を及ぼすかを理解することは、適切な薬物治療を遂行する上で重要である。さらに、医薬品は適切な製剤設計のもとで供給されるので、その剤形の特徴を深く理解することはより適切な薬物治療につながる。本講では、基礎と臨床の間をつなぐべく、薬物動態学および製剤設計学に関連する基礎知識、薬物体内動態の変動要因、薬物体内動態に対する病態の影響を理解するとともに、医薬品の相互作用に関する最近の重要な知見とその臨床的意義を考察し、医療の担い手としての薬剤師に要求される実践的専門知識について総合的に理解を深める。更に、臨床薬物速度論に立脚し、薬物血中濃度モニタリングなど、薬剤師による薬物投与計画を実践する上で必要な知識・技能について理解を深める。		
到達目標:	様々な病態における様々な薬物の投与設計法を学修する		
授業方法:	基礎理論を説明した後に、臨床症例を用いた演習をおこなう。随時、小テストおよびレポートを課す。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、概論	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	2. 薬物吸収・分布研究法:基礎と臨床応用	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	3. 薬物代謝・排泄研究法:基礎と臨床応用	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	4. 薬物体内動態とその変動要因(1):トランスポーター、代謝酵素	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	5. 薬物体内動態とその変動要因(2):剤型、投与経路、病態	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	6. 薬物速度論的解析法:ADMEデータの取り扱い、コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、母集団解析法、薬物血中濃度予測法	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	7. 肝・腎・心疾患時の薬物体内動態	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	8. 高齢者・小児・妊婦での薬物体内動態	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	9. ドラッグデリバリーシステムによる薬物体内動態制御	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	10. 薬物動態学的相互作用(1):吸収過程・分布過程で起こる相互作用	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	11. 薬物動態学的相互作用(2):代謝・排泄過程で起こる相互作用	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	12. 薬物動態とSNPs解析(1):SNPと薬剤応答性、SNPとEvidence-Based Medicine	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	13. 薬物動態とSNPs解析(2):薬物動態・作用に関係したSNPsの実例	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	14. 臨床現場での血中濃度モニタリングと薬物投与計画および処方設計	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。	
	15. まとめと総合討論		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	講義中に行う		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プレゼンテーション	40%	課題に対するプレゼンテーション(40%)およびレポート(60%)により評価する。
	レポート	60%	課題に対するプレゼンテーション(40%)およびレポート(60%)により評価する。
教科書:	特に指定はしないが、必要なプリントは講義ごとに配布する。		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		

教員との連絡
方法:

質問等は、nshibata@dwc.doshisha.ac.jp まで。

授業テーマ:	感染症の予防と治療における抗菌薬・抗真菌薬の適正使用とその支援 (antimicrobial stewardship)のあり方を考える。		
授業の概要:	感染症の概論から始め、感染防止の一般的な問題から、感染症が発生した場合の原因病原微生物に対する適切な薬剤選択に至るまでの諸問題に関して、総合的に解説した後、臨床現場における感染制御および治療の事例研究を通じて、応用力を養う。 抗菌化学療法認定薬剤師(日本化学療法学会)やInfection Control Doctorの資格取得を念頭においた講義として位置づけられる。		
到達目標:	髄膜炎、敗血症、発熱性好中球減少症、クロストリディウム・ディフィシル感染症といった重症感染症を中心に、それらの診断、エンピリック治療のあり方、ターゲット治療のあり方を修得し、典型症例について適正処方を提案できるようになる。		
授業方法:	パワーポイント映写とそのハンドアウト資料を用いた講義、ならびに提示された各症例を題材としたteam-based learning形式の演習。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、感染症概論	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)	
	2. 臨床で問題となる感染症と宿主応答機構	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)	
	3. 医療関連感染サーベイランス	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)	
	4. 我が国における死因第3位の肺炎:HAP、CAP、NHCAPの概要と治療ガイドライン	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)	
	5. 髄膜炎の概要と治療ガイドライン	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)	
	6. 発熱性好中球減少症の概要と治療ガイドライン	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)	
	7. 敗血症とSARS: 臓器障害発症時とaugmented renal clearance発現時の抗菌薬の動態変動と処方のあり方	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)	

8.	クロストリジウム・ディフィシル感染症の概要と治療戦略	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)
9.	深在性真菌症の概要と治療戦略	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)
10.	抗菌薬による感染症治療の実例(ケーススタディー) 1	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)
11.	抗菌薬による感染症治療の実例(ケーススタディー) 2	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)
12.	抗菌薬による感染症治療の実例(ケーススタディー) 3	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)
13.	抗菌薬による感染症治療の実例(ケーススタディー) 4	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)
14.	抗菌薬による感染症治療の実例(ケーススタディー) 5	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)
15.	最新の研究事例解析とまとめ	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。 1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み) 2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み) 3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)

受講者への
メッセージや
アドバイス:

感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1)～3)に示す基本的知識の復習が必須となる。

1)薬物血中濃度モニタリング(TDM)に基づく投与設計のあり方(学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み)

2)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)

3)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み)

フィードバックの方法:	各回ごとのレポートを査読し、添削とともに採点し、コメントを添えて返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	50%	到達目標に掲げた知識や理解度あるいは技能について、一定水準に到達しているかという点を主体としてレポートに記述されている内容で評価する。
	まとめの口頭試問	50%	到達目標に掲げた知識や理解度あるいは技能について、一定水準に到達しているかという点について、14回の講義・演習内容に関する口頭試問を通して評価する。
教科書:	毎回、資料を配布する。		
参考書:	日常診療に役立つ抗感染症薬のPK-PD 戸塚恭一 監修 ユニオンエース社 感染症のチーム医療 専門医の処方意図を探れ 三笠桂一、森田邦彦 編集 南江堂		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	オフィスアワー、Eメール		

授業テーマ:	医薬品情報の収集と解析法		
授業の概要:	様々な医薬品情報の収集法と活用する方法を理解する。国内外の安全性情報についても、収集と活用する方法を理解する。医療関連文献の評価と活用については、要約・序論・実験方法・結果・討論・結論について学ぶ。Evidence Based Medicineと医薬品情報については、評価方法について理解すし、また医薬品情報をチーム医療で活用することを学ぶ。		
到達目標:	薬品はそれに関する情報と一体となって初めて有効性と安全性が臨床の場で保証される。その情報が基礎・臨床のエビデンスに裏付けられている必要がある。本講義によって、医薬品情報に関する基本知識・技術を学習した後、最終的に医療現場における薬剤師活動に活かすことのできるEBMの実践方法を習得する。		
授業方法:	講義 演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、医薬品情報概論		
	2. 医薬品開発と医薬品情報		
	3. 医薬品情報と薬事制度		
	4. 医薬品情報の収集と活用1		
	5. 医薬品情報の収集と活用2		
	6. 安全性情報と薬剤疫学 1		
	7. 安全性情報と薬剤疫学 2		
	8. 医療関連文献の評価と解析: 要約と序論		
	9. 医療関連文献の評価と解析: 実験方法, 結果の提示		
	10. 医療関連文献の評価と解析: 討論と結論		
	11. 医療関連文献の評価と解析: 討論と結論		
	12. 医療情報と薬剤経済		
	13. Evidence Based Medicineと医薬品情報1		
	14. Evidence Based Medicineと医薬品情報2		
	15. チーム医療の実際		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室内でまとめて解説する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50%	
	レポート	50%	到達目標の理解度を評価する
教科書:	特に定めない		
参考書:	必要時配布		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	臨床現場における感染症と癌化学療法の実践		
授業の概要:	前半の抗菌化学療法部分は、奈良県立医科大学附属病院・感染症センターにおける感染症研修プログラムに参画する形で、後半の癌化学療法部分は同・腫瘍センターにおける化学療法研修プログラムに参画する形で実習をおこなう。本学の教員は、前半を感染制御薬剤師である森田が、後半をがん指導薬剤師である中西が担当する。		
到達目標:	実際の医療現場において、感染症の化学療法、および癌の化学療法に関して、治療チームの一員として参画し、感染症領域においては抗菌化学療法の処方提案等、いわゆるantimicrobial stewardshipの実践、癌化学療法においては患者個々のレジメンのチェックの実践、をそれぞれ通して、薬剤師としての先端的能力を修得する。		
授業方法:	奈良県立医科大学附属病院での研修。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、施設見学	学部生当時に体験済みの実務実習、特に病院実習に関わる資料(実習日誌やテキスト等)をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。	
	2. 感染症センター:感染管理業務	原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aおよび感染制御処方学特論で修得済み)、学部生当時の科目、臨床薬剤学Ⅰ、院内感染対策特論等、関連科目を復習しておく。	
	3. 感染症センター:HIV診療	学部生当時の科目、臨床薬剤学Ⅰ、院内感染対策特論等、関連科目を復習しておく。	
	4. 感染症センター:寄生虫診療	学部生当時の科目、薬物治療学等、関連科目を復習しておく。	
	5. 感染症センター:ワクチン外来・トラベルクリニック	各種抗ウイルス薬の基礎知識(学部3年次の臨床薬剤学Ⅰや学部6年次の特論などの学部教育で修得済み)、学部生当時の科目、院内感染対策特論等、関連科目を復習しておく。	
	6. 感染症センター:一類感染症とその対応	選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aおよび感染制御処方学特論で修得済み)、学部生当時の科目、院内感染対策特論、微生物学等、関連科目を復習しておく。	
	7. 感染症センター:多剤耐性菌とその対応(細菌学研究室)	学部生当時の科目、臨床薬剤学Ⅰ、院内感染対策特論等、関連科目を復習しておく。	
	8. 感染症センター:まとめと発表会	第7回までの実践内容を総括するとともに、学部生当時の薬学研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して修得済みのプレゼンテーションの技能を見直しておく。	
	9. 腫瘍センター:がん化学療法レジメンの実際1	がん化学療法の基礎知識(学部4年次の臨床薬剤学Ⅱや6年次の特論などの学部教育で修得済み)を復習しておく。	
	10. 腫瘍センター:がん化学療法レジメンの実際2	がん化学療法の基礎知識(学部4年次の臨床薬剤学Ⅱや6年次の特論などの学部教育で修得済み)を復習しておく。	
	11. 腫瘍センター:抗体療法の実際1	がん化学療法の基礎知識(学部4年次の臨床薬剤学Ⅱや6年次の特論などの学部教育で修得済み)を復習しておく。	
	12. 腫瘍センター:抗体療法の実際2	がん化学療法の基礎知識(学部4年次の臨床薬剤学Ⅱや6年次の特論などの学部教育で修得済み)を復習しておく。	
	13. 腫瘍センター:副作用軽減手法	がん化学療法の基礎知識(学部4年次の臨床薬剤学Ⅱや6年次の特論などの学部教育で修得済み)を復習しておく。	
	14. 腫瘍センター:緩和ケア	がん化学療法の基礎知識(学部4年次の臨床薬剤学Ⅱや6年次の特論などの学部教育で修得済み)を復習しておく。	
	15. 腫瘍センター:まとめと発表会	11週間の実務実習を通して修得した各医療職種間の基本的コミュニケーション技能を含めて総括しておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	感染症あるいは悪性腫瘍に罹患した患者と向き合う臨床現場での実習を主体とする以上、下記1)～5)に掲げる各領域で用いられる薬剤に関する基本的知識はもとより、医療人としての基本的態度も含めた復習が必須となる。 1)原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aおよび感染制御処方学特論で修得済み) 2)選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方(実践的薬剤処方解析学実習Aおよび感染制御処方学特論で修得済み) 3)各種抗ウイルス薬の基礎知識(学部3年次の臨床薬剤学Ⅰや学部6年次の特論などの学部教育で修得済み) 4)がん化学療法の基礎知識(学部4年次の臨床薬剤学Ⅱや6年次の特論などの学部教育で修得済み) 5)11週間の実務実習を通して修得した各医療職種間の基本的コミュニケーション技能		
フィードバックの方法:	各回ごとのレポートを査読し、添削とともに採点し、コメントを添えて返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート内容	50%	到達目標に掲げた知識や理解度あるいは技能について、一定水準に到達しているかという点を主体としてレポートに記述されている内容で評価する。
	まとめ・発表会	50%	到達目標に掲げた知識や理解度あるいは技能について、一定水準に到達しているかという点を主体としてプレゼンテーションの内容で評価する。
教科書:	各回、適宜、資料が配布される。		
参考書:	三笠桂一、森田邦彦 編集、「感染症のチーム医療 専門医の処方意図を探れ!」、南江堂。 日常診療に役立つ抗感染症薬のPK-PD 戸塚恭一 監修 ユニオンエース社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール、オフィスアワー		

授業テーマ：	道徳教育における理論的かつ実践的指導方法についての考察		
授業の概要：	本科目においては、児童生徒の道徳性を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念(道徳あるいは道徳教育の意義、日本における道徳の歴史的変遷の視点、道徳性の発達、道徳規範、道徳教育における理論ならびに方法、これからの学校教育における道徳教育のあり方)を考察する。さらに、道徳の時間における指導方法や指導計画、指導内容(資料活用、発問作成)について学んでいく。		
到達目標：	児童生徒の道徳性(道徳的心情・判断力・実践意欲と態度など)を育成するための道徳教育の基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を確実に身につける。さらに、道徳授業の指導方法や指導内容に対応した指導案作成(資料活用、発問作成など)や模擬授業の基本的技能を修得できるようになること。		
授業方法：	講義と平行して、指導案を基にして、集団討議や模擬授業等を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容		準備学習等の内容
	1. 道徳教育の意義、目標		シラバスを事前に読んでおくこと。
	2. 道徳教育の歴史		事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
	3. 道徳教育と学習指導要領		事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
	4. 道徳性の発達		事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
	5. 道徳性と社会規範		事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
	6. 道徳教育の方法Ⅰ(モラルジレンマ方式)		事前に配布している資料を使って復習をし、道徳教育の方法についての資料を読んでおくこと。
	7. 道徳教育の方法Ⅱ(価値明確化方式)		事前に配布している資料を使って復習をし、道徳教育の方法についての資料を読んでおくこと。
	8. 道徳授業の指導Ⅰ(教材の活用方法)		事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
	9. 道徳授業の指導Ⅱ(指導案作成の手順)		事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
	10. 道徳授業の指導Ⅲ(道徳授業の発問構成)		事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
	11. 道徳授業の指導Ⅳ(モラルスキルトレーニング活用授業)		事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
	12. 教育活動全体と道徳教育		事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
	13. 道徳教育における評価		事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読して自分なりに道徳教育の課題を考えておくこと。
	14. 道徳教育の課題		事前に配布している資料を使って復習をしておくこと。
	15. まとめ		自分なりに授業内容の総括をしておくこと。
受講者へのメッセージやアドバイス：	各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。		
フィードバックの方法：	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
	指導案作成・提出	20%	課題に対応した指導案作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。
	発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。
	定期試験	50%	道徳教育の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。
教科書：	金光靖樹、佐藤光友編著『やさしく学ぶ道徳教育』(ミネルヴァ書房) 文部科学省 著『中学校学習指導要領解説 道徳編』(日本文教出版)		
参考書：	授業中、適宜指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力		
教員との連絡方法：	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:	自己の生き方を見つめる
授業の概要:	道徳に対する幅広い教養を身に付け、生き方の教育としての道徳教育を、自分自身との関わり、他の人との関わり、社会との関わり、自然や生命との関わりを通して考え、常に道徳指導を意識する。
到達目標:	道徳に関する事柄や用語の意味を理解し、深く考える。 規範等を理解し、その指導方法を考案するとともに、自己管理能力を養う。 レポート作成を通して思考力を養う レポート交換を通してコミュニケーション力を養う。
授業方法:	○講義形態を基本とする。 ○座席指定し、出欠、遅刻、態度などを確認する。 ○eラーニングシステム・タイズによって、授業資料、参考資料、レポート課題等を提示する。 ○規定のフォーマットで作成したレポートを、提出前に交換して感想を書き合う。 ○提示した練習問題に解答し、友人同士で確認し合う。正解は提示しない。 ○理論的な内容から実践的な内容へと進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:授業の役割、授業の展開、評価の方法、マナー、タイズの登録方法などを解説する。	シラバスを授業前に読んでおく。
2.	特設道徳の年間実施の実際:中学校を例に、年間の道徳授業の主題や内容の実際を体験的に解説する。	タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。レポート1を作成する。
3.	道について:道の歌や道の絵を鑑賞し、道の字源を考え、空間の道と時間の道について考察する。	タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。レポート2を作成する。
4.	徳、道徳について:徳について多角的に考え、道徳の出席や意義などを解説する。	テキストの指定箇所を通読。タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。レポート3を作成する。
5.	道徳教育の歴史:第2次世界大戦以前の修身の成立とその変遷、道徳との関係などを解説する。	テキストの指定箇所を通読。タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。レポート4を作成する。
6.	「学習指導要領」における道徳:戦後の「学習指導要領」における道徳の変遷と現行の「学習指導要領」における道徳を解説する。	テキストの指定箇所を通読。タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。レポート5を作成する。
7.	道徳教育の目標としての道徳性:道徳性の発達に対する諸学説を紹介し、特にN.J.ブルの発達理論を詳説する。	テキストの指定箇所を通読。タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。レポート6を作成する。
8.	自律と良心:自律と良心を考察し、良い心と良心の違い、漢字の良心の意味、conscienceの訳語としての良心を区別し、学生に自身の良心を振り返らせる。	テキストの指定箇所を通読。タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。レポート7を作成する。
9.	道徳教育の内容項目:一例として挨拶・礼儀について考察する。	タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。レポート8を作成する。
10.	道徳科・1時間の授業1:台詞創作法による道徳授業について実践報告、道徳学習指導案の書き方を解説する。	タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。レポート9を作成する。
11.	道徳科・1時間の授業2:台詞創作法による道徳授業について実践報告、道徳学習指導案の書き方を解説する。	タイズから指定箇所をプリントする。レポート10として道徳学習指導案を作成を開始する。
12.	「たとえ」と教育:教育方法の原理としての「たとえ」を論じ、道徳の指導方法としての「役割演技」の理解につなぐ。	タイズから指定箇所をプリントする。レポート10として道徳学習指導案を完成する。
13.	道徳の指導方法:特に「役割演技」の道徳指導における実践的な意義と日常生活における意味について考察する。	タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。
14.	マイクロティーチング:代表者3名に道徳授業のマイクロティーチングを実施してもらい。その他の受講生は児童生徒であると同時にコメンテーターとして、評点、コメントを記入する。	3名のマイクロティーチャーは10分間のマイクロティーチングを準備する。他の学生は3つの道徳教材並びに各自の指導案を再度読返す。
15.	道徳指導者としての教員の資質と資格:教員免許の意味、知識教養の視点、指導技術の視点、心構えの視点などを解説する。	テキストの指定箇所を通読。タイズの指定箇所をプリントする。練習問題に解答する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業中に細かい規定、規格を指示、提示する。規定外、規格外は不注意と見做す。

フィードバックの方法: ○レポートは提出前に学生同士で交換し、感想を書き合う。
○レポートは興味を持って読んだ箇所に下線を引き返却する。
○レポートの一部はネットに無記名で公開する。
○練習問題は正答を提示しない。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	25問。解答を300語から選択。用語や基礎概念の理解度を問う。
	レポート	40	指定フォーマットに即して10通を作成、印刷したレポートを提出前に学生同士読み合い、コメントを記入する。
	授業への参加度	10	遅刻、欠席、授業態度などを評価する。
	発表		マイクロティーチャーは加点する。

教科書: 小寺正一、藤永芳純編著『四訂・道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社、2016
文部科学省『中学校学習指導要領解説道徳編 平成20年9月』日本文教出版

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
教員との連絡
方法:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、

sun246ra@mbox.kyoto-inet.or.jp

授業テーマ:

未来の教師に求められる英語科教育指導法の理論について理解を深める

授業の概要:

英語科教科教育法における知識を養う。

到達目標:

この授業では、以下の3点を目標とする。
(1)日本の(小学校)中学校・高等学校教育における英語教育の歴史、理念及びそのシステムについての理解を深める。その際、Course of Study (学習指導要領)についても理解を深める。
(2)英語教育指導法及びその理論的背景について、Oral Approachや Communicative Language Teaching など現在有力と考えられる教授法に焦点を当てながら、理解を深め、日本人英語学習者に適した指導法が検討できるようにする。また、評価・テストのあり方についても理解を深める。
(3)その他、教師論、評価論、教科書の活用法、言語材料について理解を深める。

授業方法:

講義中心の授業を進めるが、イメージがわきやすいように、AV教材の使用や、受講者自身が実際に指導方法を実演する機会もできるだけ設ける。また、知識を確認するために毎回クイズを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 日本における英語科教育の目的	
	2. 日本における英語科教育の歴史	
	3. 英語教授法の歴史と主な教授法	指定されたテキスト範囲に関するクイズ①
	4. 主な教授法の理論的背景 (1)	指定されたテキスト範囲に関するクイズ②
	5. 主な教授法の理論的背景 (2)	指定されたテキスト範囲に関するクイズ③
	6. 主な教授法の理論的背景 (3)	指定されたテキスト範囲に関するクイズ④
	7. 主な教授法の理論的背景 (4)	指定されたテキスト範囲に関するクイズ⑤
	8. その他の教授法の理論的背景 (5)	指定されたテキスト範囲に関するクイズ⑥
	9. その他の教授法の理論的背景 (6)	指定されたテキスト範囲に関するクイズ⑦
	10. 考慮すべき学習者要因(第二言語習得理論からの知見)について	指定されたテキスト範囲に関するクイズ⑧
	11. 教師の果たす役割(英語教育教師論)と英語教科書の効果的な活用方法について	指定されたテキスト範囲に関するクイズ⑨
	12. 言語材料(語彙・発音・文法・文字)の教え方について	指定されたテキスト範囲に関するクイズ⑩
	13. 評価について	指定されたテキスト範囲に関するクイズ⑪
	14. 学級運営について	指定されたテキスト範囲に関するクイズ⑫
	15. まとめ	

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

第1週目の授業で配布されるシラバスに沿って予め教科書を読み、第3週目から開始するクイズの準備を各自で行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	クイズ	30%	クイズの平均点を評価に加える。
	課題2種	10%	2種類の課題提出を評価に加える。
	学期末テスト	60%	
			英語教師として必要な一定以上の English proficiency を3年生秋学期末までに身につけていることが望まれる。具体的には、TOEICやTOEFL、英検など英語標準化テストのスコアの提出を求める。

教科書:

メインの教科書:ハンドアウト
高校教科書、Revised Sailing: Oral Communication I、(啓林館)
高校教科書、Crown English Series I、(三省堂)
中学教科書、New Horizon 1-3、(東京書籍)

参考書:

適宜紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

未来の教師に求められる英語科教科教育法の理論について理解を深める。

(1) 英語科教科教育法Aで学んだ英語教授法を実際に活用・応用出来るよう、模擬授業を行い実践的能力の育成を計る。
(2) 学習指導案の書き方(日本語・英語)を身につける。
(3) 次年度の教育実習に備え、英語運用能力(特にスピーキング能力)を各自確認し、教育実習生としての心構えを知る。

(1) 中学・高校における英語の指導方法を研究し、来年度の教育実習に備えて、実習生としての心構えと指導法や指導技術を習得する。具体的には、中学・高校の英語の指導方法を体得するために毎回模擬授業を中心に授業を通してそれらの技術を会得する。教師役を演じる受講者は毎回の模擬授業を通して得られる反省を通して、教師としての心構えと指導技術の基礎を築くことを目標とし、生徒役を演じる受講者は教師役の指導法を生徒の視点から観察・議論することにより、自己啓発を行い、授業観察の視点を養う。
(2) 模擬授業実施者は、中学・高校のテキストを使用し、指導案および提示教材・配布教材を作成し、模擬授業を実施する(模擬授業は2人または3人で50分の授業を行う予定)。模擬授業の後、指導法に対して指導者側及び生徒側からの意見を交換する。生徒側は、各担当者の授業に対する評価表を提出する。模擬授業実施者は、授業を振り返り、リフレクション・レポートを提出する。

授業内容	準備学習等の内容
1. 模擬授業オリエンテーション	
2. 学習指導案の書き方(1):日本語	モデル・リーディング発表
3. 学習指導案の書き方(2):日本語	モデル・リーディング発表
4. 学習指導案の書き方(3):英語	モデル・リーディング発表
5. これからの日本における英語授業に求められる要素とは?	モデル・リーディング発表
6. 模擬授業と授業についての評価・ディスカッション(1)	模擬授業リハーサル
7. 模擬授業と授業についての評価・ディスカッション(2)	模擬授業リハーサル
8. 模擬授業と授業についての評価・ディスカッション(3)	模擬授業リハーサル
9. 模擬授業と授業についての評価・ディスカッション(4)	模擬授業リハーサル
10. 模擬授業と授業についての評価・ディスカッション(5)	模擬授業リハーサル
11. 模擬授業と授業についての評価・ディスカッション(6)	模擬授業リハーサル
12. 模擬授業と授業についての評価・ディスカッション(7)	模擬授業リハーサル
13. 模擬授業と授業についての評価・ディスカッション(8)	模擬授業リハーサル
14. 模擬授業と授業についての評価・ディスカッション(9)	模擬授業リハーサル
15. 模擬授業と授業についての評価・ディスカッション(10)	模擬授業リハーサル

授業ではグループディスカッションおよび発表を行う。ペアまたはグループで、模擬授業を行うための指導案を作成し、リハーサルを経て、模擬授業を行う。共同作業に対し積極的、協力的な姿勢が各受講生に求められる。模擬授業は生徒役の受講生により評価される。

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	30%	授業への貢献度、協力的姿勢など評価する。
夏期課題およびモデルリーディング	20%	夏期課題およびモデルリーディングを評価に加える。
教案作成(日本語・英語)	15%	2つの教案を評価に加える。
模擬授業および事後の各 自の振り返りレポート	35%	模擬授業および振り返りレポートを評価する。

なお、英語教師として必要な一定以上の English proficiency を秋学期末までに身につけていることが望まれる。具体的には、TOEICやTOEFL、英検など英語標準化テストのスコアの提出を求める。

英語科教科教育方法Aに同じ。

横溝紳一郎編著、生徒の心に火をつける、(教育出版)
田尻悟郎、英語授業改革論、(教育出版)
北原延晃、英語授業の『幹』をつくる本:上下巻、(ベネッセコーポレーション)
太田洋、英語を教える50のポイント、(光村図書)
中嶋洋一、英語好きにする授業マネージメント30の技、(明治図書)
高梨庸雄他、教室英語活用辞典、(研究社)

分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

国語科教育にかかわる教授内容及び教授法について

本講座では、前半は講義を中心に、後半は学生による模擬授業を中心にしながら、折にふれて現場の実例も紹介して、望ましい国語科教育や国語科教員像について共に考える。そのためにも、まずは学習指導要領(中学校・高等学校の国語科)の理念や内容を正確に把握・理解し、実際の国語科教育に生かす力や手法を考えていく。また、後半では、受講者全員に、授業計画や学習指導案の作成、模擬授業、小論文などを課す予定である。

A. 知識・理解
教材理解に必須となる基礎知識はもとより、歴史や社会的な諸問題についても認識を深め、教材を多面的に理解・把握することができるようになること。

B. 表現・技能・能力
教材観を深め、その教材に関して適切な指導ポイント・計画・発問・問題作成等ができるようになること。

C. 関心・意欲・態度
日常生活の中で、文学や言葉(国語)に関する多様な情報に敏感になり、様々な課題を発見できるようになること。国語科教員になるべく、多様な体験や読書習慣を身につける素地を養うこと。

第1回から第7回までは講義。第8回から第14回までは、受講者が順に模擬授業をおこなう(他の受講者は「生徒役」として積極的に参加すること)。第15回は、春学期の総括として、主に模擬授業を総括するとともに、国語科教員に求められるもの等について考察する。

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス(本講座の目標、授業方法と予定、評価方法等)	国語科教員を志望する理由について、自己の内面を改めて掘り下げて整理しておく。
2. 学習指導要領の位置付け及びその内容について	配布資料を予め熟読する。
3. 教科書・指導計画及び学習指導案・評価等について	学習指導案について、実際に作成の練習をする。
4. 国語の授業について(発問、指示、板書、ノート指導、ワークブック等)	自分が受けた国語の授業を想起し、印象に残ることや効果的だったと思われることについて整理する。
5. 国語の授業について(「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の授業)	自分が受けた国語の授業を想起し、印象に残ることや効果的だったと思われることについて整理する。
6. 国語の授業について(「読むこと」の授業)	自分が受けた国語の授業を想起し、印象に残ることや効果的だったと思われることについて整理する。
7. 国語の授業について(「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の扱い方)	自分が受けた国語の授業を想起し、印象に残ることや効果的だったと思われることについて整理する。
8. 受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
9. 受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
10. 受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
11. 受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
12. 受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
13. 受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
14. 受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
15. 総括	国語科教員の役割とはどのようなことか、自分なりに考察する。

・「皆出席」が単位認定の大前提である。
・中高の国語科教員を強く志望している学生に登録・受講してほしい。

模擬授業に関するコメントペーパーを毎回記入。すべてのコメントを印刷して、次の授業で全員に配布。

評価方法	割合	評価基準
模擬授業	30	到達目標A及びBを理解したうえで、十分な準備をおこない、真面目に取り組んでいるかを評価する。
提出物(学習指導案や小論文等)	20	到達目標B及びCを理解したうえで、学習指導案の作成はもとより、国語科教員の役割等についても考察を深め、それを表現できるかを評価する。
授業参加態度	50	到達目標Cをよくふまえたうえで、国語科教員になりたいとの強い志望が滲み出た真摯で意欲的な態度を評価する。

なし

文部科学省編『中学校学習指導要領解説 国語編』
文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 国語編』

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

Eメール(連絡先アドレスは授業で通知する)を利用。授業前後に教室内で対応。

授業テーマ:

教科教育における実践的な方法の研究

授業の概要:

本講座は、次年度の教育実習、さらに教職の現場で実際の授業をしていく上で必要な、教材研究、指導案の作成、授業の実際の場面を想定した指導のあり方を具体的に学習していく場とする。
古文、漢文、現代文の評論、物語、韻文などさまざまなカテゴリーを、中等教育の年齢に即して具体的に学習していく。その中で、現在の教育現場での課題や問題点、またそのことに対し自分はどうのような姿勢をとらうのか考えてほしい。教職に進むことを希望する人ばかりでなく、教育という視点を通じて人と関わることの大切さや楽しさに思いを巡らせてほしいと願っている。

到達目標:

1 教材を租借し自分がその教材を通じて何を伝えたいのか、教材観にまとめることができる。(知識・理解・表現)
2 具体的な指導目標を設定し、配当時間を考え、指導案を作成することができる。(思考力、立案能力)
3 作品の特性を考慮しつつ、さまざまな指導の可能性を考えることができる。(レクチャー・調べ学習・グループ学習・発展学習など、この作品に即して考える。)
4 時間配分、授業のポイントを考えながら、板書例を作成することができる。
5 作成した授業案を発表し、討議することで授業の具体的イメージを深化、発展することができる。(意欲・態度)

授業方法:

基本的な事柄は講義形式で行うが、指導案については、グループ、または個人での演習、発表、討議を行う。
状況によって作業、ディスカッションなどを適宜取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. ガイダンス(授業の進め方・評価方法・使用教材等・注意事項等)	
2. 生徒の実際(中等教育で理解が必要と思われる生徒の実情と指導上の留意点。)	「合理的配慮」に関する資料を読むこと。
3. 「学習指導要領」の基本的なコンセプトと留意点	「学習指導要領新旧対照」に関する資料を読むこと。
4. 教科指導の実際 教材の分野と範囲(小説・評論・韻文・古典・漢文・国語表現・言語学習事項)の教授法と特性。	資料を読むこと。
5. 教科指導の実際 教材の分野と範囲(小説・評論・韻文・古典・漢文・国語表現・言語学習事項)の教授法と特性。	資料を読むこと。
6. 授業の実際(指導案の作成)の留意点。及び教材研究の具体的方法。)	グループ毎の作業となるため対象の教材を熟読してくること。
7. 授業の実際(指導案の作成)の留意点。及び教材研究の具体的方法。)	対象作品の教材研究をしておくこと。
8. 授業の実際(指導案の作成)の留意点。及び教材研究の具体的方法。)	対象作品の教材研究をしておくこと。
9. グループ発表と発表をもとにしたディスカッション	発表グループの対象作品を読むこと。ディスカッションに参加できるよう、自分なりに課題を見つけておくこと。
10. グループ発表と発表をもとにしたディスカッション	発表グループの対象作品を読むこと。ディスカッションに参加できるよう、自分なりに課題を見つけておくこと。
11. グループ発表と発表をもとにしたディスカッション	発表グループの対象作品を読むこと。ディスカッションに参加できるよう、自分なりに課題を見つけておくこと。
12. グループ発表と発表をもとにしたディスカッション	発表グループの対象作品を読むこと。ディスカッションに参加できるよう、自分なりに課題を見つけておくこと。
13. グループ発表と発表をもとにしたディスカッション	発表グループの対象作品を読むこと。ディスカッションに参加できるよう、自分なりに課題を見つけておくこと。
14. グループ発表と発表をもとにしたディスカッション	発表グループの対象作品を読むこと。ディスカッションに参加できるよう、自分なりに課題を見つけておくこと。
15. 発表の総括と課題。(講義形式)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業に出ることが何よりも大切。懐かしい教材、難しい教材、久しぶりに教科書を開き、授業を受けていた立場から授業をする立場に変わったとき、違ったものが見えてくるかもしれません。
積極的に授業に参加してほしいと思います。

フィードバックの方法:

グループ発表の内容は、講義終了時にディスカッションのまとめと、発表内容に関するコメントでまとめて解説します。
この発表には、それぞれに評価してもらいますので、必要に応じて返却します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表内容	50	教材をよく理解し、授業が実際にできる状態になっているか。 レジュメがわかりやすく作成され、発表の態度が良かったか。
発表に関する評価コメント	30	発表に関する、評価が適切になされているか。 評価レポートが丁寧に作成され、自分たちの発表に生かされているか。
授業態度	20	ディスカッションに積極的に参加できていたか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:

kkasuga@intnl.doshisha.ac.jp
0774-65-8911(同志社国際中学校・高等学校)

授業テーマ:

国語科教育にかかわる教授内容及び教授法について

授業の概要:

本講座は、国語科教科教育法Aと同様に、前半は講義中心、後半は学生による模擬授業を中心とする。折にふれて現場の実例も紹介しながら、国語科教育や国語科教員像についてさらに考察を深める。具体的には、授業計画や学習指導案の作成、模擬授業に加えて、試験問題作成にも取り組むことで、近くは教育実習や教員採用試験に資すること、将来的には現場で求められる国語科教員としての実践的な力や望ましい意識・姿勢を育む契機としたい。なお、小論文も課す予定である。

到達目標:

A. 知識・理解
教材理解に必須となる基礎知識はもとより、歴史や社会的な諸問題についても認識を深め、教材を多面的に理解・把握することができるようになること。

B. 表現・技能・能力
教材観を深め、その教材に関して適切な指導ポイント・計画・発問・問題作成等ができるようになること。

C. 関心・意欲・態度
日常生活の中で、文学や言葉(国語)に関する多様な情報に敏感になり、様々な課題を発見できるようになること。国語科教員になるべく、多様な体験や読書習慣を身につける素地を養うこと。

授業方法:

第1回から第4回までは講義。第5回から第14回までは、受講者が順に模擬授業をおこなう(他の受講者は「生徒役」として積極的に参加すること)。第15回は、秋学期の総括として、模擬授業を総括するとともに、同志社女子大学の卒業生として教員を続けていく意義についても考察する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス(国語科教科教育法Aをふまえた今後の課題と目標、授業方法と予定、評価方法等)	現時点における自己の課題を整理しておく(いま教育実習を行うとしたら…と想定したとき、認識できる課題は何か)。
2.	中高の国語の授業について(具体的な実践例をもとに)	自分の中高時代の国語のノートやテストを保存していれば、それらを見て、「教員」の視点で気づくことを整理する。
3.	試験問題作成及び国語科としての評価について	自分の中高時代の国語のノートやテストを保存していれば、それらを見て、「教員」の視点で気づくことを整理する。
4.	試験問題作成及び国語科としての評価について	自分の中高時代の国語のノートやテストを保存していれば、それらを見て、「教員」の視点で気づくことを整理する。
5.	受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
6.	受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
7.	受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
8.	受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
9.	受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
10.	受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
11.	受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
12.	受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
13.	受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
14.	受講生による模擬授業、担当教員の指導助言、受講生相互の模擬授業検証	模擬授業の教材について、自分だったらどのような指導案や授業を展開するか、予習・復習をする。
15.	総括	望ましい国語科教員像や同志社女子大学の卒業生として教員を続けていく意義・役割について考察する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

・「皆出席」が単位認定の大前提である。
・中高の国語科教員を強く志望している学生に登録・受講してほしい。

フィードバックの方法:

模擬授業に関するコメントペーパーを毎回記入。すべてのコメントを印刷して、次回の授業で全員に配布。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	模擬授業	30	到達目標A及びBを理解したうえで、十分な準備をおこない、真面目に取り組んでいるかを評価する。
	提出物(学習指導案や小論文等)	20	到達目標B及びCを理解したうえで、学習指導案の作成はもとより、国語科教員の役割等についても考察を深め、それを表現できるかを評価する。
	授業参加態度	50	到達目標Cをよくふまえたうえで、国語科教員になりたいとの強い志望が滲み出た真摯で意欲的な態度を評価する。

教科書:

なし

参考書:

文部科学省編『中学校学習指導要領解説 国語編』
文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 国語編』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

Eメール(連絡先アドレスは授業で通知する)を利用。授業前後に教室内で対応。

授業テーマ:	教科教育における具体的指導法の研究		
授業の概要:	本講座は春学期に作成した指導案のなかで浮かび上がってきた課題を、より詳細に分析し、実際の授業に役立つものとしてブラッシュアップしていくことを目的とする。 指導案を作成してみると分野によっては知識の足りない部分があったり、授業の組み立てが単調になってしまったり、発問がうまく作れなかったりと課題が見つかるものである。 秋学期では、そのような課題をピックアップし、より充実した授業計画を作っていきたい。次年度の教育実習に向けより実際の授業計画を作成していきたいと考えている。		
到達目標:	1 周辺教材(表現指導、読書指導、ディベートなど)の指導上の留意点を理解し、授業に活かせる方法を模索する。 2 春学期の課題を踏まえて、個々の作品に当たりつつ、課題の克服を目指す。(理解・創意工夫) 3 それぞれの教育観、教材観、指導方法などを具体的に話し合うことにより、教員になることの意味、さらに広く人と関わることの意味を考える。(関心・意欲・態度)		
授業方法:	課題によって、講義、グループ演習、ディスカッションなど適宜使い分けていく。積極的に授業に参加できるよう、なるべく体験型の演習、作業などを多くしていきたいと考えている。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス(春学期から抽出された課題の確認) 実際に指導案を作成する際に、困ったこと、苦労したこと等を話し合い、授業の方向を決める。		
	2. 周辺教材 その1 読書指導について 指導の方法、留意点 課題図書の選定、読書感想文、読書ノート	課題図書を読んでおくこと。	
	3. 周辺教材 その1 読書指導について 指導の方法、留意点 「本の帯をつくろう」	帯づくりの構想を練ってくること	
	4. 周辺教材 その2 表現指導について 指導の方法、留意点 実際に小論文を書いてみる。		
	5. 周辺教材 その2 表現指導について 指導の方法、留意点 実際に小論文を添削してみる。	課題に従って小論文を作成してくること	
	6. 課題 その1 古文指導の実際 部分(教科書掲載部分)と全体(作品全体)の関係。 指導方法と指導の留意点	授業で使用する作品を読んでくること。	
	7. 課題 その2 古文指導の実際 文法事項をどう授業に組み込んでいくか(授業がマンネリ化しないために)	課題より文法学習事項を抽出しておくこと	
	8. 課題 その3 古文指導の実際 具体的に指導案を作成してみる。	指導案を作ってくること	
	9. 課題 その4 漢文指導の実際 授業で押さえるべき用字法、句法		
	10. 課題 その5 漢文指導の実際 内容と言語学習事項を押さえたうえで実際の指導案を作ってみる。	課題の作品を読んでくること。	
	11. 課題 その6 韻文指導の実際 指導方法、留意点。 世界を絵にしてみる。群読など様々なアプローチの方法を考える。		
	12. 課題 その7 評論文指導の実際 読解の指導、留意点 要約の指導 発展学習の方法を考える。	課題を読んでくること	
	13. 課題 その8 小説指導の実際 小説の読解の指導、留意点 発問例の作り方と授業の構成を考える。	発問例を作ってくること。	
	14. 課題 その9 物語教材指導の実際 実際に指導案を作ってみる	指導案のアイデアを考えてくること	
	15. まとめ 教育実習に向けて		
受講者へのメッセージやアドバイス:	実際には、春学期の中でうまくいかなかったところの修正をしていこうと考えています。したがって授業の内容はその課題によって変更される可能性があります。 実際に教育実習に行くにあたっての不安や、心配事を話し合うことで、しっかりとした実習ができるよう準備をしていきたいと考えています。		
フィードバックの方法:	課題はその都度返却します。(本の帯、小論文など)またグループでの話し合いなどは授業のなかでのコメントを通して解説していきます。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(指導案)	65	実際の授業を想定して、具体的で、現実的な指導案ができているか。
	本の帯	10	作品の出来ばかりでなく取り組む態度、プレゼンテーションなどを評価する。
	小論文	10	指導上の留意点を踏まえた小論文がかけられているか。
	その他作成課題	15	グループディスカッションなどのまとめやレポートなどを自分なりに工夫してまとめられているか。
教科書:			
参考書:			

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡
方法:

kkasuga@intnl.doshisha.ac.jp
0774-65-8911(同志社国際中学校・高等学校)

授業テーマ:

授業の概要:

中学校・高等学校の音楽教師を目指して、日本の音楽教育の歴史、学習指導要領について理解する。また、学習指導要領に準拠する教材を研究し、歌唱教材に関しては弾き歌い実技も行う。さらに、実際に授業プランを構想して、学習指導案を作成の上、模擬授業を実施して教育実習に備える。日頃、馴染みの薄い日本の伝統音楽、郷土の民謡、世界の諸民族の音楽についても触れる。

到達目標:

1、学習指導要領、教材について理解する。
2、意欲をもって模擬授業等ができる。
3、指導法について意見を述べるができる。
4、歌唱共通教材の弾き歌いができる。

授業方法:	講義・実技・演習	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 音楽科教育の意義と学習指導要領。アンケート実施。 2. 日本の音楽教育の歴史。 3. 歌唱教材の研究とピアノによる弾き歌いⅠ。 4. 歌唱教材の研究とピアノによる弾き歌いⅡ。 5. 「表現」を中心とした授業の学習指導案の作成。 6. 歌唱教材(独唱曲: 日本歌曲)による模擬授業。 7. 歌唱教材(独唱曲: 外国の歌曲)による模擬授業。 8. 歌唱教材(合唱曲)による模擬授業。 9. 鑑賞教材及びその指導法の研究。 10. 「鑑賞」を中心とした授業の学習指導案の作成。 11. 鑑賞教材による模擬授業。 12. 日本の伝統音楽、郷土の民謡についての研究。 13. 世界の諸民族の音楽についての研究。 14. 音楽科教科教育法Bの準備。 15. 今学期の統括。	教科書を準備。 教科書指定箇所の熟読。 弾き歌い実技。 弾き歌い実技。 教科書指定箇所の熟読。 模擬授業の準備。 模擬授業の準備。 模擬授業の準備。 鑑賞教材の選択。 鑑賞教育の指導案の立案。 模擬授業の準備。 日本の伝統音楽、郷土の民謡について、知識を得ておく。 世界の諸民族の音楽の中で、何か一つ紹介できるように調べておく。 学習指導要領、学習指導案について復習しておく。 今学期全般にわたり、質問等あれば、整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	60%	学習指導要領、教材についての理解度により評価する。
	演習	20%	意欲をもって模擬授業等ができているかを評価する。
	レポート	10%	自分の指導法を評価、反省し、次につなげてゆける視点をどの程度持つことができたかを評価する。
	実技	10%	授業に即した弾き歌い実技ができたかを評価する。

教科書:

「中等科音楽教育法」（音楽之友社）
「中学生の音楽1」、「中学生の音楽2. 3」、「中学生の音楽2. 3下」、「中学生の器楽」（教育芸術社）
「高校生の音楽1」（教育芸術社）

参考書:

「中学校学習指導要領解説 音楽編」（文部科学省）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対。

授業テーマ:

授業の概要: 音楽科教科教育法Aで身に付けた知識、概念、能力を基に展開する。夏期休暇中に各自異なった題材による授業プランを構想し、よく練った上で指導案を作成する。その学習指導案に沿って模擬授業を実施する。教育実習をより有意義なものとする為にも、できるだけ各自の現場を想定して積極的に工夫を凝らしてのぞむ。さらに、模擬授業に対するディスカッション、講評を重ねて、より良い指導法について考察してゆく。

到達目標: 1、学習指導案の書き方、教材について理解している。
2、意欲、創意工夫をもって模擬授業ができる。
3、日本の伝統音楽に関心を持って鑑賞ができる。

授業方法: 講義・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 模擬授業指導案の準備。	伝統音楽レポート、学習指導案提出の準備。
	2. 模擬授業。ディスカッションと講評。	模擬授業の準備。
	3. 模擬授業。ディスカッションと講評。	模擬授業の準備。
	4. 模擬授業。ディスカッションと講評。	模擬授業の準備。
	5. 模擬授業。ディスカッションと講評。	模擬授業の準備。
	6. 模擬授業。ディスカッションと講評。	模擬授業の準備。
	7. 模擬授業。ディスカッションと講評。	模擬授業の準備。
	8. 模擬授業。ディスカッションと講評。	模擬授業の準備。
	9. 模擬授業。ディスカッションと講評。	模擬授業の準備。
	10. 模擬授業。ディスカッションと講評。	模擬授業の準備。
	11. 模擬授業。ディスカッションと講評。	模擬授業の準備。
	12. 模擬授業実習のまとめ。	各自の反省点をまとめる。
	13. 学習指導要領、学習指導案立案の確認。	教科書の復習。
	14. 教員採用試験に向けての実践問題対策。	志望都道府県の過去問題等の資料を入手する。
	15. 今学期全般の統括。	今学期全般にわたり、質問等あれば、整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出指導案については、コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末試験	60%	到達目標1の習熟度により評価する。
	模擬授業	30%	各自の模擬授業への意欲とその完成度により評価する。
	レポート	10%	日本の伝統音楽についての関心と理解度により評価する。

教科書: 「中等科音楽教育法」（音楽之友社）
「中学生の音楽1」、「中学生の音楽2. 3上」、「中学生の音楽2. 3下」、「中学生の器楽」（教育芸術社）
「高校生の音楽1」（教育芸術社）

参考書: 「中学校学習指導要領解説 音楽編」（文部科学省）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ:

家庭科教育の意義と可能性を理解し、実践力をつける

授業の概要:

社会・科学的視点に立った家庭科教育の意義を理解し実践力をつける。
家庭科教育に関連する情報収集・検索演習及び学習指導要領と家庭科教科書の内容理解を中心に教材研究を行う。
中学校及び高等学校の学習指導案を作成する。
*体験的な学習は必須であるので、「生活科学実験」(3年秋学期開講)の履修を強く勧める。

到達目標:

1. 中学校及び高等学校における家庭科の授業実践に不可欠な知識・技術について理解する。
2. 現代の教育課題に対応した社会・科学的視点に立った家庭科教育について理解する。
3. 中学校および高等学校の家庭科教員として必要な知識や技術について理解する。

授業方法:

教材研究
家庭科教育に関連する情報収集演習
担当分野の高等学校教科書内容紹介(プレゼンテーション)と討議・相互評価
中学校及び高等学校の学習指導案作成
*教職に関する科目については皆出席を前提とするため、遅刻欠席については厳正に対処する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	
	2. 教材研究 家庭科教育にかかわる情報収集・検索演習	課題1 家庭科のキーワードに関する解説レポート
	3. 教材研究 家庭科教育のめざすもの 高等学校家庭科教科書内容調べ	
	4. 教材研究 家庭科教育にかかわる情報収集・検索演習	
	5. 教材研究 家庭科教育にかかわる情報収集・検索演習	
	6. 教材研究 家庭科教育のあゆみ 家庭科教育の意義	
	7. 教材研究 教材研究発表(高等学校家庭科教科書内容紹介)に向けて	課題2 教材研究(個人研究)レポート 提出
	8. プレゼンテーション1 教材研究発表・意見交流と相互評価	
	9. プレゼンテーション2 教材研究発表・意見交流と相互評価	
	10. プレゼンテーション3 教材研究発表・意見交流と相互評価	
	11. 教材研究発表のまとめ 学習指導案作成に向けて 授業のつくり方 学習指導案の作成方法	課題3 家庭科教育に関わる読書レポート提出
	12. 学習指導案作成に向けて 現代の生活課題と家庭科教育の視点 学習指導要領の読み方	
	13. 学習指導案作成 中学校学習指導案(第一次案)見直しとグループワーク(相互評価・意見交流)	課題4 中学校学習指導案一次提出
	14. 教材研究 学習指導要領	課題5 中学校学習指導案二次提出 課題6 授業資料整理の確認
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

家庭科教育の意義と可能性を学びあい、実践力を身につけよう。

フィードバックの方法:

毎時間、ワークシート(授業感想・意見)提出と返却をおこなう。
教材研究発表の相互評価結果を提示する。
課題レポートは添削し、返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
	模擬授業の教材研究	20	学習指導要領解説と教科書を熟読し、社会・科学的視点を踏まえた家庭科の教材研究を行っているかを評価する。
	学習指導案	10	学習指導要領と教科書を熟読し、社会・科学的視点と学習のねらいを踏まえた学習指導案を作成しているかを評価する。
	課題レポート・ワークシート他	10	課題のねらいを理解し、充実した内容であるかを評価する。

教科書:

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」
文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」
中学校「技術・家庭 家庭分野」教科書(開隆堂)
高等学校「家庭総合 明日の生活を築く」教科書(開隆堂)
池崎喜美恵ほか『家庭科教育』(学文社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール : 唐津 (ikaratsu@dwc.doshisha.ac.jp), 藤本 (jfujimot@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:

授業の概要: 中学校、高等学校の家庭科教育の意義、目標、内容、学習指導、評価、家庭科教師としての資質、家庭科教育の歴史、家庭科教育の課題と展望について講義と質疑応答を行う。学習指導計画作成の意義を学び、さらに具体的に学習指導案作成についても学び、学習指導案を作成する。さまざまな授業実践例から教材教具の工夫、教材研究の方法についても学ぶことで学習指導案作成の実践的な力を養う。

到達目標: ①家庭科教育が初等・中等教育の段階で重要な科目であることを認識する。
②家庭科教育史、中学校・高等学校の家庭科教育の目標・性格と在り方、家庭科教師論、教育課程等について理解する。
③生徒の実態を踏まえ、効果的な指導方法、教材教具を工夫して学習指導案を作成できる。

授業方法: 講義／演習の混合
家庭科教育について理論的な内容について講義形式で行い、毎回振り返り用紙を提出する。学習指導案の作成については演習形式でグループでの意見交換も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション(授業の到達目標、進め方、成績評価の方法、提出物)	『学習指導要領解説』(中・高)の目標と内容について読んでおくこと。 テキストの該当するページを読んでおくこと。家庭科教育の意義について自分の考えをまとめ、指定された期日までに提出すること。 テキストの該当するページを読んでおくこと。
	2. 中学校家庭分野、高等学校家庭総合の現行教科書と学習指導要領の目標と内容	
	3. 家庭科教育の意義、目標	
	4. 家庭科教育の内容、学習指導	テキストの該当するページを読んでおくこと。 効果的な教材・教具の例をまとめておくこと。 参考になる授業実践例を図書館の本やネットで検索し、コピーしてくること。発表の準備とレポート提出。 参考になる授業実践例を図書館の本やネットで検索し、コピーしてくること。発表の準備とレポート提出。 家庭科教科書(中・高)、学習指導要領解説の割り当てられたページを熟読しておくこと。 必要な資料を収集しておくこと。また、次回までに学習指導案を完成させておくこと。 出された意見を参考に改善すべき点を確認すること。 テキストの該当するページを読んでおくこと。 テキストの該当するページを読んでおくこと。 テキストの該当するページを読んでおくこと。 テキスト、学習指導要領、中高家庭科教科書、配布されたプリント等を整理しておくこと。
	5. 家庭科教育の学習指導計画、評価	
	6. 教材研究の方法と教材・教具の作成について	
	7. 家庭科教育における実践的研究(中学校、高等学校の実践例1)	
	8. 家庭科教育における実践的研究(中学校、高等学校の実践例2)	
	9. 学習指導案の書き方	
	10. 学習指導案作成	
	11. 学習指導案試案について発表と意見交換	
	12. 施設・設備、家庭科の教師としての資質	
	13. 家庭科教育の歴史	
	14. 諸外国の家庭科教育・家庭科教育の課題と展望	
	15. これまでの振り返りとまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 自分自身の生活に関心を持ち、その中で様々な課題に気づき、生活をよりよくするにはどうしたらよいか考えるとともに、改善するための行動につなげることが重要である。家庭科教育の内容は非常に幅広いので、教科書を読むだけでなく、様々な方法で確かな知識を身につけてほしい。

フィードバックの方法: 振り返り用紙はコメントをつけて返却する。
学習指導案試案は教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学習指導案	40	到達目標③を踏まえ、学習指導要領に則し、生徒の実態に合わせた内容と量であるかどうかを評価する。
	レポート	20	到達目標①を理解した上で、説得力ある内容かどうかを評価する。
	授業への積極的参加度	40	到達目標②ができるようになったか振り返り用紙や発表等で評価する。

教科書: 池崎喜美恵ほか『家庭科教育』(学文社)
『高等学校学習指導要領解説 家庭編』(文部科学省)
『技術・家庭 家庭分野』(開隆堂)
『家庭総合 明日の生活を築く』(開隆堂)

参考書: 『中学校学習指導要領』(文部科学省)
『高等学校学習指導要領』(文部科学省)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室で応対

授業テーマ:	家庭科教育のねらいと可能性を理解し、実践力をつける																																	
授業の概要:	中学校及び高等学校家庭科の模擬授業を行い、相互評価・討議し、指導教員が分野ごとに指導助言する。 家庭科教科教育法Aの学びと関連させて、社会・科学的視点に立った家庭科教育と授業のねらいを踏まえた実践力をつける。 家庭科教育にかかわる本紹介・グループワークを通して、プレゼンテーション力・コミュニケーション力をつける。																																	
到達目標:	家庭科教科教育法Aで修得した知識と技術を用いて模擬授業を行い、実践能力を養う。 1 中学校及び高等学校における家庭科の授業実践に不可欠な知識・技術を理解し実践する。 2 現代の教育課題に対応した社会・科学的視点を踏まえた家庭科教育について理解し、実践する。 3 中学校及び高等学校の家庭科教員として必要な知識や技術について理解し実践する。																																	
授業方法:	中学校及び高等学校の模擬授業を各自2回行う。 模擬授業について相互評価・討議。 授業方法の工夫について学習。 家庭科教育にかかわる本紹介(プレゼンテーション)・グループワーク																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 模擬授業にむけてオリエンテーション 中学校「技術・家庭」指導案個別添削指導</td><td>夏休み課題提出 1 高等学校「家庭総合」学習指導案 2 高等学校「家庭総合」教科書まとめ 3 家庭科教育にかかわる読書レポート 中学校「技術・家庭」学習指導案</td></tr><tr><td>2. 模擬授業1 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議</td><td>担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備</td></tr><tr><td>3. 模擬授業2 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議</td><td>担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備</td></tr><tr><td>4. 模擬授業3 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議</td><td>担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備</td></tr><tr><td>5. 模擬授業4 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議</td><td>担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備</td></tr><tr><td>6. 中学校「技術・家庭」模擬授業まとめ 高等学校「家庭総合」学習指導案個別添削指導 授業方法の工夫1 視聴覚教材の活用方法とそのねらい</td><td>担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備</td></tr><tr><td>7. 授業方法の工夫2 アクティブラーニングの一例 ーロールプレイングー</td><td></td></tr><tr><td>8. 授業方法の工夫3 高等学校「食生活」分野の授業実践 DVD調理実習「和食の献立」視聴</td><td></td></tr><tr><td>9. 模擬授業5 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議</td><td>担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備</td></tr><tr><td>10. 模擬授業6 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議</td><td>担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備</td></tr><tr><td>11. 模擬授業7 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議</td><td>担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備</td></tr><tr><td>12. 模擬授業8 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議</td><td>担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備</td></tr><tr><td>13. 模擬授業9 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議</td><td>担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備</td></tr><tr><td>14. 高等学校「家庭総合」模擬授業まとめ 家庭科教育にかかわる本紹介(プレゼンテーション)</td><td>家庭科教育にかかわる本紹介(プレゼンテーション)準備</td></tr><tr><td>15. 授業方法の工夫4 アクティブラーニングの一例 ーKJ法を使った授業ー 資料整理の確認 まとめと振り返り</td><td>「教職課程履修のあゆみ」提出 資料整理(次年度の教育実習に活用)</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 模擬授業にむけてオリエンテーション 中学校「技術・家庭」指導案個別添削指導	夏休み課題提出 1 高等学校「家庭総合」学習指導案 2 高等学校「家庭総合」教科書まとめ 3 家庭科教育にかかわる読書レポート 中学校「技術・家庭」学習指導案	2. 模擬授業1 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備	3. 模擬授業2 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備	4. 模擬授業3 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備	5. 模擬授業4 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備	6. 中学校「技術・家庭」模擬授業まとめ 高等学校「家庭総合」学習指導案個別添削指導 授業方法の工夫1 視聴覚教材の活用方法とそのねらい	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備	7. 授業方法の工夫2 アクティブラーニングの一例 ーロールプレイングー		8. 授業方法の工夫3 高等学校「食生活」分野の授業実践 DVD調理実習「和食の献立」視聴		9. 模擬授業5 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備	10. 模擬授業6 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備	11. 模擬授業7 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備	12. 模擬授業8 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備	13. 模擬授業9 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備	14. 高等学校「家庭総合」模擬授業まとめ 家庭科教育にかかわる本紹介(プレゼンテーション)	家庭科教育にかかわる本紹介(プレゼンテーション)準備	15. 授業方法の工夫4 アクティブラーニングの一例 ーKJ法を使った授業ー 資料整理の確認 まとめと振り返り	「教職課程履修のあゆみ」提出 資料整理(次年度の教育実習に活用)	
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 模擬授業にむけてオリエンテーション 中学校「技術・家庭」指導案個別添削指導	夏休み課題提出 1 高等学校「家庭総合」学習指導案 2 高等学校「家庭総合」教科書まとめ 3 家庭科教育にかかわる読書レポート 中学校「技術・家庭」学習指導案																																	
2. 模擬授業1 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備																																	
3. 模擬授業2 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備																																	
4. 模擬授業3 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備																																	
5. 模擬授業4 中学校「技術・家庭」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の中学校「技術・家庭」指導案・教科書まとめ準備																																	
6. 中学校「技術・家庭」模擬授業まとめ 高等学校「家庭総合」学習指導案個別添削指導 授業方法の工夫1 視聴覚教材の活用方法とそのねらい	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備																																	
7. 授業方法の工夫2 アクティブラーニングの一例 ーロールプレイングー																																		
8. 授業方法の工夫3 高等学校「食生活」分野の授業実践 DVD調理実習「和食の献立」視聴																																		
9. 模擬授業5 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備																																	
10. 模擬授業6 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備																																	
11. 模擬授業7 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備																																	
12. 模擬授業8 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備																																	
13. 模擬授業9 高等学校「家庭総合」模擬授業 模擬授業について相互評価・討議	担当分野の高等学校「家庭総合」学習指導案準備																																	
14. 高等学校「家庭総合」模擬授業まとめ 家庭科教育にかかわる本紹介(プレゼンテーション)	家庭科教育にかかわる本紹介(プレゼンテーション)準備																																	
15. 授業方法の工夫4 アクティブラーニングの一例 ーKJ法を使った授業ー 資料整理の確認 まとめと振り返り	「教職課程履修のあゆみ」提出 資料整理(次年度の教育実習に活用)																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	家庭科教育のねらいや可能性を学びあい、実践力を身につけましょう。																																	
フィードバックの方法:	毎時間、ワークシート(授業感想・意見)提出と返却 学習指導案の個別添削指導 模擬授業の相互評価結果の提示																																	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	模擬授業	60%	到達目標を踏まえた模擬授業を行っているかを評価する。
	学習指導案・教材研究	20%	学習指導要領解説と教科書を熟読し、社会・科学的視点を踏まえた家庭科の教材研究を行っているかを評価する。
	課題レポート・ワークシート他	20%	課題のねらいを理解し、充実した内容であるかを評価する。
教科書:	中学校「技術・家庭」学習指導要領解説 高等学校「家庭」学習指導要領解説 中学校「技術・家庭 家庭分野」教科書(開隆堂) 高等学校「家庭総合 明日の生活を築く」教科書(開隆堂)		
参考書:			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	ikaratsu@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	次年度の教育実習に備えて(学習指導法と模擬授業)				
授業の概要:	特に家庭科に特化した学習指導方法について学ぶ。 中学校技術・家庭(家庭分野)、高等学校家庭総合の全領域から家庭科教科教育法Aで割り当てられた50分間(授業1回分)の学習指導案(細案)を完成させ、1人1人が模擬授業を行う。 また、全員が模擬授業とは異なる領域(例えば教育実習先が中学校の場合は高等学校)の学習指導案を新たに作成する。これを基に代表1人が模擬授業する。 4年次生による教育実習体験談を聞いたり、実習先での自己紹介の練習を行い、次年度の教育実習に向けて準備を行う。				
到達目標:	①中学校・高等学校における家庭科の教材内容、学習指導法が理解できる。 ②1人1人が教壇に立って模擬授業を行うことにより指導技術が身につく。 ③机上の空論ではなく、より具体性を伴った学習指導案を書けるようになる。 ④学生同士が互いに模擬授業を観察、評価することで問題点がみつけれ、改善できるようになる。 ⑤教育実習生としての心構えや覚悟ができる。				
授業方法:	前半(学習指導法)は講義形式で行う。 模擬授業は全員が行い、自己評価する。また、学生同士で相互評価を行い、改善点を共有する。 自己紹介は、教育実習初日の朝のショートホームルームで行うことを想定して、各自が3分間教壇に立つて行う。 最後の50分間模擬授業の相互評価はグループで討議を行い、質疑応答する。				
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容			
	1. 全体説明と模擬授業に関する諸注意	家庭科教科教育法Aで指示された夏休みの宿題(家庭科と消費生活・家庭科と高齢者社会・家庭科と環境問題)を提出する。			
	2. 学習指導法(講義法、板書法)	第1回の授業で家庭科教科教育法A担当教員添削済みの学習指導案・板書計画・プリント原稿を返却するので、それらを修正し再提出する。 模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 本年度教育実習生(4年次生)による体験談に対するレポートを提出する。 模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 2本目の学習指導案を作成する。 2本目の学習指導案を提出する。 自己評価、相互評価、担当教員の添削結果を基に1本目の学習指導案を再度修正し、完成させたものを提出する。 2本目の学習指導案を修正したものを提出する。 「教職課程履修カルテ」に必要事項を記入し、マナビーで提出する。 春休みの宿題(食育と家庭科)をする(3月末提出)。			
	3. 学習指導法(問答法、示教法、パフォーマンス)				
	4. 学習指導法(師範法、実習法)				
	5. 学習指導法(調理実習・被服実習指導の注意点)				
	6. 本年度教育実習(4年次生)体験内容の紹介				
	7. 模擬授業(1～2名)と相互評価				
	8. 模擬授業(1～2名)と相互評価				
	9. 模擬授業(1～2名)と相互評価				
	10. 模擬授業(1～2名)と相互評価				
	11. 模擬授業(1～2名)と相互評価				
	12. 自己紹介の練習と2本目の学習指導案内容の検討(全員)				
	13. 50分間模擬授業内容の検討(代表1名)				
	14. 50分間模擬授業(代表1名)とグループ討議による相互評価				
	15. 次年度教育実習に向けて(まとめ)				
受講者へのメッセージやアドバイス:	模擬授業は「家庭科教科教育法A」で作成した学習指導案を基に行うので、本授業は学習指導案が完成していることが前提となる。				
フィードバックの方法:	模擬授業の後すぐに教員による改善点の指導を行うとともに、他の履修者による相互評価、本人の授業風景を写したDVDによる自己評価により模擬授業内容を客観的に見直し、学習指導案の再修正を行う。 「教職課程履修カルテ」に必要事項を記入しているかどうかを、3年次春・秋、4年次春に中間提出させてコメントをつけて返却し、最終的に出来上がったものを授業最終回までにマナビーで回収する。				
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準		
	模擬授業	55	授業内容および各自が作成した掛図や標本などの完成度により目標①②の到達度合いを評価する。		
	学習指導案	20	到達目標①③について、2本の学習指導案の完成度により評価する。		
	夏休みの宿題	15	到達目標①について、食物学以外の分野について理解が深まったかを評価する。		
	授業への参加度	10	到達目標④⑤について、体験談レポートや自己紹介、相互評価表などから評価する。		
	遅刻・欠席		厳しく減点する。		
教科書:	池崎喜美恵他、家庭科教育、学文社 中学校教科書、技術・家庭 家庭分野、開隆堂 高等学校教科書、家庭総合 明日の生活を築く、開隆堂				
参考書:	中学校学習指導要領、文部科学省 高等学校学習指導要領、文部科学省				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力				
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で対応、マナビーの掲示板機能				

授業テーマ:	地理歴史科教科の指導・教授法に関する方法と基礎実践		
授業の概要:	地理歴史科の授業を計画・実施していく上での基本的な事項について把握するとともに、授業分析や、学校のカリキュラムのあり方等の考察をおこない、実践をおこなう。		
到達目標:	授業改善の方法や大人(教師)と子どものよりよい関係のあり方について、基本的な姿勢や方法について身につけることを目標とする。		
授業方法:	講義、指導案と模擬授業についてはグループディスカッション、演習形式を併用する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	ガイダンス 講義の概略と進め方の確認と説明	配布資料の確認
	2.	地理歴史科の学習指導要領と講義の要点1	学習指導要領の確認
	3.	地理歴史科の学習指導要領と講義の要点2	学習指導要領の確認
	4.	地理歴史科の学習指導要領と講義の要点3	学習指導要領の確認と過去の指導案の分析
	5.	高等学校地理歴史科学習指導案の実際と指導案作成の留意点	指導案 事前作成作業
	6.	指導案作成の実践1	指導案 事前作成作業
	7.	指導案作成の実践2	プレゼンテーションの準備
	8.	指導案作成の実践3 指導案発表と改善	プレゼンテーションの準備
	9.	地歴教材の研究と調査法の実例～地図・歴史資料の活用方法論	教材研究・画像資料の調査
	10.	地歴授業の実践例ー実際の講義を通した指導案の作成と方法論	教材研究・画像資料の調査
	11.	地歴授業の実践ーグループ別授業発表と討議	発表レジュメ資料の作成
	12.	地歴授業の実践ーコンピューター・IT機器を活用した授業方法(1)	発表レジュメ資料の作成
	13.	地歴授業の実践ーコンピューター・IT機器を活用した授業方法(2)	発表レジュメ資料の作成
	14.	地歴教育の課題	配布資料の確認
	15.	全体の総括	全体の資料の再検討
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業内の提出物、模擬授業において個別・全体についてフィードバックをおこなう。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業内のレポート	50	到達目標授業改善の方法や大人(教師)と子どものよりよい関係のあり方について、基本的な姿勢や方法について身につけているか総合的に判断する。
	指導案の提出	30	到達目標授業改善の方法や大人(教師)と子どものよりよい関係のあり方について、基本的な姿勢や方法について身につけているか総合的に判断する。
	模擬授業	20	到達目標授業改善の方法や大人(教師)と子どものよりよい関係のあり方について、基本的な姿勢や方法について身につけているか総合的に判断する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業内・後における教室で行うとともに、オフィスアワーを中心として研究室にて対面で行う。		

授業テーマ:

地理歴史科授業の実践的手法の獲得

授業の概要:

前期の地理歴史科教科教育法Aの内容理解を前提として、授業の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深めるとともに、模擬授業を通して授業実践の手法を総合的に学習する。

到達目標:

授業事例の分析、学習指導案を含む指導計画の作成を通して授業づくりに関する留意点を身に付け、実践的な授業実施を行える能力を身につける

授業方法:

模擬授業を中心とした演習および講評・討議形式でおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	配布資料の確認
	2. 地理歴史科における評価の工夫、単元計画・学習指導案のあり方	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行う
	3. 受講生による模擬授業と評価分析1	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	4. 受講生による模擬授業と評価分析2	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	5. 受講生による模擬授業と評価分析3	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	6. 受講生による模擬授業と評価分析4	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	7. 受講生による模擬授業と評価分析5	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	8. 教材研究と地理歴史科教育の実例—IT機器・インターネットを活用した実例	配布資料の確認、教科書の準備
	9. 受講生による模擬授業と評価分析—IT機器・インターネットを活用した分析手法	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	10. 受講生による模擬授業—IT機器・インターネットを活用した授業(1)	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	11. 受講生による模擬授業—IT機器・インターネットを活用した授業(2)	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	12. 受講生による模擬授業—IT機器・インターネットを活用した授業(3)	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	13. 受講生による模擬授業—IT機器・インターネットを活用した授業(3)	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	14. 受講生による模擬授業と評価分析8—IT機器・インターネットを活用した今後の教科教育のありかた	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
	15. 全体の総括	次年度実習に向けた資料の整理・確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内の提出物、模擬授業において個別・全体についてフィードバックをおこなう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	模擬授業実施(指導案と実践を含む)	60	到達目標 授業事例の分析、学習指導案を含む指導計画の作成を通して授業づくりに関する留意点を身に付け、実践的な授業実施を行える能力を身につけているかを総合的に判断する。

教科書：

参考書：

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法：

授業内・後における教室で行うとともに、オフィスアワーを中心として研究室にて対面で行う。

授業テーマ:	公民科教育の実践1		
授業の概要:	高等学校の公民科教育をおこなう上で必要な法令／学習指導要領などの学習と、現在の高等学校の公民科教育における現状と課題を概観した上で、公民科教育を行う上で必要不可欠な指導案の作成を行う。		
到達目標:	1: 高等学校公民科教育に必要な、学習指導要領を中心とした制度や法令について理解する。 2: 高等学校公民科教育に必要な、指導案作成の実践と模擬授業の基礎を理解する。		
授業方法:	講義形式とともに、指導案／模擬授業の実習を含めて展開する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. はじめに ガイダンス 講義の概要		配布資料の確認作業
	2. 公民科教育の現状(1)		配布資料の確認作業
	3. 公民科教育の現状(2)		学習指導要領の通読
	4. 学習指導要領にみる公民科教育の目標		学習指導要領の精読とともに、指導案や課題作成に向けた予習を継続的に行う
	5. 学習指導要領と学校運営		学習指導要領の精読とともに、指導案や課題作成に向けた予習を継続的に行う
	6. 指導案の概要		他の学生の指導案発表時に出た諸課題をまとめ、自己の指導案作成力の向上に資する。
	7. 指導案の作成(1) インターネット・IT機器を活用した指導計画		他の学生の指導案発表時に出た諸課題をまとめ、自己の指導案作成力の向上に資する。
	8. 指導案の作成(2) インターネット・IT機器を活用した指導計画		他の学生の指導案発表時に出た諸課題をまとめ、自己の指導案作成力の向上に資する。
	9. 指導案の作成(3) 総合的な指導案の留意事項		他の学生の指導案発表時に出た諸課題をまとめ、自己の指導案作成力の向上に資する。
	10. 指導案の講評		指導案全体の資料整理をおこなう。
	11. 指導案を軸とした授業運営とその課題		模擬授業の準備作業をおこなう。
	12. 模擬授業(1)		他の学生の事例を参照しつつ、模擬授業の準備作業をおこなう
	13. 模擬授業(2)		他の学生の事例を参照しつつ、模擬授業の準備作業をおこなう
	14. 模擬授業(3)		他の学生の事例を参照しつつ、模擬授業の準備作業をおこなう
	15. 模擬授業の総括		指導案、資料を取りまとめ、自身の模擬授業の振り返りをおこなう。
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業内の提出物、模擬授業において個別・全体についてフィードバックをおこなう。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	指導案の作成	30	到達目標1: 高等学校公民科教育に必要な、学習指導要領を中心とした制度や法令について理解しているか確認する。
	議論の発言参加度	30	他の学生の発表・授業内容への理解度を評価する。
	模擬授業	40	到達目標2: 高等学校公民科教育に必要な、指導案作成の実践と模擬授業の基礎を理解しているか評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業内・後における教室で行うとともに、オフィスアワーを中心として研究室にて対面で行う。		

授業テーマ:	公民科教育の実践(2)		
授業の概要:	現代社会の諸問題について、広い視野に立って主体的に考察する力を養うとともに、将来の指導者として自らが人間としての在り方生き方の自覚を高める。また、教育思想史的観点から教授法の理解を深め、将来の教育現場への教育方法の考察をすすめる。パワーポイントやインターネットなどの機器を活用した授業を前提とし、教材研究の多角的な手法について考察する。		
到達目標:	1: 公民科教科教育の内容の検討と、模擬授業を通じた実践力を養成する。 2: 模擬授業内で効果的な機器使用法や授業活用はもとより、インターネットの課題や危険性、著作権問題などをふくめたインターネットリテラシーの獲得をはかる。		
授業方法:	講義とともに、模擬授業を中心とし学生の主体的な学びを中心とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに 講義の内容とガイダンス	配布資料の確認	
	2. 公民科教科教育内容の検討(1)	学習指導要領の確認	
	3. 公民科教科教育内容の検討(2)	学習指導要領の確認	
	4. 公民科授業の模擬授業実践1	模擬授業・指導案の作成と授業準備	
	5. 公民科授業の模擬授業実践2	模擬授業・指導案の作成と授業準備	
	6. 公民科授業の模擬授業実践3	模擬授業・指導案の作成と授業準備	
	7. 公民科授業の模擬授業実践4	模擬授業・指導案の作成と授業準備	
	8. 中間総括と公民科教育の課題	指導案の通読と教材研究	
	9. 公民科授業の模擬授業実践5	模擬授業・指導案の作成と授業準備	
	10. 公民科授業の模擬授業実践6	模擬授業・指導案の作成と授業準備	
	11. 公民科授業の模擬授業実践7	模擬授業・指導案の作成と授業準備	
	12. 公民科授業の模擬授業実践8	模擬授業・指導案の作成と授業準備	
	13. 公民科授業の模擬授業実践9	模擬授業・指導案の作成と授業準備	
	14. 「公民」のありかたと学校教育の現状 インターネットリテラシーとともに	模擬授業・指導案の作成と授業準備	
	15. 全体の統括 ふりかえり	全体の指導案の確認	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業内の模擬授業において適宜フィードバックをおこなう。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	模擬授業(指導案を含む)	50	模擬授業を通して到達目標1、2の達成度を総合的に評価する。
	模擬授業に対する質疑応答・コメント	50	質疑・応答を通して到達目標1、2の達成度を総合的に評価する。
教科書:	特に指定しない		
参考書:	特に指定しない		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業後の教室、マネビーならびに研究室にて随時対応する。		

授業テーマ：	教育活動全般に通底する教師の心の働きとしての「生徒指導」の機能について理解する。
授業の概要：	生徒指導をひとつの校務分掌の領域ととらえるのではなく、全教師によるすべての児童生徒への心身の健全な育成に寄与する予防啓発的な機能であることを理解する。学習指導、進路指導、教育相談を中心として、昼食、清掃活動などの生活指導、部活動などの課外活動、運動会、遠足などの諸行事など、あらゆる場面での子どもたちへの適切な関わりについて、DVDや自作資料を適宜用いて解説し、グループ討議やロールプレイングを適宜実施し、まとめとしての模擬授業を通して、教師としての関わり方について自らの考えを深める。
到達目標：	1.生徒指導とは、特別な指導が必要な子どもへの対症療法的指導のことではなく、すべての子ども達の健全な発達に寄与する学校教育全般に渡る予防啓発的な活動であることを理解する。 2.学習指導、進路指導、教育相談など、学校教育の様々な場面での教師としての適切な役割を考え、実践する資質を養うことができる。 3.グループ活動やロールプレイング、模擬授業を通して、他者と協調し活動すること、教師としての実践に触れることができる。
授業方法：	講義 教師の講義と、受講生のグループ討議、ロールプレイング、受講生全員による討議を組み合わせで行う。特にグループ討議を半数以上取り入れ、受講生の能動的な活動を促進する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容
1.	生徒指導の領域と機能について解説し、資料から具体的なイメージを持つ。グループ活動によって、領域と機能の違いを話し合う。	(予習)対症療法的指導、予防啓発的指導とはどのようなことは、それぞれについて調べてくる。(次週発表するため)
2.	教職における生徒指導の役割 ー予防啓発的な生徒指導を学習指導場面ではどう生かすのか(1)ー 解説後に、各自、教科の指導案を作成し、備考欄に生徒指導的な配慮を書き込む。	(予習)指導案を完成させる。(次週に活用するため)
3.	教職における生徒指導の役割 ー予防啓発的な生徒指導を学習指導場面ではどう生かすのか(2)ー グループで、各自の指導案について討議する。その後、手直しする。	(復習)生徒指導的な配慮を書き込むことによって、どのように授業が改善されたかについて、ミニレポートにまとめる。(最終週にレポートとして提出)
4.	教職における生徒指導の役割 ー予防啓発的な生徒指導を学習指導場面ではどう生かすのか(3)ー DVD教材から、学習指導で必要な生徒指導の機能をグループで話し合う。	(予習)現在、奨励されている進路指導について、旧来の内容との違いを調べてくる。(次週発表するため)
5.	教職における生徒指導の役割 ー進路指導場面ではどう生かすのか(1)ー キャリアサポートと進路指導について、自らがこれまで受けてきた進路指導を振り返り考えよう。	(予習)自分が受けたかった進路指導とはどのような内容だったかをまとめてみる。(次週発表するため)
6.	教職における生徒指導の役割 ー進路指導場面ではどう生かすのか(2)ー DVD資料、事例資料に基づいて、もしも自分が教師だったらという視点で、望まれる進路指導には、どのような生徒指導の機能が必要か考える。	(復習)不登校の子どもたちにとって適切な居場所を提供するためにどのような条件が必要かを箇条書きでまとめる。(最終週にレポートとして提出)
7.	教職における生徒指導の役割 ーロールプレイングを通して、生徒指導的な配慮を実践してみようー	(復習)生徒指導的な配慮がロールプレイングでできたかどうかについて、成果と課題をミニレポートにまとめる。(最終週にレポートとして提出)
8.	教職における生徒指導の役割 ーゲストスピーカーの講義から考えるー	(復習)実際の学校の様子を聞いて、子ども達に望まれる生徒指導の機能を箇条書きにしてまとめる。(最終週にレポートとして提出)
9.	教職における生徒指導の役割 ー教育相談場面ではどう生かすのか(1)ー 不登校事例から、どのような対応が適切かを考える。	(復習)不登校の子どもを持つ保護者への対応に求められる生徒指導的な配慮についてミニレポートにまとめる。(最終週にレポートとして提出)
10.	教職における生徒指導の役割 ー教育相談場面ではどう生かすのか(2)ー いじめ事例から、被害者、加害者だけでなく、関係する他の子ども達への生徒指導的配慮について考える。	(復習)いじめ加害者への適切な指導と支援についてミニレポートにまとめる。(最終週にレポートとして提出)
11.	教職における生徒指導の役割 ー教育相談場面ではどう生かすのか(3)ー 教室内での窃盗事件を扱った事例から、学級会での対応について考え、学級活動の指導案を作る。	(予習)未完成の指導案を完成させる。
12.	教職における生徒指導の役割 ー教育相談場面ではどう生かすのか(4)ー グループ活動で、各自が作成した指導案について検討する。	(予習)指導案の検討
13.	教職における生徒指導の役割 ー模擬授業を通してー 作成した指導案を10分ずつ各自で実際に行ってみる。	
14.	教職における生徒指導の役割 ー模擬授業とロールプレイングをとおしてー 前回の模擬授業で選ばれた人が、他の子ども役の人のロールプレイを加えて授業し、全体で検討する。	(復習)自分ができたこと、できなかったことをミニレポートにまとめる。(最終週にレポートとして提出)
15.	まとめと振り返り 生徒指導全般についてのまとめ 学校教育における生徒指導の位置づけと重要性についてまとめる。	(復習)レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス： 自身の中学校、高校時代を振り返り、辛かったことやネガティブな体験を相対化し、それらの体験を教師としての強みとして、子どもたちに還元できる授業となることを願っています。

フィードバックの方法： ・各自の発表に関して、その授業内あるいは次回の授業内でコメントをお返しします。
・提出されたレポートに関して、授業内で評価のポイントを解説します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	40%	到達目標1、2に関する知識や理解を適切に表現できているかを基準とする。
	グループ討議、ロールプレイ、模擬授業	40%	到達目標1、2の理解がなされているか、到達目標3について、臨機応変で柔軟な思考力と実践的な力量があるかを基準とする。
	授業への積極的参加度	20%	到達目標1、2、3に関して、教師となることを自覚し、授業に主体的に取り組むことができることを基準とする。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法： 1. 授業の前後に教室内で対応
2. メールによる(mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp)
3. 研究室訪問してください。(G444)

授業テーマ：	学校における教育活動全般にかかる生徒指導・進路指導の理論と方法を学び理解する。	
授業の概要：	生徒指導は、児童生徒の人格の健全な発達を図るため、学校の教育活動全体を通じて行われる重要な機能である。 生徒指導の意義は、「問題行動」や「非行」等の対策という対症療法的な役割という狭義の理解にとどまるものではなく、全教職員による、すべての生徒の心身の健全な育成と充実した学校生活を作り出すためのものであると捉えることができる。 1、生徒の「交わり能力」「問題解決能力」を育てる生徒集団づくりを学ぶ。 2、生徒の「問題行動」の背景をつかみ、その裏にある願いに応える生徒指導の原則を理解する。 3、キーワードは「つながる」こと。教育集団の力を理解する。 4、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができる進路指導の理論と方法を学ぶ。 以上の4点を具体的な事例をもとに明らかにして、「こども観」を磨き、めざす教師像をイメージ化する。 そのために、受講者が「学びあう仲間」として共に考え、語り合う時間を大切にする授業にしたい。	
到達目標：	1、学び合う仲間として、受講者が共に楽しみ、学びを深めることができる。 2、「問題行動」の背景や生徒と親の願いを理解しようとすることができる。 3、「生徒指導」の今日的な諸問題について関心をもって調べ、「子ども観」「指導観」を深めることができる。 4、「教育集団」の力について理解し、「つなぐ」ための教師の役割について考えることができる。 5、コメントカードやグループ討議を通して、多面的に問題をとらえ、集団的に問題の解決に取り組むことができる。 6、この授業のまとめとして、「手作り通信」をつくり、発表交流することができる。	
授業方法：	1、講義 ①講義の課題について事例や実践記録をもとに対話とグループ討論などを組み合わせて進める。 ②コメントカードなどをもとに手作りの講義通信を発行し、それを読み合って交流する。 ③講義の中で実践的なゲームなども取り入れ受講生の主体的な参加をめざす。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション「生徒指導の領域と機能」 講義の概要「つながる」、講義通信、受講時の心得、「受講コメントカード」の説明等 2. 生徒指導の土台となる「信頼関係」をどうつくるか。 『生徒指導』と教師の役割 (1)生徒との信頼関係をつくることの重要性。「信頼できる」先生とは。 3. 2)信頼関係をつくるための基本。「こどもを信じる」とは。 真に「聴き取る」力。 4. 「問題行動」をどう見るか。 「指導とは何か」(1)「非行」「荒れ」の現実を明らかにし、指導の在り方を考える。 「困った子」は「困っている子」。「言うこと」「すること」の後ろにある「願い」に応える指導。 5. 「指導とは何か」(2)「いじめ」の現実を明らかにし、指導の在り方を考える。 6. 「指導とは何か」(3)「不登校」と「校内暴力」の現実を明らかにし、正しい認識に基づく指導の在り方を考える。克服する道すじと援助。 7. 「指導とは何か」(4)生徒同士の関係性の現状。「不安」が募る現実と背景。 「校内暴力」と「少年犯罪」の背景と指導のあり方。 8. 「指導とは何か」(5)「性」「薬物」「携帯」「インターネット」と生徒指導の問題。一教育相談、外部機関との連携。 9. キーワードは「つなぐ」こと。 (1)「取り組みなしに発達はない」文化活動が人間力を育む。(「特別活動を通し。」)文化行事、体育行事を通じて、もめごとを乗り越え達成体験。 10. (2)「こどもの貧困問題」と「虐待」 学級通信発行のための技術習得。「手づくり通信」テーマの提起。 11. (3)「クレーム」問題を考える。 「モンスターペアレント」の正体。「困った親」は「困っている親」。 12. (4)教育集団(こども集団、父母集団、教師集団をつなぐ) 家庭と学校のいい関係とは。「学級通信・教科通信の力」 13. 進路指導と生徒指導。 「学習権」と「進路指導」ーキャリアガイダンスとの連携。 課題レポート「手作り通信」提出。 14. 「手作り通信」発表と交流(1) 「ゆとり教育」と「学力問題」を振り返り考える。	教職を目指す上での希望、不安や問題意識はどんなものか。最近の子どもと教育に関するニュースや関心のある社会問題は何か。自身を振り返ったり、情報を集めましょう。 生徒や保護者と信頼関係を築く上で大切なものは何か。先生の「権威とは何か」これまでの体験や知識を元に考えみましょう。 生徒の声を「真に聴き取る」とは？ 生徒の「問題行動」や「荒れ」と言われるものの実態や「学級崩壊」について調べたり、自身の体験を思い出して考えてみましょう。 「指導」とは何か？ 子どもを先生の思い通りに動かすことが指導ではない。「問題」が起きた時にどう対処すれば、ピンチがチャンスに変わるのか。優れた教育実践や自身の体験をもとに考えてみましょう。 「いじめは許せない」か？ 「いじめ事件」報道などからいじめの実態と原因について調べ、克服の道を調べよう。「いじめ指導」で一番大事なことは何か、やってはいけないことは何か、を考えよう。「いじめと自殺」の問題をWHOの「自殺を予防する自殺事例報道のありかた」などについて調べて考えてみましょう。 「登校拒否」の実態と事例を調べよう。 その背景としての「子どもの危機」「子どもの権利委員会の日本政府への勧告」について調べ、克服と援助の取り組みについて事例や体験をもとに考えてみましょう。 少年犯罪は「増えている」か？「凶悪化」しているか？ 「少年事件」と「校内暴力」の実態や事例について調べてみよう。それをもとに「反省 * * * と悪くなる」の * * * の中に入る言葉を考えてみましょう。 現代の生徒を取りまく「性情報」や「薬物」、SNS、インターネットなどの問題を調べよう。そこでのトラブルと生徒指導のあり方について考えてみましょう。 子どもが「変わる」ために大切なものは何か。NHKスペシャル「命と向き合う教室」の制野俊弘先生の実践を調べて学びましょう。 「手作り通信のテーマ」を何にするか考えよう。 「登校拒否」の実態と事例を調べよう。その克服と援助の取り組みについて事例をもとに考えてみましょう。 「クレーム問題」「モンスターペアレント」の事例について調べよう。 「クレーム」を「つながるチャンス」に変えるために大切なことは何かを体験や学んだことをもとに考えてみましょう。 「教育集団」とは何か？ 学級集団作りや「班ノート」「学級通信」や「保護者の回覧ノート」の役割を教育実践や自身の経験などをもとに考えてみましょう。 課題レポートの「手作り新聞」を完成させよう。 ユネスコ学習権宣言や「国際人権規約」「子どもの権利条約」「日本国憲法」「教育基本法」「児童憲章」などをもとに、キャリアガイダンスと関連付けた「学習権」について考えましょう。 「手作り新聞」プレゼンテーションの準備をしよう。 「ゆとり世代」って本当にだめなの？ 「アクティブラーニング」とはどんなものか。子どもの瞳の輝く学習をどう作るか。「面白い授業体験」をもとに考えてみましょう。

15. まとめ(学生の不安や疑問に答えるとともに、めざす教育・教師像を交流する。) 印刷配布された全員分の「手作り通信」を読んで、教育と子どもの問題を考えよう。
課題レポート「手作り通信」発表と交流(2)。 この授業で学んだことを振り返り、目指す教育・教師像を考えよう。教職への不安や疑問があれば質問できるようにまとめておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:
フィードバックの方法:

今日の教育課題や社会問題を積極的に取り上げながら授業を進めていくので、本や雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど、メディアを通じた教育情報にできるだけ多く触れておくようにしましょう。
また、講義テーマを自分自身の体験に引き寄せて、問題意識を持って授業に参加しましょう。

コメントカードは全員分を講義通信に掲載して毎回紹介し、解説します。
最終レポートとなる「手作り通信」は、縮小印刷して全員分を配布し、一人1分のプレゼンテーションを行ってもらいます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポートに代わり手作り通信(B4大)を提出	70%	1、問題意識を持って調べたことや体験をもとにして記述し、自分なりの考察ができる。 2、読み手にわかりやすく興味をひく文章表現ができる。 3、グラフや表、イラストなどを活用して、読み手にわかりやすい紙面構成にすることができる。 4、文字の丁寧さと読み手の興味を引くレイアウトの工夫ができる。 5、1分間のプレゼンテーションで、聞き手の興味を引くように内容をわかりやすく伝えることができる。
	授業での発表や「受講コメントカード」	30%	1、グループ活動や対話・討論など、場に応じて学習活動に参加することができる。 2、これまでの体験や知識をもとに考察して、講義後のコメントカードにまとめることができる。

教科書: 特に指定しない。

参考書: 講義の都度、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義前や講義後に対応します。気軽に相談してください。

授業テーマ:

高等学校共通教科及び専門教科「情報科」の教育内容及び指導法を学ぶ

授業の概要:

高等学校共通教科及び専門教科「情報科」設立の背景、目標、内容、教材、学習指導方法を理解し、情報のプロフェッショナルとして情報教育における実践的指導力を育成する。

到達目標:

「情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。」情報教育の教科目標を理解する。
ICT環境を理解し活用できる指導力を身につける。
社会の情報化に関心を持ち指導に活かす態度を身につける。

授業方法:

ICT環境(コンピュータ室)を活用し講義、演習を行う。
全員が教材を準備し模擬授業を2、3回行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	情報教育のあり方の研究 小・中・高等学校を通して体系的・系統的に行われる 情報教育の目標について正しく理解する	小学校から高等学校まで経験してきた情報教育を振り返る
2.	自己の情報活用能力の理解	情報に関して本学において専門的に学習してきた内容をまとめる
3.	情報科教育の現状	高等学校において履修した教科情報の学習内容を振り返る
4.	共通教科「情報科」の目標と内容の研究1 「社会と情報」について	
5.	共通教科「情報科」の目標と内容の研究2 「情報の科学」について	
6.	教育環境の研究1 様々なメディアを活用できる教育環境	高等学校で学んだコンピュータ室など情報環境を調査する
7.	教育環境の研究2 情報通信ネットワークを活用できる教育環境	最新の教育に用いられてるICTの調査
8.	年間指導計画と学習指導案	
9.	授業設計 目標分析	
10.	授業設計 評価問題の作成	
11.	学習指導案の作成	模擬授業に向けて単元を決め資料を準備する
12.	教材開発と教授方法	単元に沿った教材作成のための資料を準備する
13.	模擬授業1	教材を作成し模擬授業の準備をする。
14.	模擬授業2	1度目の模擬授業を振り返り授業を再考する
15.	模擬授業3	2度目の模擬授業を振り返り授業を再考する

受講者へのメッセージやアドバイス:

社会の情報化における変化に対して絶えず関心を持ち教材として活用することを日常的にこころがけてください。
定期試験は行いません。未提出の課題が一つでもある場合や、出席率が2／3を下回った場合は単位を与えません。遅刻は1／3回として処理します。

フィードバックの方法:

課題について、教室で発表しまとめて評価し共有する。
電子メールで課題についてコメント、指示を行う。
模擬授業は相互に評価し評価をもとに改善し再度模擬授業を行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加姿勢	30	意欲・関心・態度
	各回の課題	30	意欲・関心・理解・表現
	最終レポート	40	題意把握・内容理解、論理構成・考察力、表現・文字の正確さ

教科書:

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編 平成22年5月』開隆堂出版
文部科学省のWebサイトからダウンロードができる。出版物を購入もしくは印刷製本して持参すること。

参考書:

高等学校で使用した教科情報の教科書、ワークブック・ノート等

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

本学の電子メールアドレスもちいる。
E-mail ruetani@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	高等学校共通教科及び専門教科「情報科」の教育内容及び指導法を学ぶ		
授業の概要:	情報科教科教育法Aに引き続き、共通教科及び専門教科「情報科」の指導法を理解し、学科で習得する専門分野の能力を生かした情報のプロフェッショナルとして情報教育における実践的指導力を育成する。		
到達目標:	情報化社会における情報産業と職業観の理解 専門教科「情報科」の理解と一般教科情報の違いの理解 情報化社会の革新と問題に対する関心と意欲 授業における教材開発、指導力		
授業方法:	ICT環境(コンピュータ室)を活用し講義、演習を行う。 全員が教材を準備し模擬授業を2、3回行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	教育評価1 評価問題の作成と評価	センター試験の情報関係基礎の入手と自己で試験問題を解き自己採点
	2.	教育評価2 演習課題の作成と評価	
	3.	専門教科「情報科」の目標と内容と教材の研究1 情報産業と社会について 課題研究について	専門教科「情報科」と一般教科情報の違い
	4.	専門教科「情報科」の目標と内容と教材の研究2 情報の表現と管理 、情報と問題解決について	
	5.	専門教科「情報科」の目標と内容と教材の研究3 情報テクノロジーについて システムの設計・管理分野について	最近注目されているICTの調査
	6.	専門教科「情報科」の目標と内容と教材の研究4 情報コンテンツの製作・発信分野について	
	7.	生徒指導等のための知識・技能及び態度 得意分野を持つ個性豊かな教員として	
	8.	ICTを活用した情報教育	
	9.	学習環境の構築1 コンピュータ教室のデザイン	今後教育に活用が期待されるICTの調査
	10.	学習環境の構築2 ネットワーク環境	
	11.	模擬授業1 講義形態の授業	模擬授業の教材
	12.	模擬授業2 実習形態の授業	模擬授業の教材
	13.	模擬授業2 実習形態の授業	
	14.	未来の情報化社会について	マスコミが注目する未来の情報化社会
	15.	新学習指導要領に向けた取り組みについて	
受講者へのメッセージやアドバイス:	社会の情報化における変化に対して絶えず関心を持ち教材として活用することを日常的にこころがけてください。 定期試験は行いません。未提出の課題が一つでもある場合や、出席率が2／3を下回った場合は単位を与えません。遅刻は1／3回として処理します。		
フィードバックの方法:	課題について、教室で発表しまとめて評価し共有する。 電子メールで課題についてコメント、指示を行う。 模擬授業は相互に評価し評価をもとに改善し再度模擬授業を行う。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加姿勢	30	意欲・関心・態度
	各回の課題	30	意欲・関心・理解・表現
	最終レポート	40	題意把握・内容理解、論理構成・考察力、表現・文字の正確さ
教科書:	文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編 平成22年5月』開隆堂出版 文部科学省のWebサイトからダウンロードができる。出版物を購入もしくは印刷製本して持参すること。		
参考書:	高等学校で使用した教科情報の教科書、ワークブック・ノート等		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	E-mail ruetani@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	未来の教師としての第一歩、教育実習を成功させよう
授業の概要:	教育実習
到達目標:	1) 各自が実習生として英語科指導を実地に行うために必要な留意事項や心構えを学ぶ 2) これまでに学んだ英語科教科教育法の知識及び学習指導案作成方法を再確認する 3) オリエンテーション(中学校現役教員および高等学校現役教員による教育実践、同和・人権教育、性教育)により教育現場の実情を理解する(全5回:日程の都合上、3年次に前倒しで行う) 実習中 1) 指導教諭の下、真摯な態度で実習に臨む 2) 教育現場における実習経験を通し、教師として求められる知識、技能、態度、教育精神を学ぶ 実習後 1) 実習報告書作成やポスターセッション・卒論発表に参加することにより、各自の体験をまとめる作業を通し、教師として必要とされる知識、技能、態度、教育精神を再確認する 2) 他の実習経験者及び3年生教職課程履修生との交流を通し、各自の体験を客観的に捉える 各回の授業内容:実習前 1) 教育実習の意義と実習生としての心構え、留意事項を講義する 2) 模擬授業(個人、30分程度、ビデオ撮影あり)を実施し、授業体験と振り返りを行う 実習中 1) 実習校における2～3週間の教育実習を行う 2) 実習簿及び実習報告書の記入、提出をする 実習後 1) 大学指定の報告書提出と、授業において実習報告(個人、10分程度、ポスター作成)を行う 2) 教育実習経験を、英語英文科ポスターセッション(7月)または卒業研究発表会(1月)で参加・発表する 3) 教育実習経験、使用した学習指導案・資料等を整理し、「Viva! 教育実習」に記録としてまとめる 4) 実習校より実習簿および実習評価を受け取った後、個人面談を行う
授業方法:	教育科学における理論と実践の結合である教育実習が中心となる。実習前後には、実践的認識を深め、教職に関して自己啓発を促すための準備と内省を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、実習における留意事項及び心構え、模擬授業日時決定	
2.	模擬授業(1)と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
3.	模擬授業(2)と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
4.	模擬授業(3)と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
5.	模擬授業(4)と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
6.	模擬授業(5)と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
7.	模擬授業(6)と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
8.	模擬授業(7)と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
9.	模擬授業(8)と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
10.	教育実習の実習報告・振り返り(1)	ポスター作成
11.	教育実習の実習報告・振り返り(2)	ポスター作成
12.	教育実習の実習報告・振り返り(3) 秋実習予定者模擬授業(1)	ポスター作成 模擬授業リハーサル
13.	教育実習の実習報告・振り返り(4) 秋実習予定者模擬授業(2)	ポスター作成 模擬授業リハーサル
14.	教育実習の実習報告・振り返り(5) 秋実習予定者模擬授業(3)	ポスター作成 模擬授業リハーサル
15.	まとめ 「教職課程履修のあゆみ」提出	

受講者へのメッセージやアドバイス:	
フィードバックの方法:	模擬授業を振り返り考えたことを「教職課程のあゆみ」に記入する。 教育実習において経験したこと、学んだことを「教職課程のあゆみ」に記入する。 教育実習における記憶を記録し、文集としてまとめる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習前の模擬授業および振り返りレポート	10%	模擬授業および振り返りレポートを評価する。
	実習校における評価	60%	実習校での評価を、評価の一部として加える。
	教育実習報告書および実習簿の内容	5%	提出物として評価に加える。
	「教職課程履修のあゆみ」の利用	5%	提出物として評価に加える。
	ポスターセッションまたは卒業研究発表会での実習報告	10%	参加および発表することを評価に加える。
	5回のオリエンテーションへの出席およびレポート	10%	学内で行われる授業や教職関連の講演会への遅刻・欠席に対しては厳しく対処する。

教科書:	これまでの英語科教科教育法で使用したテキストおよび中高等学校用英語テキストを利用する。

参考書:	

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

815062

教育実習A(事前・事後指導を含む)

小林賢章

授業テーマ:	教員になろう。		
授業の概要:	教育実習に行く際の心構えの確認。		
到達目標:	教員としての自覚を持つ。		
授業方法:	講義と発表。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 概説	なし	
	2. 教育実習と指導要領の関係の確認。	指導要領を読んでくる。	
	3. 教育実習で実際に起こった問題とその対策。	前回指導事項のノート作成。	
	4. 教育実習現場での諸事項の確認。	前回指導事項のノート作成。	
	5. 教育実習に臨む心構えの確認。原則この期間に教育実習。	前回指導事項のノート作成。	
	6. 教育実習の報告と振り返り。	反省簿の下書きをしてくる。	
	7. 教育実習反省簿の作成。	反省簿の清書をしてくる。	
	8. 反省簿の提出と印刷。(来年の学生のために)	なし	
	9. 実施しない。		
	10. 実施しない。		
	11. 実施しない。		
	12. 実施しない。		
	13. 実施しない。		
	14. 実施しない。		
	15. 実施しない。		
受講者へのメッセージやアドバイス:	社会人となることを自覚するように。		
フィードバックの方法:	教育実習反省簿と教育実習簿、実習校からの成績報告書。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習校からの成績報告書	80	満点を80点換算
	教育実習反省簿と教育実習簿	20	満点を20点換算
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	eメール		

授業テーマ:	教育実習による学校現場の実際を感得する。																																	
授業の概要:	教育実習の事前指導として、その意義と心得、指導案の作成、教材研究、模擬授業等により、教育実習への準備をする。教育実習終了後、実習中の経験、学んだこと、感想等を発表し、指導案や教材、現場での対応などの具体的な問題点などについて討論する。																																	
到達目標:	実際の教育現場に行き、教師として必要な下記のような要因を身に着けることを目標とする。 1. 包括的な知識 2. 考察力 3. 技能 4. 態度 5. 精神力																																	
授業方法:	講義と演習の混合																																	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 教育実習のためのオリエンテーション。 模擬授業日の決定。</td><td>教育実習の日程と授業で扱う教材が決まっている人は、その教材や資料を持参すること。</td></tr><tr><td>2. 指導案の書き方 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)① 教室の見渡し方。</td><td>1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。</td></tr><tr><td>3. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)② ピアノを弾きながらの生徒への促し方</td><td>1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。</td></tr><tr><td>4. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)③ 歌詞や曲の説明と指導法</td><td>1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。</td></tr><tr><td>5. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)④ 消極的な生徒へのアプローチ</td><td>1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。</td></tr><tr><td>6. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑤ 教師とはパフォーマー</td><td>1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。</td></tr><tr><td>7. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑥ 事前準備と対応</td><td>1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。</td></tr><tr><td>8. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑦ 授業での事故</td><td>1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。</td></tr><tr><td>9. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑧ 生徒を飽きさせない</td><td>1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。</td></tr><tr><td>10. 教育実習報告① 学校の特徴とクラスの規模</td><td>教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。</td></tr><tr><td>11. 教育実習報告② 教材について</td><td>教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。</td></tr><tr><td>12. 教育実習報告③ 指導案に沿った授業展開と生徒の反応</td><td>教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。</td></tr><tr><td>13. 教育実習報告④ 音楽科以外の授業とクラス運営 クラブ活動</td><td>教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。</td></tr><tr><td>14. 教育実習報告⑤ トラブルが起きた場合の解決策</td><td>教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。</td></tr><tr><td>15. 現場での教師の在り方など含む総括。</td><td>授業を受ける側と提供する側の違いを再度思い返し、発信する立場の難しさを忘れないようにしておく。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 教育実習のためのオリエンテーション。 模擬授業日の決定。	教育実習の日程と授業で扱う教材が決まっている人は、その教材や資料を持参すること。	2. 指導案の書き方 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)① 教室の見渡し方。	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。	3. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)② ピアノを弾きながらの生徒への促し方	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。	4. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)③ 歌詞や曲の説明と指導法	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。	5. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)④ 消極的な生徒へのアプローチ	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。	6. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑤ 教師とはパフォーマー	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。	7. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑥ 事前準備と対応	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。	8. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑦ 授業での事故	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。	9. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑧ 生徒を飽きさせない	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。	10. 教育実習報告① 学校の特徴とクラスの規模	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。	11. 教育実習報告② 教材について	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。	12. 教育実習報告③ 指導案に沿った授業展開と生徒の反応	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。	13. 教育実習報告④ 音楽科以外の授業とクラス運営 クラブ活動	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。	14. 教育実習報告⑤ トラブルが起きた場合の解決策	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。	15. 現場での教師の在り方など含む総括。	授業を受ける側と提供する側の違いを再度思い返し、発信する立場の難しさを忘れないようにしておく。	
授業内容	準備学習等の内容																																	
1. 教育実習のためのオリエンテーション。 模擬授業日の決定。	教育実習の日程と授業で扱う教材が決まっている人は、その教材や資料を持参すること。																																	
2. 指導案の書き方 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)① 教室の見渡し方。	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。																																	
3. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)② ピアノを弾きながらの生徒への促し方	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。																																	
4. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)③ 歌詞や曲の説明と指導法	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。																																	
5. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)④ 消極的な生徒へのアプローチ	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。																																	
6. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑤ 教師とはパフォーマー	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。																																	
7. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑥ 事前準備と対応	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。																																	
8. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑦ 授業での事故	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。																																	
9. 模擬授業(ピアノを弾きながらの歌唱指導)⑧ 生徒を飽きさせない	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。																																	
10. 教育実習報告① 学校の特徴とクラスの規模	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。																																	
11. 教育実習報告② 教材について	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。																																	
12. 教育実習報告③ 指導案に沿った授業展開と生徒の反応	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。																																	
13. 教育実習報告④ 音楽科以外の授業とクラス運営 クラブ活動	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。																																	
14. 教育実習報告⑤ トラブルが起きた場合の解決策	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。																																	
15. 現場での教師の在り方など含む総括。	授業を受ける側と提供する側の違いを再度思い返し、発信する立場の難しさを忘れないようにしておく。																																	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業内容は決められた1日1項目ではなく、授業の進展度合いによって変動します。 参考文献など必要と思われるものは授業内にて紹介。																																	
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。場合によって提出物に対してのコメント返却もある。																																	
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>発表、討論</td><td>60</td><td>文言のまとめ方、声の出し方を含む聞き手への伝達法、反応を感じ取る力等を基準とする。</td></tr><tr><td>レポート</td><td>40</td><td>簡潔に要点をまとめられるか。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	発表、討論	60	文言のまとめ方、声の出し方を含む聞き手への伝達法、反応を感じ取る力等を基準とする。	レポート	40	簡潔に要点をまとめられるか。																								
評価方法	割合	評価基準																																
発表、討論	60	文言のまとめ方、声の出し方を含む聞き手への伝達法、反応を感じ取る力等を基準とする。																																
レポート	40	簡潔に要点をまとめられるか。																																
教科書:																																		
参考書:																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力																																	
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。Eメール(tinoue@dwc.doshisha.ac.jp)。オフィスアワー。																																	

授業テーマ:

教育実習のオリエンテーションとリフレクション

授業の概要:

教育実習は4年間の教職課程の総仕上げであるとともに、教師の生成過程の入り口に立つことでもある。学ぶ経験から初めて教える経験に転換する中で、ものごとの視野が大きく変わることになる。そうした転換点には、多くの不安と不案内がつきまとうであろう。そこでこの授業では以下の到達目標を念頭にしながら、教育実習の総合的な仕上げを行う。

到達目標:

(1) 授業の視聴、教壇実習を通じて、教壇に立つ自分のイメージを固め、技術的なポイントについて再確認する。
(2) 教育実習中に起るであろうさまざまなポイントについて話し合う。
(3) 教育実習の実践
(4) 教育実習についてのリフレクション。

授業方法:

演習形式を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 教育実習簿の配布、その使い方の説明、その他の書類の説明。教育実習全体のオリエンテーション	配布資料の確認。
	2. 授業VTR(DVD)視聴により、授業見学のポイントを学ぶ。	教育実習に向けた実践的準備活動として、配布の諸資料の整理や予備学習を行う。
	3. 教壇実習を通して、緊張のほぐし方、生徒への視線、口調などについて話し合う。	教育実習に向けた実践的準備活動として、配布の諸資料の整理や予備学習を行う。
	4. 教壇実習を通して、指導案の作り方、教材研究とは何かについて確認する。	教育実習に向けた実践的準備活動として、配布の諸資料の整理や教材研究、予備学習を行う。
	5. 教壇実習を通して、発問の工夫、授業のリズム、声の大きさなどについて話し合う。	教育実習に向けた実践的準備活動として、配布の諸資料の整理や教材研究、予備学習を行う。
	6. 教壇実習を通して、生徒との接し方、しかり方・ほめ方について話し合う。	教育実習に向けた実践的準備活動として、配布の諸資料の整理や教材研究、予備学習を行う。
	7. HR活動、クラブ活動、学校行事が学校教育でになっている役割について説明する。	教育実習にむけての総合的な準備を行う。
	8. 教育実習(1)	教育実習にむけての総合的な準備を行う。
	9. 教育実習(2)	教育実習にむけての総合的な準備を行う。
	10. 教育実習(3)	教育実習にむけての総合的な準備を行う。
	11. 教育実習のリフレクション(1)教師とは何か。教師に求められるものは何か。	教育実習後の課題を学生相互に確認し、より改善された、質の高い教育目標に向けての授業の構築をおこなうため、情報の整理・復習を行う。
	12. 教育実習のリフレクション(2)自分の授業を振り返りながら、授業とは何かを考える。	教育実習後の課題を学生相互に確認し、より改善された、質の高い教育目標に向けての授業の構築をおこなうため、情報の整理・復習を行う。
	13. 教育実習のリフレクション(3)自分の授業を振り返りながら、授業とは何かを考える。	教育実習後の課題を学生相互に確認し、より改善された、質の高い教育目標に向けての授業の構築をおこなうため、情報の整理・復習を行う。
	14. 教育実習のリフレクション(4)現在の生徒について考える。	教育実習後の課題を学生相互に確認し、より改善された、質の高い教育目標に向けての授業の構築をおこなうため、情報の整理・復習を行う。
	15. 学校教育を取り巻く環境	実習簿の整理・確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内で個別・全体的な総括を随時フィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	教育実習簿	20	到達目標3について総合的に評価する。
	教育実習報告書	20	到達目標3について総合的に評価する。
	教育実習内容の報告・プレゼンテーション	30	到達目標1、4について総合的に判断する。
	教育実習後の相互ディスカッション	30	到達目標2について総合的に判断する。

教科書:

特になし。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビー、メールなどを総合的に活用する。

授業テーマ：実習校での教育実習と本学での事前・事後指導

授業の概要：教育実習校での3～4週間の実習、本学での教育実習直前指導及び教育実習反省会、教職オリエンテーション(中学校・高等学校現職教員による教科別の講義、同和・人権教育、性教育)をもって構成される。

到達目標：①教育の現場における実習の経験を通して、教師として必要な知識、技能、態度が身につく。
②教育とは何かについて深く考えることができる。
③教育現場が置かれている現状について理解できる。
④実習先の先生や生徒との関わりを通じて、問題解決能力やコミュニケーション能力が高まる。
⑤実習で体験したことを反省会で互いに共有することで、他者の体験を追体験することができる。

授業方法：教職オリエンテーションは他学科と合同で講義形式で行う。日程の都合上、3年次に前倒しで行われることがあるが、出欠席、レポート提出による評価は本科目で行う。
教育実習事前指導は学科別に講義形式で行う。また、事前指導の一環として個別面談を実施する。
教育実習は、学生各自が出身校または割り当てられた中学校・高等学校で、教科指導及びクラス担任の先生のもとで行う。
教育実習後の反省会は学科別に討議形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 教職オリエンテーション(中学校・高等学校現職教員による教育実践、教育現場の実情等説明)	レポートを提出する。
	2. 教職オリエンテーション(同和教育、人権教育、性教育)	レポートを提出する。
	3. 事前指導(教育実習の意義、目的、心構えなど具体的な諸注意)	春休みの間に中学校・高等学校の家庭科教科書を熟読しておくこと。
	4. 事前指導(教育実習の意義、目的、心構えなど具体的な諸注意)	教科書「教育実習64の質問」と教育実習簿の注意事項をに目を通しておくこと。
	5. 事前指導(教育実習の意義、目的、心構えなど具体的な諸注意)	教科書「教育実習64の質問」と教育実習簿の注意事項をに目を通しておくこと。
	6. 事前指導(教育実習の意義、目的、心構えなど具体的な諸注意)	教科書「教育実習64の質問」と教育実習簿の注意事項をに目を通しておくこと。
	7. 教育実習(3～4週間)	教育実習簿に必要事項を記入し、学習指導案・板書計画の作成、掛図・標本等の準備等、実習時間外も含めて作業し、遅滞なく実習指導者に提出すること。
	8. 教育実習(3～4週間)	教育実習簿に必要事項を記入し、学習指導案・板書計画の作成、掛図・標本等の準備等、実習時間外も含めて作業し、遅滞なく実習指導者に提出すること。
	9. 教育実習(3～4週間)	教育実習簿に必要事項を記入し、学習指導案・板書計画の作成、掛図・標本等の準備等、実習時間外も含めて作業し、遅滞なく実習指導者に提出すること。
	10. 教育実習(3～4週間)	教育実習簿に必要事項を記入し、学習指導案・板書計画の作成、掛図・標本等の準備等、実習時間外も含めて作業し、遅滞なく実習指導者に提出すること。
	11. 教育実習(3～4週間)	実習先に教育実習簿を提出する。
	12. 事後指導(反省会とグループ討論)	教育実習報告書を提出する。「教職課程履修カルテ」に必要事項を記入することで実習内容の振り返りをする。 反省会に向け、実習先での体験についてまとめておく。
	13. 事後指導(反省会とグループ討論)	反省会に向け、実習先での体験についてまとめておく。
	14. 事後指導(反省会とグループ討論)	反省会に向け、実習先での体験についてまとめておく。
	15. 事後指導(反省会とグループ討論)	反省会に向け、実習先での体験についてまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス：教育実習先で臨機応変に対応できるようにするために、家庭科に関連する書籍、指導書(図書館、教職課程センター、教育実習指導教員研究室にて閲覧可能)、新聞等を読むことで、生活科学全般に対する知識を蓄積すること。
家庭科教育は内容が広範囲にわたるので、各自実習校で行う範囲を事前に知るよう努め、教職課程センターや各学科の担当教員の研究室に準備された指導書等の資料によって前もって授業計画をたてておくことが望ましい。

フィードバックの方法：春学期授業前に個人面談を行い、春休み中の準備状況や教育実習に行くにあたっての覚悟などについて直接確認する。教育実習簿の記載内容を確認したものを返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	実習校からの評価	65	到達目標①②③④について、実習校からの評価をもって評価する。
	教育実習簿	15	到達目標①②③④について、日誌の記載状況から評価する。
	提出物	10	教職オリエンテーションや教育実習報告書の提出状況で評価する。
	授業への参加度	10	到達目標⑤を含め全体的に積極的に参加したかで評価する。
	遅刻・欠席		厳しく減点する。

教科書：寺昌男、黒澤英典、別府昭郎、教育実習64の質問、学文社

参考書：中学校技術・家庭(家庭分野)の指導書、開隆堂・東京書籍他
高校家庭総合の指導書、開隆堂・大修館書店・実教出版他

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、(教育実習ではこれまでに培った全ての能力を駆使することが要求される。)

教員との連絡方法：授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

815700

教育実習B(事前・事後指導を含む)

川田 隆雄

授業テーマ:	教育実習の綿密な準備と教師になるための基礎を築く			
授業の概要:	教育実習は教職課程の総仕上げです。また、教育の現場に直接参加することは大きな試練でありまた喜びでもあります。そして、本学で学んだ教育理論や教育方法等を実践を通して確認し修得する機会にもなります。本授業では、教育実習前、実習中、実習後に必要な教師としての職務や心得等の理解を深めることを目標とします。教育実習終了後の秋学期は、教育現場での教師と子供達との関係の問題に焦点をあてて、参考図書を読みながら議論していきます。			
到達目標:	実際の教育実習で実力が発揮出来るように、模擬授業を通じて準備を行います。また、教師になるために必要な基礎的知識を書籍を通して学びます。			
授業方法:	講義・模擬授業・グループ討議、輪読会等を予定。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。			
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	教育課程についてのガイダンス	復習	
	2.	情報教育の学習指導案の作成	復習	
	3.	模擬授業演習1	模擬授業準備	
	4.	模擬授業演習2	模擬授業準備	
	5.	模擬授業演習3	模擬授業準備	
	6.	模擬授業演習4	模擬授業準備	
	7.	教育者になるための書籍を購読	発表準備	
	8.	教育実習と振り返り	特になし	
受講者へのメッセージやアドバイス:	教育実習に実際行くための模擬授業の準備、教育実習先から帰ってきた後の振り返りのための準備など、かなりの時間数の予習・復習が含まれる。			
フィードバックの方法:	授業内および、教育実習中はスカイプなどを使いフィードバックをおこなう。			
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準	
	授業への取り組み	40	模擬授業の成果	
	教育実習の成果	60	実習校から届く成績表を参考にする	
教科書:	適宜指示			
参考書:	適宜指示			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、創造力、思考力			
教員との連絡方法:	授業内でのコンタクトを基本とする。			

授業テーマ:	社会科教育―その授業の原理、内容、方法		
授業の概要:	中学校社会科教師としての専門性を深めるために、現代社会と社会科との関連性に言及しながら、社会科の教科原理、目標、内容について考察していく。授業では、中学校社会科の年間計画や学習指導案の作成を宿題として課し、それらの相互評価を行う。また対話カードなどを用いて講義内容の理解を深めていく。		
到達目標:	知識理解: 中学校社会科教師としての専門性を深め、社会科の教科原理、目標、内容について十分な理解ができる。 技能・態度: 中学校社会科の年間計画や学習指導案の作成をととして、授業実践に対する態度と技能を身に付けることができる。		
授業方法:	教科書及び授業で配布する資料を活用した講義を中心に、指導案の分析、作成や教材体験などワークショップを加える。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション(講義のすすめ方)、エントリースシート、藤原研究室の紹介	必ず出席のこと
	2.	社会科の基本的性格―現代社会と中学校社会科	教科書、参考文献、資料の熟読
	3.	社会科教育の歴史―教育課程の変遷を中心に	教科書、参考文献、資料の熟読
	4.	中学校社会科の目標と教科構造(指導要領解説)	教科書、参考文献、資料の熟読
	5.	社会科の授業計画―中学校社会科の授業構成と学習原理	教科書、参考文献、資料の熟読
	6.	中学校社会科の授業事例1(地理的分野)と教材研究	中学校社会科単元計画・学習指導案の準備
	7.	中学校社会科の授業事例2(歴史的分野)と教材研究	中学校社会科単元計画・学習指導案の準備
	8.	中学校社会科の授業事例3(公民的分野)と教材研究	中学校社会科単元計画・学習指導案の準備
	9.	中学校社会科単元計画・学習指導案提出・共有	中学校社会科単元計画・学習指導案の準備
	10.	中学校社会科単元計画・学習指導案改善指導	教科書、参考文献、資料の熟読
	11.	中学校社会科公民的分野の授業実践に関するワークショップ1	教科書、参考文献、資料の熟読
	12.	中学校社会科公民的分野の授業実践に関するワークショップ3	教科書、参考文献、資料の熟読
	13.	中学校社会科公民的分野の授業実践に関するワークショップ3	教科書、参考文献、資料の熟読
	14.	単元計画・学習指導案改訂版の提出、共有、ふりかえり、社会科教育の評価	中学校社会科単元計画・学習指導案の作成
	15.	学びの確かめの試験(持ち込み可)	教科書、参考文献、資料の熟読
受講者へのメッセージやアドバイス:	教職課程科目なので、欠席・遅刻はないものとする		
フィードバックの方法:	毎時間のふりかえりカードへのコメント返却、クラスでの共有 中学校社会科単元計画・学習指導案の提出と改善のためのコメント、改善指導案の再提出		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	30	講義対話カード(ふりかえりカード)を含め、授業に積極的に参加しているか。
	課題(学習指導案の提出)	40	中学校社会科単元計画・学習指導案提出 改訂版の再提出ができているか
	学びの確かめのための試験	30	授業目標が達成されているか。参考書、ノート、対話カード、資料など持ち込み可
教科書:	文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版、2008年		
参考書:	藤原孝章(2008)『シミュレーション教材「ひょうたん島問題」―多文化共生社会ニッポンの学習課題』明石書店 藤原孝章編(2009)『時事問題学習の理論と実践―国際理解・シティズンシップを育む社会科教育』福村出版 唐木清志・西村公孝・藤原孝章(2010)『社会参画と社会科教育の創造』学文社 原田智仁編(2016)『社会科教育のルネサンス』保育出版社 開発教育協会編(2016)『18歳選挙権と市民教育ハンドブック』開発教育協会		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	e-mail		

授業テーマ:

授業の概要: 中学校社会科(地理的分野・歴史的分野)を中核とした教科教育のありかたと、その実践について指導案や模擬授業も踏まえながら学習する。

到達目標: 1 中学校社会科(地理的分野・歴史的分野)の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深める。
2 中学校社会科の授業事例の分析、学習指導案を含む指導計画の作成を通して、授業づくりに関する留意点を身に付ける。

授業方法: 講義を中心としつつ、教材研究指導、指導案の作成、模擬授業の実践を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義のガイダンス	配布資料の確認
2.	戦後社会科の成立と初期社会科の実践	配布資料の確認
3.	中学校学習指導要領の変遷と分化社会科	配布資料の確認
4.	中学校社会科学学習指導案の実際と指導案作成の留意点(1)	指導案・配布資料の確認
5.	中学校社会科学学習指導案の実際と指導案作成の留意点(2)	指導案・配布資料の確認
6.	中学校社会科の教科構造と目標・内容・方法	指導案・配布資料の確認
7.	学習指導案(課題)の作成にあたって	指導案・配布資料の確認
8.	中学校社会科(地理的分野・歴史的分野)の教材研究方法～導入論・発問論・教材論	テーマに応じた教材研究を行う
9.	中学校社会科(地理的分野・歴史的分野)の教材研究(1)	テーマに応じた教材研究を行う
10.	中学校社会科(地理的分野・歴史的分野)の教材研究(2)	テーマに応じた教材研究を行う
11.	中学校社会科(地理的分野・歴史的分野)の教材研究(3)	テーマに応じた教材研究を行う
12.	学習指導案の改善(1)	指導案・配布資料の確認
13.	学習指導案の改善(2)	指導案・配布資料の確認
14.	社会科における評価の工夫	指導案・配布資料の確認
15.	模擬授業の概要	模擬授業に向けた準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
フィードバックの方法: 授業内でのコメントペーパーに対して、適宜紹介し、コメントを行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度・コメントペーパー	40	到達目標1の到達度を評価する。
	単元計画・学習指導案提出 模擬授業	60	到達目標2の到達度を総合評価する。

教科書: 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会科編』

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力

教員との連絡方法: 授業後の教室ならびに研究室にて対面で行う。

816960

教育課程論

佐藤 光友

授業テーマ:	学校教育における教育課程の理論的・実践的展開		
授業の概要:	教育課程の基本的事項について理解を深め、教員として教育課程の編成、実施、評価、改善をになうことのできる力を身につけることのできる講義をめざす。具体的には、教育課程の基本的な考え方や仕組み、教育評価、教育課程の歴史の変遷、さらには、授業デザイン、カリキュラム・マネジメントを含めた教育課程の実践的な展開方法を学んでいく。		
到達目標:	教育課程の基本的事項について理解を深め、教職としての基礎・基本を身につける。		
授業方法:	基本的には講義形式。集団討議や意見発表も行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	教育課程の意義と概念	事前にシラバスを読んでおくこと。
	2.	教育課程の歴史	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の歴史」の資料を熟読しておくこと。
	3.	教育課程と学習指導要領Ⅰ	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と学習指導要領」の資料を熟読しておくこと。
	4.	教育課程と学習指導要領Ⅱ	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と学習指導要領」の資料を熟読しておくこと。
	5.	教育課程の編成	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の編成」の資料を熟読しておくこと。
	6.	教育課程の評価	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の評価」の資料を熟読しておくこと。
	7.	教育課程実施上の配慮事項	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程実施上の配慮事項」の資料を熟読しておくこと。
	8.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。
受講者へのメッセージやアドバイス:	各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに、次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の予習をしておくこと。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60%	到達目標、教育課程の基本的事項に関する理解度により評価する。
	授業への参加意欲	40%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出により評価する。
教科書:	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』(東洋館出版社) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(東洋館出版社)		
参考書:	文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』(東京書籍)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:	人と人との関係の中で望ましい生き方をするために		
授業の概要:	道徳教育においては、児童生徒の道徳性を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を考察する。さらに、道徳の時間における指導方法や指導計画、指導内容(指導案作成、資料活用、発問作成)について学んでいく。特別活動論においては、児童生徒が望ましい集団活動を通じて、個性の伸張をはかり、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を考察する。さらに、学級活動などにおける指導方法や指導計画、指導内容について学んでいく。		
到達目標:	道徳教育では、児童生徒の道徳性を育成するための道徳教育の基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を確実に身につける。さらに、道徳授業の指導方法や指導内容に対応した指導案作成(資料活用、発問作成など)や模擬授業の基本的技能を修得できるようになること。特別活動論においては、児童生徒が望ましい集団活動を通じて、個性の伸張をはかり、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な知識を獲得し、学級活動や学校行事を企画し実行できる力を身につけること。		
授業方法:	講義と平行して、指導案や企画を基にして、模擬授業や発表を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 道徳教育の目標	事前にシラバスを読んでおくこと。	
	2. 道徳教育と学習指導要領(道徳教育の内容と歴史)	事前に配布している資料を使って復習をし、「道徳教育の内容と歴史」の資料を熟読しておくこと。	
	3. 道徳教育のあり方(指導計画と具体、評価)	事前に配布している資料を使って復習をし、「道徳教育の内容と歴史」の資料を熟読しておくこと。	
	4. 道徳の時間における実践(指導案作成、資料活用、発問作成)	事前に配布している資料を使って復習をし、「道徳の時間における実践」の資料を熟読しておくこと。	
	5. 特別活動の目標と教育的意義	事前に配布している資料を使って復習をし、「特別活動の目標と教育的意義」の資料を熟読しておくこと。	
	6. 特別活動と学習指導要領(活動内容、指導計画と具体、評価)	事前に配布している資料を使って復習をし、「特別活動と学習指導要領」の資料を熟読しておくこと。	
	7. 学級活動・学校行事の企画づくり	事前に配布している資料を使って復習をし、「学級活動・学校行事の企画づくり」の資料を熟読しておくこと。	
	8. まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。		
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	指導案ならびに企画作成・提出	30%	課題に対応した指導案、企画作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。
	発表を含む授業への参加意欲	20%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。
	定期試験	50%	道徳教育・特別活動の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。
教科書:	金光靖樹、佐藤光友編著『やさしく学ぶ道徳教育』(ミネルヴァ書房) 文部科学省著『小学校学習指導要領解説 道徳編』(東洋館出版社) 文部科学省著『小学校学習指導要領解説 特別活動編』(東洋館出版社)		
参考書:	文部科学省著『中学校学習指導要領解説 道徳編』(日本文教出版) 文部科学省著『小学校学習指導要領解説 総則編』(株式会社ぎょうせい)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	
2. 教育活動のねらい	これまでの経験から最もよくないと思った授業について記述する
3. 授業づくり ①授業のテーマを決めよう	自分の行いたい授業のテーマを決める
4. 授業づくり ②授業のねらいを明確化し概要を構想する	グループで決めたテーマの授業概要を構想する
5. 講義:教えることと学ぶこと	これまでの学習についての振り返りを記述する
6. よい授業とは(Ⅰ)自分の経験を振り返る	これまでの経験から最もよいと思った授業について記述する
7. よい授業とは(Ⅱ)ビデオを視聴して考える	
8. 授業づくり ③授業構想の再検討	授業構想を練りなおす
9. 講義:学習のプロセスと促進	これまでの学習についての振り返りを記述する
10. 授業づくり ④授業展開	グループの授業展開を構想する
11. 授業づくり ⑤教材開発	
12. 講義:教育組織・学習組織の工夫とICTの活用	
13. 授業づくり ⑥模擬授業 食育	模擬授業の準備をする
14. 授業づくり ⑦模擬授業 保健	模擬授業の準備をする
15. 授業づくり ⑧模擬授業の振り返り	これまでの学習についての振り返りを記述する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」

評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	100	到達目標①について、教育方法に関する基礎的事項の理解度を評価する 到達目標②と③について構想力を評価する 到達目標④について、振り返りの妥当性を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

授業テーマ:	教育活動全般に通底する教師の心の働きとしての「生徒指導」の機能について理解する。
授業の概要:	生徒指導をひとつの校務分掌の領域ととらえるのではなく、全教師によるすべての児童生徒への心身の健全な育成に寄与する予防啓発的な機能であることを理解する。昼食、清掃活動などの生活指導、部活動などの課外活動、運動会、遠足などの諸行事など、あらゆる場面での子どもたちへの適切な関わりについて、DVDや自作資料を適宜用いて解説し、グループ討議やロールプレイングを適宜実施し、教師としての関わり方について自らの考えを深める。
到達目標:	1.生徒指導とは、特別な指導が必要な子どもへの対症療法的指導のことではなく、すべての子ども達の健全な発達に寄与する学校教育全般に渡る予防啓発的な活動であることを理解する。 2.グループ活動やロールプレイングを通して、他者と協調し活動すること、教師としての実践に触れることができる。
授業方法:	1.講義 教師の講義と、受講生のグループ討議、ロールプレイング、受講生全員による討議を組み合わせで行う。特にグループ討議を半数以上取り入れ、受講生の能動的な活動を促進する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	生徒指導の領域と機能について解説し、資料から具体的なイメージを持つ。グループ活動によって、領域と機能の違いを話し合う。	(予習)対症療法的指導、予防啓発的指導とはどのようなことは、それぞれについて調べてくる。(次週発表するため)
2.	生徒指導の領域と機能に関して、予防啓発的な活動の重要性を事例によって考える。	
3.	教職における生徒指導の役割 具体的な学校生活の一場面を想定してどのような対応が適切かについて各自で考える。	(予習)教師として対応がむずかしいだろうと考えられる場面を複数考えてくる。(次回発表する。)
4.	教職における生徒指導の役割 一予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(1)ー各自が考えた場面を発表し、分類した上で、興味のある場面ごとにグループに分かれる。	
5.	教職における生徒指導の役割 一予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(2)ーグループごとに、そのような場面での適切な対応について考える。	
6.	教職における生徒指導の役割 一予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(3)ー前回から続きの討議を行い、次回からの発表の準備に進む。	(復習)グループで役割分担して、発表の準備を行う。
7.	教職における生徒指導の役割 一予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(4)ー各班の発表(20分発表、5分質問、5分振り返り)3班実施	(復習)発表から感じたことをミニレポートにまとめる。(最終週にレポートとして提出)
8.	教職における生徒指導の役割 一予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(5)ー各班の発表(20分発表、5分質問、5分振り返り)3班実施か(5)	(復習)発表から感じたことをミニレポートにまとめる。(最終週にレポートとして提出)
9.	教職における生徒指導の役割 一予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(6)ー各班の発表を振り返り、全体で討議する。	(予習)次週のゲストスピーカーに質問したいことを考えてくる。
10.	教職における生徒指導の役割 ーゲストスピーカーの講義から考えるー	(復習)実際の学校の様子を聞いて、子ども達に望まれる生徒指導の機能を箇条書きにしてまとめる。(最終週にレポートとして提出)
11.	教職における生徒指導の役割 ー実際の事例から考える(1)ー教室内で昼食時間に起こったいじめ事例から、自分が教師としてこの事例に関わる場合にどのように対応するか考え、全員で討議する。	(復習)討議から考えたことをミニレポートとしてまとめる。(最終週にレポートとして提出)
12.	教職における生徒指導の役割 ー実際の事例から考える(2)ー摂食障害がきっかけで不登校になった事例から、この後の対応について考え、グループで討議する。	(復習)討議から考えたことをミニレポートとしてまとめる。(最終週にレポートとして提出)
13.	教職における生徒指導の役割 ー実際の事例から考える(3)ーバス遠足の引率中に気持ちが悪くなり嘔吐した子供への対応について考え、全体で討議する。	(復習)討議から考えたことをミニレポートとしてまとめる。(最終週にレポートとして提出)
14.	教職における生徒指導の役割 ーロールプレイングをとおしてー11,12,13回の授業の事例からひとつ選び、グループに分かれて、教師役と子ども役になって、実際に体験する。	(復習)ロールプレイングから考えたことをミニレポートとしてまとめる。(最終週にレポートとして提出)
15.	まとめと振り返り 生徒指導全般についてのまとめ 学校教育における生徒指導の位置づけと重要性についてまとめる。	(復習)レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:	自身の中学校、高校時代を振り返り、辛かったことやネガティブな体験を相対化し、それらの体験を教師としての強みとして、子どもたちに還元できる授業となることを願っています。
フィードバックの方法:	・各自の発表に関して、その授業内あるいは次回の授業内でコメントをお返しします。 ・提出されたレポートに関して、授業内で評価のポイントを解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	40%	到達目標1に関する知識や理解を適切に表現できているかを基準とする。
	グループ討議、ロールプレイ	40%	到達目標1の理解がなされているか、到達目標2について、臨機応変で柔軟な思考力と実践的な力量があるかを基準とする。
	授業への積極的参加度	20%	到達目標1、2に関して、教師となることを自覚し、授業に主体的に取り組むことができることを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

1. 授業の前後に教室内で対応
2. メールによる(mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp)
3. 研究室訪問してください。(C444)

817360

学校栄養教育実習(事前・事後指導を含む)

小切間 美保、仲佐 輝子

授業テーマ: 実習校での教育実習と本学での事前・事後指導

授業の概要: 子ども達の望ましい食習慣を形成するために、学校現場での1週間の栄養教育実習を通して、栄養教諭の職務内容についての理解を深め、栄養教諭としての使命を自覚する。
本科目は、教育実習校での1週間の実習と、本学での栄養教育実習直前指導および実習後の報告会への参加・発表をもって構成される。

到達目標: ①栄養教育実習に向けて、教育実習に臨む心構えをもつことができる。
②研究授業において食に関する指導を実践できる。
③学校給食を生きた教材として活用するための具体的方法が理解できる。
④教育実習校での実習を振り返り、問題点と課題を明らかにできる。

授業方法: 栄養教育実習直前指導は講義法で行う。学校現場での実習指導は、栄養教諭と家庭・保健等の教科担当教諭等との連携により行われる。実習後の報告会は1人20分程度で実習内容等について報告し、問題点や疑問点について話し合っ実習中の問題点を整理し、今後の課題を明らかにする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 栄養教育実習を行うための心構え、実習簿等の配布	
2. 栄養教育実習の意義や目的および具体的な教育現場での諸注意①	栄養教育実習に臨むにあたって、特に食に関する指導のテーマについて、知識を深めるための情報収集や課題研究をすること。
3. 栄養教育実習の意義や目的および具体的な教育現場での諸注意②	
4. 実習簿の書き方、報告書等提出物の配布と説明	
5. 「食に関する指導」の企画および学習指導案の書き方の確認	学校栄養教育論Ⅱで作成したクラス全員の指導案を見直しておくこと。
6. 実習報告会	実習校での実習体験を資料を用いて報告する。
7. 実習報告会	実習校での実習体験を資料を用いて報告する。
8. 実習報告会	実習校での実習体験を資料を用いて報告する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

栄養教育実習に臨むにあたって、特に食に関する指導のテーマについて、知識を深めるための情報収集や課題研究をすること。

フィードバックの方法: 実習簿はコメントをつけて返却する。発表については、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習校からの評価	65%	実習校で評価された成績報告票を基に評価する。
実習簿	15%	到達目標②～④を踏まえ、研究授業における教材研究、食に関する指導の取り組み、学校給食の意義や運営方法の理解度を評価する。
教育実習報告書	10%	自らの教育実習体験と照らして教職に求められているものについて考えられているかを評価する。
報告会での発表	10%	自らの実習を振り返り、自己の今後の課題を明確化できているかを評価する。
遅刻・欠席		厳しく減点する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

817401、02、61、62

教職論

大黒孝文

授業テーマ:

教職をめざして(なりたい教師と求められる教師)

授業の概要:

本講座では、教職を希望するみなさんに、①教職の意義と教員の役割、②教員の職務内容と身分保障、③教員として求められる資質能力、④教員に求められる権利と義務、⑤社会的に求められる教師像と教職現場での実態。以上の5項目を正確に伝えることで、教職に対する意欲の喚起と教員採用までの支援を行う。同時に進路選択に対する適切な助言を与える。

到達目標:

・教育の現場で起きるさまざまな出来事をケースとして集団討議を行い、問題解決能力を身につけることができる。

・教員の職務内容や服務、身分保障について説明することができる。

・アクティブラーニングの核となる協同学習理論と方法を説明することができる。

・教員としての資質能力が説明でき、教職への意欲を高めることができる。

授業方法:

1:講義, 2:演習, 5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	教育に関わる疑問や質問等をまとめる
2. 教職の現場で起こること1	
3. 教職の現場で起こること2	
4. 教職の意義と資質・能力	前時に配布する教員としての資質能力チェック表を確認しておく
5. 学習指導(学習指導の種類)	
6. 学習指導(協同学習体験と理論)	テスト用マンガ教材を用いて問題点を読み取る
7. 学習指導(協同学習の方法)	ケースメソッド教材を読み、問題点を抽出する
8. 生徒指導の意義とロールプレイ	
9. 学校組織と教師の役割	配布した教職アプローチを読む
10. 職務内容(服務・研修・身分保障)	配布した教職アプローチを読む
11. 現職教員からの報告とアドバイス	配布した教職アプローチを読み読書感想文を書く
12. これだけは知っておきたい教育法規	
13. 教員養成(方法と内容)と課題	今日的な教育課題を収集選択し、発表できるようにする
14. 教員採用に向けて	教員採用試験に対する不安や疑問が質問できるようにする
15. まとめ	全体のまとめとしてふり返る

受講者へのメッセージやアドバイス:

本講義では、教職現場の実態を異なった視点で観ることができる工夫を行っています。視点を移動することで学校教育の多様な見え方ができると考えます。教職をめざすみなさんには、教育に関する諸問題や今日的課題に関心を持ち、情報の収集を心がける中で、進路決定に向けての課題と問題点を明確してもらいます。

フィードバックの方法:

提出物は教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標の学習内容の理解度を客観的に評価する。
感想文	20	教職アプローチの感想文の完成度を思考判断と表現、及び指定したフォーマットの規準に沿って評価する。
協同学習	20	到達目標の協同学習理論の小テストを実施し、問題点に気づく力を客観的に評価する。
授業への参加度	10	到達目標の討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。

教科書:

教職アプローチ(授業内で配布)

参考書:

授業の中で紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

教育課程の基本的事項について理解し、教員として教育課程の編成、実施、評価、改善をになうことのできる基本的力量を形成する。

次のことができるようになることを目標とする。
①適切な概念を使って、教育課程の内容と教育課程に関わる制度について説明する。
②現代日本の学校教育の課題という観点から、学校で形成する学力と学校教育の目的・目標について考えを述べる。
③カリキュラム・マネジメントのための教師の役割と具体的行動を説明する。

提示された資料に基づいて教育課程に関わる課題についてレポートを作成し、議論する。関連する基本的事項について解説する。

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション 教育課程とはなんだろうか	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
2. 今の学校の教育課程はどうなっているのだろうか	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
3. 日本の教育課程はどのように変わってきたのだろうか	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
4. 教育課程にはどんなタイプがあるのだろうか	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
5. 教育課程はどのように編成されるのだろうか	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
6. 教育課程の現代的課題①学習観の転換	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
7. 教育課程の現代的課題②児童生徒の変容	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
8. 教育課程の現代的課題③社会の変動	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する

授業レポートについて、とくに「前回授業の振り返り」を中心に、授業中にコメントする。

評価方法	割合	評価基準
授業レポート	100	到達目標①について、教育課程の制度の理解度を評価する 到達目標②について、教育課程に関する課題の理解度を評価する。 到達目標③について、カリキュラム・マネジメントに関わる教師の役割の理解度を評価する。

メールによる nmizumot@dwc.doshisha.ac.jp

818702

教育課程論

桐村 幸雄

授業テーマ:	教育課程の意義及び編成・実施		
授業の概要:	教育の目的、目標及び教育課程の意義を理解し、教育課程の編成、実施、評価のあり方等について研究し教職に役立てる。		
到達目標:	① 教育基本法と学校教育法の関連について理解する。 ② 教育課程の意義や法制等について理解する。 ③ 教育課程編成、実施、評価について理解する。		
授業方法:	講義を中心に、意見発表やグループディスカッションを適宜取り入れる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 教育基本法と学校教育法	講義の復習と次時の予習	
	2. 学習指導要領の要点	講義の復習と次時の予習	
	3. 教育課程の意義と法制	講義の復習と次時の予習	
	4. 教育課程の編成(一般方針)	講義の復習と次時の予習	
	5. 教育課程の編成(内容の取扱い授業時数等)	講義の復習と次時の予習	
	6. 教育課程実施上の配慮事項	講義の復習と次時の予習	
	7. 教育課程編成の手順と評価	講義の総復習	
	8. 教育課程論のまとめ	教育課程論のまとめをする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	課題レポート等コメントを付けて教室で返却します。 課題レポート等から得られた共通課題は、講義で解説します。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	① 教育基本法と学校教育法の関連についての理解度により評価する。 ② 教育課程の意義や法制等についての理解度により評価する。 ③ 教育課程編成、実施、評価についての理解度により評価する。
	課題レポート	20%	教育課程の編成に関する課題に即してまとめているか評価する。
	授業への積極的参加及び態度	10%	積極的な態度で授業に参加しているかを評価する。
教科書:	文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』ぎょうせい		
参考書:	市川須美子、浦野東洋一、小野田正利、窪田眞二、中嶋哲彦、成嶋隆 編集『教育小六法 平成29年版』学陽書房 (注)平成28年以前の版も可		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応します。		

818761

教育課程論

柴沼 真

授業テーマ:	“教員として教育課程について理解しておくべき点について 教員には「そうぞう」力が大切であるというテーマです。 (なお以下の「」はすべて昨年度受講生から今年度受講生へのアドバイスです)”		
授業の概要:	“教育課程について、「実際に教師として働くことを前提にして行われ」ます。「はじめに問題提起がなされ、自分で考え、それをペアでの意見交換やグループディスカッションという周囲と共有することで新しい気づき」を産もうとする授業です。”		
到達目標:	“1 教育課程とはどんなもので、なぜ必要かを理解する。 2 学習指導要領の重要性を理解し、日本の教育課程がどのように構成されているかを理解する。 3 上記をふまえた上で、授業を「そうぞう」する必要性を理解し、それにチャレンジする。”		
授業方法:	講義型ですが、グループディスカッションやワークがあり、毎回学生の主体的な学習参加を重視しています。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーションー教育課程とはー	最近の教育問題について考えておく	
	2. 教育課程の必要性を考えてみる。	教育課程とは何かを調べておく。	
	3. 教育課程編成の原理を考えてみる。	「コミュニケーション」において必要な要素を考えておく。	
	4. 学習指導要領はなぜ必要かを考えてみる。	日本の学習指導要領の特徴を調べておく。	
	5. 教育評価とは何かを考えてみる。	評価をする際に自分が何を気を付けたいか考えておく。	
	6. 授業のデザインを考えてみる。	今までの学校の経験の中で、授業がどのように構成されていたかを振り返っておく。	
	7. 「面白い」授業を「そうぞう」してみる。	授業における「面白さ」とは何かを考えておく。	
	8. 教育課程論のまとめ	今までの学びがどのようなものであったかをまとめておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	“「先生にいきなり名指しであてられることが」あり、しかも「答えを出しても先生に否定されるから変わったことを考え」る必要がある。 「授業で学んだことのフィードバックを大切にするので、毎回の授業で何を考え何を感じたかが」大切になる。 5時限目はつらいのと、スマホの充電・通信制限に要注意！ * なお、授業は、方眼ノートを準備してください。”		
フィードバックの方法:	授業ごとにマナビーでの小レポートの提出を義務付けており、提出されたレポートへコメントを付けてお返しします。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	100	授業の到達目標及び自らの設定した目標をどの程度達成しているか。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の初回にオリエンテーション用の連絡先シートを配布します。連絡は原則的に、emailでお願いします。		

818762、63

教育課程論

佐藤 光友

授業テーマ：学校教育における教育課程の理論的・実践的展開

授業の概要：教育課程の基本的事項について理解を深め、教員として教育課程の編成、実施、評価、改善をになうことのできる力を身につけることのできる講義をめざす。具体的には、教育課程の基本的な考え方や仕組み、教育評価、教育課程の歴史の変遷、さらには、授業デザイン、カリキュラム・マネジメントを含めた教育課程の実践的な展開方法を学んでいく。

到達目標：教育課程の基本的事項について理解を深め、教職としての基礎・基本を身につける。

授業方法：基本的には講義形式。集団討議や意見発表も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	教育課程の意義と概念	事前にシラバスを読んでおくこと。	
	2.	教育課程の歴史	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の歴史」の資料を熟読しておくこと。	
	3.	教育課程と学習指導要領Ⅰ	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と学習指導要領」の資料を熟読しておくこと。	
	4.	教育課程と学習指導要領Ⅱ	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と学習指導要領」の資料を熟読しておくこと。	
	5.	教育課程の編成	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の編成」の資料を熟読しておくこと。	
	6.	教育課程の評価	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の評価」の資料を熟読しておくこと。	
	7.	教育課程実施上の配慮事項	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程実施上の配慮事項」の資料を熟読しておくこと。	
	8.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。	

受講者へのメッセージやアドバイス：各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに、次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の予習をしておくこと。

フィードバックの方法：教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60%	到達目標、教育課程の基本的事項に関する理解度により評価する。
	授業への参加意欲	40%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出により評価する。

教科書：文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』(東京書籍)

参考書：授業中適宜指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法：授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	学校教育における「中核活動」としての「特別活動」を理解する。		
授業の概要:	学校教育における特別活動の意義を理解し、実践的指導力を身に付けるために、 1.学校教育における特別活動の意義と目標、内容・理論に関して、歴史的変遷を踏まえつつ理解する。 2.ディスカッションや学習指導案作成等の活動を通して、特別活動の実践を理解する。		
到達目標:	学校教育における特別活動の意義を理解し、実践的指導力を身に付けるために、 1.学校教育における特別活動の意義と目標、内容・理論に関して、歴史的変遷を踏まえつつ理解する。 2.ディスカッションや学習指導案作成等の活動を通して、特別活動の実践を理解する。		
授業方法:	単に講義を聞くというだけでなく、提示した課題についてグループで検討したり、発表したりする。 グループ活動は教室外活動をとまなう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーションとグループ分け 2. 特別活動の目標と変遷 3. さまざまな実践(学習指導案の検討を含む)から特別活動を考える 4. 特別活動と関連する領域・教科及び生徒指導を考える 5. ブレインストーミングでこれからの特別活動を考える 6. 特別活動の内容と系統性 7. 評価について 8. 特別活動のまとめと発表	学習指導要領解説の目次を読んでもくる 学習指導要領解説の目標を読んでもくる 学習指導案(教科は何でもよい)について事前学習してくる 学習指導要領解説の生徒指導の項を読んでもくる 事前に決まったテーマについてアイデアをある程度考えてくる 学習指導要領解説の内容の項を読んでもくる 学習指導要領解説の「評価について」の項を読んでもくる 事前に出された課題について実施してくる	
受講者へのメッセージやアドバイス:	将来的にでも良いので、教職をめざされる方の受講を歓迎します		
フィードバックの方法:	マナビーで返却する 課題レポート(40%)、平常試験(40%)、授業への積極的参加(20%)		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題レポート	40	到達目標の実践力を身に付けるために、講義中に教示した学習指導案の基本構造になっているかを評価する。
	平常試験	40	到達目標、「特別活動の意義と目標、内容・理論」に関して適確に回答できる
	授業への積極的参加	20	授業へ積極的に参加し、ディスカッションや学習指導案作成がしっかりできているかを評価する。
教科書:	中学校学習指導要領解説特別活動編 (文部科学省著)		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、コミュニケーション力、		
教員との連絡方法:	Eメールを利用 mkoba98@gmail.com		

授業テーマ:	特別活動と人間形成		
授業の概要:	学校教育において、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、実際の社会で生きて働く社会性を身に付けるなど、生徒の人間形成を図る教育活動としての特別活動のあり方について研究し教職に役立てる。		
到達目標:	① 特別活動の目標、教育的意義等について理解する。 ② 特別活動の各内容について理解する。 ③ 特別活動が生徒の人間形成に果たす役割について考察する。		
授業方法:	講義を中心に、意見発表やグループディスカッションを適宜取り入れます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 特別活動の目標	講義の復習と次時の予習	
	2. 特別活動の基本的な性格及び教育的意義	講義の復習と次時の予習	
	3. 学級活動の目標と内容	講義の復習と次時の予習	
	4. 生徒会活動の目標と内容	講義の復習と次時の予習	
	5. 学校行事の目標と内容	講義の復習と次時の予習	
	6. 特別活動の全体計画等指導計画の作成と内容の取扱い	講義の復習と次時の予習	
	7. 特別活動における評価	講義の総復習	
	8. 特別活動論のまとめ	特別活動論のまとめをする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	① 課題レポート等コメントを付けて教室で返却します。 ② 課題レポート等から得られた共通課題は、講義で解説します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	70%	① 特別活動の目標、教育的意義等についての理解度により評価する。 ② 特別活動の各内容についての理解度により評価する。 ③ 特別活動が生徒の人間形成に果たす役割についての考察内容や深まりを評価する。
	課題レポート	20%	特別活動の内容等について、課題に即してまとめているか評価する。
	授業への積極的参加及び態度	10%	積極的な態度で授業に参加しているかを評価する。
教科書:	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応します。		

授業テーマ:

“教員として特別活動について理解しておくべき点について
教員には「そうぞう」力が大切であるというテーマです。
(なお以下の「」はすべて昨年度受講生から今年度受講生へのアドバイスです”

授業の概要:

“教員として特別活動について理解しておくべき点について
教員には「そうぞう」力が大切であるというテーマです。
(なお以下の「」はすべて昨年度受講生から今年度受講生へのアドバイスです”

到達目標:

”1 特別活動とはどんなもので、なぜ必要かを理解する。
2 特別活動の中でも、特にいじめの問題を題材にして学級活動における教師と生徒の関係性を理解する。
3 上記をふまえた上で、教師として「そうぞう」的な特別活動を展開する必要性を理解し、それを「そうぞう」してみる。”

授業方法:

講義型ですが、グループディスカッションやワークがあり、毎回学生の主体的な学習参加を重視しています。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションー特別活動とはー	自分の学校生活を振り返れるようにしておく
2.	特別活動の意義を考えてみる。	特別活動を通じて、どのような能力が形成されるかまとめておく。
3.	学級活動の重要性を考えてみる。	学級活動が、社会のどのような場面に応用できるか考えておく。
4.	いじめの問題を考えてみる。	最近のいじめ問題の情報を収集しておく。
5.	特別活動を「そうぞう」する1	授業内で提示された条件下での特別活動にはどのような要素が必要か考えておく。
6.	特別活動を「そうぞう」する2	自分の「そうぞう」した成果についてSWOT分析をしておく。
7.	まとめー学びの総合化ー	今までの自分の学びをまとめておく。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

「最後まで受けないとわからないこと多いので、注意！わからないと思っても、授業には来るべし！」「教職の授業なので、さ
らっと教育用語的なのが出てくるから、教育関係のことにアンテナはるべし」「寒い時期の5時限目なので、腹ごしらえが必須」

フィードバックの
方法:

授業ごとにマナビーでの小レポートの提出を義務付けており、提出されたレポートへコメントを付けてお返しします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

	評価方法	割合	評価基準
	期末レポート	100	授業の到達目標及び自らの設定した目標をどの程度達成しているか。

教科書:

参考書:

中学校学習指導要領の解説ー特別活動ー(購入ではなくダウンロードでも可能)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理
力、自己実現力

教員との連絡
方法:

授業の初回にオリエンテーション用の連絡先シートを配布します。連絡は原則的に、emailでお願いします。

授業テーマ:	学校教育における特別活動の意義と役割を考えよう。																				
授業の概要:	特別活動論においては、児童生徒が望ましい集団活動を通じて、個性の伸張をはかり、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を考察する。さらに、学級活動などにおける指導方法や指導計画、指導内容について学んでいく。																				
到達目標:	特別活動論においては、児童生徒が望ましい集団活動を通じて、個性の伸張をはかり、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な知識を獲得し、学級活動や学校行事を企画し実行できる力を身につけることを目標とする。																				
授業方法:	講義と平行して、チームでつくる学級活動・学校行事の企画を基にして、集団討議や発表を行う。																				
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 教育課程における特別活動の位置づけ</td><td>事前にシラバスを読んでおくこと。</td></tr><tr><td>2. 特別活動の目標と教育的意義</td><td>事前に配布している「特別活動の目標と教育的意義」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>3. 特別活動の内容Ⅰ(学級活動)</td><td>事前に配布している「学級活動」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>4. 特別活動の内容Ⅱ(学校行事)</td><td>事前に配布している「学校行事」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 特別活動の内容Ⅲ(生徒会活動)</td><td>事前に配布している「生徒会活動」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>6. 特別活動の企画・立案作成と発表</td><td>事前にどんな学級活動・学校行事を企画するのかを考案しておくこと。</td></tr><tr><td>7. 特別活動の評価と課題、展望</td><td>事前に配布している「特別活動の評価」の資料を使って予習しておくこと。</td></tr><tr><td>8. まとめ</td><td>自分なりに授業内容の総括をしておくこと。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 教育課程における特別活動の位置づけ	事前にシラバスを読んでおくこと。	2. 特別活動の目標と教育的意義	事前に配布している「特別活動の目標と教育的意義」の資料を使って予習しておくこと。	3. 特別活動の内容Ⅰ(学級活動)	事前に配布している「学級活動」の資料を使って予習しておくこと。	4. 特別活動の内容Ⅱ(学校行事)	事前に配布している「学校行事」の資料を使って予習しておくこと。	5. 特別活動の内容Ⅲ(生徒会活動)	事前に配布している「生徒会活動」の資料を使って予習しておくこと。	6. 特別活動の企画・立案作成と発表	事前にどんな学級活動・学校行事を企画するのかを考案しておくこと。	7. 特別活動の評価と課題、展望	事前に配布している「特別活動の評価」の資料を使って予習しておくこと。	8. まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。		
授業内容	準備学習等の内容																				
1. 教育課程における特別活動の位置づけ	事前にシラバスを読んでおくこと。																				
2. 特別活動の目標と教育的意義	事前に配布している「特別活動の目標と教育的意義」の資料を使って予習しておくこと。																				
3. 特別活動の内容Ⅰ(学級活動)	事前に配布している「学級活動」の資料を使って予習しておくこと。																				
4. 特別活動の内容Ⅱ(学校行事)	事前に配布している「学校行事」の資料を使って予習しておくこと。																				
5. 特別活動の内容Ⅲ(生徒会活動)	事前に配布している「生徒会活動」の資料を使って予習しておくこと。																				
6. 特別活動の企画・立案作成と発表	事前にどんな学級活動・学校行事を企画するのかを考案しておくこと。																				
7. 特別活動の評価と課題、展望	事前に配布している「特別活動の評価」の資料を使って予習しておくこと。																				
8. まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。																				
受講者へのメッセージやアドバイス:	各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。																				
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。																				
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>企画作成・提出</td><td>20%</td><td>課題に対応した企画作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。</td></tr><tr><td>発表を含む授業への参加意欲</td><td>30%</td><td>課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。</td></tr><tr><td>定期試験</td><td>50%</td><td>特別活動の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	企画作成・提出	20%	課題に対応した企画作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。	発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。	定期試験	50%	特別活動の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。								
評価方法	割合	評価基準																			
企画作成・提出	20%	課題に対応した企画作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。																			
発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。																			
定期試験	50%	特別活動の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。																			
教科書:	文部科学省 著『中学校学習指導要領解説 特別活動編』(株式会社ぎょうせい)																				
参考書:	授業中に適宜指示をする。																				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力																				
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。																				

818961、62

英語科教科教育法基礎

杉森 直樹

授業テーマ:

英語教授法の基礎を学ぶと共に、情報機器やメディアを用いた英語教育の方法及び技術を実践的に習得する。

授業の概要:

外国語としての英語(English as a Foreign Language)の教授法に関する基礎的知識を習得すると共に、コンピュータ支援の語学教育(Computer-Assisted Language Learning: CALL)やeラーニングによる英語の教授法についての演習を通じて、コンピュータや各種デジタル機器等の情報メディアを英語教育に効果的に活用する方法と電子教材開発の技法を習得することを目標とする。学期後半には模擬授業演習を行い、それまでの授業で学んだ教授法に関する知識や情報機器の活用技能を実践的に応用できる授業力の養成を目標とする。

到達目標:

主要な英語教授法について理解している。
日本の英語教育の現状を理解している。
情報メディアやインターネットを用いた英語教育の方法について理解し、実践することができる。
PowerPoint/電子黒板を用いた英語の授業を行うことができる。

授業方法:

日本におけるEFLとしての英語教育の現状と課題に関する講義、インターネット上の英語学習教材の利用演習、電子黒板としてのPowerPointを用いた教材開発とそれを用いた模擬授業を実施する。授業中にコンピュータを利用することが多いため、教室はCALL教室を利用する。授業中のレポート課題と期末のレポート課題を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 授業解説及び導入課題	シラバス記載内容の確認
2. 日本における英語教育の現状と課題	授業中に提示する課題
3. 英語教授法の基礎(1)GTM & ALM	授業内容の復習
4. 英語教授法の基礎(2)CLT	授業の内容の復習
5. インターネットによる英語学習(1)	英語学習サイト課題
6. インターネットによる英語学習(2)	英語学習サイト課題
7. 電子黒板としてのPowerPoint活用法	PowerPointの操作方法の復習
8. 電子教材開発演習(1)計画	模擬授業の計画、立案
9. 電子教材開発演習(2)コンテンツ作成	PowerPointスライドの作成
10. 電子教材開発演習(3)運用演習	模擬授業計画書の作成
11. 模擬授業演習(1)	模擬授業のリハーサル
12. 模擬授業演習(2)	模擬授業のリハーサル
13. 模擬授業演習(3)	模擬授業のリハーサル
14. 模擬授業演習(4)	模擬授業のリハーサル
15. 授業内容の総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業への積極的な参加を望みます。

フィードバックの方法:

模擬授業についてのコメントを個別にフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中に指示する課題	25	課題の達成度により評価
模擬授業、教材開発	30	模擬授業の達成度により評価
期末レポート課題	25	教科教育法に関する課題レポートの達成度により評価
授業内活動への参加の度合	20	積極的に授業に参加し、各回の授業テーマへの取り組みにより評価

教科書:

他の英語科教科教育法の科目と共通のテキストを使用

参考書:

望月昭彦編(2010)『改訂版 新学習指導要領にもどづく英語科教育法』大修館
竹内理他著(2008)『CALL授業の展開』松柏社
文部科学省(2008)『中学校学習指導要領』東山書房
文部科学省(2011)『高等学校学習指導要領』東山書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:			
授業の概要:	中学英語教師に求められる実践的な英語指導法を学ぶ。		
到達目標:	英語は「実技」である。多様な興味関心、学習動機、学習スタイルをもつ中学生に対してどのように英語を教えるか、発音・文法および4つのスキル別に具体例を見ながら、英語教員となるための知識と技術を学習する。特に発音については、正しく適切に「モデル」を示すことができるように、理論をしっかりと押さえ、応用できるようにしたい。学期後半にはタスクを中心とした模擬授業を行う。		
授業方法:	学期前半は講義とワークショップ形式を併用する。後半は学生が模擬授業を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション		
	英語基礎指導法(1)リズム、イントネーション		
	2. 英語基礎指導法(2)発音、文字		
	3. 英語基礎指導法(3)文法		
	4. 英語基礎指導法(4)リスニング		
	5. 英語基礎指導法(5)リーディング		
	6. 英語基礎指導法(6)スピーキング		
	7. 英語基礎指導法(7)ライティング		
	8. 模擬授業とその評価(1)	模擬授業リハーサル	
	9. 模擬授業とその評価(2)	模擬授業リハーサル	
	10. 模擬授業とその評価(3)	模擬授業リハーサル	
	11. 模擬授業とその評価(4)	模擬授業リハーサル	
	12. 模擬授業とその評価(5)	模擬授業リハーサル	
	13. 模擬授業とその評価(6)	模擬授業リハーサル	
	14. 模擬授業とその評価(7)	模擬授業リハーサル	
	15. 模擬授業とその評価(8)	模擬授業リハーサル	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	個人(またはペアで)模擬授業を行うための指導案を作成し、リハーサルを経て、模擬授業を行う。共同作業に対し積極的、協力的な姿勢が各受講生に求められる。模擬授業は生徒役の受講生により評価される。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	積極的な授業参加度	10%	授業への貢献度、協力的な姿勢を評価する。
	模擬授業	30%	模擬授業の質を評価する。
	課題提出	10%	提出課題を評価に加える。
	学期末テスト	50%	指導法についての理解度を期末テストにより確認する。
教科書:	ハンドアウトおよび英語科教科教育法A、Bで使用する教科書をこのコースでも適宜使用する。		
参考書:	今井由美子他、Sounds Make Perfect、(英宝社) 横溝紳一郎編著、生徒の心に火をつける、(教育出版) 田尻悟郎、(英語)授業改革論、(教育出版) 北原延晃、英語授業の『幹』をつくる本:上下巻、(ベネッセコーポレーション) 太田洋、英語を教える50のポイント、(光村図書) 中嶋洋一、英語好きにする授業マネジメント30の技、(明治図書) 高梨庸雄他、教室英語活用辞典、(研究社)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること		

授業テーマ：国語科教育の実践的研究

授業の概要：指導要領(国語科)の講義、教材研究のあり方・読みの方法論を紹介し、教科書の文学教材、評論、古典(日本古典や漢文)を用いた受講生による模擬授業を中心とする。模擬授業を行う場合は、図書館の書籍やインターネット情報に基づいて教材研究をすることとする。授業展開、板書の工夫、補助教材作成等、生徒のための授業を心がける。

到達目標：国語科教師としての基礎的な力を高めることを目標として、授業展開・板書、インターネットを利用した生徒の理解を深める参考資料づくり、授業形態(一斉授業とグループワークの相乗作用)についても考えたい。生徒のアクティブな授業参加の方法も追求する。自己の模擬授業と他者の模擬授業を比較検討し、教育実習事前の実践的な準備を目標とする。さらに生徒の調べ学習・家庭学習のためのインターネットの利用や作文作成のためのパソコン(ワープロ)の利用についての指導も目標とする。

授業方法：講義と模擬授業、受講者相互の批評。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業全体のガイダンスと指導要領(国語科)の特徴についての説明。 模擬授業に用いる教科書掲載「文学教材」配布。	インターネット情報によって、指導要領(国語科)を事前に読み、その特徴を調べておく。
2.	文学教材(定番教材)の模擬授業1	作者や作品の時代背景について、図書館の書籍やインターネットの情報で学んでおく。模擬授業に用いる教材についての自己の教材解釈、授業構想を作成する。
3.	文学教材の模擬授業2	模擬授業範囲の教材を読み込み、授業に臨む。難解な漢字や語句の意味を辞書やインターネットで調べておく。象徴的な文学言語をチェックする。
4.	文学教材の模擬授業3	作品成立の条件(人物・時・場所)を的確に押さえておく。擬授業範囲で扱う場面の難解語や不明点を事前に明確にしておく。
5.	文学教材の模擬授業4 次の模擬授業「評論文」教材を配布。	教材全体の自己の授業構想・授業計画、展開を練り上げる。書式設定を生徒に提示し、パソコンで読後感(感想文)を書かせ、「感想文集」を作成する技術的指導を想定する。
6.	評論文教材の模擬授業1	筆者の論理の展開・主張を事前に明確にして授業に臨む。教材の内容に関連する情報(絵・写真・数字的データなど)をインターネットで事前に調べておく。
7.	評論文教材の模擬授業2	評論文の読みの基本・あり方について考察しておく。難解語句の意味や漢字について、生徒の(家庭自習用)のプリントをパソコン(ワープロ)で作成する。テスト形式の問題作成も可。
8.	評論文教材の模擬授業3	筆者の主張について自己の読みを明確にし、授業者のそれと比較する。また、一斉学習とグループ学習とのバランスを工夫し想定する。
9.	評論文の模擬授業4	教材について、自己の授業構想を作成して授業に臨む。文学教材の授業と同様に、生徒にパソコンで「意見文」を書かせ、「意見文」集を作成する場合の指導を想定する。
10.	入門期の古典の模擬授業1	作者や時代背景(風俗・習慣・価値観・人間観など)を図書館の書籍やインターネットの情報を基にして教材研究をする。
11.	入門期の古典の模擬授業2	さらに、古典入門期の指導のあり方について考察する。古典入門期の授業における読みと文法指導の取り扱いを考える。言語抵抗の多い古典をいかに生徒に手渡すかを、古典嫌いを作らぬ工夫をする。
12.	入門期の古典模擬授業3 次の模擬教材「漢文」教材の配布。	古典を読む楽しさをどう伝えるか、その方法論を見つける。生徒に、パソコンで「古典作文」作文を書かせる。「古文作文」作成の方法や技術を工夫する。
13.	漢文教材の模擬授業1	作者や作品の時代をインターネットで情報を得、教材研究をする。漢文の文体的特徴をとらえる。
14.	漢文教材の模擬授業2	漢文が日本文化に与えた影響を考察するパソコンで生徒自身の「座右の銘」を創作させる。「創る」ことで、授業が活性化。その方法や技術を工夫する。
15.	授業全体のまとめと今後の国語科についての講義。「読みと表現」のコラボレーション。アクティブラーニング、カリキュラム・マネジメントなどについて。	国語科教師を目指す自己の思いをまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス：国語科の扱う領域は広い。日頃の読書や学びを大切にせずつつ前進してってください。友人の模擬授業を通じて、自分の授業づくりを目指してってください。試行錯誤をし続けること、学び続けることが教師の資格だと思います。

フィードバックの方法：自分の模擬授業と友人の模擬授業を比較検討すること、他者からおおいに学ぶ謙虚さを持つこと。できれば現場の教師と交流すること。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート(指導案)	50%	独創的かつ個性的な指導案。教材観・板書計画を含む。
	ミニレポート	20%	模擬授業に対する感想・意見を明確に記す。
	模擬授業	30%	教材に対する理解・板書、熟慮された設問。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法：授業前の講師控え室

授業テーマ:	中学国語科の授業実践の研究																																		
授業の概要:	学習指導要領(中学国語科)の概説し、中学国語科の授業づくりについて研究する。教科書教材を用いた受講者の模擬授業を中心に、相互に学び合う授業を行う。模擬授業の教材には、中学の教科書から、説明文・文学・古典を用いる。生徒のアクティブな授業参加を喚起する授業のあり方を学び合いたい。																																		
到達目標:	「授業の概要」に示した受講者の模擬授業を通して、互いに学び合い「教育実習」につなげることを目標とする。生徒の教材理解を深めるためにインターネットを利用した参考資料づくりや「読み」と「表現」のコラボレーションの方法も追求したい。																																		
授業方法:	講義と模擬授業。受講者の模擬授業対するミニレポートを紹介し、互いの学びに生かしたい。																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 授業全体の概説と学習指導要領(中学国語科)の講義。教科書教材の紹介。模擬授業用教材の配布。</td><td>中学校でどのような授業を受けてきたかを回想し、指導要領(中学国語科)を読んでおく。</td></tr><tr><td>2. 説明文教材の模擬授業1</td><td>自分が模擬授業を行うことを前提に教材文を読み、授業に臨む。</td></tr><tr><td>3. 説明文教材の模擬授業2</td><td>筆者の意見・論理の展開を事前に正確に読み取り、模擬授業者の授業に参加する。</td></tr><tr><td>4. 説明文教材の模擬授業3</td><td>中学における説明文の指導のあり方の基本を身につけて臨む。</td></tr><tr><td>5. 文学教材の模擬授業1</td><td>文学の成立条件(時・場所・人物)を押さえて読み取り、授業に臨む。</td></tr><tr><td>6. 文学教材の模擬授業2</td><td>作者の表現、文学言語の特徴をとらえて、自分の指導に生かすよう心がける。</td></tr><tr><td>7. 文学教材の模擬授業3</td><td>文学教材を教室で(集団で)読むことの意義を考察する。</td></tr><tr><td>8. 文学教材の模擬授業4</td><td>作品を形象豊かに読む方法について研究する。</td></tr><tr><td>9. 中学の古典教材の模擬授業1</td><td>中学の古典の授業について自分なりの考えを持って参加する。</td></tr><tr><td>10. 中学の古典教材の模擬授業2</td><td>古典嫌いをつくらぬための授業づくりについて研究する。</td></tr><tr><td>11. 中学の古典教材の模擬授業3</td><td>古典を読む楽しさをどう伝えるか、自分なりの工夫する。</td></tr><tr><td>12. 中学の古典教材の模擬授業4</td><td>言語教育(文法や語彙指導)と内容の読みの関係をどうするか、研究する。</td></tr><tr><td>13. 中学の漢文教材の模擬授業1</td><td>漢文の読みの指導をどの程度するかを考える。</td></tr><tr><td>14. 中学の漢文教材の模擬授業2</td><td>漢文の魅力をどう伝えるか、自分の授業について構想する。</td></tr><tr><td>15. 授業全体のまとめと受講者の感想・意見。中学国語科の今後の課題について。</td><td>中学国語教師の意義と役割について考える。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 授業全体の概説と学習指導要領(中学国語科)の講義。教科書教材の紹介。模擬授業用教材の配布。	中学校でどのような授業を受けてきたかを回想し、指導要領(中学国語科)を読んでおく。	2. 説明文教材の模擬授業1	自分が模擬授業を行うことを前提に教材文を読み、授業に臨む。	3. 説明文教材の模擬授業2	筆者の意見・論理の展開を事前に正確に読み取り、模擬授業者の授業に参加する。	4. 説明文教材の模擬授業3	中学における説明文の指導のあり方の基本を身につけて臨む。	5. 文学教材の模擬授業1	文学の成立条件(時・場所・人物)を押さえて読み取り、授業に臨む。	6. 文学教材の模擬授業2	作者の表現、文学言語の特徴をとらえて、自分の指導に生かすよう心がける。	7. 文学教材の模擬授業3	文学教材を教室で(集団で)読むことの意義を考察する。	8. 文学教材の模擬授業4	作品を形象豊かに読む方法について研究する。	9. 中学の古典教材の模擬授業1	中学の古典の授業について自分なりの考えを持って参加する。	10. 中学の古典教材の模擬授業2	古典嫌いをつくらぬための授業づくりについて研究する。	11. 中学の古典教材の模擬授業3	古典を読む楽しさをどう伝えるか、自分なりの工夫する。	12. 中学の古典教材の模擬授業4	言語教育(文法や語彙指導)と内容の読みの関係をどうするか、研究する。	13. 中学の漢文教材の模擬授業1	漢文の読みの指導をどの程度するかを考える。	14. 中学の漢文教材の模擬授業2	漢文の魅力をどう伝えるか、自分の授業について構想する。	15. 授業全体のまとめと受講者の感想・意見。中学国語科の今後の課題について。	中学国語教師の意義と役割について考える。		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. 授業全体の概説と学習指導要領(中学国語科)の講義。教科書教材の紹介。模擬授業用教材の配布。	中学校でどのような授業を受けてきたかを回想し、指導要領(中学国語科)を読んでおく。																																		
2. 説明文教材の模擬授業1	自分が模擬授業を行うことを前提に教材文を読み、授業に臨む。																																		
3. 説明文教材の模擬授業2	筆者の意見・論理の展開を事前に正確に読み取り、模擬授業者の授業に参加する。																																		
4. 説明文教材の模擬授業3	中学における説明文の指導のあり方の基本を身につけて臨む。																																		
5. 文学教材の模擬授業1	文学の成立条件(時・場所・人物)を押さえて読み取り、授業に臨む。																																		
6. 文学教材の模擬授業2	作者の表現、文学言語の特徴をとらえて、自分の指導に生かすよう心がける。																																		
7. 文学教材の模擬授業3	文学教材を教室で(集団で)読むことの意義を考察する。																																		
8. 文学教材の模擬授業4	作品を形象豊かに読む方法について研究する。																																		
9. 中学の古典教材の模擬授業1	中学の古典の授業について自分なりの考えを持って参加する。																																		
10. 中学の古典教材の模擬授業2	古典嫌いをつくらぬための授業づくりについて研究する。																																		
11. 中学の古典教材の模擬授業3	古典を読む楽しさをどう伝えるか、自分なりの工夫する。																																		
12. 中学の古典教材の模擬授業4	言語教育(文法や語彙指導)と内容の読みの関係をどうするか、研究する。																																		
13. 中学の漢文教材の模擬授業1	漢文の読みの指導をどの程度するかを考える。																																		
14. 中学の漢文教材の模擬授業2	漢文の魅力をどう伝えるか、自分の授業について構想する。																																		
15. 授業全体のまとめと受講者の感想・意見。中学国語科の今後の課題について。	中学国語教師の意義と役割について考える。																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	中学から高校へ、どう橋渡しをするか。自分の中学・高校時代を思い出し、どのような教師、どのような授業を展開するか。生徒と共に学び、共に未来を生きる教師を目指してください。学びの道は永遠です。																																		
フィードバックの方法:	友人の模擬授業から得た学び大切にして、自分の授業を冷静に分析して、教育実習に生かしてください。常に優れた実践を学びに行くことを忘れないでください(全国には真摯に授業実践を続けておられる教師が多くいます)。																																		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート</td><td>50%</td><td>教材分析、指導過程、板書の工夫、設問など。</td></tr><tr><td>ミニレポート</td><td>20%</td><td>模擬授業に対する意見・感想、鋭い批評。</td></tr><tr><td>模擬授業</td><td>30%</td><td>教材に対する分析、生徒の授業参加への喚起。授業展開。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート	50%	教材分析、指導過程、板書の工夫、設問など。	ミニレポート	20%	模擬授業に対する意見・感想、鋭い批評。	模擬授業	30%	教材に対する分析、生徒の授業参加への喚起。授業展開。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
レポート	50%	教材分析、指導過程、板書の工夫、設問など。																																	
ミニレポート	20%	模擬授業に対する意見・感想、鋭い批評。																																	
模擬授業	30%	教材に対する分析、生徒の授業参加への喚起。授業展開。																																	
教科書:																																			
参考書:																																			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	授業前の講師控え室																																		

授業テーマ:	音楽科教育法における情報機器の援用		
授業の概要:	パソコンなど情報機器は、既に教育の現場や家庭学習の場でも一般化しています。教育の場でも音楽ソフトの再生などで情報機器は活用されているが、さらに踏み込んだ情報機器の活用の方法、そして情報機器を使った音楽の授業のメリットとデメリットについて考える。		
到達目標:	1)情報機器を音楽教育に適切に利用することができる。 2)音楽の教育における情報機器と情報ネットワークの可能性を検討することができるようになる。 3)情報機器を利用した場合のリスクについて知る。		
授業方法:	講義と演習を行ないます。視聴覚資料も使用します。文章を書いてもらいます。レポートはemailで提出してもらいます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 録音された音楽について		音楽と録音、音楽教育について考えておく事。
	2. 録音音楽の制作について概要を知る		CDやネット上の音楽データなど、どのように制作されているか考えておく事。
	3. 音響概論		音響の基礎的知識を再確認しておく事。
	4. 音響概論2		音響機器について基礎知識を得ておく事。
	5. ソフトウェアの教育的利用 譜面作成ソフト 1		譜面作成ソフトについて、使っているものがあれば、その紹介ができるよう準備しておく事。
	6. ソフトウェアの教育的利用 譜面作成ソフト 2		授業で紹介されたソフトウェアを自分のパソコンにインストールする事。
	7. ソフトウェアの教育的利用 譜面作成ソフト 3		自分のパソコンにインストールしたソフトを使ってファイルを作成してみる事。
	8. ソフトウェアの教育的利用 譜面作成ソフトと教材の組合わせ 1		授業での活用方法について考える事。
	9. ソフトウェアの教育的利用 譜面作成ソフトと教材の組合わせ 2		授業での活用方法について考える事。
	10. ソフトウェアの教育的利用 譜面作成ソフトと教材の組合わせ 3		模擬授業を構想する事。
	11. 教材研究、教材制作の可能性 1		情報機器を使って制作できる教材について考える事。
	12. 教材研究、教材制作の可能性 2		情報機器を使って制作できる教材について具体的に構想する事。
	13. 教材研究、教材制作の可能性 3		構想を評価し、発表できるよう準備する事。
	14. 教材研究、教材制作の可能性 4		教材を作成して発表する事。
	15. グループディスカッション		情報機器を音楽の授業で使うことについての意見を各自発表できるよう準備する事。
受講者へのメッセージやアドバイス:	音楽を楽しむ能力を育てる時、そこに情報機器を活用する可能性を考えてみましょう。パソコンを使いこなすことは、ピアノの演奏を習得する事と比べて難しいでしょうか？ピアノ教室に通っていない生徒が、音楽を楽しむにはどのような授業が適当なのか、考える機会にもなったら幸いです。		
フィードバックの方法:	提出物は電子メールで受信しコメントして返信します。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート(随時)	70	到達目標を基準に、文章も評価します。
	授業への参加度	30	授業への積極的な参加意識を評価します。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	email		

授業テーマ:

授業の概要: 中学校における音楽科教育の意義、理念、目標、内容を理解した上で、表現領域及び鑑賞領域の授業プランを構想する。そのプランに基づいて学習指導案を作成して模擬授業を行い、それに対するディスカッションにより指導法を考察してゆく。主にグループ活動を中心に進められるので、コミュニケーション能力や時にはリーダーシップも求められる。常に積極的に活動に参加してゆくことが重要である。

到達目標: 1、音楽科教育の意義等について理解し、教材についての知識がある。
2、積極的に授業・グループ活動に参加できる。
3、指導案を作成し、意欲と創意工夫をもって模擬授業ができる。
4、指導法について、自分の意見が述べられる。

授業方法: 講義・演習・グループ活動

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション(授業の進め方、成績評価の説明等)。 本授業を履修した目的とこれまでの音楽科授業履修についてのアンケート。	履修登録目的を整理しておく。
	2. 中学校音楽科の概説。	教科書指定箇所の熟読。
	3. 歌唱教材及びその指導法の研究Ⅰ。(中学校歌唱共通教材)	中学校歌唱共通教材の弾き歌い。
	4. 歌唱教材及びその指導法の研究Ⅱ。(中学校歌唱共通教材以外の日本の歌)	歌唱教材の読譜。
	5. 歌唱教材及びその指導法の研究Ⅲ。(外国の曲)	歌唱教材の読譜。
	6. 歌唱共通教材及びその指導法の研究Ⅳ。(合唱曲)	歌唱教材の読譜。
	7. 学習指導案の作成。	学習指導案の書き方の復習。
	8. 作成学習指導案による模擬授業及びディスカッションと講評Ⅰ。	模擬授業の準備。
	9. 作成学習指導案による模擬授業及びディスカッションと講評Ⅱ。	模擬授業の準備。
	10. 作成学習指導案による模擬授業及びディスカッションと講評Ⅲ。	模擬授業の準備。
	11. 器楽指導の研究。	リコーダー奏法の復習。
	12. 創作指導の研究。	創作指導法の立案。
	13. 鑑賞教材及びその指導法の研究Ⅰ。(主に西洋音楽)	目的に即した鑑賞教材の選択。
	14. 鑑賞教材及びその指導法の研究Ⅱ。(日本の伝統音楽・諸外国の民族音楽)	日本の伝統音楽の扱い方について考えておく。
	15. まとめ	今学期全般にわたって質問等あれば、整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	60%	到達目標1の理解度により評価する。
	授業に対する意欲・態度	10%	授業・グループ活動への参加度により評価する。
	実習	10%	指導案作成の習熟度、模擬授業の完成度などにより評価する。
	レポート	20%	指導法について、根拠をもって自分の意見を述べるができるかを基準とする。

教科書: 「中等科音楽教育法」(音楽之友社)
「中学生の音楽1」、「中学生の音楽2・3上」、「中学生の音楽2・3下」、「中学生の器楽」(教育芸術社)

参考書: 「中学校学習指導要領解説 音楽編」(文部科学省)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ：

中学社会科教育の基礎と教育実習への導入

授業の概要：

中学校社会科教育に必要な基礎知識を身につけるとともに、指導案・模擬授業といった実践的な授業運営に向けての基礎的な能力を養うことを目標とする。

到達目標：

中学校社会科の学習内容、学習方法を検討し、特に模擬授業づくりを通して、社会科教師としての専門性、実践力を身に付ける。

授業方法：

講義と指導案作成、模擬授業の基礎を合わせて行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに 講義のガイダンス・履修指導	配布資料の確認
2.	中学校社会科の学習内容、学習方法を検討し、特に模擬授業づくりを通して、社会科教師としての専門性、実践力を身に付ける。	配布資料の確認
3.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～学習指導要領に基づいた授業づくり	配布資料の確認
4.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～地理学習における授業づくり	配布資料の確認、指導案の作成
5.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～歴史学習における授業づくり	配布資料の確認、指導案の作成
6.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～「身近な地域」の種類と設定の仕方(具体例)	模擬授業の準備確認
7.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～インターネットによる地図情報の収集・活用	模擬授業の準備確認
8.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～テーマ設定と学習指導案づくり、ワークシートの作成	模擬授業の準備確認
9.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～インターネットによる資料の収集と活用(1)	模擬授業の準備確認
10.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～インターネットによる資料の収集と活用(2)	模擬授業の準備確認
11.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～視聴覚機器を活用したフィールドワークの実際	配布資料の確認
12.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～テーマの再検討、ワークシートの修正	模擬授業の準備確認
13.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～ネット、パワーポイントを利用した授業の実際(1)	模擬授業の準備確認
14.	中学校社会科の授業づくり(事例研究) ～ネット、パワーポイントを利用した授業の実際(2)	模擬授業の準備確認
15.	全体の総括	指導案の再確認

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：

授業内の課題提出、指導案作成、模擬授業に対して随時適宜フィードバックを行う。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業内でのコメントペーパー、小課題、指導案	50	到達目標:中学校社会科の学習内容、学習方法を検討し、特に模擬授業づくりを通して、社会科教師としての専門性、実践力を身に付けているか総合的に評価する。
	指導案・模擬授業の内容	50	到達目標のなかで、中学校社会科の学習内容、学習方法を検討し、特に模擬授業づくりを通して、社会科教師としての専門性、実践力を身に付けているか総合的に評価する。

教科書：

特になし。

参考書：

特になし。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法：

授業後の教室ならびにマナビー、メールを活用する。

授業テーマ:	中学校社会科教育の実践的研究		
授業の概要:	中学校社会科の学習内容と方法について、授業分析と教材研究、模擬授業などを通して、社会科授業の目標と意義、授業のあり方、指導法などについて理解を深め、中学校社会科教師としての専門性、実践性を身に付ける。		
到達目標:	知識理解:社会科授業の目標と意義、授業のあり方、指導法などについて理解できる。 技能:社会科の教材開発、授業づくり、指導法に関する技能を向上させることができる。 関心・意欲・態度:社会科の授業づくりと模擬授業を通して、社会科の授業実践に対する意欲と関心を持つことができる。		
授業方法:	指導案の研究と分析、作成、実践(模擬授業)などワークショップを中心とする 教員の協働を学ぶためにグループワーク活動を中心とする		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション(授業のすすめ方、グループ分け)	必ず出席のこと	
	2. 社会科教材研究、授業のねらい	教科書、参考文献の熟読	
	3. 社会科授業の単元研究、単元計画1(グループA)	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究	
	4. 社会科授業の単元研究、単元計画2(グループB)	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究	
	5. 社会科授業の単元研究、単元計画3(グループC)	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究	
	6. 社会科授業の単元研究、単元計画4(グループD)	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究	
	7. ふりかえりと改善。計画案の再提出1	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究	
	8. ふりかえりと改善。計画案の再提出2	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究	
	9. 模擬授業(グループA)	単元案、授業案づくり	
	10. 模擬授業(グループB)	単元案、授業案づくり	
	11. 模擬授業(グループC)	単元案、授業案づくり	
	12. 模擬授業(グループD)	単元案、授業案づくり	
	13. ふりかえりと改善。授業案の最終提出1	単元案、授業案の検討	
	14. ふりかえりと改善。授業案の最終提出2	単元案、授業案の検討	
	15. 最終レポートの提出と発表(社会科の授業の課題)	教科書、参考文献、単元案、授業案の熟読	
受講者へのメッセージやアドバイス:	教職課程科目なので遅刻、欠席はないものとする		
フィードバックの方法:	毎時間の講義対話カード(ふりかえりカード)へのコメント返却、クラスでの共有 教材開発、授業づくり及び模擬授業へのコメント		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	30	講義対話カード(ふりかえりカード)、グループ活動・ワークショップなど授業に積極的に取り組んでいるか
	授業レポート(中間)	40	授業研究／学習指導案／模擬授業など積極的に取り組んでいるか。
	最終レポート	30	授業目標が達成されているか
教科書:	文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 社会編』		
参考書:	社会系教科教育学会編(2010)『社会系教科教育研究のアプローチ』学事出版 猪瀬武則編(2012)『究極の中学校社会科-公民編-』日本文教出版 全国社会科教育学会編(2011)『社会科教育実践ハンドブック』明治図書出版 藤原孝章編(2009)『時事問題学習の理論と実践-国際理解・シティズンシップを育む社会科教育』福村出版 唐木清志・西村公孝・藤原孝章(2010)『社会参画と社会科教育の創造』学文社 原田智仁編(2016)『社会科教育のルネサンス―実践知を求めて―』保育出版社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	e-mail		

授業テーマ：家庭科教育と情報社会

授業の概要：家庭生活と情報とのかかわりを、家族関係、コミュニケーション、家庭経済、消費、環境等の面から捉え、生活情報を活用することの必要性を探る。また、中学生・高校生の情報リテラシーを育成する家庭科教育の授業を立案できるよう、家庭科の学習内容をみつめ直す。
家庭科教育における情報メディアの活用方法を概観し、コンピューターや視聴覚教材を活用した授業方法を探る。

到達目標：中高の家庭科の、生活情報の収集・分析・活用に関わる内容を理解する。
年間指導計画の立て方がわかり、授業の計画ができるようになる。
学習指導案の書き方がわかる。
パワーポイントを使って、学習効果を高める教材を作成することができる。

授業方法：	講義、調べ学習、指導計画と指導案の作成、パソコン教室で教材を作成し発表（グループ活動）		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オリエンテーション 家庭生活と情報	自身の生活情報の活用について振り返ろう
	2.	家族および人間関係、コミュニケーションと情報	ケータイ、SNSのコミュニケーションから、人とのつながりについて考えよう
	3.	消費、環境と情報	ネットショッピングの特徴を調べてみよう
	4.	社会福祉と情報	情報格差とは何か調べてみよう
	5.	衣食住生活と情報	中高の家庭科の教科書の中で、情報に関する内容をどのように取り上げているか確認しておこう
	6.	学習指導要領の確認と年間指導計画	中高の学習指導要領を読んでおこう
	7.	学習指導案の書き方と指導案の作成	学習指導案の書き方について調べてみよう
	8.	視聴覚教材の活用、パソコンを使った情報活用	授業に活用できそうな視聴覚教材を探してみよう
	9.	視聴覚教材、パソコンを使った1時間の授業を立案指導案(略案)の作成	授業に用いる視聴覚教材、ネット上のサイトなどを決め、時間などの配分を考えておこう
	10.	パワーポイントを使った教材研究のテーマ決めと計画(グループ活動)	パワーポイントの使い方を復習しておくとい。
	11.	パワーポイントを使った教材作成(グループ活動)	テーマに沿った資料など調べておくとい
	12.	教材研究の発表(1)	発表者は準備しておく 聞く者は厳しい目で評価する
	13.	教材研究の発表(2)	発表者は準備しておく 聞く者は厳しい目で評価する
	14.	先に立案提出した、視聴覚教材、パソコンを使った授業、指導案(略案)の総評	他者の立案した授業から学ぼう
	15.	パワーポイントを使った教材研究の総評とまとめ	これまで学習した内容を振り返っておこう

受講者へのメッセージやアドバイス：各回のテーマについて、興味関心、問題意識を持ち、ニュースなどを見聞きするよう心がけるとよい。受け身ではなく自分の頭で考え、自分の問題意識や意見が持てるよう、主体的な学習をしてもらいたい。

フィードバックの方法：提出物は添削し返却、質問等は講義後に直接に受け応え、または、メールで受け応えする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
	指導案の提出 2回	40%	指導案の書き方が理解できていることと、授業の内容にも工夫がみられることを重視
	グループ活動の教材研究	30%	テーマに沿って指導計画ができていること、分担協力して調整ができていること、教材として適切な工夫ができていることを重視
	グループ活動の発表	20%	分担協力して発表できることと、中高生にわかりやすいように工夫できていることを重視
	平素の提出物	10%	提出を求める提出物への取り組み姿勢を評価

教科書：

参考書：池崎喜美恵他著、家庭科教育、学文社
望月一枝他著、生きる力をつける学習～未来をひらく家庭科～、教育実務センター

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：メール m.morino.bell@gmail.com

授業テーマ:

授業の概要: 中学校家庭科の目標、内容について学んだあと、すぐれた授業実践にできるだけ多くふれて、具体的なイメージができるようにする。授業実践を紹介しあうことで、いろいろな指導法や教材教具の工夫について共有する。また、教材教具を実際に作成して、授業案の発表と質疑応答を行い、相互評価により、よりよい授業づくりができるようにする。

到達目標: ①中学校家庭科の目標、内容について理解する。
②すぐれた実践から効果的な指導法、工夫された教材教具とはどのようなものか理解する。
③教材教具の工夫、作成、授業案の発表を行うことで授業を実践できる力を養う。

授業方法: 講義と演習を組み合わせで行う。4、5、13、14回については発表と質疑応答を行い、授業実践の内容と指導法の工夫について共有する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション(授業の到達目標、進め方、評価方法、提出物などの説明)	
	2. 中学校学習指導要領より技術・家庭の家庭分野の目標、内容	学習指導要領の目標、内容を読んでおくこと。
	3. これまでの授業実践例について学ぶ	
	4. 授業実践の紹介、発表(1)	すぐれた中学校家庭科の授業実践を選び、発表のレジュメを準備し、授業後、レポートを提出すること。
	5. 授業実践の紹介、発表(2)	すぐれた中学校家庭科の授業実践を選び、発表のレジュメを準備し、授業後、レポートを提出すること。
	6. 家族と家族関係(ロールプレイ他)	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
	7. 幼児の生活と家族(遊びの意義、絵本づくりなど)	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
	8. 中学生の食生活と栄養、日常食の献立(食生活点検、食材カードなど)	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
	9. 衣服の選択と手入れ(実習「1枚の布をまとう」他)	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
	10. 住居の機能と住まい方(住まいのイメージづくり、住まいに関する絵本紹介など)	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
	11. 家庭生活と消費、環境(ビデオ、実験など)	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
	12. 教材、教具の作成	教材、教具の工夫についてアイデアを考え、準備をしておくこと。
	13. 授業案を発表、討議(1)	教材教具を完成させ、指導法を工夫した授業案をまとめておくこと。
	14. 授業案を発表、討議(2)	教材教具を完成させ、指導法を工夫した授業案をまとめておくこと。
	15. これまでの振り返りとまとめ	これまで学んだことを振り返り、レポートにまとめ、提出すること。

受講者へのメッセージやアドバイス: 当たり前と思っている日々の暮らしを見直し、生活の中から課題を見つけ、解決策を考えることが大切である。さらに、中学生の実態について様々な情報を収集し、授業案を考える際に参考にしてほしい。

フィードバックの方法: 振り返り用紙はコメントをつけて返却する。授業実践の紹介、授業案の発表については教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	振り返りレポート	40	到達目標①を踏まえ、基本的な知識を身につけているかどうかを基準とする。
	発表	30	到達目標③を踏まえ、わかりやすく発表できていることを基準とする。
	レポート	30	到達目標②を理解した上で、どの程度独自の視点があるかを基準とする。

教科書: 『技術・家庭 家庭分野』(開隆堂)

参考書: 『中学校学習指導要領』(文部科学省)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: マナビーの掲示機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	教職にかかわるさまざまな諸問題を解決することができる実践力などを身につける。
授業の概要:	教職を志望する学生のために、これまで履修、習得した教職科目の専門的知識や技能を統合できるように、講義や集団討論を行う。また、教職に対する使命感と意欲の喚起を呼び起こし、実践的指導を備えた教師としての資質と能力を身につけることのできる講義や集団討論、小論文を含めた演習を行う。
到達目標:	教職を志望する学生のために、これまで履修、習得した教職科目の専門的知識や技能を統合し、教職に対する使命感と意欲の喚起を呼び起こし、実践的指導を備えた教師としての資質と能力を身につけることを目標とする。
授業方法:	講義/演習の混合、教職科目の専門的知識や技能を問う、小論文への取り組み。課題解決にかかわる学習場面においては、主に集団討論、ロールプレイ等を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション〔実践力を高め、児童生徒へのよりよい対応ができる教師を目指すために〕	事前にシラバスを読んでおくこと。
2.	教師としての質向上〔教師としての人間力〕	事前に与えた教師としての姿勢についての課題に取り組んでおくこと。
3.	教師としての質向上〔教師としての姿勢〕	事前に与えた教師としての姿勢についての課題に取り組んでおくこと。
4.	教師の対応力向上〔不登校への対応 その1〕	事前に与えた不登校への対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
5.	教師の対応力向上〔不登校への対応 その2〕	事前に与えた不登校への対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
6.	教師の対応力向上〔いじめへの対応 その1〕	事前に与えたいじめへの対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
7.	教師の対応力向上〔いじめへの対応 その2〕	事前に与えたいじめへの対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
8.	学級経営力向上〔担任としての対応 その1〕	事前に与えた担任としての対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
9.	学級経営力向上〔担任としての対応 その2〕	事前に与えた担任としての対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
10.	授業力向上〔単元計画と授業デザイン その1〕	事前に与えた授業デザインについての資料を熟読しておくこと。
11.	授業力向上〔単元計画と授業デザイン その2〕	事前に与えた授業デザインについての資料を熟読しておくこと。
12.	授業力向上〔模擬授業 その1〕	事前に与えた模擬授業の資料を熟読しておくこと。
13.	授業力向上〔模擬授業 その2〕	事前に与えた模擬授業の資料を熟読しておくこと。
14.	個人課題の確認と取り組み〔個人面接を中心に〕	事前に個人面談で相談したい事項を調べておくこと。
15.	まとめと振り返り	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:	常に受験する府県・政令市、私立学校等の教員採用選考試験を視野に入れ、最高の自己アピールができるようにスキルアップを心がけよう。
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	集団討論、ロールプレイ	20%	討論、ロールプレイでは、到達目標の教師として対応、配慮等を踏まえて発言しているかを評価する。
	小論文作成・提出	30%	教職科目の専門的知識や与えられた課題を説得力をもって説明できるかを基準とする。
	レポート提出	50%	教職科目の専門的知識や技能を統合して、与えられた課題を説得力をもって説明できるかを基準とする。

教科書: 同志社女子大生のための教職アプローチ

参考書: 適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	実践的教師力を高める																																		
授業の概要:	本講座は、教職を希望するみなさんの実践的な教師力を高めるために、特に教師として求められる資質能力と表現力に着目した演習を行う。具体的には教育課程の個々の科目の履修により修得した専門的知識や技能を統合し、教職に対する使命感と意欲の喚起を行い、教育現場で生きてはたらく基本的な資質と能力を身につけることを目標とする。																																		
到達目標:	・教員として必要な基本的知識と技能を獲得することができる。 ・教員の立場で事象を判断し対応する能力を身につけることができる。 ・教師になるための能力を伸張し自己表現することができる。																																		
授業方法:	1.講義, 2:演習, 5.講義/演習の混合																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション:教職への意欲喚起と個人目標の設定</td><td>教育現場の現状と採用試験に関わる疑問や質問等をまとめておく</td></tr><tr><td>2. 求められる教師像1:受験をする地域性から学ぶ</td><td>受験希望地の教育の特徴や採用状況を調査する</td></tr><tr><td>3. 求められる教師像2:教育現場の実態から学ぶ</td><td>ボランティア活動等の実践的活動を文章にまとめておく</td></tr><tr><td>4. 教師の身分と教育法規1</td><td>前時に配布する法規資料の内容を確認する</td></tr><tr><td>5. 教師の身分と教育法規2</td><td>配布した法規資料の内容を暗唱する</td></tr><tr><td>6. 学校教育に関する今日的課題</td><td>教育について報道される今日的課題について資料を集め、説明できるようにまとめる</td></tr><tr><td>7. 学級経営1</td><td>学校現場で起こる問題を想定し、対応策を考える</td></tr><tr><td>8. 学級経営2</td><td>前時で提示された教育的課題に対して指導方針を立てる</td></tr><tr><td>9. 生きる力と授業の目的1</td><td>生きる力の定義と意味をまとめておく</td></tr><tr><td>10. 生きる力と授業の目的2</td><td></td></tr><tr><td>11. 児童生徒の指導と支援1</td><td>場面指導の課題に対して対応方法を考える</td></tr><tr><td>12. 児童生徒の指導と支援2</td><td></td></tr><tr><td>13. 児童生徒理解とカウンセリングマインド1</td><td>場面指導の練習をする</td></tr><tr><td>14. 児童生徒理解とカウンセリングマインド2</td><td>前時までに指摘された課題の改善策を考える</td></tr><tr><td>15. 教職への意欲喚起とふり返り</td><td>全体のまとめとしてふり返る</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション:教職への意欲喚起と個人目標の設定	教育現場の現状と採用試験に関わる疑問や質問等をまとめておく	2. 求められる教師像1:受験をする地域性から学ぶ	受験希望地の教育の特徴や採用状況を調査する	3. 求められる教師像2:教育現場の実態から学ぶ	ボランティア活動等の実践的活動を文章にまとめておく	4. 教師の身分と教育法規1	前時に配布する法規資料の内容を確認する	5. 教師の身分と教育法規2	配布した法規資料の内容を暗唱する	6. 学校教育に関する今日的課題	教育について報道される今日的課題について資料を集め、説明できるようにまとめる	7. 学級経営1	学校現場で起こる問題を想定し、対応策を考える	8. 学級経営2	前時で提示された教育的課題に対して指導方針を立てる	9. 生きる力と授業の目的1	生きる力の定義と意味をまとめておく	10. 生きる力と授業の目的2		11. 児童生徒の指導と支援1	場面指導の課題に対して対応方法を考える	12. 児童生徒の指導と支援2		13. 児童生徒理解とカウンセリングマインド1	場面指導の練習をする	14. 児童生徒理解とカウンセリングマインド2	前時までに指摘された課題の改善策を考える	15. 教職への意欲喚起とふり返り	全体のまとめとしてふり返る		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション:教職への意欲喚起と個人目標の設定	教育現場の現状と採用試験に関わる疑問や質問等をまとめておく																																		
2. 求められる教師像1:受験をする地域性から学ぶ	受験希望地の教育の特徴や採用状況を調査する																																		
3. 求められる教師像2:教育現場の実態から学ぶ	ボランティア活動等の実践的活動を文章にまとめておく																																		
4. 教師の身分と教育法規1	前時に配布する法規資料の内容を確認する																																		
5. 教師の身分と教育法規2	配布した法規資料の内容を暗唱する																																		
6. 学校教育に関する今日的課題	教育について報道される今日的課題について資料を集め、説明できるようにまとめる																																		
7. 学級経営1	学校現場で起こる問題を想定し、対応策を考える																																		
8. 学級経営2	前時で提示された教育的課題に対して指導方針を立てる																																		
9. 生きる力と授業の目的1	生きる力の定義と意味をまとめておく																																		
10. 生きる力と授業の目的2																																			
11. 児童生徒の指導と支援1	場面指導の課題に対して対応方法を考える																																		
12. 児童生徒の指導と支援2																																			
13. 児童生徒理解とカウンセリングマインド1	場面指導の練習をする																																		
14. 児童生徒理解とカウンセリングマインド2	前時までに指摘された課題の改善策を考える																																		
15. 教職への意欲喚起とふり返り	全体のまとめとしてふり返る																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	本講座は教員志望の学生を対象にしています。事前に、教育現場における今日的課題や教育法規に関心を持ち、調査や資料収集を行ってください。そして、求められる教員像と今の自分に不足している資質・能力を認識し高める活動を指導・支援します。 可能ならば学校ボランティア等を通じて、教育現場の実態に触れることを強くすすめます。																																		
フィードバックの方法:	提出物や発表は教室で個別に評価し解説する。同時に、改善点を指摘する。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>発表</td><td>40</td><td>到達目標の教員の立場で判断する場面を面接や討論、模擬授業において総合的に評価する。</td></tr><tr><td>提出物</td><td>30</td><td>到達目標の教員としての基本的知識と技能をレポートや小論文を用いて評価する。</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>30</td><td>到達目標の討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	発表	40	到達目標の教員の立場で判断する場面を面接や討論、模擬授業において総合的に評価する。	提出物	30	到達目標の教員としての基本的知識と技能をレポートや小論文を用いて評価する。	授業への参加度	30	到達目標の討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
発表	40	到達目標の教員の立場で判断する場面を面接や討論、模擬授業において総合的に評価する。																																	
提出物	30	到達目標の教員としての基本的知識と技能をレポートや小論文を用いて評価する。																																	
授業への参加度	30	到達目標の討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。																																	
教科書:	教職アプローチ(教職論で事前配布)																																		
参考書:	授業の中で紹介する																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等																																		

授業テーマ:	教職にかかわるさまざまな諸問題を解決することができる実践力などを身につける。
授業の概要:	教職を志望する学生のために、これまで履修、習得した教職科目の専門的知識や技能を統合できるように、講義や集団討論を行う。また、教職に対する使命感と意欲の喚起を呼び起こし、実践的指導を備えた教師としての資質と能力を身につけることのできる講義や集団討論、ロールプレイ、模擬授業、小論文を含めた演習を行う。
到達目標:	教職を志望する学生のために、これまで履修、習得した教職科目の専門的知識や技能を統合し、教職に対する使命感と意欲の喚起を呼び起こし、実践的指導を備えた教師としての資質と能力を身につけることを目標とする。
授業方法:	講義/演習の混合、教職科目の専門的知識や技能を問う、小論文への取り組み。課題解決にかかわる学習場面においては、主に集団討論、ロールプレイ等を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション[実践力を高め、児童生徒へのよりよい対応ができる教師を目指すために]	事前にシラバスを読んでおくこと。
2.	教師の対応力向上[生徒指導への対応 その1]	事前に与えた生徒指導についての課題に取り組んでおくこと。
3.	教師の対応力向上[生徒指導への対応 その2]	事前に与えた生徒指導についての課題に取り組んでおくこと。
4.	教師の対応力向上[生徒指導への対応 その3]	事前に与えた生徒指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
5.	教師の対応力向上[生徒指導への対応 その4]	事前に与えた生徒指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
6.	教師の対応力向上[生徒指導への対応 その5]	事前に与えた生徒指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
7.	教師の対応力向上[生徒指導への対応 その6]	事前に与えた生徒指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
8.	教師の対応力向上[学習指導への対応 その1]	事前に与えた学習指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
9.	教師の対応力向上[学習指導への対応 その2]	事前に与えた学習指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
10.	学級経営力向上[保護者・地域対応 その1]	事前に与えた保護者・地域対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
11.	学級経営力向上[保護者・地域対応 その2]	事前に与えた保護者・地域対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
12.	授業力向上[模擬授業 その1]	事前に与えた模擬授業の資料を熟読しておくこと。
13.	授業力向上[模擬授業 その2]	事前に与えた模擬授業の資料を熟読しておくこと。
14.	個人課題の確認と取り組み[個人面接を中心に]	事前に個人面談で相談したい事項を調べておくこと。
15.	まとめと振り返り	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス: 自ら決定した公立学校・私立学校の教員採用選考試験において最高の実力が発揮できるように、常に意識して自己アピールに磨きをかけ、スキルアップを心がけよう。

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	集団討論、ロールプレイ	20%	討論、ロールプレイでは、到達目標の教師として対応、配慮等を踏まえて発言しているかを評価する。
	小論文作成・提出	30%	教職科目の専門的知識や与えられた課題を説得力をもって説明できるかを基準とする。
	レポート提出	50%	教職科目の専門的知識や技能を統合して、与えられた課題を説得力をもって説明できるかを基準とする。

教科書: 同志社女子大生のための教職アプローチ

参考書: 適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:	教育現場で生かすことができる教師としての力量を高める。																																		
授業の概要:	本講座は、教職を希望するみなさんの実践的な教師力を高めるために、特に教師として求められる資質能力と表現力に着目した実践的演習を行う。具体的には教育課程の個々の科目の履修により修得した専門的知識や技能と児童生徒の多様な発達上の課題についての知識・理解を統合し、教職に対する使命感と意欲の喚起を行い、教育現場に即対応できる資質と能力を身につけることをめざす。																																		
到達目標:	・教員として必要な実践的知識と技能を獲得することができる。 ・教員の立場で現実的に起こりうる事象を判断し対応する能力を身につけることができる。 ・教師になるための実践的な能力を伸張し自己表現することができる。																																		
授業方法:	1:講義, 2:演習, 5:講義/演習の混合																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. オリエンテーション:教職への意欲喚起と個人目標の設定</td><td>教育現場の現状と採用試験に関わる疑問や質問等をまとめておく</td></tr><tr><td>2. 求められる教師像1:受験をする地域性から学ぶ</td><td>受験希望地の教育の特徴や採用状況を調査する</td></tr><tr><td>3. 求められる教師像2:教育現場の実態から学ぶ</td><td>ボランティア活動等の実践的活動を文章にまとめておく</td></tr><tr><td>4. 教師の身分と教育法規1</td><td>前時に配布する法規資料の内容を確認する</td></tr><tr><td>5. 教師の身分と教育法規2</td><td>配布した法規資料の内容を暗唱する</td></tr><tr><td>6. 学校教育に関する今日の課題</td><td>教育について報道される今日の課題について資料を集め、説明できるようにまとめる</td></tr><tr><td>7. 学級経営(応用)1</td><td>学校現場で起こる問題を想定し、実践的な対応策を考える</td></tr><tr><td>8. 学級経営(応用)2</td><td>前時で提示された教育的課題に対して実践的な指導方針を立てる</td></tr><tr><td>9. 生きる力と授業の目的(応用)1</td><td>生きる力の定義と意味を確認し、自分なりのことばで表現する</td></tr><tr><td>10. 生きる力と授業の目的(応用)2</td><td></td></tr><tr><td>11. 児童生徒の指導と支援(応用)1</td><td>場面指導の課題に対して実践的な対応方法を考え、練習する</td></tr><tr><td>12. 児童生徒の指導と支援(応用)2</td><td></td></tr><tr><td>13. 児童生徒理解とカウンセリングマインド(応用)1</td><td>場面指導の練習をする</td></tr><tr><td>14. 児童生徒理解とカウンセリングマインド(応用)2</td><td>前時までには指摘された課題の改善策を考える</td></tr><tr><td>15. 教職への意欲喚起とふり返り</td><td>全体のまとめとしてふり返る</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. オリエンテーション:教職への意欲喚起と個人目標の設定	教育現場の現状と採用試験に関わる疑問や質問等をまとめておく	2. 求められる教師像1:受験をする地域性から学ぶ	受験希望地の教育の特徴や採用状況を調査する	3. 求められる教師像2:教育現場の実態から学ぶ	ボランティア活動等の実践的活動を文章にまとめておく	4. 教師の身分と教育法規1	前時に配布する法規資料の内容を確認する	5. 教師の身分と教育法規2	配布した法規資料の内容を暗唱する	6. 学校教育に関する今日の課題	教育について報道される今日の課題について資料を集め、説明できるようにまとめる	7. 学級経営(応用)1	学校現場で起こる問題を想定し、実践的な対応策を考える	8. 学級経営(応用)2	前時で提示された教育的課題に対して実践的な指導方針を立てる	9. 生きる力と授業の目的(応用)1	生きる力の定義と意味を確認し、自分なりのことばで表現する	10. 生きる力と授業の目的(応用)2		11. 児童生徒の指導と支援(応用)1	場面指導の課題に対して実践的な対応方法を考え、練習する	12. 児童生徒の指導と支援(応用)2		13. 児童生徒理解とカウンセリングマインド(応用)1	場面指導の練習をする	14. 児童生徒理解とカウンセリングマインド(応用)2	前時までには指摘された課題の改善策を考える	15. 教職への意欲喚起とふり返り	全体のまとめとしてふり返る		
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. オリエンテーション:教職への意欲喚起と個人目標の設定	教育現場の現状と採用試験に関わる疑問や質問等をまとめておく																																		
2. 求められる教師像1:受験をする地域性から学ぶ	受験希望地の教育の特徴や採用状況を調査する																																		
3. 求められる教師像2:教育現場の実態から学ぶ	ボランティア活動等の実践的活動を文章にまとめておく																																		
4. 教師の身分と教育法規1	前時に配布する法規資料の内容を確認する																																		
5. 教師の身分と教育法規2	配布した法規資料の内容を暗唱する																																		
6. 学校教育に関する今日の課題	教育について報道される今日の課題について資料を集め、説明できるようにまとめる																																		
7. 学級経営(応用)1	学校現場で起こる問題を想定し、実践的な対応策を考える																																		
8. 学級経営(応用)2	前時で提示された教育的課題に対して実践的な指導方針を立てる																																		
9. 生きる力と授業の目的(応用)1	生きる力の定義と意味を確認し、自分なりのことばで表現する																																		
10. 生きる力と授業の目的(応用)2																																			
11. 児童生徒の指導と支援(応用)1	場面指導の課題に対して実践的な対応方法を考え、練習する																																		
12. 児童生徒の指導と支援(応用)2																																			
13. 児童生徒理解とカウンセリングマインド(応用)1	場面指導の練習をする																																		
14. 児童生徒理解とカウンセリングマインド(応用)2	前時までには指摘された課題の改善策を考える																																		
15. 教職への意欲喚起とふり返り	全体のまとめとしてふり返る																																		
受講者へのメッセージやアドバイス:	本講座は教員採用試験受験希望学生を対象にしています。事前に、教育現場における今日の課題や教育法規に関する学習内容を中心に、これまでの講義で各自が習得した知識を整理します。そして、求められる教員像と今の自分に不足している資質・能力を認識し、高める活動を指導・支援します。具体的には、ロールプレイや模擬授業等の演習を重視した学習活動が中心となります。 可能ならば、学校ボランティア等を通じて、教育現場の実態に触れることを強くすすめます。																																		
フィードバックの方法:	提出物や発表は教室で個別に評価し解説する。同時に、改善点を指摘する。																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>発表</td><td>40</td><td>到達目標の教員の立場で判断する場面を面接や討論、模擬授業において総合的に評価する。</td></tr><tr><td>提出物</td><td>30</td><td>達成目標の教員としての基本的知識と技能をレポートや小論文を用いて評価する。</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td>30</td><td>到達目標の討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	発表	40	到達目標の教員の立場で判断する場面を面接や討論、模擬授業において総合的に評価する。	提出物	30	達成目標の教員としての基本的知識と技能をレポートや小論文を用いて評価する。	授業への参加度	30	到達目標の討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。																						
評価方法	割合	評価基準																																	
発表	40	到達目標の教員の立場で判断する場面を面接や討論、模擬授業において総合的に評価する。																																	
提出物	30	達成目標の教員としての基本的知識と技能をレポートや小論文を用いて評価する。																																	
授業への参加度	30	到達目標の討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。																																	
教科書:	教職アプローチ(教職論で事前配布)																																		
参考書:	文部科学省『生徒指導提要』2010年 授業の中で紹介する																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力																																		
教員との連絡方法:	授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等																																		

授業テーマ:

人権尊重の精神に基づき、教師としての求められる普遍的な資質や能力について、実践を通して理解を深める。

授業の概要:

急激に変化する自然環境や複雑な社会状況を力強く生き抜く子どもたちを育てるために、教師として獲得しなければならない教師力や総合的な人間力を育成する。そのため、学級経営をはじめ生徒指導、教育相談などの各領域ごとに、基礎的知識や理論を講義を通して考える。
さらに、グループ討議やロールプレイングを繰り返すことによって、実践力、コミュニケーション能力など実際に求められる力量を養成する。

到達目標:

1. 教師の社会的使命を理解し、今、求められる力量とは何かを深く理解する。
2. 教師としての実践力、コミュニケーション能力を養う。
3. 教師としての即時対応能力、コミュニケーション能力を養う。

授業方法:

5. 講義と演習の混合：前半は講義を中心とし、各課題について、受講生と授業担当者との双方向的なやりとりを行う。後半は、各課題についてグループ討議、ロールプレイ実施後、受講生自身の自己評価と相互の他者評価を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
1.	今、教師に求められる力とはえてみようー	一学級経営から考	(復習)講義から、教師に求められる力量について400字以内でまとめたミニレポートを作成する。 (予習)生徒指導、教育相談の内容について、調べてくる。
2.	今、教師に求められる力とは談から考えてみようー	一生徒指導、教育相	(復習)講義から、生徒指導、教育相談に必要な能力について400字以内でまとめたミニレポートを作成する。 (予習)独自のアクティブラーニングのアイデアを考える。
3.	今、教師に求められる力とは考えてみようー	一学習指導面から	(復習)講義から、学習指導での留意点につて400字以内でまとめたミニレポートを作成する。 (予習)人権学習の導入に使用する資料を次回までに用意する。
4.	今、教師に求められる力とはいた子ども理解とはー	一人権尊重に基づ	(復習)講義から、人権学習の導入部の指導案を作成する。 (予習)学校と地域の特色ある連携例を調べる。
5.	今、教師に求められる力とは人たちとの連携についてー	一保護者や地域の	(復習)講義から、自分が教師だったらやってみたい保護者、あるいは地域との連携プランを400字以内でまとめる。 (予習)教員間の協力で、課題になるのはどのような点か調べてくる。
6.	今、教師に求められる力とは調の実際ー	一教員間の協力・協	(復習)講義から、教師間の協力に関して、校務分掌間を例にして、関連図を作成する。 (予習)新教育課程の内容を調べる。
7.	グループ討議 教師としての実践力、コミュニケーション能力を養う	一新教育課程における教育課題への適切な対応とはー	(予習)学級経営あるいは教科指導における自己課題を設定する。
8.	グループ討議 教師としての実践力、コミュニケーション能力を養う	一学級経営、教科指導における自己課題の設定ー	(予習)不登校問題について具体的な事例を設定し、適切な対応を考えてくる。
9.	グループ討議 教師としての実践力、コミュニケーション能力を養う	一子どもの不登校問題への適切な対応ー	(予習)いじめ事例を設定し、加害者、被害者への具体的な支援について考えてくる。
10.	グループ討議 教師としての実践力、コミュニケーション能力を養う	一いじめ問題の理解と適切な対応について	(予習)発達に特徴がある子どもたちの現状を調べてくる。
11.	グループ討議 教師としての実践力、コミュニケーション能力を養う	一発達障がいの理解と適切な対応について	(予習)学級内で盗難事件が起こった場合の学級指導について、担任としてどうするか考えてくる。
12.	ロールプレイ 教師としての即時対応力、コミュニケーション能力を養う	一学級全体に起こった問題への対応ー	(予習)仲間はずれになってしまった子どもへの個人的な支援について考えてくる。
13.	ロールプレイ 教師としての即時対応力、コミュニケーション能力を養う	一子ども個人に起こった問題への対応ー	(予習)担任の教え方が悪いと管理職に抗議を申し入れている保護者との個人面談の方法について考えてくる。
14.	ロールプレイ 教師としての即時対応力、コミュニケーション能力を養う	一学校に不信感を持つ保護者への対応ー	(予習)これまでの授業を振り返り、成果と課題を400字程度にそれぞれまとめてくる。
15.	教師としての普遍的な資質や能力、求められる教師力についての考察とまとめ		

受講者へのメッセージやアドバイス:

教師としての実践力を養う演習中心の授業です。積極的な姿勢で授業に臨んでください。

フィードバックの方法:

グループ討議、ロールプレイ・・・即時のコメントミニレポート・・・教室でまとめて解説する
小論文・・・添削して返却する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	グループ討議	20%	到達目標2に関して、発表での態度、表現、他者との協調性を基準とする。
	ロールプレイ	20%	到達目標3に関して、自分の役割をどれほど理解し、表現できるかを基準とする。
	小論文	40%	到達目標1に関して、論旨の一貫性、主張の適合性、表現能力を基準とする
	ミニレポート	20%	到達目標1に関して、授業への積極的参加、意欲を基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡
方法:

1. 授業の前後に教室内で対応
2. メールによる (mnakagaw@dwg.doshisha.ac.jp)
3. 研究室訪問してください。(C444)

授業テーマ： 教員としての必要な知識・技能を補完し、教職の学びのまとめを行う。

授業の概要： 今までの教育実習や課程外活動の学びを総括する。

到達目標： ①履修カルテを振り返り、完成させる。②現職教員ならびに教育関係者の講義から、教育現場や教職の現状を確認する。③グループディスカッション・ワークショップを通して、客観的な視点を広げる。④教職への自己の課題を確認し、知識や技能を補完する。その内容は以下である。＊音楽科指導法＊課外活動＊障がい児教育＊学級運営＊地域ならび社会的環境＊保護者との連携など。

授業方法: ①現職教員または教育関係者による講義。②3人の担当教員によるテーマ別グループ分け(A・B・C)授業:各グループは3回ごとに担当教員が変わる。

「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション―授業の進め方について	音楽学科教職課程履修カルテを読み返す。
	2. 教育現場から学ぶ―1	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	3. 教育現場から学ぶ―2	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	4. 教育現場から学ぶ―3	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	5. 教育現場から学ぶ―4	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	6. 教育課題の整理と理解:グループA-1	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	7. 教育課題の整理と理解:グループA-2	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	8. 教育課題の整理と理解:グループA-3	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	9. 教育課題の整理と理解:グループB-1	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	10. 教育課題の整理と理解:グループB-2	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	11. 教育課題の整理と理解:グループB-3	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	12. 教育課題の整理と理解:グループC-1	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	13. 教育課題の整理と理解:グループC-2	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	14. 教育課題の整理と理解:グループC-3	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
	15. 音楽学科教職課程履修カルテの完成とまとめ	音楽学科教職課程履修カルテの読み返し、追記して完成させる。

受講者へのメッセージや全出席を前提としており、つねに各自の4年春学期までの学びに関連する資料を読み返し、また本講義で提示された観点について、新たな知識を積極的に獲得する努力を積み重ねてください。

フィードバックの方法: 授業中に記述した感想の内容をを口頭により教室でまとめて解説し伝える。あるいは指定された内容について記入したコメントを担当者が入力したものを配布する。いずれの場合も、教員だけでなく将来教員を目指す受講生のコメントからも各自の課題を見だし、自己実現力を高めてください。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50%	積極的な知識習得にむけた姿勢から評価する。
	報告、討論など	50%	準備学習や提出物の内容から評価する。

教科書： 特に指定しない。

参考書： 授業時に、適宜提示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理
力、自己実現力

教員との連絡方法： 授業の前後に教室内で対応する。

授業テーマ:

教職課程における学びの総まとめを通して情報科教員に求められる資質能力の向上を目指す

授業の概要:

「教職課程履修カルテ」を使って教職課程での学びを振り返り、そこで身につけてきた力量を以下の4つの事項と照らし合わせて自己点検評価する。(1)使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、(2)社会性や対人関係能力に関する事項、(3)生徒理解や学級経営等に関する事項、(4)教科の指導力に関する事項
そして、将来教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、教員としての資質能力を高める。最後にその成果を発表し、教員として最小限必要な資質能力が身についているかを確認する。

到達目標:

①【知識・理解】教職課程で学んだ生徒理解、学級経営、教科指導等に関わる基礎的・基本的な知識を説明できる。
②【関心・意欲・態度】使命感や責任感、教育的愛情をもって生徒に接しようとする。また、自己研修を通して教員としての資質能力を高めようとする。
③【表現・技能・能力】社会性や対人関係能力をもって行動できる。また、アクティブラーニングを意識した授業設計や教科指導ができる。

授業方法:

1回は講義、2～6回の「振り返り」と15回は発表と討議を通して行う。9～14回の課題解決活動は8回で設定した課題内容に応じて、事例研究、授業分析、学習指導案作成、模擬授業、役割演技(ロールプレーイング)、発表・討議などの方法で行う。現職教員による講義は、講師の都合上、土曜に行う。日程については年度はじめに講師、受講生の都合を調整して決める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容	
	1.	オリエンテーション 教員に求められる資質能力について	発表準備	
	2.	教職課程履修の振り返り1(教職に関する科目)	発表準備	
	3.	教職課程履修の振り返り2(教科に関する科目)	発表準備	
	4.	教育実習の振り返り1(教材研究、教材開発、学習指導案作成)	発表準備	
	5.	教育実習の振り返り2(授業、評価)	発表準備	
	6.	教育実習の振り返り3(学級経営、生徒とのコミュニケーションなど)	発表準備	
	7.	現職教員による講義		
	8.	情報科教員に求められる資質能力の自己点検評価と課題設定	発表準備	
	9.	課題解決活動	課題解決活動	
	10.	課題解決活動	課題解決活動	
	11.	課題解決活動	課題解決活動	
	12.	課題解決活動	課題解決活動	
	13.	課題解決活動	課題解決活動	
	14.	課題解決活動のまとめ	課題解決活動と発表準備	
	15.	成果発表とまとめ		

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業では毎回、MacBookAirを使いますので、初回から持参するようにしてください。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法		評価基準	
	授業への参加姿勢	30	全出席を前提とし、到達目標②の達成度を評価します。	
	講義や課題解決活動等のレポート	40	到達目標①②③の達成度を評価します。	
	「教職課程履修カルテ」の内容	30	到達目標①②③の達成度を評価します。	

教科書:

文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆館出版販売

参考書:

向後千春『教師のための「教える技術」』明治図書出版
稲垣忠、鈴木克明『授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:

教職課程の集大成としての総合的・実践的な活動を通した教員としての理解の深化

授業の概要:

4年間の教職課程ならびに教員免許取得にむけた総合的な仕上げのステージとして、教職／教科に関する他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて実践的かつ自発的に学習することを目標とする。教科教育知識の実践的な運用について学習するとともに、生徒や生徒を取り巻く社会環境の幅広い理解、そして教育現場における諸課題について学習する。

到達目標:

1:教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されることを目標とする。
2:教科教育知識の実践的な運用について学習するとともに、生徒や生徒を取り巻く社会環境の幅広い理解、そして教育現場における諸課題について理解することを目標とする。

授業方法:

座学のみならず、実際の模擬授業への参画、実践を行うことを通して指導力ならびに教科教育の理解力の総合点検と検証を行うとともに、校外学習を積極的に行い、現場の学校見学、同和教育や平和教育、地域教育の現場見学を通して、教育を取り巻く環境の総合的な理解の促進をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業のガイダンス	配布資料の確認
	2. ロールプレイング(1) 教科教育法学生を対象とした生徒／教師の立場からのロールプレイングと授業コメントを通したアドバイスの実践と指導力の確認	配布資料の確認・指導案の確認
	3. ロールプレイング(2) 教科教育法学生を対象とした生徒／教師の立場からのロールプレイングと授業コメントを通したアドバイスの実践と指導力の確認	配布資料の確認・指導案の確認
	4. ロールプレイング(3) 教科教育法学生を対象とした生徒／教師の立場からのロールプレイングと授業コメントを通したアドバイスの実践と指導力の確認	配布資料の確認・指導案の確認
	5. ロールプレイング(4) 教科教育法学生を対象とした生徒／教師の立場からのロールプレイングと授業コメントを通したアドバイスの実践と指導力の確認	配布資料の確認・指導案の確認
	6. ロールプレイング(5) 教科教育法学生を対象とした生徒／教師の立場からのロールプレイングと授業コメントを通したアドバイスの実践と指導力の確認	配布資料の確認・指導案の確認
	7. 研究授業の実践を通した指導力の評価	配布資料の確認
	8. 現職教員を交えた教育現場のワークショップ(土曜日・日曜日開講)	配布資料の確認
	9. 現職教員を交えた教育現場のワークショップ2(土曜日・日曜日開講)	配布資料の確認
	10. 教科教育内容に則した現地学習～京都の歴史	配布資料の確認・指導案の確認
	11. 教科教育内容に則した現地学習～美術史	配布資料の確認・指導案の確認
	12. 教育研究会／学校見学を通した教育課題の討議	配布資料の確認・指導案の確認
	13. 同和教育／平和教育／地域教育に関する博物館見学学習を通した教育課題に関する総合(土曜日・日曜日開講)	配布資料の確認
	14. 教育実習全体の振り返りから見た授業と学級運営のワークショップ	配布資料の確認
	15. 全体の総括	配布資料の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内にてコメントペーパーの内容について適宜評価・コメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ロールプレイングによる研究授業実践	40	到達目標1の達成度について総合的に評価する。
	ワークショップにおける参画度・関与	40	到達目標2の達成度について総合的に評価する。
	コメントペーパー	20	到達目標2の達成度について総合的に評価する。

教科書:

特になし。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業内・後の教室ならびにオフィスアワーを中心として随時研究室にて行う。

授業テーマ:	未来の教員としてのさらなる資質能力の向上をめざして		
授業の概要:	教職課程履修における振り返りを行う。		
到達目標:	教職課程の授業および教職課程外での諸活動を通し、「教職課程履修のあゆみ」、「教育実習簿」の記録、ディスカッションやゲストスピーカーによる講義(講演)などをもとに、4年間の大学での学びを総合的に振り返る。本科目の履修を通し、教職に就く上での自己課題の確認、将来に向けての目標の設定を行う。		
授業方法:	グループによる話し合い・発表などを取り入れ、教職課程履修を振り返る。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 授業の進め方 2. 「教職課程履修のあゆみ」を用いて振り返り 3. 教育実習 振り返り(1) (テーマ:教科書分析)、まとめ、発表 4. 教育実習 振り返り(2) (テーマ:指導案作成と授業)、まとめ、発表 5. 教育実習 振り返り(3) (テーマ:教材作成)、まとめ、発表 6. 教育実習 振り返り(4) (テーマ:生徒への対応、先生方との連携)、まとめ、発表 7. 教育実習 振り返り(5) (テーマ:実習生としての諸問題への対応)、まとめ、発表 8. 教育実習 振り返り(6) (テーマ:教職課程を履修することの意義)、まとめ、発表 9. ビデオ教材を用いて「教師の役割とは」(1) 10. ビデオ教材を用いて「教師の役割とは」(2) 11. ビデオ教材を用いて「教師の役割とは」(3) 12. 教育実習の記録冊子完成(『Viva! 教育実習』配布予定) 13. 卒業論文発表会参加(振り替え) 14. ゲストスピーカー(高等学校教諭)を迎えての講義または講演会(2018年2月実施分として振り替え) 15. ゲストスピーカー(中学校教諭)を迎えての講義または講演会(2018年2月実施分として振り替え)		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教育実習における学びを「教職課程履修のあゆみ」に記入する。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	「教職課程履修のあゆみ」の利用方法および内容	60%	
	課題の提出	20%	
	発表	10%	
	積極的な参加姿勢	10%	
	4つの項目を総合的に評価する。		
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること		

授業テーマ:

教育現場の実態を知る

授業の概要:

講演や教育現場への参加を通じて、教育の実態(効果や問題点)に関する知識を獲得し、教員としての資質を高める。

到達目標:

1.教員としての使命や責任を理解している
2.教員としての職責や義務を理解している
3.学級経営について理解している
4.教科の指導力を十分に有している

授業方法:	講義をもとにした演習	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 中学校の現職教員による教育実践の講演会	
	2. ガイダンス(授業の進め方・評価方法など)	
	3. 中高の教育現場―職務分掌―	教育実習での経験をもとに現職教員への質問事項を用意しておく。
	4. 中高の教育現場―担任業務―	教育実習での経験をもとに現職教員への質問事項を用意しておく。
	5. 中高の教育現場―クラブ活動―	教育実習での経験をもとに現職教員への質問事項を用意しておく。
	6. 中高の教育現場―国語教育と授業(1)―	教育実習での経験をもとに現職教員への質問事項を用意しておく。
	7. 中高の教育現場―国語教育と授業(2)―	教育実習での経験をもとに現職教員への質問事項を用意しておく。
	8. 中高等学校の授業見学に向けた事前指導	
	9. 中高等学校の授業見学	見学中に留意する点をあらかじめリストアップしておく。
	10. 中高等学校の授業見学	見学中に留意する点をあらかじめリストアップしておく。
	11. 中高等学校の授業見学	見学中に留意する点をあらかじめリストアップしておく。
	12. 授業見学の事後指導	
	13. 教育現場における重要問題に関する討論(1)	
	14. 教育現場における重要問題に関する討論(2)	
	15. 教育現場における重要問題に関する討論(3)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！
・授業見学は11月中のいずれか1日に、3コマ分(270分)を使って実施する。
・受け入れ先の事情によって授業見学が実現できない場合は、教育現場における重要問題に関する討論を実施する。

フィードバックの方法:

授業中の発言に対してコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:			すべての回への出席を前提とする。 特に講演会・インターンシップ・授業見学はこの授業の基幹である。必ず出席すること。
	講演会・インターンシップ・授業見学などのレポート	50	
	授業・討議への貢献度	50	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

学内メール:kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	教育現場の実態を知る。					
授業の概要:	教員の体験。					
到達目標:	教員になる下準備。					
授業方法:	実習(9月26日から10月5日まで)					
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容			
	1.	下京中学にてオリエンテーション。	なし			
	2.	講義(大学)下京中学教員による。	なし			
	3.	講義(大学)小林が担当。	なし			
	4.	実習	現場に立つ心構えをしておく。			
	5.	実習	現場に立つ心構えをしておく。			
	6.	実習	現場に立つ心構えをしておく。			
	7.	実習	現場に立つ心構えをしておく。			
	8.	実習	現場に立つ心構えをしておく。			
	9.	実習	現場に立つ心構えをしておく。			
	10.	実習	現場に立つ心構えをしておく。			
	11.	実習	現場に立つ心構えをしておく。			
	12.	実施しない。				
	13.	実施しない。				
	14.	実施しない。				
	15.	実施しない。				
受講者へのメッセージやアドバイス:	教員の見習いであることを忘れないこと。					
フィードバックの方法:	実習校の報告。ノートの提出。					
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準			
	実習校報告に基づく成績	80				満点を80点換算
	提出ノート	20				満点を20点換算
教科書:						
参考書:						
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力					
教員との連絡方法:	eメール					

820660

教職実践演習(中・高)

川崎 祐子、藤本 純子、浅井 由利子

授業テーマ:

教員(特に家庭科)としての資質能力の向上と、教職に関する4年間の総まとめ

授業の概要:

授業の一環として中学校・高等学校の現職教員をゲストスピーカーとしてお招きして教育実践についての講義と質疑応答を行う。(現職教員の教育実践は、講師の方の都合上、授業期間外に行われることがある。)
教育実習における実践例は、原則としてL、S各学科代表1名が教育実習での研究授業を再現し、グループで相互評価を行う。L、S3年次生の教職科目履修者の授業見学を可とする。
授業後半では家庭科に関連するさまざまな話題を基にグループワークや討議を行うことで、教員としての資質能力の向上を目指す。

到達目標:

①中学校、高等学校の家庭科現職教員の教育実践に触れ、自らの教育実習体験と照らして教職に求められているものについて考える。
②教育実習中の体験や、4年間で学んだ教職課程及び教科にかかわる科目の授業内容、教職課程以外での様々な活動を「教職課程履修カルテ」を通して振り返り、現状・問題点・解決法について考える。
③テーマごとにグループで現状・問題点・解決法について話しあい、発表することを通して学生同士で問題点等を共有する。
④本科目の履修を通して、教職に就く上での自己の課題を確認し、さらに不足している知識や技能を自覚し、教員としての資質能力の向上を目指す。

授業方法:

教育実践の学びにおける討議・発表、各テーマでの問題点等の抽出や発表などはグループ討議を含む演習形式、その他は講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 現職教員の教育実践に学ぶ(中学校)	講義を通じて学んだことなどを専用のレポート用紙にまとめて第3回授業で提出すること。
2. 現職教員の教育実践に学ぶ(高等学校)	講義を通じて学んだことなどを専用のレポート用紙にまとめて第3回授業で提出すること。
3. オリエンテーション(授業の進め方、担当者、評価方法などの説明)	教育実習で印象に残ったこと、中高のそれぞれに特徴的なこと、教員に必要なことは何かなど、次週までに考えておくこと。
4. 現職教員の教育実践に学ぶ(グループ討議・発表・全体討議)	全体討議の中で浮かび上がったことや討議を通じて感じたことなどをカードに記入し、次週提出すること。
5. 教育実習における実践例についての発表と討議(中学校)	教育実習での研究授業について振り返り、工夫した点や問題点、疑問点について考えておくこと。
6. 教育実習における実践例についての発表と討議(高等学校)	実践例および討議の内容を踏まえ、各自の教育実習での授業について振り返ること。
7. 「教職課程履修カルテ」(2.テーマ別学習記録)からのテーマの抽出とグループ分け	「教職課程履修カルテ」を読み、自分にとって最も関心のあるテーマや課題は何か考えておくこと。
8. 選んだテーマの具体的な目標設定と計画策定	手に入れた情報、思考や作業の途中メモなどすべてポートフォリオに入れておくこと。
9. 必要な情報(課題解決に必要な基礎知識、過去事例など)の収集	各自図書館やネットなどで役立ちそうな文献資料、データ、事例等を探しておくこと。
10. 各グループでの情報分析、課題解決策の検討(1)	集めた情報から現状、問題点とその原因について箇条書きにしておくこと。
11. 各グループでの情報分析、課題解決策の検討(2)	グループでの話し合いをもとにさらに課題解決策についてできるだけたくさんアイデアをメモしておくこと。
12. 発表のための資料作成	集めた情報から発表に必要な情報を取捨選択しておくこと。
13. 発表と質疑応答	わかりやすく伝えるための発表の工夫、練習をしておくこと。
14. 課題解決策の提案とまとめ	ポートフォリオの中身を時系列に整理しておくこと。
15. 教職実践演習のまとめと「教職課程履修カルテ」wordファイルの回収確認、授業アンケートなど	4年間の教職科目の学び全てを振り返り、「教職課程履修カルテ」の必要事項をすべて記入し終えたことを確認し、wordファイルをマナビーで提出すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

現職教員による教育実践講義は、3年次「教職オリエンテーション」と合同クラスで行います。また、教育実習における実践例(研究授業)には3年次生が授業見学にきます。次年度教育実習に行く3年次生にとって良いお手本になるよう、積極的に討議・発表等に取り組んでください。

フィードバックの方法:

現職教員の教育実践に学ぶ(中学校・高等学校)レポートを第4回授業でいったん返却し、グループ討議の資料として活用する。討議の中で、相互に理解を深めあう。「教職課程履修カルテ」は3年次春、3年次秋、4年次春、4年次秋にマナビーを通じて提出を求め、コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表・討議への参加度	30	3名の教員がそれぞれ担当した授業回において、到達目標①～④を踏まえた授業への参加であったかを基準に評価する。
現職教員の教育実践についてのレポート	20	到達目標①についてはレポートを通じて評価する。
後半の授業での提出物	30	到達目標③④については、課題解決策の提案(ポートフォリオの凝縮まとめ)の提出物等で評価する。
「教職課程履修カルテ」	20	到達目標④に鑑み、4年間の教職科目の学びや自己評価など全てについて漏れなく記入されているかを評価する。
遅刻・欠席		厳しく減点する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応、マナビーの掲示板機能

授業テーマ:

栄養教諭としての資質能力の向上と、教職に関する4年間の振り返り

授業の概要:

現職栄養教諭の教育実践についての講義と質疑応答を行う。(現職教員の教育実践は、講師の方の都合上、授業期間外に行われることがある)教育実習における実践例は、代表2名が教育実習での研究授業を再現し、相互評価を行う。教職科目履修者の授業見学を可とする。授業後半では、教育実習などでの体験を基に現状把握と課題解決策についてグループワークを行う。

到達目標:

①現職栄養教諭の教育実践に触れ、自らの教育実習体験と照らして教職に求められているものについて考える。
②教育実習中の体験や、4年間で学んだ教職課程及び教科に関わる科目の授業内容、教職課程以外での様々な活動を「教職課程履修カルテ」を通して振り返り、資料収集、問題点とその原因の分析から課題解決策を明らかにする。
③グループで選んだテーマについて現状・問題点・解決策の提案をわかりやすく発表することで学生同士で問題点などを共有する。
④栄養教諭になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着を図る。

授業方法:

教育実践の学びにおける討議・発表、各テーマでの問題点等の抽出や発表などは、グループ討議を含む演習形式、その他は講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション(授業の進め方、担当者、評価方法などの説明)	
	2. 現職教員の教育実践に学ぶ(小学校)(1)	講義を通して学んだことをレポートにまとめて第4回授業後に提出すること。
	3. 現職教員の教育実践に学ぶ(小学校)(2)	講義を通して学んだことをレポートにまとめて第4回授業後に提出すること。
	4. 現職教員の教育実践に学ぶ(小学校)(3)	講義を通して学んだことをレポートにまとめて授業後に提出すること。
	5. 教育実習における実践例についての発表と討議(1)	
	6. 教育実習における実践例についての発表と討議(2)	
	7. 「教職課程履修カルテ」(3.テーマ別学習記録)からのテーマの抽出とグループ分け	「教職課程履修カルテ」を読み、自分にとって最も関心のあ るテーマや課題は何か考えておくこと。
	8. 選んだテーマの具体的な目標設定と計画策定	手に入れた情報、思考や作業の途中メモなど、すべてポート フォリオに入れておくこと。
	9. 必要な情報(課題解決に必要な基礎知識、過去事例 など)の収集	各自図書館やネットなどで役立ちそうな文献資料、デー タ、事例等を探しておくこと。
	10. 各グループでの情報分析、課題解決策の検討(1)	集め情報から現状、問題点とその原因について箇条書きに しておくこと。
	11. 各グループでの情報分析、課題解決策の検討(2)	グループでの話し合いを基にさらに課題解決策についてで きただけたくさんアイデアをメモしておくこと。
	12. 発表のための資料作成	集めた情報から発表に必要な情報を取捨選択しておくこと。
	13. 発表と質疑応答	わかりやすく伝えるための発表の工夫、練習をしておくこと。
	14. 課題解決策の提案とまとめ	ポートフォリオの中身を時系列に整理しておくこと。
	15. 教職実践演習のまとめと「教職課程履修カルテ」の 完成	4年間の教職科目の学びすべてを振り返り、「教職課程履修 カルテ」を完成させ、wordファイルをマナビーで提出するこ と。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

現職教員の教育実践に学ぶレポートについては教室でまとめて解説する。7～12回の授業後に提出する振り返り用紙については、コメントをつけて返却する。発表については、教室でまとめて解説する。
「教職課程履修カルテ」は、3年次春、3年次秋、4年次春、4年次秋にマナビーを通して提出を求め、コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	20%	授業での発表内容、討議への参加状況をもって評価する。
	現職教員の教育実践委 についてのレポート	10%	自らの教育実習体験と照らして教職に求められているものについて考えら れているかを評価する。
	後半の授業での提出物	30%	到達目標②を理解した上で、根拠ある情報を手に入れ、現状と問題点を整 理できているかどうか、 また、課題解決策が具体的で他者に役立つものが提案できているかを基準 に評価する。
	後半の授業での発表	20%	到達目標③を踏まえ、根拠をもとに説明し、図表、概念図等を使い、わかり やすく簡潔に表現できているかを基準とする。
	「教職課程履修カルテ」 遅刻・欠席	20%	すべての項目について漏れなく記入されているかを評価する 厳しく減点する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡
方法:

授業の前後に教室内で対応する。また、マナビーの掲示板機能を使う。

授業テーマ:

授業の概要: 養護教諭は、学校に勤務する教育職員として、保健室の機能を生かし、専門的な知識や技能を有した専門職として位置づく存在である。このような、わが国の養護教諭の特質をさまざまな法律・行政施策や制度等との関連性をふまえて理解する。また、養護教諭の職務内容の基本を理解し、児童生徒の健康問題の把握や今日的課題を明確にしなが、養護教諭に求められる資質や望ましいありかたについて考える。

到達目標: 「知識・理解」
(1)学校保健活動の担い手としての養護教諭の役割、養護教諭の専門性を理解する。
(2)養護教諭の「職」としての「養護」の意味や、養護教諭制度の沿革と職務内容の変遷について説明できる。
「関心・意欲・態度」
(1)養護教諭の行う養護の概念や職務の体系を理解し、その実践の基礎的視点を持つ。
(2)児童生徒の健康問題に適切に対応するため専門職としての力量を有する。
(3)健康問題の発見・分析、判断から解決へと導く対応力、教育指導力を備える。
「表現・技能・能力」
(1)学校教育における組織活動を理解し、学校保健を推進する中核としての力量を確立する。
(2)養護教諭になるという意志を固める。

授業方法: 講義、演習が中心です。毎回発表、討論があります。グループワークによる共同制作や発表などを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. はじめに 養護とは	
	2. 教育関係法令と教育行政	教科書をよく読んでください。
	3. 学校教育と学校保健	教科書をよく読んでください。
	4. 養護教諭	教科書をよく読んでください。
	5. 養護教諭の職務	教科書をよく読んでください。
	6. 保健管理	教科書をよく読んでください。
	7. 保健教育	教科書をよく読んでください。
	8. 健康相談	教科書をよく読んでください。
	9. 保健室経営	教科書をよく読んでください。
	10. 組織活動	教科書をよく読んでください。
	11. 安全管理と危機管理	教科書をよく読んでください。
	12. 子どもの現代的な健康課題(不登校・いじめ)とその対応	グループによる事前学習が必要です。
	13. 子どもの現代的な健康課題(虐待・薬物乱用)とその対応	グループによる事前学習が必要です。
	14. 子どもの現代的な健康課題(発達障害・メンタルヘルス)とその対応	グループによる事前学習が必要です。
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 養護教諭の基本的な職務内容を理解するとともに、専門職としての養護教諭像をイメージできることが大切です。養護教諭として望ましい活動は何か、求められる能力はなにか、その能力はどのようにして身につけられるのか等について一緒に学びましょう。

フィードバックの方法: 毎回、コメントペーパーを書いていただき、その内容についてフィードバックしていきたいと思います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70%	養護教諭に関する知識・理解度により評価する。
	レポート	10%	養護教諭に関する知識・理解度により評価する。
	発表・討論	10%	養護教諭に関する知識・理解度により評価する。
	授業への参加度	10%	積極的に授業に参加しているか評価する。

教科書: 新養護概説(少年写真新聞社)

参考書: 学校保健実務必携(学校保健・安全実務研究会編)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: nookawa@tamateyama.ac.jp

授業テーマ:

カウンセリングマインドを活用するには一不登校、いじめ問題を教材としてー

授業の概要:

不登校、いじめ問題を理解し、この問題を通して、教師による教育相談が校務分掌の一分野ではなく、学校教育全般に通底している考え方ーカウンセりんぐ・マインドーであることを理解する。さらにカウンセリングマインドを活用した、不登校やいじめ事例への適切な対応について、グループ討議やロールプレイングによって深く考え、実践力を養う。

到達目標:

1.不登校、いじめ問題が教師としての喫緊の課題であることを理解する。
2.カウンセリングマインドを持って子どもたちに接することの大切さを実感し、特別なニーズを持つ子どもへの援助を適切に行う態度を養う。
3.不登校、いじめ問題は事後の対症療法的な対応のみならず、予防を視野に入れた総合的な援助が重要であることを理解する。

授業方法:

1:講義 教師の講義と、受講生のグループ討議、ロールプレイング、受講生全員による討議を組み合わせで行う。特にグループ討議を半数以上取り入れ、受講生の能動的な活動を促進する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	学校教育における教育相談の位置づけを知る。	(予習)不登校の定義を調べてくる
2.	不登校の歴史ー海外の研究や国内での研究の変遷をたどり、不登校の概念が1980年代までに社会的に周知されてきた経過を理解する。	(予習)文部科学省の統計しようから、不登校の現状について、箇条書きでまとめる。
3.	不登校の現状ー文部科学省の最新の統計資料に基づいて、我が国の不登校の現状と教育相談との関連を考える。	
4.	不登校のきっかけー複数の研究から、不登校のきっかけについての分類を知り、不登校のきっかけが複合的と言われる理由をグループで考える。	(復習)不登校原因に関して、授業を終えて、自分なりの考えを400字以内でまとめる。 (予習)スクールカウンセラーとはどのような業務を行い、教師とどのように連携しているのかを調べる。 (予習)教育支援センターの役割について調べる。
5.	不登校の対応ー不登校への適切な対応やスクールカウンセラーなど、外部の専門家との連携について、グループ討議を通して考える。DVD資料を視聴して、視聴後、グループ討議し、さらに対応に関して課題を考える。	
6.	不登校支援機関ー不登校の子どもたちにとって、心身ともに居場所の存在が重要な支援になることを理解する。	(復習)不登校の子どもたちにとって適切な居場所を提供するためにはどのような条件が必要かを箇条書きでまとめる。
7.	不登校と家族ー不登校の子どもがいる家庭を想定し、家族の悩みを理解し、教師としての適切な支援について考える。DVD資料視聴後、グループ討議を通して、必要な支援をまとめる。	(予習)教育相談でのロールプレイングで基本的に必要なことを理解してくる。
8.	教師が設定した不登校事例での教育相談場面で、グループ内で役割を割り振り、ロールプレイングを体験する。次に役割を交代しさらに体験する。事後の感想をまとめ、各自の成果と課題を考える。	(復習)不登校に関しての教師から出された課題についてのレポートを作成する。 (予習)いじめの定義を調べる。
9.	いじめ現象に関して、統計資料からその内容に関しての知識を深める。	
10.	いじめ現象はなぜ、見えにくいのかについて、提示された複数の事例から、グループ討議を通して考える。	(予習)いじめ被害者への適切な支援について考えてくる。
11.	いじめ問題への対応について、グループ内で自分の考えを述べ、討議する。講義を通して、対応がマニュアル化できない事例性を基本としたものであることを理解する。	(予習)次週の授業で自分が演じる役作りをする。
12.	教師が設定したいじめを巡る教育相談場面で、グループ内で役割を割り振り、ロールプレイングを体験する。次に役割を交代しさらに体験する。事後の感想をまとめ、各自の成果と課題を考える。	(復習)いじめ現象に関しての教師から出された課題についてのレポートを作成する。
13.	前思春期の特徴と不登校、いじめ問題ー前思春期の特徴をグループで討議し、これまでまとめた不登校問題、いじめ問題との関連を考察する。	
14.	思春期の特徴と不登校、いじめ問題ー思春期の特徴をグループで討議し、これまでまとめた不登校問題、いじめ問題との関連を考察する。	
15.	まとめと振り返りーこれまで学んだ不登校、いじめ問題を通して学校教育における教育相談の重要性を考えるー	(復習)レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

自身の中学校、高校時代を振り返り、辛かったことやネガティブな体験を相対化し、それらの体験を教師としての強みとして、子どもたちに還元できる授業となることを願っています。

フィードバックの方法:

・各自の発表に関して、その授業内あるいは次回の授業内でコメントをお返しします。
・提出されたレポートに関して、授業内で評価のポイントを解説します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	40%	到達目標1に関する知識や理解を適切に表現できているかを基準とする。
	グループ討議、ロールプレイ	40%	到達目標1の理解がなされているか、到達目標2、および3について、臨機応変で柔軟な思考力と実践的な力量があるかを基準とする。
	授業への積極的参加度	20%	到達目標1、2、3に関して、教師となることを自覚し、授業に主体的に取り組むことができる

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

1. 授業の前後に教室内で対応
2. メールによる(mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp)
3. 研究室訪問してください。(C444)

授業テーマ:	こどものことばの発達を踏まえたことばの生活と文化の内容を学ぶ		
授業の概要:	幼児教育と初等教育との連携を考えてこどものことばの発達の様相を知り、幼児教育のことばの領域・言語表現および小学校国語科の内容に関する専門的知識を学ぶ。		
到達目標:	①こどものことばの発達の様相を理解している。 ②幼児教育のことばの領域・言語表現の知識を理解している。 ③小学校国語科の各領域に関する知識を理解している。		
授業方法:	講義形式・演習形式など様々な形態を組み合わせている。スピーチ演習を毎時間行う。ビデオ教材を使うこともある。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス	シラバスをよく読んでおくこと。	
	2. ことばの機能とこどもの言語発達～乳幼児期から学童期まで	学んだ内容をまとめておく。「私がことばに出会ったとき」を記述する。	
	3. ことばの教育の歴史～母語教育の思想と歴史	学んだ内容をまとめておく。「方言と共通語」について記述する。	
	4. 話すことと聞くことの教育の基礎(1)～話すことと聞くことの構造と内容	学んだ内容をまとめておく。スピーチの準備をする。(以後、毎回分担任当)	
	5. 話すことと聞くことの教育の基礎(2)～話すことと聞くことの方法	学んだ内容をまとめておく。スピーチの振り返りをする。(以後、毎回分担任当)	
	6. 読むことの教育の基礎(1)～絵本・紙芝居・人形劇や物語・説明文などの教材研究①	使った作品を読み直し、学んだ内容をまとめておく。	
	7. 読むことの教育の基礎(2)～絵本・紙芝居・人形劇や物語・説明文などの教材研究②	使った作品を読み直し、学んだ内容をまとめておく。	
	8. 読むことの教育の基礎(3)～絵本・紙芝居・人形劇や物語・説明文などの教材研究③	使った作品を読み直し、学んだ内容をまとめておく。	
	9. 読むことの教育の基礎(4)～絵本・紙芝居・人形劇や物語・説明文などの教材研究を生活や保育・授業に生かす方法	生かし方を自分なりに考え、学んだ内容をまとめておく。	
	10. 読書指導の内容と方法	学んだ内容をまとめておく。	
	11. 書くことの教育の基礎(1)～書く力の発達 ―話すことから書くことへ―	文章を書いてみる。	
	12. 書くことの教育の基礎(2)～書くことの内容と方法	文章表現を完成する。	
	13. 国語の特質に関する事項(書写も含む)	書写の練習をする。	
	14. 伝統的な言語文化・児童文化財	学んだ内容をまとめておく。	
	15. 全体の振り返りとまとめ こどものことばの教育の課題と今後の展望	全体を振り返って、レポートにまとめる準備をする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	ことばは面白い。生きています。それを実感していきましょう。		
フィードバックの方法:	授業の中でコメントしたり、書いたものは教室の皆で共有して、学び合う。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出物・発表	30%	内容に深まりがあるか、積極的に発表できているかを評価します。
	スピーチ	20%	スピーチの基本を踏まえて話せているかを評価する。
	レポート	50%	ことばの発達を理解した上で、ことばの知識について、論理的に書けているか、内容に説得力があるか、自分なりの考え方を展開しているかを評価する。
教科書:	厚生労働省『保育所保育指針 平成20年告示』フレーベル館、2008年 文部科学省『幼稚園教育要領解説 (平成20年10月)』フレーベル館、2008年 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編 平成20年8月(平成27年3月付録追加)』東洋館出版、2015年 旺文社編『小学漢字1006字の正しい書き方 3訂版』旺文社、2010年		
参考書:	岩立志津夫・小椋たみ子『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房、2005年 山元悦子『発達モデルに依拠した言語コミュニケーション能力育成のための実践開発と評価』溪水社、2016年 小椋たみ子・小山正・水野久美『乳幼児期のことばの発達とその遅れ～保育・発達を学ぶ人のための基礎知識』ミネルヴァ書房、2015年 桂聖・奈須正裕『国語授業UDのつくり方・見方』学事出版、2016年 細川英雄、尾辻恵美、マルチェッラ・マリ奥特ティ『市民性形成とことばの教育――母語・第二言語・外国語を超えて』くろしお出版、2016年 白石範孝『白石範孝集大成の授業「ごんぎつね」全時間・全板書』東洋館出版、2016年 白石範孝『白石範孝集大成の授業「やまなし」全時間・全板書』東洋館出版、2016年 白石範孝『白石範孝集大成の授業「モチモチの木」全時間・全板書』東洋館出版、2016年 秋田喜代美『対話が生まれる教室―居場所感と夢中を保障する授業』教育開発研究所、2015年 国立教育政策研究所『〈国研ライブラリー〉資質・能力 理論編』東洋館出版、2016年		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	Eメール、オフィスアワー		

授業テーマ:

小学校社会科の教材内容研究

授業の概要:

・小学校社会科の社会内容について理解を深め、社会科授業実践の前提となる教材の研究を行う。
・地域社会、日本の都道府県、国土、農林水産業、工業、金融情報サービス産業、日本の歴史、政治、国際社会、世界に関わる内容について、その見方・考え方を身につける
・多様な視点からクリティカルに社会を見る目を養い、小学校教員としての資質を育成する。

到達目標:

知識理解: 小学校社会科の教材研究を通して社会内容について理解を深めることができる。
技能: 小学校社会科の教材研究を通して社会の見方・考え方のスキルを高めることができる。
関心・意欲・態度: 社会を多様な視点からクリティカルに見る目を養い、社会について関心を高め、教員としての資質・態度を身に付けることができる。

授業方法:

講義および教材研究。グループ活動による教材の作成と発表。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(講義のすすめ方)、エントリーシート	自身が使っていた社会科教科書、社会科地図帳の持参
2.	日本の白地図を使って、日本の地理と歴史を概観しよう1	社会科教科書、社会科地図帳の熟読
3.	日本の白地図を使って、日本の地理と歴史を概観しよう2	社会科教科書、社会科地図帳の熟読
4.	日本の白地図を使って、日本の地理と歴史を概観しよう3	スーパー、コンビニ、100円ショップ、道の駅の調査
5.	日本の白地図を使って、日本の地理と歴史を概観しよう4	スーパー、コンビニ、100円ショップ、道の駅の調査
6.	<スーパー>調べで、日本の産業、貿易と流通を考えよう1	スーパー、コンビニ、100円ショップ、道の駅の調査
7.	<スーパー>調べで、日本の産業、貿易と流通を考えよう2	社会科教科書、社会科地図帳の熟読
8.	<スーパー>調べで、日本の産業、貿易と流通を考えよう3	社会科教科書、社会科地図帳の熟読
9.	<スーパー>調べで、日本の産業、貿易と流通を考えよう4	社会科教科書、社会科地図帳の熟読
10.	映像資料から、小学校社会の内容(身近な暮らし)について考えてみよう1	参考文献の熟読
11.	映像資料から、小学校社会の内容(身近な暮らし)について考えてみよう2	参考文献の熟読
12.	映像資料から、小学校社会の内容(身近な暮らし)について考えてみよう3	参考文献の熟読
13.	ちがいのちがいカードから、子どもを支える法律について考えよう1	参考文献の熟読
14.	ちがいのちがいカードから、子どもを支える法律について考えよう1	参考文献の熟読
15.	まとめ	授業資料、授業ノート

受講者へのメッセージやアドバイス:

社会科指導法との関連が深い科目のため、欠席、遅刻はないものと考えておくこと

フィードバックの方法:

毎時間の講義対話カード(ふりかえりカード)へのコメント
グループ活動による教材調べ活動の発表に対するコメント

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	30	対話カードを含めて、積極的に授業に取り組んでいるか
	課題(教材調べレポート)	40	積極的に取り組んでいるか。授業目標に到達しているか。
	学びの確かめのための試験	30	授業目標に到達しているか。

教科書:

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社

参考書:

片上宗二編(2005)『社会科教材の論点・争点と授業づくり① “民主政治”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
木村博一編(2006)『社会科教材の論点・争点と授業づくり② “グローバル化”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
棚橋健治編(2005)『社会科教材の論点・争点と授業づくり③ “情報化社会”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
小原友行編(2006)『社会科教材の論点・争点と授業づくり④ 論争問題を取り上げた国際理解学習の開発』明治図書出版
岩田一彦編(2005)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑤ “エネルギー問題”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
田淵五十生編(2005)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑥ “人権”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
西脇保幸編(2006)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑦ “国際関係と平和”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
池野範男編(2005)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑧ “資本主義経済”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
原田智仁編(2006)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑨ “国民的アイデンティティ”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
森分孝治編(2006)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑩ “戦争と平和”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡 方法:	e-mail

授業テーマ:	幼児期の「数・量・形」の学びと小学校算数科の学習内容		
授業の概要:	幼児期の発達に基づく概念形成、小学校児童の算数教材の概念形成、教材の系統性と意味理解を解説します。子どもの発達段階をも含めて、子どもの理解という視点で展開します。		
到達目標:	1. 算数教材の系統性と意味理解に関する知識を習得し理解を深める。 2. 教育実践へ適用する関心・意欲・態度を身につける。		
授業方法:	講義/演習の混合		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 子どもの数概念の発達と数概念の形成	数概念という用語を調べておく。 子どもの数概念の発達を復習する。	
	2. 子どもの命数法、記数法の習得	学校で学んだ記数法を思い出しておく。 命数法と記数法の違いを復習する。	
	3. 「数と計算」教材における加法・減法の内容	合成・分解と加法・減法の教材としての扱いを復習する。	
	4. 「数と計算」教材における乗法・除法の内容	乗法とその逆演算の除法の算数教材としての意味を復習する。	
	5. 「数と計算」教材における小数の加法・減法	小数の加法・減法の指導法を復習する。	
	6. 「数と計算」教材における小数の乗法・除法	小数の乗法・除法の指導法を復習する。	
	7. 「数と計算」教材における分数の加法・減法	分数の加法・減法の指導法を復習する。	
	8. 「数と計算」教材における分数の乗法・除法	分数の乗法・除法の指導法を復習する。	
	9. 子どもの量概念の形成	量概念という用語を調べておく。 子どもの量概念の形成を復習する。	
	10. 「量と測定」教材における測定の役割	測定という用語を調べておく。 測定の算数教材としての重要性を復習する。	
	11. 「量と測定」教材における面積を求める公式の導き方	面積を求める公式を導く方法を復習する。	
	12. 子どもの図形概念の形成	図形概念の形成過程を復習する。	
	13. 「図形」教材の系統性	小学校における図形教材の系統性を復習する。	
	14. 四角形の定義と性質	四角形の定義と性質から包含関係を復習する。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	「わかった」という認識を経験し、算数の好きな人はより好きに、算数の嫌いな人は恐怖心をなくしましょう。		
フィードバックの方法:	授業内の演習については、その授業内または翌回の授業で解説します。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	到達目標1に関する理解度を評価する。
	授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標2が身についているかを評価する。
教科書:	文部科学省、小学校学習指導要領解説 算数編(平成20年8月)、東洋館出版社 文部科学省、幼稚園教育要領(平成20年3月告示)、教育出版		
参考書:	日本数学教育学会編、算数指導用語辞典 第4版、東洋館出版社 中山理、算数再入門、中公新書 糸井尚子、子どもは小さな数学者、学文社		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後に教室内で対応		

授業テーマ:	理科が大好きな教師になる
授業の概要:	小学校で理科を教える教師としての資質と能力の育成をめざして、理科の4領域における内容の理解をすすめ、実験・観察指導や実験開発を行なう基礎的な知識と技能を身につける。同時に、協同学習の5つの基本的構成要素を学び、学生自らが主体的で協同的に学ぶ学習体験をすることで、アクティブラーニング型の授業デザインができる基礎的な力を身につけることができる。
到達目標:	・小学校の理科授業に関する基礎的な知識や判断力を持つことができる。 ・小学校学習指導要領理科の目的や内容を説明することができる。 ・各領域における実験・観察を行い、学習指導を行なう基礎的な技能を身につけることができる。 ・協同学習の理論を取り入れたアクティブラーニング型授業に関心を持つことができる。
授業方法:	1:講義, 2:演習, 3:実験実技実習(学内), 5:講義/演習の混合 理科の4領域の学習内容の講義と実験観察の実技を交互に実施する中で、協同的な学習手法を体験的に取り入れた演習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション（ケースメソッドで学ぶ理科教育）	
	2. 現在の理科教育の課題と意義	既習の理科学習内容をふり返し、理科に関わる今日的課題に興味を持って情報を収集する。
	3. 理科で使う力、着ける力（科学的リテラシーとは）	現行学習指導要領(理科)にある学習内容の確認 PISAとTIMSSの学習状況調査の実態と例題の確認
	4. 生命・地球（生物分野の学習内容とポイント）	生命分野の既習内容の確認
	5. 生命・地球（生物分野の実験技能とポイント:顕微鏡操作と光合成）	顕微鏡操作方法の予習
	6. 生命・地球（地学分野の学習内容とポイント）	地球分野の既習内容の確認
	7. 生命・地球（地学分野の実験技能とポイント:星座早見盤の製作と操作）	星座早見盤的使用方法について事前学習
	8. 物質・エネルギー（化学分野の学習内容とポイント）	物質分野の既習内容の確認
	9. 物質・エネルギー（化学分野の実験技能とポイント:気体の発生実験）	
	10. 物質・エネルギー（物理分野の学習内容とポイント）	エネルギー分野の既習内容の確認
	11. 物質・エネルギー（物理分野の実験技能とポイント:振子の実験）	
	12. 学習指導要領の見方（領域と学年間の関連）	学習指導要領の小学校と中学校学習内容の関連をみる
	13. ナラティブアプローチで学ぶ理科指導1(手回し発電機とLED実験)	現行教科書6年理科(電気のはたらき)を読んでおく
	14. ナラティブアプローチで学ぶ理科指導2(手回し発電機とLED実験)	
	15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:	理科の学習内容や実験観察の技能は、みなさんがすでに経験した内容と現行指導要領から新たに取り入れられた学習内容があります。小学校で理科を教える教師として基礎的な知識と操作技能を身につけましょう。同時に、実験観察演習において、協同学習を取り入れたアクティブラーニング型授業を体験的に取り入れます。
フィードバックの方法:	提出物によって、教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50	到達目標の理科に関する基礎的な知識や判断力、及び、学習指導要領の内容の理解度について評価する。
	演習とレポート	40	到達目標の実験観察の技能実技の習得とレポートによる思考判断と理解が適切に記述できているかを評価する。
	授業への参加度	10	到達目標のアクティブラーニング型授業への参加状況を自己評価と他者評価を参考にして評価する。

教科書: 小学校学習指導要領解説 理科編
プリント配布

参考書: 「プロ教師をめざす 新理科教育早わかり事典」明治図書など、授業の中で紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、
教員との連絡方法:	授業の前後で対応、オフィスアワー、Eメール等

授業テーマ:	生活科という教科 ～その意義と特質～		
授業の概要:	小学校学習指導要領と生活科の教科書の内容をリンクしながら、生活科という教科の意義や本質、指導内容に関する知識、技能の総合的な習得をはかる。		
到達目標:	1. 生活科という教科が生まれた社会的・教育的背景を理解する。 2. 生活科の意義や本質を理解し、説明できるようにする。 3. 生活科の内容を実際に体験することを通して、知識や技能を習得する。		
授業方法:	講義、発表、ディスカッション、活動		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション: ディスカッションや活動のためのグループ作りと今後の授業の内容と進め方について	ディスカッションのためのツール(KJ法・ブレインストーミング等)について調べておくこと	
	2. 生活科の誕生と目標	「小学校学習指導要領解説 生活編」の「第2章 生活科の目標」について目を通しておくこと 児童が小学校に入学した時の活動を、幼児(幼稚園・保育所等)の実態も含め、考えておくこと	
	3. 教科書の内容1 「きょうから いちねんせい」「なかよしいっぱい だいさくせん」 ～なかよくなるためには～		
	4. 教科書の内容2 「みんなで あそぼう はる なつ あき ふゆ」 ～くさばなのなまえをしよう～	キャンパス内やその近郊にある雑草等の名前を調べておくこと	
	5. 教科書の内容3 「なかよしいっぱい だいさくせん」 ～じこしょうかいをしよう～	発表内容の準備をしておくこと	
	6. 教科書の内容4 「なかよしいっぱい だいさくせん」 ～じこしょうかいをしよう～	発表内容の準備をしておくこと	
	7. 教科書の内容5 「いきものとなかよし」「小さななかまたち」 ～いきものとともにだちになろう～	学校・幼稚園・保育園等で飼育されている動物について調べておくこと	
	8. 教科書の内容6 「あそんで ためして くふうして」 ～みんなでくふうしてあそぼう～	ペットボトルを使って遊ぶことを考えておくこと	
	9. 生活科の評価 ～前時までの活動より～	「評価とは何か?」について調べておくこと	
	10. 生活科の内容 ～内容(1)「学校と生活」を通して次時からの発表を考える～	「小学校学習指導要領解説 生活編」の「第3章 生活科の内容」について目を通しておくこと	
	11. 発表1 ＜内容(2)「家庭と生活」・内容(3)「地域と生活」＞	発表で使うプレゼンテーションの準備をしておくこと	
	12. 発表2 ＜内容(4)「公共物や公共施設の利用」・内容(5)「季節の変化と生活」＞	発表で使うプレゼンテーションの準備をしておくこと	
	13. 発表3 ＜内容(6)「自然や物を使った遊び」・内容(7)「動植物の飼育・栽培」＞	発表で使うプレゼンテーションの準備をしておくこと	
	14. 発表4 ＜内容(8)「生活や出来事の交流」・内容(9)「自分の成長」＞	発表で使うプレゼンテーションの準備をしておくこと	
	15. まとめとミニテスト	これまでの授業内容を整理しておくこと	
受講者へのメッセージやアドバイス:	生活科という教科は、子どもの意欲と主体的な活動が核となる教科である。本授業でも、ただ講義を聞くという受動的な形ではなく、学生同士の小グループでのディスカッション、発表、活動等を中心に行う。「学ぶ」という素直な心と積極的な態度を学生諸君に望みたい。将来、児童・生徒の前に立つ者としての自覚を持って積極的な姿勢で授業に臨むこと。また、授業の際には、各自が付箋(できれば75×50mm程度のもの)を持参すること。シラバスは、授業の進捗状況等によって変更する場合があります。		
フィードバックの方法:	前時に記入した「振り返りプリント」を次回の授業時に学生に返却する。その際、前時の授業の補足や個人の意見を全体に返すなどして、受講者全員の力量向上に繋げる。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	毎授業の振り返り	40	本時の授業内容がきちんと捉えられていたか
	授業態度	40	積極的な姿勢で授業に臨んでいたか
	ミニテスト	20	授業全体の内容がきちんと捉えられていたか
教科書:	文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」 日本文教出版 森隆夫・嶋野道弘・足立登志也 他「せいかつ 上・下」(文部科学省検定済 教科書) 光村図書		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	tadachi@jc.seibo.ac.jp		

授業テーマ:

小学校・幼稚園・保育所で音楽を取り上げる意義を考えながら、そこで扱う音楽内容について理解を深め、音楽の指導ができるようになる。また保育の場における音楽的環境構成について理解する。

授業の概要:

授業は「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「器楽」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学んだ後、まとめのレポートを提出する。
また、授業の最後に小学校歌唱共通教材の任意の1曲の「弾き歌い」、あるいは身体表現のための「即興伴奏」の実技テストを行う。

到達目標:

小学校・幼稚園・保育所で音楽を取り上げる意義について、自分の意見を述べることができる。
歌唱共通教材を弾き歌いすることができる。
即興的に伴奏を付けることができる。
小学校・幼稚園・保育所において、発達段階に合った音楽の指導ができるようになる。

授業方法:

演習・実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション わらべうた遊び(1)	わらべうたについて調べる。
2. わらべうた遊び(2)	身体表現について調べておく。
3. 音楽と身体表現	作曲家カール・オルフ及びオルフ・シュールベルクについて調べる。
4. オルフ・シュールベルク	作曲家コダーイ・ゾルターン及びコダーイ・システムについて調べる。
5. コダーイ・システム	創造的音楽学習及び音楽づくりについて調べておく。
6. 音楽づくり	小学校歌唱共通教材について調べる。
7. 歌唱(1)小学校歌唱共通教材	こどもに歌わせたい合唱曲について調べておく。
8. 歌唱(2)合唱	リコーダーを練習しておく。
9. 器楽(1)リコーダー	器楽合奏で担当したい楽器と演奏したい曲を準備しておく。
10. 器楽(2)器楽合奏	こどもに鑑賞させたい曲を探し、選曲した理由を考えておく。
11. 鑑賞	指揮と伴奏の練習をしておく。
12. 指揮と伴奏	実技テスト(1)弾き歌いのための準備・練習に励む。
13. 実技テスト(1)弾き歌い	実技テスト(2)即興伴奏の練習に励む。
14. 実技テスト(2)即興伴奏	総括のため全授業を振り返り意見が言えるように準備しておく。
15. 授業の総括	総括の場で積極的に討論に参加する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

こどもの発達段階をよく考えた音楽の指導ができるようにしましょう！

フィードバックの方法:

提出レポートについては、総括の時間に教室でまとめて解説する。
実技テストについては、テスト終了時に教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出レポート	40%	到達目標「小学校・幼稚園・保育所で音楽を取り上げる意義について」自分の考えを持てたかどうか、提出レポートの内容によって評価する。
実技テスト	40%	到達目標「歌唱共通教材を弾き歌いすることができる。」「即興的に伴奏を付けることができる。」の達成度を評価する。
授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標「発達段階に合った音楽の指導ができる。」ようになったかどうかを評価する。

教科書:

初等科音楽教育研究会編/『最新 初等科音楽教育法』(改訂版) 音楽之友社
(* 秋学期開講の「音楽科指導法」(担当垣内)で同じ教科書を使用する)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール(kaki@kyokyo-u.ac.jp)並びに授業の前後に教室内で応答する。

授業テーマ:

図画工作科の基礎的知識と実技

授業の概要:

造形表現活動に関する基礎的な知識と技術を習得する。
造形表現活動にかかわる教材研究、教材の活用および作成と、
指導現場の環境構成及び具体的展開のための知識と技術を習得する。

到達目標:

造形表現活動に関する基礎的な知識と技術を学び習得する。
造形表現活動に関する基礎的な知識と技術を習得するために、学習への意欲と関心を持って積極的な受講態度で授業に参加する。
習得した造形表現活動に関する基礎的な知識と技術を応用し、理解→観察→想像→分解→編集→可視化のプロセスで課題作品を制作し実際に表現する。
指導実習現場での安全指導、安全管理、環境構成、教材研究を常に心掛ける。

授業方法:

5.:講義/演習の混合 講義と並行して可能な限り実技、体験、実習を取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	授業に使用する教材の準備 現在持っている図画工作で使用する教材、画材（絵具各種、筆、鉛筆、はさみ、カッターナイフ、のり等）を事前に調べ記録（メモ、写真など）又は持参して集合。受講希望者多数の場合は選抜する。
2.	安全指導、安全管理 指導現場の環境構成と教材研究	教材、画材の準備と持参 現在の自己評価レポート
3.	絵画表現入門 図画の立場から環境構成、教材研究	使用する教材、画材、環境構成について観察レポート
4.	色彩表現入門 色の仕組みと法則の理解 基礎的な色彩知識の習得	学んだ色彩知識について、講義後各自復習レポート
5.	色彩表現基礎 複合素材の立場から環境構成、教材研究	使用する教材、画材、環境構成について観察レポート
6.	絵画表現基礎	絵画表現について、各自の問題点をまとめ復習レポート
7.	色彩表現と絵画表現	使用する教材、画材、環境構成について観察レポート
8.	デザイン表現入門 デザインの立場から環境構成、教材研究	使用する教材、画材、環境構成について観察レポート 以下、課題制作が遅れている場合は自主的に時間外に各自作業
9.	デザイン表現基礎	使用する教材、画材、環境構成について観察レポート
10.	造形表現入門 工作の立場から環境構成、教材研究	使用する教材、画材、環境構成について観察レポート
11.	造形表現基礎 工作の立場から安全指導、安全管理	使用する教材、画材、環境構成について観察レポート
12.	絵画、色彩、デザイン、造形表現の併用	使用する教材、画材、環境構成について観察レポート
13.	絵画、色彩、デザイン、造形表現の応用	使用する教材、画材、環境構成について観察レポート
14.	まとめ、合評、振り返り	自己評価レポート
15.	まとめ、合評、振り返り	自己評価レポート

受講者へのメッセージやアドバイス:

造形表現活動に強い関心を持つこと。
授業に積極的にかかわりを持つこと。
実技、体験、課題制作等に必要な画材、教材は 各自状況を観察し計画的に準備すること。

フィードバックの方法:

採点して返却、授業中教室内でまとめ解説及び時間が許せば個人解説

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題制作提出	50	実技体験内容、課題作品の制作計画、課題作品制作、提出及び各回の授業での学習記録と各自の自己評価文レポートをまとめてファイルを制作し、その過程で自らの課題を発見し能力を伸ばしているか、学習結果を可視化出来ているかを評価する。
	出席状況と授業への取り組み態度と積極的参加度	50	学習への意欲と関心を持って積極的な受講態度で授業に参加できたかを評価する。3回以上の欠席は単位放棄とみなす。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理能力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

授業テーマ:	小学校家庭科の内容理解とその深化		
授業の概要:	小学校家庭科の各領域の内容について、学習指導要領および家庭科教科書(5・6年)を参照にしながら、家庭科の基礎知識と応用力を習得する。また、各領域の基本的な考え方、内容の深め方を理解する。 以上を通じて、小学校家庭科の学習指導の基礎知識を獲得し、生活を多面的にとらえ、また生活者として「子どもの自立と共生」を指導するために必要不可欠な知力を身につける。		
到達目標:	(1)小学校家庭科の指導内容を理解し、現場で指導可能な基礎学力を習得する。 (2)家庭科学習に底流する「子ども/生活者/人間の、自立と共生」という学びや課題を理解する。		
授業方法:	講義とグループ発表。学習指導要領「家庭科」の内容に即しグループ報告を実施する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 小学校家庭科の基礎的知識と内容―「自立と共生」のために必要な時間の確保―	教科書と学習指導要領を準備して授業に臨む	
	2. 家庭科教育の歴史と変遷―男女共修への道のり―	家庭科5年生、6年生の総授業時間と2年間の総計画表を用意してくる。	
	3. 学習指導要領:家庭編(文部科学省)を学ぶ―改正の軌跡および教科の目標とは―	明治以来の家庭科の歴史的変遷をノートにまとめておく。	
	4. 学習指導要領:家庭編(文部科学省)を学ぶ―内容とは―	学習指導要領4区分(A～D)をノートに整理し、理解して臨む。	
	5. 学習指導要領の内容1―報告と議論―	学習指導要領A領域をノートに整理してくる。	
	6. 学習指導要領の内容2―報告と議論―	学習指導要領A領域の復習と確認を行っておく。	
	7. 学習指導要領の内容3―報告と議論―	学習指導要領D領域をノートに整理してくる。	
	8. 事例1:「楽しくお茶を」	ほうじ茶・玉露・抹茶等の入れ方について調べ、ノート整理する。時計等を用いず「1分間」を計る方法を考えてくる。	
	9. 学習指導要領の内容4―報告と議論―	学習指導要領D領域の復習と確認を行う。	
	10. 学習指導要領の内容5―報告と議論―	各自が担当された学びの課題についてレジュメを作成してくる。(主にC領域)	
	11. 学習指導要領の内容6―報告と議論―	各自が担当された学びの課題についてレジュメを作成してくる。(主にC領域)	
	12. 事例2―「米」を学ぶ・深める	各自が担当された学びの課題についてレジュメを作成してくる。(主に米の栽培・地域・料理等について―B領域)	
	13. 事例3―「味噌」を学ぶ・深める	各自が担当された学びの課題についてレジュメを作成してくる。(主に、味噌の多様性、作り方、料理等について―B領域)	
	14. 事例4―「出汁」を学ぶ・深める	各自が担当された学びの課題についてレジュメを作成してくる。(昆布・鰹・煮干しを中心に、出汁の「うまみ」の学びと実験を行う)＞	
	15. 全体のまとめと省察	授業全体に対する疑問・感想等を整理して授業にのぞみ、全体まとめの基礎資料とする。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	・各回のテーマで学生の調べ学習等で不足した内容や資料は、必ず教員が次回に補足・補填する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	報告の資料作成と報告内容	70%	各自が担当された学びの諸課題に対して、指導内容を深めたレジュメを作成し、かつ、具体的な報告がなされたか否か。
	授業への積極的参加度	30%	15回の授業で5回以上欠席した場合には、評価対象としない。あるいは、欠席を補完する課題を提示する。
教科書:	小学校学習指導要領解説 家庭編 教科書「わたしたちの家庭科」開隆堂		
参考書:	適宜配布し、助言する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ		
教員との連絡方法:	初回授業で受講生には、質疑応答用のメールアドレス等を伝える。		

授業テーマ:

授業の概要: 乳幼児から小学校に至るこどもの多様な運動発達をバランス良く達成することのできる運動遊びとスポーツの環境構成や指導方法を模索する。体育において設定されている領域分類と各領域毎の運動の意義を理解した上で、それぞれの運動領域の特性に応じた基本的技能や指導法について学びを進める。また保健分野の内容について必要な学びを行う。

到達目標: 乳幼児から小学校までの発育と発達の過程を見通した上で、すべての運動領域における様々な運動を全体的・系統的に理解し、それらを実践する。特に小学校中学年程度までの各運動領域・種目の技術を確実に実行し、指導できることを目指す。また、学習の中で保育士・教師を目指す受講者自身が運動遊びやスポーツの楽しさを十分に体感し、運動の重要性とその内容の日常生活化がなされることを目標とする。

授業方法: それぞれの内容毎に指導グループを設定し、運動技術の学習と指導法の学習を組み合わせる授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	運動領域	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションの捉え方と授業の進め方	竹馬・一輪車	ストレッチや縄跳び等をして体調を整えておく
2.	体づくり運動 体ほぐしの運動	竹馬・一輪車 など	出来ることを工夫して事前に練習しておく
3.	遊具・機械を使った運動1 マット運動 側方倒立 回転、倒立前転 など		事前に倒立の練習する
4.	遊具・機械を使った運動2 跳び箱運動 開脚跳び、抱え込み跳び、台上前転 など		出来ることを工夫して事前に練習しておく 腕立てなど
5.	遊具・機械を使った運動3 鉄棒運動 逆上がり など		出来ることを工夫して事前に練習しておく ストレッチ、腕立てなど
6.	遊具・機械を使った運動のまとめ		出来なかった技についての技術のポイントをチェックし、事前に練習しておく
7.	陸上運動1 リズム走、短距離走、リレー など		出来ることを工夫して事前に練習しておく もも上げなど
8.	陸上運動2 立ち幅跳び、走り高跳び など		出来ることを工夫して事前に練習しておく
9.	表現運動・ダンス1 基本の動き など		出来ることを工夫して事前に練習しておく
10.	表現運動・ダンス2 アイダ・アイダ など		事前に練習しておく(アイダ・アイダ)
11.	ボール遊び・ボール運動 ボール など	バスケット	出来ることを工夫して事前に練習しておく
12.	ボール遊び・ボール運動 など	サッカー	出来ることを工夫して事前に練習しておく
13.	ボール遊び・ボール運動のまとめ		出来ることを工夫して事前に練習しておく
14.	実技全体のまとめ		出来なかった技についての技術のポイントをチェックし、事前に練習しておく
15.	領域による運動特性と指導上の配慮		授業全体の資料を見直し自分なりに技術と指導のポイントを整理しておく

受講者へのメッセージやアドバイス: 運動の好き嫌いや得意不得意に関わらず体験し、チャレンジすることによって技術のポイントや指導の留意点を学ぶことは指導者として非常に重要なことです。得意な人ほど課題達成の困難なポイントが理解できないので、真剣に学ばないと指導ができません。反対に苦手な人こそが課題のポイントが体験的に理解できるので良い指導ができます。両者が協力することで良い指導が成立することを心に留めて授業に参加してください。

フィードバックの方法: 基本的に次の授業時間にコメントシート等の内容を報告して前回授業の振り返りと今回授業のイントロダクションとして用いる。また必要に応じて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的取り組み	60	授業への取り組みと毎回のコメントシート
	授業課題	20	課題の達成度
	授業内容の主体的把握	20	最終コメントシートの内容

教科書:

参考書: 文部科学省.2015.小学校学習指導要領解説 体育編、東洋館出版社
文部科学省、2013、幼児期運動指針ガイドブック―毎日、楽しく体を動かすために、サンライフ企画

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、

教員との連絡方法: yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	子どもをとりまく「食」の現状と栄養教諭の役割		
授業の概要:	我が国における食生活の変遷の中で、食文化を含む食・栄養に関する課題と、学校給食法に基づく学校給食の目標および位置づけを踏まえ、学校給食を通して食を営む力を育てるために、学校における栄養教育の意義と理論を学ぶ。特に食を通じた子どもの健全育成を目的とし、発育・発達過程に応じた食に関する栄養教育の理論と方法を学ぶことによって、栄養教諭として使命の自覚や、職務内容についての理解を深める。		
到達目標:	・栄養教諭の使命と職務内容について理解し、科学的根拠に基づいた食に関する指導に意欲を持つ。 ・学校給食の歴史と現状を知り、食に関する指導における学校給食の意義を説明できる。 ・発育・発達過程に応じた栄養教育の理論と方法を説明できる。		
授業方法:	講義形式を基本とする。第5～7、11回には個人発表やグループワークを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーションと科学的根拠に基づいた食育について	第5～7回の課題についてまとめる	
	2. 栄養教諭制度創設の経緯と職務内容	第5～7回の課題についてまとめる	
	3. 食に関する指導に係る法令、諸制度	第5～7回の課題についてまとめる	
	4. 学校給食および食に関する指導における食文化理解の重要性	第5～7回の課題についてまとめる	
	5. 課題の発表:科学的根拠に基づいた食に関する指導(規則正しい食事と健康)	子どもの発育・発達過程に応じた栄養に関わる現状と課題についてまとめる	
	6. 課題の発表:科学的根拠に基づいた食に関する指導(話題の食品と健康)	子どもの発育・発達過程に応じた栄養に関わる現状と課題についてまとめる	
	7. 課題の発表:科学的根拠に基づいた食に関する指導(野菜、果物、乳製品の摂取と健康)	子どもの発育・発達過程に応じた栄養に関わる現状と課題についてまとめる	
	8. 子どもの発育・発達過程に応じた栄養に関わる現状と課題	学校における食に関する指導の現状と課題についてまとめる	
	9. 学校給食の意義と役割、および学校給食の現状 海外のSchool Lunch Programとの比較	学校における食に関する指導の現状と課題についてまとめる	
	10. 学校における食に関する指導の現状と課題 (幼児、児童及び生徒の健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析)	食に関する指導における行動科学の理論と応用についてまとめる	
	11. 食に関する指導における行動科学の理論と応用	食に関する指導における行動科学の理論と応用について復習する	
	12. 学校給食と栄養教育(発達に応じた学習教材の例)	食に関する指導の全体計画と栄養教諭の役割についてまとめる	
	13. 食に関する指導の全体計画と栄養教諭の役割		
	14. 指導案の作成について		
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室で解説する		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題レポートおよび授業への参加度	30	提出レポートと発表を通して、科学的根拠に基づいた食に関する指導内容と方法の理解度を評価する。
	試験	70	栄養教諭の使命と職務内容、学校給食の意義や栄養教育の理論・方法に関する知識および理解度を評価する。
教科書:	金田雅代、栄養教諭論、建帛社 新しい家庭5・6、東京書籍 食に関する指導の手引、平成22年文部科学省 東山書房 技術家庭[家庭分野]、開隆堂出版		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	研究室および授業前後の教室内で対応		

授業テーマ:	食に関する指導の実際		
授業の概要:	学校栄養教育論Ⅰで学んだことを前提に、管理栄養士に求められている栄養アセスメントを基礎とした、学校教育現場に即した個人および集団の食に関する指導の方法と技術を学ぶことにより、栄養教諭の職務の実践について理解する。具体的には、家庭・地域との連携を含め、学校教育活動全体で取り組む食に関する指導の内容、計画、方法を習得する。		
到達目標:	・食に関する指導としての各自のテーマについて指導案を作成し、模擬授業ができる。 ・個別栄養相談指導や家庭・地域との連携に関する知識があり、対応方法が理解できる。		
授業方法:	講義、学生による模擬授業、グループワーク		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 給食の時間における食に関する指導(地場産品、郷土料理の活用を含む)	2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習しておく。	
	2. 食に関する指導の実践演習①(指導案作成、模擬授業、相互批評と指導効果について考察)―家庭科(小学5年生)における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習しておく。	
	3. 食に関する指導の実践演習②(指導案作成、模擬授業、相互批評と指導効果について考察)―家庭科(小学6年生)における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習しておく。	
	4. 食に関する指導の実践演習③(指導案作成、模擬授業、相互批評と指導効果について考察)―技術・家庭科における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習しておく。	
	5. 食に関する指導の実践演習④(指導案作成、模擬授業、相互批評と指導効果について考察)―体育科における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習しておく。	
	6. 食に関する指導の実践演習⑤(指導案作成、模擬授業、相互批評と指導効果について考察)―保健体育科における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習しておく。	
	7. 食に関する指導の実践演習⑥(指導案作成、模擬授業、相互批評と指導効果について考察)―生活科における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習しておく。	
	8. 食に関する指導の実践演習⑦(指導案作成、模擬授業、相互批評と指導効果について考察)―道徳における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習しておく。	
	9. 食に関する指導の実践演習⑧(指導案作成、模擬授業、相互批評と指導効果について考察)―特別活動における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習しておく。	
	10. 食に関する指導の実践演習⑨(指導案作成、模擬授業、相互批評と指導効果について考察)―総合的な学習における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習しておく。	
	11. 食に関する指導の実践演習⑩(指導案作成、模擬授業、相互批評と指導効果について考察)―家庭、地域と連携した食に関する指導(家庭の理解を深める活動及び地域へ広げる活動)―		
	12. 事例検討(教育実習の心構えを含む)とグループワーク		
	13. 事例検討(肥満児童に対する個別指導や保護者への対応)とグループワーク		
	14. 偏食や特別な疾病(食物アレルギー、肥満と痩せ、糖尿病)等の個別栄養相談指導と対応方法	事例検討のまとめのレポートを提出する。	
	15. まとめ		
受講者へのメッセージやアドバイス:	受講者数や習熟度により授業内容の順番等を変更することがある。 2～11回の模擬授業のテーマについて、学習指導要領や教科書、食に関する指導の手引などを調べて予習をしておくこと。また、給食の時間における食に関する指導の指導案作成、事例検討のまとめのレポートを提出すること。		
フィードバックの方法:	教室で解説する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポートおよび授業へ参加度	20	指導案作成の完成度および模擬授業の実施能力を評価する。グループワーク実施後にワークシートを提出し、学習態度を評価する。
	指導案、模擬授業および試験	80	指導案作成のための知識とスキルを評価する。また、個別栄養相談指導等に関する理解度と対応方法に関する応用力を評価する。
教科書:	金田雅代、栄養教諭論、建帛社 新しい家庭5・6、東京書籍 食に関する指導の手引、平成22年文部科学省 東山書房 技術・家庭[家庭分野]、開隆堂出版		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力		
教員との連絡方法:	研究室および授業前後の教室内で対応		

授業テーマ:

博物館とは何か

授業の概要:

現代社会の中で博物館は、生涯教育の場として、また文化の伝承と発信の場として、大きな役割を果たしている。しかしその一方で、博物館を取り巻く社会情勢はますます厳しくなりつつあり、従来の博物館に関する考え方が通用しなくなっているのもまた事実である。この授業では、博物館の理想と現実を理解し、今後の社会の中で博物館がいかなる役割を果たすのか、考えていきたい。

到達目標:

博物館の社会的機能を理解し、博物館を生涯学習に役立てるための術を身につける。

授業方法:

講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	博物館の楽しみ	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
2.	博物館とは何か	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
3.	博物館法1	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
4.	博物館法2	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
5.	博物館法3	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
6.	博物館法4	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
7.	博物館の歴史(欧米)1	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
8.	博物館の歴史(欧米)2	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
9.	博物館の歴史(日本)1	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
10.	博物館の歴史(日本)2	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
11.	美術の博物館	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
12.	歴史の博物館	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
13.	理科系の博物館	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
14.	博物館の危機の時代	関連しそうな書物やウェブサイトを目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
15.	まとめ	授業の内容をふりかえり、まとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の私語、携帯電話などの「内職」、勝手な退室などの他の受講生に迷惑になる行動は厳禁である。そうした場合、厳正に措置するので心得ておいていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ意欲のある受講生の参加を期待する。

フィードバックの方法:

教室でまとめておこなう。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	100	授業の内容を的確に理解し、自分の言葉で説明できているかどうか。

教科書:

参考書:

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『概説博物館学』(芙蓉書房出版、2002年)1,900円＋税

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

880500

博物館資料論

桐山 秀穂

授業テーマ:	博物館がとりあつかう資料		
授業の概要:	博物館とは、人類および自然の営為をしめすモノ(生物を含む)を収集し、それを恒久的に保存し、そして展示・普及する公共的な施設・機関である。その収集にあたっては綿密な調査・研究を行い、その成果を公表し学術的な貢献をすることによって、博物館は信頼を得る。このように博物館資料は博物館の基盤であり、根幹である。この講義では、博物館がとりあつかうさまざまな資料を概観し、その意味について考えてもらう。		
到達目標:	博物館資料は実に多様であるが、それぞれの性格や特徴について把握できていること。またその資料は博物館においては恒久的に保存するものであり、保存・取扱についても理解できていること。		
授業方法:	講義形式でパワーポイントを使用し、授業ごとにレジュメを配布する。できるだけ画像を使って理解を深めてもらう。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 博物館資料とは何か	講義に関連する博物館の見学	
	2. 博物館資料の分類	講義に関連する博物館の見学	
	3. 博物館の歴史資料	講義に関連する博物館の見学	
	4. 博物館の美術資料(1) 絵画	講義に関連する博物館の見学	
	5. 博物館の美術資料(2) 陶磁器	講義に関連する博物館の見学	
	6. 博物館の美術資料(3) 金工	講義に関連する博物館の見学	
	7. 博物館の美術資料(4) 木工・漆工	講義に関連する博物館の見学	
	8. 博物館の美術資料(5) 竹工・染織	講義に関連する博物館の見学	
	9. 博物館の美術資料(6) 彫刻	講義に関連する博物館の見学	
	10. 博物館の考古資料	講義に関連する博物館の見学	
	11. 博物館の民俗(民族)資料	講義に関連する博物館の見学	
	12. 写真資料と映像資料	講義に関連する博物館の見学	
	13. 資料の整理・収蔵・展示	講義に関連する博物館の見学	
	14. 博物館資料の輸送と取扱	講義に関連する博物館の見学	
	15. まとめ	これまでの講義の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業中、あるいは授業前後で質問等があれば適宜解説する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	70	到達目標多様な博物館資料の性格と特徴の理解度と、博物館資料の保管・取扱に関する理解度により評価する。
	授業への参加度	30	積極的に授業に参加すること。欠席は基本的に減点します。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後で対応します。		

授業テーマ:	資料の特性にあった展示法		
授業の概要:	博物館での展示は、その資料の特徴によって、保存管理方法や展示方法が変わるので、その特性を十分に知る必要がある。また、展示の前提としての資料の調査も重要になる。この授業ではそうした資料に応じた展示・保存調査方法について話す。また随時、基礎知識として知って置かなければならない代表的な作品を紹介する。学外授業では博物館・美術館を見学し、実際の文化財を資料として観察したい。具体的に、作品を想定して博物館の展示を企画してみる。		
到達目標:	主要な文化財の知識を得、適切な展示法を確立する。		
授業方法:	講義形式で授業を進め、その都度プリントを配布する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 文化財の基礎知識	2. 資料の種類	博物館へ行ってあらかじめ展示品と展示方法をみておいてほしい。
	3. 紙と繊維	4. 木と漆	文化財の種類を考えておく。
	5. 資料と展示方法	6. 資料の保存方法と安全対策	博物館で掛け軸と巻物を見て、どんな構造になっているのかを見ておくことが望ましい。
	7. 資料の調査方法	8. 地域調査と寺社調査	博物館で漆の作品にどんなものがあるかを見ておく。
	9. 資料購入と資料寄託	10. 資料の借用手順	博物館へ行って、展示ケースの構造、種類を把握し、そこに何が展示されているかを見る。
	11. 展示計画書の作成	12. 博物館見学(学外)	博物館へ行って、展示ケースの中の作品がどのように安全に留意されているかを見てみる。
	13. 展示の工夫	14. 展示とデザイン	博物館へ行って、資料の材質(何でできているか)を考える。
	15. 展示企画書の作成(実習)		地域の中に文化財を所蔵する寺院や神社があるかを探してくる。
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業期間中、大学周辺の博物館を見学する。また、授業以外でも、ふだんから展覧会をたくさん見てほしい。		
フィードバックの方法:	毎回の質問について、重要なものについて授業中にまとめて説明する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	30	
	定期試験・展示企画書	70	定期試験は、客観テスト。展示企画書は授業中の指導により、オリジナリティーのあるものを作成する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	e-mail goshima@sky.plala.or.jp		

授業テーマ:	展示から探る博物館の社会的役割		
授業の概要:	博物館展示論という科目名から、ほとんどの方々は、本講義の内容は博物館の展示室における所蔵コレクションや陳列ケースなどのディスプレイの手法を学ぶのだろう、とイメージされるのではないのでしょうか。しかし、所蔵コレクションや陳列ケースのディスプレイの手法は、あくまでも本講義で取り扱う対象・テーマであっても、決して学習の最終目的ではありません。 本講義の目的は、展示を通して博物館が担うべき社会的役割を再考するとともに、その役割をどのように展示によって果たすか具体的に検討することにあります。このため、本講義では、展示室のみに視野を限定せず、博物館を取り巻く社会状況までも射程に入れた博物館展示のあり方を追究したいと考えています。		
到達目標:	・博物館展示の多様性と可能性を理解する。 ・博物館展示に対して学芸員が果たすべく役割を理解する。 ・博物館が担うべき社会的役割に対応した展示のあり方を理解する。		
授業方法:	講義形式 ・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。 ・また必要に応じてインターネット情報などを使用します。 ・毎回授業内容に関する出題を行いコミュニケーションペーパーによってを収集する予定です。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 博物館展示とは？	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。	
	2. 博物館展示の目的と意義	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	3. 博物館展示とショーウィンドウ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	4. 多様な博物館展示	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	5. 博物館展示の歴史的変遷	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	6. 博物館から博情館へ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	7. エデュテインメント	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	8. ミュージアムショップと博物館展示	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	9. ミュージアムコンプレックスの可能性	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	10. 体験学習と博物館展示	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	11. 博物館展示の企画・制作	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	12. 展示とミュージアム・マーケティング	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	13. 博物館組織と展示セクション	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	14. 展示に対する学芸員の責任・役割	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。	
	15. まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	この講義の受講生の皆さんには、「宝物」の宝物殿や「珍品」の陳列室などといった固定的な既存のイメージに囚われず、展示のあり方から現代社会において求められている博物館の役割を、自ら見出して行かれることを期待します。		
フィードバックの方法:	・コメントペーパーは、次回の授業の際教室で総評を加えた解説を行い、毎回返却します。ます。 ・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しく下さい。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	40%	論述試験では、到達目標である「博物館展示の多様性と可能性、展示に対する学芸員の役割、社会的役割に対応した展示のあり方」を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
	コメントペーパー	60%	コメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。
教科書:			
参考書:			

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、批判力

教員との連絡
方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

授業テーマ:	博物館経営(ミュージアム・マネジメント)の実際		
授業の概要:	現代の博物館は、本来の役割である調査研究と資料の収集・保存・展示のみではなく、いかに社会貢献するかが問われている。博物館は、そうした意味できわめて高い社会性を持っているのである。博物館と社会との関係は、地域と、あるいは国内や海外と、あるいは愛好者、児童・生徒・学生、高齢者、あるいは行政ないし出資者との関係があり、実にさまざまである。そしてその対応は博物館によって異なっており、現在の博物館のあり方は実に多様である。この講義では博物館をめぐるさまざまな経営の側面を解説することにより、現代社会の中で博物館がどのような役割を担っているのか、考えていく。		
到達目標:	博物館の基本的な体制や業務・活動を理解するとともに、博物館の社会的な位置づけの多様性、それを生かした博物館の社会貢献のあり方と経営が理解できるようになること。		
授業方法:	講義形式でパワーポイントを使用し、授業ごとにレジュメを配布する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 博物館をめぐる現状	講義に関連する博物館の見学	
	2. 博物館の制度と組織	講義に関連する博物館の見学	
	3. 公立博物館と指定管理者制度・国立博物館と独立行政法人化	講義に関連する博物館の見学	
	4. 私立博物館と公益法人化	講義に関連する博物館の見学	
	5. 博物館の仕事(1)―展覧会を創る―	講義に関連する博物館の見学	
	6. 博物館の仕事(2)―資料の保存と研究―	講義に関連する博物館の見学	
	7. 博物館のマーケティングと広報、販売	講義に関連する博物館の見学	
	8. 博物館の危機管理	講義に関連する博物館の見学	
	9. 学校教育と博物館	講義に関連する博物館の見学	
	10. 生涯学習と博物館	講義に関連する博物館の見学	
	11. 博物館の団体・博物館と地域	講義に関連する博物館の見学	
	12. 博物館友の会とボランティア	講義に関連する博物館の見学	
	13. 博物館とコレクター・アマチュア研究者と古物商・古美術商	講義に関連する博物館の見学	
	14. 博物館の国際化	講義に関連する博物館の見学	
	15. まとめ	これまでの講義の復習	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業中、あるいは授業前後で質問等があれば適宜解説する		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	70	到達目標博物館の基本的な体制や業務・活動の理解度と、同じく到達目標博物館の多様性とその社会貢献のあり方・経営に関する理解度により評価する。
	授業への参加度	30	積極的に授業に参加すること。欠席は基本的に減点します。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、変化対応力		
教員との連絡方法:	授業の前後で対応します。		

授業テーマ:

日本の博物館

授業の概要:

博物館の組織や設備、その運営について学ぶ。とくに博物館は、地域社会と関わっている場合が多い。地方自治体が運営している場合だけでなく、私設博物館がその地域のランドマークになっていたりと、地域で重要な役割を果たしていたりする。この授業では、とくに博物館の地域における役割と運営方法、問題点、将来の博物館のあり方について考え、あなたがある地域の博物館学芸員になったら、どのような博物館を目指すかを考える。

到達目標:

日本の主要な博物館の特色を知り、博物館の仕事を理解する。

授業方法:

講義形式で授業を進め、その都度プリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	「博物館法」と博物館学芸員	授業までにぜひ博物館の展示を見ておいてほしい。
2.	博物館の組織－構成と職員	博物館を見学し、どんな人が働いているかを調べておく。
3.	博物館の歳入	博物館の収入は何か。博物館の入館料を調べてこれで経営ができるのかを考えておく。
4.	地方博物館の役割と宿命	自分の出身地にはどんな博物館があるのか、リストを作る。
5.	博物館と地域－観光を中心に	観光地の博物館を探して、観光との関係を考えておく。
6.	博物館見学(1)	見学に行く博物館について、あらかじめネットでどんな施設かを確認しておく。
7.	博物館と行政－行政企画との関連	京都市のもっている博物館・美術館のリストを作ってみる。
8.	博物館教育・ボランティアの育成	子供たちのための博物館展示を探してみる。
9.	博物館普及活動	博物館のホームページを検索して、博物館がどんな広報をしているか、調べてみる。
10.	博物館見学(2)	見学に行く博物館について、あらかじめネットでどんな施設かを確認しておく。
11.	関連行事	博物館のホームページを検索して、講演会にどんなものがあるか探す。
12.	博物館施設の建設	博物館のホームページを検索して、博物館の建物だけを見してみる。建築家、ユニークさなど。
13.	収蔵庫とその管理	博物館の管理部門について考えてみる。
14.	レストランと博物館グッズ	博物館に行ってグッズ売場で何を売っているのか調べてみる。
15.	まとめ	博物館を運営するポイントをまとめておく(定期試験の課題に反映)。

受講者へのメッセージやアドバイス:	授業期間中、大学周辺の博物館を見学する。また、授業以外でも、ふだんから展覧会をたくさん見てほしい。		
フィードバックの方法:	毎回の質問について、重要なものについて授業中にまとめて説明する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への参加度	30	定期試験は客観テスト。レポートは個人的な見学をもとにした博物館の実際を紹介する。
	定期試験・レポート課題	70	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

e-mail goshima@sky.plala.or.jp

授業テーマ:

博物館資料の劣化と保存についての基礎的知識と技術の習得

授業の概要:

博物館資料の保存を行うために、(1)博物館での温度・湿度などの空気環境測定や、カビ・昆虫などの生物被害やその防除法を、(2)伝世品の保存と修復法を、(3)埋蔵文化財の保存処理法などを、プリントとスライドで講義する。

到達目標:

博物館における資料保存およびその保存・展示環境と収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための理論や技術などの知識を学んで、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養うことを目標とする。

授業方法:

プリントとスライドおよび各種資試料等を用いて進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 博物館資料の保存の意義	博物館、美術館、資料館、埋蔵文化財センター等の展示室の見学を行うのが望ましい。新聞、テレビ等の文化財や美術品等のニュースを見ておくこと。
	2. 博物館資料の展示、保管環境	〃
	3. 博物館資料の梱包、輸送時の環境	〃
	4. 博物館資料のカビ・昆虫による損傷と、防除・殺菌・くん蒸法	〃
	5. 博物館資料の火災・水害・地震・盗難・混雑からの安全対策、応急処置	〃
	6. 博物館文化財の劣化損傷と、自然環境の保全・保護	〃
	7. 紙・繊維・染織資料の特徴と保存、修理法	〃
	8. 漆の特徴と、漆工品の材質・技法・保存法	〃
	9. 伝世品の博物館資料の保存と修復法(1)	〃
	10. 伝世品の博物館資料の保存と修復法(2)	〃
	11. 埋蔵文化財の出土遺物の取り上げ法、遺構の保存法と取り上げ法、遺跡整備	〃
	12. 出土土器などの特徴と保存処理法	〃
	13. 出土木製品の特徴と保存処理法	〃
	14. 出土鉄・銅製品の特徴と保存処理法	〃
	15. 出土石製品・他の出土有機質製品・出土船の特徴と保存処理法	〃

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

特別に伝えたい内容については、授業のなかで説明をする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50%	「授業への積極的参加度」「期末レポート」で総合的に評価する。
	期末レポート	50%	

教科書:

特に使用しない

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

出席カードの最下欄の「自由記述欄」を主とする。困難な時は授業直後とする。

授業テーマ:	博物館における教育機能の総合的理解		
授業の概要:	本講義では、博物館のもつ重要な機能である教育施設としての機能に注目し、学校教育・生涯教育における博物館の果たすべき役割と機能、その問題点について考えていきます。		
到達目標:	1:博物館の教育機能について多角的に把握する力を養う。 2:博物館の教育機能について、理解したうえで発信する力を養う。		
授業方法:	講義を中心として、プレゼンテーションを行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1. 講義の概要とガイダンス		配布資料の確認
	2. 博物館教育の基礎1 歴史的経緯		配布資料の確認
	3. 博物館教育の基礎2 現在の博物館における諸課題		配布資料の確認
	4. 学校教育と博物館～1近代日本における博物館の意義		配布資料の確認
	5. 学校教育と博物館～2大学博物館の果たす役割		現地学習を行う博物館を調査し、現状と課題について考察する。
	6. 博物館における教育機能－学校教育を軸とした現地学習(1)－		現地学習を行う博物館を調査し、現状と課題について考察する。
	7. 博物館における教育機能－学校教育を軸とした現地学習(2)－		現地学習を行う博物館を調査し、現状と課題について考察する。
	8. チルドレンズ・ミュージアムの実態		配布資料の確認
	9. 生涯学習における博物館の役割		配布資料の確認、館園実習博物館の確認
	10. 博物館における教育機能－現地学習(1)		配布資料の確認、館園実習博物館の確認
	11. 博物館における教育機能－現地学習(2)		プレゼンテーションの準備
	12. 博物館教育の現状と課題－教育プログラムの発表1		プレゼンテーションの準備
	13. 博物館教育の現状と課題－教育プログラムの発表2		プレゼンテーションの準備
	14. 博物館教育の現状と課題－教育プログラムの発表3		プレゼンテーションの準備
	15. 全体の総括		配布資料の確認
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業内プレゼンテーションへのコメントを通して、授業内にて個別・全体へのフィードバックを行う。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席・コメントペーパー	50	出席状況の確認と、到達目標1:博物館の教育機能について多角的に把握する力を養っているか判断する。
	プレゼンテーション	50	到達目標2:博物館の教育機能について、理解したうえで発信する力を養っているか判断する。
教科書:	特になし		
参考書:	特になし。必要に応じて指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業内・後の教室内にて行うとともに、オフィスアワーを中心として研究室にて対面して実施する		

授業テーマ:

博物館の教育機能の総合的理解

授業の概要:

社会の変化にともない、人々の学習欲求も多様化・高度化し、博物館は従来の機能に加え社会教育機関としてより積極的な役割を期待されている。本講義では博物館の「教育的使命」の重要性を認識し、博物館教育の基本的な理念と意義を識る。次に博物館における学習の特性や関連する学習理論を理解し、教育活動への具体的展開を日本や欧米の例を参考に学ぶ。また、博物館が学校と連携する意義、生涯学習における博物館の役割やその課題について考察する。学外授業では美術館・博物館を訪れ、実践を体験するとともに現場の諸問題を考え総合的な理解を深める。

到達目標:

博物館の教育・普及活動についての大切な基本事項(目的、対象、その背景にある考え方)を理解する。また、実際に博物館を訪れ、その実情を考えることで総合的な理解ができることを目指す。

授業方法:

講義を基本とする。(インタラクティブな講義形式。)
講義期間中に、学外授業として美術館・博物館を訪問する(予定)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション 2. 博物館教育の意義と理念1 3. 博物館教育の意義と理念2 4. 博物館の教育プログラムの形態と実際 5. 博物館の利用と学び ― 学習理論1 6. 博物館の利用と学び ― 学習理論2 7. 博物館の利用と学び ― 実践 現地学習(1) ― 8. 博物館の利用と学び ― 実践 現地学習(2) ― 9. 博物館教育の実際－教育的な展示 10. 博物館教育の実際－博物館の教育普及活動の現状－ディスカッション 11. 家族と博物館 12. 学校と博物館 13. 地域と博物館 14. 博物館教育の新しい試み 15. まとめ:博物館教育の課題と展望 博物館の教育活動のあり方－ディスカッション		予習:指示したリーディング資料を読んでおく。(リーディングに対する「コメント・ペーパー」の提出を課す場合有。) 復習:自主的なフィールドワークの中で活かすこと。 予習:同上 復習:同上 予習:同上 復習:同上 予習:同上 復習:同上 予習:同上 復習:同上 予習:同上 復習:同上 予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上
		予習:同上 復習:同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生には真摯に取り組む熱心な学習態度を望みます。

フィードバックの方法:

授業内で総括しコメントする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	平常点	20	授業態度、コメントペーパー。
	レポート	80	中間レポートと期末レポート。 ※出席を前提とした、上記総合評価。 (出席重視)

教科書:

参考書:

必要に応じて随時指示。
小笠原 喜康他編 『博物館教育論』 ぎょうせい出版
全国大学博物館学講座協議会西日本部会 編 『新時代の博物館学』 芙蓉書房出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

質問は授業の前後のみ受けつけます。

授業テーマ：メディアとしてのミュージアムとは何か

授業の概要：博物館の社会的役割が大きく変わった。その種類、活動内容も幅広く、方法も多様になってきた。また、その活動範囲は館内から地域全体に及び、文化的・社会的・経済的活動による地域活性化の効果も大きく取り上げられるようになった。こうした変化にメディアとしての博物館の役割はますます大きくなっている。資料のデジタル化、多様な情報機器の発達、それらを用いた教育普及活動、博物館内外を有機的に結び付ける情報活動、その理論と方法、管理と公開、機器の活用などの基礎的知識と技術を習得する。

- 到達目標：
- 1. メディアとしてのミュージアムを支えるICTの知識を獲得することができる。
 - 2. 社会教育機関としてミュージアムの情報教育への理解が高めることができる。
 - 3. ミュージアムに必要な情報収集・分析・発信能力を持つことができる。

- 授業方法：
- ・講義が中心となるが、毎回意見交換を行う。
 - ・グループ協議・発表など3回のワークショップを開く。
 - ・コンピュータを利用した情報収集などを行う。
 - ・必要に応じて博物館におけるICT利用の現状について現地見学を行う。
 - ・博物館情報メディア論学習ノートを作成する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入：メディアとしてのミュージアムとは	
2.	概論：博物館とデジタルアーカイブ	博物館の歴史を復習しておくこと
3.	事例調査①：インターネットによる調査(1)：博物館のさまざまなICT活動について調べる	博物館のさまざまなICT活動についてwebを使って調べる
4.	事例調査②：インターネットによる調査(2)：調査経過の発表とディスカッション、第1回WSのテーマ決定	調査成果をパワポにまとめる
5.	事例調査③：インターネットによる調査(3)：テーマごとにさらに調査を進める	webを使って調査を行う
6.	第1回ワークショップ(テーマごとにグループにわかれて意見交換・グループごとに発表)	WSに向けてテーマの調査webを使って行う
7.	各論：博物館資料情報化の現状と課題	博物館資料論を復習しておく
8.	各論：博物館資料データベースの現状と課題	データベースの基礎知識を学んでおく
9.	第2回ワークショップ(第1回ワークショップの成果をさらに発展・グループごとに発表)	WSの結果を次のWSに結び付けられるよう情報を集めておく
10.	各論：情報教育の現状と課題・1	なぜ情報教育が必要なのか社会のニュースに関心をもつように心がける。
11.	各論：情報教育の現状と課題・2	
12.	各論：博物館活動と著作権	著作権とは何かを事前に調べておく
13.	総括：ICT活用によるミュージアムの進化	
14.	第3回ワークショップ(ワールドカフェ方式のワークショップでそれぞれの課題や意見を共有する)	WSに向けて集めた情報を整理しノートに書き込んでおく
15.	ワークショップの成果発表	

- 受講者へのメッセージやアドバイス：
- ・ミュージアムは総合学なので広い視野で授業に積極的に参加すること。
 - ・日常からミュージアムの情報収集・発信活動に気を配ること。
 - ・ICTは日進月歩である。常に新しい情報に注目すること。
 - ・こうした活動をできるだけノートに記入すること。

- フィードバックの方法：
- ・ワークショップによって学習成果を全員が共有する。
 - ・授業ノートにコメントをつけて返却する(希望者のみ)

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業ノート	60	授業への参加態度、メディアとしてのミュージアムに関する知識、理解が進んだかどうかで評価する。
	発表・討論	20	グループ発表のための情報収集力を高め、メディアとしてのミュージアムが必要とする知識、理解が進んだかどうかで評価する。
	レポート	20	メディアとしてのミュージアムの知識と理解が進み、客観的にその必要性を主張できるようになったかで評価する。

教科書：

参考書：

- 獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
- 分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
- 教員との連絡方法：
- mhiro373@yahoo.co.jp

授業テーマ:

図書館の基本、および概略を理解する。

授業の概要:

図書館の歴史や機能の基本的な事項を学び、これからの社会における図書館のあり方を考える時に基礎となる概念を形成する。実際に大規模公共図書館などを各自で見学し、レポートを提出し、学びの中間点での気づきを促す。「図書館は成長する有機体」であり、成長することの意味を理解する。

到達目標:

1. 図書館全般についての知識と理解を深める。
2. 各種図書館のあり方について関心を持ち、意欲的な態度で調査・分析に取り組む。
3. 自分の考えを簡潔に表現し、他人に伝える技能と能力を養う。

授業方法:

1～8回までは講義を行い、その間に各自で大規模図書館などを見学・調査してレポートを作成する。9回にレポート内容について簡潔に発表する。試験は複数課題の小論文形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 図書館とは何か	教科書を読む。
	2. 出版と図書館の歴史	教科書を読む。
	3. 日本の図書館、外国の図書館	教科書を読む。9回までに国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
	4. 図書館関連法規	教科書を読む。国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
	5. 図書館の種類 (1)公共図書館	教科書を読む。国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
	6. 図書館の種類 (2)学校図書館	教科書を読む。国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
	7. 図書館の種類 (3)大学図書館・専門図書館	教科書を読む。国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
	8. 図書館の種類 (4)国立図書館	教科書を読む。国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
	9. レポート提出と発表	レポート内容を簡潔に発表できるように準備する。
	10. 図書館の理念 図書館員倫理綱領・個人情報	教科書を読む。
	11. 現代社会における図書館(1)出版事情・著作権・自主回収	教科書を読む。
	12. 現代社会における図書館(2)生涯学習	教科書を読む。
	13. 現代社会における図書館(3)図書館運営	教科書を読む。
	14. 図書館をめぐる今日的話題 クレイマーや切り取り、都市犯罪など	カレントアウェアネス・ポータルや新聞記事DBを検索して、近年の図書館をめぐる話題を集めておく。
	15. まとめ	講義で出てきたキーワードについて、簡潔にまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

世の中の森羅万象を内包する図書館という機能を、図書館の内側からの視点で見つめなおしてみましょう。

フィードバックの方法:

定期試験は採点してコメントを付けて返却する。レポートは教室でまとめて評価・解説し、コメントを付けて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	60%	到達目標1の理解度により評価する。
	レポート提出と発表	20%	到達目標3の達成度により評価する。
	授業への参加度	20%	到達目標2の出席状況・取り組む態度で評価する。

教科書:

塩見昇編著 JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ1『図書館概論』(四訂版) 日本図書館協会

参考書:

『図書館ハンドブック』(第6版) 日本図書館協会
『図書館年鑑』(年刊) 日本図書館協会
「カレントアウェアネス・ポータル」 国立国会図書館情報ポータルサイト

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメールを利用、および授業の前後に教室内で対応。

授業テーマ：図書館についてもっと知りませんか？

授業の概要：図書館とはどういうものか紹介します

到達目標：図書館とは何かについてもっと知りたいと思うこと

授業方法：講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 司書課程についてこの科目について	なし
	2. 図書館とは何か	テキストの該当箇所を読む
	3. 現代社会と図書館	テキストの該当箇所を読む
	4. 図書館の理念	テキストの該当箇所を読む
	5. 図書館法規と行政	テキストの該当箇所を読む
	6. 地域社会と図書館	テキストの該当箇所を読む
	7. 公共図書館の制度と機能	テキストの該当箇所を読む
	8. 学校図書館の制度と機能	テキストの該当箇所を読む
	9. 大学図書館の制度と機能	テキストの該当箇所を読む
	10. 専門図書館の制度と機能	テキストの該当箇所を読む
	11. 国立国会図書館の制度と機能	テキストの該当箇所を読む
	12. 図書館の歴史的展開	テキストの該当箇所を読む
	13. 外国の図書館	テキストの該当箇所を読む
	14. 図書館関係団体と学習の手引き	復習
	15. まとめ	まとめ

受講者へのメッセージやアドバイス：図書館はいろいろあるので、自分の目でたくさん見て欲しいです。

フィードバックの方法：anb18968@nifty.comへメール下さい

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業参加	40	授業を聞いて下さい
	試験	60	めいいっぱい書いて下さい

教科書：塩見昇編著『図書館概論』（日本図書館協会、2016）

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：思考力

教員との連絡方法：anb18968@nifty.comへメール下さい

授業テーマ:

学校組織における学校図書館の諸機能の把握と理解

授業の概要:

学校図書館経営は(1)各種図書館に共通の経営原理を学ぶ(2)一般経営(企業・行政等)関係の資料から経営の基礎知識を取り入れてみる(3)理論に偏らず、可能な限り事例研究によって図書館の問題を考える。また、学校図書館の意義・目的、役割と機能を把握し理解する。さらにコンピュータ等メディア機器を利用した児童・生徒の自主学習をサポートする学習メディア・センターとしての学校図書館を考える。

到達目標:

・学校図書館の理念及び発展過程を理解し、学校図書館全般についての基本的理解を目指す。
・教師としてのみならず学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と担うべき役割理解する。

授業方法:

講義形式ではあるが、学生の積極的且つ主体的な参画を前提とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	学校図書館の現状と課題	学校教育全体の理念を整理しておいて下さい。
2.	学校図書館の理念と教育的意義(学校図書館の諸機能)	戦後の教育改革に関して整理しておいて下さい。
3.	教育行政と学校図書館(制度的枠組みに於ける学校図書館の位置付け)	制度的枠組みの中で学校図書館がどのように位置付くのかを教育法規等を根拠に整理しておいて下さい。
4.	教育行政と学校経営(制度的枠組みに於ける学校教育の位置付け)	制度的枠組みの中で学校図書館がどのように位置付くのかを教育法規等を根拠に整理しておいて下さい。
5.	学校教育に於ける学校図書館の位置付け	制度的枠組みの中で学校図書館がどのように位置付くのかを教育法規等を根拠に整理しておいて下さい。
6.	学校経営における学校図書館の位置付け	学校組織全体の中で学校図書館がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
7.	学校教育に於ける経営(施設・機能)	学校組織全体の中で学校図書館がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
8.	学校図書館の経営(予算、評価)	学校組織全体の中で学校図書館がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
9.	司書教諭の任務と職務	学校組織全体の中で司書教諭の役割がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
10.	司書教諭の学校教育に於ける意義	学校組織全体の中で司書教諭の役割がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
11.	生涯学習に於ける学校図書館の意義	学校図書館での学びがどのように生涯学習と関連するのかを整理しておいて下さい。
12.	学校図書館メディアの構築と管理	学校組織全体の中で司書教諭の役割がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
13.	学校教育に於ける学校図書館メディアの活用	学校組織全体の中で司書教諭の役割がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
14.	学校図書館メディアのネットワーク形成	学校組織全体の中で司書教諭の役割がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
15.	学校図書館活動の今後の動向	全体のリフレクトを心がけて下さい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

司書教諭課程の基幹科目ですので、幅広く学校図書館について扱うと共に、この科目の内容が後の展開科目に強く影響しますので、主体的且つ自覚的に授業に参画することが不可欠になります。

フィードバックの方法:

授業での小課題は添削して返却する。また、Eメールアドレスを授業時に告知するので、質問などがあったら連絡をして下さい。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業時の小課題	40	授業内容での各ユニットの理解・定着が図られているかで判断する。
	最終試験	60	授業内容全体の理解が図られているかで判断する。

教科書:

教科書は指定せず、適宜資料を配布する。

参考書:

志村尚夫・天道佐津子 監修 『学校経営と学校図書館、その展望』(学校図書館図解・演習シリーズ4) 青弓社、2004。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:	情報化の進展の中での学校図書館と多様なメディアの活用及び、組織化を身に付ける。		
授業の概要:	情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。		
到達目標:	1. 学校教育における学校図書館の果たす役割を理解し、そこに寄与する学校図書館メディア全体の諸相を理解する。 2. 学校図書館の各種メディアの特性を理解し収集選択する上での諸問題を考察する。 3. 学校図書館メディアの組織化(分類、目録、件名)とその機能を習熟する。 4. これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。		
授業方法:	講義形式ではあるが、学生の積極的且つ主体的な参画を前提とする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 学校教育に於ける学校図書館の役割・機能	学校教育全体の枠組みの理解をしておいて下さい。	
	2. 学校図書館に於ける学校図書館メディアの意義	学校教育全体の枠組みの理解をしておいて下さい。	
	3. 学校図書館に於ける学校図書館メディアの有用性とその限界	メディアの捉え方を把握して下さい。	
	4. 学校図書館メディアの限界の克服への視座	教育でのメディア活用を理解して下さい。	
	5. 教科教育との連携の必要性和その際の学校図書館の機能	教科教育との関連を意識して下さい、	
	6. 学校教育に於ける情報メディアと学校図書館メディアの関連	教育でのメディア活用を理解して下さい。	
	7. 教育課程の展開に寄与する学校図書館メディア	教育でのメディア活用を理解して下さい。	
	8. 教育課程の展開に於ける学校図書館メディアの活用方策(総論)	教育でのメディア活用を理解して下さい。	
	9. 教育課程の展開に於ける学校図書館メディアの活用方策(教育活動全体を通した関わり)	教育でのメディア活用を理解して下さい。	
	10. 教育課程の展開に於ける学校図書館メディアの活用方策(教科教育に於ける関わり)	教育でのメディア活用を理解して下さい。	
	11. 学校図書館メディアの組織化(総論)	NDC、NCR、BSHの基本構造を理解する。	
	12. 分類の意義と分類作業の基本	NDCを活用します。	
	13. 資料組織化(目録の種類と目録作業の基本)	NCRを活用します。	
	14. 教育課程の展開に寄与する目録と資料の組織化	NDC、NCR、BSHを活用します。	
	15. 学校図書館のアクセシビリティを念頭に置いた資料の組織化	件名目録の活用を意識して下さい。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	学校図書館メディアの組織法とその構築について扱います。極めてテクニカルな内容ですので積極的な授業参画と、主体的且つ自覚的な課題への取り組みが不可欠になりますので十分に注意して下さい。		
フィードバックの方法:	授業時の小課題を添削して返却する。また、Eメールアドレスを授業時に告知しますので、質問等があれば連絡をして下さい。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業時の小課題	40	授業での各ユニットの理解、定着を図ることで判断する。
	最終試験	60	授業全体での理解、定着を図ることで判断する。
教科書:	授業時に適宜資料を配付します。		
参考書:	志保田務、北 克一、山本順一 編著 『学校教育と学校図書館: 司書教諭科目のねらい・内容とその解説』 第一法規、2007.		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメール		

授業テーマ:

司書教諭が、探究学習を遂行し支援する際の意義と役割を理解する。また学校図書館の意義と役割を理解する。

授業の概要:

学習指導要領では児童・生徒が学習に能動的に取り組むことが重要とされている。この授業では能動的な学習者の育成を目的とする探究学習の意義をグループ演習を通じて理解する。また、その過程で司書教諭として必要とされる専門性を習得できるようにする。演習では、児童・生徒の立場から与えられた課題に取り組み作品として完成させる。次に取り組む過程を振り返り、児童・生徒が課題に取り組む際の困難さを認識する。困難さを緩和あるいは取り除くため、司書教諭としての支援の在り方を受講した様々な支援方法や見学校の実践から考えて、発表する。

到達目標:

情報社会では、学力観に変化がみられる。従来の学びに加え、学ぼうとする力も学力としている。そこで、情報活用を基礎とした学びによって、視野を広げ、多様な価値観を育成する必要がある。このような学びの重要性を理解する。さらに学校図書館を活用して、現在唱えられている児童・生徒の学力をどのように育成するかを理解する。学校図書館と司書教諭がどのように育成に関わっていくかを理解する。この過程で情報リテラシーの育成の重要性も理解する。理解と共に、この演習を通して、情報リテラシーに含まれる様々なスキルを習得する。演習はグループ演習であるので、協調性とリーダーシップを発揮することができる。司書教諭として課題を解決するための思考力・判断力を活用することになる。

授業方法:

授業は講義、動画視聴、見学、演習で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに 講義内容の説明 グループ演習への準備	配付資料である講義計画表から講義の進捗状況を知っておく。
2.	学校教育の変遷 1 戦後から1980年代	配付資料:年表を振り返り、講義内容を確認すること。年表の所定の余白に重要と思ったことは書き留めること。
3.	学校教育の変遷 2 1990年代から現在	年表を振り返り、講義内容を確認すること。教科書の該当箇所を読んで理解しておくこと。
4.	学校図書館利用指導の変化 海外の学校図書館観の変化 海外の図書館利用指導の変化 探究学習と情報活用プロセス	海外の図書館利用指導理論の変遷など講義を振り返り、理解しておくこと。配付資料と教科書の該当箇所を読んで理解しておくこと。探究学習で求められることを理解しておくこと。
5.	学校図書館からの支援方法 1 様々な間接支援の方法の紹介	各支援方法の目的や効果を理解する。教科書や紹介された以外に支援方法やツールがあるか調べておく。日本十進分類法NDCを理解しておくこと。パスファインダーの構成と効用を理解しておくこと。
6.	学校図書館からの支援方法 2 様々な直接支援の方法の紹介	ブックトークの効果を理解しておくこと。ブックトークへの準備の仕方、トーク内容の構成方法を理解しておくこと。
7.	グループ演習 I 探究学習に取り組む 1 児童・生徒への課題設定に関する支援方法	事前にグラフィック・オーガナイザーを活用し、各自課題を考えておくこと。
8.	グループ演習 II 探究学習の支援に取り組む 2 課題に対しての学校図書館メディアの選択と情報収集に関する支援	情報リテラシーの内容を配付資料で確認しておくこと。
9.	グループ演習 III 様々な探究学習の発表方法	事前に動画の英文和訳を読み、内容を理解しておくこと。様々な発表方法があることを理解し、今回の課題についても、他にどのような発表方法があるか考えてみる。
10.	学校図書館見学	事前に見学校への質問を考えておく。見学では司書教諭の役割など実践、学校図書館の資料・設備なども十分に見聞すること。見学後レポートの作成。
11.	グループ演習 IV 作品の完成 発表内容の構成を考える	課題には全員で取り組むが、仕上げ段階では分担作業で、作品を完成させる。随時グループ内で話し合いをすること。
12.	グループ演習 V 発表シートの完成 発表の評価法 (Rubric)の確認	各自の分担作業を進めておく。全員でRubricの各項目に該当する内容に作品が仕上がっているか確認しておく。
13.	グループ演習 VI 発表 1 相互評価	評価表に発表分の評価をする。
14.	グループ演習 VII 発表 2 相互評価	評価表に発表分の評価をする。
15.	グループ演習 VIII 発表 3 相互評価 自己評価 まとめ 学習形態の違いを考える:教授型授業と探究型授業	評価表の完成 講義内容、資料と教科書を振り返り理解しておくこと。授業形態で教師への支援を考える。探究学習の理解とプロセス、方法知・内容知を知る。

受講者へのメッセージやアドバイス:

司書教諭の職務を果たすために必要な授業であり、協同作業も多いので、理由なく欠席しないこと

フィードバックの方法:

協同作業中の完成までのグラフィックオーガナイザーなどについては、机間巡視中に適宜、質問に答え、助言する。できるものは教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	40	全講義と配付資料の内容の理解の深まりを評価の対象とする。
	授業への参加度	20	グループ演習での積極性・協調性や受講態度を評価する。
	発表	40	グループ発表での発表態度を評価する。発表内容では、作品の完成度と司書教諭の支援の理解と深まりを評価する。

教科書:

堀川照代・塩谷京子 編著『改訂新版 学習指導と学校図書館』2016 放送大学教育振興会 日本放送出版協会 発売 ISBN978-4-595-31650-0

参考書：市川伸一 著『学力低下論争』ちくま新書 2002 筑摩書房 ISBN978-4-480-05959-8

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力：分析力／Analytical ability, 創造力／Creative ability, プレゼンテーション力／Presentation skill,

教員との連絡
方法：授業の前後に対応します。

授業テーマ:

読書および多様な読書材の現状と展開

授業の概要:

司書教諭が学校・学校図書館でその役割を果たすためのひとつとして、読書および児童・生徒向けの読書材(調べ学習用資料も含む)について学んだ後に、児童・生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る。
本科目は、司書教諭課程科目であるとともに、司書課程の「児童サービス論」の要素を併せ持つため、公立図書館における子どもへの図書館サービスも意識して学習する。
国・自治体の施策、学習指導要領の改訂、言語活動の充実、電子書籍等の出版流通など今日の状況を踏まえて解説する。

到達目標:

1【知識・理解】読書および読書材、学校・図書館の取組みについて理解し、説明ができる。
2【関心・意欲・態度】読書や学校・図書館の取組みについての問題提起や提案ができる。
3【表現・技能・能力】グループワーク・発表を通じてプレゼンテーション力やコミュニケーション力を身に着ける。

授業方法:

講義
一部、グループ演習・発表を実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 読書の意義と目的	
	3. 発達段階に応じた読書の指導と計画	
	4. 関連法規および国・自治体の施策	関連法規について目を通しておくこと
	5. 家庭、地域、公立図書館等との連携	自身が居住する自治体や公立図書館の現状を確認しておくこと
	6. 学校図書館の現状と課題	
	7. 子ども向け資料の種類と活用:各種紙媒体	書店や図書館で読書材やその情報に触れておくこと
	8. 子ども向け資料の種類と活用:視聴覚資料・インターネット・データベース	書店や図書館で読書材やその情報に触れておくこと
	9. 子ども向け資料の種類と活用:マンガ・電子書籍等	書店や図書館で読書材やその情報に触れておくこと
	10. 読書の指導方法:読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、ビブリオバトル等	図書館のイベント参加やHPを通じて現状を把握しておくこと
	11. 読書に関する図書館イベントの企画と運営	グループワーク
	12. ワークショップ:図書の解体	
	13. 確認テスト	
	14. グループ発表(1)	グループワーク・発表の準備
	15. グループ発表(2)	グループワーク・発表の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

ワークショップでは実際に古書を解体予定

フィードバックの方法:

授業時に口頭で行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	テスト	60	到達目標の1を中心に評価する。
	レポート・ワークショップ	20	到達目標の1・2を中心に評価する。
	グループ演習・発表	20	到達目標の2・3を中心に評価する。

教科書:

今まど子、小山憲司『図書館情報学基礎資料』樹村房、2016、150p.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール: mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

児童生徒の発達段階に応じた読書環境の理念と方法の理解を図る。
1.読書の意義と目的 2.読書と心の教育(読書の習慣形成を含む) 3.発達段階に応じた読書の指導と計画 4.児童・生徒向け図書の種類と活用(漫画等の利用方法を含む) 5.読書の指導方法(読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等) 6.家庭、地域、公共図書館等との連携

読書の目的を理解し、具体的な読書指導の方法を知る。
発達段階に応じた図書の種類と活用方法を理解する。

授業計画に基づき講義形式とグループ演習発表、受講生全員がビブリオバトル発表をする。
なお、受講生数、理解度などによって授業計画は変更することもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	子どもの読書状況 全国学校図書館協議会 子どもの読書状況などから	
2.	読書能力・読書興味の発達段階 発達段階の目安など	
3.	読書資料の特徴と選択 絵本や児童文学の種類	
4.	読書プログラム 読み聞かせ グループ学習・演習 グループで読み聞かせを演習する。	読み聞かせに適する本を各自用意すること。
5.	読書プログラム 紙芝居 グループ学習・演習 グループで紙芝居演習をする。	
6.	読書プログラム ペープサート グループ学習・演習 グループでペープサート演習をする。	
7.	読書プログラム パネルシアター・ブラックライトシアター	
8.	読書プログラム アニメーション	アニメーションでの課題図書をしっかり読んで授業にのぞむこと。
9.	読書活動の推進ー日本 *ビブリオバトル発表	ビブリオバトル発表の準備とクラスメートの発表に対する評価コメントを用意すること。
10.	読書活動の推進ー諸外国 *ビブリオバトル発表	ビブリオバトル発表の準備とクラスメートの発表に対する評価コメントを用意すること。
11.	読書資料(1)ー絵本・童話 *ビブリオバトル発表	ビブリオバトル発表の準備とクラスメートの発表に対する評価コメントを用意すること。
12.	読書資料(2)ー児童文学 ストーリーテリング・ブックトーク	
13.	学校、家庭における読書活動と読書指導	課題図書の児童文学を必ず読んで授業にのぞむこと。
14.	読書をめぐる諸問題 資料ごとの特徴の違い 発達障害者に対する支援 など	司書・司書教諭として読書指導のありかたを考えて授業にのぞむこと。
15.	まとめ	自分が現場で活躍する司書・司書教諭としての考えをまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

絵本・児童文学・ヤングアダルト文学など子どもの本に興味を持ち、読むこと。
課題図書や課題を提示するので、締切日を守るように各自学習計画をたてること。

フィードバックの方法:

筆記試験 採点して教室で返却する。
質問 教室で解説する。
課題提出物 採点して教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	筆記試験	30	自分独自の考えや読解力、及び知識力を評価する。
	読書プログラム発表	50	グループ発表での自分の役割と積極性 ビブリオバトル発表での表現力を評価する。
	授業中の課題	10	課題解決に向けての意欲を評価する。
	受講態度	10	授業への積極的参加度を評価する。

教科書:

参考書:

『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 ー理論と実践』 全国学校図書館協議会 監修 悠光堂 2015年
『学校教育と図書館 ー司書教諭科目のねらい・内容とその解説』 志保田努 他編著 第一法規 2007年
『子どもの読書環境と図書館』 日本図書館研究会編集委員会 変 日本図書館研究会 2006年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

授業後に直接質問・相談すること。特別な事情がある場合には下記メールで対応する。
bukkyou_sakuma@yahoo.co.jp

授業テーマ:

情報メディアの活用

授業の概要:

学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。司書教諭が児童・生徒に対して問題解決するために必要な情報活用能力を育成支援できるように、また教員に対しても情報メディアの積極的利用を図るために、情報メディアの理念と活用方法を理解し、情報活用能力を取得する。

到達目標:

急速に発展するIT機器や、インターネット関連の技術を自由に操り、学校図書館運営に関する基本的技術を身につけ、パワーポイントによるプレゼンテーション技術を身に付け発信することを目指す。

授業方法:

演習室での講義授業を中心とするが、演習及びグループでのプレゼン発表も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	高度情報社会と人間:学校図書館における教育の課題	配布資料の熟読:文部科学省のサイトの確認
2.	情報リテラシー育成における学校図書館の役割と機能	配布資料の熟読
3.	情報メディアの特性と選択・活用	大学の多様な情報メディアを確認しておくこと。
4.	視聴覚メディアの活用	同上
5.	データベースと情報検索(1)	DOORSに搭載のデータベースの種類を確認しておく。
6.	データベースと情報検索(2)	同上
7.	インターネットによる情報検索の活用(1)	検索エンジンの種類を実際に確認しておく。
8.	インターネットによる情報検索の活用(2)	Google、Yahooの詳細な検索手法の説明を実際に確認しておく。
9.	教育用ソフトウェアの活用	DASYはどのようなものか調べておく。
10.	プレゼン技法と機材使用の基礎(1)	ワード、エクセルの作成に慣れておく。
11.	プレゼン技法と機材使用の基礎(2)	パワーポイントの作成に慣れておくこと。
12.	パスファインダーの作成、パワーポイント作成	ワードで作成したパスファインダーを整理し、パワーポイントに流用する。
13.	プレゼン発表会(情報の発信)ネットワークモラル	発表時の声の大きさ、話すスピード等、確認しておくこと。
14.	学校教育・学校図書館活動と著作権	学校図書館向けの著作権サイトで確認しておくこと。
15.	まとめ	授業全体のまとめをしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

キーボード・マウス・ワープロ操作の習熟を前提とする。
準備学習(予習・復習)等の内容: 図書館で行われる案内サービスにどのようなものがあるか調べておくこと。また、ワード・エクセル・パワーポイントを使用するので、操作に慣れておくこと。

フィードバックの方法:

集中講義であるので、当日の最終授業で質問を受け付ける。翌日に回答することもある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	提出物	30	演習問題の提出および正答率
	グループ発表	20	視聴者評価による配点
	期末試験	50	正答率

教科書:

配布資料を使用。

参考書:

「シリーズ学校図書館学」編集委員会・編『情報メディアの活用』全国学校図書館協議会, 2010
山本順一,気谷陽子編著『情報メディアの活用』放送大学教育振興会, 2010

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

kawasaki.hideko@gmail.com

授業テーマ:

図書館サービスの実践

授業の概要:

図書館情報学は極めて実践的な学問であり図書館サービス理論も整理技術も現実の図書館活動の中から生まれ発展してきた。さらに今日では利用者のニーズおよびメディアの多様化も相まって、図書館は大きな変容を遂げつつある。それだけに図書館への理解のためには、実務を経験し、利用者に対応することが必要である。
本科目では、司書課程の集大成として、図書館の現場で図書館員の指導のもとに図書館の実態と理論を学ぶ。実習は基本的に公立図書館で行う。

到達目標:

1【知識・理解】図書館のサービスや業務について理解し、わかりやすく説明できる。
2【関心・意欲・態度】社会人としての基本的なマナーを身につけるとともに、責任感や協調性をもって他者と接することができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーションに必要な技能や評価する力を身に着ける。

授業方法:	講義・演習および実習	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 事前演習	イベントの企画、お話し会、展示、広報等に関する演習の準備
	3. 実習の心構え	実習対象館の調査および提供されているデータベースの操作の確認
	4. 公立図書館の現場から	参考文献として挙げているビデオ教材の視聴(本学図書館に所蔵)
	5. 実習	実習先の指示や課題による
	6. 実習	実習先の指示や課題による
	7. 実習	実習先の指示や課題による
	8. 実習	実習先の指示や課題による
	9. 実習	実習先の指示や課題による
	10. 実習	実習先の指示や課題による
	11. 実習	実習先の指示や課題による
	12. 実習	実習先の指示や課題による
	13. 実習生による発表:実習報告	資料等発表の準備
	14. 振り返り	自己評価資料の準備
	15. 評価	

受講者へのメッセージやアドバイス:

・受講者数に応じて若干の変更を加える場合がある
・免許・資格課からの連絡があるので、掲示板やメールには注意して見ておくこと

フィードバックの方法:

授業時に口頭で行う

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	実習	80	実習訪問時の様子、実習ノート、実習受け入れ先からの評価から総合的に判断する
	レポート・演習	20	到達目標の1・3を中心に事前・事後講義から評価する

教科書:

参考書:

日本図書館協会『図書館の達人 司書実務編2:コミュニケーション』紀伊國屋書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール: mmuraki@dwc,doshisha.ac.jp

授業テーマ:			
授業の概要:	図書館業務に必要なコンピュータの基礎知識を習得し、図書館において情報技術がどのように活用されているかを学ぶ。		
到達目標:	まず現代社会における情報通信技術の進展を概観したのち、データベースや検索エンジン等、情報処理の初歩を学ぶ。次に図書館で使用されているさまざまな技術の具体例を通じて図書館情報システム論を習得する。さらに読書や学術情報をめぐる環境がデジタルとネットワークの技術によってどのように変化しているか、新しい知見の理解をめざす。		
授業方法:	1:講義(ただし、簡単な発表を求めることもある。毎回、コメントペーパーの提出を求める。)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	はじめに	教科書を用意しておく
	2.	コンピュータの基礎、ネットワークの基礎	教科書を熟読の上、配布プリントの空欄を記入しておく
	3.	情報技術と社会	教科書の該当する章を事前に読んでおく
	4.	データベースのしくみ	教科書の該当する章を事前に読んでおく
	5.	検索エンジンのしくみ	教科書の該当する章を事前に読んでおく
	6.	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	教科書の該当する章を事前に読んでおく
	7.	図書館における情報技術活用の現状	教科書の該当する章を事前に読んでおく
	8.	図書館業務システムのしくみ(1)	教科書の該当する章を事前に読んでおく
	9.	図書館業務システムのしくみ(2)	教科書の該当する章を事前に読んでおく
	10.	電子資料の管理技術	教科書の該当する章を事前に読んでおく
	11.	デジタルアーカイブ	教科書の該当する章を事前に読んでおく
	12.	最新の情報技術と図書館(1)	
	13.	最新の情報技術と図書館(2)	
	14.	展望と課題	教科書および配布物を事前に読んでおく
	15.	まとめ	教科書および配布物を事前に読んでおく
受講者へのメッセージやアドバイス:	公立図書館の利用や見学に基づいた質疑を歓迎します。		
フィードバックの方法:	コメントペーパーの質問、要望等については、次回、教室でまとめて回答します。なお、提出物は返却しません。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	40	図書館における情報技術の進展について現状と課題を説明できるかを基準とする。
	レポート	30	図書館の情報技術を実際に使ってみて、できることできないことを調査した結果について仕上がりの度合いを基準とする。
	授業への参加度	30	コメントペーパーを重視する。
教科書:	岡紀子・田中邦英、図書館と情報技術、樹村房		
参考書:	杉本重雄、図書館情報技術論(現代図書館情報学シリーズ 3)、樹村房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対。Eメールを利用。		

886900

図書館サービス概論

村木 美紀

授業テーマ: 図書館の各種サービス

授業の概要: 図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、理解を深める。パブリックサービスを中心に、資料・情報の提供、連携・協力、課題解決型サービス、対象別サービス、著作権への理解と配慮、コミュニケーション、接遇の基本を学ぶ。

到達目標: 1【知識・理解】大学図書館や地域の図書館といった身近な図書館で行われているサービスの現状をわかりやすく説明できる。
2【関心・意欲・態度】図書館サービスおよび利用者のニーズの変化を理解し、問題提起や提案ができる。
3【表現・技能・能力】グループワーク・発表を通じてプレゼンテーション力やコミュニケーション力を身に着ける。

授業方法: 講義
一部, グループ演習・発表を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	
	2. 図書館サービスの種類と分析	
	3. 資料・情報提供サービス	身近な図書館でのサービスの現状を把握しておくこと
	4. 貸出サービス	身近な図書館でのサービスの現状を把握しておくこと
	5. レファレンスサービス	身近な図書館でのサービスの現状を把握しておくこと
	6. 対象別サービス(1)マイノリティ	身近な図書館でのサービスの現状を把握しておくこと
	7. 対象別サービス(2)障害者・高齢者	身近な図書館でのサービスの現状を把握しておくこと
	8. コミュニケーションと接遇	
	9. 各種イベント	身近な図書館でのサービスの現状を把握しておくこと
	10. 図書館のPR	身近な図書館での現状を把握しておくこと
	11. 図書館サービスと著作権	事前に著作権法の該当箇所を目を通しておくこと
	12. PRの実際:企画	グループワーク
	13. 確認テスト	
	14. PRの実際:グループ発表(1)	グループワークおよび発表準備
	15. PRの実際:グループ発表(2)	グループワークおよび発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 授業時に口頭で行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	テスト	70	到達目標の1を中心に評価する。
	レポート	10	到達目標の2を中心に評価する。
	グループ演習・発表	20	到達目標の2・3を中心に評価する。

教科書:

参考書: 渡部幹雄『まちの図書館を遊ぶ』新評論, 2003, 232p.
今まど子編著『図書館学基礎資料 第12版』樹村房, 2015, 138p.
仁上幸治『図書館員の為のPR実践講座』樹村房, 2014, 119p.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、変化対応力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Eメール: mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	図書館サービスの基本を学び、時代に即したパブリックサービスのあり方を探る。		
授業の概要:	図書館サービスの基礎となる考え方の歴史を学び、特にパブリックサービスとしての図書館サービスのあり方について考察する。そのため、閲覧席を設置し、コンシェルジュを配置しているなどの大型書店と公共図書館を対比しながらパブリックサービスの要点を確認する。さらに、図書館サービスの現状と問題点を分析して、今後の様々な可能性を探ることにより、図書館司書の役割を含めて図書館サービスの本質について学びとる。		
到達目標:	1. 図書館サービス全般についての知識と理解を深める。 2. 図書館サービスのあり方について関心を持ち、意欲的な態度で調査・分析に取り組む。 3. 自分の考えを簡潔に表現し、他人に伝える技能と能力を養う。		
授業方法:	1～12回までは講義を行い、その間に各自で閲覧席を持つ大型書店を見学・調査し、そのレポートを「閲覧席型書店と公共図書館」をテーマに13回にグループ討議し、発表する。試験は複数課題の小論文形式で行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 図書館サービスの意義・図書館のイメージ 2. 図書館サービスとマネジメント・司書の役割 3. 利用者スペースの整備 4. 資料提供・フロアワーク 5. 予約・相互貸借・連携 6. 情報提供・電子図書館 7. 対象者別サービス(1)児童・YA・高齢者 8. 対象者別サービス(2)障がい者・多文化 9. 多様なサービス(1)利用案内・パスファインダー 10. 多様なサービス(2)集会・文化活動・学校支援 11. 図書館サービスと著作権・複写サービス 12. 利用統計とサービス指標、その経営活用 13. グループ討議「閲覧席型書店と公共図書館」 14. グループ討議結果の発表 15. まとめ	教科書を読む。自分の図書館イメージについて考えておく。 教科書を読む。5回までに身近な公共図書館を利用する。 教科書を読む。身近な公共図書館を利用する。 教科書を読む。身近な公共図書館を利用する。 教科書を読む。身近な公共図書館を利用する。 教科書を読む。8回までに複数の図書館ホームページを閲覧する。 教科書を読む。複数の図書館ホームページを閲覧する。 教科書を読む。複数の図書館ホームページを閲覧する。 教科書を読む。12回までに閲覧席設置、コンシェルジュ配置などの大型書店を利用する。 教科書を読む。閲覧席設置、コンシェルジュ配置などの大型書店を利用する。 教科書を読む。閲覧席設置、コンシェルジュ配置などの大型書店を利用する。 教科書を読む。次回までに閲覧席設置、コンシェルジュ配置などの大型書店の利用結果をまとめておく。 単に相違点について分析するだけでなく、魅力ある図書館サービスが何かを考察する。 グループでの統一見解はもとより、全員が何らかの形で発表する。 講義で出てきたキーワードについて、簡潔にまとめておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	図書館の利用者としての視点を大切に、サービスを提供する側の視点に立って考えてみましょう。		
フィードバックの方法:	定期試験は採点してコメントを付けて返却する。グループ討議は教室でまとめて評価・解説する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	60%	到達目標1の理解度により評価する。
	グループ討議・発表	20%	到達目標3の達成度により評価する。
	授業への参加度	20%	到達目標2の出席状況・取り組む態度で評価する。
教科書:	小田光宏編著 JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ3『図書館サービス論』 日本図書館協会		
参考書:	塩見昇編 新編図書館学教育資料集成3『図書館サービス論』 教育史料出版会 菅谷明子『未来をつくる図書館』 岩波新書 大阪市立図書館『知識創造型図書館への改革』(プリントを配付)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	Eメールを利用、および授業の前後に教室内で対応。		

887000

情報サービス論

高橋 俊郎

授業テーマ:

図書館における情報サービスの基礎を学び、レファレンスに有効な基本的情報源とその活用について知識を深める。

授業の概要:

参考図書などの文献情報はもとより、ネット経由の電子化情報など多様な情報源について学び、情報源としての確からしさの判定、的確な情報源に素早く辿り着く技術、他機関を紹介する判断などについて学ぶ。図書館における実際のレファレンスサービスのプロセスに従い、インタビューから調査・回答に至る情報検索の基礎知識を得る。

到達目標:

1. 情報サービス全般についての知識と理解を深める。
2. 情報サービスのあり方について関心を持ち、意欲的な態度で調査・分析に取り組む。
3. 自分の考えを簡潔に表現し、他人に伝える技能と能力を養う。

授業方法:

1～9回までは講義を行い、その間に各自で公共図書館のレファレンスを受けて、経過・結果・所感などについてレポートを作成する。10回にレポート内容について簡潔に発表する。試験は複数課題の小論文形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. レファレンスサービスと情報サービスの意義	教科書を読む。
2. 情報サービスの基礎・レファレンスサービスの構造	教科書を読む。
3. 情報サービスの種類(1)レフェラル・カレント	教科書を読む。
4. 情報サービスの種類(2)地域情報・専門情報	教科書を読む。大学図書館で各種データベースを検索してみる。
5. 情報サービスの種類(3)デジタル情報	教科書を読む。大学図書館で各種データベースを検索してみる。
6. 情報源の実際 印刷・電子・二次資料作成	教科書を読む。大学図書館で各種データベースを検索してみる。
7. レファレンスの実際(1)レファレンスプロセス	教科書を読む。9回までに各自で公共図書館のレファレンスを受ける。
8. レファレンスの実際(2)検索戦略・回答と評価	教科書を読む。各自で公共図書館のレファレンスを受ける。
9. レファレンスの実際(3)参考図書とデータベース	教科書を読む。各自で公共図書館のレファレンスを受ける。
10. レポート提出と発表	各自で公共図書館のレファレンスを受けて、経過・結果・所感などについてレポートを作成し、簡潔に発表できるよう準備する。
11. 調べ方の実際(1)言葉・事柄、日時・統計	教科書を読む。
12. 調べ方の実際(2)地理・地名、人物・団体	教科書を読む。
13. 調べ方の実際(3)図書・雑誌、文献の所在	教科書を読む。
14. 調べ方の実際(4)調査内容の共有化、協同DB	教科書を読む。国立国会図書館レファレンス協同データベースを検索しておく。
15. まとめ	講義で出てきたキーワードについて、簡潔にまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

利用者としてレファレンスサービスを受けた時の気づきをもとに、レファレンスサービスを提供する側の視点で図書館の情報サービスについて考えてみましょう。

フィードバックの方法:

定期試験は採点してコメントを付けて返却する。レポートは教室でまとめて評価・解説し、コメントを付けて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60%	到達目標1の理解度により評価する。
レポート提出と発表	20%	到達目標3の達成度により評価する。
授業への参加度	20%	到達目標2の出席状況・取り組む態度で評価する。

教科書:

小田光宏編著 JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ5『情報サービス論』 日本図書館協会

参考書:

木本幸子 『情報源と情報サービス』(第2版) 大学教育出版
井上真琴 『図書館に訊け!』 筑摩書房
千野信浩 『図書館を使い倒す!』 新潮新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメールを利用、および授業の前後に教室内で対応。

887060

情報サービス論

竹島 昭雄

授業テーマ:	図書館の今日の情報サービスを知る		
授業の概要:	図書館情報サービスの本質を知るとともに、サービスにおける図書館員の役割を理解する。そのうえで、情報サービスの種類、レファレンスサービス、情報検索サービスの在り方と方法を学ぶ。さらに、具体的な情報資源の特質と利用方法を知り、最後に情報サービスにかかわる知的財産権についての基礎的知識を得ることによって、「情報サービス演習A」につながる内容とする。		
到達目標:	1.情報サービスにおける図書館員の役割を理解する。 2.情報サービスの種類を知る。 3.レファレンスサービスの理論と方法を修得する。 4.情報検索サービスの理論と方法を修得する。 5.各種情報資源の特質と利用方法を修得する。		
授業方法:	講義		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 情報社会と図書館の情報サービス	各人の生活において、どのようなものが価値のある「情報」につながったかを具体的に考えなさい。部活動やサークル活動、アルバイトなどの場面を想起すると考えやすい。情報サービスにおける「直接サービス」と「間接サービス」とはどのようなものであるかを調べなさい。身近な公共図書館で実施されている情報サービスを調べなさい。	
	2. 図書館における情報サービスの種類	情報サービスにおける「直接サービス」と「間接サービス」とはどのようなものであるかを調べなさい。	
	3. 図書館における情報サービスの理論的展開	身近な公共図書館で実施されている情報サービスを調べなさい。	
	4. レファレンスサービスの理論と実践	レファレンスプロセスの手順を確認し、特にレファレンスインタビューと図書館員の姿勢について考えてみよう。	
	5. レファレンスサービスの実際	図書館のレファレンスコーナーに行き、レファレンスライブラリアンがどのような仕事をしているか観察しなさい。	
	6. 情報検索サービスの理論と方法	「CiNii Articles」で2つ以上のキーワードをそれぞれ単独で検索した場合と、AND検索した場合(スペースで並べると)、OR検索した場合(大文字でORをはさむ)と、NOT検索した場合(除外する言葉の前に半角のマイナスを付ける)の結果を比較しなさい。	
	7. 各種情報源の特質と利用法(1)	「NDL-OPAC」で書誌情報を検索し、調べた書誌情報を使って、普段利用している図書館のOPACと「CiNii Books」を検索して、所蔵状況を調べなさい。	
	8. 各種情報源の特質と利用法(2)	「NDL-OPAC雑誌記事索引」で論文を検索し、普段利用する図書館でその論文の掲載雑誌が利用できるかを確認しなさい。	
	9. 各種情報源の特質と利用法(3)	「国立国会図書館近代デジタルライブラリー」を用いて、古典籍資料や歴史的音源を実際に調べてみなさい。	
	10. 各種情報源の評価と解説	普段利用する図書館にあるレファレンスブックの中で、ユニークと思う事典やハンドブックなどを10件以上探してみなさい。	
	11. 各種情報源の組織化	「中学校におけるいじめや不登校問題」について書かれた図書を、身近な図書館のOPACで検索しなさい。	
	12. 発信型情報サービスの意義と方法	京都府内の公共図書館のWebサイトを、デザイン性やアクセシビリティの観点から比較しなさい。	
	13. 情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識	「意匠権」「肖像権」「公衆送信権」「パブリックドメイン」のそれぞれについて、図書館の情報サービスという観点から調べなさい。	
	14. 図書館利用教育と情報リテラシーの育成	「公共図書館パスファインダー集(国立国会図書館リサーチ・ナビ)」を検索し、利用者にとって役に立つと思われる事例を選びなさい。	
	15. まとめ	毎回の講義時に配布したプリントに目を通し、特に重要なポイントについて確認する。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	授業内で質問と回答を求め、そのコメントを行う。授業に関する質問は、質問用紙に書いて提出する。回答については、次回の授業で質問項目と回答を全員に配布する。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80%	到達目標の情報サービスの種類と方法知識度や、到達目標のレファレンスサービスと情報検索サービスの理解度並びに、各種情報資源の特質と利用方法の知識を評価する。
	授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標の知識並びに理解が得られたかを評価する。
教科書:			
参考書:	『情報サービス論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望4)、竹之内禎編著、学文社、 『情報サービス論』(現代図書館情報学シリーズ5)、山崎久道編集、樹村房、 『情報サービス論』(JLA図書館情報学テキストシリーズIII5)小田光宏著、日本図書館協会、		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、コミュニケーション力		
教員との連絡方法:	Eメール(akio-takeshima@mx.scn.tv)		

887100

図書館情報資源概論

石橋 進一

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

1. はじめに

2. 情報・記録・メディア

3. 印刷資料 その1

4. 印刷資料 その2

5. 図書館と著作権

6. 非印刷資料(有形、パッケージ)

7. ネットワーク情報資源

8. 政府刊行物、地域資料等

9. コレクションの構築

10. コレクションの評価

11. 商業出版と流通

12. 学術情報の流通

13. 図書館の知的自由

14. 課題と展望

15. まとめ

教科書を用意しておく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書および配布物を事前に読んでおく

教科書および配布物を事前に読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

コメントペーパーの質問、要望等については、次回、教室でまとめて回答します。なお、提出物は返却しません。

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法

割合

評価基準

定期試験

60

図書館情報資源の多様性に関する理解度により評価する

授業への参加度

40

コメントペーパーを重視する

教科書:

高山正也・平野英俊、図書館情報資源概論、樹村房

参考書:

宮沢厚雄、図書館情報資源概論、理想社

馬場俊明、図書館情報資源概論、日本図書館協会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。Eメールを利用。

授業テーマ:

図書館情報資源の種類と管理運営法を知る

授業の概要:

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

到達目標:

1.図書館情報資源の種類と内容を知る。
2.出版流通のシステムと課題を理解する。
3.図書館の知的自由の意義を知る。
4.蔵書を構築するための収集・選択の知識を修得する。
5.蔵書の管理方法を知る。

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 図書館情報資源: 図書館情報資源の意義、情報革命と活字文化、図書館情報資源の類別、図書館員の専門性。 2. 印刷資料: 図書、雑誌、新聞、小冊子、地図、その他資料。 3. 非印刷資料: 点字、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料。 4. 電子資料: 電子資料、ネットワーク情報源、図書館資料のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版。 5. 資料特論: 灰色文献、政府刊行物、地域資料、人文社会・自然科学・技術分野の情報資源。 6. 出版流通システム: 出版の意義、出版・書店・図書館、出版流通経路、再販制度。 7. 図書館の知的自由(1): 図書館の自由、図書館の自由と検閲。 8. 図書館の知的自由(2): 図書館の自由に関する宣言、図書館情報資源と著作権。 9. 蔵書論: 蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新。 10. 収集と選択: 選書の意義、選書論、選書の方法、選書のための情報源。 11. 蔵書管理(1): 蔵書評価法、除籍と廃棄。 12. 蔵書管理(2): 資源共有、分担収集、分担保存。 13. 資料の組織化: 受入業務、登録業務、資料の装備、予算の管理。 14. 書庫管理: 書庫管理の意義、蔵書点検、保存とメディア変換、資料保存と修復。 15. まとめ。	準備学習等の内容 教科書 UNIT1～4の学習 教科書 UNIT5～8の学習 教科書 UNIT9～12の学習 教科書 UNIT13～17の学習 教科書 UNIT18～22の学習 教科書 UNIT23～26の学習 教科書 UNIT27～28の学習 教科書 UNIT29～30の学習 教科書 UNIT131～34の学習 教科書 UNIT35～38の学習 教科書 UNIT39～40の学習 教科書 UNIT41～43の学習 教科書 UNIT44～47の学習 教科書 UNIT48～50の学習 教科書及び配布プリントの事前学習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業に関する質問は、質問用紙に書いて提出する。回答については、次回の授業で質問項目と回答を全員に配布する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	80%	到達目標情報資源に関する種類と内容に関する知識や知的自由の意義に関する理解度、到達目標収集と選択方法の知識により評価する。
	授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、各到達目標を理解できたかを評価する。

教科書:

『図書館情報資源概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢⅧ)馬場俊明著、日本図書館協会

参考書:

『図書館情報資源概論』(現代図書館情報学シリーズ8)高山正也・平野英俊編集 樹村房
『図書館情報資源概論』(ライブラリー図書館情報学8)伊藤民雄著 学文社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール(akio-takeshima@mx.scn.tv)

授業テーマ:	レファレンスサービスの実践																																		
授業の概要:	レファレンス資料やその他の情報源についての種別と利用方法を学び、レファレンス質問の回答処理の演習を通じて実践的な能力の育成を図る。基本的には図書館の紙媒体資料を中心に扱うが、一部インターネットやデータベースも使用することで、ハイブリッドな資料・情報の検索を身につける。 それとともに単に調査(検索)を行うだけでなく、それらをまとめ、提供し、記録することも意識した演習を行う。																																		
到達目標:	1【知識・理解】レファレンス資料や各種情報源の種別と利用方法を知る。 2【関心・意欲・態度】レファレンスプロセスを踏まえた上での柔軟な調査とわかりやすく丁寧な回答ができる。 3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力やコミュニケーション力、実務に沿った記録や評価に必要な技能を身につける。																																		
授業方法:	演習																																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. レファレンスサービスの実際 (1)図書館の活用とレファレンスコレクション</td><td>本学図書館やよく利用する公立図書館のレファレンスコレクションを確認しておくこと</td></tr><tr><td>2. レファレンスサービスの実際 (2)質問の受付と分析</td><td>レファレンス協働データベースの閲覧</td></tr><tr><td>3. レファレンスツールの探索</td><td>調査・レポート作成・発表準備</td></tr><tr><td>4. 言語・文字情報の探索</td><td>調査・レポート作成・発表準備</td></tr><tr><td>5. 事物・事象情報の探索</td><td>調査・レポート作成・発表準備</td></tr><tr><td>6. 人物・団体情報の探索</td><td>調査・レポート作成・発表準備</td></tr><tr><td>7. 地理・地名情報の探索</td><td>調査・レポート作成・発表準備</td></tr><tr><td>8. 歴史・日時情報の探索</td><td>調査・レポート作成・発表準備</td></tr><tr><td>9. 統計情報の探索</td><td>調査・レポート作成・発表準備</td></tr><tr><td>10. 図書・叢書情報の探索</td><td>調査・レポート作成・発表準備</td></tr><tr><td>11. 新聞・雑誌情報の探索</td><td>調査・レポート作成・発表準備</td></tr><tr><td>12. レファレンスサービスの実際 (3)情報の記録・発信とパスファインダー</td><td>図書館訪問やリンク集を活用し、実際に提供されているパスファインダーを出来るだけ多数確認しておくこと</td></tr><tr><td>13. レファレンスサービスの実際 (4)情報の評価</td><td></td></tr><tr><td>14. 総合演習</td><td>調査・レポート作成・発表準備</td></tr><tr><td>15. 総合演習の評価</td><td></td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. レファレンスサービスの実際 (1)図書館の活用とレファレンスコレクション	本学図書館やよく利用する公立図書館のレファレンスコレクションを確認しておくこと	2. レファレンスサービスの実際 (2)質問の受付と分析	レファレンス協働データベースの閲覧	3. レファレンスツールの探索	調査・レポート作成・発表準備	4. 言語・文字情報の探索	調査・レポート作成・発表準備	5. 事物・事象情報の探索	調査・レポート作成・発表準備	6. 人物・団体情報の探索	調査・レポート作成・発表準備	7. 地理・地名情報の探索	調査・レポート作成・発表準備	8. 歴史・日時情報の探索	調査・レポート作成・発表準備	9. 統計情報の探索	調査・レポート作成・発表準備	10. 図書・叢書情報の探索	調査・レポート作成・発表準備	11. 新聞・雑誌情報の探索	調査・レポート作成・発表準備	12. レファレンスサービスの実際 (3)情報の記録・発信とパスファインダー	図書館訪問やリンク集を活用し、実際に提供されているパスファインダーを出来るだけ多数確認しておくこと	13. レファレンスサービスの実際 (4)情報の評価		14. 総合演習	調査・レポート作成・発表準備	15. 総合演習の評価			
授業内容	準備学習等の内容																																		
1. レファレンスサービスの実際 (1)図書館の活用とレファレンスコレクション	本学図書館やよく利用する公立図書館のレファレンスコレクションを確認しておくこと																																		
2. レファレンスサービスの実際 (2)質問の受付と分析	レファレンス協働データベースの閲覧																																		
3. レファレンスツールの探索	調査・レポート作成・発表準備																																		
4. 言語・文字情報の探索	調査・レポート作成・発表準備																																		
5. 事物・事象情報の探索	調査・レポート作成・発表準備																																		
6. 人物・団体情報の探索	調査・レポート作成・発表準備																																		
7. 地理・地名情報の探索	調査・レポート作成・発表準備																																		
8. 歴史・日時情報の探索	調査・レポート作成・発表準備																																		
9. 統計情報の探索	調査・レポート作成・発表準備																																		
10. 図書・叢書情報の探索	調査・レポート作成・発表準備																																		
11. 新聞・雑誌情報の探索	調査・レポート作成・発表準備																																		
12. レファレンスサービスの実際 (3)情報の記録・発信とパスファインダー	図書館訪問やリンク集を活用し、実際に提供されているパスファインダーを出来るだけ多数確認しておくこと																																		
13. レファレンスサービスの実際 (4)情報の評価																																			
14. 総合演習	調査・レポート作成・発表準備																																		
15. 総合演習の評価																																			
受講者へのメッセージやアドバイス:	・調査は毎回、授業時間外に各自図書館で行う ・グループ発表1回、個人でのレポートは10回程度を予定																																		
フィードバックの方法:	授業時に口頭で行う																																		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr><tr><td>レポート</td><td>80</td><td>到達目標の1・2・3をもとに総合的に評価する。</td></tr><tr><td>発表</td><td>20</td><td>到達目標の3を中心に評価する。</td></tr></table>	評価方法	割合	評価基準	レポート	80	到達目標の1・2・3をもとに総合的に評価する。	発表	20	到達目標の3を中心に評価する。																									
評価方法	割合	評価基準																																	
レポート	80	到達目標の1・2・3をもとに総合的に評価する。																																	
発表	20	到達目標の3を中心に評価する。																																	
教科書:	中西裕[ほか]『情報サービス論及び演習』学文社, 2012, 159p. (ライブラリー図書館情報学; 6) *最新版を用意すること																																		
参考書:	高田高史『図書館のプロが伝える調査のツボ』柏書房, 2009, 310p. 浅野高史+かながわレファレンス探検隊『図書館のプロが教える<調べるコツ>』柏書房, 2006, 286p.																																		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力																																		
教員との連絡方法:	Eメール: mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp																																		

授業テーマ:

レファレンスサービスの実践的スキルの修得。

授業の概要:

「情報サービス論」の内容を踏まえ、情報サービスの中核であるレファレンスサービスの実際を理解することを目的とする。伝統的な冊子体情報源だけでなく、インターネットのサーチエンジン等も含めた各種情報源を用いた情報探索の演習およびそのプロセスの分析等を行い、レファレンスサービスの実践的スキルの育成を図る。そのためにはレファレンスコレクションについての知識を習得し、情報探索および回答作成を質問事例をもとに実習する。

- 到達目標:
- 1.レファレンスサービスの基礎知識の修得とレファレンスプロセスの理解。

2.各テーマに関する情報源の知識と利用法の修得。

3.情報探索の基礎的知識の修得。

4.図書・叢書・雑誌記事・新聞記事の探索データベースの知識と使用法の修得。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス、:ビデオ視聴によるレファレンスサービスの理解	同志社女子大学及び同志社大学の今出川図書館に所蔵されているレファレンスブックを確認しよう。
	2. レファレンスサービスの基礎(1):レファレンスサービスの根拠、レファレンスサービスの歴史、レファレンスサービスの構造	
	3. レファレンスサービスの基礎(2):利用者とレファレンスサービス、セルフレファレンス、間接レファレンス、フロアワークレファレンス、	
	4. レファレンスプロセス(1):レファレンスサービスの構成要素と作用、構成要素1-質問者、構成要素2-質問事項、構成要素3-図書館資料、構成要素4-図書館員、構成要素5-回答	
	5. レファレンスプロセス(2):4作用の連続性、質問のやりとり、質問の分析、探索戦略の確立、探索の実行と回答の発見、回答の事後処理	
	6. 「言語・言葉」に関する情報の探索と質問の回答、評価	
	7. 「事柄・事象」に関する情報の探索と質問の回答、評価	
	8. 「日時・歴史」に関する情報の探索と質問の回答、評価	
	9. 「地理・地名」に関する情報の探索と質問の回答、評価	
	10. 「人物・団体」に関する情報の探索と質問の回答、評価	
	11. 情報検索の基礎(1):検索の手順、情報の読み方、検索語、論理演算。	
	12. 情報検索の基礎(2):トランケーション機能、再現率、有益な検索サイト等。	
	13. 「図書・叢書」に関する情報の探索と質問の回答、評価	
	14. 「新聞・雑誌記事」に関する情報の探索と質問の回答、評価	
	15. まとめ。	
		「言語・言葉」に関する問題に取り組む。
		「事物・事象」に関する問題に取り組む。
		「日時・歴史」に関する問題に取り組む。
		「地理・地名」に関する問題に取り組む。
		「人物・団体」に関する問題に取り組む。
		「図書・叢書」に関する問題を、PCを使って調べる。
		「新聞・雑誌記事」に関する問題を、PCを使って調べる。
		配布プリント内容の重要事項を確認する。

受講者へのメッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

演習問題の回答を提出し、授業時間内に回答をコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	期末試験	50%	到達目標レファレンスサービスの基礎知識の修得や到達目標各テーマに関する情報源の知識を評価する。
	授業中の課題	30%	到達目標レファレンスプロセスの理解と情報探索技術修得の達成度を評価する。
	授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、達成目標情報探索の基礎的知識の修得がどの程度できたかを評価する。

教科書:

参考書:

『問題解決のためのレファレンスサービス』長澤雅男、石黒祐子共著、日本図書館協会、
『情報サービス演習』(現代図書館情報学シリーズ7)原田智子編、樹村房、
『実践型レファレンス・サービス入門』(JLA図書館実践シリーズ1)、斎藤文雄、藤村せつ子著、日本図書館協会、

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール(akio-takeshima@mx.scn.tv

授業テーマ:	情報検索の理論と実践		
授業の概要:	情報検索のうち、コンピュータ検索に関わる基本的な知識と技術を学ぶ。具体的にはCD-ROMやオンラインで提供される各種データベースの検索演習およびインターネット上の情報収集を通じて、情報検索の方法を実践的に身につける。		
到達目標:	1【知識・理解】コンピュータ検索の基礎を学ぶ。 2【関心・意欲・態度】各種データベースの種類と特徴を知り、柔軟に検索することができる。 3【表現・技能・能力】回答の提供、情報・調査の評価を行うことができる。		
授業方法:	コンピュータ教室での演習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス		
	2. 検索の基礎知識: 語彙統制とシソーラス, 論理演算, トランケーション		
	3. 検索結果の分析・評価, レファレンス事例の活用		
	4. 人物略歴情報の検索: CD-ROM	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	
	5. 雑誌情報の検索: CD-ROM	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	
	6. 図書情報の検索: CD-ROM	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	
	7. 図書内容情報の検索: CD-ROM	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	
	8. 総合演習: CD-ROM	教科書の該当箇所に目を通しておくこと	
	9. 図書情報の検索: データベース	データベースに目を通し、操作に慣れておくこと	
	10. 雑誌情報の検索: データベース	データベースに目を通し、操作に慣れておくこと	
	11. 新聞記事の検索: データベース	データベースに目を通し、操作に慣れておくこと	
	12. インターネット検索: 基礎	サーチエンジンの機能を確認し、操作に慣れておくこと	
	13. インターネット検索: 応用	サーチエンジンの機能を確認し、操作に慣れておくこと	
	14. 総合演習: インターネット		
	15. データベースの実際と評価		
受講者へのメッセージやアドバイス:	ほぼ毎回課題を出題するので、授業時間内に終わらなかった場合は次の授業時までには終わらせておくこと		
フィードバックの方法:	授業時に口頭で行う		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	テスト	50	到達目標の1・2を中心に評価する。
	レポート	50	到達目標の1・2・3について総合的に評価する。
教科書:	田中功, 齋藤泰則, 松山巖『CD-ROMで学ぶ情報検索の演習 新訂4版』日外アソシエーツ, 2013 * 最新版を用意すること		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	Eメール: mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:			
授業の概要:	参考図書およびWebサイトを実際に利用することで、図書館における情報サービスの演習を行う。		
到達目標:	図書館に寄せられる質問の具体例に接し、さまざまなツールを実際に使用することにより、自他の事例発表および意見交換を通じ、回答に至るプロセスを学習する。		
授業方法:	2:演習(ただし、講義や実習を行なう場合もある。毎回、コメントペーパーの提出を求める。)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. はじめに	教科書を用意しておく	
	2. 情報サービス演習の準備について	引用と剽窃の違い、出典明示の方法を調べておく	
	3. 情報資源に関する問題	指定された課題の回答を用意しておく	
	4. Webページ,Webサイトに関する問題	指定された課題の回答を用意しておく	
	5. 図書情報に関する問題	指定された課題の回答を用意しておく	
	6. 雑誌及び雑誌記事に関する問題	指定された課題の回答を用意しておく	
	7. 新聞記事に関する問題	指定された課題の回答を用意しておく	
	8. 図書館において実習(ツールの確認)	事前配布のプリントを手がかりに主たる参考図書について調べておく	
	9. 言葉・事柄・統計に関する問題	指定された課題の回答を用意しておく	
	10. 歴史・日時に関する問題	指定された課題の回答を用意しておく	
	11. 地理・地名・地図に関する問題	指定された課題の回答を用意しておく	
	12. 人物・企業・団体に関する問題	指定された課題の回答を用意しておく	
	13. 法律・判例・特許に関する問題	指定された課題の回答を用意しておく	
	14. パスファインダーの中間発表	パスファインダー(レポート)を用意しておく	
	15. まとめと振り返り	教科書および配布物を事前に読んでおく	
受講者へのメッセージやアドバイス:	「情報サービス論」を履修していることが望ましい。履修していない場合、教科書や参考書によって事前に一定の知識を習得しておくこと。なお、終盤に、パスファインダー作成、発表、提出など、発信型情報サービスの演習も行う。		
フィードバックの方法:	コメントペーパーの質問、要望等については、次回、教室でまとめて回答します。なお、提出物は返却しません。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題の発表、提出	80	求められていることを正確に把握しているか、典拠の明示とともに、必要十分な資料(情報)が提示されているか等を基準とする。
	レポート	20	図書館の発信型情報サービスの仕上がりの度合いを基準とする。
教科書:	原田智子、情報サービス演習(現代図書館情報学シリーズ)、樹村房、2016年改訂版		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理能力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。Eメールを利用。		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」 「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

図書館に関連する法律と政策、および図書館経営の理念と実務の理解

まず図書館に関連する法律を学習し、政策の現状を整理する。その理解を前提に図書館経営の理念と実務の理解を図る。仕上げとして市町村立図書館のサービス計画を実際に立案することにより、図書館評価の手法について基本的知識の習得をめざす。

1.講義(ただし、終盤に各自の調査に基づく発表を求める。また、毎回、コメントペーパーの提出を求める。)

授業内容

準備学習等の内容

教科書を用意しておく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく

授業テーマ:

図書館制度・経営の基本と課題を学ぶ

授業の概要:

公立図書館を主体とする図書館経営にかかわる法体系を学ぶことによって、図書館の役割や社会的意義を確認するとともに、図書館員としてのあり方や使命を知る。さらに、図書館経営の具体的手法を学ぶことによって、今日の社会に求められる図書館を実現するための道筋を確認する。

到達目標:

1.図書館をめぐる法体系の概要を知り、図書館法の知識を修得する。
2.地方自体の図書館関連条例と他館種の法律の概要を修得する。
3.今日の公共機関及び図書館の経営方法の状況を知る。
4.図書館職員のあり方を知る。
5.図書館サービス計画の策定及び評価の方法を知る。

授業方法:	講義	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 図書館をめぐる法体系:日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法。 2. 図書館法逐条解説(1):図書館法の目的と図書館の定義、図書館奉仕、司書及び司書補、設置及び運営上望ましい基準。 3. 図書館法逐条解説(2):公立図書館の設置、公立図書館の職員、図書館協議会、入館料など、公立図書館の補助、私立図書館、図書館同種施設。 4. 地方自治体の図書館関連条例など:公共図書館の法的根拠、地方自治体における関係法令、地方自治体における物品管理・図書館の場合。 5. 他館種の図書館に関する法律など:他館種との連携、学校図書館、国立図書館、大学図書館、その他の図書館。 6. 図書館サービス関連法規:読書に関連する法律と図書館サービス、著作権法と図書館サービス、個人情報保護に関する法律と図書館サービス、労働関連法規・公益法人制度改革と図書館サービス。 7. 図書館政策、国・地方公共団体:国の生涯学習政策、国の図書館政策、都道府県の図書館政策。 8. 公共機関・施設の経営方法と図書館経営:経営とは何か、公共機関・施設の経営方法、公立図書館の経営。 9. 図書館の組織・職員(1):教育委員会、組織構成、図書館長の役割。 10. 図書館の組織・職員(2):職員、図書館協議会、図書館を支える住民団体、図書館ボランティア。 11. 図書館の施設・設備:新図書館建設のあり方、図書館建築計画の実例、その他施設の留意点、家具・サイン計画。 12. 図書館サービスの計画と予算の確保:図書館サービス計画、予算の確保と執行。 13. 図書館業務:図書館サービスの調査と評価。 14. 図書館の管理形態の多様化、図書館の新しい動向:管理運営・業務の外部化、指定管理者制度等。 15. まとめ。	準備学習等の内容 身近な公共図書館に行き、蔵書やサービス内容、職員の対応などを観察して、その図書館の運営に関する感想をレポートする。詳細は、授業で述べる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業に関する質問は、質問用紙に書いて提出する。回答については、次回の授業で質問項目と回答を全員に配布する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	定期試験	50%	到達目標図書館法に関する知識や地方自治体の条例に関する知識、並びに到達目標図書館サービス計画の策定と図書館評価に関する知識を評価する。
	レポート	30%	到達目標である公共図書館経営の学習を通じて、実際の公共図書館の経営を評価する視点がどの程度得られたかを基準とする。
	授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標図書館制度の根拠法と経営の在り方が理解できたかを評価する。

教科書:

参考書:

『図書館制度・経営論』柳 与志夫著(ライブラリー 図書館情報学第4巻)、学文社
『図書館制度・経営論』手嶋 孝典編著(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望5)、学文社
『図書館制度・経営論』高山 正也編(現代図書館情報学シリーズ2)、樹村房
『公立図書館の経営 増補版』大沢 正雄著、日本図書館協会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

Eメール(akio-takeshima@mx.scn.tv)

授業テーマ:	情報資源を組織する方法について、実践的な組織化理論を学ぶ。		
授業の概要:	カード目録に始まる情報資源の組織化の歴史を通して、その考え方の基礎を学ぶ。書誌ユーティリティ時代にあっても、目録・分類の構造を把握しないことには、情報資源の的確な組織化と利用につながらない。その基礎となる組織化理論を目録記述法によって理解する。		
到達目標:	1. 情報資源組織化全般についての知識と理解を深める。 2. 情報資源の組織化について関心を持ち、意欲的な態度で調査・分析に取り組む。		
授業方法:	講義を中心に行う。各自で複数の図書館のデータベースを検索し、同一書誌の記述内容の違いについて調査し、講義内容の理解を促す。試験は複数課題の小論文形式で行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 情報資源とは、情報資源を組織するとは、その目的は	教科書を読む。	
	2. 書誌コントロールとその歴史	教科書を読む。各自で色んな図書館のデータベースを検索し、同一書誌の記述内容の違いについて調査する。	
	3. 書誌ユーティリティとMARC	教科書を読む。国立国会図書館のJAPAN/MARCを検索してみる。	
	4. コンピュータによる目録作成の実際	教科書を読む。	
	5. 目録の種類、媒体、機能	教科書を読む。	
	6. 記述目録法と目録規則	教科書を読む。『日本目録規則』に目を通しておく。	
	7. 書誌階層と記述	教科書を読む。	
	8. 記述目録作成の実際(1)タイトル表示と責任表示	教科書を読む。	
	9. 記述目録作成の実際(2)出版事項、注記など	教科書を読む。各自で複数の図書館のデータベースを検索し、同一書誌の記述内容の違いについて確認する。	
	10. 記述目録作成の実際(3)多様な情報資源	教科書を読む。各自で複数の図書館のデータベースを検索し、情報資源の形態による記述内容の違いを確認する。	
	11. 記述目録作成の実際(4)標目と排列	教科書を読む。	
	12. 分類法の概要	教科書を読む。『日本十進分類法』に目を通しておく。	
	13. 主題目録と分類、配架	教科書を読む。『基本件名標目表』に目を通しておく。	
	14. 知識資源の主題分析とメタデータ	教科書を読む。	
	15. まとめ	講義で出てきたキーワードについて、簡潔にまとめておく。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	情報資源の組織化は図書館の機能にとって最も基本的なものです。組織化をする側の視点に立って、書誌データを見つめなおしてみましょう。		
フィードバックの方法:	定期試験は採点してコメントを付けて返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	70%	到達目標1の理解度により評価する。
	授業への参加度	30%	到達目標2の出席状況・取り組む態度で評価する。
教科書:	柴田正美編著 JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ9『情報資源組織論』(新訂版) 日本図書館協会		
参考書:	『日本目録規則』(改訂3版) 日本図書館協会 『日本十進分類法』(第10版) 日本図書館協会 『基本件名標目表』(第4版) 日本図書館協会 谷口祥一・緑川信之 『知識資源のメタデータ』(第2版) 勁 草書房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力		
教員との連絡方法:	Eメールを利用、および授業の前後に教室内で対応。		

授業テーマ:	図書の歴史から未来を展望する		
授業の概要:	必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、図書の歴史と図書館の歴史について理解を深める。それは単なる教養としてではない。未来は現在のみを知ること、立ち現れるのではなく、過去と現在を結ぶ線を延長することで立ち現れるからである。図書と図書館の歴史を学ぶことは、現在の図書と図書館がどのような経緯で成立し、それが歴史的にどのような意味をもつかを知ることである。それを知ること、将来の図書館員として、図書館がどのように変容しようとも、主体的に関われる能力を涵養できる。		
到達目標:	1.図書・図書館の発展について正しい知識をえている 2.歴史的事実をもとに将来の図書・図書館のあり方を洞察できる 3.図書館の実務について、図書・図書館の知識を応用できる		
授業方法:	講義による。ビジュアルをできるだけ用い、図書と図書館の歴史について具体的にイメージできるようにする。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 記録とメディア 2. 書物の誕生と古代・中世の図書館 3. 印刷の誕生と近代型図書館の成立 4. 西洋図書館の発展 5. 20世紀の図書館 6. 日本の図書・図書館史1 古代から江戸 7. 日本の図書・図書館史2 明治以後 8. メディアの電子化・電子図書館	準備学習等の内容 世界史の想起。高校の教科書でよいからひとつとおりよんでおくこと。参考文献のうち一冊を読んでおくこと 午前の授業について、疑問点を明らかにしておくこととしておくこと。 1日目の学習について、事前に読んでおいた参考書とてらしあわせて、より深めたい箇所を認識しておく 日本史の想起。中学・高校の教科書でよいからひとつとおり読んでおくこと。 午前の授業について、疑問点を明らかにしておくこと。 2日目の学習について、事前に読んでおいた参考書とてらしあわせて、より深めたい箇所を認識しておく	
受講者へのメッセージやアドバイス:	参考文献にあげた文献の2冊は最低読んでおくこと。		
フィードバックの方法:	集中講義のため教室での直接質問に限る		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 平常試験	割合 100	評価基準 図書・図書館史を正しく理解しているか
教科書:			
参考書:	前川恒雄・石井敦『図書館の発見』 日本放送出版協会 日本図書館協会編『図書および図書館史』 日本図書館協会 樺山紘一『図説 本の歴史』 河出書房新社 スチュアート・A.P. マレー『図説図書館の歴史』 原書房		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力		
教員との連絡方法:	マナビーを利用するが、集中講義のため直接の質問でもよい		

授業テーマ:

授業の概要:

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

図書館の施設・設備に関する歴史と現状について、基礎的な知識を身につけ、図書館建築の現代的な動向を理解する。

図書館の施設・設備について、日本の公共図書館を中心に、実際の状況を、写真・パンフレットなどを素材として紹介する。図書館サービスが実践される「場」としての図書館建築について、図書館の地域計画、建築計画、図書館内の設備、利用者と職員のコミュニケーション、などの要素をとりあげ、具体例を検討しながら理解を深める。

講義 授業時間中の後半に、その授業内容に関する課題を出題し、提出することを求める。

授業内容	準備学習等の内容
1. 図書館建築の意義	テキストの「序文」「もくじ」等を参照し、授業内容について、予備知識をもっておく。
2. 図書館の地域計画	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
3. 図書館建築にかかわる人々	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
4. 図書館内の設備	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
5. 図書館施設と利用者・職員	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
6. 図書館施設と図書館サービス	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
7. 図書館建築の最近の動向	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
8. 全体のまとめ	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。

授業中の提出物について、次回以降の授業で、教員のコメントを授業中に発表する。

評価方法	割合	評価基準
授業中の提出物の提出状況	10	授業中に設定する課題について提出しているかどうか、提出回数をカウントする。
授業中の提出物の内容	40	提出された課題の内容について、設定された課題と合致した内容になっているかどうかを判定する。
筆記試験	50	設問について、指定の文字数の範囲内で、出題に際して想定したキーワードを使用して、説明されているかどうかを評価する。

植松貞夫『図書館施設論』樹村房、2014
2000+税 ISBN9784883672127

世界の夢の図書館 エクスナレッジ 2014
日本の最も美しい図書館 エクスナレッジ 2015

分析力、思考力

集中講義期間中の授業中に対応する